諸橋轍次著

大漢和辭典

卷三

修訂版

大修館書店

修訂者

東京教育大学名誉教授
文学博士　鎌田　正

財団法人静嘉堂文庫長　米山寅太郎

表紙背模様
引縄直
「程氏墨苑」（明版）巻十所載
（静嘉堂文庫蔵）

表紙平模様
唐千秋萬歳鉄鑑
「宣和博古図録」（明版）巻三十所載
（静嘉堂文庫蔵）

背文字
田代秋鶴筆

扉文字
諸橋轍次筆

装幀　山崎　登

巻三所載

總文字

部首順による檢字

親文字の下に記した洋數字は其の文字の番號。和數字は其の文字を掲載した頁。

口部		
囗	4675	一
一畫		
⿴囗乙	4676	一
⿴囗乀	4677	一
二畫		
⿴囗彐	4678	一
⿴囗又	4679	一
囚	4680	一
⿴囗入	4681	二
四	4682	二
⿴囗厶	4683	五〇
⿴囗儿	4684	五〇
⿴囗上	4685	五〇
⿴囗三	4686	五〇
⿴囗八	4687	五〇
三畫		
⿴囗子	4688	五〇
⿴囗小	4689	五〇
回	4690	五〇
囟	4691	五七
⿴囗彐	4692	五八
因	4693	五八
⿴囗幺	4694	六〇
田	4695	六〇
囡	4696	六〇
⿴囗巳	4697	六〇
⿴囗亡	4698	六〇
⿴囗毛	4699	六〇
圡	4700	六〇
团	4701	六一
⿴囗彡	4702	六一
⿴囗山	4703	六一
⿴囗寸	4703′	六一
四畫		
⿴囗屯	4704	六一
⿴囗亢	4705	六一
囦	4706	六一
⿴囗召	4707	六一
⿴囗不	4708	六一
囩	4709	六一
⿴囗匈	4710	六二
囫	4711	六二
⿴囗丑	4712	六二
田	4713	六二
⿴囗元	4714	六二
囮	4715	六三
囯	4716	六三
困	4717	六三
⿴囗无	4718	六四
⿴囗⿱口一	4719	六四
⿴囗丐	4720	六四
⿴囗巨	4721	六四
囲	4722	六四
⿴囗分	4723	六四
⿴囗巴	4724	六四
⿴囗公	4725	六四
⿴囗去	4726	六四
⿴囗氏	4727	六四
⿴囗双	4728	六四
⿴囗升	4729	六四
⿴囗⿱亠厶	4730	六四
⿴囗日	4731	六四
⿴囗火	4732	六四
⿴囗殳	4733	六四
⿴囗兮	4734	六四
⿴囗义	4734′	六四
五畫		
⿴囗⿱人土	4735	六四
⿴囗出	4736	六四
⿴囗石	4737	六四
⿴囗旦	4738	六四
⿴囗必	4739	六四
⿴囗布	4740	六四
⿴囗甲	4741	六四
⿴囗禾	4742	六四
⿴囗正	4743	六五
囹	4744	六五
固	4745	六五
⿴囗目	4746	六八
⿴囗朮	4747	六八
⿴囗且	4748	六八
⿴囗玄	4749	六八
⿴囗民	4750	六八
⿴囗台	4751	六八
国	4752	六八
六畫		
⿴囗米	4753	六八
⿴囗光	4754	六八
⿴囗至	4755	六八
囿	4756	六八
⿴囗⿱夂女	4757	六九
⿴囗⿱㐅夕	4758	六九
⿴囗⿱冖方	4759	六九
⿴囗臣	4760	六九
⿴囗㐬	4761	六九
⿴囗多	4762	六九
⿴囗⿱亠公	4763	六九
⿴囗合	4764	六九
⿴囗⿰幺幺	4765	六九
⿴囗自	4766	六九
⿴囗百	4767	六九
⿴囗舌	4768	六九
七畫		
⿴囗皀	4769	六九
⿴囗肙	4770	六九
⿴囗⿱亼目	4771	六九
⿴囗言	4772	六九
⿴囗直	4772′	六九
圂	4773	六九
圃	4774	七〇
圄	4775	七〇
⿴囗丞	4776	七一
⿴囗名	4777	七一
⿴囗⿱丷古	4778	七一
⿴囗告	4779	七一
⿴囗⿱夂灬	4780	七一
⿴囗⿱爫女	4781	七一
⿴囗豆	4782	七一
⿴囗妻	4783	七一
⿴囗⿱丷王	4784	七一
⿴囗甬	4785	七一
⿴囗⿱山允	4786	七一
八畫		
⿴囗⿱穴九	4787	七一
圇	4788	七一
圈	4789	七一
⿴囗⿱丆百	4790	七二
⿴囗乳	4791	七二
⿴囗命	4792	七二
圉	4793	七二
⿴囗宕	4794	七三
⿴囗⿱⺊衣	4795	七三
⿴囗⿱丞口	4796	七三
⿴囗青	4797	七三
國	4798	七三
⿴囗⿱夂臼	4799	八九
⿴囗兔	4800	八九
⿴囗乖	4801	八九
⿴囗⿱夗灬	4802	八九
九畫		
⿴囗曷	4803	八九
圌	4804	八九
⿴囗垔	4805	八九
圍	4806	八九
⿴囗⿱卄百	4807	九一
⿴囗剌	4808	九一
⿴囗亞	4809	九一
⿴囗若	4810	九一
⿴囗⿰⿱口王爪	4811	九一
⿴囗⿱亼面	4812	九一
⿴囗負	4813	九一
⿴囗⿰⿱口王介	4814	九一
⿴囗咢	4815	九一
⿴囗巻	4815′	九一
十畫		
⿴囗尃	4816	九一
⿴囗馬	4817	九一
園	4818	九一
圓	4819	九三

圔	4820	九八
畵	4821	九九
⿴囗莆	4822	九九
⿴囗㒳	4823	九九
⿴囗烏	4824	九九
⿴囗氣	4825	九九
⿴囗戝	4826	九九
⿴囗荅	4827	九九
圓	4828	九九
⿴囗恖	4829	九九
圕	4829′	九九
十一畫		
⿴囗淵	4830	九九
⿴囗眷	4831	九九
圖	4832	九九
⿴囗侖	4833	一〇三
團	4834	一〇三
⿴囗彭	4835	一〇五
⿴囗習	4836	一〇五
⿴囗鳥	4836′	一〇五
⿴囗韭	4837	一〇五
⿴囗眼	4838	一〇五
⿴囗畜	4839	一〇五
⿴囗章	4840	一〇六
⿴囗垔	4841	一〇六
⿴囗侖	4841′	一〇六
十二畫		
⿴囗貫	4842	一〇六
⿴囗桼	4843	一〇六
⿴囗尋	4844	一〇六
園	4845	一〇六
圗	4846	一〇六
⿴囗品	4847	一〇六
⿴囗堯	4848	一〇六
⿴囗畐	4849	一〇六
十三畫		
⿴囗睪	4850	一〇六
圜	4851	一〇六
⿴囗影	4852	一〇七
十四畫		
⿴囗賣	4853	一〇七
⿴囗語	4854	一〇七
⿴囗獄	4855	一〇七
⿴囗繇	4856	一〇七
⿴囗蓋	4857	一〇七
十五畫		
⿱囚⿰囚囚	4858	一〇七
十六畫		
⿴囗橐	4859	一〇七
⿴囗縣	4860	一〇七
十七畫		
⿴囗繇	4861	一〇七
⿴囗環	4862	一〇七
⿴囗⿱⿰囚囚⿰囚囚	4863	一〇七
十八畫		
⿴囗谿	4864	一〇七
⿴囗麗	4865	一〇七
十九畫		
⿴囗䜌	4866	一〇七
二十三畫		
⿴囗欒	4866′	一〇七
土部		
土	4867	一〇八
一畫		
圠	4868	一二一
壬	4869	一二一
⿰土乁	4870	一二一
圡	4871	一二三
二畫		
圢	4872	一二三
圣	4873	一二三
⿰土十	4874	一二三
⿰土力	4875	一二三
圤	4876	一二三
圥	4877	一二三
⿸𠂇土	4878	一二三
圦	4879	一二三
圧	4879′	一二三
三畫		
⿰土王	4880	一二三
在	4881	一二三
圩	4882	一二五
圪	4883	一二五
圫	4884	一二六
圬	4885	一二六
⿱土冄	4886	一二六
圭	4887	一二六
圮	4888	一二八
圯	4889	一二八
地	4890	一二八
⿰土升	4891	一四五
圱	4892	一四五
⿱一圣	4893	一四五
圳	4894	一四五
圴	4895	一四五
圵	4896	一四五
⿱大土	4897	一四六
⿰土𠤎	4898	一四六
壮	4899	一四六
圷	4900	一四六
⿰土工	4901	一四六
⿱丿圭	4902	一四六
四畫		
圻	4903	一四六
⿱口壬	4904	一四六
⿰土勿	4905	一四六
圾	4906	一四六
⿰土介	4907	一四六
址	4908	一四六
坁	4909	一四六
坂	4910	一四六
⿸厂圠	4911	一四七
⿰土元	4912	一四七
坄	4913	一四七
坅	4914	一四七
坆	4915	一四七
均	4916	一四七
⿱⺈王	4917	一四九
⿰土丰	4918	一四九
⿰土予	4919	一四九
⿱至土	4920	一四九
⿰土冗	4921	一四九
⿰土内	4922	一四九
坉	4923	一五〇
坊	4924	一五〇
坋	4925	一五二
坌	4926	一五二
坍	4927	一五二
坎	4928	一五三
⿱生土	4929	一五三
坏	4930	一五三
坐	4931	一五三
坑	4932	一五九
坒	4933	一五九
⿰土比	4934	一五九
⿰土气	4935	一五九
⿰土斗	4936	一五九
⿱艹土	4937	一五九
⿰土井	4938	一五九
⿱亚土	4939	一五九
⿱尖土	4940	一五九
⿰土毛	4941	一五九
⿱从土	4942	一五九
⿱丕土	4943	一五九
⿰土太	4944	一五九
⿰土卬	4945	一五九
⿱⿰口乚王	4946	一五九
⿰土日	4947	一五九
块	4948	一五九
⿰土犬	4949	一五九
⿰土牙	4950	一五九
⿰土户	4951	一五九
⿰土开	4952	一五九
⿰土五	4953	一五九
⿰土丐	4954	一五九
⿰土勾	4955	一六〇
⿰土厷	4956	一六〇
⿱四土	4957	一六〇
⿱白土	4958	一六〇
⿰土也	4959	一六〇
⿰土勼	4960	一六〇
呈	4961	一六〇
⿱至土	4962	一六〇
坚	4963	一六〇
坳	4964	一六〇
壯	4965	一六〇
五畫		
坡	4966	一六〇
坢	4967	一六〇

坐	4968	一六〇
坤	4969	一六〇
坥	4970	一六一
坦	4971	一六二
坧	4972	一六三
坙	4973	一六三
坨	4974	一六三
坩	4975	一六三
坪	4976	一六三
坓	4977	一六三
坍	4978	一六三
坫	4979	一六三
坬	4980	一六三
坭	4981	一六三
屋	4982	一六三
坮	4983	一六四
坯	4984	一六四
坰	4985	一六四
坱	4986	一六四
坲	4987	一六四
坳	4988	一六四
坴	4989	一六四
坵	4990	一六四
坵	4991	一六五
坭	4992	一六五
坶	4993	一六五
坷	4994	一六五
垒	4995	一六五
坌	4996	一六五
坸	4997	一六五
有	4998	一六五
坑	4999	一六五
坺	5000	一六五
坻	5001	一六五
坛	5002	一六六
埯	5003	一六六
垾	5004	一六六
坏	5005	一六六
坼	5006	一六六
坽	5007	一六六
坾	5008	一六六
坿	5009	一六六
垀	5010	一六六
垁	5011	一六六
垂	5012	一六六
垕	5013	一七一
叙	5014	一七一
垐	5015	一七一
垯	5016	一七一
球	5017	一七一
垇	5018	一七一
室	5019	一七一
坑	5020	一七一
垐	5021	一七一
埇	5022	一七一
坺	5023	一七一
坥	5024	一七一
垧	5025	一七一
垩	5026	一七一
垞	5027	一七一
坐	5028	一七一
垃	5029	一七一
六畫		
型	5030	一七一
垌	5031	一七二
垍	5032	一七二
垎	5033	一七二
垏	5034	一七二
垫	5035	一七二
城	5036	一七二
埪	5037	一七二
垑	5038	一七二
垒	5039	一七二
垓	5040	一七二
垔	5041	一七二
垍	5042	一七三
垗	5043	一七三
垘	5044	一七三
垙	5045	一七三
垡	5046	一七三
垚	5047	一七三
垜	5048	一七三
垛	5049	一七三
垝	5050	一七三
垞	5051	一七三
垤	5052	一七三
垟	5053	一七三
垠	5054	一七三
垦	5055	一七四
垈	5056	一七四
垅	5057	一七四
垢	5058	一七四
垕	5059	一七五
垣	5060	一七五
垤	5061	一七六
垓	5062	一七六
垥	5063	一七六
垒	5064	一七六
埒	5065	一七六
垩	5066	一七六
封	5067	一七六
垚	5068	一七六
垤	5069	一七六
垇	5070	一七六
垒	5071	一七六
埏	5072	一七六
佳	5073	一七六
垔	5074	一七六
垸	5075	一七六
垇	5076	一七六
垔	5077	一七六
里	5078	一七六
垚	5079	一七七
垧	5080	一七七
坸	5081	一七七
垨	5082	一七七
垛	5083	一七七
埠	5084	一七七
垩	5085	一七七
垪	5086	一七七
城	5086′	一七七
七畫		
埕	5087	一七七
埣	5088	一七七
垷	5089	一七七
垸	5090	一七七
埌	5091	一七七
埠	5092	一七七
埖	5093	一七七
埗	5094	一七七
埻	5095	一七七
垺	5096	一七七
埗	5097	一七七
埙	5098	一七七
垡	5099	一七八
埏	5100	一七八
垾	5101	一七八
埂	5102	一七八
埗	5103	一七八
垂	5104	一七八
埒	5105	一七八
埂	5106	一七八
埃	5107	一七八
埄	5108	一七九
埅	5109	一七九
埇	5110	一七九
埆	5111	一七九
埇	5112	一七九
埈	5113	一七九
埉	5114	一七九
埊	5115	一七九
埋	5116	一七九
埌	5117	一八〇
垔	5118	一八〇
埍	5119	一八〇
城	5120	一八一
埏	5121	一八六
埐	5122	一八七
埒	5123	一八七
埒	5124	一八七
埕	5125	一八七
陞	5126	一八七
垦	5127	一八七
埭	5128	一八七
埑	5129	一八七
垐	5130	一八七
埕	5131	一八七
埗	5132	一八七
埏	5133	一八七
扶	5134	一八七

垟	5135	一八七
垜	5136	一八七
垩	5137	一八七
垆	5138	一八七
[illegible]	5139	一八七
埚	5140	一八七
[illegible]	5141	一八七
埛	5142	一八七
垷	5143	一八七
[illegible]	5144	一八七
坜	5145	一八八
[illegible]	5146	一八八
埍	5147	一八八
埨	5148	一八八
埔	5149	一八八
埕	5150	一八八
型	5151	一八八
埁	5152	一八八
坌	5153	一八八

八畫

埜	5154	一八八
[illegible]	5155	一八八
埝	5156	一八八
埞	5157	一八八
域	5158	一八八
[illegible]	5159	一八八
[illegible]	5160	一八八
埠	5161	一八九
[illegible]	5162	一八九
[illegible]	5163	一八九
埢	5164	一八九
[illegible]	5165	一八九
埣	5166	一八九
埤	5167	一八九
[illegible]	5168	一八九
[illegible]	5169	一八九
埥	5170	一八九
埦	5171	一八九
埧	5172	一九〇
埨	5173	一九〇
埩	5174	一九〇
埪	5175	一九〇
埫	5176	一九〇
[illegible]	5177	一九〇
埬	5178	一九〇
埭	5179	一九〇
埮	5180	一九〇
埯	5181	一九〇
埰	5182	一九〇
[illegible]	5183	一九〇
埱	5184	一九〇
埲	5185	一九〇
埳	5186	一九〇
埴	5187	一九〇
埴	5188	一九〇
[illegible]	5189	一九一
埵	5190	一九一
[illegible]	5191	一九一
埶	5192	一九一
執	5193	一九一
埸	5194	一九六
培	5195	一九六
[illegible]	5196	一九七
基	5197	一九七
[illegible]	5198	一九八
臺	5199	一九八
埻	5200	一九八
埼	5201	一九九
埽	5202	一九九
埾	5203	一九九
[illegible]	5204	一九九
堀	5205	一九九
堁	5206	二〇〇
堂	5207	二〇〇
[illegible]	5208	二〇四
堄	5209	二〇四
堅	5210	二〇四
堆	5211	二〇七
堇	5212	二〇八
堈	5213	二〇八
埥	5214	二〇九
堊	5215	二〇九
埡	5216	二〇九
堋	5217	二〇九
堌	5218	二〇九
[illegible]	5219	二〇九
[illegible]	5220	二〇九
[illegible]	5221	二〇九
垮	5222	二〇九
[illegible]	5223	二〇九
[illegible]	5224	二〇九
[illegible]	5225	二〇九
[illegible]	5226	二一〇
[illegible]	5227	二一〇
[illegible]	5228	二一〇
[illegible]	5229	二一〇
[illegible]	5230	二一〇
[illegible]	5231	二一〇
堍	5232	二一〇
[illegible]	5233	二一〇
型	5234	二一〇

九畫

堗	5235	二一〇
[illegible]	5236	二一〇
[illegible]	5237	二一〇
[illegible]	5238	二一〇
堙	5239	二一〇
堚	5240	二一〇
[illegible]	5241	二一〇
堛	5242	二一一
[illegible]	5243	二一一
[illegible]	5244	二一一
堜	5245	二一一
[illegible]	5246	二一一
堝	5247	二一一
堞	5248	二一一
堿	5249	二一一
[illegible]	5250	二一一
[illegible]	5251	二一一
[illegible]	5252	二一二
堠	5253	二一二
堡	5254	二一二
堢	5255	二一三
[illegible]	5256	二一三
堣	5257	二一三
[illegible]	5258	二一三
堤	5259	二一三
[illegible]	5260	二一三
堦	5261	二一三
[illegible]	5262	二一三
[illegible]	5263	二一三
堨	5264	二一三
[illegible]	5265	二二三
堪	5266	二二三
堫	5267	二二四
[illegible]	5268	二二四
堬	5269	二二四
堭	5270	二二四
堮	5271	二二四
堯	5272	二二四
垒	5273	二二六
堰	5274	二二六
報	5275	二二六
堲	5276	二三〇
堳	5277	二三〇
場	5278	二三〇
堵	5279	二三一
堉	5280	二三三
[illegible]	5281	二三三
堷	5282	二三三
[illegible]	5283	二三三
墢	5284	二三三
[illegible]	5285	二三三
堸	5286	二三三
堹	5287	二三三
[illegible]	5288	二三三
堺	5289	二三三
墅	5290	二三三
[illegible]	5291	二三三
[illegible]	5292	二三三
[illegible]	5293	二三三
[illegible]	5294	二三三
[illegible]	5295	二三三
[illegible]	5297	二三三
堽	5298	二三三
[illegible]	5299	二三三
[illegible]	5300	二三三
[illegible]	5301	二三三
[illegible]	5302	二三三
墟	5303	二三三

堬	5304	二二三
㙔	5305	二二三
埳	5306	二二三
蛆	5307	二二三
堾	5308	二二三
墹	5309	二二三
堿	5310	二二三
堀	5311	二二四
埮	5312	二二四
逕	5313	二二四
㙉	5314	二二四
堛	5315	二二四
塀	5316	二二四
垔	5316′	二二四
十畫		
塉	5317	二二四
墬	5317′	二二四
逢	5318	二二四
塊	5319	二二四
塋	5320	二二四
埄	5321	二二五
塌	5322	二二五
塍	5323	二二五
堳	5324	二二五
塎	5325	二二五
塏	5326	二二五
塬	5327	二二五
塑	5328	二二五
塒	5329	二二六
塓	5330	二二六
黈	5331	二二六
塔	5332	二二六
塕	5333	二二八
墀	5334	二二八
塖	5335	二二八
塞	5336	二二八
塼	5337	二二八
塗	5338	二二八
臺	5339	二三〇
塘	5340	二三〇
塙	5341	二三一
㙨	5342	二三一
㙐	5343	二三一
塚	5344	二三一
塜	5345	二三一
埧	5346	二三一
塝	5347	二三一
堦	5348	二三一
塞	5349	二三一
塟	5350	二三四
塉	5351	二三四
陞	5352	二三四
墺	5353	二三四
塠	5354	二三四
塡	5355	二三四
墼	5356	二三六
塢	5357	二三六
埿	5358	二三六
基	5359	二三六
塤	5360	二三六
㙕	5361	二三七
塥	5362	二三七
塈	5363	二三七
㘴	5364	二三七
塦	5365	二三七
埶	5366	二三七
塛	5367	二三七
堋	5368	二三七
塱	5369	二三七
埩	5370	二三七
堌	5371	二三七
壇	5372	二三七
堅	5373	二三七
㙏	5374	二三七
㙒	5375	二三七
墚	5376	二三七
墜	5377	二三七
墋	5378	二三七
㙧	5379	二三七
墖	5380	二三七
塨	5381	二三七
塭	5382	二三七
報	5383	二三七
塪	5384	二三七
十一畫		
場	5385	二三七
塳	5386	二三七
塴	5387	二三七
塵	5388	二三八
塶	5389	二四一
塷	5390	二四一
㙞	5391	二四一
堅	5392	二四三
塸	5393	二四三
塹	5394	二四三
塹	5395	二四三
墫	5396	二四三
塺	5397	二四三
塻	5398	二四三
㙖	5399	二四三
塼	5400	二四三
塽	5401	二四三
塾	5402	二四三
塿	5403	二四三
墀	5404	二四三
墁	5405	二四三
墂	5406	二四三
墷	5407	二四三
墩	5408	二四三
境	5409	二四三
墄	5410	二四四
㙊	5411	二四四
墅	5412	二四四
㙥	5413	二四四
墆	5414	二四四
㙤	5415	二四四
墇	5416	二四四
㙷	5417	二四五
墈	5418	二四五
墉	5419	二四五
墊	5420	二四五
墋	5421	二四六
墌	5422	二四六
墼	5423	二四六
墍	5424	二四六
墎	5425	二四六
壁	5426	二四六
墐	5427	二四六
墓	5428	二四六
墒	5429	二四六
墑	5430	二四七
墓	5431	二四七
墪	5432	二四九
墔	5433	二四九
壍	5434	二四九
墳	5435	二四九
墫	5436	二四九
墜	5437	二四九
壞	5438	二四九
墕	5439	二四九
㙛	5440	二四九
磾	5441	二四九
墺	5442	二四九
㙁	5443	二四九
塏	5444	二四九
墨	5445	二四九
壇	5446	二四九
㙴	5447	二四九
塴	5448	二四九
増	5448′	二四九
十二畫		
墼	5449	二四九
塯	5450	二四九
墜	5451	二四九
墝	5452	二五〇
㙓	5453	二五〇
增	5454	二五〇
㙛	5455	二五三
㙩	5456	二五三
墟	5457	二五三
墠	5458	二五三
㙠	5459	二五四
觟	5460	二五四
墡	5461	二五四
㙗	5462	二五四
墢	5463	二五四
墣	5464	二五四
墤	5465	二五四
墥	5466	二五四
墦	5467	二五四

墧 5468 二五四
墨 5469 二五四
墩 5470 二六一
墪 5471 二六一
墫 5472 二六一
墜 5473 二六一
墭 5474 二六一
⿱卉具 5475 二六一
⿰土复 5476 二六一
⿱复土 5477 二六一
⿰土絜 5478 二六一
⿰土集 5479 二六一
⿰土⿱丿非 5480 二六一
墮 5481 二六三
墯 5482 二六三
⿰忄⿱有土 5483 二六三
墰 5484 二六三

墱 5485 二六三
墲 5486 二六三
⿱⿰木犬土 5487 二六三
墳 5488 二六三
⿱棥土 5489 二六四
⿰土黃 5490 二六四
[illegible] 5491 二六四
⿰土咼 5492 二六四
⿱⿰阝侖土 5493 二六四
⿰土⿱炏木 5494 二六四
[illegible] 5495 二六四
⿰土害 5496 二六四
⿰耳⿱𢆶土 5497 二六四
[illegible] 5498 二六四
⿰土⿱⿱一冂而 5499 二六四
⿰土鬲 5500 二六四
⿰土雲 5501 二六四

⿰土提 5502 二六四
⿱羞土 5503 二六四

十三畫

墺 5504 二六四
墻 5505 二六五
墼 5506 二六五
⿰土遂 5507 二六五
墽 5508 二六五
墾 5509 二六五
⿰土過 5510 二六五
墿 5511 二六五
⿱解土 5512 二六五
[illegible] 5513 二六五
⿱號土 5514 二六五
壀 5515 二六五
壁 5516 二六五
壂 5517 二六七

⿰土睘 5518 二六七
⿰土業 5519 二六七
壃 5520 二六七
⿰土虞 5521 二六七
⿳亡口⿲月土凡 5522 二六七
⿱楙土 5523 二六七
壅 5524 二六七
⿰土雍 5525 二六八
⿰土感 5526 二六八
壆 5527 二六八
壇 5528 二六八
⿰土詹 5529 二六九
壈 5530 二六九
[illegible] 5531 二六九
壉 5532 二六九
⿰土意 5533 二六九
臺 5534 二六九

⿱將土 5535 二六九
⿰土蓋 5536 二六九
⿱⿰臣殳土 5537 二六九
⿰土爲 5538 二六九
⿰土毀 5539 二六九
⿰土貴 5540 二六九
⿰土屈 5541 二六九
⿰土裹 5541′ 二六九

十四畫

⿱漸土 5542 二六九
⿰土㬎 5543 二六九
[illegible] 5544 二六九
⿰土臧 5545 二六九
壎 5546 二六九
⿱與土 5547 二七〇
⿰土僕 5548 二七〇
⿱殸土 5549 二七〇

壏 5550 二七〇
⿱監土 5551 二七〇
壐 5552 二七〇
⿰土遣 5553 二七〇
⿱殼土 5554 二七〇
壗 5555 二七〇
⿱聚土 5556 二七〇
壓 5557 二七〇
⿰土壽 5558 二七三
壕 5559 二七三
壖 5560 二七三
⿱蓬土 5561 二七三
⿰土夢 5562 二七三
⿰土匱 5563 二七三
⿰土巤 5564 二七三
⿱逢土 5565 二七三
[illegible] 5566 二七三

⿱⿰金卯土 5567 二七三
⿱⿰氵斬土 5568 二七三
⿰土蒙 5569 二七三
⿰土賓 5570 二七三
[illegible] 5571 二七三
⿰土尌 5571′ 二七三

十五畫

廛 5572 二七三
⿱隧土 5573 二七三
壘 5574 二七三
⿰土畾 5575 二七三
壙 5576 二七三
⿰土巤 5577 二七四
⿱敵土 5578 二七四
[illegible] 5580 二七四
⿱⿰隹隻土 5581 二七四
⿰土發 5582 二七四

⿱殸土 5583 二七四
[illegible] 5584 二七四
⿰土賣 5585 二七四

十六畫

壚 5586 二七四
⿰土閻 5587 二七四
⿰土曇 5588 二七四
壝 5589 二七四
壞 5590 二七四
壟 5591 二七五
壠 5592 二七六
⿰土霝 5593 二七六
[illegible] 5594 二七六
[illegible] 5595 二七六
⿰土賴 5596 二七六
⿰土學 5597 二七六
⿱髟土 5598 二七六

壢 5599 二七六
⿰土廩 5600 二七六
[illegible] 5601 二七六
⿰土贊 5602 二七六
[illegible] 5603 二七六
⿰土翟 5604 二七六
⿰土羲 5605 二七六

十七畫

[illegible] 5606 二七六
⿰⿱耳土𢇍 5607 二七六
壤 5608 二七六
⿰土毚 5609 二七七
[illegible] 5610 二七七

十八畫

⿱雙土 5611 二七七
⿰土闕 5612 二七七
⿰土聶 5613 二七八

⿰土雚 5614 二七八
⿰土冀 5615 二七八
[illegible] 5616 二七八
[illegible] 5617 二七八
[illegible] 5618 二七八
[illegible] 5619 二七八
⿰土壘 5620 二七八
⿱⿰登攵土 5621 二七八

十九畫

[illegible] 5622 二七八
⿱類土 5623 二七八
[illegible] 5624 二七八
⿰土麗 5625 二七八

二十畫

壧 5626 二七八
[illegible] 5627 二七八
[illegible] 5628 二七八

壨 5629 二七八
二十一畫
壩 5630 二七八
壢 5631 二七八
兢 5632 二七八
壇 5633 二七八
二十二畫
壤 5634 二七八
二十六畫
鑾 5635 二七八
三十三畫
𡔗 5636 二七八
三十六畫
𡔛 5637 二七八

士部

士 5638 二七九

一畫
壬 5639 二八五
二畫
𡈼 5640 二八五
三畫
声 5641 二八五
壮 5642 二八五
四畫
壯 5643 二八五
声 5644 二八八
声 5645 二八八
㞷 5646 二八八
壱 5647 二八八
売 5647′ 二八八
五畫
壳 5648 二八八
六畫

壴 5649 二八八
壵 5650 二八八
七畫
㚄 5651 二八八
冓 5652 二八八
壷 5653 二八八
壸 5654 二八八
𡉕 5655 二八八
竜 5656 二八九
八畫
壷 5657 二八九
壼 5658 二八九
壹 5659 二八九
壹 5660 二八九
九畫
壹 5661 二八九
壺 5662 二九〇

壹 5663 二九四
壻 5664 二九四
壻 5665 二九五
喜 5666 二九五
十畫
壹 5667 二九五
壺 5668 二九五
壺 5669 二九五
亄 5670 二九五
膏 5671 二九五
十一畫
壽 5672 二九五
𧻚 5674 三〇一
𪓋 5675 三〇一
壺 5676 三〇一
壺 5677 三〇一
十二畫

墫 5678 三〇一
臺 5679 三〇一
十三畫
壽 5680 三〇一
壹 5681 三〇一
十四畫
𡔫 5682 三〇一
十五畫
壺 5683 三〇一
嚭 5684 三〇一
十六畫
壽 5685 三〇一
壽 5686 三〇一
壽 5687 三〇一
十七畫
壽 5688 三〇一
十九畫

讔 5689 三〇一
譋 5690 三〇一

夂部

夂 5691 三〇一
午 5692 三〇一
一畫
夃 5693 三〇一
二畫
夅 5694 三〇二
三畫
夆 5695 三〇二
夆 5696 三〇二
夆 5697 三〇二
四畫
夆 5698 三〇二
夆 5699 三〇二

夆 5700 三〇二
麦 5700′ 三〇二
六畫
夆 5701 三〇二
条 5702 三〇二
変 5703 三〇二
七畫
覓 5704 三〇二
八畫
㚇 5705 三〇二
畚 5706 三〇二
十畫
桑 5707 三〇二

夊部

夊 5708 三〇三
三畫

夋 5709 三〇三
麦 5710 三〇三
四畫
夋 5711 三〇三
夌 5712 三〇三
夌 5713 三〇三
五畫
麦 5714 三〇三
夌 5715 三〇三
夌 5716 三〇三
六畫
夏 5717 三〇三
夋 5718 三〇三
七畫
夌 5719 三〇三
夏 5720 三〇三
憂 5721 三一五

八畫
㚅 5722 三一五
䟩 5723 三一五
夏 5724 三一五
夒 5725 三一五
九畫
䞦 5726 三一五
夏 5727 三一五
十畫
䝿 5728 三一五
夒 5729 三一五
慶 5730 三一五
十一畫
夐 5731 三一五
夔 5732 三一六
复 5733 三一六
十二畫

夒 5734 三一六
十三畫
䝿 5735 三一六
夒 5736 三一六
十四畫
夓 5737 三一六
十五畫
夒 5738 三一六
夒 5739 三一六
夒 5740 三一六
夒 5741 三一六
夒 5742 三一六
夒 5743 三一六
夒 5744 三一六
十七畫
夔 5745 三一六
夔 5746 三一六

十九畫
夔 5747 三一七
二十七畫
⿱夏⿰夏夏 5748 三一七

夕部

夕 5749 三一七
二畫
外 5750 三二一
夘 5751 三四〇
夗 5752 三四〇
夘 5753 三四〇
夙 5754 三四〇
三畫
夙 5755 三四〇
多 5756 三四二
⿰夕夕 5757 三四九

⿱夕丑 5758 三四九
⿱彐夕 5759 三四九
四畫
⿰歹凡 5760 三四九
⿱夂夕 5761 三四九
⿱夕巾 5762 三四九
五畫
夜 5763 三四九
⿸疒夕 5764 三六〇
⿰夕生 5765 三六〇
⿱多夕 5766 三六〇
六畫
⿰多勺 5767 三六〇
⿰多也 5768 三六〇
七畫
⿰多句 5769 三六〇
⿰多尤 5770 三六〇

⿰多井 5771 三六〇
⿰歹凬 5772 三六〇
⿰多匀 5773 三六〇
迻 5774 三六〇
⿰丁夜 5775 三六〇
八畫
⿰多冉 5776 三六〇
夠 5777 三六〇
够 5778 三六〇
⿰多占 5779 三六一
⿰多它 5780 三六一
⿰多亢 5781 三六一
⿰多回 5782 三六一
⿰多台 5783 三六一
梦 5784 三六一
九畫
⿰多吉 5785 三六一

⿰多亥 5786 三六一
⿰多隹 5787 三六一
⿰多幷 5788 三六一
⿰多冊 5790 三六一
⿰多先 5791 三六一
誃 5792 三六一
⿰多皮 5793 三六一
⿰多巠 5794 三六一
⿰多安 5795 三六一
⿰谷多 5796 三六一
⿰朋夕 5797 三六一
十畫
⿰多束 5798 三六一
⿰多妥 5799 三六一
⿰火多 5800 三六一
夐 5801 三六一
夢 5801′ 三六一

十一畫
夢 5802 三六二
夣 5803 三六六
⿱莫夕 5804 三六六
夤 5805 三六六
夤 5806 三六六
⿰多周 5807 三六六
夥 5808 三六六
⿰多果 5809 三六七
⿰多其 5810 三六七
⿰多直 5811 三六七
⿰多委 5812 三六七
⿰谷皮 5813 三六七
⿰爿夜 5814 三六七
⿱⿱艹冖多 5815 三六七
夤 5816 三六七
十二畫

⿰多咼 5817 三六七
⿰甚多 5818 三六七
⿰多侯 5819 三六七
十三畫
⿰享夜 5820 三六七
⿰片夜 5821 三六七
十四畫
黟 5822 三六七
⿰多留 5823 三六七
⿰享夜 5824 三六七
十五畫
⿰多貴 5825 三六七
十六畫
⿰多雍 5826 三六七
十八畫
⿰雚多 5827 三六七
二十三畫

⿰嚴多 5828 三六七
二十四畫
⿰多善 5829 三六七
二十八畫
⿰多囊 5830 三六七

大部

大 5831 三六七
夨 5832 四三三
一畫
天 5833 四三三
太 5834 五二〇
夫 5835 五四六
夬 5836 五三〇
夬 5837 五三一
夭 5838 五三一
太 5839 五三三

二畫
央 5840 五三二
夯 5841 五三三
⿱大八 5842 五三三
夰 5843 五三三
失 5844 五三三
夲 5845 五五八
夳 5846 五五八
⿵冂大 5847 五五八
三畫
⿱大廾 5848 五五八
⿱大小 5849 五五八
夶 5850 五五八
⿱大夕 5851 五五九
夷 5852 五五九
夸 5853 五六四
夸 5854 五六四

矣 5855 五六五
夵 5856 五六五
⿵冂夶 5857 五六五
⿱大分 5858 五六五
⿱大牛 5859 五六五
乔 5860 五六五
⿵冂⿱一大 5861 五六五
四畫
⿱大云 5863 五六五
⿱大电 5864 五六五
⿱大介 5865 五六五
⿱大巴 5866 五六五
夾 5867 五六五
夾 5868 五六九
⿱大朩 5869 五六九
⿱大丰 5870 五六九
⿱大旦 5871 五六九

⿱大夭 5872 五六九
⿱大关 5873 五六九
奇 5874 五六九
⿱大立 5875 五六九
⿱大玄 5876 五六九
五畫
⿱大瓜 5877 五六九
⿱大色 5878 五六九
奔 5879 五六九
⿱大长 5880 五六九
奄 5881 五六九
⿱穴大 5882 五七〇
⿱大卯 5883 五七〇
⿱大羊 5884 五七一
⿱大弟 5885 五七一
⿰来大 5886 五七一
⿱史大 5887 五七一

奆 5888 五七一
⿱白大 5889 五七一
⿱大且 5890 五七一
㚘 5891 五七一
奇 5892 五七一
奈 5893 五七八
奉 5894 五七九
⿱大比 5895 五八四
⿱此大 5896 五八四
⿱吅大 5897 五八四
芥 5898 五八四
⿱共大 5899 五八四
奋 5900 五八四
⿱大正 5901 五八五
⿱臼大 5902 五八五
⿱天氺 5903 五八五
盇 5904 五八五
⿱大丘 5905 五八五
⿱加大 5906 五八五
夸 5907 五八五
⿱占大 5908 五八五

六畫

⿱吏大 5909 五八五
⿱大亘 5910 五八五
奎 5911 五八五
⿱大衣 5912 五八六
⿱大存 5913 五八六
⿱大名 5914 五八六
奏 5915 五八六
奐 5916 五八九
契 5917 五八九
⿱大亥 5918 五九二
⿱大百 5919 五九二
奓 5920 五九二
奔 5921 五九二
奕 5922 五九五
⿱大夶 5923 五九六
⿱大奻 5924 五九六
⿱吅天 5925 五九六

七畫

套 5926 五九六
⿱大束 5927 五九七
奘 5928 五九七
⿱大龟 5929 五九七
奚 5930 五九七
⿱大含 5931 五九九
⿱大亩 5932 五九九
奥 5933 五九九
⿱夫圭 5934 五九九
⿱大豆 5935 五九九
⿱㓞夫 5936 五九九
⿱臼大 5937 五九九
⿱大巫 5938 五九九

八畫

⿱大朋 5939 五九九
⿱大斉 5940 五九九
⿱大盆 5941 五九九
⿱大奉 5942 五九九
奜 5943 五九九
奝 5944 五九九
奞 5945 六〇〇
⿱大或 5946 六〇〇
⿱大長 5947 六〇〇
⿱大東 5948 六〇〇
⿱大黾 5949 六〇〇
執 5950 六〇〇
⿱大俞 5951 六〇〇
奧 5952 六〇〇
爽 5953 六〇〇
⿱大隺 5954 六〇〇
⿻大更 5955 六〇〇
⿱大林 5956 六〇〇
⿱大會 5957 六〇〇
⿱癶大 5958 六〇〇
⿱大夾 5959 六〇〇

九畫

奠 5960 六〇〇
⿱免大 5961 六〇一
⿱冥大 5962 六〇一
⿰東大 5963 六〇一
奢 5964 六〇一
報 5965 六〇二
⿱大前 5966 六〇二
⿱大臾 5967 六〇三
⿱大頁 5968 六〇三
⿱大复 5969 六〇三
⿱大畐 5970 六〇三
⿱免天 5971 六〇三
⿱大品 5972 六〇三
⿱大弇 5973 六〇三
⿱大皇 5974 六〇三
⿱大禺 5975 六〇三
⿱大柬 5976 六〇三
⿱大叕 5977 六〇三
⿱大彥 5978 六〇三
⿱大⿱大夶 5979 六〇三
猒 5980 六〇三
奧 5981 六〇三

十畫

⿱大烝 5982 六〇三
葵 5983 六〇三
⿱癸大 5984 六〇三
奥 5985 六〇三
⿱大隻 5986 六〇六
⿱大奐 5987 六〇六
⿱大兪 5988 六〇六
⿱穴夾 5989 六〇六
⿱大辰 5990 六〇六
奨 5990′ 六〇六

十一畫

⿱大盦 5991 六〇六
⿱奞臼 5992 六〇六
⿱契大 5993 六〇六
奪 5994 六〇六
⿱大淵 5995 六〇八
⿱大戟 5996 六〇八
奬 5997 六〇八
⿱大竜 5998 六〇八
⿱大粟 5999 六〇八
⿱大癸 6000 六〇八
⿱大留 6001 六〇八

十二畫

奭 6002 六〇九
⿸厂⿱罒大 6003 六〇九
⿱大集 6004 六〇九
⿱大泰 6005 六〇九
⿰食凡 6006 六〇九
⿱⺮奚 6007 六〇九
⿱大襄 6008 六〇九
⿰𡗜前 6009 六〇九
⿱敝大 6010 六〇九

十三畫

⿱大森 6011 六〇九
奮 6012 六〇九
⿱大歲 6013 六一一
⿰東夫 6014 六一一
⿱䀠大 6015 六一二
⿱異大 6016 六一二
⿱大褻 6017 六一二
⿱𤼾大 6018 六一二
⿰大無 6019 六一二

十四畫

⿱大霍 6020 六一二
⿱大登 6021 六一二
⿰夾頁 6022 六一二
⿱大遣 6023 六一二
⿰奄頁 6024 六一二

十五畫

⿱㗊大 6025 六一二
⿱大畾 6026 六一三
⿱冀大 6027 六一三

十六畫

蕢 6028 六一三

十七畫

⿱大饗 6029 六一三

十八畫

⿱大雚 6030 六一三

十九畫

奱 6031 六一三
⿱大雝 6032 六一三

二十畫

⿱大夒 6033 六一三

二十一畫

奲 6034 六一三
⿱㗊㚘 6035 六一三

女部

女 6036 六一三

二畫

⿰女匕 6037 六一四

奼	6038	六二四
奴	6039	六二四
㚢	6040	六二六
奵	6041	六二六
㚣	6042	六二六
奶	6043	六二六
三畫		
奷	6044	六二六
奸	6045	六二六
她	6046	六二六
㚤	6047	六二六
奺	6048	六二六
㚥	6049	六二六
㚩	6050	六二六
㚫	6051	六二六
㚦	6052	六二七
好	6053	六二七
㚰	6054	六三五
㞋	6055	六三五
㚨	6056	六三五
㚪	6057	六三五
妁	6058	六三五
好	6059	六三五
如	6060	六三五
妃	6061	六四〇
改	6062	六四〇
妄	6063	六四〇
妅	6064	六四二
妍	6065	六四二
㚬	6066	六四二
妜	6067	六四二
㚞	6068	六四二
㚩	6069	六四二
㚫	6070	六四二
四畫		
妉	6071	六四二
妊	6072	六四二
妋	6073	六四三
妌	6074	六四三
妍	6075	六四三
妎	6076	六四三
姌	6077	六四三
妏	6078	六四三
㚪	6079	六四三
妐	6080	六四三
妑	6081	六四三
妒	6082	六四三
妓	6083	六四四
妔	6084	六四五
妕	6085	六四五
妖	6086	六四五
妗	6087	六四七
妘	6088	六四七
㚴	6089	六四七
妙	6090	六四七
㚾	6091	六五二
妚	6092	六五二
㚸	6093	六五二
妛	6094	六五二
妜	6095	六五二
妝	6096	六五三
敢	6097	六五三
妞	6098	六五三
妟	6099	六五三
妠	6100	六五三
妡	6101	六五三
妢	6102	六五四
妣	6103	六五四
姕	6104	六五四
妤	6105	六五四
㚼	6106	六五四
妥	6107	六五四
妦	6108	六五五
妧	6109	六五五
𡛩	6110	六五五
妨	6111	六五五
㚥	6112	六五五
㚻	6113	六五五
㚹	6114	六五五
㚻	6115	六五五
要	6116	六五五
㚶	6117	六五五
妢	6118	六五五
委	6119	六五五
五畫		
㚸	6120	六五五
妬	6121	六五五
妭	6122	六五五
妮	6123	六五六
㚵	6124	六五六
妯	6125	六五六
𡜂	6126	六五六
妰	6127	六五六
妱	6128	六五六
妲	6129	六五六
妳	6130	六五六
㚽	6131	六五六
㚿	6132	六五六
妵	6133	六五六
妶	6134	六五六
妷	6135	六五六
㛁	6136	六五六
妸	6137	六五六
妹	6138	六五七
妺	6139	六五七
妻	6140	六五七
妼	6141	六五九
㚰	6142	六五九
妽	6143	六五九
㚴	6144	六五九
效	6145	六五九
𡜁	6146	六五九
妾	6147	六五九
妿	6148	六六〇
㚾	6149	六六〇
𡛭	6150	六六〇
姁	6151	六六〇
姂	6152	六六〇
姃	6153	六六〇
要	6154	六六〇
㚷	6155	六六〇
㚕	6156	六六〇
姅	6157	六六〇
𡛷	6158	六六〇
姆	6159	六六〇
姖	6160	六六〇
㛀	6161	六六〇
妳	6162	六六一
姈	6163	六六一
姊	6164	六六一
姉	6165	六六一
始	6166	六六一
姌	6167	六六四
姘	6168	六六四
姍	6169	六六四
姎	6170	六六四
姏	6171	六六五
姐	6172	六六五
𡛩	6173	六六五
姑	6174	六六五
㚾	6175	六六七
㚫	6176	六六七
姒	6177	六六七
姓	6178	六六八
㚺	6179	六六九
𡛦	6180	六六九
委	6181	六六九
𡛰	6182	六七四
姕	6183	六七四
㟁	6184	六七四
姖	6185	六七四
畟	8186	六七四
㚾	6187	六七四
妍	6188	六七四
㚿	6189	六七五
𡜂	6190	六七五
𡛳	6191	六七五
㚷	6192	六七五
𡛷	6193	六七五
㛂	6194	六七五
婺	6195	六七五
㚶	6196	六七五
㚽	6197	六七五
𡛨	6198	六七五
六畫		
姘	6199	六七五
姙	6200	六七五
㛃	6201	六七五
姚	6202	六七五
姛	6203	六八一

敲 6204 六八一
姜 6205 六八一
姝 6206 六八五
姞 6207 六八五
故 6208 六八六
姟 6209 六八六
姠 6210 六八六
姽 6211 六八六
姡 6212 六八六
姷 6213 六八六
姣 6214 六八六
姤 6215 六八六
姥 6216 六八七
姦 6217 六八七
姧 6218 六九一
㛖 6219 六九一
㚼 6220 六九一
㛃 6221 六九一
姨 6222 六九一
㛊 6223 六九二
㛦 6224 六九二
姩 6225 六九二
姪 6226 六九二
㛄 6227 六九三
㛘 6228 六九三
姖 6229 六九三
姬 6230 六九三
㚾 6231 六九六
姮 6232 六九六
姚 6233 六九六
姰 6234 六九六
姱 6235 六九六
姲 6236 六九六
姳 6237 六九六
㛁 6238 六九六
㚲 6239 六九六
㛅 6240 六九六
姵 6241 六九六
姶 6242 六九六
姷 6243 六九七
姍 6244 六九七
㚹 6245 六九七
娕 6246 六九七
姸 6247 六九七
姹 6248 六九八
姺 6249 六九八
姻 6250 六九八
殹 6251 六九九
㛂 6252 六九九
姼 6253 六九九
姽 6254 六九九
姾 6255 六九九
㛓 6256 六九九
姿 6257 六九九
娀 6258 七〇〇
威 6259 七〇〇
㛀 6260 七〇六
娂 6261 七〇六
娃 6262 七〇七
㚫 6263 七〇七
㚷 6264 七〇七
㜶 6265 七〇七
㛉 6266 七〇七
㛚 6267 七〇七
㚽 6268 七〇七
婪 6269 七〇七
㛏 6270 七〇七
㛫 6271 七〇七
姆 6272 七〇七
姌 6273 七〇七
㚴 6274 七〇七
㛔 6275 七〇七
㛐 6276 七〇七
㛆 6277 七〇七
娄 6278 七〇七

七畫

㛌 6279 七〇七
㛍 6280 七〇七
㛂 6281 七〇七
娉 6282 七〇七
娊 6283 七〇八
娋 6284 七〇八
㛎 6285 七〇八
㛇 6286 七〇八
娌 6287 七〇八
娍 6288 七〇八
娎 6289 七〇八
㛗 6290 七〇八
娏 6291 七〇八
娐 6292 七〇八
㛐 6293 七〇八
娑 6294 七〇八
晏 6295 七〇九
娒 6296 七〇九
娓 6297 七〇九
娆 6298 七〇九
㛟 6299 七〇九
㛒 6300 七〇九
娕 6301 七〇九
娖 6302 七〇九
娗 6303 七〇九
娘 6304 七一〇
娙 6305 七一〇
娚 6306 七一〇
娛 6307 七一一
娯 6307′ 七一一
㛓 6308 七一一
㛘 6309 七一一
㛔 6310 七一三
娜 6311 七一三
㛕 6312 七一三
㛖 6313 七一三
㛡 6314 七一三
娪 6315 七一三
㛗 6316 七一三
娞 6317 七一三
㛝 6318 七一三
㛃 6319 七一三
㛚 6320 七一三
娟 6321 七一三
娠 6322 七一三
㛛 6323 七一三
㛀 6324 七一三
娡 6325 七一三
㛑 6326 七一三
娢 6327 七一三
㛙 6328 七一三
娣 6329 七一三
婓 6330 七一三
娥 6331 七一三
娦 6332 七一四
娧 6333 七一四
娨 6334 七一四
㝺 6335 七一四
㛂 6336 七一四
娩 6337 七一四
娪 6338 七一四
娫 6339 七一五
婚 6340 七一五
娭 6341 七一五
娮 6342 七一五
㛝 6343 七一五
婍 6344 七一五
婁 6345 七一五
㛫 6346 七一五
㛢 6347 七一五
㛗 6348 七一五
㛹 6349 七一五
㛐 6350 七一五
㛚 6351 七一五
㛌 6352 七一五
㛹 6353 七一五
㛴 6354 七一五
㛓 6355 七一五
㛦 6356 七一五
嫩 6357 七一五
㛨 6358 七一五
㛙 6359 七一五

八畫

㛣 6360 七一五
娬 6361 七一五
㛔 6362 七一五
㛥 6363 七一五
娵 6364 七一六
娶 6365 七一六
姘 6366 七一六
娷 6367 七一六
娸 6368 七一六
㛹 6369 七一六
婜 6370 七一六

婜	6371	七一七
娶	6372	七一七
娺	6373	七一七
⿰女矦	6374	七一七
娻	6375	七一七
娼	6376	七一七
⿰女岩	6377	七一七
娽	6378	七一七
⿱尚女	6379	七一七
娷	6380	七一七
嫛	6381	七一七
婀	6382	七一七
婁	6383	七一七
婁	6384	七一九
婁	6385	七一九
婂	6386	七一九
婃	6387	七二〇
婄	6388	七二〇
婅	6389	七二〇
婆	6390	七二〇
⿰女奈	6391	七二三
娛	6392	七二三
娆	6393	七二三
⿰女肴	6394	七二三
婈	6395	七二三
婉	6396	七二三
婊	6397	七二三
婋	6398	七二三
⿰女乳	6399	七二三
婌	6400	七二三
婍	6401	七二三
婎	6402	七二三
婏	6403	七二四
婐	6404	七二四
婑	6405	七二四
婒	6406	七二四
⿱制女	6407	七二四
⿱臾女	6408	七二四
⿰女芺	6409	七二四
婓	6410	七二四
婔	6411	七二四
婕	6412	七二四
婖	6413	七二四
婗	6414	七二四
婘	6415	七二五
婩	6416	七二五
婙	6417	七二五
婚	6418	七二五
⿰启女	6419	七二六
婛	6420	七二六
婜	6421	七二六
婝	6422	七二六
婞	6423	七二六
婟	6424	七二六
婠	6425	七二六
⿱卓女	6426	七二六
婡	6427	七二六
婢	6428	七二六
婣	6429	七二七
婤	6430	七二七
婥	6431	七二七
婦	6432	七二七
婦	6432′	七二九
婧	6433	七二九
婨	6434	七三〇
⿰女岸	6435	七三〇
婪	6436	七三〇
⿰女林	6437	七三〇
婫	6438	七三〇
⿰女易	6439	七三〇
婬	6440	七三〇
婭	6441	七三一
⿰女坴	6442	七三一
婮	6443	七三一
⿱要女	6444	七三一
婰	6445	七三一
⿰女昔	6446	七三一
⿰女妾	6447	七三一
⿰女肯	6448	七三一
婧	6449	七三一
⿱癸女	6450	七三一
⿰女卒	6451	七三一
⿰女吉	6452	七三一
⿰女畀	6453	七三一
⿰女忽	6454	七三一
婪	6455	七三二
婲	6456	七三二

九畫

婷	6457	七三二
婸	6458	七三二
⿰啇女	6459	七三二
婹	6460	七三二
⿱癸女	6461	七三三
⿰女甫	6462	七三三
嫂	6463	七三三
婼	6464	七三三
⿰女㝹	6465	七三三
⿰女昬	6466	七三三
⿰女叚	6467	七三三
⿰女畏	6468	七三三
媮	6469	七三三
婿	6470	七三三
媀	6471	七三三
⿰女育	6472	七三三
媁	6473	七三三
媍	6474	七三三
媂	6475	七三三
⿱耎女	6476	七三三
媃	6477	七三三
媄	6478	七三三
媅	6479	七三三
⿰女𡿺	6480	七三三
⿰女爯	6481	七三四
媆	6482	七三四
⿰女羙	6483	七三四
媈	6484	七三四
媉	6485	七三四
媊	6486	七三四
媋	6487	七三四
媌	6488	七三四
⿰女省	6489	七三四
媜	6490	七三四
媎	6491	七三四
媏	6492	七三四
⿰女炭	6493	七三四
婺	6494	七三四
⿱臾女	6495	七三四
⿱浸女	6496	七三四
媑	6497	七三四
媒	6498	七三五
⿰女厤	6499	七三六
媓	6500	七三六
媔	6501	七三六
媿	6502	七三六
⿱癸女	6503	七三六
⿰女壴	6504	七三六
媕	6505	七三六
媖	6506	七三六
媗	6507	七三六
⿱𢍏女	6508	七三六
媙	6509	七三六
媘	6510	七三六
⿰女威	6511	七三六
媫	6512	七三六
媚	6513	七三六
⿰女侯	6514	七三八
⿰女享	6515	七三八
媛	6516	七三八
⿰女更	6517	七三八
⿰女夋	6518	七三八
媜	6519	七三八
⿰女音	6520	七三八
⿱癹女	6521	七三八
媞	6522	七三八
⿰女奎	6523	七三八
媟	6524	七三八
婧	6525	七三九
媡	6526	七三九
媢	6527	七三九
⿰女桀	6528	七三九
媤	6529	七三九
媥	6530	七三九
⿰女臿	6531	七三九
媦	6532	七三九
媧	6533	七三九
⿰女戚	6534	七四〇
⿰女束	6535	七四〇
⿰負女	6536	七四〇
⿰女叜	6537	七四〇
⿰女祭	6538	七四〇

媛 6539 七四〇
媨 6540 七四〇
婦 6541 七四〇
媎 6542 七四〇
㛹 6543 七四〇
𡞰 6544 七四〇
媩 6545 七四〇
㛰 6546 七四〇
媤 6547 七四〇
𡝲 6548 七四〇
㛃 6549 七四〇
媬 6550 七四〇
媗 6551 七四〇
㛔 6552 七四〇
媔 6553 七四〇
媂 6554 七四〇
媢 6555 七四〇
媀 6556 七四〇
𡟧 6557 七四〇
𡝩 6558 七四〇
媝 6559 七四〇
𡞥 6560 七四一
𡞭 6561 七四一
婝 6562 七四一
媙 6563 七四一
𡟯 6564 七四一
媪 6565 七四一

十畫

媰 6566 七四一
𡢃 6567 七四一
媱 6568 七四一
𡟪 6569 七四一
𡟲 6570 七四一
𡟮 6571 七四一
𡞷 6572 七四一
媳 6573 七四一
𡞚 6574 七四一
媵 6575 七四一
媶 6576 七四二
𡡇 6577 七四二
媷 6578 七四二
媸 6579 七四二
媹 6580 七四二
𡟻 6581 七四二
媺 6582 七四二
媻 6583 七四二
婿 6584 七四三
𡞦 6585 七四三
𡠀 6586 七四三
媜 6587 七四三
媼 6588 七四三
𡞨 6589 七四三
媽 6590 七四三
𡞾 6591 七四三
嬰 6592 七四三
𡟊 6593 七四三
𡞿 6594 七四三
𡟁 6595 七四三
𡞖 6596 七四三
媾 6597 七四三
𡟂 6598 七四四
𡝷 6599 七四四
媿 6600 七四四
嫀 6601 七四四
嫁 6602 七四四
嫂 6603 七四五
嫃 6604 七四五
𡟎 6605 七四五
嫄 6606 七四五
嫅 6607 七四五
嫆 6608 七四五
嫇 6609 七四五
嫈 6610 七四六
嫉 6611 七四六
𡟵 6612 七四六
嫊 6613 七四六
嫋 6614 七四六
𡟿 6615 七四七
𡟳 6616 七四七
㜎 6617 七四七
嫌 6618 七四七
媴 6619 七四八
㛿 6620 七四八
嫍 6621 七四八
淒 6622 七四八
𡟷 6623 七四八
嫎 6624 七四八
嫏 6625 七四八
𡠌 6626 七四八
𡟰 6627 七四八
𡟱 6628 七四八
𡟥 6629 七四八
𡝐 6630 七四八
𡟽 6631 七四八
𡟸 6632 七四八
婭 6633 七四八
𡟆 6634 七四八

十一畫

𡟾 6635 七四八
𡞼 6636 七四八
嫖 6637 七四八
㜪 6638 七四九
𡡒 6639 七四九
嫗 6640 七四九
嫘 6641 七四九
嫙 6642 七四九
𡠠 6643 七五〇
嫚 6644 七五〇
𡡴 6645 七五〇
𡟼 6646 七五〇
嫛 6647 七五〇
𡢀 6648 七五〇
嫜 6649 七五〇
嫝 6650 七五〇
嫞 6651 七五〇
嫟 6652 七五〇
𡡑 6653 七五〇
𡡗 6654 七五〇
嫠 6655 七五〇
嫡 6656 七五一
𡣃 6657 七五二
嫢 6658 七五二
嫣 6659 七五二
嫤 6660 七五二
嬋 6661 七五二
嫥 6662 七五二
嫦 6663 七五二
嫧 6664 七五二
嫨 6665 七五二
嫩 6666 七五三
嫰 6667 七五三
𡠿 6668 七五三
嫪 6669 七五三
𡠧 6670 七五三
𡡄 6671 七五三
𡢆 6672 七五四
嫫 6673 七五四
𡣐 6674 七五四
嫬 6675 七五四
𡢕 6676 七五四
𡡱 6677 七五四
𡠳 6678 七五四
嫭 6679 七五四
嫮 6680 七五四
嫯 6681 七五四
𡡟 6682 七五四
𡢃 6683 七五四
𡣈 6684 七五四
𡠛 6685 七五五
𡡆 6686 七五五
媊 6687 七五五
𡡻 6688 七五五
𡡷 6689 七五五
𡢈 6690 七五五
𡢂 6691 七五五
𡢉 6692 七五五
𡡫 6693 七五五
𡣦 6694 七五五
𡢍 6695 七五五
𡢊 6696 七五五
𡢾 6697 七五五

十二畫

嫳 6698 七五五
𡡮 6699 七五五
嫴 6700 七五五
嫵 6701 七五五
𡣍 6702 七五五
嫾 6703 七五五
嫸 6704 七五五
嫶 6705 七五六

[illegible] 6706 七五六
嫷 6707 七五六
嫸 6708 七五六
嫹 6709 七五六
嫺 6710 七五六
嫻 6711 七五六
嫼 6712 七五六
[illegible] 6713 七五六
[illegible] 6714 七五六
[illegible] 6715 七五六
[illegible] 6716 七五六
嫽 6717 七五六
嫾 6718 七五七
嫿 6719 七五七
嬀 6720 七五七
[illegible] 6721 七五七
[illegible] 6722 七五七

嬃 6723 七五七
須 6724 七五七
[illegible] 6725 七五七
嬄 6726 七五七
[illegible] 6727 七五八
[illegible] 6728 七五八
[illegible] 6729 七五八
嬅 6730 七五八
[illegible] 6731 七五八
嬆 6732 七五八
嬇 6733 七五八
嬈 6734 七五八
[illegible] 6735 七五八
嬉 6736 七五八
蔞 6737 七五九
嬋 6738 七五九
嬌 6739 七五九

嫶 6740 七六二
[illegible] 6741 七六二
[illegible] 6742 七六二
[illegible] 6743 七六二
[illegible] 6744 七六二
[illegible] 6745 七六二
[illegible] 6746 七六二
[illegible] 6747 七六二
[illegible] 6748 七六二
[illegible] 6749 七六二
[illegible] 6750 七六二
[illegible] 6751 七六二
[illegible] 6752 七六二
[illegible] 6753 七六二
嬏 6754 七六二
[illegible] 6755 七六二
[illegible] 6756 七六二

[illegible] 6757 七六二
[illegible] 6758 七六二
[illegible] 6759 七六二
[illegible] 6760 七六二
[illegible] 6761 七六二

十三畫

[illegible] 6762 七六三
[illegible] 6763 七六三
嬐 6764 七六三
嬑 6765 七六三
嬒 6766 七六三
嬓 6767 七六三
[illegible] 6768 七六三
嬕 6769 七六三
嬖 6770 七六三
嬗 6771 七六三
嬘 6772 七六三

[illegible] 6773 七六三
[illegible] 6774 七六三
[illegible] 6775 七六三
嬴 6776 七六三
嬙 6777 七六三
[illegible] 6778 七六三
[illegible] 6779 七六三
嬚 6780 七六三
[illegible] 6781 七六三
嬛 6782 七六三
[illegible] 6783 七六四
[illegible] 6784 七六四
[illegible] 6785 七六四
[illegible] 6786 七六四
嬝 6787 七六四
[illegible] 6788 七六四
[illegible] 6789 七六四

[illegible] 6790 七六四
[illegible] 6791 七六四
嬞 6792 七六四
[illegible] 6793 七六四
[illegible] 6794 七六四
嬠 6795 七六四
[illegible] 6796 七六四
[illegible] 6797 七六四
[illegible] 6798 七六四
[illegible] 6799 七六四
[illegible] 6800 七六四
嬍 6801 七六四
嬳 6802 七六四
[illegible] 6803 七六四
[illegible] 6804 七六四
[illegible] 6805 七六四
[illegible] 6806 七六五

嬡 6807 七六五
嬢 6807′ 七六五

十四畫

嬣 6808 七六五
[illegible] 6809 七六五
[illegible] 6810 七六五
[illegible] 6811 七六五
[illegible] 6812 七六五
嬥 6813 七六五
嬦 6814 七六五
嬧 6815 七六五
[illegible] 6816 七六五
嬩 6817 七六五
[illegible] 6818 七六五
嬪 6819 七六五
嬫 6820 七六六
嬬 6821 七六六

[illegible] 6822 七六六
[illegible] 6823 七六六
嬭 6824 七六六
嬮 6825 七六七
[illegible] 6826 七六七
嬯 6827 七六七
嬰 6828 七六七
[illegible] 6829 七六八
[illegible] 6830 七六八
嬲 6831 七六八
[illegible] 6832 七六九
[illegible] 6833 七六九
[illegible] 6834 七六九
[illegible] 6835 七七〇
[illegible] 6836 七七〇
[illegible] 6837 七七〇
[illegible] 6838 七七〇

[illegible] 6839 七七〇
[illegible] 6840 七七〇
[illegible] 6841 七七〇
[illegible] 6842 七七〇
[illegible] 6843 七七〇
[illegible] 6844 七七〇
[illegible] 6845 七七〇
[illegible] 6846 七七〇
[illegible] 6847 七七〇
[illegible] 6848 七七〇
嬶 6849 七七〇

十五畫

[illegible] 6850 七七〇
嬸 6851 七七〇
嬹 6852 七七一
[illegible] 6853 七七一
[illegible] 6854 七七一

[illegible] 6855 七七一
[illegible] 6856 七七一
[illegible] 6857 七七一
[illegible] 6858 七七一
[illegible] 6859 七七一
嬻 6860 七七一
[illegible] 6861 七七一
[illegible] 6862 七七一
[illegible] 6863 七七一
[illegible] 6864 七七一
[illegible] 6865 七七一
[illegible] 6866 七七一
[illegible] 6867 七七一
孌 6868 七七一

十六畫

[illegible] 6869 七七一
[illegible] 6870 七七一

⿰女褱	6871	七七一
嬾	6872	七七二
⿰女蕭	6873	七七二
嬿	6874	七七二
⿱埶女	6875	七七三
⿰女曹	6876	七七三
嬰	6877	七七三
⿰女鼎	6878	七七三
⿰鼎攵	6879	七七三
嬪	6880	七七三
⿰女逢	6881	七七三
嬝	6882	七七三
⿰女歷	6883	七七三
十七畫		
⿰女毚	6884	七七三
孀	6885	七七三
孁	6886	七七三
⿰弓⿱爾女	6887	七七三
⿰女盧	6888	七七三
⿰女薛	6889	七七三
⿱薛女	6890	七七三
孃	6891	七七四
孄	6892	七七四
孅	6893	七七四
⿰女翁	6894	七七四
⿱睘女	6895	七七四
孆	6896	七七四
⿱䍃女	6897	七七四
十八畫		
⿰女憲	6898	七七四
⿰女雙	6899	七七四
孈	6900	七七四
⿰女聶	6901	七七四
⿰女雚	6902	七七四
⿰女瞿	6903	七七五
⿰女⿱罒契	6904	七七五
⿰女轉	6905	七七五
⿰女⿱亼魚	6906	七七五
十九畫		
⿰女彌	6907	七七五
⿰女贊	6908	七七五
⿰女羅	6909	七七五
⿰女靡	6910	七七五
孋	6911	七七五
孌	6912	七七五
⿰女䜌	6913	七七五
⿰䜌女	6914	七七五
⿰女藥	6915	七七五
二十畫		
孍	6916	七七五
⿱鬭女	6917	七七五
⿰女矍	6918	七七五
二十一畫		
孎	6919	七七五
孏	6920	七七五
⿰女蘆	6921	七七六
⿰女纍	6922	七七六
⿰女覽	6923	七七六
二十二畫		
⿰女彎	6924	七七六
二十三畫		
⿰女戀	6925	七七六
⿰女疊	6926	七七六
二十四畫		
⿱⿰兔兔⿰女兔	6927	七七六
⿰女⿱兔⿰兔兔	6928	七七六
⿰女豔	6929	七七六
子部		
子	6930	七七六
孑	6931	八〇〇
孓	6932	八〇〇
一畫		
孔	6933	八〇一
⿱子一	6934	八一五
二畫		
⿰子彡	6935	八一五
⿰子人	6936	八一五
⿱子八	6937	八一五
孕	6938	八一五
⿰子刂	6939	八一六
三畫		
⿱⺍子	6940	八一六
孖	6941	八一六
字	6942	八一六
存	6943	八二〇
孜	6944	八二三
⿰土子	6945	八二三
⿰扌子	6946	八二三
四畫		
⿰耳子	6947	八二四
孚	6948	八二四
孛	6949	八二四
⿱十⿵冂子	6950	八二五
⿰子攴	6951	八二五
孝	6952	八二六
⿱夂子	6953	八三三
⿰子介	6954	八三三
⿱尹子	6955	八三三
⿰子予	6956	八三三
⿱丰子	6957	八三三
⿸广子	6958	八三三
⿱子心	6959	八三三
五畫		
孟	6960	八三三
⿱旦子	6961	八四四
⿰子台	6962	八四四
⿱此子	6963	八四四
孢	6964	八四四
季	6965	八四四
孤	6966	八五〇
孥	6967	八五八
⿱夅子	6968	八五八
⿱山字	6969	八五八
⿰子北	6970	八五八
乳	6971	八五八
⿰𠮛子	6972	八五八
⿱卯子	6973	八五八
学	6974	八五八
六畫		
⿰子朱	6975	八五八
孨	6976	八五八
孩	6977	八五八
⿱宀孚	6978	八五九
⿱早子	6979	八五九
⿱龹子	6980	八五九
⿱爫⿱冖子	6981	八五九
⿰子并	6982	八五九
⿰子忍	6983	八五九
七畫		
⿱孖曰	6984	八五九
⿰子弟	6985	八五九
⿰子折	6986	八五九
孫	6987	八六〇
⿰子免	6988	八七七
⿱丞子	6989	八七七
⿰子言	6990	八七七
厚	8991	八七七
⿰阝孚	6992	八七七
八畫		
⿰子宗	6993	八七七
⿱臤子	6994	八七七
孰	6995	八七七
⿰子亞	6996	八七八
⿱𠔉子	6997	八七八
九畫		
⿰子禹	6998	八七八
⿸尸⿰子并	6999	八七八
孱	7000	八七八
⿸尸⿰子辛	7001	八七九
⿰享屯	7002	八七九
⿰享夬	7003	八七九
⿸尸⿰子羊	7004	八七九
⿰⿱口子月	7005	八七九
⿰子重	7006	八七九
⿰豸子	7007	八七九
十畫		
⿱⺍⿱冖孚	7008	八七九
⿱奚子	7009	八七九
⿰子蜀	7010	八七九
孳	7011	八七九
⿰⿱士⿱冖⿱一子殳	7012	八八〇
⿱孨曰	7013	八八〇
⿰車孚	7014	八八〇
⿰子虒	7015	八八〇
⿱孖⿱一曰	7016	八八〇
⿱孜子	7017	八八〇
⿰子脊	7018	八八〇
⿰子晉	7019	八八〇

孨	7020	八八〇
十一畫		
孵	7021	八八〇
孷	7022	八八〇
𡦜	7023	八八〇
𡦗	7024	八八〇
𡦢	7025	八八〇
十二畫		
𡦹	7026	八八〇
𡦾	7027	八八〇
𡦽	7028	八八〇
𡦼	7029	八八一
𡦿	7030	八八一
𡧀	7031	八八一
十三畫		
𡧃	7032	八八一
學	7033	八八一
𡧄	7034	八九三
𡧅	7035	八九三
𡧆	7036	八九三
𡧇	7037	八九三
𡧈	7038	八九三
𡧉	7039	八九三
𡧊	7040	八九三
𡧋	7041	八九三
十四畫		
孺	7042	八九三
𡧍	7043	八九四
𡧎	7044	八九四
十五畫		
𡧏	7045	八九四
十六畫		
孼	7046	八九四
十七畫		
孽	7047	八九五
𡧐	7048	八九五
𡧑	7049	八九五
十九畫		
孿	7051	八九五
𡧒	7052	八九五
二十二畫		
𡧓	7053	八九五

宀部

宀	7054	八九五
二畫		
宁	7055	八九五
宂	7056	八九六
它	7057	八九七
宄	7058	八九七
宊	7059	八九七
𡧑	7060	八九七
𡧍	7061	八九八
𡧐	7062	八九八
𡧃	7063	八九八
三畫		
宅	7064	八九八
宎	7065	八九九
𡧎	7066	八九九
宇	7067	八九九
𡧙	7068	九〇三
𡧚	7069	九〇三
𡧛	7070	九〇三
守	7071	九〇三
安	7072	九〇九
𡧓	7073	九三〇
𡧖	7074	九三〇
𡧗	7075	九三〇
𡧘	7076	九三〇
四畫		
𡧜	7077	九三〇
宋	7078	九三〇
完	7079	九四四
𡧤	7080	九五〇
𡧦	7081	九五〇
𡧮	7082	九五〇
𡧥	7083	九五〇
宍	7084	九五〇
𡧧	7085	九五〇
宏	7086	九五〇
𡧢	7087	九五二
𡧫	7088	九五二
𡧭	7089	九五二
𡧬	7090	九五二
𡧯	7091	九五二
𡧰	7092	九五三
𡧱	7093	九五三
𡧴	7094	九五三
𡧳	7095	九五三
𡧵	7096	九五三
𡧶	7097	九五三
五畫		
宓	7098	九五三
宩	7099	九五三
𡧸	7100	九五三
𡧹	7101	九五三
宔	7102	九五三
宕	7103	九五三
宖	7104	九五四
𡧻	7105	九五四
宗	7106	九五四
官	7107	九六三
宙	7108	九七四
定	7109	九七四
宛	7110	九八三
宜	7111	九八五
𡧼	7112	九八九
𡧽	7113	九八九
𡨄	7114	九八九
𡧾	7115	九八九
𡨁	7116	九八九
𡨀	7117	九八九
𡨃	7118	九八九
𡨅	7119	九八九
𡨂	7120	九八九
宾	7121	九八九
宝	7122	九八九
实	7123	九八九
実	7124	九八九
六畫		
𡨋	7125	九八九
𡨊	7126	九八九
𡨈	7127	九八九
客	7128	九八九
𡨉	7129	九九三
𡨏	7130	九九四
𡨍	7131	九九四
宣	7132	九九四
𡨎	7133	一〇〇一
𡨐	7134	一〇〇一
𡨑	7135	一〇〇一
室	7136	一〇〇二
宥	7137	一〇〇三
宦	7138	一〇〇四
𡨒	7139	一〇〇六
𡨓	7140	一〇〇六
𡨔	7141	一〇〇六
𡨕	7142	一〇〇六
𡨖	7143	一〇〇六
𡨗	7144	一〇〇六
𡨘	7145	一〇〇六
𡨙	7146	一〇〇六
𡨚	7147	一〇〇六
𡨛	7148	一〇〇六
𡨜	4149	一〇〇六
𡨝	7150	一〇〇六
七畫		
宬	7151	一〇〇六
𡨟	7152	一〇〇六
𡨠	7153	一〇〇六
𡨡	7154	一〇〇六
宭	7155	一〇〇六
宮	7156	一〇〇六
𡨧	7157	一〇一四
𡨨	7158	一〇一四
𡨩	7159	一〇一四
宰	7160	一〇一四
𡨭	7161	一〇一七
𡨮	7162	一〇一七
寅	7163	一〇一七
𡨯	7164	一〇一七
害	7165	一〇一七
宴	7166	一〇一八
𡨰	6167	一〇二〇
宵	7168	一〇二〇
家	7169	一〇二一
宷	7170	一〇二三
宸	7171	一〇二三
容	7172	一〇二三
𡨱	7173	一〇三八

宧 7174 一〇三八
宣 7175 一〇三八
⿱宀毛 7176 一〇三八
⿱宀𡗗 7177 一〇三八
⿱宀妻 7178 一〇三八
⿱宀叓 7179 一〇三八
⿱宀兄 7180 一〇三八
害 7181 一〇三八
⿱宀坐 7182 一〇三八
⿱宀夆 7183 一〇三八
⿱宀㐬 7184 一〇三八
⿱宀李 7185 一〇三八
⿱宀利 7186 一〇三八
⿱宀皀 7187 一〇三八
⿱宀來 7188 一〇三八
⿱宀延 7189 一〇三八
⿱宀谷 7190 一〇三八
宼 7191 一〇三八
⿱宀𣏟 7192 一〇三八

八畫

⿱宀居 7193 一〇三八
寂 7194 一〇三八
宿 7195 一〇三八
⿱宀佰 7196 一〇四四
⿱宀音 7197 一〇四四
⿱宀朵 7198 一〇四四
⿱宀建 7199 一〇四四
⿱宀叔 7200 一〇四四
⿱宀癹 7201 一〇四五
⿱宀兔 7202 一〇四五
寄 7203 一〇四五
寅 7204 一〇四九
密 7205 一〇五〇
⿱宀林 7206 一〇五五
⿱宀亞 7207 一〇五五
寇 7208 一〇五五
⿱宀⿰元攴 7209 一〇五五
⿱宀帝 7210 一〇五七
⿱宀青 7211 一〇五七
⿱宀卒 7212 一〇五七
⿱宀夌 7213 一〇五七
⿱宀昏 7214 一〇五七
⿱宀乳 7215 一〇五七
⿱宀炎 7216 一〇五七
⿱宀見 7217 一〇五七
⿱宀鬼 7218 一〇五七
⿱宀⿱旦儿 7219 一〇五七
⿱宀具 7220 一〇五七
⿱宀表 7221 一〇五七
⿱宀昚 7222 一〇五七
⿱宀亭 7223 一〇五七

九畫

⿱宀貞 7224 一〇五七
⿱宀省 7225 一〇五七
⿱宀卷 7226 一〇五七
⿱宀垔 7227 一〇五七
⿱宀炙 7228 一〇五七
⿱宀豙 7229 一〇五七
富 7230 一〇五七
⿱宀亲 7231 一〇六三
⿱宀盆 7232 一〇六三
⿱宀⿰禾丙 7233 一〇六三
⿱宀奐 7234 一〇六三
⿱宀兵 7235 一〇六三
寐 7236 一〇六三
⿱宀契 7237 一〇六三
寑 7238 一〇六三
寒 7239 一〇六四
⿱宀⿰忄疋 7240 一〇七六
⿱宀勉 7241 一〇七六
⿱宀禹 7242 一〇七六
寓 7243 一〇七六
⿱宀是 7244 一〇七七
⿱宀斋 7245 一〇七七
⿱宀軋 7246 一〇七七
⿱宀亮 7247 一〇七七
⿱宀臬 7248 一〇七七
⿱宀宣 7249 一〇七七
⿱宀家 7250 一〇七八
⿱宀茹 7251 一〇七八

十畫

⿱宀黄 7252 一〇七八
寖 7253 一〇七八
⿱宀壹 7254 一〇七八
⿱宀⿱羽廾 7255 一〇七八
⿱宀索 7256 一〇七八
⿱宀眞 7257 一〇七八
⿱宀條 7258 一〇七八
⿱宀桀 7259 一〇七八
⿱宀㼌 7260 一〇七八
⿱宀借 7261 一〇七八
⿱宀冓 7262 一〇七八
⿱宀翁 7263 一〇七八
⿱宀秝 7264 一〇七九
⿱宀害 7265 一〇七九
⿱宀⿰王缶 7266 一〇七九
⿱宀亶 7267 一〇七九
⿱宀沓 7268 一〇七九
⿱宀隽 7269 一〇七九
⿱宀盔 7270 一〇七九
⿱宀⿸疒吉 7271 一〇七九
⿱宀東 7272 一〇七九
⿱宀⿸疒吾 7273 一〇七九
⿱宀⿰禾寽 7274 一〇七九
⿱宀缺 7275 一〇七九
⿱宀覓 7276 一〇七九
寕 7277 一〇七九
⿱宀盈 7278 一〇七九
寝 7278′ 一〇七九

十一畫

⿱宀康 7279 一〇七九
⿱宀執 7280 一〇七九
⿱宀埶 7281 一〇七九
寞 7282 一〇七九
察 7283 一〇七九
⿱宀渧 7284 一〇八二
寠 7285 一〇八二
寡 7286 一〇八二
⿱宀稟 7287 一〇八五
寵 7288 一〇八五
寢 7289 一〇八五
⿱宀⿸疒言 7290 一〇八七
⿱宀⿸疒吾 7291 一〇八七
⿱宀翏 7292 一〇八八
⿱宀區 7293 一〇八九
實 7294 一〇八九
⿱宀⿱癸土 7295 一〇九四
寧 7296 一〇九四
寗 7296′ 一一〇〇
⿱宀⿰女女 7297 一一〇〇
寨 7298 一一〇〇
⿱宀骼 7299 一一〇〇
⿱宀蚤 7300 一一〇〇
⿱宀弈 7301 一一〇〇
⿱宀猪 7302 一一〇〇
⿱宀聊 7303 一一〇〇
⿱宀盜 7304 一一〇〇
⿱宀雷 7305 一一〇〇
⿱宀麥 7306 一一〇〇
⿱宀翕 7307 一一〇〇
⿱宀賁 7308 一一〇〇
⿱宀雩 7309 一一〇〇
⿱宀敍 7310 一一〇〇
⿱宀⿸疒秝 7311 一一〇〇
⿱宀亶 7312 一一〇一

十二畫

⿱宀⿸疒音 7313 一一〇一
⿱宀⿸疒星 7314 一一〇一
⿱宀會 7315 一一〇一
審 7316 一一〇一
⿱宀數 7317 一一〇三
⿱宀喬 7318 一一〇三
⿱宀爲 7319 一一〇三
寫 7320 一一〇三
⿱宀款 7321 一一〇五
寬 7322 一一〇五
⿱宀優 7323 一一〇九
⿱宀惠 7324 一一〇九
⿱宀脊 7325 一一〇九
⿱宀毳 7326 一一〇九
⿱宀⿱穴亘 7327 一一〇九
⿱宀隆 7328 一一一〇
⿱宀華 7329 一一一〇
⿱宀宣 7330 一一一〇
⿱宀⿱夾夂 7331 一一一〇
⿱宀康 7332 一一一〇
⿱宀規 7333 一一一〇
⿱宀責 7334 一一一〇
⿱宀⿰毛毛 7335 一一一〇
⿱宀冥 7336 一一一〇

𡫳 7337 二一〇
𡬂 7338 二一〇
賨 7339 二一〇
𡬀 7340 二一〇

十三畫

憲 7341 二一〇
𡫯 7342 二一〇
寯 7343 二一〇
寰 7344 二一〇
𡬅 7345 二一〇
寴 7346 二一〇
𡫿 7347 二一一
𡬁 7348 二一一
𡫹 7349 二一一
𡬃 7350 二一一
𡬄 7351 二一一

十四畫

𡬆 7352 二一一
𡬇 7353 二一一
𡬈 7354 二一一
𡬉 7355 二一一
𡬊 7356 二一一
𡬋 7357 二一一

十五畫

𡬌 7358 二一一
𡬍 7359 二一一
𡬎 7360 二一一
𡬏 7361 二一一
𡬐 7362 二一一
𡬑 7363 二一一

十六畫

𡬒 7364 二一一
𡬓 7365 二一一
𡬔 7366 二一一
寴 7367 二一一
寵 7368 二一一
𡬕 7369 二一四
𡬖 7370 二一四
𡬗 7371 二一四
𡬘 7372 二一四
𡬙 7373 二一四
𡬚 7374 二一四
𡬛 7375 二一四

十七畫

寶 7376 二一四
𡬜 7377 二一六
𡬝 7378 二一六
𡬞 7379 二一六

十八畫

𡬟 7380 二一六
𡬠 7381 二一六
𡬡 7382 二一六
𡬢 7383 二一六
𡬣 7384 二一六
𡬤 7385 二一六
𡬥 7386 二一六
𡬦 7387 二一六

十九畫

𡬧 7388 二一六
𡬨 7389 二一六
𡬩 7390 二一六
𡬪 7391 二一六
𡬫 7392 二一六
𡬬 7393 二一六
𡬭 7394 二一六

二十畫

𡬮 7395 二一六

二十一畫

𡬯 7396 二一六
𡬰 7397 二一六

二十二畫

𡬱 7398 二一六
𡬲 7399 二一六
𡬳 7400 二一六

二十三畫

𡬴 7401 二一七
𡬵 7402 二一七
𡬶 7403 二一七
𡬷 7404 二一七

二十四畫

𡬸 7405 二一七
𡬹 7406 二一七
𡬺 7407 二一七

二十五畫

𡬻 7408 二一七

二十六畫

𡬼 7409 二一七

三十三畫

𡬽 7410 二一七

總畫順による檢字

親文字の下に記した和數字は其の文字を掲載した頁。

三畫

口 一
土 一〇八
士 二九
夂 三〇二
午 三〇二
夊 三〇三
夕 三一七
大 三二七
女 六二三
子 七七六
孑 八〇〇
了 八〇〇
宀 八二五

四畫

𡆧 一
囚 一
圠 一三
王 一三
玌 一三
圡 一三
壬 二八五
劣 三〇二
夨 四二三
天 四二三
太 五二〇
夫 五四六
夬 五三〇
叏 五三一
夭 五三一
太 五三一
孔 八〇一
孑 八二五

五畫

曰 一
図 一
囚 一
四 二
囜 二
西 五〇
旧 五〇
曰 五〇
四 五〇
圢 一三
圣 一三
圤 一三
功 一三
圤 一三
先 一三
左 一三
圦 一三
压 一三
圣 二八五
务 三〇一
外 三一
夘 三四〇
夗 三四〇
夘 三四〇
凨 三四〇
央 三五三
夯 三五三
夳 三五三
夰 三五三
失 三五三
本 三五八
夳 三五八
内 三五八
妃 六二四
奻 六二四
奴 六二四
佞 六二六
奵 六二六
奶 六二六
奶 六二六
予 八二五
孙 八二五
孞 八二五
孕 八二五
刋 八二六
宁 八五九
宂 八六九
它 八七七
宄 八七七
安 八七七
宊 八七七
穴 八六六
宇 八六六
宅 八六六

六畫

囝 五〇
囚 五〇
回 五〇
囟 五七
目 五八
因 六〇
図 六〇
田 六〇
囡 六〇
回 六〇
囘 六〇
囲 六〇
团 六一
囯 六一
团 六一
四 六一
団 六一
扗 一三
在 一三
圩 二五
圪 二五
圫 二六
圬 二六
青 二六
圭 二六
圮 二八
圯 二八
地 二八
圱 一〇五
圩 一〇五
坙 一〇五
圳 一〇五
均 一〇五
圵 一〇五
坴 一〇六
圫 一〇六
壮 一〇六
圷 一〇六
圢 一〇六
壬 一〇六
声 二八五
壮 二八五
夆 三〇三
夅 三〇三
夆 三〇三
夌 三〇三
麦 三〇三
夙 三四〇
多 三四二
夠 三四九
夛 三四九
夛 三四九
夵 三五八
夶 三五八
夷 三五八
夸 三五九
夸 三五九
奐 三五四
夻 三五五
肉 三五五
奔 三五五
奄 三五五
乔 三五五
丙 三五五
奸 六二六
奸 六二六
她 六二六
奻 六二六
奴 六二六
妥 六二六
妐 六二六
奼 六二七
好 六二七
姒 六三五
妁 六三五
奾 六三五
妁 六三五
好 六三五
如 六三五
妃 六四〇
改 六四〇
妄 六四〇
妅 六四三
奵 六四三
扩 六四三
妓 六四三
妖 六四三
妆 六四三
妐 六四三
学 八一六
孖 八一六
字 八一六
存 八二〇
孜 八二一
孖 八二一
孚 八二一
宅 八六八
宎 八六九
穹 八六九
宇 八六九
宇 八七三
宍 八七三
宀 八七三
宆 八七三
安 八七九
宋 八八〇
宍 八八〇
宑 八八〇
宇 八八〇

七畫

囤 六〇
园 六〇
困 六〇
囧 六〇
図 六〇
国 六〇
囱 六〇
囫 六〇
囲 六〇
田 六〇
园 六〇
囮 六一
国 六一
困 六一
园 六四
回 六四
囨 六四
囲 六四
囫 六四
回 六四
囚 六四
囟 六四
囚 六四
网 六四
囲 六四
园 六四
回 六四
囚 六四
図 六四
圀 六四
図 六四
囟 六四
圻 一〇八
呈 一〇八
坳 一〇八
圾 一〇八
坅 一〇八
址 一〇八
坻 一〇八
坂 一〇八
庭 一〇七
坃 一〇七
坄 一〇七
坅 一〇七
坆 一〇七
均 一〇七
坙 一〇九
圶 一〇九
圩 一〇九
坔 一〇九
坑 一〇九
坑 一〇九
坊 一一〇
坋 一一〇
坌 一一二
坍 一一二
坎 一一二
坒 一一三
坏 一一三
坐 一一三
坑 一一九
坒 一一九
批 一一九
圪 一一九
抖 一一九
圭 一一九
坢 一一九
至 一一九
坐 一一九
托 一一九
坐 一一九
至 一一九
坎 一一九
卬 一一九
坐 一一九
坦 一一九
块 一一九
状 一一九
坷 一一九
坁 一一九
坍 一一九
坏 一一九
坜 一一九
坳 一二〇
坶 一二〇
坤 一二〇
地 一二〇
均 一二〇
呈 一二〇
至 一二〇
坚 一二〇
坳 一二〇
壯 一二五
壯 一二八
声 一二八
声 一二八
宑 一二八
壱 一二八
壳 三〇三
夆 三〇三
夆 三〇三
夆 三〇三
麦 三〇三
夋 三〇三
夌 三〇三
夙 三四九
夂 三四九
夅 三四九
夽 三五五
奄 三五五
夵 三五五
奄 三五五
夾 三五五
夾 三五九
杰 三五九
夲 三五九
查 三五九
奀 三五九
矣 三五九
奇 三五九
夲 三五九
玄 三五九
妁 六四三
妊 六四三
妖 六四三
妍 六四三
妍 六四三
妗 六四三
妍 六四三
姸 六四三
妏 六四三
妊 六四三
妐 六四三
妃 六四四
妒 六四四
妓 六四五
妗 六四五
妒 六四五
妖 六四七
妗 六四七
妘 六四七
妥 六四七
妙 六四七
吸 六四三
妕 六四三
妖 六四三
妣 六四三
妖 六四三
妝 六四三
敢 六四三
妞 六四三
旻 六四三
妫 六四三
妘 六四三
妣 六四四
妛 六四四
好 六四四
妁 六四四
妥 六四四
妹 六四五
妧 六四五
殷 六四五
妨 六四五
妃 六四五
妮 六四五
姬 六四五
妧 六四五
要 六四五
婺 六四五
妙 六四五
委 六四五
哥 八二四
孚 八二四
李 八二四
孛 八二五
孜 八二五
孝 八二六
孝 八二三
孫 八二三
孝 八二三
孖 八二三
孶 八二三
序 八二三
忑 八二八
宊 八二八
宋 八四〇
完 八五〇
穷 八五〇
宎 八五〇
宏 八五〇
宓 八五〇
宍 八五〇
宊 八五〇
宏 八五三
宐 八五三
宖 八五三
宏 八五三
宖 八五三
宮 八五三
弁 八五三
宅 八五三
宴 八五三
宦 八五三
穸 八五三
宂 八五三

八畫

圀 六四
田 六四
囮 六四
亘 六四
函 六四
囥 六四
囲 六四
困 六四
匩 六五
圀 六五
固 六五
圁 六六
圂 六六
圁 六六
囷 六六
圁 六六
固 六六
国 六六
坡 一二〇
坪 一二〇
坣 一二〇
坤 一二〇
坥 一二三
坦 一二三
坧 一二三
至 一二三
坨 一二三
坩 一二三
坪 一二三
垩 一二三
坰 一二三
坫 一二三
坬 一二三
坭 一二三
屋 一二三
坮 一二四
坯 一二四
坰 一二四
坱 一二四
坲 一二四
坳 一二四
垄 一二四
垢 一二四
垂 一二五
垭 一二五
垌 一二五
坷 一二五
坴 一二五
垒 一二五
垌 一二五
垍 一二五
坹 一二五
坺 一二五
坻 一二五
坼 一二六
坽 一二六
坾 一二六
坿 一二六
坪 一二六
埃 一二六
垂 一二六
坧 一二六
垗 一二六
垙 一二六
垀 一二七
垁 一二七
垄 一二七
垃 一二七
垆 一二七
垇 一二七
垈 一二七
垉 一二七
垊 一二七
型 一二七
垌 一二七

垍 一七一
堋 一七一
垩 一七一
坉 一七一
坐 一七一
垃 一七一
壳 二八
夌 三〇三
夋 三〇三
長 三〇三
夜 三四九
疢 三六〇
夝 三六〇
夛 三六〇
夠 三六〇
夵 五六九
奆 五六九
奔 五六九
奃 五六九
奄 五六九
笑 五七〇
夼 五七〇
卒 五七一
奟 五七一
猒 五七一
奐 五七一
查 五七一
臭 五七一
査 五七一
扶 五七一
奇 五七一
奈 五七八
奉 五七九
奓 五六四
柴 五六四
哭 五六四
芥 五六四
共 五六四
奮 五六四
奃 五六五
奂 五六五
黍 五六五
盇 五六五
奔 五六五
架 五六五
夸 五六五
卓 五六五
妚 六五五
妬 六五五
妭 六五五
妮 六五六
㚭 六五六
妯 六五六
𡛕 六五六
妰 六五六
妱 六五六
妲 六五六
妳 六五六
㚸 六五六
妤 六五六
娃 六五六
妶 六五六
妷 六五六
妡 六五六
妸 六五六
妹 六五七
妺 六五七
妻 六五七
妼 六五九
㛈 六五九
妽 六五九
㛁 六五九
效 六五九
㚲 六五九
妾 六五九
妿 六六〇
㚢 六六〇
姀 六六〇
姁 六六〇
姂 六六〇
姃 六六〇
妛 六六〇
姄 六六〇
姉 六六〇
姅 六六〇
㚵 六六〇
姆 六六〇
㚼 六六〇
妟 六六〇
妳 六六一
姈 六六一
姊 六六一
姉 六六一
始 六六一
姌 六六四
姘 六六四
姍 六六四
姎 六六四
姏 六六五
姐 六六五
娍 六六五
姑 六六五
姛 六六七
㚫 六六七
姒 六六七
姓 六六八
㚰 六六九
㚹 六六九
委 六六九
娐 六七四
姕 六七四
㛃 六七四
姖 六七四
要 六七四
𡛗 六七四
姸 六七四
㚣 六七五
㛱 六七五
㛚 六七五
㚬 六七五
㚾 六七五
娑 六七五
姿 六七五
𡛴 六七五
娣 六七五
㚿 六七五
孟 八一三
孠 八一四
孡 八一四
𡦂 八一四
孢 八一四
季 八一四
孤 八五〇
孥 八五六
孝 八五六
孛 八五六
孫 八五六
乳 八五六
孖 八五六
孥 八五六
学 八五六
宓 八九三
宋 八九三
宂 八九三
冢 八九三
宔 八九三
宕 八九三
弦 八九四
窌 八九四
宗 八九四
官 九一三
宙 九七四
定 九七四
宛 九八三
宜 九八五
宣 九八九
害 九八九
㝑 九八九
定 九八九
寓 九八九
宻 九八九
宙 九八九
宊 九八九
宥 九八九
宾 九八九
宝 九八九
实 九八九
実 九八九

九畫

困 六八
囧 六八
国 六八
囿 六八
圈 六九
圐 六九
圀 六九
固 六九
园 六九
图 六九
囱 六九
圇 六九
囟 六九
圁 六九
回 六九
圄 六九
型 一七
垌 一七二
垍 一七二
垎 一七二
垏 一七二
垫 一七二
城 一七二
垐 一七二
垑 一七二
垒 一七二
垓 一七二
垔 一七二
垍 一七三
垗 一七三
垘 一七三
垙 一七三
垡 一七三
垚 一七三
垛 一七二
垝 一七二
垞 一七二
垤 一七二
垟 一七二
垠 一七二
垦 一七二
垈 一七四
𡋯 一七四
垢 一七四
垕 一七四
垣 一七五
垤 一七五
坺 一七六
垥 一七六
垒 一七六
𡋥 一七六
垩 一七六
垬 一七六
埦 一七六
垩 一七六
垇 一七六
坐 一七六
埏 一七六
垖 一七六
垩 一七六
𡊳 一七六
垹 一七六
坰 一七六
垔 一七七
垚 一七七
垧 一七七
坸 一七七
埒 一七七
垛 一七七
𡊽 一七七
垔 一七七
垪 一七七
城 一七七
壴 二八
垚 二八
夆 三〇二
条 三〇二
变 三〇二
夏 三〇三
夎 三〇三
夠 三六〇
夗 三六〇
臭 五六五
奤 五六五
奎 五六五
奓 五六六
奔 五六六
奒 五六六
奏 五六九
奐 五六九
契 五七二
奕 五七二
奋 五七二
参 五七二
奔 五七二
奕 五七五
猋 五七六
姦 五七六
奊 五七六
姘 六七五
姬 六七五
娄 六七五
姚 六七五
姛 六八一
敂 六八一
姜 六八一
姝 六八五
姞 六八五
故 六八六
姟 六八六
姠 六八六
姽 六八六
姡 六八六
娟 六八六
姣 六八六
姤 六八六
姹 六八七
姦 六八七
姧 六九一
姿 六九一
娑 六九一
㛃 六九一
姨 六九一
㛄 六九三
姻 六九三
姩 六九三
姪 六九三
㛍 六九三
㛇 六九三
姫 六九三
姬 六九三
娈 六九六
姮 六九六
姚 六九六
姰 六九六
姱 六九六
姲 六九六
姳 六九六
㛈 六九六
𡛸 六九六
㛅 六九六
𡛐 六九六
姶 六九六
姷 六九七
姗 六九七
娄 六九七
姝 六九七
妍 六九七
㚺 六九八
姺 六九八
姻 六九八
敃 六九九
𡜔 六九九
姼 六九九
姽 六九九
𡛵 六九九
𡜊 六九九
娀 六九九
威 七〇〇
娱 七〇〇
娂 七〇六
娃 七〇六
妘 七〇七
㚶 七〇七
怒 七〇七
㛢 七〇七
婁 七〇七
㛕 七〇七
㛀 七〇七
㛊 七〇七
娙 七〇七
𡜘 七〇七
㛔 七〇七
㛎 七〇七
𡜅 七〇七
𡛷 七〇七
娄 七〇七
𡦃 七〇七
孨 八五六
孩 八五六
孪 八五六
孯 八五九
𡥠 八五九
孚 八五九
𡥧 八五九
𡦁 八五九
宔 八五九
宩 九八九
宒 九八九
客 九八九
㝌 九八九
宭 九九三
𡧤 九九四
宣 九九四
宦 九九四
㝔 一〇〇一
宋 一〇〇一
室 一〇〇一
宥 一〇〇二
宧 一〇〇三
宦 一〇〇四
宬 一〇〇六
宨 一〇〇六
宺 一〇〇六
㝃 一〇〇六
害 一〇〇六
家 一〇〇六
容 一〇〇六
㝎 一〇〇六
宷 一〇〇六
宪 一〇〇六
宙 一〇〇六
宦 一〇〇六

十畫

𡈃 六九
圁 六九
𡈅 六九
𡈊 六九
圎 六九
圂 六九
圃 七〇
圄 七〇
圅 七一
𡈁 七一
𡈜 七一
𡈟 七一
𡈎 七一
園 七一
𡈗 七一
圔 七一
𡈔 七一
𡈮 七一
㘣 七一
埕 一七
埣 一七
垷 一七七
垸 一七七
埦 一七七
𡌈 一七七
垗 一七七
埗 一七七
埻 一七七
垺 一七七
𡌅 一七七
埧 一七七
㘸 一七八
埏 一七八
埤 一七八
坶 一七八
𡋧 一七八
垂 一七八
垮 一七八
埂 一七八
埃 一七八
埄 一七八
埅 一七八
𡌂 一七八
埆 一七九
埇 一七九
埈 一七九
埉 一七九
埊 一七九
埋 一七九
埌 一八〇
埡 一八〇
埍 一八〇
城 一八一
埏 一八六
埐 一八七
埒 一八七
垮 一八七
堒 一八七
堅 一八七
埾 一八七
垏 一八七
埑 一八七
埿 一八七
堄 一八七
𡋭 一八七
𡋵 一八七
𡊌 一八七
𡍐 一八七
埰 一八七
𡌍 一八七
𡌁 一八七
𡌨 一八七
堝 一八七
𡌋 一八七
𡋪 一八七
𡋲 一八七
堀 一八七
埘 一八八
𡋹 一八八
埳 一八八
埨 一八八
埔 一八八
埕 一八八
型 一八八
𡋿 一八八
𡋄 一八八
奠 二八
冓 二八
畐 二八
壴 二八
埢 二八
竜 二八
夎 三〇二
夋 三〇三
夏 三〇三
憂 三二五
夠 三六〇
㚞 三六〇
㚟 三六〇
𡖊 三六〇
夠 三六〇
𡖌 三六〇
夜 三六〇
套 五六六
𡗷 五七七
奘 五七七
𡗾 五七七
奚 五七九
奟 五七九
奝 五七九
奥 五七九
奎 五七九
奤 五七九
契 五七九
奧 五七九
㚕 五七九
㚦 七〇七
婡 七〇七
𡛚 七〇七
娉 七〇七
娊 七〇八
娋 七〇八
娕 七〇八

㼐七〇八 娌七〇八 娍七〇八 㛈七〇八 娎七〇八 娏七〇八 娐七〇八 㛐七〇八 娑七〇八 㛂七〇九 娒七〇九 娓七〇九 娔七〇九 𡛤七〇九 㛒七〇九 娕七〇九 娖七〇九 娫七〇九 娘七一〇 娙七一〇 娚七一〇 娛七一一 娯七一一 㛓七一一 娡七一一 㛎七一二 娜七一二 㛀七一二 娭七一二 娮七一二 娪七一二 娷七一二 娞七一二 娉七一二

婞七一二 娇七一二 娟七一二 娠七一三 媰七一三 娑七一三 娡七一三 娅七一三 娢七一三 娮七一三 娣七一三 婓七一三 娥七一三 娠七一四 娧七一四 娨七一四 晏七一四 娬七一四 娩七一四 娪七一四 娫七一五 婚七一五 娭七一五 娹七一五 娸七一五 娬七一五 嬰七一五 娩七一五 娗七一五 娖七一五 婬七一五 娮七一五 娄七一五 娕七一五

㛍七一五 㛚七一五 娶七一五 姦七一五 嫩七一五 嫐七一五 㜽七一五 孴八五九 㜷八五九 㜴八五九 孫八六〇 娩八七七 孨八七七 孞八七七 厚八七七 孵八七七 宬一〇〇六 宩一〇〇六 宦一〇〇六 㝟一〇〇六 宭一〇〇六 宮一〇〇六 害一〇一四 𡧦一〇一四 㝐一〇一四 宰一〇一四 宷一〇一七 宱一〇一七 寘一〇一七 宲一〇一七 害一〇一七 宴一〇一八 㝛一〇二〇 宵一〇二〇

家一〇二一 寀一〇二二 宸一〇二二 容一〇二二 冡一〇三八 宧一〇三八 宣一〇三八 宒一〇三八 宾一〇三八 宴一〇三八 寠一〇三八 宼一〇三八 害一〇三八 𡨆一〇三八 寎一〇三八 宼一〇三八 容一〇三八 宥一〇三八 宨一〇三八 𡨄一〇三八 寏一〇三八 宻一〇三八 寇一〇三八 寀一〇三八

十一畫

圂一七一 圇一七一 圈一七一 圁一七二 㘥一七二 圇一七二 圉一七二 㘯一七三

圂一七三 圅一七三 圊一七三 國一七三 㘣一七九 㘥一七九 㘩一七九 圂一七九 埜一八八 埾一八八 埝一八八 埞一八八 域一八八 㙇一八八 㙁一八八 埠一八九 埁一八九 𡊲一八九 埢一八九 㙟一八九 埣一八九 埠一八九 埤一八九 埤一八九 埥一八九 埦一八九 埧一九〇 埨一九〇 埩一九〇 埪一九〇 埫一九〇 堦一九〇 埬一九〇 埭一九〇

埮一九〇 埯一九〇 埰一九〇 𡋡一九〇 埱一九〇 埲一九〇 埳一九〇 埴一九〇 埴一九〇 臺一九一 埵一九一 埵一九一 埶一九一 執一九一 埸一九六 培一九六 塔一九七 基一九七 埊一九八 臺一九八 埻一九八 埼一九九 埽一九九 堲一九九 埿一九九 堀一九九 堁二〇〇 堂二〇〇 堃二〇四 堄二〇四 堅二〇四 堆二〇七 堇二〇八 堈二〇八

堉二〇九 堊二〇九 埡二〇九 堋二〇九 垌二〇九 𡊰二〇九 垩二〇九 垐二〇九 垮二〇九 坸二〇九 垣二〇九 垝二〇九 坵二一〇 垪二一〇 埣二一〇 埊二一〇 垚二一〇 埫二一〇 堍二一〇 垔二一〇 型二一〇 壺二八九 壼二八九 壹二八九 壷二八九 夋三〇三 夌三〇三 㚖三一五 㚔三一五 夏三一五 夎三一五 㚐三六〇 夠三六〇 够三六〇

㚔三六一 夗三六一 𡖒三六一 夠三六一 夈三六一 梦三六一 奇五九九 奔五九九 㚤五九九 奉五九九 奜五九九 奝五九九 奞六〇〇 奊六〇〇 套六〇〇 乘六〇〇 奄六〇〇 執六〇〇 奟六〇〇 奥六〇〇 爽六〇〇 奞六〇〇 爽六〇〇 森六〇〇 畜六〇〇 巻六〇〇 爽六〇〇 娶七一五 娍七一五 婞七一五 娼七一五 㛳七一六 婜七一六 姘七一六

娷七一六 娸七一六 嫙七一六 萋七一六 婺七一七 娶七一七 娺七一七 娠七一七 婡七一七 娼七一七 媏七一七 娽七一七 娮七一七 婭七一七 嫛七一七 婀七一七 婁七一七 婁七一九 婁七一九 婂七一九 婃七二〇 婄七二〇 婟七二〇 婆七二〇 婡七二三 婇七二三 婏七二三 婧七二三 婈七二三 婉七二三 婊七二三 婋七二三 婍七二三 婌七二三

婍七二三 婎七二三 婏七二四 婐七二四 婑七二四 婒七二四 婜七二四 婁七二四 㛋七二四 婓七二四 婔七二四 婕七二四 婖七二四 婗七二四 婘七二五 婩七二五 婙七二五 婚七二五 敨七二六 婛七二六 婜七二六 婝七二六 婞七二六 婣七二六 婠七二六 婆七二六 婡七二六 婢七二六 婳七二七 婤七二七 婥七二七 婦七二七 婦七二九 婧七二九

婨七三〇 婷七三〇 婪七三〇 㛦七三〇 婫七三〇 婸七三〇 婬七三〇 婭七三〇 婕七三一 婮七三一 婁七三一 婰七三一 媎七三一 媛七三一 媜七三一 媌七三一 婺七三一 婞七三一 婼七三一 婔七三一 惌七三一 嫈七三一 娖七三一 孮八七七 孯八七七 孰八七七 孲八七八 孶八七八 寈一〇三八 寑一〇三八 宿一〇三八 宿一〇四四 寍一〇四四 寀一〇四四

寁一〇四四 寂一〇四四 寂一〇四五 冤一〇四五 寄一〇四五 寅一〇四九 密一〇五〇 寐一〇五五 寔一〇五五 寇一〇五五 寇一〇五五 寓一〇五七 寔一〇五七 寀一〇五七 寐一〇五七 寋一〇五七 寎一〇五七 突一〇五七 寛一〇五七 寃一〇五七 寖一〇五七 寘一〇五七 寒一〇五七 寊一〇五七 寍一〇五七

十二畫

圌一七九 圗一七九 圏一七九 圍一七九 圕一九一 圛一九一 圔一九一

圊一九一 瓫一九一 圖一九一 圓一九一 斷一九一 圐一九一 圏一九一 埃二一〇 堭二一〇 堘二一〇 堞二一〇 堙二一〇 堚二一〇 韋二一〇 堛二一一 㙊二一一 坡二一一 堜二一一 埅二一一 堝二一一 堞二一一 堿二一一 㙍二一一 堋二一一 㙔二一一 堠二一一 堡二一一 堢二一三 㙎二一三 堣二一三 畬二一三 堤二一三 堥二一三 堦二一三

㙐二一三 堧二一三 堨二一三 堰二一三 堪二一三 㙎二一四 墾二一四 堬二一四 堭二一四 堮二一四 堯二一四 坐二一六 堰二一六 報二一六 堭二二〇 堳二二〇 場二二〇 堵二二一 堉二二三 蜀二二三 培二二三 埀二二三 塐二二三 塈二二三 堸二二三 堹二二三 堷二二三 堺二二三 墅二二三 堥二二三 堻二二三 棗二二三 塹二二三 塒二二三

堅二二三 堽二二三 垚二二三 塦二二三 堊二二三 塊二二三 墟二二三 㙢二二三 㙜二二三 堛二二三 𡎖二二三 堾二二三 堣二二三 城二二三 堀二二四 塑二二四 埕二二四 埔二二四 堩二二四 塀二二四 壐二二四 壹二八九 壼二九〇 壺二九四 壻二九四 塆二九五 喜二九五 㚇三一五 夓三一五 夠三六一 夡三六一 㚐三六一 㚏三六一 夎三六一

毨三八二 誃三八二 紴三八二 絰三八二 綏三八二 詒三八二 删三八二 奠六〇〇 奐六〇一 冥六〇一 軼六〇一 奢六〇一 報六〇二 奝六〇二 奧六〇三 奡六〇三 夐六〇三 畚六〇三 奐六〇三 奢六〇三 奔六〇三 奞六〇三 奭六〇三 㚔六〇三 粦六〇三 奓六〇三 猋六〇三 戠六〇三 奧六〇三 婷七三二 婸七三二 畝七三二 嫖七三二 婺七三二

媊七三三 嫂七三三 婼七三三 媿七三三 婚七三三 媥七三三 婾七三三 媢七三三 媀七三三 媦七三三 婿七三三 媁七三三 媜七三三 媂七三三 婁七三三 媃七三三 媄七三三 媒七三三 媢七三三 媷七三四 媡七三四 媟七三四 媈七三四 媉七三四 媥七三四 媋七三四 媌七三四 媘七三四 媍七三四 媎七三四 媏七三四 嫉七三四 媻七三四 嬰七三四

婆七三四 媛七三四 媑七三五 媒七三七 嫗七三七 媓七三七 媔七三七 媿七三七 婺七三七 媞七三七 媶七三七 媖七三七 媗七三七 媻七三七 嫉七三七 媎七三七 媙七三七 媫七三七 媚七三八 嫄七三八 媛七三八 媑七三八 嫂七三八 媜七三八 婄七三八 婺七三八 媞七三八 婕七三八 媟七三八 婧七三九 婡七三九 娟七三九 嫀七三九 媳七三九

媥七三九 媎七三九 娟七三九 媧七三九 媙七四〇 娕七四〇 敏七四〇 嫂七四〇 嫁七四〇 媛七四〇 婚七四〇 婦七四〇 婼七四〇 嫁七四〇 嫪七四〇 嫋七四〇 媤七四〇 媳七四〇 颯七四〇 婁七四〇 媟七四〇 媠七四〇 婷七四〇 媸七四〇 嫌七四〇 媢七四〇 媽七四〇 鄉七四〇 嫈七四〇 媵七四〇 婆七四一 婄七四一 婝七四一 嫐七四一

嫩七四一 媼七四一 孺八七八 孱八七八 孱八七八 孱八七九 孰八七九 孰八七九 孶八七九 孳八七九 孴八七九 孨八七九 寊一〇五七 寔一〇五七 寋一〇五七 寕一〇五七 寏一〇五七 家一〇五七 富一〇五七 寀一〇六三 寍一〇六三 寎一〇六三 寊一〇六三 寅一〇六三 寐一〇六三 寏一〇六三 寑一〇六三 寒一〇六四 寝一〇七六 寬一〇七六 寓一〇七六 寓一〇七六 寔一〇七七 寈一〇七七

乾一〇七七 寬一〇七七 寞一〇七七 宣一〇七七 家一〇七八 茹一〇七八

十三畫

團九一 𡈁九一 園九一 圓九三 圖九八 畵九九 圖九九 圙九九 圜九九 圎九九 圓九九 圔九九 圓九九 圏九九 圕九九 塉三二四 墜三二四 塗三二四 塊三二四 塋三二四 塣三二五 塌三二五 塍三二五 塥三二五 塎三二五 塏三二五

塬三一五 塑三一五 塒三一六 塓三一六 黗三一六 塔三一六 塎三一八 塀三一八 塛三一八 塰三一八 塼三一八 塗三一八 臺三二〇 塘三二〇 塙三二三 塛三二三 翨三二三 塚三二三 塚三二三 塤三二三 塝三二三 塏三二三 塞三二三 塟三二四 增三二四 墜三二四 塊三二四 塠三二四 塡三二四 墍三二六 塢三二六 塈三二六 墓三二六 塤三二六

壋三二七 塥三二七 塈三二七 塿三二七 塦三二七 塹三二七 埰三二七 塮三二七 塑三二七 塋三二七 塕三二七 塿三二七 堅三二七 塖三二七 塓三二七 塛三二七 墜三二七 塝三二七 塓三二七 塧三二七 堪三二七 塩三二七 報三二七 塙三二七 壺二九五 壺二九五 壼二九五 壳二九五 膏二九五 桑三〇三 墔三二五 叟三二五 慶三二五 辣三六一

綏三八二 嫎三八二 奂三八二 夢三八二 奈六〇三 葵六〇三 發六〇三 奧六〇三 奪六〇六 奧六〇六 奝六〇六 奕六〇六 奞六〇六 奬六〇六 嫋七四二 嫲七四二 媱七四二 媸七四二 婕七四二 媲七四二 婺七四二 媳七四二 娘七四二 媵七四二 媋七四三 嫈七四三 嫆七四三 嫿七四三 嫍七四三 嬶七四三 嫐七四三 嫛七四三 媚七四三 嫲七四三

嬃七四三 嫃七四三 媼七四三 媙七四三 媽七四三 媧七四三 嬰七四三 嫄七四三 媱七四三 媳七四三 嫓七四三 媾七四三 媶七四四 嫕七四四 媿七四四 嫀七四四 嫁七四四 嫂七四五 嫃七四五 婧七四五 嫄七四五 嫅七四五 嫆七四五 媒七四五 嫈七四六 嫉七四六 嫛七四六 嫊七四六 嫋七四六 嫗七四七 嫟七四七 嫔七四七 嫌七四七 媜七四八

嫕七四八 嫍七四八 嫂七四八 媿七四八 嫎七四八 嫏七四八 嫩七四八 婢七四八 嫌七四八 嫌七四八 雋七四八 嬰七四八 嫆七四八 娙七四八 嫜七四八 學八七九 孳八七九 孴八七九 孶八七九 穀八八〇 孴八八〇 孵八八〇 孲八八〇 孴八八〇 孶八八〇 孻八八〇 孴八八〇 孷八八〇 寅一〇七八 寖一〇七八 寷一〇七八 寗一〇七八 索一〇七八 寘一〇七八

寴一〇七八 寨一〇七八 寙一〇七八 寤一〇七八 寧一〇七八 寥一〇七八 寐一〇七九 害一〇七九 寕一〇七九 寭一〇七九 寨一〇七九 寯一〇七九 寋一〇七九 寤一〇七九 寠一〇七九 寣一〇七九 寣一〇七九 寚一〇七九 寬一〇七九 寧一〇七九 寍一〇七九 寑一〇七九

十四畫

圖九九 圕九九 圖九九 圖一〇三 團一〇三 圏一〇五 圏一〇五 圝一〇五 圍一〇五 圛一〇五

奮一〇五 圍一〇六 圛一〇六 圖一〇六 場三三七 墷三三七 墉三三七 塵三三八 墉三四一 墑三四一 墂三四一 墼三四二 塸三四二 塹三四二 墹三四二 墏三四二 塺三四二 墲三四二 墑三四二 塼三四二 墋三四二 塾三四三 塿三四三 墀三四三 墁三四三 墂三四三 墁三四三 墩三四三 境三四三 墭三四四 墇三四四 墅三四四 墣三四四 墆三四四

墉三四四 墇三四四 墂三四五 墈三四五 墉三四五 墊三四五 墋三四六 墟三四六 墅三四六 墍三四六 墎三四六 墍三四六 墐三四六 墓三四六 墒三四六 墒三四七 墓三四七 整三四九 墔三四九 墜三四九 墳三四九 壔三四九 壂三四九 壞三四九 隖三四九 墶三四九 𨑨三四九 墛三四九 墖三四九 塏三四九 壐三四九 壈三四九 墠三四九 墹三四九

增三四九 壽二九五 歫三〇一 鼋三〇一 壹三〇一 喜三〇一 复三一五 夌三一六 復三一六 夢三五一 夢三五六 夢三五六 夤三五六 夤三五六 綢三五六 彫三五六 祼三五七 祺三五七 䬃三五七 綏三五七 彼三五七 旒三五七 夥三五七 奐三五七 奩六〇六 奮六〇六 契六〇六 奪六〇六 奫六〇八 戴六〇八 奬六〇八 奄六〇八 奥六〇八 奚六〇八

奮 六〇八　嫜 七四八　嫕 七四八　嫖 七四八　嫢 七四九　嫢 七四九　嫗 七四九　嫘 七四九　嫙 七四九　嫟 七五〇　嫚 七五〇　嫌 七五〇　嫆 七五〇　嫛 七五〇　嫅 七五〇　嫜 七五〇　嫝 七五〇　嫞 七五〇　嫟 七五〇　嫑 七五〇　嫪 七五〇　嫠 七五〇　嫡 七五一　嫭 七五二　嫛 七五二　嫣 七五二　嫤 七五二　嫿 七五二　嫥 七五二　嫦 七五二　嫧 七五二　嫫 七五二　嫩 七五三　嫩 七五三

嫝 七五三　嫪 七五三　嫯 七五三　嫍 七五三　嬑 七五四　嫫 七五四　嫨 七五四　嫬 七五四　嫰 七五四　嫛 七五四　㜈 七五四　嫭 七五四　嫮 七五四　婺 七五四　嫩 七五四　嬐 七五四　嬀 七五四　媓 七五四　嫸 七五四　媮 七五五　嫻 七五五　嫶 七五五　嫐 七五五　麼 七五五　嫹 七五五　嫽 七五五　嫂 七五五　嫾 七五五　嬇 七五五　嬈 七五五　孵 八〇〇　孶 八〇〇　孷 八〇〇　搏 八〇〇

辭 八〇〇　康 一〇七九　埶 一〇七九　埶 一〇七九　寞 一〇七九　察 一〇七九　潚 一〇八二　寠 一〇八二　寡 一〇八二　稟 一〇八五　寵 一〇八五　寢 一〇八五　寣 一〇八七　寤 一〇八七　寥 一〇八八　寙 一〇八九　實 一〇八九　寋 一〇九四　寧 一〇九四　寧 一一〇〇　寍 一一〇〇　寨 一一〇〇　寱 一一〇〇　蜜 一一〇〇　齋 一一〇〇　褚 一一〇〇　寈 一一〇〇　密 一一〇〇　富 一一〇〇　麥 一一〇〇　寪 一一〇〇　賓 一一〇〇　寗 一一〇〇　寂 一一〇〇

寐 一一〇〇　寷 一一〇一　**十五畫**　圚 二〇六　圏 二〇六　圛 二〇六　圜 二〇六　圖 二〇六　圕 二〇六　園 二〇六　圗 二〇六　墼 二四九　墻 二四九　墜 二四九　墝 二五〇　墽 二五〇　增 二五〇　墲 二五三　𡐱 二五三　墟 二五三　墠 二五三　墳 二五四　墶 二五四　墡 二五四　墭 二五四　墢 二五四　墣 二五四　墤 二五四　墥 二五四　墦 二五四　墧 二五四　墨 二五四　墩 二六一

墪 二六一　墫 二六一　墜 二六一　墟 二六一　墳 二六一　墣 二六一　複 二六一　㙕 二六一　墶 二六一　墀 二六一　墮 二六三　墧 二六三　墥 二六三　墰 二六三　墱 二六三　墲 二六三　埜 二六三　墳 二六三　墭 二六四　壙 二六四　壘 二六四　墹 二六四　墊 二六四　墏 二六四　𡒊 二六四　墷 二六四　塯 二六四　𡓼 二六四　壖 二六四　壔 二六四　墵 二六四　堤 二六四　臺 二六四　墫 三〇一

臺 三〇二　夔 三一六　夥 三二七　𡖗 三二七　𡖿 三二七　奭 六〇九　奩 六〇九　奪 六〇九　奉 六〇九　㚋 六〇九　奡 六〇九　奰 六〇九　𡚁 六〇九　奬 六〇九　嫳 七五五　嫩 七五五　嫴 七五五　嫵 七五五　嫯 七五五　嫐 七五五　嫿 七五五　嫶 七五六　嫧 七五六　嬃 七五六　嬉 七五六　嫹 七五六　嫻 七五六　嫺 七五六　嫖 七五六　嬏 七五六　嬒 七五六　㜊 七五六　嬇 七五六　嫽 七五六

嫾 七五七　嬄 七五七　嬀 七五七　嬁 七五七　嬂 七五七　嫑 七五七　嬃 七五七　嬝 七五七　嬄 七五七　嬮 七五八　嬂 七五八　嬗 七五八　嬅 七五八　嬆 七五八　嬐 七五八　嬇 七五八　嬈 七五八　嬀 七五八　嬉 七五八　嬃 七五九　嬋 七五九　嬌 七五九　嬈 七六二　嫢 七六二　嬂 七六二　嬃 七六二　嬰 七六二　嬰 七六二　嬢 七六二　嬨 七六二　嬠 七六二　嬶 七六二　嬬 七六二　嬛 七六二

嫭 七六二　㜥 七六二　嬏 七六二　嬤 七六二　嬧 七六二　嬚 七六二　嬀 七六二　嬃 七六二　嬍 七六二　嬉 七六二　孭 八〇〇　孺 八〇〇　學 八〇〇　孼 八〇一　孻 八〇一　孹 八〇一　寣 一一〇一　寑 一一〇一　𡪞 一一〇一　審 一一〇一　寚 一一〇三　寯 一一〇三　寪 一一〇三　寫 一一〇三　窾 一一〇五　寬 一一〇五　寴 一一〇九　寭 一一〇九　寮 一一〇九　寰 一一〇九　寲 一一〇九　窿 一一一〇　寯 一一一〇　寶 一一一〇

寏 一一一〇　㝩 一一一〇　寬 一一一〇　賣 一一一〇　寵 一一一〇　寘 一一一〇　窽 一一一〇　寍 一一一〇　賨 一一一〇　嬣 一一一〇　**十六畫**　圛 二〇六　圜 二〇六　𡈹 二〇七　墺 二六四　墻 二六五　墼 二六五　𡓘 二六五　墽 二六五　墾 二六五　墹 二六五　墿 二六五　壂 二六五　𡒀 二六五　𡓏 二六五　壀 二六五　壁 二六五　壓 二六七　㙹 二六七　壈 二六七　壇 二六七　壚 二六七　𡓽 二六七

壄 二六七　壅 二六七　墉 二六八　壛 二六八　壆 二六八　壇 二六八　擔 二六九　壈 二六九　塲 二六九　壉 二六九　壇 二六九　臺 二六九　墾 二六九　壏 二六九　壂 二六九　墕 二六九　墢 二六九　墳 二六九　堀 二六九　壞 二六九　壽 三〇二　壹 三〇二　夓 三一六　夐 三一六　夢 三二七　㚡 三二七　奯 六〇九　奮 六〇九　奮 六一二　𡚽 六一二　昊 六一二　糞 六一二　㦪 六一二　燚 六一二

𡚒 六一二　嬰 七六二　嬩 七六二　嬐 七六二　嬑 七六二　嬒 七六二　嬓 七六二　嬔 七六二　嬕 七六二　嬖 七六二　嬗 七六三　嬘 七六三　嬁 七六三　嬌 七六三　嬴 七六三　嬴 七六三　嬙 七六三　嬰 七六三　嬓 七六三　嬚 七六三　嬱 七六三　嬛 七六三　嬖 七六四　嬲 七六四　嬜 七六四　嬭 七六四　嬢 七六四　嬷 七六四　嬶 七六四　嬃 七六四　嬰 七六四　嬞 七六四　嬙 七六四　嬟 七六四

嬠 七六四　嬃 七六四　嬣 七六四　嬪 七六四　嬭 七六四　嬬 七六四　嬓 七六四　嬶 七六四　嬨 七六四　嬻 七六四　嬰 七六四　嬴 七六五　嬡 七六五　嬢 七六五　孫 八〇一　學 八〇一　孼 八〇三　孿 八〇三　豬 八〇三　孻 八〇三　號 八〇三　孶 八〇三　孷 八〇三　孹 八〇三　憲 一一一〇　寘 一一一〇　寯 一一一〇　寰 一一一〇　竅 一一一〇　窺 一一一〇　寫 一一一一　寶 一一一一　殼 一一一一　寳 一一一一

十七畫　圚 二〇七　圖 二〇七　𡈽 二〇七　𡈹 二〇七　圖 二〇七　塹 二六九　壢 二六九　壧 二六九　壏 二六九　壈 二六九　壆 二七〇　墣 二七〇　擊 二七〇　壏 二七〇　壁 二七〇　壐 二七〇　壝 二七〇　壑 二七〇　壒 二七〇　壑 二七〇　壓 二七〇　壔 二七三　壕 二七三　壖 二七三　壒 二七三　壣 二七三　壙 二七三　壏 二七三　壑 二七三　壋 二七三　㙽 二七三　壍 二七三

壕 二七三　壎 二七三　壑 二七三　壐 二七三　壼 三〇二　夓 三一六　夢 三二七　夠 三二七　夒 三二七　奮 六一二　𡚅 六一二　奭 六一二　奲 六一二　顊 六一二　嬣 七六五　嬷 七六五　嬰 七六五　嬶 七六五　嫵 七六五　嬥 七六五　嬦 七六五　嬧 七六五　嬿 七六五　嬩 七六五　嬥 七六五　嬪 七六五　嬫 七六六　嬬 七六六　嬸 七六六　褻 七六六　嬭 七六六　嬮 七六七　嬒 七六七　嬯 七六七

嬰 七六七　嬰 七六八　嬨 七六八　嬼 七六八　嬸 七六九　嬳 七六九　嬗 七六九　嬴 七七〇　嬗 七七〇　嬙 七七〇　嫈 七七〇　嬺 七七〇　嬪 七七〇　嬹 七七〇　嬻 七七〇　嬒 七七〇　嬲 七七〇　嬰 七七〇　孁 七七〇　嬸 七七〇　孅 七七〇　嬶 七七〇　孺 八〇三　孻 八〇四　孽 八〇四　竄 一一一一　寲 一一一一　竅 一一一一　寢 一一一一　竉 一一一一　寯 一一一一　寱 一一一一　**十八畫**

圝 一〇七
壚 二七三
墜 二七三
壘 二七三
墻 二七三
壙 二七三
壏 二七四
墽 二七四
塲 二七四
墮 二七四
壜 二七四
墼 二七四
壘 二七四
墳 二七四
壽 三〇一
壼 三〇一
夒 三一六
夒 三一六
夓 三一六
夔 三一六
夓 三一六
夒 三一六
夓 三一六
殨 三六七
奰 六二一
奮 六二三
奱 六二三
嬸 一七〇
嬦 一七〇
嬹 一七一
嬮 一七一
嬫 一七一
嫿 一七一
嬛 一七一

嫭 一七一
嫊 一七一
孅 一七一
嬻 一七一
嬪 一七一
嬼 一七一
嬙 一七一
嬛 一七一
嬰 一七一
嫩 一七一
嫣 一七一
孌 一七一
孨 八九四
躕 二一一
寡 二一一
寞 二一一
寘 二一一
谿 二一一
寠 二一一

十九畫

圞 一〇七
圝 一〇七
壚 二七四
壛 二七四
壜 二七四
壝 二七四
壞 二七四
壟 二七五
壠 二七六
壢 二七六
墇 二七六
谿 二七六
壈 二七六

壆 二七六
壘 二七六
壢 二七六
壞 二七六
墫 二七六
壝 二七六
墭 二七六
壗 二七六
壤 二七六
壹 三〇一
壼 三〇一
臺 三〇一
犧 三六七
蕢 六二三
嬴 一七二
嬦 一七二
嬽 一七二
嬾 一七三
嬬 一七三
嬿 一七三
斐 一七三
嬗 一七三
嫛 一七三
孎 一七三
歗 一七三
嬇 一七三
嬧 一七三
孃 一七三
嬮 一七三
孽 八九四
竅 二一一
竊 二一一
寶 二一一
親 二一一

寵 二一一
竅 二一四
寳 二一四
竈 二一四
寥 二一四
鹹 二一四
寰 二一四
穽 二一四

二十畫

圞 一〇七
圝 一〇七
圞 一〇七
壚 二七六
壣 二七六
壤 二七六
壇 二七七
壦 二七七
臺 三〇一
夒 三一六
夔 三一七
奲 六二三
嬳 一七三
孀 一七三
孁 一七三
孆 一七三
嫿 一七三
嫿 一七三
孽 一七三
孃 一七四
孏 一七四
孅 一七四
孀 一七四
嬃 一七四

孆 一七四
孁 一七四
孽 八九五
孾 八九五
孻 八九五
寶 二一四
竇 二一六
鹹 二一六
䵴 二一六

二十一畫

圞 一〇七
圝 一〇七
壁 二七七
壢 二七七
壣 二七八
壪 二七八
壙 二七八
壘 二七八
壂 二七八
壆 二七八
壣 二七八
墾 二七八
壋 二七八
夒 三六七
奮 六二三
嬔 一七四
孆 一七四
孏 一七四
嬣 一七四
孅 一七四
孉 一七五
嬫 一七五
嫥 一七五

孅 一七五
豐 二一六
寶 二一六
寢 二一六
竊 二一六
鑿 二一六
竈 二一六
竄 二一六

二十二畫

圞 一〇七
壑 二七八
壟 二七八
壥 二七八
壦 二七八
譋 三〇一
謝 三〇一
夔 三一七
奱 六二三
奲 六二三
孏 一七五
孅 一七五
孇 一七五
孋 一七五
孎 一七五
孌 一七五
孍 一七五
孅 一七五
孆 一七五
孿 八九五
孼 八九五
竇 二一六
寣 二一六

竈 二一六
寱 二一六
竊 二一六
竇 二一六
廱 二一六

二十三畫

壧 二七八
壣 二七八
壨 二七八
壟 二七八
夔 六二三
孅 一七五
孌 一七五
孆 一七五
孋 一七五

二十四畫

壩 二七八
壢 二七八
壣 二七八
壟 二七八
奲 六二三
奱 六二三
孎 一七五
孏 一七五
孋 一七六
孍 一七六
孅 一七六
竊 二一六
竈 二一六

二十五畫

壞 二七八

嬻 一七六
孿 八九五
竊 二一六
竇 二一六
竈 二一六

二十六畫

圞 一〇七
夔 三六七
孌 一七六
孋 一七六
竊 二一七
竈 二一七
竇 二一七
竊 二一七

二十七畫

孏 三六七
孍 一七六
孅 一七六
孋 一七六
竊 二一七
竈 二一七
竇 二一七

二十八畫

竊 二一七

二十九畫

壟 二七八
竇 二一七

三十畫

夔 三一七

三十一畫

竊 三六七

三十六畫

𡔛 二七八
竈 二一七

四十畫

𡔛 二七八

大漢和辭典

諸橋轍次著

囗部

【囗】4675 [一]ヰ 〔集韻〕于非切 微。 [二]コク

小篆

[一]❶めぐる。めぐらす。〔說文〕囗、回也、象二回帀之形一也。❷びつくりしてはつとする。いきを吞む。〔龍龕手鑑〕囗、見二大物一失レ聲也。❸圍(3－4806)の古字。〔玉篇〕囗、古文圍字。[二]❶國(3－4798)の古字。〔字彙〕囗、古文國字。〔商子、弱民〕民弱囗強、囗強民弱。❷くにがまへ。漢字の部首の名。

解字 象形。本義はめぐり、まはりの義で、圍の古字。故に四方をぐるりと一めぐりした形を寫して、其の義を表はす。一說に、篆文は〇に作り、圓の本字、圓周の義であるといふ。〔說文通訓定聲〕囗、回也、象二回帀之形一、凡圍繞匊圍字、經傳皆以レ圍爲レ之、按、圓、匊也、篆當レ作レ〇、古文圓本字爲二匕〇一、圍・圓一聲之轉。

一畫

【⿴囗乙】4676 ジツ 日(5－13733)に同じ。唐の則天武后の作つた文字。〔六書略〕⿴囗乙、同レ日、唐武后作。

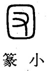
參考 本來の字形は⿴囗乁とすべきであつて、⿴囗乙に作るは誤。又、⿴囗乙は武后に始まるのでないといふ說がある。〔說文〕日、⿴囗乁、古文象形。〔段注〕蓋象二中有レ烏、武后乃竟作レ⿴囗乙、誤矣。〔集韻考正〕日、⿴囗乙、古文象形、亦見二說文一、非レ始二於唐武后一。

【⿴囗乁】4677 キ 起(10－37048)の古字。〔字彙補〕⿴囗乁、古文起字。

二畫

【囙】4678 イン 因(3－4693)の俗字。〔正字通〕囙、俗因字。

【⿴囗又】4679 [一]チフ ニフ 〔集韻〕昵立切 緝。 [二]ダフ ネフ 〔集韻〕昵洽切 洽。


小篆

[一][二]❶身を臥せて物を取りをさめる。〔說文〕⿴囗又、下取レ物縮二臧之一、从レ又从レ口、讀若レ聶。❷私かに取るさま。⿴囗又⿴囗又。〔廣韻〕⿴囗又、⿴囗又⿴囗又、私取皃。❸或は囡(3－4696)・⿴囗丑(3－4712)に作る。〔集韻〕⿴囗又、或作二囡・⿴囗丑一。

解字 會意。囗（かこみ藏する義）と又（右手の義）との合字。本義は取上げてまとめ藏める義。故に囗と又とを合す。〔說文、⿴囗又、段注〕下取、故从レ又、縮二藏之一、故从レ囗。

【囚】4680 シウ ジユ 〔集韻〕徐由切 尤。 ㄑㄧㄡˊ ch'iu^2

小篆

❶とらへる。とらはれる。㋑つなぐ。〔說文〕囚、繫也、从三人在二囗中一。㋺とらへる。〔爾雅、釋言〕囚、拘也。㋩おしこめる。自由を奪ふ。自由にさせぬ。〔書、蔡仲之命〕囚二蔡叔于郭鄰一。〔傳〕囚、謂レ制二其出入一。〔史記、秦始皇紀〕斯卒囚。〔注〕正義曰、囚、謂二禁錮一也。❷めしうど。㋑とりこ。俘虜。〔詩、魯頌、泮水〕在レ泮獻レ囚。〔傳〕囚、拘也。㋺罪あつて繫がれてゐる者。〔禮、月令〕挺二重囚一而益二其食一。〔事物紀原、律令、刑罰部、囚〕有レ罪而繫レ獄者、曰レ囚。❸囚人の申立て。〔書、康誥〕又曰、要囚。〔蔡傳〕要囚、獄詞之要者也。

解字 會意。囗（かこひ。をりの義）と人との合字。本義は罪人を牢中にとらへつなぐこと。故に囗の中に人を畫いて、とらへつなぐ義を表はす。〔說文通訓定聲〕囚、繫也、从三人在二囗中一、會意。

【囚衣】1 シウイ 囚人の著る衣服。囚服。

【囚飮】2 シウイン 亂飮の一。髮を亂し、足にかせをつけて、坐して飮酒すること。石曼卿の故事による。鼇飮(12－48305‥1)を見よ。〔畫墁錄〕蘇舜欽・石延年輩、云云、囚飮者露頭圍坐。

【囚雨】3 シウウ 白河天皇が法勝寺で千僧に讀經を命じた時、屢〻雨に遭つて中止を餘儀なくされたので、大いに怒り、雨に罪ありとして、雨を器に盛つて獄に下した故事。雨禁獄。〔國史略、三、白河天皇〕屢幸二法勝寺一、使二千僧讀經一、其慶二金字大藏經一、數遭レ雨停レ之、帝怒、以爲二雨有レ罪、乃盛二雨於器一而下レ獄、時人謂二之囚雨一。

【囚役】4 シウエキ 囚人に課する仕事。懲役。

【囚牛】5 シウギウ 動物の名。龍の一種。音樂を好むところから、其の形に象つて胡琴の上の飾りとする。〔懷麓堂集〕囚牛、龍種、好二音樂一、今胡琴頭上刻レ獸、是也。〔淵鑑類函、鱗介、龍、九子〕潛確類書、龍生二九子一、不レ成レ龍、各有レ所レ好、蒲牢好レ鳴、形二鐘紐上一、囚牛好レ音、形二胡琴上一、蚩吻好レ水、形二橋梁上一、嘲風好レ險、形二殿角上一、贔屭好レ文、形二碑碣上一、霸下好二負重一、形二碑座上一、狴犴好レ訟、形二獄門上一、狻猊好レ坐、形二佛座上一、睚眦好レ殺、形二刀柄上一。

【囚禁】6 シウキン 獄中に拘禁する。〔歐陽脩、朋黨論〕後漢獻帝時、盡取二天下名士一囚二禁之一、目爲二黨人一。〔金史、刑志〕囚禁之事、常親提控。

【囚擒】7 シウキン とりこにする。禽囚(8－24893‥19)に同じ。

【囚髻】8 シウケイ 唐代、宮女の髮の結び方。〔唐書、五行志〕僖宗時、內人束レ髮極急、及レ在二成都一、蜀婦人效レ之、時謂爲二囚髻一。

【囚繫】9シウケイ ❶捕へてしばる。牢につなぐ。拘禁する。囚絆。〔呉越春秋、王僚使公子光傳〕奢久囚繫。〔易林〕囚繫束縛。❷とらはれ。めしうど。〔史記、蒙恬傳〕身雖二囚繫一、其勢足二以倍畔一。〔呉志、呂岱傳〕親斷二諸縣倉庫及囚繫一。〔南史、齊高帝紀〕詔原二都下囚繫一有レ差。

【囚卷】10シウケン 古の地名。秦の囚卷縣。由拳（7-21724・・13）に同じ。

【囚拘】11シウコウ とらへる。とらはれる。又、囚人の拘束をいふ。〔新序、節士〕桀因囚二拘之一。〔鹽鐵論、論儒〕囚拘匍匐。〔賈誼、鵩鳥賦〕愚士繫レ俗兮、窘若二囚拘一。〔注〕良曰、愚者繫二縛俗累一、困如二囚人之拘束一也。

【囚獄】12シウゴク ひとや。ごくや。牢屋。監獄。囚獄司を見よ。

【囚獄佑】13ヒトヤノツカサノジヨウ 囚獄司の判官。唐名は斷獄丞。〔職原抄〕囚獄司、佑、相二當從七位下一、唐名、斷獄丞。

【囚獄司】14ヒトヤノツカサ 古、刑部省に屬し、囚獄に關することを掌る。唐名は斷獄署。〔職原抄〕囚獄司、唐名、斷獄署、掌二獄舍事一。

【囚獄正】15ヒトヤノツカサノカミ 囚獄司の長官。唐名は斷獄令。〔職原抄〕囚獄司、正一人、相二當正六位上一、唐名、斷獄令。

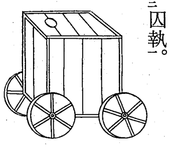
【囚獄令史】16ヒトヤノツカサノサクワン 囚獄司の主典。唐名は獄史。〔職原抄〕囚獄司、令史、唐名、獄史。

【囚殺】17シウサツ 苦しむ。〔莊子、在宥〕人心排レ下而進レ上、上下囚殺。

【囚山】18シウザン ❶山にとらへられること。❷辭賦の名。唐、柳宗元の作。山に謫居を命ぜられたことをうたふ。〔柳宗元、囚山賦〕誰使二吾山之囚一レ吾兮滔滔一。〔注〕永貞元年、公謫二居永州一、元和九年、有二此賦一、晁補之曰、語云、仁者樂レ山、自レ昔達人有下以二朝市一爲二樊籠一者上矣、未レ聞下以二山林一爲二樊籠一者上也、宗元謫二南海一、久厭レ山、不レ可二得而出一、懷二朝市一不レ可二得而復一、丘壑草木之可レ愛者、皆陷穽也、故賦二囚山一。

【囚桎】19シウシツ ひとやに繫がれる。桎は足かせ。〔沈佺期、被レ彈詩〕昆弟兩三人、相次俱囚桎。

【囚執】20シウシツ とらへられる。めしうどとなる。〔漢書、蕭望之傳〕人情貧窮、父兄囚執。〔呉志、太史慈傳〕策躬自攻討、遂見二囚執一。



囚車（三才圖會）

【囚車】21シウシヤ 囚人を護送する車。〔三才圖會、器用、囚車〕囚車、卽古之檻車、不レ知三其所二自始一、疑卽檻車之法、亦今之極刑也。

【囚床】22 ch'iu^2 ch'uang^2 囚人の寢臺。

【囚心】23シウシン とらはれの心。〔虞綽、於二婺州一被レ囚詩〕厚顏羞二朋友一、囚心愧二妻子一。

【囚人】24シウジン つみびと。めしうど。囚徒。犯罪が確定して刑罰に服役する者。〔唐律、斷獄、其非二主守一而犯者、疏議〕其非二主守一而犯者、謂下非二監當囚人一、而有二外人一、導レ囚翻異上。〔明律、斷獄、與二囚金刃一解脫、纂注〕凡可三以使二人自殺一、乃可三以解二脫枷鎖之類一、而與三囚人一者、雖レ未二自殺一、與二解脫一卽杖一百。

【囚制】25シウセイ 囚人の取りしまり。又、囚人を扱ふやうに取締まる。〔晉書、溫嶠傳〕凶逆無道、囚二制人士一。

【囚籍】26シウセキ 囚人の名簿。囚人の人別帳。

【囚縶】27シウチフ とらへられる。〔李陵、答二蘇武一書〕蕭樊囚縶、韓彭葅醢。

【囚徒】28シウト とらはれ人。めしうど。囚人。囚奴。囚は獄舍にある者、徒は鎖を加へたまま勞役に服するもの。〔釋名、釋宮室〕獄、云云、領二錄囚徒一禁二禦之一也。〔史記、大宛傳〕赦二囚徒材官一。〔漢書、成帝紀〕攻二官寺一、篡二囚徒一。〔隋書、刑法志〕囚並坐レ械、徒并著レ鎖。

【囚奴】29シウド とらはれ人。めしうど。囚徒（28）に同じ。〔書、泰誓下〕屛二棄典刑一、囚二奴正士一。

【囚房】30 ch'iu^2 fang^2 牢獄。牢屋。

【囚縛】31シウバク とらへしばる。收縛。〔杜子春傳〕雖二尊神惡鬼夜叉猛獸及君之親屬、爲レ所二囚縛一、萬苦皆非二眞實一。〔陸龜蒙、怪松圖讚〕有レ若二龍攣虎跛壯士囚縛之狀一。

【囚犯】32シウハン 犯罪人。囚人。〔明律、名例、流囚家屬、纂注〕如三謀反逆叛等項、原係二凌遲處レ斬囚犯、偶遇二赦書一特免レ死。

【囚絆】33シウハン 捕へてしばる。囚繫（9）の❶に同じ。〔鄭俠、謝三大守答二詩萊州一詩〕疲羸死二飢凍一、重負遭二囚絆一。

【囚飯】34シウハン 罪人の食ふ飯。もつさうめし。囚糧。

【囚俘】35シウフ とりこ。囚虜。〔左氏、昭、十三〕平子怒、令下見二費人一執レ之、以爲中囚俘上。〔呉志、周瑜傳〕囚俘萬餘口。

【囚服】36シウフク 罪人の著る衣服。囚衣。〔唐書、曹王皐傳〕初御史覆訊、皐懼憂、其母出則囚服、入乃衣冠。

【囚捕】37シウホ 罪人をとらへる。牢獄につなぐ。收捕（5-13110・・217）に同じ。

【囚命】38シウメイ 自ら俘虜となり、命に從つて罪を謝すること。〔國語、晉語四〕降服囚命。〔注〕囚命、自囚以聽レ命也。

【囚厄】39シウヤク とりことなつて難儀する。とりことなる。〔論衡、命義〕以二聖明之德一而有二囚厄之變一、可レ謂レ遭矣。

【囚律】40シウリツ 刑律の名。戰國、魏の李悝の法經六篇の中、第三を囚法といつたが、秦の商鞅が六法を六律と改めてから、囚法を囚律といふ。〔晉書、刑法志〕因律有二告劾一、云云、故分爲二告劾律一。〔唐律、名例〕魏文侯師二於李悝一、集二諸國刑典一、造二法經六篇一、一盜法、二賊法、三囚法、四捕法、五雜法、六具法、商鞅傳授、改レ法爲レ律。〔疏議〕史記、商君者、衞之庶孼公子、名鞅、姓公孫氏、鞅少好二刑名之學一、西入レ秦、事二孝公一爲レ相、封二之於商十五邑一、號爲二商君一、欲レ變二法令一、既具未レ布、乃立二三丈木於市南門一、募レ人、有下徙二置北門一者上、與二十金一、人怪莫二敢徙一、復令曰、能徙者與二五十金一、一人徙レ之、輒與二五十金一、以明レ不レ欺二其言一、改レ法爲レ律者、謂二盜律・賊律・囚律・捕律・雜律・具律一也。

【囚糧】41シウリヤウ 罪人の食ふ飯。囚飯。〔遼史、道宗紀二〕詔給二諸路囚糧一。〔明律、名例、新頒條例〕按、官陳言、舊例量罰本色、囚糧自二一石一起、至二十五石一止。〔輟耕錄、狗站〕征東行省、每歲委レ官至二奴兒干一、給二散囚糧一、須レ用二站車一。

【囚糧飯】42 ch'iu^2 liang^2 fan^4 罪人の食ふ飯。囚糧・囚飯（34）に同じ。

【囚虜】43シウリヨ とりこ。とらはれ。俘虜。囚俘。〔後漢書、第五種傳〕卒遭下高帝之成業、齊桓之興伯、遺二其亡逃之行一赦二其射鉤之讎一、拔二於囚虜之中一信中其佐國之謀上。

【囚籠】44シウロウ 囚人を護送するに用ひる木檻。

【要レ囚】45シウヲエウス 囚人の申立を聞いて、其の罪を定める。〔書、多方〕要レ囚殄二戮多罪一、亦克用勸。〔傳〕要二察囚情一。〔書、康誥〕要レ囚服念五六日、至二于旬時一、丕蔽二要囚一。〔傳〕要レ囚、謂下察二其要辭一以斷上レ獄。〔疏〕要二察囚情一、得二其要辭一、以斷二其獄一。

【錄レ囚】46シウヲロクス 罪人を調べて書きとめる。〔漢書、何武傳〕行レ部錄二囚徒一。〔漢書、雋不疑傳〕行レ縣錄二囚徒一還。

【囚首喪面】47シウシユサウメン 囚人のやうに髮を梳らず、喪中の人のやうに顏を洗はない。容貌を修飾しない形容。宋の王安石を譏つた語。〔蘇洵、辨姦論〕囚首喪面、而談二詩書一。

【囚二十日一訊】48シウニジフジツイツジン 唐代、囚人は二十日に一度訊問し、三訊で止める。三訊を通じて杖二百を過ぎることを許さない。〔大學衍義補、愼二刑憲一、制二刑獄之具一〕唐制、囚二十日一訊、三訊而止、數不レ過二二百一、凡杖皆長三尺五寸、削二去節目一、訊杖大頭徑三分二釐。

【⿴口入】4681

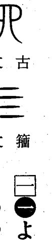
チフ 〔字彙〕得立切 緝。

❶うごく。〔字彙〕⿴口入、動也。❷とる。〔正字通〕⿴口入、元包經、⿴口入、取也。

【四】4682

㊀シ 〔集韻〕息利切 寘 ム ssŭ^4

㊁シツ シチ 〔集韻〕息七切 質



㊀❶よ。よつ。よつつ。二の倍數。陰の數。〔說文〕四、侌數也、象二四

分之形一。〔段注〕謂下口、像二四方一、八、像上分也。〔說文通訓定聲〕四分之指事。〔易、繫辭上〕天一地二、天三地四。〔逸周書、文傳解〕天有二四殃一、水・旱・饑・荒。❷**よたび。よたびする**。〔穀梁、成、二〕國佐曰、一戰不レ克請再、再不レ克請三、三不レ克請四。〔羅隱、初夏寄二顧紹宗一詩〕江上偶分レ袂、四回寒暑更。❸**よも**。四方。〔後漢書、馬融傳〕繯二橐四野之飛征一。〔注〕四野、四方之野也。〔後漢書、竇憲傳〕然後四校橫徂。〔注〕四校、四面之校。❹**樂譜の記號**。大呂・大簇の音をあらはすに用ひる。〔宋史、樂志〕大呂・大簇用二四字一。❺駟（**12―44683**）に通ず。〔左氏、定、十〕公子地有二白馬四一。〔漢書、五行志下之上〕公子地有二白馬駟一。❻古は兕に作る。〔說文〕四、兕、古文四、如レ此。〔集韻〕四、古作レ兕。❼籀文は亖（**1―259**）に作る。〔說文〕四、亖、籀文四。〔集韻〕四、籀作レ亖。❽**姓**。〔說苑、權謀〕越饑、句踐懼、四水進諫曰、夫饑、越之福也、而吳之禍也。〔正字通〕四、姓、宋四象、慶元閒知二汀州一。❾俗に罒（**9―28200**）に作る。〔辭海〕四、俗作レ罒。🈔**よつ**。關中の方音といふ。〔集韻〕四、關中謂二四數一爲レ罒。〔正字通〕四、關中呼レ四如レ悉、蓋方音也。**邦よつ**。巳の時。今の午前十時、午後十時にあたる。

名乘 モチ。モロ。

解字 指事。口は四方・四隅の形に象り、八は之を分つ意。卽ち四は四方又は四隅を夫〻四つの部分に分けた形を表はし、陰の數四の意を示す。籀文は會意、二を二つ重ねて四の意を表はす。〔說文、四、段注〕象二四分之形一、謂下口像二四方一、八像上分也。〔說文通訓定聲〕四、侌數也、四二分之一、指事、古文亦指事、籀文从二重二一、會意、亦積畫也。

參考 ❶文書・帳簿などには、姦易を恐れて肆の字を用ひる。〔六書故〕今惟財用出內之簿書、用二壹貳參肆一、以防二姦易一。❷罒（マウ）（**9―28200**）とは別字。〔字彙、辨似、二字相似〕四、數名。罒、與レ罔同、本作レ网、古網字也、凡罟置等字、從レ此。

【四阿】1 シア ❶屋の四面に各〻二本の棟木を增して覆ひをした建物。又、東西にも雨垂れ承けがあるから四霤といふ。四注の屋。〔周禮、考工記、匠人〕殷人重屋、堂脩七尋、堂崇三尺、四阿重屋。〔注〕四阿、若二今四注屋一。〔疏〕燕禮、設レ洗當二東霤一、此四阿、四霤者也。〔義疏〕案、四注屋、四面各增二兩橑一而覆レ之、東西亦有レ霤、故四霤也、此所レ增之橑、則謂二之阿一、與、左傳成二年、椁有二四阿一、蓋倣二此屋制一、鄭注二昏禮一、以レ阿爲二當レ脊之棟一、似レ不レ類。〔曹植、大魏篇〕黃鵠遊二殿前一、神鼎周二四阿一。❷四隅に棟を設けた椁。王者の用ひるもの。四注椁。一說に、四隅の、上にそりかへつた椁。〔左氏、成、二〕宋文公卒、始厚葬、用二蜃炭一、益二車馬一、始用レ殉、重二器備一、椁有二四阿一、棺有二翰檜一。〔注〕四阿、四注椁也、云云、皆王禮也。〔會箋〕屋之四隅、曲而翻起爲レ阿、爾雅釋丘、既言二前後左右之高一、又言二偏高阿丘一、是高在二于隅一者、四隅檐宇、曲而翻起、如二阿丘之高聳一、故曰二四阿一、此則惟天子有レ之。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕邾莊公車先二五乘一、雖レ取二遺言一、宋文公椁用二四阿一、更從二厚葬一。❸アヅマヤ ㋑四方葺きおろしにして、搏風のない屋。〔字鏡〕四阿、阿豆萬屋。㋺四方葺き卸しで、壁がなく柱ばかりの小屋。庭園などの休憩所として設ける。

【四阿造】2 アヅマヤヅクリ あづまやの式に造る建築。

【四阿含經】3 シアゴンキヤウ **佛**一切の小乘經を四部に分類したもの。釋尊が華嚴說法の後、十二年閒、鹿野苑で說いた經。增一阿含經 五十一卷・長阿含經 二十二卷・中阿含經 六十卷・雜阿含經 五十卷をいふ。

【四愛】4 シアイ 四種の愛翫すべきもの。晉の陶潛の菊、宋の周敦頤の蓮、宋の林逋の梅、宋の黃庭堅の蘭。〔虞集、四愛題詠序〕陶潛愛レ菊、周茂叔愛レ蓮、林逋愛レ梅、黃魯直愛レ蘭也。

【四殃】5 シアウ 四つの災害。水・旱・饑・荒。〔逸周書、文傳解〕天有二四殃一、水旱饑荒、其至無レ時、非レ務二積聚一、何以備レ之。

【四惡】6 シアク ❶四つの惡。虐（平素民を敎へないでゐて、罪を犯せば殺す）・暴（平素の戒を怠つてゐて、俄かに成績を示せと迫る）・賊（命令をゆるやかにしておきながら、最後の期限を嚴重に責め立てる）・有司（どうせ人に與へねばならないものなのに、出し惜しみをする）。〔論語、堯曰〕子曰、尊二五美一、屛二四惡一、云云、子張曰、何謂二四惡一、子曰、不レ敎而殺、謂二之虐一、不レ戒視レ成、謂二之暴一、慢レ令致レ期、謂二之賊一、猶之與レ人也、出納之吝、謂二之有司一。❷シヲ 四つの甚だいやなもの。㋑憂勞・貧賤・危墜・滅絕。四欲（767）の❶を見よ。㋺天・危・辱・勞。四欲（767）の❷を見よ。

【四惡趣】7 シアクシユ **佛**六道の中の四つの惡道。苦ばかりあつて樂のない所。卽ち地獄・餓鬼・畜生・修羅。四趣。

【四惡道】8 シアクダウ **佛**四惡趣に同じ。

【四安】9 シアン ❶四方を安撫する安東・安南・安西・安北の四人の將軍。魏、置き、晉・宋、皆之に依る。〔晉書、職官志〕四征興二於漢代一、四安起二於魏初一、四鎭通二於柔遠一、四平止二於喪亂一。〔宋書、百官志上〕安東將軍一人、安南將軍一人、安西將軍一人、安北將軍一人、魚豢曰、鎭北四安、魏黃初太和中置。❷鎭の名。宋、置く。浙江省長興縣の西南、四安山の下、安徽省廣德縣の界に接し、四安溪に臨む。其の地は吳興・宜興・廣德・安吉の四處の保障であるから此の名がある。一說に、四安山の下にあるからこの名があるといふ。〔元史、伯顏傳〕（至元十二年）、十一月乙亥、伯顏分レ軍爲二三道一、期會二于臨安一、參政阿剌罕等爲二右軍一、以二步騎一自二建康一出二四安一、趨二獨松嶺一。〔讀史方輿紀要、浙江、長興縣〕四安鎭、在二縣西南四安山下一、東去二府城一一百二十里、西去二廣德州一六十里、志云、鎭、隋所レ置也、大業九年、置二鷹揚府一、幷築二城于此一、城有二四門一、今故址猶存、宋亦曰二四安鎭一、設レ官以監二商稅一。〔讀史方輿紀要、江南、廣德州〕四安鎭、州東五十里、陸二走湖州一、此爲二通道一、宋建炎中、兀朮自二廣德一經レ此、陷二獨松關一。

【四安溪】10 シアンケイ 川の名。浙江省長興縣の西南。一名、周瀆。二源あり、一は安徽省廣德縣の諸山、一は縣の西北の石澗諸山に發して合流し、四安鎭に至つて四安溪となり、更に分れて二となり、一は苕溪に合し、一は若溪に合して太湖に注ぐ。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州府、長興縣〕四安山、縣西南八十里、四面平廣、水流會二於苕溪一、亦名二四安溪一、又名二周瀆一。

【四夷】11 シイ 四方のえびす。四種のえびす。東夷・西戎・南蠻・北狄。四貉。〔書、大禹謨〕無レ怠無レ荒、四夷來王。〔周禮、夏官、職方氏〕四夷八蠻、七閩九貉、五戎六狄之人民。〔注〕鄭司農云、東方曰レ夷、南方曰レ蠻、西方曰レ戎、北方曰二貉狄一。〔禮、王制〕東方曰レ夷、南方曰レ蠻、西方曰レ戎、北方曰レ狄。〔孟子、梁惠王上〕欲下辟二土地一、朝二秦楚一、莅二中國一而撫中四夷上。〔荀子、脩身〕橫二行天下一、雖レ困二四夷一、人莫レ不レ貴。〔小學紺珠、地理類、四夷〕東夷・西戎・南蠻・北狄。

【四夷之樂】12 シイノガク 四方のえびすの音樂。東方の靺・南方の任・西方の侏離・北方の禁。一にいふ、東夷は株離、南夷は任、西夷は禁、北夷は味。又いふ、東夷は朝離、南夷は南、西夷は味、北夷は禁と。なほそのほかにも諸說あり、詳細は孫詒讓の周禮正義に見ゆ。〔周禮、春官、鞮鞻氏〕鞮鞻氏、掌二四夷之樂、與二其聲歌一。〔注〕四夷之樂、東方曰レ靺、南方曰レ任、西方曰二侏離一、北方曰レ禁。〔孫詒讓、正義〕案、此四夷樂名、鄭並依二孝經緯・明堂位一爲レ說、蔡氏獨斷、亦依二鄭義一、云云、公羊昭二十五年何注則云、東夷之樂曰二株離一、南夷之樂曰レ任、西夷之樂曰レ禁、北夷之樂曰レ味、徐疏以爲二樂說文一、蓋本二樂緯一也、藝文類聚引五經通義說、與レ何同、曲禮孔疏、引二白虎通樂元語一云、東夷之樂曰二朝離一、云云、南夷之樂曰レ南、云云、西夷之樂曰レ味、云云、北夷之樂曰レ禁、云云、今本白虎通義禮樂篇、作二南夷之樂曰レ兜、西夷之樂曰レ禁、北夷之樂曰レ味、東夷之樂曰レ離、文選東都賦云、四夷閒奏、德廣所レ及、僸・味・兜・離、罔レ不二具集一、與二今本通義一同、云云、

案何・班諸說、並與レ鄭異、或所レ傳不レ同、或聲義轉易、云云。〔後漢書、西南夷、莋都傳〕昔在聖帝、舞二四夷之樂一。〔小學紺珠、制度類、四夷樂〕東方韎、南方任、西方侏離、北方禁。

【四夷百蠻】13 シイヒャクバン 諸外國をいふ。〔弘道館記述義、上〕四夷百蠻、皆仰二我末光一。

【四異】14 イシ ❶四つの異なつた點。〔南史、劉峻傳〕余自比二馮敬通一、而有レ同レ之者三、異レ之者四。敬通當二更始世一、手握二兵符一、躍レ馬肉食、余自レ少迄レ長、戚戚無レ歡、此一異也。敬通有二子仲文一、官成名立、余禍同二伯道一、永無二血胤一、此二異也。敬通膂力剛強、老而益壯、余有二犬馬之疾一、溘死無レ時、此三異也。敬通雖三芝殘蕙焚、終塡二溝壑一、而爲二名賢所一レ慕、其風流郁烈芬芳、久而彌盛、余聲塵寂寞、世不二吾知一、魂魄一去、將レ同二秋草一、此四異也。❷道の四異。酒・色・財・氣。〔金丹大要〕上陽子曰、道有二四異一者何也、曰、酒・色・財・氣、是也。

【四異格】15 シイカク 詩體の一。四句各〻獨立して四つの意をなすもの。杜甫の漫成詩の類。〔杜甫、漫成詩〕江月去レ人只數尺、風燈照レ夜欲二三更一、沙頭宿鷺聯拳靜、船尾跳魚撥剌鳴。

【四位】16 シヰ 四つの位。❶身を修め處する四つのくらゐ。定・正・靜・敬。〔逸周書、寶典解〕躬有二四位九德一、云云、四位、一曰定、二曰正、三曰靜、四曰敬。❷君王の修め持すべき四つの位。文・武・威・德。〔管子、任法〕主之所レ處者四、一曰文、二曰武、三曰威、四曰德、此四位者、主之所レ處也。〔小學紺珠、治道類、四位〕文・武・威・德。

【四位諸大夫】17 シヰノショダイフ 昔、四位で、昇殿を許されないものをいふ。

【四位配享封爵】18 シヰハイキャウホウシャク 顏子・曾子・子思・孟子を孔子の廟に配祀し、封爵を行ふこと。〔輟耕錄、四位配享封爵〕顏子、唐玄宗太極元年壬子二月、贈二太子太師一、配二享孔子廟一、宋眞宗大中祥符二年己酉月、封二兗國公一、曾子同レ前、贈二太子太保一、配二享孔子廟一、宋理宗淳祐三年癸卯二月、封二郕國公一、配二食大成殿一、子思、宋度宗咸淳三年丁卯二月、封二沂國公一、配二食大成殿一、孟子、宋神宗元豐七年甲子五月、追二封鄒國公一、配二享先聖一、位次二兗國公下一。

【四畏】19 シヰ 宋の王欽若の夫人は、嫉妬が甚しいので、楊文公が其の庭中に在る三畏堂の三畏に、夫人を畏るの一事を加へて四畏とせよと戲れた故事。〔聞見錄〕王文穆夫人悍妒、後圃中作レ堂名二三畏一、楊文公戲言曰、可レ改作二四畏一、公問二其故一、曰、兼畏二夫人一。

【四圍】20 シヰ ❶四人で圍繞するほどの大きさ。〔莊子、人閒世〕宋有二荊氏者一、宜二楸柏桑一、其拱把而上者、求二狙猴之杙一者斬レ之、三圍四圍、求二高名之麗一者斬レ之。❷四方からかこむ。〔元好問、從二鄧州相公一覓レ酒時在二鎭中一詩〕寒日山城雪四圍、空齋孤坐意多違。〔貢奎、偶成詩〕斂斂橫塘柳四圍、雨餘來看綠陰肥。❸四周。周圍。〔陳櫟、圍獵詩〕仁心誰去二網三面一、殺氣似レ環城四圍。

【四維】21 シヰ ❶四本の大きい綱。〔漢書、陳勝傳、所レ罾魚、注〕師古曰、罾、魚網也、形如二仰繖一、蓋四維而擧レ之。❷國家を維持するに必要な四つの大づな。禮・義・廉・恥。〔管子、牧民〕國有二四維一、一維絕則傾、二維絕則危、三維絕則覆、四維絕則滅、傾可レ正也、危可レ安也、覆可レ起也、滅不レ可二復錯一也、何謂二四維一、一曰禮、二曰義、三曰廉、四曰恥。❸四方の隅。巽タツミ(東南)・坤ヒツジサル(西南)・辰ウシトラ(東北)・乾イヌヰ(西北)。〔淮南子、天文訓〕日冬至、日出二東南維一、入二西南維一、云云、夏至、出二東北維一、入二西北維一。〔小學紺珠、地理類、四維〕東南巽、東北艮、西南坤、西北乾。❹戲具の名。〔太平御覽、工藝、四維〕晉李秀四維賦序曰、四維戲者、衞尉贄侯所レ造也、畫レ紙爲レ局、截レ木爲レ棊、取二象元一一、分而爲レ二、二、準二陰陽之位一、擬二剛柔之象一、而變動無爲、生二乎其中一。

【四維堂】22 シヰダウ 淸、林昌彝(**6**−**14551**‥350)の室名。

【四維山長】23 シヰサンチャウ 林忠の號。林羅山(**6**−**14551**‥**444**)を見よ。

【四友】24 シイウ ❶四人の友。㋑文王の四友。閎夭・太公望・南宮适・散宜生。〔尙書大傳、殷傳〕文王以二閎夭・太公望・南宮适・散宜生一爲二四友一。㋺孔子の四友。顏回・子貢・子張・子路。〔孔叢子、論書〕孔子曰、吾有二四友一焉、自二吾得一レ回也、門人加レ親、是非二胥附一乎、自二吾得一レ賜也、遠方之士日至、是非二奔輳一乎、自二吾得一レ師也、前有レ光、後有レ輝、是非二先後一乎、自二吾得一レ由也、惡言不レ至二於門一、是非二禦侮一乎。〔小學紺珠、聖賢類、孔子四友〕顏回・端木賜・顓孫師・仲由。㋩子祀・子輿・子犂・子來の四人。〔莊子、大宗師〕子祀・子輿・子犂・子來、四人相與爲レ友。㋥漢の唐胥・李充・趙襄・廉丹。〔漢書、王莽傳中〕故尙書令唐林爲二胥附一、博士李充爲二犇走一、諫大夫趙襄爲二先後一、中郎將廉丹爲二禦侮一、是爲二四友一。㋭三國、吳の太子登の四友。諸葛恪・張休・顧譚・陳表。〔吳志、孫登傳〕權稱二尊號一、立爲二皇太子一、以二(諸葛)恪一爲二左輔一、(張)休右弼、(顧)譚爲二輔正一、(陳)表爲二翼正都尉一、是爲二四友一。㋬魏の太子の四友。司馬懿・陳羣・吳質・朱鑠。〔晉書、宣帝紀〕魏國既建、司馬懿遷二太子中庶子一、每與二大謀一、輒有二奇策一、爲二太子所一レ信重、與二陳羣・吳質・朱鑠一、號曰二四友一。〔小學紺珠、名臣類下、魏四友〕司馬懿・陳群・朱鑠・吳質。㋣晉の胡母輔之・王澄・王敦・庾敳。又、王敦・謝鯤・庾敳・阮修。〔晉書、胡母輔之傳〕與二王澄・王敦・庾敳一俱爲二太尉王衍所一レ昵、號曰二四友一。〔晉書、王澄傳〕時王敦・謝鯤・庾敳・阮修、皆爲三衍所二親善一、號爲二四友一。㋠南齊の褚炫・劉俁・謝朏・江斅。〔南史、褚炫傳〕昇明初、炫以二清尙一、與二彭城劉俁・陳郡謝朏・濟陽江斅一、入レ殿侍二文義一、號爲二四友一。㋷南朝、宋の謝惠連・何長瑜・荀雍・羊璿之。〔南史、謝靈運傳〕與二族弟謝惠連・東海何長瑜・潁川荀雍・泰山羊璿之一、以二文章一賞會、共爲二山澤之游一、時人謂二之四友一。㋦唐の杜審言・李嶠・崔融・蘇味道。〔唐書、杜審言傳〕少與二李嶠・崔融・蘇味道一爲二文章四友一。㋸宋の韓維・司馬光・呂公著・王安石。〔小學紺珠、名臣類下、四友〕韓維・司馬光・呂公著・王安石。〔卻掃編〕王荊公・司馬溫公・呂申公・韓公維、仁宗朝同在二從班一、特相友善、暇日多會二于僧坊一、往往談燕終レ日、他人罕二得而預一、時目爲二嘉祐四友一。㋾宋の馮元・孫質・陸參・夏侯圭。〔宋史、馮元傳〕與二樂安孫質・吳陸參・譙夏侯圭一善、羣居講レ學、或達レ旦不レ寢、號二四友一。❷文房具の四種。筆・墨・紙・硯。四侯。〔謝翺、文房四友歎序〕兵後四友流落、有二訪而得レ之者一、則頂禿足折、笏碎幅裂、自レ秦以來、未レ見二吾黨獲レ禍如レ此之慘者一、是以爲二長太息一云。❸五代、南唐の李建勳の竹庵。琴・磬・南華經・湘竹榻の四つを友とする意から名づけたもの。〔澄懷錄〕江南李建勳、造二一竹軒一、牓曰二四友一、以レ琴爲二嶧陽友一、磬爲二泗濱友一、南華經爲二心友一、湘竹榻爲二夢友一。

【四友齋】25 シイウサイ 淸、何良俊(**1**−**511**‥377)の號。

【四友堂】26 シイウダウ 宋、王輔(**7**−**20823**‥962)の室名。

【四友先生】27 シイウセンセイ 宋、汪存(**6**−**17154**‥95)の尊稱。

【四侑】28 シイウ 孔子の廟に配して祀る四賢人。顏子・曾子・子思・孟子。四配(627)に同じ。四位配享封爵(18)を見よ。

【四游】29 シイウ 二十八宿の外の上下東西をいふ。四遊。〔爾雅、釋天、題疏〕二十八宿之外、上下東西、各有二萬五千里一、是爲二四遊之極一、謂二之四表一。〔尙書考靈曜〕地有二四游一、常動而人不レ知。〔謝朓、酬レ德賦〕悲夫四游之代序、六龍騖而不レ息。

【四游儀】30 シイウギ 渾天儀中に在つて、天の星宿によつて目盛りしたもの。〔唐書、天文志一〕三曰、四游儀、玄樞爲レ軸、以連二結玉衡游筩一、而貫二約矩規一、又玄極北極樹二北辰一、南矩地軸、傍二轉於內一、玉衡在二玄樞之閒一、而南北游、仰以觀二天之辰宿一、下以識二器之晷度一。

【四奧】31 シヰク 四隩に同じ。〔左思、吳都賦〕都輦殷而四奧來暨。〔注〕翰曰、奧、遠、四遠之人、皆來至也。

【四隩】32 シヰク 四方の住居すべき土地。四方の遠地。轉じて、四方の夷。〔書、禹貢〕九州攸レ同、四隩既宅。〔傳〕四方之宅、已可レ居。〔蔡傳〕隩、隈也、李氏曰、涯內近レ水爲レ澳。〔後漢書、蔡邕傳〕洪源辟而四隩集、武功定而干戈戢。〔顏延之、赭白馬賦序〕五方率レ職、四隩入貢。〔注〕善曰、四隩、四方之隱處也。〔陸倕、石闕銘〕四隩奉レ圖。

【四印】33 シイン ❶四つの養生法。忍・默・平・直。〔黃庭堅、贈二送張叔和一詩〕我提二養生之四印一、君家所レ有更贈レ君、百戰百勝不レ如二一忍一、萬言

萬當不レ如二一默一、無レ可二簡擇一、眼界平、不レ藏二秋毫一、心地直。〔小學紺珠、性理類、養生四印〕忍・默・平・直。❷四つの金印。天士將軍・地士將軍・大通將軍・天道將軍の印。轉じて、大官をいふ。〔史記、孝武紀〕乃拜レ大爲二五利將軍一、居月餘、得二四金印一、佩二天士將軍・地士將軍・大通將軍・天道將軍印一。〔史記、封禪書〕居月餘得二四印一。〔風俗通、正失〕家累二萬金一、身佩二四印一。

【四印齋】34（シインサイ） 清、王鵬運(**7－20823**・・2107)の號。

【四印齋所刻詞】35（シインサイショコクシ） 書名。六十一卷。清、王鵬運輯。宋元人の詞、十九種、二十二人の作を輯む。

【四因】36（シイン） 歷史を作る四つの參考書。時政記・起居注・日曆・臣僚墓碑行狀。〔揮麈餘話〕謂下修史所二依據一者有中四種上也、一曰時政記、二曰起居注、三曰日曆、四曰臣僚墓碑行狀。

【四飮】37（シイン） 四つの飮みもの。清・醫・漿・酏。〔周禮、天官、酒正〕辨二四飮之物一、一曰清、二曰醫、三曰漿、四曰酏。〔小學紺珠、器用類、四飮〕清・醫・漿・酏。

【四隱】38（シイン） 相隱して長を揚げ短を蔽ふ四つの間柄。交友・故舊・邑里・門郭をいふ。〔呂覽、論人〕論レ人者、又必以二六戚四隱一、云云、何謂二四隱一、交友故舊邑里門郭。〔注〕四隱、相隱而揚レ長蔽レ短。〔小學紺珠、人倫類、四隱〕交友・故舊・邑里・門郭。

【四院】39（シヰン） 唐代、太常寺の四つの倉庫。天府院・御衣院・樂縣院・神廚院。〔唐書、百官志三〕太常寺、云云、凡藏二大享之器服一、有二四院一、一曰天府院、藏二瑞應及伐レ國所レ獲之寶一、二曰御衣院、藏二天子祭服一、三曰樂縣院、藏二六樂之器一、四曰神廚院、藏二御廩及諸器官奴婢一。

【四韻】40（シヰン） 四個所に韻字をふんだ詩。卽ち今體の五言、又は七言の律詩。四韻の詩。〔王勃、滕王閣序〕一言均賦、四韻俱成。〔景龍文館記〕唐白鹿觀御詩序云、人題二四韻一、後者罰二三盃一。

【四韻詩】41（シヰンノシ） 律詩をいふ。四韻(40)に同じ。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕首爲二四韻詩一歌二其事一。〔宋史、五行志三〕大觀初、甘露降二於九成宮帝鼐室一、三年冬降二於尚書省及六曹一、御二製七言四韻詩一、賜二執政已下一。

【四宇】42（シウ） 天下。四海。四方。〔枚乘、七發〕天下安寧、四宇和平。

【四有】43（シウ） [佛]衆生の生れて死し、更に再び生れるまでを四つに分つたもの。卽ち生有(正に生を受けた時)・本有(生有から死有の間)・死有(死の一刹那)・中有(死して次の生に至る間)。〔倶舍論、九〕總說二有体一、云云、一者中有、云云、二者生有、云云、三者本有、云云、四者死有。〔倶舍記、九〕若欲・色二界有色有情具二足四有一。

【四運】44（シウン） 春・夏・秋・冬。四時(348)の❶に同じ。〔阮籍、大人先生傳〕飄二飆于四運一、飜二翺乎八隅一。〔陸機、梁父吟〕四運循環轉、寒暑自相承。〔陶潛、酬二劉柴桑一詩〕窮居寡二人用一、時忘二四運周一。〔潘岳、秋興賦〕四運忽其代序兮、萬物紛以迴薄。〔注〕善曰、莊子黃帝曰、陰陽四時運行、各得二其序一。

【四依】45（シエ） [佛]❶法の四依。人の依るべき四つのもの。法・義・智・了義經。〔大般涅槃經、六〕諸比丘當レ依二四法一、何等爲レ四、依レ法不レ依レ人、依レ義不レ依レ語、依レ智不レ依レ識、依二了義經一不レ依二不了義經一。❷人の四依。依り所とすべき四種の人。〔大般涅槃經、六〕有二四種人一、云云、何等爲レ四、有二人出レ世、具二煩惱性一、是名二第一一、須陀洹人・斯陀含人、是名二第二一、阿那含人、是名二第三一、阿羅漢人、是名二第四一、是四種人出二現於世一、能多利二益憐三愍世間一、爲二世間依一。

【四英】46（シエイ） 三國、蜀の諸葛亮・蔣琬・費禕・董允の四相をいふ。〔華陽國志〕延熙七年秋九月、大司馬琬以レ病固讓二州職於費禕董允一、於レ是禕加二大將軍一領二益州刺史一、允加二輔國將軍守尚書令一、允立レ朝正レ色、處レ中則匡レ主、下帥二羣司一、於レ時蜀人以二諸葛亮・蔣・費及允一爲二四相一、一號二四英一。〔小學紺珠、名臣類下、四英〕諸葛亮・蔣琬・費禕・董允。

【四裔】47（シエイ） 四方の遠いはて。四海のはて。裔は末。四荒。〔左氏、文、十八〕投二諸四裔一、以禦二魑魅一。〔注〕裔、遠也。〔史記、五帝紀〕乃流二四凶族一、遷二于四裔一。〔班固、西都賦〕原野蕭條、目極二四裔一。

【四裔大長老】48（シエイダイチヤウラウ） 明、安邦彥(**3－7072**・・578)の號。

【四營】49（シエイ） 易筮の語。筮竹を二分する分二、其の中から一本を取る掛一、四本づつ數へる揲四、餘つた數を取り除く歸奇の四つ。此の四營によつて易の一卦が成立する。〔易、繫辭上〕是故四營而成レ易。〔注〕分而爲レ二、以象レ兩、一營也、掛レ一以象レ三、二營也、揲レ之以レ四、三營也、歸二奇於扐一、四營也。

【四瀛】50（シエイ） 四方の海。轉じて、國內。天下。〔宋書、明帝紀〕高祖武皇帝、德洞二四瀛一、化綿二九服一。〔王融、侍遊二方山一應詔詩〕四瀛良在レ目、八寓宛如レ見。

【四衞】51（シエイ） ❶四方の蠻服以內にあつて守衞する庶姓の諸侯。〔周禮、春官、巾車〕以封二四衞一。〔注〕四衞、四方諸侯守衞者、蠻服以內。❷兩手兩足。四肢(333)に同じ。〔呂覽、審時〕耳目聰明、心意叡智、四衞變彊、殃氣不レ入、身無二苛殃一。〔注〕四衞、四枝也。❸昔、宮城の護衞を掌つた四つの役所。左近衞府・右近衞府・左兵衞府・右兵衞府。

【四拗】52（シエウ シアウ） 四つの、事實と相違したこと。〔李綽、秦中歲時記〕初冬納二文書一、卻謂二之選門閉一、四月選事畢、卻謂二之選門開一、選人名在二令史前一、謂二之某家百姓一、狀在二判後一、又卻須三黏在二判前一、因名二四拗一。

【四要】53（シエウ） 治獄上の四つの要訣。公・慈・明・剛。〔薛瑄、從政錄〕治獄有二四要一、公・慈・明・剛、公則不レ偏、慈則不レ刻、明則能照、剛則能斷。

【四易】54（シエキ） ❶易の四種類。㋑孔子の四易。地易・人易・天易・鬼易。〔京氏易略〕孔子易有二四易一、一世二世爲二地易一、三世四世爲二人易一、五世六世爲二天易一、遊魂歸魂爲二鬼易一。㋺天地自然の易・伏羲の易・文王周公の易・孔子の易。〔小學紺珠、藝文類、四易〕有二天地自然之易一、有二伏羲之易一、有二文王周公之易一、有二孔子之易一、易本義。㋩伏羲易の先天・連山の天易・歸藏の地易・周易の人易。〔小學紺珠、藝文類、四易〕易有レ四、體一用三、伏羲先天、體也、連山天易・歸藏地易・周易人易、用也、張行成云。㋥漢の揚雄の太玄經・魏の關朗の洞極眞經・漢の魏伯陽の參同契・宋の邵雍の皇極經世書。〔小學紺珠、藝文類、四易〕易百有餘家、所レ可レ取者、古先天圖、揚雄太玄、關子明洞極、魏伯陽參同契、邵堯夫皇極經世而已、四家之學、皆兆二於先天圖一、鄭東卿云。❷（イシ）君子の道の平易な四つの點。簡にして用ひ易いこと、要にして守り易いこと、炳として見易いこと、法にして言ひ易いことの四つ。〔法言、吾子〕君子之道有二四易一、簡而易レ用也、要而易レ守也、炳而易レ見也、法而易レ言也。

【四益】55（シエキ） 四つの有益なもの。卽ち益言・益事・益文・益友。〔小學紺珠、性理類、四益〕無益之言勿レ聽、無益之事勿レ爲、無益之文勿レ觀、無益之友勿レ親。

【四葉】56（シエフ） ❶四枚の葉。〔宋史、五行志二上〕慶元五年八月、太室西比夾室楹、生二白芝四葉一。❷四代。葉は世代。〔宋書、禮志三〕大業之隆、重光四葉、不レ覊之寇、二世而平。〔南齊書、禮志上〕魏氏之初、親廟止二乎四葉一、吳蜀享祭、失レ禮已多。

【四葉菜】57（シエフサイ） 水草の名。浮草の一種。又、菖蒲の類ともいひ、菰に似たものともいふ。田字草。勝見。〔本草、蘋〕釋名、芣菜、四葉菜、田字草。

【四筵】58（シエン） 四方の坐席。一坐。滿坐。〔謝瞻、九日從二宋公戲馬臺集一送二孔令一詩〕四筵霑二芳醴一、中堂起二絲桐一。〔注〕向曰、四筵、四坐也。〔李白、江夏贈二韋南陵冰一詩〕玉簫金管喧二四筵一、苦心不レ得レ申二長句一。〔杜甫、飮中八仙歌〕焦遂五斗方卓然、高談雄辯驚二四筵一。

【四緣】59（シエン） [佛]❶因緣・等無間緣・所緣緣・增上緣をいふ。各項を見よ。❷人をして死に至らしめる助緣をいふ。〔歸元直指、上〕。

【四燕】60（シエン） 晉代、十六國中の前燕・後燕・北燕・南燕をいふ。〔晉書、目錄〕右晉十二世、十五帝、一百五十六年、中朝四帝、都二洛陽一、五十四年、江左十一帝、都二建康一、一百二年、有二五涼・四燕・三秦・二趙・夏蜀・十六國一、附二其書一、起二乙酉一盡二庚申一。

【四檐】61（シエン） 家の四方のひさし。四方の軒。〔白居易、題二西亭一詩〕四檐軒二鳥翅一、複屋羅二蜘蛛一。

【四簷】62（シエン） 四檐に同じ。〔薛能、秋雨詩〕簇聲諸樹密、縣滴四簷疎。〔張詠、雨夜詩〕四簷風雨滴㆓秋聲㆒、醉起重挑㆑背壁燈。〔賴山陽、本能寺詩〕茭粽在㆑手併㆑茭食、四簷梅雨天如㆑墨。

【四鹽】63（シエン） 四種の鹽。卽ち散鹽（海から取るもの）・盬鹽（鹽池からとるもの）・形鹽（地から掘りだすもの）・飴鹽（戎地から出るもの）をいふ。〔周禮、天官、鹽人〕祭祀共㆓其苦鹽散鹽㆒、賓客共㆓其形鹽散鹽㆒、王之膳羞共㆓飴鹽㆒。〔小學紺珠、器用類、四鹽〕散鹽煑㆑海成㆑之、盬鹽引㆑池化㆑之、形鹽掘㆑地出㆑之、飴鹽於㆑戎取㆑之。

【四苑】64（シヱン） 宋代の四つの苑。卽ち玉津苑・瓊林苑・瑞聖苑・宜春苑をいふ。〔小學紺珠、地理類、四苑〕玉津・瓊林・瑞聖・宜春。

【四援】65（シヱン） 四方の鄰國の援助。〔左氏、昭、二十三〕愼㆓其四竟㆒、結㆓其四援㆒。〔注〕結㆓四鄰之國㆒、爲㆓援助㆒。

【四遠】66（シヱン） 四方の遠く隔たつた土地。四遐。〔春秋、僖、十六、杜注〕見㆔星之隕而墜㆓於四遠㆒。〔後漢書、張酺傳〕作㆑色大言、怨㆓讓使臣㆒、不㆑可㆔以示㆓四遠㆒。〔論衡、超奇〕珍物產㆓於四遠㆒。〔蜀志、秦宓傳〕處士任安、仁義直道、流㆓名四遠㆒。〔南史、劉穆之傳〕此雖㆓小事㆒、然宣㆓布四遠㆒。

【四屋】67（シヲク） 四方の屋根。又、家の周圍。〔梁簡文帝、答㆓湘東王㆒書〕高㆓臥六安㆒、每思㆓扁鵲之問㆒、靜㆓然四屋㆒、念㆑絕㆓修都之香㆒。〔張協、雜詩〕青苔依㆓空牆㆒、蜘蛛網㆓四屋㆒。〔梁昭明太子、相逢狹路間詩〕輕幰委㆓四屋㆒、蘭膏然㆓百枝㆒。〔李白、長門怨〕桂殿長愁不㆑記㆑春、黃金四屋起㆓秋塵㆒。

【四音】68（シオン） ❶四種の音樂。〔馮熙載、元宵應制詩〕四音促㆑柱泛㆓笙簫㆒、應㆑有㆔翔鸞落㆓千仞㆒。❷平上去入の四つの音。四聲。〔丹鉛總錄〕空字有㆓四音㆒、平聲音枯、枯公切、云云、上聲音孔、云云、去聲音控、云云、入聲音窟、云云。❸四種の發音。喉音・脣音・顎音・舌音。

【四恩】69（シオン） 〘佛〙四種の恩。❶施恩の四つ。布施・慈愛・化導・共歡。〔般泥洹經、下〕務行㆓四恩㆒、以綏㆓衆心㆒、何等四、一當㆔布施給㆓護不足㆒、二當㆓仁愛視㆑民如㆑子、三當㆔利㆑人化以㆓善政㆒、四當㆓同㆑利與㆑下共歡㆒。❷知恩の四。父母の恩・師長の恩・國王の恩・施主の恩。又、父母の恩・衆生の恩・國王の恩、三寶の恩。〔釋氏要覽〕恩有㆑四焉、一父母恩、二師長恩、三國王恩、四施主恩、大乘本生心地觀經、佛言、世間恩有㆓四種㆒、一父母恩、二衆生恩、三國王恩、四三寶恩、如㆑是四恩、一切衆生平等荷負。〔日本外史、源氏前記、平氏〕重盛聞㆑之、世有㆓四恩㆒、皇恩爲㆑最。

【四下】70（シカ） ❶馬の四蹄。〔吳子、治兵〕刻㆓剔毛鬣㆒、謹落㆓四下㆒、戢㆓其耳目㆒、無㆑令㆓驚駭㆒。❷四方に垂れる。四方に下がる。〔漢書、禮樂志、照紫幄、注〕師古曰、帳上四下而覆曰㆑幄。〔唐書、吐蕃傳下〕三山中高而四下曰㆓紫山㆒。

【四下里】71 ssŭ^4 hsia^4 li^3 四方。ぐるり。〔水滸傳、四十八回〕宋江在馬上看時、四下里都有埋伏軍馬。

【四可】72（シカ） 四つのなすべきもの。卽ち行（勉むべきもの）・言（信ずべきもの）・命（委すべきもの）・天（記すべきもの）。〔小學紺珠、性理類、四可〕可㆑勉者行、可㆑信者言、可㆑委者命、可㆑記者天、康節邵先生四可吟。

【四河】73（シカ） 宋の都、大梁に通じてゐる汴河・黃河・惠民河・廣濟河の四つの河。〔宋史、食貨志上三〕宋都大梁、有㆓四河㆒、以通㆓漕運㆒、曰汴河、曰黃河、曰惠民河、曰廣濟河、而汴河所㆑漕爲㆑多。

【四家】74（シカ） ❶四人の大家。㋑易の施氏・孟氏・梁丘氏・京氏。〔後漢書、儒林傳序〕施・孟・梁丘・京氏四家、皆立㆓博士㆒、費高二家未㆑得㆑立。㋺詩の齊・魯・韓・毛の四家。四詩（340）の❶を見よ。㋩曆法の傅仁均・李淳風・南宮說・一行。〔舊唐書、曆志一〕前史取㆓傅仁均・李淳風・南宮說・一行四家曆經㆒、爲㆓曆志四卷㆒。㋥唐代、八分を能くした韓擇木・史惟・李潮・蔡有鄰。〔集古錄〕唐世名㆘能㆓八分㆒者㆖有㆓四家㆒、韓擇木・史惟、則世傳頗多、而李潮及蔡有鄰、特爲㆑難㆑得。㋭宋代、書道の四大家、蘇軾・黃庭堅・蔡襄・米芾。四大家。〔匏翁家藏集、評書〕朱文公論㆓當時名書㆒、獨推㆔君謨書有㆓典刑㆒、而謂㆔黃米書有㆓敧傾狂怪之勢㆒、故世俗甲乙、曰㆓蘇黃米蔡㆒者、非㆓公論㆒也、沈啓南得㆓此四書㆒列㆑之、深合㆓文公之意㆒、遂定曰㆓蔡蘇米黃㆒。㋬元の詞曲の四大家、關漢卿・馬致遠・鄭光祖・白樸。㋣元の畫家、黃公望・王蒙・倪瓚・吳鎭。〔顧凝遠、元人畫評、四大家目〕倪瓚・吳仲圭・黃公望・王蒙。㋠明の詩文家、顧璘・陳沂・王韋・朱應登。〔明史、顧璘傳〕初璘與㆓同里陳沂王韋㆒號㆓金陵三俊㆒、其後寶應朱應登繼起、稱㆓四大家㆒。㋷明の畫家、沈周・文徵明・唐寅・仇英。〔顧凝遠、國朝畫評、士大夫名家匠〕沈周・文徵明・唐寅・周用・劉珏・仇英。㋦清の楚南の文學者、攸縣の陳之駓、邵陽の車无咎・王元復、衡陽の王敔。❷四軒の家。四戶。〔舊唐書、食貨志上〕四家爲㆑鄰、五家爲㆑保。

【四家子】75（シカシ） 地名。❶滿洲吉林省濱江縣の東南。民國八年、開放して商場とした。❷滿洲遼寧省法庫縣の西南。炭礦がある。❸滿洲熱河省凌源縣の東北。一名、四家兒。

【四家詩異文考】76（シカシイブンカウ） 書名。五卷。清、陳喬樅撰。詩經の齊・魯・韓・毛の四家につき、異文を輯めて考證したもの。〔皇清經解續編、第二百五十八—二百六十三冊〕。

【四遐】77（シカ） 四方の極遠の地。四遠。〔陸機、吳趨行〕王迹隤㆓陽九㆒、帝功興㆓四遐㆒。〔鮑照、河淸頌〕垂㆓光九野㆒、騰㆓響四遐㆒。〔梁沿、晴望㆓長春宮㆒賦〕樽節三代、光宅四遐。

【四峨】78（シガ） 山名。四川省峨眉縣の大峨眉山の北。一名、花山。或は水經注の武陽龍尾山なりともいふ。印宗禪師の錫を止めた所で、山に圓通寺がある。

【四戒】79（シカイ） 四種のいましめ。❶傲は長ずべからず、欲は縱にすべからず、志は滿すべからず、樂は極むべからず。四箴。〔禮、曲禮上〕敖不㆑可㆑長、欲不㆑可㆑從、志不㆑可㆑滿、樂不㆑可㆑極。〔注〕四者慢遊之道、桀紂所㆓以自禍㆒。❷酒・美味・美色・高臺陂池。〔小學紺珠、儆戒類、四戒〕酒・味・色・高臺陂池、戰國策魯君言。❸德を務めること、言を愼むこと、佞を遠ざけること、姦を防ぐこと。〔魏書、封軌傳〕乃爲㆓務㆑德、愼㆑言、遠㆑佞、防㆑姦四戒㆒。〔小學紺珠、儆戒類、四戒〕務德・愼言・遠佞・防姦。❹〘佛〙解脫戒（戒師から戒を受けて身口の惡業を解脫するもの）・定共戒（色界四禪の定に入れば身は自ら戒體を生じて止惡防非の能力を生ずるもの）・道共戒（見道以上に於て無漏道と共に防非止惡の戒體を生ずるもの）・斷戒（貪瞋痴等を斷じて道果を成ずるもの）。〔華嚴孔目章〕。

【四戒壇】80（シカイダン） 我が國に於ける戒を授ける四箇所の式場。奈良の東大寺・下野の藥師寺・筑紫の觀世音寺・叡山の延曆寺をいふ。

【四界】81（シカイ） ❶四つの世界。天界・地界・水界・陽界。〔羣書拾唾〕四界、天界・地界・水界・陽界、按、佛經中無㆓陽界㆒、止稱㆓三界㆒。❷〘佛〙地・水・火・風の四大をいふ。界は本性の意、四者夫々別々の本性を有してゐるからいふ。〔俱舍論、一〕大種謂㆓四界㆒、卽地水火風。

【四界限】82（シカイゲン） 地球上の四つの大きなくぎり。大東洋・小東洋・大西洋・小西洋をいふ。〔和漢三才圖會、地理、地〕地球、本圓如㆓彈丸㆒、無㆑端、然自㆓南北㆒縱有㆓四界限㆒、日本國乃小東洋之界、而亞細亞之東極也。

【四界祭】83（シカイノマツリ） 我が國で、古、平安京の四方の境界で、天下に疫あるとき行はれた疫神祭。四堺祭。〔西宮記、臨時〕臨時四界祭、陰陽寮向㆓四界㆒祭、以㆓藏人所人㆒爲㆑使、云云、已上天下有㆑疫之時、陰陽寮進㆓支度㆒。

【四海】84（シカイ） ❶四方の海。四溟。〔漢高帝、鴻鵠歌〕鴻鵠高飛、一擧千里、羽翼已就、横㆓絕四海㆒。〔應瑒、別詩〕朝雲浮㆓四海㆒、日暮歸㆓故山㆒。〔陸雲、答㆓孫顯世㆒詩〕百川總㆑紀、四海合㆑源。❷四方のうみの內。天下。四宇。〔書、禹貢〕四海會同。〔書、武成〕大賚㆓于四海㆒、而萬姓悅服。〔詩、商頌、玄鳥〕四海來假、來假祁祁。〔論語、顏淵〕四海之內、皆兄弟也。〔楚辭、九歌〕覽㆓冀州㆒兮有㆑餘、横㆓四海㆒兮焉窮。〔楚辭、劉向、九歎、遠逝〕周流覽㆓於四海㆒兮、志升降以高馳。❸東海・西海・南海・北海。〔禮、祭義〕曾子曰、夫孝置㆑之而塞㆓乎天地㆒、溥㆑之而横㆓乎四海㆒、云云、推而放㆓諸東海㆒而準、推而放㆓諸西海㆒而準、推而放㆓諸南海㆒而準、推而放㆓諸北海㆒而準。〔小學紺珠、地理類、四海〕東海（徐揚、神勾芒）・西海（西域、神蓐收）・南海（交廣、神祝融）・北海（青蒼、神顓頊）、太公金匱・

禮記祭義。㊃北方幽陵・南方交趾・西方流沙・東方蟠木。〔大戴禮、五帝德〕乘レ龍而至二四海一、北至二于幽陵一、南至二于交趾一、西濟二于流沙一、東至二于蟠木一。㊄西の流沙・南の衡山・東の東海・北の恆山。〔禮、王制〕西不レ盡二流沙一、南不レ盡二衡山一、東不レ盡二東海一、北不レ盡二恆山一、凡四海之內、斷レ長補レ短、方三千里。㊅四方のえびす。九夷・八狄・七戎・六蠻。〔爾雅、釋地〕九夷・八狄・七戎・六蠻、謂二之四海一。〔詩、小雅、蓼蕭序〕蓼蕭、澤及二四海一也。〔箋〕九夷・八狄・七戎・六蠻、謂二之四海一。〔博物志、地〕七戎・六蠻・九夷・八狄、形類不レ同、總而言レ之、謂二之四海一、言三皆近二于海一也。㊆人體に有る四つの海。髓海・血海・氣海・水穀之海。〔靈樞經、海論〕岐伯答曰、人亦有二四海十二經水一、經水者皆注二于海一、海有二東西南北一、命曰二四海一。黃帝曰、以レ人應レ之奈何。岐伯曰、人有二髓海一、有二血海一、有二氣海一、有二水穀之海一、凡此四者、以應二四海一也。㊇ ssŭ^4 hai^3 事に拘泥せぬ。世馴れた。

【四海波】85 シカイナミ 謠曲、高砂の一節。四海靜謐の祝意を述べた歌。祝賀の席で謠ふ。〔謠曲、高砂〕四海波靜かにて、國も治る時つ風、云云、君の惠ぞありがたきありがたき。

【四海冶】86 シカイヤ 地名。河北省延慶縣の東、永寧城の東。もと冶鑄した所。四水が合流するので四合冶といひ、後、誤って四海冶といふ。明の天順の閒、堡を築いて戍を置く。〔讀史方輿紀要、直隸、延慶州、永寧縣〕四海冶堡、縣東一百里、元時往二來上都一、恆取二道於此一、明天順八年、創築二城堡一、周三里有奇、與二靖狐等堡一爲二宣府東路之衝一。

【四海碗】87 ssŭ^4 hai^2 wan^3 四種の中華料理。紅燒魚翅・黃燜鴨子・紅燒鯉魚・八寶果羹。

【四海爲レ家】88 シカイヲイヘトナス ㊀天下を己が一家となす。帝業の宏大をいふ。〔史記、高祖紀〕且夫天子以二四海一爲レ家。〔劉禹錫、西塞山懷古詩〕今逢二四海爲レ家日一、故壘蕭蕭蘆荻秋。㊁天下何れの所にも家があること。轉じて、漂泊して定まった住所のないこと。〔陳諷、連理樹賦〕四海爲レ家、豈必移二根於上苑一。

【四海兄弟】89 シカイケイテイ 天下の人は皆兄弟のやうに親しい。四海同胞。〔論語、顏淵〕司馬牛憂曰、人皆有二兄弟一、我獨亡、子夏曰、商聞レ之矣、死生有レ命、富貴在レ天、君子敬而無レ失、與レ人恭而有レ禮、四海之內、皆兄弟也、君子何患三乎無二兄弟一也。〔顏氏家訓、風操〕四海之人、結爲二兄弟一。

【四海困窮】90 シカイコンキュウ 天下の人民が困苦窮迫する。〔書、大禹謨〕四海困窮、天祿永終。〔論語、堯曰〕堯曰、咨爾舜、天之曆數在二爾躬一、允執二其中一、四海困窮、天祿永終。

【四海之外】91 シカイノソト 四方の海の外。此の世の外。別世界。〔莊子、齊物論〕騎二日月一而遊二乎四海之外一。

【四海之主】92 シカイノシュ 天下のあるじ。天子をいふ。〔宋史、陳摶傳〕陛下爲二四海之主一、當二以レ致レ治爲レ念。

【四海之尊】93 シカイノソン 天子の位を尊んでいふ。〔梁簡文帝、悔賦〕秦兼二四海之尊一、握二天下之富一。

【四海之內】94 シカイノウチ 海內。國內。天下。〔禮、王制〕四海之內、九州、州方千里。〔中庸〕尊爲二天子一、富有二四海之內一。〔孟子、滕文公下〕苟行二王政一、四海之內、皆擧レ首而望レ之。

【四海承レ風】95 シカイフウヲウク 天下が其の教化を受ける。〔孔子家語、好生〕舜之爲レ君也、其政好レ生而惡レ殺、云云、是以四海承レ風。

【四海同胞】96 シカイドウハウ シカイドウバウ 四海兄弟(89)に同じ。

【四海波靜】97 シカイナミシヅカ 風波が治まって天下の泰平なこと。〔楊萬里、文〕六合塵清、四海波靜。

【四海脾氣】98 ssŭ^4 hai^3 p'i^2 ch'i^4 八方美人主義。世馴れて圓滿な性質。

【四海龍王】99 シカイリュウワウ 東西南北四海の神龍をいふ。〔道經〕十月二日、四海龍王、奏二水府一爲二龍聚日一。

【奄二有四海一】100 シカイヲエンイウス あまねく天下を保有する。〔書、大禹謨〕益曰、都、帝德廣運、乃聖乃神、乃武乃文、皇天眷命、奄二有四海一、爲二天下君一。

【四海一家天曆數】101 シカイイッカテンノレキスウ 天命が定まり天下を統一して王者となること。〔陸游、感憤詩〕今皇神武是周宣、誰賦南征北伐篇、四海一家天曆數、兩河百郡宋山川、諸公尙守和親策、志士虛捐少壯年、京洛雪消春又動、永昌陵上草芊芊。

【四海安危居二掌內一、百王治亂懸二心中一】102 シカイノアンキシャウナイニヲリヒャクワウノチランシンチュウニカカル 天下四海の安危は掌中に握ってをり、古今帝王の治亂は心の中に明かに心得て居る。卽ち人言をよく聽いて、これを鏡として自己反省をする意を述べた語。倭漢朗詠集は、帝王部に載せて、四海安危照二掌中一、百王理亂懸二心中一に作る。〔白居易、百鍊鏡詩〕太宗常以レ人爲レ鏡、鑑レ古鑑レ今不レ鑑レ容、四海安危居二掌內一、百王治亂懸二心中一、乃知天子別有レ鏡、不三是揚州百鍊銅一。

【四開】103 ssŭ^4 k'ai^1 我が國の菊判程の大きさの本。縱二十二センチ、橫十五センチの寸法の本。四開本。

【四解】104 シカイ 四方に行きわたる。四達(562)に同じ。〔莊子、秋水〕奭然四解、淪二于不測一。〔口義〕四解、四達也。

【四誡】105 シカイ 四箇條のをしへ。四戒。〔後漢書、秦彭傳〕乃爲レ人設二四誡一、以定二六親長幼之禮一。

【四害】106 シガイ 明の張龍・倪天民・陳逵・孫清の四人。共に貪殘を務めたので時人が呼んだもの。〔明外史、寧杲傳〕有二京師人張龍者一、遷二登州知府一、時山西左布政倪天民・右布政陳逵・右參議孫清、與レ龍並務二貪殘一、天下目爲二四害一。

【四向】107 シカウ ㊀四方に向く。又、東・西・南・北。〔南齊書、孔稚珪傳〕四向朝拜、涕泗滂沲。〔唐書、韓愈傳〕執レ兵之卒、四向侵掠。㊁〔佛〕四果に向ふ行位をいふ。卽ち、須陀洹向(Srotaāpatti)・斯陀含向(Sakṛdāgāmi)・阿那含向(Anāgāmi)・阿羅漢向(Arhat)の四者をいふ。〔俱舍論、二十四〕總成二八聖補特伽羅一、行レ向住レ果、各有レ四故。〔王僧孺、懺悔禮佛文〕四向四果、八賢八聖。

【四行】108 シカウ ㊀四種の行爲。㋑孝・忠・信・悌。〔呂覽、正名〕尹文曰、今有レ人二於此一、事レ親則孝、事レ君則忠、交レ友則信、居レ鄉則悌、有二此四行一者、可レ謂二士一乎。㋺孝・弟・忠・順。〔禮、冠義〕責二成人禮一焉者、將レ責下爲二人子一、爲二人弟一、爲二人臣一、爲二人少一者之禮行上焉、將レ責二四者之行於人一、其禮可レ不レ重與、故孝弟忠順之行立、而后可二以爲レ人一。〔小學紺珠、人倫類、四行〕爲二人子一孝、爲二人弟一弟、爲二人臣一忠、爲二人少一順。㋩忠・孝・信・順。〔小學紺珠、人倫類、四行〕事レ君忠、事レ親孝、交レ友信、處レ鄉順、孔叢子。㋥君、君たらず、臣、臣たらず、父、父たらず、子、子たらざる四つの惡行。〔史記、太史公自序〕君不レ君則犯、臣不レ臣則誅、父不レ父則無道、子不レ子則不孝、此四行、天下之大過也。㋭女の四行。婦德・婦言・婦容・婦功。四教。〔女誡、婦行〕女有二四行一、一曰婦德、二曰婦言、三曰婦容、四曰婦功。㊁漢代、擧士の四つの科目。㋑質樸・敦厚・遜讓・節儉。〔漢書、何武傳〕光祿勳擧二四行一。〔注〕師古曰、元帝永光元年、詔擧二質樸・敦厚・遜讓・有行義各一人一、時詔書、又令二光祿一歲以二此科一第二郎從官一、故武以二此四行一得レ擧レ之也。〔後漢書、吳祐傳〕祐以二光祿四行一遷二膠東侯相一。〔注〕漢官儀曰、四行、敦厚・質樸・遜讓・節儉也。㋺德行・言語・政事・文學。〔漢書、王莽傳中〕復令三公卿大夫、諸侯二千石、擧二四行各一人一。〔注〕師古曰、依二漢光祿之四科一。劉奉世曰、四科蓋前已擧二德行・言語・政事・文學一、今復令レ擧レ之、非二光祿四行一。

【四行準備庫】109 ssŭ^4 hang^2 chuen^3 pei^4 k'u^4 上海の鹽業・金城・中南・大陸の四銀行の聯合組織になる共同の準備金庫。

【四更】110 シカウ 夜間を五更に分けた其の第四、卽ち、午前二時。丁夜。〔伏知道、從軍五更轉詩〕四更星漢低、落月與レ雲齊。〔杜甫、月詩〕四更山吐レ月、殘夜水明レ樓。

【四郊】111 シカウ 都の外まはりの原野。城外四圍の五十支里から百支里に至る地。〔詩、鄘風、野有蔓草、傳〕野、四郊之外。〔周禮、天官、大府〕四郊之賦、以待二稍秣一。〔周禮、秋官、遂士〕掌二四郊一。〔禮、曲禮上〕四郊多レ壘。〔疏〕四郊者、王城四面並有レ郊、近郊五十里、遠郊百里、諸侯亦各有二四面之郊一、里數隨二地廣狹一、故云二四郊一也。

【四郊多レ壘】112 シカウルイオホシ 國家に兵亂治まらず、四方の郊外に軍壘が多い。〔禮、曲禮上〕四郊多レ壘、此卿大夫之辱也。〔世說新語、言語中〕王謂レ謝曰、今四郊多レ壘、宜二人人自效一、而虛談廢レ務、

浮文妨㆑要、恐非㆓當今所㆒㆑宜。

【四香】113 シカウ 清、李鋭（**6**－**14459**‥58）の字。

【四香閣】114 シカウカク ❶唐、楊國忠が香木を用ひて建てた殿閣の名。〔開元天寶遺事、四香閣〕（楊國忠又用㆓沉香㆒爲㆑閣、栴香爲㆑欄、以㆓麝香・乳香篩土㆒和爲㆑泥、飾㆓閣壁㆒。❷室名。㋑唐、楊國忠（**6**－**15112**‥536）の室名。㋺清、劉元熙（**2**－**2224**‥881）の室名。

【四香樓】115 シカウロウ 清、范纘（**9**－**30834**‥40）の室名。

【四桁】116 シカウ 晉代に設けた丹陽・竹格・朱雀・驃騎の四つの浮橋。桁は航で、浮橋をいふ。〔晉書、孝武帝紀〕寧康元年三月癸丑、詔除㆓丹陽・竹格等、四桁稅㆒。〔小學紺珠、制度類、四桁〕丹陽・竹格・朱雀・驃騎。

【四皓】117 シカウ ❶秦漢の際、商山に隱れて居た四人の老人、東園公・綺里季・夏黃公・甪里先生。鬚眉が皓白であつたから皓といふ。四老。〔史記、留侯世家〕天下有㆓四人㆒。〔注〕索隱曰、四人、四皓也。〔漢書、王貢等傳序〕漢興有㆓園公・綺里季・夏黃公・甪里先生㆒、此四人者、當㆓秦之世㆒、避而入㆓商雒深山㆒、以待㆓天下之定㆒也。〔注〕師古曰、四皓稱號、本起㆓於此㆒、更無㆓姓名可㆒㆑稱、知此蓋隱居之人、匿㆑跡遠㆑害、不㆓自標顯㆒、祕㆓其氏族㆒、故史傳無㆓得而詳㆒。〔揚雄、解嘲〕四皓采㆓榮於南山㆒。〔注〕善曰、四皓、史記張良世家、高祖欲㆑易㆓天子㆒、留侯曰、顧上有㆓不㆑能㆑致者㆒、天下有㆓四人㆒、逃㆓匿山中㆒、於㆑是卑㆑辭厚㆑禮、迎㆓此四人㆒、太子侍、四人從、年皆八十有餘、鬚眉皓白、衣冠甚偉、上恠㆑之問、各言㆓名姓㆒、曰、東園公・甪里先生・綺里季・夏黃公。〔小學紺珠、名臣類下、四皓〕園公・綺里季・夏黃公・甪里先生。❷南齊の徐伯珍の兄弟四人。皆白首であつたからいふ。〔南齊書、徐伯珍傳〕家甚貧窶、兄弟四人皆白首相對、時人呼爲㆓四皓㆒。

【四膏】118 シカウ 四種の膏。牛膏・犬膏・鷄膏・羊膏。〔禮、內則〕春宜㆓羔豚㆒、膳㆓膏薌㆒、夏宜㆓腒鱐㆒、膳㆓膏臊㆒、秋宜㆓犢麛㆒、膳㆓膏腥㆒、冬宜㆓鮮羽㆒、膳㆓膏羶㆒。〔張衡、東京賦〕升㆓獻六禽㆒、時膳㆓四膏㆒。〔注〕綜曰、四膏者、禮記曰、牛膏香・犬膏臊・雞膏腥・羊膏羶。

【四豪】119 シガウ 戰國時代の齊の孟嘗君・趙の平原君・魏の信陵君・楚の春申君。四君（215）の❷に同じ。〔漢書、游俠傳序〕列國公子、魏有㆓信陵㆒、趙有㆓平原㆒、齊有㆓孟嘗㆒、楚有㆓春申㆒、顯㆓名天下㆒、搤攬而游談者、以㆓四豪㆒爲㆓稱首㆒。〔小學紺珠、名臣類上、四豪〕齊孟嘗君田文・魏信陵君公子無忌・趙平原君趙勝・楚春申君黃歇。

【四角】120 シカク ❶四方のすみ。よすみ。四隅。〔禮、檀弓上〕蟻㆓結于四隅㆒。〔注〕畫㆓褚之四角㆒、其文如㆓蟻往來相交錯㆒。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕青雀白鵠舫、四角龍子幡。❷匈奴單于の子弟で、將來單于となるべき四人の大臣。左賢王・左谷蠡王・右賢王・右谷蠡王。四角胡王。〔後漢書、南匈奴傳〕其大臣貴者、左賢王、次左谷蠡王、次右賢王、次右谷蠡王、謂㆓之四角㆒。❸四本のつの。〔山海經、中山經〕蒼山之首、曰㆓敖岸之山㆒、有㆑獸焉、其狀如㆓白鹿㆒而四角、名曰㆓夫諸㆒。〔郭璞、土螻獸贊〕土螻食㆑人、四角似㆑羊。〔宋書、五行志二〕太康七年十一月丙辰、四角獸見㆓於河間㆒、河間王顒獲以獻。❹山名。㋑山西省平定縣の西南。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、平定州、綿山〕四角山、在㆓州西南三十里㆒、其勢四起、下出㆓三泉㆒。㋺甘肅省禮縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、秦州、禮縣〕四角山、在㆓縣東北十里㆒、以㆘山分㆓四向㆒截然挺峙㆖而名。❺川の名。河北省任丘縣の西北に發し、趙北口に至つて清河門となり、柴禾淀より玉帶河に入る。❻四本の直線で圍んだ形。方形。正方形。

【四角祭】121 シカクノマツリ 古、宮城の四隅で行はれた疫神の祭。〔西宮記、臨時、四〕臨時御願、云云、四角祭、陰陽寮向㆓宮城四角㆒祭。

【四角胡王】122 シカクコワウ 匈奴の左賢王・左谷蠡王・右賢王・右谷蠡王。四角の❷に同じ。〔桂氏繆篆分韻〕後漢南匈奴傳、其大臣貴者、左賢王、次左谷蠡王、次右賢王、次右谷蠡王、謂㆓之四角㆒、次左右日逐王、次左右溫禺鞮王、次左右斬將王、是爲㆓六角㆒、皆單于子弟、次第當㆑爲㆓單于㆒者也。

【四角四面】123 シカクシメン ❶方形。四角。❷極めて嚴重なこと、又、堅くるしい態度をいふ。

【四角八面】124 シカクハチメン 向ひあたるすべての方面。四方八方。

【四角四堺祭】125 シカクシカイノマツリ 一名、四角四堺鬼氣祭。四角四境祭に同じ。〔朝野羣載、陰陽道〕四角四堺祭使等歷名、右辨官下㆓山城國㆒、和邇堺、云云、會坂堺、云云、大枝堺、云云、山崎堺、云云、天曆六年六月二十三日。

【四角四境祭】126 シカクシキヤウサイ ❶病人の家の四隅と國の四境とで疫神を祭ること。〔東鑑〕被㆑行㆓四角四境祭㆒。❷每年朝廷で六月三十日に行はれた鎭火祭・道饗祭をいふ。〔公事根源〕。

【四格】127 シカク ❶清代、京察に於て人物を擧げる時の四つの標準。守（品行）・才（才能）・政（政務）・年（年齡）。〔清會典、吏部〕乃定㆓四格㆒、一曰守、二曰才、三曰政、四曰年、以別㆓其等㆒而送㆑部。〔清國行政法汎論、官吏分限、京察〕京察效果、在㆑明㆓四格六法㆒、四格者、謂㆓守才政年㆒也、守乃有㆑清有㆑謹有㆑平、才乃有㆑長有㆑平、政乃有㆑勤有㆑平、年乃有㆑青有㆑壯有㆑健。❷四つの格子。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕鐵包釘牢固中分㆓四格㆒、格分㆓四里㆒。

【四岳】128 シガク ❶帝堯の時、四岳の諸侯の事を分掌した羲和の四子。羲仲・羲叔・和仲・和叔。一說に官名で、一人で四岳の諸侯を總べるもの。〔書、堯典〕帝曰、咨㆓四岳㆒。〔傳〕四岳、卽上羲和之四子、分㆓掌四岳之諸侯㆒、故稱焉。〔蔡傳〕四岳、官名、一人而總㆓四岳諸侯之事㆒也。〔史記、五帝紀、堯又曰、嗟四嶽、注〕鄭玄曰、四岳、四時官、主㆓方嶽之事㆒。❷四嶽（131）の❶❷に同じ。

【四學】129 シガク 四つの學校。❶周學・殷學・夏學・虞學の四代の學校。〔禮、祭義〕天子設㆓四學㆒。〔疏〕謂㆑設㆓四代之學㆒、周學也、殷學也、夏學也、虞學也。❷六朝宋の文帝の時に設けた儒學・玄學・史學・文學の四校。〔宋書、雷次宗傳〕元嘉十五年、徵㆓次宗㆒至㆓京師㆒、開㆓館於雞籠山㆒、聚㆑徒教授、置㆓生百餘人㆒、會稽朱膺之・潁川庾蔚之、幷以㆓儒學㆒監㆓總諸生㆒、時國子學未㆑立、上留㆓心蓺術㆒、使㆘丹陽尹何尚之立㆓玄學㆒、太子率更令何承天立㆓史學㆒、司徒參軍謝玄立㆗文學㆖、凡四學幷建。〔小學紺珠、制度類、四學〕儒學雷次宗・玄學何尚之・史學何承天・文學謝元、宋文帝四學。❸朝鮮、京城の東西南中の四區に設けられた四つの學堂。〔李退溪、啓蒙篇〕李退溪諭㆓四學諸生㆒。

【四學士】130 シガクシ 宋の蘇軾と交游のあつた四人の學士。黃庭堅・秦觀・張耒・晁補之。〔小學紺珠、名臣類下、四學士〕黃庭堅・秦觀・張耒・晁補之、皆游㆓蘇軾之門㆒。

【四嶽】131 シガク ❶四方の大山。東嶽は泰山、西嶽は華山、南嶽は衡山、北嶽は恒山。古、天子が四方に巡狩し、此の四嶽の下で諸侯を召見した。〔左氏、昭、四〕四嶽三塗。〔注〕東嶽岱、西嶽華、南嶽衡、北嶽恒。〔漢書、郊祀志上〕嵩高爲㆓中嶽㆒、而四嶽各如㆓其方㆒。❷四方の諸侯、又、地方長官。〔詩、大雅、崧高〕崧高維嶽。〔箋〕四嶽、卿士之官、掌㆓四時㆒者也、因主㆓方嶽巡守之事㆒、在㆓堯時㆒姜姓爲㆑之。〔史記、五帝紀〕堯又曰、嗟四嶽。〔注〕集解曰、鄭玄曰、四嶽、四時官、主㆓方嶽之事㆒。〔史記、五帝紀〕堯曰、嗟四嶽。〔注〕集解曰、鄭玄曰、言汝諸侯之中、有㆘能順㆑事用㆓天命㆒者、入處㆓我位㆒、統㆓治天子之事㆒者㆖乎。

【四合】132 シガフ ❶四つが合はさる。四方から合する。〔漢書、兒寬傳〕神樂四合、各有㆓方象㆒。❷四方をめぐる。あつまりからむ。とりかこむ。〔班固、西都賦〕紅塵四合、烟雲相連。〔潘岳、藉田賦〕黃塵爲㆑之四合兮、陽光爲㆑之潛翳。〔華山記〕華山高峃四合、重嶺秀起。

【四合雲】133 シガフウン 婦人の服。胸に雲の四つ集まつた模樣のあるもの。〔朝市叢載〕而今都已翻㆓新樣㆒、蝴蝶鑲邊四合雲。

【四合頂】134 シガフチヤウ 地名。滿洲遼寧省長白縣の西、鴨綠江の北。南、朝鮮の境と對し、長白・臨江兩縣間の要地。

【四合房】135 ssŭ^{4} hê^{2} fang^{2} 中央に庭を圍んで、正房・東西廂房・倒座の四棟から成る家。

【四姦】136 シカン 四つの惡。聾（五聲の和を聞いても分らない）・味（五色の模樣を見ても區別できない）・頑（德義の道に從はない）・嚚（忠信の言葉をいはない）。〔左氏、僖、二十四〕耳不㆑聽㆓五聲之和㆒爲㆑聾、目不㆑別㆓五色之章㆒爲㆑味、心不㆑則㆓德義之經㆒爲㆑頑、口不㆑道㆓忠信之言㆒爲㆑嚚、狄皆則㆑之、四姦具矣。〔小學紺珠、儆戒類、四姦〕

聾・味・頑・嚚。

【四乾】137 ssŭ⁴ kan¹ 酒席に用ひる四種の乾かした果物。例へば、瓜の種・杏仁・榛の實・核桃（クルミ）の如きもの。

【四監】138 シカン 古代、山・澤・林・川を掌つた官。〔禮、月令〕乃命二四監一、收二秩薪柴一、以共二郊廟及百祀之薪燎一。〔注〕四監、主二山林川澤一之官也。

【四諫】139 シカン 直諫を以て名高い四人の諫官。❶宋、慶曆中の余靖・歐陽脩・蔡襄・王素。〔東軒筆錄〕慶曆中、余靖・歐陽脩・蔡襄・王素爲二諫官一、時謂二四諫一。❷宋、嘉熙中の曹豳・王萬・郭磊卿・徐清叟。〔宋史、曹豳傳〕召爲二左司諫一、與二王萬・郭磊卿・徐清叟一、俱負二直聲一、當時號二嘉熙四諫一。

【四韓】140 シカン 宋の韓綜・韓絳・韓維・韓縝の幷稱。〔小學紺珠、氏族類、四韓〕韓綜仲文・絳子華・維持國・縝玉汝。

【四忌】141 シキ 四つの忌むべきもの。一に書を著すには早きを忌む、二に事に處するには擾を忌む、三に朝に立つには巧を忌む、四に室に居るには好を忌む。〔曾鞏、後耳目志〕著レ書忌レ早、處レ事忌レ擾、立レ朝忌レ巧、居レ室忌レ好、作二四忌銘一、以致二吾老一。

【四季】142 シキ ❶四つの季節。春・夏・秋・冬。四時。四節。〔風俗通、皇霸〕黃者光也、厚也、中和之色德二四季一、與レ地同レ功、故先レ黃以別レ之也。〔張蠙、次韻和二友人冬月書齋一詩〕四季多二花木一、窮冬亦不レ凋。❷陰曆四時の末の月。卽ち春三月・夏六月・秋九月・冬十二月。〔中山傳信錄〕春秋四季、賜二袍掛衫褌一。〔品字箋〕俗曰二四時一爲二四季一、指二四時末月一。

【四季花】143 シキクワ 四季を代表する桃杏・蓮・菊・梅の四花を揃へて婦人の衣服の飾とすること。一年景。〔通俗編、草木、四季花〕老學菴筆記、靖康初、婦人衣上花備二四時一、桃杏與二荷花・菊花・梅花一、皆併爲二一景一、謂二之一年景一、按、今又謂二之四季花一。

【四季樹】144 ssŭ⁴ chi⁴ shu⁴ 常磐木。

【四季春】145 シキシユン 草花の名。金盞花。〔花疏、長春菊〕花之四季開者、蘭桂之外有二長春菊一、卽金盞花也。

【四季蕈】146 シキジン 茸の一種。〔菌譜、四季蕈〕生二林木中一、味甘而肌理麤峭、不レ入レ品。

【四季施】147 シキセ ❶江戸幕府から、正月・四月・五月・九月・十二月に同朋頭・數寄屋坊主等に時服を賜ふこと。又、其の時服。〔吏徵、上、御目見以上〕御同朋頭三人、御四季施、正月小袖一、上下、代金一兩二朱。❷主人から臣下奉公人に季節に應じて著物を與へること。又、その著物。

【四季竹】148 シキチク 竹の名。しきたけ。幹の高さ丈餘、直徑一寸位、色は淡綠で葉は細長い。小さいものは盆栽として賞玩すべく、幹は笛に作り、又、笛竹ともいふ。四時竹。〔直省志書、天台縣〕物產竹、有二黃石竹・方竹・篠竹・烟竹・釣絲竹・江南竹・佛面竹・四季竹一。

【四季拂】149 シキバラヒ 支拂金などを四季に分割して支拂ふこと。

【四季施代】150 シキセダイ 江戸幕府で正・四・五・十二月の四季に右筆・同朋等に給與する金。〔概席寶鑑、布衣以上大概順〕四百俵高、云云、金二拾四兩二分、御四季施代、奧御右筆組頭。

【四季屛風】151 シキノビヤウブ 清涼殿調度の屛風。四季十二箇月の風景を描き、それに歌を添へたもの。

【四氣】152 シキ ❶四時の氣候と四時の氣分。卽ち、春夏秋冬に於ける溫・熱・冷・寒の氣候と、之に對する喜・樂・怒・哀の氣分。〔禮、樂記〕奮二至德之光一、動二四氣之和一、以著二萬物之理一。〔疏〕動二四氣之和一者、謂感二動四時之氣一、序レ之和平、使二陰陽順序一也。〔漢書、五行志、下之上〕雨旱寒燠、亦以レ風爲レ本、四氣皆亂、故其罰常風也。〔春秋繁露、陽尊陰卑〕喜氣爲レ煖而當レ春、怒氣爲レ清而當レ秋、樂氣爲二太陽一而當レ夏、哀氣爲二太陰一而當レ冬、四氣者天與レ人所二同有一也。〔曹植、朔風詩〕四氣代謝、懸景運周。〔張華、勵志詩〕四氣鱗次、寒暑環周。〔梁簡文帝、上二菩提樹頌一啓〕八風調、四氣正、天下定、海外安。❷香の名。〔拾遺記、吳〕孫亮作二琉璃屛風一、甚薄而瑩澈、云云、常與二愛姬四人一、皆振古絕色、云云、爲二四人一合二四氣香一、云云、香氣沾レ衣、歷レ年彌盛、百浣不レ歇。

【四氣調神】153 シキテウシン 春夏秋冬の氣候に應じて、神氣を調節すること。四季の養生。〔素問、四氣調神大論〕夫四時陰陽者、萬物之根本也、所以聖人春夏養レ陽、秋冬養レ陰、以從二其根一。

【四起】154 シキ ❶四方に起る。〔李陵、答二蘇武一書〕吟嘯成レ羣、邊聲四起。〔宋史、楊存中傳〕宣和末、山東河北、羣盜四起。❷朝廷・祭祀・軍旅・喪紀の四つの場合に取るべき容儀態度。〔新書、容經〕容有二四起一、朝廷之容、師師然、翼翼然、整以敬、祭祀之容、遂遂然、粥粥然、敬以婉、軍旅之容、湢然肅然、固以猛、喪紀之容、怮然懾然、若レ不レ還。

【四喜】155 シキ 四つの喜。❶一に幽屛の城を出て百官の美を見るを得る喜、二に茅茨の陋室を捨てて閶闔の闥に登る喜、三に必ず恥ある容を以て穆穆の顏を見られる喜、四に檮杌の質を以て崇聖の訓を受けられる喜。〔曹植、入觀謝表〕臣得レ出二幽屛之城一、獲レ觀二百官之美一、此一喜也、背二茅茨之陋一、登二閶闔之闥一、此二喜也、必以二有レ靦之容一、瞻二見穆穆之顏一、此三喜也、將下以二檮杌之質一、稟中受崇聖之訓上、此四喜也。❷一に久旱に甘雨に逢ふ喜、二に他鄉で故知に遇ふ喜、三に洞房花燭の夜の喜、四に金榜に名を掛ける時の喜。〔通俗編、祝誦、四喜〕村塾課本有二四喜詩一、曰、久旱逢二甘雨一、他鄉遇二故知一、洞房花燭夜、金榜掛レ名時。

【四喜記】156 シキキ 明代、六十種曲の一つ。謝讜の作。宋郊・宋祁の兄弟が俱に榮顯する事を述ぶ。〔支那近世戲曲史〕。

【四喜班】157 シキハン 清代、演劇團體の名。四大徽班の一つ。崑曲を演ず。後、二黃調に壓倒せられて衰へた。〔支那近世戲曲史〕。

【四貴】158 シキ 四人の貴顯。❶秦の穰侯・華陽君・涇陽君・高陵君。〔戰國、秦策〕今太后擅行不レ顧、穰侯出レ使不レ報、涇陽華陽擊斷無レ諱、高陵進退不レ請、四貴備而國不レ危者未二三有一也。〔校注〕四貴者、穰侯・涇陽・華陽・高陵也。〔小學紺珠、氏族類、四貴〕穰侯・華陽君・涇陽君・高陵君。❷南朝宋、蒼梧王の時の蕭道成・袁粲・褚淵・劉秉。〔宋書、袁粲傳〕粲徙二尙書令一、與二齊王・褚淵・劉秉一、入直平二決萬機一、時謂二之四貴一。❸東魏の孫騰・司馬子如・高岳・高隆之。〔小學紺珠、氏族類〕孫騰・司馬子如・高岳・高隆之、東魏、鄴中謂二之四貴一。❹隋の揚雄・高熲・虞慶則・蘇威。〔隋書、觀德王雄傳〕雄時貴寵冠二絕一時一、與二高熲・虞慶則・蘇威一、稱爲二四貴一。

【四畿】159 シキ 四方の國境。王城を去る五百里を畿といふ。〔周禮、秋官、野盧氏〕掌下達二國道路一至中于四畿上。〔注〕去二王城一五百里曰レ畿。

【四器】160 シキ ❶聘禮に用ひる四つの器。圭・璋・璧・琮。〔儀禮、聘禮〕凡四器者、惟其所レ寶、以聘可也。〔注〕言、國獨以レ此爲レ寶也、四器、謂二圭・璋・璧・琮一。❷形を定めるに必要な四種の道具。規・矩・準・繩。

【四窺】161 シキ ヨモニウカガフ 四方から窺ふ。〔日本外史、源氏前記、平氏〕源行綱等、四二窺京師一。

【四諱】162 シキ 論衡の篇名。諱二西益宅一、諱二被刑一、諱二婦人乳子一、諱レ擧二正月五月子一の四諱について論じたもの。

【四簋】163 シキ 簋に盛つた四種の穀物。黍・稷・稻・粱。簋は食物を容れる瓦器。或は木製もあり、又、竹製もある。〔詩、秦風、權輿〕於レ我乎、每レ食四簋。〔傳〕四簋、黍・稷・稻・粱。〔集傳〕簋瓦器、容二十二升一、方曰レ簠、圓曰レ簋、簠盛二稻粱一、簋盛二黍稷一、四簋、禮食之盛也。〔禮、玉藻〕朔月少牢、五俎四簋。〔小學紺珠、器用類、四簋〕黍・稷・稻・粱。

【四蘷】164 シキ 四人の賢臣。蘷は木石の怪、龍に似たもの。舜の名臣にも蘷といふものがあつた。❶唐の崔造・韓會・盧東美・張正則。〔舊唐書、崔造傳〕崔造永泰中、與二韓會・盧東美・張正則一爲レ友、皆僑二居上元一、好談二經濟之略一、嘗以二王佐一自許、時人號爲二四蘷一。❷唐の何長師・李華・盧東美・韓衢。〔摭言〕何長師・李華・盧東美・韓衢、號二四蘷一。

【四義】165 シギ 義に適つた四つの行。❶一に障谷がない、二に粟を貯へない、三に樹子を易へない、四に妾を以て妻としない。〔管子、幼官〕八會二諸侯一、令曰、立二四義一而毋レ議者、尙二之于玄官一、聽二于三公一。〔注〕四義者、謂下無二障谷一、無レ貯レ粟、無レ易二樹子一、無中以レ妾爲上レ妻。❷一に國に便して兵をたのまず、二に主の爲にして身を顧みず、三に難を見て死を畏れず、四に疑を決して罪を避

けず。〔淮南子、兵略訓〕將者必有二三隧四義五行十守一、云云、所謂四義者、便レ國不レ負レ兵、爲レ主不レ顧レ身、見レ難不レ畏レ死、決レ疑不レ辟レ罪。

【四儀】166 シギ 四つの善い教。孝・悌・慈惠・忠恕。〔逸周書、寶典解〕一孝、孝子畏哉、乃不レ亂レ謀、二悌、悌乃知レ序、序乃倫、倫不レ騰レ上、上乃不レ崩、三慈惠、知二長幼一、知二長幼一樂レ養レ老、四忠恕、是謂二四儀一。

【四休】167 シキウ 四つの滿足することがら。一に粗茶淡飯、飽けば則ち休す、二に破れを補ひ、寒さを遮り、暖くなれば則ち休す、三に三平二滿、過ぎれば則ち休す、四に貪せず妒せず、老いれば則ち休す。〔黃庭堅、四休居士詩序〕太醫孫君昉、字景初、自號二四休居士一、粗茶淡飯飽卽休、補レ破遮レ寒煖卽休、三平二滿過卽休、不レ貪不レ妬老卽休、山谷曰、此安樂法也。〔牟巘、仲實韶父過訪有レ詩奉和詩〕何用據二孤憤一、惟宜レ號二四休一。

【四休居士】168 シキウコジ 宋、孫昉(**3－6987**‥241)の號。

【四竟】169 シキャウ 四方の國境。四境。〔左氏、昭、二十三〕愼二其四竟一、結二其四援一。〔管子、乘馬〕窮二四竟之內一。

【四鄕】170 シキャウ ❶四方。〔莊子、說劍〕下法二方地一、以順二四時一、和二民意一、以安二四鄕一。〔注〕四鄕、猶二四方一也。〔國語、越語下〕四鄕地主正レ之。〔通俗編、地理、四鄕〕晏子春秋、晏子獨立二墻陰一、田子垣曰、何不下求二四鄕之學士一與坐上乎。❷ssŭ^{4} hsiang^{1} 城外に在る四方の近鄕。

【四境】171 シキャウ 四方の國境。四竟。四邊。四封。〔孟子、梁惠王下〕四境之內不レ治、則如レ之何、王顧二左右一而言レ他。〔墨子、尚同下〕諸侯又以二其知力一、爲レ未レ足三獨治二其四境之內一也。〔曹植、求二自試一表〕鎭二衞四境一、爲二國爪牙一。

【四疆】172 シキャウ 四方。四方のさかひ。〔周禮、地官、封人〕凡封レ國、設二其社稷之壝一、封二其四疆一。

【四脚】173 シキャク 四本の脚。よつあし。四足。〔宋書、五行志、四〕石虎末、洛陽城西北九里、石牛在二青石趺上一、忽鳴喚、聲聞二四十里一、虎遣下人打二落兩耳及尾一、鐵釘釘中四脚上。

【四脚蛇】174 シキャクダ 四本の足のある蛇類。蜥蜴の類。

【四脚門】175 シキャクモン ヨツアシモン 四本柱の門。

【四宮】176 シキュウ ❶天の四宮。東宮蒼龍・南宮朱鳥・西宮白虎・北宮玄武をいふ。〔小學紺珠、天道類、四宮〕東宮蒼龍・南宮朱鳥・西宮白虎・北宮玄武。❷シノミヤ 姓氏。

【四虛】177 シキョ ❶太虛をいふ。四方の大空。〔莊子、天運〕儻然立二於四虛之道一。〔疏〕四虛、謂二四方空大道一也。〔列子、天瑞〕地積塊耳、充二塞四虛一、亡二處亡レ塊。〔陳鴻、長恨歌傳〕旁求二四虛上下一、東極二天海一。❷詩の一體。近體律詩の中の二聯とも具體的實事を用ひず、抽象的な情語を用ひるもの。

【四凶】178 シキョウ ❶舜時代の共工・驩兜・三苗・鯀。四佞。一說に、渾敦・窮奇・檮杌・饕餮。四兇。〔書、舜典〕流二共工于幽洲一、放二驩兜于崇山一、竄二三苗于三危一、殛二鯀于羽山一、四罪而天下咸服。〔蔡傳〕春秋傳所レ記四凶之名、與レ此不レ同、說者以二窮奇一爲二共工一、渾敦爲二驩兜一、饕餮爲二三苗一、檮杌爲レ鯀、不レ知二其果然否一也。〔左氏、文、十八〕舜臣レ堯賓二于四門一、流二四凶族一、渾敦・窮奇・檮杌・饕餮、投二諸四裔一、以禦二魑魅一。〔說苑、指武〕昔堯誅二四凶一。❷晉の江泉・史疇・張嶷・羊聃。❸明の張瓚・郭勛・嚴嵩・胡守中。〔明外史、張瓚傳〕瓚爲二兵部尚書一、屬二時政汚濁一、與二郭勛・嚴嵩・胡守中一、肆レ意爲二奸利一、中外號二四凶一。

【四兇】179 シキョウ 舜時代の四人の惡人。四凶の❶に同じ。〔韓愈、賀二皇帝卽位一表〕擧二用俊乂一、流二竄姦邪一、雖下虞舜之去二四兇一擧中十六相上、不レ能レ過也。

【四曲】180 シキョク 雅樂の四つの曲。鹿鳴・騶虞・伐檀・文王の四つをいふ。〔小學紺珠、藝文類、雅樂四曲〕鹿鳴・騶虞・伐檀・文王。魏杜夔傳、舊雅樂四曲。

【四極】181 シキョク 四方の極めて遠い國。四遠。〔爾雅、釋地〕東至二於泰遠一、西至二於邠國一、南至二於濮鈆一、北至二於祝栗一、謂二之四極一。〔注〕皆四方極遠之國。〔管子、問〕城郭之險、外應二四極一。〔注〕四極、謂二國之四鄙一也。〔楚辭、離騷〕覽二相觀於四極一兮、周二流乎天一余乃下。〔漢書、禮樂志、安世房中歌〕大矣孝熙、四極爰轃。〔小學紺珠、地理類、四極〕泰遠東・邠國西・濮鈆南・祝栗北。

【四極山】182 シハスヤマ 豐後國の山。

【四近】183 シキン 王に近侍する四人の臣。前疑・後丞・左輔・右弼。四輔。四鄰。又、近侍の臣の總稱。〔書、益稷、欽二四鄰一、傳〕四近、前後左右之臣。〔疏〕四近之臣、普謂二近レ君之臣一耳、無二常人一也、鄭玄以二四近一爲二左輔・右弼・前疑・後承一、惟伏生書傳、有二此言一、文王世子云、有二師保一、有二疑承一、以外、經傳無二此官一也。〔孔叢子、論書〕王者前有レ疑、後有レ丞、左有レ輔、右有レ弼、謂二之四近一、言下前後左右近臣、當三畏二敬之一、不上レ可三以非二其人一也。

【四金】184 シキン 四種の樂器。錞・鐲・鐃・鐸。〔周禮、地官、鼓人〕鼓人、掌レ教二六鼓四金之音聲一、云云、以二金錞一和レ鼓、以二金鐲一節レ鼓、以二金鐃一止レ鼓、以二金鐸一通レ鼓。〔小學紺珠、制度類、四金〕錞和・鐲節・鐃止・鐸通。

【四金剛】185 シコンガウ ❶佛佛寺門前の四像。風・調・雨・順の四神。〔楊復吉、夢蘭瑣筆〕知新錄云、凡寺門金剛、各執二一物一、俗謂二風調雨順字一、執レ劍者風也、執二琵琶一者調也、執レ繖者雨也、執レ蛇者順也、按二唐書禮儀志一、武王伐レ紂、五方神受レ事、各以二其職一命焉、既而克レ殷、風調雨順。❷有名となつた各界の代表的四人物をいふ。

【四鈞】186 シキン 百二十斤の目方。卽ち一石。鈞は重量三十斤の稱。〔漢書、律歷志上〕四鈞爲レ石者、四時之象也。

【四禁】187 シキン 四つの禁制。❶一に春は殺伐を禁ず、二に夏は水を遏め、土功を動かし、鳥獸を射ることを禁ず、三に秋は罪刑を緩くすることを禁ず、四に冬は爵を賦し、祿を賞し、五藏を傷伐することを禁ず。〔管子、七臣七主〕明主有二六務四禁一、云云、四禁者何也、春無二殺伐一、無下割二大陵一、倮二大衍一、伐二大木一、斬二大山一、行二大火一、誅二大臣一、收中穀賦上、夏無下遏二水達二名川一、塞二大谷一、動二土功一、射中鳥獸上、秋無二赦レ過釋レ罪緩レ刑、冬無下賦レ爵賞レ祿傷中伐五藏上、故春政不レ禁、則百長不レ生、夏政不レ禁、則五穀不レ成、秋政不レ禁、則姦邪不レ勝、冬政不レ禁、則地氣不レ藏。❷唐代、中書舍人の守るべき四つの禁制。漏洩・稽緩・違失・忘誤。〔唐書、百官志二〕中書舍人、云云、其禁有レ四、一曰漏洩、二曰稽緩、三曰違失、四曰忘誤。〔小學紺珠、治道類、四禁〕漏洩・稽緩・違失・忘誤。

【四九】188 シク ❶三十六をいふ。〔老子中經〕四九三十六年、三元俱合二於亥一。〔金丹諸眞元奧〕四九火攢三十六、子午卯酉分二南北一。❷ssŭ^{4} chiu^{3} 九は冬至後一日から起り、冬至を過ぎると入九といふ。入九以後、第四番目の九日間を四九といふ。

【四九時必多雨雪】189 ssŭ^{4} chiu^{3} shih^{2} pi^{4} tuo^{1} yü^{2} hsüeh^{3} 冬至以後には必ず雨や雪が多い。蘇州地方の諺。四九の❷を見よ。

【四句】190 シク 四つの句。〔易、乾、文言、疏〕此四句明二天之德一也、而配二四時一。〔白居易、重酬二錢員外一詩〕雪中重寄雪山偈、問答殷勤四句中。

【四句訣】191 シクケツ 四言教(254)に同じ。

【四苦】192 シク 佛人生の四つのくるしみ。生・老・病・死。四患。〔法華經科注〕生・老・病・死、四苦也。

【四苦八苦】193 シクハック 佛非常な苦しみ。八苦とは四苦に愛別離苦・怨憎會苦・求不得苦・五陰盛苦を合せていふ。〔涅槃經、十二〕八相爲レ苦、所謂生苦・老苦・病苦・死苦・愛別離苦・怨憎會苦・求不得苦・五陰盛苦。

【四衢】194 シク ❶よつつじ。〔沈約、八關齋詩〕四衢道難レ闢、八正扇猶掩。❷よつまた。〔山海經、中山經〕其枝四衢、其葉大尺餘。

【四衢八街】195 シクハチガイ 大通がいくつもある大市街。四通八達の地。衢・街は同義。

【四空】196 シクウ ❶四方の大空。〔宋書、樂志二〕延二八虛一、闢二四空一。〔鄭遙、明月照二高樓一賦〕四空迴而晃朗、九層屹而崢嶸。❷佛四空天に同じ。〔菩薩瓔珞本業經、上〕上至二四空一。

【四空天】197 シクウテン 佛無色界の四處、卽ち、空無邊處・識無邊處・無所有處・非想非非想處をいふ。四空。〔楞伽經〕四空天、名二無色界一、謂二空無邊處・識無邊處・無所有處・非想非非想處一。

【四隅】198 シグウ 四つのすみ。❶物の四つのすみ。四つのかど。よすみ。〔詩、小雅、斯干、如二矢斯棘一、疏〕言レ如二矢稜廉一、以喩二四隅廉正一也。〔禮、檀

弓上〕蟻結於四隅。〔注〕晝褚之四角、其文如蟻行往來相交錯。〔成公綏、蜘蛛賦〕獨高懸於浮處、遂設網于四隅。❷室の四すみ。西南隅を奧、西北隅を屋漏、東北隅を宧、東南隅を窔といふ。〔爾雅、釋宮〕西南隅謂之奧、西北隅謂之屋漏、東北隅謂之宧、東南隅謂之窔。〔疏〕此別宮中四隅之異名也。〔韋應物、酬元偉過洛陽夜宴詩〕明燈照四隅、炎炭正可依。❸國土の四方のすみ。四方の邊境。四方。天下。〔淮南子、原道訓〕經營四隅、還反於樞。〔注〕隅、猶方也。〔潘岳、爲賈謐作贈陸機詩〕彊秦兼幷、呑滅四隅。〔注〕濟曰、秦兼六國四方也。

【四耦】199 シグウ 四ならび。四對。四雙。〔周禮、夏官、射人〕諸侯以四耦射、二侯、二獲、二容、樂以貍首、七節、三正。

【四果】200 シクヮ ❶佛聲聞乘の聖果の差別。舊譯では須陀洹果・斯陀含果・阿那含果・阿羅漢果をいひ、新譯では預流果・一來果・不還果・阿羅漢果をいふ。〔王僧孺、懺悔禮佛文〕四向四果、八賢八聖。❷宋代、邪教の名。〔稱謂錄、邪教、四果〕陸游條對狀、妖幻邪人、平時誑惑良民、結連素定、待時而發、此色人處處皆有、云云、江東謂之四果。

【四科】201 シクヮ 四種の科目。❶孔門の四科。德行・言語・政事・文學。〔論語、先進〕德行、顏淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓、言語、宰我・子貢、政事、冉有・季路、文學、子游・子夏。〔集注〕程子曰、四科乃從夫子於陳蔡者爾。〔後漢書、鄭玄傳〕玄笑曰、仲尼之門、考以四科。〔小學紺珠、聖賢類、四科十哲〕德行、顏淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓、言語、宰我・子貢、政事、冉有・季路、文學、子游・子夏。❷人品の四等。容悅の凡臣・社稷の臣・天民・大人。〔孟子、盡心上〕孟子曰、有事君人者、事是君則爲容悅者也、有安社稷臣者、以安社稷爲悅者也、有天民者、達可行於天下、而後行之者也、有大人者、正己而物正者也。〔集注〕此章言人品不同、略有四等。〔小學紺珠、人倫類、四科〕容悅凡臣、社稷股肱、天民行道、大人正身。❸漢代、擧士の四科。質樸・敦厚・遜讓・有行義。四行(108)の❷㋑を見よ。〔漢書、元帝紀〕詔丞相御史、擧質樸・敦厚・遜讓・有行者。〔注〕始令丞相御史、擧此四科人、以擢用之。〔小學紺珠、制度類、四科〕質樸・敦厚・遜讓・有義行。❹詩文の四科。奏議・書論・銘誄・詩賦。〔魏文帝、典論論文〕夫文、本同而末異、蓋奏議宜雅、書論宜理、銘誄尙實、詩賦欲麗、此四科不同、故能之者偏也。〔注〕翰曰、四科、謂奏議・書論・銘誄・詩賦也。〔小學紺珠、藝文類、四科〕奏議宜雅、書論宜理、銘誄尙實、詩賦欲麗。❺南朝宋の東觀の四科。儒學・玄學・文學・史學。〔南史、王儉傳〕宋明帝泰始六年、置總明觀以集學士、或謂之東觀、置東觀祭酒一人、總明訪擧郞二人、儒・玄・文・史四科、科置學士十人、其餘令史以下各有差。〔小學紺珠、藝文類、四科〕玄・儒・文・史。❻秀才たるべき四つの資格。一に德行高妙、志節清白、二に學通じ行修まり、經、博士に中たる、三に明かに法令を曉り、以て疑を決するに足り、才、御史に中たる、四に剛毅にして智略多く、事に遭つて惑はず、才、三輔劇縣の令に任へる。〔王融、永明九年策秀才文〕懋陳三道之要、以光四科之首。〔注〕銑曰、四科、一曰、德行高妙、志節清白、二曰、學通行修、經中博士、三曰、明曉法令、足以決疑、才中御史、四曰、剛毅多略、遭事不惑、才任三輔劇縣令。〔小學紺珠、制度類、四科〕德行志節、經明行修、明曉法律、剛毅明勇。❼唐の高宗の時の擧人の四科。孝悌力行・經史儒術・藻思詞鋒・廉平彊直。〔小學紺珠、制度類、四科〕孝悌力行・經史儒術・藻思詞鋒・廉平彊直、顯慶五年詔、四科擧人。

【四會】202 シクヮイ ❶四方から會集する。〔宋玉、高唐賦〕纖條悲鳴、聲似竽籟、清濁相和、五變四會。〔注〕銑曰、四會、謂四方之聲與之相會合也。〔鮑照、蕪城賦〕重江複關之奧、四會五達之莊。〔注〕濟曰、道路通於遠近、故曰四會五達也。〔張九齡、荔枝賦〕華軒洞開、嘉賓四會。❷縣名。秦、置く。廣東省三水縣の西北。〔漢書、地理志下〕南海郡、縣六、四會。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府〕四會縣、府北一百三十里、秦置四會縣屬桂林郡、漢屬南海郡。〔清史稿、地理志〕廣東、肇慶府、縣九、四會。

【四潰】203 シクヮイ ❶四方に潰敗する。〔北史、崔辯傳〕巨倫手刃賊十餘人、賊乃四潰。❷山名。安徽省和縣の北。項羽が二十八騎を率ゐて陣し、大いに漢兵を破つた處で、今も石上に馬跡があるといふ。一名、四馬山。〔明一統志〕四潰山、在江寧府江浦縣西南七十里、昔項羽敗垓下、走至東城、漢兵追之、羽引騎依四潰山爲陣、卽此。

【四外】204 シグヮイ 四方のそと。四方のはて。又、四方の城外。〔書、堯典、光被四表、傳〕其名聞充溢四外。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏下〕東軍悉至、列營四外。

【四荒】205 シクヮウ 四方の荒夷の國。四方のはての未開國。北方の觚竹、南方の北戶、西方の西王母、東方の日下。四裔。〔爾雅、釋地〕觚竹・北戶・西王母・日下、謂之四荒。〔注〕觚竹在北、北戶在南、西王母在西、日下在東、皆四方昏荒之國。〔逸周書、太子晉解〕善至于四海、曰天子、達於四荒、曰天王、四荒至、莫有怨訾、乃登爲帝。〔楚辭、王逸、九思、哀歲〕將馳兮四荒。〔注〕四裔、謂之四荒。〔漢書、文帝紀〕四荒之外、不安其生。〔注〕師古曰、戎狄荒服、故曰四荒、言其荒忽去來無常也。

【四荒八極】206 シクヮウハッキョク 宇宙世界の隅々の意。四荒は四方の荒夷の國、八極は八方の遠隔の地。〔白居易、八駿圖樂府〕四荒八極踏欲遍、三十二蹄無歇時。

【四黃】207 シクヮウ ❶四匹の黃色の駿馬。〔詩、小雅、車攻〕四黃既駕、兩驂不猗。❷李晃(字は仲黃)・李茱(字は季黃)・李勁(字は少黃)・李叡(字は幼黃)の幷稱。皆、字に黃の字があるからいふ。〔北史、李士謙傳〕機子楷、字雄方、位書侍御史、家於平棘南、有男子五人輯晃茱勁叡、輯字護宗、晃字仲黃、茱字季黃、勁字少黃、叡字幼黃、並以友悌著美、爲當世所宗、時所謂四黃者也。〔小學紺珠、氏族類、四黃〕李晃仲黃・茱季黃・勁少黃・叡幼黃。

【四郭】208 シクヮク 四方の村里。〔後漢書、五行志一〕遊四郭。〔戴叔倫、題友人山居詩〕四郭青山處處同、客懷無計答秋風。〔元稹、餘杭周從事詩〕清夜笙歌喧四郭、黃昏鐘漏下重關。

【四括】209 シクヮツ 李平(字は伯括)・李隱(字は叔括)・李保(字は季括)・李機(字は仲括)の幷稱。皆字に括の字があるからいふ。〔北史、李士謙傳〕左車十四世孫恢生定、字文義、仕魏位漁陽太守、有子四人、並仕晉、平字伯括、爲樂平太守、機字仲括、位國子博士、隱字叔括、保字季括、位並尙書郞、兄弟皆以儒素著名、時謂之四括。〔小學紺珠、氏族類、四括〕李平伯括・機仲括・隱叔括・保季括。

【四豁】210 シクヮツ 四方がうち開けてゐること。轉じて、心の廣大な喩。〔庾闡、衡山詩〕寂坐意虛恬、運目情四豁。

【四患】211 シクヮン ❶政治家の四つの患。僞・私・放・奢。〔後漢書、荀悅傳〕致政之術、先屛四患、一曰僞、二曰私、三曰放、四曰奢。〔小學紺珠、儆戒類、四患〕僞・私・放・奢。❷事をなす上の四つの患。叨・貪・很・矜。〔莊子、漁父〕好經大事、變更易常、以挂功名、謂之叨、專知擅事、侵人自用、謂之貪、見過不更、聞諫愈甚、謂之很、人同於己則可、不同於己、雖善不善、謂之矜、此四患也。❸佛人生の四つの患。生・老・病・死。四苦。〔法苑珠林〕四患、謂生・老・病・死也。

【四環】212 シクヮン 四方。四方をめぐる。〔考古圖、博山爐〕香爐象海中博山、下盤貯湯、使潤氣蒸香、以象海之四環。

【四館】213 シクヮン 後魏の時、降者を處らしめる爲に洛水橋の南に作つた金陵・燕然・扶桑・崦嵫の四つの館舍。〔小學紺珠、制度類、四館〕金陵・燕然・扶桑・崦嵫、後魏於洛水橋南作四館處降者。

【四關】214 シクヮン ❶四つの關門。㋑秦の國境の四關。東方の函谷關、南方の武關、西方の散關、北方の蕭關。〔史記、項羽紀、關中阻山河四塞、注〕集解曰、徐廣曰、東函谷、南武關、西散關、北蕭關。〔小學紺珠、地理類、四關〕東函谷（陝州）・南武關（商州）・西散關（鳳翔府）・北蕭關（原州）。㋺漢の洛陽の四關。東方の成皐關、南方の伊闕關、西方

の函谷關、北方の孟津關。〔洛陽記〕漢洛陽四關、東成皐關・南伊闕關・西函谷關・北孟津關。㋩古北口・居庸關・喜峯口・松亭關をいふ。〔實錄〕關隘之要有レ四、曰古北口、曰居庸關、曰喜峯口、曰松亭關。㊁長安の稱。四塞の國であるからいふ。〔後漢書、光武紀贊〕三河未レ澄、四關重擾。〔注〕四關、謂二長安四塞之國一。㊂人體の四つの器官。耳・目・心・口。〔淮南子、本經訓〕故閉二四關一止二五遁一、則與レ道淪。〔注〕四關、耳・目・心・口。

【四君】215 シクン　四人の君主。㊀秦の四君。繆公・孝公・惠王・昭王。〔史記、李斯傳〕斯乃上書曰、臣聞、吏議レ逐レ客、竊以爲レ過矣、昔繆公求レ士、西取二由余於戎一、東得二百里奚於宛一、迎二蹇叔於宋一、來二丕豹・公孫支於晉一、此五子者、不レ產二於秦一、而繆公用レ之、幷レ國二十、遂霸二西戎一、孝公用二商鞅之法一、移レ風易レ俗、民以殷盛、國以富彊、百姓樂レ用、諸侯親服、獲二楚魏之師一、擧レ地千里、至レ今治彊、惠王用二張儀之計一、拔二三川之地一、西幷二巴蜀一、北收二上郡一、南取二漢中一、包二九夷一、制二鄢郢一、東據二成皐之險一、割二膏腴之壤一、遂散二六國之從一、使二之西面事一レ秦、功施到レ今、昭王得二范雎一、廢二穰侯一、逐二華陽一、彊二公室一、杜二私門一、蠶二食諸侯一、使三秦成二帝業一、此四君者皆以二客之功一、由レ此觀レ之、客何負二於秦一哉、向使二四君卻レ客而不レ內、疏レ士而不レ用、是使下國無二富利之實一、而秦無中彊大之名上也。㊁戰國時代の四君。齊の孟嘗君・趙の平原君・楚の春申君・魏の信陵君。四公子。四賢。四豪。〔賈誼、過秦論〕當二此之時一、齊有二孟嘗一、趙有二平原一、楚有二春申一、魏有二信陵一、此四君者、皆明智而忠信、寬厚而愛レ人、尊レ賢而重レ士。

〔四君子〕216 シクンシ　唐畫で氣品を君子に見立てた四つの植物。蘭・菊・梅・竹。〔集雅齋、梅竹蘭菊四譜、小引〕文房清供、獨取二梅竹蘭菊四君一者無レ他、則以下其幽芬逸致、偏能滌二人之穢腸一而澄中瑩其神骨上。〔竹堂四君子畫譜〕。

【四軍】217 シグン　㊀軍隊を四つに區分した稱。㋑黃帝時代の處山・處水土・處斥澤・處平陸。〔小學紺珠、制度類、四軍〕處山・處水土・處斥澤・處平陸、孫子、黃帝四軍。㋺春秋、晉の中軍・上軍・下軍・新軍。〔小學紺珠、制度類、四軍〕中・上・下・新、左傳、晉。㋩晉の左軍・右軍・前軍・後軍。〔小學紺珠、制度類、四軍〕左・右・前・後、晉志。㋥宋代の禁兵・廂兵・役兵・民兵。〔小學紺珠、制度類、四軍〕禁兵・廂兵・役兵・民兵、慶曆兵錄序、凡軍有レ四。㋭禁兵・廂兵・鄉兵・蕃兵。〔小學紺珠、制度類、四軍〕禁兵・廂兵・鄉兵・蕃兵、兵志、兵額有レ四。㊁官名。左軍・右軍・前軍・後軍の四將軍をいふ。〔文獻通考、職官考、前後左右將軍〕前後左右將軍、皆周末官、秦因レ之、位二上卿一、金印紫綬、漢不二常置一、或有二前後一、或有二左右一、皆掌二兵及四夷一、光武建武七年省、魏以來復置、晉武初又置二左軍右軍前軍一、太始八年、又置二後軍一、是爲二四軍一、齊亦號二左右前後四軍一。

【四花】218 ケシ　佛　㊀法華六瑞中、雨華瑞の四つの花。一に曼陀羅華、二に摩訶曼陀羅華、三に曼殊沙華、四に摩訶曼殊沙華。又、一に分陀利、白蓮華、二に優鉢羅、青蓮華、三に鉢特摩、紅蓮華、四に拘物投、黃蓮華。〔翻譯名義集、三〕。㊁大般涅槃時の娑羅雙樹に形どつて棺の四方に一雙づつ白蓮華、又は白造華を立て、是を四花といふ。

【四京】219 シケイ　四つの都。㊀唐の四京。京兆を中京、河南を東京、太原を北京、鳳翔を西京といふ。〔唐書、肅宗紀〕以二斗所レ建辰一爲レ名、停二四京號一。〔小學紺珠、地理類、四京〕中京京兆、東京河南、北京太原、西京鳳翔、肅宗元年停二四京一。㊁宋の四京。開封府を東京、河南府を西京、應天府を南京、大名府を北京といふ。〔宋史、徽宗紀一〕降二德音於四京一、減二囚罪一等流以下一釋レ之。〔小學紺珠、地理類、四京〕東京開封府汴、西京河南府洛、南京應天府宋、北京大名府魏。

【四坰】220 シケイ　四方の野をいふ。坰は郊野。四野。〔張駿、詩〕應雲蔭二八極一、甘雨潤二四坰一。

【四計】221 シケイ　處生の四つの計畫。一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にありの四つ。〔月令廣義〕一日之計在レ晨、一年之計在レ春、一生之計在レ勤、一家之計在レ身。又、一年之計在レ春、一日之計在レ寅、一家之計在レ和、一身之計在レ勤。

【四涇】222 シケイ　四つの川。江・河・淮・濟。〔管子、輕重戊〕道二四涇之水一。〔纂詁〕四涇、江・河・淮・濟也。

【四景】223 シケイ　四時の景色。〔琵琶記、一門旌獎〕四景常歡聚。

【四經】224 シケイ　㊀四種の經書。十三經(**2**－**2695**‥146)を見よ。㋑詩・書・禮・樂。〔禮、王制〕樂正崇二四術一、立二四教一、順二先王詩書禮樂一以造レ士、春秋教以二禮樂一、冬夏教以二詩書一。〔左氏、僖、二十七〕詩書者義之府也、禮樂者德之則也。〔管子、戒〕澤二其四經一。〔注〕四經、謂二詩・書・禮・樂一。㋺古文尚書・毛詩・左傳・穀梁。〔後漢書、章帝紀〕建初八年詔曰、云云、其令下羣儒選二高才生一受中學左氏・穀梁春秋・古文尚書・毛詩上、以扶二微學一廣二異義一焉。〔小學紺珠、藝文類、四經〕左氏・穀梁春秋・古文尚書・毛詩。㋩易・書・詩・春秋。清の康熙帝に欽定四經がある。〔皇極經世書、觀物內篇〕聖人之四府者、易・書・詩・春秋之謂也、禮樂汙二隆于其間一矣。〔小學紺珠、性理類、四經〕易・書・詩・春秋。㊁四つの常法。四つの德。德・仁・義・禮。〔小學紺珠、性理類、四經〕德・仁・義・禮、文子。

〔四經四史之齋〕225 シケイシシシサイ　清、楊以增(**6**－**1511**2‥407)の號。

【四輕】226 シケイ　四つの輕卒な態度。言葉の輕卒なこと(憂を招く)、行の輕卒なこと(辜を招く)、容貌の輕〻しいこと(辱を招く)、嗜好の輕薄なこと(淫を招く)。〔法言、脩身〕敢問二四經一、曰、言輕則招レ憂、行輕則招レ辜、貌輕則招レ辱、好輕則招レ淫。

【四繫】227 シケイ　編年繫月史の記錄上の四つの連關。事を以て日に繫け、日を以て月に繫け、月を以て時に繫け、時を以て年に繫けること。〔杜預、春秋左氏傳序〕記レ事者、以レ事繫レ日、以レ日繫レ月、以レ月繫レ時、以レ時繫レ年、所下以紀二遠近一別中同異上也。〔小學紺珠、藝文類、四繫〕以レ事繫レ日、以レ日繫レ月、以レ月繫レ時、以レ時繫レ年。

【四睨】228 シゲイ　四方をにらむこと。〔鮑照、瓜步山揭文〕四睨天宮、窮曜星絡。

【四藝】229 シゲイ　四つの手わざ。琴・碁・書・畫をいふ。

〔四藝山人〕230 シゲイサンジン　清、張篤行(**4**－**9812**‥1423)の號。

【四教】231 シケウ　㊀詩・書・禮・樂の教。春秋には禮樂を教へ、冬夏には詩書を教へる。〔禮、王制〕樂正崇二四術一、立二四教一、順二先王詩書禮樂一以造レ士、春秋教以二禮樂一、冬夏教以二詩書一。㊁孔子が平生人に教へた四つの要目。文・行・忠・信。〔論語、述而〕子以レ四教、文・行・忠・信。〔集韻〕李充云、其典籍辭義謂二之文一、孝悌恭睦謂二之行一、爲二人臣一則忠、與二朋友一交則信、此四者、教之所レ先也。〔小學紺珠、性理類、四教〕文・行・忠・信。㊂婦人の四教。婦德・婦言・婦容・婦功。四行。〔周禮、天官、九嬪〕掌二婦學之灋一、以教二九御婦德・婦言・婦容・婦功一。〔禮、昏義〕是以古者、婦人先レ嫁三月、祖廟未レ毀、教二于公宮一、祖廟既毀、教二于宗室一、教以二婦德・婦言・婦容・婦功一、云云、法度莫レ大二於四教一。〔干寶、晉紀總論〕后妃躬二行四教一。〔小學紺珠、人倫類、四教〕婦德貞順・婦言辭令・婦容婉娩・婦功絲麻。㊃一に之を守るに信を以てす、二に親に依り高年を尊ぶ、三に憂戚を取除き桎梏を免れさせる、四に生を樂しみ身復す。〔逸周書、文酌解〕四教、一守レ之以レ信、二因レ親就レ年、三取レ戚免レ梏、四樂レ生身復。〔集訓校釋〕因、依、就、高也、謂二親近高年一也、著レ足曰レ桎、著レ手曰レ梏、取二其憂戚一、而免二于桎梏一、矜二不能一也、樂レ生、樂二其所一レ生之理一者、復、除役也。㊄大學に於ける四つの教育法。一に豫、未發に禁ずること。二に時、其の可に當ること。三に孫、節を陵がずして施すこと。四に摩、相觀て善とすること。〔禮、學記〕大學之法、禁二於未發一之謂レ豫、當二其可一之謂レ時、不レ陵レ節而施之謂レ孫、相觀而善之謂レ摩、此四者、教之所二由興一也。㊅家を御する四教。勤・儉・恭・恕。〔文中子、關朗〕御レ家以二四教一、勤・儉・恭・恕。〔小學紺珠、性理類、四教〕勤・儉・恭、恕、文中子・弟凝御レ家以二四教一。㊆四大宗教。孔教・佛教・回回教・天主教をいふ。〔二十二史劄記、天主教〕統而論レ之、天下大教四、孔教・佛教・回回教・天主教也。㊇佛　天台宗に於ては、化法の四教と化儀の四教とがある。化法の四教とは三藏教・通教・別教・圓教、化儀の四教とは頓教・漸教・祕密教・不定教。〔止觀義列〕頓等四教、是佛化儀、藏等四教、是佛化法。

【四教義】232 シケウギ　書名。六卷。隋、智顗撰。天台宗に於ける四教の儀法を說く。

【四教堂】233 シケウダウ　德川時代、佐伯に設置した藩立學校。

【四傑】234 シケツ　四人のすぐれた人。❶唐初の四文豪、王勃・楊炯・盧照鄰・駱賓王。〔唐書、王勃傳〕勃與二楊炯・盧照鄰・駱賓王一皆以二文章一齊レ名、天下稱二王・楊・盧・駱一號二四傑一。❷元の文豪、柳貫・盧集・揭傒斯・黃溍。〔元史、柳貫傳〕柳貫與二(黃)溍及臨川虞集・豫章揭傒斯一齊レ名、人號爲二儒林四傑一。❸明の吳中の四文豪、高啓・楊基・張羽・徐賁。〔明史、高啓傳〕明初、吳下多二詩人一、啓與二楊基・張羽・徐賁一稱二四傑一、以配二唐、王・楊・盧・駱一云。❹明の四文豪、邊貢・李夢陽・何景明・徐禎卿。〔明史、何景明傳〕天下語二詩文一必並二稱何・李一、又與二邊貢・徐禎卿一並稱二四傑一。

【四月】235 シゲツ シグワツ　❶年の第四の月。卯月。〔書、武成〕厥四月、哉生明、王來レ自レ商、至二于豐一。〔詩、小雅、四月〕四月維夏、六月徂暑。〔箋〕四月而立夏矣。〔京氏易略〕立夏四月、節在レ申。❷四つの月。〔說苑、敬愼〕吾嘗見三四月十日並出一、有二與レ天滑一。❸詩經、小雅、谷風之什の篇名。在位者が貪殘で、怨亂の止む時がないのを傷んで作つたもの。〔詩、小雅、四月序〕四月、大夫刺二幽王一也、在位貪殘、下國構レ禍、怨亂並興焉。❹ワタヌキ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【四月子】236 シゲツシ　胡頹子グミの異名。〔本草、胡頹子〕集解、時珍曰、立夏後始熟、故吳楚人呼爲二四月子一。

【四月梵】237 シゲツボン　油菜をいふ。黃色の花を開き、種子をしぼつて油を取る。〔事物異名錄、蔬穀、菘〕正字通、四月梵、卽油菜、開花黃如レ金、摘レ心爲レ菜茹、其旁心結レ子、可レ榨レ油。

【四月一日】238 ワタヌキ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【四月朔日】239 ワタヌキ　姓氏。〔姓林全書〕。

【四月清和雨乍晴】240 シゲツセイワアメタチマチハル　初夏の爽快な氣候を詠じた句。〔司馬光、初夏詩〕四月清和雨乍晴、南山當レ戶轉分明、更無二柳絮因レ風起一、唯有二葵花向レ日傾一。

【四業】241 シゲフ　詩・書・禮・樂の四つの修業。〔後漢書、法眞傳〕處士法眞、體二兼四業一。〔注〕謂二詩・書・禮・樂一也。〔晉書、孝武定王皇后傳〕天性柔順、四業允備。

【四件】242 シケン　豚又は羊などの頭・蹄・肝臟・肺臟を合せていふ。〔通俗編、飲食、事件〕豬羊頭・蹄・肝・肺、則稱二四件一。

【四賢】243 シケン　四人の賢者。❶春秋、鄭の裨諶・世叔・子羽・子產。〔論語、憲問〕子曰、爲レ命、裨諶草二創之一、世叔討二論之一、行人子羽修二飾之一、東里子產潤二色之一。〔集注〕裨諶以下四人、皆鄭大夫、云云、世叔、游吉也、春秋傳作二子大叔一、云云、行人、掌レ使之官、子羽、公孫揮也、云云、東里、地名、子產所レ居也、云云、鄭國之爲二辭命一、必更二此四賢之手一而成。〔小學紺珠、名臣類上、四賢〕裨諶・世叔・行人子羽・東里子產。❷戰國、齊の孟嘗君・趙の平原君・楚の春申君・魏の信陵君。四豪。四君。〔史記、秦始皇紀論〕齊有二孟嘗一、趙有二平原一、楚有二春申一、魏有二信陵一、此四君者、皆明知而忠信、寬厚而愛レ人、尊レ賢重レ士、約レ從離レ衡。❸漢の主父偃・朱買臣・陳平・司馬相如。〔左思、詠史詩〕主父宦不レ達、骨肉還相薄、買臣困二樵采一、伉儷不レ安レ宅、陳平無二產業一、歸來翳二負郭一、長卿還二成都一、壁立何寥廓、四賢豈不レ偉、遺烈光二篇籍一。❹漢代、蜀の司馬相如・王褒・嚴君平・揚雄。〔北史、常景傳〕景淹二滯門下一、積歲不レ至二顯官一、以下蜀司馬相如・王褒・嚴君平・揚子雲等四賢、皆有二高才一而無中重位上、乃託レ意以讚レ之。〔小學紺珠、名臣類下、四賢〕蜀司馬相如・王褒・嚴君平・揚子雲。❺南朝宋の王華・劉湛・王曇首・殷景仁。〔南史、劉湛傳〕爲二侍中一時、王華・王曇首・殷景仁、亦爲二侍中一、文帝于二合殿一與二四人一宴飲甚悅、華等出、帝目送良久、歎曰、此四賢一時之秀、同管喉脣、恐二後世難レ繼。〔小學紺珠、名臣類下、四賢〕王華・劉湛・王曇首・殷景仁。❻唐の劉晏・陸贄・李吉甫・白居易。〔明一統志〕四賢閣、在二重慶府舊在忠州治後一、宋知州王闢之建、今徙二儒學一、四賢謂二唐劉晏・陸贄・李吉甫・白居易一、皆謫二官于此一、故以名レ閣。❼宋の范仲淹・余靖・尹洙・歐陽脩。四賢一不肖之詩(247)を見よ。〔小學紺珠、名臣類下、四賢〕范仲淹・余靖・尹洙・歐陽脩。❽宋の杜衍・范仲淹・韓琦・富弼。〔小學紺珠、名臣類、四賢〕杜衍清謹而守二規矩一、范仲淹恢廓自信而不レ疑、韓琦純正而質直、富弼明敏而果鋭、歐陽脩上書云、此四人者、可レ謂二公正之賢一也。❾宋の富弼・呂公著・司馬光・程顥。〔小學紺珠、名臣類下、四賢〕彥國之言鋪陳（富弼）、晦叔之言簡當（呂公著）、君實之言優游（司馬光）、伯淳之言條暢（程顥）、熙寧間、康節邵先生雍四賢吟。❿宋の程頤・黃庭堅・尹焞・譙定。〔小學紺珠、名臣類下、四賢〕程正叔・黃魯直・尹彥明（焞）・譙天授（定）。〔明一統志〕四賢樓在二重慶府涪州治北巖西一、四賢、宋程頤・黃庭堅・尹焞・譙定也。⓫宋の馮京・黃庭堅・趙抃・呂璹。〔明一統志〕四賢堂、在二慶遠府治東一、宋建、祀二馮京・黃庭堅・趙抃・呂璹四賢一。⓬宋の孫抃・蘇洵・蘇軾・蘇轍。〔明一統志〕四賢堂、在二眉州學西一、宋建、繪二孫抃及三蘇父子四賢像于內一。⓭宋の朱熹・呂祖謙・陸九齡・陸九淵。〔明一統志〕四賢堂、在二廣信府鵝湖山一、祀二宋朱子・呂祖謙・陸九淵兄弟一。⓮宋の楊時・羅從彥・李侗・朱熹。〔明一統志〕四賢祠、在二延平府學一、宋紹興中建、祀二楊龜山・羅豫章・李延平・朱晦庵四先生一。⓯宋の趙師旦・徐積・張耒・陳瓘。〔明一統志〕四賢祠、在二淮安府學內一、舊有二宋趙師旦・徐積塑像一、後增二張耒・陳瓘兩像一、東曰二忠孝祠一、西曰二文節祠一。⓰元の何基・王柏・金履祥・許謙。〔明一統志〕四賢書院、在二金華府城中一、元時江浙省建、以祀二郡儒何基・王柏・金履祥・許謙一。

【四賢記】244 シケンキ　戲曲の名。元代の撰。元の烏古孫澤と其の妻・妾・子の四人の賢行を演ず。

【四賢堂】245 シケンダウ　宋、李潛(**6－14459**・・526)の室名。

【四賢良】246 シケンリヤウ　錢易及び其の子、彥遠・明逸、彥遠の子、勰の幷稱。〔小學紺珠、氏族類、四賢良〕錢易（希白）、子彥遠（子高）、明逸（子飛）、彥遠子勰（穆父）。

【四賢一不肖之詩】247 シケンイチフセウノシ　宋代、慶曆の黨爭の時、蔡襄（字は君謨）の作つた詩。四賢は范仲淹・尹洙・余靖・歐陽脩をいひ、一不肖は高若訥をいふ。〔宋史、蔡襄傳〕擧二進士一爲二西京留守推官一、館閣校勘范仲淹、以レ言レ事去レ國、余靖論救レ之、尹洙請二與同貶一、歐陽脩移レ書責二司諫高若訥一、由レ是三人者皆坐譴、襄作二四賢一不肖詩一、都人士爭相傳寫、鬻レ書者、市レ之得二厚利一。

【四縣】248 シケン　❶四つの縣。〔周禮、地官、小司徒〕乃經二土地一、而井二牧其田野一、九夫爲レ井、四井爲レ邑、四邑爲レ丘、四丘爲レ甸、四甸爲レ縣、四縣爲レ都。❷四つの縣。宮縣ともいふ。天子の用ひるもの。縣は、樂器をかける具。縣は懸に同じ。〔漢書、禮樂志〕高張二四縣一、樂充二宮廷一。〔注〕晉灼曰、四縣、樂四縣也、天子宮懸、師古曰、謂下設二宮縣一而高張上之、縣、古懸字。❸王の宮縣・諸侯の軒縣・卿大夫の判縣・士の特縣をいふ。縣は懸で、樂器をかけること。〔小學紺珠、制度類、四縣〕王宮縣、諸侯軒縣、卿大夫判縣、士特縣。

【四險】249 シケン　四方の險阻。四方が要害に圍まれること。〔晉書、羊祜傳贊〕漢地四險、吳江左廻、羊公恩信、百萬歸來。〔楊炯、和三劉侍郎入二隆唐觀一詩〕山川臨二四險一、城樹隱二三臺一。

【四權】250 シケン　孫中山の唱へた四種の民權。創制權・複決權・選擧權・罷免權をいふ。

【四元】251 シゲン　❶數學用語。元の朱世傑の創めたもの。四つの未知數を立てて解く法で、方程式の複雜なのを解くに便なもの。四元玉鑑を見よ。❷京兆・禮部・宏詞・制科の四所の試に首席を占めること。〔稱謂錄、四元、四元〕說儲唐崔元翰爲二京兆解頭・禮部狀頭・宏詞敕頭・制科三等一、敕頭則是可レ稱二四元一、金史楊伯仁傳、孟宗獻發解第一、伯仁讀二其程文一稱レ之、是歲宗獻府試省試廷試皆第一、當時稱爲二孟四元一、蓋金時尙多二一府試一耳。

【四元玉鑑】252 シゲンギヨクカン　書名。三卷。元、朱世傑撰。數學の書。凡て二十四門、二百八十八問を記す。〔四庫未收書目提要、四〕。

【四言】253 シゲン シゴン　古詩の一體。一句が四字から成るもの。詩經の風・雅・頌の詩の類。四言詩を見よ。〔詩、周南、關雎、疏〕句字之數、四言爲レ多、惟以二二三七八一者、將下由レ言以申レ情、惟變所レ適、播二之樂器一、俱得上成レ文故也。〔宋書、樂志一〕荀勖曰、魏氏歌詩、或二言或三言、或四言或五言、與二古詩一不レ類、以問二司律中郎將陳頎一、頎曰、被二之金石一、未二必皆當一、故勖造二晉歌一、皆爲二四言一。〔滄

浪詩話〕四言起ニ於漢楚王傳韋孟一。

【四言教】254 シゲンケウ　明の王陽明が道を學ぶ心得として門人に授けた四句の教。年譜には四句宗旨といひ、王畿の天泉證道記には四句教法といひ、三輪執齋は四言教と題す。四句訣。〔傳習錄、下〕無レ善無レ惡、是心之體、有レ善有レ惡、是意之動、知レ善知レ惡、是良知、爲レ善去レ惡是格物。

【四言詩】255 シゲンシ・シゴンシ　古詩の一體。一句が四字から成るもの。其の起源に就いては、或は尙書の五子之歌に始まるといひ、或は漢の韋孟の諷諫詩、或は舜典の股肱元首歌、帝王世紀の擊壤歌、尙書大傳の卿雲歌・塗山歌、左傳の虞人箴、穆天子傳の西王母謠に出づといひ、種々の說があるが、正確な典據あるものとしては舜典の股肱元首歌を始めとする。夏殷の詩は後世に傳はるもの極めて稀であるが、周代に至り詩運勃興し、格調形式共に整備し、詩經三百五篇は殆ど皆、周代の作で、四言體を正體とし、閒〻三言・五言・雜言體を交へる。詩經以外の當時の俗謠も四言體のものが多い。漢初、高帝の鴻鵠歌、唐山夫人の安世房中歌、韋孟の諷諫詩、東方朔の戒レ子詩は皆四言體である。武帝の世に至り、五言の新體出で、四言は漸く衰へたが、樂府には依然、四言體が行はれた。〔文心雕龍、章句〕至ニ於詩頌一、大體以ニ四言一爲レ正、云云、四言廣ニ於夏年洛汭之歌一、是也。〔陔餘叢考、四言詩〕四言詩、當下以ニ舜典喜起之歌一爲上首、大禹所レ訓、內作ニ色荒一、外作ニ禽荒一六句、亦濫觴也、三百篇外、如下帝王世紀所レ載擊壤歌、日出而作、日入而息、鑿レ井而飮、耕レ田而食、尙書大傳所レ紀、卿雲歌、明明上天、爛然星陳、日月光華、宏ニ於一人一、鼚乎鼓レ之、軒乎舞レ之、精華既竭、褰レ裳去レ之、又塗山歌、綏綏白狐、九尾龐龐、左傳所レ載虞人箴曰、芒芒禹迹、畫爲ニ九州一、經ニ啓九道一、民有ニ寢廟一、獸有ニ茂草一、各有ニ攸處一、德用不レ擾、穆天子傳所レ載、西王母謠、白雲在レ天、山陵自出、道里悠遠、山川閒レ之、將子無レ死、尙復能來、戰國策所レ記、荀卿作レ歌曰、以レ瞽爲レ明、以レ聾爲レ聽、以レ是爲レ非、以レ吉爲レ凶、嗚乎上天、曷惟其同上、其音節皆簡貴高古、縱出ニ於後人擬作一、要非ニ漢以後所レ能也、蓋周秦以上及漢初詩、皆四言、自ニ五言興一、而四言遂少、然漢魏六朝、亦尙有ニ爲レ之者一、文心雕龍、以ニ韋孟諷諫詩一爲ニ四言首唱一、此後如ニ相如封禪頌・傳毅迪志詩・張茂先勵志詩・陶淵明停雲詩一、皆傑出者、唐以後則四言遂絕、如下李白、羅幃舒卷、似レ有ニ人開一、明月直入、無ニ心可一レ猜、及柳子厚皇雅上、皆僅見者、東坡作ニ觀棋詩一、記ニ廬山白鶴觀事一、不レ聞ニ人聲一、但聞ニ落子一、亦偶一爲レ之、方嶽深雪偶談謂、五言而上、世人往往各極ニ其才之所一レ至、惟四言輒不レ能レ工、劉後村謂、三百篇在レ前之故。

【四絃】256 シゲン　四本のいと。又、四本の絲を張つた樂器。琵琶。よつのを。〔列子、湯問〕命レ宮而總ニ四弦一、則景風翔、慶雲浮、甘露降、醴泉涌。〔梁簡文帝、生別離樂府〕別離四絃聲、相思雙笛引。〔皮日休、春夕酒醒詩〕四絃纔罷醉ニ蠻奴一、酃醁餘香在ニ翠爐一。〔宋史、樂志、十七〕五絃十暉應ニ七絃散聲一、四絃十暉應ニ六絃散聲一、二絃十暉應ニ四絃散聲一。

【四絃曲】257 シゲンキョク　相和歌の一部門をなす絃樂器による曲。蜀國四絃・張女四絃・李延年四絃・嚴卯四絃の四があつた。〔古今樂錄〕張永元嘉技錄有ニ四絃一曲一、蜀國四絃、是也、古本有ニ四曲一、其張女四絃、李延年四絃、嚴卯四絃、三曲闕、蜀國四絃、節家舊有ニ六解一、宋歌有ニ五解一、今亦闕。

【四絃琴】258 ssŭ^4 hsien^2 ch'in^2 バイオリン。

【四絃秋】259 シゲンシウ　傳奇の名。淸、蔣士銓撰。藏園九種の一。白居易の琵琶行を本としたもの。〔納書楹曲譜〕。

【四絃一聲如ニ裂帛一】260 シゲンイッセイレツパクノゴトシ　四本の絃が同時に鳴つて絹を裂くやうな音を立てる。琵琶の悲しい音を形容した句。〔白居易、琵琶行〕曲終收レ撥當レ心畫、四絃一聲如ニ裂帛一、東船西舫悄無レ言、唯見江心秋月白。

【四這】261 ヨツバヒ・ヨツンバヒ　兩手・兩足を地につけて這ふこと。〔好色二代男、三〕四つ這ひになつて。

【四戶】262 コシ　❶四つの戶。四家。〔後漢書、光武紀下、初起ニ明堂一、注〕大戴禮云、明堂者凡九室、一室有ニ四戶八牖一。〔鮑照、代陳思王京洛篇詩〕鳳樓十二重、四戶八綺窗。〔陳後主、獻歲立春風光具美泛ニ舟元圃一各賦ニ六韻一詩〕餘暉斜ニ四戶一、流風颺ニ八音一。❷齊の永平中、中書舍人四員が各〻一省に住んでゐたので、時人が四戶と呼んだ。〔南史、呂文顯傳〕時中書舍人四人、各住ニ一省一、世謂ニ之四戶一。❸シ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【四呼】263 コシ　等韻に於ける開口呼・齊齒呼・合口呼・撮口呼をいふ。世に張・眞・中・珠の四字を以て代表とする。

【四固】264 コシ　國を安んずる爲に君の愼むべき四つの道。大德でも至仁でない者には國柄を授けてはならぬ、賢者を見ても讓り得ない者には尊位を與へてはならぬ、罰するに親貴を避ける者には兵を主らしめてはならぬ、本事を好まず地利を務めずして、賦斂を輕くする者には、都邑を與へてはならぬの四つ。〔管子、立政〕國之所ニ以安危一者四、城郭險阻不レ足レ守也、云云、安レ國有ニ四固一、云云、君之所レ愼者四、一曰、大德不ニ至仁一、不レ可三以授ニ國柄一、二曰、見レ賢不レ能レ讓、不レ可レ與ニ尊位一、三曰、罰避ニ親貴一、不レ可レ使レ主レ兵、四曰、不レ好ニ本事一、不レ務ニ地利一、而輕ニ賦斂一、不レ可レ與ニ都邑一、此四務者、安危之本也。

【四股】265 コシ　相撲で足をいふ。〔傾城酒呑童子、一〕尻引つからげ、しこを踏み。

【四胡】266 コシ　樂器の名。形は二胡と同じで、四絃のあるものをいふ。

【四庫】267 コシ　❶經・史・子・集の四部の書を藏めて置く書庫。書籍を四部に分けたのは魏の祕書監荀勖が祕書郎鄭默撰の中經によつて著した新簿、卽ち中經簿に始まる。唐の玄宗に至り、四庫を建て、經(甲)・史(乙)・子(丙)・集(丁)の書、正副二部を製し、軸帶帙籤、皆色を異にするに及んで、全く其の形體を整へた。宋・明・淸、皆この分類に依る。四庫全書を見よ。〔隋書、經籍志序〕魏祕書郎鄭默、始制ニ中經一、祕書監荀勖、又因ニ中經一、更著ニ新簿一、分爲ニ四部一、總ニ括羣書一、一曰甲部、紀ニ六藝及小學等書一、二曰乙部、有ニ古諸子家近世子家兵書兵家術數一、三曰丙部、有ニ史記舊事皇覽簿雜事一、四曰丁部、有ニ詩賦圖讚一。〔唐書、藝文志序〕兩都各聚ニ書四部一、以ニ甲乙丙丁一爲レ次、列ニ經史子集四庫一、其本有レ正有レ副、軸帶帙籤、皆異レ色以別レ之。〔宋史、藝文志序〕仁宗既新作ニ崇文院一、命ニ翰林學士張觀等一、編ニ四庫書一、倣ニ開元四部一、錄爲ニ崇文總目書凡三萬六百六十九卷一。❷唐の馬懷素・沈佺期・武平一・薛稷の四人。馬懷素は經庫、沈佺期は史庫、武平一は子庫、薛稷は集庫と稱せられた。〔小學紺珠、藝文類、四庫〕經庫馬懷素・史庫沈佺期・子庫武平一・集庫薛稷、景龍文館記。

【四庫七閣】268 シコシチカク　四庫全書を藏めた文淵閣(文華殿內)・文溯閣(奉天行宮內)・文津閣(熱河避暑山莊內)・文源閣(圓明園內)・文匯閣(揚州の大觀堂內)・文宗閣(鎭江の金山寺)・文瀾閣(西湖の孤山)の七つの閣。四庫全書を見よ。

【四庫全書】269 シコゼンショ　書名。淸の高宗の乾隆三十七年より四庫全書館を置き、翰林院を辦理處とし、武英殿を繕寫處とし、正總裁以下十四官、三百六十餘人を用ひ、あまねく天下の書を求め、之を經・史・子・集の四部に分けて成した一大叢書で、十餘年の日子を費して完成した。その原本は敕撰本・內府藏本・永樂大典本・各省採進本・私人進獻本・通行本の六種で、二通りに分類せられる。一は實際にその書を筆寫して四庫に收め後世に傳へようとしたもので、之を著錄といひ、一は唯目錄のみ置いて本文を筆寫しなかつたもので、之を存目といふ。書籍總數は、四庫全書答問に依ると、著錄で三千四百五十七部、七萬九千七十卷、存目で六千七百六十六部、九萬三千五百五十六卷である。而して各〻七部を製作し、七閣を立てて之を藏めた。文華殿の文淵閣、奉天の行宮の文溯閣、熱河の避暑山莊の文津閣、圓明園の文源閣、江蘇省揚州の大觀堂の文匯閣、鎭江金山寺の文宗閣、浙江省西湖の孤山の文瀾閣がこれで、前の四者を內廷の四閣と名づけた。その中、今、文源閣に藏したものは既に滅び、文溯・文津・文淵の三閣のもののみ闕失が無い。文匯・文宗の二閣は長髮賊の亂に燒失し、文瀾の書は亂後、補鈔して今、浙江圖書館中に保存する。　四庫全書總目提要を見よ。

【四庫提要】270 シコテイエウ　四庫全書總目提要の略。

【四庫書目略】271 シコショモクリャク　書名。二十卷。淸、費

莫文良編。

【四庫全書考證】272（シコゼンショカウショウ） 書名。一百卷。清、王太岳等奉敕撰。四庫全書著錄の際、改字したものにつき、その原書を徵引して妄斷でないことを證したもの。經部二百四十四種、史部一百八十四種、子部二百九十九種、集部三百七十六種に及ぶ。〔武英殿聚珍版全書、第四百三十五冊—四百九十四冊〕。

【四庫簡明目錄標注】273（シコカンメイモクロクヘウチュウ） 書名。二十卷、附一卷。清、邵懿辰撰。四庫全書簡明目錄により、刊本の種類及び編入叢書目を明かにす。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【四庫全書簡明目錄】274（シコゼンショカンメイモクロク） 書名。二十卷。清、于敏中等奉敕撰。四庫全書總目提要から存目を省き、撰者の傳を載せず、著錄本のみの解題を簡明に述べたもの。提要と說を異にする所もある。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【四庫全書總目提要】275（シコゼンショソウモクテイエウ） 書名。二百卷。清、紀昀等奉敕撰。略して四庫提要ともいふ。四庫全書の總目を記し、各書につき、その大要を掲げて解題したもの。始め四庫館に書を蒐集した時、一書を奏進する每に其の要旨を卷首に括敍させたが、之を後に修補纂錄したものである。その體裁は、㋑卷首、聖諭・表文・職名・凡例。㋺經部、易・書・詩・禮・春秋・孝經・五經總義・四書・樂・小學類。㋩史部、正史・編年・紀事本末・別史・雜史・詔令・奏議・傳記・史鈔・載記・時令・地理・職官・政書・目錄・史評類。㋥子部、儒家・兵家・法家・農家・醫家・天文算法・術數・藝術・譜錄・雜家・類書・小說家・釋家・道家類。㋭集部、楚辭・別集・總集・詩文評・詞曲類の四十四類に分ち、每類、著錄・存目の二大分類をしてある。著錄は四庫に集錄した書、存目はその名目をのみ記載したもの。然るに種類や卷數は、人により計算が異なり、左表の數說がある。

		經		史		子		集		計		總計
		著錄	存目	著錄	存目	著錄	存目	著錄	存目	著錄	存目	計
周中孚、鄭堂讀書記	種類	六八四	一、〇七三	五六三	一、五七二	九二四	二、〇二四	一、二七七	二、一二五	三、四四八	六、七八三	一〇、二三一
	卷數	九、六六三	一〇、一五九	二一、九五三	一六、二九三	一七、八九三	四二、三八八	二九、二五四	二四、四〇一	七八、七六二	九二、二四一	一七一、〇〇三
任松如、四庫全書答問	種類	六九三	一、〇八〇	五六四	一、五六四	九二四	一、九九五	一、二七六	二、一二七	三、四五七	六、七六六	一〇、二二三
	卷數	一〇、二六〇	一〇、一六九	二一、九五二	一六、三四二	一七、八〇三	四二、三八七	二九、〇三六	二五、六六八	七九、〇七〇	九三、五五六	一七二、六二六
邵懿辰、四庫簡明目錄標注	種類									三、四七〇		
	卷數									七七、六九六		
文溯閣四庫全書要略	種類	七四八		五八一		九五七		一、三〇四		三、五九〇		
	卷數	一〇、二四三		二一、一一三		一七、九四五		二九、五八九		七九、八九七		
	冊數	五、五七七		九、四〇八		九、〇七〇		一二、二六六		三六、三三一		

〔清高宗、乾隆三十七年諭〕乾隆三十七年正月初四日、奉二上諭一、朕稽古右文、聿資二治理一、幾餘典レ學、日有二孜孜一、因思策府縹緗、載籍極博、其鉅者羽二翼經訓一、垂二範方來一、固足レ稱二千秋法鑑一、卽在二識小之徒一、專門撰述、細及二名物象數一、兼綜條貫、各自成レ家、亦莫レ不レ有レ所二發明一、可レ爲二游藝養心之一助一、是以御極之初、卽詔二中外一、搜二訪遺書一、竝令三儒臣校二勘十三經・二十一史一、偏布二黌宮一、嘉二惠後學一、復開レ館纂二修綱目三編・通鑑輯覽、及三通諸書一、凡藝林承レ學之士、所レ當二戶誦家絃一者、旣已薈萃略備、第念讀書、固在レ得二其要領一、而多識二前言往行一、以畜二其德一、惟蒐羅益廣、則研討愈精、如二康熙年閒所レ修圖書集成全部一、兼收竝錄、極二方策之大觀一、引用諸編、率屬二因レ類取裁一、勢不レ能三悉載二全文一、使三閱者沿レ流溯レ源、一一徵二其來處一、今內府藏書插架、不レ爲レ不レ富、然古今來著作之手、無慮數千百家、或逸在二名山一、未レ登二柱史一、正宜下及レ時採集、彙二送京師一、以彰中千古同文之盛上、其令下直省督撫會同學政等、通二飭所屬一、加中意購訪上、除下坊肆所レ售舉業時文、及民閒無レ用之族譜・尺牘・屛幛・壽言等類、又其人本無二實學一、不レ過二嫁名馳騖一、編二刻酬倡詩文瑣屑無一レ當者、均無中庸採取上外、其歷代流傳舊書內、有下闡二明性學治法一、關二繫世道人心一者上、自當二首先購覓一、至乙若下發二揮傳注一、攷二覈典章一、旁暨二九流百家之言一、有上レ裨二實用一者甲、亦應三備爲二甄擇一、又如三歷代名人、洎本朝士林宿望、向有二詩文專集一、及下近時沈二潛經史一、原二本風雅一、如中顧棟高・陳祖范・任啓運・沈德潛輩上、亦各著成レ編、竝非二勦說卮言可一レ比、均應二槩行査明一、在二坊肆一者、或量爲レ給レ價、家藏者、或官爲二裝印一、其有下未レ經二鐫刊一、祇係二鈔本存畱一者上、不レ妨下繕二錄副本一、仍將二原書一給還上、竝嚴二飭所屬一、一切善爲二經理一、毋レ使二吏胥藉端滋擾一、但各省蒐輯之書、卷帙必多、若不レ加二之鑑別一、悉令二呈送一、煩複皆所レ不レ免、著二該督撫等一、先將下各書敍列目錄、注係二某朝某人所一レ著、書中要旨何在上、簡明開載、具摺奏聞、候二彙齊後一、令三廷臣檢覈一、有下堪二備閱一者上、再開單行知レ取進、庶幾副在二石渠一、用儲二乙覽一、從レ此四庫七略、益昭美備、稱二朕意一焉、欽レ此。〔四庫提要、凡例〕是書以二經史子集一、提レ綱列レ目、經部分二十類一、史部分二十五類一、子部分二十四類一、集部分二五類一、或流別繁碎者、又各析二子目一、使二條理分明一、所レ錄諸書、各以二時代一爲レ次、其歷代帝王著作、從二隋書經籍志例一、冠二各代之首一。〔李慈銘、越縵堂日記〕論者謂、四庫總目、雖三紀昀・陸錫熊總二其成一、然經部屬二之戴震一、史部屬二之邵晉涵一、子部屬二之周永年一、皆各集レ所レ長、今之言二四庫一者、盡歸二功於紀氏一、然其雖レ名二博覽一、而於二經史之學一則實疎、集部尤非二專家一、經史幸得二戴邵之功一、故經則力尊二漢學一、識詣旣眞、別裁自易、史則耳山本精二於考訂一、邵氏尤爲二專門一、故所レ失亦尠、子則紀氏涉獵旣編、又取二資於貸園一、彌爲二詳密一、惟集部頗漏略乖錯、多滋二異議一。

〔參考書〕四庫全書總目及未收書目引得二冊、燕京大學刊。

【四庫未收書目提要】276（シコミシウショモクテイエウ） 書名。五卷。清、阮元撰。四庫に未だ收めなかつた古書を購ひ、內府に進呈したものの書目である。經史子集の目を分けず、又、書名を列記するに順序を立てず、得るに從つて之を記した。收める書は百七十四部。後、傅以禮が分類し、各書目に注して揅經室經進書錄四卷とした。〔阮福、四庫未收書目提要序〕家大人在二浙時一、曾購二得四庫未收古書一、進二呈內府一、每進二一書一、必仿二四庫提要之式一、奏二進提要一篇一、凡所二考論一、皆從二采訪之處一、先査二此書原委一、繼而又屬二鮑廷博・何元錫諸君子一、參互審訂、家大人親加二改定纂寫一、而後奏レ之、十數年久、進二書一百數十部一、此提要散藏二于揚州及大兄京邸一、福因偕二弟祜孔厚一、校二刻揅經室集一、請レ錄二刊提要于集內一、家大人諭、此篇半不レ出二于己筆一、卽一篇之中、創改亦復居レ半、文不二必存一、而書應レ存、可下別而題上レ之曰二外集一、道光二年阮福謹記。

【四庫全書提要分纂稾】277（シコゼンショテイエウフンサンカウ） 書名。一卷。清、邵晉涵撰。〔紹興先生遺書、第二十八冊〕。

【四庫全書總目提要四部類敍】278（シコゼンショソウモクテイエウシブルイジョ） 書名。一卷。清、周永年撰。〔靈鶼閣叢書、第七冊〕。

【四顧】279（シコ） 四邊を見まはす。〔莊子、天地〕方且四顧而物應。〔古詩十九首〕四顧何茫茫。〔杜甫、冬到二金華山一觀詩〕四顧俯二層巓一、澹然川谷開。〔白居易、西原晚望詩〕原上晚無レ人、因高聊四顧。〔黃庭堅、鄂州南樓書レ事詩〕四顧山光接二水光一、凭レ欄十里芰荷香。

【四五】280（シゴ） 四又は五。四つ五つ。第四第五。〔書、牧誓〕不レ愆二于四伐五伐、六伐七伐一、乃止齊焉。〔傳〕伐、謂二擊刺一、少則四五、多則六七、以爲レ例。〔晉書、陸喜傳〕或問レ予、薛瑩最是國士之第一者乎、答曰、以レ理推レ之、在二四五之閒一。〔阮籍、詠懷詩〕仙者四五人、逍遙晏蘭房。〔杜甫、前出塞詩〕雄劍四五動、彼軍爲レ我奔。

【四五朶山妝雨色】281（シゴダサンアメヨソホフイロ） 山河に寄

せて歲月を惜しんだ句。〔杜荀鶴、雋陽道中詩〕客路客路何悠悠、蟬聲向レ背槐花愁、爭知百歲不二百歲一、未レ合二白頭一今白頭、四五朶山妝レ雨色、兩三行鴈帖レ雲秋、輸他江上垂レ綸者、祇在二船中一老便休。

【四公】282（シコウ） ❶四人の公爵。〔周禮、夏官、職方氏〕凡邦國、千里封レ公、以二方五百里一則四公、方四百里則六侯、方三百里則七伯・方二百里則二十五子、方百里則一百男、以周二知天下一。❷四人の公。㋑春秋、魯の隱公・閔公・莊公・僖公。〔左氏、隱、元、疏〕傳于二隱閔一云レ不レ書二卽位一、于二莊僖一云レ不レ稱二卽位一、釋例曰、丘明于二四公一發レ傳、以レ不レ書不レ稱起レ文、其義一也。㋺後漢の楊震・楊秉・楊賜・楊彪が父子四代相繼いで三公となつたのでいふ。〔小學紺珠、氏族類、楊氏四公〕楊震字伯起、震子秉字叔節、秉子賜字伯獻、賜子彪字文先、相繼爲二三公一、四世太尉、德業相繼。㋩唐の貞觀の房玄齡・魏徵と開元の姚崇・宋璟。〔小學紺珠、名臣類下、四公〕房・魏・姚・宋、文粹、劉軻書、言二貞觀一則房・魏、言二開元一則姚・宋。

〖四公子〗283（シコウシ） 四人の公子。❶戰國の孟嘗君・信陵君・平原君・春申君。四君(215)の❷を見よ。❷唐の姚憺・周曾・王玢・韋清志。〔唐書、周曾傳〕周曾者、本李希烈部將、與二王玢・姚憺、韋清志一相善、號二四公子一。❸明末の方以智・冒襄・陳貞慧・侯方域。〔韓菼、潛孝先生冒徵君襄墓誌銘〕四公子者、桐城方密之以智・陽羨陳定生貞慧・歸德侯朝宗方域、與二先生一也。

〖四公六民〗284（シコウロクミン） 作米收穫の四分を公に納め、六分を農民の所得とすること。德川時代の徵稅法。

【四后】285（シコウ） 四人の后妃。宋の光獻曹后・宣仁高后・欽聖向后・昭慈孟后の倂稱。〔小學紺珠、氏族類、四后〕光獻曹后・宣仁高后・欽聖向后・昭慈孟后、張宣公曰、家法之美、無レ如二宋四后一、以二賢聖之德一、爲二宗社之福一。

【四攻】286（シコウ） 敵に勝つ四つの法。天時・地宜・人德・行利の四つの備へを攻め破ること。〔逸周書、大武解〕四攻者、一攻二天時一、二攻二地宜一、三攻二人德一、四攻二行利一。〔注〕攻、謂下奪二其計一使上レ不レ成也。

【四侯】287（シコウ） ❶四人の侯爵。漢の景帝の時、楚の相の張尙、太傅の趙夷吾、趙の相の建德、內史の王悍の四人は、各〻其の王に謀叛を起さないように諫めたが、聽かれずして殺されたので、四人の子を侯に封じた。〔史記、景帝紀〕封二四侯一。〔注〕集解曰、文穎曰、楚相張尙・太傅趙夷吾・趙相建德・內史王悍、此四人、各諫二其王一、無レ使レ反、不レ聽、皆殺レ之、故封二其子一、索隱曰、韋昭云、張尙子當居、趙夷吾子周、建德子橫、王悍子弃也。❷筆・硯・紙・墨をいふ。四友。〔小學紺珠、器用類、四侯〕管成侯毛元銳（筆）・卽墨侯石虛中（硯）・好時侯楮知白（紙）・松滋侯易玄光（墨）、文房四譜、文嵩四侯傳。

【四洪】288（シコウ） 宋の黃庭堅の四人の甥、洪朋・洪芻・洪炎・洪羽をいふ。〔小學紺珠、氏族類、四洪〕洪朋龜父・洪芻駒父・炎玉父・羽鴻父、黃庭堅四甥。

【四興】289（シコウ） ❶朝廷・祭祀・軍旅・喪紀の四つの場合に適應した心の用ひかた。〔新書、容經〕志有二四興一、朝廷之志、淵然清以嚴、祭祀之志、諭然思以和、軍旅之志、怫然慍然精以厲、喪紀之志、漻然懣然憂以湫、四志形レ中、四色發レ外、維如二志色之經一。❷四方に懸けた樂器の音がおこること。〔漢書、禮樂志〕四興遞代、八風生。〔注〕臣瓚曰、舞者四縣代奏也。

【四鍭】290（シコウ） 四本の鍭矢。鍭は金鏃翦羽の矢。〔詩、大雅、行葦〕敦弓既堅、四鍭既鈞。〔集傳〕鍭、金鏃翦矢也。〔潘炎、潞河逐鹿賦〕四鍭如レ樹兮、六轡既均。

【四國】291（シコク） ❶四方の國。〔易、明夷〕初登二于天一、照二四國一也。〔詩、曹風、鳲鳩〕其儀不レ忒、正二是四國一。❷四つの國。四箇國。㋑管・蔡・商・奄。〔詩、豳風、破斧〕周公東征、四國是皇。〔傳〕四國、管・蔡・商・奄也。〔小學紺珠、地理類、四國〕管・蔡・商・奄。㋺密・阮・徂・共。〔詩、大雅、皇矣〕維彼四國、爰究爰度。〔箋〕四國、謂二密也、阮也、徂也、共也一。〔小學紺珠、地理類、四國〕密・阮・徂・共。❸南海道の中、阿波・讚岐・伊豫・土佐の四箇國。四國筋を見よ。

【四國筋】292（シコクスヂ） 南海道（**2**–**2750**‥76）に同じ。〔日本國郡沿革考、總說〕南海道稱二四國筋一。

〖四國借款團〗293（シコクシヤククワンダン） 清の宣統三年、其の財政整理の資源を供給する爲に日英米佛四國の代表で組織した借款團。四國幣制借款。革命のために破棄せられた。

【四穀】294（シコク） ❶四種の穀物。〔韓詩外傳、八〕四穀不レ升、謂二之荒一、五穀不レ升、謂二之大侵一。❷特に秬・秠・穈・芑をいふ。〔詩、大雅、生民〕誕降二嘉種一、維秬維秠、維穈維芑。〔疏〕后稷以三天爲レ己下二此四穀一之故、則徧種レ之。〔小學紺珠、動植類、四穀〕秬・秠・穈・芑。

【四劫】295（シコフ） ［佛］世界の成立から滅亡に至る四つの大きな時期。世界成立の劫を成劫、世界安住の劫を住劫、世界壞滅の劫を壞劫、世界空虛の劫を空劫といふ。〔智度論〕此一劫內有二四中劫一、成住壞空。

【四佐】296（シサ） ❶燧人氏の四人の輔佐役。明由・必育・成博・隕丘。〔聖賢羣輔錄、燧人四佐〕明由曉二升級一、必育受二稅俗一、成博受二古諸一、隕丘受二延嬉一、右燧人四佐、燧人出レ天、四佐出レ洛。〔小學紺珠、名臣類上、燧人四佐〕明由・必育・成博・隕丘。❷心臟を助ける脾・腎・肝・肺。〔逸周書、武順解〕心有二四佐一、不レ和曰レ廢。〔注〕四佐、脾・腎・肺・肝也。〔小學紺珠、人事類、四佐〕脾・腎・肝・肺、周禮、心有二四佐一。

【四坐】297（シザ） 四方の坐席。四座。滿坐。轉じて、衆くの人。〔禰衡、鸚鵡賦〕使二四坐咸共榮觀一。〔晉書、唐彬傳〕帝顧二四坐一曰、名不二虛行一。〔陸機、吳趨行〕四坐並清聽、聽三我歌二吳趨一。

【四座】298（シザ） 四坐に同じ。〔張協、詠史詩〕顧謂二四座賓一、多財爲レ累愚。

【四才】299（シサイ） 四つの才能。身・言・書・判をいふ。四才三實を見よ。

〖四才子〗299′（シサイシ） 明の徐禎卿・祝允明・唐寅・文徵明の四人、並びに詩文を以て名あり、吳中の四才子と稱せられた。〔明史、徐禎卿傳〕禎卿少與二祝允明・唐寅・文徵明一齊レ名、號二吳中四才子一。

〖四才三實〗300（シサイサンジツ） 身・言・書・判の四つの才能と德行・才用・勞效の三つの實績。〔舊唐書、職官志二〕凡擇レ人以二四才一、校レ功以二三實一。〔注〕四才、謂二身・言・書・判一、其優長者有レ可レ取焉、三實、謂二德行・才用・勞效一。

【四崔】301（シサイ） 唐の崔邠とその弟鄯・酆・鄲をいふ。〔舊唐書、穆寧崔邠竇羣李遜薛戎傳贊〕二李英英、四崔濟濟。〔小學紺珠、氏族類、四崔〕崔邠・鄯・酆・鄲。

【四祭】302（シサイ） 上代、天子・諸侯が春夏秋冬の四時に行つた宗廟の祭。夏殷の時代は春を禴、夏を禘、秋を嘗、冬を烝といつたが、周は之を改めて、春は祠、夏は禴、秋は嘗、冬は烝とした。四時祭。〔禮記、王制〕天子諸侯、宗廟之祭、春曰レ禴、夏曰レ禘、秋曰レ嘗、冬曰レ烝。〔注〕此蓋夏殷之祭名、周則改レ之、春曰レ祠、夏曰レ禴、以レ禘爲二殷祭一。〔公羊、桓、八〕春曰レ祠、夏曰レ禴、秋曰レ嘗、冬曰レ烝。〔注〕天子四祭四薦。〔春秋繁露、祭義〕奉下四時所レ受二於天一者上、而上レ之爲二上祭一、貴二天賜一且尊二宗廟一也、一年之中、天賜四至、至則上レ之、此宗廟所二以歲四祭一也。

【四塞】303（シサイ・シソク） ❶夷服・鎭服・蕃服等、四方にあつて蔽塞を爲す者をいふ。四方藩衞の國。〔禮、明堂位〕四塞世告レ至。〔注〕四塞、謂下夷服・鎭服・蕃服、在二四方一爲二蔽塞一者上。❷四方が山河に塞がれた要害の地。四塞之國を見よ。❸四方に充ちふさがる。〔漢書、元后傳〕黃霧四塞終日。〔漢書、司馬相如傳〕旁魄四塞、雲布霧散。〔宋書、五行志五〕晉元帝永昌二年正月癸巳、黃霧四塞。❹四方がふさがる。〔文天祥、正氣歌序〕乍晴暴熱、風道四塞、則爲二日氣一。

〖四塞之國〗304（シソクノクニ） 四方が山河に塞がれた要害堅固な國。❶戰國、齊をいふ。南に太山、東に琅邪、西に清河、北に渤海がある。〔戰國、齊策〕蘇秦爲レ趙合從、說二齊宣王一曰、齊南有二太山一、東有二琅邪一、西有二清河一、北有二渤海一、此所謂四塞之國也。❷秦をいふ。東に關河、西に漢中、南に巴蜀、北に代馬の險がある故にいふ。〔史記、秦始皇紀〕秦地被レ山帶レ河以爲レ固、四塞之國也。〔史記、蘇秦傳〕說二惠王一曰、秦四塞之國、被レ山帶レ渭、東有二關河一、西有二漢中一、南有二巴蜀一、北有二代

馬㆒、此天府也。❸關中の地をいふ。東に函谷、南に武關、西に散關、北に蕭關がある。〔史記、項羽紀〕關中阻㆓山河㆒、四塞、地肥饒、可㆓都以霸㆒。〔注〕解曰、徐廣曰、東函谷、南武關、西散關、北蕭關。

【四載】305 シサイ ❶禹が治水に用ひた四つの乘りもの。舟・車・輴・樏。〔書、益稷〕予乘㆓四載㆒、隨㆑山刊㆑木。〔傳〕所㆑載者四、謂㆓水乘㆑舟、陸乘㆑車、泥乘㆑輴、山乘㆑樏。〔宋之問、謁㆓禹廟㆒詩〕夏王乘㆓四載㆒、茲地發㆓金符㆒。〔杜甫、禹廟詩〕早知乘㆓四載㆒、疏鑿控㆓三巴㆒。〔小學紺珠、制度類、四載〕水乘㆑舟・陸乘㆑車・泥乘㆑輴・山乘㆑樏。❷四箇年。載は歳。四歳。〔陸機、行思賦〕越㆓河山㆒而託㆑景、眇㆓四載㆒而遠期。〔潘岳、在㆓懷縣㆒作詩〕自㆔我違㆓京輦㆒、四載迄㆓于斯㆒。

【四罪】306 シザイ 舜の時、共工を北裔の幽州に流し、驩兜を南裔の崇山に放ち、三苗を西裔の三危に竄し、鯀を東裔の羽山に殛したことをいふ。〔書、舜典〕流㆓共工于幽洲㆒、放㆓驩兜于崇山㆒、竄㆓三苗于三危㆒、殛㆓鯀于羽山㆒、四罪而天下咸服。

【四葬】307 シサウ 扶南國で死者を葬る四つの方法。水葬・火葬・土葬・鳥葬。〔南史、扶南國傳〕國俗居㆑喪、則剃㆓除鬚髮㆒、死者有㆓四葬㆒、水葬則投㆓之江流㆒、火葬則焚爲㆓灰燼㆒、土葬則瘞㆓埋之㆒、鳥葬則棄㆓之中野㆒。

【四索】308 シサク 四方に人を遣ってさがしもとめる。四方を探索する。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕遣㆓時政㆒、以㆓千餘騎㆒護㆓京師㆒、四索不㆑獲。

【四鑿】309 シサク 四方から穴を掘る。〔日本外史、足利氏後記、毛利氏〕賊四㆓鑿地道㆒、樓櫓殆覆。

【四察】310 シサツ 四つの觀察。耳・目・口・心の四つによつて察すること。〔逸周書、小開武解〕四察、一、目察維極、二、耳察維聲、三、口察維言、四、心察維念。

【四三】311 シサン 四又は三。三つ四つ。僅かの數をいふ。三四。〔書、無逸〕自㆑時厥後、亦罔㆓或克壽㆒、或十年或七八年、或五六年、或四三年。〔宋史、李穀等傳論〕五季爲㆑國、不㆓四三傳㆒輒易㆑姓、其臣子視㆑事㆑君、猶㆓傭者㆒焉。

【四散】312 シサン 四方に散る。彼方此方に飛び散ること。〔晉書、劉琨傳〕流移四散、十不㆑存㆑一。〔白居易、初與㆓元九㆒別後云云帳然感懷因以㆑此寄詩〕昨夜雲四散、千里同㆓月色㆒。〔羅隱、宿㆓荊州江陵館㆒詩〕風動㆓芰荷㆒香四散、月明樓閣影相侵。

【四山】313 シザン ❶四つの山。又、四方の山。〔陳後主、晝堂良夜云云詩〕雲興四山霾、風動萬籟答。〔崔湜、塞垣行〕十月邊塞寒、四山沍陰積。〔杜甫、乾元中寓㆓居同谷縣㆒作詩〕四山多㆑風溪水急、寒雨颯颯枯樹濕。〔韋應物、夜望詩〕不㆑見城郭事、沈沈惟四山。❷梁、張嵊（**4**－**9812**・・432）の字。

【四竄】314 シザン 四方に逃げる。〔福惠全書、刑名部、賊盗上、緝捕〕餘賊遂四竄、止㆑眾弗㆑追。

【四士】315 シシ 四人の士。❶禹・契・皐陶・后稷をいふ。〔管子、法法〕禹爲㆓司空㆒、契爲㆓司徒㆒、皐陶爲㆑李、后稷爲㆑田、此四士者、天下之賢人也。〔小學紺珠、名臣類上、四士〕禹爲㆓司空㆒、契爲㆓司徒㆒、皐陶爲㆑李、后稷爲㆓田儔㆒。❷石戶之農・北人無擇・卞隨・務光をいふ。〔呂覽、離俗〕故如㆓石戶之農・北人無擇・卞隨・務光㆒者、其視㆓天下㆒、若㆓六合之外㆒、人之所㆑不㆑能㆑察、其視㆓富貴㆒也、苟可㆑得已、則必不㆓之賴㆒、高㆑節厲㆑行、獨樂㆓其意㆒、而物莫㆓之害㆒、不㆑漫㆓於利㆒、不㆑牽㆓於勢㆒、而羞㆑居㆓濁世㆒、惟此四士者之節。〔小學紺珠、名臣類上、四士〕石戶之農・北人無擇・卞隨・務光。❸吳の伍子胥、晉の輔果、漢の穆生・鄒陽をいふ。〔阮瑀爲㆓曹公㆒作㆑書與㆓孫權㆒書〕是故子胥知㆔姑蘇之有㆓麋鹿㆒、輔果識㆔智伯之爲㆓趙禽㆒、穆生謝㆑病以免㆓楚難㆒、鄒陽北游不㆑同㆓吳禍㆒。〔小學紺珠、氏族類下、四士〕子胥・輔果・穆生・鄒陽。❹唐の包融・賀知章・張旭・張若虛を吳中の四士といふ。〔唐書、包佶傳〕父融集賢院學士、與㆓賀知章・張旭・張若虛㆒有㆑名㆓當時㆒、號㆓吳中四士㆒。〔小學紺珠、名臣類下、四士〕包融・賀知章・張旭・張若虛。❺筆・硯・紙・墨を人格視していふ。〔陸游、閑居無㆑客所㆓與度㆑日筆硯紙墨而已戲作㆓長句㆒詩〕水複山重客到稀、文房四士獨相依。

【四子】316 シシ ❶四人の子。㋑帝嚳の四人の子。后稷・契・帝堯・帝摯。〔大戴禮、帝繫〕帝嚳卜㆓其妃嚳之子㆒、而皆有㆓天下㆒、上妃有邰氏之女也、曰㆓姜嫄氏㆒、產㆓后稷㆒、次妃有娀氏之女也、曰㆓簡狄氏㆒、產㆑契、次妃曰㆓陳隆氏㆒、產㆓帝堯㆒、次妃曰㆓陬訾氏㆒、產㆓帝摯㆒。〔小學紺珠、氏族類、帝嚳四子〕帝嚳卜㆓其四妃之子㆒、皆有㆓天下㆒、有邰氏姜嫄生㆓后稷㆒、有娀氏簡狄生㆑契、陳鋒氏生㆓帝堯㆒、陬訾氏生㆓帝摯㆒、大戴禮、帝繫。㋺楚の熊嚴の四人の子。伯霜・中雪・叔熊・季紃。〔國語、鄭語〕荊子熊嚴生㆓子四人㆒、伯霜・中雪・叔熊・季紃。〔小學紺珠、氏族類、荊四子〕伯霜・中雪・叔熊・季紃。㋩唐の李晟の四人の子。愿・憲・愬・聽。〔小學紺珠、氏族類、四子秉節〕李晟四子、愿・憲・愬・聽、皆秉㆓麾節㆒、卓異記。㋥唐の穆寧の四人の子。贊・質・員・賞。〔小學紺珠、氏族類、穆氏四子〕贊・質・員・賞、穆寧四子、皆以㆓守道行誼㆒顯。❷四人の名臣。㋑王倪・齧缺・被衣・許由。〔莊子、逍遙遊〕堯治㆓天下之民㆒、平㆓海內之政㆒、往見㆓四子藐姑之山、汾水之陽㆒。〔釋文〕司馬李云、王倪・齧缺・被衣・許由。〔小學紺珠、名臣類下、四子〕王倪・齧缺・被衣・許由。㋺義仲・義叔・和仲・和叔。〔漢書、食貨志上〕堯命㆓四子㆒、以敬授㆓民時㆒。〔注〕師古曰、四子、謂㆓義仲・義叔・和仲・和叔㆒也。㋩龍逢・比干・宮之奇・屈原。〔小學紺珠、名臣類下、四子〕龍逢・比干・宮之奇・屈原、陸贄奏議、四子既去、四君亦危。㋥龍逢・比干・韓非・陳蕃。〔劉蕢、對㆓賢良方正直言極諫㆒策〕昔龍逢死而啓㆑殷、比干死而啓㆑周、韓非死而啓㆑漢、陳蕃死而啓㆑魏、今臣之來也、有司或不㆔敢薦㆓臣之言㆒、陛下又無㆔以察㆓臣之心㆒、退必受㆓戮於權臣之手㆒、臣幸得㆘從㆓四子㆒遊㆗於地下㆖、固臣之願也。〔小學紺珠、名臣類下、四子〕龍逢・比干・韓非・陳蕃。㋭伊尹・傅說・百里奚・段干木。〔新論、妄暇〕伊尹夏之庖廚、傅說殷之胥靡、百里奚虞之亡虜、段干木魏之大駔、此四子者、非㆑不㆑賢也、而其迹不㆑免㆑汚也。㋬商君・白起・吳起・大夫種。〔史記、蔡澤傳〕如㆑是而不㆑退、則商君・白公・吳起・大夫種、是也、云云、書曰、成功之下、不㆑可㆓久處㆒、四子之禍、君何居焉。〔小學紺珠、名臣類下、四子〕商君・白起・吳起・大夫種、戰國策、四子成㆑功而不㆑去。㋣逢萌・徐房・李曇・王遵。〔小學紺珠、名臣類下、四子〕逢萌（子康）・徐房（平原）・李曇（子雲）・王遵（君公）、不㆑仕㆓亂世㆒、相與爲㆑友、時人號㆓四子㆒、高士傳。㋠三國、蜀の諸葛亮が交はった崔州平・徐庶（字は元直）・董和（字は幼宰）・胡濟（字は偉度）の四人。〔蜀志、董和傳〕（諸葛亮）曰、昔初交㆓州平㆒、屢聞㆓得失㆒、後交㆓元直㆒、勤見㆓啓誨㆒、前參㆓事於幼宰㆒、每㆑言則盡、後從㆓事於偉度㆒、數有㆓諫止㆒、雖㆓姿性鄙暗、不㆑能㆓悉納㆒、然與㆓此四子㆒、終始好合、亦足㆔以明㆓其不㆑疑㆓於直言㆒也。〔小學紺珠、名臣類下、四子〕諸葛孔明曰、昔初交㆓州平㆒（崔）、屢聞㆓得失㆒、後交㆓元直㆒（徐庶）、觀見㆓啓誨㆒、前參㆓事於幼宰㆒（董和）、每㆑言則盡、後從㆓事於偉度㆒（胡濟）、數有㆓諫止㆒。❸四人の賢者。㋑周公・太公・召公・史佚。四聖。〔小學紺珠、名臣類上、四子〕周公立㆓於前㆒、謂㆓之道㆒、太公立㆓於後㆒、謂㆓之充㆒、召公立㆓於右㆒、謂㆓之弼㆒、史佚立㆓於後㆒、謂㆓之承㆒、大戴禮。㋺周公・召公・畢公・史佚をいふ。〔小學紺珠、名臣類上、四子〕周公在㆑前、召公在㆑後、畢公在㆑左、史佚在㆑右、後漢書。㋩漢の王褒の假說した微斯文學・虛儀夫子・浮遊先生・陳丘子の四人。〔王褒、四子講德論、注〕濟曰、四子謂㆓微斯文學・虛儀夫子・浮遊先生・陳丘子㆒也、褒當㆔假立以爲㆓論端㆒也。〔小學紺珠、藝文類、四子講德論〕微斯文學・虛儀夫子・浮遊先生・陳丘子。㋥朱買臣・王章・蘇秦・班超。〔新論、通塞〕買臣忍㆑饑而行歌、王章苦㆑寒而坐泣、蘇秦握㆑錐而憤懣、班超執㆑筆而慷慨、當㆓彼四子勢屈之時㆒、容色黎黑、神情沮忸。❹四人の弟子。㋑孔子の弟子、閔子騫・子路・冉有・子貢。〔論語、先進〕閔子侍㆑側、誾誾如也、子路行行如也、冉有・子貢侃侃如也、子樂。〔疏〕子樂者、以㆔四子各盡㆓其自然之性㆒、故喜樂也。㋺孔子の弟子、子路・曾晳・冉有・公西華。〔論語、先進〕子路・曾晳・冉有・公西華侍坐。〔疏〕時孔子坐、四子侍㆑側、亦皆坐也。㋩孔子の弟子、顏回・子貢・子路・子張。〔小學紺珠、聖賢類、四子〕回之信（顏淵）・賜之敏（子貢）・由之勇（子路）・師之莊（子張）、家語。❺四人の賢者の著書。㋑大學・論語・孟子・中庸。四子書を見よ。〔小學紺珠、藝文類、四子〕大學・論語・孟子・中庸、朱文公曰、四子、六經之階梯、近思錄、四子之階梯、先讀㆓大學㆒、次及㆓論孟㆒、而後會㆓其歸於中庸㆒。㋺老子・莊子・文子・列子。〔唐書、元載傳〕天寶初、下㆑詔擧㆘明㆓莊・老・列・文四子學㆒者㆖、載㆑策入㆓高第㆒。〔小學紺珠、

藝文類、四子〕老子（道德經）・莊子（南華眞經）・文子（通玄眞經）・列子（沖虛眞經）。㊅部落の名。內蒙古烏蘭察布盟四部の一つ。綏遠省の東北境。明の時、阿勒喀爾喀、之に據り、四子に分與して、四子部落と號す。清初、內附す。四子部落を見よ。〔清史稿、地理志〕內蒙古、四子部落一旗、天聰八年、貝勒顎青布來朝、後敍レ功封二郡王一、襲二封牧地一、有二錫喇察漢諾爾錫喇木倫河一瀦レ之、東北界二蘇尼特一、西界二歸化城土默特一、南界二鑲紅旗察哈爾一。

【四子書】317 シシヨ　四書(428)の㊄の別稱。孔子(論語)・曾子(大學)・子思(中庸)・孟子(孟子)の四子の言行錄又は其の著書であるからいふ。〔文史通義、內篇、文理、五經四子、注〕大學・中庸・論語・孟子爲二四子書一。〔經解入門、羣經緣始〕本朝所レ定、則始周易、次尚書、次毛詩、次三禮、次春秋、次孝經、次論語、次孟子、次爾雅、至二所レ行四子書一、則宋程朱諸儒、取二禮記大學中庸二篇一、而配二合之一者也。

【四子部落】318 シシブラク　內蒙古烏蘭察布盟四部の一旗。綏遠都統の管轄に屬す。四子の㊅を見よ。〔清國行政法汎論、藩部官制、內蒙古部旗〕烏蘭察布盟、部四、爲レ旗六、云云、四子部落 Ssŭ Tsŭ Pu Lo, or Durban Keuked 一旗。

【四子講德論】319 シシカウトクロン　文章の名。漢の王褒が架空の人四人を作り、其の問答に託して德を論じたもの。文選五十一卷に收める。四子の㊂の㋩を見よ。〔王褒、四子講德論序〕褒既爲二益州刺史王襄一、作二中和樂職宣布之詩一、又作レ傳、名曰二四子講德一、以明二其意一焉。

【四之】320 シシ　清、張維(**4**-**9812**‥18)の字。

【四之日】321 シノヒ　周の四月をいふ。之日の上の數字は十餘の意。卽ち四之日とは十四の月であつて、夏曆の二月を指す。夏曆の二月は周の四月である。〔詩、豳風、七月〕四之日擧レ趾。〔傳〕一之日、十之餘也、周之正月也、云云、四之日、周四月也。

【四支】322 シシ　兩手兩足。四枝。四肢。支は肢。四體(528)の㊀に同じ。〔國語、鄭語〕剛二四支一、以衞レ體。〔莊子、田子方〕四支百體、將レ爲二塵垢一。〔管子、心術下〕四支堅固。〔張載、東銘〕發二於聲一、見二乎四支一。

【四支僵勁】323 シシキヤウケイ　手足がこはばつて動かぬこと。〔宋濂、送二東陽馬生一序〕至レ舍四支僵勁、不レ能レ動。

【暢二於四支一發二於事業一】324 シシニノビジゲフニアラハル　道德を內に抱く時は、それが自ら四體動作の上にあらはれ、更にその事業の上にあらはれる。〔易、坤〕君子黃中通レ理、正レ位居レ體、美在二其中一、而暢二於四支一、發二於事業一、美之至也。

【四只】325 シシ　清、夏維(**3**-**5720**‥5)の字。

【四史】326 シシ　㊀黃帝の四人の史官。沮誦・蒼頡・隷首・孔甲。〔拾遺記、黃帝〕置二四史一、以主二圖籍一。〔小學紺珠、名臣類上、四史〕沮誦・蒼頡・隷首・孔甲、黃帝四史官。㊁唐以前、史記・前後漢書を三史といひ、之に三國志を加へて四史といふ。清の史玥に四史勦說十六卷の著がある。〔輶軒語、語學、讀史〕正史中、宜三先讀二四史一、全史浩繁、從レ何說起、四史最要、史記・漢書・後漢書・三國志。

【四矢】327 シシ　四本の矢。乘矢。〔詩、齊風、猗嗟〕四矢反兮、以禦レ亂兮。〔傳〕四矢、乘矢。〔箋〕每射四矢、皆得二其故處一、此之謂レ復、射必四矢者、象三其能禦二四方之亂一也。

【四至】328 シシ　㊀四方から至る。〔呂覽、不屈〕國家空虛、天下之兵四至。〔漢書、五行志中之下〕雨雪四至而溫。㊁四たび至る。〔潘岳、閑居賦〕岳嘗讀二汲黯傳一、至下司馬安四至二九卿一、而良史題レ之、以中巧宦之目上、未三嘗不二慨然廢レ書而歎一。㊂四方の界。四面のさかひ。〔六部成語、工部、四至注解〕地畝之四面也。〔庭訓往來、三月、注〕四至、東西南北界也。㊃石に四方それぞれの地名を誌した碑。唐に始まるといふ。〔碑版廣例〕書二地界四至一、雖下自二晉太康瓦莂一有上レ之、唐人則見二於開元廿八年王守泰記石浮屠一、後書二東西南北四至之下一、又總レ之曰、四至分明、永泰無窮、末加二吉語一、雖レ出二漢例一、在レ唐爲二剏見一。

【四至內】329 シキウチ　㊀姓氏。〔和爾雅〕。㊁シシウチ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【四始】330 シシ　四つの始。㊀元旦。歲・時・月・日の始であるからいふ。〔史記、天官書〕四始者、候之日。〔注〕正義曰、謂二正月旦一、歲之始・時之始・日之始・月之始、故云二四始一。㊁詩經の四始。㋑風・小雅・大雅・頌の四つ。此の四者は人君興廢の始であるからいふ。〔詩、大序〕是謂二四始一、詩之至也。〔疏〕四始者、鄭荅二張逸一云、風也、小雅也、大雅也、頌也、人君行レ之則爲レ興、廢レ之則爲レ衰、又箋云、王道興衰之所レ由、然則此四者是人君興廢之始、故謂二之四始一也。㋺關雎・鹿鳴・文王・清廟。關雎は風の始、鹿鳴は小雅の始、文王は大雅の始、清廟は頌の始。〔史記、孔子世家〕關雎之亂、以爲二風始一、鹿鳴爲二小雅始一、文王爲二大雅始一、清廟爲二頌始一。〔小學紺珠、藝文類、四始〕關雎之亂爲二風始一、鹿鳴爲二小雅始一、文王爲二大雅始一、清廟爲二頌始一。㋩大明・四牡・嘉魚・鴻雁。大明、亥に在るは水の始、四牡、寅に在るは木の始、嘉魚、巳に在るは火の始、鴻雁、申に在るは金の始。〔詩緯、汎歷樞〕大明在レ亥、水始也、四牡在レ寅、木始也、嘉魚在レ巳、火始也、鴻雁在レ申、金始也。〔小學紺珠、律歷類、四始〕大明在レ亥水始也、四牡在レ寅木始也、嘉魚在レ巳火始也、鴻雁在レ申金始也。㊂書經の四始。仲虺之誥は仁の始、湯誥は性の始、大甲は誠の始、說命は學の始。〔困學紀聞、書〕仲虺之誥、言レ仁之始也、湯誥、言レ性之始也、大甲、言レ誠之始也、說命、言レ學之始也。

【四枝】331 シシ　兩手兩足。四支(322)に同じ。〔莊子、達生〕齊七日、輒然忘三吾有二四枝形體一也。〔荀子、儒效〕行レ禮要レ節而安レ之、若レ生二四枝一。

【四枝鬟】332 シシクワン　婦人の髻の一種。〔段成式、戲二高侍御一詩〕不三獨邯鄲新嫁女一、四枝鬟上插二通犀一。

【四肢】333 シシ　兩手兩足。四體。四衞。四胑。四支(322)に同じ。〔孟子、盡心下〕鼻之於レ臭也、四肢之於二安佚一也、性也。〔莊子、知北遊〕邀二於此一者、四肢彊、思慮恂達。〔管子、君臣下〕四肢六道、身之體也。〔墨子、修身〕暢二之四支一、接二之肌膚一。〔韓詩外傳、二〕子賤治二單父一、彈二鳴琴一、身不レ下レ堂而單父治、人謂子賤則君子矣、佚二四肢一、全二耳目一、平二心氣一、而百官理。

【四指】334 シシ　㊀四本のゆび。〔禮、投壺〕籌室中五扶、注〕鋪二四指一曰レ扶。㊁ssŭ⁴ chih³ 第四指。藥指。

【四施】335 シシ　㊀四方に施す。〔宋玉、高唐賦〕滂洋洋而四施兮、蓊湛湛而不レ止。〔揚雄、甘泉賦〕樵蒸焜レ上、配藜四施、東燭二滄海一、西耀二流沙一。㊁佛 セシ　出家の菩薩が行ふべき四つの布施。筆施・墨施・經施・說法施。〔菩薩善戒經、一〕出家菩薩修二習四施一、一者筆施、二者墨施、三者經施、四者說法施。

【四胑】336 シシ　四肢(333)に同じ。〔荀子、君道〕天下從レ之、如二一體一、如二四胑之從一レ心、夫是之謂二大形一。〔集解〕盧文弨曰、四胑、宋本作二四支一。〔淮南子、脩務訓〕四胑不レ動、思慮不レ用。

【四師】337 シシ　新の王莽が太子の爲に置いた四人の先生。師疑馬宮・傅丞宗伯鳳・阿輔袁聖・保拂王嘉。〔漢書、王莽傳中〕以二故大司徒馬宮一爲二師疑一、故少府宗伯鳳爲二傅丞一、博士袁聖爲二阿輔一、京兆尹王嘉爲二保拂一、是爲二四師一。

【四師傅】338 シシフ　回教の傳道師。阿訇の次に位し、畜類を屠殺することを司る。

【四視】339 シシ　四方をみること。〔宋史、吳玠傳〕撒離喝駐レ馬四視曰、吾得レ之矣。

【四詩】340 シシ　㊀前漢の時、詩經を修めた四家。魯人申培の傳へたものを魯詩、齊人轅固生の傳へたものを齊詩、燕人韓嬰の傳へたものを韓詩、魯人毛亨の傳へたものを毛詩といふ。魯詩を專修した者に孔安國・王臧・趙綰・韋賢・王式などがあり、齊詩には蕭望之・匡衡など、韓詩には王吉など、毛詩には鄭衆・賈逵・鄭玄・王肅などがある。齊・魯・韓の三詩は先づ漢の武帝の朝に學官に立ち、毛詩は後れて平帝の末に學官に列した。併し齊詩は東漢に、魯詩は西晉に、韓詩は北宋に亡び、毛詩だけが現存してゐる。四家の詩には、各〻傳統があり、異同があるので、後漢の肅宗の時、賈逵に毛詩と他の三家との異同を撰修させたが、其の優劣は遂に決せられなかつた。然るに鄭玄が箋を作るや、多く毛傳を取り、遂に毛鄭を合刻するに及び、毛詩の勢力は他の三家を壓倒した。朱熹は詩序を排したが、本文は總べて毛詩により、元明を經て、清初に至り、

陳啓源・戴震・段玉裁・胡承珙・馬瑞辰・陳奐など皆毛詩を主とし、ただ皮錫瑞が毛詩を棄てて他の三家を尊んだ。 詩經(10－35427・・45)及び三家詩(1－12・・117)を見よ。〔經典釋文、序錄〕漢興、傳者有二四家一、魯人申公、受二詩於浮丘伯一、以二詩經一爲二訓故一以教、無レ傳疑者則闕不レ傳、號曰二魯詩一、云云、齊人轅固生、作二詩傳一號二齊詩一、云云、燕人韓嬰、推二詩之意一、作二內外傳數萬言一、號曰二韓詩一、云云、毛詩者出レ自二毛公一、河閒獻王好レ之、云云、前漢、魯齊韓三家詩、列二于學官一、平帝世、毛詩始立、齊詩久亡、魯詩不レ過二江東一、韓詩雖レ在、人無二傳者一、唯毛詩鄭箋、獨立二國學一。〔小學紺珠、藝文類、四詩〕魯詩（申公）・齊詩（轅固）・韓詩（韓嬰）・毛詩毛萇。 ❷詩經の各體の總稱。㋑二南・國風・雅・頌。〔許堯佐、五經閣賦〕虞夏商周之五典、國風雅頌之四詩。㋺南(周南・召南)・豳詩・雅・頌。〔日知錄、經義、四詩〕周南・召南、南也、非レ風也、豳、謂二之豳詩一、亦謂二之雅一、亦謂二之頌一、而非レ風也、南・豳・雅・頌爲二四詩一、而列國之風附焉、此詩之本序也。

【四字】341 ジヨ ❶四箇の字。〔詩、衞風、河廣序、疏〕今定本無二襄公之母四字一。〔宋史、高士林傳〕英宗書二謹守法律四字一、誨レ之曰、能レ此則爲二良吏一矣。〔宋史、趙鼎傳〕上親書二忠正德文四字一賜レ鼎。 ❷官吏として守るべき四字の心得。㋑謹・勤・和・緩。〔呂氏雜錄〕劉器之待制、初登レ科、與二二同年一謁二張觀參政一、三人同起レ身請レ教、張曰、某自レ守レ官以來、常持二四字一、謹・勤・和・緩。〔小學紺珠、儆戒類、四字〕勤・謹・和・緩。㋺莊・守・精・密。〔小學紺珠、儆戒類、四字〕莊・守・精・密、王介甫守二常州一、呂正獻公告以二四言一。㋩弘・大・平・粹。〔小學紺珠、儆戒類、四字〕弘・大・平・粹、朱文公答二呂伯恭一書曰、四字謹二書坐隅一。

【四字經】342 ヨジキヤウ 書名。一卷。明、蕭良有撰。四字句の韻文で古今の史事を敍す。 三字經の類で、童蒙の課本に用ひるもの。 其の全文は次の如し。〔四字經〕龘二刪故事一、誨二爾童蒙一、經書暇日、子史須レ通、重華大孝、武穆精忠、堯眉八彩、舜目重瞳、禹承二大舜一、說相二高宗一、義倫清節、展獲和風、太宗懷レ鷂、桓典乘レ驄、愷崇鬭レ富、渾濬爭レ功、秀巡二河北一、策據二江東一、王倫使レ虜、魏絳和レ戎、恂留二河內一、何守二關中一、杲卿斷レ舌、高祖傷レ胸、曾除二丁謂一、皓折二賈充一、韓琦切直、師德寬容、范雍助レ麥、丁固夢レ松、唐門五豸、荀子八龍、郊初竝第、譚尙相攻、倚レ閭賈母、投レ閣揚雄、寅陳二七策一、光進二五規一、魯恭三異、楊震四知、鄧攸棄レ子、郭巨埋レ兒、允誅二董卓一、玠殺二王夔一、子推割レ股、張敞畫レ眉、伯兪泣レ杖、墨翟悲レ絲、能文曹植、善レ辯張儀、溫公警枕、董子下帷、伏羲畫レ卦、宣父刪レ詩、會レ書張旭、善レ畫王維、謫仙捉レ月、傳說騎レ箕、子房辟レ穀、公信採レ薇、陶公運レ甓、孟母斷レ機、朱雲折レ檻、禽息擊レ車、時苗留レ犢、羊續懸レ魚、董昭救レ蟻、毛寶放レ龜、蔡倫造レ紙、劉向校レ書、楚英信レ佛、秦政坑レ儒、微生不レ直、顏子非レ愚、蘇秦刺レ股、李勣焚レ鬚、介誠狂直、端不二糊塗一、關西孔子、江左夷吾、耿恭拜レ井、范蠡歸レ湖、伍員覆レ楚、句踐滅レ吳、莊周夢レ蝶、張翰思レ鱸、善謳王豹、直筆董狐、文公伯レ晉、小白興レ齊、武王歸レ馬、裴度還レ犀、成湯禱レ雨、竇儼占レ奎、趙苞棄レ母、吳起殺レ妻、淵明賞レ菊、和靖觀レ梅、禹鈞五桂、王祐三槐、朱熹正學、蘇軾奇才、醇儒董子、復聖顏回、孔門十哲、殷室三仁、太公釣レ渭、伊尹耕レ莘、喪レ邦黃皓、誤レ國章惇、比干剖レ腹、豫讓漆レ身、劉邦興レ漢、胡亥亡レ秦、袁安臥レ雪、仁傑望レ雲、何奇二韓信一、香化二陳元一、陳平奇計、唐介直言、力稱二烏獲一、勇尙二孟賁一、鞅更二秦法一、普讀二魯論一、韓蘋題レ葉、燕姞夢レ蘭、循良伏湛、儒雅倪寬、顗容二王導一、浚殺二曲端一、如レ龍諸葛、似レ鬼曹瞞、謝安折レ屐、貢禹彈レ冠、范增擧レ玦、羊祜探レ環、長歌甯戚、鼾睡陳摶、尙居二渭水一、方隱二箕山一、陳蕃下レ榻、郅惲拒レ關、藺康避レ恥、龐德遺レ安、劉晨採レ藥、周頤觀レ蓮、虞公指レ日、武乙射レ天、岳飛破レ虜、李牧備レ邊、或臣二曹操一、猛相二苻堅一、漢家三傑、晉室七賢、唐宗三鑑、劉寵一錢、班超投レ筆、蘇武飡レ氈、操誅二呂布一、臏殺二龐涓一、包胥復レ楚、無忌救レ趙、道官二五季一、普相二兩朝一、貴妃捧レ硯、弄玉吹レ簫、劉蕡下レ第、盧肇奪レ標、韓侯敝袴、張祿綈袍、相如題レ柱、韓愈焚レ膏、陵甘レ降レ虜、羽不レ從レ曹、捐レ生紀信、爭レ死孔褒、隆貧曬レ腹、潛懶折レ腰、馬援矍鑠、巢父清高、丁蘭刻レ木、王質爛レ柯、霍光忠厚、黃霸寬和、漢帝封レ齒、齊王烹レ阿、隱翁龔勝、刺客荊軻、孫臏減レ竈、道濟量レ沙、伋辭レ餽レ粟、瓊卻レ餉レ瓜、退之驅レ鱷、叔敖埋レ蛇、班昭漢史、蔡琰胡笳、羿雄射レ日、衍憤飛レ霜、王祥求レ鯉、蘇武牧レ羊、亮方二管樂一、勒比二高光一、世南書監、晁錯智囊、昌囚二羑里一、夷餓二首陽一、轍攻二程頤一、浚沮二李綱一、降レ金劉豫、順レ虜邦昌、孔誅二正卯一、關刺二顏良一、瑜燒二赤壁一、軾謫二黃岡一、寇公枯竹、召伯甘棠、匡衡鑿レ壁、孫敬懸レ梁、衣レ蘆閔損、扇レ枕黃香、嬰扶二趙武一、籍殺二懷王一、傾レ城妲己、嫁レ虜王嬙、神威翼德、義勇雲長、魏徵嫵媚、阮籍猖狂、杜康造レ酒、傅說和レ羹、卞莊擊レ虎、李白騎レ鯨、曾參養レ志、李密陳レ情、何收二圖籍一、丘惜二繁纓一、忠臣洪皓、義士田橫、相如完レ璧、廉頗負レ荊、能レ詩杜甫、嗜レ酒劉伶、宋郊渡レ蟻、車胤囊レ螢、蒙恬造レ筆、大昊制レ琴、卞和泣レ玉、楊震辭レ金、邵雍知レ亂、陵母知レ興、仲舒三策、程子四箴、周公待レ旦、夏禹惜レ陰、亮來二三顧一、獲被二七擒一、韓仇良復、漢紀備承、易牙知レ味、鍾子知レ音、羲和正レ夏、宋玉悲レ秋、孫陽識レ馬、丙吉問レ牛、信擒二雲夢一、準貶二雷州一、曹參輔レ漢、周勃安レ劉、龍逢極諫、王衍清談、武覊二漢北一、彬下二江南一、宋臣宗澤、秦將蒙恬、民懷二寇準一、虜懼二仲淹一、尾生豈信、仲子非レ廉、由飡二藜藿一、鬲販二魚鹽一、五湖范蠡、三徑陶潛、古人億萬、此不二盡言一。

【四字句】343 ヨジク 四字で一句をなすもの。 詩經に其の例多く、後世も頌體の詩には多く之を用ひる。〔文心雕龍、頌讚〕所以古來篇體、促而不レ曠、必結二言於四字之句一、盤二桓乎數韻之辭一、約擧以盡レ情、昭灼以述レ文、此其體也。

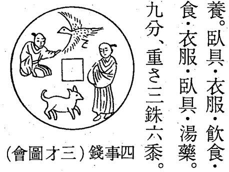
【四字缺】344 ヨジケツ 清代、地方官中、道府以下は、土地の狀況と事務の繁簡とによつて官缺(官の任務)に差等があつた。 簡缺・中缺・要缺・最要缺があつて、その中、衝(都會の地)・繁(事務繁忙の地)・疲(勞多き地)・難(民治困難の地)の四字を具有する者を四字缺といふ。〔清國行政法汎論、地方官廳、地方缺種類〕世俗分缺之種類、稱爲二四字缺・三字缺・二字缺・一字缺・無字缺一、卽以三具二有衝繁疲難四字一、爲二四字缺一、以下遞降、至二於一字不レ備者一、是爲二無字缺一也、衝、謂下四通八達之要區、內外各地官商、必當二經過一之地上也、繁、謂二官廳事務繁劇之地一也、疲、爲二疲勞之義一、謂下自二官廳事務一至二其他事情一、甚覺二勞苦一之地上也、難、謂下民治上極二困難一之地上也、京師順天府大興宛平二縣、天津府天津縣、上海縣、廣州府南海番禺二縣、皆具二此四字一、稱爲二最要缺一、以二練達之員一補レ之。

【四字天花】345 ヨジテンクワ 酴醾花の異稱。酴醾(11－39867・・4)の❷を見よ。〔清異錄、花、慈恩傳粉綠衣郎〕陶子召二客于西宅一、爲二酴醾一開レ尊無二以侑レ飮、請二座人一各撰二小名一、得下有二思致一者七上、是日十一客、費二麴生八斗一、夜三鼓而罷、家慈有二酴醾酒肉一、如二吾十二人之樂一、後世不レ可レ得、賽白・蔓君・四字天花・花聖人・慈恩傳粉綠衣郎・獨步春・沉香密友。

【四事】346 ジシ 四つの事。❶易に於ける聖人の道、四つ。 言ふ者は其の辭を尙び、動く者は其の變を尙び、器を制する者は其の象を尙び、卜筮する者は其の占を尙ぶ。〔周易正義、論二重卦之人一〕上繫云、易有二聖人之道四一焉、以言者尙二其辭一、以動者尙二其變一、以制レ器者尙二其象一、以卜筮者尙二其占一、此四事、皆在二六爻之後一。 ❷哲・謀・肅・艾。〔詩、小雅、小旻〕或哲或謀、或肅或艾。〔疏〕於レ國言二聖賢一、於レ民言二哲謀肅艾一、以二聖賢此四事爲レ優、故屬二之諸侯一耳。❸奕奕たる寢廟は君子之を作り、秩秩たる大猷は聖人之を謀り、他人心有れば予之を忖度し、躍躍たる毚兔は犬に遇うて獲られる。〔詩、小雅、巧言〕奕奕寢廟、君子作レ之、秩秩大猷、聖人莫レ之、他人有レ心、予忖二度之一、躍躍毚兔、遇レ犬獲レ之。〔箋〕此四事者、言二各有レ所レ能也。❹道・德・仁・義。〔禮、曲禮上〕道德仁義、非レ禮不レ成。〔疏〕道者、通レ物之名、德者、得レ理之稱、仁是施レ恩及レ物、義是裁斷合レ宜、言、人欲レ行二四事一、不レ用レ禮無レ由レ得レ成。 ❺禹が旨酒を惡んで善言を好み、湯が中を執つて賢を立てること方無く、文王が民を視ること傷むが如く、道を望むに未だ之を見ざるが如くし、武王が邇きに泄れず、遠きを忘れなかつたこと。〔孟子、離婁下〕孟子曰、禹惡二旨酒一、而

好㆓善言㆒、湯執㆑中、立㆑賢無㆑方、文王視㆑民如㆑傷、望㆑道而未㆓之見㆒、武王不㆑泄㆑邇、不㆑忘㆑遠、周公思㆘兼㆓三王㆒以施㆗四事㆖。〔小學紺珠、治道類、三王四事〕禹惡㆓旨酒㆒好㆓善言㆒、湯執㆑中立㆑賢無㆑方、文王視㆑民如㆑傷望㆑道而未㆓之見㆒、武王不㆑泄㆑邇不㆑忘㆑遠、周公思㆘兼㆓三王㆒以施㆗四事㆖。❻壽・名・位・貨。〔列子、楊朱〕楊朱曰、生民之不㆑得㆓休息㆒、爲㆓四事㆒故、一爲㆑壽、二爲㆑名、三爲㆑位、四爲㆑貨。❼德業相勸み、過失相規し、禮俗相交はり、患難相恤む。〔小學紺珠、人倫類、鄉約四事〕德業相勸、過失相規、禮俗相交、患難相恤、藍田呂氏。❽飲食・衣服・居處・言語。〔小學紺珠、人事類、四事〕飲食・衣服・居處・言語、呂成公曰、爲㆑學自㆓四事㆒起。❾己を律するに廉を以てし、民を撫するに仁を以てし、心を存するに公を以てし、事に涖むに勤を以てする。〔小學紺珠、治道類、四事〕律㆑己以㆑廉、撫㆑民以㆑仁、存㆑心以㆑公、涖㆑事以㆑勤、眞文忠公四事、守㆓潭州㆒以勵㆓其僚㆒。❿佛四種の供養。臥具・衣服・飲食・湯藥。〔祖庭事苑〕四事、飲食・衣服・臥具・湯藥。

【四事錢】347 シジセン 錢の名。徑九分、重さ三銖六桼。〔泉志〕四事錢、徑九分、重三銖六桼、面文二人相向、一立一坐、上有㆓飛禽㆒、下一走犬、背文夷漫。



四事錢（三才圖會）

【四時】348 シジ ❶春夏秋冬の四季をいふ。四運。四季。四騶。〔易、乾〕與㆓四時㆒合㆓其序㆒、與㆓鬼神㆒合㆓其吉凶㆒。〔書、堯典〕以㆓閏月㆒定㆓四時㆒成㆑歲。〔禮、祭統〕凡祭有㆓四時㆒、春祭曰㆑礿、夏祭曰㆑禘、秋祭曰㆑嘗、冬祭曰㆑烝。〔論語、陽貨〕四時行焉、百物生焉。〔荀子、不苟〕四時不㆑言、而百姓期焉。〔魏武帝、秋胡行〕四時更逝去、晝夜以成㆑歲。〔陸機、燕歌行〕四時代序逝不㆑追、寒風習習落葉飛。❷朝・晝・夕・夜をいふ。㋑君子は、朝は政を聽き、晝は訪問して可否を問ひ、夕は令を修めて施す所を念ひ、夜は身を安んずる。〔左氏、昭、元〕君子有㆓四時㆒、朝以聽㆑政、晝以訪問、夕以修㆑令、夜以安㆑身。㋺士は、朝は業を受け、晝は講じ習ひ、夕は習ひかへし、夜は過を計る。〔國語、魯語下〕士朝而受㆑業、晝而講貫、夕而習復、夜而計㆑過。〔小學紺珠、人事類、君子四時〕士朝而受㆑業、晝而講貫、夕而習復、夜而計㆑過。❸篇名。㋑管子の篇名。㋺白虎通の篇名。

【四時橘】349 シジキツ 蜜柑の一種。〔閩書、南產〕通志有㆓鏡橘㆒、一名鏡柑、有㆓連江橘㆒、以㆑地名、有㆓酒橘㆒、有㆓四時橘㆒、有㆓蓊橘㆒、有㆓猴橘㆒、一名橘花、有㆓洞庭橘㆒、有㆓匾橘㆒。

【四時祭】350 シジノマツリ 春夏秋冬の四季のまつり。四祭。❶春の礿・夏の禘・秋の嘗・冬の烝。夏殷の祭名といふ。〔禮、王制〕天子諸侯、宗廟之祭、春曰㆑礿、夏曰㆑禘、秋曰㆑嘗、冬曰㆑烝。〔注〕此蓋夏殷之祭名、周則改㆑之、春曰㆑祠、夏曰㆑礿、以㆑禘爲㆓殷祭㆒、詩小雅曰、礿祠烝嘗、于㆓公先王㆒、此周四時祭㆓宗廟㆒之名。〔禮、祭統〕凡祭有㆓四時㆒、春祭曰㆑礿、夏祭曰㆑禘、秋祭曰㆑嘗、冬祭謂㆑烝。〔小學紺珠、制度類、四時祭〕春礿・夏禘・秋嘗・冬烝。❷春の祠・夏の礿（又、禴に作る）・秋の嘗・冬の烝。周の祭名といふ。〔爾雅、釋天〕春祭曰㆑祠、夏祭曰㆑礿、秋祭曰㆑嘗、冬祭曰㆑烝。〔詩、小雅、天保〕禴祠烝嘗、于㆓公先王㆒。〔傳〕春曰㆑祠、夏曰㆑禴、秋曰㆑嘗、冬曰㆑烝。

【四時菜】351 シジサイ 野菜の名。かぶら。蔓菁をいふ。〔月令廣義〕蔓菁、名㆓四時菜㆒。

【四時散】352 シジサン 古の散藥の名。〔倭名類聚抄、十二〕四時散。

【四時詩】353 シジノシ 晉の陶潛の詩篇の名。一說に、此の詩は南朝宋の顧愷之の神情詩中の一部分が誤つて彭澤集中に編入せられたものといふ。古詩記・古今詩刪・八代詩選等には顧愷之の神情詩として載錄し、摘句と注する。〔陶潛、四時詩〕春水滿㆓四澤㆒、夏雲多㆓奇峯㆒、秋月揚㆓明暉㆒、冬嶺秀㆓孤松㆒。〔許彥周詩話〕四時詩、此顧長庚詩、誤編㆓入彭澤集中㆒。

【四時春】354 シジノハル 一年中春のやうにのどかなこと。〔柳公綽、贈㆓毛仙翁㆒詩〕桃源千里遠、花洞四時春。〔蘇軾、食㆓荔支㆒詩〕羅浮山下四時春、盧橘楊梅次第新。

【四時舞】355 シジノマヒ 漢の雅舞の名。文帝の作。天下の和平を明かにしたもの。〔漢書、禮樂志〕四時舞者、孝文所㆔作以示㆓天下之安和㆒也。

【四時氣備】356 シジノキソナハル 人格の圓滿なこと。〔晉書、褚裒傳〕謝安雅重㆑之、恆云、裒雖㆑不㆑言、而四時之氣亦備矣。

【四時山色】357 シジノサンショク 四季の山の景色。〔郭熙、山水訓〕眞山之煙嵐、四時不㆑同、春山淡冶而如㆑笑、夏山蒼翠而欲㆑滴、秋山明淨而如㆑粧、冬山慘淡而如㆑睡。

【四時之獻】358 シジノケン 四季をりをりの獻上物。〔史記、蘇秦傳〕奉㆓四時之獻㆒、以承㆓大王之明詔㆒。

【四時之施】359 シジノシ 四季のめぐみ。〔莊子、胠篋〕上悖㆓日月之明㆒、下爍㆓山川之精㆒、中墮㆓四時之施㆒。

【四時之序】360 シジノジョ 春夏秋冬の順序。四時之序成㆑功者去（364）を見よ。〔莊子、天道〕春夏先、秋冬後、四時之序也。

【四時八節】361 シジハッセツ 四時は春・夏・秋・冬。八節は立春・春分・立夏・夏至・立秋・秋分・立冬・冬至。〔意林、一〕隨巢子曰、鬼神爲㆓四時八節㆒、以㆑紀育㆑人。〔杜甫、狂歌行贈㆓四兄㆒〕四時八節還拘㆑禮、女拜㆓弟妻㆒男拜㆑弟。〔李商隱、五言四十韻詩〕四時當㆓首夏㆒、八節應㆓條風㆒。

【四時獵名】362 シジノレフメイ 四時の獵の名。三說がある。❶春は蒐、夏は苗、秋は獮、冬は狩。〔爾雅、釋天〕春獵爲㆑蒐、夏獵爲㆑苗、秋獵爲㆑獮、冬獵爲㆑狩。〔左氏、隱、五〕春蒐・夏苗・秋獮・冬狩、皆於㆓農隙㆒以講㆑事也。❷春は田、夏は苗、秋は蒐、冬は狩。〔穀梁、桓、四〕春曰㆑田、夏曰㆑苗、秋曰㆑蒐、冬曰㆑狩。❸春は苗、秋は蒐、冬は狩。夏に獵名がないのは、春秋時代の制であるといふ。〔公羊、桓、四〕春曰㆑苗、秋曰㆑蒐、冬曰㆑狩。〔注〕不㆓以㆑夏田㆒者、春秋制也。

	左傳	公羊	穀梁
春	蒐	苗	田
夏	苗		苗
秋	獮	蒐	蒐
冬	狩	狩	狩

【四時讀書樂】363 シジドクショノタノシミ 春夏秋冬の讀書の樂しみを敍した詩。世に朱熹の作といふが、朱子文集に見えず、或は他人の作かとも考へられる。〔五種遺規、朱熹、四時讀書樂詩〕（春）山光照㆑檻水繞㆑廊、舞雩歸詠春花香、好鳥枝頭亦朋友、落花水面皆文章、蹉跎莫㆑遣㆓韶光老㆒、人生惟有㆓讀書好㆒、讀書之樂樂何如、綠滿㆓窻前㆒草不㆑除。（夏）新竹壓㆑簷桑四圍、小齋幽敞明㆓朱曦㆒、晝長吟罷蟬鳴㆑樹、夜深燈落螢入㆑幃、北窓高臥羲皇侶、只因㆔素稔㆓讀書趣㆒、讀書之樂無㆑窮、援㆑琴一奏來㆓薰風㆒。（秋）昨夜庭前葉有㆑聲、籬荳花開蟋蟀鳴、不㆑覺商意滿㆓林薄㆒、蕭然萬籟涵㆓虛清㆒、近㆑牀賴有㆓短檠在㆒、趁㆑此讀㆑書功更倍、讀書之樂樂陶陶、起弄㆓明月㆒霜天高。（冬）木落水盡千崖枯、迥然吾亦見㆓眞吾㆒、坐對㆓韋編㆒燈動㆑壁、高歌夜半雪壓㆑廬、地爐烹㆑泉然㆓活火㆒、一清足㆑稱讀書者、讀書之樂何處尋、數點梅花天地心。

【四時之序成㆑功者去】364 シジノジョコウヲナスモノハサル 春夏秋冬の季節は、各〻その功を成し終れば過ぎ去る。功成り名遂げれば退くべしとの喩。〔史記、范雎蔡澤傳〕蔡澤曰、吁、君何見之晚也、夫四時之序、成㆑功者去。

【貫㆓四時㆒而不㆓改㆑柯易㆑葉】365 シジヲツラヌキテエダヲアラタメハヲカヘズ 一年を通じて枝も枯れ改まらず、葉も生え易らない。人の節操を變じない喩。〔禮、禮器〕如㆓竹箭之有㆑筠也、如㆓松柏之有㆑心也、二者居㆓天下之大端㆒矣、故貫㆓四時㆒而不㆓改㆑柯易㆑葉、故君子有㆑禮、則外諧而內無㆑怨、故物無㆑不㆑懷仁、鬼神饗㆑德。

【四時牢落三分減萬物蹉跎過半凋】366 シジラウラクサンブンゲンジバンブツサダトシテクワハンシボメリ 四時の中、春夏秋の三分は過ぎ去つて冬となり、萬物は枯れ凋んで天地が寂寥となつた。〔倭漢朗詠集、初冬、醍醐天皇御製、初冬卽事〕四時牢落三分減、萬物蹉跎過半凋。

【四周】367 シシウ ❶四方のめぐり。まはり。周圍。〔詩、商頌、玄鳥〕京員維河、〔集傳〕員、云云、蓋言㆑周也、河、大河也、言㆓景山四周皆大河㆒也。〔宋史、二王附紀〕四周起㆓樓棚㆒如㆓城堞㆒。〔范梈、袁州謁㆓韓祠㆒已宜春臺晚眺詩〕四周翠巘出、六合清風來。❷四方を取りまく。〔晉子夜四時歌〕四周芙蓉池、朱堂敞無㆑壁。❸四度めぐる。〔元史、曆志一〕自㆓今歲冬至㆒距㆓來歲冬至㆒、歷㆓三百六十

五日一而日行一周、凡四周歷二千四百六十一、則餘二一日一、析而四レ之、則四分之一也。

【四周星】368 シシウセイ 四箇年をいふ。〔文天祥、過二零丁洋一詩〕辛苦遭逢起二一經一、干戈落落四周星。

【四洲】369 シシウ 佛須彌山の四方にある南瞻部洲・東勝身洲・西牛貨洲・北俱盧洲の稱。四大洲(538)を見よ。

【四秋】370 シシウ 四つの秋。春夏秋冬の四時に各〻取入れの時があることをいふ。〔管子、輕重乙〕管子對曰、夫歲有二四秋一、而分二四時一、故曰、農事且レ作、請以什二伍農夫一、賦二耜鐵一、此之謂二春之秋一、大夏且レ至、絲纊之所レ作、此之謂二夏之秋一、而大秋成、五穀之所レ會、此之謂二秋之秋一、大冬營二室中一、女事紡績緝縷之所レ作也、此之謂二冬之秋一、故歲有二四秋一、而分有二四時一。〔纂詁〕秋、揫也、凡斂レ物之時、皆謂二之秋一。

【四獸】371 シジウ ㊀四つの獸。虎・豹・熊・羆。〔宋書、符瑞志上〕黃帝軒轅氏、云云、有二聖德一、劾二百神一、朝而使レ之、應龍攻二蚩尤一、戰二虎豹熊羆四獸之力一。㊁その形を動物に擬して名づけた四方の星宿。東を青龍、西を白虎、南を朱鳥、北を玄武といふ。轉じて、四方をいふ。又、この四つを以て名づけた軍陣の名。四神(450)を見よ。〔禮、曲禮上〕行前二朱鳥一、而後二玄武一、左二青龍一、而右二白虎一。〔注〕以二此四獸一爲二軍陳一、象レ天也。〔疏〕行前二朱鳥一、而後二玄武一、左二青龍一、而右二白虎一者、前明二軍行逢値之禮一也、此明下軍行象二天文一、而作中陳法上也、前レ南後レ北、左レ東右レ西、朱鳥・玄武・青龍・白虎、四方宿名也、軍前宜レ捷、故用レ鳥、軍後須二殿捍一、故用二玄武一、玄武、龜也、龜有レ甲、能禦二侮用一也、左爲レ陽、陽能發生、象二其龍變生一也、右爲レ陰、陰沈能殺、虎、沈殺也、軍之左右生殺、變應威猛、如二龍虎一也、何胤云、如二鳥之翔一、如二蛇之毒一、龍騰虎奮、無三能敵二此四物一、鄭注、四獸爲二軍陳一、則是軍陳之法也、但不レ知二何以爲レ之耳、今之軍行、畫二此四獸於旌旗一、以標二左右前後之軍陳一。〔小學紺珠、動植類、四獸〕朱鳥・玄武・青龍・白虎。

【四式】372 シシキ 人を任ずる四方法。才能を校べ、功績を記し、賢者を任じ、常道を敍す。〔小學紺珠、治道類、四式〕校レ能、記レ功、任レ賢、敍レ常、唐元稹對策、設二四式一以任レ人。

【四食】373 シジキ 佛身命を長養し支持する四種の食。段食(一般の飲食)・觸食(悅樂に觸れて身を養ふこと)・思食(欲するものを思ひ飢を感ぜぬこと)・識食(識別のはたらきによつて身命を支へること)。又、摶食・樂食・念食・識食ともいふ。〔心地觀經、五〕爲二諸衆生一說二四食一、段・觸・思・識爲二其四一。〔成唯識論、四〕。〔增一阿含、四十一〕一摶食、二樂食、三念食、四識食。

【四食時】374 シジキジ 佛一日中の食を攝る四つの時。天食時(淸旦時)・法食時(午時)・畜生食時(日暮)・鬼神食時(昏夜)。〔法苑珠林、四十二〕一、天食時、淸旦之時、卽諸天之食時也、二、法食時、午時也、三世諸佛、以二午時一爲二如法之食時一、過レ午則爲二非時一、三、畜生食時、日暮也、是畜生所レ食之時、四、鬼神食時、昏夜也、是鬼神所レ食之時。

【四七】375 シシチ ㊀數の二十八をいふ。四と七との相乘積。四七之際火爲レ主を見よ。㊁二十八宿。〔後漢書、陳蕃傳〕夫諸侯、上象二四七一、垂レ耀在レ天、下應二分土一、藩二屛上國一。〔注〕上象二四七一、謂二二十八宿一。

【四七之際火爲主】376 シシチノサイヒヲシユトナス 後漢の光武帝が、天下を主宰する運にあることを豫言した語。四七は二十八で、前漢の高祖から後漢の光武が初めて起るまで二百二十八年に當るので、その初起の時を四七之際といひ、漢は火德に當り、劉氏が再び君主となるのであるから火を主とするといつたもの。〔後漢書、光武紀上〕光武先在二長安一時、同舍生彊華、自二關中一奉二赤伏符一曰、劉秀發レ兵捕二不道一、四夷雲集、龍鬪レ野、四七之際、火爲レ主。〔注〕四七、二十八也、自二高祖一至二光武初起一、合二二百二十八年一、卽四七之際也、漢火德、故火爲レ主也。

【四失】377 シシツ 學問する者にある多・寡・易・止の四つの缺點。多とは才能の少いのに多きを貪ること、寡とは才能が多くあるのに多く學ばないこと、易とは只廣く問ふことを好んで以て道を知り易しとすること、止とは人に諮問せず、止まつて自ら思ふのみなるをいふ。〔禮、學記〕學者有二四失一、教者必知レ之、人之學也、或失二則多一、或失二則寡一、或失二則易一、或失二則止一。〔注〕失二於多一、謂二才少者一、失二於寡一、謂二才多者一、失二於易一、謂二好レ問不レ識者一、失二於止一、謂二好レ思不レ問者一。〔疏〕或失二則多一者、一失也、假若有二人才識淺小一、而所レ學貪レ多、則終無レ所レ成、是失二於多一也、或失二則寡一者、二失也、或有二人才識深大一、而所レ學務レ少、徒有二器調一、而終成二狹局一、是失二於寡一也、或失二則易一者、三失也、至道深遠、非二凡淺所レ能、而人不レ知二思求一、唯好二汎濫外問一、是失在三輕二易於妙道一、故云、或失二則易一、此是學而不レ思則罔、或失二則止一者、四失也、人心未二曉知一、而不二肯諮問一、惟止住而自思レ之、終不レ能レ達二其實理一、此失在二自止一也、此是思而不レ學則殆。〔小學紺珠、儆戒類、四失〕多・寡・易・止。

【四集】378 シシフ 四方から集まる。〔後漢書、寇恂傳〕士馬四集。〔唐書、李白傳〕旻舞レ刀立二馬上一、矢四集、皆迎レ刀而斷。

【四襲】379 シシフ 四方から襲ふ。四方から攻寄せる。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕及二天下再亂、逆賊四襲一、遂致二命於湊川一。

【四十】380 シジフ ㊀よそ。十の四倍。〔杜預、春秋左氏傳序〕又別集二諸例及地名・譜第・歷數一、相與爲レ部、凡四十部十五卷。〔元史、太祖紀〕帝深沈有二大略一、用兵如レ神、故能滅レ國四十、遂平二西夏一。㊁四十歲。よそぢ。〔禮、曲禮上〕四十曰レ強、而仕。〔論語、爲政〕四十而不レ惑。〔杜甫、兵車行〕或從二十五一北防レ河、便至二四十一西營レ田。

【四十郡】381 シジフグン 秦の始皇、置く。始皇帝は、天下を一統するや、國を分つて三十六郡とし、後、百粤を取り、南海・桂林・象・閩中の四郡を置いて四十郡とした。

【四十雀】382 シジフカラ 鳥の名。やまがらの屬。頭黑く兩頰及び腹白く、胸から尾まで黑い雲紋がある。晚秋に羣をなして來り、淸らかな聲でよく囀づる。〔和漢三才圖會、林禽類、四十雀〕按、四十雀、似二小雀一而大、頭黑兩頰白、而白圓紋黑圈至レ頸、胸背灰青、翅尾黲黑、而有二灰白竪條一、腹白色、胸至レ尾有二黑雲紋一、其聲淸滑多囀、如レ曰二四十加羅一、故名レ之。

【四十住】383 ヨスミ 姓氏。〔和爾雅〕。

【四十萬】384 シジマ ㊀地名。㋑加賀國の地名。㋺越中國の地名。㊁姓氏。〔姓名錄抄〕。

【四十九日】385 シジフクニチ 人の死後の日數を七日を以て累算し、第七回の七日目、卽ち七七四十九日目をいふ。此の間、死者の靈は、其の家に留まるといふ。正日。〔源氏物語、夕顏〕彼の人の四十九日。

【四十四院】386 シツル 姓氏。〔姓林全書〕。

【四十七士】387 シジフシチシ 元祿十五年、主君淺野長矩の怨敵吉良義央を討取つた赤穗の遺臣、大石內藏助良雄等四十七人の稱。〔烈士報讎錄、天野屋利兵衞傳〕且其忠憤、雖二四十七士一、不二之過一矣。〔阪井虎山、詠二四十七士一詩〕若使レ無二茲事一、臣節何由立、若常有二此事一、終將レ無二王法一、王法不レ可レ廢、臣節不レ可レ已、茫茫天地古今間、茲事獨許赤城士。

【四十八手】388 シジフハツテ ㊀相撲の手の總稱。その主なものに四手あり、頭を以てするを反ソリ、手を以てするを捻ヒネリ、腰を以てするを投ナゲ、足を以てするを掛カケといひ、其の四手に各〻十二の變化があることからいふ。〔竹齋物語〕四十八手の其の內を、百手に碎きて取りたりけり。㊁いろいろの駈引き。祕術。〔傾城色三味線、大坂之卷、三〕。

【四十八渡】389 シジフハツト 川の名。四川省南川縣の東。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府、南川縣〕四十八渡水、縣東三十里、兩山壁立、一水迴二環其中一、凡四十八渡、有二門穴一、如二戶牖一然。

【四十八峒】390 シジフハチトウ 峒の名。廣西省中渡縣の境。山嶺重疊、谿峒圍環し、大小峒が四十八あるから名づける。最高の處に油廱峒があり、凡そ三千六百八丈、建瓴の勢を得て、諸峒を指揮する。之について、甘棠峒・葡萄峒・蓮花峒・吊膽峒・茶膽峒が、最も奇險と稱せられる。四十八峒の夫〻の名は今詳かでないが、各書に散見するものに、馬平縣の石魚山峒、雒容縣の雷峒、融縣の玉華峒・采藍峒、羅城縣の翁峒・中峒、三江縣の西峒・獨峒、來賓縣の白牛峒・龍峒等がある。

【四十八鷹】391 シジフハチタカ ㊀鷹の四十八の種類。〔俚

言集覽〕。㊁諸役人打ち揃つたこと。〔俚言集覽〕。

【四十擁旄】392 シジフヨウバウ　年齡四十で屬官となり、旌旄をたてるに至ること。年若くして出世する喩。〔晉書、王珣傳〕弱冠與二陳郡謝玄一爲二桓溫掾一、俱爲二溫所二敬重一、嘗謂レ之曰、謝掾年四十、必擁レ旄杖レ節、王掾當レ作二黑頭公一。

【四十斤鐵椎】393 シジフキンノテツツイ　四十斤の重さの鐵のつち。斤は目方の單位で、十六兩。〔史記、信陵君傳〕朱亥袖二四十斤鐵椎一、椎二殺晉鄙一。

【四十而不レ惑】394 シジフニシテマドハズ　孔子が四十歲になつて道理が明かに知られ、如何なる事に出遇つても、疑惑することのなかつたのをいふ。このことから、四十歲を不惑といふ。〔論語、爲政〕子曰、吾十有五而志二于學一、三十而立、四十而不レ惑、五十而知二天命一、六十而耳順、七十而從二心所一レ欲不レ踰レ矩。〔集注〕於二事物之所一レ當然、皆無レ所レ疑、則知レ之明、而無レ所レ事レ守矣。

【四十二章經】395 シジフニシヤウギヤウ　後漢の明帝の永平中に迦葉摩騰・竺法蘭が東都洛陽に來つたが、その初に譯したもの。卑近な譬喩を用ひて佛理を說明したもので、四十二章あるので名づけた。中國に佛經の存するのは之を始とする。

【四十不レ動レ心】396 シジフココロヲウゴカサズ　孟子が四十歲にして道を知ること明かで、その爲、外物により心を動搖させなかつたこと。孔子の四十而不レ惑と略〻同じ。〔孟子、公孫丑上〕公孫丑問曰、夫子加二齊之卿相一、得レ行レ道焉、雖二由レ此霸王一不レ異矣、如レ此則動レ心否乎、孟子曰、否、我四十而不レ動レ心。〔集注〕四十彊仕、君子道明德立之時、孔子四十而不レ惑、亦不レ動レ心之謂。

【知二四十九年非一】397 シジフクネンノヒヲシル　往年を回顧して、我が行爲の皆非なるを知ること。春秋、衞の蘧伯玉が五十歲になつて過去四十九年の非を悟つたといふ故事。〔淮南子、原道訓〕蘧伯玉年五十、而知二四十九年非一。

【四十頭顱半白生】398 シジフトウロハンパクシヤウズ　四十歲にして白髮頭となる。身の老境を歎じた句。〔元好問、鎭平縣齋感懷詩〕四十頭顱半白生、靜中身世兩關レ情、書レ空咄咄知誰解、擊レ缶嗚嗚卻自驚、老計漸思レ乘二欵段一、壯懷空擬漫崢嶸、西窓一夕無二人語一、挑二盡寒燈一坐不レ明。

【四十餘年睡夢中】399 シジフヨネンスイムノウチ　四十餘年間を夢のやうに過す。道を會得せず、無爲にして永い年月を送つたことを歎じた句。〔王守仁、睡起偶成詩〕四十餘年睡夢中、而今醒眼始朦朧、不レ知日已過二停午一、起向二高樓一撞二曉鐘一。

【四十餘年未顯眞實】400 シジフヨネンミケンシンジツ　佛釋迦が成道以來四十餘年、人々の淳熟を期待して方便說を說き、未だ眞實の教法を示さなかつたこと。〔無量壽經〕種種說法以二方便力一、四十餘年未レ顯二眞實一。

【四射】401 シシヤ　㊀禮射の四種。大射・賓射・燕射・鄕射。〔禮記、射義、集釋〕凡禮射有レ四、一曰大射、君臣相與習レ射而射也、云云、二曰賓射、天子諸侯饗二來朝之賓一、而因與レ之射、云云、三曰燕射、天子諸侯燕二其臣子或四方之賓一、而與レ之射、云云、四曰鄕射、州長與二其衆庶一、習二射於州序一。㊁シセキ 四方を射る。〔重野成齋、贈正四位佐久間象山先生碑〕先生爲レ人雋異、眼光四射、望而知三其爲二偉丈夫一。

【四謝】402 シシヤ　宋の謝懋・謝岐・謝擧廉・謝世充の四人が、同榜登科した爲、臨江の四謝と號せられた故事。〔小學紺珠、氏族類、四謝〕謝懋・岐・擧廉・世充、同榜登科、號二臨江四謝一。

【四相】403 シシヤウ　㊀四人の輔弼の臣。㋑三國、蜀の諸葛亮・蔣琬・費禕・董允。四英。〔蜀志、董允傳、以二侍中尙書令一爲二大將軍費禕副貳一、注〕華陽國志曰、時蜀人以二諸葛亮・蔣琬・費禕及允一爲二四相一、一號二四英一也。㋺唐の張柬之・鍾紹京・李峴・王縉。〔明一統志〕四相堂、在二成都府崇慶州治一、唐建、以三張柬之・鍾紹京・李峴・王縉四公、皆牧二是州一故名。㊁術數家の語。四時の旺相の辰で、春は丙丁、夏は戊己、秋は壬癸、冬は甲乙の日をいひ、此の日は修營・起工・種蒔・移轉・遠行等をするによいといふ。〔協紀辨方書、義例、四相〕總要曆曰、四相者、四時旺相之辰也、其日宜二修營・起工・養育・生財・栽植・種蒔・移徙・遠行一、曆例曰、春丙丁、夏戊己、秋壬癸、冬甲乙、曹震圭曰、四相者、養育之道、母生レ子也、春木王、生二丙丁一、夏火王、生二戊己一、秋金王、生二壬癸一、冬水王、生二甲乙一、惟庚辛者金也、能殺二萬物一、故不レ用。㊂佛 シサウ ㋑現象界の四つのすがた。生・住・異・滅をいふ。〔俱舍論、五〕法苦有レ應二是有爲一、云云、此於二諸法一能起名レ生、能安名レ住、能衰名レ異、能壞名レ滅、云云、是故定有二四有爲相一。〔成唯識論、二〕表レ異二無爲一、假立二四相一、本無今有、有位名レ生、生位暫停、卽說爲レ住、住別二前後一、復立二異名一、暫有還無、無時名レ滅。㋺我人四相。我相・人相・衆生相・壽者相をいふ。四相に迷ふは衆生、四相を覺るは佛。〔金剛經〕。㋩果報四相。生・老・病・死をいふ。㋥智境四相。我相・人相・四死生相・壽命相をいふ。〔圓覺略疏、下〕。

【四將】404 シシヤウ　四人の將軍。㊀王莽の置いた更始將軍甄豐・衞將軍王興・立國將軍孫建・前將軍王盛。〔漢書、王莽傳中〕大阿右拂大司空衞將軍廣陽侯甄豐、爲二更始將軍廣新公一、京兆王興、爲二衞將軍奉新公一、輕車將軍成武侯孫建、爲二立國將軍成新公一、京兆王盛、爲二前將軍崇新公一、是爲二四將一。㊁宋の劉錡・岳飛・李顯忠・魏勝。〔小學紺珠、名臣類、四將〕劉錡・岳飛・李顯忠・魏勝、章穎士四將傳。

【四將軍】405 シシヤウグン　大將軍・驃騎將軍・車騎將軍・衞將軍の幷稱。〔小學紺珠、職官類、四將軍〕大將軍・驃騎將軍・車騎將軍・衞將軍、續漢志、比レ公者四。

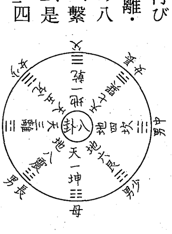
【四廂】406 シシヤウ　㊀朝會の時、樂を奏する所。四廂樂歌を見よ。㊁四方のひさし。〔張籍、學レ仙詩〕先生坐二中堂一、弟子跪二四廂一。㊂宋代、都城の各坊廂及び禁衞を掌る官。捧日四廂・天武四廂・龍衞四廂・神衞四廂の四つがある。〔宋史、職官志六〕軍職大者凡八等、除三都指揮使或不二常置一外、曰二殿前副都指揮使・馬軍副都指揮使・步軍副都指揮使一、次各有二都虞候一、次有二捧日・天武四廂都指揮使・龍・神四廂都指揮使一、秩秩有レ序、若レ登レ第然。〔小學紺珠、職官類、四廂〕捧日・天武・龍衞・神衞。㊃城廂の四周。〔文獻通考、職官考、都廂〕熙寧三年五月、詔以下京朝官曾歷二通判知縣一者四人上、分二治京城四廂一、凡民有二鬪訟事一、輕者得二次決遣一。

【四廂樂歌】406′ シシヤウガクカ　晉代、朝會に用ひた樂の名。魏の杜夔は、舊雅樂四曲（鹿鳴・騶虞・伐檀・文王）を傳へたが、太和中、左延年は騶虞・伐檀・文王の三曲を改めて更に曲を作り、鹿鳴だけはその儘にして、正月元旦の大會に之を用ひた。又、晉の荀勖は正旦大會行禮歌四首、及び王公上壽酒歌一首、食擧東西廂歌十二首を作り、統べて四廂樂歌といふ。〔樂府詩集、燕射歌辭、晉四廂樂歌〕晉書樂志曰、魏杜夔傳二舊雅樂四曲一、一曰鹿鳴、二曰騶虞、三曰伐檀、四曰文王、皆古聲辭、及二太和中一、左延年改二夔騶虞・伐檀・文王三曲一、更自作二聲節一、其名雖レ同、而聲實異、唯因二夔鹿鳴一、全不二改易一、每正旦大會、太尉奉レ璧、羣后行レ禮、東廂雅樂郎作者、是也、後又改二三篇一、第一曰、於赫篇、詠二武帝一、聲節與二古鹿鳴一同、第二曰、巍巍篇、詠二文帝一、用二延年所レ改騶虞聲一、第三曰、洋洋篇、詠二明帝一、用二延年所レ改文王聲一、第四曰、日復用二鹿鳴一、鹿鳴之聲重用、而除二古伐檀一、古今樂錄曰、漢故事、上壽用二四會曲一、魏明帝青龍二年、以二長笛食擧第十一古大置酒曲一代二四會一、又易二古詩名一曰二羽觴行一、用爲二上壽曲一、施用最在レ前、鹿鳴以下十二曲、名二食擧樂一、而四會之曲遂廢、宋書樂志曰、晉荀勖造二正旦大會行禮歌四篇一、一曰於皇、當二於赫一、二曰明明、當二巍巍一、三曰邦國、當二洋洋一、四曰祖宋、當二鹿鳴一、王公上壽酒歌一篇、曰踐元辰、當二羽觴行一、食擧樂東西廂歌十二篇、一曰煌煌、當二鹿鳴一、二曰賓之初筵、當二於穆一、三曰三后、當二昭昭一、四曰赫矣、當二華華一、五曰烈文、當二朝宴一、六曰猗歟、當二盛德一、七曰隆化、當二綏萬邦一、八曰振鷺、當二朝朝一、九曰翼翼、當二順天一、十曰既宴、當二陟天庭一、十一曰時邕、當二參兩儀一、十二曰二嘉會一。

【四象】407 シシヤウ　㊀易にあらはれる陰陽の四種のかたち。金・木・水・火。又、陰・陽・剛・柔。又、老陽・少陽・老陰・少陰。〔易、繫辭上〕易有二太極一、是生二兩儀一、兩儀生二四象一、四象生二八卦一、八卦定二吉凶一。〔疏〕謂、金・木・水・火、稟二天地一而有、故云三兩儀生二四象一。〔易、繫辭上、兩儀生二四象一、周易折中〕四象、何物也、曰、四象、謂二陰陽剛柔一。〔小學紺珠、藝文類、四象〕太陽一、少陰二、少陽三、太陰四。〔朱

子語錄、四象〕四象、是老陽・老陰・少陽・少陰。❷易卦の四種の象。實象・假象・義象・用象。〔易、繫辭上〕易有㆓四象㆒、所㆓以示㆒也。〔疏〕莊氏云、六十四卦之中、有㆓實象㆒、有㆓假象㆒、有㆓義象㆒、有㆓用象㆒、爲㆓四象㆒也。

【四象生㆓八卦㆒】408 シシヤウハツクワヲシヤウズ 陰陽の變化で出來た四象が、再び變化して乾・兌・離・震・巽・坎・艮・坤の八卦を生ずる。〔易、繫辭上〕易有㆓太極㆒、是生㆓兩儀㆒、兩儀生㆓四象㆒、四象生㆓八卦㆒。



【四障】409 シシヤウ 佛 正道を障蔽する四つのもの。惑障（貪・瞋・痴の煩惱）・業障（身・口・意の惡業）・報障（地獄・餓鬼・畜生の苦報）・見障（邪見）。〔海意菩薩所問淨印法門經〕。

【四上】410 シジヤウ 代・秦・衞・鄭の四國をいふ。一說に、代・秦・衞・鄭の鳴竽と、伏戲の駕辯と、楚の勞商と、趙の簫とをいふ。〔楚辭、大招〕四上競㆑氣、極聲變只。〔注〕四上、謂㆓上四國㆒、代秦鄭衞也。〔補注〕四上、謂㆓聲之上者有㆑四、謂㆓代秦鄭衞之鳴竽㆒也、伏戲之駕辯也、楚之勞商也、趙之簫也。

【四手】411 シデ ❶神前に供へる幣帛の一種。榊枝・幣串・注連繩等にさげる木綿又は紙。垂手。〔新古今集、神祇〕神風や豐みてぐらに靡くしで。❷小さい拂子に似てゐて、白熊の毛で作つた槍印。〔甲陽軍鑑、十一、下〕立物、槍驗、竝朱四手等、如㆓累年㆒不㆑可㆓相違㆒肝要候。❸ヨツデ 手の四つあること。又、其のもの。〔西鶴諸國咄、一〕天井より四つ手の女。❹相撲で、互に諸手を差して取り組むこと。〔曾我會稽山、一〕親子、四つ手に取り組んだり。❺立花・活花等の語。〔聖德太子繪傳記、眞立花〕四つ手、月の輪。❻四手網の略。〔續猿蓑集、春〕白魚をふるひ寄せたる四手かな。❼四手駕籠の略。

【四手網】412 ヨツデアミ 四隅を竹で張り、水中に沈め、時々上げて魚を捕るあみ。提罾。

【四手駕籠】413 ヨツデカゴ 竹で編んだ粗製のかご。篗輿。

【四手沙參】414 シデシヤジン 草の名。桔梗科の多年草。葉は楕圓形で尖り、銳鋸齒を有する。夏秋の候、五つに深く裂けた紫色の花を綴る。

【四守】415 シシユ ❶四種の賤しい職守。煇・胞・翟・閽。〔禮、祭統〕煇者、甲吏之賤者也、胞者、肉吏之賤者也、翟者、樂吏之賤者也、閽者、守門之賤者也、古者不㆑使㆓刑人守㆒㆑門、此四守者、吏之至賤者也。❷四方のまもり。〔風俗通、正失〕四守之內、莫㆑不㆑爲㆓郡縣㆒。

【四取】416 シシユ 佛 四種の煩惱。取は煩惱。欲取・我語取・見取・戒禁取。〔俱舍論、二十〕。取謂㆓四取㆒、一欲取、二見取、三戒禁取、四我語取。

【四趣】417 シシユ 佛 四つの惡い處。趣は衆生の往く所の國の意。四惡趣。六道の中の四惡道。苦ばかりあつて樂のない所。地獄・餓鬼・畜生・修羅。〔平家女護島、二〕三惡・四しゆは深山海づらに有り。

【四戍】418 シジユ 四方を守る。四守。〔日本外史、足利氏後記、毛利氏〕輝元欲㆑援㆑之、而國兵四㆓戍疆上㆒、在者甚寡。

【四衆】419 シシユウ 佛 ❶僧伽の四衆。比丘（ビク）・比丘尼（ビクニ）・優婆塞（ウバソク）・優婆夷（ウバイ）。〔妙法蓮華經、一〕又觀㆓四衆比丘比丘尼優婆塞優婆夷及諸天龍鬼神等衆會之心㆒、而問㆓文珠師利㆒言。〔無量壽經〕諸天人民、一切四衆。❷出家の四衆。比丘・比丘尼・沙彌・沙彌尼。〔光宅法華疏、一〕雖㆑有㆓天龍八部㆒、莫㆑過㆓四類㆒、出家四衆也。

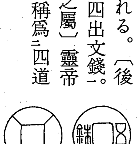
【四聚】420 シシユウ 民を集める四つの方法。一、之を行ふに仁を以てする、二、之を懷け來すに樂を以てする、三、大きな邑を作つて人を封殖する、四、圍を設けて守るに信を以てする。〔逸周書、大武解〕侵有㆓四聚三斂㆒、云云、四聚、一、酌㆑之以㆑仁、二、懷㆑之以㆑樂、三、旁聚封㆑人、四、設㆑圍以㆑信。〔集訓校釋〕酌、行、懷、來、旁、大也、聚、邑聚、封、封殖、圍、守也。

【四叔】421 シシユク 四人の叔父。少皞氏の四叔、重・該・脩・熙。〔左氏、昭、二十九〕少皞氏有㆓四叔㆒、曰重、曰該、曰脩、曰熙。〔後漢書、張衡傳〕鳥師別㆑名、四叔三正、官無㆓二業㆒、事不㆓竝濟㆒。〔注〕晉蔡墨曰、少皞氏有㆓四叔㆒、曰重、曰該、曰脩、曰熙、實能㆓金木及水㆒、使㆘重爲㆓句芒㆒、該爲㆓蓐收㆒、脩及熙爲㆗玄冥㆖、四叔分主㆓三正㆒。

【四熟】422 シジユク 稻などが一年に四度みのること。〔唐書、西域傳上〕竺土溽熱、稻歲四熟。

【四出】423 シシユツ ❶四方へ出る。四方へ出す。〔漢書、文帝紀、有㆓長星㆒出㆓東方㆒、注〕文穎曰、孛星光芒短、其光四出、蓬蓬孛孛也。〔後漢書、黨錮傳序〕逮㆓捕黨人㆒、懸㆑金購募、使者四出、相㆓望於道㆒。〔晉書、禮志上〕爲㆓四出陛㆒、陛廣五尺。〔張養浩、牡丹詩〕有㆓時風蕩㆒香四出、擧國皆若㆓蘭爲㆑裾。❷四度出る。四度出征する。〔漢書、霍去病傳〕最票騎將軍去病、凡六出擊㆓匈奴㆒、其四出以㆓將軍㆒、斬首虜十一萬餘級。

【四出文錢】424 シシユツブンセン 後漢の貨幣の名。靈帝の中平三年以後に鑄られたもので、四角決文あり、俗に角錢といはれる。〔後漢書、靈帝紀〕又鑄㆓四出文錢㆒。〔金石索、金索、泉刀之屬〕靈帝作㆓角錢㆒、背文四出、俗稱爲㆓四道五銖㆒、有㆓銅銕二等㆒。



四出文錢
（金石索 東漢錢）

【四術】425 シジユツ ❶四つの道。四つの方法。㋑先王の教たる詩・書・禮・樂。〔禮、王制〕樂正崇㆓四術㆒、立㆓四教㆒、順㆓先王詩書禮樂㆒以造㆑士、春秋教以㆓禮樂㆒、冬夏教以㆓詩書㆒。㋺國を治める四つの道、忠愛・無私・用賢・簡能。〔小學紺珠、治道類、四術〕忠愛・無私・用賢・簡能、文選注、尸子曰、治㆑國有㆓四術㆒。㋩朝廷・祭祀・軍旅・喪紀の四つの場合に適應した言語の用ひ方。〔新書、容經〕言有㆓四術㆒、言敬以固、朝廷之言也、文言有㆑序、祭祀之言也、屛㆑風折㆑聲、軍旅之言也、言若㆑不㆑足、喪紀之言也。❷四方に通ずる道。〔左思、詠史詩〕冠蓋蔭㆓四術㆒、朱輪竟㆓長衢㆒。〔注〕善曰、廣雅曰、術、道也。

【四俊】426 シシユン 四人のすぐれた人。❶皐陶・稷・契・史皇（蒼頡）をいふ。〔小學紺珠、名臣類、四俊〕皐陶・稷・契・史皇蒼頡、淮南子。❷唐の苗延嗣・呂太一・員嘉靜・崔訓をいふ。〔舊唐書、張嘉貞傳〕時中書舍人苗延嗣・呂太一・考功員外郎員嘉靜・殿中侍御史崔訓、皆嘉貞所㆑引、位列㆓清要㆒、常在㆓嘉貞門下㆒、共議㆓朝政㆒、時人爲㆓之語㆒曰、令公四俊、苗呂崔員。〔小學紺珠、名臣類下、四俊〕苗延嗣・呂太一・員嘉靜・崔訓之。❸唐の張喬・許棠・張蠙・周繇をいふ。〔小學紺珠、名臣類下、四俊〕張喬・許棠・張蠙・周繇、九華四俊。❹宋の劉正夫・范致虛・吳材・江嶼をいふ。〔宋史、劉正夫傳〕未㆑冠入㆓太學㆒有㆑聲、與㆓范致虛・吳材・江嶼㆒號㆓四俊㆒。

【四順】427 シジユン 人民の心に順つて國を治める四つの法。民は憂勞を惡むので之を佚樂させ、貧賤を惡むので之を富貴にし、危墜を惡むので之を存安し、滅絕を惡むので之を生育する。〔小學紺珠、治道類、四順〕民惡㆓憂勞㆒、我佚㆓樂之㆒、民惡㆓貧賤㆒、我富㆓貴之㆒、民惡㆓危墜㆒、我存㆓安之㆒、民惡㆓滅絕㆒、我生㆓育之㆒、管子曰、順政之所㆑興、在㆑順㆓民心㆒。

【四書】428 シシヨ ❶書經の虞書・夏書・商書・周書をいふ。〔蔡沈、書經集傳序〕四代之書、分爲㆓六卷㆒。〔注〕虞一卷、夏一卷、商一卷、周三卷。❷刑法の四書。律・令・格・式。〔小學紺珠、藝文類、刑法四書〕律・令・格・式、唐志。❸宗寺の四書。玉牒・僊源積慶圖・宗藩慶系錄・宗枝屬籍。〔小學紺珠、藝文類、宗寺四書〕玉牒・僊源積慶圖・宗藩慶系錄・宗枝屬籍。❹論語・孝經・大學・中庸をいふ。〔四庫提要、經、五經總義類〕融堂四書管見十三卷、宋、錢時撰、此編凡論語十卷、孝經一卷、大學一卷、中庸一卷。❺大學・中庸・論語・孟子。次を見よ。

〘四書〙四子書といふ。大學と中庸とはもと、禮記の中に存したものであるが、後代之を別行せしめるに至つた。清朝の毛奇齡の大學證文では、この二書を禮記から取出して論語・孟子に配合したのは、西漢以來の事であると言つてゐるが、其の說の誤なる事は、同じく清朝の翟灝の四書考異の表章學庸の條下に精しく論じてゐる。確實なる史實として、大學が獨立せる單行本として行はれた事は、宋の司馬光の大學廣義を以て始とし、而して宋の仁宗皇帝が進士の及第者に儒行・大學・中庸を賜はつた事を以て此の二書の表章の最初とすべきである。中庸表章の何人によつたかは明かでないが、六朝時代既に別行したことは隋書經籍志の明記する所

である。然るに、宋史の道學傳によれば、此の二つのものは宋の二程子によつて合して論語・孟子に配合せられ、六經に先だつて讀むべきものとせられた。但し、二程子は、此の二つの書物に就いて、別に註釋を施したわけではない。二程子の門人の朱子に至り、二程子の意を酌んで、學庸論孟を合して四書と名附け、更に此に解釋を施し、大學章句一卷・中庸章句一卷・論語集注十卷・孟子集注七卷を著した。此より大いに世に行はれ、元の仁宗の皇慶二年、科擧に此の書の解義を第一とし、集注を表式して以來、學者之を尊崇するに至つた。元來、大學・論語・孟子・中庸の順序を正當とすべきで、程朱の定めたものであるが、明初より書肆刊行上、學庸論孟の順序に變じた。〔宋史、李道傳〕今學禁雖レ除、而未下嘗明二示天下一、以中除レ之之意上、願明下レ詔、崇二尚正學一、取二朱熹論語孟子集注・中庸大學章句・或問四書一、頒二之太學一。〔明史、藝文志〕經類十、一曰易類、二曰書類、三曰詩類、四曰禮類、五曰樂類、六曰春秋類、七曰孝經類、八曰諸經類、九曰四書類、十曰小學類。〔日知錄、十三經注疏〕宋時、程朱諸大儒出、始取二禮記中之大學中庸一、及進二孟子一、以配二論語一、謂二之四書一。〔四庫提要、經、四書類〕大學章句一卷・論語集注十卷・孟子集注七卷・中庸章句一卷、宋朱子撰、案、論語自二漢文帝時一立二博士一、孟子據二趙岐題詞一、文帝時、亦嘗立二博士一、以二其旋罷一、故史不レ載、中庸說二篇、見二漢書藝文志一、戴顒中庸傳二卷・梁武帝中庸講疏一卷、見二隋書經籍志一、惟大學自レ唐以前、無二別行之本一、然書錄解題、載三司馬光有二大學廣義一卷・中庸廣義一卷一、已在二二程以前一、均不下自二洛閩諸儒一始爲中表章上、特其論說之詳、自二二程一始、定二著四書之名一、則自二朱子一始耳、原本、首大學、次論語、次孟子、次中庸、書肆刊本、以二大學・中庸篇頁無一レ多、併爲二一冊一、遂移二中庸於論語前一、明代科擧命題、又以二作者先後一、移二中庸於孟子前一、然非二宏旨所一レ關、不三必定復二其舊一也。

《參考書》【四書集注】十九卷宋、朱熹撰。義理を說くこと最も精しく、我が國德川時代の官學は全く此の書によつた。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書或問】三十九卷宋、朱熹撰。章句集注を解したものであるが、又、之と牴牾する所もある。蓋し未だ追改するに及ばなかつたもの。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書問目】宋、朱熹講、劉爚・劉炳述。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書集編】二十六卷宋、眞德秀撰。朱注による。〔四庫提要、經、四書類〕。【融堂四書管見】十三卷宋、錢時撰。論語・孝經・大學・中庸の四書に略〻音訓を加へて詮釋し、大旨を後に載せてゐる。大學は析つて六章となし、程朱の本に從はない。〔四庫提要、經、五經總義類〕。【四書箋義纂要】十二卷紀遺一卷宋、趙悳撰。凡て章句集注の載せる所に從ふ。〔四庫未收書目提要、一〕。【四書集義精要】二十八卷元、劉因編。原本三十卷、今、二卷を佚す。盧孝孫が朱子語類文集から採つて編した四書集義一百卷から更に摘取したもの。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書辨疑】十五卷元、陳天祥撰。朱子集注を駁したもの。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書通】二十六卷元、胡炳文撰。趙順孫の四書纂疏、吳眞子の四書集成に因つて記す。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書通證】六卷元、張存中撰。四書中の名物について研究したもの。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書纂箋】二十八卷元、詹道傳撰。古經箋疏の體に倣つて朱子の說を取る。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書通旨】六卷元、宋公遷撰。四書の文を取つて分類したもの。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書管窺】八卷元、史伯璿撰。此の書は、大學・中庸・孟子は完全であるが、論語は第十一篇以下を佚す。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書輯釋】二十卷元、倪士毅撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書待問】二十二卷元、蕭鎰撰。〔四庫提要、經、易類〕。【讀四書叢說】四卷元、許謙撰。原本二十卷。今はただ大學一卷・孟子二卷を存し、中庸は其の半を佚して僅かに一卷を存するのみ。論語は已に全く佚す。其の書は義理を發揮し、訓詁を考證し、取るべき所多きを以て、殘缺あるも廢せられず。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書大全】三十六卷明、胡廣等奉敕撰。倪士毅の四書輯釋により、朱注に關する宋儒の說を輯む。五經大全・性理大全と共に世に行はる。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書蒙引】十五卷明、蔡清撰。科擧の爲に作つたもの。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書人物考】四十卷補考八卷明、薛應旂撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【別本四書名物考】二十四卷明、陳禹謨撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書湖南講】九卷明、葛寅亮撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書考】二十八卷明、陳仁錫撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書考異】一卷明、陳仁錫撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書大全辨】三十八卷附錄六卷明、張自烈撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書翊注】四十二卷清、刁包撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書近指】二十卷清、孫奇逢撰。四書の要領大旨について先儒の說を引いて異同を證したもの。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書大全纂要】清、魏裔介撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書講義困勉錄】三十七卷清、陸隴其撰。〔四庫提要、經、四書類〕。【四書松陽講義】十二卷清、陸隴其撰。【四書釋地】一卷續一卷又續二卷三續二卷清、閻若璩撰。四書の地理を考證し、人名・物類・訓詁・典故に及ぶ。〔四庫提要、經、四書類〕。【欽定四書文】四十一卷清、方苞撰。〔四庫提要、集、總集類〕。【四書正解】三十卷清、吳荃撰。【四書本義匯參】四十五卷清、王步青撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書約旨】十九卷清、任啓運撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書釋地辨證】二卷清、宋翔鳳撰。【四書劄記】四卷清、楊名時撰。〔四庫提要、經、四書類〕。【朱子四書語類】五十二卷清、周在延撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【四書考異】七十二卷清、翟灝撰。【四書古義】十九卷伊藤仁齋撰。大學定本一卷・中庸發揮一卷・論語古義十卷・孟子古義七卷から成る。【四書訓蒙輯疏】二十九卷安部井褧撰。【四書鈔說】十二卷中村惕齋。【四書標記】五卷猪飼敬所撰。【四書知言】十卷東條一堂撰。【四書注釋全書】叢書の名。正編十冊續編三冊關儀一郎編。我が國の學者の四書注釋書を收む。◎正編《第一冊》—大學定本一卷（伊藤仁齋）・大學解一卷（荻生徂徠）・大學古義一卷（井上金峩）・大學雜議一卷（中井履軒）・大學章句纂釋一卷（古賀精里）・大學諸說辨誤一卷（古賀精里）・大學原本釋義一卷（朝川善庵）・中庸發揮一卷（伊藤仁齋）・中庸解一卷（荻生徂徠）・中庸逢原一卷（中井履軒）。《第二冊》—大學原解三卷（大田錦城）・大學欄外書一卷（佐藤一齋）・中庸原解三卷（大田錦城）・中庸欄外書二卷（佐藤一齋）。《第三冊》—論語古義十卷（伊藤仁齋）・論語欄外書二卷（佐藤一齋）。《第四冊》—論語語由十卷（龜井南冥）・論語考文一卷（猪飼敬所）・正平本論語札記一卷（市川迷庵）。《第五冊》—論語繹解十卷（皆川淇園）・論語集解攷異十卷（吉田篁墩）。《第六冊》—論語逢原四卷（中井履軒）・讀論語一卷（廣瀨淡窓）。《第七冊》—論語徵一卷（荻生徂徠）・論語新注四卷（豐島豐洲）。《第八冊》—論語知言十卷（東條一堂）。《第九冊》—孟子古義七卷（伊藤仁齋）・孟子考文一卷（猪飼敬所）・讀孟子一卷（廣瀨淡窓）。《第十冊》—孟子逢原七卷（中井履軒）・孟子斷二卷（冢田大峯）。◎續編《第一冊》—學庸知言（東條一堂）・學庸參辨（增島蘭畹）・學庸鄭氏義（海保漁村）。《第二冊》—論語注解（照井一宅）。《第三冊》—讀孟叢鈔（西島蘭溪）。

【四書院】429 シショヰン　宋の嵩陽・嶽麓・睢陽・白鹿洞の書院をいふ。四大書院（547）を見よ。〔小學紺珠、制度類、四書院〕嵩陽河南府・嶽麓潭州・睢陽應天府・白鹿洞南康軍。

【四書文】430 シショブン　明・清時代の科擧に用ひた文體。多く四書の語を取つて命題したからいふ。又、八股文・時文ともいふ。八股（**2**－1450・・172）を見よ。〔梁傑、四書文源流考〕宋王介甫、撰二諸經新義一、列二之學官一、用以取レ士、南渡禁革、遂罕レ有二過問者一、而四書之文、緣レ之以起、其初本論體之小變、特專以二四書語一命レ題、其源蓋出二於唐之帖經墨義一、云云、至二代言口氣八股對仗一、雖レ備二於前明一、其實南宋楊誠齋・汪六安諸人、已爲二之椎輪一、至二文文山一、則居然具二體之一、有明一代、用二之科目一、景泰天順以前、渾樸未レ開、隆慶萬歷以後、風氣漸降、其閒巨手王守溪造二其極一、歸震川振二其緒一、金正希持二其終一、他若二于廷益之忠

節、陳白沙之理學、薛方山之史才、唐荊川・茅鹿門之經濟、楊升庵・季彭山之媕雅一、出二其餘技一、皆勝二專門一、云云、又若二黃陶庵・陳臥子一者、皆秋霜皎日、其文直頡二頏江西派之四雋・五家一、遂以結二明代時文之局一、西江之派既盛、精裁鑒推二艾千子一、時與二錢吉士一稱二選家之最一、云云、康熙時、諭二內二院九卿一、廢二時文一用二策論一、不二數年一而廷議奏復、云云、明代作家有二掄元之訣一、有二決科之式一、有二坐關三年者一、有二闈稿五易者一。

【四處】431 シショ あたりきんじよ。四鄰。〔莊子、盜跖〕爭二四處一、而不二自以爲レ貪。

【四如】432 シジョ 宋、黃仲元(**12－47926**‥1249)の號。

〖四如集〗433 シジョシフ 書名。五卷。宋、黃仲元撰。文四卷・附錄一卷から成り、其の文章は馳騁を事とせず、端厚樸直の氣がある。仲元の原集は講義・雜文を合せて二十一卷あつたが、今講義は別本となり、雜文散佚の餘を掇拾したのが四如集である。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖四如山樓〗434 シジョサンロウ 明、魏浣初(**12－45872**‥190)の室名。

【四序】435 シジョ ❶春夏秋冬の順序。〔魏書、律歷志上〕四序遷流、五行變易。〔隋書、音樂志中〕四序氤氳、三光昭晰。❷孟序・仲序・叔序・季序をいふ。〔小學紺珠、律歷類、四序〕孟序・仲序・叔序・季序、北史黃帝四序經文。

【四鐘】436 シショウ 四點鐘の略。四時。

【四色】437 シショク 四つの色。赤・青・白・黑。〔漢書、王莽傳下〕陳二青茅四色之土一。〔注〕師古曰、土有二五色一、而此云レ四者、中央之土不二以封一也。

〖四色啄木〗438 シシキタクボク 甲冑に用ひる組緒の組方の一種。啄木組みの一種。白・紺・紫・萠黃の四色で打つた紐。

【四職】439 シショク ❶四種の官職。御正・納言・內史・大夫。〔北史、唐瑾傳〕轉二荊州總管府長史一、入爲二吏部中大夫一、歷二御正・納言・內史・中大夫一、曾未二十旬一、遂遷二四職一、搢紳咸以爲レ榮。❷四種の職業。士・農・工・商。〔中論、譴交〕有二四民一焉、執レ契脩二版圖一、奉二聖王之法一、治二禮義之中一、謂二之士一、竭レ力以盡二地利一、謂二之農夫一、審二曲直形勢一、飭二五材一、以別二民器一、謂二之百工一、通二四方之珍異一、以資レ之、謂二之商旅一、云云、不レ勤二乎四職一者、謂二之窮民一。❸古の四つの官名。左京職・右京職・大膳職・修理職。❹シシキ 室町時代、所司の職にあたつた四氏。山名・一色・赤松・京極の四家。〔南方記傳、下〕應永五年、山名・一色・赤松・京極、爲二京都奉行一、號二四職一。

【四心】440 シシン 佛❶菩薩の堅持すべき四つの心。初發心・行道心・不退轉心・一生補處心。〔法苑珠林〕菩薩有二四心一、一初發心、二行道心、三不退轉心、四一生補處心。❷四つの無量心。慈・悲・喜・捨。〔俱舍論、二十九〕無量有レ心、一慈、二悲、三喜、四捨。

【四臣】441 シシン 四人の家臣。戰國、齊の威王の臣、檀子・盼子・黔夫・種首を齊の四臣といふ。〔史記、田敬仲完世家〕威王曰、寡人之所二以爲レ寶與レ王異、吾臣有二檀子者一、使レ守二南城一、則楚人不二敢爲レ寇東取一、泗上十二諸侯皆來朝、吾臣有二盼子者一、使レ守二高唐一、則趙人不三敢東漁二於河一、吾吏有二黔夫者一、使レ守二徐州一、則燕人祭二北門一、趙人祭二西門一、徙而從者七千餘家、吾臣有二種首者一、使レ備二盜賊一、則道不レ拾レ遺、將三以照二千里一、豈特十二乘哉。〔小學紺珠、名臣類上、齊四臣〕檀子・盼子・黔夫・種首。

【四身】442 ヨツミ 衽（オクミ）・本裁（ホンダチ）の身頃（ミゴロ）からとる衣服の裁ち方。小兒の着るもの。

【四信】443 シシン 佛四種の信心。根本卽ち眞如を信じ、佛の功德を信じ、法の利益を信じ、僧卽ち菩薩を信ずることの四つ。〔起信論〕略說、信心有二四種一、云何爲レ四、一者信二根本一、云云、二者信三佛有二無量功德一、云云、三者信三法有二大利益一、云云、四者信三僧能正修二行自利利他一。

【四眞】445 シシン ❶四人の眞人。莊子(南華眞人)・文子(通玄眞人)・列子(沖虛眞人)・庚桑子(洞靈眞人)をいふ。〔小學紺珠、名臣類下、四眞〕莊子南華眞人・文子通玄眞人・列子沖虛眞人・庚桑子洞靈眞人、韓文公詩、四眞。❷其の名の通り實のあつた四人の人物。宋の富弼は眞の宰相、歐陽脩は眞の學士、包拯は眞の中丞、胡瑗は眞の先生の評判があつた。〔小學紺珠、名臣類下、四眞〕富弼眞宰相・歐陽脩眞學士・包拯眞中丞・胡翼之眞先生瑗、嘉祐中。

【四深】446 シシン 作詩上の四つの深いところ、體勢・作用・聲對・義類をいふ。〔詩式、四深〕氣象氤氳、由レ深二於體勢一、意度盤礴、由レ深二於作用一、用レ律不レ滯、由レ深二於聲對一、用レ事不レ直、由レ深二於義類一。

【四診】447 シシン 醫家の病を診察する四方法。神(其の氣色を望んで病を知る)・聖(其の聲音を聞いて知る)・工(問答して病の原因を知る)・巧(脈を診て知る)。〔扁鵲難經、望色〕六十一難曰、經言、望而知レ之、謂二之神一、聞而知レ之、謂二之聖一、問而知レ之、謂二之工一、切脈而知レ之、謂二之巧一。

【四愼】448 シシン 四つの愼しむべきこと。官は宦の成る時に怠り、病は少しく癒える時に加はり、禍は懈惰の時に生じ、孝は妻子ある時に衰へるから、この四者を愼しむべきであるといふこと。〔小學紺珠、儆戒類、四愼〕官怠二於宦成一、病加二於少愈一、禍生二於懈惰一、孝衰二於妻子一、曾子曰、察二此四者一、愼レ終如レ始。

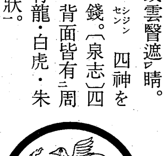
【四箴】449 シシン ❶四つのいましめ。㋑一、目力を惜しんで其の勤を致す、二、體認を精しくして其の知を充たす、三、嗜好を屛けて其の業を專らにする、四、行事を謹んで其の用を驗す。〔宋史、趙景緯傳〕(景緯)升二侍讀一、辭不レ許、進二聖學四箴一、一曰、惜二目力一以致二其勤一、二曰、精二體認一以充二其知一、三曰、屛二嗜好一以專二其業一、四曰、謹二行事一以驗二其用一。㋺一、傲は長ずべからず、二、欲は縱にすべからず、三、志は滿たすべからず、四、樂は極むべからず。四戒。〔禮、曲禮〕敖不レ可レ長、欲不レ可レ縱、志不レ可レ滿、樂不レ可レ極。〔小學紺珠、性理類、曲禮四箴〕敖不レ可レ長、欲不レ可レ縱、志不レ可レ滿、樂不レ可レ極、張文定公方平、以二曲禮四句一爲二四箴一。❷文章の名。宋の程頤の作で、視・聽・言・動の四箴がある。〔視箴〕心兮本虛、應レ物無レ迹、操レ之有レ要、視爲二之則一、蔽交二於前一、其中則遷、制二之於外一、以安二其內一、克レ己復レ禮、久而誠矣。〔聽箴〕人有二秉彝一、本二乎天性一、知誘物化、遂亡二其正一、卓彼先覺、知レ止有レ定、閑レ邪存レ誠、非レ禮勿レ聽。〔言箴〕人心之動、因レ言以宣、發禁二躁妄一、內斯靜專、矧是樞機、興レ戎出レ好、吉凶榮辱、惟其所レ召、傷レ易則誕、傷レ煩則支、己肆物忤、出悖來違、非法不レ道、欽哉訓辭。〔動箴〕哲人知レ幾、誠二之於思一、志士厲レ行、守二之於爲一、順レ理則裕、從レ欲惟危、造次克念、戰兢自持、習與レ性成、聖賢同レ歸。

【四神】450 シジン その形に擬して名づけた四方の星宿。東を青龍、南を朱鳥、西を白虎、北を玄武といふ。轉じて、四方の稱。四獸(371)の❷を見よ。〔爾雅、釋天、析木謂二之津一、疏〕四方皆有二七宿一、各成二一形一、東方成二龍形一、西方成二虎形一、皆南レ首而北レ尾、南方成二鳥形一、北方成二龜形一、皆西レ首而東レ尾。〔金史、海陵紀〕天德二年六月甲子、太廟初設二四神門及四隅罘罳一。

〖四神旗〗451 シジンキ 四神を描いた旗。天子の公式の鹵簿に用ひる。〔通典、禮典〕次朱雀幡一、次左青龍幢・右白虎幢各一、云云、次左青龍旗・右白虎旗各一、云云、次玄武隊玄武旗、一人執、二人引、二人夾。

〖四神丸〗452 シジングワン 枸杞から製した一種の藥。〔和漢三才圖會、灌木類、枸杞〕四神丸、治二腎經虛損眼病昏花或雲瞖遮一レ睛。

〖四神錢〗453 シジンセン 四神を紋に畫いた錢。〔泉志〕四神錢肉好、背面皆有二周郭一、並作二青龍・白虎・朱雀・玄武之狀一。



四神錢（三才圖會）

〖四神相應〗454 シジンサウオウ 四神に相應ずる四つの地相を備へること。卽ち左に流があり(青龍)、右に長道があり(白虎)、前に汙地があり(朱雀)、後に丘陵がある(玄武)土地をいふ。〔平家物語、五、都遷事〕左青龍、右白虎、前朱雀、後玄武、四神相應の地なり。

【四盡】455 シジン 四つのものが盡きる。水中に魚鼈なく、山中に麞鹿なく、田中に米穀なく、村里に人庶なきをいふ。〔南史、魚弘傳〕嘗謂レ人曰、我爲レ郡有二四盡一、水中魚鼈盡、山中麞鹿盡、田中米穀盡、村里人庶盡。

【四水】456 シスイ ❶四つの河流。㋑濟水・洛水・黃河・潁水。〔詩、鄭譜〕史伯曰、其濟洛河潁之閒、是其子男之國、虢鄶爲レ大。〔疏〕謂二濟西洛東河南

潁北、是四水之間、其子男之國有㆑十、惟虢鄶爲㆑大。㋺丹水・河水・赤水・洋水。〔水經、河水注〕傾宮旋室、縣圃涼風樊桐、在㆓崑崙閶闔之中㆒、是其疏圃、疏圃之池、浸㆓之黃水㆒、黃水三周復㆓其源㆒、是謂㆓丹水㆒、飲㆑之不㆑死、河水出㆓其東北陬㆒、赤水出㆓其東南陬㆒、洋水出㆓其西北陬㆒、凡此四水、帝之神泉、以和㆓百藥㆒、以潤㆓萬物㆒。㋩資水・沅水・微水・澧水。〔水經、湘水注〕湘水左會㆓清水口㆒、資水也、世謂㆓之益陽江㆒、湘水之左逕㆓鹿角山東㆒、右逕㆓謹亭戍西㆒、又北合㆓查浦㆒、又北得㆓萬石浦㆒、咸湘浦也、側湘浦北有㆓萬石戍㆒、湘水左則沅水注㆑之、謂㆓之橫房口㆒、東對㆓微湖㆒、世或謂㆓之麋湖㆒也、右屬㆓微水㆒、卽經所謂微水經㆓下雋㆒者也、西流注㆓于江㆒、謂㆓之麋湖口㆒、湘水又北逕㆓金浦戍北㆒、帶㆓金浦水湖㆒也、湘水左則澧水注㆑之、世謂㆓之武陵江㆒、凡此四水、同注㆓洞庭㆒、北會㆓大江㆒。㋥穀水・洛水・伊水・瀍水。〔宋史、五行志一上〕穀洛伊瀍、四水暴漲、壞㆓京城官署・軍營・寺觀・祠廟・民舍㆒、萬餘區。❷春秋、越の人。句踐の臣。〔說苑、權謀〕越饑、句踐懼、四水進諫曰、夫饑、越之福也、而吳之禍也。

【四水口】457 シスイコウ　地名。湖南省澧縣の東北。湖北省公安縣の界に接す。東は安鄉縣の景港河となり、北は荊江に連なる。明の隆慶の時、糧倉陏を設け、兵を增して戍守した。

【四水潛夫】458 シスイセンプ　宋、周密(**2**－3441‥482)の「號。

【四垂】459 シスイ　❶四方に垂れる。〔詩、豳風、七月〕八月在㆑宇、〔釋文〕屋四垂爲㆑宇。〔魏文帝、彈棊賦〕滑石霧散、雲布四垂。〔白居易、有木詩〕漸密陰自庇、轉高梢四垂。❷四方の邊境。四陲。〔爾雅、釋詁、圉垂也、疏〕孫炎曰、圉、國之四垂也。〔漢書、韋玄成傳〕單于孤特、遠遁㆓于幕北㆒、四垂無事。

【四推】460 シスイ　❶四種の推直官。臺一推・臺二推・殿一推・殿二推。推直は專ら獄事を治める官。〔唐書、百官志三〕殿中監察、分㆓京城諸司及諸州㆒爲㆓東西㆒、次一人知㆓西推㆒、次一人知㆓東推㆒、以㆓殿中侍御史第一人㆒同㆓知東推㆒、第二人同㆓知西推㆒、號㆓四推御史㆒。〔文獻通考、職官考、主簿〕宋御史臺、置㆓推直官二人㆒、專治㆓獄事㆒、凡推直有㆓四推㆒、曰、臺一推・臺二推・殿一推・殿二推。❷四たび犂を推す。清代、天子親耕の禮。從來は三推を例としたが、清の世宗に至つて更に一推を加へた。推は犂を推す義。〔清會典、禮部〕戶部侍郎播㆑種、皇帝三推三返、每歲奉㆑旨加㆓一推一返㆒、著爲㆑令。

【四陲】461 シスイ　四垂(459)の❷に同じ。

【四瑞】462 シズイ　四種の瑞祥。大瑞(景星慶雲)・上瑞(白狼赤兔)・中瑞(蒼烏朱鴈)・下瑞(嘉禾芝草)の四つ。〔小學紺珠、動植類、四瑞〕景星慶雲爲㆓大瑞㆒、白狼赤兔爲㆓上瑞㆒、蒼烏朱鴈爲㆓中瑞㆒、嘉禾芝草木連理爲㆓下瑞㆒、唐志。

【四騶】463 シスウ　四時を御する陰陽をいふ。轉じて、春夏秋冬の四時をいふ。〔淮南子、原道訓〕以㆑天爲㆑蓋、以㆑地爲㆑輿、四時爲㆑馬、陰陽爲㆑騶。〔注〕騶、御也。〔劉弇、詩〕陰陽馳㆓四騶㆒。〔本朝文粹、三、三統理平、鳥獸言語問〕浮陽上潤、運㆓四騶㆒以翼㆑功。

【四井】464 シセイ　周代の土地區劃の法。井は九夫の田で一里四方をいひ、四井は四平方里で、これを邑といふ。〔周禮、地官、小司徒〕九夫爲㆑井、四井爲㆑邑。〔疏〕九夫爲㆑井者、井方一里、九夫之田、四井爲㆑邑者、邑方二里。

【四世】465 シセイ　❶高祖・曾祖・祖父・父の四代をいふ。〔書、畢命〕惟公懋㆑德、克勤㆓小物㆒、弼㆓亮四世㆒、正㆑色率㆑下、罔㆑不㆑祗㆓師言㆒。〔傳〕輔㆓佐文・武・成・康四世㆒。〔禮、大傳〕四世而緦、服之窮也。〔注〕四世、共㆓高祖㆒。〔疏〕四世、謂上至㆓高祖㆒、以下至㆑己、兄弟同承㆓高祖之後㆒、爲㆓族兄弟㆒、相報緦麻、是服盡㆓於此㆒、故緦麻服窮、是四世也。〔論語、季氏〕政逮㆓於大夫㆒四世矣。〔疏〕言、君之政令、及㆓於大夫㆒、至㆑今四世矣、謂㆓季文子・武子・悼子・平子㆒也。❷［佛］セシ　聖世(釋迦在世時代)・正世(釋迦滅後一千年間)・像世(次の一千年間)・末世(次の一萬年間)。

【四世三公】466 シセイサンコウ　高祖から父に至る四代の間、皆、三公の位に居ること。〔魏志、袁紹傳〕高祖父安爲㆓漢司徒㆒、自㆑安以下、四世居㆓三公位㆒。

【四正】467 シセイ　❶正爵が四行すること。四行とは賓・公・卿・大夫に獻ずる禮をいふ。〔禮、射義〕曾孫侯氏、四正俱擧。〔注〕四正、正爵四行也、四行者、獻㆑賓、獻㆑公、獻㆑卿、獻㆓大夫㆒。❷君・臣・父・子をいふ。〔管子、君臣下〕四正五官、國之體也。〔注〕四正、謂㆓君臣父子㆒。〔小學紺珠、人倫類、四正〕君・臣・父・子。❸天に二日無く、土に二王無く、家に二主なく、尊に二上無きをいふ。〔禮、坊記〕子云、天無㆓二日㆒、土無㆓二王㆒、家無㆓二主㆒、尊無㆓二上㆒、示㆔民有㆓君臣之別㆒也。〔小學紺珠、人倫類、四正〕天無㆓二日㆒、土無㆓二王㆒、家無㆓二主㆒、尊無㆓二上㆒。

【四正卦】468 シセイクワ　四時を主る坎・離・震・兌の四つの卦。漢の孟喜が卦氣圖において、坎・離・震・兌の四を四正卦となしたのに始まる。清の惠棟の易漢學には、この四卦は四事を主るといふ。〔魏書、律歷志〕推㆓四正卦㆒術曰、因㆓冬至大小餘㆒卽坎卦用㆑事日、春分卽震卦用㆑事日、夏至卽離卦用㆑事日、秋分卽兌卦用㆑事日㆒。

【四正四奇】469 シセイシキ　陣法の名。八陣の中、風雲を四正、龍虎を四奇といふ。〔握奇經〕八陣、四爲㆑正、四爲㆑奇。〔注〕風雲爲㆓四正㆒、龍虎爲㆓四奇㆒。

【四生】470 シセイ　❶聖王が上位にあつて、民が死を免れ生を得る四つの道。卽ち、一に、天下の人は軍兵の事に死せず、諸侯は攻伐せず、民は私に鬭鬩せず、私に相殺さぬ爲に生を得、二に、臣は道を積み、吏は德を積み、民は力を用ひて働き、婦人はその衣る所を造り、丈夫はその食ふ所を造る爲に生を得、三に、君は仁を積み、吏は愛を積み、民は順を積み、刑罰廢して民に天遏の誅がない爲に生を得、四に、民を使ふに時有り、之を用ふるに節あり、民に厲疾がない爲に生を得る。〔新書、脩政語下〕聖王在㆓上位㆒、天下不㆑死㆓軍兵之事㆒、故諸侯不㆓私相攻㆒、而民不㆓私相鬭鬩㆒、不㆓私相煞㆒也、故聖王在㆓上位㆒、則民免㆓於一死㆒、而得㆓一生㆒矣、聖王在㆑上、則君積㆓於道㆒、而吏積㆓於德㆒、而民積㆓於用力㆒、故婦人爲㆓其所㆑衣、丈夫爲㆓其所㆑食、則民無㆓凍餒㆒矣、故聖王在㆑上、則民免㆓於二死㆒、而得㆓二生㆒矣、聖王在㆑上、則君積㆓於仁㆒、而吏積㆓於愛㆒、而民積㆓於順㆒、則刑罰廢矣、而民無㆓大過之誅㆒、故聖王在㆑上、則民免㆓於三死㆒、而得㆓三生㆒矣、聖王在㆑上、則使㆑民有㆑時、而用㆑之有㆑節、則民無㆓厲疾㆒、故聖王在㆑上、則民免㆓於四死㆒、而得㆓四生㆒矣。❷隋代の四人の學徒、程元・仇璋・董常・薛收をいふ。〔文中子、關朗〕太原府君曰、夫子得㆓程・仇・董・薛㆒、而六經益明、對問之作、四生之力也。〔小學紺珠、名臣類下、四生〕程元・仇璋・董常・薛收。❸［佛］シシヤウ　衆生の四つの生成の型。胎生(哺乳類)・卵生(鳥類)・濕生(蟲・魚・龜・蛙類)・化生(蟬・蝶類)。〔俱舍論、八〕有㆓四生㆒、有情、云云、謂有情類、卵生・胎生・濕生・化生。〔日本書紀、推古紀〕十二年、作㆓憲法十七條㆒、云云、三寶者、佛法僧也、則四生之終歸、萬國之極宗。

【四制】471 シセイ　喪中の制度を定める四つの標準。恩・理・節・權。〔禮、喪服四制〕喪有㆓四制㆒、變而從㆑宜、取㆓之四時㆒也、有㆑恩、有㆑理、有㆑節、有㆑權、取㆓之人情㆒也、恩者仁也、理者義也、節者禮也、權者知也、仁義禮知、人道具矣。〔小學紺珠、人倫類、四制〕恩・禮・節・權。

【四姓】472 シセイ　❶郡の四等の貴族。㋑六朝時代、郡の名望家を甲乙丙丁の四等に分けて貴族とし、之を四姓と稱した。〔南史、張緖傳〕緖出爲㆓豫章內史㆒、在㆑郡述㆓制旨禮記正言義㆒、四姓衣冠士子、聽者常數百人。㋺唐の郡姓。尙書領護以上を甲姓、九卿若しくは方伯を乙姓、散騎常侍太中大夫を丙姓、吏部正員郞を丁姓とし、之に入ることの出來る者を四姓と稱した。〔唐書、柳沖傳〕郡姓者、以㆓中國士人差第閥閱㆒爲㆓之制㆒、凡三世有㆓三公㆒者曰㆓膏粱㆒、有㆓令僕㆒者曰㆓華腴㆒、尙書領護而上者爲㆓甲姓㆒、九卿若方伯者爲㆓乙姓㆒、散騎常侍太中大夫者爲㆓丙姓㆒、吏部正員郞爲㆓丁姓㆒、凡得㆑入者、謂㆓之四姓㆒。❷四つの姓氏。㋑後漢の明帝の外戚、樊氏・郭氏・陰氏・馬氏。四姓小侯を見よ。〔小學紺珠、氏族類、四姓〕樊・郭・陰・馬、漢明帝爲㆓四姓小侯之學㆒。㋺南單于の呼衍氏・須卜氏・丘林氏・蘭氏。〔後漢書、南匈奴傳〕單于姓虛連題、異姓有㆓呼衍氏・須卜氏・丘林氏・蘭氏四姓㆒、爲㆓國中名族㆒、常與㆓單于㆒婚姻。㋩三國、吳の朱氏・張氏・顧氏・陸氏。〔陸機、吳趨行〕八族未㆑足㆑侈、四姓實名家。〔注〕

四姓、朱・張・顧・陸也。〔小學紺珠、氏族類、呉四姓〕張文・朱武・陸忠・顧厚、世說、呉四姓。㋥晉の雷氏・蔣氏・穀氏・魯氏。〔晉書、劉頌傳〕頌字子雅、廣陵人、漢廣陵厲王胥之後也、世爲二名族一、同郡有二雷・蔣・穀・魯四姓一、皆出二其下一、時人爲二之語一曰、雷・蔣・穀・魯、劉最爲レ祖。㋭後魏の盧氏・崔氏・鄭氏・王氏。〔小學紺珠、氏族類、後魏四姓〕范陽盧敏・清河崔宗伯・滎陽鄭義・太原王瓊。㋬唐の崔氏・盧氏・李氏・鄭氏。〔唐書、柳沖傳〕今流俗獨以二崔・盧・李・鄭一爲二四姓一、加二太原王氏一號二五姓一、蓋不經也。〔小學紺珠、氏族類、唐四姓〕滎陽鄭・崗頭盧・澤底李・土門崔。㋣高麗の柳氏・崔氏・金氏・李氏。〔宋史、高麗傳〕士人以二族望一相高、柳・崔・金・李四姓爲二貴種一。❸佛（シセイ シシヤウ） 古代印度の四階級。婆羅門（バラモン）(Brāhmaṇa 僧侶階級)・刹帝利（セツテイリ）(Kṣatriya 王侯階級)・毗舍（ベイシヤ）(Vaiśya 庶民階級)・首陀（シユドラ）(Śūdra 奴隸階級)。〔譬喩經〕諸外人計、梵王生二四姓一、王口生二婆羅門一、臂生二刹利一、脇名二毗舍一、足生二首陀一。❹四つのかばね。源氏・平氏・藤原氏・橘氏。〔增補下學集、上、人倫門〕源氏・平家・藤原・橘、是曰二四姓一。

【四姓小侯】473（シセイセウコウ） 後漢の明帝の外戚、樊氏・郭氏・陰氏・馬氏のこと。何れも列侯でないから小侯といふ。〔後漢書、明帝紀〕爲二四姓小侯一、開二立學校一、置二五經師一。〔注〕爲二外戚樊氏・郭氏・陰氏・馬氏諸子弟一立レ學、號二四姓小侯一、置二五經師一、以レ非二列侯一、故曰二小侯一。

【四清】474（シセイ） ❶樂律の名。宮清・商清・角清・徵清の四つの高聲をいふ。九聲(1－167‥395)を見よ。〔毛奇齡、樂本解說〕。❷四人の風流な人。王右軍(羲之)・軒轅彌明・玉川子(盧仝)・林和靖(逋)。〔茶香室叢鈔〕元揭傒斯曼碩詩、有下題二四清圖一詩上、一清曰二王右軍一、二清曰二軒轅彌明一、三清曰二玉川子一、四清曰二林和靖一。

【四清聲】475（シセイセイ） 樂律の名。黃鐘・大呂・大簇・夾鐘。〔小學紺珠、律歷類、四清聲〕黃鐘・大呂・大簇・夾鐘、朱文公曰、半律、通典謂二之子聲一、後人失レ之、唯存二四律一、有二四清聲一、卽半聲也。

【四清社友】476（シセイシヤイウ） 宋、鄧林(11－39630‥111)の號。

【四聖】477（シセイ） 四人の聖人。又、四人の聖王。❶顓頊・帝嚳・帝堯・帝舜。〔史記、太史公自序〕維昔黃帝、法レ天則レ地、四聖遵レ序、各成二法度一。〔注〕集解曰、徐廣曰、顓頊・帝嚳・堯・舜。❷堯・舜・禹・湯。〔易林〕堯・舜・禹・湯、四聖敦仁、允施二德音一、民安無レ窮、旅人相望、未レ同二朝卿一。❸伏羲・軒轅(黃帝)・高辛(帝嚳)・禹。〔雲笈七籤、道敎序〕伏羲受レ圖、軒轅受レ符、高辛受二天經一、夏禹受二洛書一、四聖稟二其神靈一、五老現二於河渚一、故三墳五典、常道之敎也。❹周公・太公・召公・史佚。四子。〔大載禮、保傳〕明堂之位曰、篤仁而好學、多聞而道愼、天子疑則問、應而不レ窮者謂二之道一、道者導二天子一以レ道者也、常立二於前一、是周公也、誠立而敢斷、輔レ善而相レ義者謂二之充一、充者充二天子之志一也、常立二於左一、是太公也、絜廉而切直、匡レ過而諫レ邪者謂二之弼一、弼者拂二天子之過一者也、常立二於右一、是召公也、博聞強記、接給而善對者謂二之承一、承者承二天子之遺忘一者也、常立二於後一、是史佚也、故成王中立而聽レ朝、則四聖維レ之、是以慮無二失計一、而擧無二過事一。〔後漢書、桓郁傳〕昔成王幼小、越在二襁保一、周公在レ前、史佚在レ後、太公在レ左、召公在レ右、中立聽レ朝、四聖維レ之、是以慮無二遺計一、擧無二過事一。❺唐の肅宗・代宗・德宗・順宗。〔韓愈、平二淮西一碑〕唐承二天命一、遂臣二萬邦一、孰居二近土一、襲盜以狂、往在玄宗、崇極而圮、河北悍驕、河南附起、四聖不レ宥、屢興レ師征、有レ不レ能レ克、益レ戍以レ兵。❻醫家の黃帝・岐伯・秦越人・張機。〔清史稿、藝文志〕四聖心源十卷・四聖懸樞四卷、黃元御撰。❼佛（シシヤウ） ㋑十界を凡・聖に分つて、聲聞・緣覺・菩薩・佛の四界を四聖と稱し、地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人・天を六凡と稱す。〔止觀、輔行〕凡謂二六凡一、聖謂二四聖一。㋺禪林の阿彌陀佛・觀世音菩薩・大勢至菩薩・大海衆菩薩。〔敕修百丈清規、尊宿遷化起龕〕山門維那向レ內合掌、中立擧二往生呪一、或四聖號、大衆齊念。㋩羅什の門人、道生・僧肇・道融・僧叡。〔佛祖統紀、三十六〕羅什弟子有二生肇融叡一、時號二關中四聖一。〔釋氏稽古略、二〕師之弟子曰二生肇融叡一、謂二之什門四聖一。❽東大寺の創立に就いて、聖武天皇・良辨僧正・婆羅門僧正・行基菩薩をいふ。〔壒囊鈔、十八〕。❾釋迦・孔子・ソクラテス・キリスト。

【四聖諦】478（シシヤウタイ） 佛四諦(527)を見よ。

【四齊】479（シセイ） ❶世を平治する爲にととのふべき四つのこと。其の法は治まり、其の佐は賢に、其の民は愿に、其の俗は美なること。〔荀子、王霸〕故其法治、其佐賢、其民愿、其俗美、而四者齊、夫是之謂二上一一、如レ是則不レ戰而勝、不レ攻而得、甲兵不レ勞而天下服。〔小學紺珠、治道類、四齊〕其治法、其佐賢、其民愿、其俗美。❷齊の地の膠東・膠西・濟南・齊をいふ。〔小學紺珠、地理類、四齊〕膠東・膠西・濟南・齊、漢書五行志注。

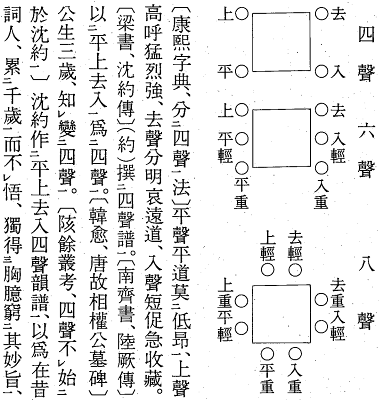
【四聲】480（シセイ） 字音の四種の聲調をいふ。平・上・去・入をいふ。平聲は平かに言つて上下無く、頭音・尾韻共に高低の無い聲。上聲は頭音輕く尾音の高いもの、卽ち尻上りの聲。去聲は頭音明かに尾韻の輕いもの、卽ち尻下りの聲。入聲は促音卽ち音の尻を呑む聲。又、字音の聲調を平聲と他の上去入の三聲との二つに大別して、平聲と仄聲とし、併せて平仄といふ。先秦時代に於ける四聲の區別の有無に就いては、學者の說が一定しないけれども、平聲・入聲の區別は認められ、漢魏の際には、既に四聲を具備したが、未だ四聲の稱無く、詩人は皆、宮(上平)・商(下平)・角(入聲)・徵(上聲)・羽(去聲)の五音を用ひた。晉に至つて四聲の名あり、晉の張諒に四聲韻林二十八卷、齊の周顒に四聲切韻がある。梁の沈約が四聲譜一卷を撰して文辭の聲律を論じてから、世人の注意を喚起し、韻文にも四聲を亂すもの無きに至り、隋の陸法言の切韻以下、唐宋の韻書も亦四聲に分つを常とした。而して漢字の四聲を示す爲に、四隅に點又は圈を加へる圈發の法が起り、平聲は左下、上聲は左上、去聲は右上、入聲は右下と定まつた。唐以後、音聲漸く變化し、北方音は濁音變じて清音となり、平聲に於ては、元來の清音と、濁音から變化した清音との間に音調の差異を生じ、北宋の時分れて上平・下平となり、元代に至り、前者を陰平、後者を陽平と名づけて區別した。又、入聲は其の語尾の子音を失ひ、平上去と異なること無く、元の中原音韻、及び明清以後現行の北京官話の如く、陰平(上平)・陽平(下平)・上聲・去聲の四聲となる。然し、南方音に於ては濁音及び入聲の語尾の子音が消失せず、且、語頭の子音の清濁によつて四聲に多少の相違を生じた爲、四種以上の種類がある。而して、其の數も方言によつて必ずしも一定せず、廣東には九聲(清平・清上・清去・濁平・濁上・濁去・清入・中入・濁入)、浙江には八聲(清平・清上・清去・清入・濁平・濁上・濁去・濁入)、江蘇には七聲(濁上と濁去との區別なし)、西南地方には五聲(陰平・陽平・上・去・入)あり、廣東以外の入聲は、語尾の子音を失つたので、音形上からは平上去と區別なく、音調だけの相違となつた。

	北京	南京	客家	福州	潮州（汕頭）	廣東	
				厦門 漳州		古代	現今
平聲	上平	上平	上平	上平	上平	上平	上平
	下平	下平	下平	下平	下平	下平	下平
上聲	上聲	上聲	上聲	上聲	上聲	上下 下上	上上 下上
去聲	去聲	去聲	去聲	上去 下去	上去 中去 下去	上去 下去	上去 下去
入聲	ナシ	入聲	上入 中入	上入 中入	上入 中入	上入 中入	上入 中入 下入
調	4	5	6	7	8	8	9

Carl Arendt 氏の北部中國語
(Noesische Umgangssprache)

我が國に傳はつた漢字音は、漢呉音共に四聲を具へ、漢文又は佛典を讀誦する時、必ず之を正した。古寫本・古刊本には、四聲を區別する符號、卽ち聲點を附したものがあつたが、後世次第に發音上に四聲を區別する事は絕え、唯佛家だけが今も猶特殊の朗讀法として傳へてゐる。漢呉兩音は四聲を異にするもの多く、漢音の四聲は廣韻等の切韻系統の韻書に一致するが、呉音はこれと大いに異なり、大低呉音の平聲の字は漢音で平聲となる。通例、漢字辭書は漢音の

四聲を用ひるが、吳音の四聲は唯法華經音義等の佛典の辭書、又は聲點を施した佛經等にあるだけである。我が國には平上去入の四聲以外に、又、輕重を區別して平重・平輕・上・去・入重・入輕の六聲とし、更に平上去入に各〻輕重を分つ八聲が古くから傳はつてゐる。



〔康熙字典、分二四聲一法〕平聲平道莫二低昂一、上聲高呼猛烈強、去聲分明哀遠道、入聲短促急收藏。〔梁書、沈約傳〕（約）撰二四聲譜一。〔南齊書、陸厥傳〕以二平上去入一爲二四聲一。〔韓愈、唐故相權公墓碑〕公生三歲、知レ變二四聲一。〔陔餘叢考、四聲不レ始二於沈約一〕沈約作二平上去入四聲韻譜一、以爲在昔詞人、累二千歲一而不レ悟、獨得二胸臆一、窮二其妙旨一、自謂二入神之作一、然石林詩話謂、魏晉閒雖レ未レ知二聲律一、而陸雲相謔之詞、日下荀鳴鶴雲閒、陸士龍已與二後世律詩一無レ異、知下此體出二於自然一、不中待二沈約一而後剏上也、今按二隋經籍志一、晉有二張諒撰四聲韻林二十八卷一、則四聲實起二晉人一、而幷非二石林所謂古人暗合者一矣、南史陸厥傳云、沈約・謝朓・王融、以二文章一相推、汝南周顒、善識二聲韻一、約等文皆用二宮商一相宣、將二平上去入四聲一、以レ之制レ韻、有二平頭上尾蜂腰鶴膝一、五字之中音韻悉異、兩句之內角徵不レ同、謂二之永明體一、沈約作二宋書、謝靈運傳後一、論レ之甚詳、厥乃爲レ書辨レ之、以爲歷代衆賢、未三必都闇二此處一也、此又約之前已有二四聲一之明證、卽與レ約同時者、周顒有二四聲譜一、行二於時一、劉善經有二四聲指歸一卷一、夏侯詠有二四聲韻略十三卷一、王斌有二四聲論一、皆齊梁閒人、又梁武問二周捨一曰、何謂二四聲一、捨曰、天子聖哲、是也、沙門重公謁二梁武帝一、帝問、在レ外有二四聲一、何者爲レ是、重公應レ聲曰、天保寺刹、出以語二劉孝綽一、孝綽曰、何如レ道二天子萬福一、則約同時之人、明二於此一者、亦不レ止二約一人一、特約獨取以成レ書、遂擅レ名耳。

【四聲猿】481 シセイエン 戲曲の名。明、徐渭撰。一本四折で、一折每に獨立して連續せず、各折を狂鼓史（一に漁陽弄）・玉禪師（一に翠鄕夢）・雌木蘭（一に代父從軍）・女狀元（一に辭鳳得鳳）と名づける。

【四聲體】482 シセイタイ 詩體の名。雜體の一つ。唐の陸龜蒙に平聲詩・平上聲詩・平去聲詩・平入聲詩の四聲詩がある。〔文體明辯、雜體詩〕十七曰、四聲體、唐陸龜蒙、夏日閒居、作二四聲詩一、寄二皮襲美一、平聲詩曰、荒池菰蒲深、閒堦莓苔平、江邊松篁多、人家簾櫳淸、爲レ書淩二遺編一、調レ絃夸二新聲一、求レ懽雖レ殊レ途、探レ幽聊怡レ情、平上聲詩曰、朝煙涵二樓臺一、晚雨染二島嶼一、漁童驚二狂歌一、艇子喜二野語一、山客堪レ停レ杯、柳影好レ隱レ暑、年華如二飛鴻一、斗酒幸且擧、平去聲詩曰、新開窻猶レ偏、自種蕙未レ徧、書籤風搖閒、釣榭霧破見、耕耘閒之資、嘯詠性最便、希夷全天眞、詎要レ問二貴賤一、平入聲詩曰、端居愁無レ涯、一夕髮欲レ白、因爲二鸞章吟一、忽憶二鶴骨客一、午披二丹臺文一、腳著二赤玉舄一、如レ蒙二淸音詶一、若三渴吸二月液一、是也。

【四聲譜】483 シセイフ 書名。一卷。梁、沈約撰。齊の周顒の四聲切韻に本づいて作つたもの。隋書經籍志に四聲一卷とあるが、梁書沈約傳に撰二四聲譜一とあるによれば、四聲譜と稱するが正しい。四聲切韻・四聲譜、共に佚亡して原形は明かでないが、顒の書に本づいて簡便な譜としたものと思はれる。〔梁書、沈約傳〕・〔隋書、經籍志〕。

【四聲部】484 ssŭ^4 shêng^1 pu^4 音樂家の語。高音部・中音部・次中音部・低音部。

【四聲指歸】485 シセイシキ 書名。一卷。隋、劉善經撰。夙に佚亡し、今僅かに空海の文鏡祕府論に引用せられてゐる數條が存するのみである。〔隋書、文學、劉善經傳〕河閒劉善經、博物洽聞、尤善二詞筆一、歷二仕著作佐郎・太子舍人一、著二酬德傳三十卷・諸劉譜三十卷・四聲指歸一卷一、行二於世一。

【四聲等子】486 シセイトウシ 書名。一卷。撰者未詳。字學中、等韻を論じたものは、司馬光の指掌の外、唯だ此の書のみである。〔四庫提要、經、小學類〕。

【四聲篇海】487 シセイヘンカイ 篇海（8―26257‥2）に同じ。

【四聲切韻表】488 シセイセツインヘウ 書名。一卷。淸、江永撰。字音を圖によつて調べる法を示す。〔四庫提要、經、小學類存目〕。

【四聲二十八調】489 シセイニジフハチテウ 燕樂、宮・商・角・羽の四韻があり、一韻七調、合して二十八調とする。二十八調（1―247‥500）を見よ。〔宋史、樂志十七〕燕樂以二夾鐘一收二四聲一、曰、宮・商・羽・閏、閏爲レ角、云云、宮聲七調、皆生二於黃鐘一、商聲七調、皆生二於太簇一、羽聲七調、皆生二於南呂一、角聲七調、皆生二於應鐘一、此四聲二十八調之略也。

【四聲五音九弄反紐圖】490 シセイゴオンキウロウハンチウヅ 音韻圖の書。唐の沙門神珙の作と傳へる。宋本玉篇の卷末に附し、又、玉函山房輯佚書に收める。〔玉函山房輯佚書、第七十九冊〕。

【四照】491 シセウ 四方を照らす。四照花を見よ。

【四照花】492 シセウクワ ㊀四方に照りかがやく花。〔山海經、南山經〕（招搖之山）有レ木焉、其狀如レ穀而黑理、其花四照、其名曰二迷穀一、佩レ之不レ迷。〔王巾、頭陀寺碑文〕九衢之草千計、四照之花萬品。〔注〕善曰、郭璞曰、言有二光炎一、若三木華赤、其光照二下地一、亦此類也。㊁草の名。やまぼうし。みづき科の落葉喬木。葉は對生し、廣楕圓形全緣をなし、梢頭に長梗を有する花を開く。

【四照堂】493 シセウダウ 室名。㊀淸、盧紘（8―23050‥43）の室名。㊁淸、王猷定（7―20823‥1152）の室名。

【四照堂集】494 シセウダウシフ 書名。淸、王猷定撰。國朝文錄（3―4798‥407）の㊀を見よ。〔淸史稿、文苑、王猷定傳〕。

【四析】495 シセキ 四つにさく。四つに切りわける。〔禮、曲禮上、爲二天子一削レ瓜者副レ之、注〕副、析也、旣削又四二析之一、乃橫二斷之一。

【四戚】496 シセキ 四つの親しいもの。內姓・外婚・友朋・同里。〔逸周書、大武解〕四戚、一內姓、二外婚、三友朋、四同里。〔小學紺珠、人倫類、四戚〕內姓・外婚・朋友・同里。

【四慼】497 シセキ 四つの心を悲しませるもの。〔潘岳、秋興賦〕善乎宋玉之言曰、悲哉、秋之爲レ氣也、蕭瑟兮、草木搖落而變衰、憀慄兮、若下在二遠行一、登レ山臨レ水、送上將レ歸、夫送レ歸懷二慕徒之戀一兮、遠行有二羈旅之憤一、臨レ川感レ流以歎レ逝兮、登レ山懷レ遠而悼レ近、彼四慼之疚レ心兮、遭二一塗一而難レ忍。〔注〕翰曰、四慼、謂二遠行登レ山臨レ水、送レ將レ歸慼憂一。

【四雪】498 シセツ 淸、周白山（2―3441‥821）の號。

【四節】499 シセツ ㊀四季の狩。春の蒐、夏の苗、秋の獮、冬の狩。〔後漢書、楊賜傳〕今城外之苑、已有二五六一、可下以逞二情意一、順中四節上也。〔注〕四節、謂二春蒐・夏苗・秋獮・冬狩一也。㊁四つの季節。春夏秋冬をいふ。四季。四時。〔魏文帝、連珠〕四節異レ氣以成レ歲、君子殊レ道以成レ名。〔陸機、塘上行〕四節逝不レ處、繁華難二久鮮一。〔潘岳、寡婦賦〕四節運而推移。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕四節相推斥、季冬風且涼。㊂四肢にある四つの關節。〔山海經、海內南經〕旄馬其狀如レ馬、四節有レ毛。〔漢書、司馬相如傳上、庸旄貘犛、注〕張揖曰、旄、旄牛、其狀如レ牛、而四節毛。

【四節記】500 シセツキ 南曲の篇名。四卷。明、沈采作。春夏秋冬の四景に分ち、各〻一つの故事を作つたもの。春景は杜子美曲江記、夏景は謝安石東山記、秋景は蘇子瞻赤壁記、冬景は陶秀實郵亭記。〔曲海提要、十八〕。

【四絕】501 シゼツ ㊀四つの世に勝れたもの。㋑陳の揚都宣武寺の釋洪偃は、容貌・論義・詩・書の四に秀れてゐたので、時人これを四絕とよんだ。〔續高僧傳、七〕偃、風神穎秀、弱齡悟レ道、晝讀二經論一、夜諷二詩書一、良辰華景、未二嘗廢レ學、自爾幼而聰敏、州里稱レ焉、及レ長遊二聽京邑一、遍聞二數論一、後値二龍光寺綽法師一、便委レ心受レ業、云云、乃開レ筵聚レ衆、闡二揚成實一、擧厝閑雅、詞吐抑揚、云云、壯思雲飛、英詞錦爛、又善二草隸一、見レ稱二時俗一、云云、故貌義詩書、號爲二四絕一、當時英傑、皆推二賞之一。㋺唐の秘書省の內に落ちた星石と、薛稷の畫いた鶴、賀知章の草書、郎餘令の畫いた鳳との四を、四絕と號した。〔唐詩紀事、三、郎餘令〕餘令善レ畫、唐秘書省內落星石、薛稷畫鶴、賀知章草書、餘令鳳、相傳爲二四絕一。㋩唐の元德秀の功績と、その墓碑に於ける、李華の文、顏眞卿の

書、李陽冰の篆額とを合せていふ。〔舊唐書、李華傳〕李華嘗爲二魯山令元德秀墓碑一、顏眞卿書、李陽冰篆額、後人爭摸二寫之一、號爲二四絕碑一。〔小學紺珠、名臣類下、四絕〕李華爲二元德秀碑一、顏眞卿書、李陽冰篆額。㋥法愼律師の信望と、その碑に於ける、李華の文、張從申の書、李陽冰の篆額とを合せていふ。〔歐陽脩、集古錄跋尾、七、唐龍興寺四絕碑首〕右四絕碑首者、李陽冰篆・法愼律師碑額也、在二揚州龍興寺一、唐李華文・張從申書・李陽冰篆額、律師者、淮南愚俗、素信二重之一、謂二此碑一爲二四絕碑一。㋭宋の文同が、詩・楚辭・草書・畫にすぐれてゐたことをいふ。〔小學紺珠、名臣類下、四絕〕詩・楚辭・草書・畫、宋文同。㋬明の寧波の人范洪は棋の達人で、國手と名づけられたが、時人は金忠の卜、袁珙の相、呂紀の畫と共に、四絕と稱した。❷立春・立夏・立秋・立冬の前一日をいふ。この日には出軍・遠行を忌む。〔協紀辨方書、義例四、四絕〕玉門經曰、四絕者、四立前一辰也、李鼎祚曰、此日忌二出軍遠行一、曹震圭曰、立春木旺水絕、立夏火旺木絕、立秋金旺土絕、立冬水旺金絕、故先一日爲レ絕也。

【四川】502 シセン 省の名。長江の上流に位す。舊說に、蜀境に、岷・瀘・雒・巴の四大川があるに依つて名づけるといひ、又一說に、宋の時、益州路・梓州路・利州路・夔州路に分ち、之を川峽四路と謂ひ、後遂に字を省いて四川と爲すといふ。東は湖北、南は貴州・雲南、西は西康、北は陝西・甘肅、東南の一部は湖南、西北は青海と界す。禹貢の梁州、周官職方の雍州、漢の益州で、三國の時、蜀に屬し、宋、四川路を置く。明、四川布政司を置き、淸、四川省を置き、民國、之に因り、五道百四十六縣を領す。省治は成都。水運の利が頗るよく、各水流灌の處に丘陵性の平原を成し、地味肥沃、氣候溫和、農產は稻米に富み、又、煙葉・藥材を產する。〔元史、世祖紀七〕壬戌分二川蜀一爲二四道一、以二成都等路一爲二四川西道一、廣元等路爲二四川北道一、重慶等路爲二四川南道一、順慶等路爲二四川東道一、並立二宣慰司一。〔讀史方輿紀要〕四川、禹貢、華陽黑水惟梁州、夏殷之閒、梁州爲二蠻夸國一、所謂巴竇彭濮之人也、周職方無二梁州一、蓋併二入於雍州一、周末、秦惠王使二司馬錯伐一レ蜀、有二其地一、於二天文一與レ秦同二分野一、亦兼二參之宿一、秦幷二天下一、此爲二巴蜀二郡一、漢武置二十三州一、此爲二益州一、後漢建武十二年平レ之、仍置二益州一、漢末先主有二其地一、炎興初、爲二魏所一レ幷、亦曰二益州一、云云、元置二四川等處行中書省一、元末明玉珍據レ此、明洪武四年平レ之、九年置二四川等處承宣布政使司一、領二府九・直隸州六・屬州十五・屬縣一百十二・長官司九一、而衞所諸司、參二列其中一、今仍爲二四川布政使司一。〔日知錄、地理、四川〕唐時劍南一道、止分二東西兩川一而已、至レ宋則爲二益州路・梓州路・利州府・夔州路一、謂二之川峽四路一、後遂省レ文、名爲二四川一。

【四川通志】503 シセンツウシ 書名。四十七卷。淸、四川總督黃廷桂等監修。記載やや詳備であるが、其の異同抵牾も亦少くない。その內容は、圖考・星野・建置沿革・疆域・形勢・城池・關隘・戶口・田賦・學校・祀典・名宦・人物・孝友・烈女・忠義・武功・蠲政・水利・鹽法・茶法・錢法・木政・榷政・屯田・邊防・土司・西域・兵制・津梁・驛傳附補遞・山川・古蹟・祠廟・公署・寺觀・陵墓・宮室・帝王・職官・選擧・成均・隱逸・流寓・仙釋・祥異・風俗・物產・藝文の四十九類。〔四庫提要、史、地理類〕。

【四戰】504 シセン ❶四度戰ふ。〔左氏、桓、二、宋殤公立十年十一戰、疏〕四戰、郲鄭入二其郛一。〔元史、文宗紀四〕諸臣四戰以上者、同二三戰及一戰者一、各有レ差。❷四方から敵をうけて戰ふ。四戰之地を見よ。

【四戰之地】505 シセンノチ 山河等の要害なく、四方から敵を受けて戰はねばならない地。四戰之國。〔史記、燕召公世家〕趙四戰之國、其民習レ兵、不レ可レ伐。〔後漢書、荀彧傳〕潁川四戰之地也、天下有レ變、常爲二兵衝一。〔魏志、張邈傳〕君以二千里之衆一、當二四戰之地一。〔宋史、范仲淹傳〕洛陽險固、而汴爲二四戰之地一。

【四選】506 シセン 宋の四つの選擧法。尙書左選・尙書右選・侍郎左選・侍郎右選。〔宋史、選擧志四〕元豐定レ制而後、銓注之法、悉歸二選部一、以二審官東院一爲二尙書左選一、流內銓爲二侍郎左選一、審官西院爲二尙書右選一、三班院爲二侍郎右選一、於レ是吏部有二四選之法一。〔小學紺珠、職官類、四選〕尙書左選・尙書右選・侍郎左選・侍郎右選。

【四選香】507 シセンカウ 香の名。〔廬山志〕白樂天嘗煉二丹於廬山草堂一、作二飛雲履一、以二玄綾一爲レ質、剪二素絹一爲レ雲、四面緣二飾之一、染以二四選香一、每レ振レ履、飃飃如二雲霧一。

【四鮮】508 ssŭ^4 hsien^1 中華料理獻立に於ける四種の水菓子、例へば梨・林檎・葡萄・姉の如きもの。

【四濺】509 シセン 四方からそそぐこと。〔金昌協、自二萬瀑洞一至二摩訶衍一記〕深流四濺、一壑皆成二烟雪一。

【四善】510 シゼン 唐代考課法に於ける四つの善行。一に德義聞ゆる有り、二に淸愼明著、三に公平稱すべし、四に恪勤懈らず。〔舊唐書、職官志二〕凡考課法有二四善一、一曰、德義有レ聞、二曰、淸愼明著、三曰、公平可レ稱、四曰、恪勤匪レ懈。〔小學紺珠、治道類、四善〕德義有レ聞、淸謹明著、公平可レ稱、恪勤匪レ懈。

【四膳】511 シゼン 四季による食物。孟春は麥と羊、孟夏は菽と雞、孟秋は麻と犬、孟冬は黍と彘とを食べる。〔張協、七命〕六禽殊レ珍、四膳異レ肴、窮二海之錯一、極二陸之毛一。〔注〕善曰、禮記曰、孟春食二麥與一レ羊、孟夏食二菽與一レ雞、孟秋食二麻與一レ犬、孟冬食二黍與一レ彘。〔梁簡文帝、七勵〕四膳八珍、五肉七菜。〔小學紺珠、器用類、四膳〕孟春食二麥・羊一、孟夏食二菽・鷄一、孟秋食二麻・犬一、孟冬食二黍・彘一。

【四禪】512 シゼン 佛坐禪の第四階段。四禪定。初禪(**2**－**1911**・・152)・善見(**2**－**3904**・・86)を見よ。

【四禪定】513 シゼンヂヤウ 佛略して四禪といふ。初禪・二禪・三禪・四禪をいふ。四禪天を見よ。

【四禪天】514 シゼンテン 佛四種の禪定を修して生ずる色界の四天處。初禪天・二禪天・三禪天・四禪天。

【四禪八定】515 シゼンハチヂヤウ 佛色界の四禪と無色界の四無色定とをいふ。〔止觀、九〕四禪八定、毘曇成實明レ之委細。

【四走】516 シソウ 四方に逃げ走る。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕夜奉二兩上皇・新帝・太子一、空レ城東走、土兵環起而射、太子以下四走。

【四聽】517 シソウ ❶廣く四方萬民に聞いて壅蔽の無いやうにすること。〔書、舜典〕明二四目一、達二四聰一。〔傳〕廣二視聽於四方一、使二天下無二壅塞一。〔韓詩外傳、六〕開二四目一、通二四聰一。〔宋書、文帝紀〕夫哲王宰レ世、廣達二四聰一、猶巡レ嶽省レ方。❷四人のさとい人。魏の夏侯玄・諸葛誕・鄧颺・玄疇。〔魏志、諸葛誕傳、注〕當世俊士、散騎常侍夏侯玄・尙書諸葛誕・鄧颺之徒、共相題表以二玄疇一四人爲二四聰一。

【四足】518 シソク ❶四本の足。又、四本足のもの。よつあし。〔詩、小雅、斯干、維熊維羆、維虺維蛇、疏〕以二熊羆四足而毛一、謂二之獸一、虺蛇無レ足之物、故謂二之蟲一也。〔禮、曲禮下〕羽鳥曰レ降、四足曰レ漬。〔疏〕四足曰レ漬者、牛馬之屬也。〔大戴禮、易本命〕四足者無二羽翼一、戴レ角者無二上齒一。〔山海經、西山經〕是多二白玉一、其中多二鰼魚一、其狀如レ蛇而四足、是食レ魚。〔淮南子、墬形訓〕四足者無二羽翼一、戴レ角者無二上齒一。❷ヨツアシ ㋑四つの足ある机。〔日中行事〕四つあしにするゐたる御かは藥。㋺四足門の略。㋩四本足の生物、獸類をいふ。㋥人を罵つていふ語。畜生。

【四則】519 シソク ❶朝廷・祭祀・軍旅・喪紀の四つの場合に適應した視容。〔新書、容經〕視有二四則一、朝廷之視、端沵平衡、祭祀之視、視如レ有レ將、軍旅之視、固植虎張、喪紀之視、下沵垂網。❷加・減・乘・除の四つの算法。

【四族】520 シゾク 四つのやから。❶遂の四族。因氏・領氏・工妻氏・須遂氏。〔小學紺珠、氏族類、遂四族〕因氏・領氏・工妻氏・須遂氏。❷羊舌の四族。銅鞮伯華・叔向・叔魚・叔虎。〔小學紺珠、氏族類、羊舌四族〕銅鞮伯華（赤）・叔向（肸）・叔魚（鮒）・叔虎（世本季夙）。❸會稽の四族。孔・魏・虞・謝。〔小學紺珠、氏族類、會稽四族〕孔・魏・虞・謝、世說、會稽孔沈・魏顗・虞球・虞存・謝奉、並四族之雋。

【四存】521 シソン 淸の顏元の主張で、存性・存學・存治・存人の四つをいふ。四存學を見よ。

【四存學】522 シソンガク 顏李の學をいふ。淸の顏元・李塨は共に宋儒の空疏を排擊し、漢の訓詁を排斥して實學を尊び、存性・存學・存治・存人の四存を主張したからいふ。〔淸學案小識、博野顏先

生〕先生諱元、字習齋、其學主㆔於勵㆓實行㆒、濟㆓實用㆒、終身刻苦、介然自成㆓一家㆒、著㆓存性・存學・存治・存人四編㆒、蓋目㆓擊明季諸儒、心學縱恣之失㆒、故力矯㆓其敝㆒、然視㆓其性命㆒、亦幾㆓恍惚㆒、不㆔自知㆓其矯㆑枉過㆑正也。

【四存學會】523 シソンガククヮイ　清の顏李（顏元・李塨）の學說を奉ずる學會の名。習行一貫の義を闡明することを主旨として興つたもの。民國九年六月二十七日發會し、雜誌四存月刊を刊行す。四存とは顏元の存人・存性・存學・存治の義を取つて名づけたもの。會址は北京右街舊太僕寺署。

【四存學堂】524 シソンガクダウ　顏李の四存の學を尊奉して、北京に興した學校。四存・四存學を見よ。

【四殆】525 シタイ　四つの危險な事柄。戰國、齊の鍾離春が、齊の宣王に四つの危殆事ありとて獻言した故事。一に、齊國は外に秦楚二國の難あり、內に奸臣を聚め、衆人附かず、壯男立たず、衆子を務めずして衆婦を務め、好む所を尊び、恃む所を忽せにす。二に、漸臺五重、黃金白玉、琅玕龍疎、翡翠珠璣、幕絡連飾し、萬民罷極す。三に、賢者山林に匿れ、諂諛の臣左右に強ひ、邪僞の輩朝に立ち、諫者通入するを得ず。四に、酒に沈湎し、女樂俳優縱に大笑し、外、諸侯の禮を修めず、內、國家の治を秉らず。〔列女傳、辯通傳〕鍾離春者、齊無鹽邑之女、宣王之正后也、其爲㆑人極醜無雙、臼頭深目、長指大節、卬鼻結喉、肥項少髮、折腰出胸、皮膚若㆑漆、年四十、無㆑所㆓容入㆒、衒嫁不㆑售、流棄莫㆑執、于㆑是乃拂㆓拭短褐㆒、自詣㆓宣王㆒、謂㆓謁者㆒曰、妾齊之不㆑售女也、聞㆓君王之聖德㆒、願借㆓後宮之掃除㆒、頓㆓首司馬門外㆒、唯王幸許㆑之、謁者以聞、云云、明日又更召而問㆑之、不㆓以隱對㆒、但揚㆑目銜㆑齒、擧㆑手拊㆑膝曰、殆哉殆哉、如㆑此者四、宣王曰、願遂聞㆑命、鍾離春對曰、今大王之君㆑國也、西有㆓衡秦之患㆒、南有㆓強楚之讎㆒、外有㆓二國之難㆒、內聚㆓奸臣㆒、衆人不㆑附、春秋四十、壯男不㆑立、不㆑務㆓衆子㆒、而務㆓衆婦㆒、尊㆑所㆑好、忽㆑所㆑恃、一旦山陵崩弛、社稷不㆑定、此一殆也、漸臺五重、黃金白玉、琅玕籠疏、翡翠珠璣、幕絡連飾、萬民罷極、此二殆也、賢者匿㆓于山林㆒、諂諛強㆓于左右㆒、邪僞立㆓于本朝㆒、諫者不㆑得㆓通入㆒、此三殆也、飮㆑酒沈湎、以㆑夜繼㆑日、女樂俳優、縱橫大笑、外不㆑修㆓諸侯之禮㆒、內不㆑秉㆓國家之治㆒、此四殆也、故曰、殆哉殆哉。〔後漢書、楊賜傳〕無㆑令㆘醜女有㆓四殆之歎㆒、遐邇有㆗憤怨之聲㆖。

【四帶】526 シタイ　四方を帶のやうに取りまくこと。〔晉書、周馥傳〕乃建㆑策迎㆓天子㆒、遷㆓都壽春㆒、上書曰、名川四帶、有㆓重險之固㆒。

【四諦】527 シタイ　[佛]人生の苦に關する四つの眞理。苦諦（現在の苦惱）・集諦（執著のはからひ、積集して苦となるべき因）・滅諦（苦の滅、安樂の境地）・道諦（苦の滅に達すべき修行、卽ち八聖道）。四聖諦（478）の略。〔涅槃經、十二〕苦・集・滅・道、是名㆓四聖諦㆒。〔增一阿含、十四〕汝等當㆑知㆑有㆓此四諦㆒、云何爲㆑四、苦諦・苦習諦・苦盡諦・苦出要諦。

【四體】528 シタイ　❶兩手兩足。四支。四肢。又、からだ。〔禮、禮運〕四體既正、膚革充盈、人之肥也。〔左氏、定、四〕子魚辭曰、臣展㆓四體㆒、以率㆓舊職㆒、猶懼㆑不㆑給而煩㆓刑書㆒。〔會箋〕展㆓手足之力㆒。〔論語、微子〕四體不㆑勤、五穀不㆑分。〔孟子、盡心上〕君子所㆑性、仁義禮智根㆓於心㆒、其生㆑色也、睟然見㆓於面㆒、盎㆓於背㆒、施㆓於四體㆒、四體不㆑言而喩。〔管子、內業〕淵之不㆑涸、四體乃固。〔注〕生氣之淵、不㆑有㆓竭涸㆒、故四體固也。❷四本の足。四足。〔中庸〕見㆓乎蓍龜㆒、動㆓乎四體㆒。〔注〕四體、謂㆓龜之四足㆒。❸手足となつて働くもの。股肱。〔左氏、襄、三十〕且司馬、令尹之偏、而王之四體也。〔注〕倶股肱也。❹兄弟に喩へていふ。〔儀禮、喪服〕父子一體也、夫妻一體也、昆弟一體也、故父子首足也、夫妻牉合也、昆弟四體也。❺書の四つの體。草・章草・隸・散隸。又、古文・篆・隸・草。四體書を見よ。〔晉書、衞恆傳〕恆善㆓草隸書㆒、爲㆓四體書勢㆒。

【四體書】529 シタイショ　晉の衞恆の作つた四體の書。❶草・章草・隸・散隸。〔宣和書譜〕衞恆作㆓四體書㆒、曰草、曰章草、曰隸、曰散隸。❷古文・篆・隸・草。〔小學紺珠、藝文類、四體書〕古文・篆・隸・草、衞恆四體書勢。

【布㆓四體㆒】530 シタイヲシク　一身をさらけ出す。〔左氏、襄、二十一〕敢布㆓四體㆒、唯大君命焉。〔注〕布㆓四體㆒、言㆑無㆑所㆑隱。

【四體百骸】531 シタイヒヤクガイ　からだ全體。百骸は百骨の義。〔篠崎小竹、快字說〕四體百骸、莫㆑所㆑不㆑適。

【四大】532 シダイ　❶四つの大きなもの。㋑老子にいふ、道・天・地・王。〔老子、二十五〕道大、天大、地大、王亦大、域中有㆓四大㆒、而王處㆓其一㆒。〔周必大、謝㆑賜㆓曆日㆒表〕地法㆑天、而天法㆑道、據㆓四大㆒、以宅㆓中正㆒、次㆑王、而王次㆑春、殖㆓萬民㆒而布㆑治。〔無名氏、天賦〕德冠㆓三才㆒、名參㆓四大㆒。㋺大功・大名・大德・大權。〔晉書、王豹傳〕明公挾㆓大功㆒、抱㆓大名㆒、懷㆓大德㆒、執㆓大權㆒、此四大者、域中所㆑不㆑能㆑容、賢聖所㆓以戰戰兢兢、日昃不㆑暇㆑食、雖㆑休勿㆑休者也。㋩顯公の鐘・宋公の鼓・宗道暉の屣・李洛姫の肚。〔北史、熊安生傳〕同郡宗道暉、好著㆓高翅帽大屣㆒、州將初臨、輒服以謁見、仰㆑頭擧㆑肘、拜㆓於屣上㆒、冀州人爲㆓之語㆒曰、顯公鐘、宋公鼓、宗道暉屐、李洛姫肚、謂㆓之四大㆒、顯公、沙門也、宋公、安德太守也、洛姫、婦人也。❷[佛]個人及び萬有を構成してゐる四つの要素。大は大種をいひ、要素の意。地・水・火・風。四大種の略。〔圓覺經〕我今此身四大和合、所謂髮毛爪齒、皮肉筋骨、髓腦垢色、皆歸㆓於地㆒、唾涕膿血、津液涎沫、痰淚精氣、大小便利、皆歸㆓於水㆒、暖氣歸㆑火、動轉歸㆑風、四大各離、今者妄身、當㆑在㆓何處㆒。〔晉書、鳩摩羅什傳〕羅什未㆑終、少日覺㆓四大不豫㆒。〔遯齋閒話〕師云、內翰何來、此閒無㆓坐處㆒、公戲云、借㆓和尚四大㆒、用作㆓禪牀㆒。

【四大家】533 シダイカ　四人の大家。❶文章にて、唐の韓愈・柳宗元、宋の歐陽脩・蘇軾をいふ。韓柳歐蘇と并稱する。❷宋代の書家、蘇軾・黃庭堅・米芾・蔡襄。四家（74）の❶の㋭を見よ。❸南曲にて、荊釵記を著した明の寧獻王、白兎記を著した元の無名氏、拜月亭を著した元の施惠、殺狗記を著した明の徐畛を南戲古曲の四大家といひ、荊劉拜殺と并稱する。

【四大海】534 シダイカイ　[佛]須彌山をめぐる四方の大海。〔榮華物語、本の雫〕この志須彌山よりも高く四大海よりも深し。

【四大師】535 シダイシ　[佛]❶唐代、僧侶に與へた稱號。勅に依つて補し、我が大禪師の稱號の如きもの。〔佛祖統紀、三十九〕詔㆓法華知威法師㆒、補㆓四大師朝散大夫㆒。❷四人の大師。㋑平安朝の四人の大師。傳教大師最澄・弘法大師空海・慈覺大師圓仁・智證大師圓珍。㋺天台の四人の大師。傳教大師・慈覺大師・智證大師・慈慧大師。

【四大字】536 シダイジ　四つの大きな文字。宋の岳飛が背中に書付けてゐた盡忠報國の四つの大字をいふ。〔宋史、岳飛傳〕何鑄鞫㆑之、飛裂㆑裳以㆑背示、著有㆓盡忠報國四大字㆒、深入㆓膚理㆒。

【四大寺】537 シダイジ　[佛]我が國で四つの著名な大寺。❶大安寺・藥師寺・元興寺・弘福寺。❷東大寺・興福寺・延曆寺・園城寺。

【四大洲】538 シダイシウ　[佛]須彌山（妙高山）を繞る鹹海中にある四つの洲。東勝身洲（Pūrva-videha）・西牛貨洲（Apara-Gadāniya）・南瞻部洲（Jambu dūipa）・北倶盧洲（Uttara-Kuru）。四大部洲。〔倶舍論、十一〕大洲有㆑四、謂、於㆓四面㆒對㆓妙高山㆒、南瞻部洲、云云、東勝身洲、云云、西牛貨洲、云云、北倶盧洲。

【四大種】539 シダイシユ　[佛]四大（532）の❷を見よ。

【四大節】540 シダイセツ　もと我が國の四つの大きな祝祭日。新年節（四方拜）・紀元節（二月十一日卽ち建國記念祭）・天長節（今上陛下御誕生の祝日）・明治節（十一月三日卽ち明治天皇御降誕の日を以て明治天皇の盛德大業を仰ぎ奉る祝日）。

【四大癡】541 シダイチ　戲曲の名。明、李逢時撰。酒・色・財・氣の四つを分つて四劇とする。酒を酒懂、色を扇墳、財を一文錢といひ、氣は黃巢下第の事を用ふ。

【四大鎭】542 シダイチン　有名な四つの大鎭。河南の朱仙鎭・江西の景德鎭・廣東の佛山鎭・湖北の漢口鎭。

【四大碗】543 ssŭ⁴ ta⁴ wan³　四種の中國料理。紅燗全雞・扣肉・海參丸子・大素燴。

【四大家兒】544 ssŭ⁴ ta⁴ chia¹ êrh　蝟・蛇・狐・「鼬。

【四大奇書】545 シダイキショ　元代の小說、水滸傳・三國志演義と戲曲の西廂記・琵琶記とを併稱して元代四大奇書といひ、後には水滸傳・三國志演義・

西遊記・金瓶梅を併稱して中國小說の四大奇書といふ。

【四大徽班】546 シダイキハン　清代、安徽省の人の主宰した演戲團體の名。乾隆の頃、高朗亭といふ者京師に入り、安慶の花部の二黃調に京秦兩腔を合して三慶部と名づく。次いで四喜・和春・春臺・三和の諸徽班相尋いで起り、嘉慶中、四喜・和春・春臺・三和・三慶の五部成立し、道光の頃、徽班の勢力益〻擴張し、五徽部中、三和を除いた他の四部は四大徽班と稱せられ、京師戲界の霸權を握るに至つた。四大徽班は各〻特色あり、四喜は元來崑曲を本としたので、之を曲子といひ、古典的な劇を主とし、士君子の鑑賞に供し、三慶は皆近事を新排して連日接演し、大衆の趣好を旨とし、之を軸子といつた。軸子とは接演の意で、早軸子・中軸子・大軸子の別あり、演時の次第によつて名づける。和春は每日亭午に三國・水滸の諸小說を演じ、中軸子と名づけ、又、武劇を主とする故、其の用ひる所の武器によつて把子とも名づける。春臺は孩子といひ、子供芝居を演ず。咸豐・同治の頃に至り、徽班は秦腔(西皮)を其の固有の二黃調と併合して自家の特技を建設するに至り、世人之を皮黃といつた。崑曲との接近によつてそれ等の調をも雅化し、大いに勢力を張り、名優も續出し、光緒中に至つて大成を見るに至つた。〔中國劇戲考〕。

【四大書院】547 シダイショヰン　宋の嵩陽書院・睢陽書院・嶽麓書院・白鹿洞書院をいふ。四書院。〔吳澄、重建㆓嶽麓書院㆒記〕天下四大書院、二在㆑北、二在㆑南、在㆑北者嵩陽・睢陽也、在㆑南者嶽麓・白鹿洞也。

【四大天王】548 シダイテンワウ　佛持國・廣目・增長・多聞の四天王をいふ。〔智度論、九〕。

【四大不調】549 シダイフテウ　佛病氣になること。四大とは人の身體を成す地・水・火・風で、此の四大の調和を缺くから四百四病を生ずるといふ。〔最勝王經、五〕地水火風共成㆑身、隨㆓彼因緣㆒、招㆓異果㆒、同在㆓一處㆒相違害、如㆔四毒蛇居㆓一篋㆒、於㆓此四種毒蛇中㆒、地水二蛇多沈下、風火二蛇性輕擧、由㆓此違背㆒衆病生。

【四大部洲】550 シダイブシウ　佛四大洲(538)を見よ。

【四大藏書家】551 シダイザウショカ　清代、藏書を以て有名な四家。聊城の楊以增(海源閣)・常熟の瞿鏞(鐵琴銅劍樓)・歸安の陸心源(皕宋樓)・錢塘の丁國典(八千卷樓)をいふ。

【四代】552 シダイ ヨダイ　四つの時代。❶虞・夏・殷・周。〔禮、學記〕三王四代、唯其師、此之謂乎。〔注〕四代、虞・夏・殷・周。〔春秋繁露、楚莊王〕舜作㆑韶、而禹作㆑夏、湯作㆑護、而文王作㆑武、四代殊㆑名。〔宋書、武帝紀中〕仰㆓四代之休義㆒、鑒㆓明昏之定期㆒。〔隋書、經籍志一〕書之所㆑興、蓋與㆓文字㆒俱起、孔子觀㆓書周室㆒、得㆓虞夏商周四代之典㆒、刪㆓其善者㆒、上自㆑虞下至㆑周爲㆓百編㆒、而序㆑之。❷北朝の魏・周・齊と南朝の陳。〔小學紺珠、歷代類、四代〕北朝魏・周・齊、南朝陳、文中子、除㆓四代之法㆒。❸大戴禮の篇名。

【四代之學】553 シダイノガク　虞・夏・商・周、四代の學校。〔李覯、袁州州學記〕四代之學、考㆓諸經㆒可㆑見已。

【四倒】554 シタウ　佛四種の顚倒。❶凡夫の四倒。無常・無樂・無我・無淨を常・樂・我・淨なりと誤り考へること。❷二乘の四倒。涅槃の四德たる常・樂・我・淨をも無常・無樂・無我・無淨と過つて捨てること。〔俱舍論、十九〕應㆑知、顚倒總有㆓四種㆒、一、於㆓無常㆒執㆑常顚倒、二、於㆓諸苦㆒執㆑樂顚倒、三、於㆓不淨㆒執㆑淨顚倒、四、於㆓無我㆒執㆑我顚倒、如㆑是四倒。〔大般涅槃經、七〕謂㆓四倒㆒者、云云、以㆘於㆓苦中㆒生㆗樂想㆖故、名爲㆓顚倒㆒、樂生㆓苦想㆒、名爲㆓顚倒㆒、云云、無常常想、常無常想、是名㆓顚倒㆒、云云、無我我想、我無我想、是名㆓顚倒㆒、云云、淨不淨想、不淨淨想、是名㆓顚倒㆒。

【四唐】555 シタウ　唐代を詩學研究上、初・盛・中・晚の四期に分つをいふ。此の分け方は、宋の嚴羽の滄浪詩話に始まり、明の高棅の唐詩品彙に定まる。初唐(唐初から開元迄)・盛唐(開元から大曆迄)・中唐(大曆から太和迄)・晚唐(太和から唐末迄)の四期。文體明辯は、中唐を大曆から元和末迄とし、晚唐を開成の初から五代の末迄としてゐる。唐代詩人分爲㆑四(**2**-**3709**··255)を見よ。〔秋圃擷餘、論詩〕今世五尺之童、纔拈㆓聲律㆒、便能薄㆓棄晚唐㆒、自傳㆓初盛㆒、有㆘稱㆓大曆而下㆒、色便赧然㆖、然使㆑誦㆓其詩㆒、果爲㆑初耶、盛耶、中耶、晚耶。〔四庫提要、集、總集類〕唐音、十四卷、元楊士宏撰、云云、其始音惟錄㆓王楊盧駱四家㆒、正音則詩以㆑體分、而以㆓初唐盛唐㆒爲㆓一類㆒、中唐爲㆓一類㆒、晚唐爲㆓一類㆒。〔文體明辯、近體律詩〕至㆑唐有㆓四等㆒、由㆓高祖武德初㆒至㆓玄宗開元初㆒爲㆓初唐㆒、由㆓開元㆒至㆓代宗大曆初㆒爲㆓盛唐㆒、由㆓大曆㆒至㆓憲宗元和末㆒爲㆓中唐㆒、自㆓文宗開成初㆒至㆓五季㆒爲㆓晚唐㆒。

【四堂】556 シダウ　清、毛庚(**6**-**16772**··22)の字。

【四道】557 シダウ　❶四つの君子の道。己を行ふに恭、上に事へて敬、民を養ふに惠、民を使ふに義。〔論語、公冶長〕子謂㆓子產㆒、有㆓君子之道四㆒焉、其行㆑己也恭、其事㆑上也敬、其養㆑民也惠、其使㆑民也義。〔小學紺珠、治道類、君子道四〕行㆑己恭、事㆑上敬、養㆑民惠、使㆑民義、論語、謂㆓子產㆒、有㆓君子之道四㆒。❷四つの經由する路。又、四つの進む方向。〔北史、魏太武帝紀〕捨㆓輜重㆒、以㆓輕騎㆒襲㆓蠕蠕㆒、分㆑軍爲㆓四道㆒。〔唐書、韋雲起傳〕屯相聯絡、四道並引。❸四つの道。道は行政上の區劃の名で、唐は天下を十道に分けた。〔唐書、永王璘傳〕安祿山反、帝至㆓扶風㆒、詔㆑璘、卽日赴㆑鎭、俄又領㆓山南・江西・嶺南・黔中四道節度使㆒、以㆓少府監竇昭㆒爲㆑副。〔元史、百官志二〕陝西諸道行御史臺、統㆓漢中・隴北・四川・雲南四道㆒。❹古、大學寮に置いた四つの分科。紀傳(歷史及び詩文)・明經(經義)・明法(律令格式)・算道(算術)。〔職原抄〕大學寮者、四道儒士出身之處也、和漢最爲㆓重職㆒、紀傳・明經・明法・算道、謂㆓之四道㆒。

【四道溝】558 シダウコウ　地名。❶滿洲遼寧省本溪縣の東南。❷滿洲遼寧省臨江縣。❸滿洲遼寧省琿春縣の東北。❹滿洲熱河省豐寧縣。

【四道將軍】559 シダウシャウグン　崇神天皇の朝、全國四道に派遣した鎭撫使。大彥命(北陸道)・武渟河別命(東海道)・吉備津彥命(西海道)・丹波道主命(丹波)。〔日本書紀、崇神紀〕十一年夏四月壬子朔己卯、四道將軍、以㆘平㆓戎夷㆒之狀㆖奏焉。

【四瞠】560 シダウ　宋の孔宗旦・李師道・徐程・尚同の四人をいふ。共に監司の耳目となつたから瞠(目をみはる意)といふ。〔宋史、孔宗旦傳〕孔宗旦魯人、爲㆓邕州司戶參軍㆒、高破㆓橫州㆒、卽載㆓其親㆒往㆓桂州㆒曰、吾有㆓官守㆒不㆑得㆑去、無㆑爲㆓俱死㆒也、既而州破被㆑執、賊欲㆓任以㆑事、宗旦叱㆑賊、且大罵、遂被㆑害、始宗旦官㆓京東㆒、與㆓李師道・徐程・尚同等四人㆒爲㆓監司耳目㆒、號爲㆓四瞠㆒、人多惡㆑之、其後立㆑節如㆑此。

【四擇】561 シタク　四つの擇ぶべきもの。一に、學ぶべき術を擇ぶ、二に、傳授を受くべき師を擇ぶ、三に、親しむべき友を擇ぶ、四に、事ふべき君を擇ぶ。〔劉敞、弟子記〕擇㆑術然後學㆑之、擇㆑師然後傳㆑之、擇㆑交然後親㆑之、擇㆑君然後事㆑之。〔小學紺珠、人倫類、四擇〕擇㆑術然後學㆑之、擇㆑師然後傳㆑之、擇㆑交然後親㆑之、擇㆑君然後事㆑之。

【四達】562 シタツ　❶道路が四方に通ずる。又、その所。よつつじ。〔爾雅、釋宮〕三達謂㆓之劇旁㆒、四達謂㆓之逵㆒。〔注〕交道四出。〔禮、樂記〕周道四達、禮樂交通。〔戰國、燕策〕趙四達之國也、其民皆習㆓於兵㆒、不㆑可㆓與戰㆒。〔淮南子、齊俗訓〕帝顓頊之法、婦人不㆑辟㆓男子於路㆒者、拂㆓之於四達之衢㆒。〔漢書、敍傳上〕激㆓聲於康衢㆒、〔注〕鄭氏曰、五達曰㆑康、四達曰㆑衢。〔孔子家語、入官〕六馬之乖離、必於㆓四達之交衢㆒、萬民之叛㆑道、必於㆓君上之失㆑政。❷四方にとどく。隨所に行きわたる。四解。〔禮、樂記〕禮樂刑政、四達而不㆑悖、則王道備矣。〔莊子、刻意〕精神四達並流、無㆑所㆑不㆑極。〔淮南子、墬形訓〕中央四達、風氣之所㆑通、雨露之所㆑會也。❸民を治める上に大事な四つのこと。一に、夫家衆寡、二に、六畜車輦、三に、稼穡耕耨、四に、旗鼓兵革。〔周禮、地官、遂大夫〕凡爲㆑邑者、以㆓四達㆒戒㆓其功事㆒。〔注〕四達者、治㆑民之事大通者有㆑四、夫家衆寡也、六畜車輦也、稼穡耕耨也、旗鼓兵革也。〔小學紺珠、治道類、四達〕夫家衆寡・六畜車輦・稼穡耕耨・旗鼓兵革。

【四端】563 シタン　仁・義・禮・智の道となる四つのいとぐち。仁の端である惻隱の心、義の端である羞惡の心、禮の端である辭讓の心、智の端である是非の心。四端說を見よ。

【四端說】564 シタンノセツ 孟子の學說。惻隱・羞惡・辭讓・是非の心は仁義禮智の端緒で、何人でも生まれながらに之を有せぬものは無く、能く之を養つて擴充發達させれば、必ず聖處に達せられ、天下國家を保んずることも易く、然らざれば父母にも事へることが出來ぬとした。これ孟子の性善說の根柢をなすものであるが、端の意義に就いては二說があり、朱子は右の如く緒卽ち完全な本性の部分的あらはれの意に解し、伊藤仁齋は本の義であるとした。卽ち、仁齋に從へば、人の心はやがて仁・義・禮・智になる本を有つてゐるが、然し此の四德を固有するものではない。例へば惻隱の心は仁になる本であるが、仁、其のものではない。故に仁の端緒でなく、端本である。元來、儒教には老莊の學のやうに、人の本性の初に立返るといふ思想はないといふのである。〔孟子、公孫丑上〕孟子曰、人皆有㆓不㆑忍㆑人之心㆒、先王有㆓不㆑忍㆑人之心㆒、斯有㆓不㆑忍㆑人之政㆒矣、以㆓不㆑忍㆑人之心㆒、行㆓不㆑忍㆑人之政㆒、治㆓天下㆒、可㆑運㆓之掌上㆒、所㆕以謂㆔人皆有㆓不㆑忍㆑人之心㆒者、今人乍見㆓孺子將㆑入㆓於井㆒、皆有㆓怵惕惻隱之心㆒、非㆕所㆔以內㆓交於孺子之父母㆒也、非㆕所㆔以要㆓譽於鄕黨朋友㆒也、非㆘惡㆓其聲㆒而然㆖也、由㆑是觀㆑之、無㆓惻隱之心㆒、非㆑人也、無㆓羞惡之心㆒、非㆑人也、無㆓辭讓之心㆒、非㆑人也、無㆓是非之心㆒、非㆑人也、惻隱之心、仁之端也、羞惡之心、義之端也、辭讓之心、禮之端也、是非之心、智之端也、人之有㆓是四端㆒也、猶㆔其有㆓四體㆒也、有㆓是四端㆒、而自謂㆑不㆑能者、自賊者也、謂㆓其君不㆑能者、賊㆓其君㆒者也、凡有㆓四端於我㆒者、知㆓皆擴而充㆑之矣、若㆓火之始然、泉之始達㆒、苟能充㆑之、足㆔以保㆓四海㆒、苟不㆑充㆑之、不㆑足㆔以事㆓父母㆒。〔集注〕端、緒也、因㆓其情之發㆒、而性之本然、可㆓得而見㆒、猶㆑有㆔物在㆑中而緒見㆓於外㆒也。〔古義〕端、本也、言、惻隱羞惡辭讓是非之心、乃仁義禮智之本、能擴而充㆑之、則成㆓仁義禮智之德㆒、故謂㆓之端㆒也、先儒以㆓仁義禮智㆒爲㆑性、故解㆑端爲㆑緒、以爲㆔仁義禮智之端緒見㆓於外㆒、誤矣。

【四團】565 シダン 鎭の名。江蘇省奉賢縣の東北、四團港の下流に當る。南は捍海塘に依り、北は南滙縣に通ずる。

【四知】566 チシ 後漢の楊震が、東萊の太守に遷る時、昌邑の令王密は金十斤を遺り、暮夜知る者無しと言つたが、震は、天知り、地知り（一に神知り）、我知り、汝知るといつて受けなかつた故事。祕密は必ずあらはれる戒。〔後漢書、楊震傳〕四遷㆓荊州刺史㆒、東萊太守、當㆑之㆑郡、道經㆓昌邑㆒、故所㆑擧荊州茂才王密、爲㆓昌邑令㆒、謁見、至㆑夜懷㆓金十斤㆒以遺㆑震、震曰、故人知㆑君、君不㆑知㆓故人㆒、何也、密曰、暮夜無㆓知者㆒、震曰、天知、神知、我知、子知、何謂㆑無㆑知、密愧而出。〔後漢書、楊震傳贊〕震畏㆓四知㆒、秉知㆓三惑㆒。〔王融、淨行頌〕陰牆雖㆓兩密㆒、幽夜有㆓四知㆒。〔資治通鑑、漢紀〕（安帝、永初四年）時震年已五十餘、累㆓遷荊州刺史東萊太守㆒、當㆑之㆑郡、道經㆓昌邑㆒、故所㆑擧荊州茂才王密、爲㆓昌邑令㆒、夜懷㆓金十斤㆒、以遺㆑震、震曰、故人知㆑君、君不㆑知㆓故人㆒、何也、密曰、暮夜無㆓知者㆒、震曰、天知、地知、我知、子知、何謂㆑無㆓知者㆒、密愧而出。〔小學紺珠、儆戒類、四知〕天知・神知・我知・子知。

【四知堂】567 シチダウ 清、楊錫紱（**6－15112**・・654）の室名。

【四智】568 チシ ［佛］❶唯識の四智。識別のはたらきを一轉して、ものと一如になつたときに得る四つの智。大圓鏡智（一切の穢雜の法を藏する阿賴耶識を一轉して、佛の功德を大圓鏡の如くに現はす智）・平等性智（我に執はれた末那識を一轉して、自他平等の大慈悲を現はす智）・妙觀察智（諸法を粗細となく分別する意識を一轉して、諸法を妙に觀察する無礙自在の智）・成所作智（眼・耳・鼻・舌・身の五識を一轉して、衆生を利樂するため種々に變化して現はれる智）。〔成唯識論、十〕云何四智相應心品、云云、一、大圓鏡智相應心品、云云、二、平等性智相應心品、云云、三、妙觀察智相應心品、云云、四、成所作智相應心品。❷密教の四智。❶の四智を順次に阿閦佛（菩提心を開發せしめる）・寶生佛（修行を滿足せしめる）・彌陀佛（衆生をよく攝受する）・不空成就佛（衆生のために種々に示現する）の四佛に配當する。

【四持】569 ヂシ 堅く執り守るべき四つのもの。容・忍・默・謙をいふ。〔小學紺珠、性理類、四持〕持㆑容、持㆑忍、持㆑默、持㆑謙、崔鷗德符四持銘。

【四肘】570 シチウ 臂の關節が四つあること。〔竹書紀年、注〕以㆓乙日㆒生㆑湯、號㆓天乙㆒、豐下銳上、皙而有㆑髯、句身而揚聲、長九尺、臂有㆓四肘㆒、是爲㆓成湯㆒。〔春秋元命苞〕湯臂四肘、是謂㆓神剛㆒、象㆓月推移㆒、以綏㆓四方㆒。

【四酎】571 シチウ よい酒の名。四たび重ねて釀した酒。〔楚辭、大招〕四酎並孰、不㆑澀㆑嗌只、清馨凍歙、不㆑歠㆑役只。〔注〕醇酒爲㆑酎。

【四竹】572 ヨツダケ 兩手に竹片を握つて打鳴らすもの。相思板。〔好色二代男、二〕四つ竹の拍子に合せて、其の頃の流行唄。

【四竹打】573 ヨツダケウチ 四竹を歌に合せて打鳴らす乞食。〔四五百森〕秋每に四つ竹うちの歌ひ來て。

【四長】574 シチヤウ ❶四人の長官。當塗の長なる荀淑・嬴の長なる韓韶・太丘の長なる陳寔・林慮の長なる鍾皓をいふ。〔後漢書、循吏傳序〕如㆓魯恭・吳祐・劉寬及潁川四長㆒、並以㆓仁信篤誠㆒、使㆓人不㆑欺。〔注〕謂㆘荀淑爲㆓當塗長㆒、韓韶爲㆓嬴長㆒、陳寔爲㆓太丘長㆒、鍾皓爲㆓林慮長㆒、淑等皆潁川人㆖也。〔小學紺珠、名臣類下、四長〕荀淑當塗長季和・韓韶嬴長仲黃・陳寔太丘長仲弓・鍾皓林慮長季明。❷四つの長所。金人の長所たる騎兵・堅忍・重甲・弓矢をいふ。〔宋史、吳璘傳〕嘗著㆓兵法二篇㆒、大略謂、金人有㆓四長㆒、我有㆓四短㆒、當㆘反㆓我之短㆒、制㆗彼之長㆖、四長、曰騎兵、曰堅忍、曰重甲、曰弓矢。❸明、方岳貢（**5－13620**・・497）の字。

【四暢】575 シチヤウ 陰・陽・剛・柔をいふ。〔禮、樂記〕四暢交㆓於中㆒、而發㆓作於外㆒。〔疏〕四暢、謂㆓陰陽剛柔㆒也。

【四仲】576 シチユウ ❶四時の仲の月。仲春・仲夏・仲秋・仲冬をいふ。〔書、周官、惟周王撫㆓萬邦㆒、巡㆓侯甸㆒、疏〕未㆘用㆓四仲之月㆒大巡守㆖也。〔禮、王制、歲二月東巡守、疏〕二月東巡守者、皆以㆓夏之仲月㆒、以㆓夏時仲月㆒者、律曆常得㆓其中㆒也、二月八月又晝夜分、五月十一月者、陰陽終、故取㆓四仲月㆒也。〔史記、封禪書〕五月嘗駒、及四仲之月祠。❷卯・酉・子・午の四面の中をいふ。仲は中。〔淮南子、天文訓〕太陰在㆓四仲㆒、則歲星行㆓三宿㆒。〔注〕仲、中也、四中、謂㆔太陰在㆓卯酉子午四面之中㆒。

【四注】577 シチユウ 四周に廊下を廻らした屋。四阿。〔司馬相如、上林賦〕高廊四注、重坐曲閣。〔注〕濟曰、注、猶㆑帀也、高廊行廊也、謂㆔行廊帀㆓於四邊㆒也。〔梁簡文帝、喜㆓疾瘳㆒詩〕逍遙臨㆓四注㆒、兼持散㆓九愁㆒。〔梁簡文帝、雪朝詩〕落梅飛㆓四注㆒、翻霙舞㆓三襲㆒。

【四注椁】578 シチユウクワク 四隅に棟を設けた外棺。王者の用ひるもの。一說に、四隅の上にそりかへつた椁。四阿(1)の❷を見よ。〔左氏、成、二〕椁有㆓四阿㆒、〔注〕四阿、四注椁也。

【四柱】579 シチユウ ❶四本の柱。四本ばしら。〔博物志、地〕地下有㆓四柱㆒、廣十萬里、地有㆓三千六百軸㆒、犬牙相牽。〔梁簡文帝、遊㆓光宅寺㆒詩〕八泉光㆓綺樹㆒、四柱曖㆓臨空㆒。〔宋史、輿服志一〕輅之中、四柱象㆓地方㆒也。❷錢の名。梁の敬帝の鑄造したもの。〔南史、梁敬帝紀〕鑄㆓四柱錢㆒、一當㆓二十㆒、齊遣㆑使通㆑和、壬辰改㆓四柱錢㆒、一當㆑十。❸星命家の占法學の一種。人の生年・月・日・時の干支によつて、運命を占ふもの。八字（**2－1450**・・225）の❷及び四柱推命學(583)を見よ。

【四柱銀】580 シチユウギン 會計法の名。舊管（從來所管の銀）・新收（新たに徵收した銀）・現存（以上二者）・開支（支出した銀）の四項目を立てて計算すること。〔清會典、戶部〕奏銷冊備載㆓舊管・新收・開除・實在四柱㆒。〔六部成語、戶部、四柱銀、注解〕官庫之銀、有㆓四項名目㆒、舊管・新收・現存・開支是也、謂㆓之四柱銀㆒。

【四柱冊】581 シチユウサツ 官署の出納簿。〔十駕齋養新錄〕官司錢糧交代、必造㆓四柱冊㆒、四柱者、舊管・新收・開除・實在也。

【四柱清冊】582 シチユウセイサツ 歲費決算報告書。四柱銀・四柱冊を見よ。〔清會典、戶部〕經費皆限㆓本年㆒徵足㆓糧道㆒、造㆓具四柱清冊㆒、達㆓總漕㆒疏報。〔六部成語、戶部、四柱清冊、注解〕州縣官倉庫、皆造㆓四柱清冊㆒、以便㆓交代㆒、所謂舊管・新收・現存・開支四項、是也。

〘四柱推命學〙583 シチユウスイメイガク 占法學の一種。人の生年月日時の干支によつて運命を占ふもの。唐の李虛中の創始にかかり、宋の徐子平によつて制定せられた。原本は淵海子平といひ、我が國には略〻德川時代に渡來した。〔雲夢藥溪談〕予嘗詰㆘星命家有㆓四柱同而禍福異㆒者何㆖、曰、刻異、予曰、刻異而若㆑之推㆑之者、以㆑時不㆑以㆑刻、有㆓四柱㆒無㆓五柱㆒、而惡乎知㆑之。

【四重】584 シチヨウ 言・行・貌・好の四つが莊重であること。〔法言、修身〕何謂㆓四重㆒、曰、重言・重行・重貌・重好、言重則有㆑法、行重則有㆑德、貌重則有㆑威、好重則有㆑觀。〔小學紺珠、性理類、四重〕重言有㆑法・重行有㆑德・重貌有㆑威・重好有㆑觀。

【四鎭】585 シチン ❶四方の藩鎭。〔杜甫、觀㆘安西兵過赴㆓闕中㆒待㆖㆑命詩〕四鎭富㆓精銳㆒、摧㆑鋒皆絕㆑倫。❷四つの藩鎭。㋑唐の四鎭。朔方・涇原・隴右・河東の四節度。〔唐書、陸贄傳〕中興未㆑遑㆓外討㆒、僑㆓置四鎭㆒、隸㆓安定㆒、以㆓隴右㆒附㆓扶風㆒、所㆑當㆓二蕃㆒、則朔方・涇原・隴石・河東四節度而已。㋺唐の西域の四鎭。龜茲・于闐・焉耆・疏勒。〔小學紺珠、地理類、四鎭〕龜茲・于闐・焉耆・疏勒。㋩河南の四鎭。碻磝・滑臺・洛陽・虎牢。〔小學紺珠、地理類、河南四鎭〕碻磝・滑臺・洛陽・虎牢、通鑑。❸四大鎭(542)を見よ。❹四方の鎭となる大山。㋑揚州の會稽山・青州の沂山・幽州の醫無閭山・冀州の霍山。〔周禮、春官、大司樂〕四鎭五嶽。〔注〕四鎭、山之重大者、謂㆓揚州之會稽・青州之沂山・幽州之醫無閭・冀州之霍山㆒。〔小學紺珠、地理類、四鎭〕揚州會稽・青州沂山・幽州醫無閭・冀州霍山。㋺沂山・會稽山・吳山・醫無閭山。〔小學紺珠、地理類、四鎭〕沂山・會稽・吳山・醫無閭、唐志。

【四塵】586 シヂン [佛]眼・鼻・舌・身の四つの對象となるもの。色・香・味・觸。又、この四者によつて成る山川草木をも意味する。〔楞嚴經〕我今觀㆓此浮根四塵㆒、祇在㆓我面㆒、如㆑是識心、實居㆓身內㆒。

【四通】587 シツウ 四方に通ずる。四輪。〔戰國、魏策〕地四平、諸侯四通。〔史記、天官書〕倉府廄庫、四通之路。〔史記、貨殖傳〕朱公以爲、陶天下之中、諸侯四通、貨物所㆓交易㆒也。〔周易正義、論㆓易之三名㆒〕易緯乾鑿度云、云云、又云、易者其德也、光明四通、簡易立節、天以爛明、日月星辰、布設張列。

〘四通五達〙588 シツウゴタツ 諸方に道が通じて便利なこと。四通八達。〔史記、酈食其傳〕陳留、天下之衝、四通五達之郊也。〔漢書、酈食其傳〕陳留、天下之衝、四通五達之郊也。

〘四通八達〙589 シツウハツタツ 四方八方に道路が通じてゐること。四通五達に同じ。〔子華子、問黨〕齊之爲㆑國也、其塗之所㆑出、四通八達、游士之所㆑湊也。〔晉書、慕容德載記〕滑臺四通八達、非㆓帝王之居㆒。

【四睇】590 シテイ 四方を望み視る。四望。睇は、みる、細目でみる意。〔江淹、雜體、謝㆓光祿郊遊莊㆒詩〕靜默鏡㆓緜野㆒、四睇亂㆓曾岑㆒。〔注〕濟曰、鏡・睇、皆視也。

【四兆】591 シテウ 四種の占。方兆(方位を占ふ)・功兆(成否を占ふ)・義兆(當否を占ふ)・弓兆(張弛を占ふ)。〔周禮、春官、卜師〕掌㆑開㆓龜之四兆㆒、一曰方兆、二曰功兆、三曰義兆、四曰弓兆。〔小學紺珠、律歷類、四兆〕方・功・義・弓。

【四眺】592 シテウ 四方をながめる。〔邵長蘅、夜遊㆓孤山㆒記〕凭㆑檻四眺、則湖圓如㆑鏡。

【四鳥】593 シテウ ❶古代の歷正(曆を司る官)、鳳鳥氏の四屬官。玄鳥氏・伯趙氏・青鳥氏・丹鳥氏。〔左氏、昭、十七〕我高祖少皞摯之立也、鳳鳥適至、故紀㆓於鳥㆒、爲㆓鳥師㆒而鳥名、鳳鳥氏歷正也、玄鳥氏司㆑分者也、伯趙氏司㆑至者也、青鳥氏司㆑啓者也、丹鳥氏司㆑閉者也。〔注〕四鳥、皆歷正之屬官。〔疏〕分至啓閉立㆓四官㆒、使㆑主㆑之、鳳鳥氏爲㆓之長㆒、故云、四鳥皆歷正之屬官也。❷四羽の鳥。別離をいふ。四鳥別を見よ。〔陸機、豫章行〕三荊歡㆑同㆑株、四鳥悲㆑異㆑林。〔注〕良曰、孔子在㆑衞聞㆓哭者㆒、甚哀、問㆓顏回㆒曰、汝知㆓此何哭㆒、回曰、此者非㆓但爲㆑死而已㆒、又爲㆓生離㆒者也、昔峘山之鳥、生㆓四子㆒焉、羽翼既成、將㆑分㆓四海㆒、其母悲鳴而送㆑之、爲㆓其往而不㆑返、竊以㆓音類㆒知㆑之矣、問㆑之果然、故云㆑悲㆑異㆑林。〔梁元帝、遺㆓武陵王㆒詩〕四鳥嗟㆓長別㆒、三聲悲㆓夜猿㆒。〔隋煬帝、秦孝王誄〕豈止㆓三荊之變色㆒、非㆓惟四鳥之分巢㆒。〔劉孝勝、冬日家園別㆓陽羨始興㆒詩〕四鳥怨㆑離㆑羣、三荊悅㆑同㆑處。

〘四鳥別〙594 シテウノワカレ 桓山の鳥は四子を生んだが、四子が羽翼成つて將に分れんとするに際し、其の再び歸らざるを哀しんで鳴いたといふ故事。別離をいふ。四鳥の❷を見よ。〔孔子家語、顏回〕孔子在㆑衞、昧旦晨興、顏回侍㆑側、聞㆓哭者之聲甚哀㆒、子曰、回汝知㆓此何所㆑哭乎、對曰、回以㆓此哭聲㆒、非㆘但爲㆓死者㆒而已㆖、又有㆓生離別㆒者也、子曰、何以知㆑之、對曰、回聞、桓山之鳥、生㆓四子㆒焉、羽翼既成、將㆑分㆓于四海㆒、其母悲鳴而送㆑之、哀聲有㆑似㆓於此㆒、謂㆓其往而不㆑返也、回竊以㆓音類㆒知㆑之、孔子使㆔人問㆓哭者㆒、果曰、父死家貧、賣㆑子以葬、與㆑之長決、子曰、回也善㆓於識㆑音矣。

【四朝】595 シテウ ❶諸侯が天子に謁見すること。馬融・王肅は四を四處と解して、四方の方岳の下に朝すと解し、鄭玄は四年に一度京師に朝すと解し、蔡沈は諸侯を東西南北の四つに分ち、巡守の明年に東方、次に南方、次に西方、次に北方の諸侯が一年毎に順次に朝すと解する。〔書、舜典〕五載一巡守、羣后四朝。〔傳〕各會㆓朝于方岳之下㆒、凡四處、故曰㆓四朝㆒、將㆑說㆓敷奏之事㆒、故申㆑言之、堯舜同㆑道、舜攝則然、堯亦可㆑知。〔鄭注〕四朝、四年朝㆓京師㆒也、巡守之年、諸侯見㆓于方岳之下㆒、其閒四年、四方諸侯、分來㆓朝京師㆒。〔釋文〕四朝、馬王皆云、四面朝㆓於方岳之下㆒。〔蔡傳〕五載之內、天子巡守者一、諸侯來朝者四、蓋巡守之明年、則東方諸侯來㆓朝于天子之國㆒、又明年、則南方之諸侯來朝、又明年、則西方之諸侯來朝、又明年、則北方之諸侯來朝、又明年、則天子復巡守。❷周代の天子の四朝。外朝・中朝・內朝・詢事之朝。〔通典、禮、天子朝位〕周制、天子有㆓四朝㆒、一曰外朝、秋官朝士掌㆑之、左㆓九棘㆒孤卿大夫位㆑焉、羣士在㆓其後㆒、右㆓九棘㆒公侯伯子男位㆑焉、羣吏在㆓其後㆒、面㆓三槐㆒三公位㆑焉、州長衆庶在㆓其後㆒、左㆓嘉石㆒平㆓罷人㆒焉、右㆓肺石㆒達㆓窮人㆒焉、二曰中朝、夏官司士正㆓其位㆒、辨㆓其貴賤之等㆒、朝夕視㆑政、公卿大夫辨㆑色而入㆓應門㆒、北面而立東上、王揖、孤卿以上特揖、大夫旅揖、士旁㆓三揖、各就㆑位、王南向、三公北面東上、孤東面北上、卿大夫西面北上、王族故士武士、在㆓路門之右㆒、南面東上、太僕太右太僕從者、在㆓路門之左㆒、南面西上、三曰內朝、亦謂㆓路寢之朝㆒、人君既從㆓正朝㆒視㆑事、畢退、適㆓路寢㆒聽㆑政、使㆔人視㆓大夫㆒、大夫退、然後適㆓燕寢㆒釋㆑服、四曰詢事之朝、小司寇掌㆓其政㆒、以致㆓萬人㆒而詢㆑焉、一曰詢㆓國危㆒、二曰詢㆓國遷㆒、三曰詢㆑立㆑君、其位、王南向、三公及州長百姓北面、羣臣西面、羣吏東面、小司寇擯以序、進而問㆑焉、以㆑衆輔㆑志而弊㆑謀。〔小學紺珠、制度類、四朝〕外朝・中朝・內朝・詢事之朝。❸四代の天子の御世。〔舊唐書、郭子儀傳〕以㆘公柱㆓石四朝㆒、藩㆓翰萬里㆒、忠貞懸㆗於日月㆖、寵遇冠㆓於人臣㆒。〔文天祥、過㆓平原㆒作〕崎嶇坎坷不㆑得㆑志、出㆓入四朝㆒老㆓忠節㆒。

〘四朝詩〙596 シテウシ 書名。三百十二卷。淸、聖祖敕撰。御定四朝詩(**4**－**10157**··280)を見よ。

〘四朝聞見錄〙597 シテウブンケンロク 書名。五卷。宋、葉紹翁撰。高・孝・光・寧の四朝の事迹を記す。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【四調】598 シテウ 四つの調子。〔白居易、何滿子詩〕一曲四詞歌八疊、從㆑頭便是斷腸聲。

【四條】599 シデウ ❶四すぢ。〔王建、宮詞〕用㆑力獨彈金殿響、鳳皇飛下四條弦。❷四箇條。〔開河記〕帝問㆓丞相宇文達㆒曰、叔謀有㆓大罪四條㆒、食㆓人之子㆒、受㆓人之金㆒、遣㆑賊盜㆑寶、擅易㆓河道㆒、請用㆓峻法㆒誅㆑之。❸宋の紹興中、擧薦の標準とした仁惠・公直・明敏・廉謹の四箇條。〔小學紺珠、治道類、四條〕仁惠・公直・明敏・廉謹、紹興中、擧薦。❹人皇第八十七代の帝諡。

〘四條派〙600 シデウハ 松村吳春の創めた繪畫の一派。初、蕪村を學んだが、後、大いに圓山應擧の畫風を加へたから圓山派の異稱ともなる。四條流。

〘四條流〙601 シデウリウ ❶築山法の一流派。第八十八代後嵯峨天皇から始まるといふ。❷四條派に同じ。

【四翟】602 シテキ 四方の蠻族。蠻・閩・夷・貉の四族。翟は狄。〔周禮、秋官、司隸〕掌㆑帥㆓四翟之隸㆒。〔小學紺珠、地理類、四翟〕蠻南・閩南・夷東・貉東北。

【四天】603シテン ❶四時の天。春を蒼天、夏を昊天、秋を旻天、冬を上天といふ。〔爾雅、釋天〕春爲二蒼天一、夏爲二昊天一、秋爲二旻天一、冬爲二上天一。❷四方にある天。東方に九氣青天、南方に三氣丹天、西方に七氣素天、北方に五氣元天がある。〔雲笈七籤〕今言二四天一者、東方有二九氣青天一、南方有二三氣丹天一、西方有二七氣素天一、北方有二五氣元天一、四方四天、故言二四天一。❸四方のおほぞら。〔沈佺期、從レ幸二香山寺一應制詩〕嶺上樓臺千地起、城中鐘鼓四天聞。〔徐凝、八月燈夕詩〕四天淨色寒如レ水、八月清輝冷似レ霜。〔程俱、過二方子通一詩〕四天黯無レ光、萬籟肅以摯。❹佛東方持國天・南方增長天・西方廣目天・北方多聞天。四天王の❶を見よ。

【四天王】604シテンワウ ❶佛帝釋の外臣で、東西南北の四天を守護する神。東方持國天王・南方增長天王・西方廣目天王・北方多聞天王。〔法華經文句〕四天王者、帝釋外臣、如二武將一也。〔長阿含經〕東方天王名二多羅吒一、此云二治國一、主レ領二乾闥婆及毘舍闍神將一護二弗婆提人一、不レ令二侵害一、南方天王名二毘瑠璃一、此云二增長一、主レ領二鳩槃茶及薜荔神將一護二閻浮提人一、西方天王名二毘留博叉一、此云二雜語一、主レ領二一切諸龍及富單那將一護二瞿耶尼人一、北方天王名二毘沙門一、此云二多聞一、主レ領二夜叉羅刹將一護二鬱單越人一。❷配下、又は門弟の中、武勇・才幹、又は技藝等の最も優れたもの四人を指していふ。又、轉じて、才藝の最も優れた四人の稱。〔源平盛衰記、四十二、源平侍共事〕判官には、云云、四天王とて、殊に身近く憑み給へる者は四人あり。

【四天王天】605シテンワウテン 佛六欲天の一つ。三界諸天の最底に位し、四天王の住する所。又、四大王衆天ともいふ。〔倶舍論、八〕六欲天者、一、四大王衆天、二者、三十三天。〔楞嚴經〕如レ是一類、名二四天王天一。

【四纏】606ヨツガネ 出雲國の地名。

【四途】607シト 四方に通ずる道。又、いろいろな方法。〔潘岳、藉田賦〕結二崇基之靈趾一兮、啓二四途之廣阼一。

【四弩】608シド 夾・庾・唐・大の四種のいしゆみ。〔周禮、夏官、司弓矢〕掌二六弓四弩八矢之灋一、云云、凡弩、夾・庾利二攻守一、唐・大利二車戰野戰一。〔小學紺珠、制度類、四弩〕夾・庾・唐・大。

【四豆】609シトウ 四種の豆。豆は供物を盛る器。❶朝事・饋食・加豆・羞豆をいふ。〔周禮、天官、醢人〕掌二四豆之實一、朝事之豆、其實、韭菹・醓醢・昌本・麋臡・菁菹・鹿臡・茆菹・麇臡、饋食之豆、其實、葵菹・蠃醢・脾析・蠯醢・蜃・蚳醢・豚拍・魚醢、加豆之實、芹菹・兎醢・深蒲・醓醢・箈菹・鴈醢・筍菹・魚醢、羞豆之實、酏食・糝食。〔小學紺珠、器用類、四豆〕朝事・饋食・加豆・羞豆。❷天子の豆二十六・諸公の豆十六・諸侯の豆十二・上大夫の豆八と下大夫の豆六とをいふ。〔小學紺珠、器用類、四豆〕天子豆二十六・諸公十六・諸侯十二・上大夫八・下大夫六、禮器。❸膮・炙・胾・醢をいふ。〔儀禮、特牲饋食禮〕佐食羞二庶羞四豆一、設二於左一、南上有レ醢。〔注〕四豆者、膮・炙・胾・醢。〔小學紺珠、器用類、四豆〕膮・炙・胾・醢。

【四等】610シトウ ❶四種の等級。よしな。〔孟子、萬章下〕天子之制、地方千里、公侯皆方百里、伯七十里、子男五十里、凡四等。〔漢書、王莽傳上〕周爵五等、地四等、有二明文一。〔注〕蘇林曰、爵五等、公侯伯子男也、地四等、公一等、侯伯二等、子男三等、附庸四等。❷韻鏡の毎轉圖の横に平上去入の四聲を分ち、且、其の一聲毎に横に開・發・收・閉の四等を區別し、之を四等といふ。脣・舌・牙・齒・喉・半舌・半齒の七音の縱の行は音の清濁を別つ爲で、横を四等に分つのは、其の發音の緩急に開・發・收・閉の四種があることを表はしたもので、平上去入と同理である。❸佛慈・悲・喜・護の四心をいふ。又、四無量心ともいふ。この心を以て接すべき人は無量であるから無量といひ、何人に對しても平等にこの心を起すべきであるからといふ。〔大乘義章、十一末〕經中名レ此以爲二無量一、亦云二四等一。〔增一阿含經、二十二〕有二四等心一、云何爲レ四、慈・悲・喜・護。

【四等親】610′シトウシン 血すぢの遠近によつて區分した親族關係の第四番目。高祖父・高祖母・從祖父姑（祖父の兄弟）・從祖伯叔父姑（祖父の兄弟の子）・夫の兄弟姉妹・兄弟の妻妾・再從兄弟姉妹・外祖父・外祖母・舅（母の兄弟）・姨（母の姉妹）・兄弟姉妹の孫・從父兄弟の子・外甥・外姪・曾孫・孫の妻。親等（**10－34918**・・196）を見よ。〔和漢三才圖會、人倫、五等親屬〕四等親、高祖父・高祖母・從祖父姑（祖父之兄弟）・從祖伯叔父姑（祖父之兄弟之子共也）・夫兄弟姉妹・兄弟之妻妾・再從兄弟姉妹・外祖父・外祖母・舅（母之兄弟）・姨（母之姉妹）・兄弟姉妹之孫・從父兄弟之子・外甥・外姪（姉妹之男女）・曾孫・孫婦。

【四統】611シトウ 人民を統治する四つの法。善く人を生養し、善く人を班治し、善く人を顯設し、善く人を藩飾する。〔荀子、君道〕善生二養人一者人親レ之、善班二治人一者人安レ之、善顯二設人一者人樂レ之、善藩二飾人一者人榮レ之、四統者俱、而天下歸レ之。〔小學紺珠、治道類、四統〕善生二養人一、善班二治人一、善顯二設人一、善藩二飾人一。

【四同】612シドウ 王城の近郊四方の、方百里の地。〔賈公彥、序二周禮廢興一〕六鄉之人、實居二四同地一。

【四德】613シトク 四つの德行。❶乾の四德。天地が萬物を化育する德。元・亨・利・貞。〔易、乾〕文言曰、元者善之長也、亨者嘉之會也、利者義之和也、貞者事之幹也、君子體レ仁、足二以長レ人、嘉會足二以合レ禮、利物足二以和レ義、貞固足二以幹レ事、君子行二此四德一者、故曰、乾元亨利貞。〔疏〕元亨利貞者、是乾之四德也。〔小學紺珠、性理類、四德〕元・亨・利・貞。❷堯の四德。欽・明・文・思。〔書、堯典〕曰若稽二古帝堯一、曰放勳、欽明文思、安安。〔傳〕言、堯放二上世之功化一、而以二欽明文思之四德一、安二天下之當レ安者一。〔小學紺珠、性理類、堯四德〕欽・明・文・思。❸婦人の四德。言（辭令）・德（貞順）・功（絲枲）・容（婉娩）。〔周禮、天官、九嬪〕九嬪掌二婦學之法一、以教二九御婦德・婦言・婦容・婦功一。〔注〕婦德謂二貞順一、婦言謂二辭令一、婦容謂二婉娩一、婦功謂二絲枲一。〔禮、昏義〕婦人先レ嫁三月、教以二婦德・婦言・婦容・婦功一。〔後漢書、皇后紀序〕周禮九嬪、掌レ教二四德一。〔曹昭、女誡〕女有二四行一、一曰婦德、二曰婦言、三曰婦容、四曰婦功、夫云二婦德一、不二必才明絕異一也、婦言不二必辯口利辭一也、婦容不二必顏色美麗一也、婦功不二必技巧過レ人也、清閑貞靜、守レ節整齊、行レ己有レ恥、動靜有レ法、是謂二婦德一、擇レ辭而說、不レ道二惡語一、時然後言、不レ厭二於人一、是謂二婦言一、盥二浣塵穢一、服飾鮮潔、沐浴以レ時、身不二垢辱一、是謂二婦容一、專二心紡績一、不レ好二戲笑一、潔二齊酒食一、以奉二賓客一、是謂二婦功一、此四者、女人之大德、而不レ可レ乏之者也、然爲レ之甚易、惟在レ存レ心耳、古人有レ言、仁遠乎哉、我欲レ仁而仁斯至矣、此之謂也。❹施を好み、平安をこひねがひ、平等に愛し、隣と親しむことの四つ。〔左氏、僖、十四〕冬秦饑、使レ乞二糴于晉一、晉人弗レ與、慶鄭曰、背レ施無レ親、幸レ災不仁、貪レ愛不祥、怒レ鄰不義、四德皆失、何以守レ國。❺勳を用ひ、親を親しみ、近を親しみ、賢を尊ぶことの四つ。〔左氏、僖、二十四〕富辰諫曰、不可、臣聞レ之、大上以レ德撫レ民、其次親レ親以相及也、云云、如レ是則兄弟雖レ有二小忿一、不レ廢二懿親一、今天子不レ忍二小忿一、以棄二鄭親一、其若二之何一、庸レ勳、親レ親、暱レ近、尊レ賢、德之大者也、卽レ聾、從レ昧、與レ頑、用レ嚚、姦之大者也、棄レ德、崇レ姦、禍之大者也、鄭有二平惠之勳一、又有二厲宣之親一、棄二嬖寵一而用二三良一、於二諸姫一爲レ近、四德具矣。〔小學紺珠、人倫類、四德〕庸レ勳、親レ親、暱レ近、尊レ賢。❻一に善を置く、二に長に事ふ、三に愛を立つ、四に舊を結ぶ。〔左氏、文、六〕趙孟曰、立二公子雍一、好レ善而長、先君愛レ之、且近二於秦一、秦舊好也、置レ善則固、事レ長則順、立レ愛則孝、結レ舊則安、爲二難故一、故欲レ立二長君一、有二此四德一者、難必抒矣。❼孝・弟・信・忠。〔大戴禮、衞將軍文子〕孔子曰、孝、德之始也、弟、德之序也、信、德之厚也、忠、德之正也、參也、中二夫四德一者矣哉。〔小學紺珠、性理類、四德〕孝、德之始、弟、德之序、信、德之厚、忠、德之正。❽忠・孝・勤・儉。〔張浚、四德銘〕忠則順レ天、孝則生レ福、勤則業進、儉則心逸。〔小學紺珠、性理類、四德〕忠則順レ天、孝則生レ福、勤則業進、儉則心逸。❾水の四德。仁（羣生を沐浴せしめ、萬物を流通する）・義（清を揚げ、濁を激し、滓穢を去る）・勇（柔にして犯し難く、弱にして能く勝つ）・智（江を導き、河を疏し、盈を惡み謙に流れる）。〔尸子、君治〕

水有㆓四德㆒、沐㆓浴羣生㆒、流㆓通萬物㆒、仁也、揚㆑清激㆑濁、蕩㆓去滓穢㆒、義也、柔而難㆑犯、弱而能勝、勇也、導㆑江疏㆑河、惡㆑盈流㆑謙、智也。❿［佛］大乘の涅槃の四つの功德。常德・樂德・我德・淨德。〔大乘義章、十八〕四德各別、云云、我是佛義、常法身義、樂涅槃義、淨是法義。〔法華玄義、四上〕此地具㆓足四德㆒、破㆓二十五有煩惱㆒、名㆑淨、破㆓二十五有業㆒、名㆑我、不㆑受㆓二十五有報㆒、爲㆑樂、無㆓二十五有生死㆒、名㆑常。〔盛衰記、三〕伏惟四德雖㆑疎。

【四瀆】614 シトク ❶四つの大河。岷山から出る長江・崑崙山から出る黃河・桐柏山から出る淮水・王屋山から出る濟水。〔爾雅、釋水〕江河淮濟爲㆓四瀆㆒。四瀆者、發㆑源注㆑海者也。〔禮、王制〕四瀆視㆓諸侯㆒。〔史記、殷紀〕東爲㆑江、北爲㆑濟、西爲㆑河、南爲㆑淮、四瀆已修、萬民乃有㆑居。〔郭璞、遊仙詩〕四瀆流如㆑涙、五嶽羅若㆑垤。〔小學紺珠、地理類、四瀆〕江・河・淮・濟。❷星の名。〔晉書、天文志上〕東井南垣之東四星四瀆、江・河・淮・濟之精也。

【四遁】615 シトン 四方にのがれる。方々に逃げ散る。〔魏書、崔浩傳〕相去一百八十里、追軍不㆑至、徐徐四遁。

【四難】616 シナン 四つの得難いもの。良辰・美景・賞心・樂事。四美。〔謝靈運、擬㆓魏太子鄴中集㆒詩序〕建安末、余時在㆓鄴宮㆒、朝遊夕讌、究㆓歡愉之極㆒、天下良辰・美景・賞心・樂事、四者難㆑幷。

【四乳】617 シニュウ 乳が四つあること。奇異の相。〔淮南子、脩務訓〕文王四乳、是謂㆓大仁㆒。〔論衡、骨相〕文王四乳、武王望陽、周公背僂、皐陶馬口。

【四人】618 シニン 四人のすぐれた人。❶殷の中宗・高宗・祖甲と周の文王。〔書、無逸〕自㆓殷王中宗㆒、及高宗、及祖甲、及我周文王、茲四人迪㆑哲。❷周の閎夭・散宜生・泰顚・南宮括。〔書、君奭〕惟文王尙克修㆓和我有夏㆒、亦惟有㆓若虢叔㆒、有㆓若閎夭㆒、有㆓若散宜生㆒、有㆓若泰顚㆒、有㆓若南宮括㆒、云云、武王惟茲四人、尙迪㆓有祿㆒。〔傳〕文王沒、武王立、惟此四人、庶㆔幾輔㆓相武王㆒、蹈㆓有天祿㆒、虢叔先死、故曰㆓四人㆒。❸漢の蕭望之・周堪・劉更生・金敞。〔小學紺珠・名臣類下、輔政四人〕蕭望之・周堪・劉更生・金敞、元帝初、四人同㆑心輔㆑政。❹三國、蜀の諸葛亮・龐統・蔣琬・黃權。〔小學紺珠、名臣類下、三國名臣二十人〕蜀四人、諸葛亮・龐統・蔣琬・黃權。❺宋の呂蒙正・李迪・王曾・宋庠。〔小學紺珠、名臣類下、龍首四人〕呂蒙正・李迪・王曾・宋庠、石楊休詩、皇朝四十三龍首、身到㆓黃扉㆒止四人。

【四人傑】619 シジンケツ 宋代の傑れた人、四人。韓琦・范仲淹・富弼・歐陽脩の幷稱。〔小學紺珠、名臣類下、四人傑〕韓・范・富・歐陽、東坡范文正公集序。

【四人天】620 シジンテン ［佛］三界の外の常融・玉隆・梵度・賈奕の四天をいふ。〔酉陽雜俎、玉格〕三界外曰㆓四人境㆒、謂㆓常融・玉隆・梵度・賈奕四天㆒也、四人天外曰㆓三清㆒、大赤・禹餘・清微也、三清之上曰㆓大羅㆒、又有㆓九天波利等九名㆒。

【四佞】621 シネイ 舜の時の四人の惡人。共工・驩兜・三苗・鯀。四凶（178）の❶に同じ。〔漢書、五行志上〕堯舜擧㆓羣賢㆒而命㆓之朝㆒、遠㆓四佞㆒而放㆓諸壄㆒。〔注〕師古曰、四佞、卽四凶也。〔楚辭、王襃、九懷〕亂曰、皇門開兮照㆓下土㆒、株穢除兮蘭芷覩、四佞放兮後得㆑禹、聖舜攝兮昭㆓堯緖㆒。〔注〕驩共苗鮌、竄㆓四荒㆒也。

【四農】622 シノウ 清、潘德輿（**7**−**18236**‥215）の字。

【四伯】623 シハ ❶古、四岳を主る官。〔國語、周語下〕此一王四伯、豈緊多寵、皆亡王之後。〔注〕四伯、謂㆓四岳㆒也、爲㆓四岳伯㆒、故稱㆓四伯㆒。〔賈公彥、周禮正義序〕鄭云、四岳、四時之官、主㆓四岳之事㆒、始羲和之時、主㆓四岳㆒者、謂㆓之四伯㆒。❷四人の惡者。晉の縠伯・笨伯・猾伯・瑣伯。古の四凶に比していふ。〔晉書、羊聃傳〕聃字彭祖、少不㆑經㆑學、時論皆鄙㆓其凡庸㆒、先㆑是兗州有㆓八伯之號㆒、其後更有㆓四伯㆒、大鴻臚陳留江泉、以㆓能食㆒爲㆓縠伯㆒、豫章太守史疇、以㆓大肥㆒爲㆓笨伯㆒、散騎郎高平張嶷、以㆓狡妄㆒爲㆓猾伯㆒、而聃以㆓狼戾㆒爲㆓瑣伯㆒、蓋擬㆓古之四凶㆒。

【四馬】624 シバ 四頭の馬。馬車につけた四頭の馬。又、四頭だての馬車。駟馬。〔詩、秦風、駟驖〕遊㆓于北園㆒、四馬既閑。〔楚辭、九歌、國殤〕霾㆓兩輪㆒兮縶㆓四馬㆒、援㆓玉枹㆒兮擊㆓鳴鼓㆒。〔戰國、齊策〕孟嘗君奉㆓夏侯章㆒、以㆓四馬百人之食㆒。〔劉歆、遂初賦〕駕㆓四馬㆒而觀㆑風兮、慶㆓辛甲於長子㆒。

【四馬車】625 シバシャ 小さい車。〔論語、爲政〕大車無㆑輗、小車無㆑軏。〔集解〕包咸曰、小車、四馬車也。〔倭名類聚抄、舟車部、車類、四馬車〕論語注云、小車、四馬車。〔箋注〕按、四馬車、皇國無㆑有、不㆑知㆓源君何以擧㆑之。

【四拜】626 シハイ ❶四度、仕命を蒙る。〔唐書、崔胤傳〕四拜㆓宰相㆒、世謂㆓崔四拜㆒。❷四度、拜禮する。〔宋史、禮志二十〕三日以上四拜不㆓舞蹈㆒。〔金史、禮志九〕辭班四拜。〔集仙錄〕謝自然言、凡禮㆓尊像㆒、四拜爲㆑重、三拜爲㆑輕。❸明の洪武七年、大祀の拜禮を定め、迎神に四拜、飮福受胙に四拜、送神に四拜、合せて十二拜とした。清代、四拜を九拜に改め、合せて二十七拜とし、民國に至つて、天を祀る禮は復た改めて四拜を用ひた。〔明史、禮志一〕洪武七年、議㆓大祀中祀㆒、自㆓迎神㆒至㆓飮福送神㆒、宜㆔各行㆓再拜禮㆒、帝命節爲㆓十二拜㆒、迎神・飮福受胙・送神各四拜云。〔陔餘叢考、再拜三拜四拜五拜〕明會典、臣見㆑君行㆓五拜禮㆒、百官見㆓親王東宮㆒行㆓四拜禮㆒、子於㆓父母㆒亦四拜禮。

【四配】627 シハイ 孔子の廟に配祀する四人の聖賢。卽ち顏子・曾子・孟子・子思をいふ。顏子は三國、魏の齊王の正始二年、曾子は唐の睿宗の太極元年、孟子は宋の神宗の元豐七年、子思は宋の度宗の咸淳三年に始めて配祀し、四賢を合せて配祀したのは宋の度宗の咸淳三年に始まる。今、顏子・子思を東に配し、曾子・孟子を西に配する。四侑。〔魏志、齊王芳紀〕正始二年春二月、帝初通㆓論語㆒、使㆘太常以㆓太牢㆒祭㆗孔子於辟雍㆖、以㆓顏淵㆒配。〔唐書、禮樂志五〕太極元年、以㆓兗州隆道公近㆑祠戶三十㆒、供㆓灑掃㆒、加㆓贈顏回太子太師、曾參太子太保㆒、皆配享。〔宋史、神宗紀三〕元豐七年五月壬戌、以㆓孟軻㆒配㆓食文宣王㆒。〔宋史、度宗紀〕咸淳三年春正月戊申、帝詣㆓大學㆒、謁㆓孔子㆒、行㆓舍菜禮㆒、以㆓顏淵・曾參・孔伋・孟軻㆒配享。〔日知錄、禮制、從祀〕周程張朱五子之從祀、定㆓於理宗淳祐元年㆒、顏曾思孟四子之配享、定㆓於度宗咸淳三年㆒、自㆑此之後、國無㆓異論㆒、士無㆓異習㆒、歷㆑元至㆑明、先王之統亡、而先王之道存、理宗之功大矣。〔清會典、禮部〕凡釋㆓奠於先師㆒之禮、爲㆓廟於城東北隅㆒、大學之東殿曰㆓大成㆒、以㆓四配十二哲㆒侑㆓饗殿中㆒、以㆓先賢先儒㆒從㆓祀兩廡㆒、先師孔子正位南嚮、四配、復聖顏子・述聖子思子、東位西嚮、宗聖曾子・亞聖孟子、西位東嚮。

【四輩】628 シハイ ❶四方の士をいふ。〔通俗編、倫常、四輩〕沈約述僧設會論、非㆑資㆓四輩㆒、身口無㆑托、范梈詩、閉㆑戶讀書古都市、四輩冠蓋方隆隆、按、此似㆔泛謂㆓四方之士㆒、今俗言㆓四輩㆒者、乃指㆓親族友鄰㆒、殊覺㆑未㆑合。❷［佛］㋑四つの禮すべきもの。佛・菩薩・圓覺・聲聞。〔資治通鑑、宋紀〕孝武帝大明六年、寧有㆘屈㆓膝四輩㆒、而簡㆗禮二親㆖。〔注〕釋氏有㆓所謂戒外四聖㆒、佛、一也、菩薩、二也、圓覺、三也、聲聞、四也、亦謂㆓之四輩㆒。㋺比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の四衆をいふ。又、人・天・龍・鬼の四衆。〔盂蘭盆經〕時目連比丘四輩弟子歡喜奉行。〔疏〕四輩者、僧尼士女、或云、人天龍鬼。

【四方】629 シハウ ❶東・西・南・北。よも。〔易、離〕大人以繼、明㆓照于四方㆒。〔書、大禹謨〕四方風動、惟乃之休。〔書、召誥〕哀㆓于四方民㆒。〔禮、曲禮下〕天子祭㆓天地㆒、祭㆓四方㆒。〔荀子、脩身〕橫㆓行天下㆒、雖㆑達㆓四方㆒、人莫㆑不㆑賤。〔小學紺珠、地理類、四方〕東・西・南・北。❷四方の國々。諸國。又、四方の外國。四夷。〔易、姤〕后以施㆑命、誥㆓四方㆒。〔詩、大雅、民勞〕惠㆓此中國㆒、以綏㆓四方㆒。〔傳〕四方、諸夏也。〔左氏、昭、二十六〕昔、武王克㆑殷、成王靖㆓四方㆒。〔中庸〕柔㆓遠人㆒則四方歸㆑之。〔論語、子路〕使㆓於四方㆒、不㆑辱㆓君命㆒。❸天下。〔淮南子、原道訓〕神與㆑化游、以撫㆓四方㆒。〔注〕四方、謂㆓之天下㆒也。❹あたり。周圍。〔朱熹、論語序說〕定公以㆓孔子㆒爲㆓中都宰㆒、一年四方則㆑之。❺四角。〔爾雅、釋宮〕四方而高曰㆑臺。〔山海經、南山經〕東五百里曰㆓成山㆒、四方而三壇。

【四方樂】630 シハウノガク 中國以外の夷狄の音樂。〔史記、孔子世家〕齊有司趨而進曰、請奏㆓四方之樂㆒。

【四方館】631 シハウクワン 官署の名。隋、置く。東を東夷使者、南を南蠻使者、西を西戎使者、北を北狄使者といふ。各一人で、其の方國及び互市の事を掌る。唐は之に因る。宋も四方館使を置いたが、其の職は隋唐と遙かに異なる。明の四夷館・

清の會同四譯館は、隋唐の四方館の職と全く同じである。〔文獻通考、職官考、通事舍人〕及㆓煬帝㆒、置㆓謁者臺㆒、乃改㆓通事舍人㆒爲㆓謁者㆒、臺職謂㆓之通事㆒、謁者置㆓二十人㆒、又於㆓建國門外㆒置㆓四方館㆒、以待㆓四方使者㆒、隷㆓鴻臚寺㆒、唐廢㆓謁者臺㆒、復以㆓其地㆒爲㆓四方館㆒、改㆓通事謁者㆒爲㆓通事舍人㆒、掌㆓通奏引納辭見承旨宣勞㆒、皆以㆘善㆓辭令㆒者㆖爲㆑之、隷㆓四方館㆒、而又屬㆓中書省㆒。〔事物紀原、橫行武列部、四方館使〕通典曰、魏改㆓漢大行令㆒爲㆓客館令㆒、宋初、置㆓南北客館㆒、周署㆓東西南北四掌客㆒、後爲㆓四方館㆒、宋朝會要曰、唐四方館、以㆓通事舍人㆒判㆓隷中書省㆒、宋朝初、以㆓檢校官㆒判㆓館事㆒、淳化四年、改置㆓使名㆒、則四方館使、自㆓宋朝太宗㆒始也。

【四方臉】632 ssŭ^4 fang^1 lien^3 四角な顔。

【四方手】633 シホデ 和鞍の前輪と後輪（シツワ）とに一箇處づつ着けて、むながい及びしりがいを止める紐。綏とも書く。〔源平盛衰記、二十一、小坪合戰事〕綴が首をしほでの根に結び附けて、馬に打ち乘り。

【四方則】634 シハウノソク 天下の人々から模範とせられること。又、其の模範となること。〔詩、大雅、生民〕豈弟君子、四方爲㆑則。

【四方竹】635 シハウチク 竹の一種。幹の四角なもの。

【四方田】636 ヨモダ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【四方拜】637 シハウハイ 皇室の年中行事の一つ。四方拜式の略。〔江家次第、一、正月〕四方拜、正月一日寅一刻。

【四方輿】638 シハウゴシ 輿の一種。板輿の形に似て、四方の屋根先の反り上つた輿。〔源平盛衰記、四十六、忠快免事〕袖飾りたる四方輿。

【四方響應】639 シハウキヤウオウス 天下四方の人士が響の聲に應ずるやうに、それに應じて起り立つ。〔芳野金陵、新建㆓新田公祠堂㆒記〕於㆑是乎四方響應、建武中興之業以成。

【四方之勤】640 シハウノツトメ 國家の爲に遠く邊境に至り、或は邊塞を守り、或は人民を治めること。〔元稹、越州謝上表〕臣更㆑事綿久、備歷㆓四方之勤㆒。

【四方之士】641 シハウノシ 四方の國々の人物。〔孔叢子、對魏王〕國內之民將㆑叛、四方之士不㆑至、此乃亡國之道。

【四方之志】642 シハウノココロザシ ㊀天下諸國を遊歷し、天下を經營せんとする志。四方を征服する志。〔左氏、僖、二十三〕子有㆓四方之志㆒、其聞㆑之者、吾殺㆑之矣。〔魏志、荀攸傳〕天下方有㆑事、而劉表坐㆓保江漢之間㆒、其無㆓四方之志㆒可㆑知矣。㊁シハウノシ 諸國の記錄。〔周禮、春官、外史〕掌㆓四方之志㆒。〔注〕志、記也、謂㆑若㆓魯之春秋・晉之乘・楚之檮杌㆒。〔杜預、春秋左氏傳序〕周禮有㆓史官㆒、掌㆓邦國四方之事㆒、達㆓四方之志㆒。

【四方之政】643 シハウノセイ 德化が四方に及ぶ政治。〔漢書、外戚恩澤表序〕天下歸㆑仁、四方之政行焉。

【四方之圖】644 シハウノト 四方を征する策略。〔魏志、高柔傳〕曹將軍雖㆑據㆓兗州㆒、本有㆓四方之圖㆒。

【四方之物】645 シハウノモノ 四方の國々に產する物。〔白虎通、禮樂〕王者所㆓以日食㆒者何、明㆘有㆓四方之物㆒、食㆗四時之功㆖也。

【四方之民】646 シハウノタミ 天下四方の民。〔莊子、天地〕四方之民、莫㆑不㆓倶至㆒。

【四方上下】647 シハウジヤウゲ 東西南北と天地。六合。〔淮南子、原道訓〕舒㆑之幎㆓於六合㆒、〔注〕一曰、四方上下爲㆓六合㆒。

【四方拜式】648 シハウハイノシキ 一月一日に行ふ儀式。古は一月一日の寅刻、清涼殿の東階の前庭に、今は午前五時半、天皇、宮城內の神嘉殿の南庭に出御あらせられ、御自ら天地・四方・山陵を遙拜し、年災を攘ひ、五穀の豐穰・寶祚の長久を祈らせ給ふ儀式。

【使㆓於四方㆒不㆑辱㆓君命㆒】649 シハウニツカヒシテクンメイヲハヅカシメズ 國家を代表して外國に使し、立派に折衝して君命を辱しめない。〔論語、子路〕子曰、行㆑己有㆑恥、使㆓於四方㆒、不㆑辱㆓君命㆒、可㆑謂㆑士矣。

【四放】650 シハウ 舜が堯の相として政を攝した時、驩兜を放ち、共工を流し、鯀を殛し、三苗を竄したことをいふ。四罪。〔漢書、劉向傳〕舜有㆓四放之罰㆒、而孔子有㆓兩觀之誅㆒。〔注〕師古曰、謂㆘流㆓共工于幽州㆒、放㆓驩兜于崇山㆒、竄㆓三苗于三危㆒、殛㆗鯀于羽山㆖也。

【四寶】651 シハウ 四つの寶。㊀周の砥厄（**8**－**24093**··21）・宋の結綠（**8**－**27398**··216）・梁の懸黎（**4**－**11462**··191）・楚の和璞（**2**－**3490**··325）。〔戰國、秦策〕臣聞、周有㆓砥厄㆒、宋有㆓結綠㆒、梁有㆓懸黎㆒、楚有㆓和璞㆒、此四寶者、工之所㆑失也、而爲㆓天下名器㆒。〔小學紺珠、器用類、四寶〕周有㆓砥厄㆒（史記作㆑硯）、宋有㆓結綠㆒、梁有㆓懸黎㆒（史記作㆑藜）、楚有㆓和璞㆒。㊁隨侯の珠・劍寶・玉寶璧と周康王の寶鼎。〔漢書、郊祀志下〕又以㆓方士言㆒、爲㆓隨侯・劍寶・玉寶璧・周康寶鼎㆒、立㆓四祠於未央宮中㆒。〔小學紺珠、器用類、四寶〕隨侯（珠）・劍寶（斬蛇劍）・玉寶璧（受命寶和氏璧）・周康寶鼎（汾上所㆑獲）。㊂晉の垂棘・魯の璵璠・宋の結綠・楚の和璞。〔魏文帝、又與㆓鍾繇㆒書〕晉之垂棘・魯之璵璠・宋之結綠・楚之和璞、價越㆓萬金㆒、貴重㆓都城㆒、云云、然四寶邈焉已遠、秦漢未㆑聞㆑有㆓良比㆒也。㊃漢の武帝の七寶牀・雜寶案・厠寶屛風・列寶帳。〔三輔黃圖、二、漢宮〕西京雜記云、帝爲㆓七寶牀・雜寶案・厠寶屛風・列寶帳㆒、設㆓於桂宮㆒、時人謂㆓四寶宮㆒。㊄文房具の四寶。筆・墨・紙・硯。〔避暑錄話〕世言、歙州具㆓文房四寶㆒、謂㆓筆・墨・紙・硯㆒也。〔晁沖之、答㆓僧寶一㆒詩〕羅㆓列四寶㆒如㆓文房㆒。〔明一統志〕四寶堂在㆓徽州府治㆒、以㆔郡出㆓文房四寶㆒爲㆑義、新安志云、歙縣文房四寶、謂㆓紙墨筆硯㆒也。

【四寶銀】652 シハウギン 銀貨の一種。正德年間、三寶銀を改めて、寶字の刻印を四つにしたもの。〔貨幣祕錄〕寶字の極印四つあり、之を四寶銀といふ。

【四旁】653 シバウ 前・後・左・右。又、東・西・南・北。〔周禮、考工記、匠人〕四旁兩夾窻。〔荀子、大略〕欲㆑近㆓四旁㆒。〔墨子、備水〕四旁高下。

【四望】654 シバウ ㊀四方を眺める。又、四方のながめ。四睇。〔楚辭、九歌〕登㆓崑崙㆒兮四望、心飛揚兮浩蕩。〔新書、數寧〕四望無㆑患。〔王粲、從軍詩〕四望無㆓煙火㆒。㊁天子が遠く望んで祭る所のもの。㋑日・月・星・海。㋺五岳・四鎭・四瀆。〔周禮、春官、大宗伯〕國有㆓大故㆒、則旅㆓上帝及四望㆒。〔注〕鄭司農云、四望、日・月・星・海。〔注〕玄謂、四望、五嶽・四鎭・四瀆。〔大學衍義補、秩㆓祭祀㆒、國家常祀之禮〕所謂四望者、蓋以㆘五嶽・四鎭・四瀆、乃天下山川之大者、天子兼㆓有天下之大㆒、不㆑能㆔親臨㆓其地㆒、故遙望而祭㆑之也。㊂山名。㋑江蘇省江寧縣城の西北定淮門の外。三國、吳の孫皓が陳聲を殺して四望の下に投じ、又、東晉の時、溫嶠が壘を四望磯に築いて蘇峻に逼つたのは皆此の處。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕四望山、府西北十里、西臨㆓大江㆒、南接㆓石頭㆒、北連㆓獅子山㆒、吳孫皓殺㆓其司市陳聲㆒、投㆓其身於四望之下㆒、又晉溫嶠伐㆓蘇峻㆒、築㆓壘於四望磯㆒、以逼㆓石頭㆒、蓋山下有㆑磯也。㋺湖北省南漳縣の南。一名、大府山。其の巓に登れば、東は襄陽、西は房縣、南は荊門、北は穀城が望まれるので名づける。〔資治通鑑、唐紀〕德宗建中二年、梁崇義發㆑兵至㆓江陵㆒、至㆓四望㆒。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、南漳縣、老雅山〕四望山、在㆓縣南三十里㆒、志云、以㆘東望㆓襄陽㆒、西望㆓房陵㆒、南望㆓荊州㆒、北望㆗穀城㆖而名、一名、大府山。㋩湖南省祁陽縣の西南、寶慶縣の界に接す。其の巓に登れば衡・邵・永・道の四郡を望見出來るから名づける。〔讀史方輿紀要、湖廣、永州府、祁陽縣〕四望山、縣西南一百二十里、高可㆑望㆓衡邵永道四郡㆒、元成宗時、盜詹一仔、嘯㆓聚四望山㆒、久不㆑能㆑平、尋爲㆓劉國傑所㆑破、卽此。㋥甘肅省碾伯縣の西。〔漢書、趙充國傳〕遣㆑騎候㆓四望陿中㆒、亡㆑虜、夜引㆑兵上至㆓落都㆒、云云、謂曰、吾知㆓羌虜不㆑能㆑爲㆑兵矣、使㆘發㆓數千人㆒守㆗杜四望陿中㆖、兵豈得㆑入哉。〔讀史方輿紀要、陝西、西寧鎭〕四望山、在㆓衛東百里㆒、湟水經㆓其陽㆒、亦曰㆓四望陿㆒、顏師古曰、山峭夾㆑水、曰㆑陿也。㊃關の名。四川省犍爲縣の東北。㊄城の名。河南省新蔡縣の東。後魏の新蔡郡は之を治とした。太和十一年、豫州の刺史王肅が、四望陂の南に築いて梁を禦いだ處。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、新蔡縣、舒城〕四望城、在㆓縣東二十五里㆒、後魏建興中、王肅于㆓四望陂南㆒築㆑之以禦㆑梁、魏收志、新蔡郡治㆓四望城㆒。㊅亭の名。湖北省黃岡縣治の東。後、高寒樓と改む。〔陸游、入蜀記〕四望亭、正與㆓雪堂㆒相値、在㆓高阜上㆒、覽㆓觀江山㆒、爲㆓一郡之最㆒。㊆樓の名。四川省萬縣の南。〔白居易、寄㆓題楊萬州四望樓㆒詩〕江上新樓名㆓四望㆒、東西南北水茫茫。

【四望車】655 シバウシヤ 唐代、天子が陵を拜し、又、弔に臨む時に乘る車。〔唐書、車服志〕武德四年、始著二車輿衣服之令一、天子之車曰二四望車一者、拜レ陵臨レ弔所レ乘也。

【四望皎然】656 シバウケウゼン 見渡すかぎり明かなこと。〔世說新語、任誕下〕王子猷居二山陰一、夜大雪、眠覺開レ室、命酌レ酒、四望皎然、因起彷徨、詠二左思招隱詩一。

【四白】657 シハク ❶目の相の名で、兵刃に死する相、又、姦淫の相とする。〔潛夫論、相列〕易之說卦、巽、爲下人多二白眼一相上、揚二四白一者、兵死、此猶二金伐レ木也。〔北齊書、文苑、顏之推傳〕慙二四白之調護一、厠二六友之談說一。〔朝野僉載〕婦人目有二四白一、五夫守レ宅。〔神相全編、十觀〕眼爲二監察官一、黑白分明、云云、若二蛇蜂羊鼠鷄猪魚馬火輪四白等眼一、赤白紋侵二睛員一、黑白混雜。❷ヨツジロ 馬の毛色。四足の毛の白いもの。〔岡本記〕四つじろの馬。

【四白落地】658 ssŭ^{4} pai^{2} lao^{4} ti^{4} 天井も壁も四面白紙で張りつめた室。

【四貉】659 シバク 四方の夷。四夷。〔漢書、禮樂志〕隅辟越遠、四貉咸服。〔注〕師古曰、四貉、猶レ言二四夷一、貉、音莫客反。

【四法】660 シハフ ❶黃帝曆の四法。〔宋書、律歷志下〕按二五紀論一、黃帝曆有二四法一、顓頊夏周並有二二術一、詭異紛然、則孰識二其正一、此古曆可レ疑之據一也。❷時を計る四つの法。銅壺・香篆・圭表・輥彈。〔小學紺珠、律歷類、晷漏四法〕銅壺・香篆・圭表・輥彈、薛季宣云、今之爲二晷漏一者、其法有レ四。❸人を擇ぶ四つの法。身（體貌豐偉）・言（言辭辯正）・書（楷法遒美）・判（文理優長）。〔小學紺珠、制度類、擇人四法〕身（體貌豐偉）・言（言辭辯正）・書（楷法遒美）・判（文理優長）、四事可レ取、則先二德行一、德均以レ材、材均以レ勞。❹卜筮の四法。龜・五兆・易・式。〔小學紺珠、律歷類、卜筮四法〕龜・五兆・易・式、唐志太卜。❺［佛］シホフ 教法・理法・行法・果法。〔心地觀經、二〕於二法寶中一、有二其四種一、一者教法、二者理法、三者行法、四者果法。

【四犯】661 シハン ❶四度罪を犯す。又、其の者。〔元史、太宗紀〕諸公事非レ當レ言而言者、拳二其耳一、再犯笞、三犯杖、四犯論レ死。❷四つの音樂の變調をいふ。犯とは一つの調子が他の調子を犯すこと。犯に正・旁・偏・側の四つあり、宮、宮を犯すを正宮といひ、商を犯すを旁宮といひ、角を犯すを偏宮といひ、羽を犯すを側宮といふ。〔張炎、樂府指迷〕周邦彥諸人、移レ宮換レ羽、爲二三犯四犯之曲一。

【四犯令】662 シハンレイ 詞牌（**10**－**35394**‥45′）の名。〔詞譜〕調見二侯寘嬾窟詞一、李處全詞更名二四和香一、關注詞又名二桂華明一。〔詞律〕題名二四犯一、必犯二四調一者、或每句犯二一調一、然未二注明一、不レ知レ犯二何調一也。

【四犯翦梅花】663 シハンセンバイクワ 詞牌（**10**－**35394**‥45′）の名。前後段の首句の押韻しないものをいふ。〔詞譜〕調見二龍洲詞一、前後段首句不二押韻一者、名二四犯翦梅花一、押韻者、名二轆轤金井一、盧祖皐詞明月城春、又名二錦園春一、一名二三犯錦園春一。

【四飯】664 シハン ❶王者の四度の食事。平旦食・晝食・晡食・暮食。昔は食事の度數が身分によつて異なり、王者が前後四食であつたのは、太陰・少陰・太陽・少陽の數に依る。〔白虎通、禮樂〕王平二居中央一、制二御四方一、平旦食、少陽之始也、晝食、太陽之始也、晡食、少陰之始也、暮食、太陰之始也、論語曰、亞飯干適レ楚、三飯繚適レ蔡、四飯缺適レ秦、諸侯三飯、卿大夫再飯、尊卑之差也。〔小學紺珠、器用類、四飯〕王者平旦食、晝食、晡食、暮食、凡四飯、諸侯三飯、卿大夫再飯。❷天子に食を進める樂官の名。〔論語、微子〕大師摯適レ齊、亞飯干適レ楚、三飯繚適レ蔡、四飯缺適レ秦。〔集注〕亞飯以下、以レ樂侑レ食官、干・繚・缺、皆名也。❸複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕四飯氏、四飯缺之後。

【四藩】665 シハン ❶四方の藩屬。〔隋書、禮儀志六〕東西南北四藩諸國王章、上藩用二中金一、中藩用レ銀、並方寸龜鈕。❷清初の四藩。平西王吳三桂・平南王尙可喜・定南王孔有德・靖南王耿仲明をいふ。

【四妃】666 シヒ 四人の妃。❶黃帝の四妃。西陵氏・方雷氏・彤魚氏・嫫母。〔小學紺珠、氏族類、黃帝四妃〕西陵氏・方雷氏・彤魚氏・嫫母。❷帝嚳の四妃。有部氏・有娀氏・陳鋒氏・陬訾氏。〔禮、檀弓上、舜葬二於蒼梧之野一、蓋三妃未二之從一也、注〕帝嚳而立二四妃一矣、象二后妃四星一、其一明者爲二正妃一、餘三小者次妃也。〔大戴禮、帝繫〕帝嚳卜二其妃嚳之子一、而皆有二天下一、上妃有部氏之女也、曰二姜嫄氏一、產二后稷一、次妃有娀氏之女也、曰二簡狄氏一、產レ契、次妃曰二陳隆氏一、產二帝堯一、次妃曰二陬訾氏一、產二帝摯一。〔漢書、律歷志下〕帝嚳四妃。〔小學紺珠、氏族類、帝嚳四子〕帝嚳卜二其四妃之子一、皆有二天下一、有部氏姜嫄生二后稷一、有娀氏簡狄生レ契、陳鋒氏生二帝堯一、陬訾氏生二帝摯一、大戴禮、帝繫。

【四披】667 シヒ 四方にひらく。又、四方に散る。四散。〔無名氏、華山爲レ城賦〕天地初霽、雲霞四披。〔國史略、文武天皇〕冠二進德冠一、頂有二華蘤一四披、紫袍帛帶、威儀如レ神。

【四飛】668 シヒ 四方に飛ぶ。〔孔武仲、憎蠅賦〕幸二視聽之蕭散一、已薨薨而四飛。

【四鄙】669 シヒ 四方のゐなか。〔禮、月令〕五穀不レ滋、四鄙入レ保。〔淮南子、時則訓〕行二冬令一、則風寒不レ時、鷹隼蚤摯、四鄙入保。〔注〕四界之民、皆入二城郭一、自保守也。〔唐書、張建封傳〕四鄙附悅。〔張華、遊獵篇〕結レ罝彌二藪澤一、囂聲振二四鄙一。

【四臂】670 シヒ 腕が四本ある畸形。〔國史略、崇德天皇〕淸水寺側有二棄兒一、六耳四臂四足。

【四美】671 シビ 四つの美しいもの。❶治・安・顯・榮。〔新書、脩政語上〕人主有下欲二治安一之心上、而無二治安之政一者、雖レ欲二治顯榮一也、弗レ得矣、故治安不レ可二以虛成一也、顯榮不レ可二以虛得一也、故明君敬レ士、察レ吏愛レ民、以參二其極一、非レ此者則四美不レ附矣。❷音・味・文・言。〔劉琨、答二盧諶一詩〕音以レ賞奏、味以レ殊珍、文以明レ言、言以暢レ神、之子之往、四美不レ臻。〔注〕善曰、四美、音・味・文・言也。❸良辰・美景・賞心・樂事。二難（**1**－**247**‥878）の❶を見よ。〔王勃、滕王閣序〕四美具、二難幷。〔注〕良辰・美景・賞心・樂事。❹仁・義・忠・信。〔柳宗元、天爵論〕仁義忠信、猶二春秋冬夏一也、擧二明離之用一、運二恆久之道一、所下以成二四時一而行中陰陽上也、宣無レ隱二之明一、著不レ息二之志一、所下以備二四美一而富中道德上也。

【四美記】672 シビキ 戲劇の名。蔡襄が母子・夫婦・忠孝・節烈の四美のあつたことを演ずる。明初の舊本は、蔡錫の作としてゐる。

【四百】673 シヒヤク 一百の四倍。〔書、禹貢〕四百里粟。〔杜甫、述古詩〕休運終二四百一、圖畫在二雲臺一。〔元史、太祖紀〕從者四百、因二糗糧不レ具、已遣レ半還矣。

【四百四病】674 シヒヤクシビヤウ 五臟にはそれぞれ八十一種の病氣があるとして、四百五から死の一個を除いた稱。轉じて、數多の病氣。〔維摩經〕是身爲レ災、百一病惱、一大增損、則百一病生、四大增損、四百四病、同時俱作。〔智度論、六十五〕四百四病者、四大爲レ身、常相侵害、一一大中百一病起、冷病有二二百二一、水風起故、熱病有二二百二一、地火起故。〔千金方〕凡四氣合レ德、四神安和、一氣不レ調、百病發生、四神動作、四百四病、同時俱發、又云、一百一病、不レ治自愈、一百一病、須二治而愈一、一百一病、雖レ治難レ愈、一百一病、眞死不レ治。〔近思錄、存養〕明道先生曰、人有二四百四病一、皆不レ由二自家一、則是心須レ教レ由二自家一。

【四百餘州】675 シヒヤクヨシウ 中國全土の稱。〔圖書編〕裁二省天下四百餘州縣官一。〔呂東萊、紫微詩話〕李芳州贈二汝州太守一詩、安得二吾皇四百州一。

【四百八十寺】676 シヒヤクハツシンジ 南朝の時、佛教を崇んだため、佛寺が極めて多かつたことを形容していふ。南朝四百八十寺（**2**－**2750**‥547）を見よ。

【四百三十二峯草堂】677 シヒヤクサンジフニホウサウダウ 淸、趙希璜（**10**－**37171**‥453）の室名。

【四品】678 シヒン ❶品位の異なる四つのもの。四種のもの。〔漢書、食貨志下〕更造二大錢一、徑寸二分、重十二銖、文曰、大錢五十、又造二契刀錯刀一、云云、與二五銖錢一、凡四品並行。〔泉志〕隆平錢、舊譜曰、日本國、錢四品、並徑寸重五銖、其文隸書。❷第四の官位。〔宋書、禮志一〕晉武帝泰始八年、有司奏、大學生七千餘人、才任二四品一、聽レ留、詔已試經者留レ之、其餘遣二還郡國一。❸㋑人の年齡による小・少・壯・老の四つの區別。六歲以上を小、十六歲以上を少、三十歲以上を壯、五十歲以上を老といふ。㋺シホン 古、親王の第四の位。㋩シホン 四位の俗稱。〔太平記、一、武家繁昌事〕位、四品の

際を不レ越。

〔四品樂〕679シヒンガク 漢代の樂の四品。大予樂・周頌雅樂・黃門鼓吹・短簫鐃歌をいふ。〔小學紺珠、制度類、四品樂〕大予樂・周頌雅樂・黃門鼓吹・短簫鐃歌、蔡邕志、漢樂四品。

【四不】680シフ 詩を作るに當つて戒むべき四つの不。不は勿れの意。一に氣高くして怒るなかれ、二に力勁くして露はすなかれ、三に情多くして暗きことなかれ、四に才豐かにして疎なることなかれ。〔詩式、四不〕氣高而不レ怒、怒則失二於風流一、力勁而不レ露、露則傷二於斤斧一、情多而不レ暗、暗則蹶二拙鈍一、才贍而不レ疎、疎則損二於筋脈一。

〔四不像〕681シフザウ 動物の名。Elapurus davidianus偶蹄類。頭は鹿に似、尾は驢馬に似、背は駱駝に似、蹄は牛に似てゐるが、そつくりそのままでないから此の名がある。體の毛は淡褐色で、背部はやや濃く、角は表面に凹凸があり、その幹部は二叉に分れ、一は後に向ひ、一は外に向ひ、冬になると解落する。體長七尺餘、高さ約四尺。吉林通志に竹葉亭雜記を引いて、四不像は卽ち麞、一名を駝鹿といふとある。

〔四不殺〕682シフサツ 修身治國の上の四つの禁制。一に嗜欲を以て身を殺さず、二に貨財を以て身を殺さず、三に政事を以て民を殺さず、四に學術を以て天下を殺さず。〔崔瑗、座右銘〕無下以二嗜慾一殺上レ身、無下以二貨財一殺上レ身、無下以二政事一殺上レ民、無下以二學術一殺中天下上。

〔四不名〕683シフメイ 君が尊んで名をいはぬ四種の臣。諸父・諸兄・先王の臣と盛德の士。〔小學紺珠、人倫類、四不名〕諸父・諸兄・先王之臣・盛德之士、說苑、伊尹曰、君之所レ不レ名臣者四。

【四布】684シフ 四方にのび弘がる。〔漢書、司馬相如傳上、垂條扶疎、注〕師古曰、扶疎、四布也。〔傅玄、李賦〕長條四布、密葉重陰。

〔四布衣〕685シフイ 淸の乾隆中、四庫全書館を開き、特に布衣（官位のない庶人をいふ）から擧げて邵晉涵・余集・周永年を編修とし、戴震を庶吉士とし、共に四庫全書を監修させたのを、時人が稱して四布衣といつた。〔王昶、翰林院侍講學士充國士館提調官邵君晉涵墓表〕詔開二四庫館一、蒐二訪遺書祕錄一、大臣以レ君薦、特授二庶吉士一、踰レ年授二編修一。〔桂馥、周先生永年傳〕後成二進士一、欲三入レ山治二儀禮一、被レ徵纂二修四庫書一、授二翰林院編修・文淵閣校理一。〔錢大昕、戴先生震傳〕癸巳歲、天子開二四庫館一、妙二選校讐之職一、職裁諸公、疏二薦先生一、以二鄉貢士一入レ館、充二纂修官一、特命與二會試中レ式者一、同赴廷對、乙未夏、授二翰林院庶吉士一。

【四府】686シフ ❶四つの倉。府は、物を藏し、或は生ずる所。㋑春・夏・秋・冬。〔皇極經世書、觀物內篇〕昊天之四府者、春夏秋冬之謂也、陰陽升二降於其閒一矣、云云、春爲二生レ物之府一、夏爲二長レ物之府一、秋爲二收レ物之府一、冬爲二藏レ物之府一。㋺易・書・詩・春秋。〔皇極經世書、觀物內篇〕聖人之四府者、易書詩春秋之謂也、禮樂汙二隆于其閒一矣、易爲二生レ民之府一、書爲二長レ民之府一、詩爲二收レ民之府一、春秋爲二藏レ民之府一。❷四つの役所。大將軍府・太尉府・司徒府・司空府。又、太傅府・太尉府・司徒府・司空府。〔漢書、趙充國傳〕詔擧下可二護羌校尉一者上、時充國病、四府擧二辛武賢小弟湯一。〔後漢書、順帝紀〕四府掾屬。〔後漢書、虞詡傳〕四府九卿。〔注〕四府、謂二太傅・太尉・司徒・司空之府一也。❸昔、宮城の護衛を掌つた役所。左近衛府・右近衛府・左兵衛府・右兵衛府。

【四賦】687シフ 漢の揚雄の作つた四種の賦。甘泉賦・河東賦・校獵賦・長楊賦。〔漢書、揚雄傳贊〕經莫レ大二於易一、故作二太玄一、傳莫レ大二於論語一、作二法言一、史篇莫レ善二於蒼頡一、作二訓纂一、箴莫レ善二於虞箴一、作二州箴一、賦莫レ善二於離騷一、反而廣レ之、辭莫レ麗二於相如一、作二四賦一。〔小學紺珠、藝文類、四賦〕甘泉・河東・校獵・長楊、揚雄作二四賦一。

【四毋】688シブ 意（未知の事を妄りに臆度すること）・必（必ずこの事をかく爲さうとすること）・固（一つの事に拘泥すること）・我（己の考を墨守すること）の四つを絕つこと。孔子の物事に對する態度。〔論語、子罕〕子絕レ四、毋レ意、毋レ必、毋レ固、毋レ我。〔集注〕意、私意也、必、期必也、固、執滯也、我、私己也。

【四部】689シブ ❶四つの部署。又、四つの部分。〔後漢書、吳漢傳〕漢選二四部精兵黃頭吳河等、及烏桓突騎三千餘人一、齊鼓而進。〔晉書、傅玄傳〕魏初未レ留二意於水事一、先帝統二百揆一、分二河堤一爲二四部一。❷樂工の四つの分類。龜茲部・大鼓部・胡部・軍樂部。〔唐書、南蠻、驃傳〕凡樂三十工、百九十六人、分二四部一、一、龜茲部、二、大鼓部、三、胡部、四、軍樂部。❸書籍の四つの區分。甲部（經）・乙部（史）・丙部（子）・丁部（集）。魏の荀勖は始めて書籍を分類して甲・乙・丙・丁とし、甲部には六藝・小學、乙部には諸子・兵書・術數、丙部には史記及び其の他の記載、丁部には詩賦・圖讚等を收め、後多く之に依つたが、唐の玄宗の時、兩都に於て各書四部を聚め、甲乙丙丁を以て次第し、經史子集を四庫に列した。四庫(267)の❶及び四部書(692)を見よ。〔南齊書、王儉傳〕超二遷祕書丞一、上表求レ校二墳籍一、撰二定元徽四部書目一。〔南史、臧嚴傳〕王嘗自執二四部書目一試レ之、嚴自レ甲至レ丁、各對二一事并作者姓名一、遂無二遺失一。〔陔餘叢考、經史子集〕古書分類、未レ有二經史子集四部之名一、漢哀帝時、劉歆著二七略一、宋元徽中、王儉撰二七志一、梁普通中、阮孝緒撰二七錄一、隋大業中、許善心撰二七林一、此皆以レ七分レ部者也、其以二四部一分者、自二晉祕書監荀勖一始、曰、一甲部紀二六藝及小學等一、二乙部則諸子及兵家術數等、三丙部則史記皇覽等、四丁部則詩賦及汲冢書等、其中編次、子先二於史一、汲書又雜詞賦內位置、俱未レ免レ失レ當、然後之以二四部一編者、實本二於此一、宋謝靈運・殷淳・梁任昉・殷鈞等、因レ之各造二四部書目一、竟陵王子良集二學士一、依二皇覽例一、爲二四部要略一、猶皆以二甲乙丙丁一爲レ部、隋煬帝於二觀文殿東西廂一藏レ書、東屋藏二甲乙一、西屋藏二丙丁一、亦仍二舊稱一、其名以二經史子集一者、則唐武德初、魏鄭公收二東都圖書一、命二司農少卿宋遵貴一、載以レ船、泝レ河西上、凡八萬六千九百六十六卷、其後又因二馬懷素奏一、乃令二殷踐猷等治レ經、韋述等治レ史、毋煚等治レ子、王灣等治レ集、自レ此經史子集之爲二四部一、一成不レ變矣、今隋書經籍志、已分二經史子集一者、隋書本唐人所レ修也、近代說部之書最多、或又當レ作二經史子集說五部一也。❹佛比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷。四部衆の略。〔梁書、武帝紀下〕於二重雲殿及同泰寺一講說、名僧碩學四部聽衆常萬餘人。❺散樂の四家。觀世・金春・金剛・寶生。また猿樂の四座ともいふ。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕二月乃張二四部散樂一、下レ令縱觀。

〔四部稿〕690シブカウ 書名。百七十四卷。續稿二百十八卷。明、王世貞撰。四部は賦部・詩部・文部・說部。明史、藝文志に著錄せられる。

〔四部衆〕691シブシユウ 佛比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷をいふ。四部。四衆。四部弟子。〔法華經、序品〕時四部衆、咸皆歡喜。

〔四部書〕692シブシヨ 四つの部門に分類した書籍。❶甲部（六藝小學）・乙部（諸子兵書術數）・丙部（史記及記載）・丁部（詩賦圖讚）。四部(689)の❸を見よ。〔隋書、經籍志一〕魏祕書郎鄭默、始制二中經一、祕書監荀勖、又因二中經一更著二新簿一、分爲二四部一、總二括羣書一、一曰甲部、紀二六藝及小學等書一、二曰乙部、有二古諸子家・近世子家・兵書・兵家・術數一、三曰丙部、有二史記・舊事・皇覽・簿雜事一、四曰丁部、有二詩賦・圖讚・汲冢書一、大凡四部合、二萬九千九百四十五卷。〔小學紺珠、藝文類、四部〕甲（六藝小學）・乙（諸子兵書術數）・丙（史記舊事）・丁（詩賦圖讚汲冢書）。❷四庫の書。四庫(267)の❶を見よ。

〔四部要略〕692′シブエウリヤク 書名。千卷。齊の竟陵王子良が學士を集めて作つたもの。〔南齊書、竟陵文宣王子良傳〕集二學士一抄二五經百家一、依二皇覽例一、爲二四部要略千卷一。

〔四部叢刊〕693シブソウカン 叢書の名。二千一百一冊。上海の商務印書館の編輯にかかる經史子集四部の叢書。第一冊、四部叢刊書錄。【經部】第二・三冊、周易十卷（魏、王弼・晉、韓康伯注）。第四・五冊、尙書十三卷（漢、孔安國傳）。第六―九冊、毛詩二十卷（漢、毛亨傳・鄭玄箋）。第十―十五冊周禮十二卷（漢、鄭玄注）。第十六―二十冊、儀禮十七卷（漢、鄭玄注）。第二十一―二十五冊、纂圖互注禮記二十卷（漢、鄭玄注）。第二十六―三十一冊、春秋經傳集解三十卷（晉、杜預集解）。第三十二―三十四冊、春秋公羊經傳解詁十二卷（漢、何休解詁）。第三十五・三十六冊、春秋穀梁傳十二卷（晉、范甯集解）。第三十七冊、

孝經一卷（唐、玄宗注）。第三十八・三十九冊、論語十卷（魏、何晏等集解）。第四十一—四十二冊、孟子十四卷（漢、趙岐注）。第四十三冊、爾雅三卷（晉、郭璞注）。第四十四冊、京氏易傳三卷（漢、京房）。第四十五・四十六冊、尙書大傳五卷敍錄一卷（漢、伏勝）。第四十七・四十八冊、詩外傳十卷（漢、韓嬰）。第四十九・五十冊、大戴禮記十三卷（漢、戴德）。第五十一・五十二冊、春秋繁露十七卷（漢、董仲舒）。第五十三—六十四冊、經典釋文三十卷校勘記三卷（唐、陸德明）。第六十五冊、輶軒使者絕代語釋別國方言十三卷（漢、揚雄）。第六十六冊、釋名八卷（漢、劉熙）。第六十七—七十冊、說文解字三十卷標目一卷（漢、許愼）。第七十一—七十八冊、說文繫傳通釋四十卷（南唐、徐鍇）。第七十九—八十一冊、大廣益會玉篇三十卷附一卷（梁、顧野王）。第八十二—八十六冊、廣韻五卷（宋、陳彭年等重修）。第八十七冊、竹書紀年二卷（梁、沈約注）。【史部】第八十八—九十三冊、前漢紀三十卷（漢、荀悅）。第九十四—九十九冊、後漢紀三十卷（晉、袁宏）。第百—百七十九冊、資治通鑑二百九十四卷（宋、司馬光）。第百八十—百八十五冊、資治通鑑考異三十卷（宋、司馬光）。第百八十六—百九十五冊、資治通鑑目錄三十卷（宋、司馬光）。第百九十六—百九十八冊、稽古錄二十卷（宋、司馬光）。第百九十九—二百三冊、資治通鑑外紀八卷目五卷（宋、劉恕）。第二百四—二百八冊、資治通鑑釋文三十卷（宋、史炤）。第二百九—二百五十冊、通鑑紀事本末四十二卷（宋、袁樞）。第二百五十一冊、汲冢周書十卷（晉、孔晁注）。第二百五十二—二百五十五冊、國語二十一卷（吳、韋昭解）。第二百五十六—二百六十三冊、戰國策校注十卷（宋、鮑彪校注・元、吳師道重校）。第二百六十四・二百六十五冊、晏子春秋八卷（漢、劉向敍錄）。第二百六十六—二百六十八冊、劉向古列女傳七卷續一卷（漢、劉向）。第二百六十九—二百八十二冊、五朝名臣言行錄十卷三朝名臣言行錄十四卷（宋、朱熹）。第二百八十三・二百八十四冊、吳越春秋十卷（漢、趙曄）。第二百八十五・二百八十六冊、越絕書十五卷（漢、袁康）。第二百八十七—二百八十九冊、華陽國志十卷（晉、常璩）。第二百九十—三百一冊、水經注四十卷（漢、桑欽・後魏、酈道元注）。第三百二—三百五冊、大唐西域記十二卷（唐、釋玄奘譯・辨機撰）。第三百六—三百九冊、史通二十卷札記一卷（唐、劉知幾）。【子部】第三百十—三百十二冊、孔子家語十卷（魏、王肅注）。第三百十三—三百十八冊、荀子二十卷（周、荀況・楊倞注）。第三百十九・三百二十冊、孔叢子七卷（秦、孔鮒）。第三百二十一冊、新語二卷（漢、陸賈）。第三百二十二・三百二十三冊、新書十卷（漢、賈誼）。第三百二十四・三百二十五冊、鹽鐵論十卷（漢、桓寬）。第三百二十六・三百二十七冊、新序十卷（漢、劉向）。第三百二十八—三百三十三冊、說苑二十卷（漢、劉向）。第三百三十四冊、揚子法言十三卷音義一卷（漢、揚雄）。第三百三十五・三百三十六冊、潛夫論十卷（漢、王符）。第三百三十七冊、申鑒五卷（漢、荀悅）。第三百三十八冊、徐幹中論二卷（漢、徐幹）。第三百三十九冊、中說十卷（隋、王通）。第三百四十—三百四十三冊、孫子集注十三卷（周、孫武）。第三百四十四冊、六韜六卷（周、呂望）・吳子二卷（周、吳起）・司馬法三卷（周、司馬穰苴）。第三百四十五—三百四十八冊、管子二十四卷（唐、房玄齡注）。第三百四十九冊、鄧析子二卷（周、鄧析）。第三百五十冊、商子五卷（秦、商鞅）。第三百五十一—三百五十三冊、韓非子二十卷（周、韓非）。第三百五十四—三百五十七冊、齊民要術十卷（後魏、賈思勰）。第三百五十八—三百六十二冊、黃帝內經二十四卷（唐、王冰注）。第三百六十三—三百六十六冊、靈樞經十二卷（不著撰人）。第三百六十七・三百六十八冊、王翰林集注黃帝八十一難經五卷（周、秦越人）。第三百六十九・三百七十冊、金匱玉函要略方論三卷（漢、張機）。第三百七十一—三百七十四冊、注解傷寒論十卷（漢、張機）。第三百七十五・三百七十六冊、新刊王氏脈經十卷（晉、王叔和）。第三百七十七—三百八十八冊、重脩政和經史證類備用本草三十卷（宋、唐愼微）。第三百八十九・三百九十冊、周髀算經二卷（唐、李淳風等注）。第三百九十一—三百九十三冊、九章算術九卷音義一卷（魏、劉徽等注・釋李籍音義）。第三百九十四—三百九十六冊、太玄經十卷說玄一卷釋文一卷（漢、揚雄）。第三百九十七—四百十二冊、易林十六卷（漢、焦延壽）。第四百十三—四百十六冊、墨子十五卷（周、墨翟）。第四百十七冊、尹文子一卷（周、尹文）。第四百十八冊、愼子內外篇一卷（周、愼到）。第四百十九冊、鶡冠子三卷（宋、陸佃解）。第四百二十冊、鬼谷子三卷（梁、陶宏景注）。第四百二十一—四百二十五冊、呂氏春秋二十六卷（漢、高誘訓解）。第四百二十六—四百二十九冊、淮南鴻烈解二十一卷（漢、許愼記）。第四百三十冊、人物志三卷（魏、劉邵）。第四百三十一冊、顏氏家訓二卷（北齊、顏之推）。第四百三十二・四百三十三冊、白虎通德論十卷（漢、班固）。第四百三十四—四百四十一冊、論衡三十卷（漢、王充）。第四百四十二・四百四十三冊、風俗通義十卷（漢、應劭）。第四百四十四—四百五十九冊、羣書治要五十卷（唐、魏徵）。第四百六十・四百六十一冊、意林五卷補二卷逸文一卷（五代、馬總）。第四百六十二冊、西京雜記六卷（漢、劉歆）。第四百六十三—四百六十五冊、世說新語十二卷（宋、劉義慶）。第四百六十六・四百六十七冊、山海經十八卷（晉、郭璞傳）。第四百六十八冊、穆天子傳二十八卷（晉、郭璞注）。第四百六十九—四百七十二冊、唐段少卿酉陽雜俎前集二十卷續集十卷（唐、段成式）。第四百七十三—四百七十七冊、弘明集十四卷（梁、釋僧佑）。第四百七十八—四百八十九冊、廣弘明集三十卷（唐、釋道宣）。第四百九十—五百二十五冊、法苑珠林百二十卷（唐、釋道世）。第五百二十六—五百三十二冊、翻譯名義集七卷（宋、釋法雲）。第五百三十三冊、老子道德經二卷（河上公章句）。第五百三十四冊、沖虛至德眞經八卷（晉、張湛注）。第五百三十五—五百三十九冊、南華眞經十卷札記一卷（晉、郭象注）。第五百四十—五百四十五冊、抱朴子內篇二十卷外篇五十卷（晉、葛洪）。第五百四十六—五百七十七冊、雲笈七籤百二十二卷（宋、張君房）。【集部】第五百七十八—五百八十二冊、楚辭十七卷（漢、王逸章句・宋、洪興祖補注）。第五百八十三・五百八十四冊、蔡中郎文集十卷外傳一卷（漢、蔡邕）。第五百八十五・五百八十六冊、曹子建集十卷（魏、曹植）。第五百八十七冊、嵇中散集十卷（魏、嵇康）。第五百八十八冊、陸士衡文集十卷（晉、陸機）。第五百八十九・五百九十冊、陸士龍文集十卷（晉、陸雲）。第五百九十一・五百九十二冊、箋注陶淵明集十卷（宋、李公煥箋）。第五百九十三・五百九十四冊、鮑氏集十卷（宋、鮑照）。第五百九十五冊、謝宣城詩集五卷（齊、謝朓）。第五百九十六冊、梁昭明太子文集五卷（梁、昭明太子）。第五百九十七・五百九十八冊、梁江文通集十卷校勘記一卷（梁、江淹）。第五百九十九・六百冊、徐孝穆集十卷（陳、徐陵）。第六百一—六百三冊、庾子山集十六卷（周、庾信）。第六百四冊、寒山詩・附拾得詩・慈受深和尙擬寒山詩（唐、釋寒山・豐干・拾得・懷深）。第六百五—六百八冊、王子安集十六卷（唐、王勃）。第六百九・六百十冊、楊盈川集十卷（唐、楊炯）。第六百十一・六百十二冊、幽憂子集七卷（唐、盧照鄰）。第六百十三冊、駱賓王集十卷（唐、駱賓王）。第六百十四—六百十六冊、陳伯玉集十卷（唐、陳子昂）。第六百十七—六百二十冊、張說之集二十五卷（唐、張說）。第六百二十一—六百二十四冊、唐丞相曲江張先生文集二十卷附一卷（唐、張九齡）。第六百二十五—六百三十四冊、分類補注李太白詩集三十卷（元、楊齊賢集注）。第六百三十五—六百四十四冊、分門集注杜工部詩二十五卷（徐居仁集注）。第六百四十五冊、須溪先生校本唐王右丞集六卷（唐、王維）。第六百四十六冊、高常侍集八卷（唐、高適）。第六百四十七冊、孟浩然集四卷（唐、孟浩然）。第六百四十八・六百四十九冊、元次山文集十卷附拾遺（唐、元結）。第六百五十—六百五十二冊、顏魯公文集十五卷補一卷年一卷行一卷碑一卷傳二卷（唐、顏眞卿）。第六百五十三冊、岑嘉州詩四卷（唐、岑參）。第六百五十四・六百五十五冊、皎然集十卷（唐、釋皎然）。第六百五十六・六百五十七冊、劉隨州文集十卷（唐、劉長卿）。第六百五十八・六百五十九冊、韋江州集十卷附一卷（唐、韋應物）。第六百六十—六百六

十三冊、毘陵集二十卷附一卷補一卷(唐、獨孤及)。第六百六十四・六百六十五冊、錢考功集十卷(唐、錢起)。第六百六十六—六百六十九冊、陸宣公翰苑集二十四卷(唐、陸贄)。第六百七十—六百七十七冊、權載之文集五十卷(唐、權德輿)。第六百七十八—六百八十五冊、朱文公校昌黎先生文集四十卷外十卷遺文一卷(宋、汪逵編)。第六百八十六—六百九十三冊、增廣注釋音辨唐柳先生文集四十三卷別二卷外二卷附一卷(宋、童宗說注釋)。第六百九十四—七百一冊、劉夢得文集三十卷外十卷(唐、劉禹錫)。第七百二・七百三冊、呂和叔文集十卷附一卷(唐、呂溫)。第七百四冊、張司業集八卷(唐、張籍)。第七百五冊、皇甫持正文集六卷(唐、皇甫湜)。第七百六・七百七冊、李文公集十八卷(唐、李翶)。第七百八冊、歐陽行周文集十卷(唐、歐陽詹)。第七百九・七百十冊、孟東野詩集十卷(唐、孟郊)。第七百十一冊、唐賈浪仙長江集十卷(唐、賈島)。第七百十二冊、李賀歌詩編四卷(唐、李賀)。第七百十三・七百十四冊、沈下賢集十二卷(唐、沈亞之)。第七百十五—七百二十冊、李衞公文集二十卷別十卷外四卷(唐、李德裕)。第七百二十一—七百二十四冊、元氏長慶集六十卷文一卷(唐、元稹)。第七百二十五—七百四十八冊、白氏文集七十一卷(唐、白居易)。第七百四十九—七百五十三冊、樊川文集二十卷外一卷別一卷(唐、杜牧)。第七百五十四・七百五十五冊、姚少監詩集十卷(唐、姚合)。第七百五十六・七百五十七冊、李義山詩集六卷(唐、李商隱)。第七百五十八・七百五十九冊、李義山文集五卷(唐、李商隱)。第七百六十冊、溫庭筠詩集七卷別一卷(唐、溫庭筠)。第七百六十一冊、丁卯集二卷(唐、許渾)。第七百六十二冊、唐劉蛻集六卷(唐、劉蛻)。第七百六十三冊、唐孫樵集十卷(唐、孫樵)。第七百六十四冊、李羣玉詩集三卷後集五卷(唐、李羣玉)。第七百六十五冊、碧雲集三卷(唐、李中)。第七百六十六冊、披沙集六卷(唐、李咸)。第七百六十七・七百六十八冊、皮子文藪十卷(唐、皮日休)。第七百六十九—七百七十三冊、唐甫里先生文集二十卷(唐、陸龜蒙)。第七百七十四冊、玉川子詩集二卷外集一卷(唐、盧仝)。第七百七十五・七百七十六冊、司空表聖文集十卷(唐、司空圖)。第七百七十七冊、司空表聖詩集五卷(唐、司空圖)。第七百七十八冊、玉山樵人集一卷香奩集一卷(唐、韓翊)。第七百七十九—七百八十一冊、桂苑筆耕集二十卷(唐、崔致遠)。第七百八十二—七百八十四冊、唐黃先生文集八卷附一卷(唐、黃滔)。第七百八十五冊、甲乙集十卷(唐、羅隱)。第七百八十六・七百八十七冊、白蓮集十卷(唐、釋齊己)。第七百八十八・七百八十九冊、禪月集二十五卷(五代、釋貫休)。第七百九十冊、浣花集十卷補一卷(五代、韋莊)。第七百九十一—七百九十三冊、廣成集十七卷(五代、杜光庭)。第七百九十四—七百九十九冊、徐公文集三十卷附一卷(宋、徐鉉)。第八百—八百二冊、河東先生集十六卷(宋、柳開)。第八百三—八百八冊、小畜集三十卷(宋、王禹偁)。第八百九冊、小畜外集殘本七卷(宋、王禹偁)。第八百十冊、林和靖先生詩集四卷(宋、林逋)。第八百十一冊、河南穆公集三卷遺事一卷後補一卷(宋、穆修)。第八百十二—八百二十一冊、范文正公集二十卷別集四卷政府奏議二卷尺牘三卷年譜一卷言行拾遺事錄四卷鄱陽遺事錄一卷又附十三卷(宋、范仲淹)。第八百二十二—八百二十五冊、河南先生文集二十八卷(宋、尹洙)。第八百二十六—八百二十八冊、蘇學士文集十六卷校語一卷(宋、蘇舜欽)。第八百二十九—八百四十四冊、溫國文正公文集八十卷(宋、司馬光)。第八百四十五—八百五十二冊、直講李先生文集三十七卷外集三卷年譜門人錄附一卷(宋、李覯)。第八百五十三—八百六十冊、丹淵集四十卷拾二卷(宋、文同)。第八百六十一—八百七十冊、元豐類藁五十卷附一卷(宋、曾鞏)。第八百七十一—八百八十二冊、宛陵先生集六十卷拾一卷附一卷(宋、梅堯臣)。第八百八十三—八百八十六冊、伊川擊壤集二十卷集外詩一卷(宋、邵雍)。第八百八十七—九百二十二冊、居士集五十卷外集二十五卷易童子問三卷外制集三卷內制集八卷表奏書啓四六集七卷奏議集十八卷雜著述十九卷集古錄跋尾十卷書簡十卷附五卷年譜一卷(宋、歐陽脩)。第九百二十三・九百二十四冊、嘉祐集十五卷(宋、蘇洵)。第九百二十五—九百四十四冊、臨川先生文集百卷目二卷(宋、王安石)。第九百四十五—九百五十四冊、增刊校正王狀元集注分類東坡先生詩二十五卷(宋、蘇軾)。第九百五十五—九百六十四冊、經進東坡文集事略六十卷(宋、郎曄注)。第九百六十五—九百八十四冊、欒城集五十卷後集二十四卷三集十卷(宋、蘇轍)。第九百八十五—九百八十六冊、欒城應詔集十二卷。第九百八十七—九百九十四冊、豫章黃先生文集三十卷(宋、黃庭堅)。第九百九十五—九百九十八冊、后山詩注十二卷(宋、任淵)。第九百九十九—千十冊、張右史文集六十卷(宋、張耒)。第千十一—千十五冊、淮海集四十卷後集六卷長短句三卷(宋、秦觀)。第千十六—千二十三冊、石門文字禪三十卷(宋、釋惠洪)。第千二十四—千三十九冊、濟北晁先生雞肋集七十卷(宋、晁補之)。第千四十—千四十七冊、浮溪集三十二卷(宋、汪藻)。第千四十八—千五十一冊、增廣箋注簡齋詩文集三十卷附一卷(宋、陳與義)。第千五十二冊、簡齋詩外集一卷(宋、陳與義)。第千五十三—千五十八冊、于湖居士文集四十卷附一卷(宋、張孝祥)。第千五十九—千百八冊、晦菴先生朱文公文集百卷續集十一卷別集十卷(宋、朱熹)。第千百九—千百十六冊、止齋先生文集五十二卷附一卷(宋、陳傅良)。第千百十七—千百二十八冊、梅溪先生廷試策奏議五卷詩文前集二十卷後集二十九卷附一卷(宋、王十朋)。第千百二十九—千百五十八冊、攻媿集百十二卷(宋、樓鑰)。第千百五十九—千百六十八冊、象山先生全集三十六卷(宋、陸九淵)。第千百六十九—千百八十冊、盤洲集八十卷附一卷拾一卷(宋、洪适)。第千百八十一—千百八十五冊、石湖居士詩集三十四卷(宋、范成大)。第千百八十六—千二百十七冊、誠齋集百三十三卷(宋、楊萬里)。第千二百十八—千二百二十九冊、渭南文集五十卷(宋、陸游)。第千二百三十・千二百三十一冊、澗谷精選陸放翁詩集十卷須溪精選陸放翁詩集八卷別集一卷(前集、宋、羅椅・後集、劉辰翁・別集、明、劉景寅)。第千二百三十二—千二百三十九冊、水心先生文集二十九卷(宋、葉適)。第千二百四十—千二百六十三冊、重校鶴山先生大全文集百十卷(宋、魏了翁)。第千二百六十四—千二百八十七冊、西山先生眞文忠公文集五十一卷(宋、眞德秀)。第千二百八十八・千二百八十九冊、白石道人詩集二卷集外詩一卷詩說一卷歌曲四卷歌曲別集一卷附一卷(宋、姜夔)。第千二百九十—千三百二十七冊、後村先生大全集百九十六卷(宋、劉克莊)。第千三百二十八—千三百四十七冊、文山先生全集二十卷(宋、文天祥)。第千三百四十八—千三百五十三冊、閑閑老人滏水文集二十卷(金、趙秉文)。第千三百五十四—千三百五十九冊、滹南遺老集四十六卷(金、王若虛)。第千三百六十—千三百七十一冊、遺山先生文集四十卷附一卷(金、元好問)。第千三百七十二—千三百七十五冊、湛然居士文集十四卷(元、耶律楚材)。第千三百七十六—千三百九十九冊、秋澗先生大全文集百卷附一卷(元、王惲)。第千四百—千四百五冊、剡源戴先生文集三十卷(元、戴表元)。第千四百六—千四百八冊、松雪齋文集十卷外一卷(元、趙孟頫)。第千四百九—千四百十一冊、靜修先生文集二十二卷(元、劉因)。第千四百十二—千四百二十七冊、清容居士集五十卷(元、袁桷)。第千四百二十八—千四百三十五冊、牧菴集三十六卷年譜一卷(元、姚燧)。第千四百三十六—千四百四十七冊、道園學古錄五十卷(元、虞集)。第千四百四十八冊、翰林楊仲弘詩集八卷(元、楊載)。第千四百四十九—千四百五十二冊、揭文安公全集十四卷補一卷(元、揭傒)。第千四百五十三・千四百五十四冊、范德機詩集七卷(元、范梈)。第千四百五十五—千四百五十八冊、吳淵穎集十二卷附一卷(元、吳萊)。第千四百五十九—千四百七十冊、金華黃先生文集四十三卷(元、黃溍)。第千四百七十一—千四百七十四冊、圭齋集十五卷附一卷(元、歐陽玄)。第千四百七十五—千四百八十二冊、柳待制文集二十卷目二卷附一卷(元、柳貫)。第千四百八十三・千四百八十四冊、薩天錫詩集

二卷（元、薩都剌）。第千四百八十五冊、句曲外史貞居先生詩集五卷（元、張雨）。第千四百八十六―千四百九十一冊、九靈山房集二十九卷外一卷（元、戴良）。第千四百九十二―千四百九十四冊、倪雲林先生詩集六卷雜著一卷（元、倪瓚）。第千四百九十五―千五百冊、東維子文集三十卷附一卷（元、楊維楨）。第千五百一・千五百二冊、鐵崖先生古樂府十卷復古詩集六卷（元、楊維楨）。第千五百三―千五百十六冊、宋學士鑾坡集十卷後集十卷翰苑續集十卷別集十卷芝園前集十卷後集十卷續集十卷朝京稿五卷（明、宋濂）。第千五百十七―千五百二十六冊、誠意伯文集二十卷（明、劉基）。第千五百二十七―千五百三十二冊、清江貝先生文集三十卷詩集十卷詩餘一卷（明、貝瓊）。第千五百三十三―千五百三十七冊、蘇平仲文集十六卷（明、蘇伯衡）。第千五百三十八―千五百四十三冊、高太史大全集十八卷（明、高啓）。第千五百四十四・千五百四十五冊、高太史鳧藻集五卷扣舷集一卷（明、高啓）。第千五百四十六―千五百五十七冊、遜志齋集二十四卷附一卷（明、方孝孺）。第千五百五十八―千五百六十九冊、匏翁家藏集七十七卷補一卷（明、吳寬）。第千五百七十―千五百八十一冊、陽明先生集要十五卷年譜一卷（明、王守仁）。第千五百八十二―千五百九十三冊、荊川先生文集十七卷外三卷（明、唐順之）。第千五百九十四―千六百五冊、震川先生集三十卷別集十卷附一卷（明、歸有光）。第千六百六―千六百九冊、亭林詩集五卷校補一卷文集六卷（清、顧炎武）。第千六百十冊、亭林餘集一卷（清、顧炎武）。第千六百十一―千六百十八冊、南雷文案十卷外案一卷吾悔集四卷撰杖集一卷子劉子行狀二卷南雷詩曆三卷學箕初稿二卷（清、黃宗羲）。第千六百十九―千六百二十四冊、薑齋詩文集二十八卷（清、王夫之）。第千六百二十五―千六百五十六冊、牧齋初學集百十卷目二卷（清、錢謙益）。第千六百五十七―千六百六十八冊、牧齋有學集五十卷（清、錢謙益）。第千六百六十九―千六百七十六冊、梅村家藏稾五十八卷補一卷年譜四卷（清、吳偉業）。第千六百七十七―千六百八十冊、漁洋山人精華錄十卷（清、王士禛）。第千六百八十一―千六百八十八冊、堯峯文鈔四十卷（清、汪琬）。第千六百八十九―千七百八冊、曝書亭集八十卷笛漁小稿十卷（清、朱彝尊）。第千七百九―千七百二十二冊、陳迦陵文集六卷儷體文集十卷湖海樓詩集八卷迦陵詞三十卷（清、陳其年）。第千七百二十三―千七百三十八冊、敬業堂集五十卷續集六卷（清、查愼行）。第千七百三十九―千七百五十冊、望溪先生全集十八卷集外文十卷補二卷年譜一卷（清、方苞）。第千七百五十一―千七百五十八冊、樊榭山房集十卷軼一卷續集十卷文集八卷集外詩三卷又一卷集外詞四卷又一卷集外曲二卷（清、厲鶚）。第千七百五十九―千七百六十三冊、惜抱軒文集十六卷詩集十卷（清、姚鼐）。第千七百六十四―千七百六十七冊、戴東原集十二卷年譜一卷（清、戴震）。第千七百六十八―千七百九十九冊、結埼亭集三十八卷經史問答十卷結埼亭集外編五十卷（清、全祖望）。第千八百―千八百二冊、結埼亭詩集十卷（清、全祖望）。第千八百三―千八百二十二冊、卷施閣文甲集十卷乙集十卷卷施閣詩二十卷附結軒詩八卷更生齋文甲集四卷乙集四卷更生齋詩八卷詩餘二卷（清、洪亮吉）。第千八百二十三―千八百三十冊、孫淵如詩文集二十一卷附一卷問字堂集六卷岱南閣集二卷五松園文稿一卷嘉穀堂集一卷平津館文稿二卷澄清堂詩稿二卷續稿一卷齊上停雲集一卷治城絜養集二卷遺集一卷補遺一卷長離閣集一卷年譜一卷（清、孫星衍）。第千八百三十一―千八百三十八冊、抱經堂文集三十四卷（清、盧文弨）。第千八百三十九―千八百五十四冊、潛研堂文集五十卷詩集十卷詩續集十卷（清、錢大昕）。第千八百五十五・千八百五十六冊、述學內篇三卷外篇一卷補遺一卷別錄一卷春秋述義一卷（清、汪中）。第千八百五十七冊、容甫先生遺詩五卷補一卷附一卷（清、汪中）。第千八百五十八―千八百七十七冊、揅經室集十四卷二集八卷三集五卷四集二卷詩十二卷續集十一卷外集五卷（清、阮元）。第千八百七十八―千八百八十三冊、大雲山房文稿初集四卷二集四卷言事二卷補編一卷（清、惲敬）。第千八百八十四―千八百八十六冊、定盦文集三卷續集四卷補文一卷詩二卷雜詩一卷無著詞選一卷小奢摩室詞選一卷（清、龔自珍）。第千八百八十七冊、定盦文集補編四卷（清、龔自珍）。第千八百八十八・千八百八十九冊、茗柯文四編四卷（清、張惠言）。第千八百九十冊、茗柯文補編二卷外編二卷（清、張惠言）。第千八百九十一―千八百九十四冊、曾文正公詩集三卷文集三卷（清、曾國藩）。第千八百九十五―千九百二十四冊、六臣注文選六十卷（梁、昭明太子）。第千九百二十五―千九百二十七冊、玉臺新詠集十卷（陳、徐陵）。第千九百二十八冊、中興閒氣集二卷（唐、高仲武）。第千九百二十九冊、河岳英靈集三卷札記一卷（唐、殷璠）。第千九百三十冊、國秀集三卷（唐、芮挺章）。第千九百三十一―千九百三十三冊、才調集十卷（蜀、韋縠）。第千九百三十四―千九百三十七冊、古文苑二十一卷（宋、章樵注）。第千九百三十八―千九百五十三冊、文粹百卷（宋、姚鉉）。第千九百五十四冊、西崑酬唱集二卷。（編者未詳）第千九百五十五―千九百七十冊、樂府詩集百卷（宋、郭茂倩）。第千九百七十一―二千十冊、皇朝文鑑百五十卷目三卷（宋、呂祖謙）。第二千十一―二千十四冊、中州集十卷中州樂府一卷（金、元好問）。第二千十五冊、谷音二卷（元、杜本）。第二千十六冊、河汾諸老詩集八卷校一卷（元、房祺）。第二千十七―二千三十六冊、國朝文類七十卷目三卷（元、蘇天爵）。第二千三十七―二千三十八冊、皇元風雅前集六卷後集六卷。第二千三十九―二千五十八冊、皇明文衡百卷目二卷（明、程敏政）。第二千五十九冊、文心雕龍十卷（梁、劉勰）。第二千六十―二千七十五冊、唐詩紀事八十一卷（宋、計有功）。第二千七十六―二千八十七冊、增修詩話總龜四十八卷後集五十卷（宋、阮閱）。第二千八十八―二千九十冊、花閒集十二卷補二卷（蜀、趙崇祚）。第二千九十一・二千九十二冊、樂府雅詞三卷拾遺二卷（宋、曾慥）。第二千九十三・二千九十四冊、唐宋諸賢絕妙詞選十卷（宋、黃昇）。第二千九十五―二千九十七冊、中興以來絕妙詞選十卷（編者未詳）。第二千九十八・二千九十九冊、增修箋注妙選羣英草堂詩餘前後集二卷。第二千百・二千百一冊、朝野新聲太平樂府九卷（元、楊朝英）。

【四綍】694 シフツ　四本の棺を引く繩。〔禮、雜記下〕升正レ柩、諸侯執レ綍五百人、四綍皆銜レ枚。

【四勿】695 シブツ　孔子が顏回に教へた四つの誡。禮に非ざれば視る勿れ、禮に非ざれば聽く勿れ、禮に非ざれば言ふ勿れ、禮に非ざれば動く勿れ。〔論語、顏淵〕顏淵問レ仁、子曰、克レ己復レ禮、云云、顏淵曰、請問二其目一、子曰、非レ禮勿レ視、非レ禮勿レ聽、非レ禮勿レ言、非レ禮勿レ動。〔朱熹、齋居感興詩〕顏生躬二四勿一、曾子日三省。〔小學紺珠、性理類、四勿〕非レ禮勿レ視、非レ禮勿レ聽、非レ禮勿レ言、非レ禮勿レ動。　「號。

【四勿齋】696 シブツサイ　元、葉審言（9－31387・・210）の號。

【四勿學者】697 シブツガクシャ　清、王復禮（7－20823・・2063）の號。

【四勿先生】698 シブツセンセイ　宋、蔣峴（9－31820・・40）の號。

【四物】699 シブツ　❶四つの物。〔周禮、夏官、稾人〕稾人、掌レ受二財于職金一、以齎二其工一、弓六物、爲二三等一、弩四物、亦如レ之、矢八物、皆三等、箙亦如レ之。㋑葽・蜩・禾・木葉。〔詩、豳風、七月〕四月秀葽、云云、十月隕蘀、疏〕四月秀者葽之草也、五月鳴者蜩之蟲也、八月其禾可二穫刈一也、十月木葉皆隕落也、此四物漸而成、終落則將レ寒之候。㋺帷・幕・幄・帟。〔周禮、天官、幕人〕幕人、掌二帷幕幄帟綬之事一。〔注〕王出レ宮則有二是事一、在レ旁曰レ帷、在レ上曰レ幕、幕或在レ地、展二陳于上一、帷幕皆以レ布爲レ之、四合象二宮室一曰レ幄、王所レ居之帳也、鄭司農云、帟、平帳也、綬、組綬、所二以繫一レ帷也、玄謂、帟王在レ幕若二幄中一坐上承レ塵、幄帟皆以レ繒爲レ之、凡四物者、以レ綬連繫焉。㋩麒麟・鳳凰・龜・龍。四靈。〔杜預、春秋左氏傳序、麟鳳五靈王者之嘉瑞也、疏〕禮記禮運曰、麟鳳龜龍、謂二之四靈一、不レ言二五者一、彼稱二四靈一、以爲、畜則飲食有レ由也、其意言、四靈與二羞物一爲レ羣、四靈

既擾、則差物皆備、龍是魚鮪之長、鳳是飛鳥之長、麟是走獸之長、龜是甲蟲之長、飲食所レ須、唯此四物、四物之內、各擧二一長一、虎麟皆是走獸、故略云二四靈一。㊁茶・鹽・香藥・緡錢。〔宋史、食貨志下六〕自見二錢法行二京師一、錢入少出多、慶曆七年權二貨務一、緡錢入百十九萬、出二百七十六萬、以レ此較レ之、恐レ無二以贍給一、請如二沔議一、以二茶・鹽・香藥・緡錢四物一予レ之。❸四方の產物を以て造つた器。〔左氏、昭、二十〕一氣二體三類四物。〔注〕雜二用四方之物一以成レ器。

【四分】700 シブン ❶四つに分ける。〔左氏、昭、五〕四二分公室一、季氏擇二其二一。❷四方に分散する。〔易林〕十里望烟、散渙四分。

〔四分一〕701 シブイチ ❶四分の一。❷銅にその四分の一の銀をまぜた合金。朧銀ラブギン。

〔四分儀〕702 シブンギ 往時天體の高度を測るに用ひた器械。九十度の分度器に指針と望遠鏡とを裝置したもの。〔靈遠儀象志、天體儀〕地平之上面共分二內外中三層一、內層劃有二地平經度一、分二四象限一、而各爲二九十度一。

〔四分板〕703 シブイタ ❶厚さ四分許りの板。❷長さ一間、厚さ二分五厘位、幅一尺ほどの杉材。

〔四分律〕704 シブンリツ 佛經の名。六十卷。姚秦の佛陀耶舍 Buddhayaśas・竺佛念の共譯。小乘佛教の二十部中、曇無德 (Dharmagupta) 部の律で、比丘の二百五十戒・比丘尼の三百四十八戒等を規定してゐる。四分とは、古來內容上の區分ではなく、四回に誦出せられたのに由るとしてゐるが、寧ろ內容上の區分と見るのが正しい。初分は二十卷、二分は十五卷、三分は十四卷、四分は十一卷。〔戒本疏、一上〕佛滅百年、興二斯名教一、相傳云、於二上座部一搜二括博要一、契二同己見一者、集爲二一部一、四度傳レ文、盡二所詮相一、故云二四分一、此據二說所一レ至、非二義判一也、故二十犍度離分二三分一、可二義開一耶。

〔四分曆〕705 シブンレキ 曆法の名。後漢の章帝の元和二年に始めて用ひられたもので、一年の長さを三百六十五日四分一と認めて制定したもの。然し、一月の長さも、一年の長さも、實際の天象に對して過大なので、朔は三百年に一日、季節は四百年に三日の誤差を生ずる。〔後漢書、章帝紀〕二月甲寅、始用二四分歷一。〔後漢書、律曆志中〕四分曆、本起二圖讖一、最得二其正一。

〔四分五剖〕706 シブンゴボウ ちりぢりに分れ裂ける。四分五裂に同じ。〔揚雄、解嘲〕四分五剖、竝爲二戰國一。

〔四分五落〕707 ssŭ^{4} fen^{1} wu^{3} lao^{4} ちりぢりになること。

〔四分五裂〕708 シブンゴレツ ちりぢりに分れ裂ける。天下の大いに亂れるさま。四分五剖。〔六韜、龍韜、奇兵〕四分五裂者、所二以擊レ圓破レ方也。〔戰國、魏策〕魏南與レ楚而不レ與レ齊、則齊攻二其東一、東與レ齊而不レ與レ趙、則趙攻二其北一、不レ合二於韓一、則韓攻二其西一、不レ親二於楚一、則楚攻二其南一、此所謂四分五裂之道也。〔史記、張儀傳〕四分五裂。〔魏志、司馬朗傳〕洛乃四分五裂、戰爭之地、難二以自安一。〔柳宗元、龜背戲詩〕四分五裂勢未レ已、出レ無入レ有誰能知。

【四平】709 シヘイ ❶四方がたひらなこと。至る所、高低がない。〔戰國、魏策〕魏地方不レ過二千里一、卒不レ過二三十萬人一、又地四平、諸侯四通。❷東西南北をいふ。〔隋書、百官志上〕四平四翊爲二二十班一。〔注〕(四平)東南西北、四翊、前後左右。❸四方を平定する四種の將軍。平東將軍・平南將軍・平西將軍・平北將軍。〔晉書、職官志〕四征興二於漢代一、四安起二於魏初一、四鎭通二於柔遠一、四平止二於喪亂一。〔宋書、百官志上〕平東將軍一人、平南將軍一人、平西將軍一人、平北將軍一人、四平、魏世置。❹山名。江蘇省句容縣の東南。一名、方山。山頂平衍の故に名づける。下に方臺洞があり、金壇縣と界を分つ。〔輿地紀勝〕眞誥云、大茅西南有二四平山一、俗曰二方山一。

〔四平街〕710 シヘイガイ 地名。❶滿洲遼寧省梨樹縣の東南、南滿鐵道の沿縣。平齊・四西の兩鐵道も亦此處を以て起點とする。新舊二街から成り、新街は鐵道の開通以後に出來たもので、日露戰役の際兩軍が最後に對陣した所。❷滿洲遼寧省桓仁縣の西。邊陲の地。❸滿洲遼寧省東豐縣の西南、梅河の北岸。西は西豐縣の界に連なる。

〔四平八穩〕711 ssŭ^{4} pʻing^{2} pa^{1} wen^{3} 堅固な。平穩無事な。この上なく安全な。

【四蔽】712 シヘイ ❶四方からおほひふさぐこと。〔岑參、招二北客一文〕二江雙注、羣山四蔽、其地卑濕、其風胜脆。❷四つの弊害。〔鹿門隱書〕或問、君子之道、何如則可二以常行一矣、曰、去二四蔽一正二四正一、則可二以常行一矣。

【四表】713 シヘウ ❶四方のそと。四方のはて。又、四方。嵎夷・南交・昧谷・幽都。四夷。〔書、堯典〕光二被四表一、格二于上下一。〔傳〕其名聞充二溢四外一、至二于天地一。〔漢書、宣帝紀〕陛下聖德、充二塞天地一、光二被四表一。〔法言、孝至序〕四表之歡心。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕化溢二四表一、橫二被無窮一。〔小學紺珠、地理類、四表〕嵎夷東表・南交南表・昧谷西表・幽都北表。❷二十八宿の外の上下東西の極をいふ。〔禮、月令、月令第六、疏〕二十八宿之外、上下東西各有二萬五千里一、是爲二四遊之極一、謂二之四表一。❸明、金尼閣 (**11－40152・・1336**) の字。

【四廟】714 シベウ ❶高祖・曾祖・祖父・父の靈廟。〔禮、喪服小記〕王者禘二其祖之所二自出一、以二其祖一配レ之、而立二四廟一。〔疏〕既有レ配二天始祖之廟一、而更立二高祖以下四廟一、與二始祖一而五也。〔禮、曾子問〕祫二祭于祖一、則祝迎二四廟之主一。❷夏の禹王・吳の太伯・季札・伍子胥の四つの廟。〔隋唐嘉話〕狄內史仁傑、始爲二江南安撫使一、以二周赧王・楚王項羽・吳王夫差・越王句踐・吳夫槩王・春申君・趙佗・馬援・吳桓王等神廟七百餘所、有レ害二於人一、悉除レ之、惟夏禹・吳太伯・季札・伍胥四廟存焉。

【四辟】715 シヘキ 四方にひらく。一說に、春夏秋冬をいふ。〔莊子、天道〕明二於天一、通二於聖一、六通四辟。〔釋文〕四辟、謂二四方開一也。〔疏〕四辟者、謂二春夏秋冬一也。

【四壁】716 シヘキ ❶家の四圍の壁。轉じて、四壁のみで家具の無い貧家。〔戰國、秦策〕夫江上之處女、有二家貧而無レ燭者一、處女相與語欲レ去レ之、家貧無レ燭者將レ去矣、謂二處女一曰、妾以レ無レ燭故、常先至掃レ室布レ席、何愛下於餘明之照二四壁一者上、幸以賜レ妾、何妨二於處女一、妾自以爲レ有レ益二於處女一、何爲去レ我、處女相語以爲レ然而留レ之。〔史記、司馬相如傳〕文君夜亡奔二相如一、相如乃與馳歸二成都一、家居徒四壁立。〔注〕索隱曰、家空無二資儲一、但有二四壁一而已。〔阮籍、詠懷詩〕迴風吹二四壁一、寒鳥相因依。〔張華、雜詩〕蒹葭生二牀下一、蛛蝥網二四壁一。〔東皙、貧家賦〕唯四壁之常在、時弛落而壓レ鎭。〔南史、吳逵傳〕家徒四壁立、冬無二被袴一、晝則傭賃、夜則伐レ木燒レ塼、妻亦同レ逵、此誠無レ有二懈倦一。〔吳象之、少年行〕一擲千金渾是膽、家無二四壁一不レ知レ貧。❷四方の城壁。四墉。〔唐書、楊行密傳〕馬珣收二散卒三百一、自二黃州一間道趨二分寧一、云云、鏐將レ危、全諷列二四壁一、皆萬人。〔宋史、李綱傳上〕命レ綱復爲二尚書右丞一、充二京城四壁守禦使一。

〔四壁蕭條〕717 ssŭ^{4} pi^{4} hsiao^{1} tʻiao^{2} 貧乏の形容。家にはただ四方の壁あるのみで、道具類の無いこと。四壁の❶を見よ。

【四邊】718 シヘン ❶四方の國境。四境。〔鬼谷子、本經陰符〕四者不レ衰、四邊威勢、無レ不レ爲。〔史記、秦始皇紀〕請且止二阿房宮作者一、減二省四邊戍轉一。❷まはり。周圍。四方。〔宋書、天竺迦毘黎國傳〕其城四邊、悉紫紺石。〔南齊書、天文志上〕鄭玄云、月正掩レ日、日光從二四邊一出。〔李白、上留田行詩〕悲風四邊來、腸斷白楊聲。

〔四邊形〕719 シヘンケイ 幾何學用語。四本の直線で圍んだ平面形。四角形。〔幾何要法、論方形、界說〕已上方形四種、謂二之有法四邊形一、四種之外他方形、皆謂二之無法四邊形一。

〔四邊靜〕720 シヘンセイ 曲調の名。〔雲麓漫鈔〕巾之制、有二圓頂・方頂・磚頂・琴頂一、秦伯陽又以二磚頂一去二頂上之重紗一、謂二之四邊靜一。

【四籩】721 シヘン 四種の籩。籩は竹で造つた供物を盛る器。朝事の籩・饋食の籩・加籩・羞籩をいふ。〔周禮、天官、籩人〕掌二四籩之實一、朝事之籩、其實麷・蕡・白・黑・形鹽・膴・鮑魚・鱐、饋食之籩、其實棗・㮚・桃・乾䕩・榛實、加籩之實、蔆・芡・㮚・脯、羞籩之實、糗餌・粉・餈。〔小學紺珠、器用類、四籩〕朝事・饋食・加籩・羞籩。

【四辯】722 シベン 佛菩薩の四種の說法內容。法無礙辯(教法に精通すること)・義無礙辯(諸般の事に精通すること)・辭無礙辯(表現方法の巧みなこと)・樂說無礙辯(樂々と口演できること)。四無礙辯の略。又、四無礙解・四無礙智ともいふ。

〔倶舍論、二十七〕無礙解總說有レ四、一、法無礙解、二、義無礙解、三、詞無礙解、四、辯無礙解。

【四輔】723 ホシ ㊀四種の輔佐官。㋑前疑・後丞・左輔・右弼。四鄰。〔禮、文王世子〕設二四輔及三公一、不二必備一、唯其人、語レ使レ能也。〔疏〕其四輔者、案二尚書大傳一云、古者天子必有二四鄰一、前曰レ疑、後曰レ丞、左曰レ輔、右曰レ弼。〔禮、禮運〕卜筮瞽侑、皆在二左右一。〔注〕侑、四輔也。〔史記、夏紀〕予卽辟、女匡二拂予一、女無二面諛退而謗一レ予、敬四輔臣、諸衆讒嬖臣、君德誠施、皆清矣。〔注〕集解曰、尚書大傳曰、古者天子必有二四鄰一、前曰レ疑、後曰レ丞、左曰レ輔、右曰レ弼。〔北史、周宣帝紀〕大象元年春正月、初置二四輔官一、以二大冢宰越王盛一爲二大前疑一、蜀公尉遲迥爲二大右弼一、申公李穆爲二大左輔一、大司馬隋公楊堅爲二大後丞一。〔小學紺珠、職官類、四輔〕前疑・後丞・左輔・右弼。㋺太師・太傅・太保・少傅。〔漢書、平帝紀〕安漢公、四輔三公卿大夫吏民爲二百姓困乏一。〔注〕張晏曰、王莽爲二太傅一、孔光爲二太師一、王舜爲二太保一、甄豐爲二少傅一、是爲二四輔一。〔漢書、孔光傳〕詔曰、太師光聖人之後、先師之子、德行純淑、道術通明、居二四輔職一、輔二道于帝一、今年耆有レ疾、俊艾大臣、惟國之重、其猶不レ可二以闕一焉。㊁四維を輔助する官。〔書、洛誥〕誕保二文武受民一、亂爲二四輔一。〔傳〕大安二文武所レ受之民一、治レ之爲二我四維之輔一、明レ當三依二倚公一。㊂四つの星羣の名。㋑房の四星をいふ。〔史記、天官書〕犯二四輔一、輔臣誅。〔注〕索隱曰、案、謂三月犯二房星一也、四輔、房四星也、房以レ輔レ心、故曰二四輔一。㋺東蕃の四星。上相・次相・次將・上將。〔晉書、天文志上〕東蕃四星、南第一星曰二上相一、第二星曰二次相一、第三星曰二次將一、第四星曰二上將一、所謂四輔也。㋩極星の側の四星。四弼星。〔宋史、天文志二〕四輔四星、又名二四弼一、在二極星側一、是曰二帝之四鄰一、所下以輔二佐北極一、而出上レ度授レ政也。㊃近畿の四つの州郡。㋑唐の同・華・岐・蒲。〔小學紺珠、地理類、四輔〕同・華・岐・蒲。（鳳翔府　蒲河中府、唐開元。）㋺宋の崇寧中、四輔郡を置き、穎昌府を南輔、襄邑縣を東輔、鄭州を西輔、澶州を北輔とした。〔宋史、徽宗紀二〕崇寧四年秋七月辛丑、置二熒惑壇一、置二四輔郡一、以二穎昌府一爲二南輔一、襄邑縣爲二東輔一、鄭州爲二西輔一、澶州爲二北輔一。

【四牡】724 ボシ ㊀車につけた四頭の牡馬。〔詩、衞風、碩人〕四牡有レ驕、朱幩鑣鑣。〔集傳〕四牡、車之四馬。〔詩、秦風、小戎〕四牡孔阜、六轡在レ手。〔詩、小雅、六月〕四牡騤騤、載二是常服一。〔漢書、韋賢傳〕黼衣朱紱、四牡龍旂。〔沈約、齊安陸昭王碑〕四牡方馳、六龍頓轡。㊁詩經、小雅、鹿鳴之什の篇名。西伯が殷王の使臣の功苦を勞つて之を歌樂したもの。〔詩、小雅、四牡序〕四牡、勞二使臣之來一也、有レ功而見レ知則說矣。〔左氏、襄、四〕鹿鳴、君所三以嘉二寡君一也、敢不レ拜レ嘉、四牡、君所三以勞二使臣一也、敢不二重拜一。

【四封】725 シホウ 四方の國境。四境。〔左氏、襄、二十一〕季孫曰、我有二四封一、而詰二其盜一、何故不可。〔國語、越語下〕四封之外、敵國之制。〔戰國、楚策〕昔者葉公子高、身獲二於表薄一、而財二於柱國一、定二白公之禍一、寧二楚國之事一、恢二先君一以揜二方域之外一、四封不レ侵、名不レ挫二於諸侯一、當二此之時一也。天下莫三敢以レ兵南鄉一。〔管子、大匡〕乃令二四封之內一。〔史記、張儀傳〕敝邑恐懼懾伏、繕レ甲厲レ兵、飾二車騎一、習二馳射一、力レ田積レ粟、守二四封之內一、愁二居懾處一、不二敢動搖一。

【四縫】726 シホウ 四面。正面・背面・左側・右側等をいふ。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕屍有二四縫一。

【四魔】727 シマ 佛四種の障礙。天魔（他化自在天は人の善事を害ふからいふ）・煩惱魔（煩惱は身心を害するからいふ）・陰魔（五陰、卽ち吾人の身心は苦惱を生ずるからいふ）・死魔（人命を奪ふからいふ）。魔は魔羅 Māra の略、障礙・破壞の意。〔勝鬘經〕如來以二無上調御一降二伏四魔一。〔義疏〕四魔者、天魔是惡緣、煩惱魔是惡因、陰魔・死魔是惡果也。

【四孟】728 シマウ 四時のはじめの月。孟春・孟夏・孟秋・孟冬。陰曆孟春正月・孟夏四月・孟秋七月・孟冬十月。〔漢書、天文志〕冐薄蝕、山陵淪亡、辰星出二於四孟一。〔漢書、劉向傳〕秦始皇之末、至二二世時一、日月薄食、山陵淪亡、辰星出二於四孟一。〔注〕師古曰、四時之孟月也。〔曹植、仲雍哀辭〕且四孟之末レ周、將レ願二乎一齡一。

【四曼】729 シマン 佛眞言所立の三大中の相大。大・三・法・羯の四種の曼荼羅。曼荼羅（**5**－**14298**・・62）を見よ。

【四密】730 シミツ 四方にふさがる。四蔽。〔韻府引摯虞賦〕風索索而傍起、雲霏霏而四密。〔王勃、龍懷寺碑〕葉磴三休、花巖四密。

【四蜜】731 ssŭ⁴ mi⁴ 酒席に用ひる四種の蜜漬けの果物。たとへば梨・棗・林檎・山査の如きもの。

【四民】732 シミン 人民の四階級。士・農・工・商。〔書、周官〕司空掌二邦土一、居二四民一、時二地利一。〔傳〕冬官卿、主二國空土一、以居二民士農工商四民一。〔穀梁、成、元〕古者有二四民一、有二士民一、有二商民一、有二農民一、有二工民一。〔國語、齊語〕四民者勿レ使二雜處一。〔注〕四民、謂二士農工商一。〔管子、小匡〕士農工商四民者、國之石民也。〔漢書、食貨志上〕士農工商四民有レ業、學以居レ位曰レ士、闢レ土殖レ穀曰レ農、作レ巧成レ器曰レ工、通レ財鬻レ貨曰レ商。〔小學紺珠、人倫類、四民〕士・農・工・商。

【四民平等】733 シミンビャウドウ 武士のみを重んぜず、士農工商、卽ち一般人民が、皆同等の權利を持つて平等なこと。

【四民均則王道興】734 シミンヒトシケレバスナハチワウダウオコル 民に田を均しく分ち、且、其の賦稅を均しくして、公平な政治をすれば、天下は安穩となり、王道が興る。〔說苑、政理〕春秋曰、四民均　則王道興、而百姓寧、所謂四民者、士農工商也。

【四明】735 シメイ ㊀山名。㋑浙江省鄞縣の西南、餘姚縣の南。道書に第九洞天といひ、又、丹山赤水之天と名づける。〔唐書、地理志五〕越州會稽郡餘姚縣有二風山四明山一。〔唐六典、尚書、戶部、郎中員外郎〕江南道、其山名有二四明一。〔孔靈符、會稽記〕四明山、高峯軼レ雲、連岫蔽レ日、道書謂二丹山赤水洞天一、上有二四窗一、穴通二日月星辰之光一、故號二四明一。〔洞天福地記、三十六洞天第九〕四明山、二百八十峯、洞週廻一百八十里、名二丹山赤水之天一、上有二四門一、通二日月星辰之光一、故曰二四明山一。〔三才圖會、四明山圖考〕四明山者、天台之委也、高興華頂、齊跨二數邑一、自二奉化雪竇一入、則直謂二之四明一、行二山中一大約五六十里、山山盤互、竹樹葱蒨、衆壑之水、亂レ流爭趨、入益深、猿鳥之聲俱絕、悄然嘻咽通、顥氣覺下與二世界一如上レ絕、不レ似二天台之近一レ人也、道書稱二第九洞天一、峯凡二百八十二、中有二芙蓉峯一、刻二漢隸四明山心四字一、其山四穴、如二天窓一、隔レ山通二日月星辰之光一、故曰二四明一。〔讀史方輿紀要、浙江、名山〕四明山、在二紹興府餘姚縣南百十里、甯波府鄞縣西南百五十里一、亙二兩郡之境一、蟠二跨數縣一、由二鄞縣小溪鎭一入者、曰二東四明一、由二餘姚白水山一入者、曰二西四明一、由二奉化雪竇山一入者、則直曰二四明一、層巒絕壁、深谿廣谷、高迴幽異、孫綽賦云、涉レ海則有二方丈・蓬萊一、登レ陸則有二四明・天台一、蓋靈仙之窟也。㋺福建省羅源縣の西。一名、毒火山。〔太平寰宇記〕四峯高列、中有二古壇一、生二釣絲竹一、交二蔭其上一、有二石井一、泉甘如レ蜜。〔福建通志〕相傳、赤松子煉レ丹處、又長樂縣西北、亦有レ山名二四明一。㊁字號。㋑清、董維（**9**－**31433**・・6）の字。㋺井上潛の號。井上四明（**1**－**258**・・61）を見よ。

【四明家】736 シメイカ 佛四明尊者の流派を嗣ぐもの、天台の正統。四明尊者は宋の知禮法師。

【四明狂客】737 シメイキヤウカク 唐、賀知章（**10**－**36725**・・143）の號。〔唐書、賀知章傳〕知章晚節尤誕放、遨二嬉里巷一、自號二四明狂客一。〔翰林志〕賀知章、會稽人、天寶初、夢遊二帝居一、數夕寤、及請爲二道士一、還二鄉里一、詔賜二鏡湖剡川一、自號二四明狂客一。

【四明居士】738 シメイコジ 明、周之士（**2**－**3441**・・681）の號。

【四明山人】739 シメイサンジン 石川凹の號。石川丈山（**8**－**24024**・・479）を見よ。

【四明山道士】740 シメイサンダウシ 元、陳秀民（**11**－**41698**・・939）の號。

【四明文獻集】741 シメイブンケンシフ 書名。五卷。明、鄭眞・陳朝輔共編。もと總集であつたが、既に散佚し、今は獨り王應麟の文百七十餘篇を存するのみ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【四明洞天總持】742 シメイドウテンソウヂ 清、全祖望（**1**－**1424**・・220）の號。

【四明它山水利便覽】743 シメイタサンスイリベンラン 書名。二卷。宋、魏峴撰。上卷には源流の規則及び修造の始末を雜へ志し、下卷は碑記と題詠の詩を輯む。

〔四庫提要、史、地理類〕。

【四溟】744 シメイ ❶四方の海。四海。天下。〔張協、雜詩〕雲根臨二八極一、雨足灑二四溟一。〔注〕良曰、四溟、謂二四海一也。〔宋書、孝武帝紀〕周王驥迹、實窮二四溟一。〔陶弘景、許長史舊館壇碑〕化通二八寓一、功浹二四溟一。〔張說、喜レ雨賦〕舒二四溟之清潤一、卷二六合之煩囂一。❷字號。㋑明、朱謀㙔(**6－14424··992**)の號。㋺岡部世懋の號。岡部四溟(**4－7962··62**)を見よ。

【四溟集】745 シメイシフ 書名。十卷。明、謝榛撰。謝榛の詩集。後、補訂し、更に自ら撰ぶ所の詩家直話二卷を卷首に附す。榛の詩は傳へるに足るが、詩論には迂謬の語が多い。〔四庫提要、集、別集類〕。

【四溟山人】746 シメイサンジン 明、謝榛(**10－35827··132**)の號。

【四溟詩話】747 シメイシワ 書名。四卷。明、謝榛撰。主として漢魏から唐までの詩體・作詩法を論じて解說に及ぶ。凡て三百餘條。〔續歷代詩話〕。

【四溟山人集】748 シメイサンジンシフ 書名。二十四卷。明、謝榛撰。四溟集の別本。五古一卷・七古二卷・五律七卷・七律五卷・五排一卷・七排一卷・五絕一卷・七絕一卷。〔明史、藝文志四〕謝榛、四溟山人集二十卷、詩四卷。

【四面】749 シメン ❶四方。周圍。〔禮、鄕飲酒義〕四面之坐、象二四時一也。〔管子、霸形〕游二於鐘磬之閒一、而無二四面兵革之憂一。〔史記、循吏傳〕四面望而法レ之。〔阮籍、詠懷詩〕嘉賓四面會。〔庾信、春望詩〕春望上二春臺一、春窗四面開。〔王昌齡、古意詩〕桃花四面發、桃葉一枝開。❷四つの面。

【四面鞍】750 シメングラ 鞍の一種。〔文正記〕四面鞍、五方口、手心・手事、盡二鞭鞚譜一。

【四面體】751 シメンタイ 幾何學用語。四つの平面で圍まれた立體。

【四面碑】752 シメンヒ 唐の顏眞卿が父惟貞の爲に建てた碑。自ら碑文を撰し隸書で書いた。篆額は、李陽冰の書。碑文を四面に環刻してあるからいふ。顏家廟碑(**12－43591··200**)を見よ。

【四面風】753 シメンフウ つむじ風。羊角風(**9－28425··20**)に同じ。〔拾遺記、十、崑崙山〕（崑崙山）四面有レ風、羣仙常駕レ龍乘レ鶴、遊二戲其閒一、四面風者、東西南北一時俱起也。

【四面受レ敵】754 シメンテキヲウク 四方から敵に攻め寄せられる。〔史記、留侯世家〕雒陽雖レ有二此固一、其中小不レ過二數百里一、田地薄、四面受レ敵、非二用レ武之國一也。

【四面楚歌】755 シメンソカ ❶楚の項羽が垓下で漢軍に圍まれ、四面皆楚の歌を歌ふのを聞いて、漢が已に楚を降服させたことを嘆じた故事。〔史記、項羽紀〕夜聞二漢軍四面皆楚歌一、項王乃大驚曰、漢皆已得レ楚乎、是何楚人多也。〔吳志、胡綜傳〕昔武王伐レ殷、殷民倒レ戈、高祖誅レ項、四面楚歌。❷轉じて、孤立して援助なく、四方皆敵なることの喩。

【四目】756 シモク ❶四つの眼。よつめ。〔山海經、南山經〕又東四百里、曰二令丘之山一、有レ鳥焉、其狀若レ梟、人面四目、而有レ耳、其名曰レ顒、其鳴自號也。〔淮南子、說山訓〕孕婦見レ兔而子缺脣、見レ麋而子四目。〔魏志、武帝紀、注〕汝欲レ觀二曹公一耶、亦猶レ人也、非レ有二四目兩口一、但多レ智耳。〔太平御覽、人事部、目〕春秋孔演圖曰、蒼頡四目、是謂二並明一。❷四方の民事を見る眼識。明二四目一、達二四聰一を見よ。〔韓愈、感春詩〕幸逢三堯舜明二四目一、條理品彙皆得レ宜。〔宋史、趙普傳〕四目未レ察、使レ之明レ之、四聰未レ至、使レ之達レ之。

【四目垣】757 ヨツメガキ 竹を橫縱に組みあはせ、すきまを方形に造つた垣。

【四目紋】758 ヨツメノモン 蛇の目を方形に書いたものを四つ組み合せた紋所。

【明二四目一達二四聰一】759 シモクヲアキラカニシシソウヲタツス 廣く四方の事物を見聞すること。〔書、舜典〕詢二于四岳一、闢二四門一、明二四目一、達二四聰一。〔傳〕廣二視聽於四方一、使三天下無二壅塞一。〔韓詩外傳、六〕故牧者所下以開二四目一通中四聰上也。

【四門】760 シモン ❶四方の門。〔書、舜典〕賓二于四門一、四門穆穆。〔傳〕四門、四方之門。❷學校の名。四門學を見よ。❸巖の名。廣西省懷集縣の西。平地に突起し、高さ數百丈、狀、覆鐘の如く、百人を容れる。石乳下垂し、凝つて石柱をなすもの八つ、蓮花をなすもの一つあり、花石寨ともいふ。〔明一統志〕四門巖、在二梧州府懷集縣西五十里一、山突二起平地一、下有二石室一、外有二四門一、巖中石乳凝結、爲レ柱者八、爲二蓮花一者一。

【四門學】761 シモンガク 後魏の時、庶人を入學せしめる爲に、國子學、卽ち大學の四方の門側に建てた學舍。其の教官を四門博士といふ。歷代、之に因り、元以後、廢す。〔北史、魏世宗紀〕正始四年六月、詔二有司一、準二前式一、置二國子一、立二太學一、樹二小學於四門一。〔柳宗元、四門助教廳壁記〕後魏太和中、立二學于四門一、置二助教二十人一。〔唐書、選擧志上〕有二文辭史學一者、入二四門學一爲二俊士一。〔文獻通考、學校考、太學〕孝文太和中、改二中書一爲二國子一、又開二皇子之學一、建二明堂辟雝一、及レ遷二都洛陽一、立二國子太學・四門小學一。

【四門博士】762 シモンハカセ 學官の名。後魏の時、國子太學・四門小學を建て、皇宗博士と共に置いて、四門小學の教官としたもの。〔唐六典、國子監、四門博士〕四門博士、掌レ教下文武官七品以上、及侯伯子男之子爲二學生一者、若庶人之子爲二俊士生一者上。〔韓愈、與二于襄陽一書〕將仕郎守四門博士。〔資治通鑑、唐紀〕〔德宗、貞元十二年〕四門博士韋渠牟、嘲談辯給。〔注〕後魏劉芳表云、太和二十年、立二四門博士一、於二四門一置レ學、按、禮記云、天子設二四學一、鄭注云、周四郊之虞庠也、今以二其遼遠一故置二於四門一、請移與二太學一同レ處、從レ之、唐百官志、四門館博士、正七品上、掌レ教下七品以上、侯伯子男子爲レ生、及庶人子爲二俊士生一者上。〔文獻通考、學校考、太學〕宣武時、復詔、營二國學一、樹二小學於四門一、大選二儒生一、以爲二小學博士一、員四十人、雖二黌宇未レ立、而經術彌顯。

【四野】763 シヤ 四方の郊外。四坰。〔漢書、息夫躬傳〕邊竟雷動、四野風起。〔後漢書、馬融傳〕摮二斂九藪之動物一、繯二橐四野之飛征一。〔注〕四野、四方之野。〔阮籍、詠懷詩〕登レ高臨二四野一、北望二青山阿一。〔張華、情詩〕游二目四野外一、逍遙獨延佇。

【四用】764 シヨウ 目・耳・口・心の四つのはたらき。〔淮南子、繆稱訓〕天有二四時一、人有二四用一、何謂二四用一、視而形レ之、莫レ明二於目一、聽而精レ之、莫レ聰二於耳一、重而閉レ之、莫レ固二於口一、含而藏レ之、莫レ深二於心一、目見二其形一、耳聽二其聲一、口言二其誠一、而心致二之精一、則萬物之化、咸有レ極矣。

【四墉】765 シヨウ 四方の城壁。四鄘。四壁。〔左氏、襄、九〕二師令二四鄕正敬享一、祝宗用二馬于四墉一、祀二盤庚于西門之外一。〔注〕墉、城也、用レ馬祭二于四城一、以禳レ火。

【四鄘】766 シヨウ 四方の城壁。四墉に同じ。〔左氏、昭、十八〕郊人助二祝史一、除二於國北一、禳二火于玄冥回祿一、祈二于四鄘一。〔注〕鄘、城也、城積レ土、陰氣所レ聚、故祈二祭之一、以禳二火之餘災一。

【四欲】767 シヨク 四つの欲。❶佚樂・富貴・存安・生育。〔管子、牧民〕政之所レ興、在レ順二民心一、政之所レ廢、在レ逆二民心一、民惡二憂勞一、我佚二樂之一、民惡二貧賤一、我富二貴之一、民惡二危墜一、我存二安之一、民惡二滅絕一、我生二育之一、能佚二樂之一、則民爲レ之憂勞、能富二貴之一、則民爲レ之貧賤、能存二安之一、則民爲レ之危墜、能生二育之一、則民爲レ之滅絕、故刑罰不レ足三以畏二其意一、殺戮不レ足三以服二其心一、故刑罰繁而意不レ恐、則令不レ行矣、殺戮衆而心不レ服、則上位危矣、故從二其四欲一、則遠者自親、行二其四惡一、則近者叛レ之、故知二予之爲レ取者、政之寶也。❷壽・安・榮・逸。〔呂覽、適音〕人之情、欲レ壽而惡レ夭、欲レ安而惡レ危、欲レ榮而惡レ辱、欲レ逸而惡レ勞、四欲得、四惡除、則心適矣。❸佛情・色・食・婬。〔法苑珠林、三界篇、四洲、會名〕欲有二四種一、一是情欲、二是色欲、三是食欲、四是婬欲。

【四老】768 シラウ 四人の老人。商山の四皓をいふ。四皓(117)の❶を見よ。〔張說、贈二崔公一詩〕我聞西漢日、四老南山幽。〔杜牧、題二商山四皓廟一詩〕南軍不レ袒左邊袖、四老安レ劉是滅レ劉。

【四牢】769 シラウ 四つのいけにへ。〔周禮、秋官、掌客〕饔餼九牢、其死牢如二餐之陳一、牽四牢、米百有二十筥。〔左氏、昭、二十一〕將レ復二諸寡君一、魯人恐加二四牢一焉、爲二十一牢一。

【四郎】770 シラウ 第四番目の男子。四男。〔南史、王訓傳〕四郎眉目踈朗、擧動和韻。

【四郎探母】771 ssŭ^{4} jang^{2} tʻan^{4} mu^{3} 西皮劇の一種。又、四盤山といふ。楊家の八將が幽州に攻入つて遼に破られ、四郎が虜となつた故事を脚色したもの。

【四廊】772 シラウ 四方にめぐらした渡殿。〔白居易、

南龍興寺殘雪詩〕南龍興寺春晴後、緩步徐吟遶二四廊一。〔杜牧、冬至日寄二小姪阿宜一詩〕去年學二官人一、竹馬遶二四廊一。

【四履】773 シリ 四方を征してその履ツクの踐み行く界。四方の境界をいふ。〔左氏、僖、四〕管仲對曰、昔召康公命二我先君大公一曰、五侯九伯、女實征レ之、以夾二輔周室一、賜二我先君履一、東至二于海一、西至二于河一、南至二于穆陵一、北至二于無棣一。〔注〕履、所二踐履一之界。〔陳書、高祖武帝紀上〕二南崇絕、四履遐曠。〔資治通鑑、唐紀〕（文宗、大和七年）四履所レ治、指爲二別館一。〔注〕左傳、管仲曰、賜二我先君履一、東至二於海一、西至二于河一、南至二於穆陵一、北至二于無棣一、杜預注云、履、所二踐履一之界、後人言レ賜レ履者本レ此、此四履、謂二四境所レ至。

【四離】774 シリ ❶作詩上に於ける四つの離るべきこと。一に、道情を期するも果僻を離れ、二に、經史を用ひるも書生を離れ、三に、高逸を尙ぶも迂遠を離れ、四に、飛動を欲するも輕浮を離れる。〔詩式、四離〕雖レ期二道情一而離二果僻一、雖レ用二經史一而離二書生一、雖レ尙二高逸一而離二迂遠一、雖レ欲二飛動一而離二輕浮一。❷冬至・夏至・春分・秋分の前一日をいふ。大忌の日。〔協紀辨方書、義例四、四離、四絕〕玉門經曰、離者、陰陽分至前一辰也、謂二建卯之月、建酉之月、陰氣出陽氣入、建子之月、陰氣降陽氣升、建午之月、陽氣降陰氣升一、故先一日爲二四離辰一也、李鼎祚曰、此日忌二出行征伐一、曹震圭曰、四離者、冬至前一日水離、夏至前一日火離、春分前一日、陽體分而木亦離也、秋分前一日、陰體分而金亦離也、故名曰二四離一。

【四驪】775 シリ 四頭の黑色の馬。〔詩、齊風、載驅〕四驪濟濟、垂轡瀰瀰。〔集傳〕驪、馬黑色也。

【四流】776 シリウ ❶四つの流。❷山名。湖北省蘄春縣の東北。水源から分れて四方に流れる。〔太平寰宇記〕山勢迤邐、有二泉水一、分二四流一、南流入二蘄春界一、西流入二蘄水界一、北流入二霍山界一、東流入二太湖界一。❸佛 シル 有情の漂流して息まない四法。有見流（三界の見惑）・欲流（見及び無明を除いた欲界の一切諸惑）・有流（見及び無明を除いた上二界の一切の諸惑。有は生死の果報不亡の義）・無明流（三界の無明）。〔王巾、頭陀寺碑文〕彼岸者引二之於有一、則高謝二四流一、推二之於無一、則俯弘二六度一。〔注〕善曰、大智度論曰、欲流・有流・無明流・有見流。

【四立】777 シリツ 立春・立夏・立秋・立冬の四節。〔宋書、律曆志中〕立春・立夏・立秋・立冬者、云云、各四立之前、土用レ事日也。

【四量】778 シリャウ 四種のます。豆・區・釜・鍾。四升を豆、四豆を區、四區を釜、十釜を鍾とする。〔左氏、昭、三〕齊舊四量、豆區釜鍾、四升爲レ豆、各自二其四一、以登二於釜一、釜十則鍾。〔注〕四豆爲レ區、區、一斗六升也、四區爲レ釜、釜、六斗四升也、鍾、六斛四斗。〔小學紺珠、律歷類、四量〕豆・區・釜・鍾。

【四略】779 シリャク 四方を犯しかすめる。四方を略奪する。〔唐書、藩鎭傳序〕賊夫貪レ心、未レ及二畔岸一、淫レ名越レ號、走レ兵四略、以飽二其志一。

【四呂】780 シリョ 宋の呂大忠・呂大防・呂大鈞・呂大臨の幷稱。〔小學紺珠、氏族類、四呂〕呂大忠進伯・大防微仲・大鈞和叔・大臨與叔。

【四閭】781 シリョ 四つの閭里。〔周禮、地官、族師〕四閭爲レ族、八閭爲レ聯。

【四稜】782 シリョウ 四方のかど。〔周賀、寄二金陵僧一詩〕行登總到諸山寺、坐聽蟬聲滿二四稜一。

【四稜簡】783 シリョウカン 四つのかどがある刀形の兵器。〔水滸傳、六十三回〕三股叉直迸二寒光一、四稜簡橫拖二冷霧一。

【四龍】784 シリョウ ❶四匹の龍。〔漢書、禮樂志〕乘二玄四龍一、回馳北行。〔易林〕傳說休明、驂二御四龍一、周徑萬里、無レ有二危凶一。❷四種の龍。〔宋書、符瑞志中〕黃龍者、四龍之長也、不レ漉レ池而漁、德至二淵泉一、則黃龍游二於池一、能レ高能レ下、能レ細能レ大、能レ幽能レ冥、能レ短能レ長、乍存乍亡。❸四人のすぐれた人を龍に喩へていふ。㋑後漢の李修の子、亮・叔・訓・秀。〔東觀漢記〕李元禮祖父修、安帝時、子亮・叔・訓・季、號二四龍一、皆爲二牧守一焉。〔小學紺珠、氏族類、四龍〕李脩子、亮・叔・訓・秀。㋺房諶の子、豫・坦・邃・熙。〔小學紺珠、氏族類、四龍〕房諶四子、豫・坦・邃・熙、號二四龍一。

【四輪】785 シリン 四つの輪。又、四つ輪のある車。四輪車を見よ。〔宋書、禮志五〕漢制、大行載二輼輬一、車四輪、其飾如二金根一。

【四輪車】786 シリンシャ 漢の王莽の造つた四つの輪のある車。〔漢書、王莽傳下〕莽乃造二華蓋九重一、高八丈一尺、金瑵羽葆、載以二祕機四輪車一、駕二六馬一、力士三百人、黃衣幘、車上人擊レ鼓、輓者皆呼二登仙一、莽出令レ在レ前。

【四鄰】787 シリン ❶四方の隣り合つた國。〔書、蔡仲之命〕懋二乃攸レ績、睦二乃四鄰一、以蕃二王室一、以和二兄弟一。〔禮、檀弓下〕夫子聽二衞國之政一、修二其班制一、以與二四鄰一交、衞國之社稷不レ辱、不二亦文一乎。〔左氏、襄、二十四〕四鄰諸侯、不レ聞二令德一、而聞二重幣一。〔國語、齊語〕以安二四鄰一、則四鄰之國親レ我矣。❷四人の輔佐役、前疑・後丞・左輔・右弼。四輔。四近。〔書、益稷〕予違汝弼、汝無三面從、退有二後言一、欽二四鄰一、庶頑讒說、若不レ在レ時、侯以明レ之、撻以記レ之、書用識哉、欲二並生一哉。〔傳〕四近、前後左右之臣。〔尙書大傳、虞夏傳〕古者天子必有二四鄰一、前曰レ疑、後曰レ丞、左曰レ輔、右曰レ弼。〔孔叢子、論書〕孟懿子問、書曰、欽二四鄰一、何謂也、孔子曰、王者前有レ疑、後有レ丞、左有レ輔、右有レ弼、謂二之四近一。❸隣り近所。隣家。近隣。〔列女傳、節義、周主忠妾傳〕四鄰爭レ娶レ之。〔盧綸、村南逢二病叟一詩〕雙膝過レ頭頂在レ肩、四鄰知レ姓不レ知レ年。〔陸龜蒙、小齋詩〕四鄰多是老農家、百樹維桑半頃麻。❹あたり。四邊。四處。〔王維、與二盧員外象一過二崔處士興宗林亭一詩〕綠樹重陰蓋二四鄰一、青苔日厚自無レ塵。〔朱超道、舟中望レ月詩〕大江闊千里、孤舟無二四鄰一。〔劉長卿、鄖上送三韋司士歸二上都舊業一詩〕蒼苔白露生二三徑一、古木寒蟬滿二四鄰一。

【四鄰人定】788 シリン ヒトサダマル 夜がふけて人の往來も絕え、あたりの靜かなこと。〔藤森弘庵、春雨樓記〕四鄰人定、車馬聲絕。

【四鄰八舍】789 ssŭ^4 lin^2 pa^2 shê^4 あたり。ほとり。

【四類】790 シルイ ❶三皇・五帝・九皇・六十四民をいふ。一說に、日・月・星・辰をいふ。〔周禮、春官、小宗伯〕兆二五帝於四郊一、四望四類亦如レ之。〔注〕鄭司農云、四類、三皇・五帝・九皇・六十四民、咸祀レ之、玄謂、四類、日月星辰、運行無レ常、以二氣類一爲二之位一、兆二日於東郊一、兆下月與二風師一於西郊上、兆二司中司命於南郊一、兆二雨師於北郊一。〔小學紺珠、制度類、四類〕日・月・星・辰。❷四つの種類。㋑五色・五聲・五臭・五味。〔尹文子、大道上〕五色・五聲・五臭・五味、凡四類、自然存焉、天地之閒、而不レ期レ爲二人用一、人必用レ之。㋺經・史・子・集。四庫(267)の❶・四部(689)の❸を見よ。〔唐書、藝文志序〕自レ漢以來、史官列二其名氏篇第一、以爲二六藝九種七略一、至レ唐始分爲二四類一、曰二經史子集一。〔小學紺珠、藝文類、四類〕經・史・子・集。㋩日曆を求める上に於ける四類。年表・官閥・政迹・凡例。〔小學紺珠、藝文類、四類〕年表・官閥・政迹・凡例、汪藻修二元符以來日曆一、爲二四類一求レ之。

【四禮】791 シレイ ❶四つの大きな儀式。冠・婚・喪・祭。〔文中子、禮樂〕冠禮廢、天下無二成人一矣、昏禮廢、天下無二家道一矣、喪禮廢、天下遺二其親一矣、祭禮廢、天下忘二其祖一矣。〔齊家寶要、上、二〕四禮當レ行。〔注〕先王制二冠婚喪祭四禮一、以範二後人一。〔小學紺珠、人倫類、四禮〕冠・昏・喪・祭。❷婦の夫に事へる四つの禮。鷄初めて鳴き、盥漱櫛縰し、笄總して朝するに於ては君臣の道を盡し、惻隱の恩に於ては父子の道を盡し、會計の有無に於ては兄弟の道を盡し、閨閫の內、衽席の上に於ては朋友の道を盡す。〔白虎通、嫁娶〕婦事レ夫有二四禮一焉、雞初鳴、咸盥漱櫛縰、笄總而朝、君臣之道也、惻隱之恩、父子之道也、會二計有無一、兄弟之道也、閨閫之內、衽席之上、朋友之道也。〔小學紺珠、人倫類、四禮〕雞初鳴、咸盥漱櫛縰、笄總而朝、君臣之道也、惻隱之恩、父子之道也、會計有無、兄弟之道也、閨閫之內、朋友之道也。

【四靈】792 シレイ ❶四つの神靈ある獸。麟・鳳・龜・龍。四物。〔禮、禮運〕何謂二四靈一、麟鳳龜龍、謂二之四靈一。〔說苑、辨物〕凡六經、帝王之所レ著、莫レ不レ致二四靈一。〔小學紺珠、動植類、四靈〕麟・鳳・龜・龍。❷天の四靈。蒼龍・白虎・朱雀・玄武。〔三輔黃圖、三、未央宮〕蒼龍・白虎・朱雀・玄武、天之四靈、以正二四方一。❸蒼帝靈威仰・黃帝含樞紐・白帝白

招拒・黑帝協光紀。〔張衡、東京賦〕尊㆓赤氏之朱光㆒、四靈懋而允懷。〔注〕綜曰、四靈、蒼帝神名㆓靈威仰㆒、赤帝神名㆓赤熛怒㆒、黃帝神名㆓含樞紐㆒、白帝神名㆓白招拒㆒、黑帝神名㆓協光紀㆒、今五云㆓四靈㆒、謂㆓除㆑赤餘有㆒四。❹宋の詩家、徐照・徐璣・翁卷・趙師秀。皆永嘉の人なので、永嘉の四靈といふ。〔四庫提要、集、別集類〕芳蘭軒集一卷、宋徐照撰、照字道暉、一字靈暉、永嘉人、與㆓徐璣・翁卷・趙師秀㆒號曰㆓永嘉四靈㆒、照、卽四靈之首也。

【四列】793 シレツ　❶中國の山を分けて四列とする說。禹貢の山の三條四列に本づく。三條は班固に始まり、四列は鄭玄に起る。〔書、禹貢、導㆓岍及岐㆒至㆓于荊山㆒、疏〕鄭玄以爲、四列、導㆑岍爲㆓陰列㆒、西傾爲㆓次陰列㆒、嶓冢爲㆓次陽列㆒、岷山爲㆓正陽列㆒。❷四つのならび。四つの行列。〔唐書、南蠻下、驃傳〕字舞舞者十六人、爲㆓四列㆒。

【四裂】794 シレツ　四つに裂ける。〔和漢三才圖會、濕草類、草綿〕及㆓熱時㆒其皮四裂。

【四路】795 シロ　❶四つの道路。〔汪遵、楊柳詩〕亞夫營㆑畔柳濛濛、隋主堤邊四路通。❷四つの路（行政區劃の名）。〔宋史、地理志五〕川峽四路、蓋禹貢梁・雍・荊三州之地、而梁州爲㆑多。

【四漏】796 シロ　[佛]四つの煩惱。欲漏・有漏・無明漏・見漏。〔守護國界主陀羅尼經〕何爲㆓漏無漏㆒、漏有㆓四種㆒、謂㆓欲漏・有漏・無明漏・見漏㆒、於㆓此四漏㆒皆悉遠離、故名㆓無漏㆒。

【四六】797 シロク　六朝時代に盛に行はれた、四字と六字の對句を用ひて作つた華麗な文。駢儷文。四六文を見よ。〔文心雕龍、章句〕筆句無㆑常、而字有㆓常數㆒、四字密而不㆑促、六字格而非㆑緩、或變㆑之以㆓三五㆒、蓋應變之權節也、則梁時文筆、已多用㆓四字六字㆒矣。〔柳宗元、乞巧文〕駢四儷六、錦心繡口。〔宋史、司馬光傳〕神宗卽位、擢爲㆓翰林學士㆒、光力辭、帝曰、古之君子、或學而不㆑文、或文而不㆑學、惟董仲舒揚雄兼㆑之、卿有㆓文學㆒、何辭爲、對曰、臣不㆑能㆑爲㆓四六㆒、帝曰、如㆓兩漢制詔㆒可也。〔十駕齋養新錄〕駢儷之文、宋人或謂㆓之四六㆒、謝伋四六談麈・王銍四六話、是也。

【四六判】798 シロクバン　縱三尺六寸、橫二尺四寸の西洋紙。又、之を三十二に裁つた大きさの書物の型。凡そ縱六寸橫四寸に仕上がるからいふ。

【四六文】799 シロクブン　駢體・駢文、又は駢儷體ともいひ、其の語を四字、又は六字にし、其の辭を對偶にし、平仄を用ひて其の聲を調へた文で、一種の律語文である。此の體は齊梁の閒に成立し、當時は之を今體と呼んだ。晚唐に至つて始めて四六の名が用ひられ、宋以來通名となり、淸代に至つて駢體、又は駢文といはれた。之を四六と呼ぶのは、文に四字句、若しくは六字句を多く用ひて句調を整へるからであり、又、駢體といふのは、對句を多く用ひて文を修飾するからで、此の二事が其の特色である。駢體の淵源は遠く秦の李斯の諫㆓逐客㆒書、漢の賈誼の過秦論まで遡ることが出來、漢代辭賦流行の結果、賈誼・司馬相如・枚乘・揚雄等は盛に對偶を用ひて文を作つた。就中、顯著なものは王褒の聖主得㆓賢臣㆒頌・四子講德論である。後漢に至り、此の風が漸く盛となり、班固の典引、崔駰の達旨、蔡邕の釋誨等の文は六朝の駢體に近く、思想家の文でも王充の論衡、王符の潛夫論、仲長統の昌言等には、此の體に近いものが用ひられてゐる。魏晉の頃に及んで、曹植の文は六朝靡麗の端を開き、陸機が出て此の風益〻暢び、宋の顏延之・謝靈運等が其の後を承け、氣運既に熟して、遂に齊梁に至り、沈約等によつて此の體の基礎が定まり、極盛を呈した。齊の武帝の永明末年に、沈約・謝朓・王融等は周顒の聲韻說を文章上に採用して、音調の諧和を圖つたが、時人之を永明體といひ、駢文倡道の始となつた。而してその後繼者として陳に徐陵・庾信が出るに及んで、駢文は益〻修飾せられ、變じて唐體となり、王・楊・盧・駱の四傑が出て其の盛を極め、上は制誥から、下は表・啓・檄・露布・序記・頌贊・祝祭・誄辭に至る迄之を用ひるに至り、更に一變して宋體となり、元明以後、之を繼承して今に至つた。駢文の特徵は、一に、對句を多く用ひること、二に、四字及び六字の句調を基本とすること、三に、音調の諧和を圖ること、四に、典故を繁用すること、五に、文辭が華美なことの五點に在る。形式に於て、字法は始の句を四字、次を六字、若しくは始を六字、次を四字に書き起すのを正格とし、對偶法には隔句對（第一句と第三句、第二句と第四句と相對するもの）・直對（二句相對して上下字數の相同じきもの）・單對（當句對と同じく一句中に對語あるもの）等がある。平仄法は初句の第二字を仄とすれば、其の終の字と第三句の二字目を平、又は終の字を仄とする。初句の第二字を平とすれば、其の終の字と第三句の二字目とを仄とし、又其の終の字を平とするを通則とする。四六を見よ。

【四六話】800 シロクワ　書名。二卷。宋、王銍撰。多く宋人の表啓の文を評論す。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【四六金鍼】801 シロクキンシン　書名。一卷。淸、陳維崧撰。四六文作法上の說を敍す。〔四庫提要、集、詩文評類存目〕。

【四六偶對】802 シロクグウタイ　四六文をいふ。〔歸田錄〕夏英公竦父官㆓於河北㆒、景德中、契丹犯㆓河北㆒、遂歿㆓於陣㆒、後公爲㆓舍人㆒、丁㆓母憂㆒、起復奉㆓使契丹㆒、公辭不㆑行、其表云、父歿㆓王事㆒、身丁㆓母憂㆒、義不㆑戴㆑天、難㆑下㆓穹廬之拜㆒、禮當㆑枕㆑塊、忍㆑聞㆓音樂之聲㆒、當時以爲、四六偶對、最爲㆓精切㆒。

【四六時中】803 シロクジチユウ　一日二十四時閒中。夜も晝も。始終。

【四六叢珠】804 シロクソウジユ　書名。一百卷。宋、葉適撰。宋代の名賢の四六文を收錄す。千頃堂書目には四十卷とある。散佚して今、完書は傳はらず、明の王明嶅と黃金璽とが、本書を摘錄して四六叢集彙選十卷を撰した。〔四庫提要、子、類書類存目〕・〔四庫提要、集、總集類存目〕。

【四六叢談】805 シロクソウダン　書名。一卷。宋、洪邁撰。四六文に關する論說を收める。〔學海類編、第一百三冊〕。

【四六叢話】806 シロクソウワ　書名。三十三卷。淸、孫梅撰。歷代の四六文を選・騷・賦・制敕詔冊・表・章疏・啓・頌・書・碑志・判・序・記・論・銘箴贊・檄露布・祭誄・雜文・談諧・總論・作家の二十一類に分集し、古書中から文話・紀事を錄出し、又、作家を文選家・楚詞家・賦家・三國六朝諸家・唐四六諸家・宋四六諸家・元四六諸家に分ち、小傳を附して論斷してあり、四六文の詳論を蒐めること頗る博洽である。〔淸史稿、藝文志〕。

【四六談麈】807 シロクダンシユ　書名。一卷。宋、謝伋撰。王銍の四六話に似て、命意・修辭で巧拙を分ける。識見或は四六話の上に出る所がある。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【四六倍判】808 シロクバイバン　四六判の二倍の大きさのものをいふ。

【四六法海】809 シロクハフカイ　書名。十二卷。明、王志堅編。魏晉から元までの四六文を集めたもの。敕・詔・冊文・制・手書・德音・令・教・策問・表・章・狀・彈事・牋・啓・書・頌・移文・檄・露布・詩文序・宴集序・贈別序・記・史論・論・碑文・墓誌・行狀・銘・贊・七・連珠・志・弔祭文・誄・判の三十七類に分ち、每篇、箋註・考證などあり、四六の源流正變、皆そなはる。〔四庫提要、集、總集類〕。

【四六半截】810 シロクハンセツ　四六判の半分大のものをいふ。

【四六文鑑】811 シロクブンカン　書名。一卷。我が國、西谷の幽谷道人が門人に授けたもの。四六文の作法を敍す。

【四六標準】812 シロクヘウジユン　書名。四十卷。宋、李劉撰。其の門人羅逢吉が集めたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【四六駢儷】813 シロクヘンレイ・シロクベンレイ　四六文（799）に同じ。〔容齋三筆、四六名對〕四六駢儷、於㆓文章家㆒爲㆓至淺㆒、然上自㆓朝廷命令詔冊㆒、下而縉紳之閒牋書祝疏、無㆑所㆑不㆑用。

【四六餘話】814 シロクヨワ　書名。一卷。宋、相國道撰。四六文に關する諸說を收める。〔說郛、第八十四冊〕。

【四六文章圖】815 シロクブンシヤウヅ　書名。五卷。我が國、僧大顚撰。四六文の作法を圖說す。卷一は句製・文體、卷二は儒家四六文の類につき、格體・序用・節用に分ち、卷三は文類・格體・總論、卷四は禪家四六並に偈頌の類を收める。

【四綠】816 シロク　陰陽家の語。九星の一つ。杜門。木星。本位は東南。九星（**1**－**167**・・387）を見よ。〔協紀辨方書、三元九星〕杜門爲㆓四綠㆒、云云、三碧・四綠・五黃、云云、四綠居㆑巽。

【四論】817 シロン ㊀宋の范仲淹の作つた四つの論文。帝王好尚、選二任賢能一、近レ名、推二委臣下一の四つ。〔小學紺珠、藝文類、四論〕帝王好尚・選二任賢能一・近レ名・推二委臣下一、范文正公爲二四論一以獻。㊁佛三論宗の用ひる四つの論書。中觀論(龍樹著)・百論(提婆著)・十二門論(龍樹著)・大智度論(龍樹著)をいふ。〔三論玄義〕四論立名、云云、大智度論、從二所レ釋之經一立レ名、云云、中論、從二理實一立レ名、十二門、從二言教一爲レ目、百論、從二偈句一爲レ稱也。〔梁高僧傳、羅什傳〕四論者國之大寶。〔唐高僧傳、曇鸞傳〕內外典籍、具陶二文理一、而於二四論佛性一、彌所二窮研一。

【四論宗】818 シロンシユウ 佛隋の嘉祥が三論宗を確立する以前に行はれた四論研究の學徒・學風を、後世稱して四論宗といふ。

【四隈】819 シワイ よすみ。四隅。〔左思、魏都賦〕考二之四隈一、則八埏之中。〔白居易、登二城東古臺一詩〕靡靡春草合、牛羊緣二四隈一。

【四王】820 シワウ ㊀四人の帝王。㋑禹・湯・文・武。〔左氏、成、二〕四王之王也、樹レ德而濟二同欲一焉。〔注〕禹・湯・文・武。〔小學紺珠、歷代類、四王〕禹・湯・文・武。㋺舜・湯・禹・武。〔呂覽、當染〕舜染二於許由・伯陽一、禹染二於皐陶・伯益一、湯染二於伊尹・仲虺一、武王染二於太公望・周公旦一、此四王者、所レ染當、故王二天下一。㋩夏の桀王・殷の紂王・周の厲王・周の幽王。〔呂覽、當染〕夏桀染二於羊辛・岐鍾戎一、殷紂染二於崇侯・惡來一、周厲王染二於虢公長父・榮夷終一、幽王染二於虢公鼓・祭公敦一、此四王者、所レ染不レ當、故國殘身死、爲二天下僇一。㊁四人の王。㋑漢の韓信・彭越・英布・盧綰。〔小學紺珠、氏族類、四王〕韓・彭・英・盧。㋺後漢の沛王輔・濟南王康・東平王蒼・中山王焉。〔後漢書、東平王蒼傳〕其沛・濟南・東平・中山四王、讚皆勿レ名。〔小學紺珠、氏族類、四王〕沛王輔・濟南王康・東平王蒼・中山王焉。㋩後漢の楚元王・河間獻王・東平王蒼・東海王彊。〔文中子、述史〕或問二楚元王一、子曰、惠人也、問二河間獻王一、子曰、智人也、問二東平王蒼一、曰仁人也、問二東海王強一、曰義人也、保レ終榮寵不二亦宜一矣。〔注〕言、四王皆善レ終、有二惠智仁義一。〔小學紺珠、氏族類、四王〕楚元王惠人・河間獻王智人・東平王蒼仁人・東海王彊義人。㊂清初に於ける四人の王姓の畫家。太倉の王時敏・王鑑・王原祁・常熟の王翬。

【四王天】821 シワウテン 佛天の欲界の第一。四天王の居る所で、人間界に最も接近する。六欲天(2-1453‥572)・四天王天(605)を見よ。

【四辻】822 ヨツツジ 十字街。〔好色五人女、二〕四つ辻の　「犬。

【絕レ四】823 シヲタツ 意・必・固・我の四つを絕つ。人格圓滿で心に少しの執著もないこと。四毋(688)を見よ。〔論語、子罕〕子絕レ四、毋レ意、毋レ必、毋レ固、毋レ我。

【四威儀】824 シヰギ 佛行・住・坐・臥の四つの作法。〔釋氏要覽〕經律中皆以二行住坐臥一、名二四威儀一、其他動止、皆四所攝。

【四酉齋】825 シイウサイ 明、陸深(11-41708‥154)の號。

【四遊記】826 シイウキ 明末の小說、東遊記(上洞八仙傳)・南遊記(五顯靈官大帝華光天王傳)・北遊記(北方眞武玄天上帝出身志傳)、及び西遊記傳の四種を集めた書。

【四一半】827 シイチハン 博弈の一種。錢打の一種。〔東鑑、三十四〕仁治二年四月二十五日、以二田地一、爲二博奕賭一事、於二件所一者、云云、大宮有忠打二四一半一事起也。

【四一半錢】828 シイチハンセン 四一半に同じ。〔東鑑、三十五〕寬元二年十月十三日、雙六者、於レ侍者可レ被レ許レ之、至二下﨟一者、永可レ令三停二止之一、四一半錢、目勝以下種種品態、不レ論二上下一、一向可レ被二禁制一。

【四一半打】829 シイチハンウチ 四一半をやる人。〔東鑑、三十七〕寬元四年十二月十七日、籠二置惡黨竝四一半打一、所領可レ被レ召事。

【四益齋】830 シエキサイ 宋、沈復(6-17189‥341)の號。

【四焉齋】831 シエンサイ 清、曹一士(5-14297‥196)の號。　「名。

【四憶堂】832 シオクダウ 清、侯方域(1-633‥141)の室名。

【四可齋】833 シカサイ 清、邵點(11-39343‥51)の號。

【四汗國】834 シカンコク 蒙古の一族が分封せられた四つの汗國。欽察汗國・窩濶台汗國・察合台汗國・伊兒干國をいふ。

【四坎壇】835 シカンダン 四つの坎と壇。四方の山林川谷丘陵などを祭る所。坎は、川谷泉澤を祭り、壇は、山林丘林を祭る。〔禮、祭法〕四坎壇、祭二四方一也。〔疏〕四坎壇祭二四方一也者、謂下山林川谷丘陵之神、有レ益二於人民一者上也、四方各爲二一坎一壇一、壇、以祭二山林丘林一、坎、以祭二川谷泉澤一、故言三坎壇祭二四方一也。

【四眼狗】836 シガンク 四つの目の有る狗。〔閩雜記〕俗傳、狗眼下有二兩深窩一者、名二四眼狗一、尤善二夜眼一、予寓二漳郡三山館一時、見二鄰家一黃狗一、高大猛鷙、兩眼黑眸炯然、眼上復有二兩眼一、微豎而圓、其眸晝不二甚黑一、入レ夜則光芒遠射、與二下者一不レ殊、乃知丁實有二四眼狗一、非丙第如乙世俗所甲傳矣。

【四眼橋】837 シガンケウ 地名。四川省資中縣の西。一名、法輪場。仁壽縣の界に連なる。後方に巨澗があつて、小三江口で龍結鎭澗水に合し、資江に入る。

【四眼人】838 ssu^4 yen^3 jen^2 妊婦。妊婦と胎兒とをあはせて四つの眼があるからいふ。

【四窮民】839 シキユウミン 四つのあはれむべき民。鰥・寡・孤・獨。〔孟子、梁惠王下〕老而無レ妻曰レ鰥、老而無レ夫曰レ寡、老而無レ子曰レ獨、幼而無レ父曰レ孤、此四者、天下之窮民而無レ告者。

【四御史】840 シギヨシ 宋の天聖中、御史として令名があつた四人、曹修古・郭勸・楊偕・段少連の幷稱。〔小學紺珠、名臣類下、四御史〕曹修古・郭勸・楊偕・段少連、天聖末。

【四御神】841 シノゴセ 備前國の地名。

【四塊玉】842 シクワイギヨク 北京人の愛玩する鳩の名。黑いところに四つの白い斑點のあるもの。〔燕京歲時記、花兒市〕按二居易錄一、京師花兒市、鬻二黃鴿二毛羽一、作二黃金色一、索價甚高、云云、蓋京師多好蓄レ鴿、種類亟繁、其尋常者、有二點子・玉翅・鳳頭白・小灰皂兒・紫醬・雪花・銀尾子・四塊玉、云云、等名色一。

【四換頭】843 シクワントウ 詞牌(10-35394‥45)の名。又、曲牌(5-14280‥212)の名。南曲は仙呂宮正曲に入れ、北曲は中呂調隻曲に入る。

【四桂堂】844 シケイダウ 金、李獻能(6-14459‥1146)の室名。

【四䙆衫】845 シケイサン 衣服の名。〔綱目集覽〕開骻者名二缺骻衫一、庶人服レ之、卽今四䙆衫也。

【四恆家】846 ssŭ^4 hêng^2 chia^1 北京で最も古い四軒の錢鋪。恆利・恆興・恆源・恆合。

【四渾儀】847 シコンギ 宋代の四種類の天文儀、至道儀・皇祐儀・熙寧儀・元祐儀をいふ。〔小學紺珠、天道類、四渾儀〕至道儀、在二刻漏所一、韓顯符、皇祐儀、在二天文院一、舒易簡、熙寧儀、在二大史局一、沈括、元祐儀、在二合臺一、蘇頌。

【四腮魚】848 シサイギヨ 魚の名。四腮鱸に同じ。〔明一統志〕蘇州府土產四腮魚。

【四鰓魚】849 シサイギヨ 四腮鱸に同じ。〔本草綱目、鱸魚〕釋名、四鰓魚、時珍曰、黑色曰レ盧、此魚白質黑章、故名、淞人名二四鰓魚一。

【四腮鱸】850 シサイロ 鱸魚の一種。四つの腮があり、松江に產する。四腮魚。四鰓魚。〔正字通〕鱸、天下之鱸皆兩腮、惟松江四腮。〔范成大、秋日田園雜興詩〕細擣棖虀買二鱠魚一、西風吹上四腮鱸。

【四思堂】851 シシダウ 清、傅維鱗(1-939‥142)の室名。

【四氏學】852 シシガク ㊀南朝宋の文帝の立てた四氏の學校。雷次宗の儒學、何尙之の老莊學、何承天の史學、謝元の文學。四學。〔南史、宋文帝紀〕元嘉十五年、立二儒學館于北郊一、命二雷次宗一居レ之、十六年、又命二丹陽尹何尙之一立二玄素學一、著作佐郎何承天立二史學一、司徒參軍謝元立二文學一、各聚二門徒一、多二就業者一、江左風俗、於レ斯爲レ美、後言二政化一、稱二元嘉一焉。〔元經薛氏傳〕宋文帝好レ文、元嘉十五年、立二四氏學一、以二雷次宗一掌二儒學一、何尙之掌二玄學一、何承天掌二史學一、謝元掌二文學一、置二館於郊一、法二古四郊學一也。㊁曲阜縣の孔・顏・曾・孟の四姓・學額を別々に定めて、之を四氏學といふ。元の世祖に始まり、明・清、之に因る。〔續文獻通考、學校考〕孔顏曾孟四氏學、肇二開於元一、增二益於明一、崇二先聖一也。〔續文獻通考、學校考〕元世祖中統二年、立二孔顏孟三氏學一。〔續文獻通考、學校考〕明太祖洪武七年正月、設二孔顏孟三氏教授司一、云云、神宗萬歷十五年、又益以二曾氏一、改二鑄四氏學印一給レ之。〔淸會典、吏部〕孔顏曾孟四氏學教授一人。〔淸會典、戶部〕凡免レ科田、郊壇、社稷、山川、厲壇、學校、闕里、孔林四氏學、周

公廟、各聖賢祠墓寺觀地。

【四比堂】853 シシダウ　清、魏際瑞（**12－45872**・・208）の室名。

【四愁詩】854 シシウシ　詩篇の名。後漢の張衡が出されて河間の相となつた時、その不平を歌つたもの。文選、二十九卷に收む。〔張衡、四愁詩幷序〕張衡不レ樂三久處二機密一、陽嘉中、出爲二河間相一、時國王驕奢、不レ遵二法度一、又多二豪右幷兼之家一、衡下レ車治威嚴、能內察二屬縣一、姦猾行二巧劫一、皆密知レ名、下レ吏收捕、盡服レ擒、諸豪俠游客悉惶懼、逃出レ境、郡中大治、爭訟息、獄無二繫囚一、時天下漸弊、鬱鬱不レ得レ志、爲二四愁詩一、屈原以二美人一爲二君子一、以二珍寶一爲二仁義一、以二水深雪雰一爲二小人一、思下以二道術一相報、貽中於時君上、而懼二讒邪不一レ得二以通一、其辭曰、一思曰、我所レ思兮在二太山一、欲二往從一レ之梁父難、側レ身東望涕霑レ翰、美人贈レ我金錯刀、何以報レ之英瓊瑤、路遠莫レ致倚逍遙、何爲懷レ憂心煩勞、二思曰、我所レ思兮在二桂林一、欲二往從一レ之湘水深、側レ身南望淚霑レ襟、美人贈レ我金琅玕、何以報レ之雙玉盤、路遠莫レ致倚惆悵、何爲懷レ憂心煩勞、三思曰、我所レ思兮在二漢陽一、欲二往從一レ之隴阪長、側レ身西望涕霑レ裳、美人贈レ我貂襜褕、何以報レ之明月珠、路遠莫レ致倚踟躕、何爲懷レ憂心煩紆、四思曰、我所レ思兮在二雁門一、欲二往從一レ之雪紛紛、側レ身北望涕霑レ巾、美人贈レ我錦繡段、何以報レ之青玉案、路遠莫レ致倚增レ歎、何爲懷レ憂心煩惋。〔竹林詩話〕張衡四愁、遙衷耿慕、猶風騷之遺韻也。

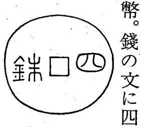
【四悉檀】855 シシツダン　佛世界悉檀・各各爲人悉檀・對治悉檀・第一義悉檀をいふ。悉檀は成就の義。〔智度論、一〕有二四種悉檀一、一者世界悉檀、二者各各爲人悉檀、三者對治悉檀、四者第一義悉檀、四悉檀中、總攝二一切十二部經八萬四千法藏一、皆是實相無二相違背一。

【四沙汎】856 シシヤジン　軍隊分防所の名。廣東省番禺縣の東南の珠江の南岸。省に入る時必ず通る所で、粵省、第二の門戶である。

【四常道】857 シジヤウダウ　人の常に守るべき四つの道。親を親しみ、尊を尊び、長を長とし、男女別あること。〔小學紺珠、人倫類、四常道〕親レ親、尊レ尊、長レ長、男女有レ別、禮記大傳注、四者人道之常。

【四種夢】858 シシユノユメ　佛四種の夢。四大不和夢・先見夢・天人夢・想夢。〔善見律〕夢有二四種一、一四大不和夢、二先見夢、三天人夢、四想夢。

【四銖錢】859 シシユセン　❶漢の錢幣。文帝の五年に、半兩錢の重量を四銖として鑄たもの。錢の文に半兩とある。〔史記、平準書〕至二孝文時一、莢錢益多輕、乃更鑄二四銖錢一、其文爲二半兩一。〔漢書、文帝紀〕五年夏四月、除二盜鑄錢令一、更造二四銖錢一。〔注〕應劭曰、文帝以二五分錢太輕小一、更作二四銖錢一、文亦曰二半兩一。❷南朝宋の錢幣。錢の文に四銖とある。〔洪遵泉志〕右四銖錢、宋書文帝紀曰、元嘉七年冬十月戊午、立二錢署一、鑄二四銖錢一、顏竣傳曰、輪郭形製、與二五銖一同、用費損無レ利、故百姓不二盜鑄一、張台曰、據レ所レ見、背面皆有二周郭一、徑七分、重二銖已下、文甚分明、舊譜曰、文曰二四銖一、重如二其文一、余按、此錢徑七分、重二銖四參、肉薄好闊、背面皆有二周郭一、字文甚明。



❷四銖錢
（三才圖會）

【四閏刑】860 シジユンケイ　四種の刑の倂稱。鎌倉時代以後、文官に課した召籠（メシコメ）・敕勘・解官（ゲクワン）・除籍。庶人に課した剃半驕（ソリハンピン）・捺火印（ナツクワイン）・闕所・過料。德川時代に庶人に課した叱（シカリ）・過料・閉戶（トヂ シトメ）・手鎖（テヂヤウ）。又、僧徒に課した退院・晒（サラシ）・追院・構（カマヘ）。

【四松堂】861 シシヨウダウ　清、敦誠（**5－13276**・・68）の室名。

【四進士】862 ssŭ^4 chin^4 shih^4　二簧西皮劇の一。楊素貞を中心とし、同年に登第した毛・顧・劉・田の四人の進士を配した時代劇の一種。

【四攝法】863 シセフホフ　佛布施攝・愛語攝・利行攝・同事攝。〔仁王經、中〕行二四攝法一、布施・愛語・利行・同事。

【四先生】864 シセンセイ　相並ぶ四人の先生。❶程門の四先生。宋の謝良佐・游酢・呂大臨・楊時をいふ。〔宋史、謝良佐傳〕謝良佐字顯道、壽春上蔡人、與二游酢・呂大臨・楊時一在二程門一、號二四先生一。〔宋史、呂大臨傳〕大臨、字與叔、學二於程頤一、與二謝良佐・游酢・楊時一、在二程門一號二四先生一。❷宋の戊己の四先生。崔鶠・陳恬・田晝・李薦をいふ。〔墨莊漫錄〕許洛軒棠・最盛時、號二一黨一、崔鶠・陳恬、皆戊戌生、田晝・李薦、皆己亥生、並居二潁昌陽翟一、稱二戊己四先生一。❸宋の陳襄・陳烈・周希孟・鄭穆。〔宋史、陳襄傳〕襄、字述古、福州侯官人、少孤、能自立出遊二鄉校一、與二陳烈・周希孟・鄭穆一爲レ友、時學者沉二溺於雕琢之文一、所謂知レ天盡レ性之說、皆指爲二迂闊一、而莫二之講一、四人者始相與倡二道於海濱一、聞者皆笑以驚、守レ之不二爲變一、卒從而化、謂二之四先生一。〔小學紺珠、名臣類下、四先生〕陳襄・陳烈・周希孟・鄭穆、閩人號爲二四先生一。❹宋の舒璘・沈煥・楊簡・袁燮。〔小學紺珠、名臣類下、四先生〕舒璘・沈煥・楊簡・袁燮。❺明の嘉定の四先生。唐時升・婁堅・程嘉燧・李流芳の四人をいふ。〔明史、唐時升傳〕婁堅字子柔、幼好レ學、其師友皆出二有光門一、堅學有二師承一、經明行修、鄉里推爲二大師一、貢二於國學一、不レ仕而歸、工二書法一、詩亦清新、四明謝三賓知二縣事一、合二時升・堅・嘉燧、及李流芳詩一刻レ之、曰二嘉定四先生集一。

【四然齋】865 シゼンサイ　明、黃體元（**12－47926**・・1226）の號。

【四嬋娟】866 シセンエン シゼンケン　清代、雜劇の篇名。洪昇作。四折各一事を演じ、第一折は詠雪、晉の謝安の姪、謝道蘊が雪を詠じて柳絮因レ風起といつた故事。第二折は簪花、晉の衞夫人が筆陳圖を王右軍に傳へる事。第三折は鬭芳、趙宋の李清照が茶を烹て書を檢し夫妻美滿の事。第四折は畫竹、元の趙子昂と其の夫人管仲姬と舟遊して竹を畫き之を對玩する韻事を述ぶ。〔傳奇彙考、四〕。

【四台子】867 シタイシ　地名。❶滿洲遼寧省鳳城縣の西。安奉鐵路の沿線。❷滿洲吉林省伊通縣の西境。遼寧省梨樹縣の界に接す。

【四待軒】868 シタイケン　清、馬敬之（**12－44572**・・752）の室名。

【四杖制】869 シチヤウノセイ　老人が杖を用ひることの出來る四つの制度。五十歲では家に杖つき、六十では鄉に杖つき、七十では國に杖つき、八十では朝に杖つく。〔禮、王制〕五十杖レ家、六十杖レ鄉、七十杖レ國、八十杖レ朝。

【四忠祠】870 シチユウシ　四人の忠臣の祠。湖南省安仁縣の東南にあり、宋の南霽雲・雷萬春・周必大・陳億孫を祀る。〔明一統志〕四忠祠在二衡州府安仁縣東南三里一、正德中建、祀二南霽雲・雷萬春・周必大・陳億孫一。

【四女樹】871 シヂヨジユ　鎭の名。山東省恩縣の西北。宋の時、安樂鎭と名づけ、又、四女寺に作る。〔恩縣志〕安樂鎭、今名四女樹鎭、在二衞河東岸一、相傳、漢時有二傅長者一、生二四女一、因無二兄弟一、守レ貞養レ親、共植二一槐於此一、故名、今爲二往來通道一。

【四塡星】872 シテンセイ　星の名。〔史記、天官書〕四塡星所レ出四隅。

【四顚倒】873 シテンタウ　佛四つの妄見。常顚倒・我顚倒・淨顚倒・樂顚倒。〔大乘義林章、五末〕。

【四殿衆】874 シテンシユウ　室町時代、山名・赤松・一色・京極の四家をいふ。四職（439）に同じ。

【四納言】875 シナゴン　一條天皇の頃、納言の官に在つて、文藝の道に達した四人。中納言藤原行成・中納言藤原公任・大納言藤原齊信・權中納言源俊賢をいふ。

【四入頭】876 シニフトウ　宋代、執政は多く三司使・翰林學士・知開封府・御史中丞から任命した。此の四つをいふ。〔容齋續筆、執政四入頭〕國朝除二用執政一、多從二三司使・翰林學士・知開封府・御史中丞一進拜、俗呼爲二四入頭一、固有下盡歷二四職一而不レ用、如二張文定公王宣徽之類一者上、趙清獻公自二成都一召還、知二諫院一、大臣言、故事近臣自二成都一還、將二大用一、必更二省府一、不レ爲二諫官一、以レ是知二一朝典章其嚴如一レ此、至レ若下以二權侍郎一方受レ告、卽爲二參樞一、如二施鉅鄭仲熊一者上、蓋秦檜所レ用云。

【四廢日】877 シハイニチ　陰陽家で占を忌む日。〔本朝世紀〕權天文博士安倍晴道申云、今日四廢日也、御卜條可レ有レ憚歟。

【四幇茶】878 ssŭ^4 pang^1 ch'a^2　四番茶のこと。四春茶。

【四柏亭】879 シハクテイ　亭の名。江蘇省江都縣城の文廟の西南。〔明一統志〕宋元豐中、鄒浩爲二教授一、著二四柏賦一以見レ志、後彭方爲二文學掾一、植二四柏於學宮之南一、因以名レ亭。

【四盤山】880 シバンザン　西皮劇の一種。四郎探母の別名。

【四佛工】881（シブツク） 我が國の有名な四人の佛工。定朝（後一條天皇の時の人）・運慶（後鳥羽天皇の時の人）・安阿陀佛（運慶の弟子）・湛慶（運慶の弟子）。

【四幷堂】882（シヘイダウ） 宋の韓琦の建てた堂の名。〔葉夢得、避暑錄話〕謝康樂云、良辰美景、賞心樂事、四者難㆑幷、天下詠㆑之、以爲㆓口實㆒、韓魏公在㆓北門㆒、作㆓四幷堂㆒。

【四標期】883 ssŭ^{4} piao^{1} ch'i^{2} 張家口の毛皮商が取引上の決濟をする四期。春標は三月末、秋標は七月末、冬標は十月初め、年標は年末。普通は端午・中秋・年關の三回に行ふ。

【四本堂】884（シホンダウ） 清、朱潮遠（**6**－**14424**‥939）の室名。

【四本柱】885（シホンバシラ） ❶相撲の土俵の四隅に設けた四本の柱。〔井筒業平河內通、五〕四本柱は須彌の四列。❷四本柱の前に著座して相撲の勝負を檢査する役員。

【四本論】886（シホンロン） 才性の同・異・合・離を論じたもの。〔魏志、傅嘏傳〕字蘭石、常論㆓才性同異㆒、鍾會集而論㆑之。〔南史、顧歡傳〕會稽孔珪、嘗登㆑嶺尋㆑歡、共談㆓四本㆒、歡曰、蘭石危而密、宣國安而疏、士季似而非、公深謬而是。〔世說新語、文學〕鍾會撰㆓四本論㆒始畢、甚欲㆑使㆓嵆公一見㆒、置㆓懷中㆒、既定、畏㆓其難㆒、懷不㆓敢出㆒、於㆓戶外㆒遙擲、便回急走。〔注〕四本者、言㆓才性同・才性異・才性合・才性離㆒也。

【四梵天】887（シボンテン） 常融天・玉降天・梵度天・賈弈天をいふ。〔雲笈七籤〕四梵天、元始曰、常融天・玉降天・梵度天・賈弈天。〔注〕賈弈、酉陽雜俎作㆓覆弈㆒。

【四味果】888（シミクワ） 四味木の果實。棗に似、之を食すれば饑渴を止めるといふ。竹刀を以て剖けば甘く、鐵刀を以て剖けば苦く、木刀を以て剖けば酸く、蘆刀を以て剖けば辛いから四味果といふ。四味木を見よ。〔本草、四味果〕段成式酉陽雜俎云、出㆓祁連山㆒、木生如㆑棗、剖以㆓竹刀㆒則甘、鐵刀則苦、木刀則酸、蘆刀則辛、行旅得㆑之能止㆓飢渴㆒。

【四味木】889（シミボク） 仙樹の名。四味果を見よ。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕仙樹、祁連山上有㆓仙樹實㆒、行旅得㆑之止㆓饑渴㆒、一名四味木、其實如㆑棗、以㆓竹刀㆒剖則甘、鐵刀剖則苦、木刀剖則酸、蘆刀剖則辛。

【四無教】890（シムケウ） 明の王畿の學說。王陽明の四句說を以て方便とし、若し悟得すれば、心・意・知・物、凡べて善もなく惡もなく、分別して四となすを得ずとするもの。〔明儒學案、王畿〕天泉證道紀謂、師門教法、每提㆓四句無㆑善無㆑惡心之體、有㆑善有㆑惡意之動、知㆑善知㆑惡是良知、爲㆑善去㆑惡是格物㆒、緒山以爲㆓定本不㆑可㆓移易㆒、先生謂㆓之權法㆒、體用顯微、只是一機、心意知物、只是一事、若悟㆓得心是無㆑善無㆑惡是心㆒、則意知者俱是無㆑善無㆑惡、相與質㆓之陽明㆒、陽明曰、吾教法原有㆓此兩種㆒、四無之說、爲㆓上根人㆒立㆑教、四有之說、爲㆓中根以下人㆒立㆑教。

【四無妄】891（シムマウ） 四つのみだりにすべからざること。耳みだりに聽くことなかれ、目みだりに顧みることなかれ、口みだりに言ふことなかれ、心みだりに慮るなかれ。〔小學紺珠、人事類、四無妄〕耳無㆓妄聽㆒、目無㆓妄顧㆒、口無㆓妄言㆒、心無㆓妄慮㆒、康節先生四無妄吟。

【四養齋】892（シヤウサイ） 清、兪正燮（**1**－**1437**‥114）の號。

【四譯館】893（シヤククワン） 清代、禮部にあつて朝鮮・回回・琉球・安南の貢使を會した所。〔清會典、禮部〕凡進表各國貢使就㆑館、次日黎明、禮部設㆓案於堂正中㆒、提督會㆓同四譯館㆒、鴻臚寺少卿、朝服率㆔貢使暨㆓從官㆒、各服㆓其國朝服㆒、由㆑館赴㆑部。

【四李杜】894（シリト） 李・杜と幷稱せられる四組の人。後漢の李固と杜喬、李雲と杜衆、李膺と杜密、唐の李白と杜甫。〔小學紺珠、氏族類、四李杜〕李固杜喬・李雲杜衆・李膺杜密・李白杜甫。

【四厘捐】895 ssŭ^{4} li^{2} chüan^{1} 遼河を往來する船舶百石積に對し、四吊文づつの割合で船主から徵稅することをいふ。

【四留堂】896（シリウダウ） 室名。❶明、盧龍雲（**8**－**23050**‥294）の室名。❷清、劉鴻儒（**2**－**2224**‥922）の室名。

【四留銘】897（シリウメイ） 宋の王伯大の作つた銘の名。四留とは、餘り有りて盡さざるの巧を留めて造化に還し、餘り有りて盡さざるの祿を留めて朝廷に還し、餘り有りて盡さざるの財を留めて百姓に還し、餘り有りて盡さざるの福を留めて子孫に還すをいふ。〔夷堅志〕王伯大號㆓留耕㆒、嘗著㆓四留銘於座右㆒云、留㆓有㆑餘不㆑盡之巧㆒以還㆓造化㆒、留㆓有㆑餘不㆑盡之祿㆒以還㆓朝廷㆒、留㆓有㆑餘不㆑盡之財㆒以還㆓百姓㆒、留㆓有㆑餘不㆑盡之福㆒以還㆓子孫㆒、忽一日雲霧四起、霞光照㆑天、失㆓其書所㆑在

【四冷葷】898 ssŭ^{4} lêng^{3} huan^{1} 四種のつめたい肉。雞の涼肉・鹹魚・乾鰕・ハム等の類。

【四錄堂】899（シロクダウ） 清、嚴可均（**2**－**4589**‥269）の室名。

【四姻九戚】901（シインキウセキ） 多くの親戚。〔海錄碎事、人事、姻戚〕四姻九戚、方走㆑贄來賀、不幸以㆓其月㆒卒、夫人魏氏墓銘、韓公遺文。

【四個格言】902（シカカクゲン） 日蓮上人の唱道した眞言亡國・律國賊・念佛無間・禪天魔の稱。

【四其御史】903（シキギヨシ） 唐の郭弘霸が初めて召見された時、往年、徐敬業を征した時に、臣は、其の筋を抽き、其の肉を食ひ、其の血を飲み、其の髓を絕たんことを願つたと、則天武后に忠鯁を述べて、侍御史に任命されたことから、時人、郭弘霸を稱して四其御史といつた。〔舊唐書、郭霸傳〕初擧集召見、於㆓則天前㆒、自陳㆓忠鯁㆒云、往年征㆓徐敬業㆒、臣願㆘抽㆓其筋㆒、食㆓其肉㆒、飲㆓其血㆒、絕㆗其髓㆖、則天悅、故拜焉、時人號爲㆓四其御史㆒。

【四期清算】904 ssŭ^{4} ch'i^{2} ch'ing^{1} suan^{4} 陰曆の三月・六月・九月・十二月の四回に亙つてその末日に取引きの決濟をすること。

【四宜草堂】905（シギサウダウ） 清、朱英（**6**－**14424**‥42）の室名。

【四強雄蕊】906（シキヤウユウズイ） 植物學用語。油菜・萊菔など凡べて其の花が十字形を成す者は、雄蕊の數が凡そ六本で、其の內四本は長く、二本は短いことをいふ。

【四弘誓願】907（シグゼイグワン） 佛 すべて菩薩が衆生を濟度せんと欲する四種の願。一に衆生無邊誓願度（苦諦の衆生を緣じて無邊の衆生を度せんと願ふもの）、二に煩惱數無誓願斷（集諦を緣じて無盡の煩惱を斷ぜんと願ふもの）、三に法門無盡誓願知（道諦を緣じて無盡の法門を學せんと願ふもの）、四に佛道無上誓願證（滅諦を緣じて無上の佛道を成就せんと願ふもの）。〔止觀大意〕一、衆生無邊誓願度、二、煩惱無數誓願斷、三、法門無盡誓願學、四、佛道無上誓願成。〔往生要集、上、末〕一、衆生無邊誓願度、二、煩惱無數誓願斷、三、法門無盡誓願知、四、無上菩薩提誓願證。

【四塊瓦兒】908 ssŭ^{4} k'uai^{4} wa^{3} êrh 防寒帽子。帽子の緣に四塊の毛皮をつけ、寒い日には之を下して頭を包むもの。

【四司六局】909（シシロクキヨク） 宋代、官府貴家などにあつて主として宴席排當の事を掌つたもの。四司は帳設司・茶酒司・廚司・臺盤司。六局は果子局・蜜煎局・菜蔬局・油燭局・香藥局・排辦局。〔輟耕錄、四司六局〕俗稱㆓四司六局㆒者多、不㆑能㆑擧㆓其目㆒、古杭夢游錄云、官府貴家、置㆓四司六局㆒、各有㆑所㆑掌、故筵席排當、凡事㆓整齊㆒、都下街市亦有㆑之、常時人戶每㆑遇㆓禮席㆒、以㆑錢倩㆑之、四司六局皆可㆑致、四司者、帳設司・廚司・茶酒司・臺盤司也、六局者、果子局・蜜煎局・菜蔬局・油燭局・香藥局・排辦局也、凡四司六局人、祗應㆔慣熟便㆓省賓主一半力㆒。

【四者難㆑幷】910（シシヤアハセガタシ） 良辰・美景・賞心・樂事の四者は同時に幷せて得がたい。四難（616）を見よ。〔謝靈運、擬㆓魏太子鄴中集㆒序〕天下良辰・美景・賞心・樂事、四者難㆑幷。

【四捨五入】911（シシヤゴニフ） 算法の省略法。四以下の端數を切り捨てて算入せず、五以上の端數を繰り上げて一と算入する法。

【四種高妙】912（シシユカウメウ） 詩の四種の妙處。礙すれども實通するを理高妙といひ、事の意外に出づるを意高妙といひ、幽微を寫出するを想高妙といひ、自然にして奇怪に非ず、妙を知つて妙なる所以を知らざるを自然高妙といふ。〔詩法詳論、總論〕詩有㆓四種高妙㆒、一曰理高妙、二曰意高妙、三曰想高妙、四曰自然高妙、礙而實通、曰㆓理高妙㆒、出㆓事意外㆒、曰㆓意高妙㆒、寫㆓出幽微㆒、如㆓清潭見㆑底、曰㆓想高妙㆒、非㆑奇非㆑怪、剝㆓落文采㆒、知㆓其妙㆒、而不㆑知㆔其所㆓以妙㆒、曰㆓自然高妙㆒。

【四親王家】913 シシンワウケ 我が國、伏見宮・有栖川宮・桂宮・閑院宮の四家。

【四翠雲草】914 シスイウンサウ 草の名。こんてりくらまごけ。いはひば科の羊齒植物。莖は癡長軟弱、腹葉は斜楕圓形、背葉は尖る。中國の原産で、溫室庭園に栽培する。

【四洮鐵路】915 シタウテツロ 鐵道の名。滿洲遼寧省梨樹縣の南四平街より起り洮南縣に至る。四鄭鐵路の延長線。

【四停身兒】916 ssŭ^{4} t'ing^{2} shen^{1} êrh 四幅の布で作つた衣服。

【四鄭鐵路】917 シテイテツロ 鐵路の名。四平街から鄭家屯に至る。四洮鐵路(915)を見よ。

【四轉五復】918 シテンゴフク 風が吹きまくること。〔通俗編、數目、四轉五復〕吳志孫休傳、十一月甲午、風四轉五復、蒙霧連日。

【四銅鼓齋】919 シドウコサイ 清、張祥河(**4－9812**・・1162)の號。

【四鐵御史】920 シテツギヨシ 明の御史馮恩が張孚敬・方獻夫・汪鋐の罪を極論して帝の怒りに觸れ、朝廷に審議せられた時、膝を屈せず、又、鋐を罵つて、其の罪を數へたので、時人は、馮恩は其の口、其の膽、其の膝、其の骨、皆鐵の如しと稱し、四鐵御史といつた。〔明史、馮恩傳〕皆歎曰、是御史非㆓但口如㆑鐵、其膝・其膽・其骨皆鐵也、因稱㆓四鐵御史㆒。

【四波羅密】921 シハラミツ 佛四波羅密菩薩の略。金剛界大日如來の四親近の女菩薩。東方に金剛波羅密菩薩、南方に寶波羅密菩薩、西方に法波羅密菩薩、北方に業波羅密菩薩を配す。〔兩部曼荼羅鈔、上〕。

【四比八股】922 シヒハツコ 八股文(**2－1450**・・173)を見よ。

【四武衝陣】923 シブシヨウヂン 四陣に武勇の士を結んで四陣を作り、力を併せて敵陣に攻め入ること。〔六韜、虎韜、疾戰〕武王問㆓太公㆒曰、敵人圍㆑我、斷㆓我前後㆒、絶㆓我糧道㆒、爲㆑之奈何、太公曰、此天下之困兵也、暴用㆑之則勝、徐用㆑之則敗、如㆑此者、爲㆓四武衝陣㆒、以㆓武車驍騎㆒、驚㆓亂其軍㆒、而疾㆓擊之㆒、可㆓以橫行㆒。

【四福先生】924 シフクセンセイ 清、毛先舒(**6－16772**・・303)の號。

【四畝草堂】925 ssŭ^{4} mu^{3} ts'ao^{3} t'ang^{2} 徽墨の一種。

【四無量心】926 シムリヤウシン 佛慈・悲・喜・捨の四心をいふ。又、四等心ともいふ。〔倶舍論、二十九〕無量有㆑四、一慈、二悲、三喜、四捨。

【四無色天】927 シムシキテン 佛四空處ともいふ。無空界の四處。空無邊處・識無邊處・無所有處・非想非非想處。

【四無色定】928 シムシキヂヤウ 佛無色界天の四定。空無邊處定・識無邊處定・無所有處定・非想非非想處定をいふ。〔倶舍論十八、輔行九之一〕。又四空定ともいふ。

【四無礙智】929 シムゲチ 佛四無礙解・四無礙辯ともいふ。一切の諸法義理を了知して通達無礙なるをいふ。即ち、義無礙智(一切諸法の義理を了知すること)・法無礙智(一切諸法の名字に通達すること)・辭無礙智(異なつた地方の語に通曉すること)・樂說無礙智(法義を辯說して圓融無滯なること)をいふ。〔智度論、二十五〕四無礙智者、義無礙智・法無礙智・辭無礙智・樂說無礙智。

【四律五論】930 シリツゴロン 佛經名。四律とは、一に十誦律、六十一卷、後秦、弗若多羅譯、二に四分律、六十卷、姚秦、佛陀耶舍譯、三に僧祇律、四十卷、東秦、佛陀跋陀羅等譯、四に五部律、三十卷、宋、佛陀什等譯。五論とは、一に毘尼母論、八卷、失譯、二に摩得勒伽論、十卷、宋、僧伽跋摩譯、三に善見論、十八卷、南朝齊、伽僧跋陀羅譯、四に薩婆多論、九卷、失譯、五に明了論、一卷、陳、眞諦撰。

【四璉六瑚】931 シレンリクコ 四個の璉と六個の瑚。瑚は夏の、璉は殷の宗廟の祭器で、玉を以て作り、黍稷を盛る。夏后氏は四璉、殷は六瑚を用ひた。〔禮、明堂位〕夏后氏之四璉、殷之六瑚、周之八簋。〔注〕皆黍稷器、制之異同未㆑聞。

【⿴囗厶】4683 ヂン ニン 〔篇海類編〕尼鄰切 眞

かしこい。〔篇海類編〕⿴囗厶、賢也。

【⿴囗儿】4684 シ 四(**3－4682**)に同じ。〔字彙補〕⿴囗儿、與㆑四同。

【⿴囗卜】4685 キウ 義未詳。〔篇海〕⿴囗卜、音舅。

【⿴囗三】4686 ダン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗三、南上聲。

【⿴囗八】4687 エツ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿴囗八、音悅。

三畫

【囝】4688
㈠ケン 〔集韻〕九件切 銑
㈡ゲツ グワチ 〔集韻〕魚厥切 月 ㄐㄧㄝˊ chieh^{2}

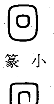
㈠こ。子供。〔集韻〕囝、閩人呼㆑兒曰㆑囝。〔顧況、哀囝詩〕郎罷別㆑囝、吾悔㆑生㆑汝、囝別㆓郎罷㆒、心摧血下。〔自注〕閩俗呼㆑子爲㆑囝、父爲㆓郎罷㆒。〔青箱雜記〕閩人呼㆑子曰㆑囝、唐取㆓閩子㆒爲㆓宦官㆒、顧況撰㆓哀囝一篇㆒、囝生㆓閩中㆒、乃絶㆓其陽㆒、爲㆑臧爲㆑獲、金石滿㆑堂、又有㆘囝別㆓郎罷㆒、郎罷別㆑囝詩㆖、以寓諷、郎罷、閩人呼㆑父也。㈡月(**5－14330**)に同じ。〔集韻〕月、唐武后作㆑囝。

參考 ㈠の場合、福建にキャウ、江蘇・浙江にラン、廣東・江西・湖南・湖北にサイの方音がある。〔中華大字典〕囝、閩讀㆓給養切㆒、蘇浙讀㆓六安切㆒、粵贛湘鄂等省、均讀如㆑宰。

【⿴囗小】4689 サウ 囱(**3－4710**)の古字。〔說文〕囱、⿴囗小、古文。

參考 淵の古字の囦(**3－4706**)とは別字。〔字彙、辨似、二字相似〕⿴囗小、古囱字、曾會黑魯等字从㆑此。囦、古淵字。

【回】4690
㈠クワイ グワイ 〔集韻〕胡隈切 灰 ㄏㄨㄟˊ huei^{2}
㈡クワイ グワイ 〔集韻〕戶賄切 賄
㈢クワイ グワイ 〔集韻〕胡對切 隊
唐ウイ
慣ヱ


小篆 古文

㈠❶**めぐる**。㋑まはる。〔說文〕回、轉也、从㆑口、中象㆓回轉之形㆒。〔詩、大雅、雲漢〕昭㆓回于天㆒。〔傳〕回、轉也。㋺うづを卷く。〔荀子、致仕〕水深則回。〔注〕回、流旋也。㋩まがりくねる。〔漢書、李廣傳〕東道少㆓回遠㆒。〔注〕回、繞也、曲也。㋥かへる。〔素問、玉版論要篇〕神轉不㆑回。〔注〕回、謂㆓卻行㆒也。㋭めぐり過ぎる。〔漢書、揚雄傳上〕回㆓安邑㆒。〔注〕回、謂㆓繞過㆒。㋬くらみまどふ。〔辭海〕回、眩惑也。〔揚雄、甘泉賦〕耳駭目回。❷**めぐらす**。㋑まはす。〔荀子、儒行〕圖㆑回㆓天下於掌上㆒、而辨㆓白黑㆒。〔注〕回、轉也。㋺かへす。〔楚辭、離騷〕回㆓朕車㆒以復㆑路兮。〔注〕回、旋也。❸**めぐり**。〔廬山記略〕周回垂㆓二五百里㆒。❹**まるい**。〔周禮、春官、典同〕回聲衍。〔注〕回、謂㆓其形微圜㆒也。❺**たび**。次數。〔杜甫、將㆑赴㆓成都草堂㆒途中先寄㆓嚴鄭公㆒詩〕幾回書札待㆓潛夫㆒。❻**まがる**。**まげる**。〔國語、晉語八〕如㆑之何其回㆓於富㆒也。〔注〕回、曲也。

❼**たがふ**。〔詩、大雅、大明〕厥德不レ回。〔傳〕回、違也。〔詩、大雅、常武〕徐方不レ回。〔箋〕回、猶レ違也。❽**よこしま**。〔廣雅、釋詁一〕回、衺。〔書、泰誓下〕崇二信姦回一。〔傳〕回、邪。〔詩、小雅、小旻〕謀レ猶回遹。〔傳〕回、邪也。❾**物のさま**。回回(49)の❶❷❸❹❺を見よ。❿**宗教の名**。回教を見よ。⓫**國の名**。回回(49)の❽を見よ。⓬回中は地名。〔集韻〕回、一曰、回中、地名。⓭古は囘(**2－1521**)に作る。〔說文〕回、囘、古文。〔集韻〕回、古作囘。⓮或は違(**11－39013**)・韋(**12－43108**)に作る。〔集韻〕回、或作二違・韋一。⓯洄(**6－17353**)に通ず。〔爾雅、釋水〕過辨回水。〔釋文〕回、本作レ洄。⓰徊(**4－10095**)に通ず。〔說文通訓定聲〕回、字亦作レ徊。⓱廻(**4－9575**)に同じ。〔字彙〕廻、同レ回。⓲俗に迴(**11－38818**)に作る。〔說文通訓定聲〕回、字亦作レ迴。〔集韻〕回、俗作レ迴、非レ是。⓳俗に囬(**3－4713**)に作る。〔正字通〕回、俗作レ囬。⓴**姓**。〔正字通〕姓、明宣德中御史回續。［二］**めぐる**。〔集韻〕回、繞也、春秋傳、右回二梅山一、徐邈讀。［三］❶**まがる**。〔集韻〕回、曲也、漢書、多レ阪回遠、顏師古讀。❷**さける**。〔正字通〕回、又避也。〔漢書、酷吏、王溫舒傳〕卽有二避回一。〔注〕師古曰、避回、謂レ不三盡レ意捕二擊一也。❸或は迴(**11－38818**)に作る。〔集韻〕回、或作レ迴。

［解字］象形。回轉の形に象る。外の大口、內の小口、共に回轉の形。古文は陰陽の氣が激して、旋轉する形に象る。〔說文、回、段注〕中、當レ作レ口、外爲二大口一、內爲二小口一、皆回轉之形也、如二天體在レ外左旋、日月五星在レ內右旋一是也、古文象二一气回轉之形一。

［參考］❶面の古字の囬(**3－4713**)とは別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、回、回轉之回。囬、古面字。❷魯迅の「孔乙己」で、孔乙己が博學を誇り、回の字の書き方に四通りあるといふ。作者が四通り知つてゐて書いたのか、作中人物にさう言はせただけの事か明かでないが、回・囘・囬のほか、皿(宋元以來俗字譜に引く古今雜劇及び目蓮記彈詞)・冋(誤字)が考へられる。❸熟語は廻(**4－9575**)を併せ見よ。

【回移】1 クヮイイ めぐりうつる。〔張衡、思玄賦〕處士懷レ春、精魂回移。

【回異】2 クヮイイ たがひことなる。〔後漢書、楊終傳〕先帝所レ建、不レ宜二回異一。

【回遊】3 クヮイイウ めぐり遊ぶ。〔謝靈運、山居賦〕表裏回遊、離二合山川一。

【回遹】4 クヮイイツ よこしま。回邪。〔詩、小雅、小旻〕謀レ猶回遹、何日斯沮。〔傳〕回、邪、遹、辟。

【回隱】5 クヮイイン よこしまで避けかくれる。回避隱匿する。〔後漢書、任隗傳〕鯁言直議、無レ所二回隱一。〔注〕回、邪、隱、避也。〔南史、顏延之傳〕曾無二回隱一。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕欲三睠顧回隱、以市二於世一、其可乎。

【回紆】6 クヮイウ めぐりまがる。廻迂。紆回。〔沈約、釣竿詩〕桂舟既容與、綠浦復回紆。

【回芸】7 クヮイウン 藥草の名。防風(**11－41576··92**)の別名。回草(101)を見よ。

【回運】8 クヮイウン まはりめぐること。〔張淵、觀象賦〕冥車潛駕、時乘二六虬一、大儀回運、萬象俱流。

【回易】9 クヮイエキ 宋代、使臣が外國に往く時、自國の產物を携帶して其の君長に送り、歸國の時、先方の產物をそれと交換して歸ること。廻易。〔鶴林玉露、老卒回易〕張循王、嘗春日遊二後圃一、見三一老卒臥二日中一、云云、予二五十萬一、恣二其所レ爲、其人乃造二巨艦一極二其華麗一、市二美女能歌舞音樂者百餘人一、云云、樂飲逾レ月、忽飄然浮レ海去、逾レ年而歸、珠犀香藥之外、且得二駿馬一、獲レ利幾十倍、云云。〔元史、世祖紀六〕至元十三年、立二回易庫于諸路一、凡十有一、掌三市二易幣帛諸物一。

【回淵】10 クヮイエン めぐり流れる淵。廻淵。〔左思、吳都賦〕剖二巨蚌於回淵一。

【回圓】11 クヮイエン めぐりまはる。〔謝靈運、山居賦〕復有二水逕一、繚繞回圓。

【回遠】12 クヮイエン 道がまがりくねつて遠い。〔漢書、趙充國傳〕回遠千里。〔注〕師古曰、回、謂二路迂曲一也。〔漢書、李廣傳〕東道少二回遠一。

【回應】13 クヮイオウ 返事。返答。回答(189)に同じ。〔水滸傳、一回〕道童笑了一聲、也不二回應一、又吹二著鐵笛一。

【回音】14 huei² yin¹ 返事。回答。

【回家】15 クヮイカ 家に歸る。鄕里に歸る。〔蘇軾、陌上花詩〕且作遲遲君去レ魯、獨歌緩緩妾回レ家。

【回改】16 クヮイカイ かへしあらためる。〔南史、孝義傳序〕執レ志終無二回改一。

【回向】17 ヱカウ ［佛］❶我が功德をめぐらして亡者に向はしめる。讀經・念佛によつて亡者の冥福を祈るをいふ。〔止觀〕回二衆善一向二菩提一。〔大乘義章九〕言二回向一者、回二己善法一、有レ所二趣向一、故名二回向一。❷他に向いてゐた心を淨土の教に向けること。

【回向院】18 ヱカウヰン 我が國の寺の名。淨土宗。東京都江東區東兩國に在り、別稱を諸宗山無緣寺・國豐山無緣寺といふ。我が國、最大の無緣寺。開山は增上寺遵譽貴屋。明曆江戶大火の燒死者十萬餘人、安政江戶大震災の死者二萬餘人を始め、牢死者・刑死者等を葬る。

【回向文】19 ヱカウモン ［佛］法會誦經の終末に、其の功德を一切衆生に回向するため唱へる願文。淨土門には多く願以二此功德一、平等施二一切一、同發二菩提心一、往二生安樂國一(善導の觀經疏の文)の四句の偈文を用ひ、聖道の諸宗には多く願以二此功德一、普及二於一切一、我等與二衆生一、皆共成二佛道一(法華經)の四句の伽陀を用ひる。

【回香】20 huei² hsiang¹ 佛寺に詣でて歸宅すること。

【回耗】21 huei² hao⁴ 返信。返事。廻耗(**4－9575··12**)を見よ。

【回航】22 クヮイカウ 諸方の港をめぐり航する。廻航。

【回革】23 クヮイカク あらためる。〔後漢書、胡廣傳〕貢擧之制、莫レ或二回革一。

【回函】24 クヮイカン 御返事。返事の手紙。

【回看】25 クヮイカン ふりかへつて見る。回顧。〔王維、觀獵詩〕回二看射レ鵰處一、千里暮雲平。〔白居易、長恨歌〕君王掩レ面救不レ得、回看血淚相和流。〔趙秉文、盧州城下詩〕回二看經戰處一、慘淡暮寒生。

【回翰】27 クヮイカン 回簡に同じ。

【回簡】28 クヮイカン 返書。回翰。〔剪燈新話、翠翠傳〕代書回簡、曲盡二其意一。

【回鴈】29 クヮイガン 北地にかへるかり。歸雁。〔張仲素、漢苑行〕回鴈高飛太液池、新花低發上林枝。

【回鴈峯】30 クヮイガンホウ 湖南省衡陽縣の南。衡山七十二峯の首で、峯勢が雁の廻旋する如くであるから名づけた。又、雁が衡陽に至り、春に遇つて回るから名づけたともいはれる。〔廣輿紀、湖廣〕回鴈峯、在二衡州府城南一、鴈至二衡陽一則不レ過、遇レ春而回、或曰、峯勢如二鴈之回一、故名。

【回眼】31 クヮイガン 眼をめぐらして見る。〔陳與義、金潭道中詩〕客行驚二節序一、回眼送二桃花一。

【回巖】32 クヮイガン まがりくねつたいはほ。〔杜牧、念二昔遊一詩〕李白題レ詩水西寺、古木回巖樓閣風。

【回忌】33 クヮイキ ❶いみさける。〔後漢書、左雄傳〕奏二案貪猾二千石一、無レ所二回忌一。〔唐書、王徽傳〕書二十餘上、言無二回忌一、公議浩然歸レ重。❷［佛］人の死後めぐり來る忌日。年忌。年回。

【回歸】34 クヮイキ もとへかへる。

【回歸線】35 クヮイキセン 赤道の南北、各緯度二十三度二十七分の緯線。太陽が一年に一回此の眞上に來てまたもどるからいふ。北の線を北回歸線(夏至線)、南の線を南回歸線(冬至線)といふ。

【回歸熱】36 クヮイキネツ 一定の時間を置いて熱の高下する熱病。マラリア熱。間歇熱。

【回歸年】37 クヮイキネン ❶太陽の春分點から再び春分點に復歸する時間。卽ち三百六十五日五時四十八分四十六秒。❷林業法で、或る森林の擇伐を始めてから、全林を伐り終つて、最初の部分に復歸する間の年期。

【回歸無風帶】38 クヮイキムフウタイ 回歸線の地方では貿易風と反對貿易風とが相對して無風となる。北半球では北回歸無風帶、南半球では南回歸無風帶といふ。

【回戲】39 クヮイギ 豫定の芝居の開演が全然中止となること。

【回九】40 huei² chiu³ 結婚後九十八日に女家から壻を迎へに行くことをいふ。一名、回雙。順天地方での風習。

【回逆】41クワイギャク 逆にまはる。〔晏子、諫、上〕熒惑回逆。

【回去】42 huei² ch'ü⁴ 歸り行く。

【回馭】43クワイギョ 駕をめぐらして歸る。〔王仲旉、南都賦〕翠華回㆑馭、龍旆載揚。

【回曲】44クワイキョク よこしまでねぢける。邪惡。〔晏子、問、下〕大國之君、蓋回曲之君也。

【回極】45クワイキョク 天の中をいふ。〔楚辭、劉向、九歎、遠遊〕徵㆓九神於回極㆒兮。〔注〕回、旋也、極、中也、謂㆑會㆓北辰之星於天之中㆒也。

【回玉】46クワイギョク 書翰文用語。御返事。

【回空】47クワイクウ 清代、糧を運ぶ船が通州に來つて米を渡し、空ラカで南に回ること。〔六部成語、戸部、回空、注解〕運糧至㆑京交卸、南回之空船也。

【回過】48クワイクワ ふりむく。むきかへる。〔水滸傳、二十六回〕回㆓過臉㆒來、看㆓著婦人㆒罵道、儞那淫婦聽著。

【回回】49クワイクワイ ❶めぐりめぐる。〔馬融、廣成頌〕紛紛回回、南北東西。❷光り輝くさま。〔張衡、思玄賦〕紛翼翼以徐戾兮、焱回回其揚㆑靈。〔注〕回回、光皃。❸心の亂れるさま。〔劉楨、雜詩〕沈㆓迷簿領書㆒、回回自昏亂。〔注〕良曰、回回、心亂貌。❹怨めしげなさま。聲の形容。〔關尹子、三極〕人之善㆑琴者、有㆓悲心㆒、則聲悽悽然、有㆓思心㆒、則聲遲遲然、有㆓怨心㆒、則聲回回然。❺大きなさま。廻廻。〔杜甫、有㆑事㆓於南郊㆒賦〕地回回而風淅淅。❻たびたび。〔杜牧、寄㆓遠人㆒詩〕紙日求㆓人卜㆒、回回道㆓好音㆒。❼いつでも。〔紅樓夢、三十二回〕回回定要㆑見㆑我。❽國の名。回紇(95)に同じ。〔正字通〕回、回回、國名、西域大食國種也、陳隋間入㆓中國㆒、明丘濬曰、國在㆓玉門關外萬里㆒、其俗祀㆑天不㆑爲㆑像、航海至㆓廣州㆒者、始于㆓其地㆒創㆑寺禮拜、金元以後、蔓㆓延中國㆒、所㆑至輒相親守、其所謂教門者尤篤、今在在有㆑之。〔本草、豌豆〕釋名、胡豆・戎菽・回鶻豆、飲膳正要、作㆓回回豆㆒、回回、卽回鶻國也。〔遼史、天祚紀四〕駐㆓軍尋思干㆒、凡九十日、回回國王來降、貢㆓方物㆒。❾元の人、康里氏。不忽木の子。字は子淵。中書右丞となる。明宗崩ずるや、流涕して食せず、門を杜ぢて出でざること數年、疾を以て卒す。〔元史、百三十〕❿回回教を見よ。

【回回教】50クワイクワイケウ フイフイケウ アラビアのマホメットの開いた宗教。回紇、卽ち回回を通じて中國に傳へられたことからいふ。マホメットはアラビア半島西部のメッカの人で、七世紀初期に、メッカ郊外のヒラー山中の洞窟でアラーの啓示を受けて新宗教を提唱した。アラーを唯一最高神とし、その啓示を集録したコーランを教典として、劍を以て教を宣布する。イスラム教。マホメット教。回教(78)を見よ。

【回回醋】51 huei² huei suan⁴ 山漆。はじ。はぜ。

【回回蒜】52クワイクワイサン 藥草の名。きつねのぼたんの異名。〔農政全書、回回蒜考〕一名、水胡椒、又名㆓蠍虎草㆒、生㆓水邊下濕地㆒、苗高一尺許、葉似㆓野艾蒿㆒、而硬又甚、花叉又似㆓前胡葉㆒、頗大亦多、花叉苗莖稍頭開㆓五瓣黃花㆒、結㆑穗如㆓初生桑椹子㆒而小、又似㆓初生蒼耳㆒、實亦小色青、味極辛辣、其葉味甜。

【回回織】53ルモー 織物の名。印度に產する。絹絲を經とし、金銀絲を緯とした織物。緞子に似て浮織としたもの。

【回回青】54クワイクワイセイ 顏料の名。回青(161)の❶に同じ。

【回回石】55クワイクワイセキ 寶石の名。〔輟耕錄、回回石頭〕回回石頭、種類不㆑一、其價亦不㆑一、大德間、本土巨商中賣㆓紅刺一塊於官㆒、重一兩三錢、估直中㆓統鈔一十四萬定㆒、云云、呼曰㆑刺、方言也。

【回回葱】56クワイクワイソウ 葱の一種。あさつき。孝文韮。〔本草、胡葱〕釋名、蒜葱、回回葱、時珍曰、按、孫眞人食忌、作㆓葫葱㆒、因㆔其根似㆓葫蒜㆒故也、俗稱㆓蒜葱㆒、正合㆓此義㆒、元人飲膳正要、作㆓回回葱㆒、似㆑言㆓其來㆑自㆓胡地㆒、故曰㆓胡葱㆒耳。

【回回豆】57クワイクワイトウ 豌豆(**10**—**36273**・・1)の異名。回鶻豆。〔本草、豌豆〕釋名、胡豆・戎菽・回鶻豆、飲膳正要、作㆓回回豆㆒、回回、卽回鶻國也。

【回回礮】58クワイクワイハウ いしびや。回回砲。〔元史、兵志一、兵制〕至元十六年二月、括㆓兩淮㆒、造㆓回回礮㆒、新附軍匠六百人、及蒙古回回漢人新附人能造㆑礮者至㆓京師㆒。

【回回米】59クワイクワイベイ 薏苡仁(**9**—**32106**・・2)の異名。ずずだま。〔本草、薏苡仁〕釋名、解蠡・芑實・贛米・回回米・薏珠子、時珍曰、救荒本草云、回回米、又呼㆓西番蜀秫㆒、俗名㆓草珠兒㆒。

【回回曆】60クワイクワイレキ 西域の曆法。回曆。〔梅文鼎、曆算書記〕回回曆法、以㆓太陰年㆒而取㆓鉅算㆒、以㆓太陽年㆒巧藏㆓根數㆒、云云、元代曆法、卽參㆓酌回回曆㆒、明貝琳嘗撰㆓回回曆法書㆒、名㆓七政推步㆒、凡七卷。

【回光】61クワイクワウ ❶光りをめぐらす。〔魏志、陳思王植傳〕葵藿之傾㆑葉、太陽雖㆑不㆓爲㆑之回㆑光、然向㆑之者誠也。❷反射光線。〔傅玄、李賦〕夕景回光、傍蔭㆓蘭林㆒。

【回光鏡】62 huei² kuang¹ ching⁴ ❶普通用ひる鏡。光線が射入してから回轉するもの。❷複式顯微鏡に裝置して光を集める鏡。

【回光反照】63クワイクワウヘンセウ ❶夕日の光が反射する。❷燈光、又は人の生命の滅せんとして一時勢ひを持ち直すこと。

【回光返照】64クワイクワウヘンセウ ❶道家の修煉法。〔參同契、注〕人能回光返照、出㆑息微微、入㆑息綿綿、勿㆑令㆓間斷㆒、則神氣歸㆑根、漸入而漸柔、漸和而漸定、定㆑之久、呼吸俱無、而藥物當㆓自結㆒矣。〔太上純陽眞君了三得一經〕回光返照中、神歸炁穴裏。❷佛エクワウヘンセウ 回顧反省して修道すること。禪錄の語。〔傳燈錄、三十石頭草庵歌〕回光返照便歸來、廓達靈根非㆓向背㆒。

【回皇】65クワイクワウ たちもとほる。かへりみ迷ふ。佪徨。廻遑。回遑。〔後漢書、袁紹・劉表傳論〕回㆓皇冢嬖㆒、身積業喪。

【回遑】66クワイクワウ かへりみ迷ふ。回皇に同じ。佪徨。〔後漢書、西羌傳論〕謀夫回遑、猛士疑慮。〔魏志、夏侯玄傳、注〕魏略曰、許允聞㆓李豐等被㆑收、欲㆔往見㆓大將軍㆒、已出㆑門回遑不㆑定、中道還取㆑袴。

【回獲】67クワイクワク 縣名。漢、置く。今、甘肅省舊慶陽府の境。〔漢書、地理志下〕北地郡、縣十九、回獲。

【回官】68クワイクワン 回教の官吏。伯克(**1**—**466**・・188)の❶に同じ。

【回換】69クワイクワン ❶呼びかへして取り換へる。〔南史、張岱傳〕岱爲㆓吳郡太守㆒、高帝知㆓岱歷任清直㆒、至㆑郡未㆑幾、手敕曰、大郡任重、乃未㆑欲㆓回換㆒、但總㆓戎務㆒殷、宜㆓須望㆑實、今用㆑卿爲㆓護軍㆒、加㆓給事中㆒。〔北齊書、魏收傳〕武成復敕更審、收又回換。❷めぐりかへる。〔鮑照、冬至詩〕景移風度改、日至晷回換。

【回環】70クワイクワン めぐる。〔雍陶、峽中行〕兩崖開盡水回環、一葉纔通石罅間。

【回還】71クワイクワン めぐりかへる。〔孝武帝、自㆓君之出㆒矣詩〕思㆑君如㆓日月㆒、回還晝夜生。

【回觀】72クワイクワン ふりかへり觀る。〔白居易、寄㆓同病者㆒詩〕回㆓觀新舊中㆒、擧㆑目尤可㆑嗟。

【回京】73クワイケイ 京にかへる。歸京する。

【回敬】74 huei² ching⁴ ❶返杯する。❷返禮する。

【回溪】75クワイケイ 宋、鄭僑(**11**—**39647**・・108)の號。

【回谿】76クワイケイ 谿の名。河南省洛寧縣にある。後漢の建武三年、馮異は赤眉と戰つて敗れ、回谿の坂に上つてまた戰ひ、大いに赤眉を崤底に敗つた。光武、之を勞して、始め翅を回谿に垂ると雖も、終に能く翼を澠池に奮ふといつた。〔後漢書、馮異傳〕異棄㆑馬步走上㆓回谿阪㆒、與㆓麾下數人㆒歸㆑營、復堅㆑壁收㆓其散卒㆒、招㆓集諸營保數萬人㆒、與㆑賊約㆑期會戰、使㆘壯士變㆑服與㆓赤眉㆒同伏㆗於道側㆖、旦日赤眉使㆔萬人攻㆓異前部㆒、異裁出㆑兵以救㆑之、賊見㆓勢弱㆒、遂悉㆑衆攻㆑異、異乃縱㆑兵大戰、日昃賊氣衰、伏兵卒起、衣服相亂、赤眉不㆓復識別㆒、衆遂驚潰、追擊大破㆓於崤底㆒、降㆓男女八萬人㆒、餘衆尚十餘萬、東走㆓宜陽㆒降、璽書勞㆑異曰、赤眉破平、士吏勞苦、始雖㆑垂㆓翅回谿㆒、終能奮㆓翼澠池㆒。

【回蹊】77クワイケイ たにをめぐる。〔賀鑄、宿㆓寶泉山慧日寺㆒詩〕回㆑蹊出㆓蒙密㆒、解㆑袂迎㆓長風㆒。

【回教】78クワイケウ 回回教(50)に同じ。〔北京指南、雜錄、教派、回教〕回教自有㆓歷法㆒、有㆔禮拜與㆓年節㆒、故有㆘禮㆓拜寺㆒、及慶㆓祝元旦㆒之期㆖、摩罕默德之誕日及卒日、皆爲㆓聖節㆒、回歷九月間、爲㆓其徒受戒之期㆒。

【回教徒】79クワイケウト 回回教の門徒。回子。

【回繳】80クワイケウ 返事。〔福惠全書、蒞任部、清號件〕

差㆓馬快㆒星馳回繳。

【回穴】82 クヮイケツ ❶一様でないこと。齊一でないこと。〔後漢書、王充等傳論〕用㆑明居㆑晦、回㆓穴於曩時㆒。〔注〕回穴、猶㆓攜互㆒、不㆓齊一㆒也。❷よこしま。回遹。〔潘岳、西征賦〕事回穴而好㆑還。〔注〕薛君曰、回、邪僻也。〔唐書、裴延齡傳贊〕君臣回穴。

【回潏】83 クヮイケツ めぐりまはる。〔子華子、晏子問黨〕心居㆓中虛㆒、以治㆓五官㆒、精氣動薄、神化回潏。

【回見】84 huei² chien⁴ 後程お目にかかる。回頭再見。回頭見。

【回軒】85 クヮイケン 長窓。〔陸機、吳趨行〕重欒承㆓游極㆒、回軒啓㆓曲阿㆒。〔注〕銑曰、回軒、長窗。〔山堂肆考〕回軒、長窻也。

【回軒巷】86 クヮイケンカウ 唐、張志和(**4－9812**・・1111)の住居。〔愼蒙、山棲志〕張志和自稱㆓烟波釣徒㆒、陳少游表㆓其居㆒、爲買㆑地大㆓其閎㆒、號㆓回軒巷㆒。

【回戶】87 クヮイコ 回教徒の戶籍。甘肅省の撒拉爾その他の回教徒は、從來その土地の長官の管轄に屬するので、回戶と稱して戶籍を別にした。〔清會典事例、理藩院、禁令、回部禁令〕道光八年奏定、寄㆓居伊犂之安集延㆒、在㆓十年以外㆒者、准㆔其編㆓入伊犂種地回戶㆒、不㆑准㆓婚娶置產㆒。

【回滬】88 クヮイコ 上海へ返る。

【回顧】89 クヮイコ ふりかへり見る。ふりかへつて思ふ。回視。回想。追懷。追想。回看。〔魏志、高堂隆傳〕上天不㆑蠲、眷然回顧、宗國爲㆑墟、不㆑夷㆓于隸㆒。〔蔡邕、翠鳥詩〕回顧生㆓碧色㆒、動搖揚㆓縹青㆒。〔白居易、燕詩示㆓劉叟㆒〕擧㆑翅不㆓回顧㆒、隨㆑風四散飛。

【回互】90 クヮイゴ エゴ ❶山などのうねうねと曲つたさま。廻互。〔高適、自㆑淇涉㆓黃河㆒途中作詩〕歸意方浩然、雲沙更回互。❷たがひに組み合せること。〔北史、王劭傳〕劭復回㆓互其字㆒、作㆓詩二百八十篇㆒奏㆑之。❸心がわだかまりふさがること。心に忌みふせぐ。回護。〔柳宗元、夢歸賦〕紛若㆑喜而佁儗兮、心回互以壅塞。〔朱子全書、學〕然亦分明直截、無㆑所㆓隱祕回互㆒、今人理會不㆑能也。

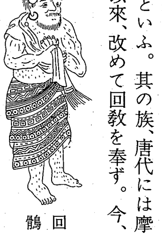
【回語】91 huei² yü³ 回回語。

【回護】92 クヮイゴ 害をふせぎまもる。心に忌みふせぐ。回互。庇護。〔宋史、王希呂傳〕天性剛勁、遇㆓利害㆒、無㆓回護意㆒、惟是之從。

【回扣】93 huei² k'ou⁴ 口錢。手數料。コンミッション。

【回國】94 クヮイコク ❶國にかへる。歸國する。❷諸國を經めぐること。廻國。〔狂言記、土產鏡〕日本を回國あつて。

【回紇】95 クヮイコツ ウイグル 回鶻・畏兀兒とも書く。皆今のウイグル(Uighur)族の先にして、蒙古・トルキスタン方面に活躍したトルコ系の部族。始め袁紇といひ、又、烏護・烏紇といふ。初めは薛延陀の北、娑陵水の附近に住した。元魏の時、また高車部といひ、或は敕勒ともいひ、訛つて鐵勒といふ。隋に至つて韋紇といひ、突厥の臣となる。大業中に西突厥の虐に苦しんで叛き去り、始めて回紇と稱す。突厥滅びて之に代り、今の內外蒙古の地を有す。唐の時、安史の亂を平げるを助け、屢〻公主を娶る。建中の初、回鶻と改名す。開成四年、國內亂れ、部衆西に奔り、遂に今の新疆南路に散居し、後、蒙古に服屬し、畏吾兒と號し、なほ天山南路に據る。清に至るまで其の地を回疆といふ。其の族、唐代には摩尼教を奉じ、宗元以來、改めて回教を奉ず。今、新疆省ではなほ回教が盛である。回回。〔李衞公問對、上〕至㆓回紇部落㆒。〔唐書、回鶻傳上〕回紇其先匈奴也、俗多乘㆓高車輪㆒、元魏時、亦號㆓高車部㆒、或曰㆓敕勒㆒、訛爲㆓鐵勒㆒。〔讀史方輿紀要、山西外夷附考、漠北諸部〕回紇、在㆓漠外㆒、本匈奴別種也、其先曰㆓袁紇㆒、亦曰㆓烏護㆒、又曰㆓烏紇㆒、至㆑隋曰㆓韋紇㆒、後爲㆓回紇㆒、初居㆓薛延陀北、娑陵水上㆒、去㆓長安㆒七千里、隋大業中、回紇五部在㆓鬱督軍山㆒者屬㆓突厥㆒、始畢可汗、唐貞觀初、與㆓薛延陀等部㆒叛㆓突厥㆒、敗㆓突厥兵於馬鬣山㆒、追至㆓天山㆒、掠㆓其部衆㆒、回紇繇㆑是大振、二十年、薛延陀國亂、回紇部長吐迷度、與㆓僕骨同羅等㆒、共擊敗㆑之、既復殺㆓其可汗拔灼㆒、遂據㆓其地㆒、內附以爲㆓翰海府㆒、二十二年、所部內亂、尋詔授㆓烏迷度子婆閏㆒、爲㆓翰海都督㆒、天寶初、回紇部與㆓拔悉密葛邏祿㆒、共攻殺㆓突厥骨咄葉護㆒、自爲㆓葉護㆒、既而回紇葉護骨力裴羅、遣㆑使入貢、賜㆓爵奉義王㆒、三載、骨力裴羅、與㆓葛邏祿㆒共攻殺㆓拔悉密頡跌伊施可汗㆒、遂自立爲㆓骨咄祿毘迦闕可汗㆒、遣㆑使言㆑狀、詔拜爲㆓懷仁可汗㆒、於㆑是南據㆓突厥故地㆒、立㆓牙帳於烏德犍山㆒、初統㆓九姓㆒、曰藥邏葛、曰胡咄葛、曰咄羅勿、曰貊歌息紇、曰阿勿嘀、曰葛薩、曰斛嗢素、曰藥勿葛、曰奚邪勿、後又併㆓拔悉密葛邏祿凡十一部㆒、各置㆓都督㆒、每戰則以㆓二客部㆒爲㆑先、四載復擊殺㆓突厥白眉可汗㆒、於㆑是回紇斥㆑地愈廣、東際㆓室韋㆒、西抵㆓金山㆒、南跨㆓大漠㆒、盡有㆓突厥故地㆒、懷仁卒、子磨延啜立、號㆓葛勒可汗㆒、至德以後、中國多故、回紇益強、建中初、回紇登里可汗嗣立、驕橫議㆓大擧入寇㆒、爲㆓其相頓莫賀達干所㆑殺、自立爲㆓合骨咄祿毘迦可汗㆒、請㆑爲㆓藩臣㆒、詔冊爲㆓武義成功可汗㆒、貞元四年、表請㆔改㆓稱回鶻㆒、太和以後、回鶻益衰、開成末、爲㆓黠戛斯所㆑敗、諸部潰散、太中初、其餘種散亡殆盡、別部居㆓甘州㆒者、爲㆓甘州回鶻㆒、五代時、屢遣㆑使朝貢。



回鶻
(三才圖會)

【回紇承宗】96 クヮイコツショウソウ 唐の人。瀚海大都督となつたが、後、瀼州に流された。〔唐書、王君㚟傳〕(君㚟節㆓度河西驛㆒)奏㆔四部有㆓叛謀㆒、帝使㆓中人即訊㆒、回紇不㆑能㆓自直㆒、于㆑是瀚海大都督回紇承宗流㆓瀼州㆒。

【回鶻】97 クヮイコツ ウイグル 回紇に同じ。〔唐書、回鶻傳上〕又請易㆓回紇㆒曰㆓回鶻㆒、言㆓捷鷙猶㆑鶻。

【回鶻字】98 ウイグルジ トルキスタンに於けるウイグル人の間に用ひられた文字。〔蒙韃備錄〕其俗既樸、有㆓回鶻爲㆑鄰、文書中自用㆓于他國㆒者、皆用㆓回鶻字㆒、如㆓中國笛譜字㆒也。〔眞臘風土記〕尋常文字及官府文書、皆以㆓麂鹿皮等物㆒、染㆑黑用㆓一等粉磋㆒爲㆓小條子㆒、其名爲㆑梭、就㆑皮畫以成㆑字、大率字樣正如㆓回鶻字㆒。

【回鶻豆】99 クヮイコツトウ 豌豆(**10－36273**・・1)の異名。回回豆(57)を見よ。

【回差】100 クヮイサ もとにおくりかへす。〔福惠全書、涖任部、親査閱〕稽㆓其應㆑付之簿籍、回差之馬匹㆒。

【回草】101 クヮイサウ 藥草の名。防風(**11－41576**・・92)の一名。〔本草、防風〕釋名、銅芸・回芸・回草・屛風・蕳根・百枝・百蜚、時珍曰、名㆓屛風㆒者、防風隱語也、曰㆑芸、曰㆑回、曰㆑蕳者、其花如㆓茴香㆒、其氣如㆓芸蒿蕳蘭㆒也。

【回想】102 クヮイサウ 昔のことをふりかへり想ふ。回顧。

【回漕】103 クヮイサウ 貨物を舟で運び送る。〔清會典事例、戶部、漕運、重運例禁〕旗丁所㆑買回漕米石、及賣米之人所㆑得米價、照㆑追入㆑官。

【回漕問屋】104 クヮイサウドンヤ 荷主と海運業者との間に立つて荷物の運漕を取扱ふ營業者。

【回漕免狀】105 クヮイサウメンジャウ 海運貨物積卸しの際、稅關の檢査を受けて受取る運送許可證。

【回雙】106 huei² shuang¹ 結婚後九十八日目に女家から壻を招いて迎へに行くことをいふ。回九。順天地方の語。

【回煞】107 クヮイサツ 陰陽家の說で、禍殃を避けることをいふ。〔吾學錄〕。

【回山】108 クヮイザン ❶山から歸る。〔清會典、戶部〕凡刨夫入㆑山者、皆定㆔其所㆑嚮、與㆓其時㆒、回㆑山則徵㆓其課㆒。❷山名。㋑湖北省大治縣の東、西塞山の右。上に飛雲三洞あり、上洞は雲を出し、中洞は水を出し、下洞は風を出すといふ。唐の元結が讀書した所。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、大治縣〕西塞山、縣東北九十里、云云、又有㆓回山㆒、其西爲㆓飛雲三洞㆒、稱㆓奇勝㆒。㋺甘肅省涇川縣の西北にあり、周の穆王、漢の武帝等が、遊んだと傳へる。山麓の碑に據れば、古の瑤池で、王母の降つた處といふ。回中山ともいふ。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、涇州〕回中山、在㆓州西五里㆒、上有㆓王母宮㆒、一統志以爲、漢武通㆓回中道㆒、蓋在㆑此、似㆑誤。

【回山信票】109 クヮイザンシンペウ 人參を取つて山から歸る者に與へる證明書。〔清會典、戶部〕凡刨夫入㆑山者、皆定㆔其所㆑嚮、與㆓其時㆒。〔注〕刨夫入㆑山、皆以㆓信票㆒驗放、水路每夫三人合㆓乘小船一㆒、陸路每夫隨㆓馱子一㆒、水陸每夫皆帶㆓米六斗㆒、回㆑山於㆓各口㆒照入、將㆓所㆑得蔘數、及刨夫姓名年貌㆒、註㆓於回山照票㆒、按㆑程判㆓定月日㆒、令㆘赴㆓官局㆒呈㆖驗。

【回山倒海】110（クヮイザンタウカイ） 山をひきかへし、海を倒さにする程の勢ひ。〔魏書、高閭傳〕昔世祖以㆓回山倒海之威、步騎數十萬㆒南臨、瓜步諸郡盡降、而盱眙小城、攻而弗㆑剋。

【回殘】111（クヮイザン） 物のあまり。殘餘。〔劉大彬、茅山志〕唐天寶閒、脩㆓造紫陽觀㆒、敕牒有㆓回殘錢若干貫、回殘銀若干兩之文㆒。

【回子】112（クヮイシ） ❶回教徒。〔親征平定朔漠方略〕從前回子充㆓諸台吉之使㆒、而往原不㆓之知㆒。❷huei^2 tzŭ 他人を罵る語。

【回子絨】113 huei^2 tzŭ jung^2 ビロード。天鵞絨。回絨。

【回子二旗】114（クヮイシニキ） 新疆省の軍隊の名。哈密回部と吐魯番回部との二部で組織する。

【回示】115（クヮイシ） 返事。〔長生殿、寄情〕倩㆑伊回示。

【回思】116（クヮイシ） 回想する。追懷する。〔蘇軾、子由生日詩〕回思十年事、無㆑愧㆓篋中筆㆒。〔陸游、戲詠㆓閒適㆒詩〕回思烏帽京塵客、始覺幽居白日長。

【回視】117（クヮイシ） ふりかへりみる。回顧。〔黃庭堅、題㆓顏魯公帖㆒文〕觀㆓魯公此帖㆒、奇偉秀拔、奄㆓有魏晉隋唐以來風流氣骨㆒、回㆓視歐虞褚薛徐沈輩㆒、皆爲㆓法度所㆑窘。

【回嘴】118 huei^2 tsuei^3 口をかへす。口返答をする。

【回駛】119 huei^2 shih^3 回航する。歸帆する。

【回字】120 huei^2 tzŭ^4 返信。

【回事】121（クヮイジ） 取り次ぐ。

【回事人】122（クヮイジニン） 取次ぎ人。〔淸國行政法汎論、文官仕途種類、備考〕其總㆓統之㆒者、曰㆓門政㆒、或稱㆓門上、及回事人㆒。

【回收】123（クヮイシウ） とりもどす。とりかへす。

【回周】124（クヮイシウ） めぐる。〔淮南子、原道訓〕回周旋轉。

【回執】125 huei^2 chih^2 受取る。回集。

【回集】126（クヮイシフ） あつまる。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕幡比狘回集。

【回車】127（クヮイシャ） ❶車をまはしてかへる。廻車。〔司馬相如、大人賦〕回㆑車朅來兮、絕㆓道不周㆒。〔鄒陽、於㆑獄上書自明書〕邑號㆓朝歌㆒、墨子回㆑車。〔後漢書、鍾離意傳〕曾參回㆓車於勝母之閭㆒。❷城の名。河北省贊皇縣の南。漢の李左車の築いたものと傳へる。一名、左車城。〔魏書、地形志上〕房子、二漢屬㆓常山㆒、晉屬、有㆓房子城・回車城㆒。

【回車戍】128（クヮイシャジュ） 壘の名。陝西省鳳縣の南。廻車戍。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、鳳縣〕回車戍、縣南百六十里、梁太淸中、西魏將楊寬、由㆓陳倉㆒取㆓回車戍㆒、入㆓斜谷關㆒、卽此。

【回邪】129（クヮイジャ） よこしま。回遹。〔禮、樂記〕倡和有㆑應、回邪曲直、各歸㆓其分㆒、而萬物之理、各以㆑類相動也。〔史記、田敬仲完世家〕回邪而不㆓相害㆒。

【回章】130（クヮイシヤウ） ❶御返事。❷受取書。❸まはしぶみ。回狀。

【回翔】131（クヮイシヤウ） 鳥がめぐりかける。〔楚辭、王褒、九懷、匡機〕孔鶴回翔、撫㆑檻兮遠望。〔風俗通、愆禮〕鳥獸之微、尙有㆓回翔之思㆒。〔後漢書、馮衍傳〕鸞回翔。〔傅玄、秋蘭篇〕雙魚自踴躍、兩鳥時回翔。〔湘中記〕有㆓白鶴㆒、回㆓翔其上㆒。

【回上】132 huei^2 shang^4 取り次ぐ。

【回城】133（クヮイジヤウ） 城內へかへる。歸城。

【回狀】134（クヮイジヤウ） まはしぶみ。二人以上の人々に順次に廻して讀む書狀。回文。

【回手】135 huei^2 shou^3 手向ひする。手を出して仕返しする。

【回首】136（クヮイシュ） 首をめぐらす。ふりかへり見る。〔史記、司馬相如傳〕昆蟲凱澤、回㆑首面㆑內。〔後漢書、伏湛傳〕四方回首、仰㆓望京師㆒。〔姚揆、潁川客舍詩〕回㆑首帝京歸未㆑得、不㆑堪㆔吟倚㆓夕陽樓㆒。

【回酒】137 huei^2 chiu^3 人から招待されたことに對しての返禮の宴會。回席。

【回從】138（クヮイジュウ） おもねりしたがふ。阿附。〔後漢書、宗室四王、城陽恭王祉傳〕安漢公擅㆓國權㆒、羣臣莫㆑不㆓回從㆒。〔注〕回、曲。

【回絨】139 huei^2 jung^2 ビロード。回子絨（113）に同じ。

【回春】140（クヮイシユン） ❶病氣が治る。〔龔廷賢、萬病回春、醫家十要〕一存㆓仁心㆒、乃是良箴、博施濟㆑衆、若惠澤斯深。❷老人が若者の元氣に立返ること。若がへること。〔古今圖書集成、藝術典、醫部、頤養補益〕用㆓鷄卵一箇㆒、去㆓淸黃㆒、只將㆓朱砂乳香㆒、各裝㆓一卵內㆒、用㆑紙糊七重、以㆓青絹袋㆒盛㆑之、令㆔精壯婦人懷㆓於肚上㆒、常令㆓溫煖㆒、朱砂懷㆓三十五日㆒、乳香懷四十九日、再㆓研前三味藥㆒、亦爲㆓細末㆒、和勻以㆓蒸棗肉㆒、和丸菉豆大、每日空心、溫酒呑㆓下三十丸㆒、或人參湯下一月外、加至㆓四十丸㆒、以㆓甲子庚申夜㆒、幽靜處修合、忌㆓婦人鷄犬見㆒㆑之、回春名㆓五老還童丹㆒。❸生かすこと。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、問擬〕更爲㆓筆底回㆑春。

【回書】141（クヮイショ） 書信の返事。返書。〔夢溪筆談、人事、二〕有㆓一縣令使人㆒、獨不㆓肯去㆒、須㆓責回書㆒。〔未信編〕次日必發㆓回書㆒。

【回署】142（クヮイショ） 官吏が公務で他出し、事を卒へて本署へ還ること。〔六部成語、吏部、回署、注解〕官員因㆓公事㆒外出、事竣仍回㆓本署㆒。

【回踵】143（クヮイショウ） くびすをかへす。かかとをまはして後へもどる。引き返す。〔佐藤一齋、日光山行記〕使㆓人悅然如㆑造㆓異境㆒、徙倚耽戀、不㆑能㆑回㆑踵、及㆓晡時㆒乃去。

【回冗】144（クヮイジョウ） 無駄が多くわづらはしいこと。〔後漢書、盧植傳〕臣少從㆓通儒故南郡大守馬融㆒、受㆓古學㆒、頗知㆔今之禮記特多㆓回冗㆒。

【回贖】145 huei^2 shu^2 質入れした物を受出す。質受けする。回當。

【回心】146（クヮイシン） ❶心を改める。改心。〔賈誼、上疏陳㆓政事㆒〕夫移㆑風易㆑俗、使㆓天下回㆑心而鄉㆑道、類非㆔俗吏之所㆓能爲㆒也。〔漢書、禮樂志〕天下回心。〔魏志、王粲傳〕海內回心。❷往日の愛情を回復する。回心院を見よ。

【回心院】147（クヮイシンヰン） 唐の高宗の后、蕭良娣は、武昭儀と寵を爭つて宮中に囚禁せられたが、後に帝が之を傷んで囚所に至るに及んで、此に署して回心院となさんといつた故事。回心は往日の愛情を回復すること。〔唐書、高宗后王氏傳〕武昭儀與㆓后蕭良娣㆒爭㆑寵、更相毀短、后良娣皆爲㆓庶人㆒囚㆓宮中㆒、帝念㆑后閒行、至㆓囚所㆒、惻然傷㆑之、呼曰、皇后良娣無㆑恙乎、今安在、二人同㆑辭曰、妾等以㆑罪棄爲㆑婢、安得㆓尊稱㆒耶、又曰、陛下幸念㆓疇日㆒、使㆓妾死㆒、更生復見㆓日月㆒、乞署㆑此爲㆓回心院㆒。

【回心院詞】148（クヮイシンヰンシ） 遼の蕭后が、獵を諫めて疏んぜられ、幸を望んで作つた詞。十香詞（2－2695・・653）を見よ。〔周春、遼詩話〕。

【回心轉意】149 huei^2 hsin^1 chuan^4 i^4 再び仲が好くなること。

【回身】150（クヮイシン） 身をめぐらす。廻身（4－9575・・53）に同じ。〔還魂記、圓駕〕回身拜介。

【回信】151 huei^2 hsin^4 返事。返書。返信。

【回信郵票券】152 huei^2 hsin^4 yu^2 p‘iao^4 ch‘üan^4 國際返信切手券。

【回神】153 huei^2 shên^2 人の死後、其の死去の日によつて十日、又は二十日を隔てて歸魂の日を定めること。

【回水】154（クヮイスイ） 北方の川の名。〔楚辭、天問〕北至㆓回水㆒、萃何喜。

【回數】155（クヮイスウ） どすう。度數。

【回數券】156（クヮイスウケン） 回數切符に同じ。

【回數切符】157（クヮイスウキップ） 幾回分かを一纏めにして發賣する切符。回數券。

【回生】158（クヮイセイ） よみがへる。蘇生。〔李商隱、寓懷詩〕草爲㆓回生種㆒、香緣卻死薰。

【回生之業】159（クヮイセイノゲフ） 起死回生、卽ち死んだものを再び生きかへらせる業。醫師の業をさす。〔阪谷朗廬、春窓記〕治㆓其回生之業㆒。

【回成】160（クヮイセイ） 淸の咸豐中、長髮賊の亂起るや、國帑耗乏したので、官吏の俸祿は其の幾割かを減じて支給したが、光緒中、之を復舊した。その俸祿の復舊をいふ。

【回青】161（クヮイセイ） ❶顏料の類。磁器を製するに用ひる。石青中の最上品。回回青。〔本草、扁青〕集解、時珍曰、今貨㆓石青㆒者、有㆓天青・大青・回回青・佛頭青㆒、種種不㆑同、而回青尤貴。❷放牧してある馬匹を草の枯れた時、連れて歸ること。草が生えて又放牧するのを出青といふ。〔淸會典事例、兵部、馬政、牧馬、二〕造㆓具毛齒淸冊㆒、送㆑部存㆑案、以備㆘監牧㆓回青匹㆒時㆖。

【回星】162（クヮイセイ） 城の名。河北省井陘縣の西南。今の名は靈眞城。韓信が趙を伐つ時に築いたもの。〔魏書、地形志上〕井陘、二漢、晉屬、有㆓回星城㆒。

【回聲】163（クヮイセイ） やまびこ。こだま。反響。應聲。〔周禮、春官、典同〕回聲衍。〔注〕回、謂㆓其形微圜㆒也、回則其聲淫衍無㆓鴻殺㆒也。

【回銷】164 クヮイセウ 返事を濟ます。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕令二其按レ期回銷一。

【回繞】165 クヮイゼウ めぐりまとふ。〔北史、馮亮傳〕馮亮性清靜、後隱二居嵩山一卒、焚燎之日有二素霧一、蓊鬱回二繞其傍一、自レ地屬レ天、彌レ朝不レ絶。

【回席】166 huei^2 hsi^2 招待を受けた返禮に人を招くこと。回酒(137)に同じ。

【回籍】167 クヮイセキ 原籍地にかへる。歸鄕する。回里。〔清會典、吏部〕漢官得レ告、則聽二其回籍一。

〖回籍起文〗168 クヮイセキキブン 清代、科擧に應ずる者を原籍地に回して、地方官から會試に起送する證明書を取らせること。〔清會典事例、禮部、貢擧、錄送鄕試、二〕有下不レ及二回籍起文一者上、照二順天鄕試一、由二幕所レ取具二印文一、開二具姓名籍貫、三代清冊一、云云、申二詳督撫一、由二督撫文送二本省一應レ試。

【回雪】169 クヮイセツ 飄り舞ふ雪。又、雪を舞ひ散らす。回雪袖を見よ。〔曹植、洛神賦〕髣髴兮若二輕雲之蔽一レ月、飄飄兮若二流風之回一レ雪。〔陳子良、賦レ得レ妓詩〕回雪掌中飛。〔蔣防、春風扇微和詩〕舞席皆回レ雪、歌筵暗送レ塵。

〖回雪袖〗170 クヮイセツシウ 舞ふ姿の輕妙な形容。〔張衡、觀舞賦〕裾似二飛燕一、袖如二回雪一。

【回說】171 huei^2 shuo^1 返事する。答へる。

【回川】172 クヮイセン 渦卷いてゐる川。〔李白、蜀道難〕上有二六龍回レ日之高標一、下有二衝波逆折之回川一。

【回仙】173 クヮイセン 蛔蟲をいふ。〔茶香室三鈔〕堅瓠集云、道家言、人身有二尸蟲三一、卽諺所謂腹中回蟲也、今人召二乩仙一、所謂回仙・回老・回道人、皆卽回蟲、乩仙巫神、賴レ此以知レ往。

【回旋】174 クヮイセン ❶めぐる。又、めぐらす。旋回。廻旋(**4－9575**‥60)に同じ。〔說苑、尊賢〕提レ鼓擁レ旗、被レ堅執レ銳、回二旋十萬之師一。〔庾信、秦州天水郡麥積崖佛龕銘〕糺紛星漢、回二旋光景一。❷植物の莖が支柱や他物に卷きつきながら昇つてゆく運動をいふ。

【回瞻】176 クヮイセン ふりかへりみる。〔蘇軾、和二子由柳湖久涸、忽有レ水、開元寺山茶舊無レ花、今歲盛開一詩〕回瞻郡閣遙飛レ檻、北望檣竿半隱レ堤。

【回奏】177 huei^2 tsou^4 返奏する。返事を奏上する。

【回送】178 クヮイソウ 物をまはし送る。

【回族】179 クヮイゾク 種族の名。突厥族。多く回教を信奉するからいふ。其の先は平涼の雜胡で、後魏の太武が沮渠氏を滅ぼした時、阿史那といふ者五百家を率ゐて茹茹に走り、金山に居る。金山は狀、兜牟の如くで、方言に、兜牟を突厥と稱するを以て、其の部に名づけて突厥といつた。今の阿爾泰・新疆・青海・額濟納等の土爾扈特は皆其の遺裔であり、歐亞兩洲に跨がる土耳其國も亦此の種族の建てたもの。剽悍にして騎射に長じ、耕牧を營む。使用した字體は土耳其字と同じである。

【回村】180 クヮイソン 村の名。山東省章丘縣の北の女郎山の北。縣志に漢の陽丘城といふ。〔濟南府志〕縣志云、今之章丘城、在二女郎山南一、古之陽丘城、在二女郎山北一、於レ是知三回村之爲二陽丘城一。

【回倒】181 クヮイタウ くつがへる。〔魏志、徐宣傳〕六軍乘レ舟、風浪暴起、帝船回倒。

【回塘】182 クヮイタウ めぐるつつみ。廻塘。〔溫庭筠、商山早行詩〕因思杜陵夢、鳧雁滿二回塘一。〔包佶、秋日過二徐氏園林一詩〕回塘分二越水一、古樹積二吳煙一。

【回當】183 huei^2 tang^4 質物を請け出す。回贖。

【回道】184 クヮイダウ まがりめぐるみち。〔杜甫、過二津口一詩〕回道過二津口一、而多二楓樹林一。

【回撓】185 クヮイタウ クヮイダウ よこしま。回橈に同じ。〔魏書、游肇傳〕雖二寵勢干請一、終無二回撓一。

【回橈】186 クヮイダウ よこしま。邪曲。回撓。〔後漢書、杜喬傳〕唯喬正色、無レ所二回橈一。〔注〕回、邪也、橈、曲也。

【回脫】187 huei^2 t‘uo^1 返答して言ひ拔ける。

【回奪】188 クヮイダツ 氣を挫き心を奪ふ。屈服させる。〔唐書、韋處厚傳〕至二廷爭一、嶷然不レ可二回奪一。

【回答】189 クヮイタフ 返答。返事。回應。回報。回覆。〔紅樓夢、三十四回〕比二母親的話一、反難二回答一。

【回單】190 huei^2 tan^1 受取狀。受取通知書。

〖回單簿〗190′ huei^2 tan^1 pu^4 判取帳。

【回湍】191 クヮイタン 水のめぐり渦卷く早瀨。〔駱賓王、早發二諸暨一詩〕薄煙橫二絕巘一、輕凍澁二回湍一。

【回憚】192 クヮイタン しりごみして憚る。〔唐書、趙宗儒傳〕宗儒黜陟詳當、無レ所二回憚一。

【回暖】193 クヮイダン 暖かになる。〔郭鈺、詩〕早梅回暖動二精神一、凍雀翻レ叢動二毛羽一。

【回灘】194 クヮイダン 渦卷く早瀨。〔杜甫、放船詩〕收レ帆下二急水一、卷レ幔逐二回灘一。

【回馳】195 クヮイチ かけめぐる。〔漢書、禮樂志〕乘二玄四龍一、回馳北行。

【回腸】196 クヮイチヤウ ❶心の中で色々と考へること。心の安んじないさま。中腸旋轉。廻腸。〔梁簡文帝、應令詩〕望二邦畿一兮千里曠、悲二遙夜一兮九回腸。❷腸の名。〔史記、扁鵲傳、注〕正義曰、回腸大四寸、徑一寸半、長二丈一尺。

〖回腸蕩氣〗197 クヮイチヤウタウキ 腸をめぐり動かせ氣をのばさせる。聲音文詞の人を深く感ぜしめる喩。〔魏文帝、大牆上蒿行〕女娥長歌、聲協二宮商一、感レ心動レ耳、蕩レ氣回レ腸。

【回中】198 クヮイチユウ 宮殿の名。❶甘肅省固原縣の境。秦、建つ。始皇二十七年に隴西の北地を巡つて此の地を過ぐ。漢の文帝の十四年、匈奴に燒かる。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府、隴州〕回中城、州西北一百二十里、秦建、始皇二十七年、巡二隴西一過二回中一、漢文帝十四年、匈奴入二蕭關一、使三奇兵燒二回中宮一、武帝元封四年、幸レ雍通二回中道一。❷陝西省隴縣の西北。今、回城といふ。〔後漢書、來歙傳〕建武八年、歙與二征虜將軍祭遵一襲二略陽一、云云、伐レ山開レ道、從二番須回中一、徑至二略陽一。〔後漢書、郡國志一〕汧、有二回城一、名二回中一。

【回氏】199 クヮイテイ 墨の神をいふ。〔致虛雜俎〕墨神曰二回氏一。

【回程】200 クヮイテイ 歸り途。歸還。〔琵琶記、散髮歸林〕須三早辦二回程一。

〖回程票〗201 クヮイテイヘウ 往復切符の復券。

【回潮】202 huei^2 ch‘ao^2 ひきしほ。退潮。廻潮(**4－9575**‥75)に同じ。

【回條】203 huei^2 t‘iao^2 受取書。

【回跌】204 huei^2 tieh^2 一旦昂騰した相場が、再び下落すること。跌は相場の下落。

【回帖】205 huei^2 t‘ieh^3 返書。返信。

【回天】206 クヮイテン 天をめぐらす。轉じて、時勢を一變する、困難な時勢を挽回することにいふ。〔後漢書、單超傳〕天下爲レ之語曰、左回レ天、具獨坐。〔孫綽、喩道論〕遊二步三界之表一、恣二化無窮之境一、回レ天儛レ地、飛レ山結レ流。〔唐書、張玄素傳〕張公論レ事、有二回天之力一、可レ謂二仁人之言一。

〖回天詩史〗207 クヮイテンシシ 書名。一篇。藤田東湖撰。

〖回天事業〗208 クヮイテンノジゲフ 天地を變轉させるほどの大事業。〔齋藤監物、題下兒島高德書二櫻樹一圖上詩〕報國丹心嗟二獨力一、回天事業奈二空拳一。

【回轉】209 クヮイテン めぐる。又、めぐらす。廻轉。〔後漢書、虞詡傳〕明日悉陳二其兵衆一、令下從二東郭門一出、北郭門入上、貿二易衣服一、回轉數周、羌不レ知二其數一、更相恐動。

【回電】210 クヮイデン ❶曲折する電光。〔沈約、長歌行〕拊戚狀二驚瀾一、循休擬二回電一。❷huei^2 tien^4 返事を告げる電報。返電。

【回頭】211 クヮイトウ ❶かうべをめぐらす。ふりかへる。〔禮、曲禮上、顧命二車右一、疏〕顧、回レ頭也、鄭箋レ詩云、廻レ首曰レ顧也、云云、回レ頭命二車右一上レ車也。〔白居易、長恨歌〕回レ頭下望二人寰處一、不レ見二長安一見二塵霧一。❷huei^2 t‘ou^2 ㋑反省する。後悔する。㋺歸る。もどる。㋩あとで。後程。

〖回頭貨〗212 huei^2 t‘ou^2 huo^4 戾り。嫁して戾つた女。

〖回頭青〗213 クヮイトウセイ 藥草の名。香附子(**12－44518**‥297)の異名。〔清異錄、藥、回頭青〕香附子、湖湘人謂二之回頭青一、言二就レ地剗去、轉レ首已青一。

〖回頭票〗214 huei^2 t‘ou^2 p‘iao^4 戾手形。戾爲替手形。

〖回頭貨物〗215 huei^2 t‘ou^2 huo^4 wu^4 歸りに賣つてくる代物。

〖回頭匯票〗216 huei^2 t‘ou^2 huei^4 p‘iao^4 回頭票に同じ。

〖回頭是岸〗217 huei^2 t‘ou^2 shih^4 an^4 悔悟さへすれば救はれる。

【回磴】218 クヮイトウ めぐつてゐる石だたみの道。〔崔櫓、華清宮詩〕草遮二回磴一絕二鳴鑾一、雲樹深深碧殿寒。

【回德】219 クヮイトク 德にもとつたおこなひ。よこしまな行ひ。〔論衡、變虛〕晏子曰、君無二回德一、方國

將レ至。

【回慝】220 クワイトク わるい。邪惡。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕吏無二苛政一、民不二回慝一。

【回納】221 クワイナフ お返しする。宋代の書簡文用語。〔蘇軾、與二祖印一書〕木湯法鼓、恐レ濁二妙供一、謹以回納。

【回任】222 huei^2 jen^4 官吏が歸任する。

【回念】223 クワイネン 思ひをめぐらす。又、種々にめぐらす心の思ひ。〔白居易、重到二渭上舊居一詩〕回念念二我身一、安得レ不二衰暮一。

【回波】224 クワイハ ❶めぐり流れて立つ波。文章の變化の多いのに喩へる。波紋。〔淮南子、本經訓〕羸鏤雕琢、詭文回波。〔注〕回波、若二水波一也。❷舞曲の名。其の姿勢、水の回旋するが如くなるをいふ。〔樂府解題〕回波樂、商調曲、如二囀春鶯鳥夜啼之屬一、謂二之軟舞一。

〔回波詞〕225 クワイハシ 詞牌の名。六言絶句體。皆第一句に回波爾時の四字を用ひるからいふ。〔劉肅、大唐新話〕景龍中、中宗嘗遊二興慶池一、侍レ宴者遞起鼓舞、并唱二回波詞一。

【回破】226 クワイハ 返事を言切つて了ふ。

【回馬】227 クワイバ ❶嫁の里歸り。回鸞(277)の❷を見よ。❷馬をかへす。〔白居易、晩歸有レ感詩〕回レ馬獨歸來、低レ眉心鬱鬱。

〔回馬水〕228 クワイバスイ 川の名。源は山西省楡社縣の黄花嶺。太谷縣の東南、回馬谷を經るから名づける。又、回馬河・五馬河といふ。祁縣の界を經て、文水縣の東に至つて汾に入る。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、楡次縣〕回馬水、在二縣東南一、志云、源出二楡次縣界黄花嶺一、流經二回馬谷一、因名。

【回拜】229 huei^2 pai^4 人の訪問に對して答禮に行くこと。

【回買】230 huei^2 mai^3 代物を所望して買ふこと。

【回芳】231 クワイハウ 風にただよふ香氣。〔陸機、招隱詩〕激楚佇二蘭林一、回芳薄二秀木一。〔注〕向曰、蘭氣廻轉、薄二迫於秀茂之木一。

【回報】232 クワイハウ 返事。回答。〔淸會典、兵部〕雖三已申二上司一、不レ待二回報一、於二所屬一擅調二軍馬一。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅説〕合レ無下另委二別員一、細加二踏勘一、確實回報上。

【回望】233 クワイバウ ふりかへりみのぞむ。又、四方を見わたす。〔後漢書、邊讓傳〕登二瑤臺一以回望兮。〔李郢、送三人之二嶺南一詩〕回二望長安一五千里、刺桐花下莫二淹留一。〔杜牧、華淸宮詩〕長安回望繡成レ堆、山頂千門次第開。

【回薄】234 クワイハク めぐりせまる。廻薄。〔鶡冠子、世兵〕精神回薄、振蕩相轉。〔賈誼、鵩鳥賦〕萬物回薄兮、振盪相轉。

【回匪】235 クワイヒ 回教徒の亂匪。〔東華續錄〕道光二十七年、前因二喀什噶爾回匪滋事一、開明阿等、臨レ時退衄、坐レ失二事機一。

【回避】236 クワイヒ よけさける。忌んで避ける。廻避。〔漢書、趙廣漢傳〕見レ事風生、無レ所二回避一。〔後漢書、周澤傳〕常力戰陷レ敵、無レ所二回避一。〔蜀志、孟光傳〕毎直言、無レ所二回避一。〔摭言〕薛逢晩年厄二於宦途一、策二羸馬一赴レ朝、値二新進士前導一曰、回二避新郎君一。逢遣二价語一曰、莫レ乞レ相、阿婆三五少年時、也曾東塗西抹來。

【回轡】237 クワイヒ 馬をかへす。轡は、馬のくつわ。〔謝脁、三日侍二華光殿曲水宴一代レ人應レ詔詩賦〕龍樓回レ轡。〔杜甫、冬狩行〕爲レ我回レ轡擒二西戎一。

【回蹕】238 クワイヒツ 天子がおかへりになること。蹕は道路を警戒するさきばらひ。〔行營雜錄〕急回レ蹕見レ之。

【回稟】239 huei^2 ping^3 申上げる。取り次ぎ申上げる。

【回府】240 huei^2 fu^3 お宅にお歸りになる。御歸邸になる。

【回敷】241 クワイフ 風などのめぐり吹くこと。〔謝靈運、山居賦〕氣結レ風而回敷。

【回部】242 クワイブ ❶淸代、天山南路、卽ち舊喀什噶爾汗國の地を指していふ。又、回疆といふ。住民の多數がトルコ人種でイスラム教を奉ずるので此の名稱がある。後、回部と準噶爾とを併せて新疆とした。〔皇朝文獻通考、職官考〕臣等謹按、伊犂回部、盡入二版圖一。❷淸代、官吏が六部省の内で轉任すること。

【回風】243 クワイフウ ❶つむじかぜ。回飆。旋風。廻風。〔禮、月令、猋風暴雨總至、注〕回風爲レ猋。〔楚辭、九章、悲回風〕悲二回風之搖蕙一兮、心寃結而内傷。〔注〕回風、謂二之飄風一。〔玉臺新詠、雜詩九首〕回風動レ地起。〔後漢書、馮衍傳下〕俟二回風一。〔曹植、吁嗟篇〕卒遇二回風起一、吹レ我入二雲閒一。〔韓翃、送三客之二潞府一詩〕官柳靑靑匹馬嘶、回風暮雨入二銅鞮一。❷みまはり。巡視。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕早堂、各役回風畢、把儀門皂隸領レ鑰開レ門。

【回復】244 クワイフク ❶かへる。なほる。とりかへす。〔漢書、禮樂志〕玄氣之精、回二復此都一。〔論衡、書虛〕江河之流、有二回復之處一。〔梁簡文帝、登レ城詩〕落霞乍續斷、晩浪時回復。❷huei^2 fu^4 復命する。回答する。

【回覆】245 クワイフク 返事。回答。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕聽事吏須二婉詞回覆一。

【回文】246 クワイブン ❶回文詩に同じ。〔文心雕龍、明詩〕回文所レ興、則道原爲レ始、聯句共レ韻、則柏梁餘製。❷回答の文書。〔剪燈新話、永州野廟記〕已而衡山府及城隍司回文、與二應祥所レ言略同。❸衆人が順送りにまはして見る文章。回狀。〔福惠全書、承事上司〕用レ印時須レ將二回文一。❹huei^2 wen^2 アラビヤ文字。回教徒が使用するからいふ。

〔回文詩〕247 クワイブンシ 詩の別體。前秦の蘇伯玉の妻の作つた盤中詩がこの始めで、秦の竇滔の妻が璿璣圖を作つてから體製大いに備はつた。その體は、詩句を碁盤の目のやうに排列し、終りから讀んでも、又、中央から旋回して讀んでも詩となり、平仄も韻も相適ふもの。例へば蘇軾の題二織錦畫一詩に春晩落花餘碧草、夜涼低月半枯桐、人隨遠雁邊城暮、雨映疎簾繡閣空とあるのを逆に讀めば東韻變じて眞韻となるが、これは逆に讀む例である。廻文詩(4―9575・・100)を見よ。〔四庫提要、集、總集類〕回文類聚四卷、補遺一卷、宋桑世昌編、考二劉勰文心雕龍一曰、回所レ興、則道原爲レ始、梅庚注謂、原、當レ作レ慶、宋文慶也、蓋其時璇璣圖詩未レ出、故勰云然、世昌以二蘇蕙時代在一レ前、故用爲二託始一、且繪二像於前卷首一、以明二刱造之功一、其説良是、然藝文類聚、載二曹植鏡銘八字一、回環讀レ之、無レ不レ成レ文、實在二蘇蕙以前一、乃不三標以爲レ始、是亦稍疎、又蘇伯玉妻盤中詩、據二滄浪詩話一、自二玉臺新咏一以外、別無二出典一、舊本具在、不レ聞レ有レ圖、此書繪二一圓圖一、莫レ知レ所レ本、考二原詩一末句稱、當下從二中央一周中四角上、則實方盤而非二圓盤一、所レ圖殆亦妄也、唯是咏歌漸盛、工巧日增、詩家既開二此一途一、不レ可二竟廢一、錄而存レ之、亦足三以資二博洽一。

〔回文體〕248 クワイブンタイ 廻文體(4―9575・・101)を見よ。

〔回文類聚〕249 クワイブンルイシユウ 書名。四卷。補遺一卷。宋、桑世昌編。蘇蕙の璇璣圖から以下の回文詩を錄す。〔四庫提要、集、總集類〕。

【回猋】250 クワイヘウ つむじかぜ。回飆に同じ。〔漢書、揚雄傳〕回猋肆二其碭駭一兮。〔注〕師古曰、回猋、回風也。

【回颷】251 クワイヘウ つむじかぜ。回飆に同じ。〔陶潛、和二郭主簿一詩〕凱風因レ時來、回颷開二我襟一。

【回飆】252 クワイヘウ つむじかぜ。回風。旋風。回猋。廻飆。〔楚辭、賈誼、惜誓〕託二回飆乎尙羊一。〔馬融、長笛賦〕感二回飆一而將レ頽。

【回鑣】253 クワイヘウ 馬をかへす。鑣は、くつわ。〔近古史談、德篇下、阿閉掃部〕有下一騎呼二於後一者上、回レ鑣接レ之。

【回辟】254 クワイヘキ よこしま。〔史記、秦始皇紀〕六國回辟、貪戾無レ厭。

【回變】255 クワイヘン めぐりかはる。〔後漢書、黨錮傳序〕愛尙相奪、與レ時回變。

【回浦】256 クワイホ 縣名。漢、置く。後漢、章安と改む。故城は浙江省臨海縣の東南。〔漢書、地理志上〕會稽郡、縣二十六、回浦。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府〕臨海縣、漢回浦縣地、屬二會稽郡一、後漢爲二章安縣地一。

【回峰】257 クワイホウ 周圍をとりかこむ山の峯。〔蘇軾、虔州八境圖詩〕回峰亂嶂鬱參差、雲外高人世得レ知。

【回毛】258 クワイマウ つむじ。旋毛。〔爾雅、釋畜〕回毛在レ臏、宜レ乘。

【回味】259 クワイミ 食後に佳味を覺えること。あと口がよいこと。〔王元之、橄欖詩〕良久有二回味一、始覺甘如レ飴。〔洪希文、橄欖詩〕得レ鹽卽回味、消食尤奇方。

【回民】260 クワイミン 回教の信徒。〔淸會典事例、戶部、屯田、新疆屯田〕嘉慶四年覆准、烏什種地屯兵四百名、裁二撤一百五十名一歸操、其餘二百五十名、

仍留二屯糧一、所レ裁屯兵熟地三千畝、撥レ給回民耕種一、免二其交糧一、俾三回民生計益臻二寬裕一。

【回明】261（クヮイメイ） 說明する。〔紅樓夢、二回〕我一一將二緣故一回明。

【回面】262（クヮイメン） 面をめぐらす。へつらふ。又、うはべだけの臣服。〔史記、鄒陽傳〕故回面汙行、以事二諂諛之人一。〔揚雄、劇秦美新〕海外遐方、信延レ頸企レ踵、回レ面內嚮、喁喁如也。〔注〕翰曰、回レ面內向、謂三順二服於君一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕遠人回面、華夏充實。〔注〕良曰、回面、謂二臣服一也。

【回門】263（クヮイモン） 新婦の里がへり。結婚後月を越えて、新郎新婦相携へて新婦の實家へ行くこと。〔隨園隨筆〕今人女家彌月後、與レ壻歸來號二回門一、始二于公羊傳一、高固及二子叔姬一來、曰、其諸爲二其雙雙而俱至一者歟、古諸侯夫人有二反馬之禮一、謂下留二母家之馬于夫家一、防二以レ不レ謹被レ黜之意上謙也、大夫士親迎、故無二反馬之禮一。

【回陽】264（クヮイヤウ） よみがへる。蘇生する。〔還魂記、圓駕〕你這喇生生回陽附子較較爭些二。

【回勇】265（クヮイユウ） 清代、新疆省の回教民族から募集した勇兵。

【回用】266 huei² yung⁴ 口錢。「き。

【回用扣頭】267 huei² yung⁴ k'ou⁴ t'ou² 割引

【回容】268（クヮイヨウ） 法を曲げて容れる。〔後漢書、虞詡傳〕詡好二剌擧一、無レ所二回容一。〔注〕回、曲也。〔後漢書、馬武傳〕帝雖三制二御功臣一、而每能二回容一、宥二其小失一。〔注〕回、曲也、曲レ法以容也。

【回來】269（クヮイライ） 歸り來る。又、もとへもどる。〔蘇軾、和二人見レ贈詩〕回來索レ酒公應レ厭、京口新傳作客經。

【回廊】270（クヮイラウ） まはり廊下。廻廊。〔王勃、龍懷寺碑〕回廊窋窱、自吐二風飈一。〔杜甫、涪城縣香積寺官閣詩〕小院回廊春寂寂。

【回洛】271（クヮイラク） 城の名。河南省孟津縣の東。東魏の元象の初、河陰の戰に、万俟洛が獨り兵を駐めて動かず、爲に西人が畏れて之を去つたので、高歡が其の營地に名づけて回洛といつた。〔北齊書、万俟洛傳〕子洛、字受洛干、及二此役一也、諸軍北渡レ橋、洛以二一軍一不レ動、謂二西人一曰、万俟受洛干在レ此、能來可レ來也、西人畏而去、高祖以二雄壯一、名二其所レ營地一、爲二回洛城一。

【回亂】272（クヮイラン） みだれる。〔新序、雜事四〕德之回亂。

【回瀾】273（クヮイラン） ❶うづまく波。〔沈約、日出東南隅行〕延軀似二纖約一、遺視若二回瀾一。❷明、顧充（**12−43689**‥99）の字。

【回欄】274（クヮイラン） 圍みまはした欄干。〔王士熙、詩〕亂鶯穿二舞幛一、輕蝶立二回欄一。〔揭傒斯、詩〕蓬萊宮闕赤回欄。

【回覽】275（クヮイラン） 一つの物を衆人が順送りにまはして見ること。廻覽。

【回鑾】276（クヮイラン） ❶鑾（天子の馬のくつばみにつける鈴。轉じて天子ののりもの）をめぐらす。天子の巡行をいふ。〔唐太宗、謁二幷州大興國寺一詩〕回鑾遊二福地一、極目玩二芳晨一。〔宋之問、幸二少林寺一應制詩〕紺宇橫二天室一、回鑾指二帝休一。❷還幸。還御（**11−39174**‥23）の❶に同じ。〔宣和遺事、前集、下〕報二道早朝一、歸去晚回レ鑾。

【回鸞】277（クヮイラン） ❶回鸞舞の略。❷結婚後の里がへり。回馬。〔五雜組、事部、二〕今人三日後、女偕レ壻省二父母一、謂二之回鸞一、閩人謂二之轉馬一、蓋春秋時有二回馬之義一也、五月歸寧、謂二之取夏衣一。

【回鸞舞】278（クヮイランノマヒ） 古の舞曲の名。廻鸞（**4−9575**‥115）を見よ。〔許有孚、圭塘唱和詩〕風吹二楊柳一回鸞舞。

【回流】279（クヮイリウ） うづまく流れ。〔陸雲、南征賦〕若下冥海之引二回流一、岱靈之吐中行雲上。〔李紳、欲レ到二西陵一寄二王行周一詩〕西陵沙岸回流急、船底黏レ沙去レ岸遙。

【回涼】280（クヮイリヤウ） 涼しくなる。

【回隆】281（クヮイリユウ） 鎭の名。一に廻龍鎭に作る。河南省安陽縣の東、臨漳・內黃二縣の界に接す。舊名を御河鎭といひ、明の嘉靖中、回隆に改む。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、魏縣〕回隆鎭、縣西南六十里、隆、亦作レ龍、相傳宋眞宗北征時、回鑾經レ此、因名。

【回禮】282（クヮイレイ） ❶順次に挨拶してまはる。❷返禮する。❸（ウイレイ） 回（ウイ）は唐音。禪家で他山・他寺・他の尊宿から訪問・饗應を受けた時、これに對して答禮に赴くこと。還禮。復禮。〔敕修百丈清規、五、遊方、參請〕參頭領レ衆至二客司一云云、歸二旦過一、知客尋往回禮。

【回繚】283（クヮイレウ） めぐりまとふ。まはりくねる。廻繚（**4−9575**‥121）に同じ。

【回曆】284（クヮイレキ） ❶回教の曆。回回曆。回教（78）を見よ。❷こよみが改まる。新年になる。

【回路】285（クヮイロ） ❶孔子の弟子の顏回と子路。〔隋書、禮儀志四〕參點並レ事、宣尼回路、同諮二泗水一、鄒魯稱レ盛、洙汶無レ譏。〔韓愈、贈二張童子一序〕愈與二童子一、俱陸公之門人也、慕二回路一二子之相請贈與レ處也、故有三以贈二童子一。❷かへりみち。歸路。

【回祿】286（クヮイロク） 火の神。轉じて、火災。火事。〔左氏、昭、十八〕禳二火于玄冥回祿一。〔注〕回祿、火神。〔國語、周語上〕昔夏之興也、融降二于崇山一、其亡也、回祿信二於聆隧一。〔注〕回祿、火神。〔書言故事大全、燈火類〕被二火災一、曰レ遭二回祿一。

【回話】287（クヮイワ） 返事する。答へる。〔桃花扇、撫兵〕副淨末回話介。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕令二經承赴レ憲回話一。

【回枉】288（クヮイワウ） 無實の罪。冤枉。〔後漢書、盧植傳〕凡諸黨錮多非二其罪一、可下加二赦恕一、申中宥回枉上。

【回惑】289（クヮイワク） まどはせる。〔後漢書、荀悅傳〕肅二恭其心一、愼二脩其行一、內不二回惑一、外無二異望一、則民志平矣。〔後漢書、張讓傳〕回二惑昏幼一、迷二瞀視聽一。

【回議案】290（クヮイギアン） 關係者に順次回送して意見を求める議案。

【回魚筯】291 huei² yü² chu⁴ 婚禮の飾り物として空樽に清水を入れ、金魚四尾・箸一雙・葱二株を入れて置くものをいふ。杭州地方の風習。

【回藏時】292（クヮイザウジ） グリニッチ天文臺の東經九十度經線の標準時をいふ。回藏標準時。

【回處士】293（クヮイショシ） 唐、呂洞賓（**2−3386**‥248）をいふ。〔蘇軾、劉孝叔會二虎丘王規甫一云云詩〕因レ公問二回老一、何處定二相逢一。〔注〕呂洞賓易レ姓爲二回處士一。

【回先生】294（クヮイセンセイ） 唐、呂洞賓（**2−3386**‥248）の號。

【回道人】295（クヮイダウジン） 唐、呂洞賓（**2−3386**‥248）の號。

【回娘家】296 huei² niang² chia¹ 陰曆正月十六日に里歸りすること。

【回圖使】297（クヮイヅシ） 外國と貿易する役人。〔資治通鑑、後晉紀〕齊王天福八年、初河陽牙將喬榮、從二趙延壽一入二契丹一、契丹以爲二回圖使一。〔注〕凡外國與二中國一貿易者、置二回圖務一、猶二今之回易場一也。

【回年亭】298（クヮイネンテイ） 宋、林國鈞（**6−14551**‥323）の室名。

【回帆鼓】299（クヮイハンコ） 帆を返す合圖に打つ鼓。〔陸游、將レ至二京口一詩〕船頭坎坎回帆鼓、旗尾舒舒下レ水風。

【回峯菊】300（クヮイホウキク） 潁州で白菊をいふ。〔本草、菊〕釋名、頌曰、唐天寶單方圖載二白菊一云、原生二南陽山谷及田野中一、潁川人呼爲二回峯菊一、汝南名二茶苦蒿一、上黨及建安郡・順政郡、並名二羊歡草一、河內名二地薇蒿一。

【回滿住】301（クヮイマンヂユウ） 明、東光の人。洪熙中、孝を以て旌せらる。〔明史、二百九十六〕。

【回樂峯】302（クヮイラクホウ） 山名。〔李益、夜上二受降城一聞レ笛詩〕回樂峯前沙似レ雪、受降城外月如レ霜、不レ知何處吹二蘆管一、一夜征人盡望レ鄕。

【回半有餘】303（クヮイハンイウヨ） 一年半餘り。

【回黃轉綠】304（クヮイクヮウテンリョク） 秋冬に黃落した草木が、やがて春に綠に移り代はること。〔晉休洗紅歌辭〕回黃轉綠無二定期一、世事返復君所レ知。

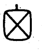
【釋レ回增レ美】305（クヮイヲステビヲマス） 邪辟を去り、美性を增す。〔禮、禮器〕禮釋レ回、增二美質一。〔注〕釋、猶レ去也、回、邪辟也、質、猶レ性也。

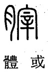
【囟】4691

[一]シン 〔集韻〕思晉切 震 ㄒㄧㄣˋ hsin⁴

[二]シン 〔集韻〕思忍切 軫

[三]シ 〔集韻〕息利切 寘


小篆


或體

古文

[一][二][三] ❶ひよめき。をどり。頂

門。〔說文〕囟、頭會匘蓋也、象形。〔段注〕內則注曰、來囟曰レ角、內則正義引レ此云、囟、其字象二小兒腦不レ合也、按、人部兒下亦云、从レ儿、上象二小兒頭腦未レ合也、九經字樣曰、說文作レ囟、隸變作レ囟、云云、宋刻書本、皆作レ囟、今人楷字譌レ囟、又改二篆體一作レ⊠、所謂象二小兒腦不レ合者、不レ可レ見矣。❶古は凷(2-1805)・膟(9-29784)・顖(12-43437)・顋(12-43610)に作る。〔集韻〕囟、古作二凷・膟・顖・顋一。❷或は胴(9-29393)・膟(9-29784)に作る。〔集韻〕囟、或作二胴・膟一。

解字 象形。本義はあたまのはち。小兒の頭蓋の合はざる所、卽ちひよめきあるに象り、中は腦髓に象る。字解を見よ。

參考 ❶此の字の正楷は囟、俗に囱に作るは譌。字解を見よ。❷牎(7-19883)の古字の囪(3-4710)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕囟、音信、頂門。囪、同レ牎。

【囟門】1 シンモン 頭頂の前方に在つて、小兒の時、動く處。ひよめき。をどりこ。〔方書〕頂中央旋毛中爲二百會一、百會前一寸半爲二前頂一、百會前三寸卽囟門。

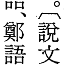
【目】4692

リヤウ

良(9-30597)の古字。〔說文〕良、目、古文良。〔五音集韻〕目、古文良字。

【因】4693

イン 〔集韻〕伊眞切 ㄧㄣ yīn¹ 眞



❶よる。㋑つく。〔說文〕因、就也、从二口大一。〔國語、鄭語〕其民沓貪而忍、不レ可レ因也。〔注〕因、就也。㋺たよる。たよりとする。〔孟子、公孫丑下〕時子因二陳子一而以告二孟子一。〔賈誼、過秦論〕因レ河爲レ池。㋩もとづく。〔呂覽、盡數〕因レ智而明レ之。〔注〕因、依也。㊁たのむ。〔呂覽、順說〕而心猶可二服因一。〔注〕因、猶レ便也。㋭したがふ。〔呂覽、君守〕必有レ因也。〔注〕因、猶レ順也。㋬したしむ。〔論語、學而〕因不レ失二其親一。〔集解〕孔安國曰、因、親也。㋣うけつぐ。そのままより用ひる。〔論語、爲政〕殷因二夏禮一。〔戰國、秦策〕願於因レ計。〔注〕因、猶レ受也。〔張衡、東京賦〕因二秦宮室一。〔注〕綜曰、因、仍也。㋠つづく。つらなる。〔逸周書、作雒解〕北因二於郟山一。〔注〕因、連接也。〔漢書、食貨志上〕太倉之粟、陳陳相因。❷たより。よすが。〔劉長卿、木蘭詩〕高柯倘爲レ楫、渡海有二良因一。❸わけ。よし。〔漢書、鄒陽傳〕無レ因而至レ前者也。❹もと。おこり。〔皇甫松、大隱士〕老聃煩二於論一レ德、釋氏詭以推レ因。❺ちなみ。えにし。ゆかり。〔蘇軾、寄二子由一詩〕與レ君世世爲二兄弟一、更結來生未了因。❻ふるい。〔管子、心術〕因也者非二吾所一レ顧、故無レ顧也。〔注〕因、舊也。❼よつて。ちなみに。ちなみて。〔史記、晉世家〕文在二其手一曰レ虞、故遂因命レ之曰レ虞。❽より。から。由(7-21724)に通ず。〔經傳釋詞、一〕因、由也、聲之轉也。書、禹貢、西傾因レ桓是來。❾やうな。似る。猶(7-20557)に通ず。〔經傳釋詞、一〕因、猶也、亦聲之轉也。楚策曰、王獨不レ見二夫蜻蛉一乎、六足四翼、飛二翔乎天地之閒一、俛二啄蚉虻一而食レ之、仰承二甘露一而飮レ之、自以爲レ無レ患、與レ人無レ爭也、不レ知夫五尺童子、方將二調飴膠絲一、加二己乎四仞之上一、而下爲二螻蟻食一也、夫蜻蛉、夫小者也、黃雀因レ是已、案、因是、猶是也、已、語終詞也、言、黃雀之自以爲レ無レ患、亦猶二之蜻蛉一也、下文曰、夫黃雀其小者也、黃鵠因レ是已、夫黃鵠其小者也、蔡聖侯之事因レ是已、蔡聖侯之事其小者也、君王之事因レ是已、義並與レ此同。❿或は捆(5-12016)に作る。〔集韻〕因、或作レ捆。⓫古は旲(7-18967)に作る。〔集韻〕因、古作レ旲。⓬姻(3-6250)・婣(3-6429)に通ず。〔六書正譌〕因、借爲二氏姻之姻一。〔論語、學而〕因不レ失二其親一。〔論語逢原〕因、姻之本字、婣同。〔論語徵〕因・婣、古字通用。⓭俗に囙(3-4678)に作る。〔廣韻〕因、俗作レ囙。⓮姓。〔通志、氏族略、以レ族爲レ氏〕因氏、遂人之四族也。⓯佛 一切の果を生ずる力の強いもの。弱いものを緣といふ。〔婆娑論、百二十七〕造是因義。〔大乘義章、三〕親生義、目レ之爲レ因。邦 ちなみに。前にあげた關係での意。

名乘 ナミ。ヨシ。ヨリ。

解字 會意。口(かこひ、區域の意)と大との合字。本義は高きを成すには丘陵にたより、大を成すには基阯にたよるが如く、其の區域にたよつて之を擴充し大いにする義。故に口と大とを合せて、就きたよる義を表はす。一說に、茵の古文で本義はしとね。其の周圍はしとねの形に象り、中は縫絲の模樣に象るといふ。象形。〔說文、因、段注〕就下曰、就、高也、爲レ高必因二丘陵一、爲レ大必就二基阯一、故因從二口大一、就二其區域一而擴二充之一也。〔說文通訓定聲〕因、按、口大俱非レ誼、江氏永曰、象二茵褥之形一、中象二縫綫文理一、按、卽茵之古文、江說是也、席篆古文作レ囡、蓋从二因厂一、象形。

【因依】1 インイ よりあふ。たよりあふ。〔阮籍、詠懷詩〕迴風吹二四壁一、寒鳥相因依。〔杜甫、閬水歌〕嘉陵江色何所レ似、石黛碧玉相因依。

【因位】2 インヰ 佛 佛因を修行する位。發心から成佛までの間をいふ。〔教行信證文類、二〕法藏菩薩因位時。

【因爲】3 yīn¹ wèi⁴ 云云により。故に。云云であるから。

【因由】4 インイウ 事のおこり。原因。由來。〔福惠全書、刑名部、詞訟、審訟〕如單內無レ名混入、卽問二因由一。

【因杅】5 インウ 匈奴の地名。〔漢書、武帝紀〕遣二因杅將軍公孫敖一、築二塞外受降城一。

【因緣】6 インエン インネン ❶つて。てづる。機會。〔史記、田叔傳〕少孤、貧困、爲レ人將レ車之二長安一、留求三事爲二小吏一、未レ有二因緣一也。❷より所とする。依據する。〔漢書、禮樂志〕經紀可二因緣而存著一也。〔論衡、亂龍〕因二緣昔書一。〔盧諶、贈二劉琨一詩序〕因二緣運會一、得レ蒙二接事一。❸親類。緣者。〔後漢書、皇甫規傳〕因緣嬖倖、受レ賂賣レ爵。〔後漢書、陳寵傳〕事類混淆、易レ爲二輕重一、不良吏得レ生二因緣一。❹不良の官吏が私情を以て法律文を解釋して利を得ること。因緣爲レ市を見よ。❺佛 ゆかり。いんねん。今生じた事に對する以前の關係。果報の對。〔飜譯名義集〕尼陁那、此云二因緣一、曰、因、謂下先無二其事一而從レ彼起上也、緣、謂下素有二其分一而從レ彼生上也、故因親緣疏。〔白居易、與二元九一書〕自敍三爲レ文因緣、與二年月之遠近一也。

【因緣碑】7 インネンヒ 清の唐英の製した甃碣をいふ。その碣の序に證二因緣一而來、了二因緣一而去と有るから名づける。吳嵩梁に唐権使因緣碑五言古詩一首がある。

【因緣爲レ市】8 インネンシヲナス 裁判の時、官吏が私情に依つて不正な判決をすること。因緣は、賄賂などの私的關係。爲レ市は、物品を賣買する時に値段の駈引きをするやうに、刑の輕重を左右すること。〔後漢書、桓譚傳〕見二法令決レ事、輕重不レ齊、或一事殊レ法、同罪異レ論、姦吏得二因緣一爲レ市、所レ欲レ活則出二生議一、所レ欲レ陷則與二死比一、是爲レ刑開二二門一也。

【因緣和合】10 インネンワガフ 因と緣とが和合して果を生ずること。〔智度論〕因緣和合、從二顚倒一說。

【因園】11 インエン 字號。❶清、莊元辰(9-31035‥16

3)の號。❷清、趙執信(**10－37171··652**)の號。

【因遠】12インエン 鎭の名。雲南省元江縣の西南の因遠山の下。清、巡檢を置く。〔讀史方輿紀要、雲南、元江軍民府、因遠羅必甸長官司〕因遠山、府西四十里、有ニ因遠驛一、爲ニ往來一必經ニ之地一、泉出ニ巖中一、流爲ニ仲夷溪一、分漑レ田、東流入ニ禮社江一。

【因應】13インオウ 私意を用ひないで、自然のままにまかせる。〔史記、老子傳贊〕老子所レ貴道、虛無因應、變ニ化於無爲一。

【因何】14インカ 何によるか。何によつて。如何なる理由により。〔白居易、答ニ崔賓客晦叔十二月四日見レ寄詩〕尚不レ能レ憂ニ眼下身一、因レ何更算ニ人間事一。〔白居易、座中戲呈ニ諸少年一詩〕不レ爲ニ倚レ官兼挾レ勢、因レ何入得少年場。

〔因何緣故〕15 yin^{1} hê^{2} yüan^{2} ku 如何なる理由により。

【因夏】16インカ 清、譚尙忠(**10－35978··65**)の字。

【因綱】17インカウ 明の人。禮の子。字は叔大。書並に古文辭に巧。成化の擧人。滄州知州となり、公明正大、廉潔にして慈惠。素衣を着て貧士の如くであつたから、民が布圓領因爺といふ。

【因革】18インカク 舊によると、あらためると。〔韓愈、河南少尹李公墓誌銘〕爭ニ鹽井因革便不便一。

【因甲】19インカフ なれる。〔書、多方〕乃大降レ罰、崇ニ亂有夏一、因ニ甲于內亂一。〔今古文注疏〕甲者、釋言云、狎也。

【因閒】20インカン 兵法の五閒の一。敵國人を厚遇して敵國のことを諜報させるもの。又、鄕閒ともいふ。〔孫子、用閒〕因閒者、因ニ其鄕人一而用レ之。〔十家注〕杜佑曰、因ニ敵鄕人一、知ニ敵表裏虛實之情一、故就而用レ之、可レ使ニ伺候一也、杜牧曰、因ニ敵鄕國之人一、而厚撫レ之、使レ爲レ閒也、云云、賈林曰、讀ニ因閒一爲ニ鄕閒一。

【因監】21インカン よりどころ。てほん。因つて鑑みる意。〔漢書、王莽傳上〕得ニ周禮一以明ニ因監一。〔注〕李奇曰、殷因ニ於夏禮一、周監ニ於二代一。

【因其】22インキ 清、傅廷標(**1－939··198**)の字。

【因歸】23インキ 數をかけたり割つたりすること。因はかける、歸は割る意。乘除。〔和漢三才圖會、藝才、算盤〕尋常爲ニ因歸一、捷易之器也。

【因勤】24インギン ねんごろ。慇懃(**4－11045··5**)の❶に同じ。〔嬾眞子、一〕東坡詩送ニ張中一云、游好非レ所レ長、一遇盡ニ因勤一。

【因果】25イングワ ❶佛因緣と果報。又、過去の因緣から生じた今の果報。今の因緣から生ずべき未來の果報。〔華嚴經〕擧レ果知レ因、譬如ニ蓮花一、方ニ其吐一レ花、果具ニ蘂中一。〔無門關〕大修行底人還落ニ因果一。〔觀無量壽經〕深信ニ因果一、不レ謗ニ大乘一。〔北史、蕭大圜傳〕深信ニ因果一。〔南史、范縝傳〕君不レ信ニ因果一、何得ニ富貴一。❷惡いまはり合せ。身に附きまとふ不幸。〔假名手本忠臣藏、八〕世にも因果な者なら、わしが身じや。❸以前に行つた業の報い。〔狂言記、拔殼〕生きながら鬼になると事は、何か因果でござるぞ。❹哲學用語。原因と結果。causality の譯。

【因果律】26イングワリツ 現象界に實在する一切の事物は必然的に其の原因を有すといふ自然法則。因果の法則ともいふ。

【因果應報】27イングワオウハウ 佛善因には善果、惡因には惡果があつて、因と果と互に相應じてたがはないこと。因報。〔法華經、方便品〕如レ是因、如レ是緣、如レ是果、如レ是報。〔慈恩傳、七〕唯談レ玄論レ道、問ニ因果應報及西域先聖遺芳故迹一。

【因果關係】28イングワクワンケイ 一定の前行事實と一定の後行事實との間に存する必然的關係をいふ。

【因果思想】29イングワシサウ 原因結果の理法を信ずる物の考へ方。

【因果覿面】30イングワテキメン 惡事の應報が直ちに眼前に現はれること。

【因果歷然】31イングワレキネン・イングワレキゼン 因果應報が歷々と明かであること。〔止觀義列、上〕存ニ諸教一、則因果歷然。

【因顯】32インケン 新論の篇名。

【因公】33インコウ 公事に因つて。〔後漢書、安帝紀〕文吏妄行苛刻、卿吏因レ公生レ姦、爲ニ百姓所ニ患苦一者、有司顯ニ明其罰一。

【因公科斂】34 yin^{1} kung^{3} k‘ê^{1} lien^{4} 公事によつて課税する。地方官廳で工事をする時、規則を作つて、それにより人民から寄附金を出させて經費にあてること。

【因克】35 yin^{1} k‘ê^{4} インキ。ink の音譯。

【因國】36インコク ❶前代の國。其の地は今の國の因る所であるからいふ。〔禮、王制〕天子諸侯、祭下因國之在ニ其地一而無ニ主後一者上。〔注〕謂下所レ因之國、先王先公、有ニ功德一、宜レ享ニ世祀一、今絕無中後爲ニ之祭主一者上。❷敵國に近い國で此方に內應する國。〔穀梁、莊、三十〕桓內無ニ因國一、外無ニ從諸侯一、而越ニ千里之險一、北伐ニ山戎一、危レ之也。〔注〕內無下因ニ緣山戎一、左右之國爲ニ內閒一者上。

【因業】37インゴフ ❶佛㋑因緣をなす作業。〔大日經、二〕但從ニ因業一起。㋺因緣のある惡業。又、因緣となる惡事。〔劉禹錫、袁州萍鄉縣楊岐山故廣禪師碑〕大慈救ニ諸苦一、廣啓ニ因業一、故劫濁而益尊。❷いつこくで酷くて思ひやりが無いこと。苛酷。

【因山】38インザン 山鹿高祐の號。山鹿素行(**4－7869··1121**)を見よ。

【因子】39インシ ❶數學用語。多くの數を順次に乘じて得た積に對して、其の乘じた夫〻の數をいふ。因數。❷原因。

【因之】40インシ 之により。〔左氏、莊、十八〕巴人因レ之以伐レ楚。

【因此】41インシ 此により。この故に。そこで。それで。〔紅樓夢、一回〕因レ此官兵剿捕、難ニ以安レ身。

【因事】43インジ ❶實際の事に本づく。〔史記、趙世家〕聖人觀レ鄕而順レ宜、因レ事而制レ禮。❷事にかこつける。〔後漢書、楊脩傳〕慮レ爲ニ後患一、遂因レ事殺レ之。

【因習】44インシフ これまでの習慣により從ふこと。因襲に同じ。〔日本外史、源氏前記、平氏〕官論ニ品流一、因習成レ俗。

【因襲】45インシフ 前のあとをうけつぐ。これまでの仕きたりにより從ふ。又、ならはし。因習。〔劉歆、移ニ太常博士一書〕仲尼之道又絕、法度無レ所ニ因襲一。〔陸倕、石闕銘〕雖下革レ命殊ニ乎因襲一、揖讓異中於干戈上、晷緯冥合、天人啓惎、克明ニ俊德一、大庇ニ生民一。

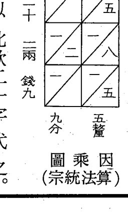
【因循】46インジュン ❶より從ふ。古い習慣に因り從ふ。舊習に因り從つて改めない。〔史記、太史公自序〕以ニ因循一爲レ用。〔淮南子、原道訓〕聖人守ニ清道一而抱ニ雌節一、因循應レ變、常後而不レ先。〔漢書、循吏傳序〕光因循守レ職、無レ所ニ改作一。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳〕君子之道樂ニ因循一。〔漢書、段會宗傳〕願吾子因ニ循舊貫一、毋レ求ニ奇功一。〔陸機、五等諸侯論〕因ニ循周制一。❷ぐづぐづしてためらふ。進取の氣力がない。〔顏氏家訓、勉學〕因循面レ墻。〔韓愈、酬下裴十六功曹巡ニ府西驛一途中見上レ寄詩〕多才自勞苦、無レ用祇因循。

〔因循姑息〕47インジュンコソク 從來の方法ばかり守つて、進取の氣象なく一時のがれをすること。

【因諸】48インショ 齊の獄名。又轉じて、ひとや。〔公羊、昭、二十二〕宋南里者何、若下曰ニ因諸一者上然。〔注〕因諸、齊故刑レ人之地。

【因仍】49インジョウ ❶より沿ふ。〔易、震、洊雷震、疏〕洊者、重也、因仍也、雷相因仍、乃爲ニ威震一也。❷舊によつて變改しないこと。〔魏志、程昱傳〕轉相因仍、莫レ正ニ其本一。〔袁桷、魯子翬御史云云詩〕扈蹕歲因仍。

【因乘】50インジョウ 數を乘じる。かける。〔算法統宗、難題三、因乘歌〕起雙下加レ倍、見レ一只還レ原、倍レ一挨ニ身下一、餘皆融レ位遷、此法不レ用ニ乘除一、只以ニ此歌二十字一代レ之。



因乘圖（算法統宗）

【因心】51インシン 親愛する心。因は親。〔詩、大雅、皇矣〕維此王季、因心則友。〔傳〕因、親也。

【因人】52インニン 佛佛果に到らない以前の修業をする人。果人に對す。

【因數】53インスウ 數學用語。一つの數が數箇の數の相乘積であるとき、其の一數に對する各數をいふ。因子。

【因是】54インゼ ❶人閒界の相對的な是非善惡の別に因らないで、天地自然の理に順ひ因る意。莊子の齊物論は此の因是の說を以て根本趣旨とする。〔莊子、齊物論〕因レ是因レ非、因レ非因レ是、是以聖人不レ由、而照ニ之于天一、亦因レ是也。〔馬建忠、文通序〕屈平之靈修、莊周之因是。❷字號。㋑

清、傳廷標(1−939・・198)の字。㋺葛西質の號。葛西因是(9−31420・・42)を見よ。

【因制】55 yin^1 chih^4 インチ。英米尺度の名。

【因齊】56（インセイ） 戰國、齊威王(12−48560・・273)の名。

【因霄】57（インセウ） 傳說上の國の名。其の國人は嘯くことが巧であるといふ。〔拾遺記、五、前漢上〕西方有二因霄之國一、人皆善レ嘯、丈夫嘯聞二百里一、婦人嘯聞二五十里一、如二笙竽之音一、秋冬則聲清亮、春夏則聲沈下、人舌尖處、倒向喉內、亦曰、兩舌重沓、以レ爪徐刮レ之、則嘯聲逾遠、故呂氏春秋云、反舌殊鄕之國、卽此謂也。

【因地】58（インチ） 佛 證果を得べき修行位に在る閒。〔楞嚴經〕我本因地。

【因仲】59（インチユウ） 字號。❶清、馮培元(12−44579・・276)の字。❷清、李天植(6−14459・・1798)の字。

【因陳】60（インチン） 草の名。ねずみよもぎ。茵陳。因塵。〔本草、茵陳蒿〕釋名、藏器曰、此雖二蒿類一、經レ冬不レ死、更因二舊苗一而生、故名二因陳一、後加二蒿字一耳。

【因塵】61（インヂン） 草の名。因陳に同じ。〔廣雅、釋草〕因塵、馬先也。〔本草、茵陳蒿〕釋名、時珍曰、按、張揖廣雅、及吳普本草、並作二因塵一、不レ知二何義一。

【因提】62（インテイ） 天地開闢から、春秋、魯の哀公十四年までを十紀に分けた一つ。十紀(2−2695・・56)の❸を見よ。〔廣雅、釋天〕天地辟設、人皇以來、至二魯哀公十有四年一、積二二百七十六萬歲一、分爲二十紀一、曰、九頭・五龍・攝提・合雒・連通・序命・循蜚・因提・禪通・疏訖。

【因幡】63（イナバ） 山陰道八箇國の一。因州。今、鳥取縣に屬す。〔諸國名義考、下〕。

【因報】64（インパウ） 因果應報。〔後漢書、西域傳論〕因報相尋。

【因母】65（インボ） 實母。〔儀禮、喪服〕繼母何以如レ母、繼母之配レ父、與二因母一同。〔注〕因、猶レ親也。

【因明】66（インミヤウ） 佛 梵語 hetu-vidyā の譯語。古代印度の論理學。五明(1−257・・1042の❹を見よ)の一。物事の正邪・眞僞を考察論證する法。その形式は、宗(論定せんとする命題)・因(これを成立させる理)・喩(例證を擧げて宗と因との關係を明かにする語)の三つから成る。〔因明大疏、上、本〕明二此因義一、故曰二因明一。〔翻譯名義集〕大論言二五明一者、第四爲二因明一、考二定邪正一、研二覈眞僞一。〔大論〕因明、考二定正邪一、研二覈眞僞一。

【因明正理門論】67（インミヤウシヤウリモンロン） 佛 書名。一卷。陳那著。唐の義淨譯。

【因明入正理論】68（インミヤウニフシヤウリロン） 佛 書名。一卷。陳那の弟子、商羯羅主の著。唐の玄奘譯。

【因利】69（インリ） ❶利益により從ふ。利益につく。又、人が利として欲する所に從ふ。〔論語、堯曰〕因二民之所レ利而利レ之。❷時勢の便利に乘ずる。〔賈誼、過秦論〕因レ利乘レ便、宰二割天下一。

【因利局】70（インリキヨク） 清朝の末に貧民救濟のために設けた金融機關。無利子で貸し、なしくづしに皆濟させた。

【因力】71（インリキ） 佛 物を生ずる起原となる力。緣力の對。〔無量壽經、下〕因力緣力。

【因連】72（インレン） 相憑り合ふ。〔吳志、華覈傳〕因連避レ役、多有二離叛一。

【因園集】73（インエンシフ） 書名。十三卷。清、趙執信撰。〔四庫提要、集、別集類〕。　「名。

【因寄軒】74（インキケン） 清、管同(8−26162・・139)の室名。

【因時運】75（インジウン） 晉の鼓吹曲。傅玄の作。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、晉鼓吹曲、因時運〕古將進酒行、古今樂錄曰、因時運、言、文皇帝因二時運變一、聖謀潛施、解二長蛇之交一、離二羣傑之黨一、以レ武濟レ文、審二其大計一、以邁二其德一也。〔傅玄、因時運、晉故吹曲〕因二時運一、聖策施、長虵交解羣桀離、勢窮奔レ吳虎騎厲、惟武進、審二大計一、時邁其德淸二一世一。

【因樹屋】76（インジユヲク） 清、周亮工(2−3441・・880)の室名。

【因陀羅】77（インダラ） ❶佛 梵語 Indra の音譯。天主または帝と譯す。印度の吠陀教の主神。もと雷雨の神であつたが、後、世界を保護する偉大なる軍神とせられた。佛教では藥師十二將神の一として因達羅大將、また帝釋天とし、我が國では庚申として崇める。因達羅。〔玄應音義、三〕因坻、直戶切、或言二因提梨一、或言二因陀羅一、正翻名二天主一、以レ帝代レ之、故經中亦稱二天主一、或稱二帝釋天一、並位之與レ名也。〔翻譯名義集〕因陀羅、此云レ帝、正翻二天主一、以レ帝代レ之。❷元の畫僧で、人物・道釋畫を善くした。天竺寺に住したと傳へ、もと印度の人ともいふ。その畫蹟には石室祖瑛・楚石梵琦らの贊したものが多い。〔君臺觀左右帳記、元朝〕印陀羅、天竺寺梵僧、人物道釋。

【因話錄】78（インワロク） 書名。六卷。唐、趙璘撰。一卷は宮部で、帝王の事を記し、二・三卷は商部で、公卿百僚の事を記し、四卷は角部で、出仕せざる者、及び人民の事を記し、五卷は徵部で、多く典故の事を記し、雜へるに諧謔を以てし、六卷は羽部で、諸物の事を雜述する。唐の說部の中にあつて、最も體例の整つた書物。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【因圓果滿】79（インエンクワマン） 佛 修行の因が具足して、佛果の德の圓滿すること。〔心地觀經、一〕三僧祇劫度二衆生一、勤二修八萬波羅蜜一、因圓果滿成二正覺一、住壽凝然無二去來一。

【因餘之國】80（インヨノクニ） 古くて舊に從ふ國。〔蜀志、譙周傳〕因餘之國小、而肇建之國大。

【因話提話】81 yin^1 hua^4 t'i^2 hua^4 話しから話しを引き出して先へ先へと進む。

【無レ因至レ前】82（インナクシテマヘニイタル） 原因がなくて物事が目前に現はれる。〔鄒陽、於レ獄上書自明書〕明月之珠、夜光之璧、以レ暗投二人於道路一、衆莫下不二按レ劍相眄一者上、何則無レ因而至レ前也。

【推二究所レ因】83（ヨルトコロヲスイキウス） 原因を推し究める。〔讀律提綱〕律必推二究所レ因者一、所レ因指レ事言、謂下所レ犯因二此事一而致上也、如下威二逼人一致レ死條上、特重二因レ姦因レ盜之罪一、是也。

【因寄軒文集】84（インキケンブンシフ） 書名。初集十卷。二集六卷。補遺一卷。清、管同撰。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【因任已明而原省次レ之】85（インニンスデニアキラカニシテゲンセイコレニツグ） 各人の素質に因つてそれぞれの職に任使したら、その各人の言論に本づいてその實効を觀察する。〔莊子、天道〕形名已明、而因任次レ之、因任已明、而原省次レ之、原省已明、是非次レ之。

【⿴口幺】4694　エウ　〔正字通〕伊宵切　蕭

竈⿴口幺は、影の神の名。一に图(3−4762)に作る。〔酉陽雜俎、廣知〕道士郭采眞言、人影數至レ九、成式常試レ之、至二六七一而已、外亂莫二能辨一、郭言、漸益レ炬、則可レ別、又說、九影各有レ名、影神、一名二右皇一、二名二魍魎一、三名二洩節樞一、四名二尺鳧一、五名二索關一、六名二魄奴一、七名二竈⿴口幺一。〔注〕一曰、图。

【⿴口田】4695　サウ　〔川篇〕音窗

あな。〔川篇〕⿴口田、孔穴也。

【囡】4696　ヂフ　ニフ　〔集韻〕昵立切　緝　ㄋㄢ nan^1

❶⿴口乂(3−4679)に同じ。〔集韻〕⿴口乂、⿴口乂⿴口乂、私取レ物、或作レ囡。❷**女兒をいふ**。吳の方言。〔柳南俗筆〕漁家日在二湖中一、自無レ不二肌面粗黑一、有二生女瑩白者一、多名二白囡一、以誌二其異一。

【⿴口巳】4697　コツ　〔六書略〕音忽

語氣の強いことば。〔六書略〕⿴口巳、出レ气詞也。

【⿴口亡】4698　モク　目(8−23105)に同じ。〔搜眞玉鏡〕⿴口亡、同レ目。

【⿴口乇】4699　トン　囤(3−4704)に同じ。〔奚韻〕⿴口乇、同レ囤。

【⿴口士】4700　シン　義未詳。〔五音篇海〕⿴口士、音墋。

【团】4701 シウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕团、音囚。

【⿴囗彡】4702 ダウ 義未詳。〔川篇〕⿴囗彡、音⿰耳農。

【⿴囗山】4703 リ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗山、音哩。

【団】4703′ ダン 團(**3－4834**)の略字。

四畫

【囤】4704
［一］トン ドン 〔集韻〕杜本切 ㄉㄨㄣˋ tuen^4 阮
［二］トン ドン 〔集韻〕徒渾切 ㄊㄨㄣˊ t'uen^2 元

［一］❶**小さい米倉**。〔玉篇〕囤、小廩也。〔六書故〕囤、囷類、織二竹規一以貯レ穀也。❷**ざる**。⿱竹屯(**8－25874**)に同じ。〔集韻〕⿱竹屯、說文、篅也、或作レ囤。❸現買ふ。買ひ占めて貯へておく。貯へて値上りをまつ。［二］❶**米倉**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕囤、廩也。❷**聚める**。〔釋名、釋宮室〕囤、屯也、屯二聚之一也。

【囤戶】1 tuen^4 hu^4 物資を買占めて貯へてゐる商人。

【囤積】2 t'uen^2 chi^1 聚めて貯藏する。屯積。

【囥】4705 カウ 〔集韻〕口浪切 漾 **くら**。〔集韻〕囥、藏也。

【囦】4706 エン 淵(**7－17692**)の古字。〔說文〕淵、囦、古文从二口水一。〔字彙〕囦、古文淵字。

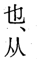
参考 囱の古字の⿴囗小(**3－4689**)とは別字。〔字彙、辨似、二字相似〕⿴囗小、古囱字、曾會黑魯等字从レ此。囦、古淵字。

【囦泫】1 エン ゲン 水の深くて廣いさま。〔郭璞、江賦〕若二乃曾潭之府、靈湖之淵一、澄澹汪洸、瀇滉囦泫。〔注〕善曰、皆水深廣之貌。

【囧】4707 ケイ 冏(**2－1528**)に同じ。〔正字通〕囧、俗譌作レ冏。

【囨】4708 ヘン 〔玉篇〕匹懸切 先 **唾はく音**。〔玉篇〕囨、唾聲也。

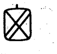
【囩】4709
［一］ウン 〔集韻〕王分切 文
［二］エン ヲン 〔集韻〕于元切 元
［三］キン 〔集韻〕於倫切 眞

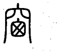

小篆

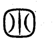
［一］［二］［三］❶**めぐる**。〔說文〕囩、回也、从レ口云聲。❷**田十二頃**。〔集韻〕囩、田十有二頃、謂二之囩一。〔古音叢目〕田十二頃曰レ囩。❸**意が足りない**。〔集韻〕囩、一曰、意不レ足。

解字 會意形聲。口(めぐる義)と云(雲の回轉する形)とを合せて回轉の意を表はし、且つ云は音を兼ねる。〔說文、囩、段注〕雲字下曰、象二雲回轉形一、沄字下曰、轉流也、凡從レ云之字、皆有二回轉之義一、云云、形聲包二會意一也。

【囱】4710
［一］サウ 〔集韻〕初江切 ㄔㄨㄤ ch'uang^1 江
［二］ソウ ス 〔集韻〕麤叢切 ㄘㄨㄥ ts'ung^1 東


小篆


或體


古文

［一］❶**てんまど**。屋根にあけたまど。あかりとり。いきぬき。〔說文〕囱、在レ牆曰レ牖、在レ屋曰レ囱、象形。❷或は窗(**8－25517**)・牕(**7－19865**)・窻(**8－25576**)に作る。〔集韻〕囱、或作二窗・牕・窻一。❸古は⿴囗小(**3－4689**)に作る。〔集韻〕囱、古作レ⿴囗小。❹俗に窓(**8－25494**)に作る。〔集韻〕囱、俗作レ窓、非レ是。［二］❶**まど**。いきぬき。窻(**8－25576**)の古字。〔集韻〕窻、通孔也、古作レ囱。❷**けむだし**。煙突。〔廣韻〕囱、竈突。

解字 象形。本義は屋上にあるまど。木を交へて作る。口はまどの外廓の形、夕は交木の形に象る。〔說文、口、段注〕此皆以二交木一爲レ之、故象二其交木之形一、外域レ之也。

参考 囟(**3－4691**)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕囟、音信、頂門。囱、同レ牕。

【囫】4711 コツ コチ 〔字彙〕呼骨切 ㄏㄨˊ hu^2 月 ㄏㄨㄣˊ huen^2

❶**まつたし**。完全な。丸のまま。〔俗書刊誤〕物完曰二囫圇一、與二渾侖一同義。❷**はつきりしない**。

【囫圇】1 コツ リン ❶完全な。物の完全に整つてゐること。渾侖(**7－17800・80**)に同じ。〔朱子語錄〕道是個有二條理一底、不二是囫圇底物一。❷hu^2 luen 又 hu^1 luen 全く。完全な。丸のまま。❸huen^2 luen^3 はつきりしない。漠然と。一般に。普遍的に。總括して。

【囫圇睡】2 hu^2 luen shuei^4 着物を着た儘で眠る。

【囫圇吞下】3 hu^2 luen t'uen^1 hsia^4 丸吞みにする。

【囫圇吞棗】4 hu^2 luen t'uen^1 tsao^3 事を粗略にする。一時の間にあはせをする。

【⿴囗丑】4712
［一］ヂフ ニフ 〔集韻〕昵立切 緝
［二］ダフ ネフ 〔集韻〕昵洽切 洽

［一］［二］⿴囗乂(**3－4679**)に同じ。〔玉篇〕⿴囗丑、同レ⿴囗乂、手動也。

【囬】4713
［一］クワイ
［二］メン

［一］回(**3－4690**)の俗字。〔正字通〕囬、俗回字。［二］面(**12－42618**)の古字。〔鄞本監韻〕回、作レ囬非、囬乃古面字也。

参考 元來、囬は面の古字で、回(**3－4690**)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕回、回轉之回。囬、古面字。

【园】4714
［一］グワン 〔集韻〕吾官切 寒
［二］タン ダン 〔集韻〕徒官切 寒
［三］エン

［一］❶**丸くけづる**。角を削り落す。〔集韻〕园、圓削也、莊子、园而幾レ向。❷或は抏(**5－11881**)に作る。〔集韻〕园、或作レ抏。❸刓(**2－1895**)に同じ。〔廣韻〕刓、园、上同。［二］**まるい**。團(**3－4834**)に同じ。〔集韻〕團、說文、圜也、莊子作レ园。［三］圓(**3－4819**)に通ず。〔莊子、齊物論〕五者园而幾レ向レ方矣。〔釋文〕崔音刓、徐五丸反、司馬云、圓也、郭音團。〔集解〕釋文、园、云云、司馬云、圓也、云云、宣云、五者本渾然圓通、云云。〔集釋〕园、圓也。

参考 模の古字の⿴囗毛(**3－4718**)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕园、同レ刓。⿴囗毛、同レ模。

【囮】4715

［一］グワ〔集韻〕五禾切 さ´ ê² ［歌］
［二］イウ ウ〔集韻〕夷周切 一ヌ´ yu² ［尤］
［三］イウ ウ〔集韻〕以九切 ［有］
［慣］クワ

小篆　或體（說文）　或體（段注本）

［一］［二］❶をとり。他の鳥を誘ひ寄せる爲に繫いである生鳥。鳥媒。〔說文〕囮、譯也、从㆑口化聲、率㆑鳥者繫㆓生鳥㆒以來㆑之、名曰㆑囮、讀若㆑譌。〔繫傳〕譯者、傳㆓四夷及鳥獸之語㆒、囮者、誘㆓禽鳥㆒也、卽今鳥媒。❷かはる。吪(2－3348)・化(2－2572)に通ず。〔元包經〕羣類囮育、庶物甡植。〔注〕囮、與㆓詩吪訓㆒㆑化同。❸𡇃(3－4864)に同じ。〔說文〕囮、𡇃、囮或从㆑繇。❹［現］いひがかりをつけて人の物をとる。訛(10－35256)に通ず。［三］をとり。［一］［二］の❶に同じ。〔集韻〕囮、鳥媒也。

【囮育】1 イククワ 天地が萬物をそだてること。化育。〔元包經〕羣類囮育、庶物甡植。

【囮子】2 yu² tzŭ⁴ をとり。鳥媒。

【国】4716 コク

國(3－4798)の俗字。〔正字通〕国、俗國字。

【困】4717 小篆 古文 コン 〔集韻〕苦悶切 ㄎㄨㄣˋ k'uen⁴ ［願］

❶きはまる。こまる。くるしむ。困窮する。ゆきつまる。〔廣雅、釋詁一〕困、極也。〔廣雅、釋詁四〕困、窮也。〔書、盤庚中〕汝不㆑憂㆓朕心之攸㆑困。〔論語、季氏〕困而學㆑之。〔集解〕困、謂㆑有㆑所㆑不㆑通也。〔論語、堯曰〕四海困窮。〔集解〕包咸曰、困、極也。〔素問、玉機眞藏論〕至㆓其所㆑困而死。〔注〕困、謂㆑至㆑所㆑不㆑勝也。❷きはめる。〔荀子、脩身〕横㆓行天下㆒、雖㆑困㆓四夷㆒、人莫㆑不㆑貴。❸とぼしい。〔禮、中庸〕事前定則不㆑困。〔疏〕困、乏也。❹まづしい。〔周禮、地官、廩人〕治㆓其糧與㆓其食㆒。〔疏〕案、書傳云、行而無㆑資、謂㆓之乏㆒、居而無㆑食、謂㆓之困㆒。〔呂覽、愼大〕以振㆓窮困㆒。〔注〕無㆓衣食㆒曰㆑困。❺やせ地。瘠せて穀類を栽培し得ない地。困殖(33)を見よ。❻あやふい。あやふくなる。あやふくする。〔呂覽、情欲〕身以困窮。〔注〕困、猶㆑危也。〔淮南子、主術訓〕效㆑忠者希㆑不㆑困㆓其身㆒。〔注〕困、猶㆑危也。❼みだれる。〔論語、子罕〕不㆑爲㆓酒困㆒。〔集解〕馬云、困、亂也。❽つかれる。〔廣雅、釋言〕困、悴也。〔管子、中匡〕菀濁困滯。〔注〕困滯、謂㆓疲羸微隱者㆒也。❾くるしみ。なんぎ。まづしさ。〔史記、信陵君傳〕以㆓公子高義㆒、爲㆔能急㆓人之困㆒。❿のがれる。〔方言、十二〕困、逃也。⓫易の六十四卦の一。進退に窮まる象。䷮（坎下兌上）。〔易、困〕澤无㆑水、困。⓬草の名。〔爾雅、釋草〕困、衱袶。⓭ふるいいほり。〔說文〕困、故廬也、从㆔木在㆓口中㆒。〔段注〕廬者、二畮半一家之居、居必有㆑木、樹㆓牆下㆒以㆑桑、是也、故字從㆓口木㆒、謂㆓之困㆒者、疏廣所謂自有㆓舊田廬㆒、令㆔子孫勤㆓力其中㆒也、困之本義、爲㆓止而不㆑過、引㆓伸之㆒爲㆓極盡㆒。⓮梱(6－14883)に通ず。〔說文通訓定聲〕困、叚借爲㆑梱。⓯古は朱(6－14492)に作る。〔說文〕困、朱、古文困。〔集韻〕困、古作㆑朱。

［解字］會意。口(かこひ)と木との合字。本義は親ゆづりの住居の意。屋敷が古くなれば、皆大木がある故に口の中に木を畫いて其の意を表はす。轉じて、困窮の意とし、又、假借して梱とする。字解の⓮⓯を參照せよ。

【困畏】1 コンヰ 弱くていくぢがない。困慰。〔莊子、列禦寇〕困畏不㆑若㆑人。〔注〕困畏、怯弱者也。

【困慰】2 コンヰ 弱くていくぢがない。困畏に同じ。〔淮南子、繆稱訓〕侏儒瞽師、人之困慰者也、人主以備㆑樂。〔集解〕困慰、本或作㆓困懟㆒。

【困汙】3 コンヲ 生活にくるしみ、いやしい地位に沈む。〔史記、刺客傳〕察㆓擧吾弟困汙之中㆒。

【困坷】5 コンカ くるしみなやむ。〔蘇軾、病中大雪數日云云詩〕嗟予獨愁寂、空室自困坷。

【困耗】6 コンカウ 貧しく苦しい。又、貧しくなる。〔王安石、茶商十二說〕饒豐價薄、園民困耗。

【困學】7 コンガク ❶行きづまってから、はじめて學ぶこと。〔論語、季氏〕孔子曰、生而知㆑之者、上也、學而知㆑之者、次也、困而學㆑之、又其次也、困而不㆑學、民斯爲㆑下矣。〔集解〕孔安國曰、困、謂㆑有㆑所㆑不㆑通也。❷心が鈍くて苦しみながら學ぶ。〔朱熹、困學詩〕困學工夫豈易㆑成、斯名獨恐是虛稱。〔戴表元、困學齋記〕伯機閉㆑門謝㆑客、方營㆓一室㆒、名曰㆓困學之齋㆒、將㆘收㆓放心㆒而求㆗寡過㆖焉。❸貧に苦しみながら學ぶ。苦學。

【困學齋】8 コンガクサイ 元、鮮于樞(12－46133‥10)の室名。

【困學民】9 コンガクミン 元、鮮于樞(12－46133‥10)の號。

【困學紀聞】10 コンガクキブン 書名。二十卷。宋、王應麟撰。說經・天道・地理・諸子・考史・評詩文・雜識に分ち、考據頗る精博。〔四庫提要、子、雜家類〕。

〔參考書〕【翁注困學紀聞】二十卷 清、翁元圻撰。【困學紀聞七箋】清、閻若璩・全祖望等六人の箋に萬機槐の集證を附す。

【困學齋雜錄】11 コンガクサイザツロク 書名。一卷。元、鮮于樞撰。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【困匱】12 コンキ 難儀し貧乏する。又、貧しい。困竭。又、まづしい人。〔後漢書、郭丹傳〕家無㆓遺產㆒、子孫困匱。〔孔叢子、雜訓〕以賑㆓困匱㆒。

【困急】13 コンキフ 困難で危急。こまり苦しむ。ゆきつまる。〔史記、留侯世家〕上數在㆓困急之中㆒、幸用㆓臣策㆒。〔史記、范雎傳〕趙所㆓困急㆒。〔新序、善謀上〕上數在㆓困急之中㆒。〔蘇轍、爲㆓兄軾下㆑獄上書〕臣聞、困急而呼㆑天、疾痛而呼㆓父母㆒者、人之至情也。

【困卻】14 コンキャク こまりきる。なやみくるしむ。困殺。

【困窮】15 コンキュウ ❶こまりはてる。困蹙。〔易、需〕剛健而不㆑陷、其義不㆓困窮㆒矣。〔易、繫辭下〕困窮而通。〔後漢書、袁術傳〕遂大困窮。〔論衡、禍虛〕案、古人君臣、困窮後、得㆓達通㆒。❷生活になやむ。極めて貧しいこと。〔書、大禹謨〕四海困窮、天祿永終。〔論語、堯曰〕四海困窮、天祿永終。〔淮南子、脩務訓〕布㆑德施㆑惠、以振㆓困窮㆒。

【困窘】16 コンキン こまり苦しむ。こまりはてる。〔莊子、列禦寇〕處㆓窮閭阨巷㆒、困窘織㆑屨。〔魏志、陳泰傳〕將士困窘。

【困苦】17 コンク こまりくるしむ。〔書、堯典、下民其咨、傳〕民咨嗟憂愁、病㆑水困苦。〔莊子、逍遙遊〕安所㆓困苦㆒哉。

【困窶】18 コンク 貧乏に苦しむ。〔文中子、關朗〕姚義困㆓於窶㆒、房玄齡曰、傷哉窶也。

【困屈】19 コンクツ こまりはてる。〔國史略、正親町天皇〕秀吉灌㆓高松㆒累月、城中困屈、守將清水宗治、自殺以請㆑宥㆓其士卒死㆒。

【困臥】20 コングワ 疲れてねる。〔蘇軾、武昌西山詩〕同遊困臥九曲嶺、褰㆑衣獨到吳王臺。〔高啓、病酒詩〕日高頭未㆑櫛、困臥對㆓山花㆒。

【困悔】21 コンクワイ くるしみくいる。〔周禮、秋官、大司寇〕凡害㆑人者寘㆓之圜土㆒、〔注〕犯㆑法寘㆓之圜土㆒繫㆓教之㆒、庶㆓其困悔而能改㆒也。

【困劇】22 コンゲキ 苦しみなやむ。〔文徵明、詩〕殘酒未㆑醒春困劇、汲㆑溪聊試雨前茶。

【困竭】23 コンケツ 難儀し貧乏する。又、貧しい。困乏。困匱。〔後漢書、順烈梁后紀〕賦斂煩數、官民困竭。

【困蹶】24 コンケツ 苦しみ惱む。失敗する。蹶は、つまづく。困躓。〔日本外史、足利氏後記、後北條氏〕剝㆑民以自逞、而至㆓胥而困蹶㆒、吾甚憫㆑之。

【困倦】25 コンケン 苦しみ疲れる。〔和漢三才圖會、草類、白木〕四肢困倦、嗜㆑臥目不㆑能㆑開、不㆑思㆓飲食㆒。

【困殺】26 コンサイ コンサツ 甚しくこまる。困卻。

【困死】27 コンシ ㊀苦しみ死ぬ。〔和漢三才圖會、龍蛇部、蛇皮〕凡蛇忌煙草脂汁、入蛇口、則困死。㊁k'uen⁴ ssŭ³ 苦しめ殺す。幽閉して殺す。

【困獸】28 コンジウ 追ひつめられて苦しむ獸。困獸猶鬬を見よ。〔晉書、李勢載記論〕授甲晨征、則理均于困獸、斬關宵遁、則義殊于前禽。〔李白、古風詩〕困獸當猛虎、窮魚餌奔鯨。〔蘇軾、獲鬼莊二十韻詩〕困獸何須殺、遺雛或可招。

〖困獸猶鬬〗29 コンジウナホタタカフ 強敵に對しては、追ひつめられて苦しんでゐる獸さへ手向ひをする。苦しめられると極力抵抗する喩。〔左氏、宣、十二〕困獸猶鬬、況國相乎。〔左氏、定、四〕困獸猶鬬、況人乎。〔後漢書、皇甫嵩傳〕困獸猶鬬、蜂蠆有毒、況大衆乎。

【困傷】30 コンシヤウ 苦しみきづつく。〔管子、形勢解〕明主猶造父也、善治其民、度量其力、審其技能、故立功而民不困傷。

【困蹙】31 コンシユク くるしみちぢまる。苦しみなやむ。困窮。〔晉書、毛寶傳〕使賊困蹙。〔金史、徒單克寧傳〕賊初困蹙、且無降意。

【困蹴】32 コンシユク 疲れ苦しんで心が安らかでない。〔易林〕行旅困蹴、失明守宿。

【困殖】33 コンシヨク 困は、やせて穀類の生じない地。殖は、肥えてよく實る地。肥瘦。〔管子、地圖〕困殖之地、必盡知之。〔注〕困、謂其地墝埆不可種藝、殖、謂壤田可播殖者也。

【困辱】34 コンジヨク くるしめはづかしめられる。〔戰國、秦策〕大夫種事越王、主雖困辱、悉忠而不解。〔史記、張儀傳〕乃自令困辱至此。

【困睡】35 コンスイ つかれてねむる。〔薛季宣、詩〕飽飯讀詩書、傍騰時困睡。

【困誓】36 コンセイ 孔子家語の篇名。

【困擾】37 コンゼウ くるしみ亂れる。〔晉書、郭璞傳〕百姓困擾、甘亂者多。

【困折】38 コンセツ 苦しみくじける。〔蘇軾、論西羌夏人事宜文〕雖中國靡敝、然夏人困折、亦幾於亡。

【困絶】39 コンゼツ くるしみはてる。極度に困苦窮乏する。〔史記、衞將軍傳〕軍亦有天幸、未嘗困絶也。

【困賤】40 コンセン まづしくていやしい。〔戰國、齊策〕夫孤寡者、人之困賤下位也、而侯王以自謂、豈非下人而尊貴士與。

【困惾】41 コンソウ ふさがりつまるさま。一杯にふさがるさま。〔莊子、天地〕五臭薰鼻、困惾中顙。〔疏〕惾、塞也。

【困息】42 コンソク つかれてやすむ。〔韓愈、陪杜侍御遊湘西兩寺獨宿有題一首因獻楊常侍詩〕羣行忘後先、困息棄拘檢。

【困族】43 コンゾク 貧しい親族。〔晏子、雜、下〕有受厚賜而不顧其困族、則過之。

【困殆】44 コンタイ くるしみ危くなる。〔後漢書、李固傳〕拔自困殆。〔齊竟陵王子良、諫斂塘役錢啓〕民庶彫流、日有困殆。

【困滯】45 コンタイ 苦しみとどこほる。又、そのもの。窮民をいふ。〔管子、中匡〕法行而不苛、刑廉而不赦、有司寬而不凌、菀濁困滯、皆法度不亡。

【困餒】46 コンタイ 飢ゑる。〔後漢書、劉翊傳〕逢知故困餒於路、不忍委去、因殺所駕牛、以救其乏。

【困橈】47 コンダウ みだす。〔鹽鐵論、鹽鐵取下〕不軌之民、困橈公利。

【困知】48 コンチ くるしんで知る。困知勉行を見よ。

〖困知記〗49 コンチキ 書名。二卷。續記二卷。附錄一卷。明、羅欽順撰。大體、朱子學を奉じてゐるが、ただ一元氣論を主張する點が異なる。〔四庫提要、子、儒家類〕

〖困知勉行〗50 コンチベンカウ くるしんで修養し、つとめて行ふ。生知安行・學知利行の次の修養の階段。〔中庸〕或生而知之、或學而知之、或困而知之、及其知之、一也、或安而行之、或利而行之、或勉強而行之、及其成功、一也。

【困躓】51 コンチ 苦しみなやむ。失敗する。くじける。困蹶。〔鍾會、檄蜀文〕困躓冀徐之郊、制命紹布之手。〔唐書、杜牧傳〕牧困躓不自振。〔王安石、祭歐陽文忠公文〕雖屯邅困躓、竄斥流離、而終不可掩者。

【困屯】53 コンチユン くるしみなやむ。なやみ。〔束晳、貧家賦〕余遭家之轗軻、嬰六極之困屯。

【困懟】54 コンツイ 苦しみうらむ。困汙(3)を見よ。

【困揲】55 コンテフ 困乏してあやぶみ懼れる。揲は、懼れること。一説に、困は衍字といふ。〔管子、山權數〕國用相靡而足、相困揲而咨、然後置四限高下。〔纂詁〕揲、讀爲慄、慄、懼也。〔校正〕宋本困作因、王氏引之云、咨當爲澹、字之誤也、澹、古贍字也、云云、相困揲而咨、當爲相揲而澹、廣雅曰、揲、積也、言國用相積而贍也、困蓋衍字也、劉以咨爲咨字、則義不可通、朱本徑改爲咨、則謬益甚矣。

【困鬬】56 コントウ 極力抵抗して降服しないこと。〔宋史、太祖紀〕城陷之日、愼無殺戮、設若困鬬、則李煜一門、不可加害。

【困篤】57 コントク 病が重い。危篤。〔後漢書、衞颯傳〕自陳困篤。〔論衡、解除〕病人困篤。

【困毒】58 コンドク くるしみ。なやみ。〔後漢書、順沖質帝紀〕況我元元嬰此困毒。

【困敦】59 コントン 十二支(**2**―**2695**‥367)の子の歲の異名。〔爾雅、釋天〕太歲在子曰困敦。〔史記、天官書〕困敦歲。〔淮南子、天文訓〕太陰在子歲、名曰困敦、歲星舍氐房心、以九月與之晨出東方。

【困頓】60 コントン ㊀つかれ果てる。疲勞。〔韓偓、馬上見詩〕歸應困頓眠紅帳、一枕西風夢裏寒。㊁苦しみ仆れる。こまり果てる。困弊。困憊。〔後漢書、劉平傳〕困頓不知所爲。〔韓愈、與鄂州柳中丞書、又一首〕淮右以靡弊困頓。〔燕翼貽謀錄〕困頓風塵。

【困難】61 コンナン ㊀こまる。なやむ。〔易經、震、震遂泥、注〕遂困難矣。㊁なやみ。

【困敗】62 コンパイ くるしみやぶれる。まける。困廢。〔史記、匈奴傳〕其困敗。〔漢書、西域傳下〕匈奴困敗。〔魏志、荀彧傳〕進足以勝敵、退足以堅守、故雖有困敗、而終濟大業。

【困廢】63 コンパイ くるしみやぶれる。困敗に同じ。〔荀子、正名〕貴賤不明、同異不別、如是則志必有不喩之患、而事必有困廢之禍。〔管子、明法解〕如此則士上通而莫之能妬、不肖者困廢而莫之能擧。

【困憊】64 コンパイ くるしみつかれる。困頓。

【困迫】65 コンパク 甚だ苦しむ。こまり果てる。困急。〔後漢書、伏湛傳〕黠虜困迫。〔吳志、孫堅傳〕汝潁賊困迫。

【困乏】66 コンパフ ㊀貧しい。困竭。窘乏。又、貧しい人。〔詩、小雅、緜蠻序、箋〕士之祿薄、或困乏于資財、則當賙贍之。〔漢書、昭帝紀〕使使者振困乏。〔楊惲、報孫會宗書〕常恐之困乏者、庶人之事也。㊁つかれ衰へる。〔資治通鑑、晉紀〕(明帝太寧二年)因作勢而起、困乏復臥。〔注〕氣不能充體爲困、力不能擧身爲乏。

【困否】67 コンピ ふしあはせ。薄幸。不運。〔風俗通、窮通〕論語、固天縱之、莫盛於聖、然時有困否、日月不失其體、故蔽而復明。

【困偪】68 コンピヨク こまり果てる。〔鍾會、檄蜀文〕咨困偪禽獲、欽二子還降。〔蜀志、先主甘后傳〕于時困偪、棄后及後主。

【困逼】69 コンピヨク こまり果てる。〔劉弘、與東海王越書〕今姦臣弄權、朝廷困逼。

【困貧】70 コンピン 貧しい。窮困する。〔史記、酷吏傳〕邊民大困貧。〔新書、瓌瑋〕困貧而不足。

【困兵】71 コンペイ 苦しいたたかひ。苦戰。〔六韜、虎韜、疾戰〕武王問太公曰、敵人圍我、斷我前後、絶我糧道、爲之奈何、太公曰、此天下之困兵也。

【困病】72 コンペイ 苦しみ病む。〔後漢書、廉范傳〕范訶之曰、君困厄瞀亂邪、語遂絶、融繫出困病。

【困敝】73 コンペイ 困弊に同じ。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕賴義遷任、適致困敝。

【困弊】74 コンペイ 苦しみつかれる。困敝。困頓。困憊。〔魏志、夏侯玄傳〕民之困弊、咎生于此。〔唐書、宇文融傳〕籍外取稅、百姓困弊。〔歸田錄〕財用匱乏、公私困弊。

【困踣】75 コンボク 苦しみ仆れる。困頓。〔劉基、渡江遺懷詩〕況我駑騫質、困踣畏培塿。

【困蒙】76 コンモウ 愚かで道理に暗い爲に苦しむ。〔易、蒙〕困蒙吝、象曰、困蒙之吝、獨遠實也。〔蔡邕、太尉楊賜碑〕士子困蒙、匪師不敎。〔曹攄、感舊詩〕今我唯困蒙。

【困眠】77 コンミン つかれてねむる。〔蘇軾、次韻周長官壽星院同餞魯少卿詩〕困眠不覺依蒲褐、歸路相將踏桂華。

【困迷】78 コンメイ まよひ苦しむ。〔和漢三才圖會、鼠類、鼬〕如相見鼬困迷。

【困厄】79 コンヤク わざはひ。災難。又、苦しみなやむ。厄は又、戹に作る。困阨。困難。〔漢書、王章傳〕今疾病困厄、不㆓自激昂㆒、乃反涕泣、何鄙也。〔鹽鐵論、褒賢〕主父見㆓困厄㆒之日久。

【困戹】79′ コンヤク わざはひ。困厄。困病(72)を見よ。

【困阨】80 コンヤク 困厄に同じ。〔史記、范雎蔡澤傳贊〕然二子不㆓困阨㆒、惡能激乎。〔歐陽脩、晝錦堂記〕蓋士方㆓窮時㆒、困㆓阨閭里㆒、庸人孺子、皆得㆓易而侮ㇾ之。

【困約】81 コンヤク 困苦窮乏する。貧しい。不如意。〔史記、晉世家贊〕晉文公、古所謂明君也、亡居ㇾ外十九年、至㆓困約㆒。

【困隘】82 コンヤク なんぎ。苦しみ。隘は阨。困阨。〔新序、雜事、四〕此言㆘常思㆓困隘之時㆒、必不㆖ㇾ驕矣。

【困勞】83 コンラウ 苦しんで努力する。困苦勤勞。〔和漢三才圖會、河湖有鱗魚、魚部〕蓋此困勞苦與㆓安游㆒之差也。

【困懶】84 コンラン つかれてものうい。〔癸辛雜識〕病ㇾ酒而困懶。

【困立】85 コンリツ ❶いつまでも立つてゐる。つかれるほど長く立つてゐる意。〔蘇軾、西齋詩〕鳴鳩得㆓美蔭㆒、困立忘㆓飛翔㆒。❷立つて居ることに苦しむ。〔白居易、寒食日過㆓棗糰店㆒詩〕困ㇾ立攀ㇾ花久、慵ㇾ行上ㇾ馬遲。

【困吝】86 コンリン 苦しみ。艱難。吝は恨辱の意。〔趙岐、孟子題辭〕余困吝之中、精神遐漂、靡ㇾ所㆓濟集㆒。

【困累】87 コンルイ 苦しみ。難儀。〔福惠全書、錢穀部、比較〕運送車驢之類、困累不ㇾ貲。

【困劣】88 コンレツ 苦しみ衰へる。よわくなる。〔漢書、史丹傳〕吾日困劣。〔論衡、氣壽〕虛居困劣。

【困惑】89 コンワク くるしみまどふ。迷ひくるしむ。

【困亨齋】90 コンカウサイ 淸、王錫闡(**7**-**20823**··1816)の號。

【困秋帽】91 k'uen^{4} ch'iu^{1} mao^{4} 冬期、婦人の冠る帽子。

【困勉齋】92 コンベンサイ 字號。❶淸、閻循觀(**11**-**41379**··82)の號。❷淸、吳謙牧(**2**-**3365**··538)の號。

【困沒長】93 コンボツチヤウ 複姓。〔唐書、南蠻下、驃傳〕驃王姓、困沒長。

【⿴囗无】4718 モ 模(**6**-**15453**)に同じ。〔正字通〕⿴囗无、同ㇾ模。

参考 园(**3**-**4714**)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕园、同ㇾ刓。⿴囗无、同ㇾ模。

【⿴囗口】4719 コツ 曶(**5**-**14287**)の籀文。〔集韻〕曶、籀作ㇾ⿴囗口。

【⿴囗丂】4720 ジツ 日(**5**-**13733**)の古字。〔玉篇〕⿴囗丂、古文日字。

【⿴囗巳】4721 コツ 曶(**5**-**13813**)に同じ。〔字彙補〕⿴囗巳、籀文曶字。

【囲】4722 ㈠トウ ツ 〔篇海類編〕他紅切 東 ㈡ヰ

㈠**むち**。〔篇海類編〕囲、策也。㈡圍(**3**-**4806**)の略字。〔同文通考、四〕囲、圍也。

【⿴囗分】4723 ケイ 囧(**3**-**4707**)の俗字。〔中華大字典〕⿴囗分、俗囧字。

【⿴囗巴】4724 イフ 邑(**11**-**39269**)に同じ。〔古音略〕⿴囗巴、卽邑字。

【⿴囗公】4725 ケイ 囧(**3**-**4707**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿴囗公、同ㇾ囧。

【⿴囗厷】4726 ジツ 日(**5**-**13733**)に同じ。〔五音篇海〕⿴囗厷、同ㇾ日。

【⿴囗氏】4727 コク 國(**3**-**4798**)の俗字。〔龍龕手鑑〕⿴囗氏、俗國字。

【⿴囗双】4728 ヂフ 図(**3**-**4679**)に同じ。〔搜眞玉鏡〕⿴囗双、同ㇾ図。

【⿴囗升】4729 エン 淵(**7**-**17692**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿴囗升、同ㇾ淵。

【⿴囗玄】4730 コク 國(**3**-**4798**)の俗字。〔中華大字典〕⿴囗玄、俗國字。

【⿴囗日】4731 ベン 義未詳。〔五音篇海〕⿴囗日、音面。

【⿴囗火】4732 イン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿴囗火、音因。

【⿴囗殳】4733 イウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗殳、音尤。

【⿴囗兮】4734 エツ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿴囗兮、音悅。

【⿴囗乂】4734′ ト 圖(**3**-**4832**)の略字。

五畫

【⿴囗全】4735 コク 國(**3**-**4798**)の古字。〔玉篇〕⿴囗全、古文國字。

【⿴囗出】4736 コ 畾(**3**-**4821**)に同じ。〔正字通〕⿴囗出・壺・畾同、說文从ㇾ畾、精蘊總要从ㇾ田、別作㆓⿵門固・棝㆒。

【⿴囗石】4737 ㈠タウ ダウ 〔集韻〕大浪切 漾 ㈡タク

㈠❶**石をくだく音**。〔廣韻〕⿴囗石、碎石聲。❷**石の音**。宕(**3**-**4794**)に同じ。〔集韻〕宕、砰宕、石聲、或省。㈡橐(**6**-**15533**)の古字。〔玉篇〕⿴囗石、古文橐字。

【⿴囗旦】4738 コツ 笏(**8**-**25882**)に同じ。〔字彙〕⿴囗旦、與ㇾ笏同。

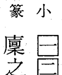
【⿴囗必】4739 ヒヨク ヒキ 〔集韻〕筆力切 職

❶**とぢる**。〔集韻〕⿴囗必、閉也。❷**姓**。〔集韻〕⿴囗必、亦姓。

【⿴囗布】4740 ホ 圃(**3**-**4774**)に同じ。〔集韻〕圃、或从ㇾ布。

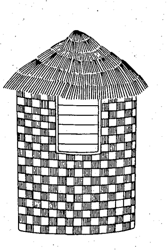
【⿴囗甲】4741 カフ 柙(**6**-**14628**)の古字。〔集韻〕柙、古作ㇾ⿴囗甲。

【囷】4742 ㈠キン 〔集韻〕區倫切 眞 ㄐㄩㄣ chün^{1} ㈡キン ギン 〔集韻〕巨隕切 軫


小篆

㈠㈡❶**圓い穀物ぐら**。〔說文〕囷、廩之圜者、从㆔禾在㆓囗中㆒、圜謂㆓之囷㆒、方謂㆓之京㆒。〔釋名、釋宮室〕囷、綣也、藏ㇾ物繾綣束㆓縛之㆒也。〔周禮、考工記、匠人〕囷窌倉城。〔注〕囷、圜倉。❷輪囷は、曲

りくねってゐるさま。〔漢書、鄒陽傳〕蟠木根柢、輪囷離奇、爲二萬乘器一、以三左右爲二之先一也。〔左思、吳都賦〕重葩掩葉、輪囷虯蟠。❸天囷は、星の名。〔石氏星經〕天囷十二星、主二倉廩之屬一。


（三才圖會） ❶囷

解字 會意。口（かこひ）と禾との合字。本義は圓形のこめぐら。故に口と禾とを合せて其の意を表はす。〔說文通訓定聲〕囷、廩之圜者、从三禾在二口中一、會意。

【囷窌】1（キンカウ） くら。囷は圓いくら、窌は穴ぐら。〔周禮、考工記、匠人〕囷窌倉城。〔疏〕方曰レ倉、圜曰レ囷、穿レ地曰レ窌。〔荀子、榮辱〕餘二刀布一、有二囷窌一。〔注〕囷、廩也、窌、窖也、地藏曰レ窖。

【囷囷】2（キンキン） まがりくねるさま。〔杜牧、阿房宮賦〕鉤心鬭角、盤盤焉、囷囷焉。〔注〕輪囷之貌。

【囷京】3（キンケイ） 穀物倉。京は、四角な倉。又、大きな倉。〔管子、輕重丁〕今者夷吾過レ市、有下新成二囷京一者二家上。〔注〕大囷曰レ京。〔新書、匈奴〕善二廚處一、大二囷京一。

【囷倉】4（キンサウ） 穀物倉。圓形のものを囷といひ、方形のものを倉といふ。〔周禮、考工記、匠人、囷窌倉城、疏〕方曰レ倉、圜曰レ囷。〔禮、月令〕穿二竇窖一、修二囷倉一。〔韓非子、初見秦〕囷倉空虛。〔管子、八觀〕囷倉寡、而臺榭繁者。〔白虎通、八風〕飾二囷倉一。

【囷積】5（キンシ） 貯藏の米穀。貯へおいた穀物。

【囷府】6（キンプ） 穀物倉。又、穀物倉と文書倉。囷廩。〔說苑、至公〕菽粟幣帛、腐二於囷府一。

【囷庾】7（キンユ） 穀物倉。〔王禎、詩〕隨レ分了二朝昏一、無心富二囷庾一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕囷庾庫藏之守。

【囷廩】8（キンリン） 穀物倉。囷府。〔水經、溫水注〕淸朗無レ風之日、遥望二朱崖州一、如二囷廩大一。〔梅堯臣、和二民樂一詩〕囷廩見二餘積一、息戍靡レ負レ戈。

【囷鹿】9（キンロク） 穀物倉。囷は圓形、鹿は方形の倉。〔國語、吳語〕市無二赤米一、而囷鹿空虛。〔注〕圜曰レ囷、方曰レ鹿。

【傾レ囷】10（キンヲカタムク） 倉に貯へた米を盡く出す。倒レ囷(12)に同じ。〔韓愈、答二竇秀才一書〕倒レ廩傾レ囷。

【指レ囷】11（キンヲサス） 米倉を指さす。兵糧を求めるをいふ。〔書言故事、不遇類〕干レ粮、云三望二指囷一、吳周瑜、求二粮於魯肅一、肅有二囷米一、指二一囷一與レ之。

【倒レ囷】12（キンヲサカシマニス） 有りたけの財產をもち出す。傾レ囷(10)に同じ。〔宋史、趙良淳傳〕人皆倒レ囷以應レ之。

【囸】 4743

ジツ

日(**5-13733**)の古字。〔字彙〕囸、古文日字。

【囹】 4744

レイ リヤウ 〔集韻〕郞丁切 ㄌㄧㄥˊ ling² 靑

小篆

ひとや。らう。〔說文〕囹、獄也、从レ口令聲。〔段注〕獄上當レ有二囹圄二字一、幸部曰、囹圄、所三以拘二罪人一。

【囹圄】1（レイギヨ レイゴ） ひとや。らうや。囹圄。囹は領、圄は禦で、囚徒を領錄して禁禦する意。一說に、囹は令、圄は與、罪人を幽閉して悔悟遷善せしめる意といふ。〔釋名、釋宮室〕獄、又謂二之囹圄一、囹、領也、圄、御也、領二錄囚徒一禁二御之一也。〔玉篇〕獄、牛欲切、周曰二囹圄一。〔禮、月令〕仲春、命二有司一省二囹圄一。〔注〕囹圄、所二以守繫一者、若二今別獄一矣。〔韓非子、三守〕守司囹圄、禁制刑罰。〔呂覽、貴直〕後出也滿二囹圄一。〔史記、汲黯傳〕囹圄空虛。〔漢書、禮樂志〕囹圄空虛。〔注〕囹圄、周獄名也、師古曰、囹、獄也、圄、守也、故總言二囹圄一、無レ繫二於周一。〔淮南子、說山訓〕拘二囹圄一者、以レ日爲レ修。〔太平御覽、刑法、獄〕風俗通曰、周禮、三王始有レ獄、夏曰二夏臺一、言三不レ害レ人若二遊觀之臺一、桀拘レ湯、是也、殷曰二羑里一、言二不レ害レ人若レ於二閭里一、紂拘二文王一、是也、周曰二囹圄一、囹圄、舉也、言二人幽閉思レ愆、改レ惡爲レ善、因原レ之也、今縣官錄レ囚、皆舉也。〔書言故事、獄訟類〕言二人在レ獄、曰レ在二囹圄中一。

【囹圄空】2（レイギヨムナシ） 牢獄が空虛になる。國がよく治まってゐる喩。〔管子、五輔〕倉廩實而囹圄空、賢人進而姦民退。

【囹圄空虛】3（レイギヨクウキヨ） 牢獄が空虛になる。國がよく治まってゐる喩。〔史記、汲黯傳〕下不レ能下抑二天下之邪心一、安レ國富レ民、使中囹圄空虛上。

【囹圄生レ草】4（レイギヨクサヲシヤウズ） ひとやに草が生ひ茂る。ひとやに繫がれる罪人がない意。國がよく治まってゐる喩。〔隋書、劉曠傳〕獄中無二繫囚一、爭訟絕息、囹圄盡皆生レ草、庭可レ張レ羅。

【囹圄卽福堂】5（レイギヨスナハチフクダウ） 牢獄は幸福の堂。獄中に繫がれれば衆人は善心にかへるから、獄屋は卽ち幸福の堂である。〔魏書、刑罰志〕顯祖末年、尤重二刑罰一、每於二獄案一、必令二覆鞫一、諸有二囚繫一、或積年不レ斷、羣臣頗以爲レ言、帝曰、獄滯雖レ非二治體一、不三猶愈二乎倉卒而濫一也、夫人幽苦則思レ善、故囹圄與二福堂一同居、朕欲二其改悔而以輕恕一耳。

【囹圉】6（レイギヨ レイゴ） 囹圄(1)に同じ。〔說文、囹、段注〕囹圉、所三以拘二罪人一。〔史記、秦始皇紀〕虛二囹圉一而免二刑戮一。

【固】 4745

コ ク 〔集韻〕古慕切 ㄍㄨˋ ku⁴ 遇

小篆

❶**かため**。まもり。〔說文〕固、四塞也、从レ口古聲。〔周禮、夏官、序官〕掌レ固。〔注〕固、國所二依阻一者也、國曰レ固、野曰レ險。〔戰國、秦策〕東有二肴函之固一。〔注〕固、牢堅難レ攻易レ守也。❷**かたい**。堅固。〔集韻〕固、一曰、堅也。〔詩、小雅、天保〕亦孔之固。〔傳〕固、堅也。〔荀子、王霸〕兵勁城固。❸**もつぱら**。〔國語、周語上〕守終純固。〔注〕固、一也。❹**やすらか**。〔國語、周語下〕久固則純。〔注〕固、安也。❺**かためる**。さだめる。安んずる。安定させる。〔國語、魯語上〕晉始伯而欲レ固二諸侯一。〔注〕固、安也。〔國語、晉語二〕亦固二太子一以攜レ之。〔注〕固、固持也。〔國語、晉語二〕夫固レ國者、在二親レ衆而善レ鄰。〔注〕固、定也。❻**かたく**。㋑必ず。〔公羊、襄、二十七〕女能固納レ公乎。〔注〕固、猶レ必也。〔戰國、秦策〕王固不レ能。〔注〕固、必也。㋺再三。強く。〔集韻〕固、一曰、再辭。〔書、大禹謨〕禹拜稽首固辭。〔傳〕再辭曰レ固。〔漢書、衞青傳〕青固謝。〔注〕師古曰、固、謂二再三一也。㋩しつかりと。〔中庸〕擇レ善而固執レ之者也。❼**もとより**。もともと。元來。㋑まへから。故(**5-13161**)に通ず。〔說文通訓定聲〕固、叚借爲レ故。〔正字通〕固、本然之辭。〔儀禮、士昏禮記〕敢固以請。〔注〕固、如レ故。〔論語、子罕〕固天縱レ之將レ聖。〔皇疏〕固、故也。〔國語、周語上〕固有レ之乎。〔注〕固、嘗也。〔國語、晉語六〕臣固聞レ之。〔注〕固、久也。〔國語、越語下〕道固叚乎。〔注〕固、故也。㋺道理上。常識上。〔史記、項羽紀〕楚兵且レ破、信越未レ有二分地一、其不レ至固宜。㋩言ふまでもなく。勿論。〔論語、衞靈公〕君子固窮。❽**かへつて**。〔經傳釋詞、五〕固、猶レ乃也、孟子萬章篇曰、仁人固如レ是乎、或作レ故、又作レ顧。❾**まことに**。〔孟子、梁惠王上〕然則小固不レ可二以敵レ大。〔注〕固、辭也。〔戰國、齊策〕齊固弱。〔注〕固、猶レ信也。❿**つね**。つねに。つねにする。〔禮、曲禮上〕求毋レ固。〔注〕固、猶レ常也。〔呂覽、首時〕時固不レ易。〔注〕固、常也。⓫**かたくな**。**かたよる**。おほはれる。下品（ゲヒン）。〔廣雅、釋言〕固、陋也。〔禮、曲禮下〕君子謂二之固一。〔注〕固、謂レ不レ達二於禮一也。〔疏〕固、陋也。〔論語、學而〕學

則不レ固。〔集解〕孔安國曰、固、蔽也。〔大戴禮、曾子立事〕不レ知而不レ問焉固也。〔注〕固、專固也。〔荀子、脩身〕體倨固而心執レ詐。〔注〕固、鄙固。〔孔子家語、五帝德〕則子之問也固矣。〔注〕固、陋也。⓬**ひとり占めにする**。〔禮、曲禮上〕毋二固獲一。〔注〕欲レ專レ之曰レ固。⓭**とどめる**。おしこめる。〔素問、至眞要大論〕諸厥固泄。〔注〕固、謂二禁固一也。⓮**すたれる**。錮(**11**－**40578**)に通ず。〔說文通訓定聲〕固、叚借爲レ錮。〔國語、魯語上〕不レ識二窮固一、而又求二自邇一。〔注〕固、廢也。⓯古は怘(**4**－**10453**)に作る。〔集韻〕固、古作レ怘。⓰**姓**。〔萬姓統譜〕固、見二姓苑一。〔通志、氏族略〕晉平公時、有二舟人固來一。邦**かため**。約束。ちぎり。

名乘 カタ。ミ。

【固握】1 コアク 固く握る。〔韓非子、主道〕謹執二其柄一、而固握レ之。

【固安】2 コアン ❶堅固で安全なこと。〔新書、制不定〕天下非レ有二固安之術一也。❷縣名。隋、置く。漢の方城縣の地。今、河北省涿縣の東南。栗の產地。〔左思、魏都賦〕固安之栗。〔括地志〕固安之栗、天下皆稱レ之。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕固安縣、府西南一百二十里、漢置二方城縣一、屬二廣陽國一、隋開皇八年、改置二固安縣於此一、屬二幽州一。〔淸史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、固安。

【固意】3 コイ 心を固くする。決心する。〔漢書、元后傳〕專レ心固レ意、輔二朕之不レ逮。

【固有】4 コイウ 始めからある。もとから所有する。〔易、益〕益用二凶事一、固二有之一也。〔孟子、告子上〕仁義禮智、非二由レ外鑠一レ我也、我固二有之一也。〔孟子、盡心下〕及三其爲二天子一也、云云、若三固二有之一。

【固有權】5 コイウケン 永く使用して自然に所有する權利。

【固有之美】6 コイウノビ 元來所有する美點。〔日本政記、孝德天皇、大化二年、論〕是不レ失二我邦固有之美一也。

【固有名詞】7 コイウメイシ 其の物特有の名稱を表はす言葉。人名・地名等の類。普通名詞の對。

【固陰】8 コイン 凝り固まつた陰氣。冬の極めて寒い時。〔左氏、昭、四〕深山窮谷、固陰冱寒。〔會箋〕固、與レ涸同、集韻、涸、凝也。〔張華、雜詩〕東壁正昏中、固陰寒節升。

【固要】9 コエウ 固くとめる。再三とめる。〔漢書、文帝紀〕自欲レ征二匈奴一、羣臣諫不レ聽、皇太后固要、上乃止。

【固邀】10 コエウ 無理にむかへる。〔元史、太祖紀〕帝嘗出獵、偶與二昭烈一獵、騎相屬、固邀與宿。

【固嘔】11 コオウ うはべの柔和なさま。曲媚。〔大戴禮、文王官人〕其貌固嘔、其言工巧、飾二其見物一、務二其小徵一、以レ故自說曰、無レ質者也。〔注〕嘔、以二耽色一下レ人、謂二形柔而人苟一。

【固項】12 コカウ 牛皮の襟卷き。〔溪蠻叢笑〕朱漆牛皮、以護二頭頸一、名二固項一。

【固諫】13 コカン かたく諫める。〔韓非子、難四〕鄭伯將下以二高渠彌一爲上レ卿、昭公惡レ之、固諫不レ聽。〔史記、齊世家〕管仲固諫不レ聽。〔史記、齊世家〕管仲固諫、不レ聽。

【固宜】14 モトヨリウベナリ 理窟から考へてもつともなことである。〔史記、項羽紀〕漢王復入レ壁、深レ塹而自守、謂二子房一曰、諸侯不レ從レ約、爲レ之奈何、對曰、楚兵且レ破、信越未レ有二分地一、其不レ至固宜。

【固畜】15 コキウ 昔から養つて來たもの。〔日本外史、德川氏前紀、豐臣氏論〕人民非二其固畜一、故不レ愛レ用二其力一也。

【固宮】16 コキユウ 建て方や守備の堅固な宮殿。〔左氏、襄、二十三〕桓子曰、奉レ君以走二固宮一、必無レ害也、云云、奉レ公以如二固宮一。〔注〕固宮、宮之有二臺觀備守一者。〔會箋〕蓋襄公有二別宮牢固一、故謂二之固宮一。

【固窮】17 モトヨリキユウス ❶言ふまでもなく困難な境遇に陷る。勿論、苦しい目にあふ。一說に、困窮に際會した時、じつと其の困窮に處して、天命に安んずる。轉じて、君子の節操をいふ。〔論語、衞靈公〕子曰、君子固窮、小人窮斯濫矣。〔集注〕言下君子固有二窮時一、不上若二小人窮則放溢爲一レ非、程子曰、固窮者、固守二其窮一、亦通。❷コキユウ 非常な困窮。〔張協、雜詩〕君子守二固窮一。

【固拒】18 コキヨ かたくふせぐ。かたくこばむ。〔漢書、劉歆傳〕深閉固拒而不二肯試一。

【固距】19 コキヨ 固拒(18)に同じ。〔韓愈、與二少室李拾遺一書〕卽可レ爲之時、自藏二深山一、牢關而固距、卽與二仁義者一異レ守矣。

【固圉】20 コギヨ 國境の土地のまもりを堅固にする。〔左氏、隱、十一〕亦聊以固二吾圉一也。〔注〕圉、邊垂也。

【固獲】21 コクワク ひとりじめにすることと爭ひ取ること。〔禮、曲禮上〕毋二固獲一。〔注〕欲レ專レ之曰レ固、爭取曰レ獲。

【固關】22 コクワン ❶地名。山西省平定縣の東。故關ともいふ。井陘へ通ずる口。今は、土門關ともいふ。❷コゲン 古、朝廷の大儀、又は騷亂などの時、朝命に依つて、諸國の關所、特に三關(逢坂・不破・鈴鹿)を固めたこと。この警固を解くことを開關といふ。〔北山抄、拾遺雜抄〕固關事、天皇讓位、及崩、并上皇・皇后崩、攝政・關白薨時、有二此事一。〔名目抄、臨時〕固關、有二天下吉凶之事一之時、固二三關一。〔注〕會坂・不破・鈴鹿、開關、固關有二日數一開レ之儀也。

【固形】23 コケイ かたまつて形をなすこと。

【固形體】24 コケイタイ かたまつて形を備へた物體。固體。固形物。

【固形物】25 コケイブツ 固形體に同じ。

【固卿】26 コケイ 字號。❶宋、楊介如(**6**－**15112**··**447**)の字。❷淸、許宗彥(**10**－**35298**··343)の字。

【固結】27 コケツ かたくむすぶ。〔禮、檀弓下〕苟無二禮義忠信誠愨之心以涖一レ之、雖二固結之民一、其不レ解乎。〔張衡、東京賦〕洪恩素蓄、民心固結。

【固原】28 コゲン ❶州名。明、置き、淸、甘肅省に直隸し、平遠・海城の二縣を領す。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府〕固原州、秦北地郡地、漢屬二安定郡一、云云、明、云云、弘治十五年、改置二固原州一。〔淸史稿、地理志〕甘肅、固原直隸州、領縣二、平遠・海城。❷縣名。民國、置く。漢の高平縣。明・淸の固原州。甘肅省涇原道に屬す。❸鎭の名。明の九邊の一。其の分守の地は靖遠から蘭州に至る。卽ち今の甘肅省北邊の長城。〔讀史方輿紀要、州域形勢、明〕設二九邊一以衞二中夏一、云云、固原、屬衞三、固原・靖虜・蘭州、所四、西安・鎭戎・平虜・甘州、營堡一十有六、時固原爲二河套南下之衝一、因特設二重臣巡鎭一、兼督二楡林・寧夏・甘肅一、三邊互爲二指臂一、後又以二洮岷河三衞及諸城鎭一、並屬二於固原一。

【固姑】29 ココ 婦人の冠の名。もと滿洲語の格格、卽ち女子の貴稱であつたが、後、其の戴く所の帽子を固姑といひ、俗に箍箍帽ともいふ。〔山房隨筆〕聶碧窗詠二北婦一詩云、江南有レ眼何人見、爭捲二珠簾一看二固姑一。

【固護】30 ゴコ かたくまもる。〔馬融、長笛賦〕抑レ慮固護、專レ美擅レ工。〔鮑照、蕪城賦〕觀二基扃之固護一、將二萬祀而一君一。

【固國】31 ココク 國をかためる。〔國語、晉語二〕夫固レ國者、在二親レ衆而善レ鄰。〔吳子、圖南〕治レ兵料レ人、固レ國之道。

【固塞】32 コサイ 堅固なとりで。固寨。〔荀子、彊國〕其固塞險、形勢便、山林川谷美、天材之利多、是形勝也。〔史記、禮書〕固塞不レ樹、機變不レ張。

【固哉】32′ コナルカナ 頑固なることよ。〔莊子、齊物論〕君乎牧乎、固哉、丘也與レ汝、皆夢也。

【固齋】33 コサイ 淸、徐宗泌(**4**－**10110**··538)の號。

【固齋先生】34 コサイセンセイ 宋、郭頤(**11**－**39474**··2)の尊稱。

【固臧】35 コザウ まことによい。〔楚辭、天問〕安得二夫良藥一、不レ能二固臧一。〔注〕臧、善也。

【固山】36 コザン 滿洲語。美稱として、爵位又は官名の上に加へる。固山貝子を見よ。

【固山格格】37 コザンカクカク 淸代、貝子の女の封號で、格格の第四位。縣君。〔淸會典、宗人府〕中宮所レ生女、爲二固倫公主一、妃所レ生女、爲二和碩公主一、親王女爲二和碩格格一(漢文稱二群主一)、郡王女爲二多羅格格一(縣主)、貝勒女爲二多羅格格一(郡主)、貝子女爲二固山格格一(縣君)。

【固山額眞】38 コザンガクシン 淸代、皇族の官名の美稱。後、漢譯して都統といふ。〔皇朝文獻通考、兵考〕管二固山一者、卽爲二固山額眞一。〔稱謂錄、都統、固山額眞〕皇朝通攷、順治十七年定、八旗官、漢字

官名議定、固山額眞、漢字稱爲二都統一。

【固山章京】39 コザンシヤウケイ　清代、皇族の官名の美稱。固山を見よ。〔清會典事例、宗人府、授官、補放族長教長〕雍正三十三年奏准、盛京添二設宗室總族長一人一、管二東宗室覺羅一、由二將軍一於二承祀盛京陵寢宗室章京內一揀選、送レ府帶領引見。

【固山貝子】40 コザンバイシ　清代、宗室の爵位の名で、九等の第四位。〔清會典、宗人府〕凡宗室封爵、云云、列爵九等、一等爲二和碩親王一、二等爲二多羅郡王一、三等爲二多羅貝勒一、四等爲二固山貝子一。〔皇朝文獻通考、帝系考〕原封固山貝子屯齊喀。

【固志】41 コシ　かたいこころざし。強い心。〔易、遯〕象曰、執用二黃牛一、固志也。〔魏志、陳留王奐傳〕衆叛親離、莫レ有二固志一。〔隋書、高祖紀上〕宣帝時、刑政苛酷、羣心崩駭、莫レ有二固志一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕天下寒心、無レ有二固志一。

【固始】42 コシ　縣名。❶漢、置く。又、固陵といふ。今の河南省淮陽縣の西北。後漢、廢す。〔漢書、地理志下〕淮陽國、縣九、固始。〔注〕師古曰、本名二寢丘一、楚令尹孫叔敖所レ封也。❷後漢、置く。もとの寖縣。今の河南省沈丘縣の東南。北齊、廢す。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州〕固始縣、州東百四十里、春秋時蓼國地、後滅二于楚一、謂二之寖縣一、漢置二寖縣一、屬二汝南郡一、後漢初、改曰二固始一、光武封二李通一爲二侯邑一。❸南朝宋、置く。湖北省の境に當る。❹民國、置く。河南省商城縣の北、史河と曲河との閒。

【固辭】43 コジ　重ねてことわる。強くことわる。〔書、大禹謨〕禹拜稽首固辭。〔注〕再辭曰レ固。〔儀禮、士相見禮〕某也固辭。〔禮、曲禮上〕主人固辭。〔戰國、齊策〕梁使三反、孟嘗君固辭不レ往也、齊王聞レ之、君臣恐懼。

【固疾】44 コシツ　久しく癒えぬやまひ。痼疾。宿痾。〔禮、月令〕國多二固疾一。〔漢書、王商傳〕商言有二固疾一。〔後漢書、皇甫規傳〕臣素有二固疾一、恐二犬馬齒窮、不レ報二大恩一。

【固執】45 コシツ コシフ　固く執り守る。〔中庸〕誠レ之者、擇レ善而固執レ之者也。〔漢書、谷永傳〕固執無レ違。

【固實】46 コジツ　儀式禮法などの古來のしきたり。故實(**5**−**13161**‥118)に同じ。〔史記、魯世家〕賦レ事行レ刑、必問二於遺訓一而咨二於固實一。〔注〕集解曰、徐廣曰、固、一作レ故、韋昭曰、故實、故事之是者。

【固車】47 コシヤ　堅固な車。〔韓非子、難勢〕夫良馬固車、使二臧獲御一レ之、則爲二人笑一。〔墨子、魯問〕今有四固二車良三馬於此一。

【固謝】48 コシヤ　かたくことわる。〔史記、晉世家〕固謝不二敢入一。〔史記、衞將軍驃騎傳〕固謝曰、臣幸得レ待二罪行閒一。

【固常】49 コジヤウ　鳳凰が日暮に鳴く聲をいふ。〔廣雅、釋鳥〕鳳凰、雄鳴曰二卽卽一、雌鳴曰二足足一、昏鳴曰二固常一、晨鳴曰二發明一。

【固城】50 コジヤウ　❶堅固な城。〔管子、小問〕無二固城一。❷湖の名。江蘇省高淳縣の西南。〔赤山湖志〕固城湖、見二於春秋一、四面危巒、楚以二其堅固一、故有二固城之名一、固城介二鎭江平陵之南北一、故京江名二北固一、元和志、固城湖、周九十里、今湖水瞙適中時、僅二百四十方里、周四十里。❸城の名。㋑河北省定縣の東。〔資治通鑑、梁紀〕(武帝、中大通三年)討二劉靈助一、至二固城一。〔注〕固城、當レ在二中山城東北、安國城西南一。㋺江蘇省高淳縣の南。〔建康志〕固城、春秋時吳瀨渚縣、漢溧陽縣治在レ焉、宋紹興中、得二後漢溧陽校官碑於固城湖旁一、故知レ爲二漢縣治一。㋩南齊、置く。湖北省の境に當る。㋥唐、置く。四川省長寧縣の地。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、長寧縣〕新定廢縣、在二縣西北一、唐志、久視元年、置二羈縻淯州一、治二新定縣一、兼領二淯州・固城・居牢等縣一、宋時亦爲二羈縻淯州一、後廢。❹鎭の名。㋑河北省柏鄉縣の北。鄗縣の故城。㋺河北省定興縣の南。古名は龍泉鎭。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、定興縣、河陽鎭〕固城鎭、在二縣南四十里一、志云、宋與レ遼分レ界處、今與二清苑縣一接レ境。

【固讓】51 コジヤウ　かたくゆづる。〔史記、聶政傳〕嚴仲子固讓。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕明公固讓。

【固守】52 コシユ　かたく守る。固持。〔戰國、秦策〕以レ今伐レ之、趙必固守、挑二其軍一、戰必不二肯出一。〔韓非子、存韓〕邊鄙殘國固守、鼓鐸之聲聞二於耳一。〔潘岳、射雉賦〕內無二固守一。〔道德指歸論〕固二守我之精神一。

【固叔】53 コシユク　宋、史彌堅(**2**−**3249**‥266)の字。

【固粥】54 カタカユ　かたいかゆ。

【固色】55 コシヨク　志操が堅固であるといふ樣子。〔資治通鑑、宋紀〕(太宗、泰始三年、裴子野論)卒有二離心一、士無二固色一。

【固植】56 コシヨク　堅い志。植は志。〔管子、法法〕上無二固植一、下有二疑心一。〔楚辭、招魂〕弱顏固植。〔注〕植、志也、言下美女內多二廉恥一、弱顏易レ愧、心志堅固、不上レ可二侵犯一。

【固請】57 コセイ　かたく請ふ。強く願ふ。〔儀禮、士相見禮〕固以請。〔史記、留侯世家〕使二辯士固請宜來一。〔裴光庭、宰相等上二尊號一表〕臣等區區、敢以固請。

【固籍】58 コセキ　官府の古昔からある簿籍で、制度を記したもの。〔戰國、趙策〕國有二固籍一、兵有二常經一、變レ籍則亂、失レ經則弱。〔注〕固・故通、固籍、官府故常簿籍、載二制度一者。

【固然】59 モトヨリシカリ マコトニシカリ　❶もとからさうである。もともとさうである。勿論さうである。本當にさうである。無論。〔左氏、定、元〕踐土固然。〔國語、越下〕道固然乎。〔屈原、離騷〕自二前世一而固然。❷無理のない當然の所。〔莊子、養生主〕批二大郤一、導二大窾一、因二其固然一。

【固存】60 コソン　現存する國を保護し安定させる。〔書、仲虺之誥〕推レ亡固レ存、邦乃其昌。〔左氏、襄、十四〕推レ亡固レ存、國之道也。

【固體】61 コタイ　一定の體形・體積を有する物體。固「形體。

【固置】62 ku^4 chih^4　固定。固定した。

【固持】63 コチ　かたくもちこたへる。固く維持する。固守。

【固著】64 コチヤク　かたくつく。固着。

【固寵】65 コチヨウ　益〻寵愛せられるやうにする。〔子華子、晏子問黨〕至二于君之前一、固レ寵而恃レ便。

【固鎭】66 コチン　鎭の名。❶河南省武安縣の西。金、置く。今、固鎭關といふ。〔讀史方輿紀要、河南、彰德府、磁州、武安縣〕固鎭關、縣西五十里、卽固鎭城也、今有二巡司一戍守。❷後魏、置く。安徽省靈壁縣の西南。古の穀陽縣。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、宿州、靈壁縣〕固鎭、在二縣西七十里一、有二固鎭保巡司一、其南爲二固鎭驛一。❸江西省寧都縣の東南、琴水の北岸。瑞金・石城二縣の界に接す。❹今の甘肅省徽縣の治。五代、梁の乾化四年、王宗鐸が李茂貞を攻めた處。

【固陣】67 コヂン　強固な陣。堅陣。〔司馬法、定爵〕密靜多二內力一、是謂二固陣一。

【固定】68 コテイ　一箇所に定まつて動かないこと。又、動かないやうにすること。

【固定的】69 コテイテキ　固く決定して動かぬ狀態をいふ。暫定的の對。

【固定觀念】70 コテイクワンネン　かたく定まつて動かぬ觀念。

【固定資本】70′ コテイシホン　永くその用をなす資本。幾回も生産に使用する資本。土地・家屋・機械・牛馬などの類。貨幣等の流動資本に對していふ。

【固柢】71 コテイ　根柢を固くする。〔老子、五十九〕是謂二深根固柢一、長生久視之道也。

【固蔕】72 コテイ　根本を固くする。又、固い根柢。蔕は、ほぞ・へた。〔晉書、劉頌傳〕深レ根固レ蔕、則延レ祚無レ窮。〔左思、魏都賦〕劍閣雖レ嶛、憑レ之者蹶、非三所二以深レ根固レ蔕也。〔曹冏、六代論〕深レ根固レ蔕。

【固抱】73 コハウ　かたく抱き持つ。〔周禮、考工記、輪人〕牙也者、以爲二固抱一也。

【固備】74 コビ　かたいそなへ。〔六韜、文韜、兵道〕各設二固備一。

【固冰】75 コヒヨウ　かたい氷。〔易林、震之レ解〕胡俗戎狄、太陰所レ積、固冰冴寒、君子不レ存。

【固聞】76 モトヨリキク　前から聞いて居る。〔國語、晉語六〕臣固聞レ之。〔注〕固、久也。

【固麻】77 コマ　百濟の語で、王城をいふ。みやこ。京師。〔南史、夷貊下、百濟傳〕號二所レ都城一曰二固麻一。

【固密】78 コミツ　かたく緻密である。〔和漢三才圖會、原禽類、燕〕按、其窠固密不レ可レ言。

【固命】79 コメイ　命令を堅固にする。一說に、天命を失墜しない。〔書、君奭〕則有レ固レ命。〔傳〕則有三堅二固王命一。〔蔡傳〕固命者、不レ墜二之天命一也。

【固紋】80（カタモン） 衣服の紋で、浮かぬやうに固く縫ひつけたもの。浮紋の對。

【固陽】81（コヤウ） ❶地名。戰國、魏の邑。綏遠省烏喇特旗のもとの九原城(今の五原)の東北。民國八年に固陽設治局を此處に設け、後、固陽縣治とす。〔史記、魏世家〕築二長城一塞二固陽一。〔注〕正義曰、魏築二長城一、自二鄭濱洛一、北達二銀州一、至二勝州固陽縣一爲レ塞。❷縣名。民國、置く。綏遠省武川縣の西境及び茂明安旗の一部、武川縣の東境の烏拉特三公旗の北に在る一部を領す。初め固陽設治局を置き、綏遠特別區域綏遠道に屬せしめ、尋いで縣に改む。

【固與】82（コヨ） かたくくみする。固く結合する。〔左氏、襄、十一〕楚弗二敢敵一、而後可二固與一也。

【固壅】83（コヨウ） かたくふさぐ。〔韓非子、八姦〕人主者固二壅其言談一、希三於聽二論議一。

【固牢】84（コラウ） ❶をりを頑丈にする。〔新序、雜事二〕亡レ羊而固レ牢、未レ爲レ遲。❷かたい。牢固に同じ。

【固陵】85（コリヨウ） ❶地名。㋑漢の固始縣の地の舊名。故城は河南省淮陽縣の西北。漢の高祖が項羽を追つて此處に至り、項羽に破られた。㋺浙江省蕭山縣の西なる西興鎭の舊名。❷縣名。漢、置く。今、陝西省の境。〔漢書、地理志下〕五原郡、縣十六、固陵。

【固力】86 ku^4 li^4 丈夫な。

【固倫】87（コリン） 滿洲語。國、又は尊貴の意。金史の所謂、國論で、清代、公主の封號に用ひた。〔清會典、宗人府〕凡封爵、崇德元年又定、中宮所レ生女、爲二固倫公主一。〔皇朝政治學問答〕皇后所レ生之女、封二固倫公主一。〔清國行政法汎論、皇族、公主稱號〕分二公主一爲レ二、曰、固倫公主、中宮之出也、曰、和碩公主、妃嬪之也。

【固倫額駙】87′（コリンガクフ） 固倫公主を娶つた者。〔清會典事例、宗人府〕乾隆四十年諭、額駙等向係二照公主封號一、授爲二固倫額駙・和碩額駙一。

【固壘】88（コルイ） とりでを堅固にする。堅壘。〔左氏、成、十六〕欒書曰、楚師輕窕、固レ壘而待レ之、三日必退。〔晉書、姚泓載記〕道濟固レ壘不レ戰。

【固列】89（コレツ） 陣列を堅固にする。〔左氏、成、十六〕脩レ陣固レ列。〔注〕固、堅也。

【固煉】90（カタネリ） 固くねりかためたもの。

【固陋】91（コロウ） かたくなで見識がない。わからずや。頑冥。〔司馬相如、上林賦〕鄙人固陋、不レ知二忌諱一。〔漢書、鄒陽傳〕飾二固陋之心一。

【固哉叟】92（コサイソウ） 清、高孝本(**12**－**45313**··1076)の號。

【固三泰】93（コサンタイ） 清、滿洲鑲藍旗人。姓は納喇氏。官は太宗の時、鑲藍旗都統。明の遵化・永平・灤州を攻めて皆功があつた。〔清史稿、二百三十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十四〕。

【固始汗】94（コシカン） 清の人。一に顧實汗に作る。明末の和特部酋長。原名は圖爾拜琥。元の太祖の弟、哈薩爾の十九世の孫に當る。烏魯木齊の諸地を有し、青海に襲據し、部衆を分つて左右二翼とし、之を子十人に分領させ、青海和碩特部と總稱す。又、兵を以て後藏に入り、班禪喇嘛を徙してその地を治めさせた。清初、入貢し、遵文衍義敏慧固始汗に封ぜられ、諸額魯特を管轄した。

【固爾札】95（コールチヤ） 地名。伊犂九城の一。寧遠城をいふ。新疆省伊寧縣治。

【固提坫】96（コテイテン） 鎭の名。山東省濰縣の東北。溉水・白狼河の間に在る。又、固底鎭に作る。〔金史、地理志中〕北海、云云、鎭一、固底。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、平度州、濰縣〕固堤坫、縣東北四十里、有二巡司一。

【固髮藥】97 ku^4 fa^3 yao^4 頭髮につける固煉油。チック。コスメチック。

【固羊石】98（コヤウセキ） 礜石(**8**－**24545**··1)の異名。〔本草、礜石〕釋名、白礜石・太白石・立制石・青介石・固羊石・石鹽・澤乳・鼠鄕。

【固哉草堂】99（コサイサウダウ） 清、博爾都(**2**－**2761**··215)の室名。

【固都爾呼】100（コトールコ） 川の名。滿洲熱河省圍場縣の東南の察罕陀羅海の西から出て、熱河に注ぐ。

【⿴囗臣】**4746**

シン 〔川篇〕音眞

ひかり。〔川篇〕⿴囗臣、光也。

【囦】**4747**

エン 淵(**7**－**17692**)の古字。〔篇海〕囦、古文淵字。

【囬】**4748**

クワイ 回(**3**－**4690**)に同じ。〔篇海〕囬、同レ回。

【⿴囗玄】**4749**

コク 國(**3**－**4798**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿴囗玄、同レ國。

【囻】**4750**

コク 國(**3**－**4798**)に同じ。〔字彙補〕囻、同レ國。

【囼】**4751**

タイ 胎(**9**－**29369**)に同じ。〔搜眞玉鏡〕囼、同レ胎。

【囯】**4752**

コク 國(**3**－**4798**)の俗字。

六畫

【⿴囗米】**4753**

ベイ マイ 〔玉篇〕莫兮切 齊

地名。〔玉篇〕⿴囗米、地名。

【⿴囗光】**4754**

ヲウ 〔字彙〕翁上聲

まるい穴。〔字彙〕⿴囗光、圓穴也。

【⿴囗至】**4755**

🈩 チツ チチ 〔玉篇〕陟栗切 質

🈔 テツ テチ 〔集韻〕丁結切 屑

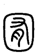
🈩🈔**下に入る**。〔玉篇〕⿴囗至、下入也。

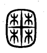
【囿】**4756**

🈩 イウ ウ 〔集韻〕尤救切 ㄧㄡˋ yu^4 宥

🈔 イウ ウ 〔集韻〕云九切 有

🈪 キク 〔集韻〕于六切 屋


小篆


籀文

🈩🈔🈪❶**には**。**その**。㋑垣をめぐらしたその。〔說文〕囿、苑有レ垣也、从レ口有聲。〔段注〕高注二淮南一曰、有レ牆曰レ苑、無レ牆曰レ囿、與レ許互異、蓋有無互譌耳。㋺垣の無いその。〔一切經音義、十九〕無レ垣曰レ囿。〔淮南子、本經訓〕侈二苑囿之大一。〔注〕無レ牆曰レ囿。㋩林や池のあるその。〔周禮、天官、序官〕囿游亦如レ之。〔注〕囿、御苑也。〔戰國、西周策〕周君反見二梁囿一而樂レ之也。〔注〕園有二林池一曰レ囿。㋥小さい園。〔呂覽、愼小〕鴻集二于囿一。〔注〕小曰レ囿。㋭禽獸魚鼈を放養する園。〔說文〕囿、一曰、所三以養二禽獸一曰レ囿。〔詩、大雅、靈臺〕王在二靈囿一。〔傳〕囿、所三以域二養鳥獸一也。〔太平御覽、居處、苑囿〕風俗通曰、囿者畜二魚鼈一之處也、囿、猶レ育也。㋬事物のあつまつてゐる處を喩へていふ。〔司馬相如、上林賦〕游二乎六藝之囿一。❷**かぎり**。區域。〔國語、楚語上〕王在二靈囿一。〔注〕囿、域也。〔資治通鑑、外紀〕度爲二九州一、謂二之九囿一。❸**かぎる**。**かかはる**。〔正字通〕囿、識不二通廣一曰レ囿、猶レ言二拘墟一也。〔尸子、廣擇〕囿二其學一之

相非也。❹圝(3－4865)に同じ。〔說文〕囿、籀文。〔一切經音義、十二〕囿、古文圝。

名乘 アゼ。ソノ。

【囿游】1イウイウ 御苑の離宮。周代、大苑の中に垣を繞らして小苑を作り、小苑中に離宮を作り、游觀の所とした。〔周禮、天官、序官、閽人〕王宮每門四人、囿游亦如㆑之。〔注〕囿、御苑也、游、離宮也。〔周禮、地官、囿人〕掌㆓囿游之獸禁㆒。〔注〕囿之離宮、小苑觀處也。〔孫詒讓正義〕天官敍官注云、囿、御苑也、游、離宮也、敍官注云、囿、今之苑、蓋鄭意、囿、本爲㆓大苑㆒、於㆓大苑之中㆒、別築㆓藩界㆒爲㆓小苑㆒、又於㆓小苑之中㆒爲㆓宮室㆒、是爲㆓離宮㆒、以㆓其是囿中游觀之處㆒、故曰㆓囿游㆒也。

【囿苑】2イウエン 鳥獸を飼ふその。〔張衡、週天大象賦〕豢㆓馴獸于囿苑㆒、隸㆓封豕于溝瀆㆒。

【囿草】3イウサウ 大きい草。圃草をいふ。〔馬融、廣成頌〕詩詠㆓囿草㆒。〔注〕韓詩曰、東有㆓囿草㆒、駕言行狩。

【囿人】4イウジン ❶周官の名。地官の屬。禁中の動物を守ることを掌る。〔周禮、地官、囿人〕囿人掌㆓囿游之獸禁㆒、牧㆓百獸㆒。❷園丁をいふ。〔十國春秋、雞狗坊卒長傳〕善種㆓子母蔗㆒、灌蒔有㆑法、繁殖蔓衍、遂爲㆓湖南囿人冠㆒。

【囿臺】5イウダイ 古、天子の三臺の一。鳥獸魚鼈を觀る臺。〔四書逸箋〕天子有㆓三臺㆒、靈臺以觀㆓天文㆒、時臺以觀㆓四時施化㆒、囿臺以觀㆓鳥獸魚鼈㆒。

【囿池】6イウチ 庭と池。〔漢書、王吉傳〕於㆓宮館囿池、弋獵之樂㆒、未㆑有㆑所㆑幸。〔博物志、雜說、上〕昔有洛氏、宮室無㆑常、囿池廣大、人民困匱、商伐㆑之、有洛以亡。

【囿呈】7イウテイ 淸、應麟(4－11330‥248)の字。

【⿴囗妻】4757 ロウ 妻(3－6383)の古字。〔六書統〕⿴囗妻、古文妻字。

【⿴囗多】4758 コク 國(3－4798)の古字。〔字彙〕⿴囗多、古文國字、崔亭伯樽銘、萬⿴囗多咸懼。

【圀】4759 コク 國(3－4798)の古字。〔玉篇〕圀、古文國字、唐武后所㆑作。〔正字通〕圀、唐武后時有㆑言、國中或者惑也、請以㆑武鎭㆑之、又有㆑言、武在㆓國中㆒、與㆑困何異、復改爲㆑圀。

【⿴囗臣】4760 テイ チヤウ 〔字彙補〕知檉切 庚 **宋代、士を取る論文の名。**〔字彙補〕⿴囗臣、宋時取㆑士編號之字也、名臣奏議、司馬光論㆓⿴囗臣毡兩號㆒所㆓對策㆒、辭理俱高。

【⿴囗㐬】4761 ジツ ⿴囗正(3－4743)に同じ。〔奚韻〕⿴囗㐬、同㆑⿴囗正。

【⿴囗多】4762 エウ ⿴囗凶(3－4694)に同じ。〔海篇〕⿴囗多、同㆑⿴囗凶。〔酉陽雜俎、廣知〕九影各有㆑名、影神、一名㆓右皐㆒、云云、七名㆓竈⿴囗凶㆒。〔注〕一曰、⿴囗多。

【⿴囗⿱十公】4763 チヨク 直(8－23136)に同じ。〔風雅逸編〕⿴囗⿱十公、同㆑直。

【⿴囗合】4764 カフ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿴囗合、音合。

【⿴囗幽】4765 キ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗幽、音機。

【⿴囗自】4766 ソウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗自、音宋。

【⿴囗百】4767 クワ 義未詳。〔五音篇海〕⿴囗百、音誇。

【⿴囗舌】4768 カン 義未詳。〔川篇〕⿴囗舌、音含。

七畫

【⿴囗皀】4769 タク チヤク 〔廣韻〕陟革切 陌

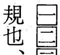
硬いさま。⿴囗皀⿴囗皀。〔廣韻〕⿴囗皀、硬皃。〔玉篇〕⿴囗皀、⿴囗皀⿴囗皀、硬貌。

【圎】4770

一ケン 〔集韻〕縈緣切 先

二セン ゼン 〔集韻〕隨戀切 霰

三セン ゼン 〔集韻〕旬宣切 先


小篆

一二三❶**ぶんまはし。**〔說文〕圎、規也、从㆑口肙聲。〔說文義證〕古文苑、篆勢爲㆓學藝之范圎㆒、注云、圎、音旋、規也、所㆓以爲㆑圎、通作㆑捐、釋器、環、謂㆓之捐㆒。❷或は圜(3－4851)に作る。〔集韻〕圎、或作㆑圜。

參考 圓(3－4819)とは別字。〔字彙、辨似、二字相似〕圎、音旋、規也。圓、方圓。

【⿴囗⿱丿目】4771 モク 目(8－23105)の古字。〔字彙〕⿴囗⿱丿目、古文目字。

參考 面の本字の⿴囗⿱一自(3－4772′)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿴囗⿱丿目、古目字。⿴囗⿱一自、面本字。

【圁】4772

一ギン ゴン 〔集韻〕魚斤切 文

二ギン 〔集韻〕魚巾切 眞

三ガン ゲン 〔集韻〕牛閑切 刪

一二三❶**川の名。**圁水(2)を見よ。❷**縣名。**圁陽(3)を見よ。〔集韻〕圁、縣名、在㆓西河㆒。

【圁陰】1ギンイン 縣名。漢、置き、晉、廢す。漢書地理志は圜陰に作る。故城は陝西省神木縣の南。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、云云、圜陰。〔注〕惠帝五年置、莽曰㆓方陰㆒、師古曰、圜字、本作㆑圁、縣在㆓圁水之陰㆒、因以爲㆑名也、王莽改爲㆓方陰㆒、則是當時已誤爲㆓圜字㆒、今有㆓銀州・銀水㆒、卽是舊名猶存、但字變耳。

【圁水】2ギンスイ 川の名。陝西省靖邊縣に源を發し、莜麥河となり、東北流して鄂爾多斯に出で、更に東南流して再び陝西省に入り、神木縣・葭縣を經て黃河に入る。〔水經、河水注〕又南過㆓西河圁陽縣東㆒、圁水出㆓上郡白土縣圁谷㆒、東逕㆓其縣南㆒、又東逕㆓圁陽縣㆒、南東流注㆓於河㆒。

【圁陽】3ギンヤウ 縣名。漢、置き、晉、省く。故治は今の陝西省神木縣の東。圁陰(1)を見よ。〔漢書、地理志下〕西河郡、圜陽。〔注〕師古曰、圜字、本作㆑圁、此縣在㆓圁水之陽㆒。

【圁洛】4ギンラク 圁水と洛水。〔史記、匈奴傳〕居㆓于「河西圁洛之閒㆒。

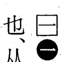
【⿴囗⿱一自】4772′ メン 面(12－42618)の本字。〔字彙〕⿴囗⿱一自、面本字。

參考 目の古字の⿴囗⿱丿目(3－4771)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕⿴囗⿱丿目、古目字。⿴囗⿱一自、面本字。

【圂】4773

一コン ゴン 〔集韻〕胡困切 願 ㄏㄨㄣˋ huen^4

二クワン ゲン 〔集韻〕胡慣切 諫


小篆

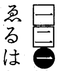
一❶**ぶた小屋。**〔說文〕圂、豕廁也、从㆑口、象㆔豕在㆓口中㆒也、會意。〔一切經音義、九〕圂、豕所㆑居也、字从㆑口、豕在㆓其中㆒也。〔漢書、五行志中之下〕豕出㆓圂壞都竈㆒。〔注〕圂者、養㆑豕之牢也。〔廣雅、釋室〕圂、廁也。❷**かはや。**〔說文、

圂、段注〕人厠或曰レ圂、俗作レ溷。㊂**わづらはす**。〔六書故〕侗謂、圂之爲レ言、猶二煩浼一也、不レ圂二君王一、圂レ賓、皆此意。㊃**氣おくれする**。惲(**4―10857**)に通ず。〔說文通訓定聲〕圂、叚借爲レ惲。〔新書、道術〕誠動不レ畏謂二之威一、反レ威爲レ圂。㊄溷(**7―17986**)に通ず。〔六書故〕圂、亦作レ溷。㊅圈(**3―4789**)に通ず。〔說文通訓定聲〕圂、亦曰レ圈。㊆**姓**。〔蔡中郎集、處子圂叔則碑〕伊漢二十有一世、處士有二圂典字叔則者一。🈔**家畜**。豕犬の類。豢(**10―36380**)に同じ。〔說文通訓定聲〕圂、叚借爲レ豢。〔集韻〕豢、或作レ圂。〔禮、少儀〕君子不レ食二圂腴一。〔注〕周禮、圂作レ豢、謂下犬豕之屬、食二米穀一者上也。〔釋文〕圂、與レ豢同。

解字　會意。口(かこひ・をりに象る)と豕との合字。本義はぶたごや。故に口の中に豕を畫いて其の意を表はす。轉じて、厠(かはや)をいふ。字解を見よ。

【圂腴】1クワンユ　家畜の腸胃。圂は、豚犬の屬。〔禮、少儀〕君子不レ食二圂腴一。小子走而不レ趨。〔注〕圂、周禮、作レ豢、謂下犬豕之屬食二米穀一者上也、腴、有レ似二於人穢一。〔疏〕圂、豬犬也、腴、豬犬腸也、言、豬犬亦食二米穀一、其腹與レ人相似、故君子俱食二他處一、辟二其腴一、謂二腸胃一也。

【圃】
4774


小篆

🈩ホ　フ　〔集韻〕彼五切　ㄆㄨˇ　pʻu³　麌

🈔ホ　フ　〔集韻〕博故切　遇

🈩🈔㊀**はたけ**。野菜や果樹を植ゑるはたけ。〔說文〕圃、所二㠯種レ菜曰レ圃、从レ口甫聲。〔詩、齊風、東方未明〕折レ柳樊レ圃。〔傳〕圃、菜園也。〔釋文〕樹二菜蔬一曰レ圃。〔詩、豳風、七月〕九月築二場圃一。〔傳〕春夏爲レ圃、秋冬爲レ場。〔疏〕地官載師云、場圃在二園地一、注云、圃、樹二果蓏之屬一、季秋於レ中爲レ場、樊圃謂二之園一、然則園者、外畔藩籬之名、其內之地、種二樹菜果一、則謂二之圃一、蹂二踐禾稼一、則謂二之場一、故春夏爲レ圃、秋冬爲レ場。㊁**その**。には。〔楚辭、九章、涉江〕吾與二重華一遊二兮瑤之圃一。〔注〕圃、園也。㊂**野**。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕覽二芷圃之蠡蠡一。〔注〕圃、野也。〔左思、吳都賦〕遭二藪爲レ圃。〔注〕劉曰、有レ草曰レ圃。㊃**はたけ仕事。又、はたけつくりの人**。〔論語、子路〕請レ學レ爲レ圃、曰、吾不レ如二老圃一。〔集解〕馬融曰、樹二菜蔬一曰レ圃也。㊄**布く**。〔論語、子路、皇疏〕圃之言、布也。㊅**おぎなふ**。〔太平御覽、資產、圃〕圃、補也。㊆**大きい。ひろい**。橆(**6―15514**)に通ず。〔說文通訓定聲〕圃、叚借爲レ橆。〔國語、周語中〕藪有二圃草一。〔注〕圃、大也。〔張衡、東都賦〕豐二圃草一。〔注〕薛曰、圃、博也。㊇或は甫(**7―21706**)に作る。〔集韻〕圃、或省。㊈⿴囗布(**3―4740**)に通ず。〔集韻〕圃、亦作レ⿴囗布。㊉**姓**。〔萬姓統譜〕圃、見二姓苑一。

名乘　ソノ。

【圃囿】1ホイウ　その。圃は畑、囿は禽獸を放つ苑。圃囿署を見よ。

【圃囿署】2ホイウショ　後漢の靈帝が置いた官署の名。圃囿を掌る。〔後漢書、靈帝紀〕始置二圃囿署一、以二宦者一爲レ令。

【圃烟】3ホエン　清、王竣(**7―20823**‥574)の號。

【圃園】4ホエン　畑やその。〔和漢三才圖會、化生類、蠐螬〕一種生二圃園糞土中一。

【圃翁】5ホヲウ　はたけ作りの老人。老圃。〔類苑〕圃翁倚レ鋤睥睨。

【圃彊】6ホキヤウ　野菜ばたけ。彊は疆で、畑のさかひ。〔管子、揆度〕民之無レ本者、貸二之圃彊一。〔纂詁〕種レ菜曰レ圃、彊・疆通、貸二菜圃之疆場一。

【圃畦】7ホケイ　はたけのうね。〔莊子、天地〕見二一丈人一、方將レ爲二圃畦一。〔元結、遊二潓泉一示二泉上學者一詩〕築レ塘列二圃畦一、引レ流灌二時蔬一。〔杜甫、晩晴吳郎見レ過二北舍一詩〕圃畦新雨潤、媿子廢レ鉏來。

【圃草】8ホサウ　大きい草。囿草。〔國語、周語中〕藪有二圃草一。〔注〕圃、大也。〔班固、東都賦〕豐二圃草一、以毓レ獸。〔注〕善曰、韓詩曰、東有二圃草一、薛君曰、圃、博也、有二博大茂草一也。

【圃三】9ホサン　清、劉星煒(**2―2224**‥1121)の號。

【圃師】10ホシ　はたけつくりの人。圃丁。圃人。〔劉楨、瓜賦〕乃命二圃師一、貢二其最良一。

【圃事】11ホジ　畑を作る仕事。〔祝允明、南園賦〕大抵人事既偏、圃事幸周、吳多二名苑一、而茲其特優。

【圃車】12ホシヤ　春秋、周の地名。河南省鞏縣の附近。〔左氏、昭、二十二〕遂如二圃車一、次二于皇一。〔會箋〕圃車、周地、當レ近二鞏縣之皇一。

【圃樹】13ホジユ　はたけの樹木。〔朱熹、挽二吳給事一詩〕圃樹寒留レ月、湖波冷浸レ雲。

【圃臣】14ホシン　清、徐發(**4―10110**‥258)の字。

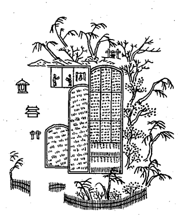
【圃人】15ホジン　はたけつくりの人。圃師。〔鮑照、觀二圃人藝植一詩〕善賈笑二蠶魚一、巧宦賤二農牧一。

【圃蔬】16ホソ　はたけの野菜。〔賈島、寄二令狐綯相公一詩〕不レ無二濠上思一、唯食二圃中蔬一。

【圃池】17ホチ　田圃の中にある池。〔韓非子、外儲說右下〕子罕爲二出彘一、田恆爲二圃池一。

【圃中】18ホチユウ　その中。苑中。〔和漢三才圖會、濕草類、決明子〕圃中種レ之、蛇不二敢入一。

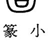
【圃亭】19ホテイ　清、唐甄(**2―3709**‥99)の號。


圃田㊁（農政全書）

【圃田】20ホデン　㊀大きな田。甫田。〔錢起、送三馬使君赴二鄭州一詩〕歸人耕二圃田一。㊁野菜果實を種ゑる田。周圍に垣を廻らす。〔農政全書、田圖說〕圃田、種二蔬果一之田也、周禮以二場圃一任二園地一、註曰、圃樹二果蓏之屬一、其田繚以二垣牆一、或限以二籬塹一。㊂澤の名。九藪の一。鄭に在る。今、河南省中牟縣の西。一に甫田に作り、又、囿中といふ。〔爾雅、釋地〕鄭有二圃田一。〔周禮、夏官、職方氏〕豫州、其澤藪曰二圃田一。〔注〕圃田、在二中牟一。〔左氏、定、四〕及二圃田之北竟一。〔史記、魏世家、秦七攻レ魏、五入二囿中一、注〕索隱曰、囿、卽圃田、鄭藪、屬レ魏、徐廣云、一作レ城、而戰國策作二國中一、正義曰、括地志云、圃田澤、在二鄭州管城縣東三里一、周禮云、豫州藪曰二圃田一也。〔淮南子、墬形訓〕何謂二九藪一、曰、越之具區、楚之雲夢、秦之陽紆、晉之大陸、鄭之圃田、宋之孟諸、齊之海隅、趙之鉅鹿、燕之昭余。〔後漢書、郡國志二〕中牟在二圃田澤一。〔水經、渠水注〕圃田澤、多二麻黃草一、云云、詩所謂東有二圃草一也、云云、東西四十許里、南北二十許里、中有二沙岡一、上下二十四浦、津流徑通、淵潭相接。

【圃陸】21ホリク　地名。〔韓非子、外儲說右上〕明日令レ田二於圃陸一、期以二日中一爲レ期、後レ期者行二軍法一焉。

【圄】
4775


小篆

ギヨ　ゴ　〔集韻〕偶擧切　ㄩˇ　yü³　語

㊀**まもる**。〔說文〕圄、守レ之也、从レ口吾聲。〔說文義證〕賈誼書、守圄扞敵之臣、鄭注周禮司右引司馬法、弓矢圉、今司馬法作二弓矢禦一、馥謂、守禦字、古作レ圄、圉者圄之譌也、韻會云、案說文、圄、守也、圉、令圉也、禦、祀也、今文圄爲二囹圄字一、圉爲二牧圉字一、禦爲二守禦字一、經傳中相承用レ之久矣。㊁**とらへる**。むちうちとらへる。圉(**3―4793**)に通ず。〔說文通訓定聲〕圄、叚借爲レ圉。〔玉篇〕圄、楚囚。〔左氏、宣、四〕圄二伯嬴于轑陽一、而殺レ之。〔注〕圄、囚也。㊂**ひとや**。らうや。囹圄。〔廣韻〕圄、囹圄、周獄名。

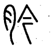
【圄犴】1ギヨカン　牢屋。ひとや。囹圉。〔後漢書、皇后紀序〕家嬰二縲絏於圄犴之下一。

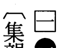
【圄空】2 ギョクウ 牢獄が空になる。罪を犯す者のないこと。國家治安の意。〔漢書、王褒傳〕周公躬二吐握之勞一、故有二圄空之隆一。

【圄寇】3 ギョコウ 列子の名。列禦寇(2－1901‥139)を見よ。〔漢書、藝文志〕列子八篇。〔注〕名圄寇、先二莊子一、莊子稱レ之。

【圄囹】4 ギョレイ ひとや。囹圄。〔北齊書、房豹傳〕階庭簡靜、圄囹空虛。

【圅】4776


小篆


俗體

〘一〙カン ゴン 〔集韻〕戶感切 ㄏㄢˇ han^2 感
〘二〙カン ゴン 〔集韻〕胡南切 覃

〘一〙❶**あご**。おとがひ。〔集韻〕圅、口上曰レ臄、口下曰レ圅。❷或は⿰月圅(9－29774)に作る。〔集韻〕圅、或从レ肉。❸函(2－1826)に同じ。〔正字通〕圅、函本字。〘二〙❶**舌**。〔說文〕圅、舌也、象形、舌體弓弓、从レ弓、弓亦聲。❷**ふくむ**。〔廣韻〕圅、銜也。❸通じて肣(9－29287)に作る。〔集韻〕圅、通作レ肣。

【圅鍾】1 カンショウ 林鍾(6－14551‥134)の❶に同じ。十二律の一。〔周禮、春官、大司樂〕歌二圅鍾一。〔疏〕月令以二圅鍾一爲二林鍾一。

【⿴囗古】4777 コ 古(2－3233)の古字。〔字彙補〕⿴囗古、古文古字。

【⿴囗⿱丷古】4778 ヘイ 〔字彙補〕補皿切 梗
⿴囗各⿴囗⿱丷古は、人名。〔穆天子傳、一〕⿴囗各⿴囗⿱丷古爲レ右。

【⿴囗告】4779 カウ 窖(8－25516)に同じ。〔篇海〕⿴囗告、同レ窖。

【⿴囗⿱夂灬】4780 シヨウ 義未詳。〔篇韻〕⿴囗⿱夂灬、音從。

【⿴囗婁】4781 ル 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗婁、音婁。

【⿴囗豆】4782 トウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗豆、音偸。

【⿴囗妻】4783 ヰ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗妻、音圍。

【⿴囗並】4784 イン・カウ 義未詳。〔五音篇海〕⿴囗並、音因、又音剛。

【⿴囗甬】4785 セン 義未詳。〔五音篇海〕⿴囗甬、音全。

【⿴囗⿰山几】4786 ト 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗⿰山几、音途。

八畫

【⿴囗⿱穴儿】4787 セン 〔集韻〕主兖切 銑
とぢこめる。〔集韻〕⿴囗⿱穴儿、囚刑固出。

【圇】4788 リン 〔字彙〕龍春切 ㄌㄨㄣˊ luen^2 眞
完い。完全な。〔字彙〕圇、囫圇也。

【圈】4789

〘一〙ケン ゲン 〔集韻〕逵眷切 ㄐㄩㄢˋ chüan^4 霰
〘二〙ケン ゲン 〔集韻〕巨卷切 銑
〘三〙ケン グヮン 〔集韻〕窘遠切 阮
〘四〙ケン ゲン 〔集韻〕驅圓切 ㄑㄩㄢ ch'üan^1 先
〘五〙ケン ゲン 〔集韻〕去爰切 元

小篆

〘一〙〘二〙〘三〙❶**ませ**。かこひ。しきり。〔說文〕圈、養レ畜之閑也、从レ口卷聲。〔段注〕牛部曰、牢閑、養二牛馬一圈也、是牢與レ圈得二通稱一也。❷**をり**。〔一切經音義、十七〕圈、檻類也。〔玉篇〕圈、牢也。〔漢書、張釋之傳〕登二虎圈一。〔注〕師古曰、圈、養レ獸之所也。❸**をりに養はれる家畜**。〔儀禮、聘禮、餁一牢鼎九、注、唯燖者有レ膚、疏〕犬豕曰レ圈。〔管子、立政〕圈屬。〔注〕圈屬、羊豕之類也。❹**くま**。**さかひ**。〔淮南子、原道訓〕天下爲二之圈一。〔注〕圈、陬也。❺**國**。〔太玄經、交〕大圈閎閎、小圈交レ之。〔注〕圈、國也。❻**うつす**。ひきずる。〔禮、玉藻〕圈豚行不レ擧レ足。〔疏〕圈、轉也、言下徐趨法、曳二轉足一、循レ地而行上也。❼**春秋の邑名**。〔公羊、文、十二〕楚子伐レ圈。❽**姓**。〔通志、氏族略、上聲〕圈氏、音倦、芈姓、風俗通、楚鬻熊之後、望出二陳留一。〘四〙〘五〙❶**まげもの**。棬(6－14969)に同じ。〔集韻〕棬、屈木盂也、或作レ圈。〔禮、玉藻〕母沒而杯圈不レ能レ飲焉。〔注〕圈、屈レ木所レ爲、謂二巵匜之屬一也。❷**まる**。圈點。〔說文通訓定聲〕圈、今所レ用文章圈點、亦謂二形周如一レ圈也。❸〘現〙㋑消印する。㋺コイル。線圈の略稱。㋩麻雀の一回を一圈といふ。四圈で勝負を決める。㋥動作の回數を示す量詞。

【圈圓】1 ケンエン まる。わ。圈圜。〔靈臺儀象志、二〕圈圓形左右作二楡木一、圈於二弧内一安定。

【圈行】2 ケンカウ ❶足を曳きずつて行く。〔禮、玉藻〕圈豚行而不レ擧レ足。〔疏〕圈、轉也、豚、循也、言下徐趨法、曳二轉足一、循レ地而行上也。❷めぐりあるく。〔新法曆書、三、製二正球日晷一〕必順レ時圈二行赤道一。

【圈檻】3 ケンカン をり。圈牢。〔淮南子、主術訓〕養二虎豹犀象一者、爲二之圈檻一、供二其嗜慾一。

【圈曲】3′ ケンキョク まるくまがる。〔東京夢華錄、六、十四日車駕幸二五嶽觀一〕一脚指レ天、一脚圈曲。

【圈禁】4 ケンキン 檻の中に拘禁する。淸の刑制の名。〔淸會典、宗人府〕凡宗室覺羅之訟、則會二戶部刑部一而決レ之、若有レ罪、輕則折罰、重則責懲、而加二圈禁一。

【圈外】5 ケングヮイ 限られた區域の外。又、圈(まるじるし)の外。圈外之說を見よ。

【圈外之說】6 ケングヮイノセツ 例へば、朱子の論語孟子集注等に於て、既に正解を下した後、更に一說として又は餘論として、見るべき論說を擧げるに○を附け、正解に區別して揭げた說。〔論語、學而〕人不レ知而不レ慍、不二亦君子一乎。〔集注〕慍、含レ怒意、君子、成德之名、尹氏曰、學在レ己、知不レ知在レ人、何慍之有、程子曰、雖レ樂レ及二於人一、不レ見レ是而無レ悶、乃所謂君子、愚謂、及レ人而樂者、順而易、不レ知而不レ慍者、逆而難、故惟成德者能レ之、然德之所二以成一、亦由二學之正、習之熟、說之深而不一レ已焉耳、○程子曰、樂由レ說而後得、非レ樂不レ足三以語二君子一。〔輯疏〕朱子曰、章末用レ圈而列二諸家之說一者、或文外之意、而於二正文一有レ所二發明一、不レ容二略去一、或通二論一章之意一、反二復其說一、切要而不レ可レ不レ知也。

【圈公】7 ケンコウ 商山の四皓の一人。園公(3－4818‥24)の❶に同じ。〔陳留風俗傳〕圈公爲二秦博士一、避二地南山一、漢祖聘レ之不レ就、惠太子卽位、以二圈公一爲二司徒一。

【圈子】8 ケンシ ❶範圍。〔水滸傳、六回〕西箇都跳出二圈子外一來。〔通俗編、行事、跳二出圈子一〕唐音登籤〕杜少陵樂府、盡跳二出前人圈子一、別換二一番

鉗鎚㆒。❷㋑chʻüan^{1} tzŭ わな。罠。㋺chʻüan^{4} tzŭ 圍のある土地。

【圈守】9（ケンシュ） かこひをして守る。かこひやしなふ。〔枚乘、上書重諫㆓吳王㆒書〕脩㆓治上林㆒、雜以㆓離宮㆒、積㆓聚玩好㆒、圈㆓守禽獸㆒、不㆑如㆓長洲之苑㆒。

【圈出】10（ケンシュツ） しるしをつける。〔福惠全書、典禮部、賓興考試〕當㆔爲圈出以鼓㆓其上進之心㆒。

【圈心】11（ケンシン） 圓の中心。圓心。〔新法曆書、測食〕日天之圈心爲㆑戊。

【圈進】12 chʻüan^{1} chin^{4} 侵す。占有する。

【圈聲】13 chʻüan^{1} shêng^{1} 漢字の角に其の字音の四聲を示すために圈點を付けること。

【圈線】14（ケンセン） 圓形の線。〔新法曆書、隨㆓本行㆒之驗〕曆家設㆓黃極㆒出㆓圈線㆒。

【圈癬】15 chʻüan^{1} hsien^{3} 錢瘡。ぜにがさ。

【圈束】16（ケンソク） かこひをしてくくる。束縛。〔顏延之、赭白馬賦〕隘㆓通都之圈束㆒。

【圈屬】17（ケンゾク） 一族。家族奴僕の類。眷族。圈は、眷の誤。〔管子、立政〕圈屬羣徒。

【圈糯】18（ケンダ） 村の名。雲南省瀾滄縣の東北の瀾滄江の濱。清の光緒十三年、置く。

【圈套】19（ケンタウ） ❶鳥獸を捕へるわな。術策。〔長生殿、權鬨〕怕孤立終落㆓他圈套㆒。❷chʻüan^{1} tʻao^{4} 勢力範圍。

【圈脫】20 chʻüan^{1} tʻuo^{1} 文字に圈をかけて削除する。

【圈地】21（ケンチ） 清代、八旗の官兵に與へた地。〔清會典、八旗都統〕圈地之入㆑官者爲㆓公產㆒、歲徵㆓其租㆒。

【圈軸】22（ケンヂク） 圈の中心。〔新法曆書、測量學十八題〕各有㆔本圈之軸、與㆓其兩極㆒。

【圈中】23（ケンチユウ） をりの中。〔論衡、佚文〕圈中之鹿。

【圈點】24（ケンテン） 文章の妙所・要所を示すために其の傍にうつ圓い點。字解の四五の❷を見よ。

【圈轉】25（ケンテン） ぐるぐるめぐる。字解の一二三の❻を見よ。

【圈豚】26（ケントン） 徐行の法。足を擧げないで、曳きずつて行くこと。〔禮、玉藻〕圈豚行不㆑擧㆑足。〔疏〕圈、轉也、豚、循也、言㆓徐趨法、曳轉、足循㆑地而行㆒也。

【圈內】27（ケンナイ） 範圍內。〔新法曆書、隨㆓本行㆒之驗〕凡黃道上之星、在㆓彼此極中㆒居㆓圈內㆒者、曰㆑入㆓某宮㆒。

【圈發】28（ケンパツ） 漢字の四聲を示す爲に字の四すみの一つに附ける半圓。點發。左下は平聲、左上は上聲、右上は去聲、右下は入聲。〔漢書評林、凡例〕一字有㆓數呼㆒者、則準㆓聲韻㆒、半㆓圈於四週㆒以別㆑之。〔張位、發音錄〕圈發平聲。

【圈盤】29 chʻüan^{1} pʻan^{2} 輪。

【圈閉】30（ケンペイ） をりにとぢこめる。禁閉。〔晉書、劉頌傳〕魏氏圈㆓閉親戚㆒、幽㆓囚子弟㆒。

【圈面】31（ケンメン） 圓の面。〔新法曆書、測量學十八題〕各大圈從㆓圈面㆒作㆓垂線㆒。

【圈牢】32（ケンラウ） 獸を入れるをり。をり。圈檻。〔曹植、求㆓自試㆒表〕此徒圈牢之養物、非㆓臣之志㆒也。

【圈弄】33 chʻüan^{1} nung^{4} 人をかつぐ。

【圈籠】34 chʻüan^{1} lung^{2} 籠絡する。

【圈和】35（ケンワ） なかなほり。和睦。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕保㆑無㆓逃逸圈和㆒。

【圈句子】36 chʻüan^{1} chü^{4} tzŭ 圈點を付ける。

【⿴囗百】4790

カク 〔廣韻〕苦角切 覺

鞭の聲。〔廣韻〕⿴囗百、鞭聲。〔通俗編、聲音、⿴囗百〕按、俗以㆑鞭擊㆓空硬物㆒曰㆓⿴囗百⿴囗百然㆒。

【⿴囗乳】4791

タイ 嬭(**3－6824**)の古字。〔集韻〕嬭、古作㆑⿴囗乳。

【⿴囗命】4792

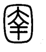
ワウ 〔玉篇〕烏宏切 庚

むなしい。〔玉篇〕⿴囗命、空也。

【圉】4793

一 ギヨ ゴ 〔集韻〕偶擧切 ㄩˇ yü^{3} 語

二 ギヨ ゴ 〔正韻〕魚據切 御


小篆

一❶**ひとや**。らうや。〔說文〕圉、囹圉、所㆔㠯拘㆓辠人㆒、从㆓囗卒㆒。〔段注〕卒爲㆓罪人㆒、囗爲㆑拘㆑之、故其字作㆑圉、他書作㆓囹圄㆒者、同音相段也、爾雅釋詁云、圉、垂也、孫注、圉、國之四垂也、邊垂者可㆑守之地、養㆑馬者守視之事、疑皆圉字引伸之義、各書段㆑圉爲㆑之耳。❷**うまかひ**。〔說文〕圉、一曰、圉人、掌㆑馬者。〔左氏、僖、十七〕故名㆑男曰㆑圉。〔注〕圉、養㆑馬者。〔左氏、僖、二十八〕誰扞㆓牧圉㆒。〔注〕馬曰㆑圉。❸**かふ**。家畜などを飼ふ。〔左氏、哀、十四〕將㆑圉㆓馬於成㆒。〔注〕圉、畜養也。〔張衡、東京賦〕圉㆓林氏之騶虞㆒。〔注〕薛曰、圉、牢養也。❹**けらい**。〔廣雅、釋詁一〕圉、臣也。❺**つかふ**。〔廣雅、釋詁一〕圉、使也。❻**くにざかひ**。邊垂。〔說文〕圉、一曰、邊垂也。〔爾雅、釋詁〕圉、垂也。〔詩、大雅、召旻〕我居圉卒荒。〔傳〕圉、垂也。〔左氏、隱、十一〕聊以固㆓我圉㆒也。〔注〕圉、邊垂也。❼**ふせぐ**。とめる。〔爾雅、釋言〕圉、禁也。〔舍人注〕圉、謂㆓未㆑有而豫防㆑之也。〔太玄經、彊〕終莫㆓之圉㆒。〔注〕圉、止也。❽**樂器の名**。敔(**5－13224**)に通ず。〔詩、周頌、有瞽〕鞉磬柷圉。〔傳〕圉、楬也。〔禮、樂記、椌楬、注〕謂㆓柷圉㆒也。〔釋文〕圉、本又作㆑敔。❾**陽の月の名**。〔爾雅、釋天〕月在㆑丁曰㆑圉。❿**謚**。〔逸周書、謚法解〕威德剛武曰㆑圉。⓫**縣名**。圉縣(4)を見よ。⓬圉圉は、困しんで舒びないさま。圉圉(2)を見よ。⓭圄(**3－4775**)に通ず。〔集韻〕圉、通作㆑圄。〔左氏、定、四〕孔圉。〔公羊、定、四〕孔圄。⓮梧(**6－14872**)に通ず。〔爾雅、釋天〕太歲在㆑丁曰㆓強圉㆒。〔史記、歷書〕太歲在㆑丁曰㆓強梧㆒。⓯**姓**。〔奇姓通〕周圉公陽、楚大夫。二禦(**8－24820**)に通ず。〔莊子、繕性〕其來不㆑可㆑圉。〔釋文〕圉、本又作㆑禦。

解字 會意。囗(らうやの象)と卒(罪人の意)との合字。本義は罪人を拘置する牢の意。故に囗の中に卒を畫いて其の意を表はし、且、假借して、敔・圄・梧・禦等とする。〔說文通訓定聲〕圉、囹圉、所㆔以拘㆓辠人㆒、从㆑囗从㆑卒、會意。

【圉鄉】1（ギヨキヤウ） 古の地名。河南省洛陽縣の東南。〔左氏、昭、二十二〕辛未、伐㆓東圉㆒。〔注〕洛陽東南有㆓圉鄉㆒。

【圉圉】2（ギヨギヨ） つかれ劣るさま。又、くるしんで舒びないさま。〔孟子、萬章上〕始舍㆑之圉圉焉、少則洋洋焉。〔注〕圉圉、魚在㆑水羸劣之貌。〔集注〕圉圉、困而未㆑舒之貌。

【圉禁】3（ギヨキン） ふせぎとめる。〔韓非子、制分〕亡國使㆔兵公㆓行乎其地㆒、而弗㆑能㆓圉禁㆒者、任㆑人而無㆑數也。

【圉縣】4（ギヨケン） 縣名。漢、置く。春秋、鄭の地。故城は河南省杞縣の南。〔左氏、昭、五〕韓起反、鄭伯勞㆓諸圉㆒。〔注〕圉、鄭地名。〔會箋〕漢置㆓圉縣㆒、後魏曰㆓圉城縣㆒、周顯德二年、征㆓淮南㆒、駐㆓師於圉城鎭㆒、在㆓今河南開封府杞縣南五十里㆒。〔漢書、地理志下〕淮陽國、縣九、圉。

【圉師】5（ギヨシ） 周官の名。夏官の屬。馬かひの長官。圉人に馬を養ふことを教へる。〔周禮、夏官、圉師〕圉師、掌㆑教㆓圉人養㆑馬。

【圉者】6（ギヨシヤ） 馬かひ。調馬師。〔宋史、石公弼傳〕今但當㆑懲㆓圉者㆒、民不㆑可㆑罪。

【圉城】6′（ギヨジヤウ） 縣名。❶後魏、圉縣を改め稱す。漢の圉縣。北齊、廢す。隋、復置く。唐、廢す。河南省杞縣の南。❷後魏、置く。今の安徽省の境。

【圉臣】7（ギヨシン） 馬を飼牧する臣。臣の謙稱。〔左氏、哀、三〕南氏生㆑男、正常載以如㆑朝、告曰、夫子有㆓遺言㆒、命㆓其圉臣㆒。〔會箋〕圉臣、正常自謙辭。

【圉人】8（ギヨジン） 周官の名。夏官の屬。養馬芻牧の

事を掌る。うまかひ。〔周禮、夏官、圉人〕圉人、掌養馬芻牧之事。〔禮、檀弓上〕圉人浴馬。〔左氏、莊、三十二〕圉人犖自牆外與之戲。

【圉奪】9 ギョダツ 其の人を禁守して其の物を奪ふこと。〔漢書、貨殖傳〕圉奪成家者爲雄桀。〔注〕師古曰、圉、謂禁守其人也、劉敞曰、圉、讀如禦人於國東門之禦。

【圉絆】10 ギョハン とらへる。又、とらへられる。拘禁。捕縛。

【圉牧】11 ギョボク 家畜の世話をする者。〔徐陵、爲貞陽侯重與王太尉書〕詢諸圉牧、莫不皆知、援誓神明、固自無爽。〔金史、田琢傳〕官司圉牧勢家兼幷。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕有工料以給圉牧。

【圉門】12 ギョモン 周の王城の南門。〔左氏、莊、二十一〕自圉門入。〔會箋〕圉門、爲王城南門。

【圉陽】13 ギョヤウ 春秋、楚の地名。今の湖北省の境。〔左氏、昭、二十四〕王及圉陽而還。

【圉余】14 ギョヨ 陰曆四月の異名。〔爾雅、釋天〕四月爲余。〔疏〕四月得丁、則曰圉余。〔爾雅、釋天〕月在丁曰圉。

【圉隸】15 ギョレイ 罪人や奴隸をいふ。〔梁宣帝、愍時賦〕羣圉隸而爲寇、聚臧獲而成師。

【⿴囗宕】4794

タウ ダウ 〔集韻〕大浪切 漾

砰⿴囗宕は、石の聲。或は⿴囗石(3-4737)に作る。〔集韻〕⿴囗宕、砰⿴囗宕、石聲、或省。

【⿴囗衣】4795

ト 圖(3-4832)の古字。〔玉篇〕⿴囗衣、古文圖。

【圅】4796

カフ ゴフ 〔集韻〕曷閤切 合

あふ。通じて郃(11-39377)に作る。〔集韻〕圅、會也、通作郃。

【圊】4797

㊀セイ シャウ 〔集韻〕親盈切 ㄑㄧㄥ ch'ing¹ 庚
㊁セイ シャウ 〔集韻〕倉經切 靑

㊀㊁かはや。〔釋名、釋宮室〕廁、或謂之圊、言至穢之處、宜常修治使潔淸也。〔廣雅、釋宮〕圊、廁也。

【圊圂】1 セイコン かはや。便所。圊溷。〔廣雅、釋宮〕圊圂、庰廁也。

【圊溷】2 セイコン かはや。便所。雪隱。圊廁。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕所至營壘井竈圊溷藩籬障塞、皆應繩墨。〔文天祥、正氣歌序〕或圊溷積臭暴屍、或腐鼠惡氣雜出時、則爲穢氣。

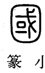
【圊廁】3 セイシ かはや。便所。〔涅槃經〕大小圊廁、無不備足。〔法苑珠林〕於四門各作圊廁、給人便利。

【圊桶】4 セイトウ おかは。おまる。便器。今は多く淨桶に作る。淨は圊の音轉にもぢつた洒落と見られる。〔李實、蜀語〕便溺器曰圊圃。

【圊房】5 セイバウ かはや。便所。

【國】4798

コク 〔集韻〕骨或切 ㄍㄨㄛˊ kuo² 職


小篆

❶くに。㋑小國。邦に對する語。〔說文〕國、邦也、从口从或。〔周禮、天官、大宰〕以佐王治邦國。〔注〕大曰邦、小曰國、邦之所居亦曰國。〔釋文〕國、天子諸侯所理也。㋺諸侯の國。〔孟子、離婁上〕皆曰天下國家。〔注〕國、謂諸侯之國。〔獨斷、上〕諸侯爲百姓立社曰國社。㋩都邑。みやこ。〔禮、禮運〕國有學。〔疏〕國、謂天子所都。〔孟子、萬章下〕在國曰市井之臣。〔注〕國、謂都邑也。〔呂覽、明理〕有狼入于國。〔注〕國、都也。㋥城中。〔周禮、天官、序官〕體國經野。〔疏〕國、謂城中也。〔周禮、地官、鄉大夫〕國中自七尺以及六十。〔注〕國中、城郭中也。㋭郊の內。〔詩、小雅、甫田、倬彼甫田、歲取十千、疏〕國中、謂郊內也。〔國語、齊語〕參其國而伍其鄙。〔注〕國、郊以內也。㋬故鄉。〔盧僎、南樓望詩〕去國三巴遠。㋣地方。〔周禮、地官、掌節〕山國用虎節、土國用人節、澤國用龍節。❷**はかる**。〔廣雅、釋詁四〕國、謀也。〔說文通訓定聲〕國、爲圖之誤字。❸**姓**。〔廣韻〕國、又姓、太公之後、左傳、齊有國氏、代爲上卿。

名乘 クニ。トキ。

解字 會意形聲。口(くにの四方の境界)と或(戈と口と一との合字で、四方の境を戈を以て守ること、更に土地を表はす一を加へてくにの意を示す)との合字。或は又聲。古は或をくに又はくにざかひの意に用ひたが、戈を以て守るものは疑ふ心のあることから、あるひはの意と爲し、惑ふの意に轉用するに至り、口を加へて國に作り、又土を加へて域に作り、以てくにの意に用ひ、更に域をくにざかひの意に用ひる。〔說文通訓定聲〕國、邦也、从口从或、會意、或亦聲。

▽ (甲骨文) 會意。口と戈との合字。口はむら。ほこで守備された村の意。

【國哀】1 コクアイ ❶國喪をいふ。〔白虎通、崩薨〕天子崩、訃告諸侯何、緣臣子喪君、哀痛憤懣、無能不告語人者也、諸侯欲聞之、又當持土地所出、以供喪事、故禮曰、天子崩、遣使者訃諸侯、王者崩、諸侯悉奔喪何、臣子悲哀慟怛、莫不欲觀君父之棺柩、盡悲哀者也、又爲天子守蕃、不可頓空也、故分爲三部、有始死先奔者、有得中來盡其哀者、有得會喪奉送君者、七月之間、諸侯有在京師親供臣子之事者也、號泣悲哀、奔走道路者、有居其國哭痛思慕、竭盡所供、以助喪事者、是四海之內咸悲、臣下若喪考妣之義也。❷夏の禹王の御者の名。

【國惡】2 コクアク 國の惡事。〔左氏、僖、元〕諱國惡禮也。

〔諱國惡〕2′ コクアクヲイム 人臣の禮として國の惡事をいみ憚つて言はぬこと。國惡を見よ。

【國安】3 コクアン 國內が平安に治まる。〔禮、鄉飲酒義〕彼國安而天下安。〔韓非子、難、一〕國安而身定。

【國彝】4 コクイ 國の法。くにのさだめ。〔唐書、玄宗紀〕虔守國彝。

【國醫】5 コクイ 國中で最もすぐれた醫師。上醫(1-13‥4)を見よ。〔稱謂錄、醫、國醫〕宋史高若訥傳、雖國醫皆屈服。〔老學庵筆記、六〕王黼在翰苑、嘗病疫危甚、國醫皆束手。〔黃庭堅、詩〕從是得國醫。

【國位】6 コクヰ 國の元首たる位。〔韓非子、難勢〕今以國位爲車、以勢爲馬。〔釋氏通鑑〕朕有國位、不足爲寶、師乃國寶也。

【國委】7 コクヰ 國用のための積立て。〔管子、輕重乙〕內可以爲國委、外可以益農夫之事。〔纂詁〕委、委積也。

【國威】8 コクヰ 國の威光。〔管子、法禁〕一國威。〔後漢書、皇甫嵩傳〕杖國威以討之。

〔國威宣揚〕9 コクヰセンヤウ 國威をのべあげる。

【國尉】10 コクヰ 戰國時代の官名。尉は、武官の稱。〔資治通鑑、周紀〕(赧王、二十二年)秦王以白起爲國尉。〔注〕戰國之時、有國尉、有郡尉、應劭曰、自上安下曰尉、武官悉以爲稱。

【國維】11 コクヰ ❶國家の綱紀。國基。國綱。〔論衡、恢國〕皇帝敦德、俊乂在官、第五司空、股肱國維、轉穀振贍、民不乏餓、天下慕德。❷字號。㋑後梁、張全義(4-9812‥1277)の字。㋺明、錢養廉(11-40563‥437)の字。

【國有】12 コクイウ 國家の所有。官有。

〔國有財產〕13 コクイウザイサン 國家の所有に屬する財產。

〔國有林野〕14 コクイウリンヤ 國家の所有に屬する森林原野。

【國猷】15 コクイウ 明、錢策(11-40563‥107)の字。

【國憂】16 コクイウ 國のうれひ。國のわざはひ。國患。〔淮南子、人閒訓〕必爲國憂。〔曹植、雜詩〕閑居非吾志、甘心赴國憂。

【國邑】17 コクイフ ㊀漢代の諸侯の封地をいふ。〔漢書、馬宮傳〕無レ宜三復食二國邑一。㊁國都。〔管子、八觀〕入二國邑一、視二宮室一。〔纂詁〕國邑、國所レ都也。

【國姻】18 コクイン 皇室の姻戚。〔南史、王僧達傳〕門爵國姻、一不二貶絕一。〔白居易、與二茂昭一詔〕寵接二國姻一。

【國胤】19 コクイン 皇室の子孫。〔後漢書、襄楷傳〕國胤不レ興。

【國陰】20 コクイン ㊀國の陰。陰は女性で、后妃の屬をいふ。〔漢書、杜鄴傳〕男雖レ賤、名爲二其家陽一、女雖レ貴、猶爲二其國陰一。㊁方位を指していふ。〔謝超宗、齊北郊、地德凱容樂歌〕繕二方丘一、端二國陰一、掩二珪晷一、仰二靈心一。

【國運】21 コクウン 國家の運命。國曆。〔高啓、送三張貢士祥會二試京師一詩〕邇來國運屬二中圮一、爭慕レ死レ節、羞二生命一。

【國楹】22 コクエイ 宋、高松(**12－45313**‥474)の字。

【國妖】23 コクエウ 國のわざはひ。國氛。〔荀子、大略〕身行レ惡國妖也。〔楊維楨、樂府〕除二國妖一雪二國恥一。

【國要】24 コクエウ 國家にとつて大切なもの。賞罰の權をいふ。〔韓非子、三守〕人臣有二大臣之尊一、外操二國要一、以資二羣臣一、使二外內之事非レ己不一レ得レ行、雖レ有二賢良一、逆者必有レ禍、而順者必有レ福。

【國益】25 コクエキ 國家の利益。國利。

【國淵】26 コクエン 三國魏、蓋の人。字は子尼。鄭玄の門人。官は太僕。〔三國志、十一〕。

【國豔】27 コクエン 國中第一のあでやかなもの。牡丹の花、又、美人の形容。〔紫姑、瑞鶴仙〕雙靨姚黃、國豔魏紫。〔吳文英、漢宮春〕國豔欲レ掩名姝日。〔蘇軾、常潤道中有レ懷二錢塘一寄二述古一詩〕國豔夭嬈酒半酣、去年同賞寄二僧詹一。

【國音】28 コクオン ㊀其の國の語音。國語の發音。〔謝莊、赤鸚鵡賦應レ詔〕審二國音於寰中一、達二方聲於遐表一。㊁標準音。全國の標準となる發音。

〖國音字母〗29 コクオンジボ 注音符號と國語羅馬字とを總稱する。注音符號(**6－17316**‥77)及び國語羅馬字拼音法式(186)を見よ。

〖國音常用字彙〗29′ コクオンジヤウヨウジキ 書名。一卷。中華民國二十一年、教育部で撰定公布した常用漢字の字書。各字を音と四聲とに分ち、注音符號と羅馬字の發音とを附す。附錄に化學元素之名稱・度量衡之略字・特別音與二特別字一擧例・國音常用字彙檢音表・國音常用字彙の劃引索引がある。

【國恩】30 コクオン 國家の恩惠。天子の恩澤。國德。〔李密、陳情表〕尋蒙二國恩一、除二臣洗馬一。〔柳宗元、獻下平二淮夷一雅上表〕思レ報二國恩一、獨惟文章。〔舊唐書、李德裕傳〕孜孜夙夜、上報二國恩一。

【國家】31 コクカ ㊀くに。王室と國土。〔易、繫辭下〕治而不レ忘レ亂、是以身安而國家可レ保也。〔書、立政〕相二我國家一。〔左氏、桓、二〕國家之敗、由二官邪一也。〔周禮、夏官、司勳〕國功曰レ功、注〕保二全國家一、若二伊尹一。〔荀子、脩身〕國家無レ禮則不レ寧。〔漢書、孫寶傳〕傳不レ云乎、惡三利口之覆二國家一。㊁天子。王。〔晉書、陶侃傳〕國家年少、不レ出二胸懷一。㊂諸侯の國と卿大夫の家。〔孟子、離婁上〕孟子曰、人有二恆言一、皆曰二天下國家一、天下之本在レ國、國之本在レ家、家之本在レ身。㊃現在の朝廷。〔事物紀原、學校貢擧部、詞賦〕唐天寶十三載、始試二詞賦一、蓋用二梁陳之意一云、科擧之以二詞賦一、此其初也、國家自二神宗一、專以二經術一取レ士、詞賦遂罷。〔大學衍義補、備二規制一、圖籍之儲〕國家宜下明二憲度一、恢中張政治上。㊄一定の地域に居住する多數人から成り、統治權によつて組織せられてゐる團體。領土・人民・統治權が、その概念の三要素とされてゐる。

〖國家學〗32 コクカガク 國家の性質・組織・成立等について研究する學問。

〖國家意志〗33 コクカイシ 法律上、國家を人格とみなす場合、國家が法律上の行爲を爲す意思をいふ。卽ち國家機關が其の地位に於て有する意志。

〖國家意識〗34 コクカイシキ 國家を對象とする國家成員の大部分に共通な意識。社會意思の一種。

〖國家干城〗35 コクカノカンジヤウ 國家の楯となり城となつて守護する人。轉じて、軍人を指す。〔周禮政要、敎冑〕其有二資性開敏者一、或令レ入二水陸師武備學堂一、用備二國家干城之選一。

〖國家閒暇〗36 コクカカンカ 敵國からの外患もなく、國家が無事平和であること。閒は閑。〔孟子、公孫丑上〕賢者在レ位、能者在レ職、國家閒暇。

〖國家管理〗37 コクカクワンリ 企業の經營に關して、國家の機關が介入して、計畫を立て、報告を徵し、準則を指示するなど、或る程度の管理を行ふこと。社會主義政策の一。

〖國家機關〗38 コクカキクワン 國家の立法・司法・行政などの事務・作用に關する機關。內閣・國會・裁判所の類。

〖國家銀行〗39 kuo² chia¹ yin² hang² 一國金融機關の中樞をなすもので、中央銀行ともいふ。

〖國家經濟〗40 コクカケイザイ 國家及び公共團體の經濟。

〖國家試驗〗41 コクカシケン ㊀其の合格者に資格を認め、又は一定の地位・活動についての免許を與へるため、國の機關が管理して行ふ試驗。司法試驗、醫師・藥劑師の試驗など。㊁舊制の高等文官試驗・普通文官試驗の俗稱。

〖國家思想〗42 コクカシサウ ㊀國家の性質・組織・機能・起原・目的等、國民として知ることを要する知識。㊁國家の存在を人生觀、または社會觀の上に肯定する思想。㊂人生觀・社會觀の上に國家を以て人類努力の最高目標とし、個人の活動は、國家に對する貢獻の見地に於てのみ意義ありとする思想。

〖國家主義〗43 コクカシユギ 國家の權威と意思とに絕對の優位を認める主義。

〖國家忠臣〗44 コクカノチユウシン 其の國で最も優れた忠義な臣。〔漢書、昭帝紀〕大將軍國家忠臣、先帝所レ屬。

〖國家大事〗45 コクカノダイジ 國の一大事。國家の重大な事件。〔後漢書、賈復傳〕參二議國家大事一。

〖國家柱石〗46 コクカノチユウセキ 國家の柱となり礎石となつて重任を負ふ高位高官の人をいふ。國の柱石。〔漢書、元后傳〕(王章曰)前丞相樂昌侯商、本以二先帝外屬一、內行篤有二威重一、位歷二將相一、國家柱石臣也。〔漢書、霍光傳〕田延年曰、將軍爲二國柱石一。〔注〕師古曰、柱者梁下之柱、石者承レ梁之礎也、言下大臣負二國重任一、如中屋之柱及其石上也。

〖國家總動員法〗47 コクカソウドウインハフ 戰爭・事變に際し、國防目的達成のため、國の全力を最も有効に發揮させるやうに、人的及び物的資源を統制運用することを目的とした法律。昭和十三年四月公布、同二十年十二月廢止。

〖國家社會主義〗48 コクカシヤクワイシユギ 社會主義の一傾向。資本主義の弊害を國家權力の干涉によつて調整しようとする主義。State Socialism の譯。

〖國家昏亂有二忠臣一〗49 コクカコンランシテチユウシンアリ 國家がみだれると忠臣が現はれる。忠臣のゐる時代は不幸な時代であるといふ思想からの語。〔老子、十八〕六親不レ和有二孝慈一、國家昏亂有二忠臣一。

〖國家將レ興必有二禎祥一〗50 コクカマサニオコラントスレバカナラズテイシヤウアリ 國家が盛にならうとする時には、必ずよい前兆がある。〔中庸〕至誠之道、可二以前知一、國家將レ興、必有二禎祥一、國家將レ亡、必有二妖孽一、見二乎蓍龜一、動二乎四體一、禍福將レ至、善必先知レ之、不善必先知レ之、故至誠如レ神。

【國歌】51 コクカ ㊀國家が制定し、國家の大典などの儀式の時に歌ふべきものと定められてをり、國際上、その國家を代表する歌。我が君が代の類。㊁やまとうた。和歌。國詩。

【國稼】52 コクカ 國中の農業。〔周禮、秋官、雍氏〕害二於國稼一。〔孫詒讓正義〕國稼、謂二國農之種レ穀者一。

【國娥】53 コクガ 國中で最もすぐれた美人をいふ。娥は、美人の意。國色。〔李山甫、曲江詩〕千隊國娥輕似レ雪、一羣公子醉如レ泥。

【國衙】53′ コクガ ㊀國司の役所。國司の廳。㊁國司の統治する地。國領。

【國戒】54 コクカイ 國家のいましめ。〔管子、山權數〕此之謂二國戒一。

【國界】55 コクカイ くにざかひ。國境。〔漢書、匡衡傳〕至二建始元年一、郡廼定二國界一。

【國害】56 コクガイ 國の害。〔宋玉、高唐賦〕憂二國害一。

【國交】57 コクカウ 國と國との交際。〔史記、陳軫傳〕張儀惡二陳軫於秦王一曰、軫重レ幣輕レ使、秦楚之閒、將レ爲二國交一也。

〖國交斷絕〗58 コクカウダンゼツ 國際紛爭に關する談判不調のため、國際交誼の斷絕すること。

【國行】59 コクカウ 天子の七祀、諸侯の五祀の一。道路の神、又、これを祀る祠。行は、道路の神。〔禮、祭法〕王爲二羣姓一立二七祀一、云云、曰國行、云云、諸侯爲レ國立二五祀一、云云、曰國行。〔注〕行、主二道路

行作一。

【國郊】60コクカウ 國の境。〔晏子、雜、上〕及二之國郊一。

【國香】61コクカウ ❶國中で最も良い香。㋑蘭(9－32519)の異名。〔左氏、宣、三〕以三蘭有二國香一、人服二媚之一如レ是也。〔溫庭筠、中書令裴公挽歌〕國香荀令去、樓月庾公來。㋺梅(6－14830)の異名。〔蘇軾、再和二楊公濟梅花十絕一詩〕憑二仗幽人一收二艾蒳一、國香和レ雨入二青苔一。〔楊萬里、蠟梅詩〕國香未レ許二世人知一。❷詞牌の名。國香慢ともいふ。

【國高】62コクカウ 春秋、齊の上卿、國子と高子とをいふ。〔左氏、僖、十二〕有二天子之二守國高在一。〔注〕國子・高子、天子所レ命、爲二齊守臣一、皆上卿也。

【國綱】63コクカウ 國家の秩序を保つきまり。國維。〔晉書、庾冰傳〕覽二其大一當三以總二國綱一。

【國衡】64コクカウ ❶國の山林を司る官。〔管子、五行〕出二國衡一愼二山林一。〔纂詁〕國衡、居レ國之衡也、周官、虞、掌二山澤一、衡、掌二林川一、此衡兼愼二山林之守一者。❷字號。㋑陳、沈文阿(6－17189・・632)の字。㋺宋、林之平(6－14551・・340)の字。

【國號】65コクガウ くにの名。國家の名稱。國名。〔詩、商頌譜〕自レ契至レ湯、雖二則八遷一、而國號不レ改。〔史記、虞舜紀〕同姓而異二其國號一。〔北史、崔宏傳〕詔二有司一議二國號一。〔事物紀原、帝王后妃部、國號〕後漢書班固典引曰、肇命二人主一、五德初始、厥有二氏號一、莫レ不レ開二元於太昊一、注謂、太昊號二庖犧一、炎帝號二神農一、黃帝號二軒轅一、蓋自二燧皇一而上、止以自名、未レ爲二天下之號一也、至二太昊一始以二庖犧一爲二代號一云。

【國客】66コクカク 古の制で、臣が君命を奉じて列國に聘した場合、其の主使者をいふ。國家が待遇すべき客の意。〔周禮、秋官、司儀〕諸公之臣相爲二國客一。

【國貉】67コクカク さなぎ。蛹。〔爾雅、釋蟲〕國貉、蟲蠁。〔疏〕此蛹蟲也、今俗呼爲レ蠁、一名二國貉一、一名二蠁蟲一。

【國樂】68コクガク ❶其の國の儀式などに用ひるために作つた音樂。又、其の民族の樂。〔遼史、樂志〕是夜皇帝燕飮用二國樂一。❷清、梁紹獻(6－14825・・228)の字。❸コクラク 國中がたのしむ。〔易林〕陰陽和暢、國樂無レ憂。

【國學】69コクガク ❶天子・諸侯・貴族の子弟及び國中の俊才を教育する爲に、國都に設けた學校。古代から置かれ、隋以後は國子監といふ。國庠。〔周禮、春官、樂師〕掌二國學之政一。〔隋書、百官志上〕國學有二祭酒一人、博士二人、助教十人、太學博士八人一。❷中國固有の學問。其の內容には數說があり、舊學派では孔子學を中心とするものをいひ、章太炎は諸子學をも其の一部とし、佛を加味して、儒佛兼採の特長と自由批評の態度を取つた。又、胡適は新見地から文學革命を提唱して、白話を以て作られた文學を以て、始めて國語の統一と發達とを圖り得ることを主張してゐる。〔光緒三十一年刊國粹學報、社說〕・〔光緒三十九年刊國學叢選、序文〕・〔國故論衡〕・〔章太炎先生演講國學概論〕。❸王朝時代、京畿以外の諸國に設けて郡司の子弟を教育した學校。❹我が邦の文學典章を研究する學問。和學。皇學。

【國學者】70コクガクシヤ 國學の❹を研究する人。

【國學生】91コクガクセイ 國學❶の學生。監生。〔文獻通考、學校考、太學〕晉太元九年、臣聞、舊制國學生、皆取二冠族華胄一、比二列皇儲一。

【國姦】92コクカン 國內のわるもの。〔漢書、息夫躬傳〕察二國姦一。〔三略、上〕是謂二國姦一。

【國幹】93コクカン 國家の根幹。國を治める本。禮をいふ。〔左氏、襄、三十〕子駟氏欲レ攻二子產一、子皮怒レ之曰、禮、國之幹也、殺二有禮一、禍莫レ大焉、乃止。〔王儉、侍二皇太子釋奠宴一詩〕禮惟國幹、、義實民端。

【國艱】94コクカン 國の難儀。國難。〔後漢書、荀彧傳論〕崇二明王略一、急二國艱一。

【國危】95コクキ 國の危難。兵寇の難をいふ。〔周禮、秋官、小司寇〕一曰、詢二國危一。〔左氏、桓、五〕冬、淳于公如レ曹、度二其國危一、遂不レ復。

【國忌】96コクキ 天子及び皇后の崩御の日に相當する年々の忌日。大祭日の一。〔唐六典、尙書禮部、祠部郎中〕祠部郎中員外郎、掌二祠祀・享祭・天文・漏刻・國忌・廟諱・卜筮・醫藥・道佛之事一。〔唐律、雜律〕諸國忌廢レ務日作レ樂者、杖一百、私忌減二一等一。〔元稹、辛夷花詩〕狼藉囚徒滿二田地一、明日不三推二緣國忌一。

【國忌行香】97コクキニカウヲオコナフ 國忌日に香を焚いて祀る。〔資治通鑑、唐紀〕懿宗咸通九年、勛雖レ不レ能レ用、然國忌猶行レ香。〔注〕唐自二中世一以後、每二國忌日一、令下天下州府悉於二寺觀一設レ齋焚上香、開成初、禮部侍郎崔蠡、以三其事無二經據一、奏罷レ之、尋而復レ舊。

【國紀】98コクキ ❶國家の秩序を保つ規則。卽ち禮をいふ。〔左氏、襄、二十三〕干二國之紀一、犯レ門斬レ關。〔左氏、昭、元〕奸二國之紀一。〔國語、晉語四〕夫禮、國之紀也。〔任昉、王文憲集序〕朝章國紀。❷國中の模範となる者。〔管子、侈靡〕擇二其好レ名、因使レ長レ民、好而不レ已、是以爲二國紀一。〔後漢書、蔡邕傳〕善人、國之紀也。❸字號。㋑宋、侍其沔(1－589・・14)の字。㋺宋、李元綱(6－14459・・1159)の字。

【國紀民彝】99コクキミンイ 國家の紀綱と人民の常道。〔支那大總統告令、祀孔典禮〕國紀民彝、賴以不レ墜。

【國軌】100コクキ 國家が人民の生活の安定をはかるため、その年の生産と消費の關係による物價の高下を考へ、品物或は貨幣を政府の手に收藏したり放出したりして、物價の調節をはかること。〔管子、山國軌〕布二於未レ形、據二其已成一、乘レ令而進退、無レ求二於民一、謂二之國軌一。〔纂詁〕凡國家量二長幣穀一之法、先布二其數於未レ形之前一、據二貴賤之形已成一、以運二用錢穀百物一、又因二號令一、而進二退物價一、毫無レ求二於民一也。

【國記】101コクキ 其の國の歷史を記した書。〔魏書、高允傳〕詔三允與二司徒崔浩一、述二成國記一。〔北史、魏孝文帝紀〕改二析國記一、依二紀傳體一。

【國基】102コクキ 國を維持するもとゐ。國維。國本。〔左氏、昭、十三〕足三以爲二國基一矣。〔管子、輕重丁〕可三以爲二國基一。

【國棋】103コクキ 國中第一の碁の名手。圍碁の名人。〔杜牧、送二國棋王逢一詩〕玉子紋楸一路饒、最宜簷雨竹蕭蕭。

【國毀】104コクキ 國をあげての非難。〔列子、仲尼〕國毀不二以爲一レ辱。

【國祺】105コクキ 明、貢修齡(10－36665・・70)の字。

【國旗】106コクキ 其の國の標識として制定した旗。我が日の丸の旗の類。

【國畿】107コクキ 九畿の一。王城の外、千里四方の地。九畿(1－167・・95)を見よ。〔周禮、夏官、大司馬〕乃以二九畿之籍一、施二邦國之政職一、方千里曰二國畿一。

【國器】108コクキ ❶人物手腕が國政をまかせるに足る人。國が尊重すべき器ウツハといふ意。〔史記、晉世家〕楚成王曰、晉公子賢、而困二於外一久、從者皆國器。〔韓非子、難言〕公叔痤言二國器一、反爲レ悖。〔黃庭堅、次韻答二黃與迪一詩〕青山抱二國器一、歲月忽如レ遺。❷人の子をほめていふ語。〔書言故事、子孫類〕稱二譽人子一曰二國器一。❸字號。㋑宋、芮煜(9－30731・・2)の字。㋺宋、樓璹(6－15430・・56)の字。㋩宋、王瓘(7－20823・・311)の字。㋥元、吳鼎(廣平の人)(2－3365・・322)の字。㋭元、鄭鼎(11－39647・・226)の字。㋬明、許鎡(10－35298・・107)の字。㋣明、許懋(10－35298・・205)の字。

【國機】109コクキ 國の盛衰のきざし。〔管子、揆度〕謂二之國機一。〔纂詁〕言二此國家盛衰之極機一也。

【國諱】110コクキ ❶帝王のいみな。又、其の諱を記した詔などをいふ。古は國中の者が君の諱を言つたり書いたりすることを避け、之に遇へば或は書くのをやめ、或は缺筆を用ひ、或は他字を以て之に代へた。公諱。〔宋書、蕭思話傳〕思話卽率二部曲一、還二彭城一、起レ義以應二世祖一、遣レ使奉レ牋曰、下官近在二歷下一、始奉二國諱一。❷帝王の喪。〔南齊書、禮志〕晉武之崩、又其學猶存、斯皆先代不下以二國諱一而廢上學之明文也。

【國徽】111 kuo² huei¹ 國旗。

【國伎】112コクギ 其の國固有のわざ。我が國の武術や角力の類。國技。國能。〔海錄碎事、音樂、樂〕西京樂、起二苻氏之末一、魏代至レ隋、咸重レ之、遂謂二之國伎一。

【國技】113コクギ 國伎に同じ。

【國儀】114コクギ ❶國家の公の儀式。〔易、觀、注〕明二習國儀一者也。❷字號。㋑三國吳、孫輔(3－6987・・272)の字。㋺後晉、孟賓于(3－6960・・337)の字。

【國議】115コクギ 國家の議事。國政の審議。〔後漢書、

馬武傳論〕若㆓夫數公㆒者、則與參㆓國議㆒。

【國舅】116 コクキウ 天子の外戚の父兄。〔東觀奏記〕國舅鄭宣莊不㆑納㆑租。〔遼史、蕭韓家傳〕蕭韓家、國舅之族。〔遼史、蕭惠傳〕初以㆓中宮親㆒爲㆓國舅詳穩㆒。

【國廏】117 コクキウ 王室の廏。〔孔子家語、曲禮子貢問〕孔子爲㆓大司寇㆒、國廏焚。

【國詰】118 クニヅメ 昔、大小名及び武士が其の本國に居ることをいふ。江戸詰めの對。

【國境】119 コクキヤウ くにざかひ。國土の境界。國界。國疆。〔蜀志、楊戲傳〕折㆓衝外禦㆒、鎭㆓保國境㆒。

【國疆】120 コクキヤウ 國境に同じ。

【國許】121 クニモト 故鄕をいふ。〔狂言記、二千石〕國もとに殘しおいたるめこ子供。

【國擧】122 コクキヨ 國によつて推擧せられる。又、其の人。〔世說新語、賞譽〕庾公云、逸少國擧、故庾倪爲㆓碑文㆒云、拔㆓萃國擧㆒。

【國均】123 コクキン ❶國政をいふ。事の輕重をはかつて平かにする意。均は平。〔詩、小雅、節南山〕秉㆓國之均㆒、四方是維、天子是毗、俾㆓民不㆑迷。〔傳〕均、平。❷國政を執る人。執政。大臣。〔任昉、出㆓郡傳舍㆒哭㆓范僕射㆒詩〕已矣余何歎、輟㆑舂哀㆓國均㆒。

【國鈞】124 コクキン 唐、雍陶(**11**－**42000**‥38)の字。

【國禁】125 コクキン 國の法律で禁じてある事。國のはつと。〔周禮、秋官、士師〕三曰㆓國禁㆒。

【國狗】126 コクク ❶國が飼つてある犬。一說に、國中に雙びない名犬。〔左氏、哀、十二〕長木之斃、無㆑不㆑摽也、國狗之瘈、無㆑不㆑噬也。〔疏〕長木、喩㆓吳國大㆒也、狗瘈、喩㆓吳失㆑道也、國狗、猶㆓家狗㆒、言㆘家畜㆓狂狗㆒必嚙㆖人也。〔會箋〕國狗、國中無雙之名狗也、名狗而狂、其所㆑害大。❷賢人を妨げ有能者を害する人。國政を執る姦臣をいふ。〔晏子、問、上〕夫國亦有㆓猛狗㆒、用㆑事者是也。

【國花】127 コククワ 其の國の人々が最も重んずる花。我が國の櫻、中國の牡丹の類。〔天咫偶聞〕北京極樂寺、明代牡丹最盛、寺東有㆓國花堂額㆒、清成親王所㆑書。

【國訛】128 クニナマリ その地方々々のなまり。又、其のなまりのある言葉。方言。田舍言葉。〔博多小女郎波枕、上〕生れは長崎、國なまり。

【國貨】129 コククワ ❶國都の門を過ぎる貨物。〔周禮、地官、司關〕司關、掌㆓國貨之節㆒。❷國內の其の國中に通用する貨幣。〔魏書、食貨志〕夏殷之政、九州貢㆑金、以定㆓五品㆒、周仍㆓其舊㆒、太公立㆓九府之法㆒、於㆑是國貨始行、定㆓銖兩之楷㆒、齊桓循用、以霸㆓諸侯㆒。❸國產商品。

【國華】130 コククワ ❶國の精華。國の榮光。〔國語、魯語上〕(季文子曰)吾聞以㆓德榮㆒爲㆓國華㆒。〔晉書、衞瓘張華傳論〕忠爲㆓令德㆒、學乃國華。〔梁武帝、賜㆓謝覽王暕㆒詩〕豈伊爾棟隆、信乃俱國華。❷字號。㋑後周、申文炳(**7**－**21726**‥185)の字。㋺宋、吳儀(**2**－**3365**‥99)の字。㋩宋、曹彬(**5**－**14297**‥165)の字。㋥宋、傅墨卿(**1**－**939**‥207)の字。㋭遼、蕭文(**9**－**32012**‥245)の字。㋬金、董文甫(**9**－**31433**‥261)の字。㋣明、胡瓊(**9**－**29400**‥112)の字。㋠明、周榮(**2**－**3441**‥22)の字。㋷明、朱承綵(**6**－**14424**‥859)の字。㋦明、錢養庶(**11**－**40563**‥438)の字。㋸明、馮嘉言(**12**－**44579**‥179)の字。㋾松永德榮の號。松永國華(**6**－**14516**‥352)を見よ。❸淸、何桂芳(**1**－**511**‥248)の初名。

【國和】131 コククワ 明、秦鏜(**8**－**24995**‥124)の字。

【國禍】132 コククワ 國のわざはひ。國難(437)に同じ。〔顏延之、陽給事誄序〕値㆓國禍荐臻㆒。

【國裹】133 コククワ 國の財貨を納れる藏。又、其の藏の中の品物。裹は、財貨を納れる藏。〔管子、君臣下〕旌㆑之以㆓衣服㆒、富㆑之以㆓國裹㆒。〔注〕裹、謂㆔財貨所㆓包裹而藏㆒也。

【國課】134 コククワ 國家の課稅。〔和漢三才圖會、造釀類、鹽〕國課、上供㆓國課㆒、下濟㆓民用㆒。

【國會】135 コククワイ ❶國家の會計。會計は、金穀を出納すること。〔管子、山至數〕桓公問㆓管子㆒曰、請㆓問國會㆒、管子對曰、云云、彼善爲㆑國者、乘㆑時徐疾而已矣、謂㆓之國會㆒。❷日本國憲法で規定せられた、國權の最高機關で、我が國唯一の立法機關。衆議院・參議院の兩議院で構成される。

【國外】136 コクグワイ 一國の領土外。

〔國外匯兌〕137 kuo^2 wai^4 huei^4 tuei^4 外國爲「替。

〔國外貿易〕138 コクグワイボウエキ 外國と商賣をすること。國際貿易。通商。

〔國外同業存款〕139 kuo^2 wai^4 t'ung^2 yeh^4 ts'un^2 k'uan^3 外國銀行預金。

〔國外同業透支〕140 kuo^2 wai^4 t'ung^2 yeh^4 t'ou^4 chih^1 外國銀行當座貸越し。

【國光】141 コククワウ ❶國の威光。國家の盛德。〔易、觀〕六四、觀㆓國之光㆒、利㆔用賓㆓于王㆒。❷明、任文獻(**1**－**416**‥249)の字。

【國皇】142 コククワウ 星の名。〔史記、天官書〕國皇星、大而赤、狀類㆓南極㆒。

【國冠】143 コククワン 其の國での最上の官位。〔史記、楚世家〕楚使㆓昭陽攻㆑齊、陳軫往見、曰、願聞㆓楚國之法㆒、破㆑軍殺㆑將者、何以貴㆑之、昭陽曰、其官爲㆓上柱國㆒、封㆓上爵㆒執㆑珪、陳軫曰、其有㆘貴㆓於此㆒者㆖乎、昭陽曰、令尹、陳軫曰、今君已爲㆓令尹㆒矣、此國冠之上、不㆑可㆓以加㆒矣。〔注〕索隱曰、冠、音官、令尹、乃尹中最尊、故以㆑國爲㆑言、猶㆓如卿子冠軍㆒然。

【國宦】144 コククワン 天子の臣が諸侯に仕へること。〔潘岳、爲㆓賈謐㆒作贈㆓陸機㆒詩〕或云國宦、淸塗攸㆑失。〔注〕善曰、漢書曰、武有㆓淮南衡山之謀㆒、作㆓左宦之律㆒、應劭曰、人道尙㆑左、今舍㆓天子㆒而仕㆓諸侯㆒、故謂㆓之左宦㆒。

【國患】145 コククワン 國のうれひ。國のわざはひ。國憂。〔戰國、秦策〕對曰、割㆓河東㆒大費也、免㆓於國患㆒大利也、此父兄之任也。〔史記、平津侯主父傳〕恐㆔其爲㆓國患㆒。

【國君】146 コククン 國のきみ。國主。〔易、復〕以㆓其國君㆒凶。〔禮、曲禮上〕國君撫㆑式、大夫下㆑之。〔左氏、僖、二十四〕國君而讐㆓匹夫㆒、懼者甚衆矣。〔荀子、儒效〕社稷之臣、國君之寶也。〔北史、庾業延傳〕收㆓斂畜產㆒、富擬㆓國君㆒。

〔國君一體〕147 コククンイツタイ 國と君とは一體で、離れることの出來ぬものである。〔公羊、莊、四〕國君一體也。

〔國君含㆑垢〕148 コククンハヂヲフクム 國君が恥辱を忍ぶ。〔左氏、宣、十五〕川澤納㆑汙、山藪藏㆑疾、瑾瑜匿㆑瑕、國君含㆑垢、天之道也。

【國訓】149 コククン 漢字の意味を我が國の言葉に譯して讀んだ讀み。花を「はな」、月を「つき」とよむ類。

【國勳】150 コククン 國家のためにたてたてがら。〔魏武帝、請㆑爵㆓荀彧㆒表〕戰多不㆑踰㆓國勳㆒。〔江淹、蕭領軍讓㆓司空㆒啓並敦勸〕國勳必書、史不㆑謬㆑牘。

【國軍】151 コクグン ❶國家の軍隊。〔北史、彭城王勰傳〕昔聞、國軍獲㆑勝、每逢㆓雲雨㆒。❷其の國の軍隊。自國の軍隊。

【國郡】152 コクグン 國や郡。〔會澤正志齋新論、國體上〕以㆓國司㆒統㆓治國郡㆒、而遂成㆓郡縣之制㆒。

【國羣】153 kuo^2 ch'ün^2 國家。社會。

【國刑】154 コクケイ 城郭內で行はれる刑罰。〔周禮、秋官、大司寇〕五曰國刑、上㆑愿糾㆑暴。〔孫詒讓正義〕士師國禁注云、國、城中也、此國刑亦謂㆓城郭中廛里之刑㆒也、小宰有㆓宮刑㆒、司市有㆓市刑㆒、此並無㆑之、蓋亦晐㆓於國刑㆒矣。

【國形】155 クニガタ 國土の形勢。地形。地勢。又、國方・國體・地形に作る。

【國計】156 コクケイ ❶國家の政策。經國の大計。〔戰國、周策〕周最謂㆓秦王㆒曰、爲㆓王之國計㆒者、不㆑攻㆑周、攻㆑周、實不㆑足㆓以利㆑國、而聲畏㆓天下㆒。〔後漢書、楊彪傳〕卓作㆑色曰、公欲㆑沮㆓國計㆒邪。〔魏志、華歆傳〕君深㆓慮國計㆒、朕甚嘉㆑之。❷國家の經濟。〔荀子、富國〕使㆓天下必有㆑餘、而上不㆑憂㆓不足㆒、如㆑是則上下俱富、交無㆑所㆑藏㆑之、是知㆓國計㆒之極也。〔黃庭堅、次㆔韻子瞻送㆓顧子敦河北都運㆒詩〕勞㆑民又費㆑之、國計安能已。

【國卿】157 コクケイ ❶諸侯の正卿。國政にあづかる高官。大臣。〔左氏、成、二〕子國卿也。❷明、茅宰(**9**－**30836**‥26)の字。

【國經】158 コクケイ 國の法則。國法。〔曹植、責㆑躬詩〕擧㆓掛時網㆒、動亂㆓國經㆒。

【國慶】159 コクケイ 國のよろこび。國家の慶事。〔江淹、爲㆓建平王㆒慶㆓改號㆒啓〕國慶方夷、則繩澤式茂。〔陸機、五等諸侯論〕國慶獨饗㆓其利㆒。

〔國慶日〕160 コクケイジツ 國家の大祝日。中華民國では、陽曆十月十日を國慶日とした。武昌で革命軍が義を唱へた記念日。雙十節ともいふ。

【國馨】161 コクケイ 明、藍郁(**9**－**32258**‥2)の字。

【國教】162 コクケウ ❶其の國のをしへ。〔孟郊、讀經詩〕海萍國教異、天聲各冷冷。❷國家が國民の信奉

すべきものと認めた宗教。

【國僑】163（コクケウ）　❶春秋、鄭の子產をいふ。國產。公孫僑(2－1452‥484)を見よ。❷後晉、桑維翰(6－14772‥155)の字。

【國蹙】164（コクケツ）　國がつまづくこと。〔荀子、富國〕夫是之謂㆓國蹙㆒。

【國見】165（クニミ）　高い處から國の形勢を望み見ること。〔萬葉集、一〕とりよろふ天の香具山、登りたち國見をすれば。

【國賢】166（コクケン）　❶國の賢者。〔盧藻、對公廨供給判〕乃謂國賢、豈惟家食、以㆑之恤㆑乏、何必正㆑名。❷字號。㋑明、黃嘉賓(12－47926‥1008)の字。㋺明、邵寶(11－39343‥58)の字。

【國憲】167（コクケン）　❶國のおきて。國家の根本法規。國法。〔漢書、敍傳下〕釋㆓之典刑㆒、國憲以平。〔後漢書、曹褒傳論〕撰㆓定國憲㆒。〔盧思道、北齊興亡論〕朝章國憲、燦然畢擧。❷清、方成珪(5－13620‥565)の字。

【國檢】168（コクケン）　國のとりしまり。〔法言、脩身〕賢人用㆓國檢㆒。

【國權】169（コクケン）　❶國家の權力。又、國君の權力。〔管子、法禁〕擅㆓國權㆒以深索㆓於民㆒者、聖王之禁也。〔史記、淮南衡山傳〕擅㆓國權㆒、侵㆓奪民田宅㆒。〔漢書、五行志中之下〕天下諸侯之大夫、皆執㆓國權㆒。❷國家を統治する全權力。〔管子、山權數〕桓公問㆓管子㆒曰、請問㆓權數㆒、管子對曰、天以㆑時爲㆑權、地以㆑財爲㆑權、人以㆑力爲㆑權、君以㆑令爲㆑權、云云、桓公曰、善、吾欲㆑行㆓三權之數㆒、云云、管子對曰、云云、三權皆在㆑君、此之謂㆓國權㆒。

【國言】171（コクゲン）　國民のそしりの言葉。國中の誹謗の言。〔左氏、昭、二十七〕楚郤宛之難、國言未㆑已。〔會箋〕國言、國中之謗言也。

〔國言葉〕172（クニコトバ）　方言。田舍言葉。

【國原】173（クニハラ）　國土。國を廣い原に比していふ。〔萬葉集、一〕國原は烟立ちこめ。

【國戶】174（コクコ）　國の戶數。〔漢書、楚元王傳〕上書入㆓國戶半㆒、贖㆓更生罪㆒。

【國故】175（コクコ）　❶國家の事故。〔禮、文王世子〕凡釋奠者必有㆑合也、有㆓國故㆒則否。❷自國の文字。國詁。故は訓詁の詁。國故論衡を見よ。

〔國故論衡〕176（コクコロンカウ）　書名。三卷。清、章炳麟撰。〔章氏叢書、第十三―十五冊〕。

【國庫】177（コクコ）　國家の財產を統一して收支の保管をする所。大藏。

〔國庫金〕178（コクコキン）　國庫所有の金。

〔國庫債券〕179（コクコサイケン）　國債證券(201)に同じ。

〔國庫支辨〕180（コクコシベン）　國庫から其の費用を支出すること。

〔國庫證券〕181（コクコショウケン）　定期有利國庫證券。國債證券(201)に同じ。

【國後】182（クナシリ）　北海道千島の郡名。

【國語】183（コクゴ）　❶其の國固有の言葉。〔唐書、選擧志上〕閒習㆓時務策㆒、讀㆓國語說文字林三蒼爾雅㆒。〔唐書、百官志三〕暇則習㆓隸書國語說文字林三蒼爾雅㆒。❷遼・金・元等が中國本土を統治してゐた時に、其等の民族本來の言語をいふ。〔遼史、國語解〕故史之所㆑載、官制宮衞部族地理、率以㆓國語㆒爲㆓之稱號㆒、不㆑有㆓註釋以辨㆒㆑之、則世何從而知、後何從而考哉。〔續文獻通考、王禮考〕先以㆓國語㆒宣讀、隨以㆓漢語㆒譯㆑之。❸我が日本國固有の言語。日本語。❹書名。二十一卷。周、左丘明撰。春秋列國の事蹟を國別に記したから國語といふ。左氏傳は魯國の事を主として記してゐるが、此の書は他邦の事實をも詳かに記して、左氏傳と相照映してゐる。左氏傳は魯の歷史であるところから之を內傳といふに對し、此の書は魯に略にして外諸侯に詳かであるから外傳ともいふ。又、太史公が「左丘、明を失ひて、厥れ國語あり」と言つたのに因つて盲史ともいふ。或は又、此の書は左丘明が各國の歷史を集めて左氏傳の材料としたものであるともいふ。記する所、八國、周語三卷・魯語二卷・齊語一卷・晉語九卷・鄭語一卷・楚語二卷・吳語一卷・越語二卷。上は周の穆王から下は魯の悼公に至る迄の記錄。左傳と共に久しく宮中に藏せられたが、前漢末から後漢にかけて盛に行はれ、一般には國語と稱し、說文には春秋國語と呼び、魏晉以後は外傳の稱を用ひた。此の書に注した古いもので今完全に傳存するものは、吳の韋昭の注だけである。唐に至り、柳宗元は非國語二篇を作つて之を詆訾し、宋の江端禮は非非國語を作つて柳氏を反駁し、其の他、晁補之・蘇軾・朱熹等も各〻論ずる所がある。〔四庫提要、史、雜史類〕。

『參考書』【國語補音】三卷 唐代の舊本を宋の宋庠が補輯したもの。〔四庫提要、史、雜史類〕。【國語校注本三種】二十九卷 清、汪遠孫撰。【國語正義】二十一卷 清、董增齡撰。【國語韋昭注疏】十六卷 清、洪亮吉撰。【國語定本】二十一卷 秦鼎撰。【國語略說】四卷 關修齡撰。【國語考】龜井昭陽撰。【國語雕題略】中井履軒撰。【標注國語定本】高木熊三郎撰。

〔國語學〕184（コクゴガク）　國語、卽ち日本語を研究對象とする科學。日本語に熟達し、これを自由に理解し使用するための實用的學習と異なり、日本語の諸現象について組織だつた知識を得ることを目的とする。

〔國語統一籌備會〕185（コクゴトウイツチウビクワイ）　民國教育部に屬し、教育總長の監督の下に、音韻・辭典・語法・各種語體・書報等の事項を研究調查する機關。

〔國語羅馬字拼音法式〕186（コクゴローマジハウオンハフシキ）　民國十七年、大學院公布の國音字母の第二式。漢字外の一種の國語音標文字を以て中國語の音をあらはす法式。四十の字母から成る。

【國工】187（コクコウ）　❶國中で最もすぐれた工匠。〔周禮、考工記、輪人〕謂㆓之國工㆒。〔注〕國之名工。〔白居易、晝㆓大羅天尊㆒讚文〕爰命㆓國工㆒、俾㆑陳㆓繪事㆒。❷名醫。國手。〔史記、倉公傳〕公必爲㆓國工㆒。〔浙江通志〕於㆑醫爲㆓小兒國工㆒。

【國公】188（コクコウ）　爵の名。隋、始めて置き、位は郡王に次ぐ。唐から明に至るまで皆之に因る。清代にはただ宗室と藩部とだけが鎭國公・輔國公に封ぜられた。〔事物紀原、官爵封建部、國公〕事始曰、隋文帝始封㆓功臣㆒爲㆓國公㆒。〔通典、職官、歷代封爵〕隋有㆓國王・郡王・國公・郡公・縣公・侯・伯・子・男㆒、凡九等。〔稱謂錄、各等封爵古稱、國公〕唐書、凡爵九等、三曰國公、食邑三千戶從一品、云云、又諸子爲㆓郡公㆒、以㆑恩進者封㆓郡王㆒、襲㆓郡王嗣王㆒者封㆓國公㆒。〔淸會典、宗人府〕鎭國公、或輔國公爲㆓左右宗人㆒。

【國功】189（コクコウ）　國家に對するてがら。國家を保全した功績。國勞。〔周禮、夏官、司勳〕王功曰㆑勳、國功曰㆑功。〔注〕保㆓全國家㆒若㆓伊尹㆒。

【國興】190（コクコウ）　明、吳良(2－3365‥401)の初名。

【國國】191（コクコク）　くにぐに。諸國。〔皇侃、論語義疏〕國國皆惡。

【國穀】192（コクコク）　❶國家所有の穀物。〔管子、山權數〕以守㆓國穀㆒、歲守㆓一分㆒、以行㆓五年㆒、國穀之重、什㆓倍異日㆒。❷國稻(376)に同じ。〔續日本紀、稱德〕神護景雲元年五月、貸㆓畿內百姓不㆑得㆑種㆑田者、攝津國穀㆒。

【國獄】193（コクゴク）　國法による刑罰。〔公羊、莊、三十二〕不㆔以爲㆓國獄㆒。

【國婚】194（コクコン）　天子のむこ。國壻。〔稱謂錄、駙馬古稱、國婚〕南史、荀羨年十五、擬㆓國婚之選㆒、後尙㆓潯陽公主㆒。

【國魂】195（コクコン）　❶國民特有の精神。我が大和魂などの類。❷（クニタマ）　其の國の經營に功勞のあつた首領。其の靈を神として祭つたもの。〔古事記傳、十二〕國を經營（ツク）リ坐しし功德あるを、其國にて國魂とも大國魂とも申して拜（イツ）キ祀るなり。❸（クニダマシヒ）　國家の中心となり國民の模範となること。關白をいふ。〔太閤記、十七〕夫れ關白職は、諺に國だましひとなんいひける。〔太閤記、十七〕關白云云、此の職に在りては、天下の邪法を正し給はんこそ、國だましひの役なるべきに。

【國佐】196（コクサ）　❶春秋、齊の卿。謚は武子。鞌の敗に晉に賂して聽かれなかつたため、餘燼を收合して城を背にして一戰せんといひ、遂に爰婁で盟はせた。後、慶克を殺し、穀に據つて反し、靈公に殺された。〔春秋、成、二〕・〔列女傳、孼嬖傳〕。❷字號。㋑宋、石公弼(8－24024‥934)の字。㋺宋、陳公輔(11－41698‥852)の字。㋩明、袁佐(10－34152‥62)の字。

【國宰】197（コクサイ）　❶一國の宰相。大臣。國相。❷國司(272)の❶を見よ。〔續日本紀、十三〕天平十年十月己丑、遣㆓巡察使於七道諸國㆒、採㆓訪國宰政迹、黎民勞逸㆒。〔職原鈔〕諸國、唐名、守、國宰。

【國祭】198（コクサイ）　❶國家の公のまつり。國祀。❷賀茂神社で、官祭の前日又は當日、國司が參向して

行ふまつり。

〖國祭日〗199　國の祝祭日。我が國でもと四方拜(一月一日)・元始祭(一月三日)・新年宴會(一月五日)・紀元節(二月十一日)・春季皇靈祭(春分)・神武天皇祭(四月三日)・天長節(四月二十九日)・秋季皇靈祭(秋分)・神嘗祭(十月十七日)・明治節(十一月三日)・新嘗祭(十一月二十三日)・大正天皇祭(十二月二十五日)の稱。今の「國民の祝日」に相當する。

【國債】200　國家が其の信用を以て設定する金錢上の債務。國家がする借金。國民から募るものを內國債又は內債といひ、外國から募るものを外國債又は外債といふ。

〖國債證券〗201　國債に對する權利を表示するために發行した證書。國庫債券。

【國際】202　國家と國家との交際、又は關係。international の譯。

〖國際法〗203　❶國際公法及び國際私法の總稱。❷國際公法(214)に同じ。

〖國際爲替〗204　外國爲替(3－5750··213)に同じ。

〖國際音標〗205　萬國發音符號。萬國語學會制定の各國共通に適用する一種の標音字母。

〖國際河川〗206　二國以上の國境を構成し或は二國以上の領域を貫通し、條約上、其の關係國が自由航行を認められた河川。

〖國際行爲〗207　國と國との交際上の一切の行爲の總名。商議・宣言・通告・抗議・放讓・承認・干涉・反責・報復・平和・封鎖・戰爭・征服の各項をいふ。

〖國際競技〗208　各國の選手が一定の場所に會合して行ふ運動競技。

〖國際會議〗209　國際關係の諸問題について各國の代表者が集まつて行ふ會議。

〖國際慣習〗210　國際間に從來行はれたならはし。其の中の或るものは法的拘束力を有す。

〖國際管理〗211　國際聯盟監督の下になされた一定の國土・富源・領海、又は經濟的施設等の管理。

〖國際刑法〗212　國際團體によつて規定せられた刑罰法規。國際河川刑罰法規・奴隸賣買禁止條約・犯人引渡に關する條約の類。

〖國際公安〗213　內外人に共通な一國の安寧秩序。國內公安の對。

〖國際公法〗214　國際團體に加入してゐる國家と國家との權利義務に關する準則。國際私法の對。

〖國際裁判〗215　國際間の紛爭を處理するために行はれる裁判。

〖國際私法〗216　國際法の一。外國に關する私法上の事件につき內外國何れの私法を適用すべきかを定めた法規。國際公法の對。

〖國際主義〗217　internationalism の譯。❶一般に國家相互の協調を本位とし、世界平和を目的とする主義の總稱。❷特に、勞働階級の國際的提携によつて、世界平和を實現し、人類の福祉を成就しようとする社會主義の立場。

〖國際人格〗218　國際法上の權利・義務の主體となり得る能力。

〖國際貸借〗219　一國または一國民と外國または外國民との間に、貿易その他の關係によつて生ずる收支勘定。國際收支。

〖國際道德〗220　國家と國家、或は一國民と他國民との間に於ける道德。

〖國際談判〗221　國際上の事件に關する國家間の談判。

〖國際地役〗222　一國が條約によつて、他國の利益のために、自國の領土權の行役を制限し、或は當然禁止し得る他國または他國人の行爲を許すこと。例へば、他國の軍隊に自國の領土を通過することを許すなど。

〖國際破產〗223　一つの破產が國際的關係を生ずる場合の稱。

〖國際版權〗224　國家と國家との間に約束を取換して、互に保護する彼我の版權。

〖國際紛爭〗225　直接の外交談判によつて解決することの出來なくなつた國と國との紛爭。

〖國際分業〗226　場所的分業の一。國際的に行はれる分業。例へば、濠州の羊毛生產、印度の棉花生產に對する日英の紡績業など。

〖國際貿易〗227　一國民と他國民との間に行はれる貿易。

〖國際連合〗228　第二次世界大戰後、舊國際聯盟の精神を受繼いで、平和と安全の維持、各國間の友交關係の促進、經濟的・社會的・文化的・人道的な問題についての國際協力を達成するために、諸國家が協力して作つた團體。一九四五年十月二十四日正式に成立。United Nations

〖國際聯盟〗229　第一次世界大戰後、米國大統領ウィルソンの首唱によつて、一九二〇年一月に成立した、國際平和の確保と國際協力の促進とを目的とする諸國家の連合團體。但し米國は不參加。League of Nations

〖國際經濟會議〗230　西曆一九二七年、國際聯盟主催の下に國際的協調による戰後經濟の立直しを圖るため、ジュネーヴに開催せられた會議。參加國五十、參加代表一百九十四人に及んだ。

〖國際協調主義〗231　各國家又は各國公私團體が相互に利害關係を有する諸問題に對し、其の國際的調和を得るために協力する主義。

【國材】232　字號。❶宋、錢興祖(11－40563··318)の字。❷宋、林幹(6－14551··55)の字。❸元、燕公楠(7－19429··268)の字。

【國財】233　國家所有の財貨。〔莊子、天運〕至貴國爵幷焉、至富國財幷焉。〔唐書、裴耀卿傳〕或曰、以二此縉一納二於上一、足二以明レ功、荅曰、以二國財一求レ寵可乎。

【國喪】234　國民全體の服すべき喪。國咀。天皇・皇后・皇太后等の喪をいふ。大喪(3－5831··867)の❶を見よ。

【國葬】235　國家に功勞のあつた人を弔ふために國費を以て營む葬式。

【國躁】236　國內が亂れて騷しい。〔韓非子、亡徵〕君不肖而側室賢、太子輕而庶子伉、官吏弱而人民桀、如レ此則國躁、國躁者可レ亡也。

【國樔】237　大和國の地名。國稱。

【國造】238　國の御奴(奴は臣)の意。❶上代の世襲の地方官。君・別・國造・縣主・村主・稻置などの總稱。伴造・國造と倂稱す。伴造は京官なり、國造は外官なり。〔玉勝間、六〕❷❶の中の一官。その治める地域は、後世の一國くらゐから一郡くらゐまで、諸種あつた。〔國造本紀〕以二珍彥一爲二倭國造一。❸❷は祭政を兼掌してゐたが、大化の改新によつて國郡制が布かれるに及び、政治は郡の長官なる大領の手に移り、國造の中の有能と認められた者は(名稱は元のままで)郡の役人となり、其の地方の祭祀の事だけを掌つた。

〖國造塵隱〗239　長崎の人。名は熙。字は玄貞。號は塵隱・熙々子。私諡は思靖先生。明人、蔣眉山を師とした。儒醫。長崎に塾を開いて教授し、教授の暇、醫藥を以て世に施す。正德三年一月七日歿す、年五十三。著に三樂室遺稿・醉鄉醒語・內丹要訣がある。〔先哲叢談、續、三〕。

【國策】240　❶一國のはかりごと。國制。國謨。〔管子、乘馬數〕故修二宮室臺榭一、非レ麗二其樂一也、以平二國策一也。❷戰國策の略稱。國事。〔劉向、戰國策序〕或曰二國策一、或曰二國事一。

【國山】241　❶山名。江蘇省宜興縣の西南。もとの名は離里山。三國、吳の孫皓の天璽元年に陽羨に天瑞があつた時、司徒董朝を遣り、封禪して國山と改めた。〔太平寰宇記〕本名離里山、山有二九峯一相連、亦名二九斗山一、又名二升山一、吳孫皓封禪爲二中嶽一、改爲二國山一。❷縣名。晉、陽羨縣の地を分けて置き、隋、廢す。今の江蘇省宜興縣の西南。〔太平寰宇記〕國山城、在二縣西南五十里一、晉元帝置二於白石山一、成帝移二於平地一、去二舊城一七里。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、宜興縣〕國山城、縣西南五十里、晉永興初、分二陽羨地一置レ縣、屬二義興郡一。❸三國蜀、王甫(7－20823··959)の字。

〖國山碑〗242　國山にある碑。三國、吳の皓孫の天冊元年、國山を封禪し、天璽と改元し、獲る所の瑞物を記した碑。碑文は篆體、磨滅が多

く殆ど讀めない。〔集古錄、國山碑〕孫皓天冊元年、禪二於國山一、改二元天璽一、因紀二其所レ獲瑞物一、刊二石於山陰一。〔宜興縣志〕孫吳時、有二大石自立一、又有二石裂十餘丈成一レ室、皓侈以爲レ瑞、遣二司徒董朝等一封レ之、改二名國山一、因立レ石頌レ德、其形如レ鼓、俗呼二囤碑一、高八尺、圍一丈、篆文周二遶其上一、今多漫滅不レ可レ讀。

【國產】243 コクサン ❶春秋、鄭の子產をいふ。國僑。公孫僑(2－1452・・484)を見よ。〔李喧、九文六采判對〕同二游吉得レ禮之初一、固二於國產一、類二趙簡習レ儀之際一、效二彼魯侯一。❷其の國に產したもの。

【國驂】244 コクサン 宋、鄧輸(11－39630・・81)の字。

【國士】245 コクシ ❶國中で最もすぐれた人。〔戰國、趙策〕智伯以二國士一遇レ臣、臣故國士報レ之。〔史記、刺客傳〕豫讓曰、至二於智伯一、國士遇レ我、我故國士報レ之。〔呂覽、不侵〕豫讓國士也。❷明、范儁(9－30834・・54)の字。

〔國士恩〕246 コクシノオン 國士として厚く待遇せられた恩。〔魏徵、述懷詩〕豈不レ憚二艱險一、深懷二國士恩一。

〔國士分〕247 コクシノブン 國士の身分。又、國士の本分。〔江淹、詣二建平王一上書〕實佩二荊卿黃金之賜一、竊感二豫讓國士之分一。〔李嶠、上二雍州高長史一書〕願君侯垂二古人之風一、申二國士之分一。

〔國士之風〕248 コクシノフウ 國士らしい風格。〔漢書、李陵傳〕常奮不レ顧レ身以殉二國家之急一、其素所二畜積一也、有二國士之風一。〔蜀志、關羽傳評〕並有二國士之風一。

〔國士無雙〕249 コクシムサウ 一國中に雙ぶ者のない人。非常にすぐれた人。〔史記、淮陰侯傳〕蕭何曰、諸將易レ得耳、至二如信者一、國士無雙。〔黃庭堅、送三少章從二翰林蘇公餘杭一詩〕國士無雙秦少游。

【國子】250 コクシ 公卿大夫の子弟。〔周禮、地官、師氏〕以二三德一教二國子一。〔注〕國子、公卿大夫之子弟。〔禮、燕義〕國有二大事一、則率二國子一而致二於太子一。〔左氏、僖、二十五〕二禮從二國子一、巡レ城掖以赴レ外殺レ之。〔稱謂錄、大員子女、國子〕漢書、國子者卿大夫之子弟也。

〔國子學〕251 コクシガク 天子の都城内に設け、貴族及び全國の擧人・貢生・監生等を集めて教授した學校。晉の武帝が始めて置き、隋以後は國子監と改めた。國子監を見よ。〔晉書、武帝紀〕咸寧二年夏五月、立二國子學一。〔晉書、職官志〕咸寧四年、武帝初立二國子學一、定置二國子祭酒・博士各一人、助教十五人一、以教二生徒一。〔事物紀原、會府臺司部、國士監〕晉武帝咸寧四年、初立二國子學一、國子周舊制也、北齊爲二國子寺一、隋開皇十三年、又爲レ學、煬帝卽レ位、改曰二國子監一。

【國子監】252 コクシカン 官署の名。晉の武帝が始めて立てた國子學といふ學校は、北齊には國子寺と改め、教育行政をも掌る官廳となり、隋の煬帝の時、國子監と改めてからは、儒學訓導の政令を掌り、國子學以下の學校を統べる教育行政官廳となつた。唐以後清に至るまで、閒〻多少の異同はあつたが、大體は隋制を踏襲した。唐の國子監は國子學・太學・廣文學・四門學・律學・書學・算學の七學を統べ、職員として國子監祭酒一人、司業二人、丞一人、主簿一人、錄事一人を置いた。清末、大學堂を立ててから國子監は廢せられた。〔隋書、百官志下〕煬帝卽レ位、多レ所二改革一、國子學、爲二國子監一。〔唐書、百官志三〕國子監祭酒一人、從三品、司業二人、從四品下、掌二儒學訓導之政一、總二國子・太學・廣文・四門・律・書・算凡七學一、天子視レ學、皇太子齒胄、則講義釋奠、執レ經論議、奏二京文武七品以上觀禮一、凡授レ經以二周易・尙書・周禮・儀禮・禮記・毛詩・春秋・左氏傳・公羊傳・穀梁傳一、各爲二一經一、兼二習孝經・論語・老子一、歲終考二學官訓導多少一、爲二殿最一。〔清會典、國子監〕兼管監事大臣(特簡無二定員一)、祭酒滿漢各一人、司業滿蒙古漢各一人、掌三成均之法、以教二國子及俊選之士一、監丞掌下學規以督二教課一、糾二勤惰一、均中稟餼上、博士掌下闡二明經說一、以助中啓迪上、典簿掌三簿書以稽レ文移二之出入一、均滿漢各一人、典籍漢一人、掌三經史以備二諸生誦習一、率性堂、漢助教一人、學正一人、修道堂、漢助教一人、學正一人、誠心堂、漢助教一人、學正一人、正義堂、漢助教一人、學正一人、崇志堂、漢助教一人、學錄一人、廣業堂、漢助教一人、學錄一人、掌レ教二直省俊選之士一。

〔國子師〕253 コクシシ 國子司業(260)の❶をいふ。〔稱謂錄、司業、國子師〕韓愈祭二竇司業一文、三年國子師。

〔國子寺〕254 コクシジ 國子學(251)に同じ。北齊では國子寺といふ。〔隋書、百官志中〕國子寺、掌三訓二教胄子一。

〔國子丞〕255 コクシジョウ ❶官名。隋、置く。國子監の屬。唐以後承置し、判監の事を掌る。〔隋書、百官志下〕國子監、丞三人、加爲二從六品一。〔唐書、百官志三〕國子監、丞一人、從六品下、掌二判監事一。❷大學允の唐名。〔職原鈔〕大學寮、允、唐名國子丞。

〔國子生〕256 コクシセイ 國子學の學生。〔北史、儒林傳序〕正光三年、釋二奠於國學一、命二祭酒崔光一、講二孝經一、始置二國子生三十六人一。〔稱謂錄、監生、國子生〕元史仁宗紀、定二國子生額一爲二三百人一、仍增二陪堂生二十人一。

〔國子學生〕257 コクシガクセイ 國子監の學生。〔稱謂錄、監生、國子學生〕唐書選擧志、凡學生皆隸二於國子監一、國子學生三百人、太學生五百人、四門學生千三百人。

〔國子監志〕258 コクシカンシ 書名。欽定國子監志(6－16104・・79)を見よ。

〔國子祭酒〕259 コクシサイシュ 官名。❶國子學の長官。國師。晉が始めて國子祭酒を置き、梁は國師といひ、陳・後魏は國子祭酒といふ。唐は國子監祭酒一人を置き、儒學訓導の政を掌り、七學を檢した。宋には三學の教法を掌り、崇寧中、太司成一員を置く。元も亦之に仍つた。國子監(252)・祭酒(8－24700・・49)を見よ。〔晉書、職官志〕咸寧四年、武帝初立二國子學一、定置二國子祭酒・博士各一人一。〔南齊書、張緒傳〕以レ緒爲二太常卿一、領二國子祭酒一。〔唐書、百官志三〕國子監祭酒一人、從三品。〔事物紀原、五監總率部、國子祭酒〕國子祭酒、孫卿在レ齊爲二三老一、稱二祭酒一、漢吳王濞、爲二劉氏祭酒一、又漢博士内、聰明有二威重一者一人、爲二博士祭酒一、胡廣曰、凡官名二祭酒一、皆一位之元長、古者得二主人饌一、則老者一人擧レ酒以祭レ地、故以二祭酒一爲レ稱、晉咸寧中、初立二國子學一、始置二國子祭酒一、六帖曰、堯典克明二俊德一、以親二九族一、九族旣睦、平二章百姓一、周封二兄弟同姓一、成王時、彤伯爲二祭酒一、主二親屬一、秦漢因レ之、又曰、高祖七年、自二櫟陽一徙二長安一、置二祭酒官一、續漢書有二祭酒一人一、掌三錄二敍王國嫡庶、及宗親遠近郡國、歲所レ上宗室名一。❷大學頭の唐名。〔職原鈔〕大學寮、頭、唐名國子祭酒。

〔國子司業〕260 コクシシゲフ 官名。❶國子祭酒の副貳。隋、煬帝の大業三年に始めて置く。唐は二人を置き、龍朔二年、小司成と改め、咸亨の初、舊に復した。皆、儒官で、教授を任とした。宋には三學の教法政令を掌つた。國子監(252)を見よ。〔隋書、百官志下〕國子監、依レ舊置二祭酒一、加置二司業一人一、從四品。〔事物紀原、五監總率部、國子司業〕國子司業、隋煬帝大業三年、始於二國子監一置二司業官一、取二禮記樂正司業之義一。❷大學寮の助の唐名。〔職原鈔〕大學寮、助、唐名國子司業。

〔國子主簿〕261 コクシシュボ 官名。❶北齊、置き、以後之に仍る。國子監の屬。印句督監の事を掌る。〔隋書、百官志中〕後齊制、國子寺、掌三訓二教胄子一、祭酒一人、亦置二功曹五官主簿錄事員一。〔唐書、百官志三〕國子監主簿一人、從七品下、掌二印句督監事一。❷大學寮の屬の唐名。〔職原鈔〕大學寮、屬、唐名國子主簿。

〔國子助教〕262 コクシジョケウ 官名。❶唐、置き、以後之に仍る。國子監の屬。博士を助けて經を授けることを掌る。〔唐書、百官志三〕國子監、助教五人、從六品上、掌下佐二博士一分レ經教授上。❷大學寮の助教の唐名。〔職原鈔〕大學寮、助教、唐名國子助教。

〔國子直講〕263 コクシチョクカウ 官名。大學の教授。唐代は博士助教を助けて經術を講じたが、宋は博士を置かずに直講のみを置き、後、大學博士と改めた。國子博士を見よ。〔唐書、百官志三〕直講四人、掌下佐二博士助教一、以二經術一講授上。〔宋史、職官志五〕直講八人、以二京官選人一充、掌下以二經術一教中授諸生上。

〔國子博士〕264 コクシハカセ 官名。大學の教授。晉の咸寧四年、初めて國子博士十五人を置き、履行清淳、典義に通明する者を任用す。梁は國學博士十二人、外に五經博士各一人を置く。隋は國子

博士を省いたが、大業に至つて復之を置く。唐は國子博士二人を置き、龍朔年中、改めて司成とし、宣業咸亨の初、舊名に復す。宋は國子監に博士がなくて直講八人があり、熙寧中、改めて大學博士と爲したが、大觀元年、薛昂の奏請に依つて國子博士四員を置く。元は博士二員を置く。博士（2－2761・75）の❶を見よ。〔隋書、百官志三〕大同七年、立㆓正言博士一人㆒、位視㆓國子博士㆒。〔唐書、百官志三〕國子學博士五人、正五品上、掌㆑教㆓三品以上、及國公子孫、從二品以上曾孫爲㆑生者㆒、五㆓分其經㆒以爲㆑業、周禮・儀禮・禮記・毛詩・春秋左氏傳、各六十人、暇則習㆓隸書・國語・說文・字林・三倉・爾雅㆒、每歲通㆓兩經㆒、求㆑仕者上㆓於監㆒、秀才進士亦如㆑之、學生以㆓長幼㆒爲㆑序、習㆓正業㆒之外、教㆓吉凶二禮㆒、公私有㆑事則相㆑儀、助教五人、從六品上、掌㆘佐㆓博士㆒分㆑經教授㆖、直講四人、掌㆘佐㆓博士助教㆒、以㆓經術㆒講授㆖、五經博士各二人、正五品上、掌㆘以㆓其經之學㆒教㆗國子㆖、周易・尙書・毛詩・左氏春秋・禮記爲㆓五經㆒、論語・孝經・爾雅、不㆑立㆓學官㆒、附㆓中經㆒而已。〔事物紀原、五監總率部、國子博士〕國子博士、班固云、六國時、往往有㆓博士㆒、漢多至㆓數十人㆒、晉武初立㆓國子學㆒、始置㆓國子博士之官㆒、漢百官表曰、博士秦官、通㆓古今㆒。

【國史】265 コクシ　❶一國の記錄を掌る役人。〔詩、大序〕國史明㆓乎得失之迹㆒。〔疏〕國之史官、皆博聞強識之士、明㆓曉於人君得失善惡之迹㆒。〔春秋、文、元、疏〕故國史書㆓卽位於策㆒以表㆑之。〔孔叢子、答問〕古者人君外朝則有㆓國史㆒。〔杜預、春秋左氏傳序〕諸侯亦各有㆓國史㆒。❷一國の代々の事蹟を載せた記錄。よつぎものがたり。歷史。國志。國記。國乘。〔隋書、經籍志二〕博采㆓舊聞㆒、綴㆓述國史㆒。〔史通、六家〕至㆑遷乃鳩㆓集國史㆒、採㆓訪家乘㆒。〔白居易、論㆓制科人㆒狀〕書㆓之國史㆒、以示㆓子孫㆒。〔宋史、李燾傳〕同修㆓國史㆒。❸日本歷史。

【國史院】266 コクシヰン　歷史の編纂所。金の時、始めて置く。〔金史、百官志一〕國史院、監修國史、掌㆘監㆓修國史㆒事㆖。〔元史、百官志三〕翰林兼㆓國史院㆒。

【國史館】267 コクシクワン　官署の名。清、置く。國史を纂修することを掌る。清の時之を設け、總纂・提調・纂修等の官を置く。民國は之に仍り、館長一人を置き、大總統に直隸し、その下に祕書・纂修・協修・主事等の官を置いた。なほ、漢の著作東觀、晉の著作省、唐の著作局、宋の史館、金・元の著作局は、其の先蹤であり、此の仕事のための專官は、魏の明帝の時の著作郎に始まる。〔李元度、朱蘭坡先生傳〕嘉慶七年進士、選㆓翰林院庶吉士㆒、授㆓編修㆒、充㆓武英殿纂修・國史館協修・實錄館校勘官㆒、十二年、典㆓山東鄕試㆒、充㆓國史館文穎館纂修㆒。〔清國行政法汎論、翰林院〕國史館、專掌㆔編㆓修國史㆒、其總裁則由㆓特簡㆒、無㆓定員㆒。

【國史補】268 コクシホ　書名。三卷。唐、李肇撰。開元頃の雜事を記す。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【國史略】269 コクシリヤク　書名。❶五卷。岩垣松苗撰。文政九年に刊行す。神代から後陽成天皇に至る國史を十八史略に倣つて記してゐる。❷三編。菊池純撰。初編は神代から後陽成天皇に至る。五卷。明治十六年刊行。二編は豐公の東征から慶安中に至る。五卷。三編は明治中興から薩亂の平定に至る。五卷。

【國史考異】270 コクシカウイ　書名。六卷。選者未詳。實錄・野史及び諸家の文集・碑誌の同異を參證してゐる。〔四庫提要、史、評類〕。

【國史經籍志】271 コクシケイセキシ　書名。五卷。附錄、一卷。明、焦竑撰。明代の經籍を記す。內容は〔制書類〕御製・中宮御製・敕修・記注時政。〔經類〕易・書・詩・春秋・禮・樂・孝經・論語・孟子・經總解・小學。〔史類〕正史・編年・霸史・雜史・起居注・故事・職官・時令・食貨・儀注・法令・傳記・地理・譜牒・簿錄。〔子類〕儒家・道家・釋家・墨家・名家・法家・縱橫家・雜家・農家・小說家・兵家・天文家・五行家・醫家・藝術家・類家。〔集類〕制詔・表奏・賦類・別集・總集・詩文評。附錄は書志の糾繆である。〔四庫提要、子、目錄類〕。

【國司】272 コクシ　❶大化改新以後、六十六國及び二島に置いた地方官。守（カミ）・介（スケ）・掾（ジヨウ）・目（サクワン）の五階級があつた。國司のゐる役所を國衙といふ。くにのつかさ。じゆりやう。ずりやう。〔萬葉集、三〕上野國司。〔職原抄〕諸國、國造乃國司名、後改云㆑守也、凡國司之撰、和漢重㆑之、云云、大國、守・介・掾・目。❷足利時代、特に阿波・伊勢・飛驒の三國司の稱。〔運步色葉集〕國司、三國司也、阿波國司一色、伊勢國司北畠殿、飛驒國司姉小路殿。

【國志】273 コクシ　國の記錄。國記。〔袁宏、三國名臣序贊〕余以㆓暇日㆒、常覽㆓國志㆒、考㆓其君臣㆒。

【國使】274 コクシ　國家又は君主の命を奉じて外國に赴く使者。〔元史、世祖紀八〕日本國殺㆓國使杜世忠等㆒。

【國祀】275 コクシ　國家の行ふまつり。國祭。〔周禮、春官、肆師〕掌㆑立㆓國祀之禮㆒。

【國師】276 コクシ　❶國の軍隊。〔左氏、襄、十八〕子殿㆓國師㆒、齊之辱也。❷一國の師表。〔後漢書、鄧晨傳〕是國師公劉秀乎。❸官名。王莽の時、置く。四輔の一。天子の師。〔漢書、劉歆傳〕及㆓王莽簒㆑位、歆爲㆓國師㆒。〔漢書、王莽傳〕劉歆爲㆓國師嘉新公㆒。❹太師の異稱。〔後漢書、趙典傳〕趙典篤學博聞、宜㆑備㆓國師㆒。❺國子祭酒（259）の❶をいふ。〔梁書、王承傳〕祖儉及父暕、嘗爲㆓此職㆒、三世爲㆓國師㆒、前代未㆓之有㆒也。❻佛㋑天子から禪宗の高僧に賜はる尊稱。〔晉書、鳩摩羅什傳〕乃迎㆓羅什㆒、待以㆓國師之禮㆒。㋺奈良朝時代の僧侶の職名。諸國に分置せられ、その國の僧尼を監督し、經典を講說し、國家のための祈禱をなした。〔續日本紀、大寶二年二月丁巳〕諸國國師。㋩佛教に關して天子の師表たるべき僧。

【國師公】277 コクシコウ　國師の❷の俗稱。王莽が漢を簒つて後、劉歆を國師としたが、時人はこれを國師公と稱した。

【國嗣】278 コクシ　君主のよつぎ。〔後漢書、班彪傳〕哀平短祚、國嗣三絕。〔晉書、廢帝紀〕國嗣不㆑育、儲宮靡㆑立。

【國詩】279 コクシ　やまとうた。和歌。國歌。

【國字】280 コクジ　❶その國の通用文字。外國字と區別していふ。〔元史、輿服志二〕外辦牌制、以㆓象牙㆒書㆓國字㆒、背書㆓漢字㆒、塡以㆑金。〔元禮典、學校〕至元八年、頒㆓行國字㆒。〔張昱、宮中詞〕學㆓摹國字㆒教㆓皇孫㆒。❷日本で作つた漢字體の文字。榊・杣・噺などの類。和字（2－3490・・159）を見よ。

【國字殼】281 kuo² tzŭ⁴ k'ê²　漢字の、國構へ。

【國字副】282 コクジフク　翻譯文にその原國の文字を副へること。〔元史、百官志三〕蒙古翰林院、秩從二品、掌㆘譯㆓寫一切文字㆒、及頒㆗降璽書㆖、並用㆓蒙古新字㆒、仍各以㆓其國字㆒副㆑之。

【國字問題】283 コクジモンダイ　我が國の文章には、在來、漢字が非常に多く使用せられてゐるので、讀むにも書くにも不便であるから、發音通りに假名・ローマ字等で書き表はせとか、漢字を制限せよとか、その字形を改良せよとかいふ、國字の改良に關する問題。文部省國語審議會が、この研究に當つて來た。

【國字譯解之書】284 コクジヤクカイノシヨ　日本文で書き下した解釋書。〔村上函峯、答㆔某生問㆓讀書作文㆒書〕排㆓斥國字譯解之書㆒。

【國事】285 コクジ　❶國家に關する事柄。一國の政治。〔周禮、地官、司諫〕辨㆓其能㆒、而可㆑任㆓于國事㆒者。〔莊子、田子方〕公卽召、而問以㆓國事㆒。〔韓非子、心度〕夫國事、務㆑先而一㆓民心㆒、專擧㆑公而私不㆑從。〔史記、屈原傳〕入則與㆑王圖㆓議國事㆒、以出㆓號令㆒。❷戰國策の略。國策（240）の❷を見よ。

【國事犯】286 コクジハン　❶國家又は國家權力、國家の行政・司法・軍事などを侵害する犯罪。❷客觀的意味では、一國の政治的秩序を侵害する犯罪。主觀的意味では、政事的動機によつて爲された犯罪。

【攝㆓行國事㆒】287 コクジヲセツカウス　君主に代つて國政を行ふ。〔海外異傳、山田長政傳〕使㆔長政攝㆓行國事㆒。

【國璽】288 コクジ　國の元首の印。〔後漢書、徐璆傳〕璆得㆔其盜㆓國璽㆒。

【國秀】289 コクシウ　元、陳觀（11－41698・・195）の字。

【國醜】290 コクシウ　國のはぢ。國辱。〔新書、階級〕國醜忘㆑家。

【國讎】291 コクシウ　國のかたき。國のあだ。〔曹植、雜詩〕國讎亮不㆑塞。〔徐陵、徐州刺史侯安都德政碑〕赫矣高祖、爰淸㆓國讎㆒。〔鄭錫、邯鄲少年行〕甘心赴㆓國讎㆒。〔宋史、葉顒傳〕國讎未㆑復。

【國式】292 コクシキ 國家の定めた法則。〔魏志、傅嘏傳〕述二綜王度一、敷二贊國式一。

【國疾】293 コクシツ 鹽鐵論の篇名。

【國車】294 コクシャ 軨車（團車）の誤といふ。軨車は、柩を載せる車。柩車。〔禮、喪服大記〕士葬用二國車一。〔注〕軨字、或作レ團、是以文誤爲レ國、軨車、柩車也。

【國社】295 コクシャ 諸侯が人民のために建てる社。〔禮、祭法〕諸侯爲二百姓一立レ社、曰二國社一。〔白虎通、社稷〕諸侯爲二百姓一立レ社、曰二國社一。

【國奢】296 コクシャ 唐の竇懷貞（8－25695・・62）の綽名。唐代、乳母の壻を阿奢といつたが、竇懷貞が皇后の阿奢であつたところから國奢といふ。〔資治通鑑、唐紀〕（中宗、景龍二年）俗謂二乳母之壻一曰二阿奢一、從一每二謁見及レ進二表狀一、自稱二翊聖皇后阿奢一、時人謂二之國奢一。

【國昌】297 コクシャウ 明、兪泰（1－1437・・51）の字。

【國庠】298 コクシャウ 國都にある學校。國學。〔唐會要、學校〕豈有二國庠一、遂無二圖繪一。

【國相】299 コクシャウ ❶一國の政治を輔佐する宰相。國宰。〔左氏、宣、十二〕困獸猶鬭、況國相乎。〔列子、周穆王〕訪二之國相一。〔史記、晉世家〕晉公子賢、而其從者皆國相。❷寺の名。河南省開封縣城の東南。一名、繁塔寺。五代周、建て、天淸又は白雲といふ。宋・明の時、重ねて修理したが、明末に河水が溢れて寺が圮れ、繁塔だけが殘存してゐる。

【國祥】300 コクシャウ 字號。❶宋、趙惟吉（10－37171・・395）の字。❷元、沈拱辰（6－17189・・472）の字。❸明、毛騏（6－16772・・34）の字。

【國章】301 コクシャウ 字號。❶後魏、王誦（7－20823・・608）の字。❷明、詹俊（10－35458・・19）の字。

【國將】302 コクシャウ 官名。王莽、置く。四輔の一。國の上將。〔漢書、王莽傳中〕哀章爲二國將美新公一。

【國裳】303 コクシャウ 明、舒芬（9－30300・・79）の字。

【國殤】304 コクシャウ ❶國事に殉死した人をいふ。〔鮑照、出二自薊北門一行〕身死爲二國殤一。〔楚辭、九歌、國殤、注〕謂下死二於國事一者上。❷楚辭九歌の一。國事に死んだ無緣の佛を弔つた詩。〔楚辭、九歌、國殤〕操二呉戈一兮被二犀甲一、車錯レ轂兮短兵接、旌蔽レ日兮敵若レ雲、矢交墜兮士爭レ先、凌二余陣一兮躐二余行一、左驂殪兮右刃傷、霾二兩輪一兮縶二四馬一、援二玉枹一兮擊二鳴鼓一、天時墜兮威靈怒、嚴殺盡兮棄二原壄一、出不レ入兮往不レ反、平原忽兮路超遠、帶二長劍一兮挾二秦弓一、首雖レ離兮心不レ懲、誠既勇兮又以レ武、終剛強兮不レ可レ凌、身既死兮神以靈、魂魄毅兮爲二鬼雄一。

【國狀】305 コクジャウ 國のありさま。

【國城】306 コクジャウ 一國の首都。國都。〔管子、八觀〕夫國城大、而田野淺狹者、其野不レ足三以養二其民一。

【國常】307 コクジャウ 國の典令。國典。〔左氏、襄、二十三〕欲下廢二國常一、蕩中覆公室上。〔國語、越語下〕無レ忘二國常一。

【國情】308 コクジャウ 國家の內情。〔戰國、秦策〕陳軫爲二王臣一、常以二國情一輸レ楚、儀不レ能二與從レ事、願王逐レ之。

【國讓】309 コクジャウ 字號。❶三國魏、田豫（7－21723・・304）の字。❷金、孫九鼎（3－6987・・365）の字。

【國爵】310 コクシャク 國の爵位。〔莊子、天運〕至貴國爵幷焉。

【國手】311 コクシュ ❶すぐれた醫者。國工。國を醫する手の意。轉じて、醫者を呼ぶ敬稱。〔國語、晉語八〕上醫醫レ國、其次救レ人、固醫官也。〔朱熹題跋〕問訊袖中醫レ國手、不レ應下長與二一笻一閑上。〔開封志〕子名河、號星源、亦以二國手一名。❷國中ですぐれた名人。〔裴說、棋詩〕人心無二算處一、國手有二輸時一。〔白居易、醉贈二劉二十八使君一詩〕詩稱二國手一徒爲レ爾、命壓二人頭一不二奈何一。

【國主】312 コクシュ ❶一國の君主。國君。天子。〔李陵、答二蘇武一書〕故欲下如二前書之言一、報中恩于國主上耳。❷皇帝の貶稱。〔五代史、南唐李昇世家〕景下レ令、去二帝號一稱二國主一。

【國守】313 コクシュ 國司の長官。くにのかみ。國司（272）を見よ。

【國姝】314 コクシュ 國中で第一等の美人。國色。〔唐書、后妃傳上〕韓國出二入禁中一、一女國姝、帝皆寵レ之。

【國恤】315 コクジュツ 一國全體のうれひ。❶國難。〔左氏、襄、四〕忘二其國恤一、而思二其麀牡一。❷天子・皇后等の崩御をいふ。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕諱二去國恤章一。〔元史、仁宗紀一〕朕以二國恤一方新、誠有レ未レ忍。 「字。

【國俊】316 コクシュン 後晉、安彥威（3－7072・・539）の字。

【國儁】317 コクシュン 前趙、臺產（9－30161・・50）の字。

【國准】318 コクジュン 管子の篇名。

【國閏】319 コクジュン 明、潛玉（7－18240・・48）の字。

【國初】320 コクショ 國のはじめ。ある朝代の建國のはじめ。〔宋史、律歷志三〕況國初祀二赤帝一爲二感生帝一。〔杜甫、韋諷錄事宅觀二曹將軍畫馬圖一引〕國初以來畫二鞍馬一、神妙獨數江都王。

【國書】321 コクショ ❶國と國との間に贈答する文書。〔魏書、高佑傳〕請丙取下有二才用一者上、參乙造國書甲。〔文體明辯、國書〕按、國書者、鄰國相遺之書也、春秋列國、各有二詞命一、以通二彼此之情一、而其文務下協二典禮一、從容委曲、高卑適上レ宜、乃爲レ盡レ善、觀二鄭人詞命一、迭更二四手一、國賴以存、良有レ以也、漢唐而下、國統雖レ一、而夷狄內通、故其往來亦用レ之、乃有國之所レ不レ可レ廢者也、但左傳所レ載、列國應對之詞、皆出二口傳一、例不レ得レ錄、獨呂相絕レ秦、豐瞻閎闊、似レ非二口語一、能悉レ意、必當時筆而授レ之。❷漢字に對し、遼・金・元・淸、夫々の部族の文字をいふ。〔皇朝通典、職官〕凡時憲書レ之以二國書一。❸國の元首が、その國の名を以て發する外交文書。❹國土に關する一切を記した書。くにつふみ。國記。❺わが國固有の書物。皇典。

【國書捧呈】322 コクショホウテイ 大使・公使が君主又は大統領の國書を駐劄國の君主に呈出すること。

【國勝】323 コクショウ 明、馮勝（12－44579・・97）の初名。

【國乘】324 コクジョウ その國の歷史を記した書。乘は、載と同義で、記し載せる意。史乘。〔賴山陽、上二樂翁公一書〕然少小嗜レ讀二國乘一。

【國色】325 コクショク ❶國中で第一等の美人。國姝。國容。國香。國娥。〔公羊、僖、十〕驪姬者國色也。〔吳志、周瑜傳〕孫策得二橋公兩女一、皆國色也。❷牡丹の花をいふ。國色天香を見よ。〔劉禹錫、賞二牡丹一詩〕惟有二牡丹一眞國色、花開時節動二京城一。

【國色天香】326 コクショクテンカウ 牡丹の異名。天香は、非常にすぐれたかほり。〔陳正封、牡丹詩〕國色朝酣レ酒、天香夜染レ衣。〔錢洪、賞二牡丹一呈二席上諸友一詩〕國色天香映二畫堂一。〔故事成語考、花木〕國色天香、乃牡丹之富貴。

【國職】327 コクショク 國のまつりごと。〔國語、魯語下〕書考二其國職一。

【國辱】328 コクジョク くにのはぢ。國恥。國醜。

【國臣】329 コクシン 國家の臣。國の役人。〔墨子、天志中〕夫豈欲三其國臣萬民之相二爲不利一哉。

【國信】330 コクシン ❶國と國との間に取りかはされる信書。〔張籍、送三金少卿副使歸二新羅一詩〕通レ海便應レ將二國信一、到レ鄉猶自著二朝衣一。❷字號。㋑明、胡節（9－29400・・218）の字。㋺明、崔廷奎（4－8178・・312）の字。㋩明、史寶（2－3249・・137）の字。㋥明、蔣珙（9－31820・・27）の字。

【國信使】331 コクシンシ 國の信書を持つて他國に使する使者。〔元史、世祖紀一〕以二翰林侍讀學士郝經一爲二國信使一。

【國信所】332 コクシンジョ 官署の名。宋代、契丹の使者を交聘することを掌る。後、國信司と改めた。〔事物紀原、庫務職局部、國信所〕國信所、宋朝會要曰、國信所掌二契丹使介交聘之事一、景德初遣二內臣一、排二辦禮信一、四年改、初雄州用レ兵之際、每二密事一、擇レ吏主レ之、號二機宜司一、及二契丹請レ和、改曰二國信司一、又景德四年八月、帝謂二近臣一曰、契丹使副到レ闕、見辭及館接伴、支賜例物、幷朝廷遣使合レ行之事、並有二規制一、行レ之以二二年一、已成二定例一、可下特置中管二勾往來國信一所一司上、舊止云二排辦禮信所一、至レ是立レ局置レ印也。

【國神】333 クニツカミ ❶地上に生れた神。又、國土を守護する神。〔祝詞式、大祓〕國津神波、高山之末、短山之末爾上坐氏。❷天孫降臨以前、既に此の國內に土著し、一地方を領した酋長。國神。〔日本書紀、神代紀上〕吾是國神、號脚摩乳。

【國親】334 クニノオヤ ❶天皇の御父をいふ。❷皇后・中宮、また天皇の御母をいふ。❸後世には天皇・皇后をいふ。

【國人】335 コクジン 國の人民。國民。〔書、秦誓〕國人亦曰危哉。〔左氏、成、十三〕子駟帥二國人一盟二于大宮一。〔孟子、梁惠王下〕國人皆曰レ賢、然後察レ之。〔韓愈、題二楚昭王廟一詩〕猶有三國人懷二舊德一、

一間茅屋祭二昭王一。

【國粹】336コクスイ　その國民に固有な精神上又は物質上の長所。

【國粹主義】337コクスイシユギ　自國民族の歴史・文化・政治等に獨自の價値と意義とを認め、その傳統的精神を維持、發展せしめんとする主義。

【國粹保存】338コクスイホゾン　その國固有の長所美風を保存すること。

【國粹主義者】339コクスイシユギシヤ　國粹主義を唱へ又は實行する人。

【國瑞】340コクズイ　❶國のめでたいしるし。國家の吉兆。〔唐書、劉晏傳〕晏始八歲、獻二頌行在一、帝奇二其幼一、命二宰相張說一試レ之、說曰、國瑞也。〔舒元輿、鄂政記〕公德如二卿雲景星一、所レ出必爲二國瑞一。❷字號。㋑後周、安審琦(3―7072··552)の字。㋺元、韓公麟(12―43159··287)の字。㋩元、馬轡(12―44572··637)の字。㋥明、錢一本(11―40563··251)の字。㋭明、太祖(3―5834··309)の字。

【國是】341コクゼ　國家が是とする方針。萬民の認める國家の大計。〔後漢書、桓譚傳〕寡人未レ得四所三以爲二國是一也。〔新序、雜事二〕君臣不レ合、則國是無二從定一矣。

【國正】342コクセイ　❶國の稅。正は稅。國稅。〔周禮、夏官、司勳〕惟加レ田無二國正一。〔注〕鄭司農云、正、謂レ稅也。〔周禮、夏官、諸子〕凡國正弗レ反。❷字號。㋑元、何天駿(1―511··348)の字。㋺明、謝汝儀(10―35827··298)の字。

【國成】343コクセイ　國の治平。國の安寧。成は平。〔詩、小雅、節南山〕憂心如レ酲、誰秉二國成一。〔傳〕成、平也。〔箋〕君臣誰能持二國之平一乎。

【國制】344コクセイ　國家の定める制約、或は方策。國策。〔管子、山權數〕桓公問二於管子一曰、請二問國制一、管子對曰、國無レ制、地有レ量、云云、故地有レ量、國無レ策。

【國姓】345コクセイ　國君の姓。〔晉書、恭帝紀〕曾令二善射者射一レ馬爲レ戲、既而有レ人云、馬者國姓、而自殺レ之、不祥。

【國姓魚】346コクセイギヨ　臺灣語。あゆ。香魚。

【國姓爺】347コクセイヤ　鄭成功(11―39647··470)をいふ。明の唐王に仕へて國姓、朱を賜はつたからいふ。近松門左衞門に國姓爺合戰の作がある。

【國性】348コクセイ　國の特性。

【國政】349コクセイ　❶國家の政事。國均。〔禮、喪大記〕君謀二國政一、士大夫謀二家事一。〔孟子、公孫丑上〕行二乎國政一、如レ彼其久也。〔戰國、楚策〕不レ顧二國政一。〔史記、孔子世家〕陪臣執二國政一。❷國の政をとる人。正卿。〔左氏、閔、二〕君與二國政一之所レ圖也。〔注〕國政、正卿也。〔會箋〕國政、謂下執二國政一者上。

【國栖】350コクズ　❶大和の地名。國樔。❷姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十四〕。

【國栖奏】351クズノソウ　大嘗會や其の他の節會の時、大和の國栖の人が參賀して歌笛を奏したこと。〔延喜式、宮內省式〕凡諸節會、吉野國栖、獻二御贄一奏二歌笛一、每レ節以二十七人一爲レ定。

【國壻】352コクセイ　天子のむこ。天子の女を娶つた者。國甥。國婚。〔搜神記、一〕今國壻亦爲二駙馬一矣。〔宣和畫譜〕家世貴顯、又身爲二國壻一。

【國甥】353コクセイ　皇女の夫。國壻に同じ。〔魏書、奚斤傳〕庫仁以二國甥一侍レ寵。

【國勢】354コクセイ　國のいきほひ。又、國の形勢。〔後漢書、天文志中〕皆以二校尉封侯一秉二國勢一。〔黃庭堅、次三韻子由績溪病起被レ召寄二王定國一詩〕天聽四門闢、國勢九鼎定。〔胡銓、上二高宗一封事〕國勢陵夷、不レ可二復振一。

【國勢調查】355コクセイテウサ　全國、同時刻に人口及びこれに關する狀態を調查すること。其の目的は、各種の政策・計畫に資するにある。第一回の調查は大正九年。英語 census の譯。

【國聲】356コクセイ　明、秦金(8―24995··53)の字。

【國稅】357コクゼイ　❶國に納める稅金。〔韻府引、薩都剌、詩〕上以充二國稅一、下以祀二松楸一。❷直接に國庫に納める稅金。地方稅の對。

【國稅廳】358コクゼイチヤウ　民國で各省に設けた稅務署。國稅・地方稅の徵收を掌る。後、財政廳と改めた。

【國戚】359コクセキ　天子の親戚。后妃の家。〔晉書、王愷傳〕愷既世族國戚、性復豪侈。

【國籍】360コクセキ　一定の國家の所屬員たる資格。國民たる名籍。國民籍。〔魏書、李彪傳〕綜二理國籍一。

【國籍喪失】361コクセキサウシツ　その國の人民たる身分を失ふこと。

【國宣】362コクセン　公卿が國司となつた時、その家司が命を奉じてその國に下した文書。〔源平盛衰記、三十三、尾形三郎責二平家一事〕院宣・國宣を被レ下。

【國泉】363コクセン　元、元淮(1―1340··633)の字。

【國遷】364コクセン　都うつし。遷都。〔周禮、秋官、小司寇〕二曰詢二國遷一。〔注〕國遷、謂二徙レ都改レ邑也。

【國祚】365コクソ　❶國のさいはひ。國のさかえ。國禎。〔後漢書、順帝紀論〕古之人君離二幽放一而反二國祚一者有矣。❷國の位。王位。〔漢書、楚元王傳〕令三國祚移二於外一。

【國叟】366コクソウ　國中で最も德の高い老人。〔張衡、東京賦〕奉二觴豆于國叟一。

【國俗】367コクゾク　その國の風俗。國風。〔孟子、告子下〕華周・杞梁之妻、善哭二其夫一、而變二國俗一。〔韓非子、內儲說上〕臣入二王之境內一、聞二王之國俗一。

【國族】368コクゾク　國賓と宗族。〔禮、檀弓下〕歌二于斯一、哭二于斯一、聚二國族于斯一。〔疏〕言下此室可丙以燕二聚國賓一、及會乙宗族甲也。

【國粟】369コクゾク　國の所有する穀物。〔管子、輕重甲〕釜鏂無レ止、遠通不レ推、國粟之賈、坐長而四十倍、君出二四十倍之粟一、以振二孤寡一收二貧病一、視二獨老窮而無レ子者一。

【國賊】370コクゾク　國家にあだするもの。〔韓詩外傳、四〕不レ恤二乎公道之達義一、偸合苟同、以持二祿養一者、是謂二國賊一也。〔荀子、臣道〕偸合苟同、以持レ祿養レ交而已耳、是謂二國賊一。〔後漢書、橋玄傳〕豈以二一子之命一、而縱二國賊一乎。〔蜀志、趙雲傳、注〕國賊是曹操、非二孫權一也。

【國替】371クニガヘ　❶古、一旦諸國の掾目に任ぜられた者が、その地を志望しない時、他國に轉ぜしめること。〔江家次第、四、除目〕院宮國替。❷武家時代、諸侯の領地を轉ずること。〔增補家忠日記〕慶長五年五月、國替被二仰附一。

【國體】372コクタイ　❶國がら。國の成りたち。國の狀態。〔漢書、成帝紀〕溫レ故知レ新、通二達國體一、故謂二之博士一、否則學者無レ述焉。〔漢書、賈誼傳贊〕其論甚美、通二達國體一。❷國の身體。君主の股肱の臣をいふ。〔穀梁、莊、二十四〕大夫國體也。〔注〕國體、謂レ爲二君股肱一。❸統治權の存在狀態によつてわけた國家の區別。君主國體・民主國體など。❹クニガタ　國土の形勢。〔出雲國造神賀詞〕出雲臣等我遠祖天穗比命乎、國體見爾遣時爾。

【國體明徵】373コクタイメイチヨウ　國體を明かにすること。

【國討】374コクタウ　國家が討伐すること。〔李白、送下白利從二金吾董將軍一西征上詩〕西羌延二國討一、白起佐二軍威一。

【國盜】375コクタウ　國に害を加へる盜賊。國裁。〔徐陵、陳公九錫文〕公以二國盜邊警一、知無レ不レ爲、郵二是同盟一、誅二其醜類一。

【國稻】376コクタウ　諸國の正稅たる稻穀。その國に貯へ置き、必要に應じて國々の民を賑恤するに用ひる。〔類聚國史、八十、政理〕延曆十六年五月辛丑、以二武藏・下總二國稻一、糶二與貧民一。

【國道】377コクダウ　❶國都の道。〔墨子、非攻下〕棘二生乎國道一。❷主務大臣が其の路線の認定をした道。都道府縣知事または市長が之を管理する。

【國宅】378コクタク　城中の宅地。〔周禮、地官、載師〕凡任地、國宅無レ征。

【國澤】379コクタク　國中の山林池沼。〔周禮、地官、澤虞〕澤虞、掌二國澤之政令一、爲二之厲禁一。

【國地】380コクチ　國の土地。國土。〔管子、八觀〕國地大、而食地博也。

【國恥】381コクチ　國のはぢ。國辱。〔禮、哀公問〕物恥足二以振一レ之、國恥足二以興一レ之。〔左氏、襄、十七〕大臣不レ順、國之恥也。〔後漢書、劉虞傳〕未レ能三清二雪國恥一。〔楊維楨、樂府〕除二國妖一、雪二國恥一。〔李白、獨漉篇〕國恥未レ雪、何由成レ名。

【國持】382クニモチ　一箇國以上を領有する大名。

【國胄】383コクチウ　國君の長子。世子。太子。又、王侯の一族の子供。〔晉書、慕容廆載記〕其世子皝、率二國胄一、束修受レ業焉。〔潘岳、閑居賦〕右延二國胄一、左納二良逸一。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕妄先二國胄一、側聞二邦教一。〔南齊書、明帝紀〕式依二舊章一、廣延二國胄一。

【國畜】384コクチク　管子の篇名。

【國張】385コクチヤウ　宋、羅之紀(9―28397··343)の字。

【國仗】386コクヂヤウ　國家の所有する武器。〔遼史、儀衞

志〕受二唐鼓纛之賜一、是爲二國仗一。

【國中】387 コクチュウ ❶一國の全地域。〔史記、吳王濞傳〕下二令國中一。〔開元天寶遺事、豪友〕長安富民王元寶・楊崇義・郭萬金等、國中巨豪也。❷王の城郭の中。又、王城を去る百里以內の地。〔周禮、地官、鄕大夫〕國中自二七尺一以及二六十一。〔注〕國中、城郭中也。〔周禮、夏官、司士〕掌二國中之士治一。〔注〕國中、城中。〔周禮、秋官、鄕士〕掌二國中一。〔注〕鄭司農云、國中、至二百里郊一也、玄謂、其地則距二王城一百里內也、言レ掌二國中一、此主二國中獄一也、六鄕之獄在二國中一。〔周禮、考工記、匠人〕國中九經九緯。〔注〕國中、城內也。〔禮、曲禮上〕國中以二策彗一卹勿レ驅、塵不レ出レ軌。

【國柱】388 コクチュウ ❶くにのはしら。國楨。立派な臣をいふ。國柱石を見よ。❷清、滿洲鑲黃旗人。姓は博爾濟吉特氏。爵は雍正の時、一等子。官は乾隆の間、前鋒侍衞。大金川等を攻めて功があり、馬蘭鎭總兵に陞る。緬甸を征し、楚雄鎭總兵に遷り、軍中に卒す。〔國朝耆獻類徵、二百八十七〕。❸字號。㋑明、房楠(**5－11714**‥113)の字。㋺清、袁棟(**10－34152**‥122)の字。

【國柱石】389 クニノチュウセキ 國家の柱となり礎石となつて維持する人。立派な臣をいふ。國家柱石。〔漢書、辛慶傳〕明略威重、任二國柱石一。

【國重】390 コクチュウ ❶國家の重いつとめ。〔傅亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕負二荷國重一。❷南朝宋、陶貞寶(**11－41705**‥218)の字。

【國著】391 コクチョ 明、黃襄(**12－47926**‥457)の字。

【國儲】392 コクチョ ❶國君の後繼者。皇太子。〔漢書、疏廣傳〕太子國儲副君。❷國家のたくはへ。〔玉海〕賴二天地宗廟降一レ祥、而國儲有レ備。

【國除】393 クニノゾカル 領地をとり上げられる。〔林鶴梁、烈士喜劍碑〕元祿中、赤穗國除。

【國徵】394 kuo² chêng¹ 國稅。歲入。

【國珍】395 コクチン ❶明、丁玉(**1－2**‥43)の初名。❷明、毛玘(**6－16772**‥28)の字。

【國琛】396 コクチン 國の寶とすべき賢人。琛は寶。〔晉書、宋纖傳〕其人如レ玉、維國之琛。〔傅玄、晉天地郊明堂歌、地郊饗神歌〕結二方丘一祇二國琛一。

【國鎭】397 コクチン 國家のしづめ。國家の重鎭。〔徐彥伯、比干墓詩〕大位天下寶、維賢國之鎭。

【國定】398 コクテイ 國家で制定すること。又、國家が制定した事柄。〔日本政記、嵯峨天皇〕弘仁二年、請自レ今依二國定一。

【國定關稅】399 コクテイクワンゼイ 一國が單獨に任意に定めた稅率による關稅。

【國定稅率】400 コクテイゼイリツ 一國が其の主權によつて任意に定めた關稅の率で、特別の取扱を約束しない通商國からの輸入品に對して適用する。

【國定教科書】401 コクテイケウクワシヨ 國家が制定した教科用圖書。全國の初等教育の程度を一定する目的を以て文部省で編輯した。

【國邸】402 コクテイ 天子の御所。宮城。〔漢書、毋將隆傳〕宜下徵二定陶王一使レ在二國邸一、以塡中萬方上。〔漢書、元后傳〕共王因留二國邸一、旦夕侍レ上。

【國楨】403 コクテイ ❶國のはしら。國柱(388)に同じ。〔任昉、出二郡傳舍一哭二范僕射一詩〕平生禮數絕、式瞻在二國楨一。〔注〕翰曰、實爲二國家楨幹一。❷明、朱國禎(**6－14424**‥787)の一名。❸明、陳言(無錫の人)(**11－41698**‥234)の字。

【國禎】404 コクテイ 國のさいはひ。國祚。〔白居易、祭二微之一文〕生爲二國禎一、出爲二人瑞一。

【國朝】405 コクテウ ❶當代の朝廷。他國、又は他の朝代に對していふ。〔魏志、賈詡傳〕縱詡昧二于榮利一、奈二國朝一何。〔曹植、求二自試一表〕無レ益二國朝一。〔舊唐書、禮儀志五〕高祖神堯皇帝、國朝首祚、萬葉所レ承。❷我が國の朝廷。我が國。皇朝。〔日本政記、孝德天皇〕大化二年論、國朝之建、創二於神武一、開二崇神・景行一、而成二於應神・仁德一。

【國朝宮史】406 コクテウキユウシ 書名。三十六卷。清、高宗の乾隆七年、奉敕撰。訓諭・典禮・宮殿・經費・官制・書籍に分かる。〔四庫提要、史、政書類〕。

【國朝文錄】407 コクテウブンロク 書名。❶八十二卷。續錄六十六卷。清、李祖陶撰。清朝諸家の文集の鈔錄。前集は唐宋八家を宗とするものを、後集は文の可なるものを錄し、每文、評語を附す。其の目は(順治朝)—熊學士文集錄一卷熊伯龍撰・亭林文錄二卷顧炎武撰・石莊先生文錄三卷陳宏緒撰・南雷文錄三卷黃宗羲撰・壯悔堂文錄二卷侯方域撰・恥躬堂文錄二卷彭士望撰・四照堂文錄二卷王猷定撰・湘帆堂文錄一卷傅占衡撰・水田居文錄二卷賀貽孫撰。(康熙朝)—潛菴先生遺稿文錄二卷湯斌撰・愚山先生文錄二卷施閏章撰・午亭文錄三卷陳廷敬撰・鄭靜奄先生文錄一卷鄭日奎撰・張文貞公文錄二卷張玉書撰・帶經堂集文錄二卷王士禎撰・榕村全集文選二卷李光地撰・西陂類稿文錄一卷宋犖撰・湛園未定稿文錄三卷姜宸英撰・居業齋文錄一卷金德嘉撰・邵青門文錄三卷邵長蘅撰。(雍正・乾隆朝)—朱文端公文集二卷朱軾撰・孫文定公文錄二卷孫嘉淦撰・二希堂文錄二卷蔡世遠撰・結埼亭集文錄四卷全祖望撰・紫竹山房文集三卷陳兆崙撰・鹿洲文錄三卷藍鼎元撰・白鶴堂文集一卷彭端淑撰・南庄類稿文錄二卷黃永年撰・海峯先生文錄二卷劉大櫆撰・潛研堂文錄二卷錢大昕撰・惜抱軒先生文選二卷姚鼐撰・紀文達公文錄二卷紀昀撰・清獻堂文錄二卷趙佑撰・忠雅堂文錄二卷蔣士銓撰・二林居文錄二卷彭紹升撰・厚岡文集三卷李榮陛撰。(嘉慶朝)—陶士升先生萸江文錄一卷陶必銓撰・劉寄菴文錄二卷劉大紳撰・知恥齋文錄一卷謝振定撰・愓園初稿文二卷陳庚煥撰。(續集の目)—姚端恪公文錄二卷姚文然撰・變雅堂文錄一卷杜濬撰・白茅堂文錄二卷顧景星撰・砥齋文錄一卷王宏撰・聰山文錄一卷申涵撰・改亭文錄一卷計東撰・魏伯子文錄一卷魏祥撰・河東文錄一卷邱維屏撰・楡溪文錄一卷徐世溥撰・庸書文錄一卷張簣山撰・白石山房文錄一卷李振裕撰・三魚堂文錄一卷陸隴其撰・蒼峴山人文錄一卷秦松齡撰・憺園文錄一卷徐乾學撰・百尺梧桐閣文錄一卷汪懋麟撰・飴山文錄一卷趙秋谷撰・可儀堂文錄一卷愈寧世撰・趙忠毅公文錄二卷趙申喬撰・白田草堂文錄一卷王懋竑撰・梅莊文錄一卷謝濟世撰・梅崖文錄二卷朱仕琇撰・四知堂文錄二卷楊錫紱撰・孺廬先生文錄一卷萬承蒼撰・雙桂堂文錄二卷紀大奎撰・松泉文錄一卷汪由敦撰・集虛齋文錄二卷方桀如撰・歸愚文錄一卷沈德潛撰・果堂文錄一卷沈彤撰・培遠堂文錄一卷陳宏謀撰・香國集文錄一卷陳之蘭撰・小倉山房文錄二卷袁枚撰・尊聞居士集二卷羅有高撰・叢桂堂文錄一卷劉東橋撰・切問齋文錄二卷陸燿撰・經韻樓集錄二卷段玉裁撰・更生齋文錄一卷洪亮吉撰・頤綵堂文錄一卷沈叔埏撰・韞山堂文錄一卷管世銘撰・竹香齋文錄一卷茹敦和撰・養一齋文錄二卷李兆洛撰・鑑止水齋文錄一卷許宗彥撰・海匡先生文錄一卷熊璟崇撰・雀研齋文錄一卷張錫穀撰・雕菰集文錄一卷焦循撰・崇百齋文錄一卷陸繼輅撰・學福齋文錄二卷沈大成撰・左海文錄二卷陳壽祺撰・存吾文集錄一卷余廷燦撰・邃雅堂文錄一卷姚文田撰。❷八十二卷。清、姚椿撰。清朝諸家の文を次の十五類に分けて集めてゐる。論辯・序跋・奏議(上下)・書・贈序・雜記・碑表(上下)・志銘・傳狀・賦・頌・箴・銘・贊・祭文哀誄。清史稿藝文志に著錄せらる。

【國朝正雅集】408 コクテウセイガシフ 一百卷。清、符葆森撰。沈德潛の國朝詩別裁集の續補。乾隆から咸豐六年までの詩を集めてゐる。成親王以下四王の外、千八百二十六人、閨媛百四十人、釋子四十九人、羽士十八人、屬國二十八人。進士及第の順を主とし、略歷・逸事・評をも載せてゐる。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【國朝學案小識】409 コクテウガクアンセウシ 書名。十四卷。清、唐鑑撰。清朝諸儒の學案で、傳道・翼道・守道・經學・心宗の五學案に分つ。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【國朝耆獻類徵】410 コクテウキケンルイチヨウ 書名。四百八十四卷。清、李桓撰。外に卷首二百四卷。清の太祖の天命元年から、宣宗の道光三十年までの英雄・碩學・孝悌、其の他一藝に秀でた者一萬餘人の傳記で、國史館の本傳、諸書からの節錄、碑銘などを集め、極めて詳細である。その內容は、卷首は欽定宗室王公功績表傳十二卷・欽定外藩蒙古回部王公表傳百二十卷(內、缺十三卷)・欽定續纂外藩蒙古回部王公表十二卷・同傳十二卷(嘉慶十七年敕撰)・同表十二卷・同傳十二卷(道光二十九年敕撰)。正編は宰輔四十卷・卿貳七十四卷・詞臣十八卷・諫臣六卷・郞署十卷・疆臣五十六卷・監司十卷・守令三十四卷・僚佐十二卷・將帥六十六卷・材武四卷・忠義四十四卷・孝友二十卷・儒行十八卷・經學十卷・文藝二十卷・卓行十八卷・

隱逸二十卷・方技四卷。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【國朝詩人徵略】411 コクテウシジンチヨウリヤク　書名。六十卷。清、張維屛撰。清初から嘉慶まで八百餘人について小傳・詩話・隨筆を始め、その人の詩の評せられたものを節錄し、標題・摘句に及ぶ。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【國朝詩別裁集】412 コクテウシベツサイシフ　書名。三十二卷。補遺四卷。清、沈德潛撰。清初から乾隆二十四年までの詩人七百八十九人、補遺には二百七人の詩を集む。後に乾隆帝がその中から不臣不孝の者、錢謙益以下百三十六人を刪り、他に意を以て加增して三十二卷とした。これを御定本といふ。二本共に傳はる。德潛の意は詩を以て人を祭する譯ではないから、勳業などは論ぜず、詩の工拙に重きをおいてゐるけれども、每人、字・鄉貫・科目・官位・詩評・逸事に及んでゐる。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【國朝先正事略】413 コクテウセンセイジリヤク　書名。六十卷。清、李元度撰。清初から咸豐まで一千百八人の傳記。先正は、先代の正人の意。その目は名臣（卷一—二十六）・名儒（卷二十七—三十一）・經學（卷三十二—三十六）・文苑（卷三十七—四十四）・遺逸（卷四十五—四十八）・循良（卷四十九—五十四）・孝義（卷五十五—六十）。合計五百人、附傳六百八人。名臣言行錄の例に仿ひ、揚善を主としてゐる。〔李元度、國朝先正事略序〕元度山居多レ暇、徧閱二本朝人文集一、遇二偉人事跡一、輒手二錄之一、積久成二先正事略六十卷一、分二名臣・名儒・經學・文苑・遺逸・循良・孝義七門一、人爲二一傳一、計五百人、附見者六百有八人、亦當世得失之林也。

【國朝漢學師承記】414 コクテウカンガクシシヨウキ　書名。八卷。清、江藩撰。清朝の漢學者（宋學に對して）の傳記で、師承傳統を明かにしてゐる。閻若璩以下四十人。附傳十六人。他に宋學淵源記二卷・附記一卷あり、宋學者孫奇逢以下四十人の傳を收む。〔阮元、國朝漢學師承記序〕江君所レ纂、漢學師承記八卷、嘉慶二十三年居二元廣州節院一時刻レ之、讀レ此可レ知二漢世儒林家法之承授、學者經學之淵源、大義微言、不レ乖不レ絕。

【國朝古文所見集】415 コクテウコブンシヨケンシフ　書名。十三卷。清、陳兆麒撰。清朝名家の古文を耳目の及ぶ範圍について撰錄したもの。方苞・劉大櫆・姚鼐の三子を中心とし、論著・說・序・題跋・書・贈序・壽序・傳・碑・墓志銘・哀辭・記の十二類、百六十餘篇を集む。

【國典】416 コクテン　❶國家の制度儀式。國常。〔禮、月令〕天子乃與二公卿大夫一、共飭二國典一。〔國語、魯語上〕故愼二制祀一、以爲二國典一。❷書名。後魏、王慧龍撰。十八篇。〔北史、王慧龍傳〕撰二帝王制度十八篇一、號曰二國典一。❸我が國固有の書。皇典。

【國鄽】417 コクテン　城中の店鋪。〔袁淑、傚二曹子建樂府白馬篇一詩〕車徒傾二國鄽一。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、鄽、市レ物邸舍也。

【國電】418 コクデン　❶國際交涉に政府と政府との間に往復する電報。❷日本國有鐵道の經營する電車線の略稱。

【國都】419 コクト　❶一國の首府のある都。國邑。國城。〔戰國、燕策〕涉二易水一、不レ至二四五日一、而距二國都一矣。〔管子、乘馬〕凡立二國都一、非二於大山之下一、必於二廣川之上一。〔墨子、尙同中〕上帝鬼神之建二設國都一、立二正長一也。〔王融、皇太子哀策文〕寄二靈心於萬象一、增二戀戀於國都一。❷西秦、辛進（**10**—**38630**··40′）の字。

【國塗】420 コクト　國家の方針。〔南齊書、高帝記上〕妖沴載澄、國塗悅穆、此又公之功也。

【國蠹】421 コクト　國家を害毒する者。蠹は、木くひ蟲。〔左氏、襄、二十二〕傲二使人一、國之蠹也。〔白居易、策林、議二鹽法之弊一〕此乃政之疵、國之蠹也。

【國土】422 コクド　❶くに。土地。〔管子、樞言〕七日不レ食、無二國土一。〔漢書、淮南厲王長傳〕貪二讓國土之名一、輕二廢先帝之業一、不レ可二以言一レ孝。〔漢書、王莽傳中〕國土人民。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕國土嘉祚、巍巍如レ此。❷一國の統治權の當然行はれる境域。領土。❸ふるさと。故國。

【國土安穩】423 コクドアンノン　國土がやすらかでおだやかなこと。〔華嚴經〕天下太平、國土安穩。

【國土成就】424 コクドジヤウジユ　國中の萬物が十分繁茂して、人民が幸福に生を遂げること。

【國帑】425 コクド　國家の貨幣・財寶を藏する所。又、國家の財產。〔清國行政法汎論、皇族、無爵宗室〕咸同以來、國帑支絀、往往不レ暇レ顧。〔福惠全書、雜課部、蘆課〕擧二隱占一以增レ課、國帑旣裕。

【國度】426 コクド　❶國家の用度。國用。〔梁武帝、答二皇太子請二御講一敕〕緣邊未レ入、國度多レ乏。❷國ののり。〔崔駰、司徒箴〕尹氏不レ堪、國度斯愆。

【國豆】427 コクトウ　そらまめ。胡豆。後趙の石虎が胡の字を諱んで胡豆を國豆と改稱した。〔鄴中記〕石虎諱レ胡、改二胡豆一爲二國豆一。

【國東】428 クニサキ　豐後國の郡名。

【國棟】429 コクトウ　國のむな木となる首要の人。太子をいふ。〔國語、晉語一〕夫太子、國之棟也。

【國統】430 コクトウ　君主の血統。〔漢書、諸侯王表〕國統三絕。〔後漢書、杜喬傳論〕順桓之閒、國統三絕。

【國銅】431 コクドウ　國に產する銅。〔管子、山權數〕國銅以二二年之粟一顧レ之、立二黔落一。

【國德】432 コクトク　國のめぐみ。國恩。〔論衡、須頌〕唯班固之徒、稱二頌國德一。

【國內】433 コクナイ　❶國のうち。國中。〔左氏、莊、十四〕苟主二社稷一、國內之民、其誰不レ爲レ臣。〔後漢書、南匈奴傳〕國內虛耗。〔晉書、石季龍載記上〕以二其國內少一レ馬、乃禁レ畜二私馬一。❷地名。高句驪王の都城。滿洲遼寧省臨江縣の帽兒山の西南。

【國內法】434 コクナイハフ　一國の主權の行はれる地域に於て效力を有し、主として其の國の內部關係を規律する法律。

【國內公安】435 コクナイコウアン　一國內の安寧秩序。「易。

【國內貿易】436 コクナイボウエキ　一國內の各地方相互の貿易。

【國難】437 コクナン　國の難儀。國艱。國禍。〔漢書、翟方進傳〕莫三能亢二扞國難一。〔後漢書、臧洪傳〕並赴二國難一。〔魏志、武帝紀〕初興二國難一。〔曹植、白馬篇〕捐レ軀赴二國難一、視レ死忽如レ歸。

【殉二國難一】437′ コクナンニジユンズ　國難に身命を捧げる。殉國。〔蜀志、先主劉備傳〕念在三輸レ力以殉二國難一。

【國寧】438 コクネイ　字號。❶遼、蕭滴洌（**9**—**32012**··482）の字。❷明、王邦直（磁の人）（**7**—**20823**··2021）の字。

【國能】439 コクノウ　❶其の國特有の技能。國伎。〔莊子、秋水〕且子獨不レ聞三夫壽陵餘子之學二行于邯鄲一與、未レ得二國能一、又失二其故行一矣。❷國中第一の技能。〔韋貫之、南平郡王高崇文神道碑〕術窮二祕要一、藝擅二國能一。

【國馬】440 コクバ　❶國用の馬匹。種馬・戎馬・齊馬・道馬をいふ。〔周禮、考工記、輈人〕國馬之輈、深四尺有七寸。〔注〕國馬、謂二種馬、戎馬、齊馬・道馬一。〔杜甫、壯遊詩〕國馬竭二粟豆一、官雞輸二稻粱一。❷國中第一の馬。すぐれた馬。〔莊子、徐無鬼〕吾相レ馬、直者中レ繩、曲者中レ鉤、方者中レ矩、圓者中レ規、是國馬也。〔疏〕合二上之相一、是謂二諸侯之國上品馬一也。

【國方】441 クニガタ　❶國司の廳の人。地方役人。方は、人の意。〔平家物語、一、鵜川合戰事〕此の所は、國方の者の入部する事なし。❷地方。國もと。❸國土の形勢。國形（155）に同じ。〔萬葉集、六〕谷くくのさ渡るきはみ、國方をみし給ひて。

【國寶】442 コクハウ　❶國のたから。〔左氏、隱、六〕親レ仁善レ鄰、國之寶也。〔左氏、成、二〕子得二其國寶一、我亦得レ地。〔荀子、大略〕身能行レ之國寶也。〔墨子、親士〕故曰歸二國寶一、不レ若二獻レ賢而進一レ士。❷文化財保護委員會が文化財保護法によつて、歷史の證徵、又は美術の模範となり、國民の寶とする價値があると指定した繪畫・彫刻・建造物・工藝品・古文書など。國寶は文部省備付けの國寶臺帳に登錄し、文部大臣の許可なくしては輸出・移出をなすことが出來ない。❸字號。㋑晉、裴瓚（**10**—**34362**··41）の字。㋺北周、敬珍（**5**—**13303**··186）の字。㋩梁、賀琛（**10**—**36725**··79′）の字。㋥後晉、梁漢璋（**6**—**14825**··218）の字。㋭宋、魏咸信（**12**—**45872**··177）の字。㋬宋、郭忠恕（**11**—**39474**··382）の號。㋣宋、宋之珍（**3**—**7078**··290）の字。㋠宋、王易簡（萬年の人）（**7**—**20823**··1123）の字。㋷金、酈瓊（**11**—**39753**··6）の字。㋦元、張庭珍（**4**—**9812**··1392）の字。㋸元、樂均用（**6**—**15399**··291）の字。㋾元、劉國傑（**2**—**2224**··926）の字。㋻元、王珍（**7**—**20823**··811）の字。❹元、張國賓（**4**—**9812**··1058）の一名。❺明、吳禎（**2**—**3365**··323）の初名。

【國防】443 コクバウ　他國の侵略を防ぐ、國のそなへ。〔後漢書、孔融傳〕宜下隱二郊祀之事一、以崇中國防上。

【國望】445（コクバウ）　明、屠大山(**4－7761**‥92)の字。

【國博】446（コクハク）　國子博士(264)の略。〔事物起原、五監總率、太學博士〕始謂㆓之太學博士㆒、品服同㆓國博㆒。

【國伐】447（コクバツ）　自分の國が他の國から伐たれること。〔史記、蘇秦傳〕諸侯贊㆑齊、而王不㆑從、是國伐也。

【國法】448（コクハフ）　國家のおきて。國憲。國度。國網。國律。〔周禮、春官、內史〕執㆓國法及國令之貳㆒、以攷㆓政事㆒。〔禮、曾子問〕亂㆓國法㆒也。〔荀子、大略〕國法禁㆓拾遺㆒。

【國費】449（コクヒ）　國家の費用。國用。〔管子、八觀〕觀㆓臺榭㆒、量㆓國費㆒。〔後漢書、袁安傳〕阿佟以增㆓國費㆒。

【國尾】450（コクビ）　邊境をいふ。〔國語、楚語上〕夫邊境者、國之尾也。

【國美】451（コクビ）　❶國の立派なことがら。〔顏延之、赭白馬賦〕訪㆓國美於舊史㆒。❷梁、謝僑(**10－35827**‥63)の字。

【國賓】452（コクヒン）　❶國君から待遇せられる賓客。老臣・諸侯及び孤卿大夫の來朝する者など。〔周禮、春官、司几筵〕筵㆓國賓于牖前㆒、亦如㆑之。〔注〕鄭司農云、禮記、國賓、老臣也、玄謂、國賓、諸侯來朝、孤卿大夫來聘。〔禮、喪大記〕爲㆓寄公國賓㆒出。❷國家又は君主を代表して來た客人で、國家の特別な優待を受ける外來人。❸字號。㋑元、孛羅帖木兒(**3－6949**‥25)の字。㋺元、王利用(**7－20823**‥2164)の字。

【國雯】453（コクビン）　清、范光陽(**9－30834**‥166)の字。

【國父】454（コクフ）　國のちち。全國民の尊敬する人に冠する名。米國で華盛頓を國父とし、中華民國で孫中山を國父とする類。

【國府】455（コクフ コフ）　❶國々の政廳。國司の役所。國衙。❷國司の役所の所在地。府中。後世多く地名となる。〔催馬樂〕道の口、たけふのこふ。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕既罷歸㆓國府㆒、宿㆓于阿栗川㆒。❸中華民國國民政府の略稱。

【國府臺】456（コフノダイ）　下總國の地名。

【國府方】457（コフカタ）　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【國符】458（コクフ）　國司から國內に下す公文書。〔東寺百合古文書〕天元四年三月、紀伊郡司解、申㆓請國符㆒事。

【國富】459（コクフ）　❶國が富み榮える。〔管子、治國〕田墾則粟多、粟多則國富。〔漢書、敍傳下〕國富刑清、登㆓我漢道㆒。〔通俗編、祝誦、國富民安〕文選、景福殿賦注、引㆓春秋説題辭㆒曰、國富民康、今概言㆓國泰民安㆒。❷一國の財力。國財。

【國富民安】460（クニトミタミヤスシ）　國が富み、人民がやすらかである。〔漢書、刑法志〕齊桓任㆓管仲㆒、而國富民安。

【國賦】461（コクフ）　國家の賦税。〔史記、廉頗藺相如傳〕王用㆑之治㆓國賦㆒。

【國風】462（コクフウ）　❶國のならはし。國家の風俗。國俗。〔史記、殷紀〕政事決㆓定於冢宰㆒、以觀㆓國風㆒。〔白居易、策林六十七、議㆓釋教㆒〕或曰、足㆔以耗㆓蠹國風㆒。❷詩經の詩の一體。六義の一。諸國の民謠の稱。風は、民謠の意。一説に、人を感ぜしめること風の物を動かすが如き意に取るといふ。正・變の二風に分ち、正風は周南・召南の二十五篇、變風は邶から豳に至る十三國の詩、合計百三十五篇。これを地理的に區分すれば、河西詩（秦風・豳風等）・河東詩（邶・鄘・衞の詩）・中部詩（陳・鄭・衞の詩等）・海濱詩（齊風等）となる。國風に就いて特殊の研究を試みたものとしては、明に陶宗儀の國風尊經一卷、戴君恩の讀風臆評、董穀の國風辨、林國華の十五國風論、王士徽の十五國風疏、顏鼎受の國風演連珠、清に毛奇齡の國風省篇、崔東壁の讀風偶識等がある。毛詩(**6－16772**‥91)を見よ。〔詩、國風、集傳〕國者、諸侯所㆑封之域、而風者、民俗歌謠之詩也。❸地方の人民の詠んだ詩歌。くにぶり。ひなぶり。詩經の國風にもとづく。〔鄭谷、讀㆓故許昌薛尚書詩集㆒詩〕篇篇高且眞、眞爲㆓國風㆒陳。❹我が國の和歌。

【國服】463（コクフク）　❶國事。〔周禮、地官、泉府〕以㆓國服㆒爲㆓之息㆒。〔注〕國服、國事也。❷其の國特有の服。〔遼史、儀衞志二〕詳㆓國服㆒以著㆓厥始㆒云。❸kuo² fu¹　國喪に同じ。

【國副】464（コクフク）　國君の後嗣となる人。太子をいふ。〔宋書、五行志二〕既爲㆓國副㆒則不㆑應。

【國腹】465（コクフク）　❶樂器の名。琵琶。〔武夷山記〕魏子騫會㆓鄉人于幔亭㆒、呂荷香戛㆓國腹㆒、國腹卽琵琶。❷（クニバラ）大名などの子の、其の領地にある婦人の腹に生れたこと。又、其の子。〔丹波與作、上〕由留木殿のお湯殿の子、しらべの姫はお國腹。

【國福】466（コクフク）　國のさいはひ。〔老子、六十五〕不㆓以㆑智治㆑國、國之福。〔孔叢子、論勢〕鄰之不㆑修、國之福也。

【國拂】467（クニバラヒ）　其の國から退去を命ぜられること。

【國氛】468（コクフン）　國都の妖氣。一説に、國都の氣象。〔國語、楚語上〕先君莊王爲㆓匏居之臺㆒、高不㆑過㆓望國氛㆒、大不㆑過㆑容㆓宴豆㆒。〔注〕氛、祲氣也。

【國文】469（コクブン）　❶國の文物。〔謝莊、宋孝武帝哀策文〕出㆓國文㆒而分㆓天地㆒、向㆓幽途㆒而異㆓身世㆒。❷其の國固有の文字。其の國固有の文字で書いた文章。❸日本文。和文。國語。

【國文學】470（コクブンガク）　❶國語で綴つた文章の解釋・組織・使用・沿革等を研究する學問。❷國民文學(518)に同じ。

【國兵】471（コクヘイ）　國の軍隊。〔史記、項羽紀〕國兵新破、王坐不㆑安㆑席。〔魏書、崔浩傳〕國兵則不㆑然。

【國秉】472（コクヘイ）　國柄の❶に同じ。秉は、柄と同意。〔史記、絳侯世家〕君後三歲而侯、侯八歲爲㆓將相㆒持㆓國秉㆒。〔漢書、陳平傳〕侯八歲爲㆓將相㆒持㆓國秉㆒。

【國柄】473（コクヘイ）　❶國の政事を左右する權力。國秉。柄は、物の柄ェで、物を動かすための重要な所。〔韓非子、外儲説左下〕君知能謀㆓天下㆒、斷敢行㆓大事㆒、君因專屬㆓之國柄㆒焉。〔管子、立政〕不㆑可㆔以授㆓國柄㆒。〔後漢書、陳元傳〕專操㆓國柄㆒。❷（クニガラ）㋑國家成立の狀態。國體。㋺國または地方の風格・性格。

【國病】474（コクヘイ）　❶國の心配ごと。〔黃庭堅、次㆓韻子由㆒績溪病起被㆑召寄㆓王定國㆒詩〕種㆑萱盈㆓九畹㆒、蘇子憂㆓國病㆒。❷鹽鐵論の篇名。

【國聘】475（コクヘイ）　國の聘問。國の使者として聘問を行ふこと。〔廣川書跋、二、伯庶父尊敦銘〕齊在㆑周爲㆓大國㆒、世與㆑姬爲㆑媾、以㆓國聘㆒者、在㆑名則爲㆓大姜少姜㆒。

【國幣】476（コクヘイ）　❶政府で定めた貨幣。又、國內の貨幣。〔管子、山國軌〕國幣之九在㆑上、一在㆑下。〔金史、李獻甫傳〕宋歲輸㆓吾國幣二十五萬疋㆒。❷國司の廳から神社に奉つた幣帛。國幣社を見よ。

【國幣社】477（コクヘイシャ）　神社の格式。昔は國司の廳から幣帛を奉つた神社。明治以後は、官幣社の次に位し、大・中・小の三級があり、國家が管轄し、內務省から幣帛を捧げた。

【國表】478（コクヘウ）　❶國への道しるべ。國家の盛德を世人に知らせるための詩文をいふ。〔論衡、須頌〕道立㆓國表㆒、路出㆓其下㆒、望㆓國表㆒者、昭然知㆑路、漢德明著、莫㆑立㆓邦表之言㆒、故浩廣之德、未㆑光㆓於世㆒也。❷（クニオモテ）鄉土。くにもと。

【國覓】479（クニマギ）　❶姓氏。〔日用重寶記〕。❷（クニマギ）くにを求めること。〔萬葉集、二十〕くにまぎしつつ。

【國別】480（コクベツ）　國による區別。くにわけ。〔劉向、上㆓戰國策㆒書錄〕因㆓國別㆒者、略以㆑時次。〔隋書、經籍志二〕無㆓諸侯國別㆒。

【國片】481（コクヘン）　kuo² pʻien¹　國產映畫。

【國變】482（コクヘン）　國家の變事。國君の死亡・政局の變亂などをいふ。

【國步】483（コクホ）　國家の運命。國運の進行を步行に喩へて、いふ。〔詩、大雅、桑柔〕於乎有㆑哀、國步斯頻。〔謝莊、孝武帝哀策文〕王室多故、國步方蹇。〔隋書、音樂志下〕神明降㆑嘏、國步維寧。〔裴光庭、宰相等上㆓尊號㆒表〕國步多艱、克清㆓內難㆒。

【國步艱難】484（コクホカンナン）　國勢が振はず、內憂外患が頻りに起つて國運の安全を得ないこと。〔大學衍義補、備㆓規制㆒、圖籍之儲〕自㆓南渡之後㆒、迄㆓於終㆑祚、國步艱難、軍旅之事、日不㆑暇㆑給、而君臣上下、未㆘嘗頃刻不㆗以㆓文學㆒爲㆖務。〔佐原盛純、白虎隊詩〕少年團結白虎隊、國步艱難戍㆓保塞㆒。

【國輔】485（コクホ）　❶國の輔佐役。大臣。〔漢書、張敞傳〕國輔大臣未㆑褒、而昌邑小輩先遷。❷字號。㋑後漢、汪文和(**6－17154**‥330)の字。㋺三國蜀、杜微(**6－14477**‥220)の字。

【國母】486（コクボ コクモ）　❶皇后の稱。萬民の母の意。〔後漢書、和熹鄧后傳〕帝曰、皇后之尊、與㆑朕同㆑體、承㆓

宗廟一、母二天下一、豈易哉。〔魏書、張普惠傳〕何爲命レ之爲二國母一而不レ聽三子二服其親一乎。❷皇太后の稱。正しくは皇后に立たれ、其の御子が帝位に卽かれて、皇太后になられた場合にいふ稱號。

【國謨】487（コクボ） 國家を經營するはかりごと。國策。〔沈約、武帝集序〕國謨蕃政、存者猶多。

【國奉】488（コクホウ） 國の供用。〔管子、山國軌〕苟合二於國奉一者、皆置而劵レ之。

【國峯】489（コクホウ） 清、傅鼐（滿洲の人）（1－939··88）の字。

【國謀】490（コクボウ） 國家のはかりごと。〔戰國、趙策〕寡人宮居、屬二於師傅一、不レ得レ與二國謀一。〔論衡、狀留〕深爲二國謀一、因爲二王輔一。〔顏氏家訓、歸心〕惜レ費者國謀也。

【國木】491（コクボク） 清、林模（6－14551··230）の號。

【國本】492（コクホン） ❶國の根本。國基。〔禮、冠義〕重レ禮所三以爲二國本一也。〔商子、算地〕不レ觀二時俗一、不レ察二國本一。❷太子をいふ。〔宋史、陳桷傳〕桷等議以、國本未レ立、宜レ厚二其禮一。❸人民をいふ。〔南史、郭祖深傳〕人爲二國本一、食爲二人命一。〔遼史、文學上、蕭韓家奴傳〕蓋民者國之本、兵者國之衞、兵不レ調則曠二軍役一、調レ之則損二國本一。❹金、徒單銘（4－10121··74）の字。

【國綱】493（コクマウ） 國のおきて。國法。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕國綱天憲、寘二諸掌握一。

【國滿】494（コクマン） 北齊、張華原（4－9812··942）の字。

【國脈】495（コクミャク） 國家の命脈。國家の壽命。〔潛夫論、思賢〕養レ壽之士、先レ病服レ藥、養レ世之君、先レ亂任レ賢、是以身常安、而國脈永也。〔劉基、田家詩〕淸レ心罷二苞苴一、養レ民瘳二國脈一。

【國民】496（コクミン） ❶國の統治權の下にある人民。くにたみ。國人。〔左氏、昭、十三〕先神命レ之、國民信レ之。〔史記、東越傳〕國民多屬、竊自立爲レ王。〔列女傳、孼嬖傳〕無乃以二國民之故一、行二強于君一。❷其の國內のたみ。土民。〔保元物語、爲義降參〕南都の大衆、云云、國民を催し。❸國家に屬する人間。國籍を有する者。國權に服從する地位では國民といひ、國政に參與する地位では公民または市民といふ。

〖國民捐〗497 kuo^2 min^2 chüan^1 外債償還の目的を以て國民が互に醵金すること。

〖國民軍〗498（コクミングン） ❶西曆一九二四年、第二回奉直戰爭の時、直隸軍の部將馮玉祥・胡景翼等が吳佩孚に反して組織した軍隊の名。❷我が國で行はれた兵役制度に於て、國民兵を以て編制し、陸軍に屬し、主として衞戍又は邊境の警備に充てられた軍隊。

〖國民權〗499（コクミンケン） 國民の法律上の權利。參政權など。

〖國民葬〗500（コクミンサウ） 國民に信望のあつた人の死にあたり、國民が多く會葬する葬儀。大隈重信の葬儀の稱呼に始まる。

〖國民性〗501（コクミンセイ） 其の國民特有の氣質。

〖國民籍〗502（コクミンセキ） 國籍（360）を見よ。

〖國民黨〗503（コクミンタウ） 孫文が創立した政黨。初の名は中國革命同盟會。西曆一九〇五年、我が東京で成立し、三民主義を提唱した。民國元年に至り、始めて中國に於て中國國民黨を組織し、十三年、大改訂を加へて黨綱を定めた。黨の組織は最高黨部・省黨部・縣黨部（或は市黨部）・區黨部及び區分部に分れ、區分部を黨の基本組織とし、最高黨部を黨の最高權力とした。

〖國民兵〗504（コクミンヘイ） 國民兵役（519）に編入せられた者をいふ。

〖國民皆兵〗505（コクミンカイヘイ） 國民のすべてに兵役に服する義務を負はせる制度。

〖國民學校〗506（コクミンガクカウ） ❶民國の舊制度で、男女七歲で入學し四年で卒業する。我が國の尋常小學にあたる。初級小學校（2－1911··45）を見よ。❷我が國で昭和十六年から第二次世界大戰後の改正に至るまでの小學校の稱。

〖國民革命〗507（コクミンカクメイ） 淸朝を倒し、外國の帝國主義を退け、軍閥を打破し、自由平等を原則とする民主政治の確立と、國家の完全な獨立とを目的とした國民的革命運動。西曆一九一一年に第一次革命を起し、十二月、孫文を大統領とした。翌年二月、淸帝が退位し、其の後二次・三次の革命を經、一九二八年の北伐完了を以て大體その目的を達成した。

〖國民會議〗508（コクミンクワイギ） 民國の全國民を代表して、政治方針を決定する會議。民國二十年、國民政府によつて南京に始めて召集された。

〖國民義務〗509（コクミンギム） 一般國民の負擔すべき公法上の義務。納稅の義務の類。

〖國民經濟〗510（コクミンケイザイ） 國家の成員の營む經濟活動の總體。民族的特徵をもち、國家の制限に從ふ。

〖國民教育〗511（コクミンケウイク） ❶國民として必ず受けるべき教育。❷國民としての資質を備へさせ、その本分を知らせるために、國家の施す教育。

〖國民事項〗512（コクミンジカウ） 一國社會の特有する事がらで、各國に通有しない事項。

〖國民主義〗513（コクミンシユギ） 異民族を排斥し、同一民族を以て國家を組織しようとする主義。又、自國民と同一民族を合せて、自國の權力關係の下に置かうとする主義。

〖國民政府〗514（コクミンセイフ） 中華民國國民黨政府。孫文の死後、一九二五年、廣東政府を國民政府と改稱。一九二六年、北伐の軍を起し、一九二八年、首都を南京に定め、中國政府として列國から承認せられた。日支事變中は重慶に移り、一九四五年、太平洋戰爭終了後、南京に還る。翌年、一黨專政を廢し、民主共和國として新發足したが、此の年の七月、既に中國共產黨と內戰を開始、一九四九年、敗れて臺灣の臺北に退いた。

〖國民精神〗515（コクミンセイシン） ❶國民に共通な固有の精神。❷國家のために自己を犧牲にして盡くす、國民の精神。

〖國民道德〗516（コクミンダウトク） ❶一國民に特有な道德。❷國民として特に守らねばならぬ道德。

〖國民內閣〗517（コクミンナイカク） 政治的黨派を超越して組織せられた、擧國一致の內閣。擧國內閣。

〖國民文學〗518（コクミンブンガク） 其の國民特有の文學。國文學。

〖國民兵役〗519（コクミンヘイエキ） 我が國に行はれた兵役制度で、第一國民兵役は後備兵役・補充兵役を終へた者がこれに服し、第二國民兵役は常備兵役・後備兵役若しくは第一國民兵役に服しない滿十七歲以上、滿四十歲以下の男子がこれに服した。

〖國民革命軍〗520（コクミンカクメイグン） 國民黨の組織した軍隊。民國十四年、廣東全境を平定して國民政府を建設し、十五年、北伐の軍を起し、十六年、北京に至つて國民革命を完成した。

〖國民參政會〗521（コクミンサンセイクワイ） 國民政府訓政時期に於て、國民の公意を徵取するために設立した中央民意機關。

〖國民黨黨綱〗522（コクミンタウタウカウ） 中國國民黨の綱領。民國十二年一月一日に公布せられ、孫文の三民主義を高調してゐる。

〖國民的見地〗523（コクミンテキケンチ） 國民としての立場から見ること。

〖國民的自覺〗524（コクミンテキジカク） 國民が國民としての價値又は位置を自ら意識すること。

〖國民政府主席〗525（コクミンセイフシユセキ） 國民政府の主席委員。中華民國の元首として國民政府を代表したが、實際政治上の責任は負はない。

〖國民黨訓政綱領〗526（コクミンタウクンセイカウリヤウ） 民國十七年十月三日に公布した建國過程の訓政期に、政治的訓練を國民に施さうとする政令。

【國務】527（コクム） ❶國家の事に關するつとめ。國家の政務。〔商子、壹言〕國務壹則民應レ用レ事。〔梁武帝、幸二蘭陵一詔〕獄訟稍簡、國務少閑。❷六韜、文韜の篇名。

〖國務員〗528（コクムヰン） 民國の國民革命以前の國務總理及び各部總長。

〖國務院〗529（コクムヰン） 民國國民革命以前の內閣。

〖國務卿〗530（コクムキヤウ） 民國國民革命以前の官名。大總統を輔佐して政務を監督した。

〖國務會議〗531（コクムクワイギ） もと國務總理を主席とした國家政務に關する會議。民國十九年、國民政府會議と改稱し、行政院會議を改めて國務會議といふ。行政院院長・副院長・各部部長・各委員會委員長を以て組織した。

〖國務總理〗532（コクムソウリ） 民國國民革命以前の內閣の首長。

〖國務大臣〗533（コクムダイジン） 日本國憲法によつて內閣を組織する者。內閣の首長たる內閣總理大臣と其の他の國務大臣。

【國名】534コクメイ 國の名稱。國號。〔史記、五帝紀、虞舜者、注〕索隱曰、虞、國名。

【國命】535コクメイ 國家の政令。國の命令。一國の政事。國靈。〔論語、季氏〕陪臣執ニ國命一、三世希レ不レ失矣。〔漢書、成帝紀贊〕王氏始執ニ國命一。〔法言、淵騫〕姦臣竊ニ國命一、何其益乎。〔後漢書、趙岐傳〕宣ニ揚國命一。

〔銜ニ國命一〕536コクメイヲフクム 國の命令を受領する。〔蜀志、馬良傳〕謂レ亮曰、今銜ニ國命一。

【國門】537コクモン ❶國都の城門。〔李白、淮南臥レ病書レ懷寄ニ蜀中趙徵君蕤一詩〕國門遙天外、鄕路遠山隔。❷國都の城門を掌る官。〔周禮、地官、充人〕凡散ニ祭祀之牲一繫ニ于國門一、使レ養レ之。〔注〕國門、謂ニ城門司門之官一、鄭司農云、使レ養レ之、使ニ守レ門者養レ之。❸天子の七祀、諸侯の五祀の一。城門の神、又、これを祀る祠。〔禮、祭法〕王爲ニ羣姓一立ニ七祀一、云云、曰國門、曰國行、云云、諸侯爲レ國立ニ五祀一、云云、曰國門、曰國行。〔疏〕國門、謂ニ城門一也。

【國用】538コクヨウ ❶國家の費用。國度。國費。〔禮、王制〕冢宰制ニ國用一。❷國家の役に立つ。國に用ひられる。又、その者。〔荀子、大略〕口能言レ之、身能行レ之、國寶也、口不レ能言、身能行レ之、國器也、口能言レ之、身不レ能行、國用也。〔注〕國用、賴ニ其言一用也。〔韓詩外傳、二〕君子謀レ之則爲ニ國用一。❸字號。㋑明、于材（**1－252**‥52）の字。㋺明、阮玠（**11－41569**‥5）の字。㋩明、周斌（昌黎の人）（**2－3441**‥436）の字。

【國容】539コクヨウ ❶國家平時の儀制。〔司馬法、天子之義〕古者國容不レ入レ軍、軍容不レ入レ國、軍容入レ國則民德廢、國容入レ軍則民德弱。〔說苑、指武〕司馬法曰、國容不レ入レ軍、軍容不レ入レ國也。❷國中で最もすぐれた美人。國色。〔富嘉謨、麗色賦〕俄而世姝卽國容進、疑自持兮動レ盼、目爛爛兮昭振。〔李白、古風詩〕一百四十年、國容何赫然。

【國老】540コクラウ ❶卿大夫の、致仕して後も卿大夫の待遇を受ける者をいふ。〔周禮、夏官、羅氏〕中春羅ニ春鳥一、獻レ鳩、以養ニ國老一。〔禮、王制〕養ニ國老于上庠一。〔疏〕國老、謂ニ卿大夫致仕者一。〔左氏、僖、二十七〕國老皆賀ニ子文一。〔會箋〕國老者、卿大夫之致仕者、而其國猶以ニ大夫禮一待レ之。〔左氏、哀、十一〕子爲ニ國老一、待レ子而行。❷國家の元老。〔戰國、宋策〕罵ニ國老諫臣一、爲ニ無顏之冠一以示レ勇。❸甘草（**7－21643**‥57）の異名。〔本草、甘草〕釋名、國老、弘景曰、此草最爲ニ衆藥之主一、經方少レ有ニ不レ用者一、猶如ニ香中有ニ沈香一也、甄權曰、調ニ和衆藥一有レ功、故有ニ國老之號一。❹藩主を輔けて領地を支配する者。家老。

〔國老談苑〕541コクラウダンエン 書名。一卷。夷門隱叟王君玉撰といふ。もと國老閒談といふ。宋の太祖・太宗・眞宗の三朝の雜事を記す。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【國勞】542コクラウ 國家に對する功勞。國功。〔管子、大匡〕無ニ國勞一毋ニ專予レ祿。

【國亂】543コクラン ❶國內のみだれ。又、國內の反亂者。〔史記、晉世家〕反不レ誅ニ國亂一。❷國が亂れる。次項を見よ。

〔國亂則思ニ良相一〕544クニミダルレバリヤウシヤウヲオモフ 國家が亂れた時には立派な相を得たいと思ふ。〔史記、魏世家〕家貧則思ニ良妻一、國亂則思ニ良相一。

【國吏】545コクリ 國の役人。〔史記、淮南衡山傳〕論ニ國吏二百石以上及比者一。

【國利】546コクリ 國家の利益。國益。〔左氏、成、六〕國利君樂、不レ可レ失也。〔後漢書、劉陶傳〕或欲三因緣行レ詐、以賈ニ國利一、國利將レ盡、取者爭競。

〔國利民福〕547コクリミンプク 國家の利益と人民の幸福。

【國流】548コクリウ 晉、戴洋（**5－11685**‥137）の字。

【國立】549コクリツ 國家が設立・管理すること。

〔國立學校〕550コクリツガクカウ 國家が設置し、文部大臣の所管に屬する學校。舊稱、官立學校。

〔國立銀行〕551コクリツギンカウ 明治五年に政府が設立した銀行で、商業上の金融機關の設立と政府發行の不換紙幣の消却處分とを目的とした。資本金五萬圓以上、其の數は一五三あつたが、明治三十一年、滿期と共に私立銀行となつた。なほ、此等の銀行は紙幣の發行權を與へられてゐたが、明治十五年に日本銀行が創立せらるるに及んで、翌年から其の權利を失つた。

〔國立公園〕551′コクリツコウヱン 國家が公園として管理する、自然の風景地帶。

【國律】552コクリツ 國のおきて。國法。〔韓非子、飾邪〕當下趙之方明ニ國律一從ニ大軍一之時上。

【國良】553コクリヤウ ❶國中で一流の立派な人士。〔管子、大匡〕不レ聞レ敬ニ老國良一。〔張九齡、送ニ幽州王長史赴一レ軍序〕愼擇ニ軍佐一、敷求ニ國良一。❷元、鮑同仁（**12－46074**‥107）の字。

【國領】554コクリヤウ 武家時代、朝臣に直屬した土地。〔東鑑、十〕建久元年八月三日、河內國國領。

【國梁】555コクリヤウ ❶清、滿洲正黃旗人。姓は哈達納喇氏。字は隆吉、又、丹中。號は笠民。本名は納國棟。敕を奉じて改名した。乾隆の進士。官は貴州糧驛道。書室を澄悅堂といひ、著に澄悅堂集がある。❷字號。㋑元、張羽材（**4－9812**‥793）の字。㋺元、張與材（**4－9812**‥1560）の字。

【國樑】556コクリヤウ 元、張羽材（**4－9812**‥793）の字。

【國龍】557コクリヨウ 明、邊彥駱（**11－39216**‥190）の字。

【國力】558コクリヨク 國のちから。國の持つ富力、又、兵力。〔商子、農戰〕故民不レ榮、則國力博。〔唐書、李德裕傳〕度支多遷延、以困ニ國力一。

【國廩】559コクリン 一國の財貨を藏する倉庫。〔吳越春秋、句踐伐吳外傳〕大夫種曰、臣當レ卜ニ之於天一、吳民旣疲ニ於軍一、困ニ戰鬪一、市無ニ赤米之積一、國廩空虛、其民必有ニ移徙之心一、寒就ニ蒲嬴於東海之濱一。

【國令】560コクレイ 國の政令。〔周禮、春官、內史〕執ニ國灋及國令之貳一、以攷ニ政事一、以逆ニ會計一。

【國禮】561コクレイ 梁、何敬容（**1－511**‥253）の字。

【國靈】562コクレイ 國命（535）に同じ。靈は命。〔法言、淵騫〕或問ニ循吏一、曰、吏也、游俠曰、竊ニ國靈一也。〔注〕靈、命也。

【國曆】563コクレキ ❶國家の運命。國運。〔江淹、蕭驃騎讓ニ豫司二州一表〕國曆惟耀、則蕃伯絹ニ其才一、朝緯伊序、則方牽司ニ其度一。❷政府で認めた曆。

【國論】564コクロン ❶國家の大計に關する議論。〔漢書、薛宣傳〕經術文雅、足下以謀ニ王體一、斷中國論上。〔歐陽脩、謝ニ觀文殿學士刑部尙書一表〕晚綴ニ宰寮一、俾レ聞ニ國論一。❷滿洲語、固倫の音譯。國の意。又、尊貴の意。〔金史、百官志一〕太祖以ニ都勃極烈一嗣レ位、太宗以ニ諳版勃極烈一居レ守、諳版、尊大之稱也、其次曰ニ國論忽魯勃極烈一、國論、言レ貴、忽魯、猶ニ總帥一也、又有ニ國論勃極烈一、或左右置、所謂國相也。❸國全體の輿論。國民一般の主張。

【國王】565コクワウ ❶封爵の名。其の第一に位する。漢から明に至るまで行はれた。宋元二代は、宋の淮海國王、元の木華黎國王の如く、直接、國王を以て封號とし、清代は親王と稱した。〔通典、職官、封爵〕漢、國王・國侯・帝侯三等、云云、隋有ニ國王・郡王・國公・郡公・縣公・侯・伯・子・男、凡九等一。❷君主制體の國に於ける元首をいふ。

〔國王恩〕566コクワウノオン 國王が國民の生命財產など、日常生活を護つてくれる恩。四恩（**3－4682**‥69）を見よ。〔釋氏要覽〕恩有レ四焉、一、父母恩、二、師長恩、三、國王恩、四、施主恩。

〔國王父母〕567コクワウフボ 佛 般若をいふ。

【愛レ國】568クニヲアイス 國を愛する。〔戰國、西周策〕周君豈能無レ愛レ國哉。

【醫レ國】569クニヲイス 國政の亂れを治める。〔國語、晉語八〕上醫醫レ國、其次救レ人、固醫官也。〔黃庭堅、上ニ蘇子瞻一詩〕人言可レ醫レ國、何用ニ太早計一。

【享レ國】570クニヲウク 人君が位に居ることをいふ。〔書、無逸〕中宗之享レ國、七十有五年。

【賣レ國】571クニヲウル 私利のために國の機密等を他にもらし與へる。〔史記、晉世家〕鄭人或賣ニ其國於秦一。〔史記、蘇秦傳〕左右賣レ國、反覆之臣也。

【興レ國】572クニヲオコス 國勢を盛にする。〔曹植、求ニ自試一表〕事レ君貴ニ於興レ國。

【杖レ國】573クニニツヱツク 古、七十歲以上の老人が國內に於て杖をつき用ひたこと。〔禮、王制〕七十杖ニ於國一、八十杖ニ於朝一。

【肇レ國】574クニヲハジム 初めて國を建てる。〔書、酒誥〕乃穆考文王、肇レ國在ニ西土一。

【開レ國】575クニヲヒラク 人を封じて諸侯とする。開レ國承レ家を見よ。

〔開レ國承レ家〕576クニヲヒラキイヘヲウク 初めて國を建て、家を繼承する。〔易、師〕上六、大君有レ命、開レ國承レ家。〔吳志、陸抗傳〕臣聞、開レ國承レ家、小人勿レ用。

【亡レ國】577 クニヲホロボス　國をほろぼす。〔禮、射義〕賁軍之將、亡レ國之大夫、與爲二人後一者不レ入。

【就レ國】578 クニニツク　領國に歸る。又、與へられた領國に赴く。〔史記、絳侯世家〕上曰、前日吾詔二列侯一就レ國、或未レ能行、丞相吾所レ重、其先率レ之、乃免レ相就レ國。〔漢書、高帝紀上〕夏四月、諸侯罷二戲下一各就レ國。

【許レ國】579 クニニユルス　己が身を捨てて國家のために盡す。〔晉書、陸玩傳〕以レ身許レ國、義忘二曲讓一。〔陸游、七十二歲吟詩〕讀レ書似下走二名場一日上、許レ國如下騎二戰馬一時上。

【國安用】580 コクアンヨウ　國用安(598)を見よ。

【國爲レ墟】581 クニキヨトナル　國都が空しい丘になる。國都の亡びること。〔呂覽、貴直〕使二人之朝爲レ草、而國爲レ墟。

【國歌會】582 コクカクワイ　歌の會。和歌の會。〔近古史談、織篇、右府營二皇宮二〕近衞公國歌會、盛二餻團於三寶盤一。

【國歸父】583 コクキホ　春秋、齊の卿。謚は莊子。魯に使した時、言動が禮にかなつてゐたので、臧文仲に賞せられた。〔左氏、僖、二十八、二十九〕。

【國興阿】584 コクコウア　清、蒙古正黃旗人。姓は赫舍哩氏。乾隆中、雲南・金を征し、嘉慶中、陝西の教匪を討ち、皆捷つ。官は伊犂鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百五〕。

【國秀集】585 コクシウシフ　書名。三卷。唐、芮挺章編。國中の秀才九十人の詩二百二十首を錄す。〔四庫提要、集、總集類〕。

【國寫田】586 コクシヤデン　王朝時代、諸國で、六年以上調錢を貢せず計帳を進獻しない戶の田を沒收して公用に充てた田地。〔類聚三代格、六〕望請行二計帳務一之日、且令レ進二手實一、且令レ貢二調物一、若不レ進者、沒二彼戶田一爲二國寫田一。

【國上﨟】587 クニジヤウラフ　地方にゐる貴婦人。〔好色一代女、一〕これを國上﨟と云へり。

【國津社】588 クニツヤシロ　國つ神を祭つた社。國社。

【國津物】589 クニツモノ　其の國に產する物。土物。

【國淸寺】590 コクセイジ　寺の名。浙江省天台縣天台山の南麓に在る天台宗の本山。隋の開皇の時、僧智顗の創建になる。唐の僧一行、算を此處に學ぶ。淸の雍正十年、重ねて建つ。

【國廚佃】591 コクチユウデン　平安朝時代、太政官の廚用に給した田地。〔三代實錄、四十七〕仁和二年二月八日、聽下信濃國以二乘田三十町一營中國廚佃上。

【國乳房】592 クニノチブサ　國の恩惠。〔淸原元輔集〕日の本を後安くぞ思ひぬる、國のちぶさのたのもしきかな。

【國博士】593 クニノハカセ　❶古、我が國人で博士となつた者の稱。〔孝德紀〕以二沙門旻法師高向史玄理一、爲二國博士一。❷大寶令の制度による國學の教授。國每に一人を置き、學生の教授を掌らせた。〔續日本紀、三〕大寶三年三月丁丑、依レ令國博士、於二部內及傍國一、云云、若傍國無二人採用一、則申レ省。

【國被レ邊】594 クニヘンヲカウムル　領國が邊境の地帶にあることをいふ。〔史記、韓王信傳〕詔徙二韓王信一、王二太原一、以北備レ禦レ胡、都二晉陽一、信上書曰、國被レ邊、匈奴數入二晉陽一、去レ塞遠、請治二馬邑一。〔漢書、韓王信傳〕國被レ邊。〔注〕師古曰、被、猶レ帶也。

【國夫人】595 コクフジン　列侯の母、又は高官の妻、特功ある者の封稱。南朝宋に始まる。〔通典、職官、內官〕宋鄱陽縣侯孟懷玉、上レ母擅拜二國夫人一、有レ奏許レ之、云云、隋高涼女子洗氏、世爲二南越首領一有レ功、云云、後冊爲二譙國太夫人一、仍開二譙國太夫人幕府一、置二長史以下官屬一。〔事物紀原、嬪御命婦部、國夫人〕宋鄱陽侯孟懷玉母、拜二國夫人一、洎レ隋、高涼洗氏、以レ功封二譙國大夫人一、此夫人封レ國之始也、見二通典一。

【國奉行】596 クニブギヤウ　鎌倉時代、鎌倉に在つて諸國を分掌し、其の國の治亂を察し、國人の雜訴・犯罪等の事をも聽斷した役。〔東鑑、三〕元曆元年七月十六日、國奉行藤九郞盛長。

【國分寺】597 コクブジ　聖武天皇の天平十三年に國家鎭護のため、諸國に建立せられた官寺。〔續日本紀、十四〕天平十三年正月丁酉、三千戶施二入諸國國分寺一、以充下造二丈六佛像一之料上。

【國用安】598 コクヨウアン　金、淄州の人。先の名は安用。本名は咬兒。初、元に降つたが、天興の初、金に歸し、姓名を完顏用安と賜はり、復、元に降る。後、宋に降つて浙東總管となり、戰に敗れ、水に投じて死す。〔金史、一百十七〕。

【不レ同レ國】599 クニヲオナジクセズ　同じ國に住まぬ。兄弟の讐にいふ。〔公羊、莊、四、諱二與レ讐狩一也、注〕禮、父母之讐、不二同戴一レ天、兄弟之讐、不レ同レ國。

【造レ國手】600 クニヲツクルテ　一國を創造する力のある手。すぐれたはたらきのある者をいふ。〔海錄碎事、人事、才能〕陳覺曰、嗣主言、宋齊丘本造レ國手。

【國友善庵】601 クニトモゼンアン　名は尙克。初名は尙友。字は伯庸・溫卿。通稱は吉之助・萬五郞・與五郞。號は善庵。高橋坦室・藤田幽谷を師とす。官は水戶藩儒・彰考館編輯・弘道館教授頭取・小姓頭取。文久二年二月二十九日歿す、年六十二。後年、正五位を贈られた。著に閑道錄・管見隨鈔・婚姻輯略・善庵遺稿・忠經・朋黨廣義・廣義之餘がある。〔水戶文籍考〕。

【國一禪師】602 コクイツゼンジ　唐の高僧、徑山の道欽禪師をいふ。代宗から號を國一と賜はり、德宗の貞元八年に寂し、大覺禪師と謚せられた。〔宋高僧傳、九〕・〔傳燈錄、四〕。

【國之爪牙】603 クニノサウガ　國家を守る驍勇の武臣。爪牙とは、獸が其の身を守るのに喩へて言つた語。〔漢書、李廣傳〕(廣)上書自陳謝レ罪、上報曰、將軍者國之爪牙也。

【國之司直】604 クニノシチヨク　邦國の正直（セイチヨク）を守り行ふ者。司直は後、司法官の名となる。〔詩、鄭風、羔裘〕彼其之子、邦之司直。〔傳〕司、主也。〔傳疏〕主直者、猶二論語云レ主二忠信一也。〔漢書、蓋寬饒傳贊〕蓋寬饒爲二司臣一、正レ色立二於朝一、雖二詩所謂國之司直一、無二以加一也。

【國之大事】605 クニノダイジ　國家の重大事件。戰爭をいふ。〔周禮、地官、小司徒〕凡國之大事致レ民。〔注〕大事、謂二戎事一也。

【國之猛狗】606 クニノマウク　國政を執る姦臣をいふ。國狗(126)の❷を見よ。

【國爾忘レ家】607 クニノミニシテイヘヲワスル　國家のことだけを念頭におき、自分の家のことは考へない。〔六部成語補遺、吏部、國爾忘レ家、注解〕言下臣民心在二於國一、而自忘中其家上也。

【國泰民安】608 クニヤスクタミヤスシ　國家が泰平で人民が安穩である。〔夢粱錄、山川神〕忠淸廟、在二吳山一、其神、姓伍、名員、乃楚大夫奢之子、自レ唐立レ祠、至レ宋亦祀レ之、每歲海潮大溢、衝二激州城一、春秋醮祭、詔命二學士院一、撰二青詞一、以祈二國泰民安一、累二錫美號一、曰二忠武英烈顯聖福安王一。

【國無二捐瘠一】609 クニニエンセキナシ　凶年にも國に流浪飢餓の民のないことで、國家に豫備の貯へがあることをいふ。捐瘠は、失ひやせること。〔漢書、食貨志上〕故堯禹有二九年之水一、湯有二七年之旱一、而國亡二捐瘠一者、以二畜積多而備先具一也。

【國無二二君一】610 クニニニクンナシ　一國に二人の君主は居ない。一國の統治者は必ず一人なるべきことをいふ。〔禮、喪服四制〕天無二二日一、土無二二主一、國無二二君一、家無二二尊一。〔日本書紀、推古紀〕皇太子親肇作二憲法十七條一、云云、十二曰、國司國造、勿レ斂二百姓一、國非二二君一、民無二兩主一。

【國勒明阿】611 コクロミンア　淸、滿洲鑲白旗人。姓は富察氏。官は乾嘉の閒、壽春鎭總兵。河南の教匪を平げ、巴里坤總兵となる。〔國朝耆獻類徵、三百十九〕。

【爲レ國惜レ身】612 クニノタメミヲヲシメ　國家のためにその身を愛惜せよ。〔書言故事、死喪類〕慰レ喪曰、仰冀爲レ國惜レ身、隋祁國公蘇威、爲二右僕射一、以二母憂一去レ職、柴毀骨立、上敕レ威曰、公德行高レ人、情寄殊重、必須二抑割一、爲レ國惜レ身、朕之於レ卿爲二君父一、宜下依二朕旨一、以レ禮自存上、未レ幾、起令レ視レ事。

【先レ國後レ己】613 クニヲサキニシテオノレヲノチニス　國家の事を先にし、自己の事を後廻しにする。〔左氏、昭、二〕忠信、禮之器也、卑讓、禮之宗也、辭不レ忘レ國、忠信也、先レ國後レ己、卑讓也。

【體レ國立レ法】614 クニヲタイシハフヲタツ　國家の組織を形作り法制を制定する。〔大學衍義補、愼二刑憲一、戒二濫縱之失二〕自レ古以來、體レ國立レ法、未レ有下盜二一錢一而死上也。

【體レ國經レ野】615 クニヲタイシヤヲケイス　地わりをして國都を建て、里數をはかつて鄉邑を畫すること。國は國都。〔周禮、天官、序官、冢宰〕體レ國經レ野、設レ官分レ職、以爲二民極一。〔注〕體、猶レ分也、經、謂レ爲二之里數一。

【名レ國爲レ邦】616 クニヲナヅケテハウトナス　國を邦と呼ぶ。辰韓

の用語。〔海錄碎事、地、夷狄〕名レ國爲レ邦、弓爲レ弧、賊爲レ寇、行酒爲二行觴一、相呼皆爲レ徒、此辰韓風俗也。

【國破山河在】617（クニヤブレテサンカアリ） 都は破れ人民は離散したが、唯自然の山河のみは依然として昔のままにある。〔杜甫、春望詩〕國破山河在、城春草木深、感レ時花濺レ淚、恨レ別鳥驚レ心、烽火連二三月一、家書抵二萬金一、白頭搔更短、渾欲レ不レ勝レ簪。

【治レ國若レ耨レ田】618（クニヲサムルハタヲクサギルゴトシ） 治國の要は、農夫が田畑の雜草を除くと同樣で、人民の害を除去するにある。〔淮南子、說山訓〕治レ國者若レ耨レ田、去二害レ苗者一而已。

【去レ國三巴遠】619（クニヲサツテサンパトホシ） 國都長安を去つて遠く三巴の地に來たといふ意で、望鄉の情を述べた句。三巴は、蜀の地。〔盧僎、南樓望詩〕去レ國三巴遠、登レ樓萬里春、傷レ心江上客、不二是故鄉人一。

【國不二以レ利爲一レ利】620（クニハリヲモツテリトナサズ） 國家を治めるには、普通にいふ所の利を以て利益とはしない。義を以て利とするに對していふ。〔大學〕小人之使レ爲二國家一、菑害並至、雖レ有二善者一亦無二如レ之何一矣、此謂下國不二以レ利爲一レ利、以レ義爲上レ利也。

【國無レ小不レ可レ易】621（クニニセウナシアナドルベカラズ） 國である以上、弱小であつても侮ることは出來ない。〔左氏、僖、二十二〕臧文仲曰、國無レ小、不レ可レ易也、無レ備、雖レ衆不レ可レ恃也。〔會箋〕言レ不レ可下以二其小一而輕易上也。

【伐レ國不レ問二仁人一】622（クニヲウツニジンジンニトハズ） 他國を征伐する時には、其の可否を仁人に問はない。〔漢書、董仲舒傳〕魯君問二柳下惠一、吾欲レ伐レ齊、何如、柳下惠曰、不可、歸而有二憂色一、曰、吾聞、伐レ國不レ問二仁人一、此言何爲至二於我一哉、徒見レ問耳、且猶羞レ之、況設レ詐以伐レ吳虖。

【國雖レ大好レ戰必亡】623（クニダイナリトイヘドモタタカヒヲコノメバカナラズホロブ） 強大な國でも好んで戰爭をすれば必ず滅亡する。人君は戰爭を好んではならぬの意。〔司馬法、仁本〕國雖レ大好レ戰必亡、天下雖レ安忘レ戰必危。

【傾レ國傾レ城漢武帝】624（クニヲカタムケシロヲカタムクカンノブテイ） 漢の武帝が絕世の美人李夫人の容色におぼれたことを述べた語。傾レ國傾レ城は、人の心をとろかして國家や城邑をも滅ぼす程の美人の意。傾國傾城(1—1038··49)を見よ。〔劉廷芝、公子行〕花際徘徊雙蛺蝶、池邊顧步兩鴛鴦、傾レ國傾レ城漢武帝、爲レ雲爲レ雨楚襄王。

【安レ國者以レ積レ賢爲レ道】625（クニヲヤスンズルモノハケンヲツムヲモツテミチトナス） 國家を泰平ならしめようと心がける者は、賢人を朝廷に集める。〔後漢書、李固傳〕臣聞、氣之淸者爲レ神、人之淸者爲レ賢、養レ身者以レ練レ神爲レ寶、安レ國者以レ積レ賢爲レ道。

【國之利器不レ可二以示一レ人】626（クニノリキハモツテヒトニシメスベカラズ） 賞罰の權は人君の地位を保つに大切なものであるから、やたらに用ひるべきではない。一說に、國之利器は、知識・才能の喩。己の知識才能は、これをあらはに示すと禍を招くから、人に示してはならない意。〔老子、三十六〕柔勝レ剛、弱勝レ強、魚不レ可レ脫二於淵一、國之利器、不レ可二以示一レ人。〔韓非子、喩老〕賞罰者邦之利器也、在レ君則制レ臣、在レ臣則勝レ君、君見レ賞、臣則損レ之以爲レ德、君見レ罰、臣則益レ之以爲レ威、人君見レ賞、而人臣用二其勢一、人君見レ罰、而人臣乘二其威一、故曰、邦之利器、不レ可二以示一レ人。

【⿴囗荅】4799 タイ 〔字彙補〕通奈切 隊

人名。〔字彙補〕⿴囗荅、人名。

【⿴囗兔】4800 ゲツ 月(**5—14330**)に同じ。〔字彙補〕⿴囗兔、道書月字。

【⿴囗乖】4801 クヮイ 義未詳。〔五音篇海〕⿴囗乖、音乖。

【⿴囗⿱允灬】4802 エン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗⿱允灬、音苑。

九畫

【圔】4803 アツ エチ 〔集韻〕乙轄切 黠

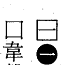
馲駝の聲。馲駝は、らくだ。〔集韻〕圔、馲駝聲。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕椎レ肥牛呼レ牟、載レ實駝鳴レ圔。〔訓義〕牛之聲曰レ牟、駝之鳴曰レ圔。

【圌】4804 ［一］セン ゼン 〔集韻〕淳沿切 先 ［二］スイ ズイ 〔集韻〕是爲切 ㄔㄨㄟˊ ch‘uei^{2} 支

［一］❶**まるい。**〔玉篇〕圌、圜也。❷**かご。**篅(**8—26255**)に同じ。〔集韻〕篅、說文、判レ竹圜以盛レ穀也、一曰、竹器、或作レ圌。［二］**山名。**江蘇省丹徒縣の東北。險要の地で、圌山營把總を設く。〔集韻〕圌、山名、在二吳郡一。〔九域志〕縣有二圌山寨一。

【⿴囗垔】4805 エン 煙(**7—19203**)の籀文。〔集韻〕煙、籀作レ⿴囗垔。

【圍】4806 ［一］ヰ 〔集韻〕于非切 ㄨㄟˊ wei^{2} 微 ［二］ヰ 〔集韻〕于貴切 未


小篆

［一］❶**守る。**〔說文〕圍、守也、从レ囗韋聲。❷**かこむ。**囗(**3—4675**)に通ず。〔說文通訓定聲〕圍、叚借爲レ囗。㋑とりまく。めぐらす。〔周禮、考工記、盧人〕以二其一一爲二之被一、而圍レ之。〔注〕圍レ之、圜レ之也。㋺かこみ攻める。〔正字通〕圍、環繞攻レ城也。〔史記、孔子世家〕楚圍レ蔡。㋩狩する。禽獸をかこみ獲る。〔禮、曲禮上〕國君春田不レ圍レ澤。〔禮、王制〕天子不二合圍一。❸**かこみ。**めぐり。〔漢書、夏侯嬰傳〕乃解二其圍一角一。〔南史、宋高祖紀〕設二長圍一以守レ之。❹**まはり。**或はひとまはり五寸といひ、三寸といひ、八尺といひ、或はひとかかへをいふといひ、又、直徑一尺の物のまはりであるともいふ。〔韻會〕圍、一圍五寸、又云、一圍三寸、又云、一抱謂二之圍一。〔莊子、人閒世〕見二櫟社樹一、其大蔽レ牛、絜レ之百圍。〔釋文〕李云、徑尺爲レ圍。〔莊子、人閒世〕求二狙猴之杙一者斬レ之、三圍四圍。〔釋文〕圍、崔云、環八尺爲二一圍一。❺**つつむ。**〔廣雅、釋詁四〕圍、裹也。❻**あまねし。**〔易、繫辭上〕範二圍天地之化一而不レ過。〔注〕範圍者、擬二範天地一、而周二備其理一也。〔九家注〕圍者、周也。❼**つく。**〔方言、十二〕圍、就也。〔廣雅、釋詁三〕圍、就也。❽**さかひ。**區域。かぎり。境界。〔詩、商頌、長發〕帝命式二于九圍一。〔傳〕九圍、九州也。〔禮、孔子閒居〕帝命式二于九圍一。〔注〕九圍、九州之界也。❾韋(**12—43108**)に通ず。〔史記、曹相國世家〕渡二圍津一、〔注〕索隱曰、圍、與レ韋同、古今字變耳。❿衞 (**10—34074**) に通ず。〔管子、地員〕以圍二羣殃一、〔注〕圍、同レ衞。［二］**めぐる。**〔集韻〕圍、繞也。［邦］❶**かこふ。**㋑かこむ。とりまく。㋺かばふ。㋩かくして置く。かくまふ。㋥たくはへておく。❷**かこひ。**㋑かこふこと。㋺かこふもの。塀など。㋩たくはへをくこと。㋥茶室。數寄

屋。㋭周圍。まわり。㋬かこひ者の略。外妾。

名乘　モリ。

【圍邑】1 ヰイフ　軍隊に圍まれた村。〔周禮、夏官、環人〕揚二軍旅一降二圍邑一。〔注〕圍邑欲レ降者、受而降レ之。

【圍腰】2 ヰエウ　腰の周圍。又、腰に卷く。〔庾信、王昭君詩〕圍腰無二一尺一、垂淚有二千行一。〔楊萬里、舟泊二吳江一詩〕江妃舞倦湊レ波襪、玉帶圍レ腰攬レ鏡初。

【圍腰兒】3 wei² yao¹ êrh　ひろい腰帶。腹卷。

【圍掩】4 ヰエン　とりまきおほふ。又、そのもの。〔高啓、香水谿詩〕絳綃圍掩怯二新涼一、歸臥芙蓉池上殿。

【圍圓】5 wei² yüan²　圓の大きさ。

【圍項】6 ヰカウ　㊀項羽を取りかこむ。〔沈炯、代二王僧辯一又奉二勸進表一文〕止レ紂七步、圍レ項三重。㊁wei² hsiang⁴　襟卷。

【圍閘】7 wei² cha²　水門。

【圍陷】8 ヰカン　かこみ陷れる。〔晉書、天文志中〕騎二萬、圍二陷郛城一、殺二略五千餘人一。

【圍棊】9 ヰキ ヰゴ　棊。圍碁。古は弈といふ。或は桀の臣、烏曹の作といひ、或は帝堯が其の子丹朱に敎へるために作つたといひ、或は帝舜が商均に敎へるために作つたといふ。古制は縱橫各十七道、唐以後は縱橫各十九道、合計三百六十一路で、今の制となる。又、碁を打つことをいふ。圍棋。圍碁。〔法言、問道〕曰、何必刑名、圍棊擊劍、反目眩形、亦皆自然也。〔太平御覽、工藝、圍碁〕博物志曰、堯造二圍棊一、丹朱善レ之。〔蜀志、費禕傳〕別求レ共二圍棊一。〔晉書、謝安傳〕圍棊賭二別墅一。〔和漢三才圖會、嬉戲部、棊〕廣博物志云、桀臣烏曹作二賭博圍棋一、或云、堯王造二圍棋一、以敎二子丹朱一、或云、舜王以二子商均愚一、作二圍棊一以敎レ之、罫枰線間方目、以レ漆畫レ之、縱橫各十九道、棊子白黑、共三百六十、象二朞日數一、九星象二九耀星一、五雜組云、古今之戲流、傳最久遠者、莫レ如二圍棊一、其迷二惑人一亞二酒色一、以爲レ難、則村童俗士、皆精二造其玄妙一、以爲レ易、則有二聰明才辯人、累レ世究レ之、而不レ能二精者一、又邯鄲淳藝經、棊局縱橫各十七道、合二百八十九道、其製視レ今、少二七十一道一、漢魏以前、想皆如レ是矣。

【圍碁】10 ヰキ ヰゴ　圍棊(9)に同じ。

【圍龜】11 ヰキ　複姓。〔萬姓統譜〕圍龜、芈姓、楚鬬圍龜之後。〔潛夫論、志氏姓〕黑氏・圍龜氏・旣氏云云、皆子姓也。

【圍巾】12 wei² chin¹　肩掛。ショール。

【圍掛】13 wei² kua⁴　卓子かけ。

【圍裹】14 ヰクワ　かこみつつむ。〔宋史、河渠志七〕瀕湖之民、每以二葑草一圍裹、種二植荷花一、駸駸不レ已。

【圍環】15 wei² huan²　かこみめぐらす。

【圍灌】16 ヰクワン　城をかこんで水をそそぎ入れる。〔國語、晉語九〕襄子走二晉陽一、晉師圍而灌レ之、沈竈產レ鼃、民無二畔意一。

【圍徑】17 ヰケイ　周圍と直徑。〔隋書、律曆志上〕其長短及口空之圍徑並同。

【圍擊】18 ヰゲキ　かこみうつ。〔史記、李將軍傳〕單于以二兵八萬一、圍二擊陵軍一。

【圍竭】19 ヰケツ　かこんで攻めほろぼす。〔逸周書、文傳解〕土狹無レ食、可二圍竭一。

【圍護】20 ヰゴ　かこみまもる。〔王庭筠、舍利塔詩〕天龍圍護夜叉守、終劫不三敢生二波浪一。

【圍攻】21 ヰコウ　かこみせめる。〔戰國、趙策〕今者齊韓相方、兩國圍攻焉。〔後漢書、袁紹傳〕圍攻五日。

【圍攻線】22 ヰコウセン　軍隊用語。軍隊が圍攻した時の連絡線。

【圍塹】23 ヰザン　とりまいた濠。〔魏志、武帝操傳〕毀二土山・地道一作二圍塹一、決二漳水一灌レ城。

【圍子】24 ヰシ　㊀まるい點。丸。圓。圈字。〔太平廣記〕陰官取二紙一幅一、以二筆墨一、畫作二九箇圍子一、別取二青筆一、於二第一箇圍子中一、點二一點一而與レ之。㊁wei² tzŭ　㋑車の周圍を被ふ布。㋺壘。とりで。

【圍司】25 ヰシ　昔、禁中で出納及び管鑰を司った「職。

【圍嘴】26 wei² tsuei³　よだれかけ。

【圍牆】27 wei² ch'iang²　かこひ。圍障。

【圍城】28 ヰジヤウ　かこまれた城。〔史記、魯仲連傳〕曷爲久居二此圍城之中一而不レ去。〔墨子、號令〕圍城之重禁、敵人卒而至、嚴令二吏民一、無二敢讙囂、三聚並行一。

【圍尺】29 ヰシヤク　㊀周圍一尺あること。〔范成大、嚴子文以二春雪數作一用爲レ瑞云云詩〕圍尺庸何傷、袤丈乃非レ瑞。㊁wei² ch'ih³　木材の周圍をはかるに用ひるものさし。灘尺ともいふ。

【圍守】30 ヰシユ　かこみまもる。〔史記、吳王濞傳〕使二人圍守一。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕圍二守鄴城一。

【圍取】31 ヰシユ　かこみとる。〔吳志、吳主權傳、注〕權以二水軍一圍取、得二三千餘人一。

【圍繞】32 ヰゼウ ヰネウ　ぐるりと取りまく。圍擁。圍環。〔爾雅、釋山、大山宮小山霍、注〕宮、謂三圍二繞之一。〔後漢書、周嘉傳〕賊圍繞數十重、白刃交集。〔吳志、孫堅傳〕圍繞數重。

【圍阻】33 ヰソ　とりまいてはばむ。又、とりまかればまれる。〔管子、國蓄〕危三懾圍二阻千乘萬乘之間一。

【圍拿】34 wei² na²　かこんで捕へる。

【圍桌】35 wei² chuo¹　テーブルの前に垂らす布。

【圍鬧】36 ヰダウ　寄り集まつてさわぐ。〔福惠全書、刑部名、人命中、自盡〕若遇レ有二率レ衆圍鬧、持レ棍行レ兇之徒一。

【圍地】37 ヰチ　山や川でかこまれた土地。〔孫子、九變〕圍地則謀。

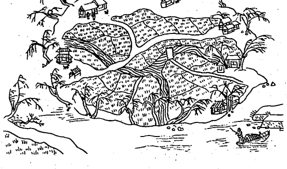
【圍竹】38 ヰチク　周圍をかこむ竹。〔王褒、和二從弟祐山家一詩〕衆林積爲レ籟、圍竹茂成レ埤。

【圍場】39 ヰヂヤウ　㊀狩場をかこむこと。轉じて、田獵の場所。〔宋史、禮志二十四〕太祖建隆二年、始校二獵於近郊一、先出二禁軍一爲二圍場五坊一、以二鷙禽細犬一從、帝親射二走兎三一、從官貢レ馬稱レ賀。〔遼史、天祚帝紀二〕八月丙寅、以二圍場使阿不一爲二中軍都統一。㊁縣名。淸初、天子の狩した所。木蘭圍場ともいふ。滿洲熱河省に屬す。木蘭圍場(6－14415‥476)を見よ。

【圍住】40 wei² chu⁴　取りかこむ。

【圍陣】41 ヰヂン　敵をかこみ攻める陣形。諸葛亮がよく之を用ひたといふ。〔晉書、職官志〕帝爲二晉王一、委二任陳勰一、使レ典二兵事一、及二蜀破後一、令三勰受二諸葛亮圍陣用兵倚伏之法一。

【圍田】42 ヰデン　堤防をめぐらした耕作地。藪澤地帶などでは、水害を防ぐために、相當廣範圍の耕作地の周圍に堤防を築く。〔農政全書、圍田圖說〕圍田、築レ土作レ圍以繞レ田也、蓋江淮之間、地多二藪澤一、或瀕レ水不時渰沒、妨二于耕種一、其有力之家、度二視地形一、築レ土作レ堤、環而不レ斷、內容二頃畝千百一、皆爲二稼地一。


圍田（農政全書）

【圍頭】43 ヰトウ　鎭の名。福建省晉江縣の南。宋、寨を置き、明、巡司を設く。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、晉江縣〕圍頭鎭、府南八十里、宋置二寶蓋寨一云云、嘉定十一年、以三海寇衝二突圍頭一、守臣眞德秀、移二寶林兵一、戍二圍頭一、立レ寨曰二寶蓋一、而以二法石一爲二重地一、是也。

【圍敗】44 ヰハイ　かこまれ敗れる。〔周禮、春官、大宗伯〕以二禬禮一哀二圍敗一。〔疏〕謂下其國見二圍入一而國被中禍敗上。

【圍班】45 ヰハン　淸代、皇帝が木蘭の圍場（今の熱河省圍場縣、圍場は四方を圍んだ狩獵場）に獵をする時、外蒙古の札薩克が交代に扈從することをいふ。〔淸國行政法汎論、藩部、外蒙古、行政機關〕圍班、皇帝獵二木蘭一之時、札薩克乃不レ可レ不二扈從一也、順次交代、名曰二圍班一。

【圍範】46 ヰハン　くぎりをつける。範圍(8－26253‥こ)に同じ。〔後漢書、張衡傳論〕推三其圍二範兩儀一、天地無レ所レ蘊二其靈一。

【圍物】47 カコヒモノ　㊀祕藏の物。㊁かこひめ。めかけ。

【圍屏】48 ヰヘイ　屏風。〔吳文英詞〕翠幃圍屏、留連迅景、花外郵亭。

【圍捕】49 wei² pu³　包圍して捕縛する。

【圍木】50 ヰボク　兩手でかかへる程の大木。拱木。〔張協、雜詩〕流澗萬餘丈、圍木數千尋。〔左思、魏都賦〕碩果灌叢、圍木竝尋。

【圍盆】51 ヰボン　小兒が生まれて滿一個月後の洗兒

會に於て、數丈の五色の布で浴盆を圍繞することをいふ。圍盆紅。〔東京夢華錄、五、育子〕洗兒會、親賓盛集、煎㆓香湯於盆中㆒、下㆓菓子綵錢葱蒜等㆒、用㆓數丈綵㆒繞㆑之、名曰㆓圍盆㆒、以㆓釵子㆒攪㆑水、謂㆓之攪盆㆒、觀者各撒㆓錢於水中㆒、謂㆓之添盆㆒。

【圍盆紅】52（ヰボンコウ） 圍盆に同じ。〔夢粱錄、育子〕洗兒會、親朋俱集、煎㆓香湯於銀盆內㆒、下㆓洗兒果綵錢等㆒、仍用㆓色綵㆒繞㆑盆、謂㆓之圍盆紅㆒。

【圍擁】53（ヰヨウ） だき抱へる。〔劉克莊、明皇按樂圖詩〕金盆皇孫眞龍種、浴罷六宮競㆓圍擁㆒。

【圍落】54（ヰラク） かきね。籬落(**8－26803・・23**)に同じ。〔吳志、周泰傳〕意尙忽略、不㆑治㆓圍落㆒。

【圍籬】55 wei^2 li^2 籬でかこむ。

【圍獵】56（ヰレフ） かこんで獵をする。又、狩獵。かり。〔金史、宣宗紀上〕以㆓秋稼未㆒㆑穫、禁㆓軍官圍獵㆒。

【解㆑圍】57（カコミヲトク） かこみをとく。苦境を脫する。〔晉書、列女、王凝之妻謝氏傳〕獻之嘗與㆓賓客㆒談議、詞理將㆑屈、道韞遣㆑婢白㆓獻之㆒曰、欲㆘與㆓小郎㆒解㆖㆑圍。

【圍宿軍】58（ヰシユクグン） 元代、大朝會に用ひた時の、五衞の禁衞兵の稱。〔續文獻通考、兵考、禁衞兵〕世祖時、設㆓五衞㆒以象㆓五方㆒、始有㆓侍衞親軍之屬㆒、置㆓都指揮使㆒以領㆑之、於㆑是禁兵之設、殆不㆑止㆓於前㆒矣、而其用非㆓一端㆒、用㆓之於大朝會㆒、則謂㆓之圍宿軍㆒。

【圍礮臺】59 wei^2 p'ao^4 t'ai^2 鐵甲を用ひて遮蔽した軍艦の砲臺。鐵甲で遮蔽せぬものを露礮臺といふ。

【圍脖兒】60 wei^2 po^2 êrh 肩掛。

【圍爐裏】61（ヰロリ） 床の一部を切って設けた爐。〔和漢三才圖會、庖廚具、爐〕又名㆓圍爐裏㆒。

【圍合攻撲】62 wei^2 hê^2 kung^1 p'u^1 包圍攻擊。

【⿴囗冒】4807 バウ

冒(**2－1538**)の古字。〔字彙補〕⿴囗冒、古文冒字。

【⿴囗剌】4808 ワン ヱン 〔五音篇海〕烏還切 刪

水流の曲るさま。〔字彙補〕⿴囗剌、水曲貌。

【⿴囗亟】4809 キン 〔篇海〕丘倫切 眞

くら。〔篇海〕⿴囗亟、囷倉也。

【⿴囗若】4810 ケン 〔龍龕手鑑〕去員切 先

くら。〔龍龕手鑑〕⿴囗若、禾圏也。

【⿴囗爪】4811 クヮク

⿰爪國(**7－19703**)に同じ。〔字彙補〕⿴囗爪、同㆑⿰爪國。

【圇】4812 ト

圖(**3－4832**)の俗字。〔龍龕手鑑〕圇、俗圖字。

【⿴囗貞】4813 ヱン

圓(**3－4819**)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕圓、古今雜劇作㆑⿴囗貞。

【⿴囗阶】4814 クヮク

義未詳。〔五音篇海〕⿴囗阶、音獲。

【⿴囗咢】4815 オウ

義未詳。〔篇韻〕⿴囗咢、音歐。

十畫

【圏】4815′ ケン

圈(**3－4789**)に同じ。

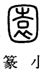
【⿴囗専】4816 〘一〙フ ブ 〔集韻〕符遇切 遇 〘二〙ホ

〘一〙**野菜ばたけ。**菜園。〔集韻〕⿴囗専、樹㆑蔬曰㆑⿴囗専。〘二〙圃(**3－4774**)の俗字。〔正字通〕⿴囗専、俗圃字。

【⿴囗馬】4817 チフ 〔玉篇〕陟立切 緝

つなぐ。〔玉篇〕⿴囗馬、縶也。

【園】4818 ヱン ヲン 〔集韻〕于元切 元 ㄩㄢˊ yüan^2


小篆

❶**果樹のはたけ。**果樹園。〔說文〕園、所㆓吕樹㆑果也、从㆑口袁聲。〔一切經音義、一〕種㆑樹曰㆑園。〔詩、鄭風、將仲子〕無㆑踰㆓我園㆒。〔傳〕園、所㆓以種㆑木也。❷**その。**には。〔舊唐書、路嗣恭傳〕子恕私第、有㆓佳林園㆒。❸**垣根のあるはたけ。**〔詩、秦風、駟鐵序〕園囿之樂。〔疏〕有㆑蕃曰㆑園、有㆑牆曰㆑囿。❹**畑のかきね。**〔詩、鄭風、將仲子〕無㆑踰㆓我園㆒。〔疏〕園者、圃之蕃。〔周禮、天官、大宰〕二曰、園圃、毓㆓草木㆒。〔注〕樹㆓果蓏㆒曰㆑圃、園、其樊也。❺**はか。**みささぎ。〔正字通〕園、凡歷代帝后葬所曰㆑園。〔後漢書、光武帝紀〕遷㆓呂太后廟主於園㆒。〔注〕園、謂㆓塋域㆒。❻**墓所の道。**〔顏延之、拜㆓陵廟㆒作詩〕崇樹加㆓園塋㆒。〔注〕銑曰、園・塋、皆墓閒道也。❼**姓。**〔萬姓統譜〕園、四皓有㆓園公㆒、風俗通云、氏㆓於事㆒者、城郭園池、是。❼現 一膳飯屋。

名乘 ソノ。

【園囿】1（ヱンイウ） 花木などを植ゑて禽獸などを飼ふところ。園は花その、囿は禽獸を畜ふ所。〔孟子、滕文公下〕園囿汙池沛澤多、而禽獸至。〔荀子、王霸〕臺樹甚高、園囿甚廣。

【園邑】2（ヱンイフ） 園寢の周圍に在る墓守の村。〔史記、外戚世家〕會稽郡置㆓園邑三百家㆒。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕臣愚以、園邑之興、始㆑自㆓彊秦㆒。〔謝莊、孝武帝哀策文〕雪㆓怨園邑㆒、掃㆓恥瀛縣㆒。

【園院】3（ヱンヰン） 庭園。〔盧照鄰、相如琴臺詩〕園院風煙古、池臺松檟春。

【園塋】4（ヱンエイ） 墓場。一說に、墓所の道。〔顏延之、拜㆓陵廟㆒作詩〕崇樹加㆓園塋㆒。〔注〕善曰、如淳漢書注曰、塋、墓田也、銑曰、園・塋、皆墓閒道也。

【園苑】5（ヱンヱン） その。庭。〔晉書、職官志〕民曹主㆓繕修功作鹽池園苑事㆒。〔北史、隋煬帝紀〕採㆓海內奇禽異獸草木之類㆒、以實㆓園苑㆒。

【園翁】6（ヱンヲウ） 田園に住むおきな。〔黃庭堅、詩〕園翁溪友肯卜㆑鄰。

【園家】7（ヱンカ） 農園を營む家。〔李白、玉眞公主別館苦㆑雨贈㆓衞尉張卿㆒詩〕園家逢㆓秋蔬㆒、藜藿不㆑滿㆑眼。

【園監】8（ヱンカン） 庭園の番人。庭守り。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕（太后）又詔㆓諸園貴人㆒、其宮人有㆓宗室同族、若羸老不㆑任㆑使者㆒、令㆓園監實覈㆖㆑名、自御㆓北宮增喜觀㆒、閱㆓問之㆒、恣㆓其去留㆒、卽日免遣者五六百人。

【園葵】9（ヱンキ） はたけの野菜。葵は、楚葵(芹)・鳧葵(茆)などの蔬菜類。〔韓詩外傳、二〕其馬佚而驟㆓吾園㆒、而食㆓吾園之葵㆒。〔陸機、園葵詩〕種㆑葵北園中、葵生鬱萋萋。〔杜甫、移㆓居公安㆒敬贈㆓衞大郎㆒詩〕水烟通㆓徑草㆒、秋露接㆓園葵㆒。

【拔㆓園葵㆒】10（ヱンキヲヌク） 淸廉な官吏の行ひの喩。野菜の栽培は農夫の業であつて、官吏が之を行へば、民生を壓迫して、官吏としての淸廉を害するから、庭の野菜を拔き捨てる意で、春秋、魯の博士、公儀休の故事。園夫(58)を見よ。〔史記、公儀休傳〕公儀休爲㆓魯相㆒、云云、食㆑茹而美、拔㆓其園葵㆒而弃㆑之。〔後漢書、王暢傳〕昔公儀休在㆑魯、拔㆓園葵㆒去㆓織婦㆒。

【園綺】11（ヱンキ） 園公と綺里季。四皓(**3－4682・・11**)の❶を見よ。〔魏志、王烈傳〕德非㆓園綺㆒、而蒙㆓安車之榮㆒。〔晉書、賀循傳〕燭之武乘㆑縋以入㆑秦、園綺彈㆑冠而匡㆑漢。〔桓溫、薦㆓譙元彥㆒表〕雖㆘園綺之棲㆓商洛㆒、管寧之默㆗遯海㆖、方㆓之於秀㆒、殆無㆔以過㆓于今㆒。

【園菊】12エンキク 庭の菊。〔謝惠連、擣衣詩〕白露滋二園菊一、秋風落二庭槐一。

【園杏】13エンキヤウ 園中のあんず。〔白居易、二月一日作贈二韋七庶子一詩〕園杏紅萼折、庭蘭紫芽出。

【園客】14エンキヤク エンカク ❶田園の旅人。〔劉禹錫、題二于家公主舊宅一詩〕鄰家猶學宮人髻、園客爭偸御果枝。❷仙人の名。〔述異記、上〕園客者、濟陰人、貌美色、人多欲レ妻レ之、客終不レ娶、常種二五色香草一、積二十餘年一、服二食其實一、忽有二五色蛾一、集二香草上一、客薦レ之以レ布、生二華蠶一焉、有二一女一、自來助二養蠶一、以二香草一食レ之、得二繭一百二十枚一、繭大如レ甕、毎一繭繅六七日絲方盡、繅訖、此女與レ客俱神仙去。

【園墟】15エンキヨ には。その。墟も、には。〔何劭、贈二張華一詩〕在昔同二班司一、今者竝二園墟一。〔注〕銑曰、墟、庭落之通言。

【園華】16エンクワ その花。〔鮑照、代白紵曲〕含桃紅萼蘭紫芽、朝日灼爍發二園華一。

【園官】17エンクワン 園圃のせわをする役人。にはつくり。〔杜甫、園官送レ菜詩序〕園官送二菜把一、本數日闕。

【園徑】18エンケイ 園中のこみち。〔陸游、夜酌詩〕園徑露螢粘二濕草一、塔簷風鐸亂二疎更一。

【園藝】19エンゲイ 花卉・樹木等を栽培する技藝。

〔園藝學〕20エンゲイガク 園藝を研究する學問。

【園戸】21エンコ 茶の栽培を業とする民。園民。〔唐書、食貨志四〕園戸私鬻二百斤以上一杖レ背。〔宋史、食貨志下五〕蘄・黃・廬・舒・光・壽六州、官自爲レ場、置レ吏總レ之、謂二之山場一者十三、六州采レ茶之民皆隸焉、謂二之園戸一、歲課二作茶輸租一。〔稱謂錄、茶、園戸〕續資治通鑑、六州採レ茶之民、謂二之園戸一。

【園口】22エンコウ 地名。浙江省常山縣の西の上水字莊に在り、土名は煤山。二箇所に炭田があるが、その性は不純。

【園工】23 yüan^2 kung^1 園丁。庭師。

【園公】24エンコウ ❶商山の四皓の一人。東園公をいふ。商山(**2—3803**‥105)及び四皓(**3—4682**‥117)の❶を見よ。〔史記、留侯世家〕四人前對、各言二名姓一、曰、東園公・甪里先生・綺里季・夏黃公。〔漢書、王貢兩龔鮑傳序〕漢興、有二園公・綺里季・夏黃公・甪里先生一。〔注〕師古曰、四皓稱號、本起二於此一、更無二姓名可レ稱。〔法言、淵騫〕美行、園公・綺里季・夏黃公・甪里先生。〔新序、善謀下〕留侯曰、上有二所レ不レ能レ致者一、天下有二四人一、園公・綺里季・夏黃公・甪里先生。〔後漢書、鄭玄傳〕又商山四皓、有二園公・夏黃公一、潛レ光隱レ耀、世加二其高一、皆悉稱レ公。〔注〕四皓、高帝時人、有二園公・綺里季・夏黃公・甪里先生一也、鬚眉皓白、故言レ皓。〔聖賢羣輔錄、上〕園公・綺里季・夏黃公・甪里先生、右商山四皓、當二秦之末一、俱隱二上洛商山一、皇甫士安云、並河內軹人、見二漢書及皇甫謐高士傳一。〔注〕姓園、名秉、字宣明、陳留襄邑人、常居二園中一、故號二園公一、見二陳留志一。❷清、歸莊(**6—16349**‥107)の號。

【園鏁】25エンサ 庭園の門扉のかけがね。〔皮日休、聞三開元寺開二筍園一寄二章上人一詩〕園鏁開聲駭二鹿羣一、滿林鮮籜水犀文。

【園菜】26エンサイ はたけの蔬菜。野菜。園蔬。〔急就篇、二〕園菜果蓏助二米糧一。〔注〕言、園圃種レ菜、及殖二果蓏一、貧者食レ之、以免二飢饉一、故云、助二米糧一也。〔宋書、沈道虔傳〕有下人竊二其園菜一者上、還見レ之、乃自逃隱、待二竊者取足去一、後乃出。〔白居易、渭邨退居寄二禮部崔侍郎・翰林錢舍人一詩一百韻〕園菜迎レ霜死、庭蕪過レ雨荒。

【園子】27エンシ その。庭園。〔洛陽名園記、天王院花園子〕凡園皆植二牡丹一、獨名レ此曰二花園子一。

【園次】28エンジ 清、吳綺(**2—3365**‥93)の字。

【園兒】29エンジ 幼稚園の兒童。

【園舍】30エンシヤ 別莊。別墅。〔宋書、沈慶之傳〕有三園舍在二婁湖一。

【園榭】31エンシヤ 庭園內の建物。〔宋史、包拯傳〕中官勢族築二園榭一。

【園莊】32エンシヤウ その。庭。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏下〕治長從二之園莊倉中一、與二守久勝永一共護レ之。

【園主】33エンシユ 園の持ちぬし。庭園の主人。〔王建、春意詩〕誰是杏園主、一枝臨二古岐一。

【園樹】34エンジユ うゑ木。庭園に植ゑた木。〔沈約、郊居賦〕風騷屑二於園樹一、月籠連二於池竹一。

【園寢】35エンシン ❶陵墓の側に在つて祭祀に用ひる建物。園廟。〔後漢書、祭祀志下〕古不二墓祭一、漢諸陵皆有二園寢一、承二秦所レ爲也、說者以爲、古宗廟前制レ廟、後制レ寢、以象二人之居一、前有レ朝後有レ寢也、云云、廟以藏レ主、以二四時一祭、寢有二衣冠几杖一、象二生之具一、以薦二新物一、秦始出寢起二於墓側一、漢因而弗レ改、故陵上稱二寢殿一、起居衣服、象二生人之具一、古寢之意也。〔張載、七哀詩〕園寢化爲レ墟、周墉無二遺堵一。〔注〕善曰、漢書曰、自二高祖一下至二宣帝一、各自居二陵傍一立レ廟、又園中各有二寢便殿一。❷舊制で、皇妃及び皇子等の墓をいふ。〔清會典、禮部〕皆叩謁行二一跪六叩禮一、至二園寢一。

【園人】36エンジン 園丁。〔韓詩外傳、二〕昔者宋之桓司馬、得二罪於宋君一、出二於魯一、其馬佚而驟二吾園一、而食二吾園之葵一、是歲吾聞三園人亡二利之半一。

【園生】37ソノフ その。には。〔萬葉集、五〕園ふの梅の花。

【園井】38エンセイ にはの井戶。〔元稹、酬二段丞一詩〕琴書甘盡棄、園井詎能窺。

【園妾】39エンセフ 天子の陵を守る婦人。漢から始まる。〔嬾眞子、四〕漢時送葬之禮極厚、武帝之葬、昭帝幼弱、霍光不學、取二金錢財物鳥獸魚鼈牛馬虎豹生禽凡百九十物一、盡瘞二藏之一、又以二後宮一守二園陵一、於レ是園妾自レ此始矣、後世因レ之、遂不二復變一、白樂天有二園陵妾詩一、讀者傷レ之。

【園蔬】40エンソ はたけの野菜。園菜。園蔌。又、野菜を作ること。〔後漢書、吳祐傳〕自免歸レ家、不二復仕一、躬灌二園蔬一、以二經書一教授。〔南史、范元琰傳〕元琰家貧、唯以二園蔬一爲レ業。〔高適、自レ淇涉二黃河一途中作詩〕園蔬空寥落、產業不レ足レ數。〔杜甫、酬二高使君相贈一詩〕故人供二祿米一、鄰舍與二園蔬一。

【園蔌】41エンソク はたけの野菜。〔周必大、大椿堂小集詩〕今日掃二風軒一、明日芼二園蔌一。

【園宅】42エンタク やしき。住宅。〔宋書、楊運長傳〕運長質木廉正、治レ身甚清、不レ事二園宅一、不レ受二餉遺一。〔南齊書、高帝紀上〕初勔高二尚其意一、託二造園宅一、名爲二東山一、頗忽二世務一。

【園地】43エンチ ❶はたけ。場圃(**3—5278**‥33)の❷に同じ。〔周禮、地官、載師〕以二場圃一任二園地一。❷中古、班田の制が行はれた頃、人民の私有財產として各戶に給付して桑や漆などを栽培させた土地。

【園池】44エンチ ❶園と池。〔史記、王翦傳〕請二美田宅園池一甚衆。〔漢書、成帝紀〕廣二第宅一、治二園池一。〔宋書、竟陵王誕傳〕園池之美、冠二于一時一。❷鹽鐵論の篇名。

〔園池蒼秀〕45エンチサウシウ 庭や池が青々として景色のすぐれてゐること。〔依田學海、靖國神社〕祠宇宏壯、園池蒼秀。

【園疇】46エンチウ はたけとその。〔張華、答二何劭一詩〕相伴步二園疇一、春草鬱鬱滋。〔張協、安石榴賦〕考二草木于方志一、覽二華實于園疇一。〔北史、胡叟傳〕園疇褊局、而飯菜精潔、醯醬調美。

【園場】47エンヂヤウ 果樹等を植ゑる所。はたけ。〔顏氏家訓、治家〕蔬果之蓄、園場之所レ產。〔韋應物、休沐東還二胄貴里一示レ端詩〕竹木稍摧翳、園場亦荒蕪。

【園中】48エンチユウ はたけの中。その中。屋敷の中。園裏。〔史記、曹相國世家〕相舍後園、近二吏舍一、吏舍日飲歌呼、從吏惡レ之、無二如レ之何一、乃請二參游園中一、聞二吏醉歌呼一。〔漢書、朱買臣傳〕入二吳界一、見二其故妻一、妻夫治レ道、買臣駐レ車、呼令二後車一載二其夫妻一、到二太守舍一、置二園中一給二食之一。〔後漢書、樂羊子妻傳〕嘗有三他舍雞謬入二園中一、姑盜殺而食レ之、妻對レ雞不レ餐而泣、姑怪問二其故一、妻曰、自傷四居レ貧使三食有二它肉一、姑竟棄レ之。〔古樂府、長歌行〕青青園中葵、朝露待レ日晞。〔劉楨、公讌詩〕月出照二園中一、珍木鬱蒼蒼。

【園仲】49エンチユウ 清、蘇去疾(**9—32427**‥223)の號。

【園丁】50エンテイ 庭の手入れをするために雇はれてゐる使用人。にはつくり。園人。又、はたけを作るために雇はれてゐる使用人。〔名物方言〕種レ菜人、曰二畦丁・園丁一。〔橘錄〕園丁種レ之、以鬻二于市一。〔陸游、鹹虀十韻詩〕園丁無レ事臥曝レ日。〔馬臻、西湖詩〕園丁花木巧二梧棬一。

【園亭】51エンテイ 庭に設けたちん。園內のあづまや。又、庭園をいふ。〔李適、侍二宴長寧公主東莊一應制詩〕歌舞平陽第、園亭沁水林。〔宋史、李昉傳〕昉所レ居、有二園亭別墅之勝一、多召二故人親友一、宴二

樂其中一。〔燕都遊覽志、園〕園亭在二東城一者、曰二梁氏園一。

【園庭】52（エンテイ） には。庭園。〔陳琳、游覽詩〕東望看二疇野一、迴顧覽二園庭一。〔宋書、袁粲傳〕好飲レ酒善二吟諷一、獨酌二園庭一、以レ此自適。〔沈約、愍二衰草一賦〕園庭漸蕪沒、霜露日霑レ衣。

【園適】53（エンテキ） 明、葉茂才(9－31387・・276)の號。

【園廛】54（エンテン） はたけと住宅。〔周禮、地官、載師〕凡任レ地、國宅無レ征、園廛二十而一。〔注〕國稅輕レ近而重レ遠、近者多レ役也、園廛亦輕レ之者、廛無レ穀、園少レ利也。

【園田】55（エンデン） 庭と畑。又、はたけ。〔後漢書、黃香傳〕遷二魏郡太守一、郡舊有二內外園田一、常與レ人、分レ種收レ穀。〔陶潛、歸二園田居一詩〕羈鳥戀二舊林一、池魚思二故淵一、開レ荒南野際、守レ拙歸二園田一。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕自以二地位隆重一、深懷二退素一、北宅舊有二園田之美一、乃盛修二理之一。〔韋應物、答二韓郎中一詩〕風雪積二深夜一、園田掩二荒蹊一。

【園田西山】56（ソノダイウザン） 出雲の人。名は雄。字は叔飛。號は西山。桃白鹿・宇佐美灊水を師とす。官は松江藩儒・侍從・明教館祭酒。文政九年歿す、年六十九。著に易學略說・淮南子考・稽古圖說・受業略說・大戴禮備攷・讀呂子春秋補・讀書備考・明主謨訓がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【園田一齋】57（ソノダイツサイ） 伊勢の人。名は守彝。字は君秉。通稱は宜客。號は一齋。官は正五位下權禰宜。津藩に客仕す。博く經史に涉り、又、詩學に精通す。嘉永七年歿す、年六十七。著に一齋詩集・一齋雜著・遺事考・四書要領・詩學題林・銘彝がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【園夫】58（エンプ） 農夫をいふ。〔漢書、董仲舒傳〕公儀子相レ魯、之二其家一、見レ織レ帛、怒而出二其妻一、食二於舍一而茹レ葵、慍而拔二其葵一、曰、吾已食レ祿、又奪二園夫紅女利一虖。

【園廟】59（エンベウ） 陵墓の側にあるおたまや。園寢。〔漢書、蘇武傳〕武以二始元六年春一至二京師一、詔レ武奉二一大牢一、謁二武帝園廟一。〔後漢書、祭祀志下〕因二故園廟一祭祀。〔郭良驥、鄴中行〕年去年來秋更春、魏家園廟已成レ塵。

【園圃】60（エンポ） はたけ。園は、木を植ゑる處、又、はたけの垣ね。圃は、菜を植ゑる處。〔周禮、天官、大宰〕以二九職一任二萬民一、云云、二曰園圃、毓二草木一。〔注〕樹二果蓏一曰レ圃、園、其樊也。〔管子、問〕問、理二園圃一而食者、幾何家。〔墨子、非攻上〕今有二一人一、入二園圃一、竊二其桃李一、衆聞則非レ之。〔注〕園、所二以樹レ果、種レ菜曰レ圃。〔洛陽名園記〕洛人云、園圃之勝、不レ能二相兼一者六。

【園蜂】61（エンポウ） 園中の蜂。〔劉禹錫、和二僕射牛相公春日閒坐見レ懷詩〕階蟻相逢如二偶語一、園蜂速去恐レ違レ程。〔李東陽、次三韻寄二題鏡川先生後樂園一詩〕野蝶園蜂自去來。

【園木】62（エンボク） にはき。庭園の木。〔陶潛、乙酉歲九月九日詩〕蔓草不二復榮一、園木空自凋。

【園民】63（エンミン） 園戶(21)に同じ。〔品茶要錄、序〕蓋園民射レ利、膏二油其面色一。

【園門】64（エンモン） 庭園の門。〔後漢書、鄧訓傳〕遂令下開二城及所レ居園門一、悉驅二羣胡妻子一內上レ之。

【園吏】65（エンリ） 園囿を主る小官。〔史記、老莊申韓傳〕莊周嘗爲二蒙漆園吏一。〔杜甫、園官送レ菜詩〕園吏未レ足レ怪、世事固堪レ論。

【園裏】66（エンリ） そのうち。園中。〔元稹、杏花詩〕同州園裏也先開。〔皮日休、李處士郊居詩〕園裏水流澆レ竹響、窗中人靜下レ棋聲。

【園柳】67（エンリウ） 園中の柳。〔古詩十九首〕青青河畔草、鬱鬱園中柳。〔謝靈運、登二池上樓一詩〕園柳變二鳴禽一。〔韋應物、述二園鹿一詩〕仰レ首嚼二園柳一、俯レ身飲二清泉一。

【園陵】68（エンリヨウ） みささぎ。〔史記、叔孫通傳〕先帝園陵寢廟、羣臣莫二能習一、徙爲二太常一定二宗廟儀法一。〔晉書、郄超傳〕奬二王室一、修二復園陵一。〔杜甫、洞房詩〕萬里黃山北、園陵白露中。〔劉廷琦、銅雀臺詩〕銅臺宮觀委二灰塵一、魏主園陵漳水濱。

【園林】70（エンリン） 園中のはやし。〔顏延之、陶徵士誄〕夫璿玉致レ美、不レ爲二池隍之寶一、桂椒信芳、而非二園林之實一。〔宋書、樂志四〕雉子游二原澤一、幼懷二耿介心一、飲啄雖二勤苦一、不レ願レ棲二園林一。〔孫逖、和三韋兄春日南亭宴二兄弟一詩〕臺閣升二高位一、園林隔二舊鄕一。〔杜審言、渡二湘江一詩〕遲日園林悲二昔遊一、今春花鳥作二邊愁一。〔韋應物、南園陪二王卿游矚一詩〕几閣文墨暇、園林春景深。

【園令】71（エンレイ） みささぎを守る官。〔史記、司馬相如傳〕司馬相如、拜爲二孝文園令一。〔劉峻、辨命論〕亭伯死二於縣長一、相如卒二於園令一。

【園廬】72（エンロ） はたけと小屋。又、はたけにある小屋。〔張衡、南都賦〕於二其宮室一、則有二園廬舊宅一。〔張華、答二何劭一詩〕於レ今比二園廬一。〔王維、晦日遊二大理韋卿城南別業一四聲依レ次用詩〕園廬鳴二春鳩一、林薄媚二新柳一。〔宋史、郎簡傳〕錢塘城北治二園廬一、自號二武林居士一。

【園鹿】73（エンロク） 園中の鹿。〔陸游、獨至二遯菴一避レ暑菴在二大竹林中一詩〕園鹿知レ時新解レ角、池魚得レ意自成レ羣。

【園有桃】74（エンイウタウ） 詩經、魏風の篇名。其の國が小さく善政の無いことを憂へた詩。〔詩、魏風、園有桃序〕園有桃、刺レ時也、大夫憂下其君國小而迫、而儉以嗇、不レ能レ用二其民一、而無二德教一、日以侵削上、故作二是詩一也。

【園遊會】75（エンイウクワイ） 廣い庭園に多くの客を招き、模擬飲食店・演藝場などを設けてもてなしをする一種の宴會。

【園城寺】76（ヲンジヤウジ） 滋賀縣大津市に在る寺。一名、三井寺。

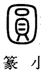
【不レ窺レ園】77（エンヲウカガハズ） 庭園をうかがひ見ない。學問に精勵する意。〔漢書、董仲舒傳〕孝景時爲二博士一、下レ帷講誦、弟子傳以二久次一相授業、或莫レ見二其面一、蓋三年不レ窺レ園、其精如レ此。〔注〕師古曰、雖レ有二園圃一、不三窺二視之一、言レ專レ學也。〔論衡、儒增〕儒書言、董仲舒讀二春秋一、專レ精一レ思、志不レ在レ他、三年不レ窺二園菜一。〔琅琊代碎編、窺園〕董仲舒三年不レ窺レ園、後漢桓榮十五年不レ窺レ園、魏閔謙傳、趙昱歷レ年不レ窺レ園。

【園日涉以成レ趣】78（エンヒニワタリテモツテオモムキヲナス） 庭園は日を經るにつれて變つた趣を呈する。一說に、庭園を毎日散步し、手入れをして興味あるやうにすること。〔陶潛、歸去來辭〕園日涉以成レ趣、門雖レ設而常關。

【圓】4819

一 エン ヲン 〔集韻〕于權切 先 ㄩㄢ yüan²

二 ウン ヲン 〔集韻〕王問切 問

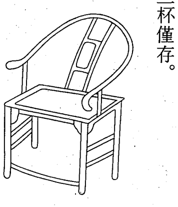

小篆

一二 ❶**まる**。㋑全圓體。球體。〔說文〕圓、圜全也、从レ口員聲、讀若レ員。〔段注〕圜者天體、天屈二西北一而不レ全、圜而全、則上下四旁如レ一、是爲二渾圜之物一。〔呂覽、審時〕其粟圓而薄糠。㋺平圓形。〔說文通訓定聲〕圓、渾圓曰レ圜、平圓曰レ圓。〔韓非子、飾邪〕左手畫レ圓、右手畫レ方。❷**まはり**。〔詩、商頌、長發、幅隕既長、箋〕圓、謂レ周也。❸**まるい**。㋑たま・まるのやうなこと。〔易、繫辭上〕蓍之德、圓而神、卦之德、方而知。㋺盡きない。〔易、繫辭上〕圓而神。〔注〕圓者、運而不レ窮。㋩まつたい。〔隋煬帝、入朝遣使參書〕功德圓滿。㋥おだやか。〔宣和書譜〕至二歐陽詢一則曰、世皆知二其體方一、而莫レ知二其筆圓一。❹**まるくする**。まるめる。〔陳師道、以二柱杖一供二仁山王一詩〕不レ用山公更削圓。❺**天**。〔淮南子、本經訓〕戴レ圓履レ方。〔注〕圓、天也。❻**水**。〔大戴禮、曾子天圓、注〕圓、謂レ水也。❼**君**。〔鬼谷子、捭闔〕是謂二圓方之門戶一。〔注〕圓、君也。❽**人によく交はること**。社交に巧みなこと。又、その人。〔元結、惡レ圓〕吾聞、古之惡レ圓之士、歌曰、寧方爲レ阜、不二圓爲レ卿。❾**なめらかな聲**。〔辭海〕圓、謂二聲之宛轉者一。〔白居易、題二周家歌者一詩〕深圓似レ轉レ簧。❿員(**2－3633**)に通ず。〔易、繫辭上〕圓而神。〔釋文〕圓、本又作レ員。⓫圜(**3－4851**)に同じ。〔集韻〕圜、或作レ圓。〔禮、郊特牲、注、祭二天於圜邱一、釋文〕圜、本又作レ圓。⓬隕(**11－41785**)に通

ず。〔詩、商頌、長發、幅隕既長、箋〕隕、當レ爲レ圓。⑬原(2－2973)に通ず。原夢(2－2973・・212)・圓夢(188)を見よ。〔辭海〕圓、通レ原。⑭姓。〔萬姓統譜〕圓、見二姓苑一、明河南南陽府有二圓氏一。⑮**現**錢貨の一單位。又、元ともいふ。**邦**ゑん。㋑ほとり。あたり。㋺錢貨の一單位。百錢が壹圓にあたる。

名乘 カズ。ツブラ。ノブ。ミツ。マド。

【圓案】1（エンアン） まるい机。圓い食卓。員案。〔梁書、伏挺傳〕方丈員案、三杯僅存。



圓椅（三才圖會）

【圓椅】2（エンイ） 僧家の用ひる椅子。曲彔。〔和漢三才圖會、家飾具、椅子〕三才圖會云、圓椅、漢靈帝時、景師所レ造、云云、按、圓椅、俗云二曲彔一、僧家多用レ之。

【圓有】3（エンウ） 臨濟の僧。字は在菴。元庵禪師の四世の孫。京都の正傳寺に住す。建武の頃、足利尊氏の歸依を受け、攝津矢田部に福海寺を開く。貞和五年寂す、年八十四。〔延寶傳燈錄〕。

【圓景】4（エンエイ） 月をいふ。圓影。景は光。〔謝靈運、南樓中望二所レ遲客一詩〕圓景早已滿、佳人殊不レ適。

【圓影】5（エンエイ） ㊀月の異名。圓景。影は光。〔曹植、贈二徐幹一詩〕圓影光未レ滿、衆星粲以繁。〔注〕善曰、圓景、月也。〔沈約、應二王中丞思一遠詠レ月詩〕方暉竟レ戶入、圓影隙中來。㊁まるいかげ。

【圓瑩】6（エンエイ） 圓い玉。瑩は、美玉の名。〔菌譜〕稠膏蕈、多生二山絕頂高樹杪一、初如二藥珠圓瑩一。

【圓銳】7（エンエイ） ㊀まるくて先が尖つてゐる。〔爾雅、釋獸、麢大羊、注〕麢羊、似レ羊而大、角圓銳。㊁針や錐のやうに銳いこと。圓銳之操を見よ。

〔圓銳之操〕7'（エンエイノサウ） 針や錐のやうな銳いやり方。〔論衡、狀留〕論二賢儒之才一、云云、計二學問之日一、固已盡二年之半一矣、銳二意于道一、遂無二貪レ仕之心一、及二其仕一也、純持二方正一、無二圓銳之操一、故世人遲取進難也、針錐所レ穿、無レ不二暢達一、使二針錐末方一、穿レ物無二一分之深一矣、賢儒方レ節而行、無二針錐之銳固一、國安能自穿、取二暢達之功一乎。

【圓淵】8（エンエン） ㊀まるいふち。〔王延壽、魯靈光殿賦〕圓淵方井、反二植荷蕖一。㊁水が渦卷いてゐる淵。〔郭璞、江賦〕圓淵九迴以縣騰。

【圓圓】9（エンエン） まるい形の形容。まんまる。員員。〔徐陵、裴使君墓誌〕明月圓圓、似二班姬之扇一。

〔圓圓曲〕10（エンエンキヨク） 曲の名。明、吳偉業の作。圓圓は吳三桂の妾。李自成が燕都を陷れた時、三桂は父襄を犧牲にして妾の圓圓を救ひ、李自成を敗つたことを刺つて作つたもの。淸の陸次雲は之に本づいて圓圓傳を作り、鈕玉樵も亦之を作り、丁傳靖は圓圓傳輯補を作つた。

【圓應】11（エンオウ） すべてに行きわたる。〔沈約、上二建闕一表〕天德圓應、憲章自遠。〔法華玄義、六〕圓機圓應。

【圓音】12（エンオン） **佛**圓滿具足した音聲の意で、佛の言葉をいふ。〔楞嚴經〕願佛哀愍、宣二示圓音一。

【圓穩】13（エンヲン） まどかでおだやか。〔後林題跋〕圓穩麗密。〔福惠全書、郵政部、撥馬〕步必圓穩而不二蹶失一。

【圓架】14（エンカ） まるいたな。〔和漢三才圖會、時候類、盂蘭盆〕今人以レ竹爲二圓架一、加二其首一、以二荷葉一中貯二雜饌果食一、陳二目連救レ母畫像一、祭二祀之一。

【圓荷】15（エンカ） 蓮の葉。荷葉。〔杜甫、爲レ農詩〕圓荷浮二小葉一、細麥落二輕花一。〔剪燈餘話、連理樹記〕殘樹枯黃遍、圓荷濕翠乾。

【圓價】16（エンカ） 日本貨幣の對內價値及び對外價値を指す。普通の場合は對外價値を指していふ。

【圓戒】17（エンカイ） **佛**圓頓戒(159)をいふ。〔法華玄義、四〕佛戒卽圓戒也。

【圓海】18（エンカイ） ㊀**佛**如來の圓滿功德を大海に喩へていふ。〔二教論〕龍猛釋論挾二圓海不談之說一。㊁明、阮大鋮(11－41569・・67)の字。

【圓蓋】19（エンガイ） まるいおほひ。まるい屋根。〔蔡邕、明堂月令論〕太廟明堂、云云、圓蓋方載、六九之道也。〔新論、通塞〕入レ井望レ天、不レ過二圓蓋一。

【圓覺】20（エンガク） **佛**圓滿な靈覺。如來のまどかなさとり。〔圓覺經〕善男子、無上法王、有二大陀羅尼門一、尼名爲二圓覺一。〔梁元帝、揚州梁安寺碑序〕旃檀散レ馥、無二復圓覺之風一。

【圓覺經】21（エンガクキヤウ） **佛**佛經の名。一卷。唐、佛陀多羅譯。〔大藏經、天帙、十二〕。

【圓蛤】22（エンカフ） ㊀蛤蜊。はまぐり。〔張如蘭、蛤有二多種一〕蛤與レ蚌、同レ類而異レ形也、長者爲レ蚌、圓者爲レ蛤。㊁蛙(10－32997)の別名。かじか。〔唐庚、圓蛤詩〕黃犢鳴二水中一、相顧皆愕然、探レ之亡レ所レ得、有レ蛙僅如レ錢、持レ問傍舍翁、云此號二圓蛤一、夏潦漲二溝渠一、喧呼自酬答。

【圓合】23（エンガフ） **佛**圓滿に諸法を融合すること。〔圓覺經〕以二圓覺慧一圓二合一切一。

〔圓合臉〕24 yüan² hê² lien³ まるぽちやの顏。

【圓眼】25（エンガン） 龍眼肉。〔本草、龍眼〕釋名、龍目、圓眼。

【圓規】26（エンキ） ㊀月をいふ。〔岑德潤、詩〕圓規暈不レ缺。㊁ yüan² kuei¹ ぶんまはし。兩脚規。

【圓器】27（エンキ） まるいうつは。〔和漢三才圖會、蓏菜類、苦瓠〕編レ竹作二圓器一、以盛レ飯者名レ箪。

【圓機】28（エンキ） ㊀ぶんまはしの中心。〔莊子、盜跖〕若是若非、執二而圓機一、獨成二而意一、與レ道徘徊。〔疏〕圓機、猶二環中一也、執二於環中之道一、以應二是非一。㊁**佛**圓頓(158)の機根。〔法華玄義、六〕圓機圓應。

〔圓機活法〕29（エンキクワツパフ） 書名。二十四卷。明、王世貞編。圓機詩學活法全書の略。四十四門に分ち、故事成語を類聚し、作詩者の便覽に供す。

【圓丘】30（エンキウ） ㊀まるいをか。天子が冬至に天を祭る壇。圓は天の形に象る。圓邱。圓壇。圜丘(3－4851・・5)を見よ。〔廣雅、釋天〕圓丘、大壇、祭レ天。〔北史、隋高祖紀〕升二圓丘一而敬二蒼昊一。〔郭璞、遊仙詩〕圓丘有二奇草一。〔王勃、拜二南郊一頌序〕詔二殊號於圓丘一。㊁丘の名。藥草を生ず。仙人の居る所。〔抱朴子、登涉〕圓丘多二大蛇一、又生二好藥一、黃帝將レ登焉、廣成子敎三之佩二雄黃一、而衆蛇皆去。

〔圓丘草〕31（エンキウサウ） 圓丘に生じた藥草。〔李白、秋獵孟諸夜歸置二酒單父東樓一觀レ妓詩〕冀餐二圓丘草一、欲三以還二頹年一。

【圓邱】32（エンキウ） 圓丘の㊀に同じ。〔郭璞、南郊賦〕延二祝史一肆二玉牲一、登二圓邱一揖二太淸一。〔梁簡文帝、南郊頌序〕圓邱閒靜、紫壇肅設。

【圓球】33（エンキウ） ㊀まるいたま。〔新法曆書、測食〕凡人視二圓球一、止見二小半蓋一。㊁數學用語。球心から面の各點に至る距離の等しい立體。

【圓鏡】34（エンキヤウ） ㊀まるい鏡。轉じて、月などをいふ。〔梁元帝、玄覽賦〕乍浮二圓鏡一、時泛二明珠一。〔揮麈前錄〕透如二圓鏡狀一、光彩絢レ目。〔薩都剌、溪行中秋望レ月詩〕皓月飛二圓鏡一。㊁明の高僧。臨汾の人。北門瓦窰坂に至り、洞を鑿つて庵龕を構へ、其の中に坐して化す。〔新續高僧傳、五十九〕。

【圓筥】35（エンキヨ） まるいはこ。〔詩、周頌、良耜、載二筐及筥一、疏〕載二其方筐及其圓筥一。

【圓曲】36（エンキヨク） まるく曲る。又、其のもの。〔禮、禮運、山出二器車一、疏〕山車、自然之車、垂鉤不二揉治一、而自圓曲。

【圓極】37（エンキヨク） 圓滿至極。〔五教章、上〕果海圓極。

【圓玉】38（エンギヨク） 淸、金玥(11－40152・・352)の號。

【圓襟】39（マルエリ） 袍又は水干などの襟の圓いもの。盤領。垂領（タリクビ）の對。

【圓銀】40（エンギン） 一圓銀貨。

【圓空】41（エンクウ） **佛**偏空に對していふ。空も亦空じて更に著する所なきこと。第一義空ともいふ。〔無盡燈論〕呵二偏空一而入二圓空一。〔蘇軾、記レ夢詩〕圓間有レ物物間空、豈有三圓空入二井中一。

【圓果】42（エンクワ） **佛**涅槃をいふ。〔大日經、三〕樂下欲成中如來所二稱讚一圓果上。

【圓花】43（エンクワ） まるい花。〔隋書、禮儀志六〕裳有二圓花一、於レ禮無レ礙。〔庾信、和二趙王看レ伎詩〕圓花釘二鼓牀一。

【圓貨】44（エンクワ） 圓の單位で表示せられる貨幣。卽ち日本貨幣のこと。

【圓光】45（エンクワウ） ㊀月や日のまどかな光。〔李白、君子有レ所レ思詩〕圓光過レ滿缺、太陽移レ中昃。㊁卜法の一種。卜者が、咒文を唱へ、鏡か白紙で目隱しをした小童に見せて卜ひあてさせる法。〔晉書、佛圖澄傳〕及三劉曜自攻二洛陽一、勒將レ救レ之、云云、澄曰、又令二一童子絜齋七日一、取二麻油一合二臙脂一、躬自研二於掌中一、擧レ手示二童子一、粲然有レ輝、童子驚曰、有二軍馬一甚衆、見下一人長大白晳、

以二朱絲一縛中其肘上、澄曰、此卽曜也。❸［佛］釋迦や菩薩等の頭の上に現れて居る圓形のひかり。輪後光。〔翻譯名義集〕釋迦世尊圓光一尋。〔觀無量壽經〕頂有二圓光一。

【圓光尉】46エンクヮウヰ　太陽をいふ。〔雲笈七籤〕三天眞人、呼レ日爲二圓光尉一。

【圓活】47エンクヮツ　❶なだらかで滯らぬ。〔古今類書纂要、俗語解〕圓活不二拘執一也。〔文章軌範、韓愈、獲麟解、謝枋得評〕人能熟二讀此等文字一、筆便圓活、便能生二議論一。❷しとやかで生氣がある。〔寶章待訪錄、目都〕陳僧智永千字文、雖レ非二眞蹟一、秀潤圓活逼レ眞。

【圓滑】48エンクヮツ　まるくなめらか。おだやかでかどだたぬ。〔蘇軾、竹䶂詩〕鴟夷讓二圓滑一、混沌慙二瘦爽一。

【圓冠】49エンクヮン　まるいかんむり。儒者の冠。圜冠。〔菅原道眞、仲春釋奠聽レ講二孝經一同賦レ資二事レ父事一レ君〕於レ是圓冠搢レ節、博帶摳レ衣。

【圓鐶】50エンクヮン　まるい輪。圓圈。〔和漢三才圖會、家宅類、鐶鈕〕按、以二大圓鐶一啓二閉戶扉一者、卽鐶鈕耳、鐶之類、是也。

【圓鬟】51エンクヮン　まるいまげ。鬟は、まげ・もとどり。〔白居易、時世粧詩〕圓鬟無レ鬢椎髻樣、斜紅不レ暈赭面狀。

【圓形】52エンケイ　まるいかたち。〔新法曆書、渾天儀之原〕俱足レ爲二圓形之徵一。

【圓徑】53エンケイ　圓のさしわたし。圓の直徑。圓周率(83)を見よ。〔隋書、律歷志一〕古之九數、圓周率三、圓徑率一。

【圓珪】54エンケイ　まるい玉。〔韋莊、信州西三十里山名僊人城下有二月巖山一云云詩〕中有二月輪滿一、皎潔如二圓珪一。

【圓教】55エンケウ　［佛］佛教の一派。天台宗の說では佛教を五派にわけ、小乘二、大乘三とし、大乘の中の一つに圓教を數へる。圓は圓融・圓滿の意。〔華嚴一乘教義、二〕五性海具德門、如二圓教說一。〔白居易、蘇州重玄寺法華院石壁經碑文〕以二圓教一垂二無窮一。〔關中金石記〕何宗密於二遂州涪江西岸一遇二道圓禪師一、問レ法契レ心、遂受二圓教一。

【圓玦】56エンケツ　圓いおびたま。玦は、形が環に似て缺けた所のある佩玉。〔江淹、學梁玉兔園賦〕白沙如二積雪一者焉、碧石如二圓玦一者焉。

【圓缺】57エンケツ　月などがまるくなつたりかけたりすること。〔韋應物、擬古詩〕華月屢圓缺、君還浩無レ紀。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕西湖皓月、從二前歲別來一幾回圓缺。

【圓月】58エンゲツ　❶まるい月。滿月。團月。〔江淹、雜體詩、班婕妤〕紈扇如二圓月一、出レ自二機中素一。〔李洞、客亭對レ月詩〕一年十二度圓月、十一回圓不レ在レ家。〔常建、西山詩〕圓月逗二前浦一、孤琴又搖曳。❷禪僧。鎌倉の人。字は中巖。初め道慧に就いて孝經・論語を學び、長じて顯密二教から禪宗に轉じ、元に渡つて研究し、歸朝後、勅により建仁寺・等持寺等に住した。天授（永和）元年寂、年七十六。著に日本紀・東海一漚集五卷・一漚余滴一卷がある。〔自歷譜〕・〔延寶傳燈錄〕・〔本朝高僧傳〕。

【圓研】59エンケン　圓形のすずり。圓硯。〔雲林石譜〕鞏州石、產二深土中一、一種色綠而有レ紋、自爲二水波一、斲レ硯頗溫潤、發レ墨宜二筆先一、子頃有二圓研一、贈二東坡一、公目レ之爲二天波一。

【圓圈】60エンケン　まるい輪。圓鐶。〔新法曆書、地球用法〕蓋地居二萬物之中心一、隨處向レ天、卽如二圓圈中心一。

【圓臉】61 yüan^2 lien^3　❶顏を立てる。❷丸顏。

【圓弧】62エンコ　圓周の一部分。

【圓罛】63エンコ　圓形の魚網。〔陸龜蒙、漁具詩〕左手揭二圓罛一、輕橈弄二舟子一。

【圓悟】64エンゴ　❶物の理を完全にさとる。〔慧淨、雜言詩〕唯有二能仁一獨圓悟。❷明の高僧。宜興の蔣氏の子。字は覺初。號は密雲。崇禎中、天童に居り、曹溪嫡派を開く。著に天童語錄がある。〔新續高僧傳、二十一〕。

【圓孔】65エンコウ　まるい穴。〔華陽國志〕石壁有二圓孔一、形如二明月一。

【圓孔方木】66エンコウハウボク　圓い穴と四角な木。相合はぬ喩。又、無益なことの喩。圓鑿方枘。〔景德傳燈錄十九、洪州雲居道膺禪師〕若將二有限心識一作二無限中用一、如下將二方木一逗中圓孔上。

【圓沙】67エンサ　淸、錢陸燦（11－40563‥442）の號。

【圓坐】69エンザ　多くの人が圓形に坐ること。〔晉書、阮咸傳〕以二大盆一盛レ酒、圓坐相向。

【圓座】70エンザ　❶藁・藺などでまるく平たく編んだ敷物。わらうだ。圓草褥。〔倭名類聚抄、調度部、坐臥具、圓座〕孫愐曰、蓆、圓草褥也。❷圓坐に同じ。〔一話一言、補遺、三〕うさぎ數十疋つらなり、圓座して、皆立ちあがり。

【圓宰】71エンサイ　天をいふ。天は其の形が圓く、萬物を主宰するからいふ。〔舊唐書、音樂志三〕有二赫圓宰一、深仁曲成。

【圓作】73 yüan^2 tsuo^1　木製の圓形の器物の稱。盆・桶など。

【圓鑿】74エンサク　まるく穿つた穴。圓鑿方枘を見よ。

【圓鑿方枘】75エンサクハウゼイ　まるい穴と四角なほぞ。物事の相合はぬ喩。圓孔方木。圜鑿方枘。〔史記、孟軻傳〕持二方枘一欲レ內二圜鑿一、其能入乎。〔注〕索隱曰、方枘、是筍也、圜鑿、其孔也、謂下工人斲レ木以二方筍一、而內二之圓孔一、不上レ可レ入也、故楚詞云、以二方枘一而納二圓鑿一者、吾知二其鉏鋙而不一レ入也、謂下戰國時、仲尼孟軻、以二仁義一干二世主一、猶二方枘圓鑿一然上也。

【圓匝】76エンサフ　めぐり廻る。又、完全にかね備はること。〔詩、小雅、沔水序、疏〕圓者周匝之物、以比二人行周備一、物有下不二圓匝一者上、規レ之使レ成レ圓、人行有二不レ周者一、規レ之使二周備一。

【圓山】77エンザン　❶山名。㋑福建省龍溪縣の西南。水仙花を產す。㋺甘肅省兩當縣の南。鐵鑛を產す。❷マルヤマ　㋑地名。㋺姓氏。

【圓山派】78マルヤマハ　圓山應擧の畫の流派。

【圓旨】79エンシ　禪僧。越前の人。俗姓は平。字は別源。號は縱性。東明慧日和尙に師事し、後、元に渡り、歸朝後、圓覺寺・建長寺に住し、更に越前の弘祥寺の開山となる。老來、足利義詮の再度の請ひにより建仁寺に住した。正平十九年寂す、年七十一。〔別源和尙塔銘〕・〔延寶傳燈錄〕・〔本朝高僧傳〕。

【圓至】80エンシ　元の僧。高安の人。字は牧潛。號は天隱。古文に巧。著に牧潛集・唐詩說がある。

【圓周】81エンシウ　數學用語。圓形の周圍。圓心から同一距離にある點のつながり。圓周率を見よ。〔隋書、天文志上〕渾天之體、圓周之徑、詳二之於天度一、驗二之於晷影一。〔隋書、律歷志上〕圓周三百五十五。

【圓周角】82エンシウカク　數學用語。圓周上の任意の一點を頂點とし、他の二點を兩脚として成る角。

【圓周率】83エンシウリツ　圓の直徑と其の周との比。符號πで表はし、其の値は$\pi=3.14159$……となる。中國古代では、三と一との比で行はれた。〔隋書、律曆志上〕古之九數、圓周率三、圓徑率一、其術疏舛、自二劉歆・張衡・劉徽・王蕃・皮延宗之徒一、各設二新率一、未レ臻二折衷一、宋末、南徐州從事史祖冲之更開二密法一、以二圓徑一億一爲二一丈一、圓周盈數三丈一尺四寸一分五釐九毫二秒七忽、朒數三丈一尺四寸一分五釐九毫二秒六忽、正數在二盈朒二限之閒一。

【圓日】84エンジツ　滿月の時の日。望日。〔程祖慶、吳郡金石目〕隆興塔甎題記、隆興二年九月圓日、圓日、月圓之日、猶レ言二望日一、見二翻宋本司馬氏書儀序一、後署二菊月圓日一。

【圓實】85エンジツ　まるくて固い。〔福惠全書、郵政部、相良馬、寶金篇〕蹄要二圓實一須二卓立一。

【圓社】86エンシヤ　宋代の蹴球の團體。〔事林廣記、圓社摸場條〕四海齊雲社、當場蹴氣球、作家偏著所、圓社最風流。

【圓象】87エンシヤウ　天にある現象。日月星辰などをいふ。〔盧諶、時興詩〕亹亹圓象運、悠悠方義廓。〔注〕善曰、曾子曰、天道曰レ圓、地道曰レ方、在レ天成レ象、故曰二圓象一。〔孔穎達、禮記正義序〕上法二圓象一、下參二方載一。

【圓城】89エンジヤウ　❶まるい城。〔朱敬則、隋高祖論〕聖人圓城之中、天子生成之物。❷遊戲の名。鬼ごとに似たもの。〔宛署記〕燕都燈市正月十四日、羣兒牽レ繩爲二圓城一、空中方丈、城中二兒輪以レ帕蒙レ目、一兒敲二木魚一、易レ地以誤レ之、蒙兒聽レ聲猜摸、以二巧遇奪一レ魚爲レ勝、則羣二擊執一レ魚兒一、出二城外一而代レ之、更レ番爲レ樂。

【圓寂】90エンジヤク　［佛］圓滿具足して寂滅すること。僧侶の死をいふ。〔大寶積經、五十六〕我求二圓寂一、而除二欲染一。〔李白、地藏菩薩讚〕焚二蕩淫怒癡一、圓寂了見レ佛。〔羊士諤、羣齋讀レ經詩〕圓寂期二超詣一、凋殘幸已蘇。〔書言故事、釋教類〕僧亡曰二圓

寂一。

【圓首】91 エンシュ 圓いあたま。〔北史、越王侗傳〕日月之所レ臨、風雨之所レ至、圓首方足、稟氣食毛、莫レ不下盡入二提封一、皆爲中臣妾上。〔何承天、重答二顏光祿一書〕圓首方足、容貌匪レ殊、惻隱恥レ惡、悠悠皆是。

〔圓首方足〕91' エンシュホウソク 圓い頭、四角な足。人間をいふ。圓頭方足。圓首を見よ。

【圓珠】92 エンジュ ❶まるいたま。〔元稹、誚二盧戡一詩〕素帚茅花亂、圓珠稻實齊。❷心の動いて定まらぬ喩。〔釋門歸敬儀〕教稱二野鹿一、又等二圓珠一。

〔圓珠經〕93 エンジュキャウ 我が國の博士家で論語をいふ。聖人の微言は圓轉窮まりなく明珠のやうであるとの意。〔皇侃、論語義疏序〕鄭玄曰、仲弓子遊子夏等撰定、論者、綸也、理也、次也、撰也、以二此書一可三以經二綸世務一、故曰レ綸也、圓轉無レ窮、故曰レ輪也。〔源順、讀二論語一文〕先聖微言、圓通如二明珠一。〔津阪東陽、薈瓚錄、上〕・〔日尾荆山、燕居雜談〕。

【圓熟】94 エンジュク 十分に熟達する。完成の域に近づく。〔圖繪寶鑑、賞鑒〕古人筆法圓熟、用意精到。

【圓盾】95 エンジュン 圓形のたて。〔唐書、回鶻傳下〕又以二圓盾一傅レ肩、可レ捍二矢刃一。

【圓心】96 エンシン ❶數學用語。圓周の各點から等距離にある一定點。圓の中心點。〔幾何要法、論圓〕圓之中處爲二圓心一。❷佛涅槃を求める心。〔南海寄歸內法傳、四、三十五長髮有無〕圓具圓心、遵二修律藏一。❸yüan² hsin¹ 良い木材。

〔圓心角〕97 エンシンカク 數學用語。圓周上の二點から引いた二つの線が圓心で成す角。

【圓神】98 エンシン めぐつて窮まる所なく神妙なこと。〔易、繫辭上〕蓍之德、圓而神、卦之德、方以知。〔注〕圓者運而不レ窮、方者止而有レ分、言二蓍以レ圓象レ神、卦以レ方象レ知也。〔庾信、周祀圓丘歌、昭夏歌〕禮從二天數一、智總二圓神一。

【圓錐】99 エンスイ ❶圓錐形の略。〔算法統宗、商功歌〕如二圓窖圓錐一者。❷マルギリ 圓い孔を穿つに用ひる錐。

〔圓錐形〕100 エンスイケイ 錐のやうに、圓くて先の尖つた形。圓錐體の形。

〔圓錐根〕101 エンスイコン 植物學用語。其の基端が膨大にして、尖端になるとともに細くなつてゐる根。例へば、牛蒡の類。

〔圓錐體〕102 エンスイタイ 圓錐面と之を切る平面との間に含まれる立體。底は圓形で其の側面は圓く斜上し、頂で一點をなす立體。

〔圓錐花序〕103 エンスイクワジョ 植物學用語。複總狀花序の一種。花序の軸が一回乃至數回分岐し、最終の各分枝が總狀花序をなし、全體が圓錐形をなす。例へば、南天竹の花序類。

【圓寸】104 エンスン 直徑一寸。〔劉子新論、隨時〕救二餓者一、以二圓寸之珠一、不レ如レ與二之橡芋一、貽二溺者一、以二方尺之玉一、不レ如レ與二之短綆一。

【圓井】105 エンセイ 組天井。格天井。〔張協、七命〕方疏含レ秀、圓井吐レ葩。〔注〕向曰、圓井、謂三屋內向レ下作二井形一。

【圓精】106 エンセイ 天をいふ。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕圓精初鑠、方祇始凝。〔注〕濟曰、圓精、謂レ天也。

【圓柄】107 エンゼイ まるいほぞ。〔墨子、備高臨〕衡植「左右皆圓柄。

【圓峭】108 エンセウ 山頂が圓形をなしてそばたつさま。〔水經、巨洋水注〕巨洋水又東北合二康浪水一、水發二縣西南峨山一、無レ事二樹木一、而圓峭孤峙、巑岏分立。

【圓照】109 エンセウ ❶まどかに照らす。〔圓覺經〕皆依三圓二照清淨覺相一。❷唐の高僧。藍田の張氏の子。諸經典に通じ、旁ら儒・墨に及ぶ。詔により名僧十四人と四分律新疏を簽定す。官は內供奉に至り、臨壇兩街十望大德に充てられた。著に大唐利涉法師傳・貞元續釋教錄がある。〔宋高僧傳、五〕。❸字號。㋑梁、到鏡(2—1950‥8)の字。㋺清、王鑑(7—20823‥176)の字。

【圓石】110 エンセキ まるいし。まるい石。〔鬼谷子、本經陰符〕轉二圓石於萬仞之溪一。

〔轉二圓石於千仞之山一〕111 エンセキヲセンジンノヤマニテンズ 高い山から谷底へ圓い石をころがす。勢の急速な喩。〔孫子、兵勢〕木石之性、安則靜、危則動、方則止、圓則行、故善戰レ人之勢、如レ轉二圓石於千仞之山一者勢也。

【圓積】112 エンセキ 數學用語。圓の面積。〔唐順之、弧矢論〕圓積必居二方積四分之三一。

【圓折】113 エンセツ まるく折れまがる。〔顏延之、贈二王太常一詩〕玉水記二方流一、琁源載二圓折一。〔注〕善曰、尸子曰、凡水其方折者有レ玉、其圓折者有レ珠也。

【圓泉】114 エンセン 泉の名。湖南省郴縣の南。一名、除泉。〔水經、耒水注〕除泉水、出二縣南湘陂村一、村有二圓水一、云云、一邊暖、一邊冷、冷處極清綠、淺則見レ石、深則見レ底、暖處水白且濁、玄素既殊、涼暖亦異、厥名除泉、其猶二江東之半湯泉一也。

【圓扇】115 エンセン うちは。團扇。〔劉商、賦二得射雉歌一〕云云、秋深爲レ爾持二圓扇一。

【圓旋】116 エンセン ぐるぐる廻る。〔顧況、石竇泉詩〕吹レ沙復噴レ石、曲折仍圓旋。

【圓蟾】117 エンセン 月の異名。蟾は蟾蜍マガで、月の中に蟾蜍がゐるといふ傳說による。銀蟾。玉蟾。素蟾。靈蟾。清蟾。明蟾。〔韓琦、庚戌秋分詩〕西園宴集偏宜レ夜、坐看二圓蟾一過二麗譙一。〔事物異名錄、乾象、月〕張翥、仙娥玩レ月圖詩、洗空碧海銀蟾冷、方干、中秋月詩、涼宵烟靄外、三五玉蟾秋、韓琦、秋夕詩、雲疎點二素蟾一、又秋分詩、坐看圓蟾逼二麗譙一、梅堯臣詩、靈蟾已隕レ西、范成大、七月十四日詩、先借二清蟾一一夜寒、劉基、十六夜月詩、深秋白露洗二明蟾一。

【圓全】118 エンゼン yüan² ch'üan² 挽回する。

【圓足】119 エンソク ❶まるい足。圓足布を見よ。❷yüan² tsu² 完全。滿足。

〔圓足布〕120 エンソクフ 刀布と總稱する古錢の一種。大中小の三あり、面には細工がある。方足布・尖足布などより重厚で、面文には寓石・閔字・安陽など、多く趙に屬する地名が刻してある。刀布(2—1845‥107)を見よ。

【圓測】121 エンソク 唐の高僧。三藏に通じ、高宗の時、選に應じて譯經館に入り、大乘經・顯識經等を翻譯す。著に唯識疏鈔がある。〔宋高僧傳、四〕。

【圓體】122 エンタイ まるいかたち。〔新法曆書、渾天儀之原〕以二到處所レ現之象一、無レ不三具二有圓體一耳。

【圓臺】123 エンダイ 數學用語。圓錐體の底面と平行の平面とで其の上部を截り去つた殘りの立體。〔算法統宗、商功章〕圓臺求レ積、上周自乘、下周自乘、上下周相乘併レ之、又以レ高乘、再用二三十六一除レ之。

【圓璫】124 エンタウ まるいみみだま。璫は、みみのかざりだま。〔費昶、華觀省中夜聞二城外擣衣一詩〕圓璫耳上照、方繡領聞斜。

【圓壔】125 エンタウ 數學用語。圓い筒がたの立體。〔算法統宗、商功章〕圓堡壔求レ積、以レ周自乘、又以レ高乘レ之、再用二十二一除レ之、如二圓倉圓柱一也。

【圓卓】126 エンタク まるいつくゑ。

〔圓卓會議〕127 エンタククワイギ 圓卓を圍み懇談的に行ふ「會議。

【圓澤】128 エンタク 唐の高僧。李源の友。共に三峽に至り、後世、葛洪川畔に相見んと約した。後十二年、約束の如く再生して相遇つた。今、杭縣天竺寺に三生石があり、圓澤が再生して源と遇つた處といふ。〔琅琊代醉編、十六〕。

【圓壇】129 エンダン 郊祀に天を祭る、まるい壇。圓丘。圜丘。〔後漢書、祭祀志上〕(建武)二年正月、初制二郊兆於雒陽城南七里一、依レ鄗采二元始中故事一、爲二圓壇八陛一。〔韓愈、元和聖德詩〕獸盾騰挐、圓壇帖妥。

【圓緻】130 エンチ 充實してこまやかなこと。質のこまかで麗しいこと。〔筍譜〕慈母山筍、丹陽記、江寧縣南慈母山竹、可三以爲二簫管一、云云、其筍圓緻異二于餘處一。

【圓長】131 エンチャウ まるくながい。圓くて長いこと。〔春秋繁露、三代改制文、內員外橢、注〕橢、音妥、圓長曰レ橢、一作レ隨。

【圓頂】132 エンチャウ ❶まるい頭。圓顱。〔說苑、辨物〕麒麟、麕身牛尾、圓頂一角。❷薙髮した僧。〔曹松、薦福寺贈二應制白公一詩〕瓶勢傾二圓頂一、刀聲落二碎髭一。

【圓柱】133 エンチユウ ❶數學用語。圓い筒がたの立體。圓壔。〔算法統宗、商功章〕再用二十二一除レ之、如二圓倉圓柱一也。❷まる柱。

〔圓柱根〕134 エンチユウコン 植物學用語。植物の根で、其の基部から尖端に至るまで殆ど大小のないもの。大根の類。

【圓澄】135 エンチヨウ 明の高僧。會稽の夏氏の子。字は湛然。號は散水道人。顯聖道場を開き、大いに宗風を暢べた。〔丁元公、稽雲門湛然澄禪師行

狀」。

【圓枕】136エンチン　丸枕。目醒し枕。圓木警枕。〔聞見前錄、十九〕富公未レ第時、讀二書於水南天宮寺三學院一、夜枕二圓枕一、庶二睡不レ能レ久欲レ有レ所レ思、其勤苦如レ此。

【圓琛】137エンチン　元の僧。山西の人。字は仲寶。金末、亂を避けて內黃に留まる。詩・書に巧。草廬を城の旁に結び、池を穿ち水を引き、白蓮を其の中に種ゑ、自ら蓮菴と號す。

【圓陣】138エンヂン　圓形の陣立て。〔宋史、兵志十九〕六花陣卽七軍、七軍者圓陣也、蓋陣以レ圓爲レ體。〔東京夢華錄、七〕龍船各鳴二鑼鼓一出陣、划棹旋轉、共爲二圓陣一、謂二之旋羅一、水殿前又以レ旗招レ之、其船分而爲レ二、各圓陣、謂二之海眼一。

【圓通】139エンツウ　❶あまねく通達する。佛菩薩の妙悟。〔楞嚴正脈疏〕六根互用、周徧圓融、成二茲妙果一、其修入方法、最爲二方便一者、卽從二耳根一修入、耳根聞性、人人本自圓通、如二十方擊レ鼓一時並聞一、是圓也、隔レ牆聽レ音、遠近能悉、是通也、聲有二動靜一、循環代謝、而聞性湛然常住、了無二生滅一、若不レ尋二聲流轉一、而能反二聞自性一、漸至二動靜雙レ除、根塵迥脫、寂滅現前、六根互相爲レ用、遂得二圓通一。❷山名。一名、螺山。又、元通山に作る。雲南省昆明縣城內の東北隅。

【圓通偈】140エンヅウゲ　佛楞嚴經の文珠が說いた偈。何くにか圓通を獲たるといふ句のあるに本づく。〔蘇軾、贈二慈雲寺鑒老一詩〕卻須二重說一圓通偈、千眼薰籠是法王。

【圓通居士】141エンヅウコジ　竹(**8**－**25841**)の異名。僧の海光が夢中に圓通居士と稱する者に會ひ、其の應に依つて瑞竹を生じた故事に本づく。〔淸異錄、木、圓通居士〕比丘海光、住二廬山石虎庵一、夜夢三人長身淸瘦而衣二斑衣一、言レ捨レ身爲二庵中供養具一、俄牕外竹生二一筍一、花紫籜如二夢者之衣一、既成レ竹六尺餘、無レ節、黃綠瑩淨、江州太守聞レ之、意將三奪二取竹一、一夕自倒、太守尋罪去、光乃用爲二拄杖一、目曰二直兄一、光來二都下一、予因見レ之、光云、夢者自稱二圓通居士一、予遂小二篆此四字于杖之首一、令二黑而漆一レ之。

【圓通大士】142エンヅウダイジ　觀世音菩薩のこと。圓通を修して大道を證したからいふ。〔太平記、十六〕瑞夢事、圓通大士の擁護。

【圓通大師】143エンヅウダイシ　宋、懷賢(**4**－**11456**‥62)の號。

【圓亭】144エンテイ　まるい屋根の建物。〔謝翶、僧舍詩〕圓亭方井水、老寺少年僧。

【圓鼎】145エンテイ　❶まるいかなへ。〔和漢三才圖會、庖廚具、鼎〕有二方鼎圓鼎一。❷釜の古名。

【圓綴】146エンテイ　まるく綴り連ねる。圓形にならぶ。〔張衡、週天大象賦〕軍市通貨以圓綴、五侯疑議而衡立。

【圓蹄】147エンテイ　まるいひづめ。〔漢書、武帝紀〕行二幸雍一、祠二五時一、獲二白麟一、〔注〕師古曰、麟、麇身牛尾馬足、黃色圓蹄、一角、角端有レ肉。

【圓的】148エンテキ　婦人の額上に施す丸い點飾。華的(**9**－**31214**‥318)に同じ。〔繁欽、弭レ愁賦〕結二翠葉于珠簪一、擢二丹華于綠房一、點二圓的之熒熒一、映二雙輔一而相望。〔靚粧錄〕華的、一作二圓的一、又曰二星的一。

【圓天】149エンテン　天をいふ。〔莊子、說劍〕上法二圓天一、以順二三光一。

〔圓天窗〕150 yüan² t'ien¹ ch'uang¹　あかり取りの圓窗。

【圓轉】151エンテン　❶まはる。ころがる。〔晉書、王述傳〕述性急爲レ累、嘗食二雞子一、以レ筯刺レ之不レ得、便大怒擲レ地、雞子圓轉不レ止、便下レ牀以二屐齒一踏レ之。〔南史、祖沖之傳〕改二造銅機一、圓轉不レ窮。❷くるくる回る踊り。〔白居易、樂府、胡旋女〕天寶季年時欲レ變、臣妾人人學二圓轉一。❸とどこほらない。又、自由自在なこと。〔鶴林玉露、人、老卒回易〕其胸中之智、圓轉恢奇。

〔圓轉滑脫〕152エンテンクワツダツ　言語や處置が角だたずによく變化して自由なこと。

〔圓轉如レ珠〕153エンテンタマノゴトシ　たまのやうにころころころがりまはる。〔白易居、短歌行〕出爲二白晝一入爲レ夜、圓轉如レ珠住不レ得。

【圓土】154エンド　牢獄をいふ。圜土(**3**－**4851**‥26)に同じ。圓扉。〔意林、三〕應劭風俗通曰、囚二罪人一置二諸圓土一。〔太平御覽、刑法部、獄〕唐書曰、有レ罪則怨氣生二圓土之中一。

【圓頭】155エントウ　頭をいふ。上が圓いからいふ。〔春秋緯、元命苞〕頭者神所レ居、上圓象レ天、氣之府也。

〔圓頭方足〕156エントウハウソク　人間をいふ。まるいあたま、四角なあし。圓首方足。圓顱方趾。〔淮南子、精神訓〕頭之圓也象レ天、足之方也象レ地。

【圓頓】158エンドン　佛天台宗の圓教で、其の行位に就いていふ。諸法を圓融し、頓速に佛果を得るからいふ。〔輔行、二之一〕圓頓者、頓名二頓極頓足一、云云、體非二漸教一、故名爲レ頓。

〔圓頓戒〕159エンドンカイ　佛天台宗の戒法。圓頓の旨を宗とするから名づける。圓戒。〔天台學則、下〕。

〔圓頓宗〕160エンドンシユウ　佛天台宗(**3**－**5833**‥984)の異稱。〔十宗略記〕。

【圓仁】161エンニン　學僧。下野の人。俗姓は壬生氏。諡は慈覺大師。最澄に師事し、長じて唐に渡り、留まること六年、五十四才の時歸朝し、後、天台座主となる。最澄により傳へられた天台密教を更に完備す。貞觀六年寂、年七十一。著に金剛頂經疏・蘇悉地經疏・顯揚大戒論がある。〔慈覺大師傳、一〕・〔本朝高僧傳、六〕。

【圓波】162エンパ　まるい波。〔潘岳、河陽縣作詩〕游魚動二圓波一。

【圓方】163エンパウ　❶まると四角。方圓。又、圓は天、方は地で、天地をいふ。〔淮南子、本經訓〕戴レ圓履レ方。〔班固、西都賦〕據二坤靈之正位一、放二太紫之圓方一。〔注〕向曰、方圓、取二象天地一。❷御馳走を盛る器をいふ。圓い器、四角な器の意。〔張衡、南都賦〕珍羞琅玕、充二溢圓方一。〔王粲、公讌詩〕嘉肴充二圓方一。〔注〕濟曰、圓方、謂二豆俎一也。

【圓房】164 yüan² fang²　新夫婦の床入り。

【圓柏】165エンパク　檜をいふ。〔爾雅翼〕檜、今人亦謂二之圓柏一、以別二於側柏一。

【圓魄】166エンパク　まるい月。まどかな月。魄は、月の輪廓の光のない部分。〔梁武帝、擬三明月照二高樓一詩〕圓魄當二虛闥一、淸光流二思筵一。〔前言往行錄、以レ菊爲レ客〕圓魄入レ堂。

【圓範】167エンパン　まるい鑄がた。〔齊民要術、炙法、餅炙〕以二竹木一作二圓範格一、四寸、面油塗、絹籍レ之。

【圓盤】168エンバン　❶圓形の盤。〔和漢三才圖會、藝器、磁針〕按、圓盤周圍列二十二支一、橫置二針於中一。❷圓盤投げに用ひる金屬製の圓くひらたい器具。

【圓扉】169エンピ　圓土の扉の意。牢獄をいふ。圓土。〔王融、三月三日曲水詩序〕稀レ鳴二桴於砥路一、鞠二茂草於圓扉一。〔注〕向曰、圓扉、獄也、言、時無二犯レ罪者一、獄皆久空、故養二盛草於獄中一。

【圓楣】170エンビ　門戶の上のまるい橫梁。圓いはり。〔隋書、宇文愷傳〕或以二綺井一爲二重屋一、或以二圓楣一爲二隆棟一。

【圓府】171エンプ　財幣を掌る役所。太公望が周のために立てた九府圜法に本づく。九府圜法(**1**－**167**‥574)を見よ。〔王融、永明九年策二秀才一文〕充二都內之金一、紹二圓府之職一。〔注〕良曰、太公爲レ周立二九府圓法一、圓法、錢也、今將レ繼二太公之職事一。

【圓符】172エンプ　まるいわりふ。元の時代に、金字圓符・銀字圓符があつた。〔元史、兵志四〕遇二軍務之急一、則又以二金字圓符一爲レ信、銀字者次レ之。

【圓復】173エンプク　明の僧。鄞の人。字は休遠。著に延壽寺紀略がある。〔明詩綜、九十二〕。

【圓腹】174エンプク　琵琶をいふ。〔武夷山記〕呂眞人・鍾離先生、會二武夷山一、召二阿香一、戛二圓腹一。〔注〕圓腹、琵琶也。

【圓物】175エンブツ　圓形の物。〔論衡、狀留〕圓物投二之於地一、東西南北、無二之不一レ可。

【圓墳】176 yüan² fen²　順天地方で、死者を埋葬した第三日に、喪主が更に手を下して新土を增築することをいふ。

【圓分】177エンブン　❶まるく分れる。〔鄭惟忠、古石賦〕新排二理坼一、舊蹙二文廻一、圓分者雹散、方裂者冰開。❷yüan² fen¹　弓形(**4**－**9692**‥31)に同じ。

〔圓分角〕178 yüan² fen¹ chiao³　弓形角。

【圓文】179エンブン　まるい模樣。〔張協、七命〕乃有二圓文之犴、斑題之猣一。

【圓米】180エンベイ　精製した米。白米。〔元史、鐵哥傳〕內府食用二圓米一、鐵哥奏曰、計二粳米一石一、僅得二圓米四斗一、請自レ今非二御用一、止給二常米一。

【圓餅】181エンペイ　まるいもち。〔和漢三才圖會、造釀類、牡丹餅〕按、牡丹餅、以二粳糯米一相襍炊二柔飯一、

以二雷盆一略擂二擣之一、摸レ手爲二圓餠一、糝二炒豆粉一爲レ黃、或糝二赤小豆泥一爲二紫色一。

【圓璧】182 エンペキ まるいたま。〔庾肅之、玉讚〕圓璧月鏡、璆琳星羅。

【圓木】183 エンボク まるい木。〔和漢三才圖會、農具類、檐〕斫二圓木一爲レ之者謂二總檐一。

【圓木警枕】184 エンボクノケイチン 丸木の枕。忽ち轉んで目がさめるやうにしたもの。苦學する喩。〔吳越備史〕武肅王錢鏐在二軍中一、未二嘗安寢一、用二圓木一作レ枕、睡熟則欹、由レ是得レ寤、名曰二警枕一、又號二折中不睡龍一。〔范祖禹、司馬溫公布衾銘記〕司馬溫公、以二圓木一爲二警枕一、小睡則枕轉而覺、乃起讀レ書。〔書言故事、苦學類〕苦學忘レ寐、圓木警枕、宋司馬溫公、以二圓木一爲二警枕一、纔睡則枕轉而覺、乃起讀レ書。

【圓本】185 エンポン 定價一圓均一の叢書本。昭和の初頭に多く出版された。

【圓滿】186 エンマン ❶あまねく滿ちる。十分にみちて缺けた所がない。〔隋煬帝、入朝遣使參書〕仰承二衡嶽一、功德圓滿。〔南史、梁武帝紀下〕有二神光一、圓二滿壇上一、朱紫黃白雜色。〔宋史、天竺國傳〕福慧圓滿、壽命延長。❷かど立たないで穩やかなこと。

【圓滿解決】187 エンマンカイケツ 事件が穩やかに解決すること。

【圓夢】188 エンム ゆめ判斷。占夢。〔正字通〕圓、占レ夢以決二吉凶一、曰二圓夢一。〔紀異錄〕長安有二圓夢堂一。〔陔餘叢考、圓夢〕有二梅溪子者一、姓宇文氏、精二于太乙數一、且善二圓夢一、以レ術授二樂平人汪經一、近世圓夢之術、蓋本二諸此一。

【圓明】189 エンメイ ❶まるくあきらか。〔白居易、以レ鏡贈レ別詩〕月破天闇時、圓明獨不レ歇。❷園の名。北京の西直門の園。清の世宗が藩邸に在る時に賜はつた。雍正以來、毎歲の初春、此處で政を聽くを常としたが、咸豐の時、英佛聯合軍に燬かれた。〔淸會典、內務府〕圓明園、園之中爲二正大光明殿・勤政親賢殿一、皇帝駐蹕、則聽レ政焉。

【圓明上座】190 エンメイジヤウザ 鏡をいふ。〔文房圖贊、續〕釋鑑、字無隱、號圓明上座。

【圓明大寶】191 エンメイタイハウ 明末、僧馬相の年號。

【圓明露點勻】192 エンメイロテンアマネシ まるく明るい露の玉があたり一面に光つてゐる。〔羅隱、秋霽後詩〕淨碧山光冷、圓明露點勻。

【圓妙】193 エンメウ (佛)三諦が圓融して不可思議なること。非常に敏く明かなこと。〔楞嚴經〕云何汝等遺二失本妙圓妙明心一。〔四敎儀集注、下〕三諦圓應不可思議名二圓妙一。

【圓面】194 エンメン ❶まるい面。まるがほ。〔河圖〕赤帝圓面。〔靈樞經、陰陽二十五人篇〕其爲レ人黃色圓面大頭。❷yüan^2 mien^4 結婚式の後、男女が香案に座する時、司式者が吉祥の韻語を唱へ、又、紅卵一個を新郞新婦の面上に閃かす行事。江蘇浦東地方の俗習。

【圓目】195 エンモク まるい目。〔樂緯、叶圖徵〕鸕鷀鳩喙圓目。

【圓門】196 エンモン 獄門をいふ。〔江淹、詣二建平王一上書〕下官抱二痛圓門一、含二憤獄戶一。〔注〕濟曰、圓門、亦獄門。

【圓融】197 エンユウ ❶あまねくほどこす。〔古今類書纂要、俗語部〕圓融、公家之費、斂二於民閒一、謂二之圓融一。❷なだらかで滯りがない。〔符載、廬山道士石碣銘〕靈以境生、境因圓融。❸第六十四代の帝諡。〔日本紀略〕。❹(佛)エンニウ あまねく融和する。〔楞嚴經、四〕如來說、觀下地水火風、本性圓融、周二遍法界一、湛然常住上。

【圓覽】198 エンラン あまねくみる。殘すところなくみる。〔文心雕龍、比興〕贊曰、詩人比興、觸レ物圓覽。

【圓理】199 エンリ ❶數學用語。和算の一算法。關流最高の祕書、乾坤之卷に說かれたもので、中國數學を基礎とし、括要算法の方法を精撰したもの。西洋數學の微分積分學に相當する。❷人名。明の嘉興の詩人。出家して天寧寺に住す。號は雲東。著に雲東集がある。〔明詩綜、九十二〕。

【圓笠】200 エンリフ まるいかさ。〔儲光羲、牧童詞〕圓笠覆二我首一、長蓑披二我襟一。

【圓亮】201 エンリヤウ 音聲がまろやかに冴えること。亮は喨。〔和漢三才圖會、原禽類、鸚〕按、其聲圓亮而連綿不レ休。

【圓綾】202 エンリヨウ 織物の一種。花絹。〔資治通鑑、陳紀〕宣帝、太建九年、周制、庶人已上、唯聽レ衣二綢・綿綢・絲布・圓綾・紗・絹・綃・葛・布等九種一。〔注〕圓綾、土綾也、亦謂二之花絹一。

【圓龍】203 エンリヨウ 丸く描いた龍の模樣。淸代、天子の衣服などの模樣。〔淸會典、禮部〕表衣用二圓龍文八一。〔皇朝文獻通考、王禮考〕前盤圓龍一、後盤方龍一。

【圓領】204 yüan^2 ling^3 丸襟。團領。

【圓靈】205 エンレイ 天をいふ。〔謝莊、月賦〕柔祇雪凝、圓靈水鏡。〔注〕善曰、圓靈、天也。

【圓奩】206 エンレン まるいはこ。碁笥をいふ。〔海錄碎事、百工、博奕〕圓奩象レ天、方局法レ地、並圍棊賦。

【圓顱】207 エンロ まるい頭。圓頂(132)に同じ。〔南史、陳高祖紀〕方趾圓顱、萬不レ遺レ一。

【圓顱方趾】208 エンロハウシ まるい頭と四角な足。人類を指していふ。圓頭方足。圓首方足。〔事物異名錄、形貌、頭〕莊子、圓顱方趾、按、圓顱謂レ頭也。

【圓籠】209 yüan^2 lung^2 まるぼん。圓い盆。

【圓爲替】210 エンカハセ 圓爲替相場の略。對外的爲替相場を日本の貨幣單位なる圓で表はしたもの。卽ち、圓貨幣の對外的購買價値の、相手國貨幣の對外的購買價値との比較的表現。

【圓運動】211 エンウンドウ 物理學用語。物體が他の力の作用で圓周線上を循行し、一周して始めに復る運動。

【圓解夢】212 yüan^2 chieh^3 mêng^4 夢判斷。

【圓函數】213 エンカンスウ 數學用語。三角函數をいふ。

【圓口類】214 エンコウルイ 動物學用語。八目鰻・めくらうなぎ等のやうに、半圓形の口を有し、他の水棲動物に吸着して其の體液を吸吮する魚類。

【圓草褥】215 エンサウジヨク 圓座に同じ。圓座(70)を見よ。

【圓上臉】216 yüan^2 shang^2 lien^3 面目をたてる。

【圓常無】217 エンジヤウム 道家の神の名。太陽中の青帝。〔雲笈七籤〕日中青帝、諱圓常無、月中赤帝夫人、諱逸寥無。

【圓脣音】218 エンシンオン 脣を圓形にして出す音。注音符號中のㄨ・ㄩ・ㄛの三韻符はこれに屬す。又、圓脣元音ともいふ。

【圓常龍】219 エンジヤウリヨウ 泰山の神の姓名。〔太平御覽、神鬼部〕龍魚河圖曰、東方太山君神、姓圓、名常龍。

【圓太郞】220 エンタラウ 圓太郞馬車の約。

【圓太郞馬車】221 エンタラウバシヤ 乘合馬車。がたばしや。がたくりばしや。圓朝の門人、四代目橘家圓太郞といふ落語家が、寄席で喇叭を吹き、乘合馬車の御者の眞似をして喝采を博してから、俗に乘合馬車をかう呼んだ。

【圓桌面】222 yüan^2 chuo^1 mien^4 八仙桌子の上に被ひかぶせる圓形の板。中華料理の食卓に用ひる。

【圓地樂】223 エンチラク 雅樂の高麗樂雙調四曲中の一。〔樂家錄、二十八、高麗曲〕狛雙調、地久、一名、園地樂。

【圓蟲類】224 エンチユウルイ 動物學用語。蠕形動物の一類。蛔蟲のやうに圓筒狀で環節のないもの。

【圓羅曜】225 エンラエウ 太陽をいふ。〔眞誥〕方諸山人、呼レ日爲二圓羅曜一、外國呼爲二濯羅曜一。

【圓輝隱士】226 エンキインシ 珠(**7－20956**)の異名。〔事物異名錄、珍寶、珠〕水族加恩簿、李藏珍照乘走盤、厥價不レ貲、宜レ授二圓輝隱士一。

【圓脣元音】227 エンシンゲンオン 圓脣音(218)をみよ。

【圓陀陀地】228 エンダダチ (佛)圓滿で美しい。陀陀は美艷のさま。〔碧巖四十三則頌古〕琉璃古殿照二明月一、着語、圓陀陀地。

【探レ圓爲レ彈】229 エンヲサグツテダンヲナス 漢末、游俠の徒が、賄賂を受けて姦吏を殺すに、圓マタで籤引をして部署を割り當て、赤圓を得た者は武吏を斬り、黑圓を得た者は文吏を斬り、白圓を得た者は喪を治めた故事。〔海錄碎事、人事、游俠〕永始元延閒、長安中、姦猾浸多、閭里少年羣輩殺レ吏、受レ賕報レ仇、相與探レ圓爲レ彈、得二赤圓一者斫二武吏一、得レ黑者斫二文吏一、白者主レ治レ喪。

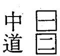
【圔】
4820

㊀ アフ エフ 〔集韻〕乙洽切 (洽)。
㊁ アフ オフ 〔玉篇〕烏合切 (合)。

[一][二] ❶宼圔は、聲が次第に低くなるさま。〔集韻〕圔、宼圔、聲下皃。❷**物が消えてゆ**

く。〔正字通〕圔、俗謂㆓物消縮㆒曰㆑圔。

【壼】4821 🈩コン〔集韻〕苦本切 阮 🈔キン〔集韻〕區倫切 眞


小篆

🈩🈔❶宮垣內の道。〔說文〕壼、宮中道、从㆑口、象㆓宮垣道上之形㆒、詩曰、室家之壼。❷居る。〔廣雅、釋詁二〕壼、尻也。❸壼(3−5667)に同じ。〔集韻〕壼、或作㆑壼。❹梱(6−14883)・閫(11−41329)に通ず。〔正字通〕壼、與㆓壼・梱・閫㆒通、說文引㆓詩室家之壼㆒、今詩作㆑壼。

【⿴囗芇】4822 バウ モウ 〔康熙字典〕莫報切 號

おほふ。又、ふきん。〔康熙字典〕⿴囗芇、集韻、莫報切、音冒、覆也、食巾也。

參考 集韻には⿴囗芇の字を載せず、恐らくは康熙字典の誤收であらう。

【⿴囗⿱从从】4823 レイ 零(12−42242)の古字。〔五音集韻〕⿴囗⿱从从、古文零字。

【⿴囗烏】4824 ジツ 日(5−13733)の籀文。〔字彙補〕⿴囗烏、籀文日字。

【⿴囗氣】4825 キン 〔篇海〕許譖切 沁

わるい氣。〔篇海〕⿴囗氣、氣惡也。

【⿴囗戓】4826 コク 國(3−4798)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿴囗戓、與㆑國同。

【⿴囗荅】4827 タフ 義未詳。〔五音篇海〕⿴囗荅、音荅。

【圓】4828 エン 義未詳。〔篇韻〕圓、音苑。

【⿴囗怨】4829 エン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿴囗怨、音鴛。

【圕】4829′ 圖書館の三字を簡單に書いた字。〔辭海〕圕、圖書館三字之簡寫。

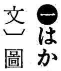
十一畫

【⿴囗淵】4830 ワン エン 〔集韻〕烏關切 删

水のまはるさま。〔集韻〕⿴囗淵、⿴囗淵潾、水勢回旋皃。〔郭璞、江賦〕涒㴸⿴囗淵潾。〔注〕善曰、皆水勢廻旋之皃。

【⿴囗眷】4831 ケン 圈(3−4789)に同じ。〔集韻〕圈、或从㆑眷。

【圖】4832 ト ヅ 〔集韻〕同都切 虞 ㄊㄨˊ t'u²


小篆

❶はかる。㋑はかり苦しむ。〔說文〕圖、畫計難也、从㆑口从㆑啚、啚、難意也。〔段注〕謀㆑之而苦㆓其難㆒也。㋺相談する。〔爾雅、釋詁〕圖、謀也。〔廣雅、釋詁四〕圖、議也。〔儀禮、聘禮〕君與㆑卿圖㆑事。〔注〕圖、謀也。〔呂覽、似順〕君其圖㆑之。〔注〕圖、議㆑之也。㋩くはだてる。〔史記、周紀〕受㆓九鼎㆒而圖㆑犯。〔注〕索隱曰、圖、謀也。㋥おもんぱかる。工夫する。〔國語、晉語二〕伯氏苟出而圖㆓吾君㆒、申生云云、雖㆑死何悔。〔注〕圖、爲㆑之謀也。㋭考へ及ぶ。〔論語、述而〕不㆑圖爲㆑樂之至㆓於斯㆒也。〔皇疏〕圖、猶㆓謀慮㆒也。㋬のぞく。ほろぼす。〔左氏、隱、元〕無㆑使㆓滋蔓㆒、蔓難㆑圖也。〔疏〕草之滋長引蔓、則難㆑可㆓芟除㆒。㋣とる。はかり取る。〔戰國、秦策〕而天下可㆑圖也。〔注〕圖、取也。〔漢書、高帝紀上〕羽可㆑圖。〔注〕師古曰、圖、謂㆓謀而取㆑之。㋠かぞへる。〔周禮、秋官、小司寇〕圖㆓國用㆒而進㆓退之㆒。❷ゑがく。うつす。〔廣雅、釋詁四〕圖、畫也。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕稱㆑圖昭㆑言。〔注〕善曰、圖、謂㆑畫㆓物象㆒也。〔南史、梁元帝紀〕自圖㆓宣尼像㆒。❸づ。㋑ゑ。肖像。〔顏延之、皇太子釋奠會詩〕虞庠飾㆑館、睿圖炳睟。〔注〕善曰、睿圖、孔聖之圖畫也。〔唐書、回鶻傳〕宜㆘爲㆓王會圖㆒以示㆗後世㆖。㋺地圖。〔周禮、天官、小宰〕三曰、聽㆓閭里㆒以㆓版圖㆒。〔注〕圖、地圖也。〔周禮、天官、司會〕凡在㆓書契版圖㆒者之貳。〔注〕圖、土地形象、田地廣狹。❹河圖の略稱。〔夏侯諶、東方朔畫贊〕陰陽圖緯之學。〔注〕善曰、圖、河圖也。〔後漢書、班固傳下〕夫圖書、亮章天哲也。〔注〕圖書、河圖洛書也。〔後漢書、桓譚傳〕增㆓益圖書㆒、矯稱㆓讖記㆒。〔注〕圖書、卽讖緯符命之類也。❺書籍。圖書(44)の❶を見よ。❻印章。圖記(12)の❷を見よ。❼のり。度(4−9313)に通ず。〔說文通訓定聲〕圖、段借爲㆑度。〔楚辭、九章、懷沙〕前圖未㆑改。〔注〕圖、法也、云云、史記、圖作㆑度。❽古は⿴囗丧(3−4795)・⿴囗⿰啚彡(3−4835)に作る。〔玉篇〕⿴囗丧、古文圖。〔集韻〕圖、古作㆑⿴囗⿰啚彡。❾俗に啚(2−3829)に作る。〔集韻〕圖、俗作㆑啚、非㆑是。〔一切經音義、八〕圖・啚二形同。❿姓。〔萬姓統譜〕圖、見㆓直音㆒。

名乘 ノリ。ハカル。ミツ。

解字 會意。口(はかりごとの意)と啚(吝嗇、轉じて困難の意)との合字。本義は計畫の困難、故に口と啚とを合せて其の意を表はす。一說に、口は國の意。國家を經營するは最も困難なる故に口と啚とを合せて計畫の困難なる意を表はすといふ。轉じて、畫の意とし、更に假借して度の意とする。〔說文、圖、段注〕从㆑口、規畫之意、云云、啚者嗇也、嗇者愛濇也、愼難之意。

參考 啚は別字で、鄙と同じ。〔字彙、醒誤〕圖、音徒、謀也、畫也、今誤作㆑啚。啚、與㆑鄙同、嗇吝也。

【圖案】1 ヅアン 日常生活に必要な工藝的・美術的作品または一般工作物を製作するために、其の物品の用途・材質・製作法・形狀・模樣・色彩・配置・照明などについて、思考・立案し、其の意匠・考案などを圖上に設計・表現したもの。designの譯語。

【圖案家】2 ヅアンカ 圖案を作る人。

【圖緯】3 トヰ 河圖と緯書。未來の事や占術の事を記した書。緯書(8−27682‥14)を見よ。〔史記、三皇紀〕圖緯所㆑載。〔後漢書、張衡傳〕中興之後、儒者爭學㆓圖緯㆒。〔隋書、天文志上〕河洛圖緯、雖㆑有㆓星占星官之名㆒、未㆑能㆓盡列㆒。〔任昉、王文憲集序〕圖緯著㆓王佐之符㆒。

【圖乙】4 トイツ 譌字を塗抹することと、文字と文字との閒に旁にかぎをつけて遺脫を增入すること。圖は塗りけす、乙は鍵形の印をつける。塗乙(3−5338‥2)に同じ。〔表異錄〕歐陽文忠詩補亡後序云、增損圖乙、圖者、塗抹也、乙者、勾止也。

【圖雲】5 トウン 關の名。貴州省貴陽縣城の東南。一名、圖寧關。舊名、新添關。

【圖會】6 ヅヱ 特殊な圖畫を集めたもの。〔四庫提

要、子、類書類存目〕三才圖會、一百六卷、明王圻撰、是書彙二輯諸書圖譜一、共爲二一編一。

【圖王】7（トオウ）王業をはかる。〔蘇軾、白帝廟詩〕失レ計雖レ無レ及、圖レ王固已奇。

【圖海】8（トカイ）清、滿洲正黃旗人。姓は馬佳氏。字は麟洲。謚は文襄。聖祖に從つて武功があり、官は太子太傅・中和殿大學士兼吏部尙書。三等公を世襲す。〔清史稿、二百五十七〕・〔清史列傳、六〕・〔碑傳集、四〕・〔國朝先正事略、二〕。

【圖解】9（ヅカイ）圖で說明すること。又、さういふ方法を用ひてゐる本。ゑとき。

〔圖解素問要旨論〕10（ヅカイソモンエウシロン）書名。八卷。金、劉守眞撰。馬重素編。醫書。〔四庫未收書目提要、四〕。

【圖姦】11（トカン）姦をはかる。強姦未遂。〔清律、犯姦〕圖レ姦二僕婦一、被レ割二莖物一。

【圖記】12（トキ）❶地圖と記錄。〔歐陽脩、豐樂亭記〕考二其山川一、按二其圖記一。❷四角な印。銅で作り、清代、領隊大臣・八旗佐領の用ひたもの。〔清會典、禮部〕凡印之別有レ五、云云、四曰二圖記一。〔注〕圖記俱銅質直鈕方者。〔清會典、八旗都統、襲爵〕一鈐二參佐領關防圖記一、送二本旗公署一存貯。❸ t'u² chi⁴ 私人の用ひる印をいふ。書籍帳簿等に押す印。圖書(44)の❹を見よ。

【圖議】13（トギ）はかり論ずる。相談する。〔史記、屈原傳〕入則與レ王圖二議國事一。〔韓愈、與二鄂州柳中丞一書〕丞相公卿士大夫、勞二於圖議一。

【圖畫】14（ヅグワ トクワ）❶ゑがく。〔漢書、蘇武傳〕圖二畫其人於麒麟閣一。〔漢書、金日磾傳〕詔圖二畫於甘泉宮一。〔魏志、倉慈傳〕親戚圖二畫其形一。❷繪畫。〔列女傳、續列女傳、班婕妤傳〕辭曰、觀二古圖畫一、賢聖之君、皆有二名臣在一レ側。〔潘檉、昔遊詩書レ後詩〕君詩如二圖畫一、歷歷記レ所レ嘗。❸（トクワク）はかる。〔東方朔、非有先生論〕圖二畫安危一、揆二度得失一。〔後漢書、光武紀上〕會候騎還、言二大軍且一レ至、諸將遽相謂曰、更請二劉將軍一計レ之、光武復爲二圖二畫成敗一、諸將憂迫、皆曰レ諾。

〔圖畫局〕15（トグワキヨク）宋代、圖書を掌る役所。もと圖畫院といふ。〔事物紀原、庫務職局部、圖畫局〕宋朝會要曰、雍熙元年、置二翰林圖畫院一、在二內中池東門裏一、咸平元年、移在二右掖門外一、紹聖二年、改レ院爲レ局。

〔圖畫見聞志〕16（ヅグワケンブンシ）書名。六卷。宋、郭若虛撰。唐の張彥遠の歷代名畫記の續篇と見るべき畫論。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【圖回】17（トクワイ）めぐらすことをはかる。〔荀子、儒效〕鄕也效二門室之辨一、混然曾不レ能レ決也、俄而原二仁義一、分二是非一、圖レ回二天下於掌上一、而レ辨二白黑一、豈不二愚而知一矣哉。〔注〕圖、謀也、回、轉也、言圖下謀運二轉天下之事一、如中在二掌上一也。

【圖繢】18（ヅクワイ）圖繪に同じ。〔范曄、獄中與二諸甥姪書一以自序〕政可下類二工巧圖繢一、竟無中得也。

【圖繪】19（ヅクワイ ヅヱ）❶圖。繪。〔唐書、文藝傳下〕至二征人早行等篇一、天下皆施二之圖繪一。〔張翥、李孝光聯句〕貝翻譯經六、圖繪笑像三。❷ゑがく。〔宣和畫譜〕周昉生平圖繪甚多。

〔圖繪寶鑑〕20（ヅクワイハウカン）書名。五卷。續篇一卷。元、夏文彥撰。上古以來、宋・金・元までの畫人を論評す。續篇一卷は明、韓昂撰。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【圖卷】21（ヅクワン）繪卷物。〔容臺文集、歷代鑒藏〕予以二丙甲冬一、得二黃子久富春大嶺圖卷一。

【圖形】22（ヅケイ）❶像をゑがく。又、ゑがいた像。畫像。〔漢書、蘇武傳〕迺圖二畫其人於麒麟閣一、法二其形貌一、署二其官爵姓名一。〔宋書、禮志四〕自二漢興一已來、小善小德而圖形立レ廟者多矣。❷ t'u² hsing² 見取圖。

【圖經】23（トケイ トキヤウ）圖書・經典。〔蘇軾、廉州龍眼質味殊絕可レ敵二荔支一詩〕圖經未二嘗說一、玉食遠莫レ數。〔陸游、戲詠二山陰風物一詩〕圖經草草常堪レ恨、好事它年采二此詩一。

【圖結】24（トケツ）身元保證書とそれに押す印。圖は印、結は書。〔六部成語、刑部、圖結送部、注解〕保二釋罪犯一、應下用二保人具結一、加以二圖書一、送レ部核辦上。

【圖工】25（ヅコウ）ゑかき。畫工。〔淮南子、氾論訓〕夫圖工好レ畫二鬼魅一、而憎レ圖二狗馬一。

【圖功】26（トコウ）功業を立てようとはかる。〔白居易、贈二寫レ眞者一詩〕迢遞麒麟閣、圖レ功未レ有レ期。

【圖國】27（トコク）❶國事を考へはかる。〔左氏、昭、元〕圖レ國忘レ死、貞也。❷吳子の篇名。

【圖差】28（トサ）年貢取立ての使者。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕革二圖差一而後、侵蝕之害甦。

【圖詐】29 t'u² cha⁴ 詐欺をはたらく。

【圖財】30 t'u² ts'ai² 財產を目あてにする。財を貪る。

〔圖財害命〕31 t'u² ts'ai² hai⁴ ming⁴ 強盜殺人。

【圖讚】32（ヅサン）繪の餘白に書き入れる評語、又は詩歌。讚。畫讚。晉の郭璞に山海經圖讚がある。〔唐書、蔣乂傳〕此聖曆中侍臣圖贊。〔張九齡、宋使君寫眞圖讚幷序〕宋公卓犖、體標二山嶽一、匪レ石不レ移、如二玉斯琢一。

【圖子】33（ヅシ）橫町。路次。小路。途子。〔節用集〕圖子、通次、小路也。

【圖史】34（トシ）圖書と史書。書史。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕進二思才淑一、傍二綜圖史一。〔注〕向曰、圖、圖書、史、史籍也。〔江淹、雜體詩、謝臨川靈運遊山〕圖史終磨滅。〔韓愈、食二曲河驛一詩〕親戚頓乖角、圖史棄縱橫。

〔菲二枕圖史一〕35（トシニソチンス）圖書を敷きものにし枕にすることで、書物によみ耽けることをいふ。〔唐書、李揆傳〕揆病二取レ士不レ考レ實、徒露搜索一、禁レ所レ挾、而迂學陋生、菲二枕圖史一、且不レ能三自措二于詞一。

【圖紙】36（ヅガミ）篳篥（ヒチリキ）の舌の下方に卷く紙。〔樂家錄〕蘆舌之圖紙、用二薄美濃紙一、其橫大抵七分、或七分半許、但紙橫細、則及二于舌施一レ管可二動搖一。

【圖式】37（ヅシキ）❶圖取の型。基本となる見取圖。❷物の關係を說明するために考案された圖。グラフ。❸ t'u² shih⁴ 圖の書き方。圖の取り方。

【圖寫】38（ヅシヤ）ゑがきうつす。又、その事。〔後漢書、李恂傳〕所レ過皆圖二寫山川屯田聚落一。〔晉書、顧愷之傳〕尤善二丹靑一、圖寫特妙。〔陳書、顧野王傳〕善二圖寫一。

【圖章】39（トシヤウ）印章。〔行廚集〕印章曰二圖章一、凡玉圖・晶章・銅圖・東章、各從二本名一、或幾方、或幾匣。〔福惠全書、蒞任部、酬答書札〕用二圖章一封實。

【圖象】40（ヅシヤウ）❶圖にとり形にとる。ゑがきかたどる。〔周禮、秋官、司約〕小約劑書二於丹圖一、注〕小約劑、萬民約也、丹圖未レ聞、或有二彫器簠簋之屬、有二圖象一者與。〔論衡、雷虛〕如無レ形、不レ得レ爲二之圖象一。〔何晏、景福殿賦〕圖二象古昔一、以當二箴規一。❷ゑすがた。ゑざう。〔魏志、臧洪傳〕昔晏嬰不レ降二志於白刃一、南史不レ曲二筆以求一レ生、故身著二圖象一、名垂二後世一。❸像を畫く。〔唐書、褚亮傳〕命二閻立本一圖レ象。

【圖像】41（トシヤウ ヅザウ）畫像。又、像を畫く。圖象に同じ。〔魏書、釋老志〕又崇二佛法一、京邑四方、建二立圖像一。〔傅咸、（卞和）畫像賦〕既銘二勒于鐘鼎一、又圖二像于丹靑一。

【圖障】42（トシヤウ）繪を描いた衝立。〔唐國史補〕李益詩名早著、有二征人歌且行一篇一、好事者、畫爲二圖障一。〔歐陽脩題跋〕大唐中興頌、元結撰、顏眞卿書、書字尤奇偉、而文辭古雅、世多模以二黃絹一爲二圖障一。

【圖需】43 t'u² hsü¹ 目論む。計畫する。

【圖書】44（トシヨ ヅシヨ）❶書物。書籍。圖籍。〔韓非子、大體〕豪傑不レ著二名於圖書一、不レ錄二功於盤盂一。〔史記、大宛傳〕天子案二古圖書一。〔晉書、天文志上〕東壁二星、主二文章一、天下圖書之祕府也。❷地圖と帳簿。〔漢書、蕭何傳〕何獨先入、收二秦丞相御史律令圖書一。❸河圖洛書（6－17245‥182）の略。〔漢書、溝洫志〕聖王興、則出二圖書一。〔班固、典引〕夫圖書、亮章天哲也。〔注〕河圖洛書、至信至明而出、天賜レ之、使二視而行一レ之。❹私印。古人は其の圖書に己の印を捺したからいふ。〔印文考略〕古人於二圖畫書籍一、皆有レ印以存識、遂稱二圖書印一、故今呼二官印一仍曰レ印、呼二私印一曰二圖書一。〔通俗編、文學、圖書〕聽雨紀談、古人私印有下曰二某氏圖書一、或曰中某人圖書之記上、蓋惟用以識二圖畫書籍一、而其他則否、今人於二私刻印章一、槪以二圖書一呼レ之、可レ謂レ誤矣。

【圖書允】45（ヅシヨノジヨウ）圖書寮の判官。唐名、祕書丞。

〔圖書抄〕圖書寮、允、唐名祕書丞。

〔圖書館〕46（トシヨクワン）❶古、藏書の處は石室・閣・觀・

庫・樓・堂・室・亭といひ、之に固有名詞等を冠して天鹿閣・白虎觀等と稱し、朝廷では祕府・書府・冊府等と稱した。歷代の圖書室の主なるものを擧げれば、漢代には蘭臺・麒麟・石渠・天祿・石室・延閣、東晉には東觀・仁壽閣、西晉には祕書閣・中閣・外閣、宋には總明殿、齊には學士館、梁には文德殿・華林園・祕書省、北齊には仁壽閣・文林閣、後周には虎門麟跡、隋には東都修文殿、東都觀文殿、唐には官書庫に弘文閣・文德殿・四庫・十二庫、民閒に李書樓・鄴架、宋には官に尊經閣・祕閣・龍圖閣・天章閣・太淸樓・王辰殿・四門殿、民閒に讀書堂（司馬光）・白石菴（李公擇）・遂書堂（尤袤）、明には官に祕閣文淵、民閒には汲古閣（毛晉）・菉竹堂（葉盛）・天一閣（范欽）・萬卷堂（睦㮚）・萬卷樓（湯鈔厓）・千頃堂（黃居中）・靜惕堂（曹溶）・澹生堂（祁承㸁）・淸森閣（何良俊）、淸には官に文淵・文源・文津・文溯・文宗・文滙・文瀾の七閣、昭仁殿、民閒には鐵琴銅劍樓（瞿啓甲）・玉玲瓏閣（龔翔麟）・絳雲樓（錢謙益）・述古堂（錢曾）・傳是樓（徐乾學）・培林堂（徐秉義）・含經堂（元文）・芳椒堂（嚴元照）・文選樓（阮元）・學海堂（阮元）・愛日精廬（張金吾）・百宋一廛樓（黃丕烈）・士禮居（黃丕烈）・文瑞樓（金壇）・藝芸書舍（汪士鐘）・知不足齋（鮑廷博）・守山閣（錢熙祚）・平津館（孫星衍）・孫氏祠堂（孫星衍）・小方壺齋（王錫祺）・靈芬館（郭麐）・通志堂（納蘭成德）・藝海樓・詒經堂（張金吾）・曝書亭（朱彝尊）・也是園（錢曾）・校禮堂（凌廷堪）・賫硯齋（何焯）・樊榭山房（厲鶚）・涵芬樓（商務印書館）・樂善堂（怡親王弘曉）・皕宋樓（陸心源）・春在堂（兪樾）・閱微草堂（紀昀）・結一廬（朱學勤）・善本書室（一名八千萬卷樓、丁丙）・雅雨堂（盧見曾）・潛研堂（錢大昕）・湖海樓（張壽榮）・借月山房（張海鵬）・滂喜齋（潘祖蔭）・玉函山房（馬國翰）・惜陰軒（李錫齡）・八千卷樓（丁仁）等がある。圖書館の稱は光緒三十一年、湖南に公立圖書館を設立したのを始めとする。㊁多くの書物を備へて衆人に閲覽させる所。書籍館。

【圖書助】47 ヅショノスケ　圖書寮の次官。唐名、祕書少監。〔職原抄〕圖書寮、助、唐名祕書少監。

【圖書屬】48 ヅショノゾク　圖書寮の職員。唐名、祕書主事。〔職原抄〕圖書寮、屬、唐名祕書主事。

【圖書頭】49 ヅショノカミ　圖書寮の長官。唐名、祕書監。〔職原抄〕圖書寮、頭一人、唐名祕書監。

【圖書府】50 トショフ　圖書を藏する倉。〔晉書、天文志上〕東壁二星、主二文章一、天下圖書之祕府也。〔張說、麗政殿書院宴詩〕東壁圖書府、西園翰墨林。

【圖書編】51 トショヘン　書名。百二十七卷。明、章潢撰。題名は左圖右書の義に取り、經義十五卷・象緯曆算十三卷・地理三十八卷・人道五十七卷・易象一卷・類編一卷・學詩一卷・多識一卷に分ける。〔四庫提要、子、類書類〕。

【圖書寮】52 トショレウ ヅショレウ　㊀昔、中務省に屬し、圖書の收集保管・國史の修撰、宮中の佛事等の事を掌つた役所。唐の祕書省に當る。〔職原抄〕圖書寮、唐名祕書省。㊁舊宮內省の一部局。圖書の收集保管・皇室皇族の記錄等を掌る。今の宮內廳書陵部は、其の後身。

【圖書之富】53 トショノトミ　書物を多く藏してゐること。金錢等の富に比していふ。〔輿地紀勝〕燕人偉歸レ朝、云云、藏書至二五萬七千卷一、黃魯直過レ之曰、書圖之富、未レ有下過二由氏一者上。

【圖書集成】54 トショシフセイ　古今圖書集成（**2**—**3233・・193**）を見よ。

【圖書寮漢籍善本書目】55 トショレウカンセキゼンポンショモク　四卷。附錄一卷。宮內省圖書寮編。圖書寮所藏の漢籍中、珍稀の書を列擧す。經部一百十七種、史部一百十一種、子部三百二十五種、集部二百十六種。

【圖讖】56 トシン　王者の運命、人事の未來を豫言するもので、多くは隱語を用ひる。圖籙。圖讖の語は讖緯の語よりも以前にあり、河圖洛書と讖との合稱であらうといふ。讖の最も古いものは史記老子傳に見え、秦の獻公に謁した周の太史儋が「秦、初め周と合ひ、合ひて離れ、五百歲にして復た合ふべし。合ひて十七年にして霸王出でん」と圖讖に於いて示した豫言が的中して、秦の昭王が周を亡ぼして後、十七年で始皇は霸業を成就した。秦始皇本紀には、道士盧生が海に入り還つて錄圖書を奏し、「秦を亡ぼすものは胡なり」といひ、始皇は之を信じて胡を討ち河南の地を略取した。王莽の時、井中から得た白石に、告二安漢公莽一爲二皇帝一の八字が丹書してあり、之によつて其の野心を成就したので、後の帝王又は帝王たらんとする者が多く之に倣ひ、後漢の光武帝も大いに之を信じ、臣下が奉つた赤符に「劉秀、天子とならん」とあつたので、奮起し、やがて帝王に卽いた。圖讖は帝王ばかりでなく、鄭玄・賈逵等は經典の解釋にまで之を用ひた。爾後弊害が多くなつたので、魏の高祖、隋の文帝、宋の太祖、元の世祖等は皆之を禁じた。〔漢書、王莽傳上〕爾雅・天文・圖讖・鍾律・月令。〔何晏、景福殿賦〕且許昌者、乃大運之所レ戾、圖讖之所レ旌。〔後漢書、光武紀上〕宛人李通等、以二圖讖一說二光武一曰、劉氏復起、李氏爲レ輔。〔注〕圖、河圖也、讖、符命之書、讖、驗也、言レ爲二王者受レ命之徵驗一也。〔後漢書、賈逵傳〕五經家皆無下以證二圖讖一明中劉氏爲二堯後一者上、而左氏獨有二明文一、五經家皆言、顓頊代二黃帝一、而堯不レ得レ爲二火德一、左氏以爲、少昊代二黃帝一、卽圖讖所謂帝宣也、如令二堯不一レ得レ爲レ火、則漢不レ得レ爲レ赤、其所二發明補益一實多。〔後漢書、張衡傳〕立二言於前一、有レ徵二於後一、謂二之讖書一、讖書之始出、蓋知レ之者寡、自二漢取一レ秦、用レ兵力戰、功成業遂、可レ謂二大事一、當二此之時一、莫二或稱一レ讖、若二夏侯勝・睦孟之徒一、以二道術一立レ名、其所二述著一、無二讖一言一、劉向父子、領二校祕書一、閱二定九流一、亦無二讖錄一、成哀之後、乃始聞レ之、云云、至二於王莽簒一レ位、漢世大禍、八十篇何爲不レ戒、則知圖讖成二於哀平之際一也。〔日知錄、天象術數、圖讖〕史記趙世家、扁鵲言、秦穆痦而述二上帝之言一、公孫支書而藏レ之、秦讖於レ是出矣、秦本紀、燕人盧生、使入レ海、還以二鬼神事一、因奏二錄圖書一曰、亡レ秦者胡也、然則讖記之興、實始二於秦人一、而盛二於西京之末一也。

【圖星】57 ヅボシ　㊀畫いた黑點。まとの中心の黑點。㊁見込みをつけた所。ねらつた點。急所。

【圖抄】58 ヅセウ　ゑがきうつす。描寫。〔宋史、沈括傳〕使二契丹圖抄上レ之。

【圖籍】59 ヅセキ　㊀土地の圖面と人民金穀の籍。〔戰國、秦策〕據二九鼎一按二圖籍一、挾二天子一以命二天下一、天下莫二敢不一レ聽、此王業也。〔史記、張儀傳〕據二九鼎一、按二圖籍一、挾二天子一以令二于天下一。㊁トセキ　書籍。圖書。〔韓非子、難三〕法者編二著之圖籍一、設二之於官府一、而布二之於百姓一者也。〔晉書、張華傳〕博覽二圖籍一。〔魏書、安豐王延明傳〕鳩二集圖籍萬有餘卷一。

【圖說】60 ヅセツ　圖を附して說明する。又、圖を附して說明した圖書など。〔周敦頤、太極圖說〕無極而太極。〔妮古錄〕後此圖說、流二傳人閒一。

【圖錢】61 tʻu^{2} chʻien^{2}　錢儲けを圖る。金を貪る。

【圖全】62 トゼン　身の安全をはかる。〔晉書、沮渠蒙遜載記贊〕游飲自晦、匿レ智圖レ全。

【圖治】63 トチ　政治に勵む。國がよく治まるやうに工夫努力する。〔國史略、後三條天皇〕帝素勵レ精圖レ治。

【圖軸】64 ヅヂク　繪卷物。〔圖畫見聞志〕今內府所レ有圖軸、暨人家所レ得書畫、多有二印象一。

【圖長】65 トチャウ　部落の長。〔淸國行政法汎論、地方自治、保甲〕或設二圖及保一、乃有二圖長・保長之名一。

【圖帳】66 ヅチャウ　古、民部省に備へ置いた田畑の繪圖。〔明月記、嘉祿三年四月九日〕圖帳文書。

【圖牒】67 ヅテフ　圖諜に同じ。〔謝靈運、入二華子崗一是麻源第三谷詩〕圖牒復摩滅、碑版誰聞傳。〔注〕善曰、蘇林漢書注曰、牒、譜也。

【圖諜】68 ヅテフ　地圖と諜記。圖牒。諜記は系圖。〔白居易、許昌縣令新廳壁記〕若二其官邑之省置、風物之有亡、田賦之上下一、蓋存二乎圖諜一、此略不レ書。

【圖典】69 ヅテン　圖書と經典。繪圖と書物。〔揚雄、劇秦美新〕如二儒林刑辟、歷紀圖典之用一稍增焉。〔注〕向曰、圖書經典。

【圖董】70 tʻu^{2} tung^{3}　地方部落團體の世話役。村長。

【圖騰】71 tʻu^{2} tʻêng^{2}　未開人が自己の氏族に深い因緣を有するものとして崇拜する動物または天然物。通常、これを其の氏族の血統を示すに用ひ、文化の低い民族の社會にはまだ此の風習が現存している。totem の音譯。

【圖德】72 トトク　德をはかる。德の有無優劣を考へる。〔荀子、正論〕聖王在レ上、圖レ德而定レ次、量レ

能而授レ官。

【圖南】73トナン ❶鵬が翼を張つて南冥に行くことを企てる。大事業を計畫する喩。南冥は南海。〔莊子、逍遙遊〕有レ鳥焉、其名爲レ鵬、背若二太山一、翼若二垂天之雲一、摶二扶搖羊角一而上者九萬里、絕二雲氣一、負二青天一、然後圖レ南、且レ適二南冥一也。〔杜甫、泊二岳陽城下一詩〕圖南未レ可レ料、變化有二鵾鵬一。❷字號。㋑宋、陳摶(11―41698‥461)の字。㋺宋、劉翔(2―2224‥341)の字。㋩元、蕭鵬摶(9―32012‥522)の字。㋥明、吳應鵬(2―3365‥456)の字。㋭明、張翀(江都の人)(4―9812‥558)の字。㋬明、萬雲鵬(9―31339‥560)の字。㋣清、車騰芳(10―38172‥285)の字。㋠清、孫鵬(3―6987‥275)の字。㋷清、龍鯤(12―48818‥211)の字。㋦淺井正直の號。淺井圖南(7―17697‥58)を見よ。㋸井上通熙の號。井上蘭臺(1―258‥63)を見よ。

【圖南翼】74トナンノヨク 南冥に行くことを企て得る翼。大事業、又は遠征を試みようとする大志。圖南鵬翼。〔駱賓王、夏日遊二德州一贈二高四一詩〕未レ展從レ東駿、空戢圖南翼。

【圖南鵬翼】75トナンノホウヨク 圖南翼に同じ。〔謝靈運、撰征賦〕惜二圖南之啓運一、恨二鵬翼之未一レ舉。〔高啓、登二海昌城樓一望レ海詩〕安得三擊レ水遊、圖南附二鵬翼一。〔伊達政宗、偶成詩〕圖南鵬翼何時奮、久待扶搖萬里風。

【圖任】76トニン 才器をはかつて役を授ける。〔書、盤庚上〕亦惟圖二任舊人一、共レ政。〔傳〕先王謀二任久老成人一。

【圖報】77トハウ 報いんことを圖る。〔顏延之、謝三子竣封二建城侯一表〕非二臣髦蔽一所レ任圖レ報、豈竣庸薄所二能奉服一。

【圖法】78トハフ 圖錄と法典。〔呂覽、先識〕出二其圖法一、執而泣レ之。

【圖反】79トハン 謀叛を企てる。〔左氏、僖、二十四〕心覆則圖レ反、宜吾不レ得レ見也。

【圖板】80ヅバン 圖畫・製圖等に用ひるもので、畫用紙を張りつける板。

【圖版】81ヅハン 圖を描いた版木。

【圖範】82ヅハン 圖の型。圖式。〔和漢三才圖會、天文、二十八宿〕按、造二渾天儀諸星圖範一、其器北高南低者乃常也。

【圖譜】83ヅフ 動物・植物等を實物の圖によつて說明し、系統を立てて分類蒐集したものをいふ。

【圖分】84トブン 田畑の割合ひ。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕查二對圖分一。

【圖片】85ヅヘン 清代、八旗の佐領が旗人に支給した、印を捺した證明書。漢代の印結に當る。〔清會典、八旗都統、注〕惟圖片時逸樂、罔レ恤二一世身家一、深可レ懼也。

【圖簿】86ヅボ 繪圖と帳簿。〔漢書、王莽傳中〕以二圖簿未一レ定、未レ授二國邑一。

【圖謀】87トボウ はかる。又、はかりごと。〔蜀志、先主劉備傳〕圖二謀討一レ操、機事不レ密。

【圖們】88トマン トメン ❶川の名。滿洲吉林省の南邊、朝鮮の北境を流れ、ソヴイエト聯邦、沿海州の境をなして日本海に注ぐ。流程五二〇粁。滿洲語で圖們色禽といふ。昔は統門・駞滿に作り、又、土門・豆滿といふ。皆、同音。〔清史稿、地理志〕吉林、琿春廳。〔注〕東分水嶺長嶺子、西北圖們江、自二汪清朝鮮緣界一、合二乾密江一、至二紅旗河口一。❷明代、滿洲鑲藍旗人。姓は覺羅氏。官は佐領。清の太祖の時、屢〻征伐に從つて功があり、天聰の閒、大淩河を攻め、奮戰して卒す。

【圖民】89トミン 民の統治をはかる。〔國語、魯語上〕夫苟中心圖レ民、知雖レ不レ及、必將レ至焉。

【圖名】90 tʻu^{2} ming^{2} 名譽を得ることを圖る。

【圖免】91 tʻu^{2} mien^{3} 免れんことをはかる。

【圖面】92ヅメン ゑづのおもて。ゑづめん。繪圖。

【圖樣】93ヅヤウ ゑづのかた。繪圖の樣式。〔北史、宇文忻傳〕爲二明堂圖樣一、奏レ之。

【圖欲】94トヨク 遼、義宗(9―28504‥170)の小字。

【圖喇】95トラ 清、滿洲正黃旗人。姓は舒穆祿氏。順治の閒、陝西・江南を征するに隨ひ、舟山を定め、山東の土賊于七を平ぐ。官は杭州將軍。〔清史列傳、六〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十〕。

【圖賴】96トライ ❶己の惡事を他人に嫁してごまかさうとする。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕久病自故捏詞誣告、移レ屍圖賴、嚇二詐金錢一。〔六部成語、刑部、圖賴、注解〕圖三謀誣二賴他人一也。❷清、滿洲鑲黃旗人。姓は瓜爾佳氏。費英東の子。諡は昭勳。明を攻めて功あり。爵は一等侯。〔清史稿、二百四十二〕・〔清史列傳、四〕・〔碑傳集、三〕・〔國朝先正事略、一〕。

【圖拉】97トラ 川の名。外蒙古土謝汗の中部。三源あり、皆、肯特山の西麓から出る。元史太祖紀に兀剌河、洪茶丘傳に脫喇河、土土哈傳に禿兀剌河、張德輝の塞北紀行に渾獨河、明史成祖紀に土剌河に作る。〔清史稿、地理志〕外蒙古、土謝圖汗部中旗。〔注〕圖拉河、發二源敖嫩河源之西南數十里許一。

【圖利】98トリ 利益を得ようとはかる。〔新語、懷慮〕據レ土子レ民、治レ國治レ衆者、不レ可二以圖一レ利。〔韓愈、送二石處士一序〕使下先生無レ圖二利於大夫一、而私便中其身上。〔歐陽脩、論二茶法一奏狀〕惟知レ圖レ利、而不レ圖二其害一。

【圖里】99トリ 村やくにん。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕令二各圖里開報一。

【圖錄】100トロク 圖籙に同じ。〔後漢書、謝夷吾傳〕推二考星度一、綜二校圖錄一。〔隋書、天文志上〕三國時、吳太史令陳卓、始列二甘氏・石氏・巫咸三家星官一、著二於圖錄一。

【圖籙】101トロク 未來の吉凶禍福を豫言した記錄。未來記。豫言書。圖讖。圖錄。〔張衡、東京賦〕高祖膺レ籙受レ圖。〔後漢書、方術傳〕王梁・孫咸、名應二圖籙一、越登二槐鼎之任一。

【圖欽保】102トキンハウ 清、滿洲鑲黃旗人。姓は瓜勤佳氏。乾隆中、緬甸・金川を征して最も功があり、陝西固原總兵となる。撒拉爾回人の叛を討ち、馬から墜ちて死んだ。〔清史稿、三百三十九〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十五〕。

【圖古斯】103トコシ 遼、蕭孝忠(9―32012‥319)の小「字。

【圖桑阿】104トサウア 清、滿洲正白旗人。姓は董鄂氏。費揚古の孫。爵は一等侯。官は涼州副都統。嘉慶の閒、川楚の教匪を破り、烏魯木齊提督となつて卒す。〔國朝耆獻類徵、二百九十七〕。

【圖薩布】105トサツプ 清、滿洲正紅旗人。姓は瓜爾佳氏。乾隆の舉人。官は廣東巡撫。〔國朝耆獻類徵、一百八十八〕。

【圖鎝布】106トサフフ 清、滿洲の人。字は裕軒。乾隆の進士。官は侍讀學士。詩に巧。著に枝巢詩草がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十六〕。

【圖思德】107トシトク 清、滿洲鑲藍旗人。姓は覺羅氏。諡は恭愨。乾隆の閒、雲貴總督となつて政績を擧げた。湖廣に遷る。〔清史稿、三百三十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百八十二〕。

【圖爾格】108トールコ 清、滿洲鑲黃旗人。姓は鈕祜祿氏。額亦都の子。諡は忠義。官は內大臣。爵は二等侯。〔清史稿、二百三十九〕・〔碑傳集、三〕・〔國朝先正事略、一〕。

【圖爾根】109トルコン 川の名。❶一名、南土河。源は滿洲熱河省平泉縣の錫默特山。大淩河に入る。又、朝陽縣の北境に圖爾根河があり、漢名を北上河といひ、又、大淩河に入る。❷綏遠省の黑水の異名。

【圖清格】110トセイカク 清、滿洲正紅旗人。字は牧山。號は牧山老人。性至孝。官は山西大同府知。畫に巧。〔清畫家詩史、丙、上〕・〔國朝畫人輯略、四〕。

【圖伯特】111トチベット 西藏(10―34763‥261)の❷に同じ。〔清史稿、地理志〕西藏、其俗稱レ國曰二圖伯特一、又曰二唐古忒一。

【圖明阿】112トメイア 清、蒙古正黃旗人。姓は杭阿塔氏。嘉慶の閒、陝西の教匪を討ち、連戰皆捷つ。官は西安副都統。〔國朝耆獻類徵、三百二十〕。

【圖拉庫】113トラク 川の名。滿洲吉林省樺甸縣の東南。源を長白山の巓に發し、大小二河があり、西を安巴圖拉庫、東を阿濟格圖拉庫といふ。滿洲語で、安巴は大、阿濟格は小、圖拉庫は瀑布の意。北流して尼雅穆尼雅庫河と會して松花江に入る。

【圖亂旋】114トラテン 舞樂の曲名。團亂旋(3―4834‥86)に同じ。

【圖理琛】115トリチン 清の人。先世は葉赫の人。姓は阿顏覺羅氏。官は內閣侍讀。康熙五十一年、土爾扈特に使し、ロシヤを經て、五十四年京に回り、異域錄一卷を奉る。雍正の閒、吏部侍郎となり、內閣學士に終る。〔清史稿、二百八十九〕・〔清史列傳、十五〕・〔國朝耆獻類徵、六十二〕。

【圖魯什】116トロジフ 清、滿洲鑲黃旗人。姓は伊爾根

覺羅氏。諡は忠宣。太宗に從つて明を征し、大淩河・松山・錦州の諸役に皆功があり、後、察哈爾を征し、地を略して宣化に至り、創を被つて死す。爵は三等子。〔清史稿、二百三十二〕。

【圖爾庫勒】117（トルクロ） 澤の名。新疆省哈密縣の北境。周迴五十支里。源は天山の北麓。昔の鹽池海。

【圖爾拜琥】118（トルハイコ） 清、固始汗（3－4745・・94）の原名。

【圖帖穆爾】119（トチムール） 元、文宗（5－13450・・633）を見よ。

【革レ圖易レ慮】120（トヲアラタメリヨヲカフ） はかりごとを改め思慮を變更する。〔後漢書、袁譚傳〕若乃天啓ニ尊心一、革レ圖易レ慮、則我將軍匍匐、悲ニ號於將軍股掌之上一、配等亦當ニ敷レ躬布レ體、聽ニ斧鑕之刑一、如又不レ悛、禍將レ及レ之。

【按レ圖索レ駿】121（ヅヲアンジテシユンヲモトム） 馬の繪によつて得た知識を本にして駿馬をさがし求める。實地に當つて得た知識でなければ役に立たないといふ喩。〔漢書、梅福傳〕（福上書曰）今不レ循ニ伯者之道一、廼欲下以ニ三代選擧之法一取中當世之士上、猶下察ニ伯樂之圖一求中騏驥於市上而不レ可レ得、亦已明矣。〔藝林伐山〕伯樂知ニ其子之愚一、但轉レ怒爲レ笑曰、此馬好レ跳、不レ堪レ御也、所謂按レ圖索レ駿也。〔容齋四筆、嚴有翼詆ニ坡公一〕坡詩所謂、云云、萬斛泉源、不レ擇レ地而出、云云、豈一一如ニ學究書生、案レ圖索レ駿、規行矩步者一哉。〔趙汸、葬書問對〕按レ圖索レ驥者、多失ニ于驪黃一。

【應レ圖合レ諜】122（トニオウジテフニガツス） 應レ圖受レ籙に同じ。〔班固、典引〕應レ圖合レ諜、窮レ祥極レ瑞者。

【應レ圖受レ籙】123（トニオウジロクヲウク） 圖籙に應じて天命を受ける。天子となることをいふ。圖籙は未來記。〔詩、大雅、文王序、疏〕伐レ崇作ニ靈臺一、改ニ正朔一、布ニ王號於天下一、受レ籙應ニ河圖一。〔舊唐書、禮儀志三〕文武二后、應レ圖受レ籙、洎ニ于高宗一、重レ光累レ盛。

【圖窮匕首見】124（ヅキハマリテヒシユアラハル） 計畫祕密等のあらはれる喩。燕の太子丹の刺客、荊軻が督亢の地圖を獻ずるにことよせて秦王を刺さうとし、地圖を擴げ終つて匕首が現はれ、事の敗れた故事。〔史記、荊軻傳〕軻既取レ圖奏レ之、秦王發レ圖、圖窮而匕首見、因左手把ニ秦王之袖一、而右手持ニ匕首一揕レ之。

【圖舒克塔什】125（トシユコクタシ） 川の名。源を縣の西北の托衣山に發し、新疆省疏附縣の東を流れ、烏蘭烏蘇河に注ぐ。

【圖賤買老牛】126 t'u² chien⁴ mai³ lao³ niu² 安物買ひの錢失ひ。

【圙】4833

ト

圖（3－4832）の俗字。〔正字通〕圙、俗圖字。

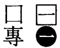
【團】4834

一 タン ダン 〔集韻〕徒官切 寒 ㄊㄨㄢˊ t'uan²

二 セン ゼン 〔集韻〕淳沿切 先

三 セン ゼン 〔集韻〕豎兗切 銑

慣 トン・ドン


小篆

一 ❶まるい。〔說文〕團、圜也、从レ口專聲。〔段注〕鄭風、霝露團兮。〔一切經音義、十二〕團、圓也。❷あつまる。あつまり。〔增韻〕團、聚也。〔張說、東都餔宴詩〕爭レ馳羣鳥散、鬭レ伎百花團。〔吳鎮、翠嶂瑤林詩〕一綠點染空青還、六法精深秀色團。❸かたまり。〔楊萬里、雪晴詩〕臘前三白已奇絶、年後六花仍作レ團。❹くみ。軍隊の組織の一。〔隋書、禮儀志〕騎兵四十隊、隊百人、置ニ一纛一、十隊爲レ團、團有ニ偏將一人一。〔唐書、兵志〕以ニ三百人一爲レ團、團有ニ校尉一。❺すべる。摶（5－12642）に通ず。〔正字通〕團、通作レ摶。〔史記、田完世家〕馮因摶ニ三國之兵一。〔注〕索隱曰、摶、音團、謂ニ握領一也。❻まろぶ。ころがる。❼みせ。店鋪。〔都城紀勝〕諸行又有ニ名爲レ團者一、如ニ城南之花團、泥路之青果團一、是也。❽姓。〔萬姓統譜〕團、見ニ姓苑一。❾專（4－7439）・顓（12－43600）に通ず。〔集韻〕團、周禮作レ專。〔讀書通〕團、通作レ專。〔正字通〕團、通作レ顓。〔周禮、地官、大司徒〕其民專而長。〔注〕專、圜也。〔漢書、賈捐之傳〕顓顓獨居ニ一海之中一。〔注〕師古曰、顓、與レ專同、專專、猶ニ區區一也、一曰、顓、圜貌也。❿园（3－4714）に通ず。〔集韻〕團、莊子作レ园。⓫塼（3－5400）に通ず。〔集韻〕團、太玄作レ塼。⓬漙（7－18136）に通ず。〔詩、鄭風、野有蔓草、零露漙兮、釋文〕漙、本亦作レ團。⓭揣（5－12371）に通ず。〔馬融、長笛賦〕冬雪揣ニ封乎其枝一、〔注〕善曰、揣、與レ團古字通。⓮敦（5－13276）に通ず。〔集韻〕團、通作レ敦。⓯慱（4－11137）に通ず。〔正字通〕團、檜風、勞心慱慱兮、傳曰、憂勞貌、言ニ憂思團結不レ解、與レ團同。二三ひつぎ車。輲（10－38427）に同じ。〔集韻〕輲、載レ柩車也、或作レ團。

名乘 アツ。マル。

【團隱】1（ダンイン） 遼、耶律隆先（9－29008・・147）の字。

【團營】2（ダンエイ） 明代、京軍の名。〔葉向高、京營兵制考〕三大營又變而爲ニ團營一。〔圖書編、京營兵制考〕成化三年復置、當ニ是時一團營凡有ニ十二一。

【團葉】3（ダンエフ） まるい葉。〔李羣玉、傷思詩〕西風團葉下、疊轂參差起。

【團緣】4 t'uan² yüan² 許嫁。男女の家が共に貧乏で、結婚式を擧げることが出來ないため、幼少の頃から養女をもらひ、年頃になるとその子と結婚させること。

【團圓】5（ダンエン） ❶まるい。團圜。〔釋名、釋形體〕膝頭曰レ膞、膞、團也、因ニ形團圜一而名レ之也。〔元稹、高荷詩〕颭閃碧雲扇、團圓青玉疊。❷家族のむつまじいこと。團欒。〔白居易、自詠ニ老身一示ニ諸家屬一〕家居雖ニ濩落一、眷屬幸團圓。〔文嘉嚴氏書畫記〕有ニ宋繡七圖、丁玉川七子團圓圖一。〔石君寶、秋胡劇〕有下人家七子保ニ團圓一語上。❸戲劇の用語。演劇の最後の幕。傳奇においては喜劇的な結末を通例とし、諸事圓滿に解決して、主要人物が出揃ふことからいふ。又、收場・結局といふ。轉じて、まるくをさまる・圓滿に解決する・完全に終結する等の意に用ひる。大團圓。〔寧國通志〕邑舊志、除夜、云云、民間又多食ニ團子一、以取ニ團圓之意一。

【團圓節】6（ダンエンセツ） 北京地方で陰曆八月十五日に嫁が日歸りで里歸りすることをいふ。〔帝京景物略、春場、九〕八月十五日、女歸寧、是日必返ニ其夫家一、曰ニ團圓節一也。

【團圓餅】7（ダンエンペイ） 北京地方で、中秋の月見に作つた所謂月餅を、除夜まで殘し置いて食べる時、これを團圓餅といふ。團圓の❷を見よ。〔燕京歲時記、月餅〕中秋月餅、以ニ前門致美齋者一、爲ニ京都第一一、他處不レ足レ食也、至ニ供月一、月餅到處皆有、大者尺餘、上繪ニ月宮蟾兔之形一、有ニ祭畢而食者一、有下留至ニ除夕一而食者上、謂ニ之團圓餅一。

【團圓夢】8（ダンエンム） 戲曲の名。明、周憲王作。山東濟寧の錢鎖兒の妻なる、趙官保の貞節の事を述ぶ。〔奢摩他室曲叢〕。

【團河】9（ダンカ） 川の名。河北省大興縣の南の南苑を流れ、東南流して鳳河となる。昔の下馬飛放泊。清の乾隆中、行宮を此處に建て、春狩には常に蹕を駐めた。もと七十二泉があつた。鳳河（12－46671・・18）を見よ。

【團鋼】10（ダンカウ） はがねの一種。にせはがね。〔夢溪筆談、辯證、一〕世間鍛レ鐵、所謂鋼鐵者、用ニ柔鐵一屈ニ盤之一、乃以ニ生鐵一陷ニ其間一、泥封煉レ之、鍛令ニ相入一、謂ニ之團鋼一、亦謂ニ之灌鋼一。

【團鶴】11（ダンカク） 舞つてゐる鶴の模樣。〔福惠全書、教養部、敦節儉〕如ニ今之團鶴串蟒一、僭ニ踰王者之尊一。

【團喜】12（キダン） 佛菓子の一種。秔米・菉豆・蒸餅・乾蓮華末・白芥子・酥蜜・石蜜を和合し、油で揚

げたもの。歡喜天に供へた。歡喜團。〔倭名類聚抄、飲食部、飯餠類〕楊氏漢語抄云、歡喜團。〔注〕以二品甘物一爲レ之、或說云、一名團喜、今案、俗說、梅枝・桃枝・餲餬・桂心・黏臍・饆饠・䭔子・團喜、謂二之八種唐菓子一。〔箋注〕廚事類記二太无幾一、卽是。

【團居】13 マドヰ 團坐(23)に同じ。〔古今和歌集、雜、三〕思ふどちまどゐせる夜。

【團魚】14 ダンギョ 鼈(**12－48305**)の異名。〔詩、小雅、六月、炰鼈膾鯉、大全〕濮氏曰、鼈、龜屬、俗呼二團魚一、炰レ火熟レ之名。

〖團魚會〗15 ダンギョクワイ 同好の人が相集まつて、鼈を食ひ、その多寡によつて勝負を爭ふ會。〔括異志〕今時食レ鼈之人、心旣好レ食、又招二賓友一聚會而食、號二團魚會一、彼此以二所レ食多寡一爲二勝負一。

【團玉】16 ダンギョク 圓い玉。〔宋史、回鶻傳〕以二團玉・琥珀・紅白犛牛尾一爲レ貢。

【團光】17 ダンクワウ 團團たる月の光。〔李賀、夢天詩〕玉輪軋レ露濕二團光一、鸞佩相逢桂香陌。

【團黃】18 ダンクワウ 茶の名。〔唐國史補〕茶之名品、蘄州有二蘄門團黃一。〔茶譜、採茶〕蘄門團黃、有二一旗二槍之號一。

【團結】19 ダンケツ ❶唐・宋時代に、其の地方の士人を秋冬の候に兵として集めること。又、その兵。〔資治通鑑、唐紀〕(代宗、大曆十二年五月)定二諸州兵一、皆有二常數一、其召募給二家糧春冬衣一者、謂二之官健一、差二點土人一、春夏歸農、秋冬追集、給二身糧醬菜一者、謂二之團結一。〔眞德秀、浦城諭二保甲一文〕官司所二以團結保甲一本意。〔宋史、兵志〕內屬諸部落、團結以爲二藩籬之兵一也。〔金史、盧庸傳〕積二芻粟一、團二結土兵一、爲レ備。❷かたまり結びつく。團體を結ぶ。組合を作る。〔宋史、兵志四〕百姓自相團結、爲二弓箭社一。❸かたまり結ぶ。こりかたまる。〔正字通〕團、云云、憂思團結不レ解。❹社會團體に於ける構成員の親和的結合性、卽ち協同及び連帶すること。association

〖團結權〗20 ダンケツケン 勞働者などが其の生活向上のために團體を作り得る權利。通常、自由に團體を作り得る權利・團體交涉權・罷業權を包含する。

〖團結力〗21 ダンケツリヨク 團結を維持してゆく力。

【團月】22 ダンゲツ まるい月。滿月。〔江淹、班婕妤詠レ扇詩〕紈扇如二團月一、出レ自二機中素一。〔歲華紀麗〕扇搖二團月一。

【團坐】23 ダンザ 車坐にすわる。まどゐ。圓坐。團欒。〔東京夢華錄〕除夕士庶之家、圍爐團坐、達レ旦不レ寐、謂二之守歲一。〔陸游、小集詩〕兒曹娛二老子一、團坐說二豐穰一。〔文獻通考、經籍考〕團坐飮レ酒以爲レ樂。

【團歲】24 t'uan² suei⁴ 福建地方で、年末除夜に集まつて酒食をとることをいふ。別歲(**2－1924‥76**)に同じ。

【團衫】25 ダンサン 婦人の上衣の一種。〔金史、輿服志下〕女直婦人、上衣謂二之團衫一、用二黑紫或皀及紺一、直領左衽、掖二縫兩傍一、後爲二雙襞積一、前拂レ地、後曳レ地尺餘。〔續文獻通考、王禮考〕定二命婦團衫之制一。

【團子】26 ダンシ ダンゴ ❶穀類の粉をこねまるめて造つた食品。〔白獺髓〕賣二團子一者。❷t'uan² tzŭ 麻雀の駒。麻雀牌。

〖團子鼻〗27 ダンゴバナ 先の圓い鼻。

〖團子餠〗28 ダンゴモチ 團子の❶に同じ。〔和漢三才圖會、穀類、糭〕按、糭、古者爲レ飯每食、今唯磨末爲二團子餠一、而賤民所レ用。

〖團子火矢〗29 ダンゴビヤ 鳥銃をいふ。

【團司】30 ダンシ 用進士をいふ。〔稱謂錄、進士、團司〕國史補、進士榜下擇二一人一爲二團司一。

【團集】31 ダンシフ 團結する。團結させる。團聚。〔宋史、兵志六〕令三團二集保甲一如何。

【團社】32 ダンシヤ くみあひを作る。團結(19)の❷を見よ。

【團氅】33 ダンシヤウ 羽で作つたうちは。羽うちは。〔袁袠、東湖聯句〕繫レ纜披二團氅一、循レ溪舍二竹篊一。

【團城】34 ダンジヤウ ❶宮殿の名。北京の西苑內の金鰲玉蝀橋の東。狀、高臺の如く、周圍の牆は圓形をなし、中に承光殿がある。元の儀天殿の故址といふ。❷城の名。㋑河南省陽武縣の東南。俗に新城と呼ぶ。曹操が袁紹と戰つた所。㋺山西省孝義縣の西北。後魏、置く。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、孝義縣〕團城、在二縣西北十八里一、舊經云、團城、後魏孝昌中所レ置、魏收志、武定四年、置二武昌郡一、治二團城一。

【團聚】35 t'uan² chü⁴ 團結する。團集。

【團臍】36 ダンセイ まるいへその意。雌蟹をいふ。雌蟹の腹の甲は形が圓いからいふ。〔陸游、記夢詩〕團臍霜蟹四腮鱸、樽俎芳鮮十載無。〔剪燈餘話、秋夕訪二琵琶亭一記〕多買二團臍之蟹一。

【團焦】37 ダンセウ くさのいほり。草庵。草舍。團瓢。團茅。〔北齊書、神武帝紀上〕抵二揚州邑人龐蒼鷹一、止二團焦中一。

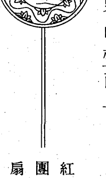
【團石】38 ダンセキ 奇石の名。浙江省三衢の張步溪中に有つて圜形をなす時は狀元を出し、仰向けになる時は宰相を出すといふ。〔揮麈餘話〕三衢張步溪中有レ石、里人號爲二團石一、有二讖語一云、團石圜出二狀元一、團石仰出二宰相一、乙丑歲水涸、石忽如二圜鏡一、明年劉文孺章魁二天下一、前歲大水、石乃側仰、而去年余拜レ相、沈信叔云。

【團積】39 t'uan² chi¹ 累積する。

【團雪】40 ダンセツ 一團の雪。ひとかたまりの雪。〔溫憲、杏華詩〕團雪上二晴梢一、紅明映二碧寥一。

〖團雪散雪辭〗41 ダンセツサンセツノジ 樂曲の名。唐、蔡南史・獨孤申叔の作。王士平と義陽公主との爭ひを述べたもの。一に團雪散雲に作る。〔唐書、魏國憲穆公主傳〕下二嫁王士平一、主恣橫不法、帝幽二之禁中一、錮二士平於第一、久レ之拜二安州刺史一、坐レ交二中人一、貶二賀州司戶參軍一、門下客蔡南史・獨孤申叔爲レ主、作二團雪散雪辭一、狀二離曠意一、帝聞怒、捕二南史等一逐レ之。〔國史補〕貞元十二年、駙馬王士平、與二義陽公主一反目、蔡南史・獨孤申叔、播爲二樂曲一、有二團雪散雲之歌一、德宗怒、欲レ廢二科擧一、後但流二斥南史・申叔一而止。

【團扇】42 ダンセン うちは。〔王昌齡、長信秋詞〕奉二帚平明一金殿開、且將二團扇一暫徘徊。



紅團扇
（三才圖會）

〖團扇歌〗43 ダンセンカ 樂歌の名。晉の中書令王珉が嫂の婢なる謝芳姿に通じ、事が露はれて、芳姿は嫂に笞たれた。その時、芳姿が王珉の好んで白團扇を持つてゐることを本として作つた歌。〔晉書、樂志下〕團扇歌者、中書令王珉、與二嫂婢一有レ情、愛好甚篤、嫂捶二撻婢一至苦、婢素善レ歌、而珉好捉二白團扇一、故制二此歌一。〔古今樂錄〕團扇歌者、晉中書令王珉、捉二白團扇一、與二嫂婢謝芳姿一有レ愛、情好甚篤、嫂箠二撻婢一過苦、王東亭聞而止レ之、芳姿素善レ歌、嫂令、歌二一曲一當レ赦レ之、應レ聲歌、云云、珉聞更問レ之、汝歌何遺、芳姿卽改、云云。〔謝芳姿、團扇歌〕白團扇、辛苦五流連、是郎眼所レ見。

〖團扇詩人〗44 ダンセンシジン 清、陳文述(**11－41698‥1**233)の號。

〖團扇先辭レ手生衣不レ著レ身〗45 ダンセンマヅテヲジシセイイミニツケズ うちはも手から捨てかたびらも脫ぎ棄てた。雨後の秋涼をのべた句。〔白居易、雨後秋涼詩〕夜來秋雨後、秋氣颯然新、團扇先辭レ手、生衣不レ著レ身、更添二砧引思一、難二與レ簟相親一、此境誰偏覺、貧閑老瘦人。

【團總】46 t'uan² tsung³ 團練の隊長。

【團墮】47 ダンダ 佛 行乞する。米錢を乞ひあるくこと。托鉢。〔翻譯名義集、齋法四食篇〕正言二儐茶波多人一、此云二團墮一、言三食墮在二鉢中一也、或云二儐茶夜一、此云レ團、團者食レ團、謂二行乞レ食也。

【團體】48 ダンタイ 共同の目的を以て結合した多人數の集團。くみ。なかま。

【團團】49 ダンダン ❶まるいさま。〔班婕妤、怨歌行〕裁爲二合歡扇一、團團似二明月一。〔梁簡文帝、當壚曲〕十五正團團、流光滿二上欄一。〔元稹、新竹詩〕唯有團團節、堅貞大小同。❷露のまるく凝るさま。〔謝惠連、七月七日夜詠二牛女一詩〕團團滿葉露、析析振二條風一。〔江淹、雜體詩、劉文學楨感懷〕蒼蒼山中桂、團團霜露色。〔注〕團團、露凝貌。❸垂れるさま。〔後漢書、張衡傳〕志團團以應レ懸兮。〔注〕團團、垂貌也。

〖團團轉〗50 ダンダントシテテンズ ぐるぐる廻る。回環旋轉する。〔惠洪、次二韻彭子長僉判一詩〕心如二旋磨驢一、日夜團團轉。

【團茶】51 ダンチヤ 茶を粉末にして煉りかため、團子のやうな形にした茶。煉り固めた上等の茶。團鳳(69)の❶・團龍(77)の❶を見よ。〔李羣玉、龍山人惠二石廩方及團茶一詩〕客有二衡岳隱一、遺二余

石廩茶一。〔歸田錄〕茶之品、莫レ貴二於龍鳳一、謂二之團茶一、凡八餠重一斤。

【團長】52 ダンチヤウ ❶民國陸軍の一官名。一軍團の長。❷團體のかしら。

【團丁】53 tʻuan² ting¹ 團練の壯丁。民兵。

【團亭】54 ダンテイ 湖の名。一名、獨山湖。安徽省桐城縣の南。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府、桐城縣〕團亭湖、縣南六十里、括地志、湖水發二源南硤石山一、與二白石湖一相連、湖中有二兩小山一、亭亭高峻、白石皎然、故有二團亭白石之號一、昔時樅陽湖水遶二團亭湖一、與二江水一合而東流。

【團泥】55 tʻuan² ni² 泥をまるめる。

【團轉】56 ダンテン めぐりころがる。〔元稹、香毬詩〕順レ俗唯團轉、居レ中莫二動搖一。

【團頭】57 ダントウ 穢多・非人のかしら。〔名物六帖〕宋時、杭丐者之長曰二團頭一、雖レ富而丐者名不レ除。〔水滸傳、二十五回〕地坊上團頭何九叔、他是箇精細的人。

【團寧】58 ダンネン 遼、耶律頽昱（9－29008··101）の字。

【團陂】59 ダンパ 鎭の名。❶湖北省蘄水縣の北。巴水の東。商業地。❷貴州省平越縣の北鄕の鎭。

【團拜】60 ダンパイ 相互に慶賀すべき事件の有つた時、相聚まつて拜するをいふ。〔朱子語類〕團拜須レ打二圈拜一、若分行對拜、則有二拜不レ著處一。

【團茅】61 ダンバウ くさのいほり。草庵。團焦。〔韻府引、元好問、詩〕懷我同心人、團茅住二深竹一。

【團柏】62 ダンパク 鎭の名。山西省祁縣の東南。東は太谷、西は武鄕に接す。〔金史、地理志下〕祁、鎭一、團柏。〔元好問、南關詩〕無情團柏關前水、流二盡朱顏一到二白頭一。

【團飯】63 ダンパン 握り飯。むすび。〔說岳全傳〕那些軍士長長、帶二了團飯一走レ路。

【團匪】64 ダンピ ❶團結して居る匪賊。❷康有爲等の改革派を信任した清の德宗を、西太后以下の守舊派が幽閉し、太后が再び朝に臨むに及んで起つた政治上の結社。排外主義を標榜し、明治三十三年各國公使を北京に圍んで、遂に北清事件の原因を作つた。拳法を尊崇して、一の神祕力があると信じてゐたので、拳匪ともいふ。拳匪（5－11996··35）・義和團（9－28504··287）を見よ。

【團風】65 ダンプウ 鎭の名。湖北省黃岡縣の西北。大江の北岸に在る。商業地。明・淸、皆巡司を置く。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、黃岡縣〕團風鎭、府西北五十里、亦曰二團風口一、濱江要地也、正德中、劉六等倡二亂於陽邏驛及團風鎭一、今有二團風鎭巡司一。

【團粉】66 tʻuan² fen³ 綠豆で造つたかたくり粉。

【團瓢】67 ダンペウ くさのいほり。草舍。團焦。團茅。〔襲賢畫訣〕空者爲レ亭、實者爲二團瓢一。

【團保】68 ダンポ 數軒の家が團結して相警め合ふ組織。〔資治通鑑、唐紀〕（穆宗、長慶二年）又乞下檢二責所在實戶一、據レ口團保上。〔注〕團保者、團二結戶口一、使二之互相保織一。

【團鳳】69 ダンポウ ❶茶の名。君主の飲料とする最上品。鳳團。團茶(51)・團龍(77)の❶を見よ。〔蘇軾、和三錢安道寄二惠建茶一詩〕粃二糠團鳳一友二小龍一、奴隸日注臣二雙井一。❷頭髮の飾り。〔劉炳、詩〕鬢偏斜戴金團鳳、臂弱不レ勝珠絡韝。

【團勇】70 tʻuan² yung³ 民兵。義勇兵。

【團圝】71 ダンラン 團欒に同じ。圝は、欒の正字。又、團圞に作る。

【團欒】72 ダンラン 團圞。團圝。❶集まつて樂しむ。又、まどゐ。團坐。〔孟郊、惜苦詩〕可レ惜大雅旨、意二此小團欒一。〔陸游、冬日詩〕堪レ笑此翁幽獨慣、卻嫌兒女話二團欒一。〔龐居士語錄〕有二男不レ婚、有二女不レ嫁、大家團欒頭、共說二無生話一。❷まるいさま。團團。〔韻府引、陸羽、詩〕披レ書寓直月團欒。❸だんごにまるめる。又、團子。〔范成大、上元紀二吳中節物一俳諧體三十二韻詩〕撚レ粉團欒意。〔自注〕團欒、糰子。

【團圞】73 ダンラン ❶團欒の❶に同じ。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕。❷圓いさま。團欒の❷に同じ。又、月をいふ。〔宋景文筆記〕孫炎本二俚俗一作二反切一、謂レ團曰二突圞一、林逋詩、團圞空繞百千回、是不レ脫二俚人反切一而變レ突爲レ團、亦其謬也。

【團栗】74 ドングリ 殼斗科に屬する植物の果實。堅果で總苞の變態である殼斗に包まれてゐる。〔和漢三才圖會、山果類、櫧木〕以二櫧子一訓二團栗一者、甚誤也、團栗卽椚子也。

【團栗眼】75 ドングリマナコ 丸くていやしげな眼。

【團領】76 ダンリヤウ まるえり。圓領。〔水滸傳、六十一回〕穿二一領銀絲紗團領白衫一。

【團龍】77 ダンリヨウ ❶茶の名。君主の飲料とする最上品。團茶(51)・團鳳(69)の❶を見よ。〔本草、茗〕集解、時珍曰、建寧之北苑龍鳳團爲二上供一。〔宣和北苑貢茶錄、序〕太平興國初、特置二龍鳳模一、遣レ使卽二北苑一造二團茶一、以別二庶飮一。❷丸く描いた龍の模樣。淸代の天子の服の飾り。圓龍（3－4819··203）を見よ。〔淸會典、工部〕背鎖二金團龍一。

【團練】78 ダンレン 編制して教練する。土著の鄕民を募集して其の地方の守衞に當らせる義勇兵。〔六部成語、兵部、團練、注解〕聚二集壯丁一而團練。

【團練使】79 ダンレンシ 官名。唐、肅宗の乾元元年、初めて置く。唐代、樞要の地に節度使を置いて兵馬の權を掌らせたが、重要度の少し劣る所には、觀察使・防禦使・團練使などを置いた。團練使は一州または數州を領し、後者の場合には都團練使と稱す。朝廷に直屬し、多くは觀察使・防禦使を兼任。元來は武官であるが、後、刺史の職をも兼ねるに至り、其の勢が增大し、五代には其の極に達した。しかし宋の太祖が之を抑壓する方針をとつてから次第に其の數を減じ、後には單なる武人の階級の稱號となる。〔唐書、百官志四下〕團練使、副使・判官・推官・巡官・衙推各一人。〔宋史、職官志六〕團練使、無二定員一。〔事物紀原、節鉞師曹部、團練〕肅宗乾元元年、置二防禦・團練使一、馮鑑曰、至德中、觀風使幷領二都團練一、其後、上州亦有二其號一、唐百官志曰、元載秉レ政、恩結二人心一、刺史皆得レ兼二團練使一、元載傳曰、載用レ事、授二刺史一者、悉帶二團練使一、以悅二人心一。

【團雲隊】80 ダンウンタイ 妓女をいふ。〔事物異名錄、品術、倡妓〕雲仙雜記、姑臧太守張憲、號二諸妓一曰二鳳窠羣女一、又曰二團雲隊・曳雲仙一。

【團花鳳】81 ダンクワホウ 戲曲の名。明、葉憲祖作。秀才白受之と符明の女似仙との情事を述べる。〔盛明雜劇、第一集〕。

【團窠錦】82 ダンクワキン まるい窠（ナア）の模樣のある錦。〔宋史、輿服志五〕景祐元年、詔禁二錦背繡背遍地密花透背采段一、其希花・團窠・斜窠・雜花、不二相連一者非。〔陸游、齋中雜題詩〕閑將西蜀團窠錦、自背南唐落墨花。

【團環臉】83 tʻuan² huan² lien³ 丸ぽちや顏。

【團山廠】84 ダンサンシヤウ 地名。雲南省楚雄縣の西。淸の嘉慶九年に建てた鐵索の橋がある。

【團舌兒】85 tʻuan² shê² êrh 舌がまはらぬ。

【團亂旋】86 トラデン 舞樂の曲の名。壹越調二十五曲中の一。圖亂旋。〔倭名類聚抄、四〕壹越調曲、團亂旋（大曲）。〔樂家錄、二十八、中華曲〕壹越調、團亂旋、一本團蘭傳。〔注〕止羅傳牟。

【團花戰袍】87 ダンクワセンパウ 宋代、勳功のある臣下に賜はつた戰袍。錦の地に花の模樣を處々に刺繡してある。〔陳孚、詩〕漢南烟柳蓬婆雪、未レ識團花舊戰袍。

【⿴囗杉】4835 ト 圖（3－4832）の古字。〔集韻〕圖、古作レ⿴囗杉。

【⿴囗⿱孖日】4836 バウ 冒（2－1538）の古字。〔集韻〕冒、古作レ⿴囗⿱孖日。

【⿴囗鳥】4836′ クワ 囮（3－4715）に同じ。〔康熙字典〕⿴囗鳥、與レ囮同、見二說文先訓一。

【⿴囗非】4837 ザイ 罪（9－28293）の古字。〔字彙補〕⿴囗非、古文罪字。

【⿴囗眼】4838 カン 看（8－23196）に同じ。〔字彙補〕⿴囗眼、與レ看同。

【⿴囗⿱坴目】4839 ボク 睦（8－23460）の古字。〔六書故〕睦、古作レ⿴囗⿱坴目。

【⿴囗章】4840 シヤウ 義未詳。〔海篇〕⿴囗章、音章。

【⿴囗奎】4841 ブ 義未詳。〔五音集韻〕⿴囗奎、無矩切。

【⿴囗面】4841′ ト 圖(3－4832)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕圖、太平樂府作レ⿴囗面。

十二畫

【圚】4842 クヮイ グヮイ 〔玉篇〕胡對切 隊 外門。〔玉篇〕圚、門圚也。

【⿴囗桼】4843 キン 圞(3－4859)に同じ。〔集韻〕圞、或作レ⿴囗桼。

【⿴囗尃】4844 セン 〔集韻〕荀緣切 先 まるがほ。⿰員頁(12－43687)に同じ。〔集韻〕⿰員頁、圓面也、或作レ⿴囗尃。

【⿴囗袁】4845 エン 園(3－4818)に同じ。〔五音篇海〕⿴囗袁、同レ園。

【⿴囗啚】4846 ト 圖(3－4832)の俗字。

【⿴囗㗊】4847 ギヨク 義未詳。〔五音篇海〕⿴囗㗊、音玉。

【⿴囗堯】4848 ゼウ 義未詳。〔篇海〕⿴囗堯、音繞。

【⿴囗亞】4849 コン 義未詳。〔字彙補〕⿴囗亞、音袞。

十三畫

【圛】4850 エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 陌 一ˋ i⁴

小篆 めぐりゆく。〔說文〕圛、回行也、从レ口睪聲、商書曰、曰圛、圛者、升雲半有半無、讀若レ驛。

【圜】4851 一 エン 〔集韻〕于權切 先 ㄩㄢˊ yüan² 二 クヮン ゲン 〔集韻〕胡關切 刪 ㄏㄨㄢˊ huan² 三 セン ゼン 〔集韻〕旬宣切 先 四 ギン 慣 クヮン・ケン

小篆 一 ❶まるい。〔說文〕圜、天體也、从レ口睘聲。〔段注〕許書、圓・圜・圓、三字不レ同、云云、依レ許則言レ天當レ作レ圜、言二平圓一當レ作レ圓、言二渾圓一當レ作レ圓。❷正圓形。〔墨子、經、上〕圜、一中同長也。❸天。〔易、說卦〕乾爲レ圜。〔呂覽、序意〕爰有二大圜一在レ上。〔注〕圜、天也。❹陽氣。〔太玄經、釋〕圜煦釋レ物。〔注〕圜、陽氣形勢也。❺まはる。〔孔子家語、致思〕圜流九十里。〔注〕圜流、回水也。❻あまねし。ゆきわたる。〔漢書、食貨志下〕太公爲レ周立二九府圜法一。〔注〕師古曰、圜、謂二均而通一也。❼まつたし。〔集韻〕圜、一曰、全也。❽ひとや。圜土(26)を見よ。〔正字通〕圜、圜土、獄名。❾ぜに。〔漢書、食貨志下、注〕李奇曰、圜、錢也、圜一寸、重九兩。❿或は圓(3－4819)に作る。〔集韻〕圜、或作レ圓。⓫員(2－3633)に通ず。〔周禮、考工記、輪人〕取二諸圜一也。〔注〕故書、圜或作レ員。二 めぐる。めぐらす。繯(8－27952)に通ず。〔說文通訓定聲〕圜、叚借爲レ繯。〔集韻〕圜、繞也。〔漢書、高五王傳〕圜二悼惠王冢園邑一。〔注〕師古曰、圜、謂三周二繞之一。三 ぶんまはし。圎(3－4770)に同じ。〔集韻〕圎、說文、規也、或作レ圜。四 圁(3－4772)に通ず。圜陰(3)を見よ。

名乘 ミツ。

【圜菴】1（エンアン） 淸、趙蒼璧(10－37171‥571)の號。

【圜圍】2（クヮンヰ） めぐりかこむ。とりまく。〔晉書、段灼傳〕圜圍而攻レ之、有二不レ尅者一。

【圜陰】3（ギンイン） 縣名。圁陰(3－4772‥1)に同じ。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、云云、圜陰。〔注〕惠帝五年置、莽曰二方陰一、師古曰、圜字、本作レ圁、縣在二圁水之陰一、因以爲レ名也、王莽改爲二方陰一、則是當時已誤爲二圜字一、今有二銀州・銀水一、卽是舊名猶存、但字變耳。

【圜好】4（エンカウ） まるい孔。好は孔。〔漢書、食貨志下〕罷二大小錢一、改作二貨布一、其圜好徑二分半。〔注〕師古曰、好、孔也。

【圜丘】5（エンキウ） ❶圓形の丘。天子が冬至に天を祭る壇。圜は、天の形に象る。圓丘。〔周禮、春官、大司樂〕冬日至於二地上之圜丘一奏レ之。〔疏〕土之高者曰レ丘、圜者象二天圜一也、因レ高以事レ天、故於二地上一。〔揚雄、甘泉賦〕崇崇圜丘、隆隱レ天兮。〔六部成語、禮部、圜丘、注解〕天壇之祭、築レ土成二丘形一、圜以像レ天、於レ此設レ祭、謂二之圜丘一。❷仙人の居る處。員丘(2－3633‥3)に同じ。

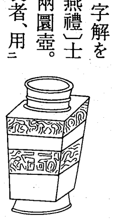
【圜緊】6（エンキン） まるくかたい。〔皮日休、公齋四詠、新竹詩〕圜緊珊瑚節、鈔利翡翠翎。

【圜冠】7（エンクヮン） 圓形の冠。儒者が用ひる。圓冠。〔莊子、田子方〕儒者冠二圜冠一者、知二天時一。

【圜形】8（エンケイ） まるい形。圓形。〔國朝漢學師承記、陳厚耀〕皆與二圜形一相合。

【圜闕】9（エンケツ） まるい屋根の宮殿。〔張衡、西京賦〕圜闕竦以造レ天、若二雙碣之相望一。

【圜壺】10（エンコ） 周代、士の旅食に用ひたまるい壺。壺(3－5662)の字解を見よ。〔儀禮、燕禮〕士旅二食于門西一、兩圜壺。〔注〕尊、士旅食者、用二圜壺一、變二卿大夫一也。



圜壺
（圖物名）

【圜悟】11（エンゴ） ❶佛理を完全にさとる。圓悟(3－4819‥64)を見よ。❷宋の高僧。字は克勤。初め四川成都府昭覺寺に在り、後に鎭江の金山寺に遷り、高宗より號を圜悟禪師と賜はる。古來禪門第一の書と呼ばれる碧巖集は、禪師が夾山靈泉禪院に在つて、雪竇の頌古百則に垂示・著語・評唱を加へたもの。〔五燈會元、十九〕。

【圜采】12（エンサイ） まるい色紐。〔說文〕紃、圜采也。〔段注〕圜采、以二采線一辮レ之、其體圜也。

【圜宰】13（エンサイ） 天をいふ。圜則。〔舊唐書、音樂志三〕有二赫圜宰一、深仁曲成。

【圜鑿】14（エンサク） まるいあな。圜鑿方枘を見よ。

【圜鑿方枘】15（エンサクハウゼイ） 圓い穴と四角なほぞ。物事の合はぬ喩。圓鑿方枘。圓孔方木。〔史記、孟軻傳〕持二方枘一欲レ內二圜鑿一。〔楚辭、九辯〕圜鑿而方枘兮、吾固知二其鉏鋙而難一レ入。〔注〕五臣云、若鑿二圓穴一、斫二方木一內レ之、而必參差不レ可レ入、喩二邪佞在一レ前、忠賢何由能進一。

【圜視】16（エンシ クヮンシ） ひとみをまるくして正視する。目を見張つて驚き見る。一說に、見廻はす。〔賈誼、治安策〕動二一親戚一、天下圜視而起。〔漢書、賈誼傳、天下圜視而起、注〕應劭曰、圜レ精正視也、師古曰、言二驚愕一也。〔王先謙補注〕先謙曰、猶レ言二相顧而起一、應說非、新書作二環視一。〔柳宗元、梓人傳〕余圜視大駭。

【圜舍】17（エンシヤ） まるい小屋。〔魏志、管寧傳、注〕臣松之案、魏略云、焦先及楊沛、並作二瓜牛廬一、止二其中一、以爲、瓜當レ作レ蝸、蝸牛、螺蟲之有レ角者也、俗或呼爲二黃犢一、先等作二圜舍一、形如二蝸牛蔽一、故謂二之蝸牛廬一。

【圜牆】18（エンシヤウ） 圜土(26)に同じ。牢獄。囹圄。〔漢

書、司馬遷傳〕幽二於圜牆之中一。〔注〕師古曰、圜牆、獄也、周禮謂二之圜土一。

【圜鍾】19（エンショウ） 音樂の十二律の一。一名、夾鍾。鍾はまた鐘にも作る。〔周禮、春官、大司樂〕凡樂圜鍾爲レ宮、黃鍾爲レ角、大蔟爲レ徵、姑洗爲レ羽。〔夢溪筆談、樂律一〕圜鍾六變、函鍾八變、黃鍾九變、同會二于卯一、卯者昏明之交、所下以交二上下一通二幽明一合中人神上、故天神地祇人鬼、可二得而禮一也。

【圜則】21（エンソク） 天。圜宰。則は、法の意。〔楚辭、天問〕圜則九重、誰營二度之一。〔注〕言、天圜而九重、誰營度而知レ之乎。

【圜道】22（エンダウ） 天の道。〔呂覽、圜道〕天道圜、地道方、聖王法レ之、云云、日夜一二周圜道一也。

【圜陣】23（エンヂン） 圓形に敷いた陣。圓陣。圜陳。〔史記、李將軍傳〕廣爲二圜陣一外嚮。〔魏志、田豫傳〕因二地形一回レ車結二圜陣一。

【圜陳】24（エンヂン） まるく敷いた陣。圜陣。〔史記、項羽紀〕爲二圜陳一外向。

【圜堵】25（クワント） 狹い室。環堵(**7**－**21287**・・104)に同じ。〔何遜、七召〕圜堵常閉、曲突無レ煙。

【圜土】26（エンド） ひとや。牢獄。圜牆。〔周禮、地官、比長〕若無レ授無レ節、則唯圜土內レ之。〔注〕圜土者、獄城也。〔周禮、秋官、序官、司圜、注〕鄭司農云、圜、謂二圜土一也、圜土、謂二獄城一也。〔墨子、尙賢下〕昔者傳說居二北海之州、圜土之上一、衣レ褐帶レ索、傭二築於傳巖之城一。

【圜囊】27（エンナウ） まるいふくろ。〔和漢三才圖會、嬉戲類、蹴鞠〕三才圖會云、博物志及劉向別錄曰、蹴、黃帝所レ作也、或曰、起二戰國時一、云云、以レ革爲二圜囊一、實以二毛髮一蹵レ之、漢成帝最好二蹴鞠一。

【圜牌】28（エンパイ） まるい札。〔續文獻通考、王禮考〕有二雲花圜牌・烏形長牌之異一。

【圜方】29（エンハウ） 圓と四角形。又、天と地。圓方(**3**－**4819**・・163)に同じ。〔漢書、律歷志上〕規矩相須、陰陽位序、圜方乃成。

【圜法】30（エンパフ） ❶幣制をいふ。圜は、あまねく行きわたる意。九府圜法(**1**－**167**・・574)を見よ。〔漢書、食貨志下〕太公爲レ周立二九府圜法一。❷（クワンパウ）法律を布いて行はしめること。

【圜扉】31（エンピ） 獄門。圓扉(**3**－**4819**・・169)に同じ。〔白孔六帖〕圜扉、獄門也。〔福惠全書、刑名部、疑犯〕彼方安二坐圜扉一、肥酒大肉、而聽二其扳害一。

【圜狴】32（エンヘイ） 牢獄をいふ。〔沈佺期、則天門赦改年詩〕聖人宥二天下一、幽鑰動二圜狴一。

【圜陽】33（ギンヤウ） 縣名。圁陽(**3**・・**4772**・・3)に同じ。圜陰(3)を見よ。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、圜陽。〔注〕師古曰、此縣在二圁水之陽一。

【圜流】34（エンリウ・クワンリウ） めぐってながれる。〔孔子家語、致思〕圜流九十里。

【圜橋觀聽】35（クワンケウクワンチヤウ） 後漢の明帝が儒教を尊び、自ら經を講じた時、冠帶縉紳の人が橋門をとりまいて之を觀聽した故事。〔後漢書、儒林傳序〕明帝卽位、云云、尊二養三老五更一、饗射禮畢、帝正坐自講、諸儒執レ經問二難於前一、冠帶縉紳之人、圜二橋門一而觀聽者、蓋億萬計。

【圜容較義】36（エンヨウカウギ） 書名。一卷。明、李之藻撰。利瑪竇の遺法を記す。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【⿴囗⿰㒼彡】4852 マン 滿(**7**－**18099**)の古字。〔字彙補〕⿴囗⿰㒼彡、古文滿字。

十四畫

【⿴囗頁】4853 ヘン 義未詳。〔字彙補〕⿴囗頁、布選切、見二南粵志一。

【⿴囗語】4854 イウ 義未詳。〔五音篇海〕⿴囗語、音由。

【⿴囗獄】4855 ゴク 獄(**7**－**20603**)の古字。〔玉篇〕⿴囗獄、古文獄。

【⿴囗⿰缶系】4856 イウ ⿴囗繇(**3**－**4861**)の俗字。〔龍龕手鑑〕⿴囗⿰缶系、俗⿴囗繇字。

【⿴囗蓋】4857 アフ 圔(**3**－**4820**)に同じ。〔篇海類編〕⿴囗蓋、同レ圔。

十五畫

【⿱因⿰因因】4858 イン 義未詳。〔金鏡〕⿱因⿰因因、音因。

十六畫

【⿴囗⿱㐭木】4859

㊀キン 〔集韻〕倶倫切 眞

㊁クン 〔集韻〕丘粉切 吻

㊂コン 〔集韻〕苦本切 阮

㊃キン 〔集韻〕苦隕切 軫

㊀**つかねる**。⿰糸⿱㐭木(**8**－**28060**)に同じ。〔廣雅、釋詁三〕⿴囗⿱㐭木、束也。〔集韻〕⿰糸⿱㐭木、束也、或作レ⿴囗⿱㐭木。㊁㊂㊃**つかねる**。稛(**8**－**25121**)に同じ。〔集韻〕稛、說文、絭束也、亦作レ⿴囗⿱㐭木。

【⿴囗縣】4860 ジヨ 義未詳。〔字彙補〕⿴囗縣、音汝。

十七畫

【⿴囗繇】4861 イウ ユ 〔集韻〕夷周切 尤

をとり鳥。囮(**3**－**4715**)に同じ。〔說文通訓定聲〕囮、或从レ口繇聲。〔集韻〕⿴囗繇、捕レ鳥媒也、或作レ囮。

【⿴囗環】4862 イウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿴囗環、音由。

【⿴囗⿱⿰囚囚⿰囚囚】4863 ライ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿴囗⿱⿰囚囚⿰囚囚、音雷。

十八畫

【⿴囗䌛】4864 イウ 囮(**3**－**4715**)に同じ。〔說文〕囮、⿴囗䌛、囮或从レ䌛。〔段注〕各本解作レ繇、今正。

【⿴囗⿱林林】4865 イウ 囿(**3**－**4756**)の籀文。〔說文〕囿、⿴囗⿱林林籀文囿。

十九畫

【圝】4866 ラン 〔集韻〕盧丸切 ㄌㄨㄢˊ 寒 luan²

まるい。まどか。俗に欒(**6**－**15947**)に作る。〔廣韻〕圝、團圝、圓也。〔集韻〕圝、圜也。〔正字通〕圝、俗借レ欒。

名乘 マロ。

二十三畫

【圞】4866′ ラン 圝(**3**－**4866**)の俗字。〔中華大字典〕圞、俗圝字。

土部

［一］ト ツ 〔集韻〕統五切 ㄊㄨˇ tʻu³ 麌
［二］ト ヅ 〔集韻〕動五切 麌
［三］タ テ 〔集韻〕丑下切 馬
［四］カ ケ 〔集韻〕許下切 馬
［五］ト ヅ 〔字彙補〕同都切 虞
［慣］ド

【土】4867

土 小篆

［一］❶つち。㋑とち。土壤。〔說文〕土、地之吐㆓生萬物㆒者也、二、象㆓地之上地之中㆒、丨、物出形也。〔書、禹貢〕禹敷㆑土。〔鄭注〕能吐㆓生萬物㆒者曰㆑土。〔呂覽、辯土〕於㆓其施㆑土。〔注〕土、壤也。〔白虎通、五行〕土者最苞含。〔漢書、異姓諸侯王表序〕漢亡㆓尺土之階㆒、繇㆓一劍之任㆒、五載而成㆓帝業㆒。㋺五行の一。方位では中央、季節では四季に偏在し、人倫では君、十干では戊己、五星では土星、五色では黃、五音では宮、五味では甘、五臭では香、五常では信に配する。〔禮、月令〕中央土。〔禮、禮運、疏〕土爲㆑信。〔春秋繁露、五行相生〕中央者土、君官也。〔淮南子、天文訓〕戊己、四季土也。〔漢書、律歷志上〕宮爲㆑土。〔白虎通、五行〕土味所㆓以甘㆒何。〔白虎通、五行〕中央土也主㆑養、故其臭香也。〔三才圖會、時候、土用〕土用、中央、戊巳、土也、蔡邕月令注云、土寄㆓旺四時㆒、各十八日、共七十二日、除㆑此則水火金木亦各七十二日、土於㆓四時㆒無㆑乎不㆑在、故無㆓定位㆒、無㆓專氣㆒。㊇易では、陰又は坤に配する。〔易、臨、甘臨、虞注〕陰爲㆑土。〔易、說卦、艮爲㆑山、宋注〕坤爲㆑土。❷耕作地。田畑。〔爾雅、釋言〕土、田也。❸ひらち。平地。〔書、禹貢〕降㆑丘宅㆑土。〔周禮、地官、掌節〕土國用㆓人節㆒。〔注〕土、平地也。❹くに。國土。〔國語、晉語一〕晉之啓㆑土、亦不㆑宜乎。〔注〕啓㆑土、闢㆑境也。❺地方。〔南史、韋鼎傳〕州中有㆓土豪㆒。❻ふるさと。鄉土。〔論語、里仁〕小人懷㆑土。〔集解〕孔安國曰、重㆑遷也。〔後漢書、班超傳〕久在㆓絕域㆒、年老思㆑土。❼ところ。場所。〔詩、魏風、碩鼠〕樂土樂土、爰得㆓我所㆒。❽居る。〔詩、大雅、緜〕自㆑土㆓沮漆㆒。〔傳〕土、居也。❾土をもる。土木工事をする。〔詩、邶風、擊鼓〕土㆑國城㆑漕。❿八音の一。土を燒いて作つた樂器。〔周禮、春官、大師〕金石土革絲木匏竹。〔注〕土、塤也。⓫土の神。大地を主宰する神。〔公羊、僖、三十一〕諸侯祭㆑土。〔注〕土、社也。〔後漢書、郎顗傳〕土者地祇、陰性澄靜。⓬はかる。測量。度(4-9313)に通ず。〔說文通訓定聲〕土、叚借爲㆑度。〔周禮、地官、大司徒〕以㆓土圭㆒土㆓其地㆒。〔注〕土㆓其地㆒者、猶㆑言㆑度㆓其地㆒。〔周禮、考工記、玉人〕以致㆑日土㆑地。〔注〕土、猶㆑度也。⓭事業をいふ。〔皇極經世書〕天子以㆓九州㆒爲㆑土、仲尼以㆓萬世㆒爲㆑土。⓮はく。吐(2-3300)に通ず。〔廣雅、釋言〕土、瀉也。〔疏證〕春秋元命苞、土之爲㆑言、吐也、說文、吐、寫也、釋名、吐、瀉也、故揚豫以東、謂㆑瀉爲㆑吐也。⓯固陋。時宜に合はないこと。〔辭海〕土、不㆑合㆓時宜㆒謂㆓之土㆒、如㆘鄉愚曰㆓土老兒㆒、不㆑時髦曰㆗土氣㆖。⓰姓。〔萬姓統譜〕土、共工氏子勾龍爲㆓后土㆒、子孫爲㆑氏。⓱［現］粗製の阿片土。［二］❶ね。桑の根。草木の根。〔說文通訓定聲〕土、詩豳風鴟鴞、徹㆓彼桑土㆒、按、根也、根在㆑土、卽謂㆓之土㆒、據㆓方言㆒、荄杜根也。〔集韻〕土、桑根也、方言、東齊謂㆑根曰㆑土。❷通じて杜(6-14477)に作る。〔集韻〕土、通作㆑杜。［三］［四］かす。あくた。つちくれ。くだらないもの。土苴。〔集韻〕土、土苴、不㆓眞物㆒。〔呂覽、貴生〕道之貞以持㆑身、其緒餘以爲㆓國家㆒、其土苴以治㆓天下㆒。〔注〕土、瓦礫也。［五］土門は、北方の民族。土門(399)を見よ。〔字彙補〕土、土門、北方之族、門音瞞、見㆓周書異域傳㆒。［現］阿片。又、けし。［邦］姓。❶は。❷ひぢ。

［名乘］タダ。ノリ。

［解字］會意。二(上の一畫は地の表面に象り、下の一畫は地中に象る)と丨(書法、下から上に引く。すすむ意。生物の發生する形に象る)との合字。本義は萬物を生育する土地の意。一說に、一と十との合字。一は土地、十は草木の芽の出た形に象り、此の二形を合せて草木を生育する土地の意を表はすといふ。又、轉じて、居・根の意、假借して度(はかる)の意とする。〔說文、土、段注〕地之上、謂㆘平㆓土面㆒者㆖也。〔說文、土、丨、物出形也、段注〕此所謂引而上行、讀若㆑囟也、合㆓二字象形㆒爲㆓會意㆒。▽ Ω(甲骨文) ⊥(金文) 象形。土で柱狀に固めた土地神の形に象る。

［參考］土の字形は、二橫畫の長さが相等しい。士は上の十の縱畫と橫畫との長さが相等しく、下の一橫畫の長さは任意。今、俗に下の長きを土、短きを士と爲す。〔說文、土、段注〕土二橫當㆑齊長、士字則上十下一、上橫直之長相等、而下橫可㆓隨意㆒、今俗以㆓下長㆒爲㆓土字㆒、下短爲㆓士字㆒、絕無㆑理。

【土蛙】1 ドア 蛙の一種。常に濕地や池沼中に棲む。背色灰黑色、皮面に疣が多くて醜惡。蝦蟆。

【土埃】2 ドアイ つちほこり。

【土惡】3 ドアク ❶地質が惡い。〔五代史、存進傳〕東垣土惡、築㆑壘不㆑能。❷tʻu³ ə⁴ 無賴者。遊民。

【土鴨】4 ドアフ 蛙の屬。青蛙に似て腹が大きい。〔爾雅、釋魚、鼁鱦蟾諸在㆑水者黽、注〕耿黽也、似㆓青蛙㆒大腹、一名土鴨。〔陳旅、送㆔項鍊師還㆓天台㆒詩〕谷暖金鵞大、溪深土鴨肥。

【土遺】5 tʻu³ i² 土產。國土產。

【土耰】6 ドイウ 土を鋤く。土を耕す。〔鹽鐵論、水旱〕貧民或木耕手耨、土耰啖食。

【土域】7 ドヰキ 國内。領内。又、土地。〔史記、始皇紀〕賞及㆓牛馬㆒、恩肥㆓土域㆒。〔晉書、左思傳〕山川土域、草木鳥獸。

【土揖】8 ドイフ 敬禮の一種。兩手を胸よりも少し下げる敬禮。時揖・天揖の對。〔周禮、秋官、司儀〕土㆓揖庶姓㆒、時㆓揖異姓㆒、天㆓揖同姓㆒。〔注〕土揖、推㆑手小下㆑之也、云云、時揖、平推㆑手也、云云、天揖、推㆑手小擧㆑之。

【土引】9 ドイン 清代、茶の販賣の免許狀。〔清會典事例、戶部、雜賦、茶課〕乾隆六十年題准、四川省天全州、增㆓頒土引四千一百道㆒。

【土音】10 ドイン ドオン ❶其の地方の發音。其の土地の人の音色。〔蕭穎士、舟中詩〕但見㆓土音異㆒、始知㆓程路長㆒。❷五行の一。土に屬する音で、宮にあたる。〔晉書、律歷志上〕土音宮、數八十一、爲㆓聲之始㆒、屬㆑土者、以㆓其最濁㆒、君之象也。

【土蚓】11 ドイン みみず。〔黃庭堅、演雅詩〕春蛙夏蜩更嘈雜、土蚓壁蟫何碎瑣。

【土宇】12 ドウ ❶土地居宅。轉じて、居民をいふ。〔詩、大雅、卷阿〕爾土宇昄章、亦孔之厚矣。〔箋〕土宇、謂㆔居㆑民以㆓土地屋宅㆒也。❷國土。領土。〔張衡、東京賦〕武有㆘大啓㆓土宇㆒、紀㆗禪㆓肅然㆒之功㆖。〔後漢書、崔駰傳〕運㆓欃槍㆒以電掃兮、清㆓六合之土宇㆒。〔後漢書、虞詡傳〕先帝開㆓拓土宇㆒、劬勞後定。

【土芋】13 ドウ ほど。藷の一種。何首烏芋（カシュウイモ）。根を何首だまといひ食用に供する。毛芋（ケイモ）。土卵。〔蘇軾、用㆓過韻㆒冬至日與㆓諸生㆒飮㆑酒詩〕黃薑收㆓土芋㆒、蒼耳斫㆓霜叢㆒。〔黃庭堅題跋〕老杜云、

黃獨無レ苗山雪盛、往時儒者不レ解二黃獨義一、改爲二黃精一、以レ予考レ之、本草赭魁注、黃獨、肉白皮黃、巴漢人蒸二食之一、江東謂二之土芋一、余求二之江西一、江西謂二之土卵一、蒸煑食レ之、類二芋魁一。

【土英】14 上等の蔬菜。土から生じたすぐれたものの意。〔呂覽、本味〕菜之美者、云云、陽華之芸、雲夢之芹、具區之菁、浸淵之草、名曰二土英一。

【土腰】15 tʻu^3 yao^1 地峽。

【土曜】16 ❶星の名。鎭星。土星。〔和漢三才圖會、天部星〕鎭星、土曜。❷七曜日の一。土曜日の略。

【土淵】17 但馬國の地名。

【土煙】18 塵埃の立ちあがつて煙のやうに見えるもの。〔井筒業平河內通、怨靈振分髮〕砂を飛ばする土けむり。

【土鹽】19 上野國の地名。

【土燕】20 つちつばめ。石燕の一種。〔本草、石燕〕釋名、土燕、集解、時珍曰、此非二石部之石燕一也、廣志云、燕有二三種一、此則土燕、乳二于巖穴一者、是矣。

【土垣】21 ついぢ。土の垣。土障。〔漢書、匈奴傳下〕起レ塞以來百有餘年、非三皆以二土垣一也。

【土圜】22 土を掘つて作つた室。あなぐら。土窟。又、土牢。〔鹽鐵論、輕重〕邊民云云、夏不レ失レ複、冬不レ離レ窟、父子夫婦、內二藏於專室土圜之中一、中外空虛。

【土翁】23 果實の名。〔太平御覽、果部、土翁〕土翁、子如二漆子大一、熟時甜酸、其色青黑。

【土屋】24 ❶土で作つた家。〔宋史、拂林國傳〕其國地甚寒、土屋無レ瓦。❷土人の家。邊境の土地の住民の家。〔梅堯臣、季父知二幷州一詩〕土屋春風峭、氈裘牧騎狂。〔袁桷、雲州詩〕土屋覆二山椒一。

〖土屋鳳洲〗25 和泉の人。名は弘。字は伯毅。號は鳳洲。官は岸和田藩儒・藩學教授兼世子侍讀。維新後、堺縣學教師・奈良縣師範學校長・華族女學校教授・東洋大學教授等を歷任す。大正十五年三月十五日歿す、年八十六。著に幽囚錄・孝經纂釋・皇朝言行錄・窓燈錄・巡校日記・蘇東坡詩選・馬關日記・晚晴樓詩鈔・晚晴樓詩鈔二編・晚晴樓文鈔・晚晴樓文鈔二編・改正修身人の基、文家金丹・文法綱要等がある。〔南摩羽峯撰傳〕。

【土下】26 ❶土地が低い。〔博物志〕南方太陽、土下水淺、其人大口多傲。❷伯耆國の地名。

【土河】27 川の名。❶老哈河をいふ。源は滿洲熱河省平泉縣の北。西喇木倫河に入る。又、老河・塗河ともいふ。〔遼史、地理志三〕中京大定府、有二土河一。〔淸一統志〕土河之名、始二於遼時一、其前無レ可二考證一、或疑、卽水經注之白狼水。❷源は山東省樂陵縣。東海に注ぐ。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、武定州〕土河、在二州南一、卽篤馬河下流也、自二樂陵縣一入二州境一、東注二於海一、溢涸不レ時。

【土歌】28 其の土地の俚謠。國風。〔鼠樸〕國風十五之土歌、土歌之正爲二正風一、土歌之變爲二變風一。

【土芥】29 つちとあくた。ちりひぢ。土苴。極めて卑しいものの喩。〔左氏、哀、元〕國之興也、視レ民如レ傷、是其福也、其亡也、以レ民爲二土芥一、是其禍也。〔注〕芥、草也。

〖土芥視〗30 土芥と同樣に卑しく見下げる。〔孟子、離婁下〕君之視レ臣如二土芥一、則臣視レ君如二寇讎一。〔注〕芥、草芥也。

【土階】31 つちのきざはし。土階三等・土階茅茨を見よ。

〖土階三等〗32 家の入口の土の階段が僅かに三段しかないこと。上古、宮室の儉素なさま。〔呂覽、召類〕茅茨蒿柱、土階三等。〔史記、太史公自序〕堂高三尺、土階三等、茅茨不レ剪、采椽不レ刮。〔後漢書、邊讓傳〕思二夏禹之卑宮一、慕二有虞之土階一。〔注〕墨子曰、虞舜土階三尺、茅茨不レ剪。

〖土階茅茨〗33 土の階段と端をきり揃へない茅の屋根。上古、宮室の儉素なさま。土階三等を見よ。〔唐書、薛收傳〕土階茅茨、唐堯以昌。

【土崖】34 がけ。〔夢溪筆談、官政一〕鹽之品至多、云云、其次顆鹽、解州鹽澤、及晉絳潞澤所レ出、京畿・南京・京西・陝西・河東・褒劍等處食レ之、又次井鹽、鑿レ井取レ之、益・梓・利・夔四路食レ之、又次崖鹽、生二於土崖之閒一。

【土岡】35 tʻu^3 kang^1 小高い岡。

【土炕】36 土で牀を造り、牀下に火氣を通じて室內を溫めるもの。溫突(7－17968・・187)に同じ。〔日知錄、雜事、土炕〕北人以レ土爲レ牀、而空二其下一、以發レ火、謂二之炕一、古書不レ載、云云、舊唐書高麗傳、冬月皆作二長炕一、下燃二熅火一以取レ煖、此卽今之土炕也。

【土高】37 土が高い。〔沈炯、六府詩〕土高行已冒、抱レ甕憶二中園一。

【土梗】38 ❶つちにんぎやう。土偶。〔戰國、趙策〕夜半土梗與二木梗一鬭。〔劉峻、廣絕交論〕視若二游塵一、遇同二土梗一。〔注〕善曰、莊子、魏文侯曰、吾所二以學一、眞土梗耳、司馬彪曰、土梗者、土人也。〔杜甫、雷詩〕眞龍竟寂寞、土梗空僂俯。❷つちにんぎやうのやうに粗惡なもの。にせもの。こしらへもの。〔莊子、田子方〕吾所レ學者、眞土梗耳。〔注〕土梗者、非二眞物一也。

〖土梗之學〗39 粗雜な學問。土梗の❷を見よ。

【土窖】40 つちぐら。あなぐら。土窟。〔本草、黃鼠〕集解、時珍曰、有下土窖如二牀榻之狀上者、則牝牡所レ居之處。

【土膏】41 ❶土の浸潤の氣。又、地中の養分。〔國語、周語上〕陽氣俱烝、土膏其動。❷土地の肥沃なこと。又、肥沃な土地。〔漢書、東方朔傳〕故酆鎬之閒、號爲二土膏一。〔蘇軾、柏石圖詩〕土膏雜二糞壤一、成壞幾何耳。

【土豪】42 土地で勢力ある分限者。土地の長者。土地の豪族。〔周書、楊忠傳〕梁元帝逼二其兄邵陵王綸一、綸北度與二其前西陵郡守羊思達一、要三隨陸土豪段珍寶・夏侯珍洽、合レ謀送二質於齊一。〔南史、韋鼎傳〕州中有二土豪一、外修二邊幅一、而內行二不軌一。〔六部成語、刑部、土豪、注解〕本地豪強之人也。

〖土豪惡霸〗43 tʻu^3 hao^2 ê^4 pa^4 強暴を逞しうする土地の無賴漢。

〖土豪劣紳〗43′ tʻu^3 hao^2 lieh^4 shen^1 土豪惡霸に同じ。劣紳は卑劣不正な紳士の意。

【土角】44 tʻu^2 chiao^3 岬。「種。

【土城】45 tʻu^2 chien^3 河南省產の天然曹達の一

【土閒】46 ❶家の內の地面のままのところ。❷芝居で舞臺正面の見物人の坐る所。〔戲場年表、二〕土閒にさし繩を張り。

【土祇】47 原隰と平地との神。又、土示に作る。〔周禮、春官、大司樂〕五變而致二介物及土示一。〔注〕土祇、原隰及平地之神也。

【土虺】48 蛇の一種。まむし。蝮。〔漢書、田儋傳〕蝮螫レ手、〔注〕師古曰、俗呼二土虺一。

〖土虺蛇〗49 まむしに似た毒蛇。長さ八尺ばかりで土色。〔蟲薈〕。

【土氣】50 ❶土から生ずる氣。〔國語、周語上〕陽癉憤盈、土氣震發。〔列子、湯問〕土氣和、亡二札厲一。❷五行の土の氣。土行。〔呂覽、名類〕黃帝曰、土氣勝、土氣勝、故其色尙レ黃。〔漢書、五行志下之上〕凡思心傷者病二土氣一、土氣病、則金木水火沴レ之。❸tʻu^3 chʻi^4 固陋で大局に通じないこと。

【土匭】51 土簋(56)に同じ。〔史記、李斯傳〕堯之有二天下一也、云云、飯二土匭一、啜二土鉶一。〔太平御覽、皇王〕韓子曰、由余謂二秦穆公一曰、昔堯有二天下一、飯二於土匭一、飲二於土鉶一。

【土基】52 墻壁などを築く土臺。〔公羊、莊、十三、莊公升レ壇、注〕土基三尺、土階三等曰レ壇。〔漢書、翼奉傳〕孝文欲レ作二一臺一、度レ用百金、重二民之財一、廢而不レ爲、其積土基、至レ今猶存。

【土器】53 ❶素燒きのやきもの。かはらけ。土製の器。〔史記、晉世家〕野人盛二土器中一進レ之。❷近江國の地名。

〖土器屋〗54 常陸國の地名。

〖土器野新田〗55 尾張國の地名。

【土簋】56 土製の簋。簋は、黍稷を盛つて神にささげる器、內側が圓く外側が四角で、一斗二升を容れる。土匭。簋(8－26448)の字解を見よ。〔韓詩外傳、三〕飯二乎土簋一、啜二乎土型一。〔韓非子、十過〕昔者堯有二天下一、飯二於土簋一、飲二於土鉶一。〔史記、太史公自序〕墨者亦尙二堯舜道一、言二其德行一曰、云云、食二土簋一、啜二土刑一。

【土蟢】57 tʻu^2 hsi^3 くもだこ。いひだこ。

【土妓】58ドギ　私娼。私窠子。官妓に對す。〔五雜組、人部四〕有㆘不㆑隷㆓於官㆒、家居而賣㆑姦者㆖、謂㆓之土妓㆒、俗謂㆓之私窠子㆒。

【土宜】59ドギ　❶土地に適する農作物。〔周禮、夏官、土方氏〕辨㆓土宜・土化之法㆒。〔注〕土宜、謂㆓九穀稙穉所㆒㆑宜也。〔左氏、文、六〕毋㆑使㆑失㆓其土宜㆒。〔會箋〕言㆑不㆑失㆓其風土之所㆒㆑宜也。〔宋書、明帝紀〕各順㆓土宜㆒、出㆑獻納㆑貢。❷其の地の産物。土産物。〔類書纂要〕遊㆓于外境㆒、以㆓本土所㆑産之物㆒、送㆑人曰㆓土宜㆒。〔通俗編、地理、土宜〕隋書禮儀志、正會日、宣詔勞㆓諸郡㆒、上計勞訖、付㆑紙遣㆑陳㆓土宜㆒。

【土儀】60ドギ　みやげもの。土産物。〔東京夢華錄〕謂㆓之門外土儀㆒。

【土牛】61ドギウ　土で作つた牛。迎春の式に之を祭る。春牛(**5－13844**・・139)に同じ。〔禮、月令〕命㆓有司㆒大難、旁磔出㆓土牛㆒、以送㆓寒氣㆒。〔淮南子、時則訓〕出㆓土牛㆒。〔集解〕出㆓土牛㆒、今鄕縣出㆘勸㆓農耕㆒之土牛於外㆖、是也。〔後漢書、禮儀志〕立春之日、施㆓土牛耕夫于門外㆒、以示㆓兆民㆒。〔蘇軾、元日過㆓丹陽㆒明日立春寄㆓魯元翰㆒詩〕竹馬異時寧信㆑老、土牛明日莫㆑辭㆑春。〔東京夢華錄〕立春五日、竝造㆓土牛耕人犂具於大門之外㆒。

〖土牛埽〗62ドギウサウ　竹木を編み、柳の枝葉などと土とを混ぜて之に詰めた堤防補強材料。〔六部成語、工部、土牛埽、注解〕土牛、土墩也、以㆓土墩㆒攢築之埽也。

〖土牛兒〗63ドギウジ　蝸牛の異名。かたつむり。〔本草、蝸牛〕釋名、蠡牛・蚹蠃・螔蝓・山蝸・蝸蠃・蜒蚰蠃・土牛兒。

〖土牛膝〗64ドギウシツ　草の名。やまたばこ。天名精。天名精(**3－5833**・・1583)を見よ。

〖土牛木馬〗65ドギウモクバ　土で作つた牛と木で作つた馬。轉じて、門閥があつて才智のない人を嘲つていふ。〔關尹子、八籌〕譬如㆑見㆓土牛木馬㆒、雖㆔情存㆓牛馬之名㆒、而心忘㆓牛馬之實㆒。〔周書、蘇綽傳〕若門資之中而得㆓愚瞽㆒、是則土牛木馬、形似而用非、不㆑可㆓以涉㆒㆑道也。

【土杏】66トキヤウ　杜衡(**6－14477**・・41)の異名。〔史記、司馬相如傳、其東則有㆓蕙圃・衡蘭㆒、注〕索隱曰、張揖云、衡、杜衡、云云、博物志云、一名土杏、其根一似㆓細辛㆒、葉似㆑葵。

【土境】67ドキヤウ　領地。領土。境界內の土地。〔魏志、夏侯尙傳〕分㆑疆畫㆑界、各守㆓土境㆒。〔宋書、長沙王義欣傳〕於㆑時土境荒毀、人民彫散、城郭頽敗、盜賊公行。〔魏志、呂羅傳〕西戎懷㆑德、土境恬然。〔杜甫、前出塞詩〕君已富㆓土境㆒、開㆑邊一何多。

【土橿】68ドキヤウ　杻(**6－14512**)の異名。〔爾雅、釋木、杻檍、疏〕杻、一名檍、郭云、關西呼㆓杻子㆒、一名土橿。

【土疆】69ドキヤウ　❶領地。領土。土境。〔詩、大雅、崧高〕徹㆓申伯土疆㆒、以峙㆓其粻㆒。〔曹植、漢武帝贊〕威振㆓百蠻㆒、恢拓㆓土疆㆒。❷土壤。地味。〔禮、月令〕可㆔以糞㆓田疇㆒、可㆔以美㆓土疆㆒。

【土行】70ドギヤウ　❶五行の土をいふ。〔宋書、禮志二〕按、服色尙㆑黃、據㆓土行㆒也、犧牲旂旗、一用㆓殷禮㆒、行㆓殷之時㆒故也。〔張說、皇帝降誕日集賢殿賜宴詩〕仲秋金帝起、五日土行昭。〔崔護、日五色賦〕見㆓土行之善應㆒、識㆓帝載之珍符㆒。❷tʻu^3 hang^2　粗製の阿片を賣る店。

【土客】71 tʻu^3 kʻê^4　物產の地方仲買人。

【土宮】72ドキユウ　五行の土に位する宮。〔黃庭內景經、脾部之宮屬㆓戊己㆒、注〕土宮也。〔雲笈七籤、脾藏圖〕夫脾位寄㆓於土宮㆒、宮主㆑義也、使㆓人寬舒廣大、屈㆑己濟㆑人、以㆑利不㆑爭者也。

【土居】73ドキヨ　❶穴を穿つて作つた住居。土房。〔後漢書、西南夷傳論〕蠻夷雖㆔附㆓阻巖谷㆒、而類有㆓土居㆒。〔蘇舜欽、滄浪亭記〕時盛夏蒸燠、土居皆褊狹。❷ツチヰ　㋑土を積んだ垣。ついぢ等。㋺城の周圍の土垣。城の土手。㋩帳臺などの柱の下の土臺。〔宇津保物語、藏開上〕御帳の外のつちゐに押しかかりて。❸ドヰ　㋑つつみ。堤防。築後國の方言。〔地方凡例錄、九〕。㋺姓氏。

〖土居葺〗74ドヰブキ　こけらをあらく葺いて、上に瓦を載せた屋根。

【土籧】75ドキヨ　竹製の、穀をもる器具。〔說文、籧〕㠯㆓判竹㆒圜㠯盛㆑穀者、〔段注〕今江蘇謂㆓之土籧㆒、是也。

【土均】76ドキン　周官の名。周禮地官の屬。土地の色質高下を分別して賦稅の差を定めることを掌る。〔周禮、地官、土均〕掌㆘平㆓土地㆒之政㆖、以約㆓地守㆒、以均㆓地事㆒、以均㆓地貢㆒。

【土菌】77ドキン　茸の一種。つちたけ。五目茸。〔爾雅、釋草、中馗菌、注〕地蕈也、似㆑蓋、今江東名爲㆓土菌㆒、亦曰㆓馗廚㆒、可㆑啖㆑之。

【土筋】78ドキン　黃茅の根。地筋。地筋(**3－4890**・・97)を見よ。〔本草、地筋〕釋名、菅根、土筋。

【土垠】79ドギン　縣名。❶漢、置く。故城は河北省豐潤縣の東。〔漢書、地理志下〕右北平郡、縣十六、土垠。〔注〕師古曰、垠、音銀。〔水經、鮑丘水注〕又東巨梁水注㆑之、水出㆓土垠縣北陳宮山㆒。❷後魏、置く。故治は河北省密雲縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、薊州、豐潤縣〕土垠廢縣、縣西北六十里、漢縣屬㆓右北平郡㆒、云云、舊志、土垠城、在㆓密雲東百里陳宮山下㆒、卽此城矣、後齊廢、昌平記、順義城北一里、又有㆓廢土垠縣㆒、疑後魏所㆓改置㆒、未㆑攷。

【土狗】80ドク　❶地中の怪物。土怪(94)を見よ。〔抱朴子、勖學〕訊㆓土狗㆒而識㆓墳羊㆒。❷けら。〔本草、螻蛄〕釋名、螻蛄・天螻・螜・螻蟈・仙姑・石鼠・梧鼠・土狗。❸土をかためて狗の形に作つたもの。土豚(310)に同じ。〔北史、高熲傳〕尉遲迥起㆑兵、熲爲㆓橋于沁水㆒、賊于㆓上流㆒縱㆓火栰㆒、熲預爲㆓土狗㆒以禦㆑之、既度㆓焚橋㆒而戰、大敗㆑之。

【土空】81ドクウ　つちあな。〔方輿記〕秦人呼㆓土窟㆒爲㆓土空㆒。

【土偶】82ドグウ　土人形。土偶人に同じ。〔皮日休、偶書詩〕至㆑今頑愚者、生如㆓土偶身㆒。

〖土偶人〗83ドグウジン　土人形。はにわ。でく。土人。土梗。又、土耦人に作る。〔戰國、齊策〕今者臣來、過㆓於淄上㆒、有㆓土偶人㆒、與㆓桃梗㆒相與語、桃梗謂㆓土偶人㆒曰、子西岸之土也、挺㆑子爲㆑人、至㆓歲八月㆒雨降、淄水至則汝殘矣、土偶曰、不㆑然、吾西岸之土也、土則復㆓西岸㆒耳、今子東國之桃梗、淄水至、流㆑子而云、則子漂漂者將㆓何如㆒耳。〔史記、孟嘗君傳〕見㆘木偶人與㆓土偶人㆒相與語㆖。

【土窟】84ドクツ　つちのむろ。あなぐら。土室。土窖。〔晉書、孫登傳〕於㆓郡北山㆒爲㆓土窟㆒居㆑之。〔神仙傳〕作㆓土窟㆒居㆑之。

〖土窟春〗85ドクツシユン　酒の名。〔國史補〕酒有㆓滎陽之土窟春、富平之石凍春㆒。

【土化】86ドクワ　❶土地に應じて肥料を施し、農產物の發育を助けること。〔周禮、地官、草人〕草人、掌㆓土化之法㆒、以㆓物地㆒相㆓其宜㆒、而爲㆓之種㆒。〔注〕土化之法、化㆑之使㆔美若㆓氾勝㆒之術也。〔周禮、夏官、土方氏〕辨㆓土宜・土化之法㆒。〔注〕土化、地之輕重糞種所㆑宜㆑用也。❷腐朽して土となる。〔梅堯臣、題㆓嘉興永樂院檇李亭㆒詩〕土化吳王甲、骨朽越王兵。

【土瓜】87ドクワ　烏瓜(**7－18998**・・80)の異名。夏、白毛のある花を著け、季秋、赤色の小瓜を結ぶ。王瓜。〔爾雅、釋草、菲芴、注〕卽土瓜也。〔本草、王瓜〕釋名、土瓜・鉤𤬪・老鴉瓜・馬瓟瓜・赤雹子・野甜瓜・師姑草・公公鬚。〔北戶錄〕山橘子、冬熟有㆘大如㆓土瓜㆒者、次如㆓彈丸㆒者㆖、皮薄下氣、普寧多有㆑之。

【土花】88ドクワ　❶地下に埋めた器物の泥土のために色質の變化した跡をいふ。〔梅堯臣、讀㆓裴如晦萬里集㆒書㆓其後㆒詩〕古溪蠻鐵刀、出塚土花澁。〔王逢、游㆓卜將軍墓祠㆒詩〕木葉金甲動、土花碧血灑。❷鮮苔。〔陸游、題㆓僧菴㆒詩〕人稀土花碧、屋老瓦松長。❸地上の花。〔李商隱、李夫人詩〕土花漠漠雲茫茫、黃河欲㆑盡天蒼蒼。❹tʻu^3 hua^1　中國產の棉花。

【土貨】89ドクワ　❶其の國で製造する貨物。內地品。國產品。〔元史、食貨志二〕時客船自㆓泉福㆒販㆓土產之物㆒者、其所㆑徵亦與㆓蕃貨㆒等、於㆑是定㆓雙抽單抽之法㆒、雙抽者蕃貨也、單抽者土貨也。❷tʻu^3 huo^4　地方の產物。

〖土貨行〗90 tʻu^3 huo^4 hang^2　地方產物の問屋。

【土蝸】91ドクワ　蛞蝓（ナメクジ）の異名。〔本草、蛞蝓〕釋名、陵蠡・附蝸・土蝸・托胎蟲・鼻涕蟲・蜒蚰螺。

【土鍋】92ドナベ　土燒きの小鍋。〔續古事談、一〕土鍋を作り、云云、芋粥を入れたり。

【土灰】93ドクワイ　❶石灰土。〔後漢書、律曆志上〕天子常以㆓日冬夏至㆒、御㆓前殿㆒、云云、權㆓土灰㆒、效㆓陰陽㆒、冬至則土灰輕而衡仰、夏至則土灰重而衡低。❷土と灰。又、土や灰になる。死をいふ。〔後漢書、黃香傳〕和帝、云云、以爲㆓東郡太守㆒、香上疏讓曰、云云、願乞㆓餘恩㆒、留㆓備冗官㆒、云云、以

畢二臣香蟃蟻小志一、誠瞑目至願、土灰極榮。

【土怪】94 ドクヮイ 土中の怪物。〔國語、魯語下〕季桓子、穿レ井獲レ如二土缶一、其中有レ羊焉、使レ問二之仲尼一、曰、吾穿レ井而獲レ狗、何也、對曰、以二丘之所レ聞、羊也、丘聞レ之、木石之怪曰二夔蝄蜽一、水之怪曰二龍罔象一、土之怪曰二墳羊一。〔蘇舜欽、永叔石月屛圖詩〕土怪山鬼不二敢近一、照レ之僵仆肝腦裂。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕里儒拳レ足拜、土怪閃レ眸偵。

【土塊】95 ドクヮイ ❶土のかたまり。つちくれ。〔禮、明堂位、土鼓・蕢桴・葦籥、伊耆氏之樂也、疏〕蕢桴、以二土塊一爲レ桴。〔南史、賀瑒傳〕以二土塊一加二其心上一。❷ツチクレ 墓の意。齋宮の忌詞。〔齋宮寮式〕。

〖土塊鳩〗96 ツチクレバト 雉子鳩の一名。

【土會】97 ドクヮイ 山林・川澤・丘陵・墳衍・原濕を計つて其の貢稅の數を定めること。〔周禮、地官、大司徒〕以二土會之灋一、辨二五地之物生一。〔注〕會、計也、以レ土計二貢稅之法一、因別二此五者一也。

【土檜】98 ドクヮイ 檜の一種。〔老學庵筆記、一〕檜有二二種一、海檜、天矯堅瘦皆天成、又有二刻削蟠屈而成者一、名二土檜一、海檜絕難レ致、凡人家所レ有、皆土檜也。

【土黃】99 ドクヮウ 土をいふ。五行說では黃を土に配する。〔左氏、昭、二十五、發爲二五色一、疏〕木色青、火色赤、土色黃、金色白、水色黑也。〔數術記、遺二五行算一、注〕五行之法、水玄生二數一一、火赤生二數二一、木青生二數三一、金白生二數四一、土黃生二數五一。

〖土黃菜〗100 t'u^3 huang^2 ts'ai^4 野菜の一種。すゐぜんじ菜。

〖土黃色〗101 t'u^3 huang^2 sê^4 カーキー色。

〖土黃呢〗102 t'u^3 huang^2 ni^2 カーキー色の羅紗。

〖土黃布〗103 ドクヮウフ 黃色な木綿。〔福惠全書、保甲部、漁埠編保〕保長船旗、用二土黃布一。

【土官】104 ドクヮン ❶古の官名。〔禮、月令、中央土其帝黃帝其神后土、注〕此黃精之君、土官之神、自レ古以來、著レ德立レ功者也、黃帝、軒轅氏也、后土亦顓頊氏之子曰レ黎、兼爲二土官一。❷五行の土にあたる官。司空をいふ。〔宋書、禮志四〕社主土神、司空土官、故祭レ社使二司空行レ事。❸土司に同じ。土司(175)を見よ。〔四庫提要、史、職官類〕土官底簿二卷、不レ著二撰人名氏一、云云、所レ載雲南土司百五十一家、廣西土司百六十七家、四川土司二十家、貴州土司一十五家、湖廣土司五家、廣東土司一家、共三百五十九家。〔淸國行政法汎論、土官及土司〕廣西四川雲南諸省之一部分、自レ古有二苗民及其他原始種族一、棲二息于其中一、一般行政制度、固不レ能レ行二於此地方一、故現朝亦沿二明遺制一、分爲二土州縣一、選二擇該族中之酋長子孫一、世二襲知府州縣之職一、稱曰二土知州・土知縣一、即此所謂土官者、是也。❹土人の酋長が官長となつたものをいふ。土司(175)を見よ。〔容齋四筆、渠陽蠻俗〕蠻酋自稱曰レ官、謂二其所レ部之長一曰二都幙一、邦人稱レ之曰二土官一。〔元史、仁宗紀三〕率二土官黃法扶何凱一、並以二方物一來貢。

〖土官底簿〗105 ドクヮンテイボ 書名。二卷。撰者未詳。明の正德以前の土司の官爵世系を記す。〔四庫提要、史、職官類〕。

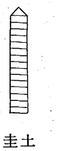
【土管】106 ドクヮン 土で作つた圓筒形のやきもの。排水などに用ひる。

【土訓】107 ドクン 周官の名。周禮地官の屬。遠地に生ずる異物、及び土地の善惡を報告することを掌る。〔周禮、地官、土訓〕掌下道二地圖一、以詔二地事一、道二地慝一以辨二地物一、而原二其生一以詔中地求上。

【土軍】108 ドグン ❶土人の兵。〔漢書、高惠高后功臣表〕土軍式レ侯宣レ義、高祖六年、爲二中地守一、以二廷尉一擊二陳豨一侯。〔宋史、河渠志七〕招二收土軍五十人一。❷縣名。漢、置く。侯國。晉の吐京で、今、山西省石樓縣治。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、土軍。

【土刑】109 ドケイ 羹を盛る土器。土鉶(115)に同じ。〔史記、太史公自序〕墨者亦尙二堯舜道一、言二其德行一曰、云云、食二土簋一、啜二土刑一、糲粱之食、藜藿之羹。〔注〕正義曰、顏云、刑、所二以盛一レ羹也、土、謂レ燒レ土爲レ之、卽瓦器也。

【土圭】110 ドケイ 中國古代の玉器。日影を測るもの。〔周禮、地官、大司徒〕以二土圭之灋一測二土深一、正二日景一以求二地中一。〔注〕土圭、所三以致二四時日月之景一也。〔周禮、夏官、土方氏〕土方氏、掌二土圭之灋一、以致二日景一。〔疏〕按玉人職、土圭尺有五寸、以致二日光一。〔張衡、東京賦〕土圭測レ景、不レ縮不レ盈。



土圭（禮器圖）

【土圭針】111 ドケイシン 磁石の針。磁針。昔の時計に用ひた。〔和漢三才圖會、藝器藝才、磁針〕按、土圭針所三以知二方隅時刻一器也。

〖土圭間〗111' トケイノマ 江戶城の一室。坊主が詰めて時刻報知の任に當つた室。

〖土圭間組〗112 トケイノマグミ 江戶幕府の職制。其の番所が土圭の間であつたからいふ。新御番(**5**-**13572**··592')に同じ。〔東職記聞、二、新番頭〕寬永二十年八月、始置二當衞四組一、云云、而組中結二番於土圭間一、故號二土圭間組一也。

【土形】113 ドケイ 土鉶(115)に同じ。〔墨子、節用中〕古者堯治二天下一、飯二於土塯一、啜二於土形一。〔史記、秦始皇紀〕吾聞二之韓子一、曰、堯舜采椽不レ刮、茅茨不レ翦、飯二土塯一、啜二土形一、雖二監門之養一、不レ觳二於此一。〔注〕集解曰、如淳曰、土形、飯器之屬、瓦器也。

【土型】114 ドケイ 土鉶に同じ。〔韓詩外傳、三〕昔者舜飯二乎土簋一、啜二乎土型一。〔孔子家語、致思〕盛二之土型之器一、以進二孔子一。

【土鉶】115 ドケイ 羹を盛る土器。兩耳三足の祭器。土刑。土形。土型。〔韓非子、喩老〕以爲二象箸一、必不レ加二於土鉶一、必將二犀玉之杯一。〔韓非子、十過〕昔者堯有二天下一、飯二於土簋一、飲二於土鉶一。〔史記、李斯傳〕二世責二問李斯一曰、吾有二私議一而有レ所レ聞二於韓子一也、曰、堯之有二天下一也、云云、粢糲之食、藜藿之羹、飯二土匭一、啜二土鉶一、雖二監門之養一、不レ觳二於此一矣。〔鹽鐵論、通有〕古者采椽不レ斲、茅屋不レ翦、衣二布褐一、飯二土鉶一。

【土鷄】116 t'u^3 chi^1 鶻鵃(**12**-**47251**··1)の異名。

【土梟】117 ドケウ 梟(**6**-**14861**)の異名。〔爾雅、釋鳥、狂茅鴟怪鴟梟鴟、疏〕此別鴟類也、梟、一名鴟、郭云、土梟。

【土橋】118 ドケウ ❶土を置いた橋。どばし。〔東京夢華錄〕其上下土橋亦如レ此、云云、次曰二下土橋一、次曰二上土橋一。❷鎭の名。㋑江蘇省句容縣の西。江寧縣の界に接す。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、句容縣、常寧鎭〕土橋鎭、在二縣西二十里一、接二上元縣界一。㋺安徽省無爲縣の西南。

【土墼】119 ドケキ ❶燒かない煉瓦。〔急就篇、注〕墼者、抑二泥土一爲レ之、令二其堅激一也。❷石灰を燒いた時、窰中に流結した土渣。〔本草、土墼〕釋名、煤赭、時珍曰、此是燒二石灰一、窰中流結土渣也、輕虛而色赭。

〖土墼坺頭〗120 t'u^3 chi^2 pa^2 t'ou^2 野鄙で文盲のもの。蘇州地方の方言。

【土穴】121 ドケツ 土に掘つたあな。〔後漢書、盧植傳〕其子儉葬二於土穴一、不レ用二棺椁一。〔錄異記〕資州陰元之丁二母憂一、廬墓草庵破壞、終不二再葺一、處二於土穴中一、每患二冷氣腰腳一、聲音嘶嗄、而講誦不レ倦。

【土蝶】122 ドケツ つちいなご。土螽。〔爾雅、釋蟲、土螽蠰谿、注〕似レ蝗而小、今謂二之土蝶一。

【土業】123 ドゲフ 其の土地の產業。〔漢書、王莽傳下〕使三民弃二土業一。〔魏志、呂虔傳〕山中亡匿者、盡出安二土業一。

【土縣】124 ドケン 廣西・雲南等の苗族の集團區域の名。土司(175)を見よ。

【土言】125 ドゲン 其の地に行はれる言葉。方言。

【土原】126 ヒヂハラ 長門國の地名。

【土戶】127 ドコ ❶土着の戶。主戶(**1**-**100**··71)に同じ。〔通典、食貨〕建中初、命二黜陟一、使レ往二諸道一、按二比戶口一、約都得二土戶百八十餘萬、客戶百三十餘萬一。❷ツチド 外を土で塗つた引戶。土藏などの戶。〔台記、天養元年十一月十一日〕令レ閉二土戶一、爲レ不レ令二下人見一也。

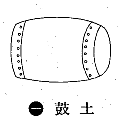
【土古】128 ドコ ❶土中から掘り出した古銅器。〔古銅甕器攷〕銅器入レ土千年、色純青、如二鋪翠一、其色子後稍淡、午後乘二陰氣一、翠潤欲レ滴、閒有二土蝕處或穿或剝一、並如二蝸篆一自然、甚或有二斧削痕一、則是僞也、土古新出レ土者、當レ帶二土氣一、久則否。❷金、夾谷守中(**3**-**5867**··24)の本名。

【土股】129 t'u^2 ku^3 半島。

【土庫】130 t'u^3 k'u^4 つちぐら。土藏。

【土葫】131 ドコ 瓠(**7**-**21392**)の異名。〔黃溍、詩〕盈レ筐山蕷軟、小摘土葫繁。

【土鼓】132コド ㊀樂器。瓦または土を固めて、兩面に革をはつて作つた鼓。〔周禮、春官、籥章〕掌二土鼓豳籥一。〔注〕杜子春云、土鼓、以レ瓦爲レ匡、以レ革爲二兩面一、可レ擊也。〔禮、禮運〕蕢桴而土鼓。〔注〕土鼓、築レ土爲レ鼓也。〔禮、明堂位〕土鼓・蒯桴・葦籥、伊耆氏之樂也。㊁縣名。漢、置く。故城は山東省淄川縣の西。〔漢書、地理志上〕濟南郡、縣十四、土鼓。



土鼓㊀（禮器圖）

〖土鼓藤〗133ドコトウ 藤の一種。おにまさき。〔本草、常春藤〕釋名、土鼓藤、龍鱗薜茘、藏器曰、小兒取二其藤一、於レ地打作二鼓聲一、故名二土鼓一。

【土蠱】134コド 蟲の名。度古。〔酉陽雜俎、廣動植、蟲篇〕度古、似二書帶一、長二尺餘、首如レ鏟、背上有二黑黃襴一、嘗趁レ蚓、蚓不二復動一、乃上レ蚓掩レ之、良久蚓化、惟腹泥如レ涎、雞喫輒死、俗呼二土蠱一。

【土語】135ゴド 其の土地の言語。方言。土白。土話。

【土工】136コドウ ㊀やきもの師。陶工。土匠。〔禮、曲禮下〕天子之六工、曰、土工・金工・石工・木工・獸工・艸工、典二制六材一。〔注〕此亦殷時制也、周則皆屬二司空一、土工、陶旊也。㊁つちぶしん。築堤・道路開鑿などの工事。土作。土木工事。又、その仕事に從事する人夫。どかた。〔元史、河渠志三〕水工之功、視二土工之功一爲レ難。㊂tʻu^{3} kung^{1} ㋑變死人を埋葬することを掌る官。㋺土木工事。土功。

〖土工監〗137ドコウカン 土木工事の監督。〔唐書、封倫傳〕素營二仁壽宮一、表爲二土工監一。

【土公】138ドコウ ドクウ ㊀土を司る神。春は竈、夏は門、秋は井、冬は庭に居るといふ。土公神ドクジン。〔范成大、詩〕巵酒豚蹄酬二土公一。〔通俗編、神鬼、土神〕太平御覽引裴元新言、俗閒有二土公之神一、云、土不レ可レ動、今元有二五歲女孫卒病一、詣レ市、卜云、犯レ土、乃卽依レ方治レ之、病率愈、然後知三天下果有二土神一矣。〔倭名類聚抄、天地、神靈類〕土公、董仲舒書云、土公・鶩空二反、春三月在レ竈、夏三月在レ門、秋三月在レ井、冬三月在レ庭。㊁土民中のかしらだつた者。むらをさ。〔稱謂錄、土民、土公〕養新錄、頃歲、山陰童二、如游二洛陽一、得二石刻一方一、其文曰、大男楊紹從二土公一、買二墓地一邱一。㊂星の名。〔星經〕土公二星、在二壁南一、主三營二造宮室一。

〖土公祭〗139ドクウマツリ 土公神の祭。〔東鑑、二十六〕貞應二年三月三日、今日被レ行二土公祭一。

【土功】140ドコウ 土木工事。〔書、益稷〕惟荒度二土功一。〔傳〕以下大治二度水土一之功上故。〔禮、月令〕孟夏之月、云云、毋レ起二土功一、毋レ發二大衆一。〔左氏、莊、二十九〕凡土功、龍見而畢レ務、戒レ事也。〔國語、周語中〕營室之中、土功其始。〔呂覽、季夏〕不レ可三以興二土功一。

〖土功組合〗141ドコウクミアヒ 北海道の拓殖のために設けられた公共組合。

【土紅】142 tʻu^{3} hung^{2} 樺色。

【土貢】143ドコウ その地方のみつぎもの。諸州の貢物。〔漢書、匈奴傳贊〕物二土貢一、制二外內一。〔宋史、職官志三〕免二丁錢及土貢獻物一。

【土堠】144ドコウ 一里づか。里程標。〔陸游、有レ懷二梁益舊遊一詩〕土堠纍纍隻復雙、悠然殘夢對二寒紅一。

【土寇】145ドコウ 土民の一揆。土匪。土裁。〔宋史、宦者一、李紳祐傳〕土寇周瓊等叛。〔明紀全載〕河南土寇。

【土國】146ドコク ㊀土地が平かで山澤のない國。〔周禮、秋官、小行人〕山國用二虎節一、土國用二人節一、澤國用二龍節一。〔孫詒讓正義〕云下虎・人・龍者、自二其國象一也上者、掌節注云、山多レ虎、平地多レ人、澤多レ龍。㊁國都で土木工事をする。〔詩、邶風、擊鼓〕土レ國城レ漕、我獨南行。〔集傳〕土、土功也、國、國中也。

【土黑】147ヒヂクロ 肥前國の地名。

【土骨】148ドコツ 化して土になつた骨。〔韓愈、飲二城南道邊古墓上一云云詩〕偶上城南土骨堆、共傾春酒三五杯。

【土棍】149ドコン 其の土地の惡者。土地の無賴者。遊民。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕豪衿土棍、號稱二金剛天王羅剎一。

〖土棍人〗150ドコンジン 土棍に同じ。〔清會典事例、刑部、戶律市廛〕各處關口地方、有二土棍人等一。

【土佐】151トサ 國の名。四國に在る。今の高知縣。

〖土佐院〗152トサノヰン 土御門天皇をいふ。承久の亂に土佐の國に遷されたからいふ。

〖土佐繪〗153トサヱ 土佐家の繪。又、其の畫風。

〖土佐家〗154トサケ 土佐守春日經隆を祖とする繪畫の一派。

〖土佐節〗155トサブシ 土佐の國から產する鰹節。〔甲子夜話、十〕松平土佐守より恆例獻上する土佐節。

〖土佐三筆〗156トサノサンピツ 土佐家に於て傑出した三人の畫家。卽ち光信・光長・光起。

【土銼】158ザド ものを煑る器。砂鍋の類。〔杜甫、聞二斛斯六官未一レ歸詩〕荊扉深二蔓草一、土銼冷二疎煙一。〔宋史、蘇雲卿傳〕土銼竹几、地無二纖塵一。

【土莊】160 tʻu^{3} chuang^{1} 阿片販賣店。

【土葬】161ドサウ 屍體を土中に葬ること。火葬・水葬の對。〔南史、扶南國傳〕火葬則焚爲二灰燼一、土葬則瘞二埋之一。

【土竈】162ドサウ 土で作つたかまど。〔鎦炳、經二撫河一遇レ雪舟中睡午方起詩〕土竈作レ炊煙滿レ船、灰壓二溼薪一蚯蚓叫。

〖土竈炭〗163ドガマズミ 竈の蓋を開いて燒いた炭。

【土鐺】164ドサウ どなべ。土で作つた鍋。〔陸游、荊州歌〕峽人住多楚人少、土鐺爭餉茱萸茶。〔陸游、閒居詩〕土鐺茶七椀、瓦甑稷三升。

【土藏】165ドザウ ㊀土でおほひかくす。〔魏志、韓曁傳〕夏四月薨、遺令斂以二時服一、葬爲二土藏一。㊁五行の土にあたる臟腑。脾臟をいふ。〔急就篇、脾腎五藏膍齊乳、注〕脾、土藏也、腎、水藏也。㊂火を防ぐやうに土で塗りこめて建てたくら。つちぐら。土庫。〔庭訓往來、三月〕土藏文庫。

〖土藏造〗166ドザウヅクリ 土藏のやうに四面を土で塗つた、建物の造り方。〔德川禁令考、四十七〕享保五子年四月二十日、町中普請之義、土藏造り塗屋、瓦屋根、勝手次第之事。

【土倉】167ツチグラ ㊀室町時代、質屋の稱。〔建武以來追加〕洛中・洛外土倉質物事。㊁土で塗つた倉。〔主稅寮式〕土倉若干宇。㊂土を掘つて作つた、物を藏めるあな。

【土作】168ドサク ㊀土木工事。土工。一說に、工作の誤といふ。〔後漢書、隗囂傳〕造二起九廟一、窮二極土作一。〔注〕劉攽曰、窮二極土作一、案レ文、土當レ作レ工、凡興作不二專在一レ土也。㊁tʻu^{3} tsuo^{4} 土工の仕事を業とする者。どかた。

【土產】169ドサン ㊀其の土地に產するもの。土地の產物。土實。土物。〔唐書、李德裕傳〕物非二土產一。〔許棠、送二龍州樊史君一詩〕土產惟宜レ藥、王祖只貢レ金。㊁みやげもの。土產物の略。

〖土產物〗170ミヤゲモノ 旅先から家に持ち歸る、その土地の產物。又、轉じて、人の家を訪問する時などに持參する贈物。〔狂言記、長光〕みやげ物などととのへえ。

【土棧】171 tʻu^{3} chan^{4} 阿片問屋。

【土山】172ドザン ㊀築山。假山。〔史記、司馬相如傳〕東馳二土山一兮。〔漢書、鼂錯傳〕土山丘陵。㊁山名。㋑江蘇省江寧縣の東南。晉の謝安が野樓館を營んだ處。〔晉書、謝安傳〕安、字安石、於二土山一營レ墅、樓館林木甚盛。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕土山、府東南二十里、山無二巖石一、晉謝安嘗遊レ此、以擬二會稽東山一、亦名二小東山一、云云、唐韓滉築二石頭城一、自二京口一至二土山一、皆修二塢壁一、卽此處也。㋺江蘇省邳縣の南。㊂縣名。㋑隋、置く。南朝梁の龍巢縣の地。故城は湖北省隨縣の東北。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州〕土山城、在二州東北五十里一、志云、梁置二龍巢縣一、土州治レ焉、領二東西二永寧及眞陽三郡一、云云、隋開皇初、郡廢、縣屬二隨州一、十八年、改レ縣曰二眞陽一、大業初、改爲二土山縣一。㋺元、置く。朝鮮平壤城の東。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮〕平安道、治二平壤府一、朝鮮西京也、東南去二王京一五百餘里、云云、縣六、曰、土山・德川・陽德・江東・中和・泰川。㊃鎭の名。㋑河北省東光縣の西北。西は交河縣の界に接し、往來の要道。㋺河南省遂平縣の西北。

〖土山子〗173 tʻu^{3} shan^{1} tzŭ もり土の小山。

〖土山頭〗174ドザントウ 唐代、員外郎を經ないで郎中となる者をいふ。〔大唐新語〕舊例、郎中不レ歷二員外郎一拜者、謂二之土山頭果毅一、言下其不レ歷二淸資一、便拜二高品一、有上レ似二長征兵士、便得二邊遠果毅一也。

【土司】175シド 土官ともいふ。主として西南地域の蠻族を領掌した世襲の地方官で、蠻族の酋長が

之に任ぜられた。今の湖南・四川・雲南・貴州・廣西等の各省には、古來、苗・猺等の蠻族が住み、漢以來、程度・様式の差はあつたが、官吏を置いて之を治めた。例へば、晉から北魏に至る蠻夷刺史、唐・宋に於ける羈縻州・縣等。而して、宋代には羈縻州・縣等の長官に蠻夷の酋長を任じ、後の土司の先蹤をなしたが、宋代までは、多くの場合、化外の地域と見做され、積極的な政策はとられなかつた。然るに、元代に至つて漢民族の勢力が實際に此等の民族に及ぶやうになつてからは、理蕃乃至は防蕃の事が大きく取上げられ、邊境の安寧と中國の體面保持とのために、彼等を懷柔する手段として、土司制度、卽ち政府から土酋に世襲の官職を授け、自らをして其の土地・人民を領掌させる制度が、積極的に用ひられ、其の制度は明代に完成し、淸も之を襲用した。但、淸の土司政策は、內政の整備に從つて、雍正の頃から變化し、所謂改レ土歸レ流(498)政策が採用せられた。土司は、明の洪武三十年から嘉靖九年まで全部兵部に隷屬せしめられたが、其れ以外は、明初から文職の者は吏部に、武職の者は兵部に隷屬した。而して、元來、土司は官署を本としての稱、土官は官吏の稱で、兩者は文武の職分による區別ではないと想はれるが、大淸會典には、吏部管轄下の土知府等の文職に關する記事を土官の項に、兵部管轄下の宣慰使等の武職に關する記事を土司の項に記載して、兩者を名目上から區別しようとしてゐる。尙ほ明代の土司には、宣慰使司(宣慰使・同知・副使・僉事・經歷司經歷都事、各一員)・宣撫司(宣撫使・同知・副使・僉事・經歷・知事・照磨、各一員)・安撫司(安撫使・同知・副使・僉事・吏目、各一員)・招討司(招討使・副招討・吏目、各一員)・長官司(長官・副長官・吏目、各一員)・蠻夷長官司(長官・副長官、各一員)、及び功勞によつて與へられた土地に新設せられた軍民府・土州・土縣がある。土府州縣に於ける設官は、全く一般府州縣と同じであつた。〔明史、職官志五〕土官、宣慰使司、云云、宣撫司、云云、安撫司、云云、長官司、云云、軍民府・土州・土縣、設レ官如二府・州・縣一。〔歷代職官表、土司各官、歷代建置〕謹案、三代之時、嶺嶠未レ開、而禹貢梁州之域、遠界二黑水一、周師伐レ商、庸蜀八國、與二擐甲冑一、但設レ官之法、其詳已不レ可レ聞、漢時開二蠻夷一、置二官吏一、而王侯君長、率因二其故號一授レ之、則後世土官昉レ此矣、晉宋梁陳北魏、往往有二蠻夷刺史一、唐時、羈縻州有二都督府一、有レ州有レ縣、宋亦有二羈縻州縣一、自二都督一以下官、皆卽以二番夷酋長一爲レ之、元時、蠻夷之地、有二宣慰司都元帥府一、有二宣慰司軍民萬戶府一、有二宣慰司兼管軍萬戶府一、有二宣撫司一、有二安撫司一、有二招討司一、有二軍民總管府一、有二軍民府一、有二散府一、有レ州、有レ縣、有二長官司萬戶府千戶所百戶所一、自二宣慰司都元帥府宣慰使一以下、雖三亦參二用流官一、然以二番夷酋長一爲レ之者實多、明因二元制一而損二益之一、於レ是有二土官之稱一、我朝幅員無レ外、聲教遐訖二往昔蠻荒之地一、莫レ不下隷二版籍於司徒一輸中琛賮於外府上、國初因二前代舊制一、設二立土官一、蓋以二諸夷土俗不レ同、而土官世爲二之長一、習二於其風土人情一、此先王修二其教一、不レ變二其俗一、齊二其政一、不レ易二其宜一之意也。〔六部成語、戶部、土司、注解〕川廣雲貴等省、野人之大頭目也、其官世襲、有二土府・土州・土縣之類一也、總名二土司一。〔康熙字典〕宋元邊徼所司曰二掌管一、今爲二土司一。〔淸國行政法汎論、土官及土司、土司〕土司爲二甘肅・四川・廣西・雲南・貴州等蠻族之酋長一、國初率二部族一降、而有二戰功一者、世二襲其職一、治二其部落一。

【土芝】176 シド ❶芋(**9―30670**)の異名。一名、蹲鴟。〔山家淸供〕芋名二土芝一、大者裹以二濕紙一、用二煮酒一和レ糟塗二其外一、以二糠皮火一煨レ之、候二香熟一取出、安二坳地內一、去レ皮溫食、取二其溫補一、名二土芝丹一。❷瓜(**7―21371**)の異名。〔稽含、瓜賦序〕世云二三芝一、瓜處レ一焉、謂二之土芝一。

【土思】177 シド 本土を憂へ思ふ。故鄕を懷ふ。〔漢書、西域傳下〕以レ肉爲レ食兮酪爲レ漿、居常土思兮心內傷。〔注〕師古曰、土思、謂三憂思而懷二本土一。〔資治通鑑、漢紀〕公主上書言二年老土思一。〔注〕土思者、懷二故鄕一也。〔陸游、閉レ閤詩〕世味老來無レ奈レ薄、土思病後不レ勝レ濃。

【土師】178 ハニシ ハジ ❶上古、埴輪を作つた職。後には葬式一切の事を掌る。〔日本書紀、神代紀上、天穗日命、注〕是出雲臣、土師連等祖也。〔萬葉集、十六〕駒つくる土師の志婢麻呂白くあればうべ欲しからむその黑色を。❷ハジ 地名。㋑豐後國の地名。㋺常陸國の地名。㋩播磨國の地名。㋥備前國の地名。㋭安藝國の地名。㋬築前國の地名。㋣和泉國の地名。㋠伊賀國の地名。㋷丹波國の地名。❸ハジ トシ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

〖土師方〗179 ハジカタ 備前國の地名。

〖土師新田〗180 ハジシンデン 和泉國の地名。

〖土師百井〗181 ハシモロヰ 因幡國の地名。

【土瓷】182 t'u³ tz'ŭ² 水缸・植木鉢・金魚鉢等の素燒きのもの。

【土絲】183 t'u³ ssŭ¹ 手繰りの生絲。

〖土絲稅〗184 t'u³ ssŭ¹ shuei⁴ 阿片と罌子の苗とに課する稅。

【土篩】185 ツチフルヒ 土塊をふるふるひ。

【土事】186 ドジ ❶土地の事。〔周禮、地官、大司徒〕以任二土事一。〔疏〕云三以任二土事一者、辨二十有二土一、任二人性一居レ之。❷土木工事。〔禮、月令〕仲冬之月、云云、命二有司一曰、土事毋レ作。〔疏〕於二此之時一、土地之事、毋レ得二興作一。

【土州】187 ドシウ 廣西・雲南等の苗族の集團區域の名稱の一つ。土司(175)を見よ。

【土周】188 ドシウ 夏后氏の葬で、中殤・下殤の禮。土をねつて甎を作り、棺の坎を周補する。堲周。〔禮、曾子問〕曾子問曰、下殤、土周葬二于園一、遂輿レ機而往、塗邇故也。〔注〕土周、堲周也、周人以二夏后氏之堲周一、葬二下殤於園中一、以下其去二成人一遠上、不レ就レ墓也。

【土室】189 ドシツ ❶土を掘つて作つたへや。〔史記、匈奴傳〕嗟土室之人、顧無二多辭一。〔後漢書、馬韓傳〕作二土室一、形如レ冢。〔劉峻、辨命論〕土室編蓬、未レ足レ憂二其慮一。❷ハムロ 攝津國の地名。

【土質】190 ドシツ 土地の性質。〔書、洪範、一五行、云云、五曰土、疏〕金體固爲レ四、土質大爲レ五。

〖土質汗〗191 ドシツカン 蓋母(**8―22972**‥83)の異名。〔本草、茺蔚〕釋名、蓋母・蓋明・貞蔚・蓷・野天麻・猪麻・火杴・鬱臭草・苦低草・夏枯草・土質汗、時珍曰、近效方謂二之土質汗一。

【土實】192 ドジツ 土地の產物。土產。〔左氏、襄、二十二〕寡君盡二其土實一。〔逸周書、程典解〕務二其土實一。

【土習】193 ドシフ 其の地方の習慣。土俗。

【土車】194 t'u³ ch'ê¹ 塵埃運搬車。

【土舍】195 ドシヤ 土司の屬官。庶務を掌る。〔六部成語、戶部、土舍、注解〕土司中辦レ事之舍人也。

【土砂】196 ドシヤ ドサ ❶土と砂。〔揚雄、逐貧賦〕匪二惟幼稚嬉二戲土砂一。❷佛 ドシヤ 土砂加持に用ひる砂。

〖土砂加持〗197 ドシヤカヂ 佛 眞言宗の加持法の一。淸水で土砂を洗ひ、之に眞言光明を加持して亡者の屍骸又は其の墓處に撒布する法。〔不空羂索毘盧庶那佛大灌頂光眞言經〕身壞命終墮二諸惡道一、以二是眞言一加二持土砂一一百八偏、尸陀林中散二亡者屍骸上一、或散二墓上一。

【土匠】198 ドシヤウ 土工(136)の❷の人をいふ。〔稱謂錄、百工、土匠〕論衡、能穿二鑿穴埳一、謂二之土匠一。

【土娼】199 t'u³ ch'ang¹ 密淫賣婦。私娼。

【土廂】200 ツチビサシ 寢殿造りで、孫廂の下を土間にしたもの。

【土障】201 ドシヤウ 土で築いたかき。土垣。〔南史、宋武帝紀〕牀頭有二土障一。

【土漿】202 ドシヤウ 藥の名。地漿。〔本草、地漿〕釋名、土漿、弘景曰、此掘二黃土地一作レ坎、深三尺、以二新汲水一沃入攪濁、少頃取レ淸用レ之、故曰二地漿一、亦曰二土漿一。

【土牆】203 ドシヤウ どべい。ねりべい。〔南齊書、氐羌傳〕無二貴賤一、皆爲二板屋土牆一。

【土城】204 ドジヤウ ❶土を積んで築いた城。〔漢書、陳湯傳〕射二城中樓上人一、樓上人下走、土城外有二重木城一、從二木城中一射、頗殺二傷外人一。〔宋史、李全傳下〕全走二土城一、官軍躡レ之、蹂溺甚衆。❷關の名。河北省大興縣の德勝門外。薊丘ともいふ。❸地名。河北省天津縣の南。白河の濱に當る。

〖土城子〗205 ドジヤウシ 地名。❶滿洲熱河省赤峰縣の西北。北は林西縣の界に接す。❷滿洲熱河省豐寧縣の東南。❸察哈爾省多倫縣の東南。

【土壤】206 ドジヤウ ❶岩石などの碎けて細末となつたもの。つち。〔後漢書、公孫述傳〕蜀地沃野千里、土壤膏腴、果實所レ生、無レ穀而飽。〔左思、吳

都賦〕土壤不レ足二以攝レ生、山川不レ足二以周衞一。❷國土。〔戰國、秦策〕故楚之土壤士民、非二削弱一。〔史記、孔子世家〕今孔丘得レ據二土壤一、賢弟子爲レ佐、非二楚之福一也。

〖土壤學〗207（ドジヤウガク）　土壤の成分・性質・變化・分類と生産的關係とを研究する學問。soil science の譯。

〖土壤細流〗208（ドジヤウサイリウ）　つちくれと細い川。轉じて、細微なものでもこれを積めば大をなすことの喩。〔戰國、秦策〕太山不レ讓二土壤一、故能成二其大一、河海不レ擇二細流一、故能就二其深一。

【土手】209（ドテ）　❶土を高く積みあげたもの。つつみ。堤防。土壩。❷大きな魚の、大きく縱に切つた切身。

【土主】210　tʻu² chu³　地主。

【土朱】211（ドシユ）　石の名。代赭石。〔本草、代赭石〕釋名、須丸・血師・土朱、鐵朱。

【土珠】212　tʻu³ chu¹　ガラス玉。

【土酒】213（ドシユ）　其の地で出來るさけ。ぢざけ。〔宋伯仁、詩〕土酒融二春興一、行歌放客懷。

【土螽】214（ドシユウ）　蟲の名。いなごの一種。つちばつた。くそばつた。土蝶。〔爾雅、釋蟲〕土螽、蠰谿。〔注〕似レ蝗而小、今謂二之土蝶一。

【土宿】215（ドシユク）　❶五行の土にあたる星のやどり。〔張衡、週天大象賦〕伊土宿之播靈、爲二旗星一而耀レ質。❷蜂の一種。〔事物異名錄、昆蟲上、蜂〕庶物異名疏、土宿、大蜂、駱各、小蜂。

【土筍】216（ドジユン）　❶川を浚ふ際、其の小部分をそのままにして置いて、未だ浚はない前の高度を測る材料とする、その小部分をいふ。其の形が筍狀を爲してゐるからいふ。〔夢溪筆談、器用〕欲三以驗二未レ鍛時厚薄一、如三浚レ河留二土筍一也。❷蟲の名。塗筍（**3**－5338・・36）を見よ。

【土苴】217（ドサ）（ドシヨ）　あくた。糞草。土芥。一說に、無心のさま。〔莊子、讓王〕道之眞以治レ身、其緒餘以爲二國家一、其土苴以治二天下一。〔釋文〕土、敕雅反、又音如レ字、司馬云、土苴、如二糞草一也、李云、土苴、糟魄也、皆不二眞物一也、一云、土苴、無心之貌。〔呂覽、貴生〕道之眞以持レ身、其緒餘以爲二國家一、其土苴以治二天下一。〔注〕土、瓦礫也、苴、草蒯也。〔元好問、新齋賦〕孰糟粕之弗レ醇、孰土苴之弗レ眞。

【土處】218（ドシヨ）　穴居をいふ。〔韓愈、原道〕木處而顚、土處而病也、然後爲二之宮室一。

【土藷】219（ドシヨ）　山藥（**4**－**7869**・・1030）の異名。〔事物異名錄、蔬穀上、山藥〕稽含草木狀、土藷卽山藥、又名二山藷一。

【土塍】220（ドシヨウ）　土俵（363）の❶に同じ。

【土鬆】221（ドシヨウ）　土がぼろぼろしてゐること。〔竹譜〕凡栽二竹土虛鬆一、則鞭易レ行。

【土色】222（ドシヨク）　❶土の色。又、つちいろ。〔左氏、昭、二十五、發爲二五色一疏〕木色青、火色赤、土色黃、金色白、水色黑。〔漢書、田儋傳、蝮蠚レ手、注〕師古曰、虺若二土色一、所在有レ之。〔宋史、河渠志七〕亦嘗驗二兩處一、土色虛實、則袁花塘淡塘、差勝二鹹塘一。❷（ツチイロ）　恐れて土のやうに青ざめた顏色。

【土臣】223（ドシン）　國土に事へる臣。〔國語、晉語九〕辭曰、我君是事、非レ事レ土也、名曰二君臣一、豈曰二土臣一、今君實遷、臣何賴二於鼓一。

【土神】224（ドシン）　❶五行の土の神。五德の神の一。金神（**11**－**40152**・・617）の❷を見よ。〔孔子家語、五帝〕季康子問二孔子一曰、舊聞二五帝之名一、而不レ知二其實一、請問、何謂二五帝一、孔子曰、昔丘也聞二諸老聃一、曰、天有二五行一、水火金木土、分レ時化育、以成二萬物一、其神謂二之五帝一。❷土地のかみ。くにつかみ。地祇。產土神。〔禮、月令、毋三發レ令而待、以妨二神農之事一也、注〕民驚則心動、是害二土神之氣一、土神稱曰二神農一者、以三其主二於稼穡一。〔元史、順帝紀三〕至正元年閏五月丁丑、改封二徽州土神汪華一、爲二昭忠廣仁武烈靈顯王一。〔沙喜亭、日本雜咏、注〕土神名二大明神一。❸土木・家相に關する神。〔宋書、明帝紀〕宮內禁忌尤甚、移レ牀治レ壁、必先祭二土神一。

【土參】225（ドシン）　草の名。とちばにんじん。うこぎ科の多年草。葉は掌狀複葉をなし、栃の木に似、花は淡綠色、果實は紅色。

【土人】226（ドジン）　❶土で造つた人形。土偶。はにわ。〔子不語〕劉刺史之鄰孫姓者、堀レ溝得二一石門一、開レ之、隧道宛然陳二設鷄犬罍尊一、皆瓦爲レ之、亦有下掘レ堀得二土人作二臥形一者上。❷其の土地に生まれた人民。とちのひと。土民。〔後漢書、虞詡傳〕其土人所三以推レ鋒執レ銳無二反顧之心一者、爲三臣二屬於漢一故也。〔南史、周炅傳〕江北諸城及穀陽土人。❸原始的な生活をしてゐる土着の人種。

〖土人形〗227（ツチニンギヤウ）　土で作つた人形。土偶。〔和漢三才圖會、嬉戲類、泥塑人〕按、潛夫論曰、今人作二泥車瓦狗一者、卽今土人形也、以二埴土一入二人形及狗獅猿等模塑一作レ之、以爲二小兒玩拼一。

【土正】228（ドセイ）　顓頊帝嚳時代の中官。后土を掌る。〔左氏、昭、二十九〕土正曰二后土一。〔注〕土爲二羣物主一、故稱レ后也、其祀句龍焉、在レ家則祀二中霤一、在レ野則爲レ社。〔會箋〕后者、君也、羣物皆土所レ載、是土爲二羣物之主一、故以レ君言レ之、土正職掌二后土一、故名。〔賈公彥、周禮正義序〕昭十七服注顓頊之下云、春官爲二木正一、夏官爲二火正一、秋官爲二金正一、冬官爲二水正一、中官爲二土正一、高辛氏因レ之。

【土生】229（ハブ）　❶地名。㋑備後國の地名。㋺和泉國の地名。㋩越中國の地名。㋥但馬國の地名。㋭美作國の地名。㋬周防國の地名。㋣紀伊國の地名。❷姓氏。〔姓林全書〕。

〖土生新〗230（ハブシン）　越中國の地名。

〖土生川〗231（ハブガハ）　但馬國に在る川。

〖土生瀧〗232（ハブタキ）　和泉國の地名。

【土姓】233（ドセイ）　地名によつてつけた姓。有德の人に其の生まれた土地の名を姓として賜はつたもの。一說に、與へられた土地の名を姓として賜はつたもの。〔書、禹貢〕錫二土姓一。〔傳〕天子建レ國、因レ生以賜レ姓、謂下有德之人生二此地一、以二此地名一、賜二之姓一以顯上レ之。〔漢書、地理志上〕錫二土姓一。〔注〕師古曰、言下封二諸侯一賜二之土田一、因以爲上レ姓。

【土性】234（ドセイ）　つちの性質。土壤の良否。地質。土質。〔書、旅獒〕犬馬非二其土性一不レ畜。〔趙孟頫、題二耕織圖一二云詩〕良農知二土性一、肥瘠有レ不レ同。

【土星】235（ドセイ）　❶北斗星の第一星。〔星經〕北斗星謂二之七政一、第一名二天樞一、爲二土星一、主二陽德一、亦曰二政星一。❷太陽系中の惑星の一つ。太陽の方から數へて第六番目に在る。遊星。直徑約三萬里、別に光環が三層あり、八個の衞星を有し、二十九年と百六十七日で太陽を一周する。鎭星。塡星。Sutern

【土精】236（ドセイ）　❶土の精靈。〔左氏、襄、二十八、歲在二星紀一而淫二于玄枵一疏〕歲、歲星也、五星者、五行之精也、麻書稱二木精一曰二歲星一、火精曰二熒惑一、土精曰二鎭星一、金精曰二太白一、水精曰二辰星一。〔史記、五帝紀、有二土德之瑞一故號二黃帝一注〕索隱曰、炎帝火、黃帝土、代レ之卽黃龍地螾見、是也、螾土精、大五六圍、長十餘丈。〔漢書、谷永傳〕彗星、極異也、土精所レ生、流隕之應、出二於饑變之後一、兵亂作矣、厥期不レ久。❷人參（**1**－**344**・・276）の❶の異名。〔本草、人參〕釋名、時珍曰、人蓡年深浸漸長成者、根如二人形一有レ神、故謂二之人蓡神草一、云云、背レ陽向レ陰、故曰二鬼蓋一、其在二五參一、色黃屬レ土、而補二脾胃一、生二陰血一、故有二黃參・血參之名一、得二地之精靈一、故有二土精・地精之名一。

【土製】237（ドセイ）　土で作つた。又、其の物。

【土消】238（ドセウ）　くそむしの作つた丸。〔本草、蜣蜋轉丸〕釋名、土消、藏器曰、此蜣蜋所二推丸一也、藏在二土中一、掘レ地得レ之、正圓如二人捻作一。

【土椒】239（ドセウ）　山椒（**4**－**7869**・・622）の❷の別名。〔本草、蜀椒〕集解、時珍曰、蜀椒、肉厚皮皺、其子光黑、如二人之瞳子一、故謂二之椒目一、他椒子、雖二光黑一、亦不レ似レ之、若二土椒一、則子無二光彩一矣。

【土燒】240（ツチヤキ）　素燒きの土器。

【土石】241（ドセキ）　❶土と石。〔史記、五帝紀〕旁二羅日月星辰、水波土石金玉一。〔韓愈、原鬼〕有レ形而無レ聲者、物有レ之矣、土石、是也。❷石の名。ぼさついし。長石（**11**－**41100**・・540）の❷の異名。〔本草、長石〕釋名、方石、直石、土石、硬石膏。

【土席】242（ドセキ）　つちの座席。土の上に設けた座席。〔後漢書、濟北惠王壽傳〕草廬土席。

【土積】243（ドセキ）　土が積もる。〔淮南子、齊俗訓〕夫水積則生二相食之魚一、土積則生二自穴之獸一。

〖土積成レ山〗244（ツチツモレバヤマヲナス）　少しの土塊も積もれば高い山となる。〔說苑、建本〕人才雖レ高、不レ務二學問一、不レ能レ致レ聖、水積成レ川、則蛟龍生焉、土積成レ山、則豫樟生焉、學積成レ聖、則富貴尊顯至焉。〔張華、勵志詩〕水積成レ川、載瀾載淸、土積成レ山、歆蒸鬱冥。

【土穕】245ドセフ　農具。〔集韻〕穕、土穕、農具。

【土染】246 t'u² jan³　中國内地で染めた。

【土船】247ドセン　❶土で作つた船。〔後漢書、南蠻傳〕令㆔各乘㆓土船㆒、約㆔能浮者當㆓以爲㆑君、餘姓悉沈、唯務相獨浮、固共立㆑之。❷ツチブネ　土を運ぶ船。〔夫木和歌抄、三十二〕ともすれば泊りに沈むつちぶね。

【土酥】248ドソ　大根をいふ。〔杜甫、病後過㆓王倚㆒飲贈歌詩〕長安冬葅酸且綠、金城土酥淨如㆑練。〔王禎、農書〕北人蘆蔔、一種四名、春曰㆓破地錐㆒、夏曰㆓更生㆒、秋曰㆓蘆蔔㆒、冬曰㆓土酥㆒、謂㆓其潔白如㆑酥也。〔書言故事、蔬類〕蘆菔曰㆓土酥㆒。

【土足】249ドソク　土のついたままの足。又、はき物をはいたままの足。〔今宮心中、上〕土足にかけ。

【土俗】250ドゾク　其の土地のならはし。其の地方の風俗習慣。土習。土風。〔後漢書、竇融傳〕累世在㆓河西㆒、知㆓其土俗㆒。〔晉書、蔡豹傳〕山人便㆓弓弩㆒、習㆓土俗㆒、一人守㆑阨、百夫不㆑當。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕因㆓其土俗㆒、爲設㆓教禁㆒、州人順賴。〔福惠全書、筮仕部、訪㆓風俗㆒〕身將㆑受㆓事地方㆒、則地方之政事利弊、土俗民情、皆宜㆓咨訪㆒。

〖土俗書〗251ドゾクショ　其の地方で俗に使はれる書體。俗字をいふ。〔桂海虞衡志〕邊遠俗陋、牒訴券約、專用㆓土俗書㆒、桂林諸邑皆然。

【土賊】252ドゾク　其の土地のわるもの。土匪。〔元史、仁宗紀二〕盧陽・麻陽二縣、以㆓土賊作㆑耗、蠲㆓其地稅賦㆒。

【土堆】253ドタイ　小高い土地。〔秦州記〕上邽縣北有㆓利山川㆒、中平地有㆓土堆㆒、高五丈、生㆓細竹㆒、翠茂殊㆑常、一楊樹、大數圍、百姓祀㆑之。

【土代】254ドダイ　❶文書の草案。〔玉蘂〕建曆元年九月廿四日、大嘗會御定也、公定云、留守文同可㆑書㆓月日㆒歟、予答㆓可㆑然之由㆒、書訖、以㆓土代㆒入㆓懷中㆒、押㆓取副除目等於笏㆒參進。❷下書。屛風土代とは、屛風に淸書するにあたつての土代、すなはち下書の意。御物、小野道風筆、屛風土代が尤も知られる。

【土臺】255ドダイ　❶土で築いた高臺。〔南齊書、魏虜傳〕正殿西築㆓土臺㆒、謂㆓之白樓㆒。〔洛陽伽藍記、二〕里有㆓土臺㆒、高三丈。❷㋑木造建築物の最下部に在つて上部の重みを支へる橫木。㋺すべて建造物の最下部を成す部分。㋩物事の基礎。もと。根柢。㊁元來。本來。もともと。

【土塘】256ドタウ　どて。堤防。〔宋史、河渠志七〕鹹潮泛溢者、乃因㆓捍海古塘衝損㆒、遇㆓大潮㆒、必盤越流注北向、宜㆘築㆓土塘㆒以捍㆗鹹潮㆖。〔元史、河渠志二、一、鹽官州海塘〕築㆓土塘㆒、然後築㆓石塘㆒。

【土磔】257ドタク　地面に平臥させて行ふはりつけ。つちはりつけ。

【土炭】258ドタン　土と炭。〔史記、天官書〕冬至短極、縣㆓土炭㆒、炭動。〔柳宗元、報㆓崔黯秀才㆒書〕吾嘗見㆛病㆓心腹㆒人、有㆚思㆘啗㆓土炭㆒、嗜㆗酸鹹㆖者㆙。

【土團】259ドダン　鄕土を自衞させるために、團体訓練を施した、其の土地の人の集團。〔唐書、王式傳〕集㆓土團諸兒㆒爲㆓鄕導㆒。

【土壇】260ドダン　❶土で築いた壇。❷特に、斬罪を執行するために築いた壇。

〖土壇場〗261ドタンバ　❶斬罪の刑場。しおきば。❷事のせつぱつまつた急場。進退きわまつた場合。

【土斷】262ドダン　一定の廣さの土地に住む戶數を制限するをいふ。〔宋書、武帝紀中〕桓溫以㆘民無㆓定本㆒、傷㆑治爲㆖深、庚戌土斷、以一㆓其業㆒。〔唐書、食貨志二〕天下之民、不㆓土斷㆒而地著。

【土地】263トチ　❶地形を度かること。土は度。〔周禮、夏官、土方氏〕以土㆑地相㆑宅、而建㆓邦國都鄙㆒。〔注〕土地、猶㆓度地㆒、知㆓東西南北之深㆒、而相㆓其可㆑居者㆒、宅、居也。❷つち。地面。ところ。領土。〔周禮、地官、小司徒〕乃經㆓土地㆒、而井㆓牧其田野㆒。〔禮、月令〕善相㆓丘陵阪險原隰、土地所㆑宜、五穀所㆑殖、云云、小兵時起、土地侵削。〔公羊、莊、二十五、以㆓朱絲㆒營㆑社、注〕社者、土地之主也。〔孟子、盡心下〕諸侯之寶三、土地・人民・政事。〔管子、權修〕土地博大、野不㆑可㆓以無㆑吏。❸土地の神。其の鄕土の神。土地の神の社。〔通俗編、神鬼、土地〕孝經緯、社者土地之神、土地闊不㆑可㆓盡祭㆒、故封㆑土爲㆑社、以報㆑功也、按、今凡社神俱呼㆓土地㆒、惟塋旁所㆑祀稱㆓后土㆒。

〖土地臉〗264 t'u³ ti⁴ lien³　❶土地神の顏。❷薄い樺色。

〖土地公〗265 t'u³ ti⁴ kung¹　各村落に祀られる氏神。產土神。

〖土地神〗266ドチシン　佛其の境域を守護する神。鎭守。

〖土地堂〗267ドチダウ　佛禪寺で、土地神及び護法神を祀る堂宇。佛殿の東邊に設ける。〔禪林象器箋、二〕。

〖土地誕〗268ドチタン　佛土地神の誕生日。卽ち陰曆二月二日。

〖土地廟〗269トチベウ　村落の農神廟。鎭守神社。北京の土地廟は、宣武門外の土地廟斜街路西に在つて、遼・金時代に置いたものと傳へられる。〔燕京歲時記、土地廟〕土地廟、在㆓宣武門外、土地廟斜街路西㆒、自㆓正月㆒起、凡初三・十三・二十三日、有㆓廟市㆒、市無㆓長物㆒、惟花廠鴿市、差爲㆑可㆑觀、謹按、日下舊聞考、土地廟、其基最古、有㆓前明萬曆四十三年碑㆒、稱曰、古蹟老君堂都土地廟、遼・金時、廟在㆓都城東之外㆒、今莫㆑得㆓其方向㆒矣。

〖土地收用〗270トチシウヨウ　國家が公用のため、或る土地を強制的に徵收して使用すること。

〖土地書據〗271 t'u³ ti⁴ shu¹ chü⁴　土地の所有・賣買・貸借などの書類。

〖土地臺帳〗272トチダイチヤウ　土地の狀況を明かにする地籍簿。土地の所在・地番・地目・地積・所有者の住所氏名などを記す。地籍臺帳。

〖土地徵收〗273トチチヨウシウ　國家が公共事業のために法律によつて私有地を買收すること。

〖土地登記〗274トチトウキ　土地の所有及び其の定著物の得喪變更の登記。登記(7−22668‥23)の❷を見よ。

〖土地諷經〗275ドチフギン　佛每月二日と十六日とに土地堂で讀經すること。

〖土地改良學〗276トチカイリヤウガク　耕作地の生產力を高めるため、施肥・燒土・休閑等の土地の化學的改良法を研究する學問。

〖土地國有論〗277トチコクイウロン　土地の私有を廢して國家の所有にしようとする議論。

〖土地所有權〗278トチシヨイウケン　或る土地を所有する權利。

〖土地淸丈局〗279 t'u³ ti⁴ ch'ing¹ chang⁴ chü²　土地の測量や整理を取扱ふ役所。

〖土地各以㆓其類㆒生〗280トチオノオノソノルイヲモツテシヤウズ　土地は各其の土地の性質に類したものが生ずる。〔淮南子、墜形訓〕土地各以㆓其類㆒生、是故山氣多㆑男、澤氣多㆑女。

〖土地收益遞減法〗281トチシウエキテイゲンハフ　耕作地の生產力が或る程度に達すれば、之に加へる勞力・資本に對して、其の割合に產出物は增加せず、又、產出物は增加しても純益は却つて漸次減少するといふ法則。地力遞減法。地力漸減法。土地收穫遞減法。土地報酬遞減法。

〖土地收穫遞減法〗282トチシウクワクテイゲンハフ　土地收益遞減法に同じ。

〖土地報酬遞減法〗283トチハウシウテイゲンハフ　土地收益遞減法に同じ。

【土稚】284ドチ　泥製の美人人形。〔陸游、跋㆓嵩山景迂集㆒〕景迂、鄜時排㆑悶詩云、莫㆑言無㆓妙麗㆒、土稚動㆓金門㆒、蓋鄜人善作㆓土偶兒㆒、精巧雖㆓都下㆒莫㆓能及㆒、宮禁及貴戚家、爭以㆓高價㆒取㆑之。

【土畜】285ドチク　❶麒麟(12−47657‥3)の❶の異名。〔公羊、哀、十四、麟者仁獸也、疏〕春秋說云、麟生㆓於火㆒、游㆓於中土㆒、軒轅大角之獸、然則麟爲㆓土畜㆒、而言㆓仁獸㆒者。〔事物異名錄、獸畜、麒麟〕埤雅、麐、土畜也。❷牛(7−19922)の異名。〔禮、月令、食㆓麥與㆑羊、注、羊、火畜也、疏〕雞爲㆓木畜㆒、羊爲㆓火畜㆒、牛爲㆓土畜㆒、犬爲㆓金畜㆒、豕爲㆓水畜㆒。〔魏書、禮志一〕羣臣奏、以㆔國家繼㆓黃帝之後㆒、宜㆑爲㆓土德㆒、故神獸如㆑牛、牛、土畜、又黃星顯曜、其符也。〔事物異名錄、獸畜、牛〕隨隱漫錄、牛、土畜也。

【土茶】286ドチヤ　粗惡な茶。粗茶。〔陸游、浣溪女詩〕地爐豆稭煎㆓土茶㆒。

【土場】287ドバ　床を張らずに地面を場席とした所。土間。

〖土場藝〗288ドバゲイ　舞臺なしに、路傍で演ずる藝。

【土著】289ドチヤク　其の土地に常住すること。〔史記、大宛傳〕其俗土著耕㆑田。〔史記、西南夷傳〕其俗或土著、或移徙。〔漢書、張騫傳〕身毒國、在㆓大夏東南㆒、其俗土著。〔漢書、西域傳上〕西域諸國、大率土著。〔注〕師古曰、言㆘著㆓土地㆒而有㆓常居㆒、不㆗隨㆓畜牧㆒移徙㆖也。〔稱謂錄、土民、土著〕漢書其俗土著、謂㆔常居不㆓遷徙㆒也。〔六部成語補遺、

戸部、土著、注解〕本地居住著實之民人也。

【土中】290 ドチユウ ❶四方の土地の中央。洛邑をいふ。〔書、召誥〕自服二於土中一。〔蔡傳〕洛邑、天地之中、故謂二之土中一。〔公羊、僖、元、遷レ之者何、注〕王者封二諸侯一、必居二土中一。〔漢書、禮樂志〕改定二京師于土中一。〔注〕師古曰、謂レ都二洛陽一。〔漢書、地理志〕昔周公營二雒邑一、以爲、在二于土中一、諸侯藩二屏四方一、故立二京師一。❷土のなか。〔後漢書、鍾離意傳〕出爲二魯相一。〔注〕意別傳曰、云云、除二堂下草一、土中得二玉璧七枚一。〔晉書、庾亮傳〕亮將レ葬、何充會レ之、歎曰、埋二玉樹於土中一、使二人情何能已一。

【土蟲】291 ドチユウ 蟲の名。馬陸(**12－44572**··619)の一種。〔本草、馬陸〕正誤、藏器曰、按、土蟲無レ足、如二一條衣帶一、長四五寸、身扁似二韭葉一、背上有二黃黑襴一、頭如二鏟子一、行處有二白涎一、生二濕地一、雞喫卽死、陶云、土蟲似二蜈蚣一者乃蚰蜒、非二土蟲一、亦非二馬陸一也。

【土珍】292 ドチン 其の土地の珍しい產物。〔後漢書、西南夷傳〕皆獻二土珍一、頌二德美一。〔梅堯臣、范景仁席中賦二葡萄一詩〕乃知西土珍、漢使傳應レ久。

【土丁】293 ドテイ 徭役に任ずるために徵發した其の土地の人夫。〔宋史、兵志四〕川陝有二土丁壯丁一。〔宋史、趙遹傳〕友直所レ部、多二思黔土丁一、習二山險一、而山多二生獠一、遹遣二土丁一捕レ之。〔皇朝文獻通考、戶口考〕臣等謹按、丁稅之法、以二貧富一爲レ差、云云、又民丁之外、別有二軍丁・屯丁・匠丁・竈丁・站丁・土丁・漁戶寄莊丁・寄糧丁諸名一。

【土定】294 ドテイ 土で作つたもの。〔紅樓夢、四十回〕案上只有三一個土定瓶中、供二著數枝菊花一。

【土堤】295 ドテイ ❶土で築いた堤防。〔六部成語、工部、土堤、注解〕土築之堤防也。❷土手(209)の❶に同じ。

【土泥】296 ドデイ 土と泥。どろ。泥土。土塗。〔柳宗元、南岳彌陁和尚碑〕食二土泥一、茹二草木一。

〖土泥匠〗297 t'u^3 ni^2 chiang^4 左官。

【土鐵】298 ドテツ 泥螺(**6－17311**··110)の異名。又、吐鐵に作る。〔明一統志〕寧波府、土產二土鐵一、海中出。

【土靛】299 t'u^3 tien^4 藍玉。

【土田】300 ドデン ❶田畑。〔詩、大雅、崧高〕王命二召伯一、徹二申伯土田一。〔禮、月令〕季冬之月、云云、命レ宰、歷下卿大夫至二于庶民一土田之數上、而賦二犧牲一、以共二山林名川之祀一。〔左氏、莊、三十二〕神賜二之土田一。〔漢書、敍傳下〕定二爾土田一、什一供貢。❷ハンタ 但馬國の地名。

【土殿】301 ツチドノ 土塗りの宮殿。〔榮華物語、樣樣悅〕東三條院の廊、渡殿を皆土殿にしつつ。

【土塗】302 ドト 泥土。〔左氏、襄、九〕蓄二水潦一、積二土塗一。〔會箋〕塗、泥也。〔柳宗元、永州新堂記〕永州實惟九嶷之麓、其始度レ土者、環レ山爲レ城、有レ石焉翳二於奧草一、有レ泉焉伏二于土塗一。

【土墱】303 ドトウ 寨の名。山西省崞縣の西北。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、代州、崞縣〕土墱寨、在二縣西北一、云云、宋雍熙三年、契丹寇二代州一、張齊賢卻レ之、乃北走、齊賢先伏二步卒二千於土墱寨一、掩二擊之一、契丹大敗、九域志、崞縣有二土墱寨一、墱、北史作レ隥、土鄧反。

【土樋】304 ドヒ 土竇(307)に同じ。

【土頭】305 t'u^3 tou^2 時流を解しない。田舍臭い。野暮。又、そのやうな人。土頭土腦。土腦。

〖土頭土腦〗306 t'u^3 to'u^2 t'u^2 nao^3 土頭に同じ。

【土竇】307 ドヒ 瓦で作つた樋。土管のとひ。瓦竇。〔和漢三才圖會、水類、瓦竇〕函管、俗云二土竇一。

【土德】308 ドトク 五行の土の德。五行(**1－257**··78)の❶を見よ。〔史記、五帝紀〕有二土德之瑞一、故號二黃帝一。〔史記、張丞相傳〕文帝召二公孫臣一、以爲二博士一、草二土德之曆一制レ度、更二元年一。

【土坉】309 ドトン 土をつめた俵。土俵。〔廣韻〕坉、以レ草裹レ土、築レ城及塡レ水也。

【土豚】310 ドトン 藁などで土を包み、城を築いたり水を堰いたりするに用ひるもの。土俵。土墩。土坉。〔魏志、蔣濟傳〕豫作二土豚一、遏二斷湖水一。

【土遁】311 ドトン ❶盛に土木事業など起して放逸なこと。五遁(**1－257**··902)の❶を見よ。〔淮南子、本經訓〕高築二城郭一、設二樹險阻一、崇二臺榭之隆一、侈二苑囿之大一、以窮二要妙之望一、魏闕之高、上際二青雲一、大廈增加、擬二於崑崙一、脩爲二牆垣一、甬道相連、殘レ高增レ下、積レ土爲レ山、接徑歷レ遠、直レ道夷レ險、終日馳騖、而無二蹟蹈之患一、此遁二於土一也。❷仙術の五遁の一。土を借りて身を隱す術。五遁(**1－257**··902)の❷を見よ。

【土墩】312 ドトン 土をつめた俵。土坉。土豚。

【土腦】313 t'u^2 nao^3 土頭(305)・土頭土腦(306)に同じ。

【土囊】314 ドナウ ❶大きな穴。おほあな。〔宋玉、風賦〕盛二怒於土囊之口一。〔注〕善曰、土囊、大穴也。❷土をつめたふくろ。土俵をいふ。〔唐書、馬燧傳〕絕レ河載二土囊一、遏レ水而後度。〔容齋四筆、水旱祈禱〕乾道九年秋、贛吉連雨暴漲、予守レ贛、方多備二土囊一、壅二諸城門一、以杜二水入一。

【土難】315 ドナン 複姓。一に吐難に作る。〔魏書、官氏志〕土難氏、後改爲二山氏一。

【土肉】316 ドニク ❶土をいふ。〔蘇軾、佛日山榮長老方丈詩〕不レ堪土肉埋二山骨一、未下放二蒼龍一浴中渥洼上。❷蟲魚の名。なまこ。炙つて食用とする。〔郭璞、江賦〕玉珧海月、土肉石華。〔注〕濟曰、並水蟲、蚌蛤之類。〔臨海水土物志〕土肉、正黑、如二小兒臂大一、長五寸、中有レ腹、無二口目一、有二三十足一、炙食。

【土乳】317 ドニユウ 土殷孽(442)の異名。〔本草、土殷孽〕釋名、土乳、志曰、此則土脂液也、生二于土穴一、狀如二殷孽一、故名。

〖土乳梨〗318 ドニユウリ 果樹の名。〔海錄碎事、草木、果實〕土乳梨・金鎚棗・牙樣棗・半斤李子、皆帝苑中所レ植也。

【土坡】319 t'u^3 p'o^1 小高い所。坂。

【土壩】320 t'u^3 pa^4 隄防。土手。

【土馬】321 ドバ 土で作つた馬。〔張耒、女几祠下詩〕東風古柏吹二暖香一、廟前土馬荒二春草一。〔陸游、謁二漢昭烈惠陵及諸葛公祠一詩〕畫妓空二笙竽一、土馬闕二羈鞚一。

〖土馬騣〗322 ドバソウ 蘚類の一。すぎごけ。〔本草、土馬騣〕集解、禹錫曰、所在背陰古墻垣上有レ之、歲多雨則茂盛、或以爲二垣衣一、非也、垣衣生二垣牆之側一、此生二垣牆之上一、比二垣衣一更長、故謂二之馬騣一、苔之類也、時珍曰、垣衣乃磚牆上苔衣、此乃土牆上烏韭也。

【土煤】323 t'u^3 mei^2 泥炭。

【土方】324 ドハウ ❶土地の方角。〔左氏、昭、三十二〕士彌牟營二成周一、計二丈數一、揣二高卑一、度二厚薄一、仞二溝洫一、物二土方一。〔注〕物、相也。〔箋〕物二土方一、蓋檢二視土地之方一。❷周官の名。夏官の屬。土圭の法を掌る。〔周禮、夏官、土方氏〕土方氏、掌二土圭之灋一、以致二日景一。❸長さ一丈、高さ一尺の土塊をいふ。これを積んで河水の氾濫を防ぐに用ひる。〔淸會典事例、工部、水利、各省江防〕雍正五十三年諭、本年監利縣地方、因二江湖漲漫一、將二東將之孫張王公月隄二一處普漫一、該縣隄工、本係二民辦一、但今年被レ災較重、甫遭二淹浸一、雖三已優加二撫恤一、民力究不レ免二拮据一、所レ有該縣孫張王公月隄需用土方、據二該督估計銀三萬兩以上一。〔六部成語、工部、土方、注解〕每土一立方尺也。❹ドカタ 土を運び、又地を掘ることなどを業とする勞働者。❺ヒヂカタ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【土包】325 t'u^3 pao^1 ❶土俵。❷惡漢。惡者。

【土房】326 ドバウ ❶土地と家。國家をいふ。〔國語、晉語四〕義以道レ利、利以阜レ姓、姓利相更成而不レ遷、乃能攝固、保二其土房一。〔注〕攝、持也、保、守也、房、居也。❷泥土で築いた家屋。〔馬祖常、上京翰苑書懷詩〕土房通レ火爲二長炕一、氈屋流レ涼啓二小櫺一。

【土白】327 ドハク ❶輕く飛び散ることをいふ。〔釋名、釋地〕土白、曰二漂漂輕飛散一也。❷t'u^3 pai^2 其の土地の言葉。方言。

【土伯】328 ドハク 土中の怪物。土中の諸侯の長といふ意。〔楚辭、招魂〕土伯九約、其角觺觺些。〔注〕土伯、后土之侯伯也。〔皮日休、虎丘寺殿前有二古杉一云云詩〕勢能擒二土伯一、醜可レ駭二山祇一。

【土薄】329 ドハク 地味の瘦せてゐること。〔左氏、成、六〕郇瑕氏、土薄水淺、其惡易レ覯、易レ覯則民愁、民愁則墊隘、於レ是乎、有二沈溺重膇之疾一。〔唐書、朱朴傳〕江南土薄水淺、人心囂浮輕巧、不レ可二以都一。

【土撥】330 ドハツ 鼠の名。土撥鼠を見よ。

〖土撥鼠〗331 ドハツソ 獸の名。齧齒類に屬し、四肢は短く、形は南京兔に似、指趾に蹄狀の爪があつて尾がない。モルモット。〔本草、土撥鼠〕釋名、䶄鼥、答刺不花、集解、藏器曰、土撥鼠、生二西蕃

山澤閒一、穴レ土爲レ窠、形如レ獺、夷人掘取食レ之。〔明一統志〕韃靼、土産二土撥鼠一。

【土法】332 t'u^2 fa^3 在來の方法。舊法。

【土拌】333 ドハン 魚の名。〔太平御覽、鱗介部〕臨海水土記曰、土拌魚、長七寸、白黑斑文。

【土萬】334 ヒヂマ 播磨國の地名。

【土番】335 ドバン トバン 土蕃(337)に同じ。

〔土番大黃〕336 ドバンダイワウ 大黃の一種。大黃(**3**－**583**1‥567)の❷を見よ。〔本草、大黃〕集解、頌曰、秦隴來者、謂二之土番大黃一。

【土蕃】337 ドバン ❶土著のえびす。其の地方常住の蠻人。土番。❷トバン 吐蕃(**2**－3300‥73)に同じ。〔元史、世祖紀四〕夏四月己丑詔、於二土蕃西川界一、立二寧河驛一。

【土礬】338 ドバン 其の土地から産する明礬。〔宋史、食貨志下七〕元符三年、崇儀使林像奏、禁二河北土礬一非レ便、卽河北産レ礬地、置二場官一買、增レ價出レ之、罷レ運二晉礬一、則官獲二淨利一、無二運載之勞一、民資二地産一、省二犯レ法之弊一。

【土蠻】339 ドバン 部落の名。土默特(475)の轉音。內蒙古の土默特旗。

【土匪】340 ドヒ ❶其の地に居て亂をなす民。土著の民の寇をする者。土賊。土寇。❷第一革命の後、南京で妓女をいふ。

【土脾】341 ドヒ 脾。脾は五行の土に屬するからいふ。〔素問、陰陽類論〕喉咽乾燥、病在二土脾一。

【土筆】342 ドヒツ ❶燒筆。〔楊升菴集〕畫家於二人物一、必九朽一罷、先以二土筆一擬二其形一、數次修改曰二九朽一、繼以二淡墨一一描而成、故曰二一罷一。❷シツク 問荊（スギナ）の胞子莖の稱。つくづくし。早春、地下莖から地上にぬき出で、形が筆に似てゐる。羮て食ふ。〔和漢三才圖會、柔滑菜〕筆頭菜、俗云二土筆一。

【土瓶】342' ドビン ❶湯茶をわかす陶器。〔平治物語、賴朝義兵を擧ぐる事〕土瓶二つを持參せり。❷人や牛馬の大きな睾丸をいふ。〔物類稱呼、四〕出雲常陸などにては、どびんとなづくるは牛馬の睾丸也。

【土父】343 ドフ 土附(350)に同じ。〔古今注、魚蟲〕江東謂二青衣魚一爲二婢孏一、呼二童子魚一爲二土父一、呼レ黿爲二河伯使者一。

【土布】344 ドフ 中國産の手織白木綿。地織木綿。

〔土布袋〕345 t'u^3 pu^4 tai^4 土を詰め込んだ布袋。土俵の類。

【土缶】346 ドフ 酒漿を盛る土製の器。ほとぎ。〔國語、魯語下〕季桓子穿レ井、獲レ如二土缶一、其中有レ羊焉。

【土府】347 ドフ 廣西・雲南等の苗族の集團區域の名稱の一。土司(175)を見よ。〔六部成語、戶部、土司、注解〕川廣雲貴等省、野人之大頭目也、其官世襲、有二土府・土州・土縣之類一也。

【土阜】348 ドフ 土の丘陵。阜は土山。〔依田學海、泛游小品〕大抵土阜舒緩。

【土符】349 ドフ 首翼の黃色い鸞鳥をいふ。〔禽經〕首翼赤曰二丹鳳一、青曰二羽翔一、白曰二化翼一、玄曰二陰翥一、黃曰二土符一。

【土附】350 ドフ 吐哺魚の異名。吐哺(**2**－3300‥76)の❷を見よ。土步。〔事物異名錄、水族、吐哺〕雨航雜錄、吐哺魚、名二土附一、以二其附レ土而行一也、按、後人去レ阝加レ魚、名二土鮒一、又名二土步一、又名二土部一。

〔土附子〕351 ドフシ 烏頭(**7**－**18998**‥255)の異名。〔本草、烏頭〕釋名、烏喙・草烏頭・土附子・奚毒・耿子・毒公・金鴉・苗茗莨・芨・堇・獨白草・鴛鴦菊、汁煎名二射罔一、時珍曰、此卽烏頭之野二生于他處一者、俗謂二之草烏頭一。

【土釜】352 ドフ 土の釜。どがま。〔陸游、宿二野人家一詩〕土釜煖レ湯先濯レ足、豆䕸吹レ火旋二烘衣一。

【土步】353 ドブ 土附(350)に同じ。〔玉食批〕毎日賜二太子土步辣羹・青蝦辣羹・湖魚兒辣子一。

【土部】354 ドブ ❶土附に同じ。土附(350)を見よ。❷ハジベ 古、土器の製作を業とした部民。

【土風】355 ドフウ ❶地方のはやり歌。〔左氏、成、九〕樂操二土風一、不レ忘レ舊也。〔會箋〕風、猶レ音也。❷其の土地の風俗。土俗。〔陸機、吳趨行〕山澤多二藏育一、土風淸且嘉。〔左思、魏都賦〕蓋音有二楚夏一者、土風之乖也。〔謝靈運、會吟行〕牽綴書二土風一。〔陳子昂、白帝城懷古詩〕日落滄江晚、停レ橈問二土風一。

【土拂】356 ツチハラヒ 昔の車の附屬具。泥除（ドロヨケ）。

【土佛】357 ドブツ つちぼとけ。土製の佛像。

【土物】358 ドブツ 土地に生ずるもの。其の地方の産物。土産。〔書、酒誥〕惟土物愛、厥心臧。〔傳〕土地所レ生之物、皆愛二惜之一、則其心善。〔後漢書、西域傳贊〕湯矣西胡、天之外區、土物琛麗、人性淫虛。

【土墳】359 ドフン 土が盛りあがる。〔夏侯湛、大暑賦〕土墳地坼、谷枯川竭。

【土兵】360 ドヘイ 其の土地の兵士。〔元史、世祖紀十四〕乞レ調二軍萬人、土兵三千人一。〔元史、兵志〕寧國徽州、初用二土兵一。

【土塀】362 ドベイ 土で造った塀。

【土俵】363 ドヘウ ❶土を詰めたたはら。土坉。土囊。土包。土豚(310)に同じ。❷相撲をとる場所。土俵場を見よ。〔大江俊光記、元祿十二年五月二十八日〕相撲、云云、土俵、四本柱。

〔土俵際〕364 ドヘウギハ ❶土俵場の境。❷物事のまさに成らうとするまぎは。

〔土俵場〕365 ドヘウバ 相撲（スマフ）を行ふために、土を少し高くし、土俵で周邊を圍ひ、中に砂を敷いて、その外の四隅に圓柱を立て、屋根を造った場所。正式のは、もと內土俵と外土俵とから成り、前者は十六俵を圓形に、後者は二十八俵を方形に並べたが、今は、內側を更に二重にし、これを俗に蛇目と呼び、二重のうちの外部には二十二俵を用ひ、この外に出た者を負けとする。どへう。花場。

〔土俵入〕366 ドヘウイリ 力士が化粧廻しをつけて土俵場に上り、圓くならんで行ふ式。〔井筒業平河內通、五〕小腕小足の土俵入り。

【土豹】367 ドヘウ 獸の名。〔明一統志〕土豹、陝西鎭番衞出。〔馮時可、月賦〕土豹殷聲、天雞催レ曙。

〔土豹皮〕368 t'u^3 pao^4 p'i^2 甘肅省涼州地方に産出する毛皮の一種。黃土黑白色に錢大の斑紋がある。

【土壁】369 ドヘキ つちかべ。土塗りの壁。〔閒情寓寄〕泥牆土壁。

【土鼈】370 ドベツ 地鼈の異名。かめむし。〔本草、䗪蟲〕釋名、地鼈・土鼈・地蜱蟲・簸箕蟲・蚵蚾蟲・過街、弘景曰、形扁扁如レ鼈、故名二土鼈一。

【土弁】371 ドベン 土司の小武官。〔六部成語、兵部、土弁、注解〕本地土司之小武官。

【土浦】372 ツチウラ ❶茨城縣の地名。❷テウラ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【土堡】373 t'u^3 p'u^4 土で築いた墻壁。土城(204)の❶に同じ。

【土鰲】374 ドボ 龜の一種。どうまん。吐哺。〔事物異名錄、水族、吐哺〕萬歷杭州府志、土鰲、俗名二吐哺一、以二清明前者一爲レ佳。

【土崩】375 ドホウ 土がくづれる。又、土のくづれるやうにもろくくづれて、手の下しやうのないこと。〔淮南子、泰族訓〕土崩而下。〔史記、張釋之傳〕陵遲而至二於二世一、天下土崩。

〔土崩魚爛〕376 ドホウギヨラン 土がくづれ落ち魚がただれくさる。轉じて、物事の潰敗する喩。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕焉肯土崩魚爛哉。

〔土崩瓦解〕377 ドホウグワカイ 土が崩れるやうに崩れ墜ち、瓦がばらばらになるやうにばらばらに離れる。物事が根本的にくづれ破れて手のつけやうのない喩。〔鬼谷子、抵巇〕土崩瓦解而相伐射。〔史記、始皇紀〕秦之積衰、天下土崩瓦解。〔史記、主父偃傳〕徐樂曰、臣聞、天下之患、在二於土崩一、不レ在二瓦解一、古今一也、何謂二土崩一、秦之末世、是也、何謂二瓦解一、吳楚齊趙之兵、是也。〔淮南子、泰族訓〕師起二容關一、至二浦水上一、士億有餘萬、武王左操二黃鉞一、右執二白旄一以麾レ之、則瓦解而走、遂土崩而下。

【土蠭】378 ドホウ 蜂の一種。あなばち。つちばち。〔爾雅、釋蟲、土蠭、注〕今江東大蠭在二地中一作レ房者、爲二土蠭一、啖二其子一、卽馬蠭、今荊巴閒、呼爲レ蟺。

【土木】379 ドボク ❶家づくり。ふしん。又、建築・架橋・築堤・道路開鑿等の工事。〔國語、晉語九〕今土木勝、臣懼二其不レ安レ人也。〔列子、天瑞〕禾稼土木。〔後漢書、郎顗傳〕土木營建。〔北史、齊後主紀〕詔、土木營造、金銅鐵諸雜作、一切停罷。❷飾らないこと。ぶこつ。粗野。〔晉書、嵇康傳〕嵇康、字叔夜、有二風儀一、而土二木形骸一、不二自藻飾一。❸堡の名。唐、置く。察哈爾省懷來縣の西。もと統漢鎭といふ。土木はその訛。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、延慶右衞〕土木驛堡、衞

西南二十五里、地界相錯、爲二往來之孔道一、本名二統漠鎭一、唐末高開道據二懷戎一時所レ置、後訛爲二土木一、永樂初、置二堡于此一。

【土木學】380（ドボクガク）　土木に關する事項を科學的に研究する學問。

【土木局】381（ドボクキヨク）　舊內務省の一局。土木に關する一切の事務を取扱ふ。

【土木司】382（ドボクシ）　❶民國政府內務部の一局。❷明治二年六月、民部官に置かれた諸司の一。道路・橋梁・堤防等の土木工事に關する事務を掌る。同年七月、民部省に屬し、同四年七月、廢止された。

【土木行政】383（ドボクギヤウセイ）　道路・河川・鐵道等に關する行政。

【土木形骸】384（ドボクケイガイ）　形骸を土木にする。外形を飾らない意。土木の❷を見よ。

【土木工學】385（ドボクコウガク）　宮室・家屋・道路・橋梁・運河・鐵道等を建設することを研究する專門の學。

【土木壯麗】386（ドボクサウレイ）　庭園や宮室が壯大で美麗なこと。〔國史略、圓融天皇〕土木壯麗、冠二絕古今一。

【土木之變】387（ドボクノヘン）　明の英宗が正統十四年に瓦剌を征して、土木堡で瓦剌に襲はれ、擒（トリコ）となつた事變。〔明史、英宗前紀〕辛酉、次二土木一被レ圍。

【土埋】388（ドマイ）　土中に埋める。〔國語、吳語〕王縊、申亥負レ王以歸、而土二埋之其室一。

【土毛】389（ドマウ）　野菜や穀物。草穀の類を土地の毛髮に喩へていふ。〔左氏、昭、七〕封略之內、何非二君土一、食二土之毛一、誰非二君臣一。〔會箋〕毛、謂二九穀及蔬菜一。〔後漢書、馬融傳〕其土毛則推牧・薦草・芳茹・甘荼。〔注〕毛、草也。

【土滿】390（ドマン）　土地が廣過ぎて餘り役立たぬこと。〔管子、霸言〕地大而不レ爲、命曰二土滿一。〔注〕謂二土廣而功狹一也。

【土味】391（ドミ）　土のあぢ。〔書、洪範、稼穡作レ甘、疏〕穀、是土之所レ生、故甘、爲二土之味一也。〔白虎通、五行〕土味所二以甘一何。

【土脈】392（ドミヤク）　土地の脈絡。〔韋應物、新理二西齋一詩〕春陽土脈起、膏澤發生初。〔韓愈、苦寒詩〕霜雪頓銷釋、土脈膏且黏。〔元史、兵志三〕其地廣闊、土脈膏腴。

【土民】393（ドミン）　土著の民。土公。土人。〔魏書、傅豎眼傳〕土民統軍席廣度等、處處邀擊。〔宋史、兵志七〕治平二年、募二陝西土民、營伍子弟一、隸二禁軍一。〔六部成語、戶部、土民、注解〕土地土着之民也、外來流寓者曰二客民一。

【土民百姓】394（ドミンヒヤクシヤウ）　一般人民のこと。

【土名】395　tʻu³ ming²　其の地方で用ひられてゐる名。

【土面】396（ドメン）　土のやうな顏色。〔葛長庚、贈二天台老樊一詩〕灰頭土面無二人識一、木食草衣嫌二俗紛一。

【土麪】397（ドメン）　土でつくつた麪。〔法苑珠林〕如來在日行レ化乞レ食、因遇二童子戲弄一、以二土麪一施レ佛。

【土目】398（ドモク）　土蕃の頭目。土蕃(337)の❶を見よ。〔淸史稿、土司傳二〕羊峒踏藏寨土目、係二西番種類一、其先甲六笑、康熙四十二年歸附、授二土目一。〔六部成語、戶部、土目、注解〕土番中之頭目也。

【土門】399（ドモン）　❶土で作つた門。土の門。〔杜甫、垂老別詩〕土門壁甚堅、杏園度亦難。❷北方の蠻族。〔周書、突厥傳〕其後曰二土門一、部落稍盛、始至二塞上一、市二繒絮一、願レ通二中國一。❸山名。陝西省耀縣の東南。富平縣の界。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、耀州〕土門山、州東南四里、積二土兩崕一、中豁如レ門、行者經二其中一、志云、富平縣東北七十里有二土門山一、蓋與レ州接レ境。❹堡の名。㋑甘肅省古浪縣の東北。㋺四川省茂縣の東。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、茂州〕神溪堡、志云、州城東北有二土門嶺堡一、又東有二鎭彝・關于・神溪・夾山・土門等堡一、達二於桃關一、共爲二七關堡一、州境東路之險也。❺縣名。後魏、置く。漢の瀕陽縣の地。故城は陝西省富平縣の東北。今の土門坊。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、富平縣〕美原城、在二故頻陽北三里一、故土門縣、苻秦以三頻山有二二土門一、因置二土門護軍一、後魏景明元年、改爲レ縣屬二北地郡一、隋大業初、廢入二華原縣一。

【土門子】400（ドモンシ）　地名。❶滿洲吉林省琿春縣の東北。露領の東海濱省の界に近く、沙金の產地。❷滿洲吉林省延吉縣の西。一名、石門山。

【土門嶺】401（ドモンレイ）　山名。滿洲吉林省永吉縣の西北。もと吉林・長春間の要衝。層巒疊嶂、數十里に亙る。今、吉長鐵路が通過してゐる。

【土約】402（ドヤク）　水流をせき止めるもの。〔宋史、宋昌言傳〕宋昌言建議、欲下於二股河口西岸新灘立二土約一、障レ水使中之東流上。

【土葯】403　tʻu³ yao⁴　中國產の阿片。土藥。

【土葯釐】404　tʻu³ yao⁴ li²　阿片に課する稅。

【土藥】405　tʻu³ yüo⁴　中國產の阿片。洋藥(6－17363··146)の對。

【土用】406（ドヨウ）　❶曆の節の名で、土氣の盛な時。一年に四期あり、一期を十八日間とする。春は淸明の後十三日(四月十七日)から立夏まで、夏は小暑の後十三日(七月二十日)から立秋まで、秋は寒露の後十三日(十月二十日)から立冬まで、冬は小寒の後十三日(一月十七日)から立春までをいふ。土旺。〔和漢三才圖會、時候類〕土用、中央戊巳、土也、蔡邕月令注云、土寄二旺四時一、各十八日、共七十二日、除レ此則木火土金水、亦各七十二日矣、土於二四時一無二乎不一レ在、故無二定位一無二專氣一、而寄二旺於辰戌丑未之末一、未月在二火金閒一、按、所謂辰戌丑未者、三六九臘月四季也、凡從二其月節一至二十三日一爲二土用一、十八日終、翌日爲二四時立始日一、有二閒日一。❷特に夏の土用の稱。暑氣の最もきびしい期間。〔和漢三才圖會、時候類、三伏日〕按、夏禪二於秋一、亦閒有二土用一、則相生也、余月亦雖レ有二土用一、以二夏秋之交一爲レ主。

【土用乾】407（ドヨウボシ）　夏の土用中に衣類などを乾すこと。土用中のむしぼし。土用干。〔好色一代男、六〕傳授物の土用ぼし。

【土用掃】408（ドヨウバキ）　夏の土用中の煤拂ひ。

【土用休暇】409（ドヨウキウカ）　夏季の休業。なつやすみ。

【土用三郎】410（ドヨウサブラウ）　夏の土用の入りから三日目の日をいふ。此の日の天候で、其の年の豐凶が分ると言ひ傳へてゐる。

【土蛹】411（ドヨウ）　蟲の名。❶蠁蟲をいふ。にしやどつち。にしどち。復蛸。〔廣雅、釋蟲〕土蛹、蠁蟲也。〔本草、乳蟲〕釋名、土蛹、時珍曰、按、白獺髓云、廣中韶陽屬邑鄉中、有二乳田一、其法掘レ地成レ窖、以二粳米粉一鋪二入窖中一、蓋レ之以レ草、壅レ之以レ糞、候二雨過氣蒸一則發開、而米粉皆化成レ蛹、如二蠐螬狀一、取レ蛹作レ汁、和二粳粉一蒸成レ乳、食味甚甘美也、此亦蠐螬之類、出レ自二人爲一者、淮南萬畢術所謂、置二黍溝中一、卽生二蠐螬一、廣雅所謂、土蛹、蠁蟲者、皆此物也、服食用レ此代二蠐螬一、更覺レ有レ功無レ毒。❷甘露子(7－21643··219)の❶の異名。〔本草、草石蠶〕釋名、地蠶・土蛹・甘露子・滴露・地瓜兒。〔事物異名錄、果蓏、甘露子〕續博物志、地蠶、一名土蛹、味甘、故名二甘露子一。

【土牢】412（ドラウ）　土の中を掘つて造つた牢舍。土の牢。〔資治通鑑綱目、宋紀〕理宗、云云、丁大全改二竄新州一、土牢拘營。

【土老】413　tʻu² lao³　田舍者。

【土老兒】414　tʻu² lao³ êrh　❶田舍者。❷土娼(199)をいふ。浙江地方の方言。

【土閬】415（ドラウ）　城郭外の空地。〔管子、度地〕城外爲二之郭一、郭外爲二之土閬一。

【土拉】416（トラフ）　川の名。外蒙古土謝圖汗部を流れ、鄂爾坤河に合す。古、獨樂水といひ、又、土賴河に作る。今、圖拉河に作る。

【土卵】417（ドラン）　土芋(13)の異名。〔本草、土芋〕釋名、土卵・黃獨・土豆、恭曰、土卵似二小芋一、肉白皮黃、梁漢人名爲二黃獨一、可二蒸食レ之。〔後山詩話〕老杜詩、黃獨無レ苗山雪盛、黃獨巴漢人烝食レ之、江東謂二之土芋一、江西謂二之土卵一。

【土籃】418　tʻu³ lan²　土を入れて運ぶかご。

【土利】419（ドリ）　土地から得る利益。〔左氏、襄、九〕其民人不レ獲レ享二其土利一。

【土塯】420（ドリウ）　土製の飯器。〔墨子、節用中〕古者堯治二天下一、飯二於土塯一、啜二於土形一。〔閒詁〕飯、舊本譌レ飮、王云、土塯乃飯器、非二飮器一、飮乃飯字之誤、案、王校是也。〔史記、秦始皇紀〕堯舜采椽不レ刮、茅茨不レ剪、飯二土塯一、啜二土形一。〔蘇軾、次二子由所居六詠一詩〕先生飯二土塯一、無三物與二劉叉一。

【土龍】421（ドリヨウ）　❶土で造つた龍。古、雨を祈るに用ひた。〔淮南子、說林訓〕旱歲之土龍。〔注〕土

龍、以求㆑雨。〔後漢書、禮儀志中〕其旱也、公卿官長、以㆑次行㆓雩禮㆒、求㆑雨、閉㆓諸陽㆒、衣㆑皁、興㆓土龍㆒、立㆓土人㆒、舞僮二佾、七日一變、如㆓故事㆒。〔蜀志、杜微傳〕曹丕篡弑自立爲㆑帝、是猶㆓土龍芻狗之有㆒㆑名也。❷蚯蚓(**10－32916**・・1)の異名。〔本草、蚯蚓〕釋名、螼螾・朐䏰・堅蠶・蛩蟺・曲蟺・土蟺・土龍・地龍子・寒蟪・寒蚓・附蚓・歌女、時珍曰、術家言、蚓可㆑興㆑雲、又知㆓陰晴㆒、故有㆓土龍・龍子之名㆒。❸鼉(**12－48306**)の異名。〔本草、鼉龍〕釋名、鮀魚、土龍。〔事物異名錄、水族、鼉〕續博物志、鼉、一名土龍、能横飛不㆑能㆓上騰㆒。❹（ドリユウ）㋑むぐらもちの異名。㋺地上の龍ともいふべき名馬。龍馬。〔源平盛衰記、三十六、熊谷向大手事〕佐佐木四郎、生唼といふ土龍に乘つて渡しかば、直實二陣にさがりぬ。

【土倫】422 ツーロン　佛蘭西東南部の都會で、軍港。地中海に面し、マルセーユの東南四十二浬の地點に在る。Toulon の音譯。「3′」の略。

【土劣】424 t'u^3 lieh^4　土地の無賴漢。土豪劣紳(4

【土囟】425 ドロ　草の名。かんあふひの異名。葵に似て香がある。〔爾雅、釋草〕杜、土囟。〔注〕杜衡也、似㆑葵而香。〔疏〕香草也、一名杜、一名土囟。

【土櫓】426 ドロ　土で築いたやぐら。

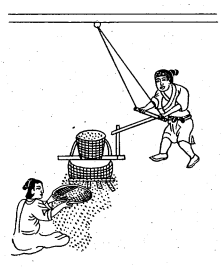
【土爐】427 ドロ　土で作つた爐。〔白居易、宿㆓東亭㆒曉興詩〕溫溫土爐火、耿耿紗籠燭。

【土樓】428 ドロウ　土で築いた樓。〔魏書、奚斤傳〕斤自㆓滑臺㆒趣㆓洛陽㆒、義符虎牢守將毛德祖、遣㆓其司馬翟廣將軍・姚勇錯・竇霸等㆒、率㆓五千人㆒、據㆓土樓㆒以拒㆑斤、斤進擊破㆑之。

【土螻】429 ドロウ　獸の名。其の狀は羊に似て四本の角があり、人を食ふといふ。〔山海經、西山經〕昆侖之丘有㆑獸焉、其狀如㆑羊而四角、名曰㆓土螻㆒、是食㆑人。

【土壠】430 ドロウ　畑のうね。壠ともいふ。

【土礱】431 ドロウ　唐臼をいふ。〔天工開物、攻稻〕凡稻去㆑穀、用㆑礱去㆑膜、用㆑舂用㆑碾、然水碓主㆑舂、則兼㆓併礱功㆒、燥㆓乾之㆒、穀入㆑碾亦省㆑礱也、礱有㆓二種㆒、一用㆑木爲㆑之、截㆑木尺許、斷合成㆓大磨形㆒、兩扇皆鑿㆓縱横斜齒㆒、下合㆓植筍㆒穿貫、上合㆓空中㆒受㆑穀、木礱攻㆑米二千餘石、其身乃盡、凡木礱、穀不㆓甚燥㆒者、入㆑礱亦不㆑碎、故入貢軍國漕儲、千萬皆出㆓此中㆒也、一土礱、折㆑竹匡圍成㆑圈、實㆓潔淨黃土於內㆒、上下兩面、各嵌㆓竹齒㆒、上合㆓篘空㆒受㆑穀、其量倍㆓於木礱㆒、穀稍滋濕者、入㆓其中㆒卽碎斷、土礱攻㆑米三百石、其身乃朽、凡木礱必用㆓健夫㆒、土礱卽孱婦弱子、可㆑勝㆓其任㆒、庶民饔飧、皆出㆓此中㆒也。



土礱（天工開物）

【土籠】432 ドロウ　土を盛るかご。もつこ。〔論語、子罕〕譬如㆑爲㆑山、未㆑成㆓一簣㆒、〔集注〕簣、土籠也。

【土話】433 t'u^3 hua^4　方言。土語。

【土王】434 ドワウ　土氣が盛なこと。土旺。土用(406)・五行說(**1－257**・・83)を見よ。〔白虎通、五行〕木王所㆓以七十二日㆒何、土王㆓四季㆒、各十八日、合㆓九十日㆒爲㆓一時㆒、王㆓九十日㆒、土所㆓以王㆓四季㆒何、木非㆑土不㆑生、火非㆑土不㆑榮、金非㆑土不㆑成、水非㆑土不㆑高、土扶㆑微助㆑衰、歷㆓成其道㆒、故五行更㆑王亦須㆑土也。〔唐書、禮樂志二〕七祀各因㆓其時㆒享㆓司命㆒、戸以㆑春、竈以㆑夏、中霤以㆓季夏土王之日㆒、門厲以㆑秋、行以㆑冬。

【土旺】435 ドワウ　土氣の盛なこと。土王。土用(406)を見よ。〔孟子、公孫丑下、天時不㆑如㆓地利㆒、疏〕土旺在㆓申酉戌亥㆒。

【土椀】436 ドワン　かはらけ。土盌。〔韻府引、耶律楚材、詩〕穿㆑心土椀元無㆑漏、沒㆑底膠船卻不㆑沉。

【安㆑土】437 ドヲヤスンズ　❶國土をやすらかにする。〔史記、秦始皇紀〕安㆑土息㆑民。❷（ドニヤスンズ）其の土地に安んずる。〔易、繫辭上〕安㆑土敦㆓乎仁㆒。〔禮、哀公問〕不㆑能㆑安㆑土、不㆑能㆑樂㆑天。

〖安㆑土重㆑遷〗438 ドニヤスンジセンヲオモンジトス　其の土地に安んじて住み、遷り動くことをいやがる。〔漢書、元帝紀〕安㆑土重㆑遷、黎民之性。

【歸㆑土】439 ドニキス　人が死ぬことをいふ。人が死ぬと魂は天に升り、魄は土に歸るといふ。〔禮、祭義〕衆生必死、死必歸㆑土。

【土委㆑地】440 ツチチニキス　土が地上に崩れ落ちる。〔莊子、養生主〕謋然已解、如㆓土委㆒㆑地。

【土一揆】441 ドイツキ ツチイツキ　土民の一揆。〔新撰長祿寛正記〕都にも土一揆おこり。

【土殷孽】442 ドインゲツ　鐘乳石の一種。土乳。〔本草、土殷孽〕釋名、土乳、集解、時珍曰、此卽鐘乳之生㆓於山厓土中㆒者、南方名山多有㆑之、人亦掘爲㆓石山㆒、貨㆑之充㆑玩、不㆑知㆔其爲㆓土鐘乳㆒也。

【土有知】443 トウチ　姓氏。〔姓林全書〕。

【土筵席】444 ドエンセキ　墓前の甃石または甎で作つた臺の代りに、尊俎を以て臨時に作つた祭臺。貧者が墓祭に用ひるもの。〔事物異名錄、禮制、祭臺〕清異錄、墓前甃石若甎表㆑之、面方長、高不㆑登㆓三尺㆒、號曰㆓券臺㆒、貧無㆑力、則每㆓祭祀㆒以藉㆓尊俎㆒、謂㆓之土筵席㆒。

【土堈子】445 t'u^3 kang^1 tzŭ　小高い土山。

【土壕鋪】446 ドガウホ　鎭の名。河南省澠池縣の西。陝縣の界。

【土御門】447 ツチミカド　第八十三代の帝謚。〔百鍊抄〕。

【土局子】448 t'u^3 chü^2 tzŭ　阿片煙草を製造販賣する店。

【土錦蛇】449 t'u^2 chin^3 shê^2　蛇の一種。廣東に產する。子を生む時には、道で人をまち、これをうつて生む。かうしなければ、子が母の腹を破つて出るといふ。故に轉じて、不孝者をいふ。

【土駒子】450 ドクシ　馬の一種。體軀が小さい。福建省興化に產する。〔閩雜記〕。

【土耦人】451 ドグウジン　土で作つた人形。土偶人。〔說苑、正諫〕見㆘一土耦人方與㆓木梗人㆒語㆖。

【土下座】452 ドゲザ　地上に跪いて頭をさげ禮をすること。

【土國寶】453 ドコクハウ　清の人。明末の太湖の盜。清初、歸降し、蘇州巡撫となる。後、鄭氏と交通し、總督麻勒吉に彈劾せられ、其の婦と共に縊死した。〔清史列傳、七十九〕。

【土細辛】454 ドサイシン　草の名。杜衡(**6－14477**・・41)の別名。〔本草、杜衡〕釋名、杜葵・馬蹄香・土囟・土細辛。

【土之毛】455 ドノマウ　野菜や穀物。土毛(389)を見よ。〔左氏、昭、七〕食㆓土之毛㆒、誰非㆓君臣㆒。〔注〕毛、草也。〔會箋〕毛、謂㆓九穀及蔬菜㆒。

【土司空】456 ドシクウ　星の名。❶今の鯨座星。〔宋史、天文志四〕土司空、一星在㆓奎南㆒、一曰㆓天倉㆒、主㆓土事㆒。❷青丘の西の四星。司徒ともいふ。〔晉書、天文志上〕青丘西四星曰㆓土司空㆒、主㆓界域㆒、亦曰㆓司徒㆒。

【土耳古】457 トルコ　國の名。又、土耳其に作る。歐亞兩大陸に跨がる共和國。首府はアンゴラ。Turkey の音譯。

〖土耳古帽子〗458 トルコバウシ　帽子の名。圓筒狀をなし、上部が平らかで中央に房がつけてある。土耳古人が被るからいふ。

【土常山】459 ドジヤウザン　草の名。甘茶（アマチヤ）。〔本草、常山〕集解、頌曰、今天台山出㆓一種草㆒、名㆓土常山㆒、苗葉極甘、人用爲㆑飲、甘味如㆑蜜、又名㆓蜜香草㆒、性涼益㆑人、非㆓此常山㆒也。

【土茜草】460 ドセンサウ　草の名。茜草(**9－30871**・・7)の一名。〔農政全書、土茜苗考〕本草、根名㆓茜根㆒、一名地血、一名茹藘、一名茅蒐、一名蒨、生㆓喬山川谷㆒、徐州人謂㆓之牛蔓㆒、西土出者佳、今處處有㆑之、名㆓土茜㆒、根可㆓以染㆒㆑紅、葉似㆓棗葉形㆒、頭尖下闊、紋脉豎、有㆓方莖㆒、莖葉俱澀、四五葉對㆓生節間㆒、莖蔓延附㆓草木㆒、開㆓五瓣淡銀褐花㆒、結㆑子如㆓小菉豆粒㆒、生青熟紅、根紫赤色、味苦寒無㆑毒、一云㆓味甘㆒、一云㆓味酸㆒、畏鼠姑葉味微酸、汁制㆓雄黃㆒、治㆓風痺寒濕㆒、止㆑血活㆑血、久服、益㆓精氣㆒輕㆑身。

【土蘇木】461 t'u^3 su^1 mu^4　灌木の名。水松（ミル）の一種。低く小さくて庭木に賞用する。

【土續斷】462 ドゾクダン　蘭の根。〔方回、訂蘭說〕古之蘭、卽今之千金草、俗名㆓孩兒菊㆒者、今之所謂蘭、其葉如㆑茅而嫩者、根謂㆓之土續斷㆒、因㆓花馥郁㆒、故得㆓蘭名㆒。

【土大夫】463 t'u^3 tai^4 fu　藪醫者。

【土大黃】464 ドダイワウ　藥草の名。野大黃。〔本草、大黃〕正誤、頌曰、鼎州出㆓一種羊蹄大黃㆒、治㆓疥瘙㆒甚效、初生㆓苗葉㆒、累年長大、卽葉似㆓商陸㆒而狹尖、四月內抽㆑條出㆑穗、五七莖相合、花葉同㆑色、結㆑實如㆓蕎麥㆒而輕小、五月熟、卽黃色、呼爲㆓金

蕎麥、三月采レ苗、五月采レ實、陰乾、九月采レ根、破レ之亦有二錦文一、亦呼爲二土大黄一。

【土當歸】465 ドタウキ　野菜の一種。うど。高さ五六尺で、若い莖葉を食用に供する。

【土黨參】466 ドタウサン　羊乳(**9**－**28425**··156)を見よ。

【土蜘蛛】467 ツチグモ　❶くもの一種。長い袋狀の巢を作り、半ば地中に置き、其の底に棲息する。〔本草、蛭蟷〕釋名、蛈蝪・顚當蟲・蛈母・土蜘蛛。❷上古、穴居した人種の名。〔日本書紀、神武紀〕高尾張邑有二土蜘蛛一、其爲レ人也、身短而手足長、與二侏儒一相類。

【土土哈】468 トトハ　元の人。欽察國主亦納思の曾孫。諡は武毅。父の死後、その職を襲ぎ、屢〻戰功を立てて上柱國に累官した。〔元史、一百二十八〕。

【土奴魚】469 ドドギヨ　魚の名。しやちほこ。魚虎(**12**－**45956**··76)の異名。〔本草、魚虎〕釋名、土奴魚。

【土伯特】470 チベツト　西藏のこと。清の康熙中、第巴桑結を封じて土伯特國王とした。又、圖伯特・唐古特に作る。西藏(**10**－**34763**··261)の❷を見よ。

【土萆薢】471 ドヒカイ　土茯苓の異名。土茯苓を見よ。

【土茯苓】472 ドブクリヤウ　蔓性灌木の名。百合科に屬し、莖は滑かで細點があり、葉は楕圓形または卵狀披針形で、長さ二三寸ばかり、對生せず、三行脈を有す。花は白色で叢生。塊根は昔から瘡毒の藥として用ひられた。山歸來サンキライ。土萆薢。〔本草、土茯苓〕釋名、土萆薢、刺猪苓・山猪糞・草禹餘糧・仙遺糧・冷飯團・硬飯・山地栗、集解、時珍曰、土茯苓、楚蜀山箐中甚多、蔓生如レ蓴、莖有二細點一、其葉不レ對、狀頗類二大竹葉一、而質厚滑如二瑞香葉一、而長五六寸、其根狀如二菝葜一而圓。

【土平門】473 トヘンモン　穴をいふ。〔東鑑集解〕。

【土饅頭】474 ドマンヂユウ　土を丸く盛り上げて築いた墓。轉じて、墓の異稱。〔范成大、重九日行營二壽藏之地一詩〕縱有二千年鐵門限一、終須二一箇土饅頭一。

【土默特】475 トメツト　部落の名。❶内蒙古の卓索・圖盟二部の一。滿洲熱河省阜新朝陽諸縣の境。東南は邊牆・西は喀喇沁、北は喀爾喀左翼及び敖漢と界す。清初、内附し、所部を左右翼の二旗に分けた。〔清史稿、地理志〕内蒙古、土默特部二旗、左翼附二一旗一、天聰二年、台吉鄂木布塔布囊善巴來降、後封二善巴貝勒一、主二左翼一、鄂木布貝子主二右翼一、世襲所部、東界二養息牧牧場一、西界二喀喇沁右翼一、南界二盛京邊牆一、北界二喀爾喀左翼及敖漢一。〔清國行政法汎論、藩部、内蒙古之行政區劃〕卓索圖盟、有二二部五旗一、土默特部 T'vmed tribe 二旗。❷歸化城土默特をいふ。戰國、趙の地で、漢の定襄・雲中二郡の地に當る。唐は單于都護府を置き、明の隆慶中、俺答を封じて順義王とし、其の城に名づけて歸化といふ。清の崇德元年、内蒙古に列し、民國では綏遠省に屬す。武川・歸綏・清水河・薩拉齊・和林格爾・托克の諸縣は皆これに屬す。〔清史稿、地理志〕内蒙古、乾隆閒、改二歸化城土默特一入二山西一、仍有二部落二十四、旗四十九一。

【土圞兒】476 ドランジ　草の名。荳科に屬し、山野に自生し、地下に肉質の塊狀部がある。ほど。ほどいも。〔農政全書、土圞兒考〕一名地栗子、出二新鄭山野中一、細莖延蔓、而生レ葉似二菉豆葉一、微尖艄、每二三葉攢二生一處一、根似二土瓜兒根一、微團、味甜。

【土鯪魚】477 t'u^3 ling^2 yü^2　魚の名。鯽に似てゐる。廣東に產し、多く池中に畜ふ。

【土瀝青】478 ドレキセイ　鑛物の一。黑色で、油狀又は塊狀をなす。油で解かして塗料に用ひる。アスフアルト。

【土魯番】479 トロバン　縣名。民國、置く。一に吐魯番(**2**－**3300**··106)に作る。元代、諸王を此處に封ず。明時の外藩。清、光緖七年に商埠とす。新疆省焉耆道に屬す。〔續通典、邊防、土魯番〕土魯番、卽古高昌、唐太宗貞觀中、以二其地一爲二西州一、元宗時、陷沒、乃復爲レ國、其地頗有二回鶻居レ之、故亦謂二之西州回鶻一、宋太祖建隆三年、西州回鶻阿多等四十二人、以二方物一來貢、乾德三年、西州回鶻遣二僧法淵一、獻二佛牙琉璃器琥珀盞一、太宗太平興國六年、其王始稱二西州外生師子王一、云云、元太祖、平二西域一、置二達嚕噶齊一監二治之一、明初號二土魯番一、成祖永樂十三年、吏部員外郎陳誠、使二西域土魯番一、遣レ使隨入貢、授二都督指揮等官一、仁宗洪熙元年、其酋音齊徹爾、復率二部落一來朝、宣宗宣德三年、其子復來朝、初其地介二諸部閒一甚微弱、後火州柳城皆爲レ所レ併、國日強、西域頗爲二擾然一、自二成化一迄二萬曆一、朝貢不レ絕。

【土露子】480 ドロシ　草の名。落花生。南京豆。〔事物異名錄、蔬穀、下、豆〕物理總論、番豆名二落花生・土露子一、二三月種レ之、一畦不レ過二數子一、行枝取レ土壓レ之、開レ花落レ土成レ實、冬後掘レ土取レ之、殼有レ紋、豆黄白色、炒熟甘香似二松子味一。

【土岐霞亭】481 ドキカテイ　美濃の人。名は欽尹。字は聖謨。通稱は元信。號は霞亭・白休。京都に塾を開いた。寬政五年三月十二日歿す、年六十一。著に霞亭詩稿・百言談・蒙求國字解・王弇州對選がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【土岐愚叟】482 ドキグソウ　江戶の人。名は朝旨。字は承之。通稱は豐前守。號は愚叟。幕府に仕へた。著に善事須修・幼童教諭本具三寶・武家心用童形用心大略がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【土混混兒】483 t'u^3 huen^4 huen^4 êrh　土著の惡漢。

【土左衛門】484 ドザヱモン　溺死人の屍をいふ。近世奇跡考に據れば、黑船(或は成瀨川)土左衛門といふ力士が極めて肥大してゐたから、水死人をこの土左衛門に譬へたものといふ。

【土字眼兒】485 t'u^3 tzŭ^4 yen^3 êrh　一地方に限つて行はれる俗字。

【土爾扈特】486 トルフト　部落の名。❶新疆省の北部。始祖は翁罕。明末、準噶爾に逼られて、牧地を露領の窩瓦河の畔に移し、清の乾隆中、内附した。舊土爾扈特(**9**－**30249**··255)・新土爾扈特(**5**－**13572**··647)を見よ。❷青海額魯特の一。青海省の東境。始祖は瑪哈齊蒙克。清、雍正三年に析置す。

【土謝圖汗】487 トシエトハン　部落の名。一名、喀爾喀後路。外蒙古の中部。東は車臣汗部、南は綏遠省及び察哈爾省、西は三音諾顏部、西北は唐努烏梁海、北は西伯利亞と界す。唐の回紇同羅部の地。清の康熙中、詔して土謝圖汗の號を賜はる。初め三十七旗を部したが、後に四旗を增した。〔清史稿、地理志〕外蒙古、土謝圖汗部、所レ部佐領積三十七旗、以分二設賽音諾顏部一、析二二十一旗一隸レ之、後增二四旗一。〔清國行政法汎論、藩部、外蒙古之行政區劃〕喀爾喀有二四盟一、爲二六部八十六旗一、一、汗阿林盟、土謝圖汗部二十旗。

【土井聱牙】488 ドヰガウガ　伊勢の人。名は有恪。字は士恭。通稱は幾之助。號は松逕・聱牙・渫庵。官は津藩儒・有造館講官・校通鑑總裁。博學多藝、經史諸子から稗官小說にまで通じ、經義は初め程朱を奉じたが、後に之を唾棄して、獨り韓文公を崇奉し、又、清儒考據の說を喜んだ。本朝に於ては獨り荻生徂徠を取つたが、必ずしも盲從せず、卓然として一家の學を成した。また詩文書畫に巧。明治十三年六月十一日歿す、年六十四。著に聱牙遺稿(楓井純編)・聱牙齋詩稿(茅原藤太郞・正野玄三編)・聱牙齋存稿・格五新譜・舊唐書地理圖十三圖・太平寰宇記圖十四圖・中庸講義・老莊抄解・論畫竹偶筆・論語助字法等がある。

【土青木香】489 ドセイモクカウ　草の名。馬の鈴かけ。千鳥ぐさ。〔本草、馬兜鈴〕釋名、都淋藤・獨行根・土青木香・雲南根・三百兩銀藥、集解、志曰、獨行根、生二古堤城旁一、所在平澤叢林中皆有レ之、山南名爲二土青木香一。

【土反二其宅一】490 ツチハソノタクニカヘレ　土は其の在るべき所に歸れ。すべての物は其の本來在るべき所に居れば安らかであることが出來るといふ意。〔禮、郊特牲〕土反二其宅一、水歸二其壑一。〔疏〕土、卽坊也、反、歸也、宅、安也、土歸二其安一、則得レ不レ崩。

【土抔瓦胾】491 トハングワシ　土器に入れた、肉の切れはし。禮の備はらない喩。抔は胖。〔抱朴子、用刑〕所謂土枓瓦胾、無レ救二朝飢一者也。

【土肥霞洲】492 ドヒカシウ　江戶の人。名は元成。字は允仲。通稱は源四郞。號は霞洲・新川。官は幕府儒員。詩書に巧。寶曆七年八月十四日歿す、年六十五。著に霞洲雜纂・享元聞見志・桑韓唱和集・新川詩集・新川文集・退省私記・白石先生著書目錄がある。〔先哲叢談、續〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【土肥默翁】493 ドヒモクヲウ　越後の人。名は政平。字も

政平。通稱は左仲。號は默翁・堪齋・自觀居士。江戸に於て三體詩・唐詩・古文眞寶・文章軌範等を教授した。文章に巧。享保十一年四月二十九日歿す、年六十七。著に須留毛餘志・狎草・美奴餘濃登毛がある。〔先哲叢談、續〕。

【土肥鹿鳴】494 ドヒロクメイ　因幡の人。名は貫雅。通稱は秀太郎。號は鹿鳴。官は鳥取藩儒。江戸に住し、專ら易說を唱へた。文化十三年歿す、年七十三。著に易學要領・易學示蒙・易學手引草・易經韻字句讀考・易經俚解・易象辨疑・易象發揮・經國小言・經國問對・國易便覽・左易便覽・左國易解・左傳比事徵・三恩考・周易龍象解・周易龍象論・周易卦主論・周易蠱巽三日考・周易卦變談・周易文象闡・授餘占言・正德辨義・萬物活象談・鹿鳴易話・鹿鳴漫語等がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【土美養㆑禾】495 ツチノビナルハクワヲヤシナフ　良い土は能く穀類を養ひ育てる。明君は能く士を養ふ喩。〔漢書、李尋傳〕土之美者善養㆑禾、君之明者善養㆑士。

【土扶成㆑牆】496 ツチタスケテシヤウヲナス　土が互にたすけ合つてかきを造る。〔李白、君道曲〕土扶可㆑成㆑牆、積德爲㆓厚地㆒。〔通俗編、居處〕土相扶爲㆑牆、人相扶爲㆑王、見㆓北齊書尉景傳㆒。

【土無㆓二王㆒】497 ドニワウナシ　天下に二人の王のあるべき理はない。〔禮、曾子問〕天無㆓二日㆒、土無㆓二王㆒。〔漢書、高帝紀下〕天亡㆓二日㆒、土亡㆓二王㆒。

【改㆑土歸㆑流】498 ドヲアラタメテリウニキセシム　土司を廢して普通の州・縣等にする。土官をして土地・人民を朝廷に獻ぜしめ、彼等には別に守備・千總・把總等の兵職を授け、其の故地に普通の行政官廳たる州縣等の役所を置き、流官をして治めさせたこと。改㆑土爲㆑流 ドヲアラタメテリウトス ともいふ。流は流官の略、流官は土官に對していふ語で、中央政府から任命せられた官吏。此の方法は、元・明にも多少行はれたが、蠻族の反抗等によつて、多くは失敗した。然るに清は康熙四十三年に湖南西境の苗疆の改土歸流に成功したのに刺戟せられ、雍正四年、雲南總督鄂爾泰 オルタ の意見を用ひ、徹底的に此の政策を實行し、多大の成功を收めたが、光緒頃にもまだ七百餘の土司が存在してゐた。土司（175）を見よ。〔清會典事例、史部、土官〕五年具奏、雲南鎭沅地方、改㆑土爲㆑流、應㆘將㆓刀瀚家口㆒、遷㆗住省城㆖奉㆑旨、疏內所㆑稱刀瀚家口、遷㆓住省城之處㆒、朕思㆓伊之家口㆒、若留㆓本省㆒、管束太嚴、則伊等不㆑得㆓其所㆒、若令㆓疏放㆒、恐復生㆑事犯㆑法、刀孼之家口、著㆓遷住江寧省城㆒、令㆓該督酌量安頓㆒、務令㆑得㆑所、凡有㆓改㆑土爲㆑流之土司㆒、其遷㆓移何處㆒、及如何酌㆓給房產㆒、俾㆑得㆓存養之處㆒、著㆓九卿㆒酌㆓量土司所㆑犯罪案㆒、分別愼具奏。

【積㆑土成㆑山】499 ツチヲツミテヤマヲナス　少しの土塊も、これを積めば高山となる。〔荀子、勸學〕積㆑土成㆑山、風雨興焉、積㆑水成㆑淵、蛟龍生焉。〔大戴禮、勸學〕積㆑土成㆑山、風雨興焉。

【飛㆑土逐㆑肉】500 ツチヲトバシテニクヲオフ　彈き丸を飛ばして鳥獸を逐ふ。〔太平御覽、工藝、彈〕吳越春秋曰、斷㆑竹屬㆑木、飛㆑土逐㆑肉。

【宅㆑土開㆑疆】501 ドヲサダメサカヒヲヒラク　土地を鎭定し領土を擴大する。宅は定。〔陸機、漢高祖功臣頌〕王信韓孽、宅㆑土開㆑疆、我圖㆓爾才㆒、越遷㆓晉陽㆒。〔注〕善曰、漢書曰、韓王信、故韓襄王孽孫也、漢立㆑信爲㆓韓王㆒、上以㆓信壯武㆒、乃更以㆓太原郡㆒爲㆓韓國㆒、徙㆑信以備㆑胡、都㆓晉陽㆒。

【土耳其斯坦】502 トルキスタン　Turkestan の音譯。㊀亞細亞洲中央部の地域の稱。其の境界は確定しないが、今、新疆省・アフガニスタン北部・中央亞細亞等に亙る地域をいふ。㊁ソヴヰエト聯邦、カザック共和國の都會。

【土一升金一升】503 ツチイツシヨウカネイツシヨウ　土一升の價と金一升の價が等しい。江戸の地價の高いことを言つた語。〔宕陰存稿〕東照公自㆑捷㆓關原㆒、諸侯皆朝㆓于江戸㆒、賜㆓第邸于郭內㆒、商賈日益闤集、坊肆年增、都下方四里、屋舍鱗次櫛比、至㆑有㆓土一升金一升之諺㆒、而四郊新墾之野、皆爲㆓沃壤㆒。

【土弊則草木不㆑長】504 ツチヘイスレバスナハチサウモクチヤウゼズ　地力が疲弊すれば草木は生長しない。〔呂覽、音初〕土弊則草木不㆑長、水煩則魚鼈不㆑大。

一畫

【圠】4868　アツ　エチ　〔集韻〕乙黠切　ㄧㄚˋ　ia^{4}　黠

㊀**山のくま。**〔集韻〕圠、山曲。㊁**土がかたくかたまる。**〔六書故〕圠、土密凝也。㊂**かすか。**はつきりしない。くらい。〔袁裒、遠遊聯句〕鉄衣入㆓閶闔㆒、芥粒視㆓圠坱㆒。㊃軋（**10－38173**）に通ず。〔揚雄、甘泉賦〕忽坱圠而無㆑垠。〔注〕五臣作㆓軮軋㆒。〔漢書、揚雄傳〕忽軮軋而亡㆑垠。

【𡈼】4869

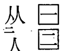
㈠テイ　チヤウ　〔集韻〕丑郢切　梗

㈡テイ　チヤウ　〔集韻〕他頂切　迥

㈢テイ　タイ　〔類篇〕展禮切　薺

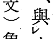
㈣テイ　ヂヤウ　〔集韻〕唐丁切　青

㈤チヨウ　〔集韻〕知陵切　蒸


小篆

㈠㈢㊀**よい。**〔說文〕𡈼、善也、从㆓人士㆒、士、事也。〔段注〕上象㆓挺出形㆒、下當㆓是土字㆒也、古、土與㆑士不㆓甚可㆑分如㆑此。㊁**ぬきでる。**〔說文〕𡈼、一曰、象㆓物出㆑地挺生㆒也。㊂挺（**5－12106**）の本字。〔正字通〕𡈼、挺本字。㈢**あかす。**〔類篇〕𡈼、證也。㈣莛（**9－31060**）に同じ。〔集韻〕莛、說文、莖也、一曰、屋梁也、或作㆑𡈼。㈤徵（**4－10239**）に同じ。〔集韻〕徵、說文、从㆑𡈼从㆓微省㆒、𡈼微爲㆑徵、行㆓於微㆒而聞達者卽徵㆑之、一曰、成也、明也、亦姓、古作㆑𡈼。

名乘　アキラ。ヨシ。

解字　會意。人と士との合字。本義は善。士は事の意で、人が各〻其の事を事とするのは善事であるから、人と士とを合せて善の意を表はす。一說に、象形で、本義は物が地上にぬきんで生ずる意。故に土に从ひ、其の頭を曲げ伸ばして物のぬきんで生ずる形に象る。又一說に、會意で、人と土との合字。本義は人が地上に挺立する意。故に人と土とを合せて其の意を表はす。〔說文、𡈼、段注〕士、事也、說㆓从㆑士之意㆒、人各事㆓其事㆒、是善也、一曰、象㆓物出㆑地挺生㆒也、此說象形、與㆓前說㆒別、上象㆓挺出形㆒、下當㆓是土字㆒也。〔說文通訓定聲〕𡈼、按、此字从㆓人立㆑土上㆒、會意、挺立也、與㆑立同誼、望・廷、皆从㆑此爲㆑義。▽（甲骨文）象形。人が地上に背伸びしてゐる形に象り、つきでる・のびる意を表はす。

參考　字形、𡈼。說文の从㆓人士㆒によれば𡈼であるが、段注では土に從ふ。十干の壬と別。〔康熙字典、辨似〕二字相似、𡈼、音挺、下畫長。壬、十干名、中畫長。

【玊】4870　エイ　〔龍龕手鑑〕於罽切　霽

うめる。〔龍龕手鑑〕玊、埋也。

【圡】4871　ド　土（**3－4867**）の俗字。〔正字通〕土、同文擧要、老子土作㆑圡、旁加㆑點尤非。

二畫

【圢】4872

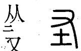
㈠テイ　チヤウ　〔集韻〕他頂切　迥

㈡テン　〔集韻〕他典切　銑

㈠㊀**たひらか。**〔廣韻〕圢、平也。㊁**田のあ**

ぜ。町(7－21735)に同じ。〔集韻〕圢、説文、田踐處曰㆑町、或从㆑土。㊁❶たひらか。ひろやか。なだらか。〔廣韻〕圢、坦也。❷町(7－21735)に同じ。〔集韻〕町、町疃、鹿跡、一曰、餉㆑田人衆皃、或作㆑圢。

【圣】4873　㊀コツ　コチ　〔集韻〕苦骨切　月　㊁セイ



小篆

㊀❶**精出して耕す。**〔説文〕圣、汝潁之閒、謂㆑致㆓力於地㆒曰㆑圣、从㆓又土㆒、讀若㆓兎鹿窟㆒。❷勂(12－45102)に同じ。〔説文義證〕圣、或作㆑勂、廣韻、勂、力作也。❸搰(5－12511)に同じ。〔正字通〕圣、隸作㆑搰。㊁聖(9－29074)の俗字。〔辭海〕圣、聖俗字。

解字　會意。又(右手)と土との合字。土地を開墾し、耕作に力める意。〔説文、圣、段注〕致㆑力必以㆑手、故其字从㆓又土㆒、會意。

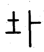
【圣圣】1 コツコツ　あらん限りの力を出して務めるさま。〔正字通〕圣、圣圣、致㆑力無㆓餘功㆒貌。

【圲】4874　シン　抖(3－4936)に同じ。〔正字通〕舊注、抖、古國名、省作㆑圲。

【劧】4875　キン　ギン　〔集韻〕渠巾切　眞

土のかべ。〔集韻〕劧、土壁也。

【圤】4876　㊀ハク　〔集韻〕匹角切　覺　㊁ホク　〔集韻〕普木切　屋



小篆

㊀㊁**つちくれ。**墣(3－5464)に同じ。〔集韻〕墣、説文、塊也、或从㆑卜。〔淮南子、説林訓〕土勝㆑水、非㆓一圤塞㆒㆑江。

參考　扑(5－11779)は別字。

【圥】4877　ロク　〔字彙補〕力谷切　屋

❶菌圥は、きのこの異名。〔字彙補〕雜字韻寶、地蕈曰㆓菌圥㆒。❷圥鼀は、ひきがへるの異名。圥鼀(1)を見よ。❸進まぬさま。のろまのさま。圥圥(2)を見よ。

【圥鼀】1 ロクシウ　ひきがへる。詹諸。蟾蜍。〔説文〕鼀、圥鼀、詹諸也、其鳴詹諸。〔段注〕虫部曰、蝌鼀、詹諸也、一物四名、曰、蝌鼀、曰、圥鼀、曰、詹諸、曰、䵷䵹、云云、蝦蟆能作㆓呷呷聲㆒、蟾蜍不㆑能㆑作㆑聲、詹諸象㆓其聲吃之音㆒、此言㆕所㆔以名㆓詹諸㆒也、其字俗作㆓蟾蠩㆒、又作㆓蟾蜍㆒。

【圥圥】2 ロクロク　進まぬさま。又、のろのろと動くさま。〔説文〕鼀、圥鼀、詹諸也、其鳴詹諸、其皮鼀鼀、其行圥圥。〔段注〕圥圥、擧㆑足不㆑能㆑前之皃、蟾蜍不㆑能㆑跳、菌圥圜上稚鈍、非㆓銳物㆒也、故以狀㆓其行㆒、此言㆕所㆔以名㆓圥鼀㆒也。

【左】4878　セイ　聖(9－29074)に同じ。〔龍龕手鑑〕左、同㆑聖。

【圦】4879　國字　いり。樋の口。水門。

【圧】4879′　アツ　壓(3－5557)の略字。

三　畫

【扗】4880　ザイ　在(3－4881)の本字。〔康熙字典〕扗、从㆑土从㆑才、本作㆑扗、今作㆑在。

【在】4881　㊀サイ　ザイ　〔集韻〕盡亥切　賄　㊁サイ　ザイ　〔集韻〕昨代切　隊　ㄗㄞˋ　tsai^{4}

小篆

㊀㊁❶**ある。**㋑云云にある。場所を示す語。もと扗に作る。〔説文〕扗、存也、从㆑土才聲。〔爾雅、釋詁〕在、存也。〔左氏、僖、九〕在㆑亂矣。〔注〕在、存也。〔淮南子、原道訓〕無㆑所㆑不㆑在。〔注〕在、存也。㋺をる。云云にをる。〔廣雅、釋詁二〕在、居也。〔易、乾〕在㆓下位㆒而不㆑憂。㋩います。生きてゐる。〔論語、學而〕父在觀㆓其志㆒、父沒觀㆓其行㆒。❷**見まふ。**たづねる。〔集韻〕在、存也。〔儀禮、聘禮記〕曰、子以㆓君命㆒在㆓寡君㆒。〔注〕在、存也。〔左氏、襄、二十六〕吾子獨不㆑在㆓寡人㆒。〔注〕在、存㆓問之㆒。❸**みる。**察する。明察。〔爾雅、釋詁〕在、察也。〔舍人注〕在、見㆑物之察也。〔書、舜典〕在㆓璿璣玉衡㆒、以齊㆓七政㆒。〔傳〕在、察也。❹**をはる。**〔爾雅、釋詁〕在、終也。❺**ほしいまま。**自由自在。〔莊子、在宥〕聞㆔在㆓宥天下㆒、不㆑聞㆑治㆓天下㆒也。〔疏〕在、自在也。❻**に。**助辭。位置を表はす。〔古書虚字集釋、八〕在、猶㆑於也。〔詩、小雅、魚藻〕魚在㆓在藻㆒。❼**姓。**〔奇姓通〕晉汝南太守在育。邦　**ざい。**ゐなか。かたほとり。都會から距つた地方。在鄕(27)の❷の㋑・在所(77)・在家(13)の❷の略。

名乘　アキラ。アキ。アリ。スミ。トホ。マキ。ミツル。

【在握】1 ザイアク　手の中に在る。在手。〔邢邵、廣平王碑〕碧雞自㆑口、靈蛇在㆑握。〔盧延讓、題㆓應天寺壁畫天王㆒歌〕曾持㆓象簡㆒累爲㆑官、又有㆓蛇珠常在㆒㆑握。

【在押】2 tsai^{4} ya^{1}　拘留中。監禁中。

【在案】3 ザイアン　❶手續を終つたの意。又、御承知の筈であるの意。公文書用語。❷既定の判決例のあることをいふ。〔清國行政法汎論、不文法成案〕對㆓條奏之上諭文中㆒、有㆓欽遵在案・欽遵通行在案等文字㆒、此曰㆓在案㆒者、卽關㆓於某事件㆒、嚮有㆓既定之判決例㆒也。

【在意】4 ザイイ　❶心の中に在る。❷意を得るに在る。一説に、玄妙の理を得るに在る。〔莊子、外物〕荃者所㆓以在㆒㆑魚、得㆑魚而忘㆑荃、蹄者所㆓以在㆒㆑兎、得㆑兎而忘㆑蹄、言者所㆓以在㆒㆑意、得㆑意而忘㆑言、吾安得㆓夫忘㆑言之人㆒、而與㆑之言哉。〔疏〕此合諭也、意、妙理也、夫得㆓魚兔㆒、本因㆓荃蹄㆒、而荃蹄實異㆓魚兔㆒、亦由㆓玄理㆒假㆓於言說㆒、言說實非㆓玄理㆒、魚兔得而荃蹄忘、玄理明而名言絕。〔口義〕荃・蹄、取㆑魚取㆑兎之具也、既得則無㆑用矣、言、寓㆑意也、得㆓其意㆒則忘㆑言矣、不㆑能㆑忘㆑言、則泥著而失㆓其意㆒矣、惟忘㆑言者、而後可㆓與言㆒、云云、在㆑兎、意在㆓於得㆒㆑兎也。❸tsai^{4} i^{4}　氣にとめる。

【在位】5 ザイヰ　位にをる。又、そのこと。❶天子の位にをること。〔書、堯典〕朕在㆑位七十載。〔書、益稷〕禹曰、都帝愼㆓乃在位㆒。❷官職にをる。〔書、大禹謨〕君子在㆑野、小人在㆑位。〔孟子、公孫丑上〕俊傑在㆑位。〔漢書、劉向傳〕臣聞、春秋地震、爲㆓在位執政太盛㆒也。

【風㆓厲在位㆒】6 ザイヰヲフウレイス　朝官に在る者を諷諫し勵ます。風厲は諷勵に同じ。〔方孝孺、戇窩記〕立㆓諫諍㆒、風㆓厲在位㆒、俾㆑得㆑言㆑事。

【在宥】7 ザイイウ ㊀人や物の自ら爲すに任せること。自由自在にさせること。〔莊子、在宥〕聞三在二宥天下一、不レ聞レ治二天下一也、在レ之也者、恐三天下之淫二其性一也、宥レ之也者、恐三天下之遷二其德一也、天下不レ淫二其性一、不レ遷二其德一、有下治二天下一者上哉。〔郭注〕宥使二自在一則治、治レ之則亂也。〔疏〕宥、寬也、在、自在也。〔謝靈運、九日從二宋公戲馬臺集一送二孔令一詩〕在宥天下理、吹レ萬羣方悅。〔注〕善曰、莊子曰、云云、司馬彪曰、在、察也、宥、寬也、郭象曰、云云、向曰、在、察、宥、寬也、言二察寬則天下之理一也。㊁莊子の篇名。

【在營】8 ザイエイ 兵營にをる。

【在役】9 ザイエキ 務めに服してゐる。又、兵役に服してゐる。

【在園】10 ザイエン 淸、劉廷璣(2―2224‥1202)の號。

【在下】11 ザイカ ㊀下にある。下にをる。〔書、呂刑〕穆穆在レ上、明明在レ下。㊁わたくし。自己の謙稱。

【在柯】12 ザイカ 淸、徐敦(4―10110‥242)の後名。

【在家】13 ザイカ ㊀自分の家に居る。又、生れた家で生活する。〔杜甫、吾宗詩〕在レ家常早起、憂レ國願二年豐一。〔戎昱、長安秋夕詩〕在レ家貧亦好。㊁佛 ザイケ ㋑在俗の人。俗人。出家(2―1811‥94)の對。〔中阿含經、三十八〕若有二在家及出家學道一、行二正道一者、心得二善解一、則知二如法一。〔張問陶、詩〕在家還比出世閒。㋑出家せず在俗のまま佛教に歸依すること。㊂ゐなかのいへ。民家。〔宇治拾遺物語、四〕近邊の在家にて魚を乞ひて勸めたりけり。

〖在家役〗14 ザイケヤク 佛 昔、寺院が檀家から取立てた稅。〔東寺百合文書〕在家役事、右子細雖レ多、割二分百姓屋敷內一。

〖在家僧〗15 ザイケソウ ㊀佛 火宅僧(7―18850‥312)。〔黃庭堅、謝二銀茄一詩〕感君來飯二在家僧一。㊁ザイカソウ 明、顧源(12―43689‥73)の尊稱。

〖在家止住〗16 ザイケシヂユウ 佛 五欲の家に止まり住すること。出家しないこと。

〖在家道人〗17 ザイカダウジン 元、孫道明(3‥6987‥492)の號。

〖在家出家〗18 ザイケシユツケ 僧でなくて、よく俗を脫すること。〔廬山蓮社雜錄〕謝靈運欲二投レ名入レ社、遠公不レ許、謝靈運謂二生法師一曰、道人將無レ謂二俗緣未レ盡、不レ知二我在家出家久一矣。

【在假】19 ザイカ 休暇中。現在休暇をとつてゐること。〔道山淸話〕呂晦叔爲二中丞一、一日報二在假一。〔烏臺詩集〕不レ須二往訴一、鳳凰在レ假。

【在我】20 ザイガ ㊀自分に在る。〔左氏、桓、六〕人各有レ耦、齊大非二吾耦一也、詩云、自求二多福一、在レ我而已、大國何爲。〔後漢書、仲長統傳〕百慮何爲、至要在レ我。㊁tsai^4 wo^3 私が引き受ける。

【在行】21 tsai^4 hang^2 くらうと。玄人。

〖在行嫌行〗22 tsai^4 hang^2 hsien^2 hang^2 其の職に居れば其の職を嫌ふ。自己の專業はとかくいやに思ふ。

〖在行頭兒的〗23 tsai^4 hang^2 tʻou^2 êrh tê 巫をいふ。天津の方言。

【在杭】24 ザイカウ 明、謝肇淛(10―35827‥336)の字。

【在衡】25 ザイカウ 字號。㊀明、金鑾(11―40152‥1093)の字。㊁淸、陳政(11―41698‥390)の字。

【在涇】26 ザイカウ 淸、尤怡(4―7543‥1)の號。

【在鄕】27 ザイキヤウ ザイガウ ㊀鄕里に居ること。〔淸會典事例、八旗都統、戶口、分析戶口一〕八旗另戶、從前撫養之子、並隨二母改嫁一者、或跟隨二外任一、或作レ鄕居住、未レ及二呈報一、因レ未三造二入丁冊一、或因二丁冊無レ名、不レ准二自首一者、總屬二戶口不淸之人一、未三便二任其脫漏一、令二各旗查明分析彙奏一。㊁ザイガウ ㋑都會に遠い田舍の地方。〔川中島合戰、三〕在鄕に引つ込み、鋤鍬取つて自ら耕し。㋺在鄕者の略。

〖在鄕者〗28 ザイガウモノ 田舍人。

〖在鄕軍人〗29 ザイガウグンジン 鄕里に居る兵士。軍籍にあつて現役でない軍人の總稱。

〖在鄕將校〗30 ザイガウシヤウカウ 軍籍にあつて現役でない將校の總稱。

【在學】31 ザイガク 其の學校の生徒(兒童或は學生)であること。學校に通つてゐること。

【在監】32 ザイカン 監獄(牢獄)にとらはれてゐること。在獄。

【在旗】33 ザイキ 旗人の籍に在ること。〔淸會典事例、八旗都統、戶口、分析戶口二〕凡旗檔內有レ名者、造二丁冊一、一分送レ部、一分發二該地方官一備レ案、如有二事故一頂充、於二比冊內一聲明報レ部、轉二行該地方一註冊備レ查、至下伊等之弟兄叔姪不レ在二旗檔一者上、責二令地方官一逐一淸查、編二入里甲一、以免二混淆一。

【在疚】34 ザイキウ ㊀憂の中に在る。憂へ悲しんでゐること。〔詩、周頌、閔予小子〕遭二家不造一、嬛嬛在レ疚。〔傳〕疚、病也。〔箋〕在二憂病之中一。〔左氏、哀、十六〕孔丘卒、公誄レ之曰、旻天不レ弔、不下憖遺二一老一、俾中屛二余一人一以在上レ位、煢煢余在レ疚。〔注〕疚、病也。〔會箋〕在レ疚、言三自常哀痛而不二自持一也。㊁特に、喪中に在つて哀しんでゐること。〔潘岳、寡婦賦〕自二仲秋一而在レ疚兮。〔注〕翰曰、在レ疚、居レ喪也。

【在京】35 ザイキヤウ 京師にある。みやこに居る。〔宋史、河渠志四〕元豐五年、詔開二在京城濠一、闊五十步、深一丈五尺、地脈不レ及者、至レ泉止。

〖在京人〗35′ ザイキヤウニン 鎌倉幕府の制。畿內・關西など、京都附近の國々の地頭・御家人などの、京都に在住して警備に從事した者をいふ。在京御家人。

〖在京御家人〗36 ザイキヤウゴケニン 在京人に同じ。〔東鑑、五〕可三召二預在京御家人一之由、今日被三仰二遣北條殿一。

【在勤】37 ザイキン 官廳などにつとめてゐること。官廳などの職務に從事してゐること。在職。

【在科】38 ザイクワ 下役できめる。〔福惠全書、筮仕部、畫憑領憑〕僉限則在レ科。

【在外】39 ザイグワイ ㊀外國に居る。又、地方に出て居る。〔漢書、楊僕傳〕推二此心一以在レ外、江海之閒可レ得レ信乎。㊁其の中に含まれない。

〖在外使臣〗40 ザイグワイシシン 外國に使し、又は駐在してゐる官吏。

〖在外資金〗41 ザイグワイシキン 外國に保有する資金。

【在官】42 ザイクワン 官吏の職に在る。〔禮、王制〕庶人在レ官者、其祿以レ是爲レ差也。〔蘇轍、爲二兄軾下レ獄上書〕軾居レ家在レ官、無二大過惡一。

〖在官言官〗43 tsai^4 kuan^1 yen^2 kuan^1 一方面の事だけをいふ喩。

【在教】44 tsai^4 chiao^4 回教を信ずる。又、耶蘇教を信ずる。

【在軒】45 ザイケン 宋、黃公紹(12―47926‥1087)の號。

【在原】46 ザイゲン 野原に居る。困難に遭遇してゐることの喩。詩、小雅、常棣篇の語に本づく。脊令在レ原(9―29472‥21)を見よ。〔詩、小雅、常棣〕脊令在レ原、兄弟急難。〔資治通鑑、宋紀〕(明帝、泰始七年)裴子野論、旣迷二在原之天屬一、未レ識二父子之自然一。

【在庫】47 ザイコ 倉の中に在る。

【在公】48 ザイコウ ㊀主君の所にゐる。また、公務に從事する。〔詩、召南、小星〕夙夜在レ公、寔命不レ同。㊁字號。㋑淸、宗誼(3―7106‥49)の字。㋺淸、董欽承(9―31433‥191)の字。

【在候】49 tsai^4 hou^4 待合はす。

【在國】50 ザイコク 國にゐる。㊀諸侯が自己の領土に留まつてゐること。〔後漢書、陰皇后紀〕如二在國列侯禮一。㊁鄕里に留まつてゐること。在鄕。

【在獄】51 ザイゴク 牢獄にとらはれてゐること。在監。

【在座】52 ザイザ 其の席に居る。居合はす。又、其の席に居合はす者。〔近古史談、豐篇、界善左衞門〕在座皆倉皇迷亂。

【在齋】53 ザイサイ 明、鮑山(12―46074‥32)の號。

【在在】54 ザイザイ ところどころ。處處。又、到るところ。所在。〔楊萬里、明發二南屛一詩〕新晴在在野花香、過雨迢迢沙路長。

〖在在所所〗55 ザイザイシヨシヨ 至るところ。各地。〔源平盛衰記、四、涌泉寺喧嘩事〕九千餘人、在在所所に充ち滿ちたり。

【在草】56 tsai^4 tsʻao^3 臨產。產褥に就く。

【在喪】57 ザイサウ 喪中にある。服喪の期間に在る。一說に、未だ葬らない閒。〔左氏、僖、九〕凡在レ喪、王曰二小童一、公侯曰レ子。〔注〕在レ喪、未レ葬也。〔會箋〕在レ喪者、未レ除レ喪之謂也、非レ言レ未レ葬也。

【在察】58 ザイサツ あきらかにしらべる。よくしらべる。〔書、堯典〕平二在朔易一。〔傳〕在二察其政一。

【在三】59 ザイサン ㊀人として最も尊敬すべき三種の人、即ち、父・師・君。〔國語、晉語一〕民生二於三一、事レ之如レ一、父生レ之、師教レ之、君食レ之、非レ父不レ生、非レ食不レ長、非レ教不レ知、生之族也、故一事レ之、唯其所レ在則致レ死焉、報レ生以レ死、報レ賜以レ力、人之道也。〔晉書、裴頠傳〕況於下據二在三之尊一、懷二所隆之情一、敦以爲レ訓者上哉。〔南史、沈

約傳〕初錢唐人杜炅、字子恭、通靈有㆓道術㆒、東土豪家、及都下貴望、並事㆑之爲㆓弟子㆒、執㆓在三之敬㆒。❷字號。㋑清、朱方華（6－14424‥959）の字。㋺清、汪日宣（6－17154‥251）の字。

【在三之義】60ザイサンノギ 君・父・師の恩に報じ、これに盡す道。在三之節。〔北齊書、徐之才傳〕之才聰辯強識、有㆓兼㆑人之敏㆒、尤好㆓劇談謔語㆒、公私言聚多相嘲戲、鄭道育常戲㆓之才㆒爲㆓師公㆒、之才曰、既爲㆓汝師㆒、又爲㆓汝公㆒、在三之義、頓居㆓其兩㆒。

〖在三之節〗61ザイサンノセツ 在三之義に同じ。〔桓溫、薦㆓譙元彥㆒表〕亦有㆓秉㆑心矯㆑跡、以敦㆓在三之節㆒。〔注〕善曰、韋昭曰、三、君・父・師也。

【在子】62ザイシ 良夷在子。夷の名。良夷は樂浪（今の朝鮮）の夷。在子と鳴くから名づけた。〔逸周書、王會解〕良夷在子、在子、幣身人首、脂㆓其腹㆒、炙㆓之霍㆒、則鳴曰㆓在子㆒。〔注〕良夷、樂浪之夷也、貢㆓奇獸㆒。〔集訓校釋〕王曰、爾雅疏、九夷、二曰樂浪、藿、豆葉、愚謂、良讀如㆑郎、今朝鮮平安道古樂浪、幣、疑當㆑爲㆑鼈。

【在此】63ザイシ 此に於いて。ここに。

【在事】64ザイジ 官に在つて事に任ずる。政務を行ふ。〔後漢書、馬成傳〕在㆑事五六年。〔楚國先賢傳〕徧以示㆓在㆑事者㆒。

〖在事人員〗65 tsai^4 shih^4 jen^2 yüan^2 在職の「各員。

【在茲】66ザイジ 字號。❶清、勞徵（2－2410‥96）の字。❷清、王繼文（7－20823‥1400）の字。

【在時】67ザイジ 此の世に在る時。在世中。〔日本外史、德川氏正記、德川氏、四〕秀吉在時、佐竹義宣、嘗賂㆓三成㆒、得㆔以兼㆓併其國㆒、深德㆑之。

【在邇】68ザイジ ちかいところにある。邇は近。〔孟子、離婁上〕道在㆑邇、而求㆓諸遠㆒、事在㆑易、而求㆓之難㆒。

【在舟】69ザイシウ 舟に乘つてゐる。又、同じ舟で海を渡る。憂患を同じくする喩。〔王粲、贈㆓文叔良㆒詩〕惟詩作贈、敢詠㆓在舟㆒。〔注〕善曰、言爲㆑詩以贈者、有㆓在舟之義㆒、憂患同也、鄧析子曰、同㆑舟渡㆑海、中流遇㆑風、救㆑患如㆑一、言㆓憂患同㆒也。

【在室】70ザイシツ 家室にをる。❶女子の未だ嫁がない者にいふ。〔唐律、戶婚〕若男年十八以下、及在室之女、亦主婚獨坐。❷一度嫁してから離別して家にある女にいふ。出もどり。〔大學衍義補、愼㆓刑憲㆒、謹㆓詳讞之議㆒〕在室之女、可㆑從㆓父母之刑㆒。

【在日】71ザイジツ ❶太陽の上に在る。〔後漢書、郎顗傳〕凡邪氣乘㆑陽、則虹蜺在㆑日。❷アリシヒイマシシヒ 存命の折。在世の日。

【在湘】72ザイシヤウ 清、汪梧鳳（6－17154‥225）の字。

【在上】73ザイジヤウ 上に在る。上位に居る。〔書、呂刑〕穆穆在㆑上、明明在㆑下。〔桃花扇、爭位〕元帥在㆑上、小將本不㆓敢爭論㆒。

【在城】74ザイジヤウ 城內に居る。

【在手】75ザイシユ 手の內に在る。手中に握る。在握。〔詩、秦風、小戎〕四牡孔阜、六轡在㆑手。〔左氏、閔、二〕及㆑生、有㆔文在㆓其手㆒、曰㆑友、遂以命㆑之。〔晉書、五行志上〕晉世之寧、猶㆓杯盤之在㆑手也。

【在宿】76ザイシユク 外に出ないで居る。家に居る。在宅。

【在所】77ザイシヨ ❶すみか。ありか。〔史記、平準書〕屬㆓在所縣㆒。〔後漢書、安帝紀〕案㆓行在所㆒。❷故鄉。〔大館常興記、天文十一年五月十六日〕いとまを申し、在所へ罷り越し。❸知行所。

〖在所有〗78アリトアラユル あるかぎり。

〖在所不免〗79 tsai^4 suo^3 pu^4 mien^3 其の筈である。

【在處】80ザイシヨ ところどころ。あちらこちら。〔張籍、喜㆓王侍御郎放㆑蝶詩〕誰家不㆑借㆓花園㆒看、在處多將㆓酒器㆒行。

【在職】81ザイシヨク 官職に居る。職務に從事してゐる。在勤。在任。〔吳志、張溫傳〕在㆑職不㆑勤。〔晉書、范寧傳〕在㆑職多㆑所㆓獻替㆒。

【在心】82 tsai^4 hsin^1 心の中に在る。

【在辛】83ザイシン 字號。❶清、笪重光（8－25941‥3）の字。❷清、鄭重光（11－39647‥510）の字。❸清、笪重光（8－25941‥3）の字。

【在世】85ザイセイ ❶よにある。生きて居る。生存。存命。〔京氏易傳〕升與㆑坤爲㆓飛伏㆒、諸侯在㆑世。〔論衡、佚文〕立㆓五文㆒在㆑世、皆當㆑賢也。❷アリシヨ 過去の時。又、生存してゐた時。〔續後撰和歌集、雜下〕ありし世をのみ戀ひわたる。

【在生】86ザイセイ ザイシヤウ 生きてゐること。

【在昔】87ザイセキ いにしへ。むかし。往昔。〔書、洪範〕在昔鯀陻㆓洪水㆒。〔詩、周頌、那〕自㆓古在昔㆒、先民有㆑作。〔傳〕古曰㆓在昔㆒。〔漢書、韋玄成傳〕在昔帝王承㆓祖宗之休典㆒、取㆓象於天地㆒。

【在籍】88ザイセキ ❶出身地に居る。本籍に居る。〔福惠全書、蒞任部、待紳士〕有㆓吾假在㆑籍者㆒。❷團體などの名籍に其の名の在ること。團體などに所屬してゐること。

【在川】89ザイセン 清、余頲（1－515‥3）の字。

【在先】90ザイセン ❶豫め。先づ。〔方言藻〕王仲初詩、在先教㆓示小牛千㆒、方言、凡豫爲㆑之曰㆓在先㆒。❷以前に。前に。〔福惠全書、刑名部、問擬〕在先林化道府所㆑告。

【在苫】91ザイセン 父母の喪の百日間をいふ。草葺の家（倚廬）に居る意。又、苫次ともいふ。初喪から百日以內は、喪主及び諸子は皆、墓側の苫屋トマヤに住み、塊ツチクレを枕として寢る。〔儀禮、喪服〕傳曰、云云、居㆓倚廬㆒、寢㆑苫枕㆑塊。〔左氏、襄、十七〕食㆑鬻居㆓倚廬㆒、寢㆑苫枕㆑草。

【在專】92ザイセン 清、陳鍊（11－41698‥612）の字。

【在前】93ザイゼン 前に在る。〔禮、文王世子〕大傅在㆑前、少傅在㆑後。〔論語、子罕〕瞻㆑之在㆑前、忽焉在㆑後。〔賈山、至言〕祝饐在㆑前、祝鯁在㆑後。

【在側】94ザイソク 側らに在る。〔公羊、莊、十二〕宋萬與㆓閔公㆒博、婦人皆在㆑側。〔國語、晉語四〕管仲沒矣、多讒在㆑側。〔管子、七臣七主〕上好㆑利、則毀譽之士在㆑側。〔史記、天官書〕附耳搖動、有㆓讒亂臣在㆑側。

【在卽】95 tsai^4 chi^2 すぐに。まもなく。卽刻。

【在俗】96ザイゾク 佛出家せずに俗體でゐること。又、その人。在家（13）の❷に同じ。

【在逃】97ザイタウ 逃亡中。〔明律、名例、犯罪事發在㆑逃〕若犯罪事發而在㆑逃者、衆證明白、卽同㆓獄成㆒、不㆑須㆓對問㆒。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕當㆘于㆓案卷㆒註㆗明原告帶㆑牌在逃㆖。

【在堂】98ザイダウ 堂上にをる。親の生存することにいふ。〔北史、王孝籍傳〕孝籍奏㆓記牛弘㆒曰、慈母在㆑堂、光陰遲暮、倚閭之望、朝夕傾對。〔潘岳、閑居賦序〕太夫人在㆑堂、有㆓羸老之疾㆒、尙何能違㆓膝下色養㆒、而屑屑從㆓斗筲之役㆒乎。

【在宅】99ザイタク 自分の家に居る。

【在廳】100ザイチヤウ ❶役所內に居る。❷在廳官人の略。〔平家物語、一、鵜川合戰事〕師光は阿波國の在廳。

〖在廳人〗101ザイチヤウニン 在廳官人の略。

〖在廳官人〗102ザイチヤウクワンジン 諸國の國府にあつて國政をとる、目代以下の吏員。〔東鑑、一〕治承四年十月五日、武藏國諸雜事等、仰㆓在廳官人並諸郡司等㆒、可㆑令㆑致㆓沙汰㆒。

【在中】103ザイチユウ ❶中央に在る。又、中に在る。〔漢書、揚雄傳上、戲㆓八鎭㆒而開㆑關、注〕應劭曰、四方四隅爲㆓八鎭㆒、如淳曰、不㆑言㆑九者、一鎭在㆑中、天子居㆑之故也。❷字號。㋑明、顧文（12－43689‥176）の字。㋺明、陳子文（11－41698‥899）の字。㋩明、陳美（11－41698‥518）の字。㋥明、李錦（6－14459‥224）の字。㋭清、邵大業（11－39343‥131）の號。

【在住】104ザイヂユウ 其の處に住む。

【在廷】105ザイテイ ❶朝廷內に在る。又、朝廷に出仕してゐる。〔宋書、江夏王義恭傳〕黃屋在㆑廷。❷法廷に出頭してゐる。

【在亭】106ザイテイ 清、許謙（10－35298‥75）の字。

【在朝】107ザイテウ 朝廷に仕へてゐる。〔孔叢子、抗志〕在朝之士。〔漢書、諸葛豐傳〕在朝之時。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕唐之在朝臣、多畏怯觀望。

【在天】108ザイテン 天にある。天に居る。〔易、乾〕飛龍在㆑天、利㆑見㆓大人㆒。〔詩、周頌、清廟〕濟濟多士、秉㆓文之德㆒、對㆓越在㆑天。

〖在天之靈〗109ザイテンノレイ 天にましますみたま。死者を祭る時などに、其の靈魂を指していふ尊稱。〔日本政記、後二條天皇、論〕後嵯峨之志於㆑是成、而列聖在天之靈、可㆓以少慰㆒矣。

【在田】110ザイデン 字號。❶清、瞿騰龍（8－23747‥44）の字。❷清、莊一夔（9－31035‥149）の字。❸清、田同之（7－21723‥406）の字。

【在途】111ザイト 途上にある。又、途中で。途次。〔國史略、後一條天皇〕賴信擒㆑之歸㆑京、在㆑途病死。

【在東】112ザイトウ ❶東方に在る。東側に在る。〔詩、召南、小星〕嘒彼小星、三五在㆑東。〔儀禮、士虞禮〕

酒在ㇾ東。❷字號。㋑清、臧庸(9－30083・・63)の字。㋺清、曾鏞(5－14299・・149)の字。㋩清、鄭岱(11－39647・・204)の號。㋥清、楊瀚(6－15112・・67)の字。

【在內】113ザイナイ　うちに在る。內に含まれる。〔易、臨〕敦臨之吉、志在ㇾ內也。〔莊子、漁父〕眞在ㇾ內者、神動㆓於外㆒。

【在你】114　tsai⁴ ni³　君の責任である。

【在任】115ザイニン　任務に就いてゐる。在職(81)に同じ。〔魏書、王慧龍傳〕在ㇾ任十年、農戰並修。

【在念】116ザイネン　念頭に在る。心にかかる。〔韓愈、喜㆓侯喜至㆒贈㆓張籍張徹㆒詩〕昔我在ㇾ南時、數君長在ㇾ念。

【在亡】117ザイバウ　家に居ながらゐないといふ。居留守。〔漢書、爰盎傳〕夫一旦叩ㇾ門、不㆓以ㇾ親爲ㇾ解、不㆘以㆓在亡㆒爲㆖辭、天下所ㇾ望者、獨季心劇孟。〔注〕師古曰、或實在ㇾ家、而辭㆓云不在㆒。

【在博】118ザイハク　唐、李約(6－14459・・762)の字。

【在判】119ザイハン　❶公文書の官人の名の下に記す語。❷捺印がある。又、捺印。〔平家女護島、二〕許し文、能登守教經と在判して。

【在番】120ザイバン　番にあたつてゐる。〔大原問答青葉笛、二〕在番に、追つつけ上洛致すなり。

【在番衆】121ザイバンシユウ　江戸時代の城番をいふ。

【在府】122ザイフ　❶家に居る。御在宅。❷府中に居る意。德川時代、江戸に在勤してゐることをいふ。

【在聞】123ザイブン　明、潘士達(7－18236・・154)の字。

【在米】124ザイベイ　亞米利加にゐる。

【在保】125ザイホ　保釋中。保釋出獄中。

【在滿】126ザイマン　滿洲にゐる。

【在銘】127ザイメイ　刀劍・器物類に製作人の名が記してあること。

【在苗】128ザイメウ　新田・足利のやうに、其の居る場所の名を取つてつけた苗字。

【在野】129ザイヤ　野に在る。野は朝の對で、官に仕へない者にいふ。〔書、大禹謨〕君子在ㇾ野、小人在ㇾ位。〔書、喪大記〕其在ㇾ野、則升㆓其乘車之左轂㆒而復。〔孟子、萬章下〕在ㇾ野曰㆓草莽之臣㆒。

【在野黨】130ザイヤタウ　現在政權を握つてゐない政黨。野黨。與黨(9－30212・・61)の對。

【在厄】131ザイヤク　孔子家語の篇名。

【在來】132ザイライ　ありきたり。これまでどほり。昔から。

【在蘭】133ザイラン　清、危龍光(2－2849・・169)の字。

【在理】134ザイリ　❶理を明かに知る。道理を究める。在は察。〔舊唐書、良吏傳贊〕聖人造ㇾ世、才傑濟ㇾ時、在ㇾ理致ㇾ治、無爲而爲。❷裁判せられてゐる。裁判せられてゐる期間。〔韓愈、曹成王碑〕王之遭ㇾ誣在ㇾ理、念㆓太妃老將㆒驚而戚、出則囚服就ㇾ辯、入則擁ㇾ笏垂ㇾ魚、坦坦施施。❸在理教の略。

【在理教】135ザイリケウ　白蓮教の一派で、清初に起る。其の祖は楊萊如。佛教の法を奉じ、道教の行を修し、儒教の禮を習ふ。在理は、儒・釋・道の理の中に在るといふ意。在禮教。

【在留】136ザイリウ　❶一定の場所に留まること。❷外國に留まり居ること。

【在留民】137ザイリウミン　外國に在留する自國の民。

【在留同胞】138ザイリウドウバウ　在留民に同じ。

【在留邦人】139ザイリウハウジン　在留民に同じ。

【在良】140ザイリヤウ　清、耿昭忠(9－29026・・66)の號。

【在倫】141ザイリン　明、耿定向(9－29026・・71)の字。

【如ㇾ在】142イマスガゴトクス　父祖の靈や神を祭るには、さながら其等が眼前にいますやうに謹しんで進退する。〔論語、八佾〕祭如ㇾ在、祭ㇾ神如㆓神在㆒。

【在阿館】143ザイアクワン　明、成明楫(5－11544・・361)の室名。

【在脚下】144　tsai⁴ chiao³ hsia　足元にある。

【在虛子】145ザイキヨシ　明、白雲霽(8－22678・・1246)の號。

【在軒集】146ザイケンシフ　書名。一卷。宋、黃公紹撰。公紹は、嘗て胡安國の「心要は腔子裏に在り」の語を取り、家に名づけて在軒といつた。此の書は散佚したのを掇拾したもので、僅かに詞二十八首、文三十九篇を存す。〔四庫提要、集、別集類〕

【在這邊】147　tsai⁴ chê⁴ pien¹　此處に在る。

【在山堂】148ザイザンダウ　❶室名。❷清、韋光黻(12－43108・・172)の室名。

【在身官】149ザイシンノクワン　身についてゐる官職。現在自分の居る官職。〔蘇轍、爲㆓兄軾下ㇾ獄上書㆒〕臣欲ㇾ乞㆘納㆓在身官㆒以贖㆗兄軾㆖。

【在當面】150　tsai⁴ tang¹ mien⁴　面のあたり。顔前。

【在不在】151　tsai⁴ pu⁴ tsai⁴　在宅か不在か。

【在禮教】152ザイライケウ　在理教(135)の別稱。〔津門雜記〕在禮者、又名㆓白衣道教㆒、直隸・山東・奉天均有ㇾ之、天津尤甚、入ㇾ教之人、身上皆帶㆓有白色衣飾㆒、夏則辮繩袴帶、冬則軟領腰巾、如㆓有ㇾ服者㆒然、此在禮之名、所㆓由起㆒也。

【在寬之教】153ザイクワンノヲシヘ　五教(1－257・・292)の❶をいふ。〔書、舜典〕汝作㆓司徒㆒、敬敷㆓五教㆒在ㇾ寬。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕敷㆓在寬之教㆒。〔注〕尙書曰、五教在ㇾ寬。

【在五中將】154ザイゴチユウジヤウ　在原業平のこと。姓が在原で、阿保親王の第五男に當り、官が近衞中將であつたからいふ。

【在色之戒】156ザイシヨクノカイ　色情のいましめ。論語の文に本づいて出來た語。〔論語、季氏〕少之時、血氣未ㇾ定、戒ㇾ之在ㇾ色。〔剪燈新語、牡丹燈記〕犯㆓在色之戒㆒。

【在陳之厄】157ザイチンノヤク　米の無いことをいふ。陳蔡之厄(11－41698・・264)を見よ。〔書言故事大全、貧乏類〕無ㇾ米、曰ㇾ有㆓在陳之厄㆒。

【在那兒住】158　tsai⁴ na³ êrh chu⁴　何處に住んでゐるか。住居を問ふ語。在那裏住。

【在那裏住】159　tsai⁴ na³ li³ chu⁴　在那兒住に同じ。

【在陸草堂】160ザイリクサウダウ　清、儲欣(1－1284・・12)の室名。

【圩】4882

🈩ウ　〔字彙〕雲俱切　ㄩˊ yü²　［虞］

🈔ヰ　〔正字通〕俗讀若ㇾ維。　ㄨㄟˊ wei²

🈪キヨ　〔辭海〕亦讀如ㇾ墟。

🈩🈔🈪❶つつみ。きし。江淮地方で水面より低い田の周圍に築くもの。〔字彙〕圩、岸也。〔正字通〕今江淮閒、水高㆓于田㆒、築ㇾ隄扞ㇾ水而甸ㇾ之、曰㆓圩田㆒。❷**鹽田**。淮北の語。鹽田に堤を築いて區畫とするからいふ。〔辭海〕圩、又淮北鹽灘、亦謂㆓之圩㆒、以㆔其築ㇾ堤爲㆓之區畫㆒也。❸**くぼむ**。へこむ。おちこむ。〔史記、孔子世家〕生而首上圩頂、故因名曰ㇾ丘云。〔注〕索隱曰、圩頂、言㆓頂上窳㆒也、故孔子頂如㆓反宇㆒、反宇者、若㆓屋宇之反㆒、中低而四傍高也。❹**村**。圩長(4)を見よ。❺［現］田地の區劃。

［參考］　圬(3－4885)は別字。

【圩岸】1　yü² an⁴　護岸。

【圩戶】2ウコ　圩田(9)に耕作する家。〔黃庭堅、送ㇾ舅詩〕耙稏豐㆓圩戶㆒、桁楊臥㆓訟庭㆒。

【圩衺】3ウシヤ　土地のくぼんだ處。くぼち。〔尙書大傳、略說〕譬ㇾ之如㆓圩衺㆒、水潦集焉、菅蒲生焉。

【圩長】4ウチヤウ　一圩の長。村長。〔楊萬里、詩〕年年圩長集㆓圩丁㆒、不ㇾ要㆓招呼㆒自要ㇾ行。〔清國行政法汎論、地方自治、鄕老及鄕約、備考〕該書又載㆓圩長・坵長・區長等名目㆒、皆大小村長也。〔六部成語、戶部、圩長、注解〕南省大村曰ㇾ圩、蓋一村之總長也。

【圩丁】5ウテイ　村民。圩長を見よ。

【圩頂】6ウテイ・ウチヤウ　頭の頂のくぼみ。〔史記、孔子世家〕魯襄公二十二年而孔子生、生而首上圩頂、故因名曰ㇾ丘云。〔注〕索隱曰、圩、音烏、頂、音頂、圩頂、言㆓頂上窳㆒也、故孔子頂如㆓反宇㆒、反宇者、若㆓屋宇之反㆒、中低而四傍高也。

【圩堤】7　yü² ti¹　堤防。

【圩埝】8　yü² nien⁴　堤を築き水を防ぐこと。

【圩田】9ウデン　窪下の地で、水を防ぐために堤を築いた田地。〔宋史、孝宗紀二〕以㆓永豐圩田㆒賜㆓建康都統司㆒。

【圪】4883

🈩ギツ　ギチ　〔集韻〕逆乙切　［質］

🈔ギツ　ゴチ　〔集韻〕魚乙切　［物］

🈪イツ　オチ　〔集韻〕於乞切　［物］

小篆 ㊀㊁❶**垣根の高いさま**。圪(3—4935)に同じ。〔正字通〕圪、同レ圪、俗省。〔說文〕圪、牆高皃也、詩曰、崇墉圪圪、从レ土气聲。❷**高いさま**。〔廣韻〕圪、高皃。❸**高い土**。〔廣韻〕圪、高土。❹仡(1—382)・屹(4—7889)に通ず。〔說文〕詩曰、崇墉圪圪。〔詩、大雅、皇矣〕崇墉仡仡。〔王延壽、魯靈光殿賦〕屹山峙、注〕載曰、詩云、云云、崇墉屹屹。㊂**高いさま**。〔集韻〕圪、高皃。

【圫】 4884 アウ アウ 墺(3—5504)の古字。〔集韻〕墺、古作レ圫。

【圬】 4885 ヲ ウ 〔集韻〕汪胡切 ㄨ wu¹ 虞 **こて**。又、**こてを使ふ人**。左官。杇(6—14450)に同じ。〔集韻〕杇、說文、所二以塗一也、秦謂二之杇一、關東謂二之槾一、或作レ圬。

参考 圩(3—4882)は別字。

【圬者】1 ヲシヤ 左官。壁ぬり。圬人。〔韓愈、圬者王承福傳〕圬之爲レ技、賤且勞者也。

【圬人】2 ヲジン 圬者に同じ。〔左氏、襄、三十一〕圬人以レ時塓二館宮室一。〔注〕圬人、塗者。

【圬泥】3 wu¹ ni² 垢だらけ。

【圬鏝】4 ヲマン 壁を塗ること。左官のしごと。〔宋史、陸萬友傳〕萬友始業二圬鏝一。

【青】 4886 ㊀カク 〔集韻〕克角切 覺 ㊁カウ 〔集韻〕枯江切 江 小篆 ㊀㊁**とばりのさま**。もと肯に作る。〔廣韻〕肯、隸省作レ青。〔說文〕肯、嶹帳之象、从レ冂、㞢、其飾也。

解字 會意。冂(おほひ)と㞢(とばりのかざりに象る)との合字。本義はかざりを施したとばりのさま。故に㞢と冂とを合せてとばりの意を表はす。〔說文、青、段注〕从レ冂、嶹帳所二以覆一也、帳必有レ飾、凡弢、鼓右、皆像二垂飾一。

【圭】 4887 ケイ ケ 〔集韻〕涓畦切 ㄍㄨㄟ kuei¹ 齊 圭 小篆 珪 古文 ❶**たま**。**しるしの玉**。上が尖り下が四角な玉。諸侯を封ずる信印とし、又、祭祀・朝聘等にも用ひる。〔說文〕圭、瑞玉也、上圜下方、公執二桓圭一、九寸、侯執二信圭一、伯執二躳圭一、皆七寸、子執二穀璧一、男執二蒲璧一、皆五寸、㠯封二諸侯一、从二重土一、楚爵有二執圭一。〔段注〕圭之制、上不二正圜一、以下對二下方一言上之、故曰二上圜一、上圜下方、法二天地一也。〔周禮、春官、大宗伯〕以二青圭一禮二東方一。〔注〕圭銳、象二春物初生一。〔禮、聘禮〕以二圭璋一聘。〔注〕圭、瑞也。❷**容量の一單位**。㋑六十四黍の量。〔廣韻〕圭、孟子曰、六十四黍爲二一圭一、十圭爲二一合一。〔漢書、律歷志上〕不レ失二圭撮一。〔注〕孟康曰、六十四黍爲レ圭。㋺六粟の量。〔孫子算經〕六粟爲二一圭一、十圭爲二一撮一、十撮爲二一抄一、十抄爲二一勺一、十勺爲二一合一。〔隋書、律曆志上〕孫子算術曰、六粟爲レ圭、十圭爲レ秒、十秒爲レ撮、十撮爲レ勺、十勺爲レ合、應劭曰、圭者自然之形、陰陽之始、四圭爲レ撮。㋩十粟の量。〔夏侯陽算經〕十粟爲二一圭一。㋥さじ一ぱいの量。〔本草、序例〕凡散藥有下云二刀圭一者上、十分方寸匕レ之、一准二如梧桐子大一也。❸**目方の一單位**。十粟の重さ。〔後漢書、律曆志〕量有二輕重一平以二權衡一〔注〕說苑曰、十粟重一圭、十圭重一銖、二十四銖重一兩。❹**いさぎよい**。きよい。潔白。〔廣雅、釋詁三〕圭、潔也。〔儀禮、士虞禮記〕圭爲二而哀薦之饗一。〔注〕圭、絜也。〔禮、王制〕夫二圭田一無レ征。〔疏〕圭、絜白也。❺**かど**。廉隅。圭角(3)を見よ。❻閨(11—41312)に通ず。〔左氏、襄、十、華門閨竇、釋文〕閨、本亦作レ圭。❼古は珪(7—20972)に作る。〔說文〕圭、珪、古文圭、从レ玉。〔集韻〕圭、古作レ珪。〔禮、王制、賜二圭瓚一、釋文〕圭、字又作レ珪。❽**姓**。〔正字通〕圭、姓。

解字 會意。土を二つ重ねた字。本義は諸侯が始めて封ぜられる時、其のしるしに天子から賜はる上圓下方の瑞玉。土は度の意で、土を二つ重ねるは土を度かる、即ち天子から賜はつた土地をはかり治める意。〔說文、土、段注〕重レ土者土二其土一也。

【圭菴】1 ケイアン 清、吳觀禮(2—3365‥515)の號。

【圭玠】2 ケイカイ かどのある玉。字解の❶を見よ。珪玠(7—20972‥1)に同じ。玠は、大きさ一尺二寸の圭。

【圭角】3 ケイカク ❶玉のかど。玉のとがり。〔禮、儒行〕毀レ方而瓦合、注〕去二己之大圭角一、下與二衆人一小合也。〔疏〕圭角、謂三圭之鋒鋩有二楞角一。❷かど。かどだつ。言語擧動のかどだつて折合はないこと。〔韓愈、遊二青龍寺一詩〕南山逼レ冬轉二清瘦一、刻畫圭角出二崖窾一。〔劉師服・侯喜・軒轅彌明、石鼎聯句〕磨礱去二圭角一。〔朱熹、孟子序說〕才有二英氣一、便有二圭角一。〔蘇軾、夢レ雪詩〕雖三時出二圭角一、固自絕二瑕纇一。

【圭虫】3′ ケイキ 蛙(10—32997)の異名。〔雲仙雜記〕桂林風俗、日日食レ蛙、有下來二中朝一爲二御史一者上、朝士戲レ之曰、汝之居、非二烏臺一、乃蛙臺也、御史答曰、此非レ蛙、名二圭虫一而已、然較二圭虫之奉養一、豈不レ勝二於黑面郎一哉、黑面郎、乃豬也、朝士赧而退。

【圭玉】4 ケイギヨク かどのある玉。笏の類。字解の❶を見よ。〔左氏、昭、十二〕工尹路請曰、君王命レ剝レ圭、以爲二鏚柲一、敢請レ命、王入視レ之。〔注〕鏚、斧也、柲、柄也、破二圭玉一以飾二斧柄一。〔拾遺記〕軒轅詔、使下百辟羣臣、受二德教一者、先列二圭玉於蘭蒲一、席上燃二沈榆之香一、舂二雜寶一爲レ屑、以二沈榆之膠一和レ之、爲レ泥以塗レ地、分中別尊卑戎華之位上也。

【圭月】5 ケイゲツ 圭璧のやうな月。玉のやうに美しい月。〔歲華紀麗〕圭月初生、珠露方滴。〔王起、秋潭賦〕寫二星火一兮初流、涵二圭月一兮始上。

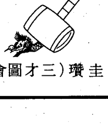
【圭臬】6 ケイゲツ 日晷（ヒカゲ）を測る木表。日時計をいふ。轉じて、法度・標準の意。〔杜甫、八哀詩、故著作郎貶二台州司戶一滎陽鄭公虔〕圭臬星經奧、蟲篆丹青廣。〔黃佐、乾清宮賦〕揆二日晷一驗二星文一、陳二圭臬一絜二廣輪一。

【圭硯】7 ケイケン 硯の一種。古瓦の破片を用ひて作つた將棊の駒形の硯。〔遵生八牋、高似孫硯箋諸式〕鳳池硯・玉堂硯・玉臺硯、云云、方池硯・斧形硯・圭硯。

【圭齋】8 ケイサイ 元、歐陽玄(6—16185‥65)の號。

【圭撮】9 ケイサツ 少量。わづかばかり。撮は、三本の指でつまむ程の量、圭の四倍。一にいふ、撮は圭の十倍。又いふ、撮は圭の百倍と。字解❷の㋺を見よ。〔漢書、律歷志上〕量多少者、不レ失二圭撮一。〔注〕應劭曰、圭、自然之形、陰陽之始也、四圭曰レ撮、三指撮レ之也、孟康曰、六十四黍爲レ圭。〔陸倕、新漏刻銘序〕不レ謬二圭撮一、無レ乖二黍累一。

【圭瓚】10 ケイサン 宗廟に用ひる酒器。形は勺に似てゐる。珪瓚。〔詩、大雅、江漢〕釐二爾圭瓚、秬鬯一卣一。〔禮、王制〕賜二圭瓚一、然後爲レ鬯、未レ賜二圭瓚一、則資二鬯於天下一。〔禮、祭統〕君執二圭瓚一。〔吳志、孫權傳〕圭瓚副レ焉。


圭瓚（三才圖會）

【圭璽】11 ケイジ 玉で作つた印章。珪璽(7—20972‥3)に同じ。

【圭璋】12 ケイシヤウ 禮式の時飾りに用ひる玉。轉じて、人品の高いことの喩。珪璋。〔詩、大雅、卷阿〕顒顒卬卬、如レ圭如レ璋。〔箋〕王有二賢臣一、與レ之以二禮義一相切磋、體貌則顒顒然敬應、志氣則卬卬然高朗、如二玉之圭璋一也。〔周禮、春官、典瑞〕圭璋璧琮。〔禮、聘義〕還二圭璋一。〔疏〕圭璋、玉之貴也。〔後漢書、劉儒傳〕劉儒、字叔林、東郡陽平人

也、郭林宗常謂、儒口訥心辯、有圭璋之質。〔蜀志、郤正傳〕吾子以高朗之才、圭璋之質、兼覽博闚、留心道術、無遠不致、無幽不悉。〔劉峻、與宋玉山元思書〕心貞筠箭、德潤珪璋。

【圭璋特達】13 ケイシヤウトクタツ　行聘の時、他の幣物はやらずに、唯圭璋だけをとどける。轉じて、德が衆に秀れてゐる喩。珪璋特達（7－20972‥5）を見よ。〔禮、聘義〕圭璋特達、德也。〔注〕特達、謂以朝聘也、璧琮則有幣、惟有德者、無所不達、不有須而成也。〔疏〕圭璋特達、德也、行聘之時、唯執圭璋、特得通達、不加餘幣、言人之有德、亦無事不通、不須假他物而成、言圭璋之特、同人之有德、故云德也。

【圭勺】14 ケイシヤク　圭玉で作つた杯。天子から有爵者に賜ふもの。轉じて、榮達・榮譽をいふ。〔王禹偁、酬种放徵君詩〕行年過半生、功業無圭勺。

【圭爵】15 ケイシヤク　圭は諸侯の執る玉。爵は諸侯の五等の爵。珪爵（7－20972‥6）を見よ。

【圭首】16 ケイシユ　石碑の尖つた頭。〔南唐近事〕鍾謨見一圭首豐碑、制度甚廣、約其詞旨、不下數千字、臥諸荒塹之中、半爲水潦所淹、無由披讀、謨欣然解衣、游泳塹中、以手捫揣、默記其文、志諸紙墨、他日徵還、重經是路、天久不雨、無復沈碑之泉、乃發笥得舊錄本、就塹較之、無一字差誤。

【圭叔】17 ケイシユク　宋、呂大圭（2－3386‥231）の字。

【圭嶼】18 ケイシヨ　島の名。福建省海澄縣の東北の海中。龜嶼・雞嶼ともいふ。〔讀史方輿紀要、福建漳州府、海澄縣〕圭嶼、在縣東海口中央、狀如龜浮水面、俗呼龜嶼、亦曰雞嶼、隆慶六年、議移海門・濠門二巡司、築城其上、以壯形勝、城成復廢、今爲戍守要地。

【圭瑞】19 ケイズイ　諸侯の執る、玉の符信。〔儀禮、聘禮、賓襲執圭、疏〕以其圭瑞以行禮、故爲盛禮也。〔禮、禮器〕諸侯以龜爲寶、以圭爲瑞。

【圭組】20 ケイソ　圭と其のひも。轉じて、諸侯の位または官をいふ。珪組（7－20972‥9）に同じ。〔晉書、張軌傳論〕綰累葉之圭組、賦絕域之琛賨。

【圭塘】21 ケイタウ　元、許有壬（10－35298‥235）の號。

【圭塘別墅】22 ケイタウベツシヨ　元、許有孚（10－35298‥237）の室名。

【圭穉】23 ケイチ　明、陶琰（11－41705‥21）の字。

【圭田】25 ケイデン　古昔、卿・大夫士に與へた田。圭は潔。其の收穫を以つて祭祀に奉ずる。仕へた者が受ける田。仕田。又、圭の形をした田。〔禮、王制〕夫圭田無征。〔疏〕夫、猶治也、畿內無公田、故有圭田、卿大夫皆以治此圭田、公家不稅其物、故云無征、必云圭者、圭、潔白也、言卿大夫德行潔白、乃與之田、此殷禮也。〔孟子、滕文公上〕卿以下必有圭田、圭田五十畝。〔注〕古者卿以下至於士、皆受圭田五十畝、所以共祭祀、圭、絜也、士田、故謂之圭田、所謂惟士無田、則亦不祭、言絀士無絜田也。〔焦循正義〕周禮、地官、載師、以士田任近郊之地、注云、鄭司農云、士田者、士大夫之子、得而耕之田也、玄謂、士、讀爲仕、仕者亦受田、所謂圭田也、孟子曰、自卿以下必有圭田、圭田五十畝、圭田既是仕田、則卿以下通大夫士而言、卽載師之士田也、毛詩、小雅、天保篇、吉蠲爲饎、傳云、蠲、絜也、秋官、蜡氏、凡國之大祭祀、令州里除不蠲、注云、蠲、讀爲吉圭惟饎之圭、圭、潔也、儀禮士虞禮記云、圭爲而哀薦之饗、注亦云、圭、絜也、詩曰、吉圭爲饎、呂氏春秋尊師篇云、必蠲絜、高誘注云、蠲、讀曰圭、是圭之義爲絜也、禮記王制云、夫圭田無征、注云、夫、猶治也、征、稅也、孟子曰、卿以下必有圭田、治圭田者不稅、所以厚賢也、此則周禮之士田、以任近郊之地、稅什一、孔氏正義云、圭、潔也、言德行潔白也、而與之田、殷所不稅者、殷政寬厚重賢人、周則稅之、士以潔白而升、則與以圭田、使供祭祀、若以不潔白而黜、則收其田里、故士無田則不祭、有田以表其潔、無田以罰其不潔也、說文、田部云、畦田、五十畝曰畦、从田圭聲、段氏玉裁說文解字注云、畦留夷與揭車、王逸注、五十畝曰畦、蜀都賦、劉注云、楚辭、倚沼畦瀛、王逸云、瀛、澤中也、班固以爲、畦、田五十畝也、孟子曰、圭田五十畝、然則畦、从圭田、會意兼形聲、與、孫氏蘭、輿地隅說云、孟子圭田、或以圭訓潔、非也、九章、方田、有圭田求廣從法、有直田截圭田法、有圭田截小截大法、凡零星不成井之田、一以圭法量之、圭者合二句股之形、井田之外、有圭田、明係零星不井者也、此上二說、與趙氏異、按、鄭司農以士田爲士大夫之子所耕、荀子、王制篇云、雖王公士大夫之子孫、不能屬於禮義、則歸之庶人、然則士大夫之子孫、其不能嗣爲士大夫者、卽授之田、正與餘夫一例、若然則圭田不以潔取義、正指不能成井者而言、不能成井、則以五十畝爲一畦、畦之數、又卽由圭形而稱焉者也、史記、貨殖傳云、千畦薑韭、集解引徐廣云、一畦、二十五畝、文選注、引劉熙注病於夏畦云、今俗以二十五畝爲小畦、以五十畝爲大畦、然則餘夫二十五畝、亦卽蒙上圭田而言。〔算法統宗、方田、圭田〕假如圭田正、中長六十步、下闊三十二步、問、該積若干、答曰、九百六十步、法曰、置中長六十步、以下闊三十二步乘之、得一千九百二十步、折半得積九百六十步合、問、圭形乃直田之半、故用折半之法、梭形則是二圭合一也。

【圭頭】26 ケイトウ　額の髮の生え際の中央が下に尖つた形をしたもの。〔漢書、孝成趙皇后傳、額上有壯髮、注〕師古曰、壯髮當額前侵下而生、俗呼爲圭頭者、是也。

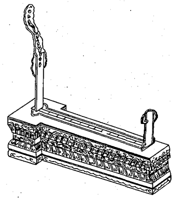
【圭竇】27 ケイトウ　くぐり。門の旁の小さい戶。其の形が圭のやうであるからいふ。閨竇。圭窬。〔梁昭明太子、七契〕篳門鳥宿、圭竇狐潛。〔皮日休、吳中苦雨詩〕低摧在圭竇、索漠抛偏裻。

【圭符】28 ケイフ　圭の符。珪符（7－20972‥10）を見よ。

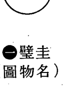
【圭復】29 ケイフク　人から來た手紙を再三くりかへして讀むこと。南容が白圭の詩を幾度も繰返して讀んだ故事に本づく語。〔論語、公冶長〕南容三復白圭。〔集注〕詩大雅抑之篇曰、白圭之玷、尙可磨也、斯言之玷、不可爲也、南容一日三復此言、事見家語、蓋深有意於謹言也。〔書言故事、書翰類〕披復來簡、曰圭復。

【圭幣】30 ケイヘイ　圭と幣物。珪幣。圭は、祭祀の時に執る玉。〔漢書、郊祀志上〕圭幣俎豆。〔魏徵、五郊樂章肅和〕誠備祝嘏、禮殫珪幣。

【圭表】31 ケイヘウ　日影を測る器。日時計。儀表。〔新論、心隱〕二儀之大、可以章程測也、三綱之動、可以圭表度也。〔宋史、律歷志九〕置云云圭表於司天監。


圭表（清會典圖儀器圖）

【圭璧】32 ケイヘキ　❶圭と璧。一說に、圭の一種。五等の諸侯が天子に見える時、又、祭祀の時に執る玉。珪璧。五瑞（1－257‥676）の❶を見よ。〔詩、大雅、雲漢〕圭璧既卒、寧莫我聽。〔集傳〕圭璧、禮神之玉也。〔周禮、春官、典瑞〕公執桓圭、侯執信圭、伯執躬圭、子執穀璧、男執蒲璧。〔周禮、考工記、玉人〕圭璧五寸、以祀日月星辰。〔孫詒讓正義〕圭璧、於六寸璧上、琢出一圭、長五寸。〔禮、月令〕仲春、祀不用犧牲、用圭璧、更皮幣。〔後漢書、明帝紀〕親執圭璧、恭祀天地。〔晏子、諫、上〕犧牲珪璧、莫不備具。〔墨子、尙同中〕犧牲不敢不腯肥、珪璧幣帛、不敢不中度量。❷人品の勝れた喩。〔詩、衞風、淇奧〕有匪君子、如金如錫、如圭如璧。〔疏〕謂、武公器德已成、練精如金錫、道業既就、琢磨如圭璧云云。


❶圭璧（名物圖）

【圭甫】33 ケイホ　字號。❶明、劉璋（嘉定の人）（2－2224‥343）の字。❷清、鄭宗圭（11－39647‥490）の字。

【圭峯】34 ケイホウ　❶山名。㋑福建省惠安縣の東北。黃崎山と相對す。㋺湖南省長沙縣の西。一名、尖山。〔方輿勝覽〕尖山、在長沙縣西、一名圭峯。㋩陝西省鄠縣の東南、紫閣峯の東。其の形は圭の如く、下の草堂寺には圭峯定慧禪師碑がある。圭峯定慧禪師傳法碑を見よ。㋥廣東省連縣の西北。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、連州、冠峯〕圭峯、在州西北十里、衆山環繞、惟此峯端、立如執圭。㋭廣東省新會縣の北。一名、玉臺山・桂山・黃雲山。祈雨壇・朝斗石・白沙講堂・玉臺寺・白石塔・圭峯閣・玉虛宮・水月宮・半月池・羅漢石・石筍廟・瓊華洞・漱玉池・擣藥巖・少室巖の諸名勝

がある。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、新會縣〕桂山、縣北二里、俗呼二圭峯一、唐僧一行至レ此、有二黃雲覆レ之、因名二黃雲山一、上多二松竹一、瀑泉出レ焉。㊁人名。唐の華嚴五祖の一人である宗密禪師をいふ。陝西省の圭峯に葬られたので、世人は呼んで圭峯といつた。

〖圭峯集〗35 ケイホウシフ 書名。二卷。元、盧琦撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖圭峯定慧禪師碑〗36 ケイホウジヤウヱゼンジヒ 碑の名。唐、裴休撰。柳公權書。大中九年十月、圭峯山下の草堂寺に建てた。今、陝西省鄠縣。圭峯の㊇を見よ。〔寰宇訪碑錄、唐〕圭峯定慧禪師碑、裴休撰、柳公權正書、大中九年十月。

【圭木】37 ケイボク 桂(**6−14755**)の異名。桂の字の偏と旁とを分けたもの。〔事物異名錄、樹木、桂〕清異錄、韓恭叟離二合巖桂二字一、爲二巖山圭木一、圭木謂レ桂也。

【圭窬】39 ケイユ ㊀くぐり。門の旁の小さい戶。其の形が圭の形に似るからいふ。圭竇。閨竇。〔禮、儒行〕篳門圭窬、蓬戶甕牖。〔注〕圭窬、門旁窬也、穿レ牆爲レ之、如レ圭矣。㊁貧家をいふ。

【圭林】40 タマバヤシ 甲斐國の地名。

【析レ圭】41 ケイヲワカツ 天子が諸侯を封ずる時、圭を中分して其の半を賜ひ、他の半は天子が之を藏して信とすること。析レ珪。〔史記、司馬相如傳〕剖レ符之封、析レ珪而爵。〔揚雄、解嘲〕析二人之珪一、儋二人之爵一。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕故有二剖レ符之封、析レ珪而爵一。

【圭亞那】42 ギヤナ 南米北部の地方の稱。Guianaの音譯。

【圭齋集】43 ケイサイシフ 書名。十五卷。元、歐陽玄撰。詩四卷、文十一卷、附錄一卷。玄の文は揭傒斯・虞集・黃溍等とならぶ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【圭美堂】44 ケイビダウ 清、徐用錫(**4−10110··648**)の「室名。

〖圭美堂集〗44' ケイビダウシフ 書名。二十六卷。清、徐用錫撰。詩十卷、文十六卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

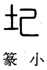
【圭塘小稿】45 ケイタウセウカウ 書名。十三卷。元、許有壬撰。小稿は有壬の編、別集二卷は其の弟有孚の編、續集一卷は許容の編、外に附錄一卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【圭端臬正】46 ケイタンゲツセイ 圭のやうに潔白で臬（マト）のやうに正しい。〔海錄碎事、人事、德行〕圭端臬正、鏡定衡平、四六集。

【圭塘欸乃集】47 ケイタウクワンダイシフ 書名。二卷。元の許有壬、及び其の弟有孚、其の子楨の唱和した詩、凡て詩二百十九首・樂府六十六首を載す。其の客、馬熙の追和詩七十八首・樂府八首を、別に圭塘補和と題して後に附錄してゐる。〔四庫提要、集、總集類〕。

【圮】4888

ヒ ビ 〔集韻〕部鄙切 ㄆㄧˇ pʻi³ 紙


小篆

或體

㊀**やぶる。やぶれる。**〔說文〕圮、毀也、从レ土己聲、虞書曰、方レ命圮レ族。㊁**くつがへす。くつがへる。**〔廣韻〕圮、又覆也。㊂**河水が堤防を毀ち破る。**〔廣韻〕圮、岸毀。〔孫子、九變〕圮レ地無レ舍。〔注〕水毀曰レ圮。㊃或は酵(**11−40022**)に作る。〔說文〕圮、酵、或从二手配省一非聲。〔集韻〕圮、或作レ酵。

参考 圯(**3−4889**)は別字。字彙は、圯が橋で、圮は橋でないといふ。〔字彙、辨似、二字相似〕圮、音痞、傾毀也。圯、音夷、橋也。

【圮下】1 ヒカ くづれかかつて低い。又、その土地。〔六韜、犬韜、戰車〕圮下漸澤、黑土黏埴者、車之勞地也。

【圮桷】2 ヒカク こはれたたるき。〔韓愈、黃陵廟碑〕願下易二廟之圮桷腐瓦一於刺史王堪上。

【圮毀】3 ヒキ くづれやぶれる。毀圮。〔王禹偁、黃州新建二小竹樓一記〕雉堞圮毀、蓁莽荒穢。

【圮缺】4 ヒケツ やぶれかける。〔蘇轍、東軒記〕支二其敧斜一、補二其圮缺一。

【圮絕】5 ヒゼツ やぶれたえる。又、やぶり絕つ。すてさる。斷絕。毀絕。棄絕。〔班固、幽通賦〕咨孤蒙之眇眇兮、將二圮絕而罔レ階。〔注〕善曰、圮、毀也。〔後漢書、袁紹傳〕遂用圮絕。

【圮族】6 ヒゾク 人をそこなふ。〔書、堯典〕方レ命圮レ族。〔注〕圮、毀、族、類也、云云、命而行レ事、輒毀二敗善類一。〔蔡傳〕圮、敗、族、類也、言二與レ衆不レ和、傷レ人害レ物。〔蜀志、許靖傳〕迫二於袁術一、方レ命圮レ族、扇二動羣逆一、津二塗四塞一。

【圮滯】7 ヒタイ やぶれとどこほる。〔晉書、刑法志〕天人革レ命、不レ得レ不下蕩二其穢慝一、通中其圮滯上。

【圮地】8 ヒチ 車行の困難な、險阻な土地。〔孫子、九變〕圮地無レ舍、衢地合レ交。〔集解〕張預曰、山林險阻沮澤、凡難レ行之道、爲二圮地一。

【圮紐】9 ヒチウ 結び目をやぶる。〔曹植、魏德論〕天綱弗レ禁、皇綱圮レ紐。

【圮溺】10 ヒデキ 洪水のために土地がそこなはれ沈むこと。〔宋史、錢惟演傳〕秋潦暴集輒圮溺、人多即レ山爲レ居。

【圮剝】11 ヒハク やぶりそこなふ。〔後漢書、崔琦傳〕陵レ長間レ舊、圮剝至レ親。

【圮墳】12 ヒフン こわれた墓。くつがへつた墓。〔後漢書、張衡傳〕睹二有黎之圮墳一。

【圮裂】13 ヒレツ やぶれさける。〔吳志、諸葛恪傳〕肝心圮裂。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕神州丘墟、三方圮裂。〔注〕濟曰、圮毀、裂分也。〔魏書、李苗傳〕五方圮裂。

【圯】4889

㊀イ 〔集韻〕盈之切 ㄧˊ i² 支

㊁シ 〔集韻〕象齒切 紙

小篆

㊀㊁**はし。つちの橋。**どばし。〔說文〕圯、東楚謂レ橋、从レ土巳聲。〔廣韻〕圯、土橋名、在二泗州一。〔集韻〕圯、說文、東楚謂レ橋爲レ圯。〔史記、留侯世家〕良嘗閒從容、步游二下邳圯上一。〔注〕集解曰、圯、橋也、東楚謂二之圯一。

参考 圮(**3−4888**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕圮、音痞、傾毀也。圯、音夷、橋也。

【圯橋】1 イケウ 土橋。〔水經、沂水注〕一水逕二城東一、云云、謂二之小沂水一、水上有レ橋、徐泗閒以爲レ圯。〔庾信、周大將軍懷德公吳明徹墓志銘〕圯橋取レ履、早見二兵書一、竹林逢レ猨、偏知二劍術一。〔李白、經二下邳圯橋一懷二張子房一詩〕我來二圯橋上一、懷レ古欽二英風一。

〖圯橋書〗2 イケウノシヨ 漢の張良が圯橋の上で黃石公から授かつたといふ、太公望の兵書。〔李白、酬下張卿夜宿二南陵一見上レ贈詩〕身爲二下邳客一、家有二圯橋書一。

【圯上】3 イジヤウ 土橋のうへ。〔蘇軾、張競辰永康所居萬卷堂詩〕濠梁空復五車多、圯上從來一編足。

〖圯上之會〗4 イジヤウノクワイ 漢の張良が黃石公と圯上で會した故事。圯上老人を見よ。

〖圯上老人〗5 イジヤウノラウジン 漢の張良が下邳の圯上で出逢つた老人。黃石公をいふ。〔史記、留侯世家〕良嘗閒從容、步游二下邳圯上一、有二一老父一、衣レ褐、至二良所一、直墮二其履圯下一、顧謂レ良曰、孺子下取レ履。〔蘇軾、留侯論〕此固圯上老人所二爲深惜一者也。

【圯人】6 イジン 明、黃石符(**12−47926··1197**)の「字。

【地】4890

チ ヂ 〔集韻〕徒二切 ㄉㄧˋ ti⁴ 寘

小篆

籀文

㊀**つち。**天(**3−5833**)の對。大地。〔說文〕地、元气初分、輕清昜爲レ天、重濁侌爲レ地、萬物所二陳列一也、从レ土也聲。〔釋名、釋地〕地、底也、其體底下、載二萬物一也。〔廣雅、釋地〕地、土也。〔左氏、隱、元〕闕レ地及レ泉。〔列子、天瑞〕地、積塊耳。〔春秋繁露、陽尊陰卑〕地、天之合也。〔白虎通、天地〕地、易也、言下養二萬物一懷任、交易變化上也。㊁**とち。**くが。をか。陸土。〔蔡邕、月令章句〕邱陵原濕陂、總而曰レ地。㊂**地所。**田畑。〔孟子、滕

文公上〕井地不レ均。❹**地の神**。地祇。〔禮、樂記〕祀レ天祭レ地。❺**くに**。國土。〔史記、春申君傳〕接二地於齊一。〔漢書、貢禹傳〕以二漢地之廣、陛下之德一、處二南面之尊一。❻**ところ**。場所。地點。〔詩、大雅、大明、牧野洋洋、箋〕言二其戰地寬廣一。〔後漢書、愧囂傳〕經二歷虎口一、踐二履死地一。❼**たちば**。立脚地。境涯。〔孟子、離婁下〕禹・稷・顏子、易レ地則皆然。❽**みぶん**。地位。家がら。〔晉書、王述傳〕司徒王導、以二門地一辟レ述。〔晉書、王恭傳〕自負二才地高華一、恆有二宰輔之望一。❾**したぢ**。きぢ。地質。〔金圖經〕其門十二、各有二標名一、墨二書粉地一。❿**陰**。〔呂覽、有始〕地塞以レ形。〔注〕地、陰也。〔淮南子、俶眞訓〕天氣始下、地氣始上、陰陽錯合。⓫**坤**。〔易、坎、地險山川丘陵也、虞注〕坤爲レ地。⓬**詞詩に用ひる助辭**。今の「的」の意。〔李白、越女詞〕相看月未レ墮、白地斷二肝腸一。〔杜甫、陪二柏中丞一觀レ宴二將士一詩〕幾時來二翠節一、特地引二紅妝一。〔通俗編、語辭、地〕以上地字、皆語辭。⓭**ただ**。啻（**2－3886**）に通ず。〔說文通訓定聲〕地、叚借爲レ啻。〔漢書、丙吉傳〕西曹地忍レ之。〔注〕李奇曰、地、第也、師古曰、地、亦但也、語聲之急耳。⓮**つまびらかにする**。諦（**10－35716**）に通ず。〔說文通訓定聲〕地、叚借爲レ諦。〔廣雅、釋詁三〕地、諟也。⓯**まがき**。杝（**6－14478**）に通ず。〔說文通訓定聲〕地、叚借爲レ杝、廣雅釋室、地、籬也、此杝之形近而誤。⓰籀文は墬〔墬〕（**3－5473**）・墜〔墜〕（**3－5377**）に作る。〔集韻〕地、籀作二墬・墜一。⓱或は坔（**3－4940**）・埊（**3－5115**）に作る。〔集韻〕地、或作レ坔、唐武后作レ埊。⓲古は陸（**11－41652**）・墬（**1－1198**）・𡑍（**4－8534**）に作る。〔字彙補〕陸、古文地字。〔字彙補〕墬、古文地字。〔字彙補〕𡑍、古文地字。⓳**姓**。〔萬姓統譜〕地、明河南南陽府有二地氏一。⓴［佛］四大の一。鉢里體尾（pṛthivī）、託吏麼（talima）、步弭（bhūmi）の譯。一切の色法を作成するものの內、堅固を性とし、能生を用とする。〔大乘義章、十二〕能生曰レ地。〔大藏法數〕地以二堅凝一爲レ地。［邦］**ぢ**。㋑土地。地所。地面。㋺その土地。その地方。鄉土。㋩近く。近傍。㋥圍碁で、圍んで占有した空所。㋭うまれつき。本性。もと。（地金（ヂガネ）・生地（キヂ）・下地（シタヂ））。㋬きめ。はだへ。㋣織物の地合（ヂアヒ）。織地。生地（キヂ）。㋠紙・布帛などの染色。（白地・紺地など）。㋷文章中、問答の言葉に對して、それ以外の部分をいふ。（地の文）。㋦歌ふ聲につれて奏する音曲。㋸地謠の略。㋾地紙の略。㋻地貝の略。㋕しろうと。素人。㋵事實。實際。そのまま。㋟楊弓・大弓で用ひる隱語で、賭錢二錢をいふ。

［名乘］ クニ。ツチ。

［解字］ 會意形聲。土と也（女陰の象形）との合字。本義は天地の地。地は土を以て成る故に土に从ひ、易に於て坤は地に配し、女に配する故に也に从つて其の意を表はす。一說に、土乙力に從ふとするが、妄說である。假借して啻（ただ）・諦・杝の意に用ひる。也は音を兼ねる。〔說文、地、从レ土也聲、段注〕坤道成レ女、玄牝之門、爲二天地根一、故其字从レ也。〔說文通訓定聲〕地、釋文、土乙力爲レ地、皆因二俗隸一妄說。

【地媼】1 チアウ 大地の女神。地の神。地祇。〔袁桷、合門嶺詩〕地媼神功奇、茲焉奉二帝尊一。〔盧照鄰、至二眞觀一碑〕蒼蒼中野、同消地媼之魂、渺渺太初、獨昧天師之化。

【地衣】2 チイ ❶地上に敷くしきもの。毛氈・蓆の類。〔唐書、曹確傳〕刻二畫魚龍地衣一、度二用繒五千一。〔羣談採餘〕遺二錦地衣一鋪一。〔事物異名錄、服飾、褥毯〕按二諸說一、或用レ絁、或用レ錦、或用二竹簟一、或用二毛毯一、鋪二設地上一者、皆名二地衣一。❷草の名。車前（**10－38172‥143**）の❶の異名。〔本草、車前〕釋名、當道・芣苡・馬舃・牛遺・牛舌・車輪菜・地衣・蝦蟇衣。❸苔の一種。〔本草、地衣草〕釋名、仰天皮・掬天皮、集解、大明曰、此乃陰濕地被二日曬一起苔蘚也。❹地衣類の略。

【地衣帶】3 チイタイ 高山植物帶の一。山地植物帶の最高部にある地帶。草木帶の上に位し、地衣類が其の主要植物である。富士山では九合目附近。

【地衣類】4 チイルイ 植物分類學用語。菌類と藻類との共生體。菌の有する菌絲は葉綠素を有する藻に附着して之を圍み、水と共に吸收した無機鹽類を藻に送り、藻は同化作用によつて作つた有機生成物を菌に分配し、相互に益して生活し、樹皮や岩石に着生する。

【地異】5 チイ 地上に起る變つた出來事。地震・海嘯の類。地變。地妖。

【地位】6 チヰ ❶地上に於ける位置。地に於て所を得てゐるか否かをいふ。〔管子、五行〕菫反二五藏一以視レ不レ親、治二祀之下一以觀二地位一。❷居るべき場所。座席。〔宋史、禮志三〕遂躋二地位一、同レ席共レ牢。❸くらゐ。身分。地分。〔南齊書、豫章王嶷傳〕自以二地位隆重一、深懷二退素一。❹土地のありさま。〔李同、大雲寺禪院碑〕象二設儀形一、莊二嚴地位一。〔盧仝、走レ筆謝三孟諫議寄二新茶一詩〕地位淸高隔二風雨一。❺存在の場所。ゐどころ。たちば。位置。

【地維】7 チヰ 大地を維持するつな。地紘。轉じて、大地の異稱。〔列子、湯問〕折二天柱一、絕二地維一。〔庾信、和二張侍中述懷一詩〕奔河絕二地維一、折柱傾二天角一。

【地維缺】8 チヰカク 地をつなぐつなが絕ち切れる。山などの崩れること。〔史記、三皇紀〕天柱折、地維缺。

【地維賴以立】9 チヰヨリテモツテタツ 地を維持する綱維も正氣によつて立つをいふ。〔文天祥、正氣歌〕地維賴以立、天柱賴以尊、三綱常繫レ命、道義爲二之根一。

【地緯】10 チヰ 地の道。天を經（たていと）とすれば、地は緯（よこいと）にあたるをいふ。〔太玄經、瑩〕立二天之經一曰二陰與一レ陽、形二地之緯一曰二從與一レ橫。〔左思、魏都賦〕天經地緯、理有二大歸一。〔徐陵、爲二貞陽侯一與二陳司空一書〕後主天經地緯、義貫二人靈一。

【地域】11 チヰキ 土地のさかひ。又、さかひの內。區域。疆域。〔周禮、地官、大司徒〕以二天下土地之圖一、周二知九州之地域廣輪之數一、云云、凡造二都鄙一、制二其地域一、而封二溝之一。〔梁武帝、登二北顧樓一詩〕歷覽窮二天步一、曬矚盡二地域一。

【地一】12 チイツ ❶神の名。〔漢書、郊祀志上〕古者天子三年一用二太牢一祠二三一一、天一・地一・泰一。❷大地が純一である。〔李華、四皓銘〕天靜地一、默二成四時一。

【地引】13 ヂビキ 地上に置いて引くこと。土の上を引くこと。地引網を見よ。〔本朝若風俗、七〕地引の網。

【地引網】14 ヂビキアミ 網の一種。海底に張り、魚が其の中に入るのをまつて次第に陸地に引きよせて捕へる。地曳網。

【地窨】15 ti^4 yin^4 あなぐら。

【地窨子】16 ti^4 yin^4 tzŭ あなぐら。

【地蝡】17 チイン 蚯蚓（**10－32916‥1**）の異名。〔史記、封禪書〕黃帝得二土德一、黃龍地蝡見。

【地員】18 チヰン 管子の篇名。

【地妖】19 チエウ 地上に起る不思議な事がら。地異。地怪。〔左氏、宣、十五〕天反レ時爲レ災、地反レ物爲レ妖、民反レ德爲レ亂。〔孔子家語、五儀解〕天災地妖、不レ能レ加也。

【地謠】20 ヂウタヒ 能を舞ふ時、其の傍で舞曲の地をうたふこと。又、其の人。〔花傳書、三〕地謠をうたひ候時。

【地曜】21 チエウ 煞（**7－19210**）の別名。星命家の語。星煞（**5－13837‥130**）を見よ。

【地役】22 チエキ 他人の土地を自分の土地の使用の便益に供すること。

【地役權】23 チエキケン 不動產（主に土地）の所有者が

其の不動產使用の便益又は必要上、他人の不動產を使役（通行など）し得る權利。

【地圓】25 チエン 地球のまるいこと。地圜。〔新法曆書、隨地圓形之驗〕曆家論㆓地與㆑海、幷爲㆓圓形㆒、以應㆓天上之經緯㆒者何、蓋每見㆓日月交食㆒、東西時刻、各先後不㆑等、此卽地東西圓之驗、夫時之先後、取㆓規於度㆒、在㆑天十五度爲㆓一小時㆒、在㆑地亦然、而天地彼此相距、約二百五十里爲㆓一度㆒、如㆓西安府㆒較㆓順天府㆒、恆早㆓一刻餘㆒而見㆑食、其見㆓諸曜出㆑地、平反遲㆓一刻㆒、因知㆘地以㆓圓體㆒自掩㆗諸曜之光㆖、使㆔在㆑東者先得㆑之、而徐及㆓在㆑西者㆒耳、非㆓天旋之有㆑異也、又見㆓各北極出㆑地不㆑同、諸曜之在㆓子午線上㆒者、距㆑地遠近、因㆑之有㆑異、此卽南北圓之驗、夫極與㆓諸星㆒之高、漸消或長、必與㆓里數㆒相應、如㆓極高四十度㆒、南去㆓一千里㆒、必下㆓四度㆒、距㆓天頂之南星㆒、反高起㆓四度㆒矣、因㆘地以㆓圓體㆒或自低昂㆖、其南北各度之弧、亦非㆓極與㆑星有㆑異也。〔群書札記〕虞喜安天論云、天確乎在㆑上、有㆓常安之形㆒、地魄焉在㆑下、有㆓居靜之體㆒、當㆓相覆冒㆒、方則俱方、圓則俱圓、無㆓方圓不㆑同之義㆒也、是亦以㆑地爲㆑圓矣。

【地圜】26 チエン 地圓（25）に同じ。〔國朝漢學師承記、陳厚耀〕上復問、地圜出㆓何書㆒、對以㆓髀算經㆒。

【地應】27 チオウ 土地がこたへ應ずる。〔越絕書、越絕外傳枕中〕地應而見㆑瑞。

【地下】28 チカ ❶地面のした。地中。土中。〔史記、大宛傳〕鹽澤潛㆓行地下㆒、其南則河源出焉。〔漢書、貢禹傳〕皆虛㆓地上㆒、以實㆓地下㆒。❷よみぢ。冥途。黃泉。〔漢書、王陵傳〕何面目見㆓高帝於地下㆒乎。❸ ti^4 hsia 地上。❹ゲヂ ㋑昇殿を許されない官人又は家格。堂上・殿上の對。〔枕草紙、一〕殿上人・地下なるも。㋺禁中に奉仕する人がそれ以外の人々を指していつた稱。㋩平民。

〖地下街〗29 チカガイ 地下道に設けた、販賣店などの立ち竝んだ所。

〖地下莖〗30 チカケイ 植物學用語。植物のくきで、地下に繁殖するもの。俗に誤つて根といふ。蓮根の類。

〖地下根〗31 チカコン 植物學用語。地下に生ずる根。普通、根と稱するもの。氣根（**6－17059**・・73）の❷の對。

〖地下室〗32 チカシツ 地面より下に設けた室。地階。

〖地下水〗33 チカスイ 自然に地下に集積した水。

〖地下道〗34 チカダウ 地下に設けられた道路。

〖地下人〗35 チゲニン ❶地下の❹㋑に同じ。❷官位のない賤しい者。〔太平記、二十七、雲景未來記事〕洛中の地下人・商賈の輩共。❸土地の百姓。土著の民。〔太平記、一、賴貞回忠事〕地下人、代官を背きて。

〖地下運動〗36 チカウンドウ 祕密結社の潛行的非合法運動。underground movement の譯。

〖地下鐵〗37 チカテツ 地下鐵道の略。

〖地下鐵道〗38 チカテツダウ 地中を貫通して敷設した鐵道。

〖地下修文郞〗39 チカシウブンラウ 冥途の閻魔王の修文郞の官をいふ。晉の蘇韶が一旦死んで甦り、顏淵・子夏が地下に在つて閻魔王の修文郞となつてゐると言つた故事。〔王隱、晉書〕蘇韶死而甦云、顏淵・卜商爲㆓地下修文郞㆒。〔太平廣記〕蘇韶卒、韶伯父承第九子節在㆓車上㆒、晝日韶自㆑外入、節問㆑所㆑疑、韶曰、言㆓天上㆒及㆓地下事㆒、亦不㆑能㆓悉知㆒也、顏淵・卜商、今見在、爲㆓修文郞㆒、修文郞凡有㆓八人㆒、吾今見爲㆓修文郞㆒守㆑職、不㆑得㆑來也、乃別。

【地架】40 チカ 臺をいふ。〔圖畫見聞誌〕趙忠義事㆓孟蜀㆒爲㆓翰林待詔㆒、蜀後主嘗令㆑畫㆘關將軍起㆓玉泉寺㆒圖㆖、作㆓地架一座㆒、垂昂疊拱、向背無㆑失、蜀主命㆓匠氏㆒較㆑之、無㆓一差者㆒。

【地價】41 チカ ❶地面のあたひ。土地の賣買價格。〔北夢瑣言〕以㆓此地㆒奉㆑之、殊不㆑言㆓地價㆒。❷土地臺帳に記載した土地の價額。

〖地價冊〗42 ti^4 chia^4 ts‘ê^4 地價臺帳。

【地芥】43 チカイ 土くれやちりあくた。土芥。拾㆓地芥㆒を見よ。

〖拾㆓地芥㆒〗44 チカイヲヒロフ 土やちりあくたを拾ふ。轉じて、事の極めてたやすい喩。〔漢書、夏侯勝傳〕經術苟明、其取㆓青紫㆒、如㆔俛拾㆓地芥㆒耳。〔注〕師古曰、地芥、謂㆘草芥之橫在㆓地上㆒者㆖。〔任昉、天監三年策㆓秀才㆒文〕輜軿青紫、如㆑拾㆓地芥㆒。〔注〕良曰、芥、草也、云云、取㆑之易、如㆑拾㆓地草㆒也。〔資治通鑑、唐紀〕高祖、武德元年、取㆓王世充㆒、如㆑拾㆓地芥㆒耳。

【地界】45 チカイ 土地の境界。地境。又、土地のはて。又、土地。爭㆓地界㆒を見よ。〔後漢書、竇憲傳〕夐其邈兮亙㆓地界㆒、封㆓神丘㆒兮建㆓隆嵑㆒。〔宋史、蘇轍傳〕初夏人來賀㆓登極㆒、相繼求㆑和、且議㆓地界㆒、朝廷許約、地界已定、付以㆓歲賜㆒。

〖爭㆓地界㆒〗46 チカイヲアラソフ 土地をあらそふ。〔吹劍錄〕王荊公宅、乃謝安所㆑居地、有㆓謝公墩㆒、公賦㆑詩曰、我名公字偶相同、我屋公墩在㆓眼中㆒、公去我來墩屬㆑我、不㆑應㆓墩姓尙隨㆑公、人謂、與㆓死人㆒爭㆓地界㆒。

【地喙】47 チカイ 大地の口。深い淵をいふ。〔盧肇、海潮賦〕孰觀㆓地喙㆒乎、深泉之涯、孰指㆓天吭㆒乎、巨海之窟。

【地階】48 チカイ ❶高層建築物の第一階。❷地下室。

【地涯】49 チガイ つちのある限り。土地のはて。地際。〔鄭錫、日中有㆓王字㆒賦〕霽㆓氛霧㆒掃㆓煙虹㆒、地涯靜天宇空。

【地蓋】50 チガイ 茸の一種。きつねのからかさ。〔本草、土菌〕附錄、鬼蓋、別錄曰、味甘平、無㆑毒、主㆓小兒寒熱癎㆒、叢㆓生垣墻下㆒、赤色、旦生暮死、一名地蓋。

【地行】51 チカウ 地上を行く。地上に在る。〔韓愈、月蝕效㆓玉川子作㆒詩〕玉川子立㆓於庭㆒而言曰、地行賤臣仝、再拜敢告㆓上天公㆒。

〖地行仙〗52 チカウセン 地上を行く仙人。地上に居る仙人。人の長壽を祝していふ語。〔蘇軾、樂泉先生生日以㆓鐵拄杖㆒爲㆑壽詩〕先生眞是地行仙、住㆑世因循五百年。〔書言故事大全、神仙類〕地行仙、上壽用。

【地郊】53 チカウ 王者が郊に於て地を祭る祭祀。〔晉書、禮志上〕明帝太寧三年七月、始詔立㆓北郊㆒、未㆑及㆑建而帝崩、及㆓成帝咸和八年正月㆒、追㆓述前旨㆒、於㆓覆舟山南㆒立㆑之、天郊則五帝之佐、日月・五星・云云、凡六十二神也、地郊則五嶽・四望・四海・四瀆・五湖、五帝之佐、沂山・嶽山・白山・霍山・醫無閭山・蔣山・松江・會稽山・錢塘江・先農、凡四十四神也。

【地高】54 チカウ ❶土地が高い。〔詩、大雅、鳧鷖〕鳧鷖在㆑潨、〔疏〕潨者、地高之貌、水外之地、潨然而高、蓋涯涘之中、復有㆓偏高之處㆒、以爲㆓瘞埋之象㆒、喩㆑祭㆓社稷山川㆒。〔韋應物、同㆔韓郞中閑庭南㆓望秋景㆒詩〕地高心本閑。❷門地が高い。〔海錄碎事、人事、世家〕洛下推㆓年少㆒、山東許㆓地高㆒。李德裕詩。　「地臯」。

【地臯】55 チカウ 鳥の名。〔列子、天瑞〕羊肝化爲㆓地臯㆒。

【地窖】56 チカウ あなぐら。〔福惠全書、刑名部、人命下、檢枯骨〕開㆓一地窖㆒、深二尺許。

【地角】57 チカク ❶大地のすみ。土地のはて。僻遠の地。〔梁昭明太子、謝㆔勑賚㆓地圖㆒啓〕地角河源、戶庭不㆑出。〔徐陵、爲㆑相時與㆓嶺南酋豪㆒書〕天涯藐藐、地角悠悠。〔韓愈、祭㆓十二郞㆒文〕一在㆓天之涯㆒、一在㆓地之角㆒。❷人の頰骨をいふ。相術家の語。〔神相全編、十觀〕地角邊腮末景、地府喜輔、地閣懸壁、不㆑昏不㆑慘、不㆑尖不㆑歪、不㆑粗不㆑大、地府成也、若高低粗露㆓尖削㆒、耳後見㆓重腮㆒、地府不㆑成也、書云、一府就掌㆓十年之富盛㆒、相反者主㆓十年之凶敗㆒。❸地嘴（199）に同じ。

〖地角兒苗〗58 チカクジベウ 草の名。田野の低地に生じ、一つの根から數十莖を分ち、淡紫色の花を開く。饑饉の時、食用に供する。〔農政全書、地角兒苗考〕一名、地牛兒苗、生㆓田野中塌地㆒、生㆓一根㆒、就分㆓數十莖㆒、其莖甚稠、葉似㆓胡豆葉㆒微小、葉生㆓莖面㆒、每攢㆓四葉㆒對生、作㆓一處㆒、莖傍另又生㆑葶、稍頭開㆓淡紫花㆒、結角似㆓連翹角㆒而小、中有㆑子、狀似㆓豋豆顆㆒、味甘。

〖地角天涯〗59 チカクテンガイ 地のはてと天のはて。互に遠く隔たり合つてゐること。〔徐陵、答㆓族人梁東海太守長孺㆒書〕燕南趙北、地角天涯。〔張仲素、燕子樓詩〕相思一夜情多少、地角天涯不㆓是長㆒。

【地客】60 チカク 土地を借り受けて耕作に從ふ者。小作人。〔宋史、食貨志上〕凡貸㆑錢止憑㆓文約㆒交還、毋㆔抑勒以爲㆓地客㆒。

【地核】61 チカク 地球の中心部。地球內部の未だ固結しない部分。

【地格】62 ti^4 kê^2 下顎をいふ。地閣。

【地殼】63 チカク 地球の外表部。地皮（405）に同じ。

【地閣】64 チカク 下顎。相術家の言。地格。〔神相全編、十三部位總歌、地閣〕十三地閣下舍隨、奴僕碓磨坑塹危、地庫陂池及鵝鴨、大海舟車無㆓憂疑㆒。

【地學】65 チガク ❶地理學。❷地球に關する自然科學の總稱。

【地甲】66 チカフ ❶土地。大地。〔元稹、春詩〕地甲門闌大、天開禁掖崇。❷龜(**12**−**48847**)の異名。〔事物異名錄、水族、龜〕雨航雜錄、道書、龜爲㆓地甲㆒、殺者奪㆑壽、活者延㆑年。❸ ti^4 chia^3 鄉村に在る土着の警察吏。地保。地防。

【地合】67 ヂアヒ 布などの地質。ぢ。織地。

【地鴈】68 チガン 流星。〔尙書考靈曜〕流星名㆓地雁㆒、墜處兵起、又曰㆓天雁㆒。〔晉書、天文志中〕若㆓小流星色青赤㆒、名曰㆓地鴈㆒、其所㆑墜者起㆑兵。

【地示】69 チキ 地祇(78)に同じ。示は祇。〔周禮、春官、大宗伯〕大宗伯之職、掌㆑建㆓邦之天神・人鬼・地示之禮㆒。〔注〕立㆓天神・地祇・人鬼之禮㆒者。〔釋文〕示、音祇、本或作㆑祇。

【地肌】70 チキ ちはだ。土のうはかは。地皮。

【地紀】71 チキ 大地を維持するつな。地維。〔莊子、說劍〕上決㆓浮雲㆒、下絕㆓地紀㆒。〔諸葛亮、梁父吟〕力能排㆓南山㆒、文能絕㆓地紀㆒。〔唐書、天文志一〕雲漢自㆑坤抵㆑艮爲㆓地紀㆒、北斗自㆑乾攜㆑巽爲㆓天綱㆒。

【地氣】72 チキ ❶地の氣。陰の氣。〔爾雅、釋天〕天氣下地不㆑應曰㆑雺、地氣發天不㆑應曰㆑霧、霧謂㆓之晦㆒。〔禮、月令〕孟冬之月、云云、命㆓有司㆒曰、天氣上騰、地氣下降、天地不㆑通、閉塞而成㆑冬。〔莊子、在宥〕天氣不㆑和、地氣鬱結。〔淮南子、主術訓〕天氣爲㆑魂、地氣爲㆑魄、反㆓之玄房㆒、各處㆓其宅㆒、守而勿㆑失、上通㆓太一㆒。❷動植物が其の土地から受ける生氣。〔周禮、考工記、總目〕橘踰㆑淮而北爲㆑枳、鸜鵒不㆑踰㆑濟、貉踰㆑汶則死、此地氣然也、鄭之刀、宋之斤、魯之削、吳粵之劍、遷㆓乎其地㆒、而弗㆑能㆑爲㆑良、地氣然也。〔注〕去㆓此地㆒而作㆑之、則不㆑能㆑使㆑良也。〔列子、湯問〕貉踰㆑汶則死矣、地氣然也。❸氣候。又、土地風土。〔方干、歲晚苦㆑寒詩〕地氣寒不㆑暢、嚴風無㆓定時㆒。

〖地氣自㆑南北〗72′ チキミナミヨリシテキタス 天下の亂れる兆。宋の邵雍(字は康節)が天津橋上で杜鵑の聲を聞いて、天下の亂兆を悟った故事。天津橋上聞㆓杜鵑㆒(**3**−**5833**・・**843**)を見よ。〔十八史略、宋神宗〕邵雍與㆑客散㆓步天津橋上㆒、聞㆓杜鵑聲㆒、愀然不㆑樂、客問㆓其故㆒、雍曰、洛陽舊無㆓杜鵑㆒、今始至、天下將㆑治、地氣自㆑北而南、將㆑亂、自㆑南而北、今南方地氣至矣、禽鳥飛類得㆓氣之先㆒者也、不㆓二年㆒、上用㆓南士㆒作㆑相、多引㆓南人㆒、專務㆓更變㆒、天下自㆑此多事矣。

【地基】73 チキ ❶土臺。〔六部成語、工部地基、注解〕築㆓造宮室㆒所㆑定基址也。❷ ti^4 chi^1 地所。敷地。

〖地基錢〗74 ti^4 chi^1 ch'ien^2 地代。借地料。

【地葵】75 チキ ❶藥草の一種。ははき草。陰痿・利尿に效がある。〔本草、地膚〕釋名、地葵・地麥・落帚・獨帚・王蔧・王帚・掃帚・益明・涎衣草・白地草・鴨舌草・千心妓女。❷卷耳(**2**−**2860**・・**31**)の異名。〔本草、枲耳〕釋名、胡枲・常思・蒼耳・卷耳・爵耳・猪耳・耳璫・地葵・葹・羊負來・道人頭・進賢菜・喝起草・野茄・縑絲草、時珍曰、詩人思㆑夫賦㆓卷耳㆒、故名㆓常思菜㆒。

【地機】76 チキ 地の利。要害をいふ。〔吳子、論將〕路狹道險、名山大塞、十夫所㆑守、千夫不㆑過、是謂㆓地機㆒。

【地龜】77 チキ 龜の一種。〔周禮、春官、龜人〕掌㆓六龜之屬㆒、各有㆓名物㆒、天龜曰㆓靈屬㆒、地龜曰㆓繹屬㆒。

【地祇】78 チギ 地の神。くにつかみ。地神。地魄。地示。后土。〔史記、司馬相如傳〕修㆓禮地祇㆒、謁㆓款天神㆒。〔後漢書、祭祀志上〕天文靈出、地祇瑞興。

〖地祇社〗79 チギノヤシロ くにつかみを祀つた神社。〔延喜神名式、上〕山城國綴喜郡、地祇社。

〖地祇壇〗80 チギダン 地神を祭る壇。清代には北京の內垣南門の外にあつて、東に天神壇、西に地祇壇がある。廣さ十丈、縱六丈、高さ四尺、四面に各〻六級の階があり、方形で北に向つてゐる。〔清會典事例、禮部、地祇壇〕順治初年定、建㆓地祇壇於天神壇之西㆒、北嚮。

【地義】81 チギ 地の正しいみち。〔左氏、昭、二十五〕趙簡子曰、敢問何謂㆑禮、對曰、吉也聞㆓諸先大夫子產㆒、曰、夫禮、天之經也、地之義也、民之行也、云云、爲㆓君臣上下㆒、以則㆓地義㆒。〔孝經、三才章〕夫孝、天之經也、地之義也、民之行也。〔新書、修政語、上〕黃帝職㆓天道㆒、經㆓地義㆒。

【地久】82 チキウ 大地が永久に存在すること。〔老子、七〕天長地久、天地所㆓以能長且久㆒者、以㆔其不㆓自生㆒、故能長生。〔後漢書、張衡傳〕系曰、天長地久。〔白居易、長恨歌〕天長地久有㆑時盡、此恨綿綿無㆓絕期㆒。

〖地久節〗83 チキウセツ 舊祝祭日の一。皇后陛下の御誕生日を祝ふ祭日の稱。天長地久の語に本づく。地久を見よ。

〖地久樂〗84 チキウラク 舞樂の名。高麗樂で、雙調四曲中の一。六人で舞ふ。一名、圓地樂。〔倭名類聚抄、四〕高麗樂曲、地久樂。

【地臼】85 チキウ 土のうす。つちうす。〔漢書、陳萬年傳〕爲㆓地臼木杵㆒。

【地求】86 チキウ 其の土地の產物を求めること。〔周禮、地官、土訓〕掌㆘道㆓地圖㆒以詔㆓地事㆒、道㆓地慝㆒以辨㆓地物㆒、而原㆓其生㆒以詔㆗地求㆖。

【地球】87 チキウ 太陽系中の惑星の一。太陽の方から數へて第三番目に位す。回轉楕圓體で、赤道半徑は約六三七八粁、全表面積は約五〇九九四九〇〇〇平方粁、自轉週期は約二十四時間、公轉週期は一箇年、太陽との平均距離は約一四九五九七八七〇粁。表面には氣・水・陸の三圈があり、人類其の他の生物が生存し、內部には岩石圈と高溫・高壓・高密度の地心がある。地輿。地體。〔新法曆書、地球〕地球倣㆓地之原形㆒、必爲㆓圓面儀㆒、其得㆓大圈㆒、與㆓天球㆒同、惟黃道地上無㆓定處㆒、故可㆑不㆑用、夫天球、因㆓二十八宿㆒、而以㆓南北㆒引㆓圈線㆒、過㆓各宿㆒距㆑星、則地球亦因㆔子午線有㆓先後㆒、以引㆓其圈㆒、乃東西任㆓距十度或十五度㆒、而南北各作㆓小圈㆒、與㆓赤道㆒爲㆓平行㆒、以顯㆓南北之距㆒焉、古西士紀㆓東西地經一百八十度㆒、極西爲㆓福島㆒、極東爲㆓日本㆒、紀㆓南北地緯約八十度㆒、極南爲㆓利未亞月山㆒、極北爲㆓都力㆒、乃謂、大地總當㆓一島㆒、在㆘北冰海・南印度海、及大東與㆓大西洋㆒之中㆖、此外似㆑無㆑地矣、今則不㆑然、三百年以來漂海者、恆繞㆓利未亞之渾洲㆒至、過㆓其赤道㆒、極南之地爲㆓大浪山㆒、距㆓赤道外三十五度㆒、復繞㆑北至㆓新增辣㆒、距㆓赤道內七十八度㆒、又徑㆓過日本㆒、東西繞㆑地一周、尋得㆓新洲㆒、南北各大塊、中以㆓小峽㆒接連、總較㆓古所㆑識東西地約等㆒、雖㆘南北下未㆑及㆓登岸㆒、不㆖㆑詳㆓其內境㆒、然順㆑濱而行、似㆓亦無㆑所㆑不㆑經矣。

〖地球儀〗88 チキウギ 球狀で、表面に地球上の海陸・經緯等を表はした器具。地象儀。

〖地球圖〗89 チキウヅ 地球の平面圖。地球の表面の狀勢を平面上に寫した圖。〔圖書篇〕地球圖、地與㆑海本同㆑影、而同爲㆓一球㆒。

【地境】90 チキヤウ 土地のさかひ。地界。〔宋書、樂志二〕澤霑㆓地境㆒、化充㆓天寓㆒。

【地鏡】91 チキヤウ ❶未來記。〔庾信、周五聲調曲、徵調曲〕地鏡則山澤俱開、河圖則魚龍合㆑負。❷蜃氣樓。〔南史、宋文帝紀〕元嘉二十五年冬、青州城南遠望、見㆓地中如㆑水有㆑影、謂㆓之地鏡㆒。❸地上のかがみの意で、池や沼などをいふ。〔庾抱、開㆑軒望㆑月詩〕高高侵㆓地鏡㆒、皎皎徹㆓天津㆒。〔韓愈・孟郊、秋雨聯句〕地鏡時昏曉、池星競漂沛。〔注〕地鏡、地之積水、池星、萍藻之屬。

【地脚】92 ti^4 chiao 土地。地所。

【地斤】93 チキン 澤の名。陝西省橫山縣故夏州の東北。宋の太宗の時、李繼が叛して走つた處。〔宋史、夏國傳上〕繼遷、繼棒族弟也、云云、繼捧之歸㆑宋、時年二十、留㆓居銀州㆒、及㆓使至召㆒、緦麻親赴㆑闕、乃詐言㆓乳母死㆒、出葬㆓於郊㆒、遂與㆓其黨數十人㆒、奔入㆓地斤澤㆒、澤距㆓夏州㆒、東北三百里。

【地均】94 チキン ❶課稅の對象として收入を推定する場合、土地の廣狹を以てせず、土地の種類・狀況によつて、實際の收入を考へ、稅率を公平に定めること。〔管子、乘馬〕地之不㆑可㆑食者、山之無㆑木者、百而當㆑一、云云、澤、網罟得㆑入焉、五而當㆑一、命㆑之曰㆓地均㆒、以㆑實數。❷ヂナラシ 地面に高低のないやうに平らにすること。

【地苓】95 チキン 茸の一種。あさたけ。狐の傘。〔本草、土菌〕附錄、地苓、別錄曰、味苦無㆑毒、主㆓小兒癇㆒、除㆑邪養㆑胎、風痺洗㆓寒熱㆒、目中青瞖、女子帶下、生㆓腐木積草處㆒、大雨生㆑蓋、如㆓朝生㆒、黃白色、四月采㆑之。

【地金】96 チキン ❶地中の金。〔南齊書、宗測傳〕少靜

退不レ樂二人間一、歎曰、家貧親老、不レ擇レ官而仕、先哲以爲二美談一、余竊有レ惑、誠不レ能下潛感二地金一、冥致中江鯉上、但當下用二天道一、分中地利上、孰能食二人厚祿一、憂二人重事一乎。㊁チガネ ㋑貨幣・器物などに作るべき下地の金屬。㋺鍍金などすべき土臺の金屬。〔心中氷朔日、上〕地金をへらす燒釘。㋩たくみを加へない本質。素質。本性。

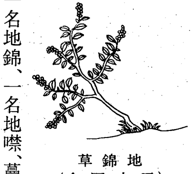
【地筋】97 チキン ㊀枸杞(6－14588··7)をいふ。〔廣雅、釋草〕地筋、枸杞也。㊁白茅(8－22678··954)の根の一名。〔本草、白茅〕釋名、根名二茹根・蘭根・地筋一。

【地菌】98 チキン 蕈(9－31928)の異名。〔玉篇〕蕈、地菌也。

【地禁】99 チキン 通行を禁止して外からの賊をふせぐこと。〔尉繚子、兵敎下〕二曰地禁、謂下禁二止行レ道、以網中外奸上也。〔黄庭堅、和四答子瞻和三子由常父憶二館中故事一詩〕時平少二犴獄一、地禁絶二鼃黽一。

【地噤】100 チキン 地錦に同じ。地錦を見よ。

【地錦】101 チキン ㊀蔓草の一。蔦(9－31828)の異名。鬚根で樹木や石垣等にはひつく。〔本草、地錦〕釋名、地朕・地噤・夜光・承夜・草血竭・血見愁・血風草・馬蝗草・雀兒臥單・醬瓣草・猢猻頭草、藏器曰、地朕、一名地錦、一名地噤、蔓延着レ地、葉光淨露下有レ光、時珍曰、田野寺院、及階砌閒、皆有レ之、小草也、就レ地而生、赤莖黄花黑實、狀如二蒺藜之朶一、斷レ莖有レ汁。㊁地黄(119)の異名。〔事物異名錄、藥材上、草類〕雷斅炮炙序、神錦、地黄也、一名地錦、又絡石、亦名二地錦一。



地錦草
（三才圖會）

〖地錦花〗102 ti⁴ chin³ hua¹ 草の名。げんげばな。

〖地錦苗〗103 ti⁴ chin³ miao² 草の名。やぶけまん。

【地垠】104 チギン 地のはて。地外。〔揚雄、甘泉賦〕天闉決兮地垠開、八荒協兮萬國諧。

【地銀】105 チギン ㊀地上のしろがね。川の形容。〔王鏳、詩〕山黯浮二空髻一、江明凸二地銀一。㊁ti⁴ yin² 租稅。

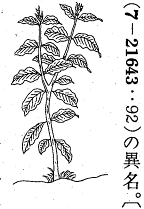
【地區】106 チク 大地の限り。又、一區域の地。〔蔡邕、太傅胡廣碑〕亙二地區一、充二天宇一。〔謝朓、忝二役湘州一與二宣城吏民一別詩〕閒沃盡二地區一、山泉諧レ所レ好。

【地窟】107 チクツ あなぐら。地下室。〔晉書、皇甫重傳〕所在爲二地窟一、以防二外攻一。〔汪莘、月賦〕或顚二倒於山光水影一、或披二豁於地窟天根一。

【地火】108 チクワ 五行說にいふ火の一種。地上に燃える一切の火をいふ。〔和漢三才圖會、火類、陽火陰火〕本綱云、火者五行之一、有レ氣而無レ質、造化兩閒生二殺萬物一、蓋五行皆一、惟火有レ二、二者陰火・陽火也、其綱凡三、三者天火・地火・人火也、其目凡十有二、所謂十二者、天之火四、地之火五、人之火三也。

【地瓜】109 チクワ 甘藷(7－21643··92)の異名。〔閩雜記。

〖地瓜兒〗110 チクワジ ちよろぎ。〔本草、草石蠶〕釋名、地蠶・土蛹・甘露子・滴露・地瓜兒、時珍曰、蠶・蛹、皆以二根形一而名、甘露、以二根味一而名、或言、葉上滴レ露則生、珍常蒔レ之、無二此說一也、其根長大者、救荒本草、謂二之地瓜兒一。



地瓜兒
（三才圖會）

【地貨】111 チクワ 其の土地で產出する蔬菜・果實等をいふ。

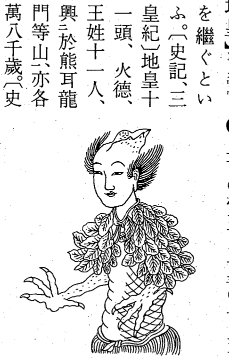
【地廻】112 チクワイ ㊀大地がめぐる。〔雲笈七籤〕今日飛レ步、萬道通開、九眞齊レ景、天轉地廻。㊁地勢が迂廻する。〔李咸用、秋望詩〕風閃鴈行疎又密、地廻江勢急還遲。㊂チマハリ ㋑其の土地を巡り步くこと。又、その人。㋺近在から廻送して來ること。又、その人。㋩常に近鄕を巡り步いて商賣すること。又、その人。㋥遊里や盛り場へ出入する常連。其の土地に住みついてゐるならず者。

【地槐】113 チクワイ 苦參(9－30797··145)の異名。〔本草、苦參〕釋名、苦蘵・苦骨・地槐・水槐・菟槐・驕槐・野槐・白莖、時珍曰、槐、以二葉形一名也、苦蘵、與二菜部苦蘵一同名異物。

〖地槐菜〗114 チクワイサイ 草の名。たかのつめ。荒野に生じ、食用に供せられる。〔農政全書、地槐菜考〕一名小蟲兒麥、生二荒野中一、苗高四五寸、葉似二石竹子葉一、極細短、開二小黄白花一、結二小黑子一、其葉咁甘。

【地外】115 チグワイ 地のはて。遠い地。地垠。〔書、舜典、在二璿璣玉衡一以齊二七政一、疏〕天之形狀似二鳥卵一、天包二地外一。〔賈島、秋暮寄二友人一詩〕遠天垂二地外一、寒日下二峯西一。

【地皇】116 チクワウ ㊀上古の帝王。三皇の一。天皇氏を繼ぐといふ。〔史記、三皇紀〕地皇十一頭、火德、王姓十一人、興二於熊耳龍門等山一、亦各萬八千歲。〔史記、秦始皇紀〕古有二天皇一、有二地皇一。㊁新、王莽の僭年號。(20－23)

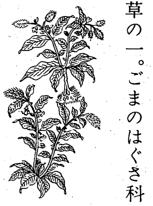


地皇氏
（三才圖會）

【地紘】117 チクワウ 大地を維持するおほづな。地維。〔柳宗元、唐鐃歌鼓吹曲、涇水黄〕頓二地紘一、提二天綱一。

【地荒】118 チクワウ 土地があれる。〔淸江、湘川懷古詩〕地荒征騎少、天暖浴禽多。

【地黄】119 チクワウ ㊀地の色は黄である。〔易、坤〕天玄而地黄。㊁チワウ 藥草の一。ごまのはぐさ科の多年生草本。葉の表裏に毛があり、夏、莖のさきに薄紫の花を著ける。地下莖は黄色で肥厚。根莖は補血強壯・血止に効がある。さほひめ。地髓。〔爾雅、釋草〕苄、地黄。〔注〕一名、地髓、江東呼レ苄。〔淮南子、覽冥訓〕地黄主レ屬レ骨、而甘草主レ生レ肉之藥也。〔蘇軾、地黄詩〕地黄飼二老馬一、可レ使二光鑒レ人。



地黄
（三才圖會）

〖地黄牛〗120 ti⁴ huang² niu² 竹製の唐獨樂。

〖地黄菜〗121 チクワウサイ 野菜の一種。すゐぜんじ菜。〔本草、三七〕集解、時珍曰、生二廣西南丹諸州番峒深山中一、采レ根暴乾、黄黑色、團結者、狀略似二白及一、長者如二老乾地黄一、有レ節、味微甘而苦、頗似二人參之味一。

【地廣】122 チクワウ ㊀土地が廣い。〔管子、治國〕國富者兵彊、兵彊者戰勝、戰勝者地廣。〔史記、李斯傳〕地廣者粟多、國大者人衆。㊁鹽鐵論の篇名。

【地官】123 チクワン ㊀官名。周、置く。六官の一。司徒を以て之に充つ。土地・人事に關する政を掌る。後、唐の武后の時、戶部を改めて地官を置いたが、次いで舊に復した。〔周禮、天官、冢宰〕二曰地官、其屬六十、掌二邦敎一。〔周禮、地官、司徒、注〕鄭目錄云、象レ地所レ立之官、司徒主二衆徒一、地者載二養萬物一、天子立二司徒一、掌二邦敎一、亦所三以安二擾萬民一。〔漢書、百官公卿表上〕天官冢宰・地官司徒・春官宗伯・夏官司馬・秋官司寇・冬官司空、是爲二六卿一。〔通典、職官、戶部尚書〕周禮地官大司徒之職、云云、初戶部居二禮部之後一、武太后改二置天地四時之官一、以二戶部一爲二地官一、由レ是遂居二禮部前一、神龍元年、復改二地官一爲二戶部一。㊁神の名。中元(陰曆七月十五日)を掌り、人の善惡を記錄する。〔宋史、苗守信傳〕三元日、上元天官、中元地官、下元水官、各主レ錄二人之善惡一。㊂周禮の篇名。

〖地官卿〗124 チクワンケイ 唐代、戶部尚書をいふ。周の地官の卿の職にあたる。〔唐六典、戶部尚書〕戶部尚書一人、正三品、周之地官卿也。

〖地官赦罪〗125 チクワンシヤザイ 地官が人間の罪を許す。陰曆七月十五日をいふ。地官の㊁を見よ。〔西湖遊覽志〕七月十五日爲二中元節一、俗傳二地官赦レ罪之辰一、人家多持レ齋誦レ經、薦二奠祖考一、撫レ孤判レ斛、屠門罷レ市、僧家建二盂蘭盆會一、放二燈西湖及塔上河中一、謂二之照冥一。

【地菅】126 チクワン 白茅(8－22678··954)の異名。〔本草、白茅〕別錄、時珍曰、一名、地菅。

【地關】127 チクワン ㊀足をいふ。〔黄帝內景經、關塞三關握固停、注〕經云、口爲二天關一、精神機、手爲二人關一、把二盛衰一、足爲二地關一、生命扉。㊁地上の關門。〔吳邁遠、櫂歌行〕西南窮二天險一、東北畢二地關一。

【地薰】128 チクン 茈胡(9－30840··7)の異名。〔急就篇〕黄芩伏苓礜茈胡。〔注〕茈胡、一名地薰、一名山菜。〔本草、茈胡〕釋名、地薰・芸蒿・山菜・茹草。

【地形】129 チケイ ㊀土地の狀態。山河險易の形勢。

地勢。〔戰國、秦策〕其居レ秦累世矣、自二殽塞谿谷一、地形險易盡知レ之。〔韓非子、初見秦〕今秦地折レ長補レ短、方數千里、名師數十百萬、秦之號令賞罰、地形利害、天下莫レ若也。〔韓非子、十過〕問三其兵勢與二其地形一。〔史記、秦紀〕問三其地形與二其兵勢一。〔淮南子、兵略訓〕上知二天道一、下習二地形一、中察二人情一。❷孫子の篇名。❸ヂギヤウ ㋑建築前の準備作業として、地面をならすこと。ぢならし。ぢがため。〔番匠往來〕地形方。㋺地面に作つた家屋の基礎。

〘地形志〙130 チケイシ　地理を記した志類。地理志（47）に同じ。〔魏書、地形志上〕夏書禹貢、周氏職方、中畫二九州一、外薄二四海一、析二其物土一、制二其疆域一、此蓋王者之規摹也。

【地契】132 チケイ　❶賣買した土地の上に、賣買契約の調つたしるしとして立てる札。〔癸辛雜識〕買二賣田地一所レ立之契也、宋時造レ墓、必用二賣地券一、以二梓木一爲レ之、朱下書用二錢九千九百九十文一、買中到某地上、謂二之地契一。❷ ti⁴ ch'i⁴　土地賣買の契約書。地券。

【地迴】133 チケイ　地が遙かである。大地が遙かに遠くまで續いてゐること。〔謝朓、奉二和隨王殿下一詩〕川長別管思、地迴翻旗回。〔庾肩吾、蔬圃堂詩〕風長曙鐘近、地迴洛城遙。〔庾信、周上柱國宿國公河州都督普屯威神道碑銘〕陵原地迴、松路風悲。〔江總、特進光祿大夫徐陵墓誌銘〕地迴雲低、山重樹小。〔王勃、滕王閣序〕天高地迴、覺二宇宙之無窮一。〔崔顥、古遊俠呈二軍中諸將一詩〕地迴鷹犬疾、草深狐兔肥。

【地徑】134 チケイ　地球の直徑。〔國朝漢學師承記、陳厚耀〕地周幾何、地徑幾何。

【地景】135 チケイ　土地のやうす。土地の景色。〔盧照鄰、益州至眞觀主黎君碑〕策二地景於丹田一。

【地頸】136 ti⁴ ching³　地峽（141）に同じ。

【地雞】137 チケイ　❶蟲の名。鼠婦（**12**―**48390**‥69）の異名。〔本草、鼠婦〕釋名、鼠負・負蟠・鼠姑・鼠黏・蜲蜲・蛜蝛・濕生蟲・地雞・地蝨。❷茸の名。土菌（**3**―**4867**‥77）の異名。〔本草、土菌〕釋名、杜蕈・地蕈・菰子・地雞・獐頭。

【地穴】138 チケツ　❶大地の穴。〔張協、七命〕仰傾二雲巢一、俯殫二地穴一。❷危險な場所。〔六韜、犬韜、戰騎〕是謂下陷二於天井一頓中於地穴上。

〘無二地穴可レ入〙139 チケツノイルベキナシ　はいるべき穴がない。死者に對して甚しく慙ぢる意。〔通俗編、地理、無二地穴可レ入〕賈誼新書審微篇、季孫慙曰、使二穴可レ入、吾豈忍レ見二宓子賤一哉、按、關漢卿曲所レ云、無二地縫鑽入去一、卽此語意。

【地血】140 チケツ　草の名。あかねの異名。茜。〔爾雅翼〕說文曰、茹藘、人血所レ生、故一名二地血一。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏〕茹藘、茅蒐・蒨草也、一名地血、齊人謂二之茜一、徐州人謂二之牛蔓一。〔本草、茜草〕釋名、蒨・茅蒐・茹藘・地血・染緋草・血見愁・風車草・過山龍・牛蔓。

【地峽】141 チケフ　海に挾まれ、二つの陸地をつないでゐる、くびれた細い陸地部。パナマ地峽・スエズ地峽の類。地頸。海峽（**6**―**17503**‥158）の對。

【地業】142 チゲフ　❶地位と事業。〔庾信、善寂寺碑〕芳蘭公子、卽以二地業一高レ人、幽桂王孫、卽以二琴樽一待レ物。❷地が傾いて危い。業は危い。〔達奚珣、華山、述聖頌序〕洪爐大造之時、天動地業。

【地券】143 チケン　❶土地所有の證據として官府から下附する證書。土地所有權の證明書。〔宋史、包拯傳〕或持二地券一自言レ有二僞增步數一者、皆審驗劾二奏之一。❷明治五年以來、政府が人民に交附し、其の土地の所有權者であることを證明した證書。明治二十二年廢止した。❸ ti⁴ ch'üan⁴　土地賣買の契約書。地契。

〘地券狀〙144 チケンジヤウ　地券の❶に同じ。

【地險】145 チケン　土地の險阻な所。又、土地が險阻なこと。〔易、習〕地險、山川丘陵也。〔宋書、禮志三〕地險俗殊、民望絕塞。〔顏延之、始安郡還レ都與二張湘州一登二巴陵城樓一作詩〕水國周二地險一、河山信二重複一。〔鮑照、從二拜陵一登二京峴一詩〕表裏觀二地險一、昇降究二天容一。

【地檢】146 チケン　土地の面積・肥瘠度等を測量・檢查すること。その結果によつて、その土地の石高を定める。檢地。〔東鑑、九〕文治五年十月廿四日、可レ遂二出羽國地檢一之由、被レ仰二置留守所一、御進發之後、地頭等愁申云、地檢之閒、可レ顚二閒田一之旨、留守張行之由。

【地戶】147 チコ　❶地の出入口。地の門。天門の對。〔越絕書、越絕外傳、記范伯〕霸王之氣、見二於地戶一。〔越絕書、越絕外傳、枕中〕天門開及地戶開。〔升菴外集〕河圖括地象曰、東南爲二地戶一。〔注〕地不レ滿二東南一、是地戶。❷鼻をいふ。〔黃帝內景經〕帝鄉天中地戶端。〔注〕鼻、爲二上部之地戶一。❸ ti⁴ hu⁴　借地人。

【地股】148 ti⁴ ku³　土地の所有者が他人と組合事業を興すに當つて提供する土地。

【地庫】149 チコ　相術家の語。顎の下部をいふ。流年運氣（**6**―**17431**‥307）を見よ。

【地口】150 ヂグチ　世に行はれる成語と同音または音の似通つた別語を以て、違つた意味をあらはす洒落シヤレ。享保頃に始まる。「蕎麥がいい」といつて、「側がいい」の意を表はす類。〔俚言集覽、知〕地口、口合をいふ。

【地侯】151 チコウ　星の名。一名鎭星。土星をいふ。土星（**3**―**4867**‥235）の❷を見よ。〔廣雅、釋天〕鎭星、謂二之地侯一。〔史記、天官書〕歲塡一宿、其所レ居國吉、云云、其居久、其國福厚、易福薄、其一名曰二地侯一。

【地貢】152 チコウ　土地に課する稅。〔周禮、地官、大司徒〕乃分二地職一、奠二地守一、制二地貢一、而頒二職事一焉。〔注〕制二地貢一、謂二九職所レ稅也。

【地猴】153 チコウ　鼬鼠イタチの異名。〔本草、鼬鼠〕釋名、黃鼠狼・鼪鼠・鼤鼠・地猴。

【地溝】154 チコウ　地盤の陷落によつて生じた略〻平行する二斷層によつて挾まれた低地。〔水經、河水注〕水出レ山而流入レ海者、命曰二經水一、引二他水一入二于大水及海一者、命曰二枝水一、出二于地溝一、流二于大水一及二于海一者、又命曰二川水一也。

〘地溝帶〙155 チコウタイ　地溝をなす一帶の土地。

【地獄】156 ヂゴク　❶［佛］生前に罪惡を犯した者が死後に行つて苛責を受ける處。等活・黑繩・衆合・叫喚・大叫喚・焦熱・大焦熱・阿鼻の八大地獄に分ける。〔大乘義章、八末〕言二地獄一者、如二雜心釋一、不レ樂故、名爲二地獄一、地持中釋、增上可レ厭、不レ可レ樂故、名爲二泥犁一、泥犁胡語、此云二地獄一、不レ樂・可レ厭、其義一也、此兩釋皆對二厭心一以彰二其過一、非三是當相解二其名義一、若正解レ之、言二地獄一者、就レ處名也、地下牢獄、是其生處、故云二地獄一。❷苛責を受ける所。苦しみにあふ所。❸噴火山や溫泉地などで絕えず火煙や熱湯のふき出てゐる所。〔和漢三才圖會、山類、地獄〕按、地獄之所在、不レ知二何處一、而就二字義一、入二地部一、出二名目一耳、日本有二地獄一、皆高山嶺常燒、溫泉不レ絕、若二肥前溫泉・豐後鶴見・肥後阿蘇・駿河富士・信濃淺間・出羽羽黑・越中立山・越乃白山・伊豆箱根・陸奧燒山等一之嶺、风风燃起、熱湯汪汪涌出、宛然有二焦熱修羅之形勢一。❹淫賣婦。私娼。〔寬天見聞記〕地獄といふ女。

〘地獄繪〙157 ヂゴクヱ　地獄で亡者の苛責にあふさまを畫いた繪。〔枕草紙、四〕地獄繪の御屛風。

〘地獄耳〙158 ヂゴクミミ　❶一度聞いたことは忘れない耳。❷人の秘事などをすばやく聞きこむ耳。

〘地獄腹〙159 ヂゴクバラ　女の子ばかりを分娩する婦人の腹。

〘地獄落〙160 ヂゴクオトシ　鼠を捕へる一種の裝置。餌を食ふはずみに、上から押板が落ちるやうに作つたもの。〔浮世風呂、四編下〕鹽押しの茄子を地獄落しへ掛けた。

〘地獄變相〙161 ヂゴクヘンサウ　［佛］地獄の有樣を描いた繪。〔海錄碎事、百工、圖畫〕吳道子畫二地獄變相一、都人懼レ罪、兩市不レ集二屠沽一矣、歷代畫斷。

【地骨】162 チコツ　❶石の異稱。〔蠡海集〕石之生也、或方、方者爲二地之骨一也。〔郭熙、山水訓〕石者、天地之骨。❷藥草の名。地骨皮を見よ。❸ ti⁴ ku³　地皮地骨（406）を見よ。

〘地骨皮〙163 チコツピ　藥の名。枸杞コクの根の皮。一說に、地骨と枸杞とは異物であるといふ。〔本草、枸杞地骨皮〕釋名、枸繼・枸棘・苦杞・甜菜・天精・地骨・地節・地仙・卻老・羊乳・仙人杖・西王母杖、宗奭曰、枸杞當レ用二梗皮一、地骨當レ用二根皮一、時珍曰、後世以二枸杞子一爲二滋補藥一、地骨皮爲二退熱藥一。〔明一統志〕歸德府、土產二地骨皮一。

【地根】164 チコン　大地の根。大地の深奧。〔金丹大要、精氣神說〕氣之呼接二於天根一、吸接二於地根一。〔岑參、與二鄠縣群官一泛二渼陂一詩〕千尋窮二地根一。

【地棍】165 チコン　地方の無賴漢。地痞。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕擒レ賊之祕訣、惟在二密速

二字一、此輩中之響窩巨盜、平日與二官府之左右親近吏胥頭役一交結往來、以及二地方豪棍、駐防營弁一、相與親厚。

【地差】166 サチ　土地の位置による相違。〔國朝漢學師承記、陳厚耀〕東西測レ景有二時差一、南北測レ星有二地差一。

【地坐】167 ザチ　地上にすわる。〔南史、齊廢帝東昏侯紀〕羣小來弔、盤旋地坐。〔梅堯臣、依レ韻奉二和永叔社日一詩〕奮レ衣地坐無二拘束一。

【地細】168 ヂボソ　織地の絲の細いもの。

【地際】169 チサイ　地のはて。〔于良史、冬日野望詩〕地際朝陽滿、天邊宿務收。

【地載】170 チサイ　地が萬物を載せること。又、地が萬物を載せる如く、廣い心を以て人や物に接すること。〔禮、孔子閒居〕地載二神氣一、神氣風霆、風霆流行、庶物露生、無レ非レ教也。〔禮、郊特牲〕地載二萬物一。〔左氏、襄、二十九〕見下舞二韶箾一者上、曰、德至矣哉、大矣、如二天之無一レ不レ幬也、如二地之無一レ不レ載也。〔莊子、天下〕地能載レ之。〔晉書、庾冰傳〕誠願陛下、弘二天覆之量一、深二地載之厚一、宅二沖虛一以爲レ本、勤二訓督一以爲レ務。〔宋書、樂志二〕天覆地載、流澤汪濊。〔隋書、高祖紀上〕天覆地載、藉二人事一以財成、日往月來、由二王道一而盈昃。

【地財】171 チザイ　大地の財寶。地寶。特に穀類をいふ。〔周禮、考工記、總目〕飭レ力以長二地財一、謂二之農夫一。〔禮、禮器〕禮也者、合二於天時一、設二於地財一、順二於鬼神一、合二於人心一、理二萬物一者也。〔呂覽、愼人〕以二其徒屬一、掘二地財一。

【地霜】172 チサウ　消石（**6**－**17529**··73）の異名。〔本草、消石〕釋名、芒消・苦消・焰消・火消・地霜・生消・北帝玄珠。

【地藏】173 チザウ　❶地にかくれること。〔孔子家語、問禮〕形體則降、魂氣則上、是謂二天望而地藏一。❷地中の穴ぐら。地窖。〔北史、皮景和傳〕密從二地藏一、漸出二餅飯一。❸大地といふ藏の意で、大地をいふ。〔鄭善夫、黃山詩〕連峯標二天樞一、結秀極二地藏一。❹佛 ヂザウ 佛の名。釋迦佛の入滅から彌勒佛の出世に至るまでの六道能化の付囑を受けた佛。安忍不動なことが大地のやうで、靜慮深密なことが秘藏のやうであつたからいふ。〔地藏本願經〕至心瞻二禮地藏肥一、一分惡事皆消滅、至二於夢中一盡得レ安、衣食豐饒神鬼護。

〖地藏顏〗174 チザウガホ　❶地藏のやうに圓く肥えてにこやかな顏。柔和な顏。❷嬉しさうな顏つき。

〖地藏燭〗175 ti⁴ tsang⁴ chu²　陰曆七月末の燈籠流し。江蘇省如皋地方の行事。

〖地藏節〗176 ti⁴ tsang⁴ chieh²　陰曆七月三十日をいふ。江蘇省武進地方の語。

〖地藏菩薩〗177 チザウボサツ　佛 地藏の尊稱。地藏の❹を見よ。〔祕藏記、下〕地藏菩薩、肉白色、左手執二蓮華一、上二幢幡一、右手持二寶珠一。

〖地藏本願經〗178 チザウホングワンキヤウ　書名。二卷。唐、實叉難陀譯。佛門に於ける孝經にあたる。

【地煞】179 チサツ　星命家の語。厄の一種。星煞（**5**－**13837**··130）を見よ。

【地參】180 チサン　草の名。❶知母（**8**－**23935**··181）の異名。〔本草、知母〕釋名、蚳母・連母・蝭母・貨母・地參・水參・蕁・莐藩・苦心・兒草。❷草の名。葉は桑に似、花は鈴のやうで淡紅紫色。饑饉の時、根を食べる。〔農政全書、地參考〕又名二山蔓菁一、生二鄭州沙岡閒一、苗高一二尺、葉似二初生桑科一小葉微短、又似二桔梗葉一微長、開レ花似二鈴鐸樣一、淡紅紫花、根如二母指大一、皮色蒼、肉黲白色、味甜。

【地產】181 チサン　❶土地から產するもの。地實。五穀をいふ。〔周禮、春官、大宗伯〕以三地產作二陽德一、以二和樂一防レ之。〔呂覽、上農〕教三民尊二地產一也。❷ti⁴ ch'an³　不動產。土地や建築物など。

〖地產押款〗182 ti⁴ ch'an³ ya¹ k'uan³　抵當地の評價金額。

〖地產公司〗183 ti⁴ ch'an³ kung¹ ssŭ¹　土地建物會社。

〖地產抵押〗184 ti⁴ ch'an³ ti³ ya¹　土地抵當。

【地蠶】185 チサン　❶蟲の名。ぢむし。すくもむし。〔廣雅、釋蟲〕地蠶、蠐螬也。〔本草、蠐螬〕釋名、蠐螬・蟦蠐・乳齊・地蠶・應條。❷草の名。草石蠶（**9**－**30954**··159）の異名。〔本草、草石蠶〕釋名、地蠶・土蛹・甘露子・滴露・地瓜兒、集解、穎曰、地蠶、生二郊野麥地中一、葉如二薄荷一、少狹而尖、文微皺、欠二光澤一、根白色、狀如レ蠶、四月采レ根、水瀹和レ鹽、爲レ菜茹レ之。〔續博物志〕地蠶、一名土蛹、生二麥野中一、云云、狀似二老蠶一。〔桂海虞衡志〕地蠶、生二土中一、如二小蠶一、又似二甘露子一。

【地山】186 チザン　字號。❶清、應讓（**4**－**11330**··98）の字。❷清、曹秀先（**5**－**14297**··252）の號。❸清、崇厚（**4**－**8152**··83）の號。❹清、張謙（海鹽の人）（**4**－**9812**··282）の字。

【地子】187 シチ　❶唐代、耕作面積の多少に應じて貧民に與へた播種用の穀物。〔唐書、食貨志五〕詔給二逃還貧戶一、視二職田多少一、每レ畝給二粟二升一、謂二之地子一。❷シヂ 我が國の中古、諸國の公田の餘地を人民に貸しつけ、秋の收穫時に納めさせた土地使用料。一種の稅金。〔令義解、田令〕凡諸國公田、云云、賃租、謂二公田一者乘田也、賃租者、凡乘田限二一年一賣、春時取レ直者爲レ賃也、與レ人令レ佃、至レ秋輸レ稻者爲レ租、卽今所謂地子者、是。❸足利時代、土地に課した雜種稅。地子米・地子錢の類。〔式目新編追加、雜物〕畠地子二箇度、地頭可レ取否事。

〖地子錢〗188 ヂシセン　地代（300）の❶に同じ。

【地支】189 シチ　十二支をいふ。子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥。〔爾雅疏釋〕太歲在レ寅曰二攝提格一、在レ卯曰二單閼一、在レ辰曰二執徐一、在レ巳曰二大荒落一、在レ午曰二敦牂一、在レ未曰二協洽一、在レ申曰二涒灘一、在レ酉曰二作噩一、在レ戌曰二閹茂一、在レ亥曰二大淵獻一、在レ子曰二困敦一、在レ丑曰二赤奮若一、謂二之歲陰一、是爲二地支一。

【地止】190 シヂ　大地が止まつて動かないこと。〔陸倕、石闕銘〕天行地止。〔楊炯、少室山少姨廟碑〕天迴地止、霧歛雲除。

【地史】191 シチ　地球及び動植物の變遷沿革の歷史。又、それを記述した書。

【地市】192 シチ　地下の市場の意で、秦の始皇の墓をいふ。陵墓に金銀財寶を多く藏したからいふ。〔魏書、高允傳〕秦始皇作二地市一、下固二三泉一、金玉寶貨、不レ可二計數一。

【地址】193 ti⁴ chih³　所在地。

【地志】194 シチ　地理書。地記。地誌（198）を見よ。〔韓愈、毛穎傳〕山經地志、字書圖畫、九流百家、天人之書。〔韓愈、南山詩〕山經及地志、茫昧非二受授一。〔宋史、劉敞傳〕學問淵博、自二佛老・卜筮・天文・方藥・山經・地志一、皆究知二大略一。

【地芝】195 シチ　❶靈草の名。〔梁簡文帝、大法頌序〕地芝候レ月、天華逆レ風。〔梁昭明太子、同泰僧正講詩〕雷聲芳樹長、月出地芝生。❷冬瓜（**2**－**1610**··30）の異名。〔本草、冬瓜〕釋名、白瓜・水芝・地芝。

【地師】196 ti⁴ shih¹　方位の良しあしを占ふ人。

【地脂】197 シチ　仙藥の名。〔方鎭編年〕高展爲二并州判官一、一日見二砌閒沫一、以レ手撮レ之、試塗二一老吏面上一、皺皮頓改如二少年一、問二承天道士一、曰、此名二地脂一。

【地誌】198 シチ　方域・山川・風俗・產物などを記した書。地理書。輿地書。地志。古、先王は爲政の資として、地理を察して州域を分ち、山川を定め、物產を條し、貢賦を辨じ、以て民をして所を得しめ、史官をして之を誌さしめた。此の種の記錄としては尙書の禹貢が最古のもので、周禮の職方氏が之に次ぐ。又、之に準ずるものとして、山海經を始め、管子の地員篇、逸周書の王會篇、爾雅の釋地等がある。漢初、蕭何は秦の圖書を得て天下の要害・戶口などを知るといつてゐるが、蓋し列國地理の書であらう。後漢の班固は、丞相張禹が朱貢に屬して風俗を條記させたものに因つて地理志を撰し、爾後此の種の記錄甚だ多く、隋書經籍志には一百三十九部、一千四百三十二卷の地誌を載せてゐる。而して禹貢以下記する所は皆方域・山川・風俗・物產に限られたが、元和郡縣志に至つて古蹟を增し、太平寰宇記は人物・藝文を增し、元明以後は之によつた。其の主なものを擧げれば、總志には晉書地道記一卷・太康三年地記一卷（晉、王隱撰）・元和郡縣志四十卷（唐、李吉甫撰）・太平寰宇記二百卷（宋、樂史撰）・元豐九域志十卷（王存撰）・輿地廣記三十八卷（歐陽忞撰）・方輿勝覽七十卷・拾遺一卷（祝穆撰）・大明一統志九十卷（明、李賢撰）・廣輿記二十四卷（陸應陽撰）・大淸一統志三百五十卷（淸、陳悳筆等奉敕撰）等があり、都會志には三輔黃圖（作者年代未詳）・長安志（宋、宋敏求撰）・雍錄（程大昌撰）・長安志圖（元、李好文撰）・汴京遺蹟志（明、李濂撰）・歷代帝王宅京記

（清、顧炎武撰）・日下舊聞（朱彝尊撰）等があり、地方志には吳郡志（宋、范成大撰）・闕里誌（明、陳鎬撰）、清代の、浙江・山西・廣西・盛京・福建・雲南・江西・山東・陝西・四川・廣東・河南・湖廣・畿輔・江南・甘肅・貴州各通志、及び皇輿西域圖志（乾隆二十七年敕撰）等があり、山川志には水經を始め、行水金鑑（清、傅澤洪撰）・水道提綱（齊召南撰）等があり、名蹟志には洛陽伽藍記（後魏、陽衒之撰）・西湖遊覽志（明、田汝成撰）・古今遊名山記（何鏜撰）・大明一統名勝志（曹學佺撰）・關中勝蹟圖志（清、畢沅撰）等があり、外國志には佛國記（南朝宋、法顯撰）・釋迦方誌（唐、道宣撰）・大唐西域記（玄奘撰）等があり、紀行には吳船錄（宋、范成大撰）・入蜀記（陸游撰）・使西域記（明、陳誠撰）等があり、地史には天下郡國利病書（清、顧炎武撰）・讀史方輿紀要（顧祖禹撰）・欽定滿洲源流考（阿桂等奉敕撰）・歷代地理志韻編（李兆洛撰）等があり、雜記體のものには、南北草木狀（晉、嵇含撰）・荊楚歲時記（梁、宗懍撰）・歲華紀麗（元、費著撰）等がある。地誌考證に關する學は清代に盛行し、天下郡國利病書肆域志（顧炎武撰）・四書釋地（閻若璩撰）・春秋地理考實（江永撰）等があり、地誌研究としては水地記校水經注（戴震撰）・水經釋地（孔廣森撰）・新校水經注（全祖望撰）・水經注疏（楊守敬撰）等がある。なほ浙江圖書館叢書（清、丁謙編）には古來正史其の他の地理攷證本を收集してゐる。〔劉詠堂、陽亭子詩序〕山川超二絕于水經一、物產闐二駢于地誌一。〔歐陽脩、菱溪大石詩〕山經地誌不レ可レ究、遂令二異說爭紛紜一。

【地嘴】199 シチ　陸地の細く尖つて海中に突出した所。みさき。岬。地角。

【地二】200 ジチ　地をいふ。〔易、繫辭上〕天一地二。〔淮南子、墜形訓〕天一、地二、人三。

【地耳】201 ジチ　❶大地の耳。〔論衡、卜筮〕夫言問レ天、則天爲レ氣、不レ能レ爲レ兆、問レ地、則地耳遠、不レ聞二人言一。❷菌の一種。岩耳の類。〔本草、地耳〕釋名、地踏菰、別錄曰、地耳、生二丘陵一、如二碧石青一也。

【地事】202 ジチ　❶土地のよしあし。〔周禮、地官、土訓〕道二地圖一以詔二地事一。〔注〕九州形勢、山川所レ宜、告レ王以施二其事一也。❷地の仕事。大地のつとめ。〔國語、楚語下〕王曰、三事者何也、對曰、天事武、地事文、民事忠信。〔注〕地質柔順、故文。❸地に事へる。〔揚雄、劇秦美新〕奇偉倜儻譎詭、天祭地事。〔注〕善曰、言下衆瑞所二以咸臻一者、由中能祭レ天事上レ地。

【地溲】203 チシウ　溜水などに見る、黃色を帶びた油に似た水。田澁。地澁。〔本草、石腦油〕附錄、地溲、時珍曰、溝澗流水、及引レ水灌レ田之次、多有レ之、形狀如レ油、又如レ泥、色如二黃金一、甚腥烈、冬月收取、以二柔鐵燒赤一投レ之二三次、剛可レ切レ玉。

【地室】204 チシツ　地下の室。地下室。〔左氏、成、十二〕子反相、爲二地室一而縣レ焉。〔劉歆、甘泉宮賦〕軼二陵陰之地室一、過二陽谷之秋城一。

【地蝨】205 チシツ　蟲の名。おめむし。とこむし。しめりむし。のみむし。いゐ。地雞に同じ。地雞(137)の❶を見よ。

【地質】206 チシツ　❶大地の性質。〔易、坤、六二、注〕居レ中得レ正、極二於地質一、任二其自然一而物自生。❷地殼を構成する岩石・地層の性質または狀態。

〖地質學〗207 チシツガク　地殼の成立・組織・性質、其の他、地球上の變動等を研究する學問。

〖地質圖〗208 チシツヅ　地質の狀態を圖にあらはしたもの。

〖地質系統〗209 チシツケイトウ　地層生成の順序。始原界・原生界・古生界・中生界・新生界に分ける。

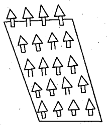
〖地質時代〗210 チシツジダイ　地質年代を見よ。

〖地質年代〗211 チシツネンダイ　地殼ができて以來、今日に至るまでの年代。地層生成の年代。始生代・原生代・古生代・中世代・新世代に分ける。又、始生代よりさきに無生代を加へる說があり、又、一說では、太古代・始生代・古生代・中生代・新生代に分ける。地質時代。

【地實】212 チジツ　土地から產するもの。地產。〔大戴禮、虞戴德〕天子告二朔於諸侯一、率二天道一而敬行レ之、以示二威于天下一也、諸侯內二貢於天子一、率レ民𣪘二地實一也。

【地汁】213 チジフ　大地のしる。〔事物異名錄、乾象、霧〕五經通義、陰亂則爲レ霧、從二地汁一也。

【地澁】214 チジフ　❶兵器の名。釘を板に打ちつけて道に置き、人馬の進み來るのを妨げ禦ぐもの。〔武備志、地澁圖說〕地澁、以二逆鬚釘一布二版上一、版厚三寸、長闊約二三尺一。❷チシフ　溜水の表面に、鐵の銹のやうに光り浮ぶもの。地溲。田澁。



地澁❶
（武備志）

【地車】215 ti^{4} ch'ê^{1}　小さい車輪の荷車。又、重い荷物を載せて挽く車。

【地砂】216 ti^{4} sha^{1}　やすりくず。鑢屑。

【地漿】217 チシヤウ　❶地中の水。又、地から涌き出る水。〔宋史、劉翰傳〕天河地漿、皆水也。❷黃土を掘つて穴を作り、新たに汲んだ水を其の中に入れ、攪拌して之を濁し、其れを再び澄ませたものをいふ。〔本草、地漿〕釋名、土漿、弘景曰、此掘二黃土地一作レ坎深三尺、以二新汲水一沃入、攪濁少頃、取レ清用レ之、故曰二地漿一、亦曰二土漿一。〔避書錄話〕四明溫台閒山谷、多產レ菌、食レ之閒有二中レ毒往往殺レ人者一、有レ僧教、掘レ地、以二冷水一攪レ之令レ濁、少頃取飮、皆全活、此方見二本草一、陶隱居注、謂二之地漿一。

【地上】218 チジヤウ　大地の上。地表。〔易、比〕象曰、地上有レ水、比。〔周禮、春官、大司樂〕冬日至二于地上之圜丘一奏レ之。〔墨子、兼愛下〕人之生二乎地上一之無二幾何一也。〔漢書、周亞夫傳〕不レ欲レ反二地上一。〔李白、靜夜思詩〕牀前看二月光一、疑是地上霜。

〖地上莖〗219 チジヤウケイ　植物學用語。植物の莖の、地上にあらはれてゐるもの。卽ち、普通にいふ莖。地下莖の對。

〖地上權〗220 チジヤウケン　民法上、建築物又は竹木等を所有するために他人の土地を使用する權利をいふ。

〖地上虎〗221 チジヤウノトラ　勇猛の人をいふ。〔北史、高昂傳〕神武以二（高）昂一爲二西南道大都督一、徑趣二商洛一、昂度レ河祭二河伯一曰、河伯、水中之神、高敖曹、地上之虎、行經二君所一、故相決醉。

〖地上天宮〗222 チジヤウテンキユウ　地上の天國。〔楓窗小牘〕汴中呼二餘杭一爲二地上天宮一、及三余邸寓二山中一、深谷枯田、林莽塞レ目、魚蝦屛斷、惟野葱苦薑、不レ謂三天宮有二此受享一也。

【地城】223 チジロ　平地に築いたとりで。平城。

【地借】224 ヂガリ　土地を借用すること。又、その人。〔御定書百箇條、倒死并捨物手負病人等有レ之を不二訴出一もの御仕置之事〕店借・地借・家主。

【地主】225 チシユ　❶諸侯が會合の場所とした國の主君。〔春秋、隱、元、九月及二宋人一盟二于宿一、杜注〕凡盟以二國地一者、國主亦與レ盟。〔疏〕會盟之地、地必有レ主、擧レ地者、地主之國、或與或否、故地主之國、亦序二於其列一、經擧二國名一以爲レ盟、地者、國主與レ在二其中一、不三復序二之於列一、以二其可一レ知故也。〔左氏、哀、十二〕諸侯之會、事既畢矣、侯伯致レ禮、地主歸レ餼、以相辭也。〔國語、越語下〕四鄕地主。❷大地に對する主人。天をいふ。〔天機經〕夫天爲二地主一、道爲二德君一、故聖人奉レ地而法レ天、立レ德而行レ道。❸田地の所有者。ぢぬし。〔韓翃、送三王少府歸二杭州一詩〕吳郡陸機爲二地主一、錢塘蘇小是鄕親。〔陸游、草堂詩〕幸有二湖邊舊草堂一、敢煩二地主一築二林塘一。❹八神の一。土地の神。八神（2－1450・・289）を見よ。〔史記、封禪書〕二曰、地主、祀二泰山・梁父一。〔漢書、郊祀志上〕八神、云云、二曰、地主。❺其の地の主となつて守護する神。〔二十二社註式、日吉社、注〕延喜神祇式云、近江國滋賀郡日吉與二三輪一、此國地主。❻ti^{4} chu^{3}　其の土地の人。土著の人。

〖地主職〗226 ヂヌシシキ　王朝時代の末、莊園の地主としての權利・得分。〔東鑑、二〕治承四年十二月十四日、武藏國住人、多以二本地一行二地主職一、如レ本可二執行一之由、蒙二下知一。

【地守】227 チシユ　❶山林・川澤を守る人。〔周禮、地官、大司徒〕乃分二地職一、奠二地守一、制二地貢一。〔周禮、地官、均人〕均二地守一。〔注〕地守、衡虞之屬。〔疏〕云二地守衡虞之屬一者、亦謂二畿內川衡・林衡・山虞・澤虞一、皆遣二其地之民一守二護之一、及下其入二山林川澤一取レ之者上、使三出レ稅以當二邦賦一。❷チモリ　地所の番人。〔類聚撰要、四十九〕地守請狀之事。

【地取】228 ヂドリ　❶土地の區劃をすること。❷相撲用語。稽古部屋でする稽古角力。內取（1－141

8··277）の❷に同じ。〔日本諸手船、七〕內取召合、前日召左右相撲人、試各方之伎、云云、今之地取、卽此。❸圍棊用語。地を取ること。

【地種】229（チシユ） 其の所有主によつて區別した土地の種別。卽ち官有地・公有地・民有地の種別。

【地菘】230（チシユウ・チスウ） 草の名。天名精（3－5833··1583）の異名。〔本草、天名精〕釋名、天蔓菁・天門精・地菘・埊松・玉門精・麥句薑・蟾蜍蘭・蝦蟇藍・蚵蚾草・豕首・彘顱・活鹿草・劉儘草・皺面草・母豬芥、實名鶴蝨、根名杜牛膝、恭曰、天名精、卽活鹿草也、別錄、一名天蔓菁、南人名爲地菘、葉與蔓菁・菘菜相類、故有此名、正誤、時珍曰、按、沈括筆談云、世人旣不識天名精、又妄認地菘爲火杴、本草又出鶴蝨一條、都成紛亂、不知地菘卽天名精、其葉似菘、又似蔓菁、故有二名、鶴虱卽其實也。

【地筍】231（チジユン） 澤蘭の根。〔本草、澤蘭〕釋名、水香・都梁香・虎蘭・虎蒲・龍棗・孩兒菊・風藥、根名地筍。

【地所】232（ヂシヨ） 土地。地面。地址。

【地處】233 ti⁴ chʻu⁴ 地所。場所。

【地訟】234（チシヨウ） 土地の境界に關する訴訟。〔周禮、地官、小司徒〕凡民訟以地比正之、地訟以圖正之。〔注〕地訟、爭疆界者。

【地乘】235（ヂノリ） ❶馬術用語。馬を足並そろへて歩ませること。〔小笠原宗賢記〕❷惡馬を乘り馴らすこと。〔馬道捷徑祕傳集、二〕地乘と云ふは、口のわろき馬を乘りなほすを云ふ。

【地燭】236（チシヨク） かがりび。炬燭。篝火。〔周禮、天官、閽人〕大祭祀喪紀之事設門燎。〔注〕燎、地燭也。

【地職】237（チシヨク） 其の地に適する職。農業についていふ。〔周禮、地官、載師〕授地職、而待其政令。〔周禮、地官、均人〕均地職。〔注〕地職、農圃之屬。〔疏〕此卽太宰九職云、一曰三農、二曰園圃之屬、以九職任之、因使出稅也。

【地心】238（チシン） ❶地球の中心。〔和漢三才圖會、天部、天〕按、天地高大也、聖人未嘗究里數、云云、凡自地心至某天爲幾等。❷地理學で、地殼に包まれた地球の內部をいふ。

〔地心緯度〕239（チシンヰド） 地球の中心から天體を見たと假定して設ける黃緯。

〔地心溫度〕240（チシンヲンド） 地球內部の溫度をいふ。地表から、地中に至るに隨つて漸次高溫になる。二哩―百度（水の沸騰點）。七哩半―四百度（鐵の紅熱度）。十八哩半―一千度（玻璃の溶解度）。二十八哩（半徑の百四十一分の一）―一千五百度（萬物が殆どすべて溶解する溫度）。

〔地心吸力〕241（チシンキフリヨク） 重力をいふ。

〔地心地平〕242（チシンチヘイ） 地上の或る地點と地心とを結ぶ直線に垂直な平面。

【地神】243（チシン） ❶大地の神。地媼。地祇。〔周禮、夏官、校人〕凡將事于四海山川、則飾黃駒。〔左氏、昭、二十九〕土正曰后土。〔疏〕劉炫云、天子以下、倶荷地德、皆當祭地、但名位有高下、祭之有等級、天子祭地、祭大地之神也、諸侯不得祭地、使之祭社也、家又不得祭社、使祭中霤也、霤、亦地神、所祭小、故變其名。〔續齊諧記〕吳縣張成、夜見一婦人立宅東南、謂成曰、此必君蠶室、我卽地神、明日正月半、宜作白粥汎膏於上、以祭我、必當令君蠶百倍、言絶失所在、成如其言、爲作膏粥、年年大得蠶利。〔岳陽風土記〕岳人以兔爲地神、無敢獵取者。❷くにつ神。地神五代を見よ。

〔地神經〕249（ヂシンギヤウ） 地神を祭る經。鄙俗の文字を竝べたもので、古、盲人などが此の經文を誦し、琵琶を鼓して竈神を祭つた。〔德川禁令考、四十二〕享保十三申年九月三日、盲僧之儀に付御觸書、地神經讀盲目、官位號袈裟停止之儀。

〔地神五代〕250（チジンゴダイ） 皇統の始祖とされる五柱の神の時代。卽ち天照大神・天忍穗耳命・天津彥彥火瓊瓊杵尊・彥火火出見尊・鸕鷀葺不合尊の五柱の神の時代。〔釋日本紀、二〕第二卷、載地神五代之事。

【地震】251（ヂシン） 大地のゆれ動くこと。なゐ。地熱の發作、地皮の收縮、地中の空所の陷落等に因つて起る。〔春秋、文、九〕癸酉、地震。〔國語、周語上〕陽伏而不能出、陰遁而不能烝、於是有地震。〔漢書、景帝紀〕五月、地震。

〔地震器〕252（ヂシンキ） 地震計。

〔地震計〕253（ヂシンケイ） 地震の強弱などを觀測する器械。地震器。地動計。地震表。

〔地震祭〕254（ヂシンマツリ） 地震の災を免れるために行ふ祭。〔東鑑、二十六〕貞應三年六月六日、地震祭。

〔地震神〕255（ヂシンガミ） 地震の事を主宰する神。〔日本書紀、推古紀〕七年四月乙未朔辛酉、地動、舍屋悉破、則令四方、俾祭地震神。

〔地震表〕256 ti⁴ chen⁴ piao³ 地震計。

〔地震瀑〕257（ナヰノタキ） 信濃國に在る瀑。

【地蕈】258（ヂシン） 菌の名。しひたけ。土菌（3－4867··77）の異名。〔本草、土菌〕釋名、杜蕈・地蕈・菰子・地雞・獐頭。

【地腎】259 ti⁴ shen⁴ 茸の名。松露。

【地髓】260（チズイ） 藥草の名。地黃（119）の❷の異名。〔爾雅、釋草〕苄、地黃。〔注〕一名地髓、江東呼苄。〔本草、地黃〕釋名、苄・芑・地髓。

【地數】261（チスウ） ❶地の數。卽ち二・三・六・八・十の偶の數で、合して三十となる。〔易、繫辭上〕天地五、地數五、五位相得、而各有合、天數二十有五、地數三十、凡天地之數、五十有五、此所以成變化而行鬼神也。〔楊傑、五六天地之中合賦〕地數雜而不純、天數純而不雜。❷管子の篇名。

【地辷】262（ヂスベリ） ❶表土または岩盤が、斜めに辷り落ちる現象。山地に多い。❷地殼の收縮から起る橫壓力と直角に、地層の一部分が陷沒する現象。

〔地辷地震〕263（ヂスベリヂシン） 地辷りのために起る地震。斷層地震。

【地正】264（チセイ） 曆の名。殷の曆で、建丑の月（季冬）、卽ち夏の十二月を正月とする。殷正。地統。正朔（6－16255··183）を見よ。〔禮、檀弓上〕殷人尙白。〔注〕以建丑之月爲正、物牙色白。〔漢書、律曆志上〕其於三正也、黃鐘子爲天正、林鐘未之衝、丑爲地正、太族寅爲人正。〔白虎通、三正〕十一月之時、陽氣始養根株、黃泉之下、萬物皆赤、赤者盛陽之氣也、故周爲天正、色尙赤也、十二月之時、萬物始牙而白、白者陰氣、故殷爲地正、色尙白也、十三月之時、萬物始達、孚由而出皆黑、人得加功、故夏爲人正、色尙黑。〔魏志、高堂隆傳〕孟夏四月、服色尙黃、犧牲用白、從地正也。

【地制】265（チセイ） ❶地の道にのつとつて制定する。〔禮、樂記〕禮以地制。〔疏〕禮生於陰、是法地而制。❷土地の制度。〔漢書、賈誼傳〕地制壹定、宗室子孫、莫慮不王、下無倍畔之心、上無誅伐之志、故天下咸知陛下之仁。〔魏書、崔孝芬傳〕府主任城王澄、雅重之、熙平中、澄奏地制八條、孝芬所參定也。

【地征】266（チセイ） 土地に課する稅。征は稅。地租。地稅。〔周禮、地官、大司徒〕制天下之地征、以作民職。〔注〕征、稅也。〔李商隱、城上詩〕邊遽稽天討、軍須竭地征。

【地政】267（チセイ） ❶地守・地職の稅。政は征。〔周禮、地官、均人〕掌均地政、均地守、均地職、均人民・牛馬・車輦之力政。〔注〕政、讀爲征、地征、謂地守・地職之稅也。〔疏〕鄭破政爲征者、以經政是政教之政、非征稅之征、故破之也。❷地が行ふ政治。卽ち、萬物を生ずること。〔大戴禮、少閒〕天政曰正、地政曰生、人政曰辨。

〔地政局〕268（チセイキヨク） 中國各省の土地行政機關。省政府に直屬し、公有土地の管理、土地の測量・登記等を行ふ。

【地埶】269（チセイ） 地勢に同じ。〔漢書、溝洫志〕是其地埶、西北高而東南下也。

【地勢】270（チセイ） ❶土地の起伏・深淺などの狀態。地形。〔易、坤〕象曰、地勢坤、君子以厚德載物。〔周禮、考工記、匠人〕凡天下之地勢、兩山之閒、必有川焉。〔史記、秦始皇紀〕地勢旣定、黎庶無繇。〔漢書、高帝紀下〕秦、形勝之國也、地勢便利。❷ゐどころ。たちば。地位。〔後漢書、尹勳傳〕家世衣冠、伯父睦爲司徒、兄頌爲太尉、宗族多居貴位者、而勳獨持清操、不以地勢尙人。〔左思、詠史詩〕世胄躡高位、英俊沈下僚、地勢使之然、由來非一朝。

【地精】271（チセイ） ❶土地の精。〔雲笈七籤〕太初時、雖有日月、未有人民、漸始初生、上取天精、下取地精、中閒和合、以成一神、名曰人也。❷植物の名。㋑人參（1－344··276）の❶の異名。

〔本草、人參〕釋名、人蓡・黃參・血參・人銜・鬼蓋・神草・土精・地精・海腴、時珍曰、人蓡、年深浸漸長成者、根如ニ人形一有レ神、故謂ニ之人蓡一、云云、其草背レ陽向レ陰、故曰ニ鬼蓋一、其在ニ五參一、色黃屬レ土而補ニ脾胃一、生ニ陰血一、故有ニ黃參・血參之名一、得ニ地之精靈一、故有ニ土精・地精之名一。㋺何首烏(1－511・・296)の異名。〔本草、何首烏〕釋名、交藤・夜合・地精・陳知白・馬肝石・桃柳藤・九眞藤・赤葛・瘡帚・紅內消。

【地聲】272 チゴヱ　生まれつきのこゑ。

【地稅】273 チゼイ　土地に課する租稅。地征。地租。〔宋史、食貨志二〕城郭之賦、宅稅・地稅之類、是也。

【地椒】274 チセウ　草の名。つるざんせうの異名。〔本草、地椒〕集解、時珍曰、地椒出ニ北地一、卽蔓椒之小者、貼レ地生レ葉、形小味微辛、土人以煑ニ羊肉一食、香美。〔馬祖常、北行詩〕雨餘雷菌長、秋入地椒芬。〔明一統志〕延慶州、土產ニ地椒一。

【地照】275 チセウ　❶地がてらす。〔徐陵、陳文帝哀策文〕天資ニ武德一、地照ニ文明一。❷ti⁴ chao⁴　地券。

【地燒】276 チヤケ　鬼火。狐火。〔世言考〕。

【地脊】277 チセキ　山脈。地のせぼねの意。〔孟郊、登ニ華嚴寺樓一望ニ終南山一贈ニ林校書兄弟一詩〕地脊亞爲レ崖、聳出冥冥中。

【地蓆】278 ti⁴ hsi²　ござ。むしろ。

【地積】279 チセキ　地面の廣さ。土地の面積。

【地籍】280 チセキ　❶所屬する家柄。身分家柄。〔南齊書、張敬兒傳〕凡廢立大事、不レ可ニ廣謀一、但袁褚遺寄、劉又國之近戚、數臣地籍實爲ニ膏腴一、人位並居ニ時望一、若レ此、不ニ與議一、復誰可レ得ニ共披ニ心胸一者哉。❷土地の所屬。〔白居易、議ニ百官職田一〕故稽ニ其地籍一而田則具存。

〔地籍簿〕281 ti⁴ chi² pu⁴　土地臺帳。

【地節】282 チセツ　❶植物の名。㋑青黏(**12**－**42564**・・452)の異名。〔本草、萎蕤〕釋名、女萎・葳蕤・萎移・委萎・萎香・熒・地節、發明、藏器曰、陳壽、魏志、樊阿傳云、青黏、一名黃芝、一名地節、此卽萎蕤、極似ニ偏精一、本功外主ニ聰明一、調ニ血氣一、令ニ人強壯一。〔魏志、樊阿傳、注〕佗別傳曰、青黏者、一名地節、一名黃芝、主下理ニ五藏一益中精氣上、本出ニ於迷入ニ山者一、見ニ仙人服一レ之、以告レ佗、佗以爲レ佳、輒語レ阿、阿又祕レ之、近者人見ニ阿之壽而氣力彊盛一怪レ之、遂責ニ阿所レ服、因ニ醉亂一誤道レ之、法一施、人多ニ服者一、皆有ニ大驗一。㋺枸杞(**6**－**14588**・・7)の異名。〔本草、枸杞、地骨皮〕釋名、枸檵・枸棘・苦杞・甜菜・天精・地骨・地節・地仙・卻老・羊乳・仙人杖・西王母杖、集解、頌曰、春生レ苗、葉如ニ石榴葉一而軟薄堪レ食、俗呼爲ニ甜菜一、其根名ニ地骨一。❷漢、宣帝、劉詢の年號。(B.C.69－B.C.66)

【地仙】283 チセン　❶地上に居る仙人。〔天隱子〕在レ人謂ニ之人仙一、在レ天曰ニ天仙一、在レ地曰ニ地仙一、在レ水曰ニ水仙一、能通ニ變之一曰ニ神仙一。〔白居易、池上卽事詩〕身閒富貴眞天爵、官散無レ憂卽地仙。❷安逸に日を過す人。〔五代史、張筠傳〕張筠居ニ洛陽一、擁ニ其貲一、以ニ酒色聲妓一自娛足者十餘年、人謂ニ之地仙一。〔風月堂詩話〕劉几築ニ室嵩山一、號ニ玉華庵主一、每乘レ牛吹レ笛、使ニ二妾和レ之、人目爲ニ地仙一。❸枸杞(**6**－**14588**・・7)の異名。地節(282)の❶の㋺を見よ。

〔地仙圓〕284 チセンヱン　當歸(**7**－**21890**・・25)の異名。〔事物異名錄、藥材、上、草類〕雲仙雜記、虢州別駕以ニ當歸一爲ニ地仙圓一、曰レ使ニ血海增レ光。

〔地仙丹〕285 チセンタン　❶仙藥の名。〔和漢三才圖會、灌木類、地骨皮〕地仙丹、春采ニ枸杞葉一、夏采レ花、秋采レ子、冬采レ根、並陰乾酒浸晒露、待レ乾爲レ末、煉蜜丸如ニ彈丸大一、每早晚各用ニ一丸一、細嚼以ニ百沸湯一下レ之、能除ニ邪熱一、明レ目輕レ身、一老人服レ之、壽百余、行走如レ飛、髮反レ黑、齒更生、陽事強健。❷圍棋の名手をいふ。〔稱謂錄、弈地仙丹〕蔣正子山房隨筆、永嘉俞德鄰宗文、與ニ道士聶碧窗一弈、俞屢北、有下稱爲ニ地仙丹一者上、國手、俞呼レ之至、紿レ聶云、某有レ僕能レ棋、欲レ試ニ數著一、不レ敢、聶俾ニ對枰一、連敗ニ於仙丹一、俞以ニ片紙一書ニ十字一示レ之云、可レ憐道士、碧不レ識ニ地仙丹一、聶大笑曰、吾固疑ニ其不一レ凡。

【地錢】286 チセン　❶地代。〔宋史、張齊賢傳〕吉州緣レ江、地雖ニ淪沒一、猶納ニ勾欄地錢一、編レ木而浮居者、名ニ水場錢一。❷苔の一種。ぜにごけ。濕地に生じ、葉に錢形の紋がある。〔淸異錄、草、綠衣元寶〕苔、一名地錢、一名綠衣元寶。

〔地錢草〕287 チセンサウ　芳草の名。陰濕地に生ずる。一名、連錢草。〔本草、積雪草〕釋名、胡薄荷・地錢草・連錢草・海蘇、恭曰、此草葉圓如レ錢、荊楚人謂レ之爲ニ地錢草一。

【地氈】288 ti⁴ chan¹　絨氈、毛氈の類。

【地蟬】289 ti⁴ ch'an²　みみず。聲が蟬に似てゐるからいふ。蚯蚓。歌女。地龍子。

【地租】290 チソ　❶土地所有者に對して課する收益稅。地所のねんぐ。地稅。地賦。〔唐書、魏徵傳〕修ニ洛陽宮一勞レ人也、收ニ地租一厚レ斂也。❷借地料。〔明疏鈔〕俱有ニ房租・地租一。

〔地租割〕291 チソワリ　地租を標準に、一定の割合で賦課徵收する附加稅。

【地鼠】292 チソ　ぢねずみ。二十日鼠。〔和漢三才圖會、鼠類、鼩鼱〕本綱、鼩鼱、似レ鼠小、卽今地鼠也。

【地層】293 チソウ　地皮のかさなり。地殼の層。

【地總】294 ti⁴ tsung³　街の取締りをする人。

【地俗】295 チゾク　土地の風俗。土俗。〔周禮、地官、土訓〕掌下道ニ方慝一、以詔ニ辟忌一、以知中地俗上。

【地碓】296 チタイ　からうす。唐臼。〔蘇軾、豆粥詩〕地碓舂レ秔光似レ玉、沙瓶煑レ豆軟如レ酥。

【地大】297 チダイ　❶土地が廣大である。領土の廣大な。〔戰國、秦策〕甘茂謂レ王曰、地大者固多レ憂乎。❷大地は大である。〔老子、二十五〕道大、天大、地大、王亦大。❸［佛］五大また四大の一。土をいふ。堅固を性とし、能持を用とし、一切の物質に周遍するから大といふ。又、眼・耳・鼻・舌・身等をいふ。〔大藏法數〕地以ニ堅礙一爲レ性、謂、眼耳鼻舌身等、名爲ニ地大一、若不レ假レ水則不ニ和合一、經云、髮毛爪齒皮肉筋骨等、皆歸ニ於地一、是也。

〔地大物衆〕298 チダイブツシユウ　土地が廣大で產物が豐富なこと。中國人の自國禮讚の常套語。〔韓愈、平ニ淮西一碑〕物衆地大、蘖ニ牙其閒一。

【地體】299 チタイ　地球。〔和漢三才圖會、天部、星〕星之大小、云云、六等得ニ地體三分之一一。

【地代】300 チダイ　❶他人の所有地を借りて居る者が地主に拂ふ借り賃。借地料。〔續百一錄、寬保二年十二月二十五日〕聖護院村、地代米三斗。❷地價。

【地搗】301 チツキ　土地をつき固めること。ちがため。

【地道】302 チダウ　❶地の道。〔易、謙〕地道卑而上行。〔中庸〕人道敏レ政、地道敏レ樹。〔管子、霸言〕用ニ地道一、擧ニ大事一。〔淮南子、繆稱訓〕欲レ知ニ地道一、物ニ其樹一。❷地中を掘つて作つた道。坑道。地突。〔後漢書、袁紹傳〕紹爲ニ地道一欲レ襲レ操。〔魏志、武帝紀〕公軍前後受レ敵、公乃夜鑿レ險爲ニ地道一。❸ti⁴ tao　㋑筋の正しい。本場の。純粹の。㋺其の土地の風。㋩正直。❹ミチ　㋑普通のあゆみ。普通の足並み。㋺正常な行動。かけひきなしのやり方。㋩堅實。質實。ぢみ。

〔地道貨〕303 ti⁴ tao huo⁴　本場の品。

〔地道无レ成〕304 チダウナスナシ　地道は自ら首唱して事物を成就しようとはしない。必ず天道の首唱を待つて然る後に成就することに努力し、且つそれを爲し遂げる。〔易、坤〕地道无レ成、而代有レ終也。〔疏〕其地道卑柔、无ニ敢先唱成一レ物、必待ニ陽始先唱一、而後代レ陽有レ終也。

〔得ニ地之道一者爲ニ三公一〕305 チノミチヲウルモノハサンコウタリ　地道を體得する者は三公となり得る。〔呂覽、行論〕得ニ天之道一者爲レ帝、得ニ地之道一者爲ニ三公一。

【地坼】306 チサク　土地がさける。〔禮、月令〕仲冬之月、氷益壯、地始坼、鶡旦不レ鳴、虎始交。〔史記、趙世家〕幽繆王遷五年、代地大動、地坼東西百三十步。〔淮南子、詮言訓〕大寒地坼水凝、火弗レ爲レ衰ニ其暑一、大熱鑠レ石流レ金、火弗レ爲レ益ニ其烈一。〔後漢書、五行志四〕順帝陽嘉二年六月丁丑、雒陽宣德亭、地坼長八十五丈。〔韓愈、桃源圖詩〕嬴顚劉蹶了不レ聞、地坼天分非レ所レ恤。

【地涿】307 チタク　鑛物の名。雲母(**12**－**42235**・・559)の異名。〔本草、雲母〕集解、弘景曰、按ニ仙經一、雲母有ニ八種一、云云、色雜黑而強肥者名ニ地涿一。

【地踏】308 ti⁴ t'a⁴　階段。踏段。又、飛び石。

〔地踏菰〕309 チタフコ　菌の名。地耳(201)の❷の異名。〔本草、地耳〕釋名、地踏菰、時珍曰、地耳亦石耳之屬、生ニ於地一者、狀如ニ木耳一、春夏生ニ雨中一、雨後卽早采レ之、見レ日卽不レ堪、俗名ニ地踏菰一、是也。

【地蛋】310 ti⁴ tan⁴　じやがいも。馬鈴薯。

【地毯】311 チタン　麻を原料とし、羊毛・牛毛又は絹絲などを交へて織つた織物。段通。〔元史、世祖昭睿順聖皇后傳〕宣徽院、羊臑皮置不レ用、后取レ

之、合縫爲㆓地毯㆒。

【地膽】312チタン 蟲の名。にはつつ。つちはんめうの異名。大蟻より大きく、翅あり、頭は黑く、尾は赤い。〔本草、地膽〕釋名、蚖青・青蠵。〔唐書、地理志一〕邠州新平郡、土貢、剪刀・火筯・蓽豆・湶豆・白密・地膽。〔名義抄〕地膽、蟲類。

【地段】313 ti^4 tuan^4 地域。地區。

【地壇】314チダン 大地を祀る壇。北平の安定門外に在る。明の嘉靖九年に建て、清は之に修繕を加へた。毎年夏至の日に大地を祀る。〔清會典、工部〕都城之丑爲㆓地壇㆒。〔注〕地壇在㆓安定門外㆒、中爲㆓方澤㆒、形方象㆑地、方折四十九丈四尺四寸、深八尺六寸、闊六尺、深中儲㆑水、北嚮二成、上成方六丈、下成方十丈六尺、均高六尺、上成正中六六、外八方均以㆓八八㆒、云云、壇內垣周五百四十九丈四尺、西北各三門、東南各一門、外垣周七百六十五丈、西嚮三門、角門一。

【地治】315チヂ 其の土地ををさめること。〔周禮、地官、大司徒〕凡萬民之不㆑服㆑教而有㆓獄訟㆒者、與㆘有㆓地治㆒者㆖、聽而斷㆑之。〔注〕有㆓地治㆒者、謂㆘鄉州及治㆓都鄙㆒者㆖也、鄭司農云、與㆘有㆓地治㆒者㆖聽而斷㆑之、與㆓其地部界所屬吏㆒共聽斷㆑之。

【地胄】316チチウ 家筋。家柄。〔顏氏家訓、雜藝〕王褒、地胄清華、才學優敏。

【地軸】317チヂク ❶大地の回轉を支へてゐると想像せられた心棒。又、大地の深奧。又、單に大地をいふ。坤軸。〔南齊書、樂志〕義滿㆓天淵㆒、禮昭㆓地軸㆒。〔木華、海賦〕似㆓地軸挺拔而爭迴㆒。〔庾信、齊王進㆓白兔㆒表〕德動㆓天關㆒、威移㆓地軸㆒。〔李白、明堂賦〕軋㆓地軸㆒以盤根。〔駱賓王、帝京篇〕五緯連㆑影集㆓星躔㆒、八水分㆑流橫㆓地軸㆒。❷地球自轉の中心軸、卽ち南北兩極を結んだ假想軸。

【地柣】318チチツ 閾シキミ(**11－41384**)の異名。〔爾雅、釋宮〕柣謂㆓之閾㆒。〔疏〕俗謂㆓之地柣㆒、一名閾。

【地聽】319チチヤウ 軍事上の防禦法の一つで、穴を掘つて罌カメを入れ、敵が地道を開掘する音を聞くこと。甕聽。〔通典、兵、守拒法、附〕兼令㆘人枕㆓空胡祿㆒臥㆖、有㆔人馬行㆓三十里外㆒、東西南北皆響、見㆓於胡祿中㆒、名曰㆓地聽㆒、則先防備。

【地場】320ヂバ ❶取引所の所在地。❷取引所附近に於ける取引員、及び常に取引所に出入する玄人連の總稱。

【地著】321チチヤク 其の土地に生まれて住みついてゐること。又、其の土地に安住してゐること。土著。〔漢書、食貨志上〕理㆑民之道、地著爲㆑本。〔注〕師古曰、地著、謂㆓安居㆒也。〔鼂錯、說㆓文帝㆒令㆓民入㆑粟受㆑爵〕不㆓地著㆒則離㆑鄉輕㆑家。

【地中】322チチユウ ❶土地の中。地內。地下。〔易、師〕地中有㆓水師㆒。〔周禮、地官、大司徒〕以㆓土圭之灋㆒測㆓土深㆒、正㆓日景㆒以求㆓地中㆒。〔孟子、滕文公下〕水由㆓地中㆒行、江淮河漢、是也。〔漢書、張敞傳〕地大震裂、火生㆓地中㆒。❷臍の下。臍下。〔雲笈七籤〕臍下爲㆓地中㆒、中有㆓五嶽四瀆水泉交通㆒。❸ヂチユウ 一寺院の地域內に在る附屬寺の稱。寺中。

【地中海】323チチユウカイ ❶海の名。歐羅巴洲と亞弗利加洲との間の海。〔坤輿圖說、意大利亞〕拂郎察東南、爲㆓意大利亞㆒、周圍一萬五千里、三面環㆓地中海㆒。❷地文學家の定める海洋の區別に於て、兩大陸の間に在る海、或は陸地の奧に深く入りこんでゐる海をいふ。

【地重】324チチヨウ 土地柄の重厚なこと。〔史記、貨殖傳〕關中自㆓汧雍㆒以東至㆓河華㆒、膏壤沃野千里、其民猶有㆓先王之遺風㆒、好㆓稼穡㆒、殖㆓五穀㆒、地重、重㆑爲㆑邪。〔注〕索隱曰、言㆑重㆓耕稼㆒也、正義曰、言㆘關中地重厚、民亦重難、不㆖㆑爲㆓邪惡㆒。

【地朕】325ヂチン 蔓草の名。にしきづた。地錦(101)の❶の異名。〔本草、地錦〕釋名、地朕・地噤・夜光・承夜。

【地陳】326ヂチン 用兵の一法で、丘陵・山川に據つて兵陣を布くこと。〔六韜、虎韜、三陳〕丘陵水泉、亦有㆓前後左右之利㆒、此謂㆓地陳㆒。

【地椹】327ヂチン 草の名。ふかつみ。石龍芮(**8－24024**··827)の異名。〔本草、石龍芮〕釋名、地椹・天豆・石能・魯果能・水堇・苦堇・堇葵・胡椒菜・彭根。

【地圖】328チヅ 海陸邦國の位置形狀、山川都邑の分布所在等を書きあらはした繪圖。地理圖。地圖といふ語は始めて周禮の地官、土訓に見える。漢の蕭何が得た秦の圖籍を始め、漢代にも輿地及び括地諸雜圖があつたが、晉書の裴秀傳に依れば、計里畫方に據る者は晉の裴秀の禹貢地域圖に始まるといふ。其の後、唐の賈耽も計里畫方圖を製したが、其の遺制と見るべき地圖は、僞齊の劉豫が阜昌七年に刻石した、西安碑林に現存の禹跡圖である。宋の蘇軾の歷代地理指掌圖等は計里畫方を用ひない。元の朱思本は廣輿圖を作り、計里畫方を用ひてゐる。明代には、之に據つて、羅念庵の廣輿圖、汪作舟の廣輿考、陳組綬の皇明職方圖が出で、此の外、何鏜の修攘通考、楊子恭の歷代國郡疆域圖、李茹春の地圖綜要、吳悌校の皇明輿地圖・混一疆理圖等がある。清代、康熙帝の領內實測は康熙四十七年に始まり、同五十六年、皇輿全覽圖を完成し、此の他、呂君翰の滿清輿地全圖、胡林翼の大清中外一統輿圖、馬徵麟の李氏歷代地理沿革圖、楊守敬・饒敦秩の歷代輿地沿革險要圖等があり、近刊では武昌亞新地學社編の精訂大中華民國分省圖、陳鎬基の中華最新地圖、丁文江等編の中國分省新圖等がある。〔周禮、地官、土訓〕掌㆘道㆓地圖㆒以詔㆓地事㆒云云㆖。〔戰國、趙策〕臣竊以㆓天下之地圖㆒案㆑之、諸侯之地、五㆓倍於秦㆒、料㆓諸侯之卒㆒、十㆓倍於秦㆒。〔戰國、燕策〕荊軻奉㆓樊於期頭函㆒、兩秦武陽奉㆓地圖匣㆒、以㆑次進。〔管子、七法〕審㆓於地圖㆒。〔後漢書、明德馬皇后紀〕帝按㆓地圖㆒。〔事物起原、州郡方域部、地圖〕春秋元命包曰、神農世怪義生㆓白阜㆒、圖㆓地形㆒、脈㆓水道㆒、注曰、怪義、白阜母名、圖㆓畫地形㆒、通㆓水道之脈㆒也、今有㆓地圖㆒、疑始㆓於此㆒。

【地丁】329チテイ ❶蒲公英(**9－31611**··169)の異名。〔本草、蒲公英〕釋名、耩耨草・金簪草・黃花地丁、時珍曰、名義未㆑詳、孫思邈千金方、作㆓鳧公英㆒、蘇頌圖經、作㆓僕公罌㆒、庚辛玉冊、作㆓鵓鴣英㆒、俗呼㆓蒲公丁㆒、又呼㆓黃花地丁㆒、淮人謂㆓之白鼓釘㆒、蜀人謂㆓之耳瘢草㆒、關中謂㆓之狗乳草㆒、案、土宿本草云、金簪草、一名地丁花、如㆓金簪頭㆒、獨腳如㆑丁、故以名㆑之。❷地租と人頭稅。清代、地賦(地租)には夏稅・秋糧等があり、丁賦(人頭稅)には市民・鄉民・富民・佃民・客民等があつて、之を上中下に區分したが、康熙五十年、丁賦を地賦に合せ、地丁と稱した。地丁銀。〔清會典、戶部〕凡賦役之法、各覈㆓其地丁之數㆒、析㆑之以㆓科則㆒、而約㆓於條鞭㆒。〔六部成語訂正、戶部、地丁、注解〕民間地畝丁口、向例、毎年由㆓地方官㆒照算升㆓征錢糧㆒、自㆘康熙年間、聖祖特恩將㆓丁口㆒併㆗入地畝㆖、一總征收、從㆑此不㆔再加㆓丁賦㆒、著爲㆑例。〔福惠全書、蒞任部、査交代〕地丁之外、凡有㆓錢糧㆒。

【地丁銀】330チテイギン 地丁の❷に同じ。〔清會典、戶部、凡徵賦有㆓耗羨㆒則提㆓於公㆒耗羨皆有㆑常、注〕毎地丁銀一兩、隨徵㆓耗羨㆒。

【地丁錢糧】331チテイセンリヤウ 地方官が前例に本づいて、毎年徵集する地賦と丁賦。〔六部成語、戶部、地丁錢糧、注解〕民間地畝丁口、均由㆓地方官㆒毎年按㆑例徵㆓收錢糧㆒、以供㆓國家倉庫之需㆒。

【地底】332チテイ 地のそこ。〔揚雄、甘泉賦〕漂㆓龍淵㆒而遷㆓九垠㆒兮、窺㆓地底㆒而上迴。〔後漢書、張衡傳〕追㆓慌忽於地底㆒兮。〔李白、遊㆓泰山㆒詩〕洞門閉㆓石扇㆒、地底興㆓雲雷㆒。

【地堤】333チテイ 中央が高く、兩側が段々と低くなつて居る地層。

【地鳥】334ヂドリ ❶其の土地に產した鳥。內地產の鳥。〔世間胸算用〕ぢどりの鴨。❷其の土地に產した雞。內地產の雞。

【地鐵】335ヂガネ 地金(96)の❷に同じ。

【地典】336チテン 黃帝の七輔(**1－6**··442)の一。〔後漢書、張衡傳〕方將師㆓天老㆒而友㆓地典㆒、與㆑之乎。〔注〕帝王世紀曰、黃帝以㆓風后㆒配㆓上台㆒、天老配㆓中台㆒、五聖配㆓下台㆒、謂㆓之三公㆒、其餘知㆓天規㆒紀㆓地典㆒。〔釋史、五、太古、黃帝紀〕論語摘輔象、黃帝七輔、風后受㆓金法㆒、天老受㆓天籙㆒、五聖受㆓道級㆒、知命受㆓糾俗㆒、窺紀受㆓變復㆒、地典受㆓州絡㆒、力墨受㆓準斥㆒。

【地點】337チテン 地上の或る一個所。一つの場所。〔張相文、塞北紀行〕是時燕魏夾㆑河爲㆑陣、其地點當㆑在㆓今薩拉齊境內㆒。

【地土】338チド ❶土地。土壤。又、處。地方。〔孝經緯〕社、地土之主、故封㆑土爲㆑社以報㆑功。〔唐書、賈耽傳〕耽嗜㆑觀㆑書、老益勤、尤悉㆓地理㆒、四方之人與㆘使㆓夷狄㆒者㆖見㆑之必從詢㆓索風俗㆒、故

天下地土區産、山川夷岨、必究知レ之。㊁ ti⁴ t'u³ 爐房（7—19566‥18）の土。銀粉が混入してゐるから賣買する。

【地棟】339（ヂムネ） 土藏の棟下の太い横木。

【地統】340（チトウ） 曆の名。殷の曆で、建丑の月（季冬）、卽ち夏の十二月を正月とするもの。殷正。地正。正朔（6—16255‥183）の㊀を見よ。〔禮、檀弓上、殷人尙レ白、注、以二建丑之月一爲二正物牙色白一、疏〕建丑之月、爲二地統一者、以下其物已吐レ牙、不レ爲二天氣始動一、物又未レ出、不レ得レ爲二人所一レ施レ功、唯在二地中一、含中養萌牙上、故爲二地統一。〔魏志、明帝紀〕於レ是有司奏以爲、魏得二地統一、宜下以二建丑之月一爲中正三月上。〔宋書、禮志一〕曆志曰、天統之正在レ子、物萌而赤、地統之正在レ丑、物化而白、人統之正在レ寅、物成而黑、但含二生氣一以微成著、故太極運二三辰五星於上一、元氣轉二三統五星於下一、登降周旋、終則又始、言三天地與レ人、所二以相通一也。

【地頭】341（チトウ） ㊀唐の稅法で、青苗錢（12—42564‥546）の㊀をいふ。〔唐書、食貨志一〕天下苗一畝、稅錢十五、市輕貨給二百官一手力課以二國用急不レ及レ秋、方二苗青一卽征レ之、號二青苗錢一、又有二地頭錢一。㊁地步。位置。〔朱子語錄〕此箇地頭、永不レ到二眞實地頭一。㊂（ヂトウ）㋑當該の場所。現地。〔中右記、五〕仰云、早遣二於地頭一、可レ被レ決歟。㋺平安時代、莊園の領主が土地管理のために現地に置いた莊官。㋩元曆二年、源賴朝が、行家・義經を捕へて全國の平和を維持するといふ名目で、勅許を得て、全國の莊園・公領に置いた家人。〔東鑑、五〕元曆二年十一月十二日、以二此次一、諸國交二御沙汰一、每二國衙・莊園一、被レ補二守護・地頭一者、強不レ可レ有レ所レ怖、早可下令二申請一給上。㋥室町の末、守護大名領制下に於て、大名から知行地を給與せられた家臣。㋭江戸時代、幕臣で一萬石以下の知行を領した者。又、各藩で知行地を與へられて徵稅の權を有した家臣。又、主として東北地方で、名子（ゴナ）を使役した地主。

〔地頭鬼〕342（チトウキ） 土地の匪徒で他の地方の匪徒を誘ひ來つて害をなす者をいふ。〔通俗編、神鬼、地頭鬼〕見二馬致遠青衫泪劇一。

〔地頭錢〕343（チトウセン） 地頭の㊀に同じ。

〔地頭蛇〕344（チトウダ） 無賴漢。〔桃花扇、賺將〕自レ古道、強龍不レ壓二地頭蛇一。

【地洞】345 ti⁴ tung⁴ トンネル。洞穴。

【地動】346（チドウ） ㊀土地が震動する。地震。〔漢書、元帝紀〕郡國被二地動災一甚者、無レ出二租賦一。〔魏志、董卓傳、注〕獻帝紀曰、京師地震、卓又問レ邕、邕對曰、地動陰盛、大臣踰レ制之所レ致也。㊁地球が動く。地動說を見よ。

〔地動儀〕347（チドウギ） 古代の地震計。〔後漢書、張衡傳〕造二候風地動儀一以二精銅一鑄成。

〔地動說〕348（チドウセツ） 太陽は宇宙の中心に靜止し、地球が太陽の周りを廻轉するといふ說。天動說の對。

【地德】349（チトク） 大地が萬物を生產し育成することをいふ。〔國語、魯語下〕天子大采朝レ日、與二三公九卿一祖二識地德一。〔注〕地德、所二以廣生一。〔淮南子、俶眞訓〕萬民猖狂、不レ知二東西一、含レ哺而游、鼓レ腹而熙、交被二天和一、食二于地德一。

【地慝】350（チトク） 土地から生ずる害毒物。瘴癘の氣など。〔周禮、地官、土訓〕道二地慝一以辨二地物一。〔注〕地慝、若二瘴蠱一然也。

【地突】351（チトツ） 坑道。地道（302）の㊁をいふ。〔資治通鑑、魏紀〕（明帝、太和二年）亮又爲二地突一、欲三踊二出於城裏一。〔注〕地突、地道也。

【地內】352（チナイ） ㊀地域の內。〔雜心論〕彼地內有二擾亂者一。㊁大地の中。地中。

【地熱】353（チネツ） ㊀土地の氣候があつい。地面が熱い。〔南方草木狀〕冬葉、薑葉也、苞苴物交、廣皆用レ之、南方地熱、物易二腐敗一、惟冬葉藏レ之、乃可レ持レ久。〔張說、岳州作詩〕日昏聞二鴟鳥一、地熱見二修蛇一。〔李紳、逾二嶺嶠一止二荒陬一抵二高要一詩〕雲蒸地熱無二霜霰一、桃李冬華匪二時變一。㊁地球の內部の熱。地心熱。

【地肺】354（チハイ） ㊀うきしま。浮島。〔海錄碎事、地、地〕金陵者、洞墟之膏腴、句曲之地肺、注云、其地肥良、故曰二膏腴一、水至則浮、故曰二地肺一。㊁山名。㋑江蘇省句容縣の東南、句曲山の一名。〔眞誥〕句曲、地肺、土良水淸、謂二之華陽洞天一。㋺河南省靈寶縣の西南。古の枯樅山。〔東觀漢記〕徐宣・樊崇、入至二弘農枯樅山下一、與二更始將軍蘇茂一戰。㋩陝西省商縣の南、商山の一名。〔地理通釋〕十道山川考、商山在二商州上洛縣南十四里一、亦名二地肺山一。㋥陝西省長安縣の南、終南山の一名。〔讀史方輿紀要、陝西、名山〕終南山、括地志、終南山、一名南山、一名橘山、一名楚山、一名秦山、一名周南山、一名地肺山、是亦以二終南一爲二秦山一也。

【地媒】355 ti⁴ mei² 土地賣買の仲介人。

【地方】357（チハウ） ㊀或る方面の土地を指していふ。〔管子、形勢解〕地方甚大。〔晉書、孝愍帝紀〕蒲子地方馬生レ人。㊁大地が方形なこと。〔淮南子、齊俗訓〕天之圓也、不レ得レ規、地之方也、不レ得レ矩。㊂地保（389）の㊁に同じ。〔皇朝通鑑、二十二〕地方一役最重。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕少頃、地方喚二巡更人一亦至。〔六部成語、戶部、地方、注解〕一鄉中之巡役也。㊃ ti⁴ fang ㋑場處。㋺點。ところ。㊄（ヂカタ）㋑室町幕府の職名。京都內外の家屋・宅地・店鋪・道路及び訴訟のことを掌つた。㋺江戸時代には、都市をいふ「府中」に對して諸國の田舍の地を指し、轉じて、田制の意となり、更に廣義になつて、土地及び租稅制度をいひ、次いで民政をいふに至つた。〔地方凡例錄〕俗語に地方と唱ふるは政務の事にて。㋩航海者が、沖に對して陸地に近い方をいふ語。㊅舞踊で、音樂を受持つ人人の稱。囃子は含まない。

〔地方官〕358（チハウクワン） 一般の地方行政の事務を取扱ふ官吏。〔福惠全書、蒞任部、定買辦〕豈忍下以二地方官一而反討中客商之便宜上。

〔地方缺〕359（チハウケツ） 地方官の官職。淸代には地方官の內、道府以下は土地の狀況と事務の繁簡によつて官缺に最要缺・要缺・中缺・簡缺の四種の差等が設けられた。缺は官職の意。〔淸會典、吏部〕除二北河東河管河直隸州同州同直隸州州判州判縣丞主簿巡檢牐官俱爲二要缺一外、其地方直隸州州同要缺。

〔地方債〕360（チハウサイ） 公債の一。都道府縣などの地方公共團體を債務者とする公債。

〔地方時〕361（チハウジ） 其の地の子午線を基準として定めた時刻。local time

〔地方色〕362（チハウシヨク） 其の地方特有の自然・風俗・人情等の色彩や氣分。ローカルカラー。

〔地方稅〕363（チハウゼイ） 都道府縣或は市町村が取立てる稅金。國稅の對。

〔地方版〕364（チハウバン） 中央に本社を有する新聞社が、各地方の讀者の便を計り、新聞の紙面の一部に、特に其の地方に關する記事だけを掲載したもの。

〔地方風〕365（チハウフウ） 溫度・地熱等の關係から、特に或る一地方に限つて起る風。

〔地方機關〕366（チハウキクワン） 地方行政を取扱ふ機關。

〔地方議會〕367（チハウギクワイ） 都道府縣會・市區町村會など、地方行政の議決機關。

〔地方行政〕368（チハウギヤウセイ） 行政區劃の各地方、卽ち都道府縣市町村等の行政。

〔地方自治〕374（チハウジチ） 地方團體が獨立の團體として、自己に屬する行政事務を自己の機關によつて行ふこと。

〔地方制度〕375（チハウセイド） 地方行政の組織・權限などに關する制度。

〔地方政府〕376（チハウセイフ） 民國で、中央政府に對して、省・市・縣政府等をいふ。中央政府が地域關係から管理し得ない事項を管理する。

〔地方團體〕377（チハウダンタイ） 一定の土地を基礎とする公共團體。都道府縣・市町村、或は其等の組合など。地方自治體。地方公共團體。地方自治團體。

〔地方長官〕378（チハウチヤウクワン） 地方官廳の長官。都知事・府縣知事・北海道廳長官など。

〔地方頭人〕379（ヂカタトウニン） 室町幕府の職名。京都內外の宅地・市廛・道路等の事を掌つたものの長官。地奉行。〔康富記〕嘉吉二年七月三日、今日地方頭人攝津掃部頭子藤原之親、任二中務大輔一。

〔地方法院〕380（チハウハフヰン） もと朝鮮總督府・臺灣總督府・關東廳の各〻の管轄下に在り、內地の地方裁判所・區裁判所に相當した官署。

〔地方分權〕381（チハウブンケン） 統治の權能が地方機關に分與せられてゐること。中央集權の對。

〔地方檢察廳〕382（チハウケンサツチヤウ） 地方裁判所及び家庭裁判所に對應して置かれる檢察廳。舊制の地

方裁判所檢事局に當る。

【地方裁判所】383（チハウサイバンシヨ） 下級裁判所の一。全國各都府縣に各〻一箇所と北海道に四箇所、合計四十九箇所ある。舊制の地方裁判所と區裁判所とを併せたものに當り、舊制の區裁判所の多くは、地方裁判所の支部となつた。

【地方審判廳】384（チハウシンパンチヤウ） 官廳の名。清の光緒三十二年、置く。地方裁判所。

【地方行政官廳】385（チハウギヤウセイクワンチヤウ） 地方行政官府に同じ。

【地方行政官府】386（チハウギヤウセイクワンプ） 一行政區域內の地方行政事務を取扱ふ機關。又、其の機關が其の職務を處理する所。卽ち都道府縣廳などの總稱。地方官府。地方行政官廳。

【地方長官會議】387（チハウチヤウクワンクワイギ） 內閣が都府縣知事・北海道廳長官など、地方行政官の最高官を集めて爲す會議。

【地包】388 ti⁴ pao¹ 薯（**9－32191**）の異名。

【地保】389（チハウ・チホ） ❶土地のかため。地の利。要害。〔法言、重黎〕或問、六國並其已久矣、一病一瘳、迄二始皇三載一而咸、時激、地保、人事乎。❷清代、土着の警察吏の稱。地甲。地方。地防。〔皇朝文獻通考、職役考、革下除里長地保看二守城門一之役上〕御史楊嗣璟疏言、直省州縣、城門應レ用二門軍一、或派二里甲一、或派二地保一、窮二民苦累一、請二一槩革除一、下レ部議行。〔清國行政法汎論、地方自治、鄉老及鄉約、備考〕清國有下稱二地保及地防一者上、土著之警察吏也、如レ爲下鄉長與二知縣一之仲介上。

【地寶】390（チハウ） 大地の寶。大地から生產する生活必需品。禾黍・蔬菜の類。〔呂覽、任地〕此告二民地寶盡死一。〔謝莊、和二元日雪花一應詔詩〕玄化盡二天祕一、凝功畢二地寶一。

【地灋】391（チハフ） 土地に關するおきて。〔周禮、地官、大司徒〕乃分二地職一、奠二地守一、制二地貢一、而領二職事一焉、以爲二地灋一而待二政令一。

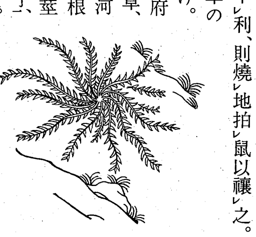
【地防】392（チバウ） ❶清代、土着の警察吏の一稱。地保。地甲。地方。〔清國行政法汎論、地方自治、鄉老及鄉約、備考〕清國有下稱二地保及地防一者上、土著之警察吏也、如レ爲下鄉長與二知縣一之仲介上。❷蟲の名。げぢげぢ。蚰蜒（**10－32918**・・1）の異名。〔本草、附錄、諸蟲〕地防、別錄曰、令二人不一レ飢不レ渴、生二黃陵一、狀如レ蠕、居二土中一。

【地望】393（チバウ） 地位と名望。門地勢望。良い家柄。〔唐書、柳沖傳〕善言レ譜者、繫二之地望一而不レ惑、質二之姓氏一而無レ疑、綴二之婚姻一而有レ別。〔李商隱、五言述德抒情詩一首獻二上七兄僕射相公一〕耿賈官勳大、荀陳地望清。〔北夢瑣言〕郎君籍二如レ是地望一、作二如レ是行止一。

【地白】394（チハク） ❶地面が白い。〔李白、嘲二王歷陽不一レ肯レ飲レ酒詩〕地白風色寒、雪花大如レ手。❷鳥の名。鶺鴒の大きなもの。〔粵志〕鶺之大者曰二地白一、惟行レ地不レ能二天飛一、故曰二地白一、人家畜レ之、以治二白蟻一。❸瓜蔞（**7－21371**・・71）の根の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕地白、瓜蔞根。❹（ヂシロ） 織物などの地の白いこと。しろぢ。〔源平盛衰記、三十九、重衡酒宴事〕地白の帷。

【地拍】395（チハク） 獸の名。田鼠の一種。〔遼史、國語解〕地拍、田鼠名、正旦日上、於二窗間一擲二米團一、得二隻數一爲レ不レ利、則燒レ地拍レ鼠以禳レ之。

【地柏】396（チハク） 草の名。くらまごけ。つちいね。〔韻府引、本草〕地柏草、生二蜀中山谷一、河中府亦有レ之、根黃、狀如レ絲、莖細、上有二黃點子一、無二花葉一、三月生。



地柏（三才圖會）

【地魄】397（チハク） 地の神。地祇。〔雲笈七籤〕木精天魂、金液地魄。〔呂巖、五言詩〕虎嘯天魂住、龍吟地魄來。〔葛長庚、贈二雷怡眞一詩〕地魄天魂日月精、奪二來鼎內一及レ時烹。

【地麥】398（チバク） 藥草の一種。箒草。地葵。地膚。にはくさ。まきくさ。陰痿・利尿等の病氣に特效がある。〔本草、地膚〕釋名、地葵・地麥・落帚・獨帚・王篲・王帚・掃帚・益明・涎衣草・白地草・鴨舌草・千心妓女、時珍曰、地膚、地麥、因二其子形似一也。

【地縛】399（ヂシバリ） 草の名。菊科、黃瓜菜屬。葉は楕圓形、又は長倒卵形で、長い葉柄があり、往々缺刻を具へてゐる。我が國の山野に自生し、春夏に亙つて黃色の花を開く。

【地板】400 ti⁴ pan³ 板の閒。ゆかいた。床板。

【地番】401（チバン） 耕地に於ける土地臺帳の記載番號。住宅地に於ける番地に相當するもの。

【地盤】402（チバン） ❶大地がわだかまる。地蟠。〔張祜、洞庭南館詩〕地盤雲夢角、山鎭洞庭心。❷堪輿家の用ひる羅針盤。〔九天元女青囊海角經、浮針方氣之圖〕元女畫以二太陽出沒一而定二方所一、夜以二子宿分野一而定二方氣一、因二蚩尤一而作二指南一、是以得下分レ方定レ位之精微上、始有二天干方所一、地支方氣一、後作二銅盤合局二十四向一、天干輔而爲二天盤一、地支分而爲二地盤一、立レ向納レ水從二乎天一、格レ龍收レ沙從二乎地一、今之象占以正二針天盤一、格レ龍以縫二針地盤一、立レ占、圓者從レ天、方則從レ地以明二地紀一。❸術數家の語。地上十二辰の方位をいふ。〔奇門遁甲、烟波釣叟歌句解下〕一本云、天盤天蓬加二地盤一、爲二伏吟最凶一、餘不レ與。❹（ヂバン） ㋑土地。地殼。㋺建物などを据置く基礎となる地面。土臺。㋩物を載せる臺。㋥事を爲す根據地。ねじろ。なはばり。勢力範圍。㋭成功した地位または場所。

【地盤割】403（ヂバンワリ） 選擧に於て勢力範圍の區劃を協定すること。

【地比】404（チヒ） 土地の近い所から次第に遠くに及ぶこと。〔史記、平準書〕南陽・漢中以往郡、各以二地比一給二初郡吏卒一、奉二食幣物一。〔注〕索隱曰、南陽漢中已往之郡、各以二其地比近一給二初郡一。〔漢書、食貨志下〕南陽・漢中以往、各以二地比一給二初郡吏卒一、奉二食幣物一。〔注〕師古曰、地比、謂下依二其次第一、自レ近及上レ遠也。

【地皮】405（チヒ） ❶地のうはかは。地面。地殼。〔韓愈、題二于賓客莊一詩〕楡莢車前蓋二地皮一、薔薇蘸レ水筍穿レ籬。❷ti⁴ pʻi² ㋑地所。㋺地方。

【地皮地骨】406 ti⁴ pʻi² ti⁴ ku³ 上土・下土とわかれる地權をいふ。埋立地に行はれる。埋立以前の其の地權の所有者が地骨主で、埋立工事を施し其の埋立地に經營してゐるものを地皮主といふ。

【地痞】407 ti⁴ pʻi³ 地方の無賴漢。地まはり。地棍。

【地脾】408（チヒ） 沙蝨（**6－17212**・・99）の異名。〔淮南畢萬術、蓬活地脾〕沙虱、一名蓬活、一名地脾。〔本草、沙蝨〕釋名、蝢螌、蓬活・地脾。

【地濱】409（ヂハマ） 圍碁で敵の石を圍み取つて自分の有とした地。

【地府】410（チフ） 道家で、冥府をいふ。冥中。〔沖黃眞經〕地府除籍天錄名。

【地符】411（チフ） 大地の出すめでたいしるし。天瑞の對。〔宋書、符瑞志中〕赤龍河圖者、地之符也、王者德至二淵泉一、則河出二龍圖一。〔王融、三月三日曲水詩序〕天瑞降、地符升。〔何遜、七召〕天瑞磊砢而相尋、地符氛氳而不レ少。

【地符均稅之法】411′（チフキンゼイノハフ） 宋代、肥瘠によつて土地の等級を定め、租稅を公平にする法。〔宋史、食貨志上二〕神宗患二田賦不一レ均、熙寧五年、重修二定方田法一、詔二司農一、以二均稅條約幷式一頒二之天下一、東西南北、以二各千步一、當二四十一頃六十六畝一百六十步一爲二一方一、歲以二九月一、縣委令佐、分レ地計量、隨二陂原平澤一而定二其地一、因二赤游黑壚一而辨二其色一、方量畢、以二地及色一、參二定肥瘠一而分二五等一、以定二稅則一、至二明年三月一畢、揭以示レ民、一季無レ訟、卽書二戶帖連莊帳一付レ之、以爲二地符均稅之法一、縣各以二其租額稅數一爲レ限。

【地傅】412（チフ） 其の土地の附近の人。〔周禮、秋官、朝士〕凡屬レ責者、以二其地傅一而聽二其辭一。〔注〕玄謂、云云、以二其地之人相比近一、能爲レ證者來、乃受二其辭一爲レ治レ之。

【地膚】413（チフ） 草の名。はばきぎの異名。にはくさ。地麥。地葵。〔本草、地膚〕釋名、地葵・地麥・落帚・獨帚・王蔧・王帚・掃帚・益明・涎衣草・白地草・鴨舌草・千心妓女、時珍曰、地膚、地麥、因二其子形似一也。

【地賦】414（チフ） 地租。〔清會典、戶部〕凡賦、有二地賦一、有二丁賦一、役有二均徭一、有二支驛一。

【地輻】415（ヂフク） 門のしきみ。門閾。〔甲陽軍鑑、十五〕門ぢふくの事。

【地腹】416 ti⁴ fu⁴ 土地の中。地下。

【地物】417（チブツ） ❶土地に產する物。土產。〔周禮、地官、土訓〕掌下道二地圖一以詔二地事一、道二地慝一以辨二地物一、而原二其生一以詔中地求上。❷地上にある物。立木・岩石の類。

【地分】418（チブン） ❶地位。〔漢書、高帝紀〕又加二惠於

諸侯王有㆑功者、使㆑得㆑立㆓社稷㆒、地分已定。❷土地が分れる。〔戰國、趙策〕智伯身死、國亡地分、爲㆓天下笑㆒。〔李紳、早渡㆓揚子江㆒詩〕地分㆓呉楚㆒星辰內、水迫㆓滄溟㆒宇宙間。❸地の分れたもの。地の分身。身體骨骸をいふ。〔列子、天瑞〕精神者天之分、骨骸者地之分。

【地文】419 チブン ❶大地のあや。山川・丘陵・池澤などをいふ。〔莊子、應帝王〕鄕吾示㆑之以㆓地文㆒。〔新論、愼言〕日月者天之文也、山川者地之文也、言語者人之文也。❷藥草の一種。半夏(2－2707‥18)の❶の異名。〔急就篇、四、半夏皁莢艾橐吾、注〕半夏、一名地文。〔本草、半夏〕釋名、守田・水玉・地文・和姑。

〖地文學〗420 チブンガク チモンガク 地球と天體との關係、及び地球其のものの狀態・變化並にそれを包圍する氣圈・水圈等に起る諸般の現象を研究する科學。

【地平】421 チヘイ ❶地が平かに治まること。〔越絕書、越絕外傳枕中〕聖人上知㆑天、下知㆑地、中知㆑人、此之謂㆓天平地平㆒。❷土地が平らである。〔魏書、安定王休子燮傳〕馮翊面㆓華渭㆒、包㆓原澤㆒、井淺地平、樵牧饒廣。〔劉禹錫、八月十五日夜桃源翫㆑月詩〕羣動翛然一境中、天高地平千萬里。

〖地平線〗422 チヘイセン 陸地と天と相接する水平の一直線。天と地との境目のすぢ。

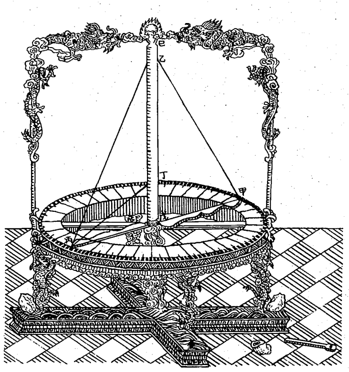
〖地平面〗423 チヘイメン ❶大地の平面。❷一地點で地球の半徑に直角な平面。

〖地平緯儀〗424 チヘイヰギ 清の康熙十二年に歐洲人の作つた器械で、北京の欽天監に備へた。地平經儀を見よ。

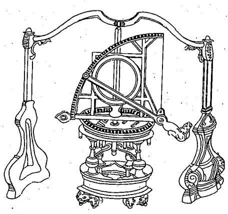
〖地平經儀〗425 チヘイケイギ 陸地測量等に用ひる器械。清の康熙十二年に、白耳義國人の南懷仁に命じて作らせたもので、北京の欽天監に備へた。拳匪の亂に獨逸軍に奪ひ去られたが、歐洲大戰の後、還付せられた。〔清會典事例、欽天監、職掌、推算測檢〕康熙十二年、新製儀器告㆑成、一爲㆓天體儀㆒、一爲㆓黃道經緯儀㆒、一爲㆓赤道經緯儀㆒、一爲㆓地平經儀㆒、一爲㆓地平緯儀㆒、一爲㆓紀限儀㆒、安㆓設觀象臺上㆒、舊儀移㆓置臺下別室㆒。

〖地平天成〗426 チヘイテンセイ 天地の治まること。〔書、大禹謨〕帝曰、兪、地平天成、六府三事允治、萬世永賴、時乃功。

〖地平經緯儀〗427 チヘイケイヰギ 陸地測量等に用ひる器械。清の康熙帝が紀利安に命じて增作させたもの。北京の欽天監に備へた。〔清會典事例、欽天監、職掌、推算測檢〕康熙五十四年、御製地平經緯儀一座、安㆓設觀象臺上㆒。



地平經儀（古今圖書集成）



地平經緯儀（古今圖書集成）

【地坪】428 ヂツボ 地面の坪かず。〔運步色葉集〕地坪。

【地屛】429 ti^{4} p'ing^{2} 庭のついたて。

【地表】430 チヘウ 大地の表面。地面。〔謝莊、月賦〕若夫氣霽㆓地表㆒、雲斂㆓天末㆒。〔荀濟、贈㆓陰涼州㆒詩〕海曲窮㆓地表㆒、江源表㆓天際㆒。〔李中、廬山詩〕勢雄超㆓地表㆒、翠盛接㆓天心㆒。

【地癖】431 チヘキ 田地を購入するくせ。好んで田地を購入すること。〔唐書、李憕傳〕李憕通㆓左氏春秋㆒、頗殖㆑產、伊川占㆓膏腴㆒、自㆑都至㆓闕口㆒、疇野彌望、時謂㆓地癖㆒。〔書言故事大全、富厚類〕置㆓田產㆒多者、有㆓地癖膏腴㆒。

【地鼈】432 チベツ 蟲の名。おめむし。土鼈(3－4867‥370)に同じ。〔本草、䗪蟲〕釋名、地鼈・土鼈・地蜱蟲・簸箕蟲・蚵蚾蟲・過街。

【地邊】433 チヘン 土地が邊境に在る。場所がかたよつてゐる。〔後漢書、公孫述傳論〕昔趙佗自王㆓番禺㆒、公孫亦竊㆓帝蜀漢㆒、推㆘其無㆓他功能㆒、而至㆓於後㆒亡者㆖、將㆑以㆔地邊處遠、非㆓王化之所㆑先乎。〔謝靈運、曇隆法師誄〕行久節移、地邊氣改。

【地變】434 チヘン 地上の異變。地震・海嘯の類。地異。〔漢書、劉向傳〕天變見㆓於上㆒、地變動㆓於下㆒。〔魏書、崔浩傳〕牧犍劣弱、諸弟驕恣、爭㆑權縱橫、民心離解、加比年以來、天災地變、都在㆓秦涼㆒、成㆑滅之國也。〔詩說〕十月之交、幽王之時、天變見㆓于上㆒、地變動㆓于下㆒、而姦臣亂㆓政于外㆒、嬖妾敗㆓德于內㆒、大夫憂㆓亂亡之將㆑至、故作㆓是詩賦㆒也。

【地步】435 チホ ❶自己の居る地位。たちば。〔西湖志餘〕耿聽聲者、能嗅㆓衣服㆒、以知㆓吉凶貴賤㆒。郭逵爲㆓殿師㆒、耿謁㆑之曰、君部中有㆓三節度㆒。問、是何人。曰、周虎・彭洛・夏震也。郭曰、周彭地步、或未㆑可㆑知、震安得㆓遽爾㆒耶。曰、吾所㆑見如㆑此、悉如㆓其言㆒。❷地段をいふ。地區。〔宋史、河渠志四〕據㆓所㆑占地步㆒、爲㆘除㆓其賦㆒詔令頒行㆖。❸場合。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕存㆓一追徵地步㆒。

【地畝】436 チホ 田地。田畑の地割。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕地畝若干、應㆑徵銀糧若干。

【地鋪】437 チホ 地に敷く。床に敷く。又、其のもの。〔禮、曲禮上、毋㆑踖㆑席、疏〕踖、猶㆑躐也、席既地鋪、當㆑有㆓上下㆒、將㆑就㆑坐、當㆓從㆑下而升㆒、當㆓己位上㆒、不㆓發㆑初從㆑上、從㆑上爲㆑躐㆑席也。

【地苺】438 チマイ チバイ 草の名。蛇苺の異名。くちなはいちご。〔本草、蛇苺〕釋名、蛇藨・地苺・蠶苺。

【地米】439 ヂマイ 其の土地に產する米。

【地毛】440 チマウ 莎草(9－31040‥6)の異名。香附子。〔本草、莎草香附子〕釋名、雀頭香・草附子・水香稜・水巴戟・水莎・侯莎・莎結・夫須・續根草・地藾根・地毛。

【地網】441 チマウ 地のあみ。地に張るあみ。地羅。〔宣和遺事、前集、下〕天羅・地網。

【地味】442 チミ ❶地上に自然に生ずるものの味。〔引契經〕劫初時、人無㆓男女根㆒、形相不㆑異、後食㆓地味㆒、男女根生。❷土地の肥瘠。土壤のたち。地質。❸ヂミ はでないこと。質素。樸素。

【地脈】443 チミヤク ❶地層の連なりつづくすぢみち。地防。土脈。又、大地をいふ。〔史記、蒙恬傳〕不㆑能㆑無㆑絕㆓地脈㆒。❷地中を流れる水の通路。〔朱德潤、題㆓周仲傑古泉㆒詩〕鑿㆑池疏㆓地脈㆒、疊㆑石種㆓雲根㆒。〔研北雜志〕呉興人說、久雨遇㆑雷、地脈必開、山爲㆑之發㆑洪。

〖縮㆓地脈㆒〗444 チミヤクヲチヂム 大地を縮めて、遠い土地をも近くすること。仙術で行ふ法。〔神仙傳〕費長房遇㆓壺公㆒、有㆓神術㆒、能縮㆓地脈㆒、千里聚在㆓目前㆒、放㆑之復如㆑舊。

【地名】445 チメイ 土地の名。〔漢書、地理志上〕先王之迹既遠、地名又數改易。〔庾信、哀江南賦〕始則地名全㆑節、終則山稱在㆑人。

【地鳴】446 チメイ ❶ぢなり。地盤が振動してなりひびくこと。❷地上で鳴る。〔庾信、故周大將軍義興公蕭太墓誌銘〕鼓角地鳴、將軍天落。

【地謎】447 チメイ なぞの一種。〔東京夢華錄〕正月十五日元宵、大門前、自㆓歲前冬至㆒後、云云、奇術異能、歌舞百戲、鱗鱗相切、樂聲嘈雜十餘里、云云、其餘賣藥・賣卦・沙書・地謎、奇巧百端、日新㆓耳目㆒。

【地面】448 ヂメン ❶土地の表面。つちの上。地上。地表。〔汪元量、湖州歌〕歌風臺畔水泫泫、地面官人餽㆓酒葷㆒。〔元史、天文志一〕畫㆓十二辰位㆒、以準㆓地面㆒。❷とち。ぢしよ。地址。❸ti^{4} mien^{4} ㋑地方。㋺警察。

〖地面官〗449 ti^{4} mien^{4} kuan^{1} 警官。

〖地面持〗450 ヂメンモチ 多くの地所を持つ人。

【地目】451 チモク 土地を其の利用上から分類した種目。例へば田・畑・宅地・牧場・原野・鹽田・鑛山等(以上第一種地)、墳墓地・公衆用道路・運河用地(以上第二種地、固定資產稅の課せられない土地)等の地目がある。

〖地目變換〗452 チモクヘンクヮン 地目をかへること。例へば、田地を宅地にかへるなど。

【地門】454 チモン ❶大地の門。〔徐陵、陳文皇帝哀冊文〕力折㆓天柱㆒、才傾㆓地門㆒。❷ti^{4} men^{2} 六門頭といふ賭具の一つの位置の名。

【地紋】455 ヂモン 織物・染物などの地模樣。

【地羊】456 チヤウ 犬の異名。〔本草、狗〕釋名、犬、地羊、時珍曰、狗、齊人名㆓地羊㆒、俗又諱㆑之、以㆑龍

稱㆑狗、有㆓烏龍・白龍之號㆒。

〖地羊鬼〗457 チヤウキ 雲南省に住む蠻族の名。〔滇南雜志〕地羊鬼、短髮黃睛、性奸狡嗜㆑利、出沒不㆑常、與㆑人相讐、能行㆓妖術㆒、又置㆓蠱於飲食中㆒。

〖地羊鮮〗458 チヤウセン 植物の名。白鮮(**8**－22678‥712)の異名。〔本草、白鮮〕釋名、白羶・白羊鮮・地羊鮮・金雀兒椒。

【地陽】459 チヤウ 火の異名。〔事物異名錄、器用、火〕「法苑珠林、火爲㆓地陽㆒。

【地約】460 チヤク 土地に關する約束。〔周禮、秋官、司約〕治㆓地之約㆒次㆑之。〔注〕地約、謂㆓經界所㆑至、田萊之比㆒也。〔史記、晉世家〕已而倍㆓其地約㆒。

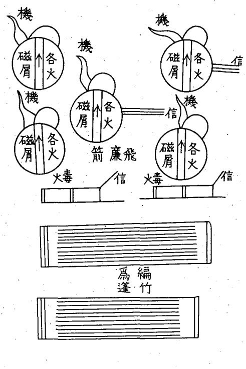
【地楡】461 チユ 草の名。われもかう。〔正字通〕地楡、草名、初生布㆑地、獨莖直上、葉似㆑楡。〔本草、地楡〕釋名、弘景曰、其葉似㆑楡而長、初生布㆑地、故名。

【地輿】462 チヨ 地球。大地。坤輿。輿は、車の物を載せる部分。宇宙を車に譬へれば、天は蓋、地は輿に當る。〔淮南子、原道訓〕以㆑天爲㆑蓋、以㆑地爲㆑輿。〔後漢書、延篤傳〕當㆓此之時㆒、不㆑知㆓天之爲㆑蓋、地之爲㆑輿。〔熊曜、琅琊臺日賦〕傾㆓地輿㆒而通㆓水府㆒、吸㆓天蓋㆒而駭㆓長鯨㆒。

【地螺】463 ti^4 luo^2 ひねりごま。

【地羅】464 チラ ❶地に張るあみ。〔六韜、虎韜、軍用〕白刃接、張㆓地羅㆒。❷ti^4 lo^2 磁石。

【地雷】465 チライ 豫め地中に爆發物を埋め置き、敵が其の上を通過する時、爆裂せしめるしかけ。



地雷（天工開物）

〔天工開物、火器〕地雷埋㆓伏土中㆒、竹管通㆑引、衝㆑土起擊、其身從㆓其炸裂㆒、所謂橫擊、用㆑黃多者。〔兵略纂聞〕製㆓地雷㆒、穴㆑地丈許、櫃㆓藥於中㆒、以㆑石滿覆、更覆以㆓沙石㆒、與㆑地平、伏㆓火于下㆒、可㆓以經㆑月、繫㆓其發機于地面㆒、過者蹴㆑機、則火墜發、石飛殺㆑人。〔和漢三才圖會、兵器、地雷〕登壇必究云、地雷以㆓生鐵㆒鑄成、實㆓藥斗許㆒、檀木砧砧至㆑底、砧內空心裝㆓藥線一條㆒、擇㆓寇必由之地㆒、掘㆑地作㆑坑、連連數十、埋㆓地雷于坑中㆒、內用㆓少竹筒㆒通㆓藥線㆒、土掩如㆑舊、機關藏㆑火、賊不㆑知而踏動、則地雷從㆑下震起、火焰沖㆑天、鐵塊如㆓飛蝗㆒着㆑人卽死、乃諸葛孔明之祕器也。

〖地雷火〗466 チライクワ 地雷に同じ。

【地籟】467 チライ 地の發する音響。木の穴や谷の口などに當つて生ずる風の音。人籟(**1**－344‥483)・天籟(**3**－5833‥1452)の對。〔莊子、齊物論〕子游曰、地籟、則衆竅是已。〔疏〕地籟、竅穴之徒。〔蘇軾、九成臺銘〕世無㆓南郭子綦㆒、則耳未㆔嘗聞㆓地籟㆒也、而況得㆑聞㆓其天籟㆒。〔元好問、空山何巨川虛白菴詩〕空谷自能生㆓地籟㆒、淨雲爭得翳㆓天光㆒。

【地牢】468 チラウ 地を掘つて作つた獄屋。土牢(**3**－4867‥412)に同じ。〔北史、祖珽傳〕牢者地牢也、乃爲㆓深阬㆒、置㆓諸內㆒。〔魏書、楊津傳〕津長史李裔、引㆑賊踰㆑城、賊入轉㆑衆、津苦戰不㆑敵、遂見㆓拘執㆒、洛周脫㆓津衣服㆒、置㆓地牢下㆒數日、欲將㆑烹㆑之、諸賊還相諫止、遂得㆑免㆑害。

【地狼】469 チラウ 獸の名。地中に住む犬。〔晉書、五行志中〕輔國將軍孫無終、家㆓于既陽㆒、地中聞㆓犬子聲㆒、尋而地坼、有㆓二犬子㆒、案、尸子曰、地中有㆑犬、名㆓地狼㆒。〔宋書、五行志二〕夏鼎志曰、掘㆑地得㆑狗、名曰㆑賈、尸子曰、地中有㆑犬、名曰㆓地狼㆒、同實而異名也。

【地絡】470 チラク 土地のつらなり。土地の脈絡。地脈。又、土地。大地。〔後漢書、隗囂傳〕分㆓裂郡國㆒、斷㆓截地絡㆒。〔注〕絡、猶㆓經絡㆒也、謂㆘莽分㆓坼郡縣㆒、斷㆗割疆界㆖也。〔何承天、白鳩頌〕洽㆓惠和於地絡㆒、燭㆓皇明於天區㆒。〔王褒、上庸公陸騰勒功碑〕御㆓六氣于天樞㆒、頓㆓八紘于地絡㆒。

【地臘】471 チラフ 道家で行ふ陰曆五月五日の祭。〔雲笈七籤、齋戒說〕雜齋法、五月一日名㆓天臘㆒、五月五日名㆓地臘㆒。

【地卵】472 チタマゴ 其の土地に產する卵。

【地利】473 チリ ❶地形が要害堅固なこと。地の要害。〔荀子、富國〕下失㆓地利㆒。〔梁簡文帝、度關山樂府〕力農爭㆓地利㆒、轉戰逐㆓天時㆒。❷土地から生產する利益。地の生產物。地產。〔書、周官〕司空掌㆓邦土㆒、居㆓四民㆒、時㆓地利㆒。〔禮、禮運〕祀㆓社于國㆒、所㆔以列㆓地利㆒也。〔疏〕地出㆑財、故云㆑列㆓地利㆒。〔孝經、庶人章〕因㆓天之道㆒、分㆓地之利㆒、謹㆑身節㆑用、以養㆓父母㆒。〔管子、牧民〕不㆑務㆓天時㆒、則財不㆑生、不㆑務㆓地利㆒、則倉廩不㆑盈。

〖地利不㆑如㆓人和㆒〗474 チノリハヒトノワニシカズ 地形上の要害な所を得ても、人々の和合團結の力には及ばない。〔孟子、公孫丑下〕天時不㆑如㆓地利㆒、地利不㆑如㆓人和㆒。

【地里】475 チリ 土地の里數。〔新書、制不定〕地里蚤定。〔杜甫、哭㆓王彭州掄㆒詩〕蜀路江干窄、彭門地里遙。〔事物紀原、州郡方城部、地里〕春秋命曆序曰、神農度㆓地形㆒、甄㆓度四海㆒、東西九十萬里、南北八十一萬里、然則炎帝始有㆓里數㆒矣、淮南子則曰、萬民喜置㆑堯爲㆓天子㆒、於㆑是天下廣狹險易遠近始有、道里之起、自㆓陶唐氏㆒始也、按㆓黃帝內傳㆒、有㆓記里車㆒、則里始㆓於炎帝㆒明矣。

【地理】475′ チリ ❶地の高低廣狹等の狀態。地鼈。〔易、繫辭上〕仰以觀㆓天文㆒、俯以察㆓地理㆒。〔禮、禮器〕天時有㆑生也、地理有㆑宜也。〔疏〕地之分理、自然各有㆑所㆑宜、若㆘高田宜㆓黍稷㆒、下田宜㆗稻麥㆖是也。❷人の住む陸地の位置・形狀、河海山嶽の所在・名稱、邦國都邑の配置・人文等の有樣。〔舊唐書、孔述睿傳〕述睿精㆓於地理㆒、在㆑館乃重㆓修地理志㆒。〔元史、劉秉忠傳〕尤邃㆓於易及邵氏經世書㆒、至㆓於天文地理、律曆三式、六壬遁甲之屬㆒、無㆑不㆓精通㆒、論㆓天下事㆒、如㆑指㆓諸掌㆒。❸大地。地脈。地絡。地鼈(480)を見よ。❹土地に關する占ひ。

〖地理學〗476 チリガク 地理を研究する學問。地文學。

〖地理志〗477 チリシ 地理を記した志類。二十四史の內、漢書・後漢書(郡國志)・晉書・宋書(州郡志)・南齊書(州郡志)・魏書(地形志)・隋書・唐書・舊唐書・五代史(職方考)・舊五代史(郡縣志)・宋史・遼史・金史・元史・明史にある。地形志。〔漢書、地理志上〕昔在黃帝、作㆓舟車㆒以濟㆓不通㆒、旁行㆓天下㆒、方㆓制萬里㆒、畫㆑壄分㆑州、得㆓百里之國萬區㆒。〔漢書、敍傳下〕坤作㆓墬埶㆒、高下九則、自㆘昔黃唐經㆓略萬國㆒、燮㆓定東西㆒、疆㆗理南北㆖、三代損益、降及㆓秦漢㆒、革㆓剗五等㆒、制㆓立郡縣㆒、略表㆓山川㆒、彰㆓其剖判㆒、述㆓地理志第八㆒。〔歷代地理志韻編今釋、凡例〕二十三史有㆓地志㆒者、漢書・續漢書・晉書・宋書・南齊書・北魏書・隋書・新唐書・新五代史・宋史・遼史・金史・元史・明史、凡十四史。

〖地理圖〗478 チリヅ 地圖。〔玉海、地理、地理圖〕神農地形圖。

〖地理的分布〗479 チリテキブンプ 氣候・食物・外敵等の關係によつて、動植物が地方的に分布してゐること。

【地鼈】480 チリ 地理(475′)の❸に同じ。〔揚雄、劇秦美新論〕荷㆓天衢㆒、提㆓地鼈㆒。〔注〕善曰、孔安國尙書傳曰、鼈、理也、上荷㆓天道㆒、而下提㆓地理㆒。

【地栗】481 チリツ 草の名。烏芋(**7**－18998‥16)の異名。〔本草、烏芋〕釋名、鳧茈・鳧茨・葧薺・黑三稜・芍・地栗。

【地龍】482 チリヨウ 地中の龍。〔南史、王僧辯傳〕三月庚寅、有㆓兩龍㆒、自㆓城西江中㆒、騰躍升㆑天、五色分明、遙映㆓江水㆒、百姓咸仰㆑面目㆑之、父老或聚而悲、竊相謂曰、地龍已去、國其亡乎。

〖地龍散〗483 チリヨウサン 藥の名。〔元好問、中州集苑中詩序〕貞祐中、高琪當㆑國、專以㆓威刑㆒肅㆑物、士大夫被㆓捃摭㆒者、笞辱與㆓徒隸㆒等、醫家以㆑酒下㆓地龍散㆒、投以㆓蠟丸㆒、則受㆑杖者失㆓痛覺㆒、此方大行㆓于時㆒。

〖地龍子〗484 チリヨウシ 蟲の名。蚯蚓(**10**－32916‥1)の異名。〔本草、蚯蚓〕釋名、螼螾・朐䏰・堅蠶・蛩蟺・曲蟺・土蟺・土龍・地龍子・寒蟪・寒蚓・附蚓・歌女、時珍曰、蚓可㆑興㆑雲、又知㆓陰晴㆒、故有㆓土龍・龍子之名㆒。

【地力】485 チリヨク 土地が物を生じ育てるちから。土地の生產力。〔史記、平準書〕魏用㆓李克㆒盡㆓地力㆒爲㆓彊君㆒。〔論衡、效力〕地力盛者、草木暢茂。〔柳宗元、進㆓農書㆒狀〕伏以、平㆓秩東作㆒、虞書立㆑制、倣載㆓南畝㆒、周雅垂㆑文、此皆奉㆓天時㆒以授㆑人、盡㆓地力㆒而豐㆑食。

〖盡㆓地力㆒之教〗486 チリヨクヲツクスノヲシヘ 地の生產力を十分利用する教。〔史記、荀卿傳〕魏有㆘李悝盡㆓地

力㆓之教㆖。

【地倫】487 チリン 複姓。地連（495）の㊁を見よ。〔廣韻〕地、虜複姓、有㆓地連氏・地倫氏㆒。

【地輪】488 チリン ㊀相術家の語。耳たぶをいふ。流年運氣（6−17431‥307）を見よ。㊁〘佛〙ヂリン ㋑五輪の一。金輪をいふ。水輪の上に在つて、世界を繫ぎ、須彌山等の九山、及び八海・四洲を載せる一地層。〔樓炭經〕地深九億萬里、第四是地輪、第五水輪、第六風輪。㋺五輪の塔の最下層。正方形に作る。〔大日經疏、十四〕次地輪正方、水輪圓、火輪三角、風輪半月形、是上虛空作㆓一點㆒。

【地鄰】489 チリン 地續き。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕必以㆓契券地隣㆒爲㆑據。

【地類】490 チルイ ㊀地のたぐひ。〔易、坤〕牝馬地類、行㆑地无㆑疆。㊁舊制に於ける有租地の分類。地租徵收の必要から、土地を第一類地・第二類地に區別した種類。

【地類變換】491 チルイヘンクワン 第一類地を第二類地にかへること。

【地靈】492 チレイ ㊀大地の神靈。又、大地の靈妙さ。〔韓詩外傳、八〕應㆓地靈㆒。〔顏延之、車駕幸㆓京口㆒云云詩〕邑社揔㆓地靈㆒。㊁土地がらが靈妙にすぐれてゐること。〔煬帝開河記〕睢陽地靈、不㆑可㆓干犯㆒。

【地靈人傑】493 チレイジンケツ 土地がら及び其處に住む人物が勝れてゐる。〔王勃、滕王閣序〕物華天寶、龍光射㆓牛斗之墟㆒、人傑地靈、徐孺下㆓陳蕃之榻㆒。〔弘道館記述義、上〕夫日出之鄕、陽氣所㆑發、地靈人傑、食饒兵足。

【地裂】494 チレツ 地がさける。又、其のさけめ。〔後漢書、和帝紀〕易陽地裂。〔郭璞、江賦〕歘如㆓地裂㆒、豁若㆓天開㆒。〔注〕易緯曰、天下愁㆓地裂山崩㆒。〔宋史、夏國傳下〕（紹興）十一年九月、夏國饑、十三年三月、地震、逾㆑月不㆑止、地裂泉湧、出㆓黑沙㆒、歲大饑、乃立㆓井里㆒、以分㆓振之㆒。〔蘇軾、問㆓太治長老㆒乞㆓桃花茶㆒栽㆓東坡㆒詩〕春來凍地裂、紫筍森已銳。

【地連】495 チレン ㊀土地が連なる。〔高適、東平旅遊奉㆓贈薛太守㆒二十四韻詩〕地連堯泰嶽、山向禹靑州。〔張喬、遊㆓華山雲際寺㆒詩〕地連㆓秦塞㆒起、河隔㆓晉山㆒微。㊁複姓。〔古今姓氏書辨證〕後魏有㆓地連氏㆒、又地倫氏、代北人複姓。

【地盧】496 チロ 地のいほり。大地をいふ。〔左思、魏都賦〕僧響起疑㆓震霆㆒、天宇駭地盧驚。〔注〕翰曰、云云、嘈聲起如㆘振㆓動雷霆㆒、駭㆗驚天地㆖、嘈與㆑僧古字通。

【地爐】497 チロ 地下に設けた煖爐。室の床下や地中に通した煖爐。〔岑參、玉門關蓋將軍歌〕軍中無㆑事但歡娛、暖屋繡簾紅㆓地爐㆒。〔白居易、卽事重題詩〕重裘暖帽寬㆓氈履㆒、小閣低窻深㆓地爐㆒。〔司空圖、修史亭詩〕漸覺一家看㆓冷落㆒、地爐生㆑火自溫存。〔杜荀鶴、贈㆓李鐔㆒詩〕地爐不㆑暖柴枝濕、猶把㆑蒙求㆑授㆓小兒㆒。〔宋景蕭、春雪用㆓上官明之韻㆒詩〕唓唓春蟲鬧撲㆑窻、地爐茶鼎蚓聲長。

【地漏】498 チロウ 陰曆二月二十五日の雨をいふ。多雨の徵といふ。

【地樓】499 チロウ 草の名。きからすうり。栝樓（6−14706‥3）の異名。〔本草、栝樓〕釋名、果贏・瓜蔞・天瓜・黃瓜・地樓・澤姑、根名㆓白藥・天花粉・瑞雪㆒。

【地螻】500 チロウ 動物の名。螭（10−33494）の異名。〔說文〕螭、若㆑龍而黃、北方謂㆓之地螻㆒。

【地防】501 チロク 地の脈理。地脈。〔周禮、考工記、匠人〕凡溝逆㆓地防㆒、謂㆓之不行水㆒。〔注〕防、謂㆓脈理㆒。

【地窩】502 ti⁴ wo¹ 地のくぼんだ處。

【得㆑地】503 チヲウ ㊀土地を得る。〔左氏、成、二〕子得㆓其國寶㆒、我亦得㆑地、而紓㆓于難㆒、其榮多矣。〔史記、虞卿傳〕秦兵不㆑弊而多得㆑地、是彊㆑秦而弱㆑趙也。㊁土地の宜しきを得る。〔沈約、高松賦〕鬱彼高松、棲根得㆑地。

【得㆑地千里不㆑如㆑得㆓一聖人㆒】504 チヲウルコトセンリナルモイツセイジンヲウルニシカズ 千里四方の地を得るよりも、一人の聖人を得た方がよい。〔呂覽、贊能〕得㆓十良劍㆒、不㆑若㆑得㆓一歐冶㆒、得㆑地千里、不㆑若㆑得㆓一聖人㆒。

【動㆑地】505 チヲウゴカス 土地をゆるがす。勢ひや聲などの盛なこと。〔漢書、司馬相如傳上〕車騎靁起、殷㆑天動㆑地。

【易㆑地】506 チヲカフ ㊀土地をとりかへる。〔史記、張儀傳〕秦要㆑楚欲㆑得㆓黔中地㆒、欲㆘以㆓武關外㆒易㆖之、楚王曰、不㆑願㆑易㆑地、願得㆓張儀㆒而獻㆓黔中地㆒。㊁境遇・立場を取りかへる。易㆑地皆然を見よ。

【易㆑地皆然】507 チヲカフレバミナシカリ 境地を取り換へれば誰も同じい。人は其の境遇位地によつて行ふ所を異にすること。〔孟子、離婁下〕禹・稷・顏子、易㆑地則皆然。〔孟子、離婁下〕孟子曰、曾子・子思同㆑道、曾子師也、父兄也、子思臣也、曾子・子思易㆑地、則皆然。

【拂㆑地】508 チヲハラフ 柳の枝などの地上に垂れ下つて搖れ動くにいふ。〔梁元帝、綠柳詩〕長條垂拂㆑地、輕花上逐㆑風。

【掃㆑地】509 チヲハラフ ㊀地をはらひ淸める。〔史記、封禪書〕掃㆑地而祭。㊁盡く無くなること。倒れ敗れること。〔書言故事大全、評論〕言㆓人倒敗㆒曰㆑掃㆑地。㊂五經掃㆑地（1−257‥283）を見よ。

【掃㆑地盡】510 チヲハラヒテツク ことごとく滅んで一物も留めない。〔漢書、魏豹田儋傳贊〕秦滅㆓六國㆒、而上古遺烈、掃㆑地盡矣。

【廣㆑地】511 チヲヒロム 土地をひろめる。疆域を擴大すること。〔史記、秦紀〕廣㆑地益㆑國。

【祭㆑地】512 チヲマツル 土地をまつる。〔爾雅、釋天〕祭㆑地曰㆓瘞薶㆒。〔史記、樂書〕祀㆑天祭㆑地。

【委㆑地】513 チニキス ㊀地につく。〔北史、魏昭成帝紀〕身長八尺、隆準龍顏、立髮委㆑地。㊁地に落ちる。〔莊子、養生主〕謋然已解、如㆓土委㆒地。㊂地上に置く。又、地に棄てる。〔後漢書、鍾離意傳〕意得㆓珠璣㆒、悉以委㆑地、而不㆑拜㆑賜。

【落㆑地】514 チニオツ 此の世に生れ出ること。〔陶潛、雜詩〕落㆑地爲㆓兄弟㆒、何必骨肉親。

【墜㆑地】515 チニオツ 地面に落ちる。消え滅びる。〔論語、子張〕文武之道、未㆑墜㆓於地㆒、在㆑人。

【酹㆑地】516 チニソソグ 酒を地にそそぐ。又、酒を地にそそいで神を祀る。酹の字自身この意味をもつてゐる。〔後漢書、張奐傳〕召㆓主簿於諸羌前㆒、以㆑酒酹㆑地。〔通俗編〕酹㆑酒之制、應㆑昉㆑自㆓古裸禮㆒、周禮大行人、享㆓上公㆒再裸而酢、侯伯壹裸而酢、子男壹裸而不㆑酢、古凡享㆓大賓㆒、皆先攝瓚、酌㆓鬱鬯之酒㆒灌㆑地、而後送㆑爵、故今飮席用㆑之。

【徇㆑地】517 チヲトナフ 土地をかすめ取る。他國の土地を取つて其の人民を從はせること。徇は略。〔史記、酈食其傳〕諸將徇㆑地。〔注〕正義曰、徇、略也。

【塗㆑地】518 チニマミル 地上に落ち泥土に汚れること。轉じて、敗滅すること。〔史記、劉敬傳〕肝腦塗㆑地。〔漢書、元后傳〕廢徹塗㆑地。〔魏志、王淩傳評〕宗族塗㆑地。

【席㆑地】519 チニムシロス 地上に蓆を敷く。〔方苞、左忠毅公逸事〕席㆑地倚㆑牆而坐。

【地安門】520 チアンモン 北京皇城の北門。俗に後門といふ。〔北京指南、地理、疆域、皇城內之大概〕皇城居㆓內城之中心點㆒、繚牆高十八尺、周十八里又三分里之一、城亦四方形而縮㆓其西南隅㆒、正南南向凸出與㆓陽正門㆒相毘近者、云云、正北曰㆓地安㆒。

【地烏桃】521 チウタウ 草の名。猪苓の異名。〔本草、猪苓〕釋名、豭豬屎・豕橐・地烏桃、弘景曰、司馬彪注㆓莊子㆒云、豕橐、一名苓、其根似㆓猪矢㆒、是也。

【地英菜】522 チエイサイ 草の名。薺（9−32208）の異名。〔事物異名錄、蔬穀上、薺〕正字通、正二月開㆑花、名㆓蝸螺㆒、齊俗呼㆓地英菜㆒。

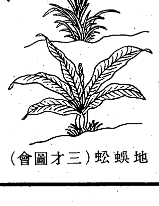
【地家室】523 ゲノカムロ 周防國の地名。

【地喜花】524 チキクワ 花の名。又、赤蓮花・白蓮花・青蓮花・黃色花などといふ。〔翻譯名義集〕拘勿投、亦云㆓拘勿頭㆒、此云㆓地喜花㆒。

【地火鼠】525 ti⁴ huo³ shu³ ねずみはなび。地老鼠。

【地花菜】526 チクワサイ 草の名。をみなへし。女郎花。〔農政全書、地花菜考〕又名㆓墓頭灰㆒、生㆓密縣山野中㆒、苗高尺餘、葉似㆓野菊花葉㆒而窄細、又似㆓鼠尾草㆒、葉亦瘦細、梢葉間開㆓五瓣小黃花㆒、其葉味微苦。

【地蜈蚣】527 チゴコウ 草の名。〔本草、地蜈蚣草〕集解、時珍曰、生㆓村落塍野間㆒、左蔓延㆑右、右蔓延㆑左、其葉密而對生、如㆓蜈蚣形㆒、其穗亦長、俗呼㆓過路蜈蚣㆒、其延上㆑樹者、呼㆓飛天蜈蚣㆒、根苗皆可㆑用。



地蜈蚣（三才圖會）

【地吼戲】528 ti⁴ hou³ hsi⁴ 人形芝居の一種。

【地座兒】529 ti⁴ tsuo⁴ êrh 椅子に坐らずに床板

に坐ること。

【地稍瓜】530（チサウクワ・チセウクワ）草の名。野生し、小白花を開く。食用に供す。〔農政全書、地稍瓜考〕生㆓野田中㆒、苗高尺許、作㆓地攤科㆒、生レ葉、似㆓獨掃葉㆒而細窄光硬、又似㆓沙蓬葉㆒亦硬、週圍攢莖而生㆓莖葉㆒、開㆓小白花㆒、結レ角、長大如㆓蓮子㆒、兩頭尖艄、狀又似㆓鴉嘴形㆒、名㆓地稍瓜㆒、味甘。

【地珊瑚】531（チサンゴ）藤(**9**－**32340**)の異名。〔事物異名錄、百草、藤〕本草、藤、一名地珊瑚。

【地磁氣】532（チジキ）地球が有する磁力。

【地日草】533（チジツサウ）草の名。不老の藥草。〔洞冥記〕武帝末年彌好㆓仙術㆒、與㆓東方朔㆒狎暱、帝曰、朕所レ好甚者不老、其可レ得乎、朔曰、臣能使㆓少者不㆒レ老、帝曰、服㆓何藥㆒耶、朔曰、東北有㆓地日之草㆒、西南有㆓春生之草㆒、帝曰、何以知レ之、朔曰、三足烏數下レ地食㆓此艸㆒、羲和欲㆘馭以レ手掩㆓烏目㆒不㆖レ聽レ下也、食レ草能不レ老、他鳥獸食㆓此草㆒則美悶不レ能レ動矣。

【地象儀】534 ti^{4} hsiang^{4} i^{2} 地球儀(88)に同じ。

【地閏銀】535（チジユンギン）閏年ごとに加徵する税金。〔清會典事例、戶部、田賦、畿輔官兵莊田二〕遇レ閏加㆓徵銀六萬四千九百餘兩㆒、額㆓徵米麥豆糧共二萬四千七百四十餘石㆒。

【地生レ毛】536（チケヲシヤウズ）地が毛のやうな形の植物を生ずる。人民が勞役に苦しむと此の植物が現はれるといふ。〔述異記、下〕地生レ毛、京房以爲㆓人勞之應㆒。〔隋書、五行志上〕梁大同二年、地生㆓白毛㆒、長二尺、近㆓白祥㆒也、孫盛以爲㆓勞レ人之異㆒、先レ是大發レ卒、築㆓浮山堰㆒、百姓厭レ役、吁嗟滿レ道、齊河清元年九月、滄州及長城之下、地多生レ毛、或白或黑、長四五寸、近㆓白祥㆒也、時北築㆓長城㆒、內興㆓三臺㆒、人苦㆓勞役㆒。

【地生羊】537（チセイヤウ）西域に產する羊の一種。〔本草、羊〕附錄、地生羊出㆓西域㆒、劉郁出使㆓西域㆒記、以㆓羊臍㆒種㆓于土中㆒、漑以レ水、聞レ雷而生、羊臍與レ地連、及レ長、驚以㆓木聲㆒、臍乃斷、便能行嚙レ草、至レ秋可レ食㆓臍內㆒、復有レ種、名㆓壠種羊㆒、段公路北戶錄云、大秦國有㆓地生羊㆒、其羔生㆓土中㆒、國人築レ牆圍レ之、臍與レ地連、割レ之則死、但走レ馬擊レ鼓以駭レ之、驚鳴臍絕、便逐㆓水草㆒、吳萊淵穎集云、西域地生羊、以㆓脛骨㆒種㆓土中㆒、聞㆓雷聲㆒、則羊子從㆓骨中㆒生、走レ馬驚レ之、則臍脫也、其皮可レ爲レ褥、一云、漢北人種㆓羊角㆒而生、大如レ兔而肥美、三說稍異、未レ知㆓果種何物㆒也。

【地攝力】538（チセフリヨク・チセツリヨク）重力をいふ。

【地穿甲】539 ti^{4} ch'uan^{1} chia^{3} 地上の雪が融けて凍ったもの。

【地蘇木】540 ti^{4} su^{1} mu^{4} あかね。茜草。

【地棠花】541（チダウクワ）山吹(**4**－**7869**··579)の❷の㋑の異名。〔和漢三才圖會、蔓草類、樹苺〕頗似㆓櫻桃葉㆒而狹長、又似㆓地棠花葉㆒。

【地蹈韛】542（チタタラ）古、鍛冶具の一。韛（フイゴ）の一種。形が大きく、足で蹈んで空氣を送り、鑄物を作るに用ひる。蹈韛(**10**－**37744**··33)に同じ。

【地鎭祭】543（ヂチンサイ）土木工事を起し基礎を築くに先だつて、其の建築物の安全を祈るため、土の神を祭るまつり。土公祭。地祭。〔匠家故實錄、上、地鎭祭之大意〕。

【地天通】544（チテンノツウ）神と人とが相狎れて侵し合ふこと。〔書、呂刑〕乃命㆓重黎㆒、絕㆓地天通㆒、罔レ有㆓降格㆒。〔傳〕使㆔人神不レ擾、各得㆓其序㆒、是謂レ絕㆓地天通㆒。

【地破日】545（チハジツ）陰曆四月十一日をいふ。〔登眞隱訣〕四月十一地破日、不レ可㆓開レ山動㆒レ土。

【地爬車】546 ti^{4} p'a^{2} ch'ê^{1} 車輪の小さい荷車。地車(215)に同じ。

【地蜱蟲】547（チヒチユウ）蟲の名。おめむし。蟅(**10**－**33539**)を見よ。〔本草、䗪蟲〕釋名、地鼈・土鼈・地蜱蟲・簸箕蟲・蚵蚾蟲・過街。

【地薇蒿】548（チビカウ）白菊(**8**－**22678**··237)の異名。〔本草、菊〕釋名、頌曰、穎川人呼爲㆓回峯菊㆒、汝南名㆓茶苦蒿㆒、上黨及建安郡・順政郡、並名㆓羊歡草㆒、河內名㆓地薇蒿㆒。

【地不容】549（チフヨウ）草の名。解毒子(**10**－**35067**··219)の異名。〔本草、解毒子〕釋名、地不容・苦藥子。

【地芙蓉】550（チフヨウ）木の名。木芙蓉(**6**－**14415**··551)の異名。〔本草、木芙蓉〕釋名、地芙蓉・木蓮・華木・枇木・拒霜。

【地奉行】551（ヂブギヤウ）❶鎌倉時代、保保奉行の一。鎌倉の道路・屋舍・賣買等の事を掌る。〔東鑑、三十九〕建長二年四月二十日、仰㆓保保撿斷奉行人及地奉行㆒、凡卑之輩、太刀幷諸人夜行之時、帶㆓弓箭㆒事、可レ令㆓停止㆒之由。❷室町幕府の職名。京洛外の第宅・屋地・道路等の事を掌る。地方頭人。地方奉行。〔蔭涼軒日錄〕寬正五年九月二十六日、卽報㆓于勢州幷津守㆒也、勢州爲㆓彼寺檀那㆒也、攝津守爲㆓地奉行㆒也。

【地麪粥】552（チベンシユク）地麪の粥（カユ）。地麪は、山野に自生する穀類植物で、瞿麥(**8**－**23747**··28)の一名。〔舊唐書、懿宗紀〕南蠻陷㆓交阯㆒、詔㆓湖南水運㆒、自㆓浙江㆒入㆓澪渠西㆒、造㆓地麪粥㆒、以饋㆓行營㆒。〔齊民要術、種瞿麥法、注〕一名地麪。

【地縫兒】553 ti^{4} fêng^{4} êrh 地のわれめ。

【地楊梅】554（チヤウバイ）草の名。すずめのひえ。〔本草、地楊梅〕集解、藏器曰、生㆓江東濕地㆒、苗如㆓莎草㆒、四五月有レ子、似㆓楊梅㆒也。

【地藾根】555（チライコン）草の名。香附子(**12**－**44518**··297)の異名。〔本草、莎草香附子〕釋名、雀頭香・草附子・水香棱・水巴戟・水莎・侯莎・莎結・夫須・續根草・地藾根・地毛、集解、頌曰、天寶單方圖、載㆓水香棱㆒、功狀與レ此相類云、水香稜、原生㆓博平郡池澤中㆒、苗名㆓香稜㆒、根名㆓莎結㆒、亦名㆓草附子㆒、河南及淮南下濕地卽有、名㆓水莎㆒、隴西謂㆓之地藾根㆒、蜀郡名㆓續根草㆒。

【地老鼠】556（チラウソ）煙火の一種。まひねずみ。小兒がもて遊ぶ。〔齊東野語〕穆陵初年、嘗於㆓上元日㆒、清燕殿排當、恭請㆓恭聖太后㆒、既而燒㆓煙火於庭㆒、有㆓所謂地老鼠者㆒、徑至㆓大母聖座下㆒、大母驚惶、拂レ衣徑起。

【地駱拔】557（チラクバツ）複姓。〔萬姓統譜〕地駱拔、改爲㆓駱氏㆒。

【地了時】558（チレウジ）〘佛〙夜明け方。方角がわかり始める頃をいふ。〔行事鈔、中二〕十一日地了時。〔資持記、中二〕言㆓地了㆒者、卽明相現、方維可レ辨故。

【地論宗】559（ヂロンシユウ）〘佛〙佛教の流派。十地論を依學とする宗派。十地論とは、華嚴經第六會の十地の一品を別行した十地經の釋論をいふ。唐代、華嚴宗の勃興するに及んで廢退した。

【帶レ地川】560（チヲメグルカハ）大地をうねうねと屈曲して流れる川。〔陸機、長歌行〕逝矣經レ天日、悲哉帶レ地川。

【地開成レ井】561（チヒライテセイヲナス）大地が自ら開いて井戸となる。〔梁書、武帝紀下〕普通二年八月丁亥、始平郡中石鼓村地、自開成レ井、方六尺六寸、深三十二丈。

【地嫌勢逼】562（チウタガハシクセイセマル）地位の上下關係が不明瞭で、其の勢威が相手を侵し迫まること。〔資治通鑑、唐紀〕高祖、武德九年論、臣光曰、立レ嫡以レ長、禮之正也、然高祖所㆔以有㆓天下㆒、皆太宗之功、隱太子以㆓庸劣㆒居㆓其右㆒、地嫌勢逼、必不㆓相容㆒、嚮使㆘高祖有㆓文王之明㆒、隱太子有㆓泰伯之賢㆒、太宗有㆗子臧之節㆖、則亂何自而生矣。

【地士將軍】563（チシシヤウグン）漢代の將軍の一。〔史記、孝武紀〕得㆓四金印㆒、佩㆓天士將軍・地士將軍・大通將軍・天道將軍印㆒。

【地之義也】564（チノギナリ）地の正しい道である。禮をいふ。〔左氏、昭、二十五〕夫禮、天之經也、地之義也、民之行也。

【地生㆓土毛㆒】565（チドマウヲシヤウズ）土地に野菜・穀物などを生ずる。〔北史、高麗傳〕高麗、係㆓誠天極㆒、累葉純誠、地產㆓土毛㆒、無レ愆㆓王貢㆒。

【地醜德齊】567（チヒトシクトクヒトシ）領土の大きさも同じくらゐで、君主の德も相似てゐる。〔孟子、公孫丑下〕今天下地醜德齊、莫㆓能相尙㆒。

【地職㆓形載㆒】568（チハケイサイヲツカサドル）地は物を形成してこれを載せることを司る。〔列子、天瑞〕天職㆓生覆㆒、地職㆓形載㆒。〔口義〕地能成レ形、能載レ物。

【地婆訶羅】569（チバカラ）〘佛〙唐代、中國に來朝した印度僧。中國名は日照。戒行高奇、三藏に通じ、五明を善くし、特に呪術に巧み。高宗の時來朝し、垂拱の末、大乘顯識經・大乘五蘊論・華嚴經入法界品を譯した。垂拱三年、洛陽の東大原寺に寂す、享年七十五。〔宋高僧傳、二〕・〔開元釋教錄、九〕。

【地負海涵】570（チオヒウミヒタス）地は萬物を負ひ、海は廣い地域をひたす。地が萬物を負ふが如くに負ひ、海が廣くひたすが如くにひたす。知識などの博大なことにいふ。〔朴趾源、農說〕語㆓其大㆒、則地負海涵。〔國朝漢學師承記、朱笥河先生〕先生之學、可レ謂㆓地負海涵、淵渟嶽峙㆒矣。

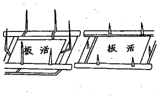
【地無レ不レ載】571（チハノセザルナシ）　地は萬物を載せて一物も餘さない。〔莊子、德充符〕天無レ不レ覆、地無レ不レ載。

【地覆天翻】572（チクツガヘリテンヒルガヘル）　地がくつがへり天がひるがへる。國家の亡びること。〔桃花扇、截磯〕正是地覆天翻日、龍爭虎鬭時。

【地北天南】573（チホクテンナン）　地の北、天の南。地のはて、天のはて。〔桃花扇、題畫〕地北天南蓬轉、巫雲楚雨絲牽。

【地湧金蓮】574（チヨウキンレン）　草の名。坐禪草。てんなんしやう科の多年生水草。葉は有柄心狀卵形。花莖上に黑紫色の箆狀苞を有する肉穗花序を生ずる。

【地湧鎗架】575（チヨウサウカ）　武具の一。框に孔をあけ鎗の先を少し出しておき、人馬が踏むと突きあがつて傷ける器械。〔武備志、地湧鎗架圖說〕地湧鎗架、其框板無レ論二大小一造レ之、框邊留レ眼、用二二尺餘連柄一、六杆或八杆、以レ繩繫二鎗項尾一、各眼露二鎗頭一、餘繩倒拴二於地一、人馬踏レ板、鎗出陷レ比幷傷。



地湧鎗架（武備志）

【掩レ地表レ畝】576（チヲオホヒテホヲアラハス）　土を兩方から盛りあげて畝（ネウ）をきちんと作る。〔荀子、富國〕掩レ地表レ畝、刺レ屮殖レ穀。〔注〕掩レ地、謂三耕レ田使二土相掩一、表、明也、謂下明二其經界一、使上レ有レ畔也。

【畫レ地爲レ牢】577（チヲクワクシテラウヲツクル）　土地を假りに此處から此處までと限つて牢獄と名づける。畫レ地爲レ獄議レ不レ入（592）を見よ。〔漢書、司馬遷傳〕士有二畫レ地爲レ牢、勢不レ入、削レ木爲レ吏、議不レ對。

【畫レ地而趨】578（チヲクワクシテハシル）　地を此處から此處までと限つて其の中で進退する。禮法に拘束して自ら苦しむ喩。趨は、小股に早く進むことで、禮式で常に用ひられる步法。〔莊子、人閒世〕殆乎、殆乎、畫レ地而趨。

【畫レ地成レ圖】579（チニヱガキテヅヲナス）　地上に圖を畫く。たちどころに圖を描いて明示する意。物事に精通してゐる喩。〔漢書、張安世傳〕謁二大將軍光一、問二千秋戰鬭方略、山川形勢一、千秋口對二兵事一、畫レ地成レ圖、無レ所二忘失一。〔晉書、張華傳〕武帝常問二漢宮室制度、及建章千門萬戶一、華畫レ地成レ圖、左右屬目、帝甚以爲レ異。

【廓レ地分レ利】580（チヲヒロムルニハリヲワカツ）　敵の地を掠めて自分の領土を廣めるには、要害を次々に利用して少しづつ侵略する。利は、地の利。〔孫子、軍爭〕廓レ地分レ利、懸レ權而動。

【掘レ地爲レ臼】581（チヲホリテウストナス）　地をほつて臼として米粟を搗く。〔易、繫辭下〕斷レ木爲レ杵、掘レ地爲レ臼。

【闕レ地下レ冰】582（チヲホリテコホリヲクダス）　暑いために地を掘つて氷を牀下に置く。〔左氏、襄、二十一〕方レ暑、闕レ地下レ冰而牀焉。

【在レ地成レ形】583（チニアリテハカタチヲナス）　地上にあつて形態をなす。〔易、繫辭上〕在レ天成レ象、在レ地成レ形。

【穿レ地取レ水】584（チヲウガチテミヅヲトル）　土地を掘つて水を取り出す。〔易、井、疏〕古者穿レ地取レ水、以レ瓶引汲、謂レ之爲レ井。

【莫レ富二於地一】585（チヨリトメルハナシ）　大地より富んでゐるものはない。大地は萬物を生ずるからいふ。〔莊子、天道〕莫レ神二於天一、莫レ富二於地一。

【拔レ地倚レ天】586（チヲヌイテテンニヨル）　地から離れて天に昇る。文勢の雄豪なことの形容。〔錦子箋〕孫樵云、玉川月蝕詩、退之進學解、莫レ不二拔レ地倚一レ天、句句欲レ活、讀レ之如下赤手搏二長蛇一、不レ施二控勒一騎中生馬上。

【平レ地注レ水】587（チヲタヒラカニシテミヅヲソソグ）　土地を平にして水を注ぐ。水が傾斜によつて何方かへ流れるといふことの無いやうにすること。〔新論、類感〕抱レ薪投レ火、燥者先燃、平レ地注レ水、濕者先濡。

【無三地起二樓臺一】588（チノロウダイヲオコスナシ）　清廉潔白で質素なことを歌つた句。宋の寇準が宰相と爲つた時、樓臺を起工する土地も無いと魏野が詠じた故事。〔名臣言行錄、寇準〕宋寇準爲レ相、處士魏野贈レ詩云、有レ官居二鼎鼐一、無三地起二樓臺一、後北使至、賜レ宴、兩府預坐、北使歷二視座中一、問二譯者一曰、誰是無三地起二樓臺一相公。

【地小不レ足二迴旋一】589（チセウニシテクワイセンスルニタラズ）　場所が狹くて存分に舞ふには不十分である。領土が狹くて、せつかく立派な才能をもちながら手腕を發揮することの出來ないこと。長沙の定王が漢の景帝に對して其の國土の狹小をうつたへた故事。〔史記、長沙定王世家、注〕景帝後二年、諸王來朝、詔稱二壽歌舞一、定王但張レ袖小擧レ手、上怪問レ之、對曰、臣國小地狹、不レ足二迴旋一、帝以二武陵・零陵・桂陽一屬焉。

【擲レ地作二金石聲一】590（チニナゲウタバキンセキノコヱヲナス）　地上に投げつけると金石のやうに優れた聲を發する。詞句のすぐれた喩。晉の孫綽が天台山賦を作り、友人の范榮期に對して其の作を誇つた故事。〔晉書、孫綽傳〕嘗作二天台山賦一、辭致甚工、初成以示二友人范榮期一云、卿試擲レ地、當レ作二金石聲一。

【地不レ長二無レ名之草一】591（チハナナキノクサヲチヤウゼズ）　大地はすべての草を惠み養ふ。名は、名譽の意から繁榮の意に用ひた語。〔通俗編、草木、地不レ長二無レ名之草一〕元曲選、看錢奴劇、天不レ生二無レ祿之人一、地不レ長二無レ名之草一。

【畫レ地爲レ獄議レ不レ入】592（チヲクワクシテゴクトナスモイラザランコトヲギス）　土地を假りに此處から此處までと限つて、此處は牢獄であると名づけただけでも、人々は其の中には入らないやうに相談する。獄吏の殘酷なのを惡む喩。〔漢書、路溫舒傳〕俗語曰、畫レ地爲レ獄、議不レ入、刻レ木爲レ吏、期不レ對、此皆疾レ吏之風、悲痛之辭也。〔說苑、貴德〕故俗語云、畫レ地作レ獄、議不レ可レ入、刻レ木爲レ吏、期不レ可レ對、此皆疾レ吏之風、悲痛之辭也。

【在レ地願爲二連理枝一】593（チニアリテハネガハクハレンリノエダトナラン）　地上に生れたならば連理の枝となりたいものだ。男女の契りのこまやかな喩。連理枝とは、一樹の枝が他樹の枝と互に結びあつて一つとなつたもの。〔白居易、長恨歌〕在レ天願作二比翼鳥一、在レ地願爲二連理枝一。

【圠】4891

㊀セン　〔集韻〕倉先切　先
㊁シヨク　ゾク　〔集韻〕松玉切　沃

㊀❶**廣さ三里にわたる田**。〔玉篇〕圠、三里曰レ圠。〔集韻〕圠、三里田爲レ圠。❷或は圩（3－4892）に作る。〔集韻〕圠、或書作レ圩。㊁**ならひ。ならはし**。俗（1－695）に同じ。〔集韻〕俗、說文、習也、古作レ圠。

【圩】4892

セン

圠（3－4891）に同じ。〔集韻〕音千、同レ圠。

【坖】4893

キ

基（3－5197）に同じ。〔同文備考〕坖、同レ基。

【圳】4894

㊀シウ　ジユ　〔字彙補〕市流切　尤　ㄔㄡˊ　ch'ou²
㊁シン　〔觚賸〕子鴆切　沁
㊂シユン

㊀㊁㊂**みぞ**。耕作地に在る溝。甽（7－21740）に同じ。〔字彙補〕江楚閒、田畔水溝謂二之圳一。〔六書故〕甽、按、今作レ圳、田閒溝甽也。

【均】4895

シヤク　〔集韻〕職略切　藥

あと。〔集韻〕均、土跡。

【圵】4896

タウ　〔海篇〕音蕩

高い田。あげた。〔海篇〕圵、高田。

參考　北と別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕北、南北。圵、音蕩、高田。

【圶】4897 カフ ケフ 〔篇海〕苦洽切 洽。

地名。〔篇海〕圶、地名。

【圫】4898 トン 坉(3−4923)に同じ。〔川篇〕圫、同レ坉。

【壮】4899 サウ 壯(3−5643)の略字。

【圷】4900 國字 あくつ。低い地の意。地名として用ひる。❶地名。㋑常陸國の地名。㋺下野國の地名。❷姓。

【圷大野】1 アクツオホノ 常陸國の地名。

【𡉋】4901 キョク 義未詳。〔篇海類編〕𡉋、音局。

【𡈼】4902 シュン 義未詳。〔篇韻〕𡈼、音春。

四畫

【圻】4903 ㈠キ ゲ 〔集韻〕渠希切 ㄑㄧˊ chʻi² 微。㈡ギン 〔集韻〕魚巾切 眞。㈢ギン ゴン 〔集韻〕魚斤切 文。㈣ゴン 〔集韻〕五斤切 元。

㈠❶**王城の四周の千里四方の地。**〔逸周書、職方解〕方千里曰ニ王圻一。〔孔子家語、正論解〕天子一圻。〔注〕地方千里曰レ圻。❷**千里四方の地。**〔左氏、昭、二十三〕今土數圻。〔注〕方千里爲レ圻。❸**へり。**岸。崎(4−8169)・碕(8−24296)に通ず。〔廣韻〕崎、曲岸、碕、上同、圻、亦上同。〔謝靈運、富春渚詩〕臨ニ圻阻參錯一。〔注〕善曰、埤蒼曰、碕、曲岸頭也、碕、與レ圻通。❹畿(7−21925)に同じ。〔儀禮、喪服、庶人爲ニ國君一注〕天子畿內之民。〔校勘記〕畿、釋文作レ圻、云、本又作レ畿。〔漢書、文帝紀〕封圻之內。〔注〕師古曰、圻、亦畿字。❺祈(8−24640)に通ず。〔詩、小雅、祈父、疏〕古祈・圻・畿同、字得ニ通用一。㈡㈢㈣**はて。かぎり。**垠(3−5054)に同じ。〔說文〕垠、地垠咢地、一曰、岸也、圻、垠、或从レ斤。〔淮南子、俶眞訓〕四達無レ竟、通ニ于無圻一。〔注〕圻、垠字也。

【圻鄂】1 キガク ❶玉などの斷面の線畫が隆起した文樣。〔周禮、春官、典瑞、瑑圭璋璧琮繅、注〕瑑、有ニ圻鄂瑑起一。❷物の邊際。〔道德指歸論〕動無ニ形質一、靜無ニ圻鄂一。

【圻岸】2 キガン きし。〔謝靈運、入ニ彭蠡湖口一詩〕洲島驟迴合、圻岸屢崩奔。

【圻內】3 キナイ 境の內。けいだい。〔孔叢子、巡守〕圻內名山大川。

【圻父】4 キホ ❶古の官名。司馬をいふ。封畿の兵甲を掌る。祈父。〔書、酒誥〕圻父薄違、農父若保、宏父定レ辟。〔傳〕圻父、司馬。❷詩、小雅の篇名。〔左氏、襄、十六〕(穆叔)見ニ中行獻子一、賦ニ圻父一。〔注〕圻父、詩小雅、周司馬、掌ニ封畿之兵甲一、故謂ニ之圻父一。

【呈】4904 デツ 埕(3−5087)に同じ。〔集韻〕埕、呈、下也、塞也、或省。

【圽】4905 ボツ モチ 〔集韻〕莫勃切 月。

❶**うずめる。**〔集韻〕圽、埋也。〔史記、王翦傳論贊〕偷合取レ容、以致レ圽レ身。❷歾(6−16384)・歿(6−16385)に同じ。〔正字通〕圽・歾・歿同、終也、舊注埋レ物、誤分爲レ二。

【圾】4906 ㈠ギフ ゴフ 〔集韻〕逆及切 ㄐㄧˊ chi² 緝。㈡ガフ ゴフ 〔集韻〕鄂合切 合。㈢ショク セイ 〔辭源〕讀若レ色。〔辭海〕讀若レ西。ㄙㄜˋ sê⁴

㈠㈡**あやふい。**岌(4−7929)に同じ。〔集韻〕岌、危也、莊子、殆哉圾圾乎、或从レ山。或作レ圾。㈢**ごみ。**吳地方のことばで、塵埃を垃圾(3−5029‥1)といふ。

【圾圾】1 ギフギフ 危いさま。岌岌(4−7929‥3)の❶に同じ。

【圾乎】2 ギフコ 危いさま。岌乎。〔莊子、天地〕許由曰、殆哉、圾乎天下。〔注〕圾、危也。〔釋文〕圾、本又作レ岌。

【圿】4907 カツ ケチ 〔集韻〕訖黠切 黠。

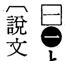
❶**あか。**〔廣雅、釋言〕圿、垢也。〔集韻〕圿、垢也。❷**ちり。**あくた。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕蹋翻聚ニ林嶺一、斗起成ニ埃圿一。〔注〕圿、音戛、圿、垢圿也。

【址】4908 シ 〔集韻〕渚市切 ㄓˇ chih³ 紙。

もと。もとゐ。阯(11−41570)に同じ。〔說文〕阯、基也、从レ𠂤止聲、址、阯或从レ土。〔集韻〕阯、或从レ土。

【址根菜】1 タコノアシ 草の名。べんけい草科に屬する多年草。葉は狹披針形で緣邊鋸齒を具へ、黃白色の花を穗狀に綴る。

【坁】4909 ㈠シ 〔集韻〕掌氏切 ㄓˇ chih³ 紙。㈡シ 〔集韻〕淺氏切 紙。㈢チ ヂ 〔集韻〕丈尒切 紙。


小篆

㈠❶**とまる。**坻(3−5001)に通ず。〔說文〕坁、箸也、从レ土氏聲。〔段注〕左傳昭二十九年、物乃坁伏、鬱湮不レ育、杜注、坁、止也、此坁字、見ニ於經一者、而開成石經譌作レ坻、其義迥異、楚金所レ見左傳故未レ誤、尋ニ其所一レ由、蓋唐初已有ニ誤レ坻者一、故釋文曰、坁、音旨、又丁禮反、後一音則已譌爲レ坻、今版本釋文及左傳及廣韻四紙、皆作レ坻、坻行而坁廢矣。❷或は泜(6−17150)に作る。〔集韻〕坁、或从レ水。㈡**さか。**〔集韻〕坁、阪也。㈢**さか。**〔集韻〕坁、秦人謂レ阪曰レ坁。

【坂】4910 ㈠ヘン ホン 〔集韻〕甫遠切 阮。㈡ハン ベン 〔集韻〕部版切 ㄅㄢˇ pan³ 潸。

㈠㈡**さか。**つつみ。阪(11−41562)・岅(4−7914)に同じ。〔集韻〕阪、說文、坡者曰レ阪、一曰、澤障、一曰、山脅也、或从レ土、从レ山。

參考 字形、阪は說文の形。坂は後出の字。熟語は阪(11−41562)をも見よ。

【坂寄】1 サカキ 姓氏。〔姓林全書〕。

【坂戸】2 クワンゼ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【坂樹】3 サカキ 木の名。榊に同じ。榊(6−15352)を見よ。〔倭名類聚抄、草木部、木類、坂樹〕日本紀私記云、天香山之眞坂樹、佐加木、漢語抄、榊字、本朝式用ニ賢木二字一。

【坂東】4 バンドウ 相模・駿河の境の足柄坂以東をいふ。關東(11−41470‥155)の❷に同じ。後、箱根に關所を置くに及び、關東は箱根關以東にもい

ふ。〔國史略、後一條天皇〕乃詔㆓甲斐守源賴信㆒、發㆓坂東兵㆒討㆑之。

【坂東太郎】5 バンドウタラウ 利根川の異名。坂東第一の大川の意。〔俚言集覽〕坂東太郎、刀根川を云ふ。

【坂茂】6 サカモチ 姓氏。

【坂合部】7 サカヒベ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、六〕。

【坂口五峯】8 サカグチゴホウ 越後の人。名は恭。字は思道。通稱は仁一郎。號は五峯。大野恥堂・森春濤に師事し、又、同人社に英語を學ぶ。新潟新聞社長・憲政會新潟支部長・衆議院議員。詩に巧。大正十二年十一月二日歿す、年六十七。著に五峯遺稿・七松居詩話・舟江雜詩・新潟才人詩・北越詩話がある。〔越佐名家著述目錄〕。

【坂谷朗廬】9 サカタニラウロ 備中の人。名は素。字は子絢。號は朗廬。通稱は素三郎、後、希八郎。明治十四年歿す、年六十。著に文詩千餘篇・左說私鈔・田舍話・評注東萊博議・日本地理書・朗廬文鈔がある。

【坂井虎山】10 サカヰコザン 廣島の人。名は公實。字は華。通稱は百太郎。號は虎山・臥虎山人。賴春水を師とし、程朱を宗とす。又、詩文に長じ、武技を善くす。官は廣島藩儒。正五位を贈らる。嘉永三年九月六日歿す、年五十三。著に杞國策・虎山詩文集・論語講義がある。〔廣島蒙求〕。

【坂田警軒】11 サカタケイケン 備中の人。名は丈。字は夫卿。號は敬軒・九邨。通稱は丈助、後、丈平。明治三十二年歿す、年六十一。著に詩文集若干卷がある。

【坂本葵園】12 サカモトキヱン 淡路の人。名は亮。字は亮平。號は葵園・牆東居士・白蓮居士。私諡は文節居士。初、僧であつたが、後、還俗して大阪に出で、杏村の塾を繼ぎ、白蓮池館塾と稱して子弟に教授す。經學は程朱を主としたが拘泥せず。明治十四年十二月十九日歿す、年五十五。著に白蓮池館詩鈔・白蓮池館詩鈔二編・白蓮池館詩鈔三編がある。

【坂本天山】13 サカモトテンザン 信濃の人。名は俊豈。字は伯壽。號は天山。通稱は孫八。享和三年歿す、年五十九。著は周易特解・易學源流論・火炮說・銃陣詳說・周發發揮・周發圖說・兵律論・會心亭集・臥遊集・天山遺稿。〔先哲叢談、續、十二〕。

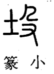
【⿸反土】4911 ハン 〔篇海類編〕音反 阮

さか。〔篇海類編〕⿸反土、坂也。

【坃】4912 ケン

壎(3－5546)の古字。〔玉篇〕坃、古文壎字。

【坄】4913
㊀エキ ヤク 〔集韻〕營隻切 ㄧˋ i⁴ 陌
㊁トウ ヅ 〔集韻〕徒侯切 尤


小篆

㊀㊁❶陶器を燒くかまのけむだし。〔說文〕坄、匋竈窗也、从㆑土役省聲。❷或は垼(3－5099)・炈(7－18901)に作る。〔集韻〕坄、或作㆓垼・炈㆒。

【坅】4914
㊀キン コン 〔集韻〕丘甚切 ㄑㄧㄣˇ ch'in³ 寢
㊁ギン ゴン 〔集韻〕牛錦切 寢
㊂サン 〔集韻〕子感切 感

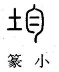
㊀㊁㊂あな。〔集韻〕坅、埤蒼、坎也。〔儀禮、既夕禮〕甸人築㆓坅坎㆒。〔注〕穿坎之名、一曰㆑坅。

【坆】4915
㊀バイ
㊁フン ㄈㄣˊ fen²

㊀梅(6－14830)の古字。〔字彙〕坆、古梅字。㊁はか。墳墓。墳(3－5488)の俗字。〔康熙字典〕坆、一曰、俗墳字。

【坆佃】1 fen² tien⁴ 墓地。

【均】4916
㊀キン 〔集韻〕規倫切 ㄐㄩㄣ chün¹ 眞
㊁ウン 〔集韻〕王問切 ㄩㄣˋ yün⁴ 問
㊂エン 〔書鄭注〕均讀曰㆑沿 先
慣 キン


小篆

㊀❶ひとしい。ひとしくする。㋑たひら。平にする。〔說文〕均、平徧也、从㆓土匀㆒、匀亦聲。〔淮南子、兵略訓〕賦丈均。〔注〕均、平也。〔國語、魯語上〕堯能單均㆓刑法㆒、儀㆑民。〔注〕均、平也。㋺ととのふ。ととのへる。〔詩、小雅、皇皇者華〕六轡既均。〔傳〕均、調也。〔禮、月令〕均㆓琴瑟管簫㆒。〔疏〕均、謂㆔均㆓平其聲㆒也。㊇おなじい。おなじく。同じくする。〔左氏、僖五〕均服振振。〔賈注〕均、同也。〔國語、楚語下〕君王均㆑之。〔注〕均、同也。〔史記、酷吏、周陽由傳〕未㆔嘗敢均㆓茵伏㆒。〔注〕索隱曰、案、均、等也。❷をさめる。手入れをする。耕す。〔大戴禮、夏小正〕農率均㆑田。〔傳〕均㆑田、始除㆑田也。❸かへる。〔爾雅、釋詁三〕均、易也。❹くばる。〔廣雅、釋詁三〕均、賦也。❺はかる。〔周禮、地官、司稼〕掌㆑均㆓萬民之食㆒。〔注〕均、謂㆑度㆓其多少㆒。❻絃樂器の調律器。〔後漢書、律曆志〕冬夏至、陳㆓八音㆒、聽㆓五均㆒。〔注〕均、長七尺、繫以㆑絲、以節㆓音樂㆒。〔張衡、思玄賦〕考㆓治亂於律均㆒兮。〔注〕善曰、樂汁圖徵曰、聖人往承㆓天助㆒、以立㆓五均㆒、云云、宋均曰、均、長八尺、施㆑絃以調㆓六律五聲㆒。❼ろくろ。土器を造る廻轉臺。〔正字通〕均、造㆑瓦之具、旋轉者。〔管子、七法〕猶㆑立㆓朝夕於運均之上㆒。〔注〕均、陶者之輪也。❽量の名。酒二千五百石。〔漢書、食貨志下〕令㆓官作㆑酒、以㆓二千五百石㆒爲㆓一均㆒、率開㆓一盧㆒以賣。❾くろごろも。玄衣。袗(10－34194)に通ず。〔說文通訓定聲〕均、叚借爲㆑袗、左僖五、均服振振、注、同也、失㆑之。〔儀禮、士冠禮、兄弟畢袗玄、注〕古文、袗爲㆑均。❿鈞(11－40238)に通ず。〔集韻〕均、通作㆑鈞。⓫畇(7－21764)に通ず。〔說文句讀〕釋訓、畇畇、田也、釋文引字林、均均、田也、是知㆓畇卽均之異文㆒。⓬或は旬(5－13746)・匀(2－2496)に作る。〔集韻〕均、周禮作㆑旬、或作㆑匀。〔禮、內則、旬而見、注〕旬、當㆑爲㆑均。⓭また⿱匀土(3－4917)に作る。〔集韻〕均、亦書作㆑⿱匀土。⓮姓。〔萬姓統譜〕均、州名。㊁ひびき。韻(12－43307)に同じ。〔集韻〕韻、說文、和也、裴光遠云、古與㆑均同。〔成公綏、嘯賦〕音均不㆑恆。〔注〕善曰、均、古韻字也。㊂そふ。沿(6－17261)に通ず。〔說文通訓定聲〕均、叚借爲㆑沿。〔書、禹貢〕均㆓于江海㆒。〔鄭注〕均、讀曰㆑沿。

名乘 タダ。ナホ。ナリ。ヒラ。マサ。

解字 會意形聲。土(平の意に用ふ)と匀(あまねくゆきわたる意)との合字。匀は又聲。本義はたひらかにあまねき意。又、公平均一の意。轉じて易(かへる)・賦(くばる)・度(はかる)の意とし、假借して袗・沿の意とする。〔說文、匀、段注〕匀者帀也、故以會意。

參考 圴(3－4895)は異字。

【均意】1 chün¹ i⁴ 公平な心。

【均釉】2 chün¹ yu⁴ 淸代、宋の磁均窯に倣つて作つた陶器。

【均一】3 キンイツ ❶ひとしい。ひとしくする。均壹。均同。均齊。平均。〔唐書、薛平傳〕兵鎧完礪、傜賦均一。❷淸、王元淑(7－20823‥1428)の字。

【均壹】4 キンイツ ひとしい。不公平のないこと。均一。〔詩、曹風、鳲鳩、鳲鳩在㆑桑、其子七兮、注〕鳲鳩之養㆓其子㆒、朝從㆑上下、莫從㆑下上、平均如㆑

一。〔疏〕鳲鳩養レ之、能平均用レ心如レ壹、云云、言二善人君子、能如レ此均壹一、刺二曹君用レ心不レ均也。

【均匀】5（キンイン）　そろへる。ひとしくする。〔福惠全書、刑名部、監禁〕須二捕官親散均匀一。

【均徭】6（キンエウ）　清代、課役の制で、人民を均當に徭役に服せしめること。均徭銀を見よ。〔清會典、戸部〕凡賦、有二地賦一、有二丁賦一、役有二均徭一、有二支驛一、隨二地丁一徵焉。

〔均徭銀〕7（キンエウギン）　均徭の制によつて徭役に服せしめることの代りに徵集した稅。〔清會典、戸部〕原編二均徭法一、在官人役、皆於二所レ屬民人內一僉當、是爲二力差一、後改徵二力差銀一、令二輸レ銀以助レ役、後復攤二徵於地糧一、爲二均徭銀一、役皆募充、以二均徭銀一給二役食一。

【均窰】8（キンエウ）　磁器の名。宋の均州の窯。河南省禹縣に在つて、硃砂紅・鸚哥綠・茄皮紫の三種がある。〔遵生八牋、論二諸品窰器一〕若二均州窰一、有二硃砂紅・葱翠青一、俗謂二鸚綠茄皮一、紫紅若二胭脂一、青若二葱翠一、紫若二墨黑一、三者色純無二少變露一者爲二上品一、底有二一二數目字號一爲レ記。〔遵生八牋、水中丞〕古銅瓿者、樣式美甚、近有二新燒均窰一、俱法二此式一、奈不レ堪レ用。

【均役】9（キンエキ）　夫役を公平にする。〔福惠全書、編審部、總論〕一在二五年均役一、清二覈丁差一。

【均可】10　chün¹ kʻê³　いづれもよろしい。

【均行】11（キンカウ）　平均して行ふ。〔逸周書、大匡解〕無二蚤暮一、閭次均行。

【均衡】12（キンカウ）　釣合ひのとれてゐること。平衡。平鈞。

【均鑒】13　chün¹ chien⁴　書翰文用語。二名以上の人々に宛てた時に用ひる。御中。

【均儀】14（キンギ）　明、酈光祖（11－39753・・15）の字。

【均薑】15（キンキヤウ）　乾薑（1－204・・42）の異名。〔本草、乾薑〕集解、時珍曰、乾薑、以二母薑一造レ之、今江西襄均皆造、以二白淨結實者一爲レ良、故人呼爲二白薑一、又曰二均薑一、凡入レ藥並宜二炮用一。

【均曲】16（キンキヨク）　雅曲の名。〔傅毅、舞賦〕贊二舞操一、奏二均曲一。〔注〕良曰、均、雅曲之名也。

【均科】17（キンクワ）　罪の輕重にかかはらず刑罰を同等にすること。科は斷罪。〔宋書、蔡廓傳〕事非二王殺一、考レ律同レ歸、輕重均レ科、減降路塞。

【均官】18（キンクワン）　官名。漢、置く。太常の屬官。山陵を掌る。〔漢書、百官公卿表上〕奉常、云云、更二名太常一、屬官有二云云、又均官・都水兩長丞一。〔注〕服虔曰、均官、主二山陵上稾輸入一之官也。

【均慶】19（キンケイ）　ひとしくよろこぶ。〔梁簡文帝、南郊頌序〕千神叶レ福、萬億均レ慶。

【均挈】20（キンケツ）　ひとしく物をひつさげる。〔劉禹錫、傷往賦〕我觀二于途一、裨販之夫、同荷均挈、荆釵布襦。

【均縣】21（キンケン）　縣名。民國、置く。戰國、楚の均陵。湖北省襄陽道に屬す。

【均權】22（キンケン）　權力が平均して釣合ふこと。〔說苑、君道〕夫燕・齊非二均權敵戰之國一也。

〔均權制度〕23（キンケンセイド）　民國、國民政府の建國大綱に規定せられた制度で、中央集權制度と地方分權制度とを折衷したもの。

【均口】24（キンコウ）　地名。湖北省光化縣の西北。〔水經、沔水注〕均水于レ縣入レ沔、謂二之均口一。

【均工】25（キンコウ）　樂人をいふ。〔李綱、諫下以二舞人安叱奴一爲中散騎常侍上疏〕周禮均工樂胥、不レ預二於仕伍一。〔海錄碎事、音樂、樂人〕均工、樂工也、河間獻王樂語有二五均之官一。

【均州】26（キンシウ）　州名。隋、置く。湖北省均縣の北。元、今の均縣治に徙す。民國、改めて均縣とす。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府〕均州、禹貢荆豫二州境、春秋時麇國地、戰國屬レ楚、秦漢皆屬二南陽郡一、云云、隋初二郡俱廢、改レ州爲二均州一。〔清史稿、地理志〕湖北、襄陽府、州一、均州。

【均修】27（キンシウ）　公平に修爲する。〔管子、立政〕農夫以レ時均修焉、使三五穀桑麻皆安二其所一、由田之事也。

【均章】28（キンシヤウ）　元、王中陽（7－20823・・1909）の字。

【均守】29（キンシユ）　諸侯の領土を身分に依つて公平に保有させること。〔周禮、夏官、大司馬〕均守平則、以安二邦國一。〔注〕諸侯有二土地一者、均レ之、尊者守レ大、卑者守レ小、則、法也。〔疏〕言二均守一、謂二五等一、諸侯有二五等一、受レ地五百里已下、是均守也、平則者、則、法也、謂下五等職貢之等、皆有二常法一、邦國獲上レ安。

【均種】30（キンシユ）　種子や苗を間隔に疏密のないやうに平均に蒔き、或は植ゑる。〔管子、小匡〕深耕均種疾耰。

【均輸】31（キンシユ）　㊀官名。漢の武帝の時置く。均輸法の㊀を見よ。〔漢書、百官公卿表、上〕大司農、屬官有二太倉・均輸・平準・都內・籍田五令丞一。㊁古の算法の名。九章の一。九章（1－167・・331）の㊂・九數（1－167・・374）の㊀を見よ。〔周禮、地官、保氏〕養二國子一以レ道乃教二之六藝一、一曰五禮、二曰六樂、三曰五射、四曰五馭、五曰六書、六曰九數、〔注〕鄭司農云、九數、方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・方程・贏不足・旁要。

〔均輸法〕32（キンシユハフ）　㊀漢の武帝の元鼎二年に始められた經濟政策。多年に亙る外征と土木工事とのために國の財政は逼迫し、國內が疲弊したので、桑弘羊の建議に本づいて、均輸官を郡國に置き、其の地に多く產する物を其の賦として徵收し、官自身が之を產出の少い地方に賣つて利を得、又、京師に平準官を置いて、各地の低廉な貨物を買入れ、價格が騰貴した時に之を賣つて利を收めると共に、之を以て物價調節の手段とした。しかし、やがて均輸官が權勢を恃んで人民に賣買を強制し、官の利益にのみ專念する等、諸種の弊害を生じ、人民の怨嗟を招くに至つた。〔史記、平準書〕桑弘羊爲二大農丞一、筦二諸會計之事一、稍稍置二均輸一、以通二貨物一矣。〔注〕集解曰、孟康曰、謂、諸當三所二輸於官一者、皆令レ輸二其土地所レ饒、平二其所在時價一、官更於二佗處一賣レ之、輸者既便、而官有レ利。〔後漢書、劉盆子傳〕帝憐二盆子一、云云、賜二滎陽均輸官地一、以爲二列肆一。㊁北宋の神宗の時、內憂外患の時局に當り、宰相王安石は、所謂新法を實施し、漢代のと略〻同一な均輸法を、新政策の一つとして採用したが、功を焦つたため、實績が擧らなかつた。〔宋史、食貨志〕均輸之法、所三以通二天下之貨一、制爲二輕重斂散之術一、使三輸者既便、而有無得二以懋遷一焉。

【均壽】33（キンジユ）　宋、陶椿卿（11－41705・・215）の字。

【均熟】34（キンジユク）　皆同じ程度に煮えあがること。〔遼史、蕭韓家奴傳〕使二大小均熟一、始爲レ盡レ美。

【均出】35（キンシユツ）　公平に出す。〔商子、墾令〕均二出餘子之使令一。

【均敍】36（キンジヨ）　番直の次を均等公平ならしめる。一說に才藝の高下をひとしくする。〔周禮、天官、宮伯〕月終則均レ秩、歲終則均レ敍。〔孫詒讓正義〕月終則均レ秩、歲終則均レ敍者、謂三均二平其番直之次一也、鄭前注以二秩敍一爲二祿稟才等一、義未レ允、惠士奇云、宮正之士庶子、月終則均レ秩、歲終則均レ敍、猶二漢之衞卒、唐之府兵一也、漢之衞卒、每二一歲一而更、唐之府兵、宿衞者皆月上、然則月終均レ秩者、猶二府兵之月上一、歲終均レ敍者、猶二衞卒之歲更一、蓋番上更休、皆有二秩敍一、各得二其均一、案惠說是也。

【均心】37（キンシン）　心をひとしくする。同じ考へや感情をもつこと。〔論衡、奇怪〕天人同レ道、好惡均レ心、人不レ好二異類一、則天亦不二與通一。

【均人】38（キンジン）　周官の名。地官の屬。鄉遂公邑の力役を公平にすることを掌る。〔周禮、地官、均人〕掌レ均二地政一、均二地守一、均二地職一、均二人民牛馬車輦之力政一。

【均任】39（キンジン）　新論の篇名。

【均水】40（キンスイ）　㊀水を平等に配る。〔漢書、召信臣傳〕作二均水約束一、刻レ石立二於田畔一、以防二分爭一。㊁川の名。㋑源は河南省內鄉縣の熊耳山。上源は淅水。湖北省均縣の東南を經て漢水に注ぎ、其の注ぐ處を均口といふ。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鄧州、淅川縣〕均水、在二縣東一、源出二內鄉縣熊耳山一、曰二涓水一、流經二廢順陽縣西一、曰二汮水一、至二故涉都城東北一、而入レ沔、曰二均水一、漢志、順陽西有二白石山一、南臨二汮水一、其入レ沔處亦曰二涓口一、亦曰二均口一、亦曰二汮均口一。㋺源は湖北省大洪山。隨縣の西を流れ、東北流して涓水に注ぐ。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州、涓水〕均水、在二州西四十里一、出二大洪山一、至二州東南四十里一、入二涓水一、後周有二均州一、蓋以レ水名。

〔均水約束〕41（キンスイノヤクソク）　平等に給水する約束。〔漢書、召信臣傳〕信臣爲レ民作二均水約束一、刻レ石立二於田畔一、以防二分爭一。

【均瑞】42（キンズイ）　元、黃復圭（12－47926・・1305）の字。

【均勢】43（キンセイ）　勢力が互に相平均する。〔張悛、爲二吳令謝詢一求下爲二諸孫一置中守冢人上表〕位嘗侔レ

尊、力嘗均㆑勢。

【均齊】44キンセイ ❶均一(3)に同じ。〔孔子家語、執轡〕均㆓齊民之力㆒。❷つりあひがとれて整つてゐること。均整。

【均齊美】45キンセイビ 主として造形美術の、均齊による美しさをいふ。

【均整】46キンセイ 均齊の❷に同じ。

【均照】47キンセウ 一樣に照らす。〔駱賓王、上㆓李少常伯㆒啓〕璧輪均照、或流㆓景于萊城㆒。

【均石】48キンセキ 地名。甘肅省張掖縣の東。〔十六國春秋〕禿髮傉檀弘昌六年、伐㆓沮渠蒙遜於張掖㆒、入㆑自㆓西陝㆒、蒙遜拒㆓戰於均石㆒。

【均節】49キンセツ 公平で筋目正しくする。〔周禮、天官、司會〕以㆓九式之灋㆒、均㆓節邦之財用㆒。〔疏〕九式、所㆘以用㆓九賦㆒使㆗均平有㆖節、故云㆔均㆓節邦之財用㆒。

【均浹】50キンセフ 平均にゆきわたる。平均にうるほふ。〔後漢書、和帝紀〕詔曰、荊州比歲不㆑節、今茲淫水爲㆑害、餘雖㆓頗登㆒、而多不㆓均浹㆒。

【均磚】51 chün¹ chuan¹ 全部煉瓦造り。

【均善】52キンゼン 明、羅佛童(**9－28397**··404)の字。

【均速】53キンソク 一樣に早い。〔商子、弱民〕齊疾而均速。

【均臺】54キンダイ 夏の時代、獄舍をいふ。〔獨斷、上〕四代獄之別名、唐虞曰㆓士官㆒、云云、夏曰㆓均臺㆒、周曰㆓囹圄㆒、漢曰㆑獄。

【均當】55キンタウ 同じやうに割りあてる。

【均攤】56キンタン 平均に分配する。平均に割りあてる。〔文獻通考、田賦考〕熙寧五年、詔如㆘米不㆑及㆓十合㆒而收爲㆑升、絹不㆑滿㆓十分㆒而收爲㆖寸之類、今不㆑得㆘用㆓其數㆒均攤增展、致㆖溢㆓舊額㆒。〔福惠全書、編審部、編審餘論〕照㆑糧均攤、故富無㆓逃匿㆒。

【均置】57キンチ 一樣に配置する。〔六韜、犬韜、戰步〕均㆓置蒺藜㆒、掘㆑地匝㆑後、廣深五尺、名曰㆓命籠㆒。〔注〕均置、齊布也。

【均秩】58キンチツ 番直の次を公平均等ならしめる。一說に、祿高を公平にする。均敍(36)を見よ。

【均通】59キンツウ 調和して通達する。ととのつてよく通ずる。〔阮籍、樂論〕陰陽調達、和氣均通、故遠鳥來儀也。

【均調】60キンテウ 調節する。正しととのへる。〔莊子、天道〕所㆔以均㆓調天下㆒。〔宋史、陳亮傳〕運㆓用人才㆒、均㆓調天下㆒。

【均適】61キンテキ 調節して適するやうにする。〔顏氏家訓、養生〕均㆓適寒暄㆒。

【均糴】62キンテキ 宋の政和元年に、穀物を民から買入れるに、其の家產の多寡によつて差等をつけ、供出すべき量を公平に割りあてたこと。〔宋史、食貨志、上三〕取㆓上戶版籍㆒、酌㆑所㆑輸㆑租而均糴㆑之、謂㆓之對糴㆒。〔宋史、食貨志、上三〕遂立㆓均糴法㆒。

【均沾】63キンテン 同等に利益を受ける。均霑を見よ。

【均展】64 chün¹ chan³ 均しく延長する。

【均霑】65キンテン 平等にうるほふ。平等にうるほす。平等に利益を得、又は與へること。均沾。

【均田】66キンデン ❶人民に對し平等に田を分與する。又、其の田。〔漢書、王嘉傳〕均田之制、從㆑此墮壞。〔左思、魏都賦〕均田畫㆑疇、蕃廬錯列。〔文獻通考、田賦之制〕帝深納㆑之、均田之制始㆓於此㆒矣、九年下㆑詔均㆓給天下人田㆒、諸男夫十五以上、受㆓露田四十畝㆒、婦人二十畝。❷田を耕す。〔大戴禮、夏小正〕正月、農率均㆑田。〔傳〕均㆑田、始除㆑田。〔疏義〕均、古文芍省、說文云、芍、芟也、芟・除同㆑義、除、如㆓除㆑舊生㆑新之除㆒。

【均等】67キントウ ❶ひとしい。均一。平等。〔論衡、雷虛〕天之所㆑惡、小大不㆓均等㆒也。❷等級が同じい。又、等級を同じにする。〔北史、周宣帝元后傳〕帝寵㆓遇二后㆒、禮數均㆑等。

【均同】68キンドウ ひとしい。均一。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕查㆓對均同㆒。

【均派】69キンパ 割りつける。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕于㆓各里丁產照㆑則均派㆒云云。

【均賠】70 chün¹ p'ei² 平等に賠償する。

【均布】71キンプ 平等公平に廣く行き渡る。〔漢書、董仲舒傳〕然後利可㆓均布㆒、而民可㆓家足㆒。

【均賦】72キンプ 田賦を公平にする。〔宋史、王珪傳〕曾祖永事㆓太宗㆒爲㆓右補闕㆒、吳越納㆑土、受㆑命往均㆑賦、至則悉除㆓無名之算㆒、民皆感泣。

【均服】73キンプク そろひの服。〔左氏、僖、五〕均服振振、取㆓虢之旂㆒。〔注〕戎事上下同服。

【均分】74キンブン 平等に分ける。平均に分ける。〔管子、霸言〕均分以釣㆓天下之衆㆒。〔墨子、非命下〕終朝均分。〔史記、禮書〕明㆑道而均㆓分之㆒。

【均平】75キンペイ 平らかなこと。公平である。公平にする。又、平和である。平和になる。〔周禮、地官、賈師〕辨㆓其物㆒而均㆓平之㆒。〔徐寅、日月無情詩〕日月無㆑情也有㆑情、朝昇夕沒照均平。

【均兵】76キンペイ 六韜、犬韜の篇名。

【均璧】77キンペキ 元、朱玉(**6－14424**··224)の字。

【均偏】78キンペン 公平に行きわたる。〔韓詩外傳、四〕均偏而不㆑偏。〔荀子、君道〕均偏而不㆑偏。

【均辨】79キンベン 均平(75)に同じ。〔荀子、富國〕忠信調和均辨之至也。〔集解〕郝懿行曰、辨與㆑偏同、云云、王念孫曰、辨讀爲㆑平。

【均父】80キンポ 宋、夏侃(**3－5720**··77)の字。

【均拉】81 chün¹ la¹ 平かにする。平均する。

【均量】82キンリヤウ 適切にきりもりする。〔後漢書、黃香傳〕香曉㆓習邊事㆒、均㆓量軍政㆒。

【均陵】83キンリヨウ 地名。戰國、楚の地。今の湖北省均縣の北。〔史記、蘇代傳、殘㆓均陵㆒、注〕索隱曰、均陵在㆓南陽㆒、蓋今之均州。

【均輪】84キンリン 順番にやる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕發㆑房籤差、照㆑例均輪。

【均禮】85キンレイ 明、宋亮(**3－7078**··210)の字。

【均和】86キンワ 皆和合する。〔管子、四稱〕五穀蕃殖、外內均和。

【均卑拉】87 chün¹ pei¹ la¹ 平均する。

【患㆑不㆑均】88ヒトシカラザルヲウレフ 物を公平に與へることのできないことを憂へるべきである。〔論語、季氏〕丘也聞、有㆑國有㆑家者、不㆑患㆑寡而患㆑不㆑均、不㆑患㆑貧而患㆑不㆑安。

【均產主義】89 chün¹ ch'an³ chu³ i⁴ 共產主義。

【均此道念】90 chün¹ tz'ŭ³ tao⁴ nien⁴ 書翰文用語。宜敷御傳へ被下度候。

【均稅寬恤】91キンゼイクワンジユツ 租稅を公平にして民力をいたはる。〔蘇軾、上㆓神宗皇帝㆒書〕近者、均稅寬恤、冠蓋相望、朝廷已旋覺㆓其非㆒。

【均中比例】92 chün¹ chung¹ pi³ li⁴ 數學用語。混合法ともいふ。

【均買均賣】93 chün¹ mai³ chün¹ mai⁴ 公平な取引。

【⿱𠂊王】4917

キン 均(**3－4916**)の古字。〔正字通〕均、古作㆑⿱𠂊王。

【扗】4918

ホウ 封(**4－7426**)の籀文。〔說文〕封、扗、籀文封、从㆓丰土㆒。

【⿰土予】4919

ジヨ 序(**4－9253**)に同じ。〔集韻〕序、東西牆也、或从㆑土。

【⿱丕土】4920

㊀キ ㊁カイ ㊀墍(**3－5423**)の古字。〔集韻〕墍、古作㆑⿱丕土。㊁塈(**3－5568**)の古字。〔集韻〕塈、古作㆑⿱丕土。

【坈】4921

㊀ジヨウ ニユ 〔集韻〕乳勇切 ［董］

㊁カウ キヤウ 〔楚辭補注〕丘庚切 ［庚］

㊀**地名**。〔集韻〕坈、地名。㊁**あな**。坑(**3－4932**)に同じ。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕與㆓麋鹿㆒同㆑坈。〔補注〕坈、字書作㆑坑、丘庚切。

【坾】4922

㊀クワイ 〔集韻〕苦對切 ［隊］

㊁デフ ネフ 〔集韻〕諾叶切 ［葉］

㊀㊁❶**ふかい**。〔廣雅、釋詁三〕坾、深也。❷**しづか**。〔廣雅、釋詁四〕坾、靜也。❸**むなしい**。〔廣雅、釋詁三〕坾、空也。

【坉】4923

［一］トン ドン 〔集韻〕徒渾切 ［元］ ㄉㄨㄣˊ tuen3
［二］トン ドン 〔集韻〕杜本切 ［阮］

［一］❶水が通じない。〔玉篇〕坉、坉水不レ通、不レ可二別流一。❷ふさぐ。又、きづく。草で土をつつんだもので水を塞ぐ。又、それで城を築く。〔廣韻〕坉、以レ草裹レ土築レ城及塡レ水也。〔集韻〕坉、草土塡レ水曰レ坉。❸うね。田隴。〔集韻〕坉、一曰、田隴。［二］❶ふさぐ。ふさがる。［一］の❷に同じ。〔集韻〕坉、塞也。❷沌(6－17193)に同じ。〔廣韻〕沌、混沌、坉、上同。

【坉子】1（トンシ）むら。聚落。〔康熙字典〕坉、玉篇、一曰、田隴也、今西北莊家曰二坉子一。

【坊】4924

［一］ハウ バウ 〔集韻〕分房切 ［陽］ ㄈㄤ fang1・2
［二］ハウ 〔集韻〕符方切 ［陽］
［三］ハウ 〔集韻〕甫妄切 ［漾］
［四］ハウ バウ 〔集韻〕符訪切 ［漾］

小篆

［一］［二］❶まち。區域。町の一區域をいふ。〔說文新附〕坊、邑里之名、从レ土方聲。〔華嚴經音義、上〕坊、區也。〔北史、魏宗室傳〕淮南人相率投附者三千餘家、置二之城東汝水之側一、名曰二歸義坊一。〔淸國行政法汎論、地方自治、保甲、組織、備考〕城中曰レ坊、近レ城曰レ廂、在レ鄉曰レ里。❷いち。〔正字通〕坊、商賈貿易之所、亦曰レ坊。〔唐書、百官志〕置二市坊一、有二貿易錄一。❸みせ。あきなひみせ。市肆。〔古杭夢游錄〕大茶坊張二挂名人書畫一、在二京師一只熟食店挂レ畫、所二以消遣久坐一也。❹ばしよ。仕事場。〔五代史、史宏肇傳〕夜聞二作坊鍛甲聲一。❺やしき。〔中吳紀聞〕丁謂之所レ居在二大郎橋一、號二晉公坊一。❻へや。はなれ。〔何晏、景福殿賦〕屯坊別署、三十有二。〔注〕坊、別室也。❼つかさどころ。官署の名。〔唐書、文宗紀〕帝卽位、縱二五坊鷹犬一。〔唐書、百官志〕龍朔二年、改二典書坊一、曰二右春坊一。❽てら。〔雞跖集〕給孤長者、以二黃金一布レ地爲二伽藍一、故號二寶坊一。❾いがた。〔淮南子、齊俗訓〕鑪橐埵坊設、非二巧冶一不レ能二以治一レ金。〔注〕坊、土形也。❿建物の名。其の土地の節義忠孝賢壽等を旌表する建物。〔說文通訓定聲〕防、叚借爲レ望、按、今建坊字、言二衆所一レ望也。⓫つつみ。防(11－41576)に同じ。〔集韻〕防、說文、隄也、或作レ坊。〔禮、月令〕完二隄防一。〔釋文〕防、本又作レ坊。〔禮、郊特牲〕祭二坊與一レ水。〔疏〕坊者、所二以蓄一レ水、亦以障レ水。⓬ふせぐ。防(11－41576)に同じ。〔禮、王制〕齊二八政一以防レ淫。〔釋文〕坊、本又作レ防。⓭或は埅(3－5109)に作る。〔集韻〕坊、埅、說文邑里之名、或从レ防。⓮方(5－13620)に通ず。〔史記、孔子世家〕坊叔。〔漢書、古今人表〕方叔。⓯姓。〔萬姓統譜〕坊蒙、字彥輝、徐州人、洪武中休寧縣丞。［三］つつみ。［一］の⓫に同じ。〔集韻〕坊、堤也。［四］つつみ。［一］の⓫に同じ。〔集韻〕防、隄也、或从レ土。［邦］ばう。㋑都城制の市街の一區劃。平安京では四町四方の稱。㋺僧。又、僧の舍號。又、僧形の人名に添へて用ひる。㋩東宮坊の略。㋥幼少の男兒を親しみ呼ぶ稱。又、其の自稱。㋭或る語に添へて、他人に對する親しみ又は嘲りの意を表はす語。けちん坊・朝寢坊など。

［參考］本字は防。坊は俗字。今は其の用を異にする。

【坊淫】1（バウイン）邪淫をふせぐ。〔禮、坊記〕刑以坊レ淫、命以坊レ欲。〔疏〕坊字、或土旁爲レ之、或阜旁爲レ之、古字通用也。

【坊巷】2（バウカウ）小路。路次。〔夢粱錄、防隅巡警〕官府坊巷近二二百餘步、置二一軍巡鋪一、以二兵卒三五人一爲二一鋪一。〔夢粱錄、禁城九廂坊巷〕左一南廂所レ管坊巷曰二大隱安榮懷慶和豐一、並在二淸河坊內一。〔史達祖、詞〕坊巷曉愔愔、東風斷二舊火一、銷處近二寒食一。

【坊額】3（バウガク）邑里市街の門額。〔五雜組、物部一〕有下作二架於背上一兩人對坐宴飲者上、遇二坊額一必膝行而過。〔周霆震、大風發レ屋詩〕臨レ江戰樓飛、夷レ巷坊額剖。

【坊間】4（バウカン）まちのなか。坊市。世間。〔淸國行政法汎論、法典、條例淵源〕增修律例統纂集成凡例云、云云、坊間增刻、每易二舛迕一。

【坊記】5（バウキ）禮記の篇名。禮を以て民の過失を防ぐことを述ぶ。坊は防。明の黃道周は、表記と共に之を表章して、坊記集傳三十章を作り、每章の下に春秋の事蹟を附列し、又、淸の廖平は坊記新解一卷を著す。〔禮、坊記、疏〕鄭目錄云、名二坊記一者、以下其記二六藝之義一、所三以坊二人之失一者上也、此於二別錄一屬二通論一。

【坊記集傳】6（バウキシフデン）書名。二卷。明、黃道周撰。此の書は坊記を以て經とし、每章の下に各春秋の事蹟を以て之を證す。又、春秋問業一卷を附す。〔四庫提要、經、禮類〕。

【坊曲】7（バウキヨク）唐代、妓女の居る所の名。〔白居易、馬上晚吟〕如今不二是閑行日一、日短天陰坊曲遙。

【坊官】8（バウクワン）❶東宮坊の官吏。〔桃花扇、逮社〕淨扮二坊官一、急上跪介。❷［佛］門跡家の家司（シケイ）。僧衣を着し帶刀する。房官。〔驪驢嘶餘〕坊官、武家出仕の時。❸僧坊の政治を執る者。

【坊缺】9（バウケツ）淸代、官吏の階級をさす語。〔會典、吏部、翰詹坊缺、注〕其由二修撰・編修・檢討一升者、以二贊善一最爲二初階一、故由二贊善一而上、統謂二坊缺一。

【坊賈】10 fang1 ku3 町の商人。町人。

【坊刻】11（バウコク）坊間で板刻すること。又、其の本。坊本(37)を見よ。〔書林淸話〕明人私刻・坊刻書。

【坊子】12（バウシ）❶地名。山東省濰縣の東南。石炭を產し、埋藏すること約一億萬噸。膠濟鐵路に沿ひ、もと獨逸人が所有したが、第一次世界大戰の時、日本の占有となり、太平洋會議の結果、日支合辦となる。❷fang1 tzŭ 河南地方で、問屋の下にあつて雜穀買付けに從事する者。

【坊子佣】13 fang1 tzŭ yung4 坊子の口錢。一斗につき五文位。

【坊子煤礦】14（バウシバイクワウ）炭坑の名。山東省濰縣の東南にある。坊子の❶を見よ。

【坊市】15（バウシ）まち。坊間。街市。〔杜陽雜編、下〕坊市豪家。

【坊肆】16（バウシ）町家。商家。〔淸高宗、乾隆三十七年諭〕在二坊肆一者、或量爲レ給レ價。

【坊州】17（バウシウ）州名。唐、置く。漢の左馮翊翟道縣の地で、北周の馬坊。陝西省中部縣治。〔唐書、地理志一〕坊州中部郡、武德二年、析二鄜州之中部鄜城一置。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、鄜州〕中部縣、州南百六十里、漢左馮翊翟道縣地、云云、後周天和七年、唐世祖作二牧鄜州一、於二州界內一置二馬坊一、武德二年、圍置二坊州於此一、復改爲二中部縣一。

【坊舍】18（バウシヤ）僧の住んで居る所。僧房。坊寮。

【坊廂】19（バウシヤウ）城治の區劃。城內を坊といひ、城外附近を廂といふ。坊長(30)の❶を見よ。

【坊守】21（バウモリ）❶寺坊の番人。❷小寺の身分の低い僧。❸眞宗の僧の妻。だいこく。〔御因緣祕傳鈔〕。

【坊主】22（バウズ）❶坊舍の主人。一坊の主僧。〔源賴政集、雜〕坊主のもとより。❷僧侶の泛稱。〔書言字考節用、四〕坊主、本朝俗語、僧徒之總稱也。❸髮を剃つてゐる頭。又、その人。❹毛髮・毛茸・草木等の無い形。又、それを取り去つたあとの形。〔一茶句集〕桑の木は坊主にされて芥子の花。❺幼い男兒を親しみ或は卑しめていふ語。❻或る語に添へて、他人に對する親しみ又は嘲りの意を表はす語。三日坊主など。❼武家時代、

幕府や諸侯に仕へ、剃髮・法服で、茶の湯や給仕等の雜役を勤めた者。

【坊主禿】23（バウズカムロ） 江戸時代、遊女に使はれる幼い禿の剃髮してゐた者。

【坊主讀】24（バウズヨミ） 坊主が誦經するやうに、意味を味はないで讀み下すこと。

【坊主落】25（バウズオチ） 僧が墮落して還俗すること。〔平家女護島、三〕私、息子は坊主おち。

【坊主合羽】26（バウズガツパ） 江戸時代、西班牙人が着用した、袖がなく裾の廣い capa に眞似たもので、紙で製し油を引いて雨天に用ひる外套。

【坊正】27（バウセイ） ❶坊長(30)に同じ。❷德川時代の庄屋、又、名主。

【坊前】28（バウゼン） 鎭の名。❶江蘇省無錫縣の西南、長廣溪の濱。❷江蘇省武進縣の西南、宜荊曹河の濱。

【坊塞】29（バウソク） ふせぐ。ふさぐ。坊は防。〔鹽鐵論、本議〕排二困市井一、坊二塞利門一、而民猶爲レ非也。

【坊長】30（バウチヤウ） ❶坊の長。街長。坊內の戸籍、其の他の公務を掌る。坊正。〔大學衍義補、固二邦本一擇二民之長一〕周制、內有二六鄕一、外有二六遂一、鄕之所レ置、比長・閭胥・族師・黨正、遂之所レ置、鄰長・里宰・酇長・鄙師、是卽漢之亭長・三老・嗇夫、唐之里正・坊正、宋之保長・耆長之任也、我朝稽レ古定レ制、於二天下州縣一、每百一十戸爲二一里一、十戸爲レ甲、每甲有レ長、在レ城謂二之坊長一、或謂二之廂長一、在レ外謂二之里長一、或謂二之社長・保長一、十年而一役レ之、又於二每里一、推二一年老有レ德者一爲二老人一。❷昔、京都の坊の長官。戸口を檢し、姦邪を督し、賦徭を課することを掌つた。

【坊廳】31（バウチヤウ） 東宮坊の事務を掌る所。春官の廳。〔春宮坊式〕使者更集二於坊廳前庭一。

【坊場】32（バウヂヤウ） 官設市場。〔文獻通考、征榷考、雜征斂〕按坊場、卽墟市也、商稅・酒稅皆出焉。〔宋史、食貨志下六〕坊場常平剩錢。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕賣二所在坊場一。〔陸游、村居書レ喜詩〕坊場酒賤貧猶醉、原野泥深老亦耕。

【坊廚】33（バウチユウ） 町の茶屋。〔徐陵、長干寺衆食碑〕于レ是思レ營二衆業一、願レ造二坊廚一。

【坊店】34（バウテン） みせ。〔韻府引、陸游、詩〕近村坊店賣二新醅一。

【坊陌】35（バウハク） 唐代、妓女の居る所の名。〔周邦彥、瑞龍吟〕愔愔坊陌人家。

【坊表】36 fang¹ piao³ 模範。雛形。

【坊本】37（バウホン） ❶民間の書肆から出版した書物。南宋に始まる。官本(3-7107‥335)の❶・家塾本(3-7169‥155)の對。〔書林清話、宋坊刻書之盛〕建安江仲達、羣玉堂刻宋麻沙坊本、二十先生回瀾文鑑十五卷、後集八卷、見二丁志一、浙中則有。❷（バウモト） 姓氏。〔拾芥抄中本、姓尸錄〕。❸（マチモト） 姓氏。〔姓林全書〕。

【坊民】38（バウミン） 民を防ぐ。人民の過失を豫防すること。〔禮、坊記〕君子之道、辟則坊與、坊二民之不一レ足者也、大爲二之坊一、民猶踰レ之。〔禮、坊記〕子云、君不下與二同姓一同上レ車、與二異姓一同レ車、不レ同レ服、示二民不一レ嫌也、以レ此坊レ民。

【坊門】39（バウモン） 市中に設けた門。町の門。巷門。坊閭。〔白居易、失レ婢詩〕宅院小墻庳、坊門帖牓遲。

【坊欲】40（バウヨク） 欲心をふせぐ。防欲。〔禮、坊記〕刑以坊レ淫、命以坊レ欲。〔疏〕坊字、或土旁爲レ之、或阜旁爲レ之、古字通用也。

【坊里】41（バウリ） 村里。〔金史、世宗紀中〕詔二有司一、嚴下禁州縣坊里爲二民害一者上。

【坊閭】42（バウリヨ） 町の門。坊門。轉じて、まち。〔唐書、薛元賞傳〕剽二奪坊閭一。

【坊令】43（バウレイ） 坊の長。坊內を監督し、戸口の檢校を行ひ、奸非を督察し、賦徭を催促するを掌る。平安京では左右京に各〻十二人を置く。一名、條令。〔日本書紀、孝德紀〕四坊置二令一人一、掌下按二檢戸口一、督中察姧非上、其坊令、取下坊內明廉強直、堪二時務一者上充。

【坊寮】44（バウレウ） 僧の住んでゐる所。坊舍(18)に同じ。

【坊枡】45（バウマス） 古、東寺の執行が使用した枡。執行坊枡の略。〔東寺執行日記、文明六年十月十四日〕三石坊枡、渡レ之。

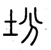
【坋】4925

［一］フン ブン 〔集韻〕父吻切 ㄈㄣˋ fen⁴ ［吻］

［二］フン ブン 〔集韻〕符問切 ［問］

［三］フン 〔集韻〕方問切 ［問］

［四］ホン



小篆

［一］❶ちり。〔說文〕坋、𪋻也、从レ土分聲。〔一切經音義、二〕埻土曰レ坋。❷ふりかける。かきまぜる。〔說文、段注〕凡爲二細末一糝レ物若被レ物者、皆曰レ坋、云云、五行志、棄二灰於道一者黥、孟康曰、商鞅以下棄二灰於道一必坋レ人、坋レ人必鬥上、故設二黥刑一以絕二其源一、按、坋之爲レ言、被也。❸つつみ。隄防。墳(3-5488)に通ず。〔說文通訓定聲〕坋、叚借爲レ墳。〔說文〕坋、一曰、大防也。❹或は坌(3-4926)に作る。〔篇海〕坋、亦作レ坌。［二］❶ちり。［一］の❶に同じ。〔集韻〕坋、塵也。❷つつみ。［一］の❸に同じ。〔集韻〕坋、一曰、大防。［三］のぞく。はらふ。坌(3-4995)に同じ。〔集韻〕坌、說文、掃除也、或作レ坋。［四］坌(3-4926)に同じ。〔集韻〕坌、或書作レ坋。

【坌】4926

［一］ホン ボン 〔集韻〕蒲悶切 ㄅㄣˋ pen⁴ ［顐］

［二］フン

［一］❶ちり。〔廣雅、釋詁三〕坌、塵也。❷ならぶ。〔集韻〕坌、一曰、並也。〔漢書、司馬相如傳下〕坌二入曾宮之嵯峨一。〔注〕張揖曰、坌、竝也。❸あつまる。〔唐書、儒學傳序〕坌二集京師一。❹わくさま。〔後漢書、禰衡傳〕飛レ辯騁レ辭、溢氣坌涌。❺或は坋(3-4925)に作る。〔集韻〕坌、或書作レ坋。［二］坋(3-4925)に同じ。〔字彙〕坌、同レ坋。

【坌集】1（フンシフ） むらがりあつまる。〔唐書、儒學傳序〕坌二集京師一。

【坌入】2（フンニフ） ならんではいる。〔漢書、司馬相如傳下〕登二陂阤之長阪一兮、坌二入曾宮之嵯峨一。〔注〕張揖曰、坌、竝也。

【坌冒】3（フンバウ） かふむる。をかす。〔新書、勸學〕坌二冒楚棘一、彌レ道千餘百舍。

【坌沸】4 pen⁴ fei⁴ ほこりが立つ。

【坌竝】5（フンペイ） ならぶ。又、疾走のさま。〔左思、吳都賦〕儇佻坌竝、銜レ枚無レ聲。〔注〕善曰、漢書、相如弔二二世一曰、坌二入曾宮之嵳峩一、音義曰、坌、竝也、良曰、坌竝、疾走貌。

【坌勃】6（フンボツ） 塵が起り立つ。〔陸龜蒙、化二稻鼠一文〕埃壒坌勃。

【坌涌】7（フンヨウ） 盛にわき出る。坌は、わくさま。坌湧。〔孔融、薦二禰衡一表〕飛レ辯騁レ辭、溢氣坌涌。〔注〕善曰、坌、涌貌。

【坍】4927

タン 〔集韻〕他甘切 ㄊㄢ t'an¹ ［覃］

❶水が岸を打って壞す。古、坍(3-4978)に作り、或は坍(3-4952)に作る。〔字彙〕坍、古坍字。〔正字通〕坍、同レ坍。〔廣韻〕坍、水打レ岸壞。〔集韻〕坍、水壞レ岸。❷崩れた岸。〔篇海〕坍、一曰、崩坍。

【坍壞】1（タンクワイ） 土墻のくづれ。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕坍壞苫蓋、有無滲漏。

【坍臺】2 t'an¹ t'ai² 坍台。❶短處を衆人の前に暴露すること。❷耻辱。耻かしい。

【坍倒】3 t'an¹ tao³ 崩れ倒れる。

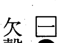
【坍塌】4（タンタフ） 崩れこはれる。崩壞。〔六部成語、工部、坍塌、注解〕河堤倒壞也。〔福惠全書、保甲部、建築、柵濠〕每レ遇二霖雨一、輒易二坍塌一。

【坍漲】5 t'an¹ chang⁴ 沙地が水勢の變動によって消滅するを坍といひ、發生するを漲といふ。

【坍裂】6（タンレツ） くづれさける。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕臥炕有二坍裂一、該甲具二稟本縣一。

【坎】4928

㊀カン コン〔集韻〕苦感切 ㄎㄢˇ k'an³ 〘感〙
㊁カン〔集韻〕呼甘切 〘覃〙
㊂カン コン〔集韻〕苦紺切 〘勘〙


小篆

㊀❶あな。〔說文〕坎、陷也、从㆑土欠聲。❷はかあな。〔禮、檀弓下〕其坎深不㆑至㆓於泉㆒。〔禮、雜記〕四十者待㆑盈㆑坎。〔注〕坎、或爲㆑壙。❸谷や川などの神を祭るために掘つた穴。〔禮、祭法〕四坎壇、祭㆓四方㆒也。〔疏〕坎、以祭㆓川谷泉澤㆒。❹易の八卦の一。☵。水・かくれる・なやむ・月・惡人・堅い心・北方などの象。〔易、說卦〕坎者水也、正北方之卦也、勞卦也、云云、坎爲㆑水、爲㆓溝瀆㆒、爲㆓隱伏㆒、云云、爲㆓加憂㆒、爲㆓心病㆒、云云、爲㆑月、爲㆑盜、云云、爲㆓堅多心㆒。❺習坎は、易の六十四卦の一。䷜（坎下坎上）。險難の象。〔易、習坎〕習坎、重險也。❻けはしい。〔釋名、釋天〕坎、險也。❼ひくい。〔易、雜卦〕坎、下也。❽おほい。〔國語、晉語四〕坎、衆也。❾つかれる。〔國語、晉語四〕坎、勞也。❿うらむ。惂(4−10751)に通ず。〔說文通訓定聲〕坎、叚借爲㆑惂。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕哀㆓僕夫之坎毒㆒兮。〔注〕坎、恨也。⓫うれへる。〔太玄經、內〕坎㆓我西階㆒。〔注〕坎、憂也。⓬はかる。〔爾雅、釋言〕坎、銓也。〔注〕坎卦主㆑法、法律皆所㆔以銓㆓量輕重㆒。⓭酒器の一種。さかつぼ。〔爾雅、釋器〕小罍謂㆓之坎㆒。〔注〕酒尊形似㆑壺、大者受㆓一斗㆒、言㆓口內九坎者、能四季捉㆑鼠也。⓮樂器を打つ音。竷(8−25834)に通ず。坎坎(4)の❶を見よ。〔說文通訓定聲〕坎、叚借爲㆑竷。〔禮、樂記〕鼓㆑竷之聲讙。〔疏〕鼓㆑竷爲㆑坎。⓯或は峪(4−8181)・埳(3−5186)に作る。〔集韻〕坎、或作㆓峪・埳㆒。⓰欿(6−16111)に通ず。⓱姓。〔萬姓統譜〕坎、英賢傳云、宋附庸有㆓坎氏㆒。㊁おろか。憨(4−11244)に同じ。〔集韻〕憨、愚也、或作㆑坎。㊂❶けはしい岸。〔集韻〕坎、險岸。❷或は墈(3−5418)に作る。〔集韻〕坎、或从㆑勘。

【坎音】1 カンオン 坎の卦に屬する音。〔白虎通、禮樂〕壎、坎音也、管、艮音也、鼓、震音也、絃、離音也、鐘、兌音也、柷敔、乾音也。〔晉書、樂志上〕乾之音石、其風不周、坎之音革、其風廣漠、艮之音匏、其風融、震之音竹、其風明庶、巽之音木、其風淸明、離之音絲、其風景、坤之音土、其風涼、兌之音金、其風閶闔。

【坎坷】2 カンカ 平かでない意。又、行きなやむ意。轉じて、時に遇はないこと。志を得ないこと。不遇。轗軻。坎軻。〔揚雄、河東賦〕蕆㆓南巢之坎坷㆒兮。〔注〕不㆑平皃。〔論衡、宣漢〕夷㆓坎坷㆒、爲㆓均平㆒。〔文天祥、過㆓平原㆒作詩〕崎嶇坎坷不㆑得㆑志、出㆓入四朝㆒老㆓忠節㆒。

【坎軻】3 カンカ 坎坷に同じ。埳軻。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕然坎軻而留滯。〔注〕坎軻、不遇也。〔太玄經、止〕次六、方輪廣軸、坎軻其輿。測曰、方輪・坎軻、還自震也。〔後漢書、馮衍傳下〕非㆑惜㆓身之埳軻㆒兮。〔注〕埳軻、不遇也。〔江淹、思㆓北歸㆒賦〕願歸㆓靈於上國㆒、雖㆓坎軻㆒而不㆑惜㆑身。〔韓愈、復志賦〕昔余之既有㆑知兮、誠坎軻而艱難。〔韓愈、與㆓汝州盧郎中㆒論㆑薦㆓侯喜㆒狀〕迍邅坎軻。

【坎坎】4 カンカン ❶鼓を擊つ聲。〔詩、小雅、伐木〕坎坎鼓㆑我、蹲蹲舞㆑我。〔集傳〕坎坎、擊㆑鼓聲。❷木を伐る聲。〔詩、魏風、伐檀〕坎坎伐㆑檀兮、寘㆓之河之干㆒兮。〔傳〕坎坎、伐㆑檀聲。❸力を用ひる聲。〔詩、魏風、伐檀、集傳〕坎坎、用㆑力之聲。❹不安なさま。〔易、習坎〕六三、來之坎坎、險且枕、入㆓于坎窞㆒、勿㆑用。❺喜ぶさま。〔爾雅、釋訓〕坎坎・壿壿、喜也。〔梁簡文帝、馬寶頌序〕懷情坎坎。❻空しいさま。〔太玄經、窮〕其腹坎坎。❼平かでないさま。〔柳宗元、弔㆓屈原㆒文〕哀㆓余衷之坎坎㆒兮。

【坎埳】5 カンカン 地名。春秋、周の地。河南省鞏縣の東。〔左氏、僖、二十四〕王出及㆓坎埳㆒、國人納㆑之。〔後漢書、郡國志一〕鞏有㆓坎埳聚㆒。

【坎岸】6 カンガン 水涯の凹んだ所。〔唐書、辛讜傳〕戊夜踰㆓淮坎岸㆒登。

【坎宮】8 k'an³ kung¹ 北の方。

【坎卦】9 カンクワ 坎の卦。易の八卦の一。字解の㊀の❺を見よ。〔爾雅、釋言、坎律銓也、注〕易坎卦主㆑法、法律皆所㆔以銓㆓量輕重㆒。

【坎肩】10 カンケン 女子が衣の上に著る袖なし。背心。〔淸稗類鈔〕。

【坎侯】12 カンコウ 樂器の名。漢の武帝の時に作つたものといふ。後、訛つて空侯・箜篌に作る。くだらごと。〔風俗通、聲音、空侯〕謹按㆓漢書㆒、孝武皇帝賽㆓南越㆒、禱㆓祠太一・后土㆒、始用㆓樂人侯調㆒、依㆑琴作㆑坎、坎之樂、言㆔其坎坎應㆓節奏㆒也、侯以㆑姓冠㆑章耳、或說、空侯取㆓其空中㆒、琴瑟皆空、何獨坎侯耶、斯論、是也、詩云、坎坎鼓㆑我、是其文也。

【坎侯漆】13 カンコウシツ 漆の一種。棺に塗る。〔後漢書、禮儀志下〕諸侯王・公主・貴人、皆樟棺洞朱雲氣畫、公・特進、樟棺黑漆、中二千石以下、坎侯漆。

【坎子】14 k'an³ tzŭ ❶土地の穴。❷訴訟を起す。

【坎止】15 カンシ 險難に遇つて止まること。〔賈誼、鵩鳥賦〕乘㆑流則逝兮、得㆑坻則止。〔注〕善曰、孟康曰、易坎爲㆑險、遇㆓險難㆒而止也、張晏曰、坻、水中小洲也、坻、或爲㆑坎、又曰、易大明則仕、險難則隱。〔黃庭堅、贈㆓李輔聖㆒詩〕舊管新收幾粧鏡、流行坎止一虛舟。

【坎兒】16 k'an³ êrh 穴。思ふつぼ。坎子。〔紅樓夢、二十回〕他們都記在心裏、遇着坎兒、說的好說不好聽。

【坎象】17 カンシヤウ 易の坎卦の象。字解の㊀の❺を見よ。

【坎井】18 カンセイ 古くなつて壞れた井。又、淺い井戸。〔說苑、談叢〕坎井無㆓黿鼉㆒。〔後漢書、杜篤傳〕彼坎井之潢汙、固不㆑容㆓夫吞舟㆒。

【坎井之鼃】19 カンセイノア 淺い井戸に住む蛙。坎井の蛙は、自分の住む所しか知らないことから、見聞の狹いことの喩に用ひる。陷井之鼃。井戸の中の蛙。〔莊子、秋水〕公子牟隱㆑几太息、仰㆑天而笑曰、子獨不㆑聞㆓夫坎井之鼃㆒乎、謂㆓東海之鱉㆒曰、吾樂與、吾跳㆓梁乎井幹之上㆒、入休㆓乎缺甃之崖㆒、赴㆑水則接㆑腋持㆑頤、蹶㆑泥則沒㆑足滅㆑跗、還㆔虷蟹與㆓科斗㆒、莫㆓吾能若㆒也、且夫擅㆓一壑之水㆒、而跨㆓跱坎井之樂㆒、此亦至矣、夫子奚不㆓時來入觀㆒乎、東海之鱉左足未㆑入、而右膝已縶矣、於㆑是逡巡而卻、告㆓之海㆒曰、夫千里之遠、不㆑足㆔以擧㆓其大㆒、千仞之高、不㆑足㆔以極㆓其深㆒、禹之時、十年九潦、而水不㆓爲加㆑益、湯之時、八年七旱、而崖不㆓爲加㆑損、夫不㆘爲㆓頃久㆒推移㆖、不㆘以㆓多少㆒進退㆖者、此亦東海之大樂也、於㆑是坎井之鼃聞㆑之、適適然驚、規規然自失也。〔荀子、正論〕語曰、淺不㆑足㆓與測㆑深、愚不㆑足㆓與謀㆑知、坎井之鼃、不㆑可㆔與語㆓東海之樂㆒、此之謂也。〔注〕司馬彪曰、坎井、壞井也、事出㆓莊子㆒、坎井、或作㆓壇井㆒。〔鹽鐵論、復古〕坎井之鼃、不㆑知㆓江海之大㆒。

【坎穽】20 カンセイ おとしあな。坎阱。陷穽。〔鹽鐵論、毀學〕若㆘蹈㆓坎穽㆒、食㆗於縣門之下㆖。

【坎精】21 カンセイ 坎の精。坎は、險難。〔唐書、王孝傑傳〕白鼠晝入㆑營頓伏、皆謂、鼠坎精胡象也、白質歸㆑命、天亡之兆。

【坎窞】22 カンタン 底にあるあな。地中のあなぐら。地窖。〔易、習坎〕習坎入㆓于坎窞㆒。

【坎壇】23 カンダン 祭るために地に穿つた穴と、地に築いた壇。坎は寒神や川谷泉澤の神を祭り、壇は暑神や山林丘陵の神を祭る。〔禮、祭法〕埋㆓少牢於泰昭㆒、祭㆑時也、相㆓近於坎壇㆒、祭㆓寒暑㆒也、云云、四坎壇、祭㆓四方㆒也、山林川谷丘陵、能出㆑雲爲㆓風雨㆒、見㆓怪物㆒、皆曰㆑神、有㆓天下㆒者、祭㆓百神㆒、諸侯在㆓其地㆒則祭㆑之、亡㆓其地㆒則不㆑祭。〔注〕寒暑不㆑時、則或禳㆑之、或祈㆑之、寒於㆑坎、暑於㆑壇、云云、祭㆓山林丘陵於㆑壇、川谷於㆑坎、每㆑方各爲㆑坎爲㆑壇。〔孔叢子、論書〕祖迎㆓於坎壇㆒。〔隋書、禮志二〕亦爲㆓坎壇㆒。

【坎治】24（カンチ） 坎の卦で治めること。〔漢書、魏相傳〕夏興㆓坎治㆒則雹。

【坎豆】25（カントウ） 種物をいふ。〔王阮、代㆓胡倉進聖德惠民㆒詩〕坎豆皆勤作。〔自注〕楚語以㆓種物㆒爲㆓坎豆㆒。

【坎德】26（カントク） 水德。謙虛の德。〔木華、海賦〕曠哉坎德、卑以自居。〔注〕善曰、周易曰、坎爲㆑水、家語、金人銘曰、江海雖㆔左㆓長百川㆒、以㆓其卑㆒也。

【坎毒】27（カンドク） 恨み怒る。〔楚辭、劉向、九歎、靈懷〕哀㆓僕夫之坎毒㆒兮。〔注〕坎、恨也、毒、恚也。

【坎日】28（カンニチ） 暦の上で外出を凶とする日。〔拾芥抄、下、末〕坎日（自㆓節中㆒計㆑之）、辰正、丑二、戌三、未四、卯五、子六、酉七、午八、寅九、亥十、申十一、巳十二。

【坎墓】29 k'an^{3} mu^{4} 墓地。

【坎壈】30（カンラン） 不遇なさま。志を得ない。不遇。失意。困窮する。困窮。坎廩を見よ。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕惟鬱鬱之憂毒兮、志坎壈而不㆑違。〔注〕坎壈、不遇貌也、言㆘己放逐、心中鬱鬱、憂而愁毒、雖㆓坎壈不遇㆒、不㆖離㆓於忠信㆒也、壈、力感切。〔北史、胡叟傳〕孤飄坎壈、未㆑有㆓仕路㆒。〔顏氏家訓、勉學〕人有㆓坎壈㆒、失㆓於盛年㆒、猶當㆓晩學㆒、不㆑可㆓自棄㆒。〔梁宣帝、愍㆑時賦〕既殷憂而彌㆑歲、亦坎壈而相鄰。〔杜甫、丹青引〕但看古來盛名下、終日坎壈纏㆓其身㆒。

【坎廩】31（カンラン） 屢〻患禍に遭つてくるしむ。坎壈に同じ。〔楚辭、九辯〕坎廩兮貧士。〔注〕數遭㆓患禍㆒、身困極也。廩、一作㆑壈、五臣云、坎壈、困窮也。〔補注〕廩、力敢切、坎廩、失㆑志、一曰、不㆑平。

【坎路】32（カンロ） 險惡なみち。惡路。〔顏延之、大筮箴〕慶在㆓坤宮㆒、災在㆓坎路㆒。

【坎巨提】33（カンキヨテイ） 西域の回部。新疆省蒲犂縣の南。〔庸庵文集〕坎巨提、一名㆓棍雜㆒、歲貢㆓沙金一兩五錢㆒、賞㆓大緞兩端㆒。

【坎拿大】34（カナダ） 北米大陸北部の大部を占める英國の自治植民地。加奈陀。Canada の音譯。

【坎培拉】35（カンベラ） 都邑の名。オーストラリヤの首都。キャンベラ。Canberra の音譯。

【坎特布里】36（カンタベリ） Canterbury の音譯。❶イングランド東南部、スツール河岸の都會。❷ニュージーランド南島の一州。

【避㆑坎落㆑井】37（カンヲサケテセイニオツ） 穴に落ちるのをさけて井戸に落ちる。一難が去ると又一難が生ずる喩。「坎」は一に「坑」に作る。〔易林〕避㆑地落㆑坑、憂患日生。〔晉書、褚翜傳〕以㆔諸君所㆓以在㆑此、謀逃㆑難也、今宜㆓共戮㆑力以備㆑賊、幸無㆓外難㆒、而內自相攻擊、是避㆑坑落㆑井也。

【圭】4929

ホウ

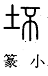
封(**4－7426**)の古字。〔說文〕封、圭、古文封省。〔集韻〕封、古作㆑圭。

參考 㞷(**4－7840**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕圭、古封字。㞷、音皇、草木妄生也。

【坏】4930

㊀ハイ　〔集韻〕鋪枚切　灰　ㄆㄟ p'ei^{1}

㊁クワイ　ㄆㄧ p'i^{1}


小篆

㊀❶**低い丘**。をか。〔說文〕坏、丘一成者也、从㆑土不聲。〔段注〕一、各本作㆑再、今正、云云、爾雅、山一成謂㆓之伾㆒、許愼・呂忱等、並以爲㆓丘一成㆒也。❷**まだ燒かない瓦**。〔說文〕坏、一曰、瓦未㆑燒。〔太玄經、干〕或錫㆓之坏㆒。〔注〕坏、未㆑成瓦也。❸**あなどる**。**おこたる**。〔法言、先知〕剛則甈、柔則坏。〔注〕坏、慢也。❹**うめる**。ふさぐ。土で缺隙を封ずる。培(**3－5195**)に通ず。〔說文通訓定聲〕坏、段借爲㆑培。〔正字通〕坏、以㆑土封㆓罅隙㆒也。〔禮、月令〕蟄蟲坏㆑戶。〔注〕坏、益也、蟄蟲益㆑戶、謂㆔稍㆓小之㆒也。❺**かべ**。〔漢書、揚雄傳下〕或鑿㆑坏以遁。〔注〕師古曰、坏、壁也。❻**かき**。阫(**11－41565**)に同じ。〔集韻〕阫、牆也、莊子、日中穴㆑阫、或作㆑坏。❼或は伾(**1－487**)・岯(**4－7995**)・阫に作る。〔集韻〕坏、或作㆓伾・岯・阫㆒。❽阫(**11－41609**)・坯(**3－4984**)に通ず。〔說文通訓定聲〕水經河水注引說文、字作㆑坯、按亦作㆑岯、作㆑阫。㊁壞(**3－5590**)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕壞、目連記作㆑坏。邦**つき**。物を盛る器の名。古は專ら土器、後には種々の製品にもいふ。すき。

參考 抔(**5－11886**)は別字。

【坏坩】1（ハイカン） つきとつぼ。陶器。〔和漢三才圖會、庖廚具、壺〕於㆑是教㆔人作㆓坏坩數品㆒。

【坏作】2（ツキツクリ） 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、二十二〕。

【坏土】3（ハイド） ひとすくひの土。僅かな土。〔元好問、學㆓東坡移居㆒詩〕坏土塡㆓巨壑㆒。

【坏模】4 p'i^{1} mu^{2} ❶土器を作る型。❷壁の面。

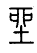
【坏冶】5（ハイヤ） 瓦の下地。土器の未だ燒かないもの。〔後漢書、崔駰傳〕坏冶一陶、羣生得㆑理。〔注〕坏、土器之未㆑燒者、郭璞注㆓爾雅㆒曰、坏、眙、物之始也。

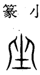
【鑿㆑坏】6（ハイヲウガツ） 壁又は牆に穴をあける。〔揚雄、解嘲〕或鑿㆑坏以遁。〔注〕善曰、淮南子曰、顏闔、魯君欲㆑相㆑之而不㆑肯、使㆓人以㆑幣先㆒焉、鑿㆑坏而遁㆑之、向曰、坏、屋後牆也。

【坐】4931

㊀サ ザ　〔集韻〕徂臥切　箇　ㄗㄨㄛˋ tsuo^{4}

㊁サ ザ　〔集韻〕徂果切　哿


小篆


古文

㊀㊁❶**すわる**。〔釋名、釋姿容〕坐、挫也、骨節挫詘也。〔漢書、東方朔傳〕男女雜坐。〔日知錄、雜事、坐〕古人之坐、皆以㆓兩膝㆒著㆑席、有㆑所㆑敬、引㆑身而起、則爲㆓長跪㆒矣。❷**とどまる**。ゐる。をる。㘴(**3－5118**)・㘴(**3－5018**)の古字。〔說文〕㘴、止也、从㆓畱省㆒、从㆑土、土、所㆑止也、此與㆑畱同意、坐、古文㘴。〔集韻〕㘴、古作㆑坐。❸**ひざまづく**。〔禮、玉藻〕退則坐取㆑屨。〔疏〕坐、跪也。〔左氏、昭、二十七〕坐行而入。〔注〕坐行、膝行。❹**すわりばしよ**。席。〔後漢書、孔融傳〕與㆓虎賁㆒同㆑坐。❺**神佛の席**。〔後漢書、章帝紀〕加以㆓先帝之坐㆒。〔注〕言㆓顯宗之神坐㆒。❻**守る**。〔左氏、桓、十二〕楚人坐㆓其北門㆒。〔注〕坐、猶㆑守也。❼**よる**。もとづく。〔漢書、賈誼傳〕古者大臣有㆘坐㆓不廉㆒而廢者㆖。❽**罪におちいる**。罪が法(罰則)にぴたり當てはまる。〔一切經音義、二〕坐、辠也。〔史記、黥布傳〕及㆑壯坐㆑法黥。❾**うつたへる**。兩者對坐して曲直を爭ふ。〔左氏、昭、二十三〕使㆘與㆓邾大夫㆒坐㆖。〔注〕坐、訟㆓曲直㆒。❿**ゐながらに**。たやすく。何もせずして。〔孟子、滕文公上〕經界既正、分㆑田制㆑祿、可㆓坐而定㆒也。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕孫策坐大、遂併㆓江東㆒。⓫**そぞろに**。何とはなしに。おのづと。〔說文通訓定聲〕坐、爲㆓自然之詞㆒。〔張華、雜詩〕蘭香坐自凝。〔注〕善曰、無㆑故自凝曰㆑坐。〔陸機、長歌行〕體澤坐自捐。〔注〕善曰、無㆑故自捐曰㆑坐也。〔張協、雜詩〕百籟坐自吟。〔注〕善曰、無㆑故自吟曰㆑坐也。〔杜牧、山行詩〕停㆑車坐愛楓林晚。⓬座(**4－9319**)に通ず。〔正字通〕坐、別作㆑座。⓭**姓**。〔萬姓統譜〕坐、見㆓姓苑㆒。邦**おはす**。❶居る・在る・來る・行くの敬語。❷動詞・形容詞などの下に添へて、相手に對する尊敬の意を表はす。

解字 會意。土(止まる所の意に用ふ)と丣(畱の省形、一說に、兩戶をとざした形)との合字で、古文は坐に作る。本義はとどまる、又はとどまるべき臺の意。轉じて、すわる意と爲す。古文は土の上に二人が對坐する形を以てとどまるの意を表はす。一說、丌(物を載せる臺の象形)と

土と兩人との合字。土上に臺があり、其の上に二人が對坐する形であるといふ。轉じて守るの意とし、又、罪におちいる意とし、假借して自然之詞（そぞろに）に用ふ。〔說文、㘴、段注〕止、下基也、引申爲二住止一、凡言二坐落坐罪一是也、引申爲レ席二地而坐一。〔說文通訓定聲〕㘴、按、留以レ丣爲レ聲、坐以レ丣爲レ意、丣者闔戶也、古文从レ土从二二人對坐一、或曰、小篆从三丌在二土上一、从二二人相對一、與二古文一同。

參考 坐と座と、もと同字。說文に座はない。後世、座は名詞に、坐は動詞に用ひ、區別することがある。

【坐愛】1ザイアイ ㊀坐つて眺め愛する。坐つたまま愛し眺める。〔白居易、翫二松竹一詩〕坐愛二前檐前一、臥愛二北窓北一。㊁そぞろに愛する。何とはなしに愛する。〔杜牧、山行詩〕停レ車坐愛楓林晚、霜葉紅二於二月花一。〔梅堯臣、夏日晚霽與二崔子一登二周襄故城一詩〕余非レ避二喧者一、坐愛二遠風淸一。

【坐椅】1′ザイ 椅子をいふ。〔輟耕錄、待士〕急令三鋪二設坐椅一、且戒二內人一備二酒饌一。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕每日打掃潔淨、陳二設坐椅一。

【坐位】2ザヰ ㊀坐席の順序。座位。〔史記、天官書〕此天之五官坐位也。㊁tsuo^4 wei^4 席。座席。シート。

【坐幃】3ザヰ 坐所のとばり。〔史記、秦始皇紀〕郎中令與レ樂俱入、射二上幄坐幃一。

【坐右】4ザイウ ㊀座席のみぎわき。かたはら。そば。座右。㊁右足を折つて坐る。〔禮、玉藻〕退則坐取レ屨、隱辟而后屨、坐レ左納レ右、坐レ右納レ左。

〖坐右銘〗4′ザイウノメイ 常に坐右に置いておのれの戒めとするもの。〔輟耕錄、坐右銘〕翰林學士盧疎齋先生、字處道、涿郡人、坐右銘大二書一天字一、其下細二注六字一云、有レ記レ性不レ急レ性、可レ謂二知レ畏レ天者一矣。

【坐揖】5ザイフ 坐して揖の禮を爲すこと。〔陳泰、詩〕高官坐揖小官拜、九州四海知二何人一。

【坐暗】6ザイン すわつたままで何も言はないこと。〔易林〕箕踞坐暗、名爲二無用一。

【坐飲】7ザイン 坐つて飲む。〔白居易、續古詩十首〕坐飲二白石水一、手把二青松枝一。

【坐隱】8ザイン 圍碁の別名。ゐながら隱遁する意。〔世說、巧藝〕王中郎以二圍棋一爲二坐隱一、支公以二圍碁一爲二手談一。〔顏氏家訓、雜藝〕圍棋有二手談・坐隱之目一、頗爲二雅戲一。

【坐下】9ザカ ㊀下にすわる。〔禮、坊記〕衽席之上讓而坐レ下、民猶犯レ貴。㊁taua^4 hsia すわる。〔紅樓夢、三回〕便仍送至賈母身邊坐下。

【坐衙】10ザガ 官廳に出勤する。又、役所で事務を執る。〔眞臘風土記〕每日國主兩次坐レ衙治レ事。〔白居易、喜レ罷レ郡詩〕樽前免レ被レ催レ迎レ使、枕上休レ聞レ報レ坐レ衙。

【坐開】11ザカイ その座で開く。坐は主人側を意味す。來が客を意味するに對す。〔杜甫、九日楊奉先會二白水崔明府一詩〕坐開二桑落酒一、來把二菊花枝一。

【坐行】12ザカウ 膝で步む。膝行。〔左氏、昭、二十七〕執レ羞者坐行而入。〔注〕坐行、膝行。〔戰國、秦策〕伍子胥、橐載而出二昭關一、夜行而晝伏、至二於蔆水一、無三以餌二其口一、坐行蒲服、乞二食於呉市一。

【坐更】13ザカウ 夜警をいふ。〔淸國行政法汎論、宦官〕又掌二隨侍・守護・灑掃・坐更等事一、坐更者、我所謂夜警也。

〖坐更夫〗14ザカウフ 夜警夫をいふ。夜番。〔淸國行政法汎論、宦官、備考、一〕宦官在二屋外一之職務、則爲二挑水夫・坐更夫・園丁之事一。

【坐耗】15ザカウ ゐながらに費す。徒らに費す。座食する。〔宋史、劉從廣傳〕待二罪行閒一、不レ能レ扞レ患、疆場坐耗。

【坐高】16ザカウ 眞直に椅子に腰を掛けた時、椅子の表面から其の人の頭頂までの距離。

【坐客】17ザカク ㊀席にある客。〔魏志、呂布傳〕遂生二縛布一、〔注〕布縛急、謂二劉備一曰、玄德、卿爲二坐客一、我爲二執虜一、不レ能二一言以相寬一乎。㊁tsuo^4 kê^4 ㋑乘客。㋺土地にゐつきの人。土著の人。

〖坐客不拜行客〗18 tsuo^4 kʻê^4 pu^2 pai^4 hsing^2 kʻê^4 土着人は旅行の客を訪拜しない。

【坐甲】19ザカフ 武裝してゐること。〔左氏、文、十二〕怒曰、裹レ糧坐レ甲、固敵是求、敵至不レ擊、將二何俟一焉。〔北史、周太祖紀〕裹レ糧坐レ甲、唯敵是俟。

【坐閒】20ザカン ㊀座席の閒。席上。〔蘇軾、丙子重九詩〕餘子誰復客、坐閒兩使君。㊁坐つてゐる閒。僅かの時間。〔琵琶記、牛氏規奴〕席前花影坐閒移。

【坐看】21ザカン ㊀坐つたまま見てゐる。何とも手の施しやうがなくただ眺めてゐる。〔李白、古風詩〕坐看飛霜滿、凋二此紅芳年一。㊁そぞろに見る。彷彿して見える。又、ゐながらにして見る。〔杜甫、題二壁上韋偃畫馬一歌〕一匹齕レ草一匹嘶、坐看千里當二霜蹄一。

【坐感】22ザカン そぞろに心を動かす。〔梅堯臣、詩〕坐感昔時樂。

【坐監】23 tsuo^4 chien^1 監獄にはいる。坐牢。

【坐起】24ザキ ㊀坐ることと立つこと。〔禮、儒行〕其坐起恭敬。㊁起き上がつて坐る。〔元稹、聞二白樂天左二降江州司馬一詩〕垂死病中驚坐起、暗風吹レ雨入二寒窗一。

【坐旗】25ザキ 星の名。〔張衡、週天大象賦〕坐旗肅穆以昭レ禮、司怪幽求而發レ冥。〔晉書、天文志上〕司怪西北九星曰二坐旗一。

【坐窺】26ザキ ゐながらのぞき見る。〔閻伯里、黃鶴樓記〕坐窺二井邑一、俯拍二雲烟一。

【坐給】27ザキフ 自然と足りる。〔宋史、李繁傳〕軍餉坐給。

【坐擧】28ザキヨ 一坐のこらず。坐中。

【坐魚】29ザギヨ 蛙の異名。〔本草、鼃〕釋名、時珍曰、又曰二坐魚一、其性好レ坐也。〔事物異名錄、昆蟲下、蛙〕四朝聞見錄、黃公度帥レ閩、宿戒二庖兵一、市二坐魚三觔一、庖兵不レ曉、時林執善語、以可レ供二田雞三觔一。

【坐漁】30ザギヨ すわつてすなどる。坐したままで魚を取る。〔柳宗元、設二漁者一對二智伯一文〕羣漁者有二一人坐漁一、智伯怪レ之問焉曰、若漁幾何、曰、臣始漁二於河一、中漁二於海一。

【坐具】32ザグ ㊀**佛**僧六物の一。坐して禮拜する時に使ふ敷物。もと三緣、卽ち、護身・護衣・護牀のために制せられたもの。梵語 nisidana の譯。音譯して尼師檀・尼師但那などと書く。〔法苑珠林〕坐具之用、本是坐時之具。〔釋門歸敬儀、下〕坐具之目、本是坐時之具。〔琅琊代醉編、坐具〕梵語云二尼師壇一、又云二尼師但那一、此云二隨坐衣一、唐言二坐具一也。㊁坐る時に下に敷く物。ふとん・ござの類。

【坐隅】33ザグウ 坐席のすみ。〔漢書、賈誼傳〕止二於坐隅一、貌甚閒暇。〔顏延之、秋胡詩〕涼風起二坐隅一。

【坐臥】34ザグワ おきふし。坐つたりねたりする。〔漢書、杜周傳〕不三敢當二舊位一、坐臥皆易二其處一。〔李頎、題二璿公山池一詩〕指二揮如意一天花落、坐二臥閑房一春草深。

【坐懷】35ザクワイ そぞろに思ふ。何となく思ふ。〔陸游、詩〕坐懷江湖閒。

〖坐懷不亂〗36ザクワイフラン 婦人を抱いて犯さぬこと。〔詩、小雅、巷伯、哆兮侈兮成二是南箕一、傳〕子何不下若二柳下惠一然上、嫗二不レ逮レ門之女一、國人不レ稱二其亂一。〔段玉裁、毛詩故訓傳〕此俗所謂坐懷不亂也、荀卿曰、柳下惠與二後レ門者一同レ衣、國人不レ稱二其亂一、後レ門、卽不レ逮レ門、謂三不レ及レ門無二宿處一也、禮記注曰、以レ體曰レ嫗。〔輟耗錄、不亂附妾〕柳下惠夜宿二郭門一、有二女子來同宿一、恐二其凍死一、坐二之於懷一、至レ曉不レ爲レ亂。〔蜃中樓傳奇〕他是那坐懷不亂的宗風倡。

【坐觀】37ザクワン 坐してみる。よそごとにして見る。〔孟浩然、望二洞庭一上二張丞相一詩〕坐觀二垂レ釣者一、徒有二羨レ魚情一。〔蘇軾、鼂錯論〕坐觀二其變一、而不レ爲二之所一、則恐至二於不一レ可レ救。〔蘇軾、次二韻章傳道喜一レ雨詩〕坐觀不レ救亦何心、秉畀二炎火一傳レ自レ古。

〖坐觀成敗〗38ザシテセイバイヲミル 坐つたままじつとして勝敗の成行きを觀望する。勝敗の成行きを傍觀する。〔史記、任安傳〕見二兵事起一、欲三坐觀二成敗一、見二勝者一欲二從合之一。〔通俗編、武功、坐觀二成敗一〕後漢書、劉表傳、擁二甲十萬一、坐觀二成敗一、求レ援而不レ能レ助、見レ賢而不レ肯レ歸。〔周書、蕭詧傳〕家兄無レ罪累被二攻圍一、同氣之情、豈可三坐觀二成敗一。

【坐曛】39ザクン 落日の餘光の中に坐ること。〔楊炯、幽蘭賦〕乃有レ送二客金谷林塘一、坐レ曛鶴琴未レ

罷、龍劍將レ分。

【坐化】40ザゲ 佛坐したまま往生する。〔資治通鑑、後晉紀〕（齊王、開運二年）深意卒、方簡嗣行二其術一、稱二深意坐化一。〔注〕崇二信佛釋氏一而學二其學一、專一而靜者、其死也、能結趺端坐如レ生、謂二之坐化一。

【坐夏】41ザゲ 佛夏季に坐禪修學を勵むこと。安居ゴアン（3－7072‥97）の❺に同じ。〔西域記、二〕印度僧徒、依二佛聖教一、坐二兩安居一、前代譯二經律一者、或云二坐夏一、或云二坐臘一。

【坐頃】42 tsuo^4 ch'ing 暫く。一寸の間。

【坐繫】43ザケイ まきぞへの罪で獄屋につながれる。連坐繫囚される。〔宋史、岳飛傳〕坐繫兩月、無二可レ證者一。

【坐睨】44ザゲイ そぞろににらみ見る。何とはなしににらみ見る。又、坐つたままでにらみ見る。〔韓愈、送二僧澄觀一詩〕惜哉已老無レ所レ及、坐睨二神骨一空潸然。〔蘇軾、次二韻王鞏南遷初歸一詩〕三年不レ易レ過、坐睨倚二天壁一。

【坐轎】45 tsuo^4 chiao^4 轎に乘る。

〖坐轎子〗45' tsuo^4 chiao^4 tzŭ 轎に乘る。

【坐歇】46ザケツ すわつてやすむこと。〔皇甫冉、又送二陸潛夫一茅山尋レ友詩〕坐歇青松晩、行吟白日長。

【坐業】47ザゲフ すわつてする仕事。坐職。居職。

【坐見】47'ザケン 坐つたまま見る。又、そぞろに見る。何とはなしに見る。〔南平王鑠、擬二行行重行行一詩〕臥覺二明燈晦一、坐見二輕紈緇一。〔盧思道、聽二鳴蟬一篇〕一夕復一朝、坐見二涼秋月一。

【坐賈】48ザコ 坐商（87）に同じ。〔宋史、食貨志下五〕有二坐賈一置レ鋪。

〖坐賈釐〗49 tsuo^4 ku^3 li^2 店鋪を有つてゐる商人の貨物に課する釐金稅。坐釐（190）に同じ。

【坐語】50ザゴ 坐して語る。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君待レ客坐語。

【坐功】51 tsuo^4 kung^1 坐禪。

【坐克】52ザコク 居ながらにして勝つ。勞しないで勝つ。〔魏志、袁紹傳〕我未レ勞而彼已困、不レ及二二年一可二坐克一也。

【坐哭】53ザコク すわつて大聲で泣く。〔孟郊、江邑春霖奉二贈陳侍御一詩〕坐哭青草上、臥吟幽水濱。

【坐獄】54ザゴク 訴訟の座につく。裁判を受けるために法廷に出席する。〔左氏、襄、十〕王叔與二伯輿一訟焉、王叔之宰、與二伯輿之大夫瑕禽一、坐二獄於王庭一、士匄聽レ之。

【坐骨】55ザコツ 臀部の骨。腸骨と恥骨とが癒合してできた髖骨の下半部を占める骨。坐髀。坐髀骨。

【坐骨神經】56ザコツシンケイ 下肢の運動・知覺を掌る神經で、腰部から大腿の後側を下り、脛骨神經と腓骨神經とに分れる。

〖坐骨神經痛〗57ザコツシンケイツウ 坐骨神經の徑路に沿つて疼痛を覺える病。外傷・過勞・感冒・寒冷・糖尿病・リウマチ・酒精中毒等によつて起る。

【坐困】58 tsuo^4 k'uen^4 みすみす困難の地に陷る。

【坐作】59ザサ ❶坐つたり立つたり。たちゐふるまひ。〔周禮、夏官、大司馬〕坐作如レ初。〔潛夫論、思賢〕但事淫侈、坐作驕奢、破敗而不レ及レ傳レ世者也。❷ザサク 坐つてする作業。

〖坐作進退〗60ザサシンタイ 坐つたり立つたり進んだり退いたり。たちゐふるまひ。行儀。〔周禮、夏官、大司馬〕教二坐作進退、疾徐疏數之節一。

【坐祭】61ザサイ 坐して祭る。〔儀禮、鄕飲酒禮〕賓西階上答拜、坐祭、云云、主人拜送、坐祭立飮。

【坐催】62ザサイ 居催促。坐討。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕該房即出二坐催一。

【坐財】63 tsuo^4 ts'ai^2 婚禮の翌日、新婦が炕上に正坐して下つて來ないこと。

【坐罪】64ザザイ ❶つみに坐す。罪を犯して處刑せられる。〔遼史、耶律滌魯傳〕不肖子坐レ罪籍沒。❷つみに坐せしむ。刑罰を加へる。〔金史、陳規傳〕上章言、陛下以二上聖寬仁之姿一、云云、廣開二言路一、以求二至論一、雖二狂妄失レ實者一、亦不レ坐レ罪。

【坐倉】65ザサウ 宋代の經濟政策の一。軍隊の餘米を政府が廉價で買上げ、之を倉庫に貯藏して置くこと。〔宋史、食貨志上三〕又有二坐倉・博糴・云云・均糴等名一、其曰二坐倉一、熙寧二年、令諸軍餘糧、願三糴二入官一者、計レ價支レ錢、復儲二其米於倉一、王珪奏曰、外郡用二錢四十一、可レ致二斗米於京師一、今京師乏レ錢、反用二錢百一、坐倉糴二斗米一、此極非レ計、司馬光曰、坐倉之法、蓋因三小郡乏レ米、而庫有二餘錢一、故反就二軍人一糴レ米、以給二次月之糧一、出二於一時急計一耳、今京師有二七年之儲一、而府庫無レ錢、更糴二軍人之米一、使三積久陳腐一、其爲二利害一、非二臣所レ知、呂惠卿曰、今坐倉得二米百萬石一、則減三東南歲漕二百萬石一、轉易爲レ錢、以供二京師一、何患レ無レ錢、光曰、臣聞、江淮之南、民間乏レ錢、謂二之錢荒一、而土宜二秔稻一、彼人食レ之不レ盡、若官不三糴取以供二京師一、則無レ所二發泄一、必甚賤傷レ農矣、且民有レ米而官不レ用レ米、民無レ錢而官必使二之出レ錢、豈通レ財利レ民之道乎、不レ從、明年、又慮二元價賤一、神龍衞及諸司、每石等第增レ錢收糴、仍聽、行二於河北・河東・陝西諸路一、元符以後、有二低レ價抑レ糴之弊一、詔禁二止之一。

【坐草】66ザサウ 出產の期に至ること。〔七修類稿〕淮南諺謂二臨產一曰二坐草一。〔通俗編、婦女、坐草〕淮南本經訓注、孕婦、將レ就レ草之婦也。

【坐曹】67ザサウ 役所で事務を執る。〔漢書、薛宣傳〕賊曹掾張扶、獨不二肯休一、坐レ曹治レ事。〔司馬光、同二聖民一過二楊之美一明日投レ此爲レ謝詩〕坐レ曹據レ案心目疲、出レ門上レ馬行何之。

【坐繰】68ザグリ ❶坐つてゐて絲を繰りとる具。❷坐繰絲の略。

〖坐繰絲〗69ザグリイト 坐繰りにかけてとつた蠶絲。

【坐像】70ザザウ 坐してゐる像。座像。〔制作原始〕唐改二顏子一爲二坐像一。

【坐贓】71ザザウ 賄賂の爲に罪に陷る。〔漢書、景帝紀〕吏及諸有秩、受二其官屬所レ監所レ治、所レ行所レ將、其與二飮食一計、償レ費勿レ論、它物若二買故賤賣故貴一、皆坐レ贓爲レ盜、沒二入臧縣官一。

【坐索】72ザサク ❶そぞろに求める。何とはなしにほしいと思ふ。〔白居易、冬至夜詩〕今宵始覺房櫳冷、坐索二寒衣一託二孟光一。❷tuso^4 suo^3 居催促。坐討。

【坐參】73ザサン 佛定式の坐禪をする用意に、住持が來る以前に坐禪すること。〔禪林象器箋、九〕坐參者、坐二禪於參前一也、住持晩參已前、大衆集二僧堂一、坐禪澄レ之、以待レ參。

【坐產】74ザサン すわつた姿で兒を產むこと。〔婦人良方、楊子建十產論〕十曰坐產、兒將欲レ生、其母疲倦、久坐倚レ褥、抵二其生路急一、於二高處一繫二一手巾一、令二產母以レ手攀一レ之、輕輕屈レ足坐レ身、令二兒生下一、非三坐在二物上一也、此名二坐產一。

【坐支】75ザシ 清代、官俸・役食・鋪兵工食・站料價等を、地賦・丁賦の中に含めて人民から徵收し、支出するに夫々の名目でするこ と。〔清會典、戶部〕凡動款、有二坐支一、有二給領一、有二協解一、有二估撥一、皆按二其實一而銷焉。

【坐死】76ザシ 死刑に處せられる。〔論衡、實知〕能知二其農商老少、若所レ犯而坐レ死乎。

【坐思】77ザシ ❶坐つて思ふ。〔李白、閨情、寄レ遠詩〕坐思行歎成二楚越一、春風玉顏畏二銷歇一。❷そぞろに思ふ。自然と思ふ。〔黃庭堅、次三韻子瞻題二郭熙畫秋山一詩〕坐思黃柑洞庭霜、恨身不レ如二鴈隨一レ陽。〔陸游、題二搨本姜楚公鷹一詩〕弓面霜寒斗力增、坐思鐵馬蹴二河冰一。

【坐視】78ザシ ❶坐つたまま見る。〔鮑照、代二陳思王京洛篇一〕坐視二青苔滿一、臥對二錦筵空一。❷助力しようともしないで平氣で見てゐる。袖手傍觀。〔郝經、冬至後在二儀眞館一賦レ詩〕不レ忍二安坐視一。

【坐次】79ザジ ❶坐つてゐる場所。坐所。坐位。座次。〔周賀、如空上人移二居大雲寺一詩〕夏高移二坐次一、菊淺露二行蹤一。❷席順。〔夢溪筆談、故事、二〕都堂及寺觀百官會集、坐次多出二臨時一。

【坐侍】80ザジ 坐しはべる。〔唐書、禮樂志五〕以二歷代良將一、爲二十哲像一坐侍。

【坐兒】81 tsuo^4 êrh ❶席。❷物の臺。❸茶館・料理屋等で客をさしていふ。

【坐收】82ザシウ ❶一族を連坐させて獄に繫ぐこと。〔史記、孝文紀〕有司皆曰、云云、相坐坐收、所下以累二其心一、使上重レ犯レ法、上曰、云云、有司皆曰、云云、請奉二詔書一、除二收孥諸相坐律令一。〔注〕集解曰、應劭曰、孥、子也、秦法、一人有レ罪、幷二坐其家室一、今除二此律一。〔史記、淮南王傳〕衡山王賜、淮南王弟也、當二坐收一、有司請三逮二捕衡山王一。❷ゐながらにして收め取る。〔陸游、射的山觀レ梅詩〕坐收二國土無雙價一、獨立二東皇太一前一。

〖坐收虜〗83ザシテシウリヨス ゐながらにとりこにする。

たやすくとりこにする。〔史記、衞將軍驃騎傳〕漢兵既度レ幕、人馬罷、匈奴可二坐收虜一耳。

【坐車】84 ザシャ 車に乘る。乘車。〔新書、容經〕小禮動、中禮式、大禮下。〔注〕坐車之容。

〖坐車之郎〗85 ザシャノラウ 晉、潘岳をいふ。潘岳が美男子だつたので、外出すれば都下の婦女が爭つて花を投じ、花が車中に滿ちた故事。〔世說新語、容止〕潘岳妙有二姿容一、好二神情一、少時挾レ彈出二洛陽道一、婦人遇者、莫レ不二連レ手共縈一レ之。〔注〕語林曰、安仁至美、每レ行、老嫗以レ花擲レ之、滿レ車。〔桃花扇、卻奩〕東洛才名、西漢文章、逢迎隨處有、爭看二坐車郎一。

【坐者】86 ザシャ 坐つてゐる者。又、一座のものども。〔曹植、妾薄命行〕腕弱不レ勝二珠環一、坐者歎息舒レ顏。〔韓愈、汴州亂詩〕昨日乘レ車騎二大馬一、坐者起趨乘者下。〔日本外史、源氏前記、平氏〕坐者驚起、誤仆二瓶子一。〔先哲叢談、四、伊藤蘭嵎〕坐者皆歎賞曰、眞儒者也。

【坐商】87 tsuo^{4} shang^{1} 常設の店であきなひをすること。又、その人。坐賈。行商(**10**−34029‥234)の❶の對。

【坐莊】88 tsuo^{4} chuang^{1} 出張店。支店。遠方にあつて商品を買入れ、本店に送る業者。

【坐上】89 ザジャウ 座席の上。席上。〔史記、灌夫傳〕丞相不レ起、夫從二坐上一語侵レ之。〔後漢書、孔融傳〕賓客日盈二其門一、常歎曰、坐上客恆滿、尊中酒不レ空、吾無レ憂矣。〔蘇軾、首夏官舍卽事詩〕坐上一樽雖レ得レ滿、古來四事巧相違。

【坐狀】90 ザジャウ 罪のさま。罪狀。〔後漢書、應奉傳〕奉口二說罪繫姓名坐狀輕重一、無レ所二遺脫一、時人奇レ之。

【坐守】91 ザシュ すわつて守る。止まつてゐて守る。積極的な方策をとらないで、唯消極的に守備する。〔蜀志、法正傳〕坐二守都雒一、存亡之勢昭然。

【坐處】92 ザショ ゐばしよ。坐所。〔墨子、非命上〕坐處不レ度、出入無レ節、男女無レ辨。

【坐勝】93 ザショウ 居ながらにして勝つ。戰はないで勝つ。坐克。〔元史、郝經傳〕固宜二重愼詳審、圖レ之以レ術、若二前所レ陳、以全二吾力一、是所謂坐勝也。

【坐誦】94 ザショウ 坐つて誦する。〔風俗通、怪神〕整レ服坐誦二六甲孝經易本一訖。

【坐證】95 ザショウ ［佛］坐禪をいふ。〔佛祖統紀、七〕滅默無言坐證。

【坐鐘】96 tsuo^{4} chung^{1} 置時計。

【坐乘】97 ザジョウ 車や舟に乘ること。〔史記、商君傳〕勞不二坐乘一。〔新書、容經〕坐乘以二經坐之容一。〔本城問亭、佐久間大尉事略〕大尉坐二乘第六艇一從レ之。

【坐食】98 ザショク 働かずにくらふ。ゐぐひ。〔吳志、陸凱傳〕坐二食官廩一。〔吳志、賀邵傳〕後宮之中、坐食者、萬有餘人。

【坐職】99 ザショク すわつてする仕事。坐業(47)に同じ。

【坐蓐】100 ザジョク 婦人が出產に臨むこと。產蓐につくこと。〔貴耳集〕鶴山先生母夫人、方坐レ蓐。

【坐褥】101 ザジョク ❶坐るに用ひるしとね。〔和漢三才圖會、獸類、熊〕熊皮、造二泥障坐褥及鞘袋等一賞レ之。❷しとねの上に坐る。〔先哲叢談、伊藤蘭嵎〕公坐レ褥、不レ可レ講二聖賢之書一也。

〖坐褥子〗102 tsuo^{4} ju^{4} tzu^{1} 座蒲團。

【坐睡】103 ザスイ ゐねむりする。ゐねむり。坐寐。〔說苑、辨物〕景公畋二於梧丘一、夜猶蚤、公姑坐睡而夢。〔韓愈、畫記〕偃寢休者二人、甲冑坐睡者一人。〔韓偓、江岸閑步詩〕立談禪客傳二心印一、坐睡漁師著二背篷一。

【坐制】104 ザセイ 居ながらに制する。〔北史、于栗磾傳〕若搏レ之不レ勝、豈不三虛斃二一壯士一、自可二驅致御一レ前、坐而制レ之、尋皆禽獲一。〔唐書、孫儒傳〕勁兵背レ城、坐制二其困一。

【坐蛻】105 ザゼイ 坐つたままで死ぬこと。坐脫。蛻は、蟬などが脫皮するやうに、魂が身から脫け出る意。〔皮日休、傷二開元觀顧道士一詩〕協晨宮上啓二金扉一、詔使先生坐蛻歸。

【坐嘯】106 ザセウ のんびりと坐つて詩歌をうたふ。〔後漢書、黨錮傳〕南陽太守岑公孝、弘農成瑨但坐嘯。〔謝朓、在レ郡臥レ病呈二沈尚書一詩〕坐嘯徒可レ積、爲レ邦歲已朞。

〖坐嘯軒〗107 ザセウケン 清、崔如岳(**4**−8178‥277)の號。

〖坐嘯齋〗108 ザセウサイ 宋、施元之(**5**−13629‥141)の室名。

【坐燒】109 ザセウ 坐つたまま燒ける。〔淮南子、泰族訓〕宋伯姬、坐燒而死。

【坐礁】110 ザセウ 船艦などが暗礁に乘りあげること。

【坐石】111 ザセキ 石の上にすわる。〔李白、獨酌二清溪江石上一詩〕永賴坐二此石一、長垂二嚴陵釣一。〔方干、廢宅詩〕入レ門繚繞穿二荒竹一、坐レ石逡巡染二綠苔一。

【坐席】112 ザセキ ❶すわる場所。座席。坐位。〔韓非子、說林〕衞將軍文子見二曾子一、曾子不レ起、而延二於坐席一、正二身於奧一。❷着座してゐる全員。滿座の人々。〔後漢書、左慈傳〕左慈、字元放、盧江人也、少有二神道一、嘗在二司空曹操坐一、操從容顧二衆賓一曰、今日高會、珍羞略備、所レ少吳松江鱸魚耳、元放於二下坐一應曰、此可レ得也、因求二銅盤一貯レ水、以二竹竿餌一釣二於盤中一、須臾引二一鱸魚一出、操大拊レ掌笑、會者皆驚、操曰、一魚不レ周二坐席一、可二更得一乎、放乃更餌釣、沈レ之須臾引出、皆三尺餘、生鮮可レ愛。

【坐船】113 tsuo^{4} chʻuan^{2} 船に乘込む。乘船。上船。

【坐選】114 ザセン 疾病其の他の事故で解任してゐた官吏が、再び原官に起用せられること。〔清會典、吏部〕凡選、有二卽選一、有二正選一、有二插選一、有二坐選一。

【坐籤】115 ザセン 官吏に賄賂を贈つて籤を抽き、自分の望む地位をひきあてること。〔福惠全書、筮仕部、掣籤〕都下相傳、有二坐籤之弊一。〔淸國行政法汎論、文官任命形式、吏部銓選、備考〕坐籤者、謂下贈二賄官吏一、使中己所レ欲之地位抽籤相當上也。

【坐前】116 ザゼン ❶坐席のまへ。〔楊載、詩〕給二事黃門裏一、抽二毫黼坐前一。❷御許。脇付。書翰文で、宛名の下に附記する敬語。座前。

【坐禪】117 ザゼン ［佛］正しく趺坐(足を法のごとく組む)して、沈思默念し、佛道の妙理を究める一種の修行法。坐證。〔雜一阿含經、七〕我欲下於二此中一半月坐禪上。〔大阿彌陀經、上〕念レ經者、思レ道者、坐禪者、經行者。〔魏書、釋老志〕觀二習經典一、坐二禪於白渠北一。〔傳燈錄〕坐禪豈得二作佛一耶。〔普勸坐禪儀〕夫參禪者、靜室宜焉、飲飡節矣、乃放二捨諸緣一、休二息萬事一、不レ思二善惡一、莫レ管二是非一、停二心意識之運轉一、止二念想觀之測量一、莫レ圖二作佛一、豈拘二坐臥一乎、尋常坐處、厚敷二坐物一、上用二蒲團一、或結跏趺坐、或半跏趺坐、謂、結跏趺坐、先以二右足一安二左䏶上一、左足安二右䏶上一、半跏趺坐、但以二左足一壓二右䏶一矣、寬繫二衣帶一、可レ令二齊整一、次右手安二左足上一、左掌安二右掌上一、兩大拇指面相柱矣、乃正身端坐、不レ得二左側右傾、前躬後仰一、要レ令二耳與レ肩對、鼻與レ臍對一、舌掛二上腭一、脣齒相看、目須二常開一、鼻息微通、身相既調、欠氣一息、左右搖振、兀兀坐定、思二量箇不思量底一、不思量底、如何思量、非思量、此乃坐禪之要術也。

〖坐禪石〗118 ザゼンセキ 坐禪する時に坐る石。〔潛確居類書、區宇部石、福建〕坐禪石、在二侯官縣之東峯一。

【坐罾】119 ザソウ 漁具。もちあみ。〔和漢三才圖會、魚漁具、坐罾〕三才圖會云、坐罾・板罾・提罾、其三制俱相似、惟坐罾稍大、按、坐罾、池塘江湖中、縱レ舟或作レ架、漁人箕居以引二上之一、其小而可二提攜一者、稱二提罾一。

【坐側】120 ザソク 坐つてゐるかたはら。そば。座側。〔後漢書、馬廖傳〕願置二章坐側一、以當二瞽人夜誦之音一。〔潘岳、寡婦賦〕提二孤孩于坐側一。

【坐打】121 tsuo^{4} ta^{3} 役者が舞臺で坐つたまま歌ふこと。

【坐大】122 ザダイ 勞せずして自然に國が強大になること。〔諸葛亮、後出師表〕今歲不レ戰、明年不レ征、使三孫策坐大、遂幷二江東一。

【坐討】123 tsuo^{4} tʻao^{3} 居据つて催促する。居催促。坐催。坐索。

【坐塘】124 ザタウ 堤防に在つて坐守する兵。〔六部成語、兵部、坐塘、注解〕在二本塘地一坐守之兵。

【坐堂】125 ザダウ ❶堂にすわる。〔楚辭、招魂〕坐レ堂伏レ檻、臨二曲池一些。❷金持をいふ。〔鮑照、送二盛侍郎一餞二候亭一詩〕君爲二坐レ堂子一、我乃負レ羈人。❸tsuo^{4} tʻang^{2} ㋑政廳に出勤する。又、政廳で事務を執る。㋺裁判官が法廷の席に就く。法廷に出て訴訟を聽く。❹［佛］㋑坐禪堂の略。大衆の坐禪辨道する所。僧堂・雲堂・禪堂ともいふ。〔禪林象器箋、坐堂〕凡坐二禪於僧堂一、曰二坐堂一。㋺坐禪に同じ。

〖坐堂問案〗126 tsuo^{4} tʻang^{2} wen^{4} an^{4} 裁判官が法廷の席に就いて事件を訊問する。

【坐脫】127 ザダツ 坐つたまま死ぬこと。坐蛻。〔葛長庚、雲會堂記〕有二坐脫一有二立亡一者居レ多。

〖坐脫立亡〗127′ ザダツリフバウ 佛端坐して死去し、直立して涅槃に入ること。〔普勸坐禪儀〕超凡越聖、坐脫立亡、一二任此力一矣。

【坐奪】128 ザダツ ゐながらにして奪はれる。又、ゐながらにして奪ふ。〔江淹、倡婦自悲賦〕綠衣坐奪、白華臥進。

【坐榻】129 ザタフ こしかけ。〔王冕、和二歐陽省郎一詩〕風引二白雲一歸二坐榻一、雨蒸二花氣一入二窓紗一。

【坐毯】130 ザタン 坐るに用ひる毛むしろ。〔和漢三才圖會、獸類、貘〕貘皮、爲二坐毯・臥褥一。

【坐談】131 ザダン 坐つて語る。對坐して談話する。又、其の話。〔戰國、齊策〕旦日、客從レ外來、與坐談、問レ之曰、吾與二徐公一孰美。〔後漢書、公孫述傳〕與レ之分レ功、而坐談二武王之說一。

〖坐談客〗132 ザダンノカク 口だけ達者で他に能力のない者。〔魏志、郭嘉傳〕太祖將レ征二袁尚及三郡烏丸一、諸下多懼四劉表使三劉備襲レ許、以討二太祖一、嘉曰、云云、表坐談客耳、自知二才不レ足二以御レ備、重任レ之則恐不レ能レ制、輕任レ之則備不レ爲レ用、雖二虛レ國遠征一、公無レ憂矣、太祖遂行。

【坐地】133 ザチ 地にすわる。〔說苑、雜言〕齊景公問二晏子一曰、寡人自以坐レ地、二三子皆坐レ地、吾子獨搴レ草而坐レ之、何也。

〖坐地虎〗134 tsuo^4 ti^4 hu^3 土地に勢力を振ふ惡漢。弱い者いぢめをする者。

【坐致】135 ザチ ゐながらにいたす。勞しないで得る。〔孟子、離婁下〕千歲之日至、可二坐而致一也。〔周書、黎景熙傳〕坐致二千里一。

【坐馳】136 ザチ ❶身はここに坐するも、心は外に馳せ廻つてゐること。〔莊子、人閒世〕吉祥止レ止、夫且不レ止、是之謂二坐馳一。〔注〕若夫不レ止二於當一、不レ會二於極一、此爲下以二應レ坐之日一、而馳騖不上レ息也、故外敵未レ至、而內已困、豈能化レ物哉。❷無爲にして速かに神化を行ふこと。〔淮南子、覽冥訓〕故卻二走馬一以糞、而車軌不レ接二於遠方之外一、是謂二坐馳陸沈、晝冥宵明、以レ冬鑠レ膠、以レ夏造レ冰。〔注〕言、坐行二神化一、疾二于馳傳一、沈浮冥明、與レ道合也。

【坐癡】137 ザチ おろかだとせられる。愚人扱ひにされる。〔路鐸、詩〕玄晏耽レ書昔坐レ癡。

【坐帳】138 tsuo^4 chang^4 婚禮の日、新郞新婦が炕に坐つて禮を行ふこと。

【坐聽】139 ザチヤウ すわつてきく。〔南史、張裕傳〕延之從二籬邊一聞レ之、取二胡牀一坐聽。

【坐中】140 ザチユウ 幾箇かの座席で圍まれてゐる中。又、其の席にゐる人々の中。座中。〔史記、樊噲傳〕令三項莊拔レ劍舞二坐中一、欲レ擊二沛公一。〔世說新語、雅量〕太傅於二衆坐中一問レ庾。

〖坐中亦有江南客〗141 ザチユウマタカウナンノカクアリ 坐中に江南の人がゐるから、江南の惡口は言ふなとの意で、批評の愼まなければならないことをいふ諺。〔書言故事大全、禽獸比喩類〕有レ礙難レ言、曰三坐中亦有二江南客一。〔鄭谷、席上貽レ歌者詩〕坐中亦有二江南客一、莫下向二春風一唱中鷓鴣上。

【坐誅】142 ザチユウ 連坐して誅せられる。〔史記、李斯傳〕嚴レ法而刻レ刑、令三有レ罪者相坐誅、至二收族一。

【坐住】143 tsuo^4 chu^4 ❶じつと坐つてゐる。❷物を下に敷いて坐る。

【坐陟】144 ザチヨク ゐながらにしてのぼる。〔李嶠、爲二王及善一讓二內史一第二表〕行參二八命一、坐陟二九霄一。

【坐鎭】145 ザチン ゐながらにしてしづめる。ゐながらにして人心を得る。〔任昉、爲二蕭揚州一薦レ士表〕暕坐鎭二雅俗一、弘益已多。〔舊唐書、裴度傳〕王導・謝安、坐鎭二雅俗一。

【坐定】146 ザテイ ❶座席がきまる。皆が座席につき終る。〔戰國、燕策〕田先生坐定、左右無レ人、太子避レ席而請曰、燕秦不二兩立一、願先生留レ意也。〔史記、魏公子傳〕置酒大會、賓客坐定。❷坐つたまま定める。ゐながらにして平定する。〔孟子、滕文公上〕經界既正、分レ田制レ祿、可二坐而定一也。〔晉書、石季龍載記上〕不レ煩二一旅之師一、而坐定二梁益一。❸tsuo^4 ing^4 靜かに。

【坐釣】147 ザテウ すわつて魚をつる。坐漁。〔柳宗元、與二楊誨之一疏二解車義一第二書〕行歌坐釣、望二青天白雲一。

【坐適】148 ザテキ すわつてゐて樂しむ。〔任昉、答下到二建安一餉上杖詩〕坐適雖レ有レ器、臥遊苦レ無レ津。

【坐奠】149 ザテン 坐つてゐて食物を供せられる。〔禮、檀弓上〕夢坐二奠於兩楹之閒一。〔注〕是夢下坐二兩楹之閒一、而見上レ饋レ食也。

【坐拏】150 ザド 藥草の名。筋骨を壯にし、兼ねて打撲傷を治める。〔本草、坐拏草〕集解、頌曰、生二江西及滁州一、六月開二紫花一、結レ實、采二其苗一入レ藥、甚易レ得、後因二人用有レ效、今頗貴重。

【坐頭】151 ザトウ ざがしら。首席の人。〔因話錄〕今日局席兩箇坐頭、總是李益。

【坐讀】152 ザドク すわつて書を讀む。〔劉得仁、訪二曲江胡處士一詩〕靜還林石下、坐讀養生篇。〔羅隱、酬二丘光庭一詩〕行吟坐讀口不レ倦。

【坐墩】153 ザトン 陶磁器製の腰掛臺。覆せた盂の形をしたもの。〔墨莊漫錄〕・〔朱琰陶說〕。

【坐溺】154 ザネウ すわつたままで小便すること。〔中村栗園、日本智囊〕重治曰、寧坐溺、武人論レ兵、豈有二談未レ畢而起者一乎。

【坐年】155 ザネン 元日に飲食すること。〔陳造、房陵詩〕丁寧向去坐年日、要レ似二如今斂脯時一。〔自注〕年日飲食曰二坐年一、社日曰二斂脯一。

【坐馬】156 tsuo^4 ma^3 鞍を置いた馬。

〖坐馬癰〗157 ザバヨウ 肛門に生ずる癰。〔瘡瘍全書、坐馬癰〕此毒癰受在二腎經一、虛毒氣熱、毒傷二於內一、大腸之經、並聚成レ毒、發爲二漏瘡一、此乃毒證、先用二宣毒湯一、次用二敗毒流氣飲一、後用二內托追毒飲一。

【坐婆】158 ザバ 產婆。〔恆言錄〕今婦人免身時、必有二養娘扶持一、俗云二坐婆一。〔六一居士集〕召二醫官產科十餘人、坐婆三人一。

【坐拜】159 ザハイ 坐つて拜する。〔呂覽、報更〕顚蹶之請、坐拜之謁、雖レ得則薄矣。〔漢書、武帝紀〕太始四年夏四月、幸二不其一、祠二神人於交門宮一、若レ有二鄉坐拜者一。〔注〕師古曰、如有二神之景象一、鄕レ祠坐而拜也。

【坐俳】160 ザハイ あるひは坐し、あるひは徘徊すること。〔淮南子、本經訓〕耳不レ淫二於聲一、坐俳而歌謠。

【坐配】161 ザハイ 席のくばり。席の順序。

【坐忘】162 ザバウ さうしようと意識せずに、自然に物我の區別を忘れること。現實の差別相を超越した融通無碍の心境。〔莊子、大宗師〕顏回曰、回益矣、仲尼曰、何謂也、曰、回忘二仁義一矣、曰、可矣、猶未也、它日復見曰、回益矣、曰、何謂也、曰、回忘二禮樂一矣、曰、可矣、猶未也、它日復見曰、回益矣、曰、何謂也、曰、回坐忘矣、仲尼蹴然曰、何謂二坐忘一、顏回曰、墮二肢體一、黜二聰明一、離レ形去レ知、同二於大通一、此謂二坐忘一、仲尼曰、同則無レ好也、化則無レ常也、而果其賢乎、丘也請從二而後一也。〔注〕夫坐忘者、奚所レ不レ忘哉、云云、內不レ覺二其一身一、外不レ知二天地一、然後曠然與二變化一爲レ體、而無レ不レ通也、無二物不レ同、則未二嘗不レ適、未二嘗不レ適、何好何惡哉、同二於化一者、唯化所レ適、故無レ常也。〔疏〕虛心無レ著、故能端坐而忘。〔淮南子、道應訓〕回坐忘矣。〔白居易、睡起晏坐詩〕行禪與二坐忘一、同歸無二異路一。

【坐法】163 ザハフ 罰せられる。罪が法律の條項にあてはまる意。法を犯す。〔史記、黥布傳〕有レ客相レ之曰、當二刑而王一、及レ壯坐レ法黥。〔漢書、灌夫傳〕坐レ法免、家二居長安一。

【坐板】164 tsuo^4 pan^3 船の腰掛板。

〖坐板瘡〗165 tsuo^4 pan^3 ch'uang^1 臀部に生ずる腫物の名。夏日、椅子に坐り續けると群り生ずる黍粒の形の小腫物。

【坐煩】166 tsuo^4 fan^2 長時閒坐つてゐたために倦むこと。坐りあきる。

【坐盤】167 tsuo^4 p'an^2 市場相場の最低限度の値段。

【坐飛】168 ザヒ ひとりでに飛ぶ。〔鮑照、蕪城賦〕孤蓬自振、驚沙坐飛。〔注〕善曰、無レ故而飛曰二坐飛一。

【坐髀】169 ザヒ 尻の骨。別名、坐骨・坐髀骨。〔孔平仲、詩〕江邊鍾官老二鑄錢一、坐髀已消窮且瞑。

【坐寐】170 ザビ ゐねむり。坐睡。〔魏書、昭成子孫、毗陵王順傳〕順獨坐寐欠伸、不レ顧而唾。

【坐誣】171 ザフ 無實の罪におとす。又、無實の罪におちる。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕欲下爲二其子一、求レ寬而坐中誣衆戶上。

【坐部】172 ザブ 堂上に列坐して奏樂する組。坐部伎を見よ。

〖坐部伎〗173 ザブギ 唐代の教坊樂の一部。唐の玄宗の時、樂を二部に分ち、堂下に立奏するのを立部伎といひ、堂上に坐奏するのを坐部伎といふ。

太常は坐部を試閲して之に堪へない者は立部に隷屬させ、猶ほ之に堪へない者には雅樂を習はしめた。〔唐書、禮樂志十二〕分レ樂爲二二部一、堂下立奏、謂二之立部伎一、堂上坐奏、謂二之坐部伎一。〔白居易、新樂府、立部伎〕立部賤、坐部貴、坐部退爲二立部伎一。〔文獻通考、樂考、俗部樂、立部伎坐部伎〕元宗時、分レ樂爲二二部一、堂下立奏、謂二之立部伎一、堂上坐奏、謂二之坐部伎一、太常閲二坐部一、不レ可レ教者、隷二立部一、又不レ可レ教者、乃習二雅樂一。

【坐伏】174 ザフク すわりふす。〔司馬法、嚴位〕跪坐坐伏則膝行而寬。

【坐票】175 tsuo⁴ p'iao⁴ 浙江省紹興市場の慣用の手形の一種。

【坐辟】176 ザヘキ 死刑に處せられる。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、窩主〕造意共謀、罪同坐レ辟。

【坐辨】177 ザベン 受持つ。引受けて取扱ふ。〔清國行政法汎論、新設官廳〕又有下稱二坐辨一者上、別無二兼差一、坐二局中一、專任二其事一。

【坐補】178 ザホ 病氣などのために退職した官吏が以前に居た職に再び任用せられること。坐補原缺を見よ。〔清國行政法汎論、文官任命形式、吏部銓選〕又廻避別補、病痊坐補等、則不レ入二候選班次一。〔注〕謂下補二用原缺一者上曰二坐補一。

〖坐補原缺〗179 ザホゲンケツ 坐補に同じ。〔清會典、吏部〕外官病痊起用終養事畢、及徽二爛倉穀一、虧二空錢糧一、全完開復者、俱坐二補原缺一。

【坐鋪】180 tsuo⁴ p'u⁴ 出賣をしない店。行商に對していふ。

【坐免】181 ザメン 罪に陷つて免職される。〔漢書、灌夫傳〕坐レ法免、家二居長安一。

【坐夜】182 tsuo⁴ yeh⁴ 出棺の前日通夜すること。

【坐藥】183 ザヤク 膣・尿道・肛門等に插入し用ひるくすり。さしこみぐすり。坐導藥。〔金匱要略、前陰諸證〕婦人陰寒溫中坐藥、蛇牀子散主レ之。

【坐擁】184 ザヨウ 何もせずにかかへ持つ。〔晉書、范弘之傳〕坐擁二大眾一、侵二食百姓一、不レ可レ謂レ愛人。

【坐抑】185 ザヨク 挫き抑へる。挫抑。〔管子、小匡〕無二坐抑一而訟獄者、正三二禁之一。

【坐浴】186 ザヨク 下半身だけの湯あみ。こしゆ。

【坐來】187 ザライ 坐つてゐるうちに。ゐながらにして。程なく。來は助辭。〔杜荀鶴、旅舍遇レ雨詩〕月華星彩坐來收、嶽色江聲暗結レ愁。

【坐牢】188 tsuo⁴ lao² 牢獄に入る。坐監。

【坐落】189 ザラク ❶止まる。おちつく。〔福惠全書、清丈部、具結狀〕田地若干坐二落某里某處一。❷tsuo⁴ lo⁴ ㋑位置。所在。ありか。㋺置く。設ける。鎭座する。

【坐釐】190 ザリ 店鋪を有つてゐる商人の貨物に課する釐金稅。坐賈釐。〔經世文、續編〕。

【坐流】191 ザリウ 島流しにされる。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕撫軍遂檢レ牘視レ之、乃大批二切責不レ准、而其子竟坐レ流。

【坐立】192 ザリツ すわつたり立つたりする。又、坐つてゐる者や立つてゐる者。〔齋藤拙堂、拙堂文話〕望レ之、槎之泛、橋之臥、人之來往坐立、宛在二畫圖中一。

〖坐立誦讀〗193 ザリツニシヨウドクス 坐つてゐても立つてゐても常に書を讀む。〔蒙求、陳寔遺盜〕有レ志好レ學、坐立誦讀。

〖坐立二部〗194 ザリツニブ 樂に坐部・立部の二部があり、坐部は堂上に坐列して匏竹を執り、立部は堂下に立列して鐘磬を打つ。坐部伎(173)を見よ。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕役二喉喙一以集二樂事一、作二坐立二部伎圖一。

〖坐立不安〗195 tsuo⁴ li⁴ pu⁴ an¹ 心配で居ても立つても居られない。

【坐率】196 ザリツ 幼年で罪の無い者が、父兄の罪によつて刑を受けること。〔漢書、萬石君傳〕孤兒幼年、未レ滿二十歲一、無レ罪而坐レ率。〔注〕師古曰、幼年無レ罪、坐レ爲二父兄所レ率而幷徙。

【坐糧】197 ザリヤウ ❶坐糧廳の略。〔清會典事例、戶部、俸餉〕乾隆十年諭、各旗都統等、雖三已賞二給坐糧養廉一、而生計尚未二寬裕一、應二如何一。❷糧食の輸送を任務とする兵。輸卒。〔清國行政法汎論、武官仕途種類、行伍〕凡綠營兵士、先補二坐糧一、服役幾年、進至二步糧一、自二步糧一進二馬糧一。

〖坐糧廳〗198 ザリヤウチヤウ 清代、戶部、倉場衙門特設の官。通州に駐在して漕糧を驗收し、其の他、運漕・出納・浚渫のことを掌る。座糧廳。〔清會典事例、戶部、倉庾〕坐糧廳職掌、坐糧廳、滿漢各一人、管二理北河挑空淤淺一、修二築隄岸牐壩一、催二趲漕船抵レ壩回空一、督二令經紀車戶轉運交倉一、兼管下通二濟庫銀出納一、抽中收通州稅課事務上、由二各部一揀二選賢能司官一、送レ部引見差委、二年交代、差滿、倉場總督將二其經管錢糧收支數目一、造レ冊具題、送レ部查覆。

【坐料】199 ザレウ 坐つたままで計略をめぐらす。〔宋祁、賀二呂相公一啓〕方且坐料二脆敵一、陰伐二詭謀一、案二邊吏之瑣一甚精、轉二關中之漕一相繼。

【坐列】200 ザレツ 坐つて居並ぶ。又、其の列。〔左氏、定、八〕春王正月、公侵レ齊、門二于陽州一、士皆坐列。〔注〕言レ無二鬭志一也。〔會箋〕坐列、謂二安坐排列一也。

【坐論】201 ザロン 口先だけでかれこれ論ずる。〔人物志、英雄〕可二以坐論一、而不レ可二以處レ事。

【罵レ坐】202 ザニノノシル 滿座の中で惡口をいふ。〔漢書、灌夫傳〕劾二灌夫罵レ坐不敬一、繫二居室一。〔注〕師古曰、於二大坐中一罵詈爲二不敬一。

【坐餓關】203 ザガクワン 一種の修養法。殆んど食を絕つて悟りに入らうとするもの。〔青溪暇筆〕近日、一番僧自二西域一來、不レ御二飲食一、日啖二棗果數枚一、所レ坐一龕、僅容二其身一、如欲二入定一、且令下人鎖二其龕門一、加レ紙密レ糊封上レ之、或經二月餘一、謦欬之聲亦絕、人以爲二化去一、潛聽レ之、但聞二掐念珠歷歷一、有下叩二其術一者上、則勸二人少思・少睡・少食一耳、翟晴江謂、今惟坐餓關者、有レ似二此僧所レ爲。

【坐虛帳】204 tsuo⁴ hsü¹ chang⁴ 浙江省杭州地方で、婚禮の時、中門を入つた一室に掛け置く帳幕。

【坐羣船】205 tsuo⁴ ch'ün² ch'uan² 乘合船。

【坐月子】206 tsuo⁴ yüeh⁴ tzŭ 婦人が產後一ヶ月間、產褥に居ること。

【坐狗的】207 tsuo⁴ kou³ tiê 犬殺し。犬殺しは毛皮の衣を着、臥した犬の上に坐つて殺すからいふ。

【坐若レ尸】208 ザスルコトシノゴトクス 坐るときは尸（カタシロ）のやうに正しく坐る。〔禮、曲禮上〕坐若レ尸、立如レ齊。

【坐春風】209 tsuo⁴ ch'uen¹ fêng¹ 教師の薰陶の宜しきを得てゐること。坐二春風一（**5**－13844・679）を見よ。

【坐導藥】210 ザダウヤク 婦人が陰部に插入する藥。坐藥。〔三因坊、十七〕坐導藥、治二全不レ產及斷緒一、云云、皂角・吳茱萸・當歸・細辛等、右爲二細末一、以二絹袋一盛、大如レ指、長參寸餘、盛レ藥令レ薄、定二納婦人陰中一。

【坐獨桌】211 tsuo⁴ tu² chuo¹ 浙江省海寧地方で、婚禮の第一夜、樂を奏し、花嫁を筵席に坐らせること。

【坐卯宴】212 tsuo⁴ mao³ yen⁴ 舊式の婚禮で初めて新婦を招待する宴。

【坐不安】213 tsuo⁴ pu an¹ 坐り心地が惡い。

【坐不穩】214 tsuo⁴ pu wen³ 安らかに坐ることができない。坐が安定しない。

【坐不下】215 tsuo⁴ pu hsia⁴ 場所が狹くて坐れない。坐不開。

【坐不開】216 tsuo⁴ pu k'ai¹ 場所が狹くて坐れない。

【坐不起】217 tsuo⁴ pu ch'i³ 能力がなくて坐れない。

【坐不住】218 tsuo⁴ pu chu⁴ じつと坐つて居られない。

【坐不動】219 tsuo⁴ pu tung⁴ 力量が足りなくて長く坐れない。

【坐不來】220 tsuo⁴ pu lai² 性に合はないので坐れない。

【坐滿了】221 tsuo⁴ man³ la 席が一ぱいになつた。滿員になつた。

【坐洋燈】222 tsuo⁴ yang² têng¹ 置きランプ。

【坐以待レ旦】223 ザシテモツテタンヲマツ 夜中、坐したまま曉を待つ。求めるに急なる意。〔書、太甲上〕伊尹乃言曰、先王昧爽丕顯、坐以待レ旦、旁求二俊彥一、啓二迪後人一、無下越二厥命一以自覆上。〔孟子、離婁下〕周公思下兼二三王一、以施中四事上、其有二不レ合者一、仰而思レ之、夜以繼レ日、幸而得レ之、坐以待レ旦。〔魏志、王基傳〕天下至廣、萬幾至猥、誠不レ可レ不二矜矜業業、坐而待レ旦也。

【坐喫山空】224 ザシテクラヘバヤマモムナシ 何事もせず坐食すれば、山の如き財寶も遂に食ひ盡す。〔小說精言〕

坐喫山空、立喫地陷、咽喉深二於海一、日月快二於梭一。〔桃花扇、棲眞〕俺要下到二嶺頭澗底一、取二些松柴一、供中早晚炊飯之用上、不レ強レ如二坐喫山空一麽。

【坐言起行】225（ザゲンキカウ）　言つたことは必ず行ふ。〔荀子、性惡〕故坐而言レ之、起而可レ設、張而可二施行一。

【坐愁行歎】226（ザシウカウタン）　常に歎き悲しむこと。〔鮑照、擬行路難詩〕人生亦有レ命、安能行歎復坐愁。

【坐薪懸膽】227（ザシンケンタン）　薪上に坐し、膽をかけて嘗める。日常、苦心をして讎を報いようとすること。臥薪嘗膽（8－30071・・118）に同じ。〔金史、朮虎筠壽傳〕陛下當二坐レ薪懸レ膽之日、奈何以二毬鞠細物一、動二搖民間一。

【坐知二千里一】228（ザシテセンリヲシル）　居ながらにして千里の遠い所の事を知る。〔任昉、奏二彈曹景宗一文〕漢光命レ將、坐知二千里一。

【坐靡二廩粟一】229（ザシテリンゾクヲビス）　無爲にして祿を食むこと。祿盜人。〔劉基、賣柑者言〕坐靡二廩粟一、而不レ知レ恥。

【坐不レ垂レ堂】230（ザスルニダウニスイセズ）　落ちる危險があるから堂の端には坐らない。一説に、堂の端は瓦が墜ちて危險であるから坐らない。富める人は危險な處に近寄らず、自ら深く身を愛する喩。千金之子不レ垂レ堂（2－2697・・84）を見よ。〔司馬相如、上書諫レ獵〕鄙諺曰、家累二千金一、坐不レ垂レ堂。

【坐不レ重レ席】231（ザスルニセキヲカサネズ）　坐る時、敷物を一枚以上は用ひない。節儉なこと。〔韓非子、外儲說左下〕食不レ二レ味、坐不レ重レ席、內無二衣レ帛之妾一。

【坐北朝南】232　tsuo^4 pei^3 ch'ao^2 nan^2　家屋等が北側に在つて南向きであること。

【坐無二車公一】233（ザニシヤコウナシ）　宴席に車胤が居ない。それで淋しいといふ意。車公は晉の車胤をいふ。〔晉書、車胤傳〕胤善二於賞會一、當時每レ有二盛坐一、而胤不レ在、皆云、無二車公一不レ樂。

【坐樓殺惜】234（ザロウサツセキ）　二簧西皮劇の一種。烏龍院の別名。

【坐又不安立又不寧】235　tsuo^4 you^4 pu^4 an^1 li^4 you^4 pu^4 ning^2　心配で居ても立つても居られない。

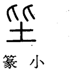
【坐無二尼父一焉別二顏回一】236（ザニヂホナクバイヅクンゾガンクワイヲワカタン）　孔子の如き聖人が居なければ、顏回の如き賢人を識別することは出來ない。晉の謝尙が父の鯤に從つて客を送つた時、或る人が尙を顏回だと云つたのに答へた語。〔晉書、謝尙傳〕尙、字仁祖、豫章太子鯤之子也、八歲神悟夙成、鯤嘗攜レ之送レ客、或曰、此兒一坐之顏回也、尙應レ聲答曰、坐無二尼父一、焉別二顏回一、席賓莫レ不二歎異一。

【坑】4932　カウ　キヤウ　〔集韻〕丘庚切　庚　ㄎㄥ　k'êng^1

❶阬（11－41566）に同じ。〔集韻〕阬、或从レ土。❷俗に、かはやをいふ。〔辭海〕坑、俗謂二圊廁一曰レ坑、如レ廁曰二登坑一。

參考　❶抗（5－11889）は別字。❷熟字は阬（11－41566）を見よ。

【坒】4933　［一］ヒ　ビ　〔集韻〕毗至切　寘　［二］ヒツ　ビチ　〔集韻〕簿必切　質



小篆

［一］［二］❶**地がつらなつてゐること。**〔說文〕坒、地相次坒也、衞大夫貞子、名坒、从レ土比聲。❷**相つらなる。**〔左思、吳都賦〕商賈駢坒。❸**きざはし。**陛（11－41654）に通ず。〔正字通〕陛、坒、古通。〔漢書、賈誼傳〕人君如レ堂、羣臣如レ坒。

【⿰土比】4934　ヒ　坒（3－4933）に同じ。〔正字通〕⿰土比、同レ坒。

【圪】4935　キツ　圪（3－4883）の本字。〔正字通〕圪、圪本字。

【⿰土斗】4936　シン　斟（5－13517）に同じ。〔正字通〕⿰土斗、同レ斟、⿰土斗鄩卽斟鄩、故城、在二青州北海郡東一、漢地理志作レ⿰土斗、今斟城、是也。

【坓】4937　ケイ　型（3－5030）の古字。〔六書統〕坓、古文型字。

【垪】4938　セイ　ジヤウ　〔篇海〕才性切　敬　**あな。**〔篇海〕垪、坑垪。

【坖】4939　キ　基（3－5197）の古字。〔集韻〕坖、基、古作レ坖。

【坔】4940　チ　地（3－4890）に同じ。〔集韻〕地、或作レ坔。

【⿰土乇】4941　カウ　耗（9－28909）に同じ。〔字彙補〕⿰土乇、同レ耗。〔孔子家語、執轡〕⿰土乇土之人醜。〔注〕⿰土乇、耗字也。

【⿰土乇土】1（カウド）　地味の瘠せた土地。又、耗土に作る。〔孔子家語、執轡〕⿰土乇土之人醜。〔注〕⿰土乇、耗字也、⿰土乇土、麤疏者也。〔大戴禮、易本命〕耗土之人醜。〔注〕耗土、謂二疏薄之地一。

【坙】4942　ケイ　經（8－27508）の古字。〔韻會〕坙、古文經字。

【⿱元土】4943　キ　忌（4－10310）の古字。〔集韻〕忌、古作レ⿱元土。

【⿰土太】4944　タイ　ダイ　〔類篇〕徒蓋切　泰　**米をとぐ。**〔篇海〕⿰土太、淅瀾也。

【⿰土卬】4945　ヨク　オク　〔廣韻〕於力切　職　**地名。**〔廣韻〕⿰土卬、地名。

【⿱卯土】4946　サ　〔五音篇海〕徂臥切　箇　**罪せられる。**〔五音篇海〕⿱卯土、被レ罪也。

【⿰土日】4947　ジツ　義未詳。〔篇海〕⿰土日、音日。

【⿰土夬】4948　［一］クワイ　［二］エツ　［一］塊（3－5319）の俗字。〔辭海〕⿰土夬、俗塊字。［二］義未詳。〔篇海〕⿰土夬、於決切、音月。

【⿰土犬】4949　バウ　義未詳。〔川篇〕⿰土犬、音暴。

【⿰土牙】4950　チ・テイ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰土牙、音池、又音堤。

【⿰土戶】4951　コ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰土戶、音戶。

【⿰土冄】4952　タン　坍（3－4978）に同じ。〔字彙補〕⿰土冄、同レ坍。

【⿰土互】4953　チ　坻（3－5001）に同じ。〔篇海〕坻、或作レ⿰土互。

【⿰土丂】4954　シ　⿰土互（3－4953）の俗字。〔龍龕手鑑〕⿰土丂、俗⿰土互字。

【⿰土匁】4955 チ

坘(3−4953)の俗字。〔龍龕手鑑〕⿰土匁、俗坘字。

【坛】4956 チ

坻(3−5001)に同じ。〔篇海〕坻、或作レ坛。

【⿱冈土】4957 音未詳

冈(9−28206)に同じ。〔五音篇海〕⿱冈土、同レ冈。

【坒】4958 セイ

義未詳。〔龍龕手鑑〕坒、音世。

【垗】4959 テウ

兆(1−1347)に同じ。〔五音篇海〕垗、同レ兆。

【坸】4960 ブツ

佛(1−517)に同じ。〔五音篇海〕坸、藏經佛字。

【⿱巳土】4961 セツ

〔篇海〕音節

高い山のさま。〔篇海〕⿱巳土、高山貌。

【坙】4962 ケイ

巠(4−8681)の譌字。〔康煕字典〕坙、按、卽巠字之譌。

【坚】4963 ケン

堅(3−5210)の俗字。〔篇海〕坚、堅俗用。

【⿰土幻】4964 アウ

坳(3−4988)の俗字。〔辭海〕⿰土幻、坳俗字。

【壯】4965 サウ

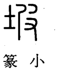
壯(3−5643)の俗字。〔正字通〕壯、俗从レ土作レ壯。

五畫

【坡】4966

[一]ハ 〔集韻〕滂禾切 ㄆㄛ p'o¹ 歌

[二]ヒ 〔集韻〕彼義切 寘



小篆

[一][二]❶**さか。**〔說文〕坡、阪也、从レ土皮聲。〔阮籍、詠懷詩〕朝登二洪坡顚一、日夕望二西山一。❷**つつみ。**陂(11−41603)に同じ。〔說文通訓定聲〕坡、陂也、从レ土皮聲、按、卽陂之或體。〔劉基、採蓮歌〕撞レ頭忽見游人過、櫂入二菰蒲一水拍レ坡。❸或は岥(4−7975)・⿰山叵(4−7964)に作る。〔集韻〕坡、或作二岥・⿰山叵一。

參考 披(5−11909)は別字。

【坡下】1 ハカ 堤の下。どてした。〔白居易、長恨歌〕馬嵬坡下泥土中、不レ見二玉顏一空死處。

【坡坎】2 p'o¹ k'an³ 坂。斜丘。

【坡幹】3 ハカン 山名。廣西省馮祥縣の北。〔明一統志〕坡幹山、在二思明府憑祥州治北一、山有二六尖峯一。

【坡岸】4 ハガン どての岸。〔宣和畫譜〕坡岸高下、人騎出沒。〔圖繪寶鑑〕氣韻蕭爽、坡岸山林亦佳。

【坡脚】5 p'o¹ chiao³ 脚をはらふ。

【坡公】6 ハコウ 宋の蘇軾（東坡）(9−32427・・103)の異稱。〔菊池溪琴、丙午仲秋同二垣白沙釋冷雲植轍所一賞二月于由良港一詩〕坡公赤壁千秋賦、字挾二風霜一筆有レ神。

〖坡公堤〗7 ハコウテイ 宋の蘇軾が杭州の通判となり、西湖のほとりに築いた長堤。〔剪燈餘話、賈雪華還魂記〕蘇小宅邊桃李、坡公堤上人烟。

【坡山】8 ハザン 山名。❶湖北省陽新縣の東。一名、大坡山。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、興國州、銀山〕大坡山、在二州東五十里一、旁有二石樓一、嶄然拔二出衆山一、里人於レ此造レ茶、名二坡山鳳髓一。❷廣東省城內。陂山(11−41603・・9)を見よ。

〖坡山主人〗9 ハザンシユジン 宋、南宮靖一(2−2750・・173)の號。

【坡子】10 p'o¹ tzŭ 坂。

【坡州】11 ハシウ 山名。一名、虎山。廣西省向都縣の北。〔明一統志〕坡州山、在二坡州故富勞縣北三里一、山形如レ虎、又名二虎山一。

【坡仙】12 ハセン ❶宋の蘇軾（東坡）(9−32427・・103)の異稱。坡老。〔草綱、眞賞亭賦〕揭二眞賞之新名一、撫二坡仙之舊詞一。〔許月卿、眉子硯詩〕坡仙爲レ欠十眉詠、李及何妨一硯持。❷宋の人。姓氏不明。太平興國の時、かつて呂洞賓に君山に遇ひ、後、抱黃洞に隱れ、靈龜呑吐の法を行ひ、功成つて自ら瀟湘子と號した。

【坡陀】13 ハダ 斜に傾いて平かでないさま。陂陀(11−41603・・14)に同じ。〔杜甫、沙苑行〕纍纍塠阜藏二奔突一、往往坡陀縱二超越一。〔韓愈、記夢詩〕石壇坡陀可二坐臥一。

【坡塘】14 ハタウ つつみ。どて。堤防。堤塘。陂塘(11−41603・・17)に同じ。

【坡地】15 ハチ 傾斜地。〔和漢三才圖會、味果類、茗〕最宜二坡地蔭處一。

【坡頭】16 ハトウ 鎭の名。河南省濟源縣の南。黃河に臨み、其の下に渚があり、昔の馬渚の地。〔濟源縣志〕馬渚、在二坡頭鎭一。

【坡班】17 ハハン 諫議(10−35724・・5)の異稱。〔青箱雜記〕諫議曰二坡班一、謂下班在二給舍上一、復遷中給舍上也。

【坡老】18 ハラウ 宋の蘇軾（東坡）(9−32427・・103)の異稱。坡仙。〔市河世寧、東坡赤壁圖詩〕一自三風流屬二坡老一、功名不三復畫二周郎一。

【坡隴】19 ハロウ つつみとをか。又、單に岡、或は堤をいふ。〔蘇軾、辛丑十一月十九日既與二子由一別二鄭州西門之外一馬上賦二詩一篇一寄レ之詩〕登レ高回レ首坡隴隔、惟見烏帽出復沒。

【坡門酬唱集】20 ハモンシウシヤウシフ 書名。二十三卷。宋、邵浩編。蘇軾・蘇轍及びその門下たる黃庭堅・秦觀・晁補之・張耒・陳師道・李廌との唱和の詩を載せてゐる。〔四庫提要、集、總集類〕。

【坡里內西亞】21 ポリネシヤ 大洋洲の一部・赤道南北に散在する小島嶼を總稱す。Polynesia の音譯。

【坢】4967

[一]ハン 〔集韻〕普伴切 旱

[二]ハン バン 〔集韻〕薄半切 翰

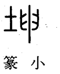
[一]❶**たひらか。**〔集韻〕坢、平坦也。❷**地をおこす。**〔集韻〕坢、發レ地。[二]**ちり。**〔集韻〕坢、坋也。

【坣】4968 ダウ

堂(3−5207)の古字。〔說文〕堂、坣、古文堂如レ此。

【坤】4969 コン

〔集韻〕枯昆切 ㄎㄨㄣ k'uen¹ 元



小篆

❶**易、八卦の一。**☷。純陰。地・母・やさしい・積む・取入れる等の象。〔易、說卦〕坤爲レ地、爲レ母、爲レ布、爲レ釜、爲二吝嗇一。❷**易、六十四卦の一。**䷁（坤下坤上）。柔順含容の象。〔易、坤〕坤、元亨、利二牝馬之貞一。❸次の諸項の象。㋑**地。**〔說文〕坤、地也、易之卦也、从二土申一、土位在レ申也。〔易、說卦〕坤、地也。〔左氏、莊、二十二〕坤、土也。㋺**陰。女。**〔易、繫辭上〕坤進成レ女。〔易、繫辭下〕子曰、乾坤其易之門邪、乾、陽物也、坤、陰物也。㋩**皇后。又、后位。**〔舊唐書、禮儀志〕又追二尊昭成・肅明二皇后一、於二親仁里一別置二儀坤廟一。㋥**臣。妻。母。**〔易、序卦〕坤、地也、故稱二乎母一。〔易、坤、集解〕坤、臣道也、妻道也。〔國語、晉語四〕坤、母也。㋭**やさしい。**〔易、雜卦〕坤、柔也。㋬**したがふ。**〔易、說卦〕坤、順也。❹**ひつじさる。**西南。〔易緯乾鑿度〕陰始二於巳一、形二於未一、據レ正立レ位、故坤位在二西南一、陰之正也。❺古は巛(4−8670)・與(2−1487)に作る。〔集韻〕坤、古作二巛・與一。

名乘 シタ。

解字 會意。土と申（十二支のさる）との合字。本義は易の卦の名で地に配す。土の位は申に在る故に土と申とを合せて、地の意を表はす。一說に、形聲、陳の籒文で、土は意を表はし、申は音を表はすといふ。〔說文通訓定聲〕坤、地也、易之卦也、从㆑土从㆑申土位在㆑申、按、申非㆑意、从㆑土申聲、實卽籒文陳字、从㆑阜从㆑土同。

【坤鞵】1 k'uen^1 hsieh^2 婦人の靴。

【坤維】2（コンキ） 地を支へ保つおほづな。地のおほづな。地維。又、大地。又、西南。〔張協、雜詩〕大火流㆓坤維㆒、白日馳㆓西陸㆒。〔注〕善曰、毛詩曰、七月流火、毛萇曰、火、大火也、淮南子曰、坤維在㆓西南㆒、又曰、斗指㆓西南維㆒、爲㆓立秋㆒。〔李洞、贈㆓徐山人㆒詩〕徐生何代降㆓坤維㆒、曾伴㆓園公㆒採㆓紫芝㆒。

【坤育】3（コンイク） 大地が萬物をいつくしみ育てるが如くに慈しみそだてること。皇后の恩惠にいふ。〔後漢書、陳球傳〕親嘗稱㆑制、坤㆓育天下㆒。〔注〕周易曰、坤爲㆑母。

【坤一】4（コンイツ） 字號。❶清、錢載（**11−40563**‥99）の字。❷清、張賜寧（**4−9812**‥1134）の號。

【坤皐】5（コンカウ） 清、鞠履厚（**12−42892**‥55）の字。

【坤角】6 k'uen^1 chiao^3 女優。女役者。

【坤鑒】7（コンカン） 清、戴錡（**5−11685**‥32）の字。

【坤儀】8（コンギ） ❶大地をいふ。坤輿（37）に同じ。〔舊唐書、音樂志三〕大矣坤儀、至哉神縣。❷明、袁黃（**10−34152**‥44）の字。

【坤戲】9 k'uen^1 hsi^4 女芝居。女優劇。

【坤極】10（コンキヨク） 皇后の位。皇后の身分。〔後漢書、梁皇后紀〕宜㆘配㆓天祚㆒、正㆗位坤極㆖。

【坤垠】11（コンギン） 大地のはて。〔柳宗元、劍門銘〕井絡坤垠、時惟外區。

【坤隅】12（コングウ） 西南隅をいふ。ひつじさる（未申）の方向。〔李華、含元殿賦〕望㆓仙闕於巽維㆒、建㆓福敞於坤隅㆒。

【坤倪】13（コンゲイ） 大地のはて。〔韓愈、南海神廟碑〕乾端坤倪、軒豁呈露。

【坤乾】14（コンケン） 書名。殷代の陰陽の書。〔禮、禮運〕我欲㆑觀㆓殷道㆒、是故之㆑宋而不㆑足㆑徵也、吾得㆓坤乾㆒焉。〔注〕得㆓殷陰陽之書㆒也、其書存者有㆓歸藏㆒。

〖坤乾之義〗15（コンケンノギ） 坤乾（14）の義理。又、天地の道理。〔禮、禮運〕孔子曰、坤乾之義、夏時之等、吾以㆑是觀㆑之。〔疏〕其殷之坤乾之書、幷夏四時之書、吾以㆓二書㆒觀㆑之。

【坤元】16（コンゲン） 大地をいふ。又、大地の德。〔易、坤〕至哉坤元、萬物資生。〔蜀志、後主劉禪傳〕順㆓承天㆒者、坤元之義也。

【坤后】17（コンコウ） 大地をいふ。〔抱朴子、博喩〕渾象尊㆓於行健㆒、坤后貴㆓於安貞㆒。

【坤載】18（コンサイ） ❶大地が萬物をのせること。地載。〔易、坤〕坤厚載㆑物、德合㆓无疆㆒。〔宋史、樂志十六〕乾元坤載同歸、美寶冊兩光輝。❷清、黃元御（**12−47926**‥1076）の字。

【坤齋】19（コンサイ） 西嶋長孫の號。西嶋蘭溪（**10−34763**‥712）を見よ。

〖坤齋日抄〗20（コンサイニツセウ） 書名。三卷。西島坤齋撰。詩文に關する故事、又は熟語の出典や庶物を考へ、精密な證左をあげてゐる。文政十一年刊。〔續日本儒林叢書、第一冊〕。

【坤造】21 k'uen^1 tsao^4 女子の生年月日。

【坤四】22（コンシ） 清、李宗潮（**6−14459**‥1629）の字。

【坤則】23（コンソク） 地の法則。皇后の守るべき道。又、婦女の守るべき道。坤道。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕坤則順承、星軒潤飾。〔注〕良曰、謂㆘能法㆓則坤德㆒、而成㆗柔順之道㆖。

【坤道】24（コンダウ） 地の道。轉じて、女の守るべきみち。婦道。〔易、坤〕坤道其順乎。〔易、繫辭上〕乾道成㆑男、坤道成㆑女。

【坤宅】25 k'uen^1 chai^2 新婦の家をいふ。花嫁の家。

【坤軸】26（コンヂク） 地の心棒。地の樞軸。地軸。〔杜甫、後苦寒行〕殺氣南行動㆓坤軸㆒。〔宋史、樂志十二〕西海位奄㆓浸坤軸㆒、滋㆓殖其濊㆒。〔張嘉貞、恆山碑銘〕下捺㆓坤軸㆒、元神之都府。

【坤珍】27（コンチン） 洛書（**6−17383**‥24）をいふ。〔班固、東都賦〕於㆑是聖皇、乃握㆓乾符㆒、闡㆓坤珍㆒。〔注〕濟曰、坤珍、洛書也。

【坤圖】28（コンヅ） 地圖をいふ。〔徐陵、長安道〕橫橋象㆓天漢㆒、法駕應㆓坤圖㆒。

【坤典】29（コンテン） 地の法則。地の道。地の文（アヤ）。〔蜀志、郤正傳〕俯憲㆓坤典㆒、仰式㆓乾文㆒。

【坤德】30（コントク） 地の德。大地が萬物を生育する力をいふ。轉じて、婦人の德。〔易、坤〕坤厚載㆑物、德合㆓無疆㆒。

【坤能】31（コンノウ） 明、章簡（**8−25761**‥26）の字。

【坤馬】32（コンバ） 牝馬をいふ。〔漢書、王莽傳中〕五威將乘㆓乾文車㆒、駕㆓坤六馬㆒。〔注〕鄭氏曰、坤爲㆓牝馬㆒。

【坤寶】33（コンパウ） 大地の產出するたから。〔李嶠、宣州大雲寺碑〕乾符坤寶、載㆓於龍馬之圖㆒。

【坤班】34 k'uen^1 pan^1 女優。女優一座。

【坤母】35（コンボ） ❶母をいふ。又、地をいふ。〔易、說卦〕坤爲㆑地、爲㆑母、爲㆓大輿㆒。〔疏〕爲㆓大輿㆒、取㆔在㆑旁、下拾㆓殘灰㆒補㆓地闕㆒。❷火（**7−18850**）の異名。〔事物異名錄、器用、火〕易乾鑿度、火爲㆓坤母㆒。

【坤門】36 k'uen^1 men^2 女子。婦人社會。

【坤輿】37（コンヨ） 大地をいふ。輿は、車の物を載せる部分。坤儀。地輿（**3−4890**‥462）を見よ。〔易、說卦〕坤爲㆑地、爲㆑母。〔楊維楨、詩〕當時坤母亦其能載㆓萬物㆒也。

〖坤輿球〗38（コンヨキウ） 地球をいふ。

〖坤輿圖志〗39（コンヨヅシ） 書名。二卷。清、南懷仁撰。上卷は坤輿より人物に至る十五條、下卷は海外諸國の地理。艾儒略の職方外紀と互に出入し、詳略異同がある。〔四庫提要、史、地理類〕。

【坤履】40 k'uen^1 li^3 女の靴。坤鞵。

【坤伶】41（コンレイ） 元代、女優の稱。其の後、風紀を害するを以て禁ぜられ、清朝には男優だけとなつたが、清末に至り、復、天津・漢口等にあらはれ、革命以後は、殊に上海の坤伶が優勢となり、遂に北京に侵入して大いに流行した。

【坤靈】42（コンレイ） 地の神。地祇。〔揚雄、司空箴〕普彼坤靈、侔㆑天作㆑則。〔後漢書、桓帝紀〕比者、星辰謬越、坤靈震動、災異之降。〔宋史、樂志七〕山嶽河瀆、皆坤之靈。

〖坤靈扇〗43（コンレイセン） 仙人の扇子。之を以て蔽へば身を隱すといふ。〔清異錄、仙宗、氤氳大使〕子凡訪㆑藥籃中取㆓一扇㆒、授㆑起曰、是坤靈扇子、寵、以㆑扇自蔽、人皆不㆑見。

【坤宮官】44（コンキユウクワン） 淳仁天皇の時、紫微中臺をいふ。〔國史略、淳仁天皇〕敕㆓紫微內相仲麻呂・中納言石川年足等㆒、改㆓易官制㆒、太政官爲㆓乾政官㆒、三大臣曰㆓大師・大傅・大保㆒、大納言曰㆓御史大夫㆒、中衞大將曰㆓大尉㆒、紫微中臺爲㆓坤宮官㆒、其他皆更㆓其名㆒。

【坤都倫】46（コントリン） 河の名。張掖河の下流をいふ。

【坤寧宮】47（コンネイキユウ） 清代の宮殿の名。北京紫禁城內にある。〔清會典、內務府〕祭㆑天皆於㆓坤寧宮㆒。

【坤明國】48（コンメイコク） 魏の都、鄴の地をいふ。〔海錄碎事、地上、地〕詩云、今朝坤明國、再顧簪蟬冠、總門、坤明是何國、幹曰、魏開國鄴地也、梁顧總爲㆓縣尹㆒、因㆑逃㆓墟墓閒㆒、見㆓王粲・徐幹㆒、誦㆓所㆑爲詩㆒云、出㆓幽怪錄㆒。

【坤六馬】49（コンリクバ） 六頭の牝馬。坤馬（32）を見よ。〔漢書、王莽傳中〕五威將乘㆓乾文車㆒、駕㆓坤六馬㆒。

【坤帖木兒】50（グンチムール） 北元の可汗。順帝四世の孫。脫古思帖木兒の死後、永樂帝が建文二・三年頃、使を派して初めて接した蒙古可汗。〔明史、三百二十七〕。

【坤六四義】51（コンリクシノギ） 易、坤卦の第四爻が示す意義。深く愼んで己の智をあらはさないこと。〔易、坤〕六四、括㆑囊、无㆑咎、无㆑譽、象曰、括㆑囊无㆑咎、愼不㆑害也。

【坦】4970

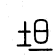
㊀ シヨ 〔集韻〕千余切 魚

㊁ シヨ 〔集韻〕七慮切 御

坦 小篆

㊀㊁ ❶**みみずの吐いた土壤**。〔說文〕坦、益州部謂㆓螾場㆒爲㆑坦、从㆑土且聲。〔段注〕螾、丘蚓也、場、失羊切、俗作㆑場、古作㆑壤、穀梁傳、吐者外㆑壤、食者內㆑壤、徐邈・麋信、皆作㆑場、音傷、是也、螾場、謂㆓其外吐之土㆒、方言曰、螾場謂㆓之坦㆒、郭云、其糞曰㆑坦。❷**つつみ**。〔類篇〕坦、隄塘也。

【坦】4971 タン 〔集韻〕儻旱切 ㄊㄢˇ t‘an^{3} 旱


小篆

❶やすらか。〔說文〕坦、安也、从ㇾ土旦聲。❷たひらか。〔集韻〕坦、平也。〔論語、述而〕君子坦蕩蕩。〔集注〕坦、平也。〔管子、幼官〕坦氣修通。〔注〕坦、平。❸おほきい。〔張衡、西京賦〕雖㆓斯宇之既坦㆒。〔注〕綜曰、坦、大也。❹ひろやか。ゆたか。〔廣韻〕坦、寬也。❺あきらか。あらはれる。〔集韻〕坦、明也。〔易、履〕履ㇾ道坦坦。〔釋文〕坦坦、廣雅云、平也、明也、蒼頡篇云、著也。〔禮、祭法、燔㆓柴於泰壇㆒祭ㇾ天也、注〕坦、明貌也。❻坦嗟は、語の正しくないさま。〔康熙字典〕坦嗟、語不ㇾ正。❼憚（4－11222）に通ず。〔荀子、王霸、是憚憚、注〕憚、與ㇾ坦同。❽繟（8－27910）・墠（3－5458）に通ず。〔老子、七十三〕繟然而善謀、釋文〕繟、音闡、坦、吐但反、梁王尚鍾會孫登張嗣本有ㇾ此、坦、平大貌、河上作ㇾ墠、墠、寬也。❾或は壇（3－5528）に作る。〔集韻〕坦、或作ㇾ壇。❿姓。〔正字通〕坦、姓、宋紹興進士、坦中庸。⓫現むこ。壻。坦腹食（40′）の❷の故事に本づく。

名乘 アキラ。ヒラ。ヒロ。ヤス。

參考 担（5－11941）・垣（3－5060）は別字。

【坦菴】1（タンアン） 字號。❶明、馮厚（12－44579‥72）の號。❷明、梁本之（6－14825‥331）の號。❸清、徐石麒（4－10110‥527）の號。❹清、方拱乾（5－13620‥502）の字。❺清、呂履恆（2－3386‥274）の號。❻伊藤宗恕の號。伊藤坦菴（1－432‥216）を見よ。

【坦菴詞】2（タンアンシ） 書名。一卷。宋、趙師使撰。其の詞は、蕭疎淡遠で、剪刻の跡がない。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【坦庵詞曲六種】4（タンアンシキョクロクシュ） 戲曲の名。明、徐石麒作。此の中、二種は詞、四種は雜劇で、買花錢・大轉輪・浮西施・拈花笑の四篇からなる。

【坦夷】5（タンイ） たひらか。なだらか。坦平。夷も平。〔韓愈、將ㇾ歸贈㆓孟東野・房蜀客㆒詩〕潁水清且寂、箕山坦而夷。

【坦迤】6（タンイ） たひらかに連なること。〔世說新語、言語〕林公見㆓東陽長山㆒曰、何其坦迤。〔注〕會稽土地志曰、山靡迤而長、縣因ㇾ山得ㇾ名。

【坦園】7（タンエン） 字號。❶清、楊恩壽（6－15112‥44）の號。❷清、李霨（6－14459‥19）の字。

【坦園六種】8（タンエンロクシュ） 戲曲の名。清、楊恩壽作。姽嫿封・桂枝香・麻灘驛・再來人・桃花源・理靈坡の六種。

【坦翁】9（タンヲウ） 字號。❶宋、王履（7－20823‥1058）の字。❷平川清古の號。平川坦翁（4－9167‥385）を見よ。

【坦氣】10（タンキ） 平かな氣。〔管子、幼官〕坦氣修通。〔注〕坦、平。

【坦求】11（タンキウ） 宋、呉師仁（2－3365‥622）の字。

【坦克】12（タンク） 近代戰に使用されてゐる戰車。英國の工業家 Thomas Tank が發明したからいふ。坦克車。唐克車。tank の音譯。

【坦懷】13（タンクワイ） 好惡の情などにとらはれない平かな心。又、心が平かである。又、心を平かにする。怨などを忘れて心を和らげる。〔王儉、褚淵碑文序〕坦懷至公、永監㆓崇替㆒。〔注〕銑曰、坦、平。〔宋書、張永傳〕絹與㆓思話書㆒、勸㆓與ㇾ永坦懷㆒。

【坦溪】14（タンケイ） 宋、鄭宗強（11－39647‥489）の號。

【坦撟】15（タンケウ） 意氣の揚揚たること。〔楚辭、遠遊〕意恣睢以坦撟。〔集注〕坦撟、軒擧也。

【坦公】16（タンコウ） 清、馬雄鎮（12－44572‥953）の號。

【坦齋】17（タンサイ） 字號。❶宋、邢凱（11－39301‥6）の號。❷宋、朱震（安吉の人）（6－14424‥403）の號。❸明、劉三吾（2－2224‥939）の號。❹清、歐陽厚均（6－16185‥120）の號。❺清、王蘭生（7－20823‥2163）の字。❻三浦黃鶴の號。

【坦齋通編】18（タンサイツウヘン） 書名。一卷。宋、邢凱撰。多く考證の文を載せ、閒〻史傳雜事を評論する。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【坦莊】18′（タンサウ） 清、王之楫（7－20823‥1554）の號。

【坦之】19（タンシ） 字號。❶唐、聶夷中（9－29179‥20）の字。❷宋、祁暐（8－24634‥1）の字。❸宋、孟顯（3－6960‥88）の字。❹元、桂完澤（6－14755‥138）の字。❺元、劉履（2－2224‥645）の字。❻明、亓之偉（1－256‥2）の字。

【坦之翁】20（タンシヲウ） 明、劉三吾（2－2224‥939）の號。

【坦牀】22（タンシヤウ） 娘の夫。むこ。〔稱謂錄、女之夫、坦牀〕江鄰幾雜志、曹佾太尉長秋母弟張貂者之坦牀。

【坦綽】23（タンシヤク） 南詔（南蠻の一）の最高官の一。〔唐書、南蠻上、南詔傳上〕官曰㆓坦綽㆒、曰㆓布燮㆒、曰㆓久贊㆒、謂㆓之清平官㆒、所㆔以決㆓國事輕重㆒、猶㆓唐宰相㆒也。

【坦叔】24（タンシユク） 宋、嚴粲（2－4589‥111）の字。

【坦如】25（タンジヨ） 清、程康莊（8－25081‥167）の字。

【坦婿】26 t‘an^{3} hsü^{4} 人の壻をいふ語。

【坦然】27（タンゼン） ❶平かなさま。平穩なさま。坦坦。〔老子、七十三〕繟然而善謀。〔考異〕繟然而善謀、繟、一作ㇾ坦、一作ㇾ默。〔淮南子、主術訓〕王皆坦㆓然天下㆒、而南面焉。〔孔安國、尙書序〕帝王之制、坦然明白。❷宋、句中正（2－3234‥110）の字。

【坦然居士】28（タンゼンコジ） 明、任道遜（1－416‥234）の號。

【坦率】29（タンソツ） さつぱりとして飾らない。〔晉書、庾亮傳〕坦率行ㇾ己。〔北史、李廣傳〕坦率無ㇾ私、爲㆓士流所ㇾ愛。

【坦蕩】30（タンタウ） 平かでひろびろとしてゐるさま。〔晉書、阮籍傳〕其外坦蕩、而內淳至。

【坦蕩蕩】30′（タンタウタウ） 心が平かでひろい。〔論語、述而〕君子坦蕩蕩。〔集注〕坦、平也、蕩蕩、寬廣貌。〔後漢書、明帝紀〕君子坦蕩蕩、小人長戚戚。

【坦道】31（タンダウ） たひらかな道。坦路。坦途。

【坦坦】32（タンタン） ひろびろとして平かなさま。又、他に超異するところの無いさま。平凡な。普通の。坦然。亶亶。〔易、履〕九二、履道坦坦、幽人貞吉。〔管子、樞言〕坦坦之利、不ㇾ以ㇾ功、坦坦之備、不ㇾ爲ㇾ用。〔注〕坦坦、謂㆓平平非ㇾ有㆓超而異者㆒。〔文子、上德〕大道坦坦、去ㇾ身不ㇾ遠。〔淮南子、原道訓〕大道坦坦、去ㇾ身不ㇾ遠。

【坦坦翁】33（タンタンヲウ） 明、劉三吾（2－2224‥939）の號。

【坦坦居士】34（タンタンコジ） 明、陳復（11－41698‥531）の號。

【坦途】35（タント） たひらかな道。坦道。坦路。平路。〔莊子、秋水〕明㆓乎坦途㆒。〔韓愈、寄㆓盧仝㆒詩〕近來自說尋㆓坦途㆒、猶上㆓虛空㆒跨㆓騄駬㆒。〔白居易、太行路詩〕太行之路能摧ㇾ車、若比㆓君心㆒是坦途。

【坦塗】36（タント） 唐、薛平（9－32123‥122）の字。

【坦白】37 t‘an^{3} po^{2} 心中に一點の私がない。公平で潔白なこと。

【坦夫】38（タンプ） 宋、呂夷簡（2－3386‥157）の字。

【坦埠】39（タンプ） 地名。❶山東省蒙陰縣の東北。梓水と鹿川水との合流する處。商業地。❷安徽省東流縣の晉陽鄉。石炭の產地。

【坦腹】40（タンプク） はらばひになる。ねころぶ。〔杜甫、江亭詩〕坦腹江亭暖、長吟野望時。

【坦腹食】40′（タンプクショク） 晉の郗鑒が、王導の子弟から壻を選びたいと思つて、自分の門生を王導の家に遣したら、王導はその使を自分の子弟門生の居る東廂に案內して、使自身に觀察させた。使者となつた門生が歸つて「他の者は皆、立派に見られようと、すました態度でゐたのに、そんな事はどうでもよいといふ風に、坦腹して物を食べてゐたのが一人ゐた」と報告したので、郗鑒はその男を壻に選んだが、それは王羲之であつたといふ故事。〔晉書、王羲之傳〕郗鑒使㆔門生求㆓女壻于導㆒、導令㆘就㆓東廂㆒偏觀㆗子弟門生㆖、歸謂ㇾ鑒曰、王氏諸少並佳、然聞㆓信至㆒、或自矜持、惟一人、在㆓東牀㆒坦腹食、獨若ㇾ不ㇾ聞、鑒曰、此王佳壻郗、訪ㇾ之、乃羲之也、遂以ㇾ女妻ㇾ之。

【坦平】41（タンペイ） たひらか。坦夷。〔劉秉、到ㇾ郡後有ㇾ寄詩〕蜀路新修盡坦平、交親深幸再逢迎。

【坦步】42（タンポ） やすらかに步く。平氣であるく。〔後漢書、班超等傳論〕坦㆓步葱雪㆒、咫㆓尺龍沙㆒。〔注〕坦步、言ㇾ不㆓以爲ㇾ艱。

【坦甫】43（タンポ） 明、劉三吾（2－2224‥939）の號。

【坦謾】44（タンマン） 平かで遠いさま。〔嵇康、明膽論〕引㆓渾元㆒以爲ㇾ喩、何遼遼而坦謾也。

【坦履】 45（タンリ） 清、常安(4−8955‥2)の字。

【坦路】 46 t'an^3 lu^4 たひらなみち。坦途(35)に同じ。

【坦上翁】 47（タンシヤウヲウ） 明、劉麟(2−2224‥656)の號。

【坦比哥】 48（タンピコ） 地名。メキシコ東岸の都邑。附近に石油を産する。Tampico の音譯。

【坦干伊喀】 49（タンガンイカ） 地名。アフリカ東岸にあり、舊ドイツ領で、今、英國の管理下にあり、西部にタンガンイカ湖がある。Tanganyika の音譯。

【坦噶尼喀】 50（タンガニーカ） 坦干伊喀に同じ。

【坧】 4972

セキ 墌(3−5422)に同じ。〔集韻〕墌、或作ㇾ坧。

【⿱石土】 4973

タ ダ 〔篇海〕徒禾切 歌

石けり。 墑(3−5280)に同じ。〔篇海〕⿱石土、飛磚戲、亦作ㇾ墑。

【坨】 4974

[一] イ 〔集韻〕余支切 支

[二] タ 〔辭海〕讀如ㇾ陀。

[一] **地名。**〔集韻〕坨、地名。[二] ❶陀(11−41600)の俗字。〔正字通〕坨、俗陀字。❷鹽を露天に積みおくこと。〔辭海〕坨、場鹽露積、名曰ㇾ坨。

【坨里】 1（リイ） 地名。河北省房山縣の西北、琉璃河の東岸。京漢鐵路の支線が良鄉縣から此處に來てをり、坨里の西から出てゐる高線鐵路があり、附近に產する石炭は、此處に集められて輸送せられる。

【坨里高線鐵路】 2（イリカウセンテツロ） 坨里から安子煤鑛及び佛子莊に至る。長蘆高線鐵路・空中鐵路・航空鐵路等ともいひ、石炭の運輸の爲に設けられ、宣統元年、竣工した。

【坩】 4975

カン 〔集韻〕枯甘切 ㄍㄢ kan^1 覃

❶**つぼ。** 土器の名。〔集韻〕坩、土器也。〔晉書、列女、陶侃母湛氏傳〕以㆓一坩鮓㆒遺ㇾ母。❷或は⿰甘瓦(7−21652)に作る。〔集韻〕坩、或从ㇾ瓦。

【坩堝】 1（カンクワ） 金屬を熔かすに用ひる土製のつぼ。るつぼ。〔訓蒙字會〕坩堝、燒㆓煉金銀㆒器。

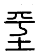
【坩貝羅】 2（カンバイラ） 石の名。〔南史、夷貊上、西南夷、婆利國傳〕婆利國、有ㇾ石、名㆓坩貝羅㆒、初采ㇾ之柔軟、及㆘刻削爲ㇾ物、暴㆗乾之㆖、遂大硬。

【坪】 4976

[一] ヘイ ビヤウ 〔集韻〕蒲兵切 ㄆㄧㄥˊ p'ing^2 庚

[二] ヘイ ビヤウ 〔集韻〕皮命切 敬

（小說篆文）


（段注本小篆）

[一][二] ❶**地の平かなこと。**〔說文〕坪、地平也、从㆓土平㆒、平亦聲。❷或は⿱平土(3−4977)に作る。〔集韻〕坪、或書作ㇾ⿱平土。邦**つぼ。** ㋑殿舍の間、垣內の庭など、一區の窄つた處の稱。又、壺の字を借用する。㋺地面の廣狹を量る語。卽ち地積の單位。六尺平方の稱。段別の步(6−16264)に同じ。㋩物の容積を量る語。卽ち土砂の立積の單位。六尺立方の稱。㋥平方形の面積を量る語。壁等では一尺平方、彫刻又は錦などでは一寸平方の稱。㋭姓。

解字 會意形聲。土と平とを合せて、地の平かな意を表はし、且、平は音を兼ねる。〔說文通訓定聲〕坪、地平也、从ㇾ土从ㇾ平、會意、平亦聲。

【坪石街】 1（ヘイセキガイ） 地名。廣東省樂昌縣の西北。又、平石に作る。

【⿱平土】 4977

ヘイ 坪(3−4976)に同じ。〔篇海類編〕⿱平土、同ㇾ坪。

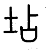
【⿰土冉】 4978

タン 坍(3−4927)の古字。〔字彙〕⿰土冉、古坍字。

【坫】 4979

[一] テン 〔集韻〕都念切 ㄉㄧㄢˋ tien^4 豔

[二] チン 〔集韻〕知林切 侵


（小篆）

[一] ❶**堂隅に在つて物を置く臺。**〔說文〕坫、屛也、从ㇾ土占聲。〔段注〕陳氏禮書曰、坫之別、凡有ㇾ四、記曰、反坫出ㇾ尊、論語曰、邦君爲㆓兩君之好㆒有㆓反坫㆒、此反ㇾ爵之坫也、記曰、崇坫康ㇾ圭、此奠ㇾ玉之坫也、記又曰、士於ㇾ坫一、此庋ㇾ食之坫也、士冠禮、爵弁・緇布冠、各一匴、執以待㆓於西坫南㆒、大射、將㆓射工㆒遷㆓於下東坫之東南㆒、士喪禮、牀第夷衾、饌㆓於西坫南㆒、既夕禮、設㆓棜於東堂下㆒、南順齊㆓於坫㆒、此堂隅之坫也、爾雅曰、垝、謂㆓之坫㆒、郭云、坫、端也、在㆓堂隅㆒、按、端、本作ㇾ墆、高貌也、以ㇾ土爲ㇾ之、高可㆓屛蔽㆒、故許云㆓屛也㆒、其字俗作ㇾ店、崔豹曰、店、置也、所㆔以置㆓貨鬻物㆒也。〔儀禮、士冠禮〕執以待㆓于西坫南㆒。〔注〕坫、在㆓堂角㆒。❷**堂の隅。**〔爾雅、釋宮〕垝謂㆓之坫㆒。〔注〕在㆓堂隅㆒、坫、端也。〔疏〕坫者堂角也、一名ㇾ垝、云云、郭云、云云、端則端也、言㆓坫是堂角端㆒也。❸**食物を載せるたな。**〔說文通訓定聲〕禮記內則、士於ㇾ坫一、此以庋ㇾ食者也、當ㇾ在㆔室之東北隅近㆓庖廚㆒、大夫而上、則有ㇾ閣。❹**圭を載せるだい。** 兩楹の間に設ける。〔說文通訓定聲〕禮記明堂位、崇坫康ㇾ圭、此以奠ㇾ圭者也、當ㇾ在㆓兩楹閒㆒、天子受㆓諸侯朝㆒饗、乃有ㇾ之、諸侯不ㇾ得ㇾ用。❺**杯を置くだい。** 兩楹の間に設ける。反坫(2−3127‥203)を見よ。〔說文通訓定聲〕明堂位、反坫出ㇾ尊、雜記、旅樹而反坫、論語、有㆓反坫㆒、此以反ㇾ爵者也、家語子貢問注、在㆓兩楹之閒㆒、此天子饗㆓諸侯㆒、或諸侯相饗燕乃用ㇾ之。❻**さかひ。** かぎり。〔淮南子、俶眞訓〕設㆘于無㆓垓坫㆒之宇㆖。〔注〕垓坫、垠堮也。❼⿰占瓦(7−21522)に通ず。〔說文通訓定聲〕凡坫皆絫ㇾ土爲ㇾ之、字亦作ㇾ⿰占瓦、通俗文、⿰占瓦、支也。❽店(4−9267)に通ず。〔說文通訓定聲〕坫、崔氏古今注、店、置也、所㆔以置㆓貨鬻之物㆒也、字又變作ㇾ店。[二] **殯斂のとき、角材を組んで柩を蔽ひ、之を土で塗りつぶすこと。**〔集韻〕坫、攢塗謂㆓之坫㆒。

參考 拈(5−11945)は別字。

【坬】 4980

クワ ケ 〔集韻〕古罵切 禡

地のはて。 ほとり。〔集韻〕坬、土陲也。

【坭】 4981

[一] デイ ナイ 〔廣韻〕奴禮切 薺

[二] ヂ ニ 〔字彙〕乃里切 紙

[一] **地名。**〔廣韻〕坭、地名。[二] **どろ。** 泥(6−17311)に同じ。〔六書統〕坭、同ㇾ泥、水土相和合也。

【⿸尼土】 4982

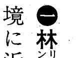
デイ 泥(6−17311)に同じ。〔集韻〕泥、或从ㇾ土。

【坮】4983 ダイ 臺(9−30161)の古字。〔字彙〕坮、古臺字。

【坯】4984 ㊀ヒ 〔集韻〕攀悲切 ㄆㄧ p'i¹ 支 ㊁ハイ 〔廣韻〕芳杯切 ㄆㄟ p'ei¹ 灰

㊀**をか。**岯(**4−7995**)に同じ。〔集韻〕岯、山再成曰レ岯、一曰、山一成、或作レ坯。㊁❶**燒かない瓦。**〔廣韻〕坯、未レ燒瓦也。❷坏(**3−4930**)に同じ。〔正字通〕坯、同レ坏。

【坰】4985 ケイ キヤウ 〔集韻〕涓熒切 ㄐㄩㄥ chiung¹ 青


體或同

❶**林の外まはり十里の地區。**國境に近接する地區をいふ。〔爾雅、釋地〕邑外謂二之郊一、郊外謂二之牧一、牧外謂二之野一、野外謂二之林一、林外謂二之坰一。〔注〕邑、國都也、假令百里之國、五十里之界、界各十里。〔列子、黃帝〕經二坰外一。〔注〕坰、郊野之外也。❷**都から遠く離れた地。**〔詩、魯頌、駉〕在二坰之野一。〔傳〕坰、遠野也。❸冂(**2−1506**)・冋(**2−1517**)に同じ。〔說文〕冂、同、古文冂、坰、冋或从レ土。〔集韻〕冂、冋、坰、古从レ口象二國邑一、或从レ土。

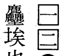
【坰外】1 ケイグワイ 郊外。〔列子、黃帝〕出行經二坰外一、宿二於田更商丘開之舍一。〔注〕坰、郊野之外也。

【坰牧】2 ケイボク 郊外。字解の❶を見よ。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕騄驥垂二耳於坰牧一。〔注〕良曰、坰牧、野外也。

【坰野】3 ケイヤ 郊外。字解の❶を見よ。郊野。〔詩、魯頌、駉〕駉駉牡馬、在二坰之野一。〔傳〕坰、遠野也。〔左思、蜀都賦〕坰野草味。〔注〕濟曰、言三野外之草、味然布二於地一。〔左思、魏都賦〕腜腜坰野、奕奕菑畝。

【坰林】4 ケイリン 郊外。字解の❶を見よ。〔謝惠連、西陵遇レ風獻二康樂一詩〕哲兄感二仳別一、相送越二坰林一。

【坱】4986 ㊀アウ 〔集韻〕倚朗切 養 ㊁アウ 〔集韻〕於郎切 陽


小篆

㊀㊁❶**ちり。**ほこり。〔說文〕坱、塵埃也、从レ土央聲。〔柳宗元、法華寺石門精室詩〕高步謝二塵坱一。❷**平かでないさま。**坱圠(1)の❷を見よ。❸**際限ないさま。**坱圠(1)の❶・坱然(4)を見よ。

【坱圠】1 アウアツ ❶際限ないさま。限りなくぼうつと霞んでゐるさま。坱軋。〔賈誼、鵩鳥賦〕大鈞播レ物兮、坱圠無レ垠。〔注〕善曰、其氣坱圠、非レ有二限齊一也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕鬱坱圠以嶒峵。〔注〕善曰、坱圠、無二齊限一之貌。❷高下があつて平かでないさま。〔左思、吳都賦〕地勢坱圠、卉木镺蔓。〔注〕劉曰、坱圠、莽沕也、高下不レ平貌。

【坱軋】2 アウアツ 坱圠の❶に同じ。〔楚辭、淮南小山王、招隱士〕坱兮軋兮山曲岪。〔注〕霧氣味也。〔補注〕賈誼賦云、坱圠無レ垠、注云、其氣坱軋、非レ有二限齊一也、集韻、軮軋、遠相映貌。〔史記、賈誼傳〕大專槃レ物兮、坱軋無レ垠。〔注〕集解曰、應劭曰、其氣坱軋、非レ有二限齊一也、索隱曰、郭璞注二方言一云、坱軋者、不レ測也、王逸注二楚詞一云、坱軋、雲霧氣味也。

【坱鬱】3 アウウツ 湖沼や水流などの盛大でかぎりないさま。〔劉峻、東陽金華山棲志〕山川秀麗、皐澤坱鬱。

【坱然】4 アウゼン 盛大で滿ち滿ちたさま。又、際限のないさま。〔正蒙、太和〕氣坱二然太虛一。

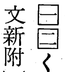
【坱黨】5 アウタウ 垢や塵にまみれてゐること。黨は、よごれてあざやかでないこと。〔新方言、釋言〕說文、黨、不レ鮮也、云云、今人謂二汙垢一曰レ黨、云云、案、說文、坱、塵埃也、於亮切、今人單言曰レ黨、重言曰二坱黨一。

【坱漭】6 アウバウ 廣大でぼんやり霞んでゐるさま。〔馮衍、顯志賦〕覽二河華之坱漭一兮、望二秦晉之故國一。〔張衡、西京賦〕山谷原隰、坱漭無レ疆。

【坲】4987 ㊀フツ ブチ 〔集韻〕符勿切 物 ㊁ヘツ ベチ 〔集韻〕蒲結切 屑

㊀㊁**塵埃のむらがり起るさま。**坲⿰土孛。浡(**6−17467**)に通ず。〔集韻〕坲、坲⿰土孛、塵起也。〔楚辭、劉向、九歎、遠逝〕飄風蓬龍、埃坲坲兮。〔注〕坲坲、塵埃貌、坲、一作レ浡。〔補注〕坲、音佛、塵起也、浡、音同。

【坳】4988 ㊀アウ エウ 〔集韻〕於交切 ㄠ ao¹·⁴ 肴 ㊁アウ エウ 〔集韻〕於教切 效


小篆

㊀㊁**くぼみ。**へこみ。凹所。〔說文新附〕坳、地不レ平也、从レ土幼聲。〔正韻〕坳、窊下地。

【坳胡】1 アウコ 南朝宋の劉胡の幼名。幼時、顏がへこんで黑く、胡に似てゐたからいふ。〔南史、劉胡傳〕劉胡、本以二面坳黑似一レ胡、故名二坳胡一、及レ長、單名レ胡焉、出二身郡將一、稍至二隊主一、討二伐諸蠻一、往無レ不レ捷、蠻甚畏二憚之一、明帝卽位、除二越騎校尉一、蠻畏レ之、小兒啼、語云二劉胡來一、便止。

【坳塘】2 アウタウ 小さい水溜。〔浩虛舟、盆池賦〕方二行潦一而不レ濁、比二坳塘一而則深。

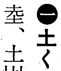
【坳堂】3 アウダウ ❶堂庭の中のくぼ地。堂坳。〔莊子、逍遙遊〕覆二杯水于坳堂之上一、則芥爲二之舟一、置レ杯焉則膠、水淺而舟大也。〔疏〕坳、汙陷也、謂二堂庭坳陷之地一也。〔蘇軾、和二參寥一詩〕芥舟只合レ在二坳堂一、紙帳心期老孟光。❷清、戈濤(**5−11530・・34**)の號。

【坳澤】4 アウタク くぼんだ澤。澤。〔六韜、龍韜、奇兵〕坳澤窈冥者、所三以匿二其形一也。〔楊嗣復、丁巳歲八月祭二武侯祠堂一云云詩〕酌レ酒成二坳澤一、持レ兵列二偶人一。

【坳窪】5 アウワ 深くくぼむ。又、くぼみ。〔柳宗元、永州龍興寺東邱記〕凡坳窪坻岸之狀、無レ廢二其故一。

【坳泓】6 アウワウ 深くくぼんだ水溜。〔白居易、雙石詩〕坳泓容二一斗一。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕掘レ雲破二嵽嵲一、採レ月漉二坳泓一。

【坴】4989 リク ロク 〔集韻〕力竹切 屋


小篆

❶**土くれの大きいさま。**〔說文〕坴、土凷坴坴也、从レ土圥聲、讀若レ速、一曰、坴梁地。〔段注〕坴坴、大凷之貌、始皇本紀、略二取陸梁地一、字作レ陸、按、坴梁蓋其地多二土凷一、而土性強梁也。❷**姓。**〔萬姓統譜〕坴、見二千姓編一、不レ知レ所レ出。

【坵】4990 キウ 丘(**1−33**)の俗字。〔正字通〕坵、俗丘字。

參考 熟語は丘(**1−33**)を併せ見よ。

【坵墟】1 キウキヨ をか。丘墟(**1−33・・24**)に同じ。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕社稷坵墟、宗廟荆棘。

【坵段】2 キウダン 田のしきり。土地の區劃。田畑の境界。方圓なる土地の一區を坵といひ、坵中の分界を段といふ。〔清律、戶律、田宅、欺瞞田糧、附注〕方圓一區曰レ坵、坵中分界曰レ段。〔福惠全書、清丈部、立丈冊〕不レ得三分レ名共レ戶溷二亂坵段一。

【坵長】3 キウチヤウ 村長をいふ。〔清國行政法汎論、地方自治、鄕老及鄕約、備考〕又載二圩長・坵長・區長等名目一、皆大小村長也。〔六部成語、戶部、坵長、注解〕亦大村之長也、各省名目不レ同。

【移レ坵換レ段】4 キウヲウツシダンヲカフ みだりに原簿の坵段を改易して私利を圖ることをいふ。〔明律、戶律、田宅、欺隱田糧〕若將二田土一移レ坵換レ段、那

移㆓等則㆒、以㆑高作㆑下、減㆓瞞糧額㆒、及詭㆓寄田糧㆒、影射差役、幷受㆑寄者、罪亦如㆑之。〔注〕移換、謂㆔改㆓易原定之冊㆒。

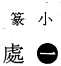
【〓】4991 キウ

丘(1-33)に同じ。〔正字通〕丘、或作㆑〓。

【〓】4992 キク 〔集韻〕居六切 屋

❶**くま**。隈。阸(11-41602)に同じ。〔廣雅、釋水〕〓、隈也。〔集韻〕阸、水厓外也、或作㆑〓。❷鞫(12-42931)に通ず。〔詩、大雅、公劉〕芮鞫之卽。〔周禮、夏官、職方氏、其川涇汭、注〕詩大雅公劉曰、汭〓之卽。

【坶】4993 ボク モク 〔集韻〕莫六切 屋

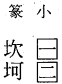

小篆

❶**地名**。周の武王が紂を破った處。牧野(7-19950··83)に同じ。〔說文〕坶、朝歌南七十里地、武王與㆑紂戰㆓于坶野㆒、从㆑土母聲。〔水經、淸水注〕自㆓朝歌㆒以南暨㆓淸水㆒、土地平衍、據㆑皐跨㆑澤、悉坶野也。❷或は〓(3-5102)に作る。〔集韻〕坶、或从㆑每。❸通じて牧(7-19950)に作る。〔集韻〕坶、通作㆑牧。

【坷】4994

㈠カ 〔集韻〕口我切 哿 ㄎㄜˇ k'ê³

㈡カ 〔集韻〕口箇切 箇


小篆

㈠㈡❶**平かでない**。ゆきなやむ。坎坷。〔說文〕坷、坎坷也、从㆑土可聲、梁國寧陵有㆓坷亭㆒。❷軻(10-38274)に通ず。〔說文通訓定聲〕坎坷、不㆑平之貌、字亦作㆓轗軻㆒。

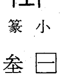
【坷坎】1 カカン 平かでない。ゆきなやむ。坎坷(3-4928··2)に同じ。

【坷坷絆絆】2 k'ê¹ k'ê¹ pan⁴ pan⁴ 恐れながら。恐る恐る。

【〓】4995

㈠フン 〔集韻〕方問切 問

㈡フン 〔集韻〕方文切 文


小篆

㈠㈡❶**はらふ**。のぞく。〔說文〕〓、埽除也、从㆑土弁聲、讀若㆑糞。❷或は〓(3-5336)・拚(5-11966)・擈(5-12990)・坋(3-4925)・壦(3-5615)・〓(5-13443)・〓(3-5413)に作る。〔集韻〕〓、或作㆓〓・拚・擈・坋・壦・〓・〓㆒。❸糞(8-27102)に通ず。〔說文通訓定聲〕〓、周禮隸僕、埽除糞洒之事、以㆑糞爲㆑之。❹字形、又坌(3-4996)に作る。

【坌】4996 フン

〓(3-4995)に同じ。〔正字通〕坌、同㆑〓。

【坸】4997 コウ

垢(3-5058)に同じ。〔玉篇〕坸、同㆑垢。

【〓】4998 コウ

坸(3-4997)に同じ。〔龍龕手鑑〕〓、同㆑坸。

【坹】4999 ケツ ゲチ 〔集韻〕胡決切 屑

空虛で深いさま。〔集韻〕坹、空深皃。

【坺】5000

㈠ハツ ハチ 〔集韻〕北末切 曷

㈡ハツ ボチ 〔集韻〕房越切 月

慣バツ

小篆

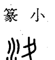
㈠❶**土をすきおこす。又、すきおこしたままの土塊**。〔說文〕坺、坺土也、一臿土謂㆓之坺㆒、从㆑土犮聲、詩曰、武王載坺。〔段注〕凡初出㆓於田㆒爲㆓坺土㆒、稍治㆑之乃爲㆑凷、一臿所㆑起之土、謂㆓之坺㆒、今人云㆓坺頭㆒、是也。❷**ちりのさま**。〔說文〕坺、一曰、塵皃。❸垡(3-5056)に同じ。〔集韻〕垡、通作㆑坺。❹墢(3-5463)に同じ。〔集韻〕墢、或从㆑犮。㈡**地名**。〔集韻〕坺、地名。

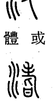
【坻】5001

㈠チ ヂ 〔集韻〕陳尼切 支 ㄔˊ ch'ih²

㈡シ 〔集韻〕掌氏切 紙

㈢テイ タイ 〔集韻〕典禮切 薺 ㄉㄧˇ ti³


小篆


或體

或體

㈠❶**小さなしま**。**中洲**。〔說文〕坻、小渚也、从㆑土氏聲、詩曰、宛在㆓水中坻㆒。〔段注〕坻者、水中可㆑居之最小者也。〔詩、小雅、甫田〕如㆑坻如㆑京。〔箋〕坻、水中之高地也。〔爾雅、釋水〕小渚曰㆑沚、小沚曰㆑坻。〔史記、賈生傳〕得㆑坻則止。〔注〕集解曰、張晏曰、坻、水中小洲也。〔史記、司馬相如傳〕臨㆑坻注㆑壑。〔注〕正義曰、坻、水中沙微起出㆑水者也。〔漢書、司馬相如傳上〕臨㆑坻注㆑壑。〔注〕師古曰、坻、謂㆓水中隆高處㆒也。〔司馬相如、上林賦〕臨㆑坻注㆑壑。〔注〕善曰、鄧展曰、坻、水中山也。〔張衡、思玄賦〕伏㆓靈龜㆒以負㆑坻兮。〔注〕衡曰、坻、所㆓以止㆑船也。❷**なぎさ**。きし。〔張衡、南都賦〕坂坻巀嶭而成㆑巘。〔注〕善曰、郭璞上林賦注曰、坻、岸也。❸**建物の基礎**。〔何晏、景福殿賦〕肅㆓坻鄂之鏘鏘㆒。〔注〕善曰、坻、殿基也。❹**きざはし**。〔廣雅、釋室〕坻、除也。❺或は汷(6-17148)・渚(7-17946)・坛(3-5002)・沶(6-17248)に作る。〔集韻〕坻、或作㆓汷・渚・坛・沶㆒。❻泜(6-17299)に通ず。〔爾雅、釋水、釋文〕坻、本作㆑泜。㈡❶**さか**。〔集韻〕坻、隴阪也。〔司馬相如、上林賦〕臨㆑坻注㆑壑。〔注〕翰曰、坻、坂也。❷**には**。〔方言、六〕坻、場也、梁宋之閒、蚍蜉犁鼠之場、謂㆓之坻㆒。❸**とまる**。坁(3-4909)に通ず。〔左氏、昭、二十九〕物乃坻伏。〔服注〕坻、止也。〔說文通訓定聲〕坻、此坁字之誤。㈢❶**山崖が崩れる**。〔揚雄、解嘲〕響若㆓坻隤㆒。〔注〕善曰、字書曰、巴蜀名㆓山堆落㆒曰㆑坻。❷**さか**。阺(11-41592)に同じ。〔集韻〕阺、說文、秦謂㆓陵阪㆒曰㆑阺、或从㆑土。〔張衡、西京賦〕右有㆓隴坻之隘㆒。〔校注〕坻、丁禮切。

【坻崿】1 チガク 殿階の基礎のきは。坻鄂を見よ。〔張衡、西京賦〕坻崿鱗眴、棧齴巉嶮。〔注〕善曰、廣雅曰、坻、除也、文字集略曰、崿、崖也、埤蒼曰、鮮眴、無㆑涯也、向曰、皆殿階高峻之貌。〔王勃、九成宮頌〕肅㆓坻崿㆒而天臨。

【坻鄂】2 チガク 殿閣の基礎のきはをいふ。坻崿を見よ。〔何晏、景福殿賦〕羅㆓疏柱之汨越㆒、肅㆓坻鄂之鏘鏘㆒。〔注〕善曰、坻、殿基也、鄂、垠鄂也、銑曰、坻鄂、猶㆓畔際㆒也。

【坻岸】3 チガン 水ぎはの小高い處。〔柳宗元、永州龍興寺東邱記〕凡坳窪坻岸之狀、無㆑廢㆓其故㆒。

【坻箕】4 チキ 山名。安徽省巢縣の南。今、踟躕山といふ。踟躕(10-37645··2)の❻を見よ。〔左氏、昭、五〕楚子遂觀㆓兵于坻箕之山㆒。

【坻京】5 チケイ 水中の高地と高い丘。收穫の豐富

なことに喩へる。〔詩、小雅、甫田〕曾孫之庾、如レ坻如レ京。〔集傳〕坻、水中之高地也、京、高丘也。〔韻府引、蘇軾、詩〕行矣云成レ稼、歲終貯二坻京一。

【坻石】6（チセキ） 中洲と石。〔柳宗元、愚溪詩序〕峻急多二坻石一、大舟不レ可レ入也。

【坻隤】7（テイタイ） 山などの崩れること。坻頽。〔揚雄、解嘲〕功若二泰山一、響若二坻隤一。〔注〕善曰、應劭曰、天水有二大坂一、名曰二隴坻一、其山堆傍着、崩落作レ聲、聞二數百里一、故曰二坻隤一。

【坻頽】8（テイタイ） 山などの崩れること。坻隤。〔左思、吳都賦〕動二鐘鼓之鏗耾一、有三殷坻二頽於前一、曲度難レ勝。〔注〕劉逵曰、解嘲曰、響若二坻頽一、坻頽崩聲也、天水之大、名曰二隴坻一、因爲二隴坻之曲一。

【坻場】9（シヂヤウ） もり上つた土壤。〔潘岳、藉田賦〕坻場染レ屨、洪縻在レ手。〔注〕善曰、方言曰、坻場也、蚍蜉犂鼠之場、謂二之坻場一、浮壤之名也。

【坻伏】10（シフク） とどまりかくれる。止匿。〔左氏、昭、二十九〕若泯二棄之一、物乃坻伏。〔服注〕坻、止也。

【得レ坻則止】11（チヲウレバスナハチトドマル） 岸につけば止まる。〔賈誼、鵩鳥賦〕乘レ流則逝兮、得レ坻則止。

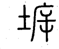
【⿰土示】5002 シ 坻(3-5001)に同じ。〔集韻〕坻、或作レ⿰土示。

【⿰土㐌】5003 シ ⿰土示(3-5002)に同じ。〔篇海〕⿰土示、亦作レ⿰土㐌。

【⿰土早】5004 シ 坻(3-5001)に同じ。〔篇海〕坻、亦作レ⿰土早。

【⿰土末】5005 バツ マチ 〔集韻〕莫葛切 曷 やはつち。柔かい土。〔集韻〕⿰土末、塵壤也。

【坼】5006 タク チヤク 〔集韻〕恥格切 ㄔㄜˋ ch'ê⁴ 陌


小篆

❶さける。本、⿰土㡿(3-5246)に作る。〔正字通〕坼、說文本作レ⿰土㡿。〔說文〕⿰土㡿、裂也、从レ土㡿聲、詩曰、不レ⿰土㡿不レ疈。〔詩、大雅、生民〕不レ坼不レ副。〔疏〕坼・副、皆裂也。〔淮南子、本經訓〕天旱地坼。〔注〕坼、燥裂也。❷わかれる。〔廣雅、釋詁一〕坼、分也。❸ひらく。〔廣雅、釋詁三〕坼、開也。❹さけめ。われめ。〔周禮、春官、占人〕卜人占レ坼。〔注〕坼、兆璺也。❺或は⿰扌㡿(5-12322)・斥(5-13535)・拆(5-11943)・宅(3-7064)に作る。〔集韻〕⿰土㡿、或从レ手、亦作二斥・坼・拆・宅一。❻⿸疒斥(7-19828)に同じ。〔一切經音義、十七〕坼、作レ⿸疒斥、同。

【坼罅】1（タクカ） すきまを裂きひらく。〔柳貫、遊二五洩山一詩〕赤日行レ空垂二倒景一、青天坼レ罅拔二飛流一。

【坼岸】2（タクガン） さけ崩れた川岸。〔後漢書、明帝紀〕漭瀁廣溢、莫レ測二坼岸一。〔謝靈運、入二彭蠡湖口一作詩〕洲島驟廻合、坼岸屢崩奔。

【坼壞】3（タククワイ） さけ破れる。〔周禮、考工記、輿人〕棧車欲レ弇、注〕爲三其無二革鞔一、不レ堅、易二坼壞一也。

【坼書】4（タクシヨ） 書物をひらく。〔韓愈、寄二皇甫湜一詩〕坼レ書放二牀頭一、涕與レ淚垂レ四。

【坼副】6（タクフク） われさける。轉じて、難產をいふ。〔詩、大雅、生民〕先生如レ達、不レ坼不レ副、無レ菑無レ害。〔集傳〕達、小羊也、羊子易レ生、無二留難一也、坼・副、皆裂也、云云、凡人之生、必坼副災二害其母一、而首生之子尤難、今姜嫄首生二后稷一、如二羊子之易一、無二坼副災害之苦一。〔陔餘叢考、坼副〕不レ坼不レ副、無レ災無レ害、凡婦人易二於產一者、不レ過レ無二災害一耳、而詩必以レ不二副坼一形二容之一何也、蓋古婦人生レ子、嘗有二坼剖而生者一。

【坼剖】7（タクボウ） われさける。難產をいふ。〔史記、楚世家〕生二子六人一、坼剖而產焉。

【坼裂】8（タクレツ） われさける。破裂する。拆裂。〔後漢書、五行志四〕京都郡國四十二地震、或地坼裂涌レ水、壞二敗城郭一。

【坽】5007 レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 青 けはしい岸。〔集韻〕坽、峻岸。

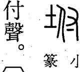
【坾】5008 チヨ ヂヨ 〔集韻〕丈呂切 語 積つたちり。〔集韻〕坾、積塵。

【坿】5009

㈠ フ ブ 〔集韻〕符遇切 ㄈㄨˋ fu⁴ 遇

㈡ フ ブ 〔集韻〕馮無切 虞

㈢ フ 〔集韻〕芳無切 虞


小篆

㈠❶附ける。增す。附(11-41606)に通ず。〔說文〕坿、益也、从レ土付聲。〔段注〕今多用レ附訓レ益。〔呂覽、孟秋〕坿二牆垣一。〔注〕坿、益也。〔呂覽、孟冬〕坿二城郭一。〔注〕坿、益也。❷石英。白坿。㈢の❶に同じ。〔集韻〕坿、一曰、白坿、石藥。㈡❶石英。水晶の類。〔集韻〕坿、藥石、白石英也。〔司馬相如、子虛賦〕雌黃白坿。〔注〕善曰、蘇林曰、白坿、白石英也。❷つける。㈠の❶に同じ。〔集韻〕坿、一曰、益也。㈢いかだ。泭(6-17321)に同じ。〔集韻〕泭、編レ木以渡、一曰、庶人乘レ泭、或作レ坿。

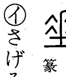
【垀】5010 コ ク 〔集韻〕荒胡切 虞 ❶かまへ。くるわ。らち。〔集韻〕垀、埒也。❷わづらはしい。煩瑣。〔淮南子、要略〕贏二垀有無之精一。〔注〕垀、靡煩也。

【垁】5011 チ ヂ 〔集韻〕直几切 紙 ❶城の垣を計る單位。一丈四方を堵といひ、三堵を垁といふ。一說に、五堵ともいふ。埃(3-5107)に同じ。〔集韻〕埃、城三堵也、或从レ垁。〔太玄經、閑〕閑黃垁。〔注〕五堵爲レ垁。❷雉(11-41987)に通ず。〔正字通〕垁、同レ雉、左傳作レ雉。

【垂】5012

㈠ スイ ズイ 〔集韻〕是爲切 ㄔㄨㄟˊ ch'uei² 支

㈡ ツイ ヅイ 〔集韻〕馳僞切 寘


小篆

㈠❶たれる。𠂹(1-155)に通ず。〔說文通訓定聲〕垂、段借爲レ𠂹。㋑さげる。たれさげる。〔正字通〕垂、自レ上縋レ下也。〔詩、小雅、都人士〕垂レ帶而厲。㋺上から下に施す。〔荀子、富國〕垂レ事養レ民。〔注〕垂、下也、以下上所二操持一之事上、下就二於民一而養レ之、謂レ施二小惠一也。㋩後世に傳布する。〔後漢書、鄧禹傳〕垂二功名於竹帛一。❷ほとり。⿱𠂹土(3-5273)・陲(11-41694)に同じ。〔正字通〕垂、本作レ𠂹、今作レ⿱𠂹土。〔說文通訓定聲〕垂、書傳皆以レ陲爲レ⿱𠂹土。㋑他國に接する邊境の地。かたほとり。〔說文〕⿱𠂹土、遠邊也、从レ土𠂹聲。〔荀子、臣道〕彊垂不レ喪。〔注〕垂、與レ陲同。〔漢書、谷永傳〕方今四方賓服、三垂晏然。㋺はし。端。〔史記、司馬相如傳〕坐不レ垂レ堂。〔注〕索隱曰、垂、邊也。〔王粲、詠史詩〕兄弟

哭㆓路垂㆒。〔注〕善曰、垂、邊也。㋩ふち。緣。〔謝朓、郊游詩〕江垂得㆓清景㆒、山際果幽尋。❸ちかい。なんなんとする。將に及ばんとする。〔集韻〕垂、一曰、幾也。〔字彙〕垂、將㆑及也。〔元稹、聞㆔白樂天左㆓降江州司馬㆒詩〕垂死病中驚坐起。❹舜の共工の名。弓矢を作るに巧。又、倕(**1－770**)に作る。〔書、顧命〕垂之竹矢。〔傳〕垂、舜共工、所㆑爲皆中㆑法。〔呂覽、重己〕垂、至巧也。〔荀子、解蔽〕倕作㆑弓。〔注〕倕、舜之共工。❺**地名**。㋑春秋、衞の地。今の山東省定陶縣の近旁。〔左氏、隱、八〕宋公・衞侯、遇㆓於垂㆒。〔注〕垂、衞地、濟陰句陽縣東北有㆓垂亭㆒。㋺春秋、齊の地。今の山東省平陰縣の境。〔左氏、宣、八〕仲遂卒㆓于垂㆒。〔注〕垂、齊地。❻古は𠂹(**1－232**)・𡍮(**2－2516**)に作る。〔康熙字典〕垂、古文𠂹・𡍮。㊁**鄕の名**。〔集韻〕垂、鄕名、在㆓蘄縣㆒。

解字 象形。草木の莖枝華葉の下垂する形に象り、以てたれるの意を表はす。字亦、𡍮に作り、今、垂に作る。〔說文、𠂹、段注〕象㆓其莖枝華葉㆒。

參考 𠂹の本義はたれる。𡍮の本義はほとり・はて。後世、陲の字を造つて、邊陲の意に用ひてから、𡍮を以てたれる義に用ひ、𠂹は行はれなくなつた。〔說文、𡍮、段注〕俗書邊𡍮字作㆑陲、乃由㆓用㆑𡍮爲㆑𠂹、不㆑得㆑不㆓用㆑陲爲㆑𡍮矣。

【垂阿】1 スイア 簷が四方にたれ下つたあづまや。〔柳宗元、桂州訾家洲亭記〕南爲㆓燕亭㆒、延宇垂阿步簷更衣、周若㆓一舍㆒。

【垂哀】2 スイアイ あはれみをたれる。同情する。又、そのこと。〔晉書、滕脩傳〕屢乞㆓骸骨㆒、未㆑蒙㆓垂哀㆒。

【垂愛】3 chʻuei^2 ai^4 尊長の親厚を受けること。御愛顧。

【垂意】4 スイイ おもひをたれる。注意する。〔越絕書、越絕外傳紀策考〕寡人垂㆑意、聽㆓子之言㆒。〔後漢書、和帝紀〕皇帝崇㆓弘鴻業㆒、德化普洽、垂㆓意黎民㆒、留㆓念稼穡㆒。

【垂頤】5 スイイ おとがひをたれる。食を欲して頤を動かすさま。朶頤。〔韻府引、歐陽脩、詩〕昔人逢㆓麯車㆒、流㆑涎尙垂㆑頤。

【垂委】6 スイヰ たれて下につく。〔論衡、感虛〕此穀生㆓於草野之中㆒、成熟垂㆓委於地㆒。

【垂雲】7 スイウン 低くたれた雲。〔何晏、景福殿賦〕若㆘仰㆓崇山㆒而戴㆗垂雲㆖。

【垂穎】8 スイエイ 穗さきを低くたれる。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕含㆑秀垂㆑穎、續㆑舊不㆑廢。

【垂縈】9 スイエイ たれまとふ。〔張衡、觀舞賦〕被纖垂縈、同服駢奏。

【垂纓】10 スイエイ ❶かんむりの紐をたれる。禮裝をするにいふ。〔管子、小匡〕公曰、垂㆑纓下㆑衽、寡人將㆑見。〔後漢書、章帝紀〕一人犯㆑罪、禁至㆓三屬㆒、莫㆑得㆔垂㆑纓仕㆓宦王朝㆒。❷下方に垂れた纓。〔蛙抄、冠〕纓、垂纓ハ文官一位已下、六位已上、纓ヲ垂ルル常儀也、雖㆓武官㆒非㆓警固㆒日ハ皆垂纓、文官ニ同也、云云、親王平生垂纓如㆓臣下㆒。

【垂腰】11 スイエウ 腰にたれる。〔杜牧、謝㆓周相公㆒啓〕楊僕三組垂㆑腰、蘇秦六印在㆑手。

【垂耀】12 スイエウ 光をたれる。下界を照らす。〔後漢書、天文志上〕天者北辰星、合㆑元垂㆑耀、建㆓帝形㆒。〔論衡、說日〕體大光盛、故能垂㆑耀。

【垂延】13 スイエン たれのびる。〔和漢三才圖會、獸類、貍〕按、或入㆓山家㆒坐㆓爐邊㆒、向㆑火乘㆑暖、則陰囊垂延、廣㆓大於身㆒也。

【垂恩】14 スイオン 恩惠を加へ施す。〔揚雄、甘泉賦〕儲㆑精垂㆑恩、感㆓動天地㆒。〔蜀志、先主甘后傳〕大行皇帝存時、篤㆑義垂㆑恩。

【垂下】15 スイカ たれさがる。〔廣韻〕嚲、垂下皃。

【垂加】16 スイカ 山崎嘉の號。山崎闇齋(**4－7869‥1203**)を見よ。

〖垂加神道〗17 スイカシンタウ 神道の一派。垂加流神道ともいふ。山崎闇齋の創唱したもの。垂加の名は倭姬命世記の神垂以㆓祈禱㆒爲㆑先、冥加以㆓正直㆒爲㆑本に本づく。其の教は、天人唯一の傳で、人道は土金から出で、其の要は敬に在りといふ。卽ち陰陽五行の理を以て神道を說き、之に朱子の居敬窮理の說を加味したもので、神代紀・中臣祓等を經典とする。

〖垂加先生〗18 スイカセンセイ 山崎闇齋の稱。山崎闇齋(**4－7869‥1203**)を見よ。

【垂河】19 スイカ 河の名。唐代の碎葉川。又、吹河といふ。砂漠中の河で、中央亞細亞に在り、今、ソヴィエート・ロシヤに屬す。碎葉(**8－24284‥2**)の❷を見よ。

【垂戒】20 スイカイ いましめをたれる。戒める。戒を後世に殘す。〔韋應物、奉㆑和㆓聖製重陽賜宴㆒詩〕捧㆑藻千官處、垂㆑戒百王程。

【垂誥】21 スイカウ いましめをたれる。戒める。戒を後世に殘す。〔北史、李彪傳〕垂㆑誥以爲㆓長世之法㆒。

【垂橐】22 スイカウ ❶弓袋をぶらさげて行く。敵意のないことを示す。〔左氏、昭、元〕請垂㆑橐而入、許㆑之。〔注〕垂㆑橐、示㆑無㆑弓也。〔會箋〕橐、弓衣也。❷空のふくろをぶらさげ持つ。てぶら。〔國語、齊語〕諸侯之使、垂㆑橐而入、稛載而歸。〔注〕橐、囊也。〔管子、小匡〕諸侯之使、垂㆑橐而入、攟載而歸。〔纂詁〕橐、囊也。〔韓愈、答㆓竇秀才㆒書〕錢財不㆑足㆔以賄㆓左右之匱急㆒、文章不㆑足㆔以發㆓足下之事業㆒、稛載而往、垂㆑橐而歸、足下亮㆑之而已。

【垂竿】23 スイカン 竿をたれる。魚を釣る。垂鉤。又、魚を釣つてゐる竿。〔謝朓、始出㆓尙書省㆒詩〕乘㆑此終蕭散、垂竿深㆓澗底㆒。

【垂鑒】24 スイカン 御覽。御高覽。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕伏冀、憲臺俯賜㆓垂鑒㆒地方幸甚。

【垂危】25 chʻuei^2 wei^2 危險に瀕する。

【垂休】26 スイキウ 唐、崔胤(**4－8178‥7**)の字。

【垂救】27 スイキウ 惠をかけて助ける。救の手をのばす。〔王獻之、辭㆓尙書令㆒與㆓州將㆒書〕仰憑㆓仁眷㆒、惟願垂㆑救。

【垂及】28 スイキフ なんなんとする。近づく。〔蘇軾、決㆓壅蔽㆒〕兵強國富、垂㆓及升平㆒。

【垂泣】29 スイキフ 涙を流す。聲を出さないで泣く。忍び泣きをする。〔漢書、李廣傳〕皆爲垂泣。〔袁宏、三國名臣序贊〕賈生所㆓以垂泣㆒。〔魏志、武帝紀〕垂泣而去。〔資治通鑑、魏紀〕(邵陵厲公、正始九年)他日又向㆓爽等㆒垂泣曰。〔注〕無㆑聲而出㆑涕、曰㆓垂泣㆒。

【垂魚】30 スイギヨ 魚袋を腰に下げる。魚袋(**12－45956‥173**)を見よ。〔資治通鑑、唐紀〕代宗大曆十四年、入則擁㆑笏垂㆑魚。〔注〕唐高宗給㆓五品以上隨身魚銀袋㆒、以防㆓召命之詐㆒、三品以上金飾袋、天授二年、改㆓佩魚㆒爲㆑龜、中宗罷㆑龜、復給以㆑魚、郡王嗣王、亦佩㆓金魚袋㆒。

【垂拱】31 スイキヨウ ❶衣をたれ手をこまぬく敬禮。〔禮、玉藻〕凡侍㆓於君㆒、云云、垂拱。〔疏〕拱、沓㆑手也、身俯則宜㆓手沓而下垂㆒也。❷手をこまねいてゐて何もしないこと。〔書、畢命〕予小子垂拱仰㆑成。〔蔡傳〕垂㆑衣拱㆑手、以仰㆓其成㆒而已。〔大戴禮、保傅〕桓公垂拱無㆑事而朝㆓諸侯㆒。〔韓非子、守道〕人臣垂㆓拱於金城之內㆒、而無㆓扼腕聚脣嗟唶之禍㆒。〔漢書、循吏傳序〕孝惠垂拱、而天下晏然。❸唐の武后の年號。(685－688)

〖垂拱格〗32 スイキヨウカク 唐の則天武后の時、制定した法令。官吏の職掌を規定したもの。留司格(**7－21808‥181**)を見よ。〔大學衍義補、愼㆓刑憲㆒、定㆓律令㆒之制〕唐自㆔房玄齡等、更㆓定律令格式㆒、訖㆓太宗世㆒用㆑之、無㆑所㆓變改㆒、云云、其後武后時、有㆓垂拱格㆒、玄宗時、有㆓開元格㆒。

〖垂拱之化〗33 スイキヨウノクワ 衣を垂れ手を拱き、無爲にして人民を善に化すること。天下の太平をいふ。〔晉書、劉寔傳〕昔虞任㆓五臣㆒、致㆓垂拱之化㆒。

〖垂拱之治〗34 スイキヨウノチ 無爲にして天下の治まること。〔書、武成〕垂拱而天下治。

【垂矜】35 スイキヨウ かなしみをたれる。悲しむ。憐れむ。〔潘岳、哀㆓永逝㆒文〕慈姑兮垂㆑矜。

【垂棘】36 スイキヨク 春秋、晉の地名。玉の產地。轉じて、名玉の名。垂𤩭。垂棘之璧を見よ。〔左氏、成、五〕鄭伯與㆓晉趙同㆒盟㆓于垂棘㆒。〔注〕垂棘、晉地也。〔班固、西都賦〕懸黎垂棘。〔魏文帝、又與㆓鍾繇㆒書〕晉之垂棘。

〖垂棘之璧〗37 スイキヨクノタマ 垂棘から產する美玉。〔左氏、僖、二〕晉荀息請㆘以㆔屈產之乘、與㆓垂棘之璧㆒、假㆓道於虞㆒以伐㆖虢。〔注〕垂棘、出㆓美玉㆒、故以爲㆑名也。〔公羊、僖、二〕請以㆔屈產之乘、與㆓垂棘之白璧㆒往、必可㆑得也。〔孟子、萬章上〕晉人以㆔垂棘之璧、與㆓屈產之乘㆒、假㆓道於虞㆒以伐㆑

號。〔呂覽、權勳〕荀息曰、請以三垂棘之璧與二屈產之乘一、以賂二虞公一而求レ假レ道焉。〔淮南子、說林訓〕晉以二垂棘之璧一得二虞・虢一。

【垂棘】38 スイキヨク　地名。垂棘に同じ。〔廣韻〕棘、埤蒼云、垂棘、地名、出二美玉一。案、左傳只作レ棘。

【垂光】39 スイクワウ　光をたれる。世を照らす。〔尉繚子、治本〕所謂天子者四焉、一曰神明、二曰垂光、三曰洪敍、四曰無敵。

〔垂光集〕40 スイクワウシフ　書名。二卷。明、周璽撰。上卷は疏十三篇を載せ、下卷は祭文・碑記の類を附錄す。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【垂冠】41 スイクワン　低く傾いた冠。〔莊子、說劍〕蓬頭突鬢、垂冠、曼胡之纓、短後之衣、瞋レ目而語難。

【垂訓】42 スイクン　❶をしへをたれ示す。〔晉書、孝武帝紀〕邁レ德垂レ訓、多歷二年載一。〔南史、江夏文獻王義恭傳〕禮レ賢下レ士、聖人垂レ訓。〔夏侯湛、東方朔畫贊序〕傲レ世不レ可二以垂レ訓也、故正諫以明レ節。❷宋、楊日嚴(**6－15112**‥593)の字。

【垂髻】43 スイケイ　もとどりをたれる。幼童をいふ。垂髮(138)に同じ。〔揮麈餘話〕朕時年八歲垂レ髻。

【垂雞】44 スイケイ　鳥の名。〔宋玉、高唐賦〕垂雞高巢、其鳴喈喈。〔注〕善曰、垂雞、未レ詳。

【垂教】45 スイケウ　をしへをたれる。善い教訓を後世にのこす。又、そのこと。垂訓。垂示。〔牛僧孺、辨私論〕宣父之作二春秋一、刪二詩書一、是公二其身於垂教一也。

【垂業】46 スイゲフ　功業を後世に遺す。〔陸機、五等諸侯論〕三代所二以直レ道、四王所二以垂レ業也。

【垂圈】48 スイケン　觀測者の位置にある鉛直線を含んだ平面が天球と交はつて作る大圓。垂直圈。鉛直圈。

【垂眷】49 スイケン　目をかけること。いつくしむこと。垂顧。〔曹植、朔風詩〕君不二垂眷一、豈云二其誠一。

【垂憲】50 スイケン　❶依り從ふべきのりを示す。法則・模範を後世に遺す。〔書、蔡仲之命〕克勤無レ怠、以垂二憲乃後一。〔晉書、后妃傳序〕哲王垂レ憲。❷唐、韋貽範(**12－43108**‥159)の字。

【垂胡】51 スイコ　垂れ下つたあごにく。又、あごにくをたれる。〔蘇軾、送二喬仝一寄二賀君一詩〕豈知三仙人混二屠沽一、爾來八十胥垂レ胡。〔陸游、七十詩〕身世蠶眠將レ作レ繭、形容牛老已垂レ胡。

【垂祜】52 スイコ　さいはひをたれる。惠を施す。いつくしむ。垂祉。〔宋史、樂志八〕衆祥萃止、垂レ祜無レ窮。

【垂顧】53 スイコ　目をかける。めぐみを施す。垂眷。〔庾亮、讓二中書令一表〕先帝龍興、垂二異常之顧一。

【垂語】54 スイゴ　教をたれる。禪家の宗匠が上堂して學人を提撕して垂示する語。〔雪竇顯禪師語錄〕雲門垂語云、十五日已前不レ問レ汝、十五日已後、道二將一句一。

【垂句】55 スイコウ　木などが撓めないのに自然に圓く曲ること。太平の世が現はれるといふ祥瑞。垂鉤。〔太平御覽、車部、敍車、上〕禮斗威儀曰、山車垂句、福草生二宗廟中一、松栢爲レ常、山車者自然之車、句者、曲也、不二揉治一而自員曲、故言レ垂。

【垂虹】56 スイコウ　❶橋の名。江蘇省吳江縣の東。本名は利往橋。宋の慶曆八年に設く。蘇舜欽の詩に因つて俗に長橋といひ、其の上に垂虹亭がある。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、吳江縣〕長橋、在二縣東二里一、一名利往橋、又名二垂虹橋一。❷亭の名。垂虹橋上の亭。宋の慶曆中、令李文の建てたもので、蘇軾が張子野等と倶に置酒した處。〔齊東野語〕林外嘗爲二垂虹亭辭一、所謂飛梁遏水倒、題二橋下一、人傳爲二呂翁作一、惟高識レ之、曰、是必閩人也、不レ然、何得下以二鎖字一叶中掃字韻上、已而知二其果然一也。〔蘇軾、文〕吾昔日自レ杭移二高密一、而陳令擧・張子野、皆從レ吾過二李公擇於湖一、遂與二劉孝叔一俱至二松江一、夜半月出、置二酒垂虹亭上一、子野年八十五、以二歌詞一聞二於天下一、作二定風波令一。

【垂鉤】57 スイコウ　❶釣ばりをたれる。魚をつる。垂竿。〔李沛、四水合流詩〕羨レ魚猶未レ已、臨レ水欲レ垂レ鉤。❷木などが撓めないで自然に圓く曲ること。王者太平の瑞祥。垂句に同じ。〔禮、禮運、山出二器車一、疏〕山出二器車一、按、禮緯斗威儀云、其政太平、山車垂鉤、注云、山車、自然之車、垂鉤、不二揉治一而自圓曲。

【垂沙】58 スイサ　戰國、楚の地名。〔戰國、楚策〕垂沙之事、死者以レ千數。〔荀子、議兵〕然而兵殆二於垂沙一。〔注〕垂沙、地名、未レ詳二所在一、漢地理志、沛國有二垂鄉一、豈垂沙乎、史記楚懷王二十八年、秦與二齊・韓・魏一共攻レ楚、殺二楚將唐昧一、取二我重丘一而去。

【垂繅】59 スイサウ　繅を垂れる。繅は、五采の文のある、玉を載せる敷物。〔儀禮、聘禮〕啓レ櫝、取レ圭、垂レ繅。〔注〕繅、所二以藉レ圭也。

【垂察】60 スイサツ　おもひやる。推察。〔韓愈、上二宰相一書、後二十九日復上書〕亦惟少垂レ察焉。

【垂山】61 スイザン　堀正超の號。堀景山(**3－5205**‥16)を見よ。

【垂示】62 スイシ　❶たれしめす。をしへをたれる。垂教。垂訓。〔後漢書、梁皇后紀〕無下以述二遵先世一、垂中示後世上也。❷［佛］スイジ　禪林で、師家が學人に教訓を垂れる語。垂誨。碧巖集は垂示・本則・著語・頌古・評唱の五つより成り、垂示は本則の小序の如き簡單な說示である。〔臨濟錄〕德山垂示云、遁得也三十棒、道不レ得也三十棒。〔黃龍清禪師、晦堂贊〕一拳垂示、露二赤體於龍峯一。

【垂死】63 スイシ　死になんなんとする。しにかかつてゐる。瀕死。〔元稹、聞三白樂天左二降江州司馬一〕垂死病中驚坐起、暗風吹レ雨入二寒窻一。

【垂枝】64 スイシ　枝をたれる。〔風俗通、山澤〕垂レ枝布レ葉。〔白虎通、五行〕萬物垂レ枝。

【垂祉】65 スイシ　さいはひをたれる。幸を與へる。垂祜。垂祚。〔柳宗元、禮部賀レ立二皇太子一表〕宗社垂レ祉、啓二佑皇心一。

【垂翅】66 スイシ　つばさをたれる。轉じて、行動しないで止息するにいふ。垂翼。〔後漢書、馮異傳〕始雖レ垂二翅回谿一、終能奮二翼黽池一。〔潘岳、西征賦〕初垂二翅于回谿一。

【垂紫】67 スイシ　紫の印綬を垂らしさげる。〔後漢書、馮衍傳下〕事二名賢一經二歷顯位一、懷レ金垂レ紫。

【垂絲】68 スイシ　いとをたれる。又、たれ下がること。柳の枝などの垂れ下つてゐるのをいふ。〔西陽雜俎、諸皋記上〕有二山蜘蛛一垂レ絲如二疋布一。〔李白、龍池柳色初青聽レ鶯詩〕垂絲百尺挂二雕楹一、上有二好鳥一相和鳴。

〔垂絲櫻〕69 スイシアウ　櫻の一種。しだれざくら。〔室鳩巢、題二佐佐木氏堂前垂絲櫻一詩〕琪樹垂垂紅欲レ流、春風花外夕陽收。

〔垂絲柳〕70 スイシリウ　柳の一種。しだれやなぎ。〔本草、檉柳〕釋名、赤楊・雨師・垂絲柳・人柳、時珍曰、按、羅願爾雅翼云、天之將レ雨、檉先知レ之、起レ氣以應、又負二霜雪一不レ凋、乃木之聖者也、故字從レ聖、又名二雨師一、或曰、得レ雨則垂、垂如レ絲、當レ作二雨絲一、又三輔故事云、漢武帝苑中有レ柳、狀如レ人、號曰二人柳一、一日三起三眠、則檉柳之聖、又不二獨知一レ雨負レ雪而已。

〔垂絲海棠〕71 スイシカイダウ　しだれ海棠。〔羣芳譜〕垂絲海棠、柔枝長蔕、花色淺紅、蓋由二櫻桃接レ之而成、故花梗細長似二櫻桃一、其瓣叢密、而色嬌媚、重英向レ下、有レ若二小蓮一。〔花鏡〕垂絲海棠、微レ遜二西府一籌一。

【垂耳】72 スイジ　❶耳にさげる。〔後漢書、東夷、三韓傳〕唯重二瓔珠一、以綴レ衣爲レ飾、及縣レ頸垂レ耳。❷垂れた耳。〔本草、駝〕集解、時珍曰、長項垂耳、脚有二三節一。

【垂珥】73 スイジ　たれ下つたたみだま。珥は、耳を飾る玉。〔鹽鐵論、散不足〕罽繡弁汗、垂珥胡鮮。

【垂象】74 スイシヤウ　❶あやをあらはし示す。象は、日月星辰などをいふ。〔易、繫辭上〕天垂レ象、見二吉凶一、聖人象レ之、河出レ圖、洛出レ書、聖人則レ之。〔傅亮、禪策〕至二於上天垂レ象、四靈效レ徵。❷字號。㋑唐、顧雲(**12－43689**‥16)の字。㋺宋、卞袞(**2－2778**‥11)の字。

【垂裳】75 スイシヤウ　衣裳を著け垂れる。衣服の制を定め、貴賤を正し、天下に禮を示すにいふ。垂二衣裳一而天下治(**10－34091**‥82)を見よ。〔易、繫辭下〕黃帝堯舜、垂二衣裳一而天下治、蓋取二諸乾坤一。〔注〕垂二衣裳一以辨二貴賤一、乾尊坤卑之義也。〔李質、艮岳賦〕仰二黃屋之非心一、融二至道一以垂レ裳。

【垂迹】76 スイジヤク　［佛］本地(本體)の佛が衆生濟度の爲に、その本地から種々の身に生れかはつてこの世に出現すること。垂跡。〔維摩經、序〕幽關難レ啓、聖應不レ同、非レ本無二以垂レ迹、非レ迹無二以顯レ本、本迹雖レ殊、而不思議一也。〔法華經文句〕非レ本無レ垂、非レ迹無二以顯レ本、本迹雖レ異、不思議一也。〔法華經科注〕非レ本無二以垂レ迹、

非レ迹無二以顯二レ本。

〖**垂迹和光**〗77 スイジャクワクワウ 佛垂迹卽和光の意。垂迹は佛が本地の光を和げて衆生に應同することであるからいふ。

【**垂跡**】78 スイジャク 佛垂迹(76)に同じ。

【**垂鵲**】79 スイジャク 山名。〔後漢書、臧宮傳〕宮與二岑彭等一破二荊門一、別至二垂鵲山一、通出レ秭、歸至二江州一。

【**垂手**】80 スイシュ ❶手を垂れる。又、手を垂れて尊長に對して行ふ敬禮。明代に始まる。昔は寧ろ倨傲の態度としてしりぞけられた。〔晉書、劉曜載記〕曜身長九尺三寸、垂レ手過レ膝、生而眉白、目有二赤光一、鬚髯不レ過二百餘根一、而皆長五尺。〔野獲編〕今胥吏之承二官長一、輿儓之侍二主人一、每レ見必彈レ袖垂レ手、以示二敬畏一、古人不レ然、如二宋岳鄂王初入レ獄、垂二手於庭一、爲隸人呵レ之曰、岳某叉手正立、是古人以二垂手一爲レ倨也。❷樂府雜曲に屬する曲題。大垂手・小垂手・獨垂手がある。もとは舞曲の名で、舞容からつけられたものといふ。〔樂府古題要解〕大垂手、言三舞而垂二其手一、亦有二小垂手及獨垂手一也。

【**垂珠**】81 スイシュ ❶たれた珠。又、珠をたれる。〔後漢書、輿服志下〕太皇太后皇太后入レ廟服、云云、珥、耳璫垂珠也。〔孫綽、遊二天台山一賦〕琪樹璀璨而垂レ珠。❷黃精(**12**−**47926**・・547)の異名。なるこゆり。〔本草、黃精〕釋名、垂珠、頌曰、隋時羊公服二黃精一法云、黃精是芝草之精也、一名葳蕤、云云、一名垂珠、時珍曰、垂珠、以二子形一也。❸山名。福建省連城縣の南。宋の景炎二年、文天祥が漳州に屯し、此の嶺を過つて迴顧垂涕したことから、居民が名づけた。〔讀史方輿紀要、福建、汀州府、連城縣、虎忙嶺〕垂珠嶺、在二縣南百里一、接二上杭縣界一、宋景炎二年、元兵破二汀關一、丞相文天祥、移レ兵屯二漳州一、過二此嶺一、迴顧垂涕、居民哀レ之、表以二此名一。

〖**垂珠篆字**〗82 スイシュテンジ 篆書の字體が珠を垂れたやうな形をしてゐる形容。〔紅樓夢、四十一回〕那一隻形似レ鉢而小、也有二三個垂珠篆字一。

【**垂卹**】83 スイジュツ あはれみを施す。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕加レ意撫綏、破レ格垂レ卹。

【**垂準**】84 スイジュン 墨なはの端におもりを附け、之を下げて、物のゆがみを調べ、又は正す方法。さげずみ。垂直器。〔周禮、考工記、輿人、訂義〕劉執中曰、縣水謂二準繩一、準繩變言二垂與一レ水者、蓋物之直者、無レ過二於垂一、物之平者、無レ過二於水一、觀二輪人爲一レ輪、言二規之矩一レ之、縣レ之水レ之、亦不レ言二準繩一、則以二縣與一レ水、平直之尤善者、故以レ此代二言準繩一焉。〔木經、定平〕於二立表當心一、自レ上至レ下、施二墨線一道一、垂レ繩墜レ下、令三繩對二墨線心一、則其地面自平。

【**垂詢**】85 スイジュン 下問する。又、御尋ね。御質問。〔國朝漢學師承記、錢大昕〕今上親政、垂二詢大昕家居狀一。

【**垂蒸**】86 タレムシ とばり。帳。〔本朝若風俗、六〕たれむしの數くぐりて。

【**垂心**】87 スイシン ❶仁心をたれる。下位の者に對して心を使ふ。〔後漢書、李固傳〕誠知太后垂レ心、將軍勞レ慮、詳二擇其人一、務存二聖明一。❷三角形の各頂點から其の對邊に下した三垂線の交點。

【**垂紳**】88 スイシン 大帶をたれる。〔歐陽脩、相州畫錦堂記〕垂レ紳正レ笏、不レ動二聲色一。

【**垂仁**】89 スイジン ❶めぐみをたれる。仁惠を施す。〔晉書、元帝紀論〕史臣曰、豈武宣餘化、猶暢二於琅邪一、文景垂レ仁、傳二芳於南頓一。〔顏師古、聖德頌〕扇暍垂レ仁。❷スイニン 第十一代の帝諡。

【**垂水**】90 スイスイ ❶たき。たるみ。瀑布。〔柳宗元、零陵三亭記〕爰有二嘉木美卉垂水叢峯一。❷薇(**9**−**32092**)の異名。〔爾雅、釋草〕薇、垂水。〔疏〕草生二於水濱一、而枝葉垂二於水一者、曰レ薇也。❸タルミ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證〕。

【**垂垂**】91 スイスイ ❶漸く。次第に。だんだんと。漸漸。〔杜甫、和下裴迪登二蜀州東亭一送レ客逢二早梅一相憶見上レ寄詩〕江邊一樹垂垂發、朝夕催二人自白頭一。❷たれさがるさま。〔薛能、盩厔官舍新竹詩〕滿風輕撼葉垂垂。

【**垂緌**】92 スイズイ たれた緌。又、緌をたれる。緌は、車に乘る時につかまる把り綱。又、冠の紐、又、旗。〔禮、玉藻〕垂緌五寸、惰游之士也。〔淮南子、齊俗訓〕大路龍旂、羽蓋垂緌。〔風俗通、十反〕據レ輜垂レ緌、還二歷鄕里一。

【**垂世**】93 スイセイ 世に布く。世に廣める。〔孔安國、尙書序〕擧二其宏綱一、撮二其機要一、足二以垂レ世立レ教。

【**垂成**】94 スイセイ 成るになんなんとする。將に成就しようとする。〔吳志、薛綜傳〕欲レ使レ卒二垂成之功一。

【**垂青**】95 スイセイ 愛顧する。青眼を垂れる意。青は青眼。青眼は白眼に對していふ。〔福惠全書、陞遷部、請二署篆一〕撫軍方伯、素好レ垂レ青。

【**垂聖**】96 スイセイ 西夏の毅宗李諒祚の年號。天祐垂聖の一稱。(1050−1052)

【**垂詔**】97 スイセウ みことのりを下す。〔曹植、求レ通二親親一表〕願陛下沛然垂レ詔、使下諸國慶二問四節一得上レ展。

【**垂髾**】98 スイセウ たれ髮。垂髮。垂髻。一說に、婦人の袿衣(婦人のうはぎ)の飾といふ。〔漢書、司馬相如傳上〕蜚纖垂髾。〔注〕師古曰、髾、謂二燕尾之屬一。〔司馬相如、子虛賦〕蜚纖垂髾。〔注〕善曰、司馬彪曰、纖、袿飾也、髾、燕尾也、纖與二燕尾一、皆婦人袿衣之飾也。〔枚乘七發〕雜裾垂髾。

【**垂接**】99 スイセツ スイセフ 身分のいやしい者に面接する。〔後漢書、趙壹傳〕以レ貴下レ賤、握レ髮垂接。

【**垂涎**】100 スイセン 食を欲してよだれをたれる。轉じて、物を深く望み欲すること。流涎。〔柳宗元、招海賈文〕更笑迭怒、垂レ涎閃レ舌兮。〔張元幹、登二垂虹亭一詩〕扁舟莫二浪發一、蛟鰐正垂レ涎。

【**垂線**】101 スイセン 數學用語。一直線が他の直線或は平面と交はつて九十度の角度を保つてゐる線。垂直線の略。〔幾何要法、論線、總論、第十二界〕直線、垂二於橫線之上一、爲二橫線之垂線一。

【**垂祚**】102 スイソ 幸福を子孫にのこす。垂祉。〔宋史、樂志〕發レ祥垂レ祚、永世貽レ孫。

【**垂則**】103 スイソク 法を設けて人に示し教へる。〔漢書、外戚下、許皇后傳〕養レ名顯レ行、以息二衆讙一、垂二則列妾一、使レ有レ法焉。〔李尤、漏刻銘〕昔在先聖、配レ天垂レ則。

【**垂孫**】104 スイソン 唐、葉京(**9**−**31387**・・33′)の字。

【**垂堂**】105 スイダウ 堂のはしの、階に近い處にすわること。轉じて、危險を冒すこと。〔漢書、爰盎傳〕千金之子不レ垂レ堂、百金之子不レ騎レ衡。〔注〕師古曰、言二富人之子則自愛一也、垂レ堂、謂レ坐二堂外邊一、恐二墜墮一也。〔孫綽、遊二天台山一賦〕雖三一冒二于垂堂一、乃永存二乎長生一。

〖**垂堂之戒**〗106 スイダウノカイ 有爲の子は危險な處に近よつてはならぬといふ誡。〔吳志、陸遜傳〕違二垂堂之戒一、輕二萬乘之重一。〔前言往行錄〕非下其平昔垂堂之戒、爲二其親一所中信服上。

【**垂聽**】108 スイチャウ 傾聽する。下の者に聽く。〔漢書、董仲舒傳〕子大夫其精レ心致レ思、朕垂レ聽而問焉。

【**垂著**】109 スイチョ 後世に殘しあらはす。〔史記、秦始皇紀〕請刻二此石一、垂二著儀矩一。

【**垂直**】111 スイチョク 眞直に垂れる。

〖**垂直線**〗112 スイチョクセン 數學用語。地平面と九十度の角度を保つてゐる直線。垂線。

〖**垂直面**〗113 スイチョクメン 數學用語。垂直線を含む平面をいふ。

〖**垂直距離**〗114 スイチョクキョリ 數學用語。最短距離をいふ。

〖**垂直二等分線**〗115 スイチョクニトウブンセン 數學用語。一直線が他の一有限直線に直角に交り、且其の有限直線を二つに等分するとき、其の直線をいふ。

【**垂涕**】116 スイテイ なみだを流す。垂淚。〔戰國、趙策〕馮亭垂レ涕而勉曰。〔荀子、禮論〕垂レ涕恐懼。〔宋玉、神女賦〕惆悵垂レ涕。〔史記、司馬相如傳〕爲レ之垂レ涕。〔越絕書、越絕外傳計倪〕垂レ涕啼哭。

【**垂釣**】117 スイテウ つりばりをたれる。釣をする。垂鉤。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕下垂二釣於谿谷一兮、上要二求於僊者一。〔曹植、七啓〕逍遙暇豫、忽若レ忘レ歸、迺使二任子垂レ釣、魏氏發レ機。〔梁昭明太子、陶淵明集序〕莊周垂二釣於濠一、伯成躬二耕於野一。

【**垂髫**】118 スイテウ さげ髮。轉じて、幼兒。うなゐ。垂髮。〔潘岳、籍田賦〕被褐振裾、垂髫總髮。〔注〕善曰、埤蒼曰、髫、髦也。〔陶潛、桃花源記〕黃髮垂髫、並怡然自樂。

〖**垂髫戴白**〗119 スイテウタイハク 幼兒と老人。垂髮戴白(13−9)を見よ。〔十八史略、東漢、光武帝〕關中未レ定、鄧禹引レ衆而西、號二百萬一、所レ至停レ車駐レ節、勞二來百姓一、垂髫戴白滿二車下一、名震二關西一。〔韻府引、陸游、詩〕鄰曲今年又有レ年、垂髫戴白各欣然。

【垂條】120 スイデウ たれた小枝。しだれた枝。又、枝をたれる。〔爾雅、釋木、桑柳醜條、注〕阿那垂レ條。〔疏〕桑柳之類、皆阿娜垂レ條。〔司馬相如、上林賦〕垂條扶踈。〔王融、春遊廻文詩〕垂條逐レ絮轉、落蕋散二花叢一。

【垂天】121 スイテン ㊀そら一杯にたれ下がる。垂天之雲を見よ。〔揚雄、羽獵賦〕荷二垂天之畢一、張二竟壄之罘一。㊁宋、魏羽(12—45872‥2)の字。

〔垂天之雲〕122 スイテンノクモ 天一杯に垂れ下がる雲。〔莊子、逍遙遊〕有レ鳥焉、其名爲レ鵬、背若二泰山一、翼若二垂天之雲一。〔列子、湯問〕有レ鳥焉、其名爲レ鵬、翼若二垂天之雲一。

【垂典】123 スイテン のりを示す。典法を後世に殘す。〔揚雄、解嘲〕五帝垂レ典、三王傳レ禮。

【垂展】124 スイテン たれひろがる。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕建二一長旛一、上書二某縣某保一、其旛垂展。

【垂統】125 スイトウ 帝王の統緒を子孫に永く殘し傳へる。〔孟子、梁惠王下〕君子創レ業垂レ統、爲レ可レ繼也。〔史記、三王世家〕垂二統於萬世一。〔班固、西都賦〕佐レ命則垂レ統。

【垂頭】126 スイトウ ㊀頭を低くたれ下げる。しよげかへる時、低徊する時、ねむ氣のする時のさま。〔後漢書、殤帝紀〕刺史垂レ頭塞レ耳、阿私下比。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕垂レ頭搨レ翼、莫レ所二憑恃一。〔韓愈、駑驥詩〕騏驥不二敢言一、低徊但垂レ頭。〔歐陽脩、秋聲賦〕童子莫レ對、垂レ頭而睡。㊁求める所があつて首を伸ばすさま。〔史記、楚世家〕膺二擊韓魏一、垂二頭中國一。〔注〕正義曰、膺作レ鷹、如二鷹鳥之擊手一也、索隱曰、垂頭、猶レ申レ頸也、言レ欲レ吞二山東一。

〔垂頭喪氣〕127 スイトウサウキ がつかりしてしよげかへること。〔韓愈、送レ窮文〕主人於レ是垂レ頭喪レ氣。

【垂年】128 スイネン 年老いて死期の近いこと。〔資治通鑑、唐紀〕(武宗、會昌六年)使二垂年之母、銜レ羞入一レ地。〔注〕垂、末垂也、垂年、猶レ言二末垂之年一。

【垂念】129 ch‘uei^{2} nien^{4} 御配慮。御心配。

【垂芳】130 スイハウ ほまれを後世に殘す。芳名を後代に殘し傳へる。流芳。〔晉書、忠義傳論〕並見レ稱二當世一、垂二芳竹帛一。

【垂寶】131 スイハウ 寶をのこす。〔孔子家語、本姓解〕道德不レ加二於民一、而將三垂レ寶以貽二後世一。

【垂芒】132 スイバウ 光芒を發する。〔任昉、王文憲集序〕信乃昴宿垂レ芒。〔注〕銑曰、垂レ芒、謂レ發レ秀也。

〔垂芒篆〕133 スイバウテン 篆文の一種。〔和漢三才圖會、藝才、垂芒篆〕蔡邕入二嵩山一、學二書於石室內一、得二八角垂芒篆一歸、而喜三日不レ食。

【垂白】134 スイハク 頭髮の將に白くならうとすることをいふ。又、老年。老人。〔漢書、杜欽傳〕誠哀下老姊垂レ白、隨二無狀子一出上レ關。

〔垂白叟〕135 スイハクノソウ 將に白髮にならうとする老人。〔拾遺記、燕昭王〕王卽位四年、王居二正寢一、召二其臣甘需一曰、云云、需曰、臣遊二昆臺之山一、見レ有二垂白之叟一、宛若二少童一、貌如二水雪一。〔白居易、酬二鄭侍御多雨春空過詩一三十韻詩〕愁生垂白叟、惱殺踏青娘。

【垂箔】136 スイハク 太皇・太后・皇太后などが幼帝に代つて政を聽くこと。箔は簾のこと。群臣に直面することを憚つて御座の前に簾を垂れて政を聞いたからいふ。垂簾(174)に同じ。〔梁溪漫志〕聞見後錄云、某公在二章獻明肅后垂箔日一、密進二唐武氏七廟圖一。

【垂撥】137 スイバチ 花を掛ける具。形が琵琶の撥に似てゐるからいふ。〔中院通茂集〕垂撥に書き給ふ歌。

【垂髮】138 スイハツ さげがみ。轉じて、幼子。幼童。垂髫。垂髾。垂髫。垂髮戴白を見よ。〔後漢書、呂強傳〕垂髮服レ戎、功成二皓首一。

〔垂髮戴白〕139 スイハツタイハク 幼兒と老人。戴白は頭に白髮を戴くことで、老人をいふ。老幼。垂髫戴白。〔後漢書、鄧禹傳〕禹所レ止、輒停レ車住レ節、以勞二來之一、父老童穉、垂髮戴白、滿二其車下一、莫レ不二感悅一。〔注〕垂髮、童幼也、戴白、父老也。

【垂法】140 スイハフ のりを後世にのこす。又、たれ示したのり。手本。〔史記、秦紀〕遺レ德垂レ法。〔漢書、蕭望之傳〕作レ憲垂レ法、爲二無窮之規一。〔杜預、春秋左氏傳序〕皆經國之常制、周公之垂法。

【垂範】141 スイハン ㊀模範を示す。又、てほんを後世に殘す。〔宋書、謝靈運傳論〕方二軌前秀一、垂二範後昆一。〔文心雕龍、詔策〕覽戒淵雅、垂二範後代一。㊁宋、季允則(6—14459‥861)の字。

【垂轡】143 スイヒ 垂れてゐる馬の手綱。〔詩、齊風、載驅〕四驪濟濟、垂轡瀰瀰。

【垂美】144 スイビ 譽を後代にのこす。美名を後世にのこす。垂名。〔晉書、江逌傳〕唐虞流二化於茅茨一、夏禹垂二美於卑室一。

【垂冰】145 スイヒヨウ 水が氷つて垂れ下がつたもの。つらら。氷柱。〔謝惠連、雪賦〕流滴垂レ冰、緣霤承レ隅。〔庾肩吾、同二蕭左丞一詠レ摘二梅花一詩〕垂冰溜二玉手一。

【垂符】146 スイフ 清、沈廷瑞(6—17189‥603)の號。

【垂文】147 スイブン 後世にのこした文章。〔王儉、褚淵碑文序〕思二衞鼎之垂文一、想二晉鐘之遺則一。〔注〕濟曰、衞大夫孔悝、有二大功一、銘二之於鼎一、垂文、則銘之字也。

【垂甁】148 スイヘイ つるべをさげおろす。〔蘇軾、棲賢三峽橋詩〕垂レ甁得二清甘一、可レ嚥不レ可レ漱。

【垂璧】149 スイヘキ 古の美玉の名。垂棘(36)を見よ。〔左氏、僖、二〕晉荀息請下以三屈產之乘、與二垂棘之璧一、假二道於虞一以伐上レ虢。

【垂暮】150 スイボ 晚年になんなんとする。年老いたこと。〔韻府引、張元幹、詞〕天涯萬里情懷惡、年華垂レ暮猶離索。

【垂沒】151 スイボツ 歿するになんなんとする。年老いたこと、又、死期の近づいたことをいふ。〔後漢書、楊賜傳〕豈敢愛二惜垂沒之年一、而不レ盡二其慺慺之心一哉。

〔垂沒之命〕152 スイボツノメイ 餘命の幾何も無い老年をいふ。垂沒之年。〔魏志、王烈傳〕楶梲駑下、荷二棟梁之任一、垂沒之命、獲二九棘之位一。

【垂名】153 スイメイ 譽を後世にのこす。垂芳。〔後漢書、鄧禹傳〕禹得レ效二其尺寸一、垂二功名於竹帛一耳。〔陸機、豪士賦序〕志士思レ垂二名於身後一。

【垂命】154 スイメイ 生命の終らうとしてゐること。死際の近づいてゐること。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕患成思渴、垂命有レ日。

【垂問】155 スイモン 下問する。又、おたづね。御下問。〔國朝漢學師承記、王蘭泉〕上嘉レ之、有レ旨垂問。

【垂楊】156 スイヤウ しだれやなぎ。垂柳。〔謝朓、鼓吹曲〕垂楊蔭二御溝一。〔庾信、小園賦〕觀二受釐于宣室一、賦二垂楊于直廬一。〔常建、送二宇文六一詩〕花映二垂楊一漢水清、微風林裏一枝輕。〔李商隱、隋宮詩〕于レ今腐草無二螢火一、終古垂楊有二暮鴉一。

【垂腴】157 スイユ 下腹がたれ下りふくれてゐること。下腹の肥えてゐること。〔韓詩外傳、七〕魚之侈口垂腴者、魚畏レ之。

【垂諭】158 スイユ さとす。上の者が下の者を教へさとすこと。

【垂裕】159 スイユウ 道を後世に殘して餘裕のあること。〔書、仲虺之誥〕王懋昭二大德一、建二中于民一、以レ義制レ事、以レ禮制レ心、垂二裕後昆一。〔傳〕垂二優足之道一示二後世一。〔蔡傳〕垂二諸後世一者、亦綽乎有二餘裕一矣。

【垂容】160 スイヨウ 容儀を示す。〔王褒、四子講レ德論〕舞レ德垂レ容、神雀仍集。

【垂翼】161 スイヨク 翼をたれる。止息すること。垂翅。〔庾信、擬二詠懷一詩〕長坂初垂レ翼、鴻溝遂倒レ戈。

【垂螺】162 スイラ 破瓜期に達せぬ妓女の額の飾り。〔丹鉛總錄〕垂螺雙螺、蓋當時角妓、未二破瓜一時額飾、今搬演淡色、猶有二此制一。

【垂老】163 スイラウ 七十歲に近い老者。老は七十歲以上をいふ。老年。〔宋史、王繼濤傳〕王繼濤垂老之年、殞二身鋒鏑一。

〔垂老別〕164 スイラウノワカレ 老人が故鄉に別れる意。〔杜甫、垂老別詩〕四郊未二寧靜一、垂老不レ得レ安。〔蘇軾、次三韻王定國謝二韓子華過飲一詩〕如何垂老別、冰盤餽二蒼耳一。

【垂柳】165 スイリウ しだれやなぎ。垂楊。〔梁元帝、折楊柳〕巫山巫峽長、垂柳復垂楊。

〔垂柳亭春風〕166 スイリウテイシユンプウ 松村操の號。松村春風(6—14516‥376)を見よ。

【垂旒】167 スイリウ 旒をたれる。旒は、冠のたれ。〔白虎通、紼冕〕垂レ旒者、示レ不レ現レ邪。

【垂慮】168 スイリヨ 思慮をたれる。よく考へる。〔魏志、司馬朗傳〕此誠虛レ心垂レ慮、將レ興二至治一也。

【垂綸】169 スイリン つり絲をたれる。魚を釣る。〔南史、王鎭之傳〕上虞江有二一處一、名二三石頭一、鎭之弟弘之、常垂二綸於此一、經過者不レ識レ之、或問、漁師得レ賣不、弘之曰、亦自不レ得、得亦不レ賣。〔庾信、擬二詠懷一詩〕赭衣居二傅巖一、垂レ綸在二渭川一。〔杜

甫、奉㆑寄㆓章十侍御㆒詩〕朝覲從容問㆓幽仄㆒、勿㆑云江漢有㆑垂㆑綸。

【垂綸亭】170 スイリンテイ　元、宋本(**3**−**7078**‥196)の室「名。

【垂縷】171 スイル　絲をたれる。〔蘇軾、東坡詩〕月明看㆓露上㆒、一一珠垂㆑縷。

【垂涙】172 スイルイ　涙をながす。垂涕。〔戰國、燕策〕高漸離擊㆑筑、荊軻和而歌、爲㆓變徵之聲㆒、士皆垂㆑涙涕泣。〔宋玉、高唐賦〕愁思無㆑已、歎息垂㆑涙。〔陳昭、昭君詞〕跨㆑鞍今永訣、垂㆑涙別㆓親賓㆒。〔庾信、枯樹賦〕拔㆑本垂㆑涙。

【垂憐】173 スイレン　あはれみをたれる。あはれむ。〔韓愈、上㆓宰相㆒書、後十九日復上書〕亦惟少垂㆑憐焉。

【垂簾】174 スイレン　太皇・太后・皇太后などが幼帝に代つて政を聽くこと。群臣に直面することを憚つて御座の前簾をたれたからいふ。垂簾之政。垂箔。〔舊唐書、高宗紀下〕天后垂㆓簾於御座後㆒、政事大小、皆預㆓聞之㆒。〔聞見錄〕呂文淸爲㆑相、章獻太后、垂㆑簾聽㆑政。〔宋史、禮志二十〕皇太后臨㆑朝聽㆑政、云云、初、丁謂定、皇太后稱㆑予、中書與㆓禮院㆒參議、每㆑下㆓制令㆒稱㆑予、便殿處分稱㆑吾、皇太后詔、止稱㆑吾、與㆓皇帝㆒竝御㆓承明殿㆒、垂㆑簾決㆑事。

【垂簾之政】175 スイレンノマツリゴト　天子が幼少なとき、太皇・太后・皇太后などが代つて執る政。垂簾を見よ。

【垂露】176 スイロ　❶したたる露。〔後漢書、仲長統傳〕垂露成㆑幃、張霄成㆑幄。❷書法用語。縱に引く畫の終を撥ねないで押へ止める法。垂針。垂露書を見よ。〔法書要錄〕古書三十六種、有㆓垂露篆・倒薤篆・偃波篆・蚊腳篆㆒。〔墨池編、垂針異勢〕垂露ノ、此名㆓頓筆㆒、以㆓摧挫㆒爲㆑工、此乃古法、鐘元常守而不㆑失、改爲㆓垂露㆒。

【垂露書】177 スイロショ　書體の一つ。漢の中郎曹喜の作にかかり、章奏に用ひた。其の形が草木の露を垂れるに似てゐることから名づけた。〔墨藪〕漢章帝時、曹喜作㆓垂露書・懸針書㆒。〔書史會要、大小篆〕小篆之後、又別爲㆑八、曰鼎小篆、曰薤葉篆、曰垂露篆・曰懸針篆、云云、此皆小篆之異體也。〔酉陽雜俎、廣知〕百體中有㆓懸鍼書・垂露書㆒。〔珊瑚鉤詩話〕書有㆓垂露者㆒、取㆓草木婀娜垂㆑露之象㆒。

【垂隴】178 スイロウ　地名。春秋、鄭の地。河南省滎澤縣の東北。〔左氏、文、二〕穆伯會㆓諸侯㆒、及㆓晉司空士縠㆒盟㆓于垂隴㆒。〔左氏、襄、二十七〕鄭伯享㆓趙孟于垂隴㆒。

【垂和】179 スイワ　［佛］佛が權りに種々の姿をとつて、この世に現はれること。權化。〔王筠、與㆓東陽盛法師㆒書〕仰承㆓垂和㆒、履㆑福享㆑年、九十有四。

【垂駕籠】180 タレカゴ　むしろをたれて戸にしたかご。

【垂花門】181 ch‘uei^2 hua^1 men^2　屋根の四隅に花の垂下したやうな柱のある門。中門などに多く此の種の門を設ける。

【垂惠聚】182 スイケイシユウ　地名。安徽省蒙城縣の西北。〔水經、陰溝水注〕又東南屈逕㆓郎山南㆒、山東有㆓垂惠聚㆒、世謂㆓之禮城㆒。

【垂針書】183 スイシンショ　書法の一つ。垂露(176)の❷に同じ。〔墨池編、垂針異勢〕丨、此名㆓懸針㆒、古無㆓此法㆒、右軍書曲江序、年字緣向㆑下頓㆑筆、歲字三畫藏㆑鋒、與㆓年字㆒頓相逼、遂改爲㆓垂露㆒、頓筆直下垂針、後人立懸針、相承遵㆑法也。

【垂乳根】184 タラチネ　母親の枕詞。轉じて、親の意。〔續古今和歌集、雜、下〕たらちねの心の闇を知るものは子を思ふ時の涙なりけり。

【垂乳女】185 タラチメ　生みの母。母親をいふ。〔千載和歌集、哀傷〕たらちめやとまりて我れを惜しまし。

【垂乳男】186 タラチヲ　生みの父。父親をいふ。〔紀貫之集〕たらちをと我れとが中。

【垂不㆑峻】187 タレテタカカラズ　翼を垂れて高くのぼらない。〔左氏、昭、五〕謙不㆑足、飛不㆑翔、垂不㆑峻、翼不㆑廣。

【垂之竹矢】188 スイノチクシ　舜の時の名工、垂の作つた竹の矢。字解の❹を見よ。〔書、顧命〕垂之竹矢在㆓東房㆒。

【垂足三角形】189 スイソクサンカクケイ　數學用語。三角形の各頂點から對邊に下した垂線の足を結んで作つた三角形を、原三角形に對していふ。

【坧】5013　ヒ　圮(**3**−**4888**)に同じ。〔正字通〕坧、同㆑圮。

【⿰圭又】5014　ホウ　封(**4**−**7426**)に同じ。〔正字通〕⿰圭又、與㆑封同。

【⿱北土】5015　キウ　丘(**1**−**33**)の古字。〔集韻〕丘、古作㆑⿱北土。

【⿰土⿱大二】5016　タ　汏(**6**−**17121**)の古字。〔集韻〕汏、古作㆑⿰土⿱大二。

【⿰土朮】5017　シユツ　ジユチ　〔集韻〕食律切　［質］。

たかい。〔集韻〕⿰土朮、高也。

【㘴】5018　サ　坐(**3**−**4931**)に同じ。〔集韻〕坐、古作㆑㘴。

【⿱宀王】5019　シ　至(**9**−**30142**)の古字。〔集韻〕至、古作㆑⿱宀王。

【坈】5020　カウ　坑(**3**−**4932**)の俗字。〔龍龕手鑑〕坈、俗坑字。

【坒】5021　シ　垐(**3**−**5037**)に同じ。〔篇海〕坒、音垐、義同。

【⿰土冊】5022　ホウ　堋(**3**−**5217**)の俗字。〔篇海〕堋、俗作㆑⿰土冊、譌。

【⿰土去】5023　ガウ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰土去、音敖。

【⿰土目】5024　ハツ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰土目、音潑。

【⿰土册】5025　タン　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰土册、他甘切。

【⿱丕土】5026　ヒ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱丕土、音丕。

【⿰土乇】5027　テウ　兆(**1**−**1347**)の俗字。〔中華大字典〕⿰土乇、兆俗字。

【⿱吅土】5028　ザ　坐(**3**−**4931**)に同じ。〔篇海〕坐、或作㆑⿱吅土。

【垃】5029　ラツ　〔辭源〕俗讀如㆑辣。　ㄌㄜˋ　le^4

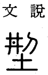
汚れたものをあつめる意。垃圾を見よ。

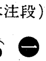
【垃圾】1 ラツシヨク ラツセイ　塵土のつもること。今、糞便をいふ。〔辭源〕垃圾、俗謂㆓塵土穢積㆒曰㆓垃圾㆒、讀若㆑色。〔辭海〕圾、讀如㆑西、固形廢物、不㆑能㆘由㆓溝渠㆒排泄㆖者也。〔夢粱錄、河舟〕更有㆘載㆓垃圾糞土㆒之船㆖。〔夢粱錄、諸色雜貨〕亦有㆘每日掃㆓街盤垃圾㆒者㆖、每支㆑錢犒㆑之。

【垃圾桶】2 lê^4 sê^4 t‘ung^3　塵箱。

六畫

【型】5030　ケイ　ギヤウ　〔集韻〕乎經切　［靑］　ㄒㄧㄥˊ　hsing^2


（小說篆文）


（小段篆本注）

❶**いがた。かた。**型(**3**−**5151**)に同じ。〔說文〕型、鑄㆑器之灋也、从㆑土刑聲。〔段注〕以㆑木爲㆑之曰㆑模、以㆑竹曰㆑笵、以㆑土曰㆑型、引㆓伸之㆒、爲㆓典型㆒。〔謝靈運、命㆓學士㆒講㆑書詩〕鑠㆑金既云㆑刃、凝㆑土亦能型。

❷刑(2―1886)に通ず。〔說文通訓定聲〕型、經傳多以㆑刑爲㆑之、又誤作㆑刑。❸侀(1―574)に通ず。〔說文通訓定聲〕型、字亦作㆑侀、禮記王制、刑者侀也、侀者成也。

【型法】1 ケイハフ いがた。模型。

【型模】2 ケイボ いがた。土に型、木に模といふ。模型。字解の❶を見よ。

【型錄】3 カタログ 英語 catalogue の當字。販賣目錄。商品目錄。

【垌】5031 トウ ツ 〔玉篇〕拖孔切 董

❶つぼ。ほとぎ。〔玉篇〕垌、缶垌也。❷姓。〔萬姓統譜〕垌夫、漢川人、嘉定進士。

【垍】5032 キ ギ 〔集韻〕巨至切 寘

小篆

❶堅い土。〔說文〕垍、堅土也、讀若㆑冀、从㆑土自聲。〔說文通訓定聲〕周禮所謂強㯺、管子所謂五壏、是也。❷やきもの。〔六書故〕今人以㆑垍爲㆓陶器㆒。

【垎】5033 カク ギャク 〔集韻〕轄格切 陌

小篆

かわく。又、かたい。〔說文〕垎、水乾也、从㆑土各聲、一曰、堅也。〔段注〕乾、音干、玉篇・廣韻、皆作㆓土乾也㆒、爲㆑長、謂㆓土中之水乾而無㆑潤也、按、乾與㆑堅義相成、水乾則土必堅。

【垏】5034 ロツ ロチ 〔集韻〕勒沒切 月

坑のかこひ。〔集韻〕垏、土埂埒也。

【⿱㓞土】5035 ギン

垠(3―5054)の古字。〔集韻〕垠、古作㆑⿱㓞土。

【⿰土戎】5036 ジョウ ニュ 〔集韻〕乳勇切 腫

地名。〔集韻〕⿰土戎、地名。

【垐】5037 一シ ジ 〔集韻〕才資切 支 二ショク ゾク 〔集韻〕疾力切 職

小篆

一二❶土を道の上に敷く。〔說文〕垐、以㆑土增㆓大道上㆒、从㆑土次聲。〔段注〕此與㆑茨同意、以㆑土次㆓於屋上㆒曰㆑茨、以㆑土次㆓於道上㆒曰㆑垐。❷にくむ。堲(3―5276)に同じ。又、㑵(1―949)に通ず。〔說文〕堲、古文垐、从㆓土卽㆒、虞書曰、龍朕堲㆓讒說殄㆑行、堲、疾惡也。〔說文通訓定聲〕垐、叚借爲㆑㑵、實爲㆑疒。

【垑】5038 シ 〔集韻〕敞尒切 紙

小篆

たのむ。〔說文〕垑、恃也、从㆑土多聲。〔段注〕廣韻曰、恃㆓土地㆒也、恃㆓土地㆒者、自多㆓其土㆒、故字从㆑土、玉篇曰、治㆓土地㆒名、恐有㆓錯誤㆒矣。

【垒】5039 一ルイ 〔集韻〕魯水切 紙 二ルイ 〔集韻〕力僞切 寘

小篆

一二❶墼を積みかさねる。練り堅めて未だ燒かない土を積みかさねて牆を作る。〔說文〕垒、絫㆑墼也、从㆓厽土㆒、厽亦聲。〔段注〕未㆑燒者謂㆓之墼㆒、今俗謂㆓之土墼㆒。❷厽(2―3075)に同じ。〔集韻〕厽、或从㆑土。

解字 會意形聲。厽(土を累積して牆を作る意)と土との合字。本義は練り堅めて未だ燒かざる土をつみかさねて牆を作る意。厽は音を兼ねる。〔說文、厽、絫㆑墼也、从㆓厽土㆒、厽亦聲、段注〕墼者令適未㆑燒者也、已燒者爲㆓令適㆒、云云、積㆓坺土㆒爲㆑牆曰㆑厽、積㆑墼爲㆑牆曰㆑垒。

【垓】5040 一カイ 〔集韻〕柯開切 灰 ㄍㄞ kai¹ 二カイ 〔集韻〕居諧切 佳 慣ガイ

小篆

一❶あめが下。廣土。地のきはみにまで至る廣い土地。〔說文〕垓、兼㆓晐八極㆒地也、从㆑土亥聲、國語曰、王者尻㆓九垓之田㆒。〔段注〕晐、各本作㆑垓、今正、晐、俗作㆑該、云云、兼㆓備八極㆒之地、謂㆓之垓㆒、鄭語曰、王者居㆓九畡之田㆒、按、畡者、垓字之異也。❷さかひ。かぎり。〔淮南子、俶眞訓〕設㆘於無㆓垓坫㆒之宇㆖。〔注〕垓坫、垠堮也。〔揚雄、衞尉箴〕重㆑限累㆑垓、以防㆓暴卒㆒。❸數の名。㋑千億をいふ。〔太平御覽、工藝、數〕風俗通曰、十億謂㆓之兆㆒、十兆謂㆓之經㆒、十經謂㆓之垓㆒。㋺京の一億倍をいふ。〔算法統宗、大數〕千萬億・兆(萬萬億)・京(萬萬兆)・垓(萬萬京)。❹或は畡(7―21828)に作る。〔集韻〕垓、或从㆑田。二❶きざはし。陔(11―41633)に通ず。〔說文通訓定聲〕垓、叚借爲㆑陔。〔集韻〕垓、壇級。〔史記、武帝紀〕太乙壇三垓。〔注〕集解曰、徐廣曰、垓、階次也、李奇曰、重也。〔漢書、郊祀志上〕泰一壇三陔。❷垓下は地名。垓下(2)を見よ。

名乘 カヌ。

【垓埏】1 ガイエン 天地のはて。〔司馬相如、封禪文〕大漢之德、云云、上暢㆓九垓㆒、下泝㆓八埏㆒。〔注〕善曰、垓、重也、埏、地之八際也、言㆘其德上達㆓於九重之天㆒、流㆗於地之八際㆖。

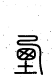
【垓下】2 ガイカ 地名。安徽省鳳陽府靈璧縣の東南。漢の高祖が楚の項羽を圍み滅した處。〔史記、項羽記〕項王軍壁㆓垓下㆒。〔謝瞻、張子房詩〕垓下隕㆓攙搶㆒。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、虹縣〕垓下聚、縣西五十里、孔穎達曰、垓下是高岡絕巖、今猶高三四尺、其聚邑及堤、皆在㆓巖側㆒、因取㆑名焉、漢五年、項王軍㆓垓下㆒、兵少食盡、漢軍及㆓諸侯兵㆒、圍㆑之數重處也。

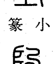
【垓下歌】3 ガイカノウタ 歌辭の名。楚、項羽作。漢の高祖に垓下に圍まれた時、形勢が既に窮まつたことを慷慨して自ら作つたもの。尙、五山僧、桃源瑞仙の史記鈔には、時不㆑利兮の次に、古本には威勢廢威勢廢兮の七字があるといふ。これによれば、時不㆑利威勢廢、威勢廢兮騅不㆑逝となり、全體が五句となる。〔史記、項羽紀〕項王則夜起飮㆓帳中㆒、有㆓美人㆒名虞、常幸從、駿馬名騅、常騎㆑之、於㆑是項王乃悲歌忼慨、自爲㆑詩曰、力拔㆑山兮氣蓋㆑世、時不㆑利兮騅不㆑逝、騅不㆑逝兮可㆓奈何㆒、虞兮虞兮奈㆑若何、歌數闋、美人和㆑之、項王泣數行下、左右皆泣、莫㆓能仰視㆒。〔古詩源、漢詩、項羽、垓下歌〕力拔㆑山兮氣蓋㆑世、時不㆑利兮騅不㆑逝、騅不㆑逝兮可㆓奈何㆒、虞兮虞兮奈㆑若何。

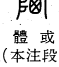
【垓極】4 ガイキョク 地のはて。荒遠の地。〔揚雄、大鴻臚箴〕蕩蕩唐虞、經㆓通垓極㆒。

【垓坫】5 ガイテン きし。さかひ。厓岸。垠堮。〔淮南子、俶眞訓〕設㆘於無㆓垓坫㆒之宇㆖。〔注〕垓坫、垠堮也。

【垔】5041 一イン 〔集韻〕伊眞切 眞 ㄧㄣ yin¹ 二シュ ジュ 〔玉篇〕時注切 遇 三トウ ヅ 〔玉篇〕徒候切 宥


小篆


或體（段注本）


古文

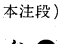
🈩🈔🈪❶ふさぐ。土で塞ぐ。⿱卥土(3−5233)に同じ。〔正字通〕垔、篆作㆑⿱卥土。〔說文〕垔、𡨄也、从㆑土卥聲、商書曰、鯀垔㆓洪水㆒。❷或は陻(11−41723)・堙(3−5239)・⿰土因(3−5077)に作り、籀文は⿱𠧪土(3−5281)に作る。〔集韻〕垔、或作㆓陻・堙・⿰土因㆒、籀作㆑⿱𠧪土。❸古は⿱卥土(3−5336)・⿱𠧪土(3−5598)に作る。〔集韻〕垔、古作㆑⿱卥土。〔字彙補〕⿱𠧪土、古文垔字。

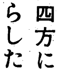
參考 本來、字形は🈩を垔とし、🈔🈪を垔とすべきであるが、今、康熙字典に從ふ。〔字彙、辨似、二字相似〕垔、音因、上㆑城具、从㆓東西之西㆒。垔、音樹、立也、从㆑襾音罅。

【垍】 5042 タイ

堆(3−5211)の本字。〔正字通〕垍、堆本字。

【垗】 5043 テウ デウ 〔集韻〕徒了切 篠


小篆（說文）


小篆（段注本）

❶**四方に土手をめぐらした祭祀の場所。又、そこで祭祀を行ふこと。**兆(1−1347)に通ず。〔說文〕垗、畔也、爲㆓四畔㆒畍㆓祭其中㆒、从㆑土兆聲、周禮曰、垗㆓五帝於四郊㆒。〔段注〕畔者田畍也、畍、各本譌作㆑時、集韻・類篇又譌㆑時、今正、四畔、謂㆓四面有㆑埒也、周禮小宗伯、兆㆓五帝於四郊㆒、鄭曰、兆、爲㆓壇之塋域㆒、然則四面爲㆓垠埒㆒也、云云、今周禮作㆑兆、許作㆑垗者、蓋古書・今書之不㆑同也。〔正字通〕垗、通作㆑兆。❷**はふりどころ。**塋域。〔廣雅、釋丘〕垗、葬地也。

解字 會意形聲。土と兆（分つ意）との合字。兆は又聲。本義は田間のあぜ。〔說文、垗、段注〕畔者田畍也、兆者分也、形聲中有㆓會意㆒也。

【垘】 5044 🈩フク ブク 〔集韻〕房六切 屋 🈔ホク ボク 〔集韻〕鼻墨切 職

🈩🈔❶**土でふさがる。**〔史記、天官書〕川塞谿垘。〔注〕集解曰、徐廣曰、土壅曰㆑垘。❷**くづれる。**〔史記、天官書、川塞谿垘、注〕集解曰、孟康曰、垘、崩也。❸**ながれる。**〔史記、天官書、川塞谿垘、注〕集解曰、蘇林曰、垘、流也。

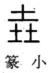
【垙】 5045 クヮウ 〔集韻〕姑黄切 陽

❶**ちまた。**みち。〔集韻〕垙、陌也。❷或は⿰阝光(11−41619)・⿰田光(7−21832)に作る。〔集韻〕垙、或从㆑阜、从㆑田。

【⿱舛土】 5046 ケツ

桀(6−14753)の古字。〔集韻〕桀、古作㆑⿱舛土。

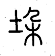
【垚】 5047 ゲウ 〔集韻〕倪幺切 蕭 ㄧㄠˊ yao^2


小篆

❶**土の高いさま。**〔說文〕垚、土高皃、从㆓三土㆒。❷堯(3−5272)に同じ。〔正字通〕垚、同㆑堯。

解字 會意。土を三つ重ねて土の高い意を表はす。〔說文通訓定聲〕垚、土高也、从㆓三土㆒、會意。

【垛】 5048 タ ダ 〔集韻〕都果切 哿 ㄉㄨㄛˇˋ tuo$^{3\cdot4}$


小篆

❶**門の側にある堂。**〔說文〕垛、門堂孰也、从㆑土朵聲。〔段注〕謂㆓之垛㆒者何也、朵者木下垂、門堂伸㆓出於門之前後㆒、略㆓取其意㆒、後代有㆓朵殿㆒。〔說文通訓定聲〕門堂之塾有㆓左右㆒、左右各有㆓南向北向兩塾㆒、今俗謂㆓門兩邊伸出小牆㆒曰㆓垛頭㆒、其遺語也。❷**積んだ土。**〔一切經音義、十二〕積土曰㆑垛。〔一切經音義、十九〕吳人謂㆓積土㆒爲㆑垛、垛、堅也。❸**あづち。**〔玉篇〕垛、射垛。❹**かべ。**牆壁。防壘。〔紀效新書〕常見㆓城垛㆒。❺⿰阝朵(11−41624)に通ず。〔說文通訓定聲〕垛、字亦作㆑⿰阝朵。❻字形、又垜(3−5049)に作る。❼[現]㋑築き上げる。積みかさねる。㋺建築物の凸出した處。

【垛口】1 tuo^2 k'ou^3 銃眼。砲眼。

【垛子】2 tuo^3 tzŭ 射垛。あづち。

【垛上】3 tuo^4 shang^4 積みあげる。

【垛錢】4 tuo^4 ch'ien^2 錢をつみ重ねる。蓄財する。

【垛馱】5 タ ダタ 馬につけた荷物。〔福惠全書、刑名部、賊盗上、失事〕早起登㆑程、垛馱迷失。

【垛的】6 タ テキ あづちに懸けた弓の的。〔和漢三才圖會、兵器、砲石〕連城銃、此鉛子之所㆑到、殆二千七百歩之遠、不㆑失㆓垛的㆒。

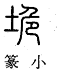
【垛樓】7 tuo^3 lou^2 指運者の居る高いやぐら。〔水滸傳、八十回〕垛樓上一聲梆子響、二十四部水車、一齊用力踏動、其船如㆑飛。

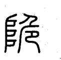
【垛字音】8 tuo^4 tzŭ^4 yin^1 同音の字を幾つも重ねる。

【垜】 5049 ダ

垛(3−5048)に同じ。〔廣韻〕垛、亦作㆑垜。

【垝】 5050 🈩キ 〔集韻〕苦委切 紙 ㄍㄨㄟˇ kuei^3 🈔キ 〔集韻〕居僞切 寘


小篆


或體

🈩🈔❶**崩れやぶれた垣。**〔說文〕垝、毀垣也。从㆑土危聲、詩曰、乘㆓彼垝垣㆒。〔管子、霸形〕東山之西、水深滅㆑垝。〔注〕垝、敗牆也。❷**やぶれる。**くづれる。〔詩、衞風、氓〕乘㆓彼垝垣㆒。〔傳〕垝、毀也。❸**だい。**土を積んで造つたたな。〔爾雅、釋宮〕垝謂㆓之坫㆒。〔說文通訓定聲〕垝、凡絫㆑土爲㆑之者、皆得㆓以㆑坫名㆒、即皆得㆓以㆑垝名㆒。〔廣韻〕垝、坫、堂隅可㆑致㆑物。❹陒(11−41630)に同じ。〔說文〕垝、陒、垝、或从㆑阜。❺⿱宀危(3−7131)に同じ。〔集韻〕⿱宀危、通作㆑垝。

【垞】 5051 タ ダ 〔集韻〕直加切 麻 ㄔㄚˊ ch'a^2

❶**城の名。**古の嵩國で、今の江蘇省銅山縣の北。〔水經、泗水注〕泗水逕㆓留縣㆒而南、逕㆓垞城東㆒。❷⿰阝宅(11−41851)に同じ。〔集韻〕⿰阝宅、丘名、或作㆑垞。

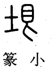
【⿱汘土】 5052 ビ

洋(6−17553)の古字。〔字彙〕⿱汘土、籀文洋字、見㆓周宣王石鼓文郭注㆒。

【垟】 5053 ヤウ 〔集韻〕余章切 陽

土の精。〔玉篇〕垟、土精也。〔集韻〕垟、墳垟、土怪。

【垠】 5054 🈩ギン 〔集韻〕魚巾切 眞 ㄧㄣˊ yin^2 🈔ギン ゴン 〔集韻〕魚斤切 文 🈪ゴン 〔集韻〕五斤切 元 [四]コン 〔集韻〕苦恨切 願


小篆

🈩🈔🈪❶**地のはて。**さかひ。かぎり。垠(3−5125)・圻(3−4903)に

同じ。〔正字通〕垠、从㆑土从㆑㠯。〔説文〕垠、地垠咢也、从㆑土㠯聲。云云、圻、垠或从㆑斤。〔段注〕古者邊畍謂㆓之垠㆒。〔漢書、賈誼傳〕坱圠無㆑垠。〔太玄經、玄文〕熿熿出㆓於無垠㆒。〔注〕垠、限也。〔張華、鷦鷯賦〕或託㆓絶垠之外㆒。〔注〕善曰、絶垠、天邊之地也。㊁きし。がけ。〔説文〕垠、一曰、岸也。〔楚辭、劉向、九歎、怨思〕山峻高以無㆑垠兮。〔注〕垠、岸涯也。〔木華、海賦〕則南澰㆓朱崖㆒、〔注〕東都主人曰、南燿㆓朱垠㆒、垠、亦崖也。㊂かたち。〔淮南子、覽冥訓〕不㆑見㆓朕垠㆒。〔注〕垠、形狀也。㊃或は圻(3−4903)・埜(3−5487)に作る。〔集韻〕垠、或作㆓圻・埜㆒。㊄通じて泿(6−17348)・沂(6−17183)に作る。〔集韻〕垠、通作㆓泿・沂㆒。㊅また垦(3−5055)に作る。〔集韻〕垠、亦書作㆑垦。㊆銀(11−40355)に通ず。〔荀子、成相〕守㆓其銀㆒、〔注〕銀、與㆑垠同。㊇限(11−41627)に通ず。〔莊子、逍遙遊〕託㆓之於絶垠之外㆒。〔釋文〕垠、本又作㆑限。〖四〗もり上ったあとのある土。〔集韻〕垠、土有㆓起跡㆒曰㆑垠。

【垠崖】1 ギンガイ きり立ったやうに聳えたきし。がけ。〔韓愈、調㆓張籍㆒詩〕垠崖劃㆓崩豁㆒、乾坤擺㆓雷硠㆒。

【垠堮】2 ギンガク かぎり。邊際。極限。垠鍔。垠鄂。垠際。〔淮南子、俶眞訓〕未㆑有㆓形埒垠堮㆒。〔杜甫、有㆑事㆓于南郊㆒賦〕溟涬爲㆓之垠堮㆒。

【垠鍔】3 ギンガク かぎり。邊際。垠堮に同じ。〔張衡、西京賦〕前後無㆑有㆓垠鍔㆒。〔注〕善曰、許愼曰、垠鍔、端崖也。銑曰、垠鍔、際畔。〔王騰辨、蜀都賦〕羊腸繞㆓其垠鍔㆒、鳥道駕㆓於至虛㆒。

【垠垠】4 ギンギン つらなり聳え立つさま。〔柳宗元、閔生賦〕肆㆓余目於湘流㆒兮、望㆓九疑之垠垠㆒。

【垠隒】5 ギンゲン きし。岸。〔郭璞、江賦〕鯪鯥踦㆓踽於垠隒㆒。〔注〕向曰、垠隒、岸也。

【垠谷】6 ギンコク 清、潘宗洛(7−18236‥191)の號。

【垠際】7 ギンサイ はて。かぎり。垠堮。涯際。〔晉書、皇甫謐傳〕欲㆔芒芒而無㆓垠際㆒。

【垦】5055 ギン

垠(3−5054)に同じ。〔集韻〕垠、亦書作㆑垦。

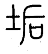
【垡】5056 ハツ ボチ 〔集韻〕房越切 ㄈㄚˊ fa² 〖月〗

㊀土を起す。たがやす。〔集韻〕垡、耕起㆑土也。㊁或は墢(3−5463)に作る。〔集韻〕垡、或从㆑發。㊂また⿰土伐(3−5057)に作る。〔集韻〕垡、亦書作㆑⿰土伐。㊃通じて伐(1−439)・坺(3−5000)に作る。〔集韻〕垡、通作㆓伐・坺㆒。〔説文通訓定聲〕伐、考工匠人、一耦之伐、注、䀿上曰㆑伐、伐之言、發也、字亦變作㆑垡。

【⿰土伐】5057 ハツ

垡(3−5056)に同じ。〔集韻〕垡、亦書作㆑⿰土伐。

【垢】5058



小篆

〖一〗コウ ク 〔集韻〕擧后切 ㄍㄡˋ kou⁴ 〖有〗

〖二〗キク コク 〔集韻〕居六切 〖屋〗

〖三〗コウ ク 〔集韻〕丘候切 〖宥〗

〖一〗㊀あか。よごれ。かす。〔説文〕垢、濁也、从㆑土后聲。〔謝靈運、述㆓祖德㆒詩〕而不㆑纓㆓垢氛㆒。〔注〕善曰、垢、滓也。㊁ちり。〔集韻〕垢、一曰、塵也。㊂わるい。きたない。〔後漢書、崔寔傳〕政令垢翫。〔注〕垢、惡也。㊃はぢ。はづかしめ。詬(10−35433)に通ず。〔説文通訓定聲〕垢、叚借爲㆑詬。〔左氏、宣、十五〕國君含㆑垢。〔注〕垢、恥也。㊄或は坸(3−4997)に作る。〔集韻〕垢、或作㆑坸。〖二〗けがれ。〔集韻〕垢、不淨也。〖三〗けがれ。正しくない。解垢。〔集韻〕垢、解垢、詭曲之辭。〔莊子、胠篋〕解垢同異之變多、則俗惑㆓於辯㆒矣。

【垢穢】1 コウアイ けがれる。よごれる。又、けがれ。よごれ。〔爾雅、釋言、蠲明也、疏〕樊光云、蠲㆓除垢穢㆒、使㆓令清明㆒。〔隋書、楊伯醜傳〕形體垢穢、未㆓嘗櫛沐㆒。

【垢衣】2 コウイ 垢のついた衣服。〔劉孝綽、答㆓雲法師㆒書〕豈直淨㆓一人之垢衣㆒、將㆔以破㆓羣生之暗室㆒。

【垢涴】3 コウエン よごれ。けがれ。涴もよごれ。汙に同じ。〔和漢三才圖會、絹布類、火浣布〕若有㆓垢涴㆒、以㆑火燒㆑之則淨也。

【垢汙】5 コウヲ あかづきけがれる。垢濁。又、よごれ。けがれ。〔詩、周南、葛覃、薄汙㆓我私㆒、疏〕公服則無㆓垢汙㆒矣。〔漢書、周仁傳贊〕周仁爲㆓垢汙㆒、君子譏㆑之。〔後漢書、西南夷、哀牢傳〕幅廣五尺、絜白不㆑受㆓垢汙㆒。

【垢圿】6 コウカツ ちり。あくた。〔山海經、西山經、錢來之山其上多㆑松其下多㆓洗石㆒、注〕澡洗可㆘以磢㆑體去㆗垢圿㆖。

【垢區】7 コウク 清、程邃(8−25081‥80)の號。

【垢玩】8 コウグワン 政治や行ひなどがきたなくてなまけ怠ること。垢翫。〔唐書、田令孜傳〕百度崩弛、內外垢玩。

【垢翫】9 コウグワン けがしもてあそばれる。垢玩。〔後漢書、崔寔傳〕政令垢翫、上下怠懈。〔注〕垢、惡也。

【垢故】10 コウコ あかづいてふるい。〔吳志、韋曜傳〕更怪㆓其書之垢故㆒、又以詰㆑曜。

【垢誤】11 コウゴ けがしあやまる。〔後漢書、劉虞傳〕盡㆓心王室㆒、而反造㆓逆謀㆒、以相垢誤邪。

【垢滓】12 コウシ あかとかす。けがれ。よごれ。〔馬融、長笛賦〕溉㆓盥汙穢㆒、澡㆓雪垢滓㆒。

【垢臭】13 コウシウ あかのにほひ。惡臭。惡者に喩へる。〔後漢書、楊倫傳〕猥以㆓垢臭㆒、改典㆓大郡㆒。

【垢辱】14 コウジョク はづかしめ。恥辱。〔夏侯湛、抵疑〕消磨灰爛、垢辱招㆑穢。

【垢石】15 コウセキ 石をいふ。玉に對して、石を垢といふ。〔淮南子、説山訓〕明月之珠、出㆓於蠬蜄㆒、周之簡圭、生㆓於垢石㆒。〔注〕簡圭、大圭、美玉出㆓於石中㆒、故曰㆑生㆓垢石㆒。

【垢濁】16 コウダク あかづきけがれる。又、あかとけがれ。垢汙。〔説苑、辨物〕能蕩㆓滌垢濁㆒焉。〔白虎通、五行〕水者受㆓垢濁㆒、故自死腐朽也。

【垢膩】17 コウヂ あかや汗あぶらのよごれ。垢脂。〔杜甫、舟中苦熱㆓云云詩〕入㆑舟雖㆓苦熱㆒、垢膩可㆓溉灌㆒。

【垢塵】18 コウヂン あかとちり。けがれ。〔白居易、訪㆓陶公舊宅㆒詩〕垢塵不㆑汚㆑玉、靈鳳不㆑啄㆑羶。

【垢泥】19 kou⁴ ni² 人體の表面に生ずるあか。

【垢土】20 コウド あかとつち。けがれ。〔和漢三才圖會、獸類、鹿〕刷㆓淨垢土㆒。

【垢瘢】21 コウハン あかと傷痕。〔柳貫、題㆓瀛洲仙會圖㆒詩〕直啓㆓眞源㆒滌㆓垢瘢㆒。

【垢秕】22 コウヒ あかとしひな。轉じて、やくに立たぬものにいふ。〔劉詵、古意詩〕著㆓天下名德㆒爲㆓垢秕㆒。

【垢氛】23 コウフン けがれた氣。俗氣。〔謝靈運、述㆓祖德㆒詩〕兼抱㆓濟㆑物性㆒、而不㆑纓㆓垢氛㆒。〔注〕善曰、垢、滓也、氛、氣也。

【垢弊】24 コウヘイ よごれ破れる。又、あかのついて破れたもの。〔唐書、蕭復傳〕常衣㆓垢弊㆒、居㆓一室㆒。

【垢磨】25 アカスリ 入浴してあかを落すに用ひる道具。〔和漢三才圖會、蓏菜類、絲瓜〕按、唯用㆓老瓜皮㆒爲㆓浴室之垢磨㆒而已。

【垢面】26 コウメン あかのついた顏。〔漢書、王莽傳上〕亂首垢面、不㆑解㆓衣帶㆒連月。〔顏氏家訓、風操〕蓬頭垢面。

【垢離】27 コリ 垢がはなれる。神佛に願を掛けるとき水を浴び身心を清めること。一説に、垢離は當字（アテジ）で、佛の經典に垢離の字はなく、川降（カハオリ）の約で、川に降りて禊（ミソギ）することであるといふ。〔著聞集、一〕諸人がこりの水を一人と汲みければ。

【垢黧】28 コウレイ あかづいて黑い。〔王禹偁、詩〕垢黧不㆑可㆑識、滌㆑手臨㆓清漪㆒。

【垢道人】29 コウダウジン 清、程邃(8−25081‥80)の號。

【含㆑垢忍㆑恥】30（ハヂヲフクミハヂヲシノブ） 屈辱をたへしのぶ。〔胡銓、上㆓高宗㆒封事〕陛下尚不㆓覺悟㆒、竭㆓民膏血㆒而不㆑恤、忘㆓國大讎㆒而不㆑報、含㆑垢忍㆑恥、擧㆓天下㆒而臣㆑之、甘心焉。

【含㆑垢匿㆑瑕】31（ハヂヲフクミキズヲカクス） 恥辱を咎めず缺點をもよく容れること。度量の大きい喩。〔左氏、宣、十五〕川澤納㆑汙、山藪藏㆑疾、瑾瑜匿㆑瑕、國君含㆑垢、天之道也。

【刮㆑垢磨㆑光】32（アカヲケヅリヒカリヲマス） 人の瑕疵を刮り去つて智德の光を發揮させること。人材を成就させる喩。〔韓愈、進學解〕刮㆑垢磨㆑光、蓋有㆓幸而獲㆑選、孰云㆓多而不㆑揚。

【洗㆑垢索㆑瘢】33（アカヲアラツテキズヲモトム） どこまでも追及して過失・缺點をあばくこと。〔後漢書、趙壹傳〕所㆑好則鑽㆑皮出㆓其毛羽㆒、所㆑惡則洗㆑垢求㆓其瘢痕㆒。〔唐書、魏徵傳〕惡則洗㆑垢索㆑瘢。

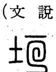
【垕】5059

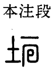
コウ ❶厚（**2－2949**）の古字。〔説文〕垕、古文厚、从㆓后土㆒。〔集韻〕厚、古作㆑垕。❷姓。〔正字通〕姓、印藪、漢垕文。

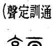
【垣】5060

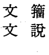
［一］エン ヲン 〔集韻〕于元切 ㄩㄢˊ yüan² 元

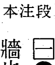
［二］クヮン グヮン 〔集韻〕胡官切 寒


小篆（説文）


小篆（段注本）


小篆（聲定訓通）


籀文（説文）


籀文（段注本）

［一］❶**かき**。かきね。〔説文〕垣、牆也、从㆑土亘聲。〔段注〕此云㆓垣牆也㆒者、渾㆓言之㆒、牆下曰㆓垣蔽也㆒、析㆓言之㆒、垣蔽者、牆又爲㆓垣之蔽㆒也、垣、自㆓其大㆒言㆑之、牆、自㆓其高㆒言㆑之。〔釋名、釋宮室〕垣、援也、人所㆓以依阻以爲㆓援衞㆒也。〔韻會〕垣、卑曰㆑垣、高曰㆑墉。〔詩、大雅、板〕大師維垣。〔傳〕垣、牆也。〔疏〕垣者、小牆之名。❷**太微・紫微・天市の三星座の區域を垣といふ**。〔小學紺珠、天道類、三垣〕三垣、上垣太微十星、中垣紫微十五星、下垣天市二十二星。〔癸辛雜識〕揚州分野、正直㆓天市垣㆒、所㆓以兩浙之間、市易浩繁㆒。❸**役所**。〔白居易、張十八詩〕諫垣幾見遷㆓官省㆒。❹古は𩏠（**12－45341**）に作る。〔説文〕𩏠、籀文垣从㆑𩏑。〔集韻〕垣、古作㆑𩏠。❺**姓**。〔姓氏急就篇〕垣氏、風俗通、垣、秦邑、因以爲㆑姓。［二］❶**かき**。［一］の❶に同じ。〔集韻〕垣、墉也。❷古は𩏠（**12－45341**）に作る。〔集韻〕垣、古作㆑𩏠。❸或は宣（**8－25498**）に作る。〔集韻〕垣、或作㆑宣。

名乘 ハン。

參考 坦（**3－4971**）は別字。

【垣衣】1（エンイ） 牆に生ずる苔の名。〔廣雅、釋草〕在㆑屋曰㆓昔邪㆒、在㆑牆曰㆓垣衣㆒。〔本草、垣衣〕釋名、垣嬴・天韭・鼠韭・昔邪、集解、別錄曰、垣衣、生㆓古垣墻陰或屋上㆒。〔王融、藥名詩〕垣衣不㆑可㆑裳。

【垣嬴】2（エンエイ） 牆に生ずる苔の名。垣衣に同じ。

【垣越】3（カキゴシ） 垣の上を越え、又は垣を隔ててものごとをすること。かきねごし。〔後撰和歌集、春、下〕垣ごしに散りくる花。

【垣屋】4（エンヲク） ❶かきねとやね。〔史記、蕭相國世家〕何置㆓田宅㆒、必居㆓窮處㆒、爲㆑家不㆑治㆓垣屋㆒、曰、後世賢師㆓吾儉㆒、不賢毋㆑爲㆓勢家所㆑奪。〔後漢書、楊震傳〕伏惟、陛下以㆓邊境未㆑寧、躬自菲薄、宮殿垣屋、傾倚枝柱而已、無㆑所㆓興造㆒。❷（カキヤ）家屋の外垣に添うて建てた家。外部は外圍ひの垣の面と同じで、内面に出入口を付ける。後の門長屋の類。

【垣下】5（エンカ） ❶かきの根本（ネモト）。〔梁簡文帝、昭明太子集序〕發㆓私藏之銅梟㆒、散㆓垣下之玉粒㆒。❷（エンガ エガ）㋑垣下座の略。〔宇津保物語、俊蔭〕ゑがのみこたち。㋺垣下舞の略。〔宇津保物語、初秋〕ゑがの手にも出さぬ手。

【垣下座】6（エガノザ） 饗應のとき、正客以外の相伴として、主人を助け取持ちをする人、又、舞樂などの時に舞人や樂人の着座する所。地下（堂下）に在る。ゑが。ゑんがのざ。かいもと。〔名目抄〕垣下座、云㆓地下座㆒也。〔江家次第、六、石清水臨時祭〕公卿著㆓垣下座㆒。

【垣下舞】7（エンガノマヒ） 古、饗應などの時、垣下の座、卽ち地下の座でする舞樂。堂上には見えない。故に晴だたぬことをも垣下の舞といひ、俗に緣の下の舞といふ。

【垣窌】8（エンカウ） 垣は、かきで圍んで穀物を藏する處。窌は、地を掘つて穀物を藏する處。〔荀子、富國〕垣窌倉廩者、財之末也。〔注〕垣、築㆓牆四周㆒以藏㆑穀也、窌、窖也、掘㆑地藏㆑穀也。

【垣捍】9（エンカン） 守りふせぐ。〔唐書、吳武陵傳〕張太尉厭㆓垣捍之勤㆒、謝㆓易定㆒爲㆓國老㆒。

【垣幹】10（エンカン） かきね。王室を蔽ひ守るもの。藩屛。〔詩、大雅、板、大宗維翰、箋〕王當㆘用㆓公卿諸侯、及宗室之貴者㆒、爲㆓藩屛垣幹㆒、爲㆗輔弼㆖、無㆔疏㆓遠之㆒。

【垣宮】11（エンキユウ） 諸侯の大學。南に面した半周に水をめぐらし、他は垣をめぐらしたからいふ。〔白虎通、辟雍〕諸侯曰㆓泮宮㆒者、半㆓於天子宮㆒也、明㆓尊卑有㆑差、所㆑化少㆒也、半者象㆑璜也、獨南面禮儀之方有㆑水耳、其餘壅㆑之、言㆓垣宮㆒名㆑之、別㆓尊卑㆒也。

【垣曲】12（エンキヨク） 縣名。宋、置く。戰國、魏の王垣邑。漢の垣縣の地。山西省絳縣の東南。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、絳州〕垣曲縣、州東南二百二十里、漢河東郡垣縣地、云云、宋改爲㆓垣曲縣㆒。〔清史稿、地理志〕山西、絳州直隸州、縣五、垣曲。

【垣花】13（ウチアハナ） 琉球の地名。

【垣閎】14（エンクワウ） 南齊の人。榮祖の從父。字は叔通。諡は定。宋に仕へて、官は交・司・益三州刺史、封は樂鄉男に至り、齊に入つて金紫光祿大夫に終る。〔南史、二十五〕。

【垣⿱竹敫】15（エンケウ） かきね。⿱竹敫は、徼の訛、徼は、遶らす物、かきねの類。〔舊唐書、王涯傳〕涯家書數萬卷、侔㆓於祕府㆒、前代法書名畫、人所㆓保惜㆒者、以㆓厚貨㆒致㆑之、不㆑受㆑貨者、卽以㆓官爵㆒致㆑之、厚爲㆓垣⿱竹敫㆒、而藏㆓之複壁㆒。

【垣闕】16（エンケツ） かきと門闕。〔鹽鐵論、散不足〕祠堂屛閣、垣闕罘罳。

【垣縣】17（エンケン） 縣名。漢、置く。戰國、魏の王垣邑。故城は山西省垣曲縣の西北。〔漢書、地理志上〕河東郡、縣二十四、垣。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、絳州、垣曲縣〕垣縣城、在㆓縣西北二十里㆒、故魏邑也、一名王垣、史記、魏武侯二年、城㆓安邑・王垣㆒、又秦昭襄十五年、大良造白起攻㆑魏、取㆑垣、復與㆑之、十八年、復取㆑垣、漢置㆓垣縣㆒。

【垣公】18（エンコウ） 清、趙甲（**10－37171··74**）の字。

【垣溝】19（エンコウ） 垣根とみぞ。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕本宮垣溝單淺、無㆓地可㆑據。

【垣谷】20（ハンヤ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【垣根】21（カキネ） かき。〔萬葉集、十〕鶯の通ふ垣根。

【垣根越】22（カキネゴシ） 垣越（3）に同じ。

【垣根草】23（カキネグサ） 垣根に生ずる草。〔用明天皇職人盡、道行〕隔つる中のかきね草。

【垣齋】25（エンサイ） 宋、黃學行（**12－47926··1017**）の號。

【垣柵】27（エンサク） かきね。やらひ。〔王安石、鴈詩〕垣柵雞長暖、溝池鶩自肥。

【垣墻】28（エンシヤウ） かき。垣牆。〔禮、月令〕坏㆓垣墻㆒、補㆓城郭㆒。〔戰國、燕策〕國之有㆓封疆㆒、猶㆔家之有㆓垣墻㆒。〔莊子、庚桑楚〕將㆘妄鑿㆓垣墻㆒、而殖㆗蓬蒿㆖也。〔管子、地數〕令㆑民毋㆑得㆑築㆓垣墻㆒。

【垣牆】29（エンシヤウ） かき。垣墻。堵墻。〔書、費誓〕無㆘敢寇攘踰㆓垣牆㆒、竊㆓馬牛㆒、誘㆗臣妾㆖。

【垣楯】30（エンジユン） 陣營を張るに、垣根のやうに楯をならべること。

【垣生】31（エンセイ） 明、藺剛中（**9－32399··11**）の字。

【垣代】32（カイシロ） 古、舞樂の時、垣のやうに立ちならんで音樂を助けた人。〔源氏物語、紅葉賀〕四十人のかいしろ。

【垣通】33（カキドホシ） 草の名。方形の莖、心臟形の葉を有し、香氣に富む。液汁は藥用に供す。積雪草。

【垣土】34（エンド） 垣の土。ついぢの土。〔五代史、苻存審傳〕嘗犯㆑法當㆑死、臨㆑刑、指㆓旁壞垣㆒、顧㆓主者㆒曰、願就㆓死於彼㆒、冀得㆓垣土覆㆑尸、主者哀而許㆑之、爲徙㆓垣下㆒。

【垣內】35（カキツ） ❶かきのうちの略轉。垣根の內。〔萬葉集十八〕我がせこが、ふるきかきつの櫻花。❷（カキウチ カイト）姓氏。

〔垣內東皐〕36（カキウチトウカウ） 紀伊の人。名は仲凱。字は全庵。通稱は希八。號は東皐。伊藤仁齋の說を奉ず。官は和歌山藩儒。享保十七年歿す、年五十三。著に東皐文集・東皐隨筆・理氣辨論續貂がある。〔近代著述目錄後篇〕。

〔垣內熊岳〕37（カキウチユウガク） 紀伊の人。名は文徽。字は鼎輔。號は熊岳。伊藤東涯を師とす。寶曆三年歿す、年四十一。著に學庸考・尙書考・田間漫錄、熊岳有聲集・遊學堀河日記がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【垣屏】38（エンペイ） かき。〔晉書、成公綏傳〕垣屏絡繹而珠連、三台差池而鴈翔。

【垣墉】39（エンヨウ） かき。〔書、梓材〕若㆑作㆓室家㆒、既勤垣墉、惟其塗塈茨。〔傳〕已勤立㆓垣牆㆒。

【垣籬】40（エンリ） まがき。かきね。〔元德明、詩〕書永垣籬雞犬閒。

【垣立】41（カキタツ） 和船の左右に、柵の如く立てる垣。〔和漢船用集、十、船處名〕垣立、舟の左右に立垣也、高垣・半垣あり、荷舟・檜垣・丸垣等あり。

【垣閭】42（エンリヨ） かきと里の門。〔張協、雜詩〕環堵自頽毀、垣閭不㆑隱㆑形。〔注〕良曰、垣、牆也、閭、里門也。

【垣有㆑耳】43（カキニミミアリ） 祕密の話の世間にもれやすい喩。〔姚崇、口箴〕室本無㆑暗、垣亦有㆑耳。

【垣榮祖】44（エンエイソ） 南齊の人。崇祖の從兄。字は華先。官は宋の明帝の時、冗從僕射、齊の高帝の時、東海太守・兗州刺史。封は將樂縣子。〔南齊書、二十八〕・〔南史、二十五〕。

【垣間見】45（カイマミ カキマミ） 垣根の隙間からのぞくこと。

【垣見草】46（カキミグサ） うのはなの異名。〔藏玉和歌集〕墻見草、卯花。

【垣護之】47（エンゴシ） 南朝宋、略陽の人。字は彥宗。謚は壯。官は鍾離太守。王玄謨に隨つて、魏を討つ時、其の先鋒となつて功があり、又、南郡王義宣の反を討ち破り、益陽縣侯に封ぜられ、大明中、右衞將軍・豫州刺史となつたが、聚斂に坐して免ぜられた。〔宋書、五十〕・〔南史、二十五〕。

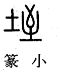
【垣崇祖】48（エンスウソ） 南齊の人。護之の弟の子。字は敬遠・僧寶。官は宋の明帝の時、北琅邪蘭陵太守、齊の高帝の時、豫州刺史。封は望蔡侯。武帝即位の後、帝に附和しないので誅せられた。〔南齊書、二十五〕・〔南史、二十五〕。

【垣曇深】49（エンタンシン） 南齊の人。閎の弟の子。官は臨城令・羽林監。學問・德行があり、王儉に薦められて處州刺史劉楷のもとに赴かんとして、道に卒した。〔南史、二十五〕。

【垣垣居士】50（エンエンコジ） 明、陳復(11－41698・・531)の號。

【見㆓垣一方㆒】51（カキノイツパウヲミル） 垣を隔てて向う側を見る。〔史記、扁鵲傳〕扁鵲以㆓其言㆒飲㆑藥三十日、視㆓見垣一方人㆒。〔注〕索隱曰、方、猶㆑邊也、言㆓能隔㆑牆見㆓彼邊之人㆒。

【垤】5061 ㊀テツ デチ 〔集韻〕徒結切 ㄉㄧㄝˊ tieh² 屑。 ㊁チツ ヂチ 〔集韻〕地一切 質。


小篆

㊀㊁ありづか。〔說文〕垤、螘封也、从㆑土至聲、詩曰、雚鳴㆓于垤㆒。〔詩、豳風、東山〕鸛鳴㆓于垤㆒。〔傳〕垤、螘塚也。〔呂覽、愼小〕不㆑躓㆓於山㆒、而躓㆓於垤㆒。〔注〕垤、蟻封也。

【垤嵲】1（テツゲツ） ありづか。小さい山。〔皮日休、二遊詩〕樓船若㆓夏屋㆒、欲㆑載如㆓垤嵲㆒。

【垤塊】2（テツクワイ） ありづか。小さい岡。〔白居易、草堂記〕堂北五步、據㆓層崖㆒、積㆓石嵌㆒、空㆓垤塊㆒。

【垤澤之門】3（テツタクノモン） 春秋、宋の東城の南門の名。〔孟子、盡心上〕魯君之㆑宋、呼㆓於垤澤之門㆒。

【⿰土艾】5062 ガイ 艾(9－30648)に同じ。〔集韻〕艾、或作㆑⿰土艾。

【垥】5063 ケフ コフ 〔篇海〕虛業切 葉。

堤の水。〔篇海〕垥、堤水。

【⿱全土】5064 ダイ 臺(9－30161)に同じ。〔字彙補〕⿱全土、與㆑臺同。

【⿰土列】5065 レツ レチ 〔集韻〕力蘖切 屑。

あぜ。〔集韻〕⿰土列、塍也。

【⿱巩土】5066 キヨウ グ 〔集韻〕渠容切 冬。

❶**水邊の石。**川中の島にある石をいふ。〔集韻〕⿱巩土、水石之島曰㆑⿱巩土。〔字彙補〕⿱巩土、水島石。❷或は⿱巩石(8－24166)に作る。〔集韻〕⿱巩土、或从㆑石。

【⿰㞢土】5067 ホウ 封(4－7426)の古字。〔集韻〕封、古作㆑⿰㞢土。

【垞】5068 タク 宅(3－7064)に同じ。〔說文長箋〕垞、與㆑宅同。

【⿱夗土】5069 ザ 坐(3－4931)の古字。〔字彙補〕⿱夗土、古文坐字。

【⿰土卬】5070 ヨク オク 〔集韻〕乙力切 職。

地名。〔集韻〕⿰土卬、邑名。

【⿱乏土】5071 イウ 〔川篇〕音由

むだ。〔川篇〕⿱乏土、冗也。

【⿰土乏】5072 サフ セフ 〔川篇〕初洽切 洽。

みぞ。〔川篇〕⿰土乏、遂也。

【⿰彳圭】5073 トク 〔川篇〕音得

つち。〔川篇〕⿰彳圭、土也。

【⿱乍土】5074 ヨ 〔篇海〕羊茹切 御。

高い土のさま。〔篇海〕⿱乍土、高土貌。

【⿱卣土】5075 イン 〔川篇〕音因

地名。〔川篇〕⿱卣土、地名。

【⿰土卯】5076 イウ ウ 〔字彙補〕於九切 有。

邑の名。〔字彙補〕⿰土卯、六書略、邑名。

【⿰土因】5077 イン 〔集韻〕伊眞切 眞。

ふさぐ。垔(3－5041)に同じ。〔集韻〕垔、說文、塞也、或作㆑⿰土因。

【⿱因土】5078 イン ⿰土因(3－5077)に同じ。〔康熙字典〕⿱因土、篇海類編、同㆑⿰土因。

【⿱士夗】5079 コ 胡(9−29400)に同じ。〔五音篇海〕⿱士夗、藏經胡字。

【垧】5080 ケイ 坰(3−4985)の俗字。〔龍龕手鑑〕垧、俗坰字。

【⿰土匇】5081 シ 垑(3−5038)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰土匇、同レ垑。

【垨】5082 シュ 守(3−7071)に同じ。〔五音篇海〕垨、同レ守。

【垜】5083 ハウ 垛(3−5255)に同じ。〔篇海〕垜、同レ垛。

【⿱北土】5084 キウ 丘(1−33)の古字。〔說文〕北、⿱北土、古文从レ土。

【垩】5085 セイ 聖(9−29074)の略字。〔宋元以來俗字譜〕聖、古今雜劇作レ垩。

【垪】5086 國字 美作國久米郡に垪和村（ハガムラ）があり、又姓氏に垪和（ハガイ）がある。

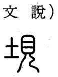
【城】5086′ ジャウ 城(3−5120)に同じ。

七畫

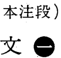
【埕】5087 デツ ネチ 〔集韻〕乃結切 屑。㊀ゆかした。〔方言、六〕埕、下也、凡柱而下曰レ埕。〔廣雅、釋詁一〕埕、下也。㊁ふさぐ。〔集韻〕埕、塞也。㊂或は呈(3−4904)に作る。〔集韻〕埕、或省。

【埣】5088 セイ シャウ 〔集韻〕思營切 庚。赤土。垶(3−5321)に同じ。〔廣雅、釋地〕埣、土也。〔集韻〕垶、說文、赤剛土也、或作レ埣。

【垷】5089 ケン ゲン 〔集韻〕胡典切 銑。



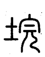
小篆（說文）



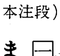
小篆（段注本）

㊀ぬる。附ける。〔說文〕垷、涂也、从レ土見聲。〔段注〕涂泥可二以附一レ物者、故引二伸之一、用以附レ物、亦曰レ涂。〔廣雅、釋室〕垷、塗也。㊁大きな坂。〔玉篇〕垷、大坂。

【垸】5090 ［一］クワン グワン 〔集韻〕胡官切 寒。［二］クワン グワン 〔集韻〕胡玩切 翰。



小篆（說文）



小篆（段注本）

［一］［二］㊀漆と灰とをまぜて塗る。〔說文〕垸、㠯レ桼龢レ灰、丸而髤也、从レ土完聲。㊁垣をつくらふ。〔說文〕垸、一曰、補レ垣也。㊂まろぶ。丸(1−94)に通ず。〔說文通訓定聲〕垸、叚借爲レ丸。〔淮南子、時則訓〕員而不レ垸。〔注〕垸、轉也。㊃重量の名。鍰(11−40648)に通ず。〔說文通訓定聲〕垸、叚借爲レ鍰。〔周禮、考工記、冶氏〕重三垸。〔注〕鄭司農云、垸、量名、讀爲レ丸。㊄或は⿰骨完(12−45189)に作る。〔集韻〕垸、或从レ骨。㊅睆(8−23352)に通ず。〔說文通訓定聲〕凡髤レ物垸レ之、而後匏レ之以發レ澤、禮記檀弓、華而睆、釋文、明貌、引二孫炎一曰、睆、漆也、以レ睆爲レ之。

【⿰土究】5091 ［一］リウ ル 〔集韻〕力救切 宥。［二］キウ ク 〔集韻〕居又切 宥。［一］［二］㊀たがやす。〔集韻〕⿰土究、耕レ地起レ土。㊁つらなる。〔集韻〕⿰土究、聯也。㊂或は畂(7−21750)に作る。〔集韻〕⿰土究、或作レ畂。

【⿱北土】5092 ハイ 〔集韻〕博蓋切 泰。姓。〔集韻〕⿱北土、姓也。

【垗】5093 アウ 墺(3−5504)の古字。〔玉篇〕垗、古文墺。

【垹】5094 ハウ 〔集韻〕悲江切 江。土の精。〔廣韻〕垹、土精如レ手、在二地中一、食レ之無レ病。

【⿰土孛】5095 ホツ ボチ 〔集韻〕蒲沒切 月。㊀ちり。〔集韻〕⿰土孛、博雅、塵也。㊁塵の起るさま。〔玉篇〕⿰土孛、塵皃。〔廣韻〕⿰土孛、塵起。㊂或は⿰土勃(3−5243)に作る。〔集韻〕⿰土孛、或从レ勃。

【垺】5096 ［一］フ ホ 〔集韻〕芳無切 虞。［二］ホウ ブ 〔集韻〕蒲侯切 尤。［三］ハイ 〔集韻〕鋪枚切 灰。［四］ホウ ブ 〔集韻〕薄口切 有。［一］くるわ。郛(11−39428)に同じ。〔集韻〕郛、說文、郭也、或从レ土。［二］おほきい。又、さかん。〔集韻〕垺、大也、盛也。〔莊子、秋水〕夫精、小之微也、垺、大之殷也。［三］㊀やき物のかた。〔集韻〕垺、陶器範。〔楊寒、白頭母吟〕花竇花窠成二瓦垺一。㊁おほきい。［二］に同じ。〔集韻〕垺、一曰、大也。［四］つか。培(3−5195)に同じ。〔集韻〕培、博雅、培塿、冢也、或作レ垺。

【⿰圥圥】5097 ゲウ 堯(3−5272)の古字。〔說文〕⿰圥圥、古文堯。

【垻】5098 ［一］ハイ 〔集韻〕博蓋切 泰 ㄅㄚˋ pa^{4} ［二］ハ ヘ 〔集韻〕必駕切 禡。［一］つつみ。〔集韻〕垻、坡也。［二］㊀平かな川。〔玉篇〕垻、蜀人謂二平川一曰レ垻。〔集韻〕垻、平川謂二之垻一。㊁せき。ゐせき。〔正字通〕垻、障レ水堰、今謂二堰埭一曰レ垻。㊂俗に壩(3−5630)に作り、別に灞(7−18814)・覇(8−24617)に作る。〔正字通〕垻、俗作レ壩、別作二灞・覇一。

參考 埧(3−5172)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕垻、音霸、堰也。埧、音具、堤塘。

【垼】5099 エキ ヤク 〔集韻〕營隻切 陌

㊀陶器を焼くかまどのかまど。坄(3－4913)に同じ。〔集韻〕坄、說文、陶竈窻也、或作レ垼。㊁つちくれで作つたかまど。或は役(4－10057)に作る。〔儀禮、士喪禮〕爲二垼于西牆下一。〔注〕垼、塊竈。〔疏〕垼塊竈者、案既夕記云、垼用レ塊、是以塊爲レ竈、名爲レ垼、用レ之以煑二沐浴者之潘水一。〔儀禮、既夕禮〕垼用レ塊。〔注〕塊、塯也、古文、垼爲レ役。〔疏〕塊塯者、爾雅釋言文、孫氏云、塯、土塊也。

【垽】5100 ㈠ギン 〔集韻〕魚僅切 震 ㈡ギン ゴン 〔集韻〕語斬切 問

小篆

㈠㈡㊀おり。かす。〔說文〕垽、澱也、从レ土沂聲。〔爾雅、釋器〕澱謂二之垽一。〔疏〕垽、滓也。㊁めぐる。沂(4－8123)に通ず。〔郭璞、江賦〕沂淪流瀼。〔注〕五臣作レ垽、善曰、沂淪、廻旋之貌。

【垾】5101 カン ガン 〔集韻〕侯旰切 翰

㊀小さな堤。〔廣韻〕垾、小堤。〔集韻〕垾、堤也。㊁岸(4－8009)の俗字。〔六書本義〕岸、俗作レ垾。

【〓】5102 ㈠バイ マイ 〔集韻〕謨杯切 灰 ㈡ボク モク 〔集韻〕莫六切 屋

㈠㊀ちり。〔集韻〕〓、塵也。㊁或は塺(3－5397)に作る。〔集韻〕〓、或作レ塺。㈡地名。坶(3－4993)に同じ。〔集韻〕坶、說文、朝歌南七十里地、周書、武王與レ紂戰二于坶野一、或从レ每、通作レ牧。

【垿】5103 ショ ジョ 〔集韻〕象呂切 語

反坫。杯を置く臺。〔廣雅、釋宮〕反坫謂二之垿一。

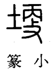
【埀】5104 スイ

垂(3－5012)の俗字。〔正字通〕埀、俗垂字。

【埁】5105 シン ジン 〔集韻〕才淫切 侵

㊀つち。〔集韻〕埁、土也。㊁岑(4－7937)の俗字。〔正字通〕埁、俗岑字。

【埂】5106 ㈠カウ キャウ 〔集韻〕居行切 庚 ㈡カウ キャウ 〔集韻〕古杏切 梗 ㄍㄥˇ kêng³

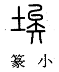

小篆

㈠㈡㊀あな。〓(3－5302)に同じ。〔正字通〕埂、篆作レ〓。〔說文〕〓、秦謂レ阬爲レ〓、从レ土叓聲、讀若二井汲綆一。〔玉篇〕埂、小坑也。㊁つつみ。〔廣韻〕埂、堤封、吳人云也。㊂あぜ。〔說文、埂、段注〕今江東語、謂二畦埒一爲レ埂。㊃現灌漑用の溝渠。

【埂子】1 kêng³ tzŭ あぜ。〔紅樓夢、三十九回〕我到東北上田埂子上、纔有一個破廟。

【埂堤】2 カウテイ つつみ。堤防。〔六部成語、工部、埂堤、注解〕土埂以爲二堤防一也。

【埃】5107 ㈠アイ 〔集韻〕於開切 灰 ㄞ ai¹ ㈡チ ヂ 〔集韻〕直几切 紙


小篆

㈠㊀ほこり。すなけむり。又、もや。〔說文〕埃、塵也、从レ土矣聲。〔一切經音義、二十四〕埃、謂二風揚レ塵也。〔素問、五常政大論〕埃冒二雲雨一。〔注〕埃、土霧也。〔素問、六元正紀大論〕山澤埃昏。〔注〕埃、白氣似レ雲而薄也。㊁小數の名。〔九數通考〕十渺爲レ埃、十埃爲レ塵。㊂〓(7－19063)に通ず。〔列子、黃帝〕埃不レ漫。〔釋文〕埃、一作レ〓。㈡㊀城のかきを計る單位。〔集韻〕埃、城三堵也。㊁或は垁(3－5011)に作る。〔集韻〕埃、或作レ垁。㊂通じて雉(11－41987)に作る。〔集韻〕埃、通作レ雉。

【埃壒】1 アイアイ ㊀ちり。ほこり。ごみ。塵埃。〔班固、西都賦〕軼二埃壒之混濁一。〔注〕善本、壒、作レ堨、善曰、王逸楚辭注曰、埃、塵也、許愼淮南子注曰、堨、埃也。㊁ほこりが立つて暗くなる。塵昏。〔左思、蜀都賦〕囂塵張レ天、則埃二壒曜靈一。〔注〕翰曰、埃壒、塵昏也。

【埃藹】2 アイアイ ほこりが立つてもやのやうに見えるもの。すなけむり。〔晉書、郭璞傳〕混二光耀于埃藹一者、亦曷願二滄浪之深、秋陽之映一乎。

【埃鬱】3 アイウツ ほこりでふさがる。〔顏延之、夏夜呈二從兄散騎車長沙一詩〕炎天方埃鬱、暑晏闋二塵紛一。

【埃氣】4 アイキ 世俗的な氣もち。俗氣。〔黃庭堅、跋二蔡明遠帖一文〕筆意縱橫、無二一點埃氣一。

【埃及】5 エジプト 亞弗利加にある國の名。世界で文化の最も早く開けた國。

【埃宮】6 エノミヤ 神武天皇が東征の途次、暫時滯留した安藝國の行宮。多祁理宮タケリノミヤ。〔國史略、神武天皇〕遂至二安藝一、居二埃宮一。

【埃昏】8 アイコン ほこりや霧がかかつて暗いこと。〔素問、至眞要大論〕風淫所レ勝、則太虛埃昏。〔注〕埃、青塵也。〔素問、六元正紀大論〕山澤埃昏。〔注〕埃、白氣似レ雲而薄也。

【埃䨴】9 アイダイ 雲がたなびいて日を覆ふこと。靉靆(12－42540‥4)の㊀に同じ。〔說文〕䨴、埃䨴、日無レ光也。〔段注〕埃䨴、猶二靉靆一也、通俗文、雲覆レ日、謂二之靉靆一。

【埃塵】10 アイヂン ほこり。ちり。塵埃。〔後漢書、光武紀上〕埃塵連レ天、鉦鼓之聲、聞二數百里一。〔後漢書、蘇不韋傳〕埃塵所レ不レ能レ過。〔張衡、歸田賦〕超二埃塵一以遐逝。〔晉書、儒林傳序〕嬴氏慘虐、棄レ德任レ刑、煬二墳籍於埃塵一。〔杜甫、寄二薛三郎中璩一詩〕人生無二賢愚一、飄颻若二埃塵一。

【埃田】11 エデン 猶太神話に於ける、人類の始祖アダムとイヴとの居つた花園。極樂園をいふ。Edenの音譯。

【埃土】12 アイド きたない土。穢土。塵土。〔荀子、勸學〕螾無二爪牙之利、筋骨之強一、上食二埃土一、下飲二黃泉一、用レ心一也。

【埃煤】13 アイバイ ほこりとすす。ごみ。〔劉禹錫、山南西道新修二驛路一記〕潰爲二埃煤一、一篲可レ掃。

【埃蕪】14 アイブ 荒れてほこりにまみれる。〔唐書、陳子昂傳〕太學久廢、堂皇埃蕪。

【埃風】15 アイフウ 塵を吹き上げる風。つむじ風の類。〔楚辭、離騷〕駟二玉虬一以椉レ鷖兮、溘二埃風一余上征。

【埃氛】16 アイフン ほこりの多い大氣。轉じて、汚れた俗世間の氣。氛埃。〔宋史、王素傳〕廼命レ素扈從、日甚熾、埃氛翳レ空。〔蘇軾、夜直二禁闈一呈二王敏甫一詩〕蓬瀛宮闕隔二埃氛一、帝樂二天香一似二許聞一。

【埃墨】17 アイボク 油烟などの黑いほこり。〔孔子家語、在厄〕有二埃墨一墮二飯中一、欲レ置レ之則不レ潔、棄レ之則可レ惜。

【埃霧】18 アイム 塵やほこりのもや。すなけむり。〔後漢書、陳蕃傳〕彼非レ不レ能下絜二情志一違中埃霧上也。〔唐書、李密傳〕既兩軍接、埃霧囂塞。

【埃滅】19 アイメツ ほこりのやうにほろびる。〔後漢書、鄭玄傳論〕自三秦焚二六經一、聖文埃滅。〔宋書、鄧琬傳〕昔吳楚連衡、黃淮勁捍、塵二擾區內一、聲沸二秦中一、霧散埃滅、豈非二先鑒一。

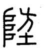
【埃坲坲】20 アイフツフツ ほこりのおこるさま。〔楚辭、劉向、九歎、遠逝〕飄風蓬龍埃坲坲兮。〔注〕坲坲、塵埃貌。〔補注〕坲、音佛、塵起也。

【埃漢文字同源考】21 アイカンモンジドウゲンカウ 書名。一冊。板津七三郎撰。漢字と埃及文字との類似するもの八百五字（番外六字）を比較研究したもの。昭和八年二月刊。

【埄】5108 ホウ ブ 〔字彙〕蒲蠓切 董 ㄆㄥˊ p'êng^2

塵の起るさま。 埲(**3－5185**)に同じ。〔字彙〕埄、同レ埲、塵起貌。

【埅】5109 ㊀ハウ バウ 〔集韻〕符方切 陽 ㊁チ


小篆

㊀**つつみ。** 防(**11－41576**)に同じ。〔集韻〕防、說文、隄也、或作レ埅。㊁地(**3－4890**)の古字。〔字彙補〕埅、古文地字、亢倉子臣道篇、埅生二反物一。

【⿰土弄】5110 ロウ ル 〔集韻〕盧貢切 送

あな。 ⿱穴弄(**8－25538**)に同じ。〔集韻〕⿱穴弄、穴也、或从レ土。

【埆】5111 カク ガク 〔集韻〕克角切 覺 ㄑㄩㄝˋ ch'üeh^4

❶**やせた土地。** やせち。土地がやせてゐる。〔後漢書、陳龜傳〕土地墝埆。〔注〕埆、謂二薄土一也。〔楊億、修書述懷詩〕講學情田埆、談經腹笥虛。❷**とぼしい。** みのりが少い。〔左思、呉都賦〕共レ世而論二巨細一、同レ年而議二豐埆一。❸**けはしい。**〔胡松、武當山記〕往來之間、石陵峭埆、行者不レ能二以步一。❹**曲直をいひ爭ふ。** 訟へる。〔集韻〕埆、獄也。〔詩、召南、行露〕何以速二我獄一、〔傳〕獄、埆也。〔釋文〕埆、盧植云、相質轂爭訟者也、崔云、埆者埆正之義、一云、獄名。〔蔡邕、再讓二高陽侯一表〕疑埆之誠、與二神明一通。❺礐(**8－24525**)に同じ。〔集韻〕礐、爾雅、山多二大石一也、或作レ埆。

【埆埆】1 カクカク 土地の瘦せたさま。〔元稹、田家詞〕牛吒吒田埆埆、旱塊敲二牛蹄一趵趵。

【埆塉】2 カクセキ やせち。やせた土地。〔蔡邕、京兆樊惠渠頌序〕地有二埆塉一、川有二墊下一。

【埇】5112 ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 腫

❶**おきつち。** 道の上に土を加へること。〔集韻〕埇、一曰、道上加レ土。❷**地名。**〔集韻〕埇、地名、在二淮泗一。❸通じて甬(**7－21707**)に作る。〔集韻〕埇、通作レ甬。

【埇橋】1 ヨウケウ 橋の名。一に甬橋に作る。安徽省宿縣の北にあり、汴水に跨がる。符離橋、又、永濟橋ともいふ。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、宿州〕埇橋、亦名二符離橋一、今名永濟橋、跨二汴水上一。

【埈】5113 シュン

陖(**11－41645**)に同じ。〔玉篇〕埈、同レ陖。

【埉】5114 カフ ケフ 〔集韻〕訖洽切 洽

水に沿つた土地。〔集韻〕埉、水旁地。

【坔】5115 チ

地(**3－4890**)の古字。〔玉篇〕坔、古地字。

【埋】5116 バイ マイ 〔集韻〕謨皆切 佳 ㄇㄞˊ mai^2 ㄇㄢˊ man^2

❶**うめる。うづめる。うまる。うづもれる。** ㋑土中にをさめる。〔國語、呉語〕諺曰、狐埋レ之。〔注〕埋、藏也。㋺ふさぐ。〔爾雅、釋言〕埋、塞也。㋩死者を葬る。〔釋名、釋喪制〕葬不レ如レ禮曰レ埋、埋、痗也、趨使二腐朽一而已也。〔周禮、地官、族師〕相與葬埋。㋥いけにへをうづめる。山林の祭。〔周禮、春官、大宗伯〕以二貍沈一祭二山林川澤一、〔注〕祭二山林一曰レ埋。㋭隱れおほはれる。〔元稹、游二章大夫通德湖舊居一詩〕塵壁暗埋悲二舊札一。㋬おちぶれる。〔江淹、娼婦自悲賦〕憐二佳人之埋暮一。❷薶(**9－32198**)に同じ。〔集韻〕薶、說文、瘞也、或作レ埋。❸貍(**10－36561**)に同じ。〔周禮、地官、族師〕以相二葬埋一、〔釋文〕埋、本或作レ貍。邦**うめる。** ㋑足らぬ所を補ひ足す。㋺他の物で償ふ。代償する。

【埋菴】1 マイアン 淸、徐樹丕(**4－10110**··483)の號。

【埋幽】2 マイイウ 死者を地下に埋藏する。埋幽文を見よ。

【埋幽文】3 マイイウブン 死者と共に墓中に埋める文。墓誌銘の類をいふ。墓誌銘(**3－5431**··15)を見よ。

【埋憂】4 マイイウ 憂をしりぞけ去る。〔仲長統、述レ志詩〕寄二愁天上一、埋二憂地下一。

【埋湮】5 マイイン 蔽はれて見えなくなる。うづもれてあらはれぬ。埋沒。〔孔武仲、詩〕人心與レ物本無レ別、正爲二利欲一相埋湮。

【埋瘞】6 マイエイ 屍を土中にうづめる。地にいけ葬る。土葬。〔南史、扶南國傳〕土葬則埋二瘞之一。

【埋翳】7 マイエイ うづめかくす。〔李白、門有車馬客行〕北風揚二胡沙一、埋翳周與レ秦。

【埋掩】8 マイエン うづめおほふ。葬る。〔後漢書、曹褒傳〕營舍有二停レ棺不レ葬者百餘所一、云云、故吏對曰、此等多是建武以來絶無レ後者、不レ得二埋掩一。

【埋怨】9 mai^2 yüan 怨を言ふ。人を責める。

【埋冤】10 mai^2 yüan^1 うらむ。怨を言ふ。〔水滸傳、四回〕我自明日叫去埋冤他便了。〔琵琶記、金閨愁配〕到底埋冤。

【埋香】11 マイカウ 香を埋める。美人を埋葬すること。埋玉(15)を見よ。〔玉溪縮事〕車道之北、邽山之陽、深深葬レ玉、鬱鬱埋レ香。

【埋羹】12 マイカウ あつものを埋める。明の王璡の妻が魚羹を作つて璡に進めたところ、昔の貧困の時を忘れたかと叱つて、地に埋めさせた故事。〔明史、王璡傳〕自奉儉約、一日饌用二魚羹一、璡謂二其妻一曰、若不レ憶下吾啖二草根一時上耶、命撤而埋レ之、人號二埋羹太守一。

【埋軌】13 マイキ わだちを埋める。〔國史略、崇德天皇〕是日櫻花、滿レ林如レ雲、鋪レ地如レ雪、至二車埋レ軌。

【埋郤】14 マイキャク うづめてしまふ。〔馬存、岳王墓詩〕可レ憐一片西湖土、埋郤英雄未レ死心。

【埋玉】15 マイギョク 玉を埋める。英才を埋葬することをいふ。轉じて、美人を埋葬することにもいふ。埋香(11)を見よ。〔晉書、庾亮傳〕亮將レ葬、何充會レ之歎曰、埋二玉樹於土中一、使二人情何能已一。〔書言故事、祭奠類〕挽詩言レ葬曰二埋玉一。

【埋金】16 マイキン 金をうづめる。〔神仙傳〕埋二金地中一。

【埋掘】17 マイクツ うづめることとほること。〔魏文帝、又報二呉王孫權一〕埋而掘レ之、古人之所レ恥。

【埋火】18 ウヅミビ 爐に埋めた炭火。〔後拾遺和歌集、冬〕埋火のあたりは冬の心地して。

【埋劍】19 マイケン 劍をうづめる。〔刀劍錄〕孝武帝以二太元元年一、於二華山頂一埋二一劍一。〔沈佺期、移二禁司刑一詩〕埋レ劍誰當レ辨、偸レ金以自誣。

【埋蠱】20 マイコ 人をのろふまじなひものなどを他家の地下に埋め、後日、之を掘り出して其の家

を冤罪に陥れること。蠱は、人をのろふ蠱。〔酉陽雜俎、貝編〕天后任二酷吏一羅織云云、酷吏多令三盜夜埋レ蠱、遺二讖於人家一、經レ月告密籍レ之。

【埋骨】21（マイコツ） 骨をうづめる。葬る。〔後漢書、度尚傳〕埋二骨牢檻一、終不二虛出一。〔貴耳集〕東坡有下黃州之謫在二臺獄一別二子由一詩上云、是處青山可レ埋レ骨、他年夜雨獨傷レ神。〔釋月性、題レ壁詩〕男兒立レ志出二鄉關一、學若不レ成死不レ還、埋レ骨何期墳墓地、人間到處有二青山一。

【埋根】22（マイコン） ❶根を土に埋める。しつかりとして動かないこと。退かないことにいふ。〔後漢書、馬融傳〕盡レ力率厲、埋レ根行首、以先二吏士一。〔注〕埋レ根、言レ不レ退。❷mai² kên¹ 豫め事の下地を作つて置く。

【埋魂】23（マイコン） 魂をうづめる。〔庾信、思舊銘序〕王孫蓺レ地、方爲二長樂之官一、烈士埋レ魂、卽是將軍之墓。

【埋葬】24（マイサウ） 死者を葬る。はうむり。〔博物志、異聞〕女年四歲病沒、故埋葬、五日復生。

【埋葬蟲】25（マイサウチウ） 蟲の名。常に小動物の屍を取り、地に埋めて之を食うてゐるから此の名がある。鞘翅類。體の長さ七八分で、頭部は凸形をなし、觸角は球桿狀をしてゐる。蜣。

【埋藏】26（マイザウ） うづめかくす。うづめる。又、うもれる。〔爾雅、釋天、祭レ地曰二瘞薶一、注〕既祭埋二藏之一。〔後漢書、桓帝紀〕疾病致二醫藥一、死亡厚埋藏。〔拾遺記〕後以二石匣一埋二藏之一。

【埋山】27（マイザン） 山を埋める。林などが山を覆ふことをいふ。〔齋藤拙堂、山房觀楓記〕雲樹埋レ山、不三復見二人煙一。

【埋胔】28（マイシ） 腐肉をうづめる。骸骨をうづめる。胔は腐肉。〔禮、月令〕掩レ骼埋レ胔。〔注〕骨枯曰レ骼、肉腐曰レ胔。〔魏志、崔琰傳〕掩レ骼埋レ胔。

【埋兒】29（マイジ） 子を埋める。〔琅琊代醉編、埋兒刺股〕東漢郭巨、隆慮人、家貧養レ母盡、每レ供レ饌、母必分與レ孫、巨謂レ妻曰、兒分二母饌一、貧乏不レ能レ供、子可二再有一、母不レ可二再得一、乃埋二其子一、掘レ地三尺、得二黃金一釜一、上有二丹書一曰、賜二孝子郭巨一、官不レ得レ奪、人不レ得レ取、一統志。

【埋卹】30（マイジュツ） 埋葬といふあはれみ。葬る者のない死者を埋葬してやるにいふ。〔後漢書、質帝紀〕收二葬枯骸一、務加二埋卹一。

【埋書】31（マイショ） 盟の書を地に埋める。古の盟誓の法。〔周禮、秋官、司盟、掌二盟載之灋一、注〕盟者書二其辭於策一、殺レ牲取レ血、坎二其牲一加二書於上一而埋レ之、謂二之載書一。

【埋祟】32（マイスイ） 宋の頃、大晦日に親事官諸班直等千餘人に假裝させて、禁中の祟りを驅除させた行事。〔東京夢華錄〕除日、禁中大儺儀、幷用二皇城親事官諸班直一、裝二鎭殿將軍・門神・判官・鍾馗小妹・土地・竈神之類一、共千餘人、自二禁中一驅レ祟、出二南薰門外一轉二龍彎一、謂二之埋祟一。

【埋照】33（マイセウ） 光を埋める。才德をつつみかくすこと。〔顏延之、五君詠、阮步兵詩〕沈醉似二埋照一、寓辭類二託諷一。〔杜甫、暮冬送二蘇四郞徯兵曹適二桂州一詩〕爾賢埋レ照久、余病長年悲。

【埋蛇】34（マイダ） 楚の孫叔敖が、幼時、兩頭の蛇を見、兩頭の蛇を見たものは死ぬといふ言ひ傳へがあるので、他人の見ることを恐れ、之を殺して埋めた故事。兩頭蛇(**1－1436**・・327)を見よ。〔新序、雜事一〕孫叔敖、爲二嬰兒一之時、出遊見二兩頭蛇一、殺而埋レ之、歸而泣、其母問二其故一、叔敖對曰、聞見二兩頭之蛇一者死、嚮者吾見レ之、恐三去レ母而死一也、其母曰、蛇今安在、曰、恐二他人又見一、殺而埋レ之矣、其母曰、吾聞、有二陰德一者、天報以レ福、汝不レ死也、及レ長爲二楚令尹一、未レ治而國人信二其仁一也。

【埋田】36（ウツタ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【埋樋】37（ウツミヒ） 土中に埋めた水樋。〔和漢三才圖會、水類、木筒〕按、有二架樋・埋樋二種一、而以レ筧爲二架樋一。

【埋頭】38 mai² t'ou² ❶沒頭する。❷世から遠ざかる。

【埋頭蛇】39（マイトウダ） 蚺蛇(**10－32897**・・1)の異名。〔本草、蚺蛇〕釋名、南蛇・埋頭蛇、時珍曰、云云、產二於嶺南一、以レ不レ擧レ首者爲レ眞、故世稱爲二南蛇・埋頭蛇一。

【埋頭埋腦】40 mai² t'ou² mai² nao³ 沒頭する。引込んでゐる。知らないふりをする。

【埋匿】41（マイトク） うづめかくす。〔北史、熊安生傳〕村人埋匿、安生掘レ地求レ之。

【埋胞】42（マイハウ） 生れた子の胞衣を埋める。〔魏書、太祖道武皇帝紀〕明年、有レ楡、生二於埋レ胞之坎一。

【埋伏】43（マイフク） かくれふす。ひそむ。潛伏。轉じて、伏兵。〔平壤錄〕日本其用レ兵善二埋伏一。

【埋幣】44（マイヘイ） 幣物を土中にうづめる。〔儀禮、聘禮〕又入取レ幣降、卷レ幣實二于笲一、埋二于西階東一。〔注〕埋レ幣必盛以レ器、若レ藏レ器然。

【埋璧】45（マイヘキ） 璧を埋める。〔左氏、昭、十三〕初共王無二冢適一、有二寵子五人一、無二適立一焉、云云、乃徧以レ璧見二於羣望一、曰、當レ璧而拜者、神所レ立也、誰敢違レ之、乃與二巴姬一密埋二璧於大室之庭一、使二五人齊而長入拜一。

【埋窆】46（マイヘン） 棺をうづめる。棺を壙（ハカアナ）に納める。窆は、葬下の棺。埋葬。〔後漢書、趙咨傳〕生者之情、不レ忍レ見二形之毀一、乃有二掩骼埋窆之制一。

【埋暮】47（マイボ） 日のくれがた。轉じて、人がおちぶれ年をとること。〔江淹、娼婦自悲賦〕泣二蕙草之飄零一、憐二佳人之埋暮一。

【埋木】48（ウメキ） ❶木の穴を塡充する木。❷（ウモレギ）木の幹が太古から水中、又は土中に埋れて、稍〻化石したもの。〔萬葉集、七〕埋れ木のあらはるまじき。❸世に捨てられて顧みられない身の喩。〔和泉式部集、下〕うもれぎの身。❹いちじくの異名。無花果。〔和訓栞〕。

【埋沒】49（マイボツ） うづもれる。うづもれて姿を消す。埋湮。埋滅。〔庾信、哀江南賦〕聲名埋沒。〔南史、郭祖深傳〕飾口利辭、競相推薦、訥直守レ信、坐見二埋沒一。〔溫庭筠、陳琳墓詩〕石麟埋沒藏二春草一。

【埋名】50（マイメイ） 名をかくす。世に知られない。〔漢書、翟方進傳〕設令時命不レ成、死レ國埋レ名、猶可二以不レ慙二於先帝一。

【埋銘】51（マイメイ） 碑銘の一種。柩と共に墓中に埋める木石に刻した銘文。墓誌銘(**3－5431**・・15)を見よ。〔文體明辯、墓誌銘〕書二於木版一者、曰二墳版文一、云云、曰二埋銘一。〔注〕朱文公集載二女巳埋銘一、是也。

【埋滅】52（マイメツ） うづもれほろびる。埋沒。〔韓愈、秋懷詩〕古聲久埋滅、無レ由レ見二眞濫一。

【埋輪】53（マイリン） ❶輪を地に埋めて車をとどめ、隊伍の崩れを防いで守ること。〔孫子、九地〕方レ馬埋レ輪、未レ足レ恃也。❷後漢の張綱が地方の風俗を徇行せよと命ぜられた時、先づ要路の姦臣を除くべしと稱して、車輪を埋めて敢へて行かなかつた故事。侃諤の士の喩。豺狼當レ路(**10－36500**・・20)を見よ。〔後漢書、張綱傳〕(張)綱獨埋二其車輪於洛陽都亭一、曰、豺狼當レ路、安問二狐狸一。〔沈約、奏二彈王源一文〕雖二埋輪之志無レ屈二權右一、而狐鼠微物、亦蠹二大猷一。〔注〕良曰、言、已雖下有二張綱埋レ輪之志一、未上レ能三盡服二權勢用レ事者一、而王源事同二狐鼠族一。

【埋立地】54（ウメタテチ） 河・海等をうづめて陸地にした場所。

【埋鍋造飯】55 mai² kuo¹ tsao⁴ fan⁴ 地に穴を掘り、かまどを作つて飯を炊ぐ。軍營などで飯を炊ぐ方法。

【埋光烏藥】56（マイクワウウヤク） 良薑(**9－30597**・・53)の異名。〔事物異名錄、藥材、上、草類〕清異錄、侯寧極藥譜、埋光烏藥、良薑也。

【埌】5117

ラウ 〔集韻〕郎宕切 漾

❶つか。〔方言、十三〕冢、秦晉之閒、或謂二之埌一。〔廣雅、釋邱〕埌、冢也。❷壙埌は原野のはてしないさま。〔集韻〕埌、一曰、壙埌、原野迥皃。〔莊子、應帝王〕遊二無何有之鄕一、以處二壙埌之野一。〔疏〕壙埌、宏博之名。❸良(**9－30597**)に通ず。〔莊子、列禦寇、闔三胡嘗視二其良一、釋文〕良、或作レ埌、冢也。

【㘴】5118

ザ

坐(**3－4931**)に同じ。〔玉篇〕㘴、同レ坐。

【埍】5119

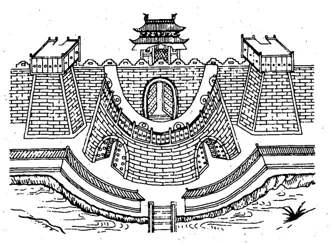
㊀ケン 〔集韻〕古泫切 銑

㊁ケン ゲン 〔集韻〕胡犬切 銑

埍 小篆 ⊟⊟ ❶**しもべの居る土べや**。〔說文〕埍、徒隷所レ尻也、从レ土肙聲。〔說文通訓定聲〕土房曰レ埍。❷**女囚を收容するひとや**。〔說文〕埍、一曰、女牢。❸**郷亭のひとや**。〔說文〕埍、一曰、亭部。〔說文通訓定聲〕亭部、爲二郷亭之獄一。

【城】 5120 セイ ジャウ 〔集韻〕時征切 庚 ch'êng²

城 小篆 𩫨 籒文



城圖（三才圖會）

❶**しろ**。**き**。城壁。㋑都市を圍繞するくるわ。內側のものを城、外側のものを郭とする。〔說文〕城、㠯盛レ民也、从二土成一、成亦聲。〔釋名、釋宮室〕城、盛也、盛二受國都一也。〔正韻〕內曰レ城、外曰レ郭。〔周禮、夏官、司弓矢〕凡弩夾庾利二攻守一。〔注〕攻二城壘一者。〔疏〕城、謂二城郭一。〔禮、曲禮上〕入レ國而問レ俗。〔注〕國、城中也。〔疏〕城中、如二今國門內一也。〔公羊、定、十二〕百雉而城。〔注〕天子周城、諸侯軒城。〔墨子、七患〕城者、所二以自守一也。㋺都。國。國都。〔太玄經、差〕過二其枯城一。〔注〕枯城、謂二故都一也。〔詩、大雅、瞻卬〕哲夫成レ城。〔箋〕城、猶レ國也。㋩易では城を艮にあてる。〔易、泰〕城、復二于隍一。〔虞注〕艮爲レ城。❷**きづく**。築城。〔詩、小雅、出車〕城二彼朔方一。〔左氏、莊、二十八〕築レ郿、非レ都也、云云、邑曰レ築、都曰レ城。〔管子、輕重下〕請以令レ城二陰里一。〔注〕城、謂レ築レ城也。❸成(5−11544)に通ず。〔詩、大雅、板〕無レ俾二城壞一。〔漢書、諸侯王表〕毋レ俾二成壞一。❹𩫨(12−45343)は籒文。〔說文〕𩫨、籒文城、从レ𩫏。❺**姓**。〔通志、氏族略、以レ地爲レ氏〕城氏、風俗通、凡氏二於事一者、城郭園池、皆姓也。邦**しろ**。敵を防ぐために建てた高層建築物。

名乘 キ。クニ。ムラ。

解字 會意形聲。土と成との合字。成は又聲。本義は民を盛り容れるものの意で、土を以て成るところから、土と成とを合せて都邑の周圍に設けた障壁、卽ちしろの意を表はす。〔說文通訓定聲〕城、所二以盛一レ民也、从レ土从レ成、會意、成亦聲。

【城尉】1 ジャウヰ 城を守る役。〔張衡、西京賦〕城尉不二弛柝一、而內外潛通。

【城圍】2 ジャウヰ 城壁。かこひ。〔吳志、陸遜傳〕皆更繕二完城圍一、葺二其牆屋一。

【城域】3 ジャウヰキ 城の區域。城壁のうち。城內。〔管子、八觀〕城域大而人民寡者、其民不レ足三以守二其城一。

【城邑】4 ジャウイフ 都城と邑里。都邑。〔戰國、秦策〕引レ兵深入、多倍二城邑一、發レ梁焚レ舟、以專二民心一。〔史記、淮陰侯傳〕以二天下城邑一封二功臣一、何所レ不レ服。〔漢書、陳湯傳〕湯爲レ人沈勇、有二大慮一、多二策謀一、喜二奇功一、每レ過二城邑山川一、常登望。〔曹植、名都篇〕雲散還二城邑一。

【城陰】5 ジャウイン ❶城壁のかげ。城の北側。城北。〔岑參、送三薛播擢レ第歸二河東一詩〕雨氣醒二別酒一、城陰低二暮曛一。〔杜甫、東樓詩〕樓角臨レ風迥、城陰帶レ水昏。〔白居易、夜歸詩〕城陰一道直、燭焰兩行斜。❷地名。山東省高密縣の境。〔明一統志〕城陰城、在二萊州府高密縣西南四十里一、漢鄭玄碑云、卽高密城也。

【城闉】6 ジャウイン 城內の重門。城門(162)の❶に同じ。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕照二殊策一而去二城闉一。〔魏書、崔光傳〕使レ近在二城闉一、面中接宮廟上。〔鮑照、行藥至二城東橋一詩〕延瞰歷二城闉一。

【城潁】7 ジャウエイ 地名。春秋、鄭の地。臨潁。故城は河南省臨潁縣の西北。〔左氏、隱、元〕遂寘二姜氏于城潁一、而誓レ之曰、不レ及二黃泉一、無二相見一也。

【城衞】8 ジャウエイ 城內をまもる役人。〔揚雄、衞尉箴〕爲二城衞一、以待二暴卒一。

【城垣】9 ジャウエン 城壁。〔明一統志〕城山在二眞定府井陘縣東南三十里一、形如二城垣一。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕城垣官舍、百姓屋宇。

【城苑】10 ジャウエン 城壁でかこつた苑。苑は、かこひ。〔晉書、禿髮傉檀載記〕文王築二城苑一、繕二官廟一。

【城塢】11 ジャウヲ とりで。小城。城隖。〔後漢書、西羌、滇良傳〕遂夾二逢留大河一築二城塢一。

【城屋】12 ジャウヲク 城郭と屋舍。〔史記、大宛傳〕大宛云云、其俗土著、云云、有二城郭屋室一、云云、大夏、在二大宛西南二千餘里嬀水南一、其俗土著、有二城屋一、與二大宛一同レ俗。

【城下】13 ジャウカ ❶都城の城壁のもと。城壁附近の地。〔左氏、襄、八〕寡君將下帥二諸侯一以見中于城下上、唯君圖レ之。〔史記、朝鮮傳〕乃前至二城下一。〔後漢書、光武紀上〕時莽軍到二城下一者、且二十萬一。〔高適、營州歌〕營州少年厭二原野一、狐裘蒙茸獵二城下一。❷昔、大名の城のあつた町。城市。城邑。〔松鄰夜話〕前橋の城下。❸シキノシモ 大和國の舊郡名。〔倭名類聚抄〕。

【城下之盟】14 ジャウカノチカヒ 敵の城下に攻め入つて媾和の盟をさせること。又、敵に城下に攻め入られてする媾和の盟。敗戰して城下の盟をするのは最も恥づべきこととせられる。屈辱媾和。〔左氏、桓、十二〕大敗レ之、爲二城下之盟一而還。〔注〕城下盟、諸侯所二深恥一者也。〔左氏、宣、十五〕敝邑易レ子而食、析レ骸而爨、雖レ然、城下之盟、有二以レ國斃一、不レ能レ從也。

【城牙】15 ジャウガ 城下の仲買人。〔福惠全書、雜課部、田房稅〕照二城牙業主一、依レ律並究。

【城皋】16 ジャウカウ 地名。河南省滎陽縣の北。成皋。〔史記、留侯世家〕雒陽東有二城皋一。〔後漢書、虞詡傳〕不レ知下開レ倉招レ衆、劫二庫兵一守二城皋一、斷中天下右臂上。〔江淹、雜體、鮑參軍照戎行詩〕晨上二城皋坂一。

【城壕】17 ジャウガウ 城のまはりに設けたほり。城濠。城洫。城溝。城塹。城池。〔江淹、雜體、劉太尉琨傷亂詩〕飲レ馬出二城壕一。〔李白、尋二魯城一詩〕城壕失二往路一、馬首迷二荒陂一。〔太平寰宇記〕賈耽自記云、滑城控二白馬津一、邇二斥鹵之溢一、里居者井無レ良焉、相二土宜一、視二水脈一、因二便道一求二美泉一、得二之於城壕之右一。

【城角】19 ジャウカク 城のすみ。城隅。〔白居易、和レ望曉詩〕街心若二流水一、城角如二斷岸一。

【城樂】20 ジャウガク 縣名。唐初、置く。故城は貴州省德江縣の西。〔讀史方輿紀要、貴州、思南府、安化縣、多田廢縣〕城樂廢縣、在二府西北百五十里一、唐武德四年、山南道大使趙郡王孝恭、招二慰生獠一置、屬二思州一、初築レ城、時人歌二舞之一、故曰二城樂一。

【城闔】21 ジャウカフ しろの門。城門。〔唐書、裴寂傳〕今盜偏二天下一、城闔外卽戰場。

【城閈】22 ジャウカン 城門。〔鄭俠、助鐘平仲納官詩〕鐘子處二城閈一。

【城閒】23 ジャウカン 城壁と城壁との閒。〔墨子、非攻下〕天命レ融降二火于夏城閒、西北之隅一。

【城幹】24 ジャウカン 城壁の中心を成す堅木。〔癸辛雜識〕長城旁居民、雨後或有下得二堅木於城土中一者上、識者謂二名黃蘆木一、乃當時用以爲二城幹一者、蓋築レ城無二以爲レ幹不可。

【城鄉】25 ジャウキャウ 縣名。漢、置く。今の河北省の境。〔漢書、地理志下〕廣平國、縣十六、城鄉。

【城脚】26 ジャウキャク 城壁の下。城下。〔韻府引、楊維楨、詩〕南城不レ日似二雲高一、城脚愁レ侵八月濤。

【城墟】27 ジャウキョ しろあと。城跡。〔日本外史、德川氏正記、德川氏、五〕留二西面四道卒一、以修二理城墟一。

【城曲】28 ジャウキョク 城郭のすみ。城隅。〔謝惠連、祭二古冢一文〕祠二骸府阿一、掩二骼城曲一。

【城洫】29 ジャウキョク 城郭の濠池。城濠。〔張衡、西京賦〕於レ是、量二徑輪一、考二廣袤一、經二城洫一、營二郭郛一。

【城麇】30 ジャウキン 春秋、鄭の地名。〔左氏、襄、二十六〕印堇父與二皇頡一戍二城麇一。

【城矩】31 ジャウク 都城をつくる方式をいふ。〔晏子、

雜、下〕景公新成二栢寢之室一、使二師開鼓レ琴、師開左撫レ宮、右彈レ商、曰、室夕、云云、公召二大匠一曰、室何爲夕、大匠曰、立レ室以二宮矩一爲レ之、於レ是召二司空一曰、立レ宮何爲夕、司空曰、立レ宮以二城矩一爲レ之、明日晏子朝レ公、公曰、先君太公、以二營丘之封一立レ城、曷爲夕。

【城隅】32 ジヤウグウ ❶城郭の片隅。城角。城曲。城陬。城隈。〔詩、邶風、靜女〕靜女其姝、俟二我於城隅一。〔向秀、思舊賦〕息二余駕乎城隅一。〔盧諶、贈二崔溫一詩〕趙遙步二城隅一、暇日聊游豫。❷城角に建てた高樓。〔周禮、考工記、匠人〕城隅之制九雉。〔湛園札記〕考工記、城隅之制九雉、疏、鄭以二浮思一釋レ隅者、按二漢書一云、東闕浮思災、則浮思者小樓也、愚按、浮思爲二小樓一、則城隅卽今城上譙樓、九雉者、城身高七丈、樓身高二丈也、又詩闉闍傳、闉、曲城也、闍、城臺也、正義云、闍、是城上之臺、謂二當門臺一、當門臺卽城隅。

【城壞】33 ジヤウクワイ 城がこはれる。〔詩、大雅、板〕無レ俾二城壞一、無二獨斯畏一。〔公羊、莊、十三〕曹子曰、城壞壓レ竟。

【城外】34 ジヤウグワイ 城の外。〔史記、田單傳〕吾懼下燕人掘二吾城外冢墓一、僇二先人一、可上爲二寒心一。〔杜甫、蜀相詩〕丞相祠堂何處尋、錦官城外柏森森。

〖城外頭〗35 ch‘êng^2 wai^4 t‘ou ❶城外。❷北京城の外城。

【城隍】36 ジヤウクワウ ❶要害の爲に設けた城のまはりのからぼり。塹壕。城復レ隍(187)を見よ。〔班固、兩都賦序〕浚二城隍一而起二苑囿一。〔後漢書、班固傳上〕京師脩二起宮室一、濬二繕城隍一。〔梁書、陸襄傳〕修二城隍一爲二備禦一。❷神の名。城隍神を見よ。❸島の名。山東省蓬萊縣の北、渤海海峽の中にあり、廟島列島の最北をなす。南北の二島から成り、北島は滿州遼寧省の老鐵山嘴に對し、黃海と渤海との分界をなしている。

〖城隍神〗37 ジヤウクワウシン 都城神。都市の守護神。その祭神は時代によつて變遷し、又、土地によつて異り、或は戰國、楚の春申君(蘇州)、或は宋の文天祥(杭州)、或は明の周新(杭州)、或は明の泰裕君(上海)等を祭る。城隍神の祭祀は、もと南方沿岸地方に於ける地方的風俗に起り、遂に普く行はれるに至つた。現今は每年五月二十一日を城隍神の生誕日とし、盛大な祭典を行ふ。〔北齊書、慕容儼傳〕城中先有二神祠一所一、俗號二城隍神一、公私每有二祈禱一。〔韓愈、潮州祭神文〕謹以二柔毛剛鬣清酌庶羞之奠一、祭二于城隍之神一。〔集古錄〕李陽冰記曰、城隍、祀典無レ之、吳城有爾。〔困學紀聞、雜識〕北齊慕容儼、鎭二郢城一、城中先有二神祠一、俗號二城隍神一、則唐以前已有レ之。〔陔餘叢考、城隍神〕王敬哉冬夜箋記謂、城隍之名見二于易一、所謂城復二于隍一也。

〖城隍廟〗38 ジヤウクワウベウ 城隍神の社。〔福惠全書、涖任部、入境〕於二上任前一日、或前三日一、至二城隍廟一齋宿。〔燕京歲時記、都城隍廟〕都城隍廟、在二宣武門內溝沿西城隍廟街路北一、每歲五月、自二初一日一起二廟市一十日、市皆兒童玩好、無二甚珍奇一、遊者鮮矣。

〖城隍出巡〗39 ジヤウクワウシユツジユン 城隍廟の輿が出でめぐること。河北省宛平縣の城隍廟は陰曆四月二十二日に、又、大興縣の城隍廟は陰曆五月一日に八人擔ぎの肩輿で出巡する。〔燕京歲時記、城隍出巡〕四月二十二、宛平縣城隍出巡、五月初一日、大興縣城隍出巡、出巡之時、皆以二八人肩輿一、舁二藤像一而行、有下捨レ身爲二馬僮一者上、有下捨レ身爲二打扇一者上、有下臂穿二鐵鉤一懸レ燈而導者上、有二披レ枷帶レ鎖、儼然罪レ人者一、神輿之傍、又扮有二判官鬼卒之類一、彳亍而行、亦無レ非二神道設レ敎之意一。

【城郭】40 ジヤウクワク 城壁。內側を城、外側を郭といふ。城廓。〔周禮、夏官、掌固〕掌レ脩二城郭溝池樹渠之固一。〔禮、禮運〕城郭溝池以爲レ固。〔左氏、僖、二十一〕脩二城郭一、貶レ食省レ用。〔孟子、離婁上〕城郭不レ完、兵甲不レ多、非二國之災一也。〔荀子、君道〕城郭不レ待レ飾而固。〔墨子、七患〕城郭溝池。〔漢書、韓延壽傳〕治二城郭一、收二賦租一。〔新書、階級〕守衞捍敵之臣、誠死二城郭封境一。

〖城郭國〗41 ジヤウクワクコク 城郭を築いて守備を固めてゐる國。〔北邊備對〕漢敍二西域諸國一、有二城郭國一、有二行國一、城郭則其築レ城有レ守者也、行國則不レ立二城郭一、而以二馬上一爲レ國者也。

【城廓】42 ジヤウクワク 城郭に同じ。〔淮南子、天文訓〕繕二牆垣一、脩二城廓一。

【城觀】43 ジヤウクワン 城のものみ。又、城門。城闕。城闉。〔張正見、御二幸樂遊苑一侍宴詩〕揚レ鑾出二城觀一、詔レ蹕指二郊壥一。

【城闕】44 ジヤウケツ ❶城門。闕は、門の通路で、其の上に樓觀を作り、中央の闕けた所を道として用ひる。〔詩、鄭風、子衿〕挑兮達兮、在二城闕一兮。〔後漢書、蘇不韋傳〕城闕天阻、宮府幽絕。〔張衡、東京賦〕殿未レ出二乎城闕一、旆已𢌞二乎郊畛一。〔陸機、歎逝賦〕悼二堂構之頹瘁一、愍二城闕之丘荒一。〔傅亮、爲二宋公一至二洛陽一謁二五陵一表〕山川無レ改、城闕爲レ墟、宮廟隳頓、鐘簴空列。❷都城。都市全體をいふ。〔王勃、杜少府之二任蜀州一詩〕城闕輔二三秦一、風烟望二五津一。〔戴叔倫、客夜與二故人一偶集詩〕天秋月又滿、城闕夜千重。❸帝王の居所をいふ。宮闕。〔庾信、爲二閻大將軍一乞二致仕一表〕俳二佪城闕一、私增二凄戀一。〔吳融、雪後過二昭應一詩〕九重城闕在二雲端一。〔白居易、長恨歌〕九重城闕煙塵生、千乘萬騎西南行。

【城險】45 ジヤウケン ❶城の防禦設備。溝・塹・樓・櫓の類。城障(79)に同じ。〔尉繚子、攻權〕城險未レ設。〔何遜、登二石頭城一詩〕關城乃形勢、城險差非レ一。〔唐書、信安王褘傳〕或謂、城險賊所レ愛、必固守不レ如三持レ重伺二賊勢一。❷城壁が高くけはしい。〔韓愈、春雪詩〕城險疑レ懸レ布、砧寒未レ擣レ綃。

【城原】46 キハラ 姓氏。〔國史姓名譜〕。

【城戶】47 キド ❶城の門。木戶(**6－14415**‥158)の❶に同じ。〔日本書紀、崇神紀〕大きどより窺ひて。❷姓氏。

【城固】48 ジヤウコ 縣名。南朝宋、置く。漢の成固縣。陝西省南鄭縣の東南。故城は城固縣治の西北。四川省に通ずる要衝。〔宋書、州郡志三、梁州、漢中〕城固令、漢舊縣。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府〕城固縣、府東七十里、漢縣屬二漢中郡一、後皆因レ之、唐初曰二唐固一、貞觀二年、復曰二城固一、寶應初、奴剌黨項寇二城固一、卽此。〔清史稿、地理志〕陝西、漢中府、縣八、城固。

【城狐】49 ジヤウコ 城に棲む狐。城狐社鼠を見よ。

〖城狐社鼠〗50 ジヤウコシヤソ 城中の狐と祠中の鼠。身を安全の地において惡事をする者。君側に居る姦邪の臣の喩。稷狐社鼠。社鼠(**8－24631**‥83)を見よ。〔說苑、善說〕孟嘗君寄二客於齊王一、云云、客曰、且夫狐者、人之所レ攻也、鼠者、人之所レ燻也、臣未三嘗見二稷狐見レ攻、社鼠見一レ燻也、何則所レ託者然也。〔晉書、謝鯤傳〕及二敦將レ爲レ逆、謂レ鯤曰、劉隗奸邪、將レ危二社稷一、吾欲下除二君側之惡一、匡レ主濟上時、何如、對曰、隗誠始レ禍、然城狐社鼠也。

【城鼓】51 ジヤウコ 城中で打つ合圖のつづみ。〔墨子、備梯〕皆聽二城鼓之音一而出、又聽二城鼓之音一而入。

【城後】52 ジヤウゴ 城の背後。〔日本外史、源氏正記、源氏、下〕朝光與二族朝綱一、豫遣二死士七人一、自二城後一冒レ險入、大呼而射。

【城口】53 ジヤウコウ ❶湖北省應山縣の北に在る大隧・直轅・冥阨の三隘道、後世の所謂義陽の三關(武陽關・黃峴關・平靖關)の總稱。方城山(河南省方城縣の東北から湖北省應山縣の北に跨る山脈)の入口の意。春秋時代、楚は方城山を北方の要害と恃んでゐた。〔左氏、僖、四〕楚國方城以爲レ城、漢水以爲レ池。〔左氏、定、四〕冬、蔡侯・吳子・唐侯伐レ楚、舍二舟于淮汭一、自二豫章一與レ楚夾レ漢、左司馬戌謂二子常一曰、子沿レ漢而與レ之上下、我悉二方城外一、以毀二其舟一、還塞二大隧・直轅・冥阨一、子濟レ漢而伐レ之、我自レ後擊レ之、必大敗レ之、既謀而行、云云、史皇謂二子常一、楚人惡レ子而好二司馬一、若司馬毀二吳舟于淮一、塞二城口一而入、是獨克レ吳、子必速戰、不レ然不レ免。〔注〕三者漢東之隘道也、城口、三隘道之總名也。〔會箋〕應山縣北、有二義陽三關一、一曰二平靖關一、一曰二黃峴關一、又名二百雁關一、一曰二武陽關一、又名二澧山關一、卽古大隧・直轅・冥阨也、大隧卽武陽、直轅卽黃峴、冥阨卽平靖也、云云、唐元和志云、平靖關、在二應山北六十里一、北至二申州一九十里、東至二百雁關一百六十里、百雁關、在二應山北九十里一、北至二申州一九十里、東至二澧山關一百里、澧山關、在二應山東北一百三十里一、北至二申州一百五十里、云云、三隘道在二方城一、故總稱二城口一。❷縣名。民國、置く。清の城口廳の地。四川省萬源縣の東北。陝西省紫陽に通ずる要道。〔清史稿、地理志〕四川、綏定府、廳

一、城口廳。❸村名。廣東省仁化縣の北。恩溪水の左岸。通稱、城口隘。〔清一統志〕城口隘、在㆓仁化縣北九十里康溪都㆒、路通㆓桂陽㆒。

【城溝】54（ジヤウコウ） 城のまはりの堀。城池。城濠。又、城壁とそのまはりの堀。〔史記、晉世家〕梁伯好㆓土功㆒、治㆓城溝㆒。

【城國】55（ジヤウコク） 都城をいふ。中國の都會は周圍に城郭があるからいふ。〔後漢書、周擧傳〕河伯以㆑水爲㆓城國㆒。

【城根】56（ジヤウコン） 城壁のねもと。又、城壁がどつしりと立つてゐること。〔韋應物、酬㆓秦徵君徐少府春日見㆑寄詩〕城根山半腹、亭影水中心。〔杜荀鶴、寄㆓溫洲朱尚書㆓云云詩〕山從㆓海岸㆒妝㆓吟景㆒、水自㆓城根㆒演㆓政聲㆒。

【城渾】57（ジヤウコン） 戰國の人。楚に游び、新城公に說いて悅ばれ、駟馬乘車を貰つた。〔戰國、楚策〕。

【城柴】58（ジヤウサイ） とりで。城柵に同じ。〔宋書、張興傳〕據㆓錢谿營㆒立㆓城柴㆒。

【城砦】59（ジヤウサイ） 城ととりで。又、とりで。城寨。〔宋史、西南溪峒蠻傳〕辰州溪洞都指揮使魏進武、率㆓山猺數百人㆒、數寇㆓城砦㆒、朝廷不㆑欲㆓發㆑兵窮討㆒、乃降㆑詔招諭。

【城塞】60（ジヤウサイ） 城寨に同じ。〔菅家文草、臨時仁王會咒願文〕兵刃不㆑閑、城塞有㆑警。

【城寨】61（ジヤウサイ） 城ととりで。又、とりで。城砦。城塞。城壘。〔蜀檮杌〕唐師至㆓三泉㆒、諸將皆棄㆓城寨㆒遁還。

【城齋】62（ジヤウサイ） 清、鄭虎文（11－39647・・373）の「號。

【城倉】63（ジヤウサウ） 城中の倉庫。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕至㆓于城倉㆒、有㆓種胥蠹市棍㆒。

【城柵】64（ジヤウサク） とりで。城柴。城寨。城壘。〔後漢書、東夷、倭傳〕有㆓城柵屋室㆒。〔魏志、東夷、夫餘傳〕國之耆老自說、古之亡人作㆓城柵㆒、皆員有㆑似㆓牢獄㆒。〔陳書、高祖武帝紀上〕立㆓城柵㆒以拒㆓官軍㆒。〔舊五代史、晉少帝紀二〕南軍東面人少、沿㆑河城柵不㆑固、可㆓以攻㆑之。

【城山】65（ジヤウザン） 山名。❶河北省平谷縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、薊州、平谷縣〕城山、縣東六十里、四山高聳、中寬平如㆑城。❷河北省井陘縣の東南。一名、障城山。金末、趙貴等が根據とし、蒙古の將、焦德裕に平げられた處。〔明一統志〕城山、在㆓眞定府井陘縣東南三十里㆒、形如㆓城垣㆒。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、井陘縣〕城山、縣東南三十里、一名、障城山、以㆔山似㆓城垣㆒而名、金末、武仙餘黨趙貴等、據㆑山侵掠、蒙古將焦德裕、擊平㆑之、明初、大兵下㆓井陘㆒、別將費聚取㆓城山砦㆒、是也。❸安徽省銅陵縣の東。〔讀史方輿紀要、江南、池州府、銅陵縣〕城山、縣東三十五里、四圍石壁峭立、西南僅通㆓一徑㆒、宛如㆓城門㆒、其上平坦約數十畝、又有㆑井、雖㆑旱不㆑涸、昔人恃以避㆑寇、亦謂㆓之賽城㆒。❹福建省福安縣の西南。唐末、鄕民がここに城を築き、黃巢の亂を避けた。〔讀史方輿紀要、福建、福寧州、福安縣、辰山〕城山、在㆓縣西南十五里㆒、唐末、鄕民築㆓城於此㆒、以避㆓黃巢之亂㆒、因名、上有㆓靈巖㆒。

〖城山堂〗66（ジヤウザンダウ） 明、盛時泰（8－23005・・213）の室名。

【城塹】67（ジヤウザン） 城壍に同じ。〔宋書、謝惠連傳〕義康治㆓東府城㆒、城塹中得㆓古冢㆒、爲㆑之改葬、使㆔惠連爲㆓祭文㆒、留㆑信待㆑成、其文甚美。〔日本政記、後小松天皇〕應永六年、乃大修㆓城塹㆒、然終敗。

【城壍】68（ジヤウザン） 城の濠。城濠。城塹。〔史記、蒙恬傳〕城壍萬餘里。〔曹植、與㆓司馬仲達㆒書〕故其俗、蓋以㆓洲渚㆒爲㆓營壁㆒、江淮爲㆓城壍㆒而已、若可㆑得㆓挑致㆒、則吾一旅之卒、足㆓以敵㆑之。

【城子】69（ジヤウシ） 山名。❶安徽省貴池縣の西。〔池州府志〕城子山、在㆓府西七十里㆒、卽古石城縣治、一在㆓青陽縣南五里㆒、與㆓舊臨城㆒相對、故名、一在㆓石埭縣西九十里㆒、環繞如㆑城、前有㆓紫潭㆒。❷湖北省鍾祥縣の東北。銅を產し、絕頂に數頃の方池がある。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府、鍾祥縣、關門山〕城子山、在㆓東南百四十里㆒、上有㆓土城㆒、亦昔時保聚處。❸江蘇省儀徵縣の北。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、儀眞縣〕城子山、縣北六里、山形如㆑城、魏文帝築㆓樂遊臺㆒、立㆑馬賦㆓詩於此㆒。

【城市】70（ジヤウシ） 城壁のある町。城邑市坊。都市。市街地。中國の町は城壁で圍まれてゐるからいふ。〔後漢書、廖扶傳〕遂絕㆓志世外㆒、專㆓精經典㆒、云云、常居㆓先人冢側㆒、未㆔曾入㆓城市㆒。〔謝靈運、會吟行〕范蠡出㆓江湖㆒、梅福入㆓城市㆒。〔姚合、送㆑別㆓友人㆒詩〕明朝卻欲㆑歸㆓城市㆒。〔許渾、贈㆓王山人㆒詩〕始知城市有㆓閑人㆒。

〖城市邑〗71（ジヤウシイフ） 城壁のある町。大邑。〔資治通鑑、周紀〕（赧王五十三年）有㆓城市邑十七㆒、願再拜獻㆓之大王㆒。〔注〕城市邑、言㆘邑之有㆓城市㆒者㆖、指㆓言大邑㆒也。

【城址】72（ジヤウシ） 城のあと。しろあと。城趾。〔日本外史、德川氏正記、德川氏、四〕向島伏見故城址也。〔青山鐵槍齋、大八洲遊記、西城山〕町南有㆓城址㆒。

【城趾】73（ジヤウシ） 城のあと。城址に同じ。

【城肆】74（ジヤウシ） 城壁のある町。都市。市街地。〔謝混、游㆓西池㆒詩〕逍遙越㆓城肆㆒、願言屢經過。

【城州】75（ジヤウシウ） 山城國。〔齋藤拙堂、陪㆓游笠置山㆒記〕山屬㆓城州㆒。

【城社】76（ジヤウシヤ） 城と社。狐や鼠が身を寄せるに安全な處。君側の奸臣が利用する君主の權威などの喩。城狐社鼠(50)を見よ。〔蔡邕、對詔問災異八事〕永樂門史霍玉、依㆓阻城社㆒、大爲㆓奸邪㆒。〔南史、戴法興等傳論〕因㆓城社之固㆒、執㆓開壅之機㆒。

【城將】77（ジヤウシヤウ） 城を守る大將。〔漢書、功臣表〕（郭蒙）入㆑漢、爲㆓城將㆒定㆓三秦㆒。

【城廂】78（ジヤウシヤウ） 城の內外。廂は近郊。〔福惠全書、保甲部、選㆓保甲長㆒〕城廂保長、先行㆓庭參㆒。

【城障】79（ジヤウシヤウ） 敵を防ぐための城壁や堤防の類をいふ。〔漢書、匈奴傳上〕築㆓城障列亭㆒至㆓盧朐㆒。

【城牆】80（ジヤウシヤウ） 城壁の上のかき。又、城壁。〔論衡、須頌〕城牆之土、平地之壤也。〔岑參、題㆔金城臨㆓河驛樓㆒詩〕山根盤㆓驛道㆒、河水浸㆓城牆㆒。〔白居易、春至詩〕白片落梅浮㆓澗水㆒、黃梢新柳出㆓城牆㆒。

【城上】81（ジヤウジヤウ） ❶城壁の上。又、城壁のほとり。〔禮、曲禮上〕登㆑城不㆑指、城上不㆑呼。〔左氏、僖、二十八〕曹人尸㆓諸城上㆒。〔史記、高祖紀〕劉季乃書㆑帛射㆓城上㆒。〔後漢書、耿恭傳〕手擊㆓殺之㆒、炙㆓諸城上㆒。〔杜甫、暮歸詩〕霜黃碧梧白鶴棲、城上擊柝復烏啼。❷㋑（キノカミ） 姓氏。〔和爾雅〕。㋺（シキノカミ） 大和國の地名。〔倭名類聚抄〕。

【城主】82（ジヤウシユ） ❶一城の主君。城大。〔六韜、龍韜、兵徵〕城主逃北。〔後漢書、邳彤傳〕邯鄲城民、不㆘肯捐㆓父母㆒、背㆗城主㆖、而千里送㆑公。❷江戶時代、國持と準國持とを除く以外の、居城を有する大名。藩主。〔日本外史、德川氏正記、德川氏、五〕邑宰求㆓償於城主天野康景㆒。

【城守】83（ジヤウシユ） ❶城に立籠つて守る。〔國語、楚語上〕城守之木、於㆑是乎用㆑之。〔戰國、楚策〕扞關驚、則從㆓竟陵㆒以東、盡城守矣。〔史記、晉世家〕齊皆城守、晉乃引㆑兵歸。〔荀子、王制〕人之城守、人之出戰。❷清代、綠營の守備以下、地方縣治の地に駐在して城門の鑰を掌つたもの。城守營を見よ。❸しろもち。德川時代、領地に城を有する大名。城主。

〖城守尉〗84（ジヤウシユヰ） 清代、駐屯八旗を督する武官。〔清會典事例、八旗都統、兵制、畿輔駐防兵制〕乾隆二十七年、裁㆓鄭家莊駐防額㆒、設㆓城守尉、及佐領防禦驍騎校各六員、筆帖式一員、並領催馬甲匠役六百十二名㆒。〔稱謂錄、城守尉、城守尉〕皇朝通考、城守尉、奉天八人、龍江・直隸・保定・滄州・山東・德州・山西・太原・河南・甘肅・莊浪各一人。

〖城守營〗85（ジヤウシユエイ） 清代、城守の❷の駐在する兵營。衞戍隊の兵營。〔清會典事例、兵部、官制、直隸綠營〕設㆓東南城守營、西北城守營、守備各一人㆒。

【城戍】86（ジヤウジユ） しろ。とりで。〔北史、齊神武紀〕道㆓修城戍㆒。

【城所】87（キトコロ） 姓氏。〔和爾雅〕。

【城鉏】88（ジヤウシヨ） 春秋、宋の邑。〔左氏、哀、十一〕疾臣㆓向魋㆒、納㆓美珠㆒焉、與㆓之城鉏㆒、宋公求㆑珠、魋弗㆑授、由㆑是得㆑罪。〔注〕城鉏、宋邑也。

【城鐘】89（ジヤウシヨウ） 城樓で撞く鐘。〔菅晉帥、龍監詩〕懷古終宵愁不㆑寐、城鐘數杵起㆓棲烏㆒。

【城乘】90（シロノリ） 敵城へ攻め入ること。〔別所長治記〕野口合戰、云云、城乘の大事といふは、少しも敵に息つかせぬものぞ、透間なく乘入れ我を越せ。

〖城乘三段〗91（シロノリサンダン） 軍功の名。城乘の功名に於ける三つの等級。大手の虎口（モガリ）のりを上と

し、搦手の虎口のりを次とし、平のりを下とする。〔鈐錄〕。

【城陬】92（ジヤウスウ） 城のすみ。城隅。〔韋應物、虞獲二子鹿一詩〕虞獲二子鹿一、畜二之城陬一。〔戴叔倫、從軍行〕遠遊歷二燕薊一、獨戍邊城陬。

【城西】93（ジヤウセイ） 城の西方。又、城内の西の地區。〔漢書、萬章傳〕長安熾盛、街閭各有二豪俠一、章在二城西柳市一、號二城西萬子夏一。〔古樂府、銅雀詞〕長安城西雙員闕、上有二一雙銅雀宿一。〔杜甫、返照詩〕楚王宮北正黃昏、白帝城西過雨痕。〔蘇軾、和二子由送二將官梁左藏仲通一詩〕城西忽報故人來、急掃二風軒一炊二麥飯一。

【城西麴坊】94（ジヤウセイキクバウ） 江戸城の西の麴町をいふ。〔藤森弘庵、春雨樓記〕移二寓於城西麴坊之傍一。

〖城西草堂〗95（ジヤウセイサウダウ） 清、徐時棟(**4**−10110‥467)の室名。

【城勢】97（ジヤウセイ） 城郭のやうす。城郭の高さ。〔北史、段韶傳〕城勢雖レ高、其中甚狹。

【城篠】98（キシノ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【城迹】99（シロアト） しろあと。城跡に同じ。

【城跡】100（シロアト） 昔、城の在つた處。しろあと。城迹。城墟。

【城足】101（ジヤウソク） 城壁の根本。城の下部。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏、中〕清正造二龜甲車一、牛革包レ之、載以二死士一穿二城足一。

【城垜】102（ジヤウダ） 城のどて。城壁の前方の突起した部分。〔紀效新書〕常見二城垜一。

【城棣】103（ジヤウタイ） 地名。春秋、鄭の地。河南省武陽縣の北の南棣・北棣の二城。〔左氏、襄、五〕會二于城棣一以救レ之。

【城大】104（ジヤウダイ） 一城の長。城主。〔資治通鑑、晉紀〕（成帝、咸和九年）柳城都尉石琮・城大慕輿涇、幷レ力拒守。〔注〕城大、猶二城主一也、一城之長、故曰二城大一。

【城代】105（ジヤウダイ） 城の主に代つて城を守る役。城の留守役。城の代官。〔甲陽軍鑑、十一上〕城代には山縣三郎兵衞を指し置き被レ成候。

〖城代家老〗106（ジヤウダイガラウ） 城持大名の家老中、大名の留守中に城を守り、一切の政事を掌つた者。

【城第】107（ジヤウダイ） 城市と邸宅。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕四年春、車駕進出、觀二覽城第一。

【城旦】108（ジヤウタン） ❶刑罰の名。毎日早く起きて城を築く役に服する刑。刑期は四年。城旦舂を見よ。〔墨子、號令〕除二死罪二人、城旦四人一。〔史記、秦始皇紀〕令下三十日不レ燒、黥爲二城旦一。〔注〕集解曰、如淳曰、律說論決爲二髡鉗一、輸レ邊築二長城一、晝日伺二寇虜一、夜暮築二長城一、城旦、四歲刑也。❷鳥の名。鶡鴠。〔方言、八〕鶡鴠、自レ關而東、謂二之城旦一。

〖城旦書〗108′（ジヤウタンノショ） 儒家の書、春秋などを罵る稱。司空城旦書(**2**−3257‥48)を見よ。

〖城旦舂〗109（ジヤウタンショウ） 刑罰の名。城旦刑と舂刑。舂は、米を搗かせられる刑で、婦人が服役した。刑期は四年。〔史記、淮南厲王傳〕劾繫治二城旦舂以上一。〔漢書、惠帝紀〕有レ罪當レ刑、及當レ爲二城旦舂一者、皆耐爲二鬼薪白粲一。〔注〕應劭曰、城旦者、旦起行治レ城、舂者、婦人不レ預二外徭一、但舂作レ米、皆四歲刑。

【城地】110（ジヤウチ） 城市と領地。〔戰國、魏策〕敝邑之王、欲レ效二城地一。

【城池】111（ジヤウチ） ❶城のまはりの濠。城壕。城溝。〔漢書、刑法志〕一同百里、提封萬井、除二山川沈斥、城池邑居、園囿術路、三千六百井一、定出レ賦六千四百井。❷城壁とそれを取卷く濠。〔孟子、公孫丑下〕城非レ不レ高也、池非レ不レ深也。〔墨子、備城門〕我城池修、守器具。〔陸機、辨亡論上〕城池無二藩籬之固一、山川無二溝阜之勢一。〔儲光羲、新豐作貽二殷四校書一詩〕雞犬暮聲合、城池秋霽空。

【城雉】112（ジヤウチ） 城壁。雉は、城壁の上の垣。〔魏書、李崇傳〕今水涸路通、公私復レ業、便可下繕レ甲積レ糧、修二復城雉一、勞二恤士庶一、務盡中綏懷之略上也。〔北史、薛孝通傳〕據二華山一、以爲二城雉一。〔白居易、遊二溢水一詩〕城雉映レ水見、隱隱如二蜃樓一。

【城持】113（シロモチ） 昔、大名が領地内に城郭を持つこと。又、其の大名。〔奧羽永慶軍記〕城持幷旗本諸士。

【城場】114（ジヤウジヤウ） 城壁のねもとをめぐつてゐる道。〔墨子、備城門〕除二城場一外、去レ池百步、牆垣樹木、小大俱壞伐除二去之一。〔閒詁〕爾雅釋詁云、場、道也、謂二城下周道一。

【城中】115（ジヤウチユウ） ❶城壁のなか。くるわの中。城内。城裏。〔周禮、地官、載師、國宅無レ征、注〕鄭司農云、國宅、城中宅也。❷城内の人。〔史記、田單傳〕五千人因銜レ枚擊レ之、而城中鼓譟從レ之。〔後漢書、光武紀上〕城中亦鼓譟而出、中外合レ勢、震呼動二天地一、莽兵大潰。

〖城中謠〗116（ジヤウチユウエウ） 古樂府の題名。〔古樂府、城中謠〕城中好二高髻一、四方高一尺、城中好二廣眉一、四方且二半額一、城中好二大袖一、四方全二匹帛一。

〖瞰二臨城中一〗117（ジヤウチユウヲカンリンス） 高處から城中の樣子を視下す。〔後漢書、光武紀上〕遂圍レ之數十重、列營百數、雲車十餘丈、瞰二臨城中一、旗幟蔽レ野、埃塵連レ天、鉦鼓之聲、聞二數百里一。

〖城中寸土如二寸金一〗118（ジヤウチユウノスンドハスンキンノゴトシ） 都城内の地價の貴いこと。土一升に金一升。〔清順、十竹詩〕城中寸土如二寸金一、幽軒種レ竹僅十箇、春風愼勿下長二兒孫一、穿二我堦前綠苔一破上。

【城鎭】119（ジヤウチン） 一地方の鎭めとなる都城。〔唐書、陸贄傳〕平居殫二資儲一、以奉二浮冗一、臨レ難棄二城鎭一、以搖二疆場一。

〖城鎭鄉〗120 chʻêng^2 chen^4 hsiang^1 市・町・村。

【城陣】121（ジヤウヂン） 城塞と陣地。戰地をいふ。〔房喬遺表〕今兵士之徒、無二一罪戾一、無レ故驅二之于城陣一、委二之于鋒刃之下一。

【城堞】122（ジヤウテフ） 城のついぢ。ひめがき。女垣。女牆。城陴。〔新書、春秋〕寇挾二城堞一矣。〔宋史、劉隨傳〕官軍無二城堞一。〔元稹、欲レ曙詩〕片月低二城堞一、稀星轉二角樓一。〔白居易、大水詩〕閶闔半漂蕩、城堞多傾墜。

【城殿】123（ジヤウデン） 城中の宮殿。〔魏書、蔣少游傳〕徙二倚園湖城殿之側一。

【城都】124（ジヤウト） 縣名。漢、置く。故城は山東省濮縣の東南。〔漢書、地理志上〕山陽郡、縣二十三、城都。〔注〕侯國、莽曰、城穀。

【城東】125（ジヤウトウ） 城の東方。又、城内の東の地區。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕洛陽城東桃李花、飛來飛去落二誰家一。〔白居易、中隱詩〕君若愛二遊蕩一、城東有二春園一。

〖城東蟄叟〗125′（ジヤウトウチツソウ） 清、張崟(**4**−9812‥219)の號。

【城頭】126（ジヤウトウ） 城のほとり。〔岑參、青門歌送二東臺張判官一〕青門金鎖平旦開、城頭日出使者回。〔丁仙芝、餘杭醉歌贈二吳山人一詩〕城頭坎坎鼓聲曙、滿庭新種櫻桃樹。〔李攀龍、塞上曲送二元美一詩〕城頭一片西山月、多少征人馬上看。

〖城頭子路〗127（ジヤウトウシロ） 後漢、爰曾(**7**−19672‥13)の號。〔後漢書、任光傳〕城頭子路者、東平人、姓爰、名曾、字子路。

【城内】128（ジヤウナイ） 城郭のなか。城中。城域。〔後漢書、朱雋傳〕以臨二城内一。〔魏志、滿寵傳〕賊往甚易、而兵往救レ之甚難、宜レ移二城内之兵一。〔宋書、竟陵王誕傳〕城陷之日、雲霧晦溟、白虹臨二北門一、亙二屬城内一。〔杜甫、不レ寐詩〕瞿塘夜水黑、城内改二更籌一。

【城南】129（ジヤウナン） 城の南方。又、城内の南の地區。〔史記、孝武帝紀〕趙綰王臧等、以二文學一爲二公卿一、欲下議レ古立二明堂城南一、以朝中諸侯上。〔高適、燕歌行〕少婦城南欲レ斷レ腸、征人薊北空回レ首。〔杜甫、哀江頭詩〕黃昏胡騎塵滿レ城、欲レ往二城南一忘二城北一。〔杜甫、洗兵馬行〕淇上健兒歸莫レ懶、城南思婦愁多レ夢。〔白居易、中隱詩〕君若好二登臨一、城南有二秋山一。

〖城南柳〗130（ジヤウナンリウ） 明曲の篇名。明、谷子敬撰。正名は西王母重餐天上桃、呂賓三度城南柳。唐の呂洞賓が、仙術を以て老柳と小桃とを濟度することを述べてゐる。

〖城南逸民〗131（ジヤウナンイツミン） 清、王琛(**7**−20823‥812)の號。

〖城南佳趣〗132（ジヤウナンカシユ） 堂の名。江蘇省常熟縣の虞山の東芝溪のほとりに在る。〔姑蘇志〕邑人虞子賢、嘗得下朱子和二張忠獻城南佳趣雜詠一眞蹟上、遂以名レ堂、元周鳴琦書レ額。

〖城南耕隱〗133（ジヤウナンカウイン） 明、項篤壽(**12**−43343‥82)の號。

〖城南精舍〗134（ジヤウナンシヤウジヤ） 明、莫是龍(**9**−31078‥110)の室名。

〖城南小隱〗135（ジヤウナンセウイン） 明、施德華(**5**−13629‥177)の號。

〖城南老圃〗136（ジヤウナンラウホ） 清、鄒顯吉(**11**−39562‥

85)の號。

【城保】137ジヤウハウ　城。とりで。城堡。〔後漢書、陶謙傳〕自レ是五縣城保、無二復行迹一。〔何承天、安邊論〕杜二廢閒蹊城保之境一。

【城堡】138ジヤウハウ　しろ。とりで。城保。城壘。〔北史、周廣川公測傳〕每歲河冰合後、突厥卽來寇掠、先レ是常預遣下居人入二城堡一以避上レ之。〔唐書、王忠嗣傳〕自二朔方一至二雲中一、袤數千里、忠嗣據二要險一築二城堡一、斥地甚遠。〔杜甫、送三長孫九侍御赴二武威判官一詩〕奪二我同官良一、飄颻按二城堡一。〔蘇轍、送三李誠之知二瀛州一詩〕春風吹二旌旆一、先聲遍二城堡一。〔元史、文宗紀四〕修二城堡一、布レ兵拒守。

【城防】139ジヤウバウ　とりで。防城。〔宣和遺事、後集〕蓋入二城防內一事故也。

【城傍】140ジヤウバウ　城のかたはら。〔李端、瘦馬行〕城傍牧馬驅未レ過、一馬徘徊起還臥。

【城番】141ジヤウバン　❶城中警固の任にあたる兵。城の番人。❷江戸時代、大阪城・二條城の番士の特稱。

【城陂】142ジヤウヒ　城上のひめがき。城堞。〔元稹、酬二翰林白學士代書一百韻一詩〕野蓮侵二稻隴一、亞柳壓二城陂一。

【城扉】143ジヤウヒ　城門のとびら。〔梁簡文帝、答三湘東王上二王羲之書一書〕試レ筆成レ文、臨レ池染レ墨、疏密俱巧、眞草皆得、似レ望二城扉一、如レ瞻二星石一。

【城百】144ジヤウヒヤク　清、文元星(**5**—**13450**··983)の字。

【城布】145ジヤウフ　敷物の名。班布の精巧なもの。〔南州異物志〕班布、文最煩縟多巧者、名曰二城布一。

【城府】146ジヤウフ　❶城市の役所。〔後漢書、龐公傳〕居二峴山之南一、未三嘗入二城府一。〔張衡、週天大象賦〕望二南門之峻關一、覿二庫樓之城府一。❷人に對する警戒心の強いこと。〔晉書、愍帝紀論〕昔高祖宣皇帝、性深阻、有レ若二城府一、而能寬綽以容納。

〔不レ設二城府一〕147ジヤウフヲマウケズ　人に接するに警戒の心を持たない。肝膽を披く。〔宋史、傅堯兪傳〕堯兪厚重寡言、遇レ人不レ設二城府一、人自不レ忍レ欺。

【城武】148ジヤウブ　❶縣名。㋑明、置く。春秋の郜國の地で、後、宋に屬した地。秦、成武縣を置き、明に至つて成を城と訛つた。山東省金鄉縣の西。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府〕成武縣、春秋時郜地、後屬レ宋、秦置二成武縣一云云、明朝洪武四年、屬二濟甯府一、尋改二今屬一、譌レ成曰レ城。〔清史稿、地理志〕山東、曹州府、縣十、城武。㋺南朝宋、置く。江蘇省の境に當る。❷唐、韋皋(**12**—**43108**··19)の字。

【城舞】149ジヤウブ　舞の名。正名は安樂舞。北周の武帝が齊を平げた時に作る。行列方正で、城郭に象るから名づける。〔舊唐書、音樂志二〕安樂者、後周武帝平レ齊所レ作也、行列方正、象二城郭一、周世謂二之城舞一、舞者八十人、刻レ木爲レ面、狗喙獸耳、以レ金飾レ之、垂レ線爲レ髮、畫二猰皮帽一、舞蹈姿制、猶作二羌胡狀一。

【城腹】150ジヤウフク　城壁の中腹。城壁の腰部のところ。〔韓維、南溪詩〕長林拂二雲根一、一逕絕二城腹一。

【城平】151ジヤウヘイ　縣名。❶南朝宋、置く。山東省の境に當る。❷後魏、置く。故城は河北省交河縣の東北。❸後魏、置く。陝西省清澗縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、綏德州、魏平城〕城平城、在二州西南百七十里一、後魏神龜初、置二城平縣一、西魏屬二綏州一。

【城兵】152ジヤウヘイ　城を守る兵。〔文獻通考、兵考、兵制、北軍圖〕北京城兵。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕正成令二城兵、人執二長柄杓一、沃二沸湯一、敵焦爛而退。

【城壁】153ジヤウヘキ　城のかべ。都城の周圍にめぐらした障壁。城垣。〔五代史、南唐世家〕府庫充實、城壁修整。

〔築二城壁一〕153′ジヤウヘキヲキヅク　人に對して心隔てをすること。〔白居易、城二鹽州一詩〕如今邊將非レ無レ策、心笑韓公築二城壁一。

【城邊】154ジヤウヘン　城のほとり。〔李白、烏夜啼詩〕黃雲城邊烏欲レ棲、歸飛啞啞枝上啼。〔杜甫、暮春詩〕沙上草閣柳新闇、城邊野池蓮欲レ紅。〔周繇、送二邊上從事一詩〕衰草城邊路、殘陽壟上笳。

【城父】155ジヤウホ　❶地名。㋑春秋、楚の邑。今、河南省寶豐縣の東の城父村。〔左氏、昭、十九〕太子建居二于城父一。㋺春秋、陳の夷邑の舊名。漢、此の地に城父縣を置く。定徽省亳縣の東南。〔左氏、昭、九〕遷二許于夷一、實城父。〔注〕此時改二城父一爲レ夷、故傳實レ之。❷縣名。㋑漢、置く。春秋、陳の夷邑の地。明初、廢す。故城は、安徽省の東南。今名は城父村。〔漢書、地理志上〕沛郡、縣三十七、城父。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、亳州〕城父城、州東南七十里、春秋時陳邑、云云、漢五年、劉賈軍從二壽春一屠二城父一至二垓下一、尋置二城父縣一、屬二沛郡一、高帝封二功臣尹恢一爲二侯邑一、後漢屬二汝南郡一、晉屬二譙郡一、劉宋僑置二浚儀縣一、屬二陳留郡一、以二城父縣一幷入、後魏因レ之、云云、隋開皇十八年、復曰二城父一、屬二亳州一、唐因レ之、中和末、以二朱全忠父名誠一、改レ縣曰二焦彝一、云云、五代梁龍德初、又改二焦彝一曰二彝父一、後唐復爲二城父縣一、宋因レ之、仍屬二亳州一、元初省入二譙縣一、尋復置、明初廢。㋺南朝宋、置く。安徽省の境に當る。

【城步】156ジヤウホ　縣名。明、置く。漢の都梁縣の地。晉以後の武岡縣。湖南省新寧縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、寶慶府〕城步縣、府西北百四十里、宋武岡軍及綏寧縣地、熙寧六年、置二城步砦于此一、明初爲二城步巡司一、宏治十七年、始析二置縣一、卽故城步巡司爲二縣治一、屬二寶慶府一。〔清史稿、地理志〕湖南、寶慶府、縣四、城步。

【城北】157ジヤウホク　城の北方。又、城內の北の地區。〔杜甫、哀江頭詩〕黃昏胡騎塵滿レ城、欲レ往二城南一忘二城北一。

〔城北徐公〕158ジヤウホクジヨコウ　戰國、齊の城北に居た徐公。美男を以て知られた。〔戰國、齊策〕鄒忌、修八尺有餘、而身體昳麗、朝服衣冠窺レ鏡、謂二其妻一曰、我孰二與城北徐公美一、其妻曰、君美甚、徐公何能及レ君也、城北徐公、齊國之美麗者也。

【城濮】159ジヤウボク　地名。春秋、衞の地。河南省陳留縣。一說に、山東省濮縣の南の臨濮城。〔春秋、僖、二十八〕晉侯・齊師・宋師・秦師・及二楚人一戰二于城濮一、楚師敗績。

【城米】160ジヤウマイ　德川時代、譜代の諸藩及び直轄地の諸城に貯へて、凶荒・事變などにそなへた米穀をいふ。〔玉露叢、三十六〕諸國所々の御城米の事。

【城名】161ジヤウメイ　城の名。城の名稱。〔篇海〕喝、城名也。

【城門】162ジヤウモン　❶城の門。きど。城闕。城闉。城闍。〔孟子、盡心下〕城門之軌、兩馬之力與。〔墨子、備城門〕凡守レ城之法、備二城門一爲二縣門一。〔史記、田叔傳〕主三閉二守城門一。〔中華古今注〕城者盛也、所三以盛二受人物一也、城門皆築レ土爲レ之、累レ土曰レ臺、故亦謂二之臺門一也。❷山名。江西省九江縣の西。鐵を產す。

〔城門尉〕163ジヤウモンヰ　城門領に同じ。

〔城門魚〕164ジヤウモンギヨ　魚の名。鱅に似て少さく、其の鬚は人を刺す。〔閩雜記〕海旁人有二一魟二虎三城門之諺一、謂三皆有二毒刺一也、虎卽虎鯊、其鬚最勁、城門亦魚名、似レ鱅而小、鬚亦能刺レ人。

〔城門郎〕165ジヤウモンラウ　官名。唐、置く。宮城等の門鑰を掌る。〔唐書、百官志二〕城門郎、四人、掌二京城・皇城・宮殿諸門開闔之節一、奉二管鑰一而出二納之一。

〔城門領〕166ジヤウモンリヤウ　清代、步軍統領に屬し、北京の城門の守備に任ずる官。從四品。〔清會典事例、步軍統領、官制、設官〕康熙十三年定、內九門城門尉。〔注〕後改二名城門領一。

〔城門校尉〕167ジヤウモンカウヰ　官名。漢、置き、京師の城門を掌る。〔漢書、百官公卿表上〕城門校尉、掌二京師城門屯兵一、有二司馬・十二城門候一。

〔城門失レ火殃及二池魚一〕168ジヤウモンヒヲシツシワザハヒチギヨニオヨブ　理由なくして禍を被る喩。楚國の城門に火事が起り、之を消す爲に城外の池の水を用ひたので、池魚が枯死したといふ寓話。一說に、池魚は人名で、宋の城門の近くに住み、城門の火事に類燒して死んだ。池魚之災。〔杜弼、檄レ梁文〕楚國亡レ猿、禍延二林木一、城門失レ火、殃及二池魚一。〔太平廣記、水族四〕城門失レ火、禍及二池魚一、舊說、池仲魚、人姓字也、居レ宋、城門失レ火、延及二其家一、仲魚燒死。〔通俗編、禽魚、城門失レ火殃及二池魚一〕清波雜志、張無盡作二一表一云、魯酒薄而邯鄲困、城門火而池魚禍、上出二莊子一、下不レ知レ所レ出、以レ意推レ之、當下是以二池水一救レ火、池竭而魚死上也。

【城陽】169ジヤウヤウ　❶山名。安徽省歙縣城の南。山上に許仙宮がある。〔太平寰宇記〕在二縣南一、環迴孔高、爲二城郭之襟帶一、居二郡之南一、故號爲二城陽一、卽許宣平得レ道之所、李白尋レ之不レ遇、今山

上遺跡猶存。❷郡名。㋑三國魏、置く。春秋の莒子國、漢の城陽國の地。山東省莒縣の治。〔讀史方輿紀要、山東、青州府〕莒州、春秋時、莒子國、後滅二於楚一、戰國屬レ齊、秦屬二琅琊郡一、漢初爲二齊國地一、文帝置二城陽國一、云云、三國魏置二城陽郡一。㋺後魏、置く。❸の㋬を見よ。㋩後魏、置く。❸の㋣を見よ。❸縣名。㋑晉、置く。漢、成陽縣の地。故城は山東省濮縣の東南。〔讀史方輿記要、山東、兗州府、曹州〕成陽城、州東北六十里、戰國時齊邑、成亦作レ郕、秦紀、昭襄十七年、成陽君入朝、秦因置二郕陽縣一、亦曰二城陽一、云云、漢曰二成陽縣一、屬二濟陰郡一、高祖封二功臣奚意一爲二侯邑一、後漢仍爲二成陽縣一、晉屬二濟陽一、後魏屬二濮陽郡一。㋺南朝宋、置く。江蘇省の境。㋩南朝宋、置く。故治は四川省漢源縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、黎州守禦千戶所〕漢源廢縣、今所レ治故沉黎地、志云、沉黎故城、在二所南四十餘里一、云云、晉永嘉中、李雄復置二沉黎郡一、永和中郡廢、尋復置、宋沉黎郡、治二城陽縣一、蕭齊以後縣廢。㋥南朝宋、置く。廣東省の舊肇慶府の境。㋭南齊、置く。湖北省の境。㋬後魏、置き、城陽郡を併置す。河南省泌陽縣の南。㋣後魏、城陽郡を置き、定安縣を改めて城陽縣といふ。故城は河南省信陽縣の東北。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、息縣〕成陽城、在二縣西一、漢縣屬二汝南郡一、云云、後魏太和中、始置二城陽郡一、兼置二殷州一、治二定安縣一、後入二於梁一、亦置二城陽郡一、兼置二楚州一、又謂二之西楚州一、改二定安縣一曰二城陽縣一。

【城陽恭王】170 ジヤウヤウキヨウワウ 後漢、劉祉（**2**―**2224**‥320）の封謚號。

【城陽懷王】171 ジヤウヤウクワイワウ 後漢、劉淑（**2**―**2224**‥358）の封謚號。

【城陽公仲】172 ジヤウヤウコウチユウ 狐の異名。〔法苑珠林〕抱朴子曰、戌日稱二人注子一者犬也、稱二城陽公仲一者狐也。

【城閾】173 ジヤウヨク 城の門構へ。〔魏志、陳思王植傳〕仰瞻二城閾一、俯惟二闕廷一。

【城裏】174 ジヤウリ 城壁のうち。城中。城內。〔李端、蕪城詩〕城裏月明時、精靈自來去。〔王建、長安春遊詩〕牡丹相次發、城裏又須レ忙。

【城裏頭】175 ch'êng² li³ t'ou ❶城內。❷北京城の內城。

【城柳】176 ジヤウリウ 宮城內の柳。城柳宮槐漫搖落を見よ。

【城柳宮槐漫搖落】177 ジヤウリウキユウクワイソゾロニエウラクス 城中の寂莫の景を詠じた句。〔白居易、早入二皇城一贈二王留守僕射一詩〕津橋殘月曉沈沈、風露凄清禁署深、城柳宮槐謾搖落、悲愁不レ到二貴人心一。

【城壘】179 ジヤウルイ とりで。城寨。〔鹽鐵論、和親〕城壘者國之固也。〔魏志、劉馥傳〕高爲二城壘一。〔南齊書、高帝紀上〕治二新亭城壘一未レ畢、賊前軍已至。

【城輦】180 ジヤウレン みやこ。都城。輦は輦下で、天子のおひざもとの意。〔謝莊、黃門侍郎劉琨之誄〕歷二承明一兮去二城輦一。〔謝朓、臨海公主墓銘〕鬱彼崇芒、睠然城輦。

【城樓】181 ジヤウロウ 城壁の上の高殿。〔後漢書、鄧禹傳〕光武舍二城樓上一、披二輿地圖一。〔魏志、文德郭皇后傳〕霖雨百餘日、城樓多壞。〔韓翃、同題二仙遊觀一詩〕仙臺下見五城樓、風物淒淒宿雨收。〔白居易、代書詩一百韻寄二微之一詩〕城樓枕二水湄一。

【城隈】182 ジヤウワイ 城のすみ。城隅。〔新論、激通〕駛雪多積二荒城之隈一、急風好起二沙河之上一。〔駱賓王、帝京篇〕三條九陌麗二城隈一、萬戶千門平旦開。

【闐レ城】183 シロニミツ 城中いつぱいになる。〔班固、西都賦〕闐レ城溢レ郭、旁流二百廛一。

【傅レ城】184 シロニツク 城にくつつける。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕積二以屋材一、傅レ城火レ之。

【崩レ城】185 シロヲクヅス 齊の杞梁の妻が、城壁の下で夫の戰死を哭すること十日、遂に城壁が其の誠に感じて崩れた故事。〔列女傳、貞順、齊杞梁妻傳〕杞梁妻、齊杞梁殖之妻也、莊公襲レ莒、殖戰而死、杞梁之妻、無レ子、內外皆無二五屬之親一、既無レ所レ歸、乃枕二其夫之屍于城下一而哭、內誠動レ人、道路過者莫レ不二爲レ之揮レ涕、十日而城爲レ之崩。〔曹植、求レ通二親親一表〕譬人之誠不レ能レ動レ天、崩レ城隕レ霜、臣初信レ之、以二臣心一況、徒虛語耳。

【城岡墟】186 ジヤウカウキヨ 地名。江西省興國縣の東北。城岡水の東岸。

【城復レ隍】187 ジヤウクワウニカヘル 城壁の土がほりに歸る。隍を掘つた土で築いた城壁が崩れて再び隍を埋めること。福が極まつて禍が至り、利が極まつて害が生ずる喩。〔易、泰〕城復二于隍一、其命亂也。〔程傳〕掘二隍土一積累以成レ城、如二治道積累以成レ泰、及二泰之終一、將レ反二於否一、如三城土頹圮、復反二于隍一也。

【城陵磯】188 ジヤウリヨウキ 磯の名。湖南省岳陽縣の東北、城陵山下に在り、洞庭の湖口に當る。揚子江が磯下を奔流し、地形險要。清初、吳三桂を滅ぼした處。〔水經、江水注〕江之右岸有二城陵山一、山有二故城一。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府、巴陵縣〕城陵山、府西北十五里、蜀江西來、洞庭南注、合二流於此一、乃一郡水口、山下有二城陵磯一、長江奔二流於磯下一。

【攻レ城略レ地】189 シロヲセメチヲリヤクス 城を攻め土地を攻略する。〔史記、項羽紀〕白起爲二秦將一、南征二鄢郢一、北阬二馬服一、攻レ城略レ地、不レ可二勝計一。〔漢書、蕭何傳〕平陽侯曹參、身被二七十創一、攻レ城略レ地、功最多、宜二第一一。

【背レ城借レ一】190 シロニソムキテイツヲカル 城を出て、死を決して戰ふ意。一は一戰すること。〔左氏、成、二〕請收二合餘燼一、背レ城借レ一。〔注〕欲下於二城下一、復借中一戰上也。

【嬰レ城者相望】191 シロヲメグラスモノアヒノゾム 城壁をめぐらして守を堅くする者、卽ち守備を固め、一國一城の主を以て任じ、天下をねらつてゐる者が、到る處にゐる。相望は、互に見える程近い所にゐる。澤山ゐる意。〔後漢書、卓茂傳論〕建武之初、雄豪方擾、虓呼者連レ響、嬰レ城者相望。〔注〕嬰レ城、言下以レ城自嬰繞一。

【飾レ城而請レ罪】192 シロヲカザリテツミヲコフ 守備を修めて手落の罪を問ひ正す。〔穀梁、襄、二十五〕古者大國過二小邑一、小邑必飾レ城而請レ罪、禮也。〔注〕飾レ城者、脩二守備一、請レ罪、問下所二以爲レ闕致レ師之意上。

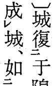
【埏】5121

㊀セン ゼン 〔集韻〕時連切 先

㊁エン 〔集韻〕夷然切 先 ㄧㄢ yen²

㊂エン 〔集韻〕延面切 霰

㊃セン 〔集韻〕尸連切 先


小篆

㊀㊁㊂❶**地のはて**。さかひ。きはみ。〔說文新附〕埏、八方之地也、从レ土延聲。〔方言、十三〕埏、竟也。〔玉篇〕埏、地之八際也。❷**下隰の地**。〔廣雅、釋地〕埏、池也。〔玉篇〕埏、隰也。❸**はかみち**。〔集韻〕埏、墓道也。〔後漢書、陳蕃傳〕民有二趙宣一、葬レ親而不レ閉二埏隧一。〔注〕埏隧、今入レ墓道也。〔潘岳、楊仲武誄〕埏隧既開。〔注〕善曰、聲類曰、埏、墓隧也。❹**のぼる**。〔集韻〕埏、登也。❺或は羨（**9**―**28503**）に作る。〔集韻〕埏、或作レ羨。❻延（**4**―**9567**）に通ず。〔說文新附考〕埏、疑延之俗字、亦作レ羨、玉篇、埏、以旃切、地之八際也、引二司馬相如封禪書一云、上暢二九垓一、下泝二八埏一、埏、又隰也、地也、按、淮南子地形訓、作二八羨一、高注、羨、猶レ遠也、据二高注一、疑埏本是延、說文延訓二長行一、與二遠義一合、管子地員篇、有二墳延之名一、亦與二隰地一義合。㊃❶**やはらげる**。**こねる**。土に水を加へてやはらかくする。〔集韻〕埏、和レ土也。〔一切經音義、十三〕埏、揉也。〔老子、十一〕埏レ埴以爲レ器。〔注〕埏、和也。〔荀子、性惡〕故陶人埏レ埴而爲レ器。〔注〕埏、擊也。❷通じて梴（**6**―**14887**）に作る。〔集韻〕埏、通作レ梴。

【埏埴】1 センシヨク ねば土をこねる。〔老子、十一〕埏レ埴以爲レ器。〔荀子、性惡〕陶人埏レ埴而爲レ器。〔注〕埏、擊也、埴、黏土也。〔淮南子、精神訓〕譬猶二陶人之埏埴一也。

【埏隧】2 エンスイ 地を掘つて設けた、つか穴に至る道。はかみち。〔後漢書、陳蕃傳〕民有二趙宣一、葬レ親而不レ閉二埏隧一。〔注〕埏隧、今入レ墓道也、杜預注二左傳一云、掘レ地通レ路曰レ隧。〔潘岳、楊仲武誄〕埏隧既開。〔注〕善曰、聲類曰、埏、墓隧也。

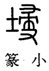
【埏側】3 エンソク 墓道の附近。〔潘岳、悼亡詩〕落葉

委二埏側一。〔注〕翰曰、埏、墓道。

【埏闥】4（エンタツ） つかあなの門。墓道に立つ門。〔曹植、仲雍哀辭〕臨二埏闥一以歔欷、淚流射而霑レ巾。

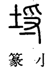
【埏中】5（エンチユウ） 墓道の中。〔海錄碎事、政事、塚墓〕埏中、埏音延、墓道也。

【埐】 5122 シン 〔集韻〕咨林切 侵


小篆

❶**地**。墋(3−5361)に同じ。〔正字通〕埐、説文墋。〔説文〕墋、地也、从レ土寑省聲。❷**地名**。〔集韻〕埐、地名。

【埒】 5123 レツ レチ 〔集韻〕龍輟切 屑 ㄌㄝˋ lè4 慣ラツ・ラチ


小篆

❶**ませがき**。低い垣。〔説文〕埒、庳垣也、从レ土守聲。〔魏書、禮志〕爲二壝埒一三重。〔元稹、馬賦〕觀二校埒百夫之禦一。❷**馬場のかこひ**。〔廣韻〕埒、馬埒。❸**つつみ**。〔廣雅、釋宮〕埒、隄也。❹**頂上に池のある山**。〔爾雅、釋山〕山上有レ水、埒。❺**がけ**。ほとり。〔廣雅、釋邱〕埒、厓也。❻**さかひ**。かぎり。〔爾雅、釋丘〕水潦所レ還埒丘。〔注〕謂下丘邊有二界埒一、水繞環上。❼**かたち**。〔淮南子、本經訓〕含レ氣化レ物、以成二埒類一。〔注〕埒、形也。〔淮南子、繆稱訓〕道之有二篇章形埒一者。〔注〕形埒、兆朕也。❽**ひとしい**。〔史記、平準書〕富埒二天子一。〔注〕集解曰、埒者際畔、言二鄰接相次一也。〔漢書、佞幸、李延年傳〕其愛幸埒二韓嫣一。〔注〕師古曰、埒、等齊。❾浖(6−17454)に通ず。〔爾雅、釋山、釋文〕埒、本亦作レ浖。❿𥆧(7−21857)に通ず。〔列子、天瑞〕易无二形𥆧一、〔釋文〕形𥆧、淮南子作二形埒一。⓫捋(5−12140)に通ず。埒略(8)を見よ。邦**らち**。❶馬場の周圍の柵。❷埒が明くといへば、仕事がはかどり、或は終る義。加茂の競馬の見物人が馬場の柵の開くを待ち侘びたことから起つたといふ。

【埒竽】1（ラツウ） 小鐘に似た樂器。〔文獻通考、樂考〕樂府錄謂、埒竽形類二小鐘一、以レ手埒レ之則鳴矣、非二古制一矣。〔注〕如レ簧而無レ觜。

【埒垣】2（レツエン） 圍ひ。〔公羊、昭、二十五、既哭以レ人爲レ菑、注〕菑、周埒垣也。

【埒丘】3（レツキウ） 水流のめぐつている丘。丘、又邱に作る。〔爾雅、釋丘〕水潦所レ還、埒丘。〔注〕謂下丘邊有二界埒一、水繞環上。

【埒外】4（ラチグワイ） かこひのそと。限界の外。

【埒縣】5（レツケン） 縣名。漢、置く。鴈門郡に屬す。山西省の境。〔漢書、地理志下〕鴈門郡、縣十四、埒。

【埒內】6（ラチナイ） かこひのうち。限界の內。

【埒畝】7（レツポ） うね。田のあぜ。〔淮南子、本經訓〕菑二榛穢一、聚二埒畝一、芟二野菼一、長二苗秀一。

【埒略】8（レツリヤク） あらましを取りのべる。埒は捋(5−12140)に通ず。〔淮南子、要略〕埒二略衰世古今之變一、以褒二先世之隆盛一。

【埒類】9（レツルイ） 品類。埒は形。〔淮南子、本經訓〕含レ氣化レ物、以成二埒類一。〔注〕埒、形也。

【埓】 5124 レツ 埒(3−5123)の俗字。〔正字通〕埒、俗作レ埓、非。

【垠】 5125 ギン 垠(3−5054)の本字。〔正字通〕垠、垠本字。

【陘】 5126 シユン 陖(11−41645)に同じ。〔集韻〕陖、或作レ陘。

【埾】 5127 キ 基(3−5197)に同じ。〔字彙補〕埾、同レ基。

【埭】 5128 カン 〔字彙補〕回蘭切 寒 **姓**。韓(12−43159)の草書體。〔字義總略〕埭、姓也、元草書韓字。

【埑】 5129 テツ 哲(2−3667)に同じ。〔鶡冠子、王鈇〕鉤二于內哲一。〔注〕哲、或作レ埑。

【𡋯】 5130 サ 沙(6−17212)に同じ。〔字彙補〕𡋯、同レ沙。

【𡋤】 5131 タイ ダイ 〔集韻〕徒外切 泰 **垣が崩れる**。〔集韻〕𡋤、牆隤也。

【垪】 5132 ハウ ヒヤウ 〔集韻〕晡橫切 庚 **塚の入口の穴**。つかあな。〔集韻〕垪、塚口穴。

【埯】 5133 アウ 墺(3−5504)の古字。〔玉篇〕埯、古文墺。

【𡉡】 5134 ケイ 〔五音篇海〕口圭切 齊 **星の名**。〔五音篇海〕𡉡、星名。

【埤】 5135 ヘイ 陛(11−41654)に同じ。〔集韻〕陛、或从レ土。

【堡】 5136 ハウ 保(1−702)に同じ。〔篇海〕堡、保同。

【垩】 5137 アク 〔五音篇海〕音堊 **白い土**。〔五音篇海〕垩、白土也。

【𡊸】 5138 イン 〔字彙補〕烏欣切 眞 **ふさぐ**。垔(3−5041)の譌字。〔字彙補〕𡊸、塞也。〔康熙字典〕𡊸、按、卽垔字之譌。

【𡍸】 5139 カウ 坑(3−4932)の俗字。〔龍龕手鑑〕𡍸、俗坑字。

【堝】 5140 チ 義未詳。〔龍龕手鑑〕堝、音坻。

【型】 5141 ケイ **いがた**。型(3−5030)の譌字。〔正字通〕型、又篇海譌作レ型。〔康熙字典〕型、按、卽型字之譌。

【埆】 5142 ガイ 垓(3−5040)に同じ。〔龍龕手鑑〕埆、同レ垓。

【𡊬】 5143 クワン 垸(3−5090)に同じ。〔龍龕手鑑〕𡊬、同レ垸。

【堀】 5144 カウ 堀(3−5298)の俗字。〔龍龕手鑑〕堀、俗堀字。

【坳】5145 エウ 義未詳。〔篇海類編〕坳、音腰。

【⿱⿰氵刅土】5146 タ 義未詳。〔川篇〕⿱⿰氵刅土、音惰。

【⿰土旨】5147 タイ 堆(3－5211)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰土旨、同レ堆。

【⿰土甾】5148 コウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰土甾、音弘。

【埔】5149 ホ 〔中華大字典〕埔、讀如レ浦。 ㄆㄨˇ pu^{3} ㄅㄨˇ pu^{3}

❶大埔は、廣東省の縣名。大埔(3－5834・2114)の❶を見よ。〔中華大字典〕埔、大埔、縣名、明置、在レ漢爲二揭陽縣地一、卽今廣東大埔縣。❷東埔寨は、交趾支那の北、泰國の南に在り、西曆一八六三年佛蘭西國の保護に歸した。カンボヂヤ。〔中華大字典〕埔、柬埔寨、在二交趾支那之北、暹羅之南一、于二西歷一千八百六十三年一、歸二法國保護一。英文 Cambodia。

【埕】5150 テイ 〔中華大字典〕埕、讀如レ呈。 ㄔㄥˊ ch'êng^{2}

❶口の小さい素燒の瓶。一埕は酒一罈。〔中華大字典〕埕、俗字、酒一罈謂二一埕一。❷福建で蟶蛤を殖する田。〔中華大字典〕埕、福建種二蟶蛤一之田、亦曰レ埕。

【⿱㓝土】5151 ケイ 型(3－5030)の本字。〔中華大字典〕型、本作レ⿱㓝土。

【⿰土余】5152 チヨ 除(11－41669)に通ず。〔墨子、節葬下〕曰必捶二⿰土余差通一。〔閒詁〕⿰土余、除聲、義亦通。

【⿱余土】5153 ヨ 畬(7－21860)の俗字。

八畫

【埜】5154 ヤ 〔集韻〕以者切 馬 ㄧㄝˇ yeh^{3}

❶野(11－40133)の古字。〔集韻〕野、古作レ埜。❷壄(3－5489)に同じ。〔漢書、司馬相如傳下〕膏液潤二埜艸一。〔注〕師古曰、埜、與レ壄同、古野字也。❸姓。〔正字通〕埜、姓、明正統中、南昌千戸埜佑、固安人。

參考 熟語は野(11－40133)を見よ。

【⿱非土】5155 ㈠ビヒ 〔集韻〕父尾切 尾 ㈡ビヒ 〔集韻〕父沸切 未

小篆

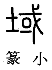
㈠㈡❶ちり。〔説文〕⿱非土、𪋻也、从レ土非聲。❷或は⿱非火(12－42594)に作る。〔集韻〕⿱非土、或从レ火。

【埝】5156 ㈠テン 〔集韻〕都念切 豔 ㈡デフ ネフ 〔集韻〕諾叶切 葉 ㈢ネン 〔辭海〕俗讀レ念。 ㄋㄧㄢˋ nien^{4}

㈠❶土地が低い。〔方言、十三〕埝、下也。❷墊(3－5420)に同じ。〔集韻〕墊、或作レ埝。㈡❶ます。ふやす。〔集韻〕埝、益也。❷おちいる。〔集韻〕埝、一曰、陷也。㈢土を築いて水をさへぎる。又、つつみ。隄防。〔辭海〕埝、築レ土障レ水曰レ埝、淮北各場鹽斤交掣換船之地、皆名曰レ埝、亦稱爲レ堰。

【埞】5157 テイ 堤(3－5259)に同じ。〔字彙〕埞、同レ堤。

【域】5158 ㈠ヨク ヰキ 〔集韻〕越逼切 職 ㄩˋ yü^{4} ㈡ヰク 〔集韻〕乙六切 屋


小篆

㈠㈡❶くぎり。かぎり。さかひ。〔周禮、地官、大司徒〕周知二九州之地域廣輪之數一。〔漢書、禮樂志〕躋二之仁壽之域一。〔注〕師古曰、域、界也。〔漢書、賈誼傳〕其在二大譴大何之域一者。〔注〕師古曰、域、界局也。❷かぎる。くぎる。〔孟子、公孫丑下〕域レ民不レ以二封疆之界一。〔集注〕域、界限也。❸限りくぎつた土地。區域。〔集韻〕域、區處也。〔正韻〕域、區域也。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕綏二爰九域一。〔注〕善曰、薛君曰、九域、九州也。❹くに。或(5－11563)に同じ。〔説文〕或、邦也、从レ口、戈以守二其一一、一、地也、域、或、或从レ土。〔廣雅、釋詁四〕域、國也。〔漢書、韋玄成傳〕以保二爾域一。〔注〕師古曰、域、謂二封邑一也。❺墓地。塋域。〔廣雅、釋邱〕域、葬地也。〔詩、唐風、葛生〕蘞蔓二于域一。〔傳〕域、營域也。〔阮元、校勘記〕小字本相臺本、營作レ塋、云云、營卽塋之假字耳。〔周禮、春官、典祀〕皆有レ域。〔注〕域、兆表之塋域。❻身體。〔陸機、豪士賦序〕隆殺止二乎其域一。〔注〕善曰、域、謂レ身也。❼たもつ。〔詩、商頌、玄鳥〕正域二彼四方一。〔傳〕域、有也。❽居る。〔史記、禮書〕人域是域、士君子也。〔注〕索隱曰、域、居也。❾或は⿱或土(3－5159)に作る。〔正字通〕域、亦作レ⿱或土。❿古は⿰目或(7－21886)・⿰阝或(11－41700)・⿰戈或(5－11672)に作る。〔玉篇〕⿰阝或、古文域。〔玉篇〕⿰目或、古域字。〔康熙字典〕域古文、⿰戈或。

名乘 クニ。ムラ。

解字 會意。土と或との合字。本義はくにの義で、或の俗字。或は、口(國の四方の境界に象る)と戈(守る武器)と一(土地の意)との合字で、くにの本字。後人、或をあるひはの義に用ひて以後、くにの義には土偏を加へて域に作り、又は口を加へて國に作る。更に域をくにざかひ・區域等の義に用ひる。〔説文〕或、邦也、从レ口、戈以守二其一一、一、地也、域、或、或从レ土。〔段注〕既从レ口从レ一矣、又从レ土、是爲二後起之俗字一。

【域外】1 ヰキグワイ 一定の場所の外。〔漢書、鄒陽傳〕越二攣拘之語一、馳二域外之議一。〔新序、雜事三〕馳二域外之議一。

【域中】2 ヰキチユウ 世の中。宇內。天下。〔老子、二十五〕域中有二四大一、而王居二其一一焉。〔孫綽、遊二天台山一賦〕釋二域中之常戀一。〔駱賓王、代二李敬業一討二武氏一檄〕請看今日之域中、竟是誰家之天下。

【域內】3 ヰキナイ 一定の場所の內。〔黃宗羲、萬里尋レ兄記〕吾兄不レ過レ在二域內一。

【域滅】4 ヰキメツ ある區域が滅びる。〔班固、封二燕然山一銘〕於レ是域滅區殫、反レ旆而旋。

【⿱或土】5159 ヨク 域(3－5158)に同じ。〔佩觿集〕⿱或土、與レ域同。

【⿰土豖】5160 ㈠チヨク トク 〔集韻〕丑玉切 沃 ㈡ジヨク ノク 〔集韻〕儒欲切 沃

㈡牛馬の歩く處。〔集韻〕埭、牛馬所レ蹈處。

【埠】5161 ホ ブ 〔中華大字典〕薄古切 遇 ㄅㄨˋ pu^4 ㄈㄨˋ fu^4 慣フ

はとば。ふなつきば。步(6−16264)・浦(6−17475)に通ず。〔正字通〕埠、同レ步、船船埠頭、通雅曰、埠頭、水頻也、說文、頻、从レ步、三象レ水、故水邊亦謂二之步一、青箱雜記、退之羅池廟碑言、步有二新船一、云云、任昉曰、吳楚閒謂レ浦爲レ步、上虞有二石駞步一、吳江中有二魚步・龜步一、湘中有二靈妃步一、俗遂作二埠字一。

【埠口】1 fu^4 k'ou^3 港。波止場。

【埠子】2 fu^4 tzŭ 港。波止場。

【埠稅】3 フゼイ 船舶の荷物の積込み・積卸しについて、荷主や棧橋の持主から取る稅。埠頭稅。〔清會典事例、戶部、關稅〕江埠白橋家子等口稅例、出口貨物、每二百斤一、往二本省一者、作二九十斤一、往二閩省一者、作二八十斤一、進口貨物、每二百斤一、均作二八十斤一、散倉貨物、丈量乘算、每二百斤一、亦作二八十斤一徵收一。〔六部成語、戶部、埠稅、注解〕各埠頭如二沿岸之河路馬頭一、各有二主者一、均應レ納二稅於官一、謂二之埠稅一。

【埠頭】4 フトウ ❶波止場。ふなつきば。碼頭。埠の字解を見よ。〔通雅、地輿〕埠頭、水瀕也。〔品字箋〕類書纂要曰、山崖水湄謂二之埠一、埠、步也、捨レ舟登レ陸、僅數步也、古作レ步。〔康熙字典〕埠頭、籠二貨物一、積販二商泊一之所。〔六部成語、戶部、埠頭、注解〕貨舟屯泊之所也、俗呼二碼頭一。❷港の仲買人。〔稱謂錄、牙人、埠頭〕韓愈孔戣墓誌、蕃舶至二泊步一、有二下碇之稅一、字典、步、通作レ埠、故人呼二船儈一爲二埠頭一、以レ此。

〖埠頭稅〗5 フトウゼイ 埠稅に同じ。

【⿰土於】5162 オ 淤(7−17665)に同じ。〔集韻〕淤、或从レ土。

参考 熟語は淤(7−17665)を見よ。

【⿰土虎】5163 カ ケ 〔集韻〕虛訝切 禡

地名。〔集韻〕⿰土虎、地名、在レ晉。

【埢】5164 ㈠ケン 〔集韻〕古轉切 銑 ㈡ケン 〔集韻〕古倦切 霰 ㈢ケン 〔集韻〕驅圓切 先

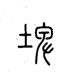
㈠塚のもり土。〔集韻〕埢、塚土。㈡くま。〔集韻〕埢、限曲也。㈢❶丸いさま。埢垣。〔揚雄、甘泉賦〕登降峛崺、單埢垣兮。〔注〕埢、音拳、善曰、埢垣、圜貌。❷丸い垣。〔集韻〕埢、圜墻也。

【⿰土典】5165 テン 腆(9−29602)・倎(1−761)に同じ。〔集韻〕倎、厚也、或从レ土、通作レ腆。

【埣】5166 ㈠サイ スイ 〔集韻〕蘇對切 隊 ㈡ソツ ソチ 〔集韻〕蘇骨切 月

㈠かれつち。〔集韻〕埣、土之不レ黏者。㈡土がくづれ落ちる。〔集韻〕埣、土落也。

【埤】5167 ㈠ヒ ビ 〔集韻〕頻彌切 支 ㄆㄧˊ p'i^2 ㈡ヒ ビ 〔集韻〕部弭切 紙 ㈢ヘイ 〔集韻〕匹計切 霽


小篆

㈠❶ます。ふやす。〔說文〕埤、增也、从レ土卑聲。〔廣雅、釋詁二〕埤、益也。〔廣韻〕埤、附也。❷厚くする。〔爾雅、釋詁〕埤、厚也。〔詩、邶風、北門〕政事一埤二益我一。〔傳〕埤、厚也。❸あたへる。〔方言、十三〕埤、與也。❹たすける。〔廣雅、釋詁二〕埤、助也。❺ひめがき。〔杜甫、題二省中院壁一詩〕掖垣竹埤梧十尋。❻ひくい。卑(2−2738)に通ず。〔荀子、宥坐〕其流也埤下。〔注〕埤、讀爲レ卑。㈡❶田百畝。〔集韻〕埤、田百畝、謂二之埤一。❷下濕の地。〔國語、晉語八〕松柏不レ生レ埤。〔注〕埤、下濕也。❸ひくい。庳(4−9359)に通ず。〔荀子、非相〕是以終身不レ免二埤汙傭俗一。〔注〕埤、與レ庳同。㈢ひめがき。俾(1−740)・睥(8−23459)・僻(1−1166)・壀(3−5515)に同じ。〔廣雅、釋宮〕埤堄、女牆也。〔疏證〕字或作二俾倪・睥睨・僻倪一。〔集韻〕壀、壀堄、城上壀、或作レ埤。

名乘 マス。

【埤遺】1 ヒヰ 厚くし加へる。〔詩、邶風、北門〕王事敦レ我、政事一埤二遺我一。〔傳〕遺、加也。

【埤益】2 ヒエキ 厚くし增す。〔詩、邶風、北門〕王事適レ我、政事一埤二益我一。〔傳〕埤、厚也。

【埤汙】3 ヒヲ 卑く下る。操行が高潔でない。下劣。〔荀子、非相〕好二其實一、不レ恤二其文一、是以終身不レ免二埤汙傭俗一。

【埤下】4 ヒカ ひくい。ひくい所。〔荀子、宥坐〕其流也埤下裾拘。〔注〕埤、讀爲レ卑、其流必就二卑下一。

【埤雅】5 ヒガ 書名。二十卷。宋、陸佃撰。釋魚・釋獸・釋鳥・釋蟲・釋馬・釋木・釋草・釋天の八篇に分る。初、物性門類と名づけ、後、今の名に改む。爾雅の埤補の義。〔四庫提要、經、小學類〕。〖參考書〗【埤雅廣要】四十二卷 明、牛衷撰。〔四庫提要、子、小說家類存目〕。

【埤倪】6 ヘイゲイ 城上のひめがき。倪は、弱小の意。女牆。又、埤堄・俾倪・埤院にも作る。城堞。陴堞。短牆。短垣。〔墨子、號令〕各垣二其兩旁一、高丈爲二埤院一。〔閒詁〕畢云、院、當レ爲レ倪。

【埤堄】7 ヘイゲイ ひめがき。埤倪。〔廣雅、釋宮〕埤堄、牒、女牆也。〔集韻〕埤、埤堄、城上垣。〔盧綸、九日奉二陪侍郎一登二白樓一詩〕埤堄三層連二步障一。〔韓愈、詠レ雪贈二張籍一詩〕城寒裝二埤堄一、樹凍裹二莓苔一。

【埤院】8 ヘイゲイ ひめがき。埤倪を見よ。

【埤蒼】9 ヒサウ 書名。一卷。魏、張揖撰。隋唐經籍志共に三卷と著錄するも、今、一卷を存するのみ。許愼の說文の例によつて編次す。〔隋書、經籍志一〕埤蒼三卷、張揖撰。

【埤濕】10 ヒシツ 低くしめり氣ある地。下濕の地。卑濕。〔司馬相如、子虛賦〕其埤濕則生二藏莨蒹葭一。

【埤助】11 ヒジョ たすける。裨助。〔漢唐扶頌碑〕諸學徒兮、相埤助。

【埤增】12 ヒゾウ まし加へる。〔管子、度地〕禾稼不レ傷、歲埤二增之一。

【埤薄】13 ヒハク 下濕でやせた地。〔後漢書、清河孝王慶傳〕慶立凡二十五年、乃歸レ國、其年病篤、謂二宋衍等一曰、清河埤薄、欲下乞二骸骨一於二貴人冢傍一下棺上而已。

【⿰土畀】5168 ヒ 埤(3−5167)に同じ。〔康熙字典〕⿰土畀、同レ埤。

【⿰土畁】5169 ヒ 埤(3−5167)に同じ。〔正字通〕⿰土畁、同レ埤。

【埥】5170 ㈠セイ シヤウ 〔玉篇〕七盈切 庚 ㈡サウ

㈠青くさびた土。〔玉篇〕埥、青精土也。㈡埩(3−5174)に同じ。〔正字通〕埥、同レ埩。

【埦】5171 ワン 〔集韻〕鄔管切 旱 慣ワウ

わん。食物を盛る小鉢。盌(8−22979)・⿱夗瓦(7−21477)・椀(6−15001)に同じ。〔集韻〕盌、說文、小盂也、或作㆓⿱夗瓦・埦・椀㆒。

【埦飯】1（ワウバン）❶椀に盛つた飯。〔江家次第、一、供㆓御藥㆒〕調㆓埦飯㆒居㆓臺盤㆒。❷王朝時代、事あつて公卿以下が殿上に集會する時、一人又は數人に課して衆人を饗應せしめたこと。鎌倉室町時代には歳首の恆例となり、又慶賀の時などに之を行つたが、應仁以後廢絕した。〔東鑑、二〕治承五年正月一日、千葉介常胤獻㆓埦飯㆒、相㆓具三尺鯉魚㆒。❸埦飯振舞の略。

【埦飯振舞】2（ワウバンブルマヒ）❶昔、正月などに親戚知人などを招いて饗應したこと。節振舞。〔昔昔物語、上〕正月は埦飯振舞とて親戚縁者子共不㆑殘呼びよせ、夫れ夫れ分限に應じ結構にして目出度き壽を謠ひ酒盛りして遊ぶ。❷盛な饗宴の稱。

【埧】5172 ク グ 〔集韻〕衢遇切 遇

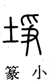
つつみ。堤防。〔集韻〕埧、堤塘也。

參考 埧(3−5098)と別字。〔字彙、辨似、二字相似〕埧、音霸、堰也。埧、音具、堤塘。

【埨】5173 ㈠リン 〔集韻〕縷尹切 軫 ㈡ロン 〔集韻〕盧困切 願

㈠岡の土。或は畇(7−21884)に作る。〔集韻〕埨、壟土、或从㆑田。㈡あな。陯(11−41690)に同じ。〔集韻〕陯、坎陷也、或从㆑土。

【埩】5174 サウ シヤウ 〔集韻〕鋤耕切 庚


小篆

❶土を治める。たがやす。〔說文〕埩、治也、从㆑土爭聲。〔段注〕治㆑土曰㆑埩。〔集韻〕埩、耕治也。❷魯城の北門の池。〔廣韻〕埩、魯城北門池也。

【埪】5175 コウ ク 〔集韻〕枯公切 東

づし。廚子。〔集韻〕埪、龕謂㆓之埪㆒。

【埫】5176 チヨウ チユ 〔集韻〕丑勇切 腫

埫塎は、安からぬさま。〔集韻〕埫、埫塎、不㆑寧。

【⿰土沓】5177 タフ トフ 〔集韻〕託合切 合

❶物の落ちる音。塔(3−5332)に同じ。〔集韻〕塔、物墮聲、或从㆑沓。❷累ねた土。〔集韻〕⿰土沓、累土也。

【埬】5178 トウ ツ 〔集韻〕都籠切 東

山埬は、地名。〔集韻〕埬、山埬、地名。

【埭】5179 タイ ダイ 〔集韻〕待戴切 隊 ㄉㄞˋ tai^{4}

❶せき。ゐぜき。土で水を中絕して往來の船舶に通行稅を課するところ。〔正韻〕埭、以㆑土堨㆑水也、往來船舶征榷之所、兩岸樹㆓轉軸㆒、遇㆓舟過㆒、以㆑綆繫㆓舟尾㆒、或以㆑人、或以㆑牛、推㆑軸輓㆑之而前。❷或は⿰石隶(8−24274)に作る。〔集韻〕埭、或从㆑石。❸俗に⿰土逮(3−5462)に作る。〔正字通〕⿰土逮、埭俗字。

【埭堰】1（タイエン） 水をとめふさぐゐせき。〔曾鞏、謝㆓杜相公㆒書〕埭㆓堰湖江㆒、天下之險爲㆓其阻阨㆒。

【埭溪】2（タイケイ） 鎭の名。浙江省吳興縣の西南。又、唐の施肩吾が居たから施渚鎭ともいふ。

【埭程】3（タイテイ） ゐせきを過ぎる時に拂ふ稅。〔合璧事類〕江淮堰埭、商賈牽㆑船、過處糾㆑錢、謂㆓之埭程㆒。

【埮】5180 ㈠タン 〔集韻〕吐濫切 勘 ㈡タン ダン 〔正字通〕徒甘切 覃

㈠平たくて長い土地。壏埮。〔集韻〕埮、壏埮、地平而長。㈡かめの屬。壜の類。〔正字通〕埮、甒屬、俗作㆑壜。

【埯】5181 ㈠エン 〔集韻〕衣檢切 琰 ㈡アン オン 〔集韻〕鄔感切 感

㈠土で物をおほふ。〔集韻〕埯、土覆謂㆓之埯㆒。㈡あな。〔集韻〕埯、阬也。

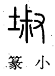
【埰】5182 サイ 〔集韻〕倉代切 隊

❶領地。ちぎやう。食邑。或は采(11−40116)に作る。〔集韻〕埰、臣食邑謂㆓之埰㆒、或省。❷つか。〔方言、十三〕冢、秦晉之閒、或謂㆓之埰㆒。〔注〕古者卿大夫有㆓采地㆒、死葬㆑之、因名。

【⿰土長】5183 ㈠チヤウ 〔集韻〕知亮切 漾 ㈡チヤウ ヂヤウ 〔集韻〕仲良切 陽

㈠沙がもり上る。⿰土張(3−5411)に同じ。〔集韻〕⿰土張、沙墳起也、或省。㈡場(3−5278)に同じ。〔集韻〕場、祭㆑神道也、一曰、田不㆑耕、一曰、治㆑穀田、或作㆑⿰土長。

【埱】5184 ㈠シユク 〔集韻〕昌六切 屋 ㈡トウ ツ 〔新方言〕他候切 宥


小篆

㈠❶土から氣が出る。〔說文〕埱、气出㆑土也、从㆑土叔聲。❷はじめ。はじまる。〔說文〕埱、一曰、始也。㈡通る。出る。透(11−38876)に通ず。〔新方言、釋言〕今語謂㆓通氣㆒爲㆓埱氣㆒、穿出爲㆓埱出㆒、發越爲㆓埱發㆒、埱、他候切、通以㆓透字㆒爲㆑之。

【埲】5185 ㈠ホウ ブ 〔集韻〕蒲蠓切 董 ㈡ハウ バウ 〔辭海〕讀如㆑棒。

㈠❶ちり。〔集韻〕埲、塵也。❷塵の起つさま。塕埲。〔集韻〕埲、塕埲、塵起。㈡土司。部落。〔淸一統志〕貴州荔波縣有㆓蒙古埲・窮來埲等㆒、皆舊時土司之名。

【埲目】1（ハウモク） 貴州の土司のかしら。埲の字の奉に从ひ土に从ふのは、命を奉じて土を守る義に取る。字解の㈡を見よ。

【埳】5186 カン

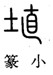
坎(3−4928)に同じ。〔玉篇〕埳、同㆑坎。

參考 熟語は坎(3−4928)を見よ。

【埴】5187 シヨク

埴(3−5188)に同じ。康熙字典は、埴字、埴の形に從ふ。

【埴】5188 ㈠シヨク ジキ 〔集韻〕丞職切 職 ㄓˊ chih^{2} ㈡シ 〔集韻〕昌志切 寘


小篆

㈠㈡❶はに。陶瓦を作るねば土。〔說文〕埴、黏土也、从㆑土直聲。

〔釋名、釋地〕土黃而細密曰レ埴、埴、膱也、黏昵如ニ脂之膱一也。〔書、禹貢〕厥土赤埴。〔釋文〕埴、徐鄭王皆讀曰レ熾、韋昭音試。❷ひぢ。泥。〔淮南子、齊俗訓〕若ニ璽之抑レ埴、正與レ之正。〔注〕埴、泥也。❸土。大地。〔法言、修身〕擿レ埴索レ塗、冥行而已。〔注〕盲人以レ杖擿レ地而求レ道。❹植(6−15023)に通ず。〔周禮、考工記〕摶埴之工陶旊。〔注〕鄭司農云、埴、書或爲レ植。❺戠(5−11615)に通ず。〔書、禹貢〕厥土赤埴墳。〔釋文〕埴、鄭作レ戠。❻或は⿱直土(3−5189)・戠に作る。〔集韻〕埴、或作ニ⿱直土・戠一。

【埴安】1（ハニヤス） ❶火を守る神。❷奈良縣の香具山附近の地名。〔萬葉集、二〕埴安の御門の原に。

【埴安池】2（ハニヤスノイケ） 古、大和國高市郡にあつた池。今、香具山中に痕跡がある。

【埴爲】3（ショクヰ） 淸、沈叔埏(6−17189・・547)の字。

【埴瓮】4（ハニベ） 古代の土器で、埴で作つたかめ。〔日本書紀、神武紀〕名ニ其所レ置埴瓮一、爲ニ嚴瓮一。

【埴科】5（ハニシナ） 信濃國の郡名。

【埴原】6（ハイバラ） 姓氏。〔和爾雅〕。

【埴固】7（ショクコ） ねばつて固い。堅牢。〔墨子、尚賢中〕此言ニ聖人之德、章明博大、埴固以脩久一也。

【埴谷】8（ハンヤ） 姓。〔古抄本下學集下後附〕人名字。

【埴師】9（ハニシ） 古、土偶を作る職人をいふ。後、葬式一切のことを掌る。土師。

【埴生】10（ハニフ） ❶埴のある地。又、はに。〔萬葉集、一〕岸の埴生。❷埴生小屋の略。〔金槐和歌集、雜〕旅の空馴れぬはにふの夜の床。❸下總國の舊郡名。❹河內國の地名。❺（ハニフ・ハネフ）姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【埴生床】11（ハニフノトコ） 地上に筵などを敷いた寢床。

【埴生宿】12（ハニフノヤド） 賤しい民家。

【埴生小屋】13（ハニフノコヤ・ハニフノヲヤ） 土の上に筵などを敷いた賤しい家。〔萬葉集、十一〕はにふのをやに小雨ふり。

【埴土】14（ショクド） ねばつち。はにつち。黏土。〔管子、地員〕五殖土之次曰ニ五觳一。

【埴破】15（ハニワリ） 高麗樂の曲の名。壹越調の一つ。はんなり。はんわり。〔倭名類聚抄、四〕高麗樂曲、埴破。

【埴馬】16（ハニマ） 埴輪に用ひる土製の馬。土馬。〔日本書紀、雄略紀〕赤駿變爲ニ土馬一。

【埴木】17（ショクボク） 陶土と樹木。〔莊子、馬蹄〕夫埴木之性、豈欲レ中ニ規矩鉤繩一哉。

【埴輪】18（ハニワ） 埴土で造つた人・馬・甕等の類。古、墓の周圍に車輪のやうに、半ば埋めて立てたもの。垂仁天皇の時、野見宿禰が之を創めて殉死の代りに用ひた。〔日本書紀、垂仁紀〕野見宿禰進曰、夫君王陵墓、埋ニ立生人一、是不レ良也、云云、自領ニ土部等一、取レ埴以造ニ作人馬及種種物形一、云云、自レ今以後、以ニ是土物一、更ニ易生人一、樹ニ於陵墓一、云云、號ニ是土物一曰ニ埴輪一、亦名ニ立物一也。

【埴壚】19（ショクロ） ねば土とぼろぼろした土。〔周禮、地官、草人〕埴壚用レ豖。〔疏〕以レ埴爲レ黏、以レ壚爲レ疏。

【⿱直土】
5189

ショク

埴(3−5188)に同じ。〔字彙補〕⿱直土、與レ埴同。

【埵】
5190

タ 〔集韻〕都果切 哿 ㄉㄨㄛˇ tuo³

小篆

❶かたい土。⿰土𠂹に同じ。〔正字通〕埵、說文作レ⿰土𠂹。〔說文〕⿰土𠂹、堅土也、讀若レ朶。从レ土𠂹聲。❷盛り上げた土。〔論衡、說日〕太山之高、參レ天入レ雲、去レ之百里、不レ見ニ埵塊一。❸つつみ。〔淮南子、齊俗訓〕狟狢得ニ埵防一、弗レ去而緣。〔注〕埵、水埒也。〔淮南子、說林訓〕埵防者便也。〔注〕埵防、高處防隄也。❹ふいごの鐵筒。錘(11−40547)に通ず。〔說文通訓定聲〕埵、叚借爲レ錘。〔淮南子、齊俗訓〕鑪橐埵坊設。〔注〕埵、冶具。〔淮南子、本經訓〕鼓レ橐吹レ埵。〔注〕埵、銅橐口鐵筒、埵入ニ火中一吹レ火也。

【埵堁】1（タクワ） 盛り上げた土。をか。土塊。埵塊。〔淮南子、說山訓〕泰山之容、巍巍然高、去レ之千里、不レ見ニ埵堁一、遠之故也。

【埵塊】2（タクワイ） 埵堁に同じ。〔論衡、說日〕太山之高、參レ天入レ雲、去レ之百里、不レ見ニ埵塊一、夫去百里、不レ見ニ太山一、況日去レ人以ニ萬里數一乎。

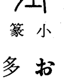
【埵坊】3（タバウ） ふいご。字解の❹を見よ。

【埵防】4（タバウ） 高處の隄防。つつみ。字解の❸を見よ。

【⿱多圣】
5191

クワイ 〔集韻〕古壞切 卦

ケ

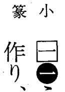

小篆

おほきい。〔說文〕⿱多圣、大也、从レ多圣聲。〔廣韻〕⿱多圣、大皃。

【埶】
5192

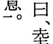
一ゲイ 〔集韻〕倪祭切 霽 一ˋ i⁴

二セイ 〔集韻〕始制切 霽


小篆

一❶うゑる。又、わざ。もと⿰坴丮に作り、或は蓺(9−31742)・藝(9−32330)・蓺に作る。〔說文〕⿰坴丮、種也、从ニ丮坴一、丮、持種レ之、詩曰、我⿰坴丮ニ黍稷一。〔段注〕唐人樹埶字作レ蓺、六埶字作レ藝、說見ニ經典釋文一、然蓺・藝字、皆不レ見ニ於說文一、周時六藝字、蓋亦作レ埶、儒者之於ニ禮樂射御書數一、猶ニ農者之樹埶一也。〔正字通〕埶、从レ丮、當レ作ニ⿰坴丮九画一。〔集韻〕埶、說文、種也、云云、一曰、技能也、或作ニ蓺・藝・蓺一。❷古は秇(8−24926)に作る。〔集韻〕埶、古作レ秇。二いきほひ。勢(2−2422)に同じ。〔說文、段注〕說文無ニ勢字一、蓋古用レ埶爲レ之、如ニ禮運在レ埶者去一、是也。

名乘 エダ。タネ。

解字 會意。丮（にぎりもつ意）と坴（土塊の意）との合字。本義は手に持つて地にうゑつける義。故に丮と坴とを合せてうゑる義を表はす。〔說文、⿰坴丮、段注〕會意、土部曰、坴、土塊坴坴也、丮、持種レ之、說ニ從レ丮之意一。▽（甲骨文）象形。人が若木を手に持つ形に象り、植ゑる意を表はす。

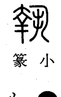
參考 ❶執(3−5193)は別字。❷熟語は勢(2−2422)を見よ。

【埶風】1（セイフウ） 元、舒天民(9−30300・・113)の字。

【執】
5193

シフ 〔集韻〕質入切 緝 ㄓˊ chih²

慣シツ・シユ


小篆

❶とる。㋑召しとる。とらへる。〔正字通〕執、本作レ⿰㚔丮。〔說文〕⿰㚔丮、捕ニ皋人一也、从ニ丮㚔一、㚔亦聲。もと⿰㚔丮に作る。〔呂覽、愼行〕使レ執ニ連尹一。〔注〕執、囚也。㋺ひかへる。とめる。〔周禮、夏官、校人〕執レ駒。〔注〕執、拘也。㋩まもる。〔禮、曲禮上〕執ニ爾顏一。〔注〕執、猶レ守也。㋥もつ。〔禮、曲禮下〕執ニ天子之器一則上レ衡。〔疏〕執、持也。㋭固執する。〔通俗編、性情、執〕宋史呂蒙正傳、上欲レ選レ人使ニ朔方一、蒙正以レ名上、上不レ許、他日三問、三以ニ其人一對、上曰、卿何執耶、對曰、臣非レ執、陛下未レ諒耳。㋬おさへる。〔淮南子、主術訓〕人主之所ニ以執レ下。〔注〕執、制。㋣したがへる。〔詩、周頌、執競、釋文〕執、服也。㋠つかさどる。〔左氏、僖、二十七〕作ニ執秩一以正ニ其官一。〔注〕執秩、主ニ爵秩一之官。〔淮南子、說山訓〕執ニ獄牢一者無レ病。〔注〕執、主也。㋷たつ。〔禮、中庸〕足ニ以有レ執也。〔疏〕執、猶レ斷也。㋦はからふ。處理する。〔禮、樂記〕請誦ニ其所レ聞、而吾子自執焉。〔注〕執、猶レ處也。❷おびやかす。〔廣雅、釋言〕執、

脅也。〔釋名、釋姿容〕執、攝也、使二畏攝一レ己也。㊂**まじはる**。又、その人。接（**5－12280**）に通ず。〔說文通訓定聲〕執、叚借爲レ接、禮、曲禮、執友稱二其仁一、注、志同者、荀子堯問、貌執之士者百有餘人、注、執、猶レ待也。〔禮、曲禮上〕見二父之執一、不レ問不二敢對一。㊃**むすぶ**。**かさねる**。褺（**10－34535**）に通ず。〔說文通訓定聲〕執、叚借爲レ褺、實爲レ疊。〔國語、越語上〕與二大國一執レ讎。〔注〕執、猶レ結也。㊄**つなぐ**。縶（**8－27831**）に通ず。〔說文通訓定聲〕執、叚借爲レ縶。〔禮、月令〕執二騰駒一。〔釋文〕執、蔡本作レ縶。㊅**おる**。織（**8－27892**）に通ず。〔說文通訓定聲〕執、叚借爲レ織、執・織、雙聲。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕執レ組者不レ能レ制兮。〔注〕執、組、猶レ織レ組也。㊆**おそれる**。慹（**4－11149**）に通ず。〔說文通訓定聲〕執、叚借爲レ慹。〔漢書、陳萬年傳〕豪彊執服。〔注〕師古曰、執、讀曰レ慹。㊇⿰亻執（**1－1040**）に通ず。〔禮、喪大記〕士與二其執一事則斂。〔注〕執、或爲レ⿰亻執。㊈**姓**。〔萬姓統譜〕執、見二姓苑一。㊉［佛］**しふ**。物ごとを固執して離さない妄情。執着心・執念・妄執など。

名乘　トル。モリ。

解字　會意形聲。㚔（罪人の意）と丮（にぎりもつ意、とらへる義に用ひる）との合字。㚔は又聲。本義は罪人をとらへる義。故に㚔と丮とを合せて其の意を表はす。〔說文通訓定聲〕執、捕二辠人一也、从レ丮从レ㚔、會意、㚔亦聲。▽ （甲骨文）象形。手枷に兩手をはさまれてひざまづく人の形に象り、捕へる意を表はす。

參考　埶（**3－5192**）は別字。

【執拗】1（シツアウ・シツエウ）　かたいぢですねる。しつこい。〔宋名臣言行錄〕人言二安石奸邪一、則毀レ之大過、但不レ曉レ事、又執拗耳。

【執拗人】2（シツアウジン）　かたいぢで人の意に從はない者。いぢわる。〔願體集〕僨レ事失レ機者、必執拗之人。

【執夷】3（シフイ）　獸の名。虎に似るともいひ、或はひぐまに似るともいふ。貔。白狐。白羆。〔爾雅、釋獸〕貔、白狐、〔注〕一名執夷、虎豹之屬。〔義疏〕貔出二北國一、故韓弈云、獻二其皮一、釋文引二詩草木疏一云、似レ虎、或曰似レ羆、一名執夷、一名白狐、其子爲レ豰、遼東人謂二之白羆一。

【執衣】4（シツイ）　召使をいふ。〔海錄碎事、人事、奴婢〕執衣・白直、皆皁隸之類。

【執意】5（シツイ）　㊀己の意見を固執する。意地を張る。〔魏書、慕容寶傳〕執意抗言。〔宋史、王安石傳〕安石性強忮、遇レ事無二可否一、自信レ所レ見、執意不レ回。㊁chih^2 i^4　切に。しきりに。

【執意不肯】6　chih^2 i^4 pu^4 kʻen^3　片意地で承知しない。頑として承諾しない。

【執友】7（シツイウ）　㊀志を同じくする友。親友。同志。〔禮、曲禮上〕僚友稱二其弟一也、執友稱二其仁一也。〔注〕執友、志同者。〔晉書、禮志中〕父之執友、有二如レ子之禮一。〔潘岳、楊荊州誄〕仰追二先考執友之心一。㊁父の友人。〔書言故事大全、父執類〕父之友曰二執友一。

【執一】8（シツイツ）　㊀一つをとり守る。意を專らにする。〔荀子、堯問〕執レ一無レ失。㊁一事だけを固く守つて變通を知らない。〔孟子、盡心上〕執レ中無レ權、猶レ執レ一也。〔集注〕執レ中而無レ權、則膠二於一定之中一、而不レ知レ變、是亦執レ一而已矣。㊂天理を把握すること。〔呂覽、有度〕執レ一而萬物治。〔淮南子、人閒訓〕執レ一而應レ萬。㊃呂氏春秋、審分覽の篇名。

【執引】9（シフイン）　柩車の索をとる。送葬をいふ。引は柩車を引くつな。〔禮、檀弓下〕弔二於葬一者、必執レ引、若從レ柩及レ壙、皆執レ紼。

【執銳】10（シツエイ）　銳い刃を執る。武器を持つ。〔墨子、呂問〕被レ堅執レ銳。〔史記、項羽紀〕被レ堅執レ銳。〔漢書、高帝紀〕朕親被レ堅執レ銳。〔風俗通、十反〕朕被レ堅執レ銳。

【執要】11（シツエウ）　腰を持つ。要は腰に同じ。〔儀禮、既夕禮〕左執レ領、右執レ要。

【執役】12（シツエキ）　貴人の左右に侍して事に任ずる者。執事（83）の㊁に同じ。〔崔瑗、敍箴、司隸校尉箴〕使臣司隸、敢告二執役一。

【執謁】13（シツエツ）　謁を掌るもの。取次ぎ。執役。執事。〔揚雄、廷尉箴〕獄臣司理、敢告二執謁一。

【執鉞】14（シツエツ）　まさかりを持つ。鉞は天子から征討將軍に賜はるまさかり。〔書、顧命〕人冕執レ鉞、立二于西堂一。〔晉書、樂志下〕我皇邁二神武一、執レ鉞鎭二雍涼一。

【執柯】15（シツカ）　斧の柄を手に持つ。又、なかうど。媒妁。柯は斧の柄。詩經に柯を伐るには斧を用ひ、妻を娶るには媒に賴るとあるに本づく。〔詩、豳風、伐柯〕伐レ柯如何、匪レ斧不レ克、取レ妻如何、匪レ媒不レ得。〔書言故事大全、媒妁類〕常談作レ媒爲二執柯一、又曰二作伐一。

【執蓋】16（シツガイ）　㊀蓋を持つてさしかける。蓋は車蓋。〔左氏、昭、二十〕使三華寅肉袒執レ蓋、以當二其闕一。〔注〕執レ蓋蔽レ公而去。㊁（シガイ）　蓋（カサ）に付いてゐる綱を持ち扣へる役。〔東鑑集解〕。

【執蓋郎】17（シツガイラウ）　晉の官名。王の行列を掌る。〔海錄碎事、人事、聖賢〕北帝用二顧和一爲二執蓋郎一、范明汪補二典柄侯一。

【執行】18（シツカウ）　㊀とり行ふ。實行する。〔和漢三才圖會、官位部、關白〕奉二天子敕一、執二行天下政一、以坐二人臣上一。㊁職權を以て職務を行ふ。法律の通りに實行する。強制執行・執行猶豫など。㊂姓氏。〔日用重寶記〕。㊃（シユギヤウ）　寺院の庶務を取締る職。〔職原抄〕僧官位、執行。

【執行力】19（シツカウリヨク）　強制執行の效力。

【執行猶豫】20（シツカウイウヨ）　懲役、又は禁錮の言渡しを受けた犯人に對し、情狀酌量すべき事情のある場合、裁判確定の日から一年以上五年以下の期間、刑の執行を猶豫すること。

【執行機關】21（シツカウキクワン）　或る事務を執行するために設けた機關。

【執行處分】22（シツカウシヨブン）　法令の規定通りに執行する行政處分。強制執行の處分。

【執行判決】23（シツカウハンケツ）　強制執行に關する外國裁判所の判決、又は仲裁裁判を、我が國の裁判所が適法であると認めて、その執行を許可する判決。

【執行名義】24（シツカウメイギ）　強制執行の基本となる債務名義をいふ。

【執行命令】25（シツカウメイレイ）　法律を執行するために必要な細則を定めた政令・省令などをいふ。

【執行裁判所】26（シツカウサイバンシヨ）　強制執行の一機關たる裁判所。通例、執行手續をする地の地方裁判所が之に當る。

【執行妨害罪】27（シツカウバウガイザイ）　職務を執行せんとする公務員に對して、暴行・脅迫等を加へた者に課する罪。

【執綱】28（シフカウ）　［佛］一宗の役僧。上位に在つて一宗の綱務をとるもの。「06」を見よ。

【執衡】29（シツカウ）　平衡を執る。平を持する。執秤（1

【執干】30（シツカン）　たてをとる。〔莊子、讓王〕孔子削然反レ琴而弦歌、子路扢然執レ干而舞。

【執簡】31（シツカン）　簡を執る。簡は昔、字を記すに用ひた竹簡。〔左氏、襄、二十五〕南史氏聞二大史盡死一、執レ簡以往、聞二既書一矣、乃還。〔魏志、毛玠傳〕臣垂齠執レ簡、累勤取レ官。

【執義】32（シツギ）　正道をとり守る。〔漢書、賈捐之傳〕守レ道堅固、執レ義不レ回。〔白虎通、攷黜〕執レ義不レ傾。

【執咎】33（シツキウ）　とがめの責を負ふ。〔詩、小雅、小旻〕發レ言盈レ庭、誰敢執二其咎一。〔箋〕誰云下己當二其咎責一者上。

【執競】34（シツキヤウ）　㊀自らつとめて息まない心を持すること。〔詩、周頌、執競〕執レ競武王、無レ競維烈。〔箋〕競、強也、言下武王持二其自強不レ息之心一、故其功烈之盛、天下莫中得而競上。㊁詩經、周頌、清廟之什の篇名。武王を祀る樂歌。〔詩、周頌、執競序〕執競、祀二武王一也。

【執弓】35（シツキユウ）　弓をとり持つ。〔白虎通、鄕射〕夫射者、執レ弓堅固、心平體正、然後中也。

【執據】36（シツキヨ）　㊀とりまもる。〔宋祁、贈二尚書右僕射孫奭諡一議〕執二據聖道一、洮二汰羣疑一。㊁chih^2 chü^4　免狀。證書。證據書類。

【執共】37（シツキヨウ）　恭敬の態度をとり守る。常に恭しい行をする。共は恭。〔左氏、襄、二十二〕君レ人執レ信、臣レ人執レ共。

【執恭】38（シツキヨウ）　㊀執共に同じ。㊁唐、程權（**8－25**

081··45)の初名。

【執玉】39 シツギョク 玉を持つ。〔禮、雜記下〕執レ玉不レ麻。〔國語、吳語〕執レ玉之君、皆入朝。〔孔子家語、三恕〕袞冕而執レ玉。

【執禁】40 シツキン 禁制をとり守る。おきてを守る。〔禮、王制〕關執レ禁以譏、禁二異服一、識二異言一。

【執驅】41 シツク 官名。馬を御することをつかさどる。漢では、西域を討つ軍に執驅校尉を置いた。〔史記、大宛傳〕拜二習レ馬者二人一、爲二執驅校尉一。

【執戈】42 シツクワ ほこを持つ。〔孔子家語、好生〕介冑執レ戈者、無二退懦之氣一。

【執火】43 シツクワ 蟹(10－33668)の異名。螯の赤いことから名づける。〔事文類聚〕蟹名二執火一、以二其螯赤一。

【執馘】44 シツクワク 首をとる。〔孔子家語、致思〕攘レ地千里、搴レ旗執レ馘。

【執玩】46 シツグワン 手にとってもてあそぶ。〔劉琨、答二盧諶一詩〕執玩反覆。〔宋書、張永傳〕上每レ得二永表啓一、輒執玩咨嗟自歎。

【執圭】47 シッケイ 楚の爵の名。公爵。圭を執つて朝するからいふ。執珪。〔呂覽、知分〕荆王聞レ之、仕二之執圭一。〔淮南子、道應訓〕列二田百頃一、而封レ之執圭一。〔注〕楚爵二功臣一、賜以レ圭、謂二之執圭一、比二附庸之君一也。

【執珪】48 シッケイ 執圭に同じ。〔戰國、東周策〕公爵爲二執珪一、官爲二柱國一、戰而勝則無レ加焉矣、不レ勝則死、不レ如レ背レ秦援二宜陽一。〔史記、伍子胥傳〕賜二粟五萬石、爵執珪一。〔漢書、曹參傳〕遷爲二執珪一。〔說苑、善說〕爵爲二執珪一。〔資治通鑑、周紀〕(赧王二年)虜屈匄及列侯、執珪七十餘人。〔注〕執珪、楚爵也、執レ珪而朝者也。

【執啓】49 シッケイ 執奏(125)に同じ。〔源平盛衰記、五、山門落書事〕若夫有二證據一者、尤可レ賜二正文一也、非レ返二敕定一、陳二子細一計也、以二此旨一可レ被二執啓一。

【執經】50 シッケイ 經書を手に持つ。師に從つて業を受けること。〔漢書、于定國傳〕定國乃迎レ師學二春秋一、身執レ經、北面備二弟子禮一。〔後漢書、儒林傳序〕帝正坐自講、諸儒執レ經、問二難於前一。

【執戟】51 シツゲキ 古、侍郎の職の稱。〔新書、官人〕執戟居レ前、能擧二君之失過一。〔漢書、東方朔傳〕官不レ過二侍郎一、位不レ過二執戟一。〔漢書、周勃傳〕顧二麾左右執戟一、皆仆レ兵罷。〔謝靈運、齋中讀レ書詩〕執戟亦以疲。

【執結】52 シツケツ 證據。〔琵琶記、義倉賑濟〕招狀執結是實、伏乞二相公裁旨一。

【執劫】53 シツケフ とらへおびやかす。〔漢書、樊噲酈商等傳贊〕若二寄父一爲二功臣一而又執劫。〔權德輿、王公神道碑〕遭二罹執劫一。

【執業】54 シツゲフ ❶仕事をする。又、手わざ。〔禮、玉藻〕父命呼、唯而不レ諾、手執レ業則投レ之、食在レ口則吐レ之。❷弟子の禮を守つて業を受ける。〔後漢書、桓榮傳〕天子親自執レ業、每言輒曰、大師在レ是。❸chih^2 yeh^4 所有の財産。

【執業田單】55 chih^2 yeh^4 t'ien^2 tan^1 地券。

【執見】56 シッケン 妄見を固執する。〔釋門歸敬儀〕無始妄習、執レ見鏗然。

【執牽】57 シッケン とらへひく。〔蘇舜欽、祭二舅氏一文〕執牽西送二長江之隈一。

【執劍】58 シッケン 劍を手に持つ。武裝する。〔史記、周紀〕皆執レ劍以衞二武王一、既入立二于社南一。

【執憲】59 シッケン 法を司る官。司法官。〔後漢書、李膺傳〕禮云、公族有レ罪、雖レ曰レ宥レ之、有司執憲不レ從。〔曹植、責レ躬詩〕違二彼執憲一。〔注〕向曰、違二執レ法者一。〔白居易、得レ甲爲二郡守一云云判〕責已加二於執憲一。

【執權】60 シッケン ❶政治の實權を握る。執柄。〔漢書、魏相傳〕北方之神顓頊、乘レ坎執レ權司レ冬。〔崔寔、政論〕聖人執レ權、遭レ時定レ制、不三強レ人以二不能一。❷㋑院の廳の別當の稱。〔葉黃記〕寬元四年正月二十九日、器量之者一人、又奉二執權一。㋺鎌倉時代、將軍を輔佐して內外の政務を行つた役。〔帝王編年記、二十三、後鳥羽〕鎌倉執權。㋩室町時代、管領の異稱。又、應仁・文明以來、管領の陪臣又は諸大名の家臣の僭稱。〔鎌倉年中行事〕管領の執權。

【執古】61 シツコ 古の道をかたく守る。〔老子、十四〕執二古之道一、以御二今之有一。〔左思、魏都賦〕歷二執古之醇聽一。

【執壺】62 シツコ 投壺の壺を持つ。〔禮、投壺〕司射奉レ中、使二人執レ壺。

【執觚】63 シツコ さかづきを持つ。執爵。〔劉伶、酒德頌〕止則操レ巵執レ觚、動則挈レ榼提レ壺。〔注〕濟曰、巵觚榼壺、皆酒器也。

【執拘】64 シツコウ つかまへとらへる。〔書、酒誥〕盡執拘以歸二于周一。〔韓詩外傳、六〕執拘則聚。〔荀子、彊國〕贏則敖レ上、執拘則最。〔吳志、諸葛恪傳〕不レ得二嫌疑一、有レ所二執拘一。

【執獄】65 シツゴク 獄を治める。治獄。〔北史、宋世軌傳〕執獄寬平、多レ所二全濟一。

【執笏】66 シツコツ しやくを持つ。〔晉書、輿服志〕古昔貴賤皆執レ笏。〔事物紀原、治理政體部、執笏〕禮受二命於君前一以レ笏、三代之制也、古者貴賤通用、書二君上政令一、後代惟八座尙書執レ之、其餘公卿、執二手板一主レ敬、示レ非二記レ事官一、至二後周武帝保定四年一、始令二百官執レ笏。

【執詐】67 シツサ 執は埶の字の誤で、謀略をいふ。埶詐は僞りのはかりごと。〔荀子、脩身〕體倨固而心執詐。〔集解〕王引之曰、執詐、當レ爲二埶詐一、字之誤也、議兵篇曰、兵之所レ貴者埶利也、所レ行者變詐也、云云、後漢書崔駰傳、范蠡錯二埶於會稽一、李賢曰、埶、謂二謀略一也。

【執齋】68 シッサイ 字號。❶明、吳璋(2－3365··216)の號。❷三輪希賢の號。三輪執齋(1－12··1776)を見よ。

【執齋先生】69 シッサイセンセイ 明、吳璋(2－3365··216)の尊稱。

【執喪】70 シツサウ 喪をとり行ふ。〔禮、檀弓上〕高子皐之執二親之喪一也、泣血三年、未二嘗見一レ齒、君子以爲レ難。

【執嫂】71 シツサウ 兄嫁をめとる。〔魏志、烏丸傳、注〕魏書曰、烏丸者、東胡也、云云、父兄死、妻二後母一、執レ嫂、若無二執レ嫂者一、則己子以親レ之、次妻二伯叔一焉。

【執操】72 シツサウ 操を固く守る。〔吳越春秋、王僚使公子光傳〕於乎、貞明執操、其丈夫女哉。

【執策】73 シツサク 鞭をとる。〔儀禮、聘禮〕執レ策立二于其後一。〔風俗通、十反〕執レ策握レ革。

【執算】74 シツサン 投壺の數とりをとる。〔禮、投壺〕司射執レ算曰、左右卒レ投請レ數。

【執爨】75 シツサン 爨火を司る。又、其の人。〔詩、小雅、楚茨〕執爨踖踖、爲レ俎孔碩。

【執之】76 シッシ 字號。❶明、陳伯諒(11－41698··1207)の字。❷明、馮允中(12－44579··165)の字。

【執使】77 シッシ 運筆の法をいふ。執は筆をとること、使はその運用。〔孫過庭、書譜〕今撰二執使轉用之由一、執、謂二淺深長短之類一、使、謂二縱橫牽掣之類一、是也。

【執雌】78 シッシ 柔德を守る。雌の德は柔であるからいふ。執柔。〔孔子家語、觀周〕執レ雌持レ下、人莫レ踰レ之。

【執幟】79 シッシ 旗幟を持つ。執職(81)を見よ。

【執質】80 シッシ 禮物を持つてお目にかかる。執贄。〔說苑、建本〕濟濟鏘鏘、而相從執レ質。

【執職】81 シッシ 旗幟を持つ。職は幟。〔史記、叔孫通傳〕大行設二九賓臚句傳一、於レ是、皇帝輦出レ房、百官執レ職傳警。〔注〕集解曰、徐廣曰、職、一作レ幟、索隱曰、職、音幟。

【執贄】82 シッシ ❶臣下が君に見えるに、玉帛を執つて敬意を表すること。〔儀禮、士相見禮〕始見二于君一、執レ贄至レ下、容彌蹙。〔張衡、東京賦〕獻琛執レ贄。❷束脩の禮を修めて門人となること。執脩。〔禮、檀弓下〕魯人有二周豐也者一、哀公執レ贄請レ見レ之、而曰二不可一。

【執事】83 シツジ ❶事を取り行ふ。〔周禮、天官、大宰〕轉移執レ事。〔禮、喪大記〕士與レ執レ事則斂。〔論語、子路〕居處恭、執レ事敬。❷事を執り行ふ人。大官貴人の左右に侍して事務をとる者。屬官。侍者。〔書、盤庚下〕嗚呼邦伯師長、百執事之人。〔周禮、天官、大宰〕師二執事一而卜レ日。〔左氏、僖、二十六〕寡君聞下君親擧二玉趾一、將上レ辱二於敝邑一、使三下臣犒二執事一。〔國語、魯語上〕敢告二滯積一、以紓二執事一。〔淮南子、道應訓〕使レ歸二之於執事一。〔史延、與二韋少翁一書〕過爲二宰相執事一。❸人を貴んで其の姓名をいふのを憚り、侍者に取次ぎを請ふ義から、轉じて、貴人の宛名の下に添へて書く語。〔蘇轍、上二樞密韓太尉一書〕太尉執事、轅生好レ爲レ文、思レ之至深。〔通俗篇、稱謂、執事〕儀禮特牲饋食、主人及賓兄弟羣執事、卽二位門外一、左傳僖二十六年、展喜告二齊孝公一曰、寡君

使三下臣槁二執事一、因話錄、前輩與二大官一書、多呼三執事與二足下一、劉子元與二宰相一書曰二足下一、韓退之與二張僕射一書曰二執事一、卽其例也、按、執事、本謂二從レ列與レ事之人一、致レ書者謙不レ斥レ尊、若レ云三陳二達其左右者一耳。❹㋑古、院の廳の長官をいふ。〔職原抄、後附〕院廳、執事、名家之人任レ之。㋺古、攝政、關白の家で家司の長官をいふ。庶務を總理する。〔拾芥抄、中、末〕關白家、執事。㋩內豎所で別當に次ぐものの稱。〔侍中羣要、十〕內豎頭幷執事等事。㋥鎌倉時代、執權の異稱。又、諸大名の老臣の稱。㋭鎌倉時代、政所の次官。又問注所の長官。〔東鑑、二十三〕建保六年十二月二十日、當所執事信濃守行光。㋬室町時代、管領の前稱。又、關東管領の次官。〔庭訓往來、六月〕將軍家之御敎書、執事之施行。❺ chih² shih⁴ ㋑葬式婚禮等の行列に用ひる儀仗。㋺事務員。㋩支配人。

【執事架】84 シッジカ　清代、行列の先頭に携へる儀仗架。

【執事行】85 シッジカウ　傭はれて郵役に從事するもの。〔通俗編、藝術、閒丁〕周禮太宰、以二九職一任二萬民一、九曰、閒民無二常識一、轉從執レ事、注云、轉徒執レ事、若二今傭賃一也、按、南方謂下郵役之可二借賃一者上曰二執事行一、蓋亦轉徒執レ事之遺語。

【執事官】86 chih² shih⁴ kuan¹ ❶軍・師・旅團、又は聯隊の副官。❷祭祀の際、主祭官を輔助する役。

【執事侍】87 シッジジ　宦官の一。〔稱謂錄、太監、執事侍〕會典、執事侍、六品、卽首領。

【執事別當】88 シッジベッタウ　坊官の長。執當。

【執囚】89 シッシウ　とらへる。〔史記、衞將軍驃騎傳〕大長公主執二囚青一。〔漢書、朱博傳〕晉執二囚行父一、以亂二魯國一。〔鹽鐵論、世務〕身執囚而國幾亡。

【執脩】90 シッシウ　ほし肉をとり用ひる。束脩の禮を行ふ。執贄。〔禮、少儀〕陳レ酒執レ脩以將レ命。

【執讎】91 シッシウ　あだをむすぶ。仲違ひをする。〔國語、越語上〕句踐說二於國人一曰、寡人不レ知二其力之不一レ足也、而又與二大國一執レ讎。〔注〕執、猶レ結也。

【執柔】92 シッジウ　❶柔德を守り行ふ。執雌。〔書、洪範、高明柔克、傳〕君亦當二執レ柔以納一レ臣。❷明、丘吉(**1－33··22**)の號。

【執失】93 シチシ　複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕執失氏、北蕃酋帥有二屈密支頡利發一、姓執失氏。

【執失思力】94 チーシスリ　唐の人。突厥の酋長。貞觀中入朝し、高祖の女、九江公主を娶る。事に坐して嶲州に流され、後、歸州刺史となる。〔舊唐書、一百九十四〕・〔唐書、一百十・二百十五上〕。

【執掌】95 シッシヤウ　監督する。管理する。執理。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕積年頭役執掌科書、爲二豪棍之黨羽一者也。

【執情】96 シフジヤウ　物に執著する妄情をいふ。〔五教章、中〕以二執情一而驚怪。

【執爵】97 シッシヤク　さかづきを持つ。執觚。〔禮、樂記〕執レ醬而饋、執レ爵而酳。

【執手】98 シッシユ　手を執つて其の勞をねぎらふ。遼代、人主が功臣を待遇する禮。〔遼史、國語解〕將帥有二克レ敵功一、上親執レ手慰勞、若將在レ軍、則遣レ人代行二執手禮一。

【執守】99 シッシユ　とりまもる。〔參同契〕執二守恬淡一、希二時安寧一。

【執守侍】100 シッシユジ　宦官の一。〔稱謂錄、太監、執守侍〕會典、執守侍、七品、卽首領。

【執銃】101 シッジユウ　銃を持つ。

【執盾】102 シッジユン　左右親近の護衞の士。〔墨子、號令〕視二謁者執盾中涓及婦人侍レ前者、志意顏色使令言語之情一。〔閒詁〕漢書惠帝紀注、應劭云、執盾、親近陛衞也。

【執如】103 シッジヨ　清、石韞玉(**8－24024**··894)の字。

【執徐】104 シッジヨ　たつどし。辰年。太歲が辰にある歲の名。執は蟄、徐は舒で、伏蟄がこの年にそろそろ出るのでいふ。〔爾雅、釋天〕太歲在レ辰曰二執徐一。〔史記、天官書〕執徐歲。〔注〕索隱曰、爾雅、辰爲二執徐一、李巡云、伏蟄之物、皆敦舒而出、故曰二執徐一、執、蟄、徐、舒也。〔淮南子、天文訓〕太歲在レ辰、歲名曰二執徐一。

【執升】105 シッシヨウ　清、孫琮(**3－6987**··205)の字。

【執秤】106 シッシヨウ　平衡を執る。平を持する。〔姚崇、執秤誡序〕秤者衡、衡二天下之平一也、君子執レ之以平二其心一、夫衡在レ天以齊二七政一、在レ人以均二萬物一、稱レ物平施、爲レ政以レ公、毫釐不レ差、輕重必得、是執レ衡持レ平之義也。

【執燭】107 シッシヨク　燭火を持つ。〔周禮、天官、宮人〕凡寢中之事、埽除執燭共二鑪炭一。〔禮、少儀〕爲二獻主一者、執レ燭抱レ燋。〔顏氏家訓、風操〕執燭沃盥、皆有二節度一。

【執心】108 シフシン　❶堅く心を執り守る。〔白虎通、禮樂〕執心違レ邪。〔魏志、高堂隆傳〕執レ心堅白、謇謇匪躬。〔陸機、擬三蘭若生二朝陽一詩〕執レ心守二時信一、歲寒終不レ彫。❷深く思ひつめる。固く思ひこむ。熱中する。〔保元物語、左府御最後〕いかに此の世に執心の留まる事多かりけん。

【執信】109 シッシン　信義をかたく守る。〔左氏、襄、二十二〕君レ人執レ信、臣レ人執レ共。

【執鍼】110 シッシン　針を持つ。轉じて、裁縫・針仕事。〔左氏、成、二〕執斲執鍼織紝。〔注〕執鍼、女工。

【執刃】111 シッジン　やいばを持つ。武裝すること。〔後漢書、伏皇后紀〕舊儀、三公領レ兵朝見、令二虎賁執レ刃挾一レ之。

【執訊】112 シッジン　❶音問を通ずる官。〔左氏、文、十七〕鄭子家使三執訊與二之書一、以告二趙宣子一曰、寡君卽レ位三年。〔注〕執訊、通二訊問一之官也。❷訊問すべきもの卽ち首魁を執へる。又、とらへたづねる。〔詩、小雅、出車〕執レ訊獲レ醜、薄言還歸。〔箋〕執下其可二言問一所レ獲之衆上。〔集傳〕訊、其魁首當二訊問一者也。〔詩、大雅、皇矣〕執レ訊連連、攸レ馘安安。〔箋〕訊、言也、執下所二生得一者上訊二問之一。〔漢書、衞青傳〕執レ訊獲レ醜。〔吳志、諸葛恪傳〕詩美二執訊一、易嘉二折首一。

【執袵】113 シッジン　衣の前をかかげもつ。攝衽。〔司馬光、獨樂園記〕投レ竿取レ魚、執レ袵採レ藥。

【執炊】114 chih² ch'uei¹ 炊事に從事する。

【執綏】115 シッスイ　車中のとつてを手にとる。綏は車のとりての索。〔論語、鄕黨〕升レ車、必正立執レ綏。〔風俗通、過譽〕論語、升レ車、必正立執レ綏。

【執綏官】116 シッスイクワン　天子の乘輿の御者。〔宣和遺事、前集上〕蔡攸爲二執綏官一。

【執正】117 シッセイ　正しい道を固く守る。執政の❷を見よ。〔淮南子、主術訓〕執レ正進諫。〔晉書、傅咸傳〕咸在レ位、多レ所レ執レ正。〔南史、王鎭之傳〕後爲二御史中丞一、執レ正不レ撓、百僚憚レ之。

【執政】118 シッセイ　❶政治をとり行ふ人。宰相などをいふ。〔左氏、襄、十〕晨攻二執政于西宮之朝一。〔國語、楚語上〕執政弗レ是。〔莊子、德充符〕子而說二子之執政一而後レ人者也。〔列子、仲尼〕使二汝之徒食而飽衣而息一、執政之功也。〔管子、五行〕士死喪二執政一。〔史記、文帝紀〕唯二三執政、猶二吾股肱一也。〔淮南子、氾論訓〕天下縣官法曰、發レ墓者誅、竊盜者刑、此執政之所レ司也。❷正道を執持する。執正。〔後漢書、桓典傳〕典執レ政、無レ所二回避一。〔注〕劉攽曰、政、當レ作レ正。

【執政官】119 シッセイクワン　政治を執り行ふ官吏。〔稱謂錄、現任官員、執政官〕甲申雜記、見任執政官生日、賜以二酒食一。

【執筮】120 シッゼイ　筮竹を手に持つ。うらなふこと。〔儀禮、少牢饋食禮〕西二面于門西一、抽二下韇一、左執レ筮、右兼執レ韇、以擊レ筮。

【執照】121 シッセウ　❶證明書。證票。〔紅樓夢、十三回〕再給二個執照一。〔六部成語、戶部、執照、注解〕收到銀項公文等件、回給之憑票也、又授レ官之證書、亦曰二執照一。❷通帳。手形。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕有二納戶執照一。❸內地旅行許可證。護照。〔淸國行政法汎論、內務府〕宦官年老、則本司發二給執照一、卽回二原籍一。

【執節】122 シッセツ　❶わりふを持つ。〔周禮、秋官、脩閭氏〕唯執レ節者不レ幾。❷孔叢子の篇名。

【執節使】123 シッセツシ　わりふを賜はつて使ひする使節。〔國史略、文武天皇〕以二粟田眞人一、爲二遣唐執節使一。

【執組】124 シッソ　くみひもを織る。織組に同じ。〔楚辭、劉向、九歎、靈懷〕執レ組者不レ能レ制兮。〔注〕執組、猶二織組一也、織組者、動二之於此一、而成二文於彼一。

【執奏】125 シッソウ　意見書などを取次いで天子に申上げる。執啓。〔晉書、賈謐傳〕謐重執二奏戎華之議一、事遂施行。

【執滯】126 シッタイ　堅く一事に執心して、他事に移らない。

【執當】127 シッタウ　執事別當(88)の略稱。〔源平盛衰記、四、師高流罪宣事〕執當法眼御房。

【執道】128（シツダウ） 道をとりまもる。〔孔子家語、觀周〕吾比執㆑道、而今委㆑質以求㆓當世之君㆒、而弗㆑受也。

【執斲】129（シツタク） 大工。匠人。〔左氏、成、二〕執斲執鍼織紝。〔注〕執斲、匠人。〔書言故事大全、人品類〕木匠曰㆓執斲㆒。

【執達】130（シツタツ） 上の意を下へ達する。〔保元物語一、新院御所各門門固事〕依㆓宣示㆒執達如㆑件。

〔執達吏〕131（シツタツリ） 訴訟に關する書類を送達し、或は裁判所の執行處分等をする地方裁判所所屬の役員。

【執持】133（シツヂ） しつかり持つ。〔荀子、成相〕主執持、聽㆓之經㆒、明㆓其請㆒。〔漢書、孝成許皇后傳〕諸侯拘㆓迫漢制㆒、牧相執㆓持之㆒也。

【執秩】134（シツチツ） 爵秩を主る官。〔左氏、僖、二十七〕作㆓執秩㆒以正㆓其官㆒。〔注〕執秩、主㆓爵秩㆒之官。〔孔子家語、正論〕文公是以作㆓執秩之官㆒。〔柳宗元、嶺南節度使饗軍堂記〕以㆓執秩拱稽㆒、時聽㆓教命㆒。

【執丈】135（シツヂヤウ） 友人。親友。丈は、長老の意。執友。〔剪燈餘話、幔亭遇仙錄〕此中羣仙別館諸執丈、皆遊㆓戲于茲㆒。

【執仗】136（シツヂヤウ） 刃物を持つ。兇器を持つ。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕至㆓于強盜㆒、重在㆓明火執仗㆒。

【執杖】138（シツヂヤウ） 喪杖を持つ。親などの喪に服すること。〔琵琶記、宦邸憂思〕斑衣罷㆑想、縱然歸去、又怕帶㆑麻執㆑杖。

【執著】139（シフヂヤク） 佛心が物事にとりつく。深く思ひこむ。執着。〔大般若經、七十一〕能如㆑實知㆓一切法相㆒、而不㆓執着㆒、故復名㆓摩訶薩㆒。〔菩提心論〕凡夫執㆓着名聞利養資生之具㆒、務以安㆑身。〔梁武帝、會㆓三教㆒詩〕分別根難㆑一、執著性易㆑驚。〔白居易、傳法堂碑〕凡夫無明、二乘執著。〔雲笈七籤〕衆生執著、是故無㆓明悟㆒。

【執中】140（シツチユウ） ❶中庸の道をとり守る。〔書、大禹謨〕人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執㆓厥中㆒。〔論語、堯曰〕天之曆數在㆓爾躬㆒、允執㆓其中㆒。〔韓詩外傳、二〕聽㆑獄執㆑中者皐陶也。❷中間の道をとり守る。〔孟子、盡心上〕子莫執㆑中、執㆑中爲㆑近㆑之、執㆑中無㆑權、猶㆑執㆑一也。❸字號。㋑宋、游復（**7**―**17792**‥287）の字。㋺宋、丘允（**1**―**33**‥3）の字。㋩明、陳思道（**11**―**41698**‥918）の字。㋥宋、劉彝（**2**―**2224**‥5）の字。㋭元、司允德（**2**―**3257**‥439）の字。㋬明、安傳（**3**―**7072**‥368）の字。㋣明、李秉（**6**―**14459**‥718）の字。

【執沖】141（シツチユウ） 清、袁守侗（**10**―**34152**‥210）の字。

【執誅】142（シツチユウ） 執へて誅する。〔史記、齊悼惠王世家〕王年少、懼㆕大罪爲㆔吏所㆓執誅㆒、乃飮㆑藥自殺。

【執梃】143（シツテイ） つゑを持つ。梃は、指揮者のしるし。〔宋史、南漢劉氏世家〕臣率先來朝、願得㆔執㆑梃爲㆓諸國降王長㆒。

【執貼】144 chih^2 tʻieh^1 吉林の金融市場に行はれた一覽拂手形。

【執弩】145（シツド） いしゆみをとる。〔後漢書、禮儀志中〕御㆓戎路白馬朱鬣㆒、躬執㆑弩射㆑牲。

【執頭】146（シツトウ） 惡戲者の別稱。

【執鐙】147（シツトウ） たかつきの臺を持つ。〔禮、祭統〕執醴授㆑之執㆑鐙。〔注〕執醴、授㆑醴之人、授㆓夫人㆒以㆑豆、則執㆑鐙、鐙、豆下跗也。

【執德】148（シツトク） 德を守る。〔漢書、成帝紀〕秋七月、詔曰、朕執㆑德不㆑固。

【執念】149（シフネン） 深く思ひこむ。又、固く執つて動かない一念。

【執方】150（シツパウ） ❶道を守る。人臣をいふ。〔袁宏、三國名臣序贊〕執㆑方者、必以㆓權謀㆒自顯。〔注〕善曰、呂氏春秋曰、天道圓、地道方、聖人之所㆔以立㆓上下㆒、主執㆑圓、臣處㆑方、方圓不㆑易、國乃昌。❷法則を守る。一つの法術を固執する。〔文中子、周公〕溫彥博問、嵆康阮籍何人也、云云、通㆑變之謂㆑道、執㆑方之謂㆑器。❸隋代、廷尉の持つてゐた棒の名。〔隋書、百官志上〕廷尉、有㆓正監平三人㆒、元會、廷尉三官、皆法冠玄衣朝服、以監㆓東西中華門㆒、手執㆓方木三尺、方一寸㆒、謂㆓之執方㆒。

【執帛】151（シツパク） 楚の官名。〔史記、曹相國世家〕楚懷王、以㆓沛公㆒爲㆓碭郡長㆒、將㆓碭郡兵㆒、于㆑是乃封㆑參爲㆓執帛㆒、號曰㆓建成君㆒。〔注〕集解曰、執帛、楚官名。〔史記、夏侯嬰傳〕賜㆓爵執帛㆒。

【執搏】152（シツパク） とらへる。〔風俗通、祀典〕虎者陽物、百獸之長也、能執搏挫㆑銳、噬㆓食鬼魅㆒。

【執縛】153（シツバク） とらへしばる。〔韓非子、外儲說左下〕及㆓臣得㆑罪、近㆑王者不㆑見㆑臣、縣令者迎㆑臣執縛、侯吏者追㆑臣至㆓境上㆒、不㆑及而止。〔史記、陳丞相世家〕執㆓縛之㆒。〔新書、階級〕上弗㆑使㆓執縛係引而行㆒也。

【執法】154（シツパフ） ❶法令を執り行ふ。又、其の人。執政の臣。執法之吏を見よ。〔周禮、春官、大史〕大喪執㆑法、以涖㆓勸防㆒。〔戰國、魏策〕秦自㆓四境之內㆒、執法以下、至㆓於長輓者㆒。〔注〕執法、執政之臣。〔史記、淳于髡傳〕髡曰、賜㆓酒大王之前㆒、執法在㆑傍、御史在㆑後、髡恐懼俯伏而飮、不㆑過㆓一斗㆒徑醉矣。〔漢書、哀帝紀〕有司執法、未㆑得㆓其中㆒。❷星の名。〔漢書、天文志〕南四星、執法、中端門、左右掖門。

〔執法之吏〕155（シツパフノリ） 法令を行ふ役人。〔晏子、諫、上〕執法之吏、並㆓荷百姓㆒。〔漢書、董仲舒傳〕獨任㆓執法之吏㆒治㆑民。

【執膰】156（シツパン） ひもろぎをとる。祭の後に、神に供へた肉を頒ち與へられて、それを取ること。〔左氏、成、十三〕祀有㆓執膰㆒、戎有㆓受脤㆒。

【執披】157（シツピ） 柩の繩を持つ。披は棺の左右に設け、棺を引いて行くのに持つ紐。執紼。〔周禮、夏官、司士〕大喪作㆑士掌㆑事、作㆓六軍之士㆒執㆑披。〔注〕披、柩車行、所㆔以披㆓持棺㆒者、有㆑紐以結㆑之、謂㆓之戴㆒、鄭司農云、披者、扶㆓持棺殮㆒者也。

【執鈹】158（シツピ） つるぎを持つ。鈹は劍形の刀。今の洋刀の類。執劍。〔左氏、昭、二十七、夾㆑之以㆑鈹、會箋〕執㆑鈹以夾㆑王衞㆑之也、云云、漢書功臣表、周竈以㆓長鈹都尉㆒擊㆓項籍㆒、師古云、長刃兵爲㆓刀而劍形㆒、史記作㆓長鈹㆒、說文金部鈹字注、劍如㆑刀裝者、此師古之所㆑本。

【執轡】159（シツピ） ❶たづなをとる。〔韓詩外傳、二〕執㆑轡而問。〔孔叢子、刑論〕左手執㆑轡、右手運㆑策。❷孔子家語の篇名。

【執筆】160（シツピツ） ふでをとる。文字を書く。操觚。〔列女傳、節義、珠崖二義傳〕關吏執㆑筆書㆑劾。〔後漢書、蔡邕傳〕不㆑可㆑令㆔佞臣執㆑筆、在㆓幼主左右㆒。

【執冰】161（シツピヨウ） 冰を手に持つ義で、戰ふ心のないこと。冰は矢づつの蓋。冰は掤に通ず。〔左氏、昭、二十五〕公徒釋㆑甲、執㆑冰而踞。〔注〕言㆑無㆓戰心㆒也、冰、箭筩、其蓋可㆓以取㆑飮。

【執夫】162（シツプ） 字號。❶明、蕭一中（**9**―**32012**‥288）の字。❷清、陳履中（**11**―**41698**‥1296）の字。

【執斧】163（シツプ） 斧を持つ。〔周禮、春官、冢人〕及㆑窆執㆑斧以涖、遂入藏㆓凶器㆒。

【執符】164（シツプ） わり符を持つ。信あるをいふ。符はわりふ。〔法言、脩身〕或問㆓仁義禮智信之用㆒、曰、仁、宅也、義、路也、禮、服也、智、燭也、信、符也、處㆑宅、由㆑路、正㆑服、明㆑燭、執㆑符、君子不㆑動、動斯得矣。

【執服】165（シフフク） おそれしたがふ。慹服。〔漢書、陳萬年傳〕豪彊執服。〔注〕師古曰、執、讀曰㆑慹。

【執紼】166（シツフツ） 柩の繩を持つ。轉じて、葬を送ること。古、送葬する者は必ず柩車の索を引いて助けた。紼は索。〔禮、曲禮上〕助㆑葬必執㆑紼。〔禮、檀弓下〕從㆑柩及㆑壙、皆執㆑紼。〔左氏、昭、三十〕先君有㆑所㆓助執紼㆒矣。〔後漢書、范式傳〕式因執㆑紼而引㆑柩、於㆑是乃前。〔書言故事大全、送葬類〕送㆑葬曰㆓執紼㆒。

【執綍】167（シツフツ） ひつぎの繩を持つ。執披。〔禮、雜記下〕升正㆑柩、諸侯執綍五百人、四綍皆銜㆑枚。

【執兵】168（シツペイ） 兵器を持つ。〔左氏、成、二〕擐㆑甲執㆑兵、固卽㆑死也。

【執柄】169（シツペイ） ❶器具のえを持つ。〔禮、祭統〕尸酢㆓夫人㆒執㆑柄。❷政權を握る。又、其の人。執權。〔左氏、哀、十七〕國子實執㆓齊柄㆒、而命㆑瓘。〔商子、算地〕此執柄之罪也。❸關白（**11**―**41470**‥181）の異稱。〔平治物語、信賴信西不快〕執柄の息。

【執票】170 chih^2 pʻiao^4 重慶地方で行はれた無利息定期拂の手形。執照票。通票。轉票。

〔執票人〕171 chih^2 pʻiao^4 jen^2 手形持參人。手形の所持人。手形上の債權者。

【執璧】172（シツペキ） 死者の口に含ませる璧を持つ。〔禮、雜記上〕含者執㆑璧將㆑命曰、寡君使㆓某含㆒。

【執鞭】173（シツベン） ❶鞭をもつ。〔左氏、昭、十二〕執㆑鞭以出。〔曹植、求㆑通㆓親親㆒表〕執㆑鞭珥㆑筆。❷人の使用人となり、鞭を執つて馬を馭する者。御者。執鞭之士を見よ。

〔執鞭之士〕174（シツベンノシ） 御者。轉じて、一般に賤役

に從事する者。〔論語、述而〕富而可レ求也、雖二執鞭之士一、吾亦爲レ之。

【執捕】175（シッポ） とらへる。〔史記、朝鮮傳〕命二左將軍麾下一、執二捕樓船將軍一。〔漢書、翟方進傳〕執捕械繫。

【執輔】176（シッポ） 政令を執つてたすける。〔管子、四時〕四守有レ所、三政執輔。

【執捧】177（シッポウ） ささげ持つ。〔陳後主、七夕宴二宣猷堂一各賦一韻詠二五物一云云詩〕侍臣乃執捧、良賓乃投擲。

【執本】179（シッポン） 根本をとり守る。〔漢書、藝文志〕知二秉レ要執レ本、清虛以自守、卑弱以自持一。

［執本求末］180 chih^{2} pen^{3} ch'iu^{2} mo^{4} おしはかる。推斷する。

【執務】181（シッム） ❶つとめを行ふ。しごとをする。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕執二務私事一、不レ辭二劇易一。❷鹽鐵論の篇名。

【執命】182（シツメイ） 命令を執り行ふ。〔墨子、非命中〕於二召公之非二執命一亦然、曰、敬哉、無二天命一。

【執明】183（シツメイ） 甲戌の神の名。〔酉陽雜俎、諾皐記上〕甲戌神名二執明一、呼レ之入レ火不レ燒。

【執迷】184（シツメイ） 私意を固執して迷ふ。頑迷。〔舊唐書、王世充傳〕太宗謂曰、四海之內、皆承二正朔一、唯公執迷、獨阻二聲教一。

［執迷不悟］185 chih^{2} mi^{2} pu^{2} wu^{4} 迷ひ込んで悟らない。頑固で自己の誤を悟らない。頑迷な。

【執問】186（シツモン） とらへたづねる。〔史記、刺客、豫讓傳〕襄子如レ厠心動、執二問塗レ厠之刑人一、則豫讓。

【執龠】187（シツヤク） 執籥に同じ。〔玉篇〕詩云、左手執レ龠。

【執籥】188（シツヤク） 籥を持つ。籥は樂器の名で、六孔の笛。一說に、三孔の笛ともいふ。執龠。〔詩、邶風、簡兮〕左手執レ籥、右手秉レ翟。〔傳〕籥、六孔。〔集傳〕籥、如レ笛而六孔、或曰二三孔一。

【執勇】189（シツユウ） 勇猛な者を服從させる。〔史記、仲尼弟子傳〕子路爲二蒲大夫一、辭二孔子一、孔子曰、蒲多二壯士一、又難レ治、然吾語レ汝、恭以敬、可二以執レ勇、寬以正、可二以比レ衆、恭正以靜、可二以報レ上。〔注〕集解曰、言、恭謹謙敬、勇猛不レ能レ害、故曰レ執也。

【執耒】190（シツライ） すきを持つ。〔晉書、禮志上〕躬執レ耒以奉二社稷宗廟一、以勸二率農功一。

【執勞】191（シツラウ） 骨折つて仕事をする。〔宋書、謝瞻傳〕躬自執勞、母爲病。

【執理】192 chih^{2} li^{3} 掌る。掌管する。執掌。

【執履】193（シツリ） 草履取り。〔近古史談、德篇上、酒井金三郎〕同僚雖レ親、豈堪レ爲二執履之役一。

【執猫】194（シツリウ） 狗の名。よく禽獸をとらへるから名づける。〔集韻〕猫、執猫、狗名、言二善執二留禽獸一。

【執領】195（シツリヤウ） えりを持つ。〔儀禮、既夕禮〕左執レ領、右執レ要。

【執略】196（シツリヤク） とらへかすめる。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕身執略兮、入二西關一。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕蜀將姜維、寇二鈔脩郡一、爲レ所二執略一。

【執禮】197（シツレイ） ❶禮をとり行ふ。〔禮、文王世子〕秋、學レ禮、執レ禮者詔レ之。❷守り行ふべき禮。卽ち、禮をいふ。〔論語、述而〕子所二雅言一、詩書執禮、皆雅言也。〔集注〕執、守也。❸唐、杜淹（**6－14477‥22**）の字。

［執禮甚卑］198（シツレイハナハダヒクシ） 人に對して極めて謹み深く謙遜すること。〔列子、湯問〕造父之師曰二泰豆氏一、造父之始從習レ御也、執禮甚卑。

【執醴】199（シツレイ） 醴を手に持つ。又、祭に醴を人に授ける人。〔禮、祭統〕執醴授レ之執レ鐙。〔注〕執醴、授レ醴之人。

【執路】200（シツロ） 旅をする。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕執レ路日以遠兮、遂荒忽而辭去。

【執輅】201（シツロ） 車を御す。〔晏子、重而異者〕擁レ轅執レ輅、木乾鳥栖、袒レ肉暴レ骸、以望二君愍一レ之。

【執旗會】202 chih^{2} ch'i^{2} huei^{4} 旗行列。

【執金吾】203（シツキンゴ） 官名。秦は中尉を置き、京師を巡察することを掌らしめたが、漢の武帝の時、執金吾と改め、武器をとつて宮門を守り、非常を警戒することを掌らせた。我が左衞門府の職に當る。金吾は、足に黃金を鍍金した銅製の棒で、執金吾は出駕に扈する時、この棒を持つて護衞するから名づけたもの。一說に、金吾は鳥の名で、不祥を避けることを主る鳥とされ、執金吾は、天子出行の時、之を持つて先導するから名づけたともいふ。金吾（**11－40152‥377**）の❶を見よ。〔史記、酷吏、杜周傳〕後爲二執金吾一。〔漢書、百官公卿表上〕中尉、秦官、云云、武帝太初元年、更二名執金吾一。〔後漢書、百官志四〕執金吾掌二宮外戒一、司二非常水火之事一、月三繞二行宮外一、及主二兵器一、吾、猶レ禦也。〔文海披沙〕官名二執金吾一、金吾、棒也、以レ銅爲レ之、黃金塗二兩足一、謂二之金吾一、扈レ駕則執レ之以夾レ車、因以名レ官、今人唯稱二金吾一、而不レ言レ執、則一棒而已、語相沿而不レ覺二其謬一也、一云、金吾、鳥名、主レ辟二不祥一、故天子出行、先導執レ之。

【執冠者】204（シツクワンシヤ） 冠を手に持つ者。〔儀禮、士冠禮〕執冠者升二一等一、東面授レ賓。

【執者失レ之】205（トルモノハコレヲウシナフ） 固くとり守らうと努めるものは却つて失ふ結果となる。〔老子、二十九〕爲者敗レ之、執者失レ之。

【執愼將軍】206（シツシンシヤウグン） 官名。蜀の來敏の語言が節に中らず、擧動が常に違ふので、自ら警戒させる爲に與へた官名。〔蜀志、來敏傳〕亮卒後、還二成都一、爲二大長秋一、又免、後累遷爲二光祿大夫一、復坐レ過黜、前後數貶削、皆以二語言不レ節、擧動違レ常也、時孟光亦以二樞機不レ愼、議論干レ時、然猶愈二於敏一、俱以二其耆宿學士一、見レ禮二於世一、而敏荆楚名族、東宮舊臣、特加二優待一、是故廢而復起、後以レ敏爲二執愼將軍一、欲レ令下以二官重一自警戒上也。

【執刀揮弋】207 chih^{2} tao^{1} huei^{1} kê^{1} 戰爭する。

【執狸之狗】208（シツリノク） 狸をとらへるいぬ。〔莊子、天地〕執留之狗成レ思、猨狙之便自二山林一來。〔釋文〕執留、如レ字、又作レ猫、音同、一本作レ狸、亦如レ字、司馬云、猫、竹鼠也。〔疏〕執二捉狐狸一之狗、多遭二係頸一而獵、既不二自在一、故成二愁思一。

【場】5194

小篆

エキ　ヤク　〔集韻〕夷益切　［陌］　i^{4}

❶**さかひ**。國ざかひ。〔說文新附〕場、疆也、从レ土易聲。〔廣雅、釋詁二〕場、界也。❷**あぜ**。くろ。〔詩、小雅、信南山〕疆場翼翼。〔傳〕場、畔也。❸**道**。〔玉篇〕場、道之別名。❹通じて易（**5－13814**）に作る。〔說文新附考〕場、通作レ易。

［參考］場（**3－5278**）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕場、音亦、疆場。場、音長、祭レ神所也。

【培】5195

小篆

［一］ハイ　バイ　〔集韻〕蒲枚切　［灰］　ㄆㄟˊ　p'ei^{2}

［二］ホウ　ブ　〔集韻〕薄口切　［有］

［三］フウ　ブ　〔集韻〕房尤切　［尤］

［四］ハイ　バイ　〔集韻〕簿亥切　［賄］

［五］ホク　ボク　〔集韻〕鼻墨切　［職］

［慣］バイ

［一］❶**ます**。**土地などを增し加へる**。もと培（**3－5196**）に作る。〔正字通〕培、本作レ培。〔說文〕培、培敦、土田山川也、从レ土杏聲。〔段注〕左傳、祝鮀曰、分二魯土田一、倍敦、釋文、倍、本亦作レ陪、許所レ見作レ培、培爲レ是矣、按、封建所二加厚一曰二培敦一、引伸爲二凡裨補之稱一。〔禮、中庸〕栽者培レ之。〔注〕培、益也。❷**つちかふ**。**土を盛る**。〔集韻〕培、封也。❸**をさめる**。〔禮、喪服四制〕墳墓不レ培。〔注〕培、治也。❹**ぬる**。〔廣雅、釋室〕培、塗也。❺**たすける**。〔廣韻〕培、助也。❻**したがふ**。〔廣韻〕培、隨也。❼**つつみ**。土手。〔廣韻〕培、隄也。❽**屋後の垣**。〔淮南子、齊俗訓〕鑿レ培而遁レ之。〔注〕培、屋後牆也。❾砙（**7－21454**）に同じ。〔集韻〕砙、瓦未レ燒者、或作レ培。〔國語、晉語九〕若レ見二壘培一。〔注〕壘墼曰レ培。❿通じて陪（**11－41680**）・倍（**1－760**）に作る。〔集韻〕培、通作二陪・倍一。

［二］❶**田のあぜ**。〔呂覽、辯土〕高レ培則拔。〔注〕培、田側也。❷**つか**。〔方言、十

三〕冢、秦晉之間、或謂二之培一。❸をか。〔廣韻〕培、培塿、小阜。❹或は㟝(4－8195)・垺(3－5096)・附(11－41606)に作る。〔集韻〕培、或作二㟝・垺・附一。［三］人名。〔集韻〕培、人名、魯有二申培公一。［四］［五］❶かさねる。〔莊子、逍遙遊〕而後乃今培レ風。〔釋文〕培、重也。❷のる。馮(12－44579)に通ず。〔讀書雜志、餘編、上〕莊子逍遙遊篇、而後乃今培レ風、念孫按、培之言、馮也、馮、乘也、馮與レ培聲相近。

［名乘］マス。

【培漑】1 バイガイ つちかひ水そそぐ。〔眞德秀、任二泉州一謝表〕培二漑本根一、爲二聖朝元氣之一助一。

【培巖】2 バイガン 明、宋奎光(3－7078・・255)の字。

【培卿】3 バイケイ 明、馮厚敦(12－44579・・213)の字。

【培吾】4 バイゴ 明、李日茂(6－14459・・1377)の號。

【培公】5 バイコウ 清、傅維橒(1－939・・140)の字。

【培根】6 バイコン ❶根本を土かひ養ふ。〔黃庭堅、洪州分寧縣藏書閣銘〕山川之靈、或秀二于民一、世得二材用一、我培二其根一。❷清、林其茂(6－14551・・288)の字。

【培齋】7 バイサイ 林皝の號。林檉宇(6－14551・・405)を見よ。

【培山】8 バイザン 清、黃世成(12－47926・・1178)の字。

【培之】9 バイシ 字號。❶明、孟廷珂(3－6960・・326)の字。❷明、陶本(11－41705・・150)の字。❸清、黃樹穀(12－47926・・1141)の字。❹清、馬文植(12－44572・・938)の字。

【培濕】10 バイシツ 屋後の牆の低いこと。字解の［一］の❺を見よ。〔呂覽、聽言〕其氏多レ貨、其室培濕。

【培叔】11 バイシュク 清、施朝幹(5－13629・・173)の字。

【培植】12 バイショク ❶土かひ植ゑる。〔宋史、盧秉傳〕材木、非二培植一、根株弗レ成。❷人材を養成する。〔金史、韓企先傳〕專以四培二植獎三勵後進一、爲二己責任一。

【培堆】13 ホウタイ 丘のやうに高く積む。〔王安石、與二薛肇明一弈棊賭二梅花詩一輸詩〕華髮尋レ春喜レ見梅、一株臨レ路雪培堆。〔通俗編、狀貌、培堆〕啓顏錄、載二高敖曹詩一、培堆兩眼淚、難レ按滿胸愁。

【培敦】14 バイトン 增し與へた山川土地。加增の領地。倍敦。字解の［一］の❶を見よ。

【培風】15 バイフウ ❶重なり積つた厚い風。一說に、培は馮、馮は乘、風の上に乘ること。又、一說に、風を以て翼の力を益すこととも いふ。〔莊子、逍遙遊〕風之積也、不レ厚則其負二大翼一也無レ力、故九萬里、則風斯在レ下矣、而後乃今培レ風、背負二青天一、而莫二之夭閼一者、而後乃今將レ圖レ南。〔疏〕培、重也、云云、重二積風吹一、然後飛行。〔集釋〕慶藩案、王念孫曰、培之言、馮也、馮、乘也、風在二鵬下一、故言レ負、鵬在二風上一、故言レ馮、云云、若訓レ培爲レ重、則上文了不二相涉一矣、馮與レ培聲相近、故義亦相通、云云、今案二說文一、培、益也、培風者、以レ風益二大翼之力一、助二其高飛一也。❷清、張鵬翼(4－9812・・1523)の字。

【培風閣】16 バイフウカク 室名。❶清、朱琦(6－14424・・425)の室名。❷清、張孝思(4－9812・・869)の室名。

〔培風堂〕17 バイフウダウ 清、阿金(11－41599・・64)の室名。

【培糞】18 バイフン 田畑の肥料。こえ。〔和漢三才圖會〕江海有二鱗魚一、用爲二田畠培糞一。

【培養】19 バイヤウ 土かひやしなふ。物事の發達を助ける。〔朱熹、鵞湖寺和二陸子壽一詩〕舊學商量加二邃密一、新知培養轉深沈。〔劉因、示二孫諧一詩〕勾萌愼二培養一、雲霄看二巖巖一。〔歐陽玄、示レ姪詩〕初陽萌動愼二培養一、萬木一本含二春滋一。

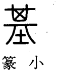
【培壅】20 バイヨウ 土かひまもる。培植壅護。〔宋史、仁宗紀贊〕有三培二壅宋三百餘年之基一。

【培塿】21 ホウロウ 小さい墓。轉じて、自ら謙遜する辭。〔廣雅、釋丘〕培塿、冢也。〔風俗通、山澤、培塿〕謹按、春秋左氏傳、培塿無二松柏一、言二其卑小一、部者阜之類也、今齊魯之閒、田中少高卬、名レ之爲レ部矣。〔抱朴子、逸民〕守二培塿一、玩二狐丘一。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕知下是山之特出、不中與二培塿一爲上レ類。〔書言故事、謙稱類〕培塿、自謂二卑小一。

【培林堂】22 バイリンダウ 清、徐秉義(4－10110・・624)の室名。

【塔】5196 ボウ 培(3－5195)の本字。〔正字通〕培、本作レ塔。

【基】5197 キ 〔集韻〕居之切 ㄐㄧ chi¹ ［支］


小篆

❶もと。もとゐ。基礎。土臺。〔說文〕基、牆始也、从レ土其聲。〔釋名、釋言語〕基、據也、在レ下物所二依據一也。〔詩、周頌、絲衣〕自レ堂徂レ基。〔傳〕基、門塾之基。〔左氏、成、十三〕敬、身之基也。〔疏〕牆屋以二下土一爲レ基。〔孔子家語、正論解〕邦家之基。〔注〕基、本也。❷はじめ。はじめる。はじまる。又、もとづける。もとづく。〔爾雅、釋詁〕基、始也。〔詩、周頌、昊天有成命〕夙夜基レ命宥密。〔傳〕基、始也。〔國語、晉語九〕基二於其身一。〔注〕基、始也。〔國語、周語下〕基、始也。〔漢書、枚乘傳〕福生有レ基、禍生有レ胎。〔注〕服虔曰、基・胎、皆始也。❸まうける。〔爾雅、釋言〕基、設也。❹わざ。〔太玄經、玄瑩〕物失二其基一。〔注〕基、業也。❺易では坤。〔易、繫辭下〕履德之基也。〔虞注〕坤爲レ基。❻はかる。はかりごと。謀(10－35756)に通ず。〔說文通訓定聲〕基、叚借爲レ謀。〔爾雅、釋詁〕基、謀也。〔書、康誥〕周公初レ基。〔鄭注〕基、謀也。❼すぢ道をつける。紀(8－27234)に通ず。〔說文通訓定聲〕基、叚借爲レ紀。〔爾雅、釋言〕基、經也。❽すき。錤(11－40567)に通ず。〔正字通〕基、與レ錤通。〔孟子、公孫丑上〕雖レ有二鎡基一、不レ如レ待レ時。❾一周年。稘(8－25118)・朞(5－14377)に通ず。〔說文通訓定聲〕基、叚借爲レ稘。〔後漢書、郞顗傳〕於レ詩三基。〔注〕基、當レ作レ朞。〔耶律楚材、懷古詩〕約二法三章一日、恩垂四百基。❿其(2－1472)に通ず。〔詩、周頌、昊天有成命〕夙夜基レ命宥密。〔禮、孔子閒居〕夙夜其レ命宥密。⓫古は坖(3－4939)に作る。〔集韻〕基、古作レ坖。⓬姓。〔萬姓統譜〕基、基厚大足人、正統閒湖廣道州吏目。［現］化學用語。化學反應の時、一つの化合物から他の化合物に移る際、變化せずに一つの原子のやうな作用をなす原子團。根。radical ［邦］き。塔婆・墓碣などを數へるに用ひる。

［名乘］モト。モトヰ。

【基圍】1 chi¹ wei² 廣東近海地方の田。

【基因】2 キイン もと。もとゐ。原因。

【基宇】3 キウ ❶規模。度量。〔蜀志、先主傳評〕機權幹略、不レ逮二魏武一、是以基宇亦狹。〔袁宏、三國名臣序贊〕堂堂孔明、基宇宏邈。❷もとゐ。〔北史、齊昭帝紀論〕將齊之基宇、止在二於此一。

【基階】4 キカイ 階段。〔謝靈運、登二石門最高頂一詩〕長林羅二戶庭一、積石擁二基階一。

【基陷】5 キカン 土臺が陷沒すること。〔晉書、涼後主歆傳〕基陷地裂、大凶之徵。

【基玉】7 キギョク 清、黃璂(12－47926・・183)の字。

【基金】8 キキン 基本金(56)に同じ。

【基華】9 キヴアヒヴア 露領中央亞細亞の地名。古、波斯國の一部。亞歷山帝國に併合せらる。後、蒙古人が基華汗國を建てた。基華汗國を見よ。

〔基華汗國〕10 キヴアカンコク 中央亞細亞に在つた一汗國。アラル海の南方地域を占め、一五一五年、月卽部の尊長イルバルスによつて建てられたが、一八七三年以來、露領となり、現在はトルクメン共和國及びウズベク共和國の一部をなす。

【基款】11 chi¹ k'uan³ 基金。準備金。

【基扃】12 キケイ どだいと門戶のとざし。城闕をいふ。〔鮑照、蕪城賦〕觀二基扃之固護一。〔注〕善曰、說文曰、扃、外閉之關也、凡文士之言二基扃一、汎論二城闕一。

【基教】13 キケウ 基督教のこと。

【基業】14 キゲフ ❶もとゐとなる事業。基緖。〔漢書、

賈山傳〕雖三堯舜禹湯文武絫レ世廣レ德、以爲二子孫基業一、無下過二二三十世一者上也。〔後漢書、隗囂傳〕基業已定。㊁祖先傳來の家產。〔魏武帝、存二恤從軍吏士家室一令〕其令下死者、家無二基業一、不上能二自存一者、縣官勿レ絕レ廩。

【基源】15（キゲン） もと。おこり。根源。〔後漢書、西域傳論〕川河領障之基源、氣節涼暑之通隔。

【基構】17（キコウ） 國家經營の基。國勢をいふ。〔晉書、桓彝傳論〕基構迭汙隆、龍虵倶二山澤一。

【基根】18（キコン） 基本(55)に同じ。

【基在】19（ギゼー） 地名。エジプトの都邑。ナイル河岸にあり、ピラミッド・スフインクス等がある。Gizeh の音譯。

【基址】20（キシ） いしずゑ。基礎。土臺。基阯。基趾。基跱。〔水經、沔水注〕水北有二白水陂一、其陽有二漢光武故宅一、基址存焉、所謂白水鄉也。〔北史、蔣少游傳〕少游乘レ傳詣レ洛、量二準魏晉基址一。

【基阯】21（キシ） 基址・基趾に同じ。〔釋名、釋丘〕水出二其前一、曰二阯丘一、阯、基阯也。〔漢書、疏廣傳〕子孫幾及二君時一、頗立二產業基阯一。〔後漢書、宋意傳〕當下早就二蕃國一、爲中子孫基阯上。〔韓愈、寄二盧仝一詩〕苗裔當レ蒙二十世宥一、豈謂三貽厥無二基阯一。

【基趾】22（キシ） 基址・基阯に同じ。〔左氏、宣、十一〕略二基趾一、具二餱糧一、度二有司一、事三旬而成、不レ愆二于素一。〔後漢書、仲長統傳〕立二至化之基趾一。〔左思、吳都賦〕霸王之所二根柢一、開國之所二基趾一。〔北史、韓麒麟傳〕洛陽基趾、魏明所レ營。

【基爾】23（キール） 地名。ドイツ西北部、キール灣に臨む港市。もとドイツの海軍根據地。Kiel の音譯。

【基準】24（キジュン） 基礎標準。

【基緒】25（キショ） もとゐとなる事業。基業。〔書、太甲上〕嗣王丕承二基緒一。〔孔融、薦二禰衡一表〕陛下叡聖、纂承二基緒一。〔注〕良曰、緒、業也。

【基數】26（キスウ） 基礎として用ひる數。一から九までの數。

【基聖】27（キセイ） 明、文肇祉(**6**－**13450**‥1026)の字。

【基線】28（キセン） 基本の線。或る二點間の距離を精測して、測量の基礎とする線。

【基善】29（キゼン） 民國、馮玉祥（**12**－**44579**‥196）の號。

【基礎】30（キソ） どだい。いしずゑ。基趾。〔周禮政要、通藝〕如二開方・弧矢及代數比例諸術一、普教二諸學生一、以爲二測量製造之基礎一。

〖基礎學〗31（キソガク） 基礎となる學問。

〖基礎工作〗32（キソコウサク） 或る工作の基礎となる工作。もとゐとなる仕事。

〖基礎工事〗33（キソコウジ） 建築物のいしずゑをしつかりと打ちたてる工事。

【基多】34（キトー） 地名。南アメリカ、エクアドルの首府。Quito の音譯。

【基達】35（ケッタ） 地名。英領ペルチスタンの北部にあり、印度から南アフガニスタンに至る交通の要衝。Quetta の音譯。

【基地】36（キチ） ㊀活動發起の根據となる地點。根據地。㊁chi^1 ti^4 敷地。宅地。

【基置】37（キチ） 碁石のやうにならべる。棊置(**6**－**14921**‥25)に同じ。

【基雉】38（キチ） 宮室の土臺とかき。〔水經、灅水注〕阜上有二故宮廟一、樓榭基雉尙崇。

【基峙】39（キヂ） 棊峙の誤。棊峙は碁石を局上に並べたやうに、各處に割據すること。〔後漢書、鄭太傳〕若恃レ衆怙レ力、將三各基峙、以觀二成敗一。〔注〕劉攽曰、案レ文、基、當レ爲レ棊、謂レ如二棊不レ動、作レ基、無レ理。

【基跱】40（キヂ） 基址(20)に同じ。〔梁書、樂藹傳〕豫章王問二藹風土舊俗、城隍基跱一。

【基築】41（キチク） 城や門などの基礎。〔水經、潕水注〕酈縣有二故城一、云云、雖レ無二基築一、皆連山相接、而漢水流二其南一。

【基杖】42（キヂヤウ） 土臺と杖。轉じて、助となるもの。〔荀子、君道〕卿相輔佐、人主之基杖也、不レ可レ不二早具一也。

【基楨】43（キテイ） もとゐ。根本。楨は牆の兩側の柱。〔漢書、匡衡傳〕使丁羣下得丙望二盛德休光一、以立乙基楨甲。

【基兆】44（キテウ） もとゐ。はじめ。〔漢書、匡衡傳〕室家之道修、則天下之理得、故詩始二國風一、禮本二冠婚一、云云、本二乎冠婚一、正二基兆一而防二未然一也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕遂因二魯僖基兆一而營焉。

【基調】45（キテウ） 一つの樂曲の全體を通じて基礎となり中心となる調子。主調。轉じて、物事の基本となるものをいふ。

【基點】46（キテン） もととなる點。㊀出發點。㊁中心點。

【基督】47（キリスト） Christ の音譯。基利斯督の略稱。救世主の義。普通には耶蘇を稱して基督といふ。

〖基督教〗48（キリストケウ） 猶太人耶蘇基督の開いた教。天父・神子・聖靈の三位を一體に具する全智全能絕對唯一の神を信じて、靈魂の救拯を得んことを主旨とするもの。

〖基督降誕祭〗49（キリストカウタンサイ） 基督教信者が、キリストの降誕を祝し、每年十二月二十五日に行ふ祭典。クリスマス。

〖基督教青年會〗50（キリストケウセイネンクワイ） 基督教の主義精神を中心とした青年の世界的團體。

〖基督教社會主義〗51（キリストケウシヤクワイシユギ） 基督教の教義に本づいて社會改良の目的を達せんとする主義。

【基年】52（キネン） 滿一年。期年。〔漢靈臺碑〕基年、鯱魚復生。

【基平】53（キヘイ） 淸、王太岳(**7**－**20823**‥1884)の字。

【基輔】54（キエフ） 地名。ソヴイエト聯邦、ウクライナ共和國西北部の地方。又、同地方の首都の名。Kiev の音譯。

【基本】55（キホン） もとゐ。事物のよつて生ずる基礎。基根。〔漢書、谷永傳〕王者以レ民爲レ基、民以レ財爲レ本、云云、是以明王、愛二養基本一、不二敢窮極一。〔晉書、慕容德載記〕張華進曰、彭城阻二帶山川一、楚之舊都、地險人殷、可三攻而據レ之、以爲二基本一。

〖基本金〗56（キホンキン） それから生ずる利息を以て或る費用の支出に充て得べき、財源の金錢。基金。資本金。

〖基本圖〗57（キホンヅ） ㊀完成圖の基礎となるべき圖面。㊁最初の略設計圖。

〖基本原價〗58（キホンゲンカ） 運賃等の諸雜費を含まない物品の原價。

〖基本財產〗59（キホンザイサン） ある必要な經費に充てる金を生ぜしめる爲に、元本として蓄積して置く財產。

〖基本單位〗59′（キホンタンヰ） ㊀凡ての種類の單位のもととなるもの。卽ち長さ・重さ・時の稱。他の總べての單位は之により導かれるからいふ。㊁度量衡に於ける主要な單位。尺・升・貫。補助單位の對。

【基命】60（キメイ） 王者たるべく始めて受ける天命。〔書、洛誥〕王如レ弗三敢及二天基命定命一。〔蔡傳〕基命、所二以成レ始也。

【基羅】61（キロ） メートル法單位名に冠して、その千倍を表はす語。啓羅（**2**－**3820**‥103）に同じ。

〖基羅邁當〗62（キロメートル） キロメートルの音譯。

【基阿那】63（ギヤナ） 地名。南アメリカ北部地方の稱。Guiana, Guyana の音譯。

【基臨王】64（キリンワウ） 基臨尼師今に同じ。基臨尼師今を見よ。

【基臨尼師今】65（キリンニシキン） 新羅第十五代の王。乞淑の子。助賁尼師今の孫。一に基丘に作る。儒禮尼師今に繼いで卽位し、在位十二年にして薨去した。〔三國史記、二〕。

【⿱亼圭】5198

ダイ　臺(**9**－**30161**)の古字。〔集韻〕臺、古作レ⿱亼圭。

【⿳吉冖土】5199

ダイ　臺(**9**－**30161**)に同じ。〔集韻〕臺、⿳吉冖土或省。

【埻】5200

［一］シユン　〔集韻〕主尹切　ㄓㄨㄣˇ chuen^3　軫

［二］シユン　〔集韻〕朱閏切　震

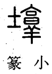
［三］タ ダ　〔集韻〕徒臥切　箇

［四］タイ ツイ　〔集韻〕都回切　灰

［五］クヮク　〔集韻〕光鑊切　藥

［六］クヮク　〔集韻〕郭擭切　陌

［七］ジユク



小篆

［一］㊀**まと**。射的。⿰土𦎫(**3**－**5594**)に同じ。〔正字通〕埻、說文作レ⿰土𦎫。〔說文〕⿰土𦎫、⿰土𦎫的、䠶臬也、从レ土𦎫聲、讀若レ

準。〔段注〕周禮司裘注曰、以二虎狼豹麋之皮一飾二侯側一、又方制レ之以爲レ臯、謂二之鵠一、箸二於侯中一、臯、卽墪之叚借字也。〔太玄經、耆〕豚二其埻一。〔注〕埻、射的也。❷のり。法則。〔廣雅、釋詁一〕埻、灋也。❸準(7−17934)に通ず。〔說文通訓定聲〕埻、今準的字、以レ準爲レ之。[三]重ねた土。〔集韻〕埻、壘土。[三]あづち。〔集韻〕埻、射堋。[四]棺。〔集韻〕埻、欑塗所レ覆。[五][六]埻端は、國名。墪(3−5601)に同じ。〔集韻〕墪、墪端、國名、隷作レ埻。〔山海經、海內東經〕國在二流沙中一者、埻端・璽喚。[七]塾(3−5402)に同じ。〔說文通訓定聲〕埻、按、門側之東西堂也、从レ土孰省聲、字亦作レ塾不レ省。

【埼】 5201

[一]ギキ 〔集韻〕渠羈切 ㄑㄧˊ chʻi^2 [支]

[二]ゲキ 〔集韻〕渠希切 [微]

[一][二]さき。みさき。或は碕(8−24296)・崎(4−8169)・隑(11−41766)に作る。〔集韻〕埼、曲岸也、或从レ石、从レ山、亦作レ隑。〔正韻〕埼、曲岸頭。〔司馬相如、上林賦〕觸二穹石一、激二堆埼一。〔注〕善曰、埼、曲岸頭也。

【埽】 5202

小篆

[一]サウ ソウ 〔集韻〕蘇老切 ㄙㄠˇ sao^3 [晧]

[二]サウ ソウ 〔集韻〕先到切 [號]

[一][二]❶はく。はらふ。或は掃(5−12237)・騷(12−44935)に作る。〔說文〕埽、坌也、从二土帚一。〔集韻〕埽、拚除也、或作二掃・騷一。❷護岸工事の材料。我が國のじやかごに似たもの。竹を編んでかごを作り、土を中に充たしたもの。又、この材料で造った隄防をいふ。〔正字通〕埽、隄岸曰レ埽、竹木爲レ枋、和レ土以捍レ水、今黄河之役用レ之。

[解字] 會意形聲。土と帚(はらひのぞく意)との合字。帚は又、聲。本義はちりをはらひのぞく義。故に土と帚とを合せて掃除する義を表はす。〔說文、埽、坌也、从二土帚一、段注〕會義、帚亦聲。

[參考] 熟語は掃(5−12237)を見よ。

【埽臺】1 サウダイ 埽の上に臺を築いて水勢を望むもの。〔六部成語、工部、埽臺、注解〕埽上築レ臺、以望二水勢一者也。

【埾】 5203

小篆

シユ ジユ 〔集韻〕从遇切 [遇]

積んだ土。或は⿱聚土(3−5556)に作る。〔說文〕埾、積土也、从レ土聚省聲。〔集韻〕埾、⿱聚土、或不レ省。

[解字] 會意形聲。土と取(聚の省形で、あつめる意)との合字。取は又、聲。本義は土をあつめつむ義。故に土と取とを合せて土をつむ義を表はし、轉じて、あつめる義に用ひる。一說に、形聲の字で、土は義を表はすともいふ。〔說文、埾、積レ土也、从レ土聚省聲、段注〕擧二形聲一包二會意一也。〔說文通訓定聲〕埾、按、取聲。

【埿】 5204

[一]デイ ナイ 〔集韻〕年題切 [齊]

[二]デイ ナイ 〔集韻〕乃計切 [霽]

[三]ハン ベン 〔集韻〕薄鑑切 [陷]

[一]❶ぬる。或は⿸尼土(3−4982)・⿱妮土(3−5221)に作る。〔集韻〕埿、塗也、或作二⿸尼土・⿱妮土一。❷通じて泥(6−17311)に作る。〔集韻〕埿、通作レ泥。[二]❶こて。又、ぬる。〔集韻〕埿、杇也。❷なづむ。拘泥する。泥(6−17311)の俗字。〔廣韻〕泥、滯陷不レ通、語云、致レ遠恐レ泥、埿、俗。[三]ぬかるみ。湴(7−17879)に同じ。〔廣韻〕埿、深泥也、湴、上同。

【堀】 5205

小篆

小篆

[一]コツ コチ 〔集韻〕苦骨切 [月]

[二]クツ グチ 〔集韻〕渠勿切 [物]

[一]❶あな。もと堀(3−5541)に作る。〔正字通〕堀、本作レ堀。〔說文〕堀、突也、从レ土屈聲、詩曰、蜉游堀閱。〔段注〕突爲下犬從二穴中一暫出上、因謂二穴中可レ居曰レ突、亦曰レ堀、俗字作レ窟、古書中、堀字多譌レ掘。❷風がちりを動かすさま。堀堁(6)を見よ。❸窟(8−25552)に通ず。〔荀子、法行〕夫魚鼈黿鼉、猶以レ淵爲レ淺、而堀二其中一。〔注〕堀、與レ窟同。[二]ほる。掘(5−12264)に同じ。〔集韻〕掘、說文、搰也、或从レ土。[邦]ほり。長く地を掘って水をためた所。城の周圍の水たまり。濠と同じ意に用ひる。

[參考] 名詞の時には堀、動詞の時には掘。ただ古來通用の例のあることは、段注に言ふ通りである。猶、熟語は掘(5−12264)を併せ見よ。

【堀閱】1 クツエツ 土を掘ってぬけ出る。掘閱(5−12264‥2)を見よ。〔廣韻〕堀、說文曰、突也、引詩曰、蜉蝣堀閱。

【堀河】2 ホリカハ 人皇第七十三代の帝諡。

【堀江】3 ホリエ 人工を以て掘った河。〔萬葉集、十八〕ほりえには玉敷かましを。

【堀割】4 ホリワリ 人工を以て掘った河。

【堀虛】5 クツキヨ ほらあな。〔淮南子、脩務訓〕野彘有二芃背槎櫛堀虛連比一、以像二宮室一。

【堀堁】6 クツクワ 風がほこりを吹きあげるさま。塵のたつさま。〔集韻〕堀、一曰、堀堁、塵起。〔宋玉、風賦〕堀堁揚レ塵。〔注〕善曰、堀堁、風動レ塵也。

【堀穴】7 クツケツ ❶ほらあな。いはや。洞穴。〔墨子、節用中〕古者、人之始生、未レ有二宮室一之時、因二陵丘堀穴一而處焉。〔鄒陽、於レ獄上レ書自明文〕士有三伏二死堀穴巖藪之中一耳。❷轉じて、賤者の居をいふ。〔戰國、楚策〕今僕之不肖、阨二於州部一、堀穴窮巷、沈二洿鄙俗一之日久矣。

【堀建】8 ホツタテ いしずゑを築かないで土中にいけて建てた柱。掘建。〔甲子夜話、四十八〕欅柱の地に入りたるを、掘立なるべしとて穿ちければ、下へ入るほど太し。

【堀建小屋】8′ ホツタテゴヤ 粗末な家。掘立小屋。

【堀戶】9 クツト 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【堀室】10 クツシツ 地下の室。いはや。窟室。掘室。〔左氏、昭、二十七〕(夏四月)伏二甲於堀室一而享レ王。〔釋文〕堀、本作レ窟。〔會箋〕石經・宋本、掘作レ堀。

【堀株】11 ホリカツプ 北海道後志國の地名。

【堀切】12 ホリキリ 堀割(4)に同じ。〔太平記、十七、山門攻事〕堀切を境ひて。

【堀壘】13 クツライ 小高い丘。〔司馬相如、上林賦〕丘虛堀壘、隱轔鬱壘。

【堀留】14 ホリドメ 堀などの、掘って行って止めた所。川や海などに通はないやうに掘りとめたところ。掘留。

【堀杏庵】15 ホリキヤウアン 近江の人。名は正意。字は敬夫。通稱は與十郎。號は杏庵・杏隱・蘇巷・敬庵・茅山。儒學は藤原惺窩、醫術は曲直瀨正純を師とす。官は廣島藩儒・名古屋藩儒。幕府の命を受け、弘文院に入り、諸家系圖傳の編纂に參與す。法眼に敍せらる。經學は程朱を宗とし、又、國典に精通し、和歌をよくす。寬永十九年十一月二十九日歿す、年五十八。著に田甲鬪記・眼目明鑒・歸尾紀行・灸炳要覽・杏隱雜錄・杏庵文集・神君御年譜附尾・新定武家系圖傳纂・成功記・朝鮮征伐記・東行日錄・浪華餘錄・中山日錄がある。〔先哲叢談、正、二〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【堀景山】16 ホリケイザン 近江の人。名は正超。字は君燕・彦昭。通稱は禎助。號は景山・垂山。私諡は忠靖。官は廣島藩儒。詩文に巧で、又、國學に精通す。寶曆七年九月十九日歿す、年七十。著に景山筆記・景山文集・詩文制式・幣乃錦がある。〔先哲叢談、正、二〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔國書解說〕。

【堀南湖】17 ホリナンコ 近江の人。名は正修。字は身之。通稱は正藏・一六郎・七太夫。號は南湖・習齋。木下順庵を師とす。官は廣島藩儒。程朱學を唱へ、博聞强記、詩文に巧。最も易理に精通す。寶曆三年三月七日歿す。一說に、七月十一日といふ。年七十。著に安藝名勝志・迂書史剡校刊・學原・習齋遺稿・新唐書校刊・蘇易傳翼・唐書音義校刊・唐宋四家宮詞校刊・竹窓雜記・讀史雜記・南湖文集・靈泉記がある。〔近代著述目錄後篇〕。

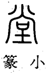
【堀川學派】18 ホリカハガクハ 伊藤仁齋の學派。創始者の名に依つて仁齋學派といひ、主張に依つて古義學派と稱し、或は仁齋の居宅の所在地に因んで堀川學派といふ。專ら孟子を尊び、主として修養を說く。元祿の中頃から正德の末に至るまで大いに行はれた。古學派(**2**−**3233**・・63)の❷を見よ。

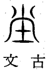
【堁】5206

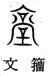
一 クヮ 〔集韻〕苦果切 哿
二 クヮ 〔集韻〕苦臥切 箇
三 クヮイ 〔集韻〕苦會切 隊
四 クヮ ワ 〔集韻〕烏臥切 箇
五 クヮイ 〔正韻〕窺對切 隊

一二❶**塵の起つさま。**堀堁。〔集韻〕堁、堀堁、塵起皃。❷**をか。**〔集韻〕堁、一曰、阜也。三四❶**ちり。**〔廣雅、釋詁三〕堁、塵也。〔淮南子、主術訓〕譬猶二揚レ堁而弭一レ塵也。〔注〕堁、塵壢也、楚人謂二之堁一。❷**うづたかく積んだ土。**〔集韻〕堁、一曰、堆土。五**あじか。**もつこ。〔正韻〕堁、草器也。

【堂】5207


小篆


古文


籒文

タウ ダウ 〔集韻〕徒郎切 陽 ㄊㄤˊ t'ang^2

❶**おもてざしき。**古、土を高く盛り上げて、其の上に家をいとなみ、左右の壁を序、中央以南の平土間で空闊なところを堂、中央以北の小部屋に仕切つた居住のところを室とよぶ。堂室(64)の❶を見よ。〔書、顧命〕立二于西堂一。〔鄭注〕序內半以前曰レ堂。〔儀禮、士喪禮〕皆饌二于西序下一南上。〔注〕中以南、謂二之堂一。〔論語、先進〕由也升レ堂矣、未レ入二於室一也。〔皇疏〕窻戶之外、曰レ堂。❷**正寢。**寢殿。〔說文〕堂、殿也、从レ土尚聲。〔段注〕古曰レ堂、漢以後曰レ殿、古上下皆偁レ堂、漢上下皆偁レ殿、至二唐以後一、人臣無レ有二偁レ殿者一。〔詩、檜風、羔裘〕狐裘在レ堂。〔傳〕堂、公堂也。〔禮、禮器〕天子之堂九尺、諸侯七尺、大夫五尺、士三尺。❸**門堂。**門の側の堂。〔詩、鄭風、丰〕俟二我乎堂一。〔釋文〕堂、門堂也。❹**明堂。**〔淮南子、本經訓〕堂大足三以周二旋理文一。〔注〕堂、明堂也。〔張衡、東京賦〕度レ堂以レ筵。〔注〕薛曰、堂、明堂也。❺**鄕の學校。**〔周禮、地官、鄕大夫、注〕行二鄕射之禮一。〔疏〕堂、謂二鄕學一。❻**との。**たかどの。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕畜鳧駕鵝雞鶩滿二堂壇一兮。〔注〕高殿敞揚爲レ堂。❼**たてもの。**家。〔後漢書、明帝紀〕親二御講堂一。〔唐書、百官志〕乃徙二政事堂於中書省一。〔任孝恭、多寶寺碑銘〕法堂每喧。〔杜甫、蜀相詩〕丞相祠堂何處尋。〔元結、窊樽詩〕酒堂貯二釀器一。❽**たひら。**〔詩、秦風、終南〕終南何有、有レ紀有レ堂。〔傳〕堂、畢道平如レ堂也。〔箋〕畢、終南之道名。❾**あきらか。**〔廣雅、釋詁四〕堂、明也。❿**たかい。**〔釋名、釋宮室〕堂、猶二堂堂一、高顯貌也。〔張衡、西京賦〕刊レ層平レ堂。〔注〕向曰、堂、高也。⓫**風采のりつぱなさま。さかんなさま。**堂堂(84)の❶を見よ。⓬**とじきみ。**棖(**6**−**14936**)に通ず。〔詩、鄭風、丰〕俟二我乎堂一。〔箋〕堂、當レ作レ棖。⓭**木の名。**棠(**6**−**14953**)に通ず。〔詩、秦風、終南〕有レ紀有レ堂。〔白孔六帖、五〕有レ杞有レ棠。⓮**邑の名。**〔廣韻〕堂、風俗通云、楚邑。⓯古文では坣(**3**−**4968**)に作り、籒文では臺(**3**−**5534**)に作る。〔說文〕坣、古文堂如レ此、臺、籒文堂、从レ尚、京省聲。⓰**母系、又は父系同祖の親屬。**堂姨(4)・堂舅(31)・堂兄弟(48)を見よ。⓱**相術家の語。**下脣の右下をいふ。流年運氣(**6**−**17431**・・307)を見よ。⓲**姓。**〔萬姓統譜〕堂、楚大夫伍尚之後。⓳現㋑法廷。㋺教會堂。㋩教室。㊁課業。㋭湯屋。

名乘 タカ。

【堂坳】1 ダウアウ 堂庭の中の窪んだところ。又、地のくぼみに出來た水たまり。坳堂(**3**−**4988**・・3)に同じ。〔庾信、小園賦〕山爲二簣覆一、地有二堂坳一。〔孫逖、和三左衞武倉曹衞中對雨創韻贈二右衞李騎曹一詩〕忽聞徵拉作、觀レ海媿二堂坳一。

【堂奧】2 ダウアウ 堂と、室の奧まつた所。門に入つて堂に升り、堂よりして室に入る。奧は室の西北隅。學問の奧義の喩。〔棗腆、答二石崇一詩〕竊覩二堂奧一、欽二蹈明規一。

【堂案】3 ダウアン 宰相の、政務についての調べがき。中書堂の案牘。〔唐書、宋璟傳〕張嘉貞、後爲レ相、閱二堂案一、見二其危言切議一、未三嘗不二失レ聲歎息一。

【堂姨】4 ダウイ 母の從父姊妹。母の女いとこ。〔唐書、韋縚傳〕禮喪服、舅緦麻三月、從母小功五月、傳曰、何以小功、以レ名加也、而堂姨舅母、恩所レ不レ及焉。〔朝野僉載〕狄仁傑爲レ相、候二問盧氏堂姨一。〔釋親考〕胤按、大明律母黨喪服圖云、堂舅堂姨之子無レ服、而不レ注二其義一、今以レ意推レ之、母之兄弟曰レ舅、姊妹曰レ姨、而稱レ堂者、皆從父兄弟也、然則堂舅、母之從父兄弟、堂姨、母之從父姊妹也。

【堂姨母】5 t'ang^2 i^2 mu^3 父方の大伯父の娘。堂姑(54)を見よ。

【堂姨兄弟】6 t'ang^2 i^2 hsiung^1 ti^4 母方の大伯父の娘の息子。堂姨の息子。堂姨(4)を見よ。

【堂姨姊妹】7 t'ang^2 i^2 tzŭ^3 mei^4 母方の大伯父の娘の娘。堂姨の娘。堂姨(4)を見よ。

【堂委】8 t'ang^2 wei^3 堂官からの委任。堂官からの命令。堂官(45)の❶を見よ。

【堂邑】9 ダウイフ ❶縣名。㋑漢、置く。春秋、楚の棠邑。後、吳に屬す。故城は江蘇省六合縣の北。〔史記、刺客、專諸傳〕專諸者、吳堂邑人也。〔漢書、地理志上〕臨淮郡、縣二十九、堂邑。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、六合縣〕堂邑城、在二縣北一、漢縣也、晉改置二尉氏縣一、蕭梁仍置二堂邑縣一。㋺隋、置く。漢の發干清縣の地。山東省聊城縣の西北。故城は今治の西。〔明一統志〕堂邑縣在二東昌府城西四十里一、本漢發干清縣地、屬二東郡一、隋始於レ此置二堂邑縣一。〔清史稿、地理志〕山東、東昌府、縣九、堂邑。❷複姓。〔萬姓統譜〕漢張騫使二西域一、從二百餘人一、堂邑氏二一人得レ還。

【堂邑侯】10 ダウイフコウ 漢、陳嬰(**11**−**41698**・・27)の「封號。

【堂邑父】11 ダウイフホ 漢の胡人。射を善くす。張騫と共に匈奴に使して歸り、奉使君に拜せらる。甘父。〔史記、一百二十三〕・〔前漢書、六十一〕。

【堂印】12 ダウイン ❶宰相の用ひる印。相印。〔韓愈、次二潼關一上二都統相公一詩〕暫辭二堂印一執二兵權一、盡管二諸軍一破レ賊年。❷骰子を振つて二度四の出ること。〔嘉話錄〕李二十六丈丞相善謔、云云、因三堂弟居守、誤收二骰子一、糾者罰レ之、丞相曰、何罰之有、司徒曰、汝向閑時、把二他堂印一將去、又何辭焉、飲酒家謂二重四一爲二堂印一、蓋譏二居守大和元年冬朝廷有事之際而登庸一。

【堂宇】13 ダウウ 殿堂。宇は、のき。〔水經、河水注三〕其殿四注兩夏、堂宇綺井、圖二畫奇禽異獸之象一。

【堂筵】14 ダウエン 大講堂。〔陸龜蒙、野廟碑〕升二階級一、坐二堂筵一。〔歐陽脩、吉州學記〕學有二堂筵齋講一。

【堂緣】15 ダウエン 緣側。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕終被レ縛、至二六波羅一、坐二之堂緣一。

【堂檐】16 ダウエン 家ののき。堂簷。〔舊唐書、禮儀志二〕堂檐徑二百八十八尺。〔元稹、紀レ懷贈二李六戶曹崔二十功曹一五十韻詩〕白草堂檐短、黃梅雨氣蒸。

【堂簷】17 ダウエン 家ののき。堂檐。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕門子一名、在二堂簷右側一。

【堂翁】18 ダウヲウ 縣の次官である縣佐が知縣を呼んでいふ語。堂官(45)の❶を見よ。

【堂屋】19 ダウヲク おもてごてん。〔晉書、淳于智傳〕家人既集二堂屋五間一、拉然而崩。〔搜神記、三〕金五百斤、盛以二青甖一、覆以二銅柈一、埋在二堂屋東頭一。〔南齊書、祥瑞志〕堂屋後忽生二一株一。

【堂下】20 ダウカ 堂の下。〔公羊、宣、六〕佗然從二乎趙盾一而入、放二乎堂下一而立。〔孟子、梁惠王上〕王坐二於堂上一、有下牽レ牛而過二堂下一者上。〔荀子、儒効〕諸侯趨二走堂下一。

〔堂下之言〕21 ダウカノゲン 立派な言葉をいふ。春秋、鄭の鬷蔑が叔向の堂下で一言して、その美言を知られた故事。〔左氏、昭、二十八〕昔叔向適レ鄭、鬷蔑惡、欲レ觀二叔向一、從二使之收レ器者一、而往立二於堂下一、一言而善、叔向將レ飮レ酒、聞レ之曰、必鬷明也。〔韓愈、上二兵部李侍郎一書〕堂下之言、不レ書二於傳記一。

〔堂下周屋〕22 ダウカノシウヲク 廊下をいふ。〔海錄碎事、地、屋宅〕堂下周屋、謂レ廊也。

〔審二堂下之陰一而知二日月之行一〕23 ダウカノカゲヲツマビラカニシテジツゲツノカウヲシル 堂下の影を見て日月が空のどの邊にあるかを知る。此を見て彼を察する喩。〔呂覽、察今〕審二堂下之陰一、而知二日月之行、陰陽之變一、見二瓶水之冰一、而知二天下之寒一。

【堂號】24 ダウガウ 堂の名稱。

【堂客】25 t'ang² k'ê⁴ 婦人。俗に男子を官客と稱するに對していふ。

【堂閣】26 ダウカク 宮殿。たかどの。〔後漢書、陶謙傳〕堂閣周回、可レ容二三千許人一。〔後漢書、侯覽傳〕起二立第宅一、十有六區、皆有二高樓池苑一、堂閣相望。

【堂額】27 t'ang² ê² 堂に掲げる額。堂顏。堂牓。

【堂顏】28 ダウガン 堂に掲げる額。顏は額。堂額。〔國朝漢學師承記、盧文弨〕抱經、其堂顏也。

【堂規】29 ダウキ 一家の規律。家憲。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕堂規者、秖就二公堂臨レ政、幷各房科人役、逐日承辦之事一、而立二規程一、使レ知二遵守一。

【堂期】30 t'ang² ch'i² 官署で其の署の官員の會合する日。

【堂舅】31 ダウキウ 從舅。母の從父兄弟。母方のいとこをぢ。堂姨(4)を見よ。〔因話錄〕商部廣平程子齊昔範、與二堂舅李信州虞一、相知最深。〔釋親考〕胤按、大明律母黨喪服圖云、堂舅堂姨之子無レ服。

〔堂舅父〕32 t'ang² chiu⁴ fu⁴ 母方の大伯父の息子。

〔堂舅母〕33 t'ang² chiu⁴ mu³ 堂舅父の妻。

〔堂舅表兄弟〕34 t'ang² chiu⁴ piao³ hsiung¹ ti⁴ 母方の大伯父の孫。

〔堂舅表姉妹〕35 t'ang² chiu⁴ piao² tzŭ³ mei⁴ 母方の大伯父の孫女。

〔堂舅表姪子〕36 t'ang² chiu⁴ piao³ chih² tzŭ 母方の大伯父の孫の子。

〔堂舅表姪孫〕37 t'ang² chiu⁴ piao³ chih² suen¹ 母方の大伯父の孫の孫。

【堂鞫】38 t'ang² chü² 裁判する。

【堂隅】39 ダウグウ 堂のすみ。〔潘岳、寡婦賦〕退幽悲二於堂隅一兮、進獨拜二於牀垂一。

【堂花】40 ダウクワ 早咲きの花。〔齊東野語、十六、馬塍藝花〕凡花之早放者、名曰二堂花一、其法、以レ紙飾二密室一、鑿レ地作レ坎、緶レ竹置二花其上一、糞レ土以二牛溲硫黃一、盡二培溉之法一、然後置二沸湯於坎中一、少候二湯氣薰蒸一、則扇レ之以二微風一、盎然盛春融淑之氣、經レ宿則花放矣。

【堂會】41 t'ang² huei⁴ 吉慶事のつどひに、自宅又は會場に俳優を招いて劇を演ぜしめること。

〔堂會戲〕42 t'ang² huei⁴ hsi⁴ 堂會で見物する芝居。堂會(41)を見よ。

【堂皇】43 ダウクワウ ❶四壁のない建物。官吏が事を判ずる處。堂堭。〔漢書、胡建傳〕監御史與二護軍諸校一、列二坐堂皇上一。〔注〕師古曰、室無二四壁一曰レ皇。〔唐書、田弘正傳〕就二採訪使一、堂皇聽レ事。❷宮殿の屬。晉代、洛陽に醴泉堂皇等があつた。〔洛陽宮殿簿〕晉時、洛陽有二醴泉堂皇・魚梁堂皇等六所一。❸氣勢のひろく大きいこと。〔張耒、大禮慶成賦〕堂皇二儀、拓落八極。

【堂堭】44 ダウクワウ 四壁のない建物。室の無い屋。堂皇。〔爾雅、釋宮〕無レ室曰レ榭。〔注〕榭、卽今堂堭。〔廣雅、釋宮〕堂堭、壂也。

【堂官】45 ダウクワン ❶清代、各衙門の長官。堂上の官の意。卽ち六部の尙書左右侍郞、諸寺の卿等をいふ。知府知縣も府縣署の堂官であつて、自ら府正堂・縣正堂と稱し、縣佐は知縣を堂翁といつた。〔淸會典事例、吏部、滿洲銓選〕至二在京各衙門應レ行二題補之缺一、出缺後向由二各該堂官酌擬定レ稿、應下以二出缺後、限二二十日內一帶領上。〔淸國行政法汎論、六部官制概要、備考〕侍郞以上、稱曰二堂官一、有下上二奏皇帝一之權上是也。❷t'ang² kuan¹ 堂倌(46)に同じ。

【堂倌】46 t'ang² kuan¹ 茶館・飯館などの給仕人。

【堂兄】47 ダウケイ 父方の從兄。父方の年上のいとこ。堂兄弟を見よ。〔釋親考〕丘氏曰、今稱二從兄從弟一、俗云二堂兄堂弟一。

〔堂兄弟〕48 ダウケイテイ 父方のいとこ。從父昆弟。もと同堂兄弟の義で、南北朝・唐以降、同字を省略していふ。〔北史、公孫表傳〕祖季眞多識二北方人物一、每云、士大夫當レ好二婚親一、二公孫同堂兄弟耳、吉凶會集、便有二士庶之異一。〔陔餘叢考、堂兄弟〕俗以二同祖之兄弟一爲二堂兄弟一。〔釋親考續編〕同堂兄弟・同堂兄・同堂弟・堂兄弟・堂兄・堂弟。

【堂谿】49 ダウケイ ❶劍の名。〔廣雅、釋器〕堂谿、劍也。❷地名。春秋、楚の邑。故城は河南省遂平縣の西。❸を見よ。❸複姓。〔左氏、定、五〕夫槩王歸自立也、以與レ王戰而敗、奔レ楚爲二堂谿氏一。〔史記、吳世家〕吳王留レ楚不レ去、夫槩亡歸レ吳、而自立爲二吳王一、闔閭聞レ之、乃引レ兵歸攻二夫槩一、夫槩敗奔レ楚、楚昭王乃得、以二九月一復入レ郢、而封二夫槩於堂谿一、爲二堂谿氏一。

〔堂谿惠〕50 ダウケイケイ 漢、潁川の人。貢禹に從つて公羊春秋を受く。〔前漢書、八十八〕。

〔堂谿典〕51 ダウケイテン 後漢、潁川の人。五官中郞將となる。左氏傳を延篤に授く。〔後漢書、九十〕。

【堂萱】52 ダウケン 母をいふ。萱堂。〔韻府引、范成大、詩〕眼看二庭玉成レ名後一、身及二堂萱未レ老時一。

【堂憲】53 ダウケン 清代、侍郎以上の大官をいふ。

【堂姑】54 ダウコ 父系の大伯父の娘。父の從姉妹。從祖姑。〔明律、戶律、婚姻、尊卑爲レ婚〕其父母之姑舅・兩姨姉妹及姨、若二堂姨母之姑・堂姑・己之堂姨、及再從姨・堂外甥女一、若二女壻及子孫婦之姉妹一、並不レ得レ爲二婚姻一、違者各杖一百。〔釋親考〕會典、從祖姑、卽堂姑、是父之同堂伯叔姉妹。

【堂口】55 ダウコウ はいりぐち。入口。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕須下挨次至二堂口一跪稟上。

【堂構】56 ダウコウ ❶父の設計を承け繼いで、子が堂基を起し、屋を構へること。轉じて、父祖の業を繼承すること。〔書、大誥〕若二考作レ室、既底レ法、厥子乃弗二肯堂一、矧肯構。〔傳〕以レ作レ室喩二治政一也、父已致レ法、子乃不三肯爲二堂基一、況肯構二立屋一乎。〔後漢書、章帝紀〕不レ克二堂構一、朕甚慙焉。〔蜀志、譙周傳〕夫憂責在レ身者、不レ暇レ盡レ樂、先帝之志、堂構未レ成、誠非二盡レ樂之時一。❷宮殿のかまへ。殿堂の結構。〔陸機、歎逝賦〕悼二堂構之隤瘁一、愍二城闕之丘荒一。〔危素、三節堂賦〕表二三節一以詠歌兮、峙二堂構於東湖一。

〔堂構之樂〕57 ダウコウノタノシミ 子が父の業を繼承するたのしみ。堂構の❶を見よ。〔李攀龍、報二吳濟南一尺牘〕家庭之美、堂構之樂。

【堂齋】58 t'ang² chai¹ 物忌する。

【堂劄】59 ダウサツ 清代、一官衙の長官が屬官に給する辭令書。〔六部成語、吏部、堂劄、注解〕堂官委二派屬員一差務所レ給之劄付、曰二堂劄一。

【堂子】60 ダウシ ❶佛堂。子は助辭。〔德祥、題レ畫詩〕就レ岸著二箇茅堂子一、不二必青山定有一レ名。❷清代、天子が土穀を祭り、諸神を祔祭する所。北京城の東門なる長安門外に在る。〔天咫偶聞〕堂子所下以祀二土穀一、而諸神祔上焉、中植二神杆一、以爲二社主一、諸王亦皆有二陪祭之位一、云云、俗人不レ知、輒謂、祀二明鄧子龍一、不レ知子龍蓋於二太祖一有レ舊、相傳、開國初、太祖常微服至二遼東一、以覘二形勢一、爲二邏者所一レ疑、子龍知二非常人一、陰送出レ境、

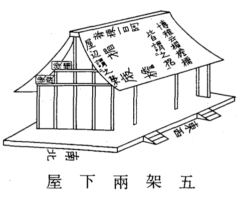
太祖篤二於舊誼一、祔二祀於社一、亦崇レ德報レ功之令典、非二專爲レ祀レ鄧而設一也。㊂t'ang² tzŭ 妓館。

【堂姊】61 ダウシ 母方のあねいとこ。年上の女いとこ。〔釋親考續編〕堂姊、堂妹。

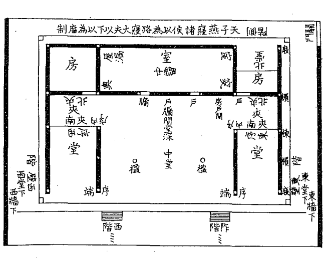
【堂姊妹】62 ダウシマイ 母方の女いとこ。同祖伯叔姊妹。從姊妹。〔明律、本宗九族五服正服之圖〕堂姊妹、謂二同祖伯叔姊妹一。〔剪燈餘話、江廟泥神記〕歎曰、奴四人爲二堂姊妹一、皆閨閣處子、尙未レ議レ姻。

【堂事】63 ダウジ ㊀かたしろに敬ひ事へること。〔禮、禮器〕室事交二乎戶一、堂事交二乎階一。〔注〕堂事、儐レ尸。㊁t'ang² shih⁴ 裁判所の廷丁。

【堂室】64 ダウシツ ㊀堂と室。堂は土を高く盛り上げて其の上に建てた家の中央以南の平土間で空闊な所、表座敷。室は中央以北の小部屋に仕切つた居住する所をいふ。〔禮、仲尼燕居〕室而無二奧阼一、則亂二於堂室一也。〔三輔黃圖、四、苑囿〕苑中有二堂室六所一、客館皆廣廡高軒、屛風幃褥甚麗。〔後漢書、橋玄傳〕以二幼年一逮レ升二常室一。〔儀禮釋宮〕宮室之名制、不三盡見二於經一、其可レ考者、宮必南鄕、廟在二寢東一、皆有レ堂有レ門、其外有二大門一、堂之屋、南北五架、中脊之架曰レ棟、次棟之架曰レ楣、後楣以北爲二室與一レ房、人君左右之房、大夫士東房西室而已、室中西南隅謂二之奧一、東南隅謂二之窔一、東北隅謂二之宧一、西北隅謂二之屋漏一、室南二其戶一、戶東而牖西、戶牖之閒謂二之依一、戶東曰二房戶之閒一、房戶之西謂二房外一、房中半以北曰二北堂一、有二北階一、堂之上東西有レ楹、堂東西之中曰二兩楹閒一、南北之中曰二中堂一、堂之東西牆謂二之序一、序之外謂二之夾室一、夾室之前曰レ箱、亦曰二東堂・西堂一、東堂下、西堂下、曰二堂東・堂西一、堂角有レ坫、堂之側邊曰二堂廉一、升レ堂兩階、其東曰二阼階一、堂下至レ門謂二之庭一、三二分庭一一在レ北設レ碑、堂塗謂二之陳一、中門屋爲レ門、門之中有レ闑、門限謂二之門一、闔謂二之扉一、夾門之堂謂二之塾一、門之內、兩塾之閒、謂二之宁一、門之內外、東方曰二門東一、西方曰二門西一、寢之後有二下室一、自レ門以北、周以レ牆、人君之堂屋爲二四注一、大夫士則南北兩下而已、此其著二於經一而可レ考者也。㊁母と妻。母堂と妻堂。〔陸機、赴レ洛詩〕感レ物戀二堂室一、離思一何深。〔注〕良曰、堂、謂レ母、室、謂レ妻。



堂室㊀（川合衡・釋宮圖）



堂室㊀（名物圖）

【堂舍】65 ダウシヤ 大きな伽藍。〔太平記、十七、山門攻事〕堂舍・佛閣に火をかけて。

【堂上】66 ダウジヤウ ㊀堂の上。宮殿の上。〔詩、小雅、鼓鍾〕鼓レ瑟鼓レ琴笙磬同音、疏〕琴瑟、堂上也、笙磬、堂下也。〔儀禮、聘禮〕堂上八豆、設二於戶西一。〔禮、曲禮上〕帷薄之外不レ趨、堂上不レ趨、執レ玉不レ趨、堂上接レ武、堂下布レ武。㊁父母の稱。堂上にあるからいふ。堂老(115)の㊁を見よ。〔唐書、王珪傳〕子敬直尙二南平公主一、是時諸主下嫁、以二帝女貴一、未下嘗行中見二舅姑一禮上、珪曰、主上循二法度一、吾當レ受二公主謁見一、豈爲二身榮一、將三以成二國家之美一、於レ是、與二夫人一坐二堂上一、主執二笲盥一、饋乃退、其後公主降下有二舅姑一者上、備二婦禮一、本二於珪一。〔稱謂錄、稱二人之母一、堂〕今之稱二人母一者、或曰二堂上一、或曰二令堂一、皆本レ此。㊂長官の稱。堂上で事を治めるからいふ。堂官。〔韓詩外傳、七〕今堂上之士、恐レ我以レ法。㊃公卿の稱。〔明百卷述〕卽有二年勞一加レ俸、不レ得レ帶二九卿堂上執政官一。㊄我が國で古、四位以上の昇殿を許された官人の稱。殿上人。

【堂上官】67 ダウジヤウクワン 堂官(45)に同じ。

【堂上家】68 ダウジヤウケ 公家(**2**－**1452**‥56)に同じ。

【堂上人】69 ダウジヤウビト 堂上方に同じ。

【堂上方】70 ダウジヤウガタ 堂上の御方。公卿衆。

【堂上夫人】71 t'ang² shang⁴ fu¹ jen² 母をいふ。〔還魂記、尋夢〕軟咍咍剛扶到畫闌偏、報堂上夫人穩便。

【堂上三百戶】72 ダウジヤウサンビヤクコ 三百軒の家を容れる程の大きな堂。〔呂覽、驕恣〕堂上三百戶、以二齊國之大一具レ之、三年而弗レ能レ成。

【堂上一呼堂下百諾】73 ダウジヤウイツコスレバダウカヒヤクダクス 堂上の一人が呼び唱へれば堂下の百人が承け應ずる。〔通俗編、居處、堂上一呼堂下百諾〕呂覽貴直論、宋王飮レ酒、室中有下呼二萬歲一者上、堂上盡應、堂上已應、堂下盡應、門下庭中聞レ之、莫二敢不一レ應、按、元人擧案齊眉評范叔劇皆云、堂上一呼、階下百諾、乃隱二括此段文一。

【堂上百里堂下千里】74 ダウジヤウヒヤクリダウカセンリ 百里は一日の行程、千里は十日の行程。闇君は手近な堂上堂下のことをも遠方のことのやうに聞知しないこと。階前萬里(**11**－**41755**‥25)を見よ。〔管子、法法〕春秋之記、臣有レ弑二其君一、子有下弑二其父一者上矣、故曰、堂上遠二於百里一、堂下遠二於千里一、門廷遠二於萬里一、今步者一日、百里之情通矣、堂上有レ事、十日而君不レ聞、此所謂遠二於百里一也、步者十日、千里之情通矣、堂下有レ事、一月而君不レ聞、此所謂遠二於千里一也、步者百日、萬里之情通矣、門廷有レ事、期年而君不レ聞、此所謂遠二於萬里一也。

【堂食】75 ダウシヨク 宰相が公署で食べる料理。堂饌。〔五代史、蘇逢吉傳〕逢吉已貴、益爲二豪侈一、謂、中書堂食、爲レ不レ可レ食、乃命二家廚一進レ羞、日極二珍膳一。

【堂選】76 ダウセン 宰相の除官をいふ。堂除。〔宋史、選擧志四〕祖宗以來、中書有二堂選一、百司郡縣有二奏擧一、雖二小大殊一レ科、然皆不レ隸二於有司一。

【堂饌】77 ダウセン 堂食に同じ。〔唐書、張文瓘傳〕同列以二堂饌豐餘一、欲二少損一、文瓘曰、此天子所下以重二樞務一、待中賢才上也。

【堂前】78 ダウゼン ㊀堂の前。〔宋書、符瑞志〕京邑崇虛館堂前有二黃氣一、狀如二寶蓋一。〔杜甫、江南逢二李龜年一詩〕岐王宅裏尋常見、崔九堂前幾度聞。〔劉禹錫、烏衣巷詩〕舊時王謝堂前燕、飛入尋常百姓家。㊁婦人の尊稱。〔宋史、烈女、陳堂前傳〕陳堂前、漢州雒縣王氏女、節操行義、爲二鄕人所一レ敬、但呼曰二堂前一、猶三私家尊二其母一也。

【堂前教子枕邊教妻】79 t'ang² ch'ien² chiao¹ tzŭ³ chen³ pien¹ chiao¹ ch'i¹ 子供の教育は嚴正に、妻の教導は打ち解けた態度でなすべき喩。

【堂贈】80 ダウゾウ 年の暮に不祥惡夢(一說に惡疫)を逐ひ拂ふこと。必ず堂より始めるからいふ。〔周禮、春官、男巫〕冬、堂贈、無レ方無レ算。〔注〕杜子春云、堂贈、謂レ逐レ疫也、玄謂、堂贈、冬歲終以レ禮送二不祥及惡夢一、皆是也、其行必由レ堂始、巫與レ神通、言三當レ東則東、當レ西則西、可レ近則近、可レ遠則遠、無二常數一。

【堂族】81 t'ang² tsu² 女の親類。〔紅樓夢、二回〕卻與如海、倶是堂族而已。

【堂尊】82 ダウソン 役人をいふ。〔福惠全書、蒞任部、交接寅僚〕秩卑祿微、諸惟仰二賴堂尊一。

【堂飧】83 ダウソン 堂食(75)に同じ。〔唐書、張鎰傳〕以二兩河用一レ兵、鎰因奏下減二堂飧錢、及百官稾奉三分一一、以助中用度上。

【堂堂】84 ダウダウ ㊀容貌の立派なさま。〔論語、子張〕堂堂乎張也。〔集注〕堂堂、容貌之盛。〔後漢書、伏湛傳〕容貌堂堂、國之光暉。〔袁宏、三國名臣序贊〕堂堂孔明、基宇宏邈。〔胡銓、上二高宗一封事〕堂堂天朝、相率而拜二犬豕一、曾童孺之所レ羞、而陛下忍レ爲レ之耶。㊁勇氣のあるさま。〔法言、問黎〕堂堂乎忠。〔司馬光注〕堂堂、勇也。〔岳飛、題二青泥市寺壁一詩〕雄氣堂堂貫二斗牛一、誓將二眞節一報二君讐一。㊂衆をぬけでるさま。〔束晳、補亡詩〕堂堂處子。〔注〕良曰、堂堂、出レ衆貌。㊃國土の立派なさま。〔晏子、重而異者〕去二此堂堂國一。〔韓非子、外儲說右上〕景公與二晏子一、遊二於少海一、登二柏寢之臺一、而還二望其國一曰、美哉、泱泱乎、堂堂乎、後世將孰有レ此。㊄土地が高く見晴しのひらけたさま。〔何晏、景福殿賦〕豐二層覆之耽耽一、建二高基之堂堂一。〔注〕銑曰、堂堂、高敞貌。㊅陣容の立派に整頓したさま。勿レ擊二堂堂之陣一を見よ。㊆隱さないさま。〔臨濟錄〕明歷歷、露堂堂。㊇物の

きしる音。〔通俗編、聲音、堂堂〕化書、庚氏穴池、搆ㇾ竹爲㆓憑檻㆒登ㇾ之者、其聲策策焉、辛氏穴池、搆ㇾ木爲㆓憑檻㆒登ㇾ之者、其聲堂堂焉。㊈樂府、清商曲辭の名。唐、溫庭筠作。〔溫庭筠、堂堂〕錢唐岸上春如ㇾ織、淼淼寒潮帶㆓晴色㆒、淮南遊客馬連嘶、碧草迷ㇾ人歸不ㇾ得、風飄客意如㆓吹煙㆒、纖指殷勤傷ㇾ雁弦、一曲堂堂紅燭筵、金鯨瀉ㇾ酒如㆓飛泉㆒。

〔堂堂之陣〕85 ダウダウノヂン 大いに整つた陣。軍容の盛な陣。勿ㇾ擊㆓堂堂之陣㆒を見よ。〔魏志、鍾會傳〕難㆔以敵㆓堂堂之陳㆒。

〔堂堂正正〕86 ダウダウセイセイ 旗なみ整ひ、陣容の盛なさま。勿ㇾ擊㆓堂堂之陣㆒及び正正堂堂(**6－16255··266**)を見よ。

〔勿ㇾ擊㆓堂堂之陣㆒〕87 ダウダウノヂンヲウツコトナカレ 整頓した陣を迎へ擊つてはならない。〔孫子、軍爭〕無ㇾ邀㆓正正之旗㆒、勿ㇾ擊㆓堂堂之陳㆒、此治ㇾ變者也。〔淮南子、兵略訓〕善用ㇾ兵者、不ㇾ襲㆓堂堂之寇㆒、不ㇾ擊㆓塡塡之旗㆒。

【堂塔】88 ダウタフ 堂と塔。轉じて、寺をいふ。〔東鑑、九〕文治五年九月二十三日、所㆓造立㆒堂塔、不ㇾ知㆓幾千萬宇㆒。

【堂壇】89 ダウダン 堂と壇。〔楚辭、九章、涉江〕鸞鳥鳳皇日以遠兮、燕雀烏鵲巢㆓堂壇㆒兮。

【堂中】90 ダウチユウ 表座敷の中。又、講堂の中。〔宋史、趙普傳〕太宗至、設㆓重裀地㆒、坐㆓堂中㆒、熾ㇾ炭燒ㇾ肉、普妻行ㇾ酒。〔蘇軾、和㆘歐陽少師會㆓老堂㆒次韻㆖詩〕聞道堂中延㆓蓋叟㆒、定應㆔牀下拜㆓梁松㆒。

【堂除】91 ダウヂヨ ㊀堂下の階。〔潘岳、懷舊賦〕陳荄被㆓于堂除㆒、舊圃化而爲ㇾ薪。㊁堂選(76)に同じ。〔事物紀原、官爵封建部、堂除〕續事始曰、舊制、內外皆吏部授、自ㇾ隋以來、五品以上官、中書門下訪擇聞奏、然後下ㇾ制、肅宗復令㆓中書㆒、以ㇾ功除ㇾ官、今謂㆓堂除㆒也。

【堂弟】92 ダウテイ 父方の從弟。父方の年下のいとこ。〔福惠全書、刑名部、問擬〕振旅堂弟王振典、用ㇾ價贖㆓回劉之洪原買地六頃八十畝㆒。

【堂帖】93 ダウテフ 宰相が百官を處分する案を記した書類。〔唐國史補、下〕宰相判㆓四方之事㆒有㆓堂案㆒、處㆓分百司㆒有㆓堂帖㆒。〔方回、送㆓劉都事㆒五十韻詩〕中書多㆓缺員㆒、聞早下㆓堂帖㆒。

【堂涂】94 ダウト 堂下から門に至る間の、磚を敷いた道。堂塗。堂途。〔周禮、考工記、匠人〕堂涂十有二分。〔注〕謂㆓階前㆒、若㆓今令甓裓㆒也。〔疏〕漢時、名㆓堂涂㆒爲㆓令甓裓㆒、令甓、則今之塼也、裓、則塼道者也。

【堂途】95 ダウト 堂涂に同じ。〔爾雅、釋宮〕堂途謂㆓之陳㆒。〔注〕堂下至ㇾ門徑也。

【堂塗】96 ダウト 堂涂に同じ。〔釋名、釋宮室〕陳、堂塗也、言㆓賓主相迎陳列之處㆒也。〔詩、陳風、防有鵲巢〕中唐有ㇾ甓。〔傳〕唐、堂塗也。〔疏〕堂塗、堂下至ㇾ門之徑也。

【堂頭】97 ダウトウ ダウチユウ ダウテウ ［佛］禪林の語。方丈をいふ。住持の居る處。轉じて、住持をも指す。

〔堂頭和尙〕98 ダウトウヲシヤウ ダウチユウヲシヤウ ダウテウヲシヤウ ［佛］禪宗で住持をいふ。〔庭訓往來、十月〕禪家者、堂頭和尙・東堂・西堂。

【堂房】99 ダウバウ 表座敷と、堂の側の部屋。〔儀禮、特牲饋食禮、疏〕堂房無ㇾ事。〔魏書、鄭道昭傳〕今國子學、堂房粗置、弦誦闃爾。

【堂牓】100 ダウバウ 堂の題額。堂額。〔陸游、游㆓金陵㆒記〕有㆓德慶堂㆒、在㆓法堂前㆒、堂牓乃南唐後主書。

【堂判】101 ダウハン 清代、府縣官が訴訟を判決することをいふ。

【堂費】102 t'ang^2 fei^4 訴訟費用。

【堂阜】103 ダウフ 地名。春秋、齊の地。山東省蒙陰縣の西北。〔左氏、莊、九〕管仲請ㇾ囚、鮑叔受ㇾ之、及㆓堂阜㆒而稅ㇾ之。〔注〕堂阜、齊地。〔左氏、文、十五〕齊人或爲㆓孟氏㆒謀曰、魯爾親也、飾ㇾ棺寘㆓諸堂阜㆒。〔注〕堂阜、齊魯境上邑。

【堂廡】104 ダウブ ひさし。廡は堂のまはりの廊。堂廡。〔列子、楊朱〕堂廡之上、不ㇾ絕㆓聲樂㆒。〔新序、雜事五〕試㆓之堂廡之下、廬室之閒㆒。〔鮑照、傷逝賦〕循㆓堂廡㆒而下降。

【堂廡】105 ダウブ 堂廡に同じ。〔路史、黃帝紀〕廣㆓宮室㆒、壯㆓堂廡㆒、高棟深宇、以避㆓風雨㆒。

【堂幅】106 t'ang^2 fu^2 客閒の中央に掛ける軸。

【堂陛】107 ダウヘイ 堂と階。〔漢書、賈誼傳〕人主之尊、譬如ㇾ堂、羣臣如ㇾ陛。〔說苑、尊賢〕臣觀㆓於朝廷㆒、未ㇾ觀㆓於堂陛之閒㆒也。〔韓愈、祭㆓湘君夫人㆒文〕外無㆓四垣㆒、堂陛頹落。

【堂票】108 t'ang^2 p'iao^4 令狀。召喚狀。

【堂封】109 ダウホウ 宰相の封邑。〔唐書、常袞傳〕故事、日出㆓內廚食㆒、賜㆓宰相家㆒、可㆓十人具㆒、袞奏罷ㇾ之、又將ㇾ讓㆓堂封㆒、它宰相不ㇾ從、乃中止。

【堂妹】110 ダウマイ 母方の年下の女いとこ。〔釋親考續編〕堂姊・堂妹。

【堂名】111 ダウメイ ㊀本姓の外に先祖のたてた堂の名に因んで附けた別號。例へば、王姓の三槐堂・揚姓の四知堂・張姓の百忍堂といふ類。〔山堂肆考〕開封府城仁和門外、有㆓三槐堂㆒、宋兵部侍郎王祐、創㆓居第㆒時、手植㆓三槐堂庭㆒、曰、吾子孫必有㆘爲㆓三公㆒者㆖、後子旦果爲ㇾ相、人遂號㆓三槐㆒、王氏子孫、因建㆓三槐堂㆒、蘇軾爲ㇾ記。㊁t'ang^2 ming^2 ㋑妓樓。藝者屋。㋺蘇州・杭州などで歌舞音曲を業とする樂隊。

【堂陽】112 ダウヤウ ㊀縣名。漢、置く。堂水の陽（タキ）に在るから名づける。宋の初、廢して鎭とした。今の河北省新河縣の西。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、堂陽。〔注〕應劭曰、在㆓堂水之陽㆒。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、冀州、南宮縣〕堂陽城、縣西南二十里、漢縣、屬㆓鉅鹿郡㆒、高帝封㆓功臣孫赤㆒爲㆓侯邑㆒、應劭曰、在㆓堂水之陽㆒、因名、後漢初、光武自㆓信都㆒投、暮入㆓堂陽界㆒、多㆓張騎㆒、火彌㆓滿山澤㆒、堂陽卽降、云云、宋熙甯六年、省入㆓南宮縣㆒、金亦爲㆓堂陽鎭㆒。㊁複姓。〔路史〕商王太丁、封㆓母弟才於堂陽㆒、爲㆓堂陽氏㆒。

〔堂陽渠〕113 ダウヤウキヨ 運河の名。河北省新河縣の西。〔唐書、地理志三〕堂陽縣西南三十里有ㇾ渠、自㆓鉅鹿㆒入㆓縣境㆒、下入㆓南宮㆒、景龍元年開。

【堂諭】114 t'ang^2 yü^4 ㊀清代、各部堂官の發する告諭。㊁被告人に對する裁判の宣告。

【堂老】115 ダウラウ ㊀宰相が互に相呼ぶ稱。〔國史補〕宰相相呼爲㆓堂老㆒。〔容齋四筆、官稱別名〕太子庶子爲㆓宮相㆒、宰相呼爲㆓堂老㆒、兩省相呼爲㆓閣老㆒。㊁母の稱。萱親。堂上。〔通俗編、稱謂、堂老〕周嬰卮林、儀禮有司徹曰、主婦北堂、士昏禮曰、姑洗㆓于北洗㆒、鄭注曰、北洗在㆓北堂㆒、主婦也、姑也、非㆓母之稱㆒乎、李陵書、老母終ㇾ堂、潘岳賦、太夫人在ㇾ堂、顏延之秋胡詩、上ㇾ堂拜㆓家慶㆒、固知㆓高堂之上慈母所ㇾ居、自ㇾ昔然㆒矣、隋侯夫人自傷詩、偏親老㆓北堂㆒、杜甫詩、慈顏赴㆓北堂㆒、岑參詩、北堂倚ㇾ門望ㇾ君憶、此後代堂老・令堂之稱所ㇾ祖耳、按、世俗又或稱㆓萱堂・萱親㆒、則因㆓北堂㆒而牽連及ㇾ之、孟郊詩、萱草集㆓堂陛㆒、遊子行㆓天涯㆒、慈親倚㆓堂門㆒、不ㇾ見㆓萱草花㆒、乃其牽連之祖。

【堂琅】116 ダウラウ ㊀山名。雲南省會澤縣の北。〔東川府志〕山多㆓毒草㆒、行人十里外聞㆓藥氣㆒、盛夏飛鳥過ㇾ之不ㇾ能ㇾ去。㊁縣名。漢、置く。今、雲南省會澤縣の境。〔漢書、地理志上〕犍爲郡、縣十二、堂琅。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、宜賓縣、朱提廢縣〕堂琅廢縣、志云、在㆓故朱提縣西南二百里㆒、漢置、屬㆓犍爲郡㆒、後漢省、南中志、朱提縣有㆓堂琅山㆒、多㆓毒草㆒、盛夏之月、飛鳥過ㇾ之不ㇾ能ㇾ得ㇾ去、縣蓋置㆓於山下㆒、蜀漢復立㆓堂琅縣㆒屬㆓朱提郡㆒、云云、齊屬㆓南朱提郡㆒、後廢。

【堂吏】117 ダウリ 唐から五代に至る閒に於て、中書省給事の役人をいふ。堂後官。〔宋史、王旦傳〕旦被ㇾ責、第拜謝、堂吏皆見ㇾ罰。〔事物紀原、律令刑罰部、堂後官〕宋朝會要曰、堂吏自ㇾ唐至㆓五代㆒、率㆓從京百司㆒抽補、開寶六年五月七日、以㆓武德縣尉姜宣義等㆒充㆓堂後官㆒、太祖知㆘堂吏擅㆓中書事權㆒、多爲㆗姦贓㆖、故令㆓吏部選授㆒、堂吏用㆓士人㆒、自ㇾ此始也、太平興國九年五月、以㆓將作監丞李元吉丁佐㆒爲㆓堂後官㆒、京官任㆓堂吏㆒、自ㇾ此始也、十二月以㆓王渾綦佩㆒爲㆓贊善㆒充ㇾ職、朝官之任㆓堂吏㆒、自ㇾ此始也、神宗元豐五年行官制、除㆓堂後官之名㆒、於㆓門下省中書省㆒、置㆓錄事㆒而已、通典曰、唐武德中、始於㆓諸州㆒調㆓左吏㆒、遂促㆓年限㆒、優以㆓次序㆒、有㆘至㆓上縣尉㆒者㆖。

【堂廉】118 ダウレン 堂の側邊。堂室(64)の㊀を見よ。〔儀禮、鄉飮酒禮〕設㆓席于堂廉㆒。〔注〕側邊曰ㇾ廉。

【堂簾】119 t'ang^2 lien^2 正房の入口に懸ける簾。

【卽ㇾ堂】120 ダウニツク 家にあがる。其の所にゆく。〔十八史略、宋、太祖〕卽㆓普堂㆒、設㆓重裀地㆒坐。

【堂後官】121 ダウゴクワン 堂吏(117)に同じ。〔通俗編、仕進、堂後官〕李心傳朝野雜記、堂後官謂㆓三省諸房都錄事㆒也、補ㇾ職及㆓一年㆒、改㆓宣教郎㆒。

【堂叔父】122 ダウシユクフ 父方の大叔父の子。父の年下のいとこ。同堂叔父。〔明律、本宗九族五服正服

之圖〕堂伯叔父母、謂二父之伯叔兄弟及妻一。〔釋親考續編〕同堂叔父。

【堂叔母】123 ダウシユクボ　父方の大叔父の子の妻。堂叔父の妻。同堂叔母。堂叔父を見よ。〔釋親考續編〕同堂叔母。

【堂臺子】124 t'ang^2 t'ai^2 tzŭ　法廷にある臺。法「廷。

【堂伯叔】125 ダウハクシユク　從伯叔。同堂伯叔(2－3294‥279)の❶の略。〔東軒筆錄〕安能撻レ我、但堂叔耳。

【堂伯祖】126 t'ang^2 po^2 tsu^3　父方の大伯父。

【堂伯伯】127 ダウハクハク　父の從父昆弟をいふ。〔稱謂錄、父之從父昆弟、堂伯伯〕東軒筆錄、張元有レ姪、不レ率レ教、將レ杖レ之、其姪方醉、大呼曰、安能撻レ我、但堂伯伯耳。

【堂伯父】128 ダウハクフ　父方の大伯父の子。父の年上のいとこ。同堂伯父。堂叔父を見よ。〔釋親考續編〕同堂伯父。

【堂伯母】129 ダウハクボ　堂伯父の妻。同堂伯母。堂叔父を見よ。〔釋親考續編〕同堂伯母。

【不レ垂レ堂】130 ダウニスイセズ　堂の外邊は轉覆する危險があるので、身を愛する者はそこには坐らない。轉じて、身を愛する喩。〔漢書、爰盎傳〕千金之子不レ垂レ堂、百金之子不レ騎レ衡。〔注〕師古曰、言二富人之子則自愛一也、垂レ堂、謂レ坐二堂外邊一、恐二墜墮一也。〔漢書、司馬相如傳下〕家累二千金一、坐不レ垂レ堂。

【堂有二母儀一】131 ダウニボギアリ　家に慈母が居る。慶滋保胤の餞二入唐僧一序にある語で、家に慈母がゐるから早く歸るやうにとの意に用ひる。〔倭漢朗詠集、僧、慶滋保胤、餞二入唐僧一序〕堂有二母儀一、莫三以逗二留於中天之月一、室有二師跡一、莫三以偃二息於五臺之雲一。

【堂高數仞】132 ダウタカキコトスウジン　殿堂の極めて高大なこと。〔孟子、盡心下〕堂高數仞、榱題數尺、我得レ志、弗レ爲也。

【堂高廉遠】133 ダウタカクレントホシ　堂が高く堂の側邊が遠い。君の權力の強い喩。〔漢書、賈誼傳〕人主之尊、譬如レ堂、羣臣如レ陛、衆庶如レ地、故陛九級上、廉遠レ地、則堂高、陛亡レ級、廉近レ地、則堂卑、高者難レ攀、卑者易レ陵、理勢然也。

【堂外甥女】134 ダウグワイセイヂヨ　他姓の姪。

【堂外祖父】135 t'ang^2 wai^4 tsu^3 fu^4　母方の大伯父。

【堂外祖母】136 t'ang^2 wai^4 tsu^2 mu^3　母方の大伯父の妻。

【堂司衙門】137 ダウシガモン　清代、行政を掌る役所。六部九卿をいふ。

【自レ堂徂レ基】138 ダウヨリキニユク　祭祀のとき門堂に升つて壺濯籩豆の屬を視、降つて門塾の基に行き、君に濯の具はつてゐるを告げること。〔詩、周頌、絲衣〕絲衣其紑、載レ弁俅俅、自レ堂徂レ基、自レ羊徂レ牛、鼐鼎及鼒、兕觥其觩、旨酒思レ柔、不レ吳不レ敖、胡考之休。〔集傳〕升二門堂一視二壺濯籩豆之屬一、降往二於基一、告二濯具一。

【升レ堂見レ親】139 ダウニノボツテオヤヲミル　升レ堂拜レ母に同じ。〔海錄碎事、人事、朋友〕孔融年十餘歲、盛憲以爲レ異、乃載而歸、便結爲二兄弟一、升レ堂見レ親、憲字孝章。

【升レ堂入レ室】140 ダウニノボリシツニイル　先づ堂に升つてから次に室に入る。學を修め道にすすむ次第をいふ。堂に升るとは、進んで高明正大の境に至るをいひ、室に入るとは、更に進んで祕奧精微の境に達するをいふ。堂室(64)の❶を見よ。〔論語、先進〕門人不レ敬二子路一、子曰、由也升レ堂矣、未レ入レ室也。〔法言、吾子〕賈誼升レ堂、相如入レ室矣。〔魏志、王烈傳〕游二志六藝一、升レ堂入レ室。

【升レ堂拜レ母】141 ダウニノボツテハハヲハイス　堂に升つて母の御機嫌を伺ふ。〔後漢書、范式傳〕與二汝南張劭一爲レ友、云云、式謂二元伯一曰、後二年當レ還、當下過拜二尊親一見中孺子上焉、乃共剋二期日一、云云、至二其日一、巨卿果到、升レ堂拜飮、盡レ歡而別。〔吳志、周瑜傳〕策與レ瑜同年、獨相友善、瑜推二道南大宅一以舍、策升レ堂拜レ母、有無通共。

【堂表兄弟】142 t'ang^2 piao^3 hsiung^1 ti^4　父方の大伯父の娘の息子。

【堂外祖姨母】143 t'ang^2 wai^4 tsu^3 i^2 mu^3　母方の大伯母。

【堂廚食利人】144 ダウチユウシヨクリジン　唐代、文牒を給せられて、天下を周遊した江淮の富人をいふ。〔海錄碎事、政事、宂官〕兩省以二江淮富人一給二文牒一、周二遊天下一、稱二堂廚食利人一、諸道公燕居二大將之上一、李德裕罷レ之、獻替錄。

【怡レ堂燕雀不レ知二後災一】145 ダウニヨロコブエンジヤクハコウサイヲシラズ　堂に巢くふ燕雀は後で炎上する災が身に及ぶのを知らずにゐる。危險なことを知らずにゐる喩。〔孔叢子、論勢〕燕雀處レ屋、子母相哺、煦煦然其相樂也、自以爲レ安矣、竈突炎上、棟宇將レ焚、燕雀顏不レ變、不レ知二禍之及一レ己也。〔吳志、薛綜傳、注〕漢晉春秋曰、云云、臣聞、燕雀處レ堂、子母相樂、自以爲レ安也、突決棟炎、而燕雀怡然、不レ知二禍之將一レ及。

【堃】5208

コン

坤(3－4969)に同じ。〔字彙〕堃、同レ坤。

【堄】5209

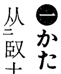
一ゲイ　〔集韻〕研計切　霽

二ゲイ　〔集韻〕吾禮切　薺

一二 ❶ひめがき。壀堄。埤堄。〔集韻〕堄、壀堄、埤堄、城上垣。❷或は睨(8－23464)・倪(1－792)に作る。〔正字通〕堄、埤堄、城上牆、亦作二睥睨一、或曰、與二俾倪一同。

【堅】5210

ケン　〔集韻〕經天切　先　ㄐㄧㄢ chien^1


小篆

❶かたい土。〔說文〕堅、土剛也、从二臤土一。〔說文通訓定聲〕堅、剛土也。〔廣雅、釋地〕堅、土也。❷かたい。しつかりした。〔爾雅、釋詁〕堅、固也。〔一切經音義、三〕堅、堅牢也。〔漢書、趙充國傳〕交堅黨合。〔素問、腹中論〕其氣急疾堅勁。〔注〕堅、定也、固也。❸つよい。〔廣雅、釋詁一〕堅、強也。〔呂覽、審分〕堅窮廉直。〔注〕堅、剛也。❹よい。〔呂覽、辯土〕均者其生也必堅。〔注〕堅、好也。❺ながい。〔廣雅、釋詁四〕堅、長也。❻まさる。〔管子、任法〕如二天地之堅一。〔注〕堅、謂二尊勝一。❼かたく。〔歐陽脩、論二范富一狀〕堅不レ許レ辭。❽かたまる。〔魏書、西域傳〕流レ地數十里乃凝堅。❾かためる。〔詩、豳風、七月、九月築二場圃一、箋〕築堅以爲レ場。〔史記、淮陰侯傳〕高レ壘堅レ營。❿よろひ。堅甲(18)の略。〔漢書、高祖紀下〕被レ堅執レ銳。⓫堅陣(97)の略。〔史記、魏其武安侯傳〕戰常陷レ堅。⓬堅車(64)の略。〔後漢書、皇后上、和熹鄧皇后紀〕乘レ堅驅レ良。⓭謚。〔逸周書、謚法解〕彰レ義掩レ過曰レ堅。⓮姓。〔通志、氏族略〕堅氏、見二姓苑一。〔史記、酷吏、楊僕傳〕燕趙之間有二堅盧范生之屬一。

名乘　カタ。スヱ。ミ。

解字　會意。土と臤（かたい義）との合字。本義は土のかたい意。故に土と臤とを合せて其の義を表はし、引伸して凡てかたい義に用ひる。一說に、形聲の字で、本義はかたい土の義。土は義を表はし、臤は聲を表はすといふ。字解を見よ。〔說文通訓定聲〕堅、剛也、从レ臤从レ土、按、从レ土臤聲、剛土也。

參考　豎(8－25790)は別字。

【堅圍】1 ケンヰ　かたいかこみ。〔袁淑、防禦索虜議〕振レ辯則堅圍可レ解、馳レ羽而巖邑易レ傾。

【堅又】2 ケンイウ　清、史白(2－3249‥138)の字。

【堅銳】3 ケンエイ　かたくするどい。堅利(138)に同じ。

【堅營】4 ケンエイ　陣營をかたくする。〔史記、淮陰侯傳〕足下深レ溝高レ壘堅レ營勿二與戰一。〔後漢書、南匈奴傳〕強弩乘レ城、堅レ營固守。

【堅鹽】5 カタシホ キタシ　固くかたまつた鹽。堅鹽を取りつづしろひ。〔萬葉集、五〕堅鹽を取りつづしろひ。〔倭名類聚抄、十六〕堅鹽、岐多之。

【堅遠】6 ケンエン　明、陳鋼(11－41698‥87)の字。

【堅解】7（ケンカイ） 物惜しみをし怠る。又、いやしく弱い。堅は慳、解は懈。〔管子、宙合〕堅解而不レ動、陼隄而不レ行。〔纂詁〕堅、讀爲レ慳、解、古懈字。

【堅巧】8（ケンカウ） 物の製作の、堅固でたくみなこと。〔甘澤謠〕陶峴自製二三舟一、備極二堅巧一。

【堅香】9（ケンカウ） 堅くかうばしいこと。堅芳。〔論衡、本性〕稟二蘭石之性一、故有二堅香之驗一。

【堅硬】10（ケンカウ） ぢやうぶ。かたい。〔周禮、考工記、弓人、菑栗不レ迆、疏〕以下其栗、是栗栗堅硬之意、於二破義一爲上疏、故從レ裂也。

【堅磽】11（ケンカウ） 堅い。ぢやうぶ。〔鹽鐵論、水旱〕今總二其原一、一二其賈一、器多二堅磽一、善惡無レ所レ擇。

【堅剛】12（ケンガウ） かたくつよい。〔易、姤、初六繫二于金柅一、注〕金者、堅剛之物。〔荀子、法行〕堅剛而不レ屈、義也。〔孔叢子、抗志〕齒堅剛、卒盡相磨、舌柔順、終以不レ弊。

【堅革】13（ケンカク） かたい革で造つた鎧。堅甲。〔史記、禮書〕堅革利兵、不レ足二以爲レ勝。

【堅确】14（ケンカク） かたい。石が多くてかたい。〔遼史、聖宗紀三〕地雖レ平、至爲二堅确一。〔韓非子、外儲說左上〕言而拂難堅确、非レ功也。

【堅確】16（ケンカク） かたくたしか。〔李東陽、石鼓歌〕其臣拜誦俱堅確。

【堅額】17（ケンガク） 厚顏。鐵面皮。〔鹽鐵論、散不足〕堅額健舌、或以成レ業致レ富。

【堅甲】18（ケンカフ） かたいよろひ。堅革。堅甲利兵を見よ。

〖堅甲利刃〗19（ケンカフリジン） 堅甲利兵に同じ。〔漢書、鼂錯傳〕堅甲利刃、長短相雜。

〖堅甲利兵〗20（ケンカフリヘイ） 堅固な鎧と銳利な兵器。轉じて、強い兵力。精兵。堅甲利刃。〔孟子、梁惠王上〕可レ使三制レ梃以撻二秦楚之堅甲利兵一矣。〔荀子、議兵〕堅甲利兵、不レ足二以爲レ勝。〔墨子、非攻下〕爲二堅甲利兵一以往。〔淮南子、兵略訓〕堅甲利兵、不レ足二以爲レ勝。〔說苑、指武〕堅甲利兵、威猛之將。

【堅悍】21（ケンカン） 丈夫で勇ましい。〔韓愈、唐故中散大夫少府監胡良公墓神道碑〕年幾八十、堅悍不レ衰。

【堅艦】22（ケンカン） 堅固な軍艦。〔國史略、後宇多天皇〕蒙古三將、各擇二堅艦一、乘レ之遁去。

【堅氣】23（カタギ） 心の堅固なこと。浮氣(**6**－**17487**‥49)の❷の對。〔槍權三重帷子、上〕生得堅氣。

【堅懻】24（ケンキ） かたくつよい。〔釋名、釋形體〕肌、懻也、膚幕堅懻也。

【堅強】25（ケンキヤウ） かたくつよい。堅彊。〔老子、七十六〕其死也堅強。〔戰國、秦策〕夫人生、手足堅強、耳目聰明聖智、豈非二士之所一レ願與。〔論衡、氣壽〕婦人疏字者子活、數乳者子死、何則、疏而氣渥、子堅強、數而氣薄、子軟弱也。

〖堅強之辯〗26（ケンキヤウノベン） こじつけの辯解。〔王安石、上二田正言一書〕雖二堅強之辯一、不レ能下爲二執事一解上也。

〖堅強者死之徒〗27（ケンキヤウハシノトナリ） つよい者は死んでゆく仲閒である。〔老子、七十六〕堅強者死之徒、柔弱者生之徒。

【堅彊】28（ケンキヤウ） かたく強い。堅強。〔左氏、成、九〕堅彊以御レ之。〔荀子、不苟〕寡立而不レ勝、堅彊而不レ暴。〔史記、蔡澤傳〕夫人生、百體堅彊。〔論衡、論死〕滿盈堅彊。

【堅窮】29（ケンキユウ） つよくて決斷力があること。剛果。〔呂覽、審分〕堅窮廉直忠敦之士、畢競勸騁騖矣。

【堅據】30（ケンキヨ） かたくたてこもる。〔後漢書、吳漢傳〕堅二據廣都一、待二其來攻一。

【堅魚】31（カツヲ） 魚の名。かつを。鰹。〔和漢三才圖會、江海無二鱗魚一、堅魚〕俗以二堅魚二字一爲レ鰹、蓋鰹乃鮦大者、非レ是也、此魚脯、極堅硬可二削用一、故俗呼曰二堅魚一、和名、加豆乎。

【堅凝】32（ケンギヨウ） かたくこりかたまる。堅固。〔荀子、議兵〕兼幷易レ能也、惟堅凝之難。

【堅緊】33（ケンキン） かたい。〔書斷〕唐歐陽通、詢之子、善レ書、紙必須二堅緊薄白滑者一、乃書レ之。

【堅苦】34（ケンク） 志を一にして刻苦する。〔宋史、邵雍傳〕始爲レ學、卽堅苦刻厲。

【堅果】35（ケンクワ） 果皮が堅く、下部に殼斗を有する果實。

【堅臥】36（ケングワ） じつとして寢てゐること。〔漢書、周勃傳〕夜、軍中驚、內相攻擊擾亂、至二於帳下一、亞夫堅臥不レ起、頃之復定。

〖堅臥齋〗37（ケングワサイ） 明、陳勳(**11**－**41698**‥197)の號。

【堅滑】38（ケンクワツ） かたくてなめらか。〔韻府引、夢溪筆談〕方家以二磁石一磨二針鋒一則指レ南、然常微偏レ東、不二全南一也、云云、但堅滑易レ墜、不レ若三縷懸爲二最善一。〔雲笈七籤〕五藏堅滑、四支調補。〔宋史、楊延昭傳〕上旦悉爲レ冰、堅滑不レ可レ上。

【堅完】39（ケンクワン） かたく全い。〔鄭元祐、遊二惠山寺一詩〕地無二車馬塵一、松筠政堅完。

【堅頑】40（ケングワン） 頑固で通じない。〔白居易、微之重誇二州居一云云詩〕抵滯堅頑兩有レ餘。〔蘇軾、次二京師韻一送二表弟程懿叔一云云詩〕子亦拙二進取一、才高命堅頑。

【堅勁】41（ケンケイ） 固くつよい。〔素問、腹中論〕其氣急疾堅勁。〔注〕堅、定也、固也、勁、剛也。

【堅決】42（ケンケツ） かたく定める。〔史記、留侯世家〕大臣多諫爭、未レ能レ得二堅決一者也。

【堅結】43（ケンケツ） かたくむすぼれる。〔和漢三才圖會、蟲部卵生類、地膽〕能平二治堅結難病一。

【堅瓠】44（ケンコ） ❶かたくて、中に空所のないひさご。無用のものに喩へる。〔韓非子、外儲說左上〕齊有二居士田仲者一、宋人屈穀見レ之曰、穀聞、先生之義、不レ恃レ仰レ人而食、今穀有二樹レ瓠之道一、堅如レ石、厚而無レ竅、獻レ之、仲曰、夫瓠所レ貴者、爲三其可二以盛一也、今厚而無レ竅、則不レ可二剖以盛レ物而任レ重、堅如レ石、則不レ可二以剖而以斟一、吾無二以レ瓠爲一也、曰、然、穀將以欲レ棄レ之、今田仲不レ恃レ仰レ人而食、亦無レ益二人之國一、亦堅瓠之類也。❷清、田錫田(**7**－**21723**‥394)の號。

〖堅瓠集〗45（ケンコシフ） 書名。六十六卷。清、褚稼軒撰。古今人物の事蹟、里巷詼諧の言を記す。

〖堅瓠老人〗46（ケンコラウジン） 清、錢偲(**11**－**40563**‥11)の號。

【堅固】47（ケンゴ） かたい。ぢやうぶ。堅牢。〔韓非子、解老〕臨レ兵而慈二於士吏一、則戰勝レ敵、慈二於器械一、則城堅固。〔管子、心術下〕四支堅固。〔漢書、劉向傳〕信任既賢、在二於堅固而不一レ移。

〖堅固林〗48（ケンゴリン） 佛 娑羅樹をいふ。冬夏共に凋まない堅い樹。堅林。〔晉譯泥洹經、一〕堅固林中雙樹閒。〔翻譯名義集、三〕娑羅、此云二堅固一、北遠云、冬夏不レ改、故名二堅固一。

【堅厚】49（ケンコウ） ❶かたく厚い。〔呂覽、審時〕得レ時之麻、必芒以長、疏節而色陽、小本而莖堅厚。❷手厚い。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕何方單薄、何方堅厚。

【堅昆】50（ケンコン） ❶古の國の名。漢代、匈奴の西北、丁令の西に居る。又、居勿・結骨・紇骨・黠戛斯に作る。元以後、吉利吉思といふ。其の種族は今、西伯利亞の西部、吉利吉思草原（キルギスステツプ）に住み、新疆・外蒙古の哈薩克人も其の族である。黠戛斯(**12**－**48097**‥15)を見よ。〔漢書、匈奴傳下〕卽使下使至二堅昆一通中語郅吏上。〔舊唐書、迴紇傳〕太宗爲置二六府七州一、云云、又以二迴紇西北結骨一爲二堅昆府一、云云、(乾元元年)九月甲申、迴紇使下大首領蓋將等謝二公主下降一、兼奏上破二堅昆五萬人一。❷複姓。〔路史〕本姓李、出二於老子一、黠戛斯有二堅昆氏一、居二賀蘭山下一、自云、李陵之後。

【堅坐】51（ケンザ） かたくすわる。しつかりとすわる。〔國朝漢學師承記、閻若璩〕漏四下、寒甚、堅坐沈思、心忽開朗。

【堅砦】52（ケンサイ） 堅固なとりで。堅塞。

【堅齋】53（ケンサイ） 清、宋駿業(**3**－**7078**‥316)の號。

【堅材】54（ケンザイ） 堅固な材木。〔墨子、備穴〕必以二堅材一爲レ夫、以二利斧一施レ之。

【堅壯】55（ケンサウ） 固くて大きい。〔遼史、耶律鐸軫傳〕成二樓船百三十艘一、上置レ兵、下立レ馬、規制堅壯。

【堅蠶】56（ケンサン） 蟲の名。蚯蚓(**10**－**32916**‥1)の異名。〔本草、蚯蚓〕釋名、螼螾、朐䏰・堅蠶・蛩蟺。

【堅之】57（ケンシ） 清、林璋(**6**－**14551**‥6)の字。

【堅趾】58（ケンシ） しつかりした土臺。

【堅柔】59（ケンジウ） 堅いことと柔かいこと。〔墨子、經說上〕鳥折用レ桐堅柔也。〔司馬法、定爵〕大小堅柔。

【堅執】60（ケンシツ） chien^1 chih^2 片意地。

【堅質】61（ケンシツ） 堅いたち。

【堅實】62（ケンジツ） ❶かたい果實。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、上、蒹葭蒼蒼〕蒹、水草也、堅實、牛食レ之、令二牛肥強一。❷たしかで閒違ひがないこと。しつかりしてゐること。堅固確實。

〖堅實地面〗63（ケンジツチメン） かたくしまつた土地。〔六部成語、工部、堅實地面、注解〕地皮堅厚、土性結實之處也。

【堅車】64（ケンシヤ） しつかりした立派な車。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕今末世貴戚食祿之家、溫衣美飯、

乘レ堅驅レ良、注〕堅、謂二好車一、良、謂二善馬一也。墨子曰、聖王爲二衣服之法一、堅車良馬不レ知レ貴也。

【堅城】65（ケンジャウ） 堅固な城。堅壘。〔韓非子、五蠹〕萬乘之國、莫丁敢自頓二於堅城之下一、而使丙強敵裁乙其弊甲也、此必不レ亡之術也。〔文天祥、過二平原一作詩〕一朝漁陽動二鼙鼓一、大江以北無二堅城一。

【堅守】66（ケンシユ） かたくまもる。〔戰國、齊策〕齊無二南面之心一、以爲、亡二南陽一之害、不レ若下得二濟北一之利上、故定レ計而堅二守之一。〔墨子、號令〕官吏豪傑與計二堅守一者。〔史記、韓王信傳〕僕不レ能二堅守一、以レ城降レ之。

【堅峻】67（ケンシユン） 堅固で高い。〔福惠全書、刑名部、監禁〕宜下四週圍墻、務須二堅峻一、壘以中棘針上。

【堅楯】68（ケンジユン） ぢやうぶなたて。

【堅勝】69（ケンショウ） すぐれてすこやか。壯健。健勝。

【堅心】70（ケンシン） かたい心。〔孟郊、擇レ友詩〕若是倣二眞人一、堅心如二鐵石一。

【堅鐔】71（ケンシン） 後漢、襄城の人。字は子伋。官は光武の時、偏將軍。封は合肥侯。像を雲臺に畫かれた。〔前漢書、五十二〕。

【堅刃】72（ケンジン） ❶かたくてよく事に堪へる。かたくてねばりづよい。堅忍。堅牣。堅韌。〔周禮、考工記、輈人〕是故輈欲二頎典一、注〕頎典、堅刃貌。〔後漢書、郡國志、四、不期侯國、注〕三齊記曰、鄭玄教二授不期山一、山下生レ草、大如レ薤、葉長一尺餘、堅刃異常、土人名曰二康成書帶一。❷よくきたへて刃のこぼれない刃物。又、挫けない強い軍隊。〔史記、絳侯周勃世家贊〕亞夫之用レ兵、持二威重一、執二堅刃一、穰苴曷有レ加焉、足レ己而不レ學、守レ節不レ遜、終以窮困、悲夫。

【堅牣】73（ケンジン） つよくてしなやかなこと。堅刃・堅韌に同じ。〔呂覽、別類〕相レ劍者曰、白所二以爲レ堅也、黃所二以爲レ牣也、黃白雜則堅且牣、良劍也。

【堅韌】74（ケンジン） 堅牣に同じ。〔和漢三才圖會、濕草類、麥門冬〕其葉似レ韭而多二縱文一、且堅韌爲レ異。

【堅水】76（ケンスイ） アルカリ鹽を混じた水。

【堅正】77（ケンセイ） 堅く正しい。〔史記、傅靳蒯成傳贊〕蒯成侯周緤、操レ心堅正、身不レ見レ疑。

【堅晟】78（ケンセイ） 明、秦州の人。字は伯明。正德中、博平縣の長官となり、賊を拒いで功があり、薊州の長官に陞る。〔國朝獻徵錄、九十六〕。

【堅請】79（ケンセイ） 無理に願ふ。〔宋史、趙普傳〕有二郡臣一、當レ遷レ官、太祖素惡二其人一、不レ與レ普、堅以爲レ請。

【堅脆】80（ケンゼイ） かたいこととももろいこと。〔韓非子、解老〕凡理者、方圓長短、麤靡堅脆之分也、故理定而後可レ得レ道也。〔呂覽、觀表〕材之堅脆。

【堅石】81（ケンセキ） ❶質のかたい石。〔公孫龍子、堅白論〕堅必堅、其不堅石物而堅。❷晉、歐陽建（6―16185‥63）の字。〔王隱晉書〕石崇外甥歐陽建、字堅石。〔晉諺語〕渤海赫赫、歐陽堅石。

【堅戰】83（ケンセン） 手づよく戰ふ。〔戰國、魏策〕楚雖レ有二富大之名一、其實空虛、其卒雖二衆多一、然而輕走易レ北、不二敢堅戰一。〔史記、張儀傳〕不レ能二堅戰一。

【堅善】84（ケンゼン） 堅固で立派なこと。〔日本政記、仁明天皇〕四年、常嗣見二篁船堅善一、奏換レ之。

【堅塞】85（ケンソク） ❶かたくふさぐ。〔戰國、趙策〕君堅二塞兩耳一、無レ聽二其談一也。❷（ケンサイ） 堅固なとりで。堅寨。

〖堅塞固壘〗86（ケンサイコルイ） 要害堅固なとりで。

【堅唾】87（カタヅ） 事の成りゆきを危ぶみなどして力を入れ心をこめたとき、口中にたまる唾。〔源平盛衰記、四十二、玉蟲立レ扇事〕肝なますを作り、かたづを呑める者も有り。

【堅耐】88（ケンタイ） かたくこらへる。じつと耐へる。

【堅對】89（ケンタイ） 強硬に天子にお對へする。〔史記、魏其武安侯傳〕後不二敢堅對一、餘皆莫二敢對一。

【堅地】90（ケンチ） 堅い土地。土質の堅いところ。〔漢書、溝洫志〕今據二堅地一、作二石隄一、勢必完安。

【堅致】91（ケンチ） 堅緻に同じ。〔詩、小雅、斯干、鳥鼠攸レ去、箋〕其堅致則鳥鼠之所レ去也。〔周禮、考工記、旅人、髻墾薜暴不レ入レ市、注〕暴、墳起不二堅致一也。〔淮南子、時則訓〕堅致爲レ上。

【堅緻】92（ケンチ） かたくてこまかい。堅致。堅密。〔釋名、釋樂器〕磬、罄也、其聲罄罄然堅緻也。〔宋史、沈作賓傳〕治鑄堅緻。

【堅持】93（ケンヂ） かたく保持して離さない。又、かたく執つて讓らない。

【堅築】94（ケンチク） かたくきづく。〔齊民要術、栽樹〕凡栽二一切樹木一、云云、著レ土令レ如二薄泥一、東西南北搖レ之良久、然後下レ土堅築。

【堅重】95（ケンチョウ） かたく重なる。ぎつしりと重なる。〔揚雄、羽獵賦〕曲隊堅重、各案二行伍一。

【堅直】96（ケンチョク） かたくただしい。〔史記、循吏、石奢傳〕石奢者、楚昭王相也、堅直廉正、無レ所二阿避一。

【堅陣】97（ケンヂン） かたい陣立。堅陳。〔太平記、四、呉越軍事〕士卒の心を一にして、呉王の堅陣に懸け入り。

【堅陳】98（ケンヂン） 堅陣に同じ。〔六韜、虎韜、軍用〕陷二堅陳一、敗二強敵一。〔呉子、應變〕攻無二堅陳一矣。

〖堅陳之士〗99（ケンヂンノシ） 堅く城を守る兵。〔呉子、料敵〕此堅陳之士、可二與持久一。

【堅定】100（ケンテイ） 堅く定まつて動かない。しつかりしてぐらつかない。〔論語、季氏、不レ學レ禮、無二以立一、集注〕品節詳明、而德性堅定、故能立。〔劉琨、書〕膽識堅定、臨レ難無二苟免之意一。

【堅貞】101（ケンテイ） ❶かたくて正しい。堅固貞潔。〔後漢書、王龔傳〕以二堅貞之操一、違レ俗失レ衆。〔白居易、青石詩〕刻二此兩片堅貞質一、狀二彼二人忠烈姿一。〔白行簡、石韞玉賦〕玉乃堅貞。❷金、和速嘉安禮（2―3490‥441）の諡。

【堅敵】102（ケンテキ） つよい敵。強敵。〔晉書、段灼傳〕龍驤麟振、前無二堅敵一。〔元好問、題レ畫詩〕風雪斫二堅敵一、旂旌紛仆偃。

【堅土】103（ケンド） かたい土。〔騈雅、釋地〕騂剛、堅土也。

【堅度】104（ケンド） かたさの程度。

【堅凍】105（ケントウ） 氷がかたく張りつめること。又、堅い氷。〔庭訓往來、正月〕堅凍早脫、薄霞忽披。

【堅匿】106（ケントク） うまくかくれる。〔福惠全書、刑名部、問擬、照提〕必堅匿不レ出。

【堅忍】107（ケンニン） かたくしのぶ。がまんづよい。又、かたくつよい。堅刃。〔國語、晉語一〕示レ之以二堅忍之權一。〔漢書、周昌傳〕御史大夫昌、其人堅忍伉直。〔淮南子、脩務訓〕唐碧堅忍之類、猶可三刻鏤揉以成二器用一。

〖堅忍果決〗108（ケンニンクワケツ） がまんづよく思ひきりがよいこと。〔吉田松陰、士規七則〕堅忍果決、確乎不レ可レ拔者。

〖堅忍質直〗109（ケンニンシツチョク） 我慢づよくまつすぐなこと。〔史記、張丞相傳〕御史大夫周昌、其人堅忍質直。

〖堅忍不拔〗110（ケンニンフバツ） 堅くこらへて動かない。〔岡本韋庵、堅忍不拔〕自レ古能成二絕大事業一者、由二其志氣堅忍不拔一致レ之。

【堅芳】111（ケンパウ） 堅くかんばしい。堅香。〔顏延之、祭二屈原一文〕物忌二堅芳一、人諱二明潔一。

〖堅芳館〗112（ケンパウクワン） 清、郭尚先（11―39474‥317）の室名。

【堅白】113（ケンパク） ❶主義節操が堅固で變らない。〔論語、陽貨〕不レ曰レ堅乎、磨而不レ磷、不レ曰レ白乎、涅而不レ緇。〔魏志、王基傳評〕學行堅白。❷堅白同異之辯（119）を見よ。〔莊子、齊物論〕以二堅白之昧一終。〔莊子、秋水〕合二同異一離二堅白一。〔呂覽、君守〕堅白之察、無厚之辯。〔墨子、經上〕堅白不二相外一也。❸字號。㋑宋、崔遵度（4―8178‥276）の字。㋺明、龐瑜（12―48824‥40）の字。

〖堅白論〗114（ケンパクロン） ❶詭辯。堅白同異之辯（119）を見よ。❷公孫龍子の篇名。

〖堅白石齋〗115（ケンパクセキサイ） 清、李鑾宣（6―14459‥1984）の號。

〖堅白道人〗116（ケンパクダウジン） 宋、何時（1―511‥89）の號。

〖堅白同異〗117（ケンパクドウイ） 堅白同異之辯（119）を見よ。〔荀子、脩身〕夫堅白同異、有厚無厚之察、非レ不レ察也。〔莊子、駢拇〕纍二瓦結三繩竄四句遊五心於堅白同異之閒一。

〖堅白老人〗118（ケンパクラウジン） 元、周伯琦（2―3441‥822）の號。

〖堅白同異之辯〗119（ケンパクドウイノベン） 戰國、趙の公孫龍が唱へた詭辯。目で石を視るときは、色の白いことは分るが堅いことは分らない。手で石に觸れるときは、其の堅いことは分るが白いことは分らない。從つて堅白石は、同時に成り立たない概念であるといふ論法を用ひて、是を非に言ひなし、同じことを異なつて居ると說く辯舌。同異とは、同者を異にし、異者を同じからしめること、卽ち鷺を烏とし、烏を鷺とする類。強辯。詭辯。〔史記、孟子荀卿傳〕趙亦有二公孫龍一、爲二堅白同異之辯一。〔公孫龍子、堅白論〕堅白石三、可

乎、曰、不可、曰レ二可乎、曰、可、曰、何哉、曰、無レ堅得レ白、其擧也二、無レ白得レ堅、其擧也二、曰、得二其所レ白、不レ可レ謂レ無レ白、得二其所レ堅、不レ可レ謂レ無レ堅、而之石也之於レ然也、非レ三也、曰、視不レ得二其所レ堅、而得二其所レ白者、無レ堅也、拊不レ得二其所レ白、而得二其所レ堅、得二其所レ堅者、無レ白也。

【堅伯】120　字號。㊀後漢、周磐(**2**－**3441**‥425)の字。㊁宋、曾松(**5**－**14299**‥86)の字。

【堅薄】121　かたくてうすい。〔朝野僉載〕歐陽通、常自矜二能書一、必以二麝香紙一、必須二堅薄白滑者一、乃書レ之。

【堅縛】122　かたくしばる。〔墨子、備高臨〕以レ縄堅二縛矢端一、如二弋射一。

【堅冰】123　かたいこほり。〔列子、湯問〕堅冰立散。〔漢書、揚雄傳上〕淩二堅冰一犯二嚴淵一。

〔堅冰至〕124　物事は些細なことが積り重つて大事に至ることをいふ。履レ霜堅冰至(**12**－**42363**‥135)を見よ。〔易、坤〕初六、履レ霜堅冰至、象曰、履レ霜堅冰、陰始凝也、馴二致其道一、至二堅冰一也。

【堅附】125　堅く附く。衷心から服從する。〔唐書、韋雲起傳〕京師初平、人未二堅附一、百姓流離。

【堅壁】126　堅固な城壁。又、城壁を堅固にする。守りをかたくする。〔史記、絳侯周勃世家〕堅レ壁不レ出、而使三輕騎兵弓高侯等、絶二吳楚兵後食道一。

〔堅壁淸野〕127　城壁をかたくし、野に在る物を一物餘さずかたづける。獲る物をなくして敵を苦しめる戰法。〔晉書、石勒載記上〕勒所レ過路次、皆堅レ壁淸レ野、採掠無レ所レ獲、軍中大飢、士衆相食。

【堅甓】128　煉瓦。〔歐陽脩、吉州學記〕堅甓之用、凡二十二萬三千五百。

【堅冪】129　かたくおほふ。〔墨子、備城門〕爲二水甬一深四尺、堅冪埋レ之十尺。

【堅牡】130　男子の、壯年で元氣盛なさま。男子の堅強壯盛をいふ。〔春秋繁露、循天之道〕男子不二堅牡一、不二家室一。

【堅木】131　かたい木。かたぎ。〔北魏書、甄琛傳〕攻二堅木一者、必爲レ之擇二良器一。

【堅密】132　かたくて緻密である。堅緻。〔管子、參患〕甲不二堅密一、與二俴者一同レ實。〔漢書、鼂錯傳〕甲不二堅密一、與二袒裼一同。

【堅明】133　あくまで明かにする。〔史記、廉頗傳〕未下嘗有中堅二明約束一者上也。

【堅約】134　かたい約束。〔漢書、蕭望之傳〕烏孫持二兩端一、亡二堅約一。

【堅老】135　宋、蔡柟(**9**－**31818**‥87)の字。

【堅牢】136　堅固。丈夫。〔蘇軾、謝二人見レ和二前篇一詩〕也知レ不レ作二堅牢玉一、無レ奈能開二頃刻花一。

【堅利】137　かたくするどい。堅銳。〔孟子、公孫丑下〕兵革非レ不二堅利一也、米粟非レ不レ多也。〔李衞公問對、下〕管仲所謂、器必堅利者、是也。

〔堅利侯〕138　劍(**2**－**2228**)の異名。〔淸異錄、武器、堅利侯〕安祿山得二飛剛寶劍一、欲二奏上一、乞三封レ劍爲二堅利侯一。

【堅良】139　堅車と良馬。乘レ堅驅レ良(151)を見よ。〔列女傳、賢明傳〕乘二人堅良一。

【堅林】140　佛娑羅樹をいふ。堅固林(48)に同じ。〔王巾、頭陀寺碑文〕棲二遑大千一、無爲之寂不レ撓、焚二燎堅林一、不盡之靈無レ歇。

【堅壘】141　㊀かたいとりで。堅城。〔魏志、武帝操傳〕渡レ渭爲二堅壘一。〔杜牧、戰論〕名城堅壘。㊁とりでを堅くして守る。〔魏志、樂進傳〕討レ暴堅レ壘、有二不レ可レ動之節一。

【堅厲】142　銳利にする。〔越絶書、越絶内經九術〕堅二厲甲兵一、以承二其獘一。

【攻レ堅】143　堅固な敵陣をせめる。〔晉書、陳敏傳〕攻レ堅蹈レ險、三十餘戰。

【排レ堅】144　堅固な敵陣を押し開いて進む。〔宋書、宋越傳〕排レ堅陷レ陣、氣力兼レ人。

【冒レ堅】145　堅固な敵をおそれないで進む。〔舊唐書、李光顏傳〕光顏將二數騎一、冒レ堅而衝レ之。

【堅緒木】146　神社・宮殿などの棟木に、横に並列してある木。鰹木。加棟木。〔砂石集、一、上〕内宮、云云、かつを木も九つあり。

【堅則毀】147　堅固なものは却つてやぶれる。〔莊子、天下〕堅則毀矣、銳則挫矣。

【堅磨生】148　淸、胡中藻(**9**－**29400**‥555)の號。

【堅素先生】149　宋、戚同文(**5**－**11594**‥63)の私謚。

【摧レ堅陷レ陣】150　敵の堅陣をくじきおとしいれる。摧鋒陷陣。〔南史、桓康傳〕摧レ堅陷レ陣、膂力絶レ人。

【乘レ堅驅レ良】151　乘レ堅策レ肥に同じ。〔史記、越王句踐世家〕乘レ堅驅レ良逐二狡兔一、豈知三財所二從來一。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕溫衣美飯、乘レ堅驅レ良。〔注〕堅、謂二好車一、良、謂二善馬一。

【乘レ堅策レ肥】152　堅固な車に乘り、肥えた良馬に鞭うつ。乘レ堅驅レ良。〔漢書、食貨志上〕乘レ堅策レ肥、履レ絲曳レ縞。〔注〕師古曰、堅、謂二好車一也。

【被レ堅執レ兵】153　甲冑をつけ兵刃を手にとる。〔漢書、蕭何傳〕臣等身被レ堅執レ兵、多者百餘戰、少者數十合。

【堆】5211

タイ　ツイ　〔集韻〕都回切　ㄉㄨㄟ　ㄗㄨㄟ　灰　tuei^1　tsuei^1

㊀**小さな岡**。又、砂丘。もと𠂤(**1**－**141**)に作る。〔說文〕𠂤、小𠂤也、象形。〔段注〕𠂤字、俗作レ堆。〔集韻〕堆、聚土也。〔漢書、司馬相如傳上〕激二堆埼一。〔注〕師古曰、堆、高阜也。〔司馬相如、上林賦〕激二堆埼一。〔注〕善曰、郭璞曰、堆、沙堆也。㊁**うづだかい**。〔蘇軾、武昌西山詩〕蒼崖半入二雲濤一堆。㊂**おく**。さしおく。〔戰國、秦策〕中旗堆レ琴。〔注〕猶二論語舍レ琴也。㊃或は雇(**4**－**9351**)・泊(**6**－**17390**)・垍(**3**－**5042**)・峊(**4**－**8189**)に作る。〔集韻〕堆、聚土也。或作二雇・泊・垍・峊一。㊄塠(**3**－**5354**)に同じ。〔爾雅、釋水〕潬沙出。〔注〕呼二水中沙堆一爲レ潬。〔釋文〕堆、字或作レ雇、又作レ塠。㊅碓(**8**－**24294**)に通ず。〔史記、河渠書〕鑿二離碓一。〔注〕集解曰、碓、古堆字。

名乘　ノブ。ヲカ。

參考　推(**5**－**12284**)は別字。

【堆鴉】1　髻の名。〔程俱、詩〕笑引二亞觴一成二一醉一、歌筵遙想髩堆鴉。〔琵琶記、祝髮買葬〕把二這堆鴉髻舞鸞髩一、與二烏鳥一報二答白髮的親一。

【堆盈】2　うづだかくみちる。〔白居易、策林五十六、論二刑法之弊一〕律令塵二蠹於棧閣一、制勅堆二盈於案几一。

【堆起】3　堆埼に同じ。

【堆埼】4　砂岸の曲つた處。堆起。〔司馬相如、上林賦〕觸二穹石一、激二堆埼一。〔注〕善曰、張揖曰、埼、曲岸頭也、郭璞曰、堆、沙堆也、銑曰、堆埼、岸曲也。

【堆金】5　うづ高く積んだ黃金。〔韓愈、華山女詩〕抽二釵脫釧一解二環佩一、堆金疊玉光靑熒。

〔堆金積玉〕6　うづ高く積んだ金玉。〔東谷所見〕堆金積玉、來處要レ明。

【堆花】7　㊀うづだかくつもつた花。又、うづ高くつもつた雪。〔白居易、西樓喜レ雪命レ宴詩〕散麵遮二槐市一、堆花壓二柳橋一。㊁tuei^1 hua^1 ㋑押繪。㋺裝飾品の凸起した模樣。

【堆豗】8　じつと坐つて動かぬさま。堆。〔歐陽脩、淸明前一日韓子華云云詩〕三日不レ出レ門、堆豗類二寒鴉一。〔張養浩、上二都祭院一詩〕柏臺人散坐堆豗、默記灤江四往廻。

【堆絹】9　tuei^1 chüan^4　絹布で造つた押繪。彩絹(いろぎぬ)で人物花鳥を作り衝立などに押繪としたもの。

【堆紅】10　堆朱(21)に同じ。〔格古要論、古漆器論、堆紅〕假二剔紅一用二灰團一起、外用二硃漆一漆レ之、故曰二堆紅一、云云、又曰二罩紅一、今雲南大理府多有レ之。

【堆黑】11　黑漆を厚く塗り上げ、その上に模樣をほつた細工。堆朱を見よ。

【堆沙】12　砂をうづ高くもる。又、うづ高くつもつた砂。〔孔平仲、至二城東一作詩〕茅岡風卷レ燒、土井雨堆レ沙。　「の㊀に同じ。

【堆卡】13　tuei^1 ch'ia^3　番小屋。屯所。堆子(15)。

【堆棧】14 tuei¹ chan⁴ 倉庫。

【堆子】15 tuei¹ tzŭ ❶清代、北京に於ける八旗兵の屯所。各街の辻に堆子を設け、數名の步甲を置いて治安に當てた。❷阜。岡。

【堆屍】16 タイシ うづ高く重なつた屍。又、死骸をつみかさねる。

【堆紙】17 タイシ うづだかくつみ重ねた紙。〔中村敬宇、牛頓溫和〕案上堆紙。

【堆愁】18 タイシウ かさなるうれへ。〔陳造、再次二韻自誑簡賓王一詩〕庾郎胸次在二堆愁一、馮衍才名迄二不投一。

【堆集】19 タイシフ うづだかく集まりかさなる。重なりあふ。〔日本外史、足利氏正記、足利氏下〕賊堆集、仆二障於其上一、攢レ槍殺レ之。

【堆牆】20 タイシヤウ 牆にうづ高くつもる。〔韓偓、春盡日詩〕柳腰入レ戶風斜倚、楡莢堆レ牆水半淹。

【堆朱】21 ツイシユ 朱漆を厚く塗りあげて、山水・花鳥などの模樣をほつた細工。多く盆・香盒・印籠などに施す。剔紅・堆紅・堆黑・堆黃・金絲・桂漿・犀皮・波志・加雕・屈輪・堆漆などの種類がある。〔下學集、下〕堆朱、ツイシユ。〔尺素往來〕堆朱・堆紅。

【堆勝】22 タイショウ 廬陵の市の外門に在る樓の名。〔周必大題跋〕今廬陵闤闠中有レ樓、甚偉、江山滿レ眼、徐師川以二堆勝一名レ之。

【堆砌】23 タイセイ 石などのつみ重なるさま。〔中華大字典〕砌、絫皃、如二磚石積甃曰二堆砌一、文字重疊而又複雜曰二塡砌一。

【堆石】24 タイセキ ❶積みかさなつた石。又、石を積み重ねる。〔後漢書、王霸傳〕堆レ石布レ土、築二起亭障一。❷氷河に運ばれた石。

【堆積】25 タイセキ うづ高くつもる。たまる。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕獄神祠嚴二諭刑書一、不レ許二在レ內堆積一。

【堆雪】26 タイセツ うづだかく積つた雪。〔鄭谷、峽中詩〕夜靜明月峽、春寒堆雪樓。

【堆垜】27 タイダ ❶九章算法の商功章の一項目。錐體に積み重ねた物を數へる法。その形に數種あり、底層の正方形のものを正方垜、正三角形のものを三角垜、長方形のものを長方垜といふ。〔算法統宗、商功章、堆垜歌〕缶瓶堆垜要二推詳一、底腳先將レ闊減レ長、餘數折來添二半箇一、併入二長內一闊乘良、再將レ闊搭レ一乘實、以レ三除レ之數相當、一面尖堆只添レ一、乘來折半積如レ常、三角果垜亦堪レ知、腳底先求二箇數齊一、一二添來乘二兩遍一、六而取レ一不二差池一、要レ知二四角盤中果一、添レ半仍添二一箇一隨、乘二此數一來以爲レ實、如二三而一一法求レ之。〔范祖禹、論二宦官一疏〕榷二舟船一置二堆垜一、網二市井之微利一、奪二細民之衣食一。❷ tuei¹ to⁴ 積みかさねる。山積。

〖堆垜屍〗28 タイダシ 故實を多く用ひて作つた文章。〔江氏類苑〕文章用レ事、塡二塞故實一、舊謂二之點鬼錄一、又謂二之堆垜屍一。

【堆堆】29 タイタイ ❶つみ重なつたさま。〔韓愈、路傍堠詩〕堆堆路傍堠、一雙復一雙。❷久しく坐して動かない形容。堆豗。〔王建、新嫁娘詞〕鄰家人不レ識、牀上坐堆堆。〔五燈會元〕飯餘長是坐堆堆。

【堆貯】30 タイチヨ つみおく。〔福惠全書、教養部、立義學〕一爲二客座一、一爲三堆二貯器用一。

【堆疊】31 タイデフ うづだかく重なる。累積。重疊。〔糖霜譜〕堆疊如二假山一者爲レ上。

【堆土】32 タイド うづだかく積んだ土。

【堆頓】33 タイトン つみおく。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕如有三堆二頓廒外一、印官到レ倉、卽要三查二問是何緣故一。

【堆房】34 tuei¹ fang² 物置小屋。納屋。

【堆肥】36 タイヒ 廢物を堆積して腐熟させた肥料。つみごえ。

【堆阜】37 タイフ 小高いをか。〔梁武帝、撰二孔子正言一竟述懷詩〕白水凝二澗溪一、黃落散二堆阜一。

【堆糞】38 タイフン 廏肥などを堆積して腐熟させた肥料。

【堆裏】39 タイリ うづだかく積つた中。〔黃庭堅、雨中登二岳陽樓一望二君山一詩〕可レ惜不下當二湖水面一、銀山堆裏看中青山上。〔大久保利通、下二通州一偶成詩〕奉レ敕單航向二北京一、黑煙堆裏蹴レ波行。

【堆累】40 タイルイ うづだかく重なる。

【堆絮園】41 タイジヨエン 淸、萬樹(**9－31339‥228**)の室名。

【堆寶塔】42 tuei¹ pao² t'a³ ❶乘算の九九。❷安徽省の風俗。中秋、小兒が瓦又は煉瓦などを七層に積み重ねて塔神を祀るもの。

【堆墨書】43 タイボクシヨ 宋の陳堯佐が創始した八分書の一體。〔澠水燕談錄、書畫〕陳文惠善二八分書一、變二古之法一、自成二一家一、雖二點畫肥重一、而筆力勁健、能爲二方丈字一、謂二之堆墨一、目爲二八分一。

【堆力器】44 tuei¹ li⁴ ch'i⁴ 蓄力器。

【堆下笑堆】45 tuei¹ hsia⁴ hsiao⁴ tuei¹ 破顏一笑する。

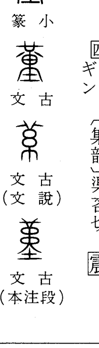
【堇】
5212

㊀キン ギン 〔集韻〕渠巾切 眞

㊁キン コン 〔集韻〕几隱切 ㄐㄧㄣˇ chin³ 吻

㊂キン コン 〔集韻〕居焮切 問

㊃キン ギン 〔集韻〕渠吝切 震



㊀❶**ねばつち**。もと墐(**3－5428**)・墓に作る。〔說文〕堇、黏土也、从二黃省一从レ土。〔段注〕內則、塗レ之以二謹塗一、鄭曰、謹、當レ爲レ墐、聲之誤也、云云、按二鄭注一墐當レ爲レ堇、轉寫者、誤加レ土耳、云云、蓋土性黏者。❷**まこと**。〔管子、五行〕以待二乎天堇一。〔注〕堇、誠也。❸**つつしむ**。謹(**10－35900**)に通ず。〔管子、五行〕以待二乎天一、堇反二五藏一。〔纂詁〕堇、讀爲レ謹。❹古は蓳・〓に作る。〔集韻〕堇、古作二蓳・〓一。㊁❶**草の名**。〔集韻〕堇、艸名、爾雅謂二之齧苦一、今堇蔡也。❷**ねばつち**。〔集韻〕堇、一曰、黃土。㊂**ぬる**。墐(**3－5427**)に同じ。〔正字通〕堇、塗也、別作レ墐。㊃**わづか**。すくない。僅(**1－1048**)に通ず。〔集韻〕堇、僅、一曰、劣也、亦省。〔史記、貨殖傳〕堇堇物之所レ有。〔注〕集解曰、應劭曰、堇、少也。〔漢書、地理志下〕堇堇物之所レ有。〔注〕師古曰、堇、讀曰レ僅。㊂❶堇陰は、地名。〔集韻〕堇、堇陰、地名、在レ晉。❷赤堇は、山名。今の浙江省紹興縣の東南。夏の堇子國、漢の鄞縣。〔越絕書、越絕外傳記寶劍〕赤堇之山、破而出レ錫、若耶之溪、涸而出レ銅。〔淸一統志〕夏時有二堇子國一、以二赤堇山一爲レ名。㊃**藥草の名**。烏頭。〔集韻〕堇、藥艸、烏頭也。

解字 會意。土と𦰩(黃の省形、黃は土の色。黃色の土は特にねばりけが多い)との合字。本義はねばつち。故に土と黃の省形とを合せて其の義を表はす。〔說文、堇、段注〕从レ黃者、黃土多レ黏也、會意。

參考 艸部八畫の菫(**9－31207**)は元來別字。

【堇堇】1 キンキン わづかなさま。少いさま。少少。些些。僅僅。〔史記、貨殖傳〕長沙出二連錫一、然堇堇物之所レ有、取レ之不レ足二以更レ費。〔注〕集解曰、應劭曰、堇、少也、言二金少少一耳。〔漢書、地理志下〕豫章出二黃金一、然堇堇物之所レ有取レ之不レ足二以更レ費。〔注〕應劭曰、堇堇、少也、更、償也。師古曰、此言二所レ出之金既以少一矣、云云、堇、讀曰レ僅。

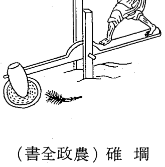
【堇泥】2 キンデイ 黏土。〔資治通鑑、唐紀〕(僖宗、光啓三年)以二堇泥一爲レ餠、食レ之。〔注〕堇泥、黏土也。

【堈】
5213

カウ 〔集韻〕居郎切 陽

❶**かめ**。〔廣韻〕堈、甕也。❷**をか**。〔集韻〕堈、隴也。

【堈碓】1 カウタイ 甕で作つたふみ臼。〔農政全書、農器圖譜、堈碓圖說〕堈碓、以レ堈作、碓、臼也、集韻云、堈、甕也、又作レ瓬、其制、先掘埋レ堈、坑深逾二二尺一、次下二木地一釘二三莖一、置二石於上一、後將二大磁堈一穴二透其底一、向二外



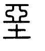
堈碓（農政全書）

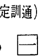
側一嵌二坑内一埋レ之、復取三碎磁與二灰泥一和レ之、以室二底空一、令二圓滑如レ一。

【埥】 5214 キク 〔集韻〕余六切 ㄩˋ yü^4 ［屋］

肥えた土。〔集韻〕埥、肥壤、謂二之埥一。

【堊】 5215 ［一］アク 〔集韻〕遏各切 ㄜˋ ê^4 ［藥］ ［二］ウヲ 〔集韻〕烏故切 ［遇］ 慣ア


小篆


小篆（聲定訓通）

［一］［二］㊀**白くぬり上げる。**漆喰をかける。〔說文〕堊、白涂也、从レ土亞聲。〔釋名、釋宮室〕堊、亞也、亞、次也、先泥レ之、次以二白灰一飾レ之也。〔廣雅、釋室〕堊、塗也。〔周禮、考工記、匠人、白盛、注〕以二蜃灰一堊レ牆。〔疏〕堊、卽白蜃。〔禮、喪大記〕既祥黝堊。〔疏〕堊、謂レ塗二堊室之牆一。㊁**しろつち。いしばひ。**しつくい。〔一切經音義、十一〕堊、白土也。〔莊子、徐無鬼〕郢人堊二慢其鼻端一、若二蠅翼一、使二匠石斲レ之。〔疏〕堊者、白善土也。〔山海經、西山經〕大次之山、其陽多レ堊。〔注〕堊、似レ土色甚白。㊂**つち。**〔山海經、北山經〕潶水、其中多二黄堊一。〔注〕堊、土也。㊃**わるい。**惡(**4**－**10824**)に通ず。〔儀禮、喪服傳〕既練舍二外寢一、〔注〕壘レ墼爲レ之、不二塗墍一、所謂堊室也。〔禮、雜記下〕廬二堊室之中一。〔釋文〕堊、字亦作レ惡、同。㊄或は埡(**3**－**5216**)に作る。〔集韻〕堊、或書作レ埡。

【堊墍】1 アクキ 白土で塗り飾る。〔後漢書、大秦傳〕以レ石爲二城郭一、列二置郵亭一、皆堊二墍之一。〔注〕堊、白土也。

【堊灰】2 アククワイ 石灰(**8**－**24024**・193)の異名。〔本草、石灰〕釋名、石堊、堊灰・希灰・鍛石・白虎・礦灰。

【堊帚】3 アクサウ 左官の牆壁を塗るはうき。刷帚。〔書斷〕蔡邕詣二鴻都門一、見下役人以二堊帚一成上字、心有レ悅焉、歸而爲二飛白之書一。

【堊室】4 アクシツ 喪に服する者のそまつな居室。〔禮、雜記下〕三年之喪、云云、廬二堊室之中一。〔白虎通、喪服〕堊室無二餘之室一。

【堊車】5 アクシャ 白く塗つた車。喪に服する者の乘る車。〔海錄碎事、政事、葬送〕將レト葬、主人乘二堊車一、詣二宅兆所一。

【堊牆】6 アクシャウ 白土で塗つた壁。しらかべ。〔周禮、地官、掌蜃、共二白盛之蜃一、疏〕此經所レ云白盛、主二於宗廟堊牆一也。

【堊墀】7 アクチ 白土で塗つた階上の庭。〔韓非子、十過〕四壁堊墀、茵席彫文、此彌侈矣。

【堊塗】8 アクト 白壁を塗る。又、塗る。〔北齊書、高祖紀上〕以レ石堊二塗之一、留而不レ毀。

【堊白】9 アクハク 白く塗る。〔管子、輕重丁〕堊二白其門一、而高二其閭一。

【堊筆】10 アクヒツ チョーク。白墨。

【堊壁】11 アクヘキ しらかべ。

【堊慢】12 ヲマン 白い土でよごす。白い土をぬる。慢はまた漫に作り、塗る意。堊漫。〔莊子、徐無鬼〕郢人堊二慢其鼻端一、若二蠅翼一、使二匠石斲レ之、匠石運レ斤成レ風、聽而斲レ之、盡レ堊而鼻不レ傷。〔釋文〕堊、烏路反、慢、本亦作レ漫、李云、猶レ塗。〔疏〕堊者、白善土也、漫、汙也。

【堊漫】13 ヲマン 白い土をぬる。堊慢を見よ。

【不レ堊】14 アクセズ 漆喰（シックイ）をかけぬ。壁などのうはぬりをしない。堊は白土、又、色土。〔皇朝史略〕宮室不レ堊、務從二節儉一。

【埡】 5216 ［一］ウヲ 〔集韻〕烏故切 ［遇］ ［二］ウヲ 〔集韻〕於五切 ［麌］

［一］㊀**さと。**むら。塢(**3**－**5357**)に同じ。〔玉篇〕塢、村塢也、埡、同レ上。〔類篇〕埡、野聚也。㊁**白く塗る。**堊(**3**－**5215**)に同じ。〔集韻〕堊、白飾也、或書作レ埡。［二］隝(**11**－**41786**)に同じ。〔集韻〕隝、說文、小障也、一曰、庳城也、或从レ土、从レ石、亦作レ埡。

【堋】 5217 ［一］ホウ 〔集韻〕逋鄧切 ［徑］ ［二］ホウ ボウ 〔集韻〕蒲登切 ［蒸］ ［三］ヒョウ 〔集韻〕披冰切 ［蒸］

小篆

［一］㊀**うづめる。**棺を下す。〔說文〕堋、喪葬下レ土也、从レ土朋聲、春秋傳曰、朝而堋、禮謂二之封一、周官謂二之窆一。㊁**せき。**ゐせき。〔玉篇〕堋、陂遏。〔事物異名錄、郡邑下、堰〕寰宇記、蜀人謂レ堰爲レ堋。㊂**とも。**朋(**5**－**14340**)に通ず。〔說文〕堋、虞書曰、堋二淫于家一、亦如レ是。〔段注〕此偁二皋陶謨一、說二叚借一也、謂二叚レ堋爲レ朋、其義本不レ同、而形亦如レ是作也。㊃或は塴(**3**－**5387**)・⿱穴朋(**8**－**25549**)・窆(**8**－**25459**)・封(**4**－**7426**)に作る。〔集韻〕堋、說文、喪葬下レ土也、或作二塴・⿱穴朋・窆・封一。［二］㊀**ふるひ動く。**〔集韻〕堋、振動也。㊁**あづち。**〔集韻〕堋、射埒也。〔庾信、射堂詩〕横レ弓先望レ堋。［三］**垣を削つて土のはがれ落ちる音。**〔集韻〕堋、削レ牆土隕聲。

【堋淫】1 ホウイン 大勢でみだらなことをする。羣淫。〔說文〕堋、虞書曰、堋二淫于家一。

【堋的】2 ホウテキ あづちに立つた的。〔南史、宜都王鏗傳〕（宜都王鏗）善レ射、常以二堋的大闊一、曰、終日射レ侯、何難之有、乃取二甘蔗一插レ地、百步射レ之、十發十中。

【堌】 5218 コ ク 〔正字通〕公悟切 ［遇］

㊀**つつみ。**黄堌は、地名。山東省單縣。〔正字通〕堌、黄堌、在二單縣一、萬曆丙申、黄堌河決、由二賈魯河故道一出二符離等處一。〔辭海〕堌、堤堰也。㊁**つか。**古冢。〔山東考古錄〕曹縣有二冉堌一、乃穰侯魏冉冢、今以爲二仲弓一云。

【⿱癶土】 5219 タツ タチ 〔正字通〕都脫切 ［曷］

人名。〔正字通〕⿱癶土、王⿱癶土、同二蜀守李冰一穿二二江一者。

【⿱邪土】 5220 ヤ 〔集韻〕以者切 ［馬］

どろ。⿰氵埜(**7**－**18144**)に同じ。〔集韻〕⿰氵埜、泥淖也、或从レ邪。

【⿱妮土】 5221 デイ

泥(**6**－**17311**)の俗字。〔五音集韻〕埿、俗泥字。

【⿰土⿱爫丂】 5222 アウ

墺(**3**－**5504**)の古字。〔說文〕⿰土⿱爫丂、古文墺。

【坸】 5223 ケイ 〔集韻〕涓畦切 ［齊］

裂く。〔集韻〕坸、眗坸、裂也。〔字彙補〕坸、裂也。

【⿰土⿱一⿱田一】 5224 ショク ジキ 〔五音篇海〕常職切 ［職］

かはらけ。〔五音篇海〕⿰土⿱一⿱田一、瓦器也。

【⿰土⿱土乙】 5225 ギツ ゴチ 〔龍龕手鑑〕魚乞切 ［物］

高土のさま。〔龍龕手鑑〕墝、高土貌。

【坻】5226 チ　坁(3-5001)に同じ。〔篇海類編〕坻、與㆑坁同。

【垪】5227 タク　坼(3-5006)に同じ。〔五音篇海〕垪、同㆑坼。

【⿱奔土】5228 フン　〔五音篇海〕音分　**はらふ。**〔五音篇海〕⿱奔土、掃⿱奔土也。

【埊】5229 チ　地(3-4890)の古字。〔龍龕手鑑〕埊、古地字。

【⿱十⿴囗外】5230 コ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱十⿴囗外、音胡。

【⿰土世】5231 ダウ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰土世、音惱。

【堍】5232 ト　〔中華大字典〕讀如㆑兔。　ㄊㄨˋ　tʻu⁴　**橋に近い地。**〔中華大字典〕堍、近㆑橋之地也。〔吳文英、詞〕乍淩㆑波、斷㆓橋西堍㆒。

【⿱卤土】5233 イン　垔(3-5041)の本字。〔正字通〕垔、篆作㆑⿱卤土。

【⿱⿰开刂土】5234 ケイ　型(3-5030)の本字。〔正字通〕型、本作㆑⿱⿰开刂土。

九畫

【堗】5235 トツ ドチ　〔集韻〕陀沒切　月。❶**けむりだし。**竈窗。〔廣雅、釋室〕𥦶、謂㆓之竈㆒、其窗謂㆓之堗㆒。〔集韻〕堗、竈窗謂㆓之堗㆒。❷突(8-25439)に同じ。〔正字通〕堗、同㆑突。

【埕】5236 デツ　呈(3-4904)に同じ。〔廣韻〕埕、同㆑呈。

【埁】5237 ショウ　塍(3-5323)に同じ。〔集韻〕塍、或作㆑埁。

【⿰土柴】5238 サイ　柴(6-14664)に同じ。〔集韻〕柴、或作㆑⿰土柴。

【堙】5239 イン　〔集韻〕伊眞切　眞　ㄧㄣ　yin¹

❶**土を積みあげる。**山をきづく。又、土山。〔左氏、襄、六〕堙㆑之環㆑城傅㆓於堞㆒。〔注〕堙、土山也、周㆑城爲㆓土山㆒及㆓女牆㆒。❷**はしご。**〔公羊、宣、十五〕宋華元亦乘㆑堙而出見㆑之。〔注〕堙、距堙、上㆑城具。❸**ふさぐ。**うづめる。〔國語、晉語六〕夷㆑竈堙㆑井。〔注〕堙、塞也。〔山海經、北山經〕常銜㆓西山之木石㆒、以堙㆓于東海㆒。〔注〕堙、塞也。❹**うもれる。しづむ。**〔國語、周語下〕堙㆓替隸圉㆒。〔注〕堙、沒也。〔後漢書、申屠蟠傳贊〕甘㆓是堙曖㆒。〔注〕堙、沈也。❺**ほろびる。ほろぼす。**〔潘岳、西征賦〕冀闕緬其堙盡。〔注〕良曰、堙、滅也。❻垔(3-5041)に通ず。〔一切經音義、十二〕堙、古文垔・堊二形、今作㆑烟、同。❼湮(7-17873)・陻(11-41723)に同じ。〔正字通〕堙、正、譌別作㆓陻・湮㆒、云云、雖㆓俗書㆒義通。

【堙曖】1 インアイ　しづみおほはれる。〔後漢書、周燮等傳贊〕韜㆓伏明姿㆒、甘㆓是堙曖㆒。〔注〕堙、沈也、曖、猶㆑翳也。

【堙鬱】2 インウツ　氣がむすぼれふさがる。〔史記、賈生傳〕獨堙鬱兮、其誰語。〔柳宗元、與㆓顧十郎㆒書〕此誠私心痛㆑之、堙鬱洶湧、不㆑知㆑所㆑發、常以自憾。

【堙穴】3 インケツ　地下道。〔韓非子、八說〕干城距衝、不㆑若㆓堙穴伏櫜㆒。

【堙塹】4 インザン　堀をうづめる。〔五代史、唐莊宗紀〕王自負㆑芻以堙㆑塹、遂破㆑之。

【堙茨】5 インシ　うづめふさぐ。〔墨子、備梯〕煙㆓資吾池㆒。〔閒詁〕王云、煙、當㆑爲㆑堙、堙、塞也、備穴篇、救㆓闉池㆒者、闉、與㆑堙同、蘇說同、王引之云、資、疑當㆑爲㆑墳、堙墳、皆塞也、堙・煙、墳・資、亦皆字之誤、兪云、王氏讀㆑煙爲㆑堙、是也、惟資字、尚未㆑得㆓其義㆒、資、當㆓讀爲㆑茨、淮南子泰族篇、茨㆓其所㆑決而高㆑之、高注曰、茨、積㆑土塡㆓滿之㆒也、是茨與㆑堙同義、古茨字或作㆑薋、爾雅釋草篇、茨、蒺藜、釋文、茨、本作㆑薋、是也、墨子書作㆑資者、卽薋字而省㆑艸耳。

【堙盡】6 インジン　ほろびつきる。〔潘岳、西征賦〕窺㆓秦墟於渭城㆒、冀闕緬其堙盡。〔注〕良曰、堙、滅也。

【堙井】7 インセイ　井戸をふさぐ。〔國語、晉語六〕夷㆑竈堙㆑井。〔注〕堙、塞也。

【堙阻】8 インソ　ふさぎはばむ。〔顏延之、陽給事誄〕函陝堙阻、瀍洛蒿萊。

【堙塞】9 インソク　ふさがる。ふさがつて通じない。ふさがつてとどこほる。堙窒。〔王炎、遊㆓硯山㆒詩〕斷巖半傾欹、舊穴久堙塞。

【堙替】10 インタイ　うづもれすたれる。又、うちすてておく。堙陵。堙廢。〔國語、周語下〕堙㆓替隸圉㆒。〔注〕堙、沒也、替、廢也。

【堙窒】11 インチツ　ふさがつて通じない。堙塞。〔宋史、陳遘傳〕河渠堙窒、邦人以㆓水潦㆒爲㆑病。

【堙澱】12 インデン　ふさがりよどむ。〔夢溪筆談、雜誌二〕汴渠有㆓二十年不㆑浚、歲歲堙澱。

【堙廢】13 インパイ　うづもれすたれる。堙替。〔後漢書、張禹傳〕傍多㆓良田㆒、而堙廢莫㆑修。

【堙圮】14 インピ　ふさがりやぶれる。〔唐書、李元諒傳〕節㆓度隴右㆒治㆓良原㆒、良原、隍堞堙圮、旁皆平林薦草、虜入寇、常牧㆑馬休㆑徒。

【堙蕪】15 インブ　うづもれ荒れはてる。〔隋煬帝、給㆑戶守㆓古帝王陵墓㆒詔〕塋兆堙蕪、封樹莫㆑辨。

【堙紊】16 インブン インビン　うづもれみだれる。〔牛弘、奏請㆔修㆓緝樂㆓〕江左之初、典章堙紊。

【堙滅】17 インメツ　うづもれほろびる。沈みほろびる。湮滅。〔史記、封禪書〕其儀闕然堙滅、其詳不㆑可㆓得而記聞㆒。〔史記、伯夷傳〕若㆑此類、名堙滅而不㆑稱、悲夫。〔劉峻、辨命論〕堙滅而無㆑聞者、豈可㆑勝㆑道哉。

【堙陵】18 インリョウ　次第におとろへる。堙替。〔唐書、王縉傳〕大歷政刑、日以堙陵。

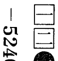
【堙樓】19 インロウ　ものみやぐら。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕將軍巡㆓至天滿㆒、登㆓有馬氏堙樓㆒。

【堚】5240 コン　⿱軍土(3-5241)に同じ。〔正字通〕堚、同㆑⿱軍土。

【⿱軍土】5241

[一] コン ゴン　〔集韻〕胡昆切　元

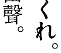
[二] クヮン ゲン　〔集韻〕胡關切　刪


小篆

[一][二]❶**つち。**つちくれ。或は堚(3-5240)に作る。〔說文〕⿱軍土、土也、从㆑土軍聲、雒陽有㆓大⿱軍土里㆒。〔段注〕土、蓋凷之誤、集韻、凷字亦作㆑⿱軍土、云云、疑、大⿱軍土里、本作㆑土、土⿱軍土里、或有㆘作㆓土軍㆒者㆖。〔集

韻〕⿱土軍、或書作レ堚。〔類篇〕⿱土軍、墣也。㊁**村里の名**。㊀を見よ。〔廣韻〕⿱土軍、里名、在二洛陽一。

【堛】 5242　ヒョク ヒキ　〔集韻〕筆力切　職


小篆

つちくれ。〔說文〕堛、凷也、从レ土畐聲。

【⿰土勃】 5243　ホツ　⿰土孛(3－5095)に同じ。〔集韻〕⿰土孛、或作レ⿰土勃。

【⿰土度】 5244　ト ヅ　〔集韻〕動五切　ㄉㄨˇ tu^{3}　麌

うづめる。　ふさぐ。〔廣雅、釋詁三〕⿰土度、塞也。〔玉篇〕⿰土度、塡也、塞也、或作レ𢿱。

【埬】 5245　レン　〔集韻〕郎甸切　霰

埬塘は、墟の名。〔集韻〕埬、埬塘、墟名、在二博平一。

【⿰土㡿】 5246　タク　坼(3－5006)の本字。〔正字通〕坼、說文本作レ⿰土㡿。

【堝】 5247　クヮ　〔集韻〕古禾切　ㄍㄨㄛ kuo^{1}　歌

るつぼ。甘堝。金屬を鎔かすに用ひる土壺。〔集韻〕堝、甘堝、液レ金器。

【堞】 5248　テフ デフ　〔集韻〕達協切　ㄉㄧㄝˊ tieh^{2}　葉

小篆

ひめがき。　城壁の上に建てめぐらした小さな垣。もと墶(3－5519)に作る。〔正字通〕堞、說文作レ墶。〔說文〕墶、城上女垣也、从レ土葉聲。〔釋名、釋宮室〕城上垣、或名レ堞、取二其重疊之義一也。〔左氏、襄、六〕傅二于堞一。〔注〕堞、女牆也。

解字　會意形聲。もと墶に作る。土と葉(うすい意に用ひる)との合字。葉はまた聲。本義は城上のひめがき。ひめがきは城壁より薄いから、土と葉とを合せて、ひめがきの義を表はす。〔說文、墶、城上女垣也、从レ土葉聲、段注〕按、从レ葉者、如三葉之薄二於城一也、亦有二會意一焉。

【堞口】1（テフコウ）　ひめがきの入口。〔福惠全書、刑名部、賊盗上、緝捕〕堞口控二神鎗火器一、堡墻上、鎗刀林立。

【⿰土威】 5249　ヰ　〔玉篇〕於歸切　微

きれたつつみ。〔玉篇〕⿰土威、決塘也。

【⿰土臿】 5250　シフ　〔集韻〕測入切　緝

⿰土臿⿰土㬎は、積みあげた土。又、重なりあふさま。〔集韻〕⿰土㬎、⿰土臿⿰土㬎、累土也。〔左思、吳都賦〕⿰土臿⿰土㬎鱗接。〔注〕向曰、⿰土臿⿰土㬎、相重疊貌。

【⿰土則】 5251　ショク シキ　〔集韻〕察色切　職

小篆

㊀**さへぎる。**〔說文〕⿰土則、遏遮也、从レ土則聲。㊁**ふさがる。**〔正字通〕⿰土則、有二充塞義一。〔正法念經〕⿰土則滿充徧。

【⿰土彖】 5252　テン デン　〔集韻〕杜兗切　銑

土を耕してうねを作る。又、うね。〔廣韻〕⿰土彖、耕レ土卷也。〔類篇〕⿰土彖、耕レ土合也。〔類篇〕⿰土彖、耕隴也。

【堠】 5253　コウ グ　〔集韻〕下遘切　ㄏㄡˋ hou^{4}　宥

㊀**里程を標示する塚。**〔集韻〕堠、記レ里堡。〔正字通〕堠、封レ土爲レ臺、以記レ里也、十里雙堠、五里隻堠。〔韓愈、路傍堠詩〕堆堆路傍堠、一雙復一雙。㊁**ものみ。**のろし臺。〔柳惲、贈二吳均一詩〕關堠日遼絕。〔盧綸、送二張郎中一詩〕塞口雲生火堠遲。

【堠槐】1（コウクワイ）　一里づかの代りに植ゑたゑんじゆの木。轉じて、一里冢。〔北史、韋孝寬傳〕當レ堠處、植二槐樹一代レ之。

【堠鼓】2（コウコ）　寇を警めるために物見の打ち鳴らす鼓。〔洪希文、聞二清漳近信一詩〕堠鼓日夜鳴。

【堠子】3（コウシ）　㊀一里塚。里程標。里堠。〔范成大、醴陵驛詩〕乍脫泥中滑、還嗟堠子長。㊁一里塚を守る役人。〔玉梅詞話〕宋諺、饞如二鷂子一、嬾如二堠子一。

【堠樹】4（コウジュ）　一里塚の上に植ゑた目標の木。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕令二東北三道一、定二道程一置二堠樹一、以二三十六町一爲二一里一。

【堠臺】5（コウダイ）　ものみ臺。〔弘道館記述義、下〕至二於文政年間一、夷船出二沒東海一者、無二歲無一レ之、各處堠臺、始爲二其用一。

【堠程】6（コウテイ）　旅行の路程。たびぢ。〔王逢、乙丑秋書詩〕靜知天運密、老與二堠程一疎。

【堠碑】7（コウヒ）　一里塚のたて石。石程。石標。

【堠吏】8（コウリ）　ものみの小吏。〔梅堯臣、送三李殿丞通二判處州一詩〕沙頭有二堠吏一、惴立板方歛。

【堡】 5254　ハウ ホウ　慣ホ　〔集韻〕補抱切　ㄅㄠˇ pao^{3}　ㄆㄨˋ p'u^{4}　晧

㊀**をか。**〔一切經音義、二十〕堡、高土也。㊁**つつみ。**或は堢(3－5255)に作る。〔集韻〕堡、隄也、或書作レ堢。㊂**とりで。**土石をつみ上げて造つた小城。〔廣韻〕堢、堢障、小城、堡、上同。〔唐書、哥舒翰傳〕拔二連城堡一。㊃保(1－702)に通ず。〔正字通〕堡、亦作レ保、檀弓、入レ保者息、註、縣邑小城也。㊄葆(9－31381)に通ず。〔正字通〕堡、又作レ葆、史匈奴傳、盗侵二上郡葆塞一。

【堡營】1（ホエイ）　とりで。

【堡塢】2（ホヲ）　どて。つつみ。〔柳宗元、小石城山記〕其旁出二堡塢一、有レ若レ門焉。

【堡砦】4（ホサイ）　とりで。保塞。堡寨。〔宋史、竇神寶傳〕李繼遷入寇、與二慕容德豐一襲二破其堡砦一。

【堡塞】5（ホサイ）　とりで。堡砦。保塞。〔歐陽脩、鎭安軍節度使同中書門下平章事贈太師中書令程公神道碑銘〕公戒二諸堡塞一、無レ得二輒出一レ兵。

【堡寨】6（ホサイ）　とりで。堡塞。堡砦。〔資治通鑑、齊紀、和帝、中興元年、注〕壘城者、築レ壘附二近大城一、猶二今堡寨一也。

【堡柵】7（ホサク）　とりで。堡塞。〔宋史、竇神寶傳〕淳化中、使二河東一、閱二視堡柵兵騎一。〔元史、朱國寶傳〕方二舟數百一、結爲二堡柵一。

【堡障】8（ホシヤウ）　とりで。城寨。堡壘。堡塞。〔唐書、裴識傳〕識至、治二堡障一、整二戎器一、開二屯田一。〔遼史、聖宗紀八〕請レ建二堡障三、烽臺十一。

【堡墻】9（ホシヤウ）　とりでの塀。〔福惠全書、刑名部、賊盗上、緝捕〕堞口控二神鎗火器一、堡墻上、鎗刀林立。

【堡守】10（ホシュ）　とりでの守り。

【堡戍】11（ホジュ）　とりで。又、とりでを守る。〔溫庭筠、開成五年秋以レ抱レ疾郊野不レ得レ與鄉計偕至王府將レ議三退二適隆冬一自傷因書レ懷奉二寄殿院

徐侍御察院陳李二侍御回中蘇端公鄠縣韋少府一兼呈二袁郊苗紳李逸四友人一二百韻詩〕堡戍標二槍槊一、關河鏁二舳艫一。

【堡聚】12 ホシユウ 衆をあつめてとりでを守る。保聚。〔宋書、張暢傳〕芟二剪麥苗一、移レ民堡聚。

【堡哨】13 pao^3 shao^4 見張りのとりで。

【堡積】14 ホセキ 山名。廣西省遷江縣の東。〔明一統志〕堡積山在二遷江縣東一、云云、郷民曾避二寇於此一。

【堡臺】15 ホダイ とりで。臺場。

【堡屯】16 ホトン とりで。たむろ。

【堡防】17 ホバウ とりでのふせぎ。とりでの防備。

【堡備】18 ホビ とりでの備へ。

【堡壁】19 ホヘキ とりで。堡壘。〔魏志、常林傳〕見レ圍六十餘日、卒全二堡壁一。〔前秦錄〕堡壁悉降。

【堡壘】20 ホルイ とりで。

【堡子灣】21 ホシワン 鎭の名。山西省大同縣の北。京綏鐵路の沿線。

【堢】5255 ハウ 堡(3－5254)に同じ。〔集韻〕堡、或書作レ堢。

【⿰土复】5256 フク 復(8－25653)・⿲土亻复(3－5476)に同じ。〔集韻〕復、或从レ土、亦省。

【堣】5257 グ 〔集韻〕元俱切 虞 慣グウ

小篆

❶地名。〔說文〕堣、堣夷、在二冀州暘谷一、立春日、日値レ之而出、从レ土禺聲、尙書曰、宅二堣夷一。〔段注〕堣夷・暘谷者、孔氏古文如レ是、禺銕・崵谷者、今文尙書如レ是、今堯典作下宅二嵎夷一曰中暘谷上、依二古文一而堣譌レ嵎、恐衞包所レ改耳。〔說文通訓定聲〕今文作二禺銕一、史記作二郁夷一、皆借字、此與二禹貢青州之嵎夷一別。❷通じて嵎(4－8281)・隅(11－41743)に作る。〔集韻〕堣、通作二嵎・隅一。

参考 嵎(4－8281)を見よ。

【⿱圥冋】5258 ボク 睦(8－23460)の古字。〔字彙〕⿱圥冋、古文睦字。

【堤】5259

［一］テイ タイ 〔集韻〕典禮切 薺

［二］テイ タイ 〔集韻〕都黎切 齊 ㄊㄧˊ tʻi^2 ㄉㄧ ti^1

［三］シ ジ 〔集韻〕常支切 支

［四］イ 〔集韻〕匀規切 支

小篆

［一］とどこほる。とまる。〔說文〕堤、滯也、从レ土是聲。〔段注〕此篆與二坁篆一、音義皆同、云云、釋詁、底・厎、皆訓レ止也、底字與二坁・堤字一、音雖レ別而義略同、俗用レ堤爲レ隄、則非。［二］❶つつみ。隄(11－41740)に通ず。〔類篇〕堤、防也。〔禮、月令、完二隄防一、釋文〕隄、本又作レ堤。❷いとぞこ。〔淮南子、詮言訓〕瓶甌有レ堤。〔注〕堤、瓶甌下安也。［三］堤封は、大凡。おほよそ。あらまし。提(5－12344)に通ず。〔廣韻〕堤、堤封頃畝、漢書作レ提、顏師古曰、提封者、大二擧其封疆一也。［四］洙堤は、郡名。〔集韻〕堤、洙堤、郡名。

参考 ❶說文及び段注によれば、堤は坁と同じで、隄とは別字であるが、今はその義に用ひず、隄と同じく用ひる。熟語は隄(11－41740)を見よ。❷手部九畫の提(5－12344)は別字。

【堥】5260

［一］ボウ ム 〔集韻〕迷浮切 尤

［二］バウ モウ 〔集韻〕謨袍切 豪

［三］ブ ム 〔集韻〕微夫切 虞

［四］ブ ム 〔集韻〕亡遇切 遇

［一］［二］❶**前が高く後が低い岡**。嵍(4－8280)に同じ。〔玉篇〕堥、前高後平丘也。〔集韻〕堥、或从レ山。❷**小さい岡**。〔集韻〕堥、堆隴也。❸**土釜**。〔禮、內則、敦牟卮匜、注〕牟、讀曰レ堥。〔疏〕堥、土釜也。❹**すやきの壺**。〔周禮、天官、瘍醫、凡療レ瘍以二五毒一攻レ之、注〕五毒之藥、合二黃堥一、置二石膽・丹砂・雄黃・礜石・慈石其中一、燒レ之三日三夜、其煙上著、以二雞羽一掃二出之一、以注レ創。〔疏〕和二丹藥一者、皆用二黃瓦甌一爲レ之、亦名二黃堥一。［三］［四］**かはらけ**。〔集韻〕堥、瓦器。

【堥敦】1 ボウトン 前が高く後の低い丘。又、小高いをか。小隴。〔班固、答賓戲〕欲下從二堥敦一、而度二高乎泰山一、懷二氿濫一、而測中深乎重淵上。〔注〕善曰、服虔曰、敦、音頓、頓丘也、應劭曰、爾雅曰、前高堥丘如レ覆、敦者、敦丘也、翰曰、堥敦、小丘也。

【堦】5261 カイ 階(11－41755)に同じ。〔集韻〕階、或从レ土。

【⿰土耑】5262 タ 〔集韻〕都果切 哿

❶**うごかす**。朶(6－14430)に通ず。〔集韻〕⿰土耑、動也、易、觀レ我⿰土耑頤。〔易、頤〕觀レ我朶頤。❷**たれる**。墆(3－5414)・垜(3－5049)に通ず。〔說文義證〕釋宮、垝、謂二之坫一、郭注、在二堂隅一、坫、墆也、釋文、墆、或作レ⿰土耑、丁果反、馥謂、⿰土耑卽垜之別體。

【堧】5263

［一］ゼン ネン 〔集韻〕而宣切 ㄖㄨㄢˊ juan^2 先

［二］ダ ナ 〔集韻〕奴臥切 箇

［三］ダン ナン 〔集韻〕奴亂切 翰

［一］❶**城郭に沿つた土地**。〔漢書、翟方進傳〕稅二城郭堧及園田一。〔注〕張晏曰、堧、城郭旁地。❷**廟の內垣と外垣との間の地**。〔漢書、鼂錯傳〕居二太上廟堧中一。〔注〕師古曰、堧者、內垣之外游地也。❸**川のほとり**。〔廣韻〕堧、江河邊地。❹壖(3－5560)に同じ。〔正字通〕堧、同レ壖。［二］❶**すなつち**。〔集韻〕堧、沙土。❷**城下の田。又、川のほとり**。⿰田耎(7－21910)に同じ。〔集韻〕⿰田耎、城下田、一曰、江滸、或作レ堧。［三］❶**水邊の地**。〔集韻〕堧、水濱地。❷**城下の田**。〔集韻〕堧、一曰、城下田。

【堧垣】1 ゼンエン 廟の外垣。〔史記、申屠嘉傳〕太上皇廟堧垣。〔注〕集解曰、服虔曰、宮外垣。〔漢書、鼂錯傳〕鑿二廟堧垣一。

【堨】5264

［一］ゲツ ゲチ 〔集韻〕魚列切 屑

［二］アツ アチ 〔集韻〕阿葛切 曷

［三］アイ 〔集韻〕於蓋切 泰

小篆

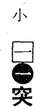
［一］**壁のすきま**。〔說文〕堨、壁閒隙也、从レ土曷聲、讀若レ謁。［二］❶**ゐせき**。〔說文、段注〕堨、今義堰也、讀同二壅遏一、後人所レ用俗字也。〔正字通〕堨、堰也、以レ土障レ水也。〔魏志、劉馥傳〕興二治芍陂及茹阪七門、吳塘諸堨一、以漑二稻田一。〔唐書、張守珪傳〕渠堨爲レ寇毀。❷閼(11－413

80)に同じ。〔集韻〕閼、說文、遮攡也、或作レ堨。[三]❶青い土。〔集韻〕堨、青土、謂二之堨一。❷ほこり。〔淮南子、兵略訓〕揚レ塵起レ堨。〔注〕堨、埃。❸壁のすきま。〔集韻〕堨、一曰、壁閒隙。

【堩】5265 コウ 〔集韻〕居鄧切 [徑]

みち。道路。〔廣韻〕堩、路。〔儀禮、既夕禮〕唯君命止二柩于堩一。〔注〕堩、道也。〔禮、雜記下〕無レ免二于堩一。〔注〕堩、道路也。

【堪】5266 [一]カン コン 〔集韻〕枯含切 ㄎㄢ k'an¹ [覃] [二]シン 〔集韻〕楚錦切 [寢] [慣]タン



[一]❶突き出てゐる土地。〔說文〕堪、地突也、从レ土甚聲。〔段注〕地之突出者曰レ堪。❷天。天道。〔揚雄、甘泉賦〕屬二堪輿一以二壁壘一兮。〔注〕善曰、許愼曰、堪、天道也、輿、地道也、張晏曰、堪輿、天地總名也。❸のせる。〔方言、十二〕堪、載也。❹たへる。〔詩、周頌、小毖〕未レ堪二家多レ難。〔傳〕堪、任也。〔國語、晉語一〕口弗レ堪也。〔注〕堪、猶レ勝也。❺かつ。すぐれる。戓(5-11561)・戡(5-11616)に通ず。〔說文通訓定聲〕堪、叚借爲レ戓。〔爾雅、釋詁〕堪、勝也。〔釋文〕堪、本又作レ戡。❻さかん。龕(12-48839)・甚(7-21648)に通ず。〔廣雅、釋詁三〕堪、盛也。〔疏證〕龕、與レ堪聲義亦同。〔說文通訓定聲〕堪、叚借爲レ甚、王氏念孫訂爲二龕字一、非。❼ひくい。坎(3-4928)に通ず。〔說文通訓定聲〕堪、叚借爲レ坎、堪・坎聲近。〔廣雅、釋詁四〕堪、低也。❽たのしむ。媅(3-6479)に通ず。〔說文通訓定聲〕堪、叚借爲レ媅。〔呂覽、報更〕堪士不レ可下以二驕恣一屈上也。〔注〕堪、樂也。❾欽(6-16104)に通ず。〔莊子、大宗師〕堪坏得レ之。〔釋文〕淮南作二欽負一。〔山海經、西山經〕是與二欽䲹一、殺二葆江于昆侖之陽一。〔注〕欽、亦作レ堪、音同、䲹、當レ爲レ坏。❿姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕堪氏、姓苑、古八元仲堪之後。[二]つち。又、にごる。墋(3-5421)に同じ。〔集韻〕墋、土也、一曰、不二清澄一、或从レ甚。

[名乘] タへ。ヒデ。

【堪可】1 k'an¹ k'ê³ 適當な。十分堪へ得る。

【堪堪】2 k'an¹ k'an¹ 殆んど。又、今すぐに。やがて。

【堪巖】3（カンガン） 山形の奧深いこと。〔揚雄、蜀都賦〕絕限峎嵣、堪巖亶翔。〔注〕堪、與レ嵌同、堪巖、言二山形窈深一。

【堪宜】4 k'an¹ i² 恰好な。好適な。

【堪繼】7（カンケイ） 承けつぐだけの力がある。〔詩、大雅、江漢、召公維翰、疏〕汝之所レ爲者、乃召公之功是嗣、言二其堪レ繼二康公一也。

【堪克】8 k'an¹ k'ê⁴ 好く堪へ得べき。好適な。

【堪齋】9（カンサイ） 字號。❶清、顧大申(12-43689‥316)の號。❷土肥政平の號。土肥點翁(3-4867‥493)を見よ。

【堪士】10（カンシ） 道を樂しんでゐる人。〔呂覽、報更〕堪士不レ可下以二驕恣一屈上也。〔注〕堪、樂也。

【堪𡥉】11（カンジョ） 魚の名。〔山海經、東山經〕犲山、其上無二草木一、其下多レ水、其中多二堪𡥉之魚一。〔注〕𡥉、音序、畢沅曰、𡥉字、从レ子从レ予、見二玉篇一、俗本作二二予字一、非。

【堪勝】12 k'an¹ shêng¹ 堪へる。

〖堪勝重任〗13 k'an¹ shêng¹ chung⁴ jên⁴ 重任に堪へ得る。

【堪笑】14（カンセウ） 甚だ笑ふべきこと。

【堪羨】15（カンセン） 甚だ羨ましいこと。

【堪任】16 k'an¹ jên⁴ 任に堪へる。適任な。

【堪忍】17（カンニン） こらへ忍ぶ。がまんする。〔書、湯誥、弗レ忍二荼毒一、傳〕不レ能三堪二忍虐之甚一。〔魏書、李洪之傳〕洪之志性慷慨、多レ所二堪忍一。

〖堪忍袋〗18（カンニンブクロ） 堪忍の度量。〔生玉心中、上〕堪忍袋も破れかぶれ。

〖堪忍地〗19（カンニンチ） [佛]能く一切の苦惱にたへしのぶこと。〔南本涅槃經、十二〕得二四念處一已、則得レ住二堪忍地中一。

〖堪忍世界〗20（カンニンセカイ） [佛]憂き世の苦を佛が代つて堪へ忍ぶ世界。娑婆世界ともいふ。〔法華文句、二下〕娑婆、此翻レ忍、其土衆生、安二於十惡一、不二肯出離一、從レ人名レ土、故稱爲レ忍、悲華經云、云何名二娑婆一、是諸衆生、忍二受三毒、及諸煩惱一、故名二忍土一。

【堪能】21（カンノウ タンノウ） ❶才能の優れたこと。〔宋書、明帝紀〕其文武堪能、隨レ才銓用。〔顏氏家訓、勉學〕無レ所二堪能一。〔中阿含經〕以二堪能一故、名二釋提桓因一。❷（タンノウ）㋑あきたる。滿足。〔淀鯉出世瀧德、上〕二人一所に居る上は、堪能ではあるまいか。㋺氣を晴らすこと。氣が濟む。〔雪女五枚羽子板、上〕樣子を語り、堪能させ給べかし。㋩技藝などの上手なこと。上手。練達。

【堪坏】22（カンパイ） 神の名。崑崙山に居り、人面獸身であるといふ。〔莊子、大宗師〕堪坏得レ之、以襲二崑崙一。〔疏〕崑崙、山名也、在二北海之北一、堪坏、崑崙山神名也、襲、入也、堪坏、人面獸身、得レ道、入二崑崙山一爲レ神也。

【堪布】23（カンプ） 淸の僧官の名。喇嘛僧で教務を掌る者。當時、北京の雍和宮、熱河の普寧寺に皆、總堪布があり、位は呼圖克圖に次ぐ。伊犂及び四川懋功の堪布は、皆、駐京の喇嘛內から派遣し、蒙古西藏の堪布の北京に調入せられる者は、達喇嘛として用ひられた。〔淸會典事例、理藩院、喇嘛封號、駐京喇嘛〕西陵永福寺、設二達喇嘛一人、德木齊格斯貴各一人、教習三人、班第二十人一、又由二駐京喇嘛一派二往伊犂之掌教堪布一人一、派二往四川懋功之廣法寺堪布一人一、其熱河堪布達喇嘛二人、達喇嘛四人、副達喇嘛十一人、閒散喇嘛八人、盛京達喇嘛八人、錫哷圖庫倫札薩克達喇嘛一人、札薩克達喇嘛四人、西安廣仁寺達喇嘛一人、五臺山札薩克喇嘛一人、達喇嘛一人、歸化城札薩克達喇嘛一人、副札薩克達喇嘛一人、札薩克喇嘛六人、多倫諾爾札薩克達喇嘛一人、達喇嘛二人、副達喇嘛二人、額缺升轉、皆照二駐京喇嘛之例一、駐京呼圖克圖曾加二國師禪師封號一者、左翼頭班章嘉呼圖克圖、二班敏珠爾呼圖克圖、右翼頭班噶勒丹錫哷圖呼圖克圖、二班濟隆呼圖克圖、皆列二於雍和宮總堪布避暑山莊普寧寺總堪布之上一。

【堪輿】24（カンヨ タンヨ） ❶あめつち。天地。乾坤。堪は龕で、物を容れるもの、卽ち天。輿は車で、物を載せるもの、卽ち地。〔淮南子、天文訓〕堪輿徐行、雄以レ音知レ雌。〔漢書、藝文志〕堪輿金匱十四卷。〔注〕師古曰、堪、天道、輿、地道。〔漢書、揚雄傳上〕屬二堪輿一以二壁壘一。〔注〕張晏曰、堪輿、天地總名也。〔范浚、心箴〕茫茫堪輿、俯仰無レ垠。❷天地の神。〔揚雄、甘泉賦〕屬二堪輿一、〔注〕向曰、堪輿、天地之神也。❸堪輿家を見よ。

〖堪輿家〗25（カンヨカ タンヨカ） ❶墓地を選定する時に、其の地質方位の吉凶を判斷して凶を避け吉に就かしめることを專門とするもの。堪輿家は又、風水家といひ、龍脈家と共に、古來から中國の民俗閒に行はれた。墓地の位置を正しくすることは既に周禮に見えてゐるが、陰陽禍福の說を附したのは漢代以後である。風水家。〔漢書、藝文志〕堪輿金匱十四卷。〔講疏〕今俗謂二風水家一曰二堪輿一。❷曆象を說き占星を行ふ者。〔通俗編、藝術、堪輿〕按、周禮疏引下堪輿經、黃帝問二天老一事上、似レ言二曆象之書一、史記日者傳、以二堪輿一爲二占家之一一、世俗專以下談二地理一者上爲二堪輿一、非矣。❸地理學者。❶を見よ。

〖堪輿先生〗26 k'an¹ yü² hsien¹ shêng 堪輿「家。

【堪用】27 k'an¹ yung⁴ 役に立つ。有用な。

【堪黎】28（カンレイ） 黎國に克つ。戡黎(5-11616‥8)に同じ。〔爾雅、釋詁〕堪、勝也。〔注〕書曰、西伯堪レ黎。

【堪喜齋】29（カンキサイ） 清、許乃普(10-35298‥353)の「號。

【堪察加】30（カムチャツカ） 地名。Kamchatka の音譯。

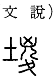
【堪薩斯】31（カンサス） 地名。アメリカ中部の一州で、草原地帶。Kansas の音譯。

【堪達罕】32（カンタツカン） 獸の名。鹿の類。俗に四不像といふ。〔幾暇格物編〕。

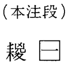
【不㆑堪紅葉青苔地】33（タヘズコウエフセイタイノチ） 紅葉青苔の秋景色を見るにつけても悲しみに堪へない。〔白居易、秋雨中贈㆓元九㆒詩〕不㆑堪紅葉青苔地、又是涼風暮雨天、莫㆑怪獨吟秋思苦、比君校近㆓二毛年㆒。

【堫】5267 一ソウ（ス） 〔集韻〕祖叢切 東

二サウ 〔集韻〕初江切 江



小篆（說文）



小篆（段注本）

一二❶うゑる。或は稯（9−28947）に作る。〔說文〕堫、穜也、从㆑土㚇聲。〔集韻〕堫、不㆑耕而種、或作㆑稯。❷はいりこむ。〔說文〕堫、一曰、內㆓其中㆒也。

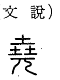
【⿱狠土】5268 コン 墾（3−5509）の俗字。〔正字通〕⿱狠土、俗墾字。

【堬】5269 ユ 〔集韻〕容朱切 虞 つか。〔方言、十三〕秦晉之間、冢、謂㆓之堬㆒。

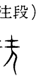
【堭】5270 クワウ（ワウ） 〔集韻〕胡光切 陽 ❶堂堭は、あひどの。四壁の無い建物。〔廣韻〕堭、堂堭、合殿也。❷或は墴（3−5490）に作る。〔集韻〕堭、或从㆑黃。❸通じて皇（8−22701）に作る。〔正字通〕堭、前漢書、省作㆑皇。〔漢書、胡建傳〕列㆓坐堂皇上㆒。〔注〕師古曰、室無㆓四壁㆒曰㆑皇。❹そとぼり。隍（11−41754）に同じ。〔正字通〕堭、同㆑隍。

【堮】5271 ガク 〔集韻〕逆各切 藥 ❶きし。がけ。〔廣韻〕堮、圻堮也。〔六書故〕堮、土之厓級也。❷或は⿰土噩（3−5593）・⿰土㖾に作る。〔集韻〕堮、或作㆓⿰土噩・⿰土㖾㆒。

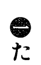
【堯】5272 ゲウ 〔集韻〕倪幺切 蕭 ㄧㄠˊ yao^2



小篆（說文）



小篆（段注本）



古文

❶たかい。古は兟（3−5097）に作る。〔說文〕堯、高也、从㆔垚在㆓兀上㆒、高遠也。兟、古文堯。〔廣雅、釋言〕堯、嶢也。❷ゆたか。〔風俗通、皇霸〕堯者、高也、饒也。❸**古の聖天子、陶唐氏の號**。〔說文、段注〕堯、本謂㆑高、陶唐氏以爲㆑號、堯之言、至高也、舜、山海經作㆑俊、俊之言、至大也、皆生時臣民所㆑稱之號、非㆑謚也。❹**陶唐氏の謚**。〔書、堯典〕曰若稽㆓古帝堯㆒。〔馬注〕堯、謚也、翼㆑善傳㆑聖曰㆑堯。〔白虎通、謚〕翼㆑善傳㆑聖、謚曰㆑堯。❺**姓**。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕堯氏、帝堯之後也、支孫以爲㆑氏、望出㆓河間上黨㆒。

名乘 タカ。タカシ。

解字 會意形聲。垚（土の高いさま）と兀（高くて上の平かな義）との合字。垚はまた聲。本義は、たかい。故に兀の上に垚を重ねて、至高至遠の義を表はす。古文は、二人の上に二土を重ね、或は二兀の省形の上に二土を重ねて、高い義を表はす。〔說文、堯、段注〕會意、兀者、高而上平也、高而上平之上、又增㆓益之㆒以㆑垚、是其高且遠可㆑知也、古文从㆓二土㆒、而二人在㆓其下㆒。〔說文通訓定聲〕堯、按、垚亦聲、古文从㆓二土㆒、从㆓二兀省㆒。

【堯運】1（ゲウウン） 帝堯と同じめぐりあはせ。五德相生說では、堯は火德にあたるが、この堯と同じ火德にあたるものをいふ。〔漢書、高帝紀贊〕由㆑是推㆑之、漢承㆓堯運㆒、德祚已盛。〔注〕臣瓚曰、漢承㆓堯緒㆒爲㆓火德㆒。

【堯曰】2（ゲウエツ） 論語の篇名。

【堯行】3（ゲウカウ） 帝堯のおこなひ。〔書、堯典、疏〕上言㆓堯德㆒、此言㆓堯行㆒。〔孟子、告子下〕行㆓堯之行㆒。

【堯閣】4（ゲウカク） 漢代、未央宮の中に在つた閣の名。〔三秦記〕未央宮有㆓堯閣㆒。

【堯韭】5（ゲウキウ） 草の名。菖蒲（9−31174‥2）の異名。〔春秋緯運斗樞〕玉衡星散爲㆓菖蒲㆒、一名㆓堯韭㆒、一名㆓昌陽㆒。〔本草、菖蒲〕釋名、昌陽・堯韭・水劍草、時珍曰、菖蒲、乃蒲類之昌盛者、故曰㆓菖蒲㆒、又呂氏春秋云、冬至後五十七日、菖始生、菖者、百草之先生者、於㆑是始耕、則菖蒲・昌陽又取㆓此義㆒也、典術云、堯時、天降㆓精于庭㆒爲㆑韭、感㆓百陰之氣㆒爲㆓菖蒲㆒、故曰㆓堯韭㆒、方士隱爲㆓水劍㆒、因㆓葉形㆒也。

【堯化】6（ゲウクワ） ❶帝堯の德化。〔魚孟威、桂州重㆓修靈渠㆒記〕推㆓俎豆㆒以化㆓猿飲㆒、演㆓墳典㆒以移㆓鴃舌㆒、蕃㆓禹貢㆒、盪㆓堯化㆒也、則所㆑繫實大矣。❷門の名。江蘇省江寧縣の北郭外に在つた。南京城の外郭門の一つであつたが今はない。滬寧鐵道の沿線。

【堯勛】7（ゲウクン） 堯の勳功。又、高大な勳功。又、天子の勳功。〔宋史、樂志十三〕億載萬年、永輔㆓堯勛㆒。

【堯卿】8（ゲウケイ） 字號。❶後漢、謝夷吾（10−35827‥239）の字。❷宋、虞唐佐（9−32723‥181）の字。❸宋、曹克明（5−14297‥231）の字。❹宋、李唐咨（6−14459‥1674）の字。❺明、薛章憲（9−32123‥197）の字。❻明、范欽（9−30834‥25）の字。

【堯堯】9（ゲウゲウ） 極めて高いさま。嶢嶢。〔釋名、釋山〕毎石堯堯。〔疏證補〕堯堯、至高之貌。〔墨子、親士〕王德不㆓堯堯㆒者、乃千人之長也。

【堯桀】10（ゲウケツ） 聖天子の堯と暴君の桀。轉じて、聖君と暴君。〔漢書、蕭望之傳〕堯桀之分、在㆓於義利㆒而已。〔孔子家語、致思〕堯桀不㆓共㆑國而治㆒。

【堯傑】11（ゲウケツ） 北齊の人。雄の從父兄。字は壽性。神武に歸して都督となり、元樹を譙城に平げ、元象中、車騎大將軍・儀同三司となり、樂城縣公に封ぜらる。〔北齊書、二十〕。

【堯暄】12（ゲウケン） 後魏、長子の人。字は辟邪。本名は鍾葵。後、名を暄と賜ふ。爵は平陽伯。官は大司農卿。〔魏書、四十二〕・〔北史、二十七〕。

【堯骨】13（ゲウコツ） 遼太宗（11−39137‥58）の小字。

【堯佐】14（ゲウサ） 字號。❶元、王士元（7−20823‥1507）の字。❷明、翟唐（9−28727‥30）の字。❸明、白良輔（8−22678‥1422）の字。

【堯山】15（ゲウサン・ゲウザン） ❶山名。㋑河北省堯山縣の西北。堯の始封の所といふ。〔讀史方輿紀要、直隸、順德府、唐山縣〕堯山、縣西北八里、相傳、堯始封㆑此、因名。㋺山東省益都縣の西北。堯が巡狩して登つた所といふ。〔水經、淄水注〕從征記曰、廣固城北三里、有㆓堯山祠㆒、堯因㆔巡狩登㆓此山㆒、後人遂以名㆑山。㋩山東省臨朐縣の東北。堯水の源。㋥河南省伊陽縣の西南。滍水の出る所。〔水經、滍水注〕堯之末孫劉累、云云、遷㆓于魯縣㆒、立㆓堯祠于西山㆒、謂㆓之堯山㆒。㋭山西省永濟縣の南。〔漢書、地理志上、河東郡蒲反、注〕有㆓堯山首山祠㆒。㋬山西省沁縣の西。〔太平寰宇記〕唐改爲㆓銅鞮山㆒、山舊有㆓帝堯廟㆒、今圮、土人疊㆑石爲㆑堡、名爲㆓堯神寨㆒、山因以名。㋣江西省臨川縣の西北。豐城縣の界。舊名は兔水山。堯の時の洪水に、獨り沈溺を免れた山。〔讀史方輿紀要、江西、撫州府、臨川縣、龍會山〕兔水山、在㆓府西北六十里㆒、相傳、以㆔洪水時獨免㆓沈溺㆒而名、唐天寶中、改曰㆓堯山㆒。㋠陝西省蒲城縣の北。〔長安志〕堯山、一名浮山、舊圖經曰、昔堯時、洪水爲㆑災、諸山盡沒、惟此山若㆑浮、因名。㋷廣東省英德縣の西北。〔水經、洭水注〕水東出㆓堯山㆒、山盤紆數百里、有㆓赭嵒迭起㆒、冠以㆓青林㆒、云云、有㆓大堂基㆒、耆舊云、堯行宮所。❷縣名。唐、置く。春秋の柏人邑。今、河北省邢臺縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、順德府〕唐山縣、府東北九十里、漢置㆓柏人縣㆒。

屬二趙國一云云、天寶初、改爲二堯山縣一、宋因レ之、云云、金人改レ縣曰二唐山一、仍屬二邢州一。㊂字號。㋑清、孔廣居(3－6933‥276)の號。㋺清、陳自舜(11－41698‥931)の號。

【堯山堂】16（ゲウザンダウ） 明、蔣一葵(9－31820‥113)の室名。

【堯山廟】17（ゲウザンベウ） 廟の名。もと堯帝祠といふ。廣東省英德縣の北。〔海錄碎事、道釋、鬼神〕堯山廟、在二英州一、舊爲二堯帝祠一、以レ傳考レ之、堯未二嘗至レ此、宜下以二岩堯一得上レ名。

【堯市】18（ゲウシ） 山名。浙江省長興縣の西北。堯の洪水の時、居民が此處に市を成したといふ。〔皎然、顧渚行、寄二裴方舟一〕堯市人稀紫筍多。

【堯咨】19（ゲウシ） 字號。㊀宋、劉思尹(2－2224‥996)の字。㊁清、黃印(12－47926‥32)の字。

【堯日】20（ゲウジツ） 清、趙曉(10－37171‥142)の字。

【堯章】21（ゲウシヤウ） 字號。㊀宋、姜夔(3－6205‥17)の字。㊁宋、郭杞(11－39474‥37)の字。

【堯峻】22（ゲウシユン） 清、顧埜(12－43689‥79)の字。

【堯舜】23（ゲウシユン） ㊀聖天子なる唐堯と虞舜。〔易、繫辭下〕黃帝堯舜、垂二衣裳一而天下治。〔大學〕堯舜率二天下一以レ仁、而民從レ之、桀紂率二天下一以レ暴、而民從レ之。〔杜甫、奉レ贈二韋左丞丈一二十韻詩〕立登二要路津一、致二君堯舜上一。㊁聖天子をいふ。堯舜君を見よ。

【堯舜化】24（ゲウシユンノクワ） 堯舜二帝の德化。天子の立派な德化をいふ。〔晉書、傅玄傳〕弘二堯舜之化一、開二正直之路一。

【堯舜君】25（ゲウシユンノキミ） 堯舜のやうな盛德ある君王。聖天子。〔孟子、萬章上〕與下我處二畎畝之中一、由レ是以樂中堯舜之道上、吾豈若レ使三是君爲二堯舜之君一哉。〔杜甫、自レ京赴二奉先一詠レ懷詩〕生逢二堯舜君一、不レ忍二便永訣一。

【堯舜道】26（ゲウシユンノミチ） 堯舜の行つた道。仁德の道。善政。〔孟子、告子下〕堯舜之道、孝弟而已矣、子服二堯之服一、誦二堯之言一、行二堯之行一、是堯而已矣。

【堯舜澤】27（ゲウシユンノタク） 堯舜の德政の恩澤。又、其のやうな恩澤。〔孟子、萬章下〕思下天下之民匹夫匹婦、有中不三與二被堯舜之澤一者上、如三己推而內二之溝中一。

【堯舜之術】28（ゲウシユンノジユツ） 堯舜の行つた仁術。〔漢書、鄒陽傳〕蒙二堯舜之術一、挾二伊管之辯一。

【堯舜之人】29（ゲウシユンノヒト） 堯舜二代の人民。人は民。〔說苑、君道〕禹出見二罪人一、下レ車問而泣レ之、左右曰、夫罪人不レ順レ道、故使レ然焉、君王何爲痛レ之至二於此一也、禹曰、堯舜之人、皆以二堯舜之心一爲レ心、今寡人爲レ君也、百姓各自以二其心一爲レ心、是以痛レ之也。

【堯舜千鍾】30（ゲウシユンセンシヨウ） 堯舜は千鍾の酒を飮んだといふ。鍾は容量の名。鍾(11－40672)の字解を見よ。〔孔叢子、儒服〕昔有二遺諺一、堯舜千鍾、孔子百觚、子路嗑嗑、尙飮二十榼一。

【祖二述堯舜一】31（ゲウシユンヲソジユツス） 堯舜の道を受けついで述べ明かにする。〔中庸〕仲尼祖二述堯舜一、憲二章文武一。〔漢書、藝文志、儒家〕儒家者流者、云云、祖二述堯舜一、憲二章文武一、宗二師仲尼一、以重二其言一。

【堯舜讓而帝】32（ゲウシユンユヅリテテイタリ） 堯は舜に舜は禹に帝位を讓つて各〻帝となつた。〔莊子、秋水〕昔者、堯舜讓而帝、之噲讓而絕。

【堯舜之民可二比屋而封一】33（ゲウシユンノタミハヒヲクニシテホウズベシ） 堯舜時代の人民は、堯舜の德に化して皆善良であるから、軒並の人々は皆諸侯に封じてもよい資格がある。〔新語、無爲〕堯舜之民、可二比屋而封一、桀紂之民、可二比屋而誅一者、敎化使レ然也。

【堯心】34（ゲウシン） 堯の心。堯のやうな心。聖君の心。〔范曄、樂游應レ詔詩〕山梁協二孔性一、黃屋非二堯心一。

【堯臣】35（ゲウシン） 宋、俞夔(1－1437‥19)の字。

【堯仁】36（ゲウジン） 明、唐天恩(2－3709‥492)の字。

【堯仁天覆】37（ゲウノジンテンノゴトクオホフ） 堯帝の仁德は天の覆ふやうに廣大で普偏的である。〔蘇軾、謝三量二移汝州一表〕湯德日新、堯仁天覆。

【堯水】38（ゲウスイ） 川の名。㊀昔の蕘水。源は山東省臨朐縣の東北の堯山。東北流して丹水に入る。〔水經、巨洋水注〕巨洋、又東北流、堯水注レ之、水出二劇縣南角崩山一、卽故義山也、云云、水卽蕘水矣。㊁山西省長子縣の西南。〔水經、濁漳水注〕堯水、自二西山一東北流、逕二堯廟北一、又東逕二長子縣故城南一、云云、東北流入二漳水一。

【堯仙】39（ゲウセン） 清、呂佺孫(2－3386‥224)の字。

【堯禪】40（ゲウゼン） 堯が舜に帝位を禪つたこと。轉じて、すぐれた後繼者。〔書、舜典、使レ宅二百揆一、疏〕舜受二堯禪一、當三繼二行其道一。〔徐陵、讓二右僕射一初表〕昔李廣遺二恨不レ値二漢初一、甯戚自悲レ不レ逢二堯禪一。

【堯叟】41（ゲウソウ） 宋、鄒棐(11－39562‥44)の字。

【堯道】42（ゲウダウ） 堯の行つた道。仁德の道。〔漢書、董仲舒傳〕其餘盡循二堯道一、何更爲哉。

【堯冢】43（ゲウチヨウ） 地名。堯の墓がある。漢の成陽縣。故城は今の山東濮縣の東南。堯陵(71)の㊀を見よ。〔路史〕堯之冢在二成陽一、漢宣帝使下奉二太牢一、祭中堯于成陽露臺上。

【堯天】44（ゲウテン） ㊀堯の如き聖天子。天は君の喩。〔宋史、樂志十三〕九州臻二禹會一、萬國戴二堯天一。㊁清、趙曉(10－37171‥142)の字。

【堯典】45（ゲウテン） 書經、虞書の篇名。眞古文。もと今の舜典と合せて一篇であつたが、東晉の時、書を僞作した者が割裂して下半篇を舜典とした。〔書、堯典序〕昔在帝堯、聰明文思、光二宅天下一、將レ遜二于位一、讓二于虞舜一、作二堯典一。

【點二竄堯典舜典字一】46（ゲウテンシユンテンノジヲテンザンス） 古の典雅な經書の文字を削改して、別に一篇の文章を作ること。〔李商隱、韓碑詩〕點二竄堯典舜典字一、塗二改清廟生民詩一。

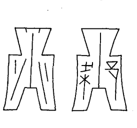
【堯年】47（ゲウネン） 帝堯在位の年。太平の世代の喩。〔陳書、沈不害傳〕盛德大業、遂蘊二堯年一。〔徐陵、徐州刺史侯安都德政碑〕天生二宰輔一、堯年致二白虎之祥一。

【堯年舜日】48（ゲウネンシユンジツ） 天下太平の時世をいふ。〔沈約、夏白紵歌〕佩二服瑤草一駐二容色一、舜日堯年歡無レ極。〔沈約、樂未央〕億二舜日一、萬二堯年一。

【堯弼】49（ゲウヒツ） 明、周洪謨(長寧の人)(2－3441‥661)の字。

【堯夫】50（ゲウフ） 字號。㊀宋、邵雍(11－39343‥83)の字。㊁宋、張汝士(4－9812‥1203)の字。㊂宋、范純仁(9－30834‥200)の字。㊃清、陳莢(11－41698‥220)の字。

【堯布】51（ゲウフ） 唐堯の時の貨幣。布は古昔通用の貨幣の稱。〔路史〕堯通二貨幣一、爲二金三等一。〔金索〕堯布、路史、堯通二刀幣一、爲二金三等一、注云、堯布文作二上十全せ一。


堯布（金石索）

【堯風】52（ゲウフウ） 帝堯の德風。又、德化のあまねく行きわたること。〔李嶠、奉下和聖製送三張說上二集賢學士一賜上レ宴詩〕偃レ武堯風接、崇レ文漢道恢。

【堯風舜雨】53（ゲウフウシユンウ） 堯舜二帝の仁德が普く行きわたつたことを、風雨の惠みにたとへていふ。轉じて、太平の世。〔椿說弓張月、續、四十四回〕邦家ますます泰平にして、士民德化に浴し、道に遺たるを拾はず、夜戶を鎖ず、堯風舜雨、五穀を播して、絕て賊民あることなけん。

【堯奮】54（ゲウフン） 北齊の人。雄の弟。字は彥擧。安夷縣子に封ぜられ、伯に進む。官は驃騎將軍左光祿大夫。〔北齊書、二十〕。

【堯文】55（ゲウブン） 宋、舒煥(9－30300‥17)の字。

【堯文炳煥】56（ゲウブンヘイクワン） 堯の文德の明かなこと。〔蘇軾、昌化軍謝表〕堯文炳煥、湯德寬仁。

【堯蓂】57（ゲウベイ） 堯の時に生じた瑞草の名。蓂莢(9－31640‥3)を見よ。〔陸龜蒙、寄二懷華陽道士一詩〕休下採二古書一探中禹穴上、自刊二新歷一斸二堯蓂一。〔宋濂、蟠桃核賦〕指二佞人一兮草生二屈軼一、齊二氣朔一兮堦秀二堯蓂一。

【堯圃】58（ゲウホ） 清、伊克唐阿(1－432‥200)の字。

【堯封】59（ゲウホウ） ㊀中國古代からの版圖。〔張說、過二晉陽一詩〕土樂二堯封一。〔杜甫、諸將詩〕滄海未三全歸二禹貢一、薊門何處盡二堯封一。㊁清、董良檣(9－31433‥270)の字。

【堯峯】60（ゲウホウ） ㊀山名。江蘇省吳縣の西南。堯の時の洪水を吳人が避けた處と傳へるので免水山ともいふ。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、吳縣〕橫山、府西南二十里、云云、又西北爲二姑蘇山一、其西爲二岷山・花園・堯峯諸山一、其南爲二寶華諸山一。㊁清、汪琬(6－17154‥13)の號。

【堯峯樵逸】63（ゲウホウセウイツ） 清、汪琬(6－17154‥13)の號。

【堯峯文鈔】64（ゲウホウブンセウ） 書名。五十卷。清、汪琬撰。其の文は根柢を經典に置き、儒者の文たるに愧ぢないといふ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【堯民】65（ゲウミン） 字號。㊀明、朱凱(6－14424‥72)の

字。❸清、徐克范(4－10110‥426)の字。

【堯明】66ゲウメイ　宋、王俊義(7－20823‥1675)の字。

【堯問】67ゲウモン　荀子の篇名。

【堯兪】68ゲウユ　字號。❶宋、鍾嶽(11－40672‥15)の字。❷明、李獻可(6－14459‥1145)の字。

【堯雄】69ゲウユウ　北齊の人。暄の孫。字は休武。謚は武恭。爾朱光に隨ひ、後、神武に歸す。封は平陽縣公。官は驃騎大將軍・儀同三司。〔北齊書、二十〕・〔北史、二十七〕。

【堯老】70ゲウラウ　帝堯と老子。〔江淹、雜體詩、張廷尉綽雜述〕冏冏秋月明、憑㆑軒詠㆓堯老㆒。

【堯陵】71ゲウリヨウ　帝堯の陵。❶山東省荷澤縣の東北の舊雷澤城の西、濮縣の界。〔史記、五帝紀、堯辟㆑位凡二十八年而崩、注〕正義曰、括地志云、堯陵、在㆓濮州雷澤縣西三里㆒。〔呂覽、安死〕堯葬㆓穀林㆒。〔漢書、地理志上、濟陰郡、成陽、注〕有㆓堯冢靈臺㆒。〔兗州府志〕堯陵、在㆓東平州東北五十里舊雷澤城西㆒、陵高四丈五尺、廣二十餘丈、陵上有㆑廟、俗謂㆓之堯王寺㆒、是也、皇覽云、堯冢、在㆓濟陰城陽㆒、呂氏春秋云、堯葬㆓穀林㆒、皇甫謐云、穀林卽成陽也、水經注曰、成陽城西二里有㆓堯陵㆒、陵南一里有㆓堯母慶都陵㆒、皆立㆑廟。❷山西省臨汾縣の東。一名、神林。又、神臨。〔平陽府志〕古陶唐氏陵、在㆓府城東七十里郭行里㆒、俗謂㆓之神林㆒、又謂㆓之神臨㆒、陵高一百五十尺、廣二百餘步、云云、此陵爲㆓堯陵㆒無㆑疑也、明初、訪㆓歷代帝王陵墓㆒、山東東平州以㆓堯陵㆒聞、至㆑今載㆓之祀典㆒、而在㆓臨汾㆒反遺㆑之者何也。〔清一統志〕漢書劉向疏、堯葬㆓濟陰郡㆒、壟皆小、葬具甚微、云云、諸書多載㆔堯陵在㆓山東㆒、惟城冢記載㆑在㆓平陽㆒、堯都㆓平陽㆒、在位七十載而殂落、陵似㆑宜㆑在㆓今平陽㆒。

【堯齡】72ゲウレイ　堯帝のよはひ。天子の長壽にいふ。〔晏殊、詞〕金爐熒龍香遠、共祝㆓堯齡萬萬㆒。〔柳永、詞〕祝㆓堯齡㆒、北極齊㆑尊、南山共㆑久。

【堯曆】73ゲウレキ　帝堯の時の曆。〔林益、五里同色賦〕同色已傳㆓于堯曆㆒、聚井更弭㆓于漢兵㆒。

【吠㆑堯】74ゲウニホユ　盜跖の犬は堯に吠える。人は其の仕へる主に忠を盡すをいふ。〔戰國、齊策〕貂勃曰、跖之狗吠㆑堯、非㆓貴㆑跖而賤㆑堯也、狗固吠㆑非㆓其主㆒也。〔史記、淮陰侯傳〕跖之狗吠㆑堯、堯非㆓不仁㆒、狗固吠㆑非㆓其主㆒。

【堯允恭】75ゲウインキヨウ　宋、海陵の人。字は克遜。宋が亡びてから、意を經傳に專らにし、易を窮め、性命の理を得、貧に安んじ、善を樂しみ、自ら觀物老人と號す。書室を德安堂といふ。著に詩文集がある。〔尙友錄、六〕。

【堯君素】76ゲウクンソ　隋、湯陰の人。煬帝が晉王であつた時、其の左右に從ひ、帝が位に卽くに及んで、鷹擊郞將となる。後、唐兵に圍まれ、城中の食物が盡きて死んだ。〔隋書、七十一〕・〔北史、八十五〕。

【堯世美】77ゲウセイビ　明、邵武の人。號は白東。母に事へて至孝なるを以て、嘉靖中、鄕に擧げられる。〔邵武府志〕。

【堯母門】78ゲウボモン　漢の昭帝の生れた鉤弋宮の門の名。帝が母の胎內に在ること十四箇月、堯と同じであつたから名づく。〔漢書、外戚、孝武鉤弋趙倢伃傳〕居㆓鉤弋宮㆒、云云、元始三年、生㆓昭帝㆒、號㆓鉤弋子㆒、任身十四月迺生、上曰、聞㆓昔堯十四月而生㆒、今鉤弋亦然、迺命㆓其所㆑生門㆒曰㆓堯母門㆒。

【堯雨舜風】79ゲウウシユンプウ　堯風舜雨(53)に同じ。

【堯階三尺】80ゲウカイサンジヤク　帝堯の御殿の階段は高さ三尺に過ぎなかつた。堯の質素な生活をいつた語。土階三等(3－4867‥32)を見よ。〔汪遵、長城詩〕雖㆔然萬里連㆓雲際㆒、爭及㆓堯階三尺高㆒。

【堯教㆓丹朱㆒】81ゲウタンシユヲヲシフ　堯帝が其の子の丹朱に圍棊を教へた故事。丹朱の愚さを直す爲といふ。〔南齊書、虞愿傳〕帝好㆓圍棊㆒、甚拙、去㆓格七八道㆒、物議共欺爲㆓第三品㆒、與㆓第一品王抗㆒圍㆑棋、依㆑品賭㆑戲、抗每饒借㆑之曰、皇帝飛棊、臣抗不㆑能㆑斷、帝終不㆑覺、以爲㆓信然㆒、好㆑之愈篤、愿又曰、堯以㆑此教㆓丹朱㆒、非㆓人主所㆑宜㆑好也。

【堯鼓舜木】82ゲウコシユンボク　帝堯は諫者の諫を聞く爲に諫鼓を設け、帝舜は箴木を立てて戒めの語を書かせた故事。よく人の善言を容れること。〔舊唐書、褚亮傳〕堯鼓納㆑諫、舜木求㆑箴。

【堯趨舜步】83ゲウスウシユンポ　堯の趨り舜の步むが如くに、天子の德容の盛なのをいふ。〔宋史、樂志十三〕皇帝降㆑席、流雲四開、堯趨舜步、下躡㆓天階㆒。

【堯長舜短】84ゲウハチヤウニシテシユンハタンナリ　堯は身の丈高く、舜は低い。聖人は外貌に關係がないこと。〔荀子、非相〕帝堯長、帝舜短、文王長、周公短、仲尼長、子弓短。

【堯眉八彩】85ゲウビハツサイ　堯の眉には八色の彩があつたといふ。八眉(2－1450‥451)を見よ。〔淮南子、脩務訓〕堯眉八彩、九竅通洞、而公正無㆑私、一言而萬民齊。

【見㆓堯於牆㆒】86ゲウヲシヤウニミル　舜が亡くなつた堯を仰慕するあまり、坐れば其の姿を牆に、食へば其の姿を羹に見たといふ故事。常に忘れないことをいふ。〔後漢書、李固傳〕昔堯殂之後、舜仰慕三年、坐則見㆓堯於牆㆒、食則見㆓堯於羹㆒。

【堯子有㆓丹朱㆒】87ゲウノコタンシユアリ　堯のやうな立派な父にも丹朱のやうな愚かな子のある喩。〔孟子、萬章上〕丹朱之不肖、舜之子亦不肖、云云、其子之賢不肖、皆天也。

【埀】5273

スイ

垂(3－5012)の本字。〔正字通〕埀、垂本字。

【堰】5274

🈩エン　〔集韻〕於扇切　ㄧㄢˋ yen⁴　霰

🈔エン オン　〔集韻〕於建切　願

🈪エン オン　〔集韻〕隱幰切　阮

🈩🈔🈪❶せき。ゐせき。又、せきとめる。〔集韻〕堰、障㆑水也。〔沈約、三月三日率爾成㆑篇詩〕東出㆓千金堰㆒。〔注〕善曰、廣雅曰、堰、潛堰也、謂㆓潛築㆑土以壅㆑水也、一作㆑堨。❷或は隁(11－41731)・隝(11－41810)に作る。〔集韻〕堰、或作㆓隁・隝㆒。❸通じて偃(1－830)に作る。〔集韻〕堰、壅㆑水也、通作㆑偃。

【堰下】1エンカ　ゐせきの下。〔魏志、董卓傳〕默從㆓堰下㆒過㆓其軍㆒、而決㆑堰。

【堰渠】2エンキヨ　せきとみぞ。〔和漢三才圖會、水類、水車〕按、日本後紀云、天長六年詔曰、傳㆓聞唐國之風㆒、堰渠不便之處、多構㆓水車㆒、以㆑手轉、以㆑足蹈、服㆑牛廻等、各隨㆓便宜㆒。

【堰橋】3エンケウ　鎭の名。江蘇省無錫縣の北。江陰縣「の界。商業地。

【堰牐】4エンサフ　ゐせき。〔宋史、蘇軾傳〕復造㆓堰牐㆒、以爲㆓湖水蓄洩之限㆒。

【堰水】5エンスイ　ゐせきの水。〔南史、梁宗室上、蕭明傳〕紹宗至、決㆓堰水㆒。

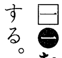
【堰埭】6エンタイ　ゐせき。❶船舶の通行稅をとる爲、河中の水をせきとめたゐせき。〔唐書、食貨志三〕張滂復置㆓江淮巡院㆒、及㆔浙西觀察使李錡領㆓使江淮堰埭㆒、隸㆓浙西㆒者、增㆓私路小堰之稅㆒。〔藝林伐山故事〕檢㆑江蓄㆑水曰㆑堰、壅㆑水爲㆑堰曰㆑埭。❷田地の灌漑に設けたゐせき。〔宋史、河渠志五〕陂塘堰埭、可㆓以取㆑水灌漑㆒。

【堰瀦】7エンチヨ　ゐせき。ためいけ。〔陳旅、和㆓康庸田魯瞻公言㆑懷韻㆒詩〕雲澤三江入㆓堰瀦㆒。

【堰隄】8エンテイ　河川や溪谷を橫斷して水流を阻止するために築いたつつみ。

【堰流】9エンリウ　流れをせきとめる。〔後漢書、王景傳〕用㆓景堰流法㆒、水乃不㆓復爲㆑害。

【報】5275



小篆

🈩ハウ ホウ　〔集韻〕博號切　ㄅㄠˋ pao⁴　號

🈔フ　〔禮、釋文〕芳付反　遇

🈩❶むくいる。かへす。恩がへしする。しかへしする。こたへる。〔廣雅、釋言〕報、復也。〔集韻〕報、酬也。〔荀子、法行〕有㆑親不㆑能㆑報。〔列子、湯問〕謀㆑報㆓父之讎㆒。〔史記、吳王濞傳〕膠西王無㆓文書㆒、口報。❷むくい。かへし。恩がへし。しかへし。こたへ。〔史記、文帝紀〕先王遠施、不㆑求㆓其報㆒。〔北史、長孫儉傳〕儉嘗詣㆑闕奏㆑事、時大雪、雪中待㆑報、自㆑旦達㆑暮。❸まうす。㋑告げる。しらせる。〔廣韻〕報、報告。〔戰國、秦策〕請爲㆓張唐㆒先報㆑趙。〔注〕報、白也。〔淮南子、精神訓〕列子行泣報㆓壺子㆒。

〔注〕報、白也。㋺裁斷の結果を上聞する。〔說文通訓定聲〕報、按、漢時郡國獻㆓疑獄㆒、延尉皆處當以報、漢書凡言㆓訊鞫論報㆒、謂㆘處㆓分其罪㆒以上聞㆖也。〔後漢書、魯恭傳〕勿㆘以㆓報囚㆒爲㆗故事㆖。〔注〕報囚、謂㆓奏請報決㆒也。㊃**まうし**。つげ。しらせ。〔禮、郊特牲〕王皮弁以聽㆓祭報㆒。〔注〕報、猶㆑白也。㊄**罪をひきあてる**。罪狀を論じてそれに相當する處罰を行ふ。報（**3**－**5965**）に同じ。〔正字通〕報、俗報字。〔說文〕報、當㆓辠人㆒也、从㆑㚔从㆑𠬝、𠬝、服㆑辠也。〔漢書、胡建傳〕辟㆑報故不㆓窮審㆒。〔注〕蘇林曰、報、論也、斷獄爲㆑報。〔後漢書、安帝紀〕竟未㆑報。〔注〕報、謂㆓斷決㆒也。㊅**まつり**。**まつる**。〔國語、魯語下〕有虞氏報焉。〔注〕報、報㆑德之祭也。㊆**あはせる**。〔禮、喪服小記〕詘而反以報㆑之。〔注〕報、猶㆑合也。〔鬼谷子、反應〕以報㆓其心㆒。〔注〕報、猶㆑合也。㊇**かさねる**。〔周禮、春官、大祝、八曰褒拜、注〕報拜、再拜也。㊈**かへる**。〔淮南子、天文訓〕東方爲㆓報德之維㆒也。〔注〕報、復也、陰氣極㆓於北方㆒、陽氣發㆓於東方㆒、自㆑陰復㆑陽、故曰㆑報。〔穆天子傳、六〕報哭㆓于大次㆒。〔注〕報、反也。㊉**親屬の妻に密通すること**。〔左氏、宣、三〕文公報㆓鄭子之妃㆒。〔服注〕報、復也、淫㆓親屬之妻㆒曰㆑報。漢律、淫㆓季父之妻㆒曰㆑報。(十一)**目下のものに密通する**。〔小爾雅、廣義〕上淫曰㆑烝、下淫曰㆑報、勞淫曰㆑通。(十二)現新聞紙。三**おもむく**。すすむ。赴（**10**－**37040**）に通ず。〔說文通訓定聲〕報、叚借爲㆑赴、按、樂記、禮有㆑報而樂有㆑反、注、讀爲㆑褒、猶㆑進也、亦赴字、赴・報、雙聲也。〔禮、少儀〕毋㆓報往㆒。〔注〕報、讀爲㆓赴疾之赴㆒。〔禮、喪服小記〕報㆑葬者、報㆑虞。〔釋文〕報、依㆑注音赴、芳付反。

名乘　ツグ。

解字　會意。㚔（罪人の意）と𠬝（卩と又との合字で、服の本字、卩は節、又は手、節卽ち法律を手に取りて、罪人を罪に服せしめる義）との合字。本義は罪人に罰を當て行ふこと。故に㚔と𠬝とを合せて、しおきの義を表はす。假借して白（つげる）・復（むくいる）等とす。〔說文通訓定聲〕報、當㆓辠人㆒也、从㆑㚔从㆑𠬝、會意、𠬝服㆑辠也。

【報祐】1 ハウイウ　むくい助ける。〔論衡、福虛〕有㆓不肖之行㆒而天祐㆑之、是天報㆓祐不肖人㆒也。〔王延壽、桐柏淮源廟碑〕靈祇報祐、天地淸和。

【報謁】2 ハウエツ　報じ告げる。〔謝莊、舞馬賦〕業底㆓於告成㆒、道臻㆓乎報謁㆒。

【報宴】3 ハウエン　功に報いる宴會。〔左氏、文、四〕以覺㆓報宴㆒。〔注〕以明㆓報㆑功宴樂㆒。

【報捐】4 pao^{4} chüan^{1}　寄附金や税を納めること。

【報怨】5 ハウヱン　うらみをかへす。〔戰國、燕策〕報㆑怨雪㆑恥、夷㆓萬乘之強國㆒。〔史記、齊太公世家〕爲㆓崔杼㆒閒㆑公、以報㆑怨。〔賈誼、過秦論上〕士不㆓敢彎㆑弓而報㆑怨。〔說苑、至公〕此乃子報㆑怨時也、何故逃㆑我。

【報應】6 ハウオウ　むくい。又、むくいる。應報。〔漢書、刑法志〕報應之勢、各以㆑類至、其道然矣。〔顏氏家訓、歸心〕以㆔吉凶禍福或未㆓報應㆒、爲㆓欺誑㆒也。〔唐書、王縉傳〕盛陳㆓福業報應㆒。

【報音】7 ハウオン　たより。返事。報信。〔湘山野錄〕以㆑書留㆑之、得㆓其報音㆒、確乎不㆑奪。

【報恩】8 ハウオン ホウオン　㊀めぐみにむくいる。恩をかへす。報德。〔漢書、蓋寬饒傳〕猶未㆑足㆓以稱㆑職而報㆑恩也。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕欲㆘如㆓前書之言㆒、報㆗恩於國主㆖耳。〔後漢書、吳良傳〕報恩之義、莫㆑大㆑薦㆑士。㊁寺の名。江蘇省吳縣城の北隅。もと吳通玄寺といひ、唐には開元寺、吳越には報恩寺、今、北寺といふ。〔江南通志〕梁僧正慧造㆓浮圖於中㆒、凡十一成、宋蘇軾捨㆓銅龜㆒以藏㆓舍利㆒、建炎四年、罹㆓兵燹㆒、寺塔俱燼、紹興閒再創、止㆓九成㆒。

【報恩緣】9 ハウオンエン　明代の戲曲の名。沈起鳳作。蘇州の謝蘭が、曲折を經て登第し、三桂人麗娟・紫簫・綠琴と同時に結婚することを述べ、頗る錯綜の巧さを極めてゐる。六十種曲本に收む。

【報恩講】10 ホウオンコウ　佛一向宗の佛事の名。親鸞上人の爲に、陰曆十一月二十二日から二十八日まで修める佛事。今、西本願寺では新曆に推步して一月九日から十六日に改めた。おこう。〔東都歲時記、四〕二十二日、一向宗寺院報恩講、二十八日まで修行。

【報恩珠】11 ハウオンジユ　漢の武帝が魚の命を助けて獲た珠をいふ。〔三秦記〕昆明池、昔有㆑人釣㆑魚、綸絕而去、遂通㆓夢于漢武帝㆒、求㆑去㆑鉤、帝明日戲㆓于池㆒、見㆓大魚銜㆑索、取而放㆑之、閒㆓三日㆒、池邊得㆓明珠一雙㆒、帝曰、豈非㆓魚之報㆒耶。〔沈佺期、移㆓禁司刑㆒詩〕漢皇虛沼上、客有㆓報恩珠㆒。

【報恩單】12 pao^{4} en^{1} tan^{1}　神佛に祈願して成就した者は神前に供物を上り、又、其の由來を紅紙に書いて各處に貼りつける。其の由來を書いた紅紙をいふ。

【報價】14 pao^{4} chia^{4}　新聞の定價。

【報衙】15 ハウガ　官吏が役所に出勤して事務を執りはじめる時刻を報せる鼓。〔金史、宣宗紀上〕今旦視㆑朝、百官旣拜之後、始聞㆓開封府報衙聲㆒。

【報界】16 pao^{4} chieh^{4}　新聞界。新聞社のなかま。

【報開】17 ハウカイ　かきとどける。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕迨㆔報㆓開相驗㆒云云。

【報考】18 pao^{4} k'ao^{3}　試驗に出願する。

【報更】19 ハウカウ　呂氏春秋、愼大覽の篇名。

【報效】20 ハウカウ　㊀恩返しをする。恩に感じて力を致す。〔風俗通、過譽〕臨㆑別眷眷、念在㆓報效㆒。〔後漢書、南匈奴傳〕雖㆓垂拱安枕㆒、慙㆑無㆓報效之地㆒。〔梁武帝、贈㆓謚張弘策㆒詔〕方賴㆓忠勳㆒、翼㆓宣寡薄㆒、報效無㆑徵、永言增㆑慟。〔蘇轍、爲㆓兄軾下㆑獄上書〕洗㆑心改㆑過、粉骨報效。㊁pao^{4} hsiao^{4}　㋑金品を國家に獻納する。㋺報酬。手數料。

【報匣】21 pao^{4} hsia^{2}　清代、地方長官から重大事件を上奏するときに用ひる文箱。

【報喜】22 pao^{4} hsi^{3}　喜びを知らせる。慶事を通知する。〔還魂記、腐歎〕陳齋長報喜。

【報喜花】23 ハウキクワ　浙江地方の五帆船の女船頭が、未婚の女子の結婚を豫言して船のへさきに栽ゑる花。〔閩雜記〕興泉漳等處海汊中、有㆓一種船㆒、專運㆔客貨與㆓渡人往來者㆒、名㆓五帆船㆒、其中婦人名曰㆓水姿㆒、自相㆓婚配㆒、從不㆑上㆑岸、或有㆓子女未㆑字、船頭栽㆓時花一盆㆒、稱爲㆓報喜花㆒。

【報喜人】24 pao^{4} hsi^{3} jen^{2}　官位陞進・試驗合格等の喜事を本人の家又は老師の家に通告することを業とする者。吉報の使。報喜的。

【報喜的】25 pao^{4} hsi^{3} tê　報喜人に同じ。

【報仇】26 ハウキウ　あだをかへす。報讎。復讎。〔韓非子、外儲說左下〕子皐問㆓跀危㆒曰、吾不㆑能㆑虧㆓主之法令㆒、而親跀㆓子之足㆒、是子報㆑仇之時也、而子何故乃肯逃㆑我、我何以得㆓此於子㆒。〔史記、游俠、郭解傳〕以㆑軀借㆑交報㆑仇。〔漢書、趙幽王友傳〕託㆑天報㆑仇。〔後漢書、崔瑗傳〕瑗兄章、爲㆓州人所㆑殺、瑗手㆑刃報㆑仇、因亡命。

【報享】27 ハウキヤウ　祭享に報いる。おまつりにむくいる。〔史記、封禪書〕上帝報享、錫㆓一角獸㆒。

【報況】28 ハウキヤウ　むくい賜はる。〔漢書、夏侯勝傳〕備㆓天地之禮㆒、廣㆓道術之路㆒、上天報況、符瑞並應。〔注〕師古曰、況、賜也。

【報虐】29 ハウギヤク　苛酷なことにむくいる。〔書、呂刑〕皇帝哀㆓矜庶戮之不辜㆒、報㆑虐以㆑威。

【報擧】30 ハウキヨ　その事を言つて怨みに報いる。〔漢書、諸葛豐傳〕不㆔內省㆓諸己㆒、而反怨㆓堪猛㆒以求㆓報擧㆒。〔注〕師古曰、擧㆓言其事㆒以報㆑怨。

【報虞】32 グフ　三月の喪の期間を待つことの出來ぬ貧者が、死者を直ちに葬り、葬が終つて急に虞祭を行ふこと。報は赴で、急ぐ意。〔禮、喪服小記〕報葬者報虞。〔注〕報、讀爲㆓赴疾之赴㆒、謂㆓不㆑及㆑期而葬㆒也、既葬卽虞、虞、安㆑神也。〔疏〕此一節論㆘不㆑得㆑依㆓常葬之禮㆒也、赴、猶㆓急疾㆒也、急葬、謂㆘貧者或因㆓事故㆒、死而卽葬、不㆖得㆑待㆓三月㆒也、急虞、謂㆓亦葬竟而急設㆑虞、虞、是安㆑神、故宜㆑急也。〔釋文〕報、依㆑注、音赴、芳付反。

【報荒】33 pao^{4} huang^{1}　穀物の凶荒を知らせる。

【報官】34 pao^{4} kuan^{1}　官に報告する。官に屆け出る。

【報館】35 pao⁴ kuan³ 新聞社。

【報關】36 pao⁴ kuan¹ 稅關に手續する。通關手續。

〔報關行〕37 pao⁴ kuan¹ hang² 通關事務を取扱ふ店。通關手續及び運送取次等を營業とする。

〔報關單〕38 pao⁴ kuan¹ tan¹ 稅關へ呈出する檢査申請書。報單。報貨單。

【報君】39（ハウクン） 君恩にむくいる。〔左氏、僖、二十三〕其波二及晉國一者、君之餘也、其何以報レ君。

【報瓊】40（ハウケイ） ❶返禮として贈る玉。又、返禮することにいふ。〔詩、衞風、木瓜〕投レ我以二木瓜一、報レ之以二瓊琚一。〔書言故事、餽送類〕受レ惠無二報謝一、曰レ愧レ乏二報瓊一。❷宋の殿閣の名。〔楓窓小牘〕汴宮、本五代舊都、宋因レ之、東門曰二晨暉一、西門曰二麗澤一、殿東閣有二報瓊・疊瓊・麗玉・寒香・翠葆・蘭薰一。

【報警】41 pao⁴ ching³ ❶警報。❷警察に屆出る。

【報繳】42（ハウケウ） かへしをさめる。〔福惠全書、庶政部、嚴緝二私販一〕毎年行レ銷舊引、尅レ期報繳。

【報曉】43（ハウゲウ） 明け方を知らせる。又、禽類が夜明け方に喜んで鳴くこと。〔李紳、憶二春日太液池亭候對一詩〕宮鶯報レ曉瑞煙開。〔嚴偃、百舌鳥詩〕星未レ沒レ河先報レ曉。

〔報曉鐵牌〕44（ハウゲウテツパイ） 夜明けを知らせる鐘。〔陸游、夜坐忽聞二村路報曉鐵牌一詩〕何人叩レ鐵驚二農耕一、炊飲家家起二五更一。

【報隙】45（ハウゲキ） 不和の仕返しをする。〔後漢書、蓋勳傳〕勳素與二正和一有レ仇、或勸レ勳、可二因レ此報レ隙、勳曰、不可。

【報決】46（ハウケツ） 返事。〔韓非子、存韓〕願陛下幸復察二圖之一、而賜二臣報決一。〔翼毳〕後漢書百官志云、云云、先上三諸宗正一、宗正以聞、乃報決、穆天子傳云、報哭二于大次一、注、報、猶レ反也。〔解詁〕報、復也、決・訣同。

【報結】47 pao⁴ chieh² 終る。終結する。

【報見】48（ハウケン） 來訪者に答禮する。又、來訪者に會ふ。〔韓非子、外儲說右上〕太公望、東封二於齊一、海上有二賢者狂矞一、太公望聞レ之、往請焉、三卻二馬於門一、而狂矞不二報見一也。

【報驗】49 pao⁴ yen⁴ 海關や官府の檢査所に對して檢査を申請すること。

【報功】50（ハウコウ） 功勞に報いる。功德に報いる。〔書、武成〕崇レ德報レ功。〔禮、大傳〕二曰、報功。〔孝經緯援神契〕社、地土之主、云云、故封レ土爲レ社、而祀レ之以報レ功也。〔論衡、祭意〕凡祭祀之義有レ二、一曰報功、二曰修先、報功以勉レ力、修先以崇レ恩。〔白虎通、社稷〕太社爲二天下一報レ功、王社爲二京師一報レ功。

【報告】51（ハウコク） つげ知らせる。又、しらせ。報知。通報。〔漢書、王莽傳上〕雖三文王卻二虞芮一何以加、宜三報二告天下一。

〔報告祭〕52（ハウコクサイ） 喜びごとを神佛や故人の靈に告げる祭。

〔報告書〕53（ハウコクシヨ） 事の經過を報告する書面。

【報國】54（ハウコク） ❶國恩にむくいる。國家から受けた恩澤に報いるために奉公する。〔忠經、報國〕不レ思レ報レ國、豈忠也哉。〔後漢書、楊賜傳〕無二以報一レ國。〔曹植、鼙舞歌、聖皇篇〕思下一效二筋力一、糜レ軀以報上レ國。❷忠經の篇名。

〔報國盡忠〕55（ハウコクジンチユウ） 國恩に報い國君に忠をつくす。盡忠報國(**8－23029**・50)を見よ。

【報墾】56 pao⁴ k'en³ 開墾を出願する。

【報祭】57（ハウサイ） 禮祭。又、禮祭をする。毎年、秋、田事が終つてから、五穀の神の功にむくいる爲に行ふ祭。報祀。報賽。〔書、顧命、秉レ璋以酢、傳〕報祭曰レ酢。〔周禮、春官、大司樂、凡六樂者、注、此謂二大蜡一、疏〕五穀成、於レ神有レ功、故報二祭之一。〔孔叢子、論書〕於二每歲之大嘗一而報祭焉、所三以昭二其功德一也。

【報歲】59（ハウサイ） 農夫が一年の農事を終へてお禮の爲に行ふ祭。報祭。〔隋煬帝、敬二靈龕一疏〕是我良田之報歲也。

〔報歲蘭〕60（ハウサイラン） 草の名。蘭の異種。浙江廣東地方に產する。一名、墨蘭。十二月に開くから名づける。

【報載】61 pao⁴ tsai⁴ 新聞紙に揭載する。

【報賽】62（ハウサイ） 神の功にむくいる祭。報祭を見よ。禮祭。報祀。〔周禮、春官、小祝、禱祠之祝、疏〕報賽、謂二之祠一。

【報嫂】63（ハウサウ） あによめを娶る。報嫂。執嫂(**3－5193**・・71)を見よ。〔後漢紀、孝明紀上〕羌之先、三苗之裔也、其俗、妻二後母一報レ嫂。

【報喪】64 pao⁴ sang¹ 死亡を通知する。

【報勦】65（ハウサウ） 殺しつくしたと報告する。〔福惠全書、刑名部、反叛、拿審〕報レ勦已逾二千百一。

【報搔】66（ハウサウ） 搔き切つて仕返しをする。〔新書、退讓〕昔梁大夫宋就、爲二邊縣令一、與レ楚鄰レ界、梁亭楚亭皆種レ瓜、云云、楚令以二梁瓜之美一、怒二其瓜之惡一、因往、夜竊搔二梁瓜一、皆有二死焦者一矣、梁亭覺レ之、因請二其尉一、亦欲三竊往報二搔楚瓜一、宋就曰、是構レ怨召レ禍之道也。

【報葬】67（ハウサウ） 死んでから三月の喪の期間を待たないで急に葬ること。貧者の葬。報虞(32)を見よ。〔禮、喪服小記〕報葬者報虞、三月而後卒哭。

【報參】68（ハウサン） しくじり。失敗。〔福惠全書、刑名部、問擬〕因二前令報參卸レ事、以致二此案久懸一。

【報子】69 pao⁴ tzŭ 張札。廣告。報單(128)の❷の㋑に同じ。

【報之】70（ハウシ） 淸、何夢瑤(**1－511**・・368)の字。

【報志】71（ハウシ） むくいる志。〔左氏、昭、五〕今此行也、其庸有二報志一。

【報祀】72（ハウシ） 禮祭。報祠。報祭(57)を見よ。〔張九齡、奉二和聖製燭龍齋祭一詩〕燭龍煌煌、明宗報祀。

【報施】73（ハウシ） むくいほどこす。報嗣。〔史記、伯夷傳〕天之報二施善人一、其何如哉。〔列女傳、仁智、曹僖氏妻傳〕必能報施矣。〔劉峻、辨命論〕天之報施。

【報祠】74（ハウシ） 禮祭。報祭(57)に同じ。〔漢書、郊祀志上〕路弓乘矢集獲二壇下一、報祠大享。

【報紙】75 pao⁴ chih³ 新聞紙。

【報嗣】76（ハウシ） 報施(73)に同じ。〔後漢書、西南夷、莋都傳〕蠻夷貧薄、無レ所二報嗣一。

【報資】77 pao⁴ tzŭ¹ 新聞紙の代金。新聞購讀料。

【報時】78（ハウジ） 時刻を知らせる。報時猿を見よ。

〔報時猿〕79（ハウジヱン） 時刻を知らせる猿。商山の隱士、高太素の故事。〔開元天寶遺事、山猿報時〕商山隱士高太素、累徵不レ起、在二山中一、構二道院一二十餘間、太素起二居淸心亭下一、皆茂林秀竹、奇花異卉、每レ至二一時一、卽有二猿一枚一、詣二亭前一鞠躬而啼、不レ易二其候一、太素因目レ之爲二報時猿一、其性也有レ如レ此。

〔報時鐵〕80（ハウジテツ） 唐の段成式が池中から獲た時刻を知らせる鐵。〔南楚新聞〕段成式、嘗于二私地一鑿二一池一、獲二鐵一片一、乃特治二靜室一、懸二鐵室中之北壁一、時與二親近一闢レ牖窺レ之、則有二金書兩大字一、以報二十二時一。

【報辭】81（ハウジ） 知らせのことば。たより。〔白居易、和二晨興一因報問二龜兒一詩〕喉燥聲氣窒、經レ年無二報辭一。

【報囚】82（ハウシウ） 罪を論定する。〔漢書、嚴延年傳〕延年母、從二東海一來、欲下從二延年一臘上、到二雒陽一、適見二報囚一、母大驚。〔注〕師古曰、奏二報行決一也、劉攽曰、檢二尋前後一、直謂レ斷、決レ囚爲レ報爾、非二奏得レ報也、如下今有司書二囚罪一、長吏判准斷定上、所謂報也。

【報酬】83（ハウシウ） ❶むくいる。お禮をする。お禮。謝禮。謝儀。❷代金。料金。給金。

〔報酬遞減〕84（ハウシウテイゲン） 經濟學用語。土地の生產力は、或る程度まで、之に投ずる資力・勞力を增加するに從つて增加するけれども、其の程度を過ぎれば、資本・勞力を增加しても、其の生產力は、割合上、次第に減ずるものであるといふこと。地力遞減。收益遞減。

【報讎】85（ハウシウ） かたきをうつ。かたきうち。復讐。報仇。〔戰國、趙策〕吾其報二智氏之讎一矣。〔列子、湯問〕謀レ報二父之讎一。〔韓非子、外儲說左上〕此義二於名一、而利二於實一、故必有二天子誅之名一、而有二報讎之實一。〔史記、刺客、豫讓傳〕子獨何以爲レ之報レ讎之深也。

【報者】88（ハウシヤ） 報いる人。〔左氏、僖、二十四〕報者倦矣、施者未レ厭。

【報謝】89（ハウシヤ） ❶恩にむくいる。お禮をする。〔史記、信陵君傳〕所三以不二報謝一者、以爲二小禮無一レ所レ用。〔漢書、張騫傳〕與二烏孫使數十人、馬數十匹一、報謝。❷［佛］（ホウシヤ） ㋑佛祖の恩に感じて淨業を修める。〔敎行信證〕深知二佛恩一、爲二報謝至德一。㋺僧侶や巡禮などに布施をする。〔東海道中膝栗毛、三下〕ゐざりに御ほうしや。

〔報謝宿〕90（ホウシヤヤド） 神佛の恩に報いるため、旅人を無料で宿泊させる家。

【報章】91（ハウシヤウ） ❶織つてあやを作る。〔詩、小雅、

大東〕雖二則七襄一、不レ成二報章一。〔箋〕不レ如三人織相反報成二文章一。㊁返答の書翰。へんじ。返書。〔顔延之、和二謝監靈運一詩〕盡レ言非二報章一。〔杜甫、寄二杜員外院長一詩〕相憶無二南雁一、何時有二報章一。㊂pao⁴ chang¹ 新聞紙。

【報賞】92（ハウシヤウ） むくい賞する。〔漢書、匈奴傳下、其報必大、注〕師古曰、漢得二此地一、必厚報二賞單于一。

【報償】93（ハウシヤウ） しかへしをする。返報。報復。又、つぐなひ。うめあはせ。〔漢書、匈奴傳上〕毎三漢兵入二匈奴一、匈奴輒報償。

【報償金】94（ハウシヤウキン） 報償のために出す金。

【報狀】95（ハウジヤウ） 知らせの手紙。〔王建、贈二華州鄭大夫一詩〕詞訟牌前草漸稠、報狀拆開知レ足レ雨。

【報春】96（ハウシユン） 春の來たことを知らせる。報春鳥を見よ。

【報春鳥】98（ハウシユンテウ） 鳥の名。立春、及び立秋の頃鳴き、形はほととぎすに似てゐる。一說、百舌に似て小、春初には春起、暮春には春去と鳴く。又一說に、うぐひす。〔述異記、上〕顧渚山有二報春鳥一、春至卽鳴、秋分亦鳴、似二鶗鴂之類一也。〔顧渚山茶記〕有レ鳥、如二鴝鵒一而小、蒼黃色、每レ至二正月二月一、作レ聲曰二春起也一、三月四月、曰二春去也一、採レ茶者稱爲二報春鳥一、又名二喚春鳥一。

【報書】99（ハウシヨ） 返事。又、知らせの書面。〔杜甫、重過二何氏一詩〕問訊東橋竹、將軍有二報書一。〔白居易、老慵詩〕近來漸喜知聞斷、免レ惱三嵇康索二報書一。

【報稱】100（ハウシヨウ） ㊀むくいる。〔漢書、孔光傳〕一旦顚仆、無二以報稱一。〔後漢書、東海恭王彊傳〕巍巍無レ量、訖無二報稱一。㊁pao⁴ ch'êng¹ 報告文に曰く。報じて曰く。

【報烝】101（ハウジヨウ） 報は目下の者と淫すること、烝は目上の者と淫すること。報蒸。〔小爾雅、廣義〕上淫曰レ烝、下淫曰レ報。

【報蒸】102（ハウジヨウ） 報烝に同じ。〔後漢書、王符傳〕報二蒸骨血一、以快二其情一。〔劉峻、辨命論〕以二蒸報一爲二仁義一。〔注〕善曰、小雅、上淫曰レ蒸、下淫曰レ報。

【報辱】103（ハウジヨク） はづかしめに對して仕返しをする。〔陸機、漢高祖功臣頌〕改二策西秦一、報二辱北冀一。

【報申】104（ハウシン） 報いがあらはれる。〔元稹、爲二蕭相一謝三追二贈祖父祖妣亡父一表〕子道有レ光、升卿之言果驗、孫謀表レ慶、令伯之報方申。

【報身】105（ホウシン） 佛報身佛を見よ。

【報身佛】106（ホウシンブツ） 佛善行の功德の報いによつて、萬德圓滿の妙智を具有して現はれた佛。佛の三身（法身佛・報身佛・應身佛）の一。〔法華文句、九〕法身如來、名二毘盧舍那一、此翻二遍一切處一、報身如來、名二盧舍那一、此翻二淨滿一、應身如來、名二釋迦文一、此翻二度沃燋一。〔唯識論〕二受用身、三他受用身、合二此二身一、名曰二報身一。

【報信】107 pao⁴ hsin⁴ たよりを知らせる。通信。

【報信的】108 pao⁴ hsin⁴ tê 郵便配達夫。

【報人】109（ハウジン） ㊀人にむくいる。〔莊子、列禦寇〕夫造物者之報レ人也、不レ報二其人一、而報二其人之天一。㊁pao⁴ jen² 使者。

【報政】110（ハウセイ） 政績を報告する。〔史記、魯世家〕伯禽之初受レ封之レ魯、三年而報二政周公一。〔書言故事、仕進類〕任滿解レ龜報レ政。

【報稅】111 pao⁴ shuei⁴ 到着した荷物の數量を稅關へ報告する。

【報銷】112（ハウセウ） 決算報告。收支報告。〔淸會典事例、內務府、屯莊、各莊銀糧報銷〕雍正七年奏准、闔內各莊、自二八月初一日一起、至二次年七月一底止、所レ納新糧、及餘存陳糧數目、於二十二月內一具題。〔六部成語、工部、報銷、注解〕開銷之款報レ部也。

【報切】113（ハウセツ） 細かく切る。〔禮、少義、牛與二羊魚之腥一聶而切レ之爲レ膾、注〕聶之言、牒也、先藿葉切レ之、復報二切之一、則成レ膾。〔校勘記〕監・毛本、報、作レ細。

【報雪】114（ハウセツ） 受けた辱めをむくいすすぐ。はぢをすすぐ。報恥。〔魏書、李苗傳〕苗年十五、有二報雪之心一。〔徐陵、爲二貞陽侯一答二王太尉一書〕家荷二報雪之恩一、身蒙二鞠養之愛一者、先帝之慈也。

【報說】115（ハウセツ） 報知。〔琵琶記、一門旌獎〕謝得公公報說殷勤。

【報捷】116（ハウセフ） 勝利を知らせる。〔賈島、送二李傅侍郎劍南行營一詩〕移レ軍刁斗逐、報レ捷劍門開。

【報增】118（ハウゾウ） 屆けます。〔福惠全書、雜課部、蘆課〕漲則應レ陞、隱占則應二報增一。

【報塞】119（ハウソク） むくい充たす。〔漢書、谷永傳〕絕レ命隕レ首、身膏二野草一、不レ足三以報二塞萬分一。〔後漢書、班超傳〕欲下竭二盡其力一、以報中塞天恩上。

【報到】120 pao⁴ tao⁴ 到着を知らせる。

【報盜】121 pao⁴ tao⁴ 盜難を屆出る。

【報道】122（ハウダウ） 知らせ。又、知らせる。〔李涉、山居送レ僧詩〕若逢二城邑一人相問、報道花時也不レ閑。

【報道戰】123（ハウダウセン） 報道の先後を相爭ふこと。

【報道陣】124（ハウダウヂン） 新聞雜誌などの報道の任にある記者の陣容。

【報達】125（バクダード） 地名。Baghdad イラク王國の首都。巴格達。

【報答】126（ハウタフ） こたへ。又、こたへる。回答。〔周書、盧柔傳〕隨レ機報答、皆合二事宜一。〔南齊書、紀僧眞傳〕報答書疏。

【報單】128（ハウタン） ㊀通知書。屆書。報告書。〔桃花扇、逮社〕速遞二報單一。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕于二早堂一帶齊先具二報單一。㊁pao⁴ tan¹ ㋑張札。廣告。㋺報貨單（171）に同じ。

【報單局】129 pao⁴ tan¹ chü² 天津の通關業。上海の報關行と同じく、貨物主の委託を受けて、通關手續を行ふ。

【報單銀】130 pao⁴ tan¹ yin² 貨物主から稅關へ貨物を報告するに要する手數料。

【報單箱】131 pao⁴ tan¹ hsiang¹ 荷主から稅關へ差出す貨物報告書を投入する備付け箱。

【報端】132 pao⁴ tuan¹ 新聞紙上。新聞紙の一欄。

【報知】133（ハウチ） しらせ。又、知らせる。報告。報說。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕待二師父回來一報知。

【報知艦】134（ハウチカン） 敵狀を偵察して通報するを主なる任務としてゐる軍艦。通報艦。又、軍令傳達にも用ひる。

【報恥】135（ハウチ） 恥を雪ぐ。報雪。〔後漢書、呂布傳〕將軍誅レ卓爲レ術報レ恥、功一也。

【報呈】136（ハウテイ） 本人の申立て。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、失事〕須下具二報呈一、取中明事主口供上。

【報條】137 pao⁴ t'iao² ㊀報喜人が配達通報する吉事の報告書。報喜人（24）を見よ。㊁死亡の通知書。

【報帖】138 pao⁴ t'ieh³ 試驗の合格を報せる揭示。又、公告びら。通知書。

【報貼】139 pao⁴ t'ieh¹ 報告。通告。

【報天】140（ハウテン） ㊀天の惠みに報いる。〔禮、郊特牲〕郊之祭也、迎二長日之至一也、大報レ天而主レ日也。〔庾信、周祀圜丘歌、昭夏〕重陽禋祀大報レ天。㊁もちまへにむくいる。天分に報いる。〔莊子、列禦寇〕夫造物者之報レ人也、不レ報二其人一、而報二其人之天一。

【報土】142（ホウド） 佛多くの善行の報いによつて現出された淨土。受用土。〔正信念佛偈〕報土因果顯二誓願一。

【報德】143（ハウトク） めぐみにむくいる。報恩（8）の㊀に同じ。〔論語、憲問〕以レ德報レ德。〔呂覽、義賞〕尊レ賢足二以報レ德。〔史記、晉世家〕必報レ德。〔禰衡、鸚鵡賦〕期二守レ死以報レ德。

【報德教】144（ハウトクケウ） 二宮尊德の遺した教で、宗教的に組織せられ、勤儉を守り、天地化育の恩に報いることを趣旨とする。

【報德社】145（ハウトクシヤ） 二宮尊德の教義に遵ふ團體。

【報納】146（ハウナフ） とどけをさめる。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕聽二本商臨レ行報納一、非レ若三正供徵比之有二定限一也。

【報認】147（ハウニン） 請合人の名を屆ける。〔福惠全書、錢穀部、比較〕或當レ官報認、或私幇朋充。

【報馬】148（ハウバ） 川の名。㊀滿洲遼寧省輯安縣の西北。㊁滿洲吉林省磐石縣の東南、輝發河の南岸。㊂滿洲吉林省雙城縣の西北。松花江を隔てて黑龍江省肇東縣の境と對する。

【報拜】149（ハウハイ） 再拜する。褒拜（**10**－**34552**··64）を見よ。

【報板】150（ハウハン） 女が禮帖を用ひてお禮すること。〔抱朴子、弭訟〕女氏受レ娉、禮無二豐約一、皆以二卽日一報板。

【報費】151 pao⁴ fei⁴ 電報料。

【報罷】152（ハウハイ） ㊀申上げてやめる。〔漢書、東方朔傳〕其不レ足レ采者、輒報聞罷。㊁申上げて退出する。〔漢書、梅福傳〕詣二行在所一、條二對急政一、輒報

罷。❸pao^4 pa^4 落第。採用しない。

【報風】153（ハウフウ） 暴風。又、東北風。〔遯齋閒覽〕閩中・泉福・興化三州瀕レ海、每歲七八月多二東北風一、俗號二癡風一、亦名爲二報風一。〔甕牖閒評〕余鄉常有二颶風一、初來聲勢頗惡、與二三州一不レ異、人家卽曰、報起矣、有レ頃則亦蜚レ瓦拔レ木、無レ所レ不レ至、所謂報起者、卽颶風也。

【報復】154（ハウフク） ❶**かたきをうつ**。しかへしをする。復仇。報償。〔漢書、匈奴傳贊〕拘二留漢使一、以相報復。〔蘇軾、獲二鬼章一詩〕羌情防二報復一、軍勝忌二矜驕一。〔劉基、詠史詩〕燕昭志二報復一、金臺求二俊賢一。❷むくいる。返禮。〔漢書、朱買臣傳〕諸嘗有レ恩者、皆報復焉。❸受けこたへする。〔北史、蕭寶夤傳〕寶夤接對報復、不レ失二其理一。❹めぐりかへる。〔徐陵、爲二陳武帝一與二嶺南酋豪一書〕若二日月之廻環一、猶二陰陽之報復一。

【報覆】155 pao^4 fu^4 取次がせること。〔西廂記、張君瑞慶團圞雜劇〕來到也、不索報覆、自入去見夫人。

【報聞】156（ハウブン） 申上げる。〔漢書、東方朔傳〕其不レ足レ采者、輒報聞罷。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕不レ俟二報聞一。

【報聘】157（ハウヘイ） 他國の聘問に答禮する。〔左氏、宣、十〕劉康公來報聘。〔蜀志、鄧芝傳〕報二聘於蜀一。

【報本】158（ハウホン） 天地や祖先の恩にむくいること。報本反始を見よ。

〘報本反始〙159（ハウホンハンシ） 天地や祖先の恩と功とに報いる。〔禮、郊特牲〕供二粢盛一、所二以報レ本反レ始也。〔注〕謝二其恩一之謂レ報、歸二其功一之謂レ反。〔孔子家語、郊問〕孔子對曰、萬物本二乎天一、人本二乎祖一、郊之祭也、大報レ本反レ始也。〔川田甕江、報德記序〕報二天地功德一者、祭義所謂報本反始。

【報名】160（ハウメイ） 名を知らせる。又、申込む。應募する。〔福惠全書、筮仕部、辭朝〕投二鴻臚寺一報レ名、辭レ朝謝レ恩。

【報命】161（ハウメイ） 命ぜられた仕事の結果を報告する。復命。〔史記、太史公自序〕南略二邛筰昆明一、還報命。

【報明】162（ハウメイ） 詳しく報告する。〔福惠全書、涖任部、投到任稟〕其稟只報二明到レ任日期一。

【報羅】163（ハウラ） 進士となつて死亡した者。一說に、試驗を受ける前に死んだ者。大羅天に報告する義。〔野客叢書、報羅〕雜說謂、進士放牓、須下有二一人謝レ世、名曰中報羅使上、言レ報二大羅天一也、摭言又謂、羅玠、貞元中及第、開二宴曲江一、泛レ舟、玠以溺死、後有二開試前卒者一、謂二之報羅一。

〘報羅使〙164（ハウラシ） 進士の試驗に合格直後、死亡した者をいふ。報羅を見よ。

【報李】165（ハウリ） おかへしに李を贈る。贈物に對して返禮すること。〔詩、大雅、抑〕投レ我以レ桃、報レ之以レ李。

【報劉】166（ハウリウ） 祖母の恩に報いること。又、祖母に事へること。晉の李密が祖母劉氏の養育の恩に報いた故事。〔李密、陳情表〕臣密今年四十有四、祖母劉今年九十有六、是臣盡二節於陛下一之日長、報レ劉之日短也。

【報律】167 pao^4 lü^4 新聞取締條例。新聞紙法。報紙條例。

【報領】168 pao^4 ling^3 拂下げを願出る。借地を願出る。

【報禮】169（ハウレイ） めぐみにむくいる禮。〔禮、坊記〕君子信讓以涖二百姓一、則民之報禮重。〔中庸〕體二羣臣一、則士之報禮重。

【圖レ報】170（ハウヲハカル） めぐみ又は敵に報いようとはかる。〔日本外史、德川氏前記、織田氏上〕不日入朝、竭レ力圖レ報。

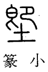
【報貨單】171 pao^4 huo^4 tan^1 稅關の申告書。報單。

【報循堂】172（ハウジユンダウ） 淸、馬樸臣（**12**－44572··920）の室名。

【報以二國士一】173（ムクユルニコクシヲモツテス） 國士の禮を以て遇せられると、國士の行ひを以て之に報いる。知己の恩に感じて報いること。戰國、晉の豫讓が智伯の禮に報いた故事。〔史記、刺客、豫讓傳〕范中行氏皆衆人遇レ我、我故衆人報レ之、至二於知伯一、國士遇レ我、我故國士報レ之。〔書言故事、古今喩類〕感レ恩念レ德、報以二國士一。

【報以二大郡一】174（ムクユルニタイグンヲモツテス） 晉代、大縣令の治績ある者に大郡を與へたこと。〔海錄碎事、臣職、縣令〕晉制、大縣令有二治績一、官報以二大郡一。

【堲】5276



小篆

㊀シツ シチ 〔集韻〕子悉切 [質]
㊁シヨク ゾク 〔集韻〕疾力切 [職]
㊂シヨク ソク 〔集韻〕節力切 [職]
㊃シ 〔集韻〕才資切 [支]

㊀❶**やきつち**。〔集韻〕堲、燒レ土周レ棺也。〔禮、檀弓上〕夏后氏堲周。〔注〕火熟曰レ堲、燒レ土治、以周二於棺一也。❷**もえさし**。夷（**7**－18997）に通ず。〔說文通訓定聲〕垐・堲、叚借爲レ夷。〔集韻〕堲、一曰、燭燼。〔管子、弟子職〕左手秉レ燭、右手折レ堲。❸**にくむ**。疾（**1**－949）に通ず。〔說文通訓定聲〕垐・堲、叚借爲レ疾、實爲レ疒、猶レ病レ之也。〔集韻〕堲、疾也。〔書、舜典〕朕堲二讒說一。〔傳〕堲、疾也。❹**ふさぐ**。〔正字通〕堲、窒塞、書舜典、朕堲二讒說一。❺或は卽（**2**－2872）に作る。〔集韻〕堲、或省。㊁❶**にくむ**。㊀の❸に同じ。〔集韻〕堲、疾也、書、朕堲二讒說一。❷或は卽（**2**－2872）に作る。〔集韻〕堲、或省。㊂❶**やきつち**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕堲、燒レ土周レ棺也。❷或は[illegible]（**7**－19193）に作り、通じて卽（**2**－2872）に作る。〔集韻〕堲、或从レ火、通作レ卽。㊃垐（**3**－5037）の古字。〔說文〕垐、以レ土增二大道上一也、云云、堲、古文垐。

【堲周】1（シヨクシウ） 棺椁を用ひないで、土を燒いて煉瓦を作り、墓の穴にめぐらすこと。夏后氏の時に此の方法を用ひた。土周。〔禮、檀弓上〕夏后氏堲周。〔注〕火熟曰レ堲、燒レ土治、以周二於棺一也、或謂二之土周一、由レ是也。〔淮南子、氾論訓〕夏后氏堲周。〔注〕禹世無二棺椁一、以二瓦廣二尺、長四尺一、側レ身累レ之、以蔽レ土、曰二堲周一。

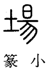
【堳】5277

ビ ミ 〔集韻〕旻悲切 [支]

かき。〔集韻〕堳、壇埒。

【堳埒】1（ビラチ） 壇の周圍をかこむ低い垣。〔周禮、地官、大司徒、社稷之壝、注〕壝、壇與二堳埒一也。

【場】5278



小篆

㊀チヤウ ヂヤウ 〔集韻〕仲良切 [陽] ㄔㄤˊ ch'ang$^{2\cdot3}$
㊁シヤウ 〔集韻〕尸羊切 [陽]

㊀❶**神を祭るところ**。〔說文〕場、祭レ神道也、从レ土昜聲。〔爾雅、釋宮〕場、道也。〔正字通〕場、祭レ神所也、築レ土爲レ壇、除レ地爲レ場。❷**には**。**ば**。㋑空地。耕さぬ山地。〔說文〕場、一曰、山田不レ耕者。〔國語、周語中〕道路若レ塞、野場若レ棄、澤不二陂鄣一、川無二舟梁一。㋺はたけ。〔詩、小雅、白駒〕食二我場苗一。〔集傳〕場、圃也。㋩とりいれば。禾穀を治める庭。〔說文〕場、一曰、治レ穀田也。〔詩、豳風、七月〕九月築二場圃一。〔傳〕秋冬爲レ場。〔疏〕蹂二踐禾稼一、則謂二之場一。㋥ひろば。平地。〔華嚴經音義、上〕除レ地平坦、曰レ場。〔漢書、高帝紀上〕設二壇場一。〔注〕師古曰、除レ地爲レ場。〔漢書、郊祀志上〕犧牲壇場。〔注〕師古曰、平地爲レ場。㋭鹿の憩ふところ。〔小爾雅、廣獸〕鹿之所レ息、謂二之場一。㋬ところ。ばしよ。〔南齊書、東昏侯紀〕置二射雉場一、二百九十六處。〔謝靈運、遊二名山一志〕豈以二名利之場一、賢二于清曠之域一耶。〔王勃、梓州福會寺碑〕玄場佛境。❸**試驗場**。❹**舞臺**。〔柳宗元、上二崔大卿一書〕登レ場應對。〔東京夢華錄、七、駕登寶津樓諸軍呈百戲〕

次獅豹入レ場、云云、出場凡五六對。㊄とき。ばあひ。〔王禹偁、芍藥詩〕紅藥開時醉一場。㊅塲(3—5385)に同じ。〔說文通訓定聲〕場、字亦作レ塲。㊆或は塲(3—5183)・暘(7—21906)に作る。〔集韻〕場、或作二塲・暘一。㊇［現］雨・病氣・訴訟事件等を數へる數詞として用ひる。［二］㊀つか。〔一切經音義、十二〕鼠場、鼠垤也。㊁塲(3—5385)に同じ。〔集韻〕塲、或作レ場。

［參考］ 埸(3—5194)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕埸、音亦、疆埸。場、音長、祭レ神所也。

【場違】1 バチガヒ ㊀本場の産でないもの。㊁其の場に不適當な。其の場で爲すべからざる。

【場囿】2 ヂャウイウ ところ。場所。〔曹植、魏德論〕抗二思乎文藻之場囿一、容二與乎道術之壇畔一。

【場院】3 ch'ang^{3} yüan^{4} 農家の前にある廣庭。收穫した穀物を乾かす場所。

【場園】4 ヂャウエン はたけ。場圃(33)を見よ。〔荀子、大略〕大夫不レ爲二場園一。〔墨子、天志下〕入二人之場園一、取二人之桃李瓜薑一者、上得二且罰レ之、衆聞則非レ之。

【場屋】5 ヂャウヲク ㊀試驗場。貢院。〔宋史、陳彭年傳〕彭年、太平興國中、擧二進士一、在二場屋閒一頗有二雋名一。〔黃庭堅、休亭賦〕場屋閒數、不レ利二於有司一。〔王禹偁、謫居感レ事詩〕空拳入二場屋一、拭レ目看二京師一。〔資治通鑑、唐紀、武帝會昌六年、注〕唐人謂二貢院一爲二場屋一、至レ今猶然。㊁芝居小屋。戲場。〔日知錄、考證、場屋〕場屋者、於二廣場之中一而爲レ屋、不二必皆開科試士之地一也、云云、戲場亦謂二之場屋一。〔元稹、連昌宮詞〕夜半月高絃索鳴、賀老琵琶定二場屋一。

【場屋文】6 ヂャウヲクブン 文體の名。又、擧業文ともいひ、科擧に用ひられた文章をいふ。その起源は、前漢の文帝が科擧制度を始めて賢良を策問したのに初まり、次いで武帝の時、董仲舒・公孫弘等も皆策問に應じた。天子の親策を制策といひ、有司の策問を試策といひ、其の自ら進めるのを進策といひ、詔に應じて政治教化の得失を陳べるのを對策といふ。漢代は論策を主とし、魏は經學を主として五經課試法を定め、南北朝は概して之を襲用したが、隋の文帝の開皇十五年に秀才を擧げ、其の試に賦・頌・銘を課し、十六年には賦・銘・論・誓を課した。煬帝に至り、進士科を設けて試驗策論を以て考取する法を定め、始めて科擧の形式を備へた。唐初は隋制に依り、開元・天寶の閒に至つて詩賦を試みるに至つたが、宋代は、熙寧以後、詩賦を罷めて經義を用ひ、明に至つて、唐の詩賦と宋の經義とを參酌して八股文を用ひ、清朝に至つてその根柢は牢乎として拔く可からざるに至つた。德宗の光緒二十四年(明治三十一年)に、康有爲を用ひて八股文を全廢したが、反對黨の擠す所となつて、帝は幽閉せられ、西太后が垂簾の政を復舊し、後、屢〻改革が行はれたが、民國以來、其の弊風は一掃せられた。科擧(8—24950・・13)・制義(2—1961・・15)・八股文(2—1450・・173)を見よ。

【場合】7 バアヒ 其のをり。其の時期。

【場規】8 ヂャウキ 科擧試驗場の規則。〔清會典事例、禮部、貢擧、整肅場規〕順治二年定、諸生領レ卷歸レ號時、有下在二號外一停立者上、扶送二監臨一詰問。

【場期】9 ヂャウキ 科擧の試驗期日。試期。〔清會典事例、禮部、貢擧、鄉會試期〕順治元年、恩詔、各直省開科、以二二年秋八月一擧二行鄉試一、初九日第一場、次十二日第二場、十五日第三場、俱先一日點入、一日放出、三年春二月、擧二行會試一、三場試期、與二鄉試一同。

【場區】10 ch'ang^{3} ch'ü^{1} 鹽場の區劃。例へば、兩淮場區・兩浙場區といふ類。

【場外】12 ヂャウグワイ 其の場所のそと。

【場官】13 ヂャウクワン 鹽場の役人。〔福惠全書、雜課部、蘆課〕竈戶佃種場官徵解、隸二州縣一則名二沙田一。

【場功】14 ヂャウコウ とりいればの仕事。收穫。〔國語、周語中〕場功未レ畢。〔注〕詩云、九月築二場圃一。

【場穀】15 ヂャウコク はたけにある穀物。〔晁補之、跋遮曲〕蝗飛食二場穀一、擊レ鼓煩二趂撲一。

【場子】16 ch'ang^{3} tzŭ 小屋掛けなどした場所。見世物の場所。

【場師】17 ヂャウシ 庭作り。うゑきや。〔孟子、告子上〕今有二場師一、舍二其梧檟一、養二其樲棘一、則爲二賤場師一焉。〔注〕場師、治二場圃一者。

【場試】18 ヂャウシ 科擧試驗。

【場商】19 ch'ang^{2} shang^{1} 製鹽地で鹽を仕入れる商人。

【場竣】20 ヂャウヲハル 科擧の試驗が終る。

【場所】21 バショ ところ。ゐどころ。

【場所入】22 バショイリ 相撲取りが相撲場所に入ること。

【場人】23 ヂャウジン 周官の名。地官の屬で、場圃を掌る人。場師。〔周禮、地官、場人〕掌二國之場圃一。

【場當】24 バアタリ ㊀芝居などで當座の事柄に就き、氣轉をきかして喝采を博すこと。㊁すべて目的の事柄に氣をきかして人氣を博すこと。

【場長】25 ch'ang^{2} chang^{3} 製鹽場の長官。清の時の鹽大使。民國の場知事。

【場帳】26 バチャウ 仲買人の從事した商業の種類・數量・價格、及び賣買雙方の商號等を記錄した帳簿。

【場中】27 ヂャウチュウ ㊀はたけのうち。はたなか。〔詩、小雅、白駒〕食二我場苗一、〔箋〕願此去者、乘二其白駒一而來、使レ食二我場中之苗一。㊁ch'ang^{2} chung^{1} 仲閒。社會。

【場丁】28 ヂャウテイ 鹽場の人足。〔福惠全書、庶政部、嚴緝二私販一〕奸民與二場丁一通同私易、奸民利レ得二賤鹽一。

【場頭】30 ヂャウトウ はたけのほとり。はたけ。〔張耒、福昌北秋日村行詩〕場頭九月禾黍熟、空原雉飛飽二新穀一。

【場內】31 ヂャウナイ 其の場所のうち。場裏。

【場苗】32 ヂャウベウ 農場の苗。はたけの禾穀。〔詩、小雅、白駒〕皎皎白駒、食二我場苗一。〔箋〕使レ食二我場中之苗一。〔謝靈運、從二游京口北固一應レ詔詩〕撫レ志慚二場苗一。

【場圃】33 ヂャウホ ㊀場と圃とは同じ土地で、春夏には耕治して菜茹などを種ゑて圃といひ、秋冬には圃の一部分を固めて取入れの場所として場といふ。場園。〔詩、豳風、七月〕九月築二場圃一、十月納二禾稼一。〔傳〕春夏爲レ圃、秋冬爲レ場。〔箋〕場圃同レ地、自二物生之時一、耕二治之一、以種二菜茹一、至二物盡成熟一、則築堅以爲レ場。〔周禮、地官、場人〕掌二國之場圃一、而樹二之果蓏珍異之物一、以レ時斂而藏レ之。〔疏〕場圃連言、場圃同地耳、春夏爲レ圃、秋冬爲レ場、其場因レ圃而爲レ之、故並言レ之也。〔周禮、地官、載師〕以二場圃一任二園地一。〔注〕圃、樹二果蓏之屬一、季秋于レ中爲レ場。〔管子、八觀〕場圃接、樹木茂。㊁には。庭園。〔後漢書、仲長統傳〕場圃築レ前。

【場末】34 バスヱ 町はづれ。〔後者昔物記〕ばすゑまでも家を列ね。

【場面】35 ch'ang^{2} mien^{4} ㊀㋑局面。情況。光景。㋺外面。みかけ。㋩世間のつきあひ。人情。㋥芝居の囃方。㊁バメン ㊀の㋑に同じ。

【場裡】36 ヂャウリ 場裏に同じ。

【場裏】37 ヂャウリ ばしよの中。場中。場內。場裡。〔長三洲、石川丈山詩〕功名場裏早抽レ身、一臥二東山一經二幾年一。

【場埒】38 ヂャウレツ 騎射を行ふ馬場。〔魏書、高祖紀下〕將下於二馬射之前一、先行中講武之式上、可下敕二有司一豫修中場埒上。

【弔レ場】39 ヂャウヲトムラフ 一人居殘つて後を見まはすこと。〔桃花扇、罵筵〕淨・副淨、從レ人喝道下、末弔レ場介。

【場差官】40 ヂャウサクワン 鹽場の役人。〔稱謂錄、鹽務官、場差官〕續文獻通攷、元世祖立二鹽法一、瀕レ海州郡立二場差官一。

【場知事】41 ch'ang^{2} chih^{1} shih^{4} 製鹽場の長官。清朝の鹽大使に當る。

【逢レ場作レ戲】42 ヂャウニアヒギヲナス 閒に合せの事をする。其の場其の場でお茶を濁す。〔傳燈錄〕鄧隱峯云、竿木隨レ身、逢レ場作レ戲。〔蘇軾、六觀堂老人草書詩〕逢レ場作レ戲三昧俱。

【堵】
5279

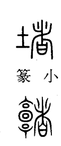
［一］ト ツ 〔集韻〕董五切 ㄉㄨˇ tu^{3} 麌

［二］シャ ジャ 〔集韻〕時遮切 麻

［三］ト ツ 〔集韻〕東徒切 虞

［四］シャ 〔集韻〕止野切 馬

堵



一❶**かき**。垣の廣さの名。二尺はばの板五枚を積んで造つた高さ一丈のかき。堵の長さに就いては、一丈・八尺・六尺の三說がある。〔說文〕堵、垣也、五版爲レ堵、从レ土者聲。〔段注〕此云二五枚爲レ堵、古今說所レ同也、蓋言二板廣二尺、五板積高一丈爲レ堵而已、其長幾尺爲レ板、幾堵爲レ雉、皆於二古今說一未二敢定一。〔說文通訓定聲〕堵、版、廣二尺、積高一丈曰レ堵、其版之長、詩鴻雁、百堵皆作、毛傳・淮南原道、環堵之室、高注、左隱元傳、都城過二百雉一、杜注、皆謂、長丈、是一堵、方丈也、鴻雁韓詩章句、八尺爲レ板、公羊定十二傳注、堵凡四十尺、是一堵高丈長八尺也、鄭君謂、五堵而雉、橫三丈、是一堵高丈長六尺也、按、家語相魯注、高丈長丈曰レ堵、三堵曰レ雉、是也、板長一丈、當レ從レ毛、雉橫三丈、當レ從レ鄭。〔禮、儒行〕環堵之宮。〔釋文〕方丈爲レ堵。〔左氏、隱、元、都城過二百雉一、注〕方丈曰レ堵、三堵曰レ雉、一雉之牆、長三丈、高一丈。〔公羊、定、十二〕五板而堵。〔注〕八尺曰レ板、堵凡四十尺。❷**鐘磬などを懸ける物の名**。鐘磬各〻十六枚を簴にかけて二列に並べたものを肆、其の一列を缺いて鐘又は磬一列だけを立てたものを堵といふ。〔周禮、春官、小胥〕凡縣二鐘磬一、半爲レ堵、全爲レ肆。〔注〕鐘磬者、二八十六枚而在二一簴一、謂二之堵一。❸**物を指定する辭**。箇・底と同じ意。〔正字通〕堵、阿堵、猶下唐人言二若箇一、俗言中兀底・這箇上、各指レ物言レ之也。〔晉書、王衍傳〕衍口未三嘗言二錢字一、婦令下婢以レ錢繞二牀下一不上レ得レ行、衍晨起呼レ婢曰、擧二卻阿堵物一。❹**ふせぐ。ふさぐ**。❺籀文は⿰𩫏者(**12－45348**)に作る。〔集韻〕堵、籀从レ𩫏。❻或は⿰享者(**3－7036**)・陼(**11－41724**)に作る。〔集韻〕堵、或作二⿰享者・陼一。❼**姓**。〔左氏、僖、七〕鄭有二堵叔一。〔釋文〕堵、丁古反。〔通志、氏族略、上聲〕堵氏、又音者、左傳有二堵寇・堵師叔・都兪彌一、鄭有二堵狗・堵汝父一、魏志、張燕、本姓堵。二三**城門の臺**。闍(**11－41434**)に同じ。〔集韻〕堵、城臺也、詩、出二其闉闍一、徐邈讀。〔集韻〕闍、爾雅、闍謂二之臺一、或从レ土。〔禮、禮器〕堵者、謂二之臺一。〔釋文〕堵、本又作レ闍。

四❶**山名**。堵山(11)を見よ。❷**水名**。堵水(17)を見よ。❸**縣名**。堵陽(22)の❶❷を見よ。❹**姓**。〔古今姓氏書辯證〕出レ自二鄭大夫一、食二邑於堵一、因以爲レ氏、堵兪彌・堵女父・堵狗、皆鄭臣、春秋音義、音者。

【堵庵】1 トアン 手島信の號。手島堵庵(**5－11768‥346**)を見よ。

【堵噎】2 tu^{3} yeh^{1} 叱る。こなしつける。しめつける。〔紅樓夢、二十九回〕儞不能爲我煩惱、反來以這話、奚落堵噎我。

【堵霞】3 トカ 清、無錫の人。進士伊令の女。諸生吳音の妻。字は綺齋。號は蓉湖女史、又、巖如。經史に博通し、詩・畫・小楷に巧。〔清畫家詩史、癸、上〕・〔清代閨閣詩人徵略、三〕。

【堵敖】4 トガウ ❶又、杜敖に作る。楚の賢人の名。楚の文王の子。一說に、楚の俗語で、君とならずに死んだ者をいふ。〔左氏、莊、十四〕楚子滅レ息、以二息嬀一歸、生二堵敖及成王一焉。〔釋文〕堵、丁古反、云云、史記作二杜敖一。〔楚辭、天問〕吾告二堵敖一以レ不レ長。〔注〕堵敖、楚賢人也、屈原放時、告二語堵敖一曰、楚國將レ衰、不三復能二久長一也。〔補注〕左傳、楚子滅レ息、以二息姬一歸、生二堵敖及成王一焉、楚子、文王也、莊公十九年、杜敖生、二十三年、成王立、杜敖卽堵敖也、天對注云、楚人謂二未レ成君而死一曰二堵敖一、堵敖、楚文王兄也、今哀下懷王將中如二堵敖一不レ長而死上、以レ此告レ之、逸注以二堵敖一爲二楚賢人一、大謬、然宗元以二堵敖一爲二文王兄一、亦誤矣。❷複姓。〔路史〕楚有二堵敖氏一。

【堵簡】5 トカン 元、金壇の人。字は無傲。詩畫に巧。元末、江浙行省檢校官に任じ、平章慶童の松江を復する軍の參謀となり、敗れて死す。〔新元史、二百三十三〕。

【堵氣】6 tu^{3} ch'i^{4} かつと怒る。激怒する。

【堵鄉】7 シヤキヤウ 漢の地名。堵陽(22)の❶に同じ。赭陽にも作る。〔後漢書、光武紀上〕以二廷尉岑彭一爲二征南大將軍一、率二八將軍一討二鄧奉於堵鄉一。〔注〕堵、音者。

【堵禦】8 トギヨ ふせぐ。防禦する。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕衝二殺江南州縣千餘里一、無レ有下堵二禦之一者上。

【堵喪】9 tu^{3} sang^{1} 叱る。こなしつける。堵噎(2)に同じ。

【堵勦】10 tu^{2} chiao^{3} 匪賊・叛徒などを勦滅する。

【堵山】11 シヤザン 山名。河北省邯鄲縣の西北。〔山海經、中山經〕苦山、又東二十七里曰二堵山一、神天愚居レ之。〔漢書、地理志下、趙國、邯鄲、注〕堵山、牛首水所レ出。

【堵死】12 tu^{2} ssŭ^{3} 窒息して死ぬ。「ぐ。

【堵嘴】13 tu^{2} tsuei^{3} 口を止める。人の口を塞ぐ。

【堵墻】14 トシヤウ かき。堵牆に同じ。〔尉繚子、戰威〕止如二堵墻一、動如二風雨一。

【堵牆】15 トシヤウ かき。堵墻。〔禮、射義〕孔子射二於矍相之圃一、蓋觀者如二堵牆一。〔管子、君臣上〕閒二之堵牆一、窺而不レ見也。

【堵壤】16 トジヤウ 家と土地。堵は垣。〔管子、版法解〕必有下崩二弛堵壤一之心上。〔纂詁〕堵、垣也、謂二廬舍一、壤、穀土也。

【堵水】17 シヤスイ 川の名。❶湖北省境。三源があり、西源は柿河、陝西省平利縣に出で、北源は竹溪河、湖北省竹溪縣の西北にある青華山に出で、南源は官渡河、湖北省房縣の西南に出で、三川が會して漢水に入る。一名は庸水、或は武林水。俗に陡河といふ。〔水經、沔水〕又東過二堵陽縣一、堵水出自二上粉縣一、北流注レ之。〔注〕堵水、出二建平郡界故亭谷一、東歷二新城郡一、郡故漢中之房陵縣也、云云、堵水、又東逕二方城亭南一、東北歷二嵺山下一、而北逕二堵陽縣南一、北流注二于漢一、謂二之堵口一。❷源は河南省方城縣の西。一に赭水といふ。赭水(**10－37017‥20**)を見よ。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、裕州〕堵水、亦曰二赭水一、源出二方城山一、經二州西一、漢以レ此名レ縣、下流至二唐縣界一入二于泚水一、其水相合處、謂二之會口一。

【堵截】18 トセツ くひとめる。〔桃花扇、誓師〕移レ鎭上江一、堵二截左兵一。

【堵塞】19 tu^{3} sai^{1} ふさぐ。つめる。

【堵住】20 tu^{3} chu^{4} ふさぐ。つめる。とどめる。堵塞。

【堵頭】21 tu^{3} t'ou^{2} 塞子。つめ。船の堰板。

【堵陽】22 シヤヤウ 縣名。❶漢、置く。秦の陽城縣の地。故城は今の河南省方城縣の東。又、赭陽といふ。〔漢書、地理志上〕南陽郡、縣三十六、堵陽。〔注〕韋昭曰、堵、音者。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、裕州〕堵陽城、在二州東六里一、漢縣、屬二南陽郡一、亦曰二赭陽一、堵音者、蓋通稱也、云云、孝昌中、又置二襄州及襄城郡一、又改置二方城縣一、廢二堵陽一入レ焉、亦曰二堵鄉一。❷唐、置く。故城は今の湖北省鄖縣の西南。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府鄖縣、長利城〕堵陽城、在二府西四十里一、唐初置二堵陽縣一屬二南豐州一、武德八年、改屬二均州一。

【堵列】23 トレツ 道側又は式場等に橫列に整列して立つこと。又、其の列。

【安レ堵】24 トニヤスンズ 居所に安んずること。按堵。〔史記、高帝紀〕上入レ關約二法三章一、吏民皆安堵如故。〔蜀志、諸葛亮傳〕百姓安レ堵、軍無レ私焉。

【如レ堵】25 トノゴトシ 人の多く集まる形容。人垣を築く。〔禮、射義〕觀者如二堵牆一。〔晉書、衞玠傳〕京師人士聞二其姿容一、觀者如レ堵。

【堵允錫】26 トインシヤク 明の無錫の人。字は仲緘。崇禎の進士。官は湖北巡撫。永明王の時、志を得ないで卒す。〔明史、二百七十九〕。

【堵心棚】27 tu^{3} hsin^{1} p'êng^{2} 出口の方に掛けた小屋。

【堶】5280 タ ダ 〔集韻〕徒禾切 歌

❶つぶて遊び。塼（カハラ）を投げる一種の遊戲。打瓦。〔集韻〕⿰土肴、飛レ甎戲也。〔梅堯臣、禁煙詩〕輕浮賭レ勝各飛レ⿰土肴。❷或は硣(8-24325)・砣(8-24091)・⿰它瓦(7-21547)・瓶(7-21488)に作る。〔集韻〕⿰土肴、或作ニ硣・砣・⿰它瓦・瓶一。

【⿹𠃌垔】 5281　イン　垔(3-5041)の篆字。〔正字通〕⿹𠃌垔、篆文垔。

【堷】 5282　アン　オン　〔正字通〕烏感切　感　瘞堷は、塚穴の中の埋藏する處。〔管子、侈靡〕巨ニ瘞堷一、所三以使ニ貧民一也。〔注〕瘞堷、謂ニ壙中蘊藏處一、深暗也、貧人雖レ無レ財而有レ力、故教三之巨ニ瘞堷一、以役ニ其力一。

【⿱亏土】 5283　ウ　宇(3-7067)に同じ。〔正字通〕⿱亏土、同レ宇、屋邊也。

【墢】 5284　バツ　坺(3-5000)に同じ。〔集韻〕坺、或作レ墢。

【⿱匡土】 5285　ザウ　⿱臧土(3-5544)に同じ。〔正字通〕⿱匡土、同レ⿱臧土。

【堸】 5286　フウ　ブ　〔集韻〕符風切　東　**蟲の巢。**〔集韻〕堸、蟲室曰レ堸。

【堹】 5287　チヨウ　チユ　〔集韻〕竹用切　宋　つつみ。くろ。あぜ。〔集韻〕堹、池塘塍埂也。

【⿰土耷】 5288　タフ　〔集韻〕德盍切　合　**わかれ限られた土地。**〔集韻〕⿰土耷、地之區處。

【堺】 5289　カイ　界(7-21775)に同じ。〔集韻〕界、或从レ土。

【⿰里⿱予土】 5290　ヤ　野(11-40133)に同じ。〔篇海〕⿰里⿱予土、同レ野。

【⿰予至】 5291　キ　堅(3-5423)の古字。〔字彙補〕⿰予至、古文堅字。

【⿰氵⿱聿土】 5292　シン　〔集韻〕資辛切　眞　**うるほひ。うるほふ。**〔集韻〕⿰氵⿱聿土、潤澤也。

【⿱重土】 5293　チヨウ　重(11-40132)の古字。〔六書本義〕⿱重土、古文重字。

【⿱封土】 5294　㊀コウ　ゴウ　〔篇海〕胡鄧切　徑　㊁ホウ　フ　〔篇海〕夫松切　冬　㊀㊁**地名。**〔篇海〕⿱封土、地名、在ニ祁陽一。

【⿰土封】 5295　ホウ　義未詳。〔五音篇海〕⿰土封、音封。

【⿱至土】 5297　チ　ヂ　〔集韻〕直利切　寘　**ひくい。**〔集韻〕⿱至土、墊也。

【堽】 5298　カウ　❶岡(4-7962)に同じ。〔字彙補〕堽、同レ岡。❷剛(2-2042)の譌字。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、曲阜縣〕剛城、剛譌爲レ堽、今有ニ堽城壩一。

【堽頭】1　カウトウ　水夫の頭目。〔六部成語、戶部、堽頭、注解〕水手之頭目也。

【堽城壩】2　カウジヤウハ　地名。山東省寧陽縣の東北にあり、もと漢の剛縣の故城。後、剛を訛つて堽に作る。字解の❷を見よ。

【⿱土圭】 5299　キ　ギ　〔龍龕手鑑〕渠追切　支　**つち。**〔龍龕手鑑〕⿱土圭、土也。

【⿰土每】 5300　バイ　〔龍龕手鑑〕音梅　**地名。**〔龍龕手鑑〕⿰土每、地名。

【⿱山土】 5301　音未詳　西嶽の神の名。〔五嶽眞形圖〕西嶽、姓姜、名⿱山土。

【⿰土叓】 5302　カウ　埂(3-5106)の篆字。〔正字通〕埂、篆作レ⿰土叓。

【⿰土⿸虍工】 5303　カウ　ゴウ　〔篇海類編〕胡老切　皓　**どがま。**土製の釜。〔篇海類編〕⿰土⿸虍工、土釜。

【⿰土瓮】 5304　ヲウ　ヲ　〔龍龕手鑑〕烏貢切　送　**かき。**〔龍龕手鑑〕⿰土瓮、牆也。

【⿰土韋】 5305　㊀カン　㊁ヰ　〔篇海〕于鬼切　尾　㊀韓(12-43159)の俗字。〔五音集韻〕⿰土韋、俗韓字。㊁**井げた。**〔篇海類編〕⿰土韋、⿰土韋⿰土華也。

【⿰土函】 5306　サフ　セフ　〔奚韻〕側甲切　洽　**けがれたさま。**〔奚韻〕⿰土函、不レ淨貌。

【⿰坐且】 5307　サ　セ　〔五音集韻〕莛瓦切　馬　⿰坐且⿰坐且はみめよいさま。〔五音集韻〕⿰坐且、⿰坐且⿰坐且、好貌。

【堾】 5308　シユン　蹖(10-37683)に同じ。〔篇海〕堾、亦作レ蹖。

【⿰土胃】 5309　クワイ　塊(3-5319)に同じ。〔篇海〕⿰土胃、隨函云、合作レ塊。

【堿】 5310　カン　コン　〔篇海〕苦感切　感　ㄐㄧㄢˇ　chien³　❶**平らでない。**〔篇海〕堿、城坷。❷**水を貯へるところ。**城塘を見よ。❸鹹(12-47553)に同じ。

【城塘】1 カンタウ 水を貯へるところ。貯水池。〔淮南子、主術訓〕若㆓發㆑城決㆑塘、故循㆑流而下、易㆓以至㆒。〔注〕城、水城也、塘、堤也、皆所㆓以畜㆑水。

【⿰土屋】 5311 ヤク 義未詳。〔篇海類編〕⿰土屋、音藥。

【⿰土冽】 5312 レツ ⿰土列(3−5065)に同じ。〔篇海類編〕⿰土冽、同㆑⿰土列。

【⿱活土】 5313 クワツ 義未詳。〔捜眞玉鏡〕⿱活土、音括。

【⿰土虒】 5314 チ 義未詳。〔捜眞玉鏡〕⿰土虒、音持。

【⿰土函】 5315 ギ 蟻(10−33672)に同じ。〔五音篇海〕⿰土函、舊藏作㆓蟻字㆒、在㆓三法度論內㆒。

【塀】 5316 ［國字］ へい。かき。屏に土を加へた俗字。

【塁】 5316′ ルイ 壘(3−5574)の略字。

十畫

【塉】 5317 セキ ジヤク 〔集韻〕秦昔切 陌 やせつち。〔集韻〕塉、薄土。

【塉埆】1 セキカク やせつち。墝埆。〔後漢書、陳龜傳〕西州邊鄙、土地塉埆。〔注〕謂㆓薄土㆒也。

【塉确】2 セキカク 土地がやせて石の多い地。〔吳志、陸凱傳〕土地實危險而塉确、非㆓王都安㆑國養㆑民之處㆒。

【塉薄】3 セキハク やせつち。塉埆。瘠薄(7−22401‥14)を見よ。

【⿱陖土】 5317′ シユン 〔集韻〕須閏切 震 ❶たかい。陖(4−8336)に同じ。〔集韻〕陖、説文、高也、或作㆑⿱陖土。❷けはしい。〔集韻〕⿱陖土、險也。

【⿱浝土】 5318
［一］リヨウ リユ 〔集韻〕魯勇切 腫
［二］リヨウ リユ 〔集韻〕良用切 宋
［三］ボウ ム 〔集韻〕蒙弄切 送
［四］バウ マウ 〔集韻〕莫江切 江

［一］［二］［三］［四］❶どろ。

小篆（説文）

小篆（段注本）

譌して浝(7−18013)に作る。〔説文〕⿱浝土、涂也、从㆑土浝聲。〔段注〕泥塗必兼㆓水土㆒爲㆑之、故字兼从㆓水土㆒、淺人又入㆓之水部㆒、非也。〔一切經音義、八〕泥塗、謂㆓之⿱浝土須㆒。❷ぬる。〔廣雅、釋室〕⿱浝土、塗也。

［解字］會意形聲。水と土と尨との合字。尨はまた聲。本義はどろ。故に水と土とを合せて其の義を表はす。〔説文通訓定聲〕⿱浝土、涂也、从㆑水从㆑土、會意、尨聲。

【塊】 5319
［一］クワイ ケ 〔集韻〕苦怪切 ㄎㄨㄞˋ k‘uai^4 卦
［二］クワイ 〔集韻〕苦會切 隊
［三］クワイ ケ 〔類篇〕苦會切 泰

小篆

［一］［二］［三］❶つちくれ。もと凷(2−1807)に作る。〔説文〕凷、墣也、从㆓土凵㆒、凵、屈、象形、塊、俗凷字。〔爾雅、釋言〕塊、堛也。〔國語、晉語四〕野人擧㆑塊以與㆑之。〔注〕塊、墣也。❷つち。〔儀禮、喪服傳〕寢㆑苫枕㆑塊。〔釋文〕塊、土也。❸かたまり。〔宋史、帝昺紀〕趙氏一塊肉。❹ひとりのさま。孤立獨居のさま。〔荀子、性惡、傀然獨㆓立天地之間㆒而不㆑畏、注〕傀、與㆑塊同、獨居之貌也。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕塊兮鞠、當㆑道宿。〔注〕塊、獨處貌。❺安らかなさま。〔穀梁、僖、五〕塊然受㆓諸侯之尊㆒。〔疏〕塊然、安然也。❻素朴なさま。〔莊子、齊物論〕大塊噫氣。〔釋文〕大塊、司馬云、大朴之貌、衆家或作㆓大槐㆒。❼魁(12−45785)に通ず。〔漢書、東方朔傳、魁然無㆑徒、注〕師古曰、魁、讀曰㆑塊。❽槐(6−15323)に通ず。❻を見よ。❾傀(1−928)に通ず。〔荀子、性惡、傀然、注〕傀、與㆑塊同。❿或は墤(3−5465)に作り、通じて蕢(9−31989)に作る。〔集韻〕塊、或作㆑墤、通作㆑蕢。⓫［現］㋑家屋土地等の件數を表はす數詞。㋺銀一圓をいふ。

【塊莖】1 クワイカウ クワイケイ 植物學用語。地下莖の一種。養分を蓄積して球塊狀をなす。馬鈴薯のいもの類。

【塊鞠】2 クワイキク 孤立して苦しむ。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕塊鞠兮、當㆑道宿、擧世皆然兮。〔注〕塊、獨處貌。

【塊根】3 クワイコン 植物學用語。養分を貯藏してゐる根。肥大で塊狀をなしたもの。蘭や洋菊等の根の類。

【塊坐】4 クワイザ ひとり坐る。獨坐。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕孤館無聊、睡起塊坐。

【塊壤】5 クワイジヤウ つちくれ。〔和漢三才圖會、農具類、杷〕畦畛之間、捜㆓剔塊壤㆒。

【塊然】6 クワイゼン ❶ひとりをるさま。獨處のさま。〔列子、黃帝〕塊然獨以㆓其形㆒立。〔荀子、君道〕塊然獨坐。〔史記、滑稽傳〕塊然獨處。〔漢書、陳湯傳〕使㆓湯塊然㆒。❷安らかなさま。〔穀梁、僖、五〕塊然受㆓諸侯之尊㆒。〔疏〕徐邈云、塊然、安然也。

【塊蘇】7 クワイソ 土くれとたきぎ。陋しい物の形容。〔列子、周穆王〕王執㆓化人之祛㆒、騰而上者、中天迺止、暨㆓及化人之宮㆒、王俯而視㆑之、其宮榭若㆓累塊積蘇㆒焉。〔韻府引、蘇軾、詩〕他人視㆑之眞塊蘇。

【塊土】8 クワイド 土のかたまり。土塊。

【塊獨】9 クワイドク ひとりだち。ひとりぼつち。孤立。〔楚辭、宋玉、九辯〕塊獨守㆑此無㆑澤兮。〔李白、鳴皐歌〕塊獨處㆓此幽默㆒兮。

【銜㆑塊】10 クワイヲフクム 罪に服すること。古は罪を請ふときは土塊を口にくはへた。〔唐書、楊貴妃傳〕安祿山反、以㆑誅㆓國忠㆒爲㆑名、云云、妃銜㆑塊請㆑死、帝意沮、乃止。

【塊狀岩】11 クワイジヤウガン 地質鑛物學用語。火成岩(7−18850‥471)の別名。

【塊雅特爾】12 クオート クオーター ❶英國容量の名。クオート(Quart) ❷英國重量の名。クオーター(Quarter)

【塊阜之山】13 クワイフノヤマ 小山をいふ。〔淮南子、俶眞訓〕牛蹏之涔、無㆓尺之鯉㆒、塊阜之山、無㆓丈之材㆒。〔注〕小山也、在㆓陳留㆒。

【塋】 5320 エイ ヤウ 〔集韻〕維傾切 ㄧㄥˊ ying^2 庚

小篆

❶はか。墓の區域。墓地。〔説文〕塋、墓地、从㆓土・營省㆒、亦聲。〔廣雅、釋地〕塋、葬地也。〔廣韻〕塋、墓域。〔漢書、哀帝紀〕非㆓冢塋㆒、皆以賦㆓貧民㆒。〔注〕師古曰、塋、冢域也。❷いとなむ。はかる。營

（7－19457）に通ず。〔說文通訓定聲〕塋、段借爲營。

解字 會意形聲。土と𤇾（營の省形）との合字。𤇾はまた聲。本義は墓地。人が死ぬと土地を經營して墓を作り、之を葬る。故に土と𤇾とを合せて墓の義を表はす。〔說文、塋、段注〕按、塋之言、營也、營者、帀居也、經營其地而葬之、故其字从營、會意。

【塋域】1（エイヰキ） はかば。墓地。塋地。兆域。〔周禮、春官、肆師〕掌兆中廟中之禁令、〔注〕兆壇、塋域。〔後漢書、欒巴傳〕務從省約塋域、所極裁二十頃。〔柳宗元、寄許京兆孟容書〕不敢望歸掃塋域、退託先人之廬、以盡餘齒。〔晉書、禮志下〕更爲塋域制度耳。〔南齊書、武帝紀〕塗金鏤石、以窮塋域之麗。

【塋園】2（エイヱン） はかば。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕東首塋園、卽宮長夜。〔注〕善曰、漢書音義、如淳曰、塋、冢田也。

【塋記】3（エイキ） 墓誌の一種。〔碑版廣例〕漢魏以來、有墓碑、有墓誌、無塋記之名、塋記立名、自李陽冰始、其文簡質無銘辭、爲後來葬記所從出。

【塋樹】4（エイジユ） 墓地にうゑた樹木。〔唐書、褚無量傳〕母喪、廬墓左、鹿犯所植松柏、無量號訴曰、山林不乏、忍犯吾塋樹邪。

【塋地】5（エイチ） 墓地。塋域。〔淸通禮〕塋地、自塋心至四旁、一品九十步、二品以下遞減十步。

【塋場】6（エイヂヤウ） 墓地に同じ。

【塋田】7（エイデン） 墓地。〔晉書、賈充傳〕葬禮、依安平獻王故事、給塋田一頃。

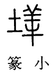
【塋土】8（エイド） 墓地。

【塋墳】9（エイフン） 墓地。

【塋墓】10（エイボ） はか。〔唐書、唐休璟傳〕出財數十萬、大爲塋墓。

【塋壟】11（エイロウ） はかば。〔張悛、爲吳令謝詢求爲諸孫置守冢人表〕掃除塋壟、永以爲常。

【垶】5321 セイ シヤウ 〔集韻〕思營切 庚



小篆 ❶あか土。〔說文〕垶、赤剛土也、从土觲省聲。❷或は⿰土辛（3－5088）に作る。〔集韻〕垶、或作⿰土辛。❸また⿰牛辛（7－20033）・騂（12－44779）に作る。〔說文通訓定聲〕垶、字亦作⿰牛辛、作騂。

【塌】5322 タフ 〔集韻〕託盍切 ㄊㄚ tʻa¹ 合

❶地が低い。〔集韻〕塌、地下也。❷床の低くて安らかなこと。〔同文備考〕塌、床著地而安也、从土𦐇聲、近地之意。❸おちる。おとす。〔廣雅、釋詁二〕塌、墮也。〔陳琳、討曹操檄〕垂頭塌翼。❹初めて耕す。〔王禎、農書、農桑通訣二、墾耕篇〕初耕曰塌。❺現たふれる。くづれる。

【塌架】1 tʻa¹ chia⁴ ❶家屋が倒れる。❷事業が失敗する。

【塌橘】2（タフキツ） 樹の名。橘の一種。〔橘譜〕塌橘、壯大而扁、其南枝之向陽者、外綠而心甚紅、經春味亦極甘美、瓣大而多液。

【塌颯】3（タフサツ） 志を得ぬこと。失意。〔范成大、閶門初泛二十四韻詩〕生涯都塌颯、心曲漫峥嶸。

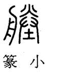
【塌天】4 tʻa¹ tʻien¹ 甚だ大きな。非常な。「禍。

【塌天大禍】5 tʻa¹ tʻien¹ ta⁴ huo⁴ 非常な災

【塌房】6（タフバウ） 貨物倉。〔明史、食貨志五〕命於三山諸門外、瀕水爲屋、名塌房、以貯商貨。

【塌鼻】7 tʻa¹ pi² ひしやげ鼻。低い鼻。

【塍】5323 シヨウ ジヨウ 〔集韻〕神陵切 ㄔㄥˊ chʻêng² 蒸



小篆 ❶あぜ。くろ。つつみ。もと⿰舟⿱关土（9－30492）に作る。〔說文〕⿰舟⿱关土、稻田中畦埒也、从土⿰舟关聲。〔一切經音義、九〕塍、畔也。〔廣雅、釋室〕塍、隄也。〔左思、蜀都賦〕峻岨塍埒。〔注〕劉曰、大曰隄、小曰塍。❷或は⿰月⿱关田（5－14393）・⿰目⿱关土（7－21905）・⿰土⿱关土（3－5237）・堘（3－5335）に作る。〔集韻〕塍、或作⿰月⿱关田・⿰目⿱关土・⿰土⿱关土・堘。

【塍陌】1（シヨウハク） 田間の通路。あぜみち。〔徐勉、爲書誡子崧書〕桃李茂密、桐竹成陰、塍陌交通。

【塍埒】2（シヨウレツ） 堤防。〔左思、蜀都賦〕峻岨塍埒、長城豁險、呑若巨防。〔謝靈運、山居賦〕阡陌縱橫、塍埒交經。

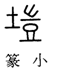
【⿰土胥】5324 ソツ ソチ 〔集韻〕蘇骨切 月

ちり。〔集韻〕⿰土胥、塵也。

【塎】5325 ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 腫

安からぬさま。埇塎。〔玉篇〕埇、埇塎、不安皃。〔集韻〕塎、埇塎、不寧。

【塏】5326 カイ 慣ガイ 〔集韻〕可亥切 ㄎㄞˇ kʻai³ 賄



小篆 高くてかわいた地。高臺。〔說文〕塏、高燥也、从土豈聲。〔左氏、昭、三〕請更諸爽塏者。〔注〕塏、燥。〔疏〕塏、高地、故爲燥也。

【塏塏】1（ガイガイ） 高いさま。〔何景明、憂旱賦〕山塏塏以頳顏兮、野蕭條而無色。

【塐】5327 ソ

塑（3－5328）に同じ。〔類篇〕塑、或从素。

【塑】5328 ソ ス 〔集韻〕蘇故切 ㄙㄨˋ su⁴ 遇

❶土をこねて物に象る。〔集韻〕塑、埏土象物也。❷でく。土で造つた人がた、又、神佛の形。〔正字通〕塑、今俗揑土肖鬼神貌曰塐、俗作塑。〔程子全書〕明道終日端坐、如泥塑人。❸或は塐（3－5327）に作り、通じて素（8－27300）に作る。〔集韻〕塑、或从素、通作素。

【塑偶】1 su⁴ ou³ 土偶。土人形。

【塑工】2（ソコウ） 土をこねて物を作る人。〔稱謂錄、百工、塑工〕池北偶談、崑山有毘沙門天王像、唐楊惠之所塑、旁侍女尤佳、徐稚山記其事、謂此像得塑工三昧。

【塑造】3（ソザウ） 塑像を造る。〔國史略、後陽成天皇〕秀吉建方廣寺於東山、塑造大像。

【塑像】4（ソザウ） 土で造つた像。粘土に藁・雲母などを混じたものを材料とし、木骨を心として作つた彫像。殷の帝乙が偶人を爲つて天神としたのが塑像の始めであり、事は史記の殷本紀に見えてゐる。〔琅琊代醉篇〕道家塑像、亦如此。〔元史、白景亮傳〕從祀諸賢、無塑像。〔陔餘叢考、塑像〕自佛法盛、而塑像遍天下、然塑像實不自佛家始、史記、帝乙爲偶人、以象天神、與之博、則殷時已開其端、國語、范蠡去越、越王以金寫其形而祀之、國策、宋王偃、鑄諸侯之象、使侍屛廁、則幷有鑄金者、孟子有作俑之語、宋玉招魂亦云、像設、魏文侯曰、吾所學者、乃土梗耳、又國策、秦王曰、宋王無道、爲木人以象寡人、而射其面、又孟嘗君將入秦、蘇代止之曰、土偶與桃梗相遇、桃梗曰、子、西岸之土也、挺子以爲人、歲八月雨降則汝殘矣、土偶曰、吾西岸之土、土殘則復西岸耳、今子、東國之桃梗也、削子以爲人、雨下水至、漂子而流、吾不知所稅駕也、則泥塑木刻、戰國時皆已有之矣、又韓非子、記桓赫削之道、鼻莫如大、目莫如小、鼻大可小、小不可大也、目小可大、大不可更小也、此又塑像之祕訣、至

佛像一、自下漢武擊二休屠一、始得二其祭天金人一以歸上、然則佛像本用レ金鑄、其後有下用二土木一者上、則轉從レ入二中國一後、以二中國之法一爲レ之耳、宋史方伎傳、僧志言、盛夏死、身不レ壞、仁宗命以二其眞身一塑二像寺中一、此又後世眞身塑像之始。

【塑人】5 ソジン でく。土人形。〔程子全書〕明道終日端坐、如二泥塑人一、及レ接レ人、渾是一團和氣。

【塑土】6 ソド でく。土人形。

【塑佛】7 ソブツ 土製の佛像。

【塒】5329

〔集韻〕市之切 シ ジ ㄕˊ shih² 支。

小篆 ㊀ねぐら。とぐら。とや。垣に穴をあけて雞を棲ませる處。轉じて、一般に鳥の棲む所。〔說文〕塒、雞棲二於垣一爲レ塒、从レ土時聲。〔詩、王風、君子于役〕曷其至哉、雞棲二于塒一。〔傳〕鑿レ牆而棲曰レ塒。㊁通じて時(5−13890)に作る。〔集韻〕塒、通作レ時。

【塒雞】1 シケイ ねぐらにあるにはとり。〔劉孝威、雞鳴篇〕塒雞識レ將レ曙、長鳴高樹巓。

【塒圈】2 シケン 鳥を入れて置く所と獸を入れて置く所。〔顏氏家訓、治家〕雞豚之善、塒圈之所レ生。

【塓】5330

〔集韻〕莫狄切 ベキ ミャク 錫。

小篆 ぬる。〔說文新附〕塓、塗也、从レ土冥聲。〔左氏、襄、三十一〕圬人以レ時塓二館宮室一。〔注〕塓、塗也。

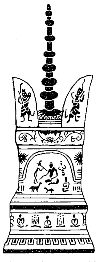
【𡎟】5331

クヮイ 壞(3−5590)の古字。〔說文〕壞、𡎟、古文壞省。

【塔】5332

〔集韻〕託合切 タフ トフ ㄊㄚˇ t'a³ 合。

小篆 ㊀たふ。梵語 stūpa の音譯字。土石を高く積んで遺骨を藏めるもの。顯教では、之を高德をあらはす標識として、佛又は有德の僧に限つて建立することを許し、密教では、之を佛體と見、一般僧俗にも建立することを許す。塔婆。兜婆。偸婆。浮圖。〔說文新附〕塔、西域浮屠也、从レ土荅聲。〔一切經音義、六〕佛塔、他盍切、或云二塔婆一、或作二偸婆一、此云二方墳一、亦言レ廟、一義也。〔釋氏要覽、下、送終〕立塔、梵語塔婆、此云二高顯一、今略稱レ塔也、又梵云二蘇偸婆一、此云二寶塔一、又梵云二窣堵波一、此云レ墳、又云二抖擻婆一、此云二讚護一、或云二浮圖一、此云二聚相一。㊁てら。〔字苑〕塔、佛堂也。㊂をか。〔類篇〕塔、累土也。㊃物の落ちる音。〔集韻〕塔、物墮聲也。㊄或は墖(3−5177)に作り、また鞳(11−41071)に作る。〔集韻〕塔、或从レ沓、亦作レ鞳。㊅姓。〔正字通〕塔、姓、元廬州總管塔海。


呉越王金塗塔（金石索）

參考 塔(5−12508)は別字。

【塔影】1 タフエイ 塔のかげ。〔宋之問、遊二法華寺一詩〕臺香紅藥亂、塔影綠篁遮。〔綦母潛、題二靈隱寺山頂禪院一詩〕塔影挂二清漢一、鐘聲和二白雲一。〔司空圖、上二陌梯寺一懷二舊僧一詩〕塔影蔭二泉脈一、山苗侵二燒痕一。

【塔影園】2 タフエイヱン 室名。㊀明、文肇祉(5−13450··1026)の室名。㊁清、顧苓(12−43689··205)の室名。

【塔影樓】3 タフエイロウ 清、呉廷鈐(2−3365··792)の室名。

【塔下】4 タフカ 塔のした。〔溫庭筠、開聖寺詩〕竹閒泉落山廚靜、塔下僧歸影殿空。

【塔海】5 タフハイ 元の人。政治家で武人。官は資善大夫。〔元史、一百二十二〕。

【塔花】6 タフバナ 草の名。脣形科の多年草。葉は卵形で粗鋸齒を有し、初夏より淡紅色の小花を開き、莖を圍んで塔狀をなす。

【塔溝】7 タフコウ 山名。滿洲遼寧省本溪縣の東南。金を產す。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都揮使司、龍門衞、大松山〕塔溝山、在二衞西十五里一、一名雙塔山、兩峯極高、各項有二浮圖一、元至元中建。

【塔像】8 タフザウ 塔をいふ。〔宋書、阿羅國傳〕造二諸塔像一。

【塔山】9 タフザン 山名。㊀山東省濰縣の東南。古の覆甑山。水經注の塔山。〔水經、巨洋水注〕斟亭、在二溉水東一、水出二桑犢亭東、覆甑山一、故高密郡治、世謂二之故郡城一、山謂二之塔山一、水曰二鹿孟水一、亦曰二戾孟水一、皆非也。〔明一統志〕塔山、在二萊州府濰縣東南六十里一、東丹河源發二於此一。㊁江蘇省南通縣の南。狼山と接す。〔太平寰宇記〕通州南至二狼山大江一十五里、與二塔山・軍山・馬鞍山・白刃山一、並在二江海之際一。㊂浙江省呉興・武康二縣の閒。莫干山の最高處。海拔二千二百五十尺。眺望絕佳。㊃貴州省安順縣の南。〔貴州通志〕元泰定二年、建二塔其上一、常有二白光一、自二塔頂一出、山多二樹木一、四時青葱。㊄甘肅省湟源縣の西南。塔爾寺がある。㊅滿洲遼寧省錦西縣の西南。㊆滿洲遼寧省錦西縣の境、舊安昌縣の永和村にあつて、上に塔がある。

【塔思】10 タス 元の人。木華黎の孫。武將。卒年二十八。〔元史、一百二十九〕。

【塔柹】11 タフシ 樹の名。柹の一種。〔本草、柹〕集解、宗奭曰、柹有二數種一、云云、塔柹、大二于諸柹一、去レ皮挂二木上一、風日乾レ之佳、火乾者、味不二甚佳一、其生者、可下以二溫水一養去中澀味上也。

【塔爾】12 ター ル 寺の名。甘肅省湟源縣の西南の塔山に在る。黃教の大寺。

【塔城】13 タフジヤウ ㊀關の名。雲南省麗江縣の西北。舊の巨津州の地。㊁道名。民國、置く。新疆省に屬し、塔城・額敏・沙灣・烏蘇の四縣を管轄す。㊂縣名。民國、置く。新疆省額敏縣の西北。漢の匈奴の右地。三國の鮮卑の右部。北魏の高車・蠕蠕の地。周・隋は突厥に屬す。乾隆の閒に版圖に入れ、名を塔爾巴哈臺と改めた。露國の境に近く、邊防の要地。

【塔出】14 タチユ ㊀元の人。蒙古の札剌兒氏。官は遼陽等處行中書省平章政事。〔元史、一百三十三〕。㊁元の人。武人。官は江西都元帥・中書左丞・行中書省事に至る。〔元史、一百三十五〕。

【塔嶼】15 タフシヨ 島の名。福建省東山縣の東。山頂に石塔がある。

【塔松】16 タフシヨウ 塔の形をした松。〔名山記〕成都娑羅平有二塔松一、狀如レ杉而葉圓細、亦不レ能レ高、重重偃蹇如二浮圖一。

【塔勢】18 タフセイ 塔の聳え立つて居る有樣。〔岑參、與二高適・薛據一同登二慈恩寺浮圖一詩〕塔勢如二湧出一、孤高聳二天宮一。

【塔尖】19 タフセン 塔の尖端の所。塔頭。〔畫繼〕徽宗時、益興二畫學一、如二進士科一、下レ題取レ士、立二博士一、考二其藝能一、所レ試之題、如三亂山藏二古寺一、魁則畫二荒山滿幅一、上出二幡竿一、以見二藏意一、餘人乃露二塔尖或鴟吻一、往往有下見二殿堂一者上、則無三復見二藏意一矣。〔薩都剌、過二浦城一詩〕人家鷄犬隔二凝嵐一、城郭微茫見二塔尖一。

【塔頂】20 タフチヤウ 塔のいただき。〔李洞、和三劉駕博士贈二莊嚴律禪師一詩〕松根穴蟻通二山遠一、塔頂巢禽見二海微一。〔貢父詩話〕俗謂二塔頂一爲二天門一、蘇國老詩曰、上到二天門最高處一、不レ能レ容レ物只容レ身、以譏二在レ位者一。

【塔甸】21 タフデン 地名。滿洲遼寧省長白縣治。鴨綠江の北岸、十八・十九兩道溝の閒、江を隔てて朝鮮と對する。唐が高麗を伐つた時兵を用ひた處。

【塔燈】22 タフトウ 塔のともしび。〔法苑珠林〕明月寶珠及摩尼珠等、用爲二塔燈一。

【塔頭】23 タフトウ タツチユウ 佛㊀塔の先。塔尖。〔百緣經〕以二摩尼寶珠一、蓋二其塔頭一。〔廣異記〕答曰、師心在二塔頭相輪邊鈴中一。㊁塔婆のほとり。頭は畔。師僧入滅の後、その徒弟が師德を慕つて塔のほとりを去らず、その地に庵を結んだ。之を塔頭

といふ。〔庭訓往來、十月〕禪家者、堂頭和尚、東堂・西堂・云云、塔頭坊主。❷一山内の寺院。大きな寺の境内にある澤山の子院。〔臨濟錄〕師到㆓達磨塔頭㆒、塔主云、長老先禮㆑佛先禮㆑祖、師云、佛祖俱不㆑禮。

【塔婆】24（タフバ） ❶［佛］梵語 stūpa の音譯。卒塔婆の略。高顯・墳・靈廟などと譯す。土又は石を高く積み上げ、中に佛舍利を藏める樣に作つた一種の墓標。〔釋氏要覽、下、送終〕立塔、梵語塔婆、此云㆓高顯㆒、今略稱㆑塔也。❷細長い板に五輪を刻み卒堵婆の形に象り、梵語等を書き墓石の背後に建てるもの。〔源平盛衰記、十九、聞性檢㆓八員㆒事〕藥王菩薩は八萬の塔婆を立てて。

【塔畔】25（タフハン） 塔のほとり。〔梁川星巖、御塔門詩〕薄夜潮聲驅㆓萬馬㆒、平公塔畔月如㆑弓。

【塔廟】26（タフベウ） 佛塔と祖廟。〔顏氏家訓、歸心〕豈今磬㆓井田㆒、而起㆓塔廟㆒。〔羊士諤、西郊蘭若詩〕雲天宜㆓北戶㆒、塔廟似㆓西方㆒。〔資治通鑑、梁紀〕（武帝、天監十五年）塔廟之盛、未㆓之有㆒也。〔注〕漢永明中、佛法入㆓中國㆒、佛弟子收㆓奉舍利㆒建㆓宮宇㆒、號爲㆑塔、亦胡言、猶㆓宗廟㆒也、故世稱㆓塔廟㆒。

【塔本】27（タペン） 元、伊吾廬の人。諡は忠武。武人。官は行省都元帥。〔元史、一百二十四〕。

【塔輪】29（タフリン） 塔の最上にある相輪。〔李洞、登㆓圭峯舊隱㆒寄㆓薦福棲白上人㆒詩〕返照塔輪邊、殘霖滴幾懸。

【塔嶺】30（タフレイ） 山名。❶安徽省婺源縣の東北。❷浙江省分水縣の西南。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、鄞縣〕塔嶺山、府南四十里、環列二十三峯引而南、岡嶺相接、最爲㆓深險㆒、與㆓奉化㆒接㆑界、有㆓塔山巡司㆒。

【塔下周】31（タフカシウ） 地名。浙江省義烏縣の南。黃土を產す。

【塔克世】32（タクシ） 明の覺昌安の第四子。清の太祖努兒哈赤の父。明人は他失と稱す。覺昌安が阿台に入つて城を圍んだとき、父と共に城を破つたが、俱に戰死した。追尊して顯祖宣皇帝といふ。〔清太祖實錄〕。

【塔察兒】33（タチヤール） 元の人。博爾忽の從孫。武人。官は行省兵馬都元帥。〔元史、一百二十九〕。

【塔士墾】34（タシケント） 塔什干(36)を見よ。

【塔子溝】35（タフシコウ） 地名。滿洲熱河省淩源縣をいふ。

【塔什干】36（タシユカンド） ソヴイエト聯邦ウエズベグ共和國の都會。Tashkand の音譯。

【塔什罕】37（タシハン） 城の名。西藏阿里部印度河の南岸。印度に入る要道。

【塔射園】38（タフシヤエン） 清、張照(**4**－**9812**··473)の室名。

【塔齊布】39（タチプ） 清、滿洲鑲黃旗人。字は知亭。諡は忠武。三等侍衞より湖南都司となる。曾國藩、一見して之を器とし、其の忠勇、大いに用ふべきを薦む。功を積みて湖北提督に至り、每戰皆、士卒に先だつ。後、九江を攻めて死す。〔清史稿、四百十五〕・〔清史列傳、四十四〕・〔續碑傳集、五十〕・〔國朝先正事略、二十六〕。

【塔塔兒】40（タタール） ❶もとの女眞の國の附近に居た蒙古族。一時勢力を振つたが、後、鐵木眞に滅ぼされた。〔讀史方輿紀要、山西、外夷附考、蒙古〕蒙古、契丹別部也、契丹部落之小者、曰㆓蒙古㆒、曰㆓泰赤烏㆒、曰㆓塔塔兒㆒、曰㆓克列㆒。❷元、劉世亨(**2**－**2224**··1103)の賜名。

【塔塔兒台】41（タタールタイ） 元の人。孔溫窟哇の第三子帶孫郡王の子孫。官は東平達魯花赤。〔元史、一百二十九〕。

【塔塔兒部】42（タタールブ） ❶地名、蒙古の東。❷塔爾巴哈台(57)の❶❷に同じ。

【塔布囊】43（タフナウ） 蒙古で王公の子弟に授ける爵名。輔國公の次で、台吉と同列。〔清會典事例、理藩院、設官、內蒙古部落官制〕將㆓該盟長・副盟長及該盟內管旗之札薩克王・貝勒・貝子公・台吉・塔布囊等㆒、開列請簡。〔清國行政法汎論、皇室、外藩封號〕六爵以外、別有㆓臺吉及塔布囊㆒。Tabunang

【塔米爾】44（タミール） 川の名。外蒙古三音諾顏部の東北。源は杭愛山脈の庫庫嶺。鄂爾坤河に入る。一名、他米勒。〔清史稿、地理志〕外蒙古、賽音諾顏部、中左末旗。〔注〕雍正九年晉和碩親王世襲佐領四牧地、當㆓塔米爾・哈綏・齊老圖三河源㆒、云云、塔米爾河亦曰㆓他米勒㆒、有㆓南北兩源㆒、南源出㆓杭愛山北麓㆒、在㆓鄂爾坤河之西㆒者、曰㆓附索郭時河㆒、西北流合㆓三澗㆒而東北流、有㆓西北來二水㆒皆會、又東北始曰㆓塔米爾河㆒。

【塔剌渾】45（タラホン） 元、史弼(**2**－**3249**··140)の一名。

【塔里赤】46（タリチ） 元、康里の人。幼くして穎異。長じて戎幕に參じ、軍馬を調度して事宜に合す。戰功を以て官は福建招討使に至る。諸盜を擒討し、交趾を征し、黃聖許等を擊破し、浙東宣慰使に遷つて卒す。〔元史、一百三十五〕・〔新元史、一百六十一〕。

【塔里木】47（タリム） ❶川の名。新疆省南路に在り、羅布淖爾に入る。喀什噶爾・葉爾羌・和闐の三河が合流して塔里木河となる。〔清會典、戶部〕新疆、其川塔里木。〔注〕塔里木河凡三源、一曰㆓喀什噶爾河㆒、出㆓疏勒州西南葱嶺㆒、名㆓雅滿雅爾河㆒、東流北納㆓赫色勒河㆒、東流經㆓烏什廳溫宿州境㆒、一曰㆓葉爾羌河㆒、出㆓莎車州西南葱嶺㆒、西流南納㆓的雜布河㆒、東流經㆓過宿州境㆒、一曰㆓和闐河㆒、出㆓和闐南山㆒、北流至㆓溫宿州城南㆒、與㆓葉爾羌・喀什噶爾兩河㆒合、又北納㆓溫宿州河㆒、東流經㆓庫車㆒、北納㆓拜河㆒、東流經㆓客喇沙爾㆒、北納㆓開都河㆒、東流又名㆓額爾句河㆒、至㆓吐魯番南㆒、入㆓羅布諾爾㆒。❷地名。新疆省沙雅縣の南。回語で、肥えて耕すによい地の意。葉爾羌・喀什噶爾・和闐の三河が此處で合流し、塔里木河となる故に名づく。

【塔勒奇】48（タレチ） 山名。新疆省綏定縣。甚だ險峻。乾隆二十年に伊犂を平げた時、軍ここより入る。二十六年築城す。伊犂七城の一。

【塔勒岱】49（タロタイ） 清、滿洲鑲白旗人。姓は博和哩氏。諡は勇壯。康熙中、愛星阿に從つて雲南より緬甸に入り、明の桂王を追擒して功あり、前鋒侍衞を授けらる。吳三桂・王輔臣の討伐に從ひ、鑲白旗蒙古都統に擢んでらる。〔清史稿、二百六十四〕・〔清史列傳、七〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十四〕。

【塔古努喇】50（タクヌラ） 村の名。新疆省于闐縣の西南。もと回官の駐在所。

【塔失不花】51（タシプホ） 元の人。高天錫の孫。成宗、祖職を襲ぐことを命じたが、喪に居るを以て辭す。累遷して大司農に至る。英宗が東宮に居つた時、前代の嘉言善行を撰集して承華事略と名づけ、并せて豳風圖を畫いて進む。帝、之を嘉し、命じて東宮に置き、太子をして時に觀省せしめた。後、休歸を乞ひ、卒す。〔新元史、一百二十四〕。

【塔塔統阿】52（タタトンア） 元、畏兀兒の人。深く本國の文字に通ず。乃蠻の大敭可汗に尊ばれて傅となり、金印錢穀を掌る。太祖に擒へられ、後、左右に待す。〔元史、一百二十四〕。

【塔不已兒】53（タフイル） 元の人。東呂糺氏。武人。官は征行萬戶。〔元史、一百二十三〕。

【塔布里士】54（タフリズ） 波斯第二の大都會。商業の要地。Tabriz

【塔海帖木兒】55（タハイチムール） 元、答答里帶の人。四川及び諸蠻の征伐に功をたて、最後に也速答兒の西征に從つて終る所を知らず。〔元史、一百三十五〕。

【塔斯馬尼亞】56（タスマニヤ） 濠州東南海上の島。濠洲聯邦の一。Tasmania

【塔爾巴哈台】57（タールバハタイ） ❶嶺の名。一名、馬斯達山。天山北出の支脈。〔清史稿、地理志〕新疆、塔爾巴哈台直隸廳。〔注〕卡倫六廳境、東循㆓哈巴爾烏蘇塔爾巴哈台山梁㆒。❷廳の名。清、置く。一名、塔城廳。故治は、今の新疆省塔城縣。〔清史稿、地理志〕新疆、塔爾巴哈台直隸廳、乾隆三十一年、改築㆓城於楚呼楚㆒、名曰㆓綏靖㆒、易㆓其地㆒、名爲㆓塔爾巴哈台㆒。

【塔失帖木兒】58（クシチムール） 元末、康里の人。大司農・中書平章政事を歷任し、江浙行省左丞相の職を奉じたが、張士誠の亂に毒を仰いで死んだ。〔新元史、一百二十四〕。

【爲㆑塔已將㆑及㆑尖】59（タフヲツクリステニマサニセンニオヨバントス） 仕事が殆んど完成するまでになつてゐるから毀傷するなといふ意。尖は、とがつてゐる頂きをいふ。〔通俗編、居處、爲㆑塔已將㆑及㆑尖〕俗語、云云、喩㆓功垂㆑成莫㆑毀也、五代史李崧傳、晉高祖深德㆑之、陰遣㆑人謝曰、爲㆓浮屠㆒者、必合㆓其尖㆒、蓋欲㆔崧之始終成㆓己事㆒、與㆓俗語㆒略同。

【塕】5333
㊀ヲウ ヲ 〔集韻〕鄔孔切 董
㊁ヲウ ヲ 〔玉篇〕烏公切 東

㊀㊁❶ちり。〔玉篇〕塕、塵也。❷塵が起る。塕埄を見よ。❸物のさま。塕然・塕薆を見よ。

【塕薆】1 ヲウアイ 草木の盛なさま。〔史記、司馬相如傳〕觀二衆樹之塕薆一兮、覽二竹林之榛榛一。

【塕然】2 ヲウゼン 風の起るさま。〔宋玉、風賦〕庶人之風、塕然起二于窮巷之閒一。〔注〕善曰、塕然、風起之貌也。

【塕埄】3 ヲウホウ 塵が起る。〔廣韻〕塕、塕埄、塵起。

【㙜】5334 チ 墀(3－5404)に同じ。〔集韻〕墀、或作レ㙜。

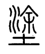
【塖】5335 シヨウ 塍(3－5237)に同じ。〔集韻〕塍、或作レ塖。

【塦】5336 イン 垔(3－5041)の古字。〔說文〕塦、古文垔如レ此。

【塼】5337 ホ フ 〔集韻〕彼五切 麌

人名。〔集韻〕塼、闕、人名、衞有二石塼一。

【塗】5338
㊀ト ヅ 〔集韻〕同都切 虞 ㄊㄨˊ t'u²
㊁ト ヅ 〔集韻〕徒故切 遇 ㄉㄨ tu
㊂タ ダ 〔集韻〕直加切 麻


小篆

㊀❶どろ。ひぢ。〔說文新附〕塗、泥也、从レ土涂聲。〔廣雅、釋詁三〕塗、泥也。〔孟子、公孫丑上〕坐二於塗炭一。〔注〕塗、泥也。〔漢書、敍傳上〕振二拔洿塗一。〔注〕師古曰、塗、泥也。❷ぬかるみ。〔漢書、東方朔傳〕塗者、漸沮徑也。〔太平御覽、地部、土〕尚書、禹貢曰、揚州、土塗泥、馬融曰、漸洳也。❸けがす。けがれる。まみれる。〔莊子、讓王〕其並二乎周一、以塗二吾身一也、不レ如三避レ之以潔二吾行一。〔班固、西都賦〕草木塗レ地。〔注〕善曰、廣雅曰、塗、汙也。❹ぬる。ふさぐ。かざる。〔釋名、釋宮室〕塗、杜也、杜二塞孔穴一也。〔穀梁、襄、二十四〕臺榭不レ塗。〔注〕塗、塗飾也。❺厚いさま。塗塗(55)を見よ。❻みち。途(11－38882)に通ず。〔論語、陽貨〕遇二諸塗一。〔釋文〕塗、字當レ作レ途。〔皇疏〕塗、道路也。❼涂(6－17518)に通ず。〔禮、王制〕士遇二之涂一、〔釋文〕涂音徒、本又作レ塗。〔禮、內則、涂皆乾、釋文〕涂、本亦作レ塗。❽姓。〔通志、氏族略、平聲〕塗氏、風俗通、漢有二諫議大夫塗惲一、又塗子眞治二尚書一、宋登二進士第一、有二塗會一。㊁❶めつき。鍍(11－40607)に通ず。〔集韻〕鍍、金飾也、或作レ塗。❷みち。〔後漢書、張衡傳〕雲師䨺以交集兮、凍雨沛其灑レ塗。〔文選、張衡、思玄賦〕凍雨沛其灑レ途。㊂❶低くじめじめした土地。濕地。〔集韻〕塗、沮洳也。❷かざる。〔集韻〕塗、飾也。❸或は涂(6－17518)に作る。〔集韻〕塗、或省。

名乘 ミチ。

【塗鴉】1 アト ❶なすりゑがいた鳥のやうに見える字。へたな字。惡筆の文字。金釘流。ひじきの行列。〔鐳炳、暮春寫懷四飽詩〕病目塗鴉不レ成レ字、粉牋香墨惜二烏絲一。❷紙を墨で眞黑に塗りつぶすこと。塗抹詩書(72)を見よ。

【塗乙】2 トイツ 塗乚の誤。塗乚(49)を見よ。

【塗惲】3 トウン 漢、平陵の人。字は子眞。學者。古文尚書を徐敖に受く。〔前漢書、八十八〕。

【塗遠】4 トエン みちの遠いこと。〔史記、伍子胥傳〕吾日暮塗遠、吾故倒行而逆二施之一。

【塗汙】5 トヲ けがしよごす。〔漢書、王尊傳〕塗二汙宰相一、摧二辱公卿一、輕二薄國家一。

【塗屋】6 ヌリヤ 外面を土塗りにした土藏造りの家。〔運步色葉集〕塗屋。

【塗下】7 ヌリシタ 漆塗りの下地。

【塗歌】8 トカ 路上でうたふ。又、其の歌。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕塗歌邑誦、以望二屬車之塵一者久矣。

【塗歌里詠】9 トカリエイ 塗歌里抃に同じ。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕老安少懷、塗歌里詠。

【塗歌里抃】10 トカリベン 路を行く人も里人もうたひ、手を打つてはやす。國民がこぞつて太平を謳歌するに喩へる。塗歌里詠。〔沈約、賀二齊明帝登レ祚啓一〕塗歌里抃、載懷二鳧藻一。

【塗改】11 トカイ 文字をぬり消して書き改める。塗竄。〔李商隱、韓碑詩〕點二竄堯典舜典字一、塗二改清廟生民詩一。

【塗改添注】12 トカイテンチユウ 塗乚(49)を見よ。〔十駕齋養新錄、十〕鄉會試有二塗改添注字數之例一、洪容齋引二貽子錄一云、燭下寫試無二誤筆一、卽題二其後一云、並無二楷改塗乙注一、如有二卽言二字數一、蓋唐宋已有レ之。

【塗巷】13 トカウ 町すぢ。ちまた。街衢。〔禮、王制〕宮室塗巷。〔陸機、辨亡論上〕旌命交二於塗巷一。〔南史、何遠傳〕遠在レ官、好開二塗巷一、修二葺牆屋一。

【塗膏】14 トカウ ❶ぬつたあぶら。〔吳師道、剪燈詩〕騰光宣二秉炬一、透色賤二塗膏一。❷t'u² kao¹ 顏を塗る。

【塗柑】15 トカン 柑橘の一種。多く泥土に產する。〔橘錄〕柑橘、宜二斥鹵之地一、四邑皆距二江海一不二十里一、凡圃之近二塗泥一者、實大而繁、味尤珍、耐レ久不レ損、名曰二塗柑一、販而遠適者、遇二塗柑一則爭レ售。

【塗机】16 ヌリヅクヱ 漆塗りの机。

【塗塈】17 トキ 泥で壁を塗ること。〔書、梓材〕若レ作二室家一、既勤垣墉、惟其塗塈茨。〔蔡傳〕塗塈、泥飾也。

【塗歸】18 トキ 制書の文字をぬり消し書き改めて奏還すること。〔唐書、百官志二〕門下省給事中四人、詔敕不レ便者、塗竄而奏還、謂二之塗歸一。

【塗裘】19 トキウ 春秋、魯の邑。魯の隱公の隱居しようとした地。轉じて、退隱の地をいふ。菟裘(9－31189··4)の❶に同じ。〔公羊、隱、四〕吾使レ脩二塗裘一、吾將レ老焉。〔注〕塗裘者、邑名也。

【塗弓】20 ヌリユミ 漆塗りの弓。〔今川大雙紙〕ぬり弓に白弦をかく可からず。

【塗逕】21 トケイ みち。道路。〔列子、楊朱〕雖二山川阻險、塗逕脩遠一、無レ不二必之一。

【塗謙】23 トケン 元、高安の人。字は伯益。號は雲溪道人。官は懷遠大將軍・同知廣東宣慰司。〔尚友錄、三〕。

【塗源】24 トゲン 元、高安の人。字は源叟。早く父を失ひ、母に事へて孝。延祐中、黎州の知に除せられたが、母老いたるを以て赴かず。〔尚友錄、三〕。

【塗工】25 トコウ 壁をぬる職人。かべぬり。左官。圬人。〔通典、職官、秩品四〕正二命、塗工。

【塗覯】26 トコウ 互に相知らない人と道で知り合ふ。〔王褒、四子講德論〕非レ有二積素累舊之歡一、皆塗覯卒遇、而以爲レ親者也。

【塗采】27 トサイ ぬり飾る。〔鹽鐵論、散不足〕杠中者錯鑣塗采、珥靳飛鈴。

【塗瘡】28 トサウ 疵にぬりつける。〔參同契〕和レ膠補レ釜、以レ硇塗レ瘡、飛龜舞蛇、終不レ得矣。

【塗像】29 トザウ 佛像に色彩を施す。又、其の像。〔後漢書、陶謙傳〕作二黃金塗像一、衣以二錦綵一。

【塗山】30 トザン ❶山名。㋑安徽省懷遠縣の淮河の東岸。一名、當塗山。一說、禹、塗山氏を娶る所といふ。〔左氏、哀、七〕禹會二諸侯于塗山一、執二玉帛一者萬國。〔注〕塗山、在二壽春縣東北一。〔史記、夏紀〕禹曰、予辛壬娶二塗山一、癸甲生レ啓。〔注〕索隱曰、皇甫謐云、今九江當塗有二禹廟一、則塗山在二江南一也。〔清一統志〕國語・史記皆云、禹會二諸侯於會稽一、會稽亦有二塗山一、吳越春秋亦以二塗山一在二會稽一、王楙野客叢書又云、塗山有レ四、一會稽、一渝州、一濠州、四當塗、而蘇軾・蘇轍塗山詩、皆指二濠州一、與三杜注左氏傳在二壽春東北一合、則以二塗山在二懷遠縣一爲レ正。㋺浙江省紹興縣の西北。禹、塗山氏を娶る所と傳へる。〔越絕書、越絕外

傳記、地傳〕塗山者禹所㆑取㆑妻之山也、去㆑縣五十里。〔會稽志〕塗山在㆓山陰縣西北四十五里㆒。㊇四川省巴縣の東。一說、禹、塗山氏を娶る所といふ。〔華陽國志〕禹娶㆓塗山㆒、今江州塗山、是也。〔水經、江水注〕江之北岸有㆓塗山㆒、常璩・庾仲雍竝言、禹娶㆓于此㆒。〔淸一統志〕禹娶在㆓壽春當塗㆒、非㆓江州塗山㆒也。❷古の國名。〔史記、夏紀〕禹曰、予辛壬娶㆓塗山㆒、癸甲生㆑啓。〔注〕集解曰、孔安國曰、塗山、國名。〔漢書、地理志上〕九江郡、縣十五、當塗。〔注〕應劭曰、禹所㆑娶塗山侯國、有㆓禹虛㆒。❸禹の妃、啓の母。〔列女傳、母儀、啓母塗山傳〕啓母者、塗山氏長女也、夏禹娶以爲㆑妃、既生㆑啓。〔列女傳、仁智、魏曲沃負傳〕夏之興也以㆓塗山㆒、亡也以㆓末喜㆒。

【塗山歌】31（トザンカ）夏の禹が塗山氏の女を娶つた時の歌。〔呉越春秋、越王無余外傳〕禹三十未㆑娶、行到㆓塗山㆒、恐㆔時之暮失㆓其度制㆒、乃辭云、吾娶也必有㆑應矣、乃有㆓白狐九尾㆒、造㆓於禹㆒、禹曰、白者吾之服也、其九尾者王之證也、塗山之歌曰、綏綏白狐、九尾痝痝、我家嘉夷、來賓爲㆑王、成㆑家成㆑室、我造㆓彼昌㆒、天人之際、於㆑茲則行明矣哉、禹因娶㆓塗山㆒、謂㆓之女嬌㆒。

【塗竄】32（トザン）文章の語句をぬり消して書き改める。筆を加へる。塗改。改竄。〔唐書、百官志二〕詔敕不㆑便者、塗竄而奏還。

【塗師】33（ヌシ ヌリシ）うるし細工をする職人。漆工。漆匠。〔庭訓往來、四月〕塗師・蒔繪師・唐紙師。〔下學集、上〕塗師（ヌシ）漆人。〔運歩色葉集〕塗師（ヌリシ）。

【塗厠】34（トシ）かはやを塗る。〔戰國、趙策〕變㆓姓名㆒、爲㆓刑人㆒、入㆑宮塗㆑厠、欲㆔以刺㆓襄子㆒。

【塗車】35（トシヤ）泥で作つた車。古の明器。葬儀の時、冢中に埋めるために作られたものの一。〔禮、檀弓下〕塗車芻靈、自㆑古有㆑之、明器之道也。〔集解〕塗車・芻靈、皆送葬之物也、塗車、卽遣車、以㆓采色㆒塗㆓飾之㆒。〔魏志、文帝紀〕塗車芻靈之義。

【塗筍】36（トジユン）海濱でとれる蟲の名。沙巽。沙蒜。なまこ。食用となる。〔閩小紀〕予在㆑閩、常食㆓土筍凍㆒、味甚鮮異、但聞生㆓於海濱㆒、形類㆓蚯蚓㆒、卽沙巽也、謝在㆑杭作㆓泥筍㆒、樂淸人呼爲㆓沙蒜㆒。〔閩雜記〕塗筍生㆓於海灘沙穴中㆒。

【塗松】37（トシヨウ）鎭の名。江蘇省太倉縣の西北。一名、杜松。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、太倉州〕塗松鎭、州東北三十里、鎭有㆓塗松岡㆒、因名。

【塗飾】38（トシヨク）ぬりかざる。塗采。〔禮、檀弓下、塗車、芻靈、集解〕塗車、卽遣車、以㆓采色㆒塗㆓飾之㆒。

【塗人】39（トジン）途上の人。又、互に相知らない人。途人。〔孟子、告子上、好㆓是懿德㆒、集注〕程子曰、性卽理也、理則堯舜至㆓於塗人㆒一也。〔輟耕錄、河南婦死〕婦已妻㆓千戸某㆒、饒㆑子、財情好甚洽、視㆓夫姑㆒若㆓塗人㆒。

【塗水】40（トスイ）川の名。源は湖北省咸寧縣の南の浚水嶺。咸河・西河・金水ともいふ。金口に至り江に入る。金口は一に塗口といふ。陶潛に過㆓塗口㆒詩がある。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府江夏縣〕塗水、府南九十里、一名金水、西北流入㆓于大江㆒、亦曰㆓塗口㆒、亦名㆓金口㆒。

【塗鎖】41 tʻu^2 hsiao^1 帳などを塗り消す。抹殺する。棒を引いて無效とする。

【塗說】42（トセツ）聞いたことを直ちに路上で說く。輕く聞いて妄りに說く。道聽塗說。〔論語、陽貨〕子曰、道聽而塗說、德之棄也。〔漢書、藝文志〕街談巷語、道聽塗說者所㆑造也。

【塗泰】43（トタイ）ふさがることと、とほること。亂と治。否塞。〔宋文帝、北伐詩〕亂極治方形、塗泰由㆓積否㆒。

【塗澤】44（トタク）ぬり飾る。艷をつける。化粧する。〔唐書、則天后傳〕后雖㆓春秋高㆒、善自塗澤、雖㆓左右㆒不㆑悟㆓其衰㆒。

【塗炭】45（トタン）❶泥水と炭火。轉じて、水火の苦しみ。非常な難儀。塗地。〔書、仲虺之誥〕有夏昏德、民墜㆓塗炭㆒。〔傳〕民之危險、若㆘陷㆑泥墜㆑火、無㆗救㆑之者㆖。〔後漢書、光武紀上〕豪傑憤怒、兆人塗炭。〔潘岳、馬汧督誄序〕百姓流亡、頻㆓于塗炭㆒。❷どろとすみ。汚いものの喩。〔孟子、公孫丑上〕如㆘以㆓朝衣朝冠㆒坐㆗於塗炭㆖。〔注〕塗泥、炭墨也。〔韓詩外傳、一〕雖㆑居㆓鄕里㆒、若㆑坐㆓塗炭㆒。

【塗炭之民】46（トタンノタミ）水火の苦しみを受ける民。〔尾藤二洲、豐臣秀吉論〕濟㆓二百餘年塗炭之民㆒、其功誰及㆑之者。

【塗殫】47（トタン）道の盡きはてること。〔司馬相如、上林賦〕道盡塗殫、迴㆑車而還。〔梁書、劉杳傳〕日暮塗殫。

【塗地】48（トチ）❶地にまみれる。一說に、（チヲヌル）と讀んで、地を汚す義といふ。〔史記、高祖紀〕劉季曰、天下方擾、諸侯竝起、今置㆑將不㆑善、壹敗塗㆑地、吾非㆓敢自愛㆒、恐㆓能薄不㆑能㆑完㆓父子兄弟㆒、此大事、願更相推㆓擇可者㆒。〔漢書、蘇武傳〕武曰、武父子亡㆓功德㆒、皆爲㆔陛下所㆓成就㆒、位㆓列將㆒、爵㆓通侯㆒、兄弟親近、常願㆓肝腦塗㆑地、今得㆓殺㆑身自效㆒、雖㆑蒙㆓斧鉞湯鑊㆒、誠甘樂㆑之。〔班固、西都賦〕草木塗㆑地、山淵反覆。❷水火の苦しみ。塗炭の❶に同じ。〔後漢書、申屠剛傳〕令㆘小人受㆓塗地之禍㆒、毀㆓壞終身之德㆒、敗㆓亂君臣之節㆒、汙㆗傷父子之恩㆖。〔蜀志、楊戲傳〕役殷難㆑結、生人塗㆑地。

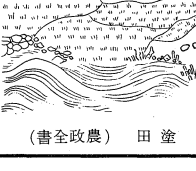
【塗乚】49（トチユ）塗字と乚字。文章を作つて字を消すことと脫字を入れること。一說に、乚をレにつくり、文章に讀み切りのしるしをつけることといふ。〔說文、乚字、段注〕鉤識者、用㆑鉤表㆓識其處㆒也、褚先生補滑稽傳、東方朔上書、凡用㆓三千奏牘㆒、人主從㆓上方㆒讀㆑之、止輒乚㆓其處㆒、二月乃盡、此非㆓甲乙字㆒、乃正レ字也、今人讀書有㆑所㆓鉤勒㆒、卽此、內則魚去㆑乙、鄭曰、乙魚體中害㆑人者名也、今東海鰫魚有㆑骨名㆑乙、在㆑目狀如㆓篆レ㆒也、魚腸名㆑乙耳、不㆑當㆓別有㆑乙也、戉斧之字、从㆑レ爲㆑聲。〔唐試士式〕塗㆓幾字㆒、乚㆓幾字㆒、抹㆓去譌字㆒曰㆑塗、字有㆓遺脫㆒、句㆓其旁㆒而增㆑之曰㆑乚。〔通俗編、文學、塗乚〕唐試士式塗㆓幾字㆒、乚㆓幾字㆒、乚音主、與㆑黈同、文字遺落、鉤㆓其旁㆒以補㆑之、畫作㆓乁形㆒、非㆓甲乙之乙㆒也、又、漢書、東方朔傳、輒乚㆓其處㆒、謂㆓止絕處黈而記㆑之、如㆘今人讀㆑書以㆑朱識㆓其所㆒止作㆗レ形㆖、亦非㆓甲乙之乙㆒也。〔丹鉛總錄〕疾書多㆓塗乚㆒。

【塗箸】50（ヌリバシ）漆塗りの箸。

【塗泥】51（トデイ）どろぶかい。ぬかるみ。〔書、禹貢〕厥土惟塗泥。〔後漢書、陰興傳〕躬履㆓塗泥㆒。

【塗轍】52（トテツ）みちすぢ。塗は途、轍は車のあと。〔世說新語補、忿狷〕丘車騎初領㆓驍騎將軍㆒、不㆑樂㆓武位㆒、謂㆑人曰、我還東掘㆓顧榮冢㆒、江南地方數千里、士子風流、皆出㆓此中㆒、顧忽引㆓諸傖㆒渡、妨㆓我輩塗轍㆒。

【塗田】53（トテン）水邊にある溝田。泥深い水田。〔農政全書、塗田圖說〕塗田、書云、淮海惟揚州、厥土惟塗泥、夫低水種皆須㆓塗泥㆒、然瀕海之地、復有㆓此等田法㆒、其潮水所㆓淤澱㆒、沙泥積㆓于島嶼㆒、或墊溺盤曲、其頃畝多少不㆑等、上有㆓鹹草叢生㆒、候㆑有㆓潮來㆒、漸惹㆓塗泥㆒、初種㆓水稗㆒、斥鹵既盡、可㆑爲㆓稼田㆒、所謂瀉㆓斥鹵㆒兮。〔六部成語、戸部、塗田、注解〕近㆑水泥塗之田也。



塗田（農政全書）

【塗田銀】54（トデンギン）開墾した塗田から納める稅。〔六部成語、戸部、塗田銀、注解〕泥塗汙下之地、新墾成㆑田、應㆑交之租銀。

【塗塗】55（トト）厚く多いさま。一面におほうたさま。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕白露紛以塗塗兮、秋風瀏瀏以蕭蕭。〔注〕塗塗、厚貌。〔謝朓、酬㆓王晉安㆒詩〕梢梢枝早勁、塗塗露晚晞。

【塗桶】56（ヌリヲケ）❶漆塗りの桶。❷形は漆塗りの桶の如く、上に眞綿などを載せて引のばすに用ひる器。〔和漢三才圖會、女工具〕紡塼、今云㆓塗桶㆒乎、按、績㆓痲線㆒者用㆓苧桶㆒、伸㆓蠶綿㆒者用㆓塗桶㆒、其塗桶以㆑瓦作㆑之、黑色巓圓滑也、擴㆓綿於其上㆒、抔伸謂㆓之紡㆒、童女就㆓母師㆒習㆓其事㆒、所謂紡塼當㆓塗桶㆒、或有㆘捲㆑木爲㆓塗桶㆒者㆖、然不㆑如㆓瓦塼之佳者㆒、奈良及大坂多作㆑之。

【塗毒】57（トドク）つまらないものにする。あだをする。〔紅樓夢、七回〕富貴二字、不㆑料遭㆓我塗毒㆒了。

【塗板】58（ヌリイタ）漆でぬつた板。黑板。

【塗殯】59（トヒン）大斂の後の禮。火を防ぐために殯宮の四壁を塗ること。〔儀禮、士喪禮、設㆑熬旁㆓一筐㆒乃塗踊無㆑算、義疏〕邱氏濬曰、古者大斂而殯、累㆑墼塗㆑之、今或漆㆑棺未㆑乾、又南方土卑溼多㆓螻蟻㆒、不㆑可㆑塗㆑殯、姑從㆓其便㆒。

【塗布】60（トフ）ぬりつける。ぬりひろげる。

【塗布藥】61（トフヤク）ぬりぐすり。ひきぐすり。

【塗附】62 フト ぬりつける。汚泥の上に更に汚泥を附ける。不善の人が更に不善を重ねる喩。〔詩、小雅、角弓〕毋レ教二猱升一レ木、如二塗塗附一。〔集傳〕塗泥、附著、云云、如下於二泥塗之上一、加以二泥塗一附上レ之也。

【塗部】63 ヌリベ 古、宮中に仕へて漆器製造の事を掌つた役。漆部。

【塗物】64 ヌリモノ うるし細工の器物。漆器。髹漆。〔書言字考節用集、七〕塗物。

【塗物師】65 ヌリモノシ ぬしや。塗物の細工人。〔人倫訓蒙圖彙、六〕。

【塗粉】66 トフン 粉をぬりつける。〔宋史、食貨志二二〕民所レ輸絹匹重十二兩、疎薄短狹、塗レ粉入レ藥者禁レ之。

【塗屛】67 トヘイ 土のかき。ついぢ。〔鹽鐵論、散不足〕黼繡帷幄、塗屛錯跗。

【塗壁】68 ヌリカベ 塗つたかべ。

【塗篦】69 ヌリノ 漆で塗つた矢の軸。〔平家物語、十一、弓流事〕ぬりのに黒ほろ矧いだる大の矢を持つて。

【塗盆】70 ヌリボン 漆塗りの盆。

【塗抹】71 トマツ ❶ぬり消す。ぬりつける。塗抹詩書を見よ。〔增韻〕塗、抹也、亂曰レ塗、長曰レ抹。〔劉克莊、再獲二一硯一自和詩〕塗抹有二花從一レ筆生。〔瑯嬛記〕信レ筆塗抹、自有二天然之致一。❷ぬつて色をつける。化粧する。〔宋史、蔡攸傳〕或侍二曲宴一、則短衫窄袴、塗二抹青紅一、雜二倡優侏儒一、多道二市井淫媟謔浪語一、以蠱二帝心一。〔剪燈餘話、至正妓人行〕塗沫伊誰識二阿婆一、彈搊競自矜二纖手一。

【塗抹詩書】72 トマツシショ 幼兒は無心で大切な詩書でも塗りつぶす。轉じて、幼兒の義。〔書言故事、子孫類、塗抹詩書〕言二人兒幼一曰二塗抹詩書一、盧仝示二添丁一詩、不レ知四體正困憊、泥レ人啼笑聲呀呀、忽來二案上一翻二墨汁一、塗二抹詩書一如二老鴉一、父憐母惜摑不レ得、卻生二癡笑一令二人嗟一。

【塗滅】73 トメツ ぬりけす。

【塗面】74 トメン 顏を塗る。〔北史、女國傳〕男女皆以二彩色一塗レ面。〔唐書、東女國傳〕被髮以レ青塗レ面。

【塗輿】75 ヌリゴシ 漆塗りの輿。〔滿濟准后記〕正長二年九月二十二日、管領已下大名主人塗輿。

【塗潦】76 トラウ 道の水溜。〔禮、曲禮上〕送レ喪不レ由レ徑、送レ葬不レ避二塗潦一。

【塗笠】77 ヌリガサ 漆ぬりの笠。〔和漢三才圖會、服玩具、菅笠〕塗笠、用二薄片板一紙張レ之、漆黑色、出二於京師及大坂一。

【塗林】78 トリン 國の名。〔陸機、與二弟雲一書〕張騫爲レ漢使二外國一十八年、得二塗林安石榴一也。〔梁元帝、石榴詩〕塗林未二應發一、春暮轉相催。

【塗廩】79 トリン 庫をぬる。〔後漢書、寇榮傳論〕大舜不レ避二塗レ廩浚レ井之難一。〔列女傳、母儀、有虞二妃傳〕瞽叟與レ象謀レ殺レ舜、使レ塗レ廩。

【塗料】80 トレウ ❶ゑのぐ。顏料。❷工事に用ひるぬりしろ。ペンキ・しぶ・ニスの類。

【塗路】81 トロ みち。道途。道路。〔易、繫辭下〕天下同レ歸而殊レ塗、〔疏〕天下萬事、終則同二歸於一一、但初時殊二異其塗路一也。〔魏文帝、與二吳質一書〕塗路雖レ局、官守有レ限。

【塗籠】82 ヌリゴメ 周圍をぬりこめ妻戸から出入するやうに造つた室。古は寢室とした。後世の納戸にあたる。〔宇津保物語、藏開上〕ぬりごめの限り。

【塗籠籐】83 ヌリゴメドウ 全體を籐で卷き、其の上から漆で塗りこめた弓。〔保元物語、官軍方方手分〕ぬりごめ籐の弓。

【塗近正】84 トキンセイ 宋、高安の人。字は尊爵。嘉定中、承務郞を以て致仕す。性理の學に深く、著す所の明倫集は朱子の小學と表裏を爲す。〔四庫提要、九十五〕。

【塗濟亭】85 トサイカウ 元の人。謙の子。字は吉甫。官は寧州判官・永新知州。

【塗之人】86 トノヒト 普通の人。なみなみの人。尋常人。〔荀子、性惡〕塗之人可二以爲一レ禹。〔注〕塗、道路也。

【塗時相】87 トジサウ 明、石屛の人。字は葵宇。萬曆の進士。官は南京太僕卿。〔雲南通志〕。

【塗火浣布】88 トクワクワンプ 防火の布。火浣布(**7－18856・・463**)を見よ。〔後漢書、西域、大秦傳〕織二成金縷罽雜色綾一、作二黃金塗火浣布一。

【塗不レ拾レ遺】89 ミチニオチタルヲヒロハズ 道に落ちてゐる物を拾ふ者が無い。政治のよく行屆いた喩。道不レ拾レ遺。〔戰國、秦策〕朞年之後、道不レ拾レ遺。〔史記、商君傳〕秦民大說、道不レ拾レ遺。

【殊レ塗同レ歸】90 トヲコトニシキヲオナジウス 行ふ道は違ふが、結果は同じ所に落着く。異なつた方面から出て結局同じ所に歸着する。〔易、繫辭下〕天下同レ歸而殊レ塗、一レ致而百レ慮。

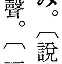
【迷レ塗失レ偶】91 ミチニマヨヒテグウヲウシナフ 路に迷つてゐるうちに友にはぐれる。全くたよる所のない喩。〔顏延之、庭誥文〕慌若二迷レ塗失一レ偶、黶如二深夜撤一レ燭。

【臺】5339

㊀ダイ ㊁ダウ ㊀臺(**9－30161**)の古字。㊁〔字彙〕臺、古臺字。㊂臺(**3－5534**)の譌字。〔正字通〕籒文堂、从二高省一作レ臺、臺卽臺之譌、非二古文臺一也。

【塘】5340

タウ ダウ 〔集韻〕徒郞切 ㄊㄤˊ t'ang² 陽



小篆

❶**つつみ**。〔說文新附〕塘、隄也、从レ土唐聲。〔一切經音義、十七〕長沙謂レ隄爲レ塘。〔後漢書、許楊傳〕因二高下形勝一、起レ塘四百餘里。〔注〕塘、堤、堰レ水也。❷**いけ**。〔廣雅、釋地〕塘、池也。〔潘尼、苦雨賦〕瞻二中塘之浩汗一、聽二長霤之涔涔一。〔王勃、採蓮賦〕枕二箕岫之孤石一、泛二磻溪之小塘一。❸**ためいけ**。〔正字通〕塘、鑿レ池注レ水。〔唐書、地理志五〕泉州清源郡縣、晉江、東一里有二尙書塘一、溉二田三百餘頃一、貞元五年、刺史趙昌置、名二常稔塘一、後昌爲二尙書一、民思レ之、因更レ名。❹**ものみ**。見張り。塘報(16)を見よ。❺通じて隄(**11－41772**)に作る。〔集韻〕塘、通作レ隄。❻唐(**2－3709**)に通ず。〔正字通〕塘、古作レ唐。❼現 浴槽。

【塘凹】1 タウアウ つつみのくぼみ。塘坳に同じ。

【塘坳】2 タウアウ つつみのくぼみ。塘凹。〔杜甫、茅屋爲二秋風一所レ破歌〕高者挂二罥長林梢一、下者飄轉沈二塘坳一。〔陸游、題二齋壁一詩〕隔レ葉晩鶯啼二谷口一、唼レ花雛鴨聚二塘坳一。

【塘椷】3 タウヰ みづあな。〔國史略、武烈天皇〕使下人伏入二塘椷一、自持二三尖矛一、候二其流出一刺上レ之。

【塘園】4 タウエン いけす。〔鹽鐵論、未通〕丁者治二其田里一、老者修二其塘園一。

【塘下】5 タウカ どてした。〔莊子、達生〕被髮行歌、而遊二於塘下一。

【塘岸】6 タウガン 川のつつみ。〔宋書、阮佃夫傳〕塘岸整潔、汎二輕舟一奏二女樂一。

【塘橋】7 タウケウ 鎭の名。❶江蘇省常熟縣の西北。❷江蘇省上海縣の東。❸江蘇省武進縣の東南。

【塘沽】8 タウコ タンクウ 鎭の名。河北省寧河縣の南。河の北岸、京奉鐵路の沿線。商業港。

【塘工】9 タウコウ 海の隄防を修理する工程。〔六部成語補遺、工部、塘工、注解〕修二理海塘一工程。

【塘上】10 タウジャウ つつみのほとり。隄上。〔南史、劉璡傳〕與二友人會稽孔逷一同レ舟入レ東、於二塘上一遇二一女子一、逷目送曰、美而豔、璡曰、斯豈君子所レ宜レ言乎、非二吾友一也、於レ是解レ裳自隔。〔梅堯臣、雜詩絶句〕塘上挽レ船人、塘泥深及レ脛。

【塘上行】11 タウジャウカウ 樂府淸調曲の曲名。一名は蒲生行。〔樂府詩集、相和歌辭、淸調曲、塘上行〕鄴都故事曰、魏文帝甄皇后、中山無極人、袁紹據レ鄴、與二中子熙一娶レ后爲レ妻、後太祖破レ紹、文帝時爲二太子一、遂以レ后爲二夫人一、后爲二郭皇后所一レ譖、文帝賜二死後宮一、臨レ終爲レ詩曰、蒲生二我池中一、綠葉何離離、豈無二蒹葭艾一、與レ君生別離、莫下以二賢豪故一、棄中捐素所上レ愛、莫下以二麻枲賤一、棄中捐菅與上レ蒯、莫下以二魚肉賤一、棄中捐葱與上レ薤、歌錄曰、塘上行、古辭、或云、甄皇后造、樂府解題曰、前志云、晉樂奏二魏武帝蒲生篇一、而諸集錄皆言二其詞文帝甄皇后所一レ作、歎下以二讒訴一見上レ棄、猶幸レ得二新好一不レ遺二故惡一焉、若三晉陸機、江蘺生二幽渚一、言下婦人衰老失レ寵、行二於塘上一而爲中此歌上、與二古辭一同意。〔甄后、塘上行〕蒲生二我池中一、其葉何離離、傍能行二仁義一、莫レ若二妾自知一、衆口鑠二黃金一、使二君生別離一、云云。

【塘棲】12（タウセイ） 鎭の名。浙江省杭縣の北。商業地。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府、錢塘縣、湖州市〕塘棲鎭、在二府東北五十里一、舊有二郡丞一、駐レ此、嘉靖三十四年、督臣張經與レ倭戰二於塘棲一、敗績。

【塘池】13（タウチ） つつみを築きめぐらして水を湛へたいけ。ためいけ。用水池。〔水經、耒水注〕西流謂二之肥川一、川之北有二盧塘一、塘池八頃、其深不レ測。

【塘堤】14（タウテイ） つつみ。土隄。〔和漢三才圖會、喬木類、楝〕按、此樹易レ生易レ長、故多栽二塘堤一。

【塘南】15（タウナン） 明、王時槐(7－20823・・1609)の號。

【塘報】16（タウハウ） ❶堤塘官より本省に送る通報。〔六部成語、吏部、塘報、注解〕由二各省一駐京提塘武官、官名係下由二各省一派二來京城一駐劄上、專爲下傳二送公文一等事上屬二兵部統轄一、抄二錄上諭一、送二往本省一者曰二塘報一。❷t'ang^{2} pao^{4} 見張り兵の知らせ。早馬の知らせ。又、斥候。〔桃花扇、哭主〕淨扮塘報人急上。〔長生殿、偵報〕只因楊丞相要激祿山速反、特著塘報抄送去的。

【塘兵】17（タウヘイ） 斥候。ものみ兵。〔六部成語、兵部、塘兵、注解〕比汛狹小曰レ塘、比レ塘狹小曰レ鋪、此處設レ兵、不レ過二十餘名一、專備下傳二送文報一、巡更査レ夜之用上、不レ足二以禦一レ敵也。

【塘⿰氵卜】18（タウホク） 鎭の名。浙江省浦江縣の西。

【塘網】19（ヒキアミ） 漁師が海中にはる大網。〔和漢三才圖會、漁獵具、塘網〕按、塘網、海中大網也、凡方一里許、配二泛子一、候レ時數人引レ之。

【塘路】20（トオロ） 北海道釧路國の地名。

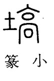
【塘漏】21（タウロウ） つつみのもれ。〔淮南子、人閒訓〕塘漏若二鼷穴一、一墣之所二能塞一也。

【塘灣】22（タウワン） 鎭の名。❶江蘇省上海縣の西南。❷江西省貴溪縣の東南。

【塘它山】23（ツツミタザン） 越前の人。名は公愷。字は公甫・鴻佐。通稱は鴻之佐。號は它山・稚松亭。大田錦城に師事す。江戸若松町に住す。官は越前大野藩儒。嘉永二年二月四日歿す。著に歐北詩話・孝經改觀・香祖副墨・韓非子論解・舊聞新識・虞初東志・藝苑詹言・教學辨・嚴氏詩緝・胡一桂易圖・莊子詮・莊子全解・四王合傳・四王雜事・崇禎事薈・孫子詮・槖駄考・它山咏物詩・它山存稿・它山文草・稚松沾筆・讀論語集注・白鹿洞學規發揮・文章軌範揭・評錦繡段・蒙求啓發・論語折衷がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔稚松亭著述目錄〕。

【塘奥先生】24（タウアウセンセイ） 宋、林石(6－14551・・154)の號。

【塙】5341


小篆

㈠カク 〔集韻〕克角切 覺 ㄑㄩㄝˋ ch'üeh^{4}

㈡カウ／ケウ 〔集韻〕丘交切 肴

㈠❶**土が堅い**。〔說文〕塙、堅不レ可レ拔也、从レ土高聲。〔段注〕堅者、剛土也、拔者、擢也、不レ可レ拔者、不レ可二擢而起一レ之也。❷**土が高い**。〔集韻〕塙、土高也。㈡**土がやせて石が多い**。墩(3－5508)に同じ。〔集韻〕墩、說文、磽也、或作レ塙。邦❶**はなは**。㋑山の差しでた所の義。㋺姓氏。❷**ばん**。姓氏。

【塙保己一】1（ハナハホキイチ） 國學者。姓は荻野。通稱は辰之助、後、千彌、又、保木野一と稱す。號は水母子・溫故堂。武藏國兒玉郡保木野村の人。塙の姓は幼時の師、雨宮檢校須賀一の本姓を冒したもの。五歲にて明を失ひ、十三歲にて國典に志し、刻苦勉勵、中世の事、一も通ぜざるなく、名聲大いに振ひ、記錄・雜書を搜索校訂して群書類從を編纂刊行し、又幕府に請ひて和學講談所を設立す。續群書類從をも編したが刊行に及ばずして、文政四年歿す。年七十七。著に群書類從一千二百七十種、六百六十五冊、續群書類從二千一百三種、一千百八十五冊、武家名目抄・史料・螢蠅抄・花咲松・松山集家集がある。〔溫故堂塙先生傳〕・〔塙前總檢校年譜〕。

【塛】5342

リツ／リチ 〔集韻〕力質切 質

ふさがる。〔集韻〕塛、塞也。

【⿱弱土】5343

ダク／ニヤク 〔集韻〕昵格切 陌

土を水でねる。〔集韻〕⿱弱土、水土和也。

【塜】5344

ホウ 埄(3－5386)に同じ。〔集韻〕埄、崔譔作レ塜。

參考 塚(3－5345)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕塚、同レ冢。塜、同レ埄。

【塚】5345

チヨウ 冢(2－1585)の俗字。〔正字通〕塚、俗冢字。

【⿰土貢】5346

コウ／ク 〔集韻〕古送切 送

地名。⿱贛土に同じ。⿱贑土(3－5633)を見よ。〔集韻〕⿱贛土、地名、或作レ⿰土貢。

【塝】5347

ハウ／バウ 〔集韻〕蒲浪切 漾

❶**かたはらの地**。わき地。〔集韻〕塝、地畔也。❷**ひらたい土地**。吳楚地方の語。〔康熙字典〕塝、吳楚閒方語、土之平阜曰レ塝。❸**くろ**。あぜ。〔康熙字典〕塝、溝塍之畦畔處、亦曰レ塝。

【⿰土砦】5348

サイ 砦(8－24098)の俗字。〔正字通〕⿰土砦、俗砦字。

【塞】5349

小篆

㈠サイ 〔集韻〕先代切 隊 ㄙㄞˉˋ sai$^{1\cdot4}$

㈡ソク 〔集韻〕悉則切 職 ㄙㄟˉ sei^{1} ㄙㄜˋ sê^{4}

㈠❶**へだてる**。もと𡫳(3－7381)に作る。〔正字通〕塞、本作レ𡫳。〔說文〕塞、隔也、从レ土𡫳聲。〔段注〕𨸏部隔下云、塞也、是爲二轉注一、俗用爲二窒𡫳字一、而塞之義、𡫳之形、俱廢矣、邶風・鄘風傳曰、塞、瘞也、塞、充實也、皆謂レ塞爲二𡫳之叚借字一也。❷**とりで**。邊境に設けて外敵を拒む小城。〔廣韻〕塞、邊塞也。〔書、秦誓序、疏〕築レ城守レ道、謂二之塞一。〔禮、月令〕完二要塞一。〔注〕要塞、邊城要害處也。❸**國ざかひ**。邊境。〔荀子、彊國〕築二明堂於塞外一。〔注〕塞外、境外也。❹**東北方の國境**。〔漢書、佞幸、鄧通傳〕盜出二徼外一鑄錢、〔注〕師古曰、東北謂二之塞一、西南謂二之徼一。❺**けはしい地**。〔戰國、秦策〕世主不三敢交二陽侯之塞一。〔注〕塞、隘處也。〔呂覽、有始〕山有二九塞一。〔注〕塞、險阻曰レ塞。❻**神佛にお禮まゐりする**。賽(10－36886)に通ず。〔後漢書、曹節傳〕詔令三大官給二塞具一。〔注〕塞、報レ祠也、字當レ爲レ賽、通用。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕西塞二江源一。〔注〕善曰、塞、謂レ報二神恩一也。❼**さい**。骰子。簺(8－26611)に通ず。〔說文通訓定聲〕塞、叚借爲レ簺。〔莊子、駢拇〕博塞以遊。〔注〕塞、博之類也。〔後漢書、梁冀傳、格五六博、注〕瓊有二五采一、刻爲二一畫一者、謂二之塞一。❽**姓**。通志は入聲となす。㈡の❿を見よ。〔正字通〕塞、姓。㈡❶**とりで**。城郭・牆壍の類。〔左氏、僖、二十〕凡啓塞從レ時。〔注〕門戶道橋謂二之啓一、城郭牆壍

謂二之塞一。❷ふさぐ。㋑とぢる。〔漢書、刑法志〕疑二塞治道一。〔注〕師古曰、塞、謂レ不レ通也。㋺おほふ。〔禮、郊特牲、旅樹、注〕管氏樹塞レ門、塞、猶レ蔽也。〔荀子、大略〕塞而避レ所レ短。〔注〕塞、掩也。㋩とめる。さへぎる。〔管子、君臣〕下愚而易レ塞。〔注〕塞、止也。〔呂覽、論人〕不レ可レ塞也。〔注〕塞、遏也。㋥みたす。つめこむ。〔儀禮、既夕禮〕瑱塞レ耳。〔注〕塞、充窒也。〔荀子、富國〕五味芬芳、以塞二其口一。〔注〕塞、充也。㋭あてる。〔漢書、京房傳〕毋レ使三臣塞二涌水之異一。〔注〕師古曰、塞、亦當也。㋬おぎなふ。〔漢書、于定國傳〕將レ欲三何施以塞二此咎一。〔注〕師古曰、塞、補也。㋣こたへる。〔漢書、終軍傳〕積和之氣塞レ明。〔注〕師古曰、塞、荅也。㋠たつ。たやす。〔國語、晉語八〕是自背二其信一而塞二其忠一。〔注〕塞、絶也、〔戰國、秦策〕塞二轘轅緱氏之口一。〔注〕塞、斷也。❸ふさがる。㋑とぢる。ひらかない。〔淮南子、主術訓〕公道通而私道塞矣。〔注〕塞、閉也。㋺やむ。〔漢書、爰盎傳〕其後語塞。〔注〕師古曰、塞、不レ行也。㋩たえる。〔呂覽、誣徒〕邪僻之道塞矣。〔注〕塞、斷也。〔曹植、雜詩〕國讎亮不レ塞。〔注〕善曰、塞、謂二杜絶一也。㋥とどまる。〔管子、度地〕涵則塞。〔注〕塞、控也。㋭みちる。志氣充滿する。㥶(**4－11037**)に通ず。〔說文通訓定聲〕塞、叚借爲レ㥶。〔詩、邶風、燕燕〕其心塞淵。〔傳〕塞、瘞。〔詩、鄘風、定之方中〕秉レ心塞淵。〔箋〕塞、充滿也。〔禮、孔子閒居〕志氣塞二乎天地一。〔注〕塞、滿也。❹**操が堅い**。〔禮、中庸〕不レ變レ塞焉。〔注〕塞、猶レ實。〔淮南子、主術訓〕外邪不レ入、謂二之塞一。〔後漢書、郅壽傳、傷二晏晏之化一、注〕道德純備、謂二之塞一。❺**やすらか**。〔方言、六〕塞、安也。❻**安からぬさま**。塞塞(53)を見よ。❼或は色(**9－30602**)に作る。〔禮、中庸〕不レ變レ塞焉。〔注〕塞、或爲レ色。❽**月が辛に在ること**。〔爾雅、釋天、月陽〕月在レ辛曰レ塞。❾𡫳(**3－7381**)に同じ。〔集韻〕𡫳、說文、窒也、或作レ塞。❿**姓**。〔通志、氏族略、夷狄大姓〕塞氏、入聲、天竺胡人之姓、郎釋種也。

名乘 セキ。

【塞晏】1（ソクアン） 德のすぐれて大きなこと。文塞晏晏(**5－13455**‥640)の略。尚書堯典の文思安安は、又、文塞晏晏に作る。〔後漢書、鮑壽傳〕誠不レ欲下聖朝行二誹謗之誅一、以傷中晏晏之化上。〔注〕鄭玄注二尚書考靈曜一曰、道德純備、謂二之塞一、寬容覆載、謂二之晏一。

【塞菴】2（サイアン） 明、張民表(**4－9812**‥1533)の字。

【塞意】3（ソクイ） 意をふさぐ。外界との接觸を絶つ。〔論衡、逢遇〕有レ接二具臣之才一、而以御二大臣之知一、必有二閉レ心塞レ意之變一。

【塞圍】4（サイヰ） 邊塞の壘壁。〔北史、魏世祖紀〕築二畿上塞圍一、起二上谷一西至二于河一。

【塞違】5（ソクヰ） 道に違へる者をふさぎとめる。〔左氏、桓、二〕君レ人者、將三昭レ德塞レ違、以臨二昭百官一、猶懼二或失一レ之。〔風俗通、過譽〕昭レ德塞レ違。

【塞邑】6（サイイフ） 要害の邑。〔穀梁、僖、二〕夏陽者、虞虢之塞邑也。〔注〕其地險要、故二國以爲二塞邑一。

【塞噎】7（ソクエツ） のどが詰まってむせぶ。〔文同、蒲生鐘馗詩〕塞噎咽喉脹二臍肚一。

【塞淵】8（ソクエン） 充實して深遠な義。思慮が深く著實なさま。〔詩、邶風、燕燕〕其心塞淵、終溫且惠。〔傳〕塞、瘞、淵、深也。〔漢書、敍傳下〕安世溫良、塞二淵其德一。〔吳志、虞翻傳、注〕會稽典錄曰、丁子賤塞淵好レ德、堂構克擧。

【塞垣】9（サイエン） 長城をいふ。〔晉書、石勒載記上〕東至二于河一、北至二于塞垣一。〔鮑照、東武吟〕後逐二李輕車一、追レ虜窮二塞垣一。〔注〕銑曰、塞垣、長城也。〔隋書、契丹傳論〕折衝之臣、論二奮擊於塞垣之下一。

【塞翁】10（サイヲウ） ❶邊塞を守るおきな。塞翁馬を見よ。❷清、吳山濤(**2－3365**‥586)の號。

【塞翁馬】11（サイヲウガウマ） 人生は禍福常なきもの故、福ありとて喜ぶに足らず、禍ありとて悲しむに足りない喩。北邊長城のほとりに住む老翁の飼養した馬が、或は亡げ或は歸り、之がため禍福の轉々として到來した故事。禍福は糾へる繩の如し。人閒萬事塞翁馬(**1－344**‥60)を見よ。〔淮南子、人閒訓〕近二塞上一之人、有二善レ術者一、馬無レ故亡而入レ胡、人皆弔レ之、其父曰、此何遽不レ爲レ福乎、居數月、其馬將二胡駿馬一而歸、人皆賀レ之、其父曰、此何遽不レ爲レ禍乎、家富二良馬一、其子好レ騎、墮而折二其髀一、人皆弔レ之、其父曰、此何遽不レ爲レ福乎、居一年、胡人大入レ塞、丁壯者引レ弦而戰、近レ塞之人、死者十九、此獨以二跛之故一、父子相保、故福之爲レ禍、禍之爲レ福、化不レ可レ極、深不レ可レ測也。〔熙晦機、寄二徑山虛谷陵和尙一詩〕前度劉郎景定先、宜春風物尙依然、青山湧出黃金色、白日夢昇兜率天、水鳥樹林羅二帝網一、栴檀樓閣接二西乾一、人閒萬事塞翁馬、推レ枕軒中聽レ雨眠。〔書言故事、禽獸比喩類〕塞翁失レ馬、識二福之倚伏一。

【塞下】12（サイカ） とりでのそば。又、長城の下。〔史記、高祖紀〕盧綰與二數千騎一、居二塞下一候伺。〔劉績、征婦詞〕君爲二塞下土一、妾作二山頭石一。

【塞笳】13（サイカ） 邊塞で吹く葦笛。〔梁簡文帝、答二張纘一謝レ示レ集書〕時聞二塢笛一、遙聽二塞笳一。

【塞牙】14 sai^1 ya^2 齒にひつかかる。

【塞角】15（サイカク） 邊城で吹き鳴らす角笛。〔劉得仁、回中夜訪二獨孤從事一詩〕擁レ裘聽二塞角一、酌レ醴話二湘雲一。

【塞拑】16 sai^1 ch'ien^2 コルク拔き。塞鑽。

【塞鴈】17（サイガン） 邊地の雁。〔庾信、燕歌行〕塞鴈嗈嗈度二遼水一、桑葉紛紛落二薊門一。

【塞詰】18（ソクキツ） ふさぎつめる。〔魏志、臧洪傳〕學薄才鈍、不レ足二塞詰一。

【塞墐】19（ソクキン） 窓をふさぎ戶を塗る。冬籠りすること。〔詩、豳風、七月〕穹窒熏レ鼠、塞レ向墐レ戶、〔傳〕穹、窮、窒、塞也、向、北出牖也、墐、塗也、庶人蓽戶。〔箋〕爲二此四者一以備レ寒。

【塞具】20（サイグ） 報賽の具。お禮參りのまつりの道具。〔後漢書、曹節傳〕詔令三大官給二塞具一。〔注〕塞、報レ祠也、字當レ爲レ賽、通用。

【塞外】21（サイグワイ） ❶とりでの外。〔荀子、彊國〕兵不三復出二於塞外一、而令行二於天下一。〔魏志、武帝紀〕引レ軍出二盧龍塞一、塞外道絶不レ通。❷長城の外。邊土。〔史記、衞將軍傳〕其在二塞外一、卒乏レ糧。〔李陵、答二蘇武一書〕涼秋九月、塞外草衰、夜不レ能レ寐。

【塞關】22（サイクワン） 國境のせきしよ。〔左氏、昭、五〕孟仲之子殺二諸塞關之外一。〔注〕齊魯界上關也。

【塞徼】23（サイケウ） 邊境にあるとりで。徼は邊塞。〔漢書、匈奴傳下〕建二塞徼一、起二亭隧一、築二外城一、設二屯戍一。

【塞軒】25（ソクケン） 石王明誠の號。石王塞軒(**8－24024**‥1083)を見よ。

【塞賢】26（ソクケン） 賢者を用ひない。〔白虎通、諫諍〕聖王之制、無二塞レ賢之路一。

【塞原】27（ソクゲン） 源をふさぐ。塞源に同じ。〔左氏、昭、九〕伯父若裂レ冠毀レ冕、拔レ本塞レ原、專弃二謀主一、雖二戎狄一、其何有二余一人一。

【塞源】28（ソクゲン） 源をふさぐ。原因をふさぎとめる。拔本塞源。塞原。〔孟子、梁惠王上、何必曰レ利、集注〕孟子言二仁義一而不レ言レ利、所三以拔レ本塞レ源而救二其弊一。〔淮南子、說林訓〕塞二其源一者竭。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕夏后氏慼レ之、乃堙レ洪塞レ源。〔傳習錄、中〕拔本塞源之論、不レ明二於天下一、則天下之學二聖人一者、將下日繁日難、斯人淪二於禽獸夷狄一、而猶自以爲中聖人之學上。

【塞口】29（ソクコウ） 口につめこむ。又、口を塞ぐ。物を言はせぬ。〔荀子、富國〕五味芬芳、以塞二其口一。〔漢書、溝洫志〕猶下止二兒啼一塞中其口上。

【塞侯】30（サイコウ） 漢、直不疑(**8－23136**‥329)の封號。

【塞鴻】31（サイコウ） ❶邊境の鴻雁。〔白居易、贈二江客一詩〕江柳影寒新雨地、塞鴻聲急欲レ霜天。〔張雨、題二墨蘭一贈三別于一山之二京師一詩〕冥冥返二塞鴻一。❷sai^1 hung^2 男女間の文通の使をするもの。王仙客の蒼頭塞鴻の故事に出づ。

【塞昆】32（サイゴン） 佛領印度支那の南部。交趾支那の首府。現在南ヴェトナムの首都。西貢。柴棍。

Saigon〔成島柳北、塞昆詩〕夜熱侵レ人夢易レ醒、白沙青草滿二前汀一。

【塞草】33 サイサウ 塞地の草。〔鮑照、蕪城賦〕白楊早「落、塞草前衰。

【塞鑽】34 sai¹ tsuan⁴ コルク拔き。塞扭。

【塞子】35 sai¹ tzŭ 甁の栓。塞兒。

【塞耳】36 ソクジ ❶耳につめこむ。字解[二]❷の㊁を見よ。❷耳をふさいで他人の言ふことを聞かないこと。〔列子、力命〕揜レ目塞レ耳。〔淮南子、主術訓〕是猶下塞レ耳而聽二清濁一、掩レ目而視中青黃上「也。

【塞兒】37 sai¹ êrh 甁の栓。塞子。

【塞實】38 sê⁴ shih² 密閉する。しつかり塞ぐ。

【塞上】39 サイジヤウ ❶邊境のとりでのほとり。〔淮南子、人閒訓〕近二塞上一之人、有二善レ術者一。〔杜甫、秋興詩〕江閒波浪兼レ天湧、塞上風雲接レ地陰。〔陳子昂、東征詩〕孤劍將何托、長謠塞上風。❷今の大庾嶺。大庾嶺(**3**-**5831**··2235)を見よ。〔漢書、南粤王趙佗傳〕使下人函二封漢使節一置中塞上上、好爲二謾辭一謝レ罪、發レ兵守二要害處一。〔輿地志〕臺嶺、卽塞上、今名二大庾嶺一。❸sai¹ shang ふさぐ。つめる。

〖塞上勳〗40 サイジヤウノクン 邊陲の戰で立てた勳功。〔孟浩然、送二吳宣從事一詩〕才有二幕中畫一、而無二塞上勳一。

【塞種】41 サイシユ 塞外の種族。〔漢書、西域傳上〕因レ畜隨二水草一、本故塞種也。

【塞職】42 ソクシヨク 仕事に對して誠實の無いこと。〔元稹、授二裴注等侍御史一制〕安可下廻二惑顧慮於豪黠一、而姑以二揖讓步趨之際一爲中塞職上乎。

【塞心】43 ソクシン 心がふさがれる。〔通俗編、性情、塞心〕後漢書烏桓鮮卑傳、其性悍塞、注云、塞、謂レ不レ通、猶三今人言二塞心一矣。

【塞隧】44 ソクスイ 道をふさぐ。〔左氏、襄、十八〕夙沙衞連二大車一以塞レ隧、而殿。

【塞井】45 ソクセイ 井戶をふさぐ。〔左氏、襄、二十六〕若塞レ井夷レ竈、成レ陳以當レ之。

【塞阱】46 ソクセイ おとし穴をふさぐ。〔周禮、秋官、雍氏〕凡害二於國稼一者、春令下爲二阱擭一溝中瀆之上、利二於民一者、秋令二塞レ阱杜レ擭。

【塞性】47 ソクセイ 本然の性質をふさぎおほふ。〔莊子、駢拇〕擢レ德塞レ性、以收二名聲一。〔疏〕塞二其眞性一也。

【塞砌】48 ソクセイ はめふさぐ。〔福惠全書、保甲部、保甲稽查〕宜下將二大門一塞砌、僅上留中方隙上。

【塞聲】49 ソクセイ 破裂音ともいふ。一時氣流をとめて、驟かに氣流を迸出させる聲。注音符號中のㄅ・ㄆ・ㄉ・ㄊ・ㄍ・ㄎの類。

【塞斥】50 サイセキ 邊境のとりでのある不毛の地を開き通ずること。〔漢書、貨殖、宣曲任氏傳〕塞之斥也、唯橋桃以致二馬千匹一。〔注〕師古曰、塞斥者、言下國家斥二開邊塞一、更令中寬廣上。

【塞責】51 ソクセキ 責めをふさぐ。責任をはたす。〔漢書、公孫弘傳〕恐下先二狗馬一塡二溝壑一、終無中以報レ德塞上レ責。〔通俗編、行事、塞責〕韓詩外傳、卞莊子曰、前與レ母處、是以戰而北也、今母歿矣、請塞レ責。〔晉書、庾翼傳〕往年偷二石頭倉米一、皆是豪將輩、而直打二殺倉監督一以塞レ責。〔書言故事、評論類〕塞責、止二塞罪責一。

【塞絕】52 ソクゼツ ふさぎたつ。〔漢書、翟方進傳〕塞二絕姦原一。

【塞塞】53 ソクソク 安からぬさま。〔方言、十〕迹迹屑屑、不レ安也、云云、秦晉謂二之屑屑一、或謂二之塞塞一。〔廣雅、釋訓〕塞塞、不レ安也。

【塞卒】54 サイソツ 邊境のとりでを守る兵士。さきもり。〔漢書、食貨志上〕竊恐二塞卒之食不レ足レ用。

【塞兌】55 ソクタイ 穴をふさぐ。耳目の欲望をふさぎおさへる。〔老子、五十六〕塞二其兌一、閉二其門一。

【塞禱】56 サイタウ ぐわんほどき。賽禱。〔韓非子、外儲說右下〕秦襄王病、百姓爲レ之禱、病愈殺レ牛塞禱。〔管子、小問〕桓公踐レ位、令二釁レ社塞禱一。〔纂詁〕塞、賽同、報祭也。〔漢書、廣陵王胥傳〕女須良巫也、殺レ牛塞禱。

【塞道】57 ソクダウ 道をふさぐ。〔左氏、襄、十八〕衞殺二馬於隘一以塞レ道。〔後漢書、隗囂傳〕使下王元據二隴坻一、伐レ木塞上レ道。

【塞地】58 サイチ 邊塞の地。とりでのある地。塞路。〔史記、荊燕世家〕劉賈爲二將軍一定二塞地一。

【塞住】59 sai¹ chu⁴ ふさぎ止める。さまたげる。

【塞除】60 ソクヂヨ ふさぎのぞく。〔漢書、孔光傳〕若不二畏懼一、有二以塞除而輕忽簡誣一、則凶罰加レ焉。

【塞竇】61 ソクトウ くぐりを閉ぢる。〔左氏、哀、十七〕闔レ門塞レ竇、乃自レ後踰。

【塞慝】62 ソクトク ふさぎかくす。〔逸周書、大戒解〕無レ擅二于人一、塞慝勿レ行二患戚一、咸服二孝悌一乃明。

【塞內】63 サイナイ 長城の內。〔史記、匈奴傳〕單于留二塞內一月餘。

〖塞內岡比亞〗64 セネガンビヤ 西部アフリカの地方名。Senegambia の音譯。

【塞納】65 セーヌ セーヌ河の名。セーヌ(Seine)。佛蘭西北部の河。

【塞馬】66 サイバ 北邊の馬。胡馬。〔庾信、和二趙王送二峽中軍一詩〕胡笳遙驚レ夜、塞馬暗嘶レ羣。〔駱賓王、久戍二邊城一有レ懷二京邑一詩〕忘情同二塞馬一、比德類二宛駒一。

〖塞馬先生〗67 サイバセンセイ 明、馮翁(**12**-**44579**··23)「の號。

【塞備】68 ソクビ みちそなはる。〔荀子、王制〕塞二備天地之閒一、加二施萬物之上一。

【塞鼻】69 ハナビセ 鼻が塞がる病。はなひせ。〔倭名類聚抄、疾病部、病類、塞鼻〕釋名云、鼻塞曰レ齆、洟久不レ通、遂至二窒塞一也。

〖塞鼻力迦〗70 ソクビリキカ 草の名。苜蓿(**9**-**30787**··1)の異名。〔本草、苜蓿〕釋名、木粟·光風草、時珍曰、金光明經謂二之塞鼻力迦一。

【塞布】71 セブ 島の名。フイリツピン群島の一。Cebu の音譯。

【塞汶】72 セバーン 河の名。イングランドの河。ブリストル海峽に注ぐ。Severn の音譯。

【塞閉】73 ソクヘイ ふさぎとぢる。閉塞。

【塞北】74 サイホク 北方。邊土。朔北。〔江淹、侍二始安王石頭一詩〕何如塞北陰、雲鴻盡來翔。〔江總、贈二賀左丞蕭舍人一詩〕江南有二桂枝一、塞北無二萱草一。〔段成式、折楊柳詩〕只向江南並塞北、酒旗相伴惹二行人一。〔歷代名畫記、二、敍師資傳授南北時代〕指事繪形、可レ驗二時代一、其或生二長南朝一、不レ見二北朝人物一、習二熟塞北一、不レ識二江南山川一、游二處江東一、不レ知二京洛之盛一、此則非二繪畫之病一也。

【塞滿】75 ソクマン 一ぱいにみち塞がる。

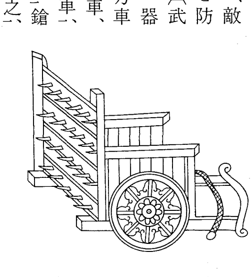
【塞默】76 ソクモク だまる。沈默(**6**-**17189**··370)に同じ。〔顏氏家訓、勉學〕塞默低頭、欠伸而已。

【塞門】77 ソクモン ❶門をふさぐ。〔論語、八佾〕邦君樹塞レ門、管氏亦樹塞レ門。〔江淹、恨賦〕閉レ關卻掃、塞レ門不レ仕。❷サイモン 北方の馬を產する處。〔顏延之、赭白馬賦〕簡二偉塞門一、獻二狀絳闕一。〔注〕善曰、塞、紫塞也、云云、有レ關故曰レ門、良曰、塞門在レ北、出レ馬處也。❸sai¹ men² 栓。呑口。ひねり。

〖塞門脫〗78 sai¹ men² t'uo¹ セメント。塞門德。

〖塞門德〗79 sai¹ men² tê² 塞門脫に同じ。

〖塞門刀車〗80 ソクモンタウシヤ 防戰の具。兩輪車に鎗刀を密布し、城門を塞ぎ、敵の攻壞を防ぐもの。〔武備志、四、器式、塞門刀車圖說〕刀車、以二兩輪車一、自レ後出二鎗刀一、密二布之一、凡爲下敵攻二壞城門一、則以レ車塞上レ之。


塞門刀車（武備志）

【塞藥】81 ソクヤク 肛門、又は陰道に插入する藥。坐「藥。

【塞壅】82 ソクヨウ 塞ぐ。ふさがる。〔易林、大畜之第二十六、无妄〕媒伯無レ禮、自令二塞壅一。

【塞虜】83 サイリヨ 邊塞のゑびす。〔李白、塞下曲〕塞虜乘レ秋下、天兵出二漢家一。

【塞令】84 サイレイ 塞(陣營)の命令、軍規。〔尉繚子、分塞令〕皆營二其溝域一、而彰二明其塞令一。

【塞路】85 ソクロ ❶みちをふさぐ。みちにふさがる。道路に充滿する。〔漢書、刑法志〕赭衣塞レ路、囹圄成レ市。〔法言、吾子〕古者楊墨塞レ路。〔後漢書、崔駰傳〕紛纘塞レ路、凶虐播流。❷サイロ 北方の胡地に生ずる草。〔述異記、下〕蒿莫、一名塞路、生二北方胡地一、古詩云、千里蒿莫艸。

【塞露】86 サイロ 塞地をいふ。〔漢書、匈奴傳贊〕辟二居北垂塞露之野一、逐レ草隨レ畜、射獵爲レ生。

【款レ塞】87 サイヲタタク 塞門を叩いて來り降る。款は叩く。〔史記、太史公自序〕重譯款レ塞。〔漢書、宣帝紀〕百蠻鄉レ風、款レ塞來享。〔注應劭曰、款、叩也、皆叩二塞門一來服從也。

【塞維爾】88 セヴィル 地名。スペインの舊都。グワダルギヴィル河に沿ふ。セヴリヤともいふ。Seville

の音譯。

【塞革丁】89（セゲヂン） 地名。ハンガリヤの都會。タイス河に沿ふ。又、セゲドともいふ。Szegedin

【塞思黑】90（サイシコク） 清、允禟(**1－1338**‥77)の名。

【塞爾赫】91（サイジカク） 清、賽爾赫(**10－36886**‥45)の一名。

【塞爾柱】92（セルジユク） トルコ族の一種。西暦千年頃ブハラ地方に住したこの種族を、酋長セルジユクが統率し、ペルシヤ、シリヤ、小アジア一帶を支配したが、十四世紀にオスマントルコに併呑された。Seldjuk の音譯。

【塞設勒】93（セイシエル） 群島の名。印度洋西部の英國領植民地。Seychelles の音譯。

【塞頭兒】94 sai¹ t'ou² êrh 塞ぐ物。栓。

【塞支道人】95（サイシダウジン） 清、李世熊(**6－14459**‥1553)の號。

【塞爾維亞】96（セルビヤ） 國の名。歐洲バルカンの王國。現在ユーゴースラビヤの聯邦共和國。Servia の音譯。

【塞齊窩集】97（サイセイワシフ） 森林の名。滿洲吉林省吉林縣の東。老嶺の支脈。窩集は森林の意。

【塞獨巴爾】98（セツバル） 港の名。ポルトガル、リスボンの東南。Setubal の音譯。

【塞浦呂斯】99（サイプロス） 島の名。小アジヤの南、地中海中にあり、西暦一八七八年、英領に屬す。キプロス。Cyprus の音譯。

【塞羅尼加】100（サロニカ） 希臘北部の港市。Salonika

【塞巴斯拖堡】101（セヴアストポール） ソヴイエートロシヤ、クリム自治共和國の港市、アヒアルの舊名。Sevastopol の音譯。

【塞拉內華達】102（シエラネバタ） 山脈の名。❶スペイン南部、地中海岸の山脈。❷アメリカ合衆國太平洋岸の山脈。Sierra Nevada の音譯。

【塟】5350 サウ 葬(**9－31448**)の俗字。〔正字通〕塟、俗葬字。

【墸】5351 ケフ コフ 〔集韻〕迄業切 ［葉］

❶つつみ。〔集韻〕墸、隄也。❷いけ。〔玉篇〕墸、堤水也。

【⿱陜土】5352 エイ 瘞(**7－22395**)に同じ。〔集韻〕瘞、或作㆑⿱陜土。

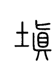
【塎】5353 ギツ ギチ 〔集韻〕逆乙切 ［質］

小山。〔集韻〕塎、小山也。

【塠】5354 ［一］タイ ツイ 〔集韻〕都回切 ［灰］ ［二］サイ スイ 〔類篇〕倉回切 ［灰］

［一］❶**おとす**。或は誰(**10－35860**)に作る。〔集韻〕塠、落也、或从㆑誰。❷𠂤(**1－141**)の俗字。〔正字通〕塠、俗𠂤字、𠂤或作㆑堆、改从㆑追、非。〔說文通訓定聲〕𠂤、亦作㆑塠。❸堆(**3－5211**)に同じ。〔爾雅、釋水、注、呼㆓水中沙堆㆒爲㆓潬墠㆒、釋文〕堆、又作㆑塠。❹磓(**8－24404**)に同じ。〔廣韻〕磓、落也。亦作㆑塠。［二］**せめる**。とがめる。誰(**10－35860**)に同じ。〔類篇〕塠、讁也、或作㆑誰。

【塡】5355
［一］テン デン 〔集韻〕亭年切 ［先］ ㄊㄧㄢˊ t'ien²
［二］チン ヂン 〔集韻〕地鄰切 ［眞］
［三］テン デン 〔集韻〕徒典切 ［銑］
［四］テン デン 〔集韻〕徒偃切 ［阮］
［五］テン デン 〔集韻〕堂練切 ［霰］
［六］チン 〔集韻〕陟刃切 ［震］
［七］シ 〔漢書注〕讀寘



［一］❶**ふさぐ**。うづめる。〔漢書、王尊傳〕以㆑身塡㆓金隄㆒。〔注〕師古曰、塡、塞也。❷**みたす**。〔一切經音義、二〕塡、滿也。❸**加へる**。〔華嚴經音義、上〕塡、加也。❹**ふさがる**。みちる。嵮(**4－8360**)に通ず。〔荀子、大略、嵮如也、注〕嵮、與㆑塡同、謂㆓土塡塞㆒也。〔漢書、溝洫志〕注㆓塡淤之水㆒。〔注〕師古曰、塡淤、謂㆓壅泥㆒也。❺**したがふ**。〔班固、東都賦〕塡㆓流泉㆒而爲㆑沼。〔注〕塡、五臣作㆑順。❻**滿足のさま**。〔荀子、非十二子〕塡塡然。〔注〕塡塡然、滿足之貌。❼**鼓のおと**。〔孟子、梁惠王上〕塡然鼓㆑之。〔注〕塡、鼓音也。❽闐(**11－41446**)に通ず。〔班固、西都賦、闐㆑城溢㆑郭、注〕善曰、鄭玄禮記注曰、塡、滿也、與㆑闐同。❾顚(**12－43628**)に通ず。〔漢書、古今人表〕大塡。〔太平御覽、人事部、師〕大顚。❿窴(**8－25598**)に同じ。〔廣韻〕窴、同㆑塡。⓫添(**7－17698**)に通ず。塡倉(33)を見よ。⓬［現］㋑器物を彫刻して、それに金又は漆などを埋めること。㋺印刷した文書・契約書・證書の類に姓名年月日等、必要の文字を記入すること。［二］❶**ふさぐ**。〔說文〕塡、𡨄也、从㆑土眞聲。❷**久しい**。〔詩、大雅、桑柔〕倉兄塡兮。〔傳〕塡、久也。❸**やすらか**。定まる。〔字彙〕塡、安也、定也。❹或は窴(**8－25598**)に作る。〔集韻〕塡、或作㆑窴。❺通じて陳(**11－41698**)・塵(**3－5388**)に作る。〔集韻〕塡、通作㆓陳・塵㆒。〔詩、豳風、東山、烝在㆓桑野㆒、箋〕古者聲、窴・塡・塵同也。［三］❶**つきる**。**つくす**。殄(**6－16413**)に通ず。〔說文通訓定聲〕塡、叚借爲㆑殄。〔詩、小雅、小宛〕哀我塡寡。〔傳〕塡、盡也。〔釋文〕塡、韓詩作㆑殄。❷**やむ**。なやむ。瘨(**7－22420**)に通ず。〔說文通訓定聲〕塡、叚借爲㆑瘨、詩、小宛、哀我塡寡。［四］❶**おもおもしいさま**。〔集韻〕塡、塡塡、質重皃、一曰、詳徐皃。〔莊子、馬蹄〕至德之世、其行塡塡。〔釋文〕塡塡、徐音田、又徒偃切、崔云、重遲也、一云、詳徐貌。❷**正しいさま**。〔淮南子、兵略訓〕不㆑擊㆓塡塡之旗㆒。〔注〕塡塡、旗立牢端貌。［五］❶**ふさぐ**。窴(**8－25598**)に同じ。〔集韻〕窴、塞也、或从㆑土。❷**そなへる**。奠(**3－5960**)に通ず。〔禮、檀弓上〕主人旣祖、塡池。〔注〕塡池、當㆑爲㆓奠徹㆒、聲之誤也。❸**みみたま**。充耳。瑱(**7－21167**)に通ず。〔說文通訓定聲〕塡、叚借爲㆑瑱。〔國語、吳語〕以㆓塡環㆒相通問。〔注〕塡、塞耳。［六］❶**しづめる**。さだむ。鎭(**11－40744**)に通ず。〔說文通訓定聲〕塡、叚借爲㆑鎭。〔集韻〕塡、定也。〔漢書、高帝紀下〕塡㆓國家㆒、吾不㆑如㆓蕭何㆒。❷**星の名**。〔廣韻〕塡、亦星名。［七］**おく**。寘(**3－7257**)に通ず。〔漢書、貢禹傳〕多取㆓好女㆒塡㆓後宮㆒。〔注〕師古曰、此塡字、讀與㆑寘同。

［名乘］ サダ。マス。ミツ。ヤス。

【塡隘】1（テンアイ） 滿ちふさがつて狹くなる。〔唐書、李邕傳〕人閒傳㆓其眉目瓌異㆒、至㆓阡陌聚觀㆒、望㆑風內謁、門巷塡隘。

【塡閼】2（テンアツ） 河水が泥で塞がつて流れぬこと。〔漢書、溝洫志、渠成而用㆑漑、注〕塡閼之水、漑㆓舄鹵之地㆒、四萬餘頃、畝皆收㆓一鍾㆒、師古曰、塡閼、謂㆓壅泥㆒也、言、引㆓淤濁之水㆒、灌㆓鹽鹵之田㆒、更令㆓肥美㆒。〔楊侃、皇畿賦〕患㆓彼決溢㆒、利㆓其塡閼㆒。

【塡鴨】3 t'ien¹ ya¹ 食用鴨の飼育法。鴨を狹い場所に閉ぢ込め、自由に運動させず、時々強制的に食物を食はせて肥滿させるもの。其の味甚だ美といふ。

【塡安】4（チンアン）安らかに治める。〔漢書、王莽傳上〕秉㆓冢宰職㆒、塡㆓安國家㆒。

【塡委】5（テンヰ）いろいろな事のごたごた集まること。つもりかさむ。みちつもる。〔劉楨、雜詩〕職事煩塡委、文墨紛消散。〔注〕銑曰、言㆔事煩塡㆓積於目前㆒也。〔南史、朱异傳〕塡㆓委於前㆒。〔舊唐書、王播傳〕然天性勤㆓於吏事㆒、使務塡委、胥吏盈㆑廷。〔蘇轍、和㆓鮮于子駿益昌官舍㆒八詠、山齋詩〕簡書日塡委。

【塡溢】6（テンイツ）みちあふれる。〔王褒、四子講德論〕海內歡慕、莫㆑不㆓風馳雨集㆒、襲雜竝至、塡㆑庭溢㆑闕。〔注〕向曰、溢㆓塡闕庭㆒、言㆑多也。〔抱朴子、道意〕遠近翕然、同來請福、車馬塡溢、酒肉滂沱。

【塡盈】7（テンエイ）みちみつ。充滿する。〔說苑、辨物〕賢者不㆑然、精化塡盈後、傷㆓時之不㆒㆑可㆑遇也。

【塡咽】8（テンエツ）衆くの人や物が押し合ひ揉み合ふこと。闐噎。〔梁書、陶弘景傳〕永明十年、上㆑表辭㆑祿、詔許㆑之、賜以㆓束帛㆒、及㆑發、公卿祖㆓之於征虜亭㆒、供帳甚盛、車馬塡咽、咸云、宋齊已來、未㆑有㆓斯事㆒。〔北史、煬帝三男齊王暕傳〕百官稱謁、塡㆓咽道路㆒。〔韓愈、石鼓歌〕觀經鴻都尙塡咽、坐見擧國來奔波。

【塡噎】8'（テンエツ）塡咽に同じ。〔梁簡文帝、南郊頌序〕袿褵駕㆑肩、士女塡噎。〔抱朴子外篇、疾謬〕車騎塡㆓噎於閭巷㆒。

【塡猒】9（テンエフ）ふさいでおす。〔說苑、辨物〕今大旱者、陽氣太盛、以猒㆓於陰㆒、陰猒㆑陽、固陽其塡也、惟塡猒之太甚、使㆓陰不㆑能㆒起也。

【塡河】10（テンカ）銀河をうづめる。〔淵鑑類函、天、天漢〕淮南子曰、烏鵲塡㆑河而渡㆓織女㆒。〔宋之問、牛女詩〕奔龍爭渡㆑月、飛鵲亂塡㆑河。

【塡海】11（テンカイ）海をうづめる。〔顏之推、觀我生賦〕旣銜㆑石以塡㆑海。〔張正見、石賦〕精衞取而塡㆑海、天孫用以支㆑機。

〔塡海志〕12（テンカイノココロザシ）大海をうめる志望。及ばぬ願ひ。不相應な大望。精衞塡㆑海（**8－26997**‥12）を見よ。〔太平御覽、羽族部、精衞〕述異記曰、昔炎帝女溺㆓死東海中㆒、化爲㆓精衞㆒、其鳴自呼、每御㆓西山木石㆒、以塡㆓東海㆒、怨㆓溺死㆒故也、博物志曰、有㆑鳥如㆑烏、文首白喙赤足、名曰㆓精衞㆒、昔赤帝之女姪、往遊㆓于東海㆒、溺死而不㆑反、其神化爲㆓精衞㆒、故精衞常取㆓西山之木石㆒、以塡㆓東海㆒。

【塡街】13（テンガイ）街をうづめる。〔後漢書、張楷傳〕楷門徒常百人、賓客慕㆑之、自㆓父黨夙儒㆒、偕造㆑門焉、車馬塡㆑街、從徒無㆑所㆑止。〔梁書、鍾嶸傳〕天監初、嶸言曰、永元肇亂、坐弄㆓天爵㆒、騎都塞㆑市、郎將塡㆑街。

〔塡街塞路〕14（テンガイソクロ）街路が一ぱいに塞がる。車馬の充滿する形容。〔漢舊儀〕衞官塡㆑街、騎士塞㆑路。

【塡巷】15（テンカウ）ちまたをうづめる。〔魏志、王粲傳〕車騎塡㆑巷、賓客盈㆑坐。〔張憲、春日詩〕笑我一春長閉㆑戶、柳花塡㆑巷臥㆓袁安㆒。

【塡號】16（テンガウ）番號を書きいれる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕先塡號而後用㆑印。

【塡格】17 t‘ien^2 kê^2 印刷した一定の書類に或る事項を書き込むこと。

【塡壑】18（テンガク）たにをうづめる。谷に棄てる。〔風俗通、十反〕統曰、臣久抱㆓重疾㆒、耳聾目眩、自分㆓奄忽塡壑㆒、猥得㆔承㆓望闕庭㆒、不㆑勝㆓其喜㆒、權時有㆑瘳、辭出之後必復故也、刺史不㆑侵㆑臣也、上悅㆓其遜㆒。〔摭異記〕德宗命㆓李泌㆒爲㆑相、嘗于㆓便殿㆒語及㆓明皇朝㆒、尤惜㆔謬用㆓李林甫㆒、泌因奏曰、貧不㆑學㆑儉而儉自來、富不㆑學㆑奢而奢自至、揚雄言㆓武帝㆒、運㆓帑藏之財㆒、塡㆓廬山之壑㆒、未㆑爲㆑害也、今貨入㆓權門㆒、甚㆓于此㆒矣。

【塡嵌】19 t‘ien^2 ch‘ien^1 象嵌する。

【塡餡】20 t‘ien^2 hsien^4 ❶牆を築く時、其の中に塡める土石。❷代りに充てる。❸そば杖を食ふ。

【塡記】21（テンキ）かきとめる。おぼえがき。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕最要㆓比對塡記明白㆒。

【塡諱】22（テンキ）子が先世の碑誌等の文を撰する時、先世の名號は必ず他人が之を代書すること。〔東甌金石誌〕林伯驥壙志、孤哀子輅泣血誌、發。國學生徐鼎塡諱。

【塡給】23 t‘ien^2 chi^3 支給する。發行する。塡

【塡去】24（テンキョ）かきいれる。〔福惠全書、淸丈部、立丈冊〕田地多者、接㆑頁塡去。

【塡胸】25（テンキョウ）胸にみちる。胸一ぱいになる。〔日本政記、後花園天皇〕嘉吉元年論、滿祐憤怨塡㆑胸。

【塡金】26（テンキン）彫刻して金をちりばめる。〔王僧孺、中寺碑〕塡㆑金可㆑埒、引㆑繩斯擬。

【塡寡】27（テンクワ）困窮して財產の少いこと。窮乏赤貧。一說に、病める鰥寡。〔詩、小雅、小宛〕哀我塡寡、宜㆑岸宜㆑獄。〔傳〕塡、盡。〔箋〕可㆑哀哉、我窮盡寡財之人。〔集傳〕塡、與㆑瘨同、病也。

【塡猤】28（テンクワイ）心を撓め塞ぐこと。心を汚すこと。〔李賀、開㆑愁歌〕主人勸㆑我養㆓心骨㆒、莫㆘愛㆓俗物㆒相塡猤㆖。

【塡還】29 t‘ien^2 huan^2 つぐなふ。辨償する。〔漢宮秋、一折〕我特來塡還你這淚搵濕鮫綃帕。

【塡闕】30（テンケツ）かけた所を補ひみたす。缺員をふさぐ。補闕。〔韓愈、省試學生代㆓齋郎㆒議〕以塞㆑員塡㆑闕。

【塡紅】31（テンコウ）公文書に上官が朱筆で月日を記入すること。〔六部成語、戶部、親塡紅單、注解〕公文面、上官以㆓硃筆㆒親塡㆓月日㆒。

【塡債】32 t‘ien^2 chai^4 借財を返還する。

【塡倉】33（テンサウ）❶正月二十五日に家々が牛羊豚肉を一日中御馳走し、客が來れば無理に留めて御馳走をする行事。此の日に佳き料理を食へば、一年中食祿を缺かないといふ。添倉（**7－17698**‥22）に同じ。〔東京歲華記〕正月二十五日、人家市㆓牛羊豕肉㆒、恣饗竟日、客至苦留、必盡而去、名曰㆓塡倉㆒。❷食料を販賣する商人が、正月二十五日に倉神を祭る行事。〔燕京歲時記、塡倉〕每至㆓二十五日㆒、糧商米販、致㆑祭㆓倉神㆒、鞭炮最盛、居民不㆓盡致㆑祭、然必烹治飲食、以勞㆓家人㆒、謂㆓之塡倉㆒。

【塡箱】34（テンサウ）❶箱に滿つる。〔白居易、酬㆓微之㆒詩〕滿帙塡㆑箱唱和詩、少年爲㆑戲老成㆑悲。❷t‘ien^2 hsiang^1 婚禮の儀式の一。婚禮の一二ケ月前に結納を受けた女家が、之を親戚朋友に分配すれば、親戚朋友は皆贈物を贈るをいふ。添箱（**7－17698**‥23）に同じ。

【塡造】35（テンザウ）かきだす。かきいれる。〔福惠全書、清丈部、具結狀〕冊係㆓圖里等塡造㆒。

【塡冊】36（テンサツ）帳簿に記入する。〔福惠全書、清丈部、具結狀〕業主自丈、塡㆑冊。

【塡詞】37（テンシ）漢詩の一體。樂府から變化した一種の詞曲で、樂府の譜に合はせて字句を塡入したもの。宋末に詩餘といひ、明の吳訥及び徐師曾に至つて塡詞といふ。一定の圖式により字を塡めるからいふ。詞（**10－35394**）・詩餘（**10－35427**‥192）を見よ。〔文體明辯、詩餘〕詩餘、謂㆓之塡詞㆒、則調有㆓定格㆒、字有㆓定數㆒、韻有㆓定聲㆒。

〔塡詞圖譜〕38（テンシヅフ）書名。六卷。續集二卷。清、賴以邠撰。〔四庫提要、集、詞曲類存目〕。

【塡字】39（テンジ）文字を書いて空白をうづめる。〔曹魏公談錄〕李紓侍郎放㆓擧人㆒、命㆓筆吏㆒勒㆑紙書㆑榜、未㆑及㆑塡㆓禮部貢院字㆒、吏得㆑疾、令史王杲亦善㆑書、詔令㆑終㆓其事㆒。〔玉海、聖文、御書、至道書㆓上淸宮額㆒〕至道元年正月丙辰、新作㆓上淸宮㆒成、御書㆑額以㆑金塡㆓其字㆒賜㆑之、車駕臨幸、云云、二年五月壬寅、相國寺三門成、上親書㆑額、金塡㆑字賜㆑之。

【塡漆】40 t‘ien^2 ch‘i^1 漆をぬつたもの。

【塡集】41（テンシフ）うづまりあつまる。〔後漢書、郎顗傳〕公府門巷、賓客塡集。

【塡寫】42（テンシャ）帳面に書きこむ。文書證書契約書等に姓名年月日等、必要の文字を記入すること。塡注。塡載。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕承行差役姓名、塡寫後列㆓前件㆒。

【塡充】43（テンジュウ）うめ合はせて一ぱいにする。みたし補ふ。充塡。塡補。補充。

【塡書】44（テンショ）篆書の滿ちて密なるもの。塡篆（63）を見よ。〔墨藪〕媒氏作㆓塡書㆒。

【塡如】45（テンジョ）閉ぢふさがるさま。〔孔子家語、困誓〕視㆓其高㆒、則塡如也。〔注〕塡、塞實貌。

【塡星】46（チンセイ）星の名。五星中の一。土星（**3－4867**‥235）の❶の別名。〔史記、天官書〕曆斗之會、以定㆓塡星之位㆒。〔漢書、天文志〕塡星曰㆓中央㆒、季夏土信也。〔晉書、天文志上〕攝提塡星皆東行。

【塡砌】47 t‘ien^2 ch‘i^4 うづめる。

【塡積】48（テンセキ）うづまりつもる。〔後漢書、宦者、呂強傳〕宮女無用、塡㆓積後庭㆒。

【塡接】49（テンセツ）うづまりつらなる。〔後漢書、袁紹傳〕輜軿柴轂、塡㆓接街陌㆒。

【塡壍】50（テンセン・テンザン）塹をうづめる。塡塹。〔張衡、東

京賦〕系以二顛一牆塡レ塹、亂以二收レ置解レ罘。

【塡然】51テンゼン 鼓の聲の盛なさま。〔孟子、梁惠王上〕塡然鼓レ之、兵刃既接、棄レ甲曳レ兵而走。〔注〕塡、鼓音也。

【塡湊】52テンソウ 多くあつまる。〔晉書、會稽王道子傳〕西府車騎塡湊、東第門下可レ設二雀羅一矣。〔魏書、徐紇傳〕遠近塡湊。

【塡總】53テンソウ 滿ちあつまること。〔唐書、陸贄傳〕機務塡總、遠近調發。

【塡足】54テンソク おぎなひたす。不足を補ふ。

【塡塞】55テンソク みたしふさぐ。一ぱいにふさがる。又、うづもれる。〔班彪、北征賦〕余遭二世之顚覆一兮、罹二塡塞之阨災一。〔後漢書、耿弇傳〕塡二塞坑塹一。〔梁書、昭明太子傳〕內外百司奏レ事者、塡二塞于前一。〔北史、恩幸、劉騰傳〕軒蓋塡塞、相二屬郊野一。

【塡單】56 tʻien^2 tan^1 目錄に書きのせる。

【塡池】57テンチ 奠徹の誤で、供物を撤去すること。〔禮、檀弓上〕主人既祖、塡池。〔注〕塡池、當レ爲二奠徹一、聲之誤也。〔書言故事大全、祭奠類〕今人祭文中、借二用塡池一。

【塡築】58 tʻien^2 chu^2 うめたて。埋立。

【塡注】59テンチユウ 書き入れる。書き込み。書きたす。塡寫。〔福惠全書、筮仕部、立號簿〕一一塡注、以備二查考一。

【塡抵】60テンテイ 相當する。あたる。〔福惠全書、刑名部、問擬〕不レ知三人命何事、塡二抵何條一。

【塡帖】61テンテフ 唐代の試士の法で、出題された經書の空白な部分を塡書すること。帖經(**4—8849··7**)を見よ。〔唐書、選擧志上〕高宗朝、劉思立加二進士雜文、明經塡帖一。

【塡塡】62テンテン ❶篤實なさま。又、滿足のさま。〔莊子、馬蹄〕至德之世、其行塡塡、其視顚顚。〔注〕此自足二於內一、無レ所二求及一之貌。〔釋文〕塡塡、質重貌。〔疏〕塡塡、滿足之心。〔荀子、非十二子〕其容簡連、塡塡然。〔注〕塡塡然、滿足之貌。❷規律正しく立派なさま。〔淮南子、兵略訓〕不レ襲二堂堂之寇一、不レ擊二塡塡之旗一。〔注〕塡塡、旗立牢端貌。❸車馬の數多いさま。〔潘岳、藉田賦〕震震塡塡、塵鶩連レ天。〔注〕良曰、塡塡、車馬衆貌。❹雷の鳴りはためく聲。〔楚辭、九歌、山鬼〕雷塡塡兮雨冥冥、猨啾啾兮又夜鳴。❺鼓のつづいて鳴る音。〔隋書、音樂志中〕皇帝升レ殿、殿上作二登歌樂一辭、設レ簴設レ業、鞉鼓塡塡。

【塡篆】63テンテン 篆體の滿ちて密なものをいふ。字間の密であることから塡篆といひ、また方塡書ともいふ。今の圖書印記は皆多く此の書體を用ひる。〔古今印史、九體書〕五曰、繆篆、陽冰獨步縉雲廟碑、可レ爲二槩代冠冕一、若謙卦強作、遂入二惡道一、其自許云、李斯之後、直至二老夫一、因五百年、是藝絕レ響、漢人獨印章擅レ美、而篆書無レ聞、雜レ王雜レ霸、刀筆如レ之、古篆隸眞、一皆采二摘闐滿一爲レ式、是其用レ心、昔人刻符塡篆、用二於婚媾契書一以革二盜僞一、非二淳古之作一也。

【塡納】64テンナフ をさめる。みたしをさめる。〔白居易、奏二閿鄉禁囚一狀〕缺二負官錢一、誠合二塡納一。

【塡房】65 tʻien^2 fang^2 後妻。再緣。又、妾を置く。

【塡榜】66テンバウ 試驗の合格者の名を榜に記入する。〔陔餘叢考、塡榜〕今科場拆卷塡榜、先從二第六名一起、蓋是古制。

【塡發】67 tʻien^2 fa^1 姓名年月日等を記入し、文書を作成して下げ渡す。記入して交附する。塡給。

【塡發支票】68 tʻien^2 fa^1 chih^1 pʻiao^4 小切手を振出す。

【塡仆】69テンプ たふれる。顚仆(**12—43628··49**)に同じ。〔魏書、藝術、殷紹傳〕每懼、殂殞塡二仆溝壑一。

【塡撫】70チンブ しづめをさめる。鎭撫。〔荀子、君道〕其德音足三以塡二撫百姓一。〔集解〕盧文弨曰、塡、卽鎭字。〔史記、蕭相國世家〕何以二丞相一留收二巴蜀一、塡撫諭告、使レ給二軍食一。〔漢書、杜欽傳〕塡二撫四夷一。

【塡服】71チンプク 定め服する。〔漢書、王莽傳上〕但欲下稱レ攝以重二其權一、塡中服天下上耳。

【塡平】72 tʻien^2 pʻing^2 うづめて平にする。

【塡駢】73テンペイ 一面に立ちならぶ。〔楓窗小牘〕冠蓋雲擁、僧舍塡駢。

【塡表】74 tʻien^2 piao^3 表の各欄にそれぞれ記入する。

【塡褊】75テンペン うづまってせまい。狹い處に人が澤山住む。〔水經、滱水注〕居民駢比、塡褊穢陋。

【塡補】76テンポ ❶うめ合せおぎなふ。又、そのこと。塡充。〔元史、選擧志三〕於二應レ補人內一、挨次塡補。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕圖二塡補一、遂致二起解每輒愆レ期。❷記入する。

【塡簿】77 tʻien^2 pu^4 帳簿へ記入する。

【塡滿】78テンマン うづまりみちる。又、みたしうずめる。〔後漢書、崔駰傳〕所レ至之縣、獄犴塡滿。

【塡命】79 tʻien^2 ming^4 身をもつて償ふ。

【塡明】80テンメイ 書き込んで明かにする。空欄へ書き込む。〔淸會典事例、兵部、綠營處分例、關禁〕如有二來レ京買レ人者一、塡二明男女口數一。〔福惠全書、郵政部、抄牌〕俱一一塡二明簿上一。

【塡門】81テンモン 客などが門に一ぱいに滿ちる。闐門。〔漢書、鄭當時傳〕先レ是、下邽翟公爲二廷尉一、賓客亦塡レ門、及レ廢、門外可レ設二爵羅一。

【塡膺】82テンヨウ 胸に充ちふさがる。〔論衡、程材〕孰下與通二於神明一、令中人塡膺上也。〔江淹、恨賦〕置レ酒欲レ飲、悲來塡レ膺。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、塡、滿也。

【塡橋去】83テンケウキヨ 北京地方で陰曆七月七日の曉方、烏や鵲の鳴いて飛ぶことが稍〻遲いことをいふ。〔燕京歲時記、鵲塡橋〕七月七日、淸晨、烏鴉喜鵲、飛鳴較遲、俗謂二之塡橋去一。

【墪】5356

コク 〔字彙〕苦谷切 屋

土器のまだ燒かないもの。〔字彙〕墪、土墼也。

【塢】5357

㈠ウヲ 〔集韻〕於五切 ㄨˇ wu^4 麌

㈡ウヲ 〔集韻〕烏故切 遇

㈠❶**土手。**〔後漢書、馬援傳〕繕二城郭一起二塢候一。〔注〕字林曰、塢、小障也。〔梁武帝、子夜歌〕花塢蝶雙飛、柳堤鳥百舌。❷**山のくま。**〔羊士諤、山閣聞レ笛詩〕山塢春深日又遲。❸**とりで。**小城。〔後漢書、獻帝紀〕是日李傕移レ帝幸二北塢一。〔注〕服虔通俗文曰、營居曰レ塢、一曰、庫城也。❹**むら。**〔庾信、杏花詩〕依稀映二村塢一。❺隖(**11—41786**)に同じ。〔集韻〕隖、小障也、或从レ土。❻現窪んだところ。くぼみ。㈡**むら。**〔集韻〕塢、村聚也。

【塢壁】1ヲヘキ 土を築いたとりで。小さいとりで。〔後漢書、李章傳〕淸河大姓趙綱、遂於二縣界一起二塢壁一、繕二甲兵一。〔晉書、劉波傳〕子疇、字玉喬、少有二美譽一、善談二名理一、曾避二塢壁一、賈胡百數欲レ害レ之、疇無二懼色一、援レ笳而吹レ之。

【埕】5358

テイ チヤウ 〔玉篇〕丈井切 梗

とほる。〔玉篇〕埕、通也。

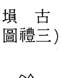
【墐】5359

キン 菫(**9—31207**)に同じ。〔玉篇〕墐、同レ菫。

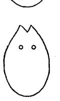
【塤】5360

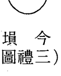
ケン クワン 〔集韻〕許元切 元 ㄒㄩㄢ hsüan^1

❶**つちぶえ。**土で作った樂器。〔釋名、釋器樂〕塤、喧也、聲濁喧喧然也。〔周禮、春官、小師〕塤簫。〔注〕塤、燒レ土爲レ之、大如二鴈卵一、云云、鄭司農云、塤、六孔。〔疏〕塤、燒レ土爲レ之、大如二鴈卵一、先鄭云、塤、六孔者、按、廣雅云、塤象二秤錘一、以レ土爲レ之、



古塤（三禮圖）





今塤（三禮圖）

六孔、故ニ鄭爲㆓此解㆒也。〔後漢書、明帝紀〕帝自御㆓塤篪㆒。〔注〕大如㆓雁子㆒、有㆓六孔㆒。〔白虎通、禮樂〕土曰㆑塤。❷壎(3－5546)に同じ。〔集韻〕壎、或从㆑員。❸姓。〔萬姓統譜〕塤、見㆓姓苑㆒。

參考 壎(3－5546)を見よ。

【塤簫】1 ケンセウ 樂器の名。つちぶえと長い竹笛。〔周禮、春官、小師〕掌㆑教㆓鼓鼗柷敔、塤簫管絃歌㆒。〔注〕塤、燒㆑土爲㆑之、大如㆓鴈卵㆒、簫、編㆓小竹㆒。〔吳質、答㆓東阿王㆒書〕塤簫激㆓於華屋㆒、靈鼓動㆓於座左㆒。

【塤篪】2 ケンチ 樂器の名。つちぶえと竹笛。壎篪(3－5546··1)を見よ。〔荀子、樂論〕聲樂之象、云云、塤篪翁博。〔管子、輕重己〕吹㆓塤篪之風㆒。〔後漢書、明帝紀〕帝自御㆓塤篪㆒和㆑之、以娛㆓嘉賓㆒。〔注〕鄭玄注㆓周禮㆒云、塤、燒㆑土爲㆑之、大如㆓鴈子㆒。

【塤篪雅奏】3 ケンチガソウ 兄弟の仲睦まじい喩。壎篪相和(3－5546··2)を見よ。

【⿰土㑴】5361 シン 埐(3－5122)の本字。〔正字通〕⿰土㑴、埐本字。

【塥】5362 カク キャク 〔正字通〕各額切 陌 乾いてねばりけのないぼそぼそした土。一說に、搹字の或體といふ。〔管子、地員〕沃土之次曰㆓五位㆒、五位之狀、不㆑塥不㆑灰。〔纂詁〕尹知章云、塥、謂㆓堅不㆓相著㆒、衡謂、唐以上字書無㆓塥字㆒、至㆓正字通㆒始收㆑之、葢搹字之或體耳、搹、搕也、謂㆓土塊如㆑拳、乃灰之反也。

【⿱祝土】5363 シュク 〔廣韻〕側六切 屋 ふさぐ。〔廣韻〕⿱祝土、塞也。

【⿰土座】5364 ㊀サン ゼン 〔集韻〕昨閑切 刪 ㊁セン ゼン 〔集韻〕士連切 先 ㊀㊁⿰土座門は、部落の名。〔集韻〕⿰土座、⿰土座門、聚名、在㆓睢陽㆒。

【⿱陣土】5365 ヂン 陣(11－41667)に同じ。〔字彙補〕⿱陣土、與㆑陣同。

【⿱勑土】5366 カイ 隑(11－41766)に同じ。〔集韻〕隑、或作㆑⿱勑土。

【垺】5367 フ 郛(11－39428)の古字。〔集韻〕垺、古作㆑郛。

【堋】5368 ホウ 〔集韻〕逋鄧切 徑 つつみ。〔集韻〕堋、蜀郡謂㆑塘曰㆑堋。

【⿱⿰立尼土】5369 デイ ナイ 〔集韻〕年題切 齊 中くぼみで水を受ける丘。屔(4－7714)に同じ。〔集韻〕屔、說文、反頂受㆑水丘、或作㆑⿱⿰立尼土。

【⿰土⿱𢆶巠】5370 チフ ヂフ 〔集韻〕直立切 緝 ❶ひくい。〔廣雅、釋詁一〕⿰土⿱𢆶巠、下也。〔疏證〕說文、⿰土㬎下入也、⿰土㬎、與㆑⿰土⿱𢆶巠同。❷土を積み重ねる。〔集韻〕⿰土⿱𢆶巠、一曰、累㆑土也。❸或は⿰土㬎(3－5543)に作る。〔集韻〕⿰土⿱𢆶巠、或从㆑㬎。

【⿰土迴】5371 クヮイ グヮイ 〔集韻〕胡對切 隊 めぐりまがった地形。〔集韻〕⿰土迴、地形回屈。

【⿰土厘】5372 テン 廛(4－9483)に同じ。〔集韻〕廛、或作㆑⿰土厘。

【⿱殹土】5373 エイ ⿰土壹(3－5459)に同じ。〔韻會〕⿱殹土、同㆑⿰土壹。

【⿰𠂤坐】5374 タイ ツイ 〔集韻〕都回切 灰 すわるさま。通じて敦(5－13276)に作る。〔集韻〕⿰𠂤坐、坐皃、通作㆑敦。〔越語肯綮錄〕呆坐而候㆑人曰㆑⿰𠂤坐、都灰切、見㆓隋韻㆒、有㆓重音㆒、如㆓⿰𠂤坐⿰𠂤坐坐、⿰𠂤坐⿰𠂤坐望之類㆒。

【⿰土⿱爫糸】5375 フ 〔五音篇海〕芳無切 虞 くるわ。〔五音篇海〕⿰土⿱爫糸、郭也。

【⿰土桀】5376 タク チャク 〔篇海類編〕陟格切 陌 張りひらく。〔篇海類編〕⿰土桀、張開也。

【墜】5377 チ 地(3－4890)に同じ。〔字彙補〕墜、同㆑地。

【塝】5378 タ 多(3－5756)に同じ。〔五音篇海〕塝、同㆑多。

【⿰土奚】5379 ケイ 義未詳。〔篇海類編〕⿰土奚、音奚。

【塧】5380 アイ エ 〔篇海〕烏戒切 卦 けはしい。〔篇海〕塧、險隘。

【塨】5381 キョウ 〔辭海〕塨、讀如㆑恭。人名。〔辭海〕塨、淸有㆓李塨㆒。

【塩】5382 エン 鹽(12－47579)の俗字。〔正字通〕鹽、俗省作㆑塩。

【報】5383 ハウ 報(3－5275)の譌字。〔正字通〕報、今譌作㆑報。

【埳】5384 カン 埳(3－5186)の譌字。

十一畫

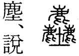
【場】5385 ヂヤウ 場(3－5278)に同じ。〔集韻〕場、或作㆑場。

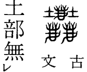
【塳】5386 ホウ ブ 〔集韻〕蒲蒙切 東 ちり。又、ちりが巻きおこる。〔集韻〕塳、塵也。〔字彙〕塳、塵隨㆑風起。

【塴】5387 ホウ 〔集韻〕逋鄧切 徑

一はふむる。〔左氏、昭、十二〕不レ毀則日中而塴。〔注〕塴、下レ棺。二堋(3−5217)に同じ。〔集韻〕堋、說文、喪葬下レ土也、或作レ塴。

【塵】5388


小篆


古文

一チン ヂン 〔集韻〕地鄰切 眞 ㄔㄣˊ ch'en²
二テン デン 〔集韻〕亭年切 先

一一つちけむり。⿱麤土(12−47716)に同じ。〔正字通〕塵、說文土部無レ塵、⿱麤土、別見二麤部一。〔說文〕⿱麤土、鹿行揚レ土也、从二麤土一。〔左氏、昭、三〕湫隘囂塵。〔注〕塵、土也。二ちり。ごみ。あくた。〔白居易、觀二兒戲一詩〕弄レ塵復鬭レ草、盡日樂嬉嬉。三俗。俗世。わずらはしい。〔陶潛、辛丑歲七月赴レ假還二江陵一云云詩〕遂與二塵事一冥。〔注〕塵事、塵俗之事也。四假のこと。眞性でないもの。〔莊子、齊物論〕遊二乎塵垢之外一。〔注〕凡非二眞性一者、皆塵垢也。五世。代。道家の語。〔續仙傳〕丁約謂二韋子威一曰、郎君得レ道、尙隔二兩塵一、子威問二其故一、答曰、儒謂二之世一、釋謂二之劫一、道謂二之塵一。六跡。〔後漢書、陳寔傳贊〕二方承レ則、八慈繼レ塵。七小さい數の名。〔算經〕纖十沙、沙十塵。八ひさしい。陳(11−41698)に通ず。〔爾雅、釋詁〕塵、久也。〔注〕塵垢稽久也。〔孫注〕居レ之久也。〔書、盤庚中、陳二於茲一、疏〕陳、居レ之久、久則生レ塵矣、古者塵・陳同也。九蔯(9−31848)に通ず。〔廣雅、釋草〕因塵、蚰床也。〔本草、茵蔯、蒿〕釋名、時珍曰、按、張揖廣雅、及吳普本草、並作二因塵一、不レ知二何義一。十鎭(11−40744)に通ず。〔說文通訓定聲〕今人謂二時之久一、曰二鎭日・鎭年一、以レ鎭爲レ之、皆塵字也。十一古は⿱艸麤(9−30274)・壘(3−5491)・尘(4−7484)に作る。〔康熙字典〕塵、古文⿱艸麤・壘・尘。十二姓。〔單縣志〕塵鐸、洪武庚午擧人、歷二任監察御史一。十三佛人間の官能を刺激して解脫の障礙となるもの。六塵。〔圓覺經〕根塵虛妄。〔注〕根、六根之根、根、謂二眼耳鼻舌身意一、塵、謂二色聲香味觸法一。三ひさしい。通じて寘(3−7257)・塡(3−5355)に作る。〔集韻〕塵、久也、通作二寘・塡一。

解字 會意。麤(鹿の羣り行くさま)と土との合字。本義は鹿が羣行してほこりを揚げる意。引伸してほこりの義と爲す。字、今塵に作る。〔說文、⿱麤土、段注〕羣行則揚レ土甚、引伸爲二凡揚レ土之偁一。

【塵埃】1 ヂンアイ 一ほこり。ごみ。又、立ちのぼるほこり。すなけむり。塵壒。〔禮、曲禮上〕前有二塵埃一、則載二鳴鳶一。〔莊子、逍遙遊〕野馬也、塵埃也、生物之以レ息相吹也。〔戰國、趙策〕羸レ縢、負レ書、擔レ橐、觸二塵埃一蒙二霜露一。〔杜甫、兵車行〕爺娘妻子走相送、塵埃不レ見咸陽橋。二世の中のけがれ。轉じて、世の中。この世。俗世間。〔楚辭、漁父辭〕安能以二皓皓之白一、蒙二世俗之塵埃一乎。〔史記、屈原傳〕浮二游塵埃之外一、不レ獲二世之滋垢一。〔石崇、思歸歎〕逍遙兮絕二塵埃一、福亦不レ至兮、禍亦不レ來。〔高適、和下賀蘭判官望二北海一作上詩〕緣情韻二騷雅一、獨立遺二塵埃一。三おくぶかくくらい。窈冥。〔淮南子、脩務訓〕以逍二遙仿三佯於塵埃之外一。〔注〕塵埃、猶二窈冥一也。

【塵壒】2 ヂンアイ ちりほこり。塵埃。〔王安石、寄二曾子固一詩〕低心收惷友、似レ不レ讓二塵壒一。〔趙抃、題二周敦頤濂溪書堂一詩〕清深遠二城市一、潔淨去二塵壒一。

【塵穢】3 ヂンアイ ちりのけがれ。ちりでけがれる。〔後漢書、曹世叔妻傳〕盥二洗塵穢一、服飾鮮絜、沐浴以レ時、身不二垢辱一、是謂二婦容一。〔唐書、魏謩傳〕傷二治道之本一、速二塵穢之嫌一。

【塵坱】4 ヂンアウ ちりほこり。轉じて、浮世のほだし。塵鞅。〔柳宗元、法華寺石門精室詩〕潛軀委二韁鎖一、高步謝二塵坱一。〔劉因、乙亥十月往二平定一云云詩〕太行橫絕半二九州一、留在二平原一幾塵坱。

【塵鞅】5 ヂンアウ うき世のほだし。世の中の足手まとひ。俗世の羈絆。塵坱。〔白居易、登二香爐峯頂一詩〕紛吾何屑屑、未レ能レ脫二塵鞅一。〔劉長卿、游二四窗一詩〕對レ此脫二塵鞅一、頓忘二榮與一レ辱。

【塵衣】6 ヂンイ 塵にけがれた衣。きたない着物。〔劉禹錫、秋晚題二湖城驛上池亭一詩〕塵衣紛未レ解、幽思浩已盈。〔楊發、秋晚日少陵原游二山泉一詩〕塵衣更喜秋泉潔、倦跡方依竹洞深。〔杜牧、送二故人歸一レ山詩〕三清洞裏無レ端別、又拂二塵衣一欲レ臥レ雲。

【塵意】7 ヂンイ けがれた心。塵懷。塵慮(138)に同じ。〔杜牧、池州送二孟遲先輩一詩〕奉レ披塵意驚、立語平生豁。

【塵隱】8 ヂンイン 國造煕の號。國造塵隱(3−4798・・239)を見よ。

【塵影】9 ヂンエイ ちりのかげ。〔王褒、長安道樂府〕樹陰連二袖色一、塵影雜二衣風一。〔舊唐書、文苑上、謝偃傳〕偃嘗爲二塵影一賦一、甚工。

【塵曀】10 ヂンエイ 塵に因つて起るくもり。〔張說、東都酺宴詩〕朱城塵曀滅、翠幕景情開。

【塵翳】11 ヂンエイ 塵のくもり。〔駢雅、釋詁下〕埵堁、塵翳也。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕高陽無レ故而委レ塵兮。〔注〕委、坋レ塵也、言、帝顓頊聖明克讓、然無レ故被二塵翳一、言下與二帝共工一爭中天下上也。淮南子曰、顓頊與二共工一爭レ爲レ帝。〔乾淳起居注〕乾坤八荒同色、了無二塵翳一。

【塵纓】12 ヂンエイ ちりのついた冠の紐。轉じて、俗世の官職。〔孔稚珪、北山移文〕昔聞投レ簪逸二海岸一、今見解レ蘭縛二塵纓一。〔注〕翰曰、塵纓、世事也。〔王維、別二綦母潛一詩〕荷蓧幾時還、塵纓待二君洗一。〔白居易、長樂亭留別詩〕塵纓世網重重縛。

【塵煙】13 ヂンエン けむりのやうに立ちのぼるちり。ちりけむり。塵霧。〔張說、安樂郡主花燭行〕五方觀者聚二中京一、四合塵煙漲二洛城一。

【塵緣】14 ヂンエン 一世の中のうるさいゆかり。塵累。俗緣。〔韋應物、春月觀二省屬城一始憩二東西林精舍一詩〕佳士亦棲息、善身絕二塵緣一。二佛世俗の緣。六塵(心を汚す緣となる色・聲・香・味・觸・法の六つ)をいふ。〔圓覺經〕六塵緣影爲二自心相一。

【謝二塵緣一】15 ヂンエンヲシヤス 死ぬこと。此の世を去ること。〔長生殿、情悔〕雖レ謝二塵緣一、難レ返二仙庭一。

【塵汙】16 ヂンヲ ちりのけがれ。世のけがれ。塵垢。塵汚。〔李商隱、爲二舍人絳郡公一上二李相一書〕邁二越時流一、塵汙中レ旨。〔高啓、洞庭山詩〕玄關拒閉誰復到、似レ怪衣上腥塵汙。

【塵架】17 ヂンカ ちりの積つた書架。〔白居易、讀二鄧魴詩一詩〕塵架多二文集一、偶取二一卷一披。

【塵痂】18 ヂンカ ちりとかさぶた。〔沈遼、詩〕湖水洗レ面去二塵痂一。

【塵芥】19 ヂンカイ ちりあくた。ごみ。〔周伯琦、懷禿腦兒行〕王綱未二旒綴一、羣生半塵芥。

【塵界】20 ヂンカイ 一けがれた世。俗世界。うきよ。俗世。塵海。塵世。塵境。塵凡。〔趙彥昭、奉三和九日登二慈恩寺浮屠一應制詩〕皇心滿二塵界一、佛跡現二虛空一。〔貢奎、送二兪元明一詩〕靈槎截二塵界一。二佛人間の官能を刺激して解脫の障礙となるもの。六塵(2−1453・・450)に同じ。〔龍舒心經〕色・聲・香・味・觸・法爲二六塵界一。

【塵海】21 ヂンカイ けがれた世。浮世を海に譬へていふ。塵界。〔張問陶、丁未九月云云呈二外舅林西厓先生一詩〕飄搖塵海壯心驚。

【塵香】22 ヂンカウ 粉末にした香。〔南部烟花記〕陳宮人臥履、皆以二薄玉花一爲レ飾、內散以二龍腦諸香屑一、謂二之塵香一。

【塵囂】23 ヂンガウ けがれてさわがしい所。塵喧。〔韓愈、和下李相公攝二事南郊一覽レ物興レ懷呈中一二知舊上詩〕顧瞻想二巖谷一、興歎倦二塵囂一。

【塵囂之境】24 ヂンガウノキヤウ けがれてうるさい場所。俗世。〔藤森弘庵、春雨樓記〕恍然忘三身在二塵囂之境一。

【塵合】25 ヂンガフ ちりが集まり合ふ。〔班固、西都賦〕紅塵四合、煙雲相連。〔陸機、豪士賦序〕風起塵合、而禍至常酷也。

【塵函】26 ヂンカン ちりの積つたはこ。塵笈。塵篋。〔韓愈、酬二司門盧四兄雲夫院長望秋詩一〕長安雨洗新秋出、極目寒鏡開二塵函一。

【塵顏】27 ヂンガン ちりでけがれた顏。塵面。〔李白、望二廬山瀑布水一詩〕無レ論レ漱二瓊液一、且得レ洗二塵顏一。

【塵軌】28 ヂンキ ちりのついたわだち。塵轍。〔王僧達、答二顏延年一詩〕塵軌實爲レ林。〔宋之問、自二

洪府一舟行直書二其事一詩〕貴身賤二外物一、抗跡遠二塵軌一。

【塵氣】29 チンキ　空中にたつた塵。すなけむり。〔呂覽、期賢〕野人之用レ兵也、鼓聲則似レ雷、號呼則動レ地、塵氣充レ天、流矢如レ雨。

【塵起】30 チンキ　ちりがたちあがる。〔李康、運命論〕風驚塵起。〔晉書、王導傳〕平常遇二西風塵起一、擧レ扇自蔽。〔宋書、樂志一〕前漢有二虞公者一善レ哥、能令二梁上塵起一。〔司空圖、早朝詩〕街平雙闕近、塵起五雲和。

【塵箕】31 ch'en² ch'i²　ちりとり。ごみとり。塵「斗(100)に同じ。

【塵機】32 チンキ　けがれた機緣。〔孟浩然、臘月八日於二剡縣石城寺一禮拜詩〕願承二功德水一、從レ此濯二塵機一。〔韋應物、和下吳舍人早春歸二沐西亭一言上志詩〕名雖レ列二仙爵一、心已遣二塵機一。〔白居易、好二聽琴一詩〕本姓好二絲桐一、塵機聞二即空一。

【塵儀】33 ch'en² i²　餞別の品。

【塵笈】34 チンキフ　ちりの積つた箱。塵函。〔范成大、嘲レ蚊詩〕客來添二羽觴一、人靜拂二塵笈一。

【塵境】35 チンキヤウ　㊀けがれた世の中。塵界。〔李白、春日歸レ山寄二孟浩然一詩〕朱紱遺二塵境一、青山謁二梵筵一。〔韋應物、莊嚴精舍遊集詩〕即此塵境遠、忽聞幽鳥殊。〔朱宿、宿二慧山寺一詩〕悠然青蓮界、此地塵境絕。㊁［佛］六塵の心の起る所をいふ。色・聲・香・味・觸・法。塵界。

【塵鏡】36 チンキヤウ　塵の積つた鏡。〔蕭綸、代二秋胡婦閨怨一詩〕塵鏡朝朝掩、寒衾夜夜空。

【塵居】37 チリヰ　塵のつもつてゐること。

【塵袪】38 チンキヨ　ちりによごれた袖。〔韓愈、答二張徹一詩〕塵袪又一摻、淚皆還雙熒。

【塵襟】39 チンキン　俗世の雜念。つまらぬかんがへ。塵念。塵抱。俗念。俗情。〔張九齡、出爲二豫章郡一途次二廬山東巖下一詩〕迨レ玆刺二江郡一、來レ此滌二塵襟一。〔韋應物、夜偶二詩客操公一作詩〕鹿襟一瀟灑、清夜得二禪公一。〔白居易、答三元八宗簡同遊二曲江一詩〕賴聞瑤華唱、再得塵襟清。

【塵區】40 チンク　塵の世。塵世。人間界。〔朱熹、擬二歩虛辭一詩〕願傾二無極光一、回駕俯二塵區一。

【塵衢】41 チンク　塵埃の滿ちてゐるけがれた町。〔盧綸、春詞〕北苑羅裙帶、塵衢錦繡韉。

【塵灰】42 ch'en² huei¹　ちり。ほこり。

【塵懷】43 チンクワイ　穢れた心。塵意。〔宋无、趵突泉詩〕每過二塵懷一爲二蕭灑一。

【塵外】44 チングワイ　うき世の外。世外。塵表。〔晉書、謝安傳論〕文靖始居二塵外一、高謝二人間一。〔梁書、何點傳〕居二貞物表一、縱二心塵外一。〔姚合、贈二王尊師一詩〕今日偶聞塵外事、朝簪未レ擲復何顏。〔孟浩然、晚泊二潯陽一望二廬山一詩〕嘗讀二遠公傳一、永懷二塵外蹤一。〔六研齋筆記〕吳循吾、歙縣人、晚年落拓、寄二居武林吳山一、松關竹屋、翛然如レ在二塵外一。

【塵外軫】45 チングワイノシン　隱者の乘る車。軫は車の箱の前後左右にある橫木。塵外鑣。〔殷仲文、南州桓公九井作詩〕哲匠感二蕭辰一、肅二此塵外軫一。

【塵外鑣】46 チングワイノヘウ　隱者の乘る車。鑣は、くつわ。塵外軫。〔謝靈運、從二遊京口北固一應詔詩〕昔聞汾水遊、今見塵外鑣。

【塵外孤標】47 チングワイコヘウ　獨りうき世の外にあらはれること。〔舊唐書、杜審權傳〕制曰、云云、杜審權、韻合二黃鐘一、行眞白璧、沖粹孕二靈嶽之秀一、精明涵二列宿之光一、塵外孤標、雲間獨歩。

【塵幌】48 チンクワウ　ちりの積つた垂れぎぬ。〔高啓、顧榮廟詩〕蕘童侵二雨隧一、淫巫闖二塵幌一。

【塵寰】49 チンクワン　ちりの世。人間世界。塵世。寰は世界。〔蘇軾、次二京師韻一送三表弟程懿叔赴二夔州運判一詩〕仲氏新得レ道、一漚二目塵寰一。

【塵敎】50 チンケウ　穢らはしいをしへ。〔晉書、曹毗傳〕處二汎位一以核レ物、扇二塵敎一以自濛。

【塵篋】51 チンケフ　塵の積つたはこ。塵函。〔呂溫、藥師如來繡像贊〕書委二塵篋一、跡淪二苔堦一。〔陸龜蒙、江南秋懷寄二華陽上人一詩〕蠹簡開二塵篋一、寒燈立二曉檠一。

【塵欠】52 チンケン　つとめ。〔福惠全書、稟啓附、迎二新任張寅翁一〕十年塵欠、兩載艱辛。

【塵涓】53 チンケン　一すぢの塵や一滴の水。極めて細小な喩。些細。微衷。微力。區區。轉じて、己のした事を卑下する謙辭。〔宇文融、奉下和聖製左丞相說・右丞相璟・太子少傅乾曜・同日上官命二宴都堂一賜上詩〕誓將三同竭レ力、相與效二塵涓一。

【塵喧】54 チンケン　けがれてうるさくやかましい所。塵囂。〔劉孝孫、遊二靈山寺一詩〕曳裾欣二扈從一、方悟屛二塵喧一。〔韋應物、南園詩〕頓灑塵喧意、長嘯滿襟風。

【塵壺】55 チンコ　たんつぼ。唾壺。〔和漢三才圖會、家飾具〕唾壺、俗云、塵壺。

【塵垢】56 チンコウ　㊀ちりあか。轉じて、世のけがれ。俗世間。塵汙。〔莊子、齊物論〕遊二乎塵垢之外一。〔淮南子、詮言訓〕崑山之玉瑱、而塵垢不レ能レ汙也。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕不レ獲二世之塵垢一。〔白居易、沐浴詩〕經年不二沐浴一、塵垢滿二肌膚一。㊁チンク［佛］煩惱をいふ。〔維摩經、佛國品〕遠レ塵離レ垢、得二法眼淨一。〔注〕肇曰、塵垢、八十八結也。〔不動經〕以二智慧火一、燒二諸障礙一、亦以二法水一、澍二諸塵垢一。

【塵垢囊】57 チンコウナウ　塵垢を入れたふくろ。晉の支遁が王坦之を嘲つた語。〔世說新語、輕詆〕王中郎與二林公一絕不二相得一、王謂二林公詭辯一、林公道レ王云、著二膩顏帢褕布單衣一、挾二左傳一、逐二鄭康成車後一、問、是何物、塵垢囊。〔注〕帢、帽也、裴子曰、林公云、文度著二膩顏一、挾二左傳一、逐二鄭康成一、自爲二高足弟子一、篤而論レ之、不レ離二塵垢囊一也。〔珍珠船〕林公謂二王文度一爲二塵垢囊一。

【塵垢粃糠陶鑄堯舜】58 チンコウヒカウシユンヲタウチウス ゲウ　神人のちりあか等でさへ堯舜を造ることが出來る。神人の力の偉大なるをいふ。〔莊子、逍遙遊〕之人也、物莫二之傷一、大浸稽レ天、而不レ溺、大旱金石流、土山焦、而不レ熱、是其塵垢粃糠、將三猶陶二鑄堯舜一者也、孰肯以レ物爲レ事。

【塵黑】59 チンコク　ちりほこりで黑くなること。〔南齊書、王逡之傳〕逡之率素、衣裘不レ澣、机案塵黑、年老手不レ釋レ卷。

【塵骨】60 チンコツ　けがれたほね。けがれたからだ。〔鄭谷、華山詩〕他年洗二塵骨一、香火願二相依一。〔袁桷、上京雜詠詩〕漸知塵骨換、振佩接二青冥一。

【塵劫】61 チンコフ　［佛］久遠なる年代。永劫。〔楞嚴經、一〕縱經二塵劫一、終不レ能レ得。〔法華經、化城喩品〕如人以レ力、磨二三千大千土一、盡二此諸地種一、皆悉以爲レ墨、過二於千國土一、乃下二一塵點一、如レ是展轉點、盡二此諸塵墨一、如レ是諸國土、點與二不點一等、復盡抹爲レ塵、一塵爲二一劫一。〔南齊書、顧歡傳〕釋迦成佛有二塵劫之數一。〔王巾、頭陀寺碑文〕功濟二塵劫一、時義遠矣。〔元好問、龍興寺閣詩〕桑海幾經塵劫壞、江山獨恨酒腸乾。

【塵昏】62 チンコン　塵のためにくらい。〔朱慶餘、題二開元寺一詩〕長廊畫剝僧形影、石壁塵昏客姓名。

【塵沙】63 チンサ　ちりとすな。事物の多い喩。〔杜甫、行次二昭陵一詩〕松柏瞻二虛殿一、塵沙立二瞑途一。〔李希仲、冀北行〕前軍飛鳥斷、格鬬塵沙昏。〔李約、從軍行〕候火起二離城一、塵沙擁二戰聲一。

【塵渣】64 チンサ　ちりとかす。〔和漢三才圖會、木部香木類、松〕用二松脂一煮レ湯去二塵渣一。

【塵想】65 チンサウ　世俗の雜念。〔朱松、仙峰庵詩〕掬二寒露井一銷二塵想一、擷翠筠籃當二藥材一。〔傅若金、清露軒詩〕涼扇息二塵想一、幽琴寄二元悟一。

【塵雜】66 チンザツ　俗世の雜事。塵思。〔任昉、王文憲集序〕性託二夷遠一、少屛二塵雜一。〔任昉、爲二蕭揚州一作薦レ士表〕居無二塵雜一、家有二賜書一。

【塵思】67 チンシ　世俗のおもひ。塵想。〔蘇舜欽、遊二招隱一道中詩〕揚レ鞭望二招隱一、塵思漠然收。

【塵紙】68 チリガミ　楮皮の粗い部分を交へて漉いた紙。紙に塵滓があるから名づけた。〔和漢三才圖會、藝才、紙〕塵紙、用二楮汁一造レ紙、以二其麁末者一漉レ之、故有二塵渣一、而最野卑者、比二唐馬糞紙一也。

【塵滓】69 チンシ　㊀ちりとおり。けがれ。〔許彥周詩話〕東坡詩不レ可二指摘輕議一、無二一點塵滓一。㊁世の中のけがれ。又、俗氣。〔顏氏家訓、勉學〕其餘桎二梏塵滓之中一。〔南史、劉敬宣諸人傳論〕咸能振二拔塵滓一、自致二封侯一。〔白居易、贈レ別二宣上人一詩〕行潔離二塵滓一。

【塵事】70 チンジ　世俗のうるさいことがら。世事。俗事。〔陶潛、辛丑歲七月赴レ假還二江陵一夜行二塗口一作詩〕閑居三十載、遂與二塵事一冥。〔李紳、晏安寺詩〕寺深二松桂一無二塵事一、地接二荒郊一帶二夕陽一。

【塵事多端】71 チンジタタン　つまらぬことに齷齪すること。塵事多忙。

【塵事多忙】72 チンジタバウ　塵事多端に同じ。

【塵習】73 チンシフ　うるさい世のならひ。世間の風俗習慣。〔江淹、傷二愛子一賦〕願同升二於淨刹一、與二

塵習㆒兮永棄。

【塵牀】74（ヂンシヤウ） ちりほこりのかかつた牀。〔白居易、秋夕詩〕夜深方獨臥、誰爲拂㆓塵牀㆒。

【塵爵】75（ジンシヤク） ちりの積つたさかづき。〔陶潛、九日閒居詩〕塵爵恥㆓虛罍㆒、寒華徒自榮。

【塵取】76（チリトリ） ㊀塵芥を取り載せて棄てる用具。ごみとり。〔和漢三才圖會、農具類、箕〕按、禮記所㆑言箕、除㆓塵埃㆒之器、俗謂㆓之塵取㆒。㊁城の壕内の塵を取る爲に壕端の所々へつけた階段。〔甲陽軍鑑、十五〕塵とり同じく塵ふせぎの事。㊂腰輿の簡粗なもの。塵取輿。〔太平記、二十九、師直以下被㆑誅事〕痛手を負ひたりける間、馬には乘り得ずして、塵取に舁かれて。

【塵書】77（ヂンシヨ） 俗世間の書物。俗書。〔任昉、贈㆓徐徵君㆒詩〕眇焉追㆓平生㆒、塵書廢不㆑閱。

【塵心】78（ヂンシン） 俗界のけがれた心。名利の心。〔錢起、哭㆓空寂寺玄上人㆒詩〕寂滅應㆑爲㆑樂、塵心徒自傷。〔呂溫、終南精舍月中聞㆓磬聲㆒詩〕竟夕聽㆓眞響㆒、塵心自解紛。

〔洗㆓塵心㆒〕79（ヂンシンヲアラフ） 俗念を一洗する。〔白居易、南侍御以㆑石相贈助㆓成水聲㆒因以㆓絕句㆒謝㆑之詩〕泉石磷磷聲似㆑琴、閒眠靜聽洗㆓塵心㆒。

【塵世】80（ヂンセイ） ちりの世。けがれた世の中。此の世。俗世。塵界。塵區。塵寰。〔王維、愚公谷詩〕寄㆑言塵世客、何處欲㆓歸臨㆒。〔杜牧、九日齊安登高詩〕塵世難㆑逢開㆑口笑、菊花須㆘插㆓滿頭㆒歸㆖。

【塵積】81（ヂンセキ） ちりのつもること。〔張華、女史箴〕崇猶㆓塵積㆒、替若㆓駭機㆒。〔李商隱、魏侯第東北樓堂郢叔言㆑別詩〕舊歡塵自積、新歲電猶奔。

〔塵積爲㆑山〕82（チリツモツテヤマヲナス） 塵埃が積み重なつて山となる。小が積つて大となる喩。〔荀子、勸學〕積㆑土成㆑山、風雨興焉。〔說苑、建本〕土積成㆑山、則豫樟生焉。

【塵刹】83（ヂンセツ） 佛塵數（かぎりなき數をいふ）の世界。刹は梵語、國土の義。〔往生要集、上末〕普入㆓一切塵刹㆒、作㆓諸佛事㆒。

【塵素】84（ヂンソ） ㊀ちりまみれで飾りけのないこと。〔南史、王儉傳〕車服塵素、家無㆓遺財㆒。㊁白い塵。雪の形容。〔張九齡、奉㆓和聖製瑞雪篇㆒詩〕皓皓樓前月初白、紛紛陌上塵皆素。

【塵甑】85（ヂンソウ） ちりまみれのこしき。貧乏なこと。又、物事に頓着しないこと。〔庾信、謝㆔明皇帝賜㆓絲布等㆒啓〕白社之內、拂㆑草看㆑冰、靈臺之中、吹㆑塵視㆑甑。〔范成大、春晚卽事留㆓游子明王仲顯㆒詩〕笑我生㆓塵甑㆒、慚君有㆓意袍㆒。

【塵俗】86（ヂンゾク） ちりの世の中。俗世間。俗塵。〔晉書、索襲傳〕宅不㆑彌㆑畝、而志忽㆓九州㆒、形居㆓塵俗㆒、而棲㆓心天外㆒。〔任昉、王文憲集序〕司徒袁粲有㆓高世之度㆒、脫㆓落塵俗㆒。〔劉潛、和㆓昭明太子鍾山解講㆒詩〕雖㆑窮㆓理遊盛㆒、終爲㆓塵俗喧㆒。〔劉希夷、嵩獄聞㆑笙詩〕昔去落㆓塵俗㆒、願言聞㆓此曲㆒。

【塵臺】87（ヂンダイ） 晉の石季倫が雜寶異香を舂いて樓上から吹き散らさせ、樓に名づけて塵臺といつた。〔海錄碎事、人事、富貴〕石季倫舂㆓雜寶異香㆒、使㆘人于㆓樓上㆒吹㆗散之㆖、名爲㆓塵臺㆒。

【塵榻】88（ヂンタフ） ちりに埋もれたゆか、又は腰かけ。〔沈約、和㆓謝宣城㆒詩〕賓至下㆓塵榻㆒、憂來命㆓綠罇㆒。〔元稹、鄂州寓㆓嚴澗宅㆒詩〕華枝滿㆑院空㆓啼鳥㆒、塵榻無㆑人憶㆓臥龍㆒。

【塵中】89（ヂンチユウ） けがれた世の中。〔杜甫、病馬詩〕塵中老盡㆑力、歲晚病傷㆑心。〔姚合、遊春詩〕塵中主印吏、誰遣㆑有㆓高情㆒。〔文天祥、遣興詩〕何從㆓林下㆒尋㆓元亮㆒、只向㆓塵中㆒作㆓魯連㆒。

【塵塚】90（チリヅカ） 塵芥を棄てて置く處。はきだめ。〔徒然草〕塵塚の塵。

【塵塵】91（ヂンヂン） よよ。世々。〔蘇軾、遷居詩〕念念自成㆑劫、塵塵各有㆑際。

〔塵塵三昧〕91′（ヂンヂンザンマイ） 一微塵の中において一切の三昧に入ることをいふ。〔碧巖錄、五十則〕。

〔塵塵刹刹〕92（ヂンヂンセツセツ） ㊀佛塵塵刹土に同じ。〔朱熹、公濟和㆑詩見㆑閔㆓耽書㆒勉以㆓教外之樂㆒以㆑詩請問詩〕至理無㆑言絕㆓淺深㆒、塵塵刹刹不㆓相侵㆒。㊁chʻen^2 chʻen^2 chʻa^4 chʻa^4 時時刻刻。

〔塵塵刹土〕93（ヂンヂンセツド） 佛かぎりなき無數の國土。又、一々の微塵の中に皆國土あるをいふ。〔華嚴經、盧遮物品〕此地清淨地寶莊嚴、一切佛刹悉來入、其地一一微塵中、一切佛刹亦悉入。〔太平記、十六〕或時は本地の神に返りて、塵塵刹土の利生をなし給ふ。

【塵泥】94（ヂンデイ） ちりとどろ。塵塗。〔孟郊、獻㆓襄陽于大夫㆒詩〕謝公領㆓茲郡㆒、山水無㆓塵泥㆒。〔蘇舜欽、呂公初示㆓古詩一編㆒因以㆓短歌㆒答㆑之詩〕昔時名價滿㆓天下㆒、此日塞默趨㆓塵泥㆒。〔蘇軾、與㆔子由㆒同遊㆓寒溪西山㆒詩〕高安酒官雖㆑未㆑上、兩腳垂欲㆑穿㆓塵泥㆒。

【塵轍】95（ヂンテツ） ちりまみれのわだち。塵軌。〔顏延之、赭白馬賦〕超攄絕㆓夫塵轍㆒、驅騖迅㆓於滅沒㆒。〔柳宗元、遊㆓南亭㆒夜還敍㆑志七十韻詩〕外曲徇㆓塵轍㆒、私心寄㆓英髦㆒。

【塵忝】96（ヂンテン） 恩遇をけがす。〔任昉、到㆓大司馬記室㆒牋〕顧㆑已循㆑涯、寔知㆑塵忝。〔注〕向曰、塵、汙、忝、辱也。

【塵玷】97（ヂンテン） ちりときず。けがれ。汙點。又、けがす。〔袁宏、三國名臣序贊〕如㆓彼白珪㆒、質無㆓塵玷㆒。〔張九齡、讓㆔起㆓復中書侍郎同平章事㆒表〕雖㆑願㆓感恩扶力、匍匐祇命㆒、其如㆘塵㆓玷聖鑑㆒、汚㆗辱台衡㆖。〔韓愈、進㆓順宗皇帝實錄㆒表〕文字鄙陋、實懼㆓塵玷㆒。

【塵點】98（ヂンテン） けがす。〔後漢書、楊震傳〕損㆓辱清朝㆒、塵㆓點日月㆒。〔晉書、郭璞傳〕塵㆓點日月㆒、穢㆓亂天聽㆒。

【塵拈】99（ヂンデン） ちりとり。ごみとり。〔易林本節用集、知〕塵拈。「箕。

【塵斗】100 chʻen^2 tou^3 ちりとり。ごみとり。

【塵塗】101（ヂント） 塵とどろ。塵泥。〔中鑒、雜言下〕衣裳服者、不㆑味㆓于塵塗㆒愛也。〔注〕塗、泥也。

【塵土】102（ヂンド） ごみつち。〔詩、邶風、終風〕終風且霾。〔疏〕釋天云、風而雨㆑土爲㆑霾。孫炎曰、大風揚㆓塵土㆒從㆑上下也。〔姚合、送㆔崔約下第歸㆓揚州㆒詩〕江邊道路多㆓苔蘚㆒、塵土無㆑由㆑得㆑上㆑衣。〔鄭渥、洛陽道詩〕通宵塵土飛㆓山月㆒、是處經營夾㆓御堤㆒。〔朱熹、秋日詩〕茅簷歸去無㆓塵土㆒、淡薄閑花遶㆑舍秋。

【塵黷】104（ヂントク） けがす。塵瀆。〔晉書、何琦傳〕豈可㆘復以㆓朽鈍之質㆒塵㆗黷清朝㆖哉。〔白居易、讓㆑絹狀〕塵㆓黷尊嚴㆒。

【塵念】105（ヂンネン） 世俗を思ふ心。俗念。塵襟。塵想。〔白居易、與㆓微之㆒書〕平生故人、去㆑我萬里、瞥然塵念、此際暫生。〔元稹、酬㆓樂天禁中翫㆑月見㆑寄詩〕何意枚皐正承㆑詔、瞥然塵念到㆓江陰㆒。〔王維、與㆓胡居士㆒皆病寄㆓此詩㆒兼示㆓學人㆒詩〕一興微㆓塵念㆒、橫有㆓朝露身㆒。

【塵浼】106（ヂンバイ） けがれ。けがれる。〔劉弇、李宰新成假山詩〕無㆑爲㆑議㆓眞假㆒、自可㆑蠲㆓塵浼㆒。

【塵煤】107（ヂンバイ） すす。ほこり。〔戴表元、題㆓陳了翁合浦與㆑弟帖㆒〕公殘箋廢墨、脫㆓於塵煤蠹鼠之餘㆒者、令㆓人寶愛㆒如㆑此。

【塵抱】108（ヂンバウ） うきよのおもひ。塵襟。〔韻府引、陸游、詩〕掃㆓空塵抱㆒養㆓天和㆒。

【塵謗】109（ヂンバウ） けがれたそしり。又、塵の飛び來るやうに、身に覺えがなくて受けるそしり。〔陸機、弔㆓魏武帝㆒文〕彼裘紱於㆑何有、貽㆓塵謗於後王㆒。〔注〕銑曰、遺㆓塵黷之謗於後世帝王㆒也。〔魏書、韓子熙傳〕王以㆘權在㆓寵家㆒、塵謗紛雜㆖、恭愼之心、逾深逾厲。〔北史、辛祥傳〕咸陽王禧妃、卽祥妻之妹也、及㆓禧搆㆑逆、親知多罹㆓塵謗㆒、祥獨蕭然不㆑預。

【塵邈】110（ヂンバク） 久遠をいふ。〔張衡、思玄賦〕美㆓襞積㆒以酷烈兮、允塵邈而難㆑虧。〔注〕良曰、塵、久也、邈、遠也。

【塵品】111（ヂンピン） もろもろのもの。〔張文成、什迦像碑〕爲㆓塵品之醫王㆒、作㆓羣生之慈父㆒。

【塵騖】112（ヂンブ） ちりのやうにのぼる。〔潘岳、藉田賦〕震震塡塡、塵騖連㆑天、以幸㆓乎藉田㆒。

【塵封】113（ヂンプウ） 塵埃に埋もれ蔽はれる。〔宋史、樂志十六〕躬行㆓四德㆒、誰知㆓繼㆒二、南風移昐、俄空㆓寶鑑㆒、脂澤塵封。

【塵物】114（ヂンブツ） けがれたもの。汚物。〔謝靈運、述㆓祖德㆒詩〕遺㆑情捨㆓塵物㆒、貞㆓觀丘壑美㆒。

【塵坋】115（ヂンプン） ちりを立ててけがす。〔儀禮、聘禮、宰夫內拂㆑几三、注〕內拂㆑几、不㆑欲㆔塵㆓坋尊者㆒。

【塵坌】116（ヂンプン） ちり。けがれ。〔呂巖、七言詩〕藥就功成身羽化、更拋㆓塵坌㆒出㆓凡流㆒。〔蘇舜欽、和㆔鄰幾登㆓繁臺塔㆒詩〕迥然塵坌隔、頓覺襟抱舒。

【塵氛】117（ヂンプン） けがれた氣。〔杜甫、觀㆔李固請司馬題㆓山水圖㆒詩〕此生隨㆓萬物㆒、何處出㆓塵氛㆒。〔朱熹、月夜述懷詩〕抗志絕㆓塵氛㆒、何不㆑棲㆓空山㆒。

【塵紛】118（ヂンプン） 塵のやうにけがれ亂れる。俗世のわづらはしさ。〔顏延之、夏夜呈㆓從兄散騎車長

沙一詩〕炎天方埃鬱、暑晏闋二塵紛一。〔王齊之、念佛三昧詩〕寂爾淵鏡、金水塵紛。〔朱熹、寄二題咸清精舍清暉堂一詩〕珍重忘二言子一、高唱絶二塵紛一。

【塵紊】119（チンブン）　ちりのやうにみだれる。〔江淹、爲二始安王一拜二征虜將軍丹陽尹一章〕進レ憲蒙淺、塵紊徒盈、還迷二慷悚一、風製二罔樹一。

【塵表】120（チンペウ）　世俗の外。塵外。世外。〔南史、阮孝緒傳〕挂二冠人世一、栖二心塵表一。〔韋應物、天長寺上方別子西有道詩〕高曠出二塵表一、逍遙滌二心神一。

【塵表物】121（チンペウノモノ）　品格の世俗に超絶した人物。〔晉書、王戎傳〕王衍神姿高徹、如二瑤林瓊樹一、自然是風塵表物。〔獨孤及、三月三日自レ京到二華陰一於二水亭一獨酌寄二裴六薛八一詩〕裴子塵表物、薛侯席上珍。

【塵凡】122（チンボン）　❶けがらはしいもの。轉じて、世の中。塵界。凡は俗。〔蘇軾、風水洞二首和二李節推一詩〕山前乳水隔二塵凡一、山上仙風舞二檜杉一。❷平民。〔宣和遺事、前集上〕恩許二塵凡一時縱レ步、不レ知身在二五雲深一。

【塵眯】123（チンマイ）　塵埃が入つて眼がくらむ。〔淮南子、說林訓〕蒙レ塵而眯、固其理也、爲二其不レ出レ戶而堁レ之也。

【塵妄】124（チンマウ）　［佛］不淨で不實なのをいふ。〔明神宗、續大藏經序〕使下人破二塵妄之迷一、以印中妙圓之體上。

【塵網】125（チンマウ）　けがれたあみ。轉じて、解脫し得ない世界。俗界。俗世。〔江淹、雜體、許徵君自序詩〕五難既灑落、超レ迹絶二塵網一。〔注〕濟曰、塵網、喩二世事一。〔陶潛、歸二田園居一詩〕誤落二塵網中一、一去三十年。〔楊炯、遊二廢觀一詩〕悠然出二塵網一、從レ此學二神仙一。〔張說、別二平一師一詩〕皎皎獨性心、不下爲二塵網一欺上。〔岑參、潼關使院懷二王七季友一詩〕不レ負二林中期一、終當レ出二塵網一。

【塵末】126（チンマツ）　微細なちり。〔拾遺記、九、晉時事〕石季倫、云云、又屑二沈水之香一、如二塵末一布二象牀上一。

【塵務】127（チンム）　世俗のうるさいつとめ。世務。俗務。〔江淹、雜體、殷車陽中文詩〕瑩レ情無二餘滓一、矚拂レ衣釋二塵務一。〔注〕銑曰、解二塵俗之事一。〔世說新語、賢媛〕王江州夫人語二謝遏一曰、汝何以都不二復進一、爲二是塵務經レ心、天分有レ限。〔南齊書、何昌寓傳〕竊尋故建平王、地屬二親賢一、德居二宗望一、道心惟沖、睿性天峻、散二情風雲一、不下以二塵務一嬰上衿、明發懷古、惟以二琴書一娛レ志。

【塵夢】128（チンム）　まぼろしのゆめ。〔曹唐、仙子洞中有レ懷二劉阮一詩〕不下將二清瑟一理中霓裳上、塵夢那知二鶴夢長一。〔福惠全書、教養部、學規〕莫下將二塵夢一負中居諸上。

【塵霧】129（チンム）　ちりときり。轉じて、行く手をはばむ難事件。〔袁宏、三國名臣序贊〕雖レ遇二塵霧一、猶レ振二霜雪一。〔常建、古意詩〕回レ頭望二京邑一、合沓生二塵霧一。〔白居易、長恨歌〕回レ頭下望二人寰處一、不レ見二長安一見二塵霧一。〔蘇軾、與二周長官李秀才一遊二徑山一詩〕呼來徑山下、試與洗二塵霧一。

【塵冥】130（チンメイ）　土ほこりでくらい。〔陸機、擬三西北有二高樓一詩〕綺窻出二塵冥一、飛陛躡二雲端一。〔注〕銑曰、塵冥、昏塵外也。

【塵面】131（チンメン）　ちりにけがれた顏。塵顏。〔梁鍠、代二征人一詩〕千日廢臺還挂レ鏡、數年塵面再新妝。〔蘇轍、宋城宰韓秉文惠二日鑄茶一詩〕溪山去レ眼塵生レ面、簿領埋レ頭汗匝レ膚。

【塵蒙】132（チンモウ）　塵埃のかかること。俗務に煩はされることに喩へる。〔南齊書、王融傳〕湔二拂塵蒙一、霑二飾光價一。〔孫綽、表哀詩〕塵蒙二几筵一、風生二棟宇一。〔李益、府試古鏡詩〕長願レ免二塵蒙一。

【塵也】133（チンヤ）　佐藤廣義の號。佐藤周軒（**1－506・73**）を見よ。

【塵容】134（チンヨウ）　けがれた世の中のありさま。〔孔稚珪、北山移文〕抗二塵容一而走二俗狀一。〔注〕濟曰、學二聘塵俗之容狀一。〔岑參、春半與二羣公一同遊二元處士別業一詩〕愛レ茲清二俗慮一、何事老塵容。

【塵勞】135（チンラウ）　❶俗事の苦勞。〔蘇軾、觀臺詩〕塵勞付二白骨一、寂照起二黃庭一。❷［佛］煩惱。煩惱は身心を勞するからいふ。〔無量壽經、上〕散二諸塵勞一、壞二諸欲塹一。〔維摩經義記、六〕煩惱坌汙、名レ之爲レ塵、說二能勞亂一以爲レ勞。〔圓覺經疏鈔〕塵、是六塵、勞、謂二勞倦一、由レ塵成レ勞、故名二塵勞一。

【塵裏】136（チンリ）　ちりほこりの中。轉じて、煩はしい世の中。〔沈約、細言應令詩〕開レ館尺棰餘、築レ榭微塵裏。〔蘇軾、軾在二潁州一與二趙德麟一同治二西湖一云云詩〕大千起滅一塵裏、未レ覺杭潁誰雌雄。

【塵溜】137（チンリウ）　ちりとしたたり。〔論衡、四諱〕或說惡三其反而承二塵溜一也。

【塵慮】138（チンリヨ）　鄙俗なところ。けがれたかんがへ。塵意。塵懷。〔顏眞卿、夜集聯句〕茲夕無二塵慮一、高雲共二片心一。〔孟貫、寄二暹上人一詩〕終期息二塵慮一、接話虎溪邊。

【塵累】139（チンルイ）　❶世俗のわづらひ。俗世の關係。塵緣。〔南史、阮孝緒傳〕庶保二促生一、以免二塵累一。❷［佛］煩惱惡業の我にわづらひを及ぼすもの。〔楞嚴經、一〕拔二濟未來一、越二諸塵累一。

【塵厲】140（チンレイ）　塵の舞ひ起ること。〔管子、地員〕剽土之次曰二五沙一、五沙之狀、粟焉如二屑塵厲一。〔注〕言、其地粟碎、故若二屑塵之厲一、厲、踊起也。

【塵露】141（チンロ）　❶ちりとつゆ。〔宋書、謝莊傳〕陛下今蒙二犯塵露一、晨往宵歸、容レ恐三不逞之徒、妄生二矯詐一。❷細微のもの。轉じて、はかないもの。〔曹植、求二自試一表〕冀以二塵露之微一、補二益山海一、螢燭末光、增二暉日月一。〔晉書、瑯琊王煥傳〕此蒭蕘之言、有レ補二萬一一、塵露之微、有レ增二山海一。

【塵露之積】142（チンロノセキ）　塵や露ほどの微物を積み重ねること。

【塵籠】143（チンロウ）　煩惱をいふ。〔靈寶定觀經〕舊業日銷、新業不レ造、無レ所二罣礙一、迥二脫塵籠一。〔武三思、秋日於二天中寺一尋二復禮上人一詩〕願隨二方便力一、長冀レ釋二塵籠一。

【塵涴】144（チンワ）　けがす。けがれる。〔韓愈、合江亭詩〕願書二巖上石一、勿レ使レ泥二塵涴一。〔蘇軾、病中大雪數日未二嘗起觀一號令趙薦以レ詩相屬戲用二其韻一答レ之詩〕欲レ爲二後日賞一、恐レ被レ遊二塵涴一。

【塵枉】145（チンワウ）　よこしま。〔後漢書、逸民傳贊〕道就二虛全一、事違二塵枉一。

【清レ塵】146（チリヲキヨム）　塵を拂ひきよめる。〔班固、東都賦〕雨師汎灑、風伯清レ塵。

【吹レ塵夢】147（チリヲフクノユメ）　黃帝が大風の塵土を吹く夢をみて風后を用ひた故事。〔海錄碎事、人事、夢寐〕潛夫論、黃帝夢三大風吹二天下塵土一、得二風后一以爲レ相。

【望レ塵拜】148（チリヲノゾンデハイス）　馳せ去つてゆく後塵を望んで禮拜する。おもねり媚びて長上に事へるさま。後塵を拜す。〔晉書、潘岳傳〕岳性輕躁、趨二世利一、與二石崇等一諂二事賈謐一、每候二其出一、與レ崇輒望レ塵而拜。

【塵飯塗羹】149（チンパントカウ）　小兒のままごとにつかふ、ちりの飯と泥のあつもの。實際の用に立たぬものの喩。〔韓非子、外儲說左上〕夫嬰兒相與戲也、以レ塵爲レ飯、以レ塗爲レ羹、以レ木爲レ胾、然至二日晚一、必歸饟者、塵飯塗羹、可二以戲一、而不レ可レ食也、夫稱二上古之傳一、頌辯而不レ愨、道二先王仁義一、而不レ能レ正レ國者、此亦可二以戲一、而不レ可二以爲レ治也。

【望レ塵知レ敵】150（チリヲノゾミテテキヲシル）　砂塵を望見して敵の兵數を察知する。〔五代史、唐臣、周德威傳〕周德威爲レ人勇而多二知能一、望レ塵以知二敵數一。

【望レ塵不レ及】151（チリヲノゾムモオヨバズ）　去り行く車を追うて、その砂塵を望みながら遂に及ばぬこと。〔南史、吳慶之傳〕王琨爲二吳興太守一、欲下召二吳慶之一爲中功曹上、答曰、走素無二人世情一、直以三明府見二接有一レ禮、所三以奔二走歲時一、若欲レ見レ吏、則是蓄二魚於樹一、栖二鳥於泉一耳、不レ辭而退、琨追謝レ之、望レ塵不レ及矣。〔唐無名氏、大章車賦〕望レ塵不レ及、初非二千里而遙一。

【塷】5389　ロク　〔集韻〕盧谷切　［屋］。

地名。〔集韻〕塷、地名、梁有二塷口城一。

【⿰土鹵】5390　ロ　鹵（**12－47528**）に同じ。〔集韻〕鹵、或从レ土。

【⿰土梟】5391　ケウ　〔玉篇〕計堯切　［蕭］。

地に伏して卵を生む。〔玉篇〕⿰土梟、伏レ土爲レ卵也。

【⿱殹土】5392
〖一〗エイ 〔集韻〕煙奚切 〖齊〗
〖二〗エイ 〔集韻〕壹計切 〖霽〗
⿱殹土 小篆

〖一〗ほこり。ちり。〔說文〕⿱殹土、⿱麤土埃也、从ㇾ土殹聲。〖二〗壒(**3－5459**)に同じ。〔集韻〕壒、或作ㇾ⿱殹土。

【塸】5393
〖一〗オウ ウ 〔集韻〕於口切 〖有〗
〖二〗オウ ウ 〔集韻〕烏侯切 〖尤〗

〖一〗**砂のうづたかい處**。砂丘。〔集韻〕塸、沙堆。〔集韻〕塸、沙堆。〖二〗❶**はか**。〔玉篇〕塸、墓也。❷**砂の丘**。〔集韻〕塸、聚沙。

【塹】5394
セン 〔集韻〕七豔切 〖豔〗 ㄑㄧㄢˋ ch'ien⁴
〖慣〗ザン
塹 小篆

❶**あな**。**ほり**。〔說文〕塹、阬也、从ㇾ土斬聲。〔史記、高祖紀〕高ㇾ壘深ㇾ塹。❷**ほる**。〔莊子、外物〕側ㇾ足而塹ㇾ之、〔釋文〕塹、本又作ㇾ塹、七念反、掘也。❸**おほきい**。〔說文〕塹、一曰、大也。❹或は壍(**3－5542**)・塹(**4－8411**)に作る。〔說文通訓定聲〕塹、字亦作ㇾ壍。〔集韻〕塹、或作㆓壍・⿰土斬㆒。

【塹壕】1（ザンガウ） ❶壕をほる。又、城のほり。塹濠。城池。〔唐書、裴行儉傳〕大軍次㆓單于北㆒、暮立ㇾ營塹ㇾ壕。❷散兵濠・掩濠・交通濠・對濠等のやうに、溝を掘り土を積み上げて戰鬪力を保持增進させるものをいふ。

【塹壕戰】2（ザンガウセン） 塹濠を掘りそれに據りながら攻防する戰鬪。

【塹壕臼礮】3 ch'ien⁴ hao² chiu⁴ p'ao⁴ 迫擊砲。歩兵の敵壘に突貫するに際し、之を援助するため、敵壘間近に持來つて爆彈を發射する一種の火砲。裝置、輕便で、花火の筒に類す。

【塹濠】4（ザンガウ） 塹壕に同じ。

【塹埳】5（ザンカン） ほり。〔論衡、順鼓〕吏卒部民、塹道作ㇾ埳、榜驅內㆓於塹埳㆒。

【塹外】6（ザングワイ） ほりのそと。〔日本外史、德川氏正記、德川氏三〕直政設㆓伏塹外㆒而進攻、輒取ㇾ堡。

【塹谷】7（ザンコク） ほりとたに。〔唐書、吐蕃傳下〕投㆓塹谷㆒死者千數。

【塹塞】8（ザンサイ） ほりととりで。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕於ㇾ是益設㆓塹塞㆒置㆓守兵㆒、遂發㆓閒使㆒招㆓諸侯㆒。

【塹柵】9（ザンサク） ほりとさく。ほりと逆茂木。〔南齊書、魏虜傳〕遣㆔肅與㆓劉昶㆒號㆓二十萬衆㆒、圍㆓義陽㆒、司州刺史蕭誕拒戰、虜築㆓圍塹柵三重㆒、燒㆓居民㆒淨盡、并ㇾ力攻ㇾ城、城中負ㇾ楯而立。

【塹樹】10（ザンジュ） 城の濠端（ホリバタ）に生えた樹木。〔梁川星巖、一谷懷古詩〕塹樹鵑啼朶朶紅。

【塹峭】11（ザンセウ） 堀のけはしいこと。要害な堀。〔柳宗元、法華寺石門精室三十韻詩〕塹峭出㆓蒙籠㆒、墟嶮臨㆓滉瀁㆒。

【塹刺】12（ザンセキ） いれずみする。ほりもの。〔清異錄〕塹㆓刺四支㆒。

【塹道】13（ザンダウ） 道をほる。〔論衡、順鼓〕吏卒部民、塹道作ㇾ埳、榜驅內㆓於塹埳㆒。

【塹中】14（ザンチュウ） ほりのなか。濠中。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕柵據㆓水澤㆒、高ㇾ壘深ㇾ塹、塹中植ㇾ刃。

【塹堵】15 ch'ien⁴ tu³ 算學名詞の一。陽馬(**11－41725・・212**)の❷と鼈臑(**12－48305・・15**)と合成したもの。

【塹壘】16（ザンルイ） とりで。〔魏志、郭淮傳〕塹壘未ㇾ成、蜀兵大至。〔杜牧、上㆓宣州崔大夫㆒書〕不ㇾ設㆓塹壘㆒、曲垂㆓情意㆒。

【塹壘木樵】17（ザンルイボクセウ） とりでと木のやぐら。〔漢書、趙充國傳〕部曲相保、爲㆓塹壘木樵㆒。

【⿰土斬】5395
セン

塹(**3－5394**)に同じ。〔篇海類編〕⿰土斬、與ㇾ塹同。

【⿰土從】5396
ショウ シュ 〔字彙〕咨容切 〖冬〗

菌の名。〔正字通〕⿰土從、土菌也、高腳纖頭、俗謂㆓之雞⿰土從㆒、出㆓滇南㆒。

【塺】5397
〖一〗バイ マイ 〔集韻〕謨杯切 〖灰〗
〖二〗バ マ 〔集韻〕莫臥切 〖箇〗
塺 小篆

〖一〗〖二〗❶**ちり**。⿰土每(**3－5102**)に同じ。〔說文〕塺、⿱麤土也、从ㇾ土麻聲。〔集韻〕⿰土每、或作ㇾ塺。〔一切經音義、十二〕塺、塵土也。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕愈氛霧其如ㇾ塺。〔注〕塺、塵也。〔楚辭、王褒、九懷、陶壅〕浮雲鬱兮晝昏、塵土忽兮塺塺。〔注〕風俗塵濁、不ㇾ可ㇾ居也、塺、一作ㇾ⿰土每。〔補注〕塺、音梅、塵也。❷堁(**3－5206**)に通ず。〔說文通訓定聲〕塺、字亦作ㇾ堁。

【塻】5398
バク マク 〔集韻〕末各切 〖藥〗

ちり。〔集韻〕塻、塵也。

【塛】5399
バン マン 〔集韻〕謨官切 〖寒〗

❶**土で覆ふ**。或は墁(**3－5405**)に作る。〔集韻〕塛、土覆、或作ㇾ墁。❷**こて**。〔類篇〕塛、鐵杇也。

【塼】5400
〖一〗セン 〔集韻〕朱遄切 〖先〗 ㄓㄨㄢ chuan¹
〖二〗タン ダン 〔集韻〕徒官切 〖寒〗
〖三〗セン ゼン 〔集韻〕淳沿切 〖先〗

〖一〗❶**地名**。塼澤(2)を見よ。❷**かはら**。甎(**7－21589**)に同じ。〔集韻〕甎、燒墼也、或从ㇾ土。〖二〗**まるい**。團(**3－4834**)に同じ。〔集韻〕團、圜也、太玄作ㇾ塼。〖三〗**絲を紡ぐに用ひる瓦製のつむ**。專(**4－7439**)に通ず。〔詩、小雅、斯干〕載弄之瓦、〔傳〕瓦、紡塼也。〔陳奐、詩毛氏傳疏〕傳、以㆓紡塼㆒釋ㇾ瓦、紡卽絲紡、塼所㆓以持ㇾ絲、以ㇾ瓦爲ㇾ之、云云、說文寸部、作㆓紡專㆒、案、古祇作ㇾ專、今俗作ㇾ塼、又作ㇾ甎。

【塼位】1（センヰ） 役人の朝廷に於ける席次のしるし。席次の標識。〔宋史、職官志二〕參知政事、掌㆓副宰相㆒、乾德二年置、殿廷別設㆓塼位㆒、敕㆓尾著銜㆒降㆓宰相㆒、月俸雜給半ㇾ之。

【塼澤】2（センタク） 古の地名。〔說苑、權謀〕趙簡子使㆘成何涉他與㆓衞靈公㆒盟㆗於塼澤㆖。

【塼塔】3（センタフ） 瓦で作った塔。〔徐陵、東陽雙林寺傅大士碑〕乃起㆓九層塼塔㆒、形相歸然、六時虔拜、巡繞斯託。〔王建、題㆓柏巖禪師影堂㆒詩〕山中塼塔閉、松下影堂新。

【塼塔銘】4（センタフメイ） 唐の王居士の墓中の誌銘。居士、名は公、字は孝寬。篤く佛敎を信じ、顯慶元年卒す。塔銘は顯慶三年の建立にかかり、上官靈芝の撰文、敬客の楷書によつて塼に銘したもの。今、搨本を存す。吳中の鄭廷陽・錢湘二家の摹刻がよい。〔上官靈芝、王居士塼塔銘〕居士諱公、字孝寬、太原晉陽人也、英宗穎邁、遠胄隆周、茂緒遐昌、鬱冠㆓後魏㆒、樂府歌㆓其載德㆒、天下挹㆓其家聲㆒、具詳㆓圖牒㆒、豈煩㆓覼縷㆒、居士早標㆓先覺㆒、本遺㆓名利㆒、偏覽㆓典墳㆒、備窮㆓義窟㆒、觀㆓老莊㆒如㆓糟粕㆒、視㆓孔墨㆒猶㆓灰塵㆒、得㆓給園之說罄㆒、求㆓彼岸之路勵㆒、精㆓七覺㆒仰㆓十地㆒、而克勤㆓旰食㆒、一麻

欣二六年之頽領一、方期三拔二除煩惱一、永離二蓋纏一、何悟二積善一、始二基處一、悲二生滅一、以二顯慶元年十一月廿九日一寢レ疾、終二於京第一、春秋七十有三、卽以二三年十月十二日一收レ骸、起二靈塔於終南山梗梓谷一、風吟邃潤、寶鐸和鳴、雲散二危峯一、金盤吐レ曜、道長運短、迹往名留、不レ刊二介石一、孰播二徽猷一、吁其嗟焉、乃爲レ銘曰、懿矣居士、明哉悟眞、幽二鑒彼岸一、妙道問レ津、苦節無レ撓、貞心剋勤、顧邈二三有一、超修二十輪一、俄隨二怛化一、遽此遷レ神、歸然靈塔、長欽二後人一。

【塼塗】5 セント　固めた泥。摶塗。〔荀子、正論〕譬レ之是猶下以二塼塗一塞二江海一也、以二僬僥一戴中太山上也。〔注〕塼塗、以レ塗壘レ塼也。〔集解〕盧文弨曰、塼、俗字、荀書當二本作レ摶。

【塼土】6 chuan¹ t'u²　土をまるめる。まるめた土。

【塼坪】7 センペイ　縣名。民國、置く。陝西省に屬す。

【塼甓】8 センベキ　かはら。甎瓦。〔謝惠連、祭二古冢一文序〕上無二封域一、不レ用二塼甓一。

【塽】5401　サウ シャウ　〔集韻〕所兩切　ㄕㄨㄤˇ shuang³　養

高く明るい土地。通じて爽(**7－19746**)に作る。〔廣韻〕塽、塽塏、高也。〔集韻〕塽、地高明處、通作レ爽。

【塾】5402　シュク ジュク　〔集韻〕神六切　ㄕㄨˊ shu²　屋

小篆

㊀**門の兩わきにある室。**もと⿱孰土に作る。〔說文新附〕⿱孰土、門側堂也、从レ土孰聲。〔爾雅、釋宮〕門側之堂、謂二之塾一。〔注〕夾門堂也。〔義疏〕一門凡四堂。〔詩、周頌、絲衣、自レ堂徂レ基、傳〕基、門塾之基也。〔疏〕白虎通云、必有レ塾何、欲二以飾一レ門、因取二其名一也、明下臣下當レ見二於君一、必先熟中思其事上也。〔儀禮、士冠禮〕具二饌于西塾一。〔注〕西塾、門外西堂也。〔儀禮、士冠禮〕負二東塾一。〔注〕東塾、門內東堂也。㊁**まなびや。**學舍。古は門側の塾に於て家の子弟を教へた。〔禮、學記〕古之教者、家有レ塾、黨有レ庠。〔輟耕錄、雙硯堂〕周待制月巖先生仁樂、買二地於府城之鄭桿兒坊一、剏二義塾一、以淑二後進一。㊂**まと。**準的。〔後漢書、劉縯傳〕皆畫二伯升於塾一、旦起射レ之。㊃或は⿵鬥孰(**11－41469**)・⿵鬥塾(**11－41518**)に作る。〔集韻〕塾、或作二⿵鬥孰・⿵鬥塾一。

【塾師】1 ジュクシ　塾舍の教師。

【塾舍】2 ジュクシャ　學業を修める家。塾堂。

【塾生】3 ジュクセイ　學舍に在る生徒。塾徒。〔鶩峯文集、十五〕塾生序齒記。〔柴野栗山、雛鶯說〕書以示二塾生一。

【塾堂】4 ジュクダウ　學行を修める家。塾舍に同じ。〔余靖、雷州學記〕閭有二塾堂一、巷有二校室一。

【塾長】5 ジュクチャウ　塾の長。又、塾生の長。

【塾徒】6 ジュクト　塾生に同じ。

【塾頭】7 ジュクトウ　學舍のかしら。塾生のとりしまり役。〔浮雲、一〕お勢の入塾した塾の塾頭をしてゐる婦人は。

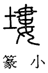
【塾門】8 ジュクモン　宮外の門。〔三輔黃圖〕未央宮外有二塾門一。〔古今注、都邑〕塾、門外之舍也、臣來朝レ君、至二門外一當下就レ舍更レ衣、熟中詳所二應對一之事上、塾之言、熟也。

【塾南書庫】9 ジュクナンショコ　清、王昶(**7－20823··791**)の室名。

【塿】5403

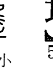
一 ロウ ル　〔集韻〕朗口切　ㄌㄡˇ lou³　有

二 ロウ ル　〔集韻〕郎侯切　尤


小篆

一二㊀**つち。**かわいてあらい土。〔說文〕塿、塺土也、从レ土婁聲。〔廣雅、釋地〕塿、土也。〔說文通訓定聲〕塿、謂二疏土一、與レ壚略同。㊁**つか。**小さい塚。〔方言、十三〕冢、自レ關而東、謂二之邱一、小者謂二之塿一。㊂或は婁(**3－6383**)に作る。〔集韻〕塿、小阜、或省。㊃嶁(**4－8408**)に通ず。〔淮南子、原道訓〕運二枯形於連嶁列埒之閒一、〔注〕嶁、當レ爲レ塿。

【墀】5404　チ ヂ　〔集韻〕陳尼切　ㄔˊ ch'ih²　支


小篆

㊀**きざはしの上の空地で、顏料を塗り、又は、玉石などを敷きつめたところ。**〔說文〕墀、涂地也、从レ土犀聲、禮、天子赤墀。〔後漢書、班固傳上〕玄墀釦切。〔注〕墀、殿上地也。〔左思、魏都賦〕丹墀臨レ猋。〔注〕劉曰、丹墀、以三丹與二蔣合一用塗レ地也、善曰、漢典職儀曰、以レ丹漆レ地、故稱二丹墀一。㊁**きざはし。**〔班固、西都賦〕玄墀釦砌。〔注〕銑曰、玄墀、以レ漆飾レ墀、墀、階也。㊂或は墀(**3－5334**)に作る。〔集韻〕墀、或作レ墀。㊃**す。又、ありづか。**坻(**3－5001**)に通ず。〔易略例〕隆墀永歎。〔注〕墀、水中墀也。〔釋文〕墀、本又作レ坻、坻、蟻冢。

參考　字形、旁は犀で、正しくは十二畫。

【墀砌】1 チセイ　石だたみの庭。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕桌置二墀砌上一。

【墀廡】2 チブ　ひさし。〔謝惠連、雪賦〕初便二娟於墀廡一、末縈二盈於帷席一。

【墁】5405

一 バン マン　〔集韻〕謨官切　寒

二 バン マン　〔集韻〕莫半切　ㄇㄢˋ man⁴　翰

一二㊀**こて。**通じて鏝(**11－40807**)・槾(**6－15394**)に作る。〔集韻〕墁、塗具、通作二鏝・槾一。㊁**壁の飾。**〔孟子、滕文公下〕毀レ瓦畫レ墁。〔集注〕墁、牆壁之飾也。㊂⿰土㒼(**3－5399**)に同じ。〔集韻〕⿰土㒼、土覆、或作レ墁。㊃現石、又は煉瓦などを敷く。

【墁瓦】1 man⁴ wa³　瓦をならべる。

【墁甎】2 man⁴ chuan¹　煉瓦を敷く。

【墁治】3 マンチ　壁を塗りなほす。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕墁二治壁一、悉書二前任人名氏一。

【墁滅】4 マンメツ　ぬりつぶす。〔孟子、滕文公下〕有レ人二於此一、毀レ瓦畫レ墁、其志將二以求一レ食也。〔注〕畫レ地則復墁二滅之一。

【墂】5406　ヘウ　〔集韻〕卑遙切　蕭

目じるしのもり土。〔集韻〕墂、封レ土爲レ識。

【⿰土巢】5407　サウ セウ　〔集韻〕莊交切　肴

地名。〔廣韻〕⿰土巢、地名、在二聊城一。

【⿰土⿰耳攵】5408　ハイ バイ　〔集韻〕簿邁切　卦

小さいつつみ。〔集韻〕⿰土⿰耳攵、堤也。

【境】5409　ケイ キャウ　〔集韻〕擧影切　ㄐㄧㄥˋ ching⁴　梗

小篆

㊀**さかひ。**〔說文新附〕境、疆也、从レ土竟聲。〔呂覽、贊能〕至二齊境一。〔注〕境、界也。㊁**さかひうち。**領地。〔呂覽、懷寵〕故兵入二於敵之境一。〔注〕境、壤。㊂**ところ。**ばしょ。〔李頎、送二王寧一詩〕行人與レ我翫二幽境一。㊃**ばあひ。めぐりあはせ。**〔戴良、治レ圃詩〕在レ我豈不レ勞、卽レ境

多レ所レ歡。㊄**心意の對象となる世界**。客觀界。〔指月錄〕克符問ニ臨濟一、如何是奪レ境不レ奪レ人。㊅竟（**8―25757**）に通ず。〔說文新附〕境、經典通用レ竟。〔公羊、隱、二、注、不レ得レ踰レ竟、釋文〕竟、今本多卽作ニ境字一。

參考 熟語は疆（**7―21961**）をも見よ。

【境異】1（キャウイ） 酉陽雜俎の篇名。

【境域】2（キャウヰキ） さかひ。境界。又、境內の地。疆域。〔後漢書、虞詡傳〕弃ニ其境域一。〔宋書、文帝紀〕境域幽遐。

【境宇】3（キャウウ） さかひ。國の境。邊土。疆宇。〔班固、燕然山銘〕恢ニ拓境宇一。〔後漢書、竇憲傳〕恢ニ拓境宇一。

【境場】4（キャウエキ） さかひ。くにざかひ。疆場。竟場（**8―25757‥3**）を見よ。

【境界】5（キャウカイ） ㊀さかひ。かぎり。區域。境域。〔列子、周穆王〕不レ知ニ境界之所一レ接。〔後漢書、仲長統傳〕制ニ其境界一。㊁場所。境地。〔耶律楚材、外道李浩云云詩〕我愛北天眞境界。㊂佛（キャウガイ） 自分の力の及ぶ範圍。自分が得た報いの世界。心意の對象となる世界。〔無量壽經、上〕比丘白レ佛、斯義宏深、非ニ我境界一。〔方丈記〕境界なければ、何につけてか破らむ。

【境涯】6（キャウガイ） ㊀さかひ。かぎり。㊁身のおきどころ。境遇。

【境遇】7（キャウグウ） 身のおきどころ。處世上の身の位置。現在の身ぶん。境涯。

【境外】8（キャウグワイ） さかひのそと。區域のそと。疆外。〔管子、小匡〕逐ニ於境外一。〔史記、衞將軍驃騎傳〕不ニ敢自擅專ニ誅於境外一。

【境限】9（キャウゲン） かぎり。

【境上】10（キャウジャウ） 境のあたり。さかひ。境邊。〔史記、廉頗傳〕臣嘗從ニ大王一、與ニ燕王一會ニ境上一。〔說苑、權謀〕智伯聞ニ衞兵在ニ境上一、乃還。

【境地】11（キャウチ） ところ。場所。立場。環境。

【境土】12（キャウド） 境の中の土地。疆土。〔後漢書、東夷傳〕以ニ境土廣遠一、復分ニ領東七縣一。

【境內】13（キャウナイ ケイダイ） ㊀さかひのうち。かこひのうち。又、國內。域內。疆內。〔莊子、秋水〕莊子釣ニ於濮水一、楚王使ニ大夫二人往先一焉、曰、願以ニ境內一累矣。〔荀子、富國〕境內之聚也。〔戰國、秦策〕境內之利、分ニ移華陽一。〔韓非子、內儲說上〕君雖レ問ニ境內之人一、猶不レ免ニ於亂一也。〔史記、項羽紀〕掃ニ境內一。㊁社寺のかこひうち。〔寺社奉行留書、二、諸作事〕寺社境內作事之事、云云、寺社境內作事修復建直之節、寺社奉行所江相願被ニ差免一候。㊂商子の篇名。

【境物】14（キャウブツ） 外界のもの。あたりのもの。〔權德輿、陪ニ包諫議一湖墅路中擧レ帆詩〕蕭蕭涼雨歇、境物望中閑。

【境吏】15（キャウリ） 國境を守る役人。疆吏。〔戰國、燕策〕張丑爲レ質ニ於燕一、燕王欲レ殺レ丑、走且レ出レ境、境吏得レ丑。

【境殊俗異】16（キャウコトニゾクコトナル） 土地もかはり、風俗もちがつてゐる。〔棧雲峽雨日記、上〕今乃涉ニ萬里之遠一、境殊俗異。

【入レ境問レ禁】17（キャウニイリテハキンヲトフ） 他國の國境に入つては其の國の政教の禁制する所を問ふ。〔禮、曲禮上〕入レ竟而問レ禁、入レ國而問レ俗、入レ門而問レ諱。〔孟子、梁惠王下〕臣始至ニ於境一、問ニ國之大禁一、然後敢入。

【墄】5410

ソク 〔集韻〕七則切 職

きだ。きざはし。階段。〔集韻〕墄、階級也。〔三輔黃圖〕未央前殿、左墄右平。〔注〕天子殿、高九尺、階爲ニ九級一、中ニ分左右一、左有レ齒、人行レ之、右則平レ之。

【⿰土張】5411

チャウ 〔集韻〕知亮切 漾

砂が盛りおこる。或は⿰土長（**3―5183**）に作る。〔集韻〕⿰土張、沙墳起也、或省。

【墅】5412

㈠シヨ ジヨ 〔集韻〕上與切 ㄕㄨˋ shu^4 語
㈡ヤ 〔集韻〕以者切 馬

㈠㊀**田畠の收穫物を取入れる小屋**。かりいほ。なや。〔集韻〕墅、田廬也。㊁**しもやしき**。〔正字通〕墅、別館。〔晉書、謝安傳〕圍レ棊賭ニ別墅一。㊂或は野（**11―40133**）に作る。〔集韻〕墅、或省。㈡野（**11―40133**）に同じ。〔集韻〕野、說文、郊外也、或从レ土。

名乘 ムラ。

【墅舍】1（シヨシャ） しもやしき。別邸。別墅。〔南齊書、周山圖傳〕山圖於ニ新林一立ニ墅舍一、晨夜往還。〔南史、徐勉傳〕爲レ家以來、不レ事ニ資產一、暨レ立ニ墅舍一、似レ乖ニ舊業一、陳ニ其始末一、無レ愧ニ懷抱一。

【墅扉】2（シヨヒ） ゐなかやのとびら。〔李商隱、訪ニ隱者一不レ遇成ニ二絕一詩〕秋水悠悠浸ニ墅扉一。

【⿰土⿱米廾】5413

フン

或は坌（**3―4995**）に作る。〔集韻〕⿰土⿱米廾、或作レ坌。

【墆】5414

㈠テツ デチ 〔集韻〕徒結切 屑
㈡テイ タイ 〔集韻〕丁計切 霽
㈢テイ ダイ 〔集韻〕直例切 霽

㈠㊀**たくはへる。又、たくはへ**。〔集韻〕墆、貯也。〔管子、法法〕財無ニ砥墆一。〔注〕墆、久積也。〔左思、蜀都賦〕賈貿墆鬻。〔注〕善曰、墆、貯。㊁**とめる**。〔集韻〕墆、止也。〔漢書、食貨志下〕或墆レ財役レ貧。〔注〕孟康曰、墆、停也。㈡㊀**つつみ**。〔一切經音義、十三〕墆、長沙謂レ隄爲レ墆。㊁**高いさま**。〔爾雅、釋宮、垝謂ニ之坫一、注〕坫、墆也。〔釋文〕墆、高貌也。㊂**かくす。おほふ**。〔廣雅、釋訓〕墆、障蔽也。㈢**貨物をとめる**。〔集韻〕墆、停レ貨也。

【墆翳】1（テイエイ） おほひかくすさま。又、かげ。かざし。〔楚辭、劉向、九歎、怨思〕擧ニ霓旌之墆翳一兮。〔注〕墆翳、陰翳貌。

【墆霓】2（テイゲイ） 高いさま。又、高くて危いさま。〔張衡、西京賦〕託ニ喬基於山岡一、直墆霓以高居。〔注〕綜曰、墆霓、高貌、濟曰、墆霓、高危貌。〔吳徵、浮丘仙賦〕或崔嵬巃嵷以傑出、或刻削墆霓而爭レ衡。

【墆粥】3（テツイク） 墆鬻に同じ。

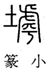
【墆鬻】4（テツイク） 貯へて鬻ぐ。墆粥。〔左思、蜀都賦〕賈貿墆鬻、舛錯縱橫。〔注〕向曰、墆、貯、鬻、販。

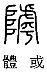
【墆財】5（テツザイ） 財を貯へる。貯財。

【墆積】6（テツシ） 積み貯へたもの。貯藏物資。〔管子、五輔〕發ニ伏利一、輸ニ墆積一。〔纂詁〕墆、貯也。

【⿰土虖】5415

ケカ 〔集韻〕虛訝切 禡

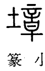

小篆


或體

㊀**すきま**。かけ。罅（**9―28169**）に同じ。〔說文〕⿰土虖、坼也、从レ土虖聲。〔段注〕與ニ缶部之罅一、音義皆同。㊁或は⿰阝虖（**11―41809**）・⿰片虖（**7―19888**）に作り、又⿱宀異（**3―7163**）に作る。〔集韻〕⿰土虖、或从レ𠂤、从レ片、亦作レ⿱宀異。㊂**地名**。〔廣韻〕⿰土虖、地名、在レ晉。

【墇】5416

㈠シャウ 〔集韻〕諸良切 陽
㈡シャウ 〔集韻〕之亮切 漾


小篆

㈠㈡㊀**ふせぐ**。かこんで水をふせぐ。〔說文〕墇、擁也、从レ土章聲。〔段注〕擁者、裒也、裒、許之抱字、謂ニ圍抱以擁レ水也。〔廣韻〕墇、壅也。㊁或は障

(11－41821)・⿸广章(4－9455)に作る。〔集韻〕墇、或作二障・⿸广章一。㊂通じて鄣(11－39617)に作る。〔集韻〕墇、通作レ鄣。

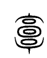
【塿】5417 ラ 〔集韻〕盧戈切 歌

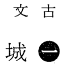
あじか。もつこ。虆(9－32630)に同じ。〔集韻〕虆、盛レ土籠也、或作レ塿。

【墈】5418 カン コン 〔集韻〕苦紺切 ㄎㄢˋ k'an4 勘

㊀けはしい岸。〔集韻〕墈、險岸也。㊁さかひ。〔正字通〕墈、今俗謂二壤界土突起立者一爲レ墈。㊂坎(3－4928)に同じ。〔集韻〕坎、或从レ墈。㊃現階段。

【墉】5419 ヨウ ユ 〔集韻〕餘封切 ㄩㄥ yung1・2 冬


小篆


古文

㊀城の垣。〔說文〕墉、城垣也、从レ土庸聲。㊁城。〔易、解〕射二隼于高墉之上一。〔釋文〕墉、馬云、城也。〔詩、大雅、皇矣〕以伐二崇墉一。〔傳〕墉、城也。〔張衡、西京賦〕橫二西洫一而絕二金墉一。〔注〕薛曰、墉、謂レ城也。㊂かき。かきね。土塀。〔釋名、釋宮室〕墉、容也、所三以蔽二隱形容一也。〔書、梓材〕既勤二垣墉一。〔釋文〕卑曰レ垣、高曰レ墉。〔詩、召南、行露〕何以穿二我墉一。〔傳〕墉、牆也。㊃かべ。〔禮、喪大記〕負レ墉南面。〔疏〕墉、壁也。㊄院。〔廣雅、釋室〕墉、院也。㊅或は牗(7－19797)に作る。〔集韻〕墉、或作レ牗。㊆古は⿰亯庸(12－45351)・𩫏(12－45322)に作る。〔集韻〕墉、古作レ⿰亯庸。〔康熙字典〕墉、古文𩫏。㊇又、⿰阝庸(11－41825)に作る。〔爾雅、釋宮〕牆、謂二之墉一。〔釋文〕墉、或作レ⿰阝庸。㊈庸(4－9378)に通ず。〔易、同人〕乘二其墉一。〔釋文〕墉、鄭作レ庸。〔詩、大雅、皇矣〕以伐二崇墉一。〔後漢書、伏湛傳〕以伐二崇庸一。

名乘 カキ。シロ。ミツ。

【墉圍】1 ヨウヰ 墉のやうにとり圍むこと。〔棧雲峽雨日記、下〕兩岸層嶂複嶺、屛矗墉圍。

【墉垣】2 ヨウエン かきね。〔何晏、景福殿賦〕墉垣碭基、其光昭昭。〔注〕善曰、爾雅曰、牆、謂二之墉一。

【墉屋】3 ヨウヲク かきねと家屋。〔韓詩外傳、六〕子路治レ蒲三年、孔子過レ之、入二其邑一、墉屋甚尊、樹木甚茂。

【墉基】4 ヨウキ かきの土臺。かきね。〔曹冏、六代論〕墉基不レ可二倉卒而成一、威名不レ可二一朝而立一。〔注〕向曰、墉、城牆也。

【墉宮】5 ヨウキユウ 墉城に同じ。天墉城(3－5833‥1587)を見よ。〔漢武帝內傳〕帝閒二居承華殿一、云云、忽見下一女子著二青衣一、美麗非常上、帝愕然問レ之、女對曰、我墉宮玉女王子登也。

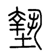
【墉牆】6 ヨウシヤウ かきね。〔小爾雅、廣器〕墉牆、謂二之陴一。

【墉城】7 ヨウジヤウ 神仙の居。墉宮。〔水經、河水注二〕(崑崙山)又有二墉城一、金臺玉樓、相似如レ一。〔杜光庭、墉城集仙錄序〕女仙以二金母一爲レ尊、金母以二墉城一爲レ治。

【墊】5420

一テン 〔集韻〕都念切 ㄉㄧㄢˋ tien4 豔

二テフ デフ 〔集韻〕達協切 葉


小篆

一㊀土地が低い。〔說文〕墊、下也、从レ土執聲、春秋傳曰、墊隘。〔段注〕謂二地之下一也。〔疏〕墊、是下濕之名。㊁掘りさげる。〔書、益稷〕下民昏墊。〔莊子、外物〕側レ足而墊レ之。〔王注〕墊、下也、掘也。〔釋文〕墊、下也。〔後漢書、方術傳論〕賖二無用之功一、〔注〕墊、猶レ掘也。㊂おちいる。〔書、益稷〕下民昏墊。〔鄭注〕墊、陷也。〔漢書、王莽傳下〕武功中、水鄉民三舍、墊爲レ池。〔注〕師古曰、墊、陷也。㊃おぼれる。〔書、益稷〕下民昏墊。〔傳〕墊、溺也。㊄なやむ。つかれる。くるしむ。〔左氏、成、六〕民愁則墊隘。〔注〕墊隘、羸困也。〔左氏、襄、九〕夫婦辛苦墊隘。〔注〕墊隘、猶二委頓一也。㊅をさめる。とぢこもる。蟄(10－33537)に通ず。〔說文通訓定聲〕墊、叚借爲レ蟄。〔廣雅、釋詁四〕墊、藏也。㊆おそれる。慹(4－11149)に通ず。〔說文通訓定聲〕墊、叚借爲レ慹、山海經中山經、首山多二駄鳥一、其狀如レ梟、而三目有レ耳、食レ之已墊、按、怖畏也。㊇或は埝(3－5156)・阽(11－41595)に作る。〔集韻〕墊、或作二埝・阽一。㊈現㋑たかめる。ささへる。㋺物を支へ高めるもの。物の下に敷くもの。㋩金をたてかへる。二㊀地が低い。〔集韻〕墊、地下也。㊁地名。墊江(5)の㊁を見よ。

【墊隘】1 テンアイ 地が下濕で狹隘なこと。轉じて、疲れくるしむこと。〔左氏、成、六〕民愁則墊隘。〔注〕墊隘、羸困也。〔疏〕疾疢易レ成、則下民愁苦、民既愁苦、則必羸困、羸困而謂二之墊隘一者、方言云、墊、下也、地之下溼狹隘、猶二人之羸瘦困苦一、故杜以二墊隘一爲二羸困一也。

【墊穩】2 tien4 wen3 程よく下に物をあてる。

【墊解】3 テンカイ 清代、京師に解送すべき稅を、未だ全部收集しない時、とりあへず別の金でその不足分を補充して解送すること。〔六部成語、戶部、墊解、注解〕應レ行二解送一之款、尙未二徵齊一、先以二他款一墊辦解送。

【墊蓋】4 テンガイ しきものとうはづつみ。〔福惠全書、錢穀部、解給〕須二墊蓋如一レ法。

【墊江】5 テンカウ ㊀川の名。源は甘肅省臨潭縣西南の西傾山。一名、白水江。〔魏書、吐谷渾傳〕此水經二仇池一、過二晉壽一、出二宕渠一、號二墊江一、至二巴郡一入レ江。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、階州〕白水江、在二州北三百二十里一、自二成縣一流入レ境、云云、又南入二文縣境一、一名白龍江、或曰白水江、卽洮州衛西傾山南所レ出之墊江、又卽桓水之異名也。㊁縣名。㋑漢、置く。四川省合川縣の地。〔漢書、地理志上〕巴郡、縣十一、墊江。㋺南齊、江州縣を改めて墊江とす。四川省巴縣の地。㋩西魏、置く。漢の臨江縣の地で、四川省忠縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府、忠州〕墊江縣、州西北二百八十里、云云、漢臨江縣地、西魏分二置墊江縣一、屬二容山郡一。〔淸史稿、地理志〕四川、忠州直隷州、縣三、墊江。

【墊陷】6 テンカン おちいる。〔韓詩外傳、一〕不レ由レ禮、則墊陷生レ疾。

【墊戲】7 tien4 hsi4 閒に合せの芝居。あひのて狂言をいふ。

【墊巾】8 テンキン 墊角巾の略。墊角巾(35)を見よ。〔韓愈、三器論〕墊巾效レ郭、異名同レ藺。

【墊完】9 テンクワン 補足して完了させる。立替へて完了させる。〔淸會典、戶部〕墊二完民欠一。

【墊款】10 tien4 k'uan3 立替へた金子。一時借入金。

【墊債】11 tien4 chai4 負債を立替へる。

【墊艙】12 テンサウ 舟積みの荷物の賃。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕派二有水脚墊艙神福等費一。

【墊子】13 tien4 tzu 座蒲團や花臺などのやうに下に敷くもの。

【墊支】14 tien4 chih1 立替へて支拂ふ。

【墊字】15 tien4 tzŭ4 劇調上、原來唄の句に無い字句を隨意に嵌め入れること。

【墊上】16 tien4 shang ㊀下に敷く。㊁補ふ。

【墊出】17 tien4 ch'u 補塡する。

【墊錢】18 tien4 ch'ien2 錢を立替へる。又、立替金。

【墊道】19 tien4 tao4 道をならす。

【墊賬】20 tien4 chang4 金を立替へる。人の借金を返す。

【墊溺】21 テンデキ おぼれる。又、おぼれ。〔書、益稷、傳〕言三天下民昏瞀墊溺、皆困二水災一。〔白居易、祭二浙江一文〕人墜二墊溺一、籲二天無一レ辜。

【墊頭】22 tien4 t'ou ㊀うめくさ。足しまへにすべきもの。㊁座蒲團に類した敷物。

【墊賠】23 テンバイ 賠償すべき銀の未だ定まらないう

ちに、とりあへず他の事項を以て補ひ賠償すること。〔六部成語、戶部、墊賠、注解〕應レ賠之款未レ定、先以二他項一墊補賠償。

【墊陌】24 テンパク 唐代、公私の給與賣買に、緡每に官に五十錢を留めたこと。墊陌錢。〔唐書、食貨志〕所レ在用錢、墊陌不レ一、詔從二俗所一レ宜。

〔墊陌錢〕25 テンパクセン 墊陌を見よ。

【墊發】26 テンパツ 或る事に要する經費がまだ到着しないので、とりあへず他の經費で補充して支給すること。〔六部成語、戶部、墊發、注解〕應下由二此款一撥發上、而此款未レ至、先以二他款一墊補發給也。

【墊付】27 tien^{4} fu^{4} 立替へて支拂ふ。

【墊平】28 tien^{4} p'ing^{2} 平にならす。

【墊補】29 tien^{4} pu^{3} たしまへにする。おぎなふ。埋合せる。

【墊木】30 tien^{4} mu^{4} 鐵道の枕木。

【墊沒】31 テンボツ 下りしづむ。〔柳宗元、愚溪對〕西海有レ水、散渙而無レ力、不レ能レ負レ芥、投レ之則委靡墊沒、及レ底而後止。

【墊用】32 tien^{4} yung^{4} 金を立替へる。

【墊沃】33 テンヨク 水害。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕墊沃卒移、增二我歲食一。

【墊婁】34 テンル 西羌の地名。〔類篇〕墊婁、地名、在二西羌一。

【墊角巾】35 テンカクキン 一角を折つた頭巾。漢の郭泰が雨に遇つて頭巾の一角が折れたことから始まる。一に郭泰の字によつて林宗巾ともいふ。墊巾。〔後漢書、郭太傳〕嘗於二陳梁閒一行遇レ雨、巾一角墊、時人乃故折二巾一角一、以爲二林宗巾一。

【墊心子】36 tien^{4} hsin^{1} tzŭ 底。〔紅樓夢、三十二回〕有一雙鞋、摳了墊心子。

【墊背錢】37 tien^{4} pei^{4} ch'ien^{2} 死者の遺骸を納棺する時、棺內に死者の年齡と同數の銅錢を並べ、其の上に死者を安置するその銅錢をいふ。

【墋】5421 シン 〔集韻〕楚錦切 寑

㊀**つち**。〔集韻〕墋、土也。㊁**すなぢ**。沙土。〔正韻〕墋、沙土也。㊂**沙が食物の中にまじる**。〔一切經音義、二十二〕沙土入二食中一、曰レ墋。㊃**にごる**。墋黷を見よ。㊄或は堪(3-5266)に作る。〔集韻〕墋、或从レ甚。

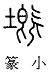
【墋黷】1 シントク 混沌として清澄でないさま。にごつてゐるさま。〔陸機、漢高祖功臣頌〕茫茫宇宙、上墋下黷。〔注〕善曰、今上滲下黷、言レ亂レ常也、墋、不二清澄一之貌也。

【墌】5422 ［一］シヤク 〔集韻〕職略切 藥 ［二］セキ シヤク 〔集韻〕之石切 陌

［一］**土を築いて土臺とする**。〔集韻〕墌、築レ土爲レ基。［二］㊀**どだい**。もとゐ。或は坧(3-4972)に作る。〔集韻〕墌、基址也、或从レ石。㊁高墌は、地名。〔唐書、太宗紀〕攻二薛仁杲于高墌城一。

【墌口】1 セキコウ 城名。江西省南昌縣の西南。梁末、廣州の刺史蕭勃の將傅泰が周文育と相持した城。墌、一に蹠に作る。〔讀史方輿紀要、江西、南昌府、南昌縣〕蹠口城、府西南七十里、城邑志、陳永定元年、廣州刺史蕭勃、遣下從子孜及其將歐陽頠傅泰等、出二兵南昌一、趨中豫章上、傅泰據二蹠口城一、與二周文育一相持、云云、似二誤レ蹠亦作レ墌。

【塈】5423 ［一］キ ギ 〔集韻〕巨至切 chi^{4} 寘 ［二］キ ケ 〔集韻〕許既切 hsi^{4} 未 ［三］カイ 〔集韻〕居代切 隊


小篆

［一］［二］㊀**ぬる**。上向きになつて塗る。墍(3-5424)に同じ。〔說文〕墍、卬涂也、从レ土既聲。〔集韻〕墍、或書作レ塈。〔漢書、谷永傳〕凶年不二塈塗一。〔注〕師古曰、塈、如二今仰泥一レ屋也。㊁**かざる**。〔漢書、禮樂志〕罔レ不二肸飾一。〔注〕蘇林曰、肸、音塈塗之塈、塈、飾也。㊂**壁の色澤**。〔釋名、釋宮室〕塈、猶二煟煟一、細澤貌也。〔書、梓材〕惟其塗塈茨。〔馬注〕塈、塈色。㊃**とる**。摡(5-12597)に通ず。〔說文通訓定聲〕塈、叚借爲レ摡。〔詩、召南、摽有梅〕頃筐塈レ之。〔傳〕塈、取也。㊄**いこふ**。呬(2-3447)に通ず。〔說文通訓定聲〕塈、叚借爲レ呬。〔詩、大雅、假樂〕民之攸レ塈。〔傳〕塈、息也。〔疏〕塈、與レ呬古今字也。㊅肸(9-29326)に通ず。〔漢書、禮樂志、罔レ不二肸飾一、注〕蘇林曰、肸、音塈塗之塈。㊆古は垤(3-4920)・㙵(3-5291)に作る。〔集韻〕塈、古作レ垤。〔康熙字典〕塈、古文㙵。［三］**ぬる**。墍(3-5568)に同じ。〔集韻〕墍、仰塗也、或省。

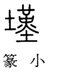
【墍】5424 キ 塈(3-5423)に同じ。〔正字通〕墍、同レ塈。

【墎】5425 クワク 郭(11-39474)の俗字。〔正字通〕墎、俗郭字。

【墏】5426 サウ シヤウ 〔集韻〕此兩切 養

もとゐ。〔集韻〕墏、基也。

【墐】5427 ［一］キン ギン 〔集韻〕渠吝切 chin$^{3\cdot4}$ 震 ［二］キン ギン 〔集韻〕渠巾切 眞


小篆

［一］㊀**ぬる**。塗りふさぐ。もと墐に作る。〔正字通〕墐、本作レ墐。〔說文〕墐、塗也、从レ土堇聲。〔詩、豳風、七月〕塞レ向墐レ戶。〔傳〕墐、塗也。〔禮、月令〕皆墐二其戶一。〔注〕墐、謂三塗二閉之一。㊁**溝のほとりの路**。〔國語、齊語〕陸阜陵墐。〔注〕墐、溝上之道也、九夫爲レ井、井閒有レ溝。㊂**つか**。**塚にする**。**うづめる**。殣(6-16551)に通ず。〔說文通訓定聲〕墐、叚借爲レ殣。〔詩、小雅、小弁〕行有二死人一、尙或墐レ之。〔傳〕墐、路冢也。〔疏〕墐者、埋藏之名。㊃**ねばつち**。堇(3-5212)・謹(10-35900)に通ず。〔正字通〕墐、同レ堇。〔禮、內則、塗レ之以二謹塗一炮レ之、注〕謹、當レ爲レ墐、聲之誤也、墐塗、塗有二穰草一者也。〔愈樾、禮記鄭讀考〕按、說文堇部、堇、黏土也、則墐土之墐、本當レ作レ堇、鄭謂爲レ墐、以三時俗通二用墐字一、取二其易一レ曉耳。［二］**ねばつち**。［一］の㊃に同じ。

【墐戶】1 キンコ 出入口に泥を塗つて塞ぐ。〔詩、豳風、七月〕塞レ向墐レ戶。〔傳〕墐、塗也。〔禮、月令〕蟄蟲咸俯在レ內、皆墐二其戶一。〔注〕墐、謂三塗二閉之一、辟二殺氣一。

【墐竈】2 キンサウ かまどに泥を塗る。〔管子、輕重己〕教二民樵レ室鑽レ燧、墐レ竈泄レ井、所二以壽一レ民也。

【墐泥】3 キンデイ 黏土。又、堇泥に作る。墐塗。〔舊五代史、劉守光傳〕以二墐泥一作レ錢、令二部內行使一。

【墐塗】4 キント ㊀ねば土。墐泥。〔禮、內則〕塗レ之以二謹塗一炮レ之。〔注〕謹、當レ爲レ墐、聲之誤也、墐塗、塗有二穰草一者也。㊁泥で塗る。〔魏志、司馬芝傳〕墐二塗室屋一。

【墐土】5 キンド ねんど。ねば土。〔五代史、劉守光傳〕或食二墐土一。

【墓】5428 キン 堇(3-5212)の本字。〔說文〕堇、墓、亦古文。〔正字通〕墓、堇本字。

【墑】5429 テキ チヤク 〔集韻〕丁歷切 錫

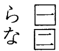
㊀**きざはし**。〔集韻〕階、謂二之墑一。㊁**まと**。的(8-22692)に通ず。〔正字通〕墑、射墑、

通作レ的。

【墒】5430　シヤウ　〔字彙〕尸羊切　陽

新らしく耕した土地。新開地。〔字彙〕墒、新耕土也。

【墓】5431　一ボ モ　〔集韻〕莫故切　遇　ㄇㄨˋ mu^4　二ボ モ　〔集韻〕蒙晡切　虞


小篆

一二　❶**はか。**おくつき。土を盛らない庶人のはか。〔說文〕墓、丘墓也、从レ土莫聲。〔釋名、釋喪制〕莫、慕也、孝子思慕之處也。〔方言、十三〕冢、凡葬而無レ墳、謂二之墓一。〔廣雅、釋宮〕墓、冢也。〔周禮、春官、墓大夫、注〕庶人不レ封不レ樹、故不レ言レ冢而云レ墓。〔禮、檀弓上〕吾聞レ之、古也墓而不レ墳。〔漢書、劉向傳〕稱古墓而不レ墳。〔注〕師古曰、墓、謂二壙穴一也。❷**はかの在る地。**塋域。〔禮、曲禮上〕適レ墓不レ登レ壟。〔注〕墓、塋域。〔禮、檀弓上〕易レ墓非レ古也。〔疏〕墓、謂二冢旁之地一。

名乘　ツカ。

【墓位】1（ボヰ）　墓所の位置。〔周禮、春官、冢人〕藏二凶器一、正二墓位一。

【墓域】2（ボヰキ）　墓の地域。おくつきどころ。塋域。〔周禮、春官、冢人〕蹕二墓域一、守二墓禁一。

【墓下】3（ボカ）　墓のほとり。墓側。〔邵長蘅、夜游二孤山一記〕徘二徊林處士墓下一。

【墓禁】4（ボキン）　墓所の禁令。墓域(2)を見よ。

【墓穴】5（ボケツ）　はかのあな。〔孝經、喪親章〕卜二其宅兆一而安措レ之、〔注〕宅、墓穴也、兆、塋域也。

【墓碣】6（ボケツ）　はかに立てる石。方形なるは碑、圓形なるは碣。石塔。墓碑。〔司馬光、答二劉蒙一書〕凡當時王公大人、廟碑墓碣、靡レ不レ請焉。

【墓碣文】7（ボケツブン）　文體の名。墓碣に刻する文。死者の功業を記す。晉の潘尼が潘黃門碣を作つたのに始まる。唐は五品以下の官に此の體を用ひた。古は碑文と碣文とは相通用したが、後世は官階を以て別を立ててゐる。文は碑文と相似て、銘を附すると否とは作者の自由である。墓碑文(32)を見よ。〔文體明辯、墓碣文〕按、潘尼作二潘黃門碣一、則碣之作、自レ晉始也、唐碣制、方趺圓首、五品以下官用レ之、而近世復有二高廣之等一、則其制益密矣、古者碑之與レ碣、本相通用、後世乃以二官階之故一而別二其名一、其實無二大異一也、其爲レ文、與レ碑相類、而有レ銘無レ銘、惟人所レ爲、故其題有レ曰二碣銘一、有レ曰レ碣、有レ曰二碣頌幷序一、皆碣體也、至二於專言レ碣而郤有レ銘、或兼言レ銘而郤無レ銘、則亦猶二誌銘之不レ可レ爲二典要一也、其文有二正變二體一、其銘與レ韻、亦與レ誌同、說見二墓碑條下一。

【墓原】8（ハカハラ）　はかば。〔續猿蓑集、冬〕はか原や稻妻宿る桶の水。

【墓庫】9（ボコ）　五行の歸藏する所。辰・戌・丑・未をいふ。選擇家・星命家の語。〔協紀辨方書、宜忌、五墓〕五墓、乃五行旺干、臨二於墓庫一、故所レ忌如レ此。

【墓工】10（ボコウ）　はかを相する者。はかつくり。〔南史、柳世隆傳〕墓工圖レ墓、正取二其坐處一焉。

【墓祭】11（ボサイ）　死者の墓を祭ること。〔獨斷〕古不二墓祭一、至二秦始皇一、出レ寢起二居于墓側一、漢因而不レ改。〔晉書、禮志中〕古無二墓祭之禮一、漢承レ秦皆有二園陵一。〔陔餘叢考、墓祭〕古無二墓祭一、先儒備言レ之。

【墓參】12（ボサン）　墓に詣でて香華をたむける禮。はかまゐり。展墓。〔日次紀事〕朔日、墓參、自二今日一至二十四日一、良賤各詣二祖考之墓一、俗謂二墓參一。

【墓志】13（ボシ）　墓誌に同じ。〔文天祥、贈二蒲陽卓大著順寧精舍一詩〕趙岐圖二壽藏一、杜牧擬二墓志一。

【墓誌】14（ボシ）　死者の事蹟を後世に傳へるために、金石に記して墓側に埋めるもの。墓誌銘を見よ。〔任昉、劉先生夫人墓誌銘〕既稱二萊婦一、亦曰二鴻妻一。〔唐書、李栖筠傳〕自爲二墓誌一。

【墓誌銘】15（ボシメイ）　文體の名。墓誌に銘のあるもの。墓銘。誌は事蹟を敍したもの、銘は終に附する韻文。其の起源に就いては、或は晉の王戎とし、或は漢の杜子春とし、或は比干とし、或は魏晉に始まるとして、定說が無いが、蓋し杜子夏が始めて文を勒して墓側に埋めたのが其の始であらう。後人、之に因り、葬時に死者の世系・名字・爵里・生卒、及び其の子孫の大略を述べ、石に勒して墓側に埋める者を墓誌といひ、之に銘を附加するものもある。誌銘といつて、或は誌あるも銘がなく、銘あるも誌のないものもある。墓誌とは誌あつて銘のないものをいひ、墓銘とは銘あつて誌のないものをいふ。然し、唯誌といつて銘があり、銘といつて誌のあるものがあるが、別體である。又、銘には三言・四言・七言・雜言・散文等があり、又、末に兮字を用ひるもの、也字を用ひるものもある。其の用韻法は一句に韻を用ひる者、兩句に用ひる者、三句に用ひる者、前に用ひて末に用ひない者、前に用ひず末に用ひる者、篇中既に用ひて章中にも用ひる者、隔句に用ひる者、韻が語辭の上にある者、一字句を隔てて重用自ら韻を爲す者、全く韻を用ひない者、其の韻を更へるに兩句一更の者、四句一更の者、數句一更の者、全篇不更の者等の場合がある。抱戴精舍叢書、墓銘擧例の所載によつて墓誌銘記述方式の諸例を擧げれば次の如くである。郝伯常八例—世系・名字・始起・建功立事・年壽・薨卒・殯葬・銘辭。王行十三例—諱・字・姓氏・鄉邑・族出・行治・履歷・卒日・壽年・妻・子・葬日・葬地。（依二韓文集頤校理石君墓誌銘一）。王行十三例—姓氏・鄉邑・族出・諱・字・行治・履歷・卒日・壽年・葬日・葬地・妻・子。（依二韓文故十散大夫河南尹杜君墓誌銘一）。蒼崖十五例—入作造端・名字族姓・鄉貫・世次先德・文學藝能・仕進歷官・政迹功德・享年卒葬・生聚嫁女・總述行迹・作碑誌・銘辭・孤弱・祠廟原始・立廟祠祭。〔陔餘叢考、墓誌銘〕墓誌銘之始、王阮亭池北偶談謂、事祖廣記引炙轂子、以爲レ始二於西漢杜子春一、而高承事物紀原、以爲レ始二於比干一、桯上老舌、又引二孔子之喪、公西赤志レ之、子張之喪、公明儀志レ之、以爲二墓志之始一、不レ知三檀弓所レ謂志レ之者、猶二今之主喪一云爾、未レ可二改作レ誌也、惟封氏見聞錄、青州古冢有二石刻銘一云、青州世子東海女郎賈昊、以爲下東海王越之女、嫁二苟希之子一者上、又東都殖業坊王戎墓有レ銘曰、晉司徒尙書令安豐侯王君墓銘、凡數百字、又魏侍中繆襲葬二父母一、墓下題二版文一、則誌銘之作、納二於壙中一者、起二於魏晉一無レ疑、云云、阮亭所レ據封氏之說固核矣、然南史齊武帝裴皇后薨時、議欲レ立二石誌一、王儉曰、石誌不レ出二禮經一、起レ自二宋元嘉中、顏延之爲二王球石誌一、素族無二銘策一、故以紀レ行、自レ爾以來、共相祖襲、今儲妃之重、既有二哀策一、不レ煩二石誌一、此則墓誌起二於元嘉中一之明據也、司馬溫公亦謂、南朝始有二銘誌埋墓之事一、然賈昊辨識東海王越之女一事、亦見二南史一、則晉已有二墓誌之例一、又宋書何承天傳、文帝開二元武湖一、遇二大冢一、得二一銅斗一、帝以問二羣臣一、承天曰、此新莽時威斗、三公亡、皆賜レ之葬、時三公居二江左一者惟甄邯、此必邯墓也、俄而冢內更得二一石銘一、曰、大司徒甄邯之墓、又張華博物志、載三西漢南宮殿內有二醇儒王史威長葬銘一、曰、明明哲士、知レ存知レ亡、崇隴原野、非レ寧非レ康、不レ封不レ樹、作レ靈垂レ光、厥銘何依、王史威長、則西漢時已有二墓銘一也、金史蔡珪傳、金海陵王欲レ展二都城一、有二兩燕王墓一、舊在二東城外一、今在二所レ展之內一、命改二葬於城外一、此兩墓、俗傳二燕王及太子丹之葬一也、及レ啓レ壙、其東墓之柩端題曰、燕靈王舊、舊卽古柩字、通用、乃漢高祖子劉建也、其西墓、蓋燕康王劉嘉之葬也、珪作二兩燕王辨一甚詳、此又西漢題二識於柩一之法、不二特此一也、莊子云、衞靈公卜レ葬二於沙邱一、掘レ之得二石槨一、有レ銘曰、不レ憑二其子一、靈公乃奪而埋レ之、則春秋以前已有下銘二于墓中一者上矣、由二此數事一以觀、則墓銘之來已久、而王儉謂、始レ自二宋元嘉中顏延之一、此又何說、竊意、古來銘墓、但書二姓名官位一、間或銘二數語於其上一、而譔レ文敍レ事、臚二述生平一、則起二於顏延之一耳。〔文體明辯、墓誌銘〕按、誌者記也、銘者名也、古之人有二德善功烈可一レ名二於世一、歿則後人爲レ之

鑄レ器以レ銘、而俾レ傳二於無窮一、若二蔡中郎集所レ載朱公叔鼎銘一是已、至二漢杜子夏一、始勒レ文埋二墓側一、遂有二墓誌一、後人因レ之、蓋於二葬時一、述二其人世系・名字・爵里・行治・壽年・卒葬日月、與二其子孫之大略一、勒レ石加レ蓋、埋二于壙前三尺之地一、以爲二異時陵谷變遷之防一、而謂二之誌銘一、其用レ意深遠、而於二古意一無レ害也、迨二夫末流一、乃有レ假二手文士一、以謂可二以信レ今傳レ後、而潤飾太過者、亦往往有レ之、則其文雖レ同、而意斯異矣、然使二正人秉レ筆、必不二肯徇レ人以レ情也、至レ論二其題一、則有レ曰二墓誌銘一、有レ誌有レ銘者、是也、曰二墓誌銘并序一、有レ誌有レ銘、而又先有レ序者、是也、然云二誌銘一、而或有レ誌無レ銘、或有レ銘無レ誌者、則別體也、曰二墓誌一、則有レ誌無レ銘、曰二墓銘一、則有レ銘而無レ誌、然亦有下單云レ誌而卻有レ銘、單云レ銘而卻有レ誌者上、有下題云レ誌而卻是銘、題云レ銘而卻是誌者上、皆別體也、其未レ葬而權厝者、曰二權厝誌一、曰二誌某一、殯後葬而再誌者、曰二續誌一、曰二後誌一、歿二于他所一、而歸葬者、曰二歸祔誌一、葬二于他所一而後遷者、曰二遷祔誌一、刻二於蓋一者、曰二蓋石文一、刻二於磚一者、曰二墓磚記一、曰二墓磚銘一、書二於木版一者、曰二墳版文一、曰二墓版文一、又有下曰二葬誌一、曰二誌文一、曰二墳記一、曰二壙誌一、曰二壙銘一、曰二槨銘一、曰中埋銘上、其在二釋氏一、則有下曰二塔銘一、曰中塔記上、凡二十題、或有レ誌無レ誌、或有レ銘無レ銘、皆誌銘之別題也、其爲レ文、則有二正變二體一、正體唯敍二事實一、變體則因レ敍レ事、而加二議論一焉、又有下純用二也字一爲二節段一者上、有下虛二作誌文一、而銘內始敍レ事者上、亦變體也、若二夫銘之爲一レ體、則有二三言四言七言雜言散文一、有下中用二兮字一者上、有下末用二兮字一者上、有下末用二也字一者上、其用レ韻、有二一句用レ韻者一、有二兩句用レ韻者一、有二三句用レ韻者一、有二前用レ韻而末無レ韻者一、有二前無レ韻而末用レ韻者一、有二篇中既用レ韻、而章中又各自用レ韻者一、有二隔句用レ韻者一、有下韻在二語辭上一者上、有二一字隔レ句重用自爲レ韻者一、有二全不レ用レ韻者一、其更レ韻、有二兩句一更者一、有二四句一更者一、有二數句一更者一、有二全篇不一レ更者一、皆雜二出於各篇之中一、難二以レ例列一、故今錄レ文致レ辯、但從二題類一、仍分二正變一、稍以二職官處士婦人一爲レ次、而銘體與レ韻、則略序レ之、庶學者有レ考云。

【墓上】16 ボジャウ はかのほとり。墓側。〔史記、吳世家〕樹二吾墓上一以レ梓。〔趙孟頫、岳鄂王墓詩〕鄂王墳上草離離、秋日荒涼石獸危。

【墓守】17 ボシュ はかもり。墓の番人。〔明會典〕洪武三年、定二功臣守墓人戶一、各以二封爵官品差等一給レ之。

【墓樹】18 ボジュ 墓に植ゑる木。〔商子、境內〕官級一等、其墓樹級一樹。

【墓所】19 ボショ 死者を葬つた所。はかば。墓處。墓地。〔後漢書、馬援傳〕會況卒、援行レ服朞年、不レ離二墓所一。

【墓處】20 ボショ 墓所に同じ。〔史記、孔子世家〕由レ是孔子疑二其父墓處一。

【墓隧】21 ボスイ はかみち。埏隧。神道。墓道。〔水經、淸水注〕刊レ石樹レ碑、列二于墓隧一矣。〔歐陽脩、觀文殿云云晏公神道碑銘〕賜二其墓隧之碑首一。

【墓石】22 ボセキ はかいし。墓の石。

【墓前】23 ボゼン はかのまへ。〔西京雜記、三〕及レ死命刊レ石、埋二於墓側一、墓前種二松柏樹五株一、至レ今茂盛。〔西鄉隆盛、亡友月照十七回忌辰作詩〕相約投レ淵無二後先一、豈圖波上再生緣、回レ頭十有餘年夢、空隔二幽明一哭二墓前一。

【墓側】24 ボソク 墓所のかたはら。〔後漢書、祭祀志下〕秦始出レ寢、起二於墓側一。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕歸二葬萬年先人墓側一。

【墓道】25 ボダウ はかみち。墓所に通ずる路。墓隧。〔左氏、定、元〕秋七月癸巳、葬二昭公於墓道南一。

【墓地】26 ボチ はかば。墓所。〔周禮、春官、墓大夫〕凡爭二墓地一者、聽二其獄訟一。〔禮、王制〕墓地不レ請。〔漢書、嚴延年傳〕埽二除墓地一耳。

【墓場】27 ハカバ 墓のある地。はか。墓地。

【墓兆】28 ボテウ はか。

【墓田】29 ボデン はかばにする地。はか地。塋田。〔晉書、嵆紹傳〕進レ爵爲レ侯、賜二墓田一頃一。

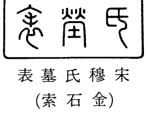
【墓畔】30 ボハン はかばのほとり。〔菅茶山、宿二生田一詩〕客窗一夜聞二松籟一、月黑楠公墓畔村。

【墓碑】31 ボヒ 墓標として立てる石。碑(**8**－**24289**)を見よ。〔字彙〕碑、今人墓隧宮室廟屋之碣、通謂二之碑一矣。〔蘇軾、范文正公集叙〕范公沒、既葬而墓碑出。

【墓碑文】32 ボヒブン 文體の名。墓碑に刻するもの。死者の功業を記す。唐代は五品以上に用ひた。墓碣文(7)を見よ。〔文體明辯、墓碑文〕按、古者葬有二豐碑一、以レ木爲レ之、樹二于槨之前後一、穿二其中一爲二鹿盧一、而貫レ繂以窆者也、檀弓所レ載、公室視二豐碑一、是已、漢以來、始刻二死者功業于其上一、稍改用レ石、則劉勰所謂自レ廟而徂レ墳者也、晉宋間、始稱二神道碑一、蓋堪輿家以二東南一爲二神道一、立二其地一因名焉、唐碑制、龜趺螭首、五品以上官用レ之、而近世高廣各有二等差一、則制之密也、蓋葬者既爲レ誌以藏二諸幽一、又爲二碑碣表一以揭二於外一、皆孝子慈孫、不レ忍レ蔽二先德一之心也、其爲レ體、有レ文有レ銘、又或有レ序、而其銘或謂二之辭一、或謂二之系一、或謂二之頌一、要レ之皆銘也、文與レ誌大略相似、而稍加レ詳焉、故亦有二正變二體一、其或曰レ碑、或曰二碑文一、或曰二墓碑一、或曰二神道碑一、或曰二神道碑文一、或曰二墓神道碑一、或曰二神道碑銘一、或曰二神道碑銘并序一、或曰二碑頌一、皆別題也、至二於釋老之葬一、亦得レ立レ碑、以僭二擬乎品官一、豈歷代相沿崇二尚異教一、而莫二之禁一歟、故或直曰レ碑、或曰二碑銘一、或曰二搭碑銘并序一、或曰二碑銘并序一、亦別題也、若三夫銘之爲レ體、與二其用レ韻、則諸集所レ載、雖レ不レ能レ如二誌銘之備一、而大略亦相通焉、此不二復著一。

【墓碑銘】33 ボヒメイ 墓碑文に銘を附したもの。墓碑文を見よ。

【墓表】34 ボヘウ ❶文體の名。其の文體は碑碣と同じであるが、唯官位階級に由つて實施上の制限を受けることはない。後漢、安帝の元初元年、謁者景君の墓表を建てたのに始まる。猶、これと同類のものに阡表(**11**－**41548**・・5)・殯表(**6**－**16596**・・11)・靈表(**12**－**42532**・・301)の三あり、各〻義は異なるが、明代には通じて墓表と稱した。〔文體明辯、墓表〕按、墓表自二東漢一始、安帝元初元年、立二謁者景君墓表一、厥後因レ之、其文體與二碑碣一同、有レ官無レ官、皆可レ用、非レ若三碑碣之有二等級限制一也、以三其樹二于神道一、故又稱二神道表一、其爲レ文、有レ正有レ變、錄而辯レ之、又取二阡表・殯表・靈表一、以附二于篇一、則遡レ流而窮レ源也、蓋阡、墓道也、殯者、未レ葬之稱、靈者、始死之稱、自レ靈而殯、自レ殯而墓、自レ墓而阡也、近世用二墓表一、故以二墓表一括レ之。❷墓標に同じ。


宋穆氏墓表

(金石索)

【墓標】35 ボヘウ 埋葬した個所の目じるしに樹てる石、又、其の木柱。はかじるし。墓表。

【墓木】36 ボボク 墓地に植ゑる樹木。墓木已拱を見よ。〔晉書、五行志下〕視二其墓木一、可二三十歲一。

【墓木已拱】37 ボボクステニキヨウス 墓に植ゑた樹が兩手で圍む程の太さになる。人が死んでから多くの年月を經ること。〔左氏、僖、三十二〕爾何知、中壽、爾墓之木拱矣。

【墓銘】38 ボメイ 墓碑に記す押韻の文。墓誌銘(15)を見よ。

【墓銘擧例】39 ボメイキヨレイ 書名。四卷。明、王行撰。韓愈・李翺以下十五家の墓誌の文を取つて十三例とし、元の潘昂霄の金石例の遺漏を補つたもの。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【墓門】40 ボモン ❶墓の入口の門。〔詩、陳風、墓門〕墓門有レ棘、斧以斯レ之。〔傳〕墓門、墓道之門。〔潘岳、寡婦賦〕墓門兮肅肅、脩壟兮峨峨。❷詩經、陳風の篇名。陳佗が良師傅なく不義をなすに至り、惡を萬民に加へたのを刺つた詩。〔詩、陳風、墓門序〕墓門、刺二陳佗一也、陳佗無二良師傅一、以至二於不義一、惡加二於萬民一焉。

【墓厲】41 ボレイ 墓の並んで居る所。〔周禮、春官、墓大夫〕帥二其屬一而巡二墓厲一。〔注〕厲、塋限遮列處。

【上レ墓】42 ハカニノボル 墳墓に參る。〔唐玄宗、許二士庶寒食上一レ墓詔〕寒食上レ墓、禮經無レ文、近代相傳、浸以成レ俗、士庶有レ不レ合二廟享一、何以用展二孝思一、宜レ許二上レ墓同拜掃一、禮於二塋南門外一、奠二祭撤饌一、訖泣辭食、餘饌任二於他處一、不レ得レ作レ樂、仍編入二五禮一、永爲二常式一。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕皁隸庸丐、皆得レ上二父母邱墓一。

【封レ墓】43 ボヲホウズ 荒れた墓に土を盛つて修繕する。〔書、武成〕釋二箕子囚一、封二比干墓一。

【墓大夫】44 ボタイフ 周官の名。春官の屬。國內の

萬民の墓地を掌る。冢人の公墓を掌るのに對する。〔周禮、春官、墓大夫〕掌二凡邦墓之地域一、爲二之圖一。〔注〕凡邦中之墓地、萬民所レ葬地。

【墓版文】45（ボハンブン） 墓誌の一種。墳版本と同じく、木版に書くのを特色とする。

【墓閒之事】46（ボカンノコト） 墓場で行はれる埋葬など種々の動作儀式。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕孟子之少也、嬉遊爲二墓閒之事一。

【鞭レ墓戮レ屍】47（ハカヲムチウテシカバネヲハヅカシム） 墓を鞭つて屍體に凌辱を加へる。〔後漢書、蘇不韋傳〕鞭レ墓戮レ屍、以舒二其憤一。

【過レ墓胡兒下レ馬行】48（ハカヲスギテコジウマヲクダリテユク） 胡兒までが、唐の雷萬春の忠義に感じたことを詠じた句。〔范成大、雷萬春墓詩〕欲レ知三忠信行二蠻貊一、過レ墓胡兒下レ馬行。

【墪】5432 ギン 垠（**3－5054**）の古字。〔筆乘〕墪、古垠字。

【墔】5433 サイ ズイ 〔集韻〕昨回切 灰 墔堆は、土の聚まるさま。〔集韻〕墔、墔堆、土聚皃。

【⿱⿰而瓦土】5434 レフ 〔集韻〕力協切 葉 **堅い土。**〔集韻〕⿱⿰而瓦土、堅土也。

【⿰土⿱⺌貝】5435 フン 墳（**3－5488**）の古字。〔字彙補〕⿰土⿱⺌貝、古文墳字。

【⿰土寻】5436 シン ジン 〔集韻〕徐心切 侵 **地名。**〔集韻〕⿰土寻、地名。

【⿱⿰子厽至】5437 シ 懫（**4－11406**）の古字。〔集韻〕懫、古作レ⿱⿰子厽至。

【⿰土哀】5438 コン 〔集韻〕古困切 願 **土のさま。**〔集韻〕⿰土哀、土皃。

【墕】5439 エン 堰（**3－5274**）に同じ。〔字彙補〕墕、與レ堰同。

【⿰土華】5440 エフ 〔篇海類編〕弋涉切 葉 **井げた。**ゐどがは。〔篇海類編〕⿰土華、埤⿰土華。

【⿰坴⿱山电】5441 音義未詳 〔字彙補〕⿰坴⿱山电、音未詳。〔穆天子傳、四〕乃賜二之銀木⿰坴⿱山电采黃金之罌二一・九貝帶四十・朱三百一。

【埉】5442 フツ 〔搜眞玉鏡〕音弗 **あぶる。あぶりもの。**〔搜眞玉鏡〕埉、炙也。

【墖】5443 タフ 塔（**3－5332**）に同じ。〔字彙補〕墖、與レ塔同。

【⿱土豆】5444 ガイ 塏（**3－5326**）に同じ。〔字彙補〕⿱土豆、與レ塏同。

【⿱鹵土】5445 ロ 塷（**3－5390**）に同じ。〔篇海類編〕⿱鹵土、與レ塷同。

【⿰土壴】5446 ダイ 臺（**9－30161**）の俗字。〔龍龕手鑑〕⿰土壴、臺俗字。

【⿰土⿱巛卑】5447 ヒ 埤（**3－5167**）に同じ。〔五音篇海〕⿰土⿱巛卑、同レ埤。

【⿰土⿰冊冊】5448 ホウ 堋（**3－5217**）の俗字。〔龍龕手鑑〕⿰土⿰冊冊、俗堋字。

十二畫

【増】5448′ ゾウ 增（**3－5454**）の略字。

【⿱敝土】5449 ヘツ ヘチ 〔集韻〕必列切 屑 **岡の名。**〔集韻〕⿱敝土、大阜、在二左馮翊池陽縣一。

【塯】5450 リウ ル 〔集韻〕力救切 宥 **飯を盛る瓦器。**かはらけ。通じて溜（**7－18335**）に作る。〔集韻〕塯、瓦器、堯舜飯二土塯一、通作レ溜。

【墜】5451 ㈠ツイ ヅイ 〔集韻〕直類切 寘 ㄓㄨㄟˋ chuei^{4}
㈡チュツ ヂュチ 〔集韻〕直律切 質

小篆

㈠㈡㊀**おちる。**〔說文新附〕墜、陊也、从レ土隊聲。〔爾雅、釋詁〕墜、落也。〔淮南子、天文訓〕賁星墜而勃海決。〔注〕墜、隕也。〔楚辭、離騷〕朝飮二木蘭之墜露一兮。〔注〕墜、墮也。㊁**おとす。うしなふ。**〔廣雅、釋詁二〕墜、失也。〔國語、晉語二〕敬不レ墜レ命。〔注〕墜、失也。㊂或は䃍（**8－24345**）・礈（**8－24507**）・⿰阝彖（**11－41763**）に作る。〔集韻〕墜、或作二䃍・礈・⿰阝彖一。〔說文新附〕墜、古通二用䃍一。〔漢書、天文志、星䃍至レ地則石也、注〕師古曰、䃍、亦墜也。㊃隊（**11－41750**）に通ず。〔莊子、德充符〕雖二天地覆墜一。〔釋文〕墜、本又作レ隊。〔荀子、禮論、入焉而隊、注〕隊、古墜字。㊄隧（**11－41870**）に通ず。〔論語、子張〕文武之道、未レ墜二於地一。〔石經論語殘碑〕未レ隧二於地一。

【墜雨】1（ツイウ） おちてくる雨。ふる雨。〔謝脁、拜二中軍記室一辭二隋王一牋〕邈若二墜雨一、翩似二秋蔕一。

【墜景】2（ツイエイ） 入り日。落日。〔陸機、答二賈長淵一詩〕王室之亂、靡二邦不レ泯、如二彼墜景一、曾不レ可レ振。〔注〕向曰、漢室衰微、如二落日之景一。

【墜葉】3（ツイエフ） おちば。落葉。〔張彥勝、露賦〕聞二墜葉一而歎息。〔李頎、題二盧五舊居一詩〕悵望秋天鳴二墜葉一。

【墜下】4（ツイカ） おちる。落下。墜落。〔羯鼓錄〕廢棄墜下。

【墜陷】5（ツイカン） おちいる。はまる。陷落。〔易林、旅之第五十六、剝〕去レ安就レ危、墜二陷井池一。

【墜岸】6（ツイガン） けはしい岸。きりぎし。斷岸。〔管子、形勢解〕墜岸三仞、人之所二大難一也。〔纂詁〕墜岸、墜二於岸一也。

【墜腳】7 chuei^{4} chiao^{3} ねつけ。垂飾。〔紅樓夢、三回〕從頂至梢、一串四顆大珠、用金八寶墜腳。

【墜錦】8（ツイキン） 落ちる錦。散り落ちる紅葉をいふ。〔齋藤拙堂、遊二箕面山一記〕時有二墜錦一點レ波、杳然流去。

【墜言】10（ツイゲン） 失言。〔漢書、鄒陽傳〕雖レ墜二言於吳一、非二正計一也。

【墜釵】11（ツイサイ） かんざしをおとす。〔眞仙通鑑〕許氏釵偶墜落、今有二許氏墜釵洲一。

【墜子】12（ツイシ） ㊀姬妾をいふ。〔事物紀原、布帛雜事部、墜子〕晉石崇有レ妓名二綠珠一、趙王倫之亂、孫秀使三人求二レ之、王與レ秀收レ之、珠墜レ樓而死、後人因目二姬侍一爲二墜子一、由レ此始也。㊁雜劇の一種。多く女子が唱演する。初、河南に起り、山東に流傳し、今、河南・山東の二種に分つ。㊂chuei⁴ tzŭ ㋑耳輪。㋺かざり。

【墜死】13（ツイシ） 落ちて死ぬ。〔本草、麝、集解〕頌曰、心結香、乃麝見二大獸一捕逐驚畏、失心狂者墜死。

【墜兒】15 chuei⁴ êrh おもり。錘。

【墜失】16（ツイシツ） おとし失ふ。隊失。〔墨子、法儀〕使三墜二失其國家一。〔顏氏家訓、終制〕不二敢墜失一。

【墜緒】17（ツイショ） 衰へた事業。すたれた仕事。〔韓愈、進學解〕尋二墜緒之茫茫一、獨旁搜而遠紹、障二百川一而東レ之、廻二狂瀾於既倒一。

【墜絮】18（ツイジョ） 散る柳花。〔剪燈餘話、至正妓人行〕微韻紆餘巧二抑揚一、墜絮遊絲爭二繞亂一。

【墜水】19 chuei⁴ shuei³ 水中に墜落する。

【墜星】20（ツイセイ） おちる星。流星。〔史記、秦始皇紀〕有二墜星一下二東郡一、至レ地爲レ石。

【墜睫】21（ツイセフ） 目に淚の出ること。〔韓偓、八月六日作詩〕袁安墜睫尋二憂漢一、賈誼濡レ毫但過レ秦。

【墜胎】22 chuei⁴ t'ai¹ 墮胎。

【墜體】23（ツイタイ） 力學用語。空中から地上に向つて直下する物體。

【墜地】24（ツイチ） 地におちる。衰へ亡びるさま。〔論語、子張〕文武之道、未レ墜二於地一。〔杜甫、送三重表姪王砅評事使二南海一詩〕家聲肯墜レ地、利器當二秋毫一。

【墜跌】25 chuei⁴ tieh² よろけて倒れる。

【墜典】26（ツイテン） すたれた法度。〔沈約、侍二皇太子釋奠宴一詩〕墜典必修、闕祀咸薦。〔舊唐書、刑法志〕補二千年之墜典一。

【墜兔】27（ツイト） 落月。入り方の月。〔剪燈餘話、武平靈怪錄〕逡巡閒、墜兔收レ光、遠鷄戒レ曉。

【墜馬】28（ツイバ） 落馬する。〔國史略、朱雀天皇〕將門中レ箭墜レ馬。

【墜廢】29（ツイハイ） くづれこはれる。〔日本外史、德川氏前記、織田氏上〕應仁以來、天下大亂、王室衰微、宮闕墜廢。

【墜落】30（ツイラク） おちる。墜下(4)に同じ。〔顏氏家訓、歸心〕星有二墜落一、乃爲レ石矣。

【墜露】31（ツイロ） おくつゆ。つゆ。〔楚辭、離騷〕朝飲二木蘭之墜露一兮、夕餐二秋菊之落英一。

【墜樓】32（ツイロウ） 樓から投身すること。晉の石崇の愛妾綠珠の故事。墜子(12)の㊀を見よ。〔宋璟、梅花賦〕又如二綠珠一、身輕墜レ樓。

【墜茵落溷】33（ツイインラクコン） 落葉が風に吹かれて、或はしとねに、或は便所に落ちる。人に遇不遇の有る喩。〔南史、范縝傳〕子良問曰、君不レ信二因果一、何得二富貴貧賤一。縝答曰、人生如下樹花同發、隨レ風而墮上、自有下拂二簾幌一墜中於茵席之上上、自有下關二籬牆一落中於糞溷之中上、墜二茵席一者、殿下是也、落二糞溷一者、下官是也。

【墝】
5452

〖一〗カウ ケウ 〔集韻〕丘交切 〖肴〗

〖二〗カウ ケウ 〔集韻〕口教切 〖效〗

〖一〗㊀**石の多い瘦せた土地**。やせ地。〔集韻〕墝、薄土也。〔淮南子、原道訓〕田者爭處二墝埆一。㊁磽(8−24494)・塙(3−5341)・墽(3−5508)に通ず。〔正字通〕墝、與レ磽通、又通作レ墽、別作レ塙。〖二〗**地が平でない**。墽(3−5508)に同じ。〔集韻〕墽、土不レ平、或作レ墝。〔類篇〕墝、地不レ平也。

【墝下】1（カウカ） 平かでない土地。〔說苑、建本〕豐墻墝下、未二必崩一也。

【墝埆】2（カウカク） ㊀石のある地。あれ地。やせ地。瘠土。磽角。墝瘠。〔廣韻〕墝、墝埆、瘠土。〔詩、王風、丘中有レ麻、傳〕丘中、墝埆之處。〔墨子、親士〕墝埆者、其地不レ育。〔史記、三王世家〕燕土墝埆、北迫二匈奴一。〔淮南子、原道訓〕朞年而田者爭處二墝埆一。〔論衡、率性〕夫肥沃墝埆、土地之本性也。㊁險要の地。〔後漢書、南匈奴傳〕墝埆之人、屢嬰二塗炭一。〔注〕墝埆、謂二險要之地一。

【墝瘠】3（カウセキ） やせ地。墝埆。〔魏志、盧毓傳〕土地墝瘠、百姓窮困。

【墝垤】4（カウテツ） 地の小高い處。〔柳宗元、斬二曲几一文〕託二地墝垤一、反二時燠寒一。

【墝肥】5（カウヒ） やせた土地と肥えた土地。〔荀子、儒效〕相二高下一、視二墝肥一。〔注〕墝、薄田也。

【⿰土幾】
5453

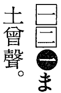
キ 畿(7−21925)に同じ。〔字彙〕⿰土幾、同レ畿。

【增】
5454

〖一〗ソウ 〔集韻〕咨騰切 〖蒸〗 ㄗㄥ tsêng¹

〖二〗ソウ 〔集韻〕子鄧切 〖徑〗

〖慣〗ゾウ


小篆

〖一〗〖二〗㊀**ます**。〔說文〕增、益也、从レ土曾聲。〔爾雅、釋言〕增、益也。〔淮南子、本經訓〕殘レ高增レ下。〔注〕增、益也。㊁**くはへる**。〔廣雅、釋詁二〕增、加也。㊂**かさねる**。〔廣雅、釋詁四〕增、累也。〔廣雅、釋詁四〕增、重也。㊃**多い**。ゆたか。〔說文、增、段注〕增、益也、益者、饒也。〔集韻〕增、賸也。㊄**高い**。〔左思、魏都賦〕增構峩峩。〔注〕翰曰、增、高也。㊅曾(5−14299)に同じ。〔正字通〕增、借作レ曾。〔孟子、告子下〕曾二益其所レ不レ能。〔集注〕曾、與レ增同。

【增哀】1（ゾウアイ） かなしみをます。〔張衡、南都賦〕玄雲合而重レ陰、谷風起而增レ哀。

【增溢】2（ゾウイツ） ましあふれる。〔宋史、符彥卿傳〕槩量增溢、公取二其餘羨一。

【增淫】3（ゾウイン） みだらな罪を增長する。〔左氏、襄、十四〕增淫發洩、其若レ之何。〔輯釋〕增二長淫慝一、發二洩於事行一也。

【增員】4（ゾウヰン） 人員をます。又、ました人數。

【增韻】5（ゾウヰン） 書名。五卷。宋、毛晃撰。禮部韻略を增注し、其の子居正、又、校勘重增したもの。四庫提要は增修互注禮部韻略に作る。〔四庫提要、經、小學類〕。

【增榮】6（ゾウエイ） ほまれをます。〔易林、明夷之第三十六、晉〕增レ榮益レ譽、以成二功名一。〔魏武帝、祀二故太尉橋玄一文〕增レ榮益レ觀、皆由二獎助一。

【增耀】7（ゾウエウ） ひかりをます。〔後漢書、郎顗傳〕是以能建二天地之功一、增二日月之耀一者也。〔晉書、桓豁傳〕三台麗レ天、辰極以レ之增レ耀、論レ道作レ弼、王猷以レ之時邕。

【增益】8（ゾウエキ） ㊀まし加へる。附益。增加。增張。〔孟子、告子下〕所三以動レ心忍レ性、曾二益其所一レ不レ能。〔集注〕曾、與レ增同。〔宋玉、高唐賦〕交加累積、重疊增益。〔漢書、哀帝紀〕增二益漏刻一。〔魏志、鍾繇傳〕增二益刖刑之數一。㊁清、邵泰卿(11−39343‥134)の號。

〘增益軒〙9（ゾウエキケン） 清、余⿱大品(1−515‥57)の室名。

【增演】10（ゾウエン） ましひろめる。〔隋書、經籍志一〕九聖之增演、以廣二其意一。

【增援】11（ゾウエン） 人數をまして助ける。加勢。

〘增援隊〙12（ゾウエンタイ） 增援の軍隊。

【增加】13（ゾウカ） まし加へる。まし加はる。增益。增多。〔漢書、劉向傳〕傳授增加。〔說苑、臣術〕增二加威勢一。〔後漢書、劉般傳〕可下申二勅刺史二千石一、務令中實覈上、其有二增加一。〔唐書、食貨志二〕一曰、戶口增加、二曰、田野墾闢。

【增價】14（ゾウカ） あたひをます。〔漢書、食貨志上〕築レ倉、以二穀賤時一、增二其價一而糴、以利レ農。

【增改】15（ゾウカイ） ましあらためる。增更。〔禮、樂記、禮樂之情同、故明王以相沿也、疏〕沿、謂二因而增改一也。

【增開】16 tsêng¹ k'ai¹ 發軍・發船の度數をふやす。

【增崖】17（ゾウガイ） かさなつて高い崖。〔班固、西都賦〕仍二增崖一而衡レ閾、臨二峻路一而啓レ扉。

【增江】18（ゾウカウ） 川の名。源は廣東省龍門縣の西南、東江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、增城縣〕增江、在二縣城東一、源出二陳洞山一、東南流經レ此、又南合二於防水一、云云、其正流西南出入二於東江一。

【增更】19ゾウカウ　ましあらためる。增改。〔史記、樂書〕孝惠・孝文・孝景、無レ所二增更一。

【增耗】20ゾウカウ　❶增すことへること。加減。加耗。〔福惠全書、錢穀部、比較〕至二于漕糧增耗行月等米一、俱係二本邑項下一。❷へつた數だけまし加へること。〔六部成語、戶部、增耗、注解〕增二加耗數一也。

【增高】21ゾウカウ　高さを增す。增して高くする。〔禮、月令〕是月也、繼レ長增レ高。〔宋史、樂志十〕增レ高欽レ事、式奉二嚴禋一。〔福惠全書、蒞任部、親二查閱一〕四圍墻垣、應二增高一者增高。

【增翮】22ゾウカク　羽を一層增し動して速力を速めること。〔史記、賈誼傳〕見二細德之險微一兮、搖二增翮一逝而去レ之。〔注〕正義曰、增、加也、云云、則合下加二動羽翮一、遠逝而去上レ之。

【增額】23ゾウガク　金のたかをます。ましだか。

【增刊】24ゾウカン　❶出版高をますこと。❷頁數を增して刊行すること。又、その刊行物。❸期刊が定期外に刊行すること。又、その刊行物。

【增欷】25ゾウキ　すすり泣きを增す。〔楚辭、宋玉、九辯〕中憯惻之悽愴兮、長太息而增欷。〔宋玉、高唐賦〕林悷憯悽、脅息增欷。〔注〕善曰、幷悲傷貌、云云、增、益也。

【增煇】26ゾウキ　增輝に同じ。〔後漢書、孔僖傳〕今陛下親屈二萬乘一、辱臨二敝里一、此乃崇二禮先師一、增二煇聖德一、至二於光榮一、非レ所二敢承一。

【增輝】27ゾウキ　光輝を增し加へる。增煇。〔陸機、演連珠〕睎レ日引レ火、不二必增一レ輝。〔張說、詠塵詩〕裨山期二益峻一、照日映二增輝一。

【增給】28ゾウキフ　給料をます。增俸。

【增強】29ゾウキヤウ　まして強くすること。

【增鏡】30マスカガミ　❶かがみの美稱。眞澄の鏡のあて字。〔古今和歌集、冬〕ます鏡見る影。❷書名。十卷。著者未詳。後鳥羽院から後醍醐天皇までの事を記した歷史物語。水鏡・大鏡と合せて三鏡といふ。

【增宮】31ゾウキユウ　漢代の宮殿の名。增城。〔揚雄、甘泉賦〕增宮參差駢嵯峨兮、岭巆嶙峋洞無レ厓兮。

【增光】32ゾウクワウ　❶光を增す。〔後漢書、明帝紀贊〕懋惟帝績、增二光文考一。❷tsêng¹ kuang¹　光榮をます。人から名譽を受ける。

【增廣】33ゾウクワウ　❶ましひろめる。〔後漢書、祭祀志〕增二廣郊祀一。〔東晳、廣田農議〕一擧兩得、外實內寬、增二廣窮人之業一、以闢二西郊之田一。❷明・清代、定員より增し廣めた生員をいふ。增生。增廣生を見よ。〔淸會典、禮部、學校〕次優者別二於附學一曰二增廣一、生員如二廩膳生員之數一。

【增廣生】34ゾウクワウセイ　增廣の❷に同じ。〔明史、選擧志二〕兩試諸生、先以二六等一試二諸生優劣一、謂二之歲考一、一等前列者、視二廩膳生一、有レ缺依レ次充補、其次補二增廣生一、一二等皆給レ賞。

【增廣鐘鼎篆韻】35ゾウクワウシヨウテイテンヰン　書名。七卷。元、楊鉤撰。王楚の鐘鼎篆韻を增廣したもの。〔四庫未收書目提要、五〕。

【增廣箋注簡齋詩集】36ゾウクワウセンチユウカンサイシシフ　書名。三十卷。附、無注詞、一卷。宋、陳與義撰。〔四庫未收書目提要、三〕。

【增廣注釋音辨柳集】37ゾウクワウチユウシヤクオンベンリウシフ　書名。四十三卷。編者未詳。童宗說の柳文注釋・張敦頤の柳文音辨・潘緯の柳文音義を合して一書とし、潘書を主とし、童・張の兩書を其の中に散附したもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【增官】38ゾウクワン　官位をます。〔論衡、骨相〕超封增官、遂爲二大將軍一。

【增款】39 tsêng¹ k'uan³　金額を增す。增額する。

【增煥】40ゾウクワン　かがやかしさをます。增光。增輝。〔史岑、出師頌〕皇運來授、萬寶增レ煥。

【增建】41ゾウケン　建てまし。

【增絢】42ゾウケン　色どりをます。〔晉書、潘岳傳論〕岳藻如二江濯一、美錦而增絢。

【增減】44ゾウゲン　增すこととへること。加減。增損。〔漢書、西域傳上〕冬夏不二增減一。〔後漢書、百官志三〕增減無レ常。〔唐書、食貨志五〕百官俸錢、會昌後不二得增減一。

【增構】45ゾウコウ　高いたてもの。立派なかまへ。〔馬融、東巡頌〕棫樕增構、烈火燔燃。〔左思、魏都賦〕增構峩峩、淸塵彯彯。〔注〕翰曰、增、高也、構、亦屋也。

【增巢】46ゾウサウ　巢を增し高くする。〔荀子、法行〕鷹鳶猶以レ山爲レ卑、而增二巢其上一。〔說苑、談叢〕曾子曰、鷹鷲以レ山爲レ卑、而增二巢其上一。

【增竈】47ゾウサウ　竈を增す。後漢の虞詡が竈の數を增して、兵力の多いことを示し、以て敵を欺いた故事。〔後漢書、虞詡傳〕遷二武都太守一、羌乃率二衆數千一、遮二詡於陳倉崤谷一、詡宣言上書請レ兵、羌聞レ之、乃分二鈔傍縣一、詡日夜兼行、令二吏士各作二兩竈一、日增二倍之一、羌不二敢逼一、或問曰、孫臏減レ竈、而君增レ之、兵法、日行不レ過二三十里一、而今日且二二百里一、何也、詡曰、虜衆多、吾兵少、徐行則易レ爲レ所レ及、速進則彼所レ不レ測、虜見二吾竈日增一、必謂、郡兵來迎、衆多行速、必憚レ追レ我、孫臏見レ弱、吾今示レ彊、勢有レ不レ同故也。

【增錯】48ゾウサク　かさなりまじる。〔何晏、景福殿賦〕駢徒增錯、轉縣成レ郛。〔注〕翰曰、林木衆合參差文章、如二駢蟲之徒相重雜一也。

【增產】50ゾウサン　生產をますこと。

【增山】51ゾウザン　縣名。漢、置き、後漢、省く。故城は陝西省楡林縣の東北。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、增山。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭〕增山城、在二鎭東北一、漢縣屬二河西郡一。

【增資】52ゾウシ　資本をます。

【增賜】53ゾウシ　ましたまはる。〔日本外史、德川氏前記、織田氏下〕以二能登・加賀一增二賜之一。

【增辭】54ゾウジ　言葉をます。〔漢書、宣帝紀〕增レ辭飾レ非。〔後漢書、和帝紀〕巧レ法析レ律、飾レ文增レ辭。

【增收】55ゾウシウ　收入がますこと。又、ました收入。

【增修】56ゾウシウ　ましをさめる。〔左氏、文、二〕孟明增二修國政一。〔國語、周語上〕增二修於德一。〔范甯、春秋穀梁傳序〕欲下人君戒二愼厥行一、增中修德政上。

【增修校正押韻釋疑】57ゾウシウカウセイアフヰンシヤクギ　書名。五卷。宋、歐陽德隆撰。郭守正增修。〔四庫提要、經、小學類〕。

【增修互注禮部韻略】58ゾウシウゴチユウレイブヰンリヤク　書名。五卷。宋、毛晃撰。禮部韻略を增注し、其の子居正が重ねて增して校勘を加へたもの。俗に增韻といふ。〔四庫提要、經、小學類〕。

【增輯】59ゾウシフ　ましあつめて編輯する。又、そのもの。〔漢書、禮樂志〕稍稍增輯、至二五百餘篇一。

【增傷】60ゾウシヤウ　ますます悲しむ。〔楚辭、九章、抽思〕心鬱鬱之憂思兮、獨永歎乎增傷一。〔張衡、南都賦〕結二九秋之增傷一。

【增城】61ゾウジヤウ　❶重なつた城。〔楚辭、天問〕增城九重、其高幾里。〔淮南子、墬形訓〕中有二增城九重一、其高萬一千里、百一十四步、二尺六寸。❷漢代の宮殿の名。增宮。〔漢書、外戚、孝成班倢伃傳〕爲二倢伃一、居二增城舍一。〔班固、西都賦〕合歡・增城・安處・常寧。〔注〕濟曰、合歡而下、並殿名。❸縣名。後漢、置く。秦の番禺縣の地。今、廣東省番禺縣の東北。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府〕增城縣、府東一百九十里、本秦番禺縣地、後漢析二置增城縣一、屬二南海郡一。〔淸史稿、地理志〕廣東、廣州府、縣十四、增城。

【增城山人】62ゾウジヤウサンジン　淸、賴鏡（10－36861‥5）の號。

【增借】63ゾウシヤク　字形を增して假借すること。何の字形を增して荷とし、何（になふ）の義に假借するの類。〔經解入門、古有二六書一〕有二字外加レ形者一、檀弓、子蓋レ言二子之志于公一乎、鄭注、蓋作レ盍、商頌、百祿是何、僖荷其本義也、左隱三年傳引作レ荷、是也、是謂二增借一。

【增爵】64ゾウシヤク　爵位をます。〔白虎通、攷黜〕復有レ功、稍賜至二秬鬯一、增レ爵爲レ侯。

【增食】65ゾウシヨク　縣名。漢、置く。故城は廣西省賓陽縣の東北。〔漢書、地理志下〕鬱林郡、縣十二、增食。

【增殖】66ゾウシヨク　ふやす。ふえる。〔徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑〕弱水導二其洪源一、軒臺表二其增殖一。

【增飾】67ゾウシヨク　ましかざる。〔風俗通、聲音〕樂官多所二增飾一。〔曹植、魏德論〕憲度增飾、日曜月明。

【增進】68ゾウシン　ましすすむ。ましすすめる。〔齊竟陵王子良、淨住子序〕長二養增三進菩提善根一。

【增薪】70 tsêng¹ hsin¹　增俸。增給。

【增水】71ゾウスイ　雨や雪どけ等で川や池の水が分量をますこと。ましみづ。

【增數】72ゾウスウ　數をます。又、ました數。〔金史、太祖紀〕東京留守司乞二本京官民質子增數番代一、上不レ許。

【增生】73ゾウセイ　淸代、定數より增廣した生員。又、增廣生員といふ。增廣（33）の❷を見よ。

【增成】74ゾウセイ 漢代の宮殿の名。〔漢書、外戚、孝成班倢伃傳〕蛾而大幸、爲二倢伃一、居二增成舍一。〔注〕應劭曰、後宮有二八區一、增成第三也。〔班倢伃、自悼賦〕奉二隆寵於增成一。〔張衡、西京賦〕後宮則昭陽・飛翔・增成・合驩。〔注〕綜曰、皆後宮別名、善曰、長安有二合歡殿・披香殿・鴛鸞殿一、餘亦皆殿名。

【增征】75 tsêng^1 chêng^4 年貢を增徵する。

【增逝】76ゾウセイ 高く飛び去る。〔漢書、梅福傳〕夫戴鵲遭レ害、則仁鳥增逝。〔張華、鷦鷯賦〕彼晨鳧與二歸鴈一、又矯レ翼而增逝。

【增稅】77ゾウゼイ 稅額をます。

【增石】78ゾウセキ 重なり合ふ石。〔馬融、長笛賦〕重巘增石、簡積頵砡。

【增積】79ゾウセキ ましつむ。〔漢書、景十三、中山靖王勝傳〕孔子阨二於陳蔡一、此乃烝庶之成レ風、增積之生レ害也。

【增設】80ゾウセツ 既に設けられてゐる上に更に增し設けること。〔重野成齋、帝國史談〕更二張學制一、增二設寮舍於昌平阪一。

【增截】81ゾウセツ まし或はへらす。〔福惠全書、錢穀部、比較〕有三帶徵舊欠與二漕項增截匠班顏料等物銀一、總屬二本色一。

【增泉】82ゾウセン 天の河。〔楚辭、王逸、九思、守志〕食時至二兮增泉一。〔注〕增泉、天漢也。

【增錢】83ゾウセン ❶錢を增す。高く賣れる。〔庾肩吾、書品序〕蕺山之扇、竟未レ增レ錢、凌雲之臺、無二因誡一レ子。❷tsêng^1 ch'ien^2 土地を質入れし、更に其の借入金を增額すること。

【增闡】84ゾウセン ましあきらかにする。〔後漢書、應劭傳〕庶幾觀察增二闡聖聽一。

【增繕】85ゾウゼン ましつくろふ。〔金史、獨吉思忠傳〕思忠增繕、用二工七十五萬一。

【增租】86 tsêng^1 tsu^1 家屋などの貸賃を値上げする。

【增藪】87ゾウソウ 重なつてゐる藪。〔管子、揆度〕破二增藪一、焚二沛澤一。

【增增】88ゾウゾウ ❶數の多いさま。〔詩、魯頌、閟宮〕公徒三萬、貝冑朱綅、烝徒增增。〔傳〕增增、衆多也。❷マスマス いやましに。ましにまして。〔萬葉集、五〕いよよますます悲しかりけり。

【增速】89 tsêng^1 su^2 速力をはやめる。

【增損】90ゾウソン 增減。〔史記、呂不韋傳〕有下能增二損一字一者上、予二千金一。〔魏志、后妃傳序〕世有二增損一。〔晉書、禮志上〕各以二舊文一、增二損當世一。

【增多】91ゾウタ 增加。〔孔安國、尚書序〕增二多伏生一、二十五篇。

〔增多篇〕92ゾウタヘン 魯の孔子の故宅から出た古文尚書は、今文尚書二十九篇に比して、舜典、汩作・九共・大禹謨・益稷・五子之歌・允征・湯誥・咸有一德・典寶・伊訓・肆命・原命・武成・旅獒・冏命の十六篇多く、これを增多篇といふ。〔漢書、藝文志〕孔安國者、孔子後也、悉得二其書一、以考二二十九篇一、得レ多二十六篇一。〔王鳴盛、尚書後案序〕書本百篇、秦火後、伏生傳二今文三十四篇一、孔安國得二壁中古文一、增二多二十四篇一、餘四十二篇亡矣、三十四篇者卽二十九篇、云云、二十四篇者、卽十六篇、其目鄭目述レ之、舜典一、汩作二、九共九篇十一、大禹謨十二、益稷十三、五子之歌十四、允征十五、湯誥十六、咸有一德十七、典寶十八、伊訓十九、肆命二十、原命二十一、武成二十二、旅獒二十三、冏命二十四也。

【增大】93ゾウダイ まして大きくする。ふえておほきくなる。〔魏書、張彝傳〕洞庭淵湛、猶藉二衆流一以增大。

【增歎】94ゾウタン 慨歎を增す。大いに慨歎する。〔漢書、禮樂志〕賈誼・仲舒・王吉・劉向之徒所レ爲、發レ憤而增レ歎也。

【增地】95ゾウチ 縣名。漢、置く。故城は朝鮮平壤の南境。隋が高麗を伐つた時、軍を分けて侵入した處。〔漢書、地理志下〕樂浪郡、縣二十五、增地。

【增置】96ゾウチ まし設ける。〔後漢書、順帝紀〕增二置步兵一、列二屯塞下一。

【增築】97ゾウチク ましきづく。ましたてる。たてましをする。〔宋史、吳挺傳〕紹興二年水暴發入レ城、挺旣振二被レ水者一、復增二築長隄一。

【增秩】98ゾウチツ 俸給を增す。增俸。〔史記、平準書〕爲レ郎增レ秩。〔漢書、蕭咸傳〕數增レ秩賜レ金。〔書言故事、仕進類〕朝廷賞二良吏一加二祿數一、曰二增秩一。

【增長】99ゾウチヤウ ❶しだいに增す。〔後漢書、桓帝紀〕六月、彭城泗水、增長逆流。〔傳燈錄〕增二長痴愛一。❷[佛]增長主に同じ。〔太平記、十六、新田湊河合戰事〕多聞・持國・增長・廣目の四天。❸氣性や行爲が次第に惡い方に度を高める。つけあがる。づにのる。〔怪談牡丹燈籠〕殿樣のお氣に入りだものだから、此節では增長して大層權勢が宜ヨ。❹tsêng^1 chang^3 價がある。

〔增長主〕100ゾウチヤウス [佛]四王天中の南方天の名。增長天。〔法苑珠林〕南方天王、名二毗瑠璃一、此云二增長主一。

〔增長天〕101ゾウチヤウテン [佛]增長主に同じ。

【增張】102ゾウチヤウ ましふやす。增益。〔後漢書、郭太傳〕或附益增張、故多二華辭不經一。

【增漲】103ゾウチヤウ ❶增す。增加する。增大する。❷增水する。❸tsêng^1 chang^4 價が昇る。

【增注】104ゾウチユウ 文章の字句の注釋を、從來のものより更に增加して精しくする。又、其の注文。補注。

〔增注唐策〕105ゾウチユウタウサク 書名。十卷。編者未詳。唐人の策論・書狀・表啓の文を錄す。〔四庫提要、集、總集類〕。

【增重】106ゾウチヤウ まして重くする。〔後漢書、隗囂傳〕增二重賦斂一、刻二剝百姓一。

【增訂】107ゾウテイ 足らぬ所を補ひ、誤つた所を正す。增補訂正の略。〔宋書、禮志一〕有レ所二訂正一。

【增糴】108ゾウテキ 例年より多く米を買ひ入れる。〔宋史、食貨志上三〕三路歲豐、仍令二增糴廣蓄一。

【增展】109ゾウテン ましひろげる。〔金史、禮志三〕增二展太廟一、爲二十二室一。

【增添】110ゾウテン 增加する。ましそへる。〔宋史、選舉志六〕增二添戶口一、勸二課農桑一、增二修水利一。

【增慟】111ゾウドウ かなしみをます。〔潘岳、楊仲武誄〕遺形莫レ紹、增二慟余懷一。

【增忍】112ゾウニン 唐の高僧。陳の留史氏の子。會昌の初、白草谷に出家し、草屋を結んで居たが、節度使李彥佐が其の名節を嘉して、爲に白草院を龍興寺に建立した。咸通中、示寂す。嘗て血を刺して經二百八十餘卷を寫す。著に大悲論・三教毀傷論がある。〔宋高僧傳〕。

【增年】113ゾウネン 年齡をまし加へる。〔宋書、樂志三〕常願主人增レ年、與レ天相守。

【增派】114ゾウハ 兵員などの數を增してつかはす。增遣。〔鹽谷青山、旅順表忠塔記〕敵增二派大兵一。

【增倍】115ゾウバイ まして二倍にする。又、ふえて二倍になる。〔爾雅、釋天、是禷是禡、疏〕禱二氣勢之增倍一也。〔元史、朶兒赤傳〕墾田凡三載、賦額增倍。

【增發】116ゾウハツ ❶ましおこす。〔淨住子、禮舍利寶塔門〕然則現二於涅槃一者、復是增二發悲戀之心一。❷一定量より餘計に發すること。

【增盤】117ゾウバン 樓閣の名。〔班固、西都賦〕增盤崔嵬。〔注〕濟曰、增盤、閣名。

【增陴】118ゾウヒ ひめがきを增し高くする。〔唐書、顏眞卿傳〕陽託二霖雨一、增レ陴濬レ隍。

【增美】119ゾウビ ❶美しさをます。〔呂向、美人賦〕鳥閒關而共レ嬌、花散亂而增レ美。❷清、劉芳躅（**2**—**2224**‥1257）の字。

【增冰】120ゾウヒヨウ かさなつた厚い氷。〔隋書、史祥傳〕飛雪增冰之地、忽載二三陽一、毳幙韋韝之鄉、俄聞二九奏一。

【增桴】121ゾウフ 重なつてゐるむなぎ。〔張衡、西京賦〕增桴重棼、鍔鍔列列。

【增福】122ゾウフク さいはひをます。〔易林、解之第四十、困〕益爵增福、日受二其喜一。〔梁簡文帝、上菩提樹頌一啓〕頂禮者增レ福。

〔增福財神〕123 tsêng^1 fu^2 ts'ai^2 shên^2 福の神。

【增兵】124ゾウヘイ 兵士をます。〔魏志、臧洪傳〕知レ無二降意一、增レ兵急攻。

【增補】125ゾウホ ましおぎなふ。補足。補充。〔後漢書、胡廣傳〕臨邑侯劉騊駼增二補十六篇一。

【增奉】126ゾウホウ 增俸に同じ。〔漢書、朱博傳〕皆增レ奉如二丞相一、以備二三公官一焉。〔後漢書、光武紀、下〕二十六年正月、詔二有司一、增二百官奉一、其千石已上、減二於西京舊制一、六百石已下、增二於舊秩一。

【增封】127ゾウホウ ❶土を高く重ね盛つて祭る。〔漢書、武帝紀〕至二太山一、增封。❷領地をまし加へる。〔後漢書、荀彧傳〕於レ是增二封千戶一。

【增俸】128ゾウホウ 俸給をます。增秩。昇給。增奉。

【增瀾】129ゾウラン 重なり合ふ波。又、波をます。〔郭璞、遊仙詩〕清源無二增瀾一、安得レ運二吞舟一。〔謝靈運、撰征賦〕風流レ蕙兮水增レ瀾。

【增累】130（ソウルイ） ましかさなる。ましかさねる。〔說苑、反質〕宮室臺閣、連屬增累。

【增齡】131（ソウレイ） 清、滿洲正黃旗人。姓は覺羅氏。字は松厓。號は退菴・茀民。嘉慶の擧人。官は臨清知州。書室を蠡吟小築といふ。著に蠡吟小築文集がある。

【增荒男】132（マスラヲ） をゝしい男子。ますらたけを。〔萬葉集、五〕ますらをの男さびすと、劍太刀腰に取りはき。

【增上緣】133（ゾウジヤウエン） 佛四緣の一。他が法(はたらき)を起す場合に強い力を與へるものをいふ。〔大乘義章、三本〕增上緣者、起レ法強、故曰二增上一。

【增上心】134（ゾウジヤウシン） 佛❶強盛の心。〔圓覺經〕一切衆生於二大圓覺一起二增上心一、當レ發二菩薩清淨大願一。❷定心をいふ。定心は勢力強盛であるから、名づける。〔中阿含經、二十五〕增上心經。

【增上慢】135（ゾウジヤウマン） 佛未だ證果(さとり)をえない中に自分でえたと思ひ、他人を侮り、慢心する。〔法華經、方便品〕此輩罪根深重、及增上慢、未レ得謂レ得、未レ證謂レ證。〔往生要集、大文十〕增上慢人、二百億劫常不レ聞レ法。〔正法眼藏、四禪比丘〕得二第四禪一生二增上慢一、謂レ得二四果一。

【增默菴】137（ゾウモクアン） 清、郭尙先(**11－39474**··317)の號。

【增默齋】138（ゾウモクサイ） 清、沈炳震(**6－17189**··639)の號。

【增衍附益】139（ゾウエンフエキ） ましふやし加へる。〔李涗、啓蒙篇〕我過甚微、而增衍附益。

【增島蘭園】140（マスジマランエン） 江戸の人。名は固。字は孟肇。通稱は金之丞。號は蘭園(蘭畹)・椿陰。幕府儒官となる。經學は程朱を奉じ、其の學、深邃にして該瞻、經史から百家に至るまで洞貫せざるなし。最も文をよくし、又、本草に精通し、繪畫に巧。天保十年九月四日歿す、年七十一。著に贋書考・學庸參辨・雋燕偶記・雋燕雜錄・蔡氏月令補・壬戌于役志・惜分居劄記・椿陰雜錄・讀左筆記、東西巡視記、讀易小言がある。〔近世叢語、續、三〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【增島澧水】141（マスジマレイスイ） 江戸の人。名は信道。字は子篤。通稱は金之丞。號は澧水。幕府官物奉行・書籍奉行となる。初、徂徠の學を學び、後、程朱に歸す。博覽にして、天文・曆法・音韻・算數から、皇朝の舊典・古言・古音に至るまで討究せざるなし。文化九年歿す、年七十。著に異稱日本傳事實・國語考・國韻語・語意考・質疑・小學書說・小學纂說・天文考・讀易小言・澧水文稿・發字解がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【增田立軒】142（マスダリツケン） 阿波の人。名は謙之。字は士益・益夫。通稱は道太郎・平內。號は立軒。官は阿波藩儒。世々醫を以て仕ふ。初、中村氏を襲ぎ、惕齋の家學を繼いだが、藩主の命により復姓して儒官となる。寬保三年八月十四日歿す、年八十。著に渭水聞見錄・入學紀綱句解・律呂新書句解・立軒雜記がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【增野雲門】143（マスノウンモン） 長門の人。名は有原。字は子泉。號は雲門。略稱は曾雲門。山縣周南の說を奉ず。著に雲門遺稿がある。〔諸家人物誌〕。

【無レ增無レ減】144（ゾウナクゲンナシ） 增減がない。〔列子、湯問〕天漢之流、莫レ不レ注レ之、而無レ增無レ減焉。

【𡓞】5455

アウ　墺(**3－5504**)に同じ。〔正字通〕𡓞、同レ墺。

【㙩】5456

小篆

㊀レウ　〔集韻〕力照切　嘯

㊁レウ　〔集韻〕憐蕭切　蕭

㊀㊁**めぐらした垣**。〔說文〕㙩、匊垣也、从レ土尞聲。〔廣韻〕㙩、周垣。

【墟】5457

キヨ　コ　〔集韻〕丘於切　魚　ㄒㄩ　hsü¹

❶**をか**。虛(**9－32709**)に同じ。〔說文〕虛、大北也。〔段注〕按、虛者、今之墟字。〔呂覽、貴直〕使二人之朝爲レ草而國爲レ墟。〔注〕墟、邱墟也。〔詩、鄘風、定之方中〕升二彼虛一矣、〔釋文〕虛、本或作レ墟。❷**山のふもと**。〔山海經、海外南經〕崑崙墟在二其東一。〔注〕墟、山下基也。❸**荒れはてたあと**。故居。舊跡。廢趾。〔禮、檀弓下〕墟墓之閒、未レ施二敬於民一而民哀。〔注〕墟、毀滅無レ後之地。〔風俗通、山澤〕今故廬居處高下者、亦名爲レ墟。〔潘岳、西征賦〕窺二秦墟于渭城一。〔注〕善曰、聲類曰、墟、故所レ居也。❹**いち**。市。〔嶺南志〕荊吳俗取二寅申巳亥日一、集二于市一、曰二亥墟一。〔南部新書〕端州以南、三日一市、謂二之趁墟一。

【墟囿】1（キヨイウ） 園囿のあと。〔謝靈運、從二游京口北固一應詔詩〕原隰荑二綠柳一、墟囿散二紅桃一。

【墟域】2（キヨヰキ） 城あと。都のあと。墟城。〔郭璞、流寓賦〕思二文公之所レ營、蓋成周之墟域。

【墟巷】3（キヨカウ） さびれた街。〔晉書、食貨志〕尙書郎官自出采レ梠、或不レ能二自反一、死二於墟巷一。

【墟曲】4（キヨキヨク） あれはてた村里。〔陶潛、歸二園田居一詩〕時復墟曲中、披レ草共來往。

【墟月】5（キヨゲツ） 丘の上の月。〔楊萬里、詩〕野雲墟月空荒寺、兩袖寒風一帽塵。

【墟溝】6（キヨコウ） 鎭の名。江蘇省灌雲縣の北。

【墟市】7（キヨシ） 臨時の市場。〔范成大、曉出二古城山一詩〕墟市稍來集、筠籠轉レ山忙。

【墟城】8（キヨジヤウ） 城のあつたあと。墟域。〔墨子、非攻中〕今萬乘之國、墟城數二於千一、不レ勝二以入一。

【墟瘠】9（キヨセキ） 荒れはてたあと。瘠はやせ地。〔隋書、煬帝紀上〕成周墟瘠、弗レ堪二葺宇一。

【墟場】10 hsü¹ ch'ang³ 舊城の廣場、又、市場。

【墟土】11（キヨド） 大きな岡。〔孔子家語、執轡〕墟土之人大、沙土之人細。

【墟墳】12（キヨフン） 叢中に埋もれた塚。〔夏侯諶、東方朔畫贊〕敬問二墟墳一、企二佇原隰一。

【墟墓】13（キヨボ） 草中に埋もれて祭る者の無い墓。無緣づか。廢冢。〔禮、檀弓下〕墟墓之閒、未レ施二哀於民一而民哀。〔注〕墟、毀滅無レ後之地。〔魏志、孫禮傳〕墟墓或遷就二高敞一。〔潘岳、悼亡詩〕徘二徊墟墓閒一、欲レ去復不レ忍。

【墟莽】14（キヨマウ） 叢中の古い城あと。〔吳越春秋、夫差內傳〕國爲二墟莽一、身爲二魚鼈一。〔歐陽脩、集古錄目序〕散二棄於山崖墟莽之閒一。

【墟落】15（キヨラク） あれた村落。村落。墟里。〔漢張平子碑〕翦二其墟落一。〔唐書、鄧處訥傳〕焚二樓船一殘二墟落一、數千里無二人跡一。

【墟里】16（キヨリ） むらざと。墟落。〔陶潛、歸二園田居一詩〕曖曖遠人村、依依墟里煙。

【墟王】17（キヨワウ） 村里の王。梁の蕭景の祖、道賜を其の鄕里の人が賞めた語。〔南史、吳平侯蕭景傳〕景祖道賜、以二禮讓一稱、居レ鄕有二爭訟一、專賴平レ之、又周二其疾急一、鄕里號曰二墟王一、皆竊言曰、其後必大。

【墠】5458

㊀セン　ゼン　〔集韻〕上演切　銑

㊁セン　ゼン　〔集韻〕時戰切　霰　ㄕㄢˋ　shan⁴

㊂タン　〔集韻〕他干切　寒

小篆

㊀㊁❶**神を祭るために掃ひ清めた郊外の地**。〔說文〕墠、野土也、从レ土單聲。〔段注〕野者、郊外也、野土者、於レ野治レ地除レ草、鄭風東門之壇、壇、卽墠字、傳曰、除レ地町町者、町町平意、左傳、云云、鄭人請二墠聽レ命、楚人曰、若野賜レ之、是委レ君、況於二草莽一也、可レ見墠必在二野外一、鄭子產草舍不レ爲レ壇、壇、卽墠字、可レ見墠必除レ草也、周書、爲二三壇一同レ墠、此壇高墠下之證也、祭法、王立二七廟二祧一壇一墠、注曰、封レ土曰レ壇、除レ地曰レ墠、此壇墠之別也、築レ土曰レ封、除レ地曰レ禪、凡言二封禪一、亦是壇墠而已、經典多用レ壇爲レ墠、古音略同也。❷**地を掃ふ**。〔公羊、宣、十八〕墠帷。〔注〕掃レ地曰レ墠、今齊俗名レ之

云爾。❸壇(3－5528)に通ず。〔左氏、昭、十三〕日中造二于除一、〔注〕除レ地爲レ墠。〔釋文〕壇、本或作レ墠。❹禪(8－24835)に同じ。〔荀子、正論、堯舜擅讓、注〕擅、與レ禪同、墠亦同。〔後漢書、光武紀下、禪二于梁父一、注〕改レ墠爲レ禪、神レ之也。❺坦(3－4971)に通ず。〔說文通訓定聲〕墠、武梁碑、前設二礑坦一、以レ坦爲レ之。🈪**ひろい**。〔集韻〕墠、寬也。

【墠帷】1 センヰ 地を掃ひ清めて、とばりを張る。墠は字解の🈩🈔の❶を見よ。〔公羊、宣、十八〕墠帷哭レ君成レ踊、反二命乎介一、自レ是走之レ齊。〔釋文〕墠帷、音善、掃レ地張レ帷。

【墠場】2 センヂヤウ 神を祭る爲に掃ひ清めた郊外の地。〔史記、文帝紀〕其廣二增諸祀墠場珪幣一。

【墠微】3 センビ 獸の名。〔太平御覽、獸部、雜獸、黃要〕蜀地志曰、黃要獸、一名墠微、一名虔已、蝙身孤首、生レ子長大自活、羣二逐其母一、令レ不レ得レ飮、將レ有レ所レ求、而先見二此獸一則不レ得矣。

【壹】5459
🈩エイ 〔集韻〕壹計切 霽
🈔イ 〔集韻〕乙冀切 寘
小篆
🈩❶**空がかき曇るまで土けむりが起つ**。〔說文〕壹、天侌塵起也、詩曰、壹壹其陰、从レ土壹聲。❷曀(5－14163)に通ず。〔說文〕壹、詩曰、壹壹其陰。〔詩、邶風、終風〕曀曀其陰。❸或は堅(3－5392)に作る。〔集韻〕壹、或作レ堅。🈔**曇つて暗い**。〔集韻〕曀、陰晦也。

【⿸盾圭】5460
🈩ケイ ケ 〔集韻〕傾畦切 齊
🈔カイ ゲ 〔集韻〕下買切 蟹
🈪カイ ケ 〔集韻〕古賣切 卦
小篆
🈩🈔🈪**盾のにぎり**。〔說文〕⿸盾圭、盾握也、从レ盾圭聲。〔集韻〕⿸盾圭、一曰、盾鼻。

【墡】5461
🈩セン 〔集韻〕上演切 銑 ㄕㄢˋ shan^{4}
🈔ゼン
❶**白い土**。しろつち。〔一切經音義、十七〕墡、白土也。又名レ堊。❷或は⿰石善(8－24466)に作る。〔集韻〕墡、或从レ石。

【⿰土逮】5462
タイ
埭(3－5179)の俗字。〔正字通〕⿰土逮、埭俗字。

【墢】5463
🈩ハツ
🈔ハイ
🈩❶坺(3－5000)に同じ。〔集韻〕墢、或从レ犮。❷垡(3－5056)に同じ。〔集韻〕伐、或从レ發。🈔⿰土廢(3－5582)に同じ。〔集韻〕墢、坺也、或不レ省。

【墣】5464
🈩ハク 〔集韻〕匹角切 覺
🈔ホク 〔集韻〕普木切 屋
小篆　或體 圤
🈩🈔**つちくれ**。或は圤(3－4876)に作る。〔說文〕墣、凷也、从レ土菐聲。圤、墣或从レ卜。〔國語、呉語〕王寐、疇枕レ王以レ圤而去レ之。〔注〕圤、塊也。

【墤】5465
🈩タイ
🈔クヮイ
🈩隤(11－41849)に同じ。〔玉篇〕墤、與レ隤同。🈔塊(3－5319)に同じ。〔集韻〕塊、或作レ墤。

【墥】5466
🈩トウ ツ 〔集韻〕覩動切 董
🈔タン 〔集韻〕土緩切 旱
🈩塴墥は、ありづか。〔集韻〕墥、塴墥、封垤也。🈔曈(7－21942)に同じ。〔集韻〕曈、禽獸所レ踐處、或作レ墥。

【墦】5467
🈩ハン ボン 〔集韻〕符袁切 元 ㄈㄢˊ fan^{2}
🈔ハン 〔集韻〕鋪官切 寒
🈩🈔**つか**。はか。〔廣雅、釋邱〕墦、冢也。〔孟子、離婁下〕卒之二東郭墦閒之祭者一。〔注〕墦閒、郭外冢閒也。

【墦冢】1 ハンチヨウ 林の名。〔山海經、中山經〕傅山、其西有レ林焉、名曰二墦冢一、穀水出焉、而東流注二于洛一。

【乞二墦閒一】2 ハンカンニコフ 墓地を乞食して歩くこと。墦閒酒肉を見よ。〔李涚、啓蒙篇〕乞二墦閒一而充二甘旨一。

【墦閒酒肉】3 ハンカンシユニク 墓の祭に用ひたあまりの酒と肉。〔孟子、離婁下〕齊人有二一妻一妾而處レ室者一、其良人出、則必饜二酒肉一而後反、云云、卒之二東郭墦閒之祭者一、乞二其餘一不レ足、又顧而之レ他。〔注〕墦閒、郭外冢閒也、乞二其祭者所レ餘酒肉一也。

【墧】5468
カク
塙(3－5341)に同じ。〔集韻〕塙、或从レ喬。

【墨】5469
🈩ボク モク 〔集韻〕密北切 職 ㄇㄛˋ mo^{4}
🈔バイ マイ 〔集韻〕莫佩切 隊
🈪ビ ミ 〔集韻〕旻悲切 支
小篆
🈩❶**すみ**。〔說文〕墨、書墨也、从二土黑一。〔廣雅、釋器〕墨、黑也。〔釋名、釋書契〕墨、晦也、言レ似二物晦墨一也。❷**くろい**。黑(12－48038)に通ず。〔說文通訓定聲〕墨、叚借爲レ黑。〔儀禮、士昏禮〕乘二墨車一。〔注〕墨車、漆車也。❸**くろずむ**。〔左氏、哀、十三〕肉食者無レ墨。〔注〕墨、氣色下。〔孟子、滕文公上〕面深墨。〔注〕墨、黑也。❹**けがれる**。不潔。〔左氏、昭、十四〕貪以敗レ官爲レ墨。〔注〕墨、不潔之稱。❺**ふさがる**。〔荀子、解蔽〕墨以爲レ明。〔注〕墨、謂二蔽塞一也。❻**へりくだる**。〔太玄經、盛〕盛不レ墨。〔注〕墨、謙也。❼**だまる**。默(12－48063)に通ず。　墨墨(191)の❶を見よ。〔正字通〕墨、與レ默通。〔史記、屈原傳〕孔靜幽墨。〔注〕集解曰、王逸曰、墨、無レ聲也。❽**すみなは**。纆(8－27884)に通ず。〔說文通訓定聲〕墨、叚借爲レ纆。〔太玄經、法〕物仰二其墨一。〔注〕墨、謂二繩墨一也。❾**うらかた**。龜甲のわれめ。〔周禮、春官、占人〕史占レ墨。〔注〕墨、兆廣也。〔周禮、春官、卜師〕致二其墨一。〔注〕致二其墨一者、孰二灼之一明二其兆一。❿**焼け地**。〔枚乘、七發〕徼レ墨廣博、觀二望之一有レ圻。〔注〕善曰、墨、燒田也。⓫**古の尺度の名**。五尺。〔小爾雅、廣度〕五尺、謂二之墨一。〔國語、周語下〕墨丈尋常之閒。〔注〕五尺爲レ墨。⓬**刑罰の名**。五刑の一。いれずみの刑。〔周禮、秋官、司刑〕墨罪五百。〔注〕墨、黥也、先刻二其面一、以レ墨窒レ之。〔白虎通、五刑〕墨者、墨二其額一也。⓭**墨子の學風を奉ずる先秦の一學派**。又、其の學。墨家。〔孟子、滕文公下〕天下之言、不レ歸レ楊則歸レ墨。〔荀子、禮論〕刻レ死而附レ生、謂二之墨一。〔注〕墨、墨子之法。〔張衡、思玄賦〕毆二儒墨一以爲レ禽。〔注〕善曰、墨、墨家流也。⓮**蟲の名**。⿰虫墨(10－33792)に通ず。〔說文〕蛅、蛅斯、墨也。〔段注〕釋蟲云、⿰虫墨、蛅蟴。⓯**國の名**。メキシコ。〔清史稿、

邦交志〕駐美公使楊儒、派レ員赴レ墨。⑯姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕墨氏、姓纂云、孤竹君之後、本墨台氏、後改爲二墨氏一、望出二梁郡一、戰國時、宋人墨翟、著レ書號二墨子一。⑰冒（2－1538）に通ず。〔正字通〕墨、通作レ冒、左傳、貪冒之民、周語、其君貪冒、卽貪墨。〔說文通訓定聲〕墨、叚借爲レ冒、左昭十四傳、貪以敗レ官爲レ墨、按、犯而取也、注、不潔之稱失レ之。[二]よこしま。〔集韻〕墨、譏言敗レ善曰レ墨。[三]❶軟弱のさま。〔集韻〕墨、軟弱皃。❷いつはる。〔集韻〕墨、墨杘、默詐皃。

解字　會意形聲。土と黑との合字。黑は又聲。古は土石の黑質なものをすみとして用ひたので、土と黑とを合せて其の意を表はす。〔說文通訓定聲〕墨、書墨也、从レ土从レ黑、會意、黑亦聲。

【墨鴉】1 ボクア　劣書の稱。下手な書。〔雅琥、崔徽寫眞詩〕夢隨レ圖去憑二青鳥一、愁逐レ書來點二墨鴉一。〔高啓、憶二昨行一寄二吳中諸故人一詩〕醉題二高壁一墨如レ鴉、一半欹斜不レ成レ字。

【墨晏】2 ボクアン　墨子と晏子。〔法言、五百〕莊揚蕩而不レ法、墨晏儉而廢レ禮。

【墨菴】3 ボクアン　清、沈起（6－17189‥93）の號。

【墨夷】4 ボクイ　複姓。〔世本、氏姓〕宋襄公子墨夷須爲二大司馬一、其後有二墨夷皐一。〔通志、氏族略〕墨夷氏、風俗通、宋大夫墨夷須・墨夷皐。

【墨衣】5 ボクイ　墨染の衣。黑衣。緇衣。〔唐書、吐蕃傳上〕居二父母喪一、斷髮黛面墨衣、既葬而吉。

【墨印】6 ボクイン　❶墨の印。黑印。朱印の對。〔元史、兵志四〕別行二附籍一、發二行墨印一。❷清代、常人の出す捺印しない領收書。官吏が出す領收書は其の上に蓋印し、之を印領といふ。

【墨隱】7 ボクイン　清、吳鈞（秀水の人）（2－3365‥118）の號。

【墨汙】8 ボクウ　墨でけがす。〔唐書、婁師德傳〕師德曰、容二我擇レ之乎、選者不レ去、乃灑レ筆曰、墨汙爾。

【墨烟】9 ボクエン　❶墨のやうな黑い烟。黑烟。〔貫休、懷二洛下盧縉雲一詩〕木落多二詩藁一、山枯見二墨烟一。❷黑い墨。〔大愚、乞二荆浩畫一詩〕近レ巖幽濕處、惟藉二墨烟濃一。

【墨家】11 ボクカ　戰國時代の九流の一。墨翟が創始した學派。墨者。其の思想の根源に就いては諸說あり、莊子天下篇は、彼が禹の質素で社會本位の施政を行つた點に共鳴せるものとし、呂氏春秋當染篇は、周の史角の子孫に學ぶとし、淮南子主術訓・要略は初、儒學を修めたといひ、漢書藝文志は古の清廟の守に出づとしてゐる。其の主張する所は、周代以後の虛僞虛飾を事とする世變を慨き、時弊に激するの餘り、兼愛非攻を說き、薄葬・非樂を唱へてゐる。猶、韓非子顯學篇に依れば、後世、相里氏・相夫氏・鄧陵子の三派に分れたといふ。〔史記、太史公自序〕墨者儉而難レ遵。〔漢書、藝文志〕墨家者流、蓋出二於清廟之守一。〔唐書、藝文志〕丙部子錄其類十七、五曰二墨家類一。

【墨娥】12 ボクガ　代書する者。〔雲仙雜記〕姑臧太守張憲、代書者號二墨娥一、按レ香者號二麝姬一。

【墨海】13 ボクカイ　硯（8－24233）の異稱。〔文房四譜〕黃帝得二玉一鈕一、治爲二墨海一、其上篆文曰二帝鴻氏之硯一。〔通俗編、器用、墨海〕按、今書二大字一用レ墨多、則以二瓦盆一磨レ之、謂二其盆一曰二墨海一、此其命名由來。

〔墨海金壺〕14 ボクカイキンコ　叢書の名。清、張海鵬集刻。經史子集一百十五種を集め、主として文瀾閣本を採る。學津討源の續書といふ。書成りて程なく燒失したので、流傳するものは少い。後、殘版は守山閣に歸した。其の目は【經部】吳園周易解九卷（宋、張根）・易說四卷（宋、趙善譽）・洪範口義二卷（宋、胡瑗）・禹貢說斷四卷（宋、傅寅）・五誥解四卷（宋、楊簡）・呂氏家塾讀詩記三十二卷（宋、呂祖謙）・續呂氏家塾讀詩記三卷（宋、戴溪）・周官新義十八卷（宋、王安石）・儀禮釋宮一卷（宋、李如圭）・禮記訓義擇言八卷（清、江永）・春秋正旨一卷（明、高拱）・左傳補注六卷（清、惠棟）・古微書三十六卷（明、孫瑴）・論語筆解二卷（唐、韓愈）・論語意原二卷（宋、鄭汝諧）・四書逸箋六卷（清、程大中）・瑟譜六卷（元、熊朋來）・韻舞九成樂補一卷（元、余載）・律呂成書二卷（元、劉瑾）・古韻標準四卷（清、江永）・切韻指掌圖一卷 附、檢例一卷（宋、司馬光）。【史部】三國志辨誤三卷（無名氏）・春秋別典十五卷（明、薛虞畿）・續後漢書四十二卷 附、義例一卷 意義四卷（宋、蕭常）・渚宮舊事五卷 補遺一卷（唐、余知古）・咸淳遺事二卷（無名氏）・弔伐錄四卷（無名氏）・平宋錄三卷（元、劉敏中）・昭忠錄一卷（無名氏）・孫威敏征南錄一卷（宋、滕發元）・江南別錄一卷（宋、陳彭年）・江表志三卷（宋、鄭文寶）・三楚新錄三卷（宋、周羽翀）・南唐書三十卷（宋、馬令）・吳郡志五十卷（宋、范成大）・吳中水利書一卷（宋、單鍔）・治河圖略一卷（元、王喜）・中吳記聞六卷（宋、龔明之）・吳中舊事一卷（元、陸友仁）・歲華紀麗譜一卷 附、箋紙譜一卷 蜀錦譜一卷（元、費著）・平江紀事一卷（元、高德基）・大唐西域記十二卷（唐、玄奘）・職方外紀五卷（明、艾儒略）・五代會要三十卷（宋、王溥）・宋朝事實二十卷（宋、李攸）・謚法四卷（宋、蘇洵）・歷代建元考十卷（清、鍾淵映）・歷代兵制八卷（宋、陳傅良）・救荒活民書三卷 拾遺一卷（宋、董煟）・荒政叢書十卷 附錄二卷（清、兪森）。【子部】少儀外傳二卷（宋、呂祖謙）・準齋雜說二卷（宋、吳如愚）・內訓一卷（明、文皇后）・守城錄四卷 附錄一卷（宋、陳規・湯璹）・太白陰經十卷（唐、李筌）・陳紀四卷（明、何良臣）・練公實紀九卷 雜集六卷（明、戚繼光）・折獄龜鑑八卷（宋、鄭克）・博濟方五卷（宋、王袞）・農桑衣食撮要二卷（元、魯明善）・旅舍備要方一卷（宋、董汲）・傷寒微旨二卷（宋、韓祇和）・全生指迷方四卷（宋、王貺）・靈棋經二卷（舊題、漢、東方朔）・李虛中命書三卷（舊題、周、鬼谷子）・珞琭子三命消息賦注二卷（宋、徐子平）・珞琭子三命消息注二卷（宋、釋曇瑩）・大清神鑑六卷（舊題、周、王樸）・羯鼓錄一卷（唐、南卓）・樂府雜錄一卷（唐、段安節）・元元棋經一卷（宋、晏天章）・棋訣一卷（清、劉仲甫）・宣德鼎彝譜八卷（明、呂震）・洛陽牡丹記一卷（宋、歐陽脩）・揚州芍藥譜一卷（宋、王觀）・范村梅譜一卷（宋、范成大）・菌譜一卷（宋、陳仁玉）・子華子二卷（舊題、晉、程本）・鬻子二卷（舊題、周、鬻熊）・尹文子二卷（周、尹文）・愼子一卷（周、愼到）・公孫龍子一卷（周、公孫龍）・人物志三卷（魏、劉邵）・化書六卷（南唐、譚峭）・資暇集三卷（周、李匡乂）・靖康緗素雜記十卷（宋、黃朝英）・能改齋漫錄十卷（宋、吳曾）・緯略十二卷（宋、高似孫）・日損齋筆記（元、黃溍）・珩璜新論一卷（宋、孔平仲）・日聞錄一卷（元、李翀）・玉堂嘉話八卷（元、王惲）・書敍指南二十卷（宋、任廣）・雞肋一卷（宋、趙崇絢）・玉壺野史十卷（宋、釋文瑩）・東齋記事五卷 補遺一卷（宋、范鎭）・明皇雜錄二卷 補遺一卷（唐、鄭處誨）・唐語林八卷（宋、王讜）・南窻紀談一卷（宋、無名氏）・萍州可談三卷（宋、朱彧）・高齋漫錄一卷（宋、曾慥）・張氏可書一卷（宋、張知甫）・步里客談二卷（宋、陳長方）・東南紀聞三卷（元、無名氏）・菽園雜記十五卷（明、陸容）・漢武內傳一卷（舊題、漢、班固）・朱陶新錄一卷（舊題、宋、尹喜）・文子二卷（周、辛文子）・亢倉子一卷（唐、王士元）。【集部】古文苑二十一卷（無名氏）・餘師錄四卷（宋、王正德）。〔增訂叢書擧要、近代、四〕。

【墨江】15 ボクカウ　縣名。民國、置く。明の他郎寨。清の他郎廳。雲南省元江縣の西南。始、民國、他郎縣を置いたが、後、墨江縣と改む。

【墨行】16 ボクカウ　墨子の行を奉ずる。〔韓愈、送二浮屠文暢師一序〕人固有二儒名而墨行者一、問二其名一則是。

【墨香】17 ボクカウ　❶墨のにほひ。❷清、馮金伯（12－44579‥198）の字。

【墨客】18 ボクカク　書畫詩文にたけた人。文人。書家。畫家。墨士。〔揚雄、長楊賦〕墨客降レ席、再拜稽首。〔劉禹錫、三月三日與二樂天及河南李尹一奉二陪裴令公一泛レ洛禊飲詩〕棹歌能儷曲、墨客競分題。〔李白、對レ雪詩〕竇公敞華筵、墨客盡來臻。〔李頎、魏倉曹東堂檉樹詩〕洛陽墨客遊二雲間一。〔韓愈、祭二薛中丞一文〕詩人墨客、爭諷二新篇一。〔陳思、海棠譜序〕騷人墨客、特注レ意焉。

〔墨客揮犀〕19 ボクカクキサイ　書名。十卷。宋、彭乘撰。宋代の遺聞軼事及び詩話文評を記す。外に四庫未收の續編十卷がある。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【墨器】20 ボクキ　硯（8－24233）の異稱。〔事物異名錄、文具部、硯〕墨器、開元文事、硯者墨之器。

【墨義】21ボクギ 筆答の試驗。經義を以て士を試みるとき筆答させること。筆紀試驗の答案。口義（**2－3227**‥28）の❷の對。唐の元和の時、口義を停めて墨義を試み、宋代以後、皆、之に因る。〔唐書、選擧志上〕明經停二口義一、復試二墨義十條一。

【墨戲】22ボクギ 墨繪。〔畫鑒〕近世牧溪僧法常作二墨戲一、粗惡無二古法一。〔宣和畫譜、二十〕閻士安、陳國宛邱人、家世業レ醫、性喜作二墨戲一。〔事物異名錄、文具部、畫〕墨戲、癸辛雜志、趙孟頫善二墨戲一、於二水仙一尤得レ意、晩作レ梅、自成二一家一。

【墨菊】23ボクキク 深黑色の菊花。漢代、其の汁を採つて字を書いたといふ。〔澄懷錄〕終南五老洞碑記、墨菊、其色如レ墨、古用二其汁一以書レ字。

【墨狂】24ボクキヤウ 明、羅素（**9－28397**‥174）の號。

【墨鏡】25 mo^4 ching^4 黑水晶の眼鏡。

【墨魚】26ボクギヨ いか。烏賊。〔本草、烏賊魚〕釋名、烏鰂・墨魚・纜魚、乾者名レ鮝、骨名二海螵蛸一。〔田閒書〕海有レ蟲、拳然而生者、謂二之墨魚一。其腹有二墨淤一、於レ水則以レ墨蔽二其身一、故捕者往往迹レ墨而漁レ之。

【墨玉】27ボクギヨク ❶帶の飾や器物を作る黑色の玉。〔雲林石譜〕西蜀諸山、多產二墨玉一、在二深土中一、其質如レ石、色深黑、體甚輕軟、工人鐫治爲二帶胯及器物一、極潤。❷縣名。民國、置く。もと和闐縣の地。土名は哈拉哈什。回語で哈拉は墨色、哈什は玉の意。新疆省喀什噶爾道。

【墨琴】28ボクキン 清、曹貞秀（**5－14297**‥293）の字。

【墨銀】29 mo^4 yin^2 墨西哥銀をいふ。銀圓（**11－40355**‥9）を見よ。

【墨癯】30ボクク 清、翟繼昌（**9－28727**‥52）の號。

【墨花】31ボククワ ❶墨の色つやがしみこんだ硯。〔李賀、楊生青花溪紫石硯歌〕紗帷晝暖墨花春、輕漚漂沫松麝薰。❷墨で畫いた花。墨繪の花。〔畫鑒〕能畫二花鳥一、克肖二聖藝一、墨花妙入二能品一。〔輟耕錄、落水蘭亭〕（趙）彝齋、宋宗室之子、諱孟堅、字子固、彝齋其自號、居二嘉興之廣成一、酷嗜二古法書名畫一、能作二墨花一、於二水仙一尤長。

〔墨花莊〕32ボククワサウ 清、鄭旼（**11－39647**‥244）の室名。

〔墨花吟館〕33ボククワギンクワン 清、嚴辰（**2－4589**‥151）の室名。

〔墨花居士〕34ボククワコジ 清、黃均（**12－47926**‥216）の號。

〔墨花深處〕35ボククワシンショ 明、陳文燭（**11－41698**‥1234）の室名。

【墨畫】36ボクグワ 墨で畫く。又、墨書の繪畫。すみゑ。〔書、洛誥〕我卜二河朔黎水一云云、〔疏〕凡卜レ之者、必先以レ墨畫レ龜、要拆依二此墨一、然後灼レ之求二其兆順一、食二此墨畫之處一。〔蘇軾、墨花詩序〕世多下以レ墨畫二山水竹石人物一者上。

【墨會】37 mo^4 huei^4 理會する。思料する。

【墨繪】38スミヱ 墨で畫いた繪畫。墨畫。〔明月記、貞永二年三月二十日〕更級墨繪。

【墨官】39ボククワン 墨を造る役人。〔晁沖之、承晏墨詩〕江南墨官有二諸奚一、老超尙不レ如二庭珪一。

【墨丸】40ボクグワン 墨の一種。漆煙と松煤とを合せて作つたもの。〔宋稗類鈔〕上古無レ墨、竹梃點レ漆而書、中古方以レ石磨レ汁、或云、是延安石液、至二魏晉時一、始有二墨丸一、乃漆烟松煤、夾和爲レ之、所三以晉人用二凹心硯一、欲二磨レ墨貯レ瀋耳、自後有二螺子墨一、亦墨丸之遺製、云云、至二唐末一、墨工奚超、與二其子廷珪一、自二易水一渡レ江、遷二居歙州一、南唐賜二姓李氏一、廷珪父子之墨、始集大成。

【墨君】41ボククン ❶墨繪の竹。君は竹をいふ。〔蘇軾、墨君堂記〕獨王子猷謂二竹君一、從而君レ之。〔陸游、成都行〕墨君秀潤瘦不レ枯、風枝雨葉筆筆殊。❷宋、文同（**5－13450**‥729）の號。

【墨刑】42ボクケイ 古の五刑の一。入墨の刑。墨罰。墨罪。〔書、呂刑、墨辟疑赦、傳〕刻二其顙一而涅レ之、曰二墨刑一。

【墨啓】43ボクケイ 手書して天子に奏啓すること。〔南史、王彧傳〕乃墨啓答レ敕、幷謝レ贈レ詔。

【墨卿】44ボクケイ 字號。❶唐、段文昌（**6－16619**‥103）の字。❷清、伊秉綬（**1－432**‥180）の號。

〔墨卿堂〕45ボクケイダウ 清、恒裕（**4－10527**‥123）の室名。

【墨經】46ボクケイ ❶墨子の書。墨經の稱は莊子天下篇に始めて見える。晉の魯勝が經上下・經說上下四篇を辯經と稱して墨辯注を撰す。民國の梁啓超は、莊子の墨經を以て墨辯四篇としてゐるが、妥當でない。乾隆中、張惠言は墨子經說解を撰して上述の四篇に注し、畢沅・孫星衍等も上述の四篇を墨經とし、又、墨子の自著とし、汪中は之に大取・小取二篇を加へ、當時、之を墨經と稱すとしてゐる。蓋し此等六篇は惠施・公孫龍時代の詭辯派の所產と見るべきであらう。〔莊子、天下〕俱誦二墨經一、而倍譎不レ同。❷書名。一卷。宋、晁季一撰。製墨の法を記す。〔四庫提要、子、譜錄類〕。

〔墨經校釋〕47ボクケイカウシヤク 書名。民國、梁啓超撰。墨子の經上下・經說上下四篇を校釋したもの。莊子天下篇の墨經を以て墨辯四篇と爲し、經上は墨子の自作、經下は墨子の自作、又は禽滑釐・孟勝諸賢の續補としてゐる。

【墨黥】48ボクゲイ 入れずみする。墨刑に處する。墨涅。〔荀子、正論〕治古無二肉刑一、而有二象刑一、墨黥、慅嬰、共艾畢、菲對屨。〔注〕世俗以爲、古之重罪、以レ墨涅二其面一而已、更無二劓刖之刑一也。〔漢書、刑法志〕古者無二肉刑一、有二象刑墨黥之屬一。〔漢書、匈奴傳上〕不三以レ墨黥二其面一不レ得レ入二穹廬一。

【墨卷】49ボクケン 鄕試・會試の原答案。科擧の制、原答案は、受卷官に提出し、彌封官が封し、謄錄官が硃筆で筆寫して對讀官に提出する、これを硃卷といふ。對讀官、之を對讀し、收掌官に提出する。收掌官は硃卷を試驗官に提出し、墨卷を保管した。〔明史、選擧志二〕考試者用レ墨、謂二之墨卷一、謄錄用レ硃、謂二之硃卷一。

【墨硯】50ボクケン 墨と硯。〔事物紀原、什物器用部、墨硯〕後漢李尤墨硯銘曰、書契既造、墨硯乃陳、則是茲二物者、與二文字一同興二於黃帝之代一也。

【墨元】51 mo^4 yüan^2 メキシコ弗。

【墨戶】52ボクコ 墨を作る家。〔墨經〕凡墨戶不レ工二於製作一、而工二於研磨一。

【墨姑】53ボクコ 清、殳默（**6－16613**‥8）の字。

【墨壺】54ボクコ ❶明、朱鑑（**6－14424**‥96）の號。❷スミツボ 墨汁を貯へるつぼ。❸大工・石工等の使用する道具の一。墨斗（170）の❶に同じ。〔出世景清、一〕墨壺の絲のすぐなる國。

【墨湖】55ボクコ 字號。❶明、朱鑑（**6－14424**‥96）の號。❷明、李著（**6－14459**‥590）の號。

【墨工】56ボクコウ すみを作る人。墨生。〔玉堂雜記〕世英墨五團以代二賜酒一、世英御前墨工也。〔稱謂錄、百工、墨工〕遯齋閒覽、唐末墨工奚超、與二其子廷珪一、自二易水一渡レ江、遷二居歙州一、南唐賜二姓李氏一、何薳墨記、墨工製名多相踏襲。

【墨刻】57ボクコク 石摺本。墨本（192）に同じ。〔晦庵題跋〕故集二其墨刻一、以爲二此卷一。

【墨黑】58ボクコク 眞黑。又、眉を墨のやうに黑く塗る。〔戰國、楚策〕張子曰、彼鄭周之女、粉白墨黑、立二於衢閭一、非レ知而見レ之者、以爲レ神。

【墨棍】59 mo^4 kuen^4 印刷用のロール。墨軸。

【墨痕】60ボクコン すみのあと。書いた筆のあと。墨迹。墨蹟。手跡。墨蹤。〔畫鑒〕雲氣騰湧、墨痕如レ臂。

【墨彩】62ボクサイ 墨のいろ。墨色。〔金壺記、中〕梁劉勰字贊曰、子玄墨彩騰奮。

【墨縗】63ボクサイ 墨縗絰を見よ。〔南史、范縝傳〕居二于南州一、梁武至、縝墨縗來迎、武帝與レ縝有二西邸之舊一、見レ之甚悅。〔北史、李彪傳〕國之吉慶一令、無レ預二其軍戎之警一、墨縗從レ役、雖レ愆二於禮事一、所レ宜レ行也。

〔墨縗絰〕64ボクサイテツ 喪中、軍戎に從ふ時に、喪服に黑色を加へること。縗は喪服、長さ六寸、廣さ四寸の胸前に附けるきれ。絰は喪中、首また腰に著ける麻。墨絰。〔左氏、僖、三十三〕子墨縗絰、梁弘御レ戎、萊駒爲レ右。〔注〕晉文公未レ葬、故襄公稱レ子、以二凶服一從レ戎、故墨レ之。〔左氏、襄、二十三〕王鮒使二宣子墨縗冒レ絰、二婦人輦以如レ公、奉レ公以如二固宮一。〔輯釋〕釋文、冒レ絰、以レ絰冒二其首一也、一曰、縗・冒・絰三者皆墨レ之、衡案、絰不レ可レ冒、宣子僞二婦人一、故以レ衣冒二其首一耳、後說得レ之。〔書言故事大全、死喪類〕有二喪墨服一、曰二墨衰絰一。

【墨罪】65ボクザイ 古、五刑の一。いれずみ。額に刻む。墨刑（42）を見よ。〔周禮、秋官、司刑〕墨罪五百。〔注〕墨、黥也、先刻二其面一、以レ墨窒レ之。

【墨曹】66ボクサウ 官名。漢、置く。刑法を掌る。決曹（**6－17174**‥31）に同じ。〔海錄碎事、臣職部、下、曹掾門〕決曹、兩漢有二決曹・賊曹一、主二刑法一、卽司

法參軍也、或謂㆓之墨曹㆒。

【墨曹都統】67（ボクサウトトウ） 筆（8－25987）の異名。〔山堂肆考〕薛稷對㆑筆爲㆓墨曹都統・黑水郡王兼毫州刺史㆒。

【墨莊】68（ボクサウ） ❶藏書の多いこと。墨は墨跡、莊は藏聚。〔書言故事、學問類〕多㆑文爲㆑富號㆓墨莊㆒、宋朝劉幾死、妻聚㆓書千餘卷㆒、指㆓示諸子㆒曰、汝父謂㆑此爲㆓墨莊㆒、今貽㆓汝輩㆒、爲㆓學殖之具㆒。〔張邦基、墨莊漫錄序〕僕性喜㆓藏書㆒、隨㆑所㆑寓榜曰㆓墨莊㆒、故題㆓其首㆒曰㆓墨莊漫錄㆒。❷字號。㋑明、喬林（2－3990‥57）の號。㋺清、姚敏修（3－6202‥202）の號。㋩清、胡承珙（9－29400‥506）の號。㋥清、吳達（2－3365‥290）の號。㋭清、陳經（11－41698‥210）の號。㋬清、李鼎元（6－14459‥1780）の字。㋣清、李調元（6－14459‥1792）の號。

【墨莊居士】69（ボクサウコジ） 宋、范良遂（9－30834‥276）の號。

【墨莊夫人】70（ボクサウフジン） 宋、劉式（2－2224‥390）の通稱。

【墨莊漫錄】71（ボクサウマンロク） 書名。十卷。宋、張邦基撰。軼事を記し、中に小說家の言を參へ、又、考證を加へてゐる。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【墨棗】72（ボクサウ） いかの臟腑を去らないで乾したもの。ほしいか。臟腑を去つて乾したものを螟蜅といふ。寧波定海人の語。

【墨三】73（ボクサン） 民國、顧祝同（12－43689‥292）の字。

【墨山】74（ボクザン） ❶山名。㋑河南省淅川縣の境。〔水經、丹水注〕黃水北有㆓墨山㆒、山石悉黑、繢彩奮發、黝焉若㆑墨、故謂㆓之墨山㆒。㋺湖南省華陽縣の東。岳陽縣の界。〔岳陽風土記〕墨山謂㆓之玄石山㆒、楚辭曰、驅㆓予車兮玄石㆒、步㆓予馬於洞庭㆒。❷漢代の西域諸國の一。山王國・山國とも稱す。今の新疆省吐番縣の西南地方。❸西依景翼の號。西依墨山（10－34763‥697）を見よ。

【墨士】75（ボクシ） 書畫詩文に長けた人。墨客。〔五雜組、天部、二〕文人墨士、乃習爲㆓常語㆒。

【墨子】76（ボクシ） 書名。此の書は周の墨翟撰といふが、親士・修身の二篇以外は、書中多く「子墨子曰」と稱して居るから、蓋し其の門人の撰する所であらう。漢志に七十一篇、隋志に十五卷、目一卷、唐の馬總の意林に十六卷、兩唐書に十五卷、宋の館閣書目に十五卷六十一篇とあり、明の茅坤の閱した書は五十三篇とある。宋までに節用下・節葬上・節葬中・明鬼上・明鬼中・非樂中・非樂下・非儒上の八篇を失ひ、宋以後明までに、五十一・五十四・五十五・五十七・五十九・六十・六十四・六十五・六十六・六十七の十篇を佚した。その篇名は未詳。現存の目は、親士・修身・所染・法儀・七患・辭過・三辯・尚賢（上中下）・尚同（上中下）・兼愛（上中下）・非攻（上中下）・節用（上中）・節葬（下）・天志（上中下）・明鬼（下）・非樂（上）・非命（上中下）・非儒（下）・經（上下）・經說（上下）・大取・小取・耕柱・貴義・公孟・魯問・公輸・備城門・備高臨・備梯・備水・備突・備穴・備蛾傳・迎敵祠・旗幟・號令・襍守の五十三篇である。其の說、兼愛を主として、兼愛は天志なりとし、其の勤儉を說くのは兼愛の資を充す爲、鬼神を說くのは天意の運行を現實にする爲、宿命を否認するのは兼愛自儉を勵す爲である。而して能く兼愛自儉を行ふを賢能とし、賢能の士が政を爲せば天下は治まるとする。孟子は之を楊墨と竝べて排擊したため、秦漢以後、世に行はれなかつたが、大いに取るべき所があり、歷代の著錄には大抵九流の一に列してゐる。しかし後世の學者は異端の書として排斥し、蠹蝕鼠囓に任せたから、誤闕が極めて多い。明末に至り、李贄・茅坤の徒、之を校刻し、清朝に至つて畢沅が之を校勘した。經訓堂本がこれである。孫詒讓の墨子閒詁は最も便である。〔四庫提要、子、雜家類〕。《參考書》【墨子閒詁】十五卷 目錄一卷 附錄一卷 後語二卷 清、孫詒讓撰。經訓堂本墨子に依り、王念孫・王引之・張景言・陳澧・兪樾等の解を參酌して之が解を作る。兪樾の序に「蓋自㆑有㆓墨子㆒以來、未㆑有㆓此書㆒也」とあるが、蓋し墨子注釋本中の白眉であらう。猶、附錄・後語は墨子に關する考證文を錄してゐる。【墨子學案】一冊 民國、梁啓超撰。墨子の學說を序したもの。【墨子闡微】二卷 小川信成撰。【墨子考】四卷 戶崎允明撰。【墨子考要】四卷 太田方撰。【墨子附說】二卷 鈴木柔嘉撰。

【墨子泣㆑絲】77（ボクシイトニナク） 墨子が練絲を見て、其の黃にも黑にも染まり得るのを知つて泣いた故事。人は習慣によつて其の性の善惡を異にする喩。墨子悲㆑染を見よ。〔淮南子、說林訓〕墨子見㆓練絲㆒而泣㆑之、爲㆘其可㆓以黃㆒可㆗以黑㆖。〔風俗通、皇霸〕墨翟悲㆓於練素㆒者也。

【墨子回㆑車】78（ボクシクルマヲカヘス） 朝は歌ふべき時に非ず、故に朝歌と名づくる邑へは、墨子が車を廻らして入らなかつた故事。〔淮南子、說山訓〕墨子非㆑樂、不㆑入㆓朝歌之邑㆒。〔漢書、鄒陽傳〕邑號㆓朝歌㆒、墨子回㆑車。〔注〕晉灼曰、紂作㆓朝歌之音㆒、朝歌者不㆑時也、師古曰、朝歌、殷之邑名也。

【墨子薄葬】79（ボクシハクサウ） 墨翟が葬禮を薄くしたこと。墨子に節葬篇がある。〔孟子、滕文公上〕墨之治㆑喪也、以㆑薄爲㆓其道㆒也。〔莊子、天下〕今墨子生不㆑歌、死無㆑服、桐棺三寸而無㆑槨。

【墨子悲絲】80（ボクシヒシ） 蒙求の標題。墨子悲㆑染を見よ。

【墨子悲㆑染】81（ボクシセンヲカナシム） 人は習慣によつて其の性の善惡を異にする喩。墨子が絲を染める者を見、絲は其の染める色によつて色々に變るのを悲しんだ故事。墨子泣㆑絲に同じ。〔墨子、所染〕子墨子見㆓染㆑絲者㆒而歎曰、染㆓於蒼㆒則蒼、染㆓於黃㆒則黃、所㆑入者變、其色亦變、五入必而已、則爲㆓五色㆒矣、故染不㆑可㆑不㆑愼也。〔顏氏家訓、慕賢〕墨翟悲㆓於染絲㆒。

【墨子傳授考】82（ボクシデンジユカウ） 清、孫詒讓撰。墨子の傳授に關する考證。墨子閒詁中の後語に附す。

【墨子見㆓岐道㆒而哭㆑之】83（ボクシキダウヲミテコレニコクス） 善惡の區別の明かでないのを歎ずること。墨子が岐れ道を見て悲しんだ故事。〔呂覽、疑似〕亡國之主似㆑智、亡國之臣似㆑忠、相似之物、此愚者之所㆓大惑㆒、而聖人之所㆑加㆑慮也、故墨子見㆓岐道㆒而哭㆑之。

【墨史】84（ボクシ） ❶書名。二卷。元、陸友撰。古來の製墨に精しい者、凡て百五十餘人を集め、其の事蹟を記し、又、高麗・契丹・西域の墨を詳說し、且、墨の典故を附錄とす。〔四庫提要、子、譜錄類〕。❷清、汪昱（6－17154‥4）の號。

【墨旨】85（ボクシ） 手書の命令。墨筆で親書した勅令。おすみつきといふ類。教條。〔南史、傅琰傳〕寂之不㆑肯㆑開㆑門、曰、不㆑奉㆓墨旨㆒、或方㆓於車中㆒爲㆑教、然後開。〔事物異名錄、政治部、詔令〕墨旨、山堂肆考、墨旨、州縣教條也、見㆓南史㆒。

【墨志】86（ボクシ） 書名。一卷。明、麻孟璿撰。墨について考說したもの。〔別下齋叢書、第三十九冊〕。

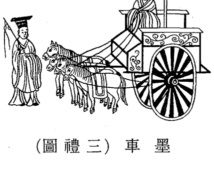
【墨絲】87（ボクシ） すみいと。墨繩の絲。〔和漢三才圖會、百工具、繩墨〕按、繩墨、木工所㆑用器、以㆓墨絲㆒彈畫者、是也。

【墨齒】88（ボクシ） 齒を黑くそめる。お齒黑をつける。涅齒。〔楚辭、宋玉、招魂〕雕題黑齒、得㆓人肉㆒以祀、以㆓其骨㆒爲㆑醢些。〔集注注〕黑、一作㆑墨。

【墨漆】89（ボクシツ） くろうるし。〔論衡、四諱〕凡可㆓憎惡㆒者、若㆑濺㆓墨漆㆒。

【墨汁】90（ボクジフ） ❶すみのしる。墨瀋。黑水。〔拾遺記、周靈王〕壺中有㆓墨汁㆒、如㆓淳漆㆒。〔林下偶談〕唐王勃屬㆑文、初不㆓精思㆒、先磨㆓墨汁數升㆒。〔圖繪寶鑑、四〕夏珪、云云、善畫㆓人物㆒、云云、筆法蒼老、墨汁淋漓、奇作也。〔元好問、下㆓黃榆嶺㆒詩〕畫工胸次墨汁滿、那得冰壺貯㆓秋月㆒。❷㋑インキ。㋺黑い汁。

【墨車】91（ボクシヤ） 周代、大夫の乘用した黑塗りの車。〔周禮、春官、巾車〕孤乘㆓夏篆㆒、卿乘㆓夏縵㆒、大夫乘㆓墨車㆒。〔注〕墨車、不㆑畫也。〔疏〕言㆓墨漆革車㆒而已、故知㆑不㆑畫也。〔儀禮、覲禮〕乘㆓墨車㆒、載㆓龍旂弧韣㆒。



墨車（三禮圖）

【墨者】92（ボクシヤ） ❶墨子の教を奉ずる者。墨家（11）に同じ。〔孟子、滕文公上〕墨者夷之、因㆓徐辟㆒而求㆑見㆓孟子㆒。〔呂覽、首時〕墨者有㆓田鳩㆒、欲㆑見㆓秦惠王㆒。❷入れずみされた刑人。墨刑に處せられた人。〔周禮、秋官、掌戮〕墨者使㆑守㆑門、劓者使㆑守㆑關。〔白虎通、五刑〕墨者、墨㆓其額㆒也。

【墨匠】93（ボクシヤウ） 書家。〔和漢三才圖會、畜類、黃明膠〕畫家墨匠用㆑之。

【墨牀】94 mo^4 ch'uang^2 墨を載せる臺。墨床。

【墨廂】95 mo^4 hsiang^1 墨壺。

【墨晶】96 mo^4 ching^1 黑色透明の水晶。加工して眼鏡や裝飾品を作る。黑水晶。

【墨粧】97（ボクシヤウ） 化粧を施さない素顏のままで黑みをおびてゐること。〔隋書、五行志上〕婦人墨粧黃眉。

【墨守】98（ボクシユ） 固く自說を執つて動かないこと。墨翟のよく城を守つた故事。墨翟之守(166)を見よ。〔墨子、公輸〕子墨子解㆑帶爲㆑城、以㆑牒爲㆑械、公輸盤九設㆓攻㆑城之機變㆒、子墨子九距㆑之、公輸盤之攻械盡、子墨子之守圉有㆑餘、公輸盤詘。〔後漢書、鄭玄傳〕時任城何休好㆓公羊學㆒、遂著㆓公羊墨守㆒。

【墨綬】99（ボクジユ） 黑色の印綬。漢制、長さ一尺二寸、廣さ三寸、六百石以上のものに賜ふ。〔漢官儀〕邑宰銅章墨綬、秩六百石。〔後漢書、周擧傳〕黑綬以下、便輒收擧。〔後漢書、左雄傳〕雄上疏曰、今之墨綬、猶㆓古之諸侯㆒。〔注〕墨綬、謂㆓令長㆒、卽古子男之國也。

【墨綬銅章】100（ボクジユドウシヤウ） 墨色の綬と銅製の印。六百石以上の諸侯の佩びるもの。〔漢書、百官公卿表上〕縣令長、皆秦官、掌㆑治㆓其縣㆒、萬戶以上爲㆑令、秩千石至㆓六百石㆒、減㆓萬戶㆒爲㆑長、秩五百石至㆓三百石㆒、凡吏、秩比二千石以上、皆銀印青綬、秩比六百石以上、皆銅印墨綬、秩比二百石以上、皆銅印黃綬。〔後漢書、蔡邕傳〕六事墨綬長吏、〔注〕漢官儀曰、秩六百石、銅章墨綬。

【墨術】101（ボクジユツ） 墨子の術。〔荀子、富國〕墨術誠行、則天下尙㆑儉而彌貧。

【墨書】102（ボクシヨ） すみがき。墨で書畫をかく。又、其の書畫。〔荀勖、穆天子傳序〕古文穆天子傳者、太康二年、汲縣民不准、盜㆓發古塚㆒所㆑得書也、皆竹簡素絲編、云云、其簡長二尺四寸、以㆑墨書、一簡四十字。

【墨如】103（ボクジヨ） 夏の禹王の師の名。〔潛夫論、讚學〕堯師㆓務成㆒、舜師㆓紀后㆒、禹師㆓墨如㆒。

【墨蹤】104（ボクシヨウ） すみのあと。書いた筆のあと。墨痕。墨跡。〔梅堯臣、詩〕年深粉剝見㆓墨蹤㆒。

【墨繩】105（スミナハ） 大工などが材木をたち切るために直線を引く具。墨壺と墨絲。〔靈異記、中、第十六緣〕路廣平直如㆓墨繩㆒。

【墨色】106（ボクシヨク） ㊀墨の色つや。〔白居易、遊㆓悟眞寺㆒詩〕素屛有㆓楷書㆒、墨色如㆓新乾㆒。〔墨經〕凡墨色、紫光爲㆑上、墨光爲㆑次、青光又次㆑之、白光爲㆑下。㊁墨のやうな黑い色。まつくろ。〔韓愈、高君仙硯銘〕路獲㆓硯石㆒、似㆓馬蹄狀㆒、外稜孤聳、內發㆓墨色㆒、幽奇天然、疑㆓神仙遺物㆒。〔宋史、范純仁傳〕晝夜肄㆑業、至㆓夜分㆒不㆑寢、置㆓燈帳中㆒、張頂如㆓墨色㆒。

【墨岑】107（ボクシン） 清、張宗蒼(**4**-9812‥1289)の字。

【墨⿱𥫗心】108（ボクシン） 墨差し。〔倭名類聚抄、調度部、細工具、墨⿱𥫗心〕蔣魴切韻云、以㆑篾爲㆑筆曰㆑⿱𥫗心、周赧王時史臣公田檀造也、時人以㆓竹⿱𥫗心㆒畫㆓文字㆒、今工匠墨⿱𥫗心是。

【墨祲】109（ボクシン） 墨差し。墨⿱𥫗心に同じ。

【墨瀋】110（ボクシン） すみのしる。墨汁(90)の㊀に同じ。〔老學庵筆記、八〕晁以道藏硯必取㆓玉斗樣㆒、喜㆘其受㆓墨瀋㆒多㆖也。〔陸游、初寒在㆑告有㆑感詩〕銀毫地綠茶膏嫩、玉斗絲紅墨瀋寬。

【墨水】111（ボクスイ） ㊀すみのしる。墨瀋。墨汁。飮㆓墨水㆒を見よ。〔仇池筆記〕眞松煤遠烟自有㆓龍麝氣㆒、世之嗜者如㆓滕達道蘇浩然呂行甫㆒、暇日晴暖、研㆓墨水數合㆒、弄筆之餘、乃啜飮㆑之。〔蘇軾、監試呈㆓諸試官㆒詩〕麻衣如㆓再著㆒、墨水眞可㆑飮。㊁學問。〔燕子箋、偕征〕可㆑恨墨水全無、只是這之乎者也矣焉哉、字字不㆑通㆓一竅㆒。㊂川の名。山東省卽墨縣の北。淮涉水に注ぐ。〔元和志〕卽墨、城臨㆓墨水㆒、故曰㆓卽墨㆒。㊃東京隅田川の雅名。〔服部南郭、夜下㆓墨水㆒詩〕金龍山畔江月浮、江搖月湧金龍流、扁舟不㆑住天如㆑水、兩岸秋風下㆓二州㆒。〔鹽谷宕陰、遊㆓墨水㆒記〕乃拉㆓童子㆒以遊㆓墨堤㆒。㊄mo^4 shuei^3 インキ。

【墨水規】112 mo^4 shuei^3 kuei^1 烏口。圖を描くに用ひる器。

【墨水紙】113 mo^4 shuei^3 chih^3 すひとり紙。吸墨紙。

【飮㆓墨水㆒】114（ボクスイヲノマシム） 北齊の課試の法で、受驗者の答案の字の濫劣なものがあれば墨水一升を飮ましめた。〔隋書、禮儀志四〕字有㆓脫誤者㆒、呼起席後立、書迹濫劣者、飮㆓墨水一升㆒。〔通典、選擧、歷代制中〕北齊選擧、多沿㆓後魏之制㆒、凡州縣皆置㆓中正㆒、其課試之法、中書策秀才・集書・策貢士・考功郎中・策廉良、天子常服乘㆑輿出、坐㆓於朝堂中楹㆒、秀孝各以㆑班草對、字有㆓脫誤者㆒、呼起㆓立席後㆒、書有㆓濫劣者㆒、飮㆓墨水一升㆒、文理孟浪者、奪㆑席脫㆓容刀㆒。

【墨水一滴】115（ボクスイイツテキ） 書名。一卷。稻葉正信著。江戶時代初期の儒者、藤原惺窩・林道春・那波道圓・山崎闇齋・佐藤直方・淺見絅齋・若林強齋・友部安崇・榎並正固・荻生徂徠・稻葉迂齋等の逸事を錄し、又、經史に關する著者の感想を記してゐる。

【墨水盒兒】116 mo^4 shuei^3 hê^2 êrh 墨壺。インキ壺。

【墨井】117（ボクセイ） ㊀炭礦をいふ。〔左思、魏都賦〕墨井鹽池、玄滋素液。〔注〕劉曰、鄴西高陵西、伯陽城西、有㆓石墨井㆒。㊁墨池(148)の㊀㊁に同じ。〔王起、墨池賦〕恥㆓魏國之沈沈㆒、徒開㆓墨井㆒。

【墨井道人】118（ボクセイダウジン） 清、吳歷(**2**-3365‥411)の號。

【墨生】119（ボクセイ） すみを作る人。墨工。〔倪瓚、贈㆓墨生㆒詩〕巖谷春風起、桐花落㆑澗紅、隔㆑水輕烟發、收㆑煤入㆓竈中㆒、豹囊祕㆓元玉㆒、鵝池生㆓白虹㆒、湯生法㆓潘谷㆒、千載事㆓同風㆒。

【墨西】120（ボクセイ） 清の屈大均の婢をいふ。常に屈大均の硯西に居つて墨を磨つたから、字して墨西といつた。〔屈大均、贈㆓墨西㆒詩序〕姬人姓陸、生㆓高要之布水村㆒、與㆓端溪㆒密邇、予得㆑之、使㆘朝夕在㆓研之西㆒磨㆑墨供㆗予揮灑㆖、故字㆑之曰㆓墨西㆒。

【墨制】123（ボクセイ） 朱書せず、間にあはせに墨で書いた太子の制書。〔五代史、後蜀世家、孟知祥傳〕因請㆘知祥稱㆑王、以㆓墨制㆒行㆖事。

【墨詔】124（ボクセウ） 直筆の詔書。おすみつき。墨敕(161)に同じ。〔宋書、謝莊傳〕世祖出行夜還、敕開㆑門、莊居守、以㆓棨信或虛㆒、執不㆑奉㆑旨、須㆓墨詔㆒乃開。

【墨樵】125（ボクセウ） 岡田豹の號。岡田寧處(**4**-7962‥57)を見よ。

【墨石】126（ボクセキ） 墨畫の石。〔畫鑒〕徽宗性嗜㆑畫、作㆓花鳥山石人物㆒、入㆓妙品㆒、作㆓墨花墨石㆒、間有㆘入㆓神品㆒者㆖。

【墨石子】127（ボクセキシ） 無食子(**7**-19113‥473)の異名。〔本草、無食子〕釋名、沒石子・墨石子・麻茶澤、珣曰、波斯人每食、以代㆑果、故番胡呼爲㆓沒食子㆒、梵書無、與㆑沒同音、今人呼爲㆓墨石・沒石㆒、轉傳訛矣。

【墨迹】128（ボクセキ） 筆のあと。書いた筆のあと。墨跡。墨蹟。墨痕。〔宋書、范曄傳〕示以㆓墨迹㆒。〔韓愈、高君仙硯銘〕宛中有㆓點墨迹文字之祥㆒、君家其昌。〔宋史、職官志二〕以㆓三館書籍眞本幷內出古畫墨迹等㆒藏㆑之。

【墨跡】129（ボクセキ） 墨迹に同じ。

【墨蹟】130（ボクセキ） 墨迹に同じ。〔茅亭客話、三、蘭亭客序〕義之墨蹟蘭亭一軸。

【墨仙】131（ボクセン） ㊀宋の潘谷をいふ。製墨に精しかつたので、世人、墨仙といふ。〔蘇軾、贈㆓潘谷㆒詩〕一朝入㆑海尋㆓李白㆒、空看人間畫墨仙。㊁明、程稃(**8**-25081‥113)の字。

【墨仙堂】132（ボクセンダウ） 湯川浴の號。湯川麑洞(**7**-17874‥219)を見よ。

【墨染】133（ボクセン） すみでそめる。すみぞめ。〔韓非子、十過〕禹作㆓爲祭器㆒、墨㆓染其外㆒、而朱㆓畫其內㆒。

【墨染衣】134（スミゾメノコロモ） 墨染にした衣。墨染の袈裟。

【墨泉】135（ボクセン） 字號。㊀明、黃尙質（餘姚の人）(**12**-47926‥1130)の號。㊁明、陳有寓(**11**-41698‥646)の始號。㊂清、陳汾(**11**-41698‥534)の號。

【墨線】136（ボクセン） すみなは。又、すみなはで畫いた線。墨繩に同じ。〔營造樣式、定平〕凡定㆓柱礎㆒取㆑平、須㆘更用㆓眞尺㆒較㆖之、其眞尺長一丈八尺、廣四寸、厚二寸五分、當心上立㆑表、高四尺、廣厚同、上㆓于立表當心㆒、自㆑上至㆑下、施㆓墨線一道㆒、垂㆑繩墜下、令㆔繩對㆓墨線心㆒、則其下地面自平。

【墨線斗子】137 mo^4 hsien^4 tou^3 tzŭ すみなは。

【墨選】138（ボクセン） 明・清時代、鄉試・會試の後、其の試院中の墨卷の手本となるものを選刊したもの。卽ち模範答案集。〔査愼行、人海記〕選㆓歷科程墨㆒、自㆓萬歷庚辰錢唐人錢穀㆒始。

【墨藪】139（ボクソウ） 書名。一卷。唐、韋續撰。凡て二十一篇。前人の論書の語を錄し、末に宋與義の法帖釋文刊誤一卷を附す。〔四庫提要、子、藝術類〕

【墨村】140（ボクソン） 清、蔡興祖(**9**―**31818**‥175)の號。

【墨打】141（スミウチ） 墨繩で線を打つ。

【墨胎】142（ボクタイ） 複姓。孤竹國君の姓。〔姓氏尋源〕風俗通云、孤竹國君、姓墨胎氏、路史云、伯夷叔齊姓。

【墨胎允】143（ボクタイイン） 殷の人。初の子。字は公信。伯夷をいふ。〔史記、伯夷傳、孤竹君之二子也、注〕索隱曰、伯夷、名元、字公信、應劭云、蓋伯夷之國君、君姓墨胎氏。

【墨胎初】144（ボクタイショ） 殷の人。字は子朝。孤竹國に封ぜらる。孤竹君をいふ。〔史記、伯夷傳、孤竹君之二子也、注〕索隱曰、其傳云、孤竹君、云云、名初、字子朝、應劭云、蓋伯夷之國、君姓墨胎氏。

【墨胎智】145（ボクタイチ） 殷の人。允の弟。字は公達。叔齊をいふ。〔史記、伯夷傳、孤竹君之二子也、注〕索隱曰、叔齊、名致、字公達。

【墨台】146（ボクダイ） 複姓。台、一に音怡、孤竹君の子孫の氏。〔古今姓氏辯證書〕墨台孤竹君之後、漢有㆓墨台縮㆒。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕墨台氏、子姓、宋成公子墩台之後、漢書有㆓墩台悺㆒。

【墨臺】147（スミダイ） 磨りかけの墨を載せておく小さい臺。

【墨池】148（ボクチ） ㊀すみつぼ。〔李白、草書歌行〕墨池飛出北溟魚、筆鋒殺盡中山兔。〔駱賓王、冬日過㆓故人任處士書齋㆒詩〕雪明書帳冷、水靜墨池寒。㊁筆硯を洗ふ池。〔曾鞏、墨池記〕曰㆓王羲之之墨池㆒者、荀仙子臨川記云也。〔成都古今記〕揚雄宅後置㆓寶園寺㆒、今爲㆓宮亭㆒、有㆓墨池㆒焉。〔宋九域志〕王羲之之墨池。㊂文字を習ふこと。墨池學を見よ。㊃明、王舜鼎(**7**―**20823**‥1678)の字。

【墨池學】149（ボクチガク） 文字を書き習ふ學問。書家の學問。〔權德輿、馬秀才草書歌〕猶輕昔日墨池學、未㆑許前賢團扇書。

【墨池編】150（ボクチヘン） 書名。六卷。宋、朱長文撰。字學・筆法・雜議・品藻・贊述・寶藏・碑刻・器用の八門に分れ、古人の書論を各部下に收錄し、卷末、又は篇末に評論を加へてゐる。〔四庫提要、子、藝術類〕

【墨池瑣錄】151（ボクチサロク） 書名。四卷。明、楊愼撰。書法を論じ、頗る考證につとむ。〔四庫提要、子、藝術類〕

【墨杘】152（ビチ） 假說の人名。又、詐の多いこと。〔列子、力命〕墨杘・單至・嘽咺・憋懯四人、相與游㆓於世㆒。〔注〕此皆默詐輕發迂、緩急速之貌、方言、墨杘、江淮之間、謂㆓之無賴㆒、廣雅云、墨、音目、杘、作欺。〔皮日休、反招魂〕上曖昧而下墨杘。

【墨癡】153（ボクチ） 書畫家で墨を使ふことの拙い者。〔清暑筆談〕書畫家不㆓善使㆑墨、謂㆓之墨癡㆒。

【墨癡老人】154（ボクチラウジン） 林應采の號。林道榮(**6**―**14551**‥390)を見よ。

【墨竹】155（ボクチク） ㊀すみ繪の竹。〔圖畫見聞誌〕工㆓畫墨竹㆒、筆力老勁。〔畫鑒〕東坡先生文章翰墨、照㆓輝千古㆒、復能留㆓心筆墨㆒、戲作㆓墨竹㆒、師㆓文與可㆒、枯木奇石、時出㆓新意㆒。〔畫苑〕李衎竹譜詳錄、墨竹亦起㆓於唐㆒、而源流未㆑審、舊說、五代李氏描㆓竹影㆒、衆始傚㆑之、黃大史疑、出㆓於吳道子㆒、迨㆑至㆓宋朝㆒、作者寖盛。㊁竹の一種。〔茅亭客話、八、滕處士〕有㆓絲竹㆒、葉細而青莖、瘦而紫、亦謂㆓之墨竹㆒。㊂亭の名。江西省瑞昌縣の西。宋の元豐中、蘇軾が黃州から筠州に適き、弟、轍を視て此處を經、詩を石上に題して、餘墨を竹に灑いだのに因んで、後人、亭を山に構へたもの。

【墨竹工卡】156（モチユクンチヤ） 地名。西藏、拉薩の東。其の地は狹いが、風物美しく、田野が開け、耕作が行はれる。

【墨丈】157（ボクヂヤウ） 近い所。近距離。墨は五尺、丈は十尺。〔國語、周語下〕不㆑過㆓墨丈尋常之間㆒。〔注〕五尺爲㆑墨。

【墨場】158（ボクヂヤウ） 文墨のなかま。又、其の場所。翰墨場。〔宋之問、傷㆓王祕書監㆒云云詩〕書乃墨場絕、文稱㆓詞伯雄㆒。

【墨貯】159 mo^4 chu^3 矢たて。すみつぼ。

【墨豬】160（ボクチヨ） すみ繪のゐのしし。肉ぶとで骨の無い文字の形容。〔金壺記、上〕逸少曰、凡書、多㆑肉微㆑骨者、謂㆓之墨豬㆒。〔謝邁、筆几詩〕我書大俗如㆓墨豬㆒。〔衞夫人、筆陣圖〕多肉微骨者、謂㆓之墨豬㆒。

【墨敕】161（ボクチヨク） 天子親筆の詔。外廷を經ないで禁中から直ちに發する勅書。朱色の印信を押さないもの。墨詔。〔南齊書、高帝紀上〕又諸雜漆物不㆑得㆘以㆓金銀㆒爲㆗花獸㆖、不㆑得㆘輒鑄㆓金銅㆒爲㆖像、皆須㆓墨敕㆒。〔唐書、百官志一〕凡有㆓召者㆒、降㆓墨敕㆒。〔唐書、選擧志下〕中宗時、韋后及太平安樂公主等、用㆓事於御門㆒、降㆓墨敕斜封㆒、授㆓官號㆒。

【墨汀】162（ボクテイ） 清、徐廷槐(**4**―**10110**‥583)の號。

【墨堤】163（ボクテイ） 東京隅田川東岸の堤の雅名。すみだづつみ。墨隄。〔鹽谷宕陰、遊㆓墨水㆒記〕乃拉㆓童子㆒以遊㆓墨堤㆒、意欲㆑殿㆓於前遊㆒也。

【墨翟】164（ボクテキ） 戰國、魯の人。或は宋の人と言ひ、或は楚の人といふ。姓は墨。名は翟。一說に、墨は學派の名辭で、勤儉・勞苦等の諸義の稱とする。其の年代に就いても諸說あり、史記孟荀傳は疑を存し、班固は孔子の後に在りとし、張衡は仲尼の後、子思の時の人とし、葛洪は大體孔子と同時、或はその後なりとし、唐の司馬貞は七十子の後に在りとし、清の畢沅は六國の時から周末に至る人とし、汪中は楚の惠王と同時で、孔子よりやや後れ、之に見えるを得たであらうとし、孫詒讓は孔子に見えるを得なかつたとし、胡適は墨子の生年を以て孔子の卒前二十年に當るとした。猶、一說に、定王の中年に生まれて、安王の末年に卒したとし、又、定王の初年に生まれて安王の中葉に卒したとするものもあるが、要するに、孔子以後孟子以前の人であることは事實である。墨子は兼愛尙同の說を唱へて盛に流行し、當時、儒家・楊家と竝稱せられた。又、非樂・非禮・節用・節葬・非鬪・勞苦等を主張し、鬼神論に於て鬼神の存在を認め、經說上・大取・小取の諸篇に於て論理學及び詭辯に論及してゐる。其の門派に就いては、韓非子顯學篇・公輸篇、呂氏春秋等に依るに禽滑釐・高石子・高下・公尙適・耕柱子・魏越等があり、又、墨子と關係ある者には孟子・惠施・公孫龍・告子・宋鈃・夷之等がある。墨子(76)を見よ。〔莊子、盜跖・天下・駢拇〕・〔列子、黃帝・湯問・楊朱・說符〕・〔荀子、儒效・非十二子〕・〔韓非子、八說・外儲說左上・顯學〕・〔淮南子、氾論訓・主術訓・齊俗訓・道應訓・俶眞訓〕・〔呂覽、上德・不二〕・〔神仙傳、八〕。

【墨翟貴㆑廉】165（ボクテキレンヲタツトブ） 墨子は儉約を貴ぶ。〔呂覽、不二〕墨翟貴㆑廉、關尹貴㆑清。

【墨翟之守】166（ボクテキノマモリ） 籠城防戰の強固な喩。楚が宋を攻めようとした時、墨翟は楚に往いて之を止め、楚の軍師公輸般と座上で攻守の技術を鬪はせ、公輸般が九たび攻め道具を更へても遂に墨翟の守を破ることができなかつた故事。墨守(98)を見よ。〔戰國、齊策〕朞年不㆑解、是墨翟之守也。〔史記、魯仲連傳〕今公又以㆓敝聊之民㆒、距㆓全齊之兵㆒、是墨翟之守也。

【墨絰】167（ボクテツ） 墨縗絰(64)を見よ。〔南史、王誕傳〕母憂去㆑職、武帝伐㆓劉毅㆒、起爲㆓輔國將軍㆒、誕固辭、以㆓墨絰㆒從行。

【墨涅】168（ボクテツ） いれずみ。ほりもの。刺青。文身。墨熙。〔書、伊訓、臣下不㆑匡其刑墨、傳〕臣不㆑正㆑君、服㆓墨刑㆒、鑿㆓其額㆒涅以㆑墨。

【墨帖】169（ボクデフ） 石ずりの折本。法帖。〔法帖譜系〕先伯父作㆓邑含山㆒、得㆓墨帖于丞相劉公㆒。

【墨點】169′（ボクテン） 墨でつけたしるし。又、墨で加點した訓點。

【墨斗】170（ボクト） ㊀すみつぼ。やたて。〔和漢三才圖會、百工具、繩墨〕墨斗、穿㆑穴貯㆑墨、令㆔絲潛㆓染於穴中㆒也、其所㆑造木、以㆑桑爲㆑上、櫸次㆑之。㊁山名。清の康熙年間、廣仁に改む。新疆省綏定縣の西北。〔宋史、高麗傳〕後陷㆓契丹㆒、遁居㆓墨斗嶺㆒。

【墨東】171（ボクトウ） 東京隅田川東岸の地。江東。

【墨突】172（ボクトツ） 墨突不㆑黔を見よ。

【墨突不㆑黔】173（ボクトツクロマズ） 忙しく奔走する喩。墨翟が道を行はうとして四方に奔走し、家居の時なく、煙突のくろまなかつた故事。〔班固、答賓戲〕聖哲之治、棲棲遑遑、孔席不㆑暎、墨突不㆑黔。〔新論、惜時〕仲尼栖栖、突不㆑暇㆑黔、墨翟遑遑、

席不レ及レ煖。〔韓愈、爭臣論〕孔席不レ暇レ暖、而墨突不レ得レ黔。〔書言故事、古今喩類〕駐不レ久者、孔席不レ暖、墨突不レ黔。

【墨敗】174 ボクハイ　收賄で官をけがすこと。〔左氏、昭、十四〕貪以敗官爲レ墨。〔唐書、楊漢公傳〕漢公既以二墨敗一、陛下容下可擧二劇部一、私中貪人上。〔剪燈餘話、秋千會記〕竟以二墨敗一、繫二御史臺獄一。

【墨梅】175 ボクバイ　❶墨畫の梅。〔畫鑑〕楊補之、墨梅甚清絕、水仙亦奇、自號二逃禪老人一。〔志雅堂雜鈔〕衡州有二花光山一、長老仲仁能作二墨梅一、所謂花光梅、是也。❷黑い梅花。〔種樹書、種梅〕苦楝樹上接レ梅、花則成二墨梅一。

【墨煤】176 ボクバイ　すす。

【墨寶】177 ボクハウ　書法が立派で寶とすべきものをいふ。〔聞見錄〕墓田帖、王羲之臨二鍾繇書一、南唐墨寶堂石也、今在二邵村家一、但已損不レ堪。

【墨罰】178 ボクバツ　周代の五刑の一。額に入れずみする刑。墨辟。墨刑。〔書、呂刑〕墨罰之屬千。〔蔡傳〕墨、刻レ顙而涅レ之也。

【墨板】179 ボクバン　木板の印刷。唐末、益州に始めて墨板があり、五代に至つて始めて六經を墨板に附し、墨板六經を作つた。墨板。〔劉跂、金石錄序〕昔文籍既繁、竹素紙札、轉相謄寫、彌レ久不レ能レ無レ誤、近用二墨板模印一、便二于流布一。

【墨版】180 ボクバン　墨板に同じ。

【墨筆】181 ボクヒツ　筆にすみを含ませる。〔韓詩外傳、七〕墨レ筆操レ牘。〔管子、霸言〕於レ是命二百官有司一、削レ方墨レ筆、明日皆朝二於太廟之門朝一。〔新序、雜事、第一〕願爲二諤諤之臣一、墨レ筆操レ牘、隨二君之後一、司二君之過一而書レ之。

〖墨筆點染法〗182 ボクヒツテンセンハフ　花卉畫法の一。墨を用ひて深淺映發をなし、五色をかねるやうな畫法。

【墨附】183 スミツキ　❶昔時、令書の證として用ひた墨色の印。又、其の印を捺した文書。〔籾井日記、桂川合戰〕信長より毎度墨附を貰うて。❷墨のつき工合。〔源氏物語、若紫〕紫の紙に書い給へるすみつきのいと殊なるを取りて見居給へり。〔今昔物語、十九〕墨附なども世に似ざりければ。

【墨譜】184 ボクフ　書名。❶三卷。宋、李孝美撰。一名、墨苑。上卷は原本八圖八說を〔今、圖は其の六つを佚す〕、中卷は墨の名家十六人を、下卷は製造の法凡て二十條を載す。〔四庫提要、子、譜錄類〕。❷六卷。明、方于魯撰。一名、方氏墨譜。〔四庫提要、子、譜錄類存目〕。

【墨票】185 mo^{4} p'iao^{4}　陝西省で行はれた約束手形。

【墨辟】186 ボクヘキ　いれずみの刑。墨罰に同じ。〔書、呂刑〕墨辟疑赦、其罰百鍰、閱二實其罪一。〔傳〕刻二其顙一而涅レ之曰二墨刑一。〔白虎通、五刑〕劓墨辟之屬各千。

【墨癖】187 ボクヘキ　名墨を好む癖。〔文字禪〕司馬君實、無レ所二嗜好一、獨畜二墨數百一、達道之畜レ書、其亦司馬之墨癖也。

【墨辨】188 ボクベン　別墨（**2**－**1924**‥201）の徒が堅白同異の辨を以て相訾り、觭偶不仵の辭を以て相應じたと、莊子天下篇に見ゆ。世因つて之を墨辨といふ。蓋し主として墨子の經・經說・大取・小取等の篇を指して言つたのであらう。而して此等六篇は名家の言である。

【墨模】189 mo^{4} mu^{2}　すみの型。

【墨幪】190 ボクボウ　罪人の頭に蒙らせる黑色のかぶりもの。〔荀子、正論〕墨黥慅嬰。〔注〕或曰、墨黥當レ爲二墨幪一、但以二墨巾一幪二其頭一而已。

【墨墨】191 ボクボク　❶聲の無いさま。默々。〔史記、商君傳〕殷紂墨墨以亡。〔漢書、田蚡傳〕嬰墨墨不レ得レ意。〔淮南子、道應訓〕墨墨恢恢、無心可二與謀一。❷暗黑のさま。〔管子、四稱〕政令不レ善、墨墨若レ夜。〔纂詁〕墨墨、暗貌。〔新序、雜事、一〕甚矣子之墨墨也。

【墨本】192 ボクホン　墨色の濃い石刷。墨刻ともいふ。我が國では細井廣澤・篁洲玄輔等が中國の拓法を研究して始めて墨本を作り、又、物徂徠もほぼ同時に家刻玄宗御書八分石臺孝經の墨本を作る。〔宋史、回鶻傳〕熙寧元年入貢、求レ買二金字大般若經一、以二墨本一賜レ之。〔宣和書譜〕胡人以二墨本一詣二榷場一、易二絹十端方與一本一。〔歐陽脩、石篆詩序〕因爲二詩一種一、幷封二題墨本一。〔王炎、過二浯溪一讀二中興碑一詩〕百金不レ憚レ買二墨本一、摩挲石刻今見レ之。

【墨抹】193 ボクマツ　墨で黑くなする。〔日本外史、新田氏正記、新田氏〕嚮用二足利氏旗號重畫一者、皆墨二抹其中一、爲二中黑一。

【墨妙】194 ボクメウ　❶文辭の巧妙なこと。〔江淹、別賦〕淵雲之墨妙、皆嚴樂之筆精。〔注〕良曰、皆文章之士、故云二墨妙筆精一。❷書法の巧妙なこと。〔孟浩然、還レ山贈二湛禪師一詩〕墨妙稱二古絕一、詞華驚二世人一。❸繪事の巧妙なこと。〔岑參、劉相公中書江山畫障詩〕相府徵二墨妙一、揮毫天地窮。〔益州名畫錄〕畫之於レ人、各有二本性一、筆精墨妙、不レ知レ所レ然。❹亭の名。㋑江蘇省太倉縣城の北。元の浙江軍器提擧顧信の建てたもの。信は趙子昂に書を學び、その書を得て石に摹し、因つて亭に名づけた。㋺浙江省吳興縣の舊湖州府治の內。宋、孫覺が、吳興に守たりし時建てた。〔蘇軾、墨妙亭記〕熙寧四年十一月、高郵孫莘老、自二廣德一移守二吳興一、其明年二月、作二墨妙亭於府第之北、逍遙堂之東一、取二凡境內自レ漢以來古文遺刻一以實レ之。㋩四川省宜賓縣治の東。龕に宋の黃庭堅の筆跡を藏す。〔明一統志〕墨妙亭、在二成都府治東一、龕置二黃庭堅筆蹟一。

【墨陽】195 ボクヤウ　地名。古の名劍の產地。又、劍の名。〔戰國、韓策〕韓卒之劍戟、皆出二於冥山一、堂谿・墨陽・合膊・鄧師・宛馮・龍淵・太阿一、皆陸斷二馬牛一、水擊二鵠鴈一。〔淮南子、脩務訓〕服レ劍者期二於銛利一、而不レ期二於墨陽・莫邪一。〔注〕墨陽・莫邪、美劍名。

【墨樣】196 ボクヤウ　墨の型。〔墨經〕凡墨樣、當レ取二則於古一、無二大小厚薄之限一、世人遂以二薄小一爲レ貴。

【墨油】197 mo^{4} yu^{2}　印刷用インキ。

【墨蘭】198 ボクラン　❶墨繪の蘭。〔輟耕錄、狷潔〕鄭所南先生、工畫二墨蘭一、不二妄與一レ人、邑宰求レ之不レ得、聞三先生有二田三十畝一、因脅以二賦役一取一、先生怒曰、頭可レ斫、蘭不レ可レ畫。〔畫鑑〕趙孟堅子固、墨蘭最得二其妙一、其葉如レ鐵、花莖亦作レ石、用筆輕拂、如二飛白書狀一、前人無二此作一也。❷蘭の一種。其の花は深紫で墨色。閩廣地方に產す。

【墨吏】199 ボクリ　貪欲な行爲をして官をけがす官吏。貪汚の官吏。〔左氏、昭、十四〕貪以敗レ官爲レ墨、殺レ人不レ忌爲レ賊。

〖墨吏奸胥〗200 ボクリカンショ　墨吏に同じ。胥は小役人。〔皇朝聖典類纂〕墨吏奸胥、任意侵漁。

【墨流】201 スミナガシ　❶水面に書畫を書く一法。小豆粉一匁、黃柏五分、明礬一分を麻ぎれに包み、水で濕して紙にひたし、其の上に文字や繪畫を書いて水に浮べ、細い竹串で突けば、紙は底に沈んで書いた墨ばけ水面に浮び殘るといふ。〔古今和歌集、物名〕すみながし。〔嬉遊笑覽〕。❷模樣染出の一法。水面に墨汁・顏料、又は水に不溶性の染料で波紋を作り、之を布面に移し取つて波紋模樣を得る法。古來、色紙・短冊等に染めつけたが、天正年間、越前の武生で始めて布帛に染めた。〔尺素往來〕天神講七坐、幷詩歌續歌一千首、和漢聯句十百韻、以二內曇・墨流等之單尺懷紙一、七晝夜中可レ被二果遂一之條可レ然候。❸蟲の名。鱗翅目たてはてふ科。翅の地色は黑色で、黃青色の光澤を帶び、白色の細い線紋と白點とがある。雌は形が稍〻大きい。日本・朝鮮・琉球・臺灣に產す。

【墨綠】202 mo^{4} lü^{4}　鐵銹色。

【墨林】203 ボクリン　書畫家の仲間。〔宋史、王柏傳〕所レ著有二讀易記、云云、天文考・地理考・墨林考、云云一。

〖墨林今話〗204 ボクリンコンワ　書名。十八卷。清、蔣寶齡撰。乾隆・嘉慶・道光三朝の畫家及び詩を載す。其の子、茝生、續篇一卷を作る。

【墨麟】205 ボクリン　明、高陵の人。字は士禎。洪武中、國子生から拔擢せられて監察御史となり、北平按察副使に陞る。永樂の初、城守の功を以て兵部侍郎となり、尋いで少詹事を兼ねた。謚は榮毅。

【墨禮】206 mo^{4} li^{3}　揮毫の謝禮。又、處方書の謝禮。

【定レ墨】207 ボクヲサダム　龜のうらかたのわれめを見て吉凶を判定する。〔禮、玉藻〕卜人定レ龜、史定レ墨。〔注〕視二兆坼一也。

【督レ墨】208 ボクヲタダス　墨繩を正しくする。〔嵇康、琴賦〕乃使二離子督レ墨、匠石奮レ斤。〔注〕良曰、督、正也、墨、繩也。

【墨麒麟】209 ボクキリン　北京で栽培する菊花の名。〔燕京歲時記、九花山子〕蓋京師之菊種亟繁、云云、如二銀虎鬚・墨虎鬚・硃墨雙輝、云云一等、皆新秧中之細種也、如二金佛座、云云、墨麒麟、云云一等、皆

新秧中之粗種也。

【墨虎鬚】210（ボクコシユ） 北京で栽培する菊花の名。墨麒麟を見よ。

【墨劍室】211（ボクケンシツ） 刀劍の黑い鞘。〔呂覽、離俗〕新素履、墨劍室。

【墨爾根】212（モールコン） 縣名。民國、置く。今の黑龍江省嫩江縣治。嫩江の東岸。墨爾根は善射の意。

【墨爾多】212′（モールト） 山名。四川省懋功縣の西、大金川の東。〔金川瑣記〕山高插二霄漢一、相二傳釋迦成道處一、上多二喇嘛寺一。

【墨床兒】213 mo^4 ch'uang^2 êrh 墨を置く臺。墨臺。

【墨西哥】213′（メキシコ） Mexico の音譯。❶國の名。❷灣の名。アメリカ洲の南部の大海灣。

【墨頭魚】214（ボクトウギヨ） 頭の黑い魚。〔本草、石首魚〕附錄、墨頭魚、時珍曰、其頭黑如レ墨、頭上有二白子二枚一、又名二北斗魚一。〔漁隱叢話〕何文縝送二王正臣一序云、煙波暈墨頭魚、風庭綠書帶草、嘉州烏牛山、在二水中心一、昔郭景純注二爾雅於此一、有二臺在一焉、景純每以二研之餘水一、瀝二於臺下一、遂生二墨頭魚一。

【墨頭草】215（ボクトウサウ） 草の名。濕地に生じ、莖を折れば墨汁を出す。墨烟草。〔本草、鱧腸〕釋名、蓮子草・旱蓮草・金陵草・墨烟草・墨頭草・墨菜・猢孫頭・猪牙草、時珍曰、鱧、烏魚也、其腸亦烏、此草柔莖、斷レ之有二墨汁出一、故名、俗呼二墨菜一、集解、恭曰、鱧腸生二下濕地一、所在坑渠閒多有レ苗、似二施覆一、二月八月採陰乾。

【墨飯草】215′（ボクハンサウ） 南天燭（**2**−**2750**··552）に同じ。〔本草、南燭〕釋名、南天燭・云云・烏飯草・墨飯草。〔事物異名錄、百草、南燭草〕詞林、海錯青精、一名南天燭、又曰二墨飯草一、以二其可レ染二黑飯一也、故黑飯亦名二青精一。

【墨牌子】216 mo^4 p'ai^1 tsŭ 古書籍。古文書類。質屋の隱語。

【墨龍髓】217（ボクリユウズイ） 妙墨の名。〔蘇軾、書二徂徠煤墨一〕徂徠珠子煤、自然有二龍麝氣一、阿膠和レ之、搗數萬杵、卽爲二妙墨一、不レ俟二餘法一也、陳公弼在二汶上一、此作レ墨、謂二之墨龍髓一。

【墨磨レ人】218（スミヒトヲスル） 墨に命を奪はれる。澤山の墨を所持してゐるが其れを使ひきらぬ中に死ぬだらうと自嘲した蘇軾の語。又、石昌言が墨を大切にして人に使はせないのを或る人が諷刺した語。〔蘇軾、次韻答二舒教授觀二余所レ藏墨一詩〕此墨足レ支三十年、但恐風霜侵二髮齒一、非二人磨レ墨墨磨レ人、缾應レ未レ罄罍先恥。〔漁隱叢話〕東坡云、石昌言蓄二李廷珪墨一、不レ許二人磨一、或戲レ之云、子不レ磨レ墨、墨將レ磨レ子、今昌言墓木拱矣、而墨故無レ恙、李堂擇見レ墨輙奪、相知閒抄取殆遍、近有レ人從二梁許一來云、懸レ墨滿レ堂、此通人之一蔽也、余嘗有レ詩曰、非二人磨レ墨墨磨レ人、此語殆可二凄然一云。

【墨黝如漆】220 mo^4 yu^3 ju^2 ch'i^1 版本の極めて佳良なものをいふ。

【墨氏兼愛】222（ボクシケンアイ） 墨翟が肉親と他人を區別せずに平等に愛したこと。兼愛は博愛。墨子(7−6)を見よ。〔孟子、滕文公下〕墨子兼愛、是無レ父也。

【墨智墨允】224（ボクチボクイン） 伯夷・叔齊をいふ。〔道山清話〕大參陳彭年、在二北門一、上問、墨智墨允是何人、彭年曰、伯夷・叔齊也、上問、見二何書一、曰、春秋少陽、卽令三祕閣取二此書一、果得レ之。

【墨離爲レ三】226（ボクハナレテサントナル） 墨子の學派が分れて相里氏・相夫氏・鄧陵氏の三派となつたこと。〔韓非子、顯學〕自二墨子之死一也、有二相里氏之墨一、有二相夫氏之墨一、有二鄧陵氏之墨一。

【墨法集要】227（ボクハフシフエウ） 書名。一卷。明、沈繼孫撰。造墨の法を載す。〔四庫提要、子、譜錄類〕。

【墨片緞兒】228 mo^4 p'en^4 tuan^4 êrh 紋繻子をいふ。摹本(**5**−**12645**··14)の❸に同じ。

【墨名儒行】229（ボクメイジユカウ） 表面は墨者と稱しながら、行は儒道に合すること。〔韓愈、送二浮屠文暢師一序〕人固有二儒名而墨行者一、問二其名一則是、校二其行一則非、可二以與レ之遊一乎、如有二墨名而儒行者一、問二之名一則非、校二其行一而是、可二以與レ之游一乎。

【惜レ墨如レ金】230（スミヲヲシムコトキンノゴトシ） 畫を描く時に、輕々しく紙上に墨を落さないこと。〔古今名畫記〕李成惜レ墨如レ金。〔輟耕錄、寫二山水一訣〕故在二生紙上一、有二許多滋潤處一、李成惜レ墨如レ金是也。

【調レ墨弄レ筆】231（スミヲトトノヘフデヲモテアソブ） 墨をすり筆で字をかく。〔論衡、佚文〕天文・人文、文豈徒調レ墨弄レ筆爲二美麗之觀一哉。

【磨レ墨如二病夫一把レ筆如二壯士一】232（スミヲスルコトビヤウフノゴトクフデヲトルコトサウシノゴトシ） 墨をするには手の力を拔いて柔かにするがよく、筆を把るには力をこめるがよいといふ意。力を入れて磨ると墨汁があらくなり、力がないと文字が勁くならないからである。〔避暑錄話、下〕柳公權記、云云、俗言、磨レ墨如二病兒一、把レ筆如二壯夫一。

【墩】5470 トン 〔集韻〕都昆切 ㄉㄨㄣ tuen^1 元

❶**平地の小高い積土**。〔集韻〕墩、平地有レ堆者。〔程俱、園居詩〕前山復場圃、疏菜隨二坳墩一。❷現㋑積む。貯へる。㋺こしかけ。臺。

【墩官】1（トンクワン） 遼國の官名。〔遼史、國語解〕遼排班圖有二高墩・矮墩・方墩之列一、自二大丞相一至二阿札割只一、皆墩官也。

【墩座】2 tuen^1 tso^4 鐵床。

【墩子】3 tuen^1 tzŭ ❶まないた。❷小高く積上げた堆凸。❸滿洲で小高い堆積土のある場所をいふ。

〔墩子杯〕4 tuen^1 tzŭ pei^1 筩形の低い陶盃の一種。筩子杯。

【墩兒】5 tuen^1 êrh 土臺。

【墩檁】6 tuen^1 lin^3 長く太い材木。

【墩堡】7 tuen^1 p'u^3 墩臺と關堡。

【墩臺】8 tuen^1 t'ai^2 のろし臺。警報臺。

【墩布】9 tuen^1 pu^4 竹のさきに雜布を結びつけたもの。

〔墩筒子的〕10 tuen^1 t'ung^3 tzŭ tê 屋臺店の物賣が持つて歩く、籤を入れる竹筒。

【墪】5471 トン 墩(**3**−**5470**)に同じ。〔字彙〕墪、同レ墩。

【墫】5472 ソン 樽(**6**−**15500**)に同じ。〔字彙、辨似、二字相似〕墫、與レ樽同、酒器、从レ土。墫、與レ蹲同、舞貌、从レ士。

【墬】5473 チ 地(**3**−**4890**)の籀文。〔說文〕墬、籀文地。

【墭】5474 セイ ジヤウ 〔集韻〕時正切 敬

うつはの名。或は⿰盛瓦(**7**−**21507**)に作る。〔集韻〕墭、器也、或作レ⿰盛瓦。

【⿳土田共】5475 フン 糞(**8**−**27102**)に同じ。〔集韻〕糞、或作レ⿳土田共。

【⿰土復】5476 フク ⿰土复(**3**−**5256**)に同じ。〔正字通〕⿰土復、同レ⿰土复。

【⿱復土】5477 フク ⿰土復(**3**−**5476**)に同じ。〔篇海類編〕⿱復土、同レ⿰土復。

【⿰土絜】5478 ケツ ケチ 〔集韻〕丘傑切 屑

さかひ。〔類篇〕⿰土絜、界也。

【⿰土集】5479 シフ 〔集韻〕卽入切 緝

泉が上に出る。〔集韻〕⿰土集、泉出二於上一也。

【⿰土非】5480 サフ 〔集韻〕悉盍切 合

⿰土非⿰土非は、土のおちるさま。〔集韻〕⿰土非、⿰土非⿰土非、土墮皃。

【墮】 5481

［一］タ ダ 〔集韻〕吐火切 ㄉㄨㄛˋ tuo⁴ [哿]
［二］キ 〔集韻〕翾規切 [支]
［三］タ 〔廣韻〕他果切 [哿]
［四］スイ 〔集韻〕思累切 [哿]

［一］［二］❶**こぼつ**。くづす。こはす。やぶる。そこなふ。〔左氏、僖、三十二〕墮二軍實一。〔注〕墮、毀也。〔左氏、昭、二十八〕敬レ之哉、無レ墮二乃力一。〔注〕墮、損也。〔左氏、定、十二〕帥レ師墮レ郈。〔注〕墮、毀也。〔國語、周語下〕不レ墮レ山。〔注〕墮、毀也。〔國語、晉語九〕必墮二其壘培一。〔注〕墮、壞也。〔史記、秦始皇紀〕墮二壞城郭一。〔注〕正義曰、墮、毀也。〔後漢書、齊武王縯傳〕以墮二宗緒一。〔注〕墮、毀也。❷**やぶれる**。**くづれる**。〔鄭嵎、津陽門詩〕當初事跡皆殘墮。❸**やめる**。〔淮南子、說林訓〕爲レ墮レ武也。〔注〕墮、廢也。❹**おとす**。〔史記、留侯世家〕墮二其履圯下一。❺**おちる**。〔魏志、周宣傳〕兩瓦墮レ地、化爲二雙鴦一。〔曹植、怨詩〕淚墮不レ能レ止。❻**ぬぐ**。〔廣雅、釋詁四〕墮、脫也。❼**はいる**。〔淮南子、氾論訓〕而後墮二谿壑一。〔注〕墮、入也。❽**いたす**。おくる。〔左氏、昭、四〕寡君將レ墮レ幣焉。〔注〕墮、輸也。❾**しく**。〔左氏、昭、四、釋文〕墮、布也。❿**おこたる**。惰(**4－10855**)に通ず。〔晉書音義、上〕惰、本作レ墮。〔大戴禮、盛德〕無二度量一、則小者偷墮。〔注〕墮、解惰。⓫**長く狹いさま**。隓(**4－8486**)に通ず。〔爾雅、釋山〕巒、山墮。〔注〕謂二山形長狹者一。〔義疏〕墮者、隓之叚借。⓬隓(**11－41776**)に同じ。〔集韻〕隓、說文、敗二城𨸏一曰レ隓、或作レ墮、亦書作レ墮、俗作レ隳。⓭陊(**11－41614**)に同じ。〔集韻〕陊、說文、落也、或作二隓・墯一、亦書作レ墮。⓮憜(**3－5483**)に同じ。〔詩、小雅、正月〕載輸二爾載一。〔箋〕輸、墮也。〔釋文〕墮、本又作レ憜。⓯隳(**11－41895**)に同じ。〔禮、月令〕毋レ有二壞墮一。〔釋文〕墮、又作レ隳。⓰墯(**3－5482**)に同じ。〔漢書、刑法志、法度墯、注〕師古曰、墯、卽墮字。⓱隋(**11－41751**)に通ず。〔周禮、春官、守祧〕既祭則藏二其隋一。〔儀禮、士虞禮、祝命二佐食一墮祭、注〕周禮曰、既祭則藏二其墮一。⓲挼(**5－12109**)に通ず。〔儀禮、少牢饋食禮、上二佐食一以綏祭、注〕綏、或作レ挼、挼、讀爲レ墮。［三］倭墮は、きりさげがみ。〔廣韻〕墮、倭墮、髻也。［四］隋(**11－41751**)に同じ。〔集韻〕隋、或作レ墮。

【墮斁】1 ダエキ くづれやぶれる。すたれる。〔漢書、薛宣傳〕不レ得二其人一、則大職墮斁。

【墮懈】2 ダカイ おこたりうむ。〔說苑、君道〕桓公「身體墮懈。

【墮壞】3 ダクヮイ こはす。こはれる。〔史記、秦始皇紀〕墮二壞城郭一。〔漢書、王嘉傳〕均田之制、從レ此墮壞。〔鹽鐵論、相刺〕帝王之道、多墮壞而不レ修。

【墮髻】4 ダケイ さげがみ。〔白居易、代レ書詩一百韻寄二微之一詩〕風流誇二墮髻一、時勢鬪二啼眉一。

【墮倪】5 ダゲイ おこたりだらしなくなる。〔管子、正世〕力罷則不レ能レ毋二墮倪一。〔注〕倪、傲也、謂二疲墮而傲從一也。

【墮鬩】6 キケツ やぶれかける。〔後漢書、曹世叔妻傳〕婦不レ事レ夫、則義理墮鬩。〔注〕墮、音許規反。

【墮業】7 ダゲフ 仕事を怠る。〔白居易、禮部試策、五道、第一道〕無二游惰一無二墮業一。

【墮祭】8 キサイ 黍稷牢肉を供へて尸をまつる祭。〔儀禮、士虞禮〕祝命二佐食一墮祭。

【墮山】9 ダサン 長く狹い山。隓山(**4－8486‥1**)に同じ。〔爾雅、釋山、巒山墮、注〕謂二山形長狹者一、荊州謂二之巒一、詩曰、墮山喬嶽。

【墮指】10 ダシ 指をおとす。〔漢書、高帝紀下〕會二大寒一、士卒墮レ指者、什二三。

【墮珥】11 ダジ おちた耳飾り。墜珥。〔史記、淳于髡「傳〕前有二墮珥一。

【墮弱】12 ダジャク 氣力が弱い。〔漢書、息夫躬傳〕墮弱不レ任レ職。

【墮損】13 キソン こぼち損ずる。〔後漢書、邳彤傳〕驚二動三輔一、墮二損威重一。

【墮胎】14 ダタイ 分娩期に至らない前に或る方法で胎兒を取り出すこと。又、出產期に至らない前に、衝激をうけて、胎兒が死んで生まれること。墮胎藥を見よ。〔證治準繩、墮胎〕袁先生云、受胎在レ腹、七日一變、展轉相成、各有二相生一、今婦人墮胎、在二三月五月七月一者多、在二二四六月一者少、臟陰而腑陽、三月屬レ心、五月屬レ脾、七月屬レ肺、皆在二五臟之脈一、陰常易レ虧、故多レ墮耳、如昔會二三月墮胎一、則心脈受レ傷、須二先調一レ心、不レ然至二三月一復墮、昔會五月墮胎、則脾脈受レ傷、後至二五月一復墮、宜二先治一レ脾、惟有二一月之內墮胎一、則人皆不レ知レ有レ胎、但知二其不一レ受レ妊、不レ知二其受而墮一也、一月屬レ肝、怒則墮多、洗二下體一則竅開亦墮、一次既墮、則肝脈受レ傷、他次亦墮、今之無レ子者、大半是一月墮胎、非三盡不二受妊一也、故凡初交之後、最宜二將息一、勿三復交接以擾二其子宮一、勿レ令レ怒、勿レ令レ勞、勿レ令レ擧レ重、勿レ令二洗浴一、而又服二養レ肝平レ氣之藥一、胎可レ固矣。

【墮胎罪】15 ダタイザイ 墮胎を實行することによつて「成立する罪。

【墮胎藥】16 ダタイヤク 墮胎するに用ひる藥。〔南史、徐孝嗣傳〕孝嗣在レ孕、母年少、欲二更行一、不レ願レ有レ子、云云、以二擣衣杵一、自春二其腰一、幷服二墮胎藥一、胎更堅。

【墮怠】17 ダタイ おこたる。〔鹽鐵論、散不足〕作業墮怠。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕常效二貢職一、不二敢墮怠一。

【墮替】18 ダタイ ❶やぶれすたれる。〔中論、歷數〕周德既衰、百度墮替、而歷數失レ紀。❷おこたる。だらしがない。〔晉書、王劭傳〕劭美二姿容一、有二風操一、雖二家人近習一、未四嘗見三其有二墮替之容一。〔白居易、孔戣授二尙書左丞一制〕居無二墮替之容一。

【墮顚】19 ダテン おちる。〔墨子、修身〕華髮墮顚。

【墮殰】20 ダトク 墮胎する。流產する。〔漢書、匈奴傳〕匈奴孕重墮殰、罷極苦レ之。〔注〕師古曰、墮、落也、殰、敗也。

【墮突】21 キトツ つきやぶる。〔魏志、袁紹傳、注〕所レ過墮突、無二骸不一レ露。

【墮廢】22 ダハイ くづれすたれる。〔魏志、華歆傳〕六籍墮廢。

【墮伏】23 ダフク 軍の人員を減すことと伏兵を設けること。一說に、單に伏兵を設けること。うつぶせになる。〔左氏、定、七〕墮伏而待レ之。〔注〕墮二毀其軍一以誘レ敵、而設二伏兵一也。〔會箋〕墮伏、似三止言二伏兵一。

【墮慢】24 ダマン おこたる。〔顏氏家訓、勉學〕自レ茲墮慢。

【墮民】25 ダミン 乞食。浙江省紹興附近でいふ語。〔紹興府誌〕。

【墮容】26 ダヨウ 怠惰な樣子。〔淮南子、兵略訓〕動無二墮容一。〔後漢書、黃琬傳〕常以二法度一自整、家人莫レ見二墮容一焉。

【墮落】27 ダラク ❶おちる。落下。〔詩、召南、摽有梅、傳〕盛極則墮落者梅也。〔漢書、宣帝紀〕耆老之人、髮齒墮落。〔後漢書、戴就傳〕以二大鍼一刺二指爪中一、使三以把二土、爪悉墮落。〔晉書、五行志上〕角壽墮落。❷やぶれる。失敗する。〔荀子、富國〕徙壞墮落、必反無レ功。❸[佛]道心を失つて惡道におちいる。〔法華經〕或當三墮落爲二火所一レ燒。❹身を持ちくづす。不行狀になる。

【墮落鷄】28 tuo⁴ lo⁴ chi¹ 跂者。廣東花柳界の隱語。

【墮嬾】29 ダラン なまける。〔史記、貨殖傳〕地勢饒食、無二飢饉之患一、以レ故呰窳、〔注〕集解曰、徐廣曰、呰窳、苟且墮嬾之謂也。

【墮淚】30 ダルイ 淚を流す。流涕。〔徐陵、章昭達墓誌〕襄陽墮レ淚、悲慟喧二於南北一。

【墮淚碑】31 ダルイノヒ 湖北省襄陽の峴山にある石碑。晉の時、襄陽の守、羊祜の德を百姓が慕ひ、建てて歲時に祭つた碑。之を望む者が皆淚を流したことから、杜預が名づけた。〔晉書、羊祜傳〕襄陽百姓、于二峴山祜平生遊憩之所一、建レ碑立レ廟、歲時饗祭、望二其碑一者、莫レ不二流涕一、杜預因名爲二墮淚碑一。

【墮露】32 ダロ おく露。〔馬戴、中秋夜坐有レ懷詩〕墮

露垂二叢藥一、殘星閒二薄雲一。

【墮驢】33（ダロ） 驢馬から落ちる。〔東都事略〕陳摶嘗乘二白驢一、欲レ入レ汴、中途聞二太祖登極一、大笑墮レ驢曰、天下於レ是定矣。

【墮樓】34（ダロウ） 高樓から投身する。綠珠(8−27541··113)の❻を見よ。〔杜牧、題二桃花夫人一詩〕至レ竟息亡緣底事、可レ憐金谷墮樓人。

【墮馬髻】35（ダバケイ） 婦人の髻の名。髻が一方にかたよつたもの。〔後漢書、梁冀傳〕壽色美而善爲二妖態一、作二愁眉・嗁粧・墮馬髻・折腰步・齲齒笑一、以爲二媚惑一。

【墮羅犀】36（ダラサイ） 犀の一種。又、憜和羅犀といひ、憜和羅に產す。憜和羅(3−5483··2)を見よ。〔嶺表錄異〕墮羅犀、犀中最大、一株有二重七八觔者一、云二是牯犀一、額上有二心花一、多是撒豆、斑色深者、堪レ爲二胯具一、斑散而淺、卽治爲二盤楪器皿之類一。

【墮林粉】37（ダリンフン） 江州縣（今の四川省江北縣）から產した白粉の名。〔華陽國志〕江州縣、有二清水穴一、巴人以二此水一爲レ粉、則膏暉鮮芳、貢二粉京師一、因名二粉水一、故世謂二江州墮林粉一也。

【墮紫飄紅】38（ダシヘウコウ） 落ちるむらさき、ひるがへるくれなゐ。紫や紅の花びらが飜へり落ちるさま。〔徐鉉、落花詩〕誰料繁華類二轉蓬一、紛紛墮紫又飄紅。

【墯】5482

ダ

墮(3−5481)に同じ。〔正字通〕墯、同レ墮。

【憜】5483

ダ

墯(3−5482)に同じ。〔字彙〕憜、同レ墯。

【憜嬾】1（ダラン） なまける。惰嬾。〔後漢書、王丹傳〕每歲農時、輒載二酒肴於田閒一、候二勤者一而勞レ之、其憜嬾者、恥レ不レ致レ丹、皆兼レ功自厲。

【憜和羅】2（ダワラ） 國の名。唐代の南蠻の一。獨和羅・墮羅鉢底・杜和鉢底・杜和羅などとも書く。Dvaravati の音譯で、暹羅の古都 Ayuthyaの古名であらうといふ。〔唐書、南蠻傳下〕憜和羅、亦曰二獨和羅一、自二廣州一行五月乃至、國多二美犀一、世謂二憜和羅犀一。

【墰】5484

タン

壜(3−5588)に同じ。〔集韻〕壜、或作レ墰。

【墱】5485

㈠トウ 〔集韻〕丁鄧切 徑 ㄉㄥˋ têng⁴
㈡トウ 〔集韻〕都騰切 蒸

㈠❶きだ。きざはし。土段。小坂。〔正字通〕小坂飛陛、謂二之墱一。〔後漢書、班固傳上〕陵二墱道一。〔注〕墱、陛級也。❷かけはし。閣道。墱道(1)を見よ。❸水を分流する處。〔左思、魏都賦〕墱流十二。〔注〕翰曰、墱、級次、泄レ水之處。❹隥(11−41850)に通ず。〔正字通〕墱、與レ隥通。〔班固、西都賦〕淩二隥道一。〔後漢書、班固傳上〕陵二墱道一。㈡墱墱は、墻を築く聲。〔類篇〕墱墱、築レ墻聲。

【墱道】1（トウダウ） 閣道(11−41300··19)の❶をいふ。〔張衡、西京賦〕墱道邐倚以正東。〔注〕綜曰、墱、閣道也。

【墱流】2（トウリウ） 川の分流。〔左思、魏都賦〕墱流十二、同レ源異レ口。

【墲】5486

㈠ボ モ 〔集韻〕蒙晡切 虞
㈡ブ ム 〔集韻〕微夫切 虞

㈠㈡墓地をはかりさだめる。〔方言、十三〕所二以墓一謂二之墲一。〔注〕墲、謂三規二度墓地一也。

【埜】5487

ギン

垠(3−5054)の古字。〔玉篇〕埜、古文垠。

【墳】5488

㈠フン ブン 〔集韻〕符分切 文 ㄈㄣˊ fen²
㈡フン ブン 〔集韻〕父吻切 吻
㈢ホン ボン 〔集韻〕部本切 阮

小篆

㈠❶はか。土を高く盛つたはか。〔說文〕墳、墓也、从レ土賁聲。〔禮、檀弓上〕古也墓而不レ墳。〔注〕土之高者曰レ墳。〔漢書、劉向傳〕稱レ古墓而不レ墳。〔注〕師古曰、墳、謂二積土一也。❷をか。〔方言、一〕墳、地大也、青幽之閒、凡土而高且大者、謂二之墳一。〔注〕墳、卽大陵也。❸す。しま。〔楚辭、九章、哀郢〕登二大墳一以遠望兮。〔注〕水中高者爲レ墳。❹つつみ。〔爾雅、釋邱〕墳、大防。〔潘岳、射雉賦〕崇墳夷靡。〔注〕爰曰、墳、大防、今呼爲レ塘。❺がけ。きし。〔廣雅、釋邱〕墳、厓也。❻土。〔廣雅、釋地〕墳、土也。❼大きい。〔爾雅、釋詁〕墳、大也。〔詩、小雅、苕之華〕牂羊墳首。〔傳〕墳、大也。〔周禮、秋官、司烜氏〕墳燭庭燎。〔注〕墳、大也。❽古代の書の名。三墳(1−12··1584)を見よ。❾わける。分(2−1853)に通ず。〔說文通訓定聲〕墳、叚借爲レ分。〔楚辭、天問〕地方九則、何以墳レ之。〔注〕墳、分也。❿濆(7−18446)に通ず。〔詩、召南、汝墳〕遵二彼汝墳一。〔爾雅、釋水、汝爲レ濆、注〕遵二彼汝濆一。⓫蕡(9−31987)に通ず。〔周禮、秋官、司烜氏〕墳燭庭燎。〔注〕故書、墳爲レ蕡。⓬賁(10−36727)に通ず。〔說文通訓定聲〕張納功德敍、綜二賁典一、以レ賁爲レ之。⓭羵(9−28571)に通ず。〔詩、小雅、苕之華〕牂羊墳首。〔韻會〕羵、詩、牂羊羵首。㈡肥えた土。〔書、禹貢〕厥土黑墳。〔馬注〕墳、有二膏肥一也。㈢うごもつ。地面が高くなる。土が沸起する。〔國語、晉語二〕公祭レ地、地墳。〔注〕墳、起也。

【墳庵】1（フンアン） 墳墓を守る者の庵室。〔吳融、寃債志〕徽州城外三里、汪朝議家祖父墳庵在焉。

【墳院】2 fen² yüan⁴ 墓地に附屬した庭園。

【墳塋】3（フンエイ） はか。はかば。墓地。墓所。轉じて、故鄕をいふ。〔後漢書、公孫瓚傳〕便當三長辭二墳塋一。〔吳志、孫奮傳〕掃二除墳塋一。〔潘岳、西征賦〕思纏二綿于墳塋一。〔沈佺期、邙山詩〕北邙山上列二墳塋一。

【墳延】4（フンエン） 墳衍に同じ。〔管子、地員〕墳延者六施、六七四十二尺、而至二於泉一。

【墳衍】5（フンエン） 水涯と低地。〔周禮、地官、大司徒〕辨二其山川・川澤・丘陵・墳衍・原隰之名物一。〔注〕水崖曰レ墳、下平曰レ衍。〔王粲、登樓賦〕背二墳衍之廣陸一兮、臨二皐濕之沃流一。

【墳園】6 fen² yüan² ❶墓域。❷滿洲で、墓地にある園林の部分をいふ。

【墳記】7（フンキ） 古代の書。〔後漢書、方術傳序〕若夫陰陽推步之學、往往見二於墳記一矣。

【墳起】8（フンキ） をかのやうに盛り上る。〔雜事秘辛〕胷乳菽發、臍容二半寸許珠一、私處墳起、爲展二兩股一、陰溝渥丹、火齊欲レ吐、此守禮謹嚴處女也。

【墳丘】9（フンキウ） 古代の書物。〔潘尼、贈三陸機出爲二吳王郎中令一詩〕容二與墳丘一。〔注〕濟曰、墳丘、皆古書也。

【墳花】10（フンクワ） 紙で錢を造り、彩色を施したもの。〔淸會典、禮部〕淸明埽、官民均不レ得レ用二墳花一。

【墳窠】11（フンクワ） 墳墓。〔長生殿、冥追〕敎三魂魄守二墳窠一。

【墳倉】12（フンサウ） 穀物ををかのやうに積んだ倉。〔韓非子、八姦〕縱二禁財一、發二墳倉一、利二於民一者、必出二於君一。〔注〕積二粟於倉一、若レ墳然。

【墳策】13（フンサク） 書物をいふ。〔後漢書、儒林傳序〕自レ是莫レ不下抱二負墳策一、雲中會京師上。

【墳索】14（フンサク） 墳典(29)に同じ。〔魏志、管寧傳〕敷二陳墳索一、坐而論レ道。

【墳史】15（フンシ） 古書と史書。古代の書。〔隋書、經籍

志〕篤二好墳史一。〔北史、百濟國傳〕俗重二騎射一、兼愛二墳史一。

【墳寺】16 フンジ 菩提所。〔宋史、徽宗紀二〕崇寧四年、詔奪二元祐輔臣墳寺一。

【墳壤】17 フンジャウ うるほひ肥えた土地。〔周禮、地官、草人〕墳壤用レ麋。

【墳首】18 フンシュ 大きな首。〔詩、小雅、苕之華〕牂羊墳首、三星在レ罶。〔傳〕墳、大也。

【墳樹】19 フンジュ 墓に植ゑてある木。〔後漢書、范式傳〕爲レ脩二墳樹一、然後乃去。

【墳如】20 フンジョ 土の高く盛りあがつたさま。〔列子、天瑞〕宰如也、墳如也。

【墳燭】21 フンショク 大きな燭光。大燭。〔周禮、秋官、司烜氏〕凡邦之大事、共二墳燭庭燎一。〔注〕玄謂、墳、大也。

【墳籍】22 フンセキ 古書。聖賢の著した書籍。〔後漢書、李固傳〕遂究二覽墳籍一。〔應璩、與二從弟君苗君胄書一〕潛二精墳籍一。〔晉書、魯芝傳〕耽二思墳籍一。

【墳然】23 フンゼン 順ふさま。〔管子、君臣下〕墳然若二一父之子一。〔注〕墳然、順貌。

【墳素】24 フンソ 聖賢の著した書籍。墳典。〔潘岳、閑居賦〕傲二墳素之長圃一、歩二先哲之高衢一。〔注〕賈逵曰、三墳、三皇之書、八索、素王之法、銑曰、三墳之書、素王之法、以爲二長圃一、嘯二傲於中一矣。

【墳澤】25 フンタク をかとさは。〔謝惠連、西陵遇レ風獻二康樂一詩〕零雨潤二墳澤一。

【墳地】26 fên² ti⁴ 墓場。墳院。墳墓。

【墳池】27 フンチ つつみ。〔越絶書、越絶外傳記吳地傳〕墳池六尺。

【墳冢】28 フンチョウ つか。はか。〔蜀志、諸葛亮傳〕墳冢「足レ容レ棺。

【墳典】29 フンテン 三墳五典の略。三皇・五帝の書。轉じて、聖人賢人の述べた書物。古書。墳史。墳籍。〔孔安國、尚書序〕討二論墳典一。〔後漢書、趙壹傳〕敷二翫墳典一。〔南史、虞龢傳〕少好レ學、居レ貧、屋漏、恐レ濕二墳典一、乃舒レ被覆レ書、書獲レ全而被大濕。

【墳土】30 フンド はかの土。〔後漢書、明帝紀〕生者無二擔石之儲一、而財力盡二於墳土一。〔曹植、求二自試一表〕墳土未レ乾、而身名竝滅。

【墳防】31 フンバウ つつみ。〔後漢書、百官志一〕修二墳防「之事一。

【墳墓】32 フンボ ❶はか。おくつき。〔周禮、地官、大司徒〕一曰、媺二宮室一、二曰、族二墳墓一。〔禮、檀弓上〕古也墓而不レ墳。〔管子、九變〕大者親戚墳墓之所レ在也。〔墨子、七患〕死又脩二墳墓一。〔呂覽、懷寵〕不レ掘二墳墓一。〔史記、仲尼弟子傳〕夫魯墳墓所レ處。❷星の名。〔星經〕墳墓四星、在二危下一、主二山陵悲慘事一。

〔墳墓之地〕33 フンボノチ 我が家代々の墓のある所。轉じて、故鄉、父母の國。〔管子、小問〕管子對曰、故國、父母墳墓之所レ在、固也。〔僧月性、題レ壁詩〕男兒立レ志出二鄉關一、學若不レ成死不レ還、埋レ骨豈墳墓之地、人間到處有二青山一。

【墳封】34 フンポウ はか。つか。〔後漢書、范冉傳〕墳封高下、令レ足二自隱一。

【墳羊】35 フンヤウ 土中の怪物の名。魯の季桓子が井を穿つて之を得たといふ。羵羊。〔國語、魯語下〕季桓子穿レ井獲レ如二土缶一、其中有レ羊焉、使レ問二之仲尼一曰、吾穿レ井而獲レ狗何也、對曰、以二丘之所レ聞、羊也、丘聞レ之、木石之怪曰二夔蝄蜽一、水之怪曰二龍罔象一、土之怪曰二墳羊一。〔注〕唐云、墳羊雌雄不レ成者。〔淮南子、氾論訓〕井生二墳羊一。〔注〕土之精也。〔後漢書、馬融傳〕紲二墳羊一。〔注〕墳羊、土之怪、其形似レ羊。〔後漢書、張衡傳〕愍二墳羊之潛深一。

【墳腴】36 フンユ 土地の肥えてゐること。〔潘岳、藉田賦〕沃野墳腴。

【墳陵】37 フンリヤウ はか。〔後漢書、明帝紀贊〕省二薄墳陵一。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕墳陵尊顯。〔白居易、草茫茫詩〕一朝盜掘墳陵破、龍槨神堂三月火。

【墳鄰】38 fên² lin² 墓地の傍に在る住居。墳地の看守を依託される。

【墳壟】39 フンロウ はか。〔後漢書、鄭玄傳〕所二憤憤一者、徒以二亡親墳壟未レ成、所レ好群書率腐敝。〔陸機、門有車馬客行〕墳壟日月多、松柏鬱芒芒。

【墳壠】40 フンロウ 墳壟に同じ。

【墳壚】41 フンロ うごもつて色の黑く質の剛い土。〔書、禹貢〕下土墳壚。〔傳〕下者墳壚、壚、疏。

【墳季兒】42 fên² chi⁴ êrh 墳墓を祭る季節。卽ち三月十五日の淸明節と十月一日。

【墳圈子】43 fên² ch'üan⁴ tzŭ 墓。

【墳少爺】44 fên² shao⁴ yeh 墓守。

【墳臺店】45 フンダイテン 地名。河南省葉縣の東南。舊名は臨墳鎭。〔金史、地理志中〕葉、鎭一、臨墳。〔淸一統志〕臨墳鎭、今有二墳臺店一、在二縣東南三十里一。

【墳頭兒】46 fên² t'ou² êrh 墓の土饅頭。

〔墳頭兒上的狗〕47 fên² t'ou² êrh shang⁴ tê kou³ 糠喜びの意を含む隱語。

【壄】 5489 ヤ 野（11—40133）の古字。〔玉篇〕壄、古文野。

【墴】 5490 クヮウ 堭（3—5270）に同じ。〔集韻〕堭、或从レ黃。

【𡐕】 5491 ヂン 塵（3—5388）の古字。〔集韻〕塵、古作レ𡐕。

【墒】 5492 シ 子（3—6930）の古字。〔字彙補〕墒、古文子字。

【墬】 5493 チ 〔川篇〕陟記切 寘

こえる。〔川篇〕墬、踰也。

【𡐜】 5494 タク チヤク 〔篇海類編〕陟格切 陌

はる。ひらく。〔篇海類編〕𡐜、張也、開也。

【𡒊】 5495 コツ コチ 〔篇海類編〕苦骨切 月

つく。〔篇海類編〕𡒊、突也。

【㙍】 5496 カウ 〔篇海類編〕音敎 效

地下のすまひ。〔篇海類編〕㙍、地屋。

【壣】 5497 リン 〔篇海類編〕力珍切 侵

野菜ばたけ。〔篇海類編〕壣、菜畦。

【𡎊】 5498 クヮイ 塊（3—5319）に同じ。〔篇海〕𡎊、同レ塊。

【𡒯】 5499 セン 壖（3—5560）に同じ。〔篇海〕𡒯、同レ壖。

【堨】 5500 タウ 壔（3—5558）の篆字。〔正字通〕壔、篆作レ堨。

【𡐘】 5501 タン 壜（3—5588）に同じ。〔篇海類編〕𡐘、同レ壜。

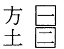
【𡎶】 5502 テイ 堤（3—5259）に同じ。〔五音篇海〕𡎶、同レ堤。

【𡑏】 5503 アイ 〔搜眞玉鏡〕於駭切 蟹

❶や。いへ。〔搜眞玉鏡〕𡑏、屋也。**❷とめる。**〔搜眞玉鏡〕𡑏、止也。

十三畫

【墺】 5504 ㈠アウ オウ 〔集韻〕於到切 號 ㈡キク 〔集韻〕乙六切 屋

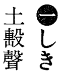

小篆

㈠㈡**❶をか。くが。**〔說文〕墺、四方土可二定居一者也、从レ土奧聲。**❷きし。**〔字彙〕墺、地近二水厓一者。**❸**隩（11—41872）に通ず。〔書、禹貢〕四隩既宅。〔玉

篇〕四墺既宅。㊃奥(**3－5985**)に通ず。〔漢書、地理志上〕四奥既宅。〔注〕奥、讀曰ㇾ墺。

【墻】 5505 シヤウ　牆(**7－19806**)に同じ。〔玉篇〕垣墻、正作ㇾ牆。

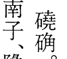
【墼】 5506 ケキ　キヤク　〔集韻〕吉歷切　錫


小篆

㊀**しき瓦**。〔説文〕墼、令適也、从ㇾ土毄聲。㊁**燒かない煉瓦**。〔説文〕墼、一曰、未ㇾ燒者。

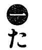
【⿰土遂】 5507 スイ　隧(**11－41870**)に同じ。〔集韻〕隧、或从ㇾ土。

【墽】 5508 🈩カウ　〔集韻〕丘交切　肴　🈔ケウ　〔集韻〕牽幺切　蕭


小篆

🈩🈔㊀**土地がやせて石が多い**。磽确。〔説文〕墽、磽也、从ㇾ土敫聲。〔淮南子、墬形訓〕察㆓水陸肥墽高下之宜㆒。㊁**すてる**。敲(**5－13337**)に通ず。〔説文通訓定聲〕墽、叚借爲ㇾ敲。〔廣雅、釋詁一〕墽、棄也。㊂磽(**8－24494**)に同じ。〔説文通訓定聲〕墽、當ㇾ爲㆓磽之重文㆒。㊃墝(**3－5452**)に同じ。〔禮、王制、制㆓農田㆒百畝、注〕肥墝有㆓五等㆒。〔釋文〕墝、本又作ㇾ墽。

【墾】 5509 コン　〔集韻〕口很切　阮　ㄎㄣˇ　kʻen^3


小篆

㊀**たがやす**。〔説文新附〕墾、耕也、从ㇾ土狠聲。〔廣雅、釋地〕墾、耕也。㊁**ひらく**。きりひらく。開墾する。〔國語、周語上〕土不㆓備墾㆒。〔注〕墾、發也。〔國語、周語中〕墾田若ㇾ蓺。〔注〕發ㇾ田曰ㇾ墾。〔列子、湯問〕扣ㇾ石墾ㇾ壤。〔注〕墾、起ㇾ土也。〔後漢書、光武紀下〕檢㆓覈墾田頃畝、及戸口年紀㆒。〔注〕墾、闢也。㊂**をさめる**。〔廣雅、釋詁三〕墾、治也。㊃**つとめる**。〔方言、十二〕墾、力也。㊄**つかさどる**。〔方言、十二〕墾、司也。㊅**ならす**。〔廣雅、釋言〕墾、均也。㊆**やぶれる**。**いたむ**。〔周禮、考工記、旊人〕陶旊之事、髻墾薜暴不ㇾ入ㇾ市。〔注〕墾、頓傷也。㊇⿱穴墾に同じ。〔木華、海賦〕⿱穴墾㆓陵巒㆒而嶄鑿。〔注〕善曰、⿱穴墾、與ㇾ墾音義同。

【墾耕】1 コンカウ　土地をひらきたがやす。〔詩、小雅、大田、大田多ㇾ稼、箋〕大田、謂㆔地肥美可㆓墾耕㆒。

【墾荒】2 コンクワウ　荒地を耕しひらく。〔汪應蛟、海濱屯田疏〕可ㇾ墾荒田、連ㇾ壤接ㇾ畛、奚啻六七千頃。

【墾藝】3 コンゲイ　土地をきりひらいて、穀樹を植ゑつける。〔唐書、李元諒傳〕闢㆓美田數十里㆒、勸ㇾ士墾藝。

【墾草】4 コンサウ　草地を刈りひらく。〔戰國、秦策〕大夫種爲㆓越王㆒墾ㇾ草。〔韓非子、顯學〕今上急㆓耕ㇾ田墾ㇾ草。〔淮南子、主術訓〕辟ㇾ土墾ㇾ草。〔史記、蔡澤傳〕墾ㇾ草入ㇾ邑。

【墾鑿】5 コンサク　土地をきりひらく。〔柳宗元、唐故兵部郎中楊君墓碣〕墾㆓鑿墝鹵㆒。

【墾壤】6 コンジヤウ　土地をきりひらく。〔列子、湯問〕扣ㇾ石墾ㇾ壤。

【墾種】7 コンシユ　土地をきりひらいて種子をまく。〔清會典、戸部、田賦〕各邊口外曠土、咸分㆓給兵民㆒墾種。

【墾熟】8 kʻen^3 shou^2　よく開墾した熟田。

【墾殖】9 コンシヨク　土地をきりひらいて植ゑつける。〔吳志、華覈傳〕勉㆓墾殖之業㆒、爲㆓饑乏之救㆒。

【墾植】10 コンシヨク　墾殖に同じ。〔晉書、公孫永傳〕非㆔身所㆓墾植㆒、則不㆔衣㆓食之㆒。〔陳書、高祖紀〕膏腴堪㆓墾植㆒。

【墾耨】11 コンヂヨク　たがやしくさぎる。〔後漢書、淳于恭傳〕墾耨不ㇾ輟。

【墾田】12 コンデン　耕しひらいた田地。又、田地を耕しひらく。〔管子、輕重甲〕今君躬犁㆓墾田㆒。〔國語、周語中〕墾田若ㇾ蓺。〔後漢書、光武帝紀下〕檢㆓覈墾田頃畝、及戸口年紀㆒。

【墾發】13 コンパツ　田地を耕しひらく。〔張載、七哀詩〕頹隴並墾發。〔北史、蘇綽傳〕皆令㆓就ㇾ田墾發、以ㇾ時勿ㇾ失㆓其所㆒。

【墾辟】14 コンペキ　墾闢に同じ。〔晏子、雜上〕田疇墾辟。〔孔叢子、巡狩〕土地墾辟。〔史記、司馬相如傳〕命㆓有司㆒曰、地可㆘以墾辟、悉爲㆓農郊㆒、以贍㆗萌隸㆖。

【墾闢】15 コンペキ　荒地をきりひらく。〔漢書、食貨志上〕田多墾闢。〔後漢書、龐參傳〕田疇不ㇾ得㆓墾闢㆒。

【墾務】16 kʻen^3 wu^2　田賦の一種で、開拓された土地から徴收するもの。

【墾令】17 コンレイ　商子の篇名。

【墾草令】18 コンサウレイ　草をとりたがやす命令。〔商子、更法〕於ㇾ是遂出㆓墾草令㆒。

【墾牧司】19 kʻen^3 mu^4 ssŭ^1　中華民國政府の農「林部の一局。

【墾牧公司】20 kʻen^3 mu^4 kung^1 ssŭ^1　開墾牧畜を目的とする會社。

【墾殖公司】21 kʻen^3 chih^2 kung^1 ssŭ^1　開墾拓殖を營業目的とする會社。

【堝】 5510 ワ　窩(**8－25579**)に同じ。〔正字通〕堝、同ㇾ窩。

【墿】 5511 🈩エキ　ヤク　〔集韻〕夷益切　陌　🈔ト　ヅ　〔集韻〕同都切　虞　🈪ト　ヅ　〔集韻〕徒故切　遇

🈩**みち**。〔廣雅、釋宮〕墿、道也。〔疏證〕墿之言、繹也。🈔**みち**。途(**11－38882**)に同じ。〔集韻〕途、爾雅、路・旅、途也、或作ㇾ墿。🈪**みち**。〔集韻〕墿、道也。

【⿱解土】 5512 カイ　ゲ　〔集韻〕下買切　蟹

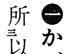
地名。〔集韻〕⿱解土、地名。

【⿱戠土】 5513 シヨク　埴(**3－5188**)の籀文。〔正字通〕⿱戠土、籀文埴。

【⿱號土】 5514 カウ　⿰号虘(**9－32777**)に同じ。〔集韻〕⿰号虘、或作ㇾ⿱號土。

【壀】 5515 ヘイ　埤(**3－5167**)に同じ。〔正字通〕壀、同ㇾ埤。

【壁】 5516 ヘキ　ヒヤク　〔集韻〕必歷切　錫　ㄅㄧˇˋ　pi$^{3\cdot4}$


小篆

㊀**かべ**。〔釋名、釋宮室〕壁、辟也、所㆔以辟㆓御風寒㆒也。㊁**かき**。**とりで**。〔説文〕壁、垣也、从ㇾ土辟聲。〔正字通〕壁、軍壘。〔儀禮、特牲饋食禮〕饎爨在㆓西壁㆒。〔注〕西壁、堂之西牆下。〔張衡、思玄賦〕觀㆓壁壘於北落㆒兮。〔注〕衡曰、壁、營壁也。㊂**がけ**。けはしく直立するところ。〔馬岌、石壁銘〕青壁千尋。㊃**星宿の名**。なまめ。東壁。〔後漢書、張衡傳、觀㆓壁壘於北落㆒兮、注〕壁、東壁也。〔晉書、天文志上〕東壁二星、主㆓文書㆒、天下圖書之祕府也。㊄**姓**。〔古今姓氏書辯證〕齊壁司徒之後爲ㇾ氏。

【壁衣】1 ヘキイ　壁懸け。〔岑參、玉門關蓋將軍歌〕織㆓成壁衣㆒花氍毹、燈前侍婢瀉㆓玉壺㆒。

【壁塢】2 ヘキヲ　とりで。城塞。壁壘。〔晉書、庾袞傳〕

修二壁塢一樹二藩障一。

【壁幹】3 pi^4 kan^4 壁のぬき。

【壁閒】4（ヘキカン）かべのあひだ。又、かべのおもて。壁面。〔皮日休、過二雲居院玄福上人舊居一詩〕龕上已生新石耳、壁閒空帶舊茶煙。〔宋史、龔夫傳〕題二詩壁閒一有レ得レ見二兩龔之語一。

【壁岸】5（ヘキガン）壁のやうに屹立した岸。險しい岸。〔水經、河水注二〕河北有二層山一、山甚靈秀、云云、其下層巖峭擧、壁岸無レ階。

【壁記】6（ヘキキ）文章を石に刻して壁に嵌めたもの。〔元稹、和三樂天過二祕書閣書省舊廳一詩〕壁記欲レ題三漏合、吏人驚問十年來。〔封氏聞見記、壁記〕朝廷百司諸廳、皆有二壁記一、敍二官秩創置及遷授始末一、原二其作意一、蓋欲下著二前政履歷一、而發中將來健羨上焉、故爲二記之體一、貴二其說レ事詳雅、不レ爲二苟飾一。

【壁蟢】7（ヘキキ）蟲の名。壁錢(29)の異名。

【壁牛】8（ヘキギウ）蟲の名。壁蝨(21)の異名。

【壁鏡】9（ヘキキヤウ）蟲の名。壁錢(29)の異名。

【壁宮】10（ヘキキユウ）動物の名。守宮(**3**－**7071**··40)の異名。〔本草、守宮〕釋名、壁宮・壁虎・蠍虎・蝘蜓。

【壁魚】11（ヘキギヨ）衣服・紙などを食ふ蟲。しみ。衣魚。〔杜甫、歸來詩〕開レ門野鼠走、散レ帙壁魚乾。〔本草、衣魚〕釋名、白魚・蟫魚・蛃魚・壁魚・蠹魚、宗奭曰、衣魚生二久藏衣帛中及書紙中一、其形稍似レ魚、其尾又分二二岐一、故得二魚名一、時珍曰、白其色也、壁、其居也、蟫其狀態也、丙其尾形也。

【壁畫】12（ヘキグワ）壁に畫いた繪。〔駱賓王、四月八日題二七級一詩〕銘書非二晉代一、壁畫是梁年。〔楓牕小牘〕識者謂三壁畫最入二神妙一。〔崔國輔、宿二法華寺一詩〕壁畫感二靈跡一。〔傳燈錄〕裴休入二大安精舍一燒香、因觀二壁畫一問、是何圖相、對曰、高僧眞儀、公曰、眞儀可レ觀、高僧何在。

【壁光】13（ヘキクワウ）苦學すること。漢の匡衡が貧乏で燈火がないので、壁をうがつて隣家のあかりで讀書した故事。〔西京雜記、二〕匡衡、字稚圭、勤レ學而無レ燭、隣舍有レ燭而不レ逮、衡乃穿レ壁、引二光一、以レ書映レ光而讀レ之。

【壁官】14（ヘキクワン）動物の名。守宮(**3**－**7071**··40)の異名。

【壁經】15（ヘキケイ）❶書經をいふ。古文尙書は孔氏の壁中から出たからいふ。〔千字文〕漆書壁經。❷國子學の石經をいふ。石經(**8**－**24024**··236)を見よ。〔唐會典〕元和十四年、祭酒鄭餘慶、奏修二壁經一。

【壁繭】16（ヘキケン）壁錢の巢。壁錢(29)を見よ。

【壁虎】17（ヘキコ）動物の名。守宮(**3**－**7071**··28)の異名。壁宮(10)を見よ。

【壁骨】18 pi^4 ku^3 壁のこまい。壁下地。

【壁藏】19（ヘキザウ）壁の中に塗りこめて貯藏する。〔史記、伏生傳〕秦時焚レ書、伏生壁二藏之一、其後兵大起、流亡、漢定、伏生求二其書一、亡二數十篇一、獨得二二十九篇一、卽以敎二於齊魯之閒一。〔漢書、藝文志〕秦燔レ書禁レ學、濟南伏生、獨壁二藏之一。〔後漢書、陳寵傳〕其家律令書文、皆壁二藏之一。

【壁山】20（ヘキザン）縣名。唐、置く。隋の江津・巴二縣の地。今、四川省東川道に屬す。

【壁蝨】21（ヘキシツ）蟲の名。だに。壁牛。壁駝(32)を見よ。〔後山詩話〕魯直有二癡弟一、畜二漆琴一而不レ御、蟲蝨入焉、魯直嘲レ之曰、龍池生二壁蝨一、而未レ有レ對、魯直之兄大臨且見二牀下一、以二溺器一畜二生魚一、問二之其弟一也、大呼曰、我有レ對矣、乃虎子養二溪魚一也。

【壁牆】22（ヘキシヤウ）かべがき。土塀。牆壁。

【壁上】23（ヘキジヤウ）❶かべの上。かべの面。又、土塀の上。土塀の面。〔南齊書、東昏侯紀〕諸樓觀壁上、畫二男女私褻之像一。〔庾信、鏡賦〕臨レ水則池中月出、照レ日則壁上菱生。❷とりでの上。城壁の上。〔史記、項羽紀〕諸侯軍救二鉅鹿下一者十餘壁、莫二敢縱一レ兵、及二楚擊一レ秦、諸將皆從二壁上一觀。

〔壁上觀〕24（ヘキジヤウクワン）坐して成敗を觀るのみで救ふことの出來ないこと。壁上の❷を見よ。

【壁宿】25（ヘキシユク）二十八宿の一。東壁(**6**－**14499**··636)の❶を見よ。

【壁書】26（ヘキシヨ）❶かべに書いた文字。❷足利時代の末、武家の家法をしるしたもの。又、其の家法。家憲。かべがき。❸公衆に示す張紙。はりだし。揭示。

【壁人】27（ヘキジン）人を二重の壁の中にかくすこと。〔史記、張耳陳餘傳〕貫高等乃壁二人柏人一、要レ之置レ廁。〔注〕索隱曰、文穎云、置二人廁壁中一、以伺二高祖一也、張晏云、鑿レ壁空レ之、令二人止一レ中也、今按、云レ置レ廁者、置二人於複壁中一、謂二之置一レ廁、廁者隱側之處、因以爲レ言也。

【壁水】28（ヘキスイ）川の名。四川省壁山縣。源を縣の西北の溫湯峽口に發し、大江に注ぐ。龍溪・金帶水ともいふ。

【壁錢】29（ヘキセン）蟲の名。壁にすむ平たい蜘蛛。ひらたぐも。ひらぐも。壁蟢。〔本草、壁錢〕釋名、壁鏡、時珍曰、皆以二窠形一命レ名也、集解、藏器曰、壁錢蟲似二蜘蛛一、作二白幕一如レ錢、貼二墻壁閒一、北人呼爲二壁繭一、時珍曰、大如二蜘蛛一而形扁、斑色、八足而長、亦時蛻レ殼、其膜色光白如レ繭、或云、其蟲有レ毒、咬レ人至レ死、惟以二桑柴灰一煎取レ汁、調二白礬末一、傅レ之妙。〔事物異名錄、昆蟲下、壁繭〕山堂肆考、壁錢蟲、似二蜘蛛一而身扁、作二白幕一如レ錢、著二壁閒一、俗呼爲二壁蠒一、其抱レ子隔レ幕而伏、生子百數、坼レ幕而出、一名扁蟢、一名壁鏡。

【壁蘚】30（ヘキセン）壁に生えたこけ。

【壁塞】31（ヘキソク）ふさがつて通じない。〔晉書、夏統傳〕舌縮口張、兩耳壁塞也。

【壁駝】32（ヘキダ）蟲の名。だに。壁牛。壁蝨。〔事物紺珠〕壁蝨、一名壁駝、扁小褐色、臭而嚙レ人、又雜組、謂二之木蝨一。

【壁帶】33（ヘキタイ）あらはれ出て帶のやうに見える壁中の橫木。〔漢書、孝成趙皇后傳〕壁帶往往爲二黃金釭一。〔注〕師古曰、壁帶、壁之橫木、露出如レ帶者也。〔後漢書、光武十王、琅邪孝王京傳〕殿館壁帶、皆飾以二金銀一。〔注〕壁帶、壁中之橫木也、以二金銀一爲レ釭、飾二其上一。〔朱熹、空同賦〕雲屋掩而弗レ扃兮、壁帶耿而夜光。

【壁代】34（カベシロ）❶壁の下地。❷宮殿などの內部に壁の代りに用ひる几帳。

【壁璫】35（ヘキタウ）かべと飾のあるたるき。〔風俗通、正失〕華榱壁璫軒檻。

【壁坼】36（ヘキタク）書法の名。〔姜堯章、續書譜〕用レ筆如二折釵股一、如二屋漏痕一、如二錐畫沙一、如二壁坼一。

【壁地】37（ヘキチ）軍壘のある土地。〔戰國、楚策〕使三左右司馬各營二壁地一。

【壁廚】38（ヘキチユウ）壁に設けた戸棚。おしいれ。〔閒情寓寄〕壁廚四張。

【壁中】39（ヘキチユウ）壁の中。〔孔安國、尙書序〕於二壁中一得二先人所レ藏。〔漢書、景十三、魯恭王餘傳〕於二其壁中一得二古文經傳一。〔後漢書、左慈傳〕慈乃卻入二壁中一、霍然不レ知レ所レ在。

〔壁中書〕40（ヘキチユウノシヨ）孔子の講堂の壁中に塗りこめられて秦火を免れ、前漢の魯の恭王によつて發見された古文尙書・古文孝經等をいふ。〔孔安國、古文孝經訓傳序〕魯恭王使三人壞二夫子講堂一、於二壁中石函一得二古文孝經二十二章一。〔漢書、藝文志〕古文尙書者、出二孔子壁中一、武帝末、魯共王、壞二孔子宅一、欲三以廣二其宮一、而得二古文尙書・禮記・論語・孝經、凡數十篇一。

【壁泥】41（ヘキデイ）壁に塗つた泥。〔李商隱、飮席戲贈二同舍一詩〕蘭廻二舊蘂一緣二屛綠一、椒綴二新香一和二壁泥一。

【壁土】42（ヘキド）かべつち。〔夏侯湛、抵疑〕壁土不レ見二泰山一。

【壁燈】43（ヘキトウ）かべに懸けたともしび。〔李賀、河南府試八樂辭〕傍簷蟲緝レ絲、向二壁燈一垂レ花。

【壁縫】45 pi^4 fêng^1 壁の隙間。

【壁門】46（ヘキモン）❶壁をうがつた門。❷陣屋の門。〔史記、絳侯世家〕亞夫乃傳レ言開二壁門一。

【壁立】47（ヘキリツ）❶壁のやうにたつ。垂直にきり立つ。〔吳志、賀齊傳〕林歷山四面壁立。❷壁が立つて居るだけであるといふ意。家財の無い貧家のさま。〔史記、司馬相如傳〕家居徒四壁立。〔論衡、別通〕貧人之內、徒四所壁立也。〔左思、詠史詩〕長卿還二成都一、壁立何寥廓。〔北史、崔挺傳〕家徒壁立、兄弟怡然。❸pi^4 li^4 衣桁をいふ。家具屋の隱語。

〔壁立司〕48 pi^4 li^4 ssŭ^1 賊をいふ。壁立司直の直字の音を賊に假通して縮めたもの。杭州の方言。

〔壁立千仞〕49（ヘキリツセンジン）巖石の高く聳えるさま。〔水經、河水注〕其山惟石、壁立千仞、臨レ之目眩。〔世說新語、賞譽上〕王公目二太尉一、巖巖淸峙、壁立千仞。

【壁龍】50（ヘキリユウ）唐の柴紹の弟の異名。壁をつたつてよく飛走をなしたからいふ。〔朝野僉載〕柴

紹之弟某、有二材力一、輕趫遷捷、踊レ身而上、挺然若レ飛、十餘步乃止、太宗令レ取二趙公長孫無忌鞍韉一、仍先報二無忌一、令二其守修一、其夜見三一物如レ鳥飛入二宅內一、割二雙鞜一而去、追レ之不レ及、又遣レ取二丹陽公主金枕函一、遂飛入二房內一、以レ手撚二土公主面上一、擧レ頭、卽以二他枕一易レ之而去、至レ曉方覺、嘗著二吉莫靴一、走上二塼城一、且レ至二手擿一、手無二攀引一、又以レ足蹈二佛殿柱一、至二簷頭一、捻レ椽覆レ上、越二百尺樓閣一了無二障礙一、太宗奇レ之曰、此人不レ可レ處二京邑一、出爲二外官一、時人號爲二壁龍一。

【壁隣】51 ヘキリン 壁一重隔てた隣家。〔列女傳、仁智傳〕壁隣之國也。

【壁壘】52 ヘキルイ とりで。壘壁。〔史記、黥布傳〕深溝壁壘。〔漢書、胡建傳〕壁壘已定、穿窬不レ繇レ路、是謂二姦人一。〔張衡、思玄賦〕觀二壁壘於北落一兮。

【壁爐】53 pi^4 lu^2 壁とりつけの煖爐。ペチカ。

【脫レ壁】54 ヘキヲダツス 壁からぬけ出る。〔段成式、題二畫壁一詩〕風雲將レ逼レ人、鬼神如レ脫レ壁。

【壁訴訟】55 カベソシヤウ ❶壁に向つて訴へること。ひとりつぶやくこと。陰で苦情をいふこと。❷遠廻しにあてこすること。

【壁有レ耳】56 カベニミミアリ 何處に聞く人が有るか知れないことにいふ。秘密ばなしの洩れ易いことを戒めた諺。〔詩、小雅、小弁〕君子無二易由レ言、耳屬二于垣一。〔博聞錄〕壁有レ耳、牖有レ縫。

【堅レ壁淸レ野】57 ヘキヲカタクシヤヲキヨクス とりでを堅固にして敵の攻擊に備へ、原野を肅淸にして敵が掠奪の出來ぬやうにする。〔何承天、安邊論〕堅レ壁淸レ野、以待二其來一。

【鑿レ壁讀レ書】58 カベヲウガチテショヲヨム 貧苦の中に學問をはげむ喩。漢の匡衡の故事。壁光(13)を見よ。〔西京雜記、二〕匡衡勤レ學而無レ燭、隣舍有レ燭而不レ逮、衡乃穿レ壁、引二其光一、以レ書映レ光而讀レ之。

【破レ壁飛去】59 ヘキヲヤブリテトビサル にはかに出世する喩。唐の張僧繇が四龍を畫いてその眼を點じたところ、龍が壁を破つて逃げ去つた故事。〔宣和畫譜、一〕張僧繇、云云、又嘗於二金陵安樂寺一畫二四龍一、不レ點二目睛一、謂二點卽騰驤而去一、人以謂レ誕、固請レ點レ之、因爲落墨、才及二二龍一、果雷電破レ壁、徐視レ畫、已失レ之矣。

【壂】5517 テン デン 〔集韻〕堂練切 霰

❶かす。おり。〔六書統〕壂、滓垽也、从レ土从レ殿、後也、澱而在レ後也。❷との。たち。やかた。〔廣雅、釋宮〕堂堭、壂也。

名乘 イヘ。タカ。

【⿰土睘】5518 クワン ゲン 〔集韻〕胡關切 刪

❶⿰土睘堵は、四面各一丈のかき。又、住居。〔集韻〕⿰土睘、⿰土睘堵、謂二面一堵墻一也。❷通じて環(7－21287)に作る。〔集韻〕⿰土睘、通作レ環。

【⿰土葉】5519 テフ 堞(3－5248)に同じ。〔正字通〕⿰土葉、同レ堞。

【壃】5520 キヤウ 疆(7－21961)に同じ。〔正字通〕壃、同レ疆。

【⿰土窟】5521 クツ 窟(8－25552)・堀(3－5541)・堀(3－5205)に同じ。〔正字通〕⿰土窟、與二窟・堀・堀一同。

【⿳亡口⿲月土凡】5522 ラ 裸(10－34371)の古字。〔玉篇〕⿳亡口⿲月土凡、古文裸。

【壄】5523 ヤ 野(11－40133)の古字。〔廣韻〕野、壄、古文。

【壅】5524
[一] ヨウ ユ 〔集韻〕於用切 ㄩㄥ yung$^{1\cdot3}$ 宋
[二] ヨウ ユ 〔集韻〕委勇切 腫
[三] ヨウ ユ 〔集韻〕於容切 冬

[一][二][三]❶ふさぐ。ふさがる。〔左氏、昭、元〕有レ所二壅閉湫底一。〔會箋〕壅、謂二障而不レ使レ行。〔淮南子、主術訓〕業貫二萬世一而不レ壅。〔注〕壅、塞也。❷ふせぐ。〔國語、晉語二〕胡可レ壅也。〔注〕壅、防也。❸おほふ。〔戰國、齊策〕宣王因以、晏首壅二塞之一。〔注〕壅、蔽。❹へだてる。〔廣雅、釋詁一〕壅、隔也。❺さへぎる。〔廣雅、釋詁二〕壅、障也。❻くま。〔史記、司馬相如傳〕批レ巖衝レ壅。〔注〕正義曰、壅、曲隈也。❼つちかふ。〔字彙〕壅、培也。〔宋史、蘇雲卿傳〕灌漑培壅。❽擁(3－5525)に同じ。〔晉書音義、中〕壅、亦作レ擁。❾雍(11－42000)に通ず。〔左氏、宣、十二〕川壅爲レ澤。〔釋文〕壅、本又作レ雍。❿廱(4－9468)に通ず。〔莊子、徐無鬼〕鷄廱也豕零也。〔釋文〕廱、本或作レ壅。⓫雝(3－5611)に同じ。〔集韻〕壅、塞也、或作レ雝。

【壅遏】1 ヨウアツ おさへとどめる。〔管子、立政〕壅二遏賢者一而不レ進也。〔逸周書、謚法解〕壅遏不レ通曰レ幽。〔淮南子、要略〕百事之壅遏。〔列女傳、辯通、楚處莊姪傳〕恐壅遏蔽塞而不レ得レ見。「閼。

【壅閼】2 ヨウアツ 壅遏に同じ。〔列子、楊朱〕勿レ壅勿レ閼。

【壅圍】3 ヨウヰ ふさぎかこむ。〔韓非子、揚權〕公庭將レ虛、主將二壅圍一。

【壅河】4 ヨウガ 河水をふさぎとめる。〔穀梁、成、五〕梁山崩、壅二遏河一、三日不レ流。〔史記、魏世家〕文侯二十六年、虢山崩、壅レ河。

【壅隔】5 ヨウカク ふさぎへだてる。疏んじて近づけない。又、ふさがりへだたる。〔魏志、武文世王公傳評〕禁防壅隔。〔曹植、愍志賦〕情壅隔而靡レ通。〔王粲、登樓賦〕悲二舊鄕之壅隔一兮。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕事旣壅隔。

【壅堨】6 ヨウカツ つつみ。ゐぜき。〔康熙字典〕壅堨、以レ土障レ水也。

【壅却】7 ヨウキヤク へだてしりぞける。〔呂覽、去宥〕姦路以除、而惡二壅却一。

【壅御】8 ヨウギヨ ふせぎとめる。又、ふさぎとめる。壅禦。〔淮南子、脩務訓〕破レ敵陷レ陣、莫二能壅御一。

【壅禦】9 ヨウギヨ 壅御に同じ。〔呂覽、懷寵〕隣國之民歸レ之若二流水一、〔注〕民歸レ之若二流水一、不レ可二雍禦一也。

【壅劫】10 ヨウケフ ふさぎおさへる。〔韓非子、八姦〕世主所三以壅劫失二其所レ有也。

【壅植】11 yung^3 chih^2 植物に肥料を施して培養する。

【壅人】12 ヨウジン 自分の聰明をふさぐ人。愚かな人。〔漢書、梅福傳〕所謂壅人、以自塞者也。

【壅積】13 ヨウセキ ふさがつて通じない。〔後漢書、王景傳〕疎決壅積。〔陳書、世祖紀〕加以三屢虧二聽覽一、事多二壅積一。

【壅絕】14 ヨウゼツ ふさがりたえる。〔楚辭、宋玉、九辯〕路壅絕而不レ通。〔楚辭、東方朔、七諫〕道壅絕而不レ通。

【壅沮】15 ヨウソ へだてはばむ。壅隔。〔晉書、天文志中〕土與レ水合爲二壅沮一、不レ可レ擧レ事。

【壅塞】16 ヨウソク ふさぐ。ふさがる。壅閉。〔禮、月令〕謹二壅塞一、以備二水潦一。〔左氏、昭、元〕距二違君命一、而有レ所二壅塞不一レ行、是懼。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕道壅塞而不レ通兮。〔呂覽、愼人〕水潦川澤之湛滯壅塞。〔漢書、公孫弘傳〕擅二殺生之柄一、通二壅塞之塗一。

【壅滯】17 ヨウタイ ふさがりとどこほる。沈滯。澁滯。〔後漢書、仲長統傳〕故下土無二壅滯之士一。〔晉書、陶侃傳〕筆翰如レ流、未二嘗壅滯一。〔風俗通、窮通〕時有二壅滯一。

【壅底】18 ヨウテイ ふさがりとどまる。壅阻。〔趙岐、孟子題辭〕正塗壅底。

【壅田】19 yung^3 t‘ien^2 田畑に肥料を施す。

【壅土】20 ヨウド 水路を塞いだ土。〔柳宗元、興州江運記〕決二去壅土一。

【壅囊】21 ヨウナウ 川水をせきとめてゐる土囊。〔漢書、韓信傳〕信乃夜令下人爲二萬餘囊一、盛以レ沙壅中水上流上、云云、信使三人決二壅囊一。

【壅鼻】22 yung^3 pi^2 鼻がつまる。

【壅偪】23 ヨウフク ふさがりせまる。〔逸周書、時訓解〕

令㆓奸雍偪㆒。

【壅閉】24（ヨウヘイ） ふさぎとぢる。壅塞。〔左氏、昭、元〕有㆑所㆓壅閉湫底㆒。

【壅蔽】25（ヨウヘイ） ふさぎおほふ。〔管子、任法〕夫私者、壅蔽失㆑位之道也。〔荀子、成相〕上壅蔽、失㆓輔執㆒。〔韓非子、孤憤〕人主壅蔽、大臣專㆑權。〔唐書、李翺傳〕問以㆓時事㆒、通㆓壅蔽之路㆒。

【壅門】26（ヨウモン） 門をふさぐもの。懸門(4－11462・・178)に同じ。〔通鑑、唐紀〕(中宗、景龍二年)不㆑置㆓壅門㆒。〔注〕壅門、卽古之懸門也、或曰、門外築㆑垣、以遮㆓壅城門㆒、今之甕城是也、甕城之外、又有㆓八卦牆㆒、萬人敵、皆以遮㆓壅城門㆒、范祖禹曰、張仁愿築㆓三受降城㆒、不㆑置㆓壅門、曲敵戰格㆒。

【壅養】27（ヨウヤウ） 培ひ養ふ。〔論衡、道虛〕灌漑壅養。

【壅離】28（ヨウリ） ふさぎわかつ。〔韓非子、內儲說上〕甚衆壅㆓離其水㆒也。

【墉】5525

ヨウ

壅(3－5524)に同じ。〔正字通〕墉、同㆑壅。

【墈】5526

カン ゴン 〔集韻〕戶感切 ［感］

㊀墈坷は、たひらでないこと。〔集韻〕墈、墈坷、不㆑平。㊁轗(10－38550)・坎(3－4928)に通ず。〔集韻〕墈、字亦作㆓轗・坎㆒。㊂土が盛りあがる。〔集韻〕墈、土起。

【墈坷】1（カンカ） 字解の㊀㊁及び轗軻(10－38550・・1)・坎坷(3－4928・・2)を見よ。〔穆修、秋浦會遇詩〕隄防雖㆑少㆑戇、墈坷亦多㆑迍。

【壆】5527

［一］カク 〔集韻〕訖岳切 ［覺］

［二］ガク 〔集韻〕轄角切 ［覺］

［一］器のわれめ。〔集韻〕壆、器之璺坼。［二］土の堅いこと。〔玉篇〕壆、土堅。

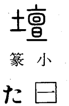
【壇】5528

［一］タン ダン 〔集韻〕唐干切 ［寒］ ㄊㄢˊ tʻan²

［二］タン ダン 〔集韻〕徒案切 ［翰］

［三］セン ゼン 〔集韻〕時戰切 ［霰］

［四］セン ゼン 〔集韻〕上演切 ［銑］



小篆

［一］㊀だん。土を盛り上げて築いたもの。㋑祭祀を行ふところ。〔說文〕壇、祭壇場也、从㆑土亶聲。〔禮、祭法〕燔㆓柴於泰壇㆒。〔注〕壇・折、封㆑土爲㆓祭處㆒也。〔莊子、山木〕爲㆓壇于郭門之外㆒。〔釋文〕壇、祭也、禱㆑之、故爲㆑壇也。〔漢書、郊祀志上〕能知㆓四時犧牲壇場㆒。〔注〕師古曰、積㆑土爲㆑壇、平地爲㆑場。㋺國君の朝會に用ひるところ。〔儀禮、聘禮〕爲㆓壝壇㆒。〔釋文〕封土曰㆑壇。〔左氏、襄、二十八〕鄭伯如㆑楚、舍不㆑爲㆑壇、子產曰、大適㆑小則爲㆑壇、小適㆑大、苟舍而已、焉用㆑作㆑壇。〔注〕除㆑地封㆑土爲㆑壇。㋩盟に用ひるところ。〔國語、吳語〕乃闔㆓左闔㆒、塡㆑之以㆑土、側席而坐、不㆑埽、王乃之㆓壇列㆒、鼓而行㆑之、至㆓於軍㆒。〔注〕壇在㆑野、所㆘以講㆓列士衆㆒誓告㆖之處。㋥大將を任ずるところ。〔漢書、高帝紀上〕漢王齋戒設㆓壇場㆒、拜㆓韓信㆒爲㆓大將軍㆒。㋭堂のどだい。〔管子、五輔〕利㆓壇宅㆒。〔注〕壇、堂基。㊁堂。〔楚辭、大招〕南房小壇。〔注〕壇、猶㆑堂也。㊂中庭。〔淮南子、說林訓〕腐鼠在㆑壇。〔注〕楚人謂㆓中庭㆒爲㆑壇。㊃ば。ところ。〔淮南子、要略〕標㆓擧終始之壇㆒也。〔注〕壇、場也。㊄⿰示亶(8－24842)に通ず。〔漢書、禮樂志〕帝臨㆓中壇㆒。〔注〕師古曰、壇、字或作㆑⿰示亶、讀亦曰㆑壇、字加㆑示者、神㆓靈之㆒耳。㊅⿰石亶(8－24506)に通ず。〔武梁碑〕前設㆓⿰石亶碑㆒。［二］㊀たひら。ひろい。〔司馬相如、子虛賦〕案衍壇曼。〔注〕善曰、司馬彪曰、壇曼、平博也、向曰、壇曼、平寬皃。〔漢書、司馬相如傳〕案衍壇曼。〔注〕師古曰、寬廣之貌。㊁はばかる。憚(4－11222)に通ず。〔周禮、夏官、大司馬〕暴㆑內陵㆑外則壇㆑之。〔注〕鄭司農云、壇、讀從㆓憚㆑之以㆑威之憚㆒。［三］［四］はらふ。掃ひ清める。墠(3－5458)に通ず。〔周禮、夏官、大司馬〕暴㆑內陵㆑外則壇㆑之。〔注〕壇、讀如㆓同墠之墠㆒、王霸記曰、置㆓之空墠之地㆒。

【壇宇】1（ダンウ） 壇と宮室。轉じて、範圍・おきて・のり。〔荀子、儒效〕君子言有㆓壇宇㆒、行有㆓防表㆒。〔注〕累㆑土爲㆑壇、宇、屋邊也、言㆑有㆓壇宇㆒謂㆑有㆑所㆓尊高㆒也。〔鹽鐵論、散不足〕無㆓壇宇之居㆒。

【壇位】2（ダンヰ） 土を盛つて作つた壇。位は、居るべき場所の意。〔孔子家語、相魯〕定公從㆑之、至㆓會所㆒、爲㆓壇位㆒、土階三等、以㆓遇禮㆒相見。

【壇壝】3（ダンヰ） 天子が平地に止宿する時に設ける宮。壇は、土を築いて高くしたところ。壝は、壇の周圍の極めて低い土垣。〔周禮、天官、掌舍〕爲㆓壇壝宮棘門㆒。〔注〕謂㆔王行止㆓宿平地㆒、築㆑壇、又委㆓壝土㆒、起㆓堳埒㆒以爲㆑宮。〔宋史、禮志二二〕徽宗政和年三年、詔㆓有司㆒討㆓論壇壝之制㆒。

【壇域】4（ダンヰキ） 壇のある區域。轉じて、居るべき處・中心・のり。〔淮南子、詮言訓〕天下皆流、獨不㆑離㆓其壇域㆒。〔南齊書、禮志上〕雖㆓郊祀參差㆒、而壇域中閒、並無㆔更立㆓宮室㆒。

【壇經】5（ダンキヤウ） ［佛］書名。六祖大師法寶壇經の略。六祖大師慧能が韶州の大梵寺の壇上で說いた法を後に門人が記したもの。〔夾註輔教編六壇經贊題注〕始其衆人欲㆑請㆔宗門第六祖大鑑禪師開㆓演東山法門㆒、於㆓韶陽大梵寺㆒、尊㆓敬大鑑之道㆒、乃封㆑土爲㆑壇、以資㆓其說法㆒、其後其弟子者、集㆓大鑑其說㆒、因而目爲㆓壇經㆒也。

【壇卷】6（ダンケン） 曲折する。壇は、邅（テン）の訛であらう。〔淮南子、要略〕辭雖㆓壇卷連漫、絞紛遠援㆒、所㆘以洮㆓汰滌㆔蕩至意㆒、使㆗之無㆓凝竭底滯㆒、捲握而不㆖散也。

【壇戶】7（ダンコ） 祭典に俎豆を掌る小官。〔桃花扇、鬨丁〕副淨丑扮㆓二壇戶㆒上。

【壇山】8（ダンザン） 山名。河北省贊皇縣の東北。壇山刻「石」を見よ。

【壇山刻石】9（ダンザンノコクセキ） 壇山は周の穆王が蹕を駐めた處。崖石に刻した吉日癸巳の四字は、書體が小篆に類し、周の穆王の書といふ。晉の衞夫人が、「李斯見㆓穆王書㆒、七日興歎」と言つたもの。宋の皇祐四年、州將劉莊がこれを鑿取して歸り、政和五年、內府に入れた。今、存するものは、皇祐五年に李中祐が別に刻したものである。〔豐道生、眞賞齋賦〕周穆巡狩、至㆓於壇山㆒、吉日癸巳、親題㆓石閒㆒。

【壇社】10 tʻan² shê⁴ 祭壇。

【壇靖】11（ダンセイ） 道場。〔冥通記〕勿㆑令㆓小兒輩逼㆓壇靖㆒、靖中有㆓眞經㆒。

【壇席】12（ダンセキ） 壇を作つて設けた座席。〔後漢書、黃瓊傳〕近魯陽樊君被㆑徵初至、朝廷設㆓壇席㆒、猶㆑待㆓神明㆒。

【壇琖】13（ダンセン） やきものの名。明の宣德窰で製したもので、中心に壇の字がある。〔遵生八牋、論㆓饒器新窰古窰㆒〕描㆑畫不㆑苟、而爐瓶盤碟最多、製如㆓常品㆒、若㆓罩蓋匾罐、傚口花尊蜜漬桶罐㆒、甚美、多五彩燒色、他如㆘心有㆓壇字㆒白甌㆖、所謂壇琖是也。

【壇墠】14（ダンセン） 祭壇。壇は、土を築いて高くすること。墠は、地を掃除して清らかにすること。〔書、金縢〕爲㆓三壇㆒同㆑墠。〔傳〕壇、築㆑土、墠、除㆑地、大除㆑地、於㆑中爲㆓三壇㆒。〔釋文〕壇、築㆑土也、馬云、土堂。〔禮、祭法〕一壇一墠。〔論語、先進〕浴㆓乎沂㆒、風㆓乎舞雩㆒。〔集注〕舞雩、祭㆑天禱㆑雨之處、有㆓壇墠樹木㆒也。〔風俗通、正失〕禪謂㆓壇墠㆒。

【壇場】15（ダンヂヤウ） ㊀祭禮を行ふために設けた一段高い所。壇兆。〔國語、楚語下〕屛攝之位、壇場之所、上下之神、氏姓之出。〔韓非子、內儲說上〕爲㆓壇場大水之上㆒。〔史記、封禪書〕增㆓廣壇場珪幣俎豆㆒。㊁大將を拜するために土を高く盛つた所。登㆑壇拜㆑將(23)を見よ。㊂［佛］佛の教を說く所。〔柳宗元、南嶽般舟和尙第二碑〕由㆓其壇場㆒而出者、爲㆑得㆓正法㆒。

【壇兆】16（ダンテウ） 壇場の㊀に同じ。〔後漢書、祭祀志中〕上至㆓泰山㆒、修㆓光武山南壇兆㆒。

【壇坫】17（ダンテン） ㊀會盟の場所。〔史記、魯仲連傳〕枝㆓桓公之心於壇坫之上㆒。㊁tʻan^2 tien^4 外交場裡。

【壇土】18（ダンド） 糞土。〔韓詩外傳、二〕內明㆓於去就之義㆒、出見㆓羽蓋龍旂旃裘相隨㆒、視㆑之如㆓壇土㆒矣。〔趙校語〕御覽三百八十八引作㆓糞土㆒。

【壇頭】19（ダントウ） 島の名。浙江省南田縣の東北の海中。一名、莽宅克島。

【壇曼】20（ダンマン） 平でひろい。〔司馬相如、子虛賦〕案衍壇曼。〔注〕善曰、司馬彪曰、壇曼、平博也。

【壇漫】21（ダンマン） 廣大なさま。〔揚雄、甘泉賦〕平原唐其壇漫兮、列㆓新雉於林薄㆒。〔注〕翰曰、壇漫、廣大貌。

【壇列】22（ダンレツ） 野外の衆士を整列させて誓告する處。〔國語、吳語〕王乃之㆓壇列㆒、鼓而行㆑之。〔注〕壇在㆑野、所㆘以講㆓列士衆㆒誓告㆖之處。

【登㆑壇拜㆑將】23（ダンニノボツテシヤウヲハイス） 式場の壇に登って大將を拜命する。登壇（**7－22668・・101**）の㊁を見よ。〔史記、淮陰侯傳〕蕭何曰、王素慢無㆑禮、今拜㆓大將㆒、如㆑呼㆓小兒㆒耳、此乃信所㆓以去㆒也、王必欲㆑拜㆑之、擇㆓良日㆒、齋戒設㆓壇場㆒、具㆑禮乃可、王許㆑之。

【⿰土詹】5529 セン 〔集韻〕昌豔切 豔

おほふ。〔玉篇〕⿰土詹、蔽也。

【壈】5530 ラン 〔集韻〕盧感切 感

㊀坎壈は、志を得ないさま。たひらでないさま。〔集韻〕壈、坎壈、不㆑平、一曰、失㆑志也。㊁廩（**4－9515**）に通ず。〔楚辭、宋玉、九辯〕坎廩兮貧士失㆑職而志不㆑平、〔集注〕廩、一作㆑壈。㊂或は壈（**3－5600**）に作り、通じて轗（**10－38557**）に作る。〔集韻〕壈、或作㆑壈、通作㆑轗。

【⿰土⿱⿱亠⿱丷冖男】5531 バン ⿱⿱亠⿱丷冖男（**5－14056**）に同じ。〔集韻〕⿰土⿱⿱亠⿱丷冖男、或从㆑⿱⿱亠⿱丷冖男。

【壉】5532 キョ ゴ 〔集韻〕其據切 御

地名。〔集韻〕壉、地名。

【⿰土⿱⿱亠口⿱冖土】5533 タイ 臺（**9－30161**）の古字。〔字彙補〕⿰土⿱⿱亠口⿱冖土、古文臺字。

【⿱⿱亠口⿱冖土】5534 ダウ 堂（**3－5207**）の籀文。〔說文〕⿱⿱亠口⿱冖土、籀文堂、从㆑尚京省聲。

【⿱將土】5535 シヤウ 〔篇海類編〕子兩切 養

ふさぐ。〔篇海類編〕⿱將土、塞也。

【⿰土盍】5536 アイ 壒（**3－5555**）に同じ。〔字彙補〕⿰土盍、與㆑壒同、⿰土盍村、地名、見㆓黃淳父集㆒。

【⿱⿰𠂤㒸土】5537 タイ ヅイ 〔篇海類編〕徒回切 灰

土地。〔篇海類編〕⿱⿰𠂤㒸土、土地也。

【墕】5538 タウ トウ 〔字彙補〕都老切 晧

とりで。〔字彙補〕墕、堡也。

【⿰土⿰⿱臼工殳】5539 キ 毀（**6－16661**）の俗字。〔字彙補〕⿰土⿰⿱臼工殳、俗毀字。

【⿰土⿱宀眞】5540 テン 塡（**3－5355**）の俗字。〔龍龕手鑑〕⿰土⿱宀眞、俗塡字。

【堀】5541 コツ コチ 〔集韻〕苦骨切 月

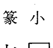
㊀**兎のあな。**〔說文〕堀、兎堀也、从㆑土屈聲。㊁窟（**8－25552**）に通ず。〔小爾雅、廣獸〕兎之所㆑息、謂㆓之窟㆒。㊂堀（**3－5205**）に通ず。〔文子、貴德〕兎走歸㆑堀。

【壊】5541′ クワイ 壞（**3－5590**）の略字。

十四畫

【壍】5542 ザン 塹（**3－5394**）に同じ。〔玉篇〕壍、同㆑塹。

【⿰土㬎】5543 🈩チフ 〔集韻〕敕立切 緝 🈔テフ デフ 〔集韻〕直涉切 葉

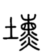

小篆

🈩㊀**地がひくい。おちいる。**〔說文〕⿰土㬎、下入也、从㆑土㬎聲。㊁**あぜ。うね。**〔說文通訓定聲〕田塍埒謂㆓之⿰土㬎㆒、畦界曰㆑下、猶㆓壇高曰㆑深也。㊂埳⿰土㬎は、㋑土を累ねる。ます。〔類篇〕埳⿰土㬎、累㆑土也。㋺樹枝の相重なるさま。〔左思、吳都賦〕埳⿰土㬎鱗接。〔注〕向曰、埳⿰土㬎、相重疊貌。🈔㊀**しづむ。**〔類篇〕⿰土㬎、墊也。㊁**みのる。**〔類篇〕⿰土㬎、賈思勰曰、秋田⿰土㬎實。

【⿱臧土】5544 サウ 臧（**9－30083**）の籀文。〔正字通〕⿱臧土、籀文臧。

【⿰土臧】5545 サウ ⿱臧土（**3－5544**）に同じ。〔字彙補〕⿰土臧、同㆑⿱臧土。

【壎】5546 🈩ケン クワン 〔集韻〕許元切 元 🈔クン 〔集韻〕許云切 文 🈪クン 〔集韻〕吁運切 問


小篆

🈩🈔㊀**樂器の名。つちぶえ。**八音の土にあたる。〔說文〕壎、樂器也、㠯㆑土作、六空、从㆑土熏聲。〔呂覽、仲夏〕調㆓竽笙壎篪㆒。〔注〕壎、以㆑土爲㆑之、大如㆓鴈子㆒、其上爲㆓六孔㆒。㊁塤（**3－5360**）に同じ。〔詩、小雅、何人斯〕伯氏吹㆑壎。〔傳〕土曰㆑壎。〔疏〕壎、周禮小師職、作㆑塤、古今字異耳。🈪**はち。わん。**〔集韻〕壎、盂也。

【壎篪】1（ケンチ） 笛の屬。壎は土で作り、叫ぶやうな聲を出す。篪は竹で作り、小兒の啼く聲に似てゐる。塤篪。壎篪相和を見よ。〔禮、樂記〕聖人作㆓爲鞉鼓椌楬壎篪㆒。〔呂覽、仲夏〕調㆓竽笙塤篪㆒〔禰衡、鸚鵡賦〕若㆓壎篪之相須㆒。

【壎篪相和】2（ケンチアヒワス） 仲の善い兄弟の喩。〔詩、小雅、何人斯〕伯氏吹㆑壎、仲氏吹㆑篪。〔傳〕土曰㆑壎、竹曰㆑篪。〔箋〕伯仲、喩㆓兄弟㆒也、我與㆑女、恩如㆓兄弟㆒、其相應和如㆑壎如㆑篪、以言㆘俱爲㆓王臣㆒、宜㆗相親愛㆖。〔文中子、天地〕剛柔清濁、各有㆓端序㆒、音若㆓壎篪㆒。

【壎民】3（ケンミン） 國の名。〔山海經、大荒東經〕有㆓壎民之國㆒。

【如㆑壎如㆑篪】4（ケンノゴトクチノゴトシ） 壎篪相和（2）に同じ。〔詩、大雅、板〕天之牖民、如㆑壎如㆑篪。〔傳〕如㆑壎如㆑篪、言㆓相和㆒也。

【壆】5547 ヨ 〔集韻〕羊洳切 [御]

高く平らなところ。原。〔玉篇〕壆、高平也。

【⿰土僕】5548 ハク 墣(3－5464)の俗字。〔正字通〕⿰土僕、俗墣字。

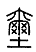
【⿱敲土】5549 カウ 墽(3－5508)に同じ。〔正字通〕⿱敲土、同㆑墽。

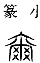
【壏】5550
[一]カン 〔集韻〕虎覽切 [感]
[二]カン ゲン 〔集韻〕戶黤切 [豏]
[三]ラン 〔集韻〕盧瞰切 [勘]

[一][二]かたい土。或は⿱監木(6－15746)に作る。〔集韻〕⿱監木、堅土也、或作㆑壏。〔正字通〕壏、周禮通作㆑⿱監木。〔管子、地員〕纑土之次曰㆓五壏㆒、五壏之狀、芬焉若㆑糠以肥。[三]壏埮は、地が平で長い。〔集韻〕壏、壏埮、地平而長。

【⿱監土】5551 カン ⿱監木(6－15746)に同じ。〔廣韻〕⿱監土、⿱監土土、地之堅也、⿱監木、上同。

【壐】5552 シ 〔集韻〕想氏切 [紙] [慣]ジ


小篆


籀文

❶王者のしるし。印。〔說文〕壐、王者之印也、吕㆑主㆑土、从㆑土爾聲。〔段注〕蓋古者尊卑通㆑偁、至㆓秦漢而後㆒、爲㆓至尊之偁㆒、許此語擧㆓漢制㆒也。〔說文通訓定聲〕壐、用㆑印以㆑泥、故从㆑土。❷璽(7－21309)に同じ。〔說文〕璽、籒文从㆑玉。

【⿰土遣】5553 ケン 〔集韻〕去演切 [銑]

小さいをか。〔集韻〕⿰土遣、土塠也。

【壑】5554 カク 〔集韻〕黑各切 [藥] ㄏㄜˋ hê4 [慣]ガク

❶みぞ。〔孟子、滕文公上〕擧而委㆓之於壑㆒。〔注〕壑、路旁坑壑也。〔國語、晉語八〕谿壑可㆑盈。〔注〕壑、溝也。❷ほり。からぼり。〔爾雅、釋詁〕壑、虛也。〔注〕城池空者爲㆑壑。〔詩、大雅、韓奕〕實㆑墉實㆑壑。〔釋文〕壑、城池也。❸たに。〔張衡、西京賦〕陵㆑巒超㆑壑。〔注〕薛曰、壑、阬谷也。❹あな。〔禮、郊特牲〕水歸㆓其壑㆒。〔注〕壑、猶㆑坑也。〔疏〕壑、坑坎也。❺いはや。〔左氏、襄、三十〕吾公在㆓壑谷㆒。〔注〕壑谷、窟室。❻叡(2－3205)に同じ。〔說文〕叡、溝也、云云、或从㆑土。

[名乘]タダ。アキラ。

【壑溝】1 hê4 kou1 溝渠。濠。

【壑谷】2 ガクコク あなぐら。地下室。窟室。〔左氏、襄、三十〕鄭伯耆㆑酒、爲㆓窟室㆒而夜飮㆑酒擊㆑鐘焉、云云、朝者曰、公焉在、其人曰、吾公在㆓壑谷㆒。

【壑底】3 hê4 ti3 谷底。濠の底。

【壑珉】4 ガクミン かたい石。〔范成大、詩〕百代考㆓壑珉。

【掘㆑壑而附㆑丘】5 ガクヲホリテキウニツク 深い壑を更にほり、高い丘に更に重ねる。〔六韜、文韜、守土〕無㆓掘㆑壑而附㆑丘、無㆓舍㆑本而治㆑末。

【壒】5555

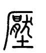
小篆

[一]アイ 〔集韻〕於蓋切 [泰]
[二]カイ 〔集韻〕丘蓋切 [泰]

[一][二]❶つちけむり。〔說文新附〕壒、塵也、从㆑土蓋聲。〔韓愈、秋雨聯句〕幽泥化㆓輕壒㆒。❷堨(3－5264)に通ず。〔班固、西都賦〕軼㆓埃壒之混濁㆒。〔注〕善曰、堨、與㆑壒同。

【⿱聚土】5556 セイ 埾(3－5203)に同じ。〔集韻〕埾、或不㆑省。

【壓】5557


小篆

[一]アフ エフ 〔集韻〕乙甲切 [洽] ㄧㄚ ya1·4
[二]エフ 〔集韻〕益涉切 [葉]
[三]デフ ネフ 〔集韻〕諾協切 [葉]
[四]エン 〔集韻〕於琰切 [琰]
[五]エン 〔集韻〕於豔切 [豔]
[慣]アツ

[一]❶くづす。くづれる。〔說文〕壓、壞也、从㆑土厭聲。〔段注〕此與㆓厂部厭㆒、義絕不㆑同、而學者多不㆑能㆑辨、廣韻厭下云、鎭也、降也、笮也、乃皆厭之訓也。❷ふさぐ。〔說文〕壓、一曰、塞補也。❸つく。〔廣雅、釋詁三〕壓、著也。❹おさへる。抑(5－11883)に通ず。〔說文通訓定聲〕壓、叚借爲㆑抑、壓・抑雙聲。〔楚辭、大招〕擧㆑傑壓㆑陛。〔注〕壓、抑也。❺しづめる。〔廣雅、釋言〕壓、鎭也。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕傷㆓壓次而不㆑發兮。〔注〕壓、鎭壓也。❻くだす。〔公羊、文、十四〕子以㆓大國㆒壓㆑之。〔注〕壓、服也。❼せまる。ちぢめる。厭(2－3025)に通ず。〔說文通訓定聲〕壓、叚借爲㆑厭。〔一切經音義、十七〕壓、窄也。〔左氏、襄、三十一、僑將厭焉、釋文〕厭、本又作㆑壓。〔江總、皇太子太學講碑〕雲飛風起、追㆓壓漢帝之辭㆒。❽ころす。戕(5－11556)に通ず。〔說文通訓定聲〕壓、叚借爲㆑戕。〔戰國、齊策〕刑㆑馬壓㆑羊。〔注〕壓、殺也。❾かなふ。協(2－2742)に通ず。〔說文通訓定聲〕壓、叚借爲㆑協、繁陽令楊君碑、克壓㆓帝心㆒。❿[現]質入れすること。滿洲の錦州附近の方言。押字と通用。[二]❶ふせる。〔類篇〕壓、伏也。❷あはせる。〔類篇〕壓、合也。[三]おす。一指でおさへる。擪(5－12867)に通ず。〔莊子、外物〕壓㆓其顪㆒。〔釋文〕壓、本亦作㆑擪、云云、字林云、擪、一指按也。[四]ふさぐ。〔集韻〕壓、塞也。[五]ふせる。偃(1－830)に通ず。〔說文通訓定聲〕壓、叚借爲㆑偃。〔集韻〕壓、伏也。

【壓按】1 アフアン おさへる。抑按。壓桉。〔楚辭、宋玉、九辯〕然中路而迷惑兮、自厭按而學㆑誦。〔注〕弭㆑情定㆑志、吟㆓詩禮㆒也。〔集注〕厭、一作㆑壓、並益涉反、按、字從㆑手、云云、厭按、皆抑止之意。〔補注〕集韻、壓、益涉切、按也、桉、與㆑按同、抑也、止也。

【壓韻】2 アフイン 韻をふむ。押韻。〔彥周詩話〕黃魯直作㆑詩、用㆑事壓㆑韻、皆超妙出㆓人意表㆒。

【壓角】3 アフカク 詔書を出す時、庭に褥をしき、その隅に大臣が立つこと。〔朝野雜記〕舍人院每㆑知㆓制誥㆒、設㆓素褥于北庭㆒、面㆑北拜、閤老立㆓褥之東北㆒、謂㆓之壓角㆒。

【壓架】4 アツカ ❶たなをおさへつける。たないっぱい。〔李建勳、薔薇詩〕裊露早英濃壓㆑架、背人狂蔓暗穿㆑牆。〔楊萬里、初食㆓大原生葡萄㆒云云詩〕隆冬壓㆑架無㆓人摘㆒、雪打氷封不㆓曾拆㆒。❷ya1 chia4 搾架をいふ。豆腐屋の語。

【壓害】5 ya1 hai4 壓制して害する。

【壓氣】6 ya1 ch'i4 壓力。

【壓驚】7 アツキヤウ 驚きをおさへしづめる。恐ろしい事などに出會つた者に酒食を供して慰め安んずること。〔桯史〕神宗朝、王韶在㆓京師㆒、會㆓元夕張㆑燈、家人皆出觀、幼子南陔、方能言、馮㆑肩以從、姦人利㆓其服裝㆒、竊跡㆓其後㆒、負而趨、南陔覺㆓負者之異㆒、納㆓珠帽于懷㆒、適內家車數乘、將㆑入㆓車華㆒、攀㆑幰呼焉、中大人悅㆓其韶秀㆒、攜㆑之歸、翌早擁至㆓上閤㆒、上問㆓誰氏㆒、竦然對曰、兒韶之幼子也、具道㆓所以㆒、上歎㆓其早慧㆒、密詔㆓開封㆒捕㆑

賊、既獲、乃命載歸、賜㆓壓驚金犀錢果㆒。〔輟耕錄、田夫人〕即令㆓人呼㆑亢至㆒、請㆔公爲脫㆓其枷㆒、且勞以㆑酒云、此一盃與㆑汝壓㆑驚、此一盃與㆑汝慶喜。

【壓境】8 アツキヤウ 國境に迫る。〔公羊、莊、十三〕曹子曰、城壞壓㆑境、君不㆑圖與。

【壓花】9 アツクワ ㊀花をおさへる。〔李賀、夜飲朝眠曲〕薄露壓㆑花蕙園氣。㊁ya^1 hua^1 浮き紋。浮き模樣。

〔壓花紬〕10 ya^1 hua^1 chʻou^2 紋紗綾。浮紋紗綾。

【壓壞】11 ya^1 huai^4 壓し毀す。おしつぶす。

【壓卷】12 アツクワン 卷中第一の詩文。集中の傑作。むかし科擧の最優等の答案を他の答案の上に載せた故事から出た語。〔文章辯體、辨詩〕山谷嘗云、老杜贈㆓韋左丞㆒詩、前輩錄爲㆓壓卷㆒。

【壓契】13 ya^1 chʻi^4 不動產擔保の契約書。

【壓後】14 ya^1 hou^4 後おさへ。しんがり。

〔壓後撥兒〕15 ya^1 hou^4 pê^1 êrh 後を壓迫する。

【壓口】16 ya^1 kʻou^3 おじめ。べそくち。

〔壓口捺子〕17 ya^1 kʻou^3 na^4 tzŭ おじめ。

【壓扠】18 アツサ 錢をまわす戲の名。〔牧豬閒話〕掉㆓兩錢㆒使㆓撇旋㆒、伺㆓其將㆑定、以㆑手捺㆑之、分㆓四門㆒、兩陰、兩陽、其一陰一陽曰㆑扠、內一錢稍赤、赤者得㆑陽曰㆓前扠㆒、得㆑陰曰㆓後扠㆒、壓得者爲㆑勝、疑即古意錢戲之遺制。

【壓載】19 ya^1 tsai^4 船の動搖轉覆を豫防する爲に船底に水や砂や貨物を積み込んで重量を加へること。底荷。そこに。

〔壓載鐵〕20 ya^1 tsai^4 tʻieh^3 壓載に用ひる鐵。

【壓裝】21 ya^1 chuang^1 押し詰める。

〔壓裝滿〕22 ya^1 chuang^1 man^3 押し詰めて山盛りにする。

【壓搾】23 アツサク おししぼる。㊀機械やおもしで押へて汁を絞る。㊁容積を押しつめる。壓縮。

〔壓搾器〕24 アツサクキ 鐵製で上下面に廣狹の凹痕が横列し、合して大小の圓孔となる。栓などを壓搾する。

〔壓搾機〕25 アツサクキ 蒸氣の力で氣體を壓搾する機械。

【壓殺】26 アツサツ おし殺す。〔漢書、外戚上、孝文竇皇后傳〕暮臥㆓岸下㆒百餘人、岸崩、盡壓㆓殺臥者㆒。

【壓山】27 アツザン ㊀山をおさへつける。〔蘇軾、遊㆓徑山㆒詩〕飛樓湧殿壓㆑山破、朝鐘暮鼓驚㆓龍眠㆒。㊁ya^1 shan^1 西に傾く。太陽壓山など。

【壓子】28 ya^1 tzŭ 柱頭。

【壓死】29 アツシ おしつぶされて死ぬ。〔後漢書、順帝紀〕戊戌遣㆓光祿大夫㆒、案㆓行金城隴西㆒、賜㆓壓死㆒者年七歲以上錢㆒人二千。〔十六國春秋、後趙錄、石虎〕水波上騰、津所殿觀莫㆑不㆓傾壞㆒、壓死者百餘人。

【壓紙】30 アツシ ㊀紙をおさへる。〔遵生八牋、鎭紙〕有㆓古銅青綠蝦蟆虛置銅坐㆒、重有㆓斤餘㆒、又有㆓虎蹲銅坐一塑㆒、鑄者乃上古物也、且見㆓必成㆑對、壓㆑紙妙甚。㊁ya^1 chih^3 寺院で葬式の紙を燃すこと。

【壓事】31 ya^1 shih^4 控目にする。

【壓膝】32 アツシツ ひざをおしつける。五寸程の圓平な棒で、拷問の時、犯人を跪かせ、膕上に之を置いて膝を壓する。〔北史、倭國傳〕每訊、寃獄不㆓承引㆒者、以㆑木壓㆑膝。

【壓小】33 ya^1 hsiao^3 市價が下落する。

【壓箱】34 ya^1 hsiang^1 芝居の衣裝箱。

〔壓箱底兒〕35 ya^1 hsiang^1 ti^3 êrh 嫁入道具。

【壓酒】36 アツシユ 釀した米などから酒をしぼり取ること。〔李白、金陵酒肆留別詩〕風吹㆓柳花㆒滿店香、吳姬壓㆑酒勸㆓客嘗㆒。〔羅隱、江南行〕水國多㆑愁又有㆑情、夜槽壓㆑酒銀船滿。

〔壓酒囊〕37 アツシユナウ 慰勞金。官吏に給する慰勞金。〔蘇軾、初到㆓黃州㆒詩〕只慙無㆑補㆓絲毫事㆒、尚費官家壓酒囊。

【壓縮】38 アツシユク おしちぢめる。

【壓書】39 ya^1 shu^1 けいさん。文鎭。

【壓勝】40 アツシヨウ 邪氣などをおさへのぞく。厭勝。

〔壓勝錢〕41 アツシヨウセン 吉語又は吉圖を鑄た錢。福利を得るまじない。厭勝錢。

【壓偁】42 ya^1 chʻêng^4 目方をふむ。分量が多くかかる。壓平頭。壓分兩。

【壓睡】43 ya^1 shui^4 惡夢にうなされる。

【壓制】44 アツセイ むりに從はせる。むりにおさへつける。

【壓聲】46 ya^1 shêng^1 聲をひそめる。

【壓哨】47 アツセウ 軍の後衞。〔桃花扇、和戰〕我作㆓第二隊㆒、總叫㆓鶴州哥哥壓哨㆒罷。

【壓尺】48 アツセキ 文鎭。けいさん。〔遵生八牋、壓尺〕有㆓玉作㆑尺、余見㆓長二尺、厚六分、闊一寸五分者㆒、人云、尺璧爲㆑寶。〔和漢三才圖會、藝財、書鎭〕壓尺、三才圖會云、尺以鎭㆑紙、又名㆓書尺㆒。

【壓石】49 アツセキ 石でおさへる。又、おもし。重石。〔溪蠻叢笑〕漚榔、牛榔、本多㆑漿、苗猺歲飢、則先以㆑火窨㆑地、握㆑根置㆓窨中㆒、壓以㆑石、又用㆑水漚熟、搗作㆓餅餌㆒、名㆓漚榔㆒。〔范成大、次㆓韻子文㆒詩〕但促㆓小槽㆒添㆓壓石㆒、龍頭珠滴夜珊珊。

【壓脊】50 ya^1 chi^3 脊を屈げる。屈從する。

〔壓脊塼〕51 アツセキセン むながはら。脊は棟。

【壓線】52 アツセン 針をつかふ。縫ふ。〔秦韜玉、貧女詩〕苦恨年年壓㆓金線㆒、爲㆓他人㆒作㆓嫁衣裳㆒。

【壓牋】53 ya^1 chien^4 いやがられる。人の嫌はれ者。

【壓塼】54 アツセン 茶の名。〔梅堯臣、志來上人寄㆓酴醾花幷壓塼茶㆒有㆑感詩〕又置新茶采雨前、烏觜壓塼雲色弄。

【壓租】55 アツソ 清の制度で、東三省で開墾地を下附する場合に地代として徵收する租稅。壓は豫の意で、無代で下附すべきものを豫め徵收するからいふ。

【壓塞】56 アツソク おさへふさぐ。〔後漢書、王渙傳〕爲㆓洛陽令㆒、以㆓平正㆒居㆑身、得㆓寬猛之宜㆒、其寃嫌久訟、歷政所㆑不㆑斷、法理所㆑難㆑平者、莫㆑不㆘曲㆓盡情詐㆒、壓㆗塞羣疑㆖。

【壓腿】57 ya^1 tʻui^3 腰掛けた人が片足を一方の足の上に載せること。滿洲の方言。

【壓黛】58 ya^1 tai^4 銀釵をいふ。銀器商の隱語。

【壓倒】59 アツタウ おさへつける。おしたふす。屈服させる。〔黃庭堅、病起荊江亭即事詩〕壓㆓倒江南好事僧㆒。〔宋濂、次㆓劉經歷㆒詩〕他生勁氣類㆓松伯㆒、壓倒柔脆千蒹葭。

【壓桌】60 ya^1 chuo^1 中華料理に於ける正式獻立の定品。四冷・四葷・四鮮・四素の各菜。

【壓塌】61 ya^1 tʻa^1 重みで押し倒す。

【壓搨】62 アツタフ いつぱい。〔紅樓夢、二十二回〕箱子底壓搨。

【壓紐】63 アツチウ 璧の紐の上に立つ。王位に登るしるし。楚の共王の末子の故事。〔左氏、昭、十三〕初共王無㆓冢適㆒、有㆓寵子五人㆒、無㆓適立㆒焉、乃大有㆑事㆓于群望㆒、而祈曰、請神擇㆓於五人者㆒、使㆑主㆓社稷㆒、乃徧以㆑璧見㆓於羣望㆒曰、當㆑璧而拜者、神所㆑立也、誰敢違㆑之、既乃與㆓巴姬㆒密埋㆓璧於大室之庭㆒、使㆓五人齊而長入拜㆒、云云、平王弱、抱而入、再拜皆壓㆑紐。〔史記、楚世家〕再拜壓㆑紐。〔論衡、吉驗〕壓㆑紐若㆔神將㆓教跽㆑之矣。〔劉峻、辨命論〕撫㆑鏡知㆓其將㆑刑、壓㆑紐顯㆓其膺㆑錄。

【壓鈕】64 アツチウ 壓紐に同じ。〔册府元龜〕房玄齡對㆓太宗㆒曰、大王功蓋㆓天地㆒、事鍾㆓壓鈕㆒。

【壓軸】65 ya^1 chou^2 芝居の最後の一劇。大切り。打出し。壓冑子。

〔壓軸戲〕66 ya^1 chou^2 hsi^4 最後の一幕。最も上出來の劇。

【壓徵】67 アツチヨウ 期限前に徵收する。〔六部成語註解〕壓、預也、此月預徵㆓下月應交之款㆒、曰㆓壓徵㆒。

【壓條】68 アツデウ 枝の一部を土中におさへ埋めて根の生じた時に分植する法。とりき。〔花鏡〕壓條分栽。

【壓溺】69 アツデキ おしつぶされ、おぼれる。〔論衡、氣壽〕所㆑當㆓觸値㆒、謂㆓兵燒壓溺㆒也。〔後漢書、安帝紀〕詔賜㆓壓溺死者年七歲以上錢㆒、人二千。〔柳宗元、弔㆓萇弘㆒文〕壓溺之不㆑慮兮。

【壓冬】70 アツトウ マニラで、土着した中國人をいふ。〔尤侗、呂宋竹枝詞〕。

【壓頭】71 アツトウ 頭をおさへつける。頭をおす。〔蘇軾、和㆔劉長安題㆓薛周逸老亭㆒周善飲未㆓七十㆒致仕詩〕至㆑今清夜夢、尚驚冠壓㆑頭。

【壓毒】72 ya^1 tu^2 咒ふ。咒咀する。

【壓捺】73 アツナツ おしつける。〔白居易、微之重誇㆓州居㆒云云詩〕壓捺潮頭敵㆓子胥㆒。

【壓派】74 ya^1 pʻai^4 無理に命ずる。

【壓寶】75 アツパウ 賭博の一種。一名、搖攤。〔牧猪閒話〕。

【壓迫】76 アツパク おさへつける。窮せしめる。

【壓髮】77 ya^1 fa^3 簪をいふ。質屋の隱語。

【壓尾】78 アツビ 終り。とどめ。最終。大尾。〔楊萬里、

詩〕壓尾桐花也作レ塵。

【壓鬢】79（アツビン）鬢をおさへる。たぼどめ。〔段成式、戲二高侍御一詩〕詐嫌嚼貝磨レ衣鈍、私帶男錢壓レ鬢低。

【壓風】80 ya¹ fêng¹ 袍をいふ。衣服店の語。

〔壓風條〕81 ya¹ fêng¹ t'ao¹ 轎の四隅に垂れた縧。

【壓伏】82（アツプク）押へつける。むりに服從させる。

【壓服】83（アツプク）壓伏に同じ。

【壓平】84 ya¹ p'ing² おさへて平らにする。

〔壓平頭〕85 ya¹ p'ing² t'ou 壓侮（42）に同じ。壓分兩。

【壓匾】86 ya¹ pien⁴ 壓しつけて扁平にする。

【壓滿】87 ya¹ man³ 一杯につめこむ。

【壓面】88 ya¹ mien⁴ へんみ。假面の名。

【壓羊】89（アツヤウ）羊を殺す。〔戰國、齊策〕齊衞先君、刑レ馬壓レ羊盟曰、齊衞後世無二相攻伐一。

【壓油】90（アツユ）油をしめる。〔本草、胡桃〕胡桃青皮、志曰、仙方取二青皮一、壓レ油和二詹糖香一、塗二毛髮一色如レ漆也。

【壓抑】91（アツヨク）おさへる。〔李商隱、唐容州經略使元結文集後序〕其詳緩柔潤、壓二抑趨儒一、如下以二一國一買中人一笑上、如下以二萬世一換中人一朝上。

【壓量】92 ya¹ liang² おさへる。壓迫する。

【壓糧】93 ya¹ liang² 兵の死亡を報告せず、毎月其の給料手當を私すること。

【壓力】94（アツリヨク）おす力。物體が他の物體をおす力。

【壓力計】95（アツリヨクケイ）氣體の壓力を計る器械。

〔壓力變質〕96（アツリヨクヘンシツ）地殼の壓力によつて、岩石が變質すること。

【壓路】97 ya¹ lu⁴ ❶道路をローラーで固める。❷鐵道線路の上に敷く小石の類。

【壓往】98 ya¹ wang³ 無理に行かせる。

【壓衣刀】99 ya¹ i¹ tao¹ 守り刀。

【壓腰兒】100 ya¹ yao¹ êrh 嫁入道具。

【壓金線】101 ya¹ chin¹ hsien⁴ 金線の縫ひ。金の細線をうづめて飾にする細工。

【壓荒銀】102（アツクワウギン）荒蕪地を下付する時に地代として徵收する銀。壓租（55）に同じ。

【壓根兒】103 ya⁴ kên¹ êrh 根本を妨げる。

【壓歲錢】104（アツサイセン）除夜に一家の尊長が小兒に分け與へる錢。又、綵繩で穿つて龍の形を作り牀脚に結びつける錢。北京地方の風習。〔燕京歲時記、壓歲錢〕以二綵繩一穿レ錢、編二作龍形一、置二於牀脚一、謂二之壓歲錢一。尊長之賜二小兒一者、亦謂二之壓歲錢一。

【壓歲盤】105（アツサイバン）除夕の夜、小兒女のある家で果物食物を取り雜ぜて盛り、互に贈答する盤盒。〔夢粱錄、除夜〕是日、內司意思局、進二呈精巧消夜果子合一、合內簇二諸般細果時果蜜煎糖煎及市食如十般糖澄沙糰韻果蜜姜豉皁兒糕蜜酥小鮑螺酥市糕五色萁豆炒槌栗銀杏等品一、及排二小巧玩具頭兒牌兒貼兒小酒器上插一。

【壓手桮】106（アツシユヒ）かめの名。明の永樂窯。二匹の獅子が毬をもつ圖があつて大明永樂年製と刻してある。

【壓水櫃】107 ya¹ shui³ kuei⁴ 水壓機。

【壓寸頭】108 ya¹ ts'uen⁴ t'ou² 烟管をいふ。蛇捕乞食の隱語。

【壓臺戲】109 ya¹ t'ai² hsi⁴ 壓軸（65）に同じ。芝居の大切り。

【壓冑子】110（アツチウシ）壓軸（65）に同じ。〔梨園佳話〕能使二人不レ去者、謂二之掛座一、能於二末齣登場一、而人皆耐而相待者、謂二之壓冑子一、冑子者、武戲也、武戲能戀レ人、而欲下以二唱工一加中勝武劇上。

【壓不倒】111 ya¹ pu tao³ おきあがりこぼうし。南支那地方の語。

【壓分兩】112 ya¹ fen⁴ liang 壓侮（42）に同じ。目方をふむ。壓平頭。

【壓木法】113（アツボクハフ）木の枝を屈し、土を覆うておき、其處から根が出た時に移植する法。

【壓囉囉】114 ya¹ lo² lo² 群衆が押し合ひへし合ひする。混雜の形容。

【壓寨夫人】115（アツサイフジン）盜賊の頭目の妻。來寨夫人。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕道你眉黛青顰、蓮臉生レ春、似二傾國傾城的太眞一、要三擄レ你做二壓寨夫人一、孩兒、怎生是了也。

【壓枝天子】116（アツシテンシ）茘枝（**9**－**30865**‥9）の異名。〔事物異名錄、果蓏、茘枝〕淸異錄、閩士臨川人、會京師各擧二鄉產一、閩士曰、我土茘枝、眞壓枝天子・釘坐眞人、天下安有二並駕者一。

【壔】5558　タウ／トウ　〔集韻〕覩老切　皓

小篆

❶**とりで**。⿰土𠷎（**3**－**5500**）に同じ。〔集韻〕⿰土𠷎、或从レ壽。〔說文〕⿰土𠷎、保也、从レ土𠷎聲、讀如レ毒。❷**つか**。**をか**。〔說文〕⿰土𠷎、一曰、高土也。❸**つつみ**。〔廣雅、釋宮〕壔、隄也。❹禱（**8**－**24852**）に通ず。〔呂覽、疑似〕周人爲二高葆禱於王路一、置二鼓其上一、遠近相聞。〔集釋〕兪樾曰、禱字、當レ讀爲レ壔。邦**つつ**。圓壔形。

【壕】5559　カウ／ゴウ　〔集韻〕乎刀切　ㄏㄠˊ hao²　豪

❶**ほり**。城をとりかこむほり。〔玉篇〕壕、城壕也。〔集韻〕壕、城下池。〔許渾、登二故洛陽城一詩〕鴉噪二暮雲一歸二古堞一、雁迷二寒雨一下二空壕一。❷通じて濠（**7**－**18502**）に作る。〔集韻〕壕、通作レ濠。

【壕坑】1 hao² k'êng¹ 濠。溝渠。

【壕溝】2 hao² kou¹ 城濠。みぞ。

【壕側】3（ゴウソク）城下のほりのそば。〔謝朓、新治二北窗一和二何從事一詩〕不レ見二城壕側一、思レ君朝夕頃。

【壖】5560　ゼン／ネン　〔集韻〕而宣切　先

❶**廟や宮殿の內牆と外垣との間の空地**。〔史記、漢興以來諸侯王年表〕坐下侵二廟壖垣一爲上レ宮。〔注〕索隱曰、壖垣、廟境外之墟壖邊也。〔史記、五宗世家〕坐下侵二廟壖垣一爲上レ宮。〔注〕索隱曰、服虔云、宮外之餘地、顧野王云、牆外行レ馬內田、音人緣反、又音軟、又音奴亂反、壖垣、牆外之短垣也。〔漢書、食貨志上〕以二離宮卒一、田二其宮壖地一。〔注〕師古曰、壖、餘也、宮壖地、謂二外垣之內、內垣之外一也、諸緣レ河壖地、廟垣壖地、其義皆同。❷**城郭にそつた空地**。〔後漢書、桓帝紀〕可下於二官壖地一葬上レ之。〔注〕壖、官之餘地也、前書音義曰、壖、城郭旁地。❸**河川のふちの土地**。〔史記、河渠書〕盡二河壖棄地一。〔注〕集解曰、韋昭曰、壖、謂下緣二河邊一地上。❹堧（**3**－**5263**）に同じ。〔正字通〕堧、同レ壖。❺⿰田耎（**7**－**21910**）に同じ。〔集韻〕⿰田耎、說文、城下田也、一曰、⿰田耎郤也、一曰、游地、或作二⿰田需・堧・壖一。

【壖垣】1（ゼンエン）內牆外の空地にめぐらした垣。堧垣。字解の❶を見よ。

【壖地】2（ゼンチ）あき地。堧地。字解の❶❷を見よ。

【⿱艹塗】5561　ト

途（**11**－**38882**）に同じ。〔字彙補〕⿱艹塗、同レ途。

【⿰土夢】5562　ボウ／ムウ　〔集韻〕謨中切　東

さは。〔集韻〕⿰土夢、澤也。

【⿰土匱】5563　㊀キ／ギ　〔集韻〕渠龜切　支　㊁キ／ギ　〔集韻〕求位切　寘

㊀**九方に通ずる道**。馗（**12**－**44492**）に同じ。〔集韻〕馗、說文、九達道也、或作レ⿰土匱。㊁**もりつち**。〔集韻〕⿰土匱、累土。

【⿰土巤】5564　レフ　〔集韻〕力涉切　葉

土のさま。〔集韻〕⿰土巤、土皃。

【𡔇】5565
シ　懫(4－11406)の古字。〔集韻〕懫、古作レ𡔇。

【𡔃】5566
音未詳　山神の姓。〔太清金液神氣經〕北獄姓𡔃。

【𡓿】5567
ジュク　熟(7－19332)の古字。〔集韻〕熟、古作レ𡓿。

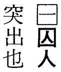
【𪣹】5568
ガイ　墍(3－5423)に同じ。〔篇海類編〕𪣹、與レ墍通。

【𡓮】5569
ボウ ム　〔篇海類編〕莫弄切　送

くさぎる。〔篇海類編〕𡓮、芸穀也。

【𡓳】5570
ヒン　殯(6－16596)に同じ。〔篇海類編〕𡓳、同レ殯。

【𡔌】5571


小篆

㊀クヮツ ゲチ　〔集韻〕戶八切　黠
㊁コツ コチ　〔集韻〕苦骨切　月

㊀**囚人が脫出する。**〔說文〕𡔌、囚突出也、从レ土叡聲。㊁**突き出る。**〔集韻〕𡔌、突出也。

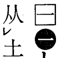
十五畫

【𡔈】5571′
チン　塵(3－5288)に同じ。〔字彙補〕𡔈、同レ塵。

【壥】5572
テン　廛(4－9483)の俗字。〔正字通〕壥、俗廛字。

【𡒄】5573
チ　墜(3－5473)に同じ。〔正字通〕𡒄、同レ墜。

【壘】5574


小篆

㊀ルイ　〔集韻〕魯水切　紙　ㄌㄟˇ lei³
㊁キ　〔集韻〕艮斐切　尾
㊂ライ　〔集韻〕盧對切　隊
㊃ライ　〔集韻〕魯猥切　賄
㊄ルイ　〔集韻〕倫追切　支
㊅リツ リチ　〔集韻〕列戌切　質　ㄌㄩˋ lü⁴

㊀❶**とりで。**〔說文〕壘、軍壁也、从レ土畾聲。〔禮、曲禮上〕四郊多レ壘。〔注〕壘、軍壁也。〔左氏、文、十二〕請深レ壘固レ軍。〔疏〕壘、壁也、軍營所レ處、築レ土自衞、謂レ之爲レ壘。❷**つむ。かさねる。**絫(8－27439)に通ず。〔說文通訓定聲〕壘、叚借爲レ絫。〔廣雅、釋詁一〕壘、積也。〔廣雅、釋詁四〕壘、重也。❸**姓。**〔正字通〕姓、後趙壘澄、晉梓潼太守壘錫。㊁**山のさま。**〔集韻〕壘、山皃。㊂**石をころがしおとす。**礧(8－24568)に同じ。〔集韻〕礧、推レ石自レ高而下也、或作レ壘。㊃魁壘は、さかんなさま。〔漢書、鮑宣傳〕耆艾魁壘之士。〔注〕服虔曰、魁壘、壯貌也。㊄**つながる。つづく。かさなる。**纍(8－28039)に通ず。〔說文通訓定聲〕壘、叚借爲レ纍。〔荀子、大略〕不レ憂二其係壘一也。〔注〕壘、讀爲レ纍。〔張載、七哀詩〕北芒何壘壘。〔注〕善曰、壘壘、塚相次之貌。㊅鬱壘は、平かでないさま。㠥(4－8625)に同じ。〔集韻〕㠥、鬱㠥、不レ平皃、或省。

名乘　カサ。タカ。

【壘尉】1 ルイヰ　とりでの役人。〔後漢書、光武紀上〕時有二長人巨無霸一、長一丈、大十圍、以爲二壘尉一。

【壘垣】2 ルイヱン　重なり合つてゐる垣。〔干寶、晉紀總論〕夷二吳蜀之壘垣一。

【壘合】3 ルイガフ　重なり合ふ。〔左氏、哀、九〕宋皇瑗圍二鄭師一、每日遷レ舍壘合。

【壘球】4 lei³ chʻiu²　野球。

【壘虛】5 ルイキヨ　六韜の篇名。

【壘窩】6 lei³ wo¹　鳥が巣をつくること。

【壘塊】7 ルイクワイ　かたまり。わだかまり。心中の不平。〔世說新語、任誕〕王大曰、阮籍胷中壘塊、故須レ酒澆レ之。

【壘口】8 ルイコウ　とりでの入口。〔六韜、犬韜、戰騎〕薄二其壘口一、無レ使レ得レ入。〔宋史、劉子羽傳〕金人已至、距レ營十數里、子羽據二胡床一坐二于壘口一。

【壘砦】9 ルイサイ　とりで。壘壁。壘堡。

【壘塹】10 ルイザン　とりでと濠。〔宋書、柳元景傳〕壘塹未レ立、可下得二平地一決戰上。

【壘舍】11 ルイシヤ　とりでと兵舍。陣屋。〔周禮、夏官、量人〕營二軍之壘舍一。

【壘嶂】12 ルイシヤウ　かさなり峙つてゐる山。〔地理通釋〕重嚴壘嶂、隱レ天蔽レ日。

【壘城】13 ルイジヤウ　❶出まる。とりで。〔資治通鑑、齊紀〕(和帝、中興元年)留二弟偉一摠二府州事一、憺守二壘城一。〔注〕壘城者、築レ壘附二近大城一、猶二今堡寨一也。❷城の名。湖北省襄陽縣の北。〔水經、沔水注〕城北枕二沔水一、卽襄陽縣之故城、楚之北津戍也、今大城西壘是也。〔襄陽縣志〕壘城、築レ壘附二近大城一、猶二今砦堡一、卽水經注所謂西壘也。

【壘石】14 ライセキ ルイセキ　石をころばす。壘は礧(8－24568)に同じ。一說に、積み重なつた石。或は山の名ともいふ。〔漢書、李陵傳〕單于遮二其後一、乘レ隅下二壘石一、士卒多死、不レ得レ行。〔注〕服虔曰、山名也、師古曰、此說非也、言下放レ石以投レ人、因二山隅曲一而下上也、壘、音盧對反。〔補注〕錢大昭曰、云云、石重積而下、高若二軍壁一然、故云二壘石一。

【壘陳】15 ルイヂン　とりで。陣營。〔說苑、指武〕壘陳之次、車騎之處。

【壘培】16 ルイバイ　とりで。〔國語、晉語九〕趙簡子使三尹鐸爲二晉陽一、曰、必墮二其壘培一、吾將レ往焉、若見二壘培一、是見三寅與二吉射一也。〔注〕壘墼曰レ培、荀寅・士吉射、圍二趙氏一所レ作壁壘也。

【壘壁】17 ルイヘキ　とりで。城塞。壘砦。〔墨子、備城門〕復使下卒急爲二壘壁一、以二蓋瓦一復上レ之。〔史記、白起傳〕趙軍築二壘壁一而守レ之。〔說苑、指武〕壘壁已具。

【壘門】18 ルイモン　とりでの門。壁門。〔六韜、虎韜、軍用〕壘門拒守、矛戟小櫓十二具。〔宋書、樂志四〕逋虜畏二天誅一、面縛造二壘門一。

【壘楞】19 ルイリヨウ　池の名。廣西省隆安縣の東南。

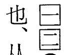
【壘壘】20 ルイルイ　連なりつづくさま。〔張載、七哀詩〕北芒何壘壘。

【壘和】21 ルイワ　壘は陣營、和はその正門。〔潘岳、西征賦〕距二華蓋于壘和一。

【摩レ壘】22 ルイヲマス　敵のとりでをなでる。敵壘をなでる程に接近する意から、詩文などの巧みで、古人や名人に匹敵するのをほめていふ。〔左氏、宣、十二〕許伯曰、吾聞、致レ師者、御靡レ旌、摩レ壘而還。

【壨】5575
ルイ　壘(3－5574)に同じ。〔篇海類編〕壨、同レ壘。

【壙】5576


小篆

㊀クヮウ　〔集韻〕苦晃切　養　ㄎㄨㄤˋ kʻuang⁴
㊁クヮウ　〔集韻〕苦謗切　漾

㊀㊁❶**つかあな。**〔說文〕壙、塹穴也、从レ土廣聲。〔釋名、釋喪制〕壙、曠也、藏二於空曠處一也。〔廣雅、釋邱〕藏謂二之壙一。❷**つか。**〔荀子、大略〕望二其壙一、皐如也。〔注〕壙、邱壠。❸**のはら。原野。**〔孟子、離婁上〕猶二水之就レ下、獸之走レ壙也。❹**むなしい。むなしくする。**曠(5－14245)に通ず。〔管子、七法〕毋レ壙二地利一。〔注〕壙、空也。〔荀子、議兵〕敬謀無レ壙。〔注〕壙、與レ曠同。〔漢書、韋玄成傳〕五世壙僚、至二我節侯一。〔注〕應劭曰、壙、空也。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕託二沈陰一以壙久兮。〔注〕師古曰、壙、與レ曠同。❺懬(4－11408)に通

ず。〔說文通訓定聲〕壙、叚借爲㆑曠。

【壙遠】1 クヮウエン　はるかに遠い。曠遠。〔漢武內傳〕歷世壙遠。

【壙虛】2 クヮウキョ　むなしい。又、空地。荒地。〔管子、五輔〕實㆓壙虛㆒、墾㆓田疇㆒、修㆓牆屋㆒、則國家富。

【壙壙】3 クヮウクヮウ　むなしいさま。がらんとしたさま。野原などのひろびろとしたさま。茫茫。壙埌。〔新書、脩政語下〕天下壙壙、一人有㆑之。

【壙穴】4 クヮウケツ　つかあな。はかあな。墓穴。

【壙襲】5 クヮウシフ　壙壟(9)に同じ。〔春秋繁露、服制〕死則有㆓棺槨絞衾壙襲之度㆒。〔注〕襲、疑是龍字。

【壙中】6 クヮウチュウ　墓穴の中。〔後漢書、靈思何皇后紀〕初平元年二月、葬㆓弘農王於故中常侍趙忠成壙中㆒。

【壙埌】7 クヮウラウ　❶野原の廣いさま。〔莊子、應帝王〕遊㆓無何有之鄉㆒、以處㆓壙埌之野㆒。〔釋文〕崔云、猶㆓壙蕩㆒也。❷つか。〔一切經音義引、通俗文〕丘冢謂㆓之壙埌㆒。

【壙僚】8 クヮウレウ　官位の無いこと。〔漢書、韋玄成傳〕作㆑詩自劾責曰、云云、五世壙僚、至㆓我節侯㆒。〔注〕應劭曰、自㆑孟至㆑賢、五世無㆑官、壙、空也。

【壙壟】9 クヮウロウ　はか。〔管子、立政〕棺槨絞衾壙壟之度。

【壙壠】10 クヮウロウ　壙壟に同じ。〔荀子、禮論〕壙壠其須象㆓室屋㆒也。〔注〕壙、墓中、壠、冢也。

【⿰土巤】5577　レフ　〔集韻〕力涉切　［葉］

土のさま。〔集韻〕⿰土巤、土皃。

【⿱敵土】5578　テキ　ヂヤク　〔集韻〕亭歷切　［錫］

ひめがき。〔類篇〕⿱敵土、堞也。

【⿰土臱】5580　ベン　メン　〔集韻〕民堅切　［先］

地を平らにするもの。〔集韻〕⿰土臱、所㆓以平㆑地。

【⿱⿰食有土】5581　タ　ダ　〔篇海類編〕徒果切　［哿］

おちる。〔篇海類編〕⿱⿰食有土、落也。

【⿰土廢】5582　ハイ　〔集韻〕放吠切　［隊］

さか。つつみ。墢(**3**－**5463**)に同じ。〔集韻〕墢、坺也、或不㆑省。

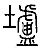
【⿱⿰壴殳土】5583　ケキ　墼(**3**－**5506**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱⿰壴殳土、同㆑墼。

【⿱凷土】5584　クヮイ　凷(**2**－**1807**)に同じ。〔篇海類編〕⿱凷土、同㆑凷。

十六畫

【墤】5585　クヮイ　墤(**3**－**5465**)の本字。〔篇海〕墤、墤本字。

【壚】5586　㈠ロ　〔集韻〕龍都切　［虞］　ㄌㄨˊ lu^{2}　㈡リョ　〔集韻〕淩如切　［魚］


小篆

㈠㈡❶**黑くあらい土。**〔說文〕壚、黑剛土也、从㆑土盧聲。〔漢書、地理志上〕下土墳壚。〔注〕師古曰、壚、謂㆓土之剛黑者㆒也。❷**黃黑色の土。**〔楚辭、劉向、九歎、思古〕倘㆓佯壚阪㆒。〔注〕壚、黃黑色土也。❸**あらい土。**〔周禮、地官、草人〕塡壚用㆑豕。〔注〕塡壚、黏疏者。〔疏〕以㆑塡爲㆑黏、以㆑壚爲㆑疏。❹**ゐろり。**鑪(**11**－**41038**)に通ず。〔後漢書、孔融傳、大鑪不㆑欲㆑令㆓酒酸㆒也、注〕累㆑土爲㆑之、以居㆓酒瓮㆒、四邊隆起、一面高如㆓鍛鑪㆒、故名㆑鑪、字或作㆑壚。❺盧(**8**－**23050**)に通ず。〔說文通訓定聲〕盧、叚借爲㆑壚。〔釋名、釋地〕土黑曰㆑盧、盧然解散也。

【壚埴】1 ロショク　黑い土。〔呂覽、辨土〕壚埴冥色。

【壚邸】2 ロテイ　酒屋。〔梁武帝、移㆓京邑㆒檄〕淫㆓酗

【壚土】3 ドロ　黑い土の土地。醟肆㆒、酣㆓歌壚邸㆒。

【壚頭】4 ロトウ　酒の爛をするゐろりのほとり。又、酒屋。酒屋の店先。〔岑參、送㆓懷州吳別駕㆒詩〕灞上柳枝黃、壚頭酒正香。

【壚鍪】5 ロバウ　壚は酒の爛をするゐろり。鍪は釜。〔剪燈餘話、長安夜行錄〕四時活計、看㆓壚鍪㆒。

【壚坶】6 lu^{2} mu^{3}　砂まじりの地。壤土。

【壛】5587　エン　〔集韻〕余廉切　［鹽］

❶**ちまた。**〔玉篇〕壛、巷也。❷**ねだい。こしかけ。**〔廣韻〕壛、榻也。❸**きざはしの下の石だたみ。**〔楚辭、大招〕曲屋步壛。〔注〕步壛、長砌也。❹**村里の門。**閻(**11**－**41379**)に同じ。〔說文〕閻、里中門也、从㆑門臽聲、壛、閻或从㆑土。

【壜】5588　タン　ドン　〔集韻〕徒南切　［覃］

❶**さかがめ。**〔玉篇〕壜、甀屬。〔品字箋〕壜、酒器、亦作㆑罈、又作㆑甔、俗作㆑坛非。〔陸龜蒙、謝㆓山泉㆒詩〕石壜封寄野人家。〔許渾、夜歸㆓驛樓㆒詩〕橋邊沽㆑酒半壜空。❷また罈(**9**－**28189**)・甔(**7**－**21624**)に作る。❶を見よ。［邦］**びん。**硝子製の器。

【壝】5589　㈠ヰ　ユイ　〔集韻〕愈水切　［紙］　㈡ヰ　〔集韻〕欲鬼切　［尾］　㈢ヰ　ユイ　〔集韻〕夷隹切　［支］　㈣ヰ　〔集韻〕以醉切　［寘］　㈤タ　ダ　〔集韻〕杜果切　［哿］

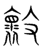
㈠㈡㈢㈣㈤❶**だん。**〔玉篇〕壝、猶㆑壇也。〔周禮、春官、鬯人〕社壝用㆓大罍㆒。〔注〕壝、謂㆔委㆑土爲㆓墠壇㆒、所㆓以祭㆒也。❷**らち。**壇をとりかこむ低い土塀。〔集韻〕壇、邊低垣圍繞者爲㆑壝。〔周禮、地官、大司徒〕設㆓其社稷之壝㆒。〔注〕壝、壇及堳埒也。〔疏〕壝卽堳埒、不㆑云㆑壇、以㆘壝在㆓壇之四面㆒爲㆑之、明中有㆑壇可ㇳ知也、故鄭兼云㆑壇也。

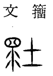
【壝宮】1 ヰキュウ　土の垣をめぐらした宮殿。〔周禮、天官、掌舍〕爲㆓壇壝宮・棘門㆒。〔注〕謂㆘王行止㆓宿平地㆒築㆑壇、又委㆓壝土㆒起㆓堳埒㆒以爲ㇳ宮。

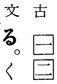
【壝壇】2 ヰダン　だん。壇。〔儀禮、聘禮〕壹肆爲㆓壝壇㆒。

【壝埒】3 ヰラツ　周圍の埒。まはりのかき。〔魏書、禮志〕二年正月、帝親祀㆓上帝于南郊㆒、以㆓始祖神元皇帝㆒配、爲㆑壇通㆓四陛㆒、爲㆓壝埒三重㆒。

【壞】5590　㈠クヮイ　ケ　〔集韻〕古壞切　［卦］　ㄏㄨㄞˋ huai^{4}　㈡クヮイ　ヱ　〔集韻〕胡怪切　［卦］　㈢クヮイ　ケ　〔集韻〕乎乖切　［佳］　㈣クヮイ　グヮイ　〔集韻〕胡罪切　［賄］


小篆


籀文


古文

㈠㈡❶**やぶれる。**くづれる。こはれる。〔說文〕壞、敗也、从㆑土褱聲。〔段注〕敗者毀也、按、毀・壞字、皆謂㆓自毀自

壞㆒、而人毀㆑之人壞㆑之、其義同也、不㆔必有㆓二音㆒。〔增韻〕凡物不㆓自敗㆒而毀㆑之、則古壞切、物自敗、則胡怪切。〔爾雅、釋詁〕壞、毀也。〔釋文〕壞、字林云、自敗也、下怪反。〔論語、陽貨〕禮必壞。〔皇疏〕壞、漸敗之名。❷**やぶる**。くづす。こはす。〔漢書、藝文志〕魯恭王壞㆓孔子宅㆒。❸籒文は𣪠（**5－13430**）に作り、古は𡊁（**3－5331**）に作る。〔說文〕壞、𣪠、籒文壞、从㆑支、𡊁、古文壞、省。❹現㋑くさる。㋺しくじる。㋩わるくなる。㋥假錠灰をいふ。錠灰屋の隱語。🈔**地名**。壞隤（34）を見よ。🈪**やむ**。瘣（**7－22407**）に通ず。〔詩、小雅、小宛〕譬㆓彼壞木㆒。〔傳〕壞、瘣也、謂㆓傷病㆒也。

【壞壓】1（クヮイアツ） おしつぶす。〔唐書、姚崇傳〕壞壓之變。

【壞意】2 huai^{4} i^{4} 惡意。惡心。

【壞垣】3（クヮイエン） やぶれた垣。〔後漢書、光武紀下〕吏人死亡、或在㆓壞垣毀屋之下㆒。

【壞屋】4（クヮイオク） こはれた家。〔韓非子、外儲說左上〕夫不㆑謀㆓治強之功㆒、而艷㆓乎辯說文麗之聲㆒、是郤㆓有術之士㆒、而任㆓壞屋折弓㆒也。〔論衡、偶會〕壞屋所㆑壓。

【壞行】5 huai^{4} hsing^{2} 惡い行爲。

【壞毀】6（クヮイキ） やぶれそこなふ。壞隳。

【壞隳】7（クヮイキ） やぶれそこなふ。〔呂覽、孟夏〕繼㆑長增㆑高、無㆑有㆓壞隳㆒。

【壞朽】8（クヮイキウ） やぶれくちる。

【壞宮】9（クヮイキウ） こはれた宮殿。〔鮑溶、隋宮詩〕煬帝春游古城在、壞宮芳草滿㆓人家㆒。

【壞潰】10（クヮイクヮイ） いたみやぶる。〔後漢書、趙壹傳〕關節疢動、膝灸壞潰。

【壞決】11（クヮイケツ） くづれる。やぶれくづれる。潰決。壞崩。壞頹。〔馬融、圍碁賦〕厭㆓于食㆒兮、壞㆓決垣牆㆒。

【壞誤】12（クヮイゴ） まちがへる。わるくする。〔後漢書、蘇竟傳〕妄說傳相壞誤。

【壞劫】13（エコフ） 佛四劫（成劫・住劫・壞劫・空劫）の一。三千大世界の破壞する時をいふ。此中に二十小劫があつて、初の十九小劫には有情世界を壞し、第二十小劫の一劫に器世間を壞すといふ。〔大藏法數〕謂㆓世界壞滅㆒也、有㆓二十小劫㆒、如㆓火災起時㆒、壞至㆓初禪天㆒、始從㆓地獄㆒終至㆓梵天㆒、有情衆生經㆓十九增滅劫㆒、次第壞盡、唯器世間空曠而住、乃至㆓一切有情都盡㆒、最後一增減劫方壞㆓器世間㆒、有㆓七日㆒從㆓海底㆒出、大海盡竭、須彌崩壞、風吹㆓孟燄㆒、燒上㆓梵天㆒、悉成㆓灰燼㆒、乃至三千世界一時燒盡、名爲㆓壞劫㆒。

【壞根】14 huai^{4} ken^{1} ❶根を腐敗させる。根本から腐敗する。❷惡い原因。

【壞坐】15（クヮイザ） ゐずまひをくづす。たひらにゐる。胡坐。箕踞。〔韓非子、外儲說左上〕平公腓痛足痺、而不㆓敢壞坐㆒。

【壞散】16（クヮイサン） こはし散らす。〔漢書、楚元王傳〕壞㆓散險詖之聚㆒。

【壞殘】17（クヮイザン） やぶりそこなふ。

【壞子】18 huai^{4} tzŭ 惡たれ小僧。わるい子供。

【壞事】19 huai^{4} shih^{4} 惡事。不正事。

〖壞事鬼〗20 huai^{4} shih^{4} kuei^{3} 不德漢。悖德漢。

【壞牆】21（クヮイシヤウ） くづれたかき。頹牆。〔韓非子、說林下〕必築㆓壞牆㆒、是不善人將㆑竊。

【壞城】22（クヮイジヤウ） こはれた城。〔墨子、備蛾傳〕城上輒塞㆓壞城㆒。

【壞酒】23 huai^{4} chiu^{3} 腐れ酒。惡酒。

【壞沮】24（クヮイショ） やぶれこはれる。〔鹽鐵論、申韓〕城郭壞沮。

【壞處】25 huai^{4} chʻu 惡いところ。缺點。

【壞證】26（クヮイショウ） 重い病狀。危篤。〔通齋詩話〕病篤曰㆓壞證㆒、宋季已有㆓此語㆒、崔與之送㆓聶侍郎子述㆒詩云、要㆘得㆓處方㆒醫㆗壞證㆖、便須㆔投㆑矢負㆓全籌㆒。

【壞心】27 huai^{4} hsin^{1} 惡心。

【壞人】28 huai^{4} jen^{2} ❶惡人。惡黨。❷人を傷ける。

【壞鈔】29 huai^{4} chʻao^{4} 金錢を無駄費ひする。散財する。

【壞舛】30（クヮイセン） やぶれ亂れる。〔唐書、陸龜蒙傳〕借㆓人書㆒、篇帙壞舛。

【壞疽】31（エソ） 筋肉や器官の一部がくさりただれる病。

【壞俗】32（クヮイゾク） 風儀をみだす。又、だれた風習。淫風。頹俗。

【壞墮】33（クヮイダ） こはれ落ちる。〔禮、月令〕繼㆑長增㆑高、毋㆑有㆓壞墮㆒。

【壞隤】34（クヮイタイ） 魯の邑。〔左氏、成、十六〕公待㆓於壞隤㆒、申㆓宮儆備㆒、設㆑守而後行。

【壞頹】35（クヮイタイ） やぶれくづれる。壞崩。〔王褒、洞簫賦〕逍遙踊躍、若㆓壞頹㆒兮。

【壞道】36（クヮイダウ） こはれた道路。〔杜甫、玉華宮詩〕陰房鬼火青、壞道哀湍瀉。

【壞蛋】37 huai^{4} tan^{4} ❶惡い卵。❷惡漢。人を罵る語。

【壞陣】38（クヮイヂン） 戰爭に敗れる。

【壞徹】39（クヮイテツ） こはしすてる。破棄。又、こはれすたれる。廢頹。〔漢書、王莽傳下〕壞㆓徹城西苑中㆒。〔揚雄、劇秦美新〕在昔有㆓憑應㆒、而尙缺焉、壞徹而能全。

【壞透】40 huai^{4} tʻou^{4} すつかりだめになる。

【壞破】41（クヮイハ） やぶれる。破壞。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕逆風俄起、舟艦壞破。

【壞敗】42（クヮイハイ） やぶる。こはす。又、やぶれる。こはれる。壞毀。頹毀。〔漢書、元帝紀〕木飾壞敗。〔新書、俗激〕俗流失、世壞敗矣。〔賈誼、旱雲賦〕時俗殊而不㆑還兮、恐㆓功久而壞敗㆒。

【壞廢】43（クヮイハイ） やぶれすたれる。〔漢書、兒寬傳〕後太史令司馬遷等言、歷紀壞廢、漢興未㆑改㆓正朔㆒、宜可㆑正。〔論衡、對作〕法度不㆓壞廢㆒、則韓非之書不㆑爲。

【壞法】44（クヮイハフ） 法をみだす。〔孔子家語、禮運〕天子壞㆑法亂㆑紀。

【壞微】45（クヮイビ） おとろへ弱る。〔新書、先醒〕周室壞微。

【壞病】46 huai^{4} ping^{4} 療養宜しきを失ひ病氣が重くなること。

【壞壁】47（クヮイヘキ） やぶれた壁。破壁。〔劉歆、移㆑書讓㆓太常博士㆒書〕得㆓古文於壞壁之中㆒。

【壞崩】48（クヮイホウ） くづれる。崩壞する。壞決。壞頹。

【壞木】49（クヮイボク） 腐つた木。〔詩、小雅、小弁〕譬㆓彼壞木㆒、疾用無㆑枝。〔傳〕壞、瘣也、謂㆓傷病㆒也。

【壞名】50 huai^{4} ming^{2} 惡い評判。又、評判を惡くする。

【壞滅】51（クヮイメツ） こはれほろびる。又、こはしほろぼす。〔王昌齡、諸官遊㆓招隱寺㆒詩〕金色身壞滅、眞如性無㆑主。〔高啓、賦㆓得眞娘墓㆒送㆔蟾上人之㆓虎丘㆒詩〕色相終壞滅。

【壞落】52（クヮイラク） やぶれ落ちる。壞墜。壞墮。

【壞亂】53（クヮイラン） やぶりみだす。そこなふ。又、やぶれみだれる。みだりがはしくなる。〔禮、學記〕雜施而不㆑孫、則壞亂而不㆑脩。〔漢書、外戚下、中山衞姬傳〕壞㆓亂法度㆒、居非㆓其制㆒、稱非㆓其號㆒。〔後漢書、孔融傳〕風化壞亂。〔論衡、對作〕凡論不㆓壞亂㆒、則桓譚之論不㆑起。

【壞爛】54（クヮイラン） くさりただれる。こなごなにこはれる。〔論衡、論死〕已死、形體壞爛、精神散亡、無㆑所㆓復依㆒。

【壞裂】55（クヮイレツ） やぶれさける。頹裂。

【壞漏】56（クヮイロウ） やぶれもる。こはれて雨がもる。〔漢書、景十三王、膠西于王端傳〕府庫壞漏、盡腐㆓財物㆒。〔史記、五宗世家〕府庫壞漏。

【壞血病】57（クヮイケツビヤウ） 久しく新鮮な蔬菜を食はなかつたり、からい鹽藏肉を食用とすることなどから起る病氣。身體が衰弱し齒齦がただれ、皮膚は土色となり、諸所から出血する。

【壞骨頭】58 huai^{4} ku^{2} tʻou 惡人。惡黨。壞包兒。人を罵る語。

【壞主意】59 huai^{4} chu^{2} i 惡いたくらみ。惡い考へ。

【壞色衣】60（ヱシキエ） けさ。袈裟。〔翻譯名義集、七、袈裟〕具云㆓迦羅沙曳㆒、此云㆓不正色㆒、從㆑色得㆑名、章服儀云、袈裟之名、因㆓於衣色㆒、如㆓經中壞色衣㆒也。

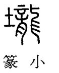
【壞東西】61 huai^{4} tung^{1} hsi ❶惡い品。❷ならず者。

【壞坏子】62 huai^{4} pʻi^{1} tzŭ 惡人。性質の惡い人。

【壞包兒】63 huai^{4} pao^{1} êrh 惡人。壞骨頭。

【壞皮氣】64 huai^{4} pʻi^{2} chʻi 惡い癖。惡い氣質。

【壟】 5591


小篆

㊀ リヨウ リユ 〔集韻〕魯勇切 ㄌㄨㄥˇ lung^{3} 腫

🈔 ロウ ル 〔集韻〕盧東切 東

🈩🈔 ❶**をか**。高丘。壠（**3－5592**）・龍（**12－48818**）に同じ。〔正字通〕

壟、說文本作レ壠。〔說文〕壠、丘壠也、从レ土龍聲。〔段注〕高者曰二丘壠一。〔說文通訓定聲〕孟子、有レ私二龍斷一焉、以レ龍爲レ之。〔孟子、公孫丑下〕有レ私二龍斷一焉、〔注〕龍斷、謂二岡壟斷而高者一。㊁**うね**。**あぜ**。〔漢書、陳勝傳〕輟レ耕之二壟上一。〔注〕師古曰、壟上、謂二田中之高處一。㊂**つか**。はか。〔方言、十三〕冢、秦晉之閒、或謂二之壠一。〔注〕有二界埓一似二耕壠一、因名レ之。〔小爾雅、廣名〕壟、塋也。〔禮、曲禮上〕適レ墓不レ登レ壟。〔注〕壟、冢也。㊃通じて隴（**11－41904**）に作る。〔集韻〕壠、亦書作レ壟、通作レ隴。

［名乘］　ヲカ。

［參考］　熟語は隴（**11－41904**）を併せ見よ。

【壟塋】1 ロウエイ　高く土を盛つた墓。〔水經、泿水注〕王氏交廣春秋曰、越王趙佗、生有二奉制稱藩之節一、死有二祕奧神密之墓一、佗之葬也、因レ山爲レ墳、其壠塋可レ謂二奢大一。

【壟丘】2 lung³ ch'iu¹　小丘。墳墓。塚。

【壟戶】3 ロウコ　稅粮の漕運を一手に請負うてゐる豪家。〔六部成語注解〕壟斷也、包辦之意、乃包二辦漕粮一之大戶也。

【壟竈】4 ロウサウ　㊀移動できるやうに作つた小形のかまど。行竈。〔墨子、備城門〕城上三十步一聾竈。〔閒詁〕聾、疑皆壟字、云云、說文火部云、烓、行竈也、此壟竈、在二城上一爲レ之、以具レ火、蓋卽行竈也。㊁かまど。地を掘り釜を承けて炊ぐ竈。其の邊が畑のうねに似てゐるから壟といふ。〔史記、滑稽傳〕優孟曰、請爲二大王六畜一葬レ之、以二壟竈一爲レ椁、銅歷爲レ棺。

【壟次】5 ロウジ　畑のうね。〔後漢書、孟嘗傳〕躬二耕壟次一、匿レ景藏レ采。

【壟上】6 ロウジヤウ　耕作地の中の小高い岡の上。又、そのあたり。字解の［一］［二］の㊁を見よ。

【壟堆】7 ロウタイ　高い塚。〔墨子、節葬下〕壟堆倣二山陵一。

【壟端】8 ロウタン　畑のうねの端。〔列子、天瑞〕子貢請行、逆二之壟端一。

【壟斷】9 ロウダン　地の高くきり立つている所。古、或る商人が、高い所に登つて市場を見まはし、安い物を買つて高く賣り、一人で利益を占めたといふ故事から、轉じて、ひとりじめ・まるまうけ・獨占の意に用ひる。隴斷、龍斷。〔孟子、公孫丑下〕古之爲レ市也、以二其所一レ有、易二其所一レ無者、有司治レ之耳、有二賤丈夫一焉、必求二龍斷一而登レ之、以左右望而罔二市利一。〔集注〕龍、音壟、壟斷、岡壟之斷而高也。

【壟畔】10 ロウハン　畑のうね。〔後漢書、孫期傳〕遠人從二其學一者、皆執二經壟畔一以追レ之。

【壟畝】11 ロウホ　はたけ。轉じて、ゐなか。〔戰國、齊策〕魯連謂二孟嘗君一曰、曹沫奮二三尺之劍一、一軍不レ能レ當、使下曹沫釋二其三尺之劍一、而操二銚鎒一、與二農夫一居中壟畝之中上、則不レ若二農夫一。〔魏志、文帝紀、注〕舜發二壟畝一、而君二天下一、若二固有一レ之。〔皇甫松、大隱賦〕壟畝連延、桑痲繞繚。

【壟畝之臣】12 ロウホノシン　田舍にある臣。〔後漢書、馮衍傳下〕疏二遠壟畝之臣一、無レ望二高闕之下一。

【壟墓】13 ロウボ　はか。〔管子、侈靡〕美二壟墓一、所二以文明一也。〔史記、田單傳〕燕軍盡掘二壟墓一、燒二死人一。

【壠】5592　ロウ　壟（**3－5591**）の本字。〔正字通〕壠、同レ壟、說文本作レ壠。

【𡓳】5593　ガク　堮（**3－5271**）に同じ。〔正字通〕𡓳、同レ堮。

【𡓁】5594　ジユン　埻（**3－5200**）の本字。〔正字通〕𡓁、埻本字。〔廣雅、釋言〕𡓁、的也。

【壡】5595　エイ　叡（**2－3214**）の古字。〔說文〕叡、壡、籀文叡、从レ土。〔玉篇〕壡、古文叡。

【𡓞】5596　ライ　〔集韻〕落蓋切　［泰］

㊀**こぼつ**。〔集韻〕𡓞、博雅、墮也。㊁**ます**。〔字彙補〕𡓞、益也。

【壆】5597　［一］カク ガク　〔集韻〕轄覺切　［覺］

［二］カク　〔集韻〕克角切　［覺］

［一］**山に大石が多いこと**。嶨（**4－8503**）に同じ。〔集韻〕嶨、說文、山多二大石一也、或作レ壆。［二］［一］に同じ。礐（**8－24525**）に同じ。〔集韻〕礐、爾雅、山多二大石一也、或作レ壆。

【𡒄】5598　イン　垔（**3－5041**）の古字。〔字彙補〕𡒄、古文垔字。

【壢】5599　レキ リヤク　〔集韻〕狼狄切　［錫］

あな。〔集韻〕壢、坑也。

【𡓈】5600　ラン　壈（**3－5530**）に同じ。〔篇海類編〕𡓈、同レ壈。

【𡓑】5601　ジユン　埻（**3－5200**）に同じ。〔篇海類編〕𡓑、同レ埻。

【𡔂】5602　クワイ　墤（**3－5465**）の本字。〔篇海〕𡔂、墤本字。

【𡔗】5603　ケウ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕𡔗、詰要切。

【𡔔】5604　クワク　義未詳。〔篇海類編〕𡔔、音霍。

【𡔑】5605　ハク　圤（**3－4876**）に同じ。〔龍龕手鑑〕𡔑、同レ圤。

十七畫

【壦】5606　キ　𡓾（**3－5610**）に同じ。〔類篇〕𡓾、或从レ戲。〔集韻〕壦、毀也、或作二隵・壦・陒一。

【壣】5607　リン　〔集韻〕離珍切　［眞］

㊀**をか**。〔玉篇〕壣、隴也。㊁**蔬菜ばたけ**。或は疄（**7－21947**）に作る。〔廣韻〕壣、菜畦。〔集韻〕壣、蔬畦曰レ壣、或作レ疄。

【壤】5608　［一］ジヤウ ニヤウ　〔集韻〕汝兩切　ㄖㄤˇ jang³　［養］

［二］ジヤウ ニヤウ　〔集韻〕如陽切　［陽］

小篆

［一］㊀**つち**。やはつち。たがやされた肥沃の土。〔說文〕壤、柔土也、从レ土襄聲。〔釋名、釋地〕壤、瀼也、肥瀼意也。〔書、禹貢〕厥土惟白壤。〔傳〕無レ塊曰レ壤。〔疏〕九章算術、穿レ地四爲レ壤、五壤爲二息土一、則壤是土和緩之名、故云二無レ塊曰一レ壤。〔周禮、地官、大司徒〕辨二十有二壤之物一。〔注〕壤、亦土也、變レ言耳、以二人所一耕

而樹蓺㆒焉則言㆑壤、壤、和緩之貌。〔楚辭、離騷〕蘇㆓糞壤㆒以充㆑幃兮。〔注〕壤、土也。❷**掘りだした土**。かき出した土。〔穀梁、隱、三〕吐者外㆑壤、食者內㆑壤、闕然不㆑見㆓其壤㆒、有㆓食㆑之者㆒也。〔疏〕齊魯之間、謂㆓鑿㆑地出㆑土、鼠作㆑穴出㆑土、皆曰㆑壤。❸**土地**。區域。〔戰國、秦策〕齊之土壤。〔注〕壤、地也。〔束晳、補亡詩〕茫茫九壤。〔注〕九壤、九州也。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕姑蘇奧壤。〔注〕善曰、奧壤、猶㆓奧區㆒也。❹**塵**。〔廣雅、釋詁三〕壤、塵也。❺**遊具の名**。〔三才圖會、嬉戲〕以㆑木爲㆑壤、前廣後銳、長一尺四寸、闊三寸、其形如㆑履、臘節小僮以爲㆑戲、先側㆓一壤於地㆒、遙於㆓三四十步外㆒、以㆑手中壤㆒、摘㆑之、中者爲㆑上。❻**蟲の名**。又、幼蟲。　蠰(**10—33864**)に通ず。〔說文通訓定聲〕壤、叚借爲㆑蠰。〔淮南子、道應訓〕猶㆔黃鵠與㆓壤蟲㆒也。〔注〕壤蟲、蟲之幼也。❼**みのる**。　穰(**8—25383**)に通ず。〔莊子、庚桑楚〕居三年、畏壘大壤。〔釋文〕本又作㆑穰。❽**肥え太つてゐる**。　壤子(5)の❶を見よ。❾古は〓(**9—30264**)に作る。〔集韻〕壤、古作㆑〓。❿**複姓**。〔尙友錄〕壤父、堯時賢人、失㆓其姓名㆒。〔史記、仲尼弟子傳〕壤駟赤、字子徒。　㊁**肥えた土**。〔集韻〕壤、肥土也。〔急就章〕墼壘廥廄庫東廂、屛廁淸溷糞土壤。

【壤歌】1 ジャウカ　太平を樂しむ歌。擊壤歌(**5—12800**・・45)に同じ。〔杜甫、奉㆑送㆓王信州崟北歸㆒詩〕壤歌唯海甸、畫角自山樓。

【壤界】2 ジャウカイ　さかひ。土地ざかひ。界壤。〔史記、楚世家〕秦昭王遺㆓楚王書㆒曰、云云、寡人與㆑楚接㆓境壤界㆒、故爲㆓婚姻㆒、所㆓相親㆒久矣。

【壤階】3 ジャウカイ　土の階段。〔新書、退讓〕壤階三累、茆茨弗㆑剪。

【壤策】4 ジャウサク　田地に對する計策。〔管子、山權數〕凡貢制中㆑二、齊之壤策也。〔纂詁〕齊田所㆑出之計也。

【壤子】5 ジャウシ　❶肥え太つてゐる子。かはいらしい子の意。一說に、子に壤すと讀み、土地を分け與へること。〔漢書、鄒陽傳〕始孝文皇帝、據㆑關入立、寒㆑心銷㆑志、不㆑明求㆑衣、自㆑立㆓天子㆒之後、使㆔東牟朱虛東褎㆓義父之後㆒、深割㆓嬰兒㆒王㆑之、壤子王㆓梁代㆒、益以㆓淮陽㆒。〔注〕如淳曰、文帝之二子、晉灼曰、揚雄方言、梁益之間、所㆑愛謂㆓其肥盛㆒曰㆑壤、或曰、言㆔深割㆓嬰兒王之壤㆒、壤、土也、壤字、當㆓上屬㆒也、師古曰、或說非也。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、穀梁隱三年傳、吐者外㆑壤、食者內㆑壤、疏引㆓麋信㆒曰、齊魯之間、謂㆓鑿㆑地出土、鼠作㆑穴出土㆒、皆曰㆑壤、壤子、謂㆔出㆑土分㆓與諸子㆒也。❷竈神の名。〔酉陽雜俎、諾皐記上〕竈神名隗、云云、一曰、竈神、名壤子也。

【壤駟】6 ジャウシ　複姓。〔史記、仲尼弟子傳〕壤駟赤、字子徒。〔通志、氏族略〕壤駟氏、家語、壤駟赤、秦人、仲尼弟子。

【壤駟赤】7 ジャウシセキ　春秋、秦の人。字は子徒、一に子從に作る。孔子の弟子。詩書に長ず。〔史記、六十七〕。

【壤室】8 ジャウシツ　土室。あなぐら。〔孔叢子、論書〕子夏對曰、雖㆔退而窮㆓居河濟之間、深山之中㆒、作㆓壤室㆒、編㆓蓬戶㆒、常於㆑此彈㆑琴、以歌㆓先王之道㆒。

【壤壤】9 ジャウジャウ　入り亂れるさま。攘攘。〔呂覽、知接〕孰之壤壤也、可㆔以爲㆓之莽莽㆒也。〔史記、貨殖傳〕天下壤壤、皆爲㆑利往。

【壤樹】10 ジャウジュ　土を盛り上げて樹木を植ゑる。〔禮、檀弓上〕反壤㆓樹之㆒哉。〔注〕怪㆘不㆑如㆓大古㆒、而反封㆗樹之㆖。〔疏〕今乃反更封㆑壤爲㆑墳、而種㆑樹以標㆑之哉。

【壤石】11 ジャウセキ　土と石。〔說苑、尊賢〕夫太山不㆑辭㆓壤石㆒、江海不㆑逆㆓小流㆒、所㆓以成㆑大也。〔謝靈運、還㆓舊園㆒作見㆓顏范二中書㆒詩〕果木有㆓舊行㆒、壤石無㆓遠延㆒。〔張九齡、林亭詠詩〕偶懷因㆓壤石㆒、眞意在㆓蓬瀛㆒。

【壤壇】12 ジャウダン　土壇。〔墨子、非樂上〕非㆘直掊㆓潦水㆒、折㆓壤壇㆒而爲㆖之也。

【壤地】13 ジャウチ　土地。國土。壤土。〔左氏、哀、十一〕壤地同而有㆑欲㆓於我㆒。〔孟子、滕文公上〕夫滕壤地編小、將爲㆓君子㆒焉、將爲㆓野人㆒焉。〔戰國、秦策〕齊宣王聞㆑之、擧㆑兵伐㆑魏、壤地兩分、國家大危。〔韓非子、難二〕臣請譬㆑之、君者壤地也、臣者草木也、必壤地美、然後草木碩大、亦君之力也、臣何力之有。〔管子、八觀〕壤地肥饒。〔墨子、非攻中〕東者越人挾㆓削其壤地㆒、西者齊人兼而有㆑之。

【壤中】14 ジャウチュウ　土のなか。墓穴の中。土中。〔韓愈、祭㆓河南張員外㆒文〕銘㆓君之績㆒、納㆓石壤中㆒。

【壤蟲】15 ジャウチュウ　蟲の名。蠰(**10—33864**)に同じ。かみきり。一說に、幼蟲。〔淮南子、道應訓〕猶㆔黃鵠與㆓壤蟲㆒也。〔注〕壤蟲、蟲之幼也。〔論衡、道虛〕猶㆔黃鵠之與㆓壤蟲㆒也。

【壤奠】16 ジャウテン　田畑から穫れた野菜などの御供物。土貢。〔書、康王之誥〕敢執㆓壤奠㆒、皆再拜稽首。〔傳〕敢執㆓壤地所㆑出而奠㆑贄也。〔唐書、禮樂志四〕官封臣姓名等、敢獻㆓壤奠㆒、遂奠㆑贄。

【壤土】17 ジャウド　❶土。又、作物に適する土。〔國語、齊語〕惡金以鑄㆓鉏夷斤欘㆒、試㆓諸壤土㆒。❷土地。國。壤地。〔戰國、秦策〕夫以㆓王壤土之博、人徒之衆、兵革之強㆒、一擧㆑衆而注㆓地於楚㆒。〔管子、白心〕壤土而與生。〔史記、春申君傳〕夫以㆓王壤土之博、人徒之衆、兵革之彊㆒、壹擧㆑事而樹㆓怨於楚㆒。❸居所。居場所。〔介子推、龍蛇歌〕龍返㆓其淵㆒、安㆓其壤土㆒。

【壤比】18 ジャウヒ　土地が接近する。〔漢書、西域傳上〕爲㆓壤比㆒而爲㆑寇也。

【壤墳】19 ジャウフン　❶農作に適する柔かな肥えた地。〔後漢書、明帝紀〕陶丘之北、漸就㆓壤墳㆒。〔注〕尙書曰、厥土惟黑壤、下土墳壚、孔安國曰、無㆑塊曰㆑壤、墳、起也。❷つか。はかの塚。〔周賀、送㆔僧歸㆓江南㆒詩〕飢鼠緣㆓危壁㆒、寒狸出㆓壤墳㆒。

【壤父】20 ジャウホ　堯の時の賢人。名は不明。天下の太平を悅び壤を擊つて歌つた。擊㆑壤而歌(23)・擊壤歌(**5—12800**・・45)を見よ。〔高士傳、上〕壤父者、堯時人也、帝堯之世、天下太和、百姓無事、壤父年八十餘、而擊㆓壤於道中㆒、觀者曰、大哉帝之德也、壤父曰、吾日出而作、日入而息、鑿㆑井而飮、耕㆑田而食、帝何德㆓於我㆒哉。

【壤末】21 ジャウマツ　地のはて。邊土。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕銷㆓神躬於壤末㆒、散㆓靈魄於天潯㆒。

【壤力】22 ジャウリョク　土地の力。地力。〔管子、國蓄〕豈壤力固不㆑足、而食固不㆑贍也哉。

【擊㆑壤而歌】23 ジャウヲウチテウタフ　堯の時、壤父が大地を擊つて太平の世を謳歌した故事。壤父(20)・擊壤歌(**5—12800**・・45)を見よ。〔帝王世紀〕帝堯之世、天下太和、百姓無事、有㆓八九十老人㆒、擊㆑壤而歌、歌曰、日出而作、日入而息、鑿㆑井而飮、耕㆑田而食、帝力于㆑我何有哉。

【⿰土毚】5609　サン　ゼン　〔集韻〕士減切　豏

はか。**墓域**。**又、祭の庭**。〔玉篇〕⿰土毚、兆名。〔字彙〕⿰土毚、壇域塋界、皆曰㆑⿰土毚。

【⿰土虧】5610　キ　〔集韻〕虛宜切　支

❶**こはれる**。〔類篇〕⿰土虧、毀也。❷或は⿰阝虧(**11—41910**)・⿰土戲(**3—5606**)・陒(**11—41630**)に作る。〔集韻〕⿰土虧、或作㆓⿰阝虧・⿰土戲・陒㆒。❸通じて巇(**5—12978**)に作る。〔集韻〕⿰土虧、通作㆑巇。

十八畫

【⿱雝土】5611　ヨウ　壅(**3—5524**)に同じ。〔正字通〕⿱雝土、同㆑壅。

【⿰土闒】5612　タフ　ダフ　〔集韻〕敵盍切　合

おちる。地が下る。或は塌(**3—5322**)に作る。〔玉篇〕⿰土闒、墮也。〔集韻〕⿰土闒、一曰、地下也、或作㆑塌。

【⿰土聶】5613　セフ　⿱聑瓦(7-21636)に同じ。〔集韻〕⿱聑瓦、或从ㇾ土。

【壦】5614　ケン　壎(3-5546)の古字。〔玉篇〕壦、古文壎。

【⿰土糞】5615　フン　坌(3-4996)に同じ。〔玉篇〕⿰土糞、同ㇾ坌。

【⿱𦥑⿱日土】5616　イン　寅(3-7204)の古字。〔説文〕寅、⿱𦥑⿱日土、古文寅。〔正字通〕⿱𦥑⿱日土、古文寅。

【⿱吅⿲口土口】5617　ギン　嚚(2-4518)の古字。〔字彙補〕⿱吅⿲口土口、古嚚字。

【⿱㗊土】5618　ギユウ グ　〔五音篇海〕語中切　東　**おろか。**〔五音篇海〕⿱㗊土、愚也。

【⿰夏⿱夂土】5619　音義未詳　〔字彙補〕⿰夏⿱夂土、音義未詳、見㆓石鼓文㆒。

【⿰土⿱畾土】5620　テフ デフ　〔篇海類編〕徒葉切　葉　**城上の垣。**〔篇海類編〕⿰土⿱畾土、城上垣。

十九畫

【⿱⿰𣦼谷土】5621　ガク　壑(3-5554)に同じ。〔奚韻〕⿱⿰𣦼谷土、同ㇾ壑。

【⿳宀㠭土】5622　サイ　塞(3-5349)の本字。〔正字通〕⿳宀㠭土、塞本字。

【⿱類土】5623　ライ　〔集韻〕盧對切　隊　**つちくれ。土くれのさま。**〔廣韻〕⿱類土、塊土皃。〔集韻〕⿱類土、塊也。

【𡔈】5624　シヨ　初(2-1911)に同じ。唐の則天武后の製した字。〔字彙補〕𡔈、武則天所ㇾ製初字。

【⿰土麗】5625　リ　〔集韻〕隣知切　支　**草木が地を這つて生えてゐる。**䕻(9-32575)に同じ。〔集韻〕䕻、説文、草木相附䕻而生、或作ㇾ⿰土麗。〔字彙補〕⿰土麗、草木附ㇾ地生也。

二十畫

【壧】5626　ガン ゲン　〔集韻〕魚銜切　咸　**あな。**〔集韻〕壧、穴也。

【⿱⿰享丮土】5627　ジユク　塾(3-5402)の本字。〔正字通〕⿱⿰享丮土、塾本字。

【⿰土⿰享攴】5628　トン　墩(3-5470)の本字。〔正字通〕⿰土⿰享攴、墩本字。

【⿱⿱畕畕土】5629　ライ　〔六書統〕魯回切　灰　雷(12-42245)の古字。雷が出る地。〔六書統〕⿱⿱畕畕土、雷出地也、一曰、古雷字。

二十一畫

【壩】5630　ハ ヘ　〔集韻〕必駕切　禡　ㄅㄚˋ pa^{4}

㊀**ゐせき。**或は⿰石霸(8-24617)に作る。〔集韻〕壩、堰也、或从ㇾ石。㊁垻(3-5098)の俗字。〔正字通〕壩、俗垻字。

【壩臺】1　ハダイ　壩の上に築いた高い物見臺。〔六部成語、工部、壩臺、注解〕壩上築㆓高臺㆒、以爲㆓瞭望之所㆒也。

【壩頭】2　ハトウ　鎭の名。㊀江蘇省淮安縣の西南。洪澤湖に臨む。㊁廣東省平遠縣の南。清代、巡司を置く。

【壩楞】3　pa^{4} lêng^{2}　堤。土手。堤防。

【壩齒花】4　ハシクワ　草の名。〔和漢三才圖會、灌木類〕農政全書云、壩齒花、生㆓山野間㆒、亦人家園宅間多栽、葉似㆓枸杞子葉㆒而小、毎四葉攢㆓生一處㆒、枝梗亦似㆓枸杞㆒有㆓小刺㆒、開㆓黃花㆒、狀類㆓雞形㆒、結㆓小角㆒、按、未ㇾ識㆓如ㇾ此樹㆒　蓋雞形二字中間有㆓冠字㆒乎。

【⿸厂⿱雍土】5631　ヨウ　壅(3-5524)に同じ。〔正字通〕⿸厂⿱雍土・壅・擁・壁、並同。

【⿰堯堯】5632　ケウ　〔集韻〕丘召切　嘯　**たかい。**〔集韻〕⿰堯堯、高也。

【⿱⿰章頁土】5633　コウ ク　〔字彙補〕古送切　送　**地名。**〔字彙補〕⿱⿰章頁土、地名。

参考　集韻は字形を⿱贛土に作る。⿰土貢(3-5346)に同じ。〔集韻〕⿱贛土、地名、或作ㇾ⿰土貢。

二十二畫

【⿰土囊】5634　ナウ　〔集韻〕乃浪切　漾　ㄋㄤˋ nang^{4}

㊀**塵。又、塵のさま。**坱⿰土囊。〔廣韻〕⿰土囊、坱⿰土囊、塵皃。〔集韻〕⿰土囊、塵也。㊁**ほらあな。**〔集韻〕⿰土囊、一曰、土窟。

二十六畫

【⿱⿰叡谷土】5635　カク　〔篇海類編〕呼各切　藥　**たに。をか。あな。**〔篇海類編〕⿱⿰叡谷土、谷也、丘墟也、溝坑也。

三十三畫

【⿱⿰土鹿⿰鹿鹿】5636　ソ　麤(12-47714)に同じ。〔五音集韻〕⿱⿰土鹿⿰鹿鹿、同ㇾ麤。

三十六畫

【⿱⿲土鹿土⿰鹿鹿】5637　チン　塵(3-5388)の籀文。〔説文〕𪋻、⿱⿲土鹿土⿰鹿鹿、籀文。〔正字通〕⿱⿲土鹿土⿰鹿鹿、籀文塵。

士部

【士】 5638　〔集韻〕鉏里切 ［紙］ シ ジ ㄕˋ shih^4

士（小篆）　❶**事。事とする。事を處理する才能のある者。**〔說文〕士、事也。數始㆓於一㆒、終㆓於十㆒、从㆓一十㆒。孔子曰、推㆑十合㆑一爲㆑士。〔段注〕士・事疊韻、引㆓伸之㆒、凡能事㆓其事㆒者偁㆑士。〔詩、豳風、東山〕勿㆑士㆓行枚㆒。〔傳〕士、事也。〔左氏、昭、七、大夫臣士、疏〕士者、事也、言㆔能理㆓庶事㆒也。〔管子、君臣〕官謀㆑士。〔注〕士、事也。❷**仕へて事を擔當する者。**㋑狹義では、天子・諸侯の臣で、卿・大夫の下に位し、事務にたづさはる者。〔禮、王制〕諸侯之上大夫卿・下大夫・上士・中士・下士、凡五等。〔漢書、食貨志上〕士農工商、四民有㆑業。學以居㆑位曰㆑士。〔白虎通、爵〕士上有㆓三等㆒、云云、公・卿・大夫者、何謂也、內爵稱也、云云、士者、事也、任㆑事之稱也、云云、王制曰、云云、此謂㆓諸侯臣㆒也、云云、天子之士、獨稱㆓元士㆒何、士賤不㆑得㆑體㆓君之尊㆒、故加㆑元以別㆓諸侯之士㆒也。㋺廣義では、諸侯・卿・大夫及び其の他の者をもいふ。❸以下を見よ。〔詩、周頌、清廟〕濟濟多士。〔疏〕士、謂㆓朝廷之臣㆒也。❸**諸侯。**〔詩、大雅、文王〕殷士膚敏。〔傳〕殷士、殷侯也。❹**卿。**〔儀禮、喪服〕公・士・大夫衆臣、爲㆓其君㆒、布帶繩屨。〔注〕士、卿士也、公・卿・大夫、厭㆓於天子・諸侯㆒、故降。〔疏〕不㆑言㆑卿言㆑士者、欲㆑見㆘公無㆓正職㆒、大夫又承㆓副於卿㆒、士之言、事、卿有㆗職事之重㆖、故變㆑言㆑士、見㆓斯義㆒也。❺**家臣。**公・卿・大夫の臣。〔儀禮、聘禮〕士牽㆑羊以致㆑之。〔注〕士、亦大夫之貴臣。〔左氏、昭、七〕王臣公、公臣大夫、大夫臣士。❻**屬吏。**下級の役人。〔禮、祭法〕庶士・庶人無㆑廟。〔注〕庶士、府史之屬。❼**こもののかしら。**下僕の長。〔儀禮、既夕禮〕士受㆑羊如㆑受㆑馬。〔注〕士、胥徒之長。❽**つはもの。**戰士。兵士。〔孟子、梁惠王上〕興㆓甲兵㆒危㆓士臣㆒。〔集注〕士、戰士也。〔荀子、王霸〕王者富㆑民、霸者富㆑士。〔注〕士、卒伍也。〔淮南子、本經訓、武王甲卒三千、注〕步曰㆑卒、在㆑車曰㆑士。❾**獄官。**檢察・裁判を掌る役人。〔爾雅、釋詁、士察也、疏〕士者、理㆑獄之官、亦主㆓聽察㆒。〔書、舜典〕汝作㆑士。〔傳〕士、理官也。〔孟子、告子下〕管夷吾擧㆓於士㆒。〔注〕士、獄官也。❿**むらをさ。**州里の長。〔禮、雜記上〕士次㆓于公館㆒。〔注〕士、謂㆓邑宰㆒也。〔禮、鄉飮酒義〕鄉人士君子。〔注〕士、州長・黨正也。〔管子、八觀〕里無㆓士舍㆒。〔注〕士、謂㆓里尉㆒。⓫**諸侯の大夫の天子に對する自稱。**〔禮、曲禮下〕列國之大夫、入㆓天子之國㆒、曰㆓某士㆒。〔注〕亦謂㆓諸侯之卿㆒也、三命以下於㆓天子㆒爲㆑士、曰㆓某士㆒者、若㆘晉韓起聘㆓於周㆒、擯者曰㆗晉士起㆖。〔左氏、襄、二十六〕晉韓宣子聘㆓于周㆒、王使㆑請㆑事、對曰、晉士起將㆑歸㆓時事於宰旅㆒、無㆓他事㆒矣。〔疏〕曲禮云、云云、是諸侯大夫入㆓天子之國㆒、禮法、當㆑稱㆑士也。⓬**天子の世子。**〔儀禮、士冠禮〕天子之元子猶㆑士也、天下無㆓生而貴者㆒也。〔白虎通、爵〕王者太子亦稱㆑士何、擧從㆑下升、以爲、人無㆓生得㆑貴者㆒、莫㆑不㆓由㆑士起㆒、云云、禮士冠經、天子之元子、士也。⓭**役人の適子。**〔周禮、天官、宮伯〕掌㆓王宮之士・庶子凡在㆑版者㆒。〔注〕王宮之士、謂㆓王宮中諸吏之適子㆒也。⓮**立派な人。**學識・德行のある人。〔詩、邶風、北門序〕刺㆓士不㆑得㆑志也。〔疏〕士者、有㆓德行㆒者之稱。〔論語、子張〕士見㆑危致㆑命。〔皇疏〕士者、知㆓義理㆒之名。〔國語、齊語〕昔聖王之處㆑士也。〔注〕士、講㆓學道藝㆒者也。〔荀子、議兵〕好㆑士者強。〔注〕士、賢士也。〔荀子、大略〕君子聽㆑律習㆑容而後士。〔注〕君子、在位者之通稱、云云、士者、修立之名也。〔白虎通、爵〕傳曰、通㆓古今㆒辯㆓然否㆒、謂㆓之士㆒。⓯**專門の道藝を修めた者の稱。**〔莊子、田子方〕魯多㆓儒士㆒。〔後漢書、光武紀論〕初道士西門君。⓰**男子をいふ。**㋑男子の通稱。男子の美稱。〔正字通〕士、男子之通稱。〔詩、鄭風、女曰鷄鳴〕士曰昧旦。〔疏〕士、男子之美號。〔左氏、僖、十五〕士刲㆑羊。〔疏〕士、男。〔論語、泰伯〕士不㆑可㆔以不㆓弘毅㆒。〔皇疏〕士、通謂㆓丈夫㆒也。㋺未婚の男子。〔荀子、非相〕婦人莫㆑不㆑願㆓得以爲㆑士。〔注〕士者、未㆑娶㆑妻之稱。⓱**女子の美稱。**〔詩、大雅、既醉〕釐㆓爾女士㆒。〔箋〕予㆑女以㆘女而有㆓士行㆒者㆖。⓲**人。**〔詩、鄭風、褰裳〕豈無㆓他士㆒。〔箋〕他士、猶㆓他人㆒。⓳**子弟。**〔詩、周頌、載芟〕有㆑依㆓其士㆒。〔傳〕士、子弟也。⓴**しらべる。明かにする。**〔爾雅、釋詁〕士、察也。㉑**つかへる。**仕（1－368）に通ず。〔周禮、地官、載師〕以㆓宅田・士田・賈田㆒、任㆓近郊之地㆒。〔注〕士、讀爲㆑仕。〔禮、曲禮上〕四十曰㆑強而仕。〔白虎通、爵〕禮曰、四十強而仕。㉒**姓。**〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕士氏、陶虞之苗裔、云云、宣王殺㆓杜伯㆒、其子隰叔、奔㆑晉爲㆓士師㆒、故爲㆓士氏㆒、其子孫居㆓隨及范㆒、故又爲㆓隨氏・范氏㆒、有㆓三族㆒焉、伊祁姓、隰叔生㆓士蔿㆒、字子輿、故亦謂㆓之士輿㆒、此爲㆓士氏㆒、又有㆓士季氏㆒、亦爲㆓士氏㆒。［邦］❶**さむらひ。**武を以て仕へる人。武士。さむらひ（さぶらひの轉）は、もと貴人の側に侍して仕へる人をいひ、侍の字を用ひたが、後世、專ら武を以て仕へる者の稱となり、士の字をもかく訓ずるに至つた。❷**稱號や職業名につけて用ひる語。**例、學士・辯護士。

［名乘］ コト。ヒト。

［解字］ 會意。十と一との合字。本義はしごと・つとめ。轉じて、官につとめる者の意と爲す。數は學業の本始で、士たるものは先づ書計を學ぶ。而して數は一に始まり十に終る。故に十と一とを合して、しごと・つとめ、又、それを爲す者の意を表はす。又、十と一とは、十を推して一に合すること、卽ち博より約に返る意で、能く之を爲す者を士といふといひ、又、一に推して十に合すること、卽ち一貫の義で、能く之を爲すものを士といふといふ。〔說文、士、段注〕士・事疊韻、引㆓伸之㆒、凡能事㆓其事㆒者偁㆑士、云云、韻會・玉篇、皆作㆓推㆑一合㆑十、鉉本及廣韻、皆作㆓推㆑十合㆑一、似㆓鉉本爲㆑長、數始㆑一終㆑十、學者由㆑博返㆑約、故云㆓推㆑十合㆑一、博學審問愼思明辨篤行、惟以求㆓其至㆒、是也、若㆓一以貫㆑之、則聖人之極致矣。〔說文通訓定聲〕士、事也、數始㆓于一㆒終㆓于十㆒、从㆑一从㆑十、會意、孔子曰、推㆑十合㆑一爲㆑士、按、此返㆑約之義、玉篇作㆓推㆑一合㆑十、則一貫之義、存參。▽**士**（金文）象形。まさかりの形に象り、それを持つ軍士の意を表はす。

【士安】1 シアン　字號。㊀晉、皇甫謐（8－22701・・240）の字。㊁唐、劉晏（2－2224・・3）の字。㊂元、高克恭（12－45313・・1175）の字。㊃元、第五居仁（8－25943・・53）の字。

【士怡】2 シイ　明、沈貞（6－17189・・302）の字。

【士威】3 シヰ　字號。㊀南齊、曹虎（5－14297・・78）の字。㊁梁、何佟之（1－511・・349）の字。

【士蔿】4 シヰ　㊀複姓。〔通志、氏族略〕士蔿氏、姬姓、晉隰叔爲二士氏之祖一、士蔿其子也、爲二晉士官一、故以爲レ氏。㊁春秋、晉の大夫。晉の桓莊の族が專橫を極め、獻公が之を患へた時、士蔿は獻公に富子を去れば群公子は謀るべしといひ、群公子と謀つて富子を譖して之を去らしめた。〔左氏、莊、二十三・二十四・二十五・二十六・二十七。閔、元。僖、五。成、十八〕。

【士位】5 シヰ　易の卦の第二爻をいふ。易では卦の初爻を庶人、第二爻を士、第三爻を卿大夫、第四爻を公、第五爻を天子の位に當てる。〔日知錄、六爻言レ位〕易傳中言レ位者有二二義一、列二貴賤一者存二乎位一、五爲二君位一、二三四爲二臣位一、故皆曰二同レ功而异レ位、而初上爲二无位之爻一、譬二之於人一、初爲二未レ仕之人一、上則隱淪之士、皆不レ爲レ臣也。

【士蔚】6 シヰ　字號。㊀晉、袁豹（10－34152・・139）の字。㊁南朝宋、沈煥（6－17189・・128）の字。㊂南齊、卞彬（2－2778・・25）の字。

【士友】7 シイウ　元、魏敬益（12－45872・・193）の字。

【士游】8 シイウ　後魏、王翊（7－20823・・1040）の字。

【士壹】9 シイツ　三國、吳の人。燮の弟。黃琬に器重せらる。董卓が亂を起した時亡げて交州に歸つたが、交州の刺史朱符が夷賊に殺され、州郡が擾亂するに及んで、燮は壹を表して合浦太守を領せしめ、兄弟共に一郡の長となつた。士燮（127）の㊁を見よ。〔三國志、四十九〕。

【士員】10 シヰン　役人の數。官吏の員數。〔北周書、閔帝紀〕省二六府士員一、三分減レ一。

【士英】11 シエイ　字號。㊀宋、李幼武（6－14459・・882）の字。㊁明、郝文傑（11－39430・・58）の字。㊂明、吳偉（2－3365・・4）の字。㊃明、徐世華（4－10110・・512）の字。㊄明、余子俊（1－515・・91）の字。㊅明、王偉（7－20823・・15）の字。

【士瑩】12 シエイ　字號。㊀明、唐際盛（2－3709・・414）の字。㊁清、顏伯璟（12－43591・・184）の字。

【士瑤】13 シエウ　晉、陸玩（11－41708・・78）の字。

【士繇】14 シエウ　唐、權皋（6－15926・・12）の字。

【士淵】15 シエン　字號。㊀明、郭濬（11－39474・・123）の字。㊁明、陳彥回（11－41698・・840）の字。

【士遠】16 シヱン　明、焦思剛（7－19119・・131）の字。

【士翁】17 シヲウ　植物の名。〔齊民要術、果蓏〕士翁、子如二漆子大一、熟時甜酸、其色青黑。

【士溫】18 シヲン　南齊、劉瑱（2－2224・・524）の字。

【士檟】19 シカ　明、石續（8－24024・・503）の字。

【士雅】20 シガ　㊀山名。河南省信陽縣の南。晉の祖逖、字は士雅が、兵を此處に避けたので名づけた。〔資治通鑑、梁紀〕（武帝、天監三年）元英結二壘於士雅山一。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、信陽州〕士雅山、在二州南七里一、本名大木山、晉祖逖爲二豫州刺史一、藏二家屬於此一、後人以二逖字一名レ山。㊁明、唐汝諤（2－3709・・445）の字。

【士丐】21 シカイ　複姓。〔通志、氏族略、以二名氏一爲レ氏〕士丐氏、姬姓、晉士氏之子士丐之後也。

【士匄】22 シカイ　㊀春秋、晉の人。燮の子。謚は宣子。范宣子。晉楚が鄢陵に戰ふや、謀をなして功を立て、後、卿となる。〔左氏、成、十七・十八。襄、三・九・十・十三・十四・十八・十九〕。㊁春秋、晉の人。弱の子。士文伯。字は伯瑕。〔左氏、襄、三十。昭、六〕。

【士介】23 シカイ　字號。㊀清、謝適（10－35827・・181）の字。㊁清、鄭俠如（11－39647・・359）の字。

【士開】24 シカイ　元、曹伯啓（5－14297・・300）の字。

【士凱】25 シガイ　字號。㊀元、朱凱（6－14424・・72）の字。㊁明、傅遜（1－939・・87）の字。

【士行】26 シカウ　㊀士大夫たる立派な行爲。〔舊唐書、崔顥傳〕崔顥者、登二進士第一、有二俊才一、無二士行一、好二蒱博飲酒一。㊁字號。㋑晉、陶侃（11－41705・・33）の字。㋺明、尚志（4－7493・・65）の字。㋩明、張紳（4－9812・・445）の字。㋥明、傅道（1－939・・89）の字。

【士亨】27 シカウ　明、鏐泰（11－40866・・5）の字。

【士衡】28 シカウ　字號。㊀晉、陸機（11－41708・・55）の字。㊁宋、謝德權（10－35827・・345）の字。㊂後魏、杜銓（6－14477・・180）の字。㊃宋、張君平（4－9812・・961）の字。㊄宋、劉平（2－2224・・587）の字。㊅金、王權（7－20823・・364）の字。㊆元、張衡（4－9812・・120）の字。㊇明、胥文相（9－29406・・60）の字。

〖士衡患多〗29 シカウクワンタ　蒙求の標題。晉の陸機、字は士衡は、夙に文章を以て聞えたが張華が嘗て嘆じて、人の文を爲る、常に才の少きを恨むに、子は更に其の多きを患ふと云つた故事。〔蒙求上〕武仲不レ休、士衡患多。〔晉書、陸機傳〕陸機、字士衡、吳郡人也、云云、機天才秀逸、辭藻宏麗、張華嘗謂レ之曰、人之爲レ文、常恨二才少一、而子更患二其多一。

【士高】30 シカウ　字號。㊀北齊、荀仲擧（9－30929・・59）の字。㊁明、洪祥（6－17402・・98）の字。

【士昂】31 シカウ　字號。㊀明、秦顒（8－24995・・50）の字。㊁明、童軒（8－25775・・33）の字。

【士慤】32 シカク　宋、成無玷（5－11544・・360）の字。

【士簡】33 シカン　梁、張率（4－9812・・514）の字。

【士奇】34 シキ　字號。㊀宋、鄒異（11－39562・・1）の字。㊁宋、林特（6－14551・・202）の字。㊂明、吳傑（武進の人）（2－3365・・154）の字。㊃明、劉儲秀（2－2224・・1196）の字。

【士季】35 シキ　㊀複姓。〔通志、氏族略、以二名氏一爲レ氏〕士季氏、姬姓、晉士氏之子士季、生二渥濁一爲二士季氏一、見二姓氏英賢傳一。㊁三國魏、鍾會（11－40672・・27）の字。

【士氣】36 シキ　戰士の意氣。又、一般人士の意氣。又、それらの風氣。士風。〔漢書、李陵傳〕（李）陵曰、吾士氣少衰、而鼓不レ起者何也、軍中豈有二女子一乎。

【士規】37 シキ　㊀士たるものの履行すべき規範。士規七則を見よ。㊁梁、沈旋（6－17189・・260）の字。

〖士規七則〗38 シキシチソク　吉田松陰の作。士の言行の規範とすべき七箇條。一、忠孝を本となす。二、皇國は宇內に卓絕し、君臣一體、忠孝一致なり。三、士道は義を尙ぶ。四、士行は質實を要す。五、讀書尙友。六、交遊を愼しむ。七、死して後已む。右を要約して、立志・擇交・讀書の三條とした。〔吉田松陰、士規七則〕披二繙冊子一、嘉言如レ林、躍躍迫レ人、顧人不レ讀、卽讀不レ行、苟讀而行レ之、則雖二千萬世一、不レ可二得盡一、噫復何言、雖レ然有レ所レ知矣、不レ能レ不レ言、人之至情也、古人言二諸古一、今我言二諸今一、亦詎傷焉、作二士規七則一、一、凡生爲レ人、宜レ知四人所三以異二於禽獸一、蓋人有二五倫一、而君臣・父子爲二最大一、故人之所三以爲レ人、忠孝爲レ本、一、凡生二皇國一、宜レ知四吾所三以尊二於宇內一、蓋皇朝萬葉一統、邦國士夫、世襲二祿位一、人君養レ民、以續二祖業一、臣民忠レ君、以繼二父志一、君臣一體、忠孝一致、唯吾國爲レ然、一、士道莫レ大二於義一、義因レ勇行、勇因レ義長、一、士行以二質實不レ欺爲レ要、以二巧詐文レ過爲レ恥、光明正大、皆由レ是出、一、人不レ通二古今一、不レ師二聖賢一、則鄙夫耳、讀書尙友、君子之事也、一、成レ德達レ材、師恩・友益居レ多焉、故君子愼二交遊一、一、死而後已四字、言簡而義廣、堅忍果決、確乎不レ可レ拔者、舍レ是無レ術也、右士規七則、約爲二三端一、曰、立レ志以爲二萬事之源一、擇レ交以輔二仁義之行一、讀レ書以稽二聖賢之訓一、士苟有レ得二於此一、亦可三以爲二成人一矣。

【士揆】39 シキ　清、金廷標（11－40152・・1343）の字。

【士貴】40 シキ　字號。㊀金、利鑾孫（2－1932・・214）の字。㊁明、周之士（2－3441・・681）の字。

【士毅】41 シキ　明、韓弘（12－43159・・93）の字。

【士徽】42 シキ　三國、吳の人。燮の子。燮が交趾太守を以て歿するや、徽を廢し、陳時を遣はして交趾太守と爲したから、徽は宗兵を發して之を拒ぎ、自ら交趾太守と署稱し、後、誅せられた。〔三國志、四十九〕。

【士吉】43 シキツ　複姓。〔通志、氏族略、以二名氏一爲レ氏〕士吉氏、姬姓、晉士蔿生レ吉、爲二士吉氏一。

【士鄉】44 シキヤウ　士のあつまり住む處。〔國語、齊語〕工商之鄉六、士鄉十五。

〖士鄉堂〗45 シキヤウダウ　清、陳鱣（11－41698・・490）の室名。「名。

【士鏡】46 シキヤウ　清、戚人鏡（5－11594・・59）の原名。

【士居】47 シキヨ　晉、沈充（6－17189・・203）の字。

【士魚】48 シミ　蟲の名。書籍・衣類を蝕害する蟲。

紙魚。衣魚。〔下學集、上〕。

【士恭】49 シキヨウ 字號。㊀南齊、虞愿(9−32723··59)の字。㊁明、盧迥(8−23050··49)の字。「字。

【士欣】50 シキン 北齊、赫連子悅(10−37010··51)の字。

【士和】51 シクワ 字號。㊀梁、張繹(4−9812··63)の字。㊁明、眞節(8−23235··207)の字。㊂明、劉應秋(2−2224··721)の字。

【士恢】52 シクワイ 隋、李諤(6−14459··145)の字。

【士會】53 シクワイ ㊀春秋、晉の大夫。隨を采邑として隨會と稱し、又、隨季といふ。後、更に范を采邑として范武子といふ。〔左氏、僖、二十八。文、六・七・十二・十三。宣、三・十・十二・十六〕。㊁字號。㋑後漢、秦嘉(8−24995··13)の字。㋺隋、姚最(3−6202··56)の字。

【士光】54 シクワウ 字號。㊀晉、陸曄(11−41708··22)の字。㊁前趙、劉粲(2−2224··304)の字。㊂北齊、封孝琰(4−7426··185)の字。㊃梁、何烱(1−511··60)の字。㊄梁、劉歊(2−2224··239)の字。

【士宏】55 シクワウ 字號。㊀元、李侗(6−14459··615)の字。㊁清、戴遠(5−11685··11)の字。㊂清、馮耀(12−44579··14)の字。

【士廣】56 シクワウ 明、毛弘(6−16772··72)の字。

【士官】57 シクワン ㊀裁判官。法官。〔書、立政〕用咸戒㆓于王㆒曰、王左右、常伯・常任・準人・綴衣・虎賁。〔傳〕準人、平㆑法、謂㆓士官㆒。〔疏〕準、訓㆑平也、平㆑法之人、謂㆓士官㆒也。〔稱謂錄、刑部、士官〕文獻通攷、唐虞之際、士官以正㆓五刑㆒。㊁舊制で、陸海軍の少尉・中尉・大尉及び其の相當官の稱。轉じて、廣く將校の義に用ひた。武官。

〘士官候補生〙58 シクワンコウホセイ 舊制で、陸軍豫科士官學校の卒業生で、規定の軍事演習及び學業修了後、陸軍士官に任ぜられる資格を有するものをいふ。

【士絅】59 シケイ 明、唐錦(2−3709··65)の字。

【士敬】60 シケイ 字號。㊀北齊、裴謁之(10−34362··103)の字。㊁明、張欽(祥符の人)(4−9812··214)の字。

【士傑】61 シケツ 元、楊俊民(6−15112··614)の字。

【士業】62 シゲフ 字號。㊀西涼、李歆(6−14459··220)の字。㊁後魏、楊侃(6−15112··63)の字。㊂清、陳弘緒(11−41698··856)の字。

【士烜】63 シケン 梁、劉霽(2−2224··432)の字。

【士賢】64 シケン 字號。㊀明、陳選(11−41698··417)の字。㊁明、李良(6−14459··793)の字。

【士憲】65 シケン 宋、唐淑問(2−3709··437)の字。

【士謙】66 シケン ㊀北周、崔謙(4−8178··71)の一名。㊁字號。㋑元、舒遜(9−30300··55)の字。㋺明、張益(4−9812··61)の字。

【士元】67 シゲン 字號。㊀三國蜀、龐統(12−48824··31)の字。㊁隋、劉焯(2−2224··347)の字。㊂五代漢、李彥從(6−14459··1196)の字。㊃宋、朱伯陽(6−14424··967)の字。㊄元、徐愷(4−10110··39)の字。㊅明、張原(4−9812··290)の字。㊆明、鄭茂(11−39647··267)の字。㊇清、曹起鳳(5−14297··212)の字。

【士玄】68 シゲン 隋、崔廓(4−8178··59)の字。

【士言】69 シゲン 字號。㊀晉、祖納(8−24664··116)の字。㊁北齊、裴訥之(10−34362··152)の字。

【士彥】70 シゲン 字號。㊀晉、張軌(4−9812··165)の字。㊁前涼、辛憑(10−38630··68′)の字。㊂南齊、王晏(7−20823··4)の字。㊃宋、周長孺(2−3441··782)の字。㊄明、馮俊(12−44579··93)の字。

【士原】71 シゲン 元、徐愷(4−10110··39)の字。

【士伍】72 シゴ 兵士の伍。轉じて、官位を有せぬ卑賤な地位・身分。卒伍。伍は、軍隊編成上の單位、五人の一組。轉じて、隊列・仲間。〔史記、白起傳〕武安君遂稱㆓病篤㆒、應侯請㆑之不㆑起、於㆑是免㆓武安君㆒爲㆓士伍㆒。〔漢書、景帝紀〕奪㆑爵爲㆓士伍㆒。〔注〕師古曰、謂㆘奪㆓其爵㆒令㆑爲㆓士伍㆒、又免㆗其官職㆖、卽今律所謂除名也、謂㆓之士伍㆒者、言㆑從㆓士卒之伍㆒也。

【士護】73 シゴ 明、樂大護(6−15399··313)の一名。

【士弘】74 シコウ 字號。㊀元、李侗(6−14459··615)の字。㊁明、朱能(6−14424··489)の字。㊂明、沈有容(6−17189··419)の字。㊃明、錢仁夫(11−40563··360)の字。㊄明、丁毅(1−2··36)の字。

【士鴻】75 シコウ 隋、張煛(4−9812··254)の字。「字。

【士載】76 シサイ 三國魏、鄧艾(11−39630··23)の字。

【士齋】77 シサイ 字號。㊀明、鄒賽貞(11−39562··89)の號。㊁明、鄧林(11−39630··111)の字。

【士材】78 シザイ 明、李中梓(6−14459··1726)の字。

【士曹】79 シサウ 官名。郡の佐吏で工役を掌る。司士參軍(2−3257··108)の㊁を見よ。〔事物紀原、撫字長民部、士曹〕北齊始有㆓士曹參軍㆒、今獨開封府置、餘州雖㆑有㆓司士㆒、又以爲㆓散官㆒也。

【士操】80 シサウ ㊀士の守るべきみさを。士たる者の節操。士節。士道。武士道。〔晉書、王國寶傳〕少無㆓士操㆒、不㆑修㆓廉隅㆒。㊁字號。㋑南齊、庾弘遠(4−9398··62)の字。㋺南齊、劉悛(2−2224··364)の字。

【士瓚】81 シサン 明、潘宗顏(7−18236··190)の字。

【士子】82 シシ ㊀官職ある人。つかさびと。官吏。役人。〔詩、小雅、北山〕偕偕士子、朝夕從㆑事。〔傳〕士子、有㆓王事㆒者。〔束晳、補亡詩〕蒨蒨士子。㊁讀書して科擧の準備をしてゐる人。又、學校の男生徒。〔大學衍義補、正㆓百官㆒、清㆓入仕之路㆒〕臣按、歷代科目得㆑人、惟宋爲㆑盛、蓋以㆘太宗留㆓意科目㆒、自㆑是以後、天下士子、爭趨㆗向之㆖故也。

【士史】83 シシ 訟獄を掌る官。士師(85)に同じ。〔鶡冠子、王鈇〕不㆑待㆓士史㆒、蒼頡作㆑書、故後世莫㆔能云㆓其咎㆒。〔注〕士、李官也、太古無㆑法而治、不㆑立㆓士史㆒、不㆑造㆓書契㆒、而至德玄同、使㆓由㆑之者不㆑能㆑知、知㆑之者不㆑能㆑名、尙何議其咎也哉。

【士思】84 シシ ㊀複姓。〔萬姓統譜〕士思癸、晉人。㊁南齊、顧憲之(12−43689··259)の字。

【士師】85 シシ ㊀周官の名。秋官の屬。訟獄を掌る官。司法官。士吏。列國も亦置く。〔周禮、秋官、士師〕士師之職、掌㆓國之五禁之灋㆒。〔論語、微子〕柳下惠爲㆓士師㆒三黜。〔孟子、梁惠王下〕士師不㆑能㆑治㆑士、則如㆑之何、王曰、已㆑之。㊁衆兵。兵團。〔禮、曲禮上〕前有㆓士師㆒、則載㆓虎皮㆒。

【士秀】87 シシウ 梁、徐摛(4−10110··215)の字。

【士周】88 シシウ 清、張詰(4−9812··118)の字。

【士秋】89 シシウ 前燕、陽騖(11−41725··245)の字。

【士修】90 シシウ 字號。㊀明、許繼(10−35298··69)の字。㊁明、李充嗣(6−14459··1424)の字。

【士舍】91 シシヤ 士人の子弟が入學する學舍。〔管子、八觀〕鄉毋㆓長游㆒、里無㆓士舍㆒。〔纂詁〕士舍、士所㆑居、謂㆓學校㆒。

【士尙】92 シシヤウ 明、黃正色(12−47926··1182)の字。

【士昌】93 シシヤウ 明、姬文允(3−6230··123)の字。

【士章】94 シシヤウ 字號。㊀南齊、劉繪(2−2224··207)の字。㊁明、戴弁(5−11685··125)の字。

【士彰】95 シシヤウ 明、徐常吉(4−10110··476)の字。

【士常】96 シジヤウ 元、夾谷之奇(3−5867··22)の字。

【士焯】97 シジヤク 隋、趙綽(10−37171··209)の字。

【士若】98 シジヤク 南朝宋、臧寅(9−30083··2)の字。

【士弱】99 シジヤク 春秋、晉の人。渥濁の子。卽ち莊子。〔左氏、襄、九・十八〕。

【士繻】100 シジユ 陳、陸繕(11−41708··181)の字。

【士衆】101 シシユウ 衆人。もろ人。又、兵卒たち。〔吳子、料敵〕道遠日暮、士衆勞懼、倦而未㆑食、解㆑甲而息。〔孔子家語、相魯〕孔子命㆓申句須・樂頎㆒勒㆓士衆㆒、下伐㆑之。〔蜀志、法正傳〕士衆未㆑附。

【士所】102 サムラヒドコロ 侍所(1−589··51)に同じ。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕嚮藤原忠清以㆓相國命㆒、得㆑爲㆓士所別當㆒。

【士峻】103 シシユン 北齊、邢峙(11−39301··43)の字。

【士庶】104 シシヨ 一般の人民。士徒。〔司馬法、天子之義〕士庶之義、必奉㆓於父母㆒、而正㆓於君長㆒。〔後漢書、劉虞傳〕青徐士庶、避㆓黃巾之難㆒。

〘士庶子〙105 シシヨシ ㊀役人の適長子と衆子。〔周禮、天官、宮伯〕掌㆓王宮之士・庶子凡在㆑版者㆒。〔注〕王宮之士、謂㆓宮中諸吏之適子㆒也、庶子、其支庶也。㊁士と庶子。卿・大夫・士の士と役人の諸子。〔周禮、夏官、都司馬〕掌㆓都之士・庶子㆒。〔注〕庶子、卿大夫士之子。〔禮、燕義〕士・庶子以㆑次、就㆓位於下㆒。

〘士庶人〙106 シシヨジン 官吏と農工商に從ふ者。官吏と庶民。〔孟子、梁惠王上〕大夫曰㆔何以利㆓吾家㆒、士・庶人曰㆔何以利㆓吾身㆒。「字。

【士升】107 シシヨウ 清、陶必銓(11−41705··224)の字。

【士偁】108 シシヨウ 明、沈巽(6−17189··272)の字。

【士衡】109 シシヨウ 元、張衡(4−9812··120)の字。

【士心】110 シシン 清、曹洪志(5−14297··229)の字。

【士臣】111 シシン 戰爭に參加する家來。將士。〔孟子、梁惠王上〕王興㆓甲兵㆒、危㆓士臣㆒、構㆓怨於諸侯㆒、然

後快二於心一與。〔集注〕士、戰士也。

【士信】112 シシン　字號。❶明、高恂（12－45313‥462）の字。❷明、都嗣誠（11－39509‥222）の字。

【士深】113 シシン　字號。❶晉、袁湛（10－34152‥107）の字。❷梁、劉杳（2－2224‥40）の字。

【士紳】114 シシン　紳士。役人。書生。〔福惠全書、筮仕部、訪二風俗一〕或彼處士紳、俱可二詳詢一。

【士眞】115 シシン　北齊、尉景（4－7440‥8）の字。

【士禛】116 シシン　清、王士禛（7－20823‥1520）の一名。

【士人】117 シジン　❶學問修業を積んだ人。立派な人。〔孔子家語、五儀解〕有二庸人一、有二士人一、有二君子一、有二賢人一、有二聖人一云云、公曰、何謂二士人一、孔子曰、所謂士人者、心有レ所レ定、計有レ所レ守、雖レ不レ能レ盡二道術之本一、必有レ率也、雖レ不レ能レ備二百善之美一、必有レ處也、是故知不レ務レ多、必審二其所一レ知、言不レ務レ多、必審二其所一レ謂、行不レ務レ多、必審二其所一レ由、智既知レ之、言既道レ之、行既由レ之、則若二性命之形骸之不一レ可レ易也、富貴不レ足二以益一、貧賤不レ足二以損一、此則士人也。❷戰鬪員。將士。〔孫子、九地〕投二之無一レ所レ往、死且不レ北、死焉不レ得、士人盡レ力。❸人民。〔後漢書、袁術傳〕今孤以二土地之廣、士人之衆一、欲下徼二福於齊桓一、擬中迹於高祖上、可乎。

【士仁】118 シジン　字號。❶三國吳、陸景（11－41708‥87）の字。❷梁、蕭伯游（9－32012‥511）の字。

【士帥】119 シスイ　古の官名。軍隊の統率者。〔儀禮、聘禮〕士帥沒二其竟一。

【士嵩】120 シスウ　梁、沈峻（6－17189‥208）の字。

【士正】121 シセイ　❶清、王士禛（7－20823‥1516）の改名。❷北齊、裴諏之（10－34362‥139）の字。

【士成】122 シセイ　複姓。〔莊子、天道〕士成綺見二老子一而問曰、吾聞、夫子聖人也、吾固不レ辭二遠道一而來願レ見。

【士清】123 シセイ　字號。❶南齊、江泌（6－17140‥383）の字。❷清、毛懷（6－16772‥48）の字。

【士少】124 シセウ　晉、祖約（8－24664‥143）の字。

【士籍】125 シセキ　士の名籍。士たる身分の者の名を記載する簿冊。〔袁定、布衣賦〕朝寄二遊士之籍一兮、暮垂二上相之纓一。

【士節】126 シセツ　❶士のみさを。士たる者の節操。士操。〔司馬遷、報二任少卿一書〕此言二士節不一レ可レ不二勉勵一也。❷呂氏春秋、季冬紀の篇名。

【士燮】127 シセフ　❶春秋、晉の人。會の子。諡は文子。范文子。大夫。景公の時、齊を伐つに從ふ。〔左氏、成、二・四・八・十二・十三・十五・十六・十七〕。❷三國、吳の廣信の人。字は威彥。左氏春秋を治む。孝廉に察せられ、歷遷して交阯太守となる。獻帝の時、道路が斷絕しても、貢職を廢せず、詔して安遠將軍に拜せられ、龍度亭侯に封ぜられた。建安中、孫權は、步隲を遣はして交阯太守とし、燮に左將軍を加へ、復、衞車に遷し、龍編侯に封じた。燮は寬厚謙虛でよく士に下つたので、中國の人士數百人が往いて難を避けた。郡に在ること四十年にして卒す。〔三國志、四十九〕。

【士先】128 シセン　字號。❶前燕、裴開（10－34362‥10）の字。❷宋、曹肅（5－14297‥112）の字。❸明、孫慤（3－6987‥44）の字。

【士宣】129 シセン　字號。❶晉、蔡豹（9－31818‥112）の字。❷南齊、張盾（4－9812‥405）の字。❸宋、唐義問（2－3709‥378）の字。

【士潛】130 シセン　陳、周確（2－3441‥66）の字。

【士選】131 シセン　字號。❶明、施一鼇（5－13629‥126）の字。❷明、熊卓（7－19294‥86）の字。

【士瞻】132 シセン　字號。❶元、張思明（4－9812‥1121）の字。❷元、納速剌丁（大名の人）（8－27264‥136）の字。❸明、章嵩（8－25761‥108）の字。

【士全】133 シゼン　明、池斌（6－17141‥52）の字。

【士然】134 シゼン　晉、張悛（4－9812‥398）の字。

【士宗】135 シソウ　梁、阮孝緒（11－41569‥52）の字。

【士則】136 シソク　❶士人の模範。〔魏志、鄧艾傳〕年十二、隨レ母至二潁川一、讀丁故太丘長陳寔碑文、言丙文爲二世範一、行爲乙士則甲、艾遂自名レ範、字二士則一。❷字號。㋑三國魏、鄧艾（11－39630‥23）の字。㋺晉、吾彥（2－3379‥29）の字。㋩前趙、劉宣（2－2224‥447）の字。㋥唐、桓彥範（6－14774‥77）の字。㋭唐、竇軌（8－25695‥12）の字。

【士族】137 シゾク　❶讀書人の家柄。立派な家柄。〔顏氏家訓、文章〕有二一士族一、好爲二可レ笑詩賦一。〔晉書、許邁傳〕家世士族。❷身分の名稱。明治維新前に武家の家臣であつたものが、維新後に賜はつた階級の稱。華族と平民との中間に位した。

【士卒】138 シソツ　戰士の總稱。〔戰國、齊策〕復整二其士卒一、以與レ王遇。〔管子、立政〕兼愛之說勝、則士卒不レ戰。〔孫子、始計〕兵衆孰強、士卒孰練。〔吳子、料敵〕將離二士卒一可レ擊。〔史記、高祖紀〕起行勞レ軍、以安二士卒一。〔李華、弔二古戰場一文〕橫攻二士卒一。

【士孫】139 シソン　複姓。〔左氏、襄、二十五〕丁亥、葬二諸士孫之里一。〔注〕士孫、人姓、因名レ里。〔漢書、梁丘賀傳〕充宗授二平陵士孫張仲方一。〔注〕師古曰、姓士孫、名張、字仲方。

『士孫瑞』140 シソンズイ　後漢、扶風の人。字は君榮。才謀があり、獻帝の初、執金吾と爲り、ついで王允の推輓によつて僕射と爲る。董卓を誅するに與つたが、功を允に歸して侯とならず、爲に李傕の難を免れるを得た。後、國三老光祿大夫と爲り、亂兵に殺さる。〔後漢書、九十六〕。

『士孫張』141 シソンチャウ　漢、平陵の人。字は仲方。博士と爲り、揚州の牧に至る。易を五鹿の充宗に受けて梁丘易に士孫の學を立てた。〔前漢書、八十八〕。

『士孫奮』142 シソンフン　後漢、扶風の人。字は景卿。少くして郡の五官掾と爲る。性、吝嗇。大將軍梁冀が馬乘を遺り、錢五千萬を貸さん事を求めた時、奮は三千萬を與へたのみであつたから、冀は大いに怒り、郡縣に告げ、奮の母が守藏婢と爲つてゐることを知り、白珠十斛・紫金千斤を盜んで叛を謀つてゐるといつて奮の兄弟を收考し、獄中に死せしめ、貲財、一億七千餘萬を悉く沒收した。〔後漢書、六十四〕。

【士遜】143 シソン　字號。❶南朝宋、顏竣（12－43591‥59）の字。❷北周、崔謙（4－8178‥71）の字。❸北齊、崔伯謙（4－8178‥319）の字。

【士拿】144 shih^{4} na^{2}　嗅ぎ煙草。士那。

【士道】145 シダウ　士たる者の道。人の守るべき道。武士の守るべき道。士操。〔吉田松陰、士規七則〕士道、莫レ大二於義一。

【士達】146 シタツ　字號。❶晉、周訪（2－3441‥414）の字。❷後魏、薛孝通（9－32123‥149）の字。❸隋、楊達（6－15112‥271）の字。

【士旦】147 シタン　清、袁啓旭（10－34152‥184）の字。

【士治】148 シチ　晉、王濬（7－20823‥576）の字。

【士疇】149 シチウ　明、童承敍（8－25775‥118）の字。

【士女】150 シヂョ　❶男と女。男女。〔書、武成〕綏二厥士女一。〔詩、小雅、甫田〕以介二我稷黍一、以穀二我士女一。〔孟子、滕文公下〕東征綏二厥士女一。〔曹植、應レ詔詩〕芒芒原隰、祁祁士女、經二彼公田一、樂二我稷黍一。❷美人をいふ。仕女（1－368‥35）に同じ。〔蘇軾、題跋〕昔周昉畫二人物一、皆入二神品一、而世俗但知レ有二周昉士女一、所謂未レ見二好レ德如レ好レ色者一歟。

『士女圖』151 シヂョヅ　唐の周昉の畫いた官女の圖。〔西廂記、張君瑞慶二團圝一雜劇〕說二著絲鞭士女圖一。

『士女相慶』152 シヂョアヒケイス　男も女も互によろこびをいひあふ。〔晉書、陶侃傳〕楚郢士女、莫レ不二相慶一。

『士女笙歌宜二月下一』153 シヂョノシャウカゲツカニヨロシ　蘇州の春は男女が月下で笙を吹き歌をうたふのを聽くにふさはしいといふ意。〔白居易、早春憶二蘇州一寄二夢得一詩〕吳苑四時風景好、就レ中偏好是春天、霞光照後殿二於火一、水色晴來嫩似レ煙、士女笙歌宜二月下一、使君金紫稱二花前一、誠知歡樂堪二留戀一、其奈二離レ鄕已四年一。

【士直】154 シチョク　明、洪弼（6－17402‥172）の字。

【士沈】155 シチン　後魏、陸子彰（11－41708‥333）の本名。

【士貞】156 シテイ　❶複姓。〔通志、氏族略、以二名氏一爲レ氏〕士貞氏、穀梁、晉康公支子士貞之後。❷字號。㋑北齊、高德政（12－45313‥1295）の字。㋺明、居節（4－7663‥100）の字。

【士禎】157 シテイ　明、墨麟（3－5469‥205）の字。

【士朝】158 シテウ　元、張絹（4－9812‥372）の字。

【士超】159 シテウ　清、董宏毅（9－31433‥192）の字。

【士哲】160 シテツ　明、烏濬（7－18998‥173）の字。

【士田】161 シデン　卿大夫以下仕官する者が拜領して祭祀の料に供する田。圭田。一說に、士大夫の子が得て耕す田。〔周禮、地官、載師〕以二宅田・士

田・賈田一、任二近郊之地一。〔注〕鄭司農云、士田者、士大夫之子得而耕之田也、玄謂、士讀爲レ仕、仕者亦受レ田、所謂圭田也、孟子曰、自レ卿以下、必有二圭田一、圭田五十畮。〔疏〕後鄭不レ從者、以下此士字言レ之不レ得レ兼二大夫一、又禮記、士之子不レ免レ農、大夫之子免レ農矣、不レ得レ爲二大夫子得而耕之田一、故後鄭破二此士一爲レ仕、仕謂二卿大夫以下仕宦得レ田、依二孟子圭田一解レ之。

【士徒】162 シト　多くの人。士庶。〔漢書、食貨志上〕賦共二車馬甲兵士徒之役一。〔注〕師古曰、徒、衆也。

【士都】163 シト　元、李昶(**6**—**14459**・・582)の字。

【士度】164 シド　字號。㊀晉、司馬乂(**2**—**3257**・・226)の字。㊁後魏、張濟(**4**—**9812**・・463)の字。

【士登】165 シトウ　㊀清、胡介(**9**—**29400**・・43)の初名。㊁明、邢雲路(**11**—**39301**・・53)の字。

【士特】166 シトク　宋、翁挺(**9**—**28635**・・51)の字。

【士德】167 シトク　南朝宋、爨龍顏碑(**7**—**19648**・・19)の一名。

【士敦】168 シトン　明、金洲(**11**—**40152**・・533)の字。

【士曇】169 シドン　禪僧。乾峯と號す。筑前博多の人。弘安八年に生れ、南山和尚に侍す。後、洛の普門・安福・東福、相摸の圓覺・建長の諸刹に歴住す。康安元年遷化、年七十七。敕して廣智國師と謚す。〔本朝高僧傳〕

【士那】170 shih⁴ na²　嗅ぎ煙草。士拿(144)に同じ。

【士南】171 シナン　㊀宋、張世南(**4**—**9812**・・1240)の一名。㊁明、朱衡(**6**—**14424**・・82)の字。

【士寧】172 シネイ　明、沈康(**6**—**17189**・・77)の字。

【士馬】173 シバ　兵士と馬。兵馬。〔後漢書、隗囂傳〕今天水完富、士馬最強。〔鮑照、蕪城賦〕才力雄富、士馬精妍。

【士白】174 シハク　清、徐眞木(**4**—**10110**・・503)の字。

【士伯】175 シハク　春秋晉、先蔑(**1**—**1349**・・230)の別稱。

【士美】176 シビ　字號。㊀宋、李邦彥(**6**—**14459**・・1847)の字。㊁清、張櫝(**4**—**9812**・・92)の字。

【士湄】177 シビ　清、陸鳴皋(**11**—**41708**・・429)の字。

【士備】178 シビ　明、蔡悉(**9**—**31818**・・55)の字。

【士彬】179 シヒン　宋、劉文質(**2**—**2224**・・1297)の字。

【士閔】180 シビン　宋、梁師閔(**6**—**14825**・・263)の一名。

【士敏】181 シビン　明、高遜志(**12**—**45313**・・1262)の字。

【士夫】182 シフ　㊀若い人。壯年の男。〔易、大過〕老婦得二其士夫一。㊁修養を重んずる人。士大夫の意。〔重野成齋、佐久間象山碑〕嗚呼、先生一介士夫。㊂男子の通稱。〔元好問、聶孝女墓誌銘〕不レ於二士夫一、一女之昇。

〖士夫畫〗183 シフグワ　書家の畫。〔唐六如畫譜〕趙子昂問二錢舜擧一曰、如何是士夫畫、舜擧答曰、隸家畫也、子昂曰、然、觀二之王維・李成・徐熙・李伯時一、皆士夫之高尚、所レ畫蓋與レ物傳レ神、盡二其妙一也。

【士風】184 シフウ　立派な人間の風氣。又、一般人士の風氣。又、武士の風氣。士氣。〔白居易、祭二中書韋相公一文〕惟公世祿官業、家行士風、茂學清詞、沖襟弘度、伏見二碑誌一、文中已詳。〔李漑、鄕立約條〕不レ顧二廉恥一、汙二壞士風一者。

〖士風婾惰〗185 シフウトウダ　武士の風俗が輕薄で惰弱になる。〔中村敬宇、象山詩集序〕文恬武熙、士風婾惰。

【士分】186 シブン　士たる身分。さむらひたる身分。

【士文】187 シブン　字號。㊀後魏、劉箏(**2**—**2224**・・574)の字。㊁明、范王孫(**9**—**30834**・・279)の字。

【士平】188 シヘイ　㊀北齊、裴讞之(**10**—**34362**・・123)の字。㊁明、連均(**11**—**38902**・・46)の字。

【士兵】189 shih⁴ ping¹　下士。兵卒。一、二、三等兵をいふ。

【士標】190 シヘウ　梁、伏挺(**1**—**438**・・121)の字。

【士苗】191 シベウ　陳、張種(**4**—**9812**・・385)の字。

【士峯】192 シホウ　富士山。

【士懋】193 シボウ　明、鍾勛(**11**—**40672**・・24)の字。

【士穆】194 シボク　南齊、劉暄(**2**—**2224**・・251)の字。

【士民】195 シミン　㊀士と人民。諸〻の人々。〔孝經、孝治章〕治レ國者不三敢侮二於鰥寡一、而況於二士民一乎。〔戰國、秦策〕然而甲兵頓、士民病、蓄積索、田疇荒。〔荀子、致士〕國家者士民之居也。〔六韜、虎韜、略地〕令二其士民一曰、罪在二一人一。〔太平御覽、兵、敍兵器〕呂氏春秋曰、古之至兵、士民未レ合、而威已諭矣。㊁道藝を學習する人。民の、士行ある者。〔穀梁、成、元〕古者有二四民一、有二士民一、有二商民一、有二農民一、有二工民一。〔注〕學二習道藝一者。

〖士民者國家之鎭〗196 シミンハコクカノシヅメ　士民は國のまもりである。〔魏志、高堂隆傳〕何以聚レ人、曰財、然則士民者、乃國家之鎭也、穀帛者、乃士民之命也。

【士名】197 シメイ　士といふ名稱。士の地位。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕今追二賜整像爵關中侯一、各除二士名一。

【士明】198 シメイ　字號。㊀唐、裴諝(**10**—**34362**・・56)の字。㊁宋、虞大中(**9**—**32723**・・178)の字。㊂宋、林旦(**6**—**14551**・・179)の字。㊃元、劉鑑(**2**—**2224**・・135)の字。㊄明、黃儒炳(**12**—**47926**・・1140)の字。

【士茂】199 シモ　隋、趙芬(**10**—**37171**・・329)の字。

【士洋】200 シヤウ　梁、褚澐(**10**—**34457**・・3)の字。

【士約】201 シヤク　北周、崔說(**4**—**8178**・・116)の本名。

【士裕】202 シユウ　隋、虞綽(**9**—**32723**・・85)の字。

【士雄】203 シユウ　士人の中の最もすぐれたもの。〔陶潛、擬古詩〕聞有二田子春一、節義爲二士雄一。

【士抑】204 シヨク　明、邵銳(**11**—**39343**・・6)の字。

【士翼】205 シヨク　書名。四卷。明、崔銑撰。前の三卷を述言、後の一卷を說象といふ。〔四庫提要、子、儒家類〕

【士流】206 シリウ　士人の階級。〔南史、王儉傳〕士流選用、奏無レ不レ可。

【士律】207 シリツ　明、何三傑(**1**—**511**・・276)の字。

【士良】208 シリヤウ　㊀五代閩、鄭良士(**11**—**39647**・・572)の一名。㊁字號。㋑元、夏文彥(**3**—**5720**・・357)の字。㋺明、牛諒(**7**—**19922**・・292)の字。㋩明、杜冀龍(**6**—**14477**・・293)の字。㋥清、史致謌(**2**—**3249**・・246)の字。

【士亮】209 シリヤウ　字號。㊀北周、斛斯徵(**5**—**13508**・・5)の字。㊁北周、長孫澄(**11**—**41100**・・600)の字。㊂明、陳良謨(鄞の人)(**11**—**41698**・・1304)の字。

【士隆】210 シリユウ　明、朱定安(**6**—**14424**・・933)の字。

【士龍】211 シリヨウ　字號。㊀晉、陸雲(**11**—**41708**・・12)の字。㊁宋、徐驤(**4**—**10110**・・156)の字。㊂宋、薛季宣(**9**—**32123**・・152)の字。㊃宋、鄭驤(河南の人)(**11**—**39647**・・164)の字。㊄宋、劉蟠(**2**—**2224**・・561)の字。㊅明、李登(**6**—**14459**・・632)の字。

〖士龍雲閒〗212 シリヨウウンカン　蒙求の標題。晉の陸雲、字は士龍が、嘗て張華等と會した時、自ら名乘りをあげて雲閒の陸士龍と稱した故事。〔晉書、陸雲傳〕雲與二荀隱一素未二相識一、嘗會二華坐一、華曰、今日相遇、可レ勿レ爲二常談一、雲因抗レ手曰、雲閒陸士龍、隱曰、日下荀鳴鶴、鳴鶴、隱字也。

【士力】213 シリヨク　兵士の力。〔三略、上略〕二者無レ功、則士力疲敝、士力疲敝、則將孤衆悖、云云、軍讖曰、良將之統レ軍也、恕レ己而治レ人、推レ惠施レ恩、士力日新。

【士林】214 シリン　㊀立派な人々。讀書人のなかま。士類。士列。林は、多數の意を表はす。〔後漢書、袁紹傳〕士林憤痛、人怨天怒。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十三年)乘二犢車一、從二吏卒一、交二游士林一。㊁館の名。梁の武帝が置いたもので、學者を延集したところ。〔南史、梁武帝紀下〕(大同七年)於二宮城西一、立二士林館一、延二集學者一。〔南史、虞荔傳〕梁武帝置二士林館一、用レ荔爲二士林學士一。〔庾信、哀江南賦〕天子方刪二詩書一、定二禮樂一、設二重雲之講一、開二士林之學一。〔羅隱、寄二前戶部陸郎中一詩〕出馴桑雉入二朝簪一、蕭洒清名映二士林一。

【士類】215 シルイ　士林の㊀に同じ。〔後漢書、宦者、孫程傳〕既無二知レ人之明一、又未三嘗交二知士類一。〔蜀志、鄧芝傳〕性剛簡、不レ飾二意氣一、不レ得二士類之和一。〔晉書、袁躭傳〕少有二才氣一、俶儻不羈、爲二士類所一レ稱。

【士令】216 シレイ　北齊、裴謀之(**10**—**34362**・・156)の字。

【士禮】217 シレイ　㊀書名。今の儀禮をいふ。魯の高堂生が之を傳へた。〔史記、儒林傳〕於レ今獨有二士禮一、高堂生能言レ之。〔漢書、藝文志〕漢興、魯高堂生、傳二士禮十七篇一。㊁北齊、裴讓之(**10**—**34362**・・137)の字。

〖士禮居〗218 シレイキヨ　清、吳縣の黃丕烈(**12**—**47926**・・1296)の廳事の名。士禮居叢書を刊行した。

〖士禮居叢書〗219 シレイキヨソウシヨ　叢書の名。清、黃丕烈編。其の內容は、周禮鄭氏注十二卷(校宋本、有二札記一)・儀禮鄭氏注十七卷(宋嚴州本、有二札記一卷・續校一卷一)・傳崧卿本夏小正四卷(有二校錄一卷一)・附集解　四卷(長洲、顧鳳藻撰)・天聖明道本國語二十卷(韋昭注、有二札記一卷一)・剡川姚氏本國策三十三卷(高誘注、有二札記三卷一)兩漢

人物志（元和、惠棟撰）・梁公九諫一卷（賜書樓鈔本、有二札記一卷一）・輿地廣記三十八卷（宋、盧陵、歐陽忞撰、曝書亭宋本、有二札記一卷一）・汲古閣珍藏祕書目一卷（明、毛扆）・季滄葦書目一卷（明、季振宜）・藏書紀要一卷（孫慶報著）・傷寒總病論六卷（宋、龐安常著、宋本、有二札記一卷一）・洪氏集驗方五卷（宋、洪遵輯、宋本）・焦氏易林十六卷（漢、焦贛、集校宋本）・博物志十卷（晉、張華撰、汲古閣影抄連江葉氏本）・宣和遺事二卷（宋本）・盲史精華（士禮居主人著、未刊）・百宋一廛賦注一卷（元和、顧廣圻著、黃丕烈注）・汪本隸釋校誤一卷（吳縣、黃丕烈著）・蕘言（同上、未刊）。〔附〕蜀大字本三經音義（論孟孝經另刻）・船山詩選六卷（遂寧、張問陶著）・同人唱和集詩一卷。〔叢書擧要、近代、二〕。

【士礪】220 シレイ　明、連金（**11－38902**‥46′）の字。

【士列】221 シレツ　士林（214）に同じ。〔唐書、柳宗元傳〕假令萬一除二刑部囚籍一、復爲二士列一、亦不レ堪二當世用一矣。

【士連】222 シレン　明、樓璉（**6－15430**‥81）の字。

【士廉】223 シレン　字號。❶元、哈麻（**2－3594**‥33）の字。❷明、顧清（**12－43689**‥121）の字。❸明、邵清（**11－39343**‥39）の字。❹明、石澄（**8－24024**‥565）の字。

【士魯】224 シロ　字號。❶明、鄧繼曾（**11－39630**‥139）の字。❷明、王鈍（**7－20823**‥865）の字。

【得レ士】225 シヲウ　士を得る。士の心を得る。〔漢書、田儋傳〕於レ是迺知、田橫兄弟能得レ士也。

【取レ士】226 シヲトル　士を擧げもちひる。〔孟子、告子下〕取レ士必得。〔吳志、陸凱傳〕臣聞、殷湯取二士於商賈一、齊桓取二士於車轅一、周武取二士於負薪一、大漢取二士於奴僕一。

【安レ士】227 シヲヤスンズ　士の生活を樂にし、心を安らかにする。〔賈誼、過秦論〕安レ士息レ民。

【士渥濁】228 シアクダク　春秋、晉の人。卽ち貞子。悼公が立つや、太傅となし、范武子の法を修めさせた。〔左氏、成、十八〕。

【士何事】229 シハナニヲカコトトスル　士は何を自分の務とするかの意。〔孟子、盡心上〕王子墊問曰、士何事。

【士虞禮】230 シグレイ　儀禮（**1－1172**‥114）の篇名。〔儀禮、士虞禮、疏〕鄭目錄云、虞、安也、士既葬二父母一、迎レ精而反、日中祭二之於殯宮一以安レ之、虞於二五禮一屬レ凶、大戴第六、小戴第十五、別錄第十四。

【士冠禮】231 シクワンレイ　儀禮の篇名。〔儀禮、士冠禮、疏〕鄭目錄云、童子任レ職居二士位一、年二十而冠、主人玄冠朝服、則是於二諸侯一、天子之士、朝服皮弁素積、古者四民世レ事、士之子恆爲レ士、冠禮於二五禮一屬二嘉禮一、大小戴及別錄、此皆第一。

【士君子】232 シクンシ　學問があつて德行の高い人。上流社會の人。紳士。〔禮、鄕飮酒義〕鄕人士君子、尊二於房中之閒一。〔墨子、非命中〕天下之士君子。〔荀子、脩身〕士君子不下爲二貧窮一怠中乎道上。

【士建中】233 シケンチユウ　宋、鄆州の人。字は熙道。孫復・石介に推重せらる。後、進士より評事を授けらる。或は校書郎に終るともいふ。

【士昏禮】234 シコンレイ　儀禮（**1－1172**‥114）の篇名。〔儀禮、士昏禮、疏〕鄭目錄云、士娶レ妻之禮、以レ昏爲レ期、因而名焉、必以レ昏者、陽往而陰來、日入三商爲レ昏、昏禮於二五禮一屬二嘉禮一、大小戴及別錄此皆第二。

【士喪禮】235 シサウレイ　儀禮（**1－1172**‥114）の篇名。〔儀禮、士喪禮、疏〕鄭目錄云、士喪二其父母一、自二始死一至二於既殯之禮一、喪於二五禮一屬レ凶、大戴第四、小戴第八、別錄第十二。

【士食レ田】236 シハデンニハム　士は田邑を與へられ之によつて生活する。〔國語、晉語四〕士食レ田、庶人食レ力。

【士大夫】237 シタイフ　❶官職を有する人。〔周禮、考工記、總目〕作而行レ之、謂二之士大夫一。〔韓愈、送二溫處士赴二河陽軍一序〕東都固士大夫之冀北也。❷軍士・將校。〔吳子、勵士〕武侯設二坐廟庭一、爲二三行一、饗二士大夫一。〔史記、李廣傳贊〕彼其忠實心、誠信二於士大夫一也。

【士中英】238 シチユウノエイ　士の中の秀でたもの。〔海錄碎事、聖賢人事、敏慧〕孔稚圭、白馬篇、當今丈夫志、獨取二士中英一。

【士麥拿】239 スミルナ　地名。トルコの都會。Smyrna の音譯。

【士彌牟】240 シビボウ　春秋、晉の人。文伯士匄の子。卽ち士景伯。〔左氏、昭、二十三・二十四・三十二・定、元〕。

【士敏土】241　shih^{4} min^{2} t'u^{3} セメント cement の音譯。

【士明善】242 シメイゼン　明、清河の人。字は複初。永樂の擧人。母に事へて至孝。

【士容論】243 シヨウロン　呂氏春秋の篇名。士容・務大・上農・任地・辨土・審時の六篇がある。

【士安書淫】244 シアンシヨイン　士安は晉の皇甫謐（**8－22701**‥240）の字。皇甫謐は典籍を耽讀して寢食を忘れる程なので、時人が書淫といつた。淫は、度をすごすこと。〔晉書、皇甫謐傳〕皇甫謐、字士安、云云、耽二習典籍一、忘二寢與一レ食、時人謂二之書淫一。

【士隱者貧】245 シノカクルルモノハヒン　隱れて仕へぬ士は貧乏暮しをする。〔魏武帝、碣石篇、其三〕士隱者貧、勇俠輕非。

【士相見禮】246 シサウケンレイ　儀禮（**1－1172**‥114）の篇名。〔儀禮、士相見禮、疏〕鄭目錄云、士以二職位一相親、始承レ摯相見、禮雜記、會葬禮曰、相見也反哭而退、朋友虞祔而退、士相見禮、於二五禮一屬二賓禮一、大小戴及別錄、皆第三。

【士得レ己焉】247 シハオノレヲウ　士たるものは己の本性を失はないで操守を全うする。〔孟子、盡心上〕窮不レ失レ義、故士得レ己焉。

【士農工商】248 シノウコウシヤウ　人民を四種類に分つた名稱。士と農と工と商。〔穀梁、成、元〕古者有二四民一、有二士民一、有二商民一、有二農民一、有二工民一。〔國語、齊語〕公曰、處二士農工商一、若何。〔管子、小匡〕士農工商四民者、國之石民也。〔注〕有二斯四民一、國因以堅固、故云二國之石民一也。〔淮南子、齊俗訓〕士農工商、鄕別州異。〔說苑、政理〕所謂四民者、士農工商也。

【好レ士士至】249 シヲコノメバシイタル　賢士を好めば、天下の賢士が集まり至る。〔新序、難事、一〕晉平公浮二西河一、中流而歎曰、嗟乎安得二賢士一與共二此樂一者、船人固桑進對曰、君言過矣、夫劍產二於越一、珠產二江漢一、玉產二崑山一、此三寶者、皆無レ足而至、今君苟好レ士、則賢士至矣。

【勞レ士若レ哺】250 シヲラウスルコトホスルガゴトシ　士をいたはることの厚い喩。哺は、食物を他の口に入れてやしなふこと、又、食ふこと。〔海錄碎事、聖賢、待士〕君王一擧レ手勞二四座一、士若レ哺二粱肉一、淮南子。

【士馬爾卡登】251 シマルカルデン　地名。ドイツの都邑。Schmalkalden の音譯。

【說レ士甘二於肉一】252 シヲトクハニクヨリモアマシ　海內の奇偉の士について語ることは肉を食ふよりもうまく、樂しい。〔後漢書、李充傳〕充爲陳二海內隱居懷道之士一、頗有レ不レ合、隲欲レ絕二其說一、以レ肉啖レ之、充抵二肉於地一曰、說レ士猶甘二於肉一。

【士爲二知レ己者一死】253 シハオノレヲシルモノノタメニシス　男子は己のねうちを見拔いて待遇してくれる人の爲に身命をなげうつ。〔史記、豫讓傳〕士爲二知レ己者一死、女爲二說レ己者一容。〔說苑、復恩〕鮑叔死、管仲擧二上衽一而哭レ之、泣下如レ雨、從者曰、非二君父子一也、此亦有レ說乎、管仲曰、云云、生レ我者父母、知レ我者鮑子也、士爲二知レ己者一死、而況爲二之哀一乎。

【士有二一定之論一】254 シニハイツテイノロンアリ　男子には必ず一定した意見・議論がなければならない。〔淮南子、原道訓〕士有二一定之論一、女有二不易之行一。

【士可レ殺而不レ可レ辱】255 シハコロスベシハヅカシムベカラズ　士は殺すことを得ても、辱しめることはできない。〔禮、儒行〕儒有二可レ親而不レ可レ劫也、可レ近而不レ可レ迫也、可レ殺而不レ可レ辱也。

【士者詘二乎不レ知レ己】256 シハオノレヲシラザルニクツス　士は己の價値を知つてくれない人に對しては力を發揮しない。〔晏子、雜、上〕士者詘二乎不レ知レ己、而申二乎知レ己。

【士不レ可三以不二弘毅一】257 シハモツテコウキナラザルベカラズ　士の心志は弘大で剛毅でなければならぬ。〔論語、泰伯〕曾子曰、士不レ可三以不二弘毅一、任重而道遠、仁以爲二己任一、不二亦重一乎、死而後已、不二亦遠一乎。

【士別三日卽更刮目相待】258 シワカレテサンジツナレバスナハチサラニクワツモクシテアヒマツ　士たる者は、別れて三日の後は、目を拭うて見るべきである。男子の常に向上發展する喩。吳の呂蒙の故事。〔吳志、呂蒙傳、注〕江表傳曰、初權謂二蒙及蔣欽一、卿今並當レ塗掌レ事、宜二學問以自開益一、云云、蒙始就レ學、篤志不レ倦、其所二覽見一、舊儒不レ勝、後魯肅上代二周瑜一、過レ蒙言議、常欲レ受レ屈、肅拊二蒙背一曰、吾謂、大弟但有二武

略二耳、至三於今者一、學識英博、非三復呉下阿蒙一、蒙曰、士別三日、卽更刮目相待、大兄今論、何一稱二穰侯一乎。

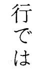
【士志レ道恥二惡衣惡食一者未レ足二與議一】259（シミチニココロザシテアクイアクショクヲハヅルモノハイマダトモニギスルニタラズ） 士たる者が、苟くも聖人の大道に志しながら、衣食の粗惡を恥づるならば、與に語るに足りない。〔論語、里仁〕士志二於道一而恥二惡衣惡食一者、未レ足二與議一也。〔集注〕心欲レ求レ道、而以二口體之奉不一レ若レ人爲レ恥、其識趣之卑陋甚矣、何足三與議二於道一哉。

一畫

【壬】5639

㊀ジン ニン 〔集韻〕如林切 ㄖㄣˊ jen^2 侵

㊁ジン ニン 〔集韻〕如鴆切 沁


小篆

㊀❶みづのえ。十干の第九位。五行では水、方位では北にあたる。〔說文〕壬、位二北方一也、陰極陽生、故易曰、龍戰二于野一、戰者接也、象三人褢妊之形一、承二亥壬一、㠯二子生之敍一也、壬與レ巫同意、壬承レ辛、象二人脛一脛任レ體也。〔淮南子、天文訓〕壬癸亥子、水也。❷になふ。任(1－416)に通ず。〔正字通〕壬、與レ任通、擔也。〔說文通訓定聲〕愚按、壬、儋何也、上下、物也、中、象二人儋一レ之。❸へつらふ。栠(6－14711)に通ず。〔說文通訓定聲〕壬、叚借爲レ栠、善柔似レ弱、如二木之栠一也。〔爾雅、釋詁〕壬、佞也。〔書、皐陶謨〕何畏二乎巧言令色孔壬一。〔漢書、元帝紀〕是故壬人在レ位。〔注〕服虔曰、壬人、佞人也。❹はらむ。妊(3－6072)に通ず。〔正字通〕壬、借爲二褢壬字一、壬去聲、別作レ妊、非。〔釋名、釋天〕壬、妊也、陰陽交、物懷妊也、至レ子而萌也。〔史記、律書〕壬之爲レ言、任也、言三陽氣壬二養萬物于下一也。❺大きい。甚(2－2757)に通ず。〔說文通訓定聲〕壬、叚借爲レ甚。〔爾雅、釋詁〕壬、大也。〔詩、小雅、賓之初筵〕有レ壬有レ林。〔傳〕壬、大。❻姓。〔福州府志〕壬午寶、武擧、嘉定十六年、特奏レ名。㊂へつらふ。〔集韻〕壬、佞也。

名乘　アキラ。ツグ。ミ。ヨシ。

解字　象形。本義はみづのえ。北方に位し、此に至れば陰極まり陽生じて、萬物懷妊す。故に婦人の懷妊の形に象つて、其の意を表はす。字のなりたちは巫(工と从との合字。从はみこの舞ふ兩袖の形に象り、工は貴人の意)に同じく、工(懷妊は婦人の大役、故に尊貴の意を會す)を本とし、中の横畫を以てはらめるさまに象る。もと王に作るを見れば、此の理は自ら明かである。一説に、指事。本義は荷物をになふこと。上下の横畫は荷物に象り、中の交畫は人が之を擔ふ意を示す。今、任を此の意に用ひ、壬を用ひない。〔說文、壬、段注〕壬、與レ巫同意、巫像二人兩袖一舞、壬像二人腹大一也。〔說文通訓定聲〕壬、位二北方一也、陰極陽生、故易曰、龍戰二于野一、戰者接也、象三人褢妊之形一、承二亥壬一以二子生之敍一也、與レ巫同意、愚按、壬、儋何也、上下、物也、中、象二人儋一レ之、在二六書一象形兼二指事一、古象形字、若二舟車一若二目馬一之類、横作竪作同也。▽工（甲骨文）工（金文）象形。はた絲を巻きつけた形に象り、機絲(紝)の意を表はす。

參考　壬(3－4869)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、壬、音挺、下畫長。壬、十干名、中畫長。

【壬寅】1（ジンイン） 十六國の西涼、李暠の年號。

【壬公】2（ジンコウ） みづのえの君。水の異名。又、水の神。壬夫(11)を見よ。〔蘇軾、眞一酒歌〕壬公飛レ空丁女藏。〔注〕壬公、水也。

【壬秋】3（ジンシウ） 清、王闓運(7－20823··1248)の字。

【壬叔】4（ジンシユク） 清、李善蘭(6－14459··1611)の字。

【壬人】5（ジンジン） 節操がなくおもねりへつらふ人。佞人をいふ。〔春秋繁露、陽尊陰卑〕肢體移二易其處一、謂二之壬人一。〔漢書、元帝紀〕是故壬人在レ位、而吉士雍蔽。〔注〕服虔曰、壬人、佞人也。

【壬生】6（ミブ） ❶地名。㋑安藝國の地名。㋺下野國の地名。㋩山城國の地名。㋥美作國の地名。❷姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【壬生部】7（ミブベ） 昔、皇子誕生のとき、うぶ湯のことを司つた民。〔古事記、下〕爲二太子伊邪本和氣命之御名代一、定二壬生部一。

【壬生狂言】7′（ミブキヤウゲン） 京都の壬生寺で演ずる狂言。無言劇。手眞似で行ふ。〔拾葉集〕毎年三月、大念佛あり、又此所に人民集まり、狂言をつとむるなり。

【壬生官務】8（ミブクワンム） 昔、外記の下に屬した左大史の異稱。〔地下職官志〕左大史正四位下壬生官務小槻季連。

【壬生城址】9（ミブジヤウシ） 下野國壬生町に在る。

【壬佞】10（ジンネイ） ねぢけ。よこしま。〔唐書、姚崇傳〕比來壬佞、冒二觸憲網一。

【壬夫】11（ジンプ） 水の神。壬公。〔董逌集〕退之、陸渾山火詩、女丁婦壬傳二世婚一、當レ作二女丁夫壬一、東山小連曰、玄冥之子曰二壬夫安一、祝融氏之女曰二丁羊一、俱學二水仙一、是謂二溫泉之神一。

【壬父】12（ジンポ） 清、王闓運(7－20823··1248)の字。

【壬林】13（ジンリン） 盛大なこと。〔詩、小雅、賓之初筵〕百禮既至、有レ壬有レ林。〔集傳〕壬、大、林、盛也。

【壬辰丁酉之役】14（ジンシンテイイウノエキ） 豐臣秀吉の朝鮮遠征の役。我が國では文祿慶長の役といひ、朝鮮では壬辰丁酉之役といふ。

【壬戌癸亥翻天作海】15 jen^2 hsü^1 kuei^3 hai^4 fan^1 t'ien^1 tsuo^4 hai^3 壬戌癸亥の干支に當れば必ず大雨がある。江蘇海門の人が天候をいふ諺。

二畫

【𡈼】5640

テイ チヤウ 〔字彙補〕他鼎切 迥

立つ。〔字彙補〕𡈼、人在二士上一、𡈼然而立也。

三畫

【声】5641

ゲウ 義未詳。〔字彙補〕声、音堯。

【壮】5642

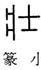
サウ 壯(3－5643)の俗字。〔正字通〕壯、省作レ壮。

四畫

【壯】5643

㊀サウ シヤウ 〔集韻〕側亮切 ㄓㄨㄤˋ chuang^4 漾

㊁シヤウ サウ 〔字彙〕資良切 陽


小篆

㊀❶大きい男。〔說文〕壯、大也、从レ士爿聲。〔段注〕尋二說文之例一、當レ云二大士一也。❷大きい。大きくする。大きくなる。〔爾雅、釋詁〕壯、大也。〔詩、小雅、采芑〕克壯二其猶一。〔傳〕壯、大也。〔管子、小問〕至二其壯一也。〔注〕壯、謂二苗轉長大一。〔齊民要術、種穀〕禾生二於寅一、壯二於丁午一。❸さかん。〔易、大壯、釋文〕王肅云、壯、盛也。❹いさましい。〔漢書、東方朔傳〕拔レ劍割レ肉、壹何壯。❺つよい。すこやか。〔廣雅、釋詁二〕壯、健也。❻かたい。〔素問、鍼解〕手如レ握レ虎者、欲二其壯一也。〔注〕壯、謂二摟鍼堅定一也。❼はやい。〔莊子、徐無鬼〕百工有二器械之巧一則壯。〔釋文〕李云、壯、疾也。❽そこなふ。やぶれる。戕(5－11562)に通ず。〔說文通訓定聲〕壯、叚借爲レ戕。〔易、姤〕女壯。〔虞注〕壯、傷也。〔易、大壯、釋文〕壯、馬云、傷也。❾とげ。き

ずつける。創(2−2127)に通ず。〔說文通訓定聲〕壯、叚借爲レ創。〔方言、三〕凡草木刺レ人、北燕・朝鮮之閒、或謂二之壯一。〔廣雅、釋詁二〕壯、箴也。❿としざかり。三十。〔釋名、釋長幼〕三十曰レ壯、壯、言二丁壯一也。〔禮、曲禮上〕三十曰レ壯。⓫としわか。〔後漢書、任延傳〕拜二會稽都尉一、時年十九、迎官驚二其壯一。〔注〕壯、少也。⓬八月。〔爾雅、釋天〕八月爲レ壯。⓭南方。〔淮南子、墬形訓〕壯土之氣。〔注〕壯土、南方之土。⓮灸の一灼を一壯といふ。灼(7−18878)に通ず。〔說文通訓定聲〕壯、叚借爲レ灼。〔魏志、方技、華佗傳〕又精二方藥一、云云、若當レ灸、不レ過二一兩處一、每處不レ過二七八壯一、病亦應レ除。〔夢溪筆談、技藝〕醫用レ艾一灼、謂二之一壯一者、以二壯人一爲レ法。⓯奘(3−5928)に通ず。〔方言、一〕秦晉之閒、凡人之大謂二之奘一、或謂二之壯一。〔箋疏〕說文、奘、駔大也、通作レ壯。⓰莊(9−31035)に通ず。〔荀子、非十二子〕壯然。〔注〕壯、或當レ爲レ莊。⓱將(4−7438)に通ず。〔禮、射義〕幼壯孝弟。〔注〕壯、或爲レ將。⓲俗に壯(3−5642)に作る。〔正字通〕壯、省作レ壯。🈔姓。〔續字彙補〕壯、姓、壯馳茲、晉大夫。

名乘　タケ。モリ。

【壯意】1 サウイ　さかんな意氣。壯氣。〔後漢書、馬援傳〕左右哀二其壯意一、莫レ不二爲レ之流涕一。

【壯偉】2 サウヰ　さかんで大きい。〔北史、薛彪子傳〕彪子姿貌壯偉、明斷有二父風一。〔五代史、王樸傳〕新城通二道路一、壯偉宏闊。〔歐陽脩、吉州學記〕嚴嚴翼翼、壯偉閎耀。

【壯猶】3 サウイウ　はかりごとを壯大にする。又、壯大なはかりごと。壯猷。〔詩、小雅、采芑〕方敍元老、克壯二其猶一。〔箋〕猶、謀也。

【壯猷】4 サウイウ　壯大なはかりごと。壯猶。壯圖。〔福惠全書、稟啓附、送三守道入二賀聖壽一〕壯猷永奠二乎唐基一。

【壯遊】5 サウイウ　壯志を抱いて遠遊する。又、さかんな遊覽。又、さかんな宴遊。〔杜甫、壯遊詩〕往昔十四五、出遊二翰墨場一。〔袁桷、送三文子方著作受二交趾使于武昌一長律詩〕壯遊詩句豁、古戍角聲悲。

【壯行】6 サウカウ　❶壯にして行ふ。壯年に至り、幼にして學んだことを實行すること。〔孟子、梁惠王下〕夫人幼而學レ之、壯而欲レ行レ之。❷さかんな出立。又、門出をさかんにする。門出を飾る。

【壯行會】7 サウカウクワイ　人の門出を盛大にする會。

【壯行色】8 chuang^{4} hsing^{2} sê^{4}　門出をかざる。

【壯佼】9 サウカウ　からだがすこやかで容貌の美しい者。體力がさかんで力の強い者。壯者。壯狡。〔禮、月令〕(仲夏之月)其器高以粗、養二壯佼一。〔疏〕壯、謂二容體盛大一、佼、謂二形容佼好一。〔呂覽、禁塞〕壯佼老幼胎贕之死者、大實二平原一、廣堙二深谿大谷一。〔歐陽脩、本論中〕彼誠壯佼。

【壯狡】10 サウカウ　❶幼くかはいらしいこと。又、童兒。〔詩、鄭風、狡童、彼狡童兮、傳〕昭公有二壯狡之志一。〔疏〕以丁昭公雖二則年長一、而有丙幼壯狡好、作乙童子之時之志甲、故謂二之狡童一。❷壯佼に同じ。〔呂覽、仲夏〕其器高以觕、養二壯狡一。〔注〕多力之士。〔大戴禮、千乘〕壯狡用レ力。

【壯蒿】11 サウカウ　草の名。をとこよもぎ。

【壯愨】12 サウカク　諡號。❶清、王無黨(萬全の人)(7−20823··2119)の諡。❷清、吳進義(2−3365··681)の諡。

【壯悍】13 サウカン　さかんでつよい。〔後漢書、西羌傳論〕壯悍則委二身於兵場一。〔吳志、陳表傳〕明素壯悍、收考極レ毒、惟死無レ辭。

【壯眼】14 サウガン　すこやかな目。〔和漢三才圖會、服玩具、眼鏡〕如二壯眼一表裏正直。

【壯其】15 サウキ　明、顏茂猷(12−43591··193)の字。

【壯氣】16 サウキ　さかんな意氣。壯意。〔吳志、甘寧傳〕壯氣毅然。〔徐悱、古意酬三到長史溉登二琅邪城一詩〕少年負二壯氣一、耿介立衝レ冠。

【壯僖】17 サウキ　清、八十六(2−1450··565)の諡。

【壯毅】18 サウキ　❶さかんで強い。〔吳志、張昭傳〕爲レ人壯毅忠讜、能甄二識人物一。❷齊の將軍の名稱の一。〔隋書、百官志上〕齊又置二百號將軍一、壯武・壯勇・壯烈・壯猛・壯銳・壯盛・壯毅・壯志・壯意・壯力同レ班。❸諡號。㋑清、安祿(3−7072··520)の諡。㋺清、和隆武(2−3490··449)の諡。

【壯騎】19 サウキ　つよい騎兵。勁騎。〔史記、衞將軍傳〕漢兵夜至、圍二右賢王一、右賢王驚夜逃、獨與二其愛妾一人、壯騎數百一、馳潰レ圍北去。

【壯丘】20 サウキウ　複姓。〔萬姓統譜〕壯丘、漢有二壯丘勝一。

【壯彊】21 サウキヤウ　つよい。強壯。〔論衡、效力〕管仲有レ力、桓公能擧レ之、可レ謂二壯彊一矣。

【壯巨】22 サウキヨ　さかんで大きい。壯大。〔晉書、郭璞傳〕其卦曰、艮體連レ乾、其物壯巨、山潛之畜、匪レ兕非レ武。

【壯擧】23 サウキヨ　さかんなくはだて。壯大な計畫。

【壯勤】24 サウキン　諡號。❶清、琿錦(7−21093··1)の諡。❷清、馬元(12−44572··188)の諡。❸清、馬瑜(12−44572··583)の諡。

【壯果】25 サウクワ　諡號。❶清、曾秉忠(5−14299··236)の諡。❷清、張朝龍(4−9812··1400)の諡。❸清、德楞泰(4−10243··385)の諡。㊃清、拉布敦(5−11946··97)の諡。

【壯快】26 サウクワイ　さかんでこころよい。

【壯懷】27 サウクワイ　さかんなおもひ。勇壯な志懷。〔韓愈、送三石處士赴二河陽幕一詩〕風雲入二壯懷一、泉石別二幽耳一。

【壯觀】28 サウクワン　さかんな見もの。立派なながめ。さかんで立派な事柄。偉觀。〔韻會〕觀、壯觀奇觀、謂三景趣壯麗、事端奇偉、有二可レ觀者一。〔司馬相如、封禪文〕皇皇哉、此天下之壯觀・王者之丕業、不レ可レ貶也。〔班固、西都賦〕娛遊之壯觀。〔左思、吳都賦〕抑非三大人之所二壯觀一也。

【壯藝】29 サウゲイ　立派なわざ。〔陸機、七徵〕覽二壯藝一以悅レ觀。

【壯月】30 サウゲツ　陰曆八月の異稱。〔爾雅、釋天〕八月爲レ壯。

【壯健】31 サウケン　さかんですこやか。年が若くて丈夫。〔史記、田叔傳〕仁以二壯健一爲二衞將軍舍人一。〔漢書、匈奴傳上〕貴二壯健一、賤二老弱一。

【壯縣】32 サウケン　大きな縣。又、大きな都會。大きい縣治の意。〔陸游、入蜀記〕在二峽中一、亦壯縣也。

【壯言】33 サウゲン　意氣のさかんな言葉。壯語(35)に同じ。

【壯固】34 サウコ　大きくてかたい。規模が大きく堅固なこと。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏下〕本城壯固無レ匹。

【壯語】35 サウゴ　意氣さかんなことば。又、強がって大げさにいふ言葉。大言壯語。壯言。〔晉書、宗室、閔王承傳〕閔王承、行達二武昌一、釋二戎備一見二王敦一、敦謂レ承曰、大王雅素佳士、恐非二將帥才一也、承曰、鉛刀豈不レ能二一割一乎、承以レ敦欲レ測二其情一、故發二此言一、敦果謂二錢鳳一曰、彼不レ知レ懼、而學二壯語一、此之不レ武、何能爲也。〔文心雕龍、雜文〕高二談宮館一、壯二語畋獵一。

【壯侯】36 サウコウ　諡號。❶三國魏、州泰(4−8678··35)の諡。❷南朝宋、胡藩(9−29400··308)の諡。❸南朝宋、卜天與(2−2774··87)の諡。

【壯嚴】37 サウゴン　さかんでおごそか。おごそかで麗はしいさま。莊嚴。〔大槻如電、東京〕輪奐壯嚴、更改二其觀一。

【壯哉】38 サウナルカナ　さかんなるかな。歎美の辭。〔漢書、陳平傳〕高帝南過二曲逆一、上二其城一、望二室屋甚大一曰、壯哉縣。〔宋之問、扈二從登封一途中作詩〕張殿鬱崔嵬、仙遊實壯哉。

【壯歲】39 サウサイ　はたらきざかりの年頃。壯年(75)に同じ。〔白居易、歎老詩〕壯歲不二歡娛一、長年當二悔悟一。〔陸游、月夜泛二小舟湖中一三更乃歸詩〕壯歲功名慚二汗馬一、莫年心事許二沙鷗一。

【壯士】40 サウシ　❶氣力の盛んなますらを。壯夫。〔史記、項羽紀〕項王曰、壯士、賜二之卮酒一、則與二斗卮酒一。〔史記、仲尼弟子傳〕蒲多二壯士一。〔司馬相如、子虛賦〕壯士之暴怒。〔杜甫、後出塞詩〕悲笳數聲動、壯士慘不レ驕。❷わか者。青年。壯丁。壯士芝居を見よ。❸一定の職業がなく、人に頼まれて政治上の運動などを引受け、腕力で事を成し遂げようとする者。

【壯士芝居】41 サウシシバヰ　新派劇の發生期の稱呼。壯士或は書生と呼ばれた當時の青年知識階級が、自由民權思想を民衆に訴へる目的で創始した素人演劇。明治二十一年、角藤定憲の創始に係る。書生芝居。

〔壯士髮衝レ冠〕42（サウシハツカンムリヲツク） 意氣のさかんな若者がなげき憤る餘り、其の頭髮が逆立つて冠をつきあげる。燕の刺客、荊軻が易水で太子丹に別れるときのさまをいふ。〔駱賓王、易水送別詩〕此地別二燕丹一、壯士髮衝レ冠、昔時人已沒、今日水猶寒。

〔壯士一去兮不二復還一〕43（サウシヒトタビサツテマタカヘラズ） 壯士が決死の覺悟で難に赴くこと。燕の刺客、荊軻が秦王を刺しに赴く時、太子丹と易水で別れた時歌つた句。〔戰國、燕策〕風蕭蕭兮易水寒、壯士一去兮不二復還一。

【壯志】44（サウシ） さかんなこころざし。雄々しく勇ましい志氣。〔後漢書、張儉傳論〕莫レ不レ憐二其壯志一。〔曹植、與二吳季重一文〕豈非二君子壯志一哉。〔隋書、李子雄傳〕子雄、少慷慨、有二壯志一。〔王樞、有下客問二余近況一者上詩以答レ之詩〕豪氣於レ今尙未レ除、難下將二壯志一付中樵漁上。

【壯思】45（サウシ） さかんなおもひ。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕君侯多二壯思一。

【壯齒】46（サウシ） 年若いこと。壯年(75)に同じ。齒は齡。〔梁簡文帝、戎昭將軍劉顯墓銘〕禮著二幼年一、業明二壯齒一。〔左思、雜詩〕壯齒不二恆居一。〔隋書、令狐熙傳〕昔在壯齒、猶不レ如レ人、況今年疾俱侵、豈可三猶當二重寄一。

【壯事】47（サウジ） ❶さかんな事業。盛大な事蹟。〔後漢書、律曆志下〕巍巍乎若二天地之綱紀、帝王之壯事一。❷力役をいふ。〔國語、晉語一〕既無二老謀一、而又無二壯事一。〔注〕壯事、力役也。❸壯年の時の事。〔元好問、感レ事詩〕壯事本無レ取、老謀何所レ成。

【壯兒】48（サウジ） 青年。意氣のさかんな青年。〔杜甫、高都護驄馬行〕長安壯兒不二敢騎一、走過掣電傾レ城知。

【壯室】49（サウシツ） 三十歲のこと。〔禮、曲禮上〕三十曰レ壯、有レ室。〔枕中記〕今已過二壯室一、猶勤二田畝一。

【壯疾】50（サウシツ） つよくすばやいこと。〔爾雅、釋詁下、肅齊遄速亟屢數迅疾也、疏〕齊者、壯疾也。

【壯者】51（サウシヤ） 年若い者。血氣盛んな者。老病者の對。〔禮、王制〕凡使レ民任二老者之事一、食二壯者之食一。〔孟子、公孫丑下〕壯者散之二四方一者幾千人矣。〔荀子、脩身〕老レ老而壯者歸焉。

【壯情】52（サウジヤウ） さかんな心。壯心。〔後漢書、馬援傳贊〕徂年已流、壯情方勇。

【壯肅】53（サウシユク） 諡號。❶陳、侯瑱(1－633‥50)の諡。❷唐、段志玄(6－16619‥84)の諡。❸清、劉銘傳(2－2224‥1333)の諡。

【壯心】54（サウシン） さかんなこころ。壯烈な心。壯情。〔世說新語、豪爽〕老驥伏レ櫪、志在二千里一、烈士暮年、壯心不レ已。〔杜甫、歲暮詩〕濟レ時敢愛レ死、寂寞壯心驚。

【壯人】55（サウジン） 強壯な人。〔夢溪筆談、技藝〕醫用レ艾一灼、謂二之一壯一者、以二壯人一爲レ法、其言二若干壯一、壯人當レ依二此數一、老幼羸弱、量レ力減レ之。

【壯制】56（サウセイ） 宏壯な制作。さかんなつくり。〔北史、李彪傳〕費レ力者、廣宅・高宇・壯制・麗飾、是也。

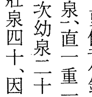
【壯盛】57（サウセイ） 若くさかんなこと。わかざかり。〔戰國、燕策〕今太子聞二光壯盛之時一、不レ知二吾精已消亡一矣。

【壯靖】58（サウセイ） 清、劉順(2－2224‥374)の諡。

【壯節】59（サウセツ） ❶さかんな節操。つよい節操。〔魏志、臧洪傳評〕有二雄氣壯節一。〔晉書、李績傳〕績年少有二壯節一。❷諡號。㋑後漢、傅燮(1－939‥82)の諡。㋺宋、程叔達(8－25081‥232)の諡。㋩宋、王復(7－20823‥935)の諡。㋥明、譚淵(10－35978‥4)の諡。㋭清、江忠濟(6－17140‥493)の諡。㋬清、江忠信(6－17140‥492)の諡。㋣清、葛雲飛(9－31420‥112)の諡。㋠清、花連布(9－30734‥632)の諡。㋷清、惠慶(4－10822‥35)の諡。㋦清、蕭翰慶(9－32012‥323)の諡。㋸清、鄒鳴鶴(11－39562‥124)の諡。㋾清、達三泰(11－39011‥139)の諡。㋻清、端濟布(8－25806‥213)の諡。㋕清、豆斌(10－36245‥68)の諡。㋵清、鄧世昌(11－39630‥168)の諡。㋟清、童添雲(8－25775‥127)の諡。㋹清、馬全(12－44572‥380)の諡。㋞清、王文雄(7－20823‥2083)の諡。

【壯絕】60（サウゼツ） 勝れて壯烈なこと。最も壯大なこと。

【壯泉】61（サウセン） 錢の名。新の王莽の時に鑄造した六種の錢の一。壯錢。〔金石索、泉刀屬、新王莽泉刀布〕莽始建レ國、更作二小錢一、徑六分、文曰二小泉一、直一重一銖、次幺泉一十、次幼泉二十、次中泉三十、次壯泉四十、因二前大泉五十一爲二泉貨六品一。



新王莽壯泉
（金石索）

【壯錢】62（サウセン） 王莽の時に鑄た六種の錢の一。壯泉に同じ。〔漢書、食貨志下〕一寸九銖曰二壯錢四十一。

【壯然】63（サウゼン） さかんなさま。〔荀子、非十二子〕其容良、儼然壯然。

【壯卒】64（サウソツ） 兵士。又、壯丁。〔稱謂錄、勇、壯卒〕寶慶四明志、闕額雖二州郡自募一、京師實分二遣壯卒一、爲二募レ士之準一、謂二之兵樣一。

【壯大】65（サウダイ） ❶さかんで大きい。強く大きい。大きく立派なこと。壯巨。〔唐書、回鶻傳下〕筋骼壯大。❷わかざかり。壯年。〔漢書、元帝紀〕八歲立爲二太子一、壯大柔仁好レ儒。〔漢書、燕刺王旦傳〕壯大就レ國、爲レ人辯略。

【壯膽】66（サウタン） 勇ましいきもだま。物に動ぜぬ度胸。壯烈な膽力。〔杜甫、飲中八仙歌、集注〕師曰、按、唐史拾遺、汝陽王璡、嘗於二上前一醉、不レ能レ下レ殿、上遣レ人掖出レ之、璡謝レ罪曰、臣以二三斗一壯膽、不レ覺至レ此。〔員半千、隴頭水詩〕喋レ血多二壯膽一、裹レ革無二怯魂一。

【壯男】67（サウダン） 若ざかりの男子。〔商子、去彊〕壯男壯女之數、老弱之數。〔新序、雜事二〕春秋四十、壯男不レ立。

【壯長】68（サウチヤウ） 強く大きくなる。肥え長ずる。〔孟子、萬章下〕嘗爲二乘田一矣、曰、牛羊茁壯長而已矣。

【壯女】69（サウヂヨ） 若ざかりの女子。〔商子、去彊〕壯男壯女之數、老弱之數。

【壯直】70（サウチヨク） ❶心がさかんで正しいこと。〔後漢書、許劭傳〕劭邑人李逵、壯直有二高氣一。❷清、慶祥(4－11145‥61)の諡。

【壯丁】71（サウテイ） 丁年に達した男子。わかざかりの男。はたらきざかりの男。壯夫。壯卒。〔宋史、食貨志上六〕壯丁皆按二戶版簿名次一、實レ輪充レ役、半年而更。〔六部成語、戶部、壯丁、注解〕年壯之民丁也。

【壯途】72（サウト） さかんなかどで。いさましく出發すること。又、壯大な征途。

【壯圖】73（サウト） さかんなはかりごと。大きなくはだて。大計。壯猷。雄圖。鴻圖。〔杜甫、過二南嶽一入二洞庭湖一詩〕帝子留二遺恨一、曹公屈二壯圖一。

【壯土】74（サウド） 南方の土地。〔淮南子、墬形訓〕壯土之氣、御二于赤天一。〔注〕壯土、南方之土。

【壯年】75（サウネン） 人の一生の中で最もさかんな年頃。はたらきざかりの年ごろ。三四十だいの年齡。壯齒。壯歲。壯大、壯齡。〔隋書、張煚傳〕雖レ云二致仕一、猶克壯年。〔袁淑、傚レ古詩〕壯年徒爲レ空。

【壯貝】77（サウバイ） 錢の一種。新の王莽の時に鑄造した貝貨五品の一。〔漢書、食貨志下〕公龜九寸、直五百、爲二壯貝十朋一、云云、壯貝三寸六分以上、二枚爲二一朋一、直五十。

【壯倍】78（サウバイ） 勢がさかんになる。〔韓愈、嘲二鼾睡一詩〕雄哮乍咽絕、每レ發壯益倍。

【壯髮】79（サウハツ） 額（ヒタヒ）の上に圭(尖つた玉)の頭のやうに垂れ下つて生えている髮。圭頭。〔漢書、外戚下、孝成趙皇后傳〕額上有二壯髮一、類二孝元皇帝一。〔注〕師古曰、壯髮、當二額前一侵レ下而生、今俗呼爲二圭頭一者、是也。

【壯飛】80（サウヒ） 清、譚嗣同(10－35978‥63)の號。

【壯美】81（サウビ） ❶雄大でうるはしい。壯麗。〔詩、大雅、文王、殷士膚敏、箋〕殷之臣、壯美而敏、來助二周祭一。❷美學用語。嵩高・畏敬の感を起させる美。純美(8－27277‥105)の❶の對。

【壯敏】82（サウビン） 諡號。❶宋、張宗顏(4－9812‥1287)の諡。❷清、桂林(6－14755‥127)の諡。❸清、舒賽(9－30300‥26)の諡。

【壯愍】83（サウビン） 諡號。❶宋、曲端(5－14280‥188)の諡。❷明、岳懋(4－8001‥50)の諡。❸清、伊興額(1－432‥148)の諡。❹清、王有齡(7－20823‥1151)の諡。

【壯夫】84（サウフ） ❶わかざかりの男。壯丁。又、氣力さかんなますらを。壯士。〔法言、吾子〕童子雕蟲篆刻、壯夫不レ爲也。〔李白、擬レ恨賦〕僕本壯夫、慷慨不レ歇。〔杜甫、贈二韋左丈濟一詩〕有レ客雖レ安レ命、衰容豈壯夫。〔韓愈、贈二鄭兵曹一詩〕君爲二

壯夫一我少年。❷壯年の人夫。〔六部成語、工部、壯夫、注解〕年壯之夫役也。

【壯武】85サウブ ❶さかんでたけしい。たけくいさましい。〔魏志、典韋傳〕韋旣壯武、其所レ將皆選卒。❷縣名。漢、置く。故城は山東省卽墨縣の西。〔漢書、地理志下〕膠東國、縣八、壯武。❸諡號。㋑漢、常惠（4－8955・・81）の諡。㋺北周、李遷哲（6－14459・・1607）の諡。㋩隋、張定和（4－9812・・1387）の諡。㋥隋、馮慈明（12－44579・・232）の諡。㋭唐、劉玄佐（2－2224・・896）の諡。㋬宋、劉平（2－2224・・587）の諡。㋣明、馬榮（12－44572・・26）の諡。㋠明、李瑾（6－14459・・222）の諡。㋷清、崑壽（4－8173・・32）の諡。㋦清、哈國興（2－3594・・52）の諡。㋸清、馬玉崑（12－44572・・736）の諡。

【壯捕】86サウホ とりて。捕手。捕吏。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕自有二保甲良法、壯捕諸人在一。

【壯繆】87サウボク 唐、伊愼（1－432・・75）の諡。

【壯穆】88サウボク 三國蜀、關羽（11－41470・・8）の追諡。

【壯猛】89サウマウ さかんでたけしい。さかんで強い。〔後漢書、杜茂傳〕身長八尺、氣力壯猛。〔唐書、韓愈傳〕臣所レ領州、在二廣府極東一、過二海口一下二惡水一、濤瀧壯猛、難レ計二程期一。

【壯民】90サウミン 壯年の民。〔商子、墾令〕下不レ非レ上、中不レ苦レ官、則壯民疾レ農不レ變、壯民疾レ農不レ變、則少民學レ之不レ休。

【壯茂】91サウモ さかんにしげる。

【壯陽】92サウヤウ ❶さかんな陽氣。〔歐陽脩、大熱詩〕壯陽當レ用レ事、大夏蒸炎歊。❷chuang^4 yang^2 強賢。強壯。

【壯勇】93サウユウ ❶さかんでいさましい。壯健で勇氣がある。〔史記、王翦傳〕將軍果勢壯勇。〔漢書、田叔傳〕以二壯勇一爲二衞將軍舍人一。〔晉書、馬隆傳〕有二壯勇秀異、才力傑出者一。❷血氣ざかりの若者。〔陸贄、論二關中事宜一狀〕選二四方壯勇一、實二之邊城一。❸諡號。㋑明、吳克忠（2－3365・・566）の諡。㋺明、吳成（2－3365・・260）の諡。㋩清、愛新泰（4－10947・・352）の諡。㋥清、溫紹原（7－17968・・274）の諡。㋭清、康泰（4－9376・・110）の諡。㋬清、許文謨（10－35298・・389）の諡。㋣清、饒廷選（12－44400・・74）の諡。㋠清、張勝祿（4－9812・・1212）の諡。㋷清、豐伸布（10－36304・・232）の諡。㋦清、穆爾哈齊（8－25251・・99）の諡。㋸清、羅思擧（9－28397・・345）の諡。

【壯輿】94サウヨ 宋、劉義仲（2－2224・・802）の字。

【壯容】95サウヨウ 壯年の容貌。〔南史、陶弘景傳〕年逾二八十一、而有二壯容一。

【壯翼】96サウヨク つよい羽。〔左思、魏都賦〕雲雀踶レ甍而矯レ首、壯翼摛二鏤於青霄一。

【壯老】97サウラウ 壯年と老年。壯は三十、老は七十をいふ。〔禮、曲禮上〕三十曰レ壯、有レ室、云云、七十曰レ老、而傳。

【壯力】98サウリョク つよくて力がある。又、つよい力。強力。〔逸周書、官人解〕義氣時舒、知氣簡備、勇氣壯力。

【壯厲】99サウレイ さかんではげしい。又、意氣さかんにふるひはげむ。〔吳志、張昭傳〕辭氣壯厲。〔晉書、姚泓載記〕人情挫辱、則壯厲之心生、政教煩苛、則苟免之行立。

【壯麗】100サウレイ さかんでうるはしい。壯大で美麗。壯美。〔韓非子、解老〕所謂光者、宦爵尊貴、衣裘壯麗也。〔史記、高祖紀〕非二壯麗一、無二以重レ威。〔漢書、高帝紀下〕且夫天子、以二四海一爲レ家、非レ令二壯麗一、亡二以重レ威。〔後漢書、東海恭王彊傳〕起二靈光殿一、甚壯麗。〔孫綽、遊二天台山一賦序〕盡二人神之壯麗一矣。

【壯齡】101サウレイ 血氣さかんな年。壯年。〔謝靈運、石壁立二招提精舍一詩〕壯齡緩二前期一、頹年追二暮齒一。

【壯烈】102サウレツ ❶意氣がさかんではげしい。勇壯義烈。〔後漢書、袁紹傳下〕意氣壯烈。〔魏書、刁冲傳〕冲雖二儒生一、而執レ心壯烈、不レ畏二強禦一。〔文天祥、正氣歌〕或爲二出師表一、鬼神泣二壯烈一。❷清、張光亮（4－9812・・948）の諡。

【壯學齋】103サウガクサイ 清、周樹槐（2－3441・・706）の號。

【壯悔堂】104サウクワイダウ 清、侯方域（1－634・・141）の廳事の名。

〔壯悔堂文集〕105サウクワイダウブンシフ 書名。十卷。清、侯方域撰。

【声】5644 ケイ 磬（8－24454）の古字。〔六書正譌〕声、古文磬。

【声】5645 ㊀ケイ ㊁セイ ㊀声（3－5644）の俗字。〔正字通〕声、俗声字。㊁聲（9－29166）の俗字。〔正字通〕声、俗作二聲字省文一。

【宔】5646 マウ 妄（3－6063）に同じ。〔字彙補〕宔、與レ妄同。

【壱】5647 イツ 壹（3－5661）の略字。

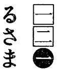
【売】5647′ バイ 賣（10－36825）の略字。

五畫

【壳】5648 カク 殼（6－16646）の略字。〔字彙補〕壳、殼字省文。〔中華大字典〕壳、殼省字。

六畫

【壴】5649


小篆

㊀シユ 〔集韻〕腫庾切 麌

㊁チユ 〔集韻〕株遇切 遇

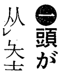
㊀㊁❶**つらねた樂器の頭の見えるさま**。〔說文〕壴、陳樂立而上見也、从二屮豆一。❷**たてる**。豎（10－36280）に通ず。〔韻寶〕壴、借作二豎立之豎一。❸**姓**。〔萬姓統譜〕豎、本姓樹、改作レ壴、望出二河東、又河南一。

解字 會意。屮（草木のめばえの形。借りて足臺の上に陳ねた樂器の頭の見えるさまに用ひる）と豆（たかつき。たかつきは足があつて直立するから借りて堅立の意に用ひる）との合字。本義は臺の上に陳ねた樂器の頭の見えるさま。故に屮と豆とを合せて其の意を表はす。一說に、象形。本義は太鼓の意で、鼓の古字。○は太鼓の輪廓に、凵は足に、屮は飾の形に象るといふ。〔說文、壴、段注〕豆者、豎也、豎、堅立也、豆有レ骹而直立、故侸豎从レ豆、壴亦从レ豆、屮者、上見之狀也、艸木初生、則見二其顚一、故从レ屮。

【壵】5650 サウ 壯（3－5643）に同じ。〔字彙補〕壵、同レ壯。

七畫

【𡔚】5651 ケツ ケチ 〔集韻〕吉屑切 屑


小篆

❶**頭が傾く**。〔說文〕𡔚、頭傾也、从レ矢吉聲、讀若レ孑。❷**高いさま**。〔玉篇〕𡔚、仡仡也。

【𡔛】5652 サ 蓑（9－31661）の古字。〔轉注古音〕𡔛、古文蓑字。

【壶】5653 コ 壺（3－5662）に同じ。〔字彙補〕壶、同レ壺。

【壷】5654 コ 壺（3－5662）に同じ。〔字彙補〕壷、與レ壺同。

【𡔳】5655 シウ シユ 〔字彙補〕心周切 尤 **はぢる**。〔字彙補〕𡔳、恥也。

【竜】5656 ワ 義未詳。〔龍龕手鑑〕竜、烏瓜切。

八畫

【壷】5657 コ 壺(**3**－**5662**)に同じ。〔字彙〕壷、同レ壺。

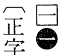
【𡕀】5658 サイ 載(**10**－**38309**)に同じ。〔龍龕手鑑〕𡕀、同レ載。

【壴】5659 ジユ 義未詳。〔五音篇海〕壴、音樹。

【𡔷】5660 コ 壼(**3**－**5687**)に同じ。〔五音篇海〕𡔷、同レ壼。

九畫

【壹】5661


小篆

㊀イツ イチ 〔集韻〕益悉切 一 質
㊁イン 〔字彙〕伊眞切 眞

㊀❶**もつぱら**。もと壹に作る。〔正字通〕壹、本作レ壹。〔說文〕壹、嫥壹也、从二壺吉一、吉亦聲。〔左氏、昭、二十〕若琴瑟之專壹、誰能聽レ之。〔穀梁、僖、九〕壹明二天子之禁一。〔注〕壹、專也。❷**ひとへに**。まつたく。〔禮、檀弓下〕壹似二重有レ憂者一。〔疏〕壹者、決定之辭也。❸**ひとつ**。**ひとたび**。一(**1**－**1**)に通ず。〔說文通訓定聲〕壹、段借爲レ一。〔廣雅、釋詁一〕壹、式也。〔禮、明堂位、此周公明堂之位也、注〕侯服歲壹見。〔釋文〕壹、又作レ一。〔容齋五筆、一二三與二壹貳參一同〕古書及漢人用レ字、如二一之與レ壹、二之與レ貳、三之與レ參、其義皆同、鳲鳩序、刺レ不レ壹也、云二用レ心之不一レ壹也、而正文其儀一兮、表記、節以レ壹惠、注、言、聲譽雖下有二衆多一者上、節以二其行一大善者一爲レ謚耳、漢華山碑、五載壹巡狩、祠二孔廟一碑、恢崇壹變、祝睦碑、非レ禮壹不レ得レ犯、而後碑云、非二禮之常一、一不レ得レ當、則與レ壹通用也、孟子市價不レ貳、趙岐注、云下無二二賈一者上也、本文用二大貳字一、注用二小二字一、則二與レ貳通用也、易繫辭、參レ天兩レ地、釋文云、參、七南反、如レ字、音三、周禮設二其參一、注、參、謂二卿三人一、則三與レ參通用也、九之與レ久、十之與レ拾、百之與レ伯亦然、予頃在二英洲一、訪二鄰人利秀才一、利新作二茅齋一、頗淨潔、從レ予乞レ名、其前有二兩高松一、因爲誦二藍田壁記一、命レ之曰二二松一、其季請曰、是使二大貳字一否、坐者皆哂、蓋其人不レ知レ書、信レ口輒言、以貽二譏笑一、若以二古字一論レ之、亦未レ爲レ失也、文惠公名二流杯亭一曰二一詠一、而采二借隸法一扁爲二壹詠一、讀者多以爲レ疑、顧第弗二深攷一耳。❹**みな**。〔孔子家語、弟子行〕壹諸侯之相也。〔注〕壹、皆。❺**ひとしい**。**同じ**。〔左氏、昭、十〕壹用レ之。〔注〕壹、同也。〔國語、晉語七〕鎭靖者修レ之則壹。〔注〕壹、均一也。❻**助辭**。一の字の助辭として用ひられるのと通ず。〔經傳釋詞、三〕一、猶レ皆也、云云、一、猶レ乃也、云云、一、語助也、云云、以上諸一字、皆是語助、字或作レ壹、禮記檀弓曰、子壹不レ知二夫喪之踊一也、又曰、子之哭也、壹似二重有レ憂者一、大學曰、自二天子一以至二於庶人一、壹是皆以レ脩レ身爲レ本、大戴禮小辯篇曰、微子之言、吾壹樂二辯言一、成十六年左傳曰、敗者壹大、哀二十一年曰、今壹不レ免二其身一、以棄二社稷一、不二亦惑一乎、以上諸壹字、亦皆是語助。❼**あつまる**。〔禮、玉藻〕壹食之人、一人徹。〔注〕壹、猶レ聚也。❽**あふ**。〔廣韻〕壹、又合也。〔漢書、董仲舒傳〕有レ所二統壹一。❾**とぢる**。〔增韻〕壹、閉塞也。〔管子、形勢〕臣下賦斂、競得レ使二民偸壹一。❿**ふさぐ**。壹鬱(3)を見よ。⓫**まこと**。**ていねい**。〔廣韻〕壹、誠也。〔禮、緇衣〕從容有レ常、以齊二其民一、則民德壹。⓬古は壹(**3**－**5680**)・壹(**3**－**5681**)・壹(**3**－**5685**)・壹(**3**－**5688**)に作る。〔字彙補〕壹、古文壹字。〔字彙補〕壹、古文壹字。〔字彙補〕壹、古文壹字。〔字彙補〕壹、古文壹字。⓭**姓**。〔萬姓統譜〕壹元、見二印藪一、壹震昌、永樂間興化府經歷。㊁絪(**8**－**27438**)・氤(**6**－**17060**)に通ず。〔正字通〕壹、與二絪・氳一通。

名乘 カズ。サネ。モロ。

解字 會意形聲。壺と吉との合字。吉は又聲。本義はもつぱらにしてまことなること。壺は專ら物を收藏する器。中に吉を畫くは、心中に專ら吉善を藏する意にして、以て純一の善、もつぱら、まことの意を表はす。一說に、壹壺と熟して、元氣の渾然として吉凶未だ分れぬ意。故に一は壺中に吉を畫き、一は凶を畫きて、其の意を表はす。今、壹に作る。假借して一とす。壺の解字を見よ。〔說文通訓定聲〕壹、專一也、从レ壺吉聲、易繫辭傳、天地壹壺、按、氣凝聚也、亦雙聲連語、據二壹訓一則吉亦意。

參考 熟語は一(**1**－**1**)をも併せ見よ。

【壹意】1 イチイ 一事に心を專らにする。一意。〔史記、蘇秦傳〕專レ心幷レ力壹レ意。〔漢書、翟方進傳〕專心壹意。

【壹宥】2 イチイウ 周禮の三宥の一。罪となることを知らないで犯したものを許すこと。〔周禮、秋官、司刺〕掌二三刺・三宥・三赦之灋一、云云、壹宥曰二不識一、再宥曰二過失一、三宥曰二遺忘一。〔注〕鄭司農云、不レ識、謂二愚民無レ所レ識則宥一レ之。

【壹鬱】3 イツウツ 氣がふさがる。うれへ思ふ。〔漢書、賈誼傳〕子獨壹鬱其誰語。〔注〕師古曰、壹鬱、猶二怫鬱一也。〔潛夫論、本訓〕天地壹鬱、萬物化淳。〔梁昭明太子、文選序〕耿介之意既傷、壹鬱之懷靡レ愬。〔注〕向曰、壹鬱、憂思也。

【壹越】4 イチコチ イチコツ 我が國十二律の一。其の第一音をなす。中國の黃鐘に當り、律・子の十一月に配す。壹越調を見よ。

〔壹越調〕5 イチコチテウ イチコツテウ 雅樂六調子の一。壹越の音を宮音とするもの、呂調に屬す。然し歌曲には壹越調の律旋もある。皇帝・春鶯轉・賀殿・胡飮酒・迦陵頻等の曲は此の調に屬する。〔倭名類聚抄、一〕壹越調曲。

【壹槩】6 イチガイ すべて平かにする。おしなべる。ひきくるめる。一槩。〔漢書、揚雄傳下〕參差不レ齊、壹二槩諸聖一。〔注〕師古曰、以二聖人大道一概平。

【壹行】7 イツカウ 呂氏春秋、愼行論の篇名。

【壹氣】8 イツキ 專一な心。一氣。〔楚辭、遠遊〕壹氣孔神兮、於二中夜一存。〔注〕專二己心一也。〔補注〕壹、專也。

【壹匡】9 イツキヤウ 天下を一つにただす。一匡(**1**－**1**‥313)に同じ。〔呂覽、貴信〕夫九二合之一而合、壹二匡之一而聽、從二此生一矣、管仲可レ謂二能因一レ物矣。

【壹空】10 イツクウ すべてむなしい。無一物。一空。〔商子、農戰〕從二壹空一出也。

【壹耦】11 イチグウ 一度つれそふ。〔揚雄、反離騷〕抨二雄鴆一以作レ媒兮、何百離而曾不二壹耦一。

【壹祼】12 イツクワン 一たび酒を酌んで祀り地にそそぐ。祼は灌で、鬱鬯の酒を酌み、尸に獻じ、祭り終れば其の酒を地に灌ぐこと。〔周禮、秋官、大行人〕王禮壹祼而酢。〔注〕祼、讀爲レ灌。

【壹見】13 イツケン ひとたびまみえる。六服の諸侯が天子に謁見する制度。侯服の諸侯は每歲壹見、甸服は二歲壹見、男服は三歲壹見、采服は四歲壹見、衞服は五歲壹見、要服は六歲壹見である。〔周禮、秋官、大行人〕邦畿方千里、其外方五百里、謂二之侯服一、歲壹見、其貢祀物、又其外方五

百里、謂㆓之甸服㆒、二歲壹見、其貢嬪物、又其外方五百里、謂㆓之男服㆒、三歲壹見、其貢器物、又其外方五百里、謂㆓之采服㆒、四歲壹見、其貢服物、又其外方五百里、謂㆓之衞服㆒、五歲壹見、其貢材物、又其外方五百里、謂㆓之要服㆒、六歲壹見、其貢貨物。

【壹獻】14（イッコン・イッケン）　客に酒を一度獻ずる。一獻。壹獻之禮を見よ。

【壹獻之禮】15（イッケンノレイ・イッコンノレイ）　士の饗禮。壹獻ごとに賓主が百拜すること。醉うて禍を生ずるを防ぐためである。〔禮、樂記〕壹獻之禮、賓主百拜、終日飮㆑酒、而不㆑得㆑醉焉。

【壹言】16（イッゲン）　商子の篇名。

【壹呼】17（イッコ）　一たび號令する。一呼。〔史記、淮陰侯傳〕建㆑號壹呼、天下之士、雲合霧集。

【壹刺】18（イッシ）　周禮の三刺の一。罪を斷ずる時、群臣にはかりたづねて罪狀の明かな場合に殺すことをいふ。刺は殺の意。〔周禮、秋官、司刺〕掌㆓三刺三宥三赦之灋㆒、以贊㆔司寇聽㆓獄訟㆒、壹刺曰、訊㆓羣臣㆒、再刺曰、訊㆓羣吏㆒、三刺曰、訊㆓萬民㆒。〔注〕刺、殺也、訊而有㆑罪、則殺㆑之。

【壹是】19（イッシ）　❶すべて。もつぱら。一切。〔大學〕自㆓天子㆒以至㆓於庶人㆒、壹是皆以㆑脩㆑身爲㆑本。〔鄭注〕壹是、專行㆑是也。〔章句〕壹是、一切也。❷一說に、是の義。壹は助語。〔經傳釋詞、三〕大學曰、自㆓天子㆒以至㆓於庶人㆒、壹是皆以㆑脩㆑身爲㆑本、壹、語助耳、鄭注曰、壹是專行㆑是也、失㆑之。

【壹赦】20（イッシャ）　周禮の三赦の一。幼弱のものには罪を論ぜぬこと。〔周禮、秋官、司刺〕司刺、掌㆓三刺三宥三赦之灋㆒、云云、壹赦曰㆓幼弱㆒、再赦曰㆓老旄㆒、三赦曰㆓惷愚㆒。

【壹食】21（イッショク）　大勢あつまって食事すること。會食。〔禮、玉藻〕一室之人、非㆓賓客㆒、一人徹、壹食之人、一人徹。〔注〕壹、猶㆑聚也、爲㆓赴㆑事聚食㆒也。

【壹切】22（イッセツ・イッサイ）　すべて。一切(**1－1‥1283**)の❶に同じ。〔漢書、食貨志下〕壹切稅㆓吏民㆒。〔資治通鑑、漢紀〕(元帝、竟寧元年) 欲㆔以壹切省㆓繇戍㆒。〔注〕師古曰、壹切者、權時之事、非㆓經常㆒也、猶如㆘以㆑刀切㆑物、苟取㆓整齊㆒、不㆖㆑顧㆓長短縱橫㆒、故言㆓一切㆒。

【壹息】23（イッソク）　一たびやすむ。一息。〔楚辭、遠遊〕順㆓凱風㆒以從遊兮、至㆓南巢㆒而壹息。

【壹飡】24（イッソン）　一膳の食。一度の食事。壹餐。一飡。〔史記、梁孝王世家〕太后乃說、爲㆑帝加㆓壹飡㆒。

【壹餐】25（イッソン・イッサン）　一たび食事する。又、其の事。壹飯(32)に同じ。〔漢書、文三王、梁孝王武傳〕太后洒說、爲㆑帝壹餐。

【壹體】26（イッタイ）　身體の一部分。又、一つのからだ。又、同じ體裁のもの。一體(**1－1‥1421**)の❶❷❸に同じ。〔千字文〕遐邇壹體。

【壹定】27（イッテイ）　一つにさだまる。一定(**1－1‥160**)の❶に同じ。〔漢書、敍傳上〕聖人有㆓壹定之論㆒、列士有㆓不易之分㆒。

【壹統】28（イットウ）　一つにすべあはせる。一統(**1－1‥1701**)の❶に同じ。〔漢書、司馬遷傳〕今漢興、海內壹統。

【壹同】29（イチドウ）　一樣にする。一同。〔墨子、尙同上〕察㆘天下之所㆓以治㆒者㆖、何也、天子唯能壹㆓同天下之義㆒、是以天下治也。

【壹德】30（イットク）　純一の德。又、德を一つにする。一德(**1－1‥1724**)の❶❷に同じ。〔漢書、宣元六王、淮陽憲王欽傳〕考㆑禮壹㆑德、遵㆓事天子㆒也。〔注〕師古曰、壹㆑德、謂㆑不㆑二㆓其心㆒也。

【壹妄】31（イツバウ）　一人の妄者。〔晏子、諫、下〕景公藉重而獄多、拘者滿㆑圄、怨者滿㆑朝、晏子諫、公不㆑聽、公謂㆓晏子㆒曰、夫獄國之重官也、願託㆓之夫子㆒、晏子對曰、君將㆑使㆔嬰勑㆓其功㆒乎、則嬰有㆓壹妄能書㆒、足㆓以治㆑之矣、君將㆑使㆔嬰勑㆓其意㆒乎、夫民無㆚欲㆘殘㆓其家室之生㆒、以奉㆗暴上之僻㆖者㆙、則君使㆓吏比而焚㆑之而已矣、景公不㆑悅曰、勑㆓其功㆒則使㆓壹妄㆒、勑㆓其意㆒則比㆓焚如㆒、是夫子無㆓所謂能治㆑國乎。

【壹飯】32（イッパン）　一たび食事する。又、其の事。壹餐。一飯。〔國語、越語上〕寡人禮先壹飯矣。〔尸子、處道〕食所㆓以爲㆑肥也、壹飯而問㆓人奚若㆒、則皆笑㆑之。〔漢書、杜鄴傳〕陳平共㆓壹飯之篹㆒、而將相加㆑驩。

【壹民】33（イツミン）　明、張員(**4－9812‥37**)の字。

【壹命】34（イチメイ）　一命(**1－1‥2180**)に同じ。❶官等を賜はつて正吏となること。〔周禮、春官、大宗伯〕壹命受㆑職。〔注〕始見㆑命爲㆓正吏㆒。❷一たび命ずること。〔禮、祭義〕壹命齒㆓于鄉里㆒。〔論衡、初稟〕上天壹命、王者乃興。

【壹宿鳥】35（イッシュクテウ）　鳩(**12－46648**)の異名。鳩は同じ木に宿るからいふ。一宿鳥。〔詩、小雅、南有嘉魚、翩翩者鵻、傳〕鵻、壹宿之鳥。〔箋〕壹宿者、壹㆓意於其所㆑宿之木㆒也。

【壹團嬌】36（イットケウ）　雅樂曲。又、壹團橋・壹團樂・壹德橋・還京樂といふ。左方樂。新樂の小曲、壹越調曲に屬す。拍子十七、舞があつたが、今は絕えた。〔和名類聚抄、曲調類〕壹越調曲、云云、壹團樂。

【壹丁堡】37（エヂンバラ）　蘇格蘭の首府。Edinburgh

【壹斗眷】38（イットケン）　複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕壹斗眷氏、改爲㆓明氏㆒。

【壹陰壹陽】39（イチインイチヤウ）　陰を出でて陽に入り、一たびは暗く、一たびは明るくなる。陰陽代る代る交替する。一陰一陽。〔楚辭、九歌、大司命〕壹陰兮壹陽、衆莫㆑知㆓兮余所㆑爲。〔注〕陰、晦也、陽、明也。

【壹岐桐園】40（イキドウエン）　豐後の人。本姓は杉本。名は幸猷。字は道夫。通稱は五左衞門。號は桐園。古賀精里の說を奉じ、經學は程朱を宗とす。日向飫肥藩儒となる。享和元年歿す、年五十三。著に桐園詩集三卷がある。〔日本教育史資料〕。

【壹敎壹學】41（イッケウイチガク）　もつぱら敎へもつぱら學ぶ。〔荀子、大略〕君子壹敎、弟子壹學、亟成。

【壹倡三歎】42（イッシャウサンタン）　宗廟の祭祀に樂を奏する時、一人發聲すれば三人これに和して歌ふこと。一唱三歎(**1－1‥965**)を見よ。〔禮、樂記〕淸廟之瑟、朱絃而疏越、壹倡而三歎。

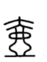
【壹宿之行】43（イッシュクノカウ）　一ばんどまりの旅行。一泊旅行。一宿之行(**1－1‥1020**)に同じ。〔管子、乘馬〕有㆓壹宿之行㆒、道之遠近有㆑數矣。〔注〕一宿有㆓定準㆒、則百宿可㆑知也。

【壹敗塗㆑地】44（イッパイチニマミル）　大敗して見る影も無い形容。一敗塗㆑地(**1－1‥1810**)を見よ。〔史記、高祖紀〕天下方擾、諸侯竝起、今置㆑將不㆑善、壹敗塗㆑地。〔注〕索隱曰、言㆔一朝破敗、使㆓肝腦塗㆑地。

【壹發五豝】45（イッパツゴハ）　一發の矢で五匹の豝を獲る。豝は雌の豕、或は雄の豕、又、一說に二歲の豕。一發五豝。〔詩、召南、騶虞〕彼茁者葭、壹發五豝。〔傳〕豕牝曰㆑豝。〔疏〕大司馬職注云、一歲爲㆑豵、二歲爲㆑豝。〔集傳〕發、發㆑矢、豝、牡豕也、一發五豝、猶㆑言㆓中必疊雙㆒也。

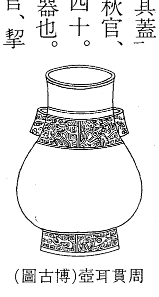
【壺】5662

コ　ゴ　〔集韻〕洪孤切　虞　厂ㄨˊ　hu²



小篆

❶**つぼ**。飮料をいれる器。禮器。壷(**3－5657**)に同じ。〔正字通〕壺、同㆑壷。〔說文〕壷、昆吾圜器也、象形、从㆑大、象㆓其蓋㆒也。〔周禮、秋官、掌客〕壺四十。〔注〕壺、酒器也。〔周禮、夏官、挈壺氏、注〕壺、盛㆑水器也。〔禮、禮器〕門內壺。〔注〕壺、大一石。〔公羊、昭、二十五〕國子執㆓壺漿㆒。〔注〕壺、禮器、腹方口圓曰㆑壺、反㆑之曰㆓方壺㆒、有㆓爵飾㆒。❷**禮儀**。禮法。〔太玄經、事〕豎子提㆑壺。〔注〕壺、禮也。❸**漏水の器**。水時計。〔禮、喪大記〕狄人用㆑壺。〔注〕壺、漏水之器也、旣小斂、可㆘以爲㆓漏刻㆒、分㆑時而更哭㆖也。❹**土やきの樂器**。瓦鼓。〔周禮、秋官、壺涿氏、注〕壺、謂㆓瓦鼓㆒。❺**ふくべ**。瓠(**7－21392**)に通ず。〔說文通訓定聲〕壺、叚借爲㆑瓠。〔詩、豳風、七月〕八月斷㆑壺。〔傳〕壺、瓠也。〔楚辭、宋玉、招魂〕元蠭若㆑壺。〔注〕壺、乾瓠也。❻**なつめの一種**。棗の實が瓠に似、且、瓠・壺相通ずることから、棗を壺といふ。〔爾雅、釋木〕壺、棗。〔注〕今江東呼㆓棗大而銳上者㆒爲㆑



周貫耳壺（博古圖）

壺、壺、猶レ瓠也。〔孫注〕棗、形上小下大、似レ瓠、故曰レ壺。㊆榼（6―15546）に通ず。〔爾雅、釋木、釋文〕壺、本作レ榼。㊇孤（3―6966）に通ず。〔呂覽、下賢〕壺邱子。〔漢書、古今人表〕孤邱子林。㊈**姓**。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕壺氏、晉大夫邑也、因以爲レ氏、其地今潞州黎城東壺口關是也、衞有二壺黶一、漢有二諫議大夫壺遂一、列仙傳有二壺公一。［邦］**つぼ**。㋑口の狹まつた陶器。㋺茶を盛る深く高い器。㋩笙の匏。㋥窪んで深い處。㋭思惑。見込み。圖星。㋬ひぢつぼ。つぼがね。㋣つぼやなぐひ。壺胡簶の略。㋠坪に通じ、殿舍と殿舍との閒、又は垣の內などにある一區の窄まつた處。中庭。又、殿舍の中で區切つた部屋。局。もと正しくは壼（3―5667）に書く。

［解字］象形。本義はつぼ。下部はつぼの形に象り、大は其のふたの形に象る。〔說文通訓定聲〕壺、昆吾圜器也、象形、从レ大象二其蓋一也。

［參考］十畫の壼（3―5667）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕壺、音胡、酒器。壼、音捆、宮壼。

【壺罌】1 コアウ 酒などを入れるかめ。つぼ。〔鮑照、擬二行路難一詩〕君不レ見亡靈蒙二享祀一、何時傾レ杯竭二壺罌一。

【壺飲】2 コイン 壺に入れた飲みもの。〔左氏、昭、十三〕司鐸射懷レ錦、奉二壺飲冰一以蒲伏焉。〔會箋〕壺飲、壺盛漿也。

【壺隱】3 コイン 仙人の名。〔樹萱錄〕壺隱仙人、嘗吟レ詩曰、杯賢與二酌聖一、與二我萬戶封一。

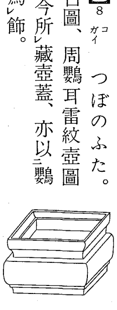
〔壺隱翁〕4 コインヲウ 明、吳鵬（2―3365··378）の號。

〔壺隱先生〕5 コインセンセイ 宋、黃文晟（12―47926··1310）の號。

【壺園】6 コエン 淸、徐寶善（4―10110··604）の號。

【壺甕】7 コヲウ 酒などを入れるかめ。〔韓非子、外儲說右上〕或令下孺子懷レ錢、挈二壺甕一而往酤上、而狗迓而齕レ之、此酒所二以酸而不一レ售也。

【壺蓋】8 コガイ つぼのふた。〔博古圖、周鶚耳雷紋壺圖考〕今所レ藏壺蓋、亦以二鶚鵰一爲レ飾。


周素壺蓋（西淸古鑑）

【壺榼】9 コカフ 酒樽。酒缸。〔淮南子、兵略訓〕夫水勢勝レ火、章華之臺燒、以二升勺一沃而救レ之、雖二涸レ井而竭レ池、無二奈レ之何一也、擧二壺榼盆盎一而以灌レ之、其滅可二立而待一也。

【壺甘】10 コカン 蜜柑の一種。壺柑に同じ。〔古今注、草木〕甘實形如二石榴一者、謂二之壺甘一。

【壺柑】11 コカン 蜜柑の一種。壺甘。〔南方草木狀、果類〕柑乃橘之屬、滋味甘美特異者也、有二黃者一、有二頳者一、頳者謂二之壺柑一。

【壺濫】12 コカン 器物の名。壺鑑に同じ。〔墨子、節葬下〕又必多爲二屋幕・鼎鼓・几梴・壺濫・戈劍・羽旄・齒革一、寢而埋レ之。〔呂覽、節喪〕夫玩好・貨寶・鐘鼎・壺濫・轝馬・衣被・戈劍、不レ可二勝數一。〔注〕以レ冰置二水漿於其中一爲レ濫、取二其冷一也。

【壺鑑】13 コカン 器物の名。氷水をいれる大盆。壺濫。〔呂覽、愼勢〕功名著二乎盤盂一、銘篆著二乎壺鑑一。

【壺冀】14 コキ 地名。壺口と冀州。〔謝靈運、會吟行〕敷レ績壺冀始、刊レ木至二江汜一。〔注〕翰曰、禹理レ水之功、壺口・冀州爲レ始。

【壺丘】15 コキウ ㊀地名。春秋、陳の邑。河南省新蔡縣の東南。〔左氏、文、九〕楚侵レ陳、克二壺丘一。㊁複姓。〔萬姓統譜〕壺丘氏、列子師二壺丘子林一。㊂毛利斐の號。毛利壺邱（6―16772··232）を見よ。

〔壺丘子〕16 コキウシ 戰國、鄭の人。列子の師。壺丘子林。壺子。〔列子、黃帝〕有二神巫一、自レ齊來處二於鄭一、命曰二季咸一、知二人死生存亡、禍福壽夭一、期以二歲月旬日一如レ神、鄭人見レ之、皆避而走、列子見レ之而心醉、而歸以告二壺丘子一曰、始吾以二夫子之道一爲レ至矣、則又有二至焉者一矣。

〔壺丘子林〕17 コキウシリン 壺丘子に同じ。〔列子、天瑞〕先生不レ聞二壺丘子林之言一乎、子列子笑曰、壺子何言哉。〔注〕壺林子林、列子之師。〔呂覽、下賢〕子產相レ鄭、往見二壺丘子林一、與二其弟子一坐、必以レ年、是倚二其相於門一也。〔高士傳、中〕壺丘子林者、鄭人也、道德甚優、列禦寇師二事之一。

〔壺丘詩稿〕18 コキウシカウ 書名。十六卷。生瀨棐撰。初編（八卷）・二篇（八卷）。天明中の諸家の序跋がある。壺丘は撰者の號。

【壺橘】19 コキツ 柑橘類で、橙の一種。〔廣州記〕壺橘、形色都是甘、但皮厚氣臭、味亦不レ劣。〔齊民要術、橘〕廣州記曰、盧橘、皮厚氣色大如レ甘、酢多、九月正月色、至二二月一漸變爲レ青、至レ夏熟、味亦不レ異、冬時土人呼爲二壺橘一、其類有二七八種一、不レ如二吳會橘一。

【壺菫】20 ツボスミレ 草の名。壺狀をした一種の菫。〔萬葉集、八〕山吹の咲きたる野邊のつぼすみれ。

【壺關】21 コクワン ㊀縣名。㋑漢、置き、後漢の末、上黨郡治とす。晉、廢す。故城は山西縣長治縣の東南。〔漢書、地理志上〕上黨郡、縣十四、壺關。〔注〕應劭曰、黎侯國也、今黎亭是也。〔水經、濁漳水〕又東過二壺關縣北一、又東北過二屯留縣南一。〔注〕漳水又東北逕二壺關縣故城西一、又屈逕二其城北一、故黎國也、有二黎亭縣一、有二壺口關一、故曰二壺關一矣。㋺後魏、置く。山西省潞城縣の西南。故城は今治の東南。〔明一統志〕壺關縣、在二潞安府城東二十五里一、本黎國地、春秋時屬レ晉、秦爲二上黨郡地一、漢始置二壺關縣一、漢末嘗移二上黨郡治一、此後魏移二縣治潁陽岡一、隋分置二上黨郡一、大業初、省入二上黨一、唐書復置二壺關於高望堡一、貞觀中又移二治淸流川一、卽今治、宋金元仍レ舊。〔淸史稿、地理志〕山西、潞安府、縣七、壺關。㊁山名。山西省長治縣の東南。又壺口山とも、壺山ともいふ。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府、長治縣〕壺關山、府東南十三里、延袤一百餘里、東接二相州一、崖徑險狹、形如二壺口一、春秋哀四年、齊國夏伐レ晉取二八邑一、壺口、其一也、漢志、上黨郡有二壺口關一、蓋置二於此一。㊂關の名。山西省長治縣の東南、壺關山の上にあるので名づく。壺口關に同じ。壺口（24）の㊁の㋑を見よ。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府、長治縣〕壺關、漢志上黨郡三關之一也。

〔壺關三老〕21′ コクワンサンラウ 漢の武帝の時、戾太子が事によつて罪を得たが、その時壺關の三老は上書して太子の爲に辯じた。その上奏文は論語、顏淵篇の君不レ君、臣不レ臣、父不レ父、子不レ子の語を引用してゐるが、二つの則字を添加して、「君君たらざれば則ち臣は臣たらず、父父たらざれば則ち子は子たらず」となした。これ以後、君臣の大義にも疑を挾むものが出で、我が國では特に問題となつた。〔漢書、武五子、戾太子據傳〕壺關三老茂上書曰、臣聞、父者猶レ天、母者猶レ地、子猶二萬物一也、故天平地安、陰陽和調、物迺茂成、父慈母愛、室家之中、子迺孝順、陰陽不レ和、則萬物夭傷、父子不レ和、則室家喪亡、故父不レ父、則子不レ子、君不レ君則臣不レ臣、雖レ有レ粟、吾豈得而食レ諸。

【壺頸】22 コケイ つぼのくび。〔禮、投壺〕壺頸脩七寸、腹脩五寸、口徑二寸半、容二斗五升一、壺中實二小豆一焉、爲二其矢之躍而出一也、壺去レ席二矢半。

【壺減】23 コゲン 漏刻の水が減る。〔顏舒、刻漏傳〕視二盈缺於金壺一、觀二騰波於銀箭一、惟箭馳而壺減、固流續而波分。

【壺口】24 ココウ ㊀山名。㋑山西省吉縣の西南。〔書、禹貢〕旣載二壺口一、治二梁及岐一。〔蔡傳〕壺口、山名、漢地志、在二河東郡北屈縣東南一、今隰州吉鄉縣也。〔漢書、地理志上、河東郡、縣二十四、北屈、注〕禹貢壺口山在二東南一。〔吉州志〕河勢北來、至レ此全傾二於西崖一、奔放而下、約五六百尺、懸注瀠旋、有二若レ壺然一、按、山西通志、謂卽孟門山、亦曰二石槽一、世傳大禹所二鑿以通二黃河一者、河自レ此入レ口爲二上口一、南至二龍門一入レ口爲二下口一、實爲二河之巨阨一、淸一統志謂、孟門山在二吉州西一、壺口山在二吉州南一、則孟門與二壺口一、似三又爲二兩山一。㋺山西省臨汾縣の西南。平山ともいふ。胡渭の禹貢錐指、王鳴盛の尙書後案、淸一統志は皆禹貢の壺口に非ずといふ。〔水經、汾水注〕平水出二平陽縣西壺口山一、尙書所謂壺口治二梁及岐一也。㋩山西省長治縣の東南、壺關縣の界に跨がる。又、壺關山とも、壺山ともいふ。兩峯夾峙し、中央空虛にして、形狀が壺口に似てゐるので名づく。壺關（21）の㊁を見よ。〔左氏、哀、四〕國夏伐レ晉、取二邢・任・欒・鄗・逆時・陰人・盂・壺口一。㋥山西省浮山縣の西南。一名、蜀山。東は龍角山に連なり、西は崇山に接す。㊁關の名。㋑山西省長治縣の東南。〔漢書、地理志上、上黨郡、注〕秦置、屬二幷州一、有二上黨關・壺口關・石研關・天井關一。〔漢書、成帝紀〕秋、關東大水、流民欲レ入二函谷・

天井・壺口・五阮關㆒者勿㆓苛留㆒。〔注〕應劭曰、天井在㆓上黨高都㆒、壺口在㆓壺關㆒、五阮在㆓代軍㆒。㋺山西省黎城縣の東北。太行山口の吾兒峪。〔金史、地理志下、河東南路、潞州、黎城縣〕有㆓白巖山・故壺口關㆒。〔河南通志〕壺口故關、卽今吾兒峪。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府、黎城縣〕吾峪關、在㆓吾兒峪口㆒、馬氏曰、吾兒峪、卽故壺口關、蓋音譌也、今其地至爲㆓要隘㆒。

【壺工】25（ココウ）　壺を造る職人。〔稱謂錄、百工、壺工〕陽羨茗壺爲㆓壺工㆒、時大彬所㆑造、後游㆓婁東㆒、聞㆘陳眉工與㆓瑯琊太原諸公㆒品㆖茶、乃作㆓小壺㆒、前後諸壺工、不㆑能㆑及㆑之、見㆓明人說部㆒。

【壺公】26（ココウ）　㊀山名。福建省莆田縣の南。〔九域志〕有㆓壺公山㆒、昔有㆓人隱㆑此、遇㆓一老人㆒引㆓於絕頂㆒、見㆓宮闕臺殿㆒、曰、此壺中日月也、因名、山頂有㆑泉、出㆓石穴中㆒、其盈縮應㆓海潮㆒、中有㆓雙蟹㆒、名曰㆓蟹井泉㆒、又有㆓眞淨・靈雲・虎丘・盤陀諸巖㆒、泉石羅列、名勝不㆑一。㊁後漢の人。藥を汝南の市に賣り、常に一壺を屋上に懸け、市が終はれば跳つて壺中に入る。費長房、市掾と爲り、之に事へて仙道を得たといふ。召軍符・召鬼神・治病玉府符有りて世に傳はり、總べて壺公符と名づけられる。壺中天・壺公謫天を見よ。〔神仙傳、五〕壺公者、不㆑知㆓其姓名㆒也、今世所㆑有召軍符・召鬼神・治病玉府符凡二十餘卷、皆出㆑自㆑公、故總名㆓壺公符㆒。〔庾信、小園賦〕若夫一枝之上、巢父得㆓安㆑身之所㆒、一壺之中、壺公有㆓容㆑身之地㆒。〔杜甫、寄㆓司馬山人㆒詩〕家家迎㆓薊子㆒、處處識㆓壺公㆒。㊂字號。㋑清、錢杜（**11**－**40563**‥158）の號。㋺清、張之洞（**4**－**9812**‥1102）の號。

【壺公龍】27（ココウノリヨウ）　壺公に仕へた龍。壺公が費長房の歸家する時、竹杖を與へたので、長房が其の杖に乘ると、忽ち夢心地となつて家に歸れたが、實は龍であつたといふ故事。壺公の㊁を見よ。〔神仙傳〕壺公遺㆓費長房歸㆒、以㆓一竹杖㆒與㆑之騎、長房騎㆑杖、忽然如㆑睡、便到㆑家、以㆑杖投㆓葛陂中㆒、顧㆑之、乃青龍也。〔蘇軾、次㆓前韻㆒寄㆓子由㆒詩〕還鄕亦何有、暫假壺公龍。

【壺公謫天】28（ココウタクテン）　蒙求の標題。後漢、汝南の費長房が市の役人であつた時、賣藥をする一老翁あり、市が終はると、店頭の壺中に身を隱すを常とした。長房、獨りこれを知り、厚く誼を通じ、老人に導かれて壺中に入り、壺中の玉堂で酒肴の饗應を受け、老翁自ら神仙界のものであつたが、罪を得て、暫く此の世に在つたのだと語つて、別れに酒を贈られた。器は小さかつたが、長房と終日飲むも盡きなかつたといふ故事。〔蒙求、中〕壺公謫天、薊訓歷家。〔後漢書、方術下、費長房傳〕費長房者、汝南人也、曾爲㆓市掾㆒、市中有㆓老翁㆒賣㆑藥、懸㆓一壺於肆頭㆒、及㆓市罷㆒、輒跳㆓入壺中㆒、市人莫㆓之見㆒、唯長房於㆓樓上㆒覩㆑之異焉、因往再拜奉㆓酒脯㆒、翁知㆔長房之意㆓其神㆒也、謂㆑之曰、子明日可㆓更來㆒、長房旦日復詣㆑翁、翁乃與俱入㆓壺中㆒、唯見㆓玉堂嚴麗㆒、旨酒甘肴盈㆓衍其中㆒、共飲畢而出、翁終不㆑聽㆓與㆑人言㆑之、後乃就㆓樓上㆒候㆓長房㆒曰、我神仙之人、以㆑過見㆑責、今事畢、當㆑去、子寧能相隨乎、樓下有㆓少酒㆒、與㆑卿爲㆑別、長房使㆓人取㆑之不㆑能㆑勝、又令㆓十人扛㆑之、猶不㆑擧、翁聞笑而下㆑樓、以㆓一指㆒提㆑之而上、視㆑器如㆓一升許㆒、二人終日飲不㆑盡。

【壺谷】29（ココク）　壺關の谷。〔後漢書、劉陶傳〕今三郡之民、皆以奔亡、南出㆓武關㆒、北徙㆓壺谷㆒、冰解風散、惟恐在㆑後。〔注〕三郡、河東・馮翊・京兆也、壺谷、壺關之谷、在㆓上黨㆒也。〔神仙傳、三〕王興者、陽城人也、居㆓壺谷中㆒、乃凡民也。

【壺草】30（ツボクサ）　草の名。せり科の多年生匍匐草。葉は圓狀腎形、鈍齒牙緣をなし、花は紅色を呈し、頭狀の繖形花序に綴る。

【壺棗】31（コサウ）　棗の一種。〔爾雅、釋木、疏〕壺棗者、棗形似㆑壺也、郭云、今江東呼㆓棗大而銳上者㆒爲㆑壺、壺、猶㆑瓠也。

【壺餐】32（コサン・コソン）　壺に盛つた食物。水かけめし。壺飱。壺飡。〔列子、說符〕東方有㆑人焉、曰㆓爰旌目㆒、將㆑有㆑適也、而餓㆓於道㆒、狐父之盜曰㆑丘、見而下㆓壺餐㆒以餔㆑之。〔注〕音孫、水澆飯也。〔韓非子、外儲說左下〕晉文公出亡、箕鄭挈㆓壺餐㆒而從、迷而失㆑道、與㆑公相失、飢而道泣、寢餓而不㆓敢食㆒。〔淮南子、齊俗訓〕釐負羈之壺餐、愈㆓於晉獻公之垂棘㆒、趙宣孟之束脯、賢㆓於智伯之大鐘㆒。〔新序、節士〕見㆑之下㆓壺餐㆒。〔魏志、和洽傳〕大吏或自挈㆓壺餐㆒、以入㆓官寺㆒。

【壺山】33（コザン）　㊀山名。㋑山東省莒縣の北。水經注の浯山。〔漢書、地理志上、琅邪郡、縣五十一、靈門、注〕有㆓壺山㆒、浯水所㆑出、東北入㆑淮。㋺山西省長治縣の東南。壺口山の一名。壺關（21）の㊁を見よ。㋩河南省魯山縣の南。形、壺の如し。〔後漢書、樊英傳〕隱㆓於壺山之陽㆒。㋥雲南省永北縣の東。呉道子の觀音石刻のある山。㊁字號。㋑宋、黄士毅（**12**－**47926**‥1111）の號。㋺宋、宋自遜（**3**－**7078**‥298）の號。㋩宋、方大琮（**5**－**13620**‥578）の號。㋥清、張經田（**4**－**9812**‥980）の字。㋭清、張恂（**4**－**9812**‥406）の字。㋬清、董恂（**9**－**31433**‥93）の號。㋣本多忠恕の號。本多壺山（**6**－**14421**‥372）を見よ。

【壺山草堂】34（コザンサウダウ）　清、呉嘉枚（**2**－**3365**‥466）の室名。

【壺山四六】35（コザンシロク）　書名。一卷。撰者未詳。南宋、方大琮の作といふ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【壺子】36（コシ）　㊀壺丘子（16）をいふ。〔莊子、應帝王〕列子見㆑之而心醉、歸以告㆓壺子㆒。〔釋文〕壺子、司馬云、名林、鄭人、列子師。〔列子、天瑞〕先生不㆑聞㆓壺丘子林之言㆒乎、子列子笑曰、壺子何言哉。〔淮南子、繆稱訓〕老子學㆓商容㆒、見㆑舌而知㆑守㆑柔矣、列子學㆓壺子㆒、觀㆓景柱㆒而知㆑持㆑後矣。㊁hu² tzŭ　つぼ。

【壺史】37（コシ）　酉陽雜俎の篇名。

【壺矢】38（コシ）　投壺に用ひる矢。壺箭。〔禮、投壺〕主人奉㆑矢、云云、使㆓人執㆑壺。〔韓愈、畫記〕壺矢博奕之具、二百五十有一、皆曲極㆓其妙㆒。

【壺日】39（コジツ）　別天地の日。壺中天（61）の㊀を見よ。〔劍南詩稾、十四、記夢〕鼓吹滿㆑城壺日晚、鷺花如㆑海洞天春。

【壺漿】40（コシヤウ）　壺に入れた飲みもの。簞食壺漿。〔公羊、昭、二十五〕國子執㆓壺漿㆒。〔孟子、梁惠王下〕簞食壺漿、以迎㆓王師㆒。〔陸倕、石闕銘〕壺漿塞㆑野、簞食盈㆑塗。

【壺觴】41（コシヤウ）　酒を入れる壺とさかづき。〔陶潛、歸去來辭〕引㆓壺觴㆒以自酌、眄㆓庭柯㆒以怡㆑顏。〔白居易、將㆑至㆓東都㆒先寄㆓令狐留守㆒詩〕東都添箇狂賓客、先報壺觴風月知。〔盧綸、酬㆓趙少尹㆒戲示㆓諸姪元陽等㆒因以見㆑贈詩〕謬入㆓阮家㆒逢㆓慶樂㆒、竹林因得奉㆓壺觴㆒。

【壺城】42（コジヤウ）　城の名。今の廣西省崇善縣治。〔清一統志〕太平府城、一名壺城、以㆘麗江自㆓西北㆒來、經㆓城南㆒復折而東北、屈曲如㆖壺也。

【壺杓】43（コシヤク）　つぼと水を酌む杓。〔韓詩外傳、八〕齊景公謂㆓子貢㆒曰、先生何師、對曰、魯仲尼、曰、仲尼賢乎、曰、聖人也、豈直賢哉、景公嘻然而笑曰、其聖何如、子貢曰、不㆑知也、景公悖然作㆑色曰、始言㆓聖人㆒、今言㆑不㆑知、何也、子貢曰、臣終身戴㆑天、不㆑知㆓天之高㆒也、終身踐㆑地、不㆑知㆓地之厚㆒也、若㆔臣之事㆓仲尼㆒、譬猶㆘渴操㆓壺杓㆒就㆓江海㆒而飲㆖之、腹滿而去、又安知㆓江海之深㆒乎。

【壺爵】44（コシヤク）　つぼとさかづき。〔和漢三才圖會、夷果類、椰子〕橫破㆑之可㆑作㆓壺爵㆒、縱破㆑之可㆑作㆓瓢杓㆒。

【壺酒】45（コシユ）　つぼに入れた酒。〔韓非子、外儲說右上〕壺酒不㆑清、生肉不㆑布。〔南史、梁世子方等傳〕一壺之酒足㆓以養㆑性、一簞之食足㆓以怡㆑形。〔李白、月下獨酌詩〕花閒一壺酒、獨酌無㆓相親㆒。〔岑參、送㆓楊子㆒詩〕惜別添㆓壺酒㆒、臨㆑岐贈㆓馬鞭㆒。

【壺叔】46（コシユク）　春秋、晉の人。文公に從つて出亡した。〔史記、三十九〕。

【壺餕】47（コシユン）　壺に入れた食物。〔淮南子、道應訓〕晉公子重耳出亡、過㆑曹無㆑禮焉、釐負羈之妻、謂㆓釐負羈㆒曰、君無㆑禮㆓於晉公子㆒、吾觀㆓其從者㆒、皆賢人也、若以相㆓夫子㆒、反㆓晉國㆒、必伐㆑曹、子何不㆓先加㆑德焉、釐負羈遺㆓之壺餕㆒而加㆑璧焉、重耳受㆓其餕㆒而反㆓其璧㆒、及㆓其反㆑國起㆑師、伐㆑曹剋㆑之、令㆓三軍無㆑入㆓釐負羈之里㆒。

【壺人】48（コジン）　漏刻（水時計）を掌る人。時もり。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕淸猨與㆓壺人㆒爭㆑旦、緹幙與㆓素瀨㆒交㆑輝。〔注〕銑曰、壺人、掌㆓刻漏㆒人也。〔蕭至忠、三會寺應制詩〕戒旦壺人警、翻霜羽騎來。

【壺遂】49（コスイ）　漢、梁の人。太史令司馬遷等と漢の律曆を定む。官は詹事。武帝、相と爲さうとしたが、會〻病みて卒す。〔前漢書、六十二〕。

【壺錐】50（ツボキリ）　圓孔を穿つに用ひる錐。〔和漢三才圖會、百工具、錐〕壺錐、半圓如二割竹一、以明二圓穴一、造樽家用レ之。

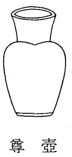
【壺井】51（コセイ）　㊀山名。福建省長樂縣の東。山のほとりに壺の如き井戸があり、潮が至れば鹹水となり、潮が退けば淡水となるといふ。上に百丈崖がある。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、長樂縣、御國山〕壺井山、在二縣東六十里濱海一、山垂有二一井一、狀如レ壺、潮至則鹹、潮退則淡、上有二巖石一、聳峻俯二臨滄海一、名二百丈巖一。㊁川の名。閩江の海に入る所をいふ。福建省長樂縣の東、壺井山下を流れ、又、壺井澳ともいふ。山は江中に突入し、居人が環繞して市を成す。江中に孤島あり、東西南北の四澳に分れて良港を爲す。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、長樂縣、馬頭江〕壺井江、在二縣東壺井山下一、亦曰二壺井澳一、云云、四澳可レ避レ風、海舟常泊。

【壺燒】52（ツボヤキ）　壺の中で燒いたたべもの。さざえの肉を刻んで其の殼に入れ、醬油をさして燒いたものの類。〔大織冠、二〕蠑螺の壺やき。

【壺箭】53（コセン）　㊀水時計で時を刻む矢。〔邢邵、獻武皇帝銘〕曉夜自分、不レ勞二雞鶴之助一、六時靡レ惑、非レ待二壺箭之功一。㊁投壺の矢。壺矢。〔馬祖常、草亭賦〕壺箭博局、琴几畫圖、庋而設也。

【壺飡】54（コソン）　つぼに入れた食物。水かけめし。水漬飯。壺飱。〔戰國、中山策〕楚王伐二中山一、中山君亡、有下二人挈レ戈而隨二其後一者上、中山君顧謂二二人一、子奚爲者也、二人對曰、臣有レ父、嘗餓且レ死、君下二壺飡臣父一、臣父且レ死曰、中山有レ事、汝必死レ之、故來死レ君也。〔列女傳、仁智、曹僖氏妻傳〕負羈乃遺二之壺飡一、加二璧其上一、公子受レ飡反レ璧。〔說苑、復恩〕宣孟與二之壺飡一。

【壺尊】55（コソン）　酒を容れる器。壺を尊としたもの。〔周禮、春官、司尊彝〕秋嘗冬烝、祼用二斝彝黃彝一、皆有レ舟、其朝獻用二兩著尊一、其饋獻用二兩壺尊一、皆有レ罍、諸臣之所レ昨也。〔注〕昨、讀爲レ酢、字之誤也、壺者、以レ壺爲レ尊。〔宋史、禮志四〕大尊・山尊・著尊・犧尊・象尊各二、壺尊六、皆設而弗レ酌、尊加レ冪、犧尊・象尊・壺尊・犧罍・象罍・壺罍各五、加二勺冪一。



壺尊（名物圖）

【壺飱】56（コソン）　つぼに入れた食物。水かけめし。壺飡に同じ。壺餐。〔左氏、僖、二十五〕晉侯問二原守于寺人勃鞮一、對曰、昔趙衰以二壺飱一從レ徑、餒而弗レ食、故使レ處レ原。〔會箋〕壺飱、以レ壺承レ飯也。〔國語、越語下〕諺有レ之曰、觥飯不レ及二壺飱一。〔注〕觥、大也、大飯、謂二盛饌一、未レ具、不レ能二以レ虛待レ之、不レ及三壺飱之救二飢疾一也。〔後漢書、崔駰傳〕原衰見二廉于壺飱一、宣孟收二德于束脯一。〔晉書、苻堅載記下〕人有下進二壺飱豚髀一者上。

【壺打】57（ツボウチ）　壺の中へ矢を打ち入れる一種の遊戲。投壺。

【壺涿】58（コタク）　官名。水蟲を除くことを掌る。壺涿氏。〔後漢書、馬融傳〕乃命二壺涿一驅二水蟲一、逐二罔蠣一、滅二短狐一、簎二鯨鯢一。

【壺涿氏】59（コタクシ）　周官の名。秋官の屬。水蟲を除くことを掌る。〔周禮、秋官、壺涿氏〕掌レ除二水蟲一、以二炮土之鼓一敺レ之、以二焚石一投レ之。

【壺中】60（コチュウ）　㊀壺の中。壺中天の㊀を見よ。〔禮、投壺〕壺中實二小豆一焉、爲二其矢之躍而出一也。〔王維、贈二焦道士一詩〕坐知千里外、跳向一壺中。㊁山名。福建省莆田縣の南。〔九域志〕昔有レ人隱レ此、遇二一老人一引二於絕頂一、見二宮闕臺殿一曰、此壺中日月也、因名。㊂hu^2 chung^1　陶然と醉つた境地。

【壺中天】61（コチュウテン）　㊀別天地。仙境。後漢の時、壺公といふ仙人が、一つの壺を己の住家とした故事。壺中天地。壺天。壺公(26)の㊁を見よ。〔後漢書、方術、費長房傳〕費長房者、汝南人也、曾爲二市掾一、市中有二老翁一賣レ藥、懸二一壺於肆頭一、及二市罷一、輒跳入二壺中一、市人莫二之見一、唯長房於二樓上一覩レ之異焉、因往再拜、云云、翁乃與俱入二壺中一、唯見二玉堂嚴麗一、旨酒甘肴盈二衍其中一、共飲畢而出。〔白居易、酬二吳七見レ寄詩〕誰知市南地、轉作二壺中天一。〔雲笈七籤〕施存魯人、學二大丹之道一、遇二張申一爲二雲臺治官一、常懸二一壺一、如二五升器大一、化爲二天地一、中有二日月一、夜宿二其內一、自號二壺天一、人謂曰二壺公一、因レ之得レ道。㊁極めて狹小な喩。〔王哲、游二齊山一記〕過二一石門一、傴僂而入、得三平地可二三數丈一、如二壺中之天一。

【壺中物】62（コチュウブツ）　酒をいふ。〔張祜、題二上饒亭一詩〕唯是壺中物、憂來且自斟。

【壺中九華】63（コチュウキュウクヮ）　宋の蘇軾が名づけた九つの奇石の稱。〔蘇軾、壺中九華詩、自注〕湖口人李正臣蓄二異石九峯一、玲瓏宛轉若二窻櫺一然、予欲下以二百金一買レ之、與二仇池石一爲上レ偶、方二南遷一未レ暇、名レ之曰二壺中九華一。

【壺中天地】64（コチュウノテンチ）　別天地。壺中天の㊀に同じ。〔元稹、幽棲詩〕壺中天地乾坤外、夢裏身名旦暮閒。

【壺天】65（コテン）　別天地。壺中天の㊀に同じ。〔參同契、注〕修レ丹者、法レ天象レ地、反レ身而求、則身中有二一壺天一也。〔張喬、題二古觀一詩〕洞水流花早、壺天閉二雪春一。

【壺天外】66（コテンノソト）　別天地の外。〔王安石、上元戲呈二貢父一詩〕別開二閶闔一壺天外、特起蓬萊陸海中。

【壺頭】67（コトウ）　㊀壺のほとり。〔談圃〕予嘗小釀、公聞而訪、後度二釀熟一、以レ詩見レ索云、稍覺二香薰レ鼻、還思酒入レ脣、盈缸止二三斗一、可レ撥二甕頭春一、予因和云、紫貂寒擁レ鼻、綠螘細侵レ脣、蓮燭當時事、壺頭此日春。㊁山名。㋑湖北省崇陽縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、崇陽縣、大集山〕壺頭山、在二縣東北二十里一、山如二罌壺一、口有レ溪、穿二入山中一、名二桃花洞一。㋺湖南省沅陵縣の東北、桃源縣の界。〔後漢書、郡國志四、荊州、武陵郡〕沅陵、先有二壺頭山一。〔注〕馬援軍渡處。〔後漢書、馬援傳〕進營二壺頭一、賊乘レ高守レ隘、水疾、船不レ得レ上、會二暑甚一、士卒多二疫死一、援亦中レ病、乃穿レ岸爲レ室以避二炎氣一。〔水經、沅水注〕沅水又東、夷水入レ焉、水南出二夷山一、北流注レ沅、夷山東接二壺頭山一、山高一百里、廣圓三百里、山下水際有下新息侯馬援征二武溪蠻一停レ軍處上、壺頭徑曲多レ險、其中紆折千灘、援就二壺頭一、希二效早成一、道遇二瘴毒一、終沒二于此一。㋩四川省彭水縣の西。山の形、壺に似ているので名づく。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府、涪州、彭水縣、老鷹寨山〕壺頭山、在二治西二里一、亦高聳以二形似一名。

【壺鐙】68（ツボアブミ）　壺を橫にしたやうな形の鐙。足首の半のみを懸けるもの。〔飾抄〕藻壁門院諒闇中、云云、人人所レ爲不レ同、或借二用大夫尉騎馬鞍赤綱壺鐙一。

【壺盃】69（ツボサカヅキ）　つぼの形をした盃。

【壺房】70（コバウ）　清代、欽天監の漏刻（水時計）を備へ付けた刻漏室。一名、浮漏堂。〔日下舊聞考〕。

【壺博】71（コハク）　投壺と博弈。〔左思、吳都賦〕翹レ關扛レ鼎、抃射壺博。〔注〕善曰、壺、投壺也、禮有二投壺一、論語曰、不レ有二博奕者一乎。

【壺缶】72（コフ）　つぼとほとぎ。共に酒を入れる樽。〔禮、禮器〕五獻之尊、門外缶、門內壺、君尊瓦甒。〔疏〕壺缶、但飲二諸臣一也。

【壺甒】73（コブ）　つぼとかめ。〔晉書、琅邪悼王煥傳〕按、禮記、國君之葬、棺椁之閒容レ柷、大夫容レ壺、士容レ甒、以二壺甒一爲レ差、則柷財大二於壺一明矣。

【壺腹】74（コフク）　つぼのはら。〔禮、投壺〕壺頸脩七寸、腹脩五寸、口徑二寸半、容二斗五升一、壺中實二小豆一焉、爲二其矢之躍而出一也、壺去レ席二矢半。

【壺瓶】75（コヘイ）　酒を酌む器。〔井觀瑣言〕今人呼二酌レ酒器一爲二壺瓶一、按、唐書太宗賜二李大亮胡缾一、史炤通鑑釋文、以爲二汲水器一、胡三省辨誤曰、胡缾蓋酒器、非二汲水器一也、缾瓶字通、今北人酌レ酒以相勸酬者、亦曰二胡缾一、然壺字正當レ作レ胡耳。〔張憲、大都即事詩〕衣襆分二香裹一、壺瓶借二火溫一。

【壺皿】76（ツボザラ）　㊀食物を盛る器。つぼ。〔和漢三才圖會、庖廚具、盤〕平盤、壺皿、近世制レ之、木盌屬、共有レ蓋。㊁博奕の骰子を伏せるつぼ。

【壺邊】77（コヘン）　つぼのまはり。〔晉書、王敦傳〕每酒後輒詠二魏武帝樂府歌一曰、老驥伏レ櫪、志在二千里一、烈士暮年、壯心不レ已、以二如意一打二唾壺一爲レ節、壺邊盡缺。

【壺蜂】78（コホウ）　きばち。胡蜂（**9**－**29400**‥341）に同じ。〔本草、大黃蜂〕釋名、黑色者名二胡蜂一、壺蜂、瓠甊蜂、玄瓠蜂。

【壺蠭】79（コホウ）　きばち。胡蜂。〔方言、十一〕蠭、燕趙之閒謂二之蠓螉一、其小者謂二之蠮螉一、或謂二之蚴蛻一、其大而蜜、謂二之壺蠭一。

【壺罍】80（コライ）　さかだる。酒樽。〔宋史、禮志四〕大尊・山尊・著尊・犧尊・象尊各二、壺尊六、皆設而弗レ酌、尊加レ冪、犧尊・象尊・壺尊・犧罍・象罍・壺罍各五、加二勺冪一。

【壺鐳】81（コライ） つぼとかめ。〔潘岳、馬汧督誄序〕眞二壺鐳瓶甒一以偵レ之。〔注〕銑曰、壺鐳・瓶甒、並器名。

【壺郎】82（コラウ） 官名。漏刻（水時計）を掌る。〔王褒、漏刻銘序〕季孟相推、啓閉從レ序、挈壺掌二分數之令一、太史陳二立成之法一、軍將以レ之懸井、壺郎以レ之趨奏。〔海錄碎事、天、刻漏〕陸倕賦、掌レ漏官、謂二之壺郎一。〔事物異名錄、爵位、欽天監〕表異錄、掌レ漏官曰二壺郎一。

【壺梁】83（コリヤウ） 仙人の住む山。壺領。〔史記、武帝紀〕作二建章宮一、度爲二千門萬戸一、前殿度高二未央一、其東則鳳闕高二十餘丈、其西則唐中數十里虎圈、其北治二大池漸臺一、高二十餘丈、名曰二泰液池一、中有二蓬萊・方丈・瀛洲・壺梁一、象二海中神山龜魚之屬一、其南有二玉堂璧門大鳥之屬一、乃立二神明臺井幹樓一、度五十餘丈、輦道相屬焉。

【壺領】84（コリヤウ） 仙人の住む山。壺梁に同じ。〔列子、湯問〕當國之中有レ山、山名二壺領一、狀若二甔甀一。

【壺盧】85（コロ） ㊀ゆふがほ。ふくべ。壺蘆。〔本草、壺盧〕釋名、瓠瓜・匏瓜、時珍曰、壺、酒器也、盧、飲器也、此物各象二其形一、又可レ爲二酒飯之器一、因以名レ之。〔世說新語、簡傲〕惟問東吳有二長柄壺盧一。〔古今注、草木〕匏、瓠也、壺盧、瓠之無レ柄者也、瓠有レ柄者、懸レ瓠可二以爲一レ笙、曲沃者尤善、秋乃可レ用レ之、則漆二其裏一、瓢、亦瓠也、瓠、其總、瓢、其別也。㊁鳥の名。〔蘇軾、和二子由柳湖久涸忽有レ水開元寺山茶舊無レ花今歲盛開一詩〕如今勝事無二人共一、花下壺盧鳥勸レ提。㊂鳩を放つ時に尾につける笛をいふ。〔燕京歲時記、花兒市〕凡放鴿之時、必以二竹哨一綴二於尾上一、謂二之壺盧一、又謂二之哨子一。

〔壺盧泊〕86（コロハク） 湖の名。察哈爾省豐鎭縣の北東。如渾水の源。一名、奇爾泊。水經注の旋鴻池。

【壺蘆】87（コロ） ゆふがほ。壺盧の㊀に同じ。

【壺居士】88（コキヨシ） 人名。食忌を著はす。〔海錄碎事、飲食、茶〕壺居士著二食忌一云、茶久食羽化、不レ可二與レ韭同食一、令二耳聾一。

【壺胡籙】89（ツボヤナグヒ） 胡籙の一種。讓位・節會等の警固に近衛の武官の帶びるもの。矢、七筋とす。戰陣にも用ひる。つぼ。〔枕草紙、三〕つぼやなぐひ負ひたる隨身。

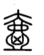
【壺裝束】90（ツボサウゾク） 市女笠（イチメガサ）をかぶり、薄衣をつけた婦人の裝束。〔拾遺和歌集、秋〕つぼさうぞくしたる女ども。

【壺充國】91（コジユウコク） 漢の人。官は武帝の時、大鴻臚卿。司馬相如の副となり、邛莋・西南夷に使す。〔前漢書、五十七下〕。

【壺靑閣】92（コセイカク） 淸、崇恩（4−8152‥14）の室名。

【壺衍鞮單于】93（コエンテイゼンウ） 漢の人。匈奴狐鹿姑單于の子。始元中、單于となる。年少く、國內乖離す。其の臣衞律、和親を主とし、蘇武・馬宏等を漢に歸す。衞律卒するに及び、漸く貧弱となる。宣帝の時、烏孫を侵すや、烏孫救ひを漢に求めたので、趙充國等、烏孫と合擊して大いに之を破る。後、自ら將として烏孫を擊つたが、歸途、丁零・烏桓・烏孫の三國に襲はれ、喪失甚だ多く國勢益〻衰へ、在位十七年にして卒す。〔前漢書、九十四上〕。

【壹】5663

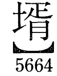

小篆

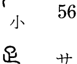
［一］ウン〔集韻〕於云切 ［文］
［二］ウン〔集韻〕紆問切 ［問］
［三］イン〔集韻〕伊眞切 ［眞］
［四］エツ エチ〔集韻〕一結切 ［屑］

［一］［二］［三］［四］**むすぼれる**。氣が交結して晴々しない。〔說文〕壹、壹壺也、从レ凶、从レ壺、壺不レ得レ渫也、易曰、天地壹壺。〔段注〕繫辭傳文、今周易作二絪縕一、他書作二烟煴・氤氳一、云云、許據二易孟氏一作二壹壺一、乃其本字、他皆俗字也。〔廣韻〕壹、鬱也。〔集韻〕壹、說文、壹壺也、不レ得レ泄凶也。

［解字］ 會意。壺と凶との合字。本義は壹壺と熟して元氣の渾然として、吉凶未だ分れない意。故に壺中に一は吉を畫き、一は凶を畫きて其の意を表はす。壺は專ら物を祕藏する器で、其の中の物はのぞき去ることが出來ぬ故に、借りて元氣の吉凶分れない意に用ふ。〔說文、壹、段注〕許釋レ之曰二不レ得レ渫也一者、謂二元氣渾然吉凶未レ分、故其字从三吉凶在二壺中一、會意、合二二字一爲二雙聲疊韻一、實合二二字一爲二一字一。

【壻】5664


小篆


或體

セイ サイ 〔集韻〕思計切 ㄒㄩˋ hsü4 ［霽］

㊀**むこ**。もと男子の美稱。轉じて、女の夫。〔說文〕壻、夫也、从二士胥一、詩曰、女也不レ爽、士貳二其行一、士者夫也、讀與レ細同。〔段注〕夫者、丈夫也、然則壻爲二男子之美稱一、因以爲二女夫之稱一。〔爾雅、釋親〕女子子之夫爲レ壻。〔禮、昏義〕壻執レ雁。〔注〕壻、女之夫也。㊁**つま**。婦人が其の夫を呼ぶ稱。〔庾信、結客少年場行〕今年喜夫壻、新拜二羽林郎一。㊂**とも**。同門の僚友。〔爾雅、釋親〕兩壻相謂爲レ亞。〔注〕今江東人呼二同門一爲二僚壻一。〔釋名、釋親屬〕兩婿相謂、云云、又曰二友壻一、言二其相親友一也。〔廣雅、釋親〕同門謂二之壻一。㊃**わかもの**。〔晉書、庾翼傳〕陛下勿下以二常壻一畜上レ之。㊄或は婿（3−6470）に作る。〔說文〕壻、婿、壻或从レ女。〔段注〕以レ女配下有二才知一者上、爲二會意一。〔集韻〕壻、或从レ女。㊅又、堉（3−5665）に作る。〔集韻〕壻、亦作レ堉。〔儀禮、士昏禮、寢門外東方、注〕寢、壻之室也。〔釋文〕壻、俗作レ堉。㊆聟（9−29106）に同じ。〔禮、昏義〕壻執レ雁。〔釋文〕壻、字又作レ聟。㊇俗に聓（9−29050）に作る。〔集韻〕壻、俗作二聟・聓一、非レ是。〔左氏、文、八〕且復致二公壻池之封一、自レ申至二于虎牢之境一。〔釋文〕壻、俗作レ聓。

［解字］ 會意。士と胥（才知あるものの意）との合字。本義は大丈夫。男子の美稱。轉じて、むこの義。故に士と胥とを合せて其の意を表はす。字又女に從つて婿に作る。本義は女を以て才智あるものに配する意。故に女と胥とを合す。〔說文、壻、段注〕夫者、丈夫也、然則壻爲二男子之美稱一、因以爲二女夫之稱一、周禮注詩箋皆曰、胥有二才智一之稱、云云、婿、以レ女配下有二才知一者上、爲二會意一。

【壻屋】1（セイヲク） 壻の住む家。〔魏志、高勾麗傳〕女家作二小屋於大屋後一、名二壻屋一。

【壻鄕】2（セイキヤウ） 地名。壻水を見よ。

【壻甥】3（セイセイ セイサウ） むこ。女婿。〔王惲、過二劉元海陵寢一詩〕自云漢壻甥、赫怒開二實沈一。

【壻水】4（セイスイ） 川の名。聟水にも作る。漢書の左谷水。淸會典圖には湑水に作る。源は陝西省佛坪縣。秦嶺の南麓に循つて西流し、東西に折れ、城固縣を經て漢に入る。〔水經、沔水注〕涔水出二西南一、而東北入レ漢、左谷水出二西北一、卽壻水也、北發二聽山一、山下有二穴水一、穴水東南流、歷二平川中一、謂二之壻鄕一、水曰二壻水川一、有二唐公祠一、唐君、字公房、成固人也、學レ道得レ仙、入二雲臺山一、合レ丹服レ之、白日升天、雞鳴二天上一、狗吠二雲中一、惟以二鼠惡一留レ之、鼠乃感激、以二月晦日一吐二腸胃一更生、故時人謂二之唐鼠一也、公房升仙之日、壻行未レ還、不レ獲三同階二雲路一、約以二此川一爲レ居、言無二繁霜蛟虎之患一、其俗以爲二信然一、因號爲二壻鄕一、故水亦卽名焉。

【壻養子】5（ムコヤウシ） 壻養子緣組によつて養子となつた人。

【逐レ壻嫁レ女】6（セイヲオヒテヂヨヲカス） 壻を離緣し、女を更めて嫁にやる。罰則の一項目。中國婚姻の制では、妻が婚姻に依つて夫の家に入るのを本則とするが、民間では「入壻婚」といふ變則の婚因が行はれ、妻が夫の家に入らず、夫が妻の家に入る。一見、壻養子のやうであるが、中國では同姓間の婚姻を禁ずるので、夫は絕對に女家の姓に從ふことは出來ず。惟だ女の父と壻とは翁壻の關係を有す。隨つて壻が女家に在る間は、女の父は女の夫（卽ち壻）に對しても親權を有する

と同時に家長權を有す。殊に入壻者は大概貧者で、聘金を備へることが出來ず、聘金の代りに女の家で勞役其の他の事務に服する者であるから、其の妻に對する權利は極めて薄弱である。然し法律は其の夫婦關係を認めるが故に、女家の父母が任意を以て壻を逐ひ、女を改嫁することを許さない。〔明律、戶律、婚姻、逐レ壻嫁レ女〕凡逐レ壻嫁レ女、或再招レ壻者一百、云云、其女斷二付前夫一出居完聚。〔纂詁〕逐レ壻之壻、專指二入贅者一言。

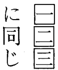
【得レ壻如レ龍】7（ムコヲウルコトリヨウノゴトシ） 良いむこを得たことをいふ。〔海錄碎事、人事、女壻〕後漢、李膺、孫秀、俱娶二太尉桓焉女一、時人謂二桓叔元兩女俱乘レ龍、言二得レ壻如レ龍、楚國先賢傳。

【堨】5665 セイ 壻（3－5664）に同じ。〔篇海〕堨、同レ壻。

【喜】5666 キ 喜（2－3957）に同じ。〔字彙補〕喜、與レ喜同。

十畫

【壼】5667 ㊀コン 〔集韻〕苦本切 ㄎㄨㄣˇ k'uen³ 阮 ㊁キン 〔集韻〕困閏切 震 ㊂キン 〔集韻〕區倫切 眞


小篆

㊀㊁㊂❶**宮中の道**。壼（3－4821）に同じ。〔正字通〕壼、說文从レ壼。〔說文〕壼、宮中道、从レ口、象二宮垣道上之形一、詩曰、室家之壼。〔爾雅、釋宮〕宮中衖、謂二之壼一。〔左思、魏都賦〕永巷壼術。〔注〕劉曰、壼、宮中巷也。❷**ひろい。ひろくする**。〔詩、大雅、旣醉〕室家之壼。〔傳〕壼、廣也。〔國語、周語下〕詩曰、其類維何、室家之壼、云云、壼也者、廣二裕民人一之謂也。❸**をる**。〔廣韻〕壼、居也。❹**しきみ**。しきみ內。轉じて、女の意。梱（6－14883）・閫（11－41329）に通ず。〔說文通訓定聲〕壼、叚借爲レ梱。〔正字通〕梱・壼・閫通。〔詩、大雅、旣醉〕室家之壼。〔箋〕壼之言、梱也。〔釋文〕梱、致也。邦壺（3－5662）邦の㋠に同じ。

解字 象形。本義は宮中の道。口は宮中の周圍に繞らしたかきに象り、餘は宮中の道に象る。一說、上の⿱十冖は束の省形で、宮中の言は閫より外に出さない意を表はすといふ。〔說文、壼、段注〕从レ口、象二宮垣一也、餘象レ道、按、上當三是從二束省一、從レ束者、內言不レ出二於閫一之意。

參考 九畫の壺（3－5662）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕壺、音胡、酒器。壼、音捆、宮壼。

【壼奧】1（コンアウ） 宮中のおく深い所。轉じて、物事の極所。蘊奧。〔班固、答賓戲〕及二時君之門闈一、究二先聖之壼奧一。〔白居易、禮部試策第三道〕壼奧指趣。〔周邦彥、汴都賦〕造二門闈一而臻二壼奧一。

【壼闈】2（コンヰ） 宮中、婦女の居る內室。〔漢書、敘傳下〕壼闈恣レ趙、朝政在レ王。〔荀勖、詩〕儀刑孚二萬邦一、內訓隆二壼闈一。

【壼訓】3（コンクン） 婦女の良いをしへ。〔陳子昂、祭二宇文夫人一文〕崇嚴壼訓、芬郁母儀。

【壼術】4（コンジユツ） 宮中の道。〔左思、魏都賦〕椒鶴文石、永巷壼術。〔注〕劉曰、壼、宮中巷也、術、道也。

【壼政】5（コンセイ） 宮中の奧向きの政治。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕壼政穆宣、房樂韶理。〔注〕濟曰、壼政穆宣、謂二宮中之政明一也。

【壼範】6（コンパン） 婦人の立派な行狀。閫範。〔西山題跋〕蓋孝悌之至、通二于神明一、然後爲レ亡レ愧、而兄弟旣翕、和樂且湛、亦曰、壼範之常而非レ過也。

【壷】5668 コ 壺（3－5662）に同じ。〔篇海類編〕壷、同レ壺。

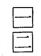
【壾】5669 カ 夏（3－5720）の古字。〔海篇〕壾、古文夏字。

【⿰壳乚】5670 コウ 㝅（3－7012）に同じ。〔集韻〕㝅、或作レ⿰壳乚。

【⿳士冖月】5671 イク 義未詳。〔五音篇海〕⿳士冖月、音育。

十一畫

【壽】5672 ㊀シウ ジユ 〔集韻〕承呪切 ㄕㄡˋ shou⁴ 宥 ㊁シウ ジユ 〔集韻〕是酉切 有


小篆

㊀㊁❶**ひさしい**。命が長い。もと⿱耂𠷎（9－28865）に作る。〔正字通〕壽、本作レ⿱耂𠷎。〔說文〕⿱耂𠷎、久也、从二老省一𠷎聲。〔莊子、天道〕長二於上古一而不レ爲レ壽。〔注〕壽者、期之遠耳。❷**いのち。とし**。生命。天年。〔正字通〕凡年齒皆曰レ壽。〔呂覽、尊師〕以終二其壽一。〔注〕壽、年也。〔唐庚、硯銘〕筆之壽以レ日計、墨之壽以レ月計、硯之壽以レ歲計。❸**ことほぐ。ほぎごと**。杯を尊者に進めて、命長かれと祝福する。〔漢書、高帝紀上〕莊入爲レ壽。〔注〕師古曰、凡言レ爲レ壽、謂下進二爵於尊者一、而獻中無疆之壽上。〔後漢書、明帝紀〕奉レ觴上レ壽。〔注〕壽者人之所レ欲、故卑下奉レ觴進レ酒、皆言レ上レ壽。❹**人に物を贈る時の祝ひの言葉**。〔正字通〕壽、凡以二金帛一贈レ人曰レ壽。❺**としより**。〔詩、魯頌、閟宮〕三壽作レ朋。〔傳〕壽、考也。〔張衡、東京賦〕送迎拜二乎三壽一。〔注〕綜曰、三壽、三老也。❻**星の名**。二十八宿の內、角と亢。〔爾雅、釋天〕壽星、角亢也。〔注〕數起二角亢一、列宿之長、故曰レ壽。❼**相術家の語**。鼻の中央をいふ。流年運氣（6－17431‥307）を見よ。❽古は𠷎（2－3966）・⿰壽刂・⿱耂𠷎（9－28865）・⿱耂𠷎（9－28864）・⿱己⿰口殳（2－3201）に作る。〔集韻〕壽、古作レ⿱耂𠷎。〔集韻〕壽、古作レ⿰壽刂。〔康熙字典〕壽、古文⿱耂𠷎・⿱耂𠷎・⿱己⿰口殳・𠷎。❾或は⿰壽刂・⿰壽刂に作る。〔正字通〕壽、篆作レ⿰壽刂、同文擧要作レ⿰壽刂。❿俗に壽（4－7459）に作る。〔正字通〕壽、俗作レ壽非。⓫**姓**。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕壽氏、姬姓、風俗通、吳王壽夢之後、望出二京兆博陵一。〔萬姓統譜〕壽、商音、京兆、又望出二博陵一、今吳中尙有二此氏一。⓬現誕生日。⓭今略して寿（4－7418）に作る。

名乘 カズ。トシ。ナカ。ヒサ。

【壽安】1（ジユアン） ❶よはひ長くやすらかなこと。壽康。〔韓非子、安危〕忍レ痛、故扁鵲盡レ巧、拂レ耳則子胥不レ失、壽安之術也。❷牡丹の一種。〔牡丹記〕細葉麤葉壽安者、皆千葉肉紅花、出二壽安錦屛山中一、細葉尤佳。〔牡丹榮辱志〕姚黃爲レ王、魏紅爲レ妃、細葉壽安爲二九嬪一、麤葉壽安爲二世婦一。❸後漢、宮殿の名。〔後漢書、梁皇后紀〕乃於二壽安殿一、立二貴人一爲二皇后一。〔張衡、東京賦〕其內則含德・章臺・天祿・宣明・溫飭・迎春・壽安・永寧。〔注〕綜曰、八殿皆以二休令一爲レ名。❹縣名。隋、置く。後魏の甘棠縣。今の河南省宜陽縣治。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、宜陽縣〕壽安城、在二縣東南二十里一、舊志、在二洛陽西南七十里一、後魏置二甘棠縣一屬二新安郡一、隋改曰二壽安一、義甯初、移二治九曲城一屬二熊州一、唐貞觀七年、復移二治此一改屬二洛州一、宋因レ之、金廢。❺後魏、元脩義（1－1340‥675）の字。「8)を見よ。

【壽菴】2（ジユアン） 橘晉明の號。橘壽菴（6－15551‥4

【壽衣】3 shou⁴ i¹ 死者に著せる衣服。

【壽域】4（ジユヰキ） ❶よく治まつた世。仁壽の域。〔杜甫、上二韋左相一詩〕八荒開二壽域一、一氣轉二洪鈞一。❷生存中につくる墓。壽穴。壽藏。壽宮。壽城。❸長壽の境。〔大唐西域記、瞿薩旦那國記贊〕聲

教之所㆓霑被㆒、馳㆓騖福林㆒、風軌之所㆓鼓扇㆒、載㆓驅壽域㆒。❹宋、杜安世(6－14477‥278)の字。

【壽雲】5 ジユウン 元、黃超然(12－47926‥1263)の號。

〔壽雲山房〕6 ジユウンサンバウ 清、陳廣寧(11－41698‥770)の室名。

【壽永】7 ジユエイ 第八十一代安德天皇の年號。(1182－1184)〔藤原俊經勘文〕以介㆓眉壽㆒、永言保㆑之、思皇多㆑祜。

【壽夭】8 ジユエウ 長生と若死。長壽と夭折。〔莊子、應帝王〕鄭有㆓神巫㆒、曰㆓季咸㆒、知㆓人之死生存亡、禍福壽夭㆒。〔列子、力命〕壽夭窮達、貴賤貧富、我力之所㆑能也。〔墨子、非儒〕壽夭貧富。〔唐庚、古硯銘〕壽夭數也。

【壽宴】9 ジユエン 長壽を祝ふ宴。〔國史略、後宇多天皇〕八年、帝幸㆓北山㆒、賀㆓准后從一位貞子壽九十㆒、云云、壽宴之盛如㆑是、世未㆓多有㆒。

【壽筵】10 ジユエン 長壽を賀する宴會。祝ひの宴會。壽讌に同じ。

【壽讌】11 ジユエン ことぶきのさかもり。祝ひの席。長壽をいはふ宴。壽筵。壽宴。〔李商隱、有㆑感詩〕近聞開㆓壽讌㆒、不㆑廢用㆓咸英㆒。

【壽翁】12 ジユヲウ ❶老翁。老人。❷字號。㋑宋、种誼(8－24942‥3)の字。㋺宋、俞松(1－1437‥38)の字。㋩宋、俞庭椿(1－1437‥126)の字。㋥宋、李椿(6－14459‥597)の字。㋭宋、劉彌邵(2－2224‥1274)の字。㋬元、陳櫟(11－41698‥606)の字。

【壽斝】13 ジユカ 長壽をいはふさかづき。〔蘇轍、詞〕七十餘年眞一夢、朝來壽斝兒孫奉。

【壽賀】14 ジユガ ながいきをいはふ祝ひ。長壽の祝賀。還暦(六十歳)・古稀(七十歳)・喜字(七十七歳)・米壽(八十八歳)の類。

【壽階】15 ジユカイ 清、袁廷檮(10－34152‥235)の字。

【壽豈】16 ジユガイ 命長くして樂しむ。豈は愷で、樂しむ意。〔詩、小雅、蓼蕭〕宜㆑兄宜㆑弟、令德壽豈。〔集傳〕豈、樂。

【壽考】17 ジユカウ 命長い。長いき。壽者。考は老。〔詩、大雅、行葦〕壽考維祺、以介㆓景福㆒。〔禮、曲禮下〕壽考曰㆑卒。〔楚辭、九章、思美人〕寧隱閔而壽考兮、何變易之可㆑爲。〔漢書、藝文志、方技略、房中〕房中者、情性之極、樂而有㆑節、則和平壽考、及迷者弗㆑顧、以生㆑疾而隕㆓性命㆒。〔古詩十九首〕人生非㆓金石㆒、豈能長壽考。〔後漢書、東夷、倭傳〕多壽考、至㆓百餘歲㆒者甚衆。〔逸周書、謚法解〕彌年壽考曰㆑胡。

〔壽考不㆑忘〕18 ジユカウワスレズ 老年になつた後まで、いつまでも忘れられない。德の大なることを稱へた言葉。〔詩、秦風、終南〕佩玉將將、壽考不㆑忘。〔詩、小雅、蓼蕭〕其德不㆑爽、壽考不㆑忘。〔儀禮、士冠禮〕壽考不㆑忘。

【壽康】19 ジユカウ 命ながく安らか。壽安。〔韓愈、送㆔李愿歸㆓盤谷㆒序〕飲且食兮壽而康、無㆑不㆑足兮奚所㆑望。〔蘇頌、本草序〕納㆓斯民於壽康㆒、召㆓和氣於穹壤㆒。

【壽客】20 ジユカク ❶祝ひの客。又、長壽の客。菊の異名。十二客の一。〔花譜〕菊爲㆓壽客㆒。〔西溪叢語〕菊爲㆓壽客㆒。❷清、陳善(錢塘の人)(11－41698‥422)の號。

【壽鶴】21 ジユカク よはひの長い鶴。〔徐陵、天台山徐則法師碑〕百紀遊龜皆登㆓蓮葉㆒、千齡壽鶴或舞㆓松枝㆒。

〔壽鶴衣〕22 ジユカクノコロモ 仙人の着る衣。〔海錄碎事、道釋、仙〕衣㆓青霞壽鶴之衣㆒。

【壽岳】23 ジユガク 山名。五岳の一。衡山をいふ。南岳。〔齊己、廻雁夆詩〕壯堪㆑扶㆓壽岳㆒、靈合置㆓仙壇㆒。

【壽巖】24 ジユガン 清、朱山(6－14424‥311)の號。

〔壽巖老人〕25 ジユガンラウジン 宋、欽德載(6－16104‥151)の號。

【壽紀】26 ジユキ 年齡。壽命。一紀は十二年。〔程俱、自寬吟戲效㆓白樂天體㆒詩〕人言病壓身、往往延㆓壽紀㆒。

【壽期】27 ジユキ ❶誕生の祝ひ日。〔生日會約〕凡遇㆓壽斯㆒。❷shou^4 ch'i^2 生涯。壽命。

【壽器】28 ジユキ 棺の異稱。又、生存中から備へておく棺。𤗼器。〔後漢書、皇后下、匽皇后紀〕斂以㆓東園畫梓壽器㆒。〔注〕梓木爲㆑棺、以㆑漆畫㆑之、稱㆓壽器㆒者、欲㆓其久長㆒也。〔杜牧、池州李使君沒後十一日處州新命始到哭以㆑詩〕縉雲新命詔初行、纔是孤魂壽器成。

【壽儀】29 shou^4 i^2 誕生祝の贈物。

【壽丘】30 ジユキウ ❶地名。山東省曲阜縣の東北。壽邱。〔史記、五帝紀〕舜耕㆓歷山㆒、漁㆓雷澤㆒、陶㆓河濱㆒、作㆓什器于壽丘㆒。〔帝王世紀〕黃帝生㆓於壽丘㆒。〔宋書、符瑞志上〕黃帝軒轅氏母曰㆓附寶㆒、見㆘大電光繞㆓北斗樞星㆒、照㆗郊里㆖、感而孕、二十五月而生㆓黃帝於壽丘㆒。❷唐代、洛陽の地名。〔洛陽伽藍記、四、開善寺〕準財里內有㆓開善寺㆒、云云、尙書右僕射元稹、聞㆔里內頻有㆓怪異㆒、遂改㆓準財㆒爲㆓齊諧里㆒也、自㆓退酤㆒以西、張方溝以東、南臨㆓洛水㆒、北達㆓芒山㆒、其間東西二里、南北十五里、並名爲㆓壽丘里㆒、皇宗所㆑居也、民間號爲㆓王子坊㆒。

【壽宮】31 ジユキユウ ❶寢室。〔呂覽、知接〕蒙㆓衣袂㆒而絕㆓乎壽宮㆒、蟲流出㆓於戶㆒、上蓋以㆓楊門之扇㆒、三月不㆑葬。〔注〕壽宮、寢堂也。❷神を祀る所。〔楚辭、九歌、雲中君〕蹇將㆑憺㆓兮壽宮㆒。〔注〕壽宮、供神之處也、祠祀皆欲㆑得㆑壽、故名爲㆓壽宮㆒也。〔史記、孝武紀〕置㆓壽宮神君㆒、云云、又置㆓壽宮北宮㆒。〔注〕正義曰、漢書云、武帝壽宮以處㆓神君㆒。〔漢書、郊祀志上〕大赦置㆓壽宮神君㆒。〔注〕臣瓚曰、壽宮、奉㆑神之宮也。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕壽宮寂遠。❸齊の離宮の名。〔晏子春秋、雜、上〕景公遊㆓於壽宮㆒。❹生きてゐるうちに作つた墓。壽穴。壽堂。生壙。

【壽玉】32 ジユギヨク 宋、樓璹(6－15430‥56)の字。

【壽華】33 ジユクワ ❶地名。羿が鑿齒を射殺した處。〔山海經、海外南經〕羿與㆓鑿齒㆒戰㆓于壽華之野㆒、羿射㆓殺之㆒。〔郭璞、山海經圖、鑿齒國贊〕堯乃命㆑羿、斃㆓之壽華㆒。❷清、呂采芝(2－3386‥205)の字。

【壽靴】34 shou^4 hsüeh^1 誕生日の祝ひに贈る靴。

【壽光】35 ジユクワウ ❶縣名。漢、置き、後漢、侯邑とす。山東省益都縣の東北。〔漢書、地理志上〕北海郡、縣二十六、壽光。〔注〕有㆓鹽官㆒。〔水經、巨洋水〕又東北過㆓壽光縣西㆒。〔讀史方輿紀要、山東、青州府〕壽光縣、府東北七十里、南至㆓萊州府濰縣㆒八十里、古斟灌氏地、漢置㆓壽光縣㆒屬㆓北海郡㆒、王莽改置㆓翼平連率於此㆒、後漢初、光武封㆓更始子鯉㆒爲㆓侯邑㆒、改屬㆓樂安國㆒、晉因㆑之、宋初省、北齊復置、隋屬㆓青州㆒、唐初屬㆓乘州㆒、尋復屬㆓青州㆒。〔清史稿、地理志〕山東、青州府、縣十一、壽光。❷五胡十六國の一たる前秦の廢帝、王苻生の年號。(355－357)

【壽光客】36 ジユクワウカク 鏡(11－40812)の異稱。壽光先生。〔白孔六帖〕唐人謂㆑鏡曰㆓金炯㆒、亦曰㆓壽光客㆒。

【壽光侯】37 ジユクワウコウ 後漢の人。方術を能くす。〔後漢書、方術傳〕章帝時有㆓壽光侯者㆒、能劾㆓百鬼衆魅㆒、令㆓自縛見㆑形、云云、帝聞而徵㆑之、乃試問㆑之、吾殿下夜半後、常有㆓數人絳衣被髮、持㆑火相隨㆒、豈能劾㆑之乎、侯曰、此小怪易㆑銷耳、帝僞使㆓三人爲㆑之、侯劾㆓三人㆒、登時仆㆑地無㆑氣、帝大驚曰、非㆑魅也、朕相試耳、解㆑之而蘇。

【壽光先生】38 ジユクワウセンセイ 鏡(11－40812)の異稱。壽光客。〔司空圖、容成侯傳〕容成侯金炯者、本蜀郡嚴道人、云云、上晨興、必先至、則與㆓冠冕者㆒、偕進㆑號爲㆓壽光先生㆒、不㆑名也。〔物名要覽〕司空圖謂㆑鏡曰㆓壽光先生㆒。

〔壽光鐵路〕39 ジユクワウテツロ 鐵道。山東省壽光縣から起り羊角溝に至る。壽光縣の鹽商が施設したもの。一に壽羊鐵路といふ。

【壽皇】40 ジユクワウ 宋の孝宗の尊號。〔宋史、孝宗紀三〕乾道十六年二月辛未、上㆓尊號㆒曰㆓至尊壽皇聖帝㆒。

〔壽皇殿〕41 ジユクワウデン 宮殿の名。北京、北上門內景山の後にある。淸の聖祖の遺像を供奉す。

【壽觥】42 ジユクワウ 祝ひのさかづき。壽觴(76)に同じ。

【壽槨】43 ジユクワク 生前に準備する槨。〔南唐近事〕詰朝乃依㆓遺命㆒、伐㆑樹掘㆑土、深丈餘、得㆓一石槨㆒、工用精妙、光潔可㆑鑒、蓋上刊㆓八篆字㆒云、開成二年、壽槨一所、乃擧㆑棺就㆑槨而葬㆑之、廣狹之間、皆中㆓其度㆒。

【壽卿】44 ジユケイ 字號。❶宋、徐椿年(4－10110‥581)の字。❷元、唐仁祖(2－3709‥454)の字。❸明、康茂才(4－9376‥196)の字。❹明、沈受先(6－17189‥537)の字。❺明、石永(8－24024‥27)の字。❻明、聶大年(9－29179‥34)の字。❼明、方良永(5－13620‥625)の字。❽清、許希沖

（10－35298‥253）の字。❾清、葉大年（9－31387‥233）の字。❿清、陳介祺（11－41698‥690）の字。⓫清、劉松山（2－2224‥1074）の字。

【壽喬】45 ジュケウ　清、計楠（10－35220‥71）の字。

【壽穴】46 ジュケツ　生前に造る墓。壽堂。壽域。

【壽縣】47 ジュケン　縣名。民國、置く。春秋の六蓼國の地。戰國、楚の壽春邑。安徽省六安縣の北。壽州（71）と同地。

【壽險】48 ジュケン　生命保險。

【壽護】49 ジュケン　清、王錫祺（7－20823‥1810）の字。

【壽元】50 ジュゲン　❶星命家の語。壽考を司る星。〔張果星宗、八格賦、壽格〕田星・司命・壽元・逢生、云云、日月夾レ命守二田宅一、是壽元而最妙。❷shou^4 yüan^2 壽命。

【壽限】51 shou^4 hsien^4 壽命。

【壽耇】52 ジュコウ　長命。壽考。又、其の人。〔書、召誥〕今沖子嗣、則無レ遺二壽耇一。

【壽國】53 ジュコク　國家を善く治めて長久ならしめること。〔管子、霸言〕夫一言而壽レ國、云云、大聖之言也。〔呂覽、求人〕虞用二宮之奇一、吳用二伍子胥之言一、此二國者、雖下至二於今一存上可也、則是國可レ壽也、有下能益二人之壽一者上則人莫レ不レ願レ之、今壽レ國有レ道、而君レ人者而不レ求過矣。

【壽骨】54 ジュコツ　髮の生えぎはの骨。〔蘇軾、表弟程德孺生日詩〕長身自レ昔傳二甥舅一、壽骨遙知是弟兄。〔自注〕予與レ君皆壽骨貫レ耳、班列中多指二予二人一、不レ問而知三其爲二中表一也。〔齊民要術、養二牛馬驢騾一法〕相レ馬從レ頭始、云云、壽骨欲レ得レ大。〔注〕壽骨者、髮所レ生處也。

【壽坤】55 ジュコン　清、鄒坤（11－39562‥21）の一名。

【壽材】56 shou^4 ts'ai^2 生前に於てあらかじめ用意した棺。

【壽相】57 ジュサウ　壽者相の略。壽者相（194）を見よ。

【壽草】58 ジュサウ　清代、禮部署中に生じた草。一名、長春草。春、紅花を開き、秋、珠のやうな實を結ぶ。〔紀昀、槐西雜志〕。

【壽臧】59 ジュザウ　長命でしかも善い。臧は善。〔詩、魯頌、閟宮〕俾二爾壽而臧一。〔傳〕壽、考也。〔箋〕臧、善。

【壽藏】60 ジュザウ　生前に建てて置く墓。壽冢。壽穴。〔後漢書、趙岐傳〕年九十餘、先自爲二壽藏一。〔注〕壽藏、謂二塚壙一也、稱レ壽者、取二其久遠之意一。〔書言故事、墳墓類〕稱二人生壙一曰二壽藏一、唐姚崇自立二壽藏於萬安山一、兆曰二安居穴一、兆穴以レ土爲レ床曰二化臺一。

【壽藏碑】61 ジュザウヒ　生存中に建てる石碑。

【壽索】62 ジュサク　くすだま。唐代、端午の日に朝廷から賜はつた長壽を祝ふ絲。百索。長命縷。〔唐翰林志〕端午、賜二學士諸官壽索一。

【壽算】63 ジュサン　いのち。生命。壽命（155）に同じ。〔易林、泰之十一、大有〕賜二我福祉一、壽算無レ極。

【壽山】64 ジュザン　❶山名。㋑福建省閩侯縣の北。美石を產す。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、侯官縣〕壽山、府東北六十里、產二美石一、瑩潔柔潤、蓋珉也、距レ山十餘里、有二五花石坑一、以三石有二五色一而名。㋺滿洲吉林省伊通縣の境。清の康熙二十年、謁陵の禮終り、大いに蒐し、蹕を此處に駐めたが、適〻萬壽節にあひ、此の名を賜ふ。滿洲語にて查拉芬阿林といふ。❷人名。清、黑龍江漢軍正白旗人。光緒中、黑龍江將軍となる。拳匪の亂起り、朝廷、宣戰を命ずるや、露兵至り、書を以て道を假りて奉天に赴かんと乞ふ。壽山、之を拒ぐ。露兵、卜奎城に逼り、將に大礮を以て轟擊せんとす。壽山乃ち人を遣して和議せしめ、自ら藥を仰いで死す。其の遺書に、戰はざれば以て陪京を衞る無く、和せざれば民命を全うする無し、謹みて一死を以て自明すといふ。〔清史稿、四百七十三〕・〔清史列傳、六十一〕・〔碑傳集補、三十三〕。❸字號。㋑唐、公乘億（2－1452‥376）の字。㋺清、洪騰蛟（6－17402‥266）の號。㋩清、陳崧（11－41698‥389）の字。

【壽山石】65 ジュザンセキ　福建省侯官縣の壽山の五花石坑に產する蠟石の一種。印章、又は珍玩に製作す。〔福州府志〕壽山、山有二九峯一、是生二美石一、瑩潤可レ硏可レ印、大者一二尺許、蓋珉、云、距レ山十餘里、有二五花石坑一、石有二五色一、難レ得者艾綠。

【壽山福海】66 ジュサンフクカイ　人の長壽を祝ふ語。〔劉基、壽山福海圖歌〕吾聞軒轅之國、乃在二大海之中央一、其不レ壽者八百歲、壽者乃與二天地一同久長。

【壽之】67 ジュシ　字號。❶宋、哀長吉（2－3580‥186）の字。❷元、耶律伯堅（9－29008‥131）の字。❸清、錢璞（11－40563‥172）の字。❹清、孫延（3－6987‥19）の字。

【壽司】68 シス　すし。鮨。

【壽詞】69 ジュシ　❶酒をすすめて人の長壽を祝することば。其の風習の古く周代に始まつた事は、莊子天地篇の華の封人が堯を祝した記事、及び詩經の小雅天保・大雅江漢・豳風七月等の記事を以て知られる。〔莊子、天地〕堯觀二乎華一、華封人曰、嘻、聖人、請祝二聖人一、使二聖人壽一、堯曰、辭、使二聖人富一、堯曰、辭、使三聖人多二男子一、堯曰、辭、封人曰、壽富多二男子一、人之所レ欲也、女獨不レ欲何邪、堯曰、多二男子一則多レ懼、富則多レ事、壽則多レ辱、是三者非三所二以養レ德也、故辭。〔詩、小雅、天保〕吉蠲爲レ饎、是用孝享、禴祠烝嘗、于二公先王一、君曰卜レ爾、萬壽無レ疆。❷ヨゴト　天皇の御世の長久繁榮をことほぎ祝ふ詞。〔日本書紀、持統紀〕神祇伯中臣朝臣大嶋讀二天神壽詞一。〔令義解、神祇令〕凡踐祚之日、中臣奏二天神之壽詞一。〔注〕謂下以二神代之古事一、爲中萬壽之寶詞上也。

【壽詩】70 ジュシ　人の長壽を賀した詩。壽詞の❶を見よ。〔陔餘叢考、壽詩〕壽詩盛二於宋一、漸施二於官府一、亦無下未二同而言一者上。

【壽州】71 ジュシウ　州の名。隋、置く。唐これに仍る。卽ち今の安徽省壽縣治。五代周、治を下蔡に移す。卽ち今の安徽省鳳臺縣治。これより故治を以て南壽春といふ。民國、州を改めて縣とす。壽春（80）の❶・南壽春（2－2750‥386）をも見よ。〔唐書、地理志五、淮南道〕壽州、壽春郡、本淮南郡、天寶元年更レ名。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府〕壽州、春秋時、六蓼國地、戰國時屬レ楚、名曰二壽春一、云云、隋開皇九年、改置二壽州一、煬帝改爲二淮南郡一、唐復爲二壽州一、天寶初曰二壽春郡一、乾元初復爲二壽州一、云云、周世宗顯德四年、取二壽州一復曰二忠正軍一、徙二治下蔡一、云云、宋仍爲二壽州一、亦曰二壽春郡・忠正軍一、政和六年升二壽春府一、乾道三年改爲二安豐軍一、云云、元爲二安豐路一、云云、明初復曰二壽州一、以二州知壽春縣一省入。〔清史稿、地理志〕安徽、鳳陽府、州二一、壽州。

【壽日】72 shou^4 jih^4 誕生日。

【壽昌】73 ジュシヤウ　❶命ながく榮える。長命で隆んなこと。〔晉書、穆帝紀〕獲二其傳國璽一、送レ之、文曰、受二天之命一、皇帝壽昌、百僚畢賀。〔杜甫、寄二韓諫議一詩〕周南留滯古所レ惜、南極老人應二壽昌一。❷星の名。壽昌を主るといふ。老人星。壽星。〔晉書、天文志上〕老人一星、在二孤南一、一曰南極、見則治平、主二壽昌一。〔淵鑑類函、天、星〕壽昌、老人星、常以二秋分之日一見二于丙一、春分之日沒二于丁一、見則治平、主二壽昌一。❸縣名。㋑晉、置く。漢の富春縣の地。浙江省建德縣の西南。〔晉書、地理志〕吳郡統二縣壽昌一。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府〕壽昌縣、府西南九十里、漢富春縣地、吳置二新昌縣一屬二吳郡一、晉改二今名一。〔清史稿、地理志〕浙江、嚴州府縣六、壽昌。㋺南朝宋、置く。漢、壽良縣の地。山東省壽張縣の東南。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州〕壽張縣、州西一百二十里、春秋時齊之良邑、戰國時謂二之壽邑一、漢置二壽良縣一屬二東郡一、云云、劉宋改曰二壽昌一。㋩唐、置く。縣南の壽昌澤によつて名づく。治は漢の龍勒城。今の甘肅省敦煌縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、沙州衞〕壽昌城、在二衞西一百五十里一、漢龍勒縣地、後魏置二壽昌縣一屬二敦煌郡一、西魏時亦曰二壽昌縣一、後周省。㋥宋、壽昌軍を置く。もと湖北省武昌縣。民國、江夏を改めて武昌とし、又、改めて壽州とし、尋いで又、鄂城縣とす。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府〕武昌縣、府東北一百八十里、春秋時、楚封二鄂王于此一、秦爲二鄂縣一屬二南郡一、漢屬二江夏郡一、武帝封二長公主于鄂邑一、是也、云云、宋南渡後、升爲二武昌軍一、後又更二名壽昌軍一。❹遼の道宗、耶律洪基の年號。遼史、誤つて壽隆に作る。（1095－1101）❺明、胡子祺（9－29400‥477）の名。

【壽昌溪】74 ジュシヤウケイ　川の名。浙江省壽昌縣の南。源を鵞籠山に發し、流れて新安江に入る。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府、壽昌縣〕壽昌溪、在二縣西一、源出二西南六十里之鵝籠山一、流至二縣二十里一、與二交溪一會曰二大同溪一、云云、又東北繞二蒼山一、入二新安江一、縣境之水悉匯入焉。

【壽昌殿】75 ジュシヤウデン　宮殿の名。五代、前蜀　の王

建、建つ。〔五代史、前蜀王建世家〕建起二壽昌殿於龍興宮一、畫二建像於壁一、又起二扶天閣一、畫二諸功臣像一。

【壽觴】76 ジュシャウ 祝ひのさかづき。壽杯。壽觥。〔潘岳、閑居賦〕稱二萬壽一以獻レ觴、咸一懽而一喜、壽觴擧、慈顏和。〔韓愈、送二鄭十校理一詩〕壽觴嘉節過、歸騎春衫薄。

【壽城】77 ジュジャウ 生存中に作る墓。壽域(4)の❷に同じ。

【壽酒】78 ジュシュ 年祝ひの酒。〔戰國、燕策〕燕王喜使下栗腹以二百金一爲中趙孝成王壽酒上。〔黃庭堅、酌二姨母崇德君壽酒一詩〕欲下將二何物一獻中壽酒上、天上千秋桂一枝。

【壽終】79 ジュシュウ ながいきして死ぬ。老死をいふ。〔舊唐書、李元愷傳〕元愷年八十餘壽終。

【壽春】80 ジュシュン ❶郡名。唐、置く。春秋の六蓼國、漢の淮南國の地。今、安徽省壽縣治。壽州(71)をも見よ。〔劉禹錫、寄二楊八壽州一詩〕風獵紅旗入二壽春一、滿城歌舞向二朱輪一。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府〕壽州、春秋時六蓼國地、戰國時屬レ楚、名曰二壽春一、云云、秦爲二九江郡一、云云、漢初爲二淮南國一、云云、唐復爲二壽州一、天寶初曰二壽春郡一、乾元初復爲二壽州一、云云、家仍爲二壽州一、亦曰二壽春郡・忠正軍一。❷縣名。秦、置く。もと楚の邑。楚の考烈王、都を壽春に徙し、命じて郢といふ。漢の淮南王長之に都す。晉の孝武の時、諱を避けて壽陽といふ。今、安徽省壽縣治。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、壽州〕壽春廢縣、卽今城也、秦置レ縣、漢五年、劉賈南渡レ淮圍二壽春一、卽此、尋爲二九江郡治一、云云、晉自レ渡レ江後、壽春尤爲二重鎭一、云云、孝武改曰二壽陽一。

【壽春邑】81 ジュシュンイフ 縣名。漢、置く。秦の壽春縣。今、安徽省壽縣治。壽春の❷に同じ。〔漢書、地理志上〕九江郡、縣十五、壽春邑。〔注〕楚考烈王自レ陳徙レ此。

【壽春翁】82 ジュシュンヲウ 石川凹の號。石川丈山(**8**−**24024**··479)を見よ。

【壽春紅】83 ジュシュンコウ 牡丹(**7**−**19933**··16)の一名。〔牡丹譜〕牡丹一名二壽春紅一、陸游天彭花品作二壽陽紅一、又有二朝霞紅・轉枝紅・灑金紅・米囊紅・青絲紅・石榴紅・樓子紅諸品一。

【壽如】84 ジュジョ 清、翁陵(**9**−**28635**··62)の字。

【壽序】85 ジュジョ 人の長壽を祝する文。宋末・元初に起り、明の中葉以後に盛に行はれ。明の壽序は五十以上で十年每に壽を祝する例であつたが、清に至り三十・四十の人に對しても皆壽序が行はれた。壽詞(69)の❶を見よ。〔方苞、張母呉孺人七十壽序〕以レ文爲レ壽、明之人始有レ之、然其知二體要一者、尙能擇二其人之可一而不二妄爲一。

【壽舒】86 ジュジョ 地名。春秋、莒の地。〔左氏、襄、二十三〕明日將二復戰一、期二於壽舒一。〔注〕壽舒、莒地。

【壽承】87 ジュショウ 明、文彭(**5**−**13450**··751)の字。

【壽辰】88 shou^4 ch‘en^2 誕生日。

【壽人】89 ジュジン 秦代、房中樂の名。漢代には安世樂と改む。〔漢書、禮樂志〕周有二房中樂一、至レ秦名曰二壽人一、孝惠二年、使三樂府令夏侯寬、備二其簫管一、更名曰二安世樂一。

【壽水】90 ジュスイ ❶河の名。山西省壽陽縣の南にある。〔讀史方輿紀要、山西、大原府、壽陽縣〕壽水、縣南二里、有二二源一、並導合流、至二縣西南十里一、合二於黑水一。❷清、江見龍(**6**−**17140**··469)の字。

【壽數】91 shou^4 shu^4 壽命。

【壽生】92 ジュセイ 字號。❶明、李世祺(**6**−**14459**··1540)の字。❷清、潘眉(**7**−**18236**··82)の字。

【壽西】93 ジュセイ 複姓。〔漢書、昭帝紀〕燕王遣二壽西長・孫縱之等一、賂二遺長公主丁外人等一。〔注〕蘇林曰、壽西、姓也、長、名也。

【壽性】94 ジュセイ 北齊、堯傑(**3**−**5272**··11)の字。

【壽星】95 ジュセイ ❶星座の名。角と亢との二宿に當る。〔爾雅、釋天〕壽星、角亢也。〔注〕數起角亢、列宿之長、故曰レ壽。❷星の名。南極老人星。カノープス。之を祀つて福壽を祈る。〔史記、封禪書〕於二杜亳一有二三社之祠・壽星祠一。〔注〕索隱曰、壽星、蓋南極老人星也、祠レ之以祠二福壽一。〔史記、武帝紀〕壽星仍出。〔黃帝占〕老人星、一名壽星、色黃明大、則主二壽昌一、天下多二賢士一。❸shou^4 hsing^1 ㋑子供の帽子の前につける徽章。㋺誕生日に當る男子の尊稱。

【壽星草】96 ジュセイサウ 草の名。ありどほし。虎刺(**9**−**32675**··74)の異名。〔本草、虎刺〕時珍曰、壽域方治二丹瘤一用二虎刺一、卽壽星草、搗レ汁塗レ之。

【壽星桃】97 ジュセイタウ 桃の一種。からもも。あめんどう。〔直省志書、呉縣〕壽星桃、樹矮著レ花結二大實一。

【壽星塘】98 ジュセイタウ 山名。廣東省中山縣の南。其の陰に塘ありて梅花水を出だす。野史に、宋の端宗が舟中に崩じ、壽星塘に葬るとあるのは此處である。

【壽星鷄冠】99 ジュセイケイクワン 草花の名。ちやぼけいとう。〔羣芳譜、雞冠〕又有二一種一、五色者最矮、名二壽星雞冠一。

【壽星老兒】100 ジュセイラウジ 人の壽命をつかさどる神。長壽の神。〔紅樓夢、三十八回〕壽星老兒頭上、原是一個窩兒。

【壽石】101 ジュセキ 清、徐觀海(**4**−**10110**··389)の號。

【壽石齋】102 ジュセキサイ 字號。❶清、徐嶧(**4**−**10110**··17)の號。❷清、孫銓(**3**−**6987**··200)の號。

【壽席】103 ジュセキ 祝ひの席。祝ひの酒席。〔李涀、書二漁父歌後一〕召二此妓一使レ歌レ之、以助二壽席之歡一。

【壽仙】104 ジュセン 清、譚衡(**10**−**35978**··7)の字。

【壽仙魚】105 ジュセンギョ かがみだひの異名。

【壽泉】106 ジュセン 字號。❶清、程兆熊(**8**−**25081**··266)の號。❷清、裕祿(**10**−**34305**··34)の號。

【壽潛】107 ジュセン 植物の名。Fomes japonicus 靈芝(**12**−**42532**··143)の異名。〔瑯嬛記〕靈芝、一名壽潛。

【壽祖】108 ジュソ 藥草の名。威靈仙(**3**−**6259**··178)の異名。〔事物異名錄、藥材上、草類〕清異錄、侯寧極藥譜、壽祖、威靈仙也。

【壽蘇】109 ジュソ 清、陳文湛(**11**−**41698**··1237)の字。

【壽孫】110 ジュソン 金、完顏璹(**3**−**7079**··30)の本名。

【壽尊】111 ジュソン 壽を祝ふ酒樽。〔唐書、禮樂志九〕皇帝元正冬至、云云、設二壽尊於殿上東序之端一。〔通典、禮〕唐千秋節、受二朝賀于樓上一、御座之東置二壽尊一、又于二樓前之東南一置二壽尊一、皆有二盞斝一、尙レ食酌レ酒、以授二殿中監一、上二千萬歲壽一。

【壽帶】112 ジュタイ ❶相術家の語。鼻端の兩傍から頷に至る皺。長命の相。〔神相全編、神異賦〕蘭臺之傍曰二法令一、又名二金樓一、又名二壽帶一。❷鳥の名。又、練鵲・魂旛鳥・旛鳥・拖白練といふ。ははつ鳥に似て尾が長い。〔三才圖會、鳥獸二、練鵲〕禽經、練鵲、云云、俗名二壽帶鳥一、似二山鵲一而小、頭有レ披レ帶。

【壽桃】113 ジュタウ 人の壽齡をのべるといふ傳說上の桃。又、老人の誕生祝ひに贈る桃の形をした菓子をいふ。〔神異經、東荒經〕東方有レ樹、高五十丈、葉長八尺、名曰レ桃、其子徑三尺二寸、和二核羹一食レ之、令二人益レ壽。

【壽堂】114 ジュダウ ❶生存中に設けておく塚穴。壽宮。〔陸機、挽歌詩〕壽堂延二螭魅一、虛無自相賓。〔注〕翰曰、壽堂、祭祀處。〔東坡志林〕古今葬者皆爲二一室一、獨蜀人爲二同墳而異葬一、其閒爲二通道一、高不レ及レ眉、廣不レ能レ容レ人、生者之室、謂二之壽堂一。❷shou^4 t‘ang^2 誕生祝をする禮堂。

【壽道】115 ジュダウ 元、千文傳(**4**−**9165**··124)の字。

【壽道人】116 ジュダウジン 清、萬壽祺(**9**−**31339**··596)の號。

【壽誕】117 shou^4 tan^4 誕生日。

【壽祉】118 ジュシ 長生きして幸ひあること。〔元史、順宗昭獻元聖皇后傳〕九州四海、養未レ足二於孝心一、萬歲千秋、願永膺二於壽祉一。

【壽軸】119 shou^4 chou^2 誕生日の祝ひに贈る掛物。壽屛・壽聯等の總稱。

【壽長】120 ジュチャウ ❶長命。長壽。〔荀子、榮辱〕樂易者常壽長、憂險者常夭折。〔呂覽、重己〕夫死殃殘亡、非二自至一也、惑召レ之也、壽長至、常亦然。〔史記、蔡澤傳〕性命壽長、終二其天年一、而不二夭傷一。〔晉書、天文志上〕長沙一星在二軫中一、主二壽命一、明則主壽長、子孫昌。❷髮の神。〔太平御覽、神鬼部、神上〕龍魚河圖曰、髮神、名壽長。〔事物異名錄、神鬼、髮神〕雲笈七籤、髮神、名元文華、字道衡、又、髮神、名壽長、字祿之。

【壽帳】121 shou^4 chang^4 誕生日の祝ひに贈る幕。赤地の緞子に大きく壽の字を金で刺繡したもの。

【壽張】122 ジュチャウ 縣名。❶後漢、置く。戰國、齊の剛壽邑、漢の壽良縣の地。今、山東省穀城縣の東南。〔後漢書、郡國志三、兗州、東平國〕壽張、春秋

曰レ良、漢曰二壽良一、光武改曰二壽張一。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州〕壽張縣、州西一百二十里、春秋時、齊之良邑、戰國時、謂二之壽邑一、漢置二壽良縣一屬二東郡一、後漢改曰二壽張一屬二東平國一、應劭曰、光武叔父名良、諱レ良曰レ張也。〔清史稿、地理志〕山東、兗州府、縣十、壽張。❷南齊、置く。今、江蘇省淮安縣の地。

【壽冢】123 ジュチョウ　生前に建てて置く墓。壽藏。〔後漢書、宦者、侯覽傳〕豫作二壽冢一、石槨雙闕、高廡百尺。〔注〕生而自爲レ冢爲二壽冢一。〔南史、王僧虔傳〕令三家人豫作二壽冢一。

【壽徵】124 ジュチョウ　長命のしるし。〔詩、魯頌、閟宮〕黃髮台背。〔箋〕黃髮台背、皆壽徵也。

【壽貞】125 ジュテイ　明、曇陽子(5−14172··42)の名。

【壽田】126 ジュデン　字號。❶清、裕德(10−34305··25)の字。❷清、王疇(7−20823··787)の字。

【壽都】127 スツ　北海道後志國の郡名及び地名。

【壽童】128 ジュドウ　明、薛綬(9−32123··74)の本名。

【壽南】129 ジュナン　宋、陳峴(11−41698··224)の字。

【壽寧】130 ジュネイ　❶縣名。明、置く。福建省福安縣の北。〔讀史方輿紀要、建寧府〕壽寧縣、府東北三百五十里、本政和・福安二縣地、明朝景泰六年、析二置今縣一。〔清史稿、地理志〕福建、福寧府、縣五、壽寧。❷元の高僧。上海の人。字は無爲。號は一菴。邑西の靜安寺に居る。寺に名蹟八あり、因りて靜安八詠を爲り、幷びに諸家の作を彙集して靜安八詠詩集を編す。〔四庫提要、一百九十一〕。

〘壽寧寺〙131 ジュネイジ　寺の名。清の聖祖の勅建にかかる。甘珠寺・壽萱寺・壽靈寺ともいふ。黑龍江省呼倫縣の西南、貝爾湖の北。俗に趕集廟と稱し、定期の市集を爲し、南は張家口、西は恰克圖等より集まる。

〘壽寧節〙132 ジュネイセツ　宋代、太宗の定めた十月七日の乾明節をいふ。〔宋史、禮志十五〕太宗以二十月七日一爲二乾明節一、復改爲二壽寧節一。

【壽杯】133 ジュハイ　祝ひのさかづき。祝杯。壽觴。〔宋之問、奉二和春初幸二太平公主南莊一應制詩〕文移二北斗一成二天象一、酒近二南山一作二壽杯一。〔羅鄴、歲仗詩〕春排二北極一迎二仙馭一、日捧二南山一入二壽杯一。

【壽髦】134 ジュバウ　清、傅眉(1−939··107)の字。

【壽伯】135 ジュハク　清、施山(5−13629··40)の字。

【壽板】136 ジュバン　shou^4 pan^3　棺に用ひる木材。

【壽麻】137 ジュビ　國の名。壽靡に同じ。〔山海經、大荒西經〕有二壽麻之國一、南嶽娶二州山女一、名曰二女虔一、女虔生二季格一、季格生二壽麻一、壽麻正立無レ景、疾呼無レ嚮、爰有二大暑一、不レ可二以往一。

【壽靡】138 ジュビ　古、西の果てに在るといふ國名。壽麻に同じ。〔呂覽、任數〕東至二開梧一、南撫二多顯一、西服二壽靡一、北懷二儋耳一。〔注〕西極之國、靡、亦作レ麻。

【壽富】139 ジュフウ　❶長命で富む。富貴長壽。〔詩、魯頌、閟宮〕俾二爾昌而熾一、俾二爾壽而富一。❷清の宗室、寶廷の子。字は伯茀。號は菊客。光緒の進士。官は編修。氣節を尙び、新學を重んず。經を治めるに漢宋に局限せず、天下の大勢を論じ、滿漢の畛域を除去することを先務とす。大學堂分教に充てられ、日本に赴いて學則を調査す。既にして歸るや、黨禁の事起り、門を杜ぢて菊を植ゑて自ら娛しむ。拳匪の亂に難に殉ず。著に讀經劄記・菊客文集がある。〔清史稿、四百七十四〕・〔碑傳集補、三十三〕。

〘壽富多二男子一〙140 ジュフウニシテダンシオホシ　人の幸福は、長命と富と男子が多いことの三つであること。〔莊子、天地〕壽富多二男子一、人之所レ欲也。

【壽福】141 ジュフク　いのち長くしあはせなこと。長命と幸福。〔易林〕振二除災害一、更與二壽福一。

【壽物】142 ジュブツ　shou^4 wu^4　誕生日の贈物。

【壽文】143 ジュブン　shou^4 wen^2　祝壽の賀文。

【壽屛】144 ジュヘイ　shou^4 p'ing^2　誕生日の祝ひに贈る四幅對、又は六幅對の小さい聯。

【壽父】145 ジュホ　元、方樗(5−13620··352)の字。

【壽甫】146 ジュホ　金、張景仁(4−9812··972)の字。

【壽母】147 ジュボ　❶長命な母。〔詩、魯頌、閟宮〕魯侯燕喜、令妻壽母。〔宋史、樂志十三〕既尊二聖父一、亦燕二壽母一。❷他人の母を呼ぶ敬稱。〔書言故事大全、父母類、壽母〕稱二人母一曰二壽母一。

【壽朋】148 ジュホウ　字號。❶宋、喬行簡(2−3990··66)の字。❷宋、孫璹(3−6987··161)の字。

【壽封】149 ジュホウ　清、金輅(11−40152··1163)の字。

【壽峯】150 ジュホウ　字號。❶清、金輅(11−40152··1163)の字。❷清、顧惇量(12−43689··294)の號。

【壽夢】151 ジュボウ　春秋、吳の人。周章十四世の孫。或は孰姑と同一人、名は乘ともいふ。壽夢立ちて、吳は益〻大となり、終に王と稱す。此の時、楚の申公の巫臣が晉に出奔してゐたが、晉のため吳に使して、吳に用兵乘馬を教へた。かくして壽夢に至り始めて中國に通じ、從つて句吳に居る。〔史記、三十一〕。

【壽木】152 ジュボク　樹木の名。❶崑崙山にあり、この木の實を食ふ者は死なないといふ。〔呂覽、本味〕菜之美者、崑崙之蘋、壽木之華。〔注〕壽木、崑崙山上木也、華、實也、食二其實一者不レ死、故曰二壽木一。❷祈淪の國に壽木の林あり、この木の下に往來休息する者は皆死なず病まずといふ。〔拾遺記、前漢上〕天漢二年、渠搜國之西、有二祈淪之國一、其俗淳和、人壽三百歲、有二壽木之林一、一樹千尋、日月爲レ之隱蔽、若經二憩此木下一、皆不レ死不レ病。

【壽毛】153 ジュマウ　清、傅眉(1−939··107)の字。「名。

【壽曼】154 ジュマン　春秋、晉厲公(5−13898··160)の名。

【壽命】155 ジュミャウ　❶いのち。生命。命數。壽算。〔莊子、盜跖〕此四者、云云、皆離レ名輕レ死、不三念レ本養二壽命一者。〔史記、李斯傳〕禱二祠名山諸神一、以延二壽命一。〔淮南子、精神訓〕人之所下以不レ能レ終二其壽命一、而中道夭中於刑戮上者、何也、以二其生生之厚一。〔說苑、談叢〕壽命死者、不レ可レ去也。❷白虎通の篇名。

〘壽命相〙156 ジュミャウサウ　人間四相の一。長壽の相。壽者相(192)を見よ。

〘壽命長〙157 ジュミャウナガシ　いのちが長い。長生きする。〔論衡、命義〕稟二得堅彊之性一、則氣渥厚而體堅彊、堅彊則壽命長、壽命長則不二夭死一。〔樂府詩集、相和歌辭、平調曲、長歌行〕髮白復更黑、延年壽命長。〔杜牧、示二姪阿宜一詩〕祝爾願富貴、仍且壽命長。

〘壽命延長〙158 ジュミャウエンチャウ　いのちのながいこと。長生きすること。〔史記、天官書、南極老人、注〕正義曰、南極、爲レ人主二壽命延長之應一。〔宋史、天竺國傳〕伏願支那皇帝、福慧圓滿、壽命延長。

【壽民】159 ジュミン　❶民の生命を保ちて長いきをさせる。〔管子、輕重己〕教レ民樵レ室鑽レ鐩、墐レ竈泄レ井、所二以壽レ民也。❷長生の人民。長壽の男子。老人の稱。〔海錄碎事、人事、比喩、壽民〕譬レ之若二良醫一、病萬變、藥亦萬變、病變而藥不レ變、向之壽民、今爲二殤子一矣。〔清會典、禮部、儀制清吏司四〕壽民給二予昇平人瑞字樣一、壽婦給二予貞壽之門字樣一。❸字號。㋑清、施文銓(5−13629··182)の字。㋺清、湯綬名(7−17874··180)の字。

【壽明】160 ジュメイ　宋、王居卿(7−20823··1311)の字。

【壽門】161 ジュモン　清、金農(11−40152··912)の字。

【壽紋】162 ジュモン　長いきの手筋。〔神相全編、相二三才一〕若二限上無レ紋、於二壽紋上一取二壽紋一。

【壽陽】163 ジュヤウ　縣名。❶晉、置く。春秋、晉の馬首邑。今、山西平定縣の西。正太鐵路の沿線。〔晉書、地理志上〕樂平郡、統二壽陽縣一。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕壽陽縣、府東一百六十里、春秋時晉之馬首邑、漢爲二楡次縣之東境一、晉置二壽陽縣一屬二樂平郡一、後廢。〔清史稿、地理志〕山西、平定直隸州、縣二、壽陽。❷壽春(80)の❷を見よ。

〘壽陽樂〙164 ジュヤウガク　樂府、西曲歌の名。別れを悲しみ、故鄕を戀ひ慕ふ情を述べたもの。〔樂府詩集、清商曲辭、西曲歌、壽陽樂〕古今樂錄曰、壽陽樂者、宋南平穆王爲二豫州一所レ作也、舊舞十六人、梁八人、按、其歌辭、蓋敍二傷別望歸之思一。

〘壽陽公主〙165 ジュヤウコウシュ　南朝宋、武帝の女。正月七日の人日に、含章殿の簷下に寢ねた時、額上に梅花が散つて五出の花をなしたので、此れより梅花粧の名が生れた。〔金陵志〕宋武帝女壽陽公主、人日臥二於含章殿簷下一、梅花落二於額上一成二五出花一、拂レ之不レ去、號二梅花妝一、宮人皆效レ之。〔牛嶠、紅薔薇詩〕若綴二壽陽公主額一、六宮爭肯學二梅妝一。

【壽老】166 ジュラウ　宋、虞儔(9−32723··117)の字。

〘壽老人〙167 ジュラウジン　七福神の一。延命長壽の神といふ。福祿壽と同體異名の神で、古くは福祿壽あつて、この神無し。其の像は老人にて、白髮を垂れ、杖を携へ團扇を持ち、玄鹿を伴ふ。〔海錄、十三、壽老人〕。

【壽樂】168 ジュラク　長命して樂しむ。長壽の安樂。〔說苑、貴德〕復問二君子之富奈何一、莊辛對曰、親戚愛レ之、衆人喜レ之、不肖者事レ之、皆欲二其壽

樂、而不レ傷二於患一、此君子之富也。〔無量壽經、下〕何不下棄二世事一勤行求中道德上、可下獲レ極二長生一、壽樂無上有レ極。

〔壽樂生〕169 ジュラクセイ 明、潘京南(7－18236··144)「の號。

〔壽樂堂〕170 ジュラクダウ 堂の名。〔蘇軾、越州張中舍壽樂堂詩〕青山偃蹇如二高人一、常時不三肯入二官府一。〔魏了翁、跋下樂子仁爲二洪稚王一作中壽樂堂記上〕王氏四世一家、以二壽樂一名二其堂一。

【壽臘】171 ジュラフ 僧の年齡をいふ。〔白居易、佛光和尚眞贊〕福智壽臘、天下一人。

【壽良】172 ジュリャウ ❶縣名。漢、置き、後漢、壽張縣に改む。故城は山東省東平縣の西南。〔漢書、地理志上〕東郡、縣二十二、壽良。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州〕壽張縣、州西一百二十里、春秋時、齊之良邑、戰國時、謂二之壽邑一、漢置二壽良縣一屬二東郡一、後改曰二壽張一屬二東平郡一。❷晉、成都の人。字は文淑。春秋三傳を治む。官は散騎常侍・大長秋。

【壽隆】173 ジュリュウ ❶宋の時、遼の道宗、耶律洪基の壽昌といふ年號を遼史の誤つたもの。(1095－1101)。壽昌(73)の❹を見よ。❷宋、苟與齡(9－30790··62)の字。

【壽陵】174 ジュリョウ ❶生前に立てて置く陵。長久の義にとつて名づく。壽陵園。〔後漢書、光武紀下〕初作二壽陵一。〔注〕蓋取二久長之義一也。〔魏志、武帝紀〕令曰、古之葬者、必居二瘠薄之地一、其規二西門豹祠一、西原上爲二壽陵一、因レ高爲レ基、不レ封不レ樹、周禮冢人、掌二公墓之地一、凡諸侯居二左右以前一、卿大夫居レ後、漢制、亦謂二之陪陵一、其公卿大臣列將有レ功者、宜レ陪二壽陵一、其廣爲二兆域一、使レ足二相容一。❷地名。㋑周の地名。〔管子、山國軌〕周壽陵而東至二少沙一者、中田也。〔纂詁〕壽陵、周地名。㋺戰國、燕の邑。〔莊子、秋水〕子獨不レ聞三夫壽陵餘子之學二行於邯鄲一與。〔疏〕壽陵、燕之邑。❸陵の名。㋑南齊、太常陳道巨の墓。陳の武帝が追尊して壽陵と名づけた。浙江省長興縣の東の陽烏山。㋺唐の僖宗の母、王大后の陵。陝西省長安縣。

〔壽陵園〕175 ジュリョウエン 生前に立てて置く陵。壽陵(176)に同じ。〔王僧達、和二琅邪王依古一詩〕久沒二離宮地一、安識二壽陵園一。

〔壽陵餘子〕176 ジュリョウヨシ 燕の壽陵の地の未成年者。邯鄲學步(11－39330··12)を見よ。〔莊子、秋水〕子獨不レ聞三夫壽陵餘子之學二行於邯鄲一與、未レ得二國能一、又失二其故行一矣。〔釋文〕司馬云、壽陵、邑名、未レ應二丁夫一、爲二餘子一。

【壽類】177 ジュルイ 長命のなかま。〔莊子、讓王〕不レ能二自勝一、而強不レ從者、此之謂二重傷一、重傷之人無二壽類一。〔疏〕不レ得下與二壽考者一爲中儕類上也。〔呂覽、審爲〕不レ能二自勝一、而強不レ縱者、此之謂二重傷一、重傷之人、無二壽類一矣。〔注〕神傷則夭殞札瘥、故曰レ無二壽類一也。

【壽禮】178 ジュレイ ❶長壽を祝ふ禮。〔晉書、樂志上〕庶尹羣后、奉レ壽升レ朝、我有二壽禮一、式宴二百僚一。❷ shou^4 li^3 誕生祝ひの贈物。

【壽齡】179 ジュレイ 長いいのち。長命。

【壽櫟】180 ジュレキ 久しい年を經たとちの木。とちの老木。世に用のないものであるから、却つて長命を保つてゐるものの喩にいふ。莊子の語に本づく。〔莊子、人間世〕匠石之レ齊、至二於曲轅一、見二櫟社樹一、其大蔽レ牛、絜レ之百圍、云云、散木也、云云、是不材之木也、無レ所レ可レ用、故能若レ是之壽。〔范成大、富順楊商卿使君云云詩〕壽櫟堂前哄一笑、人生聚散眞難レ料。

〔壽櫟生〕181 ジュレキセイ 明、潘京南(7－18236··144)「の號。

【壽鬣】182 ジュレフ 松(6－14516)の異名。〔事物異名錄、樹木、松〕清異錄、壽鬣、是松。

【壽聯】183 ジュレン 誕生日を祝つて贈る對聯。〔示兒編〕黃耕庾夫人三月十三日生、吳叔經作二壽聯一曰、天邊將レ滿一輪月、世上還鍾百歲人。

【壽王】184 ジュワウ ❶唐の玄宗の第十八子。名は瑁。母は武惠妃。玄宗の妃楊太眞は始め壽王の妃であつた。〔舊唐書、一百七〕❷封號。㋑後晉、石重義(8－24024··993)の封號。㋺明、朱祐榰(6－14424··655)の封號。

〔壽王義鼎〕185 ジュワウギテイ 蒙求の標題。漢の武帝の代、寶鼎が發見せられた時、群臣はみな周代の寶鼎を得たといつて之を賀したが、吾丘壽王は獨り之を非とし、漢代に現れた鼎であるから漢の寶鼎で、周の寶鼎ではないと論じて、武帝の賞賜を得た故事。〔漢書、吾丘壽王傳〕及三汾陰得二寶鼎一、武帝嘉レ之、薦二見宗廟一、臧二於甘泉宮一、羣臣皆上レ壽賀曰、陛下得二周鼎一、壽王獨曰、非二周鼎一、上聞レ之、召而問レ之曰、今朕得二周鼎一、羣臣皆以爲レ然、壽王獨以爲レ非、何也、有レ說則可、無レ說則死、壽王對曰、臣安敢無レ說、臣聞周德始二乎后稷一、長二於公劉一、大二於太王一、成二於文武一、顯二於周公一、德澤上昭、天下漏泉、無レ所レ不レ通、上天報應、鼎爲レ周出、故名曰二周鼎一、今漢自二高祖一繼レ周、亦昭レ德顯レ行、布レ恩施レ惠、六合和同、至二於陛下一、恢二廓祖業一、功德愈盛、天瑞竝至、珍祥畢見、昔秦始皇親出二鼎於彭城一、而不レ能レ得、天祚二有德一、而寶鼎自出、此天之所二以與レ漢、迺漢寶、非二周寶一也、上曰、善、羣臣皆稱二萬歲一、是日賜二壽王黃金十斤一。

【爲レ壽】186 ジュヲナス 杯を尊者に獻じて彊りなき長壽を祈ること。上レ壽に同じ。〔史記、項羽紀〕沛公奉二巵酒一爲レ壽。〔漢書、高帝紀上〕莊入爲レ壽。〔注〕師古曰、凡言レ爲レ壽、謂下進二爵於尊者一、而獻中無彊之壽上。〔韓愈、送二石處士一序〕爲二先生壽一。

【上レ壽】187 ジュヲタテマツル 杯を尊者に進めて長壽を祝ふこと。稱レ壽。爲レ壽。〔史記、封禪書〕羣臣更上レ壽。〔漢書、昭帝紀〕公卿上レ壽。〔事物紀原、朝廷注措部、上壽〕通典曰、禮有二獻醻一、無レ上レ壽、云云、漢興、叔孫通定レ儀、七年長樂宮成、諸侯朝禮畢、置二酒殿上一、尊卑次起上レ壽、其事本起二於此一。

【稱レ壽】188 ジュヲショウス 人の長壽を祝ふ。上レ壽に同じ。〔吳質、答二魏太子一牋〕賦レ詩稱レ壽。〔注〕善曰、史記曰、武安君起爲レ壽、如淳曰、上レ酒爲レ稱レ壽也。

【養レ壽】189 ジュヲヤシナフ 壽命を養つて長生する。〔史記、老子傳〕蓋老子百六十餘歲、或言二百餘歲、以二其修レ道而養レ壽也。〔晉書、嵇康傳〕永嘯長吟、頤レ神養レ壽。

【壽彝堂】190 ジュイダウ 清、張應昌(4－9812··835)の室「名。

【壽愷堂】191 ジュガイダウ 字號。❶明、胡濙(9－29400··19)の室名。❷清、周家楣(2－3441··563)の室名。

【壽者相】192 ジュシャサウ 知境四相の一。長命圓滿の人の相貌。壽命相。轉じて、老人の容貌。〔圓覺略疏、下に見ゆ。〔金剛經〕無二我相一、無二人相一、無二衆生相一、無二壽者相一。

【壽松堂】193 ジュショウダウ 室名。❶清、孫宗濂(3－6987··475)の室名。❷清、陳來泰(11－41698··1290)の室名。

【壽成室】194 ジュセイシツ 宮殿の名。未央宮をいふ。〔漢書、王莽傳中〕未央宮曰二壽成室一。〔三輔黃圖、二、漢宮〕未央宮、又有二壽成・萬歲・廣明・椒房・清涼・宣德・東明・鳳皇・白虎等殿一。

【壽寂之】195 ジュセキシ 南朝宋、吳興の人。前廢帝を弑す。泰始の初、羽林監となり、南泰山太守に遷り、多く貨賄を納れて越州に徙送せられる途中、逃叛を謀つて殺された。〔宋書、九十四〕

【壽亭侯】196 ジュテイコウ 三國、蜀の關羽をいふ。漢壽亭侯(7－18153··124)を見よ。

【壽庭木】197 ジュテイボク 樹木の名。ありどほしの樹。〔羣芳譜〕虎刺、一名壽庭木。

【壽鼎齋】198 ジュテイサイ 清、齊學裘(12－48560··282)「の號。

【壽鈴鐺】199 shou^4 ling^2 tang 小兒の帽子につける小さい鈴。

【壽則多レ辱】200 イノチナガケレバスナハチハヂオホシ 長命なれば恥をうけることが多い。〔莊子、天地〕堯曰、多二男子一則多レ懼、富則多レ事、壽則多レ辱、是三者非三所二以養一レ德也。

【壽倒二三松一】201 ジュサンショウヲタフス 極めて長壽の喩。〔海錄碎事、聖賢人事、上壽〕女仙上元夫人降二封陟一、陟不レ顧、夫人曰、我能令三君壽倒二三松一、傳奇。

【壽頭壽腦】202 shou^4 t'ou^2 shou^4 nao^3 言語擧動に田舍風を露はす。田舍者めく。

【壽農老人】203 ジュノウラウジン 宋、欽德載(6－16104··151)「の號。

【壽比二南山一】204 ジュナンザンニヒス 長命を祝ぐこと。南山之壽(2－2750··326)を見よ。〔南史、齊高帝諸子上、豫章文獻王嶷傳〕嶷謂レ上曰、古來言、願三陛下壽比二南山一、或稱二萬歲一、此殆近二貌言一、如二臣所レ懷、實願二陛下極レ壽百年一亦足矣。

【壽親養老新書】205 ジュシンヤウラウシンショ 書名。四卷。前一卷は宋の陳直撰で、養老奉親書といふ。後三卷は元の鄒鉉の續撰。併せて壽親養老新書といひ、養老の法を始めとし、起居、服食について詳しく說く。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【壾】5674 バウ マウ 〔集韻〕母朗切 ［養］

人名。〔廣韻〕壾、吳王孫休子名、見㆓吳志㆒。

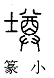
【⿱士⿰彡电】5675 ア 蛙（**10－32997**）に同じ。〔字彙補〕⿱士⿰彡电、與㆑蛙同。

【⿱士⿴囗亞】5676 コン 壼（**3－5667**）に同じ。〔字彙〕⿱士⿴囗亞、同㆑壼。

【⿱士⿱吅⿰土土】5677 コ 壺（**3－5662**）に同じ。〔字彙補〕⿱士⿱吅⿰土土、與㆑壺同。

十二畫

【壿】5678 ［一］シユン 〔集韻〕七倫切 ［眞］ ［二］ソン ゾン 〔集韻〕祖本切 ［阮］


小篆

［一］［二］㊀**まふ**。舞ふさま。〔說文〕壿、士舞也、从㆑士尊聲、詩曰、壿壿舞㆑我。㊁壿壿は、よろこぶ。〔爾雅、釋訓〕坎坎・壿壿、喜也。㊂或は蹲（**10－37874**）に作る。〔集韻〕壿、或从㆑足。〔詩、小雅、伐木〕蹲蹲舞㆑我。〔釋文〕蹲、七旬反、本或作㆑壿。

［參考］ 土部十二畫の墫（**3－5472**）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕墫、與㆑樽同、酒器、从㆑土。壿、與㆑蹲同、舞貌、从㆑士。

十三畫

【⿱吉⿱冖至】5679 ダイ 臺（**9－30161**）に同じ。〔字彙補〕⿱吉⿱冖至、同㆑臺。

【⿱士⿵冂吉】5680 イツ 壹（**3－5661**）の古字。〔字彙補〕⿱士⿵冂吉、古文壹字。

【⿱士⿱冖⿱亞一】5681 イツ 壹（**3－5661**）の古字。〔字彙補〕⿱士⿱冖⿱亞一、古文壹字。

十四畫

【⿱士兢】5682 セン 義未詳。〔五音篇海〕⿱士兢、音占。

十五畫

【⿱士⿱冖睘】5683 クワン 寰（**3－7344**）の譌字。〔正字通〕寰、僞作㆑⿱士⿱冖睘。

【⿱士⿱冖器】5684 アウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱士⿱冖器、於旁切。

十六畫

【⿱士⿺乚⿱冖亞】5685 イツ 壹（**3－5661**）の古字。〔字彙補〕⿱士⿺乚⿱冖亞、古文壹字。

【⿱士⿵門豆】5686 イツ 壹（**3－5661**）に同じ。〔字彙補〕⿱士⿵門豆、與㆑壹同。

【⿱士⿴囗亞】5687 ウン・コ・イン 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱士⿴囗亞、於君切、又音壺、又音因、又音惲。

十七畫

【⿱士⿴匚⿱亞一】5688 イツ 壹（**3－5661**）の古字。〔字彙補〕⿱士⿴匚⿱亞一、古文壹字。

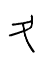
十九畫

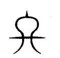
【⿰壽朋】5689 チウ 儔（**1－1224**）に同じ。〔字學指南〕⿰壽朋、與㆑儔同。

【⿰壽周】5690 チウ 義未詳。〔篇海類編〕⿰壽周、音紬。

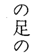
夂部

【夂】5691 ［一］チ 〔集韻〕展几切 ［紙］ ㄓˇ chih^{3} ［二］シユウ シユ 〔集韻〕之戎切 ［東］


［一］小篆

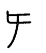

［二］古文

［一］**おくれる**。ついて行く。〔說文〕夂、從㆑後至也、象㆔人兩脛、後有㆓致㆑之者㆒、讀若㆑黹。［二］終（**8－27372**）の古字。〔說文〕終、云云、 、古文終。〔集韻〕終、說文、絿絲也、一曰、盡也、隷作㆑夂。

［解字］ 指事。ヨと乀との合字。本義は後から兩足を押して徐ろに送り行かせる意。故にヨは人の兩方の脛に象り、乀を以て後から送り行かせる意を示す。一說、終の古字で象形。本義は絲を束ねくくつて仕上げる意。故に絲を一束にたばねた形に象つて、其の意を表はす。横の一畫は之を束ねた形。〔說文、夂、從㆑後至也、象㆔人兩脛後有㆓致㆑之者㆒〕〔段注〕從㆑後至也、至當㆑作㆑致、致、送詣也。〔說文通訓定聲〕終、絿絲也、从㆑糸冬聲、古文象㆓絲一束之形㆒、與㆑牢同形、牢象㆑檻、一以閑㆑之、終象㆑絲、一以束㆑之。▽（甲骨文）象形。下向きの足の形に象り、くだる意を表はす。

［參考］ 夊（**3－5708**）は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕夂、音撥、从㆑後至也。夊、音衰、行遲貌。

【㐄】5692 ［一］クワ ケ 〔集韻〕苦瓦切 ［馬］ ［二］クワ ケ 〔集韻〕枯化切 ［禡］

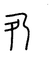

小篆

［一］［二］**大またに歩む**。**又、またぐ**。〔說文〕㐄、跨步也、从㆓反夂㆒。〔集韻〕㐄、擧㆑足越、一曰、一步也。〔六書精蘊〕㐄、闊步也。

［解字］ 指事。本義は大またに歩む意。故に夂（後から押して徐ろに行かせる意）の反對の形を以て其の意を表はす。〔說文、㐄、跨步也、从㆓反夂㆒〕〔段注〕跨、當㆑作㆑夸、夸步、謂㆔大張㆓其兩股㆒也。

一畫

【夃】5693 ［一］コ ク 〔集韻〕攻乎切 ［虞］ ［二］コ ク 〔集韻〕果五切 ［麌］ ［三］エイ


小篆

［一］［二］㊀**まうける**。益す。〔說文〕夃、秦人市買多得爲㆑夃、从㆑乃从㆑夂、益至也、詩曰、我夃酌㆓彼金罍㆒。㊁**うる**。沽（**6－17258**）に通ず。〔玉篇〕夃、論語、求㆓善賈㆒而夃㆑諸、今作㆑沽。㊂**しばらく**。姑（**3－6174**）に通ず。〔說文〕夃、詩曰、

我夃酌二彼金罍一。〔詩、周南、卷耳〕我姑酌二彼金罍一。㈢嬴(10－36950)に通ず。〔五音集韻〕夃、與レ嬴同。

解字 會意。乃（言ひかねて言葉を長くひく詞）と夂（後から押して徐ろに行かせる意）との合字。本義は商人が徐ろに而も益〻まうける意。故に乃と夂とを合せて其の意を表はす。一説に、乃（留りなやむ意）と夊（足を曳いてゆるやかに行く意）との合字。本義はしばらく・かりそめにの意。故に乃と夊とを合せて其の意を表はすのである。但し、後説は次の夊部に屬せしめてゐるもののやうである。〔說文、夃、段注〕乃夂者、徐徐而益至也。〔說文通訓定聲〕夃、按、此字當レ訓二姑且之詞一、从レ乃从レ夊、皆舒遲留難之意。

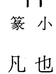
【夃老】1 コラウ 私倡。淫賣婦。〔名義考〕俗謂二私倡一曰二夃老一、夃老、猶レ言二客人一。

二畫

【斉】5694 セイ 齊(12－48560)に同じ。〔字彙補〕斉、同レ齊。

三畫

【夅】5695 カウ 降(11－41620)の古字。〔玉篇〕夅、古文降。〔說文〕夅、服也、从二夂午一、相承不二敢竝一也。〔段注〕凡降服字、當レ作レ此、降行而夅廢矣。


小篆

解字 會意。夂（後から押して、こきざみに行かせる意）と午（夂の反對の形で、おほまたに歩く意）との合字。本義は降服すること。故に夂と午とを合せて、前者の歩行を承けて、敢て並び行かぬ意を表はす。〔說文、夅、段注〕上从レ夂、下从二反夂一、相承不二敢竝一、夅服之意也。

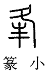
參考 ❶夅の本義は降服、降の本義は高所から低所にくだる意。今、降服の意味にも降を用ひて夅を用ひない。〔說文、夅、段注〕凡降服字、當レ作レ此、降行而夅廢矣。❷夆(3－5698)・夆(3－5699)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕夅、古降字。夆、音逢、啎也。夆、音害、相二遮要害一也。

【〓】5696 ガク 學(3－7033)に同じ。〔篇海〕〓、同レ學。

四畫

【夆】5697 ホウ 夆(3－5698)に同じ。〔篇海類編〕夆、同レ夆。

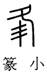
【夆】5698 ㈠ホウ ブ 〔集韻〕符容切 冬 ㈡ハウ バウ 〔字彙〕薄江切 江


小篆

㈠❶さからふ。〔說文〕夆、啎也、从レ夂丰聲、讀若レ縫。❷ひく。〓(4－10117)に通ず。〔爾雅、釋訓〕甹夆、掣曳也。〔義疏〕蓋儔夆之省。❸あふ。逢(11－38901)に通ず。〔正字通〕夆、與レ逢通、遇也。❹或は蜂(10－33088)に作る。〔說文長箋〕詩莫二余甹夆一、石經改作二荓蜂一。❺縫(11－40811)・峯(4－8093)に通ず。〔說文、段注〕夆、古亦借爲二縫・峯字一。㈡❶あつい。〔康熙字典〕夆、厚也。❷姓。〔字彙〕夆、姓也。

參考 夅(3－5695)・夆(3－5699)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕夅、古降字。夆、音逢、啎也。夆、音害、相二遮要害一也。

【夆】5699 ㈠カイ ガイ 〔集韻〕下蓋切 泰 ㈡ケツ ケチ 〔集韻〕吉列切 屑


小篆

㈠㈡さへぎる。〔說文〕夆、相二遮要害一也、从レ夂丰聲、南陽新野有二夆亭一。

參考 夅(3－5695)・夆(3－5698)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕夅、古降字。夆、音逢、啎也。夆、音害、相二遮要害一也。

【夆】5700 ラウ 牢(7－19934)に同じ。〔字彙補〕夆、同レ牢。

【麦】5700′ バク 麥(12－47717)の略字。

六畫

【〓】5701 リユウ リユ 〔集韻〕良中切 東 ❶多〓は天に禮すること。〔廣韻〕〓、多〓、禮レ天。❷多い。〔集韻〕〓、多也。

【条】5702 サイ 齋(12－48565)に同じ。〔字彙補〕条、同レ齋。

【変】5703 ヘン 變(10－36117)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕變、通俗小説作レ変。

七畫

【〓】5704 カク 覺(10－34973)に同じ。〔字彙補〕〓、同レ覺。

八畫

【〓】5705 クワウ 黃(12－47926)の古字。〔集韻〕黃、古作レ〓。

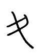
【〓】5706 クツ 屈(4－7669)の古字。〔集韻〕屈、古作レ〓。

十畫

【〓】5707 シ 徙(4－10142)の古字。〔集韻〕徙、古作レ〓。

夊部

【夊】5708 ㈠スイ 〔集韻〕山垂切 支 ㄙㄨㄟ suei1 ㈡スイ 〔集韻〕初危切 支


小篆

㈠㈡❶ゆく。遲く行く。〔說文〕夊、行遲曳夊夊也、象二人兩脛有レ所レ躧也。❷安らかに行く。〔六書精蘊〕夊、安行也。❸綏(8－27501)に通ず。〔玉篇〕夊、詩、雄狐夊夊。〔詩、齊風、南山〕雄狐綏綏。

名乘 ユキ。

解字 指事。クと乀との合字。本義はすり足でしづかに行くこと。故にクは人の兩方の脛に象り、乀を以て、足を地に着けて曳き、疾行することの出來ない意を示す。〔說文、夊、段注〕行遲者如レ有レ所二拕曳一然、故象レ之。

▽ （甲骨文）

象形。下向きの足の形に象り、急坂を緩かに行く意を表はす。

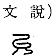
三畫

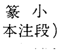
【𡕒】5709　ボク　㚅(4−7662)の古字。〔集韻〕㚅、古作㆑𡕒。

【麦】5710　エウ　夭(3−5838)に同じ。〔字彙補〕麦、與㆑夭同。〔漢司隷校尉楊君頌〕稼苗麦殘。

四畫

【夋】5711　㊀シュン〔集韻〕七倫切　眞　㊁シュン〔康熙字典〕子峻切　震


小篆（說文）


小篆（段注本）

㊀❶そろそろ行くさま。〔說文〕夋、行夋夋也、从㆑夊允聲。❷おごりゐる。〔說文〕夋、一曰、倨也。❸うづくまる。蹲(10−37874)に通ず。〔說文通訓定聲〕夋、段借爲㆑蹲、說文、一曰、倨也、按、倨、當㆑作㆑踞。㊁帝嚳の名。〔通鑑前編、首卷〕帝嚳高辛氏、名夋、姓姬。

【𡕕】5712　ホク　ボク〔字彙〕蒲卜切　屋　行くさま。〔字彙〕𡕕、𡕕𡕕、行貌。

【𡕖】5713　ホク　ボク〔廣韻〕蒲木切　屋

小篆（段注本）

行くさま。〔說文〕𡕖、行𡕖𡕖也、从㆑夊、闕、讀若㆑僕。〔段注〕各本篆作㆑㚅、今依㆓廣韻㆒作㆑𡕖、與㆓小徐注㆒合。〔廣韻〕𡕖、行皃。

參考　說文はもと㚅に作る。段注は廣韻に從つて𡕖に改む。今、姑く兩字を併存することとした。㚅(4−7662)を併せ見よ。

五畫

【夌】5714　リョウ〔集韻〕閭承切　蒸

小篆

❶しのぐ。高い地。淩(7−17670)・凌(2−1669)・陵(11−41704)に通ず。〔說文〕夌、越也、从㆓夊宍㆒、宍、高大也。〔段注〕凡夌越字、當㆑作㆑此、今字或作㆑淩、或作㆑凌、而夌廢矣、云云、廣韻陵下云、犯也、侮也、侵也、皆夌義之引伸、今字概作㆑陵矣。❷すたれる。〔說文〕夌、一曰、夌徲也。

名乘　ヲカ。

解字　會意。宍(高大の意。一說に、坴の省形で、大きい土の塊がごろごろしてゐるさまであるといふ。坴は陸の本字)と夊(越え行く意に用ひる)との合字。本義はこえる・しのぐ。故に宍と夊とを合せて其意を表はす。今、淩・凌・陵に作る。〔說文、夌、段注〕从㆓夊宍㆒、越之義也、宍、高大也、說㆓从㆑宍之意㆒。〔說文通訓定聲〕夌、越也、从㆑夊从㆑宍、宍、高也、會意、按、从㆑宍、猶㆓从㆑陸也。

【㚆】5715　㊀ベン　メン〔集韻〕美忝切　琰　㊁バン　マン〔集韻〕亡范切　豏　㊂バン　マン〔集韻〕莫坎切　感

小篆

㊀㊁❶あたまの鉢。〔說文〕㚆、𡿺蓋也、象㆔皮包㆓覆𡿺㆒、下有㆓兩臂㆒、而夊在㆑下、讀若㆑范。❷俗に𡖁(3−5725)に作る。❸誤つて㚇(3−5718)に作る。〔廣韻〕㚆、俗作㆑𡖁。〔說文、㚆、段注〕㚆、或誤作㆑㚇。㊂首飾り。〔集韻〕㚆、首飾。

解字　會意。不(皮が腦を包み覆ふ形に象る)と人(兩臂の形に象る)と夊(兩足の義に用ひる)との合字。本義は人間のあたまのはち。故に兩臂(人)と兩足(夊)との上に不を冠して、其の意を表はす。〔說文、㚆、段注〕𡿺蓋者、人囟也、象㆔皮包㆓覆𡿺㆒謂㆑不、下有㆓兩臂㆒(謂㆑人)、而夊在㆑下、(人足也)。

六畫

【𡕗】5716　チャウ　長(11−41100)の古字。〔字彙補〕𡕗、古文長字。

【𡕜】5717　フク　ブク〔集韻〕房六切　屋

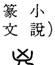
小篆

かへる。もとの道を行く。复(3−5724)に同じ。〔正字通〕复、本作㆑𡕜。〔說文〕𡕜、行㆓故道㆒也、从㆑夊畗省聲。〔段注〕彳部又有㆑復、復行而𡕜廢矣、疑彳部之復、乃後增也。

參考　夏(3−5720)は別字。

【㚇】5718　㊀ソウ　ス〔集韻〕祖叢切　東　㊁ソウ　ス〔集韻〕作弄切　送　㊂バン　マン〔後漢書注〕無犯切　豏

小篆（說文）


小篆（段注本）

㊀㊁❶足をちぢめる。鳥が飛ぶ時に足を縮める。〔說文〕㚇、斂㆑足也、誰鵙醜、其飛也㚇、从㆑夊兇聲。〔段注〕二句見㆓釋鳥㆒、今爾雅作㆑翪、許所㆑據異也。❷あつめる。總(8−27844)に通ず。〔說文通訓定聲〕㚇、段借爲㆑總。〔廣雅、釋詁三〕㚇、聚也。❸或は翪(9−28764)・鶪(12−47120)に作る。〔集韻〕㚇、或从㆑羽、从㆑鳥。㊂馬の頭の飾り。㚆(3−5715)に通ず。〔後漢書、馬融傳〕揚㆓金㚇㆒而拖㆓玉瓖㆒。〔注〕㚇、無犯反、馬冠也。

七畫

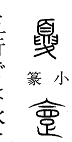
【夎】5719　㊀サ〔集韻〕祖臥切　箇　㊁サ　シャ〔集韻〕側駕切　禡　㊂サイ　スイ〔集韻〕祖對切　隊

小篆

㊀㊁㊂❶容儀に合はない禮拜。粗末な拜禮。跪いて膝が地につかぬ拜。〔說文新附〕夎、拜失㆑容也、从㆑夊坐聲。〔玉篇〕夎、拜失㆑容也。〔正字通〕夎、跪不㆑至㆑地。❷衣服がこはばる。〔古今附錄〕今人衣服張起曰㆑夎。❸いつはる。蓌(9−31653)に同じ。〔集韻〕蓌、詐拜也、或省。〔禮、曲禮上、爲㆓其拜而蓌㆑拜、注〕蓌、猶㆑詐也。

【夏】5720　㊀カ　ゲ〔集韻〕亥駕切　禡　ㄒㄧㄚˋ　hsia⁴　㊁カ　ゲ〔集韻〕亥雅切　馬

(5720)



小篆　古文（段注本）

㊀**なつ**。四時の第二季。易では離に配し、五行では火に當り、方位は南方に位する。其の色は赤。〔說文通訓定聲〕夏、按、此字本誼當レ訓レ大也、萬物寬假之時也、从二頁臼夊一、象二人當レ暑燕居手足表露之形一。于二六書一爲二指事一、春夏秋冬四時、並本字本誼。〔爾雅、釋天〕夏、爲二昊天一。〔釋名、釋天〕夏、假也、寬二假萬物一使二生長一也。〔易、豫、四時不レ忒、虞注〕離爲レ夏。〔周禮、春官、巾車〕孤乘二夏篆一。〔注〕鄭司農云、夏、赤也。〔呂覽、孟春〕孟春行二夏令一。〔注〕火爲レ夏。〔太玄經、玄數〕二七爲レ火、爲二南方一爲レ夏。❷**藥草の名**。**半夏**。〔禮、月令〕半夏生。〔注〕半夏、藥草名。❸［佛］**げ**。僧侶の夏九十日間の坐禪修行。安居。〔荊楚歲時記〕四月十五日、天下僧尼、就二禪刹一掛搭、謂二之結夏一。㊁❶**中國の人**。夓(**3－5744**)に同じ。〔正字通〕夏、說文篆作レ夓。〔說文〕夓、中國之人也、从レ夊从レ頁从レ臼、臼、兩手、夊、兩足也。❷**中國**。〔書、舜典〕蠻夷滑レ夏。〔傳〕夏、華夏也。〔漢書、地理志下〕此之謂二夏聲一、夫能夏則大、大之至也、其周舊乎。〔注〕師古曰、夏、中國。❸**大きい**。嘏(**2－4190**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夏、叚借爲レ嘏。〔方言、一〕凡物之壯大而愛二偉之一、謂二之夏一、又凡物之壯大、謂二之嘏一、或謂二之夏一。❹**大きな建てもの**。庌(**4－9246**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夏、叚借爲レ庌。〔楚辭、九章、哀郢〕曾不レ知二夏之爲一レ邱兮。〔注〕夏、大殿也。〔淮南子、本經訓〕至二夏屋宮駕一。〔注〕夏屋、大屋也。〔孔子家語、終記解〕吾見下封若二夏屋一者上。〔注〕夏屋、今之殿形、中高而四方下也。❺**あや**。いろどり。五采。華(**9－31214**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夏、叚借爲レ華。〔書、禹貢〕羽畎夏翟。〔蔡傳〕夏翟、雉具二五色一。〔周禮、天官、染人〕秋染レ夏。〔注〕染二五色一。〔周禮、春官、巾車〕孤乘二夏篆一。〔注〕夏篆、五采畫二轂約一也。❻**かす**。假(**1－835**)に通ず。〔書、多方〕須二夏之子孫一。〔鄭注〕夏之言、假也。〔今古文注疏〕假、與レ夏通、大傳云、夏者、假也、釋名云、寬二假萬物一使二生長一也。❼**いとま**。暇(**5－14036**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夏、叚借爲レ暇、云云、漢靈臺碑、日稷不レ夏。❽**朝代の名**。禹の建てた朝。安邑に都す。故城は今の山西省夏縣の北。黃河・長江の兩流域及び遼寧省にわたる地を領有し、十七主四百四十年にして商に滅された。（B.C.1766）〔史記、夏紀〕禹於レ是遂即二天子位一、南面朝二天下一、國號曰二夏后一。❾**國號**。㋑禹の國號。禹の始めて封ぜられた地は今の河南省禹縣。〔史記、夏紀〕夏禹。〔注〕正義曰、夏者、帝禹封國號也。㋺東晉の時、後秦の將、赫連勃勃が朔方に據って建てた國。三世二十六年で滅びた(431)。紀元編に依れば赫連勃勃は一八年、昌は三年、定は四年であるから三世併せて二五年となるが、晉書赫連勃勃傳には、勃勃は義熙二年天王と稱し、定に至る凡そ二十六載にして亡ぶとある。紀元編は義熙三年を以て勃勃の即位の年とする。大夏(**3－5831・・180**)の❺の㋺を見よ。〔晉書、安帝紀〕義熙三年六月、姚興將、赫連勃勃僭二稱天王於朔方一、國號レ夏。㋩宋初、趙元昊が西域に據って建てた國。西夏(**10－34763・66**)を見よ。〔遼史、西夏紀〕西夏、本魏拓跋氏後、其地則赫連國也、遠祖思恭、唐季受二賜姓一曰レ李、涉二五代一至二宋世一有二其地一、至二李繼遷一始大、據二夏・銀・綏・宥・靜五州一。㋥唐末、竇建德が大業十三年に樂壽縣によって建てた國。僭稱すること四年。唐の武德四年に滅亡した。〔唐書、竇建德傳〕十三年正月、云云、自立爲二長樂王一、十四年五月、更號二夏王一。㋭元末、明玉珍が重慶に建てた國。

【夏】（元末明初）二主十年

(一)太祖、明玉珍 五 ― (二)明昇 五

明の太祖の洪武四年に滅亡す。(1371)

〔明史、二、太祖本紀、仝一・二・三、明玉珍傳〕。

〔天歐記〕明玉珍乃以二元順帝二十二年春三月戊辰一、即二位於重慶一、國號二大夏一。❿**川の名**。夏水の略。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕涉レ夏踰レ漢政成二期月一。〔注〕善曰、夏、水名也。⓫**禹の作った樂の名**。大夏(**3－5831・・180**)の❶の略。〔周禮、春官、大司樂〕大夏。〔注〕大夏、禹樂也。〔禮、樂記〕夏、大也。〔注〕夏、禹樂名也。⓬**木の名**。こひさぎ。鞭を作る木。檟(**6－15680**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夏、叚借爲レ檟。〔禮、學記〕夏楚二物。〔注〕夏、稻也。〔劉峻、廣絕交論〕王丹威レ子以二檟楚一。〔注〕善曰、夏與レ檟、古今字也。⓭古は⿱壴疋(**3－5669**)・⿱亼是・是(**5－13862**)・憂(**3－5738**)に作る。〔康熙字典〕夏、古文⿱壴疋・⿱亼是・是・憂。⓮**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕夏氏、亦曰二夏后氏一、姒姓、顓帝之後也、又陳宣公之子少西、字子夏、其孫徵舒、以二王父字一爲レ氏、是爲二陳夏氏一也。

【夏】

【夏】	通說 ㋑歷代帝王年表（齊召南）	通說 ㋺今本竹書紀年	通說 ㋩古本竹書紀年	備考 ㋑帝王世紀、漢書律歷志	備考 ㋺易緯稽覽圖
(一)禹	八	八	四五		
(二)啓	九	一六^{3}	三九		
(三)太康 (四)仲康	二九	四^{4}		一三	七^{2}
(五)相	二八	二八^{2}			
（澆の簒位）	四〇	四〇			
(六)少康	二一	二一			
(七)杼	一七	一七^{2}			
(八)槐（芬）	二六	四四^{2}	四四		
(九)芒	一八	五八	五八		
(十)泄	一六	二五^{1}	二一		
(十一)不降 (十二)扃	五九	五九^{3}	六九	二一	一八
(十四)孔甲 (十三)廑	三一	九^{2}		二一	八^{3}
(十五)皐（昊）	一一	三^{2}	三		
(十六)發	一九	七^{2}			
(十七)癸（桀）	五三	三一			
計	四四〇年	四三一年	四七一年	四三二年	四三一年

［參考］㋑漢數字は在位年數。㋺算用數字は先帝の崩後より新帝即位までの年數。

［解字］ 會意。頁（頭首の象形）と臼（左右の手の向ひ合ふ形で、手を組んで禮を行ふさま）と夊（兩足をすり曳いて徐ろに行き、禮容を失はぬ意）との合字。本義は中國の人・みやこの人。中國人は禮容威儀があつて立派である故に、頁と臼と夊とを合せて其の意を表はし、引伸して大・美の意に用ひる。手を拱いて揖禮を行ふと、行くに足が地を離れず、すり足するは君子の禮である。故に臼・夊を以て會意す。一說に、指事。

本義は大、萬物がゆつたりとのびそだつ時季、即ちなつの意。故に頁（頭首）に从ひ、臼と夊とを以て、人が酷暑の時に、手足を投げ出してくつろぐ形を示し、以てなつの意を表はす。〔說文〕夏、中國之人也、从レ夊从レ頁从レ臼、臼、兩手、夊、兩足也、〔段注〕以別二於北方狄、東北貉、南方蠻閩、西方羌、西南焦僥、東方夷一也、夏引伸之義爲レ大也。〔說文通訓定聲〕夏、按、此字本誼當レ訓レ大也、萬物寬假之時也、从二頁臼夊一、象二人當レ暑燕居、手足表露之形一、于二六書一爲二指事一、春夏秋冬四時、並本字本誼。

參考　夏(**3-5717**)は別字。

【夏娃】1 エバ　猶太神話で人類の始祖。アダムの妻。イーブ。Eve

【夏安】2 hsia^4 an^1　夏日往復の書翰文に用ひる結尾の套句。暑中の御安泰。

【夏衣】3 カイ　なつごろも。夏きる衣服。〔南齊書、武帝紀〕我識滅之後、身上著二夏衣一。〔韋應物、遊二開元精舍一詩〕夏衣始輕レ體、遊步愛二僧居一。

【夏肄】4 カイ　春秋、杞の異名。杞は夏の後であるからいふ。肄は餘で、夏の餘蘖の義。〔左氏、襄、二十九〕晉國不レ恤二周宗之闕一、而夏肄是屛。〔注〕夏肄、杞也、肄、餘也。

【夏維】5 カヰ　清、高淳の人。字は四只。諸生。詩畫に巧。著に湖上集・北窓瑣言がある。〔國朝畫識、八〕。

【夏育】6 カイク　古の衞の勇士。〔史記、范雎傳〕成荊・孟賁・王慶忌・夏育之勇焉而死。〔注〕集解曰、漢書音義曰、或云、夏育、衞人、力擧二千鈞一。〔論衡、語增〕是孟賁・夏育之匹也。

【夏熤】7 カイク　明、江寧の人。字は允中。太祖に召されて中書省博士となる。洪武の初、浙東の諸府を統制し、伺察搏擊を事とす。〔明史、一百三十五〕・〔萬斯同明史、一百七十六〕・〔明史稿、一百二十七〕。

【夏邑】8 カイフ　❶夏の國の村里。〔書、湯誓〕夏王率遏二衆力一、率割二夏邑一。〔傳〕相率割二剝夏之邑居一。❷縣名。明、置く、戰國の楚の下邑の地。今、河南省商丘縣の東南に在り、隴秦豫海鐵道の沿線。〔明一統志〕夏邑縣、在二州東一百二十里一、戰國時下邑地、秦屬二碭郡一、漢置二下邑縣一、云云、今始改二夏邑縣一屬二永州一。〔清史稿、地理志〕河南、歸德府、縣八、夏邑。

【夏引】9 ナツビキ　春蠶が夏にあがつたのを絲に繰り引くこと。又、其の絲。別に又、夏麻を引くこと。〔古今集、戀四〕夏びきのてびきのいとをくりかへし事しげくともたえむと思ふな。〔催馬樂、夏引〕なつびきの白絲、云云、さ衣に織りても著せん。

【夏殷】10 カイン　三代の夏の國と殷の國。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕范蠡對曰、唐虞卜レ地、夏殷封レ國、古公營レ城。

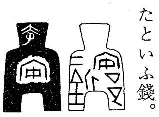
【夏寅】11 カイン　明、松江華亭の人。字は正夫。正統の進士。官は山東右布政。著に政監がある。〔明史、一百六十二〕・〔萬斯同明史、二百三十六〕・〔明史稿、一百五十一〕。

【夏駰】12 カイン　清、烏程の人。字は春茵。號は宛來。著に爛溪集・交山平寇本末がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十六〕。

【夏雨】13 カウ　なつのあめ。〔宋書、沈慶之傳〕時夏雨、不レ得レ攻レ城。〔梁簡文帝、馬寶頌序〕含生欣欣、若三耘耰之逢二夏雨一。

【夏雨雨レ人】14 カウヒトニフラス　夏、雨を降らして人に涼を與へる。時に及んで民を惠むこと。〔說苑、貴德〕吾不レ能下以二春風一風上レ人、吾不レ能下以二夏雨一雨上レ人、吾窮必矣。

【夏禹】15 カウ　夏の開國の君。黃帝の曾孫。姓は姒氏。名は文命。父の鯀は水を治めて功が無く、誅せらる。禹は鯀の業を續ぎ、司空となり、水土を平かにす。外に居ること十三年、九州を開き、地の宜しきを相して貢を定む。初、夏伯に封ぜられたので伯禹といふ。舜の禪を受けて天子となる。在位八年。封ぜられし國に因りて天下の號となす。東に巡狩し、會稽に至つて崩ず。〔史記、二〕。



夏禹幣（金石索）

【夏禹幣】16 カウヘイ　夏禹の作つたといふ錢。面に安邑化二金の文がある。化は貨の省。背面に安の字があり、安の上の一字は奄の字に似てゐる。〔管子、山權數〕禹五年水、禹以二歷山之金一鑄レ幣、而贖二民之無レ糧賣レ子者一。〔金石索、金索〕夏禹幣。

【夏雩】17 カウ　夏の雨乞ひ。〔詩、周頌、噫嘻序、箋〕夏則龍星見而雩。〔疏〕春郊夏雩、以禱二求膏雨一。

【夏耘】18 カウン　夏、草をとる。〔墨子、三辯〕農夫春耕夏耘、秋斂冬藏、息二於聆缶之樂一。

【夏雲】19 カウン　なつぐも。夏の雲。〔晉子夜四時歌、夏歌〕暑盛靜無レ風、夏雲薄暮起。〔江淹、悼二室人一詩〕夏雲多二雜色一、紅光鑠二蕤鮮一。〔張九齡、餞二王尙書出レ邊詩〕夏雲登二隴首一、秋露泫二遼陽一。〔劉長卿、關門望二華山一詩〕夏雲亙二百里一、合沓遙相連。〔李商隱、荊門西下詩〕一夕南風一葉危、荊雲廻望二夏雲一時。

【夏雲多二奇峯一】20 カウンキホウオホシ　夏日の雲には奇峯の天に聳える樣な珍しい形が多い。陶潛の詠んだ句。四時詩(**3-4682‥353**)を見よ。〔陶潛、四時詩〕春水滿二四澤一、夏雲多二奇峯一、秋月揚二明暉一、冬嶺秀二孤松一。

【觀二夏雲一悟二書法一】21 カウンヲミテショハフヲサトル　夏雲の形を見て運筆の法を悟る。〔宣和書譜、十九〕釋懷素、云云、一夕觀二夏雲隨レ風、頓悟二筆意一、自謂、得二草書三昧一。

【夏英】22 カエイ　明、江西德化の人。字は育才。成化の進士。官は延平府知。〔尙友錄、十六〕。

【夏景】23 カエイ　❶夏のひざし。夏の日の光。〔李嶠、五月奉レ敎作詩〕綠樹炎氛滿、朱樓夏景長。❷夏。夏日。〔南史、劉之遴傳〕晚秋晷促、機事罕レ暇、夜分求レ衣、未レ遑二披括一、須二待夏景一、試欲二推尋一、若溫レ故可レ求、別酬レ所レ問也。❸カケイ　なつげしき。夏の景色。〔白居易、奉二和思黯相公雨後園林四韻見レ示詩〕新晴夏景好、復此池邊地。〔宣和畫譜、十八〕易元吉、夏景戲猿圖一、夏景猿獐圖三。

【夏穎】24 カエイ　清、秀水の人。字は稼民。號は蘭隱。布衣。畫を善くし、吟咏に巧。

【夏說】25 カエツ　秦の人。陳餘の命を奉じ、張周と齊王榮に說いて、張耳を擊ち、大いに之を破つた。〔漢書、三十二〕。

【夏曄】26 カエフ　夏に榮える。〔左思、吳都賦〕異荂蓲蘛、夏曄冬蒨。〔注〕銑曰、曄、榮皃。

【夏炎】27 カエン　夏のあつさ。〔新論、履信〕花萼不レ茂、則發生之德、廢二夏之得レ炎。〔韓愈、南山詩〕夏炎百木盛、蔭鬱增二埋覆一。

【夏屋】28 カヲク　❶盛に食饌を設け、禮物を具へる。〔詩、秦風、權輿〕於レ我乎、夏屋渠渠。〔傳〕夏、大也。〔箋〕屋、具也、云云、言下君始於レ我厚設二禮食一大具、以食レ我、其意勤勤然上。❷夏代の家の屋根。棟から唯前後の兩面に下り、左右の兩面を殺ぐ。〔禮、檀弓上〕昔者夫子言レ之曰、吾見二封之若レ堂者一矣、見二若レ坊者一矣、見下若レ覆二夏屋一者上矣、見二若レ斧者一矣。〔注〕夏屋、今之門廡也、其形旁廣而卑。〔疏〕殷人以來、始屋四阿、夏家之屋、唯兩下而殺、無二四阿一、如二漢之門廡一、又言レ見下其封墳如レ覆二夏屋一、唯兩下而殺、卑而寬廣上。❸廣大な家屋。〔楚辭、大招〕夏屋廣大、沙堂秀只。〔淮南子、本經訓〕夏屋宮駕、縣聯房植。〔法言、吾子〕震風陵雨、然後知三夏屋之爲二帡幪一也。〔陸機、演連珠〕夏屋有レ時而傾。〔劉峻、辨命論〕瑤臺夏屋、不レ能レ悅二其神一。❹山名。山西省代縣の東北。俗名は草垛山。爾雅には夏壺山といふ。〔史記、趙世家〕(趙襄子)北登二夏屋一、請二代王一、使下廚人操二銅科一進上食、擊二殺代君一、遂滅レ代。〔括地志〕夏屋山、一名二賈母山一。❺城の名。今の河北省唐縣の北。〔竹書紀年〕顯王二十一年、魏殷臣、趙公孫裒伐レ燕、還取二夏屋城一。

【夏恩】29 カオン　明、夏子孝の初名。

【夏夏】30 カカ　行くさま。一說に、憂憂の誤といふ。〔廣雅、釋訓〕夏夏、行也。〔疏證〕諸書皆無二夏夏之文一、夏夏、當レ作二憂憂一、字之誤也。

【夏家】31 カカ　禹の建てた夏の國家。〔左氏、襄、四〕武不レ可レ重、用不レ恢二于夏家一。〔韓愈、奉三和杜相公太淸宮紀レ事陳レ誠上二李相公一詩〕耒耜興二姬國一、輴欒建二夏家一。

【夏家莊】32 カカサウ　地名。山東省益都縣にあり。五つある。一は縣の南、石子澗の濱。一は縣の西北、北陽河の西岸。一は縣の東北、洱河の西。一は駐防城の東。一は縣の東南。西に又西夏家莊がある。

【夏牙】33 カガ　後漢の人。恭の子。孝廉に擧げられたが早く卒す。鄉人達は之を文德先生と稱す。〔後漢書、一百十上〕。

【夏河】34カガ ㊀なつかは。夏の河。〔王僧孺、初夜文〕壅二夏河之長瀉一、撲二秋原之猛燎一。㊁縣名。民國、置く。青海省循化縣の南境。

【夏海】35カカイ おほうみ。大洋。〔呂覽、求人〕(禹)北至二人正之國、夏海之窮一。〔晉書、石勒載記上〕夏海重レ譯、天人係仰。

【夏蓋】36カガイ ㊀山名。浙江省上虞縣の西北。一峯高く天半に出で、其の形は蓋に類す。一名は夏駕山。夏の禹王が駐蹕した所といふ。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、上虞縣〕夏蓋山、縣西北六十里、南臨二夏蓋湖一、北枕二大海一、西去二三江口一密邇、嘉靖三十五年、官軍敗二倭於夏蓋山及三江海洋一、是也。㊁湖の名。浙江省上虞縣の西北、夏蓋山の南。唐の長慶中、五鄕の民が之を造つた。〔明一統志〕夏蓋湖、在二上虞縣西北四十七里一、湖內三十六溝、湖東北有レ山、名二夏蓋一。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、上虞縣〕夏蓋湖、縣西北四十里、夏蓋山南、唐長慶二年開以漑レ田、湖周一百五里、中有二鏡潭及九墩十二山一、又有二三十六溝一、爲二引レ水灌レ田之道一、宋熙甯中、湖漸廢、元祐四年修復、政和中、復廢爲レ田、紹興二年還爲レ湖、元元貞中、漸湮爲レ田、至正十二年、縣尹林希元定二墾田數餘一、悉爲レ湖、舊灌田十三萬畝有奇、至レ今尙爲二民利一。

【夏校】37カカウ 夏の時代の學校。學校を、夏には校、殷には序、周には庠といふ。〔孟子、滕文公上〕夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠、學則三代共レ之。

【夏港】38カカウ 運河の名。江蘇省江陰縣の西。江水に遵つて東南行し、蔡涇閘に出て黃田港と合し、北して江に入る。〔太平寰宇記〕陳至德初、移二縣治夏浦一、輿地紀勝謂二之夏港一、春申君長子所レ開。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、江陰縣〕夏港、縣東三十里、北通二大江一、東南行出二蔡涇閘一、與二黃田閘一合流入二運河一、其支流爲二崇溝河一。

【夏槁】39カカウ ㊀夏、食べる乾もの。〔國語、魯語上〕鳥獸孕、水蟲成、獸虞於レ是乎、禁二罝羅一、矠二魚鼈一、以爲二夏槁一、助二生阜一也。〔注〕矠、擨也、槁、乾也、夏不レ得レ取、故於二此時一、擨二刺魚鼈一、以爲二夏儲一。㊁なつがれする。夏枯れる。〔淮南子、本經訓〕松柏箘露夏槁。〔注〕夏槁死也。

【夏衡】40カカウ 明、松江華亭の人。字は以平。書畫に巧。官は永樂中、太常卿。成祖の北征や宣宗の武定州を討つのに扈從し、內閣に在ること最も久しかつたが、謙厚愼密で、禁中の語を泄したことはなかつた。〔國朝獻徵錄、二十二〕・〔明畫錄、二〕。

【夏殼】41カカク 夏の貝殼。肉が少い。轉じて、よく其の身を全うする喩。〔齊東野語、沈君與〕獨憐二盤內秋臍實一、不レ比二溪邊夏殼空一。

【夏葛】42カカツ 夏に着る葛の衣。又、夏に葛の衣を着る。〔列子、湯問〕冬裘夏葛。〔韓愈、原道〕夏葛而冬裘、渴飮而飢食。

【夏季】43カキ 夏の季節。夏時。

【夏姬】44カキ 春秋、陳の大夫の妻。夏徵舒の母。鄭の出で、美人であつた。淫奔の女。陳の靈公が孔寧・儀行父と之に通ず。楚が陳を滅すや、姬を以て連尹襄老に與へ、襄老が死んで後、また鄭に歸る。尋いで楚の申公巫臣が鄭に使し、姬を娶つて晉に奔つた。〔左氏、宣、九。成、二・七。襄、二十六〕・〔列女傳、七〕。

【夏癸】45カキ 夏桀(78)を見よ。

〖夏癸殷辛〗46カキインシン 夏の桀王と殷の紂王。癸は桀の名、辛は紂王の名。〔張衡、東京賦〕黃帝合宮、有虞總期、固不レ如二夏癸之瑤臺、殷辛之瓊室一也。

【夏氣】47カキ 夏の氣。夏の氣象。〔禮、月令、孟夏、其音徵、注〕夏氣和、則徵聲調。〔素問、四氣調神大論篇〕此夏氣之應、養レ長之道也。〔春秋繁露、陽尊陰卑〕春氣愛、秋氣嚴、夏氣樂、冬氣哀。〔范曄、樂游應詔詩〕蘭池淸二夏氣一、修帳含二秋陰一。

【夏基】48カキ 淸、徽州の人。字は樂只。詩・畫に巧み。著に西湖覽勝志がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕。

【夏季】48′カキ 夏の季節。〔去來抄、故實〕夏季に定めて、可南が句に沙汰し侍る也。

【夏期】49カキ 夏の期間。

〖夏期休暇〗50カキキウカ 酷暑の時節、學校などが休業すること。夏休。夏季休業。

【夏葵】51カキ 明の人。芷の弟。字は廷暉。畫に巧み。

【夏毅】53カキ 明の人。字は仲毅。太祖に從つて江南を征して功があり、又、從つて婺州を取り、金華衞指揮に任ぜられて其の地に鎭す。鎭に在ること數十年、政事修明、兵民に信賴せらる。〔皇明開國功臣錄、三十〕。

【夏璣】54カキ 明、吳縣の人。字は德乾。天順の進士。官は新淦縣知・監察御史。〔蘭臺法鑒錄、十〕・〔續吳先賢讚、三〕。

【夏龜】55カキ 唐、宇文籍(**3**-**7067**‥60)の字。

【夏丘】56カキウ 縣名。漢、置く。北齊には夏丘郡とし、北周には晉陵といふ。故城は今の安徽省泗縣治。〔漢書、地理志上〕沛郡、縣三十七、夏丘。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、虹縣〕夏邱城、縣東一里、漢縣治、此相傳、堯封レ禹爲二夏伯一、此其故邑也、縣因以名、東晉初廢、東魏復置二夏邱縣於今治一。

【夏休】57ナツヤスミ 夏の休暇。

【夏菊】58カキク をぐるまさう。旋覆花(**5**-**13656**‥78)の異名。夏、菊に似た花を開くからいふ。〔本草、旋覆花〕釋名、金沸草・金錢花・滴滴金・盜庚・夏菊・戴椹、集解、頌曰、今所在皆有、二月以後生レ苗、多近二水旁一、大似二紅藍一而無レ刺、長一二尺以來、葉似レ柳、莖細、六月開レ花、如二菊花一、小銅錢大、深黃色、上黨田野人、呼爲二金錢花一。

【夏橘】59カキツ 果實の名。夏蜜柑。〔本草、金橘〕釋名、金柑・盧橘・夏橘・山橘・給客橙、時珍曰、案、司馬相如上林賦云、盧橘夏熟、枇杷撚柿、以二二物一並列、則非二一物一明矣、此橘、夏冬相繼、故云二夏熟一、而裴淵廣州志、謂二之夏橘一、給客橘者、其芳香如レ橙、可三供二給客一也。

【夏宮】60カキユウ 夏后氏の獄名。夏臺(195)に同じ。〔太平御覽、皇王部、帝桀〕尸子曰、桀爲二璇室瑤臺象廊玉牀一、權二天下一虐二百姓一、於レ是、湯以二革車三百乘一伐二于南巢一、收二之夏宮一、天下寧定、百姓和輯。

【夏虛】61カキヨ 三代の夏の國の城あと。今の山西省大原縣の東北。〔左氏、定、四〕命以二唐誥一、而封二於夏虛一。〔注〕夏虛、大夏、今大原晉陽也。

【夏恭】62カキヨウ 後漢、蒙の人。字は敬公。諡は宣明君。韓詩・孟氏易に通じ、生徒數百人。光武に召されて郎中となり、後、泰山都尉に遷る。〔後漢書、一百十上〕。

【夏革】63カキヨク 殷の湯王の大夫の名。〔列子、湯問〕殷湯問二夏革一。〔注〕革字、莊子、音棘。

【夏炘】64カキン 淸の人。鑾の長子。字は心伯。著に學禮管釋・檀弓辨誣・述朱質疑・三綱制述義がある。〔淸史列傳、六十七〕。

【夏衾】65カキン 夏のしとね。なつぶとん。〔潘岳、悼亡詩〕凜凜涼風升、始覺二夏衾單一。〔元稹、秋望詩〕檐月驚二殘夢一、浮涼滿二夏衾一。

【夏勤】66カキン 後漢、九江の人。字は伯宗。樊儵の公羊春秋を傳ふ。官は京・宛二縣の令、零陵太守、安帝の時の司徒。〔後漢書、六十二〕。

【夏禁】67カキン 夏に出す禁令。〔管子、輕重己〕以二春日至一始レ數、四十六日、春盡而夏始、天子服レ黃而靜處、朝二諸侯卿大夫列士一、循二於百姓一、發レ號出レ令曰、云云、滅二三大一、而國有レ害也、天子之夏禁也。

【夏課】68カクワ 唐代、進士の詮選に入ることを春闈といひ、入らないで再び業を習ふことを過夏といひ、業を執つて出ることを夏課といふ。〔國史補〕進士捷而入レ選、謂二之春闈一、不レ捷、退而肄レ業、謂二之過夏一、執レ業以出、謂二之夏課一。

【夏宏】69カクワウ 明、海陽の人。字は用德。號は銘乾。著に字考がある。〔四庫提要、四十三〕。

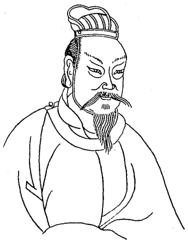
【夏官】70カクワン ㊀古の官名。司馬の職。黃帝の時には縉雲氏といひ、炎帝の時には鶉火といふ。堯の時、義叔が夏官となつた。火正(**7**-**18850**‥240)に同じ。〔左氏、昭、十七〕炎帝氏、以レ火紀、故爲二火師一而火名。〔疏〕服虔云、黃帝以レ雲名レ官、蓋春官爲二青雲氏一、夏官爲二縉雲氏一、秋官爲二白雲氏一、冬官爲二黑雲氏一、中官爲二黃雲氏一、炎帝以レ火名レ官、春官爲二大火一、夏官爲二鶉火一、秋官爲二西火一、冬官爲二北火一、中官爲二中火一。〔賈公彥、周禮正義序〕昭十七年服注、顓頊之下云、春官爲二木正一、夏官爲二火正一、秋官爲二金正一、冬官爲二水正一、中官爲二土正一、云云、下文云、舜命二伯夷一爲二秩宗一、舜時官也、以二先後一參レ之、唯無二夏官之名一、以二餘官一約レ之、夏傳云、司馬在レ前、又後代況レ之、則義叔爲二夏官一、是司馬也。㊁周官の六

官の一。司馬の職。軍政を掌る。其の長官を大司馬といひ、六十の屬官がある。後世、屢〻兵部にこの稱を用ひた。〔周禮、天官、小宰〕四曰、夏官、其屬六十、掌二邦政一、大事則從二其長一、小事則專達。〔周禮、夏官、序官〕惟王建レ國、辨レ方正レ位、體レ國經レ野、設レ官分レ職、以爲二民極一、乃立二夏官司馬一、使下帥二其屬一、而掌二邦政一、以佐レ王平中邦國上。〔通典、職官、尙書下、兵部尙書〕周禮夏官大司馬之職、掌下以二九伐之法一正二邦國一、制二軍詰禁一、以糾中邦國上、領二校人牧師職方司兵之屬一、卽今兵部之任也、云云、光宅元年、改爲二夏官一、神龍元年、復レ舊。㊂唐以來、司天官の屬に置いた四時を司る官。夏官正の類。〔唐書、百官志二〕春官・夏官・秋官・冬官・中官、正各一人。㊃明の太祖の置いた四輔の官の一。〔明史、職官志一〕九月置二四輔官一、以二儒士王本等一爲レ之。〔注〕置二四輔官一、告二太廟一、以二王本・杜祐・龔斆一爲二春官一、杜斆・趙民望、吳源、爲二夏官兼太子賓客一、秋冬官缺、以二本等一攝レ之。

【夏寬】71 カクヮン　漢の人。詩を申公に受く。武帝の時、陽城內史となる。廉節を以て稱せらる。〔前漢書、八十八〕。

【夏珪】72 カケイ　宋、錢塘の人。字は禹玉。寧宗の時、待詔となり、金帶を賜はる。善く人物を畫き、李唐以來、其の右に出づる者がない。〔抗州志〕。〔宋史翼、三十八〕・〔宋季忠義錄、九〕・〔南宋院畫錄、六〕。

【夏啓】73 カケイ　夏の王。禹の子。禹の崩後、諸侯が之に歸し、奉じて以て位に卽かせた。賢にしてよく禹の業をつぎ、有扈氏を滅し、德敎を四海に布く。在位九年にして崩ず。〔史記、二〕。



夏王啓（三才圖會）

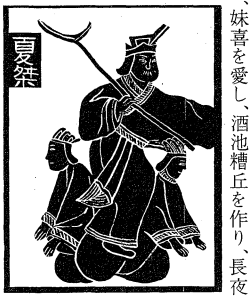
【夏畦】74 カケイ　㊀夏月の炎天に田のあぜを手入れする。辛苦して勞働することにいふ。又、其の人。〔孟子、滕文公下〕脅レ肩諂笑、病二于夏畦一。〔集注〕夏畦、夏月治レ畦之人也。㊁最下等の勞働者のこと。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕馬醫夏畦之鬼、無下不レ受二子孫追養一者上。

【夏卿】75 カケイ　㊀官名。㋑梁の武帝が置いた太府卿・少府卿・太僕卿の三卿をいふ。〔隋書、百官志上〕諸卿、梁初猶依二宋齊一、皆無二卿名一、天監七年、以二太常一爲二太常卿一、加二置宗正卿一、以二大司農一爲二司農卿一、三卿是爲二春卿一、加二置太府卿一、以二少府一爲二少府卿一、加二置太僕卿一、三卿是爲二夏卿一。㋺唐代、兵部尙書をいふ。〔張說、奉三和聖製送二王晙巡レ邊應制詩一〕六月歌二周雅一、三邊遣二夏卿一。㊁字號。㋑唐、王縉(7―20823‥635)の字。㋺明、蕭大亨(9―32012‥445)の字。

【夏雞】76 カケイ　鳥の名。隼の屬。五更に鳴いて夜明を知らせるから、一に催明鳥といふ。鵯鶋。〔本草、伯勞〕附錄、鵯鶋、羅願曰、卽祝鳩也、江東謂二之烏臼一、音匊、又曰二鴉鵖一、小二于烏一、能逐レ鳥、三月卽鳴、今俗謂二之駕犁一、農人以爲レ候、五更輒鳴、曰二架架格格一、至レ曙乃止、故滇人呼爲二榨油郞一、亦曰二鐵鸚鵡一、能啄二鷹鶻烏鵲一、乃隼屬也、南人呼爲二鳳凰皂隸一、汴人呼爲二夏雞一、古有二催明之鳥一、名二喚起一者、蓋卽此也、其鳥、大如レ燕、黑色長尾、有二岐頭一、上二戴勝所レ巢之處一、其類不レ得二再巢一、必相鬭不レ已。〔歐陽脩、鵯鶋詞〕田家唯聽夏雞聲、夜夜壠頭耕二曉月一。〔自注〕京西村人謂二鵯鶋一爲二夏雞一。〔丹鉛總錄〕催明鳥、一名夏雞、俗名二隔隥雞一。

【夏倪】77 カゲイ　宋、蘄州の人。字は均父。官は祁陽監酒。著に遠遊堂集がある。

【夏桀】78 カケツ　夏の王。孔甲の曾孫。名は癸。暴虐無道で、妹喜を愛し、酒池糟丘を作り、長夜の飲を深谷の中に爲す。關龍逢が諫めた時、吾は天に日のあるが如し、日亡べば我亡ぶと言つた。湯を召して夏臺に囚へ、已にして釋す。諸侯皆、桀に叛いて湯に附く。湯、桀を伐ち、鳴條に戰ふ。桀、走つて南巢に死す。在位五十二年にして國、亡ぶ。〔史記、二〕。〔金石索、碑碣之屬、夏桀〕象畫下夏桀手中執レ戈、下有二二女子一、相背伏レ地、桀乘中坐其上上、蓋人輦之始、史稱三桀不レ務レ德、而武二傷百姓一、卽可レ見禹以下手執二畚臿一、躬親隨刊上、而得二天下一、桀以三執レ戈、乘二女子一而失二天下一、不二煩言一而喩矣。



夏桀（金石索）

【夏月】79 カゲツ　なつの時。夏時。〔書、君牙、夏暑雨、傳〕夏月暑雨、天之常道。〔漢書、嚴助傳〕夏月暑時、歐泄霍亂之病、相隨屬也。〔晉書、陶潛傳〕夏月虛閑、高二臥北牕之下一。〔晉書、車胤傳〕家貧不二常得一レ油、夏月、則練囊盛二數十螢火一、以照レ書。

〔夏月飛レ霜〕80 カゲツシモヲトバス　夏の桀王・周の幽王などが無道であつたため、夏季に霜が降るやうな天變のあつたことをいふ。〔詩、小雅、正月〕正月繁霜、我心憂傷、民之訛言、亦孔之將。〔小序〕正月、大夫刺二幽王一也。〔傳〕正月、夏之四月、繁、多也。〔會箋〕正月、周六月、夏之六月也、云云、竹書紀年、幽王四年夏六月隕レ霜、卽此詩所謂、正月繁霜也。〔精註雅俗故事讀本、上、天文〕夏月飛レ霜、既見二桀王之昏暴一。〔注〕令考序曰、桀無道、夏月隕二嚴霜一。

【夏蘗】81 カゲツ　夏に生えたひこばえ。〔元稹、蟲詩〕秋風自レ天落、夏蘗與レ霜澄。

【夏縣】82 カケン　縣名。後魏、置く。禹の故都の地。山西省安邑縣の東北。〔明一統志〕夏縣、在二平陽府解州城東北一百里一、本禹所レ都之地、漢爲二安邑縣境一、後魏太和中、別置二南安邑縣一、改爲二夏縣一、以二禹舊都一故名。〔清史稿、地理志〕山西、解州直隸州、縣四、夏。

【夏壎】83 カケン　明、天台の人。字は宗成。景泰の進士。福建の巡按となり、鎭守中、官葉達の恣橫を發いて廣東按察使に擢んでらる。後、四川巡撫に至る。〔明史、一百五十九〕・〔萬斯同明史、二百三十一〕・〔明史稿、一百四十九〕。

【夏言】84 カゲン　明、貴溪の人。鼎の子。字は公謹。諡は文愍。正德の進士。官は給事中。後、六卿を拜して機務に參し、嚴嵩に逆らつて棄市せらる。〔明史、一百九十六〕・〔萬斯同明史、二百八十八〕・〔明史稿、一百八十二〕。

【夏諺】85 カゲン　夏の時の諺。夏の時代の俗語。〔孟子、梁惠王下〕夏諺曰、吾王不レ遊、吾何以休、吾王不レ豫、吾何以助、一遊一豫、爲二諸侯度一。〔集注〕夏諺、夏時之俗語也。〔顏延之、車駕幸二京口一三月三日侍二遊曲阿後湖一作詩〕夏諺頌二王遊一。

【夏鳸】86 カコ　鳥の名。夏のふなしうづら。鴳雀。〔爾雅、釋鳥〕夏鳸、竊玄。〔本草、桑鳸〕集解、時珍曰、鳸鳥、處處山林有レ之、大如二鴝鵒一、蒼褐色有二黃斑點一、好食二粟稻一、詩云、交交桑鳸、有二鶯其羽一、是矣、其觜喙、微曲而厚壯光瑩、或淺黃淺白、或淺靑淺黑、或淺玄淺丹、鳸類有二九種一、皆以二喙色聲音一別レ之、非レ謂二毛色一也、爾雅云、春鳸鳻鶞、夏鳸竊玄、秋鳸竊藍、冬鳸竊黃、桑鳸竊脂、棘鳸竊丹、行鳸唶唶、宵鳸嘖嘖、老鳸鷃鷃、是矣、今俗多畜二其雛一、敎作二戲舞一。

【夏五】87 カゴ　夏五月。春秋經の桓公十四年に、夏五とのみあつて、月の字が缺けてゐるから、闕文の意にいふ。夏五郭公を見よ。〔春秋、桓、十四〕夏五、鄭伯使二其弟語來盟一。〔杜注〕不レ書レ月、闕文。〔穀梁、桓、十四〕立二乎定哀一、以指二隱桓一、隱桓之日遠矣、夏五、傳レ疑也。〔注〕孔子在二於定哀之世一、而錄二隱桓之事一、故承二闕文之疑一、不レ書レ月、明皆實錄。〔疏〕言下孔子承二闕文之疑一、不上レ止二夏五一時一、故云レ皆也。

〔夏五郭公〕88 カゴクヮクコウ　春秋經の莊公二十四年の郭公の下に記事を闕いてゐる。これから前項の夏五と併せて闕文の意にいふ。夏五を見よ。〔春秋、莊、二十四〕冬、戎侵レ曹、曹羈出奔レ陳、赤歸二于曹一、郭公。〔注〕無レ傳、蓋經闕誤也。

【夏口】89 カコウ　㊀縣名。民國、置く。漢口をいふ。もと漢陽縣の地。清、夏口廳分防同知を置き、湖北省武昌府に屬す。治は漢口鎭。沔口・魯口ともいふ。中國四大鎭の第一。武昌・漢陽と共に武漢三鎭といひ、清の咸豐八年、英國との天津條約により開港場となる。長江三港の一。商工業の一中心地。京漢鐵道の終點。〔清史稿、地理志〕湖北、漢陽府、廳一、夏口廳。㊁城の名。湖北省武昌縣の西、黃鵠山の上。吳の孫權の築いたもの。〔水經、江水注〕黃鵠山、東北對二夏口城一、魏黃

初二年、孫權所レ築也。

【夏后】90 カコウ ❶禹の國號。禹は始、夏伯に封ぜられ、後、舜の禪を受けて天子となり、國を夏と號し、又、夏后氏といふ。后はきみ、揖讓を以て禪を受けた者の美稱。〔禮、檀弓上〕以二夏后氏之墼周一、葬二中殤下殤一。〔論語、八佾〕夏后氏以レ松、殷人以レ柏、周人以レ栗。〔孟子、公孫丑上〕夏后殷周之盛、地未レ有下過二千里一者上也。〔史記、夏紀〕禹於レ是遂卽二天子位一、南面朝二天下一、國號曰二夏后一。❷複姓。〔元和姓纂〕史記、夏禹爲二夏后一、因レ國氏焉。

〔夏后皐陵〕91 カコウカウノリヨウ 夏の帝皐の陵。河南省洛寧縣の西北、崤山の側。〔左氏、僖、三十二〕殽有二二陵一焉、其南陵、夏后皐之墓也、其北陵、文王之所レ辟二風雨一也。〔河南府志〕夏后陵、在二永寧縣陽坡保崤山之側一、按、史記、孔甲之子曰二帝皐一、葬二於崤之南陵一、左傳、崤有二二陵一、其南陵、夏后皐之墓也。

〔夏后氏陵〕92 カコウシノリヨウ 夏后氏累代の陵寢。山西省夏縣の西。惟ゞ禹の陵は浙江省會稽山、少康の陵は河南省太康縣に在る。金の大定五年に、朝元觀を建てて祀る。

〔夏后兩龍〕93 カコウリヤウリユウ 夏后啓が兩龍に乘つた故事。〔山海經、海外西經〕大樂之野、夏后啓于レ此儛二九代一、乘二兩龍一、雲蓋三層、左手操レ翳、右手操レ環、佩二玉璜一、在二大運山北一、一曰二大遺之野一。

【夏侯】94 カコウ ❶楚の襄王の佞臣の名。州侯(**4-8678··17**)を見よ。〔戰國、楚策〕君王左二州侯一、右二夏侯一、輦三從鄢陵君與二壽陵君一、專二淫逸侈靡一、不レ顧二國政一、郢都必危矣。❷胡燕(**9-29400··29**)の異名。〔事物異名錄、禽鳥上、燕〕本草經、陶隱居曰、燕有二越燕・胡燕一、俗呼二胡燕一爲二夏侯一。❸複姓。〔姓譜〕夏侯、本姒姓、夏禹之後、杞爲レ楚滅、簡公弟佗奔レ魯、魯公以二佗夏後一、受レ爵爲レ侯、因以爲レ氏。

〔夏侯嬰〕95 カコウエイ 漢、沛の人。諡は文。高祖に從つて項羽を擊ち、蜀に入り、三秦を定め、汝陰侯に封ぜらる。後、大臣と共に文帝を立て、太僕となる。初、滕令奉車となる。故に滕公と號す。〔史記、九十五〕・〔前漢書、四十一〕。

〔夏侯淵〕96 カコウエン 三國、魏の人。惇の族弟。字は妙才。官は征西將軍。蜀と平陽關に戰つて死す。諡は愍。〔三國志、九〕。

〔夏侯夔〕97 カコウキ 梁の人。亶の弟。字は季龍。諡は桓。性奢豪。官は豫州刺史。〔梁書、十〕・〔南史、五十五〕。

〔夏侯訢〕98 カコウキン 漢、寧陵の人。字は長況。母に仕へて至孝。〔尙友錄、二十四〕。

〔夏侯敬〕99 カコウケイ 漢、魯の人。慶氏の禮を學ぶ。〔前漢書、八十八〕。

〔夏侯嶠〕100 カコウケウ 宋、鉅野の人。字は峻極。太宗の朝に進士に擧げらる。官は翰林侍讀學士。文集がある。〔宋史、二百九十二〕・〔宋史新編、九十〕・〔東都事略、三十七〕・〔隆平集、九〕・〔宋大臣年表〕。

〔夏侯建〕101 カコウケン 漢の人。夏侯勝の從兄の子。字は長卿。尙書を治め、議郎博士となり、太子少傅に至る。勝を大夏侯といふに對し、小夏侯といふ。〔前漢書、八十八〕。

〔夏侯玄〕102 カコウゲン 三國、魏の人。尙の子。字は太初。官は大鴻臚。司馬懿を謀つて族滅せられた。〔三國志、九〕。

〔夏侯孜〕103 カコウシ 唐、譙の人。字は好學。官は太子少保。〔唐書、一百八十二〕・〔舊唐書、一百七十七〕。

〔夏侯尙〕104 カコウシヤウ 三國、魏の人。淵の從子。字は伯仁。諡は悼。官は荊州刺史。封は平陵鄕侯。〔三國志、九〕。

〔夏侯詳〕105 カコウシヤウ 梁、譙の人。字は叔業。官は尙書左僕射。〔梁書、十〕・〔南史、五十五〕。

〔夏侯儒〕106 カコウジユ 三國、魏の人。尙の從弟。字は俊林。官は太僕。〔三國志、十五〕。

〔夏侯淳〕107 カコウジユン 晉の人。湛の弟。字は孝沖。文藻を以て知らる。官は七陽太守。〔晉書、五十五〕。

〔夏侯勝〕108 カコウシヨウ 漢の人。始昌の族子。字は長公。始昌に就いて尙書及び洪範五行傳を受け、又歐陽氏に學び、善く禮を說いた。徵されて博士・光祿大夫となり、太子太傅に至る。詔を受けて尙書論語說を撰す。學を從兄の子、夏侯建に傳へ、大小夏侯といはれた。卒年九十。〔前漢書、七十五、八十八〕。

〔夏侯審〕109 カコウシン 唐、譙の人。官は侍御史。大曆十才子の一。〔唐書、二百三〕。

〔夏侯瞻〕110 カコウセン 晉の人。一に夏瞻に作る。人物鬼神の畫に巧み。〔古畫品錄〕・〔歷代名畫記〕。

〔夏侯湛〕111 カコウタン 晉、譙國の人。字は孝若。官は散騎常侍。〔晉書、五十五〕。

〔夏侯亶〕112 カコウタン 梁の人。詳の子。字は世龍。諡は襄。官は豫・南豫二州の刺史・都督。〔梁書、二十八〕・〔南史、五十五〕。

〔夏侯端〕113 カコウタン 唐、壽春の人。官は隋の大理司直。後、高祖に仕へて梓州刺史に至る。〔唐書、一百九十一〕・〔舊唐書、一百八十七上〕。

〔夏侯惇〕114 カコウトン 三國、魏の譙の人。字は元讓。諡は忠。少時、其の師を辱めた者を殺して師の恥を雪ぎ、烈氣を以て聞ゆ。武帝の時、裨將となり、征伐に從つて功があり、前將軍に拜せられ、文帝の時、大將軍となる。〔三國志、九〕。

〔夏侯嘉正〕115 カコウカセイ 宋、江陵の人。字は會之。太平興國の進士。官は右正言。史館に直す。〔宋史、四百四十〕・〔宋史新編、一百六十九〕・〔東都事略、一百十五〕・〔宋人軼事彙編、一百四十九〕。

〔夏侯妓衣〕116 カコウギイ 簾(**8-26616**)の異稱。梁の夏侯亶は、音樂を好み妓女數十人を蓄へたが、性質が吝嗇で、妓女に被服を與へず、客あれば簾を隔てて奏樂せしめたから、時人は簾を夏侯の妓の衣服と呼んだ。〔南史、夏侯亶傳〕晚年頗好二音樂一、有二妓妾十數人一、並無二被服安容一、每レ有レ客、常隔レ簾奏レ之、時謂レ簾爲二夏侯妓衣一。〔世說新語補、儉嗇〕夏侯豫州、性極吝、晚忽好二音樂一、有二妓妾數十一、無二被服姿容一、客至、嘗隔レ簾奏レ樂、時呼レ簾爲二夏侯妓衣一。

〔夏侯始昌〕117 カコウシシヤウ 漢、魯の人。五經に通じ、齊詩・尙書を教授し、武帝に重んぜらる。〔前漢書、七十五〕。

〔夏侯拾芥〕118 カコウシフカイ 蒙求の標題。前漢の夏侯勝が、苟も經術に明かなれば、位を得ることは俛して地芥を拾ふが如く容易であると教へた故事。〔漢書、夏侯勝傳〕始勝每二講授一、常謂二諸生一曰、士病レ不レ明二經術一、苟明、其取二青紫一、如三俛拾二地芥一耳。

〔夏侯尙玄〕119 カコウシヤウゲン 元、華亭の人。官は東宮伴讀。明宗の變に官を去つて海都に入つたが、郯王に召され、上賓を以て遇せらる。王が誣誅せられるや、王の忠孝數事を力陳して誣を雪ぐ。〔新元史、二百三十三〕。

〔夏侯道遷〕120 カコウダウセン 後魏、譙の人。諡は明。濮陽縣侯に封ぜらる。〔魏書、七十一〕・〔北史、四十五〕。

〔夏侯都尉〕121 カコウトキ 漢の人。勝の先。濟南の張生に從つて尙書を受け、族子、始昌に傳へた。〔前漢書、八十八〕。

〔夏侯陽算經〕122 カコウヤウサンケイ 書名。三卷。夏侯陽撰。十二門に分れ、古算經の簡要を得てゐる。編者の傳は明かでないが、北周以前の人といふ。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【夏厚】123 カコウ 明、泰州の人。號は煙林。畫に巧。

【夏鍭】124 カコウ 明の人。壎の子。字は德樹。官は南京大理評事。賦斂徭役馬政鹽課の利弊、及び宗藩戚里侵漁の狀を疏論して報ぜられず、致仕した。著に赤城集がある。〔明史、一百五十九〕・〔萬斯同明史、二百四十七〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【夏坐】125 カザ 夏安居。夏ごもり。夏の參禪。〔隋煬帝、遣レ使入二天台一參書〕春律已謝、夏坐方結。

【夏采】126 カサイ ❶周官の名。天官の屬。大喪に死者の車服を以て其の魂を招くことを掌る。〔周禮、天官、夏采〕夏采、掌下大喪以二冕服一復二于大祖一、以二乘車建綏一復中于四郊上。❷五色の翟雉の羽に象つた染色。〔周禮、天官、序官、注〕夏采、夏翟羽色、禹貢、徐州貢二夏翟之羽一、有虞氏以爲レ綏、後世或無レ故染二鳥羽一、象而用レ之、謂二之夏采一。〔孫詒讓正義〕夏、卽謂レ染二五色一、象二夏翟之羽采一、卽畫續所謂五采備也。

【夏祭】127 カサイ 夏季のまつり。禘のまつりをいふ。なつまつり。夏礿。禘(**8-24778**)を見よ。〔禮、祭統〕凡祭有二四時一、春祭曰レ礿、夏祭曰レ禘、秋祭曰レ嘗、冬祭曰レ烝。

【夏載】128 カサイ 夏の禹王ののりもの。〔顏延之、應レ詔觀二北湖田收一詩〕周御窮二轍跡一、夏載歷二山川一。

【夏草】129 カサウ なつくさ。夏の草。〔唐書、薛訥傳〕訥獨曰、夏草薦茂、羔犢方息。

【夏霜】130 カサウ 夏季にふる霜。〔淮南子、本經訓〕春肅秋榮、冬雷夏霜、皆賊氣之所レ生。

【夏蠶】131 カサン 夏に飼ふ蠶。なつこ。〔邢居實、雨後出レ城馬上作詩〕紫椹飽ニ黃鸝一、人家夏蠶老。

【夏山】132 カザン なつやま。なつの山。夏山欲レ雨を見よ。〔臥遊錄、郭熙記〕春山淡冶而如レ笑、夏山蒼翠而如レ滴。

〔夏山欲レ雨〕133 カザンアメフラントス 夏の山の雨氣を催した景をいふ。〔輟耕錄、寫ニ山水一訣〕夏山欲レ雨、要レ帶ニ水筆一、山上有ニ小石塊堆在レ上、謂ニ之礬頭一、用ニ水筆一暈開加ニ淡青螺一、又是一般秀潤。

【夏子】134 シカ 禹と湯とをいふ。〔漢書、徐樂傳〕名何必夏子、俗何必成康。〔注〕服虔曰、夏、禹也、子、湯也、湯子姓。

【夏氏】135 シカ ㊀夏の朝廷。〔書、湯誓〕夏氏有レ罪、予畏ニ上帝一、不ニ敢不一レ正。㊁明の黔國公なる沐天波の侍女。內政を佐けたが、後、自殺す。〔明史、三百三〕。

【夏至】136 シゲ 二十四氣の一。太陽が黃道に於て夏至點に達した時、卽ち北回歸線（南半球に於ては南回歸線）の上を通過する日の稱。この日、晝が最も長く、夜が最も短い。今、大抵每年六月二十二日頃。冬至（**2－1610**・・58）の對。〔易、復、注〕冬至、陰之復也、夏至、陽之復也。〔周禮、春官、馮相氏〕冬夏致レ日、〔注〕冬至、日在ニ牽牛一、景丈三尺、夏至、日在ニ東井一、景丈五寸。〔呂覽、有始〕冬至、日行ニ遠道一、周ニ行四極一、命爲ニ玄明一、夏至、日行ニ近道一、乃參ニ于上一。〔史記、封禪書〕夏日至祭ニ地祇一。〔淮南子、天文訓〕辰星正ニ四時一、常以ニ二月春分一效ニ奎婁一、以ニ五月夏至一效ニ東井輿鬼一。〔新法曆書、太陽及太陰本行合ニ宗動一之驗〕自レ此以往、漸斜去ニ赤道一北、出沒較レ前爲レ廣矣、晝長而夜短、至ニ夏至一爲レ最矣。

〔夏至線〕137 ゲシセン 赤道から北緯（南半球に於ては南緯）二十三度半の線。太陽が此の線上に來た日を夏至といふ。回歸線。〔新法曆書、渾天儀說、渾天儀赤道平行圈〕如圖中爲ニ赤道左右各二十二度三十餘分一、并得ニ四十七度一、此中帶之界也、又自ニ二至線一起ニ南北一、各寬ニ四十三度一爲ニ南北煖帶之界一。〔新法曆書、渾天儀說、製天地球十二長圓形法〕其十二星圖等圓形、皆以ニ中橫線一爲ニ黃道一、以ニ兩末一爲ニ南北一、各黃極因ニ諸星一、依ニ黃經緯度一點入、故橫線內外、外引ニ赤道及冬夏至等線一、而赤道獨分爲レ度、餘皆依ニ本緯相距一、總於ニ球上一合爲ニ圓圈一也。

〔夏至之日而欲ニ夜之長一〕138 ゲシノヒニシテヨルノナガキヲホッス 無理な欲望の喩。夏至は一年中で晝が最も長く夜が最も短い時である。其の時に夜の長からんことを欲するも、不可能であるといふ意。〔呂覽、知度〕若下夏至之日而欲ニ夜之長一也、射レ魚指レ天而欲中發レ之當上也。

【夏芷】139 シカ 明、錢塘の人。字は廷芳。畫に巧。〔明畫錄、二〕。

【夏姿】140 ナツスガタ 夏の物の姿。又、夏衣を着た姿。〔拾玉和歌集、五〕春秋も無きなつ姿かな。

【夏祉】141 hsia^{4} chih^{3} 夏季の書翰文に用ひる語。夏日の福祉。

【夏時】142 ジカ ㊀夏の朝廷の曆法。又、其の書。斗柄が初昏に寅の方向を指す月を正月とする。今の太陰曆に當る。漢の武帝から淸に至る閒は夏時を用ひた。夏正。夏數。夏曆。人統。三正（**1－12**・・993）の㊀を見よ。又、夏后氏の每月の物候を記したもの。夏小正（338）を見よ。〔禮、禮運〕孔子曰、我欲レ觀ニ夏道一、是故之レ杞、而不レ足レ徵也、吾得ニ夏時一焉。〔注〕得ニ夏四時之書一也、其書存者有ニ小正一。〔論語、衞靈公〕子曰、行ニ夏之時一、乘ニ殷之輅一、服ニ周之冕一。〔集注〕夏時、謂下以ニ斗柄初昏建レ寅之月一爲中歲首上也、天開ニ於子一、地闢ニ於丑一、人生ニ於寅一、故斗柄建ニ此三辰一之月、皆可三以爲ニ歲首一、而三代迭用レ之、夏以レ寅爲ニ人正一、商以レ丑爲ニ地正一、周以レ子爲ニ天正一也。㊁夏の時世。〔韓愈、送ニ孟東野一序〕夏之時、五子以ニ其歌一鳴。㊂夏の時節。夏季。〔說文〕丁、夏時萬物皆丁實。〔周禮、天官、食醫〕凡食齊眂ニ春時一、羹齊眂ニ夏時一、醬齊眂ニ秋時一、飮齊眂ニ冬時一。㊃明、錢塘の人。字は以正。官は戶科給事中。宣宗の時、廣西左布政使。前後十餘疏を上り、天下、其の敢言を壯とす。〔明史、一百六十一〕・〔萬斯同明史、二百九〕・〔明史稿、一百五十一〕。

【夏州】143 カシウ ㊀春秋の地名。今、湖北省夏口縣の北。〔左氏、宣、十一〕乃復封レ陳、鄕取ニ一人一焉、以歸、謂ニ之夏州一。〔戰國、楚策〕蘇秦說ニ楚威王一曰、楚地、西有ニ黔中巫郡一、東有ニ夏州海陽一、南有ニ洞庭蒼梧一、北有ニ汾陘之塞郇陽一。〔地理通釋〕徐廣曰、楚考烈王元年、秦取ニ夏州一、裴駰案、左傳注不レ說ニ夏州所在一、車胤撰桓溫集云、夏口城數里有レ洲、名ニ夏州一、正義云、大江中州也。㊁州の名。後魏、置く。晉の時に赫連勃勃の王を稱した地。陝西省橫山縣の西。〔唐書、地理志一、關內道〕夏州、朔方郡、土貢ニ氈角弓酥拒霜薺一。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭〕夏州城、在ニ鎭西北二百里一、周之朔方、秦爲ニ上郡地一、後沒ニ於匈奴一、漢元朔二年、逐ニ匈奴一、始置ニ朔郡一、云云、義熙九年、赫連勃勃、於ニ朔方水北、黑水之南一築レ城、曰ニ統萬一、遂都焉、云云、後魏主燾始光三年、襲ニ統萬一、大掠而還、明年、復襲ニ統萬一克レ之、因置ニ統萬鎭一、太和十一年、改置ニ夏州及化政郡一。㊂城の名。晉の赫連勃勃が築いた。陝西省楡林縣の西北。㊁を見よ。

【夏收】144 カシウ 夏の收冠。收は夏の冠の名。髮を收斂するからいふ。〔儀禮、士冠禮〕周弁・殷冔・夏收。〔注〕收、言所三以收ニ斂髮一也、其制之異、亦未レ聞。

【夏秋】145 カシウ 夏と秋。〔元史、文宗紀三〕江浙行省言、今歲夏秋、霖雨大水、沒ニ民田一甚多。

〔夏秋之閒〕146 カシウノカン 夏と秋との閒。夏と秋とのかはりめ。〔元田東野、幼學綱要序〕明治十二年夏秋之閒、臣永孚侍ニ經筵一。

〔夏秋富雅〕147 カシウトミマサ 佐賀の人。名は富雅。通稱は忠左衞門。教授を業とす。經學は折衷を主とす。嘉永三年十二月歿す。年六十二。著に朱王或問がある。〔佐賀先哲叢話〕。

【夏萩】148 ナツハギ ㊀萩の一種。夏から花が咲く。〔曾丹集〕夏はぎのをふの茂り。㊁襲カサネの色目の名。表は青、裏は紫で、夏に用ひる。

【夏室】149 カシツ ㊀夏季の部屋。〔劉潛、謝三始興王賜ニ花紈簟一啓〕夏室已寒、冬裘可レ襲。〔謝朓、在レ郡臥レ病呈ニ沈尙書一詩〕珍簟淸ニ夏室一、輕扇動ニ涼颸一。〔梁簡文帝、七勵〕冬闈溫煦、夏室含レ霜。㊁夏代の室。〔北史、宇文愷傳〕三王之世、夏最爲レ古、從レ質尙ニ文理一、應三漸就ニ寬大一、何因夏室乃大、殷堂相形爲ニ論理一、恐不レ爾。

【夏日】150 カジツ ㊀夏の季節。又、夏の晝。夏景。〔孟子、告子上〕冬日則飮レ湯、夏日則飮レ水。〔莊子、讓王〕冬日衣ニ皮毛一、夏日衣ニ葛絺一。〔史記、李斯傳〕冬日鹿裘、夏日葛衣。〔謝靈運、道路憶ニ山中一詩〕不レ怨ニ秋夕長一、常悲ニ夏日短一。〔元稹、遣興詩〕莫レ厭ニ夏日長一、莫レ悲ニ冬日短一。㊁夏の太陽。きびしく畏るべきことの喩。夏日可レ畏を見よ。〔庾信、周柱國大將軍大都督同州刺史段永神道碑〕繁不ニ秋荼一、嚴無ニ夏日一。〔李庾、東都賦〕赫若ニ夏日一、凜如ニ秋霜一。

〔夏日可レ畏〕151 カジツオソルベシ 夏の日は炎熱が強くて畏るべきものである。人物の嚴厲で畏るべき喩。〔左氏、文、七〕酆舒問ニ於賈季一曰、趙衰・趙盾、孰賢、對曰、趙衰、冬日之日也、趙盾、夏日之日也。〔注〕冬日可レ愛、夏日可レ畏。〔庾信、小園賦〕非ニ夏日一而可レ畏、異ニ秋天一而可レ悲。〔故事成語考、天文〕如ニ夏日之可レ畏、是謂ニ趙盾一。

【夏社】152 カシヤ ㊀夏后氏の社。社は土地の神を祭るやしろ。㊁を見よ。〔史記、封禪書〕欲レ遷ニ夏社一。〔竹書紀年、上〕殷商成湯十八年癸亥、王卽レ位居レ亳、始屋ニ夏社一。㊁尙書、商書の逸篇の名。夏社の遷すべからざる義を言ふ。〔書、夏社序〕湯旣勝レ夏、欲レ遷ニ其社一、不可、作ニ夏社・疑至・臣扈一。〔傳〕言ニ夏社不レ可レ遷之義一、疑至及臣扈三篇皆亡。

【夏昌】153 カシヤウ 淸、胡春生（**9－29400**・・497）の字。

【夏章】154 カシヤウ 淸、崔蔚林（**4－8178**・・198）の字。

【夏狩】155 ナツガリ 夏の狩獵。夏苗。〔東鑑、十三〕建久四年五月八日、將軍家爲レ覽ニ富士野藍澤夏狩一、人人赴ニ駿河國一給。

【夏首】156 カシユ ㊀夏のはじめ。首夏。初夏。孟夏。夏初。〔王僧孺、侍宴詩〕麗景屬ニ春餘一、淸陰澄ニ夏首一。〔王維、資聖寺送ニ甘二一詩〕柳色藹ニ春餘一、槐陰淸ニ夏首一。〔韋應物、始夏南園思ニ舊里一詩〕夏首雲物變、雨餘草木繁。㊁地名。夏水の口をいふ。〔荀子、解蔽〕夏首之南有レ人焉。〔注〕夏

首、夏水之首。〔楚辭、九章、哀郢〕過㆓夏首㆒而西浮兮。〔注〕夏首、夏水口也。

【夏儒】157（カジュ） 明、上元の人。武宗の毅皇后の父。正德中、慶陽伯に封ぜらる。〔明史、三百〕・〔萬斯同明史、三百九十九〕・〔明史稿、二百八十二〕。

【夏祝】158（カシュク） 古の官名。夏后氏の祭官。〔儀禮、既夕禮〕祝降與㆓夏祝㆒交㆓于階下㆒、取㆑銘置㆓于重㆒。

【夏熟】159（カジュク） 夏に熟する。〔史記、司馬相如傳〕盧橘夏熟。〔潘岳、橘賦〕已鬱鬱而冬茂、亦離離而夏熟。〔歐陽詹、徐十八晦落第詩〕嘉穀不㆓夏熟㆒、大器當㆓晚成㆒。

【夏初】160（カショ） なつのはじめ。夏首。〔韋應物、道晏寺主院詩〕殘花迴㆓往節㆒、輕條蔭㆓夏初㆒。〔白居易、首夏南池獨酌詩〕春盡雜英歇、夏初芳草深。〔皮日休、茶塢詩〕好是夏初時、白花滿㆓煙雨㆒。

【夏書】161（カショ） 尚書の四書の一。夏后氏の記錄。禹貢・甘誓・五子之歌・胤征の四篇。尚書(**4－7493**··85)の❶を見よ。〔書、夏書、蔡傳〕夏、禹有㆓天下㆒之號也、書凡四篇、禹貢作㆓於虞時㆒、而繫㆓之夏書㆒者、禹之王、以㆓是功㆒也。〔左氏、僖、二十七〕夏書曰、賦納以㆑言、明試以㆑功、車服以㆑庸。〔孔安國、尚書序〕至㆓于夏商周之書㆒、雖㆓設㆑教不倫㆒、雅誥奧義、其歸一揆。

【夏埜】162（カショ） 鎭の名。江蘇省武進縣。二つある。一は縣の西北、孟瀆の濱に當る商業地。一は縣の南、邵堯港に跨がり、南夏埜といふ。

【夏升】163（カショウ） 明、鹽城の人。字は景高。官は衢州知府。〔明史、二百八十一〕。

【夏承】164（カショウ） ❶後漢の人。字は仲兗。詩及び尚書を治む。官は冀州從事・淳于長。蔡邕の書いた承の墓碑が、今、紫山書院に存す。❷宋、鄞の人。字は元茂。進士。官は開封少尹。後、左朝議大夫を贈らる。〔宋史翼、三十〕。

【夏竦】165（カショウ） 宋、德安の人。字は子喬。謚は文莊。官は武寧郡節度使。封は鄭國公。文集百卷がある。〔宋史、二百八十三〕・〔宋史新編、八十六〕・〔東都事略、五十四〕・〔隆平集、十一〕・〔名臣碑傳琬琰集、上、二十二〕。

【夏鍾】166（カショウ） 清、張汝瑚(**4－9812**··1202)の字。

【夏津】167（カシン） 縣名。❶隋、置く。故城は今の河北省清河縣の北。❷唐、置く。漢の信鄉縣、後漢の甘陵縣の地。山東省臨清縣の東北。〔讀史方輿紀要、山東、東昌府、高唐州〕夏津縣、州西五十里、漢置㆓信鄉縣㆒、屬㆓清河郡㆒、云云、天寶初、改㆑縣曰㆓夏津㆒、五代漢改屬㆓大名府㆒。〔清史稿、地理志〕山東、臨清直隸州、縣三、夏津。

【夏森】168（カシン） ❶宋の人。珪の子。畫に巧み。〔南宋院畫錄、六〕。❷清の人。字は茂林。畫に巧。〔國朝畫識、三〕。

【夏箴】169（カシン） 夏代の規誡の意を述べた韻文。〔逸周書、文傳解〕夏箴曰、小人無㆓兼年之食㆒、遇㆓天饑㆒、妻子非㆓其有㆒也、大夫無㆓兼年之食㆒、遇㆓天饑㆒、臣妾輿馬、非㆓其有㆒也、戒㆑之哉、弗㆑思弗㆑行、至無㆑日矣。

【夏人】170（カジン） ❶夏后氏の子孫。〔史記、貨殖傳〕潁川・南陽、夏人之居也。〔注〕正義曰、禹居㆓陽城㆒、潁川・南陽、皆地夏也。❷西夏の國人。〔陔餘叢考、夏人遼人〕哲宗元符元年、夏人寇㆓平夏㆒、城㆓章楶㆒、大敗㆑之。

【夏水】171（カスイ） 川の名。今名は長夏河。上流は大暉港。大江に注ぐ。〔水經、夏水〕夏水、出㆓江津于江陵縣東南㆒、又東過㆓華容縣南㆒、又東至㆓江夏雲杜縣㆒、入㆓于沔㆒。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、江陵縣〕夏水、府東南二十五里、有㆓夏水口㆒、乃夏水之首、江之汜也、亦謂㆓之豫章口㆒、水經注、江水又東得㆓豫章口㆒、夏水所㆑通也、西北有㆓豫章岡㆒、蓋因㆑岡而得㆑名、云云、夏水又逕㆓監利縣㆒、至㆓沔陽州㆒、爲㆓長夏河㆒、又東合㆓漢水㆒入㆑江。

【夏隨】172（カズイ） 宋の人。守贇の子。字は君正。謚は莊恪。官は緣邊招討副使。〔宋史、二百九十〕・〔宋史新編、八十九〕・〔東都事略、六十二〕。

【夏數】173（カスウ） 夏后氏の曆法。夏正。夏曆。夏時(142)の❶を見よ。〔左氏、昭、十七〕火出、於㆑夏爲㆓三月㆒、於㆑商爲㆓四月㆒、於㆑周爲㆓五月㆒、夏數得㆑天。〔注〕得㆓天正㆒。〔疏〕斗柄所㆑指、一歲十二月、分爲㆓四時㆒、夏以㆓建寅㆒爲㆑正、則斗柄東指爲㆑春、南指爲㆑夏、是爲㆑得㆓天四時之正㆒也、若㆓殷周之正㆒、則不㆑得㆑正。〔逸周書、周月解〕萬物春生夏長、秋收冬藏、天地之正、四時之極、不易之道、夏數得㆑天、百王所㆑同。

【夏正】174（カセイ） 夏后氏の曆法。夏數。夏曆。夏時(142)の❶を見よ。〔書、咸有一德〕爰革㆓夏正㆒。〔蔡傳〕改㆓夏建寅之正㆒、而爲㆓建丑正㆒也。〔禮、郊特牲、郊之祭也、注〕易說曰、三王之郊、一用㆓夏正㆒、夏正、建寅之月也。〔漢書、谷永傳〕漢家行㆓夏正㆒、夏正色黑、黑龍、同姓之象也。〔注〕張晏曰、夏以㆓建寅㆒爲㆑正。

【夏政】175（カセイ） ❶夏季に施行する政令。夏令。〔管子、幼官〕春行㆓冬政㆒肅、行㆓秋政㆒雷、行㆓夏政㆒閹。❷夏后氏の政治。〔陸倕、石闕銘〕周變㆓商俗㆒、湯黜㆓夏政㆒。〔注〕善曰、尚書曰、湯既黜㆓夏命㆒、復歸㆓于亳㆒、翰曰、夏、桀也。

【夏凊】176（カセイ） 夏の暑さを和らげる爲に涼しくすること。孝道の一つ。〔禮、曲禮上〕冬溫而夏凊。

【夏誠】177（カセイ） 明、仁和の人。字は克誠。宣德の擧人。英宗の北征の時、扈從し、難に遇うて陣沒す。〔明史、一百六十七〕・〔明史稿、一百五十二〕。

【夏聲】178（カセイ） 中國の音樂。〔左氏、襄、二十九〕吳公子札來聘、請㆑觀㆓於周樂㆒、云云、爲㆑之歌㆑秦、曰、此之謂㆓夏聲㆒。〔注〕有㆓諸夏之聲㆒、故謂㆓之夏聲㆒。

【夏汭】179（カゼイ） 地名。漢水の江に入る處で、今の湖北省漢口鎭。〔左氏、昭、四〕吳伐㆑楚、楚沈尹射、奔㆓命于夏汭㆒。〔注〕漢水曲㆓入江㆒處、今夏口也。

【夏石】180（カセキ） 鍾乳石(**11－40672**··95)の異名。〔本草、石鍾乳〕釋名、留公乳・虛中・蘆石・鵝管石・夏石・黃石砂。

【夏積】181（カセキ） 明、吉水の人。字は孚英。景泰の進士。官は刑部郎中。〔江西通志〕。

【夏雪】182（カセツ） ❶夏季に雪がふる。又、夏の雪。〔荀悅、漢紀序〕凡災異大者、日蝕五十六、云云、冬雷五、夏雪三。〔晉書、五行志下〕京房易傳曰、夏雪、戒㆓臣爲㆑亂、此其亂之應也。〔孔稚珪、遊㆓太平山㆒詩〕陰澗落㆓春榮㆒、寒巖留㆓夏雪㆒。〔鮑照、擬古詩〕陰崖積㆓夏雪㆒、陽谷散㆓秋榮㆒。〔元稹、表夏詩〕西山夏雪消、江勢東南瀉。❷（ナツユキ） 植物の名。㋑かまつかの異名。㋺なつゆきさうの略。莖の高さは二尺ばかりで、葉は掌狀に分裂し、夏日、白色四瓣の小花を簇開する。㋩うつぎの異名。〔藻鹽草、八〕卯花、云云、夏雪草、異名。

【夏節】183（カセツ） ❶夏の時節。夏時。〔禮、祭統、未㆑發㆓秋政㆒、則民不㆓敢草㆒也、疏〕言㆘夏節雖㆑盡、人君未㆔發㆓行秋政㆒、則民不㆗敢艾㆘草也。〔白虎通、日月〕日所㆔以有㆓長短㆒何、陰陽更用㆑事也、故夏節晝長、冬節夜長。❷五月五日、端午の節句。〔宋書、自序傳〕五月夏節日至、預正大集會子弟盈㆑堂。

【夏燮】184（カセフ） 清、當塗の人。字は嗛父。永新縣の長官となる。中西紀事を著し、江上蹇叟と託名して、互市傳教の顚末を詳述し、頗る外人を詆つたため、干涉せられて出版を禁ぜらる。又、著に述韻・明通鑑がある。

【夏瑄】185（カセン） 明の人。原吉の子。官は南京太常少卿。〔明史、一百四十九〕。

【夏僎】186（カセン） 宋、龍游の人。字は元肅。號は柯山。進士。著に尚書詳解がある。〔四庫提要、十一〕。

【夏瞻】187（カセン） 夏侯瞻(110)を見よ。

【夏蟬】188（カセン） なつせみ。夏の蟬。〔晉子夜四時歌、夏歌〕林鵲初改調、林中夏蟬鳴。

【夏祚】189（カソ） 明の人。字は天錫。成化の進士。官は福建右布政使。〔尚友錄、十六〕。

【夏楚】190（カソ） 人を懲すに用ひるむち。夏は榎（ヒサギ）、楚は荊（ライバ）。鞭うつて教訓する意。榎楚。檟楚。〔禮、學記〕夏楚二物、收㆓其威㆒也。〔注〕夏、稻也、楚、荊也、二者所㆔以撲㆓撻犯㆑禮者㆒。〔疏〕爾雅釋木云、稻、山榎、郭景純云、今之山楸。〔魏志、傅嘏傳、注〕見㆑理識㆑情、獄訟不㆑加㆓檟楚㆒、而得㆓其實㆒。〔柳宗元、四門助教聽壁記〕助教之職、佐㆓博士㆒、以掌㆓鼓篋榎楚之政令㆒、分㆓其人㆒而教㆓育之㆒。〔書言故事、儒學類〕撻而訓㆑之曰㆓夏楚㆒。

【夏宗】191（カソウ） ❶夏期に諸侯が天子に朝すること。〔周禮、秋官、大行人〕夏宗以陳㆓天下之謨㆒。〔注〕夏見㆓諸侯㆒、則陳㆓其謀之是非㆒。❷清、石璜(**8－24024**··207)の字。

【夏叟】192（カソウ） 明、繁昌の人。字は廷美。焦竑に命ぜられて四書を讀み、發明する所が少くない。〔明史竊、七十七〕。

【夏瘦】193（ナツヤセ） 暑さにまけてやせること。〔萬葉集、十六〕夏瘦によしとふ物ぞ、むなぎ取り召せ。

【夏足】194ナダセ 姓氏。〔姓林全書〕。

【夏臺】195カダイ 夏后氏の獄名。轉じて、牢獄をいふ。鈞臺。夏宮。〔廣雅、釋宮〕獄、犴也、夏曰二夏臺一、殷曰二羑里一、周曰二囹圄一。〔史記、夏紀〕帝桀之時、召レ湯而囚二之夏臺一。〔淮南子、氾論訓〕桀囚二於焦門一、而不レ能三自非二其所一レ行、而悔レ不レ殺二湯於夏臺一。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕昔湯繫二於夏臺一、伊尹不レ離二其側一。〔太平御覽、刑法部、獄〕風俗通曰、周禮、三王始有レ獄、夏曰二夏臺一。〔續博物志、九〕牖里在二湯陰縣一、廣雅稱二獄犴一也、夏曰二夏臺一、商曰二羑里一、周曰二囹圄一、皆圓土也。

【夏道】196カダウ 夏后氏の政道。夏の朝廷の政治。〔禮、禮運〕孔子曰、我欲レ觀二夏道一、是故之レ杞、而不レ足レ徵也、吾得二夏時一焉。

【夏治】197カチ 清、吳衡照(**2**‒**3365**‥479)の字。

【夏書】198カチウ 夏の書。〔韋應物、澧上寄二幼遐一詩〕夏書人已息、我懷獨未レ寧。

【夏袒】199カチヤウ 夏昶を見よ。

【夏昶】200カチヤウ 明の人。一に夏袒に作る。昺の弟。字は仲昭。號は玉峯・自在居士。永樂の進士。太常寺卿に累遷し、內閣に直す。詩文書畫を善くす。〔明史、二百八十六〕・〔明史稿、二百六十七〕。

【夏着】201ナツギ 夏に着る衣服。夏衣。

【夏中】202カチユウ ❶夏のもなか。陰曆六月。〔王羲之、謝二仁祖一帖〕忽然夏中、感懷冷冷。〔宋書、庾炳之傳〕夏中送二甘蔗一。〔戴叔倫、送三裴判官回二湖南一詩〕莫レ怕南風且レ盡レ歡、湘山多レ雨夏中寒。❷ナツチユウ 夏の全期間。

【夏忠】203カチユウ 明、睢州の人。字は思誠。官は大名府知。〔尚友錄、十六〕。

〔夏忠靖集〕204カチユウセイシフ 書名。六卷。明、夏原吉撰。其の體は平實雅淡で華靡を事とせず、世用に切なるものがある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【夏蟲】205カチユウ 夏のむし。其の氷を知らないことから、世事にうとい者の喩。〔莊子、秋水〕夏蟲不レ可三以語二於冰一者、篤二於時一也。曲士不レ可三以語二於道一者、束二於敎一也。〔晉書、吐谷渾傳〕語曰、夏蟲不レ知二冬冰一、良不レ虛也。

〔夏蟲疑レ冰〕206カチユウコホリヲウタガフ 夏季だけ生きて居る蟲は氷を信じない。見聞の淺い者が妄りに事を疑ふ喩。夏蟲を見よ。〔孫綽、遊二天台山一賦〕哂二夏蟲之疑レ冰、整二輕翮一而思レ矯。〔注〕善曰、言三淺近小智、同二乎夏蟲一、銑曰、夏蟲不レ知三冬有二寒冰一、亦猶二小智不レ識二高道一、故笑レ之。

〔夏蟲不レ可三以語二於冰一〕207カチユウハモツテコホリヲカタルベカラズ 世事にうとく識見の狹い喩。夏蟲・夏蟲疑レ冰を見よ。

【夏重】208カヂユウ 清、査愼行(**6**‒**14643**‥103)の字。

【夏椿】209カチユン 元、松江華亭の人。元德の饑饉に廬舍を鬻いて饘粥を供養した。〔元史、一百九十七〕。

【夏寵】210カチヨウ 明、京山の人。字は時承。幼にして穎悟、讀書五行並び下る。麻城の賊に捕へられ、釋されて後、鄕薦に登る。〔本朝分省人物攷、七十七〕。

【夏丁】211カテイ 複姓。〔姓氏辯證〕衞大夫太叔悼子之甥曰二夏戊一、其祖字丁、以二王父字一爲二夏丁氏一。

【夏庭】212カテイ 夏后氏の朝廷。〔班固、幽通賦〕震鱗漦二于夏庭一、匝二三正一而滅レ姬。〔李康、運命論〕幽王之惑二褒女一也、祅始二于夏庭一。

【夏鼎】213カテイ ❶夏の禹王が九州の金を集めて鑄た鼎。九鼎。九州に象る。傳國の寶器。九鼎(**1**‒**167**‥465)の❶を見よ。〔左氏、宣、三〕楚子問二鼎之大小輕重一焉、對曰、在レ德不レ在レ鼎、昔夏之方有レ德也、遠方圖レ物貢レ金、九牧鑄レ鼎象レ物。〔左思、吳都賦〕名載二於山經一、形鏤二於夏鼎一。〔宋書、范泰傳〕夏鼎負圖、實冠二衆瑞一。〔歐陽脩、讀二山海經圖一詩〕夏鼎象二九州一、山經有二遺載一。❷明、貴溪の人。官は臨淸州の長官。〔明史、一百九十六〕。

〔夏鼎商彝〕214 hsia^{4} ting^{3} shang^{1} i^{2} 骨董品。

【夏條】215カデウ 夏季の繁茂した木の枝。〔陸機、從軍行〕夏條焦二鮮藻一、寒冰結二衝波一。〔沈佺期、夏日梁王席送二張岐州一詩〕芃芃秋麥盛、苒苒夏條垂。〔韋應物、夏花明詩〕夏條綠已密、朱萼綴二明鮮一。

【夏狄】216カテキ 夏翟に同じ。〔周禮、天官、染人〕秋染レ夏、〔注〕染二五色一、謂二之夏一者、其色以二夏狄一爲レ飾、禹貢曰、羽畎夏狄。〔漢書、地理志上〕羽畎夏狄。〔注〕師古曰、夏狄、狄雉之羽、可レ爲二旌旄一者也、羽山之谷出焉。

【夏迪】217カテキ 明、吉安の人。元末に寇が起るや、萬夫長を以て崑山を守る。太祖が天下を定めるに及び、廬を海濱に結び、詩を作つて自適す。〔國朝獻徵錄、六十四〕。

【夏翟】218カテキ 五色の羽を具へた雉。夏狄。〔書、禹貢〕羽畎夏翟。〔傳〕夏翟、翟雉名。〔庾信、謝二趙王賚レ雉啓〕夏翟秋飛、江翬春鬭。

【夏天】219カテン なつのそら。なつの日。夏。〔韋應物、休二暇東齋一詩〕岸幘掩二東齋一、夏天淸二曉露一。〔王建、昭應官舍書事詩〕臘月近レ湯泉不レ凍、夏天臨レ渭屋多レ涼。

【夏店】220カテン 鎭の名。❶河北省三河縣の西南、鮑丘河の西岸。又、夏墊に作る。〔三河縣志〕五槐公館在二夏店一、舊有レ驛、今廢。❷山東省昌邑縣の東北。明初、馬驛を此處に設く。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、平度州、昌邑縣、棠鄕〕夏店馬驛、在二縣東北二十里一。❸山西省襄垣縣の西。濁漳水の北岸。❹湖北省黃陂縣の北。

【夏篆】221カテン 車のこしきを五色に染めた飾り。又、其の車。孤の乘り物。〔周禮、春官、巾車〕孤乘二夏篆一、卿乘二夏縵一。〔注〕夏篆、五采畫二轂約一也。〔宋史、輿服志二〕夏篆者、篆二其車一而五采畫レ之也。

【夏簟】222カテン 暑い時に用ひる敷物。たかむしろ。〔江淹、別賦〕夏簟靑兮晝不レ暮、冬釭凝兮夜何長。〔隋煬帝、夏日臨レ江詩〕夏簟蔭二修竹一、高岸坐二長楓一。〔杜甫、鄭駙馬宅宴二洞中一詩〕主家陰洞細煙霧、留客夏簟靑琅玕。〔元稹、友封體詩〕雨送二浮涼一夏簟淸、小樓腰褥怕二單輕一。

【夏統】223カトウ 晉、永興の人。字は仲御。孝子。〔晉書、九十四〕。

【夏德】224カトク 宋の人。字は子益。醫術に精通す。著に奇疾方・衞生十全方がある。〔四庫提要、一百三〕。

【夏熱】225カネツ 夏のあつさ。〔呂覽、君守〕東海之極、水至而反、夏熱之下、化而爲レ寒。〔易林、乾之二旣濟一〕夏熱冬寒。

【夏梅】226ナツウメ 木の名。❶沙羅樹(**6**‒**17212**‥230)の一名。なつつばき。❷なつうめつる。またたび。

【夏方】227カハウ 晉、永興の人。字は文正。官は吳の時、五官中郎將、晉の時、高山令。〔晉書、八十八〕。

【夏帽】228ナツバウ 夏にかぶる帽子。夏帽子。涼帽(**7**‒**17606**‥68)の❶に同じ。

【夏雹】229カハク 夏、ひようがふる。又、其の雹。〔後漢書、五行志三、刑誅深刻、注〕易緯曰、夏雹者、治道煩苛、繇役急促、敎令數變、無レ有二常法一。

【夏半】230カハン 陰曆四月の異名。仲呂。〔韓愈、送二劉師服一詩〕夏半陰氣始、淅然雲景秋。

【夏晚】231カバン なつのよひ。〔寇坦、同二張少府一和二庫狄員外夏晚初霽一詩〕晏居當二夏晚一、寓直會二晴初一。

【夏彪】232カヒウ 夏元彬(307)を見よ。

【夏布】233カフ 牡麻の纖維で織つた麻布。夏の衣を作るからいふ。〔元史、英宗紀一〕給二通漷二州蒙古戶夏布一。

【夏服】234カフク ❶なつぎ。なつふく。夏にきる服。〔韓非子、顯學〕墨者之葬也、冬日冬服、夏日夏服、桐棺三寸、服レ喪三月、世以爲レ儉。〔南史、蔡廓傳〕妻郗氏書求二夏服一。〔元稹、含風夕詩〕夏服稍輕淸、秋堂已岑寂。〔白居易、秋霽詩〕冬衣殊未レ製、夏服行將レ綻。❷夏后氏のえびら。〔司馬相如、子虛賦〕左二烏號之彫弓一、右二夏服之勁箭一。〔注〕善曰、服虔曰、服、盛レ箭器也、夏后氏之良弓名二繁弱一、其矢亦良、卽繁弱・箭服、故曰二夏服一也。〔梁簡文帝、旦出二興業寺一講レ詩詩〕吳戈夏服箭、驥馬綠沈弓。

【夏馥】235カフク 後漢、圉の人。字は子治。中官に憚られ、誣害せられて黨魁と號せらる。〔後漢書、九十七〕・〔高士傳、下〕。

【夏祓】236ナツバラヘ 夏の夕方、水邊で行ふはらへ。みなづきばらへ。夏越祓(286)を見よ。〔後撰和歌集、夏〕みな底澄みて照る月の、行きて見んとや夏ばらへする。

【夏物】237ナツモノ ❶夏の頃の品物。❷夏に著る衣服。夏着。

【夏雯】238カブン 清、錢塘の人。字は治徵。號は南屛山樵。畫に巧み。

【夏昺】239カヘイ 明、崑山の人。字は孟暘。永樂中、弟昶と同じく中書舍人となり、大小中書と稱せ

らる。〔明史、二百八十六〕・〔明史稿、二百六十七〕。

【夏飆】240（カヘウ） 夏の涼風。〔江淹、雜體、顏特進侍宴詩〕桂棟留二夏飆一、蘭橑停二冬霰一。

【夏苗】241（カベウ） ❶夏季の狩獵。獸の苗を害するを除く意にとつていふ。〔左氏、隱、五〕春蒐、夏苗、秋獮、冬狩、皆於二農隙一以講レ事也。〔注〕苗、爲レ苗除レ害也。〔穀梁、桓、四〕春曰レ田、夏曰レ苗、秋曰レ蒐、冬曰レ狩。❷夏の苗。〔包何、送二韋侍御一詩〕手持二霜簡白一、心在二夏苗青一。

〔夏苗田〕242（カベウデン） 晉の鼓吹曲の名。晉、傅玄作。〔晉書、樂志下〕改二臨高臺一、爲二夏苗田一。

【夏父】243（ホカ） 複姓。〔姓源〕出二曹姓一、邾婁顏公之子曰二夏父一、其後以二王父字一爲レ氏。

〔夏父弗忌〕244（カホフツキ） 春秋、魯の人。文公の大夫。夏父展の後。〔左氏、文、二〕。

【夏甫】245（ホカ） 字號。❶後漢、袁閎(10－34152・・43)の字。❷後漢、黃眞(12－47926・・517)の字。

【夏浦】246（ホカ） ❶夏の水邊。〔楚辭、九章、哀郢〕背二夏浦一而西思兮、哀二故都之日遠一。〔陳子昂、春晦餞二陶七於江南一詩〕芙蓉生二夏浦一、楊柳送二春風一。❷明、韓楷(12－43159・・30)の號。

【夏溥】247（ホカ） 宋の人。希賢の子。字は大之。經學に博通し、安定書院山長となる。官は龍興教授。其の詩は自ら一家を成し、時に夏體と稱せられた。〔宋元學案、七十四〕。

【夏峯】248（カホウ） なつやま。夏のみね。〔劉孝綽、歸沐呈二任中丞昉一詩〕白雲夏峯盡、青槐秋葉疎。

〔夏峯先生〕249（カホウセンセイ） 清、孫奇逢(3－6987・・360)の尊稱。

【夏戊】250（カボウ） 複姓。〔路史〕衞後有二夏戊氏一。

【夏木】251（カボク） ❶なつき。夏の木。〔淮南子、說林訓〕冬冰可レ折、夏木可レ結、時難レ得而易レ失。〔王粲、思レ友賦〕夏木兮結レ莖、春鳥兮愁鳴。〔陶潛、庚子歲五月中從レ都還阻二風於規林一詩〕高莽眇無レ界、夏木獨森疎。〔王維、積雨輞川庄作詩〕漠漠水田飛二白鷺一、陰陰夏木囀二黃鸝一。❷柳をいふ。柳は、古、男子が生れた時、南方を射る時の弓に用ひたからいふ。五行說に於て、南は夏に配當する。〔丹鉛錄〕古禮、男子生而射二天地四方一、其文云、東方之弧以二梧桐一、梧桐者、東方之草、春木也、南方之弧以レ柳、柳者、南方之草、夏木也、中央之弧以レ桑、桑者、中央之木也、西方之弧以レ棘、棘者、西方之草、秋木也、北方之弧以レ棗、棗者、北方之草、冬木也、是木亦稱レ草也。

〔夏木立〕252（ナツコダチ） 夏の季節に繁る木立。〔新撰六帖、六〕桑原や茂るとも見えぬ夏木立かな。

【夏毛】253（ナツゲ） 鹿の毛が夏を經て黃色の斑となつたもの。最良の鹿毛。〔東鑑、十一、建久二年十一月二十二日〕むかばき一懸、なつげ。

【夏縵】254（カマン） 五色に染めた絹で飾つた車。卿の乘り物。〔周禮、春官、巾車〕卿乘二夏縵一。〔注〕夏縵、亦五采畫、無レ瑑爾。

【夏盟】255（カメイ） 中國の諸侯の盟ひ。中國の盟ひ。〔左氏、襄、二十四〕晉主二夏盟一。〔注〕晉爲二諸夏盟主一。〔文天祥、過二平原一作詩〕公家兄弟奮レ戈起、一十七郡連二夏盟一。

【夏夜】256（カヤ） なつの夜。夏夕。〔王昌齡、東京府縣諸公云云詩〕南風開二長廊一、夏夜如二涼秋一。〔盧仝、夏夜聞二蚯蚓吟一詩〕夏夜雨欲レ作、傍砌蚯蚓吟。

【夏羊】257（カヤウ） 黑色の羊。夏后氏が黑色を尙んだことからいふ。綿羊。〔爾雅、釋畜〕夏羊、牡羭、牝羖。〔疏〕夏羊者、黑羖攊也、其牡者名レ羭、卽黑羝也、其牝者名レ羖。

【夏陽】258（カヤウ） ❶縣名。㋑秦、置く。魏の少梁の地。韓信が木罌を以て軍を渡し、魏の安邑を襲つた所。故城は今の陝西省韓城縣の南。〔史記、張儀傳〕張儀爲レ相更レ名、少梁曰二夏陽一。〔漢書、地理志上〕左馮翊、縣二十四、夏陽。〔注〕故少梁、秦惠文王十一年更レ名、禹貢梁山在二西北一、龍門山在レ北、有二鐵官一。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、同州〕韓城縣、云云、古韓國、晉爲二少梁邑一、秦更名二夏陽一、漢爲二夏陽縣一、屬二左馮翊一、後漢因レ之、云云、隋爲二韓城縣一。㋺後魏、置く。今の山西省臨汾縣の地。㋩唐、河西縣を置き、改めて夏陽とす。故城は今の陝西省郃陽縣の東。〔岑參、送三崔主簿赴二夏陽一詩〕常愛二夏陽縣一、往年曾再過。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、同州、郃陽縣〕河西城、縣東四十里、唐武德三年、分二郃陽縣一置、幷二置西韓一、云云、乾元三年、改爲二夏陽縣一、屬二河中府一、尋還屬二同州一。❷複姓。〔姓譜〕晉大夫夏陽說、其先以二所レ食邑一爲レ氏。

【夏礿】259（カヤク） なつまつり。天子が行ふ夏祭。礿は禴(8－24870)に同じ。〔禮、明堂位〕夏礿・秋嘗・冬烝・春社。

【夏籥】260（カヤク） 夏后氏の文舞の樂名。〔禮、仲尼燕居〕下管象武、夏籥序興。〔注〕夏籥、文舞也。〔疏〕夏籥、謂二大夏文舞之樂一、以象二武次序更遞而興一。〔呂覽、古樂〕命二皐陶一、作二爲夏籥九成一、以昭二其功一。〔淮南子、齊俗訓〕夏后氏、其樂夏籥九成、六佾六列六英。

【夏輸】261（カユ） 夏期の納稅。〔唐書、食貨志二〕至三德宗相二楊炎一、遂作二兩稅法一、夏輸無レ過二六月一。

【夏潦】262（カラウ） 夏の大水。〔宋史、河渠志七〕夏潦漲溢、荊南復州千餘里、皆被二其害一。

【夏澇】263（カラウ） 夏のなが雨。〔蘇軾、司馬溫公行狀〕譬如二雨澤夏澇、則秋旱不レ加レ賦。

【夏臘】264（カラフ・ゲラフ） 僧の年齡。臘は冬。僧は夏冬二期を安息の時とするから、夏臘を以て年を紀する。又、單に臘ともいふ。春秋。〔白居易、沃洲山禪院記〕夏臘之僧、歲不レ下二八九十一、安二居遊觀之外一、日與寂然。〔賈島、寄二無得頭陀一詩〕夏臘今應二三十餘一、不レ離二樹下塚間居一。〔杜荀鶴、贈二老僧一詩〕衆僧尊二夏臘一、靈嶽遍曾登。

【夏鑾】265（カラン） ❶清、當塗の人。字は德音。號は朗齋。嘉慶の優貢生。官は徽州府訓導。程朱の學を服膺す。陳宏謀の五種遺規を刪補す。❷清、上元の人。字は鳴之。詩畫に巧。咸豐中、曾國藩に屬して戰艦を監造す。城陵磯の敗に戰死す。〔清史稿、四百九十五〕・〔續碑傳集、七十一〕・〔中興將帥列傳、六下〕。

【夏李】266（カリ） 大きい李をいふ。〔述異記、下〕杜陵有二金李一、李之大者、謂二之夏李一、尤小者、呼爲二鼠李一。「公、河內人。

【夏里】267（カリ） 複姓。〔萬姓統譜〕夏里、四皓夏里黃

【夏梨】268（カリ） 夏の梨。〔易林、否之第十二、漸〕春栗夏梨、山鮮希レ有、斗千石萬、貴不レ可レ求。

【夏涼】269（カリヤウ） 夏のすずしいこと。〔禮、儒行、冬夏不レ爭二陰陽之和一、〔疏〕冬溫夏涼、是陰陽之和。〔神仙傳〕夫冬溫夏涼、不レ失二四時之和一、所二以適レ身也。〔謝朓、思歸賦〕園桃春發、窗竹夏涼。

【夏綸】270（カリン） 清の人。戲曲家。乾隆元年、博學鴻詞科に應じたが、人に阻まれ、以後、仕進の志を絕ち、專ら著述に耽つた。乾隆十七年、惺齋五種を著し、翌年、更に一種を加へて新曲六種と稱す。〔曲錄〕。

【夏霖】271（カリン） 明、吉水の人。字は道存。洪武の間、文學を以て徵されて、本郡教授となる。著に荷亭集・金灘集がある。〔小腆紀年、十七〕。

【夏令】272（カレイ） ❶夏季の施令。夏政。〔禮、月令〕孟春行二夏令一、則雨水不レ時。❷夏后氏の每月の物候を記したもの。夏時。〔孟子、離婁下、十二月輿梁成、集注〕夏令曰、十月成レ梁、蓋農功已畢、可レ用二民力一。❸夏の時候。

【夏禮】273（カレイ） 夏后氏の禮法。〔中庸〕吾說二夏禮一、杞不レ足レ徵也。〔論語、八佾〕子曰、夏禮吾能言レ之、杞不レ足レ徵也。

【夏曆】274（カレキ） ❶夏后氏の曆。夏正(174)・夏數(173)・夏時(142)の❶を見よ。夏令。夏歷。〔後漢書、律曆志中〕永元十四年、待詔太史霍融上言、官漏刻、率九日增二減一刻一、不二與レ天相應一、或時差至二二刻半一、不レ如二夏曆密一。〔宋書、歷志下〕夏曆七曜西行、特違二衆法一、劉向以爲二後人所レ造、此可レ疑之據二一也。❷陰曆。舊曆。

【夏歷】275（カレキ） 夏曆の❶に同じ。

【夏漏】276（カロウ） 夏の水時計。〔竇鞏、漏賦〕赫赫曈曈、時方祝融、傳二夏漏于深宮一。

【夏王】277（カワウ） ❶夏季の王。火をいふ。夏は五行では火に當るからいふ。〔雲笈七籤〕木春王、火夏王、金秋王、水冬王。❷夏の王。㋑禹をいふ。〔孫樵、梓潼移江記〕彼其民曰、夏王鞭二促萬靈一、以導二百川一、今果能改二夏王迹一耶。㋺桀をいふ。〔書、泰誓中〕厥監惟不レ遠、在二彼夏王一。〔傳〕其視二紂罪一、與レ桀同レ辜。❸唐、竇建德(8－25695・・66)をいふ。

【夏安期】278（カアンキ） 宋の人。竦の子。字は淸卿。官は龍圖閣直學士。〔宋史、二百八十三〕・〔宋史新編、八十六〕・〔東都事略、五十四〕・〔北宋經撫年表、五十七・六十二・六十三・六十六〕。

【夏威夷】279（ハワイ） 群島の名。布哇。Hawaii

【夏爲堂】280（カキダウ） 清、黃周星（**12**－**47926**‥1126）の室名。

【夏友蘭】281（カイウラン） 元、安樂の人。字は幼安。吳澄に從學す。大德中、鰲溪書院を建て、田五百畝を捐して學者を給足した。〔宋元學案、九十二〕。

【夏油川】282（ゲトウカハ） 川の名。陸中國に在る。

【夏允彝】283（カインイ） 明、松江華亭の人。字は彝仲。崇禎の進士。古を好んで博學。絕命辭を賦し、自ら淵に投じて死す。〔明史、二百七十七〕·〔明史稿、二百五十八〕。

【夏雲英】284（カウンエイ） 明、莒州の女子。年十三で周憲王の宮人となる。姿色絕倫、天資聰明。元妃が卒して後は、內政を專らにす。寵に居ても華靡を樂しまず、賢聲あり。年二十二にて、疾を以て尼となる。法名は悟蓮。書室を端淸閣（端華閣）といふ。著に端淸閣詩·法華經讚がある。〔列朝詩集小傳、閏〕。

【夏雲蛟】285（カウンカウ） 明、嘉定の人。諸生。南京が陷るや、城を守つて死す。〔明史、二百七十七〕。

【夏越祓】286（ナゴシノハラヘ） 陰曆六月晦日に諸社で行はれる神事。茅又は菅で輪を作り、參詣の人に潛り越えさせ、茅麻の幣を以て總身を祓ひ清め、又、水邊に五十串を立てて祝詞を誦し、かたしろを作つて川に流し、祓へを修める。夏祓。水無月祓。〔宇津保物語、祭使〕あふ事のなごしのはらへしつるかな。

【夏園村】287（カエンソン） 村の名。廣東省番禺縣の東南。もと鹿步巡司があつた。〔番禺縣志〕鹿步墟、在㆓夏園村㆒、去㆓波羅廟㆒里許。

【夏嘉遇】288（カカグウ） 明、松江華亭の人。字は正甫。萬曆の進士。官は禮部主事。〔明史、二百三十六〕·〔萬斯同明史、三百四十一〕·〔明史稿、二百十九〕。

【夏行美】289（カカウビ） 遼、渤海の人。官は副部署。〔遼史、八十七〕。

【夏希賢】290（カキケン） 宋、淳安の人。字は自然。錢時の弟子。性理を究明し、門を閉ぢて出ない事三十餘年。學者、自然先生と稱した。〔宋元學案、七十四〕·〔宋季忠義錄、十三〕。

【夏熙臣】291（カキシン） 清、孝感の人。字は無易。號は瓠尊山人。七歲、諸生に補せられ、歲貢生より安陸府教授となる。著に匏尊山人詩集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【夏熙澤】292（カキタク） 清、新建の人。字は爲霖。號は存齋。康熙の進士。官は增城縣の長官。〔清史列傳、七十四〕·〔碑傳集、九十七〕·〔國朝先正事略、五十一〕。

【夏毅宗】293（カノキソウ） 李諒祚（**6**－**14459**‥1994）を見よ。

【夏義甫】294（カギホ） 明、鄣南の人。一に儀甫に作る。博學にして詩に巧。室を天目に築き、門を杜ぢて隱居す。〔湖州志〕。

【夏儀甫】295（カギホ） 夏義甫を見よ。

【夏金標】296（カキンペウ） 清、盧江の人。謚は剛烈。咸豐中、武童から洪秀全を攻める役に從ひ、江南に轉戰して功あり。官は總兵。

【夏光洛】297（カクワウラク） 清の人。字は禹書。號は祕菴。別號、臥雲道人（雲臥）·梅巢居士。諸生。塡詞を好み、飛白書に巧。〔國朝耆獻類徵、四百七十〕。

【夏黃公】298（カクワウコウ） 商山の四皓の一人。四皓（**3**－**4682**‥117）の❶·崔廣（**4**－**8178**‥58）を見よ。〔史記、留侯世家〕年皆八十餘、鬚眉皓白、衣冠甚偉、各言㆓名姓㆒曰、東園公·甪里先生·綺里季·夏黃公。

【夏完淳】299（カクワンジユン） 明の人。允彝の子。字は存古。七歲にして詩文を能くす。陳子龍の獄に連なつて刑せらる。時に年十八。〔明史、二百七十七〕·〔明史稿、二百五十八〕。

【夏桓宗】300（カノクワンソウ） 李純佑（**6**－**14459**‥1456）を見よ。

【夏惠宗】301（カノケイソウ） 李秉常（**6**－**14459**‥1927）を見よ。

【夏建忠】302（カケンチユウ） 明の人。官は扶風主簿。流賊至つた時、扶風の太守王國訓と固守して死す。〔明史、二百九十二〕·〔萬斯同明史、三百七十八〕·〔明史稿、二百七十二〕。

【夏乾錫】303（カケンセキ） 宋の人。鵬の子。淸溪布衣と自稱す。〔萬姓統譜〕。

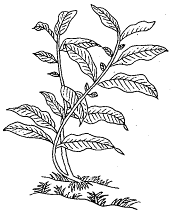
【夏謙澤】304（カケンタク） 澤の名。通鑑の注に薊北二百餘里に在りと見え、顧炎武の京東考古錄には非といふが、兩者何れも誤る。水經注に、鮑丘水、東南流して潞縣の南を經、又東南して夏澤に入る、澤北に佩謙澤あり、眇望際無しと。蓋し夏澤と佩謙澤を合したもので、卽ち天津縣の東北の塌河淀であらう。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、薊州、平谷縣〕夏謙澤、縣東北百餘里、晉隆安初、後燕慕容寶、爲㆓拓跋珪所㆒㆑迫、自㆓中山㆒至㆑薊、盡徙㆓府庫㆒、北趣㆓龍城㆒、珪將石河頭時屯㆓漁陽㆒、引㆑兵追㆑之、及㆓於夏謙澤㆒、爲㆓慕容會所㆒㆑敗、胡氏曰、澤去㆑薊北二百餘里、今縣東北有㆓海子㆒、或以爲㆓卽故澤㆒也、水經注、鮑邱水、南入㆓夏澤㆒、澤南紆曲渚一十餘里、北佩謙澤、眇望無㆑垠、蓋在㆓潞縣境內㆒云。

【夏獻宗】305（カノケンソウ） 李德旺（**6**－**14459**‥1831）を見よ。

【夏元鼎】306（カゲンテイ） 宋、永嘉の人。字は宗禹。號は雲峯散人（雲風山人）·西城眞人。博く群書を極め、賈·許二帥の幕に應じて兵間に出入す。後、官を棄てて入道す。著に陰符經講義圖說·崔公藥鏡箋がある。〔四庫提要、一百四十六〕。

【夏元彬】307（カゲンピン） 明、德淸の人。本名は彪。字は仲弢。著に麟傳統宗がある。〔四庫提要、三十〕。

【夏原吉】308（カゲンキツ） 明、湘陰の人。其の先は德興の人。字は惟喆（惟哲）。謚は忠靖。官は戶部尙書。宣宗の時、入閣し、機務に預かつた。〔明史、一百四十九〕·〔萬斯同明史、一百九十六〕·〔明史稿、一百三十九〕。



夏枯草（三才圖會）

【夏枯草】309（カコサウ） 野生の多年生の草。高さは七八寸。莖は方狀。葉は長卵形で端が尖る。夏初、淡紫色穗狀の花を開く。夏至の後で枯れるから夏枯草といふ。莖·葉は皆藥用とする。うつぼぐさ。〔本草、夏枯草〕釋名、夕句·乃東·燕面·鐵色草、震亨曰、此草夏至後卽枯、蓋稟㆓純陽之氣㆒、得㆓陰氣㆒則枯、故有㆓是名㆒、集解、時珍曰、原野閒甚多、苗高一二尺許、其莖微方、葉對㆑節生、似㆓旋覆葉㆒而長大、有㆓細齒㆒、背白多紋、莖端作㆑穗、長一二寸、穗中開㆓淡紫小花㆒、一穗有㆓細子四粒㆒、丹溪云、無㆑子亦欠㆑察矣、嫩苗、瀹過浸㆓去苦味㆒、油鹽拌㆑之、可㆑食。

【夏洪基】310（カコウキ） 明、高郵の人。字は元開。著に孔子年譜綱目·孔子弟子傳略がある。〔四庫提要、五十九〕。

【夏策謙】311（カサクケン） 清、孝感の人。字は恭占。康熙の擧人。官は寶慶府教授。乾隆の閒、鴻博に擧げられたが、老病を以て試に赴かなかつた。〔鶴徵後錄、四〕。

【夏子孝】312（カシカウ） 明、桐城の人。字は以忠。初名は恩。性、至孝。王畿·羅汝芳·史桂芳·耿定向等に事へて聖賢の學を聞く。〔明史、二百九十七〕。

【夏之翰】313（カシカン） 清、新建の人。字は知畏。號は檀園。雍正の擧人。官は湖北布政司庫大使。晚年、洛閩の學に勉む。詩に巧。著に檀園初稿がある。〔鶴徵後錄、六〕。

【夏之旭】314（カシキヨク） 明の人。允彝の兄。字は元初。陳子龍の叛に坐し、自刎して死す。〔明史、二百七十七〕·〔明史稿、二百五十八〕。

【夏之勳】315（カシクン） 清、江西の人。字は銘旃。號は芳原（芳源）。金石文字を嗜み、書畫碑版彝鼎を藏すること極めて多かつた。書畫に巧。〔淸畫家詩史、庚、上〕·〔國朝書人輯略、七〕。

【夏之蓉】316（カシヨウ） 清、高郵の人。字は芙裳。號は醴谷·半舫齋。雍正の進士。官は廣東及び湖南の督學。古文を以て士を校し、其の尤を錄して汲古編を爲る。後、歸つて鍾山の麗正書院の主となる。卒年八十八。著に半舫齋詩鈔がある。〔淸史稿、四百九十〕·〔淸史列傳、七十一〕·〔國朝先正事略、四十二〕。

【夏之霖】317（カシリン） 明、杭州の人。字は沛之。畫に巧。

【夏之令】318（カシレイ） 明、光山の人。字は紹武。萬曆の進士。官は御史。毛文龍·馮忠等を劾し、魏忠賢に銜まれて獄死す。〔明史、二百四十五〕·〔明史稿、二百三十二〕·〔萬斯同明史、三百五十二〕·〔明史稿、二百三十二〕。

【夏時正】319（カジセイ） 明、仁和の人。字は季爵。號は留餘道人。正統の進士。官は南京大理卿。學を好み、著述多く、稽古禮文の事に精通す。〔明史、一百五十七〕·〔萬斯同明史、二百三十〕·〔明

史稿、一百五十二〕。

【夏執中】320 カシツチユウ　宋、宜春の人。字は子權。其の姉は孝宗の后となる。官は奉國軍節度使。〔宋史新編、一百八十三〕・〔南宋書、六十七〕。

【夏尚忠】321 カシヤウチユウ　宋、休寧の人。字は信卿。官は大理寺丞。泰州の長官。後、國子博士から、著作佐郎に徙る。

【夏尚樸】322 カシヤウボク　明、江西永豐の人。字は敦夫。官は南京太僕寺少卿。若くして婁諒を師とし、主敬の學を傳へた。著に中庸語錄・東巖文集がある。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百六十三〕。

【夏襄宗】323 カノジヤウソウ　李安全(**6－14459**‥824)を見よ。

【夏守贇】324 カシユイン　宋の人。守恩の弟。字は子美。諡は忠僖。官は高陽關都總管。〔宋史、二百九十〕・〔宋史新編、八十九〕・〔東都事略、六十二〕・〔宋大臣年、八・九〕・〔北宋經撫年表、四十三・四十七〕。

【夏守恩】325 カシユオン　宋、楡次の人。字は君殊。官は眞定府定州路都總管。驕恣不法で、贓を以て敗れた。〔宋史、二百九十〕・〔宋史新編、八十九〕・〔北宋經撫年表、四十三〕。

【夏樹芳】326 カジユハウ　明、江陰の人。字は茂卿。萬曆の擧人。著に栖眞志・法喜志・茶董・奇姓通がある。〔明詞綜、四〕・〔四庫提要、六十二〕。

【夏汝弼】327 カジヨヒツ　清、衡陽の人。字は叔直。號は蓮峯、或は蓮冠道人。明季の諸生。鼎革の後、佯り狂して九嶷山に入り、穀物を絕つて死す。〔國朝耆獻類徵、四百六十一〕・〔國朝先正事略、四十七〕。

【夏承皓】328 カシヨウカウ　宋、德安の人。字は靈石。官は右侍禁。契丹が南侵した時、兵を發し、河朔に戰歿す。後、崇儀使を褒贈せらる。〔宋史、三百八〕。

【夏振翼】329 カシンヨク　清、蕪湖の人。字は遯門。著に武經體注大全會解がある。〔四庫提要、一百〕。

【夏神宗】330 カノシンソウ　李遵頊(**6－14459**‥1462)を見よ。

【夏神樂】331 ナツカグラ　夏祓に行ふ神樂。〔夫木和歌抄、七〕夏かぐら今日やしつらん。

【夏仁宗】332 カノジンソウ　李仁孝(**6－14459**‥1528)を見よ。

【夏崇宗】333 カノスウソウ　李乾順(**6－14459**‥1138)を見よ。

【夏崇文】334 カスウブン　明の人。瑄の子。字は廷章。成化の進士。官は吏部主事。詔に會つて利病を陳じ、時務五事を疏陳す。後、太僕少卿となる。夏忠靖遺事を纂輯す。〔明史稿、一百三十九〕。

【夏世英】335 カセイエイ　明の人。歸德の教諭となり、流賊が城を陷れるに及び、明倫堂に死す。〔明史、二百九十三〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。

【夏成德】336 カセイトク　清、廣寧の人。明の松山城守副將。崇禎中、淸軍に內應す。官は沂州總兵。封は三等子。〔淸史稿、二百四十三〕・〔淸史列傳、七十九〕。

【夏淸侯】337 カセイコウ　箏(**8－26510**)の異稱。たかむしろ。南唐の從謙が箏を夏淸侯と稱して其の傳を作つた事に始まる。夏箏。〔事物異名錄、器用、箏〕淸異錄、宜春王從謙、作㆓夏淸侯傳㆒云云、謂㆑箏也。

【夏小正】338 カセウセイ　書名。もと大戴禮記中の一篇。每月の物候を記す。上代、四時の行事を民に指示したもの。後世の月令の類。禮記・史記等に孔子が夏國に往いて夏時を得たといふのは、卽ちこの篇であらう。隋書は別に一卷としてをり、四庫全書も之に依つてゐる。古傳寫本は戴德の傳と混合してゐる。夏時(142)の㊀を見よ。〔四庫提要、經、禮類〕。

《參考書》【夏小正戴氏傳】四卷宋、傅崧卿撰。大戴禮中の夏小正の一篇と戴德の傳とを月每に按排して注す。〔四庫提要、經、禮類〕。【夏小正注】一卷清、黃叔琳撰。〔四庫提要、經、禮類存目〕。【夏小正詁】一卷清、諸錦撰。〔四庫提要、經、禮類存目〕。【夏小正解】一卷清、徐世溥撰。〔四庫提要、經、禮類存目〕。【夏小正考注】一卷清、畢沅撰。【夏小正疏義】四卷清、洪震烜撰。【夏小正經傳考釋】十卷清、莊述祖撰。【夏小正分箋】四卷清、黃模撰。【夏小正異義】二卷清、黃模撰。【夏小正箋】一卷清、李調元撰。【夏小正試帖】一卷清、黃正詩】清、馬國翰撰。

【夏宗沂】339 カソウギ　清、江陰の人。字は蘭臺。著に本驥撰。

【夏宗沂】339 カソウギ　清、江陰の人。字は蘭臺。著に浣花集がある。

【夏宗瀾】340 カソウラン　清、江陰の人。字は起八。拔貢生。官は國子監助教。著に易義隨記・易卦劄記がある。〔四庫提要、十〕。

【夏太宗】341 カノタイソウ　李德明(**6－14459**‥1828)を見よ。

【夏泰亨】342 カタイカウ　元、會稽の人。字は叔通。韓性の高弟。官は翰林院編修。著に詩經音考がある。〔新元史、二百三十五〕。

【夏大貞】343 カダイテイ　清、嘉興の人。字は吉菴。畫に巧。

【夏道一】344 カダウイツ　清、大名の人。字は元眞。明の崇禎の擧人。鼎革の後、意を仕進に絕ち、躬ら耕織した。〔國朝先正事略、四十八〕。

【夏達才】345 カタツサイ　宋、休寧の人。字は行可。幼にして孝謹、學を好み、家居して徒に授く。〔尙友錄、十六〕。

【夏場所】346 ナツバシヨ　㊀夏住むに最もよい場所。㊁五月に興行する大相撲。

【夏徵舒】347 カチヨウジヨ　春秋、陳の人。夏姬の子。靈公が孔寧・儀行父と夏姬に通じたので、徵舒は靈公を弑し、二子を楚に奔らし、後、楚の莊王に殺さる。〔左氏、宣、十一〕・〔韓非子、說疑〕。

【夏廷燁】348 カテイエフ　宋、休寧の人。字は文炳。官は朝議大夫。〔尙友錄、十六〕。

【夏定邦】349 カテイハウ　清、六合の人。字は治平。道光の武擧。官は咸豐の時、都司。六合城が陷つた時、自刎して死す。〔中興將帥列傳、十八上〕。

【夏庭簡】350 カテイカン　宋、黃巖の人。字は迪卿。葉適の弟子。進士より長溪簿となり、官に居て才能があると稱せられ、調せられて臨安の鹽倉を監す。〔宋元學案、五十四・五十五〕。

【夏斗寅】351 カトイン　民國、湖北省黃岡縣の人。字は靈炳。卒伍より身を起し、西曆一九二六年、葉開鑫に從つて北伐軍との戰爭中、北伐軍に投じて獨立第十四師長となり、武漢・南京兩派の軋轢に際しては南京側に加擔し、後第二十七軍長となつた。後、湖北省政府主席、次いで四川行營參議に轉じ、一九三五年、第五期中央執行委員に擧げらる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【夏統春】352 カトウシユン　明、桐城の人。字は元夫。國子生を以て黃坡丞を授けられ、黃梅縣の事を攝した。賊至り、遂に支解せらる。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。

【夏同善】353 カドウゼン　清、仁和の人。字は舜樂。號は子松。咸豐の進士。官は江蘇學政。〔淸史稿、四百四十七〕・〔續碑傳集、十五〕。

【夏敦仁】354 カトンジン　清、武進の人。字は調元。著に十七史論がある。〔四庫提要、九十〕。

【夏二子】355 カニシ　蚊と蠅。宋の吳元美が蚊と蠅とを夏二子と稱して其の傳を作つたのに始まる。〔雙槐歲鈔〕宋進士永福吳元美、作㆓夏二子傳㆒、略云、天命㆑商以伐㆑夏、夏告㆓終於鳴條㆒、二子之族無㆓大小長少㆒、皆望㆑風殄滅、殆無㆓遺類㆒、夏二子、謂㆓蚊蠅㆒也、其鄕人鄭瑋得㆑之、往訴㆓秦檜㆒、謂㆔其譏㆓毀大臣㆒、編㆓管容州㆒、謫㆓死南雄㆒。

【夏白眼】356 カハクガン　明、宣德の時の人。雕刻に精通す。〔淸祕藏〕。

【夏文彥】357 カブンゲン　元、吳興の人。後、雲間に居る。字は士良。號は蘭渚。圖繪に精通す。著に圖繪寶鑑がある。〔四庫提要、一百十二〕。

【夏萬亨】358 カマンカウ　明、崑山の人。字は元禮。官は江西布政使。淸兵の江西に下るや、曠昭城を守つて死す。〔明史、二百七十八〕・〔明史稿、二百五十九〕。

【夏蜜柑】359 ナツミカン　蜜柑の一種。果實が大きく、夏に熟する。夏橘。

【夏無且】360 カムシヨ　秦の始皇の侍醫。荊軻が秦王を刺さうとした時、藥囊を以て之に抛ち、論功に黃金百鎰を賜はる。〔史記、八十六〕。

【夏明誠】362 カメイセイ　宋、金華の人。字は敬仲。慶元の進士。官は安慶推官。其の學は呂祖謙に本づく。〔宋元學案、七十三〕。

【夏銘善】363 カメイゼン　明、漵浦の人。字は復初。洪武の進士。官は御史。

【夏蘿蔔】364 カラフク　夏大根。〔本草、萊菔〕集解、瑞曰、夏月復種者、名㆓夏蘿蔔㆒、形小而長者、名㆓蔓菁蘿蔔㆒。

【夏力恕】365（カリキジョ） 清、孝感の人。字は觀川。晚に澴農と稱す。康熙の進士。官は編修。其の學は窮理を主とした。書室を菜根精舍といふ。著に四書劄記・證疑備覽・杜詩筆記・菜根精舍詩・古文・易論がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十五〕・〔碑傳集、四十八〕。

【夏良勝】366（カリヤウシヨウ） 明、南城の人。字は於中。正德の進士。官は吏部考功員外郞。著に銓司彙存がある。〔明史、一百八十九〕・〔萬斯同明史、二百六十二〕・〔明史稿、一百七十四〕。

【夏良心】367（カリヤウシン） 明、建平の人。字は宗堯。嘉靖の進士。官は副都御史。江西を巡撫す。仕宦三十年、布衣疏食して其の身を終る。〔萬斯同明史、三百三十四〕。

【夏魯奇】368（カロキ） 後唐、青州の人。字は邦傑。初、梁に仕へ、後、晉に奔つた。官は河陽節度使。後、從つて武信を鎭した。董璋の反に遭ひ自刎す。〔五代史、三十三〕・〔舊五代史、七十〕。

【夏刑三千】369（カケイサンゼン） 夏后氏の時の三千種の法律。呂刑はこれに本づくといふ。〔唐律、名例〕尙書大傳曰、夏刑三千條、周禮司刑、掌㆓五刑㆒、其屬二千五百。

【夏作㆓禹刑㆒】370（カウケイヲツクル） 夏の政事が亂れた時に夏禹贖刑の法、卽ち夏刑三千を作つた。〔左氏、昭、六〕夏有㆓亂政㆒而作㆓禹刑㆒。〔會箋〕書序云、呂命㆓穆王㆒訓㆓夏贖刑㆒、作㆓呂刑㆒、孔傳謂、呂侯以㆓穆王命㆒作㆑書、訓㆓暢夏禹贖刑之法㆒、更從㆑輕以布㆓告天下㆒、據㆓叔向所㆑說、則禹刑非㆔夏禹所㆓自作㆒也。

【夏神武帝】371（カノジンブテイ） 李繼遷(**6－14459**・・1116)「を見よ。

【夏稅秋糧】372（カゼイシウリヤウ） 明代の徵稅法。夏稅は上半期の租稅で八月迄に納め、秋糧は下半期の租稅で翌年二月迄に納める。〔續文獻通考、田賦考〕賦有㆑二、曰夏稅、曰秋糧。

【夏少康陵】373（カノセウカウリヨウ） 夏の少康の陵墓。太康の陵の西に在る。夏太康陵(374)を見よ。

【夏太康陵】374（カノタイカウリヨウ） 夏の太康の陵墓。陽夏に葬る。河南省太康縣の東南。〔開封府志〕太康陵、在㆓太康縣東南二里㆒、按㆑書、太康爲㆓羿所㆑距、遂居㆓陽夏㆒、後葬焉、少康陵、在㆓太康陵西㆒。

【夏代文學】375（カダイブンガク） 夏代の文學。散文には尙書の夏書の外、夏小正・峋嶁碑・山海經等があるが、峋嶁碑・山海經は僞作である。韻文には五子之歌・塗山歌・襄陽操・佳人歌・燕往飛歌・夏箴等があるが、皆僞作で、正確な古典には此の時代の詩歌と稱するものはない。

【夏武烈帝】376（カノブレツテイ） ❶李曩霄(**6－14459**・・183)を見よ。❷赫連勃勃(**10－37010**・・52)を見よ。

【夏鑪冬扇】377（カロトウセン） 夏のゐろりと冬の扇。無益の言論・才藝の喩。〔論衡、逢遇〕作㆓無㆑益之能㆒、納㆓無㆑補之說㆒、以㆑夏進㆑鑪、以㆑冬奏㆑扇、爲㆓所㆑不㆑欲之事㆒、獻㆓所㆑不㆑聞之語㆒、其不㆑遇㆑禍幸矣。

【行㆓夏之時㆒】378（カノトキヲオコナフ） 夏后氏の歷法を天下に行ふ。夏時(142)の❶を見よ。

【用㆑夏變㆑夷】379（カヲモツテイヲヘンズ） 中國の立派な風俗を以て夷狄の蠻風を善に化する。〔孟子、滕文公上〕吾聞㆓用㆑夏變㆑夷者㆒、未㆑聞㆘變㆓於夷㆒者㆖也。

【夏鑪炙㆑濕冬扇翣㆑火】380（カロトウセンシツヲアブリヒヲアフグ） 器物は各〻時節によつて其の用を異にする喩。鑪は冬用ひるものであるが、夏には濕を炙るに使ひ、扇は夏用ひるものであるが、冬には火を煽ぐに用ひる。〔論衡、逢遇〕夏時鑪以炙㆑濕、冬時扇以翣㆑火、世可㆑希、主不㆑可㆑准也、說可㆑轉、能不㆑可㆑易也。

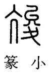
【⿱曰夂】5721

シウ ジユ　〔集韻〕時流切　尤

くわ。〔集韻〕⿱曰夂、耕㆑田器名。

八畫

【⿰亢夋】5722


小篆

［一］カウ　〔集韻〕擧朗切　養

［二］カウ ガウ　〔集韻〕下朗切　養

［一］［二］**高ぶり、おごる。**〔說文〕⿰亢夋、直項莽⿰亢夋皃、从㆑亢从㆑夋、夋、倨也、亢亦聲。

解字　會意形聲。夋（おごる意）と亢（くびすぢの高くあがる意）との合字。亢はまた聲。本義は高ぶり倨る。故に夋と亢とを合せて其の意を表はす。字解を見よ。

參考　段注本は⿰夋亢に作る。〔說文、⿰亢夋、段注〕按、大徐篆、左亢右夋、今依㆓小徐玉篇廣韻㆒左夋右亢。

【⿰夋亢】5723

カウ　⿰亢夋(**3－5722**)に同じ。〔字彙補〕⿰夋亢、同㆑⿰亢夋。

【⿱畗夊】5724

フク　复(**3－5717**)の本字。〔玉篇〕⿱畗夊、與㆑复同、今通作㆑復。

【⿱⺈⿱罒夂】5725

バン　⿱⿱丷一夊(**3－5715**)の俗字。〔廣韻〕⿱⿱丷一夊、俗作㆑⿱⺈⿱罒夂。

參考　康熙字典は⿱臾夂に作る。今、廣韻に依つて改む。

九畫

【⿰夊吕】5726

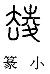
リン　鄰(**11－39656**)に同じ。〔字彙補〕⿰夊吕、同㆑鄰。

【⿱冃夂】5727

カ　義未詳。〔川篇〕⿱冃夂、音夏。

十畫

【⿰去夌】5728


小篆

［一］リヨウ　〔集韻〕閭承切　蒸

［二］リヨク リキ　〔集韻〕六直切　職

［一］［二］❶**さる。**〔說文〕⿰去夌、去也、从㆑去夌聲、讀若㆓棘陵㆒。❷**去るさま。**〔集韻〕⿰去夌、去皃。

【⿱𦥑夊】5729

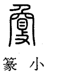
エウ　要(**10－34768**)に同じ。〔說文長箋〕⿱𦥑夊、與㆑要同。

【⿸广⿱廿夂】5730

セン　薦(**9－32143**)に同じ。〔字彙補〕⿸广⿱廿夂、卽薦字、漢張公神碑、歲聿再⿸广⿱廿夂。

十一畫

【夐】5731


小篆

［一］ケイ キヤウ　〔集韻〕虛政切　敬　ㄒㄩㄥˋ　hsiung^4

［二］ケン　〔字彙〕呼眩切　霰

［三］ケイ

［一］［二］❶**もとめる。**敻(**5－13355**)に同じ。〔正字通〕夐、敻字之譌。〔說文〕夐、營求也、从㆑旻、人在㆑穴、商書曰、高宗夢得㆑說、使㆓百工營求㆒、得㆓之傅巖㆒、巖、穴也。❷**とほい。はるか。**迥(**11－38786**)に通ず。〔字彙〕夐、同㆑迥。〔廣雅、釋詁一〕夐、遠也。〔穀梁、文、十四〕過㆓宋鄭滕薛㆒、夐入㆓千乘國㆒。〔注〕夐、猶㆑遠也。❸**長い。**〔廣雅、釋詁二〕夐、長也。❹**見るさま。**夐夐(2)を見よ。❺矎(**8－23794**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夐、字亦作㆑矎。❻洵(**6－17416**)に通ず。〔詩、邶風、擊鼓〕于嗟洵兮、釋文〕洵、韓詩作㆑夐、夐、遠也。❼**姓。**〔萬姓統譜〕湖廣松滋縣有㆓夐氏㆒。［三］迥(**11－38786**)に同じ。〔字彙〕夐、同㆑迥。

解字　會意。ク（人に同じ）と四（穴に同じ）と旻（目と攴との合字で、目を擧げて人を指揮し使役する意）との合字。本義はあまねく求めること。轉じて、あまねく求むればいくら遠くとも遺す所が無いから、とほい・はるかの意に用ひる。故に、旻と人と穴とを合せて、目を動かして人を使ふ（旻）人が、穴に臨んで隈なく見通し、

あまねく索求し使役する意を表はす。一說に、本義は、殷の高宗が夢に傳說を得、百官をしてあまねく求めしめ、之を傳巖に得たこと。故に旻人を以て營求する人の意を表はし、之を傳巖に得た故に穴に从ふといふ。巖は穴の意。此の字は、篆形に據れば、攴の部に屬すべきである。〔說文、夐、段注〕營求者、圜帀而求レ之也、帀而求レ之、則不二遐遺一矣、故引二伸其義一爲レ遠也、从二旻人在一レ穴、謂二擧レ目使レ人之人臨一レ穴也、合二三字一會意、商書曰、高宗夢得レ說、使二百工營求一、得二之傳巖一、此引二書序一釋レ之、以說二从レ穴之意一、營求而得二諸穴一、此字之所三以从二旻人在一レ穴也。

【夐遠】1ケイエン　はるかにとほい。夐絕。〔司馬相如、上林賦〕儵夐遠去、流二離輕禽一、蹵二履狡獸一。

【夐夐】2ケイケイ　視るさま。〔廣雅、釋訓〕夐夐、視也。

【夐乎】3トホイカナ　遠くはるかなるを嘆ずる辭。〔班固、典引〕上哉夐乎、其書猶可二得而脩一也。〔注〕向曰、夐、遠也。

【夐古】4ケイコ　遠い昔。〔晉書、后妃傳序〕爰自二夐古一、是謂二元妃一。

【夐絕】5ケイゼツ　はるかにかけ隔つたさま。夐遠。〔陶弘景、吳太極左仙公葛公碑〕九垓夐絕。〔顏延之、赭白馬賦〕絢練夐絕。

【夐然】6ケイゼン　はるかなさま。夐焉。〔王維、送三祕書晁監還二日本一詩序〕夐然鳥逝、鯨魚噴浪。

【夐長】7ケイチャウ　ながい。〔廣雅、釋詁〕夐、長也。

【夐明】8ケイメイ　大いに明かなこと。〔呂覽、盡數〕集二於聖人一、與爲二夐明一。〔注〕夐、大也、遠也。

【夌】5732　シヨウ　勝（**2**－**2409**）の古字。〔字彙補〕夌、古文勝字。

【复】5733　フク　復（**4**－**10183**）に同じ。〔字彙補〕复、與レ復同。

十二畫

【夋】5734　シュン　〔集韻〕祖峻切　震

❶**皮の袴**。〔集韻〕夋、韋袴也。❷或は芼（**7**－**21558**）に作る。〔集韻〕夋、或作レ芼。

十三畫

【駿】5735　ギョ　御（**4**－**10157**）に同じ。〔康熙字典〕駿、參同契、明君駿レ時、今作レ御。

【寠】5736　エウ　要（**10**－**34768**）に同じ。〔奇字韻〕寠、同レ要。

十四畫

【夓】5737　カ　夏（**3**－**5720**）に同じ。〔康熙字典〕夓、石鼓文夏字。

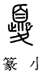
十五畫

【憂】5738　カ　夏（**3**－**5720**）の古字。〔字彙補〕憂、古文夏字。

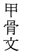
【憂】5739　キ　夔（**3**－**5746**）に同じ。〔字彙補〕憂、與レ夔同。

【夒】5740　コン　婚（**3**－**6418**）の籀文。〔字彙〕夒、籀文婚字。

【夒】5741　ダウ ノウ　〔集韻〕奴刀切　豪


小篆

❶**おほざる**。〔說文〕夒、貪獸也、一曰、母猴、佀レ人、从レ頁、巳・止・夊、其手足。〔段注〕母猴與二沐猴・獼猴一一語之轉、詩小雅作レ猱、樂記作レ獶。❷或は玃（**7**－**20800**）・獶（**7**－**20770**）・猱（**7**－**20544**）・蝚（**10**－**33273**）に作る。〔集韻〕夒、或从レ犬、从レ憂、从レ柔、亦作レ蝚。

解字　會意。頁（人の頭首の象形）と止・巳と夊との合字。本義は、おほざる。おほざるは其の面・手・足がみな人に似てゐる故に、頁を以て其の顏を、止・巳を以て其の手を、夊を以て其の足を表はす。〔說文、夒、段注〕似レ人、似二人面手足一、巳止象三其似二人手一、夊象二其足一。▽ （甲骨文）象形。頭が大きく兩手をひろげて立つ大猿の形に象る。

參考　夔（**3**－**5746**）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕夒、音猱、貪獸。夔、音逵、書、夔夔齊慄。

【夒】5742　コン　婚（**3**－**6418**）の籀文。〔說文長箋〕夒、籀文婚字。

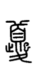
【慶】5743　コン　婚（**3**－**6418**）に同じ。〔說文〕婚、慶、籀文婚如レ此。

【夓】5744　カ　夏（**3**－**5720**）の本字。〔正字通〕夏、說文篆作レ夓。

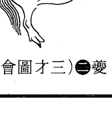
十七畫

【鞠】5745　キク　鞠（**12**－**42892**）に同じ。〔字彙補〕鞠、與レ鞠同。

【夔】5746　キ ギ　〔集韻〕渠龜切　支　ㄎㄨㄟˊ　kʻuei^2


小篆

❶**一足の物の怪。木石の怪**。〔說文〕夔、卽魖也、如レ龍、一足、从レ夊、象下有二角手人面一之形上。〔段注〕卽、鉉作レ神、疑神是。〔國語、魯語下〕木石之怪曰二夔罔蛹一。〔注〕夔、一足、富陽有レ之、人面猴身、能言。〔莊子、達生〕山有レ夔。〔釋文〕夔、形如レ鼓而一足。〔史記、孔子世家〕木石之怪、夔罔閬。〔張衡、東京賦〕殘三夔魖與二罔像一。〔注〕綜曰、夔、木石之怪、如レ龍、有レ角、鱗甲光如二日月一。❷**一足のけものの名**。〔山海經、大荒東經〕有レ獸、狀如レ牛、蒼身而無レ角、一足、名曰レ夔、黃帝得二其皮一爲レ鼓、聲聞二五百里一。❸**舜の臣の名**。〔書、舜典〕夔、命レ汝典レ樂。〔韓非子、外儲說左下〕魯哀公問二孔子一曰、吾聞、夔一足、信乎、曰、夔、人也、何故一足、彼無二他異一、而獨通二於聲一、堯曰、夔一而足矣、使レ爲二樂正一、故君子曰、夔有レ一足、非二一足一也。❹**恐れ愼むさま**。夔夔（2）を見よ。❺**周代の國の名**。今の湖北省秭歸縣の東の地。〔左氏、僖、二十六〕夔子不レ祀二祝融一。〔注〕夔、楚之別封。❻**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕夔氏、子爵、芈姓、楚君熊摯之後、今歸州東二十里、故夔子城是、僖二十六年、楚滅レ之、子孫以レ國爲レ氏、又天竺亦有二夔氏一。


❷夔（三才圖會）

解字　會意。丌（角に象る）と頁（人の頭首の象形）と止・巳（共に人の手に似たる其の手に象る）と夊（其の一足に象る）との合字。本義は一足のもののけ。角があり、一足で、面・手・足はみな人に似る。故に丌・頁・止・巳・夊に从つて其の意を表はす。〔說文、夔、段注〕从レ夊者、象二其一足一、云レ如レ龍、則有レ角可レ知、故夊、象レ有レ角、又止巳、象二其似一レ人手一、頁、象二其似一レ人面一。

參考　夒（**3**－**5741**）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕夒、音猱、貪獸。夔、音逵、書、夔夔齊慄。

【夔友】1（キイウ）　清、邊浴禮(**11－39216**‥204)の號。

【夔夔】2（キキ）　つつしみ恐れるさま。〔書、大禹謨〕夔夔齊慄、瞽亦允若。〔傳〕夔夔、悚懼之貌。

【夔牛】3（キギウ）　岷山に住む大牛の名。夔牯(9)を見よ。〔山海經、中山經〕岷山多二夔牛一。〔注〕今蜀山中有二大牛一、重數千斤、名爲二夔牛一。〔注〕今蜀山中有二大牛一、重數千斤、名爲二夔牛一。

【夔魖】4（キキヨ）　木石の怪。罔象。夔魖。〔揚雄、甘泉賦〕捎二夔魖一而抶二獝狂一。〔張衡、東京賦〕殘三夔魖與二罔象一。〔注〕綜曰、夔、木石之怪、如レ龍有レ角、鱗甲光如二日月一、見則其邑大旱。

【夔玉】5（キギヨク）　宋、王俅(**7－20823**‥223)の字。

【夔⿰鬼區】6（キク）　木石の怪。夔魖に同じ。〔王延壽、夢賦〕撲二苕蕘一、抶二夔⿰鬼區一。〔注〕東京賦作二夔魖一。

【夔獻】7（キケン）　清、陳赤東(**11－41698**‥1064)の字。

【夔鼓】8（キコ）　夔獸の皮で作つた太鼓。遠い所にまでよく聞える。〔山海經、大荒東經〕東海中有二流波山一、其上有レ獸、其聲如レ雷、其名曰レ夔、黃帝得レ之、以二其皮一爲レ鼓、橛以二雷獸之骨一、聲聞二五百里一。〔虞世基、講武賦〕曳二虹旗之正正一、振二夔鼓之鏜鏜一。

【夔牯】9（キコウ）　夔牛の子。〔郭璞、江賦〕夔牯翹二陸於夕陽一、鴛雛弄二翮乎山東一。〔注〕郭璞曰、今蜀山中有二大牛一、重數千斤、名爲二夔牛一、又爾雅注曰、今青州呼レ犢爲レ牯、夔牛之子也。

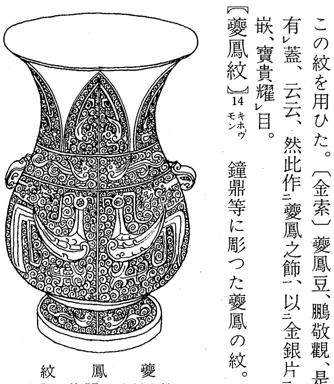
【夔州】10（キシウ）　㊀州の名。唐、置く。秦・漢の巴郡、後漢の巴東郡、南朝梁の信州。故治は今の四川省奉節縣治。〔讀史方輿紀要、四川〕夔州府、云云、禹貢荆梁二州之域、春秋爲二庸國地一、後屬二巴國一、戰國時屬レ楚、秦屬二巴郡一、漢因レ之、後漢末置二固陵郡一、又改爲二巴東郡一、云云、梁置二信州一、云云、大業初復曰二巴東郡一、唐武德初、仍曰二信州一、二年改爲二夔州一、云云、明洪武四年、仍曰二夔州一、九年州改隸二重慶衞一、十四年升爲レ府、領二州一・縣十二一。㊁府の名。明、置き、清、之に因り、奉節・巫山・雲陽・萬・開・大寧の六縣を領す。故治は今の四川省奉節縣。㊀を見よ。〔清史稿、地理志〕四川、夔州府、領二縣六一、奉節・巫山・雲陽・萬・開・大寧。

【夔石】11（キセキ）　字號。㊀宋、王俅(**7－20823**‥223)の字。㊁明、鄒逢吉(**11－39562**‥121)の字。㊂清、王文詔(**7－20823**‥2076)の字。

【夔頭】12（キトウ）　唐の韓會をいふ。韓會・崔造・盧東・張正則の四人の音樂家を四夔といひ、會は其の長であるからいふ。〔國史補〕韓會與二名輩一號爲二四夔一、會爲二夔頭一、而善歌妙絕。

【夔鳳】13（キホウ）　一足の鳳。古、尊豆などの飾りにこの紋を用ひた。〔金索〕夔鳳豆、鵬敬觀、是豆有レ蓋、云云、然此作二夔鳳之飾一、以二金銀片一鑲嵌、寶貴耀レ目。

【夔鳳紋】14（キホウモン）　鐘鼎等に彫つた夔鳳の紋。



夔鳳紋
（西清古鑑周夔鳳尊）

【夔紋】15（キモン）　鐘鼎等に彫つた鳳の紋。〔博古圖、匜總說、周夔匜圖考〕右通蓋高六寸、深二寸八分、口徑長四寸八分、闊二寸三分、重二斤四兩、有レ流有レ鋬無レ銘、是器通體、飾以二夔紋一、蓋亦如レ之製作、華藻大槩、與二周祖戊匜一形制相近、但闕二其銘一耳。

【夔立】16（キリツ）　夔が一足で立つやうに謹んで直立すること。恭敬の樣子。〔新書、勸學〕既遇二老聃一、噩若二慈父一、雁行避レ景、夔立蚩進。

【夔律】17（キリツ）　清、王鳴韶(**7－20823**‥2127)の號。

【夔侶】18（キリヨ）　清、程襄龍(**8－25081**‥228)の字。

【夔龍】19（キリヨウ）　㊀舜の二臣の名。典樂の官、夔と、納言の官、龍。〔書、舜典〕伯拜稽首、讓二于夔龍一。〔傳〕夔・龍、二臣名。〔崔伯易、感山賦〕皋陶謨而矢二契稷之業一、伯夷讓而中二夔龍之志一。㊁夔と龍との紋。〔博古圖、周夔龍彝圖考〕夔龍雷紋。

【夔一足】20（キハイツソク）（キハイツニシテタル）　㊀夔獸は一足である。字解の㊁を見よ。㊁夔は舜の典樂の臣の名。ただ音樂の一事に達してゐるのみで十分値打があることをいふ。〔韓非子、外儲說左下〕哀公問二於孔子一曰、吾聞、夔一足、信乎、曰、夔、人也、何故一足、彼其無二他異一、而獨通二於聲一、堯曰、夔一而足矣、使レ爲二樂正一、故君子曰、夔有レ一足、非二一足一也。〔呂覽、察傳〕夔能和レ之、以平二天下一、若レ夔者一而足矣、故曰二夔一足一、非二一足一也。

【夔憐レ蚿】21（キハゲンヲウラヤム）　一足の夔が多足の蚿を羨むこと。自分の足らないことをなげき人をうらやむ人情に喩へる。〔莊子、秋水〕夔憐レ蚿、蚿憐レ蛇、蛇憐レ風、風憐レ目、目憐レ心、夔謂レ蚿曰、吾以二一足一趻踔而行、予無レ如矣、今子之使二衆足一、獨奈何。〔疏〕夔、是一足之獸、其形如レ鼓、足似二人腳一、而廻レ踵向レ前也、山海經云、東海之內、有二流波之山一、其山有レ獸、狀如レ牛、蒼色無レ角、一足而行、聲音如レ雷、名レ之曰レ夔。

【夔成鐵路】22（キセイテツロ）　鐵道の名。四川省奉節縣から成都市までの豫定線。

十九畫

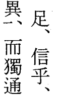
【䕫】5747　キ　夔(**3－5746**)に同じ。角の象形を卝と見て作つた字。

二十七畫

【⿱夏⿰夏夏】5748　カ　義未詳。〔海篇〕⿱夏⿰夏夏、音夏。

夕部

【夕】5749　セキ　ジャク　〔集韻〕祥亦切　T一ˋ　hsi⁴　陌。



小篆

㊀**ゆふ。ゆふべ。**〔說文〕夕、莫也、从二月半見一。〔正字通〕夕、日始入時也。〔禮、文王世子〕朝夕。〔釋文〕暮曰レ夕。〔洪範五行傳、星辰莫同、注〕初昏爲レ夕也。㊁**ゆふべす。**ゆふべに君にまみえる。ゆふづとめ。〔左氏、成、十二〕朝而不レ夕。〔疏〕莫見レ君、謂二之夕一。㊂**とぎ。**ねやの勤め。〔禮、內則〕妻不レ在二妾御一、莫二敢當一レ夕。㊃**よる。**夜。〔後漢書、第五倫傳〕竟夕不レ眠。㊄**あけがた。**〔詩、小雅、白駒〕以永二今夕一。〔傳〕夕、猶レ朝也。〔洪範五行傳〕將レ晨爲レ夕。㊅**月を祭る。**古、秋分に天子が西郊に月を拜したこと。〔國語、魯語下〕少采夕レ月。〔注〕夕レ月、以二秋分一。㊆**易では、坤にあてる。**〔虞注〕坤爲レ夕。㊇**すゑ。**をはり。周期の終末。汐(**6－17122**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夕、字變作レ汐。〔洪範五行傳〕月之夕、歲之夕。〔注〕下旬爲二月之夕一、自二九月盡一至二十二月一、爲二歲之夕一。〔荀子、禮論〕月夕卜レ宅。〔注〕月夕、月末也。〔晉書、曹攄傳〕歲夕攄行レ獄。㊈**ななめ。**かたむく。〔廣雅、釋詁二〕夕、衺也。〔呂覽、明理〕是正坐二于夕室一也、其所謂正、乃不レ正矣。〔注〕言二其室邪夕不一レ正。㊉昔(**5－13816**)に通ず。〔史記、楚世家〕非二特朝夕之樂一也。〔注〕索隱曰、夕、猶レ昔也。⑪**姓。**〔萬姓統譜〕巴郡七姓、一曰二夕氏一、後漢巴中帥有二夕龔一。

解字　指事。本義は、日が暮れて月が將に現はれんとする時の意。故に月の一畫を省いて、月の半ば生ずる意を示し、以てゆふべの意と爲す。〔說文、夕、段注〕莫者、日且レ冥也、日且レ冥而月且レ生矣、故字从二月半見一、旦者、日全見二地上一、莫者、日在二茻中一、夕者、月半見、皆會意象形也。〔說

文通訓定聲〕夕、莫也、从二月半見一、指事。▽◗（甲骨文）象形。月の字形と同じ象形字で、よるの意を表はす。

【夕靄】1（セキアイ） ゆふもや。ゆふべのもや。夕嵐。〔劉禹錫、客有下爲レ余話中登二天壇一遇レ雨之狀上因以賦レ之詩〕洞府撞二仙鐘一、村墟起二夕靄一。〔李頻、自二黔中一東歸旅次二淮上一詩〕夕靄垂二陰野一、晨光動二積流一。〔陸游、觀二大散關圖一有レ感詩〕王氣浮二夕靄一、宮室生二春蕪一。

【夕菴】2（セキアン） 清、張崟（**4－9812**‥219）の號。

【夕闇】3（ユフヤミ） よひやみ。夕方に生じて來るやみ。〔萬葉集、四〕夕闇に道たづたづし。

【夕衣】4（セキイ） 夕方に衣るころも。〔韋應物、七夕詩〕夕衣清露濕、晨駕秋風前。

【夕陰】5（セキイン） ゆふ方生じて來るくらやみ。ゆふぐれ。〔謝靈運、永初三年七月十六日之レ郡初發レ都詩〕秋岸澄二夕陰一。〔沈約、宿二東園一記〕夕陰帶二層阜一。〔儲光羲、臨二江亭一詩〕古木嘯二寒禽一、層城帶二夕陰一。〔范仲淹、岳陽樓記〕朝暉夕陰、氣象萬千。

【夕飲】6（セキイン） 夕方に飲むこと。〔魏書、郭祚傳〕嘗以立二馮昭儀一、百官夕飲二清徽後園一、高祖擧レ觴、賜二祚及崔光一。〔江淹、嵇中散康言志詩〕朝食二琅玕實一、夕飲二玉池津一。

【夕雨】7（セキウ） 夕方のあめ。〔杜甫、有レ事二於南郊一賦〕甲冑乘レ陵、轉二迅雷於荊門巫峽一、玉帛清迴、霽二夕雨於瀟湘洞庭一。〔周賀、題二書公院一詩〕夕雨生二眠興一、禪心少二話端一。

【夕氳】8（セキウン） 夕方の氣。夕氣。〔南平王鑠、代收レ淚就二長路一詩〕時往從二朝露一、年來驚二夕氳一。

【夕映】9（セキエイ） ❶ゆふやけ。又、夕日に照りはえる。〔鮑照、芙蓉賦〕戲二錦鱗一而夕映、濯二繡羽一以晨過。〔沈約、大觀舞歌〕三趾晨儀、重輪夕映。❷（ユフバエ） ゆふやけ。夕暮に、落日の殘光をうけて、空の赤く見えること。〔宇津保物語、樓上下〕ゆふばえしていといみじく色麗しう。

【夕影】10（セキエイ） ❶夕日の光。ゆふひかげ。又、夕日の爲にうつるかげ。〔薛道衡、夏晚詩〕流火稍西傾、夕影遍二曾城一。❷（ユフカゲ） 夕日に映る形。夕方の姿。〔萬葉集、八〕秋の萩咲く夕影。

〔夕影草〕11（ユフカゲグサ） 朝顏（**5－14374**‥63）の異名。

〔夕影鳥〕12（ユフカゲドリ） 時鳥（ホトトギス）（**5－13890**‥328）の異名。〔藻鹽草、十〕。

【夕穎】13（セキエイ） 夕方に咲く花。〔陸機、園葵詩〕朝榮東北傾、夕穎西南晞。

【夕曜】14（セキエウ） 夕方の日の光。夕光。〔唐、郊廟樂章、夕月樂章、舒和〕夕曜乘レ功表二盛明一。

【夕燿】15（セキエウ） 夕方かがやく。〔宋書、樂志二〕黼帟神凝、玉堂嚴馨、圜火夕燿、方水朝清。

【夕謁】16（セキエツ） 夕方に上謁する。〔張莒、紫宸殿前櫻桃樹賦〕拂二露華一以晨趨、染二香花一而夕謁。

【夕煙】17（セキエン） ゆふけぶり。夕方の煙。〔謝偃、高松賦〕霏二夕煙一而曖レ景、度二神飆一而流レ音。〔唐玄宗、途經二華嶽一詩〕翠嵑留二斜影一、懸巖冒二夕煙一。

【夕燄】18（セキエン） あかあかと輝く夕陽。夕ばえ。〔梁元帝、龜兆名詩〕百枝凝二夕燄一、却月隱二高城一。

【夕可】19（セキカ） ❶夕方死んでもよい。道を求め學を勉めること。〔論語、里仁〕朝聞レ道、夕死可矣。〔王勃、上二武侍極一啓〕循榮覽分、朝聞夕可。❷清、鄭光羲（**11－39647**‥345）の字。

【夕河】20（セキカ） 河の名。夕陽河をいふ。山東省泰安縣の西。〔太平寰宇記〕羅谷水、分流入二夕陽河一。

【夕霞】21（セキカ） 夕方のもや。ゆふがすみ。暮霞。暮靄。又、夕やけ。〔何遜、七召〕聽二弱水之晨浪一、望二崑山之夕霞一。〔唐太宗、冬日臨二昆明池一詩〕寒野凝二朝霧一、霜天散二夕霞一。

【夕蛾】22（セキガ） 夕方に飛ぶ蛾。〔太平御覽、火部、燈〕符子曰、不レ安二其昧一而樂二其明一、是猶二夕蛾去レ暗赴レ燈而死一。

【夕改】23（セキカイ） 直ちに過ちを改めること。〔漢書、翟方進傳〕傳不レ云乎、朝過夕改、君子與レ之、君何疑焉。

〔夕改之勸〕24（セキカイノクワン） 直ちに過ちを改めるやうにすすめること。〔曹植、上二責レ躬應レ詔詩一表〕違二古賢夕改之勸一。〔注〕善曰、曾子曰、君子朝有レ過、夕改則與レ之。

【夕香】25（セキカウ） 夕方にたく香のかをり。〔江淹、別賦〕共二金爐之夕香一。〔韋應物、夜直二省中一詩〕華燈發二新燄一、輕煙浮二夕香一。

【夕刊】26（ユフカン） 夕刻に刊行する新聞紙。朝刊の對。

【夕顏】27（ユフガホ） 草の名。瓠瓜。花は夕方に咲いて朝にしぼむ。果實からかんぺうを製する。〔和漢三才圖會、蔓草類、牽牛子〕有二朝顏・晝顏・夕顏之三品一、云云、夕顏、瓠瓜之花、皆以二其花盛時一稱レ之。

〔夕顏巷〕28（セキガンカウ） 林忠の號。林羅山（**6－14551**‥444）を見よ。

〔夕顏棚〕29（ユフガホダナ） 竹木などを編んで夕顏の蔓を這はせる棚。〔繪本太功記、十〕夕顏棚のこなたより顯はれ出でたる武智光秀。

〔夕顏別當〕30（ユフガホベツタウ） 昆蟲の一種。えびがらすずめの別名。多く夕顏に集まつて花蘂を吸ふからいふ。

【夕氣】31（セキキ） 夕方の氣。夕氳。夕氛。〔韋應物、閒居贈レ友詩〕夕氣下遙陰、微風動疎薄。〔無名氏、竹賦〕含二夕氣一而拖翠、照二晨旭一以舒綺。

【夕暉】32（セキキ） ゆふひ。夕陽。落日。夕輝。〔唐太宗、詠レ雪詩〕潔野凝二晨曜一、裝墀帶二夕暉一。〔韋應物、贈二別河南李功曹一詩〕雲霞未レ改色、山川猶夕暉。

【夕輝】33（セキキ） 夕暉に同じ。

【夕歸】34（セキキ） 夕方かへる。〔晉書、曹毗傳〕朝敷二榮華一、夕歸二塵埃一。〔宋史、易延慶傳〕旦出守レ墓、夕歸侍レ母。

【夕去】35（セキキヨ） 夕方に出て行く。夕逝。〔宋書、後廢帝紀〕與二左右人解僧智張五兒一、恆相馳逐、夜出開二承明門一、夕去晨反、晨出暮歸、從者並執二鋋予一、行人男女及犬馬牛驢、無二得レ免者一。

【夕炬】36（セキキヨ） 夕方光る炬火。〔呂溫、藥師如來繡像讚〕夕炬傳レ照、晨爐續レ煙。

【夕凝】37（ユフゴリ） 雪や霜などが、夕方になつて凝り固まること。又、其の凝固したもの。〔萬葉集、十一〕夕凝の霜。

【夕句】38（セキク） 夏枯草（**3－5720**‥309）の異名。〔本草、夏枯草〕釋名、夕句・乃東・燕面・鐵色草、正誤、宗奭曰、今謂二之臭鬱一、震亨曰、臭鬱草有二臭味一、即茺蔚、是也、夏枯草無二臭味一、明是兩物。

【夕火】39（セキクワ） 夕方に映える火。〔晉書、慕容德載記〕孤以二不才一、忝荷二先駈都督一、元戎一十二萬、皆烏丸突騎、三河猛士、奮レ劍與二夕火一爭レ光、揮レ戈與二秋月一競レ色。

【夕花】40（セキクワ） 夕方の花。〔朱熹、茉莉詩〕曠然塵慮盡、爲下對二夕花一明上。

【夕臥】41（セキグワ） 夕方に寢る。〔高啓、師子林十二詠、臥雲室詩〕夕臥白雲合、朝起白雲開。

【夕光】42（セキクワウ） 夕方の日の光。夕曜。〔梁元帝、郢川晉安寺碑銘〕王舄霄潤、金池夕光。

【夕曛】43（セキクン） ゆふひ。ゆふひかげ。曛は入り日の餘光。〔謝靈運、晚出二西射堂一詩〕曉霜楓葉丹、夕曛嵐氣陰。〔韋應物、西澗種レ柳詩〕延詠留二佳賞一、山水變二夕曛一。〔戴叔倫、晚望詩〕山氣碧氤氳、深林帶二夕曛一。

【夕畦】44（セキケイ） 夕方のあぜ道。〔杜甫、孟倉曹步趾領二酒醬二物一滿レ器見レ遺二老夫一詩〕楚岸通二秋屐一、胡牀面二夕畦一。

【夕景】45（セキケイ） 夕影。❶くれがた。夕景色。〔宋史、樂志八〕西顥沆碭、夕景已肅。❷（セキエイ） 夕日。夕日の光。〔摯虞、思游賦〕星鳥逝而時反兮、夕景潛而且融。〔王融、法樂辭、下生歌〕金容涵二夕景一、翠鬢佩二晨光一。

〔夕景色〕46（ユフゲシキ） 夕方のけしき。〔玉葉和歌集、秋上〕眞紫の風の夕げしき。

【夕磬】47（セキケイ） 夕方の石磬の聲。〔李嘉祐、九日詩〕孤樓聞二夕磬一、塘路向二城闉一。〔劉長卿、宿二北山禪寺蘭若一詩〕上方鳴二夕磬一、林下一僧還。〔無可、題二青龍寺縱公房一詩〕夕磬城霜下、寒房竹月圓。〔周權、遊二山寺一詩〕夕磬兩三聲、半嵒花雨霽。

【夕雞】48（セキケイ） 夕方のにはとり。〔宋史、聶冠卿傳〕水龍夜號、夕鷄駭飛。

【夕蜺】49（セキゲイ） 夕方に立つにじ。〔郭正一、和下太子納二妃太平公主一出降上詩〕轉扇承二宵月一、揚旌照二夕蜺一。

【夕桀】50（セキケツ） 漢代の算術の名。〔周禮、地官、保氏、六曰、九數、注〕九數、方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・方程・贏不足・旁要、今有二重差・夕桀・句股一也。〔疏〕云下今有二重差・夕桀・句股一也上者、此漢法增レ之、馬氏注以爲、今有二重差・夕桀一、夕桀、亦算術之名、與レ鄭異、案、今九章、以二句股一替二旁要一、則旁要、句股之類也。

【夕月】51（セキゲツ） ❶ゆふづき。夕方出てゐる月。〔庾闡、渡江賦〕夕月將レ昏。〔李白、怨歌行〕薦レ枕嬌二夕月一、卷レ夜戀二春風一。❷（ツキニセキス） 古、秋分に天子が

西郊に月を拜する禮。〔周禮、春官、典瑞〕以朝レ日、〔注〕天子常春分朝レ日、秋分夕レ月。〔國語、魯語下〕少采夕レ月。〔注〕夕レ月以二秋分一。〔漢書、郊祀志上〕朝朝レ日、夕夕レ月。〔魏志、明帝紀〕八月夕二月于西郊一。〔北史、周宣帝紀〕宣政元年秋八月丙寅、夕二月於西郊一。〔隋書、禮儀志二〕禮天子以二春分一朝二日於東郊一、秋分夕二月於西郊一。

〔夕月夜〕52 ユフヅキヨ ユフヅクヨ　夕月のあるくれがた。〔古今和歌集、羈旅〕夕づくよおぼつかなきを。

【夕獻】53 セキケン　夕方に物を獻上する。〔獨孤申叔、郤二千里馬一賦〕朝登二於窮邊一、夕獻二於君所一。

【夕姑】54 セキコ　複姓。〔路史〕蔡仲之後有二夕姑氏一。〔姓氏尋源〕夕姑、卽夜姑・射姑。

【夕鼓】55 セキコ　夕方、時刻を知らせる太鼓。〔元稹、答二姨兄胡靈之見レ寄詩〕春郊纔爛熳、夕鼓已砰轟。

【夕紅】56 ユフクレナヰ　夕映(9)の㊁に同じ。〔金葉和歌集、春〕入り日さすゆふくれなゐ。

【夕鴻】57 セキコウ　夕方に飛んでゐる鴻。〔儲光羲、華陽作貽二祖三詠一詩〕淅瀝人二溪樹一、颼飀驚二夕鴻一。

【夕灑】58 セキサイ　夕方に風の吹くこと。〔陸機、演連珠〕時風夕灑、程レ形賦レ音。〔注〕翰曰、灑、猶レ散也。

【夕爽】59 セキサウ　夕方のすがすがしいさま。夕淸。〔謝莊、上搜才表〕陛下膺二慶集圖一、締レ寓開レ縣、夕爽選レ政、昃旦調レ風、采言斯興、觀謠仄遠、斯實辰階告レ平、頌聲方製。

【夕霜】60 セキサウ　夕暮れにおくしも。〔蘇舜欽、詩〕夕霜慘烈氣節勁、激二起壯思一衝二斗柄一。

【夕餐】61 セキサン　夕方、物を食ふこと。又、其のもの。ゆふめし。〔楚辭、離騷〕朝飮二木蘭之墜露一兮、夕餐二秋菊之落英一。〔蘇軾、次二韻毛滂法曹感レ雨詩一詩〕我頃在二東坡一、秋菊爲二夕餐一。

【夕爨】62 セキサン　夕方に御飯を焚くこと。〔白居易、歲暮詩〕晨炊廩有レ米、夕爨廚有レ薪。

【夕市】63 セキシ　ゆふがた立つ市場。ゆふいち。〔周禮、地官、司市〕夕市、夕時而市、販夫販婦爲レ主。

【夕次】64 セキジ　夕方にやどる。〔潘岳、金谷集作詩〕朝發二晉京陽一、夕次二金谷湄一。〔唐書、肅宗紀〕夕次二永壽縣一、吏民稍持二牛酒一來獻。〔鄒選、金馬門賦〕朝蹀二乎閶風一、夕次二乎咸池一。

【夕時】65 セキジ　夕暮れ時。〔周禮、地官、司市〕大市日昃而市、百族爲レ主、朝市、朝時而市、商賈爲レ主、夕市、夕時而市、販夫販婦爲レ主。〔漢書、東方朔傳〕臣朔奉レ觴、昧死再拜、上二萬歲壽一、上乃起入二省中一、夕時召讓レ朔曰、傳曰、時然後言、人不レ厭二其言一、今先生上レ壽、時乎。

【夕秀】66 セキシウ　夕方に花が咲くこと。又、その花。〔陸機、文賦〕啓二夕秀於未レ振。〔宋璟、梅花賦〕豔二於春一者、望レ秋先零、盛二於夏一者、未レ冬已萎、或朝甦而速謝、或夕秀而遄衰、曷若茲卉、歲寒特妍。

〔夕秀齋〕67 セキシウサイ　淸、汪援甲(**6**―**17154**・・172)の號。

【夕室】68 セキシツ　㊀墓地をいふ。夜臺。一說に、地名。〔左氏、莊、十九〕楚子禦レ之、大敗二於津一、云云、夏六月庚申卒、鬻拳葬二諸夕室一。〔注〕夕室、地名。〔會箋〕夕室、蓋先君冢墓所レ在、非二地名一也。㊁斜めに傾いた室。〔呂覽、明理〕夫有二天賞一得レ爲レ主、而未三嘗得二主之實一、此之謂二大悲一、是正坐二於夕室一也、其所謂正、乃不正矣。〔注〕夕室、以喩二悲人一也、言三其室斜夕不レ正、徙正二其坐一也。

【夕日】69 セキジツ　ゆふひ。夕景。夕陽。〔陶弘景、答二謝中書一書〕夕日欲レ頹、沈鱗競躍。〔韓愈、庭楸詩〕朝日出二其東一、我常坐二西偏一、夕日在二其西一、我常坐二東邊一。

〔夕日之降〕70 ユフヒノクダチ　夕方、日影の傾くこと。又、其の時。〔祝詞式、大祓〕今年六月晦日、夕日之降乃大祓。

【夕十】71 セキジフ　升(**2**―**2702**)の異名。〔事物異名錄、器用、度量衡〕淸異錄、博學記云、斗量曰二半昌王一、又曰二吉佃王一、升曰二夕十一、遂知三雞林人亦解二離合一也。

【夕者】72 セキシャ　昨夜。〔晏子春秋、雜、下〕景公病レ水、臥十數日、夜夢、與二二日一鬪不レ勝、晏子朝、公曰、夕者夢與二二日一鬪、而寡人不レ勝、我其死乎。

【夕餉】73 ユフゲ　ゆふめし。夕飯。〔夫木和歌抄、十九〕朝けゆふげ。

【夕情】74 セキジャウ　夕方の思ひ。〔謝靈運、登二臨海嶠一云云詩〕豈惟夕情斂、憶二爾共淹留一。

【夕渚】75 セキショ　夕方のなぎさ。〔溫子昇、從二駕幸二金墉城一詩〕微微夕渚暗、肅肅暮風冷。〔王勃、夜興詩〕野烟含二夕渚一、山月照二秋林一。

【夕鐘】76 セキショウ　夕方の鐘の聲。夕ぐれの鐘。入相の鐘。暮鐘。晚鐘。〔沈約、豫章行〕臥聞夕鐘急、坐閱朝光亟。

【夕食】77 セキショク　ゆふげ。夕方の食事。夕膳。〔左氏、昭、二十八〕或賜二二小人酒一不二夕食一。

【夕進】78 セキシン　夕方に進める。又、夕方に進む。人材を早く昇進させること。又、昇進の早いことをいふ。〔魏書、崔鴻傳〕竊惟、王者爲レ官求レ才、使レ人以レ器、黜二陟幽明一、揚レ淸激レ濁、故績效能官、才必稱レ位者、朝昇夕進、年歲數遷、豈拘二一階半級一、閡以二寮等一者哉。

【夕醉】79 セキスイ　夕方、酒に醉ふ。〔西京雜記、四〕鄒陽作二酒賦一、其詞曰、云云、於レ是錫二名餌一、祛二夕醉一、遺二朝酲一、吾君壽億萬歲、常與二日月一爭レ光。〔葉淸臣、松江秋汎賦〕夕醉二酒壚一、朝盤二魚市一。

【夕星】80 セキセイ　夕方に出る星。〔謝靈運、長歌行〕倏爍夕星流、昱弈朝露團。

【夕牲】81 セキセイ　祭の前夜、犧牲を供へるに必要な器具を點檢すること。〔漢書、丙吉傳〕嘗從祠二高廟一、至二夕牲日一、乃使三出取二齋衣一。〔注〕師古曰、未レ祭一日、其夕展二視牲具一、謂二之夕牲一。

【夕淸】82 セキセイ　夕方のすがすがしいさま。夕爽。〔韋應物、與二韓庫部一會二王祠曹宅一作詩〕閑門蔭二堤柳一、秋渠含二夕淸一。〔倪瓚、聽二彈琴一詩〕蕙帳凝二夕淸一、高堂流二月明一。

【夕逝】83 セキセイ　夕方に去り行く。夕去。〔王粲、贈二士孫文始一詩〕晨風夕逝、託與之期。〔楊載、神馬歌次二韻陳元之一〕朝趨欲レ出飛鳥上、夕逝直與奔星齊。

【夕霽】84 セキセイ　ゆふばれ。夕がたの雨あがり。〔沈佺期、遊二少林寺一詩〕紺園澄二夕霽一、碧殿下二秋陰一。〔皎然、白雲上人精舍云云詩〕夕霽山態好、空月生二俄頃一。

【夕照】85 セキセウ　ゆふ日の照りかへし。ゆふやけ。晚霞。〔江淹、蓮華賦〕見二綵霞之夕照一、覿二雕雲之晝臨一。〔顏眞卿、題二杼山癸亭一詩〕遲迴未レ能レ下、夕照明二村樹一。〔李嶠、晚秋喜レ雨詩〕氣滌朝川朗、光澄夕照浮。

【夕燒】86 ユフヤケ　夕映(9)の㊁に同じ。〔茶句集〕夕やけやから紅に露しぐれ。

【夕雪】87 セキセツ　夕方の雪。〔潘岳、懷舊賦〕夕雪暠以掩レ路。〔鮑溶、山中冬思詩〕哀風破レ山起、夕雪誤二鳴雞一。

【夕占】88 ユフケ ユフウラ　昔、夕暮れに行つた辻占の類。〔萬葉集、十六〕夕占ユフケにもうらにもぞ問ふ。

【夕然】89 セキゼン　斜めなさま。〔梁元帝、玄覽賦〕蘭釭夕然、合璧斜天。

【夕膳】90 セキゼン　夕食(77)に同じ。〔束晳、補亡詩〕馨二爾夕膳一、絜二爾晨餐一。〔張萬頃、送二裴少府一詩〕夕膳望二東周一、晨裝不二少留一。

【夕素】91 セキソ　夕方のうすぐらいさま。〔韋應物、對二雜花一詩〕朝紅爭レ景新、夕素含レ露翻。

【夕漲】92 セキチャウ　夕方に潮の漲ること。〔謝朓、七夕賦奉二護軍命一作〕悵二漢渚之夕漲一、忻二河廣之既梁一。

【夕鳥】93 セキテウ　夕方に飛んでゐる鳥。〔梁簡文帝、與二劉孝綽一書〕曉河未レ落、拂二桂棹一而先征、夕鳥歸レ林、懸二孤帆一而未レ息。〔陶弘景、尋山誌〕夕鳥依レ簷、暮獸爭來。〔沈約、直學省愁臥詩〕網蟲垂レ戶織、夕鳥傍レ櫚飛。〔何遜、夕望二江橋一詩〕夕鳥已西度、殘霞亦半消。〔柳惲、擣レ衣詩〕寒園夕鳥集、思牖草蟲悲。〔上官儀、安德山池宴集詩〕方惜流觴滿、夕鳥已城闉。〔盧照鄰、三月曲水宴詩〕興闌車馬散、林塘夕鳥喧。〔劉懷、贈二鄧茂一詩〕誰言夕鳥至、空想鄧林隈。〔張九齡、赴レ使二瀧峽一詩〕夕鳥聯二歸翼一、秋猿斷二去心一。〔劉長卿、偶然作詩〕老農開二古地一、夕鳥入二寒山一。

【夕潮】94 ユフシホ　夕方に滿ちくる潮。〔萬葉集、二十〕ゆふしほにかぢ引きをり。

【夕惕】95 セキテキ　朝から夕までおそれつつしむ。終日つつしむ。〔易、乾〕君子終日乾乾、夕惕若レ厲、无レ咎。〔疏〕夕惕者、謂下終二竟此日一、後至二向夕之時一、猶懷中憂惕上。〔後漢書、謝夷吾傳〕夕惕若レ厲。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕如仁夕惕之志、中夜九廻、龕世極亂之情、獨用懷抱。〔晉書、趙至傳〕朝霞啓レ暉、則身疲而遄征、太陽戢レ曜、則情劬而夕惕。〔南齊書、明帝紀〕寅憂夕惕、罔レ識レ攸レ濟。

【夕天】96 セキテン　夕がた。〔謝莊、北宅祕園詩〕夕天

霽二晩氣一、輕霞澄二暮陰一。

【夕奠】97（セキテン）　喪中に於ける夕方の供物。〔禮、檀弓上〕朝奠日出、夕奠逮レ日。

【夕殿】98（セキデン）　夕方の宮殿。〔謝朓、玉階怨〕夕殿下二珠簾一、流螢飛復息。〔劉方平、班婕妤詩〕夕殿別二君王一、宮深月似レ霜。〔白居易、長恨歌〕夕殿螢飛思悄然、孤燈挑盡未レ成レ眠。

【夕兔】99（セキト）　月。〔駱賓王、豔情代二郭氏一答二盧照鄰一詩〕抱レ膝當レ窗看二夕兔一、側レ耳空房聽二晩鷄一。

【夕波】100（セキハ）　夕方に立つ波。〔孟浩然、九日龍沙寄二劉大眘虛一詩〕歌竟乘レ流去、滔滔任二夕波一。〔韋應物、送二汾城王主簿一詩〕相望東橋別、微風起二夕波一。〔張中素、宮中樂〕奇樹留二寒翠一、神池結二夕波一。

【夕拜】101（セキハイ）　漢代、給事中の稱。毎夕、宮中に入り、青瑣門に對して禮拜をしたからいふ。又、唐代は給事郎を稱した。夕郎。〔漢官儀〕黃門郎、日暮入、對二青瑣門一拜、名曰二夕郎一、亦謂二之夕拜一。〔事物紀原、三省綱轄、夕拜〕漢給事中故事、毎日暮時、入對二青瑣門一拜、故謂二之夕拜一、亦爲二夕郎一。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二它名一標二牓官稱一、今漫疏二於此一、以示下子姪之未レ能二盡知一者上云云、給事郎、爲二夕郎・夕拜一。〔皇甫曾、送二商州杜中丞一詩〕夕拜忽辭青瑣闥、晨裝獨捧二紫泥書一。

〖夕拜郎〗102（セキハイラウ）　我が國、五位藏人の唐名。〔職原鈔〕五位藏人、唐名、仙郎、或夕拜郎。

【夕晩】103（セキバン）　夕方。〔禮、禮器、爲二朝夕一必放二于日月一、疏〕爲レ朝、謂三天子春分之日、朝二日于東門之外一、爲レ夕、謂三天子秋分之夕、祀二月于西門之外一也、日是陽、故朝旦用レ事、月爲レ陰、故夕晩用レ事也。

【夕霏】104（セキヒ）　❶ゆふぎり。夕暮の霧。〔謝靈運、石壁精舍還二湖中一詩〕林壑斂二暝色一、雲霞收二夕霏一。❷亭の名。浙江省麗水縣。〔明一統志〕夕霏亭、在二處州府治一、宋建。

【夕寐】105（セキビ）　夜おそくねる。〔宋書、武帝紀〕夕寐宵興、援二獎忠烈一、潛二搆崎嶇一、險過レ履レ虎。〔梁元帝、將レ歸二建鄴一先遣レ軍東下詔〕去レ魯興レ歎、有レ感宵分、過レ沛殞レ涕、實勞夕寐。

【夕風】106（セキフウ）　ゆふかぜ。夕方の風。〔潘岳、悼亡詩〕烈烈夕風厲。〔陸雲、答二顧處微一詩〕朝華未レ厭、夕風已扇。〔陸海、題二龍門寺一詩〕更與二龍華一會、爐煙滿二夕風一。〔韋應物、精舍納涼詩〕夕風吹二高殿一、露葉散二林光一。〔賈島、別二徐明府一詩〕地寒春雪盛、山淺夕風輕。〔杜牧、後池泛レ舟詩〕夕風飄二度曲一、煙嶼隱二行舟一。〔淸江、夕次二襄邑一詩〕古戍鳴二寒角一、疎林振二夕風一。

【夕氛】107（セキフン）　夕方の氣。夕氣。〔宋孝武帝、濟二曲阿後湖一詩〕夕氛晦二山隅一。

【夕幣】108（セキヘイ）　聘問に行く前日の夕方、其の幣物をならべて調べみること。〔儀禮、聘禮〕及レ期夕幣。〔注〕夕幣、先レ行之日夕、陳レ幣而視レ之。

【夕飆】109（セキヘウ）　夕方の大風。〔謝靈運、石門新營詩〕早聞二夕飆急一。〔宋史、朱昂傳〕將レ使下同二方姬孔一、抗中跡孫蘧上、精鶩二廣漠一、心游二太虛一、傲二朝曦一兮南榮、遡二夕飆一兮北疏、非道之病、惟情之舒。

【夕辦】110（セキベン）　朝に求められたものを、夕には既に具へること。〔北齊書、幼主紀〕帝特愛二非時之物一、取求火急、皆須二朝徵夕辦一。

【夕浦】111（セキホ）　夕方の濱べ。〔齊己、渚宮江亭寓目詩〕新鴻喧二夕浦一、遠櫂聚二空灣一。

【夕暮】112（セキボ）　❶ゆふぐれ。〔潘尼、迎二大駕一詩〕朝日順二長塗一、夕暮無レ所レ集。❷老境の喩。〔阮籍、詠懷詩〕朝爲二媚少年一、夕暮成二醜老一。

【夕烽】113（セキホウ）　夕方あがるのろし。〔蘇軾、座上復借レ韻送二岢嵐軍通判葉朝奉一詩〕夕烽過後人初醉、春雁來時雪未レ滋。

【夕鶩】114（セキボク）　夕方歩いてゐるあひる。〔何遜、七召〕夕鶩東返、落日西懸。

【夕霧】115（セキム）　ゆふぎり。〔陳叔達、後渚置レ酒詩〕寒沙滿二曲浦一、夕霧上二邪谿一。〔大江朝綱、山居秋晩詩〕雖レ愁三夕霧埋二人枕一、猶愛三朝雲出二馬鞍一。

【夕迷】116（ユフマヨヒ）　夕方、道を迷ふこと。〔建永元年七月卿相侍臣歌合〕踏みなれぬ山の岩根の夕まよひ。

【夕陽】117（セキヤウ）　❶ゆふひ。夕暉。夕日。〔庾闡、狹室賦〕南羲熾暑、夕陽傍照。〔杜甫、晩晴詩〕夕陽薰二細草一、江色映二疎簾一。〔杜牧、漢江詩〕南去北來人自老、夕陽長送二釣船歸一。❷山の西面。〔爾雅、釋山〕山西曰二夕陽一、山東曰二朝陽一。〔詩、大雅、公劉〕度二其夕陽一、豳居允荒。〔傳〕山西曰二夕陽一。❸老境の喩。〔劉琨、重贈二盧諶一詩〕功業未レ及レ建、夕陽忽西流。〔注〕翰曰、夕陽、謂二晩景一、喩二己之老一也。〔白居易、秦中吟十首、不致仕詩〕夕陽愛二子孫一。❹縣名。漢、置く。今、河北省灤縣。〔漢書、地理志下〕右北平郡、縣十六、夕陽。❺亭の名。河南省洛陽縣の西南。後漢の安帝の延光三年に、楊震が酖を飲んで卒した所。晉の泰始七年に、賈充が關中に赴任するや、百僚、之を夕陽亭に餞す。唐の時、亦、餞送の所とし、名を河亭と更めた。〔後漢書、楊震傳〕有レ詔遣二歸本郡一、震行至レ城、至二夕陽亭一乃慷慨謂二其諸子門人一曰、死者士之常分、吾蒙レ恩居二上司一、疾二姦臣狡猾一、而不レ能レ誅、惡二嬖女傾亂一、而不レ能レ禁、何面目復見二日月一、因飲レ酖而卒。〔晉書、賈充傳〕將レ之レ鎭、百僚餞二於夕陽亭一。〔明一統志〕夕陽亭、在二河南府城西南一、晉賈充出鎭二長安一、百僚餞二送於此一、自レ旦及レ暮、故名。

〖夕陽舂〗118（セキヤウウスヅク）　夕日の沒せんとする形容。高舂（**12－45313‥477**）を見よ。〔薛能、游二嘉州後溪一詩〕山屐經過滿二逕蹤一、隔レ溪遙見夕陽舂。

〖夕陽低〗119（セキヤウヒクシ）　ゆふひが傾く。〔賈島、行次二漢上一詩〕漢主廟前湘水碧、一聲風角夕陽低。

〖夕陽紅半樓〗120（セキヤウコウハンロウ）　清、蔣坦（**9－31820‥79**）の室名。

〖夕陽黃葉村舍〗121（セキヤウクワウエフソンシヤ）　清、沈德潛の居所の名。我が國の菅茶山も其の詩集を夕陽黃葉村舍詩と名づけた。

【夕浪】122（セキラウ）　ゆふなみ。夕方のなみ。〔杜甫、泊二岳陽城下一詩〕岸風翻二夕浪一、舟雪灑二寒燈一。

【夕郎】123（セキラウ）　給事中（**8－27432‥32**）の稱。黃門侍郎。夕拜（101）を見よ。〔宋之問、和二姚給事寓直之作一詩〕清論滿二朝陽一、高才拜二夕郎一。〔王維、春日直二門下省一早朝詩〕玉漏隨二銅史一、天書拜二夕郎一。

【夕嵐】124（セキラン）　❶夕方のもや。夕靄。〔王維、崔濮陽兄季重前山興詩〕殘雨斜日照、夕嵐飛鳥還。〔孟浩然、臘月八日於二剡縣石城寺一禮拜詩〕夕嵐增二氣色一、餘照發二光輝一。〔袁桷、復レ庵賦〕前レ江右レ山、朝煙夕嵐。❷（ユフアラシ）　夕方吹く強い風。

【夕覽】125（セキラン）　夕方物を見る。〔何晏、景福殿賦〕曉備二經戒一、夕覽二圖書一。〔名畫記〕高平公進二書畫一表曰、前代帝王、多求二遺逸一、朝觀夕覽、收二鑒於斯一。

【夕立】126（ユフダチ）　夕立雨の略。〔宇津保物語、俊蔭〕ゆふだちのいたうするをり。

〖夕立雨〗127（ユフダチノアメ）　夏の夕方、俄かに降る雨。〔萬葉集、十〕ゆふだちの雨降る毎に。

【夕涼】128（セキリヤウ）　❶夕方のすずしさ。〔唐高宗、九月九日詩〕鳳闕澄二秋色一、龍闈引二夕涼一。〔杜甫、遣レ悶詩〕暑雨留二蒸濕一、江風借二夕涼一。❷（ユフスズミ）　夏の夕方、戸外などに出てすずむこと。〔枕草紙、二〕いみじう暑き頃、夕すずみといふ程のもの。

【夕淪】129（セキリン）　夜の波。〔鮑照、翫二月城西門廨中一詩〕肴乾酒未レ缺、金臺啓二夕淪一。

【夕輪】130（セキリン）　夕方の月。ゆふづき。〔駱賓王、久戍二邊城一有レ懷二京邑一詩〕葭繁秋色引、桂滿夕輪孤。

【夕厲】131（セキレイ）　夕方に大いにつとめる。〔宋書、後廢帝紀〕朕以下眇疚未レ弘二政道一、囹圄尙繁、枉滯猶積上、夕厲晨矜、毎惻二於懷一。

【夕禮】132（セキレイ）　夕方行ふべき禮法。〔儀禮、士冠禮、玄端玄裳、黃裳雜裳、可也、疏〕是士向レ莫之時、夕レ君之服、必以レ莫爲レ夕者、朝禮備、夕禮簡、故以レ夕言レ之也。

【夕麗】133（セキレイ）　ゆふやけの美しさ。〔常建、西山詩〕物象歸二餘清一、林巒分二夕麗一。

【夕獵】134（ユフレフ）　夕方行ふ狩獵。

【夕露】135（セキロ）　ゆふつゆ。夕方の露。〔江淹、閩中草木頌、杜若〕同銜二夕露一、共炯二朝日一。〔儲光羲、臨江亭詩〕落霞明二楚岸一、夕露濕二呉臺一。〔杜甫、草閣詩〕夕露晴初溼、高雲薄未レ還。〔張衆甫、鶴詩〕獨立秋天靜、單棲夕露繁。

【夕漏】136（セキロウ）　夕方の時間。〔宋書、樂志二〕晨晷促、夕漏延、太陰極、微陽宣。〔李憕、和二楊員外伯成寓直一詩〕雙闕天河近、千門夕漏長。〔張文恭、七夕詩〕歡餘夕漏盡、怨結曉驂歸。

【夕和】137（ユフナギ）　夕方、風のなぐこと。夕方、海陸軟風交迭の時、一時、風が止むこと。〔萬葉集、十七〕朝なぎに寄する白波、ゆふなぎに滿ちくる汐。

【夕話】138 セキワ　夕方の茶ばなし。〔孟浩然、還レ山貽二湛法師一詩〕朝來問二疑義一、夕話得二清眞一。

【夕惑】139 ユフマドヒ　夕方からまどろむこと。よひね。〔落窪物語〕夕まどひし給うて臥し給ひぬ。

【夕凪】140 ユフナギ　夕和(137)に同じ。

【夕御食】141 ユフミケ　天皇、又は神前に供する夕方の御食事。夕御饌。〔祝詞式、祈年祭〕皇御孫命能朝御食夕御食能加牟加比爾。

【夕御饌】142 ユフミケ　夕御食(141)に同じ。

【夕琴樓】143 セキキンロウ　清、黄韞生(**12**—**47926**‥993)の室名。

【夕繡齋】144 セキシウサイ　清、汪援甲(**6**—**17154**‥172)の室名。

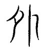
【夕飯時】145 ユフメシドキ　夕飯を食ふ時刻。夕飯を調へる頃。〔心中天網島、中〕日は短し、夕飯時。

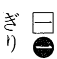
【夕葵書屋】146 セキキショヲク　清、吳鼒(**2**—**3365**‥202)の室名。

二畫

【外】
5750

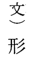
一 グヮイ ゲ　〔集韻〕五會切　ㄨㄞ wai⁴　泰
二 グヮツ グヮチ　〔集韻〕五活切　曷
唐 ウイ


小篆


古文

一 ❶**そと。ほか。**㋑くぎりのそと。〔韻會〕外、增韻、外、內之對也。〔中庸〕君子素二其位一而行、不レ願二其外一。〔莊子、齊物論〕六合之外、聖人存而不レ論。㋺おもて。〔廣雅、釋詁四〕外、表也。〔周禮、考工記、匠人〕外有二九室一。〔注〕外、路門之表也。㋩うへ。〔易、繫辭下〕吉凶見二乎外一。〔虞注〕外、上也。〔左氏、僖、十五、蠱之貞、注、內卦爲レ貞、疏〕筮之畫卦、從レ下而始、故以レ下爲レ內、上爲レ外。㋥まへ。以前。〔荀子、非相〕五帝之外、無二傳人一。〔注〕外、謂二已前一。㋭うはべ。身づくり。〔法言、脩身〕其爲レ外也肅括。〔注〕外、威儀也。㋬言行。〔易、文言〕君子敬以直レ內、義以方レ外。㋣他國。〔周禮、夏官、大司馬〕暴レ內陵レ外。㋠異鄕。他家。〔禮、檀弓上〕君子非レ有二大故一、不レ宿二于外一。〔孟子、滕文公上〕禹八二年于外一。㋷地方。〔唐書、源乾曜傳〕臣三息在二京師一、請出二一息一補レ外。㋦遠地。〔陶弼、過二思明一詩〕幾年來二瘴外一、此夜宿二溪中一。㋸他人。〔禮、儒行〕外擧不レ避レ怨。㋾下民。公衆。〔禮、中庸〕合二內外一之道也。〔注〕內外、猶二上下一。㋻在野。民間。〔後漢書、宦者傳〕中外服從。㋕おほやけごと。〔禮、內則〕男不レ言レ內、女不レ言レ外。㋵おもてざしき。〔禮、內則〕男子居レ外。㋟母方。〔爾雅、釋親〕母之考爲二外王父一、母之妣爲二外王母一、母之王考爲二外曾王父一、母之王妣爲二外曾王母一。㋹妻方。〔爾雅、釋親〕妻之父爲二外舅一、妻之母爲二外姑一。㋞ちがふ。ことなる。〔後漢書、馬援傳〕時白二外事一。❷**とほい。**〔說文〕外、遠也、卜尙二平旦一、今若夕卜、於レ事外也。〔段注〕遠也、下當レ有下从二夕卜一三字上。❸**父。**男子居レ外の轉義。外艱(102)の❶を見よ。❹**妻が夫をいふ。**〔稱謂錄、夫、外〕恆言錄、夫婦相稱曰二內外一、晉魏以前無レ之、如二秦嘉顧榮一、皆有二贈レ婦詩一、不レ云レ贈レ內也、徐悱有二贈レ內詩一、又有下對二房前桃樹一詠二佳期一贈上レ內云、其妻劉氏有二答レ外詩一、內外之稱、起二於是一矣。❺**はづれる。はづす。**それる。そらす。はなれる。〔呂覽、有度〕貪汙之利外矣。〔注〕外、棄也。〔淮南子、俶眞訓〕達則嗜欲之心外矣。〔注〕外、棄也。❻**よそにする。ほかにする。**㋑のぞく。〔淮南子、精神訓〕外レ此、其餘無レ足レ利矣。〔注〕外、猶レ除也。㋺わすれる。〔莊子、大宗師〕參日而後、能外二天下一。〔注〕外、猶レ遺也。㋩うとんずる。〔荀子、王霸〕人主則外レ賢而偏擧。〔注〕外レ賢、疏レ賢也。〔漢書、霍光傳〕盡外二我家一。㋥おろそかにする。〔禮、大學〕外レ本內レ末。〔疏〕外、疏也。❼**役者の役名。**外旦・外末の略。正色以外に補充した者で、男にも女にも扮するものをいふ。後世、男に扮するものを外と云ひ、女に扮するものを貼と云ふ。〔宋元戲曲史〕元劇有二外旦・外末一、而又有レ外、外則或扮レ男、或扮レ女、當レ爲二外末・外旦之省一、外末・外旦之省爲レ外、猶二貼旦之後省爲レ貼也、曰レ外曰レ貼、均係二一義一、謂下於二正色之外一又加二某色一以充上レ之也。二 **そむく。もとる。**〔集韻〕外、舛也。

名乘　ト。ソデ(地名)。

解字　會意。夕と卜との合字。本義はとほい・よそごとの意。卜(うらなひ)を行ふには平旦を尙び、夕に行ふことは例外であるから、夕と卜とを合せて、とほい・よそごとの義を表はす。一說、本義は旬の外日の義。卜筮に於て、筮を行ふ日の屬する旬を旬の內といひ、それ以外の旬を旬の外といひ、又、其の日を遠某日といふ。例へば、今月の下旬に筮すれば、之を旬の內といひ、來月の上旬は旬の外といふの類。故に夕と卜とを合せて、旬外の意を表はす。夕は月の缺畫、卽ち半月の意に用ひ、借りて旬外の意と爲す。又、一說、卜と骨の省形との合字。本義は龜鼈の屬を灼いて卜し、其のうらかたの上表に現はれること。轉じて、おもて・うへの意と爲す。又、筮畫は下より始めて、近きを內卦、遠きを外卦といふことから、そと・とほいの意と爲す。故に卜と骨の省形(骨は考工記に所謂外骨・內骨、卽ち龜鼈の屬をいふ)とを合せて其の意を表はす。〔說文通訓定聲〕外、遠也、从二夕卜一、會意、卜尙二平旦一、今夕卜、于レ事外矣、或曰、禮記曲禮、凡卜筮日旬之外曰二遠某日一、夕爲二半月一、借爲二旬外意一、或曰、字當レ从二卜骨省一、誤从レ夕也、考工梓人、外骨內骨、注、外骨、龜屬、龜所二以卜一、廣雅釋詁四、外、表也、易繫辭、吉凶見二於外一、虞注、外、上也、按、筮畫從レ下始、故近爲二內卦一、遠爲二外卦一。▽ （金文）形聲。卜に從ひ月の聲。占卜のため龜の甲から肉をかきとる、引いて、はづす・そとの意を表はす。

【外安】1 グヮイアン　外部が安泰である。〔易、渙、渙二其躬一无レ悔、注〕渙之爲レ義、內險而外安者也。〔白居易、病中宴坐詩〕外安二支離體一、中養二希夷心一。

【外按】2 グヮイアン　外按使。冬期、狩獵を練習する者。〔韓愈、唐正議大夫尙書左丞孔公墓誌銘〕笞二外按小兒一。〔王建、外按詩〕日暮秦陵塵土起、從レ東外按使初回。

【外夷】3 グヮイイ　外國人。〔漢書、蕭望之傳〕外夷稽首稱レ藩、中國讓而不レ臣。

〔外夷之患〕4 グヮイイノウレヘ　外國におびやかされる憂患。〔松林飯山、林子平畫像記〕東陲有二外夷之患一。

【外意】5 グヮイイ　他志(**1**—**370**‥44)に同じ。叛意。〔蜀志、劉璋傳〕恃レ功驕豪、欲レ有二外意一。

【外位】6 グヮイヰ　外朝の位置。〔儀禮、士喪禮〕主人堂下直二東序一西面、兄弟皆卽レ位如二外位一。〔注〕賓皆卽二此位一、乃哭盡レ哀止、主人乃右還拜レ之、如二外位一矣、兄弟齊衰大功者。

【外委】7 グヮイヰ　❶外をゆだねまかす。〔後漢書、李固傳〕前孝安皇帝、內任二伯榮樊豐之屬一、外委二周廣謝惲之徒一、開レ門受レ賂、署用非レ次、天下紛然、怨聲滿レ道。❷清代、定員外に任命した武員。外委千總を見よ。〔清國行政法汎論、武官仕途種類、行伍〕凡綠營兵士、先補二坐糧一、服役幾年、進至二步糧一、自二步糧一進二馬糧一、自二馬糧一進二外委一、自二外委一進二經制一、自二經制一進二把總一。

〔外委千總〕8 グヮイヰセンソウ　清代、綠營軍の曹長。〔清會典、步軍統領〕巡捕三營參將游擊守備、以レ次升補、均簡選引見、補二授千總一以二把總一、選二補

把總一以二外委千把總一、及二馬兵並發一レ營、補用之人、拔二補外委千把總一、皆循レ次拔補。

〔外委把總〕9 グワイヰハソウ 清代、綠營軍の軍曹。外夷千總を見よ。

【外畏】10 グワイヰ 外を恐れる。他を畏れる。〔史記、呂后紀〕呂祿呂產欲レ發レ亂、關中內憚二絳侯朱虛等一、外畏二齊楚兵一、又恐二灌嬰畔一レ之、欲下待二灌嬰兵與レ齊合一而發上、猶豫未レ決。〔唐書、郭子儀傳〕臣所レ統士不レ當二賊四之一一、馬不レ當二賊百之二一、外畏內懼、將何以安。

【外圍】11 グワイヰ ㊀そとがこひ。外のかこひ。〔魏書、長孫陳傳〕受興弟陳、世祖時爲二羽林郎一、征二和龍一、賊自二西門一出、將レ犯二外圍一、陳擊二退之一、追斬至二長城下一。㊁外まはり。周圍。〔宋史、律歷志〕陽經雙環外圍、一丈三尺二寸八分。

【外壝】12 グワイヰ 外側にあつて、四方に圍みめぐらした壇。〔魏書、禮志〕天一・太一・北斗・司中・司命・司祿・司民、在二中壝內一、各因二其方一、其餘從食者一千餘、神餟在二外壝內一。〔隋書、禮儀志一〕中壝去二內壝一、外壝去二中壝一各二十五步。〔宋史、禮志二〕仁宗天聖六年、始築二外壝一、周以二短垣一、置二靈星門一。〔元史、祭祀志二〕設二牲榜於外壝東門之外一、稍南西向。

【外囿】13 グワイイウ 國外の苑囿。〔漢書、西域傳贊〕鉅象・師子・猛犬・大雀之羣、食二於外囿一。〔班固、典引〕馴二毛宗於外囿一。

【外郵】14 グワイイウ 國境の宿場。〔唐書、顏杲卿傳〕城門不レ可二夜開一、舍二之外郵一、使二履謙及參軍馮虔郡豪翟萬德等數人飲勞一、既醉斬レ之。〔李紳、過二吳門一詩〕候火分二通陌一、前旌駐二外郵一。

【外游】15 グワイイウ 他に要求する。心を他にそそぐ。〔列子、仲尼〕務二外游一、不レ知レ務二內觀一。

【外遊】16 グワイイウ 外國に行く。外國を旅行する。

〔外遊星〕17 グワイイウセイ 太陽系に於て地球の軌道外を廻る惑星。卽ち木星・土星・天王星・海王星・冥王星をいふ。外行星。外惑星。

【外誘】18 グワイイウ そとからの誘ひかけ。外界の誘惑。〔朱熹、中庸章句第一章〕蓋欲下學者於レ此反二求諸身一、而自二得之一、以去二夫外誘之私一、而充中其本然之善上。

【外憂】19 グワイイウ 外國から來る患難。又、外國から攻められる心配。外患。〔韓愈、秋懷詩〕世累忽進レ慮、外憂遂侵レ誠。

【外域】20 グワイヰキ 外國の地。〔後漢書、西域傳論〕終能立二功西遐一、羈二服外域一。〔陸機、辨亡論〕乃俾三一介行人撫二巡外域一。〔江總、濟黃河詩〕葱山淪二外域一、鹽澤隱二遐方一。〔魏書、大秦國傳〕其人端正長大、衣服車旗、擬二議中國一、故外域謂二之大秦一。〔隋書、裴矩傳〕晉氏亦統二遼東一、今乃不レ臣、別爲二外域一。〔唐書、林蘊傳〕北彌二豳郊一、西極二汧隴一、不二數百里一爲二外域一。〔吳筠、覽レ古詩〕征戰窮二外域一、殺傷被二中原一。

【外溢】21 グワイイツ 外にあふれる。〔沈約、繡像贊〕縟文內炳、靈姿外溢、水耀金沙、樹羅瓊實。〔杜牧、吏部侍郎沈公行狀〕溫良恭儉、明智忠信、內積外溢、自然相隨。〔范鎭、大報レ天賦〕欵謁之辭稱畢、孝思之容外溢。

【外姻】22 グワイイン 他國の婚姻關係にあるもの。又、母・妻等の女方系統の親戚。〔左氏、隱、元〕士踰レ月、外姻至。〔注〕姻、猶レ親也。〔會箋〕外姻、謂下他國有二婚姻之好一者上。〔後漢書、皇后紀序〕外姻亂邦之迹。〔陳書、到仲擧傳〕禮盛二外姻一、勢均二戚里一。

【外淫】23 グワイイン ㊀外姓、卽ち母方の親戚と淫事を行ふ。〔春秋、閔、二〕夫人姜氏孫二于邾一。〔注〕哀姜外淫。〔疏〕言二外淫一者、謂下以二外姓一爲上レ淫。㊁外がうるほふ。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕邪氣入而感レ內兮、施二玉色一而外淫。〔注〕淫、潤也。㊂外に遊ぶ。〔司馬相如、長門賦〕登二蘭臺一而遙望兮、神怳怳而外淫。

【外院】24 グワイヰン 本宅以外のやしき。別邸。〔韓偓、春盡日詩〕外院池亭聞二動鎖一、後堂闌檻見二垂簾一。〔宋史、藝文志序〕已而王宮火、延及二崇文祕閣一、書多煨燼、其僅存者、遷二於右掖門外一、謂二之崇文外院一。

【外宇】25 グワイウ 地方。都から遠方の地。外地（403）に同じ。〔王粲、鶡賦〕愬二晨風一以羣鳴、震聲發二乎外宇一。〔沈約、梁明堂登歌、歌二黃帝一〕宅二屏居中一、旁臨二外宇一。

【外衞】26 エゲ ㊀天平寶字三年に置いた衞府。大將・中將・少將・將監・將曹の官を置く。寶龜三年二月、廢す。〔續日本紀、二十六、天平神護元年二月甲子〕定二外衞府官員一。㊁左右衞門と左右兵衞との稱。內衞の對。〔百寮訓要〕外衞、云云、宮城の外を警固する職なり。

〔外衞兵〕27 グワイヱイヘイ 軍隊の宿營に際して、前哨以外に附近を警備する兵。

【外營】28 グワイエイ 外のまもり。〔魏書、費穆傳〕穆乃簡二練精騎一伏二於山谷一、使下贏步之衆爲二外營一以誘上レ之。〔宋史、禮志二〕二十八宿外宮星之屬、則其位皆外營、所三以等二神位一也。

【外瀛】29 グワイエイ 外國の地。〔南齊書、樂志〕靈心顧留辰睠、洽二外瀛一瑞中縣。

【外徭】30 グワイエウ 徵發せられて邊土を守る者。外繇。〔漢書、賈山傳〕減二外徭衞卒一、止二歲貢一。

【外搖】31 グワイエウ 外側にうごく。〔曾鞏、序越州鑑湖圖〕然恐工起之日、浮議外搖、役夫內潰、則雖レ有二智者一、猶不レ能レ畢二其成一。

【外繇】32 グワイエウ 外徭に同じ。一說、繇役以外に、人民を或る期間中、政府の土木事業に從事させること。徭役。賦役。〔史記、平準書〕河南上下富人助二貧人一者籍上、天子見二卜式名一、識レ之曰、是固前而欲下輸二其家半一助上レ邊、乃賜二式外繇四百人一。〔注〕漢書音義曰、外繇、謂二戍邊一也、一人出二三百錢一、謂二之過更一、式歲得二十二萬錢一也、一說在二繇役之外一、得三復除二四百人一。〔漢書、昭帝紀〕罷二不急官一、減二外繇一。

【外曜】33 グワイエウ 外にかがやく。〔新論、因顯〕火不レ吹則無二外曜之光一、鏡不レ瑩必闕二內影之照一。〔王儉、褚淵碑文〕內藴二帷幄一、外曜二台階一。〔隋書、天文志上〕日者純陽之精也、光明外曜、以眩二人目一、故人視レ日如レ小、及二其初出一、地有二遊氣一、以厭二日光一、不レ眩二人目一、卽日赤而大也。

【外役】34 グワイエキ ㊀外の守役。外國に於ける守備の任。〔左氏、昭、二十〕若不レ獲レ扞二外役一、是不レ有二寡君一也。〔會箋〕外役、在レ外之役。㊁外國への使。〔盧諶、贈二司空劉琨一書〕事與レ願違、當レ忝二外役一。

【外易】35 グワイエキ 外にあつて君命を勝手に變易すること。〔史記、商君傳〕今君又左建外易、非三所二以爲一レ教也。

【外懌】36 グワイエキ 他人がよろこぶこと。〔李隲、徐襄州碑〕內愉外懌、溥暢昭宣。

【外粵】37 グワイヱツ 今の安南地方をいふ。〔漢書、南粵、王趙佗傳〕毋レ予二蠻夷外粵、金鐵田器馬牛羊一。〔注〕師古曰、言、非二中國一、故云二外粵一。

【外延】38 グワイエン 論理學上、概念の代表する事物の範圍。例へば金屬といふ概念の外延は、金銀銅鐵等であり、又生物といふ概念の外延は、動物といふ概念の外延より廣いといふ類。外擧。Extention

【外羨】39 グワイエン グワイセン 墳墓の出入口。〔史記、秦始皇紀〕葬既已下、或言、工匠爲二機藏一、皆知レ之、藏重卽泄、大事畢、已藏閉二中羨一、下二外羨門一、盡閉二工匠藏者一、無二復出者一。

【外緣】40 グワイエン ㊀外から來る物欲。〔宋書、謝靈運傳〕幽二棲窮巖一、外緣兩絕。〔吳通微、內侍焦希望碑〕不レ牽二外緣一、不レ滯二禪想一。〔白居易、朝歸書寄二元八一詩〕自レ此聊以適、外緣不レ能レ干。㊁ゲエン 佛 外から力を與へて物の生起をたすける緣。內緣（**1－1418**・17）の㊀の對。四因中の增上緣。〔起信論〕用重習者、卽是衆生外緣力、如レ是外緣、有二無量義一。

【外檐】41 グワイエン 宮室の外側のひさし。〔禮、明堂位、復廟重檐、疏〕就二外檐下壁一、復安二板檐一、以辟二風雨之灑一レ壁。

【外垣】42 グワイエン 外まはりのかき。〔金史、禮志六〕南垣及外垣、皆一屋三門。〔元史、祭祀志四〕前行至二外垣欞星門外一。

【外怨】43 グワイエン 外國のうらみ。〔淮南子、時則訓〕和二外怨一、撫二四方一、行二柔惠一、止二剛強一。

【外苑】44 グワイエン 宮外の苑囿。〔後漢書、楊賜傳〕帝好二微行一、遊二幸外苑一。〔宋史、禮志十六〕第四日宴二百官於都帝驛、宗室於外苑一。

【外婉】45 グワイエン 外部のたをやかなこと。外柔。〔夏侯嘉正、洞庭賦〕外婉而固、內健而障、降以姤始、升以復張。

【外援】46 グワイエン 他からのたすけ。外救。〔左氏、文、元〕踐二修舊好一、要二結外援一。〔魏武帝、述志令〕前朝恩封二三子一爲レ侯、固辭不レ受、今更欲レ受レ

之、非レ欲二復以爲レ榮、欲下以爲二外援一爲中萬安計上。〔周書、王思政傳〕思政初入二潁川一、士卒八千人、城既無二外援一、亦無二叛者一。〔唐書、李翰傳〕古者列國侵伐、猶分レ災救レ患、諸將同受二國恩一、奉レ辭伐レ罪、巡固守、亦待二外援一、援不レ至而食盡、食盡而及レ人、則巡之情可レ求矣。

【外園】47 グワイエン 內園の外にある外苑。〔唐書、憲宗懿安皇后郭氏傳〕是夕后暴崩、有司上二尊謚一、葬二景陵外園一。

【外翁】48 グワイヲウ 外祖父をいふ。外公。〔元稹、答二友封見レ贈詩〕扶レ牀小女君先識、應レ爲三此二此二似二外翁一。〔白居易、談氏小外孫玉童詩〕外翁七十孫三歲、笑指二琴書一欲レ遺レ傳。〔謝翺、山居詩〕盜侵二鄰壤粟一、女寄二外翁家一。

【外應】49 グワイオウ 外から應じる。又、外に應ずる。〔易、屯、六二、疏〕雖三遠有二外應一、未二敢苟進一。〔史記、申不害傳〕內修二政教一、外應二諸侯一、十五年、終二申子之身一、國治兵彊、無二侵レ韓者一。〔唐書、魚朝恩傳〕郭子儀密白、朝恩嘗結二周智光一爲二外應一、久領二內兵一、不二早圖一、變且レ大。

【外加】50 wai^{4} chia^{1} 其の上。其の外なほ。

【外家】51 グワイカ ❶皇后の生家。皇妃のさと。外戚の家。外舍。〔史記、魏其武安侯傳〕上謝曰、俱宗室外家、故廷辯レ之、不レ然、此一獄吏所レ決耳。〔漢書、成帝紀贊〕趙氏亂レ內、外家擅レ朝。〔後漢書、崔駰傳〕漢興以後迄二于哀平一、外家二十、保レ族全レ身、四人而已。❷母又は妻の緣につながる身うち。〔後漢書、王符傳〕王符、字節信、安定臨涇人也、安定俗鄙二庶孽一、而符無二外家一、爲二鄉人所一レ賤、隱居著二書二十餘篇一、以譏二當時失得一、不レ欲三章二顯其名一、故號曰二潛夫論一。〔晉書、魏舒傳〕幼孤、爲二外家甯氏所一レ養。〔唐書、韋述傳〕元行沖景駿、姑子也、爲二時儒宗一、常載二書數車一、自隨レ述入二其室一、觀レ書、不レ知二寢食一、行沖異レ之、試與語二前世事一、孰復詳諦如レ指レ掌然、使レ屬レ文、受レ紙輒就、行沖曰、外家之寶也。❸男子が舅家を、婦人が父母の家をいふ。〔資治通鑑、梁紀、太宗簡文皇帝上、犯者刑及二外族一、注〕男子謂二舅家一爲二外家一、婦人謂二父母之家一爲二外家一、外族、外家之族也。❹拳法の一派。少林から起り、人を搏つを主とす。〔稱謂錄、拳、外家〕小知錄云、拳勇有二內外家之稱一、外家起二於少林一、以レ搏レ人爲レ主、人亦得而乘レ之、內家則以レ靜制レ動、犯者應レ手卽仆、蓋傳二之宋之張三峯一。❺カゲ 外科の醫者。〔本草、石硫黃〕釋名、時珍曰、外家謂二之陽侯一。❻wai^{4} chia^{1} 外に圍つて置く妾。

【外界】53 グワイカイ ❶外國。〔金史、食貨志五〕議欲レ聽下榷場互市、用レ銀而計レ數稅上レ之、上曰、如レ此是公使三銀入二外界一也。❷㋑我が身以外のものごと。五官に觸れ心に感ずる總べての事物。㋺物事の周圍。そとがは。

【外海】54 グワイカイ ❶そとうみ。本國海面の外に在る海。外洋。〔宋書、倭國傳〕奕世載レ忠、作レ藩二外海一。〔武備要略〕以レ備二外海一爲レ上。❷川の名。廣東省新會縣の東北。西江は二派に分れ、東派は中山縣の境に入り、西派は南流して外海水となり、西南流して熊海に入る。

【外巧】55 グワイカウ 外面の修飾の巧なこと。外巧內嫉を見よ。

【外巧內嫉】56 グワイカウナイシツ うはべでは顏色を美しくし、內心ではねたんで居ること。〔漢書、翟方進傳〕兄宣、靜言令色、外巧內嫉。

【外交】57 グワイカウ ❶國と國との交際。國交。〔國語、晉語八〕乃厚二其外交一而勉レ之。〔墨子、修身〕無レ務二外交一。〔史記、蘇秦傳〕以求二外交一。❷國外の人と個人としての交際。國外の人との交際。又、それをすること。〔禮、郊特牲〕爲二人臣一者無二外交一、不二敢貳レ君也。〔春秋、隱、元、祭伯來、疏〕天子內臣不レ得二外交一。〔史記、楚世家〕六年使下太子建居二城父一守上レ邊、無忌又日夜讒二太子建於王一曰、自三無忌入二秦女一太子怨、亦不レ能レ無レ怨二於王一、王少自備焉、且太子居二城父一、擅レ兵外交、諸侯且欲レ入矣。〔魏書、高句麗傳〕高祖詔責レ璉曰、朕方欲下興二滅國於舊邦一、繼中絕世於劉氏上、而卿越レ境外交、遠通二簒逆一、豈是藩臣守レ節之義。❸世間の人々との交際。〔史記、鄧通傳〕不レ好二外交一。

【外交家】58 グワイカウカ ❶外交の當局者。外交官。〔周禮政要、通譯〕彼國有三專治二外交家學一、於二各國言語文字政教律法風俗約章一、無レ不二淹貫一。❷外交に秀でた人。

【外交官】59 グワイカウクワン 外交にたづさはる官吏。大使・公使・領事及びそれに附屬する官吏等。

【外交戰】60 グワイカウセン 外交によつて互に自國の對外關係を有利に導かうと競ふこと。

【外交團】61 グワイカウダン 或る國に駐剳する各國の外交使節が形成する團體。該駐剳國に於ける外交官の特權、其の他の待遇に關する事項を監視する。

【外交部】62 グワイカウブ 民國、中央官廳の一。國際交涉・國際禮儀・外國人並に在外人民に關する一切の事務を管理すると共に、在外商業保護の任に當る。政務司・通商司・交際司の各司を置く。

【外交機關】63 グワイカウキクワン 外交の必要上設けられた國家の機關。外務大臣・公使など。

【外交辭令】64 グワイカウジレイ 美辭麗句を以て巧に人を操ること。御世辭。

【外交調整】66 グワイカウテウセイ 國家と國家との諸問題を解決して友好的・平和的關係を整へること。

【外交文書】67 グワイカウモンジョ 外交に關する一切の書類。卽ち使臣の信任狀・委任狀・議定書・覺書等の類。

【外交官試驗】68 グワイカウクワンシケン 外交官たるべき學識を具有するや否やを試みる國家試驗。

【外江】69 グワイカウ ❶川の名。㋑湖北省枝江縣の東。揚子江が此處に至つて二支に分れ、百里洲の南を行くものを外江とし、江陵縣の西南に至つて內江と會し、一江となる。㋺內江(**1**－**1418**‥39)の❶を見よ。❷wai^{4} chiang^{1} 外省をいふ。廣東・福建の語。

【外江人】70 wai^{4} chiang^{1} jen^{2} 外省の人をいふ。他鄉人。廣東・福建の語。

【外江老】71 wai^{4} chiang^{1} lao^{3} 外省の人をいふ。廣東・福建の語。

【外考】72 グワイカウ 王朝時代、十年を經て黜陟する官。〔類聚三代格、十七〕弘仁十三年三月二十六日太政官府、養二活病者一者三十人以上、白丁入二於內考一云云、外考入二內考一者減レ半。

【外行】73 wai^{4} hang^{2} ❶素人。しろうと。❷母錢舖をいふ。官廳の認可を經ないで私に開いた錢舖で、糧食店・鹽店等に於て兼營的に行ふもの。

【外行星】74 グワイカウセイ 天文學用語。軌道が地球軌道外にある遊星。九大遊星中の火・木・土・天王・海王・冥王の六星をいふ。外遊星。

【外岡】75 グワイカウ 鎭の名。江蘇省嘉定縣の西。東に黃泥岡・青岡、南に沙岡がある故に名づく。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、嘉定縣〕黃渡鎭、縣西南三十六里、與二青浦縣一接レ境、云云、又縣西十五里曰二外岡鎭一、水陸衝要處也。

【外幸】76 グワイカウ 外へ御幸になる。〔魏書、庾業延傳〕劉顯謀レ逆、太祖外幸、和辰奉二獻明太后一歸、太祖又得二其資用一、以二和辰一爲二內侍長一。

【外高】77 グワイカウ 外側の高いこと。〔後漢書、律歷志上〕候氣之法、爲レ室三重、戶閉塗釁必周密、布緹幔二室中一、以レ木爲レ案、每律各一、內庳外高。

【外腔】78 wai^{4} ch'iang^{1} 他地方の訛り。

【外項】79 グワイカウ 數學用語。一の比例に於て、其の兩端に立つ二量。例へば、$a:b=c:d$に於けるa, dの類。外率。

【外膠】80 グワイカウ 外部から心を惑はすもの。富貴利欲の類。〔韓愈、送二高閑上人一序〕一二死生一、解二外膠一。

【外剛】81 グワイガウ うはべが強剛であること。外柔の對。〔易、否〕內柔而外剛。〔鄭明選、蟹賦〕體二外剛而內柔一兮、稟二離德於南方一。

【外剛而內荏】82 ソトガウニシテウチジン 外面は強さうで、內實は柔かなこと。荏は柔。〔松崎慊堂、蝸說〕觸警而縮、何似二夫外剛而內荏者一耶。

【外號】83 グワイガウ しこな。別名。綽名。あだな。

【外壕】84 グワイガウ 城のそとぼり。外壕。外塹。外隍。〔五代史、葛從周傳〕出レ兵收二外壕一、從周掩擊レ之。

【外濠】85 グワイガウ 外壕に同じ。

【外角】86 グワイカク ❶外がはのかど。〔詩、大雅、抑、抑抑威儀、維德之隅、疏〕此以二屋之外角一、喻二人之外貌一、由二內方而外正一、故觀レ外而知レ內。❷數學用語。二直線が一直線と會する時に作る、二線の外側にある四つの角。又、多角形の一邊とこれに隣れる邊の延長との夾む角。〔新法曆書、

因明篇、論二平面上三角形一〕三角形之外角與二相對之內兩角一幷等。〔新法曆書、割圓〕甲乙庚丁既平行、甲戊線截二二線於子一、卽內外角等。

【外客】87 グワイカク ㊀外から來た客。〔易林〕惡來呼レ伯、煩二驚外客一。㊁wai^4 k'ê^4 ㋑熟知の間柄でない客。顏馴染でない客。㋺自分と職業を異にする客。

【外殼】88 グワイカク 外にあるから。

【外愕】89 グワイガク 外に驚く。顏色で驚く。〔文同、石姥賦〕靈欻然而見二景怪一兮、衆外愕而中怖。

【外學】90 グワイガク ㊀宋代の學校の名。〔宋史、哲宗紀一〕元祐八年二月癸丑詔、大寧郡王以下、出二就外學一。〔宋史、選擧志〕太學專處二上舍內舍生一、而外學則處二外舍生一、今貢士盛集、欲下增二太學上舍至二二百人一、內舍六百人、外舍三千人上。㊁緯書を信奉した後漢の學者が、緯書を內學といふに對して六經をいふ。〔資治通鑑、後漢紀〕東漢諸儒以二七緯一爲二內學一、六經爲二外學一。㊂佛家が、佛學を內學といふに對して儒學をいふ。外典(431)の㊁を見よ。〔方干、送二道上人遊方一詩〕律儀通二外學一、詩思入二玄關一。〔皎然、奉レ和下顏使君眞卿修二韻海一畢會二諸文士東堂一重校上詩〕外學宗二碩儒一、遊焉從二後進一。

【外割】91 ソトワリ 或る數を得るために、他の其の數に加へる數と或る數との比。例へば七十五圓の品物が百圓に賣れたとすれば、外割二割五分の利といふ。

【外洽】92 グワイカフ 外にあまねく及ぶ。〔沈約、封二授臨川五王一詔〕冠軍右衞將軍恢、神檢外洽、淵量內湛。〔劉子翬、夜行二潭溪上一念三仲原致中喬年茂元伯達皆有二入山期一以レ詩趣レ之詩〕流觀外既洽、至樂中潛應。

【外合】93 グワイガフ やむをえず他人の要求に應じて會合する。〔左氏、宣、七、不レ與レ謀曰レ會、注〕不レ獲レ已應レ命而出、則以二外合一爲レ文。

【外扞】94 グワイカン 外にある塀。外屛。〔後漢書、南匈奴傳論〕奉レ藩稱レ臣、永爲二外扞一。

【外姦】95 グワイカン 外から攻め來るあだ。外敵。〔左氏、成、十七〕亂在レ外爲レ姦。〔尉繚子、兵敎下〕以レ網二外姦一。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕方詰二外姦一、未レ及二整訓一。

【外閑】96 グワイカン 宮外の、獸畜を飼育するところ。うまや。をり。〔陸機、辨亡論〕巨象逸駿擾二於外閑一。〔注〕銑曰、閑、謂二育レ獸坊一也。

【外閒】97 グワイカン 世の中。世閒。世上。〔宋史、陸佃傳〕公樂レ聞レ善、古所レ未レ有、然外閒頗以爲二拒諫一。

〖外閒兒〗98 wai^4 chien^1 êrh^1 おもての部屋。

【外感】99 グワイカン ㊀外からの刺激で起る感覺。〔宋書、孝義傳序〕雖三義發因レ心、情非二外感一、然企及之旨、聖哲詒レ言。㊁wai^4 kan^3 風寒暑溼等の、外から侵入しておこした病。感冒・暑氣あたり等の病氣。

【外監】100 グワイカン ㊀官名。宋代、澶州に置いた都水監(**11**－**39509**・・100)をいふ。〔宋史、職官志五〕都水監、舊隸二三司一、嘉祐三年、始專置レ監以領レ之、置二局於澶州一、號曰二外監一。㊁清代、輕罪者の居る監獄の一。〔清會典、刑部〕凡監獄有二內監一、有二外監一、有二女監一。〔注〕外監、軍流以下輕罪居レ之。〔福惠全書、刑名部、監禁〕第二層稍進者、爲二外監一。

【外澗】101 グワイカン 外側の谷川。〔樓鑰、靈壁石硯山詩〕壁峯森聳外澗流、他物雖レ奇敢爭レ席。

【外艱】102 グワイカン ㊀父の喪。〔國朝漢學師承記、錢大昕〕明年夏以レ丁二外艱一歸。〔國朝漢學師承記、王蘭泉〕年二十一、丁二外艱一、先生侍レ疾、日久哀勞毀瘠。㊁外から來るうれへ。外患。外難。

【外氣】103 グワイキ 外界の空氣。〔雲笈七籤〕及レ出二母腹一、卽吸二納外氣一、而有二啼叫之聲一。

【外記】104 キゲ ㊀官名。古、太政官で、少納言の下に在り、詔勅・上奏文の起草・記錄等を掌り、除目・敍位等の公事を奉行した官。大外記・小外記に分つ。〔太政官式〕凡諸司申二政於太政官一者、先經二外記一、然後令レ申。〔職原鈔〕外記、太政官中有二三局一、左右辨官外記、是也。㊁禪宗の僧職。頭首・侍司の文案を掌る。

【外規】105 グワイキ 矢の的の面に畫いた三層の輪の中の、外側の部分。〔內裏式、觀射式〕射人進就二射位一射レ之、中レ的、獲者捧レ的、稱二所レ中之規一、隨二矢疎密一叩レ鉦有レ數、外規一聲、次規二聲、內規三聲。

【外畿】106 グワイキ 王都を距る五百里四方以外の地の稱。又、單に王都から遠く隔つた所。〔謝朓、三日侍二華光殿曲水宴一代レ人應詔詩〕凝居二中縣一、神動二外畿一。

【外櫃】107 wai^4 kuei^4 ㊀外廻りの店員。外交員。㊁商店が賣買のために設けた取引台。

【外騎】108 グワイキ 騎兵隊の一。唐、置く。〔唐書、程知節傳〕知節以二內騎一營二北邙一、單雄信以二外騎一營二偃師一。

【外義】109 グワイギ ㊀補足の意味。書名などに用ひる。〔宋史、藝文志一〕蔡廣成啓源十卷、又周易外義三卷。㊁義を外にする。義外說(**9**－**28504**・・304)を見よ。〔宋史、食貨志上四〕今秖糯帶レ義之外、又有二所謂外レ義焉者一。

【外議】110 グワイギ 朝廷以外の議論。世閒のうはさ。外論。〔五代史、唐太祖子傳〕遣二宦官、陰察三外議一以爲二如何一。〔宋史、河渠志二〕三省樞密院言、繼日霖雨、河上之役、恐煩二聖慮一、太后曰、訪二之外議一、河水已東、復二故道一矣。

【外求】111 グワイキウ ㊀外に求める。外の國に救ひを求める。〔穀梁、莊、二十八〕古者稅什一、豐年補レ敗、不二外求一而上下皆足也。〔穀梁春秋古義疏〕已有レ餘、不三外求二救於鄰國一。㊁世俗の名利を求める。〔韓詩外傳、一〕安レ命養レ性者、不レ待二積委一而富、名號傳二乎世一者、不レ待二勢位一而顯、德義暢二乎中一而無二外求一也。〔沈約、傷二王諶一詩〕長史體二閒任一、坦蕩無二外求一。〔宋之問、送二許州宋司馬赴任一詩〕河潤在二明德一、人康非二外求一。〔杜甫、題二張氏隱居一詩〕杜酒偏二勞勸一、張梨不二外求一。〔高適、同下薛司直諸公秋霽曲江俯見二南山一作上詩〕得レ意在レ乘レ興、忘レ懷非二外求一。

【外救】112 グワイキウ 外國からの救援。外援。〔戰國、秦策〕兵出無レ功、諸侯生レ心、外救必至、臣見二其害一、未レ睹二其利一。〔吳志、朱然傳〕州上立二圍塢一、爲二然外救一。

【外舅】113 グワイキウ 妻の父。しうと。〔爾雅、釋親〕妻之父曰二外舅一、母曰二外姑一。〔釋名、釋親屬〕妻之父曰二外舅一、妻之母曰二外姑一、言、妻從レ外來、謂レ至二己家一爲レ歸、故反以二此義一稱レ之、夫妻匹敵之義也。〔宋史、謝泌傳〕轉二金部員外郞一、充二鹽鐵副使一、頃之魏羽爲レ使、卽泌之外舅、以二親嫌一改二度支副使一。〔稱謂錄、妻之父、外舅〕案、汪氏堯峯曰、男子謂二妻父一曰二外舅一、母曰二外姑一、蓋彼以二我父一爲レ舅、我亦從而舅レ之、懼三其同二於母黨一也、故別曰二外舅一、彼以二我母一爲レ姑、我亦從而姑レ之、懼三其同二於父黨一也、故別曰二外姑一。

【外廐】114 グワイキウ 天子・諸侯の、外國產の馬を畜ふ處。〔公羊、僖、二〕馬出二之內廐一、繫二之外廐一。〔史記、蘇秦傳〕燕代橐駝良馬、必實二外廏一。〔李斯、上書諫二逐客一書〕駿良駃騠、不レ實二外廐一。

【外汲】115 グワイキフ 家の外に行つて水を汲むこと。〔南史、沈慶之傳〕朝夕不二外汲一。

【外向】116 グワイキヤウ 外にむかふ。〔史記、夏侯嬰傳〕弩皆持レ滿外向。

【外羌】117 グワイキヤウ 塞外の羌族。〔後漢書、順帝紀〕武都塞上屯羌及外羌、攻二破屯官一驅二略人畜一。〔水經、江水注〕天漢四年、置二都尉一主二外羌一、在二邛峽山表一。

【外鄕】118 グワイキヤウ ㊀外にむかふ。外嚮に同じ。〔漢書、五行志下之下〕內臣外鄕。〔漢書、夏侯嬰傳〕弩皆持レ滿外鄕。〔漢書、韓王傳〕請令下彊弩傳二兩矢一外鄕上。〔注〕師古曰、鄕、讀曰レ嚮。㊁他鄕。他縣。〔宋史、劉清之傳〕此惠不レ過二三十里內一耳、外鄕遠民、勢豈能來、老幼疾患之人、必有二餓死者一。

【外境】119 グワイキヤウ 外國の地。外表。〔魏志、王朗傳〕拓二其外境一。〔魏書、桓玄傳〕或奔二散外境一、數年之間、並敗二滅之一。〔隋書、源雄傳〕嘉謀絕二外境之虞一、挺劍息二韋韛之望一。

【外彊】120 グワイキヤウ ㊀外部の勢力の強いこと。〔唐書、永安壯王孝基傳〕說二孝基一曰、夏城堅、攻レ之引レ日、宋金剛在レ近、內拒二外彊一、一敗塗レ地、不レ如三頓レ兵待二秦王破一レ賊、則夏自孤、此謂二不レ戰而屈一レ人也。〔白居易、新秋喜レ涼因寄二兵部楊侍郞一詩〕外彊火未レ退、中銳金方戰。㊁うはべの強いこと。外彊中乾を見よ。

〖外彊中乾〗121 グワイキヤウチユウカン 外觀は強さうでも內實は乾き竭きてゐること。卽ち、うはべは強さうで內實は弱く氣の疲れてゐること。〔左氏、僖、十五〕慶鄭曰、古者大事必乘二其產一、生二其水土一、而

知二其人心一、安二其教訓一、而服二習其道一、唯所レ納レ之、無レ不レ如レ志、今乘二異產一以從二戎事一、及レ懼而變、將二與レ人易一、亂氣狡憤、陰血周作、張脈僨興、外彊中乾、進退不レ可、周旋不レ能、君必悔レ之。〔注〕外有二強形一而內實乾竭。〔書言故事大全、惡性類〕外強中乾、徒有二外貌一。

〔外彊內溫〕122 グワイキヤウナイヲン　うはべは強さうで內面はやさしい。外剛內柔。〔左氏、昭、十二〕吾嘗學レ此矣、忠信之事則可、不レ然必敗、外彊內溫、忠也。

【外嚮】123 グワイキヤウ　外にむかふ。外鄉。〔史記、李廣傳〕廣爲二圜陳一外嚮、胡急擊レ之。〔白虎通、封公侯〕女生外嚮、有二從レ夫之義一。

【外宮】124 グワイキユウ　❶別の宮殿。離宮。〔史記、淮南衡山傳〕爲築二外宮一。〔宋書、百官志上〕唯外宮朝會、則以レ名到焉。❷ゲグウ　伊勢の豐受太神宮の稱。內宮（1－1418‥85）の❷の對。〔日本紀略、十〕長保四年九月六日、於二建禮門前一大祓、依レ可四明日被三奉二遣伊勢外宮遷宮神寶使一。

【外居】125 グワイキヨ　❶國外に居る。〔史記、鄭世家〕我亡レ國外居。❷ホカヰ　食物を持ち運ぶ器具。〔下學集〕。

【外虛】126 グワイキヨ　❶外部に何もない。〔南齊書、王融傳〕母后內難、糧力外虛。❷半影。太陽の黑點の周圍の稍〻闇い部分。

【外擧】127 グワイキヨ　❶緣故のないものを用ひる。外擧不レ辟レ怨を見よ。〔傅咸、上書陳二選擧一書〕內外之任、出處隨レ宜、中間選用、惟內是隆、外擧既頹、復多二節目一、競レ內薄レ外、遂成二風俗一。❷外に動く。外部で行動する。〔南史、循吏傳序〕宋武起レ自二匹庶一、知二人事艱難一、及二登庸作レ宰、留二心吏職一、而王略外擧、未レ遑二內務一。〔陳書、衡陽獻王昌傳〕往者王業惟始、天步方艱、參二奉權謨一、匡二合義烈一、威略外擧、神武內定、故以再康二禹迹一、大庇二生民一者矣。〔南史、齊高帝紀〕宋帝策曰、袁劉攜貳、成二此亂階一、公神謀內運、霜鋒外擧、妖沴載澄、國塗悅穆。❸論理學用語。外延（38）に同じ。

〔外擧不レ辟レ怨〕128 グワイキヨシテウラミヲサケズ　君子の人を用ひるや、公平で、他人の我を怨む者をも猶採用する。〔禮、儒行〕內稱不レ辟レ親、外擧不レ辟レ怨。〔左氏、襄、二十一〕祁大夫外擧不レ棄レ讎、內擧不レ失レ親、其獨遺レ我乎。〔史記、晉世家〕悼公問二羣臣可レ用者一、祁傒擧二解狐一、解狐傒之仇、復問、擧二其子祁午一、君子曰、祁傒可レ謂レ不レ黨矣、外擧不レ隱レ仇、內擧不レ隱レ子。

【外禦】129 グワイギヨ　外から來るあなどりを防ぐ。又、外敵を防ぐ。〔詩、小雅、常棣〕兄弟鬩二于牆一、外禦二其務一。〔庾肩吾、答三陶隱居賚二朮煎一啓〕百邪外禦、六府內充。〔宋書、劉勔傳〕琰嬰城固守、自二始春一至二于末冬一、薛道摽・龐孟虬、並向二壽陽一、勔內攻外禦、戰無レ不レ捷。〔宋史、李綱傳上〕夫外禦二強敵一、內鎖二盜賊一、修二軍政一、變二士風一、裕二邦財一、寬二民力一。

【外恭】130 グワイキヨウ　外貌の恭しいこと。〔庾信、周趙國公夫人紇豆陵氏墓誌銘〕擧レ案外恭、停レ機下訓。

【外曲】131 グワイキヨク　世俗の色々の細かい禮儀動作。〔莊子、人閒世〕外曲者、與レ人之爲レ徒也、擎跽曲拳、人臣之禮也、人皆爲レ之、吾敢不レ爲邪、爲二人之所レ爲者、人亦無レ疵焉、是之謂二與レ人爲レ徒。

【外勤】132 グワイキン　❶屋外でするつとめ。❷警察・銀行・會社等に於て、その外部で勤務すること。又、その者。❸新聞探訪記者。

【外釁】133 グワイキン　外から災の侵入してくるすき。外部から起る難儀。〔宋書、蔡興宗傳〕興宗曰、若內難得レ弭、外釁未二必可レ量。

【外區】134 グワイク　❶そとがは。轉じて、外國の地。〔後漢書、西域傳贊〕逷矣西胡、人之外區、土物琛麗、人性淫虛。〔成公綏、天地賦〕遐方外區、絕域殊鄰。〔張載、劍閣銘〕矧茲狹隘、土之外區、一人荷レ戟、萬夫趦趄。〔柳宗元、劍門銘〕井絡坤垠、時惟外區。〔駱賓王、久戍二邊城一有レ懷二京邑一詩〕河氣通二中國一、山途限二外區一。❷都の外。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕殷二賑外區一、煥二衍都內一。

【外懼】135 グワイク　外患の戒懼。國民を常に緊張させる爲に、わざと敵國を滅さないでおいて戒とすること。〔左氏、成、十六〕晉楚遇二于鄢陵一、范文子不レ欲レ戰、曰、惟聖人能內外無レ患、自レ非二聖人一、外寧必有二內憂一、盍三釋レ楚以爲二外懼一乎。

【外衢】136 グワイク　街道。〔柳宗元、與二韓愈一論二史官一書〕行呼二唱於內庭外衢一而已耶。

【外虞】137 グワイグ　外から來る患難。外患（160）に同じ。〔傅亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕外虞既殷、內難亦荐。〔唐書、陸贄傳〕乾元後、外虞踵發、悉レ師東討、故吐蕃乘レ虛、而先帝莫二與爲レ禦。〔柳宗元、送三楊凝郎中使還二汴宋一詩後序〕將誅卒削、則外虞實生、非三所二以扞レ城而固レ圉也。

【外寓】138 グワイグウ　外地をいふ。外宇（25）に同じ。〔漢書、敍傳下〕攸攸外寓、閩越東甌。

【外遇】139 グワイグウ　❶妻妾が外に關係してゐる男。〔清國行政法汎論、宦官〕當二是之時一、諸侯奢侈、女寵闐溢、男子虞二其外遇一而爲二之防一、乃馴下致二設二奄官一之制上。❷wai⁴ yü⁴　かこひもの。妾。

【外火】140 グワイクワ　外部から來る火。又、外部からの苦難の喩。〔白居易、枯桑詩〕有下似二多憂一者上、非下因二外火一燒上。

【外卦】141 グワイクワ　重卦（六十四卦）に於て、上の卦をいふ。卽ち、六爻の中、上の三爻の稱。一に、悔ともいふ。此に對して下の卦、卽ち六爻の中、下の三爻を內卦（1－1418‥101）といひ、一に、貞ともいふ。〔左氏、僖、十五〕蠱之貞風也其悔山也、〔注〕內卦爲レ貞、外卦爲レ悔、巽爲レ風秦象、艮爲レ山晉象。〔舊唐書、歷志三〕若以二貞悔之策一加二侯卦一、得二十有二節之初一、外卦用レ事日。〔宋史、律歷志十二〕十有二節之初、諸侯外卦用レ事日。

【外花】142 グワイクワ　野外に咲く花。〔王建、宮詞〕宮花不下與二外花一同上、正月長生一半紅。

【外科】143 ゲクワ　身體の創傷・皮膚病などを治療し、內外諸器官の疾患に、手術を施して治療する醫學の一分科。內科（1－1418‥103）の對。〔醫學入門〕如欲レ專二小科一、則亦不レ可レ不レ讀二大科一、欲レ專二外科一、亦不レ可レ不レ讀二內科一。

〔外科醫〕144 ゲクワイ　外科の治療を專門とする醫者。外醫。

〔外科精義〕145 ゲクワセイギ　書名。二卷。元、齊德之撰。瘍疾の本を求め、陰陽の強弱によつて治療することを說く。〔四庫提要、子、醫家類〕。

〔外科理例〕146 ゲクワリレイ　書名。七卷。明、汪機撰。方一卷を附す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【外貨】147 グワイクワ　外國の物貨。外國品。舶來品。〔越絕書、越絕計倪內經〕轉二轂乎千里一、外貨可レ來也。

【外禍】148 グワイクワ　外から來る災。〔列子、力命〕不レ駭二外禍一、不レ喜二內福一。

【外踝】149 グワイクワ　そとくるぶし。〔福惠全書、刑名部、人命下、檢骨〕腕左起高骨者手外踝、右起高骨者右手踝。

【外快】150 wai⁴ k'uai⁴　正規の給料以外の收入。所定以外の所得。

【外褂】151 wai⁴ kua⁴　清朝の官吏の禮服。外褂子を見よ。

〔外褂子〕152 wai⁴ kua⁴ tzŭ　清朝の官吏の大禮服の上衣。長さは脛の中程に達し、裾は前後左右に割目あり、袖は手首に至り、胸部と背部とに補子をつけたもの。

【外荒】153 グワイクワウ　外國の野蠻な土地。〔陳書、廢帝紀〕世祖文皇帝、克嗣二洪基一、光宣二寶業一、惠二養中國一、綏二寧外荒一。

【外湟】154 グワイクワウ　そとぼり。外濠。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕當二是時一、諸工卒已塡二外湟一、遂及二內湟一。

【外黃】155 グワイクワウ　❶富んだ家をいふ。外黃の地の富家の女が張耳に嫁した故事。〔史記、張耳傳〕張耳嘗亡命、游二外黃一、外黃富人女甚美、嫁二庸奴一、亡二其夫一、去抵二父客一、父客素知二張耳一、乃謂レ女曰、必欲レ求二賢夫一、從二張耳一、女聽、乃卒爲請決レ嫁、之二張耳一、張耳是時脫レ身游二女家一、厚奉二給張耳一、張耳以レ故致二千里客一、乃宦レ魏爲二外黃令一、名由レ此益賢。❷地名。春秋、宋の黃邑。漢、外黃縣を置き、後魏、廢し、隋、復置き、唐、廢す。故城は河南省杞縣の東。〔左氏、隱、元〕惠公季年、敗二宋師於黃一。〔注〕黃、宋邑、陳留外黃縣東有二黃城一。〔史記、魏世家〕齊擊レ魏、魏令二太子申一爲二上將軍一、過二外黃一。〔漢書、地理志上〕陳留郡、縣十七、外黃。

【外郭】156 グワイクワク　❶そとぐるわ。轉じて、總べてそとまはりの一區畫。外廓。〔魏書、蕭衍傳〕虞鴻襲據二壽春外郭一。❷赤道の南をいふ。〔和漢三才圖會、天部、天〕赤道之北爲二內郭一、南爲二外郭一、相去各二十四度不足。

【外廓】157 グワイクワク　外郭の❶に同じ。〔墨子、備穴〕累二石外廓一、高七尺、加二堞其上一、勿レ爲レ陛。

【外官】158 グヮイクヮン ㊀政府の官吏をいふ。內官(**1－1418**‥128)の㊀の對。〔國語、周語中〕外官不レ過二九品一。〔宋書、禮志五〕近代車駕親戎、中外戒嚴之服、無二定色一、冠二黑帽一綴二紫標一、標以レ繒爲レ之、長四寸、廣一寸、腰有二絡帶一以代二鞶革一、中官紫標、外官絳標。㊁地方官。京官(**1－299**‥25)の對。〔後漢書、章帝紀〕堯試レ臣以レ職、不三直以二言語筆札一、今外官多曠、並可二以補任一。〔魏書、孝文紀下〕(太和二十二年)夏四月甲寅、從征武直之官、進二位三階一、文官二級、外官一階。〔張籍、答二白杭州郡樓登望畫圖見レ寄詩〕見君向レ此閑吟意、肯恨當時作二外官一。㊂ゲクヮン 王朝時代の地方官。國司・郡司・太宰府・鎭守府等の役人の稱。京官(**1－299**‥25)の對。〔公式令〕凡在京諸司爲二京官一、自餘皆爲二外官一。

〔外官廳〕159 wai^4 kuan^1 t'ing^1 地方の官署の大門外にある家で、小官が役所に來た時の居所。

【外患】160 グヮイクヮン 外國から來る患難。外憂。外艱。外難。外虞。內亂、內憂(**1－1418**‥7)の㊀に對す。〔禮、雜記下〕外患弗レ辟也。〔疏〕外患弗レ辟也者、外謂下在二外鄰國一爲中其寇患上、雖二力不一レ能レ討、不レ得レ辟レ之、當三盡二死於難一也。〔孟子、告子下〕入則無二法家拂士一、出則無二敵國外患一者、國恆亡。〔國語、晉語六〕鄢陵之役、欒武子欲レ戰、范文子不レ欲曰、吾聞レ之、唯聖人能無二外患一、又無二內憂一、詎非二聖人一、不レ有二外患一、必有二內憂一、盍下姑釋二荆與一レ鄭以爲中外患上乎。〔史記、蘇秦傳〕請言二外患一、齊秦爲二兩敵一、而民不レ得レ安。〔晉書、符堅載記上〕夫天道助レ順修レ德則禳レ災、苟求二諸己一、何懼二外患一焉。〔唐書、昭宗紀贊〕外患已成、內無二賢佐一。〔韓愈・孟郊・李翺、遠遊聯句〕外患蕭蕭去、中悁稍稍瘳。

〔外患罪〕161 グヮイクヮンザイ ひそかに外國と通じて國家の獨立を危害する犯罪行爲。軍事上の利益を侵害する罪。

〔外患內變〕162 グヮイクヮンナイヘン 外國から來る患難と國內から起る事變。內憂外患。〔日本政記、後村上天皇論〕其後京師雖レ多二外患內變一、賴二關東之維持一、終得二以濟一。

【外寬】163 グヮイクヮン おもてむきのゆったりしたこと。うはべの寬大なこと。〔史記、平津侯傳〕弘爲レ人意忌、外寬內深。〔王儉、褚淵碑文〕端流平衡、外寬內直。〔晉書、宣帝紀〕帝內忌而外寬、猜忌多二權變一。

【外還】164 グヮイクヮン 外からかへる。〔南史、沈道虔傳〕有下人竊二其園菜一者上、外還見レ之、乃自逃隱、待二竊者去一、後乃出。

【外館】165 グヮイクヮン ㊀城外の家。外に築いた館。〔孔子家語、六本〕孔子在レ齊、舍二於外館一。〔五代史、漢高祖家人、高祖二弟三子傳〕太祖以レ書召レ道、先歸留二其副趙上交王度一、奉レ贇入二朝太后一、道乃先還、贇謂レ道曰、寡人此來、所レ恃者、以二公三十年舊相一、是以不レ疑、道默然、道已去、郭崇幽二贇於外館一。〔宋史、謝絳傳〕往者遭二溝延燔一、未レ遑二中葺一、或引二兩省故事一、別建二外館一。㊁天子の女が嫁する時、其の居るべき館舍を宮殿外に築く、之を外館といふ。〔春秋、莊、元〕築二王姬之館于外一。〔宋之問、宴二安樂公主宅一詩〕英藩築二外館一、愛主出二王宮一。〔趙產昭、安樂公主移二入新宅一侍宴應制同用二開字一詩〕雲物中京曉、天人外館開。〔湘山野錄〕上曰、朕之諸妹、皆厚賜二湯邑一、築二外館一、以尙二天姻一、酬二先帝之愛一也。㊂wai^4 kuan^3 北京安定門外、黃寺の東にあって、毎年冬季に蒙古人が來て貿易をする處。

【外灌】166 グヮイクヮン 外からそそぐ。賢臣が外から王を助ける喩。〔詩、大雅、召旻〕不レ云レ自レ頻、〔箋〕頻、當レ作レ濱、云云、自、由也、池水之溢由レ外灌焉。

【外觀】167 グヮイクヮン ㊀うはべのみえ。おもてむき。外見。〔晉書、范甯傳〕專二內視一三、簡二外觀一四。㊁外部に在る宮殿。〔王安石、辭二免使相判江寧府一表〕儻憐積歲參二大議於廣朝一、或賜二誤恩一、食二舊勞於外觀一。

【外軍】168 グヮイグン 戰爭に行く兵隊。禁衞軍(**8－24743**‥12)・近衞(**11－38752**‥9)の㊀の對。〔魏書、司馬德宗傳〕桓元佺期奄至二橫江一、尙之等退、恢之所レ領外軍皆沒。〔隋書、元文都傳〕盧楚說二文都一曰、王充外軍一將耳。

【外郡】169 グヮイグン ㊀國境の郡。〔陳書、高祖武帝紀上〕內難初靜、諸侯出レ關、外郡傳レ烽、鮮卑犯レ塞。㊁地方。〔宋史、食貨志上三〕王珪奏曰、外郡用レ錢、四十可レ致二斗米於京師一。〔宋史、豐稷傳〕陛下斥二之外郡一、則天下事定矣。

【外兄】170 グヮイケイ ㊀父の姊妹の子で、己より年長の者。〔後漢書、來歙傳〕王遵諫曰、君叔雖二單車遠使一、而陛下之外兄也。〔注〕光武之姑子、故曰二外兄一。〔南史、師覺授傳〕與二外兄宗少文一並有二素業一。〔隋書、皇甫績傳〕皇甫績三歲而孤、爲三外祖韋孝寬所二鞠養一、嘗與二諸外兄一博奕。㊁同母異父の兄。外兄弟の㊁を見よ。

〔外兄弟〕171 グヮイケイテイ ㊀父の姊妹の子。〔儀禮、士喪禮、姑之子、注〕外兄弟也。〔疏〕云二外兄弟一者、姑是內人、以二出レ外而生一、故曰二外兄弟一。〔山堂肆考〕兩姨之子爲二外兄弟一、然所レ見書籍、但言二姨兄姨弟一也。〔釋親考〕兄之子弟之子、相謂爲二從父昆弟一、胤按、大凡與レ吾同レ行、稱二兄弟一者有レ六、父之兄弟之子、曰二從父兄弟一、姊妹之子曰二外兄弟一、又曰二表兄弟一、母之兄弟之子曰二內兄弟一、姊妹之子曰二從母兄弟一、又曰二姨兄弟一、同二曾祖一者曰二從祖兄弟一、又曰二再從兄弟一、同二高祖一者曰二族兄弟一、又曰二三從兄弟一。㊁同母異父の兄弟。〔左氏、成十一年〕聲伯以二其外弟一爲二大夫一、而嫁二其外妹於施孝叔一。〔箋〕此外弟外妹、是謂二出母之子女一、與三舅之子曰二外兄弟一不レ同、此卽漢人以二異父同母之子一爲二昆弟一、所レ爲二濫觴一也。

【外刑】172 グヮイケイ 肉刑(**9－29236**‥27)・體刑(**12－45291**‥22)の㊀に同じ。〔莊子、列禦寇〕爲二外刑一者金與レ木也、爲二內刑一者動與レ過也。

【外形】173 グヮイケイ 外から見た形。外像。〔晉書、紀瞻傳〕無二復外形一。〔陸龜蒙、青檽子詩〕外形堅綠殼、中味敵二瓊英一。

【外計】174 グヮイケイ ㊀外部での計略。〔魏書、崔浩傳〕又議二之內朝一、咸同二外計一。㊁他人の計畫。〔宋史、淩策傳〕南昌水潦艱殆、長吏當二便宜從事一、不三必稟二於外計一也。

【外徑】175 グヮイケイ そと側のさしわたし。外法（ソトノリ）。

【外卿】176 グヮイケイ 漢代、執金吾の稱。〔韋昭、辨釋名〕漢正卿九、執金吾爲二外卿一、不レ在二九列一。

【外景】177 グヮイケイ ㊀火をいふ。光は外に在るからいふ。水を內景といふの對。〔淮南子、天文訓〕明者吐レ氣者也、是故火曰二外景一、幽者含レ氣者也、是故水曰二內景一。㊁陽をいふ。陰を內景といふの對。〔雲笈七籤〕陽爲二外景一、爲二外神一也、陰爲二內景一、爲二內神一也。㊂黃庭外景經の略。〔六一題跋〕黃庭經、今道藏別有二三十六章一、曰二黃庭內景一、而謂二此一篇一者、爲二外景一也。㊃殷の湯王の孫の外丙を、梁書の撰者、姚思廉が、唐の諱を避けて外景に作る。外丙(500)を見よ。〔梁書、許懋傳〕湯又不レ應レ傳二外景一。

【外敬】178 グヮイケイ うはべでうやまふ。〔韓愈、送二石處士一序〕無下甘二受佞人一、而外中敬正士上。

【外經】179 グヮイケイ ㊀外で經驗する。〔宋書、謝晦傳〕臣昔因二時幸一、過蒙二先眷一、內聞二政事一、外經二戎旅一、與二羨之亮等一、同被二齒眄一。㊁黃庭外景經をいふ。〔雲笈七籤、黃庭內景經注釋〕景者神也、其經有二十三神皆身之內景名字一、又別有二老君外景經一、總眞云、黃庭內外、涓子云、黃庭內經外經者、皆是也。

【外警】180 グヮイケイ 外國から攻めて來るとの警報。〔宋書、孝武帝紀〕自レ今刺史守レ宰動レ民興レ軍、皆須二手詔一施行、唯邊隅外警、及姦釁內發、變起二倉卒一者、不レ從二此例一。

【外教】181 グヮイケウ ㊀佛教以外のをしへ。儒教。〔梁武帝、復開二贖刑一詔〕既乖二內典慈悲之義一、又傷二外教好生之德一。㊁wai^4 chiao^4 ㋑外國から傳來した宗教。㋺未だ習はないこと。

【外僑】182 グヮイケウ 外國居留民。外國に籍のある人。

【外徼】183 グヮイケウ 外側の國。國外。〔史記、朝鮮傳〕朝鮮王滿者、故燕人也、自二始全レ燕時一、嘗略二屬眞番朝鮮一、爲置レ吏、築二鄣塞一、秦滅レ燕、屬二遼東外徼一。〔元史、選擧志一〕遠夷外徼、授以二長官一、俾二之世襲一。

【外決】184 グヮイケツ 政事に對して決斷力あること。〔晉書、宣帝紀論〕雄略內斷、英猷外決。

【外結】185 グヮイケツ ㊀外と交はる。外國と交結する。〔漢書、五行志中之上〕襄公五年大雩、先レ是宋魚石犇レ楚、楚伐レ宋取二彭城一以封二魚石一、鄭畔二於中國一而附二楚襄一、與二諸侯一共圍二彭城一、鄭城二虎牢一以禦レ楚、是歲鄭伯使二公子發來聘一、使三大夫會二吳于善道一、外結二二國一、內得二鄭聘一、有二炕陽動レ衆

之應一。〔宋書、氐胡大且渠蒙遜傳〕無諱克紹二遺業一、保二據方隅一、外結二鄰國一、內輯二民庶一、係二心闕庭一、踐二修貢職一、宜下加二朝命一、以褒中篤勳上。㊂wai^4 chieh^2 地方の省だけで始末をつけること。

【外脅】186 グワイケフ 外側の脇（キワ）。〔詩、秦風、小戎、游環脅驅、箋〕脅驅者、著二服馬之外脅一、以止二驂之入一。〔疏〕貫二驂馬之外轡一、則有二游環一、以止二驂馬之外出一、自レ衡至レ軫、當二服馬之外脅一、則有二脅驅一、以止二驂馬之內入一。

【外欠】187 wai^4 ch'ien^4 ㊀外部からの借金。㊁取立てた金額以外に、まだ貸金があること。

【外見】188 グワイケン ㊀外部にあらはれる。〔韓愈、雜說〕力不レ足、才美不二外見一。〔宋書、隱逸傳序〕夫隱之爲レ言、迹不二外見一、道不レ可レ知之謂也。㊁ひとみ。みえ。他見。外觀。

【外權】190 グワイケン 外國の權力。〔戰國、韓策〕今王兩二用之一、其多力者內樹二其黨一、其寡力者藉二外權一。〔管子、樞言〕士不レ恃二外權一。〔商子、農戰〕隨二從外權一。

【外言】191 グワイゲン 門外の言。男子の公務に關する言。外言不レ入二於梱一を見よ。〔唐書、魏元忠傳〕政出二多門一、大亂之漸、近封二數夫人一、皆先帝宮嬪、以爲レ備二內職一、則不レ當レ知レ外、不レ備二內職一、則自可レ處レ外、而令三出二入禁掖一、使二內言必出、外言必入一、固將レ弄二君之法一、縱而不レ禁、非丁所丙以重二宗廟一固乙國家甲。〔張九齡、郡舍南有二園畦雜樹一聊以永レ日詩〕內訟誠知レ止、外信猶匪レ忱。

〔外言內言〕192 グワイゲンナイゲン 門外の言と門內の言。卽ち外言は男職に關する言、內言は女職に關する言。外言不レ入二於梱一を見よ。

〔外言不レ入二於梱一〕193 グワイゲンハコンニイラズ 男子は門外の言を家で言はない。梱は門限。〔禮、曲禮上〕外言不レ入二於梱一、內言不レ出二於梱一。〔注〕外言・內言、男女之職也。〔疏〕外言不レ入二於梱一者、外言、男職也、梱、門限也、男職在二於官政一、各有二其限域一、不レ得レ令二婦人預一レ之、故云、外言不レ入二於梱一也。

【外戶】194 グワイコ 門の外側のとびら。〔禮、禮運〕盜竊亂賊而不レ作、故外戶而不レ閉。〔注〕禦二風氣一而已。〔呂覽、愼大〕故周明堂外戶不レ閉、示二天下不レ藏也。〔宋書、索虜傳〕邊城之下、外戶不レ閉。〔劉儀鳳、劍閣記〕梁山之險、蜀所三恃以爲二外戶一。〔歐陽詹、贈二魯山李明府一詩〕外戶通宵不レ閉レ關、抱レ孫弄レ子萬家閑。〔宋史、趙普傳〕邊烽不レ警、外戶不レ扃、率土歸レ仁、殊方異俗、相率嚮レ化、契丹獨將二焉往一。

【外姑】195 グワイコ 妻の母。しうとめ。〔爾雅、釋親〕妻之父爲二外舅一、妻之母爲二外姑一。

【外護】196 ゴゲ ［佛］二護の一。佛の制した戒法。吾が身・口・意の非を護るものを內護といひ、族親檀越、衣服飮食を供するを外護といふ。〔止觀、四、下〕夫外護者、不レ揀二黑白一、但營二理所須一。

【外工】197 グワイコウ 外嬪婦をいふ。〔周禮、天官、典絲〕頒二絲于外內工一。〔注〕外工、外嬪婦也。

【外公】198 グワイコウ 母方の祖父。外祖父。外翁。〔釋親考〕母之考爲二外王父一、母之妣爲二外王母一、會典、卽外公・外婆。

【外候】199 グワイコウ ㊀あらはれ。徵候。〔六韜、龍韜、五音〕微妙之音、皆有二外候一。㊁外をうかがふ。〔南齊書、王敬則傳〕收二合亡命一、結レ黨聚レ羣、外候二邊警一、內伺二國隙一。

【外貢】200 グワイコウ 外國からのみつぎ。〔韻府引、文同、冷餠詩〕外貢入二中原一、萬里隨二大舸一。

【外寇】201 グワイコウ 外國から攻め來るあだ。外役。〔國語、晉語二〕亩二外寇一而不レ害。〔管子、君臣上〕以召二外寇一。〔後漢書、光武紀上〕今兵穀既少、而外寇彊大、幷レ力禦レ之、功庶可レ立、如欲二分散一、勢無二俱全一。〔北史、杜弼傳〕將レ有二沙苑之役一、弼又請先除二內賊一、却討二外寇一、指二諸勳貴一、掠二奪百姓一、神武不レ答。

【外構】202 ソトガマヘ 家屋・屋敷等の外面の構造。〔安土日記〕楯二籠當城一、大軍にて推二詰外構一。

【外興】203 グワイコウ 後魏、裴聿(**10－34362‥1**)の字。

〔外興安嶺〕204 グワイコウアンレイ 山脈の名。阿爾泰山の支山脈。滿洲黑龍江省の北より露領西伯利亞の境內に亙る。雅布羅威山脈・斯塔諾尾山脈に大別する。淸の康熙二十八年、尼布楚（ネルチンスク）條約により、外興安嶺を以て國界とした。〔淸史稿、地理志、黑龍江、注〕外興安嶺爲二崑崙北出之大幹一、蓋崑崙山脈南幹爲二涼州南山一、爲二賀蘭山一、爲二陰山一、爲二內興安嶺一、北幹爲二葱嶺一、爲二天山一、爲二阿爾泰山一、爲二墾特山一、爲二外興安嶺一、內外者據二黑龍江一言レ之。

【外國】205 グワイコク よその國。他國。外邦。外界。外表。〔史記、樂書〕承二靈威一兮降二外國一、涉二流沙一兮四夷服。〔漢書、武帝紀〕行二幸甘泉宮一、饗二外國客一。〔後漢書、梁冀傳〕冀又遣レ客出レ塞、交二通外國一、廣求二異物一。

〔外國雞〕206 wai^4 kuo^2 chi^1 ㊀七面鳥。㊁外國種の雞。

〔外國語〕207 グワイコクゴ 外國の國語。〔吳汝綸、左文襄公神道碑〕教二子弟一習二外國語言文字算學測繪法一。

〔外國債〕208 グワイコクサイ 債主が外國政府又は外國人である公債。〔吳汝綸、左文襄公神道碑〕乃議借二外國債千萬一。

〔外國人〕209 グワイコクジン 外國の人。外人。〔漢書、金日磾傳〕日磾曰、臣外國人。〔薛能、送二福建李大夫一詩〕秋來海有二幽都鴈一、船到城添二外國人一。

〔外國船〕210 グワイコクセン 外國の船。船籍の、自國以外に屬するもの。〔唐國史補〕南海舶、外國船也。

〔外國品〕211 グワイコクヒン ㊀外國で製造した品。㊁外國から輸入した品。

〔外國依存〕212 グワイコクイゾン 外國にたよつて其の力を借りること。

〔外國爲替〕213 グワイコクカハセ 正貨附送の浪費・危險其の他の不便なく、外國に於ける貸借を完了し得る方法。

〔外國茄子〕214 wai^4 kuo^2 ch'ieh^2 tzŭ トマト。

〔外國荷花〕215 グワイコクカクワ ㊀萍蓬の俗名。萍蓬(**9－31266‥30**)を見よ。㊁雨久花の俗名。

〔外國貨幣〕217 グワイコククワヘイ 外國政府で發行した貨幣。

〔外國滙兌〕218 グワイコククワイダ 外國爲替。

〔外國會社〕219 グワイコククワイシヤ 外國の法律に依つて設立せられた會社。

〔外國公使〕220 グワイコクコウシ 其の國に駐在して居る外國の使臣。又、本國から外國に駐在させる使臣。〔周禮政要、通譯〕擇二其學識閎通者一、卽俾レ爲二外部長官、及外國公使一。

〔外國政府〕221 グワイコクセイフ 外國の中央政府。

〔外國淸明〕222 wai^4 kuo^2 ch'ing^1 ming^2 耶蘇復活祭。基督の受難日。受苦日。Good Friday

〔外國通信〕223 グワイコクツウシン 外國からの通信。又、本國と外國との通信。

〔外國法人〕224 グワイコクハフジン 外國の法律に依つて設立した財產の集合體。卽ち外國の法律に依つて設立した會社の類。

〔外國脾氣〕225 wai^4 kuo^2 p'i^2 ch'i 外國風の習癖。外國かぶれ。ハイカラ風。

〔外國奉行〕226 グワイコクブギヤウ 德川幕府の官名。安政五年七月、置く。旗本の士から選んで外交上の事務を掌らしめたもの。

〔外國貿易〕227 グワイコクボウエキ 本國と外國との閒に行はれる取引。

〔外國商賈人〕228 グワイコクシヤウコジン 外國の商人。〔吳汝綸、左文襄公神道碑〕借二貸於外國商賈人一、得二成數一。

〔外國竹枝詞〕229 グワイコクチクシシ 書名。一卷。淸、尤侗撰。〔藝海珠塵、第二十九冊〕。

【外骨】230 グワイコツ ㊀龜の類。〔周禮、考工記、梓人〕外骨內骨、卻行仄行。〔注〕外骨、龜屬、內骨、鼈屬。㊁外にある骨。〔蟹譜總論〕以二其外骨一、則曰二介蟲一、取二其橫行一、目爲二螃蟹一焉。〔郗昂、蚌鷸相持賦〕鷸以二利嘴一爲二銛鍔一、蚌以二外骨一爲二高城一。

〔外骨骼〕231 グワイコツカク 軟體甲殼類動物の骨骼の外にあるもの。

【外昏】232 グワイコン よめ。嫁して來た女。外婚。〔詩、小雅、我行其野、求二爾新特一、傳〕新特、外昏也。〔疏〕昏姻對文、則男婚女姻、散則通、故外來之婦爲二外昏一也。

【外婚】233 グワイコン 外昏に同じ。〔逸周書、大武解〕四戚、一內姓、二外婚、三友朋、四同里。

【外梱】234 グワイコン 外がはのしきみ。〔陸機、至レ洛與二成都王穎一牋〕委二任外梱一、輒承二嚴教一。

【外差】235 wai^4 ch'ai^1 地方勤務。

【外紗】236 wai^4 sha^1 外國製の綿絲。

【外詐】237 グワイサ 外面をいつはる。ふりをする。〔王沈、釋時論〕心懷二內荏一、外詐二剛直一。

【外座】238 グワイザ 外にある居處。〔隋書、薛道衡傳〕

正レ位辨レ方、揆二景於日月一、內宮外座、取二法於辰象一。

【外妻】239 グヮイサイ かこひもの。妾。外妾の㊀に同じ。〔列女傳、賢明傳〕鮑蘇仕レ衞三年、而娶二外妻一。

【外砦】240 グヮイサイ 國境外のとりで。外堡。〔宋史、楊萬里傳〕除二提點刑獄一、請下於二潮惠二州一築二外砦一、潮以鎭二賊之巢一、惠以扼中賊之路上。

【外祭】241 グヮイサイ 宮殿外で行ふ祭。郊・社の祭の類。〔禮、祭統〕外祭則郊社、是也、內祭則大嘗禘、是也。

【外債】242 グヮイサイ 國家が外國から借り入れる金。外國に對して負ふ債務。內債（1－1418‥196）の對。

【外齋】243 グヮイサイ 外にあるへや。〔南齊書、桓康傳〕太祖誅二黃回一、回時爲二南兗州一、部曲數千、欲レ收恐レ爲レ亂、召入二東府一停二外齋一、使下康將二數十人一數中回罪上、然後殺レ之。〔南史、王儉傳〕魯有二靈光殿一、漢之前例也、聽事爲二崇光殿一、外齋爲二宣德殿一。

【外財】244 wai^4 ts‘ai^2 自分の職業以外の所得。

【外找】245 wai^4 chao^3 賄賂。コンミツシヨン。

【外曹】246 グヮイサウ 政事を行ふところ。〔隋書、禮儀志三〕凶服不レ入二公門一、期喪已下、不レ解レ官者、在二外曹一、褊緣紗帽。

【外喪】247 グヮイサウ 同じ門內に住まない親族の喪。內喪（1－1418‥201）の對。〔禮、曾子問〕孔子曰、內喪則廢、外喪則冠而不レ醴。〔疏〕外喪、謂二大門外之喪一。

【外裝】248 グヮイサウ そとのよそほひ。

〖外裝水雷〗249 グヮイサウスヰライ 自動水雷の發明前に用ひたもの。圓い材木の尖端に綿火藥を裝置し、之を水雷艇ともいふべき特務端艇に積載し、夜陰に乘じて敵艦に近づき、適當な所で爆發せしめたもの。今日は用ひられない。

【外像】250 グヮイザウ 外形（173）に同じ。〔江淹、雜體詩、許徵君詢自敍〕張子闇二內機一、單生蔽二外像一。

【外山】251 とやま ㊀端の山。山の麓に近い部分。深山の對。〔古今和歌集〕み山には霰ふるらし、と山なるまさきのかづら色づきにけり。㊁姓氏。㊂コンパル 姓氏。今の金春。〔日用重寶記〕。

【外散】252 グヮイサン 外に亂れ散る。〔庾闡、孫登隱居詩〕潛レ眞內全、飛榮外散。〔唐書、突厥傳序〕纖麗外散、則戎羯之心生、戎羯之心生、則侵盜之本也。

【外塹】253 グヮイザン そとぼり。外濠。〔魏書、傅永傳〕塡二塞外塹一、夜伏二戰士一千人一。

【外子】254 グヮイシ ㊀妾の生んだ子。庶子。〔宋史、蘇元老傳〕元老外和內勁、不二妄與レ人交一、梁師成方用レ事、自言爲二軾外子一、因レ緣欲レ見レ之、且求二其文一、拒不レ答。㊁養子をいふ。〔稱謂錄、養子、外子〕梁師成爲二東坡外子一。㊂wai^4 tzŭ 妻が他人に對して、その夫を呼ぶ語。

【外氏】255 グヮイシ 母の家。舅家。〔後漢書、杜林傳〕外氏張竦父子喜二文采一、林從レ竦受レ學。〔隋書、獨孤陁傳〕煬帝卽位、追二念舅氏一、聽以二禮葬一、乃下レ詔曰、外氏衰禍、獨孤陁不幸早世、遷卜有レ期、言念二渭陽之情一、追懷傷切、宜下加二禮命一、允備中哀榮上。〔韓愈、河南少尹李公墓誌銘〕教二育于其外氏一。

【外史】256 グヮイシ ㊀周官の名。春官の屬。外國へ差し出す命令を書くことを掌る。〔周禮、春官、外史〕外史、掌レ書二外令一。㊁諸侯の史官。亡命者の名籍・盟辭等を掌る。〔左氏、襄、二十三〕季孫召三外史掌二惡臣一、而問二盟首一焉。㊂無官の處士で歷史をかく人。又、その歷史。八紘外史・天祿閣外史・日本外史の類。野史・私記。〔王鏊、天祿閣外史序〕黃叔度所レ著外史八卷、議論醇雅、氣象明裕、寡而盡レ美、婉而成レ章、得二國語左氏之體一、而無二其艷一、擬二子長孟堅之雄一、而無二其陋一、皆孔氏之遺言逸論、而書史之所レ不レ載者也。㊃文人が雅號に添へていふ。元の張雨は句曲外史、明の烏緝は榮陽外史、淸の惲壽平は白雲外史と稱した類。〔明史、趙壎傳〕烏斯道工二古文一、兼精二書法一、子緝亦善二詩文一、洪武四年、擧二鄕試第一一、授二臨淮教諭一、入見賜二之宴一、賦レ詩、稱レ旨除二廣信教授一、自號二榮陽外史一。㊄我が國の外記の唐名。〔職原鈔〕外記、唐名外史。

〖外史氏〗257 グヮイシシ ㊀外史、卽ち野史を書く人。㊁日本外史の著者、賴山陽の自稱。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕外史氏曰、余數往二來攝播間一、訪二所謂櫻井驛者一、得二之山崎路一。

【外司】258 グヮイシ ㊀地方官をいふ。〔後漢書、郞顗傳〕方今中官外司、各各考レ事、其所レ考者、或非二急務一。〔魏志、韓曁傳〕及レ爲二外司一、萬里肅齊。㊁外政をつかさどる。〔隋書、高祖紀〕伊我祖考之代、任寄已深、入掌二禁兵一、外司二藩政一、文經武略、久播二朝野一。

【外市】259 グヮイシ 外人と利益の交換をすること。〔韓非子、內儲說上〕申子欲レ言二之君一、而恐二君之欲レ疑二己外市一也、不則恐レ惡二於趙一。〔史記、主父偃傳〕兵久則變生、事苦則慮易、乃使下邊境之民、靡敝愁苦、而有二離心一、將吏相疑而外市上、故尉佗章邯、得三以成二其私一也。

【外私】260 グヮイシ ㊀士が大夫及び士に對する自稱。〔禮、玉藻〕士曰二傳遽之臣一、於二大夫一曰二外私一。〔疏〕凡大夫家臣稱レ私、此士既不下與二大夫一爲上レ臣、故對二大夫一稱曰二外私一。〔禮、雜記上〕士訃二於大夫一曰、吾子之外私某死、訃二於士一亦曰、吾子之外私某死。㊁大夫が他國の大夫及び士に對していふ。〔禮、雜記上〕大夫訃二於適者一曰、吾子之外私寡大夫某不祿、使二某實一、訃二於士一亦曰、吾子之外私寡大夫某不祿、使二某實一。〔疏〕以三是別國私有二恩好一、故曰二外私一。㊂外國と私かに通ずること。〔漢書、司馬相如傳上〕今齊列爲二東蕃一、而外私二肅愼一、捐レ國踰レ限、越レ海而田、其於レ義固未レ可也。〔注〕郭璞曰、私與通也。

【外使】261 グヮイシ 外國への使。又、外國からの使。〔左氏、哀、六、潛レ師閉レ塗、注〕閉レ塗不レ通二外使一。〔唐書、姚南仲傳〕出レ位爲二遂州別駕東川觀察使一、王叔邕希レ旨奏レ位殺レ之、復出二少微一補二外使一、宦官護送、度レ江投二之水一云。〔韓偓、苑中詩〕外使調レ鷹初得レ按、中官過レ馬不レ教レ嘶。

【外祀】262 グヮイシ 國內の山川等を祀ること。內祀（1－1418‥226）の對。〔墨子、明鬼下〕昔者武王之攻レ殷誅レ紂也、使三諸侯分二其祭一曰、使下親者受二內祀一、疏者受中外祀上。〔閒詁〕此謂下異姓之國、祭二山川四望一之屬上、祭統說二周錫魯重祭一云、外祭則郊祀、是也、內祭則大嘗禘、是也、彼大祀非三凡諸侯所二得祀一、蓋不レ在二所レ受之列一。〔宋史、禮志二〕周官外祀皆有二兆域一、後世因レ之稍增二其制一。

【外師】263 グヮイシ ㊀外國との戰。〔左氏、僖、二十五、掖以赴レ外、林注〕手掖二國子一以赴二外師一。㊁外國の軍隊。〔唐書、董昌傳〕候人言、外師彊、輒斬以徇。

【外眥】264 グヮイシ まなじり。〔醫學入門、內外眥屬三心與二小腸一〕內眥屬レ心、外眥屬二小腸一。

【外徙】265 グヮイシ 都から外にうつる。地方官に轉任する。〔唐書、徐堅傳〕出爲二絳州刺史一、數外徙。

【外視】266 グヮイシ 外からみる。〔湘山野錄〕嚴僕射續、位高寡レ學、爲二時所レ鄙、江文蔚嘗作二蟹賦一譏レ續曰、外視多レ足、中無二寸腸一。

【外詞】267 グヮイシ 外にあらはれた言葉。〔梅堯臣、歐陽郡太君挽歌〕外詞陽磊磊、內畏實兢兢。

【外資】268 グヮイシ 外人の有する資金。

〖外資輸入〗269 グヮイシユニフ 外國の資本を國內に引き入れる。外國の金を融通する。

【外誌】270 グヮイシ 外國の雜誌。

【外熾】271 グヮイシ 外部にさかんなこと。〔南齊書、柳世隆傳〕擧兵內侮、姦回外熾、斯寔惡熟罪成之辰、決癰潰疽之日。

【外字】272 グヮイジ ㊀外側にあらはれた文字。〔神仙傳〕王遠明二天文圖讖河洛之要一、漢孝桓帝聞レ之、使三郡國逼載詣二京師一、乃題二宮門扇四百餘字一、皆紀二方來一、帝惡レ之、使二人削レ之、外字適去、內字復見、墨皆徹入二木裏一。㊁外國の文字。

【外次】273 グヮイジ 門外に在つて衣服を整えるところ。內次（1－1418‥233）の對。〔禮、曾子問〕改二服於外次一。〔疏〕服二深衣於門外之次一。〔孔叢子、巡狩〕歸反舍二於外次一。

【外耳】274 グヮイジ 耳を外・中・內の三部に分けた、其の最外部。耳輪・耳殼・外聽道と鼓膜とから成る。

【外事】275 グヮイジ ㊀國境外の事。外國の事。一說に、有司の事。〔書、康誥〕王曰、外事、汝陳二時臬一、司二師茲殷罰有レ倫。〔傳〕言、外土諸侯、奉二王事一、汝當丙布二陳是法一、司下牧其衆及此殷家刑罰有二倫理一者上、兼乙用レ之甲。〔蔡傳〕外事、未レ詳、陳氏曰、外事、有司之事也、呂氏曰、外事、衞國事也。〔左氏、文、十三〕中行桓子曰、請復二賈季一、能二外事一、且由二舊勳一。〔林注〕賈季能任二在外之事一。〔史記、范雎傳〕秦王跽曰、寡人願聞二失計一、然左右多二竊聞者一、范雎恐未二敢言一レ內、先言二外事一、以觀二秦王之俯仰一。

〔史記、蒙恬傳〕恬任㆓外事㆒、而毅常爲㆓內謀㆒。〔後漢書、光武紀下〕帝以㆓中國初定㆒、未㆑遑㆓外事㆒。㊁世間の事。世事。〔西京雜記、二〕司馬相如爲㆓上林子虛賦㆒、意思蕭散、不㆘復與㆓外事㆒相關㆖。〔唐書、關播傳〕以㆓太子少師㆒致仕、斥㆓賣車騎㆒、闔㆑門不㆑嬰㆓外事㆒。〔鄭常、寄㆓邢逸人㆒詩〕羨君無㆓外事㆒、日與㆓世情㆒違。〔白居易、寄㆓李十一建㆒詩〕外事牽㆓我形㆒、外物誘㆓我情㆒。㊂ほかのこと。よそごと。他事。〔後漢書、馬援傳〕賓客故人日滿㆓其門㆒、諸曹時白㆓外事㆒、援輒曰、此丞掾之任、何足㆓相煩㆒。〔劉長卿、東湖送㆓朱逸人歸㆒詩〕莫㆑道野人無㆓外事㆒、開㆑田鑿㆑井白雲中。〔權德輿、過㆓張監閣老宅㆒詩〕里仁無㆓外事㆒、徐步一開顏。㊃郊外の祭。一說、用兵の事をいふ。〔禮、曲禮上〕外事以㆓剛日㆒。〔注〕出郊爲㆓外事㆒。〔疏〕外事以㆓剛日㆒者、外事、郊外之事也、崔靈恩云、外事、指㆓用㆑兵之事㆒。㊄一家の外の事。〔公羊、莊、二、冬十有二月夫人姜氏會㆓齊侯于郜㆒、注〕書者婦人無㆓外事㆒、外則近㆑淫。〔白虎通、諡〕何以知㆑不㆑之㆓南郊㆒也、婦人本無㆓外事㆒。㊅外にいとなむ。外に於て仕事をする。〔五代史、王朴傳〕世宗之時、外事㆓征伐㆒、而內修㆓法度㆒、朴爲㆑人明敏多㆓材智㆒、非㆓獨當世之務㆒、至㆓陰陽律曆之法㆒、莫㆑不㆑通焉。〔宋史、蘇軾傳〕漢武帝外事㆓四征㆒、內興㆓宮室㆒、財用匱竭、於㆑是修㆓鹽鐵榷酤均輸之政㆒、民不㆑堪㆑命、幾至㆓大亂㆒。

【外侍】276 グワイジ　外部にあつて天子に侍する人。〔陳書、劉師知傳〕答曰、若依㆓君臣之禮㆒、則外侍斬㆓內侍㆒、齊頃世多㆓故禮㆒、隨㆓事省㆒。

【外州】277 グワイシウ　㊀國都の外の州。〔魏書、出帝平陽王紀〕詔㆓諸參佐㆒、自㆓三府㆒以下、爰及㆓外州㆒、皆不㆑得㆓復加㆒、常侍及兼兩員、雖㆓已授者㆒、亦悉追㆑之。〔章孝標、錢塘贈㆓武翊黃㆒詩〕鴛鴻待㆑侶飛㆓清禁㆒、山水緣㆑情住㆓外州㆒。㊁地名。春秋、衞の邑。〔左氏、哀、十一〕孔文子使㆔疾出㆓其妻㆒、而妻㆑之、疾使㆔侍人誘㆓其初妻之娣㆒、寘㆓於犂㆒、而爲㆓之一宮㆒、如㆓二妻㆒、文子怒欲㆑攻㆑之、仲尼止㆑之、遂奪㆓其妻㆒、或㆑淫㆓於外州㆒、外州人奪㆓之軒㆒以獻。〔注〕外州、衞邑。

【外周】278 グワイシウ　外をめぐる。そとがこひ。〔張衡、西京賦〕徼㆓道外周㆒、千廬內附。

【外愁】279 グワイシウ　外物に對する愁心。〔劉言史、傷㆓清江上人㆒詩〕此身豈得㆓多時住㆒、更著㆓塵心㆒起㆓外愁㆒。

【外柔】280 グワイジウ　外面の柔和なこと。〔唐書、盧坦傳〕坦私謂㆑人曰、姚大夫外柔中剛、監軍若侵㆑之、必不㆑受、我留恐及㆑禍。

【外七】281 グワイシチ　北京城の外城にある七つの城門。永定・左安（將才）・右安（南西）・廣渠（沙鍋）・廣寧（廣安・彰儀）・東便・西便。〔北京指南、地理、疆域、外城之大概〕包㆓京城之南面㆒、轉㆓抱東西角樓㆒、如㆓鎖形㆒者、曰㆓外城㆒、京呼㆓外羅城㆒、城袤長二十八里、高二丈、門凡七、南曰㆓永定㆒、曰㆓左安㆒、俗稱將才門、曰㆓右安㆒、俗稱南西門、東曰㆓廣渠㆒、俗稱沙鍋門、西曰㆓廣寧㆒、前清中葉、以㆑避㆑諱故、改曰㆓廣安㆒、古名彰儀、故或亦稱爲㆓彰儀㆒、在㆓東西隅㆒而轉抱北向者、東曰㆓東便㆒、西曰㆓西便㆒、始建㆓於明嘉靖三十二年㆒、四十一年添㆓築永定等七門甕城㆒、至㆓四十三年六月㆒城始成。

【外習】282 グワイシフ　外國の習慣。

【外集】283 グワイシフ　㊀僧の詩文集をいふ。佛教の經典を內學といふに對す。〔四庫提要、集、別集類〕柳塘外集、四卷、宋釋道璨撰、云云、別有㆓語錄㆒、故此以㆓外集㆒爲㆑名、釋氏以㆓佛典㆒爲㆓內學㆒、以㆓儒書㆒爲㆓外學㆒也。〔四庫提要、集、別集類〕全室外集、九卷、續集一卷、明僧宗泐撰、是編題曰㆓外集㆒、蓋釋氏以㆓佛經㆒爲㆓內學㆒、故以㆓詩文㆒爲㆑外、猶㆓宋釋道璨、柳塘外集例㆒也。㊁正集の外に後人が補輯したもの。又、他人の贋作で、正集に入れることの出來ないもの。〔四庫提要、集、別集類〕韓集擧正十卷、外集擧正一卷、宋、方崧卿撰、是書後有㆓淳熙己酉崧卿自跋㆒、稱右昌黎先生集四十卷、外集十卷、附錄五卷、增考年譜一卷、復次㆓其異同㆒、爲㆓擧正十卷㆒、陳振孫書錄解題所㆑載同、而多㆓外鈔八卷㆒、其注稱年譜洪興祖撰、莆田方崧卿增考、且撰㆓擧正㆒以校㆓其同異㆒、而刻㆓之南安㆒、外集但據㆓嘉祐劉煜所㆑錄二十五篇㆒、而附以㆘石刻聯句詩文之遺、見㆓於他集㆒者、及葛嶠刻柳文㆖、又以㆓大庾韓郁所㆑編注諸本㆒。〔四庫提要、集、別集類〕詁訓柳先生文集四十五卷、外集二卷、新編外集一卷、唐柳宗元撰、宋韓醇音釋、云云、政和中胥山沈晦取㆓各本㆒參校、獨據㆓此本㆒爲㆑正、而以㆓諸本所㆑餘者㆒、別作㆓外集二卷㆒、附㆓之於後㆒。㊂奏議の類をいふ。蓋し道學を尊んで內とし、事功を薄んじて外といふ。〔四庫提要、集、別集類〕三魚堂文集十二卷、外集六卷、附錄一卷、國朝陸隴其撰、云云、是集爲㆓其門人侯銓所㆑編、云云、外集六卷、則裒㆓其奏議條陳表策申請公移㆒、而終㆑之以㆑詩、云云、銓等乃以㆘奏議公牘確然見㆓諸行事㆒者㆖、別爲㆓外集㆒、夫詩歌非㆓隴其所㆑長㆒、列㆓之外集㆒可也、至㆓於聖賢之道㆒、本末同㆑原、心法治法、理歸㆓一貫㆒、周禮皆述㆓職官㆒、尙書皆陳㆓政事㆒、周公孔子、初不㆔以㆑是爲㆓粗迹㆒、卽黃幹編㆓朱子詩文㆒、亦未㆘嘗薄㆓視論㆑政之文㆒、揮而外㆖之、銓乃徒知㆘以㆓太極論㆒冠㆑編、欲㆖使㆔隴其接㆓迹周子㆒、而以㆓其循績㆒別爲㆓外集㆒、尊㆓空言㆒而薄㆓實政㆒、是豈隴其之旨乎。

【外輯】284 グワイシフ　外國とやはらぎ和する。〔魏書、太宗紀贊〕明元抱㆓純孝之心㆒、逢㆓梟鏡之禍㆒、權以濟㆑事、危而獲㆑安、隆㆑基固㆑本、內和外輯、以㆑德見㆑宗、良無㆑愧也。

【外襲】285 グワイシフ　外をおほふ。〔韓伯庸、幽蘭賦〕嫩「葉旁開、浮香外襲。

【外舍】286 グワイシヤ　㊀皇后の家、外戚をいふ。外家。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕及㆓后有㆑疾、特令㆔后母兄弟入視㆓醫藥㆒、不㆑限㆓日數㆒、后言㆓於帝㆒曰、宮禁至重、而使㆔外舍久在㆓內省㆒、上令㆔陛下有㆓幸私之譏㆒、下使㆔賤妾獲㆓不㆑知㆑足之謗㆒。〔注〕外舍、外家。〔後漢書、宦者、單超傳〕延熹二年、皇后崩、帝因如㆑廁、獨呼㆑衡、問、左右與㆓外舍㆒不㆓相得㆒者、皆誰乎。〔注〕外舍、謂㆓皇后家㆒也。〔北史、齊武明皇后婁氏傳〕后高嚴斷、雅遵㆓儉約㆒、往㆓來外舍㆒、侍從不㆑過㆓十人㆒。㊁古、王の子の出でて學ぶところ。〔大戴禮、保傅〕古者年八歲、而出就㆓外舍㆒、學㆓小藝㆒焉、履㆓小節㆒焉。〔注〕內則曰、十年出就㆓外傅㆒、居㆓宿於外㆒、學㆓書計㆒。㊂宋代の官吏試驗の學舍の一。三舍之法（**1**－**12**・・809）を見よ。〔宋史、神宗紀〕元豐二年八月甲寅、詔增㆓太學生舍㆒爲㆓八十齋㆒、齋三十人、外舍生二千、內舍生三百人、月一私試、歲一公試、補㆓內舍生㆒、間歲一舍試補㆓上舍生㆒。〔宋史、選擧志〕三舍法行、則太學始定㆓置外舍生二千人、內舍生三百人、上舍生百人㆒。㊃妻妾をいふ。〔宋史、張存傳〕性孝友、嘗爲㆓蜀郡㆒、得㆓奇繒文錦㆒以歸、悉布㆓於堂上㆒、恣㆓兄弟擇取㆒、常曰、兄弟手足也、妻妾外舍人耳、奈何先㆓外人㆒而後㆓手足㆒乎。

【外射】287 グワイシヤ　外を射る。〔孫思邈、四言詩〕紫色內達、赤芒外射。

【外邪】288 グワイジヤ　身外の、すべて身心の害となるもの。〔文子、上仁〕中欲不㆑出、謂㆓之扃㆒、外邪不㆑入、謂㆓之閉㆒。

【外相】289 グワイシヤウ　㊀外部で政治を取る人。〔晉書、陶侃傳論〕超㆓居外相㆒、宏總㆓上流㆒。〔徐陵、爲㆓貞陽侯㆒重與㆓王太尉㆒書〕一則二則、惟在㆓大賢㆒、外相內相、終當㆓相屈㆒。㊁外務大臣をいふ。

【外省】290 グワイシヤウ　㊀官署に附屬する役所。〔南齊書、豫章王嶷傳〕嶷知㆓蘊懷㆑二、不㆑給㆓其仗㆒、散㆓處外省㆒、及㆓難作㆒、搜檢皆已亡去。㊁門下外省。後、門下後省ともいふ。〔隋書、高祖紀上〕（開皇七年）秋七月己丑、衞王爽薨、上發㆓喪於門下外省㆒。〔宋史、職官志一〕元豐八年、以㆓門下中書外省㆒爲㆓後省㆒。㊂尙書省の外省。六曹をいふ。六曹（**2**－**1453**・・240）を見よ。〔宋史、徽宗紀三〕政和三年五月丁未、詔尙書內省分㆓六司㆒、以掌㆓外省六曹所㆑上之事㆒。㊃他の省。自分の所屬外の省。㊄地方各省。

【外省固山大】291 グワイシヤウコザンダイ　官名。清代の協領（**2**－**2742**・・101）の異稱。〔稱謂錄、協領、外省固山大〕叩鉢齋官職考、外省固山大、卽駐防協領。

【外將】292 グワイシヤウ　外にある大將。〔魏志、武帝紀、注〕閹豎之官、古今宜㆑有、既治㆓其罪㆒、當㆑誅㆓元惡㆒、一獄吏足矣、何必紛紛、召㆓外將㆒乎。

【外廂】293 wai^4 hsiang^1　そとびさし。そと側。外邊。〔長生殿、埋玉〕外廂軍士、已把驛亭圍了。

【外傷】294 グワイシヤウ　身體の表面からの器械的作用による組織の損傷。創傷・括傷・骨折・脫臼・內臟破裂・腦震盪等を惹起する。

【外奬】295 グワイシヤウ　うはべでほめる。〔謝靈運、擬㆓魏太子鄴中集㆒王粲詩〕沮障自可㆑美、客心非㆓外奬㆒。〔江淹、雜體詩、許徵君詢自敘〕去矣從㆑所㆑欲、得失非㆓外奬㆒。〔李白、訓㆓裴侍御對㆑雨感㆑時見㆑贈詩〕平生多㆓感激㆒、忠義非㆓外奬㆒。

【外彰】296 グワイシヤウ 外にあらはれる。〔魏書、宗欽傳〕剛德外彰、柔明內鏡。

【外障】297 グワイシヤウ 眼病の名。うはひ。そこひ。〔濟生方、目病論治〕方論載、有下五輪・八廓・內障・外障・青盲・雀盲・倒睫・拳毛・弩肉・攀睛・風沿・瀾眼、能二近視一不レ能二遠視一、能二遠視一不レ能二近視一等證上。

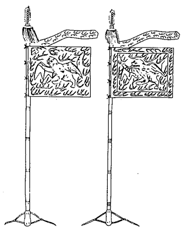
【外牆】298 グワイシヤウ 外がはのかき。外堧。〔戰國、楚策〕莊公走出踰二於外牆一、射中二其股一、遂殺レ之、而立二其弟景公一。〔北史、魏明元帝紀〕泰常八年冬十月癸卯、廣西宮起二外牆一、周回二十里。

【外氅】299 グワイシヤウ 毛皮の外套。

【外狀】300 グワイジヤウ 外部をよそほふ。〔白居易、有木詩序〕又見下外狀二恢弘一、中無二實用一者上。

【外城】301 グワイジヤウ ❶そとじろ。でじろ。〔公羊、僖、十四、力能救レ之則救レ之可也、注〕外城不レ月者、文言二諸侯一、非二內城一明矣。〔南齊書、垣崇祖傳〕當下脩二外城一以待上レ敵。〔崔元翰、奉レ和二聖製中元日題二奉敬寺一詩〕鳳吹從二上苑一、龍宮連二外城一。❷北京正陽門外一帶の地をいふ。一名、前門外。〔北京指南、地理、疆域、外城之大概〕包二京城之南面一、轉二抱東西角樓一如二鎖形一者、曰二外城一。❸そとぐるわの城。外郭。二の丸。

【外城旗】302 グワイジヤウキ 天子の行營の外城に建てる旗。內城旗(**1**－**1418**‥271)の對。〔清會典圖、武備、行營外城旗〕皇帝行營外城旗、東南正白、西南正紅、西北正黃、東北鑲黃、俱用レ緞、鑲黃以二紅緣一、正黃正白正紅不レ加レ緣、皆正幅、銷二金飛虎一、環以二火燄一、縿徑二尺、斿徑三尺、鑲黃緣亦銷二金火燄一、周闊四寸、杆如二內城旗之制一。



外城旗（清會典圖）

【外情】303 グワイジヤウ ❶外物。外界にあるもの。〔史記、樂書、感二於物一而動、性之欲也、注〕正義曰、其心雖レ靜、感二於外情一、因レ物而動、是性之貪欲也。❷うはべの氣持。〔棗據、雜詩〕引レ義割二外情一、內感實難レ忘。

【外壤】304 グワイジヤウ 日蝕及び月蝕の場合、かけずに殘つてゐる部分をいふ。〔穀梁、隱、三〕春王二月己巳、日有レ食レ之、其日有レ食レ之何也、吐者外壤、食者內壤、闕然不レ見二其壤一、有レ食レ之者也、有二內辭一也、或外辭也。〔注〕凡所二吐出一者、其壤在レ外、其所二吞咽一者、壤入二於內一。

【外攘】305 グワイジヤウ 外に夷狄を追ひ拂ふ。〔史記、秦始皇紀〕天下已定、外攘二四夷一、以安二邊境一。〔漢書、董仲舒傳〕仲舒爲レ人廉直、是時方外攘二四夷一。

【外主】306 グワイシユ 外にある主君。〔左氏、昭、十三〕有二莒衞一以爲二外主一。〔史記、楚世家〕有二莒衞一以爲二外主一、有二國高一以爲二內主一。

【外娶】307 グワイシユ 外國の婦人を娶る。〔儀禮、士昏禮、若異邦則贈二丈夫送者一以二束錦一、疏〕鄭注喪服亦云、古者大夫不二外娶一。

【外儒】308 グワイジユ 道家が儒家を目していふ稱。〔雲笈七籤〕外儒失レ道、不レ知下道爲二儒本一、儒爲中道本上。

【外縮】309 グワイシユク 外面はちぢこまり、へりくだつてゐること。〔宋史、黃龜年傳〕(秦)檜行詭而言譎、外縮而中邪、以二巧詐一取二相位一。

【外出】310 グワイシユツ ❶外へ出る。他出する。〔南齊書、張敬兒傳〕敬兒慮不二復外出一。〔南齊書、徐孝嗣沈文季傳論〕江左以來、不レ暇二遠策一、王旅外出、未二嘗宿飽一。❷地方官に轉出する。〔南史、江湛傳〕求二外出一、乃以爲二武陵內史一。

【外出息】311 wai^{4} ch‘u^{1} hsi^{2} 正規の給料以外の收入。餘分の利益。不時の收入。

【外術】312 グワイジユツ 外路。術は、みち。〔後漢書、馮衍傳〕播二蘭芷於中廷一兮、列二杜衡於外術一。

【外順】313 グワイジユン 外觀の溫順なさま。〔易、泰〕彖曰、內陽而外陰、內健而外順、內君子而外小人、君子道長、小人道消也。〔禮、樂記〕樂極レ和、禮極レ順、內和而外順、則民瞻二其顏色一、而弗二與爭一也、望二其容貌一、而民不レ生二易慢一焉。〔後漢書、陳龜傳〕永和五年、拜二使匈奴中郎將一、時南匈奴左部反亂、龜以二單于不レ能レ制レ下、外順內畔一、促令二自殺一。〔隋書、李德林傳〕皇帝內明外順、經二營區宇一、吐二無窮之術一、運二不測之神一、幽二贊兩儀一、財二成萬類一、咨二謀臺閣一、曉二諭公卿一。

【外書】314 ゲシヨ ［佛］佛書以外の書物。外典(431)の❷に同じ。〔法華經、安樂行品〕菩薩摩訶薩不三親二近國王王子大臣官長一、不三親二近諸外道梵志尼揵子等一、及造二世俗文筆一、讚二詠外書一。

【外處】315 グワイシヨ 地方。〔宋史、兵志八〕帝諭二知樞密院王欽若等一、在京軍校、差二充外處一、人員軍數不レ足、有レ妨二訓練一。

【外署】316 グワイシヨ 尙書省の下にあつて、實際に政治をするところ。〔後漢書、陳寔傳〕此人不レ宜レ用、而侯常侍不レ可レ違、寔乞從二外署一、不レ足三以塵二明德一、倫從レ之。〔注〕請、從二外署之擧一、不レ欲レ陷二倫於請託一也。〔魏書、官氏志〕(大興)二年三月、分二尙書三十六曹及諸外署一、凡置二三百六十曹一、令二大夫主一レ之。

【外症】317 グワイシヨウ 身體の表面に現はれた病狀。症、もと證に作る。外證を見よ。〔辭海〕症、證俗字、病徵也。

【外證】318 グワイシヨウ 身體の表面に現はれた病狀。外症。〔陳師道、贈二二蘇公一詩〕如三大醫王治二膏肓一、外證已解中尙強、探レ囊一試二黃昏湯一、一洗十年新學レ腸。

【外飾】319 グワイシヨク 外貌を飾る。〔易、履、履道坦坦、注〕履道尙レ謙、不レ喜レ處レ盈、務在レ致レ誠、惡二外飾一者也。〔韓非子、解老〕禮者外飾之所二以諭一レ內也。〔顏氏家訓、治家〕南閭貧素、皆事二外飾一。〔張九齡、在レ郡秋懷詩〕平生去二外飾一、直レ道如二不羈一。

【外燭】320 グワイシヨク 外をてらす。〔漢書、五行志下之上〕厥食既、先レ日出而黑、光反外燭、君臣不レ通、茲謂レ亡。

【外職】321 グワイシヨク 都をはなれてゐる官職。地方の官職。〔北史、李諤傳〕上謂二羣臣一曰、朕昔爲二大司馬一、每レ求二外職一、李諤陳二十二策一、苦勸不レ許、朕遂決レ意在レ內、今此事業、諤之力也。

【外心】322 グワイシン ❶心を外に用ひる。〔禮、禮器〕禮之以レ多爲レ貴者、以二其外一レ心者也。〔注〕外心、用二心於外一、其德在レ表也。❷ほかごころ。ふたごころ。二心。異心。〔左氏、昭、三〕敝邑之往、則畏四執事其謂三寡君而固有二外心一。〔戰國、魏策〕二人者必不三敢有二外心一矣。〔呂覽、遇合〕爲二我婦一而有二外心一。〔史記、趙世家〕三國攻二晉陽一歲餘、引二汾水一灌二其城一、城不レ浸者三版、城中懸レ釜而炊、易レ子而食、羣臣皆有二外心一、禮益慢、唯高共不二敢失一レ禮。❸數學用語。外接圓の中心。三角形に於ては、各邊の垂直二等分線の交點。

【外臣】323 グワイシン 封建時代、臣が他國の君主に對して用ひる自稱。〔儀禮、士相見禮〕他國之人、則曰二外臣一。〔禮、雜記上〕訃二於他國之君一曰、君之外臣、寡大夫某死。〔疏〕大夫不レ屬二他國一、故云二外臣一。〔左氏、成、三〕以賜二君之外臣首一。〔國語、魯語上〕外臣之言不レ越レ境。〔史記、匈奴傳〕宜レ可レ使下爲二外臣一朝中請於邊上。

【外信】324 グワイシン 外國からの通信。

【外振】325 グワイシン 外にふるふ。〔隋書、潘徽傳〕暨二大隋之受一レ命也、追二蹤三五一、並二曜參辰一、外振二武功一、內修二文德一、飛二英聲一而勒二嵩岱一、彰二大定一而銘二鍾鼎一。

【外寢】326 グワイシン 奧座敷。燕寢。〔禮、內則〕適子庶子見二於外寢一。〔注〕外寢、君燕寢也。〔潘岳、楊仲武誄〕同次二外寢一。〔魏書、高祖紀下〕太和十有六年、十有一月乙卯、依二古六寢一、權制二三室一、以二安昌殿一爲二內寢一、皇信堂爲二中寢一、四下爲二外寢一。〔宋史、李瀆傳〕即設二外寢一、與二諸子一同處。

【外親】327 グワイシン ❶母方の親族。外姓。〔漢書、兩龔傳〕時外親持レ權。〔漢書、朱博傳〕以二外親一封位特進。〔白虎通、宗族〕男女皆在二外親一。❷表面だけ親しむ。〔晉書、宣帝紀〕孫權劉備、外親內疎、羽之得レ意、權所レ不レ願也。

【外人】328 グワイジン ❶仲間以外の人。門人外の人。〔孟子、滕文公下〕公都子曰、外人皆稱二夫子好一レ辯。〔新語、至德〕外人知レ之。❷ほかの人。よその人。他人。〔莊子、山木〕東海有レ鳥焉、名曰二意怠一、其爲レ鳥也、翂翂翐翐、而似レ無レ能、引援而飛、迫脅而棲、進不二敢爲一レ前、退不二敢爲一レ後、食不二敢先嘗一、必取二其緒一、故其行列不レ斥、而外人卒不レ得レ害、是以免二於患一。〔荀子、法行〕曾子曰、無二內人之疏、而外人之親一、無二身不レ善而怨一レ人、無二刑已至而呼一レ天、內人之疏、而外人之親、不二亦遠一

乎。〔後漢書、來歙傳〕今將軍遣レ子質レ漢、內懷ニ它志一、名器逆矣、外人有レ議、欲レ謀ニ漢使一、輕ニ怨禍一矣。〔魏書、李沖傳〕密致ニ珍寶御物一、以充ニ其第一、外人莫ニ得而知一焉。〔陶潛、桃花源記〕此中人語云、不レ足下爲ニ外人一道上也。〔古文析義注〕以ニ此中之樂一、非ニ門外漢所一レ知、言レ之無レ益。〔隋書、元冑傳〕嘗正月十五日、上與ニ近臣一登高、時冑下直、上令ニ馳召一レ之、及ニ冑見一、上謂曰、公與ニ外人一登高、未レ若ニ就レ朕勝一也、賜レ宴極レ歡。❸外國の人。異邦人。〔管子、問〕外人之來從。〔陶潛、桃花源記〕男女衣著、悉如ニ外人一。❹まをとこ。かくし男。私夫。漢の蓋長公主が河間の丁外人といふ者を私かに愛したことからいふ。〔漢書、外戚上、孝昭上官皇后傳〕蓋主私近ニ子客河間丁外人一。〔注〕師古曰、子客、子之賓客也、外人、其名也。❺西洋人。歐米人。

〔外人公所〕329 wai^{4} jen^{2} kung^{1} suo^{3} 外國人の商業會議所。

【外壬】331（グワイジン） 殷の第九代の王。太戊の子、仲丁の弟。仲丁崩じて卽位す。在位十五年。漢書古今人表には中丁を太戊の弟とする。從つて外壬も亦太戊の弟となるが、卜辭中の卜壬は外壬で、外壬を太戊の子、仲丁の弟とする史記の說がよい。〔史記、三〕。

【外尋】332（グワイジン） 外にたづねる。〔張說、岳州九日宴ニ道觀西閣一詩〕大道申ニ中悟一、逍遙匪ニ外尋一。

【外腎】333（グワイジン） 睾丸。〔奇效良方、疝論〕㿉疝之名、又與ニ諸論一不レ同、且如ニ㿉疝一者、外腎堅腫也。〔福惠全書、刑名部、人命中、檢肉屍〕外腎、玉莖、婦人產門。

【外水】334（グワイスイ） ❶川の名。四川省に內水・外水の二水あり、內水は涪江、或は內江といひ、外水は岷江、或は蜀江といふ。〔水經、江水注〕江州縣對ニ二水口一、右則涪內水、左則蜀外水、卽是水也、江州縣、故巴子之都也。❷wai^{4} shuei^{3} 意外の利益。臨時の收入。

【外正】335（グワイセイ） ❶諸官の長をいふ。〔書、康誥〕亦惟君惟長、不レ能ニ厥家人、越厥小臣外正一、惟威惟虐、大放ニ王命一、乃非德用乂。〔傳〕爲ニ人君長一、而不レ能レ治ニ其家人之道一、則於ニ其小臣外正官之吏一、幷爲ニ威虐一、大放ニ棄王命一、乃由レ非ニ德用治レ之故。❷外が正しい。外面が正しい。〔詩、大雅、抑〕抑抑威儀維德之隅。〔箋〕人密ニ審于威儀一抑抑然是其德必嚴正也古之賢者道行心平可ニ外占而知レ內如ニ宮室之制一內有ニ繩直一則外有ニ廉隅一。〔疏〕此以ニ屋之外角一、喩ニ人之外貌一、由ニ內方而外正一、故觀レ外而知レ內、故人能密ニ審于威儀一、抑抑然、是其德必嚴正。

【外生】336（グワイセイ） 晉代の語。甥をいふ。外甥。〔吳志、陸遜傳〕遜外生顧譚顧承姚信。〔世說新語、德行〕郗公値ニ永嘉喪亂一、在ニ鄉里一甚窮餒、鄉人以ニ公名德傳一、共飴レ之、公常攜ニ兄子邁、及外生周翼二小兒一往食。〔世說新語、簡傲〕王子敬兄弟見ニ郗公一、躡履問訊、甚脩ニ外生禮一。〔元稹、贈ニ咸陽少府蕭郞一詩〕陸家幼女託ニ良壻一、阮氏諸房無ニ外生一。

【外成】337（グワイセイ） ❶嫁に行く。とつぐ。〔詩、召南、采蘋、于以奠レ之宗室牖下、箋〕凡昏事於ニ女禮一設ニ几筵于戶外一、此其義也與、〔疏〕正祭在レ室、此所ニ以不レ于ニ室中一者、以下其凡昏事皆爲ニ于女一行レ禮、設中几筵于戶外上、取ニ外成之義一、今教成之祭、于ニ戶外一設レ奠、此外成之義。〔公羊、隱、二、冬十月伯姬歸ニ于紀一伯姬者何內女也、注〕以レ無レ所レ繫也、不レ稱ニ公子一者、婦人外成、不レ得三獨繫ニ父母一。〔白虎通、嫁娶〕婦人外成。〔晉書、刑法志〕女人有ニ三從之義一、無ニ自專之道一、出適ニ他族一、還喪ニ父母一、降ニ其服紀一、所下以明ニ外成之節一、異中在室之恩上。❷夷狄と和解する。〔左氏、文、十八〕擧ニ八元一、使レ布ニ五教于四方一、父義、母慈、兄友、弟共、子孝、內平外成。〔注〕內、諸夏、外、夷狄。

【外制】338（グワイセイ） 天子の制旨の外朝に宣布するものをいふ。〔宋史、劉敞傳〕爲レ文尤贍敏、掌ニ外制一。

【外姓】339（グワイセイ） 母方の親戚。外親。〔左氏、閔、二〕夫人姜氏孫ニ于邾一、〔疏〕外淫者、言下與ニ外姓一爲上淫。〔左氏、宣、十二〕其君之擧也、內姓選ニ于親一、外姓選ニ于舊一。

【外征】340（グワイセイ） 外國を征伐する。〔日本政記、後陽成天皇〕慶長元年六月、外征諸將引還。

【外政】341（グワイセイ） 表向きの政治。外治。〔詩、大雅、瞻卬〕休ニ其蠶織一、〔傳〕休、息也、婦人無レ與ニ外政一、雖ニ王后一、猶以ニ蠶織一爲レ事。〔說苑、政理〕子產相レ鄭、簡公謂ニ子產一曰、內政毋レ出、外政毋レ入。〔唐書、桓彥範傳〕易曰、無レ攸レ遂在ニ中饋一、言、婦人不レ得レ預ニ外政一也。

【外淸】342（グワイセイ） ❶外部を淸める。〔宋書、王歆之傳〕自レ奉ニ職邦畿一、於レ茲五年、信惠並宣、威化兼著、外淸ニ姦暴一、內輯ニ民黎一、役賦均平、閭井齊肅。❷外面の淸いこと。〔劉楨、處士國文甫碑〕懿矣先生、天授德度、外淸內白、如ニ玉之素一、逍ニ遙九皐一、方回是慕。

【外甥】343（グワイセイ） ❶妻の兄弟。外生。〔釋名、釋親屬〕妻之昆弟曰ニ外甥一、其姊妹女也、來歸ニ己內一爲レ妻、故其男爲ニ外甥之甥一、甥者、生也、他姓子本生ニ於外一、不レ得下如ニ其女一來在中己內上也。〔詩、齊風、猗嗟、展我甥兮、疏〕威儀技藝如レ此、又實是齊之外甥、不レ能レ使ニ母不一レ淫、令三人以爲ニ齊侯之子一、是其可ニ嗟傷一也。〔後漢書、黨錮、范滂傳〕滂外甥西平李頌、公族子孫。〔魏志、荀彧傳〕以ニ外甥一故猶寵待。〔魏書、氐傳〕晉武帝假平西將軍無レ子、養ニ外甥令狐茂搜一爲レ子。❷他家に嫁した姊妹の生んだ男兒。〔杜甫、奉レ送三二十三舅錄事崔偉之ニ攝郴州一詩〕劉牢出ニ外甥一。〔元稹、哭ニ女樊一四十韻詩〕牽レ車小外甥等閑。〔稱謂錄、姊妹之子、外甥〕案、困學紀聞載、車永茂安外甥石季甫見、使レ爲ニ鄮令一、則晉人已有ニ外甥之稱一、杜甫詩非ニ其始一也、茂安與ニ陸士龍一書云、老人及姊自レ聞ニ此問一、不レ能ニ復食一、季甫爲ニ茂安之姊子一也。

〔外甥壻〕344 wai^{4} shêng^{1} hsü^{4} 他に嫁した姊妹「の生んだ娘の壻。

〔外甥女〕345（グワイセイヂヨ） 他に嫁した姊妹の生んだ女兒。〔稱謂錄、姊妹之子、外甥女〕柳宗元有下祭ニ崔氏外甥及崔氏外甥女一文上。

【外勢】346（グワイセイ） 外部の勢力。〔管子、八觀〕民倍ニ本行一而求ニ外勢一。

【外靜】347（グワイセイ） 外部が靜かなこと。〔蘇頲、授ニ彭景直禮部郞中一制〕通理內融、含輝外靜。〔徐彥伯、汾水新船賦〕安卑委順、外靜中虛。

【外聲】348（グワイセイ） 闔口音と開口音とをいふ。內聲の撮口音・齊齒音に對す。〔章炳麟、國故論衡、音理論〕闔口・開口、皆外聲、撮口・齊齒、皆內聲也。

【外抄】349（グワイセウ） ❶外銷に同じ。❷外鈔に同じ。〔六部成語、吏部、外抄、注解〕外面京報房所レ抄之上諭奏摺等項、總名曰ニ外抄一。

【外鈔】350（グワイセウ） 淸代、皇帝から內閣に還附した奏文及び諭旨は、一つは主任官廳に送り、一つは關係官廳に送るものをいふ。正鈔(**6**－**16255**‥279)の對。〔淸會典、都察院〕凡科鈔、給事中親接ニ本於內閣一、各分ニ其正鈔外鈔一、而下ニ於部一。〔注〕如ニ關涉數處一者、卽以レ本送ニ於別科一、轉發爲ニ外鈔一。

【外照】351（グワイセウ） 外に照り輝く。〔魏書、高充傳〕淸河崔玄伯見而異レ之、歎曰、高子黃中內潤、文明外照、必爲ニ一代偉器一。〔沈約、古意詩〕明月雖ニ外照一、寧知心內傷。〔蘇轍、次ニ韻孔平仲著作見レ寄詩〕譬如ニ薪中火一、外照不ニ自燭一。

【外銷】352（グワイセウ） 中央政府の許可を經ないで支辨し得る金額。〔六部成語補遺、戶部、外銷之款、注解〕凡公款用過必須三報ニ銷於戶部一、其不ニ必報一レ部、由ニ外官自行銷用一者、則謂ニ之外銷一。

【外戚】353（グワイセキ） 皇后の身うち。又、母方の身うち。外舍。〔史記、外戚世家〕自レ古受命帝王及繼體守文之君、非ニ獨內德茂一也、蓋亦有ニ外戚之助一焉。〔後漢書、李固傳〕豈與ニ此外戚凡輩、耽レ榮好レ位者一、同日而論哉。〔羊祜、讓ニ開府一表〕今臣身託ニ外戚一。

〔外戚世家〕354（グワイセキセイカ） 史記世家の一。外戚の事を記す。〔史記、太史公自序〕成皐之臺、薄氏始レ基、詘レ意適レ代、厥崇ニ諸竇一、栗姬偩レ貴、王氏乃遂、陳后太驕、卒尊ニ子夫一、嘉ニ夫德若一レ斯、作ニ外戚世家第十九一。

【外切】355（グワイセツ） 數學用語。一つの圓が全く他の圓の外部にあつて、唯一の共通點を有すること。外切圓を見よ。

〔外切圓〕356（グワイセツエン） 數學用語。一つの圓の外にあつて、それとただ一點で切する圓。

〔外切多邊形〕357（グワイセツタヘンケイ） 數學用語。多邊形の各邊が同一圓に切するもの。

【外洩】358（グワイセツ） もれる。もれ出る。

【外接】359（グワイセツ） ❶外側が他に接する。〔史記、漢

興以來諸侯年表〕楚吳淮南長沙國、皆外接二於胡越一、而內地北距レ山、以東盡二諸侯地一。〔漢書、異姓諸侯王表〕諸侯比レ境、周二帀三垂一、外接二胡越一。〔後漢書、班固傳下〕內撫二諸夏一、外接二百蠻一、乃盛二禮樂供帳一、置二乎雲龍之庭一、陳二百僚一而贊二羣后一、究二皇儀一而展二帝容一。㊁數學用語。一つの多角形の各邊が他の多角形の各角頂を過ぎること。

【外設】360（グヮイセツ） 外に設ける。〔牛弘、明堂議〕戶皆外設而不レ閉、示二天下一以レ不レ藏也。

【外妾】361（グヮイセフ） ㊀かこひもの。外婦。外妻。妾。㊁外國人のめかけ。らしやめん。

【外烻】362（グヮイセン／グヮイエン） 遠く外に輝く。〔何晏、景福殿賦〕晃光內照、流景外烻。〔注〕銑曰、烻、光動也。

【外線】363（グヮイセン） ㊀輪郭。アウトライン。㊁電氣・電話の屋外の線。

【外遷】364（グヮイセン） 外にうつる。又、地方に出る。〔漢書、五行志上〕石顯等復譖二毀之一、皆出外遷。〔唐書、孔溫業傳〕大中時爲二吏部侍郎一、侍郎求二外遷一、宰相白敏中顧二同列一曰、吾等可二少警一、孔吏部不レ樂レ居レ朝矣。

【外籤】365 wai^4 ch'ien^1 書籍の外題。みだし。

【外堧】366（グヮイゼン） 外側のかき。外牆。〔史記、申屠嘉傳〕景帝曰、錯所レ穿非二眞廟垣一、乃外堧垣。

【外禪】367（グヮイゼン） 位を外族にゆづる。〔干寶、晉紀總論〕晉武帝革命、漢魏外禪、順二大名一也。

【外祖】368（グヮイソ） 母の父母。外祖父母。〔儀禮、喪服〕爲二外祖父母一。〔馬融注〕母之父母也。〔漢書、楊惲傳〕惲始讀二外祖太史公記一、頗爲二春秋一。〔南史、傅昭傳〕昭六歲而孤、哀毀如二成人一、爲二外祖所一レ養。

【外祖家】369 wai^4 tsu^3 chia^1 母の父母、又はその家。

【外祖父】370（グヮイソフ） 母方の祖父。外翁。外公。〔漢書、外戚、孝宣許皇后傳〕太子外祖父昌成君。

【外祖母】371（グヮイソボ） 母方の祖母。〔漢書、外戚、史皇孫王夫人傳〕地節三年、求二得外祖母一。

【封二贈外祖一】372（グヮイソニホウゾウス） 外祖父母に官品を追贈すること。〔野客叢書、十一〕唐制、封贈雖二宰相一、止及二其父一、若以レ恩回贈、不二但其祖一、雖二異姓一亦及レ之、如丁權德輿以二檢校尙書恩乙一及二其祖一、贈二禮部郎中戶部尙書一、楊於陵請丙回二贈祖一贈乙吏部郎中甲、是以レ恩回二贈其祖一者也。

【外走】373（グヮイソウ） 外部に走る。〔宋史、謝絳傳〕內結二權倖一、外走二州邑一。

【外宗】374（グヮイソウ） ㊀周官の名。春官の屬。宗廟の祭祀を掌る。〔周禮、春官、外宗〕掌二宗廟之祭祀一、佐二王后一、薦二玉豆一、眡二豆籩一。㊁王の諸姑姊妹の女をいふ。〔周禮、春官、序官、外宗、凡外女之有レ爵者、注〕外女、王諸姑姊妹之女、謂二之外宗一。〔禮、雜記下〕外宗爲二君夫人一。〔疏〕外宗者、謂二君之姑姊妹之女、及舅之女、及從母一、皆是也。

【外層】375（グヮイソウ） 外部のかさなり。外部の層。

【外側】376（グヮイソク） そとがは。外面。外邊。

【外族】377（グヮイゾク） ㊀妻、又は母かたの親族。外家の族。外屬。〔史記、甘茂傳〕向壽者宣太后外族也、而與二昭王一少相長、故任用。〔資治通鑑、梁紀〕刑及二外族一。〔注〕男子謂二舅家一爲二外家一、婦人謂二父母之家一爲二外家一、外族、外家之族也。〔盧綸、送下內弟韋宗仁歸二信州一覲省上詩〕常嗟外族弟兄稀、轉覺心孤是送歸。〔元史、速哥傳〕速哥、蒙古怯烈氏、世傳、李唐外族。㊁自國外の民族。

【外賊】378（グヮイゾク） 外來の敵。〔管子、幼官〕障塞不レ審、不レ過二八日一、而外賊得レ閒。

【外屬】379（グヮイゾク） ㊀母、又は妻のみうち。外族。〔漢書、匡衡傳〕史高以二外屬一爲二大司馬一。〔白虎通、嫁娶〕外屬小功已上。㊁（グヮイショク）外につらなりつく。〔班固、西都賦〕周廬千列、徼道綺錯、輦路經營、修除飛閣、自二未央一而連二桂宮一、北彌二明光一而亙二長樂一、陵二墱道一而超二西墉一、掍二建章一而連レ外屬、設二璧門之鳳闕一、上二觚稜一而棲二金爵一。

【外孫】380（グヮイソン） 他家に嫁した娘の子。〔爾雅、釋親〕女子子之子、爲二外孫一。〔詩、齊風、猗嗟、展我甥兮、傳〕外孫曰レ甥。〔疏〕姊妹之子、名レ之曰レ甥、傳言二外孫曰一レ甥者、王肅云、據二外祖一以言也。〔儀禮、喪服傳〕從祖父從祖昆弟之長殤外孫。〔注〕女子子之子。〔史記、劉敬傳〕陛下誠能以二適長公主一妻レ之、昌頓在、固爲二子壻一、死則外孫爲二單于一。〔漢書、西域傳下〕外孫爲二昆弟一。〔列異傳〕臨淄蔡吏曾至二岱宗下一、見二一官儀衞甚嚴一、謂曰、掾爲レ我致二書於外孫一也、吏曰、外孫爲レ誰、曰、吾太山神也、外孫、天帝也。

【外孫子】381 wai^4 suen^1 tzŭ 他に嫁した娘の子。

【外孫女】382 wai^4 suen^1 nü^3 他に嫁した娘の女子。

【外孫三等】383（グヮイソンサントウ） 外孫の三つの等級。外孫（女の子）・離孫（外甥の子）・歸孫（女子兄弟の孫）。〔釋親考〕胤按、居家必用、外孫三等、一曰、外孫、謂二女之子一也、二曰、離孫、謂二外甥之子一也、三曰、歸孫、謂二女子兄弟之孫一也、此亦與二爾雅說一同。

【外孫虀臼】384（グヮイソンセイキウ） 好辭の隱語。外孫は女の子であるから好の字となり、虀臼は辛いものを受けるから辭の字となる。〔後漢書、曹娥傳、注〕邯鄲淳、爲二曹娥碑一、蔡邕又題二八字一曰、黃絹幼婦外孫虀臼。

【外蛇】385（グヮイダ） 外にゐる蛇。〔左氏、莊、十四〕初內蛇與二外蛇一鬭二於鄭南門中一、內蛇死、六年而厲公入。

【外帶】386（グヮイタイ） ㊀外に帶びてゐる。〔秦觀、雪齋記〕外帶二濤江漲海之險一、內抱二湖山竹林之勝一。㊁彎曲した山脈の凸面。

【外帶着】387 wai^4 tai^4 chê 並に。兼ねて。

【外體】388（グヮイタイ） 外部の身體。〔王褒、四子講德論〕君者中心、臣者外體。

【外臺】389（グヮイダイ） ㊀漢代の三臺の一。謁者をいふ。〔通典、職官、御史臺、注〕謝靈運晉書曰、漢、尙書爲二中臺一、御史爲二憲臺一、謁者爲二外臺一、是爲二三臺一。三臺（**1**－**12**‥1212）を見よ。㊁刺史（**2**－**1969**‥57）の異稱。〔後漢書、方術上、謝夷吾傳〕稍遷二荊州刺史一、遷二鉅鹿太守一、所在愛二育人物一、有二善績一、云云、班固爲レ文薦二夷吾一曰、云云、尋レ功簡レ能、爲二外臺之表一、聽レ聲察レ實、爲二九伯之冠一。〔海錄碎事、臣職、刺史〕晉書、刺史、國之外臺。㊂御史臺（**4**－**10157**‥129）の異稱。〔魏志、王肅傳、注〕薛夏、字宣聲、天水人也、云云、至二太和中一、嘗以二公事一移二蘭臺一、蘭臺自以臺也、而祕書署耳、謂レ夏爲レ不レ得レ移也、推二使當一レ有二坐者一、夏報レ之曰、蘭臺爲二外臺一、祕書爲二內閣一、臺閣一也、何不二相移一之有、蘭臺屈無二以折一、自レ是之後、遂以爲レ常。〔唐書、高元裕傳〕故事三司監院官、帶二御史一者、號二外臺一、得下察二風俗一擧中不法上。〔唐書、百官志三、注〕至德後、諸道使府參佐、皆以二御史一爲レ之、謂二之外臺一。㊃外にある臺。〔逸周書、王會解〕陳レ幣當二外臺一。㊄醫書の名。外臺祕要の略稱。外臺祕要を見よ。

【外臺祕要】390（グヮイダイヒエウ） 書名。四十卷。唐、王燾撰。醫術の書。外臺とは鄴郡に守であつた時の作であるからいふ。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【外題】391（ゲダイ） ㊀表紙に書いた書物の名。みだし。標題。〔伊勢大輔集〕經の外題。㊁語りもの、又は芝居等で演ずる藝の名。題目。㊂訴訟の申文等に其の裁許・指令・證明等を、端又は奧、又は裏に書いて與へたものをいふ。

【外套】392（グヮイタウ） ㊀淸代、上衣の上に著た盛服。㊁衣服の上に著るおほひ。防寒・防水又は塵よけ等として著る。

【外套膜】393（グヮイタウマク） 軟體動物の體壁一部の擴大して膜狀をなすもの。

【外盜】394（グヮイタウ） 外來の盜賊。〔左氏、襄、二十一〕武仲曰、子召二外盜一、而大禮レ焉。

【外黨】395（グヮイタウ） 婚姻の家。妻の一族。〔漢書、佞幸、石顯傳〕以下顯久典レ事、中人無二外黨一、精專可中信任上、遂委以レ政。〔注〕師古曰、少二骨肉之親一、無二婚姻之家一也。

【外堂】396（グヮイダウ） ㊀外部にある堂。〔漢書、王莽傳〕出自樹二立外堂上一。〔宋史、李覯傳〕太廟之外堂、子午卯酉四位。㊁［佛］禪院の僧堂に內外の兩堂あつて、その外面にある堂をいふ。暫到雲水などの座禪・喫飯する所。〔虛堂和尙語錄、淨慈錄、結夏小參〕致下於二南山內堂外堂一、排レ單下レ榻、個個如中生鐵橛上。

【外道】397（グヮイダウ） ㊀外側の道。〔宋書、律曆志中〕其月在二外道一、先交後會。〔隋書、張胄玄傳〕若月行二內道一、則在二黃道之北一、蝕多有レ驗、月行二外道一、在二黃道之南一也。㊁［佛］（ゲダウ）佛教外に道を立てるもの。邪法で、眞理の外なるもの。〔資持記、上一之一〕言二外道一者、不レ受二佛化一、別行二邪法一。〔天台淨名疏、一之本〕法外妄解、斯稱二外道一。〔三論玄義、上〕至妙虛通目レ之爲レ道、心遊二道外一、故

名二外道一。〔圓覺經集注、中〕心行二理外一、故名二外道一。〔通俗編、釋道、外道人〕淨住子、有レ名無レ德者、外道也、有レ德無レ名者、佛道也。❸wai^4 tao^4 ㋑遠慮する。㋺禮貌がある。❹ゲダウ ㋑人の心を害して邪道に陷らせる者。惡魔。㋺惡相に作つた假面。

【外宅】398 ❶別宅。〔墨子、迎敵祠〕徙二外宅諸名大祠一。〔史記、衡山王傳〕令レ居二外宅一。〔唐書、李愬傳〕黎明雪止、愬入駐二元濟外宅一、蔡吏驚曰、城陷矣。❷妾をいふ。外婦。〔水滸傳、二十二回〕有二個女兒一、喚做二婆惜一、典二與宋押司一做二外宅一。

〘外宅男〙399 武勇ある兵卒をいふ。〔稱謂錄、勇、外宅男〕甘澤圖曰、承嗣命二軍中武勇十倍者一得二三千人一、號二外宅男一。

【外度】400 外にはかること。〔國語、晉語三〕謀度而行、故無レ不レ濟二內謀外度一。

【外澤】401 外にある澤。〔司馬相如、子虛賦〕時從出遊、遊二於後園一、覽二於有無一、然猶未三能二徧觀一也、又焉足三以言二其外澤一乎。

【外丹】402 道家の金丹。金石を煉つて藥と爲したもの。內丹(**1－1418**··372)の對。金丹(**11－40152**··826)を見よ。〔呂巖、敲レ爻歌〕內丹成、外丹就、內外相接和諧偶。〔書言故事大全、神仙類〕道家以三烹二鼎金石一爲二外丹一。

【外地】403 ❶地方。都に對していふ。外宇。〔李商隱、爲二賀拔員外一上二李相公一啓〕不レ使三衰羸便辭二祿仕一、致二乎外地一、晞以二末光一。〔宋史、竇儼傳〕淫刑之興、近聞二數等一、蓋緣二外地不レ守二通規一、或以二長釘一貫二人手足一、或以二短刀一臠二人肌膚一。❷よその土地。他地。〔韋莊、思レ歸詩〕外地見レ花終寂寞、異鄉聞レ樂更淒涼。❸內地以外の領土。又、新附の領土。

【外池】404 姓氏。〔諸家姓氏元祖錄〕。

【外治】405 國のまつりごと。朝廷のおもむきの政治。外政。〔禮、昏義〕天子聽二外治一、后聽二內職一。〔公羊、成、十六〕曹伯歸レ自二京師一、執而歸者名、曹伯何以不レ名、而不レ言三復歸二于曹一何、易也、其易奈何、公子喜時、在レ內也、公子喜時者仁人也、內平二其國一而待レ之、外治二諸京師一而免レ之。

【外痔】406 病の名。痔瘡(**7－22167**··1)を見よ。〔醫學正傳、痔漏〕經曰、因而飽食、筋脉橫二解腹澼一爲レ痔、云云、其爲レ變見二名狀種種不レ同、曰牛奶、曰鼠奶、曰雞心、曰雞冠、曰蓮花、曰翻花、曰蜂窠、曰穿腸、曰外痔、雖二爲レ狀不レ一、而其因則同焉。

【外籀】407 wai^4 chou^4 論理學用語。演繹。籀は抽繹の意。演繹(**7－18130**··5)を見よ。

〘外籀法〙408 wai^4 chou^4 fa^3 論理學用語。演繹法。

【外暢】409 外にのびる。外にのばす。〔宋書、周續之傳〕江州刺史劉柳薦二之高祖一曰、伏惟明公道邁二振古一、應レ天繼レ期、遊二外暢於冥內一、體二遠形於應近一、雖三汾陽之擧、輟二駕於時艱一、明揚之旨、潛二感於穹谷一矣。〔南齊書、蕭諶傳〕鬱林昏悖、頗立二誠効一、寵靈優渥、期遇兼隆、內總二戎柄一、外暢二蕃威一、兄弟榮貴、震二灼朝野一。〔鐘會、蒲萄賦〕淸濁外暢、甘旨內遒、滋澤膏潤、入レ口散流。

【外聽】410 おもてざしき。〔青山佩弦齋、赤穗義士〕一則留二義央外聽一。

【外仗】411 御殿の外にあるまもり。〔宋史、輿服志六〕只請人自執在二外仗一、止二宿本庫一、依二漏刻一發二鑰匙一、付二外仗一驗。〔金史、儀衞志上〕立レ仗則有二殿庭內仗殿庭外仗一、凡大禮大朝會則用レ之。

【外場】412 ❶屋外の廣場。〔易林〕我有二黍稷一、委積二外場一。❷清代、武擧の試驗は外場と內場とに分ち、外場は弓馬刀石等の武技の試驗を爲し、內場は武經の試驗を行つた。〔淸會典、兵部〕外場考試官以二各省武擧武藝之傑出及合レ式者一籍二其數一。❸wai^4 ch'ang^3 ㋑表面。㋺外部の事柄。㋩商店・工場等の外交員。㋥劇の舞臺面。

【外廚】413 星の名。〔晉書、天文志上〕柳南六星曰二外廚一。

【外重】414 外部の強い力。又、外部が強くなること。〔唐書、陸贄傳〕方二世承平久一、文武備微、故祿山乘二外重之勢一、一擧而覆二兩京一、然猶諸牧有レ馬、州縣有レ糧、肅宗得二以中興一。〔元史、百官志七〕中統至元間、始分二立行中書省一、因レ事設レ官、官不二必備一、皆以二省官一出領二其事一、其丞相皆以二宰執一行二某處省事一繫銜、其後嫌二於外重一、改爲二某處行中書省一、凡錢糧兵甲屯種漕運軍國重事、無レ不レ領レ之。

〘外重者內拙〙415 外見を重んずるものは、心の中が立派でない。〔莊子、達生〕有レ所レ矜則重レ外也、凡外重者內拙。

【外女】416 王の姑姉妹のむすめ。〔周禮、春官、外宗〕凡外女之有レ爵者。〔注〕外女、王諸姑姉妹之女外宗、謂二之外宗一。

【外寵】417 氣にいりの臣。〔左氏、閔、二〕內寵竝レ后、外寵二レ政。〔晏子、諫、上〕外寵之臣。

【外鎭】418 ❶地方鎭撫の役所。地方の鎭臺。〔晉書、張華傳〕每伺二閒隙一、欲レ出二華外鎭一。〔宋書、自序傳〕此既內藩事殊、外鎭撫莅之宜無レ繫。❷外境を鎭撫する。〔班固、將軍汝陰侯夏嬰銘〕內康二王室一、外鎭二四方一。

【外塵】419 人の欲情。〔梁武帝、淨業賦〕過恆發二於外塵一、累必由二於前境一。

【外通】420 外へ通ずる。〔莊子、列禦寇〕知慧外通。〔管子、八觀〕郭周不レ可二以外通一。〔蕭子範、七誘〕收二苗山之挺一、採二耶谿之銅一、金英內曜、銀精外通。〔唐書、鄭絪傳〕絳曰、絪任二宰相一、識二名節一、不レ當下如二犬彘梟獍一、與二奸臣一外通上、恐吉甫勢軋內忌、造二爲醜辭一、以怒二陛下一、帝良久曰、幾誤レ我。

【外廷】421 ❶表むきの役所。外庭。〔司馬遷、報二任少卿一書〕陪二奉外庭末議一。〔王粲、迷迭賦〕去二原野之側陋一兮、植二高宇之外廷一。〔唐書、劉季述傳〕方寒、公主嬪御、無二衾纊一、哀聞二外廷一。〔宋史、職官志一〕符寶郎二人、掌二外廷符寶之事一、禁中別有二內符寶郎一、官制行未二嘗除一、大觀初八寶成、詔依二唐六典一增置、靖康罷レ之。❷外國の朝廷。〔晉書、慕容垂載記〕令三臣野二次外庭一。❸星の名。斗杓をいふ。〔唐書、天文志一〕斗杓謂二之外廷一、斗魁謂二之會府一、杓以治レ外、故鶉尾爲二南方負海之國一、魁以治レ內、故陬訾爲二中州四戰之國一。

【外弟】422 ❶いとこで、己より年少の者。一說、出母の子をいふ。〔左氏、成、十一〕聲伯以二其外弟一爲二大夫一。〔會箋〕此外弟外妹、是謂二出母之子女一、與三舅之子曰二外兄弟一不レ同、此卽漢人以二異父同母之子一爲二昆弟一、所レ爲二濫觴一也。〔蜀志、蔣琬傳〕弱冠與二外弟泉陵劉敏一俱知レ名。〔宋書、臧燾傳〕傅僧祐、祖父弘仁、高祖外弟也、以二中表一歷二顯官一。〔宋瑣語〕通家、親戚之稱也、外弟中表、通謂二姑舅兄弟一。❷同母異父の弟。外兄弟(171)の❷を見よ。

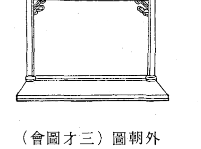
【外邸】423 ❶宮殿外のやしき。〔唐書、玄宗貞順后武氏傳〕妃生レ子必秀嶷、凡二王一主、皆不レ育、及レ生二壽王一、帝命二寧王一養二外邸一。〔宋史、呂誨傳〕著作佐郎章辟光上言、岐王顥宜三遷二居外邸一。❷王室の親戚。〔王僧孺、爲二南平王妃一拜二改封一表〕恩深二外邸一、榮照二下庭一、豈期三輶弱所二能勝レ荷。

【外亭】424 城外の宿舍。〔後漢書、吳漢傳〕寵以爲レ然、而官屬皆欲レ附二王郞一、寵不レ能レ奪、漢乃辭、出止二外亭一。

【外第】425 正式の宮殿外の第宅。〔南齊書、東昏侯紀〕忠勇齊奮、遄加二蕩撲一、放二斥昏凶一、衞二送外第一。〔五代史、劉鄩傳〕乃以二步兵五百一從二水竇一入、襲破レ之、徙二從周家屬外第一、親拜二其母一、撫レ之甚有二恩禮一。〔宋史、哲宗紀二〕元符元年三月丁巳、五王外第成。〔宋史、輿服志六〕初丞相趙汝愚、議下以二祕書省一爲中泰寧宮上、已而不レ果レ行、以二慈懿皇后外第一爲レ之、上皇不レ欲レ遷、因以二舊寧福殿一爲二壽康宮一。

【外兆】426 外部にある壇域。〔隋書、禮儀志二〕置二先蠶壇於桑壇東南大路東橫路之南一、壇高五尺、方二丈、四出、階廣五尺、外兆方四十步、面開二一門一。

【外朝】427 君主が國政を聽く所。表むきの宮廷。庫門の外にあつて最終の審判などを掌る。外廷。四朝(**3－4682**··595)の❶を見よ。〔書、召誥、厥既得レ卜、疏〕鄭云、外朝、一在二庫門之外、皐門之內一、是詢二衆庶一之朝。〔周禮、秋官、朝士〕掌下建二邦外朝一之法上。〔禮、文王世


外朝圖（三才圖會）

子〕公族朝二於內朝一、內親也、雖レ有二貴者一以レ齒明二父子一也、外朝以レ官體二異姓一也。〔禮、玉藻、朝服以日視二朝於內朝一、注、天子諸侯皆三朝、疏〕天子諸侯皆三朝者、云云、燕朝朝二路寢之庭一、是一也、云云、王日視二朝事於路門外一、是二也、云云、外朝在二庫門之外、皐門之內一、是三也、諸侯三朝者、云云、公侯朝二於內朝一、路寢朝、是一也、其在二外朝一、司士爲レ之、與レ此視二朝于內朝一、皆謂二路寢門外每日視一レ朝、是二也、云云、諸侯三門、是中門外大門內、又有二外朝一、是三朝也。〔列子、仲尼〕堯治二天下一五十年、不レ知二天下治歟、不レ治歟一、不レ知二億兆之願レ戴レ己歟、不レ願レ戴レ己歟一、顧問二左右一、左右不レ知、問二外朝一、外朝不レ知、問二在野一、在野不レ知、堯乃微服游二於康衢一。

【外調】428 グヮイテウ 四方を平げること。〔遼史、郭襲傳〕識二治體一、久淹二外調一。

【外敵】429 グヮイテキ 外から攻め來るあだ。外寇。外姦。〔戰國、燕策〕內寇不レ與、外敵不レ可レ拒、王自治二其外一、臣自報二其內一、此乃亡レ之之勢也。〔新書、憂民〕外敵必駭。

【外姪】430 グヮイテツ 姉妹の女。めひ。〔日本外史、德川氏正記、德川氏三〕皆故織田信長外姪也。

【外典】431 グヮイテン ㊀外をつかさどる。〔宋書、自序〕出仕以來、便管二軍要一、自レ非二戎軍所レ指、未二嘗外典一焉。〔南齊書、始安王子遙昌傳〕七王同惡、皆伏二管蔡之誅一、其餘列蕃二十餘國、內升二淸階一、外典二方牧一、哲婦之戒、古人所レ惑、然十亂盈レ朝、實唯文母。㊁ゲテン 佛書・道書に對して、儒家の書物をいふ。外書。內典(1－1418・424)の㊁の對。〔孔稚珪、答二竟陵王一啓〕尋二道家此教指一、設二機權一其猶三仲尼外典、極二惟天地一。〔陳書、傅縡傳〕若依二外典一、尋二書契之前一、至淳之世樸質、其心行二不言之教一、當二於此時一、民至二老死一不二相往來一、而各得二其所一、復有二何諍一乎。〔隋書、李士謙傳〕士謙善談二玄理一、嘗有二一客在レ坐、不レ信二佛家報應之義一、以爲外典無レ聞焉、士謙喩レ之曰、積善餘慶、積惡餘殃、高門待レ封、掃レ墓望レ喪、豈非二休咎之應一耶。〔宋祁、張晦之墓誌銘〕晦之常病丙浮圖氏怪迂誕荒、塔廟日熾、雖下服二儒衣冠一者上、皆慭置二六經一、反爲乙外典甲、故因レ事見レ文、爲二記傳數十篇一而辨二析之一。〔法華經、譬喩品〕未三曾念二外道典籍一。〔止觀輔行、四之三〕大論云、習二外典一者、如下以レ刀割レ泥、泥無レ所レ成、而刀日損上、又云、讀二外典一者、如下視二日光一令中人眼暗上。〔日知錄、內典〕夫內レ釋而外二吾儒一、此自緇流之語、豈得二士人亦云一レ爾乎。

【外篆】432 wai^{4} chuan^{4} 別の號。

【外轉】433 グヮイテン ㊀外にめぐる。〔趙良器、印賦〕文繚繞而外轉、字連綿而內逼。㊁清代、京城の官吏を外省の同等官に轉ずるをいふ。〔六部成語、吏部、外轉、注解〕京城之官、調二補外省之職一。〔淸會典事例、吏部、漢員升補、科道內升外轉〕乾隆元年諭、科道內外轉者、俟二得レ缺後一再離二原任一、其未レ得レ缺之先、仍食二原官之俸一、照レ舊辦レ事。

【外甸】434 グヮイデン 國都外の土地。〔南齊書、孔稚珪傳〕封冢殘魂、未レ屠二劍首一、長蛇餘喘、偸二窺外甸一。

【外傳】435 グヮイデン ㊀本傳以外の傳。內傳(1－1418・・428)の對。內外傳(1－1418・・113)を見よ。㋑韓詩の外傳。韓詩外傳。〔史記、儒林傳〕韓生推二詩之意一、而爲二內外傳數萬言一。〔漢書、藝文志〕韓詩內傳四卷、外傳六卷。㋺國語をいふ。春秋外傳の略。左傳を內傳といふの對。〔漢書、律歷志下〕春秋外傳曰、少昊氏衰、九黎亂レ德。〔論衡、案書〕國語、左氏之外傳也。〔韋昭、國語序〕以二其文不レ主二於經一、故號曰二外傳一。〔賈公彥、周禮正義序〕故外傳挈爲二高辛氏之火正一。〔宋史、藝文志〕左丘明春秋外傳國語二十一卷。㊂正史以外に別に記錄した傳記。漢武外傳・飛燕外傳の類。〔四庫提要、子、小說家類〕飛燕外傳一卷、舊本題二漢伶元撰一。

【外殿】436 グヮイデン おもて御殿。內寢(1－1418・・312)の對。〔宋書、樂志四〕便時舍二外殿一、宮省寂無レ人。〔李直方、邠州節度使院壁記〕王畿之脈、畫爲二巨防一、外殿朝レ郡作レ捍二西疆一、中二拱皇都一、以臨二諸夏一。

【外電】437 グヮイデン 外國からの電報。

【外都】438 グヮイト 國都以外で、帝王が嘗て居り、又、時々行幸する重要な都。〔魏書、文成帝紀〕太尉張黎、司徒古弼、以二議不レ合レ旨、黜爲二外都大官一。〔魏書、于栗磾傳〕爲二外都大官一、平レ刑折レ獄、甚有二聲稱一。

【外土】439 グヮイド 外國の土地。〔魏書、武帝紀贊〕克剪二方難一、遂啓二中原一、朝拱二人神一、顯登二皇極一、雖三冠履不レ暇、栖二遑外土一、而制二作經謨一、咸存二長世一。〔權德輿、和二韋曲莊言レ懷詩〕燕居平二外土一、野服參二華蟲一。

【外頭】440 グヮイトウ 屋外。邸の外。おもて。〔王建、宮詞〕未レ承二恩澤一一家愁、乍到二宮中一憶二外頭一。

〖外頭屋子〗441 wai^{4} tʻou wu^{1} tzŭ 表の部屋。

【外動】443 グヮイドウ 他動詞。外動字。〔中國文典、一、界說十五〕凡動字之行發而止レ外者曰二外動字一、省曰二外動一。

〖外動字〗444 グヮイドウジ 外動に同じ。

【外訥】445 グヮイトツ 外面の朴訥なこと。〔詩、大雅、思齊、不レ顯亦臨、疏〕人性不レ同、固容二多品一、或內敏而外訥、或貌儒而志強。〔柳宗元、答二周君巢一書〕君子之道、處焉則外愚而內益智、外訥而內益辯。

【外內】446 グヮイナイ ㊀そとうち。內外。〔易、繫辭下〕其出入以レ度、外內使レ知レ懼。〔注〕明二出入之度一、使三物知二外內之戒一也、出入猶二行藏一、外內猶二隱顯一、遯以レ遠レ時爲レ吉、豐以二幽隱一致レ凶、漸以二高顯一爲レ美、明夷以レ處レ味利貞、此外內之戒也。〔禮、內則〕禮始三于謹二夫婦一、爲二宮室一辨二外內一、男子居レ外、女子居レ內。〔左氏、僖、二十四〕晉侯賞二從レ亡者一、介之推不レ言レ祿、祿亦弗レ及、推曰、獻公之子九人、唯君在矣、惠懷無レ親、外內棄レ之、天未レ絕レ晉、必將レ有レ主、主二晉祀一者、非レ君而誰、天實置レ之、而二三子以爲二己力一、不二亦誣一乎。〔中庸〕合二外內一之道也。〔莊子、大宗師〕子桑戶死、未レ葬、孔子聞レ之、使二子貢往待レ事焉、孔子曰、彼遊二方之外一者也、而丘遊二方之內一者也、外內不二相及一、而丘使二女往弔レ之、丘則陋矣。〔史記、陳餘傳〕北有二長城之役一、南有二五嶺之戍一、外內騷動、百姓罷敝。㊁商子の篇名。

〖外內行〗447 グヮイナイカウ 外と內とによつて行爲に表裏あること。〔國語、楚語下〕夫事レ君者不レ爲二外內行一。

〖外內亂〗448 グヮイナイミダル 內と外とが亂れる。〔周禮、夏官、大司馬〕外內亂鳥獸行、則滅レ之。

〖外內寮〗449 グヮイナイレウ 內外の諸侯。寮は諸侯。〔穀梁、莊、十六〕不レ言二公外內寮一一疑レ之也。〔疏〕寮、謂二諸侯一也。

〖外內之官〗450 グヮイナイノクヮン 男女の官。〔禮、祭統〕夫祭也者、必夫婦親レ之、所三以備二外內之官一也。

〖外內倡和〗451 グヮイナイシャウワ 國の內外が相和する。〔左氏、昭、十二〕外內倡和爲レ忠、率レ事以レ信爲レ共。

【外難】452 グヮイナン 外から來るうれへ。外國の寇。外患。外艱。〔公羊、僖、元〕季子治二內難一以レ正、禦二外難一以レ正。〔管子、法法〕不レ免二於外難一。〔魏志、張楊傳〕當レ捍二外難一。〔嵆康、與二山巨源一絕交書〕不レ有二外難一、當レ有二內病一。

【外任】453 グヮイニン ㊀地方の官。〔魏志、王昶傳〕昶雖レ在二外任一、心存二朝廷一。〔五代史、郭崇韜傳〕懼求二外任一。〔宋史、孝宗紀一〕乾道元年六月乙酉、詔、恭王府直講王淮、傾邪不正、有レ違二禮經一、可レ與二外任一。㊁外政を委任する。〔魏書、呂羅漢傳〕高祖詔二羅漢一曰、朕總二攝萬機一、統二臨四海一、恩隆二古道一、光顯二風教一、故內委二羣司一、外任二牧正一、是志士建レ節之秋、忠臣立レ功之會。

〖外任官〗454 wai^{4} jen^{4} kuan^{1} 地方官。

【外寧】455 グヮイネイ 外のやすらかなこと。〔左氏、成、十六〕唯聖人能外內無レ患、自レ非二聖人一、外寧必有二內憂一。〔唐書、狄仁傑傳〕王者外寧、容レ有二內危一、陛下姑敕二邊兵一、謹二守備一、以レ逸待レ勞、則戰士力倍、以レ主禦レ客、則我得二其便一。

【外婆】456 グヮイバ 母方の祖母の俗稱。〔容齋四筆、待制知制誥〕慶曆七年、曾魯公公亮、自脩二起居注一、除二天章閣待制一、時陳恭公獨爲レ相、其弟婦王氏冀公孫女曾出也、當二月旦出拜一、恭公迎語レ之曰、六新婦曾、三傚二從官一、想甚喜、應レ聲對曰、三舅荷伯、提挈極二驩喜一、只是外婆不レ樂、恭公問レ故、曰、外婆見二三舅來謝一、責レ之曰、汝等五人及第當レ過二詞掖一、想是全廢レ學、故朝廷如レ此處レ汝、恭公默然自失、後竟改二知制誥一。

〖外婆的鞋子〗457 wai^{4} pʻo^{2} tê hsieh^{2} tzŭ 外祖母のくつ。舊式なことの喩。

【外方】458 グヮイハウ ㊀そとがは。外部。遠方。境の外。〔南史、王琨傳〕外方小郡、當レ乞二寒賤一。〔黃滔、喜侯舍人蜀中新命詩〕來時走レ馬隨二中使一、到

日援レ毫定二外方一。〔宋史、選擧志〕紹定二年、以下待補生自二外方一來參齋者、閒有中鬻帖僞冒之弊上、遂命二中選之人一、召二升朝保官一員一。㊁外がはが四角なこと。〔宋史、律歷志九〕望筩長五尺七寸、外方內圓中通、望孔其徑六分。㊂山名。今、河南省登封縣の嵩山。一說、陸渾山。〔書、禹貢〕熊耳外方桐柏。〔金履祥、注〕外方、舊說嵩山、非也、嵩高世名二中嶽一、安得三反謂二外方一、又與二江夏內方一相二爲內外一哉、按、今河南府伊陽縣伊闕鎭之西陸渾山、據二唐志一、一名二方山一、蓋古爲二外方一、春秋時秦晉遷二陸渾之戎一居レ此、因以二陸渾一名二其山一、其山固嵩高之聯峯、然謂爲二嵩高一則非爾。〔漢書、地理志上〕潁川郡、縣二十、云云、嵩高。〔注〕古文以爲二外方山一。

【外方內員】459 グワイハウナイヱン 外面は方直を示して內實は柔弱なこと。〔後漢書、郅惲傳〕案、延資性貪邪、外方內員、朋黨構レ姦、罔レ上害レ人、所在荒亂、怨讟並作、明府以レ惡爲レ善、股肱以レ直從レ曲、此既無レ君、又復無レ臣。〔注〕言、延外示二方直一、而內實柔弱也。

【外包】460 グワイハウ ㊀外部をつつむ。〔劉基、龍虎臺賦〕傑彼神臺、在二京之郊一、金城內阻、靈關外包。㊁うはづつみ。

【外邦】461 グワイハウ 外國(205)に同じ。〔淸國行政法汎論、中央官廳、備考〕朝廷亦欲三大除二積習一、參二酌外邦制度一、以圖二政治革新一。

【外放】462 wai⁴ fang⁴ 地方官に任命せられる。

【外報】463 グワイハウ ㊀外から知らせる。〔禮、禮器、古之聖人內之爲レ尊外之爲レ樂、疏〕古之聖人、內之爲レ尊者、解二內心一也、天不レ可二外報一、所下以內極二敬愼一而其理爲上レ尊也。㊁wai⁴ pao⁴ 外國の新聞紙。

【外坊】464 グワイバウ そとまち。內坊(1−1418・・446)の對。〔唐書、汴哀王璥傳〕府幕列二於外坊一、歲時通二名起居一。

【外防】465 グワイバウ 外に對する防禦。

【外望】466 グワイバウ 外を望む。〔左思、詠史詩〕外望無二寸祿一、內顧無二斗儲一。

【外貌】467 グワイバウ うはべの樣子。外にあらはれた容貌。みかけ。〔韓非子、喩老〕耳目竭二於聲色一、精神竭二于外貌一、故中無レ主。〔史記、樂書〕外貌斯須不レ莊不レ敬、而慢易之心入レ之矣。〔新語、術事〕惑二於外貌一。

【外泊】468 グワイハク 他所にとまる。そとどまり。

【外迫】469 グワイハク 外からせまられる。〔宋書、序傳〕時生業已盡、老弱甚多、東土饑荒、易レ子而食、外迫二國網一、內畏二彊讎一、沈二伏山草一、無レ所二投厝一。〔唐書、孟浩然傳〕今外迫二軍旅一、內勞二賓客一、牽二耗歲時一、或有レ未レ遑、誠令三好事者、乘而有レ之、負二公夙志一矣。

【外搏】470 グワイハク 外の人とうち合ふ。〔趙飛燕外傳〕今日垂得レ貴皆勝レ人、且無二外搏一、我姊弟其忍二內相搏一乎。〔宋史、劉拯等傳論〕復假以攻レ異レ己、鷹犬外搏、鬼蜮內狙、宜三小人得レ志而空二朝廷一也。

【外暴】471 wai⁴ pʻu⁴ 暴露する。ばれる。

【外發】472 グワイハツ 外へ發する。又、外部にあらはれる。〔魏志、劉劭傳〕明詔外發。〔宋書、謝靈運傳論〕夫志動二於中一則歌詠外發。

【外反】473 グワイハン 外に於てそむく。〔史記、高祖紀〕大臣內叛、諸侯外反、亡可二翹レ足而待一也。

【外班】474 グワイハン ㊀地方官。〔紅樓夢、二回〕已會二了進士一、選入二外班一。㊁wai⁴ pan¹ 稅關署內の分科の職名。

【外畔】475 グワイハン 外側のさかひ。〔詩、豳風、七月、九月築二場圃一、傳、春夏爲レ圃秋冬爲レ場、疏〕地官載師云、場圃在二園地一、注云、圃、樹二果蓏之屬一、季秋於レ中爲二場樊圃一、謂二之園一、然則園者外畔藩籬之名、其內之地、種二樹菜果一、則謂二之圃一、蹂二踐禾稼一、則謂二之場一、故春夏爲レ圃、秋冬爲レ場。

【外蕃】476 グワイハン 國外の蕃臣。外國。〔說苑、奉使〕屛二外蕃一以爲レ居。〔宋史、食貨志八〕賈人由二海道一往二外蕃一、令下以二物貨名數、幷所レ詣之地一、報中所在州召保上。

【外藩】477 グワイハン ㊀九卿。〔史記、天官書、注〕正義曰、其外藩、九卿也。㊁諸侯王。大名。〔魏志、陳矯傳〕若蒙二救援一、使レ爲二外藩一。〔晉書、禮志上〕哀帝以二外藩援一立。〔宋史、孝宗紀贊〕自レ古人君、起レ自二外藩一、入繼二大統一、而能盡二宮庭之孝一、未レ有レ若レ帝。㊂自國のおほひ。守となる屬邦。〔北史、魏哀翻傳〕卽是我之外藩也。㊃淸代、蒙古・西藏・青海をいふ。〔淸會典、理藩院〕凡外藩朝貢。㊄外樣大名。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕其餘盡爲二外藩一。

【外皮】478 グワイヒ ㊀外側を包む皮。㊁動物の體の表面。又、體內の諸器官の表面を蔽ふ細胞層の總稱。

【外誹】480 グワイヒ 他人のそしり。〔戰國、秦策〕故可三以存二其社稷一者、雖下有二外誹一者上不レ聽、雖レ有二高世之名一、無二咫尺之功一者不レ賞。

【外轡】481 グワイヒ 車につけた馬の外側のたづな。〔詩、鄘風、干旄、良馬五レ之、疏〕驂馬五轡者、御レ車之法、驂馬內轡、納二於觖一、唯執二其外轡一耳。〔詩、秦風、小戎、游環脅驅、箋〕游環在二背上一、無二常處一、貫二驂之外轡一、以禁二其出一。

【外美】482 グワイビ 外貌の美しいこと。〔南齊書、鬱林王紀論〕鬱林王、風華外美、衆所二同惑一、伏レ情隱レ詐、難二以レ兒求一。

【外評】483 グワイヒヤウ 官名。高麗、置く。〔隋書、高麗傳〕復有二內評外評五部褥薩一、人皆皮冠。

【外賓】484 グワイヒン 外國から來た賓客。〔元稹、何滿子詩〕古者諸侯饗二外賓一、鹿鳴三奏陳二圭瓚一。

【外父】485 グワイフ 妻の父。外舅。〔稱謂錄、妻之父、外父〕潛居錄、馮布贅二於孫氏一、其外父有二煩惱事一、輒曰、俾二布代レ之。〔釋親考〕妻之父爲二外舅一、妻之母爲二外姑一、丘氏曰、今稱二外父・外母一。

【外府】486 グワイフ ㊀周官の名。天官の屬。國帑の出入を掌る。〔周禮、天官、外府〕外府、掌二邦布之入出一、以共二百物一、而待二邦之用一。㊁國外にあるくら。〔左氏、僖、二〕若得二道於虞一、猶二外府一也。〔會箋〕以二璧馬一與レ虞、終必滅レ虞而取レ之、猶レ寄二之在レ外之府庫一、必無レ所レ失。〔新序、善謀上〕置二之外府一。㊂國の金穀財物を藏する庫。〔說苑、奉使〕君賜二之外府之裘一。〔宋書、武帝紀下〕財帛皆在二外府一、內無二私藏一。㊃地方の役場。又、首府以外の地方、州郡をいふ。〔王融、三月三日曲水詩序〕興レ廉擧レ孝、歲貢二於外府一。〔注〕翰曰、外府、州郡也。〔南史、王勱傳〕王生二才地一、豈可レ游二外府一乎。

【外附】487 グワイフ ㊀正道に背いて阿り諛ふ。〔後漢書、丁鴻傳〕臣愚以爲、左官外附之臣。〔注〕外附、謂下背二正法一而附中私家上。㊁外國からつき從ふ。〔漢書、王嘉傳〕外附之諸侯、操二持兩心一。㊂wai⁴ fu⁴ 外からあづかった。外から托せられた。

【外埠】488 wai⁴ fu⁴ ㊀他の地方。他の都市。㊁外國の港。

【外婦】489 グワイフ 妾をいふ。外宅。〔漢書、高五王傳〕齊悼惠王肥、其母高祖微時外婦也。〔唐書、吳通玄傳〕以二宗室女一爲二外婦一。

【外傅】490 グワイフ 外にあって敎へる人。學校敎師の類。〔禮、內則〕十年出就二外傅一、居二宿于外一。〔注〕外傅、敎レ學之師。〔魏書、禮志三〕童子時甫稚齡、未レ就二外傅一。

【外敷】491 グワイフ 外にしく。〔北史、齊帝紀論〕孝昭地逼身危、逆取順守、外敷二文敎一、內蘊二雄圖一。

【外覆】492 グワイフ 外側を覆ふ。〔王褒、四子講德論〕聖德隆盛、威靈外覆。

【外侮】493 グワイブ ㊀外から受けるあなどり。〔左氏、僖、二十三〕其懷二柔天下一也、猶懼レ有二外侮一、擇二禦レ侮一者、莫レ如レ親レ親。〔宋史、孔文仲傳〕虞夏商周之盛、未三嘗無二外侮一。㊁外國をあなどる。〔漢書、五行志上〕怨咎未レ復、而君臣俱惰、內怠二政事一、外侮二四鄰一。

【外部】494 グワイブ ㊀內務府以外の諸官。〔宋書、百官志上〕光祿勳居二禁中一如二御史一、有レ獄在二殿門外一、謂二之光祿外部一。㊁外務部。我が國の外務省の類。〔周禮政要、通譯〕擇二其學識閎通者一、卽俾レ爲二外部長官、及外國公使一。㊂そと。そとがは。外方。

【外廡】495 グワイブ 外びさし。外の廊下。〔唐書、溫造傳〕請三復朱衣豸冠示二外廡一。

【外撫】496 グワイブ 外國を慰撫する。〔北史、魏聖武帝紀論〕纂レ業固レ基、內和外撫。

【外服】497 グワイフク ㊀九服(**1**−**167**・・576)の㊀などの土地。〔書、酒誥〕越在二外服一侯甸男衞邦伯、越在二內服一百僚庶尹、惟亞、惟服、宗工。〔宋史、豐稷傳〕徽宗立、以二左諫議大夫召一道除二御史中丞一、入對、與二蔡京一遇レ京、越班揖曰、天子自二外服一召レ公、中執レ法、今日必有二高論一、稷正レ色答曰、行自知レ之、是

日論二京姦狀一。

【外物】498 グヮイブツ ❶己の心身以外の物。富貴・名利の類。〔莊子、外物〕外物不レ可レ必。〔荀子、脩身〕內省而外物輕矣。〔韓非子、解老〕凡人之爲二外物一動也、不レ知二其爲レ身之禮一也、衆人之爲レ禮也、以尊二他人一也。〔呂覽、必己〕外物不レ可レ必。〔沈約、遊二沈道士館一詩〕所レ累非二外物一。〔韓愈、送二高閑上人一序〕雖二外物至一、不レ膠二於心一。〔杜甫、寄二題江外草堂一詩〕古今達士志、寧受二外物牽一。〔韋應物、幽居詩〕獨無二外物牽一、遂二此幽居情一。❷物を外にする。物欲を絶ち切ること。〔莊子、大宗師〕夫卜梁倚、有二聖人之才一、無二聖人之道一、我有二聖人之道一、而无二聖人之才一、吾欲二以敎レ之、庶幾其果爲二聖人一乎、不レ然以二聖人之道一告二聖人之才一、亦易矣、吾猶守而告レ之參日、而後能外二天下一、已外二天下一矣、吾又守レ之七日、而後能外レ物、已外レ物矣、吾又守レ之九日、而後能外レ生、已外レ生矣、而後能朝徹、朝徹而後能見レ獨、見レ獨而後能無二古今一、無二古今一而後能入二於不死不生一。〔元稹、贈二毛仙翁一詩序〕峒山高臥、汾水凝レ神、縱レ心傲レ世、邈然外レ物、王侯不レ可レ得二師友一也。❸莊子の篇名。

【外聞】499 グヮイブン ❶外にあつて政治などに參與する。〔宋書、謝晦傳〕臣階緣二幸會一、蒙二武皇帝殊常之眷一、外聞二政事一、內謀二帷幄一、經二綸夷險一、毗二贊王業一、預二佐命之勳一、膺二河山之賞一。❷外に聞える。〔隋書、高麗傳〕意欲二不臧一、恐有二外聞一。〔唐書、張鎬傳〕時引二內浮屠數百一、居二禁中一、號二內道場一、諷唄外聞。❸世の評判。世間のきこえ。〔宋史、選擧志一〕惟懼三玷二缺外聞一。

【外丙】500 グヮイヘイ 殷の湯王の子。湯崩じ、太子太丁立たずして卒し、弟外丙立つ。卽位三年(或は二年)にして崩ず。〔孟子、萬章上〕・〔史記、三〕。

【外平】501 グヮイヘイ 他國との和睦。〔公羊、宣、十五〕宋人及二楚人一平、外平不レ書、此何以書、大三其平二乎己一也。

【外兵】502 グヮイヘイ ❶官名。魏、置く。五兵尙書の一。畿外の兵を掌る。晉、外兵を分つて左右とし、歷代、之に因る。北齊の時、左右外兵の二曹は畿外の丁帳及び諸兵を發召するを掌る。又、晉以來、節鎭の幕僚に外兵參軍を置いた。〔宋書、百官志上〕江左初、晉元帝鎭レ東、丞相府有二錄事・記室・東曹・西曹・度支・戶曹・法曹・全曹・倉曹・理曹・中兵・外兵・騎兵・典兵・兵曹・賊曹・運曹・禁防・典賓・鎧曹・田曹・士曹・騎士・車曹・參軍一。〔魏書、韋嵩遵傳〕嵩遵少有二氣俠一、起レ家奉二朝請一、歷二司空外兵參軍一。〔陶隱居內傳〕天監七年、以爲林巖淺近、復思二遠遊一、乃改二名氏一曰二王整一、官稱二外兵一、夜半出レ山。〔通典、職官、尙書、下、兵部尙書〕魏置二五兵尙書一、五兵、謂二中兵・外兵・騎兵・別兵・都兵一也、晉初無、太康中、乃有二五兵尙書一、而又分二中兵外兵一、各爲二左右一、宋五兵尙書、唯領二中兵外兵二曹一、餘則無矣、齊梁陳皆有レ之、後魏爲二七兵尙書一、北齊爲二五兵一、統二左中兵・右中兵・左外兵・右外兵・都兵五曹一。❷城外の兵。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕外兵應レ之、城卽陷。

【外兵省】503 グヮイヘイシャウ 官廳の名。北齊、置き、兵馬を分掌する。〔北齊書、唐邕傳〕齊朝因二高祖作レ相、丞相府・外兵曹・騎兵曹分掌二兵馬一、及二天保受レ禪、諸司監咸歸二尙書一、唯此二曹不レ廢、令二唐邕・白建主治一、謂二之外兵省一。

【外兵郞】504 グヮイヘイラウ 官名。魏、置く。二十三郞の一。晉の武帝の時、三十四曹を置き、左外兵郞・右外兵郞の二に分れ、東晉、十五曹の一に置き、宋、十九曹の一に置く。北齊、二十八曹あり、又、左外兵右外兵郞中に分る。外兵(502)の❶を見よ。〔晉書、職官志〕尙書郞、西漢舊置二四人一、以分二掌尙書一、至レ魏、尙書郞有二殿中・吏部・駕部・金部・虞曹・比部・南主客・祠部・度支・庫部・農部・水部・儀曹・三公・倉部・民曹・二千石・中兵・外兵・都兵・別兵・考功・定課、凡二十三郞一、青龍二年、尙書陳矯奏、置二都官・騎兵一、合凡二十五郞。〔宋書、范曄傳〕博涉二經史一、善爲二文章一、能二隸書一、曉二音律一、年十七、州辟二主簿一不レ就、高祖相國掾彭城王義康冠軍參軍、隨レ府轉二右軍參軍一、入補二尙書外兵郞一。〔梁書、任昉傳〕昉第四子東里、頗有二父風一、官至二尙書外兵郞一。〔通典、職官、尙書上、歷代郞官〕魏自二黃初一改二祕書一爲二中書一、置二通事郞一、掌二詔草一、而尙書郞有二二十三人一、有二殿中・吏部・駕部・金部・虞曹・比部・南主客・祠部・度支・庫部・農部・水部・儀曹・三公・倉部・民曹・二千石・中兵・外兵・都兵・別兵・考功・定課一、非二復漢時職任一、青龍二年、尙書令陳矯奏置二都官・騎兵一、合凡二十五郞、云云、晉尙書郞選極二清美一、號爲二大臣之副一、武帝時有二三十四曹一、加二魏直事・屯田・起部・左士・右士一、其民曹・中兵・外兵、分爲二左右主客一、又分爲二左右南北一、無二農部・定課・考功一、凡三十四曹、云云、東晉有二十五曹一、殿中・祠部・吏部・儀曹・三公・比部・金部・度支・都官・左民・騎部・倉部・庫部・中兵・外兵一、云云、宋高祖時、有二十九曹一、宋武帝初、加置二騎兵・主客・起部・水部四曹一、幷二東晉舊十五曹一、合爲二十九曹一、云云、北齊有二二十八曹一、吏部・考功・主爵・殿中・儀曹・三公・駕部・祠部・主客・虞曹・屯田・起部・左中兵・右中兵・左外兵・右外兵・都兵・都官・二千石・比部・膳部・度支・倉部・左民・右民・金部・庫部、其吏部三公各二人、餘並一人、凡三十郞中。

【外屛】505 グヮイヘイ ❶外にある塀。外扞。〔禮、郊特牲、臺門而旅樹、注〕言、此皆諸侯之禮也、旅、道也、屛、謂二之樹一、樹、所三以蔽二行道一、管氏樹塞レ門、塞、猶レ蔽也、禮天子外屛、諸侯內屛、大夫以レ簾、士以レ帷。〔荀子、大略〕天子外屛、諸侯內屛、禮也。〔淮南子、主術訓〕天子外屛、所二以自障一。〔注〕屛、樹垣也、門內之垣謂二之樹一、論語曰、邦君樹塞レ門、諸侯在レ內、天子在レ外、故曰所二以自障一也。❷星の名。〔隋書、天文志中〕奎南七星曰二外屛一。

【外閉】506 グヮイヘイ 外からとざす。〔禮、祭義〕築レ宮仞有三尺、棘牆而外二閉之一。

【外嬖】507 グヮイヘイ 君主の氣に入りの男。嬖臣。內嬖(1－1418··485)・內寵(1－1418··400)の❶の對。〔左氏、莊、二十八〕賂三外嬖梁五與二東關嬖五一。〔會箋〕外嬖與二內嬖一對、以二內外一別二男女一也、凡士大夫之得二寵幸一者、皆謂二之外嬖一。

【外表】508 グヮイヘウ ❶外の目じるし。〔墨子、雜守〕若有レ警、擧二外表一。❷外國。外境。〔南齊書、武帝紀論〕外表無レ塵、內朝多レ豫、機事平理、職貢有レ恆、府藏內充、民鮮二勞役一。❸おもて。表面。〔左氏、僖、五〕輔車相依、〔疏〕輔、爲二外表一、車、是內骨、故云二相依一。❹そとにあらはれる。〔宋書、禮志二〕陛下以二萬乘之尊一、履二布衣之禮一、服レ麤席レ藁、水飮蔬食、慇憂內盈、毀悴外表、而躬勤二萬機一、坐而待レ旦、降レ心接レ下、仄不レ遑レ食。❺そとにあらはして、模範とする。〔宋書、孝武帝紀〕詔曰、王畿內奉二京師一、外表二衆夏一、民殷務廣、宜レ思二簡惠一。

【外壁】509 グヮイヘキ 外側の壁。

【外篇】510 グヮイヘン 內容の精粗によつて書物を內外に分け、精にして、主として理論を說くを內篇とし、粗にして、主として事迹を說くを外篇とする。莊子の內外雜篇、晏子春秋の內外篇の類。內篇(1－1418··488)を見よ。〔成玄英、莊子序〕所レ言二內篇一者、內、以レ待レ外立レ名、篇、以二編簡一爲レ義、古者殺レ青爲レ簡、以レ韋爲レ編、編レ簡成レ篇、猶二今連レ紙成レ卷也、故元愷云、大事書二之於策一、小事簡牘而已、內、則談二於理本一、外、則語二其事迹一、事雖二彰著一、非レ理不レ通、理既幽微、非レ事莫レ顯、欲三先明二妙理一、故前標二內篇一、內篇理深、故每於二文外一、別立二篇目一、郭象仍於二題下一卽注二解之一、逍遙・齊物之類、是也、自二外篇一以去、則取二篇首二字一、爲二其題目一、駢拇・馬蹄之類、是也。

【外邊】511 グヮイヘン そとがは。外側。外廉。〔劉言史、贈二陳長史妓一詩〕春風不レ怕君王恨、引出幽花落二外邊一。〔元史、天文志一〕自二長竅外邊一至二衡首一。

【外變】512 グヮイヘン 外國から攻められる異變。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕中離分二二三一、外變迷二七八一。〔五代史、符習傳〕宜三分レ兵守レ城、以虞二外變一。

【外辨】513 グヮイベン 禁庭外の戒。又、其の官。〔晉書、禮志下〕漏未レ盡二五刻一、謁者僕射大鴻臚、各各奏二羣臣就レ位定一、漏盡、侍中奏二外辨一、皇帝出。〔唐書、肅宗紀〕立爲二皇太子一、有司行二冊禮一、其儀有二中嚴・外辨一、其服絳紗、太子曰、此天子禮也、乃下二公卿議一。〔元史、輿服志二〕外辨牌制以二象牙一、書二國字一、背書二漢字一、塡以レ金。

【外辨】514 グヮイベン ゲベン 昔、內辨の助役として節會（セチヱ）の時、承明門外で諸事を準備する官。〔江家次第、一、元日節會〕外辨親王公卿。

【外圃】515 グヮイホ 邸外の別園。〔左氏、哀、十五〕閏月

良夫與大子入舍於孔氏之外圃。〔注〕圃、園。

【外堡】516 グヮイホ 國境外のとりで。外壘。〔宋史、理宗紀五〕景定二年冬十月癸巳、呂文德言、已復瀘州外堡、擬卽對江壘石爲城、以示持久之計、從之。

【外補】517 グヮイホ ❶地方官に補任せられること。〔後漢書、安帝紀〕公府通調令得外補。〔蘇軾、杭州召還乞郡狀〕連三任外補。〔宋史、職官志一〕外補則爲州、內選則爲寺監丞簿。❷清代、吏部の銓衡によらず、督撫から任官せられることをいふ。〔清國行政法汎論、文官任命形式、題調〕凡吏部銓選曰內選、督撫題調曰外補、蓋地方諸般行政事務、皆歸督撫處理裁斷、故所部官吏之任用、亦以歸督撫爲便、是所以內選之外、別設外補之制也。

【外輔】518 グヮイホ 宰相などのやうに政治を表向きに助ける人。〔魏志、文德郭皇后傳〕在昔帝王之治天下、不惟外輔、亦有內助。

【外母】519 グヮイボ 妻の母。外姑。〔釋親考〕妻之父爲外舅、妻之母爲外姑、丘氏曰、今稱外父・外母。〔剪燈餘話、瓊奴傳〕酷與茗外母相類。

【外媽】520 wai^4 ma^1 母の母。外祖母。ばば。姥姥。

【外慕】521 グヮイボ 外のことを慕ふ。又、心を內省に用ひぬこと。〔宋書、雷次宗傳〕一時師友淵源、務訓弘道、外慕等夷、內懷悱發。〔韓愈、送高閑上人序〕堯舜禹湯治天下、養叔治射、庖丁治牛、師曠治音聲、扁鵲治病、僚之於丸、秋之於奕、伯倫之於酒、樂之終身不厭、奚暇外慕。〔牟融、寫意詩〕獨喜冥心無外慕、自憐知命不求榮。

【外謨】522 グヮイボ 外部にはかる。〔宋書、樂志四〕文皇愍斯民、歷世受罪辜、外謨蕃屛臣、內謀衆士夫。

【外牧】523 グヮイボク ❶地方官。〔魏書、官氏志〕延興四年二月、置外牧官。〔魏書、高閭傳〕凶儉之年、民輕違犯、可緩其使役、急其禁令、宜於未然之前、申整外牧。〔馬懷素、餞唐州高使君赴任詩〕外牧資賢守、斯人奉帝俞。❸天子の都外にある牧場。〔郁離子〕郁離子之馬、孳得駃騠焉、人曰、是千里馬也、必致諸內廏、郁離子悅從之、至京師、天子使大僕閱方貢、曰、馬則良矣、然非冀產也、寘之於外牧。

【外睦】524 グヮイボク 表面は仲よくする。〔唐書、張延賞傳〕晟曰、吾武夫雖有舊惡、盃酒閒可解、儒者難犯、外睦而內含怒、今不許婚、釁未忘也。

【外僕】525 グヮイボク 外に居る下僕。〔左氏、昭、十三〕子產命外僕、速張於除。

【外法】526 ゲホフ ❶［佛］佛法以外の法。荼吉尼（Ḍākinī 夜叉鬼の一類）の法・阿尾捨（Āveśa 我が國の託人（ヲリマシ）の法のごときもの）の法の類。❷㋑眞理に背いた修法。天狗から受けて行ふ一種の妖術。〔平家物語、一、鹿谷〕外法行ひける聖。㋺ソトノリ 中空なる物の緣の外側から、反對の緣の外側までの寸法。外徑。

〖外法遣〗527 ゲホフツカヒ 妖術をつかひ、怪しいことをする人。

〖外法頭〗528 ゲホフガシラ 人の髑髏で行ふ妖術。〔見聞集、八〕色色の術治ありて、げほふがしら・うしろ佛など。

【外奔】529 グヮイホン 外國へ逃れ走る。〔宋書、薛安都傳論〕安都勤王之略、義闕於藩屛、以地外奔、罪同於三叛。〔魏書、武帝紀〕天賜六年秋七月、慕容支屬百餘家、謀欲外奔、發覺伏誅、死者三百餘人。

【外妹】530 グヮイマイ 同母異父の妹。〔左氏、成、十一〕嫁其外妹於施孝叔。〔會箋〕此外弟・外妹、是謂出母之子女、與舅之子曰外兄弟不同、此卽漢人以異父同母之子爲昆弟、所爲濫觴也。

【外昧】531 グヮイマイ 外のことにくらい。〔白虎通、五行〕天子所以內明而外昧、人所以外明而內昧、何、明天人欲相嚮而治也。

【外膜】532 グヮイマク 心臟壁・血管壁等の外層の膜。

【外脈】533 グヮイミャク 中樞の骨に對して、脈をいふ。〔劉禹錫、夔州始興寺移鐵像記〕中樞外脈、陰轉陽動。

【外務】534 グヮイム ❶世の中に對する務。〔常袞、授李廙太子左庶子制〕混冥元和、屛絕外務。❷己が當然なすべきこと以外のこと。つまらないこと。俗世間の事。〔雲笈七籤〕心不專一、遊情外務。❸外交に關する事務。外交。❹wai^4 wu^4 賭博・廓通ひなどの道樂。

〖外務卿〗535 グヮイムキャウ 明治十八年官制改革以前の外務大臣の稱。

〖外務省〗536 グヮイムシャウ 內閣各省の一。外務大臣の統轄の下に其の所管事務を處理する中央官廳。其の長官を外務大臣といふ。〔周禮政要、通譯〕宜放西制、立外部、以總其成、卽日本之外務省也。

〖外務部〗537 グヮイムブ 官廳の名。清の光緒二十七年、李鴻章の奏請により、總理各國事務衙門を廢して外務部と改む。其の組織は、もと總理事務大臣一人・會辦大臣二人、左右侍郎各〻一人を置き、光緒三十二年の改革後、尙書一人・侍郎二人を置き、左右丞各〻一人・左右參議各〻一人をして部務を總辦せしむ。部務は和會・考工・搉算・庶務の四司に分れ、各司は郎中二人・員外郎二人・主事二人を置き、額外行走を置き、他に司務廳あり、司務二人を置き、露・獨・英・佛・日本の五處を設け、毎處に繙譯官二人を置く。尋いで光緒三十二年の改革により、礦務・鐵路・電信の事は郵電部、水師・海防の事は陸軍部に移管せられ、外交事務・洋關の管轄を主とするに至る。〔清史稿、職官志〕外務部、外務大臣副大臣各一人、承政廳左右丞參議廳左右參議各一人、參事四人、其屬司務廳司務二人、和會考工榷算庶務四司郎中員外郎主事各二人。〔清國行政法汎論、新設部、外務部〕光緒二十七年六月、改總理各國事務衙門、爲外務部。

〖外務行政〗538 グヮイムギャウセイ 外國に關係する一切の行政。

〖外務大臣〗539 グヮイムダイジン 外務省の長官。外相。

【外名】540 グヮイメイ 表面の名分を立てる。かこつける。〔魏書、李沖傳〕高祖初謀南遷、恐衆心戀舊、乃示爲大擧、因以脅定羣情、外名南伐、其實遷也。

【外命】541 グヮイメイ 財物をいふ。佛家では、財物は外部から與へられる故にいふ。〔南史、徐勉傳〕嘗爲書、戒其子崧曰、釋氏之教、以財物謂之外命、外典亦稱、何以聚人曰財、況汝常情、安得忘此。

〖外命婦〗542 グヮイメイフ ❶卿大夫の妻。〔周禮、天官、閽人〕凡外內命夫命婦。〔疏〕外命婦、摠外內命夫之妻。〔禮、喪大記〕於外命婦、旣加蓋而君至。〔資治通鑑、陳紀〕（宣帝太建十一年）集百官及宮人外命婦。〔注〕外命婦、五命以上官之妻也。❷グヮイミャウブ・ゲミャウブ 五位以上の官人の妻。時々、參內する。〔彈正臺式〕外命婦准夫從數。

【外盟】543 グヮイメイ 他國の同盟。魯を主とする春秋に於て、魯の與らない外國の同盟をいふ。〔穀梁、隱、八〕秋七月庚午、宋公齊侯衞侯盟于瓦屋、外盟不日、此其日、何也、諸侯之參盟、於是始、故謹而日之也。

【外面】544 グヮイメン ❶そとがは。外側。〔雲笈七籤〕造劍尸解法、欲知劍之左右內外、以劍正指南、使劍背在上、劍刃在下也、於是乃以東面爲右、西面爲左、東爲內面、西爲外面。❷うはべ。表面。❸wai^4 mien^4 嫁入りの荷に外面兒・內囊兒の別がある。外面兒は木器・磁器・銅器・金銀器、其の他桌子の上にならべた飾物等を總稱し、內囊兒とは箱・簞笥・長持等の中に入れた衣類・頭飾等の類をいふ。

〖外面架子〗545 wai^4 mien^4 chia^4 tzŭ うはべを飾る人。見かけ倒し。

〖外面假裝〗546 wai^4 mien^4 chia^3 chuang^1 うはべをつくろふ。

〖外面皮兒〗547 wai^4 mien^4 pʻi^2 erh うはべ。表面。

〖外面似菩薩〗548 ゲメンジボサツ ［佛］女は、其の容貌が柔和で菩薩のやうだが、他人をして愛執の念を起させ、種々の罪業をなさしめることは夜叉に似てゐる。轉じて、外面がやさしくて內心の邪險な喩。〔唯識論〕女人地獄使、永斷佛種子、外面似菩薩、內心如夜叉。〔華嚴經〕所有三千界男子、諸煩惱合集爲一人女人之業障、女人地獄使、能斷佛種子、外面似菩薩、內心如夜叉。

【外蒙】549 グヮイモウ 外蒙古の略。

〖外蒙古〗550 グヮイモウコ 地名。內蒙古の北。東は滿洲黑龍江省、南は弋壁（ゴビ）沙漠を隔てて察哈爾省・綏遠省、及び寧夏省、西は新疆省、北は露領西伯利亞と界す。秦漢の匈奴の地。晉以後は蠕蠕

に入つたが、蠕蠕の滅後、突厥・薛延陀・回紇等興り、唐の貞觀四年、唐に屬した。五代から宋に至り、回紇の勢が衰へ、室韋・嫗厥律諸部と共に遼・金に屬し、元の太祖の興るに及んで、都を此處に定め、和林と名づけ、世祖の時改めて都元帥府を置く。大德十一年、行中書省を置き、皇慶元年、和林路を和寧路と改む。明初、順帝の子阿裕實哩達喇、之に據り、後、喀爾喀といひ、衆を分つて三汗に分屬させ、土謝圖・車臣・札薩克圖といふ。清代、噶爾丹に逐はれたが、噶爾丹の滅後、始めて故地に歸る。又、雍正中、三音諾顏といふもの、征に從つて大札薩克を授けられ、土謝圖三汗と合して四部とし、共に八十六旗を領し、之を以て四盟を組織した。その四部四盟とは三音諾顏部、卽ち齊齊爾里克盟、土謝圖汗部は汗阿林盟、車臣汗部は喀魯倫巴爾和屯盟、札薩克圖汗部は札克必拉色欽畢都里雅諾爾盟である。盟に長、旗に札薩克を置き、又、定邊左副將軍及び參贊大臣を烏里雅蘇台に駐めて節制す。民國の初、外蒙の自治を許し、將軍參贊を改めて都護使とし辦事大員を兼ね、庫倫に移駐した。又、科布多・唐努烏梁海の一部を析つて阿爾泰區域とし、尋いで改めて阿山道として、新疆省に屬し、其の餘の一部は烏里雅蘇台・科布多二佐理員に分屬した。八年、自治を取消し、民國政府に隷屬し、又、九年、外蒙古は第二次の獨立を宣言し、民國と露國との協定で中國の完全領土となる。地勢は阿爾泰山脈、西北に走り、分れて薩彥嶺・唐努山・杭愛山・大阿爾泰山等の脈となり、合して肯特山と爲り、又、分れて兩支となり、內外興安嶺に屬し、東半は草原と細流とが多く、西部は草樹少く、瀚海といひ、又、大磧といふ。四月の閒に狂飆屢〻起り、砂礫飛揚するのを流沙といふ。氣候は純大陸性で、晝夜の差五十度に至り、冬は嚴寒、夏は酷暑、四月は草青く、八月は雪降り、地瘠せて、農業に適しないので、諸部落游牧を以て本業とし、水草を逐うて移る。喇嘛教が行はれてゐる。〔清史稿、地理志〕外蒙古、外蒙古喀爾喀古北狄地、清崇德三年遣レ使朝貢、康熙二十八年厄魯特噶爾丹興レ兵、攻破二喀爾喀七旗一、擧族款塞內附、安二置喀倫邊內一、噶爾丹遂幷二其地一、三十五年聖祖親征、噶爾丹竄二死朔漠一、平二喀爾喀諸部一、復還二舊牧一、爲二部三一、一曰土謝圖汗、一曰車臣汗、一曰札薩克圖汗、又善巴自爲二一部一、曰二賽音諾顏一、共部四、爲二旗八十有六一。〔清國行政法汎論、藩部、外蒙古之行政區劃〕外蒙古之種族、有二喀爾喀 Khalkha 及杜爾伯特 Turbet 杜爾扈特 Turgut 和碩特 Khoshoit 一部一、此等種族、皆各有二若干盟一、各盟亦分爲二部旗一、與二內蒙古一同。

【外門】551（グワイモン）　外にある門。外側に在る門。〔儀禮、士冠禮〕立二于外門之外一。〔史記、萬石君傳〕內史慶醉歸入二外門一、不レ下レ車。〔後漢書、西南夷傳論〕夷歌巴舞、殊音異節之技、列二倡於外門一。

【外野】552（グワイヤ）　㊀ひろい野原。〔左氏、昭、二十五〕公在二外野一、往饋二之馬一。〔易林〕清人高子、久屯二外野一、逍遙不レ歸、思二我茲母一。〔王儉、暢連珠〕魏人指二玉於外野一、和氏泣二血于荊山一。〔阮籍、詠懷詩〕孤鴻號二外野一、翔鳥鳴二北林一。〔南史、徐勉傳〕漢氏鬱興、日不二暇給一、猶命二叔孫於外野一、方知二帝王之爲レ貴。㊁野球場で內野の後方、一壘・三壘兩側のファールラインに圍まれた一帶の地域。out field の譯。又、外野手の略稱。

〖外野手〗553（グワイヤシユ）　外野を守備する右翼手・中堅手・左翼手の總稱。又、單に外野ともいふ。out fielder の譯。

【外洋】554（グワイヤウ）　㊀そとうみ。外海。內海(**1―1418**・・35)の㊀の對。〔海防纂要〕在二外洋一。㊁外國の貨幣。〔周禮政要、金布〕近年廣東湖北福建及南北洋、始鑄二銀圓一而成レ數、總不レ敵二外洋之多一。㊂wai^4 yang^2 海外。外國。

【外揚】555（グワイヤウ）　外にあげる。外にあらはす。外にふるふ。〔傅毅、舞賦〕嚴顏和而怡懌兮、幽情形而外揚。〔盧思道、勞生論〕風力上宰、內敷二文教一、方召二重臣一、外揚二武節一。〔仲子陵、幽蘭賦〕貞正內積、芬華外揚。

【外樣】556（トザマ）　㊀武家で臣の禮をとつてゐて譜代でないもの。〔太平記、五、相模入道弄二田樂一事〕一族大名、御內外樣の人々。㊁外樣大名の略。㊂おもてむきの場所。公廷。役所。〔傾城反魂香〕お前を外樣につくばはせては。

〖外樣大名〗557（トザマダイミヤウ）　外樣の關係にある大名。御客大名。〔太平記、二十四、天龍寺供養事〕外樣の大名五百餘騎。

【外輸】558（グワイユ）　貨物を外國へ輸出し、又は外國から輸入すること。又、其の物。外國から輸入した物品。

【外融】559（グワイユウ）　外に在つて融和する。〔王儉、侍三太子九日宴二玄圃一詩〕微言外融、幾神內王。〔白居易、負二冬日一詩〕外融二百骸暢一、中適二一念無一。

【外用】560（グワイヨウ）　外部に用ひる。〔商子、農戰〕一則可下以二賞罰一進上也、一則可二以外用一也。

〖外用藥〗561（グワイヨウヤク）　軟膏・膏藥などの如く、皮膚につけ用ひる藥。

【外容】562（グワイヨウ）　うはべのかたち。

【外庸】563（グワイヨウ）　府州を治める功績。〔韓愈、沂國公先廟碑銘〕訖二其外庸一、可レ作二承輔一。

【外饔】564（グワイヨウ）　周官の名。天官の屬。天地・四望・山川・社稷五祀・外神等の外、祭祀に於ける割烹のことを掌る。〔周禮、天官、外饔〕掌二外祭祀之割亨一。

【外欲】565（グワイヨク）　外部に對する欲情。外慾。〔呂覽、君守〕中欲不レ出謂二之扃一、外欲不レ入謂二之閉一。

【外慾】566（グワイヨク）　外欲に同じ。〔何遜、七召〕心絕二內戰一、事無二外慾一、橫經者比レ肩、擁帚者繼レ足。

【外翼】567（グワイヨク）　戰陣の左右兩翼。〔宋書、張暢傳〕參軍沈慶之建議、欲下以二車營一爲二函箱一、陳二精兵一爲二外翼一、奉二二王及妃媛一、直趨中歷城上。

【外邏】568（グワイラ）　外部を巡察すること。又、其の人。〔北史、魏臨淮王傳〕今北鎭諸將舊常云、一人代外邏。

【外來】569（グワイライ）　㊀そとから來る。わきからくる。〔易、无妄〕无妄、剛自レ外來而爲レ主二於內一、動而健、剛中而應、大亨以正、正之命也。〔史記、孟嘗君傳〕蘇代謂曰、今旦代從レ外來、見下木偶人與二土偶人一相與語上。〔後漢書、曹騰傳〕書自レ外來。㊁醫家用語。患者が外から診察又は治療を受けに來ること。往診(**4―10073**・・75)の對。

〖外來語〗570（グワイライゴ）　外國語から轉じて國語となつた言葉。

〖外來患者〗571（グワイライクワンジヤ）　病院に於て、入院患者以外に外から治療を受けに來る病者。

〖外來思想〗572（グワイライシサウ）　外國からはひつて來る思想。

【外郎】573（グワイラウ）　㊀官名。漢の中郎に議郎・中郎・侍郎・郎中があり、其の散郎を外郎といふ。散郎とは員外郎ともいひ、正員外の者をいふ。〔漢書、惠帝紀〕謁者執レ楯執レ戟、武士騶二比外郎一。〔權德輿、送三韋行軍員外赴二河陽一詩〕五年武辨侍二明光一、輟佐中權拜二外郎一。〔羊士諤、都城從事蕭員外寄二海梨花詩一詩〕珠履行臺擁二附蟬一、外郎高步似二神仙一。〔張籍、寄二元員外一詩〕外郎直罷無二餘事一、掃二灑書堂一試二藥爐一。〔通典、職官、武官下、三署郎官敍〕漢中郎將分二掌三署郎一、有二議郎・中郎・侍郎・郎中凡四等一、皆秦官、無レ員、多至二千人一、皆掌三門戶出二充車騎一、其散郎、謂二之外郎一。〔日知錄、雜論、外郎〕今人以二吏員一爲二外郎一。㊁下級の官吏。〔燕子箋、購倖〕閒來過訪二外郎門一。㊂（ウイラウ）　外郎藥・外郎餠の略。ウイは唐音。〔東海道名所記〕小田原、云云、名物、云云、外郎。

〖外郎豆〗574（ウイラウマメ）　外郎藥のやうに、痰を癒すに效用ある豆。痰切豆ともいふ。

〖外郎派〗575（ウイラウハ）　蹴鞠の一派。京都西洞院の外郎二位杏林に創まる。

〖外郎賣〗576（ウイラウウリ）　㊀外郎藥を賣る人。㊁市川家の歌舞伎十八番の一。二代目團十郎が若綠勢曾我の狂言に、外郎賣に扮して大いに喝采を得てから家の藝となつた。

〖外郎餠〗577（ウイラウモチ）　米の粉を黃に染め、砂糖を加へて蒸し、四角に切つた菓子。形も色も外郎藥に似てゐるからいふ。周防國山口の名產。

〖外郎藥〗578（ウイラウグスリ）　相摸國小田原から出す賣藥。德川時代には行商によつて諸國に弘まつた東海道名物の一。痰を治すに效があつた。又、頭髮の臭氣を去るにも用ひられたから、一名を透頂香（トウチンカウ）ともいふ。元の亡臣で禮部員外郎の官にあつた陳宗敬が、應安年中、我が國に歸化して傳へたのでこの名があるといはれる。うゐらう。

〖外郎透頂香〗579 ウイラウトウチンカウ 外郎藥に同じ。

【外朗】580 グワイラウ 容貌態度などの明朗なこと。〔魏志、荀彧傳、注〕或問二許子將一、靖與レ爽孰賢、子將曰、二人皆玉也、慈明外朗、叔慈內潤。〔曹植、洛神賦〕丹脣外朗、皓齒內鮮。〔注〕善曰、神女賦曰、眸子烱其精朗。〔南齊書、衡陽元王道度傳〕宣帝問二二兒學業次一、宗答曰、其兄外朗、其弟內潤、皆良璞也。

【外吏】581 グワイリ ㊀地方官をいふ。〔漢書、翟方進傳〕外吏白都尉方至、立語言自若。〔六部成語、吏部、外吏、注解〕外省州縣又稱二外吏一。㊁外側にゐる役人。〔後漢書、彭寵傳〕蒼頭子密等三人、因二寵臥寐一、共縛著レ牀、告二外吏一云、大王齋禁、皆使二吏休一。㊂ゲリ 昔、外任の官吏をいふ。國司などの稱。〔後撰和歌集、雜、一〕外吏にしばしば罷り歩きて。

【外利】582 グワイリ ㊀外からの利益。〔後漢書、龐參傳〕參奏二記於鄧隲一曰、善爲レ國者、務懷二其內一、不レ求二外利一、務富二其民一、不レ貪二廣土一。㊁外側がよく切れる。〔急就篇、矛鋋鑲盾刃刀鉤、注〕鑲者亦刀劍之類、其刃刼偃而外利、所二以推攘而害一レ人也。

【外里】583 グワイリ 城外にある村里。〔左氏、哀、二十五〕五日乃館二諸外里一。〔注〕外里、公所レ在。

【外理】584 グワイリ 他の理窟。〔詩、周南、關雎詁訓傳、疏〕名レ篇之例、義無二定準一、多不レ過レ五、云云、亦有下捨二其篇首一、撮二章中之一言一、或復都遺二見文一、假二外理一以定上レ稱。〔李益、述懷寄二衡州令狐相公一詩〕道以中二樞密一、心將二外理一同。

【外率】585 グワイリツ 一つの比例に於て、其の兩端に立つ二つの量。外項。

【外略】586 グワイリヤク 外國を征伐する。外國攻略。〔宋書、索虜傳論〕太祖懲レ禍未レ深、復興二外略一、頓二兵堅城一、棄二甲河上一、是我有二再敗一、敵有二三勝一也。

【外虜】587 グワイリヨ 國境外にあるえびす。〔後漢書、伏湛傳〕備二邊塞地一、接二外虜一。

【外慮】588 グワイリヨ 他へのおもんぱかり。他の心配。又、外敵の心配。〔魏書、源賀傳〕遣レ賀率二精騎一歷二諸部一、招慰下二三萬餘落一、獲二雜畜十餘萬頭一、及レ圍二姑臧一、由レ是無二外慮一。〔清晝、春日會二韓武康章後亭一聯句〕外慮宜二簾卷一、忘レ情與レ道空。

【外閭】589 グワイリヨ 里門の戶。〔干寶、晉紀總論〕行旅草舍、外閭不レ閉。

【外力】590 グワイリヨク ㊀外部からの力。〔庾信、哀江南賦〕雖レ借二人之外力一、實蕭牆之內起。㊁wai⁴ li⁴ 運賃先方持ち。運賃先拂ひ。

【外林】591 グワイリン 郊外の林。〔張協、七命〕屯二羽隊于外林一、縱二輕翼于中荒一。

【外輪】592 グワイリン そとわ。外側の輪。

〖外輪山〗593 グワイリンザン 噴火口內から更に新に火山が噴出した時、舊時の噴火口壁をいふ。

【外累】594 グワイルイ 身外諸物のわづらひ。〔新論、清神〕垢滅則內慾永盡、神清則外累不レ入。

【外壘】595 グワイルイ 國境外のとりで。外堡。〔劉基、龍虎臺賦〕此所下以通二光道於上都一、揭中神京之外壘上。〔鮑君徽、奉三和麟德殿宴二百僚一應制詩〕戈鋋清二外壘一、文物盛二中朝一。

【外令】596 グワイレイ 外國への命令。〔周禮、春官、外史〕掌レ書二外令一。〔注〕謂下王命頒二于外國一者上。

【外隸】597 グワイレイ 外朝の臣僕。〔說苑、臣術〕晏子曰、君之內隸、臣之父兄、若有下離散在二於野鄙一者上、此臣之罪也、君之外隸、臣之所レ職、若有下播亡在二四方一者上、此臣之罪也。

【外療】598 グワイレウ 外部の療治。

【外廉】599 グワイレン 外邊。〔墨子、旗幟〕寇傳二攻前池外廉一。〔閒詁〕廉、邊也。

【外臁】600 グワイレン 脛。向ふずね。〔外科正宗、臁瘡〕外臁多服二四生丸一、內臁多服二腎氣丸一妙。

【外簾】601 グワイレン 清代、鄕試・會試・殿試の試驗場外部の監視をする役人。簾官(**8－26616・・9**)を見よ。〔清會典、禮部〕凡出二榜鄕會試一、由二考官一諏レ日、豫行知二貢擧監臨一、屆レ期內簾啓門及外簾各官、會二於一堂一、出二中式一。

【外路】602 グワイロ ㊀城外のみち。〔宋史、河渠志二一〕詔二三省樞密院一、去冬愆雪、今未レ得レ雨、外路旱暵闊遠、宜三權罷二修河一。㊁當路者以外の者。局外者。〔金史、世宗紀上〕大定十一年八月癸卯朔、太白晝見、詔二朝臣一曰、朕嘗諭二汝等一、國家利便、治體遺闕、皆可二直言一、外路官民、亦嘗言レ事、汝等終無二一語一、凡政事所レ行、豈能皆當、自レ今直二言得失一、毋レ有レ所レ隱。㊂官名。金、置く。〔金史、世宗紀下〕大定二十八年三月戊申、命二隨朝六品、外路五品以上職事官一擧二進士一、已在二仕才一、可レ居二翰苑一者、試二制詔等文字三道一、取二文理優贍者一、補二充學士院職任一。〔金史、選擧志四〕隨朝七品外路六品以上職事官。㊃wai⁴ lu⁴ 外路的を見よ。

〖外路的〗603 wai⁴ lu⁴ tê ㊀外部の。㊁外省の。地方の。㊂職業を異にして居る人。㊃不正な。

【外露】604 グワイロ そとにあらはれる。〔風俗通、十反〕誠心內發、哀情外露。

【外樓】605 グワイロウ 外にある樓殿。〔唐書、讓皇帝憲傳〕帝時時登レ之、聞二諸王作一レ樂、必亟召二外樓一、與同レ榻坐。

【外祿】606 グワイロク 地方官になつて貰ふ俸祿。〔南史、呂文顯傳〕何須レ覓二外祿一、此一戶內、年辦二百萬一、蓋約二言之一也。〔北史、抱嶷傳〕嶷老疾乞二外祿一、乃出爲二涇州刺史一。

【外論】607 グワイロン 世間の評判。外議。〔晉書、王獻之傳〕安曰、外論不レ爾、答曰、外人那得レ知。

【外話】608 wai⁴ hua⁴ 下品な言葉。鄙語。

【外王】609 グワイワウ 外形は王者となること。〔莊子、天下〕是故內聖外王之道、闇而不レ明、鬱而不レ發。〔宋史、邵雍傳〕河南程顥、初侍二其父一、識二雍論議一、終日、退而歎曰、堯夫內聖外王之學也。

〖外王父〗610 グワイワウフ 母の亡父。〔爾雅、釋親〕母之考爲二外王父一。

〖外王母〗611 グワイワウボ 母の亡母。〔爾雅、釋親〕母之妣爲二外王母一。

【衒レ外】612 ソトヲテラフ 外面を飾つて誇る。〔劉基、賣柑者言〕衒レ外以惑二愚瞽一也。

【無レ外】613 ソトナシ ㊀他に對立する國がなく、すべて領土たることをいふ。〔公羊、隱、元〕王者無レ外、言レ奔則有レ外之辭也。㊁ホカナシ そとにはづすことはない。宜しきを失ふことがない。〔司馬光、勸學歌〕父敎師嚴兩無レ外、學問無レ成子之罪。

【外奧林】614 wai⁴ ao⁴ lin² ヴアイオリン。violin の音譯。

【外孝孫】615 グワイカウソン 他家に嫁した娘の生んだ子をいふ。〔稱謂錄、女之子、外孝孫〕唐制、封二贈宰相一、止及二其父一、若以レ恩回贈、不二但其祖一、雖二異姓一、亦及レ之、劉總外祖張懿、贈二工部尙書一、制曰、有三外孝孫爲二我賢輔一、見二野客叢書一。

【外翰林】616 グワイカンリン 刑部(**2－1886・・113**)の異稱。〔稱謂錄、刑部、外翰林〕客燕雜記、嘉靖中、李攀龍・王世貞俱官二西曹一、相聚論レ詩、建二白雲樓一、榜二諸君詩一、人目二刑部一爲二外翰林一、亦稱二西臺一。

【外金物】617 ソトガナモノ 外部の裝飾に用ひる金物。〔古事談、一〕見物車、外金物を拔かせられけり。

【外果皮】618 グワイクワヒ 果實の一ばん外側にある薄い皮。

【外後日】619 グワイゴジツ 今日から三日後をいふ。〔老學庵筆記、十〕今人謂二後三日一爲二外後日一、讀二唐逸史裴老傳一、乃有二此語一、裴、大曆中人也。

【外昆弟】620 グワイコンテイ 母の姊妹の子をいふ。〔海錄碎事、聖賢、人事、兄弟〕唐人兩姨之子、相謂爲二外昆弟一。

【外姊妹】621 グワイシマイ 妻の姊妹。

【外斜筋】622 グワイシヤキン 腹部の筋。

【外諸侯】623 グワイシヨコウ 外樣大名。〔日本外史、德川氏前記、織田氏上〕夫有二外諸侯一、有二內功臣一。

【外賬房】624 wai⁴ chang⁴ fang² 外部取引に關する會計方。

【外曾祖】625 グワイソウソ 母の祖父をいふ。〔稱謂錄、母之祖、外曾祖〕蘇軾有レ跋二外曾祖程公逸事一。

【外大父】627 グワイタイフ 外祖父をいふ。〔張耒、離レ楚夜泊二高灑館一寄二楊克一甥一詩〕爾家外大父。〔朱熹、外大父祝公遺事〕外家新安祝氏、世以二貲力一順善、聞二於州鄕一、其邸肆生業、幾有二郡城之半一、因號二半州祝家一、有二諱景先者一、號二一翁一、尤長者、元祐黃太史、嘗贊二其畫像一、廣幅全身、大二書百許字一、詞甚瓌瑋、經レ亂而逸、熹少時見二外大父一、猶能頌二誦其語一、至二諸舅一則皆已不二復記憶一矣、二翁諸子、皆讀レ書、外大父、其第二子也。

【外長莖】628 グワイチヤウケイ 木材の年輪で、每年舊材の周圍に增生する新材をいふ。

【外聽道】629 グワイチヤウダウ 耳孔。外耳の一部を爲すもの。

【外儲說】630 グワイチヨセツ 韓非子の篇名。

【外底票】631 wai^4 ti^3 p'iao^4 貨物賣買の際に買主の發行する約束手形。貨票。

【外伯父】632 グワイハクフ 祖父の姊妹の子及び祖母の兄弟姊妹の子をいふ。〔稱謂錄、祖之姊妹之子、祖母之兄弟姊妹之子、外伯父〕李綱譔二黄伯思墓誌銘一、有二此稱一、見二東觀餘論後一。

【外惑星】633 グワイワクセイ 太陽系に屬する惑星中で、地球よりそとの方にあるもの。火星・木星・土星・天王星・海王星の五星をいふ。上惑星。

【外愚內智】634 グワイグナイチ うはべは愚かなやうで內實はかしこい。〔魏志、荀攸傳〕太祖每稱曰、公達外愚內智、外怯內勇、外弱內彊。〔柳宗元、答二周君巢一書〕君子之道、處焉則外愚而內益智、外訥而內益辯。

【外光劇場】635 グワイクワウゲキヂヤウ 露天劇場。自然劇場・庭園劇場等をいふ。

【外怯內勇】636 グワイケフナイユウ うはべは臆病のやうで內實は勇敢である。外愚內智(634)を見よ。

【外草自屏】637 グワイサウジヘイ 野原の草の中で自殺すること。〔後漢書、呂強傳〕中常侍趙忠夏惲等遂共構レ強、帝不レ悅、使二中黄門持レ兵召一レ強、強遂自殺、忠惲復譖曰、強見レ召未レ知レ所レ問、而就二外草一自屏、有レ姦明審。〔注〕外草自屏、謂下在二外野草中一自殺上也。

【外札薩克】638 ソトサツサコク 部落の名。蒙古のカルカ四部及び輝特一旗、額魯特二旗をすべていふ。

【外弱內彊】639 グワイジヤクナイキヤウ うはべは弱いやうで內實はつよい。外愚內智(634)を見よ。

【外膳一殽】640 グワイゼンイツカウ 客に出す食事の粗末なこと。漢の公孫弘が奢侈を極めながら、外面は儉約を裝つたのを高賀がそしつた故事。〔西京雜記、二〕公孫弘起二家徒步一爲二丞相一、故人高賀從レ之、弘食以二脫粟飯一、覆以二布被一、賀怨曰、何用二故人富貴一爲、脫粟布被、我自有レ之、弘大慙、賀告レ人曰、公孫弘內服二貂蟬一、外衣二麻枲一、內廚五鼎、外膳一殽、豈可三以示二天下一、於レ是朝廷疑二其矯一焉、弘嘆曰、寧逢二惡賓一、不レ逢二故人一。

【外曾王父】641 グワイソウワウフ 母の亡祖父。〔爾雅、釋親〕母之王考曰二外曾王父一。

【外曾王母】642 グワイソウワウボ 母の亡祖母。〔爾雅、釋親〕母之王妣爲二外曾王母一。

【外拜喀勒】643 ソトバイカル 地名。東部シベリヤの一地域。Trans-Baikalia

【外餑餑房】644 グワイホツホツバウ 清代、內務府に屬し、帝后の食用饅頭を調製した所。〔清會典事例、內務府、供具、茶膳房買辦〕外餑餑房、由レ堂派二內管領・副內管領、各一人二直レ年。

【外喜馬拉雅】645 ソトヒマラヤ 山名。西藏の西境。雅魯藏布河の上源の地。極邊で、人跡殆ど至らなかつたが、歐洲の探險家が、漸次此處に至り、西刺刺・當刺撲刺・安登刺・三茅堡迪克刺・山夜刺・遜給刺・惻迪刺誠刺・鴉迪刺の八地を發見した。

【外化而內不レ化】646 ソトクワシテウチクワセズ 外面は物に化して居るやうで、內面は靜寂を守つて物に化して居ない。古人の純樸で道に合してゐることをいふ。〔莊子、知北遊〕仲尼曰、古之人、外化而內不レ化、今之人、內化而外不レ化。〔淮南子、人間訓〕得道之士、外化而內不レ化、外化所二以入一レ人也、內不レ化所二以全一レ身也。

【夘】5751

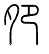
グワイ

外(3−5750)の古字。〔說文〕外、夘、古文。

【夗】5752

㊀ヱン ヲン 〔集韻〕於阮切 阮

㊁ヱン 〔集韻〕烏勉切 銑



小篆

㊀ころがりふす。〔說文〕夗、轉臥也、从二夕卪一、臥有レ卪也。〔段注〕凡夗聲宛聲字、皆取二委曲意一、卪・節、古今字。㊁雙六の采。夗棗を見よ。

解字 會意。夕(よる)と卪(卩に同じ。節の古字)との合字。本義はころがりふすこと。又、ごろごろとねがへりすること。故に夕と卪とを合せて、其の意を表はす。卪は臥するに節度ある意に取る。〔說文、夗、段注〕从二夕卪一、會意、臥有レ卪也、釋二从レ卪之意一、卪・節、古今字。

【夗棗】1 ヱンテン 雙六の采。一に夗專に作る。〔方言、五〕簙、或謂二之夗專一。〔注〕夗、於辯反、專、音轉。〔集韻〕夗、方言、夗棗、簙也。

【夘】5753

ヱン

夗(3−5752)に同じ。〔字彙〕夘、同レ夗。

參考 𠨍(2−2843)・卯(2−2847)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕𠨍、音輕、卿字从レ此。夘、音淵、卽夗字。卯、寅卯之卯。

【夙】5754

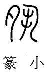
ホク

叐(3−5712)に同じ。〔字彙補〕夙、同レ叐。

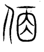
三畫

【夙】5755

シユク スク 〔集韻〕息六切 屋 ㄙㄨˋ su^4



小篆



古文

古文

❶つと。つとに。朝はやく。〔書、舜典〕夙夜惟寅。〔傳〕夙、早也。〔儀禮、士昏禮〕夙興。〔注〕夙、早也。〔國語、周語下〕夙夜基レ命。〔注〕夙、蚤也。❷あさ早くから事をする。𡖍(3−5760)に同じ。〔正字通〕夙、說文作レ𡖍。〔說文〕𡖍、早敬也、从二丮夕一、持レ事雖レ夕不レ休、早敬者也。〔正字通〕夙、未レ明而作也。❸つつしむ。〔詩、大雅、生民〕載震載夙。〔箋〕夙之言、肅也。❹むかし。むかしから。〔後漢書、郭伋傳〕盧芳夙賊。〔注〕夙、昔也。❺古は㑴(1−748)・佰(1−558)・殂(6−16371)に作る。〔集韻〕𡖍、隸作レ夙、古作二㑴・佰一。〔字彙補〕殂、古文夙字。❻姓。〔萬姓統譜〕夙、魯國徵音、古沙夙之後、又魯大夫季孫夙之後、見二姓苑一。

名乘 アサ。ツト。トシ。ハヤ。

解字 會意。もと𡖍に作る。夕(よる)と丮(にぎりもつ意)との合字。本義は夜の未だ明けぬ中から朝の仕事の用意をすること。轉じて、つとに・あさはやしの義に用ひる。故に夕と丮とを合せて、其の意を表はす。一說に、本義は坐して夜明けを待ち、未だ明けぬ中に衣を求め着る意。丮は衣をにぎりもつ意に用ひる。〔說文、夙、段注〕持レ事雖レ夕不レ休、早敬者也、此說二會意之恉一、謂三日莫人倦、齋莊正齊而不二敢解惰一、是乃完二今日之早敬一、基二明日之早敬一也、抑夕者、夜之通偁、未レ旦而執レ事有レ恪、故字从二丮夕一歟。〔說文通訓定聲〕夙、按、坐以待レ旦、未レ明求レ衣之意、夕未レ晨已丮也、辰臼爲レ晨、夕丮爲レ夙、同意。

【夙愛】1 シユクアイ 昔からの愛顧。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕庶無レ貽レ悞、因レ恃二憲臺夙愛一、故言無レ不レ盡耳。

【夙意】2 シユクイ かねての意見。夙志。〔宋書、謝述傳〕高祖召レ述、述知レ非二景仁夙意一。

【夙隕】3 シユクヰン 早く落ちる。又、其のこと。夙殞。〔殷仲文、南州桓公九井作詩〕歲寒無二早秀一、浮榮甘二夙隕一。

【夙殞】4 シユクヰン 夙隕に同じ。〔陸機、歎逝賦〕痛二靈根之夙殞一。

【夙緣】5 su^4 yüan^2 ふるい因緣。前世の因緣。宿緣(3−7195‥16)に同じ。

【夙怨】6 シユクヱン 前からのうらみ。宿怨。〔宋史、蘇轍傳〕呂大防劉摯患レ之、欲三稍引用以平二夙怨一。

【夙駕】7 シユクガ 朝早く車馬に乘る。〔詩、鄘風、定之方中〕星言夙駕、說二于桑田一。〔箋〕夙、早也。〔左氏、文、十〕令夙駕載レ燧。〔張衡、東京賦〕皇輿夙駕、輦二於東階一。

【夙好】8 su^4 hao^3 從來のよしみ。舊交。

〖夙好齋〗9 シユクカウサイ 清、楊知新(6−15112‥688)の號。

【夙起】10 シユクキ 朝はやく起きる。夙興(21)に同「じ。

【夙仇】11 su^{4} ch'ou^{2} 以前からの仇敵。宿仇。

【夙會】12 シュククワイ 早く出會ふ。〔張衡、思玄賦〕戒㆓庶寮㆒以㆓夙會㆒兮、僉供㆑職而並。

【夙懷】13 シュククワイ 古い思ひ出。〔白居易、和㆓我年㆒詩〕夙懷慕㆓箕潁㆒、晚節期㆓松篠㆒。

【夙願】14 シュクグワン 古くからの願。宿願。〔白居易、祭㆓中書韋相公㆒文〕不㆓重書㆒、但申㆓夙願㆒。

【夙惠】15 シュクケイ 世說新語の篇名。

【夙慧】16 シュクケイ ㊀をさなくてさとい。夙悟。早慧。〔五雜組、人部四〕古之聖賢、生而神靈、長而狥齊、固不㆑在㆓夙慧之列㆒也。㊁シュクヱ 善根。〔長生殿、情悔〕業障縈、夙慧輕。

【夙孽】17 シュクゲツ 宿世の罪業。宿業。〔長生殿、神訴〕只因㆓夙孽㆒、迷㆓失本眞㆒。

【夙嫌】18 シュクケン 前からの仲たがひ。〔福惠全書、莅任部、稟帖贅說〕亦爲㆓兩家㆒講解、以釋㆓彼此夙嫌㆒。

【夙孤】19 シュクコ 孤兒。みなしご。〔後漢書、邊讓傳〕議郎蔡邕薦㆓於何進㆒曰、竊見㆓令史陳留邊讓㆒、天授逸才、聰明賢智、髫齔夙孤、不㆑盡㆓家訓㆒、及㆑就㆓學廬㆒、便受㆓大典㆒、心通性達、口辨辭長。

【夙悟】20 シュクゴ 幼くてさとい。夙慧。夙敏。〔謝靈運、山居賦〕愧㆓班生之夙悟㆒、慙㆓尙子之晚妍㆒。

【夙興】21 シュクコウ 朝はやく起きる。夙起。〔禮、內則〕男女夙興、沐浴衣服。〔潘岳、秋興賦序〕夙興晏寢。

〖夙興夜寐〗22 ツトニオキヨハニイヌ 朝は早くから起き、夜は遲く寢る。日夜政事に勵む意。〔詩、小雅、小宛〕夙興夜寐、毋㆑忝㆓爾所生㆒。〔左氏、襄、二十六〕夙興夜寐、朝夕臨㆑政。〔荀子、子道〕夙興夜寐、耕耘樹藝。〔墨子、非樂上〕夙興夜寐、紡績織紝。〔管子、弟子職〕夙興夜寐、衣帶必飭。〔史記、秦始皇紀〕夙興夜寐、建㆓設長利㆒。〔漢書、武帝紀〕今朕獲㆑奉㆓宗廟㆒、夙興以求、夜寐以思。〔漢書、董仲舒傳〕夙興夜寐、務法㆓上古㆒。

【夙沙】23 シュクサ ㊀古の國名。今の山東省に在つた。〔帝王世紀、炎帝神農氏紀〕諸侯夙沙氏、叛不㆑用㆑命、箕文諫而殺㆑之、炎帝退而修㆑德、夙沙之民、自攻㆓其君㆒而歸㆓炎帝㆒。〔英賢傳〕炎帝時侯國、始煑㆑海爲㆑鹽、爲㆓炎帝所㆑滅、其地在㆓山東膠東道境㆒。㊁複姓。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕夙沙氏、英賢傳曰、炎帝時侯國、左傳、宦者夙沙衞。

〖夙沙衞〗24 シュクサエイ 春秋、齊の奄の人。襄公より萊を伐つ命を受けたが、賂を取つて還る。〔左氏、襄、元・十七・十八・十九〕。

【夙早】25 su^{4} tsao^{3} 早朝。夜明け方。

【夙志】26 シュクシ はやくからの志。宿志。夙心。夙意。〔南史、陳武帝紀〕永言㆓夙志㆒、能無㆑慙㆑德。〔韓愈、送㆓惠師㆒詩〕吾聞九疑好、夙志今欲㆑伸。〔晁補之、桂漿詩〕百壺無㆓此餞㆒、夙志慕㆓林丘㆒。

〖夙志違〗27 シュクシタガフ 年來のこころざしが事とたがつて成功せぬこと。〔柳宗元、謝㆔李吉甫相公示㆓手札㆒啓〕常願㆘操㆓篲醫門㆒、掬㆗溜蘭室㆖、良辰不㆑與、夙志多違。

【夙就】28 シュクシウ 幼くてできあがる。早く大人びる。夙成。〔蔡邕、上始加㆓元服㆒與㆓羣臣㆒上㆑壽章〕早智夙就、參美顯宗。

【夙日】29 su^{4} jih^{4} 平生。平日。素日。

【夙儒】30 シュクジュ 老儒。宿儒。〔後漢書、張霸傳〕子楷、字公超、通㆓嚴氏春秋・古文尙書㆒、門徒常百人、賓客慕㆑之、自㆓父黨夙儒㆒、偕造㆑門焉。〔唐書、蕭復傳〕居㆓一室㆒學自力、非㆓名士夙儒㆒不㆓與遊㆒。

【夙心】31 シュクシン はやくからの心。夙志。夙意。〔後漢書、趙壹傳〕惟君明叡、平㆓其夙心㆒。

【夙振】32 シュクシン 早くから世に聞える。〔劉琨、勸進表〕玉質幼彰、金聲夙振。〔注〕翰曰、夙、早也。

【夙世】33 シュクセイ 前々の世代。前々來の諸代。〔宣和畫譜〕至㆓于丹青之技㆒不㆑學、而益驗㆓其夙世之餘習㆒。

〖夙世冤家〗34 シュクセイノエンカ 前世から恨を持つたかたき。〔道山淸話〕彭汝礪晚娶㆓宋氏㆒、有㆓姿色㆒、承順恐㆑不㆑及、臨㆑卒、書㆓夙世冤家四字㆒。

【夙成】35 シュクセイ 早くから出來上がる。つとに成就する。又、早くおとなびる。ませる。夙就。早熟。〔後漢書、袁術傳〕聞幼主明智聰敏、有㆓夙成之德㆒。〔注〕夙、早也。

【夙宵】36 シュクセウ あさとばん。夙暮。朝夕。〔魏志、管寧傳〕夙宵戰怖、無㆑地㆓自厝㆒。

【夙昔】37 シュクセキ ふるくから。はじめから。又、むかし。平生。宿昔。〔後漢書、張衡傳〕共夙昔而不㆑貳兮。〔謝脁、在㆑郡臥㆑病呈㆓沈尙書㆒詩〕夙昔夢㆓佳期㆒。〔古樂府〕夙昔夢見㆑之。〔文天祥、正氣歌〕哲人日已遠、典刑在㆓夙昔㆒。

【夙素】38 シュクソ 平素の願。宿素。〔陳造、詩〕是役固已勞、端復酬㆓夙素㆒。

【夙賊】39 シュクゾク 古くからの賊。昔以來の賊。老賊。舊賊。〔後漢書、郭伋傳〕伋知㆓盧芳夙賊、難㆓卒以㆑力制㆒、常嚴㆓烽候㆒、明㆓購賞㆒、以結㆓寇心㆒。〔吳志、薛綜傳〕交州雖㆓名粗定㆒、尙有㆓高涼夙賊㆒。〔稱謂錄、盜賊、夙賊〕郭伋大盜曰㆓劇賊㆒、又舊賊曰㆓夙賊㆒、並見㆓書敍指南㆒。

【夙退】40 シュクタイ すみやかにしりぞく。時間早く朝からまかり歸ること。〔詩、衞風、碩人〕大夫夙退、無㆑使㆓君勞㆒。

【夙達】41 シュクタツ 年少にて智能のすぐれてゐること。幼くて物の道理に通達すること。早智。〔魏文帝、周成漢昭論〕德與㆑性成、行與㆑體幷、年在㆓二七㆒、早智夙達、發㆓燕書之詐㆒、亮㆓霍光之誠㆒。

【夙知】42 シュクチ 早くから知つてゐる。昔から知つて居る。又、そのこと。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕體㆑元作㆑嗣、資㆓此夙知㆒。

【夙衷】43 シュクチユウ 前々からのこころ。〔福惠全書、稟啓附、候㆓潘守臺㆒〕敬瀝㆓夙衷㆒、不㆑盡㆓剡裁㆒。

【夙締】44 シュクテイ 早くからきまる。前世からきまつてゐること。締は結んで解けないこと。〔故事成語考、婚姻〕良緣由㆓夙締㆒、佳偶自㆓天成㆒。

【夙播】45 シュクハ 早く布きひろげる。〔權德輿、祭㆓薛殿中㆒文〕追㆓維明靈㆒、夙㆓播馨芳㆒。

【夙望】46 su^{4} wang^{4} 以前からののぞみ。

【夙敏】47 シュクビン 幼時からさとい。夙悟。夙慧。〔南史、謝弘微傳〕此兒、深中夙敏、方成㆓佳器㆒。

【夙辨】48 シュクベン 早く治める。早く處理する。〔顏氏家訓、勉學〕但知私財不㆑入、公事夙辨、便云㆓我能治㆑民。

【夙暮】49 シュクボ 朝と晚。旦暮。朝夕。夙宵。〔陸雲、考志〕感㆓秋林之夙暮㆒、悲㆓芳草之中霜㆒。

【夙茂】50 シュクボウ 年若くして器量の立派なこと。〔魏書、高聰傳〕伏惟、陛下聖武自㆑天、神藝夙茂。

【夙夜】51 シュクヤ ㊀早朝から夜おそくまで。〔書、舜典〕夙夜惟寅、直哉惟淸。〔儀禮、士昏禮〕戒㆑之敬㆑之、夙夜毋㆑違㆑命。〔禮、儒行〕夙夜強學以待㆑問。〔史記、五帝紀〕夙夜惟敬。㊁早朝。夜の未だ明けぬ時。〔詩、召南、采蘩〕被之僮僮、夙夜在㆑公。〔傳〕夙、早也。〔陳奐傳疏〕夙早、云云、古曰㆓夙夜㆒、今曰㆓早夜㆒、夜未㆑旦、謂㆓之早夜㆒、云云、夙夜二字、連讀得㆑義、而與㆓夙興夜寐㆒平列者、自不㆑同也、全詩中、若㆓行露小星、云云、有駜㆒、解者失㆓其讀㆒久矣。〔詩、召南、行露〕豈不㆓夙夜㆒、謂㆓行多㆑露。〔箋〕夙、早也、夜、暮也、云云、言、我豈不㆑知㆑當㆔早夜成㆓昏禮㆒與。㊂地名。漢の東萊不夜の地。王莽の時、夙夜と名づく。故城は山東省文登縣。㊃淸、王無忝(7―20823··2120)の字。

〖夙夜勤〗52 シュクヤノツトメ 朝は早く起き、夜は晚く寢てよくつくすこと。〔書、旅獒〕嗚呼、夙夜罔㆓或不㆑勤。

〖夙夜在㆑公〗53 シュクヤコウニアリ 早朝、夜の未だ明けぬとき、敬んで公事を行ふ。夙夜の㊁を見よ。一說に、官吏が早朝から深夜まで君の御側に詰めて居ること。〔詩、魯頌、有駜〕有㆑駜有㆑駜、駜彼乘黃、夙夜在㆑公、在㆑公明明。〔詩、召南、采蘩〕被之僮僮、夙夜在㆑公。〔詩、召南、小星〕夙夜在㆑公、寔命不㆑同。

〖夙夜之憂〗54 シュクヤノウレヘ 朝早くから夜おそくまでの心配。〔漢書、吳王濞傳〕吳王不肖、有㆓夙夜之憂㆒、不㆓敢自外㆒、使㆔使臣諭㆓其愚心㆒。

〖夙夜匪㆑懈〗55 シュクヤオコタラズ 早朝からよく公事につとめること。又一說に、早朝から夜おそくまで怠らないこと。〔詩、大雅、烝民〕既明且哲、以保㆓其身㆒、夙夜匪㆑解、以事㆓一人㆒。

〖夙夜不㆑怠〗56 シュクヤオコタラズ 朝早くから夜おそくまで怠らない。〔漢書、張安世傳〕勤㆓勞政事㆒、夙夜不㆑怠、與㆓大將軍㆒定㆑策。

〖夙夜夢寐〗57 シュクヤムビ 朝早くから夜おそくまで。ねてもさめても。〔後漢書、郎顗傳〕此誠臣顗區區之願、夙夜夢寐、盡㆑心所㆑計。

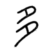
【夙齡】58 シュクレイ 年少をいふ。〔後漢書、孝明八王傳贊〕三藩夙齡、黨惟荒忒。〔沈約、早發㆓定山㆒詩〕夙齡愛㆓遠壑㆒、晚涖見㆓奇山㆒。〔駱賓王、靈隱寺詩〕夙齡尙㆓遐異㆒、披對滌㆓煩囂㆒。

【夙道暹】59 シュクダウセン 明、松溪の人。字は志彰。官は

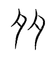
縣の長官。〔尙友錄、二十二〕。

【夙寤晨興】60（シュクゴシンコウ） 朝早くめざめ、早く起きる。〔漢書、董仲舒傳〕朕夙寤晨興、惟二前帝王之憲一。

【多】5756 夕 〔集韻〕當何切 歌 ㄉㄨㄛ tuo¹·²



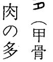
小篆



古文

❶おほい。おほく。〔爾雅、釋詁〕多、衆也。〔詩、周頌、訪落〕未レ堪二家多一レ難。〔箋〕多、衆也。〔說苑、敬愼〕博聞多記、而守以レ淺者廣。❷ひろい。ひろく。〔荀子、致仕〕寬裕而多容。〔注〕多容、廣容也。❸かさなる。〔說文〕多、緟也、从二緟夕一、夕者相繹也、故爲レ多、緟レ夕爲レ多、緟レ日爲レ疊。❹あつい。あつく。〔漢書、趙廣漢傳〕亭長戲曰、至レ府爲レ我多謝二問趙君一。〔注〕師古曰、多、厚也。❺おほきい。〔呂覽、知度〕其患又將二反以自多一。〔注〕多、大。〔史記、五帝紀〕與爲レ多焉。〔注〕索隱曰、多、猶レ大也。❻まさる。〔正字通〕多、勝也。〔禮、檀弓上〕多矣乎予出レ祖者。〔注〕多、猶レ勝也。❼おほくなる。〔後漢書、鮑昱傳〕漑レ田倍多、人以殷富。❽あまる。あまり。〔增韻〕多、過也。❾おほくする。〔魏志、斛斯椿傳〕多レ事好レ亂。❿多とする。ほめる。㋑重んずる。ありがたいとする。〔漢書、灌夫傳〕士亦以レ此多レ之。〔注〕師古曰、多、猶レ重レ之。〔漢書、馬宮傳〕朕甚多レ之。〔注〕師古曰、多、猶レ重也。〔漢書、何武傳〕世以レ此多焉。〔注〕師古曰、多、重也、重二武進レ賢也。㋺まさりすぐれりとする。〔呂覽、謹聽〕聽者自多而不レ得。〔注〕自多、自賢也。⓫いさを。軍功。〔周禮、夏官、司勳〕治功曰レ力、戰功曰レ多。⓬ただ。まさに。啻(**2－3886**)・祇(**8－24639**)に通ず。〔說文通訓定聲〕多、叚借爲レ祇、實爲レ啻。〔論語、子張〕多見二其不レ知レ量也。〔集注〕多、與レ祇同、適也。⓭回紇で父をいふ。〔稱謂錄、方言稱レ父、多〕隋書回紇傳、稱レ父爲レ多。⓮古は彐彐(**3－5758**)に作る。〔集韻〕多、古作レ彐彐。⓯或は夕夕(**3－5757**)に作る。〔集韻〕多、或書作レ夕夕。⓰現㋑よけいな。よけいに。㋺なかなか。非常に。㋩いかほど。いくら。⓱**姓**。〔萬姓統譜〕多、見二姓苑一、今河南淅川縣有二多氏一。

名乘 オホノ。カズ。ナ。ナホ。マサ。

解字 會意。本義は夕が今夕より明夕へと無窮にかさなりつづく意。故に夕を二つ重ねて、かさなる意を表はす。轉じて、夕が無窮に重なり續くことからおほい意と爲し、多い者は少い者に勝つことからまさる意とする。〔說文、多、段注〕緟者、增益也、故爲レ多、多者勝二少者一、故引伸爲二勝之稱一、戰功曰レ多、言レ勝二於人一也、相繹者、相二引於無窮一也、抽レ絲曰レ繹、夕繹疊韻、說下从二重夕一之意上。▽  (甲骨文) 會意。夕は肉の象形。それを重ねて肉の多く重なる意を表はす。

【多哇】1（タアイ） みだらな聲の多いこと。〔法言、吾子〕中レ正則雅、多レ哇則鄭。〔注〕中レ正者、宮商溫雅也、多レ哇者、淫聲繁越也。

【多鷃】2（タアン） 南極の國名。多顯に同じ。〔意林、二〕呂氏春秋曰、東至二開悟一、南撫二多鷃一、西服二壽靡一、北懷二儋耳一。

【多易】3（タイ） たやすいことが多い。多難(206)の對。〔老子、六十三〕多レ易必多レ難。❷物事を輕々しくする。〔史記、魏其侯傳〕多易難二以爲レ相。

【多威】4（タヰ） 多くの武威。〔呂覽、用民〕亡國之主、多下以二多威一使中其民上矣。

【多違】5（タヰ） 多く違ふ。困難が多い。〔陸機、弔二魏武帝一文〕接二皇漢之末緒一、値二王塗之多違一。

【多維】6（ドーバー） 地名。英國の東海岸。海峽を隔ててフランスに對す。Dover

【多婬】7（タイン） いろごのみ。いんらん。多情。

【多飮】8（タイン） おほくのむ。又、酒量の多いこと。〔淮南子、說林訓〕近二敖倉一者、不二爲レ之多飮一、期レ滿レ腹而已。〔白居易、效二陶潛體一詩〕笑謝多飮者、酒錢徒自費。

【多于】9（タウ） 複姓。〔通志、氏族略、複姓〕多于氏、見二姓苑一。

【多雨】10（タウ） 雨が多い。あめがち。〔謝脁、遊二敬亭山一詩〕漠雲已漫漫、多雨亦凄凄。

【多顯】11（タエイ） 南極の國名。多鷃。〔呂覽、任數〕東至二開梧一、南撫二多顯一、西服二壽靡一、北懷二儋耳一。〔注〕多顯、南極之國。

【多益】12（タエキ） 多く益す。〔詩、小雅、天保〕俾二爾多益一、以莫レ不レ庶。

【多衍】13（タエン） 多くてはびこる。〔管子、八觀〕薦草多衍、則六畜易レ繁也。

【多怨】14（タエン） うらみが多い。〔左氏、昭、十〕信レ內多レ怨、彊二於陳鮑氏一而惡レ之。

【多遠】15 tuo¹ yüan³ どれ程の距離か。

【多開】16（タカイ） 支出の額の多いこと。〔六部成語、戶部、多開、注解〕開銷之數太多也。

【多行】18（タカウ） 立派な行が多い。〔法言、五百〕周之人多行、秦之人多病。

〔多行二無禮一必自及〕19（オホクブレイヲオコナヘバカナラズミヅカラオヨブ） 多く無禮を行へば、禍が必ず自分の身に及ぶ。〔左氏、襄、四〕君子曰、志所謂多行二無禮一必自及也、其是之謂乎。

【多幸】20（タカウ） おほくのしあはせ。數多の幸福。多福。多祜。〔左氏、宣、十六〕諺曰、民之多幸、國之不幸也。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕伊昔遘二多幸一。〔宋書、沈慶之傳〕微命值二多幸一、得レ逢二時運昌一。〔宋史、宋琪傳〕九月被レ病、令二其子貽序秉レ筆授レ辭、作二多幸老民敍一、大抵謂、洪範五福、人所レ難レ全、而已兼有レ之、實天幸也。

〔多幸多福〕21（タカウタフク） 多幸に同じ。

【多高】22 tuo¹ kao¹ どれ程の高さか。

【多角】23（タカク） ❶角の多いこと。❷こみいつたこと。複雜なこと。❸多方面。

〔多角形〕24（タカクケイ） 多くの直線で圍まれた平面形。多邊形(307)に同じ。

【多角數】25（タカクスウ） 圖形を以て表示すべき級數。

〔多角經營〕25′（タカクケイエイ） 主とする一つの企業以外に、數種類の事業を經營すること。

〔多角折衝〕26（タカクセツショウ） 多方面から談判かけひきをすること。

〔多角多彩〕27（タカクタサイ） こみいつて複雜なこと。

【多學】28（タガク） 多く學ぶ。學問の多いこと。〔史記、孔子世家〕爾以レ予爲二多學而識レ之者一與。

【多額】29（タガク） 額の多いこと。

〔多額納稅者〕30（タガクノウゼイシャ） もと、多額納稅議員の資格を有した者。卽ち各府縣で、其の府縣内の最多額直接國稅を納める滿三十歲以上の男子にして、且規定の條件を具備した人。

〔多額納稅者議員〕31（タガクノウゼイシャギイン） もと、貴族院議員の一。多額納稅者一百人に付き一人を互選し、其の當選者の勅任せられたもの。

【多奸】32（タカン） 惡才が多いこと。〔國史略、嵯峨天皇〕寵尙侍藥子、常侍二左右一、黠而多レ奸。

【多汗】33（タカン） 多く汗の出ること。あせごいこと。〔李俊民、詩〕多汗愈レ膚三伏暑、漸衰潘レ鬢一時秋。

【多敢】34 tuo¹ kan³ 多分。大方。多管(65)に同じ。〔元曲、殺狗勸夫〕多敢是那兩個賊子拿去了。

【多閒】35（タカン） 閒隙が多い。非常に仲が惡い。〔左氏、哀、二十七〕君臣多レ閒。〔注〕閒、隙也。

【多感】36（タカン） 感じることが多い。感受性が強い。〔徐魁、閒遊賦〕懷二哀鵠之離羣一、何物類之多感。〔韓愈、陪二杜侍御一遊二湘西兩寺一獨宿有レ題二一首一因獻二楊常侍一詩〕平生每多感、柔翰遇二頻染一。〔杜牧、初春有レ感寄二歙州邢員外一詩〕聞君亦多感、何處倚二欄干一。

【多艱】37（タカン） 苦難が多い。多難。〔楚辭、離騷〕哀二民生之多艱一。〔曹大家、東征賦〕遭二羣縣之多レ艱。

【多忌】38（タキ） きらひが多い。人をにくむことが多い。〔人物志、體別〕雄悍傑健、任在二膽烈一、失在二多忌一。

【多岐】39（タキ） えだみちが多い。〔許渾、曉發二鄞江一北渡寄二崔韓二先輩一詩〕南北信多岐、生涯半別離。

【多岐多樣】40 タキタヤウ 數多に分れ形態がさまざまなこと。

【多岐亡羊】41 タキバウヤウ 逃げた羊を追ふ者が、道の數多に分れて居る所に至つて終に羊を見失つた故事。學問の道も餘り多方面になりすぎると、眞理を得ることの難しい喩。〔列子、說符〕大道以二多岐一亡レ羊、學者以二多方一喪レ生、學非二本不一レ同、非二本不一レ一、而末異若レ是、唯歸レ同反レ一、爲レ亡二喪得一。

【多記】42 タキ 多く記憶する。〔說苑、敬愼〕博聞多記、而守以レ淺者廣。

【多貴】44 トクエイ 淸、滿洲鑲黃旗人。姓は金佳氏。官は伊犁領隊大臣。〔國朝耆獻類徵、三百二十〕

【多虧】45 tuo^1 k'uei^1 幸ひに。お蔭で。

【多技】46 タギ いろいろの技藝に通じて居る。〔淮南子、詮言訓〕賈多端則貧、工多技則窮、心不レ一也。

【多疑】48 タギ 疑ひ深い。〔人物志、體別〕精良畏愼、善在二恭謹一、失在二多疑一。

【多儀】49 タギ 多くの儀式。〔漢書、郊祀志下〕經曰、享二多儀一、儀不レ及レ物。

【多久】50 tuo^1 chiu^3 ❶しばらく。久しく。❷どの位長く。

【多級】51 タキフ 全校兒童を二つ以上の學級に編成したもの。

〔多級學校〕52 タキフガクカウ 一學校に二學級以上を有するもの。

〔多級教授〕53 タキフケウジユ 全校の生徒を多くの級に分けて教へること。單級教授の對。

【多享】54 タキヤウ 久しく祿位を享ける。又、そのこと。〔書、多方〕以二惟爾多方之義民一、不レ克レ永二于多享一。

【多許】55 タキヨ 吳の地の方言。衆多なことをいふ。〔太倉州志〕

〔多許少與〕56 タキヨセウヨ 多く約束して少しく與へる。〔素書〕多許少與者怨。〔注〕失二其本望一。

【多虞】57 タグ 憂が多い。〔左氏、襄、三十〕以二晉國之多一レ虞、不レ能レ由二吾子一。

【多偶】58 タグウ 人と調和する。〔列子、力命〕多偶・自專・乘權・隻立四人。〔注〕多偶、謂二多與一レ人相和諧一也。

【多夥】59 タクワ 物の多いこと。おびただしい。〔史記、陳涉世家〕楚人謂レ多爲レ夥、故天下傳レ之、夥涉爲レ王、由二陳涉一始。

【多寡】60 タクワ 多いと少い。又、多い少いの分量。多少。〔孟子、滕文公上〕五穀多寡同、則賈相若。〔墨子、經說下〕景多寡貌態白黑。〔管子、乘馬〕可三以知二多寡一。

【多會】61 tuo^1 huei^3 何時。いつ。

〔多會兒〕62 tuo^1 huei^3 êrh 何時。いつ。

【多穫】63 タクワク 穀物の取りいれが多い。〔詩、小雅、甫田、烝二我髦士一疏〕由二倉廩實一知二禮節一、故豐年多穫、髦士所二以得一レ進也。〔歐陽脩、送二唐生一詩〕多穫由二力耘一。

【多患】64 タクワン 心配が多い。〔孔子家語、觀周〕多レ事多レ患、安樂必戒。

【多管】65 tuo^1 kuan^3 多分。大方。多敢。

〔多管閒事〕66 tuo^1 kuan^3 hsien^2 shih^4 餘計な事に手を出す。餘計な世話をやく。

【多惠】67 タケイ めぐみが多い。〔論衡、雷虛〕是天少レ恩、而人多レ惠也。

【多儆】68 タケイ 警戒すべき事柄が多い。又、多くの事件。〔水滸傳、一百一回〕邇來邊庭多レ儆、國祚少レ寧。

【多藝】69 タゲイ ❶いろいろの藝能に達してゐる。〔書、金縢〕能多材多藝、能事二鬼神一。〔史記、魯周公世家〕多材多藝。❷タギ 姓氏。〔日用重寶記、二〕

【多血】70 タケツ 體內に血液の多いこと。〔景岳全書、總論〕胃以二水穀之海一、故爲二多氣多血之腑一。

〔多血漢〕71 タケツカン 血の氣の多い男。感動し、激昂し易い男子。又、同情深く獻身的精神に富む男子。

〔多血質〕72 タケツシツ 心理學用語。氣質の一。快活明朗ではあるが、性急輕躁で、所謂熱し易く冷めやすく、忍耐力の乏しいもの。

【多業】73 タゲフ 多くの仕事。澤山な業務。〔孔子家語、六本〕事不二終始一、無レ務二多業一、記レ聞而言無レ務二多說一。

【多見】74 タケン 多く見る。〔論語、爲政〕多見闕レ殆。〔荀子、脩身〕多見曰レ閑。〔管子、宙合〕聖人博聞多見。〔法言、吾子〕多見則守レ之以レ卓。〔白居易、題二西亭一詩〕多見朱門富貴人、林園未レ畢卽無レ身。

〔多見樹木少見人〕75 tuo^1 chien^4 shu^4 mu^4 shao^3 chien^4 jen^2 樹ばかり多く見えて人が少い。山林などの靜寂な境地をいふ。

〔多見二栽レ花悅レ目儔一先レ時豫養待レ開遊〕76 オホクハナヲウヱテメヲヨロコバシムルトモガラヲミルニ トキニサキダツテアラカジメヤシナヒラクヲマツテアソブ 世間の花を栽ゑて目を樂しませる多くの人をみるに、其の時節に先だつて、懇ろに培養して花の開くを待つて玩賞するが、自分はさうしない。〔倭漢朗詠集、前栽、菅原文時、栽二秋花一詩〕多見二栽レ花悅レ目儔一、先レ時豫養待レ開遊、自二吾閑寂家僮倦一、春樹春栽秋草秋。

【多言】77 タゲン 口が多い。おしやべり。能言。多辯。多口。〔詩、鄭風、將仲子〕仲可レ懷也、人之多言、亦可レ畏也。〔禮、檀弓下〕是夫也多言。〔左氏、昭、十八〕是亦多言矣。〔荀子、性惡〕多言則文而類。〔史記、秦始皇紀〕足下雖二多言一、臣不二敢報一。

〔無二多言一〕78 タゲンスルナカレ 多辯はあやまちが多いから、多辯を弄してはいけない。多言多レ敗を見よ。

〔多言數窮〕79 タゲンシバシバキユウス 言葉數が多ければ、其の爲にしばしば困窮する。〔老子、五〕多言數窮、不レ如レ守レ中。

〔多言多レ敗〕80 タゲンハイオホシ 多辯を弄するとあやまちが多い。〔孔子家語、觀周〕無二多言一、多言多レ敗、無二多事一、多事多レ患。〔顏氏家訓、省事〕無二多言一、多言多レ敗。

〔多言繁稱〕81 タゲンハンシヨウ 多く古言を擧げ、盛に文飾の辭を稱すること。〔韓非子、難言〕多言繁稱、連レ類比レ物、則見三以爲二虛而無一レ用。

【多故】82 タコ ❶事故が多い。面倒が多い。多難。多事。〔國語、鄭語〕王室多レ故。〔史記、陳丞相世家贊〕及二呂后時一、事多故矣。〔鍾會、移レ蜀檄〕方二國家多故一。〔金史、宣宗紀上〕國家多故、職官往往不レ仕。❷巧僞の多いこと。〔淮南子、主術訓〕是以上多レ故、則下多レ詐。

【多祜】83 タコ 多幸。多福（239）に同じ。〔詩、周頌、載見〕永言保レ之、思二皇多祜一。〔何晏、景福殿賦〕重レ思二齊徽音一、聿求二多祜一。〔注〕向曰、祜、福也。〔潘岳、離合詩〕熙神委命、已求二多祜一。

【多誇】84 タコ 多くほこる。〔史記、太史公自序〕靡麗多誇。

【多口】85 タコウ 口數が多い。おしやべり。多言。〔孟子、盡心下〕貉稽曰、稽大不レ理二於口一、孟子曰、無レ傷也、士憎二茲多口一。

〔多口阿師〕85′ タコウノアシ 佛 おしやべりの人をいふ。阿は助字。〔碧巖集、第五十則、頌〕鉢裏飯桶裏水、多口阿師難レ下レ此角。

【多功】86 タコウ ❶てがらが多い。❷山名。四川省天全縣の東。昔、禹が水を治め、此の山を鑿つて峽水を通じ、其の功が甚だ多かつたから名づけた。山下に多功河がある。淸一統志は靑衣水の異名といふ。〔讀史方輿紀要、四川、天全六番招討使司〕多功山、司東五十里、昔禹鑿二此山一、以通二峽水一、用二功甚多一、故名。

【多候】87 tuo^1 hou^4 長時間待つ。

【多骨】88 タコツ ❶骨が多い。〔方回、詩〕鰣橘多二骨核一、乃至肆二詆訾一。❷筆力が強く表はれてゐること。〔衞夫人、筆陣圖〕善二筆力一者多レ骨、不レ善二筆力一者多レ肉。〔山谷題跋〕唐自二歐虞一後、能備二八法一者、獨徐會稽・顏太師耳、然會稽多レ肉、太師多レ骨、而此書尤姿媚可レ愛。❸白荳蔲の異名。白荳蔲（8－22678··1373）を見よ。〔本草、白豆蔲〕釋名、多骨、集解、藏器曰、白豆蔲出二伽古羅國一、呼爲二多骨一、其草形如二芭蕉一、葉似二杜若一、長八九尺而光滑、冬夏不レ凋、花淺黃色、子作レ朶、微如二葡萄一、初出微靑、熟則變レ白、七月采レ之。

〔多骨疽〕89 タコツシヨ 病氣の名。腮・眼角・腿・脛等に瘡が生じ、久しくして潰れるもの。

【多昏】90 タコン 荒政の一。婚禮を簡略にして結婚する者を多くすること。〔周禮、地官、大司徒〕九曰二蕃樂一、十曰二多昏一。〔注〕鄭司農曰、多昏、不レ備レ禮而娶昏者多也。

【多恨】91 タコン うらみが多い。なごり惜しい。〔王僧儒、春日寄二鄕友一詩〕旅心已多恨、春至尙離レ羣。〔杜荀鶴、秋宿二棲賢寺一懷二友人一詩〕苦吟方見レ景、多恨不レ同レ君。

【多詐】92 タサ いつはりが多い。〔韓詩外傳、一〕重レ

法愛レ民而覇、好レ利多レ詐而危。

【多才】93タサイ　才智が多い。才能が多い。多材に同じ。〔韓愈、酬下裴十六功曹巡二府西驛一途中見上寄詩〕多才自勞苦、無用祇因循。〔朱慶餘、送二李侍御入一レ蕃詩〕戎裝非レ好レ武、書記本多レ才。

【多材】94タサイ　才智が多い。才能が多い。多才。材は才。

〖多材多藝〗95タサイタゲイ　才能が多い。才智技藝が多い。〔書、金縢〕予仁若レ考、能多材多藝、能事二鬼神一。〔史記、魯周公世家〕多材多藝。

【多妻】96タサイ　一人の男子が二人以上の妻を有つこと。一夫多妻(1－1‥1965)を見よ。

【多彩】97タサイ　彩色の多いこと。又、複雜なこと。

【多歲】98タサイ　長年の間。〔商子、墾令〕商不レ得レ糴、則多歲不レ加レ樂。

〖多歲堂〗99タサイダウ　淸、成書(5－11544‥160)の「室名。

【多財】100タザイ　財貨が多い。〔管子、牧民〕博地多財。〔孔子家語、在厄〕使二爾多財一。〔張協、詠史詩〕顧謂二四座賓一、多財爲レ累レ愚。

〖多財善賈〗101 tuo^1 ts'ai^2 shan^4 ku^3　資本の多い者は善く商ひをする。多錢善賈(174)に同じ。

【多罪】102タザイ　❶罪の多い者。〔書、多方〕殄二戮多罪一、亦克用勸。❷失禮をわびる詞。

【多早】103 tuo^2 tsao^3　何時。何時頃。

〖多早晚兒〗104 tuo^2 tsao^2 wan^3 êrh　多早(103)に同じ。

【多遭】105 tuo^1 tsao^1　幾度か。幾回か。

【多藏】106タザウ　財貨などを多く藏する。〔老子、四十四〕是故甚愛必大費、多藏必厚亡。〔注〕甚愛不二與レ物通一、多藏不二與レ物散一、求レ之者多、攻レ之者衆、爲二物所一レ病、故大費厚亡也。〔後漢書、折像傳〕感二多藏厚亡之義一、乃散二金帛資產一、周二施親疏一。

【多殺】107タサツ　多く殺す。大勢の人を殺す。〔左氏、襄、二十一〕子爲レ善誰敢不レ勉、多殺何爲。

【多偺】108 tuo^1 tsan　❶いつ。いつか。いつまで。〔兒女英雄傳、三十九回〕他到底趕、多偺來看我呀。❷多分。大概。多喒。

【多喒】109 tuo^1 tsan　❶大概。多分。〔元曲、伍員吹簫〕多喒被追兵趕逼、臨別時甚是慌張。❷いつ。いつか。いつまで。多偺。

【多讒】110タザン　多くの讒言。〔國語、晉語四〕管仲沒矣、多讒在レ側、謀而無レ正、衷而思レ始。

【多士】111タシ　❶多數の人才。衆士。〔書、大誥〕越爾多士、尹氏御事。〔詩、大雅、文王〕思皇多士、生二此王國一。❷書經、周書の篇名。眞古文。武王はかねて洛に都しようとする志があつたが、周公は殷を伐つた後も、其の餘民が反覆常無いので、都を洛邑に遷して成周を經營し、廬舍を造り、疆場を定め、此等の多士に成王の命を告げたもの。〔書、多士序〕成周既成、遷二殷頑民一、周公以二王命一誥、作二多士一。〔蔡傳〕愚謂、武王已有二都レ洛之志一、故周公黜レ殷之後、以二殷民反覆難一レ制、卽遷二于洛一、至レ是建二成周一、造二廬舍一、定二疆場一、乃告命與レ之更始焉爾、此多士之所二以作一也、云云、書序以爲二成周既成、遷二殷頑民一者謬矣。

〖多士濟濟〗112タシセイセイ　すぐれた人の多いさま。〔詩、大雅、文王〕濟濟多士、文王以寧。〔集傳〕濟濟、多貌。〔左氏、成、二〕詩曰、濟濟多士、文王以寧、夫文王猶用レ衆、況吾儕乎。〔漢書、劉向傳〕濟濟多士。

【多子】113タシ　❶多くの卿大夫。〔書、洛誥〕予旦以二多子越御事一、篤二前人成烈一。〔蔡傳〕多士者、衆卿大夫也。❷多くの男子。〔宋史、樂志八〕神其顧歆、永錫二多子一。

〖多子塔〗114タシタフ タシトフ　佛❶世尊が嘗て迦葉尊者を顧視し、半座を分けて坐らせた處。〔聯燈會要、一〕世尊昔至二多子塔前一、命二摩訶迦葉一分レ座、以二僧伽梨一圍レ之、乃告云、吾有二正法眼藏一、密付レ汝、汝當二護持一、莫レ使二將來傳付而斷絕一。❷吠舍釐國(vaiśāli)の多子が弓仗を放つたのを記念した塔。辟支佛の古蹟。〔長阿含經、阿㝹夷經〕毗舍離有二四塔一、東名二憂園塔一、南名二象塔一、西名二多子塔一、北名二七聚塔一。〔辟支佛因緣論、下〕昔有二辟支佛一、於二王舍城大長者家一生、生二育男女各三十人一、尋男女亦婚娶、見レ生二各憂喜苦樂一、卽觀得二辟支佛道一、捨二後身一涅槃、時其眷屬造レ塔爲レ廟、時人因名爲二多子塔一云。

〖多子頭〗115 tuo^1 tzŭ^3 t'ou^2　紫金冠の頂。演劇用冠物の一種。

〖無二多子一〗116タシナシ　さしたることはない。〔臨濟語錄、行錄〕元來、黃檗佛法無二多子一。

〖多子葉植物〗117タシエフシヨクブツ　植物の發芽する時に、胚より二片以上の子葉を生ずるもの。

【多思】118タシ　あれこれと多くのことを考へる。〔元稹、紅芍藥詩〕採レ之諒多思、幽贈何由果。

【多祉】119タシ　幸ひが多い。多福。〔白居易、張公神道碑銘〕天錫二多祉一、既賢二其子一、以濟二其美一。

【多疵】120タシ　あやまちがおほい。きずが多い。〔戰國、齊策〕齊貌辨之爲レ人也多レ疵。

【多嘴】121 tuo^1 tsuei^3　しやべる。多言する。〔通俗編、言笑、多嘴多舌〕元曲選、蕭湘雨劇有二此語一。〔瀟湘雨雜劇〕解子云、你休要多嘴多舌。

【多次】122 tuo^1 tz'ŭ^4　たびたび。しばしば。屢次。

【多事】123タジ　❶仕事が多い。事變が多い。多故。〔莊子、天地〕堯曰、多二男子一則多レ懼、富則多レ事。〔史記、秦始皇紀〕天下多レ事。〔淮南子、主術訓〕上多レ故則下多レ詐、上多レ事則下多レ態。〔孔子家語、觀周〕無二多言一、多言多レ敗、無二多事一、多事多レ患。〔李華、弔二古戰場一文〕秦漢而還、多二事四夷一。❷餘計なことをする。〔莊子、漁父〕今子既上無二君侯有司之勢一、而下無二大臣職事之官一、而擅飾二禮樂一、選二人倫一、以化二齊民一、不二泰多事一乎。

〖無二多事一〗124タジナシ　多くない。無二多子一(116)・無二多地一(313)に同じ。〔隋煬帝、贈二張麗華一詩〕見レ面無二多事一、聞レ名爾許時。

〖多事多患〗125タジタクワン　事が多ければ憂が多い。〔孔子家語、觀周〕無二多事一、多事多レ患。〔顏氏家訓、省事〕無二多事一、多事多レ患。

〖多事多彩〗126タジタサイ　事柄が多く複雜なこと。

〖多事的人〗127 tuo^1 shih^4 tê jen^2　❶多忙な人。❷世話好きな人。

〖多事無故〗128 tuo^1 shih^4 wu^2 ku^4　餘計な世話を燒く。

〖多事鋪張〗129 tuo^1 shih^4 p'u^1 chang　色々大袈裟なことをする。

【多時】130タジ　久しい間。〔杜甫、宣政殿退朝晚出二左掖一詩〕雲近二蓬萊一常五色、雪殘鳷鵲亦多時。〔秦觀、春日偶題呈二錢尙書一詩〕日典二春衣一非レ爲レ酒、家貧食レ粥已多時。

〖多時縱醉二鶯花下一近日那離二獸炭邊一〗131オホクノトキニハタトヒアウクワノモトニヱフトモキンジツナンゾジウタンノホトリヲハナレン　嘗ては鶯や花を愛賞して、木の下蔭に醉臥したことも有つたが、此の頃の寒空では、どうして爐邊を離れて野外に遊ばうか、ただ爐邊に酒を親しむだけである。〔倭漢朗詠集、爐火、菅原輔昭、火是臘天春〕多時縱醉二鶯花下一、近日那離二獸炭邊一。

【多辭】132タジ　言葉が多い。多言。〔莊子、盜跖〕多辭繆說、不レ耕而食、不レ織而衣。

【多愁】133タシウ　うれへが多い。〔戴叔倫、江上別二張歡一詩〕長醉非レ關レ酒、多愁不レ爲レ貧。

【多識】134タシキ　多く事物を識る。博識。〔論語、陽貨〕多識二於鳥獸草木之名一。〔列子、仲尼〕博學多識者也。〔漢書、敍傳下〕多識博物、有レ可二觀采一。

〖多識編〗135タシキヘン　書名。二卷。別本五卷。林道春著。慶長十七年起稿、寬永七年刊行、慶安二年再版。分類體の漢和字書で、水・火・木・金・玉・石等二十七部に分ち、部に從つて漢語を出し、漢字で和訓を注し、異名を附した所があり、稀に片假名で訓を注し、卷末に木綿について記した漢文の一篇がある。

〖多識君子〗136タシキノクンシ　博識の君子。〔唐書、褚遂良傳〕帝悅曰、人之立レ身、不レ可二以無一レ學、遂良所謂多識君子也。

〖多識二前言往行一〗137オホクゼンゲンワウカウヲシル　多く古人の嘉言善行を識る。〔易、大畜〕君子以三多識二前言往行一、以畜二其德一。

【多疾】138タシツ　疾が多い。多病。

【多日】139タジツ　多くの日數。幾日も。〔詩、邶風、旄丘〕叔兮伯兮、何多日也。

【多謝】140タシヤ　❶厚く禮を述べる。ありがたう。多は厚。〔陸倕、新漏刻銘〕寧可レ使下多二謝曾水一、有中陋二昆吾一、金字不レ傳、銀書未レ勒者上哉。〔辛延年、羽林郎詩〕多謝金吾子、私愛徒區區。〔陶潛、贈二羊長史一詩〕多謝綺與レ甪、精爽今何如。❷多く告げさとす。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作詩〕多謝後世人、戒レ之愼勿レ忘。

【多生】141タシヤウ　佛生死を重ねて幾度も生れ出る

こと。六道を輪廻して多くの生を經ること。〔蘇軾、入レ寺詩〕多生宿業盡、一氣中夜存。

【多情】142 タジヤウ ❶心に感じることが多い。物のあはれを感じることが強い。〔唐彥謙、韋曲詩〕欲レ寫二愁腸一愧二不才一、多情練漉已低摧。〔雍陶、過二南鄰花園一詩〕莫レ怪頻過二有酒家一、多情長是惜二年華一。〔白居易、勸政樓西老柳詩〕半朽臨レ風樹多情。〔張侹、寄レ人詩〕酷憐風月爲二多情一、還到二春時一別恨生。❷tuo^1 ch'ing^2 ㋑うつりぎ。うはき。いろけが多い。多淫。〔紅樓夢、二十八回〕你是個多情。㋺感謝する。

〖多情種子〗143 tuo^1 ch'ing^2 chung^3 tzŭ^3 粹な人。情味ある人。

〖多情多感〗144 タジヤウタカン 物事にあはれをつよく感ずること。〔陸龜蒙、自遣詩〕多情多感自難レ忘、祇有風流共古長。

〖多情多恨〗145 タジヤウタコン 物事によくあはれを感じ心を多く痛めること。多恨(91)を見よ。

〖多情佛心〗146 タジヤウブツシン 多情なことが卽ち佛心であるといふこと。

【多手】147 tuo^1 shou^3 餘計な事をする。何事にも手を出す人。

【多種】148 タシユ いろいろ。多數。多樣。〔梁簡文帝、愛妾換馬樂府〕功名幸二多種一、何事苦二生離一。〔陸游、春日絕句詩〕故園蛺蝶最多種、百草長時花亂開。

【多趣】149 タシユ おもむきが多い。〔陳後主、祓禊汎二舟春日玄圃一詩〕園林多趣賞、祓禊樂還尋。

〖多趣味〗150 タシユミ 趣味のおほいこと。

【多壽】151 タジユ いのちが長い。長命。長壽。〔春秋繁露、循二天之道一〕仁人之所二以多壽一者、外無レ貪而內淸淨。

【多衆】152 タシユウ 多くの人々。大衆(**3**−**5831**‥1122)の❶に同じ。

【多祝】153 タシユク 淸、張永祺(**4**−**9812**‥806)の字。

【多食】154 タシヨク 多く食ふ。〔論語、鄕黨〕沽酒市脯不レ食、不レ撤レ薑食、不二多食一。

【多心】155 タシン ❶疑ひ深い。氣をまはす。〔呂覽、精諭〕口噆不レ言、以レ精相告、紂雖二多心一、弗レ能レ知矣。❷あれこれと心が引かれること。氣の多いこと。〔漢書、陳平傳〕漢王召レ平而問曰、吾聞先生事レ魏不レ遂、事レ楚而去、今又從レ吾遊、信者固多心乎。

〖多心經〗156 タシンキヤウ 〘佛〙般若波羅密多心經の簡稱。唐、釋玄奘譯。一卷。數本あり。唐、釋玄奘譯は其の一。

〖多心傷感〗157 タシンシヤウカン 色々と心配する。〔紅樓夢、三回〕偏多心傷感、只怕傷感不レ了呢。

【多綏】158 tuo^1 suei^1 多福な。多祥な。書翰文常用語。

【多數】159 タスウ 數の多いこと。又、大勢。

〖多數決〗160 タスウケツ 事を議した時、同意者の最も多い意見によつて事を決定すること。

【多制】161 タセイ 制度の煩雜なこと。〔左氏、昭、六〕國將レ亡必多レ制、其此之謂乎。

【多勢】162 タゼイ 多くの人かず。多人數。〔保元物語、親治等生捕〕身方多勢なれば。

【多少】163 タセウ ❶多いと少い。多寡。〔老子、六十三〕大小多少。〔史記、禮書〕以二貴賤一爲レ文、以二多少一爲レ異。〔漢書、蕭何傳〕具知三天下阸塞、戶口多少强弱處、民所二疾苦一。❷おほい。少は助字。〔孟浩然、春曉詩〕夜來風雨聲、花落知多少。〔孫存吾、秋思詩〕眼前多少關心事、付二與寒蛩一徹夜吟。〔毛奇齡、贈二柳敬亭一詩〕江南多少前朝事、說二與人間一不レ忍レ聽。❸いかほど。若干。幾らか。〔南史、蔡撙傳〕尙有二堪レ事者多少一。

〖多少客〗164 タセウノカク 多くの客。〔釋元政、伏見途中詩〕來往風塵多少客、桃花夾レ道不レ回レ頭。

〖多少次〗165 tuo^1 shao tz'ŭ^4 幾度。何回。

〖多少錢〗166 tuo^1 shao ch'ien^2 價はいくらか。

〖多少樓臺〗167 タセウノロウダイ 多くのたかどの。〔杜牧、江南春詩〕南朝四百八十寺、多少樓臺煙雨中。

〖多少少年亡〗168 tuo^1 shao shao^4 nien^2 wang^2 多くの年若い者が死ぬこと。

【多擾】169 tuo^1 jao^3 御馳走になりました。お邪魔致しました。

【多積】170 タセキ 多く貯へる。〔禮、儒行〕不レ祈二多積一。〔孔子家語、儒行解〕不レ求二多積一。

【多節】171 タセツ ふしが多い。〔劉禹錫、詶三元九侍御贈二璧州鞭一長句詩〕多節本懷二端直性一、露青猶有二歲寒心一。

【多錢】172 タセン 金錢を多く持つてゐること。多錢翁・多錢善賈を見よ。

〖多錢翁〗173 タセンヲウ 金錢を多く持つてゐる老人。〔貴耳集〕有二一多錢翁一、每自誇レ侈。

〖多錢善賈〗174 タセンヨクコス 資本の多い者はうまく商賣をする。資財に富むものは事を成し易い喩。〔韓非子、五蠹〕鄙諺曰、長袖善舞、多錢善賈、此言二多資之易レ爲レ工也。

【多足】175 タソク 足の數が多い。〔宋史、曹翰傳〕蟹水物而陸居失レ所也、且多レ足。

〖多足類〗176 タソクルイ 節足動物の一。陸上に生息し、體軀が長く、節每に一對或は二對の足を備へてゐる。

【多遜】177 タソン 常に從順なこと。〔書、多士〕我乃明致二天罰一、移二爾遐逖一、比事臣二我宗一、多遜。

【多多】178 タタ ❶多ければ多い程。〔元稹、善歌如二貫珠一賦〕漸杳杳而無レ極、以多多而益貴。❷多く。澤山。大層。非常に。〔法言、問神〕言二書不經一、多多贅矣。〔李衞公問對、上〕多多倣レ此。❸tuo^1 tuo^1 十分に。くれぐれも。

〖多多許〗179 タタキヨ 多く。澤山。〔世說新語、賞譽〕簡文道二王懷祖一、才既不レ長、於二榮利一又不レ淡、直以二眞率少許一、便足レ對二人多多許一。

〖多多益善〗180 タタマスマスヨシ 多ければ多い程うまく處置する。多多益辦。〔史記、淮陰侯傳〕上問曰、如レ我能將二幾何一、信曰、陛下不レ過三能將二十萬一、上曰、於レ君如何、曰、臣多多而益善耳。

〖多多益辦〗181 タタマスマスベンズ 多多益善に同じ。〔漢書、韓信傳〕上曰、如レ公何如、曰、如レ臣多多益辦耳。〔書言故事、讚嘆類〕多了レ事、曰二多多益辦一。

〖多多良岐莊〗182 タタラキノシヤウ 但馬の莊園の名。〔東鑑、十四〕建久五年閏八月十二日、以二但馬國多多良岐莊一、始爲二地頭補任之地一。

【多態】183 タタイ いろいろのなりをすること。色々な態度。〔淮南子、主術訓〕上多レ故則下多レ詐、上多レ事則下多レ態。〔陸游、詩〕出レ岫雲多レ態、呼レ風爲獨吟。

【多大】184 タダイ ❶非常に多い。澤山。〔歐陽脩、朋黨論〕自レ古爲レ朋之多且大、莫レ如レ周。❷tuo^1 ta^4 ㋑幾何。何程。いくつ。㋺どれ程大きいか。

〖多大年紀〗185 tuo^1 ta^4 nien^2 chi 幾歲であるか。

【多盜】186 タタウ 盜賊が多い。〔左氏、襄、二十一〕於レ是魯多レ盜、季孫謂二臧武仲一曰、子盍レ詰レ盜。

【多鐸】187 タタク 淸の太祖の第十五子。和碩豫親王に封ぜられ、太宗に從つて朝鮮を征し、遂に之を降す。世祖が關に入つた時、陝西・江南・蘇尼特を平定し、輔政王に封ぜられた。〔淸史稿、二百二十四〕・〔國朝耆獻類徵、首五〕・〔碑傳集、一〕。

【多貪】188 タタン 多く貪る。〔左氏、襄、三十一〕大夫多貪、求欲無レ厭。

【多端】189 タタン する事が多い。いそがはしい。端は、事業の緒。〔淮南子、詮言訓〕賈多端則貧。〔史記、平準書〕吏道雜而多端、則官職耗廢。〔何晏、景福殿賦〕惟工匠之多端。

【多歎】190 タタン 感じなげくことが多い。多くのなげき。〔湯惠休、楊花曲〕江南相思引、多歎不レ成レ音。

【多男】191 タダン ❶男子を多く生む。〔莊子、天地〕堯觀二乎華一、華封人曰、嘻、聖人、請祝二聖人一、使二聖人壽一、堯曰、辭、使二聖人富一、堯曰、辭、使三聖人多二男子一、堯曰、辭。〔王安石、賀レ生二皇子一表〕螽斯之言二衆子一、是爲二王者之時一、華封之祝二多男一、亦曰二聖人之事一。❷男が多い。〔淮南子、墬形訓〕山氣多レ男、澤氣多レ女。

【多談】192 タダン 多く談ずる。〔後漢書、竇融傳論〕經國之術、無レ足二多談一。〔楊惲、報二孫會宗一書〕方當二盛漢之隆一、願勉レ旃、無二多談一。

【多知】193 タチ 多く知る。〔杜甫、鸚鵡詩〕翠衿渾短盡、紅嘴漫多知。

〖多知爲レ雜〗194 タチハザツヲナス 多く事物を知れば却つて雜駁で紀律がない。〔法言、問神〕或曰、淮南・太史公者、其多知歟、曷其雜也、曰、雜乎雜、人病下以二多知一爲上レ雜、惟聖人不レ爲レ雜。

【多智】195 タチ 智慧が多い。〔史記、樗里子傳〕樗里子、滑稽多智、秦人號曰二智囊一。

【多定】196 タヂヤウ おほかた。多分。〔水滸傳、八十

六回〕毎日王婆在二茶坊裏一坐地、這早晩多定正在二那裏一。

【多寵】198 タチヨウ 寵人が多い。〔左氏、襄、二十二〕國多レ寵而王弱。〔列子、力命〕齊公族多レ寵。〔淮南子、人間訓〕少レ德而多レ寵。

【多通】199 タツウ ひろく事物に通ずる。〔後漢書、樊志張傳〕博學多通、隱レ身不レ仕。

【多添】200 タテン ます。ましそへる。加添。〔楊萬里、詩〕窓扇透明仍桂上、爐香未レ盡又多添。

【多蠹】201 タト 多くの惡者。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕非三多蠹嚼二呑于坊肆一、卽累日困二閉于鋪倉一。

【多頭】202 tuo^1 t'ou 手持品の多い商人。空頭の對。

【多動】203 タドウ 心や行が移り動いて定まらないこと。〔文中子、魏相〕子曰、多言不レ可二與遠謀一、多動不レ可二與久處一。

【多瑙】204 タドナウ 川の名。歐羅巴洲第二の大河。源はドイツの西南部シュヴァルツヴァルト。黑海に注ぐ。Donau の音譯。Danube の別名。

【多南】205 タナン 果實の名。〔太平御覽、果部〕多南子、如二指大一、其色紫、味甘與二梅子一相似、晉安侯官界中有レ之。

【多難】206 タナン 難儀が多い。多くの難儀。多艱。多故。〔詩、周頌、訪落〕未レ堪二家多レ難。〔左氏、昭、三〕國家多難、是以不レ獲。〔老子、六十三〕多レ易必多レ難。〔白居易、答下李遜等謝二恩令一附二入屬籍一表上〕逢二多難一嘗立二大功一。

【多肉】207 タニク 肉が多い。肥えてゐること。〔埤雅〕雄者多レ肉、失レ雌常不レ能二獨活一。〔杜甫、李鄠縣丈人胡馬行〕始知神龍別有レ種、不レ比俗馬空多肉。

〔多肉葉〕208 タニクエフ 植物の葉の、特に厚いもの。水分や養分を貯藏する作用を營む。松葉牡丹の類。

〔多肉果〕209 タニククワ 梅・桃・梨等のやうに、果皮に包まれた柔かな汁の多い肉の部分をもち、成熟しても乾燥しない果實。

【多人】210 タニン 多勢の人。〔史記、刺客、聶政傳〕今殺二人之相一、相又國君之親、此其勢不レ可レ以二多人一。

〔多人房〕211 タニンバウ 室の名。正房（**6－16255**‥372）を見よ。

【多年】212 タネン 多くの歲月。ながねん。〔舊唐書、李密傳〕愛レ之如二父母一、敬レ之若二神明一、用能享レ國多年、祚延長世。〔白居易、長恨歌〕漢皇重レ色思二傾國一、御宇多年求不レ得。

〔多年生草本〕214 タネンセイサウホン 地下部が三年以上生存し、冬季地上部が枯れても春に芽を出す草。菊・おもとなど。

〔多年生植物〕215 タネンセイシヨクブツ 三年以上生存する植物。木のすべてと草の一部が之に屬す。

〔多年爲二老娘一倒二繃孩兒一〕216 タネンラウヂヤウトナリガイジヲタウハウス 長年結婚せずに年老いた娘は、子供のあつかひかたを知らず、赤兒をさかさまに縛りつける。〔通俗編、倫常、多年爲二老娘一倒二繃孩兒一〕張師正倦游錄、苗振將レ試二館職一、晏相曰、宜二稍溫習一、振曰、豈有下三十年爲二老娘一倒二繃孩兒一者上乎、既試不レ中レ選、晏笑曰、苗君竟倒二繃孩兒一矣、按、今諺有レ云、多年老娘錯二翦臍帶一、卽此語耳。

【多能】217 タノウ 才能の多いこと。〔論語、子罕〕夫子聖者與、何其多能也。〔說苑、至公〕秀嬴多能。

【多敗】218 タハイ 失敗が多い。〔孔子家語、觀周〕無二多言一、多言多レ敗。

【多方】219 タハウ ㊀四方の國。多くの國。〔書、多方〕告二爾四國多方一。㊁いろいろのむき。種々の方法。多端。多方面。〔列子、說符〕大道以二多岐一亡レ羊、學者以二多方一喪レ生。〔莊子、駢拇〕多二方乎仁義一。〔墨子、公孟〕人之所レ得二於病一者多方。〔楚辭、招魂〕室家遂宗、食多方些。〔注〕方、道也、云云、故飲食之和多二方道一也。㊂書經、周書の篇名。眞古文。成王の卽位した翌年、奄と淮夷とが叛いたので、奄を滅し、役より歸つて此の篇を作る。〔書、多方序〕成王歸レ自レ奄、在二宗周一、誥二庶邦一、作二多方一。〔蔡傳〕成王卽レ政、奄與二淮夷一又叛、成王滅レ奄、歸作二此篇一、云云、亦誥體也、今文古文皆有。

〔多方面〕220 タハウメン 多くの方面。多方。

〔多方以誤レ之〕222 タハウモツテコレヲアヤマル 種々の方略を廻らして敵を欺くこと。〔左氏、昭、三十〕(伍員)對曰、楚執レ政衆而乖、莫二適任レ患、若爲二三師一以肄焉、一師至、彼必皆出、彼出則歸、彼歸則出、楚必道敝、亟肄以罷レ之、多方以誤レ之、既罷而後、以二三軍一繼レ之、必大克レ之。

【多邦】223 タハウ 木の名。絳木。〔駢雅、釋木〕多邦、絳木也。〔明一統志、九十、外夷、安南土產二蘇木一、原注〕一名、多邦。

【多寶】224 タハウ 寶物が多い。又、多くの寶。〔易林〕天都王市、稠レ人多レ寶。〔楊烱、李懷州墓誌銘〕玉林多レ寶、天族多レ奇。

〔多寶塔〕225 タホウタフ [佛] ㊀釋迦が靈鷲山で法華經を說いた時、地下から出現したといふ多寶如來の、全身の舍利を安置した塔。基壇上に二重の屋を構へ、頂に相輪を設けた塔。〔法華經、見寶塔品〕爾時佛告二大樂說菩薩一、此寶塔中有二如來全身一、乃往過去東方無量千萬億阿僧祇世界國名二寶淨一、彼中有レ佛、號曰二多寶一、其佛本行二菩薩道一時、作二大誓願一、若我成佛滅度之後、於二十方國土一、有下說二法華經一處上、我之塔廟爲レ聽二是經一故涌二現其前一、爲作二證明一。㊁廣東省樂昌縣の北の白石峯上の舍利塔をいふ。〔宋之問、記〕白石峯、從二山腰一拔起如二卓筆一、峯頂舍利塔、俗呼爲二多寶塔一、釋氏書云、佛滅度後所レ遺舍利、建レ塔藏焉、東晉時、耶舍尊者自二西域一奉二舍利一來、於レ此建レ塔。㊂多寶塔碑の略。

〔多寶佛〕226 タホウブツ [佛] 東方寶淨世界の佛が、入滅後、本願を以て全身舍利となり、諸佛法華經を說く前に必ず出現する佛。法華經の眞實義なることを證明せんが爲に地より涌出した佛。〔大智度論、七〕有二諸佛一無二人請一者、便入二涅槃一、而不レ說レ法、如下法華經中多寶世尊無二人請一、故便入二涅槃一、後化二佛身及七寶塔一、證レ說二法華經一故一時出現上。

〔多寶塔碑〕227 タホウタフヒ 碑の名。唐の玄宗の天寶十一年、陝西省長安縣の千福寺に、敕によつて建てた楚金の舍利塔碑で、今、西安府碑林內に保存せられてゐる。額內に大唐多寶堦感應碑の八字を二行に刻し、碑文は岑勛撰、顏眞卿の書である。筆法が整齊なので、古來書家の用に供せられた。〔岑勛、西京千福寺多寶佛塔感應碑〕粵若妙法蓮華諸佛之祕藏也、多寶佛塔證經之踊現也。〔寰宇訪碑錄、唐〕千福寺多寶塔感應碑、岑勛撰、顏眞卿正書、天寶十一載四月。

〔多寶如來〕228 タホウニヨライ [佛] 菩薩の名。東方寶淨世界の佛が入滅後、本願を以て全身舍利となり、諸佛の法華經を說く前に必ず出現する佛。多寶佛。〔法華經、見寶塔品〕此寶塔中有二如來全身一、乃往過去、東方無量千萬億阿僧祇世界國名二寶淨一、彼中有レ佛、號曰二多寶一。

【多忙】229 タバウ いそがはしい。繁忙。繁多。

【多望】230 タバウ 將來にのぞみが多いこと。將來に多くの希望があること。

【多半】231 タハン 大部分。過半。〔方干、送三孫百篇遊二天台一詩〕更有三仙花與二靈鳥一、恐君多半未レ知レ名。〔林逋、小隱自題詩〕嘗憐古圖畫、多半寫二樵漁一。

【多般】232 タハン 多い。事の多いこと。〔宋史、樂志十四〕求二淑女一兮、豈樂多般。

【多飯】233 タハン 多量にめしを食ふ。〔淮南子、說林訓〕近二敖倉一者、不二爲レ之多飯一、臨二江河一者、不二爲レ之多飮一、期レ滿レ腹而已。

【多費】234 タヒ 多くの費用。費用の多いこと。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕押レ差喚レ卯行杖鋪堂種種多費、是以二排年之一身一而當二全里之重困一。

【多病】235 タビヤウ タヘイ しばしばわづらふ。病氣がち。多疾。〔史記、吳王濞傳〕陛下多病志失。〔漢書、張良傳〕良多病、未二嘗特將レ兵。〔杜甫、野望詩〕惟將二遲暮一供二多病一、未レ有三涓埃答二聖朝一。〔李郢、江亭晚望霽詩〕無レ愁自得二仙人術一、多病能忘二太史書一。

〔多病方知健是仙〕236 tuo^1 ping^4 fang^1 chih^1 chien^4 shih^4 hsien^1 多病になつて始めて健康の幸福なことが解る。

【多冰】237 タマ 地名。詳かでない。一說に、多末の誤で多摩郡であるとし、又一說に、太婆の通音とする。〔日本書紀、安閑天皇紀〕奉レ置二橫渟・橘花・多冰・倉樔四處屯倉一。

【多風】238 タフウ 風が多い。〔厲鶚、春寒詩〕漫脫二春衣一浣二酒紅一、江南二月最多風。

【多福】239 タフク 多くの幸福。多幸。多祜。多祉。三多（**1－12**‥1149）の一。〔書、畢命〕予小子永膺二多福一。〔詩、大雅、文王〕永言配レ命、自求二多福一。〔班固、兩都賦、明堂詩〕允懷二多福一。

【多物】240 多くの物。〔國語、鄭語〕講以多物、務和同也。

【多份】241 tuo^1 fen^4 多數。多種類。

〖多份電報〗242 tuo^1 fen^4 tien^4 pao^4 同文電報。

【多分】243 ❶多い。たくさん。〔諸經要集〕我與汝多分。❷おほかた。たいてい。十中の八九。

【多文】244 學問の深いこと。多文爲富を見よ。

〖多文爲富〗245 古人の文を多く誦し、學問が深いこと。〔禮、儒行〕不祈多積、多文以爲富。

【多聞】246 ❶多く聞く。又、見聞の多い人。〔書、說命下〕人求多聞。〔論語、爲政〕子曰、多聞闕疑、愼言其餘、則寡尤。〔論語、季氏〕友直、友諒、友多聞、益矣。〔國語、楚語下〕人之求多聞、善敗以鑑戒也。〔荀子、脩身〕多聞曰博。〔新書、保傅〕多聞而道順。❷佛 おほく法文を聞いて受持する。〔維摩經、菩薩品〕多聞是道場、如聞是行故。❸城の周圍を長屋作りにしたもの。一說に、城の櫓の異名。又、渡り櫓のある城門ともいふ。松永久秀が大和の志貴山の毘沙門堂の上にきづいて多聞城と名づけたのに始まる。多門。〔和事始〕。

〖多聞主〗247 佛 多聞天に同じ。〔法苑珠林〕北方天王、名毗沙門、此云多聞主。

〖多聞天〗248 佛 毘沙門天の譯名。福德を守護し、夜叉羅刹を司り、北方の天を支配する。多門天王。

〖多聞多雜〗249 多く聞けば混雜する。〔何晏、景福殿賦〕多聞多雜、多雜眩眞。〔注〕向曰、人之多聞、必有混雜而眩惑其眞性。

【多辟】250 ❶多くの諸侯。辟は君。〔詩、商頌、殷武〕天命多辟、設都于禹之績。〔傳〕辟、君。❷よこしまの多いこと。辟は邪辟。多僻。〔詩、大雅、板〕民之多辟、無自立辟。〔箋〕民之行多爲邪辟者、乃女君臣之過、無自謂所建者爲法也。〔集傳〕辟、邪也。〔左氏、宣、九〕孔子曰、詩云、民之多辟、無自立辟、其洩治之謂乎。

【多僻】251 よこしまの多いこと。〔晏子、問、上〕無以多辟傷百姓。多辟の❷に同じ。〔後漢書、張衡傳〕覽蒸民之多僻兮、畏立辟以危身。〔注〕僻、邪也。

【多駢】252 くつつき合つた指が多いこと。駢は、指と指とが合して一つの指をなすこと。邪說の喩。〔莊子、駢拇〕多駢旁枝之道、非天下之至正也。

【多辯】253 よくしやべる。多言。多口。〔史記、滑稽、淳于髡傳〕滑稽多辯、數使諸侯、未嘗屈辱。

【多麼】254 tuo^1 mê ❶どんなに。❷非常に。

〖多麼好〗255 tuo^1 mê hao^3 非常に好い。特別によい。

【多命】258 おほくの人の生命。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕適蒙憲檄、以誣殺多命一案、委于嶧縣會審。

【多面】259 平面の多いこと。又、さまざまであること。多方面。

〖多面角〗260 一點を共有し、且二つづつ順次に交はる三つ以上の平面から成る圖形。其の平面の數の三・四・五などなるに從つて三面角・四面角・五面角などいふ。

〖多面體〗261 多くの面に包圍せられてゐる「立體。

〖多面多趣〗262 物の有樣の色々さまざまなこと。又、趣味の多いこと。

【多門】263 ❶出る所が多い。政令の一途に出ないことをいふ。〔左氏、襄、三十〕政多門、以介於大國。〔杜甫、三韻三篇〕烈士惡多門、小人自同調。❷多聞(246)の❸に同じ。〔理齋隨筆、六〕。❸姓氏。〔和爾雅〕。

【多樣】264 種々のおもむき。色々なありさま。

〖多樣時〗265 tuo^1 yang^4 shih^2 しばらく。暫時。〔水滸傳、十七回〕多樣時、只見兩箇小頭目上關來。

【多餘】266 餘計。餘分。〔列子、黃帝〕爲食羹之貨、無多餘之贏。

【多用】267 用事の多いこと。

【多容】268 ひろく受けいれる。〔荀子、致士〕寬裕而多容。〔韓詩外傳、三〕大道多容。

【多欲】269 欲が多い。〔孟子、盡心下〕其爲人也多欲、雖有存焉者寡矣。〔荀子、正名〕困於多欲者也。〔史記、老子傳〕驕氣與多欲。

【多羅】270 ❶化粧ばこ。〔太平御覽、服用、多羅〕纂文曰、多羅、粉器、扶南傳曰、扶南國王、以純金多羅遺毗騫王。〔楊復吉、夢蘭瑣筆〕康泰扶南傳曰、扶南國以純金多羅遺毗騫王、楊用修曰、多羅、奩器、王士禛詩、玉奩清曉拂多羅、卽脂粉箱也。❷清代、爵位の上に加へる美稱。多羅郡王(274)を見よ。❸佛 tārā の音譯。㋑眼。眼瞳。〔蘇婆呼經、下〕多羅、此云妙目精。〔大日經疏、五〕多羅、是眼義。〔不空羂索心咒王經、中〕多羅、周云瞳子。㋺木の名。岸樹。高竦樹。〔玄應音義、二〕多羅、按西域記云、其樹形如椶櫚、極高者七八十尺、果熟則赤如大石榴、人多食之、東印度界其樹最多。〔慧苑音義、上〕其形似椶櫚樹也、體堅如鐵、葉長稠密、縱多時大雨、其葉蔭處、乾若屋下、又或翻爲高竦樹也。㋩多羅觀世音のこと。〔大方廣曼殊室利經、觀自在菩薩授記品〕多羅大悲者、一切之慈母、天人及藥叉無一非子者、故號世間母。

〖多羅葉〗271 佛 多羅の樹の葉。其の葉は椶櫚に似、之を乾燥して文字を刻する。其の法は南方では錐を以て之を彫り、後に墨汁を入れ、北方では竹筆に墨汁をひたして書く。〔西域記、十一〕南印建那補羅國北、有多羅樹林三十餘里、其葉長廣、其色光潤、諸國書寫、莫不採用。

〖多羅果〗272 佛 果實の名。石榴のやうなもの。〔玄應音義、二十四〕華白而大若捧兩手、果熟卽赤狀如石榴、生經百年、方有華果、舊言貝多、訛也。

〖多羅格格〗273 清代、郡王及び貝勒の女の敬稱。格格(**6－14749**・・4)の❸を見よ。〔清會典、宗人府〕多羅格格爲縣主、貝勒多羅格格爲郡君。

〖多羅郡王〗274 清朝、有爵宗室の第三等。清朝の皇族は宗室・覺羅の二つに大別せられ、宗室は顯祖宣皇帝の直系子孫を稱し、覺羅は傍系子孫を稱す。又、宗室は有爵宗室・無爵宗室の二と爲し、有爵宗族の爵封は和碩親王以下十二級ある。多羅は滿洲語の美稱。〔清會典、宗人府〕凡宗室封爵之等十有二、曰、和碩親王、曰、多羅郡王、曰、多羅貝勒、曰、固山貝子、曰、奉恩鎭國公、曰、奉恩輔國公、曰、不入八分鎭國公、曰、不入八分輔國公、曰、鎭國將軍、曰、輔國將軍、曰、奉國將軍、曰、奉恩將軍。

〖多羅貝勒〗275 清代、有爵宗室の第五等。多羅郡王を見よ。

【多蘭】276 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕多蘭氏、後魏初、多蘭部大人、因氏焉。

【多量】277 分量が多い。たつぷり。たくさん。

【多略】278 計略が多い。〔陸機、漢高祖功臣頌〕絳侯質木、多略寡言。

【多力】279 力がつよい。〔戰國、韓策〕今王兩用之、其多力者內樹其黨。〔荀子、王制〕一則多力。〔孫子、軍形〕擧秋毫不爲多力。

【多倫】280 縣名。民國、置く。金の桓州、元の上都、明の開平衞の地。清初、察哈爾牧場とし、東北は內蒙古克什克騰旗の一部を兼ねた。雍正十一年、多倫諾爾理事同知廳を設け、光緒七年、撫民同知と改む。察哈爾省興和道。縣治は土名喇嘛廟。

〖多倫多〗281 地名。カナダ、オンタリオ湖岸の都邑。Toronto の音譯。

〖多倫諾爾〗282 廳の名。清、置く。もとの多倫泊。七星潭の譯で、附近に七湖が有るから名づく。城は多倫泊の北に當り、南は上都河に臨む。民國改めて多倫縣とす。多倫を見よ。〔清史稿、地理志〕直隸、多倫諾爾廳、順治初、置上都牧廠、屬宣府鎭、康熙三十年、喀爾喀爲準逆所破、車駕蹕此受降焉、雍正十年、置理事廳、光緒七年、改撫民、西南距省治一千一百里、北極高四十二度二十八分二十秒、京師偏西六分。

〖多倫尼托克安圖〗283 土司の名。青海省の南境、雜楚河の東濱。西番土司四十族の一。多倫尼托克は蒙古に役屬した時の名。今、阿薩克・克列至・克阿永・克葉爾濟・克拉爾濟・克典巴の六族と幷びに安沖の一族。安沖は安圖をいひ、一に南兎に作る。

【多禮】284 よく禮儀を守る。丁寧すぎる。〔法言、吾子〕劍客論曰、劍可以愛身、曰、狴犴使人多禮乎。〔注〕若使擊劍可衞身、則囹圄之

牢、有二三木之威一、囚者多恭、豈使二人多禮一乎。

【多麗】285 タレイ 詞牌の名。又、鴨頭綠・綠頭鴨といふ。

【多露】286 タロ 露が多い。三月四月は露の多い時で昏姻の正時仲春を失つた喩。又、男女は禮を以て往來すべき喩。〔詩、召南、行露〕豈不二夙夜一、謂二行多レ露。〔箋〕道中始有レ露、謂二二月中嫁娶時一也、言、我豈不レ知レ當三早夜成二昏禮一與、謂、道中之露太多、故不レ行耳。〔集傳〕蓋以三女子早夜獨行、或有二強暴侵陵之患一、故託以三行多レ露、而畏二其沾濡一也。

【多一半】287 tuo^{1} i^{2} pan^{4} 過半。多半。

【多葉花】288 tuo^{1} yeh^{4} hua^{1} 八重咲きの花。

【多項式】289 タカウシキ 加號、又は減號を以て、二つ以上の項を結び付けた整式。

【多香木】290 タカウボク 木の名。蜜香(10－33143‥2)の異名。〔本草、蜜香〕釋名、木蜜・沒香・多香木・阿磋、集解、時珍曰、廣州志云、肇慶新興縣出二多香木一、俗名二蜜香一、辟二惡氣一、殺二鬼精一。

【多牛翁】291 タギウヲウ 田舍で土地をもつてゐる者。〔蘇軾、書二晁說之考牧圖後一詩〕世間馬耳射二東風一、悔レ不三長作二多牛翁一。

【多花子】292 タクワシ 鳥の名。鸚鵡の異名。〔事物異名錄、禽鳥上、鸚鵡〕幽怪錄、柳歸舜自二江南一抵二巴陵一、爲二大風一吹至二君山下一、維レ舟登レ岸、見三鸚鵡數千相二呼姓字一、有下名二戴蟬兒一者上、有下名二阿蘇兒一者上、有下名二武遊郎一者上、有下名二鳳花臺一者上、有下名二武仙郎一者上、有下名二自在先生一者上、有下名二踏蓮露一者上、有下名二多花子一者上。

【多景樓】293 タケイロウ 樓の名。江蘇省北固山甘露寺內。宋の郡守陳天麟が建てた。唐の臨江亭の故址。〔蘇軾、潤州甘露寺彈箏詩〕多景樓上彈二神曲一、欲レ斷哀絃再三促。〔牟巘、長江圖詩〕漢川影落鸚鵡洲、金山鐘到多景樓。

【多元論】294 タゲンロン 宇宙の諸現象は、獨立自存する多くの實在の集合であると說く哲學說。一元論(**1－1**‥538)・二元論(**1－247**‥299)の對。

【多胡碑】295 タゴノヒ 日本三古碑の一。群馬縣多野郡吉井町大字池字御門にある。和銅四年、吉井連の先、羊大夫領地恩賞の記念碑と傳へ、羊大夫碑・辨官符碑ともいふ。碑文は「辨官符、上野國片岡郡、綠野郡、甘良郡、并三郡內、三百戶郡成給レ羊成二多胡郡一、和銅四年三月九日甲寅宣、左中辨正五位下多治比眞人、太政官二品穗積親王、左太臣正二位石上尊、右太臣正二位藤原尊」。此の碑は、古く連歌師宗長の紀行「東路のつと」(永正六年1509)に碑銘の一部が引かれ、伊藤東涯の「盍簪錄」によつて廣く知られるに至つた。ついで寶曆年間、澤田東江・高橋道齋が模刻し「上毛多胡郡碑帖」として刊行し、これが中國に渡り、葉志詵の「平安館金石文字」に載せられ、わが金石文が中國に賞せられる初となつた。碑文の內容は、續日本紀和銅四年(711)三月六日の條に見える多胡建郡の記事と符合する。官符の趣旨を摘錄したもの。古來、給羊の二字は難讀とせられてゐる。羊は誤字說・省文說・方角說・人名說などがあるが、人名說が有力である。羊が郡司の職についたことを「羊に給ふ」と記したのであらう。

【多根樹】296 タコンジュ 西域にあるといふ木の名。〔琅琊代醉編、多根樹〕佛經云、西域多根樹、蔽芾而婆娑、東西南北中、五方不二相見一、國中有二姪女一、求レ偶者衆多、初有二一男一、求レ女約二中枝一、會復有二四男子一、亦欲レ求レ之宿、女亦以レ言許、東西與二南北一、各各抱レ被去、至レ曉女不レ來、東枝郎唱曰、旭日光已出、農夫向レ田去、妄語既不レ來、可レ捨二多根樹一、西枝郎吟曰、彼妙必然來、定是不二妄語一、如何旭日光、急速現二下土一、南枝男歎曰、旭日光已出、農夫早向レ田、我等如二癡羊一、一夜受レ凍眠、北枝男賡曰、我等沒二巴鼻一、只爲レ求二他妻一、今遭二寒與レ凍、各各被二他迷一、中枝郎泣曰、我不レ憂二己身一、一夜寒凍情、但恐多根樹、枝葉不二復生一、樹神聞而笑曰、汝勿レ憂二外事一、但憂二身事一急、樹枯生有レ時、欲苦無二停息一、此語不經之甚、然足三以警二世之縱情好色者一、使二尾生讀レ之、當二亦汗顏一。

【多草月】297 タクサヅキ 陰曆五月の異稱。〔莫傳抄〕五月雨に空も少きさくも月、たくさ月とは是れを云はまし。

【多爾袞】298 トルクン 清の太祖の第十四子。謚は忠。智謀が多く、勇略絕倫。察哈爾全部を收めて和碩睿親王に封ぜられ、李自成を破つて京師を定め、世祖を迎へて關に入らせた。時に世祖は年が幼少であつたから、政事を攝行して、攝政王に封ぜられ、喀喇城に卒す。〔清史稿、二百二十四〕・〔國朝耆獻類徵、首四〕・〔碑傳集、一〕。

【多神教】299 タシンケウ 多數の神の存在を認めて崇拜する宗教。一神教(**1－1**‥2426)の對。

【多積禮】300 トチリ 清、滿洲正紅旗人。姓は棟鄂氏。天聰・崇德の間、從つて大陵河を圍み、瓦爾喀・烏扎喇部を征し、洪承疇を破る。官は本旗副都統に至る。〔清史稿、二百三十一〕・〔國朝耆獻類徵、三百六十二〕。

【多舌魚】301 タゼツギョ 佛 憍薩羅國(Kosala)の毘留離王(Virūdhaka)の惡を助けて釋種を滅さしめた梵志は、前世に於ては多舌魚で、同類を害したといふ。

【多舌龍】302 タゼツリョウ 佛 神の名。多言であるからいふ。〔海錄碎事、鳥獸、龍〕德叉迦龍王、舊云二多舌龍一、由二多言一故、此是第六般若波羅蜜門善說多法、故云二多舌一、託二此龍位一、寄二顯法一故。

【多則惑】303 タナレバスナハチマドフ 多ければそれにまよふ。〔老子、二十二〕少則得、多則惑。

【多遲比】304 タヂヒ 草の名。虎杖（イタドリ）の古名。〔日本書紀、反正紀〕洗二太子一時、多遲花有二于井中一、因爲二太子名一也、多遲花者、今虎杖花也、故稱謂二多遲比瑞齒別天皇一。

【多着的】305 tuo^{1} chê tê 澤山ある。多數の。

【多田翁】306 タデンオウ 唐、盧從愿(**8－23050**‥240)の異稱。其の殖產を盛にし、良田數百頃を占有したからいふ。〔唐書、盧從愿傳〕從愿盛二殖產一、占二良田一數百頃、帝自レ此薄レ之、目爲二多田翁一。

【多邊形】307 タヘンケイ 三つ以上の直線で圍まれた平面形。多角形。〔幾何要法、論方形〕有二多邊直線形一。

【多濫葛】308 タランカツ 多覽葛に同じ。

【多覽葛】309 タランカツ 唐代、漢北の部族の名。鐵勒諸部の一。多濫葛とも書く。薛延陀(Syrtadush)の東、同羅水(Toghla)河畔に遊牧してゐた。アルタイ山方面から東遷して來た薛延陀部が六三〇年、オルコン Orkhon 河畔を中心に國を建てた後は、それに屬したが、やがて薛延陀の統制が崩れると、唐に內屬した。(647)〔唐書、多覽葛傳〕多覽葛亦曰二多濫葛一、在二薛延陀東一、濱二同羅水一。〔續通志、四夷傳〕多覽葛、在二薛延陀東一、延陀滅、其酋俟斤、多濫葛末與二回紇一皆入朝、以二其地一爲二燕然都督府一、授二右武衞大將軍一、卽爲二府都督一。

【多利思】310 タリシ 複姓。〔隋書、倭國傳〕多利思北孤、號二阿輩雞彌一、遣レ使朝貢。

【多隆阿】311 トルンア 清の人。蒙古正白旗人。字は禮堂。謚は忠武。咸豐の初、僧格林沁に屬し、後、都興阿に從ひ、湖北を援け、武漢に克ち、小池口を破り、九江を復し、李續賓が三河に敗れた後、遂に皖事を專領す。宿松・太湖の戰に功尤も著はれ、將軍となり、一等男に封ぜられ、死後、太子太傅を贈られた。〔清史稿、四百十五〕・〔清史列傳、五十〕・〔續碑傳集、六十七〕。

【多隆武】312 トルンウ 清、滿洲鑲白旗人。姓は庫雅勒呢瑪奇氏。嘉慶の間、四川提督に累擢せられ、黑龍江副都統に至る。〔國朝耆獻類徵、三百十七〕。

【無二多地一】313 タチナシ 少いこと。地は助辭。〔潘芳勳、詩〕水村選レ勝無二多地一。

【不レ加レ多】314 オホキヲクハヘズ 多くはならない。增しはしない。〔孟子、梁惠王上〕寡人之民、不レ加レ多、何也。

【不レ足レ多】315 タトスルニタラズ ほめるに値しない。〔劉禹錫、唐故柳州刺史柳君集〕雄深雅健、似二司馬子長一、崔蔡不レ足レ多也。

【無二多路一】316 タロナシ あまり遠くない。〔白居易、送二考功崔郎中赴レ闕詩〕青雲上了無二多路一、卻要徐驅穩著レ鞭。〔李商隱、無題詩〕蓬山此去無二多路一、青鳥殷勤爲二探看一。〔譚峭、大言詩〕蓬萊信道無二多路一、只在二譚生柱レ材閒一。

【多葉郁李】317 タエフイクリ 木の名。庭櫻。

【多伽羅香】318 タカラカウ 香料の名。乳香(**1－190**‥13)の㊀の異名。〔本草、熏陸香・乳香〕釋名、馬尾香・天澤香・摩勒香・多伽羅香、時珍曰、佛書謂二之天澤香一、言二其潤澤一也、又謂二之多伽羅香一。

【多暇日菴】319（タカジツアン） 淸、董蠡舟(**9－31433・・271**)の號。

【多賀城碑】320（タガジヤウノヒ） 日本三古碑の一。宮城縣宮城郡多賀村市川の多賀城址にある。多賀城は奈良朝に蝦夷に備へて鎭所を築き、後、陸奥の國府をも併置した。碑文の內容は、多賀城から各地への距離、及び多賀城の建置修造について記す。天平寶字六年十二月の建立とあるが、或は後世の僞作ともいはれる。碑文は「多賀城、去ㇾ京一千五百里、去㆓蝦夷國界㆒一百二十里、去㆓常陸國界㆒四百十二里、去㆓下野國界㆒二百七十四里、去㆓靺鞨國界㆒三千里、此城、神龜元年歲次甲子、按察使兼鎭守將軍從四位上勳四等大野朝臣東人之所ㇾ置也、天平寶字六年歲次壬寅、參議東海東山節度使從四位上仁部省卿兼按察使鎭守將軍藤原惠美朝臣朝獦、修造也、天平寶字六年十二月一日」。

【多懷㆓顧望㆒】321（オホクコバウヲイダク） 多くの者が、旗色を顧み望んで、何れに從はうかとためらふ。〔歐陽脩、王彥章畫像記〕諸將多懷㆓顧望㆒、獨公奮然自必、不㆓少屈懈㆒。

【多還少補】322（タクワンセウホ） 多ければ返金し、少ければ補足してもらふ。

【多湖松江】323（タゴシヨウカウ） 美濃の人。名は宜。字は玄室・昌藏。通稱も昌藏。號は松江・文鳳陳人。林榴岡を師とし、經學は程朱を主とす。官は松本藩儒。安永三年十一月二十日歿す、年六十六。著に有和詩英・遺簪集・遺簪續集・夏閒隨筆・今獻詩英・雜劇字解・視聽隨筆・松江和歌集、其の他、未完に屬する學庸・近思錄纂釋がある。〔先哲叢談、續、八〕。

【多湖栢山】324（タゴハクザン） 美濃の人。名は安。字は玄泰。通稱は新五郎。號は栢山。林鳳岡を師とす。官は松本藩儒。經學は程朱を主としたが之に拘泥しない。寶曆三年四月十六日歿す、年七十四。著に秋乃山道・韓使贈答集・戚南塘兵說小解・多湖氏遺訓・栢山集・栢山和歌集・武經敎令小解・戊午紀行・本藩系譜がある。〔先哲叢談、續、八〕。

【多斯加納】325（トスカナ） 地名。イタリヤの一地方の名。Tuscana, Tuscany の音譯。

【多兒多女】326 tuo^1 êrh^2 tuo^1 nü^3 兒女が澤山あること。子福者。兒は男の子。

【多爾巴得】327（ドルパト） 地名。エストニヤの都邑。Dorpat の音譯。

【多親寡友】328 tuo^1 ch'in^1 kua^2 yu^3 親戚身寄りの者が多く、友人の少いことをいふ。

【多說話的】329 tuo^1 shuo^1 hua^4 tê 饒舌。おしやべり。

【多賤寡貴】330（タセンクワキ） 品物が多ければ價が安くなり、少ければ高くなること。〔管子、國蓄〕夫物多則賤、寡則貴、散則輕、聚則重、人君知㆓其然㆒、故視㆓國之羨不足㆒、而御㆓其財物㆒。

【多逮廣繫】331（タタイクワウケイ） 犯罪の連累者を多く檢擧し逮捕する。〔大學衍義補、愼㆓刑罰㆒、總㆓論制刑之義㆒、下〕蘇軾謂、罪非㆓己造㆒、爲㆓人所㆒ㇾ累曰ㇾ及、秦漢閒謂㆓之逮㆒、獄吏以ㇾ不ㇾ遺㆓支黨㆒爲ㇾ忠、以㆓多逮廣繫㆒爲ㇾ利、漢大獄、有㆘逮㆓萬人㆒者㆖、國之安危、運祚長短、咸寄㆓於此㆒。

【多體雄蕊】332（タタイユウズイ） 合生雄蕊の一種。

【多田東溪】334（タダトウケイ） 京都の人。名は儀。字は維則。通稱は儀八郎。號は東溪。三宅尙齋を師とし、經學は程朱を崇尙す。少にして桑原空洞に養はれ、桑原篤靜と稱し、能書を以て聞えた。後、本姓に復す。官は秋田藩儒・館林藩儒。明和元年八月二十六日歿す、年六十三。著に心遠堂雜錄・本正誤・東溪筆記・詩文集がある。〔先哲叢談、續、九〕。

【多波禮草】335（タハレグサ） 書名。三卷。雨森芳洲著。寬政元年刊行。和漢古今の事實を引いて衆人敎誡の言をなし、まじふるに詩歌文雅を以てし、假名を多く用ひて婦女にも解し易い事を旨としてゐる。

【多歷㆓年所㆒】336（オホクネンシヨヲフ） おほくの年月を經る。所は助字。〔張衡、西京賦〕多歷㆓年所㆒二百餘朞。

【辭ㇾ多受ㇾ少】337（オホキヲジシスクナキヲウク） 多いものを辭退して少いものを受ける。〔左氏、襄、二十八〕與㆓子雅邑㆒、辭ㇾ多受ㇾ少。

【貪ㇾ多務ㇾ得】338（オホキヲムサボリテウルヲツトム） 多くの知識を得ようと一所懸命に努力すること。又、貪つて飽くことを知らない。〔韓愈、進學解〕貪ㇾ多務ㇾ得、細大不ㇾ捐。

【多爲㆓藥所㆒ㇾ誤】339（オホククスリノアヤマルトコロトナル） 藥を飲んで却つて藥に命をとられる者が多い。〔古詩十九首〕服食求㆓神仙㆒、多爲㆓藥所㆒ㇾ誤。

【多喫壞㆓肚皮㆒】340（オホクキツスレバトヒヲヤブル） 食べすぎると腹をこはす。〔通俗編、飲食、多喫壞㆓肚皮㆒〕元典章、如今但是勾當裏行的官人、多喫祇應ㇾ敎㆓百姓生受㆒、要㆓肚皮壞了㆒、按、當時所ㇾ云肚皮、乃取㆓受錢物㆒之辭、今諺則實謂ㇾ腹。

【多喫少滋味】341 tuo^1 ch'ih^1 shao^3 tzŭ^1 wei^4 多く食へば旨味が少い。

【多細胞生物】342（タサイバウセイブツ） 多數の細胞が集合して一個體を構成してゐる生物。大多數の生物がこれに屬する。

【多爾吉衙門】343（トールチヤメン） 淸代、內閣の滿洲名。〔稱謂錄、內閣、多爾吉衙門〕皇朝通攷、順治十五年諭曰、內閣、滿字稱爲㆓多爾吉衙門㆒、漢字稱爲㆓內閣㆒。

【多摩羅跋香】344（タマラバカウ） 香料の名。藿香(**9－32406・・1**)の異名。〔本草、藿香〕釋名、時珍曰、楞嚴經曰、檀前以㆓兜婁婆香㆒、煎ㇾ水洗浴、卽此、法華經謂㆓之多摩羅跋香㆒、金光明經謂㆓之鉢怛羅香㆒、皆兜婁二字、梵言也、涅槃又謂㆓之迦算香㆒。

【多慢則生ㇾ亂】344′（タマンナレバスナハチランヲシヤウズ） 傲慢な事が多ければ亂を生ずる。〔蜀志、譙周傳〕多慢則生ㇾ亂、思ㇾ善則生ㇾ治、理之常也。

【多樂沒好嬉】345 tuo^1 lê^4 mei^2 hao^3 hsi^1 樂しみが過ぎれば却つて興味がなくなる。

【以ㇾ多問㆓於寡㆒】346（オホキヲモツテスクナキニトフ） 聞見の多い者が却つて少い者にたづねる。自らを謙虛にして人に益を求めること。〔論語、泰伯〕以ㇾ能問㆓於不能㆒、以ㇾ多問㆓於寡㆒。

【多爾吉拔姆宮】347（トールチバムキユウ） 寺の名。西藏の雅木魯克湖の中の山巓に在り、女呼圖克圖多爾吉拔姆の居る所。

【多爾濟達爾罕】348（トルチタルハン） 淸の人。姓は博爾濟錦氏。諡は順僖。鑲黃旗蒙古に隸屬す。順治の閒、內大臣となり、議政大臣に列す。〔淸史稿、二百三十五〕・〔國朝耆獻類徵、四十二〕。

【多留神少說話】349 tuo^1 liu^2 shen^2 shao^3 shuo^1 hua^4 よく注意して多言しない。

【多陵ㇾ人者皆不ㇾ在】350（オホクヒトヲシノグモノハミナアラズ） 人をひどく侮り犯す者は、皆其の位にあることが出來ない。〔左氏、哀、二十七〕多陵ㇾ人者皆不ㇾ在、知伯其能久乎。〔會箋〕不ㇾ能ㇾ在ㇾ位。

【夘】5757 タ　多(**3－5756**)に同じ。〔集韻〕多、或書作ㇾ夘。

【𡖄】5758 タ　多(**3－5756**)の古字。〔集韻〕多、古作ㇾ𡖄。

【夛】5759 タ　多(**3－5756**)の俗字。〔正字通〕多、俗作ㇾ夛。

四畫

【殅】5760 シユク　夙(**3－5755**)に同じ。〔正字通〕夙、說文作ㇾ殅。

【𡖊】5761 エキ　亦(**1－293**)の古字。〔字彙補〕蜀夾江縣酒官碑、南由ㇾ市、入爲ㇾ闍、北抵ㇾ湖、出爲ㇾ𡖊、楊愼曰、𡖊、卽古亦字、吹景錄、亦、古掖字通、闍、卽掖門也。

【𡖔】5762 キン　義未詳。〔五音篇海〕𡖔、音巾。

五畫

【夜】5763

㊀ヤ　〔集韻〕夤謝切　ㄧㄝˋ yeh^4　禡

㊁エキ ヤク　〔集韻〕夷益切　陌

小篆

🈩❶**よ。よる。**萬物の休息すべき時。〔正字通〕夜、篆作レ㚈。〔說文〕㚈、舍也、天下休舍、从レ夕亦省聲。〔段注〕休舍、猶二休息一也、舍、止也。〔廣韻〕夜、舍也、暮也、君子有二四時一、朝以聽レ政、晝以訪レ問、夕以修レ令、夜以安レ身。〔正韻〕日入爲レ夜、與レ晝對。〔禮、月令〕日夜分。〔疏〕蔡邕以爲、星見爲レ夜。〔左氏、莊、七〕夏四月辛卯夜。〔疏〕夜者、自レ昏至レ旦之總名。❷**くれがた。**〔廣雅、釋言〕夜、暮也。〔詩、召南、行露〕豈不二夙夜一、謂二行多レ露。〔箋〕行レ事必以二昏昕一。〔疏〕經言レ夙、卽昕也、夜、卽昏也、云云、汝若仲春以レ禮而來、我豈不下旦受二汝禮一、夕受中汝迎上、何故不レ度二時之可否一、今始來乎。❸**よなか。**よは。〔詩、衞風、氓〕夙興夜寐。❹**あけがた。**〔周禮、春官、雞人〕夜嘑レ旦、以嘂二百官一。〔注〕夜、夜漏未レ盡、雞鳴時也。❺**易で坤にあて、又、坎にあてる。**〔易、繫辭上〕晝夜之象也。〔虞注〕坤爲レ夜。〔易、豐、宜二日中一、干注〕坎爲レ夜。❻**陰。**〔論衡、說日〕夜、陰也。❼**くらい。**〔管子、侈靡〕大昏也、博夜也。〔注〕夜、暗昧之行也。❽古は㚈(3-5764)・夙(2-1779)・[illegible](2-1768)に作る。〔集韻〕夜、古作レ㚈。〔康熙字典〕夜、古文夙・[illegible]。❾射(4-7434)に通ず。〔說文通訓定聲〕夜、荀子勸學、西方有レ木焉、名曰二夜干一、亦作レ射。❿**姓。**〔萬姓統譜〕夜、見二通志一。〔奇姓通〕明、夜珠、山東人、正德閒、任二光祿寺丞一。🈔❶**地名。**夜邑(14)を見よ。通じて掖(5-12262)に作る。〔戰國、齊策〕當今將軍有二夜邑之奉一。〔說苑、指武〕今將軍有二掖邑之封一。〔後漢書、陽歙傳〕更封二夜侯一。〔注〕今萊州掖縣。❷液(7-17586)に通ず。〔說文通訓定聲〕夜、叚借爲レ液。〔洪範五行傳〕時有二脂夜之妖一。〔注〕夜、讀曰レ液。

【夜央】1 ヤアウ 夜のなかば。一說に、夜が明ける。〔詩、小雅、庭燎〕夜如何其、夜未レ央。〔傳〕央、旦也。〔箋〕夜未レ央、猶レ言三夜未二渠央一也。〔李質、艮嶽賦〕鳴二遼鶴於晝寂一、嘯二巴猿於夜央一。

【夜鶯】2 yeh^4 ying^1 夜鳴くうぐひす。ナイチンゲール。

【夜闇】3 ヤアン 夜黯に同じ。

【夜黯】4 ヤアン 夜のくらいこと。〔殷文圭、鸚鵡詩〕金籠夜黯山西夢、玉枕曉憎簾外聲。

【夜衣】5 ヤイ 夜の衣服。〔詩、小雅、斯干、載衣二之禓一、傳〕禓、褓也、〔箋〕褓、夜衣也、明レ當レ主二於內事一。

【夜游】6 ヤイウ 夜間に遊ぶ。よあそび。夜遊。〔周禮、秋官、司寤氏〕禁二宵行者・夜游者一。〔魏文帝、與二吳質一書〕古人思二秉レ燭夜游一、良有レ以也。〔魏志、王粲傳、注〕魏略曰、太子與レ質書曰、少壯眞當二努力一、年一過往、何可二攀援一、古人思二秉レ燭夜游一、良有レ以也。〔李白、春夜宴二桃李園一序〕古人秉レ燭夜游、良有レ以也。

【夜遊眼】7 yeh^4 yu^2 yen^3 晝盲の人。

【夜游宮】8 ヤイウキユウ ❶詞牌の名。名を漢の成帝の宮名、宵遊宮にとる。〔拾遺記〕漢成帝於二太液池旁一起二宵遊宮一。❷曲牌の名。南曲は仙呂宮引、羽調正曲に入れ、北曲は黃鐘調隻曲に入る。

【夜遊子】9 yeh^4 yu^2 tzŭ 宵つ張り。夜遊びばかりして居る人。

【夜游女】10 ヤイウヂヨ 鳥の名。夜行游女(48)に同じ。

【夜游朝】11 ヤイウテウ 曲の名。〔還魂記、勸農〕野游朝、外引下淨扮二皁隸一貼扮中門子上同上。

【夜游將軍】12 ヤイウシヤウグン 蟲の名。蜣蜋(10-33154・・1)の異名。〔本草、蜣蜋〕釋名、蛣蜣・推丸・推車客・黑牛兒・鐵甲將軍・夜游將軍。

【夜游女子】13 ヤイウヂヨシ 螢火(10-33434・・6)の異名。〔海錄碎事、鳥獸、雜蟲〕夜游女子、螢火也、此伏尸之精、燒レ香辟レ之、若入二人家一、其色青者吉、紅者有二禍殃一、玉箱雜記。〔事物異名錄、昆蟲、上、螢〕青箱雜記、夜游女子、螢火也。

【夜邑】14 エキイフ 地名。戰國、齊の襄王が田單を封じた所。山東省掖縣の治。〔戰國、齊策〕王益二封安平君一以二夜邑萬戶一。〔戰國、齊策〕魯仲子曰、當今將軍、東有二夜邑之奉一、西有二菑上之虞一。

【夜陰】15 ヤイン 夜のくらやみ。又、よる。夜間。〔魏書、崔巨倫傳〕夜陰失レ道、惟看二佛塔戶一而行。〔江淹、清思詩〕空閨饒二遠念一、虛堂生二夜陰一。

【夜飲】16 ヤイン 夜の酒宴。夜觴。〔詩、小雅、湛露〕厭厭夜飲、不レ醉無レ歸。〔史記、信陵君傳〕公子乃謝レ病不レ朝、與二賓客一爲二長夜飲一。〔陸機、飲酒樂〕夜飲舞遲銷レ燭、朝醒弦促催レ人。〔王昌齡、長信秋詞〕火照二西宮一知二夜飲一、分明複道奉レ恩時。

【夜雨】17 ヤウ ❶夜の雨。夜雨が降る。〔魏志、管輅傳、注〕若夜雨者、當レ爲レ啖二二百斤犢肉一、若不レ雨、當レ住二十日一。〔王維、漁山神女祠歌、迎神〕風淒淒兮夜雨、神之來兮不レ來、使二我心兮苦復苦一。〔杜甫、贈二衞八處士一詩〕夜雨剪二春韭一、新炊閒二黃粱一。〔韋莊、聽二趙秀才彈レ琴詩〕巫山夜雨弦中起、湘水清波指下生。❷巖の名。甘肅省臨洮府蘭州の西南。〔明一統志〕夜雨巖、在二臨洮府西南一十里一、有レ泉、自二山巓一而下、夜深露氣重而泉溜愈多、聽レ之如二雨聲一。

【夜雨之奇】18 ヤウノキ 夜の雨のすぐれた趣。〔藤森弘庵、春雨樓記〕其不レ知二夜雨之奇一、亦宜矣。

【夜雨寄北】19 ヤウキタニヨス 唐の李商隱が蜀中の夜雨を聞きながら北に居る妻に寄せた詩。〔李商隱、夜雨寄レ北詩〕君問二歸期一未レ有レ期、巴山夜雨漲二秋池一、何當下共剪二西窗燭一、卻話中巴山夜雨時上。

【夜雨對牀】20 ヤウタイシヤウ 夜雨の音を聞きながら寢臺を並べて寢てゐること。兄弟或は親友などの親しさを表はす語。〔蘇軾、東府雨中別二子由一詩〕對レ牀定悠悠、夜雨今蕭瑟。〔蘇軾、送三劉寺丞赴二餘姚一詩〕中和堂後石楠樹、與レ君對レ床聽二夜雨一。〔野客叢書〕人多以二夜雨對牀一爲二兄弟事一、東坡與二子由一詩引レ此、蓋祖下韋蘇州示二元眞兄弟一詩、寧知風雨夜、復此對レ牀眠之句上也、然韋又有レ詩、贈二令狐士曹一曰、秋簷滴滴對レ牀寢、白樂天招二張司業一詩曰、能來同宿者、聽レ雨對レ牀眠、鄭谷思二圖昉上人一詩曰、夜雨對二繩牀一、是不二特兄弟爲一レ然也。

【夜雨秋燈錄】21 ヤウシウトウロク 書名。十二卷。清、天長宣鼎撰。三集に分つ。筆記小說。

【夜烏】22 ヤウ 夜啼くからす。よがらす。〔李嘉祐、和下袁郎中破レ賊後經二剡縣山水一上中太尉上詩〕地閑春草綠、城靜夜烏啼。〔杜甫、過二南嶽一入二洞庭湖一詩〕莫レ怪啼痕數、危檣逐二夜烏一。

【夜雲】23 ヤウン 夜の雲。〔李白、侍從遊二宿溫泉宮一詩〕霜仗懸二秋月一、霓旌卷二夜雲一。〔白居易、江上逢二王將軍一詩〕鵰沒二夜雲一知二御苑一、馬隨二春仗一識二天香一。〔溫庭筠、瑤瑟怨〕冰簟銀牀夢不レ成、碧天如レ水夜雲輕。

【夜永】24 ヤエイ よなが。夜がながい。〔潘岳、秋興賦〕何微陽之短晷、覺二涼夜之方永一。〔杜甫、西枝村尋下置二草堂一地上夜宿二贊公土室一詩〕躋攀倦二日短一、語樂寄二夜永一。〔戴叔倫、白苧詞〕美人不レ眠憐二夜永一、起舞亭亭亂二花影一。〔張喬、雨中宿二僧院一詩〕夜永樓臺雨、更深江海人。

【夜影】25 ヤエイ 夜の物かげ。又、夜の色。〔羅隱、蟋蟀詩〕美人在レ何、夜影流レ波。

【夜營】26 ヤエイ 夜、陣營を張ること。又、其の營所。〔庾信、周車騎大將軍賀婁公神道碑文〕朝兵減レ竈、夜營多レ鼓。

【夜妖】27 ヤエウ 脂が心を包んで暗くし、夜、妖怪をなすこと。又、晝間、天地が晦冥になることをいふ。〔漢書、五行志下之上〕在レ人、腹中肥而包二裹心一者、脂也、心區霧則冥晦、故有二脂夜之妖一、一曰、有二脂物一而夜爲レ妖、若三脂水夜汙二人衣一、淫之象也、一曰、夜妖者、雲風並起而杳冥也、故與二常風一同レ象也。〔晉書、五行志下〕景元三年十月、京都大震晝晦、此夜妖也。

【夜宴】28 ヤエン 夜間の酒宴。夜飲。〔唐書、五行志一〕光宅初、宗室岐州刺史崇眞之子橫杭等夜宴、忽有レ氣如二血腥一。〔王涯、宮詞〕宜春院裏駐二仙輿一、夜宴笙歌總不レ如。〔方干、陪二李郎中夜宴一詩〕閒世星郎夜宴時、丁丁寒漏滴聲稀。〔宋史、薛奎傳〕嘗夜宴、有二戍卒一殺レ人、人皆奔走、奎密遣三捕二殺之一。

【夜燕】29 ヤエン 獸の名。蝙蝠(10－33271··3)の異名。〔本草、伏翼〕釋名、蝙蝠・天鼠・仙鼠・飛鼠・夜燕。

【夜鷰】30 ヤエン 福建地方に、龍眼肉の熟する頃、一夜に千萬樹の果を盜み去るすばやい盜人がゐた。その盜人をすばやく飛ぶつばめに喩へていふ語。〔閩小紀〕閩中龍眼熟時、專有二飛盜一、緣レ枝接レ樹、趫捷如レ風、瞬息千萬樹、皆被二漁獵一、名曰二夜鷰一。

【夜怨】31 ヤエン 夜のかなしみ。〔蘇軾、醉翁操〕醉翁去後空、有二朝吟夜怨一。

【夜猨】32 ヤエン 夜猿(34)に同じ。〔謝靈運、登二石門最高頂一詩〕活活夕流駛、噭噭夜猨啼。

【夜圓】33 ヤエン 夜の月。〔梁元帝、梁安寺刹下銘〕雪宮月殿、晨暉夜圓。

【夜猿】34 ヤエン 夜のさる。夜猨。〔蕭子良、賓僚七要〕哀二過鴻於月曉一、悲二夜猿於霜旻一。〔魏徵、述懷詩〕古木鳴二寒鳥一、空山啼二夜猿一。〔王維、酬下虞部蘇員外過二藍田別業一不レ見レ留之作上詩〕唯有二白雲外一、疎鐘閒二夜猿一。

【夜鷗】35 ヤオウ 夜のかもめ。〔張均、和三尹懋秋夜遊二灉湖一詩〕遠水沈二西日一、寒沙聚二夜鷗一。

【夜憶】36 ヤオク 夜、思ふ。夜、もの思ひにふける。〔許渾、送三從兄歸二隱藍溪一詩〕夜憶蕭關月、行悲易水風。〔張喬、宿二昭應一詩〕夜憶二開元寺一、淒涼里巷聞。

【夜伽】37 ヨトギ ❶夜、寢ずに傍に侍すること。〔心中天網島、上〕產所の夜伽。❷女が男の意に從つて寢を共にすること。

【夜歌】38 ヤカ 夜、歌ふ。夜、歌つてゐる歌。〔迷樓記〕大業九年、帝將三再幸二江都一、有二迷樓一宮人抗レ聲夜歌云、河南楊柳謝、河北李花榮、楊花飛去落二何處一、李花結レ果自然成。〔李白、秋浦歌〕郎聽采菱女、一道夜歌歸。〔方干、題二盛令新亭一詩〕春物誘レ才歸二健筆一、夜歌牽醉入二叢杯一。

【夜蛾】39 ヤガ 元日の夜、白紙で作つた蟬。〔乾淳歲時記〕元夕以二白紙一爲二大蟬一、謂二之夜蛾一。

【夜駕】40 ヤガ 夜、馬車に乘る。〔史記、平原君傳〕公孫龍聞レ之、夜駕見二平原君一。

【夜戒】41 ヤカイ 夜、警告する。夜、注意を與へる。夜誡。〔左氏、文、十二〕秦行人夜戒二晉師一曰、兩軍之士、皆未レ憖也、明日請相見也、臾駢曰、使者目動而言肆、懼レ我也、將レ遁矣、薄二諸河一必敗レ之。

【夜海】42 ヤカイ 夜のうみ。〔元稹、送三客遊二嶺南一詩〕曙潮雲斬斬、夜海火燐燐。

【夜誡】43 ヤカイ 夜戒に同じ。〔宋書、張邵傳〕及レ誅二劉藩一、邵時在二西州直廬一、卽夜誡レ衆。

【夜交】44 ヨマゼ 一晚おき。隔晚。〔六帖、五〕よまぜに見えん君は賴まじ。

【夜江】45 ヤカウ 夜の川。よかは。〔駱賓王、渡二爪步江一詩〕月迥寒沙淨、風急夜江秋。

【夜行】46 ヤカウ ❶夜あるく。夜行くこと。〔禮、內則〕夜行以レ燭、無レ燭則止。〔莊子、山木〕夜行晝居。〔史記、李將軍傳〕今將軍尚不レ得二夜行一。〔魏志、田豫傳〕年過二七十一、而以居レ位、譬猶二鐘鳴漏盡、而夜行不一レ休、是罪人也。〔宋書、吳逵傳〕逵夜行遇レ虎、虎輒下道避レ之。〔徐陵、爲二王儀同一致仕表〕況復星迴日薄、通人有二乞告之言一、鐘鳴漏盡、前史有二夜行之誡一。❷鶡冠子の篇名。❸夜行列車の略。

〔夜行船〕47 ヤカウセン 詞牌の名。又、曲牌の名。一名、夜遊湖。

〔夜行游女〕48 ヤカウイウヂヨ 姑獲鳥(3－6174··71)の異名。〔酉陽雜俎、廣動植、羽篇〕夜行遊女、一曰、天帝女、一名釣星、夜飛晝隱、如二鬼神一。〔事物異名錄、禽鳥下、姑獲〕元中記、姑獲、一名天帝少女、一名隱飛、一名夜行游女。

〔夜行被レ繡〕49 ヨルユクニシウヲキル 夜ぬひとりの衣を著て步く。誰も知る者がない意。功名を遂げても故鄉に歸らなければ、誰も知る者がない喩。〔蘇武、報二李陵一書〕語曰、夜行被レ繡、不レ足レ爲レ榮。〔史記、項羽紀〕富貴不レ歸二故鄉一、如二衣レ繡夜行一、誰知レ之者。

【夜更】50 ヤカウ ❶夜迴り。〔張說、宿二直溫泉宮羽林一獻詩〕寒木羅二霜仗一、空山響二夜更一。❷よふけ。深夜。

【夜航】51 ヤカウ よぶね。夜航船に同じ。〔皮日休、魯望以二輪鉤一相二示緬懷高致一因作二三編一詩〕明朝有レ物充二君信一、櫑酒三缾寄二夜航一。

〔夜航船〕52 ヤカウセン よぶね。夜航。航もふね。又、船でわたる。〔輟耕錄、夜航船〕凡篙師於二城埠市鎭人煙湊集去處一、招二聚客旅裝一、載二夜行者一、謂二之夜航船一、太平之時、在處有レ之、然古樂府有二夜航船曲一、皮日休詩、有下明朝有レ物充二君信一、携レ酒三樽寄二夜航一之句上、則此名亦古矣。〔通俗編、器用、夜航船〕龔明之、中吳紀聞、夜航船、惟浙中有レ之、然其名舊矣。

〔夜航詩話〕53 ヤカウシワ 書名。六卷。津阪東陽撰。漢文で記され、典故・韻法から句法・字法に至るまで、詩學に必要な事項は悉く網羅してゐる。

〔夜航餘話〕54 ヤカウヨワ 書名。二卷。津阪東陽撰。東陽の隨筆の薈瓚錄・反古抄の中から詩話に關するものを抄出し、假名交り文で書いてある。

【夜敲】55 ヤカウ 夜、叩く。〔皮日休、吳中言レ懷寄二南海二同年一詩〕銅鼓夜敲溪上月、布帆晴照海邊霞。

【夜號】56 ヤガウ 夜なく。又、よなき。夜泣。〔國語、鄭語〕夫婦哀二其夜號一也。〔班彪、王命論〕神母夜號、以彰二赤帝之符一。

【夜角】57 ヤカク 夜吹き鳴らしてゐる笛。〔楊凝、送三客往二鄜州一詩〕曉上二關城一吟二夜角一、暗隨二羌馬一發二支兵一。〔皎然、送二劉司法之一レ越詩〕蕭蕭鳴二夜角一、驅レ馬背二城濠一。

【夜客】58 ヤカク 盜賊。〔李涉、井欄砂宿遇二夜客一詩〕暮雨蕭蕭江上村、綠林豪客夜知聞、他時不レ用逃二名姓一、世上如今半是君。

【夜覺】59 ヤカク 夜、急に目覺めて漫りに門を出步くこと。〔周禮、秋官、序官、司寤氏、注〕司寤氏、主二夜覺者一。〔疏〕凡人之寐臥、恆在レ寢、得レ禁レ之者、有二夜寐忽覺而漫出レ門者一、故謂レ之爲二夜覺一也。

【夜鶴】60 ヤカク ❶夜中に巢ごもつてゐる鶴。又、鶴の夜鳴く聲。〔孔稚珪、北山移文〕蕙帳空兮夜鶴怨、山人去兮曉猿驚。〔盧照鄰、西使兼送二孟學士南遊一詩〕徘徊聞二夜鶴一、悵望待二秋鴻一。〔吳龍翰、古梅賦〕能躍二其夜鶴之骨一、而枯二其秋蟬之蛻一也。❷鶴は子を護つて夜も寢ないことから、愛情の深い喩。夜の鶴。〔白居易、五絃彈〕第三第四絃冷冷、夜鶴憶レ子籠中鳴。

〔夜鶴眠驚松月苦曉鼯飛落峽煙寒〕61 ヤカクネムリオドロイテシヨウゲツサエゲウゴトビオチテカフエンサムシ 夜半、月が松を照らしてさやかなので、鶴は夢さめて驚き鳴き、曉方、煙霞が山かひに寒々と立ち罩めてゐる時、むささびは食を求めようとするのか、木から飛び落ちて來る。〔倭漢朗詠集、山、都良香、舊隱詠レ懷詩〕夜鶴眠驚松月苦、曉鼯飛落峽煙寒。

【夜學】62 ヤガク ❶よる學ぶ。夜の物まなび。夜、學問を修めること。夜課。〔方干、偶作詩〕夜學事須二憑レ雪照一、朝廚爭奈レ絕レ煙何。〔孟郊、夜感自遣詩〕夜學曉未レ休、苦吟神鬼愁。❷夜間に授業をする學校。夜學校。

【夜嶽】63 ヤガク 夜山(169)に同じ。〔周賀、贈二厲玄侍御一詩〕關分二河漢一秋鐘絕、露滴二獼猴一夜嶽空。〔劉得仁、送二知全禪師南遊一詩〕夜嶽禪銷レ月、秋潭汲動レ星。

【夜合】64 ヤガフ ❶夜あはさる。〔神仙傳〕天地晝分而夜合、一歲三百六十交、而精氣和合、故能生二產萬物一而不レ窮。❷何首烏(1－511··296)の異名。〔本草、何首烏〕釋名、交藤・夜合・地精・陳知白、馬肝石・桃柳藤・九眞藤・赤葛・瘡帚・紅內消。❸合歡ネム(2－3287··83)の❶の異名。夜間、葉を合はせるからいふ。〔本草、合歡〕釋名、合昏・夜合・青裳・萌葛・烏賴樹、集解、頌曰、木似二梧桐一、枝甚柔弱、葉似二皁角一、極細而繁密、互相交結、每二一風來一、輒自相解了、不二相牽綴一。〔元稹、鶯鶯詩〕夜合帶レ煙籠二曉日一、牡丹經レ雨泣二殘陽一。〔唐彥謙、無題詩〕夜合庭前花正開、輕羅小扇爲レ誰裁。

〔夜合花〕65 ヤガフクワ ❶合歡ネムの花。〔續博物志、八〕顧愷之畫二蘇武所レ執之旌一、上圓如レ幢、下復數層、紅羽驂驂然如二夜合花一、此析羽也。〔竇叔向、夏夜詩〕夜合花開香滿レ庭、夜深微雨醉初醒。〔蘇軾、過二高郵一寄二孫君孚一詩〕可レ怜夜合花、青枝散二紅茸一。❷詞牌の名。〔詞譜〕按、夜合花、合歡樹也、唐韋應物詩、夜合花開香滿レ庭、調名取レ此。❸曲牌の名。❹シロユリ ナンキンユリ 百合の一種。〔名物六帖〕。

〔夜合錢〕66 yeh^4 hê^2 chʻien^2 娼妓の花代。あ「げだい。

【夜寒】67 ヤカン 夜分に寒くなること。よさむ。又、夜が寒い。〔庾信、燈賦〕燼長宵久、光青夜寒。〔沈佺期、古歌詩〕落葉流風向二玉臺一、夜寒秋思洞房開。〔蔣維翰、古歌〕頻放剪刀聲、夜寒知レ未レ寢。

〔杜甫、空囊詩〕不レ爨井晨凍、無レ衣牀夜寒。〔盧綸、送二崔少府一詩〕夜寒逢レ雪處、日暖到レ村時。〔元稹、懼レ醉詩〕聞道秋來怯二夜寒一、不レ辭泥水爲二杯盤一。〔杜牧、方響詩〕數條秋水挂二琅玕一、玉手丁當怕二夜寒一。〔王渙、惆悵詩〕夜寒春病不レ勝レ懷、玉瘦花啼萬事乖。〔羅隱、新安投レ所レ知詩〕漢殿夜寒時不レ食、宋都風急命何疎。

【夜閑】68ヤカン　夜がしづかである。〔元稹、解秋詩〕夜閑心寂默、洞庭無二垢氛一。

【夜閒】69ヤカン　夜のあひだ。夜のま。

【夜眼】70ヤガン　馬の膝の上に有るもので、之を有する馬はよく夜みちを行くといふ。又、齲齒の藥として用ひるといふ。〔本草、馬〕夜眼、在二足膝上一、馬有レ此能夜行、故名。〔葛洪、肘後方〕治二卒死尸厥一、用二白馬夜眼二枚一。〔千金方〕蟲牙齲痛、用二馬夜眼如レ米。

【夜龕】71ヤガン　夜、靜かに立つてゐる塔。〔周權、贈二曙嵒上人一詩〕夜龕貓占レ臥、晨鉢鶴分レ餐。

【夜氣】72ヤキ　㊀夜の大氣。〔劉潛、和二昭明太子鍾山解講一詩〕夜氣清二簫管一、曉陣爍二郊原一。〔柳貫、送三葉道士歸二天台一詩〕石井劍花飛二夜氣一、玉田芝草艷二春暉一。㊁汚れぬ靜かな心。精氣の回復した時の精神狀態。夜閒、寂寞として萬象が皆其の聲をひそめる頃は、晝閒の邪念妄想も自ら影を絶ち、精神が自ら淸らかになり、和平を保つやうになる。孟子は之を夜氣と稱し、之を存養することを其の修養法の一とした。此の説は、宋儒に至つて更に深刻となつた。李延平の如きは最も力を注いだ。〔孟子、告子上〕夜氣不レ足二以存一、則其違二禽獸一不レ遠矣。

【夜起】73ヤキ　夜、起き上る。又、夜分に出發する。〔左氏、文、七〕訓レ卒利レ兵、秣レ馬蓐食、潛レ師夜起、戊子、敗二秦師于令狐一、至二于刳首一。〔史記、項羽紀〕項王則夜起飮二帳中一。〔梁昭明太子、長相思〕相思無二終極一、長夜起歎息。

【夜鬼】74ヤキ　夜中に出るもののけ。〔嘯旨〕空林夜鬼者、古之善嘯者、夜過二空林一而寫レ之也。

【夜棊】75ヤキ　夜、碁をうつこと。〔鄭巢、題二崔行先石室別墅一詩〕採レ菊頻秋醉、留レ僧擬二夜棊一。〔李昭象、題二正字谿居一詩〕春酒夜棊難レ放レ客、短籬疎竹不レ遮レ山。

【夜輝】76ヤキ　夜、輝き光る。〔呉浩、石渠閣賦〕炳二虹氣一以夜輝、耀二神光於旭暾一。〔陳植、金馬門賦〕天闕曉闢、驚二滎水之出一レ圖、月殿夜輝、與二銅仙一而共語。

【夜歸】77ヤキ　夜分に歸宅する。〔晉書、夏統傳〕幼孤貧、養レ親以レ孝聞、睦二於兄弟一、每採レ梠求レ食、星行夜歸、或至二海邊一、拘二螊蜮一以資レ養。〔劉長卿、逢レ雪宿二芙蓉山主人一詩〕柴門聞二犬吠一、風雪夜歸人。〔戴叔倫、南野詩〕披レ雲朝出畊、帶レ月夜歸讀。〔趙渢、晚宿二山寺一詩〕犬吠一山秋意靜、敲レ門時有二夜歸僧一。

【夜騎】78ヤキ　夜分に馬などに騎る。〔金丹諸眞、飛仙吟〕夜騎二玉鼇一採二明月一、蕊殿瓊臺寒徹レ骨。〔杜甫、魏將軍歌〕星躔寶校金盤陀、夜騎二天駟一超二天河一。

【夜饑】79ヤキ　夜分に腹のすくこと。〔岑參、宿二華陰東郭客舍一憶二閻防一詩〕主人炊二新粒一、行子充二夜饑一。

【夜妓】80ヤギ　夜、歌つてゐる女妓。〔梁簡文帝、夜聽レ妓詩〕合歡蠲忿葉、萱草忘憂條、何如明月夜、流風拂二舞腰一。

【夜戲】81ヤギ　yeh⁴ hsi⁴　夜興行の芝居。

【夜泣】82ヤキフ　夜、泣く。又、よなき。夜號。〔韋應物、鞞鼓行〕何況鰥孤火絶無二晨炊一、獨婦夜泣安有レ期。

【夜驚】83ヤキヤウ　㊀夜中に驚く。〔史記、周勃世家〕夜軍中驚、內相攻擊擾亂。〔南齊書、高帝紀上〕軍中馬夜驚、城內亂走。㊁yeh⁴ ching¹　小兒が睡眠中おびえて夜泣する。夜怖。

【夜宮】84ヨミヤ　祭日の前夜に行ふ小祭。よひまつり。〔好色一代男、八〕夜宮にといふ。

【夜居】85ヨヰ　㊀夜、起きて詰めて居ること。宿直。又、加持祈禱などに僧などが夜分側に居ること。〔榮華物語、不見果夢〕僧、云云、夜居せさせて。㊁夜居僧の略。〔權記、長保三年十月二十一日〕自二今夜一請二教靜阿闍梨一、爲二夜居一。

『夜居僧』86ヨヰノソウ　昔、貴人が祈禱するため、終夜、殿中に侍せしめた僧侶。〔枕草紙、六、はづかしきもの〕いざときよゐの僧。

【夜炬】87ヤキヨ　夜かがやく炬火。〔張雨、西湖放レ燈詩〕爛若金蓮分二夜炬一、空于雲母隔二秋屛一。

【夜漁】88ヤギヨ　夜、漁をする。又、其の人。〔方干、山中言レ事寄二贈蘇判官一詩〕隔岸雞鳴春耨去、鄰家犬吠夜漁歸。

【夜蛩】89ヤキヨウ　夜、鳴いてゐるこほろぎ。〔鄭愔、秋閨詩〕音書秋鴈斷、機杼夜蛩催。〔李咸用、秋夕詩〕樹寒棲鳥密、砌冷夜蛩稀。

【夜曲】90ヤキヨク　夜の曲。セレナーデ(sérénade)。

【夜衾】91ヤキン　よるのふすま。夜着。〔元稹、莫秋詩〕棲烏滿レ樹聲聲絶、小玉上レ牀鋪二夜衾一。

【夜琴】92ヤキン　夜、琴をひく。又、夜ひいてゐる琴。夜絃。〔徐陵、諫二仁山深法師罷レ道書〕夜琴晝瑟、是自娛懷、曉筆暮詩、論情頓足。〔顧非熊、題二馬儒乂石門山居一詩〕此地客難レ到、夜琴誰共聽。

【夜勤】93ヤキン　㊀夜つとめる。夜閒、精勵する。〔説苑、政理〕公事雖レ急夜勤弔レ死視レ病、是以朋友益親也。㊁夜閒勤務。よるのつとめ。

【夜禁】94ヤキン　夜閒の禁令。〔周禮、秋官、司寤氏〕司寤氏、掌二夜時一、以レ星分レ夜、以詔二夜士夜禁一。〔唐書、王重榮傳〕軍士干二夜禁一、捕而鞭レ之。〔貢師泰、翦燈聯句詩〕時平無二夜禁一、繁弱且歸レ弢。〔元史、兵志四〕夜禁之法、一更三點鐘聲絶、禁二人行一、五更三點鐘聲動、聽二人行一、有二公事急速及喪病產育之類一、則不レ在二此限一。〔明律、軍政〕凡京城夜禁、一更三點、鐘聲已靜、五更三點、鐘聲未レ動、犯者笞三十。

【夜禽】95ヤキン　夜のとり。夜鳥。〔陸機、燕歌行〕白日既沒明燈輝、夜禽赴レ林匹鳥棲。〔李嘉祐、和二韓郎中楊子津一翫レ雪寄二嚴維一詩〕夜禽驚レ曉散、春物受レ寒催。

【夜緊】96　yeh⁴ chin³　夜が物騷なこと。

【夜吟】97ヤギン　夜、吟ずること。〔孟浩然、宿二楊子津一寄二潤州長山劉隱士一詩〕不レ見少微隱、星霜勞二夜吟一。〔杜牧、送二蘇協律從事振武一詩〕夜吟關月苦、秋望塞雲高。〔杜牧、聞三范秀才自レ蜀游二江湖一詩〕秋泊鴈初宿、夜吟猿乍啼。〔李商隱、無題詩〕曉鏡但愁二雲鬢改一、夜吟應レ覺二月光寒一。〔姚鵠、題二終南山隱者居一詩〕夜吟明雪牖、春夢閉二雲房一。〔方干、鏡中別業詩〕梁燕窺二春醉一、嵒猿學二夜吟一。〔皮日休、襄陽閒居與二友生一夜會詩〕三徑引レ時寒步月、四鄰偷得夜吟詩。

【夜具】98ヤグ　夜寢る時に用ひる布團の類。〔蕪村句集、秋〕西行の夜具も出てある紅葉かな。

【夜火】99ヤクワ　㊀夜もやす火。〔越絶書、越絶外傳計倪〕子胥知二時變一、爲二詐兵一、爲二兩翼一、夜火相應。〔梁簡文帝、長沙宣武王北涼州廟碑〕九微夜火、百味朝漿。〔賀蘭進明、夜渡レ江詩〕夜火連二淮市一、春風滿二客帆一。〔孟浩然、送三韓使君除二洪州都曹一詩〕峴首晨風送、江陵夜火迎。〔皇甫曾、寄二張仲甫一詩〕孤村明二夜火一、稚子候二歸船一。㊁夜の火災。〔江總、爲二陳六宮一謝章〕魯宮夜火、伯姬匪レ驚、楚謝奔濤、貞姜何懼。

【夜花】100ヤクワ　夜のはな。〔周繇、和二段成式一詩〕只緣レ存レ想歸二蘭室一、不下向二春風一看中夜花上。

【夜課】101ヤクワ　㊀夜の仕事。夜の勉強。又、夜、勉強する。〔蘇軾、病中大雪數日未二嘗起觀一虢令趙薦以レ詩相屬戲用二其韻一答レ之詩〕有レ客獨苦吟、清夜默自課。〔陸游、夙興詩〕略似三諸生勤二夜課一、絶勝三小吏迫二晨趨一。㊁yeh⁴ k'ê　夜學。

【夜臥】102ヤグワ　夜ねる。又、よふけてねる。〔詩、大雅、烝民、夙夜匪レ解、疏〕早起夜臥、非レ有二懈倦之時一。〔説苑、談叢〕喜二夜臥一者、不レ能二蚤起一。〔應璩、三叟詩〕下叟前致レ辭、夜臥不レ覆レ首。

【夜廻】103ヨマハリ　夜を警戒してめぐり歩くこと。〔東鑑、五十二〕文永三年四月二十一日、夜廻等、云云、生二虜張本一兩輩一。

【夜會】104ヤクワイ　㊀夜、會合する。〔宋書、當陽侯秉傳〕期下夜會二石頭一、且乃擧上兵。〔稽神錄〕與二鄉人一夜會。㊁よる客を招いて酒宴を開き、舞蹈などして樂しむ西洋風の集會。

『夜會結』105ヤクワイムスビ　髮の結び方の名。束髮の一種。長く高く結んではでやかなもの。

『夜會草』106ヤクワイサウ　草の名。よるがほ。ゆふがほ。しろばなゆふがほ。熱帶亞米利加原產の一年生蔓草。

『夜會服』107ヤクワイフク　夜會などに著用する服。男子用は燕尾服、女子用はイヴニングドレス。

【夜光】108ヤクワウ　㊀夜ひかる。又、夜の光。〔張喬、再題二敬亭清越上人山房一詩〕石窗清吹入、河漢夜

光流。〔寒山詩〕白雲朝影靜、明月夜光浮。㊁月をいふ。〔楚辭、天問〕夜光何德、死則又育、厥利維何、而顧菟在㆑腹。〔注〕夜光、月也。〔拾遺記〕築㆓圓丘㆒以祀㆓朝日㆒、飾㆓瑤堦㆒以揖㆓夜光㆒。〔曹植、芙蓉賦〕其始榮也、皦若㆔夜光尋㆓扶桑㆒、其揚㆑暉也、晃若㆔九陽出㆓暘谷㆒。㊂蟲の名。螢(**10－33434**)の別名。螢火。〔爾雅、釋蟲、熒火、卽炤、義疏〕本草、螢火、一名夜光。云云、月令疏、引㆓李巡㆒云、熒火、夜飛、腹下如㆓火光㆒、故曰㆓卽炤㆒。〔中華古今注〕螢火、一名耀夜、一名景天、一名熠燿、一名燐、一名丹鳥、一名夜光、一名宵燭、一名丹良、腐草爲㆑之、食㆓蚊蚋㆒。〔本草、螢火〕釋名、夜光・熠燿・卽炤・夜照・景天・救火・據火・挾火・宵燭・丹鳥。〔潘岳、螢火賦〕翔㆓太陰之玄昧㆒、抱㆓夜光㆒以清遊。㊃植物の名。地錦(**3－4890**・・101)の㊀の異名。〔本草、地錦〕釋名、地朕・地噤・夜光・承夜・草血竭・血見愁・血風草・馬螘草・雀兒臥單・醬瓣草・猢猻頭草。㊄夜光珠・夜光璧の略。夜光珠・夜光璧を見よ。〔揚雄、羽獵賦〕方椎㆓夜光之流離㆒、剖㆓明月之珠胎㆒。〔注〕濟曰、夜光・流離、皆玉名。〔古詩十九首〕明月皎㆓夜光㆒。〔張衡、思玄賦〕旌㆓性行㆒以製㆑佩兮、佩㆓夜光與㆓瓊枝㆒。〔陸機、演連珠〕飛轡西頓、則離朱與㆓矇瞍㆒收㆑察、懸景東秀、則夜光與㆓碔玞㆒匿㆑耀。〔注〕向曰、夜光、璧名。〔文心雕龍、知音〕魏氏以㆓夜光㆒爲㆓怪石㆒、宋客以㆓燕礫㆒爲㆓寶珠㆒。㊅人名。善くもののけを視ることが出來たといふ。〔唐書、張果傳〕有㆓師夜光者㆒、善視㆑鬼、帝召㆑果密坐、使㆓夜光視㆑之、不㆑見㆓果所㆑在。

〖夜光冠〗109 ヤクヮウノカンムリ　夜光珠で飾つた冠。〔漢武帝內傳〕餘髮散垂至㆑腰、戴㆓九雲夜光之冠㆒。

〖夜光藻〗110 ヤクヮウモ　藻の名。やくわうも科に屬し、體は球形。暗所で刺戟を與へると燐光を發する。沿岸に群集して赤潮の原因となることがある。

〖夜光芝〗111 ヤクヮウシ　仙草の名。〔後漢書、馮衍傳下、注〕夜光芝、其色青、其實正白如㆑李、夜視㆓其實㆒、如㆓月光㆒、照㆓洞一室㆒、服㆓一株㆒、爲㆓太清仙官㆒。〔酉陽雜俎、廣動植、草〕夜光芝、一株九實、實墮㆑地、如㆓七寸鏡㆒、夜視如㆓牛目㆒、茅君種㆓於句曲山㆒。

〖夜光珠〗112 ヤクヮウノタマ　寶珠の名。暗夜に光を發する名玉。夜光る珠。夜珠。夜明珠。〔廣志〕有㆓明珠㆒、又有㆓夜光大珠㆒、皆徑寸、或圍二寸已上、出㆓黃支㆒、形至圓、置㆓之平地㆒、終日不㆑停。〔劉琨、答㆓盧諶㆒詩序〕夜光之珠、何得㆔專玩㆓於隨掌㆒。〔述異記、上〕南海有㆓明珠㆒、卽鯨魚目瞳、鯨死而目皆無㆑精、可㆓以鑒㆒、謂㆓之夜光㆒。〔新論、薦賢〕夫連城之璧、瘞㆓影荊山㆒、夜光之珠、潛㆓輝鬱浦㆒。〔拾遺記、二、夏禹〕禹鑿㆓龍關之山㆒、亦謂㆓之龍門㆒、至㆓一空巖㆒、深數十里、幽暗不㆑可㆓復行㆒、禹乃負㆑火而進、有㆑獸、狀如㆑豕、銜㆓夜明之珠㆒、其光如㆑燭。

〖夜光蟲〗113 ヤクヮウチユウ　夜間、光を發する原生動物。海水中に住む。

〖夜光杯〗114 ヤクヮウノハイ　名玉で造つた酒杯。夜中に光を放つからいふ。〔海內十洲記〕周穆王時、西域獻㆓夜光常滿杯㆒、杯受㆓三升㆒、是白玉之精、光明夜照、暝夕出㆓杯於中庭㆒以向㆑天、比㆑旦而水汁滿㆑中、汁甘而香美、斯實靈人之器。〔王翰、涼州詞〕葡萄美酒夜光杯、欲㆑飲琵琶馬上催。

〖夜光貝〗115 ヤクヮウガヒ　螺の類。殼が大きくて厚く、黑色の斑點のある貝。

〖夜光錶〗116 yeh^4 kuang^1 piao^3　暗黑中でも時刻の讀める懷中時計。夜明錶。夜光時計。

〖夜光璧〗117 ヤクヮウノヘキ　夜光珠に同じ。〔戰國、秦策〕必秦國之所㆑生然後可、則是夜光之璧、不㆑飾㆓朝廷㆒。〔史記、鄒陽傳〕文侯投㆑之以㆓夜光之璧㆒。〔應璩、薦㆓和虜則㆒牋〕令㆘夜光之璧、顯㆓價于和氏之肆㆒、千里之足、定㆗功于伯樂之庭㆖。〔後漢書、西域、大秦傳〕夜光璧・明月珠。

〖夜光洞鼻〗118 ヤクヮウドウビ　藥草の名。五芝(**1－257**・・「445」)の㊁を見よ。

【夜黃】119 ヤクヮウ　樂府、西曲歌の名。〔樂府詩集、清商曲辭、西曲歌下、夜黃〕古今樂錄曰、夜黃、倚歌也。〔無名氏、夜黃〕湖中百種鳥、半雌半是雄、鴛鴦逐㆓野鴨㆒、恐畏㆑不㆑成㆑雙。

【夜活】120 yeh^4 huo^2　よなべ。夜業。

【夜軍】121 ヤグン　夜間の戰。よいくさ。又、よる戰ふ。〔左氏、襄、二十六〕若多㆑鼓鈞㆑聲、以㆑夜軍㆑之、楚師必遁。

【夜扃】122 ヤケイ　夜の戸じまり。〔後漢書、東夷傳論〕邑無㆓淫盜㆒、門不㆓夜扃㆒。

【夜徑】123 ヤケイ　よみち。〔薛逢、涼州詞〕君住㆓孤山下㆒、煙深夜徑長。

【夜頃】124 ヨゴロ　數夜このかた。〔榮華物語、淺綠〕よ「ごろのぼらせ給ひて。」

【夜景】125 ヤケイ　夜の景色。夜色。〔陶潛、辛丑歲七月赴㆑假還㆓江陵㆒夜行㆓塗口㆒作詩〕夜景湛虛明。〔韋應物、晚登㆓郡閣㆒詩〕春風偏送㆑柳、夜景欲㆑沈㆑山。〔孟郊、蚊詩〕願爲㆓天下幮㆒、一使㆓夜景清㆒。

【夜溪】126 ヤケイ　夜のたにがは。〔儲光羲、同㆓武平一員外㆒遊㆑湖五首、時武貶㆓金壇令㆒詩〕花潭竹嶼傍㆓幽蹊㆒、畫檝浮㆑空入㆓夜溪㆒。〔方干、敍㆓龍瑞觀勝異㆒寄㆓于尊師㆒詩〕夜溪漱㆑玉常堪㆑聽、仙樹垂㆑珠可㆑要㆑攀。

【夜闈】127 ヤケイ　夜のねや。〔趙嘏、風月守㆓空閨㆒詩〕良人猶㆓遠戍㆒、耿耿夜闈空。

【夜儆】128 ヤケイ　夜分に人をいましめる。〔國語、魯語下〕夕省㆓其典刑㆒、夜儆㆓百工㆒、使㆑無㆓慆淫㆒而後卽㆑安。

【夜螢】129 ヤケイ　螢(**10－33434**)をいふ。〔王勃、易陽早發詩〕復此涼颷至、空山飛㆓夜螢㆒。

【夜警】130 ヤケイ　夜のいましめ。夜間の警戒。又、それをすること。夜嚴。夜事。〔唐書、儀衞志下〕伶工謂㆓夜警㆒爲㆑嚴、凡大駕嚴㆓夜警㆒。〔王勃、上㆓九成宮頌㆒表〕松軒夜警、杳冥姑射之心、茅殿晨凝、寥廓峒山之駕。〔吳融、無題詩〕鴉鵲夜警池塘冷、蝙蝠晝飛樓閣空。

【夜叫】131 ヤケウ　夜さけぶ。〔馬融、長笛賦〕猿蜼晝吟、鼯鼠夜叫。〔吳融、雨後聞㆓思歸樂㆒詩〕山禽連夜叫、兼雨未㆓嘗休㆒。

【夜橋】132 ヤケウ　夜のはし。〔李紳、宿㆓揚州㆒詩〕夜橋燈火連㆓星漢㆒、水郭帆檣近㆓斗牛㆒。〔張祜、旅次㆓上饒溪㆒詩〕夜橋昏㆓水氣㆒、秋竹靜㆓霜華㆒。

【夜擊】133 ヤゲキ　㊀夜間に攻擊する。又、そのこと。ようち。〔史記、黥布傳〕布等夜擊。〔唐書、李德裕傳〕銜㆑枚夜擊㆑之、勢必得。〔宋史、張玉傳〕以㆓兵三千㆒夜擊㆑之、驚潰而去。㊁夜間に打ち鳴らす。〔顏延之、陽給事誄〕金柝夜擊、和門畫扃。

【夜月】134 ヤゲツ　㊀よるの月。〔梁昭明太子、錦帶書十二月啓、中呂四月〕夜月流㆑輝、鵲繞㆓將軍之樹㆒。〔杜甫、秋興詩〕織女機絲虛㆓夜月㆒、石鯨鱗甲動㆓秋風㆒。〔姚倫、感㆑秋詩〕不㆑蔽㆓秋天鴈㆒、驚㆓飛夜月烏㆒。〔錢起、歸雁詩〕二十五絃彈㆓夜月㆒、不㆑勝㆓清怨㆒却飛來。〔白居易、荷珠賦〕明璣而夜月爭㆑光、丹粟而晨霞散入。㊁臺の名。湖南省益陽縣の南。〔益陽縣志〕吳甘寧屯㆑兵之所、每夜月淒清、如㆑聞㆓金鐵之聲㆒、故名㆓夜月臺㆒。

〖夜月晝星〗135 ヤゲツチウセイ　夜は月のやうに、晝は星のやうにかがやく。〔拾遺記、六、後漢〕郭況、光武皇后之弟也、錯㆓雜寶㆒以飾㆓臺榭㆒、縣㆓明珠于四垂㆒、晝視㆑之如㆑星、夜望㆑之如㆑月、里語曰、洛陽多錢郭氏室、夜月晝星富無㆑匹。

【夜業】136 ヤゲフ　夜間に仕事する。よなべ。

【夜犬】137 ヤケン　夜の犬。夜を守る犬。夜狵。〔李紳、聞㆓里謠㆒效㆓古歌㆒〕兄鋤弟耨妻在㆑機、夜犬不㆑吠開㆓蓬扉㆒。〔鄭谷、贈㆓宗人前公安宰君㆒詩〕風中夜犬驚㆓槐巷㆒、月下寒驢嚙㆓槿籬㆒。〔方干、鏡湖西島言㆑事詩〕山禽欺㆓稚子㆒、夜犬吠㆓漁人㆒。

【夜劍】138 ヤケン　夜間にひらめかす劍。〔庾肩吾、被㆑使㆑從㆓渡江㆒詩〕夜劍動㆓星芒㆒、秋潮驚㆓箭服㆒。〔孟郊、猛將吟〕秋鼙無㆓退聲㆒、夜劍不㆑隱㆑光。

【夜原】139 ヤゲン　夜の野原。〔鄭啓、嚴塘書㆑事詩〕星落夜原妖氣滿、漢家麟閣待㆓英雄㆒。

【夜絃】140 ヤゲン　夜ひいてゐる琴。夜弦。夜琴。〔鮑照、紹㆓古辭㆒詩〕慊慊夜弦促。〔宋之問、入㆓崖口五渡㆒寄㆓李適㆒詩〕夜弦響㆓松月㆒、朝楫弄㆓苔泉㆒。〔杜牧、阿房宮賦〕王子皇孫、辭㆑樓下㆑殿、輦來㆓于秦㆒、朝歌夜絃、爲㆓秦宮人㆒。〔元稹、聽㆔妻彈㆓別鶴操㆒詩〕別鶴聲聲怨㆓夜弦㆒、聞㆓君此奏㆒欲㆓潸然㆒。

【夜嚴】141 ヤゲン　㊀夜分の警戒。夜警。〔晉書、佛圖澄傳〕平居無㆑寇、何故夜嚴。㊁夕暮に打つ太鼓。〔韻會〕嚴、昏鼓曰㆓夜嚴㆒。〔唐書、岑文本傳〕至㆓幽州㆒暴病、帝臨視流涕、卒年五十一、是夕帝聞㆓夜嚴㆒曰、文本死、所㆑不㆑忍㆑聞、命罷㆑之。

【夜呼】142 ヤコ　㊀夜、さけぶ。夜、さけびよぶ。夜嘑。〔蘇軾、壬寅二月有㆑詔云云寄㆓子由㆒詩〕半夜人呼急、橫空火氣浮。㊁草の名。たうごばう。やまごばう。馬尾。〔爾雅、釋草、蘧薚馬尾、疏〕案㆓本草㆒、蓫薚、一名蕩根、一名夜呼。

【夜姑】143 ヤコ　神の名。病氣を掌る。〔論衡、祀義〕

祝曰、夜姑、掌レ將二事於厲一者、厲鬼杖レ檝而與レ之言。

【夜虎】144 ヤコ　蟲の名。蚯蚓のやうなもので、人の心腹に食ひ入るといふ。〔墨客揮犀〕嶺南有二異蟲一、如二蚯蚓一、長尺餘、嘴利如レ錐、直入二人心腹一、土人目レ之爲二夜虎一、甚畏避レ之。

【夜壺】145 yeh^4 hu^2　夜閒室內で用ひる便器。尿瓶。

【夜鼓】146 ヤコ　㊀夜打ち鳴らしてゐる太鼓。〔司空曙、送二夔州班使君一詩〕曉櫓爭二市隘一、夜鼓祭神多。㊁夜、鳴る。〔孔稚珪、褚先生百玉碑〕衡飇夜鼓、山洪暴激。

【夜嘑】147 ヤコ　夜呼の㊀に同じ。〔周禮、春官、雞人〕大祭祀夜嘑レ旦、以嘂二百官一。〔釋文〕嘑、火吳反、本又作レ呼。

【夜寤】148 ヤゴ　夜、目がさめる。〔柳宗元、懲咎賦〕惶惶乎夜寤而晝駭兮、類二麏麚之不一レ息。

【夜語】149 ヤゴ　夜、語ること。よがたり。〔盧綸、晚次二鄂州一詩〕估客晝眠知二浪靜一、舟人夜語覺二潮生一。〔柳宗元、古東門行〕赤丸夜語飛二電光一、徼巡司隷眠如レ羊。〔蘇軾、將レ至レ筠先寄二遲适遠三猶子一詩〕對レ床欲レ作連夜語、念汝還須二戴レ星起一。

【夜工】150 yeh^4 kung^1　よなべ。夜業。

【夜攻】151 ヨゼメ　夜閒に敵を攻めること。夜擊。夜閒攻擊。〔安土日記〕夜攻に可レ仕旨被二仰出一候。

【夜刻】152 ヤコク　夜の時刻。夜點。〔梁元帝、鳥名詩〕雞人憐二夜刻一、鳳女念二吹簫一。〔李賀、塞下曲〕露下旗濛濛、寒金鳴二夜刻一。

【夜哭】153 ヤコク　夜、聲を揚げて哭する。又、其のこと。よなき。〔禮、坊記〕寡婦不二夜哭一。〔晉書、劉隗傳〕有二隕霜之人、夜哭之鬼一。〔王融、永明九年策二秀才一文〕棘林多二夜哭之鬼一。〔李商隱　重有レ感詩〕晝號夜哭兼二幽顯一、早晚星關雪涕收。

〔夜哭郎〕154 yeh^4 k'u^1 lang^2　夜泣きする小兒。

【夜國】155 ヤコク　半年閒日光を見ない南北兩極に近い地方をいふ。

【夜黑】156 ヤコク　夜のやみ。くらやみ。又、夜がくらい。夜闇。〔周昂、翠屛口詩〕草深饒二虎跡一、夜黑欲二相過一。

【夜鵠】157 ヤコク　夜の鵠。鵠は、くぐひ・白鳥。〔何遜、門有二車馬客一詩〕寸心將二夜鵠一、相逐向レ南飛。

【夜昏】158 ヤコン　夜のくらい時。〔春秋、莊、七、夏四月辛卯夜恆星不レ見、疏〕夜昏之後、星應レ見之時而不レ見耳。〔南史、徐孝克傳〕其第一郎二都官省一、西抵二閣道一、年代久遠、多有二鬼怪一、每二夜昏之際一、無レ故有二聲光一、或見下人著二衣冠一從二井中一出、須臾復沒、或門閤自然開閉、居多死亡上。

【夜魂】159 ヤコン　夜、物思ひに耽つてゐる心。〔杜牧、秋夢詩〕殘夢夜魂斷、美人邊思深。

【夜作】160 ヤサ　夜業をする。又、夜業。〔漢書、陳湯傳〕爇二脂火一夜作。〔後漢書、廉范傳〕禁二民夜作一、以防二火災一。〔白虎通、封禪〕月或不レ見、景星常見、可二以夜作一、有レ益二於人民一也。〔清嘉錄〕百工入レ夜操作、謂三之做二夜作一。

【夜坐】161 ヤザ　㊀夜、坐る。又、夜中寢ずに坐る。夜座。〔唐書、劉武周傳〕母趙、嘗夜坐二廷中一、見レ若三雄雞光燭レ地、飛投二其懷一、起振レ衣無レ有、感而娠生二武周一。〔張謂、湖上對レ酒行〕夜坐不レ厭湖上月、晝行不レ厭湖上山。〔王維、過二感化寺曇興上人山院一詩〕夜坐空村寂、松風直似レ秋。㊁禪門で後夜（日沒から十二時まで）に行ふ坐禪。〔永平清規、辨道法〕黃昏坐禪、欲レ罷鳴レ板。

〔夜坐吟〕162 ヤザギン　樂府、雜曲歌辭の一。南朝宋、鮑照作。〔樂府詩集、雜曲歌辭〕夜坐吟、鮑照所レ作也、其辭曰、冬夜沈沈夜坐吟、言二聽レ歌逐レ音、因レ音託レ意也、宗夬又有二遙夜吟一、則言二永夜獨吟、憂思未レ歇、與レ此不レ同。〔鮑照、代夜坐吟〕冬夜沈沈夜坐吟、含情未レ發已知レ心、霜入レ幕風度レ林、朱燈滅朱顏尋、體二君歌一逐二君音一、不レ貴レ聲貴二意深一。

【夜彩】163 ヤサイ　夜の星などのいろどり。〔韋莊、南省伴直詩〕星分二夜彩一寒侵レ帳、蘭惹二春香一綠映レ袍。

【夜草】164 yeh^4 ts'ao^3　夜中に牛馬などに與へる秫。

【夜窗】165 ヤサウ　夜のまど。〔孟浩然、歲暮歸二南山一詩〕永懷愁不レ寐、松月夜窗虛。〔韋應物、上皇三臺詩〕月寒秋竹冷、風切夜窗聲。〔李端、雲陽觀寄二袁稠一詩〕漱泉春谷冷、擣藥夜窗深。〔盧綸、郊居對レ雨寄二趙涓給事包佶郎中一詩〕夜窗淒二枕席一、陰壁潤二圖書一。〔柳宗元、戲題二堦前芍藥一詩〕夜窗藹二芳氣一、幽臥知二相親一。〔姚合、酬二任疇協律夏中苦レ雨見レ寄詩〕琴書涼簟淨、燈燭夜窗幽。〔張喬、寄二中岳顓頊先生一詩〕夜窗峯頂曙、寒澗洞中春。

【夜裝】166 ヤサウ　夜閒の服裝。〔謝朓、京路夜發詩〕擾擾整二夜裝一。〔戴叔倫、清明日送二鄧芮二子還レ鄉詩〕鐘鼓喧二離日一、車徒促二夜裝一。

【夜霜】167 ヤサウ　夜のしも。〔唐書、五行志一〕永泰元年三月庚子、夜霜、木有レ冰。〔薛業、晚秋贈二張折衝一詩〕夜霜戎馬瘦、秋草射堂閑。〔李商隱、丹丘詩〕青女丁寧結二夜霜一、羲和辛苦送二朝陽一。〔羅虬、比紅兒詩〕樓上嬌歌裊二夜霜一、近來休レ數踏歌娘。〔廣宣、菊花詩〕爽氣浮二朝露一、濃姿帶二夜霜一。

【夜察】168 yeh^4 ch'a^2　夜番。夜の巡察者。

【夜山】169 ヤサン　夜の山。夜峯。〔張喬、寄二處士梁燭一詩〕星霜秋野闊、雨雹夜山空。

【夜霰】170 ヤサン　夜降るあられ。〔張說、喜レ雪應制詩〕夜霰氛埃滅、朝日山川靜。〔梅堯臣、和二正仲再和レ罷レ飲詩〕夜霰已先庭雪集、單衣難レ與毳裘陪。〔范成大、正月九日雪霰後大雨詩〕夜霰三更碎レ瓦、晝冥一陣翻レ盆。

【夜殘】171 ヤザン　よあけ。〔胡曾、車遙遙詩〕玉枕夜殘魚信絕、金鈿秋盡雁書遙。

【夜士】172 ヤシ　夜、巡察等をする小役人。〔周禮、秋官、司寤氏〕以詔二夜士夜禁一。〔注〕夜士、主二行夜徼候一者、如二今都候之屬。

【夜市】173 ヤシ　㊀よみせ。夜肆。〔張籍、送二南客一詩〕夜市連二銅柱一、巢居屬二象州一。〔王建、夜看二揚州市一詩〕夜市千燈照二碧雲一、高樓紅袖客紛紛。〔東京夢華錄〕中秋節、夜市駢闐、至二于通曉一。㊁周防國の地名。

【夜思】174 ヤシ　夜の物思ひ。又、夜閒にものを思ふ。夜閒に工夫をめぐらす。〔柳宗元、送二薛存義之レ任序〕蚤作而夜思、勤レ力而勞レ心。〔李端、宿二淮浦一憶二司空文明一詩〕愁心一倍長二離憂一、夜思千里戀二舊遊一。

【夜祠】175 ヤシ　夜まつる。〔史記、樂書〕以二昏時一夜祠。〔漢書、江充傳〕夜祠視レ鬼。

【夜肆】176 ヤシ　夜市に同じ。〔李商隱、爲二擧人一上二翰林蕭侍郎一啓〕更持二魚目一當二夜肆一、以沽レ諸復挈レ豚。

【夜事】177 ヤジ　㊀夜の仕事。〔漢書、外戚傳序、良使・夜者皆視二百石一、注〕師古曰、夜者、主二職夜事一。㊁夜の警戒。夜警。〔周禮、夏官、大司馬〕百官各象二其事一、以辨二軍之夜事一。〔注〕夜事、戒二夜守一之事。

【夜時】178 ヤジ　夜の時刻。〔周禮、秋官、司寤氏〕掌二夜時一、以レ星分レ夜、以詔二夜士夜禁一。〔注〕夜時、謂二夜晚早一、若二今甲乙至レ戊。

【夜舟】179 ヤシウ　㊀夜、行く舟。夜船。よふね。〔杜甫、旅夜書懷詩〕細草微風岸、危檣獨夜舟。㊁ヨフネ　牡丹餅の隱名。夜舟がいつ着いたか分らぬことを牡丹餅をいつ搗いたか隣の者が知らないに掛けて洒落れた語。〔和漢三才圖會、造釀類、牡丹餅〕今人隱レ名爲二夜舟一、言レ不レ知二其着一也。〔鶴翁漫筆〕若狹國にて、牡丹餅を夜舟といひ、又、隣知らずと云ふ、云云、夜舟とは、ついたを知らぬといふ事、隣知らずといふも同じ事なり。

【夜愁】180 ヤシウ　夜のうれへ。〔盧綸、綸與二吉侍郎云云一詩〕曉望怯二雲陣一、夜愁驚二鶴聲一。

【夜室】181 ヤシツ　㊀墓穴。夜臺。〔述異記、上〕闔閭墓中石銘云、吳王之夜室也。㊁くらい部屋。暗室。〔潛夫論、讚學〕索二物於夜室一者、莫レ良二於火一、索二道於當世一者、莫レ良二於典一。

【夜日】182 ヤジツ　よる。夜閒。〔呂覽、愼小〕吳起治二西河一、欲レ諭二其信於民一、夜日置二表於南門之外一、令二於邑中一曰、明日有レ人、僨二南門之外表一者、仕二長大夫一。

【夜襲】183 ヤシフ　夜閒に敵を襲ふ。又、夜討ち。〔後漢書、南匈奴傳〕降胡五六百人、夜襲二師子一。〔魏志、武帝紀〕夜襲大破レ之。〔魏志、典韋傳〕太祖夜襲、比レ明破レ之。〔宋書、自序傳〕林子銜レ枚夜襲、卽屠二其城一。〔魏書、任城王澄傳〕統軍李叔仁等、夜二襲硤石之賊一、又破レ之。

【夜叉】184 ヤシヤ　㊀［佛］梵語 Yakṣa の音譯。地上又は空中に住し、人を害するが、正しい佛法を守護する惡鬼。能噉鬼。捷疾鬼。傷者。勇健。輕捷。祕密。又、閱叉・藥叉・夜乞叉に作る。〔玄應音義、三〕閱叉、或云二夜叉一、皆訛也、正言二藥叉一、此譯云二能噉鬼一、謂三食二噉人一也、又云二傷者一、謂三能傷二害人一也。〔法華玄贊、二〕夜叉、此云二勇健一、飛二騰空中一、攝二地行類諸羅刹一也、羅刹、云二暴

惡㆒、亦云㆓可畏㆒、彼皆訛音、梵語正云㆓藥叉羅刹婆㆒。㊁後魏、元叉（**1**－**1340**‥219）の小字。㊂源義朝の女。義朝嘗て美濃青墓の驛長大炊の家に宿し、その女延壽を嬖して女を生んだのが、夜叉である。〔大日本史〕。

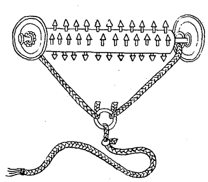
〔夜叉歌〕185（ヤシャカ） 歌曲の名。〔雲仙雜記〕隋諸葛昂・高瓚、爭爲㆓豪侈㆒、昂屈㆑瓚、弗長八尺、餅闊丈餘、餤麁如㆑柱、酒行、自作㆓金剛舞㆒以送㆑之、瓚復屈㆑昂、以㆑車行㆑酒、馬行㆑肉、碓㆓斬膾㆒、碾㆓蒜虀㆒、自唱㆓夜叉歌㆒以送㆑之。

〔夜叉鬼〕186 yeh^4 ch'a^1 kuei^3 惡鬼。夜叉。

〔夜叉頭〕187（ヤシャトウ） 草の名。惡實（**4**－**10824**‥87）の異名。〔本草、惡實〕釋名、時珍曰、其根葉皆可㆑食、人呼爲㆓牛菜㆒、術人隱㆑之、呼爲㆓大力也㆒、俚人謂㆓之便牽牛㆒、河南人呼爲㆓夜叉頭㆒。

〔夜叉木〕188 yeh^4 ch'a^1 mu^4 築地のしんぎ。墻塀の心木。

〔夜叉檽〕189（ヤシャライ） 守城の用具。城の上から下垂して、城に攀ぢのぼる敵を擊つもの。〔武備志、夜叉檽圖說〕夜叉檽、一名留客住、用㆓濕楡木㆒長一丈許、徑一尺、周回施㆓逆鬚㆒、出木五寸、兩端安㆓輪脚㆒、輪徑二尺、以㆓鐵索㆒絞㆑車、放下復收、並以擊㆓攻城蟻附者㆒。


夜叉檽（三才圖會）

〔夜叉若〕190（ヤシャワカ） 加藤清正の幼名。

〔夜叉柄杓〕191（ヤシャビシャク） 虎耳（ユキノシタ）科の落小權木。深山の大樹などに寄生する。

【夜車】192 yeh^4 ch'ê^1 晚の汽車。夜行列車。夜汽車。

【夜者】193（ヤシャ） ㊀漢代の女官の名。祿秩は視百石。夜事を掌る。〔漢書、外戚傳上〕良使・夜者。〔注〕師古曰、夜者、主職㆓夜事㆒。㊁昨夜。夕者（**3**－**5749**‥72）に同じ。〔晏子、雜、下〕使㆔人以㆑車迎㆓占夢者㆒、至曰、曷爲見㆑召、晏子曰、夜者、公瞢㆓二日與㆑公鬭不㆑勝、公曰、寡人死乎、故請㆓君占夢㆒、是何爲也。

〔夜者日之餘〕194（ヨハヒノヨ） 晝の中は家業のために忙しく立働かねばならぬが、夜になると仕事も絶えておのづから暇になるから、かくいふ。三餘の一。〔魏志、董遇傳、注〕（董）遇云、當㆑以㆓三餘㆒、或問㆓三餘之意㆒、遇言、謂㆓冬者歲之餘、夜者日之餘、陰雨者時之餘㆒也。

【夜唱】195（ヤシャウ） 夜うたふ。〔張籍、江南行〕娼樓兩岸臨㆓水柵㆒、夜唱㆓竹枝㆒留㆓北客㆒。〔王建、北邙行〕夜唱挽歌山下宿、洛陽城北復城東。〔劉商、秋夜聽㆔嚴紳巴童唱㆓竹枝歌㆒詩〕思㆑歸夜唱竹枝歌、庭槐葉落秋風多。〔溫庭筠、馬嵬佛寺詩〕荒雞夜唱戰塵深、五鼓雕輿過㆓上林㆒。

【夜觴】196（ヤシャウ） 夜のさかもり。夜宴。〔姚合、洛下夜會寄㆓賈島㆒詩〕夜觴歡稍靜、寒屋坐多深。

【夜上】197（ヤジャウ） ㊀夜、上る。〔梁簡文帝、吳郡石像碑銘〕履㆑冰晨遊、陵㆑濤夜上。〔竇庠、金山行〕海鳥夜上珊瑚枝、江花曉落琉璃地。㊁yeh^4 shang^4 夜中。

【夜城】198（ヤジャウ） 夜の城。〔韋莊、歲晏同㆓左生㆒作詩〕雪埋㆓江樹㆒短、雲壓㆓夜城㆒低。〔無可、送㆔李使君赴㆓瓊州㆒詩〕雨露蒸㆓秋岸㆒、浪濤震㆓夜城㆒。

【夜鵲】199（ヤジャク） 夜のかささぎ。〔杜甫、奉㆑贈㆓太常張卿均㆒二十韻詩〕檻束哀猿叫、枝驚夜鵲棲。〔無可、中秋江驛詩〕淚逐㆓金波滿㆒、魂隨㆓夜鵲驚㆒。

【夜酒】200（ヤシュ） 夜の酒。又、夜のさかもり。夜觴。〔梁簡文帝、當壚曲〕當㆑鑪設㆓夜酒㆒、宿客解㆓金鞍㆒。〔白居易、舟中李山人訪宿詩〕何以延㆓宿客㆒、夜酒與㆓秋琴㆒。

【夜珠】201（ヤシュ） 夜光珠（112）に同じ。〔宋之問、奉㆑和㆔晦日幸㆓昆明池㆒應㆑制詩〕不㆑愁㆓明月盡㆒、自有㆓夜珠來㆒。〔李商隱、行至㆓金牛驛㆒寄㆓興元渤海尚書㆒詩〕六曲屛風江雨急、九枝燈檠夜珠圓。

【夜戍】202（ヤジュ） 夜の陣屋。〔栖白、送㆔禪師宗極歸㆓玉峯㆒詩〕夜戍經㆓霜月㆒、秋城過㆓雨鐘㆒。

【夜樹】203（ヤジュ） 夜の木立ち。〔梁簡文帝、如影詩〕晝花斜色去、夜樹有㆓輕陰㆒。〔劉禹錫、詶㆓樂天七月一日夜卽事見㆑寄詩〕夜樹風韻清、天河雲彩輕。〔馬戴、雒中寒夜姚侍御宅憶㆓賈島㆒詩〕夜樹動㆓寒色㆒、雒陽城闕深。

【夜終】204 yeh^4 chung^1 夜どほし。終夜。

【夜宿】205（ヤシュク） 夜やどる。夜投。又、夜のやどり。〔周書、晉蕩公護傳〕至㆓定州城南㆒夜宿。〔唐書、李吉甫傳〕吉甫病、醫者夜㆓宿其第㆒。〔岑參、酬㆓成少尹駱谷行見㆑呈詩〕夜宿月近㆑人、朝行雲滿㆑車。〔杜甫、宿㆓贊公房㆒詩〕相逢成㆓夜宿㆒、隴月向㆑人圓。〔劉長卿、弄㆓白鷗㆒歌〕朝飛瀟湘水、夜宿洞庭月。〔盧綸、題㆓楊虢縣竹亭㆒詩〕夜宿密公室、話餘將㆑晝興。〔韓愈、送㆓惠師㆒詩〕夜宿最高頂、擧㆑頭看㆓星辰㆒。〔鮑溶、鳴鴈詩〕楚童夜宿煙波側、沙上布羅連㆓草色㆒。〔法照、送㆔無著禪師歸㆓新羅㆒詩〕夜宿依㆓雲色㆒、晨齋就㆓水聲㆒。

【夜春】206（ヤシュン） 晝閒晴れて、夜、雨がふること。〔表異錄〕田家以㆓晝晴夜雨㆒爲㆓夜春㆒。

【夜巡】207（ヤジュン） 夜廻り。夜番。夜邏。〔明史概〕命㆓衞所鎭撫㆒發㆓夜巡銅牌㆒。

【夜渚】208（ヤショ） 夜のなぎさ。〔司空圖、詩品〕海風碧雲、夜渚月明、如㆑有㆓佳語㆒、大河前橫。〔姚崇、夜渡㆑江詩〕夜渚帶㆓浮煙㆒、蒼茫晦㆓遠天㆒。〔杜甫、草閣詩〕魚龍迴㆓夜渚㆒、星月動㆓秋山㆒。

【夜舂】209（ヤショウ） 夜うすづく。〔張喬、江郵詩〕況是漁家宿、疎籬響㆓夜舂㆒。〔子蘭、華嚴寺望㆓樊川㆒詩〕雪磧回㆓寒鴈㆒、村燈促㆓夜舂㆒。

【夜誦】210（ヤショウ） 夜閒に書を讀む。夜讀。〔吳志、步隲傳〕晝勤㆓四體㆒、夜誦㆓經傳㆒。〔魏書、崔光傳〕家貧好㆑學、晝耕夜誦、傭書以養㆓父母㆒。〔李頎、送㆔康洽入㆑京進㆓樂府㆒歌〕朝吟㆓左氏嬌女篇㆒、夜誦㆓相如美人賦㆒。

【夜鐘】211（ヤショウ） ㊀夜のかね。〔高適、夜別㆓韋司士㆒詩〕高館張㆑燈酒復清、夜鐘殘月雁歸聲。〔岑參、春半與㆓群公㆒同遊㆓元處士別業㆒詩〕草色帶㆓朝雨㆒、灘聲兼㆓夜鐘㆒。〔韋應物、送㆔元倉曹歸㆓廣陵㆒詩〕楚山明月滿、淮甸夜鐘微。㊁清、吳雷發（**2**－**3365**‥889）の號。

【夜色】212（ヤショク） 夜の景色。夜景。又、夜の色。〔劉峻、辨命論〕殘㆓懸黎之夜色㆒。〔沈佺期、牛女詩〕誰能留㆓夜色㆒、來夕倍還㆑梭。〔杜牧、秋夕詩〕瑤階夜色涼如㆑水、臥看牽牛織女星。

【夜食】213（ヤショク） ㊀月蝕。〔穀梁、莊、十八〕不㆑言㆑日不㆑言㆑朔、夜食也。㊁夜、食ふ。又、夜閒の食事。夜飯。〔史記、孟嘗君傳〕曾待㆑客夜食。〔喬知之、羸駿篇〕扣㆑冰晨飮㆓黃河源㆒、拂㆑雪夜食㆓天山草㆒。㊂古、一日二食の時、夜閒に於て別に食事をなすこと。後世、三食となつても、猶、夜閒、別に食事することをいふ。〔好色一代男、三〕日が暮れて閒も無き夜食。

〔夜食國〕214（ヨルノヲスクニ） よみのくに。九泉。黃泉。

〔夜食鷹〕215（ヤショクヨウ） 鳥の名。鴟鵂（**12**－**46805**‥1）の異名。〔本草、鴟鵂〕釋名、角鴟・怪鴟・雚老兔・鉤鵅・鵋鵙・轂轆鷹・呼咵鷹・夜食鷹。

【夜燭】216（ヤショク） 夜のともしび。夜燈。〔江總、梁故度支尙書陸君誄〕露盡㆓朝陽㆒、風驚㆓夜燭㆒。〔王珪、自君之出矣詩〕思㆑君如㆓夜燭㆒、煎淚幾千行。〔虞世南、凌晨早朝詩〕玉花停㆓夜燭㆒、金壺送㆓曉籌㆒。〔杜甫、官亭夕坐戲簡㆓顏十少府㆒詩〕不㆑返青絲鞚、虛燒夜燭花。〔李端、慈恩寺懷舊詩〕春霞方照㆑日、夜燭忽迎㆑風。〔張蠙、喜㆓友人日南迴㆒詩〕白日霧昏張㆓夜燭㆒、窮冬氣暖著㆓春衣㆒。

【夜織】217（ヤショク） 夜に機を織る。又、其の聲。〔籟紀〕夜織者、閨中機杼之聲也。〔劉長卿、疲兵篇〕小婦十年啼㆓夜織㆒、行人九月憶㆓寒衣㆒。

【夜辱】218（ヤジョク） 夜閒に來臨を辱くする。〔晏子、雜、上〕君何爲非㆑時而夜辱、公曰、酒醴之味、金石之聲、願與㆓夫子㆒樂㆑之。

【夜深】219（ヤシン） 夜がふける。〔杜甫、翫㆑月呈㆓漢中王㆒詩〕夜深露氣淸、江月滿㆓江城㆒。〔常建、張天師草堂詩〕夜深月暫皎、亭午朝始暾。〔戴叔倫、聽歌詩〕共待夜深聽㆓一曲㆒、醒人騎㆑馬斷腸迴。〔李益、夜上㆓受降城㆒聞㆑笛詩〕風起塞雲斷、夜深關月開。

【夜寢】220（ヤシン） 夜、寢る。〔李白、贈㆓姪聿㆒詩〕夜寢不㆑扃㆑戶。〔宋史、王彥傳〕金人購㆓求彥㆒急、彥慮㆑變、夜寢屢遷。

〔夜寢蚤起〕221（ヨハニイネハヤクオク） おそく寢て早く起きる。夜寢夙興。夜寐蚤作。〔管子、乘馬〕夜寢蚤起、父子兄弟、不㆑忘㆓其功㆒。〔漢書、朱博傳〕夜寢早起、妻希㆑見㆓其面㆒。

〔夜寢夙興〕222（ヨハニイネツトニオク） おそく寢て早く起きる。卽ち、朝早くから夜おそくまで勉めること。夜寢蚤起。夜寐蚤作。〔詩、小雅、小宛〕夙興夜寐、毋㆑忝㆓爾所生㆒。〔故事成語考、歲時〕夜寢夙興、吾人勤事。

【夜水】223（ヤスイ） 夜の川。よかは。〔杜甫、不㆑寐詩〕

瞿塘夜水黑、城内改更籌。〔張問陶、過㆓黃州㆒詩〕蜻蛉一葉獨歸舟、寒浸㆓春衣㆒夜水幽。

【夜醉】224 ヤスイ 夜、酒に醉ふ。〔杜甫、發㆓潭州㆒詩〕夜醉長沙酒、曉行湘水春。〔方干、題㆓桐盧謝逸人江居㆒詩〕湖邊倚㆑杖寒吟苦、石上横㆑琴夜醉多。

【夜生】225 ヤセイ 夜、生れる。〔孔子家語、執轡〕晝生者類㆑父、夜生者類㆑母。

【夜星】226 ヤセイ ❶夜、星が出る。又、夜の星。〔韓非子、説林下〕楚莊王伐㆑陳、吳救㆑之、軍閒三十里、雨十日、夜星。❷夜の星。〔孟郊、上㆓河陽李大夫㆒詩〕霜劍奪㆓衆景㆒、夜星失㆓長輝㆒。

【夜晴】227 ヤセイ 夜、晴れる。〔說苑、指武〕楚莊王伐㆑陳、吳救㆑之、雨十日、十夜晴。〔唐書、五行志三〕晝霧夜晴、臣志得㆑申。

【夜精】228 ヤセイ ❶夜の精。〔關尹子、四符〕魂者木也、木根㆓於冬水㆒、而華㆓於夏火㆒、故人之魂、藏㆓於夜精㆒、而見㆓於晝神㆒。❷鑛物の名。雄黃（**11－41972**··146）の異名。黃色の顏料に用ひる。〔事物異名錄、藥材下、石類〕淸異錄、侯寧極藥譜、夜精、雄黃也。

【夜靜】229 ヤセイ 夜がしづかである。夜寂。夜謐。〔庾信、思舊銘〕孀機嫠緯、獨鶴孤鸞、閨深夜靜、風高月寒。〔戴叔倫、贈㆓月溪羽士㆒詩〕夜靜金波冷、風微玉練平。〔姚合、武功縣中詩〕秋涼送㆑客遠、夜靜詠㆑詩多。〔宋史、五行志二下〕夜靜、禽鳥之音四徹。〔冷齋夜話〕華亭船子和尚詩、夜靜水寒魚不㆑餌、滿船空載㆓月明㆒歸。

〖夜靜的時候〗230 yeh^4 ching^4 tiê shih^2 hou 夜半。よなか。

〖夜靜海濤三萬里〗231 ヨルシヅカニシテカイタウサンマンリ 靜かな夜の大海の茫漠たる有樣を詠じた句。〔王守仁、泛㆑海詩〕險夷原不㆑滯㆓胸中㆒、何異㆔浮雲過㆓大空㆒、夜靜海濤三萬里、月明飛㆑錫下㆓天風㆒。

【夜聲】232 ヤセイ ❶夜の時を知らせる聲。〔梁元帝、納涼詩〕金鋪掩㆓夕扇㆒、玉壺傳㆓夜聲㆒。❷夜、聞える聲。〔李山甫、山中覽㆓劉書記新詩㆒詩〕雲外山高寒色重、雪中松柏夜聲多。〔翁承贊、對㆑雨述㆑懷示㆓弟承檢㆒詩〕曉勢遮回朝客馬、夜聲滴破旅人心。

【夜笑】233 ヤセウ 夜、笑ふ。〔陳樵、垂絲海棠賦〕播㆓明安於密餤㆒、同㆓夜笑於釭花㆒。

【夜照】234 ヤセウ ❶夜、照らす。〔新語、思務〕星不㆓晝見㆒、日不㆓夜照㆒。〔徐陵、歐陽頠德政碑〕朝披㆓羽檄㆒、夜照㆓爟烽㆒。〔張昱、演法師惠㆓紙帳㆒詩〕銀燈夜照白紛紛、四面光搖白縠紋。❷螢（**10－33434**）の異名。〔本草、螢火〕釋名、夜光・熠燿・卽炤・夜照・景天・救火・據火・挾火・宵燭・丹鳥。

【夜嘯】235 ヤセウ 夜、うそぶく。〔蘇軾、秋懷詩〕窗前有㆓棲鵩㆒、夜嘯如㆓狐狸㆒。〔歐陽脩、山中之樂詞〕雲冥冥兮雨霏霏、白猿夜嘯㆓兮青楓㆒。

【夜醮】236 ヤセウ 夜のまつり。又、夜まつる。〔李商隱、漢宮詩〕通靈夜醮達㆓淸晨㆒、承露盤晞甲帳春。〔宋史、丁謂傳〕家設㆓神像㆒、夜醮㆓于園中㆒。

【夜石】237 ヤセキ 夜、光を發する石。〔管子、山權數〕綪絤夜石之幣。〔纂詁〕夜石、未㆑詳、疑、夜中發㆑光、故名㆓夜石㆒與。

【夜汐】238 ヤセキ 夜のうしほ。〔葛長庚、題㆓天寧寺海月亭㆒詩〕晝潮夜汐大江東、東上東南寶刹旌。

【夜席】239 ヤセキ 夜のむしろ。寢床。〔歐陽詹、晨裝行〕旅燈徹㆓夜席㆒、束㆑囊事㆓晨征㆒。

【夜寂】240 ヤセキ 夜がしづかである。夜靜。〔韓愈、明水賦〕夜寂天清、煙消氣明。〔梅堯臣、寄㆓文鑒大士㆒詩〕讀書夜寂冷無㆑火、捲卷遂成搖㆑膝吟。

【夜績】241 ヤセキ 夜つむぐ。夜紡。〔漢書、食貨志上〕冬、民既入、婦人同㆑巷、相從夜績。〔蘇軾、和㆘陶辛丑七月赴㆑假還㆓江陵㆒夜行途中作㆗口號㆖詩〕暗蛩方夜績、弧螢亦宵征。

【夜雪】242 ヤセツ 夜閒に降る雪。夜の雪。〔韋應物、答㆓東林道士㆒詩〕紫閣西邊第幾峯、茅齋夜雪虎行蹤。〔盧綸、上㆓皇甫大夫㆒詩〕曉川分㆓牧馬㆒、夜雪覆㆓連營㆒。〔白居易、春夜喜㆑雪懷㆓王二十一㆒詩〕夜雪有㆓佳趣㆒、幽人出㆓書帷㆒。〔方干、敍㆓錢塘異勝㆒詩〕夜雪未㆑知東岸綠、春風猶放半江晴。

【夜泉】243 ヤセン 夜のいづみ。〔李嶷、林園秋夜作詩〕月色徧㆓秋露㆒、竹聲兼㆓夜泉㆒。〔韋應物、懷㆓瑯琊深標二釋子㆒詩〕白雲埋㆓大壑㆒、陰崖滴㆓夜泉㆒。〔賈島、送㆓友人遊㆑塞詩〕夜泉行客火、曉戍向㆓京煙㆒。〔杜牧、金谷懷古詩〕徒想夜泉流㆓客恨㆒、夜泉流㆑恨恨無㆑窮。

【夜淺】244 ヤセン 夜がまだ早い。夜がまだふけぬ。〔祖詠、家園夜坐郭微詩〕月出夜方淺、水涼池更深。〔元稹、雜憶詩〕寒輕夜淺繞㆓迴廊㆒、不㆑辨㆓花叢㆒暗辨㆑香。〔賈島、夜喜㆓賀蘭三見㆑訪詩〕漏鐘仍夜淺、時節欲㆓秋分㆒。

【夜船】245 ヤセン よぶね。夜舟。〔張祜、題㆓潤州金山寺㆒詩〕僧歸夜船月、龍出曉堂雲。〔盧綸、送㆔惟良上人歸㆓江南㆒詩〕注㆑瓶寒浪靜、讀㆑律夜船香。〔羅隱、寄㆓陸龜蒙㆒詩〕夜船乘㆓海月㆒、秋寺伴㆓江雲㆒。

【夜戰】246 ヤセン 夜のいくさ。よいくさ。又、夜たたかふ。〔國語、齊語〕夜戰聲相聞。〔管子、小匡〕夜戰其聲相聞。〔孫子、軍爭〕夜戰多㆓火鼓㆒、晝戰多㆓旌旗㆒。〔漢書、鼂錯傳〕夜戰聲相知、則足㆓以相救㆒。〔後漢書、公孫瓚傳〕每㆑聞㆑有㆑警、瓚輒厲㆑色憤怒、如㆑赴㆓讎敵㆒、望㆑塵奔逐、或繼㆑之以㆓夜戰㆒。

【夜前】247 ヤゼン ❶夜、進む。〔南史、梁武帝紀上〕銜㆑枚夜前、失㆑道、望㆘見如㆗持㆓兩炬㆒者㆖隨㆑之。❷昨夜。前夜。

【夜禪】248 ヤゼン 夜、坐禪をする。又、夜の坐禪。〔雲仙雜記〕丁繫自㆓尙書郎㆒、參㆓靈度禪師㆒、棄㆑官修㆑道、日食㆓脫粟一升㆒、諸僧鉢水一盂㆒、夏月夜禪、雖㆓飛蚊咂食㆒、終不㆔搖㆓動坐㆒、面爲破爛。〔王維、藍田山石門精舍詩〕朝梵林未㆑曙、夜禪山更寂。〔李端、贈㆓衡岳隱禪師㆒詩〕夜禪山雪下、朝汲竹門開。〔姚合、送㆓文著上人遊㆑越詩〕夜禪㆓月下㆒、袈裟濕、曉上㆓山巓㆒錫杖鳴。〔杜牧、寄㆓東塔僧㆒詩〕西風靜起傳㆓深業㆒、應㆘送㆓愁吟㆒入㆗夜禪㆖。〔蘇軾、端午遍遊㆓諸寺㆒得㆓禪字㆒詩〕道人亦未㆑寢、孤燈同夜禪。

【夜蟬】249 ヤゼン 夜鳴く蟬。〔顏延之、夏夜呈㆓從兄散騎車長沙㆒詩〕夜蟬當㆑夏急、陰蟲先㆑秋聞。

【夜鼠】250 ヤソ 夜出る鼠。〔易林〕炙魚銅斗、張伺㆓夜鼠㆒。〔周砥、寄㆓楊文可㆒詩〕空梁寒月拱㆓夜鼠㆒、傍壁燈火鳴㆓秋蟲㆒。

【夜息】251 ヤソク 夜やすむ。〔韓愈、祭㆓河南張員外文㆒〕夜息㆓南山㆒、同臥㆓一席㆒。〔沈佺期、紅樓院應制詩〕經聲夜息聞㆓天語㆒、爐氣晨飄接㆓御香㆒。

【夜村】252 ヤソン 夜の村。〔盧綸、陪㆓中書李紓舍人㆒夜泛㆓東池㆒詩〕夜村機杼急、秋水芰荷深。

【夜打】253 yeh^4 ta^3 夜業する。

【夜碓】254 ヤタイ 夜うすづく。〔白居易、渭村退居寄㆓禮部崔侍郎翰林錢舍人㆒詩〕晝扉扃㆓白版㆒、夜碓擣㆓黃粱㆒。

【夜對】255 ヤタイ 宿直の夜、天子の不時の諮詢に答へること。〔大學衍義補、正㆓朝廷㆒、廣㆓陳言之路㆒〕夜對之益、所㆔以尤深㆓於晝訪㆒與。

【夜臺】256 ヤダイ はかあな。夜室。墳墓。壙穴。〔陸機、挽歌〕送㆑子長夜臺。〔沈約、傷㆓美人㆒賦〕忽淪㆓軀於夜臺㆒。〔杜甫、哭㆓台州鄭司戶蘇少監㆒詩〕夜臺當㆓北斗㆒、泉路著㆓東吳㆒。〔李益、過㆓馬嵬㆒詩〕唯留坡畔彎環月、時送㆓殘輝㆒入㆓夜臺㆒。

【夜討】257 ヨウチ ❶夜、不意に敵を襲ひ撃つこと。夜に紛れて敵陣を襲擊すること。夜襲。〔將門記〕兼構㆓夜討之兵㆒。❷夜閒、人家を襲ひ討つて財寶を掠めること。又、その盜賊。夜盜。〔東鑑、四十八〕正嘉二年九月二十一日、企㆓夜討・強盜・山賊・海賊㆒。

【夜盜】258 ヤタウ 夜のぬすびと。

【夜濤】259 ヤタウ 夜の大波。〔周賀、送㆔耿山人歸㆓湖南㆒詩〕夜濤鳴㆓柵鎖㆒、寒葦露㆓船燈㆒。

【夜道】260 yeh^4 tao^4 よみち。

【夜柝】261 ヤタク 夜を警めるために打つ拍子木。〔駱賓王、宿㆓溫城㆒望㆓軍營㆒詩〕虜地寒膠折、邊城夜柝聞。

【夜旦】262 ヤタン 夜と朝。〔莊子、大宗師〕死生、命也、其有㆓夜旦之常㆒、天也。

【夜灘】263 ヤタン 夜の早瀨。〔元稹、遣行詩〕稻花秋雨氣、江石夜灘聲。〔韋莊、送㆔李秀才歸㆓荊溪㆒詩〕晚渡去時衝㆓細雨㆒、夜灘何處宿㆓寒煙㆒。

【夜談】264 ヤダン よばなし。夜話。〔蘇軾、送㆔家安國教授歸㆓成都㆒詩〕夜談空說㆑劍、春夢猶横㆑經。

【夜池】265 ヤチ 夜の池。〔梁簡文帝、應令詩〕翠幙晨宇、朱花夜池。

【夜持】266 ヤヂ 夜警の巡番に當る。〔唐律、廄庫〕若夜持時不㆑覺㆑盜、減㆓三等㆒。

【夜籌】267 ヤチウ 夜の時閒。〔劉禹錫、早秋集賢院卽事詩〕灰琯應㆓新律㆒、銅壺添㆓夜籌㆒。

【夜長】268 ヤチヤウ 夜が長い。又、よなが。〔說苑、尊賢〕非㆓其人㆒而欲㆑有㆑功、譬其若㆔夏至之日、而欲㆓夜之長㆒也。〔古詩十九首〕晝短苦㆓夜長㆒、何

不㆓兼㆑燭游㆒。〔陸雲、九愍〕景彌修而日短、時愈促而夜長。〔戴叔倫、同㆓兗州張秀才㆒過㆓王侍御參謀宅㆒賦十首〕意愜時會㆑文、夜長聊飮㆑酒。

〖夜長夢多〗269 ヨナガケレバユメオホシ 夜が長ければ夢を見ることが多い。長い間には變化の多い喩。〔呂晩村手書家訓〕昨橙齋得㆓燕中信㆒云、薦擧事、近復紛紜、夜長夢多、恐㆔將來有㆓意外㆒、奈何、吾意及㆓事至㆒則難㆑爲㆑計、欲㆔先㆑期作㆓披㆑緇出㆑世之擧㆒、庶可㆓倖免㆒。

【夜帳】270 ヤチャウ 夜めぐらしてあるとばり。又、ねやのとばり。〔李賀、惱公詩〕曉匳妝㆓秀靨㆒、夜帳減㆓香筒㆒。〔歐陽脩、送㆓鄆州李留後㆒詩〕組甲光寒圍㆓夜帳㆒、綵旗風暖看㆓春耕㆒。

【夜聽】271 ヤチャウ 夜、きく。〔鮑照、和㆓王丞㆒詩〕夜聽黃石波、朝望宿巖煙。〔王建、霓裳詞〕朝元閣上山風起、夜聽㆓霓裳㆒玉露寒。

【夜中】272 ヤチュウ ㊀よなか。又、夜。〔春秋、莊、七〕夏四月辛卯夜、恆星不㆑見、夜中、星隕如㆑雨。〔國語、吳語〕夜中乃令㆓服㆑兵擐㆑甲。〔注〕夜中、夜半也。〔後漢書、王忳傳〕夜中聞㆑有㆓稱寃之聲㆒。〔阮籍、詠懷詩〕夜中不㆑能㆑寐。〔姚合、贈㆓王尊師㆒詩〕海岸夜中常見㆑日、仙宮深處卻無㆑山。㊁ヨヂュウ 一晩中。夜どほし。終夜。

〖夜中飯〗273 ヤチュウハン 夜中にめしを食ふ。〔鮑照、代東門行〕居人掩㆑閨臥、行子夜中飯。

【夜蟲】274 ヤチュウ 夜鳴く蟲。〔岑參、佐郡思㆓舊遊㆒詩〕庭槐宿鳥亂、階草夜蟲悲。〔周賀、春日重到㆓王依村居㆒詩〕夜蟲鳴㆓井浪㆒、春鳥宿㆓庭柯㆒。〔張喬、題㆓賈島吟詩臺㆒詩〕暝煙寒鳥集、殘月夜蟲愁。〔韋莊、哭㆓麻處士㆒詩〕繐帳扃㆓秋月㆒、詩樓鏁㆓夜蟲㆒。

【夜豬】275 ヤチョ 便器。〔清異錄、器具、夜豬〕溺器曰㆓夜豬㆒、見㆓于唐人文集㆒。

【夜直】276 ヤチョク 夜、禁中に宿直すること。宿直。〔唐書、歐陽詢傳〕子通、儀鳳中、累㆓遷中書舍人㆒、居㆓母喪㆒、詔奪㆑哀、每㆓入朝㆒、徒跣及㆑門、夜直、藉㆑藁以寢。〔韓愈、和㆓席八十二韻㆒詩〕綺陌朝遊間、綾衾夜直頻。〔羅隱、寄㆓禮部鄭員外㆒詩〕夜直爐香細、晴編疏草稠。〔玉海、帝學、三朝講經〕眞宗首置㆓侍讀侍講學士㆒、常令㆓邢昺說㆑經、夜㆓直祕閣㆒。〔蘇易簡、續翰林志〕揆相李公獨直㆓禁林㆒、奏旨令㆘每㆓雙日㆒夜直、隻日下直㆖、可㆔以永爲㆓通式㆒也。

【夜枕】277 ヤチン 夜の枕。枕をいふ。又、夜、枕をする。〔梁書、沈約傳〕躬靡㆑暇㆓於朝食㆒、常求㆓衣於夜枕㆒。〔張祜、送㆔曾黯游㆓夔州㆒詩〕樹色秋帆上、灘聲夜枕前。〔陸游、霜天雜興詩〕晨梳㆓墮髮㆒知㆓衰甚㆒、夜枕聞㆑雞尙慨然。〔張憲、贈㆓張習之㆒詩〕夜枕花頻妬、春衫酒半淹。

【夜砧】278 ヤチン よるのきぬた。〔方干、桐廬江閣詩〕白雲野寺淩㆓晨磬㆒、紅樹孤村遙㆓夜砧㆒。〔陸游、雨夜排㆑悶詩〕村巷時時雨、江城夜夜砧。

【夜邸】279 ヤテイ 夜のやしき。夜のやどや。〔宋褧、送㆔誠夫員外調㆓選江湘㆒詩〕晴湖泛㆑艇鷗衝㆑槳、夜邸縣㆑燈馬卸㆑鞍。

【夜啼】280 ヤテイ ㊀夜なく。又、よなき。〔史記、周紀〕聞㆓其夜啼㆒。〔杜甫、玄都壇歌寄㆓元逸人㆒〕子規夜啼山竹裂、王母晝下雲旗翻。〔陳樵、八詠樓賦〕烏夜啼璠燭滅、沆瀣生丹露浹。㊁乳兒に起る病氣の一。夜間に眠らないでなく病氣。〔儒門事親、夜啼〕夫小兒夜啼不㆑止者、當㆘用㆓燈花一枚㆒研細、隨㆓乳汁㆒下㆖、併㆓三服㆒、則每服用㆓燈花一枚㆒、服㆓罷此藥㆒、於㆓淨室中㆒臥一兩日、卽止也。〔萬氏祕傳片玉心書、初生諸疾胎疾〕夜啼之證有㆑四、驚啼・熱煩啼・腹痛啼・神不安啼。

【夜程】282 ヤテイ よみち。又、夜行く道のり。〔劉禹錫、歷陽書㆑事七十韻詩〕平野分風使、恬和趁㆓夜程㆒。〔杜牧、行次㆓白沙館㆒先寄㆓上河南王侍郎㆒詩〕夜程何處宿、山疊樹層層。

【夜刁】283 ヤテウ 夜ならすどら。〔黃庭堅、詩〕邊城聞㆓夜刁㆒。

【夜鳥】284 ヤテウ 夜禽(95)に同じ。〔吳均、春怨詩〕夜鳥響嚶嚶、朝花照煜煜。〔元稹、酬㆔樂天寄㆓生衣㆒詩〕秋茅處處流㆓痎瘧㆒、夜鳥聲聲哭㆓瘴雲㆒。

【夜潮】285 ヤテウ 夜のうしほ。〔王昌齡、宿㆓京江口㆒云云詩〕風靜夜潮滿、城高寒氣昏。

【夜笛】286 ヤテキ 夜吹いてゐる笛。〔劉孝孫、詠㆑笛詩〕涼秋夜笛鳴、流風韻九成。〔岑參、秋夜聞㆑笛詩〕長安城中百萬家、不㆑知何人吹㆓夜笛㆒。

【夜糴】287 ヤテキ 慾が深くて愚かなこと。〔太平御覽、資產部、賣買〕風俗通曰、夜糴、俗說、市買者、當㆓清旦㆒而行、日中交㆓易所㆑有、夕時便罷無㆑人也、今乃夜糴㆑穀、明㆓癡騃不㆑足也、凡靳㆘不㆓敏惠㆒者㆖、曰㆓夜糴㆒。

【夜店】288 ヤテン 夜の旅の宿。〔陸游、夢行㆓秦晉間㆒有㆑作詩〕夜店紬衾暖、晨廚粟飯香。〔高啓、詠㆑夢詩〕夜店嗟偏短、春閨想最多。

【夜點】289 ヤテン 夜の刻。夜刻。點は時刻。〔蘇軾、八月十七復登㆓望海樓㆒自和㆓前篇㆒云云詩〕天台桂子爲㆑誰香、倦㆑聽空堦夜點涼。

【夜簟】290 ヤテン 夜のむしろ。〔李頎、送㆓山陰姚丞攜㆑妓之㆑任㆒云云詩〕夜簟眠㆓橘洲㆒、春衫傍㆓楓嶼㆒。

【夜殿】291 ヤデン ㊀夜の御殿。〔暢當、宿㆓報恩寺精舍㆒詩〕夜殿若㆑山橫、深松如㆑澗涼。㊁ヨドノ 寢所。寢殿。よるのおとど。〔後撰和歌集、戀、五〕君がよどの夜がれせましや。

【夜投】292 ヤトウ 夜、投宿する。夜やどる。夜宿。〔許渾、贈㆓閑師㆒詩〕初到㆓庾樓㆒紅葉墜、夜投㆓蕭寺㆒碧雲隨。

【夜燈】293 ヤトウ 夜のともしび。夜燭。〔李紳、肥河維㆑舟阻㆑凍祗待㆓勅命㆒詩〕夜燈空應漁家火、朝食還依雁宿灘。〔周賀、送㆓靈應禪師㆒詩〕坐禪幽店暝、補衲夜燈微。〔鄭巢、送㆔魏校書赴㆓夏口從事㆒詩〕夜燈分㆓楚塞㆒、秋角滿㆓湘船㆒。

【夜讀】294 ヤドク 夜、書を讀む。夜誦。〔李商隱、酬㆓令狐郎中㆒詩〕朝吟搘㆓客枕㆒、夜讀漱㆓僧甁㆒。〔蘇軾、讀㆓孟郊詩㆒詩〕夜讀㆓孟郊詩㆒、細字如㆓牛毛㆒。〔陸游、讀書詩〕自嫌尙有㆓人間意㆒、射㆑雉歸來夜讀㆑書。

【夜熱】295 ヤネツ 夜のあつ苦しさ。〔楊萬里、夏夜逐㆑涼詩〕夜熱依然午熱同、開㆑門小立月明中。

【夜吠】296 ヤハイ 夜間に犬のほえること。〔新語、至德〕郵亭無㆓夜行之吏㆒、鄕閭無㆓夜召之征㆒、犬不㆓夜吠㆒、鳥不㆓夜鳴㆒。〔沈約、齊安陸昭王碑〕邑居不㆑聞㆓夜吠之犬㆒、牧人不㆑覩㆓晨飮之羊㆒。〔唐書、五行志二〕成汭爲㆓荊南節度使㆒、城中犬皆夜吠。

【夜芳】297 ヤハウ 夜の花。〔沈佺期、夜遊詩〕今夕重門啓、遊春得㆓夜芳㆒。

【夜紡】298 ヤハウ 夜、絲をつむぐ。夜績。〔迺賢、新鄕媼詩〕日間炊㆑黍餉㆓夫耕㆒、夜紡㆓棉花㆒到㆓天曉㆒。

【夜房】299 ヤバウ 夜のへや。〔子蘭、與㆓道侶㆒同於㆓水陸寺㆒會宿詩〕風遞㆓遠聲㆒秋澗水、竹穿㆓深色㆒夜房燈。

【夜狵】300 ヤバウ 夜の犬。夜犬。〔柳宗元、答㆓劉連州邦字㆒詩〕負㆑弩啼㆓寒狖㆒、鳴㆑枹驚㆓夜狵㆒。

【夜蚌】301 ヤバウ 夜のはまぐり。〔張蠙、送㆔董卿赴㆓台州㆒詩〕夜蚌侵㆓燈影㆒、春禽雜㆓櫓聲㆒。

【夜榜】302 ヤバウ 夜のくひ。〔蘇軾、至㆓秀州㆒贈㆓錢端公安道㆒并寄㆓其弟惠山老㆒詩〕鴛鴦湖邊月如㆑水、孤舟夜榜鴛鴦起。

【夜泊】303 ヤハク ㊀夜、碇泊する。〔賈島、送㆓沈鶴㆒詩〕夜泊疏㆓山雨㆒、秋吟搗㆓藥輪㆒。〔杜牧、泊㆓松江㆒詩〕南湖風雨一相失、夜泊㆓橫塘㆒心渺然。㊁山名。湖北省武昌縣の南。駱禪師が舟を泊めたことからいふ。一名、夜婆山。

【夜雹】304 ヤハク 夜降るへう。〔張祜、觀㆔宋州于使君家樂㆓琵琶㆒詩〕玉盤飛㆓夜雹㆒、金磬入㆓秋雲㆒。

【夜魄】305 ヤハク 夜の月。夜の月光。〔劉長卿、登㆓揚州棲靈寺塔㆒詩〕盤梯接㆓元氣㆒、半壁棲㆓夜魄㆒。〔韋莊、三堂東湖詩〕蟾投㆓夜魄㆒當㆑湖落、嶽倒㆓秋蓮㆒入㆑浪生。

【夜發】306 ヤハツ ㊀夜出發する。〔晉書、陶侃傳〕侃便夜發、敦引㆓其子瞻㆒爲㆓參軍㆒。〔李白、峨眉山月歌〕夜發㆓清溪㆒向㆓三峽㆒、思㆑君不㆑見下㆓渝州㆒。〔韋應物、將㆘發㆓楚州㆒經㆓寶應縣㆒訪㆗李二㆒忽於州館㆖相遇云云詩〕孤舟欲㆓夜發㆒、祗爲㆑訪㆓情人㆒。㊁ヤホチ 辻君。よたか。〔倭名類聚抄、人倫部、男女類、遊女〕楊氏漢語抄云、遊行女兒、宇加禮女、一云㆓阿曾比㆒、今案、又有㆓夜發之名㆒、俗云㆓也保知㆒、本文未㆑詳、但或說、白晝遊行、謂㆓之遊女㆒、待㆑夜而發㆓其淫奔㆒、謂㆓之夜發㆒也。

【夜半】307 ヤハン よなか。夜分。夜中。半夜。〔左氏、哀、十六〕夜半而遣㆑之。〔戰國、趙策〕旁有㆓大叢㆒、夜半、土梗與㆓木梗㆒鬭。〔莊子、大宗師〕夜半、有㆑力者負㆑之而走。〔史記、李將軍傳〕夜半時、胡兵亦以爲、漢有㆑伏㆓軍於旁㆒。〔漢書、張良傳〕良夜半往、有㆑頃父亦來。〔列女傳、貞順、魯寡陶嬰傳〕夜半悲鳴兮。〔張繼、楓橋夜泊詩〕姑蘇城外寒山寺、夜半鐘聲到㆓客船㆒。

〖夜半客〗308 ヤハンノカク 漢、甄豐（7－21557‥47）の

異稱。王莽が宰衡であった時、甄豐が旦夕に入って謀議したので、時人が稱した故事。〔後漢書、彭寵傳〕王莽爲二宰衡一時、甄豐旦夕入謀議、時人語曰、夜半客甄長伯。

〖夜半樂〗309ヤハンガク　詞牌の名。もと唐の教坊の曲名。〔碧雞漫志〕唐史、明皇自二潞州一還二京師一、夜半與レ兵誅二韋后一、製二夜半樂・還京樂二曲一。

【夜帆】310ヤハン　夜、航行する舟。〔王昌齡、客二廣陵一詩〕夜帆歸レ楚客、昨日度レ江書。

【夜班】311 yeh^4 pan^1 ㊀夜勤の組。夜勤。㊁夜間運行。

【夜飯】312ヤハン　夜間の食事。夜食。〔朱子語類〕或云、俗語、夜飯減二一口一、活二得九十九一、曰、此出二古樂府三叟詩一。

【夜晚】313ヤバン　深夜。よふけ。〔詩、召南、小星、肅肅宵征、夙夜在レ公、疏〕言三或早或夜、在二於君所一者、謂二諸妾夜晚始往、及レ早來一。

【夜番】314ヨバン　夜間、寢ずに番をすること。夜の勤番。又、其の人。宿直。〔宇津保物語、國讓、中〕よばんに物せずば。

【夜飛】315ヤヒ　夜飛ぶ。〔張協、七命〕或馳レ名傾レ秦、或夜飛去レ吳。〔杜甫、哀王孫詩〕長安城頭頭白烏、夜飛二延秋門上一呼。

〖夜飛蟬〗316ヤヒゼン　婦人の裝具。〔雲仙雜記〕杜甫每二朋友至一、引二見妻子一、韋侍御見而退、使下其婦送二夜飛蟬一以助中粧飾上。

〖夜飛遊女〗317ヤヒイウヂヨ　蟲の名。小兒の衣を見れば必ず飛毛をつけ、兒をして寒熱を病ましめるといふ。女鳥(3－6036・・250)を見よ。〔水經、江水注〕地多二女鳥一、玄中記曰、陽新男子、于二水次一得レ之、遂與共居生二二女一、悉衣レ羽而去、豫章閒、養レ兒、不レ露二其衣一、言、是鳥落二塵于兒衣中一、則令二兒病一、故亦謂二之夜飛遊女一矣。

【夜寐】318ヤビ　夜おそく寢る。夜臥。〔書、旅獒、夙夜罔二或不レ勤、孔傳〕言レ當三早起夜寐、常勤二於德一。〔詩、小雅、小宛〕夙興夜寐、無レ忝二爾所生一。〔左氏、襄、二十六〕夙興夜寐、朝夕臨レ政。

〖夜寐蚤作〗319ヨハニイネハヤクオク　夜おそくねて、朝早くおきる。いそしみ勤める意。夜寢蚤起。〔管子、弟子職〕少者之事、夜寐蚤作、既拚盥漱。

【夜謐】320ヤヒツ　夜がしづかである。夜靜。〔王勃、九成宮頌〕煙閨夜謐、雲房晝靜。

【夜風】321ヤフウ　夜吹く風。よかぜ。又、夜、風が吹く。〔孫子、火攻〕晝風久、夜風止。〔魏志、王烈傳、注〕寧之歸也、海中遇二暴風一、船皆沒、惟寧乘レ船自若、時夜風晦冥、船人盡惑、莫レ知レ所レ泊。〔李嘉祐、詠レ螢詩〕夜風吹不レ滅、秋露洗還明。

【夜諷】322ヤフウ　夜、そらよみする。又、夜、歌ふ。又、夜、いましめる。〔岑參、虢中酬二陝西甄判官見レ贈詩〕晝吟庭花落、夜諷山月移。〔韓愈、答二孟郊一詩〕朝餐動及レ午、夜諷恆至レ卯。

【夜分】323ヤブン　㊀夜のなかば。夜半。〔後漢書、光武帝紀〕每日視レ朝、日側乃罷、數引二公卿郎將一、講二論經理一、夜分乃寐。〔曹植、上三責レ躬應詔詩一表〕晝分而食、夜分而寢。〔晉書、陶侃傳〕欲二十日忍レ饑、晝當レ擊レ賊、夜分捕レ魚、足二以相濟一。㊁單に夜をいふ。

【夜步】324ヤホ　夜步く。又、よあるき。〔後漢書、靈帝紀〕帝與二陳留王協一夜步、逐二螢光一行數里、得二民家露車一、共乘レ之。〔白居易、夢レ上レ山詩〕晝行雖二蹇澀一、夜步頗安逸。

【夜浦】325ヤホ　夜の岸べ。〔耿湋、常州留別詩〕夜浦涼雲過、秋塘好月閒。〔羅隱、送三沈光侍御赴二職閩中一詩〕夜浦吳潮亂、春灘建水狂。〔皎然、遊レ溪待レ月詩〕夜浦魚驚少、空林鵲繞稀。

【夜峰】326ヤホウ　夜山(169)に同じ。〔李賀、長歌續短歌〕夜峯何離離、明月落二石底一。

【夜縫】327ヤホウ　夜、衣を縫ふ。〔梅堯臣、懷悲詩〕夜縫每至レ子、朝飯輒過レ午。

【夜木】328ヤボク　夜の木立。〔司空曙、同二苗員外一宿二薦福常師房一詩〕霜堦疑二水際一、夜木似二山中一。〔馬戴、新秋雨霽云云詩〕夕陽逢二一雨一、夜木洗二清陰一。

【夜梵】329ヤボン　夜の讀經。又、夜の梵鐘の音。〔江總、明慶寺詩〕夜梵聞二三界一、朝香徹二九天一。

【夜摩】330ヤマ　佛梵語 yāma の音譯。㊀欲界(食欲淫欲をもつ凡夫の住む世界)六天中の第三天の名。時分・善分と譯す。善く時分を知って五欲の樂を受けるからいふ。〔大智度論、九〕夜摩、名二善分天一。〔佛地論、五〕夜摩天者、謂二此天中隨レ時受レ樂、故名二時分一。㊁閻魔をいふ。鬼官の總司。〔玄應音義、二十一〕餤摩、或作二琰摩一、聲之轉也、舊云二閻羅一、又云二閻摩羅一、此言レ縛、或言二雙世一也、謂二苦樂並受一、故云二雙世一、卽鬼官總司也、又作二夜摩盧迦一。

【夜夢】331ヤム　夜のゆめ。又、夜ゆめをみる。〔蜀志、蔣琬傳〕琬見レ推之後、夜夢下有二一牛一、頭在二門前一、流血滂沲上。〔李頎、送二錢子入レ京詩〕夜夢還二京北一、鄉心恨二擣衣一。〔杜牧、別懷詩〕勞生慣二離別一、夜夢苦二東西一。

〖夜夢鬼交〗332ヨルユメニキトマジハル　夜、夢の中でもののけと交接する。夢精をいふ。夢遺。〔證治準繩、遺精〕丹溪書、分二夢遺・精滑一爲二二門一、蓋夢與レ鬼交、爲二夢遺一、不レ因二夢感一而自遺者、爲二精滑一、然總レ之爲二遺精一也、其治法無二二一、故合レ之。

【夜霧】333ヤム　夜のきり。よぎり。〔唐書、五行志一〕大和七年十二月丙戌、夜霧、木冰。〔韋應物、郡中對雨云云詩〕夜霧著レ衣重、新苔侵レ履濕。

【夜明】334ヤメイ　㊀よがあける。又、あかつき。〔史記、天官書〕夜明者、陽氣之動者也。㊁古、月を祭る壇の名。陰曆八月己丑の夜、月を西郊に祭る。〔禮、祭法〕夜明、祭レ月也。〔疏〕夜明、祭レ月壇名也、月明二於夜一、故謂二其壇一爲二夜明一也。〔孔叢子、論書〕夜明、所二以祭一レ月也。㊂夜に明かなこと。〔李華、含元殿賦〕紫微晨曀、彤墀夜明。㊃夜明珠に同じ。〔拾遺記、一、炎帝神農〕有二石磷之玉一、號曰二夜明一、以レ闇投レ水、浮而不レ滅。

〖夜明烏〗335ヨアケノカラス　曉方に鳴くからす。あけがらす。曉鴉。

〖夜明砂〗336ヤメイサ　藥品の名。蝙蝠の糞から製し、眼病に效がある。〔本草、天鼠屎〕釋名、鼠法・石肝・夜明砂・黑砂星。

〖夜明犀〗337ヤメイサイ　犀の一種。夜、光るといふ。〔杜陽雜編〕寶歷元年、高昌國獻二夜明犀一、其狀類二通天犀一、夜則光明、可レ照二百步一。

〖夜明珠〗338ヤメイシユ　夜光珠(112)に同じ。

〖夜明神〗339 yeh^4 ming^2 shen^2　夕月の神。

〖夜明苔〗340ヤメイタイ　苔の一種。黃金色をなす。〔拾遺記〕泰始十年、祖梁國獻二蔓金苔一、色如二黃金一、若二螢聚一之、大如二雞卵一、投二於水中一、蔓二延於波瀾之上一、如三火生二水上一也、宮人有二幸者一、以二金苔一賜レ之、置二漆盤中一、照耀滿レ室、名曰二夜明苔一。

〖夜明杖〗341ヤメイヂヤウ　夜、光を發する杖。〔琅琊代醉編、夜明杖〕隱士郭休、有二一柱杖一、色如二朱染一、叩レ之則有レ聲、每二出處遇一レ夜、則此杖有レ光、可レ照二數十步之內一、登レ危陟レ險、未二嘗失一レ足、蓋杖之力焉、開元天寶遺事。

〖夜明枕〗342ヤメイチン　夜、光を發して室中を照らすといふ枕。〔開元天寶遺事、夜明枕〕虢國夫人、有二夜明枕一、設二於堂中一、光照二一室一、不レ假二燈燭一。

〖夜明錶〗343 yeh^4 ming^2 piao^3　暗夜にも針の光る懷中時計。夜光錶。

〖夜明簾〗344ヤメイレン　簾の名。夜、光るといふ。〔採蘭雜志〕張說於二元宵一召二諸姬一共宴、苦レ無レ月、夫人以二雞林夜明簾一懸レ之、炳二於白日一、夜半月出、惟說宅無レ光、簾奪レ之也。〔皮日休、古宮詞〕梁閒燕不レ睡、應レ怪二夜明簾一。

〖夜明明星〗345ヨアケノミヤウジヤウ　曉方に東に見える金星。

【夜冥】346ヤメイ　夜がうすぐらい。夜暝。〔博物志、異鳥〕或夜冥人不レ見レ鳥、鳥亦知二人不一レ見レ己也。

【夜暝】347ヤメイ　夜冥に同じ。〔洞冥記〕仙人甯封、嘗服二此草一、於二夜暝時一、轉見二腹光通一レ外、亦名二洞冥草一。

【夜鳴】348ヤメイ　夜鳴く。〔禮、坊記、詩云相二彼盍旦一、尚猶患レ之、注〕盍旦、夜鳴求レ旦之鳥、求レ不レ可レ得者也。〔唐書、五行志一〕寶歷元年十一月丙申、羣鳥夜鳴。〔錢起、早下二江寧一詩〕宿レ浦有二歸夢一、愁猿莫二夜鳴一。

【夜沐】349ヤモク　夜、髮を洗ふ。夜浴。〔白居易、早梳レ頭詩〕夜沐早梳レ頭、窗明秋鏡曉。

【夜門】350ヤモン　清代、北京の城門は日暮に之を閉ぢたが、唯、前門だけは、官員の入城に便にするため、夜十二時に一回開門した。但し入城を許して出城を許さない。これを夜門といふ。

【夜夜】351ヤヤ　よなよな。每夜。〔岑參、胡笳歌送二顏眞卿使赴二河隴一詩〕邊城夜夜多二愁夢一、向レ月胡笳誰喜レ聞。〔皎然、晚秋宿二破山寺一詩〕昔日經行人去盡、寒雲夜夜自飛還。〔白居易、慈烏夜啼詩〕經レ年守二故林一、夜夜夜半啼。〔陸游、雨夜排レ悶詩〕村巷時時雨、江城夜夜砧。

【夜夜游】352 yeh⁴ yeh⁴ yu²　浙江地方に行はれる雜曲の一種。

【夜夜曲】353 ヤヤキョク　樂府、雜曲歌辭の一。梁、沈約作。獨處を傷んだもの。梁の簡文帝、唐の王偃・僧貫休等に皆、作がある。〔樂府詩集、雜曲歌辭、夜夜曲〕夜夜曲、梁沈約所レ作也、梁樂府解題曰、夜夜曲、傷二獨處一也。〔沈約、夜夜曲〕北斗闌干去、夜夜心獨傷、月輝橫射レ枕、燈光半隱レ牀。

【夜鷹】354 ヨタカ　㊀蚊母鳥(**10－32849**‥39)の異名。㊁夜歩きする者。〔大織冠、三〕大事の男を夜鷹にして。㊂夜、路傍で淫を賣る女。辻君。立君。〔野郎評判記〕履箱作內摑二夜鷹一。

【夜浴】355 ヤヨク　夜、湯あみをする。〔新論、愼獨〕蘧瑗不下以二昏行一變上レ節、顏回不下以二夜浴一改上レ容。

【夜邏】356 ヤラ　よまはり。夜間、警戒に見まはる人。〔葉適、端午行〕夜邏無二騷音一、絳紗蒙レ首去。

【夜來】357 ヤライ　㊀夜間に來る。〔庾信、周柱國大將軍紇干弘神道碑〕隨何遠至、實釋二漢帝之憂一、許攸夜來、卽定二曹王之業一。㊁夜が來る。〔杜甫、遣懷詩〕夜來歸鳥盡、啼殺後棲鴉。㊂昨夜。〔韋應物、幽居詩〕微雨夜來歇、江南春色迴。〔杜牧、開元寺南樓詩〕可レ惜和風夜來雨、醉中虛度打レ窗聲。〔孟浩然、春曉詩〕春眠不レ覺レ曉、處處聞二啼鳥一、夜來風雨聲、花落知多少。㊃美人の名。魏の文帝の愛妾、薛靈芸(**9－32123**‥259)の異名。〔小名錄〕美人、姓薛、名靈芸、年十七、容貌絕世、時文帝選二良家子一、以入二六宮一、遣二文車十乘一、以迎二靈芸一、芸去レ京十里、帝乘二雕玉之輦一、以望二車徒之盛一、嗟曰、昔言、朝爲二行雲一、暮爲二行雨一、今非レ雲非レ雨、非レ朝非レ暮、因易レ名爲二夜來一、夜來妙二於針工一、宮中號爲二針神一。

【夜來香】358 yeh⁴ lai² hsiang¹　草の名。蔓生で、葉は梅葉に似、夜よい香を發する。閩廣に產する。

【夜來八萬四千偈】359 ヤライハチマンヨンセンゲ　昨夜から多くの偈を讀む。〔蘇軾、贈二東林總長老一詩〕溪聲便是廣長舌、山色豈非二清淨身一、夜來八萬四千偈、他日如何擧二似人一。

【夜雷】360 ヤライ　夜のかみなり。〔杜荀鶴、送二吳蛻下第入レ蜀詩〕鳥徑盤二春靄一、龍湫發二夜雷一。

【夜郎】361 ヤラウ　㊀國の名。漢代の西南夷の一。今の廣西省右江の上源、南盤江の南の西隆・八達州あたりを中心として、貴州省の西部、廣西省の西北部、雲南省の東北部に據つてゐた。漢の武帝の建元六年(B.C.135)、初めて中國と交涉があり、元鼎六年(B.C.111)、南越・西南夷の叛亂平定と共に、夜郎の中心地は夜郎縣とせられたが、夜郎侯は入朝して夜郎王とせられ、漢の寵遇を受けた。後、成帝の河平中(B.C.28－B.C.25)、夜郎王興が叛して誅せられた。夜郎自大を併看せよ。〔史記、平津侯主父傳〕欲下招二南夷一朝中夜郎上。〔漢書、西南夷傳〕夜郎侯、始倚二南粤一、南粤已滅、還誅二反者一、夜郎遂入朝、上以爲二夜郎王一。〔後漢書、夜郎傳〕夜郎者、初有二女子一、浣二於遯水一、忽三節大竹流入二足閒一、聞三其中有二號聲一、剖レ竹視レ之、得二一男兒一、歸而養レ之、及レ長有二才武一、自立爲二夜郎侯一、以レ竹爲レ姓。㊁郡名。晉、置く。今、貴州省桐梓縣。㊂縣名。㋑漢、置く。古の夜郎國の地。後漢、之に因る。今、貴州省桐梓縣の東。〔漢書、地理志上〕牂柯郡、縣十七、夜郎。〔水經、溫水〕溫水、出二牂柯夜郎縣一。〔注〕縣、故夜郎侯國也、唐蒙開以爲レ縣、王莽名曰二同亭一矣。㋺唐、置く。故治は貴州省石阡縣の西南。〔讀史方輿紀要、貴州、石阡府、葛彰葛商長官司〕夜郎廢縣、通志、在二司西六十里一、唐武德四年、置二夜郎縣一、屬二夷州一、貞觀初、與レ州俱廢。

【夜郎大】362 ヤラウダイ　夜郎自大の略。

【夜郎自大】363 ヤラウジダイ　夜郎國は漢代の西南夷中で優勢であつた爲、夜郎侯は自ら大なりとし、漢の使者に向つて、自國と漢との大小を問うたことから、世間知らずで凡人の中で威張つてゐる者に喩へていふ。井戶の中の蛙。鳥無き里の蝙蝠。〔史記、西南夷傳〕西南夷君長、以レ什數、夜郎最大、云云、滇王與二漢使者一言曰、漢孰二與我大一、及夜郎侯亦然、以二道不一レ通、故各以爲二一州主一、不レ知二漢廣大一。

【夜嵐】364 ヨアラシ　㊀夜吹くあらし。〔謠曲、紅葉狩〕雨うちそそぐ夜嵐。㊁盜賊の異稱。

【夜闌】365 ヤラン　夜がふける。〔蔡琰、胡笳十八拍〕山高地闊兮、見レ汝無レ期、更深夜闌兮、夢二汝來一斯。〔王昌齡、少年行〕夜闌須二盡飮一、莫レ負二百年心一。〔杜甫、羌村詩〕夜闌更秉レ燭、相對如二夢寐一。

【夜蘭】366 ヤラン　木の名。日暮に良い香を發し、夏は蚊を拂ふに效力がある。〔嶺南雜記〕粵山中道旁一種小樹、狀如二木蘭一、亦類二紫薇一、高一二尺、葉大如二指頭一、頰帶二藍色一、葉老則有三白篆文如二蝸涎一、名二鬼畫符一、葉下有二小花一、如二粟米一、至レ晚則香聞二數十步一、恍若二芝蘭一、名二夜蘭一、暑月有レ蚊、折二此樹一逐レ之、蚊卽驚散、故又名二蚊驚樹一。

【夜裏】367 yeh⁴ li³　夜更け。夜中。

【夜涼】368 ヤリヤウ　夜のすずしさ。よすず。又、夜がすずしい。〔高適、聽二張立本女吟一詩〕危冠廣袖楚宮妝、獨步二閒庭一逐二夜涼一。〔韋應物、酬二盧嵩秋夜見レ寄詩〕喬木生二夜涼一、月華滿二前墀一。〔柳宗元、再至レ界圍二巖水簾一遂宿二巖下一詩〕夜涼星滿レ川、忽疑眠二洞府一。〔韋莊、夏夜詩〕傍レ水遷二書榻一、開レ襟納二夜涼一。

【夜林】369 ヤリン　夜のはやし。〔劉禹錫、宿二誠禪師山房一詩〕虎嘯夜林動、鼉鳴秋澗寒。

【夜冷】370 ヤレイ　㊀夜がひややかである。〔吳均、餅說〕孌孌曉風、淒淒夜冷。㊁yeh⁴ lêng³　競り賣り。

【夜零】371 ヤレイ　夜おちる。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕赤蛟綏黃華蓋、露夜零晝晻濭。〔劉峻、辨命論〕嚴霜夜零、蕭艾與二芝蘭一共盡。

【夜獵】372 ヤレフ　夜、獵をする。又、よかり。〔庾信、哀江南賦〕豈知灞陵夜獵、猶是故時將軍。〔儲光羲、明妃曲〕強來前殿看二歌舞一、共待單于夜獵歸。

【夜簾】373 ヤレン　夜下つてゐるすだれ。〔劉禹錫、秋夕不レ寐寄二樂天一詩〕洞戶夜簾卷、華堂秋簟清。

【夜路】374 ヤロ　㊀夜の路。よみち。〔劉希夷、餞二李秀才赴レ擧詩〕日月天門近、風煙夜路長。㊁ヨミチ　夜行く路。又、夜のたび。

【夜艣】375 ヤロ　夜の櫓の音。〔顧非熊、經二杭州一詩〕晚濤臨レ檻看、夜艣隔レ城聞。

【夜露】376 ヤロ　夜の露。よつゆ。〔梁昭明太子、擬古詩〕晨風被二庭槐一、夜露傷二階草一。〔隋煬帝、春江花月夜詩〕夜露含二花氣一、春潭漾二月暉一。〔杜甫、蒹葭詩〕體弱春苗早、叢長夜露多。〔戎昱、桂城早秋詩〕遠客驚二秋早一、江天夜露新。〔盧綸、秋中野望云云詩〕夜露濕二蒼山一、秋陂滿二黃葉一。

【夜漏】377 ヤロウ　㊀夜の水時計。〔周禮、春官、雞人〕大祭祀夜嘑レ旦以嘂二百官一、〔注〕夜、夜漏未レ盡、雞鳴時也、呼レ旦以警二起百官一、使二夙興一。〔新書、傳職〕夜漏屛レ人而數。㊁夜の時間。〔韋應物、驪山行〕禁仗圍レ山曉霜切、離宮積レ翠夜漏長。

【夜樓】378 ヤロウ　夜の高どの。〔張說、贈二趙侍御一詩〕夜樓江月入、朝幌山雲卷。

【夜話】379 ヤワ　夜の對話。夜ばなし。夜談。〔白居易、招二東鄰一詩〕能來夜話否。〔蘇軾、答二周循州一詩〕未三敢叩レ門求二夜話一、時叨送レ米續二晨炊一。

【警レ夜】380 ヨヲイマシム　夜を警戒する。夜まはりをする。〔張衡、西京賦〕衞尉八屯、警レ夜巡レ晝。

【守レ夜】381 ヨヲマモル　警レ夜に同じ。〔後漢書、楊秉傳〕宦豎之官、本在下給二使省闥一、司レ昏守上レ夜。

【冒レ夜】382 ヨヲヲカス　夜をも厭はずおして事をすること。〔安積澹泊、鳥居強右衞門〕冒レ夜遽歸。〔鹽谷世弘、蕃山攻苦〕但冒レ夜來、得二一二百錢一足矣。

【夜御座】383 ヨルノオマシ　㊀夜御殿に同じ。〔榮華物語、鳥邊野〕夜のおましに入らせ給ひて。㊁貴人の夜具の異稱。〔婚禮法式、下、夜具〕夜のしとねの事、云云、夜のおましとも云ふ。

【夜御殿】384 ヨルノオトド　清涼殿の中にある主上の御寢所。〔枕草紙、四〕夜のおとどに入らせ給ひにけり。

【夜見國】385 ヨミノクニ　我が國の上代、高天原と葦原中國(現世)とに對し、地下にあつて、死後、魂の行くところと考へられた暗黑の國。ねのくに。したつくに。よもつくに。よるのをすくに。黃泉。九泉。

【夜見世】386 ヨミセ　夜間、街頭に物を賣る店。〔新舊政令拔萃〕夜見世。

【夜牽牛】387 ヤケンギウ　草の名。紫苑(**8－27337**‥41)の異名。〔本草、紫苑〕釋名、青菀・紫蒨・返魂草・夜牽牛。

【夜參半】388 ヨルサンパン　夜半。よなか。〔王粲、登樓賦〕氣交二憤於胸臆一、夜參半而不レ寐兮。

【夜舒荷】389 ヤジヨカ　漢の靈帝の時に南國から獻じた蓮の名。一名、望舒荷。〔拾遺記、六、後漢〕漢靈

帝、於㆓西園㆒奏㆓招商之歌㆒、以來㆓涼氣㆒、歌曰、青荷晝偃㆑葉夜舒、渠中植㆑蓮大如㆑蓋、長一丈、南國所㆑獻、其葉夜舒晝卷、一莖有㆓四蓮叢生㆒、名㆓夜舒荷㆒、亦曰㆓望舒荷㆒。

【夜消兒】390 yeh^{4} hsiao^{1} êrh 夜食。

【夜沈沈】391 ヨルチンチン 夜が更けてゆく。沈沈は、夜のふけゆくさま。〔李白、白紵辭詩〕月寒江清夜沈沈、美人一笑千黃金。〔蘇軾、春夜詩〕歌管樓臺聲細細、鞦韆院落夜沈沈。

【夜度娘】392 ヤドヂヤウ 樂曲の名。倚歌。轉じて、倡伎をいふ。〔樂府詩集、清商曲辭、西曲歌、夜度娘〕古今樂錄曰、夜度娘、倚歌也。〔無名氏、夜度娘〕夜來冒㆓霜雪㆒、晨去履㆓風波㆒、雖㆑得㆑敍㆓微情㆒、奈㆓儂身苦㆒何。

【夜舫樓】393 ヤハウロウ 清、林湛（**6—14551**‥181）の室名。

【夜貓子】394 yeh^{4} mao^{1} tzŭ ふくろふ。梟。

【夜麻登】395 ヤマト 我が國をいふ。日本。大和。〔弘道館記述義、上、注〕案、瑞穗國者、中國之總稱、其他或指㆓今大和㆒、後世遂通用㆓之於總稱㆒、猶㆘訓㆓日本㆒爲㆗夜麻登㆖。

【夜未㆑艾】396 ヨルイマダツキズ 夜が未だ明けない。〔詩、小雅、庭燎〕夜如何其、夜未㆑艾。

【夜不收】397 ヤフシウ ❶軍中で偵察する者。〔水東日記〕。❷先拂ひ。〔直語補證〕。

【夜以繼㆑日】398 ヨヲモツテヒニツグ 晝夜の別なく務める。夜以繼㆑晝。以㆑夜繼㆑朝。以㆑夜接㆑日。〔孟子、離婁下〕仰而思㆑之、夜以繼㆑日。〔莊子、至樂〕貴者夜以繼㆑日、思㆓慮善否㆒。

【夜以繼㆑晝】399 ヨヲモツテヒルニツグ 夜以繼㆑日に同じ。〔後漢書、郅惲傳〕陛下遠獵㆓山林㆒、夜以繼㆑晝。

【夜而忘㆑寢】400 ヨニシテシンヲワスル 夜になつても寢る事を忘れる。物事に熱中すること。〔史記、趙世家〕夜而忘㆑寢、飢而忘㆑食。

【夜落金錢】401 ゴジクワ 草の名。午時花。こむせむ。あをぎり科に屬する外來の一年草。夏から秋にかけて紅色の花を開く。

【以㆑夜繼㆑朝】402 ヨヲモツテアシタニツグ 朝から晩までつづける。夜以繼㆑日に同じ。〔顏氏家訓、勉學〕廢㆑寢忘㆑食、以㆑夜繼㆑朝。

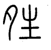
【以㆑夜接㆑日】403 ヨヲモツテヒニツグ 夜以繼㆑日に同じ。〔越絕書、越絕內傳陳成桓〕苦㆑身勞㆑力、以㆑夜接㆑日。

【夜鹿投㆓茅屋㆒】404 ヤロクバウヲクニトウズ 夜、鹿があばらやに宿りに來る。隱者の生活をいふ。南齊の盧度が三顧山に隱居して居た時、夜半に鹿が其の壁に觸れたので、度が、汝は吾が壁を壞るかといつた故事。〔南史、顧歡傳〕始興人盧度、云云、後隱㆓居廬陵西冒三顧山㆒、鳥獸隨㆑之、夜有㆑鹿、觸㆓其壁㆒、度曰、汝勿㆑壞㆓我壁㆒、鹿應㆑聲去。〔張籍、寄㆓紫閣隱者㆒詩〕夜鹿投㆓茅屋㆒、秋猿守㆓栗林㆒。

【夜宵非酌酒思量日所爲】405 yeh^{4} hsiao^{1} fei^{1} chuo^{2} chiu^{3} ssŭ^{1} liang^{2} jih^{4} suo^{3} wei^{2} 夜は酒などを飲まないで、日中爲した事の得失を考へるがよい。

【𡖍】5764 ヤ 夜（**3—5763**）の古字。〔集韻〕夜、古作㆑𡖍。

【夝】5765



小篆

㈠セイ ジヤウ 〔集韻〕慈盈切 庚

㈡サウ シヤウ 〔集韻〕甾莖切 庚

㈠㈡❶**はれる**。夜に入つて雨があがる。〔說文〕夝、雨而夜除、星見也、从㆑夕生聲。〔說文義證〕啓、雨而晝晴也、晝夝、故字从㆑日、夜夝、故字从㆑夕。❷星（**5—13837**）・晴（**5—13994**）・暒（**5—14052**）・精（**8—26997**）に通ず。〔說文、段注〕衞風、星言夙駕、韓詩曰、星者、精也、按、精者、今晴字、史記、天精而見㆓景星㆒、漢書作㆓天暒㆒、古、夝・暒・精、皆今之晴、而詩作㆑星、韓非子曰、荊伐㆑陳、吳救㆑之、軍閒三十里、雨十日、夜星、夜星、卽夜夝也、夝・星疊韻。〔集韻〕夝、或作㆓晴・暒㆒。

【𡖒】5766 コ 〔玉篇〕公戶切 麌

まうかる。〔玉篇〕𡖒、多㆓債利㆒也。

六　畫

【㚋】5767 コウ ク 〔字彙補〕古偶切 有

まがる。〔字彙補〕㚋、句也。

【𡖓】5768 タ 義未詳。〔字彙補〕𡖓、音哆。

七　畫

【㚌】5769 イン 〔集韻〕兪倫切 眞

あまねし。〔集韻〕㚌、周也。

【㚍】5770

㈠タン トン 〔集韻〕都含切 覃

㈡タン トン 〔集韻〕都感切 感

㈠㈡**おほい**。〔廣雅、釋詁、三〕㚍、多也。

【𡖗】5771

㈠ダ ナ 〔集韻〕囊何切 歌

㈡ゼン ネン 〔集韻〕如占切 鹽

㈠㈡❶**おほい**。〔廣雅、釋詁三〕𡖗、多也。❷通じて那（**11—39305**）に作る。〔爾雅、釋詁、那多也、釋文〕那、本或作㆑𡖗。〔集韻〕𡖗、通作㆑那。❸俗に𡖠（**3—5776**）に作る。

【𡖚】5772 シユク 夙（**3—5755**）の本字。〔康熙字典〕𡖚、說文、夙本字。

【𡖙】5773 キウ ク 〔字彙補〕古舟切 尤

おほい。〔字彙補〕𡖙、多也。

【趍】5774 シ 𢾶（**5—13074**）に同じ。〔字彙補〕趍、同㆑𢾶。

【𡖡】5775 タ テ 〔五音篇海〕丁夜切 禡

からだ。〔字彙補〕𡖡、此梵音切、身也。

八　畫

【𡖠】5776 ダ 𡖗（**3—5771**）の俗字。〔正字通〕𡖠、俗𡖗字。

【夠】5777

㈠コウ ク 〔集韻〕居候切 宥 ㄍㄡˋ kou^{4}

㈡コウ ク 〔集韻〕墟侯切 尤

㈠**あつまる**。〔集韻〕夠、聚也。㈡**おほい**。〔集韻〕夠、多也。〔左思、魏都賦〕繁富夥夠、不㆑可㆓單究㆒。〔注〕向曰、夥夠、皆多也。〔通俗編、數目、夠〕廣韻、夠、多也、音遘、升菴外集、今人謂㆑多曰㆑夠、少曰㆓不夠㆒、是也。

現 足りる。十分である。

【够】5778 コウ 夠（**3—5777**）に同じ。〔字彙〕够、同㆑夠。

【⿰多占】5779　セン　〔集韻〕處占切　鹽　おほい。〔玉篇〕⿰多占、多也。〔集韻〕⿰多占、⿰多占⿰多冄、多也。

【⿰多它】5780　チ　螭(10－33494)に同じ。〔集韻〕螭、或作ㇾ⿰多它。〔廣雅、釋魚〕無ㇾ角曰㆓⿰多它龍㆒。

【⿰多亢】5781　ジョウ　ニュ　〔集韻〕乳勇切　腫　おほい。〔集韻〕⿰多亢、⿰多亢⿰多亢、衆多也。

【⿰多回】5782　イン　オン　〔字彙補〕於欣切　文　もと。萬物の元氣。〔字彙補〕⿰多回、元炁。

【⿰多台】5783　セン　〔字彙補〕昌占切　鹽　おほい。〔字彙補〕⿰多台、多也。

【梦】5784　ボウ　夢(3－5802)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕夢、大平樂府作ㇾ梦。

九畫

【⿰多吉】5785　キ　〔集韻〕磬致切　寘　おほい。⿰多其(3－5810)に同じ。〔廣雅、釋詁三〕⿰多吉、多也。〔集韻〕⿰多其、多也、或从ㇾ吉也。

【⿰多亥】5786　カイ　〔集韻〕柯開切　灰　❶おほい。〔廣雅、釋詁三〕⿰多亥、多也。〔疏證〕兼該也。❷おほきい。〔玉篇〕⿰多亥、大也。

【⿰多圭】5787　クワイ　ケ　〔字彙補〕古賣切　卦　おほきい。〔字彙補〕⿰多圭、大也。

【⿰多冄】5788　ダ　ナ　〔字彙補〕諾何切　歌　おほい。〔字彙補〕⿰多冄、多⿰多冄也。

【⿰多冊】5790　ダ　ナ　〔字彙補〕乃何切　歌　おほい。〔字彙補〕⿰多冊、多也。

【⿰多先】5791　シン　〔字彙補〕所臻切　眞　おほい。〔字彙補〕⿰多先、多也。

【⿰彐多】5792　タ　多(3－5756)に同じ。〔海篇〕⿰彐多、同ㇾ多。

【⿰多衣】5793　シャ　義未詳。〔五音篇海〕⿰多衣、音謝。

【⿰多至】5794　シ　義未詳。〔字彙補〕⿰多至、音至。

【⿰多安】5795　クワイ　義未詳。〔字彙補〕⿰多安、音恢。

【⿰多多】5796　イ　移(8－25045)に同じ。〔字彙補〕⿰多多、與ㇾ移同。

十畫

【⿰多外】5797　グワイ　ゲ　〔字彙補〕⿰多外、音外　卦　をひ。〔字彙補〕⿰多外、甥、姉妹之子也。

【⿰多束】5798　ソク　〔廣韻〕桑谷切　屋　⿰多勿⿰多束は、おほい。〔廣韻〕⿰多束、⿰多勿⿰多束、多也。

【⿰多妥】5799　タ　〔字彙補〕烏果切　哿　おほい。〔字彙補〕⿰多妥、多也。

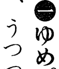
【⿰火多】5800　シ　〔字彙補〕川止切　紙　ほほ。〔字彙補〕⿰火多、頰也。

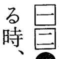
【⿱𠂊共】5801　キョウ　恭(4－10596)の籀文。〔五音篇海〕⿱𠂊共、籀文恭也。

【夢】5801′　ム　夢(3－5802)の略字。

十一畫

【夢】5802　［一］ボウ　ム　〔集韻〕莫鳳切　送　ㄇㄥˋ　mêng⁴　［二］ボウ　ム　〔集韻〕謨中切　東


小篆


小篆

［一］［二］❶ゆめ。㋑寢てゐる時、うつつのやうに見る心の現象。㝱(3－7383)に通ず。〔說文通訓定聲〕夢、叚借爲ㇾ㝱。〔說文〕㝱、寐而覺者也、从ㇾ宀从ㇾ爿夢聲。周禮、㠯㆓日月星辰㆒、占㆓六㝱之吉凶㆒、一曰正㝱、二曰咢㝱、三曰思㝱、四曰寤㝱、五曰喜㝱、六曰懼㝱。〔周禮、春官、占夢〕一曰正夢、二曰噩夢、三曰思夢、四曰寤夢、五曰喜夢、六曰懼夢。〔墨子、經、上〕夢、臥而以爲ㇾ然也。〔列子、周穆王〕神遇爲ㇾ夢。〔注〕神之所ㇾ交、謂㆓之夢㆒。㋺はかない現象。假象。〔楊萬里、寄㆓題范至能參政石湖精舍㆒詩〕古往今來眞一夢、湖光月色自雙淸。❷ゆめみる。〔莊子、大宗師〕其寢不ㇾ夢。❸おもひ。空想。まぼろし。〔荀子、解蔽〕不㆘以㆓夢劇㆒亂㆖知、謂㆓之靜㆒。〔注〕夢、想像也。〔論衡、死僞〕夢、象也。❹くらい。〔說文〕夢、不ㇾ明也、从ㇾ夕瞢省聲。〔段注〕夢之本義爲ㇾ不ㇾ明、今叚爲㆓㝱・寐字㆒、夢行而㝱廢矣。〔廣雅、釋言〕㝱想也。〔曹憲注〕今人以ㇾ夢爲ㇾ㝱、失ㇾ之。❺思ひ亂れる。〔爾雅、釋訓〕夢夢、亂也。〔孫注〕昏昏亂也。〔正字通〕夢、無㆓分別㆒貌。❻澤。又、澤の名。夢中(1－13)を見よ。〔楚辭、宋玉、招魂〕與ㇾ王趨ㇾ夢兮、課㆓後先㆒。〔注〕夢、澤中也、楚人名㆓澤中㆒爲㆓夢中㆒。❼酉陽雜俎の篇名。❽通じて瞢(8－23653)に作る。〔漢書、敍傳上〕棄㆓於瞢中㆒、〔注〕瞢、與ㇾ夢同。❾薨(9－32374)に同じ。〔周禮、春官、大卜〕掌㆓三薨之法㆒、〔釋文〕薨、本多作ㇾ夢。❿蒙(9－31555)に通ず。〔爾雅、釋地、雲夢、釋文〕夢、本或作ㇾ蒙。⓫鄸(11－39696)に通ず。〔穀梁、昭、二十〕自ㇾ夢。〔左氏、昭、二十〕自ㇾ鄸。⓬姓。〔奇姓通〕夢仲才、萬安人、紹定進士。

解字　會意形聲。夕(よる)と𦫳(瞢の省形で、目

の明かでない意)との合字。本義は、夕になり、視界がぼんやりして明かに見えぬこと。此の字をゆめと訓ずるのは㝱字の假借。㝱は宀(屋)と爿(倚りつく意)と夢(くらい)との合字で夢は又聲を示す。人が屋下に在つて牀に倚著して臥し、夢を見る意。夢は明かでないから夢を加へて其の意を表はす。〔說文、夢不レ明也、段注〕以二其字从一レ夕、故釋爲レ不レ明也、夢之本義爲レ不レ明、今字段爲二㝱・寐字一、夢行而㝱廢矣、从レ夕瞢省聲、擧二形聲一包二會意一也。〔說文繫傳、㝱〕㝱之言、蒙也、不レ明之皃、爿者、倚著也、宀、屋也、臥安則㝱多也。

參考 夢の本義はぐらい。㝱の本義はゆめ。今夢を㝱に假り用ひる。故に兩字を併せて此處に置いた。〔說文、㝱、段注〕今字段レ夢爲レ之、夢行而㝱廢矣。

【夢菴】1 ムアン 清、熊方受(7－19294‥168)の號。

【夢遺】2 ムヰ 夢精。〔證治準繩、遺精〕丹溪書分二夢遺・精滑一爲二二門一、蓋夢與レ鬼交爲二夢遺一、不レ因二夢感一、而自遺者爲二精滑一、然總レ之爲二遺精一也、其治法無二二一、故合レ之。

【夢友】3 ムイウ 南唐の李建勳の竹の腰掛の名。〔事物紺珠〕夢友、李建勳湘竹榻名、按、牀長狹而卑者曰レ榻。

【夢遊】4 ムイウ 夢にあそぶ。〔列子、黃帝〕不レ親二政事一、晝寢、而夢遊二於華胥氏之國一。〔十八史略、三皇〕黃帝、云云、嘗晝寢、夢遊二華胥之國一、怡然自得、其後天下大治、幾若二華胥一。

〔夢遊病〕5 ムイウビヤウ 一種の精神病。睡眠中、朦朧狀態に於けるが如く、とりとめのない言語や行爲を爲し、醒めてから之をよく追想し得ない病氣。神經質・癲癇・ヒステリー患者に多く、時に殺人・放火等の危險行爲を爲すことがある。

【夢羽】6 ムウ 明、楊儀(6－15112‥82)の字。

【夢雨】7 ムウ 明、徐于(4－10110‥11)の字。

【夢英】8 ムエイ 宋の僧。衡州の人。號は宣義。十八體の書に巧。

【夢楹】9 ムエイ 孔子が卒する數日前に、二本の柱の閒で神を祀り供へ物をした夢を見た故事。楹は柱。〔禮、檀弓上〕予疇昔之夜、夢三坐二奠於兩楹之閒一、夫明王不レ興、而天下其孰能宗レ予、予殆將レ死也、蓋寢レ疾七日而歿。〔唐玄宗、經二鄒魯一祭二孔子一而歎レ之詩〕今看兩楹奠、當下與二夢時一同上。

【夢厭】10 ムエン 夢魘(11)に同じ。〔康熙字典〕廣韻、厭、魅也、別作レ魘。

【夢魘】11 ムエン 夢におそはれうなされること。夢におびえる。夢厭。〔韓愈、陪二杜侍御一遊二湘西兩寺一云云詩〕怵惕夢成レ魘。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕與下夜臥夢魘、不レ能二復覺一者上相似。

【夢園】12 ムエン 清、方濬頤(5－13620‥548)の號。

【夢霞】13 ムカ 清、王朝忠(7－20823‥1968)の號。

【夢解】14 ユメトキ ゆめはんじ。見た夢の吉凶を判斷する。又、その人。〔蜻蛉日記下、上〕ゆめときに問はせ給へ。

【夢香】15 ムカウ 清、朱蘭(6－14424‥592)の號。

【夢航】16 ムカウ 清、葛萬里(9－31420‥138)の號。

【夢覺】17 ムカク ゆめと覺醒。〔莊子、齊物論〕昔者莊周夢爲二胡蝶一、栩栩然胡蝶也、自喩適レ志與、不レ知レ周也、俄然覺、則蘧蘧然周也。

〔夢覺道人〕18 ムカクダウジン 字號。❶明、李文燭(6－14459‥1912)の號。❷清、周學霆(2－3441‥581)の號。

【夢鶴】19 ムカク 明、唐文鳳(2－3709‥516)の號。

【夢合】20 ユメアハセ 夢を考へ合せて、その吉凶を判斷すること。夢占。〔傾城島原蛙合戰、一〕夢合せ・夢判じ。

【夢感】21 ムカン 夢の中に心が動く。〔李邕、春賦〕蝶栩栩兮夢感、鳥嚶嚶兮思存。

【夢奇】22 ムキ 遼、室昉(3－7136‥34)の字。

【夢歸】23 ムキ 夢といふ歸り場所。夢を唯一の逃避場とすること。ねむることだけが樂しみであることをいふ。〔柳宗元、夢歸賦〕罹二擯斥一以窘束兮、余惟夢之爲レ歸。

【夢驥】24 ムキ 元、劉因(2－2224‥20)の字。

【夢九】25 ムキウ 清、朱之錫(6－14424‥807)の字。

【夢吉】26 ムキツ 元、劉因(2－2224‥20)の字。

【夢境】27 ムキヤウ ゆめぢ。ゆめ。〔韓維、菴中睡起詩〕夢境覺來元一際、不レ勞二脣齒一話無レ生。

【夢駒】28 ムク 唐の杜牧が皎皎白駒の四字を書くことを夢みて間もなく死んだ故事。〔事物異名錄、玩戲、死兆〕山堂肆考、唐杜牧夢レ書二皎皎白駒四字一、或曰、過レ隙也、俄而果卒。

【夢虞】29 ムグ 明、李舜臣(6－14459‥1455)の字。

【夢花】30 ムクワ 後漢の馬融が花を食ふ夢を見て天下の文章を盡く諳んじた故事。〔獨異志〕馬融勤レ學、夢見二一林一、花如二錦繡一、夢中摘二此花一食レ之、及レ寤、見二天下文詞一、無レ所レ不レ知、時人號爲二繡囊一。

〔夢花亭〕31 ムクワテイ 清、陸長春(11－41708‥388)の室名。

【夢華】32 ムクワ 華胥の國を夢みること。華胥之國(9－31214‥218)を見よ。〔列子、黃帝〕黃帝晝寢、而夢遊二於華胥氏之國一、華胥氏之國、在二弇州之西、台州之北一。〔孟元老、東京夢華錄序〕古人有三夢遊二華胥之國一、其樂無レ涯者也、僕今追思回首悵然、豈非二華胥之夢覺一哉、名レ之曰二夢華錄一。

〔夢華瑣簿〕33 ムクワサボ 書名。一卷。清、楊懋建撰。俳優の事蹟に就いて記したもの。

【夢官】34 ムクワン 夢を占ふ官。〔詩、小雅、無羊、牧人乃夢、疏〕夢事、夢官所レ掌。

【夢觀】35 ムクワン 字號。❶元、大圭(3－5831‥625)の號。❷明、守仁(3－7072‥132)の號。

〔夢觀集〕36 ムクワンシフ 書名。五卷。元、釋大圭撰。詩篇を錄す。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔夢觀道人〕37 ムクワンダウジン 元、大圭(3－5831‥625)の號。

【夢溪】38 ムケイ 地名。江蘇省丹陽縣の朱方門の外に在り、宋の沈括の故宅のあつた處。〔輿地紀勝〕括嘗夢至二一處一、心樂レ之、後於二京州一得レ地、恍若二夢遊一、因名曰二夢溪一。

〔夢溪翁〕39 ムケイヲウ 宋、沈括(6－17189‥125)の號。

〔夢溪筆談〕40 ムケイヒツダン 書名。二十六卷。補筆談二卷。續筆談一卷。宋、沈括撰。夢溪は其の別業の名。故事・辨證・樂律・象數・人事・官政・權智・藝文・書畫・伎藝・器用・神奇・異事・謬誤附譎詐・譏謔・雜志・藥議の十七門に分つ。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【夢囈】41 ムゲイ ねごと。夢言。〔福惠全書、刑名部、問擬〕豈非レ同二于夢囈一乎。

【夢劇】42 ムゲキ 幻と忙しさ。幻影と囂煩。〔荀子、解蔽〕不下以二夢劇一亂上レ知、謂二之靜一。〔注〕夢、想像也、劇、囂煩也。

【夢月】43 ムゲツ 月が懷中に入ると夢みて子を孕むこと。又、妊娠中に月が懷中に入る夢をみること。いづれも出生した子が富貴になる前兆。〔漢書、元后傳〕初李親任、政君在レ身、夢三月入二其懷一。〔搜神記、十〕孫堅夫人吳氏、孕而夢二月入一レ懷、已而生レ策、及三權在レ孕、又夢二日入一レ懷、以告レ堅、曰、妾昔懷レ策夢二月入一レ懷、今又夢レ日何也、堅曰、日月者、陰陽之精、極貴之象、吾子孫其興乎。〔南史、梁元帝紀〕初武帝夢下眇目僧執二香鑪一、稱上レ託二生王宮一、既而帝母在二采女一次侍、始褰二戶幔一、有レ風回レ裾、武帝意感幸レ之、采女夢三月墮二懷中一、遂孕。

〔夢月巖〕44 ムゲツガン 清、呂履恆(2－3386‥274)の室名。

【夢見】46 ムケン 夢に見る。〔論衡、紀妖〕夢見レ帝、是魂之上レ天也。〔夢書、解夢〕松爲二人君一、夢見レ松者、見二人君之徵一也。

〔夢見二天門一〕47 ユメニテンモンヲミル 夢の中で天の門を見る。〔晉書、陶侃傳〕夢生二八翼一、飛而登レ天、見二天門九重一、已登二其八一、惟一門不レ得レ入、閽者以レ杖擊レ之、因墜レ地、折二其左翼一、及レ寤左腋猶痛、云云、及下督二八州一、據二上流一、握中彊兵上、有二窺窬之志一、每思二折翼之祥一、自抑而止。〔南史、薛安都傳〕宋薛安都、初征二關陝一、至二白日一、夢仰視レ天、見二天門開一。

【夢幻】48 ムゲン ゆめまぼろし。又、有るやうな無いやうなはかなさ。物事のはかないことの喩。夢幻泡影を見よ。〔梁書、謝幾卿傳〕夢幻俄頃、憂傷在レ念。〔孔武仲、遊二州南一詩〕語罷恍然眞夢幻、不レ應三天色有二江湖一。

〔夢幻鄕〕49 ムゲンキヤウ ゆめまぼろしのやうなところ。超現世的な世界。

〔夢幻劇〕50 ムゲンゲキ 神祕的な題材で、夢幻のやうな氣分を出す演劇。事柄の變化と場面のおもむきとを主とする。

〔夢幻泡沫〕51 ムゲンハウマツ ゆめまぼろしや、水のあわ。はかないものの喩。夢幻泡影。

〔夢幻泡影〕52（ムゲンハウヤウ） 佛物事のはかないことの喩。泡は水のあわ。影はかげ。夢幻泡沫。〔金剛經〕一切有爲法、如二夢幻泡影一、如レ露亦如レ電、應レ作二如レ是觀一。

【夢言】53（ムゲン） ねごと。夢囈。〔韓非子、外儲說右上〕昭侯聞二堂谿公之言一、自レ此之後、欲レ發二天下之大事一、未三嘗不二獨寢一、恐四夢言而使三人知二其謀一也。

【夢現】54（ユメウツツ） ねて居る時と、さめて居る時。轉じて、夢とも正氣とも分らないさま。夢中。ぼんやり。〔古今和歌集、戀、三〕搔きくらす心の闇に惑ひにき、ゆめうつつとは世人定めよ。

【夢後】55（ゴム） 夢のさめたあと。夢餘。〔許渾、溪亭詩〕茶香秋夢後、松韻晩吟時。〔顧況、夢後吟〕醉中還有レ夢、身外已無レ心。〔顧況、聽レ角思レ歸詩〕故園黃葉滿二青苔一、夢後城頭曉角哀。

【夢語】56（ユメガタリ） ㊀夢に見たことを目ざめてから物語ること。又、その物語。㊁夢の中で相語らふこと。㊂夢のやうなはかない物語。夢物語。

【夢公】57（ムコウ） 清、李文纘(**6**－**14459**・・1908)の字。

【夢虹】58（ムコウ） 明、鄧顯麒(**11**－**39630**・・141)の號。

【夢鴻】59（ムコウ） 清、陳逵(**11**－**41698**・・124)の名。

【夢告】60（ムコク） 神佛が枕頭に立つて、夢に告げ給ふこと。夢のおつげ。

【夢穀】61（ムコク） 清、姚鼐(**3**－**6202**・・87)の字。

【夢魂】62（ムコン） 夢の中に在る魂。夢を見てゐる魂。〔錢起、夢尋二西山準上人一詩〕何嘗夢魂去、不レ見雪山子。〔白居易、長恨歌〕聞道漢家天子使、九華帳裏夢魂驚。〔楊萬里、釣二雪舟一倦睡詩〕無レ端卻被梅花惱、特地吹レ香破二夢魂一。

〔夢魂顚倒〕63 mêng^4 huen^2 tien^1 tao^3 晝閒思ひつめたあまり夢にまで見る。心神恍惚たるさま。

【夢草】64（ムサウ） 草の名。其の葉を懷に入れておくと夢を見、又、夢の吉凶を知るといふ。懷夢草。〔洞冥記〕夢草、似レ蒲、色紅、晝縮入レ地、夜則出、懷二其葉一則知二夢之吉凶一、漢武帝思二李夫人一、懷レ之果夢、因曰二懷夢草一。

【夢莊】65（ムサウ） 清、華鉒(**9**－**31214**・・112)の字。

【夢窗】66（ムサウ） 字號。㊀宋、吳文英(**2**－**3365**・・851)の號。㊁明、祝淇(**8**－**24672**・・29)の號。㊂禪僧、疎石の號。伊勢の人。一山・佛國の二師に侍し、後醍醐天皇の敕により南禪寺に住し、後、鎌倉の淨智・瑞泉・圓覺の諸寺を董し、國師の號を賜はり、正平六年入寂。著に夢窗語錄・谷響集などがある。〔本朝高僧傳〕。

【夢想】67（ムサウ） ㊀夢にまで思ふ。又、その思。又、ねては夢に見、さめてはおもふ。〔漢書、王莽傳上〕夙夜夢想。〔司馬相如、長門賦〕忽寢寐而夢想兮。〔後漢書、王霸傳〕夢二想賢士一、共成二功業一。〔魏志、陳思王植傳〕丹誠之至願、不レ離二於夢想一者也。〔左思、詠史詩〕夢想騁二良圖一。〔古詩十九首〕獨宿累二長夜一、夢想見二容輝一。〔陸游、詩〕平生會心事、今乃寄二夢想一。㊁夢と思。〔列子、周穆王〕神遇爲レ夢、形接爲レ事、故晝想夜夢、神形所レ遇、故神凝者、夢想自消。㊂あてもないことを心に描くこと。ぼんやりと思ふこと。とりとめもないおもひ。空想。㊃神佛が夢に現はれて告げ知らせる知らせ。夢のおつげ。夢中の託宣。〔平治物語、賴朝遠流〕不思議の夢想を蒙り。㊄佛夢中の想念。〔楞嚴經、中〕平生夢想消滅、寢寤恒一。

〔夢想不到〕68 mêng^4 hsiang^3 pu^2 tao^4 夢にも想ひ着かない。極めて意外なこと。

【夢竈】69（ムサウ） 春秋衞の復塗偵が夢に竈神を見て靈公を諫めた故事。〔戰國、衞策〕衞靈公近二癰疸・彌子瑕一、復塗偵謂レ君曰、昔日臣夢見レ君、君曰、子何夢、曰夢見二竈君一、君忿然作レ色曰、吾聞、夢見二人君一者、夢見レ日、今子曰、夢見二竈君一而言レ君也、有レ說則可、無レ說則死、對曰、日幷燭二天下一者也、一物不レ能レ蔽也、若レ竈則不レ然、前之人煬、則後之人無二從見一也、今臣疑下人之有中煬二於君一者上也、是以夢見二竈君一。

【夢象】70（ムザウ） ㊀夢に象を見る。〔葛長庚、波羅密詩〕君不レ見北人不レ夢レ象、南人何處夢二駱駝一。㊁（ムシヤウ） 夢に見たありさま。夢像。

【夢山】71（ムザン） 字號。㊀清、李翩(**6**－**14459**・・247)の號。㊁清、盧道悅(**8**－**23050**・・269)の號。

【夢死】72（シム） 何事もなさないで空しく死ぬ。無意味に一生を送る。〔程子語錄〕雖二高才明智一、膠二于見聞一、醉生夢死、不二自覺一也。

【夢思】73（シム） 夢に思ふ。又、夢にまで思ふ。又、それらの思。〔杜甫、酬三嚴武別二杜二一詩〕最悵巴山裏、淸猿惱二夢思一。〔黃庭堅、次韻荅二黃與迪一詩〕千里常夢思。

【夢周】74（シウム） ㊀孔子が周公を慕ふ餘り夢にまで周公を見た故事。〔論語、述而〕甚矣、吾衰也、久矣、吾不三復夢見二周公一。〔劉琨、重贈二盧諶一詩〕吾衰久矣夫、何其不レ夢レ周。〔梁簡文帝、請三尚書左丞賀琛奉二述制旨毛詩義一表〕東魯夢レ周、窮二茲刪採一。㊁唐、王魯復(**7**－**20823**・・2188)の字。

【夢日】75（ムジツ） ㊀太陽が身内に入つた夢を見て子を孕んだ故事。〔漢書、外戚傳上〕王夫人夢三日入二其懷一、以告二太子一、太子曰、此貴徵也。〔拾遺記、一、高辛〕帝嚳之妃、鄒屠氏之女也、云云、常夢呑レ日、則生二一子一、凡經二八夢一、則生二八子一。㊁夢に人君を見ること。〔戰國、衞策〕君忿然作レ色曰、吾聞、夢見二人君一者、夢見レ日、今子曰、夢見二竈君一而言レ君也。

【夢相】76（ムシヤウ） ㊀大臣を夢にみる。〔劉潛、爲二江僕射一禮レ薦レ士表〕當レ宸思レ治、分レ宵夢レ相。㊁（ムサウ） 夢判じをすること。又、それを業とする人。夢はんじ。〔砂石集、一、下〕むさう有りけり、帝是れを試みん爲に、そら夢を語り給はく。㊂佛夢の中に現はれる善惡の相。〔大方等陀羅尼經〕。

〔夢相牽〕77（ユメアヒヒク） 夢が(或るものに)ひかれる。夢の中で思ふ。〔杜甫、晝夢詩〕桃花氣暖眼自醉、春渚日落夢相牽。〔范成大、舫齋信レ筆詩〕困從二定中一生、瞢騰夢相牽。

〔夢相流〕78（ムサウリウ） 柔術の一派の名。〔武藝小傳、九、夏原八大夫〕夏原八大夫者、夢相流小具足達人也。

【夢章】79（ムシヤウ） 明、范景文(**9**－**30834**・・168)の字。

【夢像】80（ムシヤウ） 夢に見たすがた。夢に見たありさま。〔潛夫論、五德志〕乃使下以二夢像一求中之四方側陋上、得二傳說一、升以爲二大公一。

【夢主】81（ユメヌシ） 夢を見た人。〔源平盛衰記、一、淸盛淸水寺詣事〕此の夢主は、日來心苦しく。

【夢授】82（ムジュ） 字號。㊀宋、趙子櫟(**10**－**37171**・・606)の字。㊁宋、董敦逸(**9**－**31433**・・249)の字。

〔夢授レ筆〕83（ユメニフデヲサヅカル） 梁の江淹が夢の中で神人から筆を授かつて文筆の大いに秀れるに至つた故事。夢筆。〔大平廣記、夢、二〕江淹少時、夢人授以二五色筆一、故文彩俊發、後夢一丈夫自稱二郭景純一、謂レ淹曰、前借二卿筆一、可二以見一レ還、探レ懷得二五色筆一與レ之、自レ爾文章躓矣、故時人有二才盡之論一。

【夢壽】84（ムジュ） 宋、臧丙(**9**－**30083**・・59)の字。

【夢樹】85（ムジュ） 清、齊彥槐(**12**－**48560**・・292)の字。

【夢渚】86（ボウショ） 雲夢の澤をいふ。雲夢(**12**－**42235**・・585)の㊁を見よ。〔劉禹錫、松滋渡望二峽中一詩〕夢渚草長迷二楚望一、夷陵土黑有二秦灰一。

【夢松】87（ムショウ） ㊀夢に人君を見ること。〔夢錄〕松爲二人君一、夢見レ松者、見二人君一也。㊁吳の丁固が、腹の上に松の樹が生じた夢をみて、松の字は分解すれば十八公であるから、十八年後に公となると豫言し、遂に其の言のやうになつた故事。〔吳志、孫皓傳、注〕吳書曰、丁固爲二尚書一、夢三松樹生二其腹上一、謂レ人曰、松字十八公也、後十八歲、吾其爲レ公乎、卒如レ夢焉。

【夢心】88（ユメゴコロ） 夢を見てゐる時の心持。夢を見てゐるやうな恍惚たる心持。ゆめうつつの心境。夢心地。〔謠曲、井筒〕定めなき世の夢心。

【夢臣】89（ムシン） ㊀宋、董夢程(**9**－**31433**・・265)の一名。㊁字號。㋑唐、陳巖(**11**－**41698**・・112)の字。㋺元、張起巖(**4**－**9812**・・899)の字。

【夢辰】90（ムシン） 元、張樞(陳留の人)(**4**－**9812**・・454)の字。

【夢晉】91（ムシン） 明、張靈(**4**－**9812**・・741)の字。

【夢人】92（ユメビト） 夢に見た人。又、夢のやうに見えた人。〔草根集、十四〕こよひ見し其の夢人。

【夢世】93（ユメノヨ） 夢のやうにはかない世の中。無常の世。〔榮華物語、木綿四手〕うちとけて誰もまだ見ぬゆめの世。

【夢精】95（ムセイ） 夢に精液を漏らすこと。夢遺。〔金匱要略、失精〕虛勞裏、急悸衄、腹中痛、夢失レ精、四肢痠疼、手足煩熱、咽乾口燥、小建中湯主レ之。

【夢醒】96（ムセイ） 夢がさめる。〔章孝標、遊二雲際寺一詩〕雲領二浮名一去、鐘撞大夢醒。〔朱熹、梧竹詩〕此君同一笑、午夢頓能醒。

【夢跡】97（ユメノアト） はかなく消えうせた喩。

【夢錫】98（ムセキ） 字號。❶宋、姚易(3－6202・・9)の字。❷宋、龔蓋卿(10－34717・・57)の字。❸宋、蔣瑎(9－31820・・14)の字。❹宋、葉衡(9－31387・・18)の字。❺宋、楊冠卿(6－15112・・492)の字。❻宋、楊授(6－15112・・202)の字。

【夢說】99（ムセツ） 明、高良弼(12－45313・・1354)の字。

【夢節】100（ムセツ） 明、徐柱(4－10110・・223)の字。

【夢占】101（ユメウラ） 夢の吉凶を判斷すること。夢合(20)に同じ。

【夢泉】102（ムセン） 清、朱熊(6－14424・・582)の號。

【夢禪】103（ムゼン） 清、瑛寶(7－21127・・4)の字。

【夢村】104（ムソン） 字號。❶清、朱緯(6－14424・・20)の號。❷清、羅坤(9－28397・・107)の號。

【夢刀】105（ムタウ） 榮轉すること。晉の王濬が三刀に一刀を益すと夢みた時、李毅が賀して、三刀は刕(州の俗字)、更に一刀を益せば益州となる。公は將に益州の守たらんといひ、後、果して益州刺史と爲つた故事。〔晉書、王濬傳〕濬夜夢下懸二三刀於臥屋梁上一、須臾又益中一刀上、濬驚覺、意甚惡レ之、主簿李毅再拜賀曰、三刀爲二州字一、又益レ一者、明府其臨二益州一乎、及三賊張弘殺二益州刺史一、果遷レ濬爲二益州刺史一。〔元稹、寄二贈薛濤一詩〕紛紛辭客多停レ筆、箇箇公卿欲レ夢レ刀。

【夢澤】107（ムタク） 宋、劉倚友(2－2224・・670)の字。

【夢澤集】108（ムタクシフ） 書名。二十三卷。明、王廷陳撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【夢達】109（ムタツ） 宋、俞聞中(1－1437・・135)の字。

【夢張】110（ムチヤウ） 清、陳梁(11－41698・・595)の號。

【夢腸】111（ムチヤウ） ❶漢の揚雄が腸を吐き出した夢を見た故事。〔揚雄、甘泉賦、注〕善曰、雄作二甘泉賦一首一、始成、夢二腸出收而內一レ之、明日遂卒。〔金樓子、立言篇、九、上〕揚雄作レ賦、有二夢腸之談一、曹植爲レ文、有二胃反之論一。❷吳の孫堅の母が自分の腸が腹から出て吳昌門を繞る夢を見た故事。〔宋書、符瑞志上〕孫堅母妊レ堅、夢三腸出繞二吳昌門一、以告二鄰母一、鄰母曰、安知レ非二吉祥一也。

【夢場】112（ムヂヤウ） 夢の中。夢の世。夢一場(164)を見よ。

【夢中】113（ムチユウ） ❶ゆめのなか。夢裏。〔列子、周穆王〕以二夢中所レ爲者一實。〔沈約、別二范安成一詩〕夢中不レ識レ路。〔崔塗、春夕旅懷詩〕蝴蝶夢中家萬里、杜鵑枝上月三更。❷（ボウチユウ） 雲夢澤の中。又、澤の中。今、湖北省安陸縣の北。〔左氏、宣、四〕淫二於䢵子之女一、生二子文一焉、䢵夫人使レ棄二諸夢中一。〔注〕夢、澤名也、江夏安陸縣城東南有二雲夢城一也。〔楚辭、招魂〕與レ王趨レ夢兮課二先後一、〔注〕夢、澤中也、楚人名二澤中一爲二夢中一。❸（ムチユウ） ㋑本心を失つたさま。有頂天。㋺專ら心を一事に寄せて他を顧みないさま。一所縣命。一心不亂。

【夢中緣】114（ムチユウエン） 戲曲の篇名。清、張堅作。玉燕堂四種の一。康熙三十八年成る。鍾心といふ人物が、夢中に見る所の美女媚蘭・麗娟と結婚する始末を演じたもの。

【夢中夢】115（ムチユウノユメ） 夢の中で、又夢を見る。夢中又占二其夢一に同じ。人生のはかないことの喩。〔李羣玉、自遣詩〕浮生暫寄夢中夢、世事如レ聞二風裏風一。

【夢中遊行】116（ムチユウイウカウ） 夢遊病の類。睡眠中、意識がなくて遊び歩く現象。

【夢中相尋】117（ムチユウアヒタヅヌ） 夢の中で友人を尋ねる。極めて親密な喩。〔書言故事大全、朋友類〕夢中相尋、六國張敏、與二高惠一爲レ友、每相思不レ能レ得、便於二夢中一往尋、但行至二半路一、卽迷不レ知レ路。

【夢中說レ夢】118（ムチユウユメヲトク） 佛 夢の中で夢の話をする。〔大般若經、五百九十六〕復次善勇猛、如二人夢中說レ夢、所レ見種種自性如レ是、所レ說夢境、自性總無二所有一、何以故、善勇猛、夢尚非レ有、況有二夢境自性可レ說。

【夢中占レ夢】119（ユメノウチニユメヲウラナフ） 夢中又占二其夢一(121)を見よ。〔王績、題二酒店壁一詩〕夢中占レ夢罷、還向二酒家一來。

【夢中夢レ夢】120（ムチユウユメヲユメム） 夢の中で又夢を見る。夢中又占二其夢一(121)に同じ。

【夢中又占二其夢一】121（ユメノウチニマタソノユメヲウラナフ） 夢の中で又其の夢を考へる。轉じて、人世のことは皆夢だといふ喩。〔莊子、齊物論〕夢飮レ酒者、旦而哭泣、夢哭泣者、旦而田獵、方二其夢一也、不レ知二其夢一也、夢之中、又占二其夢一焉、覺而後知二其夢一也、且有二大覺一而後、知二此其大夢一也、而愚者自以爲レ覺、竊竊然知レ之、君乎牧乎、固哉、丘也與レ女皆夢也、予謂二女夢一、亦夢也。

【夢中許レ人覺且不レ背二其信一】122（ムチユウヒトニユルシテサメテカツソノシンニソムカズ） 夢の中で人と約束し、覺めて後、之に背かない。信義の厚い喩。〔新書、匈奴〕必行而弗レ易、夢中許レ人、覺且不レ背二其信一、陛下已諾、若二日出之灼灼一。

【夢佇】123（ムチヨ） 夢にさへたたずんで待つてゐる。人を待ち望む情の切なこと。〔梁武帝、徵二庾詵庾承先一詔〕旌レ賢求レ士、夢佇斯急。

【夢徵】124（ムチヨウ） ❶夢で見たしるし。夢で見たことがら。〔老學庵筆記、九〕禮部奏二擧人宋郊等一、公大惡レ之、以爲、夢徵止レ此矣、然其後卒爲二大魁一。❷字號。㋑唐、曹松(5－14297・・117)の字。㋺明、余應桂(1－514・・7)の字。

【夢枕】125（ムチン） ❶それをして寢ると夢を見ることのできる枕。〔葛長庚、樂府〕馬瑙游レ仙之夢枕、龍綜辟レ寒之寶砂。❷夢を見てゐる枕邊。〔殷堯藩、寒夜詩〕雞催二夢枕一司レ晨早、更咽二寒城一報點遲。❸（ユメマクラ） ㋑睡眠中、神佛などが枕邊に現じて夢に告げること。㋺相撲の手。紛（マガヒ）の十二手の一。

【夢亭】126（ムテイ） 東聚の號。東悔庵(6－14499・・786)を見よ。

【夢兆】127（ムテウ） ゆめじらせ。〔摯虞、泰始四年擧二賢良方正一對策〕豈或有下懷レ道釣築、而未レ感二于夢兆一者上乎。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕笠置夢兆、於レ是益驗。

【夢蝶】128（ムテフ） 莊周が胡蝶の夢を見た故事。〔莊子、齊物論〕昔者莊周夢爲二胡蝶一、栩栩然胡蝶也、自喩適レ志與、俄然覺、則蘧蘧然周也。

【夢殿】129（ユメドノ） 大和國法隆寺境內に在る建物。又、東院・上宮王院といふ。聖德太子の入定の室址として名高い。八角造りで、高さ三丈九尺、方九間二尺。天平時代の創立。

【夢得】130（ムトク） 字號。❶唐、劉禹錫(2－2224・・697)の字。❷宋、黃希(12－47926・・166)の字。❸宋、吳師服(2－3365・・624)の字。❹宋、蔡齊基(9－31818・・203)の字。❺宋、孫抃(3－6987・・267)の字。❻宋、范祖禹(9－30834・・223)の字。

【夢坡】131（ムハ） 明、張淵(4－9812・・70)の號。

【夢白】132（ムハク） 明、趙南星(10－37171・・827)の字。

【夢飛】133（ムヒ） 清、程兆熊(8－25081・・266)の字。

【夢寐】134（ムビ） ゆめを見てゐる閒。ねてゐる閒。〔後漢書、郞顗傳〕此誠臣顗區區之意、夙夜夢寐、盡レ心所レ計、謹條二夢前章一、暢二其旨趣一。〔謝靈運、酬二從弟惠連一詩〕夢寐佇二歸舟一、釋二我吝與レ勞。

【夢寐頻】135（ムビシキリ） 景色のよい土地を思ひ、又は人を戀慕する情が切で、頻りに夢みること。〔宋之問、和三趙員外桂陽橋遇二佳人一詩〕蕩レ舟爲レ樂非二吾事一、自歎空閨夢寐頻。

【夢弼】136（ムヒツ） 字號。❶唐、童宗說(8－25775・・121)の字。❷明、黃傳(12－47926・・805)の字。❸明、李廷相(6－14459・・1772)の字。

【夢筆】137（ムヒツ） ❶梁の江淹が筆の夢を見て文名を博するに至つた故事。夢授レ筆(83)を見よ。❷山名。㋑江淹が令となり、夢に神が筆を與へた所といふ。一名、孤山。福建省浦城縣の西南。〔海錄碎事、地部、上、總載、山門〕夢筆山、在二浦城縣西南三里一、蕭子開建安記云、一名孤山、江淹爲レ令、夢二神賜一レ筆之地。㋺四川省懋功縣の西北。一名、孟拜山。

【夢筆生レ花】138（ユメニフデハナヲシヤウズ） 唐の李白が筆の頭に花が生じた夢を見て、後、文名が世に顯はれた故事。〔開元天寶遺事、天寶下〕李太白少時、夢二所レ用之筆頭上生一レ花、后天才贍逸、名聞二天下一。

【夢賓】139（ムヒン） 明、姜龍(3－6205・・72)の字。

【夢符】140（ムフ） 字號。❶宋、侯友彰(1－633・・98)の字。❷宋、李觀(6－14459・・270)の字。❸元、喬吉甫(2－3990・・14)の字。❹元、張孔孫(4－9812・・1031)の字。❺明、范霽(9－30834・・68)の字。

【夢復】141（ムフク） 字號。❶唐、鄭符(11－39647・・247)の字。❷唐、林蘊(6－14551・・20)の字。

【夢夢】142（ボウボウ） ❶亂れたさま。〔爾雅、釋訓〕夢夢、亂也。〔詩、大雅、抑〕視二爾夢夢一、我心慘慘。〔傳〕夢夢、亂也。❷遠くて明かでないさま。〔詩、小雅、正月〕民今方殆、視レ天夢夢。〔集傳〕夢夢、不レ明也。

【夢卜】143（ムボク） ❶夢とうらなひ。又、ゆめによつて

うらなふ。又、其のうらなひ。ゆめうら。夢判斷。殷の高宗が夢によつて傅說を得、周の文王がうらなひによつて呂尚を得た故事から、轉じて、賢相を得るをいふ。〔書、泰誓中〕朕夢協二朕卜一、襲二于休祥一、戎レ商必克。〔呂頌賀、陸相公拜レ相啓〕叶二一人夢卜之求一、副二四海具瞻之望一。〔杜牧、謝二周相公一啓〕傅呂得二於夢卜一。〔宋史、富弼傳〕或得二諸夢卜一。㊀明、王徵俊(**7**－**20823**‥1926)の字。

【夢魔】144 ムマ うなされること。

【夢熊】145 ムユウ 熊の夢をみる。男の兒が生れる前兆とせられた。〔詩、小雅、斯干〕吉夢維何、維熊維羆、云云、大人占レ之、維熊維羆、男子之祥。〔李賀、惱公樂府詩〕移レ燈想二夢熊一。

【夢餘】146 ムヨ 夢のさめたあと。夢後(55)に同じ。〔劉攽、絕句〕青苔滿レ地初晴後、綠樹無レ人晝夢餘。

【夢餘道人】147 ムヨダウジン 清、金學詩(**11**－**40152**‥1214)の晚號。

【夢蘭】148 ムラン ㊀妊娠すること。鄭の文公の妾の燕姞が、天が人をして蘭を賜はらせ、其の人が此の蘭を以て汝の子と爲さんと言つた夢をみた。やがて文公が之を知つて蘭を與へて御せんとした時、燕姞が辭して、妾は不才であるから、幸ひにして子を生んでも、信ぜられないであらう、戴いた蘭を以て御に當つた證としようといひ、後、穆公を生んで蘭と名づけた故事。〔左氏、宣、三〕鄭文公有二賤妾一、曰二燕姞一、夢天使與二己蘭一、曰、余爲二伯鯈一、余而祖也、以レ是爲二而子一、以三蘭有二國香一、人服二媚之一如レ是也、既而文公見レ之、與二之蘭一而御レ之、辭曰、妾不才、幸而有レ子、將レ不レ信、敢徵二蘭乎一、公曰、諾、生二穆公一、名レ之曰レ蘭。〔庾信、奉三和賜二曹美人一詩〕何年迎二弄玉一、今朝得二夢蘭一。〔書言故事、子孫類〕賀二人妾生一レ子、協二夢レ蘭之慶一。㊁清、董兆熊(**9**－**31433**‥242)の字。

【夢裡】149 ムリ ゆめのうち。夢中。夢裏。〔王昌齡、送二別魏二一詩〕憶君遙在二瀟湘月一、愁聽二清猿一夢裏長。〔張仲素、秋閨思詩〕夢裡分明見二關塞一、不レ知何路向二金微一。〔劉長卿、感懷詩〕愁中卜レ命看二周易一、夢裡招レ魂誦二楚詞一。

【夢裏】150 ムリ ゆめの中。夢中。夢裡。〔張九齡、秋夕望レ月詩〕所思如二夢裏一、相望在二庭中一。〔陳陶、隴西行〕可レ憐無定河邊骨、猶是春閨夢裏人。

【夢六】151 ムリク 清、甘福(**7**－**21643**‥181)の號。

【夢龍】152 ムリヨウ 清、汪濤(**6**－**17154**‥97)の字。

【夢麟】153 ボウリン 清の人。蒙古正白旗人。姓は西魯特氏。字は文子。號は午塘。乾隆の進士。卒年、三十一。詩を善くし、官は工部侍郎に至る。著に太谷山堂集がある。書室を太谷山堂といふ。〔清史稿、三百十〕・〔國朝耆獻類徵、四十三〕・〔國朝先正事略、四十三〕。

【夢齡】154 ムレイ 周の武王が夢に天帝から壽命を受けた故事。〔禮、文王世子〕武王對曰、夢帝與二我九齡一。〔李嶠、爲二秋官員外郎李敬仁一賀二聖躬新牙更生一表〕同二鎬邑之夢一レ齡、邁二鑣宮之錫一レ壽。

【夢列】155 ムレツ 潛夫論の篇名。

【夢蓮】156 ムレン 清、寶琳(**3**－**7376**‥319)の字。

【夢路】157 ユメヂ 夢の中で往來する道。夢を見ることにもいふ。〔古今和歌集、戀、三〕夢路には足も休めず通へども、うつつに一目見しことはあらず。

【夢盧】158 ムロ 清、朱偁(**6**－**14424**‥393)の字。

【夢樓】159 ムロウ 清、王文治(**7**－**20823**‥2078)の號。

【夢話】160 mêng^4 hua^4 ㊀ねごと。㊁夢のやうな話。根據のない話。

【如レ夢】161 ユメノゴトシ 分明でない。取りとめがない。又、心が恍惚狀態にあるにいふ。轉じて、はかない意ともなる。若レ夢と同じ。〔蔡邕、讓二高陽鄉侯一表〕怔營喜懼、精魄播超、恍惚如レ夢、不二敢自信一。〔南史、沈約傳〕巫言如レ夢。〔李白、春夜宴二桃李園一序〕夫天地者萬物之逆旅、光陰者百代之過客、而浮生若レ夢、爲レ歡幾何。

【夢爲レ魚】162 ユメニサカナトナル 夢に其の身が魚となる。夢爲レ鳥を見よ。

【夢爲レ鳥】163 ユメニトリトナル 夢に其の身が鳥となる。〔莊子、大宗師〕汝夢爲レ鳥而厲二乎天一、夢爲レ魚而沒二於淵一、不レ識、今之言者、其覺者乎、其夢者乎。

【夢一場】164 ユメイチヂヤウ 人生の榮枯盛衰のはかない喩。〔孫蕢、詩〕春風莫レ撼流蘇帳、待妾分明夢一場。

【夢隱子】165 ムインシ 清、倪稻孫(**1**－**792**‥62)の號。

【夢陔堂】166 ムガイダウ 清、黃承吉(**12**－**47926**‥1164)の室名。

【夢好樓】167 ムカウロウ 清、董蠡舟(**9**－**31433**‥271)の室名。

【夢江齋】168 ムカウサイ 明、陳函輝(**11**－**41698**‥708)の號。

【夢江南】169 ボウカウナン 曲調の名。望江南ともいふ。謝秋娘(**10**－**35827**‥290)を見よ。〔海錄碎事、音樂部、歌曲名〕夢江南曲、始自下李德裕鎭二浙西一日、爲二亡妓謝秋娘一作上、後改曰二望江南一、亦曰二夢江南一。

【夢酣香】170 ムカンカウ 香の名。〔紅樓夢、三十七回〕炷二了一枝夢酣香一、原來這夢酣香、只有二三寸來長一。

【夢吟堂】171 ムギンダウ 明、謝庭循(**10**－**35827**‥332)の室名。

【夢硯齋】172 ムケンサイ 清、唐樹義(**2**－**3709**‥435)の號。

【夢萱堂】173 ムケンダウ 清、顧大信(**12**－**43689**‥317)の室名。

【夢牕稿】174 ムサウカウ 書名。四卷、補遺一卷。宋、吳文英撰。甲乙丙丁の四稿に分る。其の補遺は毛晉の輯。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【夢兒亭】175 ムジテイ 亭の名。南朝、宋のとき、錢塘の杜明師が、謝靈運の來る夢をみて建てたもの。〔類要〕謝靈運、世不レ宜二子息一、乃於二錢塘杜明師一治二寄養一、師先夜夢有二賢人相訪一、及レ曉乃靈運至、後因以名レ亭。〔白居易、餘杭形勝詩〕夢兒亭古傳二名謝一、教妓樓新道二姓蘇一。

【夢春廬】176 ムシユンロ 清、李貽德(**6**－**14459**‥831)の室名。

【夢衲龕】177 ムダフガン 清、汪昉(**6**－**17154**‥120)の室名。

【夢鼎堂】178 ムテイダウ 清、任觀瀛(**1**－**416**‥208)の室名。

【夢浮橋】179 ユメノウキハシ 夢路。世の中。〔新古今和歌集、春上〕春の夜の夢のうき橋。

【夢物語】180 ユメモノガタリ ㊀夢語(56)に同じ。〔謠曲、八島〕夢物語申すなり。㊁書名 一卷。高野長英撰。夢物語に託して、幕末の外史を論じたもの。

【夢碧軒】181 ムヘキケン 清、陳士璠(**11**－**41698**‥892)の室名。

【夢墨軒】182 ムボクケン 清、周季畹(**2**－**3441**‥587)の室名。

【夢墨亭】183 ムボクテイ 明、唐寅(**2**－**3709**‥7)の室名。

【夢捫レ天】184 ユメニテンヲサグル 夢の中で青天を撫でる。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕后嘗夢捫レ天、蕩蕩正青、若レ有二鍾乳狀一、乃仰嗽飮レ之。

【夢磊記】185 ムライキ 戲曲の名。明、史槃撰。馮夢龍重訂。文景昭と亭亭と女婢秋江との姻緣事を記す。

【夢粱錄】186 ムリヤウロク 書名。二十卷。宋、吳自牧撰。東京夢華錄の體に倣ふ。南宋の郊廟宮殿から百工雜戲の事に至るまでを詳細に記してゐる。〔四庫提要、史、地理類〕。

【夢爲二胡蝶一】187 ユメニコテフトナル 夢蝶(128)を見よ。

【夢有二六候一】188 ユメニロクコウアリ 夢に六つのきざしがある。夢の字解の〔二〕㊀の㋑を見よ。〔列子、周穆王〕夢有二六候一、奚謂二六候一、一曰正夢、二曰蘁夢、三曰思夢、四曰寤夢、五曰喜夢、六曰懼夢。

【夢崦居士】189 ムエンコジ 清、鮑鈐(**12**－**46074**‥63)の號。

【夢虛道人】190 ムキヨダウジン 明、王叔承(**7**－**20823**‥1670)の號。

【夢回居士】191 ムクワイコジ 明、張安國(**4**－**9812**‥762)の號。

【夢棧書屋】192 ムセンシヨヲク 清、余鵬年(**1**－**515**‥124)の室名。

【夢蘇草堂】193 ムソサウダウ 清、馮應榴(**12**－**44579**‥176)の室名。

【夢蘇道人】194 ムソダウジン 明、王錡(**7**－**20823**‥208)の號。

【夢吐二白鳳一】195 ユメニハクホウヲハク 詞賦のますますすぐれる前兆。吐二白鳳一(**8**－**22678**‥1053)を見よ。

【夢梅懷玉】196 ムバイクワイギヨク 戲曲の名。清、張堅作。夢中緣・梅花簪・懷沙記・玉獅墜の四種があり、之を玉燕堂四種といひ、又、頭字を取つて夢梅懷玉ともいふ。此の中、玉獅墜は最後の作で、最も傑作だといはれてゐる。

【夢舫居士】197 ムハウコジ 清、王際華(**7**－**20823**‥1492)の號。

【夢逋草堂】198 ムホサウダウ 清、陸日愛(**11**－**41708**‥352)の室名。

【夢賚之良】199 ムライノリヤウ 夢に賜はつた忠良な臣。殷の傳說の故事。賚は賜。〔書、說命上〕夢三帝賚二予良弼一。

【夢笠山房】200 ムリフサンバウ 清、顏宗儀(**12**－**43591**‥17

2)の室名。

【假レ夢通レ靈】201（ユメヲカリテレイニツウズ） 夢の中で神靈と通ずる。〔潘岳、寡婦賦〕願假レ夢以通レ靈兮、目烱烱而不レ寢。〔注〕翰曰、假、借也、通レ靈、通ニ夫之神靈一也。

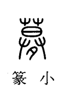
【夢清樓存稿】202（ムセイロウソンカウ） 書名。齋藤拙堂の門人川北長顒（梅山）の詩文集。

【夢飮レ酒者旦哭泣】203（ユメニサケヲノムモノハアシタニコクキフス） 夢の中で酒を飮んで樂しんでゐる者も、朝になつて眼がさめると悲しいことがあつて泣くことがある。人生の憂樂はその時々によつて異なつてゐる。だから生時は生を樂み、死すれば死を樂むであらうとの喩。〔莊子、齊物論〕夢飮レ酒者、旦而哭泣、夢哭泣者、旦而田獵。〔注〕此寤寐之事變也、事苟變、情亦異、則死生之願、不レ得レ同矣、故生時樂レ生、則死時樂レ死矣、死生雖レ異、其於ニ各得レ所レ願一也、則何係也。

【夢飼千八百鶴草堂】204（ムシセンハツピヤクカクサウダウ） 清、陳鴻壽（11−41698・・866）の室名。

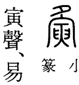
【夣】5803 ボウ 夢（3−5802）の俗字。〔正字通〕夣、俗夢字。

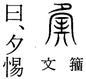
【𡖼】5804 バク ミヤク 〔集韻〕莫白切 陌


小篆

㊀しづか。〔說文〕𡖼、宋也、从レ夕莫聲。〔段注〕尗𡖼者、夕之靜也。㊁嫫（3−6674）に同じ。〔廣韻〕嫫、靜也。𡖼、上同。

【夤】5805 🈩イン 〔集韻〕夷眞切 眞 ㄧㄣˊ yin^{2} 🈔イ 〔集韻〕延知切 支


小篆


籀文

🈩㊀つつしみおそれる。〔說文〕夤、敬惕也、从レ夕寅聲、易曰、夕惕若厲。〔段注〕乾九三爻辭也、厲、各本作レ夤、今正。㊁おほきい。峻（4−8116）に通ず。〔說文通訓定聲〕夤、叚借爲レ峻。〔方言、十二〕夤、大也。㊂のびる。延（4−9569）に通ず。〔說文通訓定聲〕夤、叚借爲レ延。㊃つらなる。〔廣韻〕夤、夤緣、連也。㊄かぎり。限（11−41627）に通ず。〔說文通訓定聲〕夤、叚借爲レ限。〔殺阮君神祠銘〕於レ是殺阮以爲ニ之夤一。㊅脊の肉。胂（9−29347）に通ず。〔說文通訓定聲〕夤、叚借爲レ胂。〔易、艮〕列ニ其夤一。〔釋文〕夤、夾脊肉也。㊆ちがやの根。苭（9−31004）に通ず。〔說文通訓定聲〕夤、叚借爲レ苭。易泰、拔ニ茅茹一、以ニ其夤一、按、茅根也。㊇籀文は㚅（3−5816）に作る。〔說文〕夤、㚅、籀文。㊈寅（3−7204）に通ず。〔說文通訓定聲〕夤、按、卽寅之別體、因ニ寅爲ニ借義所レ專、別制ニ此字一。㊉彙（4−9936）に通ず。〔易、泰、以ニ其彙一、釋文〕彙、董作レ夤。🈔つつしむ。〔集韻〕夤、恭也。

【夤畏】1（インキ） つつしみおそれる。寅畏。〔班固、典引〕蓋用昭明夤畏、承ニ聿懷之福一。〔注〕濟曰、夤、敬。〔北史、房彥謙傳〕刑賞曲直、升ニ聞於天一、夤ニ畏照臨一、亦宜ニ謹肅一。

【夤緣】2（インエン） ㊀つらなる。〔廣韻〕夤、夤緣、連也。㊁多くの蔓草が滋つて生え上る。多くの蔓草がからみつく。〔左思、吳都賦〕夤ニ緣山嶽之岊一、冪ニ歷江海之流一。〔劉注〕夤緣、布藤上貌。〔舊唐書、令狐楚牛僧孺等傳贊〕喬松孤立、蘿蔦夤緣。㊂攀ぢ登る。よりすがる。〔韓愈、古意詩〕我欲レ求レ之不レ憚レ遠、青壁無レ路難ニ夤緣一。㊃賄賂を用ひ、又は緣故によつて官職を求める。つてを求める。〔天祿閣外史、汙吏〕寵嬖而行レ私、夤緣而釣レ譽。〔宋史、神宗紀一〕帝卽レ位、詔下察ニ富民與ニ妃嬪家一昏因、夤緣得レ官者上。〔故事成語考、人事〕將レ錢囑託曰ニ夤緣一。㊄遷延循行して去らないさま。延緣（4−9569・・13）に同じ。〔白居易、泛レ渭賦〕遲遲兮明月、波灩澹兮櫂夤緣。

【夤恪】3（インカク） おそれつつしむ。〔梁簡文帝、上ニ南郊頌一表〕漢興ニ北時一、夤恪之道未レ隆。

【夤承】4（インショウ） つつしみうける。〔南齊書、樂志〕夤ニ承寶命一、嚴ニ恭帝緒一。

【夤夜】5（インヤ） 深夜。〔六部成語、刑部、夤夜、注解〕夜半也。

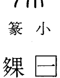
【夤亮】6（インリヤウ） うやうやしくまことがある。〔王儉、褚淵碑文〕孰能光ニ輔五君一、夤ニ亮二代一者哉。

【㚅】5806 イン 夤（3−5805）の籀文の譌字。〔正字通〕㚅、籀文夤字之譌。

【𡖿】5807 テウ 〔集韻〕丁聊切 蕭

㊀おほい。〔集韻〕𡖿、多也。㊁おほきい。〔集韻〕𡖿、大也。㊂或は奝（3−5944）に作る。〔集韻〕𡖿、亦从レ大。

【夥】5808 🈩クワ ワ 〔集韻〕戶果切 哿 ㄏㄨㄛˇ huo^{3} 🈔クワイ ゲ 〔集韻〕戶買切 蟹


小篆

🈩🈔㊀おほい。おびただしい。𡗐（3−5809）に同じ。或は𡗗（3−5817）に作る。〔正字通〕夥、說文作レ𡗐。〔說文〕𡗐、齊謂レ多也、从レ多果聲。〔方言、一〕凡物盛多、謂ニ之寇一、齊宋之郊、楚魏之際曰レ夥。〔小爾雅、廣詁〕夥、多也。〔集韻〕夥、或从レ咼。㊁現くみ。なかま。

名乘 カズ。

【夥頤】1（クワイ） 多いかな。一說に、二字共に驚いて發する語。〔史記、陳涉世家〕其故人嘗與傭耕者、聞レ之之レ陳、扣ニ宮門一云云、見ニ殿屋帷帳一、客曰、夥頤、涉之爲レ王、沈沈者、楚人謂レ多爲レ夥、故天下傳レ之。〔注〕索隱云、服虔云、楚人謂レ多爲レ夥、按、又言レ頤者、助レ聲之辭也、謂ニ涉爲レ王、宮殿帷帳、庶物夥多、驚而偉レ之、故稱ニ夥頤一也。〔通俗編、語辭、夥頤〕二字均屬ニ驚辭一、不ニ必泥一。

【夥友】2 huo^{2} yu^{3} 店員。番頭。

【夥有】3 huo^{2} yu^{3} 共有。

【夥開】4 huo^{3} k'ai^{1} 共同組合で營業を始める。仲間で開業する。

【夥記】5 huo^{3} chi 商家の番頭。手代。

【夥居】6 huo^{3} chü^{1} 同居する。仲間で住居する。

【夥計】7（クワケイ） ㊀合資して營業すること。〔康熙字典〕俗謂ニ同レ本合レ謀曰ニ夥計一。㊁huo^{3} chi 商家などの手代。番頭の下に居る者。伙計。〔燕子箋、試窘〕夥計、今年規矩森嚴。「店員。番頭。

【夥結】8 huo^{3} chieh^{2} ㊀合資して營業する。㊁

【夥够】9（クワコウ） おほい。夥多。〔左思、魏都賦〕繁富夥够、非レ可ニ單究一。〔注〕向曰、夥够、皆多也。

【夥支】10 huo^{3} chih^{1} 仲間に利益の先貸しをする。

【夥爾】11（フォール） 土司の名。西藏の東北境。西番土司三十九族の一。二族あり、皆、夥爾といひ、名は同じであるが族は異なる。

【夥種】12 huo^{3} chung^{4} 共同で耕作する。

【夥多】13（クワタ） あまた。夥够。〔史記、陳涉世家、夥頤、注〕索隱曰、庶物夥多。〔顏眞卿、尙書刑部侍郎ニ云云孫逖文公集序〕凡斯夥多、庸可ニ悉數一。

【夥盜】14（クワタウ） 盜賊仲間。〔六部成語、刑部、夥盜、注解〕盜賊之徒夥也。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕宜レ令ニ他供ニ出夥盜一。

【夥黨】15（クワタウ） 謀叛人。盜賊などの仲間。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕夥黨有無拿獲、眞贓有無起認。

【夥長】16（クワチヤウ） 船舶で羅針盤を司る者。〔廣陽雜記〕海船上司ニ羅盤一者曰ニ夥長一、置ニ一龕一、下鋪ニ細砂一、安ニ盤於上一、取レ平、周回置レ燈、夥長晝夜視レ之、較レ之以ニ刻漏一而定ニ方向一焉、其水之深淺、泥之顏色臭味、皆知レ之、一見レ山、則事在ニ舵工一、夥長之任卸矣。

【夥同】17 huo^{3} t'ung^{2} 一味。一黨。なかま。「る。

[夥同一氣]18 huo^{3} t'ung^{2} i^{2} ch'i^{4} ぐるにな

【夥報】19 huo^{3} pao^{4} 數人共同して拂下げを受ける。

【夥犯】20 huo^{3} fan^{4} 犯人の仲間。

【夥件】21 huo^{3} pan^{4} つれ。なかま。組合。仲間。

【夥騙】22 huo^{3} p'ien^{4} 數人共謀してかたりをする。

【夥辦】23 huo^{3} pan^{4} 共同で事をする。

【夥謀】24 huo^{3} mou^{2} 數人、共謀する。

【夥吃夥騙】25 huo^{3} ch'ih^{1} huo^{3} p'ien^{4} 共同して騙りを働く、共謀して詐欺をする。

【⿰多果】5809 クワ 夥(**3**－**5808**)に同じ。〔正字通〕夥、說文作レ⿰多果。

【⿰多其】5810 ［一］キ 〔集韻〕丘其切 ［支］ ［二］キ 〔集韻〕去吏切 ［寘］

［一］［二］**おほい。** ⿰多吉(**3**－**5785**)に同じ。〔集韻〕⿰多其、多也、或从レ吉。〔字彙補〕⿰多其、多也。

【⿰多直】5811 シヨク ジキ 〔集韻〕丞職切 ［職］

おほい。〔集韻〕⿰多直、多也。

【⿰多委】5812 ［一］クヮ ワ 〔集韻〕烏禾切 ［歌］ ［二］クヮ ワ 〔集韻〕鄔果切 ［哿］

［一］［二］**おほい。**〔集韻〕⿰多委、燕人謂レ多曰レ⿰多委。〔集韻〕⿰多委、博雅、⿰多果⿰多委、多也。

【⿰多皮】5813 バ 義未詳。〔五音篇海〕⿰多皮、名夜切。

【⿰并夜】5814 ハ 義未詳。〔五音篇海〕⿰并夜、幷夜切。

【⿱尚夕】5815 タ ⿱尚夕(**2**－**4207**)に同じ。〔字彙補〕⿱尚夕、與レ⿱尚夕同。

【⿱夕寅】5816 イン 夤(**3**－**5805**)の籀文。〔說文〕夤、⿱夕寅、籀文。

十二畫

【⿰多咼】5817 クヮ 夥(**3**－**5808**)に同じ。〔集韻〕夥、或从レ咼。

【⿰甚多】5818 チン 〔字彙補〕丑甚切 ［沁］

多いさま。〔字彙補〕⿰甚多、多皃。

【⿰多侯】5819 コウ ク 〔字彙補〕古侯切 ［尤］

おほい。〔字彙補〕⿰多侯、多也。

十三畫

【⿰享夜】5820 タ ⿰亭夜(**3**－**5824**)に同じ。〔五音篇海〕⿰享夜、同レ⿰亭夜。

【⿰幷夜】5821 ハ ⿰并夜(**3**－**5814**)に同じ。〔字彙補〕⿰幷夜、與レ⿰并夜同。

十四畫

【⿰婁多】5822 ロウ ル 〔集韻〕朗口切 ［有］

おほい。〔集韻〕⿰婁多、多也。

【⿰多畱】5823 シ 〔字彙補〕宗知切 ［支］

多いさま。〔字彙補〕⿰多畱、多皃。

十五畫

【⿰亭夜】5824 タ 義未詳。〔五音篇海〕⿰亭夜、亭夜切。

【⿰多貴】5825 クヮイ 〔集韻〕苦猥切 ［賄］

おほい。〔玉篇〕⿰多貴、多也。

【⿰多貴⿰多貴】1 クヮイ クヮイ 多いさま。〔廣韻〕⿰多貴、⿰多貴⿰多貴、多皃。

十六畫

【⿰多雍】5826 ヨウ ⿰多邕(**11**－**39506**)に同じ。〔集韻〕⿰多邕、或作レ⿰多雍。

十八畫

【⿰黨多】5827 タウ 義未詳。〔字彙補〕⿰黨多、音黨。

二十三畫

【⿰嚴多】5828 ケン 義未詳。〔字彙補〕⿰嚴多、火冉切。

二十四畫

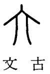
【⿰樂多】5829 タイ 太(**3**－**5834**)に同じ。〔字彙補〕⿰樂多、同レ太。

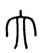
二十八畫

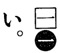
【⿰多襄】5830 ジウ 義未詳。〔字彙補〕⿰多襄、音蹂。

大部

【大】5831 ［一］タイ ダイ 〔集韻〕徒蓋切 ㄉㄚˋ ta^{4} ㄉㄞˋ tai^{4} ㄊㄞˋ t'ai^{4} ［泰］ ［二］タ ダ 〔集韻〕他佐切 ［箇］


小篆


古文（聲定訓通）


籀文

［一］㊀**おほきい。**〔說文〕大、天大、地大、人亦大焉、象二人形一。〔老子、二十五〕故道大、天大、地大、王亦大。域中有二四大一、而王居二其一一。〔易、乾〕彖曰、大哉乾元。〔疏〕大哉乾元者、陽氣昊大、乾體廣遠。㊁**ひろい。**〔詩、魯頌、泮水〕大賂二南金一。〔箋〕大、猶レ廣也。㊂**あまねし。**〔禮、郊特牲〕大報レ天而主レ日也。〔注〕大、猶レ徧也。㊃**ながい。**久しい。〔莊子、逍遙遊〕小年不レ及二大年一。〔呂覽、愼大〕江河之大也。〔注〕大、長也。㊄**ふとい。**肥えてゐる。〔太玄經、玄衝〕大、肥也。㊅**あつい。**〔禮、中庸〕致二廣大一而盡二精微一。〔注〕廣大、猶二博厚一也。㊆**おほい。**〔管子、法法〕不二與大慮一始。〔注〕大、衆也。㊇**みな。**〔荀子、議兵〕夫是之謂二大化至一一。〔注〕大化者、皆化也。㊈**さかん。さかんに。**〔左氏、襄、三十〕族

大寵多。〔穆天子傳、六〕大奏㆓廣樂㆒。〔注〕大、謂㆓盛作㆑之也。❿おもい。〔禮、王制〕必察㆓小大之比㆒以成㆑之。〔注〕小大、猶㆓輕重㆒。⓫おもんずる。〔荀子、性惡〕大㆓齊信㆒焉、輕㆓貨財㆒。⓬たつとい。〔左氏、昭、十八〕而後及㆓其大人㆒。〔注〕大人、謂㆓公卿大夫㆒也。〔論語、季氏〕畏㆓大人㆒。〔鄭注〕大人、謂㆘天子諸侯爲㆓政教㆒者㆖。〔集解〕大人、卽聖人。〔管子、幼官〕則大人從。〔注〕大人、謂㆓大子三公四輔㆒也。〔後漢書、蘇章傳〕三輔號爲㆓大人㆒。〔注〕大人、長老之稱。⓭はげしい。ひどい。〔史記、高祖紀〕大風起兮雲飛揚。⓮すぐれる。立派。〔論語、八佾〕林放問㆓禮之本㆒、子曰、大哉問。〔集注〕孔子以㆓時方逐㆑末、而放獨有㆑志㆓於本㆒、故大㆓其問㆒。〔戰國、秦策〕無㆑大㆓大王㆒。⓯とむ。〔禮、少儀〕不㆑願㆓於大家㆒。〔注〕大、謂㆓富之廣㆒也。⓰おいる。〔爾雅、釋木〕大而皵、楸。〔舍人注〕大、老也。⓱こえる。すぎる。〔易、大過、釋文〕大過、超過也。〔淮南子、覽冥訓〕殫㆓盡大半㆒。〔注〕大半、過半也。⓲とほい。〔詩、魯頌、閟宮〕遂荒㆓大東㆒、〔箋〕大東、極東也。〔疏〕大者、廣遠之名。⓳あらい。細かくない。〔莊子、山木〕莊子衣㆓大布㆒而補㆑之。〔釋文〕大布、麤布也。⓴あらまし。概略。大要(112)・大略(2323)を見よ。㉑ほこる。おごる。〔禮、表記〕不㆔自大㆓其事㆒。〔疏〕大、謂㆓誇大㆒。〔後漢書、明帝紀論〕内外無㆓倖曲之私㆒、在上無㆓矜大之色㆒。㉒**普通でない。容易でない。**〔史記、項羽紀〕今欲㆑擧㆓大事㆒。㉓**はじめ。**〔禮、文王世子〕大昕鼓徵。〔疏〕大、猶㆑初也。㉔**天。**〔禮、學記〕大時不㆑齊。〔疏〕大時、謂㆓天時㆒也。〔逸周書、周祝解〕維彼大道。〔注〕大道、天道也。㉕**乾。**〔易、同人〕大師克相遇。〔虞注〕乾爲㆑木。㉖**陽。又、陽爻をいふ。**〔易、大過〕大者過也。〔虞注〕大、謂㆑陽也。㉗**人を尊稱する時に用ひる語。**〔説文通訓定聲〕凡大人・大夫・大子・大王・大公、皆尊詞。㉘**兄弟の順の第一番目をいふ。**〔日知錄、雜論、排行〕今人兄弟行次、稱㆑一爲㆑大、不㆑知㆑始㆑自㆓何時㆒。漢淮南厲王常謂㆓上大兄㆒、孝文帝行非㆓第一㆒也。㉙**姉をいふ。**〔稱謂錄、方言稱㆑姉、大〕沈赤然寄傲軒隨筆云、湖州人呼㆑姉爲㆑大、而仍連㆓行第㆒、長曰㆓大大㆒、二曰㆓二大㆒、三曰㆓三大㆒、嘗怪㆓其鄙陋無㆑義、而不㆑知㆔其所㆓由來㆒也。㉚**泰**(**6―17325**)に通ず。〔説文通訓定聲〕大、叚借爲㆑泰。〔穀梁、桓、元〕祭㆓大山之邑㆒也。〔釋文〕大、亦作㆑泰。〔荀子、富國〕儒術誠行、則天下大。〔注〕大、讀爲㆑泰、優泰也。㉛**太**(**3―5834**)に通ず。〔正字通〕太、按㆓説文㆒、泰、古文作㆑夳、云云、省作㆑太、云云、並與㆑大同、云云、集韻、夳、或作㆓太・大・泰㆒、音義通、非㆘太與㆓小大之大㆒別㆖也。㉜**姓。**〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕大氏、風俗通、大庭氏之後。㉝［現］錢。㉞［佛］梵語 māha の譯。（音譯は、摩訶・麼賀）。多い・勝る・妙・不思議・寬厚・包含などの意で、又、一切の色法（現象）を生み出す地・水・火・風・空などをいふ。〔長水楞嚴義疏、三、下〕周遍含攝、體無㆑不㆑在、物無㆑不㆑且、非㆔因㆓待小㆒、當體受㆑稱、故名爲㆑大。［二］❶**おほきい。**〔集韻〕大、巨也。❷**はなはだしい。**〔集韻〕大、太也、何休曰、約誓大甚。〔正字通〕大、禮、童子不㆑衣㆓裘裳㆒、注、鄭康成曰、爲㆓大溫㆒也、徐邈、大、音唾、陸德明、音泰、正韻十四箇收㆑大、韻牋曰、中原韻用㆓此音㆒、東南聲輕、讀如㆑墮、西北聲重、讀如㆑唾。［邦］**おほ。**接頭語。尊敬・廣大などの意を表はす場合に用ひる。

［解字］象形。人の字は側面から見て、臂脛だけを象るに對し、大の字は正面から見た全體の形、卽ち首・兩手・兩足に象る。老子に道大、天大、地大、人亦大といふ。天地は大であるけれども形の象るべきものがないから、之に次ぐ人の全形に象つて、大きいの意を表はす。亣は古文・籀文は亣に作る。假借して泰とする。〔説文、大、段注〕老子曰、道大、天大、地大、人亦大、人法㆑地、地法㆑天、天法㆑道、按、天之文从㆓一大㆒則先造㆓大字㆒也、人儿之文、但象㆓臂脛㆒、大文則首手足皆具、而可㆔以參㆓天地㆒、是爲㆑大。〔説文〕亣、籀文大、改㆓古文㆒、亦象㆓人形㆒。〔段注〕大象㆓人形㆒、此亦象㆓人形㆒、其字同則其音同也。

［名乘］オホ。トモ。モト。

【大哀】1 タイアイ ❶大きなかなしみ。〔莊子、齊物論〕其形化、其心與㆑之然、可㆑不㆑謂㆓大哀㆒乎。❷洲の名。湖南省湘陰縣にあり、舜が南巡して死んだ時、人々が哭した處。〔海錄碎事、地、陂澤〕大哀洲、在㆓湘陰縣㆒、故老相傳云、舜南巡、死㆓於九疑㆒、哭㆓此洲㆒、小者曰㆓小哀㆒。圖經。

【大殃】2 タイアウ 大きなわざはひ。大災。〔荀子、儒效〕無㆓師法㆒者、人之大殃也。〔管子、四時〕作㆑事不㆑成、必有㆓大殃㆒。〔晏子、諫、下〕此三者、守㆑國之大殃。

【大鞅】3 タイアウ 大きなむながい。鞅は、馬の頸につけて軛（クビキ）を負ふ革紐。〔墨子、節葬下〕素練大鞅、衣衾萬領。

【大惡】4 タイアク ❶甚だわるい。又、大なる惡事。〔左氏、莊、二十四〕先君有㆓共德㆒、而君納㆓諸大惡㆒。〔公羊、隱、十〕於㆑外大惡書、小惡不㆑書。〔史記、灌夫傳〕非㆑有㆓大惡㆒。〔新書、連語〕小惡・大惡、一類也。〔漢書、杜業傳〕長陷㆓大惡㆒、獨得㆑不㆑坐。❷タイヲ 甚だにくむ。〔禮、禮運〕死亡貧苦、人之大惡存焉。

〘大惡漢〙5 タイアクカン 極めて凶惡な男。〔韻府引、資治通鑑〕契丹主戲謂㆓諸將㆒曰、汝輩亦大惡漢。

【大安】6 タイアン ❶大いに安らかなこと。〔漢書、高后紀〕萬民大安、莫㆑不㆑受㆓休德㆒。〔漢書、匈奴傳上〕天下大安。❷唐の宮殿の名。〔舊唐書、太宗紀下〕校㆓獵於魚龍川㆒、自射㆑鹿、獻㆓於大安宮㆒。❸宋の樂名。〔宋史、樂志二〕臣等謹上議、國朝樂宜名㆓大安㆒。❹山名。㋑河北省房山縣の西北。この山は四面懸絕して要害の地なので、唐末、劉仁恭が館を其の上に築き、大安と名づけた。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、涿州、房山縣〕大安山、縣北八十里、山高險、薛居正曰、大安、幽州西名山也、唐天祐末、幽州帥劉仁恭、築㆑館居㆓其上㆒、曰、此山四面縣絕、可㆓以㆑少制㆑衆、名曰㆓大安㆒。㋺湖北省安陸縣の西。唐の許紹、此處に家居す。㋩湖北省麻城縣の西。山北に石階があつて百丈階といふ。❺郡名。後魏、置き、北周、廢す。故城は今の山西省壽陽縣の西、大安鎭。❻縣名。宋初、三泉縣に大安軍を置く。元、三泉縣を省き、軍を改めて縣となす。明、改めて寧羌衞を置く。今の陝西省寧羌縣治。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、寧羌州、沔縣〕三泉城、在㆓縣西南七十里㆒、唐置、云云、至道二年建爲㆓大安軍㆒、旋廢、紹興三年復置㆓大安軍㆒。❼軍の名。大安縣を見よ。軍は、宋代の行政區劃の名。❽鎭の名。㋑宋、置く。四川省資中縣の境。㋺後魏の大安郡。大安驛鎭ともいふ。山西省壽陽縣の西。㋩滿洲吉林省綏遠縣治の土名。❾年號。㋑遼、道宗、耶律洪基稱す。(1085―1094)㋺金、衞紹王、完顏永濟稱す。(1209―1211)㋩宋時、西夏の惠宗、李秉常稱す。(1076―1085)㋥五胡十六國の一、後涼、太祖懿武帝、呂光稱す。一に太安に作る。(386―389)❿大安日の略。〔和漢三才圖會、曆占、六壬時課〕萬寶全書、名曰㆓李淳風之六壬時課㆒、其法每從㆓大安上㆒起㆓正月㆒、月下起㆑日、日下起㆑時、假令三月初五日辰時占、乃就㆓速喜上㆒起㆓初一㆒、順行一日一位、數至㆓初五日㆒、是大安、上就起㆓子時㆒、順數㆓五數㆒、當㆓小吉㆒、余示做㆑此、大安大吉昌、求㆑財在㆓坤方㆒、失物去不㆑遠、宅舍保㆓安康㆒、行人身不㆑動、病者不㆑爲㆑殃、將軍还舊愿、仔細與推詳。⓫ta^{4} an^{1}

手紙の末尾に添へて先方の起居如何を問ふ語。御平安。

【大安殿】7 タイアンドノ　おほやすみどの。大極殿の古名。〔日本書紀、天武紀下〕十四年九月辛酉、天皇御二大安殿一喚二王卿等於殿前一以令二博戲一。

【大安日】8 タイアンニチ ダイアンニチ　陰陽家で萬事に吉なりといふ日。陰曆正月・七月の五日・十一日・十七日・二十三日・二十九日、二月・八月の四日・十日・十六日・二十二日・二十八日、三月・九月の三日・九日・十五日・二十一日・二十七日、四月・十月の二日・八日・十四日・二十日・二十六日、五月・十一月の一日・七日・十三日・十九日・二十五日、六月・十二月の六日・十二日・二十四日・晦日の稱。大安の㊉を見よ。

【大安輦】9 タイアンレン　皇太后の乘る輦をいふ。〔事物紀原、輿駕羽衞部、大安輦〕宋朝會要曰、乾興元年九月、禮儀院奏二周守恩狀一、奉二聖旨一、製二造皇太后御座檐子一、乞詳二定制度所レ稱名目一、詔以二大安輦一爲レ名。

【大安般守意經】10 ダイアンパンシユイキヤウ　佛 書名。三卷。後漢、安世高譯。坐禪して出入の氣息を數へ、以て心の散亂するを止め、意を落着ける法。安般は梵語 ānāpāna の音譯で、數息觀をいふ。安般經。安監守意經。〔大藏經、五〕。

【大案】11 タイアン　㊀大いにしらべること。〔儀禮、鄕飲酒禮、鄕飲酒之禮主人就二先生一而謀二賓介一、注、及二三年一大比而興二賢者能者一、疏〕大比、謂下三年大案比二戶口一之時上。㊁大きな机。〔韻府引、蘇舜欽、詩〕明窓置二刀筆一、大安羅二縑緗一。㊂ ta^4 an^4 大事件。

【大菴】12 タイアン　淸、康廣仁(**4－9376**··173)の號。

【大衣】13 タイイ　㊀婦人の禮服をいふ。〔輟耕錄、賢孝〕國朝婦人禮服、達靼曰レ袍、漢人曰二團衫一、南人曰二大衣一。〔事物紀原、衣裘帶服部、大衣〕商周之代、內外命婦服二諸翟一、唐則裙襦大袖爲二禮衣一、開元中、婦見二舅姑一、戴二步搖一、插二翠釵一、今大衣之制、蓋起二於此一、實錄、大袖在二背子下一、身與二衫子一齊而袖大、以爲二禮服一、疑卽此也。㊁㋑女子の服の一。背子カラギヌの下に著た袖の大きい衣。〔三代實錄〕仁和二年五月十二日、毆二傷氏則妻下毛野屎子及從女大田部西子一、卽奪二取屎子所レ著之大衣一領一、自被逃去。㋺男子の服の一。〔近衞式〕凡大衣者、將監已下府生已上、云云、皆三年一給、立錄奏請。㊂佛 ダイエ 僧の着る三衣の中で最も大きい袈裟をいふ。〔正法眼藏、袈裟功德〕袈裟、言レ有二三衣一、五條衣、七條衣、九條衣等、大衣也。㊃ ta^4 i^1 洋服の外套。

【大姨】14 タイイ　あね。姊。大姨夫作二小姨夫一を見よ。

【大姨夫作二小姨夫一】15 タイイノフ セウイノフトナル　姊の夫が妹の夫になる。宋の歐陽脩と王拱辰とが共に薛簡肅公の壻となり、歐陽は長女を娶り、王は次女を娶つたが、後、歐陽は再び其の妹を娶つた故事。〔事文類聚〕歐陽公脩與二王宣徽拱辰一、同爲二薛簡肅公子壻一、文忠公先娶二長女一、拱辰娶二其次一、後文忠再娶二其妹一、故宣徽有下舊女壻爲二新女壻一、大姨夫作二小姨夫一之戲上。

【大意】16 タイイ　㊀あらまし。大體の意味。一篇の綱領。〔管子、宙合〕苟大意得、不下以二小缺一爲上傷。〔止觀、一〕大意囊二括始終一、冠二戴初後一。㊁大きいこころざし。大志。〔後漢書、耿弇傳〕光武笑曰、小兒曹乃有二大意一哉。〔魏志、杜畿傳〕郡中奇三其年少而有二大意一也。㊂大なる怒。意は怒の誤。一說、大なる忠。〔韓非子、說難〕大意無レ所二拂悟一、辭言無レ所二繫縻一。〔集解〕盧文弨曰、意、史作レ忠、云云、先愼曰、御覽四百六十二引、意作レ怒、悟作レ忤、繫縻、作二擊排一、案、大怒、謂二盛怒一也、意・忠幷誤。㊃ ta^4 i^4 不注意。油斷。

【大醫】17 タイイ　㊀宮中の侍醫。太醫。〔漢書、外戚上、許皇后傳〕皇后免身後、衍取二附子一、幷二合大醫大丸一、以飮二皇后一。㊁すぐれた醫師。名醫。國手。〔雲笈七籤、軒轅本紀〕時有二仙伯一、出二於岐山一、號二岐伯一、善說二草木之藥性味一、爲二大醫一、帝請主二方藥一。

【大醫史】18 タイイシ　典藥屬の唐名。〔職原抄〕典藥寮、屬、唐名、大醫史。

【大醫署】19 タイイシヨ　典藥寮の唐名。〔職原抄〕典藥寮、唐名、大醫署、又、尙藥局。

【大醫丞】20 タイイジヨウ　典藥允の唐名。〔職原抄〕典藥寮、允、唐名、大醫丞。

【大醫正】21 タイイセイ　典藥助の唐名。〔職原抄〕典藥寮、助、唐名、大醫正。

【大醫令】22 タイイレイ　典藥頭の唐名。〔職原抄〕典藥寮、頭、唐名、大醫令、尙藥奉御。

【大醫王】23 ダイイワウ　佛 佛菩薩を喩へていふ。〔維摩經、佛國品〕爲二大醫王一、善療二衆病一。〔無量義經〕醫王大醫王、分二別病相一、曉二了藥性一、隨レ病授レ藥、令二衆樂服一。

【大醫禪師】24 タイイゼンシ　唐、道信(**11－39010**··263)の謚。

【大醫博士】25 タイイハカセ　醫博士の唐名。〔職原抄〕典藥寮、醫博士、唐名、大醫博士。

【大位】26 タイヰ　㊀天子の位。帝位。〔詩、大雅、皇矣、上帝耆レ之、傳〕憎下其用二大位一、行中大政上。〔晉書、元帝紀〕帝竟登二大位一。㊁貴い官位。高い官位。〔漢書、安世傳〕居二大位一、繼二大將軍後一。〔說苑、貴德〕高官大位。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕雖二大位不レ究、而積德必報。〔蔡邕、陳寔碑文〕大位未レ躋、慙二于臧文竊レ位之負一。

【大威】27 タイヰ　㊀大なる威力。他力の拮抗することの出來ない威力。〔老子、七十二〕民不レ畏レ威、則大威至。〔戰國、齊策〕吾聞、效二小節一者、不レ能レ行二大威一、惡二小恥一者、不レ能レ立二榮名一。〔後漢書、光武紀上〕賊雖二戰勝一、而素懾二大威一、客主不二相知一、夜遂引去。㊁唐、智威(**5－14010**··2)の通稱。

【大威德】28 ダイヰトク　佛 五大尊明王の一で、一切の惡毒龍を摧伏するもの。〔廣大儀軌、中〕大威德身作二玄雲色一、遍身生二火焰一、執二諸器杖一。

【大尉】29 タイヰ　㊀秦の官名。武事を掌り、周官の司馬に當る。太尉(**3－5834**··9)の㊀を見よ。〔禮、月令〕孟夏、命二大尉一、贊二傑儁一、遂二賢良一、擧二長大一、行レ爵出レ祿、必當二其位一。〔注〕三王之官、有二司馬一無二大尉一、秦官則有二大尉一、今俗人皆云、周公作二月令一、未レ通二於古一。㊁太政大臣の唐名。〔職原抄〕太政大臣、唐名、大師・相國・大尉。㊂淳仁天皇の朝、一時、大將を改めていふ。〔續日本紀、二十一〕天平寶字二年八月癸亥、大將爲二正三位官一、改曰二大尉一。㊃舊制で、陸海軍尉官の上位。

【大帷】30 タイヰ　大きい垂れぬの。大きいとばり。〔三禮圖〕在レ上曰レ帟、四旁及レ上曰レ帷、四方悉周曰レ幄、幄、大帷也。

【大帷子】31 オホカタビラ　裝束の下に着るもので、布で作り、單衣に似て小さく短い。汗取のために夏だけ用ひる。後世は夏冬共に着用する。かたびら。

【大圍】32 ダイヰ　山名。湖南省瀏陽縣の東北。一名、首禪山。東は江西省宜豐縣の界、北は江西省修水縣の界。頂に白沙湖があり、玉泉水といふ。岡巒圍繞して三縣に盤踞するから大圍といふ。〔杜光庭、洞天福地記〕第十三洞天大圍山、周迴三百里。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府、瀏陽縣〕大圍山、縣東北一百五十里、舊名首禪山、山頂有二白沙湖一、廣袤五十餘里、云云、岡巒圍繞、盤二踞四縣一、因名二大圍一。

【大葳】33 タイヰ　明、林汝翥(**6－14551**··360)の字。

【大遺】34 タイヰ　原野の名。夏后啓が兩龍に乘じて九代の舞を舞つた處。大樂。〔山海經、海外西經〕大樂之野、夏后啓于レ此儛二九代一、乘二兩龍一、雲蓋三層、左手操レ翳、右手操レ環、佩二玉璜一、在二大運山北一、一曰二大遺之野一。

【大遺齋】35 ダイヰサイ　三宅道乙の號。三宅鞏革齋(**1－12**··1241)を見よ。

【大友】36 タイイウ　明、楊一鵬(**6－15112**··421)の字。

【大尤】37 タイイウ　大きなとが。〔左氏、襄、二十二〕敝邑欲レ從二執事一、而懼レ爲二大尤一。

【大有】38 タイイウ　㊀易、六十四卦の一。䷍ 乾下離上 火、天上に在つて照すところが廣い故に、盛大豐有の象とする。〔易、大有〕大有元亨。〔左氏、閔、二〕遇二大有之乾一。〔左氏、僖、二十五〕筮レ之遇二大有之睽一。㊁五代、南漢の高祖、劉龑の年號。(927－942)　㊂字號。㋑宋、汪元量(**6－17154**··220)の字。㋺明、顧元慶(**12－43689**··263)の字。㋩明、年富(**4－9168**··236)の字。㋥明、劉有年(**2－2224**··677)の字。

【大有爲】39 オホイニナスアリ　大事業をする。又、才能があつて大いに役立つこと。〔孟子、公孫丑下〕故將二大有一レ爲之君、必有二所レ不レ召之臣一。

【大有年】40 オホイニトシアリ　穀物の收穫が非常に多い。大豐年。〔春秋、宣、十六〕冬、大有レ年。〔公羊、桓、

三〕有レ年、有レ年何以書、以レ喜書也、大有レ年何以書、亦以レ喜書也、此其曰レ有レ年何、僅有レ年也、彼其曰二大有レ年何、大豐年也、僅有レ年、亦足二以當レ喜乎、恃レ有レ年也。

【大佑】41 タイイウ ㊀大なるたすけ。〔漢書、王莽傳上〕皇天上帝、隆二顯大佑一、成レ命統レ序。㊁明、丘吉（1－33・・22）の字。

【大酉】42 タイイウ 山名。㊀湖南省沅陵縣の西北。洞穴があり、大酉洞といふ。小酉山と併せて二酉とす。二酉の洞中に書物を藏したから藏書の多いことを二酉といふ。二酉（1－247・・14）の㊀を見よ。〔郡國志〕大酉山、在二辰漢山下一、有レ洞、名二大酉洞一。〔杜光庭、洞天福地記〕第二十六洞天大酉山、周廻一百里、名二大酉華妙之天一。〔讀史方輿紀要、湖廣、辰州府、沅陵縣〕大酉山、府西北四十里、道書第二十六洞天也、上有二龍湫一。㊁湖南省辰溪縣の西、龜山と相連なる。中に大酉洞がある。

〖大酉山人〗43 タイイウサンジン 清、項聖謨（12－43343・・75）の號。

【大油】44 タイイウ 川溪の名。湖南省沅陵縣の東北。北流して沅江に入る。附近に金を產し、牛金溝・觀音巖・稠木溝・煙包峒・陝老峒苗等が最も顯はれ、溪內の大茶園・神仙莊・品灣子・水秧池・來屋潭等からも產する。

【大猶】45 タイイウ 大いなる道。大猷に同じ。〔詩、小雅、小旻〕匪二先民是程一、匪二大猶是經一。〔傳〕猶、道。

【大猷】46 タイイウ ㊀大きなはかりごと。大きい道。大猶。〔書、周官〕若二昔大猷一、制二治于未レ亂、保二邦于未レ危。〔傳〕言當下順二古大道一、制レ治安上レ國。〔詩、小雅、巧言〕秩秩大猷、聖人莫レ之。〔箋〕猷、道也。〔後漢書、傅毅傳〕秩秩大猷、紀綱庶式。〔孔安國、尙書序〕旁求二儒雅一、以闡二大猷一。〔魏志、高柔傳〕敷二弘大猷一。〔張華、勵志詩〕大猷玄漠。㊁字號。㋑晉、司馬攸（2－3257・・207）の字。㋺宋、張闡（4－9812・・501）の字。

〖大猷院〗47 タイイウヰン 德川家光の法諡。

【大憂】48 タイイウ ㊀大きなうれへ。〔周禮、春官、大司樂〕大札・大凶・大烖・大臣死、凡國之大憂、令レ弛レ縣。〔疏〕凡國之大憂者、謂、若下禮記檀弓云中國亡二大縣邑一、及戰敗上之類、是也。〔國語、吳語〕近二其小喜一、而遠二其大憂一。㊁天子の崩御。又、父母の喪。大故。〔後漢書、鄧皇后紀〕是時新遭二大憂一。〔後漢書、鄧隲傳〕陛下躬二天然之姿一、體二仁聖之德一、遭二國不造一、仍離二大憂一。〔注〕大憂、和帝・殤帝崩也。

【大優】49 タイイウ 盛んでゆたかなこと。〔淮南子、俶眞訓〕渾渾蒼蒼、純樸不レ散、旁薄爲レ一、而萬物大優。〔注〕優、饒也。

【大域】50 タイヰキ 大きな區域。〔易林〕南邦大域、鬼魅滿レ室、讙聲相逐、爲レ我行レ賊。〔孔子家語、入官〕君子南向臨レ官、大域之中而公二治之一。

【大一】51 タイイツ ㊀至つて大きい。〔莊子、天下〕至大無レ外、謂二之大一一、至小無レ內、謂二之小一一。〔疏〕囊括無レ外、謂二之大一也、入二於無閒一、謂二之小一也、雖二復大小異一レ名、理歸二無一一、故曰レ一也。㊁天地の未だ分れない混沌の元氣。一說に、太古の時。太一（3－5834・・10）の㊀に同じ。〔禮、禮運〕夫禮必本二於大一一、分而爲二天地一、轉而爲二陰陽一、變而爲二四時一、列而爲二鬼神一、其降曰レ命、其官二於天一也。〔疏〕必本二於大一一者、謂二天地未レ分混沌之元氣一也、極大曰レ大、未レ分曰レ一、其氣既極大而未レ分、故曰二大一一也、禮理既與二大一一而齊、故制レ禮者、用二至善之大理一以爲二教本一、是本二於大一一也。〔荀子、禮論〕兩者合而成レ文、以歸二大一一、夫是之謂二大隆一。〔注〕大、讀爲レ太、太一、謂二太古時一也。

【大壹】52 タイイツ 星の名。太一（3－5834・・10）の㊀・太乙（3－5834・・18）の㊀に同じ。〔漢書、司馬相如傳下〕使二五帝先導一兮、反二大壹一而從二陵陽一。〔注〕如淳曰、天極大星一明者、太一常居也。

〖大壹小壹〗53 タイイツセウイツ 二僧の名。大壹は曇壹（曇一 5－14172・・1）、小壹は道壹（道一 11－39010・・13）をいふ。〔高僧傳〕竺道壹從二汰公一受レ學、律行精嚴、汰向有二弟子曇壹一、亦雅有二風操一、時人呼二曇壹一爲二大壹一、道壹爲二小壹一。

【大邑】54 タイイフ ㊀大きな都邑。〔書、康誥〕周公初基、作二新大邑于東國洛一、四方民大和會。〔傳〕建二作王城大都邑於東國洛汭一。〔書、召誥〕其作二大邑一、其自レ時配二皇天一。㊁大きな知行所。大きな采邑。〔左氏、襄、三十一〕大官大邑、所二以庇レ身也。㊂大きい國。大國。〔孟子、滕文公下〕惟三臣附二于大邑周一、其君子實二玄黃于匪一、以迎二其君子一、其小人簞食壺漿、以迎二其小人一。㊃邑を大きくする。〔呂覽、勿躬〕管子復二於桓公一曰、墾レ田大レ邑、辟レ土藝レ粟。㊄縣名。唐、置く。漢の江源縣の地。晉以後の晉原縣の地。四川省崇慶縣の西南、鶴鳴山の東。〔唐書、地理志六〕邛州、臨邛郡、縣七云云、大邑。〔讀史方輿紀要、四川、邛州〕大邑縣、州北六十里、本蜀郡、晉原縣地、唐咸亨二年、析二置大邑縣一屬二邛州一。〔清史稿、地理志〕四川、邛州直隸州、縣二、大邑。

〖大邑窯〗55 タイイフエウ 唐代の名陶。四川省邛州大邑縣に產す。一名、蜀窯。〔杜甫、又於二韋處一乞二大邑瓷盌一詩〕大邑燒瓷輕且堅、扣如二哀玉一錦城傳、君家白盌勝二霜雪一、急送二茅齋一也可レ憐。〔陶說、說器、唐器〕大邑瓷盌、按二說文一、盌、小盂也、字或作レ椀、漢淮南王傳注、食器、杯椀之屬、楊升菴述二宋林少潁語一、案、古盌字、張平子青玉、案、卽青玉盌、南京人謂二傳盌一爲二案酒一、可レ証、樞要錄言、元載家、冷物用二硫黃盌一、熱物用二冷水瓷盌一、瓷盌自二唐時一盛行、內邱屬二邢州一、如二國史補所一レ云、邢盌亦重二於天下一、大邑屬二邛州一、色白而堅且輕、扣レ之有レ韻、味二工部詩一、瓷盌之上品矣。

【大尹】56 タイイン ㊀天子側近の寵臣をいふ。〔左氏、哀、二十六〕六卿三族、降聽レ政、因二大尹一以達。〔注〕大尹、近官有レ寵者。㊁新の王莽の時、郡守をいふ。〔漢書、王莽傳中〕改二郡太守一、曰二大尹一。㊂後世、通俗に郡守をいふ。〔白居易、勸二我酒一詩〕洛陽女兒面似レ花、河南大尹頭如レ雪。

【大引】57 オホビケ 市場用語。最終の立合ひをいふ。又、其の時に成立した直段。

【大殷】58 タイイン 三代（夏・殷・周）の殷をいふ。大は美稱。〔逸周書、祭公解〕皇天改二大殷之命一、維文王受レ之。

【大陰】59 タイイン ㊀地をいふ。〔莊子、徐無鬼〕大一通レ之、大陰解レ之。〔疏〕大陰、地也。㊁北極。〔漢書、司馬相如傳下〕邪絕二小陽一、而登二大陰一兮。〔注〕張揖曰、少陽、東極、大陰、北極。㊂タイオン 陰陽家で祭る神。八將神の一。太陰（3－5834・・28）の㊄を見よ。

〖大陰人〗60 タイインジン 陰莖の大きな男。〔史記、呂不韋傳〕太后淫不レ止、呂不韋恐二覺禍及一レ己、乃私求二大陰人嫪毐一、以爲二舍人一。

〖大陰之弓〗61 タイインノユミ 周禮秋官の庭氏が國の夭鳥を射るに用ひる弓の名。〔周禮、秋官、庭氏〕若神也、則以三大陰之弓與二枉矢一射レ之。〔注〕太陰之弓、救レ月之弓。

【大螾】62 タイイン 大きなみみず。螾は蚓。〔呂覽、名類〕黃帝之時、天先見二大螾・大螻一。

【大隱】63 タイイン ㊀環境に捉はれない絕對的の隱者。眞に大悟した隱者。中隱・小隱の對。大隱隱二朝市一を見よ。〔晉書、溫嶠傳論〕方回踵レ武、奕世登レ台、露冕爲レ飾、援二高人一以同レ志、抑惟大隱者歟。㊁字號。㋑唐、趙隱（10－37171・・17）の字。㋺宋、張逸（4－9812・・25）の字。㋩清、廖元度（4－9464・・47）の字。

〖大隱翁〗64 タイインオウ 字號。㊀宋、朱肱（6－14424・・289）の號。㊁宋、朱翼中（6－14424・・1016）の號。

〖大隱集〗65 タイインシフ 書名。十卷。宋、李正民撰。制誥が多數を占めてゐる。筆致は溫潤流麗。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖大隱堂〗66 タイインダウ 明、鄧澄（11－39630・・82）の室名。

〖大隱洞〗67 タイインドウ 唐の韋夏卿の隱居所の名。〔唐書、韋夏卿傳〕晚歲將二罷歸一、署二其居一曰二大隱洞一。

〖大隱屛〗68 タイインヘイ 峯の名。福建省崇安縣の武夷山の五曲中にあり、筍峯の南峯に接し、高さ六十餘丈。峯下に宋の朱熹が學を講じた紫陽書院がある。又、陳の司馬王文成の祠、及び栖雲閣・棘隱庵の諸勝跡もある。〔讀史方輿紀要、福建、名山〕武夷山、第五曲有二隱屛峯一、在二溪北一、志云、溪南有二小隱屛一、與二隱屛峯一對、一名紫石巖、今名二晚對峯一、因二朱子晚對亭一而名。

〖大隱樓〗69 タイインロウ 明、方逢時（5－13620・・612）の室名。

〖大隱居士〗70 タイインコジ 宋、田闢（7－21723・・279）の號。

〖大隱山人〗71 タイインサンジン 明、朱載堉（6－14424・・79

4）の號。

〖大隱先生〗72 タイインセンセイ　宋、楊適（6－15112‥292）の尊稱。

〖大隱隱二朝市一〗73 タイインハテウシニカクル　大悟徹底した眞の隱者は、山林などに隱棲せず、民衆の中で生活する。市・朝は共に人の多く集る處で、此處では都會・里邑などの意。隱二朝市一は、衆人の中に住み、一見、衆人と異らない（人目につかない）生活をし、しかも其の身の清さを保つといふ意。〔王康琚、反招隱詩〕小隱隱二陵藪一、大隱隱二朝市一、伯夷竄二首陽一、老聃伏二柱史一。〔白居易、中隱詩〕大隱住二朝市一、小隱入二丘樊一、不レ如作二中隱一、隨レ月有二俸錢一。

【大員】74 タイヰン　㊀大官。高位の人。〔晉書、慕容皝載記〕不レ可下徒充二大員一、以塞中聽雋之路上。㊁ タイエン　天をいふ。大圓（156）の㊀・大圜（162）を見よ。〔淮南子、俶眞訓〕能戴二大員一者、履二大方一。〔注〕言レ能二戴レ天履レ地之道一。

【大院】75 タイヰン　嵯峨天皇が太上天皇となられてからの居所をいふ。〔三代實錄〕貞觀五年正月三日、始太上天皇遷二御嵯峨院一之時、爲築二別館一、令レ爲二居所一、號曰二小院一、太上天皇所レ居爲二大院一。

〖大院君〗76 ダイヰンクン　朝鮮王、李熙の生父。名は昰應。果決にして權術に富む。攝政となつて大院君と號す。明治二十九年沒す。

〖大院落〗77 ta^4 yüan^4 luo^4　大きな中庭。〔紅樓夢、三回〕儀門內大院落、上房五間大正房。

【大韻】78 タイヰン　㊀詩の八病の一。詩の一聯の中で雙聲を犯す病。例へば五言詩で、新の字を韻とした場合、餘の九字の中に更に津の字、人の字などを用ひる類。〔唐音癸籤〕顒著二四聲切韻・四聲譜一、又以二雙聲疊韻一分辨、作二詩八病一、一曰平頭、二曰上尾、三曰蜂腰、四曰鶴膝、五曰大韻、六曰小韻、七曰傍紐、八曰正紐。〔詩苑類格〕詩病、大韻、如二聲鳴爲レ韻、上九字不レ得レ用二驚傾平榮字一。㊁大きな風度。大きな度量。大度。〔世說新語、任誕〕襄陽羅友有二大韻一、少時多謂二之癡一。

【大宇】79 タイウ　宇宙。天下。大寓。〔荀子、賦篇〕充二盈大宇一而不レ窕、入二郄穴一而不レ偪者歟。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕大宇之下、生息理極。

〖大宇宙〗80 タイウチウ　㊀天文學用語。銀河系宇宙を小宇宙といふに對し、同系外の渦狀星雲、其の他あらゆる天體を包含する全宇宙をいふ。㊁宇宙をいふ。自己・自我を小宇宙といふに對す。

【大杅】81 タイウ　山名。〔山海經、西山經〕崑崙之丘、黑水出焉、西流二於大杅一。〔注〕大杅、山名。

【大盂】82 タイウ　鎭の名。山西省陽曲縣の東北。盂縣の故城。後魏の大祁城を改稱したもの。〔清一統志〕盂縣故城、今謂二之大盂城一。

【大雨】83 タイウ　おほあめ。豪雨。又、大いに雨が降る。〔詩、小雅、漸漸之石〕月離二于畢一俾二滂沱一矣、箋〕將レ有二大雨一、徵氣先見二於天一。〔禮、月令〕大雨時行。〔春秋、隱、九〕三月癸酉、大雨震電。〔史記、陳涉世家〕會天大雨、道不レ通。〔何晏、景福殿賦〕大雨時行。

〖大雨霖〗84 タイウリン　長く降りつづく雨。霖は三日以上續く雨。〔左氏、隱、九〕春王三月癸酉、大雨霖以震、云云、凡雨自二三日一以往爲レ霖。

【大禹】85 タイウ　夏の禹王。大は美稱。〔書、大禹謨〕曰若稽二古大禹一。〔傳〕禹稱レ大、大二其功一。〔書、五子之歌〕述二大禹之戒一。

〖大禹謨〗86 タイウボ　書經、虞書の篇名。僞古文。大禹謨とは大禹の謀の意。實は舜・禹及び皐陶・益稷等の嘉言善政を敍して、堯舜二典の不備を補つたものである。僞書ではあるが用語は多く諸經から集めたもの故、箴誡と爲すに足る。殊に惟精惟一、允執二厥中一の言は、宋儒の金科玉條となり、重大な意味を有つやうになつた。〔書、大禹謨序〕皐陶矢二厥謨一、禹成二厥功一、帝舜申レ之、作二大禹・皐陶謨・益稷一。

〖大禹惜二寸陰一〗87 タイウハスンインヲヲシム　夏の禹王は僅かな時間をも惜しんで努力した。聖人の彼でさへさうなのだから、まして衆人は尙更さうしなければならない。〔晉書、陶侃傳〕大禹聖人、乃惜二寸陰一、至二於衆人一、當レ惜二分陰一、豈可二逸遊一。

【大烏】88 タイウ　㊀宋の薛懷讓の駝馬の名。〔宋史、薛懷讓傳〕懷讓好レ蓄レ馬、駝馬有二大烏・小烏者一、尤奇駿、漢隱帝使レ求レ之、吝而不レ獻。㊁新羅の官名。十七等の中、第十五位。〔隋書、新羅傳〕其官有二十七等一、其一曰二伊罰千貴一、如二相國一、次伊尺千、次迎千、次破彌千、次大阿尺千、次阿尺千、次乙吉千、次沙咄千、次及伏千、次大奈摩千、次奈摩、次大舍、次小舍、次吉士、次大烏、次小烏、次造位。

〖大烏帽子〗89 オホエボシ　大形の烏帽子。〔長秋記〕大治四年五月十日、於二八條殿一有二種田事一、云云、又散樂弘延、著二大烏帽子一、立二田畝一行レ事、持二破唐笠一之者一人、相從。

【大雩】90 タイウ　大いに雨乞をする。雩は、雨乞の祭。〔禮、月令〕命二有司一、爲レ民祈二祀山川百源一、大雩レ帝、用二盛樂一。〔春秋、桓、五〕大雩。〔左氏、桓、五〕秋、大雩、書レ不レ時也、凡祀、啓蟄而郊、龍見而雩、始殺而嘗、閉蟄而烝、過則書。〔資治通鑑、漢紀〕（桓帝、延熹元年）大雩。〔注〕公羊傳曰、大雩、旱祭也、何休注曰、君親之二南郊一、以二六事一謝レ過、自責曰、政不レ善歟、民失レ職歟、宮室崇歟、婦謁盛歟、苞苴行歟、讒夫昌歟、使二童男女各八人舞而呼雩一、故謂二之雩一、鄭玄曰、雩、吁嗟求レ雨之祭也、服虔曰、雩、遠也、遠爲二百穀一祈二膏雨一也。

【大寓】91 タイウ　天地の間。大宇。〔荀子、賦篇〕精微二乎毫毛一、而大盈二乎大寓一。〔注〕寓、與レ宇同。

【大嫗】92 タイウ　他人の母の敬稱。〔史記、刺客、聶政傳〕用爲二夫人麤糲之費一。〔注〕正義曰、韋昭云、古者名二男子一爲二丈夫一、尊二大嫗一爲二夫人一。

【大雲】93 タイウン　㊀氣色の盛んな雲。〔京房易飛候〕四方嘗有二大雲一、五色具、其下賢人隱。〔楊烱、羣官尋二楊隱居一詩序〕天光下燭、懸二少微之一星一、地氣上騰、發二大雲之五色一。㊁山名。㋑湖南省衡陽縣の西。又、白雲山・七星山・邪薑山等といふ。祁陽・寶慶二縣の界に接し、衡嶽七十二峯の一である。〔讀史方輿紀要、湖廣、衡州府、衡陽縣、淸泉山〕大雲山、在二府西八十里一、跨二衡陽・祁陽二縣界一、雲霧嘗蒙二其上一。㋺廣西省蒼梧縣の東。縣の主山。旗・鼓の二山が左右に並び、上に扶虎巖がある。大蟲山・大靈山ともいふ。干寶の搜神記に、扶南王范尋が、虎を養ひ、罪を犯す者があれば投げて虎に與へた處といふ。〔讀史方輿紀要、廣西、梧州府、蒼梧縣〕大雲山、在二城東北隅一、盤監廻高聳、其下爲二三台山一、郡之主山也、上有二扶虎巖一、一名大蟲山、一名大靈山、搜神記、謂二扶南王范尋養レ虎之所一、今其巖蟠結危聳、爲二一山之勝一。

〖大雲經〗94 タイウンキヤウ　唐の則天武后の時に僞撰した經文。武后が天命を受けて天子となつたことを記してゐる。〔舊唐書、則天皇后紀〕有二沙門十人一、僞二撰大雲經一表二上之一、盛言二神皇受命之事一、制頒二於天下一、令三諸州各置二大雲寺一、總二度僧千人一。

〖大雲寺〗95 ダイウンジ　寺の名。㊀山東省益都縣城の南の雲門山の麓。もと雲門山の後に在つたが、明の景泰中、此處に徙した。〔李邕、海州大雲寺禪院碑〕天也地也攝生、之謂二元造一、日也月也容光、之謂二神功一。㊁廣西省馬平縣の仙蹟山の下。唐、建つ。〔柳宗元、柳州復二大雲寺一記〕越人信レ祥而易レ殺、傲レ化而偭レ仁、病且憂則聚二巫師一、用レ雞卜、始則殺二小牲一、不可則殺二中牲一、又不可則殺二大牲一。

〖大雲堂〗96 タイウンダウ　清、葉奕苞（9－31387‥163）の室名。

〖大雲山房〗97 タイウンサンバウ　清、惲敬（4－10857‥4）の書齋の名。

〖大雲山房集〗98 タイウンサンバウシフ　書名。十四卷。清、惲敬撰。初集・二集・言事。初集には雜文百六十篇、二集には九十六篇を集む。〔國朝先正事略、惲子居先生事略〕卒二於嘉慶二十二年一、年六十有一、著二大雲山房文集八卷・書事二卷一、其治レ獄、別有二子居決事四卷一。

〖大雲山房文稾〗99 タイウンサンバウブンカウ　書名。清、惲敬撰。初集四卷・二集四卷・別事二卷・補一卷。

【大運】100 タイウン　㊀大きな運命。天命。天運。〔史記、天官書〕其發見亦有二大運一。〔後漢書、明帝紀〕朕承二大運一、繼レ體守レ文。〔何晏、景福殿賦〕大運之攸レ戾。〔注〕翰曰、大運、天運也。㊁星命家の語。十年每に一度改まる運。〔三命通會、論大運〕古人以二大運一則一辰十歲、折除以二三日一爲二一年一者何、蓋一月之終、晦朔周而有二三十日一、一日之終、晝夜周而有二十二時一、總二十年之運氣一、凡三

日有二三十六時一、乃見三三百六十日爲二一歲之數一、在二一月之中一、有二三百六十時一、折二除節氣一、算二計三千六百日一、爲二一辰之十歲一也。

【大運】101タイウン　山名。〔集韻〕運、大運、山名。

【大慧】102ダイエ　❶大いなる智慧。又、智慧の大きいこと。大惠。〔權德輿、唐故章敬寺百巖禪師碑銘并序〕其大惠綱明之倫歟。❷宋、宗杲(**3－7106**‥32)の號。

〔大慧禪師〕103ダイエゼンジ　諡號。❶唐、一行(**1－1**‥17)の諡。❷唐、懷讓(**4－11456**‥102)の諡。

【大永】104タイエイ　第百四代後柏原天皇の年號。(1521－1528)〔菅原爲學勘文〕杜氏通典曰、庶務至レ微至レ密、其大則以永レ業。

【大盈】105タイエイ　❶大いにみちる。〔老子、四十五〕大盈若レ沖、其用不レ窮。❷川の名。一名、大車江。源は雲南省騰衝縣の赤土山。西南流して緬甸に入り、邁立開江(イラワヂ河の支流)に合す。〔讀史方輿紀要、雲南、永昌軍民府、騰越州〕大盈江、在二州西一、又名二大車江一、出二吐蕃界一、流入二州境一、州西之水有レ三、一出二赤土山一、流爲二馬邑河一、一出二龍從山一、流爲二高河一、一出二羅生山一、流爲二羅生場河一、環二繞州城一、自レ東而北而西、並注二於大盈江一、南入二緬甸干崖之境一。

〔大盈レ庫〕106オホイニコニミタス　唐の天寶の後、太府卿楊崇禮父子が苛酷に民財を誅求し、又、王鉷が戸口色役使となり、歳ごとに錢數百億緡を進めさせ、租調以外の稅を積んで大いに天子の府庫に盈たして其の燕私に供したことをいふ。〔舊唐書、食貨志上〕楊崇禮、爲二大府卿一、清嚴善勾二剝分寸錙銖一、躬親不レ厭二轉輸一、納欠折估漬損、必令二徵送一、天下州縣、徵二財帛一、四時不レ止、及二老病致仕一、以二其子愼矜一爲二御史一、專知二太府出納一、其弟愼名、又專知二京倉一、皆以二苛刻一害レ人、承二主恩一而徵責、云云、又王鉷進レ計、奮身自爲二戸口色役使一、徵二剝財貨一、每歲進二錢百億一、寶貨稱レ是云、非二正額租庸一、便入二百寶大盈庫一、以供二人主宴私賞賜之用一、玄宗日益眷レ之、數年閒、亦爲二御史大夫京兆尹一、帶二二十餘使一。

【大榮】107タイエイ　大きな榮譽。〔戰國、秦策〕箕子・接輿、漆レ身而爲レ厲、被レ髮而爲レ狂、無レ益二於殷・楚一、使戊臣得丁同二行於箕子・接輿一、可丙以補乙所レ賢之主甲、是臣之大榮也。

【大瑩】108タイエイ　城の名。山東省濱縣の西。又、大營に作る。

【大營】109タイエイ　❶大きな陣營。〔李衞公問對、中〕臣所レ本諸葛亮八陳法也、大陳包二小陳一、大營包二小營一。❷鎭の名。㋑河北省棗強縣の南。㋺河南省陝縣の西。北は黃河に臨み、西は靈寶縣に接す。㋩山西省繁峙縣の東、滹沱河の北岸。㋥湖南省祁陽縣の東北。宋の岳飛が嘗て兵を駐めた處。永州祁陽縣大營驛題記がある。〔讀史方輿紀要、湖廣、永州府、祁陽縣、白水市〕大營廢驛、在二縣北五十里一、岳武穆嘗駐二兵于此一、今爲二大營鋪一。❸城の名。大瑩を見よ。❹地名。河南省臨汝縣の南、寶豐縣の界に接す。

【大瀛】110タイエイ　❶おほうみ。大海。〔史記、孟子荀卿傳〕乃有二大瀛海一、環二其外一。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一詩〕注爲二大瀛水一、洋洋環二八洲一。❷清、陸浩(**11－41708**‥43)の字。

【大姚】111タイエウ　縣名。元、置く。漢の靑蛉縣の地。唐の時、南詔に入り、蠻名を大姚堡といふ。雲南省姚安縣の東北。〔讀史方輿紀要、雲南、姚安軍民府〕大姚縣、府北三十里、漢靑蛉縣地、屬二越嶲郡一、蜀漢屬二雲南郡一、云云、夷名大姚堡、元初、置二大姚堡千戸所一、至元中、改置二大姚縣一、屬二姚州一。〔淸史稿、地理志〕雲南、楚雄府、縣四、大姚。

【大要】112タイエウ　❶あらまし。概要。大旨。〔漢書、陳萬年傳〕陳咸叩頭謝曰、具曉レ所レ言、大要教二咸諂一也。〔阮籍、詠懷詩〕智巧萬端出、大要不レ易レ方。❷おほもと。おほぐくり。〔晉書、宣帝紀〕軍事大要有レ五。〔李衞公問對、下〕是以知レ彼知レ己、兵家大要。❸谷の名。要、もと繩に作る。〔山海經、北山經〕東流二于濁漳之水一、〔注〕淸漳、出二少山大繩谷一。❹縣名。漢、置く。もと大𡕀に作る。故城は甘肅省寧縣の東南。〔漢書、地理志下〕北地郡、縣十九、大𡕀。〔注〕師古曰、𡕀、卽古要字也、音一遙反。〔後漢書、鄧禹傳〕更徵レ兵引レ穀、歸至二大要一。〔注〕大要、縣名、屬二北地郡一。❺ta^4 yao^4 大いに云云することが必要である。

【大搖】113タイエウ　大いに搖れる。おほゆれ。〔古今注、草木〕移楊、圓葉弱蔕、微風大搖、一名高飛。

〔大搖大擺〕114 ta^4 yao^2 ta^4 pai^3　傲然としたさま。大威張りで。

【大腰】115タイエウ　❶大きな腰。〔搜神記、十二〕大腰無レ雄、細腰無レ雌。❷三角形の底邊に對する他の二邊のうち、大きいものを大腰といひ、小さいものを小腰といふ。〔周禮、地官、保氏、九數、孫詒讓正義〕孔廣森云、旁要、卽今三角法也、凡三角必有二三邊一、其兩斜邊、謂二之大腰・小腰一、要卽腰字。

【大䙅】116タイエヴ　龜鼈の類をいふ。〔列子、天瑞〕純雌、其名大䙅、純雄、其名稺蜂。〔注〕大䙅、龜鼈之類也。

【大役】117タイエキ　❶國家のおほきな仕事。大工事。〔周禮、地官、鄕師〕大役則帥二民徒一而至、治二其政令一。〔疏〕大役者、謂三築二作堤防城郭等一。〔周禮、春官、大宗伯〕大役之禮任レ衆也。〔莊子、人閒世〕上有二大役一、則支離以レ有二常疾一不レ受レ功。❷大戰役の略。❸タイヤク　重いやくめ。〔傾城島原蛙合戰、二〕大役承り。

【大易】118タイエキ　❶易經をいふ。〔左思、魏都賦〕覽三大易與二春秋一。〔王融、永明九年策二秀才一文〕議レ獄緩レ死、大易深規。〔注〕良曰、大易、易也。❷清、黃易(**12－47926**‥51)の號。

〔大易緝說〕119タイエキシフセツ　書名。十卷。元、王申子撰。周易(**2－3441**‥29)の參考書を見よ。

〔大易粹言〕120タイエキスイゲン　書名。十卷。宋、方聞一編。周易(**2－3441**‥29)の參考書を見よ。

〔大易擇言〕121タイエキタクゲン　書名。三十六卷。清、程延祚撰。周易(**2－3441**‥29)の參考書を見よ。

〔大易通解〕122タイエキツウカイ　書名。四卷。清、魏荔彤撰。周易(**2－3441**‥29)の參考書を見よ。

〔大易象數鉤深圖〕123タイエキシヤウスウコウシンヅ　書名。三卷。元、張理撰。周易(**2－3441**‥29)の參考書を見よ。

【大疫】124タイエキ　病氣がはげしく流行する。又、盛んな流行病。大札。〔史記、趙世家〕二十二年、大疫。〔晉書、庾袞傳〕咸寧中、大疫、二兄俱亡。

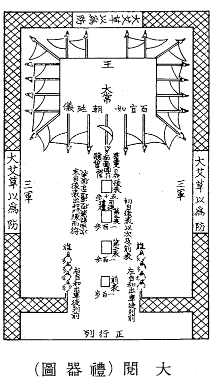
【大益】125タイエキ　❶大いにます。大いに利益を得る。〔後漢書、朱儁傳〕小損當二大益一、初貧後富、必然理也。❷漢代、大宛の西にあつた小國の名。〔史記、大宛傳〕宛西小國、驩潛・大益。

〔大益居士〕126ダイエキコジ　細合方明の號。細合斗南(**8－27344**‥330)を見よ。

【大液】127タイエキ　漢の武帝が作つた池の名。太液(**3－5834**‥34)の❶の㋑を見よ。

【大悅】128タイエツ　大いによろこぶ。〔孟子、離婁上〕孟子曰、天下大悅、而將レ歸レ己。

【大閱】129タイエツ　車馬をえらび訓練を行ふこと。又、三年每に軍隊を檢閱すること。〔周禮、夏官、大司馬〕中冬、教二大閱一。〔注〕大閱、簡二軍實一。〔春秋、桓、六〕秋八月壬午、大閱。〔杜注〕簡二車馬一。〔公羊、桓、六〕大閱者何、簡二車徒一也。〔注〕三年簡レ車、謂二之大閱一。〔穀梁、桓、六〕大閱者何、閱二兵車一也。〔左思、魏都賦〕大閱以レ義擧。〔注〕劉曰、大閱、講レ武也。〔六部成語補遺、兵部、大閱、注解〕由二該管督撫一大二閱各屬之兵操一也。



大閱（禮器圖）

【大越】130タイエツ　國の名。安南人の建てた國。安南人は、唐の衰亡を機として、十世紀に餘る中國の支配を脫しようと試み、土豪が相繼いで立ち上つたが、皆一時的のものに終つた。宋の大中祥符三年(1010)に李公蘊の建てた李朝は、安南人の建てた永續的な王朝の嚆矢である。李公蘊(大祖)は都を今の河內(Hanoi)に定め、次の太宗が國を大越と號した。李朝は一二二五年に皇后の從弟陳守度に倒され、陳朝は一四〇〇年に權臣黎季犛に王位を追はれた。此の頃、明が安南を占領し、黎季犛は捕へられたが、一四一八年、黎利が明軍を擊退して都を河內に定め、國を大越と號した。黎朝は約百年後、權臣莫登用に追はれたが、六十五年後に再び之を奪ひ返した。併し、其の後の黎朝は權臣鄭氏の爲に制せられて虛位を擁してゐたに過ぎず、一七九三年(清の乾隆五十八年)、西山の小賈から身

を起した風雲兒阮文岳に滅ぼされた。尙、大越は、李朝或は黎朝等の國名であるが、廣義には安南が中國の支配を脫して獨立して以後を指す言葉と解して大體支障なく、更に又、廣く安南の歷史を大越史と呼んでゐることも多い。〔讀史方輿紀要、廣西附考〕安南、宋大中祥符三年、爲二其臣閩人李公蘊所一レ簒、宋仍封爲二交阯郡王一、再傳至二日尊一、稱レ帝、國號二大越一。

【大越史記全書】131（ダイエツシキゼンシヨ）　書名。二十四卷。外紀全書五卷・本紀全書九卷・本紀實錄六卷・本紀續編三卷・續編追加一卷から成る。陳太宗の時から黎聖宗の時に至る迄に、黎文休・潘孚先・吳士連等が次々に命をうけて編述した安南の歷史。

【大鉞】132（タイエツ）　大きなまさかり。〔史記、周紀〕周公旦把二大鉞一。

【大葉】133（タイエフ）　大きな葉。おほば。〔爾雅、釋草、荅山蒠、注〕荅蒠、細莖大葉。〔李頎、粲公院各賦二一物一得二初荷一詩〕大葉長圓陰。

【大葉巾】134（ダイエフキン）　頭巾の名。戲裝に用ひる。

【大葉樹】135（タイエフジユ）　白楊をいふ。

【大衍】136（タイエン）　❶占筮の法に於ては筮竹が五十本であるから、俗に五十の代名詞とする。大衍之數を見よ。❷曆法の名。大衍曆を見よ。❸廣大な叢澤。〔管子、七臣七主〕春無二殺伐一、無下割二大陵一、倮二大衍一、伐二大木一、斬二大山一、行二大火一、誅二大臣一、收中穀賦上。〔纂詁〕澤之廣者曰レ衍。

【大衍曆】137（タイエンレキ）　曆の一種。唐の玄宗の時、僧一行が敕命を受けて作つたもの。從來行はれてゐた李淳風作の麟德曆が漸次疎となり、日食の推步に誤謬が著しくなつたので、諸家の曆法に精通した一行に詔して新曆を撰ばせた。一行は各地の緯度を測り、南は交州から北は鐵勒に及び、九服の日晷を步し、各地見食の分數を定め、又、恆星の移動を測見し、開元十五年に草稿ができあがつて卒した。そこで張說・陳玄景に詔し、曆術七篇・略例一篇・曆議十篇を編訂させ、開元十七年、有司に頒つた。周易の大衍の數に依據したので、大衍曆と名づけられた。唐では其の後五十餘年間、我が國では天平寶字八年から約九十年間、使用せられた。〔唐書、曆志〕開元九年、麟德曆署、日蝕比不レ效、詔二僧一行一作二新曆一、推二大衍數一立レ術以應レ之、較二經史所レ書、氣朔日名宿度可レ考者一皆合、十五年、草成、而一行卒、詔三特進張說與二歷官陳玄景等一、次爲二歷術七篇・略例一篇・歷議十篇一、玄宗顧二訪者一、則稱二制旨一、明年說表上レ之、起二十七年一、頒二于有司一。〔曾鞏、本朝政要策、曆〕唐高祖有二戊寅之曆一、高宗有二麟德之曆一、中宗有二景龍之曆一、明皇有二大衍之曆一。

【大衍玄基】138（タイエンゲンキ）　書名。後漢、王景撰。家方・風水、日の吉凶等について諸家の說を集めたもの。〔後漢書、王景傳〕參二紀衆家數術文書、冢宅禁忌、堪輿日相之屬一、適二於事用一者、集爲二大衍玄基一云。

【大衍索隱】139（タイエンサクイン）　書名。三卷。宋、丁易東撰。三篇あり、一は原衍といひ、圖二十六を載せ、二は翼衍といひ、又圖二十九を載せ、三は稽衍といひ、乾鑿度以下諸家の說を列し、系統を立てて論斷してゐる。〔四庫提要、子類、術數類〕。

【大衍之數】140（タイエンノスウ）　易の繫辭傳上に大衍之數五十、其用四十九とあり、筮竹は五十本、其の用は四十九本としてゐる。五十の數は天の數と地の數との合計である。卽ち一・三・五・七・九の奇數を合した二十五を天數とし、二・四・六・八・十の偶數を合した三十を地數とし、天地合して五十五の數を得るのであるが、大數を擧げて五十とする。而して此の天地の數から、あらゆる天地間の萬象が演出せられるので、之を大衍五十といふ。既に大衍五十であるのに、其の用四十九といふのは如何なる意味であるか、これに就いて古來異說が多い。❶三國魏の王弼は天地の數から太極の一を引いたものであるといふ。〔易、繫辭上、注〕王弼曰、演二天地之數一所レ賴者五十也、其用四十有九、則其一不レ用也、不レ用而用以レ之通、非レ數而數以レ之成、斯易之太極也。❷漢の京房は日十・辰十二・宿二十八を合して五十の數とし、これから天地の生氣の一を減じたものであるといふ。〔易、繫辭上、疏〕京房云、五十者、謂二十日・十二辰・二十八宿一也、凡五十、其一不レ用者、天之生氣、將レ欲二以レ虛來一レ實、故用二四十九一焉。❸後漢の馬融は太極の一、兩儀の二、日月の二、四時の四、五行の五、十二月の十二、二十四氣の二十四の合計から、北辰の一を引いたものといふ。〔易、繫辭上、疏〕馬季長云、易有二太極一、謂二北辰一也、太極生二兩儀一、兩儀生二日月一、日月生二四時一、四時生二五行一、五行生二十二月一、十二月生二二十四氣一、北辰居レ位不レ動、其餘四十九、轉運而用也。❹後漢の荀爽は八卦六爻の相乘積四十八に乾坤の二用を加へ、其の中から潛龍勿レ用の一を引いたものであるといふ。〔易、繫辭上、疏〕荀爽云、卦各有二六爻一、六八四十八、加二乾坤二用一、凡有二五十一、乾初九潛龍勿レ用、故用二四十九一也。❺後漢の鄭玄は天地の數五十五、五行の氣は通ずるので、五行の五を減じ、大衍又一を減ずるので四十九といふ。〔易、繫辭上、疏〕鄭康成云、天地之數、五十有五、以二五行氣通一、凡五行減レ五、大衍又減レ一、故四十九也。❻三國吳の姚信は天地の數五十五から六爻の六を引いたものといふ。〔易、繫辭上、疏〕姚信・董遇云、天地之數、五十有五者、其六以レ象二六畫之數一、故減レ之、而用二四十九一。❼宋の朱子は河圖洛書により、圖書の中數皆五であり、之を衍して各〻其の數を極めれば十に至り、それを合すれば五十となる。河圖の積數は五十五、五は基數であるから、之を除けば五十となる。又、五十五の中、四十は陰陽老少の數の合計であり、五と十とは爲す所が無い。その二つの者を相乘ずれば亦、五十となる。洛書の積數は四十五、其の四十は外に散布して陰陽老少の數に分れ、唯五は中に居て爲す所が無い。則ち亦自ら五數を含む、故に十である。茲に合して五十とする。蓍は一株で百莖あるが、その中で大衍の數に當つべきものは二、折半して五十莖を取つて一握とし、其の一を置いて用ひないといふ。〔朱熹、易學啓蒙〕河圖洛書之中數皆五、衍レ之而各極二其數一、以至二於十一、則合爲二五十一矣、河圖積數五十五、其五十者、皆因レ五而後得、獨五爲二五十所一レ因、而自無レ所レ因、故虛レ之則但爲二五十一、又五十五之中、其四十者、分爲二陰陽老少之數一、而其五與レ十者無レ所レ爲、則又以レ五乘レ十、以レ十乘レ五、而亦皆爲二五十一矣、洛書積數四十五、而其四十者、散二布於外一、而分二陰陽老少之數一、唯五居レ中而無レ所レ爲、則亦自含二五數一、而幷爲二五十一矣、大衍之數五十、而蓍一根百莖、可レ當二大衍之數一者二、故揲蓍之法、取二五十莖一爲二一握一、置二其一一不レ用、以象二太極一、而其當レ用之策、凡四十有九、蓋兩儀體具而未レ分之象也。❽宋の陳摶は人の壽命からするといふ。❾宋の耿南仲は胃氣諸脈からするといふ。❿根本通明は、曆法で一年を三百六十日とし、餘りの六日を氣盈として除去することに基き、蓍策の數も亦之に則つて天地の積數五十五から六を除去して四十九を得、而も氣盈の六日の中、一日は零碎の餘數で全成の日ではないから五を去り、姑く之を存して大衍の數とするといふ。〔根本通明、周易復古二十六變筮法〕抑曆法、以二周天三百六十五度四分之一一、爲二三百六十五日四分日之一一、今以二四分日之一一、假準二一日一、則爲二三百六十又六日一、是一歲二十四氣之全日也、然曆法、一歲十二月、其日數卽有二三百六十日一耳、所レ餘六日、則稱二之氣盈六日一、而除去焉、揲筮之法、取二則乎此一、故繫辭曰、乾之策二百一十有六、坤之策一百四十有四、凡三百有六十、當二期之日一、又曰、歸二奇於扐一以象レ閏、五歲再閏、故再扐而後掛、由レ是觀レ之、蓍策之數、亦可下從二曆除二去氣盈六日一之法上、而天地積數五十有五、中除二去六數一、以得二四十有九一也、然不レ言二四十有九一、曰二大衍之數五十一者、何也、蓋曆所謂三百六十六日者、擧二二十四氣全成之數一也、其實則三百六十五日耳、所レ餘之一日、是氣盈餘日也、零碎餘數也、未レ成二一日一者也、不レ可下與二全之日一同視上焉、是故、以二五數一除二去之一、而曰二大衍之數五十一、衍、演也、廣也、大衍者、推二演天地之數一也、乃天地之數五十有五、而蓍策從二大衍之數一、用二五十一也、但氣盈餘數之一策、有下不レ可二同用一者上、除二去之一而不レ用、故曰、其用四十有九。⓫以上の外に陶定山・張鑑・范景福・徐養源・汪家禧の大衍之數五十其用四十有九論が經義叢鈔（皇清經解、一千三百八十六卷）に見えてゐ

る。

〖大衍求一術〗141（タイエンキウイツジユツ）　算法の名。代數學の不定方程式を解く法。始めて宋の秦九韶の數書九章に見えるが、已に唐の大衍曆等に使用せられて曆術家の閒に行はれ、起原は古い。其の名稱は數々あつて歸一するところ無く、和算家は之を剩一術といふ。

【大烟】142　ta^4 yen^1　阿片の異名。大煙。鴉片。

〖大烟癮〗143　ta^4 yen^1 yin^3　阿片中毒。

〖大烟鬼〗144　ta^4 yen^1 kuei^3　鴉片を多く吸ふ人。鴉片中毒になつた人。

〖大烟鎗〗145　ta^4 yen^1 ch'iang^1　阿片を吸ふきせる。

【大淵】146（タイエン）　❶大きい淵。〔淮南子、覽冥訓〕蒲且子連㆓鳥於百仞之上㆒、而詹何之騖㆓魚於大淵之中㆒。〔夏侯嘉正、洞庭賦〕萬頃咸沸彊、而名㆑之爲㆓巨澤㆒、爲㆓長川㆒、爲㆓水府㆒、爲㆓大淵㆒。❷少皞氏の樂をいふ。〔通典、樂、一、歷代沿革上〕少皞作㆓大淵㆒。❸後魏、高湖（**12**－**45313**··314）の字。

〖大淵獻〗147（タイエンケン）　亥（**1**－**292**）の歲の異名。〔爾雅、釋天〕太歲在㆑亥、曰㆓大淵獻㆒。〔淮南子、天文訓〕太陰在㆑亥、歲名曰㆓大淵獻㆒。

〖大淵漿〗148（タイエンシヤウ）　口中の津液をいふ。〔事物異名錄、形貌、口津〕黃庭外景經注、饑食㆓自然之氣㆒、渴飮㆓華池之漿㆒、又、大淵玉漿、甘如㆑飴、按、皆謂㆓口中津㆒也。

【大燕】149（タイエン）　國の名。唐の玄宗の天寶十五年に安祿山が稱した國號。安祿山の亂に繼いだ其の部將史思明も亦、祿山の子慶緖を殺し、自ら大燕皇帝と稱した。〔資治通鑑、唐紀〕（肅宗、至德元載）春正月乙卯朔、祿山自稱㆓大燕皇帝㆒、改㆓元聖武㆒。〔資治通鑑、唐紀〕（肅宗、乾元二載四月）史思明自稱㆓大燕皇帝㆒、改㆓元順天㆒、立㆓其妻辛氏㆒爲㆓皇后㆒、子朝義爲㆓懷王㆒。

【大鹽】150（タイエン）　あらい鹽。〔本草、食鹽〕集解、頌曰、大鹽、生㆓河東池澤㆒、粗㆓于末鹽㆒、卽今解鹽也。〔虞毓、冀州論〕河東有㆓大鹽㆒。

〖大鹽中齋〗151（オホシホチユウサイ）　大阪の人。名は後素。字は士起。通稱は平八郞。號は中齋。室號は洗心洞。初、鈴木恕平に學び、後、陽明學を修む。官は大阪西町奉行所の與力。後、塾を開いて子弟に教授す。天保の亂を起して天保八年三月二十七日自刃す。時に年四十四。著に古本大學刮目・古本大學旁注補・儒門空虛聚語・洗心洞劄記・洗心洞詩文（中尾捨吉編）・增補孝經彙注・奉納書籍題跋がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【大宛】152（タイエン）　❶漢魏時代の史籍に見える西域の國名。其の故地は、中央亞細亞のシル河の中流域に位するフエルガナ Ferghana （Fârghâna） 盆地に比擬せられる。大宛の名稱の解釋及び其の國都の貴山城の位置等に關しては異說が多い。國人はイラン種に屬し、主として農耕を營み、又、葡萄及び汗血馬といふ名馬を產するので有名であり、人口稠密、商業に長じ、希臘文化の影響を強く受けている。張騫の西方に使する（B.C.139—B.C.126）に際し、匈奴から脫走して最初に訪れた國が大宛であり、其の歸國によつて西方の事情が始めて明かとなり、此の國の產物、殊に汗血馬が著しく關心を惹かれ、漢の武帝が太初元年（B.C.104）から同三年にかけて遠征の師を起し、貳師將軍李廣利を總帥として大宛を討つたのも、汗血馬の輸入が目的であつた。大宛國は前漢を通じて西域諸國中、最も密接な關係をもつた國で、史記に於ては、西域の諸國を敍し、大宛傳と名づけて西域の代表國と見做してゐる。南北朝時代及び其の後の史書に破洛那・拔汗那・鏺汗・怖悍等とあるのはフエルガナ、又はフアールガーナの音を寫したものである。〔史記、大宛傳〕大宛在㆓匈奴西南㆒、在㆓漢正西㆒、去㆑漢可㆓萬里㆒、其俗、土著耕㆑田、田㆓稻麥㆒、有㆓蒲陶酒㆒、多㆓善馬㆒、馬汗㆑血、其先天馬子也、有㆓城郭屋室㆒、其屬邑大小七十餘城、衆可㆓數十萬㆒、其兵、弓矛騎射。〔讀史方輿紀要、陝西、附考、哈烈〕大宛國、在㆓石國南四百里㆒、當㆓輪臺之西㆒、漢西域傳、大宛治㆓貴山城㆒、去㆓長安㆒一萬二千里、云云、括地志、大宛國、今名㆓率都沙郍國㆒、亦名㆓蘇對沙郍國㆒。❷大興縣と宛平縣。北京城の東部は大興縣に、西部は宛平縣に隸屬する。

〖大宛之馬〗153（タイエンノウマ）　大宛國から產する名馬。〔班固、西都賦〕九眞之麟、大宛之馬。

【大怨】154（タイエン）　甚だしいうらみ。大きな怨恨。〔老子、七十九〕和㆓大怨㆒、必有㆓餘怨㆒。

【大援】155（タイエン）　大きなたすけ。大なる援助。〔左氏、桓、十一〕君多㆓內寵㆒、子無㆓大援㆒。〔史記、鄭世家〕太子無㆓大援㆒、將㆑不㆑立。〔陳書、吳明徹傳〕堅城未㆑拔、大援在㆑近。

【大圓】156（タイエン）　❶天をいふ。大圜。大員。〔管子、心術下〕能戴㆓大圓㆒者、體㆓乎大方㆒。〔纂詁〕大圓、天也。〔束晳、補亡詩、崇丘〕恢恢大圓、茫茫九壤。〔注〕向曰、大圓、天也。❷ta^4 yüan^2　球心を通る平面で球體を切つた斷面。其の球心を通らないものを小圓といふ。

〖大圓鏡〗157（ダイエンキヤウ）　大きなまるいますみのかがみ。大圓鏡智をみよ。〔白居易、明偈〕如㆓大圓鏡㆒、有㆑應無㆑情。

〖大圓鏡智〗158（ダイエンキヤウチ）　［佛］佛理四德の一で、萬德滿圓し、鏡が衆形を現す樣に法界の諸法を顯す、透徹した知識。〔大藏法數〕如來眞智本性清淨、離㆓諸塵染㆒、洞㆓徹內外㆒、无㆓幽不㆑燭、如㆘大圓鏡洞㆓照萬物㆒无㆖不㆓明了㆒、是名㆓大圓鏡智㆒。

〖大圓禪師〗159（ダイエンゼンジ）　唐、靈祐（**12**－**42532**··8）の諡。

【大遠】160（タイエン）　極めて遠い。又、極めて遠い地。〔大戴禮、千乘〕東辟之民曰㆑夷、至㆓于大遠㆒、有㆘不㆓火食㆒者㆖矣。〔補注〕大遠、極遠也。

〖大遠堂〗161（タイエンダウ）　清、李柟（**6**－**14459**··576）の室名。

【大圜】162（タイエン）　天をいふ。大圓。大員。圜は圓。〔管子、內業〕乃能戴㆓大圜㆒而履㆓大方㆒。〔注〕大圜、天也。〔呂覽、序意〕嘗得㆑學㆕黃帝之所㆔以誨㆓顓頊㆒矣、爰有㆓大圜在㆑上、大矩在㆑下、汝能法㆑之、爲㆓民父母㆒。〔注〕圜、天也。

【大塢】163（タイヲ）　鎭の名。後魏、置く。今の河南省澠池縣の北。〔元和志〕後魏武帝入㆑關、使㆓行臺楊騰出㆑關安撫㆒、因㆓舊城㆒置㆓大塢鎭㆒。

【大歐】164（タイオウ）　唐、歐陽詢（**6**－**16185**··72）の稱。子の歐陽通を小歐といふの對。父子共に書を能くし、其の書體を大小歐陽體といふ。〔金石史〕率更㆓碑版㆒、尙有㆓數種㆒、而蘭臺止存㆓一道因法師碑㆒、蘭臺父子齊㆑名、號㆓大小歐陽㆒。

【大翁】165（タイヲウ）　柁とり。船頭。〔輟耕錄、長年〕古今詩話謂、川陝以㆓篙手㆒爲㆓三老㆒、乃推㆓一船之最尊者㆒言㆑之耳、因思、海船中以㆓司柁㆒曰㆓大翁㆒、是亦長老・三老之意。

【大屋】166（タイヲク）　大きな屋舍。大きな家。大舍。〔左氏、襄、九〕火所㆑未㆑至、徹㆓小屋㆒塗㆓大屋㆒。〔墨子、號令〕無㆓大屋㆒。〔史記、孟子荀卿傳〕高門大屋。〔魏志、高勾麗傳〕立㆓大屋㆒、祭㆓鬼神㆒。〔韓愈、唐故江西觀察使韋公墓誌銘〕廢倉大屋。

〖大屋子〗167　ta^4 wu^1 tzŭ　滿洲で仲買人・問屋をいふ。發行家ともいふ。牙行（**7**－**19909**··10）を見よ。

【大音】168（タイオン）　❶おほごゑ。大聲。〔漢書、揚雄傳下〕大味必淡、大音必希。〔後漢書、百官志、一、注〕漢舊儀曰、云云、記室掾史一人大音讀㆑敕畢。❷明、秦鏞（**8**－**24995**··165）の字。❸（オトウ）　近江國の地名。

〖大音聲〗169（ダイオンジヤウ）　おほごゑ。〔魏志、公孫瓚傳〕「有㆓姿儀㆒大音聲。

〖大音希聲〗170（タイオンハキセイ）　極めて大きい音は無聲に似てゐる。希聲は、聽けども聞えざる微かな聲。〔老子、四十一〕大音希聲、大象無形。〔注〕聽㆑之不㆑聞、名曰㆑希、不㆑可㆑得㆑聞之音也。〔呂覽、樂成〕大器晚成、大音希聲。

【大恩】171（タイオン）　大きな恩澤。深いめぐみ。大惠。〔漢書、宣元六王傳〕加㆓大恩㆒。〔後漢書、李通傳〕北向刎㆑首、以謝㆓大恩㆒。〔舊唐書、侯君集傳〕露布初至、便降㆓大恩㆒。

〖大恩教主〗172（ダイオンケウシユ）　［佛］釋迦を敬していふ。〔無量壽經疏〕報㆓大恩教主之恩㆒。

【大可】173（タイカ）　字號。❶明、朱維京（**6**－**14424**··633）の字。❷清、毛奇齡（**6**－**16772**··264）の字。

〖大可山人〗174（タイカサンジン）　清、李觀（**6**－**14459**··270）の號。

【大河】175（タイガ）　❶大きな河。❷黃河をいふ。〔楚辭、九章、悲回風〕望㆓大河之洲渚㆒兮、悲㆓申徒之抗迹㆒。〔陸機、贈㆓馮文羆㆒詩〕發㆓軫清洛汭㆒、驅㆓馬大河陰㆒。〔注〕翰曰、大河、黃河也。〔讀史方輿紀要、川瀆〕大河、河源發㆓於崑崙㆒、至㆓積石㆒而入㆓中國㆒、又東經㆓河州城北㆒、云云、又東經㆓鞏縣北㆒、洛

水入㆑焉、河之北岸爲㆓溫縣之境㆒、濟水入㆑焉、云云、又東北逕㆓德州西㆒、又東北經㆓景州及滄州之境㆒、入㆓於海㆒。

〖大河一〗176（タイカイチ）　姓氏。〔姓名錄抄〕。

〖大河口〗177（ダイカコウ）　地名。❶江蘇省六合縣の東南の江濱。❷山西省壺關縣の東南。

〖大河有魚小河有鰕〗178 ta^4 hê^2 yu^3 yü^2 hsiao^3 hê^2 yu^3 hsia^1　大河には魚が棲み小河には鰕が棲む。大きい處には大きいもの、小さい處には小さいものが居る喩。

【大哥】179（タイカ）　❶長兄。あにき。大兄。〔張九齡、敕賜㆓寧王池宴㆒詩序〕上曰、大哥好作㆓主人㆒、阿瞞但謹爲㆓上客㆒。〔酉陽雜俎〕帝呼㆓寧王㆒爲㆓大哥㆒。〔白居易、祭㆓浮梁大兄㆒文〕再拜跪奠㆓大哥于座前㆒。❷ta^4 kê^1　兄。貴下。極めて親密な間にいふ。

【大夏】180（タイカ）　❶夏の禹王の樂の名。夏も大。禹が水土を治めて、能く中國を大にしたことに本づく。一說、堯舜の德を大にするによる。〔周禮、春官、大司樂〕以㆓樂舞㆒敎㆔國子舞㆓雲門・大卷・大咸・大磬・大夏・大濩・大武㆒。〔注〕大夏、禹樂也、禹治㆑水傅㆑土、言㆔其德能大㆓中國㆒也。〔禮、明堂位〕裼而舞㆓大夏㆒。〔左氏、襄、二十九〕見㆘舞㆓大夏㆒者㆖曰、美哉、勤而不㆑德、非㆑禹其誰能修㆑之。〔公羊、昭、二十五〕朱干玉戚以舞㆓大夏㆒。〔通典、樂、一〕禹作㆓大夏㆒。〔注〕夏、大也、言㆔禹能大㆓堯舜之德㆒、禹命㆓登扶氏㆒爲㆓承夏之樂㆒。❷四季の夏をいふ。〔管子、輕重乙〕大夏且㆑至、絲纊之所㆑作、此之謂㆓夏之秋㆒。〔漢書、董仲舒傳〕天道之大者在㆓陰陽㆒、陽爲㆑德、陰爲㆑刑、刑主㆑殺而德主㆑生、是故陽常居㆓大夏㆒、而以㆓生育養長㆒爲㆑事、陰常居㆓大冬㆒、而積㆓於空虛不用之處㆒。❸大雅(208)の❿に同じ。古、夏と雅と通ず。〔墨子、天志下〕於㆓先王之書㆒、大夏之道㆑之然。〔閒詁〕兪云、大夏、卽大雅也、雅・夏古字通。❹傳說上の國の名。㋑中國の西南方に在るといふ。〔楚辭、惜誓〕右㆓大夏之遺風㆒。〔注〕大夏、外國名也、在㆓西南㆒。㋺中國の北に在るといふ。〔呂覽、爲欲〕北至㆓大夏㆒、南至㆓北戶㆒。㋩中國の西北方に在るといふ。〔淮南子、墜形訓〕九州之外、乃有㆓八殥㆒、亦方千里、云云、西北方曰㆓大夏㆒、曰㆓海澤㆒。❺國の名。㋑バクトリヤ(Bactria)。波斯の東北に位す。紀元前二百五十年、セレウコス朝のヂオドトス(Diodutas)が獨立して建てた國。其の後、西は安息を破り、東はアフガニスタンから西北印度に入る。前一百八十年、南北に分裂し、前一百四十年全く瓦解す。〔史記、衞將軍驃騎傳〕張騫以㆔使通㆓大夏㆒、還爲㆓校尉㆒。〔史記、大宛傳〕大夏、在㆓大宛西南二千餘里、嬀水南㆒、其俗土著、有㆓城屋㆒、與㆓大宛㆒同㆑俗、無㆓大王長㆒、往往城邑置㆓小長㆒、其兵弱畏㆑戰、善㆓賈市㆒、及㆓大月氏西徙㆒、攻㆓敗之㆒、皆臣㆓畜大夏㆒、大夏民多可㆓百餘萬㆒、其都曰㆓藍市城㆒、有㆑市販㆓賈諸物㆒、其東南有㆓身毒國㆒。㋺晉の時の十六國の一。赫連氏。匈奴の種族で、漢の劉淵の族。其の祖、赫連勃勃は劉衞辰の子で、劉姓を赫連と改む。初、後秦王の姚興に仕へて朔方を鎭したが、義熙三年、秦に叛いて自ら大夏天王と稱し、朔方の統萬城に據る。夏といふのは夏后氏の裔と考へたことに由る。十四年、進んで安定に據り、冬十一月、長安を陷れて皇帝と稱す。勃勃は璝を長安に留めて、統萬に歸つたが、宋の元嘉二年に死し、子の昌、立つ。四年、魏の太武帝が兵を統萬に出し、五年、上邽に戰ひ、昌を執へたので、弟の定が平涼に帝を稱し、遂に魏を伐つて之を敗り、長安に復す。八年正月、西秦を滅ぼし、六月、北涼を伐つたが、吐谷渾に襲はれて遂に亡ぶ。其の所領は、今の陝西省の北部、寧夏省の東南部及び內蒙古、鄂爾多斯の地。國を有つこと三世、二十五年。夏(**3－5720**)の❾㋺を見よ。〔晉書、赫連勃勃載記〕義熙三年、僭稱㆓天王大單于㆒、赦㆓其境內㆒、建㆑元曰㆓龍昇㆒、署㆓置百官㆒、自以、匈奴夏后氏之苗裔也、國稱㆓大夏㆒。㋩宋の時、李元昊が帝と稱し、國を大夏と號す。史家は之を西夏といふ。西夏(**10－34763**・・66)を見よ。㋥元末、明玉珍が重慶に據つて國を建て、大夏と號す。〔天歐記〕明玉珍、乃以㆓元順帝二十二年春三月戊辰㆒、卽㆓位於重慶㆒、國號㆓大夏㆒。❻縣名。㋑漢、置く。甘肅省臨夏縣の東南。〔漢書、地理志下〕隴西縣、縣十一、大夏。㋺南朝宋、置く。今の陝西省南鄭縣。❼川の名。㋑今の三盆河。甘肅省臨洮縣の西北。洮河に入る。〔水經、河水注〕大夏川水、云云、北逕㆓大夏縣故城南㆒、云云、又東北出㆑山、注㆓于洮水㆒。㋺古の灕水。源は青海省循化縣の東南境の山中。黃河に注ぐ。一名、白水。〔讀史方輿紀要、陝西、臨洮府、河州〕大夏河、在㆓州南三里㆒、卽灕水也、一名白水、其上源爲㆓白石川㆒。

〖大夏侯〗181（ダイカコウ）　漢の夏侯勝(**3－5720**・・108)をいふ。其の從子、夏侯建を小夏侯(**4－7473**・・1342)といふの對。共に尙書家として名高い。〔漢書、周堪傳〕由㆑是大夏侯有㆓孔許之學㆒。〔後漢書、儒林、孫期傳〕始昌傳㆓族子勝㆒、爲㆓大夏侯氏學㆒、勝傳㆓從兄子建㆒、建別爲㆓小夏侯氏學㆒。〔後漢書、張馴傳〕以㆓大夏侯尙書㆒教授。

〖大夏之鹽〗182（タイカノシホ）　大夏の澤から出る鹽。〔呂覽、本味〕大夏之鹽、宰揭之露。

〖大夏武烈帝〗183（タイカノブレツテイ）　赫連勃勃(**10－37010**・・52)を見よ。

【大家】184（タイカ）　❶大きな家。富貴な家。身分の高い家柄。又、勢力ある家柄。大戶。大族。たいけ。〔書、梓材〕王曰、封、以㆓厥庶民暨厥臣㆒、達㆓大家㆒。〔傳〕通㆓達卿大夫及都家之政於國㆒。〔蔡傳〕大家、巨室也、孟子曰、爲㆑政不㆑難、不㆑得㆓罪於巨室㆒。〔禮、少儀〕不㆑願㆓於大家㆒。〔注〕大、謂富之廣也。〔疏〕大家、謂㆓富貴廣大之家㆒、謂㆓大夫之家㆒也。〔左氏、昭、五〕箕襄・邢帶・叔禽・叔椒・子羽、皆大家也。〔國語、晉語、一〕大家鄰國將㆔師㆓保之㆒。〔注〕大家、上卿也。〔管子、山國軌〕穀廩重有㆑加十、謂㆓大家委貲家㆒。〔纂詁〕大家委貲家、謂㆓富豪者㆒。〔淮南子、說山訓〕大家攻㆓小家㆒、則爲㆑暴。〔鹽鐵論、復古〕豪強大家。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作詩〕汝是大家子、仕㆓宦於臺閣㆒。〔後漢書、梁鴻傳〕遂至㆑吳、依㆓大家皐伯通㆒、居㆓廡下㆒、爲㆑人賃舂。〔韓愈、河南少尹裴君墓誌銘〕支分族離、各爲㆓大家㆒。❷側近の者が天子を呼ぶ稱。〔獨斷〕親近侍從官、稱㆓天子㆒曰㆓大家㆒。〔舊唐書、吐蕃傳上〕自顧微瑣、何以仰㆓答天恩㆒、區區褊心、唯願㆓大家萬歲㆒。〔舊五代史、梁太祖紀二〕何后謂㆑帝曰、此後大家夫婦、委㆓身于全忠㆒矣。〔舊五代史、唐張全義傳〕今年齒衰朽、指景待㆑盡、而大家疑㆑之、何也。〔稱謂錄、天子古稱、大家〕北齊書、奴見㆓大家㆒必死、注、臣妾呼㆓天子㆒曰㆓大家㆒。❸專門家の著名なもの。其の道の達人。學問藝術にすぐれた人。〔沈德潛、唐宋八大家文序〕唐宋八大家、始㆓於茅氏鹿門撰次㆒、後儲氏同人病㆓其疎漏㆒、因增㆓益之㆒、倍有㆑加矣。❹他人の敬稱。〔杜荀鶴、途中有㆑作詩〕百歲此身如㆓且健㆒、大家閑作臥雲翁。❺大勢の人。人々。〔無名氏、詩〕憑㆓仗高樓㆒莫㆑吹㆑笛、大家留取倚㆑欄看。〔金剛經注頌〕大家齊唱㆓囉囉哩㆒。❻（タイコ）　しうとめ。〔類書纂要〕婦姑稱爲㆓大家㆒。〔稱謂錄、夫之母、大家〕因話錄、女對曰、大家昨夜小不㆓安適㆒、使㆓人往候㆒。❼女子の尊稱。家は姑に同じ。〔後漢書、梁皇后紀〕虞美人者、以㆓良家子年十三㆒、選入㆓掖庭㆒、云云、順帝既未㆑加㆓美人爵號㆒、而沖帝早夭、大將軍梁冀秉㆑政、忌㆓惡佗族㆒、故虞氏抑而不㆑登、但稱㆓大家㆒而已。〔後漢書、曹世叔妻傳〕帝數召入㆑宮、令㆓皇后諸貴人師事㆒焉、號曰㆓大家㆒。〔正字通〕家、讀㆑姑、又與㆑姑同、大家、女之尊稱。❽太后、及び皇后（太后のゐない場合）の稱。〔正字通〕北齊・唐史、宮中稱㆘太后及皇后之無㆓太后㆒者㆖、皆曰㆓大家㆒。❾（オホヤ）　おもや。本家。又、貸家の持主。❿（オホヤケ）　姓氏。⓫ta^4 chia　大勢の人。一同の者。

〖大家翁〗185（タイカオウ）　大きい家の主。長者。〔隋書、長孫平傳〕鄙諺曰、不㆑癡不㆑聾、未㆑堪㆑作㆓大家翁㆒、此言雖㆑小、可㆓以喩㆑大。

〖大家老〗186（オホカラウ）　豐臣氏の時に始めて置かれた官。武家執政府の最高の官。大老。大年寄。

〖大家夥兒〗187 ta^4 chia huo^3 êrh　大勢一緒に。

〖大家公攤〗188 ta^4 chia kung^1 t'an^1　大勢で公平に負擔する。

〖大家婢爲夫人〗189（タイカノヒフジントナル）　大家の下婢が夫人となる。外貌は尊大でも、內實は其の器量のない喩。〔袁昂、書評〕羊欣書如㆔大家婢爲㆓夫人㆒。

【大假】190（タイカ）　大きな福。大祥。大福。大嘉(204)を見よ。〔禮、禮運〕祝嘏莫㆔敢易㆓其常古㆒、是謂㆓大假㆒。〔注〕假、亦當㆑作㆑嘏、猶㆓上章大祥之意㆒。

【大訶】191（タイカ）　嚴重に責める。又、罪を犯して嚴しく訊問せられること。訶は、責め問ふ意。〔新書、階級〕在㆓大譴・大訶之域㆒者。

【大嫁】192（オホヨメ）　兄の妻。あによめ。

【大歌】193（タイカ）　㊀雄大な歌。又、大いに歌ふ。〔盧照鄰、上之回〕振旅汾川曲、秋風橫二大歌一。㊁（オホウタ）古來から傳存して、大歌所に採用せられ、踏歌節會・大嘗會・新嘗祭などの公儀に用ひられた歌。諸國の風俗歌・神樂歌・催馬樂など。又、それを奏する人。小歌（**4－7473**‥115）の㊁の㋑の對。別に「大歌所の御歌」と稱せられ、大歌所で採用・整理せられたものがあり、古今集卷二十に三十四首を載せてゐる。〔續日本紀、三十六〕天應元年十月己巳、宴二五位已上一、奏二雅樂及大歌於庭一。〔江家次第、十、五節帳臺試〕次大歌・小歌發レ聲如レ恆。

〔大歌所〕194（オホウタドコロ）　古の役所の名。大歌の敎習・管理を掌つた所。平安朝初期の設置。每年陰曆十月二十日に開いて翌年正月十六日に閉ぢるを例とする。

〔大歌所別當〕195（オホウタドコロノベツタウ）　大歌所の長官。〔職原抄〕大歌所別當、知二大歌事一。

【大廈】196（タイカ）　大きな家屋。廈は、ひさしの意。大廡。巨屋。〔張衡、西京賦〕大廈耽耽。

〔大廈高樓〕197（タイカカウロウ）　高大な建物。

〔大廈棟梁〕198（タイカノトウリヤウ）　大きな家屋に使ふむなぎとうつばり。國家の重任を負ふに足る人物の喩。〔晉書、和嶠傳〕太傅從事郎庾敳、見而歎曰、嶠森森如二千丈松一、雖三磥砢多二節目一、施二之大廈一、有二棟梁之用一。

〔大廈材非二一丘之木一〕199（タイカノザイハイツキウノキニアラズ）　大建築物を造る材木は一つの丘の木だけでは足りない。天下を太平にするには衆人の力によらねばならない喩。〔王褒、四子講德論〕大廈材非二一丘之木一、太平之功非二一人之略一也。

〔大廈成而燕雀相賀〕200（タイカナリテエンジヤクアヒガス）　大きな建物が出來上ると、燕雀が安らかなすみ家を得たことを喜びあふ。〔淮南子、說林訓〕湯沐具而蟣蝨相弔、大廈成而燕雀相賀、憂樂別也。

〔大廈千間夜眠七尺〕201　ta^{4} sha^{4} ch'ien^{1} chien^{1} yeh^{4} mien^{2} ch'i^{1} ch'ih^{3}　富貴の人は千間の大廈に住み七尺の大牀にねむる。

〔大廈顚非二一木所レ支〕202（タイカノクツガヘルヤイチボクノササフルトコロニアラズ）　大建築物の倒れるときは、一本の木では支へ切れない。大勢がすでに傾き、國家の倒れんとする場合には、一人の力では支へきれない喩。大樹將レ顚非二繩所レ維。〔文中子、事君〕退而謂二董常一曰、大廈將レ顚、非二一木所レ支也。

【大瑕】203（タイカ）　大きなきず。大きなあやまち。大過。〔庾亮、讓二中書令一表〕苟無二大瑕一、猶或見レ容。〔程曉、嘲二熱客一詩〕苟謂レ爲二小事一、亦是一大瑕。

【大嘉】204（タイカ）　大きなさいはひ。大假（190）に同じ。大福。〔孔子家語、禮運〕上下皆奉二其典一、而祝嘏莫三敢易二其常法一、是謂二大嘉一。

【大牙】205（タイガ）　大きな象牙。天子又は大將軍の旗竿の上に飾として附ける。〔張衡、東京賦、牙旗繽紛、注〕綜曰、古者天子出、建二大牙旗竿上一、以二象牙一飾レ之、故云二牙旗一。

【大我】206（タイガ）　㊀哲學用語。宇宙の唯一絶對なる實體。宇宙の本體。小我（**4－7473**‥118）の對。㊁佛（ダイガ）　凡夫が我と認める身心には一も自在なもの、眞實なものがない。之に對し、佛所證の涅槃は眞實であり、不變常住である。之を眞我、卽ち大我といふ。佛は八自在を得て一切の繫累を離れ、萬法に於て自在である。之を涅槃の大我といふ。我は自在の義。〔涅槃經、二十三〕有二大我一、故名二大涅槃一。〔大日經、一〕汝獲二無等利一、位同二大我一。〔大日經、疏、五〕大我、謂下諸如來成二就八自在我一、於レ法得二自在一者上。

【大賀】207（タイガ）　㊀縣名。王莽の時、漢の蒼梧郡の臨賀縣を改めていふ。今の廣西省賀縣治。〔漢書、地理志、蒼梧郡、縣十、臨賀、注〕莽曰二大賀一。㊁契丹の部族の名。〔五代史、四夷附錄第一〕其部族之大者、曰二大賀氏一。㊂複姓。〔舊唐書、契丹傳〕契丹、云云、其君長姓大賀氏。㊃大いに祝ふ。

【大雅】208（タイガ）　㊀すぐれて正しい。極めてみやびやかなこと。又、その人。〔漢書、景十三王傳贊〕夫唯大雅卓爾不レ羣、河間獻王近レ之矣。〔盧諶、贈二劉琨一詩序〕大雅含弘、量二苞山藪一。㊁學識あるものをいふ。後、轉じて、文人が互に敬稱する語。〔班固、西都賦〕大雅宏達、於レ茲爲レ羣。〔注〕善曰、大雅、謂下有二大雅之才一者上。㊂詩經の詩の一體。六義の一。小雅の對。王政廢興の跡を詠じたもので、宴饗の樂歌である。文王から卷阿に至る諸篇を正大雅、民勞から召旻に至る諸篇を變大雅といふ。毛詩（**6－16772**‥91）及び六義（**2－1453**‥114）を見よ。〔詩、大序〕言二天下之事一、形二四方之風一、謂二之雅一、雅者正也、言三王政之所二由廢興一也、政有二小大一、故有二小雅一焉、有二大雅一焉。〔詩、小大雅譜〕小雅・大雅者、周室居二西都豐鎬一之時詩也、始祖后稷、由二神氣一而生、有二播種之功於民一、公劉至二于太王王季歷一、及二千載一越二異代一、而列世載二其功業一、爲二天下所レ歸、文王受レ命、武王遂定二天下一、成德之隆、大雅之初、起レ自二文王一、至二于文王有聲一、據二盛隆一而推二原天命一、上述二祖考之美一、小雅自二鹿鳴一至二於魚麗一、先二其文一所二以治レ內、後二其武一所二以治レ外、此二雅逆順之次、要於下極二賢聖之情一著中天道之助上、如レ此而已矣、又大雅生民下及二卷阿一、小雅南有嘉魚下及二菁菁者我一、周公成王之時詩也、傳曰、文王基レ之、武王鑿レ之、周公內レ之、謂二其道同一、終始相成、比而合レ之、故大雅十八篇、小雅十六篇、爲二正經一、其用二於樂一、國君以二小雅一、天子以二大雅一、然而饗賓或上取、燕或下就、何者、天子饗二元侯一、歌二肆夏一、合二文王一、諸侯歌二文王一、合二鹿鳴一、諸侯於二鄰國之君一、與三天子於二諸侯一同、天子諸侯、燕二羣臣及聘問之賓一、皆歌二鹿鳴一、合二鄉樂一、此其著略大校、見二在於書籍一也、禮樂崩壞、不レ可レ得レ詳、大雅民勞・小雅六月之後、皆謂二之變雅一、美惡各以二其時一、亦顯レ善懲レ過、正之次也、問者曰、常棣閔二管蔡之失レ道、何故列二於文王之詩一、曰、閔レ之、閔レ之者、閔下其失二兄弟相承順之道一、至中於被上誅、若在二成王周公之詩一、則是彰二其罪一、非レ閔レ之、故爲隱、推而上レ之、因下文王有中親二兄弟一之義上、又問曰、小雅之臣、何也獨無レ刺二厲王一、曰、有焉、十月之交・雨無正・小旻・小宛之詩、是也、漢興之初、師移二其第一耳、亂甚焉、既移レ文改二其目一、義順二上下一刺二幽王一、亦過矣。㊃溪の名。今の四川省南溪縣に在る。〔海錄碎事、地、江湖〕大雅溪、在二南溪縣川中一也。㊄字號。㋑五代晉、馬全節（**12－44572**‥861）の字。㋺後趙、石弘（**8－24024**‥304）の字。㋩宋、崔敦詩（**4－8178**‥317）の字。㋥宋、徐熙（**4－10110**‥72）の字。㋭宋、錢熙（**11－40563**‥42）の字。㋬元、韓元善（**12－43159**‥280）の字。㋣明、孫作（**3－6987**‥125）の字。㋠明、兪得儒（**1－1437**‥129）の字。㊅ta^{4} ya^{3}　儀式などの晴の場所。

〔大雅吟〕209（タイガギン）　樂府、吟歎曲の名。晉、石崇作。

〔大雅口〕210（ダイガコウ）　土司の名。又、大啞口・大了口に作る。雲南省瀾滄縣の東。

〔大雅集〕211（タイガシフ）　書名。八卷。元、賴良編。元末の詩を集めたもの。選詩二千餘首、多くは楊維楨の刪定に係り、維楨の評點がある。〔四庫提要、集、總集類〕。

〔大雅堂〕212（タイガダウ）　㊀堂の名。宋の楊素が建てたもの。今の四川省眉山縣の南。〔明一統志〕宋丹稜人楊素建、黃庭堅謫二戎州一、嘗曰、安得二奇士一、盡刻二杜甫兩川及夔州詩一、使三大雅之音復盈二三巴之耳一哉、素聞レ之、訪二庭堅於戎一、請下攻二堅珉一刻レ詩、作レ堂翼上レ之、庭堅乃悉書二甫詩一遺レ之、因名レ堂曰二大雅一、且爲二之記一。㊁室名。㋑清、朱次琦（**6－14424**‥821）の室名。㋺清、鄒方鍔（**11－39562**‥112）の室名。㊂池野大雅をいふ。我が國南宋畫の祖。京都の人。名は無名。字は貨成。通稱は秋平。別に三岳道者・九霞山樵・竹居等と號した。

〔大雅之才〕213（タイガノサイ）　正しくて上品な才。〔越絕書、越絕外傳本事〕是人有二大雅之才一。

〔大雅之辭〕214（タイガノジ）　正しくて上品な言葉。〔新書、傳職〕遇二貴大人一、不レ知二大雅之辭一。

〔大雅之人〕215（タイガノヒト）　正しくて上品な人。君子人。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕大雅之人、不レ肯レ爲レ此也。

【大駕】216（タイガ）　㊀天子の乘物の一。轉じて、天子。大駕を用ひる時の行列を鹵簿といひ、公卿が奉引し、大將軍が參乘し、太僕が御する。屬車は八十一乘。〔後漢書、輿服志〕乘輿大駕、公卿奉引、太僕卿御、大將軍參乘、屬車八十一乘、備二千乘萬騎一、西都行祠二天郊甘泉一、備二之官一、有二其注レ名、曰二甘泉鹵簿一、東都唯大行乃大駕、大駕、太僕校レ駕、法駕、黃門令校レ駕、乘輿法駕、公卿不レ

在㆓鹵簿中㆒、河南尹執金吾、雒陽令奉引、奉車郎御、侍中參乘、屬車四十六乘、前驅有㆓九斿雲罕、鳳凰闟戟、皮軒鸞旗㆒、皆大夫載、鸞旗者、編㆓羽旄㆒列㆓繫幢旁㆒、民或謂㆓之雞翹㆒、非也、後有㆓金鉦黃鉞㆒、黃門鼓車、古者諸侯貳車九乘、秦滅㆓九國㆒、兼㆓其車服㆒、故大駕屬車八十一乘、法駕半㆑之、屬車皆皂蓋、赤裏木轓、戈矛弩箙、尙書御史所㆑載、最後一車懸㆓豹尾㆒、豹尾以前比㆓省中㆒。〔吳志、是儀傳〕大駕東遷。❷ ta^4 chia^4 他人の乘物の尊稱。〔晉書、嵇紹傳〕大駕親征、以㆑正伐㆑逆。

【大戒】217 タイカイ ❶大きないましめ。大きな法則。犯すことのできぬ法をいふ。莊子に於ては、子が親を愛するは天命であり、臣が君に事へるは義理であるとし、此の命と義とを大戒とする。〔莊子、人閒世〕天下有㆓大戒㆒二、其一、命也、其一、義也、子之愛㆑親、命也、不㆑可㆑解㆓於心㆒、臣之事㆑君、義也、無㆓適而非㆑君也、無㆑所㆑逃㆓於天地之閒㆒、是之謂㆓大戒㆒。❷大いに戒める。〔國語、吳語〕吳王夫差、既許㆓越成㆒、乃大戒㆓師徒㆒、將㆓以伐㆑齊。

〖大戒解〗218 タイカイカイ 逸周書の篇名。

【大芥】219 タイカイ ❶かぶらの異名。蕪菁。〔方言、三〕豐蕘、蕪菁也、陳楚之郊、謂㆓之豐㆒、魯齊之郊、謂㆓之蕘㆒、關之東西、謂㆓之蕪菁㆒、趙魏之郊、謂㆓之大芥㆒、其小者謂㆓之辛芥㆒、或謂㆓之幽芥㆒、其紫華者謂㆓之蘆菔㆒、東魯謂㆓之菈蘧㆒。❷からしなの一種。若芽を食用とする。〔本草、芥〕集解、時珍曰、芥有㆓數種㆒、靑芥又名㆓刺芥㆒、似㆓白菘㆒、有㆓柔毛㆒、有㆓大芥㆒、亦名㆓皺葉芥㆒、大葉皺紋、色尤深綠、味更辛辣、二芥宜㆑入㆓藥用㆒。

【大海】220 タイカイ おほうみ。おほうなばら。外海。大洋。大瀛。〔列子、湯問〕沈㆓於大海㆒。〔管子、地數〕以㆑身濟㆓於大海㆒。〔楚辭、大招〕東有㆓大海㆒、溺水浟浟只。〔漢書、王莽傳上〕東夷王度㆓大海㆒奉㆓國珍㆒。〔法言、重黎〕從浮㆓大海㆒。

〖大海原〗221 オホウナバラ ひろびろとした海。大海。〔祝詞式〕靑海原者棹柁不㆑干、舟艫能至留極、大海原爾舟滿都都氣氏。

〖大海泊〗222 タイカイハク 湖の名。綏遠省涼城縣の東北。威寧海ともいふ。古の諸聞澤。〔山西通志〕水道提綱以㆓此泊㆒當㆓鹽澤㆒、而別擧㆓豐鎭廳北之奇爾泊㆒爲㆓諸聞澤㆒、近人釋㆓漢志㆒多仍㆑之、皆未㆑審也、產㆑鹽、近㆑泊居民、多以㆑煮㆑鹽爲㆑業。

〖大海樵人〗223 タイカイセウジン 清、姜虬綠（**3－6205‥82**）の號。

〖大海撈針〗224 ta^4 hai^3 lao^1 chen^1 大海で針をすくひ取るやうに、物事の見込みのないこと。

〖大海禁不住飄兒取〗225 ta^4 hai^3 chin^1 pu chu^4 pʻiao^2 êrh chʻü^3 大海でも、桮杓で斟みつづけたら遂には涸れよう。

【大開】226 ta^4 kʻai^1 開けつ放し。

〖大開解〗227 タイカイカイ 逸周書の篇名。

〖大開武解〗228 タイカイブカイ 逸周書の篇名。

〖大開門做〗229 ta^4 kʻai^1 men^2 tsuo^4 公公然とする。

【大解】230 タイカイ ❶大いに解ける。すつかりなくなる。〔易林〕牡飛門啓、憂患大解。❷大蟹（232）に同じ。〔呂覽、恃君〕夷穢之鄉、大解・陵魚、其鹿野、搖山・揚島、大人之居、多無㆑君。

【大誡】231 タイカイ 大いにいましめる。又、大きないましめ。〔易、繫辭下〕小懲而大誡、此小人之福也。

【大蟹】232 タイカイ 大きなかに。大解。〔山海經、海內北經〕姑射國、在㆓海中㆒、屬㆓列姑射㆒、西南山環㆑之、大蟹在㆓海中㆒。〔注〕蓋千里之蟹也。〔逸周書、王會解〕海陽大蟹。〔注〕海水之陽、一蟹盈㆑車。

【大厓】233 タイガイ 明、李承箕（**6－14459‥1490**）の號。

【大孩】234 タイガイ 晉の人。烏紇提（**7－18998‥429**）の別名。〔晉書、吐谷渾傳〕白蘭在㆑位十一年、傳㆓位於烏紇提㆒、烏紇提、一名、大孩。

【大害】235 タイガイ 大きな傷害。大きい損害。大きな災害。又、大いに害する。〔左氏、昭、元〕苟無㆔大害㆓於其社稷㆒、可㆑無㆑亢也。〔墨子、非命上〕天下之大害。〔史記、刺客傳〕連㆓結一人之後交㆒、不㆑顧㆓國家之大害㆒。〔漢書、鼂錯傳〕除㆓大害㆒、去㆓亂從㆒。

【大凱】236 タイガイ 凱旋に奏する樂。大愷（238）に同じ。〔史記、主父偃傳〕天下既平、天子大凱。〔注〕集解曰、應劭曰、大凱、周禮、還師振旅之樂。

【大街】237 タイガイ 大通り。街路。〔東京夢華錄〕明節皇后宅、西去㆓大街㆒、曰㆓大巷口㆒。

【大愷】238 タイガイ 凱旋に奏する樂。大凱。〔漢書、主父偃傳〕天下既平、天子大愷。〔注〕應劭曰、大愷、周禮、還師振旅之樂也。

【大蓋】239 タイガイ 大きな蓋。蓋は、車上を覆つて、雨・日光等をよけるもの。〔晏子、雜、上〕擁㆓大蓋㆒策㆓駟馬㆒。〔列女傳、賢明、齊相御妻傳〕命婦窺㆔其夫爲㆓相御㆒、擁㆓大蓋㆒策㆓駟馬㆒、意氣洋洋。

【大槩】240 タイガイ あらまし。おほかた。ほとんど。大概に同じ。〔西國傳〕斯其大槩。〔近思錄、致知〕聖人之於㆑易、其閒雖㆑無㆓極至精義㆒、大槩皆有㆓意志㆒。

【大概】241 タイガイ あらまし。ひととほり。大槩に同じ。〔全唐詩話、序〕大概於㆓唐人詩㆒誦㆑之尤習。

【大駭】242 タイガイ 大いにおどろく。〔左氏、定、十〕郈人大駭。

【大礙】243 タイガイ 大きなさはり。

【大巧】244 タイカウ 非常に巧妙なこと。〔淮南子、泰族訓〕奚仲不㆑能㆑放、魯般不㆑能㆑造、此之謂㆓大巧㆒。

〖大巧若㆑拙〗245 タイカウハセツナルガゴトシ 眞の巧妙は、俗眼には却つて粗拙に見える。〔老子、四十五〕大直若㆑屈、大巧若㆑拙、大辯若㆑訥。〔莊子、胠篋〕故曰、大巧若㆑拙。〔韓詩外傳、九〕大巧若㆑拙、其用不㆑屈。

〖大巧在㆑所㆑不㆑爲〗246 タイカウハナサザルトコロニアリ 眞の巧妙は、小細工を弄しない處に存する。〔荀子、天論〕大巧在㆑所㆑不㆑爲、大智在㆑所㆑不㆑慮。

【大交】247 タイカウ 鎭の名。山西省絳縣の東北。一名、澮交鎭。〔水經、澮水注〕澮水、又西南與㆓諸水㆒合、謂㆓之澮交㆒。〔金史、地理志下〕絳、鎭一、澮交。

【大向】248 オホムカフ ❶芝居の舞臺から見て正面、卽ち觀客席の後方。立見する所。❷大向にゐる見物の大衆。

【大好】249 タイカウ 大きなよしみ。〔孔叢子、論勢〕爲㆑王計者、莫㆑如㆘除㆓小忿㆒全㆗大好㆖。

【大江】250 タイカウ ❶揚子江をいふ。長江。〔楚辭、九歌、湘君〕橫㆓大江㆒兮揚㆑靈、揚㆑靈兮未㆑極。〔後漢書、郡國志四〕尋陽南有㆓九江㆒、東合爲㆓大江㆒。〔王粲、七哀詩〕方㆑舟溯㆓大江㆒。〔杜甫、旅夜書懷詩〕星隨㆓平野㆒闊、月湧㆓大江㆒流。〔文天祥、過㆓平原㆒作〕一朝漁陽動㆓鼙鼓㆒、大江以北無㆓堅城㆒。〔讀史方輿紀要、川瀆、五〕大江、江源出㆓於岷山㆒、西南流經㆓松潘衞西㆒、又南經㆓疊溪所西㆒云云、又東北經㆓嘉魚縣西㆒益折、而北經㆓漢陽府城東武昌府城西㆒、而會㆓於漢水㆒云云、又東經㆓海門縣南江之南岸㆒爲㆓太倉州之北㆒、由㆑此入㆓於海㆒。❷大きい河。

〖大江田〗251 オイタ 姓氏。〔字林拾葉〕。

〖大江匡衡〗252 オホエマサヒラ 文學者。歌人。重光の子。家學を祖父維時に受け、文才當代無雙。官は文章博士・侍讀・侍從・東宮學士。位は正四位下。長和元年歿す、年六十一。著に江吏部集・大江匡衡朝臣集がある。

〖大江匡房〗253 オホエマサフサ 文學者。世に江帥といふ。成衡の子。白河・堀河・鳥羽三帝の師となる。官は參議・太宰權帥・中納言・大藏卿、位は正二位に至る。天永二年歿す、年七十一。藤原長房・伊房と共に三房と稱せられる。著に狐媚記・暮年記・遊女記・傀儡子記・對馬貢銀記・洛陽田樂記・筥崎宮記・歌合祭文・高麗國牒・白頭歌・續本朝往生傳・石淸水不斷念佛緣起・皇慶阿闍利傳・中御室御灌頂記・本朝神仙傳・天仁大嘗會記・江談抄・江家次第・江帥集がある。

〖大江漁夫〗254 タイカウギヨフ 都賀庭鐘の號。都賀大江（**11－39509‥236**）を見よ。

〖大江玄圃〗255 オホエゲンポ 京都の人。名は資衡。字は稺圭。通稱は久川靭負。號は玄圃。荻生徂徠の學を奉ず。寬政六年歿す、年六十七。著に應制詩帖・孝經古點・學翼・玉振集・琴錄・琴學入門・觀月帖・菅公手植梅銘・玄圃集・玄圃文集・玄圃詩集・古琴圖彙・古點考・江家次第箋注・三體詩解・詩聯光彩數量箋・詩聯光彩通用箋・書家略・書家略譜・女學範・裝束類纂・盛唐詩格・消息帖・續文鑑錄・大學古點・唐詩靴・唐詩紳・唐詩冕・唐詩履・唐詩旐・梅花樓琴譜・閒合早學問・名媛墨妙集・問佩集・臨米元章千字文・和歌職原捷經がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

〖大江草堂〗256 タイカウサウダウ 清、陳衍（**11－41698‥37**）の室名。

〖大江東去〗257 タイカウトウキヨ 詞調の名。もと念奴嬌といつたが、蘇東坡が首句に大江東去と詠じてか

ら此の名を用ひる。〔蘇軾、念奴嬌詞〕大江東去、浪陶盡千古風流人物。

【大江藍田】258 オホエランデン　京都の人。名は維翰。字は伯祺・文學。通稱は久川玄蕃。號は藍田・東陽。天明八年五月八日歿す、年三十二。著に在津筆記・詩語國字解・詩楚國字解・日本故事選・藍田遺稿がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大考】259 タイカウ　❶三年毎に官吏の能否勤惰を考査すること。〔周禮、地官、州長〕三年大比、則大二考州里一。❷清代、朝廷から翰林官をして庶吉士などに行はせた試驗。〔淸會典、禮部〕凡大考、則偕二詹事府官一以與焉。〔注〕大考無二定期一、逾二數年一則特旨考試。

【大行】260 タイカウ　❶大いに行はれる。〔易、大畜〕何天之衢、道大行也。〔孟子、盡心上〕君子所レ性、雖二大行一不レ加焉、雖二窮居一不レ損焉、分定故也。❷遠く行く。遠行。〔左氏、哀、二十五〕季孫曰、云云、臣是以不レ獲レ從レ君、克免二於大行一。〔會箋〕大行、猶二遠行一。❸大なる行爲。立派な行爲。大事業。〔逸周書、謚法解〕謚者、行之迹也、云云、是以大行受二大名一、細行受二小名一。〔荀子、子道〕從レ道不レ從レ君、從レ義不レ從レ父、人之大行也。〔司馬相如、封禪文〕文王改レ制、爰レ周郅隆、大行越成。〔注〕善曰、行、道也。❹天子の崩御。又、崩じて謚を奉らない間の天子の稱。行いて還御せぬ意ともいひ、或はまた大なる行を爲した人が大名を受ける爲ともいふ。大行皇帝。❸を見よ。〔正字通〕行、天子崩曰二大行一、韋昭曰、大行者、不レ反之辭、風俗通、天子新崩、未レ有二謚號一、故總二其名一、曰二大行皇帝一也。〔史記、李斯傳〕大行未レ發、喪禮未レ終。〔後漢書、安帝紀〕大行皇帝、不レ永二天年一。〔注〕前書音義曰、禮有二大行人一、有二小行人一、主二謚號一官也、韋昭云、大行者、不レ反之辭也、天子崩未レ有レ謚、故稱二大行一也、穀梁傳曰、大行受二大名一、風俗通曰、天子新崩未レ有レ謚、故且稱二大行皇帝一、義兩通。〔癸辛雜識〕宮車晏駕曰二大行一、大行者、不レ返之詞也、宋理宗之喪、湖州教官劉憶讀レ祝、行字作二去聲一、以爲、大行受二大名一、細行受二細名一者、謚法也、天子新崩、尙未レ有レ謚、故且稱二大行皇帝一也。〔六部成語訂正、禮部、大行、注解〕皇帝駕崩曰二大行皇帝一、大行、古有二二解一、或曰、一往不レ返、謂二之大行一、或曰、皇帝初崩、尊謚未レ定、暫稱二大行一、言二其德行大備無レ所レ不レ具也、上行讀二平聲一作二行路一解二德行之行一讀二去聲一二解皆可レ通、不レ如二幷存一レ之。❺太上皇又は皇后の崩御。又、崩じて未だ謚を奉らない間の稱。〔舊唐書、高祖紀〕天禍二隋國一、大行太上皇、遇二盜江都一。〔聖安紀事、上〕弘光元年六月壬戌、上二大行皇后謚一。❻官名。賓客を接待することを掌る。漢の景帝の時、大鴻臚と改む。大行人を見よ。〔呂覽、勿躬〕登降辭讓、進退閑習、臣不レ若二隰朋一、請置以爲二大行一。〔注〕大行、官名、周禮大行人、掌二大賓客之禮一以親二諸侯一。〔史記、禮書〕余至二大行禮官一、觀二三代損益一。〔注〕索隱曰、大行、秦官、主二禮儀一、漢景帝改曰二大鴻臚一、鴻臚掌二九賓之儀一也。〔史記、叔孫通傳〕大行設二九賓臚句傳一。〔注〕索隱曰、韋昭曰、大行掌二賓客之禮一、今謂二之鴻臚一也。❼山名。太行(**3**－**5834**‥43)に同じ。〔墨子、耕柱〕我將レ上二大行一。〔閒詁〕大、吳鈔本作レ太。

【大行棧】261 ta^4 hang^2 chan^4　大規模の商館。

【大行人】262 タイカウジン　周官の名。秋官の屬。賓客に接し、禮式を掌る。漢の鴻臚卿。〔周禮、秋官、大行人〕大行人、掌二大賓之禮、及大客之儀一。

【大行李】263 タイカウリ　❶大型の行李。❷舊制で、戰時、陸軍諸部隊が携行する附隨部隊。主として宿營間に必要な物品を積載する駄馬・車輛及び豫備馬を以て編成す。小行李(**4**－**7473**‥149)の對。

【大行令】264 タイカウレイ　漢の官名。景帝の中元六年、典客を改めていふ。大鴻臚(797)に同じ。〔漢書、百官公卿表上〕典客、秦官、云云、景帝中元六年、更二名大行令一、武帝太初元年、更二名大鴻臚一。

【大行皇后】265 タイカウクワウゴウ　皇后が崩じて、未だ謚を奉らぬ間の稱。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕大行皇后、崩二于顯陽殿一。〔注〕善曰、風俗通曰、皇帝新崩、未レ有レ定レ謚、故總二其名一、曰二大行皇帝一。

【大行皇帝】266 タイカウクワウテイ　天子が崩じて、未だ謚を奉らぬ間の稱。大行の❹を見よ。〔後漢書、安帝紀〕大行皇帝、不レ永二天年一。〔蜀志、先主甘后傳〕大行皇帝存時、篤レ義垂レ恩。〔文獻通考、王禮考、國恤〕帝初登遐、朝臣稱曰二大行皇帝一、魏孫毓曰、大行之稱、起二於漢氏一、漢書曰、大行在二前殿一、又曰、大行無二遺詔一、謚法、大行受二大名一、小行受二小名一、初崩未レ謚、而嗣帝已立、臣下所レ稱、辭宜レ有レ異、故謂二之大行一、言下其有二大德行一、必受中大名上、若レ稱レ謚也。

【大行大市】267 ta^4 hang^2 ta^4 shih^4　大きな商賣。一定して變動の少い相場。

【大行天皇】268 タイカウテンワウ　天皇が崩御せられて、未だ謚號を奉らぬ間の尊稱。大行皇帝に同じ。〔萬葉集、二〕大行天皇幸二于難波宮一時歌。

【大行受二大名一】268′ タイカウハタイメイヲウク　生前に立派な行爲をした者は立派な謚をつけられる。大行の❸を見よ。

【大行不レ顧二細謹一】269 タイカウハサイキンヲカヘリミズ　極めて大きな事を行ふ時には、瑣細な事は顧慮しない。〔史記、項羽紀〕樊噲曰、大行不レ顧二細謹一、大禮不レ辭二小讓一。〔史記、李斯傳〕夫大行不二小謹一、盛德不二辭讓一。

【大亨】270 タイカウ　❶大いに通る。〔易、屯、注〕故屯乃大亨也。〔疏〕因レ難物始大通、故元亨也、萬物大亨、乃得二利益一而貞正、故利貞也。〔易、臨〕大亨以正。〔疏〕使下物大得二亨通一而利正上。❷東晉、安帝、司馬德宗の年號。一に太亨に作る。(403)　❸字號。㋑宋、呂聲之(**2**－**3386**‥221)の字。㋺明、周濟(**2**－**3441**‥206❹)の字。❹タイハウ　盛んな御馳走。盛餚。大烹。〔易、鼎〕聖人亨以亨二上帝一、而大亨以養二聖賢一。〔注〕亨者、鼎之所レ爲也。

【大孝】271 タイカウ　大なる孝行。最もすぐれた孝行。又、大孝の人。〔禮、祭義〕孝有レ三、大孝尊レ親、其次弗レ辱、其下能養。〔中庸〕舜其大孝也與。〔孟子、萬章上〕大孝、終レ身慕二父母一。〔史記、叔孫通傳〕益廣多二宗廟一、大孝之本也。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕大孝之隆、於レ是爲レ至。

【大幸】272 タイカウ　❶大きなしあはせ。〔庭訓往來、五月〕被二助成一者、生前之大幸也。❷オホサキ　姓氏。〔姓林全書〕。

【大炕】273 タイカウ　床の下で火を焚くために土で塗りかためたもの。〔紅樓夢、三回〕於レ是老嬷嬷引二黛玉一進二東房門一來、臨レ窓大炕上猩紅洋罽。

【大㚖】274 タイカウ　金、遼陽の人。本名は撻不野。官は太傅。梁から金に歸し、宋を侵して功を建つ。封は漢國王。〔金史、八十〕。

【大郊】275 タイカウ　諸侯の行ふ天の祭。〔孔子家語、郊問〕魯無二冬至大郊之事一、降二殺於天子一、是以不レ同也。

【大香】276 ダイカウ　明の僧。字は唵囕。もと吳の詩人。姓は吳。名は鼎芳。字は凝父。一旦雲棲に祝髮し、行脚十年、孤孑で侶がなかつた。著に雲外集・經律集錄がある。

【大香台】277 ta^4 hsiang^1 t'ai^2　疫病の流行を防ぐまじなひとして高臺を作ること。江蘇如皐地方の風習。

【大校】278 タイカウ　軍の將帥の稱。〔史記、衞將軍驃騎傳〕以二李敢等一爲二大校一、當二裨將一。

【大皐】279 タイカウ　城の名。江西省廬陵縣の南。贛江の岸。南朝梁の時、李遷仕が據つた處。〔讀史方輿紀要、吉安府、廬陵縣〕大皐城、府南二十里、臨二贛水一、卽梁末李遷仕據レ此、以拒二陳霸先一處。

【大耗】280 タイカウ　叢辰の名。月中虛耗の神。歲破と辰を同じくする。これにあたる時は擊てば破れ、衝けば散じ、生命がそこなはれるから忌まなければならない。〔協紀辨方書、義例一、歲破〕曆例曰、大耗者、月中虛耗之神也、所レ理之地、不レ可下營二造倉庫一納中財物上、犯レ之當レ有二寇賊驚恐之事一。

【大高】281 タイカウ　天。上帝。又、祖をいふ。〔正字通〕高天曰二大高一。〔淮南子、氾論訓〕饗二大高一者、而彘爲二上牲一。〔注〕大高、祖、一曰、上帝。

【大康】282 タイカウ　❶大いにたのしむ。康は樂。〔詩、唐風、蟋蟀〕無二已大康一、職思二其居一。〔傳〕康、樂。❷宋、神宗の時、遼の道宗、耶律洪基の年號。一に太康に作る。(1075－1084)

【大窖】283 タイカウ　大きなあなぐら。〔漢書、蘇武傳〕單于愈益欲レ降レ之、乃幽レ武置二大窖中一、絕不二飲食一。〔王逢、題二百雁圖一詩〕得レ非二長門報レ秋使一、或是大窖傳レ書奴。

【大較】284 タイカウ　❶おほむね。あらまし。梗概。大略。

〔史記、貨殖傳〕此其大較也。〔注〕索隱曰、大較、猶二大略一也。〔淮南子、泰族訓〕大較易レ爲レ智。〔後漢書、祭祀志論〕然其大較、猶有二本要一。〔何晏、景福殿賦〕此其大較也。❷大法。大權。〔史記、律書〕世儒闇二於大較一。〔注〕索隱曰、大較、大法也。

【大綱】285 タイカウ ❶おほづな。おほもと。根本。〔詩譜序〕欲レ知二風化芳臭、氣澤之所レ及、則傍行而觀レ之、此詩之大綱也。〔法言、先知〕堯有二天下一、擧二大綱一命レ禹。〔漢書、王吉傳〕人倫大綱。〔後漢書、班超傳〕寬二小過一、總二大綱一而已。❷唐、李元紘(6－14459··1162)の字。

【大誥】286 タイカウ ❶書經、周書の篇名。眞古文。周の武王は殷を滅ぼし、紂王の子、武庚を封じ、三叔をして之を監せしめた。武王が崩じて成王が立ち、周公旦が相となつたが、三叔の流言の爲にその位を去る。尋いで成王は周公の寃を知り、再び朝に立たせたので、三叔は懼れて遂に武庚と共に亂を作した。是に於て周公は成王の命を受け、之を征伐することになつたが、其の時、大いに天下に告げたのが此の文である。文辭極めて嚴肅、條理を盡して教誨し、人心をして其の嚮ふ所を明かならしめた。其の首に大誥の二字があるから、篇に大誥と名づけたのである。〔書、大誥序〕武王崩、三監及淮夷叛、周公相二成王一、將レ黜レ殷、作二大誥一。❷北周、蘇綽作。綽は尤も尙書を好み、魏晉以來の文章が悉く駢儷を旨とするのを慨き、太祖宇文泰に奏して、詔書の文は必ず尙書の大誥を以て準據とすべきであるといひ、遂に自ら大誥一篇を作つて範を示した。〔北史、蘇綽傳〕自二有晉之季一、文章競爲二淨華一、遂以成レ俗、周文欲レ革二其弊一、因二魏帝祭レ廟、羣臣畢至一、乃命レ綽爲二大誥一、奏二行之一、其詞曰、惟中興十有一年仲夏、庶邦百辟、咸會二於王庭一、柱國泰洎羣公列將、罔レ不二來朝一、時廼大稽二百憲一、敷二于庶邦一、用綏二我王度一、皇帝若曰、昔堯命二羲和一、允釐二百工一、舜命二九官一、庶績咸熙、武丁命レ說、克號二高宗一、時惟休哉、朕其欽若、格二爾有位一、胥曁二我太祖之庭一、朕將三丕命レ女以二厥官一、六月丁巳、皇帝朝格二於太廟一、凡厥具僚、罔レ不レ在レ位、皇帝若曰、咨我元輔、羣公列將、百辟卿士、庶尹御事、朕惟寅、敷二祖宗之靈命一、稽二于先王之典訓一、以大誥二于爾在位一、云云、自レ是之後、文筆皆依二此體一。

【大皞】287 タイカウ 古の帝の名。伏羲氏。太皡(3－5834··61)に同じ。〔禮、月令〕其帝大皞、其神句芒。〔注〕大皞、宓戲氏。〔左氏、昭、十七〕大皞氏以レ龍紀、故爲二龍師一而龍名。〔注〕大皞、伏羲氏、風姓之祖也。

【大羹】288 タイカウ 調味料を用ひない肉汁。〔周禮、天官、亨人〕祭祀共二大羹・鉶羹一。〔注〕大羹、肉湆、鄭司農云、大羹、不レ致二五味一也。〔左氏、桓、二〕大路越席、大羹不レ致。〔注〕大羹、肉汁不レ致二五味一。

【大羹湆】289 タイカウキフ 調味料を用ひないで肉を煮た汁。湆は汁に通ず。〔儀禮、士昏禮〕大羹湆在レ爨。〔注〕大羹湆、煑レ肉汁也、大古之羹無二鹽菜一、云云、今文湆皆作レ汁。

【大羹玄酒】290 タイカウゲンシユ ❶大羹と玄酒。玄酒は古、酒の代りに祭に用ひた水をいふ。大羹を見よ。〔禮、禮運〕故玄酒在レ室、醴醆在レ戶。〔疏〕玄酒、謂レ水也、以二其色黑一、謂二之玄一、而大古無レ酒、此水當レ酒所レ用、故謂二之玄酒一。❷規則にのみ捉はれて、淡泊無味な文章をいふ。〔唐書、文藝上、駱賓王傳〕堅問、今世奈何、說曰、韓休之文、如二大羹玄酒一、有二典則一、薄二滋味一、許景先如二豐肌膩理一、雖二穠華可一レ愛、而乏二風骨一。

【大羹不レ和】291 タイカウハワセズ 大羹には調味料を用ひない。人をして口腹の欲を極めさせず、質素の情を養はせようと欲するがためである。〔禮、禮器〕大圭不レ琢、大羹不レ和。〔疏〕大羹、肉汁也、不レ和、無二鹽梅一也、大古初變レ腥、但煑レ肉而飮二其汁一、未レ知二調和一。〔禮、樂記〕大羹不レ和、有二遺味一者矣、是故先王之制二禮樂一也、非三以極二口腹耳目之欲一也、將下以敎二民平二好惡一、而反中人道之正上也。〔史記、樂書〕大羹不レ和、有二遺味一者矣。〔淮南子、泰族訓〕大羹之和、可レ食而不レ可レ嗜也。〔注〕大羹不レ和二五味一。〔後漢書、邊讓傳〕怪此寶鼎未レ受二犧牛大羹之和一、久在二煎熬臠割之間一。

【大號】292 タイガウ ❶大なる號令。君主の號令。又、大いに號令を發する。〔易、渙〕渙二汗其大號一、渙二王居一、无レ咎。〔張衡、東京賦〕高祖膺レ籙受レ圖、順レ天行レ誅、杖二朱旗一而建二大號一。〔注〕濟曰、大號、大發二號令一也。❷六號の大なる者。六號は神號・示號・鬼號・牲號・齍號・幣號。〔周禮、春官、大宗伯〕奉二玉齍一、詔二大號一。〔注〕大號、六號之大者。〔疏〕云二大號六號之大者一、謂レ若二大祝云レ辨二六號一、一曰神號、二曰示號、三曰鬼號、四曰牲號、五曰齍號、六曰幣號。❸國號をいふ。〔周書、孝閔帝紀〕戊申詔曰、上天有レ命、革二魏於周一、致二予一人一、受二茲大號一。❹ta^{4} hao^{4} 他人の號の尊稱。

【大激】293 タイガウ 明、方于魯(5－13620··483)の初名。

【大豪】294 タイガウ ❶豪傑。魁帥。〔史記、楊僕傳〕舞レ文巧二詆下戶之猾一、以焄二大豪一。〔漢書、宣帝紀〕斬二首惡大豪楊玉酋非首一。〔後漢書、孔奮傳〕其大豪齊鐘留者、爲三羣氐所二信向一。❷富豪。〔後漢書、戴良傳〕曾祖父遵、字子高、家富好二給施一、尙二俠氣一、食客常數百人、時人爲レ之語曰、關東大豪戴子高。

【大囂】295 タイガウ ❶非常にかまびすしい。〔隋書、宇文忻傳〕於レ是擊二所レ觀者一、大囂而走轉、相騰藉聲如二雷霆一。❷星の名。太白星をいふ。金星。〔廣雅、釋天〕太白謂二之長庚一、或謂二之大囂一。〔疏證〕各本大囂作二太囂一、因二上文太白一而誤。〔史記、天官書〕其庫近レ日、曰二明星一、柔、高遠レ日、曰二大囂一、剛。

【大角】296 タイカク ❶大きい角。〔春秋、哀、十四、春西狩獲レ麟、疏〕說二左氏一者云、麟生二於火一、而遊二於土中央一、軒轅大角之獸。❷樂器の名。大きなつのぶえ。簸邏廻(8－26609··18)に同じ。〔唐書、百官志四上〕衞士六百爲二大角手一、六番閱習レ吹二大角一、爲二昏明之節一。〔事物異名錄、音樂、號筒〕事物紺珠、大角名二簸邏廻一。❸星の名。左攝提、右攝提の間に位し、蒼龍の一本の角に當る。古來、農業の神として祭られ、又、船乘の間にも重んぜられる。牛飼座のアークチュルス。〔史記、天官書〕大角者、天王帝廷。〔注〕正義曰、大角一星、在二兩攝提間一、人君之象也、占二其明盛黃潤一、則天下大同也。❹オホトガリ 下總國の地名。❺オホスミ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【大角集】297 オホツメ オホツイ 姓氏。〔和爾雅〕。

【大角豆】298 ササゲ ❶豆の名。❷オホサギ 常陸國の地名。

【大客】299 タイカク ❶尊貴な客人。諸侯の孤卿をいふ。〔周禮、秋官、大行人〕大行人、掌二大賓之禮、及大客之儀一。〔注〕大賓、要服以內諸侯、大客、謂二其孤卿一。〔疏〕大客謂二孤卿一者、謂二還是大賓一。❷賓客を呼ぶ敬稱。〔戰國、齊策〕張儀爲レ秦連橫、說二齊王一曰、云云、齊王曰、齊僻陋隱居、託二於東海之上一、未三嘗聞二社稷之長利一、今大客幸而敎レ之、請奉二社稷一以事レ秦。❸象の俗稱。〔異苑〕始興郡陽山縣、其象、俗呼爲二大客一。

【大榷】300 タイカク 大法。大較(284)の❷に同じ。〔漢書、律歷志上〕其可二以相傳一者、唯大榷常數及候氣而已。

【大翮】301 タイカク 山名。察哈爾省延慶縣の西北。小翮山と連なる。〔水經、灅水注〕又西、右與二陽溝水一合、水出二縣東北一、西南流、逕二居庸縣故城北一、西逕二大翮・小翮山南一、云云、郡人王次仲、少有二異志一、年及二弱冠一、變二蒼頡舊文一爲二今隷書一、秦始皇時、官務煩多、以三次仲所レ易文、簡二便于事要一、奇而召レ之、三徵而輒不レ至、次仲履レ眞懷レ道、窮二數術之美一、始皇怒二其不恭一、令二檻車送一レ之、次仲首發二于道一、化爲二大鳥一、出在二車外一、翻飛而去、落二二翮于斯山一、故其峯巒有二大翮・小翮之名一矣。

【大觳】302 タイカク 非常にうすい。〔莊子、天下〕其生也勤、其死也薄、其道大觳。〔注〕觳、無レ潤也。〔集解〕郭嵩燾云、釋詁、觳、盡也、管子地員篇、又次曰二五觳一、觳者、薄也。

【大覺】303 タイカク ❶大いにさめる。大いに悟る。又、大悟した人。〔莊子、齊物論〕覺而後知二其夢一也、且有二大覺一、而後知二此其大夢一也。〔淮南子、俶眞訓〕今將丁有二大覺一、知丙然後今此之爲乙大寢甲。❷ダイガク ㋑佛悟りを開く。大悟。〔翻譯名義集〕惛夢惺、而大覺明。〔顏氏家訓、歸心〕非二大覺之本旨一也。㋺佛の異稱。佛は自覺・覺他共に圓滿であるからいふ。〔止觀、一〕大覺世尊、積レ功行滿、涉二六年一以伏レ見、擧二一指一而降レ魔。❸唐、法欽(6－17290··62)の諡。❹宋、懷璉(4－11456··204)の號。

【大覺寺】304 ダイカクジ 寺の名。❶河北省宛平縣の暘臺山麓にある。遼の時建て、淸水院といつたが、明の宣德の時、今の名に改めた。❷山城國葛野郡嵯峨村大澤池の西にある眞言宗の寺。恆寂親王の開基。以後、法親王もしくは親王が相承け

て座主となり、大覺寺門跡と呼び、宮門跡の一となる。維新後、東寺に屬したが、今は同宗大覺寺派の本山。

〔大覺金仙〕305 ダイガクキンセン　宋、徽宗の時、釋迦佛を稱していふ。〔宋史、徽宗紀〕宣和元年春正月乙卯、詔、佛改號二大覺金仙一、餘爲二仙人大士一、僧爲二德士一、女冠爲二女道一、尼爲二女德一。

〔大覺寺統〕306 ダイカクジトウ　龜山天皇の皇統で、後龜山天皇に至るまでの稱。龜山・後宇多・後二條・後醍醐・後村山・長慶・後龜山の七代の天皇が、この統から出られた。卽ち、吉野朝廷の御系統で、龜山・後宇多の兩上皇が御讓位の後、山城國嵯峨の大覺寺に御坐したことからこの稱がある。

〔大覺禪師〕307 ダイガクゼンジ　諡號。❶唐、道欽(**11**－**39010**··116)の諡。❷唐、智藏(虔州の人)(**5**－**14010**··61)の諡。❸五代吳、道虔(**11**－**39010**··159)の諡。❹淸、通琇(**11**－**38892**··197)の諡。

【大岳】308 タイガク　大嶽(331)に同じ。〔左氏、隱、十一〕夫許大岳之胤也。〔注〕大岳、神農之後、堯四岳也。

【大樂】309 タイガク　❶すぐれた音樂。〔禮、樂記〕大樂與二天地一同レ和、大禮與二天地一同レ節。❷漢以降の音樂上の制度の名。太樂(**3**－**5834**··68)ともいふ。周禮の春官宗伯は、秦には奉常、漢には太常となる。太常の屬官に大樂令・丞があり、之に多數の鼓員・工人が隸屬し、國の祭享の諸奏樂のことを掌つた。これが大樂の創始と思はれる。後漢には太子樂と改め、令以下の諸官を置く。又、大予と改め、後、更に大樂と改め、祭享の諸樂のほか、伎樂等、殆ど音樂の全部を掌る。以後、歷代變遷があり、淸代、太常寺が音樂と絕緣し、禮部に總理樂所を設け、乾隆中、樂部設立、朝會燕享の樂を和聲署が掌るに至つて、大樂の名は消失した。〔漢書、禮樂志〕皆以爲三音中二正雅一、立二之大樂一。❸遼の宮廷で行つた俗樂の稱呼。西域樂を含んだ唐宋の俗樂(燕樂)を輸入したもの。❹呂覽、仲夏紀の篇名。❺雅樂寮の唐名。〔職原抄〕雅樂寮、唐名、大樂。

〔大樂丞〕310 ダイガクジョウ　雅樂允の唐名。〔職原抄〕雅樂寮、允、唐名、大樂丞。

〔大樂郎〕311 ダイガクラウ　雅樂助の唐名。〔職原抄〕雅樂寮、助、唐名、大樂郎。

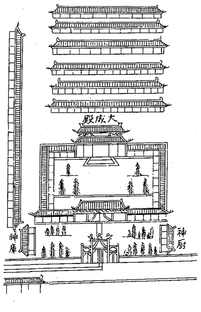
〔大樂令〕312 ダイガクレイ　雅樂頭の唐名。〔職原抄〕雅樂寮、頭、唐名、大樂令。

〔大樂主事〕313 ダイガクシュジ　雅樂屬の唐名。〔職原抄〕雅樂寮、屬、唐名、大樂主事。

〔大樂必易〕314 タイガクハカナラズイナリ　眞正の音樂は必ず簡易である。〔禮、樂記〕大樂必易、大禮必簡。

〔大樂之成非レ取二乎一音一〕315 タイガクノナルハイチオンニトルニアラズ　すぐれた音樂は一つの樂器だけではできない。聖人の德も一道だけによるものではないといふ喩。〔中論、治學〕大樂之成、非レ取二乎一音一、嘉膳之和、非レ取二乎一味一、聖人之德、非レ取二乎一道一。

【大學】316 タイガク ダイガク　❶古、王者の建てた學校。小學の灑掃・應對・進退の節を教へるに對して、修己・治人の道を教へる最高の學府。上代は時代によつて大學の名稱を異にし、それに對する說も種々ある。有虞氏が上庠を西郊に建て、國老を養つて孝悌の道を教へさせたのに始まるといふ。夏では東序、殷では右學、周では東膠といふ。周は三代の學を兼ね備へ、夏后氏の東序は東郊に在り、殷の瞽宗と有虞氏の上庠とは西郊に在るといひ、又、周は五學を立てたともいふ。卽ち辟廱の制で、中を大學といひ、其の外の四學は之を環り、四學は四代の制を兼用し、東學は東膠といひ、夏學の制を取つて之を東序といひ、西學は西廱といひ、殷學の制を取つて之を瞽宗といひ、北學は上庠といひ、有虞の制を取り、南學は周制で、之を成均といふといふ。周代は天子の元子衆子、公卿大夫元士の嫡子、及び民の俊秀なものを入學させた。古の入學の年齡には數說があり、十八といひ、二十といひ、或は十五といふ。漢代には武帝、董仲舒の獻議によつて周制を復興し、官吏を養成するため大學を設けた。先づ五經博士を置き、其の下に五十人の博士弟子を定めた。爾來、昭帝の時、弟子員百人、元帝の時、一千人、成帝の末には一時的ながら三千人に增加し、歷代、武帝の意圖を繼承した。後漢に於ては最も隆盛を極め、桓帝の時、大學の諸生三萬餘人と傳へる。魏の文帝の黃初五年、漢制に因つて大學を設け、爾來、歷朝變遷があつた。隋唐の制では大學の課目を大經・中經・小經に分け、二經に通ずる者は、大經・小經各〻一、若しくは中經二、三經に通ずる者は、大經・中經・小經各〻一、五經に通ずる者は、大經全部と、中經・小經各〻一を修めさせ、孝經・論語は全學生に兼習させた。而して、孝經・論語は一年、尙書・公羊・穀梁は各〻一年半、易・詩・周禮・儀禮は各〻二年、禮記・左氏傳は各〻三年以內に修得させた。學生は二經に通ずる義務があり、三經に通ずる者を俊士といひ、學に在ること九年、猶、業を畢へない者は罷め歸した。後代略〻この制に倣ふ。成均(**5**－**11544**··57)の❶・小學(**4**－**7473**··176)の❶を見よ。〔禮、王制〕天子命レ之教、然後爲レ學、小學在二公宮南之左一、大學在レ郊。〔禮、王制〕有虞氏養二國老於上庠一、養二庶老於下庠一、夏后氏養二國老於東序一、養二庶老於西序一、殷人養二國老於右學一、養二庶老於左學一、周人養二國老於東膠一、養二庶老於虞庠一、在二國之西郊一。〔注〕皆學名也、異者四代相變耳、或上レ西或上レ東、或貴レ在レ國、或貴レ在レ郊、上庠・右學、大學也、在二西郊一、下庠・左學、小學也、在二國中王宮之東一、東序・東膠亦大學、在二國中王宮之東一。〔禮、王制、集說〕山陰陸氏曰、又新書曰、五帝大學謂二之成均一、三王大學謂二之辟廱一。〔文獻通考、學校考、大學〕禮書曰、四代之學、虞則上庠・下庠、夏則東序・西序、商則右學・左學、周則東膠・虞庠、而周則又有二辟廱・成均・瞽宗之名一、則上庠・東序・右學・東膠、大學也、故國老於レ之養焉、下庠・西序・左學・虞庠、小學也、故庶老於レ之養焉、記曰、天子設二西學一、蓋周之制也、周之辟廱、卽成均也、東膠卽東序也、瞽宗卽右學也、蓋以二其明一レ之以レ法、和レ之以レ道、則曰二辟廱一、以下其成二其虧一、均中其過不及上、則曰二成均一、以レ習二射事一、則曰レ序、以レ糾二德行一、則曰レ膠、以二樂祖在一レ焉、則曰二瞽宗一、以レ居レ右焉則曰二右學一、蓋周之學、成均居レ中、其左東序、其右瞽宗、此大學也、虞庠在二國之西郊一、小學也。〔禮書通故、學禮通故〕成均者、亦大學之總名也、以レ形言レ之曰二辟廱一、以レ義言レ之曰二成均一、云云、辟廱之制、中曰二大學一、其外四學環レ之、大學四二達于四學一、云云、其外四學、兼二用四代之制一、東學曰二東膠一、取二夏學之制一、謂二之東序一、西學曰二西廱一、取二殷學之制一、謂二之瞽宗一、其北學則取二有虞上庠之制一也、其南學則周制、謂二之成均一、無二他名一焉。〔金榜、禮箋、大學〕周立二三代之學一、夏后氏之東序在二東郊一、殷之瞽宗・有虞氏之上庠在二西郊一、皆大學也。〔周禮、春官、大司樂、掌二成均之灋一、訂義〕鄭鍔曰、周人立二五學一、中曰二辟廱一、環レ之以レ水、水南爲二成均一、水北爲二上庠一、東爲二東序一、西爲二瞽宗一。〔孫詒讓正義〕今通下庶諸經涉二學制一之文上、知下周制、國中爲二小學一、在二王宮之左一、南郊爲二五學一、是爲二大學一、辟雍卽大學在レ郊、與二四學一同レ處、殆無中疑義上。〔大戴禮、保傅〕學禮曰、帝入二東學一、上レ親而貴レ仁、則親疏有レ序、始恩相及矣、帝入二南學一、上レ齒而貴レ信、則長幼有レ差、始民不レ誣矣、帝入二西學一、上レ賢而貴レ德、則聖智在レ位、而功不レ匱矣、帝入二北學一、上レ貴而尊レ爵、則貴賤有レ等、而始下不レ踰矣、帝入二大學一、承レ師問レ道、退習而端二於太傅一。〔段玉裁、經韵樓集、禮記四郊小學疏證〕愚又案、周小學・大學皆有レ四、云云、是小學・大學、各有二東西南北四學一。〔大戴禮、保傅〕古者年八歲、而出就二外舍一、學二小藝一焉、履二小節一、束髮而就二大學一、學二大藝一焉、履二大節一焉。〔白虎通、辟雍〕古者所三以年十五入二大學一何、以爲、八歲毀齒始有レ識、知三入レ學學二書計一、七八十五陰陽備、故十五成二童志一、明下入二大學一學中經術上。〔漢書、董仲舒傳〕養レ士之大者、莫レ大二虖太學一、太學者、賢士之所レ關也、教化之本源也、今以二一郡一國之衆一、對亡二應レ書者一、是王道往往而絕也、臣願下陛下興二太學一、置二明師一、以養二天下之士一、數考問以盡中其材上、則英俊宜



大學圖❶
(三才圖會)

可レ得矣。〔太平御覽、皇親部、太子〕尚書大傳曰、古之帝王者、必立二大學小學一、使下王太子、大夫・元士之嫡子、十有三年始入二小學一、見二小節一焉、踐二小義一焉、年二十入二大學一、見二大節一焉、踐中大義上焉、故入二小學一、知二父母之道、長幼之序一、入二大學一、知二君臣之儀、上下之位一、小師取二小學之賢者一、登二之天子一、天子以爲二左右一。〔太平御覽、禮儀部、學校〕尚書大傳曰、耰鉏已藏、歲事欲レ畢、餘子皆入レ學、十五始入二小學一、見二小節一、踐二小義一、十八始入二大學一、見二大節一、踐二大義一。〔文獻通考、學校考、大學〕漢興、高帝尚有二干戈一、平二定四海一、未レ遑二庠序之事一、至二武帝一、始興二太學一。〔文獻通考、學校考、大學〕唐制凡學六、皆隸二於國子監一、國子學生三百人、以二文武三品以上子孫、若從二品以上曾孫、及勳官二品、縣公京官四品、帶三品勳封之子一爲レ之、太學生五百人、以二五品以上子孫、職事官五品期親、若三品曾孫、及勳官三品以上有レ封之子一爲レ之、云云、凡博士助教、分レ經授二諸生一、未レ終レ經者、無レ易レ業、凡生限年、十四以上、十九以下、律學十八以上二十五以下、凡禮記・春秋左氏傳爲二大經一、詩・周禮・儀禮爲二中經一、易・尚書・春秋・公羊傳・穀梁傳爲二小經一、通二二經一者、大經・小經各一、若中經二、通二三經一者、大經・中經・小經各一、通二五經一者、大經皆通、餘經各一、孝經・論語、皆兼通レ之、凡治二孝經・論語一、其限一歲、尚書・公羊傳・穀梁傳、各一歲半、易・詩・周禮・儀禮、各二歲、禮記・左氏傳、各三歲、云云、在レ學九歲、律生六歲、不レ堪レ貢者罷歸、諸學生通二二經一、俊士通二三經一。〔金榜、禮箋、大學〕祭義、天子立二四學一、將レ入レ學而太子齒、皆謂二此四門之小學一、王太子・王子及諸侯卿大夫之子學焉、謂二之國子一、其鄉人子弟、不レ得レ學二於王宮小學一、父師・少師教二之門塾之基一、所謂家有レ塾也、國子由二小學一入二大學一、鄉人子弟、由二家塾一入二鄉學一、其俊選之士、乃得レ升二于大學一、是其貴賤之差。㊁㋑我が國に於て國學・府學と共に、大寶令によつて制定せられたもので、式部省の大學寮に屬す。貴族の子弟を教育する處で、初位の者の子弟及び庶人の子弟は絕對に入學を許されなかつた。卽ち大學の學生は五位以上の者の子弟及び東西の史部の子弟から採り、八位以上の者の子弟は出願して特に許された。在學年限は國學と同じく九箇年で、九箇年の修業を卒へたものは貢擧に應ぜしめ、これに耐へ得ないものは退學を命ぜられた。大學寮の位置は今の京都二條離宮の西方にあつたと思はれ、郭内に本寮以下紀傳・明經等の大學の講舍があつた。都堂院は一名北堂といひ、紀傳道の學舍、明經道院は南堂と呼ばれた。其の他、算通院・明法道院・廟堂・廟倉院等があつた。廟堂は釋典を行ふ所、廟倉院は孔子の畫像及び祭奠の器具を藏める所である。學科は明經道・紀傳道・明法道・算道の四部に分れ、この外、書道等もあるが、一道として取扱はれなかつた。明經堂とは修身及び政治の道をいひ、周易・尚書・毛詩・周禮・禮記・左傳・論語・孝經等が教科書として用ひられ、其の中、禮記・左傳を大經とし、毛詩・周禮・儀禮を中經、周易・尚書・公羊傳・穀梁傳を小經とした。其の注にも規定があり、周易には鄭玄・王弼の注、尚書には孔安國・鄭玄の注、三禮・毛詩は、鄭玄の注、左傳は服虔・杜預、孝經は孔安國・鄭玄、論語は鄭玄・何晏等の注を用ひた。以上の諸經の中、孝經と論語とには兼ね通じなければならなかつた。又、公羊傳・穀梁傳を一經として教授するのは延暦十七年以後のことである。紀傳道とは歴史と文章の道で、史記・漢書・後漢書・文選・爾雅等を教科書とし、この中、三史と文選とは大經に準ぜられた。明法道とは法律の道で、律令格式の書を教科書としたうち、律は大經に、令は小經に準ぜられた。算道は算術の道で、孫子・五曹・九章・海島・六章・綴術・周髀・九司・三開重差等を教科書とし、何れも小經に準ぜられた。大學寮の職員は頭・助・大允・小允・大屬・小屬各一人で、これ等の官吏は學生の試驗及び釋奠その他の事を掌つた。博士一人、經書を教授し、大學博士ともいひ、後には明經博士とも大博士ともいつた。其の他、文章博士・紀傳博士・明法博士・音博士・書博士・算博士等があつた。尚、大學も國學も、孔子の祭祀卽ち釋奠を最大の儀式とした。〔儀制令〕大學諸博士文學等、不レ在二決答之限一。〔日本後紀、十四〕大同元年六月壬寅、敕、諸王及五位已上子孫十歲以上、皆入二大學一、分レ業教習。㋺舊制では大學令に準據し、現今では學校教育法等に從つて、學術の理論及び應用を教授し、竝に其の蘊奧を研究することを目的とする最高の學校。㊂禮記の篇名。㊃を見よ。〔禮、大學、疏〕鄭目錄云、名曰二大學一者、以二其記博一、學可二以爲レ政也、此於二別錄一屬二通論一、此大學之篇、論下學成之事、能治二其國一、章二明其德於天下一、却本二明レ德所レ由、先從二誠意一爲レ始。㊃書名。一卷。もと禮記中の一篇（第四十二篇）。其の名義に就いては、古來二つの異說があり、一は大學は治者の學であるといひ、一は大學は成人の學であると解釋する。經典釋文に據れば、鄭玄は大學の名義に關して、「大學は其の記博きを以て、學びて以て政を爲す可きなり」と說いてゐる。卽ち大學を以て治者の學なりと解したものである。經典釋文には更に「大、舊音泰」と出てゐる。此は大學を以て大人の學なりと解釋したのである。而してその大人とは小人に對しての大人であつて、矢張り治者の意味に解釋したものと考へられる。之に反して、朱子は「大、舊音泰、今讀如レ字」といつてゐる。「今讀んで字の如くす」とは、文字の本義に從ふといふ意味で、此の場合は大を大人とし、其の大人は子供に對する大人の意味であると解したのである。又、朱子は別の所に於て、大學は大人の學なりともいつてゐる。此は大學を以て治者の學とは解せず、子供の學に對する大人の學の意味に解したのである。其の作者に就いて、程子はただ大學は孔子の遺書といつてゐるだけで何人の作であるか明言せず、朱子は經一章は蓋し孔子の言にして、曾子之を述ぶ、其の傳十章は則ち曾子の意にして、門人之を記すなりと斷定してゐる。但、近世の學者は皆之を信ぜず、伊藤仁齋は大學非二孔氏之遺書一辨に於て、案ずるに大學の書は、蓋し戰國の閒、齊・魯の諸儒の、詩・書二經に熟して、未だ嘗て孔門の宗旨を窺はざる者の作る所なりと極言し、明の陳道永の學錄等も戰國時代の儒者の書とし、又、漢の武帝以後の作と證說してゐるものもある。此の書は、漢・唐では餘り尊重しなかつたが、宋の司馬光に至つて始めて之を禮記中から表章して大學廣義を作り、又、仁宗の天聖八年、始めて此の篇を以て新たに及第した王拱辰等に賜ひ、其の後二程子が初學入德の門として論語・孟子・中庸に配し、朱子が之を崇尚して、經一章と傳十章（第五章は朱子之を補ふ）とに區別し且つ注解を施してから、大いに世に行はれた。朱子は本文に錯簡があるとして定本を作り、經については明明德・新民（舊本親民）・止至善を大學の三綱領とし、格物・致知・誠意・正心・修身・齊家・治國・平天下を八條目と爲した。これ卽ち新本である。朱子の改補に次ぎ、之に倣つて舊文を改定增補したものに董槐・葉夢鼎・程敏政・薛清・薛濟・崔銑等十數種がある。而して明の王陽明が、十三經注疏本の禮記中から大學一篇を表出し、古本の舊文を採用して大學古本旁註を作つて以來、陽明學者は勿論、一般に古本を信用し、清朝の學者等又之を崇奉し、朱子の武斷を非難するものが多い。我が國では、鎌倉時代、四書新注の渡來と共に、學・庸二書は特に心性の書として尊崇せられ、これに由つて儒佛の調和を試み、其の一致を唱導した。猶、高倉天皇の侍讀、清原賴業は、朱子と前後して中庸を表章すると共に、又大學をも表章すべきことを述べたといはれてゐる。四書（**3－4682**‥428）の㊃を見よ。〔四庫提要、經、四書類〕。

〖參考書〗【禮記注疏】漢、鄭玄注。唐、孔穎達疏。【大學章句】一卷宋、朱熹撰。舊本の大學の章句が錯雜してゐるので、程伊川の說に自己の意見を加へて其の順序を正し、殊に格物致知の意義の解釋の缺けた所を補つたもの（傳第五章）。經一章・傳十章から成る。元明以來、廣く行はれた。〔四庫提要、經、四書類〕。【大學衍義】四十三卷宋、眞德秀撰。大學の解といふよりは、其の名の示す如く衍義である。首に爲治の要、爲學の本を述べ、次は格物致知・誠意正心・修身・齊家の四大綱を說く。共に經訓史事を旁徵し、先儒の論を參へ、法戒を明かにし、本を正しくし源

を清くすることを主張してゐる。〔四庫提要、子、儒家類〕。【大學疏義】一巻宋、金履祥撰。朱子の大學章句の旨を疏通し、並に指義一編を作つて其の要を括つたもの。今、指義は已に佚して、ただ此の書だけが存する。〔四庫提要、經、四書類〕。【大學衍義補】一百六十巻明、邱濬撰。大學衍義が修身齊家を主とし、治國平天下の義を從としてゐるから、此の書を作つて補つたもの。十二目に分け、群言を引き、己の見を附した。蕪雜と評せられるが、極めて廣博である。〔四庫提要、經、四書類〕。【大學翼眞】七巻清、胡渭撰。前二巻は大學の音義を論じ、古學の制を述べ、巻三は大學の作者と古本改本とを論じ、極めて精核である。巻四以下は卽ち渭の考定した本で、大傳の前四章を併せて三章としただけで、他は大體、朱子の定めた所に從ひ、其の格物を論ずることも亦、朱子と同じであるが、ただ補傳は用ひない。〔四庫提要、經、四書類〕。【大學古本説】一巻清、李光地撰。古本を用ひて立説してゐるが、王守仁とは迥かに異なる。〔四庫提要、經、四書類〕。【大學古義説】二巻清、宋翔鳳撰。【大學證文】四巻清、毛奇齡撰。程朱の後、大學の異本が增し、却つて古義が亂れたから、諸本を參考し九家を得て之を論斷したもの。〔四庫提要、經、四書類〕。【大學諺解】林道春撰。假名文で大學を解したもの。【大學定本】一巻伊藤維楨撰。【大學解】二巻荻生雙松撰。【大學物説】一巻淺見安正撰。【大學明德説】一巻淺見安正撰。【大學繹解】皆川愿撰。【大學私衡】一巻龜田長興撰。【古本大學旁釋補】一巻佐藤坦撰。【大學摘説】佐藤坦撰。【古本大學旁注】一巻大鹽後素撰。【古文大學刮目】七巻大鹽後素撰。【大學原解】三巻太田元貞撰。【大學説】一巻安井衡撰。

【大學允】317（ダイガクノジョウ）　大學寮の判官。唐名は國子丞。〔職原抄〕大學寮、允、相當七位、唐名、國子丞。

【大學院】318（ダイガクヰン）　❶民國十六年、教育部を改めて大學院といひ、全國の教育行政と學術機關とを統轄した。十七年、又、教育部と改めた。❷㋑舊制に於ける帝國大學の一部。各學部の卒業生、及びこれと同等以上の學力ありと認められたものが、更に學術技藝の蘊奧を究める所。㋺新制では、官公私立何れの大學でも之を置くことができ、二年制の修士課程と四年制の博士課程との二種がある。

【大學校】319（ダイガクカウ）　最高の教育を授ける學校。我が國では明治二年に、昌平學校・開成學校・醫學校を綜合して大學校としたが、同年十二月大學と改稱せられた。其の後、陸・海軍では、其の最高學府を夫々陸軍大學校・海軍大學校と稱した。

【大學士】320（ダイガクシ）　官名。唐の中宗が修文館に大學士四人を置いたことに始まり、宋代には昭文館大學士・集賢殿大學士を置き、宰相がこれを兼ねた。明に至り、六部が政治をとり、大學士は顧問に備はつて、僅かに五品の官に過ぎなかつたが、宣宗の時、三楊が師保尚書兼大學士となつてから尊貴となり、清朝の大學士の端をなした。清朝では殿閣大學士四人、協辦大學士二人を設け、秩は正一品で、百僚を率ゐて機務を總理し、宰相の職となつた。內閣(**1－1418··50**)の❸の㋺を見よ。〔唐書、百官志二〕弘文館學士、掌下詳二正圖籍一、教中授生徒上、朝廷制度沿革、禮儀輕重、皆參議焉。〔注〕神龍元年、改二弘文館一曰二昭文館一、以避二孝敬皇帝之名一、二年曰二修文館一、景龍二年、置二大學士四人一、以象二四時一、學士八人、以象二八節一、直學士十二人、以象二十二時一。〔宋史、職官志一〕宰相之職、佐二天子一、總二百官一、平二庶政一、事無レ不レ統、宋承二唐制一、以二同平章事一爲二眞相之任一、無二常員一、有二二人一、則分レ日知レ印、以三丞郎以上至二三師一爲レ之、其上相爲二昭文館大學士一、監二修國史一、其次爲二集賢殿大學士一、或置二三相一、則昭文・集賢二學士、併監二修國史一、各除二唐以來三大館一、皆宰臣兼、故仍二其制一、國初范質昭文學士、王溥監二修國史一、魏仁浦集賢學士、此爲二三相例一也。〔明史、職官志二〕詹事府、詹事一人、少詹事二人、府丞二人、主簿廳主簿一人、錄事二人、通事舍人二人、左春坊大學士、左庶子、左諭德各一人、云云、案、春坊大學士、掌二太子上奏請下啓箋、及講讀之事一、皆審愼而監二省之一。〔事物紀原、法從清望部、大學士〕唐書、李泌加二集賢殿大學士一、泌言、學士加レ大、始二中宗時一、張説爲レ之、按二説傳一、玄宗欲レ授二説大學士一、辭曰、學士本無二大稱一、中宗崇二寵大臣一、乃有レ之、唐百官志曰、景龍二年置也、蓋其名自二中宗時一始。〔清會典、內閣〕內閣、大學士、滿洲二人、漢二人、協辦大學士、掌下議二天下之政一、宣二布絲綸一、釐二治憲典一、總二鈞衡之任一、以贊レ上理中庶務上、凡大典禮、則率二百寮一以將レ事。〔注〕例兼二殿閣銜一、曰二保和殿大學士・文華殿大學士・武英殿大學士・文淵閣大學士・體仁閣大學士・東閣學士一、凡補二授大學士一、由二內閣一開列請レ旨。

【大學助】321（ダイガクノスケ）　大學寮の次官。唐名は國子司業。〔職原抄〕大學寮、助、相當正六位下、唐名、國子司業。

【大學屬】322（ダイガクノサクワン）　大學寮の主典。唐名は國子主簿。〔職原抄〕大學寮、屬、唐名、國子主簿。

【大學頭】323（ダイガクノカミ）　❶大學寮の長官。唐名は國子祭酒。〔職原抄〕大學寮、頭一人、無二權官一、凡諸寮頭、權官有無不レ同、相當從五位上、唐名、國子祭酒。❷江戸幕府の時、學問所の教務一切を統轄した職。林氏が世々之に任ぜられた。〔吏徵、上、御目見以上〕學問所勤番組頭貳人、林大學頭支配、一百五十俵高。

【大學林】324（ダイガクリン）　僧侶の最高學校。後には殆どが舊大學令による大學に變はつた。

【大學寮】325（ダイガクレウ）　天智天皇の朝に創立した大學校で、式部省に屬し、文章・紀傳・算道・明經・明法等を教へ、兼ねて之に關する事務、及び釋奠の事を掌つた。大學の❷の㋑を見よ。〔日本書紀、天武紀、下〕四年春正月丙午朔、大學寮諸學生、云云、捧二藥及珍異等物一進。〔職原抄〕大學寮者、四道儒士出身之處也、和漢最爲二重職一、紀傳・明經・明法・算道、謂二之四道一、又當寮安二置先聖先師九哲一、春秋二仲釋奠、有二東西二曹一、菅江二家爲二其曹主一、諸氏出身之儒、訪二道於此二家一而已、寮頭者、儒中之撰也、但雖レ非レ儒又有レ例。

【大學博士】326（ダイガクハカセ）　大學寮の職員。經業を教授し學生に試を課することを掌る。〔職員令〕大學寮、博士一人、掌下教二授經業一、課中試學生上。

【大學別當】327（ダイガクノベツタウ）　古、大學頭の上に置き、親王・大臣・納言の中から補した重職。中古以來、絶えた。〔日本後紀、八〕延暦十八年二月乙未、和氣淸麻呂薨、云云、長子廣世、云云、爲二大學別當一。〔職原抄〕大學別當、親王・大臣・納言補レ之、近代中絶畢。

【大學三綱領】328（ダイガクノサンカウリヤウ）　三綱領八條目(**1－12··188**)を見よ。

【大學三舍法】329（ダイガクサンシヤノハフ）　宋の王安石のたてた學制。三舍は外舍・內舍・上舍の三つで、其の學生は各〻一種の經書を研究し、毎月試驗の成績によつて優劣を定め、外舍から內舍へ、內舍から上舍へと舍をうつす法。三舍之法(**1－12··809**)を見よ。〔宋史、選擧志三〕及二三舍法行一、則太學始定置二外舍生二千人、內舍生三百人、上舍生百人一。

【大壑】330（タイガク）　❶海の異稱。巨壑。〔莊子、天地〕諄芒將三東之二大壑一、適遇二苑風於東海之濱一、云云、夫大壑之爲レ物也、注焉而不レ滿、酌焉而不レ竭。〔釋文〕李云、大壑、東海也。〔疏〕大壑、海也。〔列子、湯問〕渤海之東有二大壑一焉、名曰二歸墟一。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕沛乎若三巨魚縱二大壑一。❷明の僧。字は元津。杭州淨慈寺に居る。著に淨慈寺志がある。〔新續高僧傳、六〕。❸稻葉直好の號。稻葉大壑(**8－25216··63**)を見よ。

【大嶽】331（タイガク）　堯の四嶽をいふ。太嶽(**3－5834··74**)に同じ。大岳。〔左氏、莊、二十二〕姜、大嶽之後也。〔注〕姜姓之先、爲二堯四嶽一。

【大戞】332（タイカツ）　大なるのり。大法。〔書、康誥〕乃其速由二文王作罰一、刑レ茲無レ赦、不レ率二大戞一、矧惟外庶子訓レ人。〔傳〕戞、常也。〔蔡傳〕戞、法也、言四民之不レ率レ教者、可三固大寘二之法一矣。〔蔣至、洞庭張レ樂賦〕率二至人之大戞一。

【大喝】333（タイカツ）　大聲でしかる。どなりつける。〔黃滔、成名後呈二同年一詩〕蒙楚數疑休レ下レ泣、師劉大喝已爲レ盧。

【大甲】334（タイカフ）　❶大きなよろひ。〔國語、晉語八〕昔吾先君唐叔、射二兕於徒林一、殪以爲二大甲一。〔注〕甲、鎧也。❷大きなよろひを着けた兵士。〔韓非子、説林下〕夫越破レ吳、豪士死、鋭卒盡、大甲傷、

今又索レ卒以攻レ晉、示二我不一レ病也。

【大洽】335タイカフ　廣くゆきわたる。又、大いに和らぎ洽まる。〔後漢書、王丹傳〕行レ之十餘年、其化大洽、風俗以篤。〔北史、魏孝文帝紀〕太和元年五月、車駕祈二雨於武州山一、俄而澍雨大洽。

【大祫】336タイカフ　祖先の靈を合せ祭る祭の名。祫（8－24698）を見よ。〔公羊、文、二〕大事者何、大祫也、大祫者何、合祭也、其合祭奈何、毀廟之主、陳二于大祖一、未レ毀廟之主、皆升合二食于大祖一。

【大合】337タイガフ　㊀大いに集める。盛んに集合する。〔禮、月令〕季夏之月、命二四監一、大合二百縣之秩芻一、以養二犧牲一。㊁大合樂に同じ。

〘大合樂〙338ダイガフガク　六代の音樂を順次に奏すること。〔周禮、春官、大司樂〕以二六律・六同・五聲・八音・六舞一大合樂、以致二鬼神示一、以和二邦國一、以諧二萬民一、以安二賓客一、以說二遠人一、以作二動物一。〔注〕大合樂者、謂三徧作二六代之樂一、以二冬日至一作レ之、致二天神・人鬼一、以二夏日至一作レ之、致二地祇・物鬽・動物・羽贏之屬一。〔疏〕大合樂者、謂三徧作二六代之樂一者、此經六樂卽上六舞、故知三徧作二六代之樂一、言二徧作一レ樂不二一時俱爲一、待二一代訖一乃更爲、故云二徧作一也。〔漢書、郊祀志、下〕樂有レ別有レ合、其合樂、曰、以二六律・六鍾・五聲・八音・六舞一大合樂、祀二天神一祭二墬祇一、祀二四望一祭二山川一、享二先妣先祖一。〔注〕大合樂者、偏作レ之也。

【大奸】339タイカン　大姦（346）に同じ。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕維歷二忤大奸一、顛跌撼頓、至二於七八一。

【大汗】340タイカン　大あせ。澤山のあせ。〔世說新語、容止〕何平叔、美二姿儀一、面至白、魏明帝、疑二其傳一レ粉、正夏月、與二熱湯餠一、既噉大汗出、以二朱衣一自拭、色轉皎然。

【大旱】341タイカン　おほひでり。甚しい旱魃。〔書、說命上〕若歲大旱、用レ汝作二霖雨一。〔禮、月令〕仲春行二夏令一、則國乃大旱、煖氣早來。〔莊子、逍遙遊〕大旱、金石流、土山焦。〔後漢書、周擧傳〕昔齊有二大旱一。〔說苑、權謀〕明年大旱民饑。

〘大旱望二雲霓一〙342タイカンウンゲイヲノゾム　大ひでりに雨雲や虹を望んで雨の降るのを待ちこがれる。切に渴望する喩。〔孟子、梁惠王下〕民望レ之、若三大旱之望二雲霓一也。

〘大旱不過五月十三〙343 ta⁴ han⁴ pu² kuo⁴ wu³ yüeh⁴ shih² san¹　陰曆五月十三日を過ぎた後には大旱の心配が無い。北京の諺。

【大凾】344 ta⁴ han²　御手紙。貴翰。

【大咸】345タイカン　㊀堯の樂の名。咸は皆。堯の德の施さない所の無いことに本づく。咸池。〔周禮、春官、大司樂〕以二樂舞一敎三國子一舞二雲門・大卷・大咸・大磬・大夏・大濩・大武一。〔注〕大咸、咸池、堯樂也、堯能殫均二刑法一以儀レ民、言二其德無一レ所レ不レ施。〔疏〕咸、皆也。㊁山の名。〔山海經、北山經〕大咸之山、無二草木一。

【大姦】346タイカン　甚しい惡事。又、大惡人。大奸。〔管子、明法〕雖レ有二大姦一、其蔽レ主多矣。〔墨子、非儒下〕豈非二大姦一也哉。〔史記、平準書〕唯眞工大姦、乃盜爲レ之。〔漢書、杜周傳〕首發二大姦一。

〘大姦似レ忠〙347タイカンハチユウニニタリ　甚しい惡人は、表面は却つて忠實な人のやうに見える。〔宋史、呂誨傳〕大姦似レ忠、大佞似レ信。

【大喊】348タイカン　大いに叫ぶ。又、盛んな鬨の聲。〔齊東野語〕大喊登レ城張二旗幟一。

【大寒】349タイカン ダイカン　㊀二十四氣（1－247・・474）の一。陰曆の十二月の中、小寒の後、十五日目。陽曆の一月二十日から二月四日迄の、小寒と立春との間をいふ。〔國語、魯語上〕古者大寒降、土蟄發。〔呂覽、愼人〕大寒既至、霜雪既降、吾是以知二松柏之茂一也。〔逸周書、時則解〕大寒之日、雞始乳。㊁ひどい寒さ。非常な寒氣。又、非常に寒い。酷寒。極寒。〔吳子、料敵〕疾風大寒。〔五代史、晉臣、吳巒傳〕天大寒。

〘大寒食〙350タイカンショク　冬至から一百五日目に當る節。冬至から數へて一百四日、或は一百六日を小寒食といふの對。寒食（3－7239・・217）を見よ。〔東京夢華錄〕淸明節、尋常京師以二冬至後一百五日一爲二大寒食一。

〘大寒索レ裘〙351タイカンニキウヲモトム　はげしい寒さに直面して、かはごろもを求める。盜を捕へて繩を綯ふと同意。平素不用意で事に臨んで慌てる喩。〔法言、寡見〕大寒而後索二衣裘一、不二亦晚一乎。

〘大寒風闕〙352タイカンフウケツ　地名。浙江省天台縣の天台山に在り、山脊が中斷してゐるので、橋を架けて通過する。遮蔽物がなく、常に大風があるから名づく。

【大閑】353タイカン　立派なおきて。大切な道。閑は、おきて。〔唐書、卓行傳贊〕節誼爲二天下大閑一、士不レ可レ不レ勉。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕君子曰、節義、人之大閑也。

【大感】354タイカン　㊀大いに感ずる。〔晉書、閻纘傳〕田千秋上書、不二敢正言一、託以二鬼神之敎一、而孝武大感。㊁北宋、神宗の時、遼の道宗、耶律洪基の年號「大康」の一稱。（975－984）

【大漢】355タイカン　㊀漢人が其の朝廷、又は其の國を尊んでいふ稱。〔漢書、司馬相如傳〕大漢之德、逢涌原泉。〔班固、答賓戲〕方今大漢、洒二埽羣穢一。㊁身體の長大な男子。おほをとこ。〔杜荀鶴、友人贈二舍弟一依レ韻戲和詩〕不レ覺裹レ頭成二大漢一、昨來竹馬作二兒童一。〔輟耕錄、大漢〕國朝鎭殿將軍、募二選身軀長大異常者一充、凡有レ所レ請給、名曰二大漢衣糧一、年過二五十一、方許レ出レ官。㊂宋、趙大亨（10－37171・・771）をいふ。

【大澗】356タイカン　大きな谷。〔六韜、犬韜、戰騎〕大澗深谷、翳茂林木、此騎之竭地也。

【大諫】357タイカン　㊀大いに諫める。大簡。〔詩、大雅、板〕猶之未レ遠、是用大諫。㊁君を諫めることを掌る官。〔管子、小匡〕使三鮑叔牙爲二大諫一、王子城父爲レ將、弦子旗爲レ理。㊂唐代、諫議官の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一、云云、諫議爲二大坡・大諫一。

【大簡】358タイカン　㊀大いにいさめる。大諫の㊀に同じ。〔左氏、成、八〕詩曰、猶之未レ遠、是用大簡。〔注〕簡、諫也。㊁大いに簡閱する。〔漢書、刑法志〕羣牧、五載大簡二車徒一。㊂甚しく簡略なこと。簡略に過ぎること。〔論語、雍也〕仲弓曰、居レ敬而行レ簡、以臨二其民一、不二亦可一乎、居レ簡而行レ簡、無二乃大簡一乎。

【大闞】359タイカン　大聲でほえる。〔柳宗元、三戒、黔之驢〕因跳踉大闞。

【大艦】360タイカン　大きい船。大きないくさぶね。巨艦。〔晉書、五行志下〕是日、盧循大艦漂沒。〔南史、章昭達傳〕昭達乘二平虜大艦一、中流而進。

【大鑒】361タイカン　立派な模範。又、大切ないましめ。大戒。大鑑。〔魏志、曹眞傳〕此乃陛下之大鑒、臣受レ命之時也。

【大鑑】362タイカン　大鑒に同じ。

〘大鑑禪師〙362′ダイカンゼンジ　唐、慧能（4－11116・・75）の諡。

【大眼】363タイガン　大きな眼。おほめだま。〔郭璞、山海經圖贊、數斯鳥・犛獸鸓鳥〕犛獸大眼。

〘大眼桐〙363′タイガンドウ　木の名。あふち。せんだん。〔本草、椿樗〕釋名、香者名レ椿、臭者名レ樗、山樗名二栲・虎目樹・大眼桐一。

【大雁】364タイガン　大きい雁。おほかり。〔漢書、杜鄴傳〕昔文侯寤二大雁之獻一、而父子益親。

【大銜】365タイガン　大官の官位、特に其の名譽稱號。銜は、官吏の官位、特に官名だけあつて職責のないもの。〔六部成語、吏部、大銜、注解〕大官之職銜。

【大顏】366タイガン　唐の顏遊秦をいふ。その從子、顏師古を小顏といふの對。〔陔餘叢考、班書顏注皆有レ所レ本〕新唐書、顏遊秦、乃師古之叔、嘗撰二漢書決疑一、師古注二漢書一、多取二其義一、許觀因追二論之一謂、游秦所レ作決疑十二卷、時稱二大顏一、師古爲二太子承乾一注二漢書一、盡取二其義一、是師古注、實遊秦註也。

【大示】367タイキ　㊀地神をいふ。大は敬稱、示は祇（8－24639）に同じ。〔周禮、春官、大宗伯〕凡祀二大神一享二大鬼一祭二大示一、帥二執事一而卜レ日、宿二眡滌濯一、涖二玉鬯一、省二牲鑊一、奉二玉齍一、詔二大號一。㊁タイシ　大いに示す。廣く示す。明示する。〔宋書、武帝紀中〕公既作レ輔、大示レ軌、則豪彊肅然、遠近知レ禁。

【大忌】368タイキ　大きなわざはひ。大災。〔新書、傅職〕不レ知三先王之諱與二國之大忌一。〔後漢書、隗囂傳〕不レ顧二大忌一。

【大季】369タイキ　複姓。〔通志、氏族略、以レ次爲レ氏〕大季氏、姬姓、鄭穆公之子、有二一子孔一、此大子孔謂二之大季氏一、卽公子志之後也。

【大姬】370タイキ　姉妹が二人以上ゐる時、その年上の娘をいふ。多くの場合、長女。〔左氏、襄、二十

五〕庸以㆓元女大姫㆒配㆓胡公㆒、而封㆓諸陳㆒、以備㆓三恪㆒。

【大旂】371 タイキ　九旗の一。交龍を畫いたもの。〔周禮、春官、巾車〕金路、鉤、樊纓九就、建㆓大旂㆒以賓、同姓以封。〔注〕大旂、九旗之畫㆓交龍㆒者。〔左氏、定、四〕分㆓魯公㆒以㆓大路・大旂、云云㆒。

【大氣】372 タイキ　❶天地の氣。空氣。〔韓詩外傳、五〕聖人養㆓一性㆒、而御㆓大氣㆒。❷ta^4 ch'i^4　㋑度量の大きいこと。㋺劇しく怒ること。

【大氣焔】373 タイキエン　得意になつて豪語すること。又、盛んな意氣。

〖大氣槩〗373' ta^4 ch'i^4 kai^4　大身代。

【大起】374 タイキ　❶唐代、工部の官の別名。工部（4－8714・・106）の❶を見よ。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以㆓他名㆒、標㆓牓官稱㆒、云云、刑部爲㆓大秋㆒、工部爲㆓大起㆒。❷ta^4 ch'i^3　多數。

【大鬼】375 タイキ　死んだ人の靈魂。大は敬稱。〔周禮、春官、大宗伯〕凡祀㆓大神㆒、享㆓大鬼㆒、祭㆓大示㆒。

【大基】376 タイキ　❶大なるもとゐ。又、大事業の基。帝王の事業の基。〔漢書、匡衡傳〕陛下詳覽㆓得失盛衰之效㆒、以定㆓大基㆒。❷明、行丕（10－34029・・425）の字。

【大崎】377 タイキ　山名。湖北省黄岡縣の東北。麻城縣の界に接す。西南に留雲洞がある。〔讀史方輿紀要、湖廣、黄州府、黄岡縣、赤鼻山〕崎山、在㆓府東北一百二十里㆒、有㆓大崎・小崎㆒、兩山連秀、爲㆓郡勝槪㆒。

【大喜】378 タイキ　❶大いに喜ぶ。又、大きな喜。〔莊子、在宥〕人大喜邪、毗㆓於陽㆒、大怒邪、毗㆓於陰㆒。〔呂覽、盡數〕大喜・大怒・大憂・大恐・大哀、五者接㆑神則生㆑害矣。〔易林〕新受㆓大喜㆒、復優㆓重職㆒。❷ta^4 hsi^3　御目出度い。

〖大喜過㆑望〗379 タイキノゾミニスグ　期待した以上に非常に喜ばしい。望外の喜である。〔漢書、黥布傳〕食飲從㆑官、如㆓漢王居㆒、布大喜過㆑望。

【大期】380 タイキ　❶子の生れる月。十箇月をいふ。一説に、期は十箇月で、大期は十二箇月。〔史記、呂不韋傳〕姫自匿㆑有㆑身、至㆓大期時㆒生㆓子政㆒。〔注〕索隱曰、徐廣云、十二月也、譙周云、人十月生、此過㆓二月㆒、故云㆓大期㆒。〔會注考證〕婦人大期、乃十月之期。❷大いに同じい。期は同。〔陸機、豪士賦序〕且好㆑榮惡㆑辱、有生之所㆓大期㆒。〔注〕銑曰、期、猶㆑同也。

【大殑】381 タイキ　死をいふ。殑は棄。〔説文〕殑、棄也、俗語謂㆑死曰㆓大殑㆒。

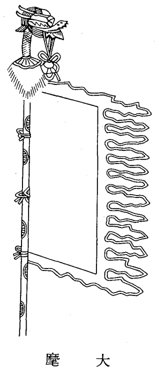
【大貴】382 タイキ　非常に貴い。又、非常に貴いもの。〔呂覽、情欲〕萬物之酌㆓大貴之生㆒者衆矣。〔漢書、高帝紀上〕我子母皆大貴。

【大毀】383 タイキ　大いに痩せ衰へる。〔韓非子、顯學〕儒者破㆑家而葬、服㆑喪三年、大毀扶㆑杖、世主以爲㆑孝而禮㆑之。

【大逵】384 タイキ　大きな街道。大通り。逵は、車を九輛並べ得る道。一説に、九達の道。卽ち道路の九方に交出する辻。〔左氏、隱、十一〕子都拔㆑棘以逐㆑之、及㆓大逵㆒弗㆑及、子都怒。〔注〕逵、道方㆓九軌㆒也。〔疏〕冬官考工記、匠人營㆑國經㆑涂九軌、軌、車轍、謂㆔王城之內、道廣並㆓九車㆒也、爾雅釋宮云、一達、謂㆓之道路㆒、云云、九達、謂㆓之逵㆒、説㆓爾雅㆒者、皆以爲㆔四道交出、復有㆓旁通㆒、故劉炫規㆑過、以㆑逵爲㆓九道交出㆒也、今以爲㆔道方㆓九軌㆒者、蓋以、九出之道、世俗所㆑希、不㆑應㆓城內得㆑有㆓此道㆒、以㆔記有㆓九軌㆒、故以㆑逵當㆑之、言㆘並㆓容九軌㆒、皆得㆗前達㆖、亦是九達之義、故李巡注㆓爾雅㆒、亦取㆓並㆑軌之義㆒。

【大旗】385 タイキ　おほきい旗。おほはた。〔周禮、地官、鄕師〕以㆓司徒之大旗㆒、致㆓衆庶㆒而陳㆑之。〔周禮、地官、遂人〕以㆓遂之大旗㆒致㆑之。

【大麾】386 タイキ　夏后氏の旗。黑色で飾が無い。殷の大白、周の大赤と制は同じで、色を異にする。〔周禮、春官、巾車〕木路、前樊鵠纓、建㆓大麾㆒、以田、以封㆓蕃國㆒。〔注〕大麾、不㆑在㆓九旗中㆒、以㆓正色㆒言㆑之則黑、夏后氏所㆑建。〔禮器圖〕巾車、王象路建㆓大赤㆒、革路建㆓大白㆒、木路建㆓大麾㆒、明堂位所謂、殷之大白、周之大赤、是也、鄭注、又以㆓大麾㆒、爲㆓夏后氏所㆑建、蓋意會言㆑之耳、又據㆓鄭注㆒、大赤正色無㆑飾、則大白・大麾亦無㆑飾可㆑知、三旗、色異而制同、圖㆓大赤㆒則大白猶㆑是矣、惟大麾色黑、故別圖㆑之。



大麾
（禮器圖）

【大器】387 タイキ　❶天。〔易、乾〕乘㆓六龍㆒以御㆑天、注〕乘㆓變化㆒而御㆓大器㆒。〔疏〕大器、謂㆑天也。❷大なる器量。偉大な人物。大才。〔管子、小匡〕施伯謂㆓魯侯㆒曰、管仲者、天下之賢人也、大器也。〔法言、先知〕大器其猶㆓規矩準繩㆒乎。❸大きな器。又、大切な器。寶器。轉じて、天子の位、國家・權力等をいふ。〔左氏、文、十二〕鎭㆓撫其社稷㆒、重㆑之以㆓大器㆒、寡君敢辭㆑玉。〔注〕大器、圭璋也。〔莊子、讓王〕天下大器也。〔疏〕夫帝王之位、重大之器也。〔荀子、王霸〕國者天下之大器也。〔後漢書、公孫述傳〕兵者帝王之大器。❹字號。㋑明、侶鍾（1－489・・1）の字。㋺明、蔣璣（9－31820・・21）の字。㊇明、石玉（8－24024・・163）の字。㊁明、張鼎（4－9812・・573）の字。❺ta^4 ch'i^4　重重しい。莊重。

〖大器小用〗388 タイキセウヨウ　大きな器を小さいことに用ひる。大才あるものを低い地位に置いて用ひる喩。大才小用。〔後漢書、邊讓傳〕大器之於㆓小用㆒、固有㆑所㆑不㆑宜也。

〖大器晩成〗389 タイキバンセイ　❶最大の製作品は、できあがらぬものである。晩成とは、殆んどできあがらぬ意。轉じて、大きな器は早くは出來上らぬ、大人物は早くから頭角を現はさないけれど終に大を成すといふ喩に用ひる。〔老子、四十一〕大方無㆑隅、大器晩成。〔呂覽、樂成〕大智不㆑形、大器晩成。〔論衡、狀留〕大器晩成、寶貨難㆑售也。〔魏志、崔琰傳〕琰從弟林、少無㆓名望㆒、雖㆓姻族㆒猶多輕㆑之、而琰常曰、此所謂大器晩成者也、終必遠至、云云、後林・禮・毓咸至㆓鼎輔㆒。❷❶から轉じて、士の不遇を慰める語。〔故事、成語考、人事〕慰㆓士之遲滯㆒、曰㆓大器晩成㆒。

【大機】390 タイキ　❶天下の政事。大政。〔唐書、權德輿傳〕帝又自用、李絳參㆓贊大機㆒。❷重大なはずみ。機は、物事の變化を起すきつかけ。〔呂覽、察微〕戰大機也、饗㆑士而忘㆓其御㆒也、將以㆑此敗而爲㆑虜。〔魏志、武帝紀〕公以㆓至弱㆒當㆓至彊㆒、若不㆑能㆑制、必爲㆑所㆑乘、是天下之大機也。❸［佛］大乘の法を受持し、菩薩乘に到るべき機類をいふ。

【大諱】391 タイキ　❶大いにいむべきもの。又、大いに諱む。〔論衡、四諱〕俗有㆓大諱四㆒、一曰、諱㆓西益㆑宅、西益㆑宅、謂㆓之不祥㆒、不祥必有㆓死亡㆒、相懼以㆑此、故世莫㆓敢西益㆑宅、防禁所㆓從來㆒者遠也。〔吳志、孫奮傳〕昔漢初興、多㆓王子弟㆒、至㆓於太彊㆒、輒爲㆓不軌㆒、上則幾危㆓社稷㆒、下則骨肉相殘、其後懲戒、以爲㆓大諱㆒。❷天子の崩御。〔海錄碎事、帝王、升遐〕孝文崩㆓於行宮㆒、秘匿而還、至㆓魯陽郡㆒、始發㆓大諱㆒。

【大龜】392 タイキ　❶大きな龜。おほがめ。❷一尺二寸の龜の甲。龜卜に用ひるもの。〔書、禹貢〕九江納㆓錫大龜㆒。〔傳〕尺二寸曰㆓大龜㆒。〔左氏、昭、十八〕使㆔公孫登徙㆓大龜㆒。❸山名。湖北省應山縣の東北。又、高貴山・大孤山ともいふ。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州、應山縣、應臺山〕高貴山、在㆓縣北之十里㆒、一名大龜山、西接㆓平靖關㆒。❹ta^4 kuei^1　男根。陰莖。

【大徽】393 タイキ タイビ　星の名。徽は微の譌。太微（3－5834・・390）に同じ。〔易林、乾之㆑豐〕大徽帝室、黄帝所㆑宜。〔注〕徽、當㆑作㆑微、太微、帝座星也。

【大磯】394 タイキ　山名。江西省都昌縣の西。一に望仙山といふ。山頂に眺望臺がある。縣南に小磯山があり、二山の間に磯湖がある。〔讀史方輿紀要、江西、南康府、都昌縣、松門山〕大磯山、在㆓西七里㆒、一名望仙山、頂平石可㆓以眺㆑遠、其西南里許爲㆓小磯山㆒。

【大歸】395 タイキ　❶嫁した女が離縁せられて實家にかへること。でもどり。〔詩、邶風、燕燕序〕燕燕、衞莊姜送㆓歸妾㆒也、箋〕戴嬀於㆑是大歸。〔疏〕言㆓大歸㆒者、不㆑反之辭、云云、以㆔歸寧者、有㆑時而反、此卽歸不㆓復來㆒、故謂㆓之大歸㆒也。〔左氏、文、十八〕夫人姜氏歸㆓于齊㆒、大歸也。〔會箋〕大歸者、謂㆔歸不㆓復來㆒也、所㆔以別㆓歸寧・出嫁㆒矣。〔公羊、莊、二十七〕大歸曰㆓來歸㆒。❷根元に歸ること。死をいふ。又、萬物の歸するところ。〔莊子、知北遊〕魂魄將㆑往、乃身從㆑之、乃大歸乎。〔疏〕魂魄

往レ天、骨肉歸レ土、神氣離散、紛宛任從、自レ有還レ無、乃大歸也。〔陸機、弔二魏武帝一文〕夫始終者萬物之大歸、死生者性命之區域。

【大騩】396 タイキ ❶大地をいふ。大塊(546)に同じ。〔王孝友、豐水賦〕鑿二大騩一以出レ鋋、訹二風胡一而定レ價。❷山名。河南省新鄭縣の西南。一名、具茨山・芣騩山。〔山海經、中山經〕又東三十里、曰二大騩之山一、其陰多レ鐵。〔注〕今滎陽密縣、有二大騩山一。〔國語、鄭語〕史伯對曰、云云、主二芣騩一而食二溱洧一。〔注〕芣騩、山名、主、爲二之神主一也。〔水經、潩水注〕大騩卽具茨山也。〔元和郡縣志〕密縣、大騩山、在二縣西東南五十里一。

【大饑】397 タイキ 五穀がみのらぬこと。甚しい饑饉。小饑(4－7473・・228´)・中饑(1－73・・133)の對。〔穀梁、襄、二十四〕五穀不レ升爲二大饑一。〔漢書、食貨志上〕大饑三十石。

【大宜】398 オホケ 備中國の地名。

〔大宜味〕399 ウウジミ 琉球の地名。

【大義】401 タイギ ❶大きなすぢみち。人として踐まねばならぬ大切な道義。人倫の最も大なる義理。君臣・男女の道などにいふ。大誼。大議。〔易、家人〕男女正、天地之大義也。〔左氏、僖、二十五〕狐偃言二於晉侯一曰、求二諸侯一莫レ如二勤王一、諸侯信レ之、且大義也。〔荀子、儒效〕明下於持二社稷一之大義上。〔管子、大匡〕不レ好レ立二大義一。〔墨子、天志下〕因以爲二大義一。〔淮南子、精神訓〕不レ觀二大義一者。〔史記、仲尼弟子傳〕興二大義一。❷すぐれた義。この義は、德目の一つで、仁などに對す。〔呂覽、分職〕稱二大仁一稱二大義一。❸一通りのすぢみち。あらましの意味。〔後漢書、光武紀上〕王莽、云云、受二尚書一、略通二大義一。❹經書の要義。〔漢書、藝文志〕仲尼沒而微言絕、七十子喪而大義乖。〔杜預、春秋左氏傳序〕皆所下以起二新舊一發中大義上、謂二之變例一。❺元末、順帝の時、漢の陳友諒の潛年號。(1360－1363) ❻冠位十二階の第九位。推古天皇十一年の制定。

〔大義之方〕402 タイギノハウ 大義のみち。〔莊子、秋水〕語二大義之方一。

〔大義名分〕403 タイギメイブン 大義と名分。臣下として行はねばならない大きなすぢみちと本分。〔蒲生褧亭、近世偉人傳、梅田雲濱〕嘗游二九州一、謂二子弟一曰、余將二遠游一、爲二諸子一講二終身服膺之道一、云云、及レ開レ口、則元年春王正月六字也、先說二大義名分一、遂及二我神武天皇以下二千三百年閒事一云。

〔大義滅レ親〕404 タイギシンヲメッス 大きな道義を全うする爲に私親を棄てる。君國の大事の爲には父子兄弟の親をも沒却して顧みない。〔左氏、隱、四〕君子曰、石碏純臣也、惡二州吁一而厚與焉、大義滅レ親、其是之謂乎。〔注〕子從二殺レ君之賊一、國之大逆、不レ可レ不レ除、故曰二大義滅レ親、明二小義則當レ兼二子愛一也。〔淮南子、氾論訓〕周公誅二管蔡之罪一。〔高注〕管叔、周公兄也、蔡叔、周公弟也、二叔監レ殷、而導二紂子祿父一爲二流言一、欲二以亂レ周、周公誅レ之、爲レ國故也、傳曰、大義滅レ親也。〔李衞公問對、中〕大義滅レ親、況一使人乎。

【大僞】405 タイギ 甚しいいつはり。又、大いなる作爲。〔老子、十八〕大道廢有二仁義一、智慧出有二大僞一。〔陶潛、感二士不遇一賦序〕眞風告レ逝、大僞斯興。

【大疑】406 タイギ 大きなうたがひ。深い疑問。〔書、洪範〕汝則有二大疑一、謀及二乃心一、謀及二卿士一、謀及二庶人一、謀及二卜筮一。〔莊子、則陽〕可レ不レ謂二大疑一乎。

〔大疑錄〕407 タイギロク 書名。二卷。貝原篤信撰。益軒は、晚年に、朱子の學が佛老を雜へてゐることを悟り、八十五歲の時、この書を著はした。

【大儀】408 タイギ ❶人として重大な事。〔鬼谷子、內楗〕環轉因レ化、莫レ之レ所レ爲、退爲二大儀一。❷萬物の根源。太極をいふ。又、大道をいふ。〔張華、勵志詩〕大儀斡運、天迴地游。〔注〕善曰、大儀、太極也、以レ生二天地一謂二之大成一、形之始謂二之儀一、濟曰、大儀、大道也。❸唐代、大常卿(1085)をいふ。〔避暑錄〕唐人謂二太常卿一爲二大儀一。❹唐代、禮部尚書(8－24844・・199)をいふ。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一、云云、吏部尚書爲二大天一、禮部爲二大儀一。❺鎭の名。江蘇省江都縣の西。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、江都郡〕大儀鎭、縣西七十里、接二天長縣界一、宋建隆元年親二征淮南一、李重進次二大儀一、遂克二揚州一。❻漢、吳良(2－3365・・401)の字。❼㋑骨を折ること。つかれ。くたびれ。疲勞。〔東鑑、三十四〕仁治二年十一月三十日、前武衞斟酌、頗似二大儀一、追可レ有二優賞一。㋺他人の骨折りを慰勞するにいふ語。御苦勞。〔大友興廢記、新城御取立〕御大義ながら。

【大誼】409 タイギ 大きなすぢみち。人として踐み行ふべき大切な道義。大義(401)の❶に同じ。〔漢書、董仲舒傳〕武王行二大誼一、平二殘賊一。

【大螘】410 タイギ 蟲の名。大蟻。蚍蜉。〔爾雅、釋蟲〕蚍蜉、大螘、小者螘。

【大戲】411 タイギ 古人の名。〔墨子、明鬼下〕王乎禽二推哆大戲一。〔閒詁〕畢云、乎禽、當レ爲二手禽一、或云、乎同レ呼、呂氏春秋簡選云、殷湯以二良車七十乘、必死六千人一、以二戊子一戰二於郕遂一、禽二移大犧一、高誘云、桀多力、能推二大犧一、因以爲レ號、而禽克レ之、案、移卽推移、此書所染云、夏桀染二于干辛推哆一、古今人表作二雅侈一、此下又云、推哆大戲生二列兕虎一、指畫殺レ人、則推哆大戲、是人名無レ疑、哆・移・侈・戲・犧、皆音相近也。

【大議】412 タイギ ❶重大な相談。〔漢書、董仲舒傳〕仲舒在レ家、朝廷如有二大議一、使下使者及廷尉張湯就二其家一而問上レ之、其對皆有二明法一。〔書言故事、致仕類〕大議每咨、朝廷方所二倚毗一。❷人が踏まねばならない道義。大義(401)の❶に同じ。〔後漢書、董卓傳〕有三敢沮二大議一。〔後漢書、胡廣傳〕大議不レ全。

【大久】413 タイキウ 淸、莊有可(9－31035・・150)の字。

【大丘】414 タイキウ 地名。泰丘(6－17325・・30)に同じ。〔漢書、郊祀志〕宋大丘社亡。

【大咎】415 タイキウ おほきなとがめ。非常の禍。〔左氏、宣、十二〕彘子尸レ之、雖二免而歸一、必有二大咎一。〔左氏、昭、七〕其大咎、其衞君乎。〔國語、晉語八〕非二死逮レ之、必有二大咎一。〔注〕大咎、非常之禍。

【大球】416 タイキウ 長さ三尺の圭。諸侯の會同に天子が執る瑞玉。一說に、小國・大國が贄として天子に獻ずる玉。又一說に、球は捄で、法をいふ。卽ち、大法をいふ。大共。〔詩、商頌、長發〕受二小球大球一、爲二下國綴旒一。〔箋〕湯旣爲二天所レ命、則受二小玉一、謂二尺二寸圭一也、受二大玉一、謂レ珽也、長三尺、執レ圭搢レ珽、以與二諸侯一會同。〔集傳〕小球大球之義、未レ詳、或曰、小國大國所レ贄之玉也、鄭氏曰、小球、鎭圭、尺有二寸、大球、大圭、三尺也、皆天子之所レ執也。〔傳疏〕古毛詩、當レ作レ捄、後人或依二鄭讀一、改作レ球耳、廣雅、拱捄、法也、王引之述聞、以爲二三家詩義一、奐謂、毛詩亦皆訓爲レ法、法有二小大一、猶三政有二小大一、承二上文式一于九圍一而言。

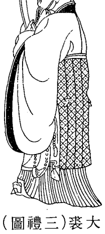
【大舅】417 タイキウ ❶父の舅。舅祖。〔後漢書、張禹傳〕光武大喜曰、乃今得二我大舅一乎。❷母の兄。〔釋親考〕母兄曰二大舅一。❸ta^4 chiu^4 妻の兄。

〔大舅子〕418 ta^4 chiu^4 tzŭ 妻の兄。內兄(1－1418・・142)の❸に同じ。「妻。

〔大舅奶奶〕419 ta^4 chiu^4 nai^3 nai 妻の兄の

〔大舅子媳婦〕420 ta^4 chiu^4 tzŭ hsi^{2}fu 妻の兄の妻。

【大裘】421 タイキウ 古、天子が天を祀るとき着用した服。十二章を備へ、裘の上に襲ねたもの。鄭衆は黑色の羊裘であるといふ。〔周禮、天官、司裘〕司裘掌下爲二大裘一、以共中王祀レ天之服上。〔注〕鄭司農云、大裘、黑羔裘、服以祀レ天、示レ質。〔孫詒讓正義〕今考、大裘固裼玄衣、而上衣則當下以二袞龍十二章一爲上レ襲。〔周禮、春官、司服〕王之吉服、祀二昊天上帝一、則服二大裘一而冕。〔禮、玉藻〕故大裘不レ裼。〔孔子家語、郊問〕天子大裘以黼レ之。



大裘（三禮圖）

【大廐】422 タイキウ 漢の官名。太僕の屬官。天子の輿馬を掌る。〔史記、酷吏、減宣傳〕徵爲二大廐丞一。〔注〕正義曰、百官公卿表云、大僕屬官有二大廐、各五丞一尉也。〔漢書、百官公卿表上〕太僕、秦官、掌二輿馬一、有二兩丞一、屬官有二大廐・未央、云云一。

【大菊】423 タイキク 蘧草の名。なでしこ。蘧麥。〔爾雅、釋草〕大菊、蘧麥。〔疏〕大菊、一名蘧麥、蘧草也。

【大吉】424 タイキチ ダイキチ ❶非常にめでたいこと。無上の吉。〔易、家人〕六四、富レ家、大吉。〔公羊、文、二〕娶者大吉也、非二常吉一也。〔荀子、議兵〕終始如レ一、夫是之謂二大吉一。〔蜀志、蔣琬傳〕當レ至レ公、大吉之徵也。❷叢辰の名。十二月將の一。日と月とが十一月に丑宮に於て相會するをいふ。月將

(5-14330··165)の❷・十二月將(2-2695··420)を見よ。

【大吉嶺】425（タイキツレイ）　地名。印度ヒマラヤ山の麓。印度西藏交通の要道。又、英人の避暑地として知らる。答吉陵。

〖大吉樓〗426（タイキツロウ）　清、杜煦(6-14477··74)の室名。

〖大吉利市〗427　ta^4 chi^2 li^4 shih^4　廣東で不祥事に遇つた際、緣起直しにいふ語。

【大詰】428（オホヅメ）　芝居狂言の最後の齣。おほぎり。〔役者昔物語〕一番目のおほづめといふ幕。

〖大詰木〗429（オホヅメノキ）　芝居が終つた時に打つ拍子木。

【大橘】430（タイキツ）　大きいたちばな。〔韻府引、列仙傳〕巴邛人家有二橘園一、霜後橘盡收斂、有二大橘一、如二三斗盎一、巴人異レ之剖開、毎橘有二二叟一、鬚眉皤然、皆相對象戲、一叟曰、橘中之樂不レ減二商山一、但不レ得二深根固蔕一、爲二愚人一摘下耳。

〖大橘子〗431　ta^4 chü^2 tzŭ　果物の名。九年母。

【大急】432（タイキフ）　至急に爲すべき事柄。又、火急の變事。〔戰國、韓策〕臣以爲、令二韓中立以攻レ齊、最秦之大急也。〔晉書、劉曜載記〕縱有二大急一、不レ過下羈二印綬一與レ卿俱去上耳。

【大給】433（オギフ）　❶三河國の地名。❷姓氏。〔姓林全書〕

【大匡】434（タイキヤウ）　管子の篇名。

〖大匡解〗434′（タイキヤウカイ）　逸周書の篇名。卷二と卷四との二篇がある。

【大享】435（タイキヤウ）　秋冬、天子が宗廟をまつる祭。烝嘗。〔書、盤庚上〕茲予大享二於先王一。〔傳〕大享、烝嘗也。〔疏〕此大二享於先王一、謂三天子祭二宗廟一也、云云、烝嘗、是秋冬祭名。

【大姜】436（タイキヤウ）　周の人。姓は呂氏。大王の妃。文王の祖母。太姜。〔詩、大雅、緜、爰及二姜女一、傳〕姜女、大姜也。〔疏〕此說二古公一而及二姜女一、則姜女、大王之妃。〔詩、大雅、思齊〕思二媚周姜一、〔集傳〕周姜、大王之妃大姜也。

【大強】437（タイキヤウ）　非常に強い。〔新書、益壤〕豪橫而大強也。

【大貺】438（タイキヤウ）　大きなたまもの。貺は、賜。〔左氏、襄、十四〕敢拜二君命之辱一、重拜二大貺一。〔注〕謝二重恤之賜一也。

【大境】439（タイキヤウ）　門の名。察哈爾省張家口の上堡の北門。清の聖祖が蒙古親征の後に建てたもので、小境門と同じく長城の邊口となり、中國と露西亞との交通の要衝。

【大鏡】440（タイキヤウ）　❶大きい鏡。おほかがみ。〔異苑〕山雞愛二其毛羽一、映レ水則舞、魏武時、南方獻レ之、帝欲二其鳴舞一、而無レ由、公子蒼舒、令レ置二大鏡其前一、雞鑒レ影而舞。❷（オホカガミ）書名。八卷。藤原爲業撰といふ。一名、世繼物語。三鏡の一。文德天皇から後一條天皇に至る十四代百七十五年間の帝王・大臣の事を書いたもの。

【大響】441（タイキヤウ）　大きな音響。〔溫庭筠、拂舞詞〕黃河怒浪連レ天來、大響肱肱如二殷雷一。

【大饗】442（タイキヤウ）　❶天子が祖先を合せ祀る祭。祫祭。〔禮、曲禮下〕大饗不レ問レト。〔注〕祭二五帝於明堂一、莫レ適レト。〔禮、禮器〕大饗其王事與。〔注〕大饗、謂三祫二祭先王一。〔荀子、禮論〕大饗尚二玄尊一。〔注〕大饗、祫二祭先王一也。❷賓客等をもてなす盛大な饗宴。盛饗。〔周禮、春官、大司樂〕大饗不レ入レ牲。〔注〕大饗、饗二賓客一也。〔淮南子、泰族訓〕民有二好色之性一、故有二大婚之禮一、有二飲食之性一、故有二大饗之誼一。〔後漢書、光武紀下〕大司馬吳漢、自レ蜀還二京師一、於レ是大饗二將士一、班レ勞策レ勳。〔唐書、劉瑑傳〕先時大饗雜二進倡一。❸昔、朝廷で行はれた大きな饗宴で、次の二つがある。㋑二宮（ニグウ）の大饗は、毎年正月二日、親王・公卿以下、群臣が后宮・東宮に拜賀し、玄輝門西廊で中宮の饗を賜はり、東廊で東宮の饗を賜はること。〔枕草子、五〕大饗の甘栗の使。㋺大臣の大饗は、毎年正月、或は大臣に任ぜられた時、大臣が、諸大臣以下殿上人を招待する饗宴。❹（オホアヒ）河內の國の地名。

【大仰】443（オホノギ）　伊勢國の地名。

【大噱】444（タイキヤク）　大いに笑ふ。又、そのこゑ。噱は笑。〔漢書、敍傳上〕談笑大噱。〔注〕師古曰、大噱、笑聲也。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕恐猶未レ信二丘言一、必大噱也。〔注〕善曰、說文曰、噱、大笑也。

【大虐】445（タイギヤク）　❶大きなわざはひ。大災。〔書、盤庚中〕殷降二大虐一、先王不レ懷。〔傳〕我殷家於三天降二大災一、則先王不レ思二故居一而行徙。❷非常なしひたげ。大殘虐。〔新書、耳痺〕子胥發レ鬱冒レ忿、輔二闔閭一而行二大虐一。

【大逆】446（タイギヤク）　君・父を殺し、宗廟・山陵を毀つ如き、甚しく人倫に背いた罪惡。十惡の一。八虐(2-1450··92)・大逆無道を見よ。〔戰國、楚策〕夫外挾二強秦之威一、以內劫二其主一、以求レ割レ地、大逆不忠、無レ過二此者一。〔史記、酷吏、減宣傳〕宣下吏詆レ罪、以爲二大逆一。〔唐律、名例一〕十惡、二曰、謀二大逆一。〔注〕謂レ謀レ毀二宗廟山陵及宮闕一。〔疏議〕此條之人、干レ紀犯レ順、違レ道悖レ德、逆莫レ大レ焉、故曰二大逆一。

〖大逆不道〗447（タイギヤクフダウ）　人臣の道に背き道理に戾る行爲。大逆無道に同じ。〔漢書、楊惲傳〕不下竭二忠愛一盡中臣子議上、而妄怨望稱引、爲二訞惡言一、大逆不道、請逮捕治。

〖大逆無道〗448（タイギヤクムダウ）　甚しく人倫に戾り、道理を無視した行爲。後、法律上の語となり、謀叛をいふ。大逆不道。〔史記、高祖紀〕項羽放二殺義帝於江南一、大逆無道。〔史記、淮南王安傳〕淮南王安、甚大逆無道。〔論衡、雷虛〕謀反、大逆無道也。〔漢書、游俠、郭解傳〕御史大夫公孫弘議曰、解布衣、爲二任俠一行レ權、以二睚眦一殺レ人、云云、當二大逆無道一、遂族レ解。〔注〕師古曰、當、謂三處二斷其罪一。

【大弓】449（タイキユウ）　❶おほゆみ。大きな弓。六弓の一。〔周禮、夏官、司弓矢〕唐弓大弓。〔禮、明堂位〕越棘大弓。〔春秋、定、九〕得二寶玉大弓一。〔魏書、奚康生傳〕特作二大弓兩張一、送與二康生一。❷半弓・楊弓等に對して普通の弓をいふ。長さ七尺五寸。❸大きいものさし。地を量るに五尺を一弓といふ。〔福惠全書、倩丈部、定步弓〕有下擅用二大弓一、私增二分釐一者上。

【大宮】450（タイキユウ）　❶先祖のみたまや。祖廟。〔左氏、隱、十一〕五月甲辰、授二兵於大宮一。〔注〕大宮、鄭祖廟也。〔左氏、桓、十四〕以二大宮之椽一、歸爲二盧門之椽一。❷大きい宮殿。〔後漢書、梁節王暢傳〕誠無レ心下面目以二凶惡一、復居二大宮一、食二大國一、張二官屬一、藏中什物上。❸山名。北京の西、大覺寺の南邊にある。明の劉瑾が自ら生壙（生存中に作る墓）を營んだところと傳ふ。❹（オホミヤ）㋑禁裏の尊稱。おほみかど。〔古事記、下〕天皇詔下然者吾思二奇異一故、欲中見行上、自二大宮一上幸行。㋺神社に對する敬稱。㋩おほきさき。太皇太后、又は皇太后。又、若宮に對して、母宮の稱。〔榮華物語、初花〕大宮の御まかなひ。

〖大宮司〗451（タイキユウシ・ダイグウジ）　❶伊勢國の大神宮、尾張國の熱田、豐前國の宇佐、肥後國の阿蘇、筑前國の香椎・宗像、越前國の氣比などの神職の長の稱。おほみやづかさ。〔類聚三代格、一〕元慶五年八月二十六日、太政官符、云云、大宮司一員、右正六位上官。❷明治四年五月十四日、伊勢神宮及び官・國幣大社に置かれた神官。祝詞を宣べ、祭祀を知し、庶務を判することを掌る。同十年十二月八日、廢せられた。〔明治四年五月十四日太政官布告、大宮司〕。❸神宮司廳の職員。祭主の命を受けて祭祀に奉仕し、諄辭を奏讀し、且つ內務大臣の指揮監督を受けて所部の職員を統督し、廳中の事務を管理した高等官。

〖大宮人〗452（オホミヤビト）　宮中に仕へる人。〔古事記、下〕もゝしきのおほみやびと。

〖大宮表〗453（オホミヤオモテ）　古、京都の大通りの名。南北に通ずる大宮大路。

【大窮】454（タイキユウ）　❶大いに困窮する。甚だしく行きつまる。〔戰國、秦策〕若齊不レ破、呂禮復用、子必大窮矣。❷九州の外、八夤の外を八紘といひ、その東南方にある荒遠の地。〔淮南子、墬形訓〕八夤之外、而有二八紘一、亦方千里、云云、東南方曰二大窮一、曰二衆女一。

【大去】455（タイキヨ）　去つて再び反らないこと。一說に、一人殘らず立去ること。〔春秋、莊、四〕紀侯大二去其國一。〔杜注〕大去、不レ反之辭。〔穀梁、莊、四〕紀侯大二去其國一、大去者、不レ遺二一人一之辭也。

【大渠】456（タイキヨ）　大きなみぞ。〔東方朔、諫レ除二上林苑一疏〕又有二深溝大渠一。

【大虛】457（タイキヨ）　大空。宇宙。太虛(3-5834··90)の❶に同じ。〔宋玉、小言賦〕超二於大虛之域一。

〖大虛軒〗457′（タイキヨケン）　明、王直(7-20823··806)の室名。

【大墟】458（タイキヨ）　地名。❶廣西省貴縣の東北。❷廣西省桂林縣の東南。

【大擧】459（タイキヨ）　❶多人數で繰り出す。大勢で一時

にかかる。又、大軍を起す。〔蜀志、諸葛亮傳〕治レ戎講レ武、以俟二大擧一。〔魏志、傳嘏傳〕大擧之策。〔賴山陽、下二筑後河一過二菊地正觀公戰處一感而有レ作詩〕大擧來犯彼何人、誓剪二滅之一報二天子一。㊁大いに擧げ用ひること。〔晉書、劉寔傳〕自二漢魏一以來、時開二大擧一、令二衆官各擧一レ所レ知。㊂字號。㋑後晉、殷鵬(**6－16627**‥130)の字。㋺明、和鵬(**2－3490**‥363)の字。㋩明、梁仲仁(**6－14825**‥300)の字。

〔大擧口〕460（タイキョコウ）　擧水が到水と會して長江に入る口。湖北省黃岡縣の北。擧水の源は湖北省摩城縣。

〔大擧傳道〕461（タイキョデンダウ）　多勢の宣教師が揃つて、此處彼處と盛に傳道しまはること。

【大御】462（オホミ）　物事を尊んでいふ語。大に御を添へたもの。おほん。おん。

〔大御衣〕463（オホンゾ）　天子の御服。おほみその音便。〔亭子院歌合〕みかどの御裝束、ひはだ色のおほんぞ。

〔大御饗〕464（オホミアヘ）　饗應の敬稱。㊀天皇のきこしめす御食物。〔古事記、中〕故獻二大御饗一之時。㊁宮中で群臣に賜はる酒饌。

〔大御所〕465（オホゴショ）　㊀親王の御隱居所。轉じて、又、其の御方を指していふ。〔康富記〕嘉吉二年十一月二十六日、參二伏見殿一、候二宮御方御物讀一、大御所有二御出座一。㊁將軍の父の居所。轉じて、又、其の人を指していふ。僣して關東管領にもいふ。〔東鑑、十八〕建仁三年九月六日、江馬殿折節被レ候二大御所一。㊂㋑表面に立つて活動しないが、隱然として大勢力ある者の稱。元老の將軍や大臣など。㋺其の道の大家。第一人者。

〔大御食〕466（オホミケ）　食物の敬稱。天皇のきこしめすおもの。大御物。〔古事記、中〕出雲國造之祖、名岐比佐都美、飾二葉山一而立二其河下一、將レ獻二大御食一之時。

〔大御心〕467（オホミココロ）　天皇の御心。叡慮。

〔大御祖〕468（オホミオヤ）　天皇の御祖先。すめみおや。皇祖。

〔大御酒〕469（オホミキ）　神にそなへる酒。後、一般に酒の稱。〔古事記、中〕よくすにかみしおほみけ。

〔大御寶〕470（オホミタカラ）　國民。百姓。天皇が御寶として撫育し給ふものの義。

〔大御物〕471（オホムモノ）　食物の敬稱。天皇の供御。大御食。

〔大御息所〕472（オホミヤスンドコロ）　御息所を敬つていふ語。〔伊勢物語〕おほみやすん所とていますかりける。

【大圄】473（タイギョ）　大きな牢獄。〔尉繚子、將理〕中圄不レ下二百數一、大圄不レ下二千數一。

【大魚】474（タイギョ）　大きな魚。鯨鯢の類。大鱗。〔呂覽、諭大〕井中之無二大魚一也。〔戰國、齊策〕君不レ聞二大魚一乎、網不レ能レ止、鉤不レ能レ牽、蕩而失レ水、則螻蟻得レ意焉。〔賴山陽、泊二天草洋一詩〕瞥見大魚波間跳、太白當レ船明似レ月。

〔大魚濼〕475（タイギョレキ）　地名。古の興和城の西。今の察哈爾省張北縣の地方。又、大漁濼・魚兒濼に作る。

〔大魚呑二小魚一〕476（タイギョセウギョヲノム）　大魚が小魚を呑む。大國が小國を伐つ喩。〔說苑、指武〕大之伐レ小、強之伐レ弱、猶三大魚之呑二小魚一也、若二虎之食レ豚也。

【大馭】477（タイギョ）　官名。㊀周官の名。夏官の屬。馭の最も尊い者。〔周禮、夏官、序官、大馭、注〕馭之最尊。〔周禮、夏官、大馭〕大馭、掌下馭二王路一以祀、及犯軷上。㊁後周、置く。周官に因り、馭を掌る。〔通典、職官、秩品四〕後周官品、正五命、夏官、大馭、司右中大夫。

【大凶】478（タイキョウ）　㊀凶年。不作の年。〔周禮、春官、大司樂〕大札・大凶・大烖。〔注〕凶、凶年也。〔疏〕大凶、則曲禮云、歲凶、年穀不レ登、是也。㊁（ダイキョウ）㋑甚だ惡いこと。又、甚しい罪惡。㋺おみくじで、至つて不吉なこと。大吉の對。

【大共】479（タイキョウ）　大きなのり。大法。又、天子のとる大圭。大球(416)に同じ。大拱。〔詩、商頌、長發〕受二小共大共一、爲二下國駿厖一。〔傳〕共、法。〔箋〕小共大共、猶下所二執搢一小球大球上也。

【大匈】480（タイキョウ）　大きなむね。大胷(484)に同じ。〔風俗通、皇霸、六國〕大膺大匈、脩下而馮。

【大拱】481（タイキョウ）　㊀大法。又は、大圭。大共に同じ。〔孔子家語、弟子行〕說レ之以レ詩曰、受二小拱大拱一而爲二下國駿龐一。㊁（オホイサキヨウナリ）　兩手で合せ持つ程の大きさ。〔韓詩外傳、三〕有殷之時、穀生二湯之廷一、三日而大拱。〔史記、封禪書〕有二桑穀一、生二於庭一、一暮大拱。〔孔子家語、五儀解〕桑穀生二于朝一、七日大拱。

【大恐】482（タイキョウ）　大いにおそれる。又、大なるおそれ。大懼。大慌。〔書、金縢〕大木斯拔、邦人大恐。〔左氏、襄、二十七〕大恐レ害二夫子一。〔莊子、齊物論〕小恐惴惴、大恐縵縵。〔呂覽、盡數〕大喜・大怒・大憂・大恐・大哀、五者接レ神則生レ害矣。

【大恭】483　ta^4 kung^1　大便をいふ。小恭(**4－7473**‥257)を見よ。

【大胷】484（タイキョウ）　大きなむね。大匈。〔周禮、考工記、梓人〕厚脣弇口、出目短耳、大胷燿後、大體短脰、若レ是者、謂二之贏屬一。〔史記、趙世家〕大膺大胷、脩下而馮。

【大凝】485（タイギョウ）　政が平かで民が安んずること。凝は定。〔荀子、議兵〕兼幷易レ能也、唯堅凝之難焉、云云、士服民安、夫是之謂二大凝一。〔注〕凝、定也。

〔大凝菜〕486　ta^4 ning^2 ts'ai^4　草の名。ところてんぐさ。てんぐさ。

【大曲】487（タイキョク）　㊀弓の名。大屈(527)に同じ。〔左氏、昭、七〕好以二大屈一、〔釋文〕大屈、弓名、云云、又云二大曲一也。〔疏〕魯連書曰、楚子享二魯侯於章華之臺一、與二大曲之弓一、既而悔レ之。㊁宋代の歌曲の名。其の名は初めて沈約の宋書樂志に見ゆ。各段異なつた調子の若干の小曲を數多組合せ、緩急虛實の節奏を組識して一段物と爲す。もと唐の樂曲の一種であつたが、宋に入つて詞の一種、又は附屬物として考へられた。秦觀・晁無咎・毛滂・鄭僅等の調笑轉踏は數闋を合せて一套と爲すが、各闋、一事を分詠し、一人一事の首尾を通じていはず、其の數闋を以て一事を詠ずるは石曼卿の拂霓裳轉踏に始まる。次に趙德麟の商調蝶戀花は十闋から成り、會眞記の事を詠じてゐるが、十闋盡く蝶戀花の調の外に出でず、單調に過ぎるので、宋人は唐以來の水調歌に法つて更に大曲を用ひた。なほ宋の王灼の碧雞漫志によれば、大曲に大遍・小遍の別ありといふ。現存曲辭に見るに、ほぼ此の如く、ただ散序と排遍とは數遍を重ぬることがある。此等大曲の作家には王平・曾布・董穎等があり、其の作は、皆、叙事體で、所演の人物が自ら言ふ體ではない。其の自ら言ふ體は楊誠齋の歸去來辭に始まる。要するに曾・董の大曲は董解元の先を開き、楊氏の曲は元人套數雜劇の祖である。大曲と曲破とは、もと自ら別系で、夢華錄に據るに、少くとも北宋末迄は兩者相混同せず、詞源に據れば、南宋時代に至り相結合して一體となつたといふ。思ふに元曲の套數も此等から起つたものであらう。元來、北宋教坊で定めた大曲は四十あり、夢粱錄に、葛守節四十大曲を撰すとあり、曲目は文獻通考教坊部、宋史樂志に見ゆ。又、官本雜劇段數二百八十本中に大曲一百三、輟耕錄所載の院本名目六百九十種に大曲十六種を載せてゐるが、皆、佚して傳はらない。〔碧雞漫志、三〕史及脞說又云、涼州有二大遍・小遍一、非也、凡大曲有二散序・靸・排遍・攧・正攧・入破・虛催・實催・袞遍・歇指・殺袞一、始成二一曲一、此謂二大遍一。〔樂府詩集、相和歌辭、楚調曲、大曲〕宋書樂志曰、大曲十五曲、一曰東門、二曰西山、三曰羅敷、四曰西門、五曰默默、六曰園桃、七曰白鵠、八曰碣石、九曰何嘗、十曰置酒、十一曰爲樂、十二曰夏門、十三曰王者布大化、十四曰洛陽令、十五曰白頭吟。

【大局】488（タイキョク）　圍碁の盤面の大體の形勢。轉じて、事局の大勢、天下の大勢。

【大棘】489（タイキョク）　㊀非常に急迫する。棘は急の意。〔詩、大雅、抑〕回二遹其德一、俾二民大棘一。〔箋〕使二民之財匱盡、而大困急一。〔集傳〕棘、急也。㊁官名。大理寺(2295)の異稱。〔稱謂錄、大理寺職官古稱、大棘〕鄭氏談綺、大理曰二大棘一。㊂城の名。㋑滿洲遼寧省義縣の西北。晉初、慕容廆、大棘城を帝顓頊の墟とし、徒河から徙る。〔晉書、慕容廆載記〕廆以、大棘城卽帝顓頊之墟也、元康四年、乃移居レ之。㋺河南省柘城縣の西北。〔左氏、宣、二〕宋華元帥レ師及二鄭公子歸生帥レ師戰二于大棘一。〔史記、梁孝王世家〕呉楚先擊二梁棘壁一。〔注〕索隱曰、宋華元戰二於大棘一、蓋卽棘壁、是也。

【大極】490（タイキョク）　太極(**3－5834**‥93)に同じ。大儀。

〔大極殿〕491（ダイゴクデン）　昔、八省院の中央に在つた

正殿。天皇が朝政を見、又、賀正・卽位等の大禮を行はせられたところ。東西十一間。中央に高御座を安置す。おほやすみどの。おほあむどの。太極殿。〔續日本紀、一〕二年正月朔、天皇御㆓大極殿㆒受㆑朝。

【大玉】492 タイギョク　大きな玉。〔書、顧命〕大玉・夷玉・天球・河圖、在㆓東序㆒。

【大巾】493 タイキン　跪拜するとき、膝にあてるもの。蔽膝。曲領。〔小爾雅、廣服〕大巾、謂㆓之帉㆒。〔方言、四〕蔽厀、云云、魏宋南楚之間、謂㆓之大巾㆒、自㆑關東西、謂㆓之蔽厀㆒云云、西南屬漢、謂㆓之曲領㆒。

【大斤】494 ダイキン　目方の單位。斤の古稱。大寶令に、斤に大・小があり、大斤は一百六十匁で、粗大で重いものを秤るに用ひた。

【大均】495 タイキン　㊀大いにひとしくする。平均する。〔周禮、地官、均人〕三年大比、則大均。〔注〕有㆑年無㆑年、大平㆓計之㆒。㊁其の本性によつて自得させる。〔莊子、徐無鬼〕知㆓大一㆒、知㆓大陰㆒、知㆓大目㆒、知㆓大均㆒、知㆓大方㆒、知㆓大信㆒、知㆓大定㆒、至矣、云云、大均緣㆑之。〔注〕因㆓其本性㆒、令㆓各自得㆒、則大均也。㊂軍禮の一。土地の饒瘠、道路の遠近、國事の劇易を量つて、貢賦征役に多少疏數の差をつけ、民衆を均しく恤れむこと。〔周禮、春官、大宗伯〕以㆓軍禮㆒同㆓邦國㆒、大師之禮、用㆑衆也、大均之禮、恤㆑衆也。〔義疏〕大均、蓋量㆓其土地之饒瘠、道路之遠邇、國事之劇易㆒、以爲㆓貢賦征役多少疏數之差㆒。㊃宋、周廣（**2―3441**・・124）の字。㊄清、陳均（海寧の人）（**11―41698**・・157）の初名。

【大昕】496 タイキン　夜あけ。大は初、昕は明。夜がはじめて明ける義。早晨。大昕鼓徵を見よ。

〔大昕鼓徵〕497 タイキンコチヨウ　日出に大鼓をうつて衆をいましめ起すこと。〔禮、文王世子〕天子視㆑學、大昕鼓徵、所㆓以警㆑衆也。〔疏〕大、猶㆑初也、昕、猶㆑明也、徵、猶㆑召也、謂、初始昕明、擊㆑鼓以召㆓學士㆒、所㆓以警㆑衆者、初昕擊㆑鼓、警㆓動衆人㆒、令㆓早起㆒也。

【大金】498 ダイキン　㊀金の國の尊稱。〔金史、太祖紀〕收國元年正月壬申朔、羣臣奉㆓上尊號㆒、是日卽㆓皇帝位㆒、上曰、遼以㆓賓鐵㆒爲㆑號、取㆓其堅㆒也、賓鐵雖㆑堅、終亦變壞、惟金不㆑變不㆑壞、金之色白、完顏部尙㆑白、於㆑是國號㆓大金㆒。㊁タイキン　多額の金錢。

〔大金葵〕499 ダイキンキ　北京人の愛養する菊花の名。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按、日下舊聞考、云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、大金葵。

【大金川】500 タイキンセン　㊀土司の名。今、四川省懋功縣の西北。もと氐羌の部落。明代の哈衣厤衣の有地。清の乾隆の時、大金川といふ。〔清史稿、土司傳二〕四川、清初戡㆓定川境各土司㆒、次第効順、川之南有㆓金川者㆒、本明金川寺演化禪師哈伊拉木之後、分爲㆓大小金川㆒。㊁河の名。金川（**11―40152**・・714）を見よ。

〔大金國志〕501 ダイキンコクシ　書名。四十卷。宋、宇文懋撰といふも、假託である。金の太祖から哀宗迄、九主一百十七年間の事跡を記す。紀二十六卷・開國功臣傳一卷・文學翰苑傳二卷・雜錄三卷・雜載制度七卷・奉使程錄一卷。詞格體例は契丹國志に似てゐる。〔四庫提要、史、別史類〕。

〔大金集禮〕502 ダイキンシフレイ　書名。四十卷。金、明昌六年、禮部尙書張暐等の奏進。金の時代の故實の詳細を知り、幷せて史志の訛を訂すに足る。金史の諸志の原本となつたもの。〔四庫提要、史、政書類〕。

〔大金弔伐錄〕503 ダイキンテウバツロク　書名。四卷。撰者未詳。金の太祖・大宗が宋に勝つたことを記し、國書・誓詔・冊表・文狀・牒檄等の類を年ごとに分類して述ぶ。〔四庫提要、史、雜史類〕。

〔大金德運圖說〕504 ダイキントクウンヅセツ　書名。一卷。金、貞祐二年、尙書省集議の案牘。金は金德なるを以て、初、白色を尙んだが、泰和二年に土德に更め、尋いで又この年、別に改めようとして、所司に議せしめた所、土德を言ふもの四人、金德を言ふもの十四人、互に讓らず、天子之を折中し、盡く之をやめ、その事を錄して讖緯に附會するを戒めたもの。〔四庫提要、史、政書類〕。

【大衾】505 タイキン　㊀大きな夜具。大夜着。大衾長枕を見よ。㊁オホブスマ　下總國の地名。

〔大衾長枕〕506 タイキンチヤウチン　寢具。大きな夜衣と長いまくら。倶に同臥するに便利なところから、交情親密なさまにいふ。〔唐書、讓皇帝憲傳〕初帝五子列㆓第東都積善坊㆒、號㆓五王子宅㆒、及㆑賜㆓第上都慶隆坊㆒、亦號㆓五王宅㆒、玄宗爲㆓太子㆒、嘗製㆓大衾長枕㆒、將㆘與㆓諸王㆒共㆖之、睿宗知、喜甚。〔張憲、唐五王擊毬圖詩〕黃門扶入五花帳、大衾長枕姁㆓家人㆒。

【大琴】507 タイキン　二十七絃の琴。〔爾雅、釋樂〕大琴、謂㆓之離㆒。〔注〕琴大者、二十七絃。〔禮、明堂位〕大琴・大瑟・中琴・小瑟、四代之樂器也。

【大鈞】508 タイキン　㊀天をいふ。又、造化。鈞は陶器などを造る陶車（ロク）で、その上で陶器を造るやうに、陰陽が萬物を生成造化するからいふ。造鈞。太鈞。〔正字通、鈞〕大鈞、天也。〔賈誼、鵩鳥賦〕大鈞播㆑物兮、坱圠無㆑垠。〔注〕善曰、如淳曰、陶者作㆓器於鈞上㆒、此以㆓造化㆒爲㆓大鈞㆒、應劭曰、陰陽造化、如㆓鈞之造㆑器也。〔陶潛、神釋詩〕大鈞無㆓私力㆒、萬理自森著。㊁五音中の宮商の音。鈞は調。〔國語、周語下〕細鈞有㆑鍾無㆑鎛、昭㆓其大㆒也、大鈞有㆑鎛無㆑鍾。〔注〕鈞、調也、大、謂㆓宮商㆒也。㊂魏の樂の名。鈞は平で、魏は三世よく太平を致したるによつて名づく。〔宋書、樂志一〕三舞宜㆑有㆓總名㆒、可㆑名㆓大鈞之樂㆒、鈞、平也、言㆔大魏三世同㆑功、以至㆓隆平㆒也。㊃宋、查陶（**6―14643**・・49）の字。

【大禁】509 タイキン　㊀大きないましめ。國の法度。禁令。〔孟子、梁惠王下〕臣始至㆓於境㆒、問㆓國之大禁㆒、然後敢入。〔管子、形埶〕凡言而不㆑可㆑復、行而不㆑可㆑再者、有㆑國者之大禁也。〔荀子、非十二子〕行辟而堅、飾㆑非而好、玩㆑姦而澤、言辯而逆、古之大禁也。㊁太一の佐をいふ。太一は壽宮神君の最も貴いもの。太禁。〔史記、封禪書〕壽宮神君最貴者太一、其佐曰㆓大禁㆒、司命之屬、皆從㆑之。

〔大禁晨〕510 タイキンシン　後漢の官名。宋代の尙書令に當る。〔海錄碎事、人事、聖賢〕大禁晨、如㆓今尙書令㆒、漢光武孫文臺爲㆑之。

【大錦】511 タイキン　甚だあやあること。〔溫庭筠、漢皇迎春詞〕春草芊芊晴掃烟、宮城大錦紅殷鮮。

〔大錦衣〕512 タイキンイ　近衞の將校。〔桃花扇、題畫〕大錦衣張瑤星先生、新修㆓起松風閣㆒。

〔大錦冠〕513 タイキンクワン　冠位十三階の第七位。孝德天皇の大化三年に制定したもの。

【大襟】514 ta^4 chin^1　上衣の二重形になつたもの。鈕を右脇の下でかけ、上まへ下まへを重なるやうにしたもので、上まへを大襟、下まへを底襟といふ。

【大訢】515 タイギン　元の僧。南昌の人。號は笑隱。經典に博通し、旁ら儒家道流の說に及ぶ。文宗の時、召されて闕に赴き、特に三品文階を賜はる。嘗て禪林清規を編す。著に四會語錄・蒲室集がある。〔新續高僧傳、五〕。

【大句】516 タイク　廣大な文句。立派な詩文。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕大句斡㆓玄造㆒、高言軋㆓霄崢㆒。

【大狗】517 タイク　㊀大きい狗。〔晉書、五行志中〕司馬越還㆑洛、有㆓童謠㆒曰、洛中大鼠長尺二、若不㆓早去㆒大狗至、由㆑是越惡㆓荀晞㆒、奪㆓其兗州㆒、隙難遂構焉。㊁罽賓國に產する獸の名。〔漢書、西域上、罽賓國傳〕罽賓國、出㆓封牛・水牛・象・大狗・沐猴・孔爵㆒。〔注〕師古曰、云云、郭義恭廣志云、罽賓大狗、大如㆑驢、赤色、數里搖靴以呼㆑之。

【大苦】518 タイク　㊀藥草の名。甘草をいふ。〔爾雅、釋草〕蘦、大苦。〔注〕今甘草也。〔疏〕藥草也、蘦一名大苦、郭云、今甘草也。㊁甚だ苦い草。豉をいふ。又、黃藥子（**12―47926**・・880）の異名。又、一說に苓をいふ。〔楚辭、招魂〕大苦醎酸、辛甘行些。〔注〕大苦、豉也。〔補注〕本草、豉、味苦、故逸以㆓大苦㆒爲㆑豉、然說㆓左氏㆒者曰、醓醢鹽梅不㆑及㆑豉、古人未㆑有㆑豉也、內則及招魂、備論㆓飮食㆒、言不㆑及㆑豉、史游急就篇曰、及㆑有㆓無夷鹽豉㆒、蓋秦漢以來始爲㆑之耳、據㆑此則逸說、非也、又爾雅云、蘦、大苦、郭氏以爲㆓甘草㆒、又詩云、隰有㆑苓、陸機草木蟲魚疏云、苓、大苦也、可㆑爲㆓乾菜㆒、此所謂大苦、蓋苦味之甚者爾。〔本草、黃藥子〕釋名、木藥子・大苦・赤藥・紅藥子、時珍曰、按、沈括筆談云、本草、甘草注、引㆘郭璞注㆓爾雅㆒云㆓蘦大苦㆒者㆖云、卽甘草也、蔓生、葉似㆓薄荷㆒、而色青黃、莖赤有㆑節、節有㆑枝相當、此乃黃藥也、其味極苦、故曰㆓大苦㆒、非㆓甘草㆒也。

【大矩】519 タイク　㊀地をいふ。〔呂覽、序意〕大圜在㆑上、大矩在㆑下。〔注〕大矩、地也。㊁新羅の僧。鄉歌を善くす。〔三國史記〕・〔三國遺事〕。

【大區】520 タイク 天をいふ。區は宅。宇宙。〔淮南子、原道訓〕縱レ志舒レ節、以馳二大區一。〔注〕區、宅也、大宅、謂レ天也。

【大砦】521 タイク 山名。河南省登封縣の東南。今の大熊山。〔山海經、中山經〕大砦之山、云云、狂水出焉、西南流注二於伊水一。

【大懼】522 タイク 大なるおそれ。又、大いにおそれる。大恐。〔司馬法、嚴位〕擊二其大懼一、避二其小懼一。

【大具】523 タイグ おほきなうつは。天下をいふ。國を小具といふの對。大器。〔荀子、正論〕國、小具也、可下以二小人一有上也、可下以二小道一得上也、可下以二小力一持上也、天下者大具也、不レ可下以二小人一有上也、不レ可下以二小道一得上也、不レ可下以二小力一持上也。

【大愚】524 タイグ ㊀非常におろかなこと。又、大愚者。おほばか。〔莊子、天地〕知二其愚一者、非二大愚一也、知二其惑一者、非二大惑一也、大惑者終身不レ解、大愚者終身不レ靈。〔漢書、董仲舒傳〕不レ知二其師書一、以爲二大愚一。㊁山名。江西省高安縣の東南の朝陽門外。山麓の眞如寺は宋の呂祖儉が大愚叟と號して寓した所なので、大愚寺ともいふ。〔讀史方輿紀要、江西、瑞州府、高安縣、碧落山〕大愚山、在二府治東南朝陽門外一、門據レ山爲レ固。㊂字號。㋑宋、呂祖儉(**2**－**3386**··225)の號。㋺明、黃毓祺(**12**－**47926**··988)の號。㋩明、沈方(**6**－**17189**··323)の字。

【大虞】525 タイグ 大なる憂。虞は、思ひ計る・うれひ。〔國語、吳語〕越曾足三以爲二大虞一乎。〔注〕虞、度也。

【大空】526 タイクウ おほぞら。天空。大虛。虛空。太空。〔王守仁、泛レ海詩〕險夷原不レ滯二胸中一、何異三浮雲過二大空一。

【大屈】527 タイクツ 弓の名。大曲(487)の㊀に同じ。〔左氏、昭、七〕楚子享二公于新臺一、使二長鬣者相一、好以二大屈一、既而悔レ之。〔注〕宴好之賜、大屈、弓名。〔會箋〕正義引二魯連書一曰、楚子享二魯侯於章華之臺一、與二大曲之弓一、既而悔レ之、大屈、卽大曲也。

【大化】528 タイクワ ㊀大きな變化。大化有レ四を見よ。㊁德教を以て大いに人心を善い方に移し易へる。廣大な德化。〔書、大誥〕肆予大化二誘我友邦君一。〔傳〕大化二天下一。〔蔡傳〕化者、化二其固滯一。〔荀子、議兵〕大化至一。〔注〕大化者、皆化也。〔漢書、韓延壽傳〕得レ毋レ虧二大化一乎。〔漢書、匡衡傳〕然後大化可レ成、禮讓可レ興也。〔王褒、四子講德論〕觀二大化之淳流一。〔孔子家語、大婚解〕身以及レ身、子以及レ子、妃以及レ妃、君能修二此三者一、則大化愾二乎天下一。〔宋書、樂志二〕神武膺揚、大化咸熙。〔晉書、荀勖傳〕凡居レ位者、使下務思二蕭曹之心一、以翼中佐大化上。㊂第三十六代孝德天皇の年號。(645－650)

〖大化有レ四〗529 タイクワシアリ 人が生れてから死ぬまで、四つの大變化がある。嬰兒の時、少壯の時、老耄の時、及び死亡の時。〔列子、天瑞〕人自レ生至レ終、大化有レ四、嬰孩也、少壯也、老耄也、死亡也。

〖大化改新〗530 タイクワノカイシン 孝德天皇の大化二年、諸政の積弊を改革せられたことをいふ。卽ち世襲の領地を收めて食俸に代へ、國郡を分ち、班田收授の法を定め、田の調を行ふ。次いで禮法冠位を定め、八省百官を置くに及び、中央集權の制がやや整つた。

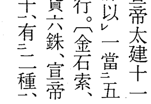
【大火】531 タイクワ ㊀おほ火事。大火災。〔列子、黃帝〕俄而范氏之藏大火。〔後漢書、郞顗傳〕當レ有二大火一。㊁夏の甚しいあつさ。〔杜甫、毒熱寄二簡崔評事十六弟一詩〕大火運二金氣一、荊揚不レ知レ秋。〔陸龜蒙、上眞觀詩〕人間方大火、此境無二朱夏一。㊂星の名。二十八宿中の心宿の大赤星。今の蠍座のアンタレス星。單に火ともいふ。心星。火星。〔爾雅、釋天〕大火、謂二之大辰一。〔注〕大火、心也、在レ中最明。〔周禮、考工記、輈人〕龍旂九斿、以象二大火一也。〔左氏、襄、九〕咮爲二鶉火一、心爲二大火一。〔公羊、昭、十七〕大火爲二大辰一。

【大禾】532 タイクワ 大きないね。〔白虎通、封禪〕嘉禾者、大禾也。

【大花】533 タイクワ 大きい花。〔夢溪筆談、異事〕大花似二牡丹芍藥一者、細花如二海棠萱草輩一者、皆有二枝葉一、無二毫髮不レ具。

【大科】534 タイクワ ㊀唐代、非常の才を拔擢する爲に天子が自ら行ふ試驗を制擧といひ、宋には大科といふ。その科目は天子自ら定めた。〔宋史、葉祖洽傳〕太宗歲設二大科一。〔陳師道、贈二二蘇公一詩〕誰其識者有二歐陽一、大科異等固其常。〔書言故事、諸科類〕賢良曰二大科一。〔日知錄、科擧、制科〕唐制、天子自詔曰、制擧所三以待二非常之才一、唐志曰、所謂制擧者、其來遠矣、自レ漢以來、天子常稱二制詔一、道二其所レ欲レ問而親策レ之、唐興世崇二儒學一、雖二其時君賢愚好惡不レ同、而樂レ善求レ賢之意、未二始少怠一、故自二京師一外至二州縣一、有司常選レ之、士以レ時而擧、而天子又自詔、四方德行才能文學之士、或高蹈幽隱、與下其不レ能二自達一者上、下至二軍謀將略、翹關拔山、絕藝奇伎一、莫レ不二兼取一、其爲二名目一、隨二其人主臨レ時所レ欲、而列爲二定科一者、如二賢良・方正・直言・極諫一、博通二墳典一、達二於敎化一、軍謀宏遠、堪レ任二將率一、詳二明政術一、可二以理レ人之類、其名最著、而天子巡狩行幸、封二禪太山梁父一、往往會二見行在一、其所二以待レ之之禮甚優、而宏材偉論非常之人、亦時出二於其閒一、不レ爲レ無レ得也、宋初承二周顯德之制一、設二三科一、不レ限二前資一、見レ任二職官一、黃衣草澤、竝許二應詔一、景德增爲二六科一、熙寧以後、屢罷屢復、宋人謂二之大科一。㊁唐代、三位以上の者の着る衣服の模樣。大きな團花を刺繡す。科は窠にも作る。大窠(538)を見よ。〔舊唐書、輿服志〕(武德)四年八月勅、三品已上、大科、紬綾及羅、其色紫、飾用レ玉、五品以上、小科、紬綾及羅、其色朱、飾用レ金。

【大貨】535 タイクワ 陳の宣帝の時に鑄た貨幣。重さ六銖。〔隋書、食貨志〕宣帝太建十一年、又鑄二大貨六銖一、以レ一當二五銖之十一、與二五銖一並行。〔金石索、泉刀之屬、陳錢〕大貨六銖、宣帝鑄、以レ一當二五銖之十一、有二二種一、背無レ文。


陳大貨（金石索）

〖大貨鋪〗536 ta^4 huo^4 p'u^4 下等社會の飲食店。一膳飯屋。

【大華】537 タイクワ 草の名。〔管子、地員〕其種大華細華、白莖黑秀。〔纂詁〕尹知章云、草名。

【大窠】538 タイクワ 唐代、三位以上の者の着る衣服の模樣。窠は、綾錦等の地に區劃をつけて花模樣を刺繡したもの。大科(534)の㊁に同じ。〔教訪記〕聖壽樂舞、衣襟皆各繡二一大窠一、皆隨二其衣一、製二純縵衫一、下纔及レ帶、若二短汗衫一者、以籠レ之、所三以藏二繡窠一也。

【大過】539 タイクワ ㊀易、六十四卦の一。䷛〔巽下兌上〕、盛大に過ぎる象。衰難の世、立つて懼れず、遯れて悶えず、知られずして悔いない君子の大いに人に過ぎた象。〔易、大過〕大過、棟撓、利レ有レ攸レ往、亨、云云、象曰、澤滅レ木、君子以獨立不レ懼、遯レ世无レ悶。〔疏〕過、謂二過越之過一、非二經過之過一、此衰難之世、唯陽爻乃大能過二越常理一、以拯二患難一也、故曰二大過一、以二人事一言レ之、猶下若聖人過二越常理一、以拯中患難上也。〔本義〕太陽也、四陽居レ中、過レ盛、故爲二大過一。㊁他より大いにすぐれること。〔孟子、梁惠王上〕古之人所三以大過レ人者無レ他焉、善推二其所レ爲而已矣。㊂大きなあやまち。大過失。大咎。大愆。〔論語、述而〕五十以學レ易、可三以無二大過一矣。〔漢書、司馬遷傳〕夫不レ通二禮義之指一、至二於君不レ君、臣不レ臣、父不レ父、子不レ子、夫君不レ君則犯、臣不レ臣則誅、父不レ父則無レ道、子不レ子則不レ孝、此四行者、天下之大過也。㊃大きなわざはひ。大禍。〔荀子、脩身〕人有二此三行一、雖レ有二大過一、天其不レ遂乎。〔注〕若不幸而有レ過、天亦祐レ之矣、此固不レ宜レ有二大災一也。〔集解〕兪樾曰、過、當レ爲レ禍。

【大禍】540 タイクワ 大きなわざはひ。大過。大災。〔後漢書、五行志〕極憂時則有二大禍一。

【大夥】541 タイクワ おほぜいのなかま。〔福惠全書、保甲部、調集符信〕神奸巨盜黨羽衆多、大夥塩徒。

〖大夥兒〗542 ta^4 huo^3 êrh 大勢のもの。

【大廻】543 オホバ 下總國の地名。

【大悔】544 タイクワイ 大きな恨事。大なる後悔。〔詩、大雅、抑〕聽二用我謀一、庶無二大悔一。〔箋〕悔、恨也。

【大傀】545 タイクワイ 天地の大奇怪事。傀は怪。〔周禮、春官、大司樂〕大傀異烖。〔注〕傀、猶レ怪也、大怪異。

【大塊】546 タイクワイ 地をいふ。大魄。又、自然・造物者をいふ。〔莊子、齊物論〕子綦曰、夫大塊噫氣、其名爲レ風。〔疏〕大塊者、造物之名、亦自然之稱也。〔集釋〕兪樾曰、大塊者地也、塊、乃凷之或體、說文土部、凷、墣也、蓋卽中庸所謂一撮土之

多者、積而至㆓於廣大㆒則成㆑地矣、故以㆑地爲㆓大塊㆒也、司馬云、大朴之貌、郭注曰、大塊者無㆑物也、並失㆓其義㆒、此本說㆓地籟㆒、然則大塊者非㆑地而何。〔莊子、大宗師〕夫大塊載㆑我以㆑形、勞㆑我以㆑生、佚㆑我以㆑老、息㆑我以㆑死。〔疏〕大塊者自然也。〔郭璞、江賦〕煥㆓大塊之流形㆒。〔陶潛、自祭文〕茫茫大塊、悠悠高旻。〔張華、答㆓何劭㆒詩〕洪鈞陶㆓萬類㆒、大塊稟㆓羣生㆒。〔注〕善曰、大塊、謂㆑地也。〔李白、春夜宴㆓桃李園㆒序〕陽春召㆑我以㆓煙景㆒、大塊假㆑我以㆓文章㆒。

〔大塊翁〕547 タイクヮイヲウ　宋、任中師(1―416・・236)の號。

〔大塊噫氣〕548 タイクヮイノアイキ　天地のおくび。風をいふ。大塊(546)を見よ。

〔大塊的吃肉〕549 ta⁴ k'uai⁴ tê ch'ih¹ jou⁴　旨い食物を大食すること。

【大會】550 タイクヮイ　❶大いに集まる。多人數が集まる。又、多くの人の會合。盛大な會合。〔書、泰誓上〕惟十有三年春、大會㆓于孟津㆒。〔後漢書、耿弇傳〕車駕至㆓臨淄㆒、自勞㆑軍、羣臣大會。〔禰衡、鸚鵡賦序〕賓客大會。❷經濟政策をいふ。〔管子、揆度〕自㆓燧人㆒以來、其大會可㆓得而聞㆒乎。〔纂詁〕會、計也。❸佛（ダイヱ）大規模の法會。

【大隗】551 タイクヮイ　❶大道をいふ。道は廣大にして隗然たるによる。　隗は高。一說に、神、又は至人の名。〔莊子、徐無鬼〕黃帝將㆑見㆓大隗乎具茨之山㆒。〔釋文〕大隗、神名也、一云、大道也。〔疏〕大隗、大道、廣大而隗然空寂也、亦言、大隗、古之至人也。❷（タイキ）鎭の名。河南省密縣の東南。〔金史、地理志中〕鄭州、密云云、鎭二、大騩・鏁水。❸複姓。〔姓源韻譜〕天水有㆓隗氏㆒、出㆓於大隗氏㆒。

【大槐】552 タイクヮイ　大きな槐（ヱンジュ）。〔莊子、外物〕陰陽錯行、則天地大絯、於㆑是乎有㆑雷有㆑霆、水中有㆑火、乃焚㆓大槐㆒。〔釋文〕水中有㆑火、謂㆑電也、焚、謂㆓霹靂時燒㆓大樹㆒也。

〔大槐宮〕553 タイクヮイキュウ　唐の淳于棼が夢に遊んだ國。大槐安國。〔陳翰、大槐宮記〕唐淳于棼家㆓廣陵㆒、宅南有㆓古槐㆒、生豪㆓飲其下㆒、一日醉臥、夢二紫衣人云、槐安國王奉邀、指㆓古槐㆒入、見㆓大城㆒、題曰㆓大槐安國㆒、王配以㆓金枝公主㆒、曰、南柯郡不㆑理、屈㆑卿爲㆑守、由㆑是貴幸、榮盛無㆑比、凡二十三年、迨㆑寤、身依然臥、日未㆑隱㆓西垣㆒。

〔大槐安國〕554 タイクヮイアンコク　大槐宮に同じ。

【大魁】555 タイクヮイ　❶大勢力の頭目。巨魁。〔韓愈、祭㆓馬僕射㆒文〕殲㆓彼大魁㆒、厥勳孰似。❷科擧の試に於ける、殿試の最優等合格者。狀元。〔老學庵筆記、九〕天聖初、宋元憲公在㆓場屋㆒日、夢㆘魁㆓天下㆒故事㆖、四方擧人集㆓京師㆒、當㆓入見㆒、而宋公姓名偶爲㆓衆人之首㆒、禮部奏㆓擧人宋郊公等㆒、大惡㆑之、以爲、夢徵止㆑此矣、然其後卒爲㆓大魁㆒。〔稱謂錄、狀元、大魁〕合璧事類、宋祁兄弟同行逢㆓一異僧㆒、相曰、小宋當㆓大魁㆒、天下大宋亦不㆑失㆓科甲㆒、比㆓唱第㆒、小宋果大魁、章獻太后謂、弟不㆑可㆑先㆑兄、改㆓大宋㆒爲㆓第一㆒、小宋爲㆓第十㆒。❸笙の匏首に竹管を定所に插み、音調を和するところ。〔潘岳、笙賦〕統㆓大魁㆒以爲㆑笙。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、魁、猶㆑首也、大魁、匏首插㆓定所㆒也、翰曰、大魁、謂㆓匏中㆒也、言、竹管各守㆓一聲㆒以主㆓相應㆒、都合㆓於匏中㆒、乃爲㆑笙焉。

【大壞】556 タイクヮイ　大いにくづれやぶれる。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十三年）瑜等率㆓輕銳㆒、繼㆓其後㆒、靁鼓大進、北軍大壞。

【大皇】557 タイクヮウ　❶天。大荒。〔莊子、秋水〕彼方跐㆓黃泉㆒而登㆓大皇㆒。〔疏〕大皇、天也。❷非常に美しい。　皇は美。〔楚辭、賈誼、惜誓〕已矣哉、獨不㆑見㆓夫鸞鳳之高翔兮、乃集㆓大皇之壄㆒。〔注〕皇、美也、大美之藪。❸三國、吳の孫權をいふ。大帝。〔吳志、吳主傳〕夏四月、權薨、時年七十一、諡曰㆓大皇帝㆒。〔陸機、辨亡論上〕大皇既沒、幼主莅㆑朝。〔陸機、吳趨行〕大皇自㆓富春㆒、矯㆑首頓㆓世羅㆒。

〔大皇上〕558 ta⁴ huang² shang　皇帝陛下。

〔大皇曆〕559 ta⁴ huang² li⁴　清代の標準曆。

【大荒】560 タイクヮウ　❶大凶年。大饑饉。〔周禮、地官、大司徒〕大荒・大札、則令㆓邦國㆒移㆑民通㆑財。〔注〕大荒、大凶年也。〔國語、吳語〕大荒荐饑。❷中國から極めて遠いところ。日月の出入する所。轉じて、遠地・海外をいふ。〔山海經、大荒東經〕大荒之中有㆑山、名曰㆓合虛㆒、日月所㆑出。〔山海經、大荒西經〕大荒之中有㆑山、名曰㆓日月山㆒、天樞也、吳姖天門、日月所㆑入。〔曹植、七啓〕隱㆓居大荒之庭㆒。〔注〕銑曰、大荒、日月所㆑入之地、寄㆑遠以言㆑之。〔孫楚、爲㆓石仲容㆒與㆓孫皓㆒書〕遠㆓跡疆場㆒、列㆓郡大荒㆒。〔左思、吳都賦〕出㆓乎大荒之中㆒、行㆓乎東極之外㆒。〔注〕劉曰、大荒、謂㆓海外㆒也。❸天。そら。大空。虛空。大皇。〔韓愈、雜詩〕翩然下㆓大荒㆒、被髮騎㆓騏驎㆒。

〔大荒目〕561 オホアラメ　鎧の一種。札（ネサ）を大きくして、其の間を荒く絨したもの。〔保元物語、新院御所門門固〕白き唐綾を以て絨したる大荒目の鎧。

〔大荒落〕562 タイクヮウラク　太歲(木星)の巳にある年をいふ。巳の歲の異名。〔爾雅、釋天〕太歲在㆑巳曰㆓大荒落㆒。〔疏〕此別㆓太歲在㆑日在㆑辰之名也、云云、丁巳之歲曰㆓強圉大荒落㆒。〔史記、歷書〕疆梧大荒落四年。〔注〕索隱曰、疆梧、丁也、大荒落、巳也。〔淮南子、天文訓〕太陰在㆑巳、歲名曰㆓大荒落㆒。

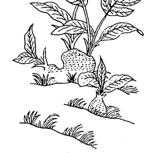
〔大荒西經〕563 タイクヮウセイキヤウ　山海經の篇名。

〔大荒東經〕564 タイクヮウトウキヤウ　山海經の篇名。

〔大荒南經〕565 タイクヮウナンキヤウ　山海經の篇名。

〔大荒北經〕566 タイクヮウホクキヤウ　山海經の篇名。

【大黃】567 タイクヮウ　❶弩弓の名。色黃にして大なるもの。〔史記、李將軍傳〕廣身自以㆓大黃㆒射㆓其裨將㆒。〔注〕集解曰、孟康曰、太公六韜曰、陷㆑堅敗㆓強敵㆒、用㆓大黃連弩㆒、韋昭曰、角弩色黃而體大也。❷（ダイワウ）藥草の名。初夏に莖を出し、綠色の小羣花をつける。根を下劑藥に用ひる。〔廣雅、釋草〕黃良、大黃也。〔本草、大黃〕釋名、黃良・將軍・火參・膚如、集解、頌曰、今蜀川河東陝西州郡皆有㆑之、以㆓蜀川錦文者㆒佳、其次秦隴來者、謂㆓之土番大黃㆒、正月內生㆓青葉㆒、似㆓蓖麻㆒、大者如㆑扇、根如㆑芋、大者如㆑盌、長一二尺、其細根如㆓牛蒡㆒、小者亦如㆑芋、四月開㆓黃花㆒、亦有㆘青紅似㆓蕎麥花㆒者㆖、莖青紫色、形如㆑竹、二八月、采㆑根去㆓黑皮㆒、切作㆓橫片㆒火乾、蜀大黃作㆓緊片㆒、如㆓牛舌形㆒、謂㆓之牛舌大黃㆒、二者功用相等、江淮出者、曰㆓土大黃㆒、二月開㆑花結㆓細實㆒。



大黃 ❷（三才圖會）

〔大黃江〕568 タイクヮウカウ　地名。廣西省桂平縣の東北。相思江と潯江との會合する處。

〔大黃蜂〕569 タイクヮウホウ　蜂の一種。くまばち。山蜂。〔本草、大黃蜂〕釋名、黑色者名㆓胡蜂㆒、壺蜂・𤬪甊蜂・玄瓠蜂、集解、頌曰、大黃蜂子在㆓人家屋上㆒作㆑房、大木閒卽𤬪甊蜂之子也、嶺南人取㆓其子㆒、作㆑饌食㆑之、其蜂黃色、比㆓蜜蜂㆒更大、按、嶺表錄異云、宜歙人好食㆓蜂兒㆒、山林閒大蜂結㆑房、大者如㆓巨鐘㆒、其房數百層、土人采時、着㆓草衣㆒蔽㆑身、以捍㆓其毒螫㆒、復以㆓烟火㆒熏㆑房、蜂母乃敢攀㆓緣崖木㆒、斷㆓其蒂㆒、一房蜂兒、五六斗至㆓一石㆒、揀㆘狀如㆓蠶蛹㆒瑩白者㆖、以㆑鹽炒暴乾、寄㆓入京洛㆒、以爲㆓方物㆒、然房中蜂兒三分之一、翅足已成、則不㆑堪㆑用、據㆑此則木上作㆑房、蓋𤬪甊之類、然今宣城蜂子、乃掘㆑地取㆑之、似㆓土蜂㆒也、郭璞注㆓爾雅㆒云、土蜂乃大蜂、在㆓地中㆒作㆑房、木蜂似㆓土蜂㆒而小、江東人並食㆓其子㆒、然則二蜂皆可㆑食久矣、大抵性味亦不㆓相遠㆒矣。

【大慌】570 タイクヮウ　非常なおそれ。大恐慌。

【大璜】571 タイクヮウ　佩玉の一種。夏后氏の璜。璜は璧を半分にしたもの。〔禮、明堂位〕崇鼎・貫鼎・大璜・封父龜、天子之器也。〔注〕大璜、夏后氏之璜。

【大釁】572 タイクヮウ　地名。〔水經、巨馬河注〕漆水又北逕㆓小釁東㆒、又東逕㆓大釁南㆒。

【大廓】573 タイクヮク　大きくひろい。廓は虛。〔淮南子、精神訓〕處㆓大廓之宇㆒、游㆓無極之野㆒。〔注〕廓、虛也。

【大濩】574 タイクヮク タイゴ　殷の湯王の樂の名。湯王が天下を救ひ、萬民をして所を得しめたるを歌つたもの。濩は護。樂歌は久しく亡んでゐたが、唐の元結が作補した。大護。〔周禮、春官、大司樂〕以㆓樂舞㆒教㆓國子㆒舞㆓雲門・大卷・大咸・大磬・大夏・大濩・大武㆒。〔注〕大濩、湯樂也、湯以㆑寬治㆑民、而除㆓其邪㆒、言㆕其德能使㆔天下得㆓其所㆒也。〔疏〕救護使㆔天下得㆓其所㆒也。〔淮南子、齊俗訓〕殷人之禮、云云、其樂大濩・晨露。〔注〕大濩・晨露、湯所㆑作樂。〔樂府詩集、新樂府辭、大濩〕有殷氏之樂歌也、其義蓋稱㆘湯救㆓天下㆒濩然得㆖㆑所。〔元結、補樂歌、大濩〕萬姓苦兮怨且哭、不㆑有㆓聖人㆒兮誰濩育、聖人生兮天下和、萬姓熙熙兮舞且歌。

【大獲】575 タイクヮク　❶大いにとらへる。獲はとらへ

る、手に入れる。〔左氏、襄、十一〕宋向戌侵レ鄭大獲。〔左氏、哀、二十六〕師侵二外州一大獲。㊁山名。四川省蒼溪縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、蒼溪縣〕大獲山、縣東三十里、有二大小二峯一、小峯上有二一石井一、出泉不レ竭、大峯上有レ池、廣數畝、謂二之天池一。

【大鑊】576 タイクワク　大きなかなへ。かまゆでの刑に用ひたもの。〔漢書、廣川惠王去傳〕與レ去共支解置二大鑊中一、取二桃灰毒藥一幷煑レ之。

【大玃】577 タイクワク　大猿をいふ。〔易林〕南山大玃、盜二我媚妾一。

【大猾】578 タイクワツ　非常に狡猾なこと。巨猾。〔史記、叔孫通傳〕弟子皆竊罵曰、事二先生一數歲、幸得二從降レ漢、今不レ能レ進二臣等一、專言二大猾一何也。

【大滑】579 タイクワツ　流星の名。〔晉書、天文志中〕飛星化爲レ雲、流下名曰二大滑一。

【大卷】580 タイクワン　㊀大部の書物。紙數の多い書卷。〔梅堯臣、樂掾自レ淮南廻示二新詩一詩〕入レ門先叫十年兄、袖中大卷持來評。㊁タイケン　黃帝の樂の名。其の德普く、民は族類あつて、共に樂しむことを得るを歌ふ。卷は卷聚で、族類のこと。〔周禮、春官、大司樂〕以二樂舞一教三國子舞二雲門・大卷・大咸・大磬・大夏・大濩、大武一。〔注〕黃帝曰二雲門・大卷一、云云、言丁其德如二雲之所一レ出、民得丙以有乙族類甲。〔疏〕卷者、卷聚之義、卽族類也。㊂應制書の一。殿試に應ずるもの。〔廣藝舟雙楫〕應制之書、約分二二種一、一曰二大卷一、應二殿試一者也、一曰二白摺一、應二朝考一者也、大卷彌滿、體尙二正方一、非二筆力雄健一、不レ足二鎭壓一、宜下參二學顏書一以撐中柱之上。

【大官】581 タイクワン　㊀地位の高い官職。又、その人。又、缺くべからざる大切な官職。〔禮、月令〕是月也、毋下以封二諸侯一立中大官上、毋下以割レ地行二大使一出中大幣上。〔左氏、襄、三十一〕大官大邑、身之所レ庇也。〔國語、周語上〕是故稷爲二大官一。〔注〕民之大事在レ農、故稷之職爲二大官一也。〔戰國、齊策〕大官未レ可レ得、小官公又弗レ欲。〔管子、立政〕不レ可レ使レ任二大官一。〔呂覽、應言〕大官、人臣之所レ欲也。〔史記、儒林傳〕皆以レ學至二大官一。〔漢書、張毆傳〕子孫咸至二大官一。㊁卿をいふ。〔國語、晉語七〕夫絳之知、能治二大官一。〔注〕大官、卿也。㊂漢代、天子の饌食を主る官。太官（**3**－**5834**・・111）に同じ。〔漢書、元帝紀〕初元元年六月、以二民疾疫一、令下大官損レ膳、減二樂府員一、省二苑馬一、以振中困乏上。〔後漢書、周擧傳〕除二大官重膳之費一。〔王維、敕賜二百官櫻桃一詩〕飽食不レ須愁二內熱一、大官還有二蔗漿寒一。㊃天子をいふ。〔稱謂錄、天子古稱、大官〕子華子、天子、大官也。

【大官史】582 タイクワンシ　大膳屬の唐名。〔職原抄〕大膳職、屬、唐名、大官史。

【大官署】583 タイクワンシヨ　大膳職の唐名。〔職原抄〕大膳職、唐名、大官署。

【大官丞】584 タイクワンジヨウ　大膳進の唐名。〔職原抄〕大膳職、進、唐名、大官丞。

【大官廚】585 タイクワンチユウ　左氏傳をいふ。魏の鍾繇が左氏傳を好み公羊傳を嫌つて、左氏は御馳走の豐富な大膳職の廚のやうなものだが、公羊は餅屋のやうなものだと述べた故事に本づく。〔魏志、裴秀傳、注〕司隸鍾繇不レ好二公羊一而好二左氏一、謂二左氏一爲二大官廚一、而謂二公羊一爲二賣餅家一。

【大官令】586 タイクワンレイ　大膳大夫の唐名。〔職原抄〕大膳職、大夫、唐名、大官令。

【大冠】587 タイクワン　㊀武官の冠。漢には武弁といふ。〔戰國、齊策〕田單將レ攻レ狄、云云、遂攻レ狄、三月而不レ克之也、齊嬰兒謠曰、大冠若レ箕、脩劍拄レ頤、攻レ狄不レ能レ下、壘二枯丘一。〔注〕大冠、武冠也、漢曰二武弁一、諸武官冠レ之。〔後漢書、光武紀上〕初諸家子弟、恐懼皆亡逃自匿、曰、伯升殺レ我、及レ見二光武絳衣大冠一、皆驚曰、謹厚者亦復爲レ之。〔注〕董巴輿服志曰、大冠者、謂二武官冠レ之。㊁大きな冠。文臣の冠。〔劉基、賣柑者言〕嶷二大冠一、拖二長紳一者、昂昂乎廟堂之器也、果能建二伊皐之業一耶。

【大冠子夏】588 タイクワンシカ　漢、茂陵の杜鄴（**6**－**14477**・・95）をいふ。杜鄴、字は子夏、杜欽と姓字を同じくす。共に材能を以て並び稱せられたが、杜欽は小冠を作つて常用したので、人は之を小冠杜子夏といひ、杜鄴を大冠杜子夏といつた。〔漢書、杜欽傳〕欽、字子夏、少好二經書一、家富而目偏盲、故不レ好レ爲レ吏、茂陵杜鄴與レ欽同二姓字一、俱以二材能一稱二京師一、故衣冠謂レ欽爲二盲杜子夏一以相別、欽惡三以レ疾見レ詆、迺爲二小冠一、高廣財二寸、由レ是京師更謂レ欽爲二小冠杜子夏一、而鄴爲二大冠杜子夏一云。

【大患】589 タイクワン　㊀重いやまひ。大病。重患。〔魏志、杜畿傳〕雖レ病終無二大患一。㊁おほきな心配。大憂。深憂。〔禮、祭法〕能捍二大患一則祀レ之。〔戰國、韓策〕此二人、王之大患也。㊂大きな缺點。〔史記、仲尼弟子傳〕三者、擧レ事之大患。〔漢書、藝文志〕此學者之大患也。㊃身のわづらひとなる寵辱をいふ。〔老子、十三〕寵辱若レ驚、貴二大患一若レ身。

【大喚】590 タイクワン　大いにさけぶ。大叫。〔曹植、鷂雀賦〕不二早首服一、捩レ頸大喚。〔宋書、孔琳之傳〕不二肯下レ馬、連呼大喚。

【大款】591 タイクワン　上古の人。顓頊の師の名。〔漢書、古今人表〕大款、顓頊師。

【大寰】592 タイクワン　天下。宇內。〔韻府引、吳萊、詩〕大寰幸混一、四海際二幅員一。

【大環】593 タイクワン　大きな輪。〔邵長蘅、夜遊二孤山一記〕凭レ檻四眺、則湖圓如レ鏡、兩高南屛諸峯、廻合如二大環一。

【大窾】594 タイクワン　大きなうつろ。〔莊子、養生主〕批二大郤一、導二大窾一。〔釋文〕大窾、空也。

【大還】595 タイクワン　㊀大いに還る。全部を擧げて歸る。〔左氏、襄、十四〕吾令實過、悔レ之何及、多遺二秦禽一、乃命大還。〔會箋〕以レ全レ師爲二上策一。㊁日が暘谷に出て女紀に至ることをいふ。小還（**4**－**7473**・・312）の㊀を見よ。〔淮南子、天文訓〕日云云、至二於鳥次一、是謂二小還一、云云、是謂二大還一。㊂仙藥の名。大還丹。〔李白、草二創大還一贈二柳官迪一詩〕赫然稱二大還一、與レ道本無レ隔。〔姚合、贈二王尊師一詩〕犬隨レ鶴去遊二諸洞一、龍作レ人來問二大還一。

【大還堂】596 タイクワンダウ　清、錢陸燦（**11**－**40563**・・442）の室名。

【大館】597 タイクワン　㊀大きなやかた。宏大なやかた。〔左氏、昭、二〕好合使成、臣之祿也、敢辱二大館一。〔白居易、九日宴集醉題二羣樓一云云詩〕自問有二何才一與レ政、高廳大館居二中央一。㊁オホダチ　姓氏。〔下學集〕。

【大關】598 タイクワン　㊀古、拷問に用ひた刑具。〔酉陽雜俎續集、金剛經鳩異〕郭司空離レ蜀之年、有二百姓趙安一、常念二金剛經一、因行二野外一、見三衣一襆遺二墓側一、安以レ無レ主、遂持還至レ家、言二於妻子一、鄰人卽告二官趙盜レ物、捕送レ縣、賊曹怒三其不二承認一、以二大關一挾レ脛折三段。㊁山名。古の邛來。四川省滎經縣の西。㊂縣名。民國、置く。もと烏蒙府の地。清、大關廳を置く。雲南省滇中道。〔清史稿、地理志〕雲南、昭通府、廳一、大關廳。㊃ta^4 kuan^1　城門外の賑かな街。㊄オホゼキ　㋑力士の階級で、橫綱の次位にあるもの。關脇・小結とあはせて三役といふ。㋺仲間の中で最もすぐれたもの。

【大歡】599 タイクワン　大いによろこぶ。大きなよろこび。大懽。〔史記、晉世家〕繆公大歡。〔陶潛、止酒詩〕好味止二園葵一、大懽止二稚子一。

【大觀】600 タイクワン　㊀ひろく示す。又、ひろくしめす所。〔易、觀〕大觀在レ上、順而巽、中正以觀二天下一。㊁十分に物事の道理を見拔いて心に會得する。大局から事物を觀察する。〔莊子、天下〕惠施以レ此爲三大二觀於天下一。〔淮南子、要路〕浩然可二以大觀一矣。〔賈誼、鵬鳥賦〕達人大觀兮、無二物不レ可。〔注〕翰曰、通達之人、以レ理觀レ之。㊂壯大なながめ。雄大ながめ。〔范仲淹、岳陽樓記〕此則岳陽樓大觀也。㊃すぐれて大きな見もの。〔蘇轍、上二樞密韓太尉一書〕然後可下以盡二天下之大觀一而無上レ憾矣。㊄舞樂の名。大觀舞（604）を見よ。㊅宋、徽宗、趙佶の年號。（1107—1110）㊆亭の名。安徽省懷寧縣の西。㊇字號。㋑宋、石鑑（**8**－**24024**・・110）の字。㋺宋、趙瞻（**10**－**37171**・・263）の字。㋩宋、王臨（**7**－**20823**・・1084）の字。㋥田中瓚の號。田中大觀（**7**－**21723**・・226）を見よ。「名。

【大觀堂】601 タイクワンダウ　清、余縉（**1**－**515**・・37）の室名。

【大觀帖】602 タイクワンデフ　大觀太清樓帖をいふ。宋の大觀の初、徽宗が、淳化帖石の壞れて誤が多いのを歎き、詔して蔡京に之を書かせ、太清樓下に刻石したもの。〔石刻鋪敍、大觀太清帖〕大觀初、徽宗視二淳化帖石已皴裂、且王著標題多レ誤、詔出二墨蹟一、更二定彙次一、幷武帝一帖合二於西晉武帝帖一、後擇二七卷一、後右軍帖內、誤入二智永

書列一、在二第五巻一、合二首巻古帖三段一、併而歸レ一、及躋二晉宣於晉武上一之類、使三先後次序不レ紊、迨二名臣帖一亦然、俾二蔡京書レ之、及三巻首末刊二石太清樓下一、此正國朝盛時、典章文物、燦然備具、百工技藝、咸精二其能一、視二淳化草創之始一、自然不レ同、且當時盡出二元藏眞帖一、臨摹定二其舛誤一、非レ若下外方但因二石刻一翻刊上、京雖二驕吝一、字學恐出二王著右一、是大觀之本、愈二於淳化一明矣。

【大觀燈】603 ta^4 kuan^1 têng^1 河南地方で、正月十四・五・六日に行はれる燈節見物に出掛けることをいふ。

【大觀舞】604 タイクワンブ 梁の樂舞の名。梁初は凱容・宣烈の舞を用ひてゐたが、武帝に至り、凱容を大觀舞、宣烈を大壯舞と改めた。大觀舞は文舞で、舜の韶舞に當り、大壯舞は武舞で、周の武舞に當る。沈約、共に舞歌を作る。〔隋書、音樂志上〕以二文舞一爲二大觀舞一、取下易云大觀在レ上、觀二天之神道一、而四時不上レ忒也。〔樂府詩集、舞曲歌辭、梁大壯大觀舞歌〕隋書樂志曰、梁初猶用二凱容宣烈之舞一、武帝定レ樂、以二武舞一爲二大壯舞一、文舞爲二大觀舞一、二郊明堂太廟三朝同用、古今樂錄曰、梁改二宣烈一爲二大壯一、卽周武舞也、改二凱容一爲二大觀一、卽舜韶舞也、陳以二凱容樂舞一用二之郊廟一、而大壯大觀猶同二梁舞一、所謂祠用二宋曲一、宴準二梁樂一、蓋取二人神不一レ雜也。〔沈約、大觀舞歌〕皇矣帝烈、大哉興聖、奄二有四方一、受二天明命一、居レ上不レ怠、臨レ下惟敬、擧無二僭則一、動無二失正一、物從二其本一、人遂二其性一、昭播二九功一、肅齊二八柄一、寬以惠レ下、德以爲レ政、三趾晨儀、重輪夕映、棧壑忘レ阻、梯山匪レ夐、如二日有一レ恆、與レ天無レ竟、載陳二金石一、式流二舞詠一、咸英韶夏、於レ茲比レ盛。

【大驩】605 タイクワン 大いによろこぶ。大なるよろこび。大歡(599)に同じ。〔史記、平原君傳〕太后大驩。

【大丸】606 タイグワン 劇藥の名。〔漢書、外戚、孝宣許皇后傳〕衍取二附子一、幷二合大醫大丸一、以飲二皇后一。〔注〕晉灼曰、大丸、今澤蘭丸之屬。

【大頑】607 タイグワン 明、張子明(**4**－**9812**··1096)の號。

【大願】608 タイグワン ダイグワン ❶おほきな願望。又、大いに願望する。〔左氏、昭、三十二〕宣二昭令名一、則余一人有二大願一矣。〔史記、范雎傳〕處二必然之勢一、可二以少有レ補二於秦一、此臣之所二大願一也。❷佛 大きな祈願。神佛などに祈ること。大願成就を見よ。

【大願船】609 ダイグワンセン 佛 菩薩が衆生を救ふのを、船が溺れた者を救ふに喩ふ。大願とは、一切衆生を救助する大きな願。〔往生要集、中、本〕無量清淨覺經云、阿彌陀佛與二觀世音大勢至一、乘二大願船一泛二生死海一、就二此娑婆世界一呼二喚衆生一、令レ乘二大願船一送二著西方一、若衆生有レ上二大願船一者、並皆得レ去、此是易往也。

【大願成就】610 ダイグワンジヤウジユ 大願の遂げられること。〔維摩經〕大願成就。

【大君】611 タイクン ❶おほぎみ。天子。〔易、師〕大君有レ命、以正レ功也。〔易、履〕武人爲二于大君一。〔孔叢子、論書〕天下之大君。〔潘岳、藉田賦〕大君戾止。❷天神をいふ。〔曹唐、三年冬大禮詩〕太乙天壇降二大君一、屬車龍鶴夜成レ羣。❸長子。〔張載、西銘〕大君者、吾父母之宗子。❹朝鮮王の子弟で、君に封ぜられたもの。❺德川時代、外國に對して用ひた將軍の稱。

【大君子】612 タイクンシ ❶大德ある君子。〔荀子、仲尼〕固曷足レ稱二乎大君子之門一哉。❷他人の父を尊んでいふ。〔後漢書、高彪傳〕謁二大君子之門一。〔剪燈餘話、月夜彈レ琴記〕自二尊公大君子修葺之後一、蹔一下降。

【大君長】613 タイクンチヤウ 勢力の大きな頭目トウモク。〔後漢書、東夷、濊傳〕悉封二其渠師一爲二縣侯一、皆歲時朝賀、無二大君長一。

【大君畑】614 オヂガハタ 近江國の地名。

【大訓】615 タイクン ❶三皇五帝の書。〔書、顧命〕赤刀・大訓・弘璧・琬琰、在二西序一。〔蔡傳〕大訓、三皇五帝之書、訓誥亦在レ焉。❷大きな教訓。立派な教訓。〔書、顧命〕嗣二守文武大訓一、無二敢昏逾一。〔傳〕繼二守文武大教一、無二敢昏亂逾越一。

【大勳】616 タイクン 大きな手がら。拔群の勳功。大功。〔書、泰誓上〕皇天震怒、命二我文考一、肅將二天威一、大勳未レ集。〔傳〕功業未レ成。〔左氏、成、十三〕又不レ能レ成二大勳一。

【大勳位】617 ダイクンヰ 勳一等の上に位する最高の勳等。

【大勳章】618 ダイクンシヤウ 民國大總統の佩用した勳章。日・月・星辰・山・龍・華蟲・宗彝・藻・火・粉米・黼・黻の十二章を畫き、大綬紅色。

【大軍】619 タイグン ❶多人數の軍勢。〔老子、三十〕大軍之後、必有二凶年一。〔司馬法、定爵〕大軍以固。〔史記、大宛傳〕是安能致二大軍一乎。〔周書、陳忻傳〕大軍西還。❷山名。湖北省漢陽縣の西南。小軍山と共に吳・魏が軍を陳ねた處といふ。〔水經、江水注〕江水東逕二大軍山南一、云云、又東逕二小軍山南一。

【大軍機】620 ta^4 chün^1 chi^1 清代の軍機大臣の稱。

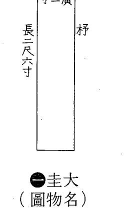
【大郡】621 タイグン ❶面積が大きく戸口の多い郡。〔後漢書、馮衍傳〕伯玉擢選剖レ符、專宰二大郡一。❷漢代、戸十二萬以上の郡をいふ。〔漢書、元帝紀〕建昭二年三月、行二幸河東一、祠二后土一、益二三河郡太守秩一、戸十二萬爲二大郡一。❸我が國古代の郡の區別の一。大化の制では方四十里以下、十六里以上の郡、大寶令の制では方二十里以下、十六里以上の郡をいふ。〔日本書紀、孝德紀〕大化二年正月甲子朔、凡郡以二四十里一爲二大郡一、三十里以下、四里以上爲二中郡一、三里爲二小郡一。〔戸令〕凡郡以二二十里以下十六里以上一爲二大郡一、十二里以上爲二上郡一、八里以上爲二中郡一、四里以上爲二下郡一、二里以上爲二小郡一。

【大羣】622 タイグン ❶大きなむれ。多數のあつまり。〔夏侯湛、繳彈賦〕張二弱弓一理二繁繳一、望二大羣一以送レ丸、審二追放一而必獲。❷清、王無黨(孟津の人)(**7**－**20823**··2119)の字。

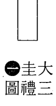
【大兄】623 タイケイ ❶兄の通稱。〔漢書、淮南厲王長傳〕從レ上入レ苑獵、與レ上同レ輦、常謂二上大兄一。〔古樂府、孤兒行〕大兄言辦レ飯、大嫂言視レ馬。❷長兄の稱。〔白居易、祭二浮梁大兄一文〕維元和十三年、歲在二丁酉一、閏五月己亥、居易等謹以二清酌庶羞之奠一、再拜跪奠二大哥于座前一。❸同輩、又は年長者を呼ぶ稱。〔吳志、呂蒙傳、注〕後魯肅上代二周瑜一、過レ蒙言議、常欲レ受レ屈、肅拊二蒙背一曰、吾謂、大弟但有二武略一耳、至二於今一者、學識英博、非二復吳下阿蒙一、蒙曰、士別三日、卽更刮レ目相待、大兄今論、何一稱二穰侯一乎。

【大刑】624 タイケイ ❶重刑。重い仕おき。〔書、費誓〕峙二乃芻茭一、無二敢不一レ多、汝則有二大刑一。〔周禮、天官、小宰〕其有レ不レ共、則國有二大刑一。〔禮、明堂位〕百官廢レ職、服二大刑一。〔左氏、昭、二〕不二速死一、大刑將レ至。〔國語、魯語上〕大刑用二甲兵一、其次用二斧鉞一。❷大きな劍。大劍。〔越絕書、越絕外傳記寶劍〕歐冶乃因二天之精神一、悉二其伎巧一、造二爲大刑三、小刑二一、一曰二湛盧一、二曰二純鉤一、三曰二勝邪一、四曰二魚腸一、五曰二巨闕一。

【大圭】625 タイケイ ❶天子が衣帶の間に搢んで笏とする玉。長さ三尺。首、は方形、縱四寸、巾六寸。首の下を細くし、墜ちないやうにする。玉藻には珽といふ。一說に、玉笏に同じ。〔周禮、春官、典瑞〕王晉二大圭一、執二鎭圭一、繅藉五采五就、以朝レ日。〔周禮、考工記、玉人〕大圭長三尺、杼上、終葵首、天子服レ之。〔注〕王所レ搢大圭也、或謂二之珽一。〔疏〕言二大圭一者、以二其長一、故得二大圭之稱一、言レ服レ之者、以下其搢二於衣帶之閒一、同中於衣服上、故以レ服言レ之。〔義疏〕圭首六寸、體正方、自レ首以下、度雖二減殺一、而體亦正方、故曰レ珽也、蓋搢二於帶閒一、非下大二其首一而削中薄其下上、則虞二失隊一、亦當レ有レ緷、不レ然、雖レ有二椎頭一亦隊。〔孫詒讓正義〕戴震云、大圭、笏也、天子玉笏、其首六寸、謂二之珽一、案、戴說是也。〔禮、禮器〕大圭不レ琢、大羹不レ和。❷ダイケイ 元の僧。晉江の人。姓は廖氏。字は恆白。號は夢觀道人。至正中、泉州の紫雲寺に居る。著に夢觀集がある。〔新續高僧傳、六十一〕。



❶大圭（名物圖）



❶大圭（三禮圖）

【大形】626 タイケイ ❶身の全形。身體。〔荀子、解蔽〕湛濁動二乎下一、清明亂二於上一、則不レ可三以得二大形之正一也。❷極めて大なる形體。〔晉書、皇甫謐傳〕循二方員於規矩一、未レ知二大形之無一レ外也。❸大きい形。おほがた。〔南齊書、垣榮祖傳〕作二大形棺材一。❹形は刑で、法の意。すぐれた法。大法。立派な模範。〔荀子、君道〕故天子不レ視而見、不レ聽而聰、不レ慮而知、不レ動而功、塊然獨

坐、而天下從レ之如二一體一、如二四支之從一レ心、夫是之謂二大形一。

【大坰】627 タイケイ 地名。山東省定陶縣。〔書、仲虺之誥、序〕湯歸レ自レ夏、至二于大坰一、仲虺作レ誥。〔疏〕大坰、地名、未レ知二所在一、當二是定陶向亳之路所一レ經。

〖大坰之慙〗628 タイケイノハヂ 大坰は地名。殷の湯王が天子の位につき、九鼎を亳都に遷して、大坰に至り、臣として夏の君を伐つたことを德にはぢたこと。〔王融、三月三日曲水詩序〕遷レ鼎息二大坰之慙一。〔注〕善曰、帝王世紀曰、湯即二天子位一、遂遷二九鼎于亳一、至二大坰一而有レ慙レ德。

【大奎】629 タイケイ 唐、權璩(**6－15926**‥25)の字。

【大扃】630 タイケイ 牛鼎(**7－19922**‥177)を荷ふ捧。長さ三尺。〔周禮、考工記、匠人〕廟門、容二大扃七个一。〔注〕大扃、牛鼎之扃、長三尺。

【大計】631 タイケイ ❶三年ごとに官吏の成績を考査すること。明・清は三年毎に外官を考査するを大計といひ、京官を考査するを京察といふ。〔周禮、天官、大宰〕三歲則大二計羣吏之治一、而誅二賞之一。〔注〕鄭司農云、三載考レ績。〔淸會典、吏部〕凡天下文武官、三載考レ績、以定二黜陟一、在レ內曰二京察一、在レ外曰二大計一。〔六部成語、吏部、大計、注解〕外省之官、三年考察一次、謂二之大計一。❷會計の總勘定。〔周禮、天官、序官、司會、注〕會、大計也、司會主二天下之大計一。❸大きなはかりごと。大きな計略。〔國語、吳語〕不レ勇則不レ能三斷レ疑以發二大計一。〔新書、藩彊〕然則天下大計可レ知已。〔後漢書、耿弇傳〕弇願歸二幽州一、益發二精兵一、以集二大計一。〔魏志、蔣濟傳〕非二戰攻レ之、失二於國家大計一。

【大奚】632 タイケイ 島の名。廣東省寶安縣の南。又、大漁山・大嶼山ともいふ。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、新安縣〕大奚山、縣南二百餘里大海中、環三十六嶼、週迴三百餘里、民居以二漁鹽一爲レ生、云云、明初有二萬姓者一、統二其衆一、今亦呼爲二老萬山一。

【大荊】633 タイケイ ❶南方をいふ。〔王褒、甘泉宮頌〕前接二大荊一、後臨二北極一。❷植物の名。蔓荊(**9－31784**‥8)の異名。牡荊を小荊といふに對す。〔本草、牡荊〕釋名、恭曰、牡荊作レ樹、不レ爲二蔓生一、故稱爲レ牡、非レ無レ實之謂一也、蔓荊子大、牡荊子小、故呼二小荊一。❸城の名。浙江省樂清縣の東北。清の順治中に城を築く。

【大啓】634 タイケイ ❶大いにひらく。〔詩、魯頌、閟宮〕大啓二爾宇一、爲二周室輔一。〔集傳〕啓、開。〔國語、鄭語〕若加レ之以レ德、可二以大啓一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕大啓二淮濆一。❷北魏の孝明帝の時、元法僧の僭年號。天啓の一稱。(525) ❸清、張焜(**4－9812**‥317)の字。

【大袿】635 オホウチギ 袿のゆき・たけを大きくしたもの。小袿の對。小袿(**4－7473**‥334)を見よ。〔宇津保物語、祭使〕女のよそひ、云云、おほうちぎ。

【大卿】636 タイケイ ❶官名。周代、六官(天官・地官・春官・夏官・秋官・冬官)の長たる卿をいふ。〔周禮、天官、序官、冢宰、治官之屬、疏〕云下自二大宰一至二旅下士一、轉相副貳、皆王臣也上者、大卿一人、小卿則二人、已下皆去レ上一倍者、是轉相副貳也。❷明、謝相(**10－35827**‥103)の字。

【大惠】637 タイケイ 大きなめぐみ。大きな好意。大恩。〔左氏、昭、六〕既不レ承レ命、敢忘二大惠一。〔左氏、昭、三十二〕伯父若肆二大惠一、復二二文之業一。〔漢書、鼂錯傳〕陛下幸憂二邊境一、遣二將吏一、發レ卒以治レ塞、甚大惠也。〔盧諶、贈二劉琨一詩序〕公肆二大惠一、遂二其厚恩一。

【大溪】638 タイケイ 川の名。❶河北省房山縣。❷浙江省の境。源は龍泉縣の台湖。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府、麗水縣〕大溪、在二城南二里一、一名洄溪、又名二洞溪一、自二龍泉一以西、匯二諸溪澗之水一、流入レ境、合二松溪遂昌港東一、至二青田縣南一、合二諸山谿之水一、至二溫州府界一入二於海一。❸福建省將樂縣の南。源は建寧縣の境。〔閩志〕西南溪、一名大溪。〔讀史方輿紀要、福建、延平府、將樂縣〕大溪、縣城南、其正源自二汀州府清流縣一流入レ境、別源自二邵武州建寧泰寧二縣界一入二縣境一、至二縣城西南金溪潭一合流、云云、又東入二南平縣界一、所謂西溪也。❹四川省巫山縣の西南。源は奉節縣。〔入蜀記〕大溪出二美梨一、大如レ升。

【大經】639 タイケイ ❶人の常にふむべき道。又、不變の條理。大道。常道。〔中庸〕唯天下至誠、爲下能經二綸天下之大經一、立二天下之大本一、知中天地之化育上。〔章句〕經、常也、大經者、五品之人倫。〔左氏、昭、十五〕禮、王之大經也。〔注〕經、道也。〔史記、太史公自序〕夫春生夏長秋收冬藏、此天道之大經也。〔德川齊昭、弘道館記〕弘道者何、人能弘レ道也、道者何、天地之大經、而生民不レ可二須臾離一者也。❷六藝をいひ、春秋を指す。〔中庸、能經二綸天下之大經一、鄭注〕大經、謂二六藝一、而指二春秋一也、大本、孝經也。❸唐・宋の世、大學の教科、或は進士の試驗に、經書を大・中・小の三級に分ち、唐は禮記・左傳を、宋は詩・禮記・周禮・左傳を大經とした。大經中經小經を見よ。❹宋代、黃帝內經・老子道德經をいふ。〔能改齋漫錄〕政和八年御筆、自今學レ道之士、所レ習經以二黃帝內經・道德經一爲二大經一、莊子・列子爲二小經一外、兼通二儒書一、俾三合爲二一道一、大經周易、小經孟子。❺字號。㋑明、韓邦問(**12－43159**‥373)の字。㋺明、張綸(宣城の人)(**4－9812**‥736)の字。㋩明、李經綸(**6－14459**‥1101)の字。

〖大經師〗640 タイキヤウジ もと朝廷御用の工人で、佛經・佛畫を裝潢したもの。今一般に表具師をいふ。〔人倫訓蒙圖彙、五、經師〕。

〖大經中經小經〗641 タイケイチユウケイセウケイ 唐・宋時代、大學の教科、又は進士の試驗に用ひた經書の分類。大經は、唐は禮記・左氏傳、宋は毛詩・禮記・周禮・左氏傳、中經は唐は毛詩・周禮・儀禮、宋は尙書・周易・公羊・穀梁・儀禮。小經は唐は周易・尙書・公羊・穀梁をいふ。我が國では、禮記・左氏傳を大經、毛詩・周禮・儀禮を中經、周易・尙書を小經とした。〔唐書、選擧志上〕凡禮記・春秋左氏傳爲二大經一、詩・周禮・儀禮爲二中經一、易・尙書・春秋公羊傳・穀梁傳爲二小經一。〔舊唐書、歸崇敬傳〕請以二禮記・左傳一爲二大經一、周禮・毛詩爲二中經一、尙書・周易爲二小經一。〔唐六典、尙書吏部、考功員外郎〕正經有レ九、禮記・左傳爲二大經一、毛詩・周禮・儀禮爲二中經一、周易・尙書・公羊・穀梁爲二小經一。〔宋史、選擧志一〕元佑四年、以二詩・禮記・周禮・左氏春秋一爲二大經一、書・易・公羊・穀梁・儀禮爲二中經一。〔學令〕凡禮記・左傳各爲二大經一、毛詩・周禮・儀禮各爲二中經一、周易・尙書各爲二小經一。

【大褂】642 ta^4 kua^4 長いひとへの上衣。馬褂に比して袖も丈も長い上衣。

〖大褂兒〗643 ta^4 kua^4 êrh 大褂に同じ。布衫兒。

【大慶】644 タイケイ ❶大いに目出たい。大きなさいはひ。おほきな悅び。〔晉書、王濬傳〕誠爲二大慶一。〔王羲之、十七帖〕足下今年政七十耶、知二體氣常佳一、此大慶也。〔資治通鑑、宋紀〕(明帝、泰始元年)殿下又開二黃閤一、實爲二公私大慶一。❷國家の大慶典。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕蓋自二嘉祐一以來、逢二國大慶一、必加二寵錫一。❸老年者の誕生日。❹年號。㋑宋代、西夏の景宗、李元昊の時。(1036—1038) ㋺宋代、西夏の仁宗、李仁孝の時。(1139—1143) ㋩元代、越(安南)の明宗、陳奣の時。一に太慶に作る。(1314—1323) ㋥清、聖祖の時、王耀祖の僭號。(1665) ㋭清、仁宗の時、黎樹の僭號。(1797)

〖大慶月〗645 タイケイゲツ 陰曆七月十五日をいふ。〔修行記〕七月中元、乃大慶之月。

〖大慶殿〗646 タイケイデン 宋の宮殿の名。天安殿を改名したもの。〔宋史、地理志一〕大慶殿。〔注〕舊名崇元、乾德四年重修、改曰二乾元一、太平興國九年改二朝元一、大中祥符八年改二天安一、明道二年改二今名一。

〖大慶法王〗647 タイケイハフワウ 明、武宗の自稱。朱厚照(**6－14424**‥772)を見よ。

【大稽】648 タイケイ 毎年の秋に、春・夏・秋三期の物價の高下と、賣買の多少とを總調査すること。〔管子、乘馬〕分春曰二書比一、立夏曰二月程一、秋曰二大稽一、與レ民數二得亡一。〔纂詁〕稽、計也、三時比二校物價貴賤粥賣多少一、與レ民計二其所レ得所一レ亡。

【大薊】649 タイケイ 草の名。鬼あざみ。〔本草、大薊小薊〕釋名、虎薊・馬薊・貓薊・刺薊・山牛蒡・雞項草・千鍼草・野紅花、集解、別錄曰、大小薊五月采、恭曰、大小薊葉雖二相似一、功力有レ殊、大薊生二山谷一、根療二癰腫一、小薊生二平澤一、不レ能レ消レ腫、而俱能破レ血、宗奭曰、大小薊皆相似、花如レ髻、但大薊高三四尺、葉皺、小薊高一尺許、葉不レ皺、以レ此爲レ異、作レ菜雖レ有二微芒一、不レ害レ人。

【大雞】650 タイケイ 大きな雞。〔韓愈・孟郊、鬬雞聯句〕大雞昂然來、小雞竦而待。

【大觿】651 タイケイ　大きな觿。觿は狀、錐に似、象骨で作り、結びめを解くに用ひるもの。〔禮、內則〕左佩二紛・帨・刀礪・小觿・金燧一、右佩二玦・捍・管・遰・大觿・木燧一。〔注〕觿、貌如レ錐、以二象骨一爲レ之。

【大叫】652 ダイケウ　大いにさけぶ。大喚。〔馮衍、與二婦弟任武達一書〕不レ原二其窮一、不レ揆二其情一、跳梁大叫、呼若レ入レ冥。〔杜甫、今夕行〕馮陵大叫呼二五白一、袒跣不三肯成二梟盧一。〔蕭穎士、贈二韋司業一書〕若乃箏歌亂奏、繼以擧白、博奕樗蒱、呼梟爭レ道、優姬艷妓、諠二雜左右一、易レ貌變レ聲、千態萬曲、卽嗒然氣盡、無レ所二覺知一、心識低佪、魂動神撓、但思下臨二長風一、一大叫上耳。〔陸游、樓上醉書詩〕三更撫レ枕忽大叫、夢中奪得松亭關。

〖大叫喚〗653 ダイケウクワン　❶大聲で叫ぶ。〔宋書、孔琳之傳〕連叫大喚。❷[佛]叫喚地獄のこと。苦痛の最も烈しい所。八大地獄(**2**－**1450**··352)の一。〔知度論、十六〕第四・第五名二叫喚・大叫喚一。

【大教】654 タイケウ　❶大きな教。立派なをしへ。〔禮、樂記〕五者天下之大教也。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕大教克明。〔孔子家語、哀公問政〕此之謂二大教一。❷佛の教。〔高僧傳〕友謙以三大教雖レ行、而經多二梵文一、未二盡翻譯一。❸儒教・佛教・道教の總稱。❹他人の教示を敬していふ。高教。

〖大教正〗655 ダイケウセイ　明治五年に定められ、十七年に廢止された最高位の教導職。正と權とに分れてゐる。

〖大教網〗656 ダイケウマウ　[佛]佛教をいふ。佛の教がよく衆生を死海の中から救ふ故にいふ。〔華嚴經〕張二大教網一、絙二生死海一。

【大喬】657 タイケウ　大橋小橋(661)を見よ。

〖大喬小喬〗658 タイケウセウケウ　大橋小橋(661)を見よ。

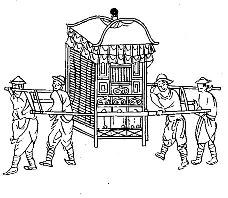
【大橋】659 タイケウ　❶大橋小橋を見よ。❷橋の名。㋑江西省清江縣の東。㋺滿洲遼寧省瀋陽縣の北。長大鐵路の沿線。❸鎭の名。㋑江蘇省江都縣の東。㋺江西省弋陽縣の北、銅山港水の西南岸。㋩湖南省江華縣の東南。清代、巡檢千總駐防があつた。

〖大橋墟〗660 タイケウキヨ　地名。❶江西省萬載縣の西北。❷廣東省曲江縣の東。❸廣西省昭平縣の東北。思勤江に臨む。

〖大橋小橋〗661 タイケウセウケウ　美人の譽が高かつた、漢の太尉橋玄の二女の名。周瑜、孫策に從つて皖城を攻めて二女を得、大橋を策自ら納れ、小橋を周瑜が妻とした。又、轉じて、單に二人のをばをいふ。大喬小喬。二喬(**1**－**247**··273)・及び二橋(**1**－**247**··274)の❶を見よ。〔吳志、周瑜傳〕頃之、策欲レ取二荊州一、以レ瑜爲二中護軍一、領二江夏太守一、從攻レ皖拔レ之、時得二橋公兩女一、皆國色也、策自納二大橋一、瑜納二小橋一。〔注〕江表傳曰、策從容戲レ瑜曰、橋公二女雖二流離一、得二吾二人一作レ壻、亦足レ爲レ歡。〔書言故事大全、親戚類〕今人呼二兩姨一曰二大橋小橋一。

〖大橋訥庵〗662 オホハシトツアン　下野の人。名は順。字は周道・承天。通稱は順藏。號は訥庵・屠龍居士。佐藤一齋の說を奉ず。宇都宮藩士。經學は程朱を宗とし、帷を江戶に下して子弟に教授す。坂下門事變の嫌疑を以て文久二年七月二十日獄中に死す。時に年四十七。從四位を贈らる。著に恐惶神論・窮語・元寇紀略・周易述義・邪教年表・持敬精義・時務救急論・歲在龍集考・正學危言・正學禦侮・陳龍川文鈔・訥庵文鈔・訥庵雜筆・訥庵詩抄・韜鈐雜考・闢邪小言・本朝三字經・孟子浩然章講義・老泉集鈔・隣疝臆義がある。〔近代著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大轎】663 タイケウ　大官の乘る立派な輿。〔桃花扇、逮社〕今日欽二賜蟒玉一、大轎拜レ客。



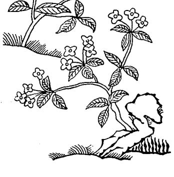
大轎（三才圖會）

【大堯】664 タイゲウ　帝堯を崇めていふ。〔論語、泰伯〕大哉、堯之爲レ君也。〔陳陶、續古詩〕大堯登二寶位一、麟鳳煥二晨居一。

【大翹】665 タイゲウ　草の名。れんげう。蓮翹(**9**－**31722**··64)の異名。〔爾雅、釋草、連、異翹、疏〕唐本注云、此物有二兩種一、大翹・小翹、大翹葉狹長如二水蘇一、花黃可レ愛、生二下濕地一、著レ子似二椿實之未レ開者一、作レ房、翹生出二衆草一、其小翹生二崗原之上一、葉花實皆似二大翹一而小細耳、是也。

【大郤】666 タイゲキ　おほきな隙。大隙。〔莊子、養生主〕依二乎天理一批二大郤一。〔釋文〕郤、閒也。

【大戟】667 タイゲキ　❶大きな戟。戟は刃幹に左右枝があり三鋒をなす長柄の兵器。異名、下馬仙。〔晉書、楊駿傳〕永熙中、溫縣有レ人、如レ狂、造レ書曰、光光文長、大戟爲レ牆、毒藥雖レ行、戟還自傷、及三駿居二內府一、以レ戟爲レ衞焉。❷藥草の名。高燈臺。〔爾雅、釋草、蕎、邛鉅、注〕今藥草、大戟也。〔本草、大戟〕釋名、邛鉅・下馬仙、集解、時珍曰、大戟生二平澤一、甚多、直莖、高二三尺、中空、折レ之有二白漿一、葉長狹如二柳葉一而不レ團、其稍葉密、攢而上、杭州紫大戟爲レ上、江南土大戟次レ之、北方綿大戟、色白、其根皮柔靭如レ綿、甚峻利能傷レ人、弱者服レ之、或至二吐血一、不レ可レ不レ知。



大戟❷（三才圖會）

【大隙】668 タイゲキ　おほきなすき。大郤。〔鬼谷子、抵巇〕巇者成二大隙一也。

【大決】669 タイケツ　河川の堤防が大いに決壞すること。〔左氏、襄、三十一〕我聞二忠善以損レ怨、不レ聞二作レ威以防レ怨、豈不二遽止一、然猶レ防レ川、大決所レ犯、傷レ人必多。

【大結】670 タイケツ　❶八股文形式の一。破題・承題と相應ずるもの。八股文(**2**－**1450**··173)を見よ。〔日知錄、試文格式〕篇末敷二演聖人言一、畢自攄レ所レ見、或數十字、或百餘字、謂二之大結一。❷ta^{4} chieh^{2} 官を買ふ時に用ひる同鄉官の保結（身元保證書）。

【大絜】671 タイケツ　不祥を祓ひ除くこと。絜は潔。大潔。〔後漢書、禮儀志上〕祓除二去宿垢一、疢爲二大絜一。

【大潔】672 タイケツ　大絜に同じ。〔海錄碎事、天、上巳〕後漢三月上巳、官民皆潔二於東流水上一、曰、洗濯祓除、去二宿垢一、疢爲二大潔一。

【大橛】673 タイケツ　大きなくひ。〔隋書、酷吏、王文同傳〕因令二左右一剡レ木爲二大橛一、埋二之于庭一。

【大闕】674 タイケツ　おほきな缺點。大缺。〔陸機、辨亡論、上〕虔修二遺虔一、政無二大闕一、守文之良主也。

【大月】675 タイゲツ　❶大きな月。〔呂覽、明理〕有二四月並出一、有二二月並見一、有三小月承二大月一、有三大月承二小月一。❷大の月。一・三・五・七・八・十・十二月をいふ。日數が三十一日ある月。陰曆では三十日ある月。〔書、洪範、二曰月、疏〕月從レ朔至レ晦、大月三十日、小月二十九日、所三以紀二一月一也。

〖大月氏〗676 ダイゲッシ　漢代の西域の國名。月氏(**5**－**14330**··145)を見よ。〔漢書、西域傳上〕大月氏國、治監氏城、去二長安一萬一千六百里。〔後漢書、西域、大月氏傳〕大月氏國、居二藍氏城一。

〖大月小月〗677 ダイゲツセウゲツ　❶大きい月と小さい月。大月の❶を見よ。❷大の月と小の月。大月の❷を見よ。〔周髀算經〕置二小月二十九日、置二大月三十日。〔白虎通、日月〕日行二一度一、月、日行二十三度一、月及レ日爲二一月一、至二二十九日一、未レ及七度、卽三十日者、過行七度、日不レ可レ分、故月乍大小。

【大俠】678 タイケフ　すぐれた男だて。おほおやぶん。〔史記、季布傳〕滕公心知二朱家大俠一。〔史記、灌夫傳〕諸所二與交通一、無レ非二豪傑大俠一。〔漢書、公孫賀傳〕安世者、京師大俠也。

【大業】679 タイゲフ　❶偉大な事業。偉業。又、帝王の業。帝業。〔易、繫辭上〕盛德大業至矣哉、富有之謂二大業一、日新之謂二盛德一。〔書、盤庚上〕紹二復先王之大業一、底レ綏二四方一。〔史記、韓世家〕卜二大業之不レ遂者一爲レ祟。〔漢書、律歷志上〕朝聘會盟、易大業之本也。〔後漢書、律曆志下〕大業載レ之、吉凶生焉。❷深遠な學業。〔漢書、董仲舒傳贊〕下レ帷發レ憤、潛二心大業一、令二後學者有レ所二統壹一。❸律令制で、文章・明經・明法等の最終試驗を受ける者。又、その合格者をいふ。❹隋の煬帝、楊廣の年號。(605－617)❺字號。㋑晉、郭奕(**11**－**39474**··14)の字。㋺唐、韋博(**12**－**43108**··129)の字。㋩清、黃易(**12**－**47926**··51)の號。❻清、徐大椿(**4**－**10110**··554)の原名。

〖大業帝〗680 タイゲフテイ　隋の煬帝、楊廣(**6**－**15112**··106)をいふ。

〖大業陂〗681 タイゲフハ　池の名。安徽省霍丘縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、壽州、霍丘縣〕大業陂、縣東北十五里、周二十餘里、人呼爲二水門

塘一、相傳、古名鎭淮洲、陷而爲レ陂。

〖大業拾遺記〗682 書名。二卷。唐、顏師古撰といふも、實は僞託。南部煙火錄ともいふ。〔四庫提要、子、小說家類存目〕。

【大广】683 淸、康廣仁(4－9376··173)の號。

【大犬】684 星座の名。冬春の際、南方に見える。オリオン座の東南。天狼星はこの宿に屬し、北方に小犬宿がある。

【大建】685 ㊀陳の孝宣帝、蕭頊の年號、太建の一稱。(569－582)㊁ta^4 chien^4 大の月。

【大峴】686 山名。㊀山東省臨朐縣の東南。〔宋書、武帝紀上〕慕容超聞二王師將一レ至、其大將公孫五樓說レ超、宜三斷據二大峴一。〔魏書、刁雍傳〕雍謂二(叔孫)建一曰、大峴以南、處處狹隘、不レ得レ方レ軌。㊁安徽省含山縣の東北。赤焰山ともいふ。南北朝時代の險要の地。〔資治通鑑、宋紀〕(孝武帝、孝建元年)魯爽不レ能レ進、留軍二大峴一、使三魯毹屯二小峴一。〔注〕小峴在二合肥之東一、大峴又在二小峴之東一。〔讀史方輿紀要、江南、名山〕硯山、有レ二、大峴山在二和州含山縣東北十三里一、小峴山在二含山縣北二十里一、輿地志、小峴在二合能之東一、大峴在二小峴之東一、是也、胡三省曰、六朝都二建康一、云云、大小峴爲二往來之要路一、而小峴尤爲二險阨一。

【大圈】687 ㊀球の中心を過ぎる平面が、球と交はる線。〔新法曆書、天漢〕渾天衆圈有レ大有レ小、如二黃赤二道過極經圈・極至極分交圈・地平圈等一、凡與レ地同レ心者、皆大圈也。㊁大きい國。大國。〔太玄經、交〕大圈閎閎、小圈交レ之。〔注〕圈、國也。㊂文章の題目の上、又は數文相連なるとき、各文の初行の頭につける○をいふ。

【大堅】688 ㊀漢代、官吏が邪氣を避けるため佩びた飾。剛卯(2－2042··108)に同じ。〔輟耕錄、剛卯〕毅改者佩印也、以二正月卯日一作、故謂二之剛卯一、又謂二之大堅一、以辟レ邪也。㊁晉、荀藩(9－30929··53)の字。

【大愆】689 大きなあやまち。大過。〔漢書、郊祀志下〕靡レ有二大愆一、而久無二繼嗣一。

【大萱】690 姓氏。〔和爾雅〕。

【大劍】691 ㊀大きな劍。大刀。〔五代史、史弘肇傳〕安二朝庭一定二禍亂一、直須二長槍大劍一、若二毛錐子一、安足レ用哉。㊁山名。一名、劍門山。四川省劍閣縣の北。古の梁山。〔水經、漾水注〕小劍戍北西去二大劍一三十里、連山絕險、飛閣通衢、故謂二之劍閣一也。〔華陽國志〕武侯相レ蜀、鑿レ石架レ空、始爲二飛閣一、以通二行道一。

【大賢】692 智德の甚だ優れた人。〔孟子、離婁上〕天下有レ道、小德役二大德一、小賢役二大賢一。〔管子、宙合〕大賢之德長。〔漢書、董仲舒傳〕雖レ有二大賢一、不レ能二善治一也。〔晉書、陳頵傳〕英偉大賢、多出二於山澤一。

【大憲】693 ㊀大きなおきて。大法。〔梁肅、唐丞相謚文貞楊謚議代二太常一答二蘇端駮議一文〕謹按、謚法貞之例有レ三、淸白守節曰レ貞、大憲克就曰レ貞、憂國忘レ死曰レ貞。㊁明の武宗の時、越(安南)の黎標の僭年號。(1518－1519)㊂憲法をいふ。

〖大憲章〗694 西曆紀元一二一五年、英國の國民が其の王ジョンの專制を憤り、王の權利を限定し、人民の身體及び財產を保證せんとして王に迫つて調印せしめた規定で、英國憲法の基礎となる。マグナ・カルタ。Magna Charta

〖大憲臺〗695 明代、巡撫(4－8684··84)の異稱。〔稱謂錄、巡撫、大憲臺〕李日華官制備攷、巡撫從二三品一、稱二大都憲・大憲臺・大柱國一。

〖大憲副〗696 明代、按察司の副使をいふ。按察司は刑法按劾の事を掌る處。按察使を憲臺、副使を憲副と稱す。〔明史稿、職官志〕提刑按察司、按察使一人、正三品、副使正四品、僉事正五品無二定員一、按察使掌二一省刑名按劾之事一、副使僉事、分レ道巡察、布政司參政參議、分二司諸道一、督二糧道一、督二冊道一、分二守道一、按察司副使僉事、分二司諸道一、提二督學道・淸軍道・驛傳道・分巡道・兵備道一。〔稱謂錄、各道、大憲副〕李日華官制備攷、按察副使、正四品、稱二大憲副一、按察僉事、正五品、稱二大憲僉一。

〖大憲僉〗697 明代、按察司の僉事をいふ。大憲副を見よ。

【大縣】698 ㊀大きな縣。〔漢書、賈誼傳〕臣竊料、匈奴之衆、不レ過二漢一大縣一。㊁㋑河內國の古郡の名。㋺姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十六〕。

【大臉】699 ta^4 lien^3 あつかましいこと。面皮の厚いこと。臉は顏。〔紅樓夢、二十九回〕前兒虧儞還有那們大臉。

【大蹇】700 大いになやむ。又、大いにたがふ。〔易、蹇〕九五、大蹇、朋來。〔莊子、秋水〕無レ拘二而志一、與レ道大蹇。

【大獻】701 ㊀戰捷を祖廟に告げること。〔周禮、春官、大司樂〕王師大獻、則令レ奏二愷樂一。〔注〕大獻、獻二捷於祖一。㊁多くの捧げもの。重い禮物。〔韓詩外傳、八〕楚國之法、商人欲レ見二於君一者、必有二大獻重質一。

【大讁】702 重いとが。大罪。大過。〔北史、李彪傳〕臣有二大讁一、則白冠氂纓、盤水加劍、造レ室而請レ死。

【大權】703 ㊀天子の權柄。大柄。統治權。〔新書、大都〕或專二大權一、以偪二天子一。〔梁簡文帝、奉二阿育王寺錢一啓〕懸二天鏡於域中一、運二大權於宇內一。〔唐書、陸贄傳〕京邑如レ身、王畿如レ臂、而四方如レ指、此天子之大權也。㊁明治憲法に於て憲法上の機關の參與によらずに政務を親裁し給ふ天皇の權力をいふ。

〖大權事項〗704 明治憲法に於て天皇の親裁せらるべきもので、他の機關に委任することを許さずと定めた事項。

〖大權命令〗705 明治憲法に於て憲法上、大權に屬する事項につき、天皇の發せられる命令。

【大元】706 ㊀漢の武帝の太初元年に、閎鄧平の作つた太初曆をいふ。〔漢書、兒寬傳〕將レ建二大元本瑞一。〔注〕蘇林曰、大元、太初歷也。㊁元朝の尊稱。〔元史、世祖紀四〕至元八年十一月壬戌建二國號一曰二大元一。㊂元、張嗣成(4－9812··1131)の號。

〖大元結〗707 化粧もとゆひ。繪元結。

〖大元帥〗708 ㊀國家の兵權を總攬する官。總大將。〔續文獻通考、職官考、都元帥府〕大元帥府大臣總二軍馬之政一、有二大元帥・副元帥一。㊁もと日本陸海軍を統率したまふ天皇陛下を稱した。㊂［佛］全軍の總統率者。明王部の總司といふ天竺の神。身體は黑青色、四面八臂で、國家鎭護、怨敵退散を司る。帥の字は讀まないことを口傳とす。大元明王を見よ。

〖大元寶〗709 ta^4 yüan^2 pao^3 大銀錢。〔還魂記、鬧宴〕席上有金花樹銀臺盞、長尺頭大元寶。

〖大元帥法〗710 ［佛］古、禁中にて正月の初、七日間行つた大法會。帥の字は讀まないのを口傳とした。〔名目抄〕。

〖大元明王〗711 ［佛］明王部の總帥。身の丈八尺、靑黑色で、四面八臂、忿怒の相を現し、刀・戟・輪・鈷・杵等を持つ。如來の垂迹で、國家を鎭護し怨敵を降伏するといふ。大元帥。

【大言】712 ㊀すぐれてよいことば。偉大な言葉。〔莊子、齊物論〕大言炎炎、小言詹詹。㊁おほげさにいふこと。大風呂敷。からいばり。〔書、盤庚上〕丕乃敢大三言汝有二積德一。〔史記、高祖紀〕劉季固多二大言一、少二成事一。㊂高慢なことば。おほぐちをきくこと。大語。〔漢書、王尊傳〕外爲二大言一、倨嫚姍レ上。〔舊唐書、房琯傳〕琯性疎闊、徒大言耳、非二宰相器一也。㊃山名。一に大谷に作る。〔山海經、大荒東經〕東海之外、大荒之中、有レ山、名曰二大言一。〔箋疏〕懿行案、初學記五卷、引二此經一作二大谷一。

〖大言壯語〗713 おほげさにいふ。えらさうな口のきき方。おほぼらを吹く。

〖大言不レ慙〗714 實行の出來ないことを喋つて、心にはづかしいと思はないこと。〔論語、憲問〕其言之不レ怍、則爲レ之也難。〔集注〕大言不レ慙、則無二必爲之志一。

〖大言難レ入二俚耳一〗715 條理を盡した立派な言葉は、俗人に諒解され難い。〔莊子、天地〕大聲不レ入二于里耳一。

〖好二大言一而少二實行一〗716 大言壯語を好んで實行しないこと。〔風俗通、過譽〕其俗士大夫本矜、好二大言一而少二實行一。

〖大言入則望二大利一小言入則望二小利一〗717 大事を立つべき大言を進めて君が之を受納すれば、從つて臣は大祿を望み、小事を立つべき小言を進めて君が之を受納すれば、從つて臣は小祿を望む。利は祿賞。〔禮、表記〕子曰、事レ君、大言入則望二大利一、小言

入則望二小利一、故君子不下以二小言一受中大祿上、不下以二大言一受中小祿上。〔注〕大言可三以立二大事一也、小言可三以立二小事一也、入爲二君受レ之、利、祿賞也。

【大阮】718（タイゲン） ❶樂器の名。〔宋史、樂志一〕(李)照因自造二葦籥・清管云云大阮・大稽一、凡十一種、求レ備二雅器一。❷人の叔父を稱する語。晉の阮籍と、甥の咸を大小阮と稱したことによる。〔紫薇詩話〕嘗贈二舍弟一詩云、大阮平生余所レ愛、小阮相逢亦傾蓋。

【大限】719（タイゲン） 天命の終末。壽命の終り。俗諺に、夫妻本是同林鳥、大限來時各自飛といふ語がある。〔元史、史天澤傳〕因附奏曰、臣大限有レ終、死不レ足レ恨。〔水滸傳、八十五回〕羅眞人笑道、大限到來、豈容二汝等留戀一乎。

【大原】720（タイゲン） ❶おほもと。大本。〔漢書、董仲舒傳〕道之大原出二於天一、天不レ變、道亦不レ變。❷地名。㋑晉陽をいふ。太原(3－5834‥128)の❶に同じ。〔左氏、昭、元〕障二大澤一、以處二大原一。〔注〕大原、晉陽也。㋺周の宣王の料民の地。今の太原縣の陽曲に當る。清一統志は今の甘肅省固原縣の北界とする。〔詩、小雅、六月〕薄伐二玁狁一、至二于大原一。〔集傳〕大原、地名、亦曰二大鹵一、今在二大原府陽曲縣一。

〖大原女〗721（オホハラメ・オハラメ） 柴・薪・花などを頭上に戴き、京都の市街に出て商ふ京都近郷の婦女。

【大絃】722（タイゲン） 琴・琵琶などの太い絲。〔史記、田敬仲世家〕夫大絃濁以春溫者、君也、小絃廉折以清者、相也。〔淮南子、泰族訓〕張レ琴者、小絃急而大絃緩、立レ事者、賤者勞而貴者逸。〔白居易、琵琶行〕大絃嘈嘈如二急雨一、小絃切切如二私語一。

〖大絃急者小絃絕〗723（タイゲンキフナレバセウゲンタユ） 琴瑟の大絃が急調子に激しく彈奏せられると小絃の音が亂し害せられる。政治が嚴格に過ぎると人民を賊害することの喩。〔後漢書、陳寵傳〕爲レ政猶レ張二琴瑟一、大絃急者小絃絕、故子貢非二臧孫之猛法一、而美二鄭喬之仁政一。

【大戸】724（タイコ） ❶大いに戸口を閱する。〔左氏、成、二〕乃大戸、已レ責、逮レ鰥、救レ乏、赦レ罪、悉レ師。〔注〕閱二民戸口一也。❷大飲酒家。上戸。〔延漏錄〕凡飲以二一人一爲二錄事一、以糾二坐人一、須レ擇下有二飲材一者上、材有レ三、謂二善令・知音・大戸一也。〔餘冬序錄〕人能飲不レ能飲、有二大戸小戸之稱一、唐宋酒令詩話言レ之多矣、今人殆相循而云レ爾、或問、此稱定起二何時一、吳志、孫皓每レ饗二宴人一、以二七升一爲レ限、小戸雖レ不レ入レ口、並澆灌取レ盡、是三國以前、事二麴蘖一者、已有二此品目一也。〔稱謂錄、酒、大戸〕清異錄、席間健飲客曰二大戸一、量小者曰二小戸一、亦見二白樂天集一。❸かねもち。大家。富家。豪家。財産家。〔水滸傳、二十四回〕那清河縣裏有二一個大戸人家一。〔東華續錄〕道光二十六年、紳富謂二之大戸一、庶民謂二之小戸一。❹大寶令の制で、戸を四等に分けた中の第一等の戸。一戸に八丁以上あるものをいふ。〔令集解、十二〕慶雲三年格云、一戸之內、八丁以上爲二大戸一。❺（オホヘ）姓氏。〔新撰姓氏錄考證、七〕。

〖大戸人家〗725 ta^4 hu^4 jen^2 chia 門地高い豪族。富豪。財産家。

【大古】726（タイコ） おほむかし。特に唐虞以前をいふこともある。大昔。太古。〔儀禮、士冠禮〕大古冠布。〔注〕大古、唐虞以上。〔荀子、非十二子〕羣二天下之英傑一、而告レ之以二大古一。

【大呼】727（タイコ） 大聲で叫ぶ。大譁。〔史記、主父偃傳〕偏袒大呼、而天下從レ風。〔蘇軾、錢氏表忠觀碑〕奮挺大呼、從者如レ雲。〔張問陶、醉後口占詩〕十二萬年無二此樂一、大呼前輩李青蓮。

〖大呼小叫〗728 ta^4 hu^1 hsiao^3 chiao^4 大聲で叫び小聲で叫ぶ。幾度も呼ぶ。〔燕子箋、僞緝〕莫要大呼小叫的。

【大固】729（タイコ） 山名。浙江省臨海縣の西北。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府、臨海縣〕大固山、府治西北、高八十丈、周五里、蜿蜒磅礴如二屛障之狀一、舊經晉孫恩作レ亂、刺史辛景休二於此一、掘レ塹守レ之、恩不レ能レ犯、因名、一名、龍顧山。

【大姑】730（タイコ） をつとの姉。こじうとめ。女公。〔釋親考〕夫之姊爲二女公一、丘氏曰、俗謂二之大姑一。

〖大姑子〗731 ta^4 ku^1 tzŭ 夫の姉。大姑。

〖大姑塘〗732（タイコタウ） 地名。一に姑塘に作る。江西省九江縣の東南で、鄱陽湖の西岸。清に至り、九江鈔關を設置した。

〖大姑娘〗733 ta^4 ku^1 niang ❶姊娘。長女。❷嫁した娘。

【大孤】734（タイコ） ❶山名。㋑滿洲遼寧省遼陽縣の南。鐵を產す。㋺滿洲吉林省伊通縣の西南。奉天省開原縣に通ず。附近に小孤山がある。㋩滿洲吉林省寧安縣南の鏡泊湖中の島。㋥大湖(743)の❷を見よ。㋭江西省の鄱陽湖(古名、彭蠡湖)中の島。一名、鞋山。〔顧況、小孤山詩〕大孤山遠小孤出、月照洞庭歸二客船一。〔讀史方輿紀要、江西、九江府、德化縣〕大孤山、在二府東南四十里、彭蠡湖中一、與二南康府一分レ界、西面二洪濤一、一峯獨聳、唐顧況云、大孤山盡小孤出、蓋彭澤之小孤山與二此山一相望也、山形似レ鞋、一名鞋山。❷港の名。滿洲遼寧省莊河縣の東の大洋河口。

【大沽】735（タイコ） ❶川の名。源は山東省黃縣南の蹲犬山。南流して萊陽縣の西南を經、小沽河と合流して沽河となり、膠萊河と合して海に入る。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、平度州〕大沽河、州東八十里、源出二登州府黃縣南蹲犬山一、經二招遠・萊陽二縣界一、至二州東南故卽墨城一、與二小沽河一合、經二膠州卽墨縣界一入レ海、通謂二之沽水一。❷（ターク－）地名。大沽口に同じ。

〖大沽口〗736（ターク－コウ） 地名。河北省天津縣の東南、白河の入口。北岸の塘沽と相對して海陸の咽喉に當り、北京の門戸をなす。咸豐八年、砲臺を修築したが、庚子の役に毀れた。〔清一統志〕大直沽東南百餘里爲二大沽口一、卽杜佑通典所レ云、三會海口也。〔畿輔通志〕大沽河、長二百七十里、海口寬一百五十丈、水深一丈五尺、內有二大沽鎭一、協副將同知駐防。

【大狐】737（タイコ） 複姓。〔萬姓統譜〕大狐、姬姓、世本、晉大夫大狐伯生レ突、突生レ饒、號爲二大狐氏一。

【大股】738 ta^4 ku^3 大株主。

【大虎】739（タイコ） 山名。❶打虎山をいふ。滿洲遼寧省黑山縣。❷廣東省東莞縣の南沙山の東北。❸廣東省中山縣の西南の虎跳門外の海中に在る山。西南に又、二虎・三跳がある。〔讀史方輿紀要、黃東、廣州府、東莞縣〕虎頭山、縣西南五十五里、大海中有二大虎・小虎二山一、俗號二虎頭門一。

【大故】740（タイコ） ❶甚だ惡い行。姦惡。大罪。〔論語、微子〕故舊無二大故一則不レ棄也。〔集解〕孔安國曰、大故、謂二惡逆之事一。〔後漢書、寒朗傳〕咸共言二妖惡大故一。❷父母の喪。大憂。大喪。〔孟子、滕文公上〕不幸至二於大故一。〔集注〕大故、大喪也。❸おほきな出來事。災寇。〔周禮、地官、小司徒〕凡國之大事致レ民、大故致二餘子一。〔注〕大故、謂二災寇一也。〔禮、曲禮上〕非レ有二大故一、不レ入二其門一。〔疏〕大故、謂二喪病之屬一也。〔漢書、外戚上、孝宣許皇后傳〕婦人免乳大故、十死一生。〔注〕大故、大事也。❹墨子の論理上のことば。理由を表はす「故」を分けて大故と小故とする。今の語の大前提にあたる。〔墨子、經、上〕故、所レ得而後成也。

【大胡】741（オホコ） 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【大瓠】742（タイコ） ❶大きなふくべ。〔莊子、逍遙遊〕魏王貽二我大瓠之種一、我樹レ之成、其實五石、以盛二水漿一、其堅而不レ能二自擧一也。❷清、沈譽生(6－17189‥661)の名。

【大湖】743（タイコ） ❶おほきいみづうみ。❷山名。㋑河南省泚源縣の東北。大孤山・壺山・大胡山ともいふ。〔張衡、南都賦〕天封・大狐。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、唐縣〕大胡山、在二縣東北三十里一、亦曰二大狐一、張衡南都賦、天封二大狐一、神仙之阨、是矣、亦曰二壺山一、泚水所レ出。㋺江蘇省修水縣の北。湖北省通山縣の界。頂の池は注下して百菖水となる。❸鎭の名。㋑江西省贛縣の北、大湖水の贛江に入る口。俗稱は大湖江。㋺福建省閩侯縣の北。

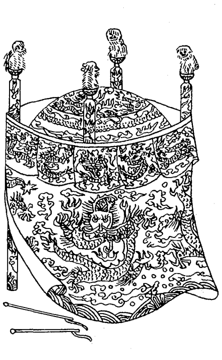
【大絝】744（タイコ） 大きなはかま。〔漢書、廣川惠王去傳〕短衣大絝長劍、去好レ之。

【大軱】745（タイコ） 大きな骨。大骨。〔莊子、養生主〕技經二肯綮一之未レ嘗、而況大軱乎。〔疏〕軱、大骨也。

【大賈】746（タイコ） 富裕な商人。大商。大商人。大賈人。豪商。おほあきんど。〔管子、國蓄〕大賈蓄家、不レ得三豪二奪吾民一矣。〔史記、貨殖傳〕漢興、海內爲レ一、開二關梁一、弛二山澤之禁一、是以富商大賈、周二流天下一、交易之物、莫レ不三通二得其所レ欲。

〖大賈人〗747（ダイコジン） 大商人。大賈に同じ。〔史記、呂不韋傳〕呂不韋者、陽翟大賈人也、往來販レ賤賣レ貴、家累二千金一。

【大鼓】748（タイコ） ❶樂器の名。軍中で鳴らすつづみ。



太鼓（淸會典圖）

太鼓。たいこ。縣鼓。〔爾雅、釋樂〕大鼓、謂二之鼖一、小者謂二之應一。〔史記、周紀〕幽王爲二烽燧大鼓一。〔唐書、禮樂志十二〕鼓一、大鼓一。〔淸會典圖、樂器、大鼓〕大鼓、木匡冒革、面徑二尺六寸四分五釐、匡高二尺二寸四分、腰徑四尺八寸六分、面髹黃、繪二五采雲龍一、匡髹朱、繪二交龍一、上下塗金釘二層、匡半塗金鐶四、腹施二銅膽一、承以二髹朱架一、高六尺、四柱相距五尺五寸、繪二蟠龍一、柱半各有二塗金鉤一、附レ鐶平懸レ之、柱端蹲金獅高一尺一寸、下橫木交二十字一、以レ樞合レ之、鼓衣、用二紅緞一、緣垂幨、並銷金雲龍。❷木をくりぬいて胴とし、兩面に獸皮を張り、ばちでたたき鳴らす樂器。太鼓。❸ ta⁴ ku³ 北方流行の歌曲。蛇味線などに合せて自ら木や鐵の板で拍子を取りつつ大鼓をたたいて演ずる北方の語り物。

【大鼓書】749 ta⁴ ku³ shu¹ 語りものの一種。二人が一組となつて詞曲を歌ふもの。一人は蛇皮線を彈き、一人は鼓板を打つ。鼓詞。

〔大鼓大吹〕750 ta⁴ ku³ ta⁴ ch'uei¹ 盛大な音樂を奏すること。〔桃花扇、鬧榭〕大鼓大吹、繞場數廻下。

【大箛】751 タイコ 天子の車が出發するときに吹く笛。〔宋書、樂志一〕葭、杜摯笳賦云、李伯陽入二西戎一所レ造、漢書舊注曰、箛、號曰二吹鞭一、晉先蠶注、車駕住吹二小箛一、發吹二大箛一、箛、卽葭也、又有二胡笳一、漢舊箏笛錄有二其曲一、不レ記二所レ出本末一。

【大謼】752 タイコ 大聲で叫ぶ。大呼（727）に同じ。〔漢書、賈山傳〕一夫大謼、天下嚮應者、陳勝是也。

【大伍】753 ダイゴ 山名。湖北省孝感縣の東北。又、大悟山・上界山ともいふ。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、孝感縣〕大悟山、縣東北一百二十里、高二百餘丈、廣六里、上有二平疇一、可二耕種一、其下爲二獅子巖一、一名上界山、方輿記、縣東北三十里、有二大伍・小伍山一、以三重山疊嶂、遙望若二行伍一而名、疑卽大悟之譌矣。

【大悟】754 タイゴ ❶大いにさとる。〔後漢書、王常傳〕伯升見レ常、說以二合從之利一、常大悟曰、今劉氏復興、卽眞主也、出レ身爲レ用、輔二成大功一。❷佛煩惱を脫し眞理をさとる。迷妄を打破して眞實の智見を開くこと。〔傳法正宗記〕示二廓然大悟一。〔觀無量壽經〕廓然大悟、得二無生忍一。

〔大悟禪師〕755 タイゴゼンジ 宋、端裕（8－25806・・194′）の謚。

〔大悟徹底〕756 タイゴテツテイ 佛迷妄を打破して眞理を悟得し、何等の疑惑もなくなること。

【大語】757 タイゴ ❶すぐれた言葉。大辭。〔漢書、揚雄傳下〕大味必淡、大音必希、大語叫叫、大道低回。❷高慢なことば。大言。〔中論、譴交〕擲レ目指レ掌、高談大語。

【大護】758 タイゴ 殷の湯王の樂。大護に同じ。〔呂覽、古樂〕湯乃命二伊尹一作二爲大護一、歌二晨露一、修二九招六列一、以見二其善一。〔注〕大護・晨露・九招・六列、皆樂名。

【大護】759 タイゴ 殷の湯王の音樂。大護。大夏（180）及び大濩（574）を見よ。

【大口】760 タイコウ 大きな口。おほくち。〔左氏、昭、二十六〕白晳鬒鬚眉甚口。〔疏〕甚口者、謂二大口一也。〔張衡、西京賦〕大口折鼻。〔吳志、吳主孫權傳、注〕權生方頤大口、目有二精光一。

〔大口魚〕761 タイコウギョ 海魚の名。たら。鱈。〔和漢三才圖會、江海有鱗魚〕吳魚・鱈・大口魚。

〔大口袴〕762 オホクチバカマ 束帶の時、上袴の下に着ける袴。裾の口を廣く大きくしたもの。〔倭名類聚抄、十二、裝束部、衣服類〕大口袴、於保久知乃八賀万、一云二表袴一。

〔大口絝〕763 タイコウコ 裾の口の廣い絝。〔唐書、車服志〕委貌冠者、郊廟文舞郎之服也、有二黑絲布大褏白練領褾絳布大口絝革帶烏皮履一。

【大工】764 タイコウ ❶よい職人。良工。〔六韜、文韜、六守〕大農・大工・大商、謂二之三寶一。〔逸周書、文酌解〕三、大工賦レ事、四、大商行レ賄。❷大きな工事。大工事。〔淸會典、工部〕曰另案、曰大工。〔注〕其堵築漫口、啓閉牐壩、事非二恆有一者曰二大工一。❸船頭をいふ。〔稱謂錄、船、大工〕貢師泰海歌、大工駕レ柁如レ駕レ馬、數人左右拽二長牽一。❹ダイク ㋑昔、飛彈又は大和の國から京都につめて御所の造營修理に從事したたくみ。京都勤番の木匠。轉じて、廣く建築職人をいふ。番匠。木工。〔運步色葉集〕大工。〔雍州府志、七、工匠門〕倭俗造二家屋一者、總稱二大工一、其長謂二棟梁一。㋺職名。古、木工寮・太宰府等で諸營作の工事を掌つた職。〔中務省式〕木工寮、大工一人、小工一人。〔職員令〕太宰府、大工一人。

〔大工廻〕765 デヤクサイ 琉球の地名。

〔大工子〕766 ta⁴ kung¹ tzŭ 大工。

【大公】767 タイコウ ❶極めて公平。至公。大公無私。〔說苑、至公〕仲尼所謂大公也。❷太公望をいふ。太公望（**3**－**5834**・・147）の❶を見よ。〔左氏、僖、二十六〕昔周公大公、股二肱周室一、夾二輔成王一。〔會箋〕周公大公、國語作二我先君周文公及齊先君大公一。〔左氏、昭、三〕辱收二寡人一、徼二福於大公丁公一。〔注〕二公、齊先君也。

〔大公司〕768 ta⁴ kung¹ ssŭ 大會社。

〔大公調〕769 タイコウテウ 莊子に見える假設の人。〔莊子、則陽〕少知問二於大公調一曰、何謂二丘里之言一。〔疏〕智照狹劣、謂二之少知一、道德廣大、公正無私、復能調二順羣物一、故謂二之大公調一、假二設二人一、以論二道理一。

〔大公無私〕770 タイコウムシ 甚だ公正で私心がない。

【大功】771 タイコウ ❶喪服の名。九箇月の喪服。大功布衰裳の意で、喪服が目の荒い布でできてゐる意である。本宗が堂兄弟・在室堂姊妹（妻は緦麻に降す）・已に嫁した姑姊妹（妻は小功に均し）・衆孫・衆子の婦・姪婦・已に嫁した姪女（妻は均しく夫の服に從ふ）の爲に、妾が己の孫・已に嫁した己の女の爲に、已に嫁した女が、伯叔父母・兄弟・姪・在室の姑・姊妹・姪女の爲に均しく之を服す。五服（**1**－**257**・・977）の❷を見よ。大紅。〔韻會〕功、大功小功、喪服名、謂三治レ布有二精麤之分一、或作レ紅、史記漢書、大功小功作二大紅小紅一。〔儀禮、喪服〕大功布衰裳、牡麻絰無レ受者。〔注〕大功布者、其鍛治之功麤沽レ之。〔禮、曲禮上〕大功小功不レ諱。❷大きなてがら。大勳。俊功。〔書、大誥〕茲不レ忘二大功一。〔左氏、成、十三〕晉師乘レ和、師必有二大功一。〔戰國、秦策〕寬則兩軍相攻、迫則杖戟相撞、然後可レ建二大功一。〔管子、乘馬〕不レ可三以爲二大功一。〔鬼谷子、本經陰符〕是謂二大功一。〔呂覽、義賞〕赦無二大功一。

【大功臣】772 タイコウシン 大功ある臣下。〔漢書、高帝紀下〕封二大功臣三十餘人一、其餘爭レ功、未レ得レ行レ封。

〔大功田〕773 タイコウデン 古、大功ある者に賜はつた田地。〔愚管鈔、六〕大功田宣下など給ひける。

〔大功世世不レ絕〕774 タイコウヨヨタタズ 大功田は無窮に世襲させる。〔大寶令、田令〕大功世世不レ絕、上功傳二三世一、中功傳二二世一、下功傳レ子。

〔成二大功一者不レ成レ小〕775 タイコウヲナスモノハセウヲナサズ 大事業を成さうとする者は、小事を顧みないこと。〔列子、楊朱〕將レ治レ大者不レ治レ細、成二大功一者不レ成レ小。

〔大功小功緦麻袒免〕776 タイコウセウコウシマタンメン 喪服の制。同宗の爲に喪に服するのに、齊衰一年を大功、五箇月を小功、三箇月を緦麻、一箇月を袒免といふ。〔六部成語、刑部、大功小功緦麻袒免、注解〕同宗服制有レ五、曰、齊衰一年爲レ滿曰二大功一、五個月曰二小功一、三個月曰二緦麻一、一個月曰二袒免一、喪出而滿、所謂五服也、皆以二同宗之遠近一而定、有二同宗相害者一、查二服制一以爲レ定レ罪等差一也。

〔成二大功一者不レ謀二於衆一〕777 タイコウヲナスモノハシユウニハカラズ 大事業を爲さうとする者は、獨斷決行して衆人に相談しない。徒らに議論に妨げられて、終に成功しないことを恐れるからである。〔戰國、趙策〕肥義曰、臣聞レ之、疑事無レ功、疑行無レ名、夫論二至德一者不レ和二於俗一、成二大功一者不レ謀二於衆一。

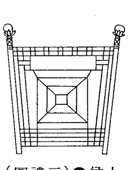
〔論二大功一者不レ錄二小過一〕778 タイコウヲロンズルモノハセウクワヲロクセズ 大功を賞するには、小過は措いて問はないこと。〔漢書、陳湯傳〕論二大功一者不レ錄二小過一、擧二

大美二者不レ疵二細瑕一。

〖建二大功于天下一者必先修二于閨門之內一〗779　大功を天下に建てようとする者は、先づ家庭內を修めねばならない。〔新語、愼微〕建二大功于天下一者、必先修二于閨門之內一、垂二大名于萬世一者、必先行二之于纖微之事一。

【大后】780 タイコウ　おほきさき。太皇太后又は皇太后。太后(3－5834・149)を見よ。

【大侯】781 タイコウ　❶弓の的。大きな射布。燕射の禮に用ひる君の的。〔詩、小雅、賓之初筵〕大侯既抗、弓矢斯張。〔傳〕大侯、君侯也。〔箋〕天子諸侯之射、皆張二三侯一、故君侯謂二之大侯一。〔儀禮、大射儀〕公射二大侯一、大夫射レ參、士射レ干。❷大國の諸侯。〔管子、大匡〕小侯既服、大侯既附。〔史記、功臣年表〕大侯不レ過二萬家一、小者五六百戶。❸地名。蠻名は孟祐。❹を見よ。又、其處に據つた蠻族。〔明史、大侯傳〕大侯、蠻名孟祐、百夷所レ居。❹城の名。雲南省雲縣の南。もとの雲州治。土官奉氏、世々州の長官となる。〔讀史方輿紀要、雲南、順寧府〕雲州、古蠻夷地、蠻名孟祐、元中統初內附、屬二麓川路一、洪武二十四年置二大侯長官司一、正統三年改爲二大侯禦夷州一、萬歷二十五年改爲二雲州一。



大侯❶（三禮圖）

【大厚】782 タイコウ　非常にあつい。〔漢書、五行志下之下〕及レ秦所二以二世而亡一者、養レ生大奢、奉レ終大厚。

【大垬】783 オホヌカリ　磐城國の地名。

【大恆】784 タイコウ　清、明中(**5－13805**・430)の字。

【大洪】785 タイコウ　❶山名。一名、郎山。湖北省隨縣の西南。〔水經、涓水注〕涓水、出二縣東南大洪山一、山在二隨郡之西南、竟陵之東北一、盤基所レ跨、廣圓百餘里、峯曰二懸鉤一、處二平原衆阜之中一、爲二諸嶺之秀一。〔宋書、沈慶之傳〕元嘉十九年、雍州刺史劉道產卒、羣蠻大動、郎山蠻最強盛、慶之剪二定之一。❷川の名。四川省江北縣。❸砦の名。湖北省京山縣の西北。〔元史、世祖紀七〕至元十五年、棗陽萬戶府言、李均收二撫大洪山寨一、爲二宋朱統制所一レ害、命賜二銀千兩一賙二其家一。

〖大洪江〗786 タイコウカウ　鎭の名。四川省巴縣の東。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府、巴縣、朝天驛〕大洪江鎭、在二府東一百里一、亦曰二大洪江壁山鎭一、有二巡司戍守一。

【大紅】787 タイコウ　❶喪服の名。九箇月の喪服。大功(7771)の❶に同じ。〔漢書、文帝紀〕服二大紅一十五日、小紅十四日。〔新書、六術〕大紅細紅。〔後漢書、禮儀志下〕大紅十五日、小紅十四日。❷ta⁴ hung² ㋑緋色。㋺金盞花。

〖大紅螺〗788 ダイコウラ　山名。滿洲遼寧省錦縣の西。小紅羅山と對峙す。

〖大紅蓮〗789 ダイグレン　㊋地獄の名。八寒地獄の第八。寒さに身體の皮肉が分裂して紅蓮華の狀を爲すからいふ。後、炎の形容に用ひる。梵語、摩訶鉢特摩(mahā-padma)の譯。〔大智度論、十六〕八寒氷地獄者、云云、八名二摩訶波頭摩一。〔俱舍光記、十一〕摩訶鉢特摩、此云二大紅蓮華一、嚴寒逼切、身變拆裂如二大紅蓮華一。

〖大紅寶珠〗790 タイコウハウシュ　北京人の培植する菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹案、日下舊聞考、云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、大紅寶珠。

【大寇】791 タイコウ　強い寇賊。大賊。〔後漢書、荀彧傳〕遂摧二撲大寇一、濟レ危以レ安。

【大熕】792 タイコウ　大砲。いしび矢。〔經國雄略〕佛狼機、大熕銃。

【大興】793 タイコウ　❶大いにおこす。又、大いにおこる。〔揚雄、羽獵賦〕狹二三王之阨僻一、嶠高擧而大興。〔晉書、車胤傳〕此兒當三大興二卿門一、可レ使專レ學。❷年號。㋑東晉の元帝、司馬睿の年號、太興の一稱。(318－321)　㋺唐代、渤海の文王、大欽茂の時。(738－784)　❸縣名。㋑隋、萬年縣を改稱。今の陝西省長安縣治。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府〕咸寧縣、在二府治東一、本社縣地、後周始置二萬年縣於長安城中一、此爲二萬年縣地一、隋遷レ都後、改曰二大興一、唐復曰二萬年一。㋺金、置く。周初の薊國。春秋の燕の國都。秦の薊縣の地。河北省大興縣の西南。〔讀史方輿紀要、直隷、順天府〕大興縣、在二城內東北隅一、秦置二薊縣一、漢以後因レ之、云云、金貞元二年、改曰二大興一。〔清史稿、地理志〕直隷、順天府、縣十九、大興。❹城の名。今の陝西省城。〔隋書、高祖紀上〕詔曰、此城從レ漢彫殘日久、屢爲二戰場一云云、龍首山川原秀麗、卉物滋阜、卜レ食相レ土、宜レ建二都邑一云云、詔二左僕射高熲等一、創二造新都一、云云、丙子、名二新都一曰二大興城一。〔隋書、地理志上〕城東西十八里一百一十五步、南北十五里一百七十五步。〔長安志〕唐京城、初曰二上都城一、卽隋大興城、周六十七里。❺隋の宮殿の名。唐の大極宮。〔隋書、禮儀志四〕皇太子將レ冠前一日、皇帝齋二于大興殿一。

【大興國】794 タイコウコク　金の人。熙宗に事へて寢殿小底と爲り、最も親信を受けたが、後、海陵を助けて熙宗を弑す。海陵立つや、絳陽武寧節度使を授けられ、名を邦基と賜ふ。海陵の敗れるに及んで殺された。〔金史、一百三十二〕。

〖大興安嶺〗795 ダイコウアンレイ　山脈の名。滿洲黑龍江省の西境。內興安嶺の西支山脈なので、西興安嶺ともいふ。山脈は遠く陰山山脈に接し、察哈爾・遼寧に入る。起頂は索岳爾濟山といひ、北して額伯爾嶺・室韋山・雅克山となる。雅克山は更に北方に走つて伊勒呼里山と相接し、嫩江と額爾古納河の分水嶺をなす。最高の處を伊克古克達といひ、阿爾奇山・綽羅爾山と共に著名である。〔清會典、戶部、其川嫩・黑、注〕北納下出二大興安嶺一之格爾必齊河上。

【大鴻】796 タイコウ　❶黃帝の臣。卽ち、鬼臾區。又、鬼容區に作る。漢書藝文志に鬼容區兵法三篇とあるも、蓋し後人の依託であらう。大鴻が死後、雍に葬られたので、其の地を號して鴻冢といふ。〔史記、封禪書〕鬼臾區號二大鴻一、死葬レ雍。〔注〕漢書音義曰、區、黃帝時人、索隱曰、鄭玄云、黃帝佐也、李奇曰、黃帝時諸侯。〔孔子家語、五帝德〕命二風后力牧一常先二大鴻一以治レ民。❷明、蔣平階(**9－31820**・215)の字。

〖大鴻臚〗797 ダイコウロ　漢の官名。周官の大行人に當る。外國の賓客を接待することを掌る。後、鴻臚寺といふ。鴻臚(**12－46874**・177)を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕典客、秦官、掌二諸歸レ義蠻夷一、云云、景帝中六年、更二名大行令一、武帝太初元年、更二名大鴻臚一。〔事物紀原、九寺卿少部、鴻臚〕鴻臚、周官大行人也、干寶曰、亦周禮象胥之職、漢書曰、秦爲二典客一、掌二諸侯四方歸レ義蠻夷一、漢改曰二大鴻臚一、徐堅云、漢改レ之、漢百官表曰、太初元年更也、梁除二大字一、應劭曰、鴻聲、臚傳レ之也、傳レ聲、贊道也、劉熙曰、鴻、大也、臚、陳也、欲三大以レ禮序二陳賓客一也、馮鑑續事始曰、楚云二連敖一、漢爲二典屬國一、按、漢世典屬國自爲二一職一、非二鴻臚之任一也。

【大谷】798 タイコク　❶大きな谷。〔詩、大雅、桑柔〕大風有レ隧、有二空大谷一。〔六韜、虎韜、軍略〕深谿大谷。〔潘岳、閑居賦〕張公大谷之梨、梁侯烏椑之柹。❷山名。〔山海經、大荒東經〕東海之外、大荒之中有レ山、名曰二大谷一、日月所レ出。❸川の名。又、溪名。〔水經、沽河〕大谷水注レ之、水發二鎭北大谷溪一。❹關の名。河南省洛陽縣の南。後漢の靈帝が八關都尉を置いて、黃巾に備へた八關の一。大谷口ともいふ。今の水泉口。〔張衡、東京賦〕大谷通二其前一。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、洛陽縣〕大谷、府東南五十里、亦曰二大谷口一、章懷太子賢曰、自二嵩陽縣一西北出八十五里、對二故洛陽城一、張衡東京賦所レ云、大谷通二其前一者、亦靈帝時八關之一也。❺オホガイ　磐城國の地名。❻オホヤツ　上總國の地名。

〖大谷派〗799 オホタニハ　眞宗の一派。本願寺第十二世教如が一旦隱退して、慶長七年新たに創立したもの。京都東六條の東本願寺を本山とす。

〖大谷山堂〗800 タイコクサンダウ　清、愛必達(**4－10947**・358)の室名。

【大哭】801 タイコク　大聲をあげてなく。痛く悲しむ。〔史記、高祖紀〕漢王聞レ之、袒而大哭。

【大國】802 タイコク　❶大きな國。境域の廣大な國。又、勢威の強大な國。強い國。大邦。〔易、未濟〕震用伐二鬼方一、三年有レ賞二于大國一。〔書、召誥〕改二厥元子、茲大國殷之命一。〔詩、商頌、長發〕受二小國一是達、受二大國一是達。〔左氏、宣、十二〕寡君使三羣臣遷二大國之迹於鄭一。〔左氏、襄、三十一〕其無二大國之討一乎。〔孟子、公孫丑上〕雖二大國一必畏レ之。〔老子、六十一〕大國以下二小國一、則取二小國一。〔管子、法法〕凡大國之君尊、小國之君卑。〔曹植、贈二丁翼一詩〕大國多二良材一、譬三海出二明珠一。❷大寶令の制で戶口・田地等によつて國の等級を四種に別けた中の第一等の國。〔職員令〕大國、守一人、介一人。

〖大國師〗803 ダイコクシ　我が國、古の大上國の國分寺の住職。寺務を管理し、部內の教化を掌るもの。〔續日本紀、三十七〕延曆二年十月乙巳、大上國各任㆓大國師一人・少國師一人㆒。〔日本靈異記、下〕大安寺僧戒明大德、任㆓彼筑紫國府大國師㆒之時。

〖治㆓大國㆒若㆑烹㆓小鮮㆒〗805 タイコクヲヲサムルハセウセンヲニルガゴトシ　小魚を烹るには、其の體がくづれ易いから掻き亂さないやうにする。大國を治めるにも、政を寛にして自然に任せ、民を驚擾せしめない。小鮮は、小魚、北宋の道藏本では小鱗に作る。〔老子、六十〕治㆓大國㆒若㆑烹㆓小鮮㆒、以㆑道莅㆓天下㆒、其鬼不㆑神。〔韓非子、解老〕烹㆓小鮮㆒而數撓㆑之、則賊㆓其澤㆒。

【大黑】806 タイコク　㊀山名。㋑巴顏喀喇山。㋺滿洲遼寧省黑山縣の南。一に打虎山とも大虎山ともいふ。㋩遼寧省金縣の東。上の古城は唐の太宗の駐蹕の處と傳ふ。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、金州衞〕大黑山、衞東十五里、絕頂有㆑城、四面懸絕、惟西面一路可㆑通、中有㆑井、昔人避㆑兵處也。㋥滿洲吉林省永吉縣の西南。其の支山に紅右磖・磨磐山・西團山等がある。㋭滿洲熱河省隆化縣の張三營の西北。伊遜河が其の麓を繞る。㊁城の名。遼寧省金縣の東の大黑山上に在る。〔全遼志〕四面懸絕、惟西一門可㆑上、不㆑知㆓何代壘砌㆒、唐張亮師㆓舟師㆒渡㆑海、攻㆓沙卑城㆒、獲㆓男女八千口㆒、意卽此。〔淸一統志〕志所㆑引沙卑城與㆘遼志在㆓海州㆒者㆖不㆑同、唐時沙卑爲㆓高麗重鎭㆒、不㆑當㆓狹小如㆑此、蓋亦昔人避㆑兵處耳。㊂［佛］ダイコク　大黑天の㊀に同じ。㊃㋑福の神の名。大黑天の㊁の略。㋺僧の妻の俗稱。梵妻。〔好色一代女、四〕此の寺の大黑になりたくば、和尚にかかへらるる迄待て。㋩陰陽師の異稱。㋥唱聞師をいふ。

〖大黑河〗807 タイコクカ　地名。黑龍江瑷琿縣の北。黑龍江の西岸に在る。黑河屯(**12**－48038‥23)に同じ。〔淸史稿、地理志〕黑龍江、黑河府。〔注〕省東北九百里、原名大黑河屯。

〖大黑冠〗808 タイコククワン　冠位十三階の第十一位。孝德天皇大化三年制定。

〖大黑神〗809 ダイコクジン　［佛］大黑天の㊀㊁に同じ。〔南海寄歸傳〕西方諸大寺處、咸於㆓食廚柱側㆒、或在㆓大庫門前㆒、彫㆑木表㆑形、或二尺三尺爲㆓神王狀㆒、坐把㆓金囊㆒、卻踞㆓小牀㆒、一腳垂㆑地、每將㆑油拭、黑色爲㆑形、號曰㆓莫訶哥羅㆒、卽大黑神也、古代相承云、是大天之部屬、性愛㆓三寶㆒、護㆓持五衆㆒、使㆑無㆓損耗㆒、求者稱㆑情、但至㆓食時㆒、廚家每薦㆓香火㆒、所㆑有飮食、隨列㆓於前㆒。〔釋氏六帖〕有㆓大黑神㆒、梵天眷屬在㆓食廚㆒、令㆘須㆓塑畫㆒供養㆖。

〖大黑柱〗810 ダイコクバシラ　家の中央に建てる最も太い柱。轉じて、中心となつて家國を支へる人。〔好色一代女、四〕大黑柱に寄りそひて。

〖大黑天〗811 ダイコクテン　㊀［佛］三寶(佛・法・僧)を愛し、五衆を護り、飮食を充饌するといふ神。始は佛法を護る戰鬪の神、後には主福の神となり、廚房に安置す。大黑神。〔新譯仁王經護國品疏、二〕大黑天神、鬬戰神也。〔慧琳音義、十〕摩訶迦羅、唐云㆓大黑天神㆒也、有㆓大神力㆒、壽無量千歲、八臂身青黑雲色、二手懷中橫把㆓一三戟叉㆒、右第二手把㆓一青羖羊㆒、左第二手把㆓一餓鬼頭髻㆒、右第三手把㆑劍、左第三手執㆓羯吒囸迦㆒、梵語、是一髑髏幢也、後二手各於㆓肩上㆒共張㆓一白象皮㆒如㆓披勢㆒、以㆓毒蛇㆒貫㆓穿髑髏㆒以爲㆓瓔珞㆒、虎牙上出、作㆓大忿怒形㆒、雷電烟火、以爲㆓威光㆒、身形極大、足下有㆓一地神女天㆒、以㆓兩手㆒承㆑足者也。㊁七福神の一。其の像は狩衣に似た服を著て帽を被り、左の肩に袋を負ひ、右手に打出の小槌を持ち、米俵の上に坐る。我が國で神佛習合の結果、大國主神と結合するのは、大黑の音が大國主神の大國に通じ、大國主神の別名大己貴（オホナムチ）の字音大己貴（ダイコキ）が大黑に近いので混用したもの。大袋を負ひ、鼠を使とするは、古事記の神話に基づく。〔大黑天神法〕膚色悉作㆓黑色㆒、頭令㆑冠㆓烏帽子㆒、悉黑色也、令㆑著㆑袴、驅褰不㆑垂、令㆑著㆓狩衣㆒、裙短袖細、右手作㆑拳、令㆑收㆓右腰㆒、左手令㆑持㆓大袋㆒、從㆑背令㆑懸㆓肩上㆒、其袋之色爲㆓鼠毛色㆒、云云、若吾安㆓置伽藍㆒、日日敬供者、吾寺中令㆑住㆓衆多僧㆒、每日必養㆓千人之衆㆒、云云、若人三年專心供㆑吾者、吾必此來、供人授㆓與世間富貴、乃至官位爵祿㆒。

〖大黑舞〗812 ダイコクマヒ　大黑天の姿に模し、面をかぶり、頭巾をつけて門に立ち、年々新作の嘉詞を唄ひ舞ふもの。江戶時代には正月から二月の初に至るまで、吉原遊廓で狂言・物眞似などをして錢を乞ひ步いた。〔傾城佛原、一〕大黑舞の樣な者が。

〖大黑頭巾〗813 ダイコクヅキン　大黑天が冠るやうな頭巾。圓く低く、側がふくれ出た形のもの。〔雪女五枚羽子板、初春厄拂〕大黑頭巾の襞の數數。

【大穀】814 タイコク　縮緬の長さ九尋のもの。〔和漢三才圖會、絹布類、穀〕有㆓大中小之三品㆒、長九尋者名㆓大穀㆒。

【大獄】815 タイゴク　重大な犯罪事件。又、そのために多人數の犯罪者が捕へられること。〔史記、張湯傳〕湯決㆓大獄㆒、欲㆑傳㆓古義㆒。〔漢書、百官公卿表上〕出㆓姦猾㆒、治㆓大獄㆒。〔後漢書、梁商傳〕大獄一起、無辜者衆死。〔淸國行政法汎論、軍機處、現制〕大獄之爲㆓何罪戾㆒、會典不㆔規㆓定之㆒、然其爲㆘破㆓壞國家㆒、紊㆓亂朝政㆒等大事㆖明矣。

【大劫】816 ダイゴフ　［佛］成・住・壞・空の四期を一週する時、八十小劫をいふ。劫は普通の年月で算することの出來ない非常に長い時。〔法苑珠林〕釋氏以㆓八十小劫㆒爲㆓一大劫㆒。

【大昏】817 タイコン　㊀天子、又は諸侯の婚禮。昏は婚。大婚。〔禮、哀公問〕大昏爲㆑大、大昏至矣。〔疏〕大昏、謂㆓天子諸侯之昏㆒也。〔荀子、禮論〕大昏之未㆑發㆑齊也。㊁非常にくらいこと。まつくら。〔管子、侈靡〕聖人者、省㆓諸本㆒而遊㆓諸樂㆒、大昏也、博夜也。

【大恨】818 タイコン　大いに後悔しうらむこと。〔漢書、楚元王傳〕今殺㆑寬、後將㆓復大恨㆒矣。

【大根】819 タイコン　㊀大きな根。〔莊子、人閒世〕仰而視㆓其細枝㆒、則拳曲而不㆑可㆔以爲㆓棟梁㆒、俯而視㆓其大根㆒、則軸解而不㆑可㆔以爲㆓棺槨㆒。㊁雲の形で、下方が大きくひろがつた狀態。〔史記、天官書〕稍雲精白者、其將悍、其士怯、其大根而前絕遠者當㆑戰。㊂［佛］ダイコン　大乘の機根。〔法華玄義〕令㆘大根從㆓不融㆒向㆗於融㆖。㊃㋑野菜の名。だいこん。おほね。蘿蔔。〔倭名類聚抄、菜蔬部、菜類、葍、箋注〕音福、於保禰、俗用㆓大根二字㆒。㋺伎倆の拙い役者。大根役者。大根の根は白いから、しろうとのしろに寄せていふ。

【大婚】820 タイコン　天子諸侯の婚禮。大昏。〔淮南子、泰族訓〕民有㆓好色之性㆒、故有㆓大婚之禮㆒。〔孔子家語、大婚解〕天地不㆑合、萬物不㆑生、大婚、萬世之嗣也。〔春秋、桓、三、胡氏傳〕使㆓公子翬往㆒、是不㆑重㆓大婚之禮㆒、失㆓其節㆒矣。

〖大婚解〗821 タイコンカイ　孔子家語の篇名。

【大渾】822 タイコン　ものの大きく集まつて散じないさま。〔淮南子、精神訓〕契㆓大渾之樸㆒、而立㆓至淸之中㆒。〔注〕渾、不㆑散之貌也。

【大閽】823 タイコン　宮門を守る官の長をいふ。〔左氏、莊、十九〕楚人以爲㆓大閽㆒、謂㆓之大伯㆒。〔注〕若㆓今城門校尉官㆒。〔疏〕其爲㆓大閽㆒者、當㆑如㆓地官之司門㆒、非㆓天官之閽人㆒、亦主㆓晨昏開閉㆒、通以㆑閽爲㆑名焉、謂㆓之大伯㆒伯、長也、爲㆓門官之長㆒也。

【大佐】824 タイサ　舊陸海軍武官の階級の名。佐官の最上級。奏任官二等。

【大沙】825 タイサ　大きな砂原。大沙漠。〔漢書、匈奴傳下〕幕北地平、少㆓草木㆒、多㆓大沙㆒。

【大差】826 タイサ　㊀甚しい相違。おほちがひ。逕庭。〔淮南子、要略〕分㆓帝王之操㆒、列㆓小大之差㆒者也。〔隋書、律曆志上〕黍有㆓大小之差㆒、年有㆓豐耗之異㆒。㊁天子の使者。〔福惠全書、郵政部、應付大差〕凡欽差大人、皆係㆓內大臣㆒、閣部尊官、經㆓臨州縣㆒、須㆘先探㆓聽官員幾位、跟隨若干人、乘馬若干匹㆒、以便㆗預備㆖、官坐散馬、除㆓扣去逐日賚㆑奏長差之馬㆒、方足㆔預備㆓大差之數㆒。

【大蜡】827 タイサ　周代、天子が十二月に行ふ蜡の祭。臘祭。蜡は又、䄍に作る。〔廣雅、釋天〕臘、索也、夏曰㆓淸祀㆒、殷曰㆓嘉平㆒、周曰㆓大䄍㆒、秦曰㆑臘。〔禮、明堂位〕大蜡、天子之祭也。〔注〕大蜡、歲十二月索㆓鬼神㆒而祭㆑之。〔禮、郊特牲〕天子大蜡八、伊耆氏始爲㆑蜡、蜡也者索也、歲十二月、合㆓聚萬物㆒、而索㆓饗之㆒也。〔注〕歲十二月、周之正數、謂㆓建亥之月㆒也、饗者、祭㆓其神㆒也、萬物有㆔功加㆓於民㆒者、神使㆑爲㆑之也。

【大坐】828 ダイザ　あぐら。〔南史、王弘傳〕箕踞大坐、殆無㆓推敬㆒。

【大才】829（タイ サイ）　すぐれたはたらき。大きな器能。又、其の人。大材。大器。〔後漢書、馬援傳〕汝大才當㆓晩成㆒。〔晉書、劉輿傳〕時稱㆔越府有㆓三才㆒、潘滔大才、劉輿長才、裴邈清才。〔南史、紀少瑜傳〕吏部尙書到漑嘗曰、此人有㆓大才㆒而無㆓貴仕㆒。〔唐書、韋安石傳〕大才當㆓大用㆒。

〖大才小用〗830（タイサイ セウヨウ）　才能あるものを卑い地位に置いて用ひる。大器小用（388）に同じ。

〖大才晩成〗831（タイサイ バンセイ）　人が科擧の試驗に失敗したことをいふ婉辭。大器晩成。大才を見よ。〔書言故事、不捷類〕言㆓人科第暫淹㆒、曰㆓大才晩成㆒。

〖大才槃槃〗832（タイサイ ハンハン）　才能の優れた人が多いこと。〔續晉陽秋〕時人語曰、大才槃槃謝家安。

【大災】833（タイ サイ）　❶自然による火のわざはひ。災は天火。〔春秋、莊、二十〕夏、齊大災。〔杜注〕天火曰ㇾ災。❷大きなわざはひ。甚しい災害。大過。大菑。〔荀子、王霸〕是傷ㇾ國之大災也。〔劉琨、勸進表〕天不ㇾ悔ㇾ禍、大災荐臻。

【大采】834（タイ サイ）　天子の禮服。玄・黃・朱・白・蒼の五色で彩つたもの。袞黼。一說に、其の色の玉の敷きもの。〔國語、魯語下〕天子大采朝ㇾ日、云云、小采夕ㇾ月。〔注〕禮、天子以㆓春分㆒朝ㇾ日、示ㇾ有ㇾ尊也、虞說云、大采、袞織也、昭謂、禮玉藻、天子玄冕以朝ㇾ日、玄冕、冕服之下、則大采非㆓袞織㆒也、周禮、王搢㆓大圭㆒、執㆓鎭圭㆒、藻五采五就、以朝ㇾ日、則大采謂ㇾ此也。

【大哉】835（オホイナルカナ）　廣大なこと、偉大なことを讚稱する辭。〔易、乾〕大哉乾元、萬物資ㇾ始。〔書、咸有一德〕俾㆔萬姓咸曰㆓大哉王言㆒。〔中庸〕大哉、聖人之道。〔論語、泰伯〕大哉、堯之爲ㇾ君也。〔張協、七命〕下有㆓可ㇾ封之民㆒、上有㆓大哉之君㆒。

【大宰】836（タイ サイ）　❶殷代の官名。天官六大（大宰・大宗・大史・大祝・大士・大卜）の首。大宗と共に大史以下の官を帥ゐて、六典を主る。〔禮、曲禮下〕天子建㆓天官㆒、先㆓六大㆒、曰、大宰・大宗・大史・大祝・大士・大卜、典㆓司六典㆒。〔注〕此蓋殷時制也、周則大宰爲㆓天官㆒、大宗曰㆓宗伯㆒、宗伯爲㆓春官㆒、大史以下屬焉。❷周官の名。天官の長。六卿の首。邦治を掌る。又、冢宰といふ。太宰（**3**－**5834**‥157）の❶の㋑を見よ。〔周禮、天官、大宰〕大宰之職、掌㆘建㆓邦之六典㆒、以佐ㇾ王治㆗邦國㆖。❸春秋時代に、諸侯の置いた官。諸政を總べる者。執政。〔左氏、隱、十一〕將㆔以求㆓大宰㆒。〔注〕大宰、官名也。〔會箋〕大宰、執政也、天子六卿、大宰總ㇾ政、大國三卿、而各有㆓兼職㆒、故雖ㇾ不ㇾ置㆓大宰㆒、亦稱㆓總ㇾ政者㆒爲㆓大宰㆒耳。

〖大宰相〗837（ダイ サイシヤウ）　諸大臣の長。昔の太政大臣。今の總理大臣。

【大烖】838（タイ サイ）　大きなわざはひ。水火の災、或は年穀の熟しない類。大災。〔周禮、春官、小宗伯〕大烖、及㆓執事㆒禱㆓祠于上下神示㆒。〔疏〕大烖者、謂㆘國遭㆓水火㆒及年穀不ㇾ熟。〔周禮、春官、司服〕大札・大荒・大烖・素服。〔注〕大烖、水火爲ㇾ害。

【大殺】839（タイ サイ）　大いに減食する。〔墨子、備城門〕城中無ㇾ食、則爲㆓大殺㆒。

【大祭】840（タイ サイ）　❶禘祫の祭。禘祫（**8**－**24778**‥3）を見よ。〔爾雅、釋天〕禘、大祭也。〔周禮、春官、天府〕凡國之玉鎭大寶器藏焉、若有㆓大祭大喪㆒、則出而陳ㇾ之、既ㇾ事藏ㇾ之。〔注〕禘祫及大喪陳ㇾ之。❷大きな祭。重い祭。〔周禮、天官、酒正〕大祭三貳、中祭再貳、小祭壹貳。〔注〕大祭天地、中祭宗廟、小祭五祀。〔論語、顏淵〕出ㇾ門如ㇾ見㆓大賓㆒、使ㇾ民如ㇾ承㆓大祭㆒。❸皇帝の薨後、七七日に行ふ禮。〔六部成語、禮部、大祭、注解〕皇帝薨後七七日、謂㆓之終七㆒、應ㇾ行㆓大祭之禮㆒。❹㋑國祭（**3**－**4798**‥198）に同じ。㋺皇室の祭祀の一。天皇が親ら行ひたまふ。舊は皇族及び官僚も參加した。元始祭・紀元節式祭・春季皇靈祭・春季神殿祭・神武天皇祭・秋季皇靈祭・秋季神殿祭・神嘗祭・新嘗祭・先帝祭・先帝以前三代の貳年祭・先后の式年祭・皇妣たる皇后の式年祭等。㋩神宮、卽ち皇大神宮・豐受大神宮では、祈年祭・神御衣祭・月次祭・神嘗祭・新嘗祭・遷宮祭・臨時奉幣祭を大祭とする。

〖大祭日〗841（タイサイ ジツ）　皇室の大祭の行はれる日。

【大菑】842（タイ サイ）　甚しい災害。大災。〔禮、祭法〕能禦㆓大菑㆒則祀ㇾ之。〔左氏、襄、二十七〕兵、民之殘也、財用之蠹、小國之大菑也。〔莊子、則陽〕天下有㆓大菑㆒、子獨先離ㇾ之。

【大菜】843（タイ サイ）　❶海藻。〔事物異名錄、藥材、草類〕本草綱目、海藻、一名蕁、別錄作ㇾ藫、一名落首、亦作㆓海菜㆒、又腳氣集名㆓大菜㆒。❷ta^4 ts'ai^4 ㋑格式通りの料理。例へば、中等の料理に八大碗を具へる類。小賣兒の對。㋺西洋料理。

【大裁】844（タイ サイ）　ta^4 ts'ai^2 着物を大きくたつぷりと裁つこと。

【大歲】845（タイ サイ）　太歲（**3**－**5834**‥167）を見よ。

【大寨】846（タイ サイ）　地名。❶雲南省雲縣の南。❷雲南省石屛縣內。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府、落恐甸長官司〕大寨、在㆓司西南㆒、滇紀、由㆓石屛州壩罕甸㆒出㆓猛甸㆒、遂抵㆓落恐大寨㆒。

【大蔡】847（タイ サイ）　蔡に產する大きな龜の名。〔左氏、襄、二十三〕臧武仲自ㇾ邾使ㇾ告㆓臧賈㆒、且致㆓大蔡㆒焉。〔注〕大蔡、大龜也。〔釋文〕大蔡、大龜也、一云、龜出㆓蔡地㆒、因以爲ㇾ名。〔淮南子、說山訓〕大蔡神龜、出㆓於溝壑㆒。〔注〕大蔡、元龜之所ㇾ出地名、因名㆓其龜㆒。

【大濟】848（タイ サイ）　❶大いに助けすくふ。〔晉書、蔡謨傳〕時有㆓否泰㆒、道有㆓屈伸㆒、云云、原ㇾ始要ㇾ終、歸㆓於大濟㆒而已、豈與㆔當ㇾ亡之寇㆓爭㆓遲速之間㆒。〔陶潛、感士不遇賦〕或擊壤以自歡、或大㆓濟於蒼生㆒。❷元、史楫（**2**－**3249**‥82）の字。

【大材】849（タイ ザイ）　すぐれた才能ある人。大才（829）に同じ。〔漢書、平帝紀〕不㆘以㆓小疵㆒妨㆗大材㆖、自ㇾ今以來、有司無ㇾ得㆘陳㆓赦前事㆒置㆗奏上㆖。

【大罪】850（タイ ザイ）　大きなつみ。重罪。〔書、康誥〕乃有㆓大罪㆒、非ㇾ終、乃惟眚災。〔戰國、衞策〕非ㇾ有㆓大罪㆒而亡、必有ㇾ故。〔史記、蒙恬傳〕高有㆓大罪㆒。〔漢書、韓王信傳〕非ㇾ有㆓大罪㆒。〔後漢書、隗囂傳〕逆ㇾ天之大罪也。〔司馬法、定爵〕小罪勝、大罪因。

〖大罪伐ㇾ之小罪憚ㇾ之〗851（タイザイハ コレヲウチ セウザイハ コレヲオドス）　大罪を犯した者は征伐し、小罪を犯した者はおどす。〔國語、晉語五〕宣子曰、大罪伐ㇾ之、小罪憚ㇾ之。〔注〕憚、懼也。

【大壯】852（タイ サウ）　❶大いにさかんなこと。〔陸機、祖德賦〕帝命赫而大壯。❷易の六十四卦の一。䷡（乾下 震上）雷が天上に在つて陽剛が盛である義を示す。〔易、大壯〕大壯利ㇾ貞。〔易、繫辭下〕上古穴居而野處、後世聖人、易ㇾ之以㆓宮室㆒、上棟下宇、以待㆓風雨㆒、蓋取㆓諸大壯㆒。❸田中頤の號。田中大壯（**7**－**21723**‥227）を見よ。

〖大壯觀〗853（タイサウ クワン）　山名。江蘇省江寧縣の北。〔建康志〕大壯觀山、東接㆓鐘山㆒、南臨㆓眞武湖㆒、北臨㆓蠡湖㆒、西有ㇾ水下注㆓平陸㆒、陳宣帝起㆓大壯觀於此㆒。

〖大壯舞〗854（タイサウ ブ）　梁の武舞の名。沈約、舞歌を作る。大觀舞（604）を見よ。〔沈約、梁大壯大觀舞歌、大壯舞歌〕高高在ㇾ上、實愛㆓斯人㆒、眷㆓求聖德㆒、大拯㆓彝倫㆒、率土方燎、如㆓火在ㇾ薪、慄慄黔首、暮不ㇾ及ㇾ晨、朱光啓耀、兆㆓發穹旻㆒、我皇鬱起、龍躍㆓漢津㆒、言屆㆓牧野㆒、電激雷震、闕鞏之甲、彭濮之人、或貔或武、漂ㇾ杵浮ㇾ輪、我邦雖ㇾ舊、其命維新、六伐乃止、七德必陳、君㆓臨萬國㆒、遂撫㆓八黃㆒。〔隋書、音樂志上〕以㆓武舞㆒爲㆓大壯舞㆒、取㆓易云、大者壯也、正大而天地之情可ㇾ見也。

【大倉】855（タイ サウ）　❶都に設置する官の米藏。太倉（**3**－**5834**‥169）の❶を見よ。❷鷹（**12**－**47377**）の異名。〔馬融、與㆓謝伯世㆒書〕晚秋涉冬、大倉出ㇾ籠、黃棘下ㇾ菟、芼以㆓乾葵㆒。

〖大倉史〗856（タイサウ シ）　大炊屬の唐名。〔職原抄〕大炊寮、屬、唐名、大倉史。

〖大倉署〗857（タイサウ シヨ）　大炊寮の唐名。〔職原抄〕大炊寮、唐名、大倉署。

〖大倉丞〗858（タイサウ ジヨウ）　大炊允の唐名。〔職原抄〕大炊寮、允、唐名、大倉丞。

〖大倉令〗859（タイサウ レイ）　大炊頭の唐名。〔職原抄〕大炊寮、頭、唐名、大倉令・道官令。

【大草】860（タイ サウ）　❶丈の高い草。雜草。〔呂覽、任地〕大草不ㇾ生、又無㆓螟蜮㆒。〔注〕草、穢也。❷紅蘭（**8**－**27243**‥367）の❶の異名。〔述異記〕紅蘭花、一名大草。

〖大草振鷺〗861（オホクサ シンロ）　江戶の人。名は公明。通稱は大次郎・磨之助。號は振鷺。幕府儒官。著に闇齋言行錄・咬菜百做錄・直方言行錄・必有文備錄・擁爐偶談がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大巢】862（タイ サウ）　實らない豌豆。〔陸游、巢菜詩序〕蜀蔬有㆓兩巢㆒、大巢卽豌豆之不ㇾ實者、小巢生㆓稻畦中㆒。

【大爽】863（タイ サウ）　星の名。金星（**11**－**40152**‥641）の

異名。〔史記、天官書、注〕正義曰、天官占云、太白者、一名大爽。

【大莊】864 タイサウ 地名。㊀河北省清苑縣の東南。唐河の濱に當り、高陽縣の界。㊁雲南省鳳儀縣の南。

「をいふ。

〔大莊稼〕865 ta^4 chuang^1 chia 玉蜀黍・粟・高粱

【大創】866 タイサウ 大きいきず。おほきず。〔史記、灌夫傳〕夫馳入二吳軍一、所二殺傷一數十人、不レ得レ前、復馳還、身中大創十餘、適有二萬金良藥一、故得レ無レ死。

【大喪】867 タイサウ ㊀天子・皇后・世子の喪。〔周禮、天官、大宰〕大喪贊二贈玉含玉一。〔疏〕大喪、謂二王喪一。〔周禮、天官、宰夫〕大喪小喪、掌二小官之戒令一、帥二執事一而治レ之。〔注〕大喪、王后世子也。〔周禮、地官、遂人〕大喪、帥二六遂之役一而致レ之、掌二其政令一。㊁親の喪。大故。〔國語、晉語二〕父母死爲二大喪一。㊂大いに人の死ぬこと。又、國亡び、身戮せられること。〔書、多士〕降二若レ茲大喪一。〔蔡傳〕大喪者、國亡而身戮也。〔左氏、僖、十六〕對曰、今茲魯多二大喪一。㊃手厚く、期間の長いとむらひ。〔墨子、非儒下〕五穀既收、大喪是隨。㊄天皇が大行天皇・太皇太后・皇太后・皇后の喪に服せられること。皇族及び臣民も喪に服した。

【大棗】868 タイサウ なつめの實を乾したもの。藥用にする。〔爾雅、釋木〕洗二大棗一。〔疏〕郭云、今河東猗氏縣出二大棗一、子如二雞卵一。〔本草、棗〕大棗、釋名、乾棗・美棗・良棗、別錄曰、八月采曝乾、瑞曰、此卽曬乾大棗也、味最良美、故宜レ入レ藥、今人亦有下用二膠棗之肥大一者上。

【大嫂】869 タイサウ ㊀長男の妻。㊁長上の者の妻。〔古樂府、相和歌辭、瑟調曲孤兒行〕大兄言辦レ飯、大嫂言視レ馬。

〔大嫂子〕870 ta^4 sao^3 tzŭ^1 ㊀長男の妻に對する敬稱。㊁年長者の妻の敬稱。奥樣。

【大葬】871 タイサウ ㊀君臣の禮をもつて行ふ葬式。〔論語、子罕〕且予縱不レ得二大葬一、予死二於道路一乎。〔集注〕大葬、謂二君臣禮葬一。㊁天皇又は太皇太后・皇太后・皇后の御葬儀。

【大漕】872 タイサウ ㊀大きな運河。〔班固、西都賦〕東郊則有二通溝大漕一、潰レ渭洞レ河。〔注〕翰曰、漕、水運也。㊁漕運を掌る官。〔稱謂錄、漕務官、大漕〕宋史職官志、宣和三年方臘、初平江浙諸郡、皆未レ有二常賦一、乃詔二陳伯亨一、以二大漕之職一、經二制七路財賦一、許レ得三移二用監司一、聽二其案察一。

【大瘡】873 ta^4 ch'uang^1 疳瘡。

【大箱】874 ta^4 hsiang^1 大きなはこ。我が國の簞笥に似て、衣類などを入れる。〔紅樓夢、四十回〕配上大箱大櫃大桌子大床。

【大駔】875 タイサウ 敏捷な仲買人。駔は仲買の首領。〔呂覽、尊師〕段干木、晉國之大駔也。〔注〕駔、儈人也。

【大操】876 タイサウ ㊀偉大な節操。大節操。〔新書、匈奴〕仁道、信爲二大操一、帝義也。㊁大規模な操練。大演習。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕每歲九月霜降日、城鄉全保伍壯大操。

【大造】877 タイザウ 大功を成す。又、そのこと。造は成就。〔左氏、成、十三〕是我有二大造于西一也。〔注〕造、成也、言、晉有三成二功於秦一。〔後漢書、袁紹傳〕是則幕府無レ德二於兗土一、而有三大二造於操一也。〔陸機、皇太子宴二玄圃宣猷堂一有レ令賦詩〕俯釐二庶績一、仰荒二大造一。

【大像】878 タイザウ 大きな像。〔唐書、則天武后紀〕久視元年八月庚申、斂二天下僧錢一作二大像一。

【大藏】879 オホクラ ㊀大きい藏。〔古今著聞集、十六〕建てそめてまた物つかぬ大藏。㊁上古、主として國家の財物を收容した藏。雄略天皇の朝に創置す。齋藏・內藏を併せて三藏と稱した。〔日本書紀、清寧紀〕欲レ登二天下之位一、先取二大藏之官一。

〔大藏卿〕880 オホクラキヤウ 令制、大藏省の長官。唐名、大府卿。〔職原抄〕大藏省、卿一人、唐名大府卿。

〔大藏經〕881 ダイザウキヤウ 佛 略して藏經といひ、又、一切經・三藏聖教ともいふ。佛教聖典の全集で、釋迦の教說及び戒律を諸弟子等の編纂した經・律、又、後世佛教の組織的研究に依れる論、其の他、日本中國等で撰述せられた總べての佛書を含む。漢語・滿洲語・蒙古語・西藏語・西夏語・粟特語・于闐語・龜茲語・古代土耳古語・朝鮮諺文語・パーリ語・梵語等の各種がある。

〔大藏省〕882 オホクラシヤウ ㊀令制、八省の一。おほくらのつかさ。唐名は大府寺。全國の調庸を出納し、錢・金銀・珠玉・權衡・度量・賣買の估價等の事を掌る。〔職原抄〕大藏省、唐名、大府寺。㊁國務省の一。國の財務・租稅・通貨・金融などに關する大藏大臣を長とする機關で、本省は主計・主稅・理財・管財・銀行の各局、及び、外局として、國稅廳・造幣局・印刷局などがある。

〔大藏丞〕883 オホクラノジヨウ 令制、大藏省の判官。唐名は大府郎中。〔職原抄〕大藏省、丞、唐名、大府郎中歟。

〔大藏錄〕884 オホクラノサクワン 令制、大藏省の主典。唐名は大府主簿。〔職原抄〕大藏省、錄、唐名、大府主簿。

〔大藏少輔〕885 オホクラセウフ 大藏省の次官。唐名は大府少卿。〔職原抄〕大藏省、少輔一人、唐名、大府少卿。

〔大藏大臣〕886 オホクラダイジン 國務大臣で、大藏省の長。

〔大藏大輔〕887 オホクラタイフ 大藏省の次官。唐名は大府侍郎。〔職原抄〕大藏省、大輔一人、唐名、大府侍郎歟。

【大作】888 タイサク ㊀大事業を興す。〔易、益〕利三用爲二大作一、元吉無レ咎。〔疏〕大作、謂三興二作大事一也。㊁大臣の爲すこと。〔禮、緇衣〕毋下以二小謀一敗中大作上。〔注〕大作、大臣之所レ爲也。㊂大いに土木工事をおこす。〔後漢書、鍾離意傳〕北宮大作、人失二農時一。〔蔡邕、對三詔問二災異二〕大作不レ時、天降レ災。㊃群がりおこること。〔南方草木狀〕芒茅枯時、瘴疫大作。㊄すぐれた製作をすること。又そのもの。傑作。〔韓愈、與二鄂州柳中丞一書〕此由下天資忠孝、鬱二於中一而大作中於外上。㊅大部の著書。大きな作品。㊆高著。相手の作品に對する尊稱。

〔大作家〕889 ダイサクカ すぐれた作家。〔盧氏雜記〕王縉好與レ人作二碑志一、有下送二潤毫一者上、誤叩二王維門一、維曰、大作家在二那邊一。

【大岞】890 タイサク 山名。福建省惠安縣の東南。小岞山と水を隔てて相對す。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、惠安縣、獺窟山〕大岞山、在二縣東南海中一、山頂有レ洞、由二小石門一入丈餘、折而右轉、巨石如レ屛、可下蔽二內外一容中數一百人上、一人持レ戟守レ門、一千百人攻レ之不レ可レ入。

【大索】891 タイサク ㊀大いにもとめる。おほあなぐり。大搜索。〔史記、秦始皇紀〕大索二逐客一、李斯上書說、乃止二逐客令一。〔漢書、張良傳〕大索二天下一。㊁大きいなは。太い繩。大繩。〔南史、章昭達傳〕於二江上一、橫引二大索一、編レ葦爲レ橋、以度二軍糧一。㊂城の名。今の河南省滎陽縣治。南朝宋が後魏と戰つた處。〔左氏、昭、五〕晉韓宣子如レ楚送レ女、叔向爲レ介、鄭子皮・子大叔勞二諸索氏一。〔注〕河南成皐縣東有二大索城一。〔括地志〕今滎陽縣卽大索城、又有二小索城一、在二縣北一。

【大莋】892 タイサク 縣名。漢、置き、後漢、省く。故治は四川省冕寧縣の西。〔漢書、地理志上〕越嶲郡、縣十五、大莋。

【大錯】893 タイサク ㊀大きなやすり。錯は鑢（ヤスリ）、又、誤の義。轉じて、大きな見込違ひ、大錯誤。唐の羅紹威は、田承嗣が牙軍を設けて驕橫なのを惡み、朱全忠の力を借りて之を殪したが、朱全忠の軍が魏に留まり、金錢財寶を強要したため、魏軍はこれから大いに衰へたので、羅紹威は之を悔い、六州四十三縣の鐵を合しても、この樣にすりへらす鑢を作ることが出來ないと嘆じた故事。〔資治通鑑、唐紀〕（昭帝、天祐三年）田承嗣鎭二魏博一、選二募六州驍勇之士五千人一爲二牙軍一、厚二其給賜一以自衞爲二腹心一、自レ是父子相繼、親黨膠固、歲久益驕橫、小不レ如レ意、輒族二舊帥一而易レ之、自二史憲誠一以來、皆立二於其手一、天雄節度使羅紹威心惡レ之、云云、全忠留レ魏半歲、羅紹威供億、所レ殺牛羊豕、近二七十萬一、資糧稱レ是、所二賂遺一又近二百萬一、比レ去、蓄積爲レ之一空、紹威雖レ去二其逼一、而魏兵自レ是衰弱、紹威悔レ之、謂レ人曰、合二六州四十三縣鐵一、不レ能レ爲二此錯一也。〔注〕錯、鑢也、鑄爲レ之、又釋レ錯爲レ誤、羅以下殺二牙兵一之誤上、取レ鑄レ錯爲レ喩。〔蘇軾、贈二錢道人一詩〕不レ知幾州鐵、鑄二此一大錯一。㊁清、錢邦芑(11－40563··414)の號。

【大冊】894 タイサツ 大きな書冊。〔夢溪筆談、故事一〕悉以二黃紙一爲二大冊一寫レ之。

【大札】895 タイサツ ㊀はげしい流行病。疫癘。大疫。〔周禮、天官、膳夫〕大喪則不レ擧、大荒則不レ擧、大札則不レ擧。〔注〕大札、疫癘也。〔周禮、春官、大司樂〕大札・大凶・大烖・大臣死、凡國之大憂、

令レ弛レ縣。〔注〕札、疫癘也。❷人の手紙に對する敬稱。おてがみ。貴札。

【大三】896 オホミブ　伊勢國の地名。

〔大三東〕897 オホミサキ　肥前國の地名。

【大汕】898 ダイサン　清の僧。廣東の長壽寺に住す。著に海外紀事がある。

【大杉】899 タイサン　山名。福建省西部邊境の山群。杉嶺を其の主峯とする。〔讀史方輿紀要、福建省、泰寧縣、大杉嶺〕縣西北二十里、路通二江西建昌府一、多產二杉木一。

【大衫】900 ta⁴ shan¹　支那服の長い上衣。大衫「子。

〔大衫子〕901 ta⁴ shan¹ tzu　夏期に着るひとへの長い上衣。

【大參】902 タイサン　❶その間に參じて大いに禮を助けるものをいふ。〔禮、鄉飲酒義〕三賓者、政敎之本、禮之大參也。❷參政をいふ。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕丞相政與二先公大參及賈平章一爲二同輩人一矣。〔稱謂錄、各道、大參小參〕李攀龍有下送三羅大參之二任山西一詩上、吳國倫有下送二徐行父少參赴二關內一詩上、案、大參、卽參政、少參、卽參議也。

〔大參事〕903 ダイサンジ　明治二年から四年まで府藩に置かれた地方官。

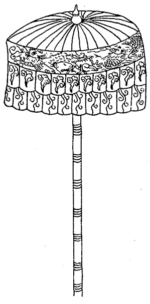
【大產】904 タイサン　通常のお產をいふ。早產を小產といふの對。〔景岳全書、男女論、安胎總論、小產〕故凡今之娼妓則多無二大產一、以二小產之多一也、娶二娼妓一者、多少二子息一、以三其子宮滑而慣二於小產一也。

【大散】905 タイサン　關の名。陝西省寶雞縣の西南、大散嶺にあり、散關ともいふ。〔唐書、沙陀傳〕帝懼、走二大散關一。〔陸游、書憤詩〕樓船夜雪瓜州渡、鐵馬秋風大散關。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府、寶雞縣〕大散關、在二縣西南大散嶺上一、自レ古南北之險要也、向設二巡司戍守一。

【大蒜】906 タイサン　葷菜の名。にんにく。おほひる。〔本草、葫〕釋名、大蒜・葷菜、弘景曰、今人謂レ葫爲二大蒜一、蒜爲二小蒜一、以二其氣類相似一也、時珍曰、按二孫愐唐韻一云、張騫使二西域一、始得二大蒜・葫荽一、則小蒜乃中土舊有、而大蒜出二胡地一、故有二胡名一、二蒜皆屬二五葷一、故通可レ稱レ葷。

【大餐】907 ta⁴ ts'an¹　西洋料理。

【大繖】908 タイサン　大きな絹ばりのかさ。〔唐書、儀衞志上〕天子出、大繖二、執者騎橫行、居二衙門後一。〔三才圖會、儀制、大繖〕按二開元禮義鑑一曰、風俗通云、繖者大蓋也、又漢書、上官桀爲二羽林郎一、從二武帝一、上二甘泉宮一、會天大風、車不レ得レ行、因解レ蓋以授レ之、宋制大繖、赤質紫表、平頂而圓上、繡二金飛龍瑞草一、朱裏紅漆、藤纏直柄、今制與レ宋同、但加二金浮屠一。


大繖（三才圖會）

【大山】909 タイザン　❶大きな山。おほやま。〔山海經、大荒西經〕赤水之後、黑水之前、有二大山一、名曰二崑崙之丘一。❷山名。㋑泰山(**6**—**17325**‥45)の❶に同じ。〔穀梁、桓元〕邴者鄭伯之所レ受レ命而祭二大山一之邑也。〔釋文〕大、本亦作レ泰。〔莊子、齊物論〕天下莫レ大二於秋毫之末一、而大山爲レ小。㋺河北省臨楡縣の北。金を產す。一名、山海關金山。❸土司の名。雲南省瀾滄縣の東北、瀾滄江の濱。土の守備は石氏の世襲。石氏は、咸豐九年回賊を平げ、光緒十七年、東王猓の匪を攻めて克ち、賞として大山土守備の世襲を授けらる。❹字號。㋑元、陳岳(**11**—**41698**‥100)の號。㋺清、劉巖(**2**—**2224**‥137)の字。❺ウフヤマ　琉球の地名。

〔大山崔〕910 タイザンサイタリ　大山の高大なさまをいふ。〔漢書、禮樂志、安世房中歌〕大海蕩蕩水所レ歸、高賢愉愉民所レ懷、大山崔、百卉殖、民何貴、貴二有德一。

〔大山廣川〕911 タイザンクワウセン　大きな山と廣い川。〔管子、乘馬〕凡立二國都一、非レ於二大山之下一、必於二廣川之上一、高毋レ近レ旱而水用足、下毋レ近レ水而溝防省。

〔大山小山〕912 タイザンセウザン　❶大きい山と小さい山。〔爾雅、釋山〕大山宮、小山霍。❷淮南王安の群臣淮南小山の徒の作つた篇章辭賦の類をいふ。〔楚辭、招隱士、王逸章句〕招隱士者、淮南小山之所レ作也、昔淮南王安、博雅好レ古、招二懷天下俊偉之士一、自二八公之徒一、咸慕二其德一、而歸二其仁一、各竭二才智一、著二作篇章一、分二造辭賦一、以レ類相從、故或稱二小山一、或稱二大山一、其義猶三詩有二小雅大雅一也。❸梁の何點と何胤との兄弟をいふ。〔梁書、處士、何胤傳〕胤以三會稽山多二靈異一、往游焉、居二若邪山雲門寺一、初胤二兄求・點並棲遁、求先卒、至レ是胤又隱、世號レ點爲二大山一、胤爲二小山一、亦曰二東山一。❹明の睦㮮と安沠とをいふ。〔陔餘叢考、三大小山〕漢淮南王安、招二徠文學之士一、著爲二篇章一、以レ類相從、或稱二大山一、或稱二小山一、梁何胤何點並甘二棲遁一、世號レ點爲二大山一、胤爲二小山一、明肅王之後、睦㮮・安沠俱有二學行一、人稱二睦㮮一爲二大山一、安沠爲二小山一。

〔大山不レ讓二土壤一〕913 タイザンハドジヤウヲユヅラズ　大きな山嶽は土の性質大小を選ばないで受け入れるから大きい山を成してゐる。度量の大きい人物は能く人々の意見を受け容れる喩。太山不レ讓二土壤一(**3**—**5834**‥183)を見よ。

〔大山之高背而弗レ見〕914 タイザンノタカキモソムキテハミエズ　高い山でも、背を向けてゐては見ることが出來ない。〔淮南子、說林訓〕大山之高、背而弗レ見、秋毫之末、視レ之可レ察。

【大殘】915 タイザン　甚しい殘害。〔新書、無蓄〕今背レ本而趨レ末食者甚衆、是天下之大殘也。

【大士】916 タイシ　❶神に關することを掌る官。祭祀を掌る官。殷代、天官六大の一。〔禮、曲禮下〕天子建二天官一、先二六大一、曰、大宰・大宗・大史・大祝・大士・大卜、典二司六典一。〔注〕大士、以二神仕一者。❷周代、刑獄を治める官。〔左氏、僖、二十八〕衞侯與二元咺一訟、甯武子爲レ輔、鍼莊子爲レ坐、士榮爲二大士一。〔注〕大士、治レ獄官也。❸道德の高いすぐれた人。〔管子、法法〕務レ物之人、無二大士一焉。〔注〕大士、不レ矜、謙以接レ物。〔韓子外傳、九〕孔子與二子貢・子路・顏淵一游二於戎山之上一、孔子喟然嘆曰、二三子各言二爾志一、予將レ覽焉、云云、回爾何如、對曰、鮑魚不下與二蘭茝一同レ笥而藏上、桀紂不下與二堯舜一同レ時而治上、二子已言、回何言哉、孔子曰、回有二鄙レ之心一、顏淵曰、願得二明王聖主一、爲二之相一、使下城郭不レ治、溝池不レ鑿、陰陽和調、家給人足、鑄二庫兵一以爲中農器上、孔子曰、大士哉。❹位の高い人。權勢ある人。〔李白、宴二陶家亭子一詩〕曲巷幽人宅、高門大士家。❺字號。㋑陳、裴子烈(**10**—**34362**‥130)の字。㋺明、陳際泰(**11**—**41698**‥873)の字。❻佛 ダイジ　菩薩の通稱。〔法華文句記、二〕大士者、大論稱二菩薩一爲二大士一、亦曰二開士一、士謂二士夫一、凡人之通稱、以二大開一簡別、故曰二大等一。〔釋門正統、四〕宋神宗宣和元年、詔改二釋氏一爲二金仙一、菩薩爲二大士一、僧爲二德士一。❼マスラヲ　男子の剛強な者。〔倭名類聚抄〕。

【大子】917 タイシ　天子及び諸侯の嗣子。太子。〔周禮、夏官、諸子〕國有二大事一、則帥二國子一而致二於大子一。〔禮、燕義〕國有二大事一、則率二國子一而致二於大子一。〔左氏、隱、元〕惠公之薨也、大子少。

【大之】918 タイシ　字號。❶宋、夏溥(**3**—**5720**‥247)の字。❷明、韓奕(陝西の人)(**12**—**43159**‥15)の字。

【大史】919 タイシ　❶古の官名。殷、置く。天官六大の一。周禮では春官の屬。太史(**3**—**5834**‥215)の❶を見よ。〔禮、曲禮下〕天子建二天官一、先二六大一、曰、大宰・大宗・大史・大祝・大士・大卜、典二司六典一。〔注〕此蓋殷時制、周則、云云、大宗曰二宗伯一、宗伯爲二春官一、大史以下屬焉。❷周官の名。春官の屬。史官の長。邦の六典を建てて官府の治を迎へることを掌る。〔周禮、春官、序官、大史、注〕大史、史官之長。〔周禮、春官、大史〕大史、掌下建二邦之六典一、以逆中邦國之治上。

〔大史監〕920 タイシカン　陰陽頭の唐名。〔職原抄〕陰陽寮、頭、唐名、司天監・大史監。

〔大史局〕921 タイシキヨク　陰陽寮の唐名。〔職原抄〕陰陽寮、唐名、司天監、或云、大史局。

〔大史丞〕922 タイシジヨウ　陰陽允の唐名。〔職原抄〕陰陽寮、允、唐名、司天丞・大史丞。

〔大史少監〕923 タイシセウカン　陰陽助の唐名。〔職原抄〕陰陽寮、助、唐名、司天少監、大史少監。

【大司】924 タイシ　大きな職務。大なるつとめ。〔左氏、昭、元〕男女辨レ姓、禮之大司也。〔晉書、紀瞻傳〕有二國之盛典一、爲二邦之大司一。

〔大司樂〕925 タイシガク　周官の名。春官の屬。樂官の長。成均の法を掌る。大樂正ともいふ。〔周禮、春官、序官、大司樂、注〕大司樂、樂官之長。〔周

禮、春官、大司樂〕掌二成均之灋一、以治二建國之學政一、而合二國之子弟一焉。

〖大司空〗926 タイシクウ　周代、法官の長。六卿の一。漢代、御史大夫を改めて大司空と云つたことがある。後世、工部尙書を大司空といふ。司空(**2**−**3257**··43)の㊀を見よ。〔左氏、莊、二十六〕晉士蔿爲二大司空一。〔漢書、百官公卿表上〕御史大夫、秦官、云云、成帝綏和元年、更二名大司空一。

〖大司憲〗927 タイシケン　唐代、御史大夫をいふ。〔唐書、百官志三〕龍朔二年、改二御史臺一曰二憲臺一、大夫曰二大司憲一、中丞曰二司憲大夫一。

〖大司寇〗928 タイシコウ　周官の名。秋官の長。邦の三典を建てて、邦國を刑することを掌る。司寇(**2**−**3257**··91)の㊀を見よ。〔周禮、秋官、大司寇〕大司寇之職、掌下建二邦之三典一、以佐レ王刑中邦國上。

〖大司成〗929 タイシセイ　㊀周代、司徒の屬、師氏をいふ。〔稱謂錄、祭酒、大司成〕禮記文王世子、大司成、論說在二東序一、鄭注、大司成、司徒之屬、師氏也。㊁唐の官名。學官の長。唐の中宗、漢の祭酒を改め稱す。〔唐書、百官志三、注〕龍朔二年、改二國子監一曰二司成館一、祭酒曰二大司成一、司業曰二小司成一。

〖大司戚〗930 タイシセキ　官名。漢代、宗正(**3**−**7106**··172)の㊀をいふ。〔稱謂錄、宗人府職官古稱、大司戚〕叩鉢齋官職攷、漢因二秦制一、置二宗正一掌二九族一、以二皇族一爲レ之、稱二大司族一、亦稱二大司戚一。

〖大司族〗931 タイシゾク　官名。漢代、宗正をいふ。大司戚を見よ。

〖大司田〗932 タイシデン　古の農事を司る官。羣書治要には大の字が無い。〔管子、小匡〕墾レ草入レ邑、辟レ土聚レ粟、多レ衆盡二地之利一、臣不レ如二甯戚一、請立爲二大司田一。〔纂詁〕大司田、農官、治要引無二大字一。

〖大司徒〗933 タイシト　周官の名。地官の長。教化を掌る。前漢は丞相を改めて大司徒とし、後漢以後は司徒とす。後世は戶部尙書を大司徒といふ。司徒(**2**−**3257**··189)の㊀を見よ。〔周禮、地官、大司徒〕大司徒之職、掌下建二邦之土地之圖與二其人民之數一、以佐レ王安中擾邦國上。〔漢書、百官公卿表上〕相國丞相、皆秦官、云云、哀帝元壽二年、更二名大司徒一。

〖大司農〗934 タイシノウ　漢代、穀貨を掌る長官。大農令。司農(**2**−**3257**··199)の㊀を見よ。〔史記、武安侯田蚡傳〕以二大司農韓安國一爲二御史大夫一。〔漢書、百官公卿表上〕治粟內史、秦官、云云、景帝後元年、更二名大農令一、武帝太初元年、更二名大司農一。〔資治通鑑、漢紀〕（元帝、初元二年）大司農錢盡、乃以二少府禁錢一續レ之。〔注〕續漢志、大司農、掌二諸錢穀金帛諸貨幣一。

〖大司馬〗935 タイシバ　㊀周官の名。夏官の長。軍事を掌る。漢、大將軍・驃騎將軍を改めて大司馬とし、後漢は太尉と改めた。後世、兵部尙書を大司馬といふ。司馬(**2**−**3257**··201)の㊀の㋑を見よ。〔周禮、夏官、大司馬〕大司馬之職、掌下建二邦國之九灋一、以佐レ王平中邦國上。〔史記、衞將軍驃騎傳〕乃益二置大司馬位一、大將軍驃騎將軍皆爲二大司馬一。〔漢書、百官公卿表上〕太尉、秦官、云云、元狩四年、初置二大司馬一。㊁鎭の名。河南省武涉縣の西南。〔淸一統志〕司馬城在二武涉縣西南三十里一、晉司馬氏所レ居、其鄕有二司馬村一。

〖大司命〗936 タイシメイ　楚辭、九歌の篇名。

〖大司理〗937 タイシリ　刑獄を掌る官。大理。〔管子、小匡〕決レ獄折レ中、不レ殺二不辜一、不レ誣二無罪一、臣不レ如二賓胥無一、請立爲二大司理一。〔纂詁〕治要引作二大理一。

〖大司禮〗938 タイシレイ　官名。北周、春官卿を改めていふ。後、禮部大夫と改む。〔稱謂錄、禮部、大司禮〕通典、後周置二春官卿一、後改爲二大司禮一、俄又改爲二禮部大夫一、冊府元龜、春官之屬有二典命一、後改爲二大司禮一。

【大市】939 タイシ　大きな市場。周代は午後の市場をいふ。朝市(**5**−**14374**··175)の㊁・夕市(**3**−**5749**··63)の對。〔周禮、地官、司市〕大市日昃而市、百族爲レ主。〔新書、匈奴〕許二之大市一。

〖大市裏賣二平天冠一〗940 タイシノウチニヘイテンクワンヲウル　大きな市場の中で天子の冠を賣る。世人から顧みられない喩。〔書言故事大全、事物譬類、大市裏賣二平天冠一〕宋朝、廖融・潘若沖、更唱迭和、詩家之勍敵、多有二生徒一、大宗以二詞賦策論一取レ士、融生徒引去、融曰、豈知二今日之詩道一、一似三大市裏賣二平天冠一、並無二人問一。〔注〕平天冠、天子之冕。

【大矢】941 オホヤ　矢束のすぐれて長い箭。〔保元物語、白河殿攻落〕爲朝、云云、件の大矢を打ち交ひ。

〖大矢數〗942 オホヤカズ　㊀通し矢を射るに、前日の暮から始めて翌日の暮まで一晝夜射ること。日中だけ射るを小矢數といふの對。京都三十三間堂のとほし矢などにいふ。㊁一時に早く續けて吟ずる俳諧の大興行。矢數俳諧。

【大旨】943 タイシ　大體の意義。大要。大指。大趣。〔紅樓夢、一回〕雖二其中大旨談レ情、亦不レ過三實二錄其事一。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕按、交盤大旨。

【大志】944 タイシ　大きな志。遠大な志望。大意。〔左氏、襄、二十五〕崔子將レ有二大志一。〔後漢書、馬援傳〕少有二大志一、諸兄奇レ之。〔魏志、武帝紀〕袁紹雖レ有二大志一、而見レ事遲、必不レ動也。〔唐書、太宗紀〕太宗爲レ人、聰明英武有二大志一、而能屈レ節下レ士。

【大私】945 オホキサイチ　姓氏。〔姓林全書〕。

〖大私部〗946 オホキサイベ　姓氏。〔新撰姓氏錄考證、五〕。

【大使】947 タイシ　㊀天子の命を奉じて事を行ふ正使。君主を代表する最高の使者。〔禮、月令〕是月也、毋下以封二諸侯一立中大官上、毋下以割レ地行二大使一出中大幣上。〔韓非子、八姦〕薄者數內二大使一、以震二其君一。〔後漢書、馮衍傳上〕秉二大使之權一。〔曹植、責躬詩〕光光大使、我榮我華。〔北史、齊武成帝紀〕詔二大使一巡二行天下一、求二政善惡一。㊁節度使をいふ。唐代、節度大使・副大使等があつて、節度大使は諸王で京にあるもの、節度副大使は其の國に在る者を以てした。節度使(**8**−**26243**··134)を見よ。〔唐書、百官志四下〕貞觀初、遣二大使十三人一、巡二省天下諸州一、水旱則遣レ使、有二巡察安撫存撫之名一。㊂元・明の制、長官の下に隷し、事務を管理する官。庫大使・倉大使・稅課大使等。〔續通典、職官、司農卿〕京都二十二倉、各倉置二監支納一人・大使二人・副使二人一、皆屬二戶部一。〔淸會典、戶部〕凡直省皆有レ庫、庫設二大使一人一。㊃遣唐使の長官。〔日本書紀、孝德紀〕白雉四年夏五月辛亥朔壬戌、發二遣大唐大使、小山上吉士長丹一。㊄一國を代表して外國に駐在する外交官。特命全權大使の略。公使の上に位す。

〖大使館〗948 タイシクワン　特命全權大使が駐劄國に於て事務を取扱ふ所。

〖大使車〗949 タイシシヤ　車の名。四頭立ての立乘する車。〔晉書、輿服志〕大使車、立乘、駕四、赤帷裳、騶騎導從。〔注〕舊公卿二千石、郊廟上陵從駕、乘二大使車一、他出乘二安車一也。

【大姊】950 タイシ　㊀一番年長の姊。おほあね。又、あねの尊稱。〔漢書、孝景王皇后傳〕帝下レ車立曰、大姊何藏之深也。〔蘇軾、朱壽昌郎中少不レ知二母所在一、云云、去歲得二之蜀中一以レ詩賀レ之詩〕長陵碣來見二大姊一、仲孺豈意逢二將軍一。㊁天女。〔孫頠、神女傳、張女郎〕竝以二生日一同覲二大姊一。㊂佛 ダイシ　優婆夷(比丘尼)又は地位ある在家女人の敬稱。後、我が國にては高貴の婦人の法名に大姊號を用ひることとなつた。〔行事鈔、下、三之四〕善見云、喚レ婢爲二大姊一、不レ得レ云レ婢。

〖大姊姊〗951 タイシシ　嫡母をいふ。〔事物異名錄、倫屬、母〕宋高宗母韋氏、稱二徽宗后一、爲二大姊姊一、見二后妃本傳一。〔釋親考〕北齊太子、稱二生母一爲二姊姊一、己妻爲二妹妹一、至レ宋則呼二嫡母一爲二大姊姊一、妻之于二嫡母一亦然、宋高宗母韋后、稱二徽宗嫡后一爲二大姊姊一、語見二后妃傳一。

【大始】952 タイシ　㊀大道のはじめ。天地開闢のはじめ。おほもと。太初。元始。太始。〔易、繫辭上〕乾知二大始一、坤作二成物一。〔疏〕以三乾是天陽之氣、萬物皆始在二於氣一、故云レ知二其大始一也。〔禮、樂記〕樂著二大始一、而禮居二成物一。〔注〕大始、百物之始主也。㊁はじめを大いにする。はじめを尊ぶ。〔漢書、董仲舒傳〕謂レ一爲レ元者、視二大レ始而欲レ正レ本也。㊂淸、蔣元(**9**−**31820**··45)の字。

【大枝】953 タイシ　大きい枝。おほえだ。〔莊子、人間世〕大枝折、小枝泄。

【大祀】954 タイシ　㊀天子が親ら行ふ最も大なる祭。中祀・小祀に對していふ。㋑周代は天地または宗廟をまつる祭。〔周禮、春官、肆師〕立二大祀一用二玉帛牲牷一、立二次祀一用二牲幣一、立二小祀一用レ牲。〔注〕鄭司農云、大祀、天地、次祀、日月星辰、小祀、司命已下、玄謂、大祀又有二宗廟一、次祀又

有二社稷五祀五嶽一、小祀又有二司中風師雨師山川百物一。㋺隋代は上帝・日月・地祇・社稷・宗廟等をまつる祭。〔隋書、禮儀志六〕昊天上帝五方上帝日月皇地祇神州社稷宗廟等爲二大祀一、星辰五祀四望等爲二中祀一、司中司命風師雨師、及諸星諸山川等爲二小祀一。㋩清代は天地・上帝・太廟・社稷・先師孔子等をまつる祭。〔清會典、禮部〕大祀一、凡郊天之禮兆二陽位於南郊一、圜以象レ天曰二圜丘一。〔六部成語、禮部、大祀、注解〕大祭禮也、惟天壇地壇、極尊之神、得レ用之、如レ云下大二祀天於圜丘一、大中祀地於方澤上是也。❷我が國で、古、諸祭祀中に在つて最も重んぜられたもの。大嘗祭の類。一箇月潔齋して行ふ。〔令義解、神祇〕凡一月齋爲二大祀一、三日齋爲二中祀一、一日齋爲二小祀一。〔延喜式、四時祭、上〕凡踐祚大嘗祭爲二大祀一、祈年月次、云云、爲二中祀一、大忌・風神、云云、爲二小祀一。

【大指】955 タイシ ❶大體の旨意。大旨。〔淮南子、要略〕執二其大指一。〔史記、汲黯傳〕汲黯好二黃老之言一、治レ官理レ民、好二清淨一、擇二丞史一而任レ之、其治責二大指一而已。〔魏志、王昶傳〕其大指如レ此。❷おやゆび。拇指をいふ。〔明良記〕吳康齋與レ弼、召至二京師一、常以二兩手大指食指一作レ圈曰、令三太極常在二眼前一。

【大施】956 タイシ 大いに用ひられて、仕事をすること。〔林鶴梁、東湖遺稿序〕不レ得二大施一以終。

【大師】957 タイシ ❶大勢の軍隊。大軍。〔易、同人〕大師克相遇。❷周官の名。春官の屬。樂工の長で、大師・小師に分つ。〔周禮、春官、大師〕大師、掌二六律六同一、以合二陰陽之聲一。〔儀禮、大射儀〕僕人正徒相二大師一。〔禮、檀弓下〕曠也、大師也。〔論語、微子〕大師摯適レ齊。〔荀子、王制〕使三夷族邪音不二敢亂一レ雅、大師之事也。❸三公の一。天子を輔け、天下を教化し、四方を維制することを掌る。文官中の最高官。太師。〔詩、小雅、節南山〕尹氏大師、維周之氐。〔詩、大雅、板〕价人維藩、大師維垣、大邦維屏、大宗維翰。〔箋〕大師、三公也。〔左氏、襄、十四〕世胙二大師一、以表二東海一。❹大學者。大先生。〔史記、伏生傳〕諸山東大師、無レ不下涉二尙書一以教上矣。❺大衆の意。〔詩、大雅、板〕价人維藩、大師維垣。〔集傳〕師、衆。❻太政大臣の唐名。〔職原抄〕大政大臣、唐名、大師・相國・大尉。❼佛ダイシ朝廷から高德の僧に賜はる尊號。唐の懿宗に始まる。〔杜甫、贈二蜀僧閭丘師兄一詩〕大師銅梁秀。〔遺教經〕是汝大師。❽弘法大師の特稱。〔榮華物語、疑〕高野に參らせ給ひて、大師の入定のさまを覗き見奉らせ給へば。

【大翅】958 タイシ 大きい翅。〔劉禹錫、有獺吟〕翩翩黃金鶚、大翅搖二江烟一。

【大胾】959 タイシ 肉の大きなきりみ。〔史記、周勃世家〕景帝居二禁中一、召二條侯一賜レ食、獨置二大胾一、無二切肉一、又不レ置レ櫡。〔歐陽脩、憎二蒼蠅一賦〕大胾肥牲、嘉肴美味。〔蘇軾、鰒魚行〕磨レ沙瀹レ瀋成二大胾一、剖レ蚌作レ脯分二餘波一。

【大視】960 タイシ 大いにうかがふ。雄視する。〔易林〕鴻聲大視、高擧神化。〔吳志、陸遜傳〕方今天下雲擾、羣雄虎爭、英豪踊躍、張レ聲大視。

【大嗣】961 タイシ 北宋の末、遼の天祚帝、耶律延禧の時、蕭幹の僭年號、天嗣の一稱。(1122－1123)

【大肆】962 タイシ ❶崩じた天子の尸をゆあみすること。大浴。〔周禮、春官、小宗伯〕王崩、大肆、以二秬鬯一渳。〔注〕大肆、大浴也。❷大いにほしいままなこと。〔劉向、上二關尹子一序〕渾質崖戾、汪洋大肆。〔唐書、韓愈傳贊〕橫鶩別驅、汪洋大肆。

【大肆猖獗】963 タイシシャウケツ 盜賊や賊兵が暴虐をほしいままにすること。〔六部成語、兵部、大肆猖獗、注解〕賊兵大有二任意兇猛利益之勢一。〔六部成語、刑部、大肆猖獗、注解〕盜賊大逞二其凶一也。

【大資】964 タイシ ❶大きな資財。巨資。大寶。〔商子、弱民〕此帝王之大資也。〔史記、田敬仲完世家〕是大資也。❷宋代、資政殿大學士の稱。〔避暑錄話〕本朝觀文資政殿皆有二大學士一、觀文稱二大觀文一、而資政稱二大資一。

【大嘴】965 ta^4 tsuei^3 大きい口。大言するものをいふ。〔水滸傳、一百十五回〕今日我在先鋒哥哥面前、砍二了大嘴一。

【大賜】966 タイシ 立派なたまもの。〔國語、吳語〕孤不三敢忘二天災一、其敢忘二君王之大賜一乎。

【大糦】967 タイシ 黍と稷。〔詩、商頌、玄鳥〕龍旂十乘、大糦是承。〔集傳〕大糦、黍稷也。

【大贄】968 オホニヘ 立派な贄。土地の產物を御饌の御料として獻ること。〔古事記、中〕海人貢二大贄一。

【大字】969 タイジ ❶大きい字。大書した字。大形の文字。大文字。〔南史、劉穆之傳〕縱レ筆爲二大字一、一字徑尺、無レ嫌レ大、既足レ有レ所レ包、其勢亦偉。❷漢字の一・二・三等に對して、壹・貳・參・肆・伍・陸・漆・捌・玖・拾・佰・阡をいふ。〔公式令〕凡簿帳・科罪・計贓・過所・抄牓之類、有レ數者、爲二大字一。〔民部省式〕凡諸國進レ官雜物、返抄稱二其年物一者、皆作二大字一。❸草の名。虎耳草科の多年生草本。花期は夏秋、白色。

〖大字本〗970 タイジボン 書物の形の大きなものをいふ。大本。〔書林清話、古今藏書家紀板本〕大字本、中字本。

〖大字小字〗971 タイジセウジ 大きい字と小さい字。〔法書要錄〕師宜官、後漢不レ知二何許人何官一、能爲二大字方一丈、小字方寸千言一。〔宣和書譜〕蔡襄大字、鉅數尺、小字如二毫髮一、筆力位置、大者不レ失二結密一、小者不レ失二寬綽一。

【大寺】972 タイジ ❶大きい寺。おほでら。〔法苑珠林〕晉長安釋慧嵬、不レ知二何處人一、止二長安大寺一、戒行澄潔。❷川の名。廣東省欽縣の西北。一名、團良江。源は江西省上思縣。那蒙江に合す。

〖大寺頂〗973 タイジテイ タイジチャウ 山名。四川省高縣。

【大次】974 タイジ 大きな幕。次は幄。天子が早晨、祭に臨み、時刻の至るを待つ處。〔周禮、天官、掌次〕朝レ日、祀二五帝一、則張二大次・小次一、設二重帟重案一。〔注〕次、謂レ幄也、大幄、初往所二止居一也、小幄、既接レ祭、退俟之處。〔唐書、禮樂志四〕皇帝視レ學、設二大次於學堂後一、皇太子次二於大次一。

【大耳】975 タイジ 大きい耳。〔漢書、五行志中之下〕於レ易坎爲レ豕、豕大耳而不レ聰、察聽氣毀、故有二豕禍一也。

〖大耳兒〗976 タイジジ 三國、蜀の劉備の異稱。耳朶が大きかつたからいふ。〔後漢書、呂布傳〕布目レ備曰、大耳兒最叵レ信。〔蜀志、先主劉備傳〕先主身長七尺五寸、垂レ手下レ膝、顧自見二其耳一。

【大事】977 タイジ ❶大きい事業。大きい事件。小事(**4－7473**‥553)の對。〔易、遯〕畜二臣妾一吉、不レ可二大事一也。〔疏〕明二其不一レ可レ爲二大事一也。〔周禮、天官、小宰〕天官、其屬六十、掌二邦治一、大事則從二其長一、小事則專達。〔論語、子路〕見二小利一、則大事不レ成。〔老子、六十三〕天下難事、必作二於易一、天下大事、必作二於細一。〔杜預、春秋左氏傳序〕大事書二之於策一、小事簡牘而已。❷祭祀と寇戎とをいふ。又、單に戎事をいふ。〔書、大誥〕我有二大事休一、朕卜幷吉。〔傳〕大事、戎事也。〔周禮、天官、大宰〕作二大事一、則戒二于百官一、贊二王命一。〔注〕春秋傳曰、國之大事在二祀與一レ戎。〔禮、月令〕毋下作二大事一、以妨中農之事上。〔注〕大事、兵役之屬。〔禮、大傳〕大夫士有二大事一、省二於其君一、干袷及二其高祖一。〔注〕大事、寇戎之事也。〔左氏、隱、五〕臧僖伯諫曰、凡物不レ足三以講二大事一、其材不レ足三以備二器用一。〔注〕大事、祀與レ戎。〔國語、周語上〕民之所レ急在二於大事一。〔注〕大事、戎祀也。❸大袷の祭をいふ。〔春秋、文、二〕八月丁卯、大二事于大廟一、躋二僖公一。〔注〕大事、禘也。〔公羊、文、二〕大事者何、大袷也、大袷者何、合祭也、其合祭奈何、毀廟之主、陳二于大祖一、未毀廟之主、皆升合二食于大祖一、五年而再殷祭。❹喪事をいふ。〔禮、檀弓上〕大事斂用レ昏。〔注〕大事、謂二喪事一也。〔孟子、離婁下〕孟子曰、養レ生者、不レ足三以當二大事一、惟送レ死、可三以當二大事一。❺盟ひをいふ。〔左氏、哀、十三〕大事未レ成、二臣之罪也。〔注〕大事、盟也。〔國語、魯語下〕承二君命一以會二大事一。〔注〕大事、盟也。❻徭役をいふ。〔禮、月令〕毋下擧二大事一以搖中養氣上。〔注〕大事、興二徭役一以有レ爲。❼嫡庶の廢立をいふ。〔國語、晉語一〕吾欲レ作二大事一。〔注〕大事、廢レ適立レ庶也。❽農をいふ。〔國語、周語上〕夫民之大事在レ農。〔注〕穀民之命、故農爲二大事一。❾㋑ねんごろ。大切にする。鄭重。〔宇津保物語、嵯峨院〕うへかく、大事して物せらるれば。㋺あやふい。たやすくない。容易でないこと。〔榮華物語、楚王夢〕ただにもあらぬ人のだいじにもあるかな。

〖大事記〗978 ダイジキ 書名。十二卷。通釋三卷。解題十二卷。宋、呂祖謙撰。史記の表を參考して、周の敬王三十九年から漢の武帝、征和三年までの大事を年月に按じて分類したもの。通釋三卷は其の綱領をのべ、解題十二卷は詳傳である。

〔四庫提要、史、編年類〕。

〔可レ屬二大事一〕979（ダイジヲショクスベシ）　大事業を委任することが出來る。〔史記、留侯世家〕漢王之將、獨韓信可下屬二大事一當中一面上。〔漢書、周勃傳〕高帝以爲、可レ屬二大事一。

〔大事記講義〕980（ダイジキカウギ）　書名。二十三卷。宋、呂中撰。北宋九朝の事迹を述べ、治亂得失の由を推論す。〔四庫提要、史、史評類〕。

〔大事記續編〕981（ダイジキゾクヘン）　書名。七十七卷。明、王褘撰。呂祖謙の大事記の後をうけて作る。漢の征和から宋の德祐に至る迄の大事表で、體例は凡べて其の舊に仍る。〔四庫提要、史、編年類〕。

〔大事不二糊塗一〕982（ダイジハコトセズ）　大事件に對しては曖昧にせず、よく決斷する。〔宋史、呂端傳〕時呂蒙正爲レ相、太宗欲レ相レ端、或曰、端爲レ人糊塗、太宗曰、端小事糊塗、大事不二糊塗一、決レ意相レ之。

〔大事必作二於細一〕983（ダイジハカナラズサイヨリオコル）　重大な事件は細事からおこる。〔老子、六十三〕天下難事、必作二於易一、天下大事、必作二於細一。

【大兒】984（タイジ）　年の多い兒。兒をいふ。轉じて、二人のすぐれた人物のうちの年長者をいふ。小兒の對。大兒小兒を見よ。〔木蘭辭〕阿耶無二大兒一、木蘭無二長兄一。〔楊萬里、詩〕大兒長孺赴二零陵一。

〔大兒小兒〕985（タイジセウジ）　兄と弟。轉じて、二人のすぐれた人物の長者を大兒、幼者を小兒といふ。〔後漢書、禰衡傳〕衡唯善二魯國孔融及弘農楊脩一、常稱曰、大兒孔文擧、小兒楊德祖、餘子碌碌、莫レ足レ數也。〔杜甫、最能行〕小兒學問止二論語一、大兒結束隨二商旅一。〔杜甫、徐卿二子歌〕君不レ見徐卿二子生絕奇、感二應吉夢一相追隨、孔子釋氏親抱送、並是天上麒麟兒、大兒九齡色清徹、秋水爲レ神玉爲レ骨、小兒五歲氣食レ牛、滿堂賓客皆廻レ頭、吾知徐公百不レ憂、積善袞袞生二公侯一、丈夫生レ兒有レ如レ此、二雛者名位、豈肯卑微休。

【大姒】986（タイジ）　周の文王の妃。武王の母。莘國の女。賢婦人の譽高く、號して文母といふ。太姒。〔詩、大雅、思齊〕思レ齊大任、文王之母、思レ媚二周姜一、京室之婦、大姒嗣二徽音一、則百斯男。〔傳〕大姒、文王之妃也。

【大時】987（タイジ）　❶天の時。自づと適當にめぐつてくる時。大時不レ齊を見よ。❷逸すべからざる重大な時機。〔戰國、魏策〕夫存レ韓安レ魏、而利二天下一、此亦王之大時已。〔戰國、秦策〕今攻レ齊、此君之大時也。❸山名。〔山海經、西山經〕又西百八十里、曰二大時之山一。

〔大時不レ齊〕988（タイジハヒトシカラズ）　大時は天の時、卽ち四時等。大時は一作用だけを固執はしない。春夏は一般に草木を生長させるが、又、薺麥等を枯死させるなど。〔禮、學記〕君子曰、大德不レ官、大道不レ器、大信不レ約、大時不レ齊。〔疏〕大時不レ齊者、大時、謂二天時一也、齊、謂二一時同一也、天生殺不三共在二一時一、猶二春夏華卉自生、薺麥自死、秋冬草木自死、而薺麥自生一、故云、不レ齊也、不レ齊爲二諸齊之本一也。

【大慈】989（ダイジ）　［佛］廣大きなめぐみ。慈悲。又、大悲を與へる力。大慈大悲を見よ。

〔大慈大悲〕990（ダイジダイヒ）　［佛］廣大無邊な慈悲。慈は衆生に樂を與へること、悲は其の苦を救ふこと。觀世音菩薩の德。〔智度論〕大慈與二一切衆生樂一、大悲拔二一切衆生苦一。〔法華經〕大慈大悲、常无二懈倦一。

【大州】991（タイシウ）　大きな州。又、大きな陸地。大洲。〔魏武帝、謝レ襲二費亭侯一表〕旣勉襲二爵邑一、忝二厥祖考一、復寵二上將鈇鉞之任一、兼領二大州萬里之憲一。

【大收】992（タイシウ）　大いにをさめる。又、大收穫。〔漢書、藝文志序〕漢興、改二秦之敗一、大收二篇籍一、廣開二獻書之路一。〔魏武帝、加二棗祗子處中封爵一並祀祗令〕使レ爲二屯田都尉一、施レ設二田業一、其時歲則大收、後遂因レ此大田、豐足二軍用一。

【大舟】993（タイシウ）　❶大きな舟。大船。おほふね。〔莊子、逍遙遊〕水之積也不レ厚、則其負二大舟一也無レ力。❷王の舟。〔墨子、非攻中〕入二北郭一徙二大舟一。〔國語、呉語〕焚二其姑蘇一、徙二其大舟一。〔注〕大舟、王舟。

〔大舟卿〕994（タイシウケイ）　官名。梁の武帝が都水使者を改めた名で、舟航河堤の事を掌る。位は中書郎（1－73··456）と同じく、列卿の最末に位す。〔隋書、百官志上〕大舟卿、梁初爲二都水臺一、七年改レ爲、位視二中書郎一、列卿之最末者也、主二舟航隄渠一。

【大秀】995（タイシウ）　山名。安徽省巢縣の南。山峯聳秀し、側に黃谷嶺がある。〔讀史方輿紀要、江南、廬州府、無爲州、巢縣、七寶山〕大秀山、在二縣南三十里一、以二峯巒秀麗一而名。

【大周】996（タイシウ）　❶甚だ周密なこと。〔管子、埶〕秉レ時養レ人、先レ德後レ刑、順二於天一、微度レ人、善周者明不レ能レ見也、善明者周不レ能レ蔽也、大明勝二大周一、則民無二大周一也、大周勝二大明一、則民無二大明一也。〔纂詁〕善二於周密一、明者不レ能レ見二其所レ爲、善二於明見一、周密者不レ能レ蔽二其所レ爲。❷大いにめぐる。〔淮南子、天文訓〕天維建元、常以レ寅始起、右徙一歲而移、十二歲而大周レ天、終而復始。❸大きい一めぐり。一大廻轉。〔漢書、律歷志上〕天以レ一生レ水、地以レ二生レ火、天以レ三生レ木、地以レ四生レ金、天以レ五生レ土、五勝相乘以生二小周一、以乘二乾坤之策一、而成二大周一。❹國名。周（2－3441）の⓴の㋭を見よ。〔元史、順帝紀六〕至正十三年五月乙未、泰州白駒場亭民張士誠、及其弟士德・士信爲レ亂、陷二泰州及興化縣一、遂陷二高郵一、據レ之、僭二國號大周一。

【大洲】997（タイシウ）　❶大州（991）に同じ。❷地名。㋑江西省吉水縣の南。元、至正中、兵を設けて屯守し、後、廢す。㋺浙江省衢縣の南。石炭を産す。❸製鹽場の名。廣東省惠陽縣の東。❹字號。㋑明、趙貞吉（10－37171··797）の號。㋺伊良子憲の號。

〔大洲墟〕999（タイシウキヨ）　堡の名。❶湖南省攸縣の西南。衡山縣と界を接す。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府、攸縣、鳳嶺鎭〕志云、縣南有二大洲堡一、嘉靖四十三年、縣民劉庚甫戶丁結レ黨爲レ亂、僉事苟延庚撫定、爲レ之立レ堡、歲僉茶陵衞官一人督二兵民一守備。❷廣東省順德縣の北。清の時、紫泥司巡檢が駐在した。

【大秋】1000（タイシウ）　❶四季の秋をいふ。〔管子、輕重乙〕大秋成、五穀之所レ會、此之謂二秋之秋一。❷唐代、刑部尚書（2－1886··119）の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕吏部尚書爲二大天一、禮部爲二大儀一、兵部爲二大戎一、刑部爲二大秋一、工部爲二大起一。

【大酋】1001（タイシウ）　❶古、酒官の長。〔禮、月令〕乃命二大酋一、秫稻必齊、麴蘖必時。〔注〕酒熟曰レ酋、大酋者酒官之長也。〔呂覽、仲冬〕乃命二大酋一。〔注〕大酋、主レ酒官也。〔魏文帝、善哉行〕大酋奉二甘醪一、狩人獻二嘉禽一。❷部落の長。〔宋史、林廣傳〕斬二阿汝及大酋二十八人一。

【大修】1002（タイシウ）　❶大いに修得する。〔史記、孔子世家〕夫道旣已大修而不レ用、是有レ國者之醜也。❷清代の制度。㋑十年に一度、刑律の附例を改めること。〔清會典、刑部〕律例館、掌レ修二條例一、五年則彙輯、十年則重編、皆予以レ限。〔注〕五年小修、限二十月一告レ成、十年大修、限二一年一告レ成。㋺戰船の修造の一法。大修・小修・折造の三種の一。〔清會典、工部〕凡水師營設二戰船一、外海內河分隸焉、修造則置レ廠、定二其年限一。〔注〕外海戰船、自二新造之年一爲レ始、屆二三年一小修、小修後三年大修、大修後三年折造。㋩土木工事の種類の名。〔清會典、工部〕凡歲修、有二大修一、有二小修一、皆定以二歲額一、而覈二其增減之數一。〔注〕各項歲修、及大修小修工程、皆有二歲額定數一、如二歲額之外一、需費加レ倍。〔六部成語、工部、大修中修小修、注解〕河道工程定例十年一大修、五年一中修、三年一小修、用レ款各有二定數一、倘遇二水災一、不レ在二此例一。❸清、章平事（8－25761··232）の字。

【大袖】1003（タイシウ）　❶幅のひろい袖。〔後漢書、馬援傳〕城中好二大袖一、四方全二匹帛一。〔唐書、車服志〕大袖連裳者、六品以下妻、九品以上女嫁服也。❷（オホソデ）袖口大きく、御卽位・大嘗會などの大祀の時、小袖の上に著る禮服。大袖袍。特に天皇は袞龍の御衣といふ。〔雅亮裝束抄、二〕禮服のやう、大そで。

〔大袖袍〕1004（オホソデノハウ）　袖の大きな袍。大袍。〔儀式、六、元正賀儀〕鉦鼓師、禮冠皂緌、緋大袖袍。

【大脩】1005（タイシウ）　非常に久しいこと。〔周禮、考工記、弓人〕斲目不レ荼、則及二其大脩一也。〔注〕脩、猶レ久也。

【大湫】1006（タイシウ）　❶大虛をいふ。〔呂覽、審分〕此之謂レ定二性於大湫一。〔注〕大湫、猶二大竇一。❷南宮岳の號。南宮大湫（2－2750··175）を見よ。❸（オホクラ）美濃國の地名。

【大溲】1007 タイシウ　大便。〔史記、太倉公傳〕臣意、飲以火齊湯、一飲得前溲、再飲大溲、三飲而疾癒。

【大蒐】1008 タイシウ　春時、大いに狩獵を行ふ。〔春秋、昭、二十二〕大蒐于昌閒。〔左氏、昭、十八〕簡兵大蒐。

【大醜】1009 タイシウ　㊀わる者の頭目。元凶。〔柳宗元、獻平淮夷雅表〕得其大醜。㊁大きな恥辱。〔墨子、親士〕皆於其國抑而大醜也。〔史記、晉世家〕子乃拘小禮忘大醜乎。

【大讎】1010 タイシウ　大きなかたき。〔胡銓、上高宗封事〕竭民膏血而不恤、忘國大讎而不報。〔青山延于、赤穗四十七士傳〕大讎在吾掌握、幸勿以爲念。

【大失】1011 タイシツ　大いに德を失ふ。又、そのもの。〔易、需〕雖不當位、未大失也。〔史記、蒙恬傳〕此四君者、皆爲大失、而天下非之。

【大室】1012 タイシツ　㊀祖廟の中央の室をいふ。又、祖廟をいふ。太室。〔禮、月令〕天子居大廟大室。〔注〕大廟大室、中央室也。〔疏〕今中央室稱大室者、以中央是土室、土爲五行之主尊之故、稱大。〔春秋、文、十三〕大室屋壞。〔杜注〕大廟之室也。〔左氏、昭、十三〕乃與巴姬、密埋璧於大室之庭。〔注〕大室、祖廟。㊁魯の伯禽の廟をいふ。〔穀梁、文、十三〕大室猶世室也、周公曰大廟、伯禽曰大室、羣公曰宮。㊂大きい室。巨室。〔呂覽、重己〕室大則多陰、臺高則多陽、多陰則蹷、多陽則痿、此陰陽不適之患也、是故先王不處大室、不爲高臺。〔太平御覽、居處部、室類〕尸子曰、厚積不登、高臺不處、大室多傷、大室多陰、故皆不居。㊃藥草の名。葶藶（9－31459‥2）の異名。〔爾雅、釋草〕蕇、亭歷。〔疏〕蕇、一名亭歷、本草、一名丁歷、一名大室、一名大適。〔本草、葶藶〕釋名、丁藶・蕇蒿・大室・大適・狗薺。㊄山名。太室（3－5834‥242）の㊀に同じ。

〖大室山人〗1013 タイシツサンジン　澁井孝德の號。澁井大室（7‥18312‥5）を見よ。

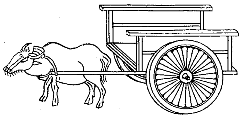
【大瑟】1014 タイシツ　大きな琴。長さ八尺一寸、廣さ一尺八寸、二十七絃。〔爾雅、釋樂〕大瑟謂之灑。〔注〕長八尺一寸、廣一尺八寸、二十七絃。〔禮、明堂位〕大琴・大瑟、中琴・小瑟、四代之樂器也。

【大質】1015 タイシツ　㊀體軀。〔司馬遷、報任小卿書〕若僕大質已虧缺矣。〔注〕翰曰、大質、身也。㊁新論（5－13572‥579）の篇名。㊂宋、种古（8－24942‥4）の字。

【大集】1016 タイシフ　㊀大いに集まる。〔北史、元文遙傳〕文遙歷事三主、明達世務、每臨軒大集、多令宣敕號令文武、聲韻高朗、發吐無滯。㊁大市場。㊂清、鄭基成（11－39647‥330）の字。

〖大集校閲〗1017 タイシフカウエツ　天子親監の大演習。〔唐律、擅興、校閲違期〕諸大集校閲、而違期不到者杖一百。

【大車】1018 タイシヤ　㊀平地で荷物を運ぶ大きな車。轂の長さ柯に半し、牛に駕す。牛車。〔易、大有〕大車以載。〔疏〕大車、謂牛車也。〔詩、小雅、無將大車〕無將大車、祇自塵兮。〔集傳〕大車、平地任載之車、駕牛者也。〔周禮、考工記、車人〕大車、崇三柯、綆寸、牝服、二柯有參分柯之二。〔注〕大車、平地載任之車、轂長半柯者也。〔左氏、襄十〕狄虒彌建大車之輪、而蒙之以甲、以爲櫓。㊁大夫の車をいふ。〔詩、王風、大車〕大車檻檻、毳衣如菼。〔傳〕大車、大夫之車。㊂詩經、王風の篇名。古の大夫を美めて、今の大夫が男女の訟へを聽く能はざるを刺つたもの。一說、周は衰へたりと雖も、大夫尙能くその邑を治めたので、淫奔の人が恐れて作つた詩。〔詩、王風、大車序〕大車、刺周大夫也、禮義陵遲、男女淫奔、故陳古以刺今大夫不能聽男女之訟焉。〔集傳〕周衰、大夫猶有能以刑政治其私邑者、故淫奔者畏而歌之如此。㊃大八車。荷馬車。㊄元、余載（1－515‥27）の字。


大車㊀（禮器圖）

〖大車輪〗1019 ダイシヤリン　㊀大きな車輪。大車の㊀を見よ。㊁機械體操の一。兩手で金棒を摑み大回轉をするもの。㊂一所懸命に精出して事を爲すこと。

〖大車以載〗1020 タイシヤハモツテノス　大きい車は重い荷を積んでも破れぬ。大材能あるものは大任に堪へる喩。〔易、大有〕九二、大車以載、有攸往无咎。〔程傳〕剛健則才勝、居柔則謙順、得中則无過、其才如此、所以能勝大有之任、如大車之材強壯、能勝載重物也。

〖大車無輗〗1021 タイシヤゲイナシ　大車にくびきが無ければ進め難い。人に信が無ければ世の中に立ち難い喩。〔論語、爲政〕子曰、人而無信、不知其可也、大車無輗、小車無軏、其何以行之哉。〔集解〕包咸曰、大車、牛車、輗者、轅端橫木以縛軛、小車、駟馬車、軏者、轅端上曲鉤衡。

【大姐】1022 ta^4 chieh^3　㊀姉さん。㊁未婚の少女の稱。

〖大姐姐〗1023 ta^4 chieh^3 chieh　姉さん。あねご。大姐の㊀に同じ。

【大社】1024 タイシヤ　㊀王が群姓の爲に建て、國土を守る社。冢土。〔書、泰誓上〕宜于冢土。〔疏〕毛詩傳云、冢土、大社也。〔詩、大雅、緜〕乃立冢土、戎醜攸行。〔傳〕冢土、大社也。〔禮、祭法〕王爲羣姓立社、曰大社、王自爲立社、曰王社。㊁三月社日の祭。〔歐陽脩、禮樂志論〕合朔・陳兵・大社。㊂オホヤシロ　官幣社・國幣社の最上級。

【大舍】1025 タイシヤ　㊀大きな屋舍。大屋。〔後漢書、黃昌傳〕造起大舍、高樓臨道。㊁新羅の十七等官の十二位の官名。〔隋書、新羅傳〕其官有十七等、其一曰伊罰千貴、如相國、次伊尺千、次迎千、次破彌千、次大阿尺千、次阿尺千、次乙吉千、次沙咄千、次及伏千、次大奈摩千、次奈摩、次大舍、次小舍、次吉士、次大烏、次小烏、次造位。

〖大舍人〗1026 オホトネリ　古、中務省に屬した官。禁中に宿直して雜事に使はれ、行幸の時は供奉を勤めた。

〖大舍人允〗1027 オホトネリノジヨウ　大舍人寮の判官。唐名は宮闈主事。〔職原抄〕大舍人寮、允、唐名、宮闈主事。

〖大舍人助〗1028 オホトネリノスケ　大舍人寮の次官。唐名は宮闈少令。〔職原抄〕大舍人寮、助、唐名、宮闈少令。

〖大舍人屬〗1029 オホトネリノサクワン　大舍人寮の主典。唐名は宮闈令史。〔職原抄〕大舍人寮、屬、唐名、宮闈令史。

〖大舍人頭〗1030 オホトネリノカミ　大舍人寮の長官。唐名は宮闈令。〔職原抄〕大舍人寮、頭一人、唐名、宮闈令。

〖大舍人部〗1031 オホトネリベ　姓氏。〔字林拾葉〕。

〖大舍人寮〗1032 オホトネリレウ　古、官署の名。中務省の被管。大舍人の名帳を記し、分番・宿直などを下知することを掌る。頭・助・允・屬の職員を置く。唐名は宮闈局。〔職原抄〕大舍人寮、唐名、宮闈局。

【大砂】1033 ta^4 sha^1　指輪に嵌める玉類。玉屋の隱語。

【大射】1034 タイシヤ　諸侯が祭祀に行ふ禮。群臣と共に射、中つたものを祭に與らせ、中らない者は祭に與らせなかつた。後には天子が行ふ射術の大會の義にいふ。〔周禮、春官、大師〕大射、帥瞽而歌射節。〔儀禮、大射儀〕大射之儀、君有命戒射。〔禮、射義〕天子之大射、謂之射侯。〔史記、儒林傳序〕講習大射鄉飲之禮。〔後漢書、明帝紀〕三月、臨辟雍、初行大射禮。

〖大射儀〗1035 タイシヤギ　儀禮（1－1172‥114）の㊁の篇名。〔儀禮、大射儀、題疏〕鄭目錄云、名曰大射者、諸侯將有祭祀之事、與其羣臣射以觀其禮、數中者得與於祭、不數中者不得與於祭、射義於五禮屬嘉禮、大戴此第十三、小戴及別錄皆第七。

〖大射正〗1036 タイシヤセイ　射事を司る官。射人の長。〔儀禮、大射儀〕大射正擯。〔注〕大射正、射人之長。

【大赦】1037 タイシヤ　㊀天子が十惡以外の天下の罪囚をゆるし放免すること。首都の近傍、或は一地方を限つて罪人を赦すを曲赦といふ。〔史記、始皇紀〕大赦天下。〔漢書、宣帝紀〕地節二年、鳳凰集魯郡、羣鳥從之、大赦天下。〔晉書、苻堅載記上〕堅親爲赦文、有一大蒼蠅、入自牖閒、鳴聲甚大、集於筆端、驅而復來、俄而長安街巷市里人相告曰、官今大赦。〔文獻通考、刑考、赦宥〕宋朝赦宥之制、其非常覃慶則常赦、不原者咸除之、其次釋雜犯死罪以下、皆謂之大赦、或止謂之赦、雜犯死減等、而餘罪釋之、流以下減等、杖笞釋之、皆謂之德音、亦有釋雜犯罪至死者、

其恩霑之及、有下止二於京城兩京兩路一路數州一州之地一者上、則謂二之曲赦一。❷恩赦の一。或種の犯罪人全體を同時に赦免するもの。其の效力は、刑の言渡しを受けたものに就いては、其の言渡しが効力を失ひ、未だ言渡しを受けぬものに就いては公訴權が消滅する。

【大寫】1038 ❶映畫用語。close up の譯語。キヤメラと被寫體との距離を極度に縮め、人體の部分又は物體等を大きく畫面に現す映畫の特殊表現技巧。❷ta^4 hsieh^3 ㋑通關事務を扱ふ店の支配人。㋺一番番頭。圭管。

〔大寫字〕1039 ta^4 hsieh^3 tzŭ^4 數字として、壹貳參肆伍陸柒捌玖拾を用ひること。

【大樹】1040 大きなうてな。〔李格非、書二洛陽名園記後一〕高亭大樹、煙火焚燎、化而爲二灰燼一。〔宅經〕凡宅午巳東巽巳來有二高樓大樹一、皆不レ利、宜レ去レ之、吉。

【大謝】1041 ❶島の名。㋑浙江省定海縣の西の海中。大蛇島とも、大樹山とも云ひ、寬廣百里、土地肥沃、居民稠密で、旁に小謝山がある。〔讀史方輿紀要、浙江省、寧波府、定海縣、金塘山〕大謝山、在二縣東南一百二十里海中一、其旁爲二小謝山一、山西南二里、卽穿レ山所也、南臨二黃崎港一、北繇二大貓海洋一、至二金塘鹿山一最爲二險要一、有二兵戍守一。㋺山東省、蓬萊縣の東北海中。〔讀史方輿紀要、登州府、蓬萊縣〕大謝島在二府東北三十里海中一、唐貞觀中擊二高麗一、置二大謝戍一。❷謝靈運をいふ。大小謝（1342）を見よ。

〔大謝名〕1042 琉球の地名。

【大邪】1043 甚しいよこしま。〔管子、權修〕微邪者、大邪之所レ生也。〔商子、開塞〕治レ民能使二大邪不一レ生、細過不レ失。

【大蛇】1044 大きなへび。をろち。〔韓非子、說林上〕有二小蛇一、謂二大蛇一。〔史記、封禪書〕嘗殺二大蛇一。〔史記、高祖紀〕行前者還報曰、前有二大蛇一、當レ徑、願レ還、高祖醉曰、壯士行何畏、乃前拔レ劍擊斬レ蛇。

〔雖レ見二大蛇一不レ可レ見二女人一〕1045 婦女が人を惱ますは大蛇より甚しいから、眼に觸れてはならない。〔寶積經〕一二見於女人一、能失二眼功德一、雖レ見二大蛇一、不レ可レ見二女人一。

【大匠】1046 ❶勝れた工人。又、大工の長。〔淮南子、說林訓〕大匠不レ斲、大豆不レ具、大勇不レ鬭。❷漢の官名。宮室宗廟等の修作及び土木・植樹等を掌る。大匠卿。將作大匠。將作（**4**－**7438**・・44）を見よ。〔後漢書、百官志四〕承レ秦曰二將作少府一、景帝改爲二將作大匠一。❸唐代、將作監（**4**－**7438**・・45）の❶の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一云云、將作監爲二大匠一、少監爲二少匠一。

〔大匠卿〕1047 官名。將作大匠ともいふ。大匠の❷に同じ。〔資治通鑑、齊紀〕（明帝、建武元年）大匠卿虞悰竊歎曰。〔注〕大匠卿、卽漢將作大匠之官、蕭子顯曰、掌二宗廟土木一。〔稱謂錄、營繕司、大匠卿〕隋書百官志、大匠卿、掌二水土之工一、又曰二匠卿一。

〔大匠不レ斲〕1048 巧妙な大工は材木を削らず、自然のままを巧みとし、小細工を弄しない。〔呂覽、貴公〕大匠不レ斲、大庖不レ豆、大勇不レ鬭、大兵不レ寇。〔注〕但視二模範一而已、不二復自斲削一也。

〔代二大匠一斲〕1049 拙い者が巧みな者に代って事をする。下手な爲政者が政治をとると、必ず失敗に終る喩。〔老子、七十四〕常有二司レ殺者一、夫代二司レ殺者一、是謂下代二大匠一斲上、夫代二大匠一斲者、希レ有レ不レ傷二其手一矣。〔陸機、豪士賦序〕代二大匠一斲者、必傷二其手一。

〔大匠不下爲二拙工一改中廢繩墨上〕1050 上手な大工は、下手な大工のために墨繩やきまりを變へたり止めたりはしない。教へられる相手がまづいからとて、教育の標準は卑くは改めないことにいふ。〔孟子、盡心上〕大匠不下爲二拙工一改中廢繩墨上、羿不下爲二拙射一變中其彀率上。〔注〕大匠不下爲二新學拙工一、故爲レ之改レ鑿、廢中繩墨之正上也、羿不下爲二新學拙射一、變中其彀率之法上也、君子、云云、於レ道則中二道德之中一、不下以二學者不一レ能、故卑中下其道上、將三以須二於能者往取一レ之也。

【大床】1051 ❶大牀に同じ。❷神社のゆか。❸ひろびさし。母屋から一間通り差し出したところ。公家では廣廂で、武家では大床といふ。〔平家物語、十二、紺搔〕聖をば大床に立て、我が身は庭に立つて。

〔大床谷〕1052 伊勢國の地名。

〔大床子〕1053 古、御膳を載せるに用ひた机。〔木工寮式〕大床子一脚。

【大昌】1054 ❶縣名。㋑北周、置く。故城は山西省靈丘縣の南。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、蔚州、靈邱縣、平邑城〕大昌城、在二縣南一、後周置二大昌縣一、屬二靈邱郡一、隋省入二靈邱縣一。㋺晉の初め、泰昌縣を置いたが、北周、諱を避けて大昌と改む。故城は四川省巫山縣の北。〔隋書、地理志上〕巴東郡、統二縣大昌一。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕大昌縣、府東北二百里、漢巫縣地、晉置二泰昌縣一、屬二建平郡一、宋齊因レ之、後周以二宇文泰諱一、改曰二大昌一、置二永昌郡一、尋廢、隋縣屬二信州一、云云、明洪武十四年、復置二今縣一。❷北魏の孝武帝、拓跋修の年號、太昌の一稱。（533）❸字號。㋑元、祝公榮（**8**－**24672**・・134）の字。㋺明、劉隆（定海の人）（**2**－**2224**・・652）の字。

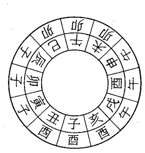
【大牀】1055 大きな寢臺。〔魏志、陳登傳〕自上二大牀一臥、使三客臥二下牀一。

【大商】1056 ❶國の名。殷をいふ。〔墨子、非命下〕惟我有周、受二之大商一。〔韋孟、諷諫詩〕摠二齊羣邦一、以翼二大商一。❷大商人。大賈。おほあきんど。〔六韜、文韜、六守〕大農・大工・大商。

【大將】1057 ❶軍の指揮統率をするもの。軍隊の最高官。〔墨子、迎敵祠〕凡望氣有二大將氣一、有二小將氣一。〔管子、輕重乙〕誡二大將一。〔史記、淮陰侯傳〕諸將皆喜、人人各自以爲、得二大將一、至レ拜二大將一、乃信也、一軍皆驚。〔史記、吳王濞傳〕能斬二捕大將一者、賜二金五千斤一。〔魏志、杜恕傳〕置二大將一。❷戟神の名。〔太平御覽、兵、戟上〕太公兵法曰、戟之神名二大將一。❸㋑昔、近衞府の長官。左右各一人あり、禁兵を指揮し、至尊を衞り、禁門を警護するもの。〔續日本紀、二十六〕天平神護元年二月甲子、改二授刀衞一爲二近衞府一、其官員、大將一人、爲二正三位官一。㋺舊陸海軍武官の階級の名。元師を除けば最上位。㋩總べてかしらだつた者の稱。をさ。頭領。㊁戲れに又は侮つていふ第二人稱・第三人稱。

〔大將軍〕1058 ❶武官の名。全軍の統率者。總大將。戰國に起り、漢初、之に因る。武帝、衞青を大將軍とし、大司馬の號を冠して、これを尊寵す。後漢に至つて大將軍は三公の上に位し、率ね貴戚より任ぜらる。三國魏・吳幷びに上大將軍を置き、大將軍の上に位す。北周、之に因る。隋、幷せて武散官とし、事を理めず、上大將軍は從二品、大將軍は正三品とし、其の位遂に卑し。唐宋十六衞幷びに大將軍を置くも、僅かに環衞の官となる。大將軍と號せられるものは、後漢以來、漸次に多く、驃騎・車騎・輔國・冠軍の類、枚擧に暇がない程であるが、隋唐より宋元に至つては、多く三品以上の武散官と爲る。明初、徐達、大將軍となり、位、始めて復た重くなり、清代、年羹堯の諸人も亦、撫遠大將軍等の號を授けられたが常置せられなかつた。〔通典、職官、武官下、大將軍〕大將軍、戰國時官也、楚懷王與レ秦戰、秦敗レ楚、虜二其大將軍屈匄一、是矣、漢高帝、以二韓信一爲二大將軍一、武帝又置、初武帝以二衞青數征伐有一レ功、以爲二大將軍一、欲三尊二寵之一、故置二大司馬官號一以冠レ之、後霍光・王鳳等皆然、成帝、綏和二年、賜二大司馬印綬一、罷二將軍官一、後漢光武時、吳漢以二大將軍一爲二大司馬一、和帝時、以二竇憲一爲レ之、舊大將軍位、在二三公下一、置二官屬一依二太尉一、憲威權振二朝廷一、公卿希レ旨、奏三憲位次二太傅下一、三公上一、長史司馬秩中二千石、從事中郎二人六百石、自下各有レ增、自二安帝政理衰缺一、始以二嫡舅耿寶一爲二大將軍一、常在二京都一、順帝卽位、又以二皇后父兄弟一相繼爲二大將軍一、如二三公一、漢末猶在二三公上一、魏黃初中、又有二上大將軍一、以二曹眞一爲レ之、明帝青龍三年、晉宣帝自二大將軍一爲二太尉一、然則大將軍在二三司下一矣、其後又在二三司上一、自二漢東京大將軍一、不二常置一、爲レ之者、皆擅二朝權一、至二晉景帝一爲二大將軍一、亦受二非常任一、後以二叔父孚一爲二太尉一、奏改二大將軍一、在二太尉後一、位次二三司下一、後復レ舊、在二三司上一、大康元年、琅琊王伷遷二大將軍一、復制在二三司下一、伷薨、復如レ舊、冠綬佩服、與二大司馬一同、宋唯彭城王義康爲レ之、章綬冠佩、亦與レ晉同、齊以

爲レ贈、梁有レ之、陳以爲レ贈、後魏・北齊爲二二大一、與二大司馬一同、後周建德四年、增二置上大將軍一、隋並以爲二武散官一、不レ理レ事、上大將軍從二品、大將軍正三品、大唐貞觀二年九月、敕二六軍一、先已各置二統軍一人一、今十六衞宜三各置二上將軍一人一、秩從二品、其左右衞、及左金吾衞、上將軍俸料隨軍人馬等、並同二六軍統軍一、諸衞上將軍、次二於統軍一。〔史記、吳王濞傳〕吳臣田祿伯爲二大將軍一。〔漢書、蕭何傳〕進二韓信漢王一、以爲二大將軍一。〔事物紀原、環衞中貴部、大將軍〕戰國時始有二大將軍之號一、隨レ事卽置、亦不レ主レ官、劉劭爵制所謂秦十八爵、大庶長、卽大將軍也、左右庶長、卽左右偏裨將軍也、楚懷王與レ秦戰、秦虜二其大將軍屈丐一、是也、項羽時范增稱二大將軍一、漢遂置二大將軍一、開府如二三公一、至二煬帝一、於二諸衞一悉置。㊁星の名。武兵を主る。〔宋史、天文志三〕三鼓主二天子三軍一、中央大星爲二大將軍一。㊂叢神の名。歲の大將。〔協紀辨方書、義例、一、大將軍〕神樞經曰、大將軍者、歲之大將也、統二御威武一、總二領戰伐一、若國家命レ將出レ師、攻城戰陣、則宜レ背レ之、凡興造皆不レ可レ犯、考原曰、大將軍統二御武臣一之職、有二護衞虎賁之象一、故居二四正之位一、而從二歲君之後一、如二寅卯辰一、歲在二東方一則居二正北一、巳午未歲在二南方一則居二正東一、申酉戌歲在二西方一則居二正南一、亥子丑歲在二北方一則居二正西一也。㊃陰陽道でいふ八將神の一。この神の方向は三年塞がるとして萬事に忌む。〔朝野羣載、十五〕右自二內裏一指二彼寮一、丙方是大將軍在レ地之內也、仍須下待二遊行日一造立無上レ妨。〔和漢三才圖會、曆占類〕八將神方位、一、大歲神、惣光天王、二、大將軍、魔王天王。



㊂大將軍（協紀辨方書）

〔大將軍告身不レ直二一醉一〕1059 タイシヤウグンノコクシンハイツスイニアタヒセズ　唐代、官を授ける符を告身といふ。肅宗の時、府庫に蓄積なく、朝廷は專ら官爵を以て功を賞し、官爵は輕く、貨幣は重く、大將軍の告身一通が、纔かに一醉の酒にも値しない。官爵の價値の低下した喩。〔資治通鑑、唐紀〕肅宗、至德二年、府庫無二蓄積一、朝廷專以二官爵一賞レ功、云云、以二官爵一收二散卒一、大將軍告身一通、纔易二一醉一。

【大相】1060 タイシヤウ　㊀輔佐役の名。〔新書、輔佐〕大相上承二大義一、而啓二治道一。㊁星の名。太白星をいふ。〔史記、天官書〕其庫近レ日曰二太白一、柔、高遠レ日曰二大相一、剛。

〔大相國〕1061 ダイシヤウコク　太政大臣（**3**―**5834**‥254）の一名。〔和漢三才圖會、官位部〕太政大臣、今號二大相國一。

〔大相國寺〕1062 ダイシヤウコクジ　寺の名。河南省開封縣治の東北。齊の天保六年に建てて建國寺といつたが、唐の睿宗、相國寺と改め、宋の至道二年、重建して大相國寺といふ。遼使、入朝の度に燒香し、每月五度、萬姓の交易に開放した。金の章宗、元の世祖、明の太祖の重修を經たが、明末、河水の爲に沒したのを、乾隆中、再建して古汴名監の額を賜はつた。〔燕翼貽謀錄、相國寺〕東京相國寺乃瓦市也、僧房散處、而中庭兩廡、可レ容二萬人一、凡商旅交易皆萃二其中一、四方趨二京師一、以二貨物一求レ售、轉二售他物一者、必由二於此一、太宗皇帝至道二年、命重二建三門一、爲レ樓、其上甚雄、宸墨親塡二書金字一、額曰二大相國寺一、五月壬寅賜レ之。

【大祥】1063 タイシヤウ　㊀葬後の祭の名。十三箇月で祭るを小祥、二十五箇月で祭るを大祥、二十七箇月で祭るを禫といふ。唐の時は十三日で小祥、二十五日で大祥を行つた。又、三周忌をいふ。〔儀禮、士虞禮〕朞而小祥、曰薦二此常事一、又朞而大祥、曰薦二此祥事一、中レ月而禫、是月也、吉祭猶未レ配。〔疏〕自レ祔以後、至二十三月一小祥、云云、此謂二二十五月大祥祭一、故云二復朞一也、云云、禫、祭名也、與二大祥一間一月、自レ喪至レ此、凡二十七月。〔禮、喪服小記〕大祥、吉服而筮レ尸。〔文獻通考、王禮考、國恤〕三日聽レ政、十三日小祥、二十五日大祥、二十七日而釋レ服。㊁大きな幸。又、大善の意。〔禮、禮運〕祝以レ孝告、嘏以レ慈告、是謂二大祥一。〔注〕祥、善也。〔莊子、人閒世〕神人之所三以爲二大祥一也。〔疏〕神人所三以爲二吉祥大善之事一也。㊂大いなる變異の氣をいふ。〔左氏、昭、十八〕將レ有二大祥一。〔注〕祥、變異之氣。㊃吉凶が先づ大いに見れること。〔史記、太史公自序〕大祥而衆二忌諱一。〔注〕正義曰、顧野王云、祥、善也、吉凶之先見也。

【大章】1064 タイシヤウ　㊀堯の樂名。〔禮、樂記〕大章、章レ之也。〔注〕堯樂名也、言二堯德章明一也、周禮闕レ之、或作二大卷一。〔莊子、天下〕堯有二大章一、舜有二大韶一。〔白虎通、禮樂〕堯曰二大章一者、大明二天地人之道一也。㊁天子諸侯の別を表明するし。〔國語、周語中〕變二前之大章一。〔注〕章、表也、所下以表二明天子與二諸侯一異上レ物也。㊂星の名。〔史記、天官書〕以二十月一與二角亢一晨出、曰二大章一。㊃字號。㋑晉、荀組（**9**―**30929**‥48）の字。㋺唐、牛蔚（**7**―**19922**‥11）の字。㋩元、場芮（**6**―**15112**‥244）の字。㋥明、姚夔（**3**―**6202**‥27）の字。㋭明、龔詡（**12**―**48837**‥13）の字。㋬明、徐一夔（**4**―**10110**‥330）の字。㋣明、宗林（**3**―**7106**‥279）の字。㋠明、丁汝夔（**1**―**2**‥275）の字。㋷明、鄭崇儉（**11**―**39647**‥464）の字。㋦明、呂夔（江陰の人）（**2**―**3386**‥34）の字。

〔大章車〕1065 タイシヤウシヤ　車の名。道里を識すもの。記里鼓車。〔古今注、輿服〕大章車、所三以識二道里一也、起二於西京一、亦曰二記里車一、車上爲二二層一、皆有二木人一、行二一里一、下層擊レ鼓、行十里、上層擊レ鐲、尚方故事有レ作二車灋一。〔宋史、輿服志一〕記里鼓車、一名大章車。

【大象】1066 タイシヤウ　タイザウ　㊀易の一卦の象を說明した辭。十翼の中の第三翼で、一卦の總象であるから大象といふ。例へば乾卦の天行健、君子自彊不レ息の類。〔易、乾、象曰〕天行健、君子以自彊不レ息。〔疏〕此大象也、十翼之中、第三翼總二象一卦一、故謂二之大象一。㊁大きなおきて。大法。大道。〔老子、三十五〕執二大象一天下往。〔河上公注〕象、道也、聖人守二大道一則天下萬民移レ心歸二往之一也。〔干寶、晉紀論二晉武帝革命一〕故古之有二天下一者、柏皇栗陸以前、爲而不レ有、應而不レ求、執二大象一也。〔注〕良曰、象、法也、言三如レ此之君、但執二淳素之大法一。㊂極めて大きい形象。〔老子、四十一〕大方無レ隅、大器晚成、大音希聲、大象無形。〔注〕有レ形則有レ分、有レ分者不レ溫則炎、不レ炎則寒、故象而形者非二大象一。㊃大なる現象。天地閒の現象。〔陶潛、詠二二疏一詩〕大象轉二四時一、功成者自去。㊄大きな象。〔後漢書、和帝紀〕永元六年春正月、永昌徼外夷遣二使譯一、獻二犀牛大象一。㊅北周の靜帝、宇文衍の年號。（579―580）

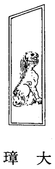
【大詳】1067 タイシヤウ　甚だ詳細なこと。〔漢書、司馬遷傳〕嘗竊觀二陰陽之術一、大詳、而衆二忌諱一、使二人拘而多レ畏。

【大嘗】1068 タイシヤウ　㊀秋のまつり。〔孔叢子、論書〕於二每歲之大嘗一而報祭焉。㊁ダイジヤウ　御卽位後の新嘗の稱。天武天皇の頃よりか、御代初めなるを大嘗、每年なるを新嘗といふ。

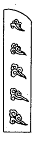
〔大嘗會〕1069 ダイジヤウヱ　大嘗祭を節會の方に就いていふ稱。大嘗祭を見よ。〔續日本後紀、一〕天長十年三月己酉、卜二定大嘗會事一、以二近江國高島郡一爲二悠紀一、備中國下道郡爲二主基一。〔北山抄、五〕大嘗會事、天皇卽位之年、七月以前卽位、當年行レ事、八月以後、明年行レ事、諒闇、期年後行レ之、卽位者、謂レ行二卽位儀一乎。

〔大嘗祭〕1070 ダイジヤウサイ　天皇が卽位の禮を訖はらせられて後、その年の新穀を親しく天照大神・天神・地祇に饗し給ひ、御親らも聞召し、臣下にも賜はる大禮。祭場を二處に設け、東を悠紀（キユ）、西を主基（キス）といひ、神饌とする穀は豫め悠基と主基とに卜定した國郡から奉らせて行はせられる。翌日節會あり、五節舞を奏す。おほにへ。おほなめ。〔太政官式〕凡踐祚之初、有二大嘗祭一。〔儀式、一〕踐祚大嘗祭儀、天皇卽位之年、七月以前卽位、當年行レ事、八月以後、明年行レ事。

【大璋】1071 タイシヤウ　天子の巡狩の際、大きな山川を祭る時に用ひる文飾のある玉。璋はたま（半圭）。〔周禮、考工記、玉人〕大璋・中璋九寸、邊璋七寸。〔注〕三璋之勺、形如二圭瓚一、天子巡狩有レ事二山川一則用レ灌焉、於二大山川一則用二大璋一、加二文飾一也、於二中山川一用二中璋一、殺二文飾一也。於二小山川一用二邊璋一、半二文飾一也。

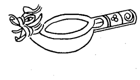


大璋（古玉圖譜）



大璋（三禮圖）

【大璋瓚】1072 タイシヤウサン　天子が大きな山川を祭る時に酒をすすめる器。〔三禮圖、大璋瓚〕周天子十二年一巡守、所レ過大山川、禮二敬其神一、用二黃駒一以祈沈、則宗祝先用二大璋之勺一酌二鬱鬯一、以禮レ神、臣崇義案、此經及疏幷阮氏圖、並不レ言三三璋各有二文飾一、惟後鄭云、大璋加二文飾一、中璋殺二文飾一、邊璋半二文飾一、但解二三璋一、得下名二大中邊一之義上、都不レ言二文飾之物一、又案、易文言曰、雲從レ龍、風從レ虎、又聘義說二玉之十德一、其一曰、氣如二白虹一天也、言、玉之白氣、明天之白氣也、然則璋瓚既以二勺鼻一爲二龍頭一、其二璋半已下、皆宜下琢二雲氣一以爲上飾。


大璋瓚（三禮圖）

【大廠】1073 タイシヤウ　大工場。

【大賞】1074 タイシヤウ　大いに賞する。又、大なる賞譽。〔左氏、僖、二十八〕飮至大賞、徵會討レ貳。〔商子、徠民〕王必加二大賞一焉。〔後漢書、盧植傳〕宜下辭二大賞一、以全中身名上。

【大醬】1075 タイシヤウ　細豆を煑て作つた、汁の無い醬。〔齊民要術、作醬法、注〕淘豆湯汁、卽煑二細豆一作レ醬、以供二旅食一、大醬則不レ用レ汁。

【大上】1076 タイジヤウ　太上（**3－5834**‥251）に同じ。❶至極のもの。最上のもの。一說に、太古をいふ。〔左氏、僖、二十四〕大上、以レ德撫レ民。〔會箋〕鄭玄曲禮注、以二大上一爲二帝皇之世一、其次謂二三王以來一、則以二大上・其次一、爲二世代之先後一也、大戴盧辨注云、大上、德之最上者、文選注引二老子河上公注一云、大上謂二太古無名之君一、則上德上古並行、以與二其次一連文、其單言二太上一者、則爲二至尊一、穀梁、太上謂二天王一、漢書匡衡傳注、師古云、居二尊上之位一也、蓋太上者、於レ人爲二至尊一、於レ德爲二至美一、於レ事爲二至當一、於レ時爲二至古一、此大上・其次、主二世代一而德在二其中一。〔穀梁、隱、三〕其不レ名何也、大上、故不レ名也。❷天子をいふ。至尊。太上。〔荀子、君子〕莫三敢犯二大上之禁一。〔注〕大、讀爲レ太、太上、至尊之號。

【大上計】1077 タイジヤウノケイ　最上至善のはかりごと。〔史記、蘇秦傳〕其大上計破レ秦。

【大上造】1078 タイジヤウザウ　爵の名。漢の時、下から第十六番目の爵、秦の制度による。〔漢書、百官公卿表上〕爵、一級曰二公士一、二上造、三簪裊、四不更、五大夫、六官大夫、七公大夫、八公乘、九五大夫、十左庶長、十一右庶長、十二左更、十三中更、十四右更、十五少上造、十六大上造、十七駟車庶長、十八大庶長、十九關內侯、二十徹侯、皆秦制、以賞二功勞一。〔注〕師古曰、造、成也、言レ有二成命於上一也、云云、言三皆主二上造之士一也。〔漢書、外戚傳序〕倢伃、視二上卿一、比二列侯一、傛華、視二眞二千石一、比二大上造一、美人、視二二千石一、比二少上造一。〔注〕大上造、第十六爵、少上造、第十五爵。

【大上立レ德】1079 タイジヤウハトクヲタツ　最も優れた人は、己の德を成就し、それによつて世を治め人を濟ふ。〔左氏、襄、二十四〕豹聞レ之、大上有レ立レ德、其次有レ立レ功、其次有レ立レ言、雖レ久不レ廢、此之謂二不朽一。

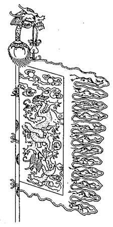
【大狀】1080 タイジヤウ　大型の名刺。全紙を用ひた名刺。〔癸辛雜識〕昔日投門狀、有二大狀小狀一、大狀則全紙、小狀則半紙、今時之刺、大不レ盈レ掌、足レ見二禮之薄一矣。

【大城】1081 タイジヤウ　❶大きな城。〔左氏、文、十五〕獲二大城一焉、曰レ入レ之。〔管子、八觀〕大城不レ可二以不一レ完。〔墨子、旗幟〕到二大城一。〔後漢書 耿弇傳〕至二臨淄大城一、東將レ攻レ弇。〔蜀志、後主劉禪傳〕李嚴自二永安一還、住二江州一、築二大城一。❷縣名。㋑後漢、置く。今、綏遠省鄂爾多斯左翼前旗。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭〕大成城、在二鎭東北一、漢置レ縣、屬二西河郡一、後漢屬二朔方郡一、亦曰二大城一。㋺五代周、置く。東平舒縣の地。今、河北省津海道。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、霸州〕大城縣、州南一百三十里、漢爲二東平舒縣一、屬二勃海郡一、云云、五代唐改爲二大城縣一、周改屬二霸州一。〔淸史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、大城。❸四川省成都城の一部。張儀の築いたものといふ。〔淸一統志〕成都、蜀王開二明故都一也、舊有二大城少城一。❹關の名。湖北省麻城縣の北。元、忽必烈、此關から入つて宋の軍を破る。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、麻城縣〕大城關、縣北九十里、接二河南羅山縣界一、宋開慶初、蒙古忽必烈入二大城關一、宋戍軍皆潰、卽此。❺地名。㋑グスク　琉球の地名。㋺ゴウノスキ　大隅國の地名。

【大城山樵】1082 タイジヤウサンセウ　明、盛時泰（**8－23005**‥213）の號。

【大城門】1083 オホキド　大きな城門。大城戶。大木戶。〔日本書紀、崇神紀〕おほきどより窺ひて、殺さむとすらくを知らに。

【大常】1084 タイジヤウ　❶九旗の一。天子の旗。日月と交龍とを畫き、旒は十二ある。又竿首には龍の頭がついてゐる。太常（**3－5834**‥260）の❷を見よ。〔周禮、春官、司常〕王建二大常一、諸侯建レ旂。〔注〕大常、九旗之畫二日月一者。〔名物圖、大常〕覲禮、天子乘レ龍、載二大旂一、鄭注云、大旂、大常也、王建二大常一、縿首畫二日月一、其下及旒、交畫二升龍・降龍一、賈疏云、日月爲レ常、交龍爲レ旂、是旂與レ常別也、但天子大常、畫二日月一、又有二交龍一、諸侯則交龍爲レ旂、無二日月一也、聶氏曰、旌旗之杠、皆注二旄與レ羽於竿首一、故夏采注以二旄牛尾一綴二於橦上一、其杠長九仞、其旂曳レ地、阮氏梁正等圖、旂首爲二金龍頭一、唐志云、金龍頭銜二結綬及鈴一、則古注旄及羽之遺制也、又案、郊特牲、王之旂、十二旒、龍章而設二日月一、此天子大常之旗也。❷漢代、宗廟の儀式を掌つた官。太常（**3－5834**‥260）の❶を見よ。❸上古の人。黃帝の臣。〔管子、五行〕黃帝得二蚩尤一而明二於天道一、得二大常一而察二於地利一。❹常法。大定。〔莊子、田子方〕行二小變一而不レ失二其大常一也。


大常❶（名物圖）

【大常卿】1085 タイジヤウケイ　❶神祇大副の唐名。〔職原抄〕神祇官、大副、唐名、大常卿・祠部外郞。❷治部卿の唐名。〔職原抄〕治部省、卿、唐名、禮部尙書・大常卿。

【大常寺】1086 タイジヤウジ　神祇官の唐名。〔職原抄〕神祇官、當二唐大常寺一、又云二祠部一。

【大常丞】1087 タイジヤウジヨウ　神祇大祐の唐名。〔職原抄〕神祇官、祐、唐名、大常丞。

【大常伯】1088 タイジヤウハク　神祇伯の唐名。〔職原抄〕神祇官、伯、唐名、大常伯、又太卜令、又、祠部尙書。

【大常主簿】1089 タイジヤウシユボ　神祇史の唐名。〔職原抄〕神祇官、史、唐名、大常主簿。

【大常少卿】1090 タイジヤウセウケイ　神祇少副の唐名。〔職原抄〕神祇官、少副、唐名、大常少卿。

【大常少弼】1091 タイジヤウセウヒツ　式部少輔の唐名。〔職原抄〕式部省少輔、唐名、吏部郞中、又、吏部員外郞、或、大常少弼。

【大情】1092 タイジヤウ　人の常情。〔劉峻、廣絕交論〕陽舒陰慘、生民大情。〔白居易、與二元九一書〕夫貴レ耳賤レ目、榮レ古陋レ今、人之大情也。

【大壤】1093 タイジヤウ　大いに豐熟する。大いに富み足る。大穰。〔莊子、庚桑楚〕老聃之役、有二庚桑楚者一、偏得二老聃之道一、以北居二畏壘之山一、居三年、畏壘大壤。〔釋文〕壤、本又作レ穰、廣雅云、豐也。

【大穰】1094 タイジヤウ　大いに豐熟する。大壤。〔史記、天官書〕星色赤黃而沈、所レ居野大穰。

【大讓】1095 タイジヤウ　大いにゆづる。甚だ謙遜する。〔禮、儒行〕其大讓如レ慢、小讓如レ僞。

【大尺】1096 タイシヤク　大寶の制による尺の一種。高麗尺で、今の曲尺一尺一寸七分三厘六毛に相當するもの。專ら測地に用ひたもの。〔照光記〕建久七年五月十一日、一昨日有二其召一、以二人人指圖一、委被レ注二大尺等一。

【大嚼】1097 タイシヤク　❶大いにかむ。過二屠門一而大嚼（**4－7761**‥75）を見よ。〔蘇軾、於二潛僧綠筠軒一詩〕若對二此君一仍大嚼、世間那有二揚州鶴一。❷むさぼり食ふ。〔陸九淵、大人詩〕有レ時此輩未二安恬一、哮吼大嚼無二毫全一。❸一般に、むさぼること。〔書言故事大全、餔啜類〕指二人好饕一曰二大嚼一。

【大雀】1098 タイジヤク　鳥の名。駝鳥をいふ。〔漢書、西域傳贊〕鉅象・師子・猛犬・大雀之羣、食二於外囿一。〔張衡、西京賦〕怪獸陸梁、大雀踆踆。〔廣志〕大雀、頸及身膺蹄、都似二橐駝一、擧レ頭高八九尺、張レ翅丈餘、食二大麥一、其卵如レ甕、卽今之駝鳥也。

【大爵】1099 タイジヤク　大きな雀。〔說苑、敬愼〕大爵獨不レ得何也。

【大手】1100 タイシユ　❶大きい手。〔括異志〕馬亮少時夜閱レ書、忽有二大手一、自レ牕入、公以レ筆濡二雌黃水一、大二書草字一。❷ta^4 shou^3 上手。❸テオホ　城の前

門。搦手の對。〔東鑑、二〕治承四年八月二十六日、衣笠城、云云、東木戸、大手。

〔大手筆〕1101 タイシユヒツ 詔敕その他、國家の重要な文章。〔晉書、王珣傳〕珣夢人以二大筆如レ椽與レ之、（珣）語レ人曰、此當レ有二大手筆事一、俄而帝崩、哀冊謚議、皆珣所レ草。〔南史、陸瓊傳〕都官符及諸大手筆、並中敕付レ瓊。〔南史、徐陵傳〕文宣時、國家有二大手筆一、必命レ陵草レ之。

〔大手大脚〕1102 ta^{4} shou^{3} ta^{4} chiao^{3} しまりの無いこと。大ざつぱなこと。

【大主】1103 タイシユ ❶大恩人をいふ。〔左氏、僖、十〕晉侯背二大主一而忌二小怨一、民弗レ與也、伐レ之必出。〔注〕大主、秦也。❷皇帝の姑。姑は父の姉妹。大長公主。漢、始めて稱す。漢代は帝女を公主、姑姉妹を長公主、姑を大長公主といひ、唐代は帝の姉妹を長公主、姑を大長公主と稱した。太主。〔事物紀原、帝王后妃部、大主〕漢皇帝之始、封二大長公主一號二大主一、史記武帝本紀曰、帝以二衞長公主一妻二欒大一、自二大主將相一已下、皆遺二獻之一、徐廣云、武帝姑、竇太后女也、則大主之號、亦自レ漢始明矣。

〔大主考〕1104 タイシユカウ 鄕試の主任試驗官。〔六部成語、禮部、大主考、注解〕正主試之官也。

〔大主鈴〕1105 ダイシユレイ 我が國の古の官名。中務省に屬す。主鈴(**1**－**100**‥259)を見よ。〔職員令〕中務省、大主鈴二人、掌三出二納鈴印・傳符・飛驛・函鈴一。

【大守】1106 タイシユ 郡の長官。秦はもと郡守と名づけたが、漢の景帝、大守と改む、宋、郡を府と改めてから知府をも大守といふ。太守(**3**－**5834**‥270)の❶を見よ。〔史記、李將軍傳〕於レ是乃徙爲二上郡大守一。〔楊升庵外集〕漢以二丞相史一刺二察州郡一、謂二之刺史一、刺史・大守不レ同。今混呼爲レ一、非也、觀二後漢郡國志一可レ見矣、漢制自二三輔一之外分二九州一、九州控二郡國一、州部有二刺史一、郡國有二大守一、今按、獨斷曰、守者秦置也、天下置二三川守一、伊・河・洛也、漢改曰二河南守一、如二豫州刺史部一、則潁川・汝南・六郡國、冀州刺史部、則魏郡而下九郡國、畿內則河南尹・京兆尹、而以二司隸校尉部之外一、則刺史部之郡國、則大守治レ之、州部則自二河南・京兆兩尹一、至二豫・冀・兗・徐・青・荊・益・梁・幷・幽・交一爲二尹二刺史十一一而已、郡國則自二河南一至二日南一爲二郡國一、凡一百十有二、大守亦百十有二、嚴能鷹揚、有二督察之才一、刺史之職一也、安靜寬仁、有二愷悌之德一、大守之職一也。〔古今原始〕漢景帝更名二郡守一爲二大守一、稱二大守一始レ此。〔淸國行政法汎論、行政區劃及地方官廳、官職古名〕知府、大守。

【大取】1107 タイシユ 墨子(**3**－**5469**‥76)の篇名。

【大首】1108 タイシユ ❶巨魁。〔易、明夷〕明夷二于南狩一、得二其大首一、不レ可二疾貞一。〔程傳〕大首、謂二暗之魁首一。❷大きい首。〔詩、小雅、魚藻〕魚在在レ藻、有二頒其首一。〔傳〕頒、大首貌。

【大酒】1109 タイシユ ❶冬、釀して、夏、飮む酒。〔宋史、食貨志下七〕臘釀二蒸鬻一候レ夏而出、謂二之大酒一。❷多量の酒。〔杜甫、嚴氏溪放歌行〕費心姑息是一役、肥肉大酒徒相要。❸おほざけ。鯨飮。痛飮。又、大酒家。上戶。酒豪。

〔大酒缸〕1110 ta^{4} chiu^{3} kang^{1} ❶大きな酒がめ。❷居酒屋。

〔大酒大肉〕1111 ta^{4} chiu^{3} ta^{4} jou^{4} 盛宴。

【大珠】1112 タイシユ ❶大きなたま。〔漢書、地理志下〕大珠、至二圍二寸以下一。〔後漢書、東夷、夫餘傳〕夫餘國、出三名馬赤玉貂豽大珠如二酸棗一。〔蜀志、宗預傳〕大珠一斛。❷山名。山東省膠縣の南。一名、大朱。又、玉泉山に作る。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、膠州〕大珠山、州南一百二十里濱海上有二石室一、珠、亦作レ朱。

〔大珠小珠落二玉盤一〕1113 タイシユセウシユギヨクバンニオツ 琵琶の妙音を形容した語。〔白居易、琵琶行〕嘈嘈切切錯雜彈、大珠小珠落二玉盤一。

【大趣】1114 タイシユ 大體のおもむき。大旨。〔吳志、陸凱傳〕愛二細介一不レ訪二大趣一。

【大受】1115 タイシユ ❶大事に任ずる。〔論語、衞靈公〕子曰、君子不レ可二小知一、而可二大受一也、小人不レ可二大受一、而可二小知一也。❷宋、晁端稟(**5**－**13889**‥26)の字。

【大呪】1116 ダイジユ ［佛］陀羅尼の敬稱。佛菩薩の說いた呪文。

【大儒】1117 タイジユ 道を悟った大學者。すぐれた儒者。大學者。鴻儒。〔列子、說符〕牛缺者、上地之大儒也。〔荀子、儒效〕彼大儒者、雖下隱二於窮閻漏屋一、無中置錐之地上、而王公不レ能二與レ之爭一レ名。〔呂覽、必己〕牛缺居二上地一、大儒也。〔漢書、韋賢傳〕鄒魯大儒。〔漢書、董仲舒傳〕膠西王聞二仲舒大儒一、善待レ之。〔韓詩外傳、五〕大儒者調二一天下一者也。〔後漢書、鄭玄傳〕游二學周秦之都一、往二來幽幷兗豫之域一、獲レ覲二乎在位通人、處逸大儒一。

【大樹】1118 タイジユ ❶大きな樹木。おほき。大木。巨木。〔禮、月令〕毋レ擧二大衆一、毋レ伐二大樹一。〔莊子、逍遙遊〕吾有二大樹一、人謂二之樗一。〔呂覽、壹行〕見二大樹一、必解レ衣懸レ冠。〔史記、孫子吳起傳〕斫二大樹一、白而書レ之。❷將軍の異稱。後漢の馮異が謙遜で、諸將が功を論じあふ時、常に樹下に去つて之を避けたから、大樹將軍と號せられた故事。〔後漢書、馮異傳〕馮異、字公孫、爲レ人謙退不レ伐、諸將並坐論レ功、異常獨屛二樹下一、軍中號曰二大樹將軍一、及レ破二邯鄲一、乃更部二分諸將一、各有二配隸一、軍士皆言、願屬二大樹將軍一。❸大將・將軍の唐名。〔職原抄〕諸衞、大將、唐名、羽林大將軍、常云二幕府一、又云二幕下一、又云二大樹一、總以將軍之稱也。〔和漢三才圖會、曆占類〕大將軍、大樹。

〔大樹將軍〕1119 タイジユシヤウグン ❶後漢の馮異をいふ。大樹の❷を見よ。❷將軍の異稱。又、征夷大將軍。〔日本書紀、天智紀〕大樹將軍之辭レ賞、詎可二同レ年而語一哉。

〔大樹之下無二美草一〕1120 タイジユノモトニハビサウナシ 大きな樹の下は、其の陰に蔽はれるので美しい草が生えない。賢路の塞がれてゐるところには、賢才の士は出ない喩。〔說苑、談叢〕高山之巓無二美木一、傷二於多陽一也、大樹之下無二美草一、傷二於多陰一也。

〔大樹將レ顚非二一繩所一レ維〕1121 タイジユノマサニタフレントスルハイチジヨウノツナグトコロニアラズ 大木の倒れる時には、一本の繩では引留められない。國家の顚覆は獨力を以ては支持し難い喩。大廈顚非二一木所一レ支。〔後漢書、徐穉傳〕爲レ我謝二郭林宗一、大樹將レ顚非二一繩所一レ維、何爲栖栖、不レ遑二寧處一。

【大衆】1122 タイシユウ ❶おほぜい。多人數。〔禮、月令〕孟春之月、云云、毋レ聚二大衆一、毋レ置二城郭一。〔荀子、非十二子〕不レ足三以合二大衆一。〔管子、輕重己〕毋レ聚二大衆一。〔吳子、應變〕雖レ有二大衆一、莫レ不二驚動一。〔呂覽、仲冬〕無レ起二大衆一。〔史記、匈奴傳〕單于久不下與二其大衆一相得上。〔後漢書、李通傳〕因以號二令大衆一。❷［佛］ダイシユ 多くの僧侶。だいす。〔法華經〕見下佛在二大衆一名聞滿二十方一、廣饒中益衆生上。❸タイシユウ 民衆を集團と見なしていふ。言葉。通常は勞働者・農民・一般勤勞者の總稱として用ひられる。

〔大衆課稅〕1123 タイシユウクワゼイ 一般大衆にまで影響を及ぼす課稅。生活必需品に對する消費稅などをいふ。

〔大衆文學〕1124 タイシユウブンガク 一般大衆に興味ある文學の意。純文學(**8**－**27277**‥144)の對。大衆文藝。

【大充】1125 タイジユウ 明、符驗(**8**－**25935**‥22)の字。

【大戎】1126 タイジユウ ❶大きな兵車。元戎。〔詩、小雅、六月〕元戎十乘以先啓レ行、〔集傳〕元、大也、戎、戎車也。❷唐代、兵部尙書(**2**－**1462**‥172)の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一、云云、吏部尙書爲二大天一、禮部爲二大儀一、兵部爲二大戎一、刑部爲二大秋一、工部爲二大起一。❸春秋時代の戎の一種。又、複姓。〔左氏、莊、二十八〕大戎狐姬生二重耳一。〔注〕大戎、唐叔子孫、別在二戎狄一者。

【大從】1127 タイジユウ 親王又は攝政・關白家等の家司の一。古くは扶の下、後には知家事の下にあるもの。〔家令職員令〕親王、云云、大從一人、掌三檢二校家事一、餘從准レ此。〔職原抄〕親王執柄大臣家、知家事、下家司也、大從、同レ上、小從同レ上。

【大叔】1128 タイシユク ❶春秋、鄭の莊公の弟、共叔段をいふ。寵愛が衆臣に異なるから大といふ。〔詩、鄭風、大叔于田〕大叔于田、乘二乘馬一。〔左氏、隱、元〕初鄭武公娶二于申一曰二武姜一、生二莊公及共叔段一、莊公寤生、驚二姜氏一、故名曰二寤生一、遂惡レ之、愛二共叔段一欲レ立レ之、亟請二於武公一、公弗レ許、及二莊公卽一レ位、爲レ之請レ制、公曰、制、巖邑也、虢叔死焉、佗邑唯命、請レ京使レ居レ之、謂二之京城大叔一。❷使用人の敬稱。大哥。〔桃花扇、阻奸〕門上大叔那裏。❸父の友をいふ。〔稱謂錄、父之友、大叔〕米芾與レ人帖、承二借贌員一、其人不レ名、自稱

曰二張大伯一、是何老物輒欲レ爲二人父之兄一、若爲二大叔一、猶之可也。

〖大叔于田〗1129 タイシュクウデン　詩經、鄭風の篇名。鄭人が共叔段の多材で勇を好むを美め、以て莊公を刺つたもの。〔詩、鄭風、大叔于田序〕大叔于田、刺二莊公一也、叔多才而好レ勇、不義而得レ衆也。

【大祝】1130 タイシュク　㊀殷代の官名。天官六大の一。〔禮、曲禮下〕天子建二天官一、先二六大一、曰二大宰・大宗・大史・大祝・大士・大卜一、典二司六典一。㊁周官の名。春官の屬。神を奉祀することを掌る。はふり。〔周禮、春官、序官、大祝、注〕大祝、祝官之長。〔周禮、春官、大祝〕掌二六祝之辭一、以事二鬼神示一、祈二福祥一、求二永貞一。

【大菽】1131 タイシュク　大まめ。〔管子、地員〕五殖之次曰二五觳一、五觳之狀婁婁然、不レ忍二水旱一、其種大菽・細菽、多二白實一。〔管子、地員〕斥埴、宜二大菽與レ麥。

【大孰】1132 タイジュク　大いにみのる。大熟の㊀に同じ。〔漢書、食貨志上〕大孰則上糴レ三而舍レ一、中孰則糴レ二、下孰則糴レ一。

【大熟】1133 タイジュク　㊀大いにみのる。大孰。大豐年。〔書、金縢〕秋大熟未レ穫、天大雷電以風。〔穀梁、宣、十六〕五穀大熟、爲二大有年一。㊁ta shu 上海附近の主要農產物。棉と稻。

【大率】1134 タイソツ　㊀おほむね。あらまし。大略。〔新書、匈奴〕大率六萬騎。〔漢書、王貢兩龔鮑傳贊〕大率多能自治、而不レ能レ治レ人。㊁タイリツ　曆法家の語。陰陽の數を合せて七十二、之を經法といふ。經は常用の法であり、百は數の節である。法に隨つて進退して舊位を失はぬところから、之を通法といふ。通法を以て經法を進めれば七千二百を得る、之を統法といふ。元より經に入るには先づ此の法を用ひる。通法を以て統法を進めれば七十二萬を得、氣朔の下、收分必ず盡く、之を全率といふ。通法を以て全率を進めれば七千二百萬を得る、之を大率といひ、元紀がこれより生ずる。〔五代史、司天考〕夫立二天之道一曰二陰與レ陽、陰陽各有レ數、合則化成矣、陽之策三十六、陰之策二十四、奇偶相命、兩陽三陰、同得二七十二一、同則陰陽之數合、七十二者、化成之數也、化成則謂二之五行之數一、五レ之、得二朞數一、過レ之者謂二之氣盈一、不レ及者謂二之朔虛一、至二於應變分用一、無レ所レ不レ通、故以二七十二一爲二經法一、經者常用之法也、百者數之節也、隨レ法進退、不レ失二舊位一、故謂二之通法一、以二通法一進二經法一、得二七千二百一、謂二之統法一、自レ元入レ經、先用二此法一、統歷之諸法也、以二通法一進二統法一、得二七十二萬一、氣朔之下、收分必盡、謂二之全率一、以二通法一進二全率一、得二七千二百萬一、謂二之大率一、而元紀生焉。

【大恤】1135 タイジュツ　大きなうれへ。國家の大憂。〔書、盤庚中〕嗚呼、今予告二汝不レ易、永敬二大恤一、無二胥絕遠一。

【大術】1136 タイジュツ　㊀迂遠な方法。〔呂覽、不屈〕大術之愚、爲二天下笑一。㊁地名。〔說苑、權謀〕田子顏自二大術一至二平陵城下一。

【大春】1137 タイシュン　後漢、井丹(**1**−**258**··90)の字。

〖大春日〗1138 オホカスガ　姓氏。〔新撰姓氏錄考證、三〕。

【大舜】1139 タイシュン　舜の美稱。〔孟子、公孫丑上〕大舜有レ大焉、善與レ人同、舍レ己從レ人。〔晉書、樂志下〕繼二大舜一佐二陶唐一、讚二文武一建二帝綱一。

【大濬】1140 タイシュン　河川の大浚渫。歲濬の對。〔清會典、工部〕凡河道、有二歲濬一、有二大濬一、各量二其受レ水之寬深一以擧レ工、引レ河亦如レ之、備二其器具一。

【大巡】1141 タイジュン　大いにめぐる。〔書、泰誓下〕時厥明王乃大巡二六師一、明誓二衆士一。

〖大巡環〗1142 タイジュンクワン　天帝をいふ。天運の巡環するをいふ意。〔桃花扇、入道〕大巡環睜レ眼瞧前一番、後一遭。

【大準】1143 タイジュン　物價平均の法。〔管子、國蓄〕萬乘之國、守二歲之滿虛一、乘二民之緩急一、正二其號令一、而御二其大準一、然後萬乘可レ資也。

【大純】1144 タイジュン　清、鄭際熙(**11**−**39647**··390)の字。

【大順】1145 タイジュン　㊀順の至り。よく道にかなつてゐること。〔禮、禮運〕天子以レ德爲レ車、以レ樂爲レ御、諸侯以レ禮相與、大夫以レ法相序、士以レ信相考、百姓以レ睦相守、天下之肥也、是謂二大順一、大順者、所三以養レ生送レ死、事二鬼神一之常也。〔漢書、文帝紀〕孝悌天下之大順也、力田爲二生之本一也。㊁大なる順道。自然・天理をいふ。〔老子、六十五〕玄德深矣遠矣、與レ物反矣、乃至二於大順一。〔河上公注〕順二天理一也。〔莊子、天地〕其合緡緡、若レ愚若レ昏、是謂二玄德一、同二乎大順一。〔嵇康、養生論〕和理日濟、同二乎大順一。㊂上下の人々が各〻其の分に安んずることをいふ。〔法言、問神〕成二天下之大順一、致二天下之大利一。〔注〕司馬光曰、大順、謂三上下各安二其分一。㊃自然の順序。〔漢書、司馬遷傳〕然其敍二四時之大順一、不レ可レ失也。㊄城の名。甘肅省慶陽縣の北。宋の慶曆の初、慶州の長官になつた范仲淹が築いた。宋史、范仲淹傳に見ゆ。㊅年號。㋑唐、昭宗、李傑の時。(890−891) ㋺宋、高宗の代、越(安南)の神宗、李陽煥の年號、天順の一稱。(1128−1133) ㋩明末、張獻忠の僭年號。(1643)

〖大順平定〗1146 タイジュンヘイテイ　明末、段鋹の僭年號。一に平定に作る。〔歷代紀元編、上〕年次不明。

【大楯】1147 オホタテ　大きいたて。楯の、大形のもの。〔日本書紀、推古紀〕十二年十一月、是月皇太子請二于天皇一、以作二大楯及靫一。〔陸奧話記〕貞任拔レ劍斬二官軍一、官軍以レ鉾刺、載二於大楯一、六人舁二之將軍之前一。

【大詢】1148 タイジュン　大いにはかる。國の大事をはかる。國危・國遷・立君をはかる。〔周禮、地官、鄕大夫〕大二詢于衆庶一、則各帥二其鄕之衆寡一而致二于朝一。〔注〕大詢者、詢二國危一、詢二國遷一、詢二立君一、鄭司農云、大二詢于衆庶一、洪範所謂謀及二庶民一。

【大潤】1149 タイジュン　大雨。〔後漢書、鍾離意傳〕比日密雲、遂無二大潤一。

【大醇】1150 タイジュン　㊀最も純粹なこと。〔孟子集注、序說〕韓子曰、孟氏醇乎醇者也、荀與レ揚、大醇而小疵。㊁字號。㋑宋、杜嬰(**6**−**14477**··19)の字。㋺清、崔維雅(**4**−**8178**··192)の字。

【大初】1151 タイショ　道の本をいふ。大始。太初(**3**−**5834**··274)の㊁に同じ。

〖大初位〗1152 ダイショヰ ダイソヰ　我が國で古、位階の名。八位の下、少初位の上。上・下あり。唐名は登仕郎。〔職原抄〕大初位、上下、唐名、登仕郎。

〖大初元將〗1153 タイショゲンシヤウ　漢の孝哀帝、劉欣の年號、太初元將の一稱。一に太初にも作る。(B.C.4)

【大所】1154 タイショ　㊀晴れの場所。〔花傳書〕押し出だしたる大所・貴所の御前などにて。㊁オホガショ　伊勢國の地名。

〖大所小所〗1155 タイショセウショ　大きい家小さい家。

【大胥】1156 タイショ　周官の名。春官の屬。樂官で、學士の版を掌る。〔周禮、春官、大胥〕大胥、掌二學士之版一、以待二致諸子一。〔禮、文王世子〕小樂正學レ干、大胥贊レ之。〔張衡、西京賦〕周制大胥。

【大書】1157 タイショ　㊀大きい文字で書くこと。〔曹端、太極圖說述解序〕于二講授之際一、大二書周說一、而分二布朱解一。㊁講釋師の用ひる本。〔杭俗遺風〕大書一人獨說、不レ用二傢伙一、惟有二醒目一塊、紙扇一把一。

〖大書史〗1158 タイショシ　大書吏に同じ。〔職原抄〕親王執柄大臣家、知家事、下家司也、大從、同レ上、小從、同レ上、大書史、同レ上、小書史、同レ上。

〖大書吏〗1159 ダイショリ　我が國で古、親王家の職員。書吏の上位。〔家令職員令〕親王、云云、大書吏一人、掌三勘二署文案一、餘書吏准レ此。

〖大書特書〗1160 タイショトクショ　特筆大書する春秋の筆法。〔葛長庚、徐公懋求二進納一疏〕前箇後箇只這箇、千時百時、恰限二今時一、大書特書不二一書一、多得少得、不レ如二便得一。

【大處】1161 タイショ　㊀すぐれてよいところ。〔劉禹錫、插田歌〕計吏笑致レ詞、長安眞大處。㊁ta^{4} ch'u^{4} 大きな事。

【大渚】1162 タイショ　澤の名。〔淮南子、墬形訓〕東方曰二大渚一、曰二少海一。〔注〕水中可レ居者曰レ渚、東方多レ水、故曰二少海一、亦澤名也。

【大暑】1163 タイショ　㊀二十四氣の一。夏の終りの季節。七月二十三日から八月八日までで、小暑と立秋との中間をいふ。〔管子、幼官〕十二大暑至、盡レ善。〔漢書、律歷志下〕鶉火、初柳九度、小暑、中張三度、大暑、終二於張十七度一。㊁夏のひどいあつさ。大熱。〔山海經、大荒西經〕南岳娶二州山女一、名曰二女虔一、爰有二大暑一、不レ可二以往一。〔注〕言二炙熱殺レ人也。〔李商隱雜纂、不レ得レ已〕大暑趣レ會。

〖大暑熱天〗1164 ta^{4} shu^{3} jê^{4} t'ien^{1}　非常に熱い天氣。〔紅樓夢、三十三回〕大暑熱天、母親有何生氣。

〔大暑去二酷吏一清風來二故人一〕1165 タイショコクリサツテセイフウコジンキタル　夏が去つて秋が來た意。清風來二故人一（**7－17695**・・711）を見よ。

【大署】1166 タイショ　大きな字で書く。大書する。〔史記、汲鄭傳贊〕大二署其門一。〔蒙求、鄭莊置驛〕翟公大二署其門一曰、一死一生、迺知二交情一、一貧一富、迺知二交態一。

【大緒】1167 オホヲ　狩獵に鷹の足につける紐。せきを。〔禰津松鷗軒記〕大鷹の大緒六尺五寸、しやうぞく六寸、ひこのを三寸、紅の革黑革也、青は御免革也。

【大序】1168 タイジョ　㊀詩經周南關雎の篇首にある序。舊說では風風也以下をいひ、朱熹は詩者志之所レ之也以下、詩之至也までをいひ、又一說に、全文をいふ。その作者について數說あり、鄭玄・王肅等は子夏の作、隋書經籍志は小序と共に子夏の創める所で、毛公及び衞宏の潤色する所といひ、程顥は孔子の作といひ、韓愈は三つの理由を擧げて子夏、詩を序せずといひ、鄭樵・王質等は村野妄人の作といふ。又、我が國の太田錦城も大序十謬を著して、子夏の作に非ざることを詳細に論じてゐる。詩序（**10－35427**・・106）を見よ。〔詩、大序〕關雎、后妃之德也、風之始也、所下以風二天下一而正中夫婦上也、故用二之鄉人一焉、用二之邦國一焉、風、風也、敎也、風以動レ之、敎以化レ之、詩者志之所レ之也、在レ心爲レ志、發レ言爲レ詩、情動二於中一而形二於言一、言レ之不レ足、故嗟二歎之一、嗟二歎之一不レ足、故永二歌之一、永二歌之一不レ足、不レ知二手之舞レ之、足之蹈レ之也、情發二於聲一、聲成レ文、謂二之音一、治世之音、安以樂、其政和、亂世之音、怨以怒、其政乖、亡國之音、哀以思、其民困、故正二得失一、動二天地一、感二鬼神一、莫レ近二於詩一、先王以レ是經二夫婦一、成二孝敬一、厚二人倫一、美二敎化一、移二風俗一、故詩有二六義一焉、一曰風、二曰賦、三曰比、四曰興、五曰雅、六曰頌、上以風二化下一、下以風二刺上一、主レ文而譎諫、言レ之者無レ罪、聞レ之者足二以戒一、故曰レ風、至二于王道衰、禮義廢、政敎失一、國異レ政、家殊レ俗、而變風・變雅作矣、國史明二乎得失之迹一、傷二人倫之廢一、哀二刑政之苛一、吟二詠情性一、以風二其上一、達二於事變一而懷二其舊俗一者也、故變風發二乎情一、止二乎禮儀一、發二乎情一、民之性也、止二乎禮儀一、先王之澤也、是以、一國之事、繫二一人之本一、謂二之風一、言二天下之事一、形二四方之風一、謂二之雅一、雅者正也、言三王政之所二由廢興一也、政有二小大一、故有二小雅一焉、有二大雅一焉、頌者美二盛德之形容一、以二其成功一告二於神明一者也、是謂二四始一、詩之至也、然則關雎・麟趾之化、王者之風、故繫二之周公一、南言二化自レ北而南一也、鵲巢・騶虞之德、諸侯之風也、先王之所二以敎一、故繫二之召公一、周南・召南、正始之道、王化之基、是以關雎樂下得二淑女一以配中君子上、憂在レ進レ賢、不レ淫二其色一、哀二窈窕一、思二賢才一、而無レ傷レ善之心一焉、是關雎之義也。〔釋文〕舊說云、起レ此至下用二之邦國一焉上、名二關雎序一、謂二之小序一、自二風風也一訖レ末、名爲二大序一、沈重云、案二鄭詩譜意一、大序是子夏作、小序是子夏毛公合作、卜商意有レ不レ盡、毛更足二成之一、或云、小序是東海衞敬仲所レ作、今謂此序止是關雎之序、總二論詩之綱領一、無二大小之異一、解見二詩義序一、並是鄭注、所三以無二箋云一者、以レ無レ所レ疑亂一故也。〔隋書、經籍志一〕詩序、子夏所レ創、毛公及衞敬仲又加二潤益一。〔皮錫瑞、詩經通論〕毛序有レ可レ信不レ可レ信、爲二說詩者一大疑案一、關雎序、自二關雎后妃之德也一、至二關雎之義也一云云、朱子作二詩序辨說一、以三詩者志之所レ之、至二詩之至也一、爲二大序一、其餘首尾爲二關雎之小序一、云云、作レ序之人、自二詩譜一外、王肅以爲、子夏所レ序詩、卽今毛詩序、范蔚宗以爲、衞宏受二學謝曼卿一作二詩序一、魏徵等以爲、子夏所レ創、毛公及衞宏又加二潤益一、韓愈議、子夏不レ序レ詩、有レ三焉、知不レ及、一也、暴二揚中冓之私一、春秋所レ不レ道、二也、諸侯猶世不二敢以云一、三也、學者欲レ顯二其傳一、因藉二之子夏一、成伯璵以爲、子夏惟裁二初句一、其下皆是大毛自以二詩中之意一而繫二其辭一、王安石以爲、序乃詩人所二自製一、程子以爲、小序國史之舊文、大序孔子所レ作、蘇轍以爲、衞宏所レ作、非二孔氏之舊一、止存二其首一言一、餘皆刪去、王得臣以爲、首句孔子所レ題、曹粹中以爲、毛傳初行、尙未レ有レ序、門人互相傳授、各記二師說一、鄭樵・王質以爲、村野妄人所レ作。㊁ダイジョ　芝居狂言のはじまりの舞臺。序幕。

【大徐】1169 タイジョ　宋、徐鉉（**4－10110**・・126）をいふ。

【大升】1170 ダイショウ　枡の一種。大寶令では小枡三升で大枡一升に充てたのは、今の四合強に當る。〔舊唐書、食貨志上〕三升爲二大升一、三斗爲二大斗一。〔日本靈異記、三〕田中眞人廣忠女、貸日與二小升一、償日受二大升一。

【大昇】1171 タイショウ　明、游明（**7－17792**・・303）の字。

【大松】1172 タイショウ　山の名。㊀甘肅省永登縣の東北。山に大松多く、北に小松山がある。明代の莊浪の要地。〔讀史方輿紀要、陝西、莊浪衞〕大松山、衞東一百二十里、山多二大松一。㊁一に伊克納喇蘇台山といひ、滿洲熱河省赤峯縣の翁牛特右翼の南。富弼行程錄に、中京の正北、松山館に至るといふもの。

【大訟】1173 タイショウ　おほきなうつたへ。大きな爭。〔周禮、地官、司市〕市師涖レ焉、而聽二大治大訟一。

【大勝】1174 タイショウ　㊀大いに勝つ。非常な勝利。大捷。又、大いに勝る。〔禮、月令〕孟秋行二冬令一、則陰氣大勝。〔管子、幼官〕大勝者積二衆勝一。〔李衞公問對、下〕不二大勝一亦不二大敗一。〔六部成語、兵部、大勝、注解〕大大的得二了勝仗一。㊁關名。㋑河南省羅山縣の南。宋の寶祐の末、元兵が侵入したところ。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、信陽州、羅山縣〕大勝關、在二縣南一百四十里一、宋寶祐末、蒙古忽必烈等、分レ道南寇、自二光山一會レ軍、度二淮南一入二大勝關一、明初、太祖嘗駐二蹕於此一。㋺江蘇省江寧縣の西南。其の地に大城港がある。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕大勝關、府西南三十里、其地卽大城港、鎭有二大城港一、合二板橋新林等浦之水一入レ江、爲二江流險阨處一、旁有二壠阜一、亦曰二大城岡一。

【大尰】1175 タイショウ　重い足の病。こひあし。おめあし。尰は足の病。〔新書、大都〕天下之勢、方病二大尰一。

【大稱】1176 タイショウ　大きな秤。〔舊唐書、后妃傳上〕中宗上官昭容、名婉兒、初在レ孕時、其母夢、人遺二己大稱一、占者曰、當下生二貴子一、而秉中國權衡上、既生レ女、聞者嗤二其無一レ効、及三婉兒專秉二內政一、果如二占者之言一。

【大蹤】1177 タイショウ　湖の名。江蘇省鹽城縣の西南。〔元史、董搏霄傳〕（搏霄）從二丞相脫脫一征二高郵一、分二戍鹽城・興化一、賊巢在二大蹤・德勝兩湖間一、凡十有二、悉勦二平之一。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、鹽城縣、射陽湖〕大蹤湖、在二縣西南一百里一、南北徑三十里、東西廣十五里、與二興化一分湖爲レ界、南接二魚鯨湖一、北達二射陽湖一。

【大鐘】1178 タイショウ　大きなかね。おほがね。鏞、又は鎛。〔爾雅、釋樂〕大鐘謂二之鏞一。〔荀子、正名〕大鐘不レ加レ樂。〔管子、霸形〕至二大鐘之西一。〔纂詁〕大鐘、鎛也。〔晏子、不レ合二經術一者〕景公爲二大鐘一。〔孔叢子、抗志〕不レ撞不レ發、如二大鐘一然。

〔大鐘寺〕1179 ダイショウジ　北京の覺生寺の俗稱。大鐘があるから名づける。〔燕京歲時記、大鐘寺〕大鐘寺、本覺生寺、以二大鐘一得レ名、蓋歲時求レ雨處也、每レ至二正月一、自二初一日一起、開レ廟十日、十日之內、遊人坌集、女士如レ雲、長安少年、多馳二騾車馬一以爲レ樂、超塵逐電、勞瘁不レ辭、一騎之費、有下貴至二數百金一者上、豈猶有二金臺市駿之遺風一歟。

【大鱅】1180 タイショウ　㊀山名。安徽省婺源縣の東、浙江省開化縣の界で、閩浙の衝。堯の洪水の時、鱅魚が來り、水涸れて死し、その骨が山積して出來たからいふ。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、婺源縣〕石耳山、縣東南九十里、層巖疊嶂、高險接レ天、云云、其支脈曰二大鱅山一、在二縣東一百里一、高三百仞、相傳、洪水時、有二大鱅一、上レ此而名。㊁川の名。安徽省婺源縣の東。源は大鱅山。二水あり、一は東流し開化縣・蘭溪縣を過ぎて浙江に入り、一は西北流して武溪水と會し、又西南、浙源の西水と會し、武口といふ。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、婺源縣、益陽水〕大鱅水、在二縣東一、出二大鱅山一、溉レ田六十餘頃、西北流入二斜水一。

【大乘】1181 ダイジョウ　㊀佛佛教の深玄の義理を說いたもの。慈悲博愛の主義によりて一切の衆生を救ふ義。小乘（**4－7473**・・682）の對。大は法體の廣大無限にして一切萬有を包含すること。乘は衆生をのせて生死を超越し、涅槃の彼岸に達すること。〔魏書、釋老志〕上根人爲二大乘一。〔釋氏要覽〕梵云二摩訶衍一、此云二大乘一、大者、簡レ小之稱、乘者、運載爲レ義、小者、簡二非大一也、謂、如來觀レ

根逗レ機、才便施設。㊁北魏の沙門法慶の僭年號。〔歷代紀元編、上〕年次不明。

〔大乘戒〕1182（ダイジョウカイ） 佛大乘菩薩僧の戒律。菩薩戒(9－31205‥3)を見よ。

〔大乘經〕1183（ダイジョウキャウ） 佛大乘の教を說いた經文。華嚴經・大集經・般若經・法華經・涅槃經の五部。

〔大乘義章〕1184（ダイジョウギシャウ） 佛書名。二十卷。隋、慧遠撰。全書を教聚・義聚・染聚・淨聚・雜聚と分ち、大小乘法相を解釋す。

〔大乘興勝〕1185（タイジョウコウショウ） 明、熹宗の時、徐鴻儒の僭年號、興勝の一稱。(1622)

〔大乘起信論〕1186（ダイジョウキシンロン） 佛書名。舊譯は一卷。新譯は二卷。印度、馬鳴菩薩撰。舊譯は梁、眞諦。新譯は唐、玄奘。如來藏緣起を說いたもので、唯心論的傾向を帶ぶ。〔大藏經、成帙、十〕。

〔大乘五蘊論〕1187（ダイジョウゴウンロン） 佛書名。一卷。唐、玄奘譯。色・受・想・行・識の五者を論說す。法相宗はこの論に胚胎す。

【大烝】1188（タイジョウ） 冬季に功臣を祭る祭の名。〔周禮、夏官、司勳〕凡有レ功者銘二書於王之大常一、祭二於大烝一、司勳詔レ之。〔疏〕烝者衆也、冬時物成者衆、故祭二功臣一。

【大繩】1189（タイジョウ） 大きななは。大索。〔墨子、備城門〕必以二大繩一爲レ箭。

【大食】1190（タイショク） ㊀大いに食ふ。健啖。㊁王が朔月月半に樂を奏してすすめる食。〔周禮、春官、大司樂〕王大食三宥、皆令レ奏二鐘鼓一。〔注〕大食、朔月月半、以レ樂宥レ食時也、宥、猶レ勸也。㊂（タージ） 國の名。本名はサラセン。唐代、今のペルシヤ・メソポタミヤ・アラビヤ・エジプトを奄有した大國。隋の大業中、波斯の牧駝の胡人、俱紛摩地の山に衆を糾合して劫奪を行ひ、遂に立つて王となる。姓は大食氏。名は瞰蜜莫末膩。國人の男子は色黑く鬚多く、鼻は長大、婦人は白皙。兵仞は勁利、其の俗は戰鬬に勇み、天神に事へることを好む。唐の高宗の永徽二年、始めて朝貢す。〔唐書、西域下、大食傳〕大食、本波斯地、男子鼻高、黑而髯、女子白皙、云云、死レ敵者生二天上一、殺レ敵受レ福、故俗勇二于鬬一、云云、隋大業中有三波斯國人牧二于俱紛摩地那山一、有レ獸言曰、山西三穴有二利兵一、黑石而白文、得レ之者王、走視如レ言、石文言、當レ反、乃詭二衆裒一、亡二命於恆曷水一、劫二商旅一、保二西鄙一自王、云云、永徽二年、大食王瞰蜜莫末膩、始遣二使者一朝貢、自言レ王、大食氏、有レ國三十四年、傳二二世一。㊃（ダイジキ） 大食調を見よ。

〔大食調〕1191（ダイジキテウ ダイシツテウ） 雅樂の曲、五調子の一たる平調の分調子。一に大石調といひ、唐代では俗樂二十八調の一となる。〔唐書、禮樂志十二〕越調、大食調、高大食調、雙調、小食調、歇指調、林鍾商爲二七商一。〔冊府元龜〕天寶十三年、改二諸樂一、名二太簇一、商號二大食調一。

〔大食調入調〕1192（ダイジキテウニツテウ） 笛の祕曲の名。豐原時元が源義光に傳へたといふもの。

【大蜀】1193（タイショク） 前蜀をいふ。王建、成都に據つて建國し、大蜀と號す。前蜀(2－2011‥203)を見よ。〔資治通鑑、後梁紀〕(太祖、開平元年)己亥、卽二皇帝位一、國號二大蜀一。

【大辱】1194（タイジョク） 大なるはづかしめ。死刑に處し屍を暴すことをいふ。大戮。〔荀子、議兵〕縣二貴爵重賞於其前一、縣二明刑大辱於其後一。

【大心】1195（タイシン） ㊀恭敬でない心。尊大な心。〔韓非子、亡徵〕大心而無レ悔、國亂而自多、不レ料二境內之資一、而易二其鄰敵一者可レ亡也。㊁心の大きいこと。〔荀子、不苟〕君子大心則天而道、小心則畏レ義而節。㊂複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕大心氏、芈姓、英賢傳、楚有二大心令尹得臣之子一、因氏焉。

【大伸】1196（タイシン） 大いにのびる。〔南史、張岱傳〕今欲下用レ卿爲二子鸞別駕一、總中刺史之任上、無レ謂二小屈一、終當二大伸一也。

【大身】1197（タイシン） ㊀高位・高祿の人。身分の貴い人。〔普廣院殿御元服記〕近習若大身達步行。㊁（オホミ） ㋑天皇の御身。㋺大きく長いもの。大身鑓を見よ。

〔大身鑓〕1198（オホミヤリ） 刃の長大な素鑓。〔薩摩歌、諸國槍標〕誰れ白河の大身の槍。

【大辰】1199（タイシン） ㊀星宿の名。㋑大火星。心星。〔爾雅、釋天〕大辰、房心尾也。㊁星の名。〔爾雅、釋天〕大火、謂二之大辰一。〔公羊、昭、十七〕大辰者何、大火也。㋺伐星をいふ。〔公羊、昭、十七〕伐爲二大辰一。〔注〕伐、謂二參伐一也。㋩北辰をいふ。〔公羊、昭、十七〕北辰、亦爲二大辰一。〔注〕北辰、北極天之中也。

【大侵】1200（タイシン） 甚しい饑饉。五穀がすべて實らない饑饉をいふ。大饑饉。凶作。大祲。〔穀梁、襄、二十四〕大饑、五穀不レ升爲二大饑一、一穀不レ升謂二之嗛一、二穀不レ升謂二之饑一、三穀不レ升謂二之饉一、四穀不レ升謂二之康一、五穀不レ升謂二之大侵一。〔墨子、七患〕五穀不レ孰、謂二之大侵一。〔韓詩外傳、八〕一穀不レ升謂二之鎌一、二穀不レ升謂二之飢一、三穀不レ升謂二之饉一、四穀不レ升謂二之荒一、五穀不レ升謂二之大侵一。

【大信】1201（タイシン） ㊀眞のまこと。此の上もないまこと。大信不レ約を見よ。〔莊子、徐無鬼〕知二大方一、知二大信一。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕開二示大信一、喩以二存亡一。㊁鎭の名。安徽省當塗縣の大信河の口。南浦ともいふ。〔讀史方輿紀要、江南、太平府、當塗縣〕大信河、府西南二十五里、大江自二天門山一南釃爲二夾河一、曰二大信一、下達二采石一入レ江、亦謂二之南浦一、云云、志云、今有二大信巡司一、亦曰二東梁山巡司一、置二于府西南大信河口之大信鎭一。㊂冠位十二階の第七位。推古天皇十一年の制定。㊃宋、趙孚(10－37171‥320)の字。

〔大信不レ約〕1202（タイシンハヤクナラズ） 眞の信義は約束や盟誓の末に在るのではない。〔禮、學記〕大道不レ器、大信不レ約。〔疏〕大信、謂二聖人之信一也、約謂二期要一也。

【大振】1203（タイシン） ㊀おほいにふるふ。勢威の盛なこと。〔國史略、醍醐天皇〕夜半大雪、乃襲二賊營一、斬獲殆盡、由レ是威名大振。㊁明、余翺(1－515‥6)の字。

〔大振袖〕1204（オホフリソデ） 大きく仕立てた振袖。江戶時代、大名・旗本家等の若い女の常用したもの。〔御所櫻堀川夜討、三〕大振袖の伊達模樣。

【大晉】1205（タイシン） 晉國の美稱。〔宋書、樂志四〕赫赫大晉德、芬烈陵二三五一。〔潘尼、後園頌〕乃眷二我皇一、光有二大晉一。

〔大晉承運期〕1206（タイシンショウウンキ） 晉の鼓吹曲の名。傅玄作。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、晉鼓吹曲、大晉承運期〕古上邪行、古今樂錄曰、大晉承運期、言三聖皇應レ籙受レ圖、化象二神明一也。〔傅玄、大晉承運期〕大晉承レ運期、德隆聖皇時、淸晏白日垂レ光、應二籙圖一、陟二帝位一、繼二天正玉衡一、化行象二神明一、至哉道隆虞與レ唐、元首敷二洪化一、百寮股肱竝忠、良民大康、隆隆赫赫、福祚盈無レ疆。

【大浸】1207（タイシン） おほみづ。大水。〔莊子、逍遙遊〕大浸稽レ天而不レ溺。

【大眞】1208（タイシン） ㊀上古の人。黃帝の師。大塡。〔新序、雜事、五〕黃帝學二乎大眞一、顓頊學二乎綠圖一。㊁國の名。元初、蒲鮮萬奴が遼東に據つて號した國。〔元史、太祖紀〕太祖十年冬十月、金宣撫蒲鮮萬奴、據二遼東一、僭號二天王一、國號二大眞一。

【大秦】1209（タイシン） 國の名。㊀羅馬をいふ。後漢の桓帝の延熹九年、大秦國王安敦、始めて入貢す。安敦はアントニウスをいふ。〔後漢書、桓帝紀〕延熹九年九月、云云、大秦國王遣レ使奉獻。〔注〕時國王安敦、獻二象犀角玳瑁一。〔後漢書、西南夷、哀牢傳〕海西、卽大秦也。〔後漢書、西域傳〕大秦國、一名犂鞬、以レ在二海西一、亦云二海西國一、其人民長大平正、有レ類二中國一、故謂二之大秦一。㊁十六國、苻健の建てた前秦をいふ。秦(8－24995)を見よ。〔前秦錄〕皇始元年春正月、苻健軍師將軍左長史賈元碩等、請丙依下劉備稱二漢中王一故事上、表レ健爲乙侍中大都督關中諸軍事大將軍大單于秦王甲、健怒曰、吾豈堪レ爲二秦王一邪、且晉使未レ返、我官位輕重非二汝曹所レ知也、既而密使二梁安諷元碩等一、上二尊號一、健僞讓再三、然後許レ之、丙辰僭卽二天王位於南郊一、國號二大秦一。㊂十六國、姚萇の建てた後秦をいふ。秦(8－24995)を見よ。〔後秦錄〕建初元年五月、姚萇僭卽二皇帝位於長安一、國號二大秦一。

〔大秦君〕1210（ダイシンクン） 唐の秦景通は、其の弟暐と皆才名あり、當時、兄を大秦君、弟を小秦君といふ。〔舊唐書、儒學傳〕秦景通與二弟暐一、皆尤精二漢書一、當時習二漢書一者、宗二師之一、常稱、景通爲二大秦君一、暐爲二小秦君一、若不レ經二其兄弟指授一、則謂二之不レ經二師匠一。

〔大秦寺〕1211（ダイシンジ） 唐の太宗が貞觀十二年に長安に建てた基督教の寺。又、波斯寺といふ。〔僧史略〕大秦末尼胡神也、官品令有二祆正火祆一、教法起二大波斯國一號二蘇魯支一、貞觀五年、有下傳法種護何祿將二祆教一詣レ闕聞奏上、敕令三長安崇佑坊立二祆寺一、號二大秦寺一、又號二波斯寺一。

〖大秦珠〗1212ダイシンジュ　大秦に産する珠。〔魏略〕大秦國出㆓明月夜光珠眞白珠㆒。〔辛延年、羽林郎詩〕頭上藍田玉、耳後大秦珠。

〖大秦國王〗1213タイシンコクワウ　唐、朱泚(**6**—**14424**‥411)の自稱。

〖大秦景教流行碑〗1214ダイシンケイケウリウカウヒ　大秦景教流行中國碑に同じ。

〖大秦景教流行中國碑〗1215ダイシンケイケウリウカウチユウゴクノヒ　略して景教碑といふ。西洋人は呼んで Nestorian Tablet; Stele nestorieme 等といふ。唐の德宗の建中二年一月七日、バルグの人で長安に來た白衣の篤信者イズドウドウブシツトの建てたもの。恐らく中國最初の景教の道場であらう。貞觀十二年敕建の波斯寺、卽ち後の大秦寺の境內に建てたもの。碑文は駢體の漢文で、大秦寺の僧景淨の撰と傳へ、先づ景教の教義の一班を略述し、次いで阿羅本の開教より始めて、唐代に盛行した狀況を敍し、此の碑を建立するに至る迄の事を載せ、更に要約して頌詞とし、底部と兩端左右とに若干行のシリア文を添ふ。此の碑、久しく土中に埋れてゐたが、明末、天啓年間、西安府城の西郊、もと大秦寺の跡である崇聖寺、卽ち金勝寺の境內から發掘せられ、後、西安城內碑林に移されて今日に至る。〔寰宇訪碑錄、唐〕景教流行中國碑、僧景淨撰、呂秀嚴正書、建中二年。〔金石粹編〕景教中國流行碑。

【大紳】1216タイシン　字號。❶明、解縉(**10**—**35067**‥152)の字。❷明、孫錦(**3**—**6987**‥75)の字。❸清、汪縉(**6**—**17154**‥82)の字。

【大晨】1217タイシン　夜明け。午前四時の後。〔素問、標本病傳論〕冬大晨。〔注〕大晨、謂㆓寅後九刻、大明之時㆒也。

【大祲】1218タイシン　甚しい饑饉。大侵。〔後漢書、光武紀、南陽荒饑、注〕五穀不㆑升曰㆓大祲㆒。

【大進】1219タイシン　❶大いに進む。〔北史、盧愷傳〕盧愷文章大進。❷ダイシン　我が國、古の中宮職・皇太后宮職・春宮坊・京職・修理職・大膳職等の判官の長。〔官位令〕從六位、云云、中宮大進。〔職員令〕中宮職、云云、大進一人。〔東宮職員令〕春宮坊、云云、大進一人。

【大新】1220タイシン　新の美稱。王莽の國號。〔揚雄、劇秦美新〕逮㆑至㆓大新受㆑命、上帝還資、后土顧懷。〔注〕善曰、大新、王莽也。

〖大新橋〗1221タイシンケウ　橋の名。安徽省懷寧縣の西門外。又、大星橋に作る。

〖大新莊〗1222タイシンサウ　鎭の名。❶河北省定縣の東、唐河の濱。望都縣の界に接す。❷河北省豐潤縣の東南。

〖大新店〗1223タイシンテン　地名。❶河南省郾城縣の西北。❷湖北省孝感縣の北。淸風澗が環河に入る所。雙河口といふ。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、孝感縣〕環河、縣北五十里、自㆓河南信陽州界㆒流、經㆓應山縣北境雞頭山㆒爲㆓天磨河㆒、入㆓縣境㆒、經㆓縣北一百五十里之新店㆒、匯㆓清風澗水㆒爲㆓雙河口㆒。

【大寢】1224タイシン　面向きの正室。路寢。正寢。〔周禮、夏官、大僕〕建㆓路鼓于大寢之門外㆒、而掌㆓其政㆒。〔注〕大寢、路寢也。〔禮、檀弓上〕君復㆓於小寢・大寢・小祖・大祖・庫門・四郊㆒。

【大審】1225タイシン　明代、南北兩京と十三省とに對し、刑部から五歲ごとに官を遣はし、刑獄の冤滯を審査判決させる。恤刑。〔明史、刑法志二〕成化十七年、命㆓司禮太監一員、會㆓同三法司堂上官於大理寺㆒審錄、謂㆓之大審㆒、南京則命㆓內守備㆒行㆑之、自㆑此定㆑例、每㆓五年㆒輒大審。

〖大審院〗1226ダイシンヰン　もと普通司法裁判所の最高級のもの。法律上の問題を審議するを本務とし、特別の規定ある者の外、事實の裁判は取扱はない。

【大震】1227タイシン　❶大いにゆれる。大地震。〔漢書、翼奉傳〕二月戊午、地大震㆓于隴西郡㆒。❷大いに恐れる。〔史記、白起傳〕斬首虜四十五萬人、趙人大震。〔後漢書、張玄傳〕溫聞大震、不㆑能㆑對。〔杜牧、賀㆑平㆓党項㆒表〕霆電轟喧、萬里之威靈大震。❸關の名。隴關をいふ。陝西省隴縣の西、隴山の下。〔元和志〕大震關、後周置、漢武至㆑此遇㆓雷震㆒、因名。〔唐書、地理志一〕汧源縣西有㆓安戎關㆒、在㆓隴山㆒、本大震關、大中六年防禦使薛逵築、更㆑名。

【大親】1228タイシン　❶非常に親しいこと。至親。〔莊子、庚桑楚〕兄則以㆑嫗、大親則已矣。❷父母兄弟。〔新書、容經〕子之大親、毋㆓乃不㆑寧乎。

【大人】1229タイジン　❶有德者・長上などに對する尊稱。其の用途には種々ある。〔陔餘叢考、大人〕大人之見㆓於經書㆒者、周易、大人與㆓天地㆒合㆓其德㆒、陸德明釋文、引㆓王肅㆒云、聖人在㆑位之目、以及㆘孟子、大人者不㆑失㆓其赤子之心㆒、莊子、大人者聖人不㆑足㆓以當㆑之之類㆖、皆以㆓德位㆒兼言、惟論語畏㆓大人㆒、孟子說㆓大人㆒、則藐㆑之、則以㆓勢分㆒而言、又左傳、閔子馬曰、夫人必是說、而後及㆓其大人㆒、郗黑肱以㆑濫來犇、君子曰、艱㆓難其身㆒、以險㆓危大人㆒、注皆言㆓在位者㆒、然此特泛㆓論有位之人㆒、非㆓覿面尊奉之呼㆒也、司馬相如大人賦、則更以稱㆓天子㆒、而其時公卿大臣、無㆓大人之稱㆒、可㆑知、其呼爲㆓大人㆒者、則以施㆓于父母伯叔㆒、如㆘家語、曾子曰、參得㆓罪大人㆒、又史記、范蠡之長子曰、家有㆓長子㆒、今弟有㆑罪、而大人不㆑遣、是吾不㆑肖也、漢高祖云、始大人以㆑臣爲㆓無賴㆒、霍去病云、不㆓早自知㆑爲㆓大人遺體㆒、南史、王僧孺幼時有㆑人、以㆓冬李㆒餽、其父先以㆑一與㆑之、僧孺辭曰、大人未㆑見、不㆑容㆓先嘗㆒、北史、田式以㆑事下㆑獄、欲㆓自盡㆒、其子信勸㆑之曰、大人朝廷重臣、又無㆓大過㆒、何至㆓于此㆒、唐書、裴彝云、大人病痛若㆑此、摭言、楊國忠子應㆑試、學問荒陋、禮部侍郎達奚珣畏㆓國忠㆒、使㆔其子撫先白㆓國忠㆒曰、大人白㆓相公㆒、郎君所㆑試、不㆑中㆓程式㆒、然亦未㆓敢黜落㆒、五代史、王珂妻、本李克用女、珂被㆓梁圍㆒急、使㆔妻致㆓克用書㆒曰、賊勢如㆑此、大人忍不㆑救耶、宋史、蔡京子攸入謁、握㆓父手㆒曰、大人脈勢舒緩、體中得㆑無㆑不㆑適、又隱逸傳、南安翁以㆓長子被㆑拘㆓于官㆒、欲㆔詣㆑官代㆓長子杖㆒、小兒曰、大人豈可㆛受㆑杖見㆚當代㆙、此皆以呼㆓其父㆒也、漢書、疏受叩頭曰、從㆓大人議㆒、此以呼㆓其叔㆒也、張博詐㆓淮陽王㆒、欲㆘上書爲㆓大人㆒乞㆓骸骨㆒去㆖、後漢書、范滂曰、惟大人割㆓不㆑忍之恩㆒、此皆以呼㆓其母㆒也、柳宗元稱㆓劉禹錫之母㆒云、無㆔辭以白㆓其大人㆒、亦謂㆓禹錫之母㆒、是大人之稱、止以稱㆓父母伯叔㆒、從未㆑有㆘以㆑之稱㆓尊官㆒者㆖、考㆓唐宋以來㆒、仕宦相㆓呼敵以下㆒、或稱㆑字、尊長稱㆑丈、公卿貴官則稱㆓其官位㆒、宋天聖中詔、文武官不㆑得㆔過㆓稱官品㆒、諸節度使觀察使未㆑至㆓太傅㆒者、許㆑稱㆓太傅㆒、防禦使至㆓橫行使㆒、許㆑稱㆓太保㆒、諸司使許㆑稱㆓司徒㆒、皆本等檢校所㆑應㆑帶之官也、又洪容齋記、李德裕自㆓崖州㆒與㆓某侍郎㆒書云、崖州司戶參軍李德裕、狀侍郎十九弟、及李文定稱㆓王沂公㆒云㆓樞密太師相公㆒之類、是皆以㆓官位㆒相呼、無㆓所謂大人者㆒、戴埴鼠璞云、四明有㆓大人堂㆒、本錢億曾爲㆓此州節度㆒、後其姪惟治復來節度、因創爲㆑祠、名曰㆓大人堂㆒、蓋大人之稱、乃子弟稱㆓父兄㆒之詞、而俗訛以爲㆓闞相公廟㆒、誤矣、梁溪漫志、及莊綽雞肋編、亦謂、世惟子稱㆑父爲㆓大人㆒、若㆑施㆓之於他㆒、則衆駭笑㆑之矣、可㆑見、宋時猶以㆓大人㆒稱㆓父母㆒、而不㆑加㆓之達官貴人㆒也、元人高則誠琵琶記、蔡狀元呼㆓黃門㆒爲㆓大人㆒、則元時達官已有㆓大人之稱㆒、明尹直謇齋瑣碎錄、吳與弼以㆓處士㆒徵至㆑京、每見㆓士大夫㆒、皆稱㆓大人㆒、又湧幢小品、徐晞以㆓吏員㆒起仕、至㆓尙書㆒歸、郡守率㆓諸生㆒迎㆑之、諸生以㆔其非㆓文學出身㆒頗偃蹇、晞出㆓一對㆒曰、劈破石榴紅門中許多酸子、諸生不㆑能㆑對、晞爲㆑對曰、咬開銀杏白衣裏一個大人、王弇州觚不觚錄、三司見㆓督撫㆒稱㆓老先生㆒、見㆓巡按㆒稱㆓先生大人㆒、此又前明以㆓大人㆒爲㆓貴官之稱㆒也、按㆓後漢書鄧禹傳㆒、禹孫康以㆓鄧太后臨㆑朝、遂謝㆑病不㆑朝、使㆓內侍者問㆑之、時宮人出入、多能有㆑所㆓毀譽㆒、其中耆宿稱爲㆓中大人㆒、所㆑使者乃康家婢也、亦自通㆓中大人㆒、康詬曰、汝我家出、亦敢爾耶、又陽球傳、球小妻、程璜之女、璜方用㆓事宮中㆒、所謂程大人也、蔡邕諫㆓靈帝㆒疏亦云、乳母趙嬈、讒諛驕溢、門吏霍玉依阻爲㆑奸、今道路紛紛、復云㆘有㆓程大人者㆒、察㆓其風聲㆒、將㆖爲㆓國患㆒、據㆑此則東漢時已有㆓大人之稱㆒、蓋本宮闈近侍之人、身無㆓官位㆒、而勢居㆓顯要㆒、故以㆓大人㆒稱㆑之、其後遂爲㆓近侍尊稱㆒、如㆘晉書、劉聰時中宮僕射郭猗、欲㆗王皮劉惇二人證㆓成皇太弟劉乂謀逆之事㆒以計㆖脅㆑之、皮惇大懼、皆曰、謹奉㆓大人教㆒、此又近侍稱㆓大人㆒之明證也、琵琶記、黃門稱㆓大人㆒、黃門亦近侍也、惟近侍稱㆓大人㆒、因而後世相沿、京朝官亦稱㆑之、如㆓徐晞㆒、以㆓尙書㆒稱㆓大人㆒也、京朝官稱㆓大人㆒、因而京官出使㆓於外㆒者、亦皆以㆓大人㆒稱㆑之、如㆔巡按稱㆓先生大人㆒、是也、因而遂爲㆓貴官之隆稱㆒、於㆑是督撫亦稱㆑之、此又近日京官外官位高者、皆稱㆓大人㆒之

所レ自也、按諸史所レ載、亦有下以二官位一而稱二大人一者上、後漢書岑彭傳、韓歆南陽大人、注謂、大家豪右也、唐書郭子儀、應二回紇大人之占一、段秀實傳、田少榮稱二秀實一爲二仁信大人一、高騈傳、女巫王奉仙謂二畢師鐸一曰、揚州灾當レ有二大人死一、是古來原有下貴官稱二大人一之例上、據二雞肋編所レ云、則南宋時尚專屬二子之稱レ父、而不三以稱二貴官一、則唐以前稱二貴官一爲二大人一者、乃從レ旁指目之詞、而非二覿面相呼一也、覿面稱二大人一、則始二於元明一耳。㋑有德者をいふ。聖人。〔易、乾〕飛龍在レ田、利レ見二大人一。〔論語、季氏〕孔子曰、君子有二三畏一、畏二天命一、畏二大人一、畏二聖人之言一、小人不レ知二天命一、而不レ畏也、狎二大人一、侮二聖人之言一。〔孟子、盡心上〕有二大人者一、正レ己而物正者也。〔後漢書、李固傳〕見二諸侍中一、並皆年少、無下一宿儒大人可二顧問一者上。㋺有位者をいふ。高位高官。又、諸侯天子をいふ。說二大人一則藐レ之（1238）を見よ。〔禮、禮運〕大人世及以爲レ禮。〔注〕大人、諸侯也。〔左氏、昭、十八〕及二其大人一。〔注〕大人、在レ位者。〔孟子、離婁下〕大人者、不レ失二其赤子之心一者也。〔注〕大人、謂レ君。〔史記、孟軻荀卿傳〕王公大人、初見二其術一、懼然顧化。〔漢書、司馬相如傳下〕世有二大人一兮、在二乎中州一。〔注〕師古曰、大人、以喩二天子一也。㋩古、父を稱する辭。〔史記、高祖紀〕高祖奉二玉卮一、起爲二太上皇壽一曰、始大人、常以レ臣爲二無賴一。〔史記、越世家〕長男曰、家有二長子一曰二家督一、今弟有レ罪、大人不レ遣、乃遣二少弟一。〔漢書、霍去病傳〕（遣レ使迎二父仲孺一、跪曰）去病不三早自知レ爲二大人遺體一也。〔後漢書、馬援傳〕松去後、諸子問曰、梁伯孫帝壻、貴二重朝廷一、公卿已下、莫レ不レ憚レ之、大人奈何獨不レ爲レ禮。〔孔子家語、六本〕嚮也參得二罪於大人一、大人用レ力敎參。㋥古、母を稱する辭。〔漢書、宣元六王傳〕博令二弟光恐レ王、云、王遇二大人一益解、博欲下上書爲二大人一乞二骸骨一去上。〔注〕師古曰、大人、博自稱二其母一也。〔後漢書、范滂傳〕白レ母曰、惟大人、割二不レ可レ忍之恩一、勿レ增二感戚一。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕子厚泣曰、播州非二人所レ居、而夢得親在レ堂、吾不レ忍二夢得之窮一、無三辭以白二其大人一、且萬無二母子俱往理一。㋭家長をいふ。〔史記、齊悼惠王世家〕魏勃曰、失レ火之家、豈暇下先言二大人一而後救ヒ火乎。〔注〕索隱曰、此蓋舊俗之言、謂レ救レ火之急、不レ暇三先啓二家長一也。㋬伯叔をいふ。〔漢書、疏廣傳〕受叩頭曰、從二大人議一。〔後漢書、皇甫嵩傳〕嵩從子酈、時在二軍中一、說レ嵩曰、本朝失レ政、天下倒懸、能安レ危定レ傾者、惟大人與二董卓一耳。㋣長老の尊稱。〔後漢書、蘇章傳〕祖父純、字桓公、有二高名一、性強切、而持二毀譽一、士友咸憚レ之、至下乃相謂曰、見二蘇桓公一、患三其敎二責人一、不レ見又思ヒ之、三輔號爲二大人一。〔注〕大人、長老之稱、言三尊二事之一也。❷古の官名。大卜の屬。夢を占ふことを掌る。〔詩、小雅、斯干〕大人占レ之、維熊維羆。〔集傳〕大人、大卜之屬、占レ夢之官也。❸漢の女官の名。夫人。〔後漢書、陳球傳〕球小妻程璜之女、璜用二事宮中一、所謂程大人也。〔後漢書、鄧禹傳〕時宮人出入、多能有レ所二毀譽一、其中耆宿、皆稱二中大人一、所レ使者、乃康家先婢、亦自通二中大人一。❹酋長をいふ。〔後漢書、烏桓傳〕有二勇健一、能理二決鬬訟一者、推爲二大人一。〔後漢書、挹婁傳〕無二君長一、其邑落各有二大人一。❺權勢ある家柄をいふ。〔後漢書、岑彭傳〕彭因言、韓歆南陽大人、可二以爲レ用。〔注〕大人、謂二大家豪右一。❻古、東海の外にあつた國名。〔山海經、大荒東經〕東海之外、大荒之中、有二大人之國者一。❼體軀の大きい人。巨人。〔山海經、海外東經〕大人國在二其北一、爲レ人大、坐而削レ船、一曰、在二䟤丘北一。❽清代、四品以上の官員の尊稱。❾佛轉輪王の稱。轉輪王號二大人一。〔佛祖統記〕如來之先、起レ自二大人一。❿丁年以上の人。成長を遂げた人。おとな。⓫（シウ）㋑領主又は貴人の稱。〔日本書紀、神代紀、下〕大背飯三熊之大人。〔注〕大人此云二于志一。㋺男の師匠・學者の敬稱。㋩書簡文に男子の宛名の下に添へる敬語。

【大人公】1230 ダイジンコウ　嫁が舅を呼ぶ稱。〔海錄碎事、人事、舅姑〕此間風俗、婦呼レ舅爲二大人公一。

【大人賦】1231 タイジンフ　詞章の名。漢の司馬相如が、武帝の神仙を好むを諫めて作つた賦。〔漢書、司馬相如傳下〕上既美二子虛之事一、相如見三上好レ仙一、因曰、上林之事、未レ足レ美也、尙有二靡者一、臣嘗爲二大人賦一未レ就、請二具而奏一レ之。〔西京雜記、三〕相如將レ獻レ賦、未レ知レ所レ爲、夢二一黃衣翁謂一レ之曰、可レ爲二大人賦一、遂作二大人賦一、言二神仙之事一以獻レ之、賜二錦四匹一。

【大人物】1232 ダイジンブツ　性格器量の偉大な人。大器量のある人物。偉人。

【大人君子】1233 タイジンクンシ　盛德ある人。〔鶴林玉露、天、大人〕昌黎墓適誌曰、翁大人不レ疑、此以二德望一言也、所謂大人君子是也。

【大人虎變】1234 タイジンコヘン　盛德の人が革命の主となつて、前王の制を損益し、制を創め法を立て、立派に光りかがやくこと。虎變は夏秋の候、虎の毛の拔け變ること。〔易、革〕大人虎變、未レ占有レ孚。〔疏〕以二大人之德一爲二革之主一、損二益前王一、創レ制立レ法、有二文章之美一、煥然可レ觀、有レ似二虎變一、其文彪炳。

【大人不レ曲】1235 タイジンハマガラズ　大德の人は境遇が變化しても道を守つて曲らない。〔賈誼、鵩鳥賦〕怵迫之徒兮、或趨二西東一、大人不レ曲兮、意變齊同。

【大人無レ己】1236 タイジンハオノレナシ　大德ある人は自分だけにとらはれることがなく、彼我を一つにする。〔莊子、秋水〕至德不レ得、大人無レ己。

【大人先生傳】1237 タイジンセンセイデン　詞章の名。晉、阮籍作。禮俗の君子を罵つて、蝨の褌中に處るに異ならずといつたもの。〔阮籍、大人先生傳〕大人先生、蓋老人也、不レ知二姓字一、陳二天地之始一、言二神農黃帝之事一、照然也、莫レ知二其生年之數一、嘗居二蘇門之山一、故世咸謂二之閒一、養レ性延レ壽、與二自然一齊レ光、其視二堯舜之所一レ事、若二手中一耳。

【說二大人一則藐レ之】1238 タイジンニトクニハスナハチコレヲカロンズ　貴顯の人を說得するには、之を輕視して其の威光に屈せぬやうにする。藐は輕視。〔孟子、盡心下〕說二大人一則藐レ之、勿レ視二其巍巍然一。〔注〕大人、謂二當時之尊貴者一也。

【大人不レ責二小人過一】1239 タイジンハセウジンノアヤマチヲセメズ　大德の人はつまらぬ人の過失をせめない。〔陔餘叢考、成語、大人不レ責二小人過一〕見二沈作喆寓簡一、有三小官醉後塗二改貴人文字一、明日以レ啓謝曰、昨朝醉去巧兒作レ事、拙兒嗔、今日醒來大人不レ責二小人過一、蓋二句本皆諺語。

【大人者與二天地一合レ德】1240 タイジンハテンチトトクヲガッス　大德の人は其の德を天地の德と同樣にする。〔易、乾〕夫大人者與二天地一合二其德一、與二日月一合二其明一、與二四時一合二其序一、與二鬼神一合二其吉凶一。〔淮南子、泰族訓〕故大人者與二天地一合レ德、與二日月一合レ明。

【大人者不レ失二赤子之心一】1241 タイジンハセキシノココロヲウシナハズ　君たるものは其の民の心を失はない。一說に、大德ある人は其の赤子の初心を失はぬものである。〔孟子、離婁下〕孟子曰、大人者、不レ失二其赤子之心一者也。〔注〕大人謂レ君、國君視レ民、當レ如二赤子一、不レ失二其民心一之謂也、一說曰、赤子、嬰兒也、少小之心、專一未二變化一、人能不レ失二其赤子時心一、則爲二貞正大人一也。

【外二乎大人一而忍二於小民一】1242 タイジンヲソトニシテセウミンニシノブ　刑を大人に行はないで小民に行ふこと。〔國語、晉語六〕今吾刑、外二乎大人一而忍二於小民一。

【大仁】1243 タイジン　❶大きな仁德。又、其の人。〔呂覽、分職〕天下稱二大仁一稱二大義一。〔漢書、賈捐之傳〕武丁成王、殷周之大仁也。〔說苑、貴德〕大仁者恩及二四海一。❷冠位十二階の第三位。推古天皇十一年の制定。❸（オホヒト）㋑伊豆國の地名。㋺姓氏。〔姓林全書〕。

【大仁不レ仁】1244 タイジンハジンナラズ　眞の仁德は私親はない。〔莊子、齊物論〕大辯不レ言、大仁不レ仁。

【大仁無レ親】1245 タイジンハシンナシ　大なる仁者は取りわけて親愛の情を示すことが無い。〔淮南子、詮言訓〕雖レ賤如レ貴、雖レ貧如レ富、大道無レ形、大仁無レ親、大辯無レ聲、大廉不レ嗛、大勇不レ矜。

【大任】1246 タイジン　大任（タイニン）（1833）の❶を見よ。

【大臣】1247 タイジン　❶最上の執政官。國家の重任を負ふ最高官位の臣。〔周禮、春官、大司樂〕大札・大凶・大裁・大臣死、凡國之大憂。〔禮、禮運〕君位危、則大臣倍、小臣竊。〔中庸〕敬二大臣一則不レ眩。〔論語、先進〕所謂大臣者、以レ道事レ君、不可則止。〔莊子、漁父〕下無二大臣職事之官一。〔荀子、臣道〕大臣父兄、有三能進二言於君一。〔管子、明法解〕生殺之柄、專在二大臣一。〔史記、田叔傳〕大臣誅レ之。〔墨子、七患〕大臣不レ足二以事一レ之。❷官名。

古くは官職の尊貴なものの稱であつたが、清代に至つて始めて官稱となり、行政官廳の長官を多く大臣と稱する樣になつた。例へば内務府に内務府總管大臣を置き、長官として府務を統轄させ、軍機處に軍機大臣を置き、軍國の大事を裁斷せしめた。其の他、散秩大臣・總理各國事務大臣・通商大臣・藏蒙青海之辨事大臣・參贊大臣・領隊大臣等がある。清末、宣統帝に至つて内閣制度を起し、内閣總理大臣を設け、各部尙書を改めて大臣とし、侍郞を副大臣とした。〔歷代職官表、内務府、國朝官制〕内務府總管大臣無二定員一。㊂㋑太政官の上官の稱。太政大臣・左右大臣・内大臣等の稱。おとど。おほいまうちぎみ。〔内裏式、任官式〕大臣者以二宣命一任レ之。㋺國務大臣、又は各省大臣の稱。

〖大臣家〗1248（ダイジンケ）　昔、近衞大將を兼ねないで大臣に任ぜられる家柄。即ち藤原氏の正親町・三條・三條西及び源氏の中院の稱。〔宇津保物語、樓上、上〕大臣家の大饗。

〖大臣召〗1249（ダイジンメシ）　昔、大臣に任ぜられる爲に召出されること。〔宇津保物語、國讓、中〕二十二日に大じんめしあるべし。

〖大臣柱〗1250（ダイジンバシラ）　能舞臺、又は芝居の本舞臺の右方にある柱。脇柱。〔大藏流、狂言記、棒縛〕太郞冠者、大臣柱の方。

【大神】1251（ダイジン）　㊀大いに明かな神。又、大きな神社。〔周禮、春官、肆師〕類二造上帝一、封二于大神一、祭二兵于山川一。〔注〕大神社及方嶽也。〔左氏、襄、九〕昭二大神一要言焉。㊁すぐれて大きなはたらき。〔荀子、王制〕夫是之謂二大神一。〔注〕能變通裁二制萬物一、故曰二大神一也。㊂㋑（オホガ）豐後の國の地名。㋺（オホムチ）大和國の地名。㋩（オホミワ・オホガ）姓氏。

〖大神樂〗1252（ダイカグラ）　㊀伊勢大神宮で行ふ神樂。大大神樂。〔當代記〕慶長十三年五月二十四日、伊勢太神宮有二大神樂一。㊁市中を行きめぐつて、獅子舞・品玉、又は手先の輕業等を演ずるもの。もと伊勢の大神樂から出た。〔昔昔物語〕近年、大神樂といふは。

〖大神通〗1253（ダイジンツウ）　［佛］神妙不可思議の意。〔華嚴經〕佛現二大神通一、八萬諸仙、前後圍繞。

〖大神寶使〗1254（ダイジンパウシ）　天皇卽位の後、伊勢以下京畿七道の諸社五十三所に遣はして、神寶幣帛を奉り、寶祚の長久、國家の平安を祈られる使。〔日本紀略、八、花山〕寬和元年十一月十五日乙酉、奉レ遣二一代一度大神寶使一。

【大稔】1255（タイジン）　穀物のよくみのること。大豐作。〔宋書、沈慶之傳〕去歲蠻田大稔、積穀重レ巖。

【大盡】1256（ダイジン）　㊀大の月の最終の日。陰曆では三十日。小の月の最終日を小盡といふ。〔歲華紀麗〕三十日爲二大盡一、二十九日爲二小盡一。〔竹坡詩話〕頃歲郡縣不レ頒レ曆、所レ至晦朔不レ同、朱希眞避二地廣州一、作二小盡行詩一云、藤州三月作二小盡一、梧州三月作二大盡一。㊁㋑資產家。富豪。百萬長者。〔吉野都女楠、四〕大盡が附いた。㋺遊里で金錢を多く費す客。豪遊する客。〔好色一代女、二〕大盡の數ほど太夫もあり。

【大水】1257（タイスイ）　㊀おほみづ。洪水。大浸。〔禮、月令〕季秋行二夏令一、則其國大水。〔春秋、桓、元〕秋大水。〔左氏、桓、元〕凡平原出レ水爲二大水一。〔管子、七臣七主〕大水漂レ州流レ邑。㊁大きな海・河・湖など。若レ涉二大水一を見よ。〔釋名、釋水〕天下大水四、謂二之四瀆一、江・河・淮・濟、是也。〔禮、月令〕爵入二大水一爲レ蛤。〔注〕大水、海也。〔孔子家語、三恕〕君子所レ見、大水必觀焉、何也。㊂星の名。〔左氏、昭、十七〕其星爲二大水一、水火之牡也。

〖若レ涉二大水一〗1258（タイスイヲワタルガゴトシ）　徒步で大水を涉るに、茫々として津涯の無いやうに、危險なことにいふ。〔書、微子〕今殷其淪喪、若レ涉二大水一、其無二津涯一、殷遂喪。

【大炊】1259（オホヒ）　姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十〕。

〖大炊允〗1260（オホヒノジヨウ）　大炊寮の判官。唐名は大倉丞。〔職原抄〕大炊寮、允、唐名、大倉丞。

〖大炊助〗1261（オホヒノスケ）　大炊寮の次官。唐名は主爨。〔職原抄〕大炊寮、助、唐名、主爨。

〖大炊屬〗1262（オホヒノサクワン）　大炊寮の主典。唐名は大倉史。〔職原抄〕大炊寮、屬、唐名、大倉史。

〖大炊殿〗1263（オホヒドノ）　中古、邸宅の一部で、食物を調理する所。〔源氏物語、明石〕うしろの方なる、大炊殿とおぼしき屋に。

〖大炊頭〗1264（オホヒノカミ）　大炊寮の長官。唐名は大倉令・道官令。〔職原抄〕大炊寮、頭一人、唐名、大倉令・道官令。

〖大炊寮〗1265（オホヒレウ・オホヒノツカサ）　令制。宮内省の被官。諸國から運び來る舂米・雜穀を收納し、之を諸司に分給することを掌る。唐名は大倉署。〔職原抄〕大炊寮、唐名、大倉署、掌二諸國御稻田及公私熟食等事一。

【大帥】1266（タイスイ）　軍隊の總大將。〔後漢書、宋均傳〕卽共斬二其大帥一而降。

【大祟】1267（タイスイ）　大きなたたり。〔新書、無蓄〕汰流淫佚、侈靡之俗、日以長、是天下之大祟也。

【大綏】1268（タイスイ）　天子が田獵を行ふ時に建てる旗。綏は緌で、有虞氏の旗。〔禮、王制〕天子殺則下二大綏一。〔注〕綏、當レ爲レ緌、緌、有虞氏之旌旗也。〔說苑、脩文〕天子殺則下二大綏一。

【大誰】1269（タイスイ）　漢の官名。宮中で人を誰何する役人。衞士の類。大誰長・大誰卒がある。〔漢書、五行志下之上〕鄭通里男子王褒、入二北司馬門殿東門一、上二前殿一、入二非常室中一、招二前殿署長業等一曰、天帝令二我居レ此、業等收縛考問、褒故公車大誰卒、病レ狂易、不三自知二入レ宮狀一。〔注〕師古曰、大誰者、主下問二非常之人一、云中姓名是誰也上、云云、大誰本以二誰何一稱、因用名レ官、有二大誰長一、今此卒者、長所レ領士卒也。

【大醉】1270（タイスイ）　おほいに醉ふ。〔史記、倉公傳〕臣意告曰、熱、蹶也、病得二之飮レ酒大醉一。〔唐書、李勣傳〕帝留宴、俄大醉、帝親解レ衣覆レ之。

〖大醉鬼〗1271（ダイスイキ）　よつぱらひ。泥醉者。

【大隧】1272（タイスイ）　㊀大きい隧道。隧は地を闢いて作つた道。地道。延道。〔左氏、隱、元〕大隧之中、其樂也融融。㊁春秋の要塞。今の河南省信陽縣の武陽關。〔左氏、定、四〕冬、蔡侯・吳子・唐侯伐レ楚、云云、左司馬戌謂二子常一曰、云云、我悉二方城外一以毀二其舟一、還塞二大隧・直轅・冥阨一、子濟レ漢而伐レ之、我自レ後擊レ之、必大敗レ之。〔會箋〕應山縣北、有二義陽三關一、一曰二平靖關一、一曰二黃峴關一、一曰二武陽關一、云云、大隧、卽武陽。㊂山名。河南省洧川縣の西南。牛脾山ともいひ、鄭の莊公が母を迎へた處と傳ふ。〔北征記〕苑陵縣、東南有二大隧澗一、鄭莊公所レ開。

【大惢】1273（タイズイ）　星の名。心星をいふ。〔管子、輕重己〕秋至而禾熟、天子祀二於大惢一。〔纂詁〕大惢、蓋星名、疑卽心星、心三星、故其字作レ惢。

【大數】1274（タイスウ）　㊀定まつた數、又は運命。定命。天行の常道。〔禮、月令〕凡擧二大事一、毋レ逆二大數一、必順二其時一、愼因二其類一。〔疏〕興二擧其事一、無レ逆二天之大數一。〔左氏、哀、七〕周之王也、制レ禮、上物不レ過二十二一、以爲二天之大數一也。〔漢書、律歷志上〕制レ禮、上物不レ過二十二一、天之大數也。㊁非常に多いかず。〔史記、淮陰侯傳〕審二毫氂之小計一、遺二天下之大數一。㊂おほよその數。概數。㊃大きなはかりごと。〔六韜、虎韜、軍用〕用レ兵之大數。〔戰國、燕策〕今臣聞、王居處不レ安、食飮不レ甘、思二念報レ齊、身自削二甲札一、妻自組二甲絣一、曰有二大數一矣、有レ之乎。

【大井】1275（タイセイ）　大きい井戶。〔吳志、妃嬪、孫破虜吳夫人傳、夫人助治二軍國一、甚有二補益一、注〕會稽典錄曰、策功曹魏騰、以レ迕レ意見レ譴、將レ殺レ之、士大夫憂恐、計無レ所レ出、夫人乃倚二大井一而謂レ策曰、汝新造二江南一、其事未レ集、方當二優レ賢禮レ士、捨レ過錄レ功。〔從征記〕太山有二上中下三廟一、廟前有二大井一、水極香冷、異二于凡水一。〔稽神錄〕建州有二魏使君宅一、兵後焚燬以爲二軍營一、有二大井一湮塞。

〖大井逸人〗1276（タイセイイツジン）　淸、王維珍（**7**－**20823**‥11「33）の號。

〖大井雪軒〗1277（オホヰセツケン）　攝津の人。名は守靜。字は篤甫。通稱は汶山。號は雪軒・蟻亭。延慶年間の人。著に學鵠篇・夏山雜錄・蟻亭閑言・蟻亭摭言・蟻亭獨斷・孔聖生卒考・童問字譯・博覽約讀・覆窩篇がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【大世】1278（タイセイ）　隋の煬帝（楊廣）の時、劉迦論の僭年號。（614）

【大正】1279（タイセイ）　㊀大いにただしい。又、大いに正す。〔易、大畜〕能止レ健、大正也。〔書、武成〕將レ有三大正二于商一。〔蜀志、後主劉禪傳〕深秉二大正一。㊁太僕正をいふ。侍御の臣の頭。〔書、冏命〕今予命レ汝作二大正一。〔蔡傳〕大正、太僕正也。㊂星の名。太白（**3**－**5834**‥369）の㊁をいふ。〔史記、天官書〕察二日行一以處二位太白一、〔注〕正義曰、天官占云、太白者、西方金之精、白帝之子、上公大

將軍之象也、一名殷星、一名大正、一名熒星、一名官星、一名梁星、一名臧星、一名大囂、一名大衰、一名大爽。㊃年號。明、世宗の代、越の莫登瀛の時の稱。一に大政に作る。(1530―1540)㊄明、李紀(**6**―**14459**‥174)の字。㊅（タイシヤウ）人皇第一百二十三代の帝諡。又は、年號。(1912―1926)

〖大正房〗1280（タイセイバウ）　奥座敷。本屋。〔紅樓夢、三回〕上房五間大正房。

【大生】1281（タイセイ）　㊀大いに生ずる。〔易、繫辭上〕夫乾其靜也專、其動也直、是以大生焉。㊁字號。㋑清、虞昌(**9**―**32723**‥81)の字。㋺清、胡惟宏(**9**―**29400**‥393)の字。㋩清、胡士宏(**9**―**29400**‥475)の字。㋥清、潘永圜(**7**―**18236**‥120)の字。㊂（オホカイフ）陸中國の地名。

〖大生意〗1282（タイセイイ）　大營業。盛大な商工業。〔福惠全書、編審部、嚴飭里胥〕是其一場大生意。

〖大生レ小〗1283（タイハセウヲシヤウズ）　大きいものは小さいものを產む。〔淮南子、泰族訓〕夫大生レ小、多生レ少、天之道也。

【大西】1284（タイセイ）　清、周漁(**2**―**3441**‥107)の字。

〖大西國王〗1285（タイセイコクワウ）　明、張獻忠(**4**―**9812**‥999)の自稱。

〖大西域山人〗1286（タイセイヰキサンジン）　明、利瑪竇(**2**―**1932**‥213)の號。

【大成】1287（タイセイ）　㊀大いに功を成し遂げて太平を致すこと。〔易、井〕元吉在レ上、大成也。〔詩、小雅、車攻〕允矣君子、展也大成。〔箋〕大成、謂レ致二太平一也。㊁大いにたひらぐ。大きな和平。〔左氏、僖、十五〕子桑曰、歸レ之而質二其大子一、必得二大成一。㊂事の完全に出來上ること。立派に成就すること。〔老子、四十五〕大成若レ缺、其用必敝。㊃古、大學で九年の課業を終へ、事義の比を知り、事に臨んで惑はず、師道を違失しない境地に至ることをいふ。〔禮、學記〕九年知レ類通達、強立而不レ反、謂二之大成一。〔注〕知レ類、知二事義之比一也、強立、臨レ事不レ惑也、不レ反、不レ違二失師道一。㊄諸音の合奏の終をいふ。九成。〔孟子、萬章下〕孔子謂二之集大成一、集大成也者、金聲而玉振レ之也。〔集注〕集二衆音之小成一而爲二一大成一也、成者、樂一終、書所謂簫韶九成、是也。㊅國の名。十六國の一。李雄の建てた國。成漢(**5**―**11544**‥33)を見よ。〔通鑑綱目〕晉惠帝光熙元年六月、成都王雄、稱二成皇帝一、國號二大成一。㊆複姓。大成執を見よ。㊇北周、宣帝、宇文贇の年號。(579)㊈縣名。漢、置き、後漢、大城といふ。故城は綏遠省の境、內蒙古鄂爾多斯左翼前旗。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、大成。

〖大成教〗1288（タイセイケウ）　㊀清の道光年間に周太谷によつて提唱せられた邪教。心息を以て相依るを宗旨とする。卽ち、有心無息・有息無心は皆小成で、心息相依つて始めて大成となすといふに在り、大成教の名も之に本づくが、教人の命名したものでなく、他からかく呼ばれたもので、或は訛つて大乘教ともいふ。一說に、此の教は明末の林三教・程智が唱へた儒釋道三教を綜合したものに起源するともいはれる。太谷の弟子、張石琴は山東に行き北派となり、李晴峯は江蘇に傳道して南派となり、一に平山教ともいはれる。大成教は邪教と見做され、屢〻地方官吏の彈壓を受けたが、今に至つても仍ほ之を奉ずるものがある。〔清稗類鈔、十五、宗教〕。㊁神道十三派の一。平山省齋の主唱したもので、天御中主神・高皇產靈神の外、五神を祠宇に鎭祭する。其の教旨は七箇條の教綱があり、惟神の大道を宣揚し、衆人を善導するを目的とする。

〖大成執〗1289（タイセイシツ）　上古の人。禹の師。〔新序、雜事五〕禹學二大成執一、湯學二小臣一。

〖大成殿〗1290（タイセイデン）　孔子廟の正殿の名。宋の仁宗の時、名づけられたもので、孟子萬章下篇の孔子聖之時者也、孔子之謂二集大成一、集大成也者、金聲玉振レ之也の語に本づく。殿內には孔子の像を奉安し、又、東旁に顏回・子思、西旁に曾子・孟子の四配と、東旁に閔子・冉子・端木子・仲子・卜子・有子、西旁に冉子耕・宰子・冉子求・言子・顓孫子・朱子の十二哲の像を安置する。殿の露臺下に複簷八楹の華麗な亭があり、之を杏壇といふ。孔子が弟子と授受したところの遺址と傳へられる。我が國では明正天皇の寬永九年、尾張侯德川義直が江戶上野忍岡、林道春の私邸に先聖殿を營んだが、東山天皇の元祿三年、德川綱吉が江戶湯島に聖堂を建て、先聖殿に安置した孔夫子及び四配の像を此處に遷し、親ら大成殿の三字を大書して楣間に揭げた。爾後、元祿十六年・安永元年・天明六年に炎上重建したが、更に大正十二年の關東大震災に類燒し、孔夫子及び四配の像も烏有に歸した。それを昭和十年に復興し、御物孔子像を下賜せられた。その大成殿の三字は斯文會總裁大勳位博恭王殿下の御筆に成る。〔宋史、禮志八〕辟雍文宣王殿、以二大成一爲レ名。〔文獻通考、學校考、幸學養老〕高宗紹興十三年、國學大成殿成。

〖大成之人〗1291（タイセイノヒト）　德の大成した人。老子をいふ。〔莊子、山木〕昔吾聞二之大成之人一、曰、自伐者无レ功、功成者墮、名成者虧。〔疏〕大成之人、卽老子也、言、聖德宏博、生二成庶品一、故謂二之大成一。

〖大成之量〗1292（タイセイノリヤウ）　大成する器量。〔魏志、齊王芳紀〕高貴鄕公髦、有二大成之量一。

〖大成將軍〗1293（タイセイシヤウグン）　金、王子可(**7**―**20823**‥2145)をいふ。

〖大成若レ缺〗1294（タイセイハカクルガゴトシ）　眞に完成したものは俗眼には不完全のものに見える。〔老子、四十五〕大成若レ缺、其用不レ敝。〔韓詩外傳、九〕大成若レ缺、其用不レ敝。

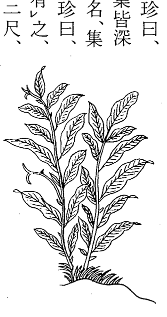
【大制】1295（タイセイ）　㊀國家の大きなのり。大法。〔魏志、田疇傳〕是成二一人之志一、而虧二王法大制一也。㊁おほいにとどめる。〔南史、垣崇祖傳〕若破二此堰一、放水一激急遂、三峽自然沈溺、豈非二小勞而大制一耶。㊂最も大なる制作品。老子は人工を加へぬ樸を以て、最大の制作品となし、又これを以て天下を治める大道としてゐる。〔老子、二十八〕樸散則爲レ器、聖人用レ之、則爲二官長一、故大制不レ割。〔河上公注〕聖人用レ之、則以二大道一制二御天下一、制、斷割也、至二於大制一、則不二斷割以爲レ器、猶守二其樸一、樸者、無爲也、謂二渾厚之德一也、大制者、不レ制也、謂二至妙之制一也。

【大姓】1296（タイセイ）　代々つづいた勢ひの強い家がら。累代の豪家。〔漢書、陳咸傳〕豪猾吏及大姓犯レ法、輒論輸レ府。〔後漢書、馬援傳〕頗哀二老子一、使レ得二遨遊一、若大姓侵二小民一、黠羌欲二旅距一、此乃太守事耳。〔後漢書、耿純傳〕以二其鉅鹿大姓一、迺承レ制拜爲二騎都尉一。〔魏志、公孫度傳〕名豪大姓。

【大政】1297（タイセイ）　㊀天下の政治。〔左氏、襄、二十九〕吾子爲二魯宗卿一、而任二其大政一。〔漢書、鮑宣傳〕建二立大政一、以興二太平之端一。〔北史、魏文帝紀論〕躬總二大政一、一日萬機、十許年間、曾不二暇給一。〔唐六典、八〕侍中之職、云云、所謂佐二天子一、而統二大政一者也。㊁賈誼新書の篇名。㊂舊制に於て、天子の總攬し給ふ一切の統治作用。㊃明の世宗の時、越の莫登瀛の年號、大正の一稱。(1530―1540)

〖大政所〗1298（オホマンドコロ）　㊀攝政・關白の母の尊稱。北大政所の略。〔康富記〕應永八年六月七日、今日祇園祭也、大政所參詣、拜二神輿一。㊁京都市の地名。

〖大政奉還〗1299（タイセイホウクワン）　慶應三年十月十四日、德川慶喜が征夷大將軍を辭し、天下の政權を天皇に還し奉つたこと。


大青（三才圖會）

【大青】1300（タイセイ）　㊀草の名。はとくさ。〔本草、大青〕釋名、時珍曰、其莖葉皆深青、故名、集解、時珍曰、處處有レ之、高二三尺、莖圓、葉長三四寸、面青背淡、對レ節而生、八月開二小花一、紅色成レ簇、結二青實一、大如二椒顆一、九月色赤。㊁石の名。扁青(**5**―**11724**‥25)の別名。〔本草、扁青〕釋名、石青・大青、時珍曰、扁、以レ形名。㊂山名。㋑滿洲遼寧省撫順縣。石炭を產す。㋺滿洲黑龍江省通北縣の東。興安嶺支脈の盤結する所。㋩綏遠省歸綏縣の北。大斤山とも、秦山ともいふ。卽ち陰山。㋥綏遠省薩拉齊縣の西。本名は布當圖山、漢語で大青山、俗に包頭と稱し、漢蒙の貿易が盛である。㊃清、吳瑗(**2**―**3365**‥42)の字。

〖大青冠〗1302（タイセイクワン）　冠位十三階の第九位。孝德天皇の大化三年の制定。

【大牲】1303（タイセイ）　大きないけにへ。〔易、萃〕用二大牲一、吉。〔左氏、僖、十九〕小事不レ用二大牲一。

【大眚】1304（タイセイ）　大きな罪。大罪。又、多くの罪人。

一說に大赦。〔春秋、莊、二十二〕春正月、肆二大眚一。〔杜注〕赦二有罪一也。〔會箋〕大眚、蓋衆眚之義也、猶二後世大赦一、正義以二大眚一爲二大罪一、失レ之。

【大清】1305 タイセイ ㊀道をいふ。〔管子、心術下〕鏡二大清一者、視二乎大明一。〔尹注〕大清、道也。〔管子、內業〕鑑二於大清一、視二於大明一。㊁タイシン 清朝人が其の朝を尊んでいふ稱。〔清會典、內閣〕儲二御寶於交泰殿一、凡二十有五、一曰、大清受命之寶、二曰、皇帝奉天之寶、大清嗣天子寶。㊂川の名。㋑河北省の境。又、大新河・會同河などといひ、新鎭・霸縣を經て天津に至り、北運河に合す。㋺灤河の支流。河北省樂亭縣の西南。〔讀史方輿紀要、直隸、永平州、灤洲、樂亭縣、中淀河〕清河、在二縣西三十五里一、一名西清河、源發二州南八里之暖泉一、闊三丈許、分流爲二新砦・狼河・介馬諸河一、抵二新橋海口貓兒港一入レ海、志云、縣西南三十五里有二清河一、套以レ夾二於清灤之門一而名。㋩別に扣河・瞻河・沽源河・滋河などともいふ。源は滿洲遼寧省西豐縣。西流して滿洲吉林省尹通縣の界をかすめて葉赫河に會し、遼河に入る。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、安東衞〕清河、衞東五十里、謂二之大清河一、源出二分水嶺一、流經二城東南一、有二小清河一、自二衞東一流合焉、經二城南一西流入二於遼河一。㋥北清河ともいふ。古の濟水。もと山東省東平縣から出る鹽河。〔讀史方輿紀要、山東、大川〕濟水、舊自レ河南流入レ境、其上源曰二沇水一、禹貢、導二沇水一東流爲レ濟、云云、今大清河乃自二平陰縣南之柳溝諸泉一、繇二東平州北門外一過、西折而東北、夏秋運河泛漲、則張秋迤レ南、東岸有二減水閘一、分流來合、而東北出レ此、卽今鹽運所レ經、鹽船自二濼口故關一由二大清河一、而上泊二於魚山一、又南則由二河渠一至二於東平一、西則由二小鹽河一至二於張秋一、故大清河有二鹽河之名一、卽濟水之故道、說者謂、大清河、古濟而今汶者也。

【大清早】1306 ta^4 ch'ing^1 tsao^3 早朝。

【大清明】1307 タイセイメイ 八月の節をいふ。三月の節を小清明といふに對す。〔柳亭詩話〕將樂・歸化二邑、以二三月一爲二小清明一、八月爲二大清明一。

【大清門】1308 タイセイモン 清代、宮城の正門の稱。〔清會典、工部、三曰宮殿之制、注〕大政殿之西爲二大內宮殿一、南北袤八十五丈三尺、東西廣二十二丈二尺、正門曰二大清門一。

【大清樓】1309 タイセイロウ 宋代、朝廷の圖書を藏したところ。太清樓(**3**−**5834**··295)を見よ。

【大清會典】1310 タイシンエテン 書名。一百卷。清、乾隆二十六年敕撰。又、乾隆會典ともいふ。欽定大清會典(**6**−**16104**··85)を見よ。

【大清河口】1311 タイセイカコウ 地名。河北省樂亭縣の西南。舊時、灤水が馬城から海に入つた處。清の嘉慶二十年に河が徙つて遂に涸れた。又、清河口・青河口ともいふ。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、灤州、樂亭縣〕新橋營、縣西南三十里、有レ城、周二里、云云、又西至二清河口二十八里。

【大清銀行】1312 タイシンギンカウ 清の光緒三十一年設立した國立銀行。始の名は戶部銀行。三十四年、大清銀行と改む。戶部銀行(**5**−**11696**··103)を見よ。

【大清銀幣】1313 タイシンギンペイ 清の光緒の末年、廣州・江寧・福州・武昌・開封の五廠に鑄造させた錢。表面に大清銀幣の字を刻す。

【大清律例】1314 タイシンリツレイ 書名。四十七卷。清、乾隆五年、大學士三泰等奉敕撰。大清律に條例を附したもので、律目一卷・諸圖一卷・服制一卷・名例三卷・六曹律三十四卷・總類七卷・比引律條一卷。三朝の舊本に因つて斟酌損益し、新例一千餘條を增入す。〔四庫提要、史、政書類〕。『參考書』【大清律箋釋合鈔】二十卷 清、錢之青撰。【大清律輯注】二十卷 律例續增四卷 清、沈天錫撰。【大清律例彙輯備覽】四十卷 附錄二卷 道光十五年敕撰。

【大清一統志】1315 タイシンイツトウシ 書名。五百卷。清、乾隆八年、陳德等奉敕撰。乾隆帝の序、並に陳悳の奏表を首卷とし、以下は直隸・盛京・江南・山西等の十八省、及び外藩蒙古・蒙古屬國・朝貢諸國に大分し、毎省に圖・表・分野・建置・沿革・形勢・職官・戶口・田賦・名官の細目を擧げ、諸府と直隸とは更に目を分けて詳敍す。凡て三百八十卷。其の後、伊犂を平定するに及び、更に溫達等に命じて重修せしめ、二十八年に至つて成る。〔四庫提要、史、地理類〕。

【大清一統輿圖】1316 タイシンイツトウヨヅ 書名。三十一卷。清、胡林翼等撰。緯度によつて中・南・北に分けて說明す。〔清史稿、藝文志〕。

【大清會典事例】1317 タイシンエテンジレイ 書名。二千百二十卷。嘉慶會典事例九百二十卷と光緒會典事例千二百卷とをいふ。會典の補助法で、會典の分類に從ひ、年を逐うて各項の事例を編す。清史稿藝文志に著錄せらる。

【大清會典則例】1318 タイシンエテンソクレイ 書名。一百八十卷。乾隆會典を編纂する時、會典から分離した事例を編輯す。〔四庫提要、史、政書類〕。

【大勢】1319 タイセイ ㊀天下の趨勢。自然の成りゆき。又、おほよそのありさま。大體の形勢。〔魏志、劉放傳〕威刑既合、大勢以見。〔胡銓、上二高宗一封事〕惜二夫天下大勢有レ所二不可一也。㊁位が高く權力のあること。〔晉書、平原王榦傳〕大勢難レ居、不レ可レ不レ愼。㊂タイゼイ 人數の多いこと。おほぜい。〔鐵函心史〕元虜大勢、合圍月餘。

【大勢至】1320 タイセイシ 佛菩薩の號。大勢至菩薩の略。阿彌陀如來の右方の夾持で、佛の智慧をつかさどるもの。〔觀無量壽經〕以二智慧光一、普照二一切一、令下離二三塗一、得中無上力上、是故號二此菩薩一名二大勢至一。

【大聖】1321 タイセイ ㊀比類なく智德のすぐれた人。至聖。〔禮、樂記〕禮備而不レ偏者、其唯大聖乎。〔管子、大匡〕夫管仲、天下之大聖也。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕皇太后膺二大聖之姿一、體二乾坤之德一。〔後漢書、列女、袁隗妻傳〕孔子大聖、不レ免二武叔之毀一。〔孔子家語、正論解〕夫孔子者、大聖無レ不レ該。〔朱熹、中庸章句序〕堯・舜・禹、天下之大聖也。㊁唐の昭宗の時、董昌の僭年號。(894−895) ㊂佛 タイシヤウ 如來をいふ。〔無量壽經〕無量大聖。

【大聖銅】1322 タイセイドウ 鐘(**11**−**40902**)の異名。〔事物異名錄、音樂、鐘〕清異錄、朱全忠時、號レ鐘爲二大聖銅一、避レ諱故也。

【大聖德】1323 タイセイトク 極めて大きな聖德。〔邢昺、孝經注疏序〕昔聖人蘊二大聖德一、生不レ遇レ時。

【大聖天王】1324 タイセイテンワウ 南宋の初、高宗の時、楊太の僭年號。(1134)

【大聖不レ作】1325 タイセイハナサズ 大聖人は無爲自然を尊び、敢へて人爲を弄しない。〔莊子、知北遊〕至人無レ爲、大聖不レ作。

【大聖不動】1326 タイシヤウフドウ 佛不動明王(**1**−**19**··837)の尊稱。

【大聖無レ事】1327 タイセイハコトトスルコトナシ 大聖の君は親ら手を下して力を用ひないで、百官にその能を盡させる。〔呂覽、君守〕大聖無レ事、而千官盡レ能。

【大靖】1328 タイセイ 堡の名。甘肅省古浪縣の東。土名は扒沙。明の嘉靖中、套夷の據る所となり、萬曆中、收復して參將を設け、清に至り、改めて守備を設け、參將を置く。〔讀史方輿紀要、山東、遼東、都指揮司、義州衞〕大靖堡、衞東北七十里、其東曰二大清堡一、又東接二廣寧之鎭夷堡一。

【大誓】1329 タイセイ 書經の篇名。泰誓(**6**−**17325**··106)に同じ。〔尙書大傳、周傳〕大誓。

【大齊】1330 タイセイ ㊀最大限度。大限。〔列子、楊朱〕楊朱曰、百年壽之大齊、得二百年一者、千无レ一焉。㊁大いにととのふ。〔荀子、議兵〕兵大齊則制二天下一、小齊則治二鄰敵一。㊂齊の國をいふ。大は美稱。〔阮籍、達莊論〕昔大齊之雄、三晉之士。

【大靜】1331 タイセイ 心を安靜にして悟入するに大靜・中靜・小靜の別があり、入靜三百日を大靜とする。〔雲笈七籤〕修鍊之士、當レ須レ入レ靜、大靜三百日、中靜二百日、小靜一百日。

【大靜脈】1332 ダイジヤウミヤク 頭部・四股・內臟の諸機關から心臟にかへる靜脈が集まつて、右心耳に開口する主要な靜脈。

【大聲】1333 タイセイ ㊀大きい聲を發する。又、大きい聲。おほごゑ。大音。〔漢書、王莽傳中〕大聲而嘶。〔法言、問道〕或問二大聲一、曰、非レ雷非レ霆、隱隱谹谹、久而愈盈、尸二諸聖一。〔謝觀、初雷啓蟄賦〕動二豐隆之大聲一。㊁高尙な音樂。〔莊子、天地〕大聲不レ入二於里耳一。㊂字號。㋑明、甘振(**7**−**21643**··106)の字。㋺明、閔鏜(**11**−**41214**··25)の字。㋩明、陳鐸(**11**−**41698**··456)の字。㊃オホ 姓氏。〔拾芥抄〕。

【大聲秀才】1334 タイセイシウサイ 明の陳謨が事を奏する毎に鐘の如き大聲を以てしたのでかくいはれた。〔明外史、陳謨傳〕謨授二刑科給事中一、遇レ事剛果、

彈二劾權貴一無レ所レ避、毎レ奏レ事大聲如レ鐘、帝命レ餓レ之數日、奏對如レ故、曰、是天生也、毎レ見呼爲二大聲秀才一。

〖大聲疾呼〗1335（タイセイシツコ） 大きな聲で口ばやに叫ぶ。盛に叫び立てる。〔韓愈、後十九日復上二宰相一書〕則將下大二其聲一、疾呼而望中其人之救上也。

〖大聲不レ入二於里耳一〗1336（タイセイハリジニイラズ） 高雅な音樂は俗人には分らない。高尚な言論は俗人には解せられない喩。〔莊子、天地〕大聲不レ入二於里耳一、折楊皇荂、則嗑然而笑。〔釋文〕大聲、謂二咸池・六英之樂一也。

【大贄】1337（タイゼイ） ❶新の王莽の置いた官名。乘輿服御物を掌る。〔漢書、王莽傳中〕又置二大贄官一、主二乘輿服御物一。❷複姓。王莽の時の大贄官の子孫の姓。

【大小】1338（タイセウ） ❶大と小。大きなことと小さいこと。大きなものと小さいもの。〔史記、禮書〕周衰、禮廢樂壞、大小相踰。〔司馬法、定爵〕大小堅柔。〔史記、商君傳〕大小僇レ力、本二業耕織一。〔諸葛亮、出師表〕事無二大小一、悉以咨レ之。〔李衛公問對、上〕鼓大小而不レ應。❷大きさ。寸法。〔左氏、宣、三〕問二鼎之大小輕重一焉。〔孟子、滕文公上〕屨大小同、則賈相若。〔注〕大小謂二尺寸一。❸㋑長短一對の腰刀。かたなと脇差。〔總見記、一〕齋藤山城守於二富田一對面事、熨斗附の刀脇指大小。㋺大鼓と小鼓。㋩大の月と小の月。㋥轉じて、こよみ。特に柱暦の稱。

〖大小恭〗1339 ta^4 hsiao^3 kung^1 大小便。

〖大小阮〗1340（ダイセウゲン） 晉の阮籍と兄の子阮咸とをいふ。〔紫薇詩話〕大阮平生予所レ愛、小阮相逢亦傾レ蓋。

〖大小山〗1341（ダイセウザン） 漢の淮南王安が俊偉の士を招懷し、辭賦を作らせ、作風に依つて、其の人々を或は小山、或は大山と稱した。大山小山(912)の❷を見よ。

〖大小謝〗1342（ダイセウシヤ） 南朝宋の元嘉の時の謝靈運と族弟謝惠連。共に詩名があり、世に二謝、又は大小謝といふ。

〖大小乘〗1343（ダイセウジヨウ） 佛大乘(1181)と小乘(**4**－**747**3‥682)。〔傳燈錄〕禪有二深淺階級一、悟二我空偏眞之理一而修者、是小乘禪、悟二吾法空所レ顯眞理一而修者、是大乘禪。〔柳宗元、大明和尚碑〕儒以レ禮行、覺以レ律興、一歸二眞源一、無二大小乘一。

〖大小宋〗1344（ダイセウソウ） ❶宋の宋庠と弟の宋祁とをいふ。二人が同時に進士に擧げられたので、時人は之を二宋と呼び、大小を以て別ち稱した。大宋小宋(1450)の❶を見よ。〔宋史、宋祁傳〕祁字子京、與二兄庠一同レ時擧二進士一、禮部奏、祁第一、庠第三、章獻太后不レ欲二以レ弟先レ兄、乃擢二庠第一一、而寘二祁第十一、人呼曰二二宋一、以二大小一別レ之。❷元の宋子貞とその族兄の知柔とをいふ。二人共に令名があり、時人は知柔を大宋、子貞を小宋と稱した。〔元史、宋子貞傳〕子貞與二族兄知柔一同補二大學生一、俱有レ名二于時一、人以二大小宋一稱レ之。

〖大小戴〗1345（ダイセウタイ） 漢の戴德・戴聖の二人。戴德を大戴といひ、戴聖を小戴といふ。二人各〻禮を傳へ、禮に大戴・小戴の學がある。大戴禮(1506)・禮記(**8**－**24844**‥31)を見よ。〔漢書、儒林傳〕戴德號二大戴一、爲二信都太傅一、戴聖號二小戴一、以二博士一論二石渠一、至二九江太守一、由レ是禮有二大戴小戴慶氏之學一。〔後漢書、章帝紀〕至二建武中一、復置二顏氏・嚴氏春秋・大小戴禮博士一。

〖大小的〗1346 ta^4 hsiao^3 tê 大きさ。云云ほどの大きさ。〔紅樓夢、一回〕縮成扇墜大小的可佩可挈。

〖大小便〗1347（ダイセウベン） 大便と小便。〔圓覺經〕大小便利、皆歸二於水一。〔霞外雜俎〕大小便、宜下緊閉二口齒一、目上視、使中氣不上レ泄。

〖大小翼〗1348（ダイセウヨク） 戰國時代の伍子胥の水戰の兵法。〔海錄碎事、武、水戰〕越絕書、伍子胥水戰兵法內經曰、大翼一艘、廣一丈五尺二寸、長十丈、中翼一艘、廣一丈三尺五寸、長五丈六尺、小翼一艘、廣一丈二尺、長九丈。

〖大小歐陽〗1349（ダイセウオウヤウ） 唐代の二人の書家。歐陽詢を大歐陽といひ、その子、歐陽通を小歐陽といふ。〔唐書、歐陽詢傳〕子通、蚤孤、母徐教以二父書一、數年書亞二於詢一、父子齊レ名、號二大小歐陽一。〔宣和書譜、卷八、歐陽通〕通蚤孤、母徐氏教以二父書一、懼二其家學不一レ振、於レ是每遺二通錢一、紿曰、質二汝父書蹟一之直、通遂刻意臨倣、不二數年一、乃繼二詢名一、號二大小歐陽一。

〖大小夏侯〗1350（ダイセウカコウ） 漢代の二人の尚書家。夏侯勝を大夏侯といひ、從子夏侯建を小夏侯といふ。〔漢書、宣帝紀〕迺立二梁丘易・大小夏侯尚書・穀梁春秋博士一。〔後漢書、章帝紀〕遂立二大小夏侯尚書一、後又立二京氏易一。

〖大小雅堂〗1351（ダイセウガダウ） 清、承齡(**5**－**11852**‥226)の室名。

〖大小秦君〗1352（ダイセウシンクン） 唐の秦景通と弟暐との稱。俱に漢書に精しかつたので並び稱せられた。〔舊唐書、儒學傳上〕秦景通與二弟暐一、尤精二漢書一、當時習二漢書一者皆宗二師之一、常稱二景通一爲二大秦君一、暐爲二小秦君一。

〖大小東陽〗1353（ダイセウトウヤウ） 梁の王承とその弟穉との稱。俱に東陽の守となつたからいふ。〔南史、王承傳〕此中輻湊、皆爲レ利往、能不レ至者、唯大小王東陽耳、小東陽卽承弟幼也。

〖大小方脈〗1354（ダイセウハウミヤク） 大小の方脈。大方脈は雜醫家、小方脈は小兒科をいふ。〔輟耕錄、醫科〕醫有二十三科一、考二之聖濟總錄一、大方脈雜醫科、小方脈科、風科、產科兼二婦人雜病科一、口齒兼二咽喉科一、正骨兼二金鏃科・瘡腫科・鍼灸科・祝由科一、則通兼言。

〖大小馮君〗1355（ダイセウヒヨウクン） 漢の馮野王とその弟の立との稱。相繼いで上郡の太守となり、共に治績があつたからいふ。〔漢書、馮立傳〕立居レ職公廉、治行略與二野王一相似、吏民嘉二美野王一、立相代爲二太守一、歌レ之曰、大馮君小馮君、兄弟繼レ踵相因循、聰明賢知惠二吏民一、政如二魯衞德化鈞一。

【大少】1356 ta^4 shao^4 年寄りと若い者。老若。

【大弨】1357（タイセウ） 大きい弓。詩、小雅、彤弓に彤弓弨兮とあるのに本づく。弨は、弓の弛むさま。〔韓愈、雪後寄二崔二十六丞公一詩〕腦脂遮レ眼臥二壯士一、大弨挂レ壁無レ由レ彎。

【大招】1358（タイセウ） ❶舜の樂の名。大韶(1371)に同じ。❷楚辭の篇名。屈原作。放流すること九年、壽命が將に終らうとした時、大いにその魂を招いて諷諫したものである。或は景差の作る所ともいふ。〔楚辭、大招、王逸章句〕大招者、屈原之所レ作也、或曰、景差、疑不レ能レ明也。❸寺の名。㋑西藏の拉薩に在り、高さ四層、欄干・殿宇は皆銅質に鍍金を施し、宏敞壯麗で、寶珍奇玩が多く、希世の觀をなす。唐の文成公主の建立と傳へ、公主及び吐蕃贊普の像を安置し、其の餘の神佛が數萬あり、おほむね唐時の製である。又、門外に唐蕃和盟の碑がある。大召・大詔・尹克招にも作り、伊克は大、招は如來の意。又、老木郎とも呼ぶ。㋺綏遠省歸綏縣に在る無量寺をいふ。

【大沼】1359（タイセウ） 沼の名。河南省洧川縣の西北。一に雁陂といひ、今、楊家湖といふ。〔穆天子傳、五〕天子遣二許男一歸、癸亥、天子乘二鳥舟龍卒一浮二于大沼一。

〖大沼枕山〗1360（オホヌマチンザン） 江戶の人。名は厚。字は子壽。通稱は捨吉。號は枕山・臺嶺・熙熙堂。詩人。江戶下谷泉橋通りに下谷吟社を立て子弟に教授す。明治二十四年十一月一日歿す、年七十四。著に詠史絕句二卷・江戶名勝詩一卷・枕山先生遺書詩學明辨(大沼鶴林編)一卷・下谷吟社詩三卷・水竹居集二卷・枕山詠物詩・梅癡詠物詩附一卷・枕山百詠物一卷・枕山先生遺稿一卷・東京三十詞・同人集六卷・日本詠史百律一卷・房山集一卷・歷代詠史百律一卷がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大昭】1361（タイセウ） ❶九藪の一。今の太原郡の地に在つたといふ。九藪(**1**－**167**‥426)を見よ。〔呂覽、有始〕何謂二九藪一、云云、燕之大昭。〔注〕大昭、今太原郡、是也。❷清、呂夏音(**2**－**3386**‥171)の字。

【大宵】1362（タイセウ） 長い宵。太宵(**3**－**5834**‥305)を見よ。

【大笑】1363（タイセウ） 大いにわらふ。又、おほわらひ。哄笑。〔老子、四十一〕下士聞レ道、大笑レ之。〔荀子、彊國〕必爲二天下大笑一。〔史記、高祖紀〕殿上羣臣、皆呼二萬歲一、大笑爲レ樂。〔史記、淮陰侯傳〕趙軍望見而大笑。〔後漢書、彭寵傳〕光武大笑。

〖大笑下士〗1364（タイセウカシ） 清、傅山(**1**－**939**‥56)の號。

【大袑】1365（タイセウ） 大袴。〔漢書、朱博傳〕襃衣大袑。〔注〕師古曰、袑、音紹、謂二大袴一也。

【大椒】1366（タイセウ） 草の名。秦椒。〔本草、秦椒〕釋名、大椒、檓、花椒。

【大詔】1367タイセウ　おほみことのり。大は美稱。

【大鈔】1368タイセウ　紙幣の名。金の貞元二年印行。大鈔は一貫・二貫・三貫・五貫・十貫の五等がある。交鈔(**1**−**291**‥180)を見よ。

【大照】1369　ta⁴ chao⁴　地券。

〖大照禪師〗1370ダイセウゼンジ　唐の普寂(**5**−**13982**‥45)の賜號。

【大韶】1371タイセウ　舜の樂の名。舜が善く先聖の德を繼いだことを稱譽したもの。唐の元結が其の名によつて樂歌を補つた。大磬。大招。〔莊子、天下〕堯有二大章一、舜有二大韶一。〔獨斷、上〕舜曰二大韶一、一曰二大招一。〔通典、樂、一、歷代沿革上〕舜作二大韶一。〔注〕韶、繼也、言三舜能繼二堯之德一、周禮曰二大磬一。〔樂府詩集、新樂府辭、補樂歌、大韶〕有虞氏之樂歌也、其義蓋稱三舜能紹二先聖之德一。〔元結、補樂歌、大韶〕森森羣象兮、日見二生成一、欲レ聞二朕初一兮、玄封冥冥、洋洋至化兮、日見二深柔一、欲レ聞二大濩一兮、大淵油油。

【大磬】1372タイセウ　舜の樂の名。大韶に同じ。〔周禮、春官、大司樂〕以二樂舞一教二國子一、舞二雲門・大卷・大咸・大磬・大夏・大濩・大武一。〔注〕大磬、舜樂也、言三其德能紹二堯之道一也。

【大簫】1373タイセウ　樂器の名。簫の大きいもの。簫(**8**−**26560**)を見よ。〔爾雅、釋樂〕大簫謂二之言一。〔注〕編二十三管、長尺四寸。〔疏〕李巡曰、大簫、聲大者。

【大石】1374タイセキ　㊀大きい石。おほいし。いはほ。〔王隱晉書〕陳總詣二終南山一請レ雨、先除二小石祠一、唯存二大石一所一而祈レ之。〔唐書、李嗣業傳〕初討二勃律一也、通二道蔥嶺一、有二大石一塞レ隘、以レ足蹶レ之抵二穹壑一、識者以爲二至誠所一レ感云。㊁山名。㋑河南省洛陽縣の東南。石林・萬安山ともいひ、南麓を黃花堆といふ。宋の范仲淹の墓がある。〔馬融、廣成頌〕金山石林、殷起二乎其中一。〔魏志、孫禮傳〕帝獵二於大石山一、虎趨二乘輿一。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、應州〕大石山、在二府東南四十里一、亦名二大名嶺一、一名萬安山、山阿有二魏明帝陵一、曰二高平陵一。㋺江西省餘干縣。石炭を產す。㋩廣東省雲浮縣。銀鉛を產す。㊂湖の名。江蘇省江都縣の東北。古の岱石湖。〔江南通志〕宋元豐中、知江都縣羅適、濬二大石湖一、改二名元豐一。㊃西遼、德宗(**4**−**10243**‥226)の名。㊄明、張守中(**4**−**9812**‥1178)の字。㊅オホシ 姓。〔新撰姓氏錄考證、十八〕。

〖大石角〗1375タイセキカク　燕樂、角聲七調の第二運をいふ。一に大食角に作る。〔樂府雜錄上聲角七調〕第一運、越角調、第二運、大石角調、第三運、高大石角調。〔補筆談〕姑洗角今爲二大石角一、殺聲用二凡字一。〔詞源〕黃鐘閏、俗名二大石角一。〔燕樂考原〕樂府雜錄以二第二運一爲二大石角一者、此乃依二七裔之次序一也。宋志云、應鐘角爲二大石角一者、指二本律一也、補筆談云、姑洗角今爲二大石角一、指二古律一也、南宋以二七角一爲二閏聲一、仍用二黃鐘以下七律一、故詞源曰、黃鐘閏、俗名二大石角一也。

〖大石橋〗1376タイセキケウ　㊀地名。㋑滿洲遼寧省海城縣の南。蓋平・營口二縣と界を接す。㋺河南省許昌縣の東南。㊁の㋺を見よ。㊁橋の名。㋑河北省趙縣の南。南鄉往來の津要。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、趙州、洨河〕今州南有二安濟橋一、跨二洨河上一、俗呼二大石橋一、闊四十步、長五十餘步、宋咸平五年、漕臣景望引二洨河一、自二鎭州一達二趙州一、以通レ漕、是也。㋺河南省許昌縣の東南。石梁河の上に跨る。㋩雲南省羅平縣の南。

〖大石口〗1377タイセキコウ　地名。山西省應縣の南。繁峙縣と界を接し、左右に馬嵐口・茹越口・小石口・北樓口がある。皆、古の塞外互市の要地。大石谷ともいふ。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、應州〕大石口、州南三十里、亦與二代州繁峙縣一接レ界、云云、又小石口在二州西南三十五里一、今爲二小石口堡一、亦屬二繁峙縣界一。

〖大石梯〗1378タイセキテイ　地名。山西省陽城縣の東。晉・豫の間の要隘。淸の咸豐三年、粵寇が、懷慶を圍んだ時、此處に防守す。

〖大石調〗1379タイセキテウ ダイシツテウ　商調の樂律の名。平調の分調。もと大食調といふ。大食調(1191)・小石調(**4**−**7473**‥781)を見よ。〔冊府元龜〕天寶十三年、改二諸樂一名二太簇商一、號二大食調一。〔荊川稗編〕大食・小食・般涉、皆番語、宋樂與二古樂一差二二律一、故俗呼二黃鍾商一爲二大石調一、大呂商爲二高大石調一、太簇商爲二中管高大石調一。

〖大石頭〗1380　ta⁴ shih² tʻou　大きな石。「九」。

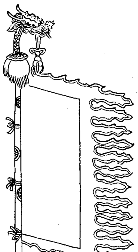
〖大石林〗1381オホシノハヤシ　姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十

〖大石椅立〗1382オホシノハシタテ　姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十九〕。

〖大石山人〗1383タイセキサンジン　明、顧元慶(**12**−**43689**‥263)の號。〔明外史、彭年傳〕吳中多二隱士一、其以二文學一著者、有二岳岱・顧元慶一、元慶好二詩書一、自二經史一以至二叢說一、多レ所二纂述一、所レ居在二大石山麓一、因自號二大石山人一。

〖大石先生〗1384タイセキセンセイ　明、顧元慶(**12**−**43689**‥263)の尊稱。

【大赤】1385タイセキ　旗の名。飾も無く模樣もない赤旗。赤は周の正色。〔易、說卦〕乾爲レ天、云云、爲二大赤一、爲二良馬一。〔周禮、春官、巾車〕象路、朱、樊纓七就、建二大赤一以朝。〔注〕大赤、九旗之通帛。〔周禮、春官、司常、通帛爲レ旜、注〕通帛、謂二大赤一、從二周正色一無レ飾。〔禮、明堂位〕殷之大白、周之大赤。〔疏〕周之大赤者、赤色旗、此大白大赤、各隨二代之色一、無レ所レ畫也。



大赤（名物圖）

【大跡】1386タイセキ　大きな足跡。〔史記、封禪書〕上卽見二大跡一、未レ信。

【大慼】1387タイセキ　大きな心配事。大きなうれへ。〔左氏、宣、四〕子良不レ可、子文以爲二大慼一。

【大瘠】1388タイセキ　疫病のはげしい流行。〔公羊、莊、二十〕大災者何、大瘠也、大瘠者何、痢也。〔注〕瘠、病也、齊人語也、以レ加レ大、知レ非二火災一也、痢者、民疾疫也。

【大磧】1389タイセキ　㊀ひろい砂原。又、ひろい砂原のある地。大沙漠。〔北史、魏太祖紀〕追破二之於大磧一。〔岑參、北庭貽二宗學士一道別詩〕孤城倚二大磧一、海氣迎二邊空一。〔五代史、唐莊宗紀贊〕蓋沙陀者大磧也、在二金莎山之陽、蒲類海之東一。〔趙冬曦、三門賦〕泛二洪漣於大磧之東一、薄二餘怒於天池之外一。㊁大漠(1929)の㊁に同じ。

【大積】1390タイセキ　大いに積む。〔禮、禮運〕故事大積焉而不レ苑、並行而不レ繆、細行而不レ失。

【大切】1391タイセツ　㊀重要。肝要。緊要。〔保元物語、新院御謀反思召立〕大切の人に思し召しけり。㊁大いに尊重すること。大いに愛すること。ていねい。ねんごろ。㊂大層切迫すること。大層緊急なこと。危篤に陷ること。㊃オホギリ 芝居の最終の幕。

【大折】1392タイセツ　土を盛り上げて作つた、地を祭る處。泰折(**6**−**17325**‥110)を見よ。〔廣雅、釋天〕圓丘・大壇、祭レ天也、方澤・大折、祭レ地也。

〖大折價錢〗1393　ta⁴ chê² chia⁴ chʻien²　大割引値段。

【大刹】1394タイセツ タイサツ　大きい寺。巨刹。大寺。大伽藍。〔元史、鎖咬兒哈的迷失傳〕至治元年春、詔起二大刹於京西壽安山一、鎖咬兒哈的迷失、上レ章極諫。

【大拙】1395タイセツ　字號。㊀唐、薛能(**9**−**32123**‥111)の字。㊁石川凹の號。石川丈山(**8**−**24024**‥479)を見よ。

〖大拙堂〗1396タイセツダウ　明、楊載鳴(**6**−**15112**‥544)の室名。

【大紲】1397タイセツ　大きなつな。おほづな。〔吳志、董襲傳〕以二栟閭大紲一繫レ石爲レ矴。

【大雪】1398タイセツ　㊀二十四氣の一。小雪の次の氣節、十二月七日頃。陰曆では十一月。〔周髀算經、下〕凡八節二十四氣、氣損益九寸九分六分分之一、冬至晷長一丈三尺五寸、夏至晷長一尺六寸、問、次節損益寸數長短各幾何、云云、小雪丈一尺五寸一分、大雪丈二尺五寸。〔漢書、律歷志〕小雪・大雪、竝氣節也。〔孝經緯〕小雪後十五日、斗指レ壬曰二大雪一、十一月節也、積陰爲レ雪、至レ此曰二栗烈而大一。㊁一尺以上の雪。〔左氏、隱、九〕平地尺爲二大雪一。㊂おほゆき。〔晉書、五行志下〕赤烏四年正月、大雪、平地深三尺、鳥獸死者太半。〔盧綸、和二張僕射塞下曲一詩〕欲下將二輕騎一逐上、大雪滿二弓刀一。㊃山名。印度のヒマラヤ山。

〖大雪歌〗1399タイセツノウタ　詩篇の名。宋、陸游作。長安の大雪を歌つたもの。〔陸游、大雪歌〕長安城中三日雪、潼關道上行人絕、黃河鐵牛僵不レ動、承露金盤凍將レ折、虬鬚豪客狐白裘、夜來醉眠寶釵樓、五更未レ醒已上レ馬、衝レ雪卻作南山遊、千年老虎獵不レ得、一箭橫穿雪皆赤、拏レ空爭レ死作二

雷吼一、震二動山林一、裂二崖石一、曳歸擁レ路千人觀、髑髏作レ枕皮蒙レ鞍、人閒壯士有レ如レ此、胡不三來歸二漢天子一。

【大節】1400 タイセツ　❶留意して守るべき重要な事柄。〔左氏、莊、二十四〕男女之別、國之大節也。〔左氏、成、二〕名以出レ信、信以守レ器、器以藏レ禮、禮以行レ義、義以生レ利、利以平レ民、政之大節也。〔淮南子、說林訓〕小變不レ足三以妨二大節一。❷職分上の大事。大任。〔左氏、昭、元〕榮二其寵祿一、任二其大節一。〔荀子、王制〕是君レ人者之大節也。〔晏子、問、下〕不レ能レ明二其大節一。❸國家の大事變。又は死生存亡に關する大事件。〔論語、泰伯〕可三以託二六尺之孤一、可三以寄二百里之命一、臨二大節一而不レ可レ奪也、君子人與、君子人也。〔集解〕何晏曰、大節、安二國家一、定二社稷一。〔集注〕其節至三於死生之際一、而不レ可レ奪。〔漢書、師丹傳〕確然有二柱石之固一、臨二大節一而不レ可レ奪。❹大體。〔國語、周語下〕夫禮之立成者爲レ飫、昭二明大節一而已。〔注〕節、體也、云云、言、飫禮、所下以教二民敬戒一、昭中明大體上而已。❺手足の節の大きいこと。ふしくれだつこと。〔列女傳、辯通、齊鍾離春傳〕長指大節。❻明、劉槩（濟寧の人）（**2**－**2224**‥91）の字。

〖大節夜〗1401 ダイセツヤ　禁中で、除夜をいふ。十二月二十四日を小節夜といふに對す。〔西湖志餘〕禁中以二臘月二十四日一爲二小節夜一、三十日爲二大節夜一。

【大浹】1402 タイセフ　川の名。浙江省鎭海縣に在る。甬江の下流で、其の海に近い部分をいふ。海に入る處を大浹口といひ、晉代、浹口戍を置いた。

【大涉】1403 タイセフ　❶川の名。〔漢書、地理志上、犍爲郡、注〕有二大涉水一、北至レ符入レ江。❷清、陳履謙（**11**－**41698**‥1294）の字。

【大捷】1404 タイセフ　大いに勝つ。大勝。大勝利。〔左氏、僖、三十二〕君命二大事一、將レ有三西師過二軼我一、擊レ之必大捷焉。〔魏志、王基傳〕大捷之後、上下輕レ敵。〔晉書、樂志上〕其有二短簫之樂者一、則所謂王師大捷、令二軍中凱歌一者也。

【大千】1405 タイセン　❶佛大千世界に同じ。〔王巾、頭陀寺碑文〕因レ斯而談、則棲二遑大千一、無爲之寂不レ撓。〔魏書、釋老志〕況釋迦如來、巧濟二大千一、惠流二塵境一。〔江總、香贊〕海岸相傳、香流二大千一、不レ吹自轉、將レ銷更燃。❷清、毛萬齡（**6**－**16772**‥323）の字。

〖大千世界〗1406 ダイセンセカイ　佛廣大無邊の世界。卽ち一の須彌山、一の日月、一の四天下、及び六欲梵世天に至るを一世界とし、それを百萬個あつめた世界である。〔維摩經〕大千世界。〔注〕世、謂三同居二大地之閒一、界、謂三各有二彼此之別一。

【大川】1407 タイセン　❶大きな川。おほかは。大河。〔易、需〕需有レ孚、光亨、貞吉、利レ涉二大川一。〔書、禹貢〕禹敷レ土隨レ山刊レ木、奠二高山大川一。〔禮、王制〕天子祭二天下名山大川一。〔陸機、擬迢迢牽牛星詩〕引レ領望二大川一。❷字號。㋑宋、普濟（**5**－**13982**‥28）の字。㋺清、翟灝（**9**－**28727**‥3）の字。

〖大川良平〗1408 オホカハリヤウヘイ　赤松滄洲（**10**－**36993**‥187）を見よ。

〖大川滔瀁虬螭遊〗1409 タイセンタウヤウタレバキウチアソブ　大きい川に水が漫々として流れると龍の子が泳ぎ廻る。人も日に月に修養の功を積んでゆくと德ができて道が備はる。品性は修養するに從つて備はる喩。〔抱朴子、勖學〕大川滔瀁、則虬螭羣游、日就月將、則德立道備。

【大仙】1410 タイセン　❶すぐれた仙人。〔墉城集仙錄〕夫天上聖高眞大仙、愍二劫曆・不常・代運・流轉・陰陽・倚伏・生死・推遷・俄爾之閒一。〔顧況、歸二陽蕭寺一云云詩〕身披二六銖衣一、億劫爲二大仙一。❷峯の名。浙江省臨安縣。東天目山の絕頂。〔讀史方輿紀要、浙江、名山〕天目山、在二杭州府臨安縣西五十里一、云云、今山有二十二龍潭・三十六洞一、其峯巒之奇者、西則玉桂・香爐・象鼻爲レ最、東則大仙・將軍・寶珠爲レ最、其高險阻深、嶔巇瑰異、不レ可二殫究一。❸佛如來（**3**－**6060**‥122）の別稱。〔般若經〕大仙尊位。〔探玄記、四〕涅槃中、名レ佛爲二大仙一也。

〖大仙爺〗1411 ta^{4} hsien^{1} yeh^{2}　狐狸の妖怪。

【大尖】1412 タイセン　山名。❶浙江省海寧縣の東。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府、海寧縣〕尖山、縣東六十四里、高峯崛起、南臨二大海一、建二烽堠於其巓一、一名、大尖山、嘉靖中、倭嘗據レ此。❷湖南省江華縣。錫を產す。

【大汕】1413 タイセン　清の僧。號は厂翁。廣東の長壽寺に住す。著に海外紀事がある。〔四庫提要、七十八〕。

【大泉】1414 タイセン　❶大形の錢。大錢（1423）の❶を見よ。❷大きい泉。〔道德指歸論〕高山之下、必有二深谷一、大泉之流、必有二激波一。❸民國、錢稻孫（**11**－**40563**‥379）の號。

【大專】1415 タイセン　❶造化の神をいふ。大鈞。〔史記、賈誼傳〕大專槃レ物兮、坱軋無レ垠。〔注〕索隱曰、漢書云、大鈞播レ物、此專讀曰レ鈞、云云、虞喜志林云、大鈞、造化之神、鈞二陶萬物一、品二授羣形一者也。❷大事にして專一なこと。〔俚言集覽〕。

【大船】1416 タイセン　大きい船。おほぶね。大舟。大舶。〔史記、張儀傳〕秦西有二巴蜀一、大船積レ粟、起二於汶山一、浮レ江以下、至レ楚三千餘里。〔晉書、王濬傳〕濬乃作二大船一、連レ舫方百二十步、受二二千餘人一、以レ木爲レ城、起二樓櫓一、開二四出門一、其上皆得二馳レ馬來往一。

〖大船交〗1417 ta^{4} ch‘uan^{2} chiao^{1}　汽船又は民船で貨物の引渡しを行ふこと。

【大箭】1418 タイセン　大きな矢。おほや。〔魏書、奚康生傳〕以二彊弓大箭一、望レ樓射レ牕。

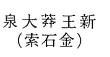
【大戰】1419 タイセン　はげしく戰ふ。又、規模の大きい戰爭。おほいくさ。〔書、甘誓〕大戰二于甘一、乃召二六卿一。

【大遷】1420 タイセン　❶都邑を建立してうつること。〔周禮、春官、大卜〕國大遷、大師則貞レ龜。❷日が陽谷（東）から出て、女紀（西）に沒することをいふ。大還。〔太平御覽、天、日〕淮南子曰、日出二於陽谷一、云云、迴二于女紀一、是謂二大遷一。

【大選】1421 タイセン　❶清の制度で、官吏の揀選を行ふこと。偶數の月に行ふ。〔清會典、吏部〕雙月大選。❷ta^{4} hsüan^{3}　㋑大總統の選擧。㋺國會の總選擧。

〖大選擧區〗1422 ダイセンキヨク　一選擧區の範圍を廣くして、其の區域內から數人の議員を選び出すもの。小選擧區の對。

【大錢】1423 タイセン　❶大形の錢。大泉。〔國語、周語下〕景王二十一年、將レ鑄二大錢一。〔注〕錢者、金幣之名、所下以貿二買物一通中財用上也、古曰レ泉、後轉曰レ錢、賈侍中云、虞夏商用、金幣三等、或赤、或白、或黃、黃爲二上幣一、銅・鐵爲二下幣一、大錢者、大二於舊一、其賈重也、唐尙書云、大錢重十二銖、文曰二大泉五十一、鄭後司農說二周禮一云、錢始蓋一品也、周景王鑄二大錢一、而有二二品一、後數變易、不レ識二本制一、至レ漢唯五銖久行、王莽時、錢乃有二十品一、今存二於民一多者、有二貨布・大泉・貨泉一、大泉徑寸二分、重十二銖、文曰二大泉五十一、則唐君所謂大泉者、乃莽時泉、非二景王所レ鑄明矣、又景王至二赧王一十三世而周亡、後有二戰國秦漢一、幣物改轉不二相因一、先師所レ不レ能レ紀、或云、大錢文曰二寶貨一、皆非二事實一、又單穆公云、古者有二母平レ子子權レ母而行一、然則二品之來、古而然矣、鄭君云、錢始一品、至二景王一有二二品一、省レ之不レ孰也。❷新の王莽の時に鑄た錢。重さ十二銖、文に大泉五十と刻す。泉は錢に同じ。〔漢書、食貨志下〕王莽居攝變二漢制一、以三周錢有二子母相權一、於レ是更造二大錢一、徑寸二分、重十二銖、文曰二大錢五十一。〔資治通鑑、漢紀〕（王莽、居攝元年）大錢一直二五十一。〔注〕大錢、徑寸二分、重十二銖、文曰二大錢五十一。❸ta^{4} ch‘ien^{2}　銅錢の裏面に當十の字を彫つた錢。普通の制錢の二倍に當る。五十個或は四十九個を以て一吊とし、此の錢一個を一個大といふ。



新王莽大泉
（金石索）

〖大錢港〗1424 タイセンカウ　鎭の名。浙江省呉興縣の東北。大湖の要口。明代、巡司を置き、幷せて河泊所を設く。清代、又、大湖營守備を設く。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州府、後潘村〕大錢河口巡司、在二縣東北十五里一、亦元時舊址、洪武十四年復置、幷設二河泊所於此一。

【大全】1425 タイゼン　❶十分に揃つて缺けた所が無い。完全。完璧。〔莊子、田子方〕微二夫子之發二吾覆一也、吾不レ知二天地之大全一。❷書名。其の事物に關して遺漏なく編纂した意。四書大全・五經大全・性理大全の類。〔四庫提要、經、易類〕周易大全二十四卷、明、胡廣等奉敕撰、云云、永樂十二年十一月甲寅、命二行在翰林院學士胡廣・侍講楊榮・金幼孜一、修二五經四書大全一、十三年九月告レ成。

〖大全集〗1426 タイゼンシフ　文集の名。❶一百十二卷。宋、朱熹撰。もと晦菴集、或は朱子文集類篇と稱

した。〔四庫提要、集、別集類〕。㊁二百卷。宋、周必大撰。もと平園集といひ、四庫著錄には文忠集、通考には周益公集、彙刻書目には周益公大全集といふ。〔四庫提要、集、別集類〕。㊂五十卷・外集一卷。宋、陳淳撰。もと北溪大全集と稱した。〔四庫提要、集、別集類〕。㊃二十六卷。元、胡祇遹撰。もと紫山大全集と稱した。〔四庫提要、集、別集類〕。㊄十八卷。明の高啓の詩文集。一時散逸したのを、景泰中、徐庸が拾輯したもので、その高逸な天才は全篇にひらめいてゐる。その目は、古樂府一卷・樂府・琴操辭・三言・四言共に一卷・五言古五卷・七言古三卷・長短句體一卷・五言律一卷・五言律・排律一卷・聯句・六七言律共に二卷・五言絶句一卷・七言絶句二卷。清の金檀に高青邱詩集註十八卷がある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【大前】1427 オホマヘ ㊀神または天皇の前をいふ。おんまへ。みまへ。ふとまへ。ひろまへ。〔祝詞式、伊勢大神宮祈年祭〕天皇我大命以氐度會乃宇治乃五十鈴川上乃、下津石根爾稱辭竟奉流皇大神能大前爾申久。〔續日本紀〕聖武、天平元年八月、所ㇾ思坐而我皇大上天皇大前爾恐古士物。㊁射藝の用語。弓の的を射る時、最初の射手の稱。

〔大前張〕1428 オホサイバリ 神樂歌の曲。

〔大前提〕1429 ダイゼンテイ 論理學用語。三段論法で、二個の前提のうち、大概念を有する前提の稱。major premise

〔大前天〕1430 ta^4 ch'ien^2 t'ien^1 さきをとつひ。一昨昨日。

〔大前年〕1431 ta^4 ch'ien^2 nien さきおととし。一昨昨年。

【大善】1432 ダイゼン ㊀此の上もない善。最善。大祥。〔司馬法、儼位〕凡大善用ㇾ本、其次用ㇾ末。㊁明の僧。號は虛聞道人。虛聞子。著に西溪百詠がある。

【大漸】1433 ダイゼン おほいにすすむ。病勢が段々と進んで危篤になること。主に帝王の病にいふ。病、革まる。大漸彌留を見よ。〔駢雅、釋訓下〕大漸、病甚也。〔列子、力命〕季梁得ㇾ疾、七日大漸。〔注〕漸、劇也。

〔大漸彌留〕1434 ダイゼンビリウ 病が進んで重くなり、日に甚しくなること。漸は進む、彌はいよいよ・益〻。〔書、顧命〕疾大漸惟幾、病日臻、既彌留。〔蔡傳〕其疾大進惟危殆、病日至、既彌甚而留連。〔王儉、褚淵碑文〕景命不ㇾ永、大漸彌留。〔注〕銑曰、大漸彌留、謂㆓病甚㆒也。

【大膳】1435 ダイゼン 大膳職の略。〔榮花物語、殿上花見〕御けいの日、やがて大膳に入らせ給ふ。

〔大膳職〕1436 ダイゼンシキ ダイゼンショク ㊀古、宮內省に屬し、膳部を調進し、臣下に賜ふ饗膳などを掌つた所。おほかしはでのつかさ。唐名は大官署。〔令義解、職員令〕大膳職、大夫一人、掌㆘諸國調雜物、及造㆓庶膳羞㆒、醢葅・醬豉・未醬・肴菓・雜餠・食料㆖、率㆓膳部㆒以供㆓其事㆒。〔職原抄〕大膳職、唐名、大官署。㊁明治四十一年一月以前の大膳寮の稱。

〔大膳進〕1437 ダイゼンノジヨウ 大膳職の判官。唐名は大官丞。〔職原抄〕大膳職、進、唐名、大官丞。

〔大膳屬〕1438 ダイゼンノサクワン 大膳職の主典。唐名は大官史。〔職原抄〕大膳職、屬、唐名、大官史。

〔大膳亮〕1439 ダイゼンノスケ 大膳職の次官。唐名は光祿侍郎。〔職原抄〕大膳職、亮、唐名、光祿侍郎。

〔大膳寮〕1440 ダイゼンレウ 宮內省の一部局。明治四十一年、大膳職を改めたもの。供御及び饗宴に關する事務を掌る。頭・主事・主膳長・主膳及び膳手の職員を置く。

〔大膳大夫〕1441 ダイゼンタイフ 大膳職の長官。唐名は大官令。〔職原抄〕大膳職、大夫一人、唐名、大官令。

【大沮】1442 タイソ 大いにくじける。〔五代史、王鎔傳〕中㆓流矢㆒、臥㆓輿中㆒、梁軍大沮。

【大祖】1443 タイソ ㊀始祖をいふ。太祖(3－5834・・309)の㊁を見よ。〔詩、大雅、常武〕南仲大祖、大師皇父。〔禮、檀弓上〕君復㆓於小寢・大寢・小祖・大祖・庫門・四郊㆒。〔管子、輕重己〕夏盡而秋始而黍熟、天子祀㆓於大祖㆒。㊁物の始め。原始。〔淮南子、原道訓〕無形者、物之大祖也、無音者、聲之大宗也。〔注〕祖宗、皆本也。

〔大祖父〕1444 オホオホヂ 祖父母の父。曾祖父。ひぢぢ。ひいぢぢ。〔倭名類聚抄、人倫部、父母類〕曾祖父、爾雅云、祖父之父、爲㆓曾祖父㆒。〔箋注〕按、於保於保知、大祖父之義、曾祖父者、父之祖父、故曰㆓大祖父㆒、今俗呼㆓比治治㆒。

〔大祖母〕1445 オホオホバ 祖父母の母。曾祖母。ひばば。ひいばば。〔倭名類聚抄、人倫部、父母類〕曾祖母、爾雅云、祖父之母、爲㆓曾祖母㆒。〔箋注〕按、於保於保波、大祖母之義、今俗呼㆓比婆婆㆒。

【大蘇】1446 タイソ ㊀宋の蘇軾をいふ。父洵を老蘇、弟轍を小蘇といひ、併せて三蘇と稱す。〔蘇轍、神水館寄㆓子瞻兄㆒四絶詩〕誰將㆓家集㆒過㆓幽都㆒、逢㆘見㆓胡人㆒問㆗大蘇㆖、莫㆘把㆓文章㆒動㆗蠻貊㆖、恐妨㆔談笑臥㆓江湖㆒。㊁山名。河南省商城縣の東南。下に蘇仙市がある。〔蘇軾、遊㆓淨居院㆒詩序〕大蘇山之南、小蘇山之北。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、商城縣〕大蘇山、縣東四十里、下有㆓蘇仙市㆒、灌水出ㇾ焉、一名灌山、水經注、灌水出㆓廬江金蘭縣大蘇山㆒、亦名㆓澮水㆒。

【大麤】1447 タイソ 齒のある漆塗りのはきもの。〔方言、四〕大麤謂㆓之⿰革卬角㆒。〔注〕今漆履有ㇾ齒者。

【大宋】1448 タイソウ ㊀戰國、宋をいふ。大は美稱。〔史記、蘇秦傳〕擧㆓五千乘之大宋㆒、而包㆓十二諸侯㆒。㊁宋の美稱。大宋國を見よ。㊂宋、宋庠をいふ。大宋小宋の㊀を見よ。㊃元、宋知柔の稱。大宋小宋の㊁を見よ。

〔大宋國〕1449 タイソウコク 國の名。趙匡胤の建てた宋國をいふ。大は美稱。〔金石萃編〕保寧寺鐘銘、大宋國咸平三年十二月十八日奉ㇾ勅鑄、云云、大宋下加㆓國字㆒、始見㆓于此㆒、其後大元國・大明國・大清國、皆因㆓于此㆒。

〔大宋小宋〕1450 タイソウセウソウ ㊀宋の宋庠と宋祁の兄弟をいふ。二人が共に禮部の試驗に及第したので、時人は之を二宋と呼び、大小を以て兄弟を別けた。大小宋(1344)の㊀を見よ。〔宋史、宋庠傳〕庠字公序、天聖初擧㆓進士㆒、開封試㆓禮部㆒、皆第一、初名郊、改㆓名庠㆒、弟祁字子京、與㆓兄庠㆒同時擧㆓進士㆒、禮部奏㆓祁第一、庠第三㆒、章獻太后不ㇾ欲㆓以ㇾ弟先㆒ㇾ兄、乃擢㆓庠第一㆒、而寘㆓祁第十㆒、人呼曰㆓二宋㆒、以㆓大小㆒別ㇾ之。㊁元の宋知柔と族弟宋子貞とをいふ。大小宋(1344)の㊁を見よ。

〔大宋元寶〕1451 タイソウゲンパウ 宋の理宗の時に行はれた貨幣。〔續文獻通考、錢幣考一〕理宗寶慶元年、行㆓大宋元寶錢㆒。

〔大宋屛風〕1452 タイソウノビヤウブ 我が國の宮中御調度の一。宋國傳來の屛風に模し、唐人打毬の圖が描いてある。打毬の屛風。馬形の屛風。〔大內裏圖考證、別錄、上、大宋屛風〕年中行事畫、賭弓圖、二枚之內、初一枚繪㆓唐人步行打球㆒、一枚一人一帖六人、第二枚畫㆓唐人馬上打球㆒、一枚一人一帖六騎也、步騎共持㆓打球杖㆒、屛風押木黑、緣紺地文白菱、裏靑、同緣紺地文白菱。〔江家次第、八、七月、相撲召合裝束〕御帳乾角傍㆓絹御障子㆒、立㆓迴五尺大宋御屛風二帖㆒。

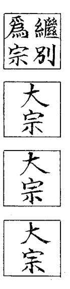
〔大宋宣和遺事〕1453 タイソウセンナヰジ 宣和遺事(3－7132・・257)を見よ。

〔大宋重修廣韻〕1454 タイソウヂヨウシウクワウヰン 廣韻(4－9493・・14)を見よ。

【大走】1455 タイソウ 大いに走る。〔爾雅、釋宮〕大路謂㆓之奔㆒、〔疏〕奔、大走也。

【大宗】1456 タイソウ ㊀物の始め。原始。〔淮南子、原道訓〕無形者、物之大祖也、無聲者、聲之大宗也。〔注〕大祖、大宗、皆本也。㊁古の宗法に於て、別子、卽ち諸侯の嫡子の弟を始祖とし、其の後を繼ぐ嫡長系をいふ。小宗の對。〔禮、大傳〕別子爲ㇾ祖、繼ㇾ別爲ㇾ宗、繼ㇾ禰者、爲㆓小宗㆒、有㆓百世不ㇾ遷之宗㆒、有㆓五世則遷之宗㆒。〔疏〕別子之世長子、恆繼㆓別子㆒、與㆓族人㆒爲㆓百世不ㇾ遷之大宗㆒、禰、謂㆓別子之庶子㆒、以㆓庶子所ㇾ生長子㆒繼、此庶子與㆓兄弟㆒爲㆓小宗㆒、謂㆓之小宗㆒者、以㆘其五世則遷、比㆓大宗㆒爲㆖小、故云㆓小宗㆒也。㊂天子をいふ。〔稱謂錄、天子古稱、大宗〕詩疏、王者天下之大宗、以㆘禮有㆓大宗小宗㆒、爲㆗其族人所㆖尊、故稱㆓宗子㆒、天子則天下所ㇾ尊、故稱㆓之大宗㆒。㊃勢力のある一族をいふ。〔詩、大雅、板〕大邦維屛、大宗維翰。〔集傳〕大宗、強族也。㊄殷の官名。天官六大の一。大宰と共に大史以下を帥ゐて天下の政を掌る。〔禮、曲禮下〕天子建㆓天官㆒、先㆓六大㆒、曰㆓大宰・大宗・大史・大祝・大士・大卜㆒、典㆓司六典㆒。〔注〕此蓋殷時制、周則大宰爲㆓天官㆒、大宗曰㆓宗伯㆒。㊅字號。㋑清、杭世駿(6－14494・・23)の字。㋺清、張城(4－9812・・381)の字。㋩清、毛國翰(6－16772・・274)の字。

〖大宗子〗1457 ダイソウシ　別子（諸侯の適子の弟）を繼いだものの子をいふ。〔三禮圖、大宗子〕別子爲㆑祖、此謂㆓諸侯適子之弟、別㆓於正適㆒、故稱㆓別子㆒、爲㆑祖者、謂㆘此別子子孫爲㆓卿大夫㆒者、立㆓此別子㆒爲㆗始祖㆖也、注云、謂㆓之別子㆒者、公子不㆑得㆑禰㆓先君㆒也、云云、又云㆔繼㆑別爲㆓大宗㆒、此謂㆘別子之世長子、恆繼㆓別子㆒、與㆓族人㆒爲㆗百世不㆑遷之大宗㆖。



大宗子（三禮圖）

〖大宗師〗1458 ダイソウシ　❶多人數に仰いで師とせられる者。〔莊子、大宗師、注〕雖㆓天地之大、萬物之富㆒、其所㆓宗而師㆒者無心也。❷科擧時代、學事の長官を宗師と稱し、或は大の字を加へて大宗師ともいふ。宗師（3－7106・116）の❹に同じ。〔稱謂錄、學政、大宗師〕明李日華官制備考、提學、稱㆓大文宗・大宗師㆒。❸莊子の篇名。

〖大宗伯〗1459 ダイソウハク　周官の名。春官の長。邦國の祭事・典禮を掌る。宗伯（3－7106・224）の❶を見よ。〔周禮、春官、大宗伯〕大宗伯之職、掌㆑建㆓邦之天神・人鬼・地示之禮㆒、以佐㆑王建㆓保邦國㆒。

〖大宗饋電〗1460 ta^4 tsung^1 kʻuei^4 tien^4　電力の大口供給。

〖大宗銷路〗1461 ta^4 tsung^1 hsiao^1 lu^4　大口の販路。

〖大宗正司〗1462 ダイソウセイシ　官名。宋、置く。皇族を統ぶ。〔稱謂錄、宗人府、大宗正司〕宋史職官志、元豐官制行、詔、宗正長貳不㆔專用㆓國姓㆒、蓋自有㆓大宗正司㆒、以統㆓皇族㆒也。

〖大宗用途〗1463 ta^4 tsung^1 yung^4 tʻu^2　大口の用途。

【大湊】1464 タイソウ　大いに物の輻湊する所。〔逸周書、作雒解〕以爲㆓天下之大湊㆒。

【大僧】1465 タイソウ　すぐれた僧侶。〔王建、新授戒尼師詩〕自知戒相分明後、先出㆓壇場㆒禮㆓大僧㆒。

〖大僧正〗1466 ダイソウジヤウ　佛最高等の僧官。僧正の上位。〔佛祖統記、五十一〕梁武帝、詔㆓雲光法師㆒爲㆓大僧正㆒。〔釋家官班記、下、僧官採擇故事〕大僧正、釋門棟梁也、尤爲㆓規模㆒、宗長者大旨任㆑之。

〖大僧都〗1467 ダイソウツ　佛僧官。僧都の長位。〔釋家官班位、僧官採擇故實〕大僧都、四箇寺顯密之僧、拜除隨㆑時、加㆓于法印權大僧都之上首㆒。

【大層】1468 タイソウ　甚だ。おほいに。仰山。大相。

【大蔟】1469 タイソウ　音律の名。十二律の一。正月に配す。轉じて、正月の異稱。大簇。太簇。〔周禮、春官、大司樂〕凡樂圜鍾爲㆑宮、黃鍾爲㆑角、大蔟爲㆑徵、沽洗爲㆑羽。〔禮記、月令〕律中㆓大蔟㆒。〔國語、周語下〕二曰㆓大蔟㆒、所㆓以金奏、贊㆑陽出㆑滯也。〔注〕正月曰㆓大蔟㆒、乾九二也、管長八寸、法云九分之八、大蔟言㆔陽氣大蔟達㆓於上㆒也。〔淮南子、說林訓〕大簇之比㆑商。

【大總】1470 ダイソウ　おほもと。

〖大總統〗1471 ダイソウトウ　中華民國が共和制を布いた時の元首の稱。

【大藪】1472 ダイソウ　大きな竹藪。〔周禮、地官、序官、澤虞〕每㆓大澤大藪㆒、中士四人、下士八人、府二人、史四人、胥八人、徒八十人。〔國語、周語下〕夫周高山廣川大藪也。〔宋史、吳廷祚傳〕秦州夕陽鎭、西北接㆓大藪㆒、多㆓材植㆒。

【大東】1473 オホツカ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【大足】1474 タイソク　❶大いに足る。〔國語、齊語〕甲兵大足。❷唐の武后の年號。（701）❸縣名。唐、置く。今、四川省東川道に屬す。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府〕大足縣、本合州巴川縣地、唐乾元二年置。〔清史稿、地理志〕四川、重慶府、縣十一、大足。

【大則】1475 タイソク　重要な事柄。重大な事柄。大事。〔禮、儒行〕其大讓如㆑慢、小讓如㆑僞、大則如㆑威、小則如㆑愧。〔疏〕大則如㆑威者、言㆘有㆓大事㆒之時、形貌則如も似㆑有㆑所㆓畏懼㆒也。

【大息】1476 タイソク　大いきをついて嘆ずる。又、大きなためいき。太息。〔管子、輕重乙〕桓公惕然大息曰、吾曷以識㆑此。〔荀子、法行〕事已敗矣、乃重大息、其云㆑益乎。〔注〕重大息、嗟歎之甚也。〔楚辭、離騷〕長大息以掩㆑涕兮、哀㆓民生之多艱㆒。

【大塞】1477 タイソク　四方の閉塞した要害の地。〔吳子、論將〕路狹道險、名山・大塞、十夫所㆑守、千夫不㆑過、是謂㆓地機㆒。

【大俗】1478 タイゾク　極めて卑俗なこと。

【大族】1479 タイゾク　勢力ある家がら。豪族。〔左氏、成、十七〕族大多㆑怨、去㆓大族㆒不㆑偪。〔管子、七法〕大族尊貴大臣、不㆑得㆑增㆓其功㆒焉。〔漢書、高帝紀下〕齊楚大族。〔魏志、倉慈傳〕大族田地有㆑餘。〔北史、宋辨傳〕高門大族、意所㆑不㆑便者、辨因毀㆑之。

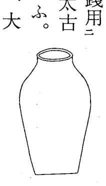
【大賊】1480 タイゾク　大惡を敢てする賊。非常の賊。大盜。〔史記、秦始皇紀〕詐爲㆑有㆓大賊㆒、令㆘樂召㆑史發㆑卒追㆓劫樂母㆒置㆗高舍㆖。〔管子、輕重甲〕奪㆓於天下㆒者、國之大賊也。

【大卒】1481 タイソツ　王の士卒。中軍。〔國語、楚語上〕榭度㆓於大卒之居㆒。〔注〕大卒、王士卒也。〔史記、周紀〕大卒之左右畢從。

【大村】1482 タイソン　清、李國宋（6－14459・・1245）の號。

【大孫】1483 ダイソン　複姓。春秋、楚の大孫伯の子孫。〔左氏、僖、二十三〕大孫伯曰、不可。

【大尊】1484 タイソン　❶太古の瓦製の樽をいふ。〔周禮、春官、司尊彝〕其朝踐用㆓兩大尊㆒。〔注〕大尊、太古之瓦尊。❷天子をいふ。〔稱謂錄、天子古稱、大尊〕北史稱㆓大尊㆒。❸ta^4 tsuen^1　知府の尊稱。



大尊（三才圖會）

【大損】1485 タイソン　❶甚しい損失。おほ損。〔魏書、皮豹子傳〕未㆑有㆓大損㆒。❷明、趙勝（10－37171・・226）の名。

【大飧】1486 タイソン　大いに飯を食べる。〔淮南子、詮言訓〕渴而飮㆑水、非㆑不㆑快也、飢而大飧、非㆑不㆑贍也。

【大遜】1487 タイソン　後漢、李充（6－14459・・432）の字。

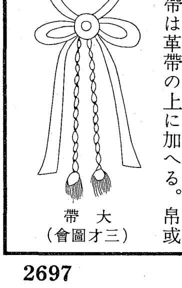
【大樽】1488 タイソン　❶大きなたる。おほだる。〔莊子、逍遙遊〕何不㆘慮以爲㆓大樽㆒而浮㆗乎江湖㆖。〔說苑、善說〕天下有㆓大樽㆒、而子獨不㆑酌焉。❷字號。㋑明、陳子龍（11－41698・・900）の號。㋺清、秦朝釪（8－24995・・249）の字。

〖大樽瀑〗1489 ミノリノタキ　土佐國に在る瀑の名。

【大儺】1493 タイナ タイダ　❶臘（冬至後の第三の戌の日）の前一日に行ふ疫拂。又、それを行ふこと。おにやらひ。古、方相氏の職。大難（1822）の❷に同じ。〔周禮、夏官、方相氏、疏〕季冬云、命㆓有司㆒大儺。〔後漢書、禮儀志中〕季冬之月、星廻歲終、陰陽以交、勞㆑農大享、臘、先㆑臘一日大儺、謂㆓之逐疫㆒。其儀選㆓中黃門子弟年十歲以上十二以下百二十人㆒爲㆓侲子㆒、皆赤幘皁製執㆓大鼗㆒、方相氏黃金四目蒙㆓熊皮㆒、玄衣朱裳、執㆑戈揚㆑盾、十二獸有㆑衣㆓毛角㆒、中黃門行㆑之、冗從僕射將㆑之、以逐㆓惡鬼于禁中㆒、夜漏上㆑水、朝臣會、侍中尙書御史謁者虎賁羽林郞將執㆑事、皆赤幘陛衞、乘輿御㆓前殿㆒、黃門令奏曰、侲子備、請逐㆑疫、於㆑是中黃門倡、侲子和曰、甲作食㆑殈、胇胃食㆑虎、雄伯食㆑魅、騰簡食㆓不祥㆒、攬諸食㆑咎、伯奇食㆑夢、強梁祖明共食㆓磔死寄生㆒、委隨食㆑觀、錯斷食㆑巨、窮奇騰根共食㆑蠱、凡使㆔十二神追㆓惡凶㆒、赫㆓女軀㆒、拉㆓女幹節㆒、解㆓女肉㆒、抽㆓女肺腸㆒、女不㆓急去㆒、後者爲㆑糧、因作㆘方相與㆓十二獸㆒儛㆖、嚾呼周徧、前後省㆔過、持㆓炬火㆒送㆑疫出㆓端門㆒、門外騶騎傳㆑炬、出㆓宮司馬闕門㆒、門外五營騎士傳㆑火、棄㆓雒水中㆒。〔張衡、東京賦〕爾乃卒歲大儺、毆㆓除羣癘㆒。❷我が國で、古昔、十二月晦日の禁中の追儺に、陰陽師が祭文を讀み終はつたとき、黃金の四目の假面を被り、玄衣・朱裳を著、右に戈、左に楯を執り、儺聲をなし、戈で楯を擊つて惡鬼を逐ふ役をなす者をいふ。大舍人の身體の長大なものを選んで之に當てる。儺長。方相氏。〔儀式、十、十二月大儺儀〕陰陽師進讀㆓祭文㆒、其詞曰、云云、挾㆓奸心㆒氐留里加久良波、大儺公小儺公、持㆓五兵㆒氐追走、刑殺會登聞食登詔。

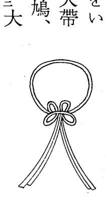
【大岱】1494 オホヌタ　武藏國の地名。

【大帶】1495 ダイタイ オホオビ　祭服をつける時の大きな帶。祭服に帶びるに革帶・大帶の二つがあつて、革帶は佩韍に繫ぎ、大帶は革帶の上に加へる。帛或は素・練を合せて爲り、朱緑の飾をつけ、長



大帶（三才圖會）

く前に垂れる紳をいふ。〔說文〕鞶、大帶也。〔詩、曹風、鳲鳩〕其帶伊絲、箋〕謂二大帶一也。〔禮、雜記上〕朱綠帶、申二加大帶於上一。〔左氏、桓、二〕鞶厲游纓、注〕鞶、紳帶也、一名、大帶。〔論語、衞靈公〕子張書二諸紳一、集解〕紳、大帶也。〔國語、魯語下〕卿之內子爲二大帶一。〔注〕大帶、緇帶也。〔晏子、重而異者〕大帶重半鈞。〔大戴禮、五帝德〕黃帝、黼黻衣、大帶黼裳。


大帶（三禮圖）

【大隊】1496 ダイ タイ ❶多人數で組織した部隊。〔全唐詩話〕司空圖詩、嶽前大隊赴二淮西一。❷宋代、五中隊を以て一大隊とした。〔宋史、兵志九〕李靖以二五十人一爲二一隊一、每二三人一自相得者、結爲二一小隊一、合二三小隊一爲二一中隊一、合二五中隊一爲二一大隊一。❸我が國舊陸軍の軍隊編成の名。步兵四箇中隊、機關銃一中隊、步兵砲一中隊から成る。

【大對】1497 ダイ タイ 天子の問にこたへること。〔漢書、董仲舒傳〕桓公決二疑於管仲一、寡人決二疑於君一、仲舒對曰、臣愚不レ足三以奉二大對一。

【大對漁船】1498 ta^4 tuei^4 yü^2 ch'uan^2 漁舟二隻を一對とし、袋狀の網三四張づつを備へて漁る舟。浙江の沿海で行はれてゐるもの。

【大腿】1499 ダイ タイ 脚の上部の稱。ふともも。臗部と膝部との閒の部分。下腿に對する語。〔正字通〕腿、俗謂二股大腿・髀小腿一。〔朱震亨心法、腳氣〕有三筋動二於足一、大指上至二大腿一、近レ腰結了。

【大腿筋】1500 ダイタイ キン ふとももの筋肉。

【大腿骨】1501 ダイタイ コツ 股の骨。

【大腿根】1502 ta^4 t'uei^3 ken^1 太股（フトモモ）のつけね。

【大憝】1503 ダイ タイ 非常なわるもの。大惡。憝は惡。〔書、康誥〕元惡大憝、矧惟不孝不友。〔傳〕大惡之人、猶爲三人所二大惡一。〔後漢書、楊秉傳〕元惡大憝、終爲二國害一。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕元惡大憝、必當二梟夷一。

【大戴】1504 ダタイ ダイタイ 漢の戴德をいふ。從兄の子の戴聖を小戴といふに對す。〔漢書、儒林傳〕戴德號二大戴一、爲二信都大傅一、戴聖號二小戴一、以二博士一論二石渠一、至二九江太守一、由レ是禮有二大戴・小戴・慶氏之學一。〔文中子、天地〕大戴小戴、禮之衰也。〔注〕二戴因二曲臺記一、論二於石渠一、成二禮記一、戴德號二大戴一、戴聖號二小戴一。

【大戴記】1505 ダタイ キ 大戴禮を見よ。

【大戴禮】1506 ダタイ レイ 書名。前漢、戴德撰。漢が興つてから魯の高堂生が士禮十七篇を傳へたが、後、宣帝の時に至り、后蒼は禮に明通して之を梁の人戴德、其の從兄の子戴聖、及び沛の人慶普に傳授し、是に於て禮に大戴・小戴・慶氏三家の學が起つた。此の二戴の傳へた學問が、一つは戴德の大戴禮となり、一つは戴聖の小戴禮となつた。今日の禮記は此の小戴禮である。而して大戴禮の成立に就いては數說がある。其の一は經典釋文敍錄の說で、晉の陳邵の周禮論序を引き、戴德が古禮二百四篇を刪取して八十五篇としたものといふ。其の所謂古禮二百四篇とは陳壽祺の左海經辨によると、漢書藝文志の記一百三十一篇と、明堂陰陽三十三篇・王史氏二十一篇・樂記二十三篇・孔子三朝記七篇を合せて二百十五篇、其の中、樂記の記に重複するもの十一篇を除いて二百四篇といふ。其の二は隋書經籍志に說く所で、劉向が經籍を考校した際、禮一百三十篇を檢得し、第に由つて敍し、又、明堂陰陽記三十三篇・孔子三朝記七篇・王史氏記二十一篇・樂記二十三篇の五種、合せて二百十四篇を得、戴德が之を刪略して八十五篇としたといふ。其の三は初學記の說で、后蒼曲臺記一百八十篇を戴德が刪略したものといふ。今本は一から三十八に至る三十八篇と、四十三から四十五に至る三篇及び六十一篇、及び八十二篇から終に至る四篇とを缺く。又、二つの七十三篇があるが、舊闕によつて之を錄したものである。その篇目は、主言第三十九・哀公問五義第四十・哀公問於孔子第四十一・禮三本第四十二・禮察第四十六・夏小正第四十七・保傅第四十八・曾子立事第四十九・曾子本孝第五十・曾子立孝第五十一・曾子大孝第五十二・曾子事父母第五十三・曾子制言第五十四・五十五・五十六、曾子疾病第五十七・曾子天圓第五十八・武王踐阼第五十九・衞將軍文子第六十・五帝德第六十二・帝繫第六十三・勸學第六十四・子張問入官第六十五・盛德第六十六・明堂第六十七・千乘第六十八・四代第六十九・虞戴德第七十・誥志第七十一・文王官人第七十二・諸侯遷廟（諸侯釁廟）第七十三・小辨第七十四・用兵第七十五・少閒第七十六・朝事第七十七・投壺第七十八・公府第七十九・本命第八十・易本命第八十一。〔四庫提要、經、禮類〕。

『參考書』【大戴禮記注】十三巻 後周、盧辯撰。〔四庫提要、經、禮類〕。【夏小正戴氏傳】四巻 宋、傅崧卿撰。〔四庫提要、經、禮類〕。【大戴禮記補注】敍錄一巻・十三巻 清、孔廣森撰。〔皇清經解、第一百九十五・一百九十六冊〕。【大戴禮記解詁】敍錄一巻・十三巻 清、王聘珍撰。〔廣雅叢書、第六〇—六二冊〕。【大戴禮刪翼】四巻 清、姜兆錫撰。〔四庫提要、經、禮類存目〕。【夏小正注】一巻 清、黃叔琳撰。〔四庫提要、經、禮類存目〕。【夏小正詁】一巻 清、諸錦撰。〔四庫提要、經、禮類存目〕。【夏小正解】一巻 清、徐世溥撰。〔四庫提要、經、禮類存目〕。【夏小正考注】一巻 清、畢沅撰。〔經訓堂叢書、第三冊〕。【大戴禮記注補】十三巻 清、汪照撰。〔皇清經解續編、第一百九十・一百九十一冊〕。【夏小正疏義】四巻 清、洪震煊撰。〔皇清經解、第三百三十五冊〕。【曾子注釋】四巻 清、阮元撰。〔皇清經解、第二百十六・二百十七冊〕。

【大體】1507 ダイタイ タイテイ ❶おほよそ。あらまし。大局。〔禮、喪服四制〕凡禮之大體、體二天地一、法二四時一、則二陰陽一、順二人情一、故謂二之禮一。〔荀子、天論〕貫二之大體一、未二嘗亡一也。〔韓非子、姦劫弒臣〕凡人之大體、取舍同者則相是也、取舍異者則相非也。〔淮南子、汎論訓〕觀二小節一、足三以知二大體一。〔史記、平原君傳贊〕平原君、翩翩濁世之佳公子也、然未レ睹二大體一。〔漢書、鼂錯傳〕明二於國家之大體一。〔漢書、丙吉傳〕掾吏廼服、以三吉知二大體一。〔淮南子、人閒訓〕是故見二小行一、則可三以論二大體一矣。〔後漢書、袁紹傳〕袁紹不レ達二大體一。〔魏志、陳嬌傳〕操二綱領一、擧二大體一。❷大きなかたち。〔淮南子、氾論訓〕夫牛蹏之涔、不レ能レ生二鱣鮪一、而蜂房不レ容二鵠卵一、小形不レ足三以包二大體一也。❸完全であること。素朴をいふ。〔莊子、天下〕後世之學者、不幸不レ見二天地之純、古人之大體一、道術將下爲二天下一裂上。〔疏〕天地之純、無爲也、古人大體、朴素也。❹大きな體軀をいふ。おほがら。〔周禮、考工記、梓人〕厚脣弇口、出目短耳、大胷燿後、大體短脰、若レ是者、謂二之羸屬一。❺心をいふ。耳目を小體といふに對す。〔孟子、告子上〕從二其大體一爲二大人一、從二其小體一爲二小人一。〔注〕大體、心也、小體、耳目之類也。❻韓非子の篇名。

【大體雙】1508 ダイ タイサウ 五代、南漢の劉鋹が惡少年と雛宮人とを配して遊ばせた遊び。〔清異錄、君道、大體雙〕劉鋹昏縱角出、得二波斯女一、年破瓜、黑腯而慧豔善淫、曲二盡其妙一、鋹嬖レ之、賜二號媚豬一、延二方士一求二健陽法一、久乃得二多多益辦一、好觀二人交一、選二惡少年一、配以二雛宮人皆妖俊美健者一、就二後園一褫レ衣使二露而偶一、鋹扶二媚豬一巡行覽玩、號曰二大體雙一、又擇レ新採レ異、與二媚豬一對、鳥獸見レ之熟、亦作レ合。

【大大】1509 ダイ ダイ ❶甚だ大きなこと。〔孔叢子、嘉言〕夫以二少少之衆一、能立二大大之功一、唯君爾。❷長姉をいふ。字解の❸を見よ。❸ta^4 ta^4 ㋑母の兄の妻。伯母。㋺小母さん。子供が年長の婦人を呼ぶ稱。

【大大咧咧】1510 ta^4 ta^4 lieh^1 lieh^1 大手を振つて。

【大臺】1511 ダイ ダイ 漢の上林苑中の館の名。〔漢書、王莽傳下〕壞二徹城西苑中、建章・承光・包陽・大臺・儲元宮、及平樂・當路・陽祿館凡十餘所一。〔注〕師古曰、自二建章一以下至二陽祿一、皆上林苑中館。

【大刀】1512 ダイ タウ 大きな刀、或は薙刀。おほたち。大劍。〔經國雄略〕大刀柄長五尺、帶二刀纂一共長七尺五寸、方可二大敵一、名爲二柳葉刀一、連レ柄共重五斤官秤。

【大刀魚】1513 タチ ウヲ 魚の名。刀魚。太刀魚。〔柏如亭、大刀魚詩〕折レ刀百萬沈レ沙去、一夜東風盡作レ刀。

【大刀會】1514 ダイタウ クワイ 清末以來の祕密結社的宗教。白蓮會の一派。光緒の末年、白蓮教から分れ、山東省の一部に行はれた。義和拳を練習し、會頭を劉士端・彰桂林・趙天吉といふ。光緒二十三年、山東兗州府の教會を燒いて獨逸人宣教師二名を殺し、爲に獨逸の膠州灣占領となつた。

其の後、土匪・軍隊に對する自衞・反抗機關となり、山東人の滿州流入と共に大刀會も滿州に行はれるに至つた。

【大刀頭】1515 ダイタウトウ　還るといふ隱語。大刀頭は刀頭に同じで、刀劍の頭の環をいひ、環は還と音が相通ずるからいふ。〔古絕句〕藁砧今何在、山上更有㆑山、何當㆓大刀頭㆒、破鏡飛上㆑天。〔樂府解題〕大刀頭者、刀頭有㆑環也、何當㆓大刀頭㆒者、何日當㆑還也。〔高適、送㆔劉評事充㆓朔方判官㆒賦㆓得征馬嘶㆒詩〕贈㆑君從㆑此去、何日大刀頭。

【大刀長槍】1516 ダイタウチヤウサウ　長柄の大刀と長柄のやり。〔六部成語、兵部、大刀長槍、注解〕長柄的大刀、長柄的札槍、皆上陣之利器、古時頗用㆑之、近日火器盛行、此物不㆑用。

【大唐】1517 ダイタウ　㊀唐の美稱。大唐中興頌を見よ。㊁堯を稱へた歌。一に大章に作る。〔尙書大傳、虞夏傳〕維五祀定㆓鐘石㆒論㆓人聲㆒、乃及㆓篤獸㆒、咸變㆓於前㆒、秋養㆑耆而春食㆓孤子㆒、乃浡然招㆑樂、興㆓於大鹿之野㆒、報㆑事還歸、二年、諓然乃作㆓大唐之歌㆒。〔注〕大唐之歌、美㆓堯之禪㆒也。〔文心雕龍、明詩〕堯有㆓大唐之歌㆒、舜造㆓南風之詩㆒。

【大唐街】1518 ダイタウガイ　唐代、日本人が中國に渡つて留居した町をいふ。〔淥水亭雜識〕日本、唐時始有㆓人往㆑彼而留居者㆒、謂㆓之大唐街㆒。

【大唐米】1519 ダイタウマイ　稻の一種。あかごめ。赤米。〔雍州府志、六、土產門、上、雜穀〕其外皮帶㆓赤色㆒、比㆓白米㆒則風味爲㆑劣、謂㆓大唐米㆒則謬也、中華書稱㆓大冬米㆒。

【大唐應運】1520 ダイタウオウウン　瑞應山の柴の中にあつた、唐の興るべきことを豫言した未來記。〔海錄碎事、帝王、祥瑞〕瑞應山在㆓合州㆒、舊經云、隋義寧元年、有㆓工人㆒、於㆓其上㆒採㆑柴、中有㆑文云、大唐應㆑運、刺史陳華奏聞、因名㆓瑞應山㆒。

【大唐新語】1521 ダイタウシンゴ　書名。十三卷。唐、劉肅撰。一名、續世說。武德の初から大曆の末までの人物を匡贊・規諫・極諫・剛正・公直・淸廉・持法・忠烈・節義・孝行・友悌・擧賢の十二門に分けて記載したもの。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【大唐傳載】1522 ダイタウデンサイ　書名。一卷。撰者未詳。唐の武德から元和に至る迄の雜事、殊に公卿の言行を多く記したもので、新唐書に採用せられた。詼嘲瑣語に富み、小說の本色をなす。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【大唐六典】1523 ダイタウリクテン　唐六典（**2**—**3709**‥530）を見よ。

【大唐開元禮】1524 ダイタウカイゲンレイ　書名。百五十卷。唐、蕭嵩等奉敕撰。吉凶軍賓嘉の五禮の分類に從つて唐代の制度を集めたもので、杜佑の通典は多くこれによる。〔四庫提要、史、政書類〕。

【大唐西域記】1525 ダイタウセイヰキキ　書名。十二卷。唐、僧玄奘述、僧辯機撰。玄奘が印度に遊んだ時に經過した百四十一國の風俗・衣服・地理・物產等の梗概を記す。大藏經の中に收む。參考すべきものに、淸の丁謙の大唐西域記地理攷證一卷、及び羽田亨編の大唐西域記附考異索引がある。〔四庫提要、史、地理類〕。

【大唐中興頌】1526 ダイタウチユウコウシヨウ　唐、元結撰。唐の肅宗皇帝が安祿山の亂を平げて中興した功業を頌した文。顏眞卿に命じて書かせ、永州浯溪の崖石の面に彫つたのを磨崖碑といふ。〔元結、大唐中興頌幷序〕天寶十四年、安祿山陷㆓洛陽㆒、明年、陷㆓長安㆒、天子幸㆑蜀、太子卽㆓位於靈武㆒、明年、皇帝移㆓軍鳳翔㆒、其年、復㆓兩京㆒、上皇還㆓京師㆒、於戲前代帝王、有㆓盛德大業㆒者、必見㆓於歌頌㆒、若㆘今歌㆓頌大業㆒刻㆗之金石㆖、非㆑老㆓於文學㆒、其誰宜㆑爲、頌曰、噫嘻前朝、孼臣姦驕、爲㆑昏爲㆑妖、邊將騁㆑兵、毒㆓亂國經㆒、羣生失㆑寧、大駕南巡、百僚竄㆑身、奉㆑賊稱㆑臣、天將㆑昌㆑唐、繄睨㆓我皇㆒、匹馬北方、獨立一呼、千麾萬旗、戎卒前驅、我師其東、儲皇撫㆑戎、蕩㆓攘羣兇㆒、復服指㆑期、曾不㆑踰㆑時、有㆑國無㆑之、事有㆓至難㆒、宗廟再安、二聖重歡、地闢天開、蠲㆓除妖災㆒、瑞慶大來、兇徒逆儔、涵㆓濡天休㆒、死生堪㆑羞、功勞位尊、忠烈名存、澤流㆓子孫㆒、盛德之興、山高日昇、萬福是膺、能令㆓大君、聲容沄沄㆒、不㆑在㆓斯文㆒、湘江東西、中直㆓浯溪㆒、石崖天齊、可㆑磨可㆑鐫、刊㆓此頌㆒焉、何千萬年。

【大唐刱業起居注】1527 ダイタウサウゲフキキヨチユウ　書名。三卷。唐、溫大雅撰。唐の高祖が起つてから卽位に至る迄㆓三百五十七日間のことを記す。事に據つて直書し、粉飾するところ無く、唐史の缺誤を補ふことが出來る。〔四庫提要、史、編年類〕。

【大唐大慈恩寺三藏法師傳】1528 ダイタウダイジオンジサンザウホフシデン　書名。十卷。唐、慧立本撰。唐の沙門玄奘の記傳。前半は唐代に於ける西域印度を記し、後半は法師譯經の事業を記す。

【大島】1529 ダイタウ　大いき島。おほしま。〔歐陽脩、日本刀歌〕傳聞其國居㆓大島㆒、土壤沃饒風俗好。

【大島半隱】1530 オホシマハンイン　越前の人。名は良施。通稱は四郎五郎・四郎左衞門。號は半隱・養正。官は仙臺藩儒。經學は程朱を主とす。寶永元年九月二十二日歿す、年七十。著に半隱遺稿がある。〔仙臺史傳〕。

【大島芙蓉】1531 オホシマフヨウ　甲斐の人。名は孟彪。字は孺皮。通稱は逸記。號は芙蓉。官は宍戸藩儒。學に常師なく、專ら漢魏の傳注を以て經義を講習す。又、說文に刻意し、尤も音韻に精通す。天明四年四月四日歿す、年六十三。著に游襄日記・印章例考・漢篆千字文・据印叢稿・古今印選・古今公私印記・采眞印譜・中岳稿・篆原・芙蓉編・芙蓉山人遺稿がある。〔先哲叢談〕・〔近代著述目錄、後篇〕。

【大討】1532 ダイタウ　大いに誅伐する。又、盛なる誅伐。〔左氏、昭、七〕敝邑獲㆑戾、而豐氏受㆓其大討㆒。

【大陶】1533 ダイタウ　唐、唐甄（**2**—**3709**‥99）の本名。

【大湯】1534 ダイタウ　國家に大事件が起る兆。湯は、盪滌の意。〔漢書、天文志〕四星若㆑合、是謂㆓大湯㆒、其國兵喪並起。〔注〕晉灼曰、湯、猶㆓盪滌㆒也。

【大湯坐】1535 オホユヱ　㊀貴人の子の湯沐竝に生育に任ずる婦人中の主任者。これを介助するものを若湯坐（ワカユヱ）といふ。〔古事記、中〕取㆓御母㆒、定㆓大湯坐・若湯坐㆒、宜㆓日足奉㆒。㊁姓氏。〔姓名錄抄〕。

【大盜】1536 ダイタウ　おほぬすびと。國を奪ふもの。大賊。〔莊子、盜跖〕小盜者拘、大盜者爲㆓諸侯㆒。〔莊子、胠篋〕聖人不㆑死、大盜不㆑止。〔後漢書、光武紀贊〕炎正中微、大盜移㆑國。

【大塘】1537 ダイタウ　㊀春秋の時、越の句踐が始めて義田としたところ。〔越絕書、越絕外傳、記地傳〕富中大塘者、句踐治以爲㆓義田㆒、爲㆓肥饒㆒、謂㆓之富中㆒。㊁縣名。民國、置く。淸初の定番州大龍司の地。貴州省に屬す。㊂オホドモ　肥後國の地名。

【大塘隘】1538 タイタウアイ　街道の名。雲南省騰衝縣の北、龍川江の上流の東岸。騰越九隘の一。

【大塘墟】1539 タイタウキヨ　地名。㊀廣東省三水縣の北。㊁廣東省台山縣の東北江の左岸。水道の要衝。㊂廣西省北流縣の西。鬱林縣の界に接す。

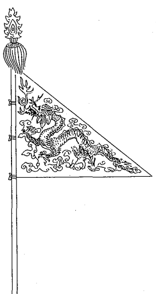
【大當】1540 ダイタウ　㊀大いに和同し調和すること。陰陽が調和し四時の氣候が順調で、豐作和平であることにいふ。〔禮、樂記〕子夏對曰、夫古者天地順而四時當、民有㆑德而五穀昌、疾疢不㆑作而無㆓妖祥㆒、此之謂㆓大當㆒。㊁星の名。〔太平御覽、天部、星樂汁圖〕鉤陳、後宮也、大當、正妃也。〔注〕大當、鉤陳末大星也。

【大當戶】1541 ダイタウコ　匈奴の官號。〔史記、匈奴傳〕左右大都尉・左右大當戶。

【大椿】1541′ ダイタウ　大きなくひ。〔福惠全書、庶政部、河隄歲修〕大椿厚笆、深釘密攔。

【大鼗】1542 ダイタウ　大きな振りつづみ。〔後漢書、禮儀志中〕其儀選㆓中黃門子弟年十歲以上十二以下百二十人㆒爲㆓侲子㆒、皆赤幘皁製、執㆓大鼗㆒。

【大纛】1543 ダイタウ　㊀節度使が樹てて行く旗。〔歐陽脩、晝錦堂記〕高牙大纛、不㆑足㆑爲㆓公榮㆒。㊁天子のみはた。天皇旗。



黃龍大纛
（淸會典圖）

【大堂】1544 ダイダウ　㊀大きな堂。〔北史、眞臘國傳〕城中有㆓一大堂㆒、是其王聽㆑政所。㊁官衙の正中にある堂。長官の居所。又、淸代には、各部の尙書を大堂といつた。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕至㆓川堂或大堂右側㆒。

【大道】1545 タイダウ ダイダウ　㊀大きな道路。幅の廣い道路。大塗。〔列子、說符〕大道以㆓多岐㆒亡㆑羊、學者以㆓多方㆒喪㆑生。〔淮南子、原道訓〕大道坦坦。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕俱會㆓大道口㆒。〔儲光羲、洛陽道〕大道直如㆑髮、春日佳氣多。㊁天地の理法

に本づく人類の大道。人の踐み行ふべき道。大法。大儀。大閑。大塗。大經。大象。大分。〔禮、禮運〕大道之行也、天子爲レ公、選レ賢與レ能、講レ信修レ睦。〔左氏、哀、六〕楚昭王知二大道一矣、其不レ失レ國也宜哉。〔孟子、滕文公下〕居二天下之廣居一、立二天下之正位一、行二天下之大道一。〔法言、問道序〕芒芒大道、昔在聖考、過則失レ中。〔漢書、董仲舒傳〕欲レ聞二大道之要、至論之極一。〔張喬、寄二山僧一詩〕大道本來無レ所レ染。❸宇宙の本體。〔老子、三十四〕大道氾兮、其可二左右一、萬物恃レ之、而生而不レ辭。〔莊子、天下〕大道能包レ之、而不レ能レ辯レ之。❹正しい道。正しい方法。大方。見レ笑二大方一(1880)を見よ。〔大學〕生レ財有二大道一。〔史記、孟軻傳〕然後引二之大道一。❺尹文子の篇名。❻ta^4 tao^4 おきやん。おてんば。

【大道曲】1546（ダイダウキョク） 樂府雜曲の歌辭。〔樂府詩集、雜曲歌辭、大道曲〕樂府廣題曰、謝尙爲二鎭西將軍一、嘗著二紫羅襦一、據二胡床一、在二市中佛國門樓上一、彈二琵琶一作二大道曲一、市人不レ知二是三公一也。〔謝尙、大道曲〕青陽二三月、柳青桃復紅、車馬不二相識一、音落二黃埃中一。

【大道具】1547（オホダウグ） 劇場の舞臺を飾附けるに用ひる、比較的大型の道具。小道具(4－7473‥868)の❶の對。その飾附けをする者を大道具方といふ。

【大道藝】1548（ダイダウゲイ） 路傍などで演ずる藝。

【大道店】1549（ダイダウミセ） 路傍に設けた店。露店。

【大道不レ器】1550（タイダウハキナラズ） 大道の作用は非常に大きく、行くとして可ならざるなく、一二の限られたことに役立つのみではない。〔禮、學記〕大德不レ官、大道不レ器。

【大道不レ稱】1551（タイダウハショウセラレズ） 眞の大道は言葉で説明することはできない。〔莊子、齊物論〕大道不レ稱、大辯不レ言、大仁不レ仁。

【大道或問】1552（ダイダウワクモン） 書名。一卷。平田篤胤撰。我が國が萬國に勝れて尊い所以、儒學佛教の惡い所以、俗神道は鈴振神道乞食神道である事、臣民の道を四つに分つて皇國の神髓を説いたもの。〔平田篤胤雜著、第四十一冊〕。

【大道廢有二仁義一】1553（タイダウスタレテジンギアリ） 上古、大道が行はれた時には仁義などは必要もなかつたが、後世、大道が行はれなくなつてから、仁義の德が必要となり、提唱せられるやうになつた。老子が、儒教の仁義の教は天地自然の大道でないことを言つた語。〔老子、十八〕大道廢有二仁義一、慧智出有二大僞一、六親不レ和有二孝慈一、國家昏亂有二忠臣一。〔河上公注〕大道之時、家有二孝子一、戶有二忠信一、仁義不レ見也、大道廢不レ用、惡逆生、乃有三仁義可二傳道一。

【大道甚夷而民好レ徑】1553′（ダイダウハハナハダタヒラカナリシカルニタミハコミチヲコノム） 大道は甚だ平らかであるが、愚かな民は、とかく正道でない小路を好むものである。論語の行不レ由レ徑(10－34029‥540)と同意。〔老子、五十三〕使二我介然有レ知、行二於大道一、惟施是畏、大道甚夷、而民好レ徑。〔全解〕介然有レ知、猶レ言二微有レ智也、云云、有レ知、謂レ有二私智一也、云云、施卽池假借、云云、下文徑是也、言、人小有二私智一、則必與二大道一相違、動輒入二于邪迆之徑蹊一。

【大撓】1554（タイダウ） 上古の人。黃帝の師となり、又、始めて甲子を作り干支を配した人。大橈。〔呂覽、尊師〕黃帝師二大撓一。〔注〕大撓作二甲子一。〔帝王世紀〕黃帝命二大撓一作二甲子一。〔蔡邕、月令章句〕大撓作二甲乙一以名レ日、謂二之幹一、子丑以名レ辰、謂二之枝一。

【大橈】1555（タイダウ） 上古の人。大撓に同じ。〔呂覽、勿躬〕大橈作二甲子一。〔後漢書、律曆志上〕大橈作二甲子一。〔注〕呂氏春秋曰、黃帝師二大橈一。

【大宅】1556（タイタク） ❶大きな邸宅。〔史記、荊燕世家〕假二大宅一。〔吳志、是儀傳〕儀鄰家有下起二大宅一者上、權出望見、問下起二大室一者誰上。〔白居易、凶宅詩〕長安多二大宅一。❷天地をいふ。〔後漢書、馮衍傳〕游二精神於大宅一兮、抗二玄妙之常操一。〔注〕大宅、謂二天地一也。❸顏をいふ。〔黃庭經、靈宅既淸玉帝遊、梁丘子注〕面爲二靈宅一、一名二大宅一。〔枚乘、七發〕陽氣見二於眉宇之閒一、浸淫而上、幾滿二大宅一。〔注〕良曰、大宅、謂レ面也。❹（オホヤケ）㋑山城國の地名。㋺姓氏。〔日用重寶記〕。

【大澤】1557（ダイタク） ❶大きな澤。大沛。澤は、湖沼地帶。〔周禮、地官、澤虞〕每二大澤大藪一、中士四人、下士八人。〔禮、王制〕名山大澤不二以封一。〔左氏、襄、二十一〕深山大澤、實生二龍蛇一。〔吳子、應變〕深山大澤。〔漢書、高帝紀上〕嘗息二大澤之陂一。❷澤の名。〔淮南子、墬形訓〕自二東北方一曰二大澤一、曰二無通一。〔注〕大澤・無通、皆藪名也。❸大きな恩惠。天子のめぐみにいふ。〔禮、祭統〕是故上有二大澤一、則惠必及レ下。〔司馬相如、封禪文〕詩二大澤之博一、廣二符瑞之富一。〔注〕翰曰、詩者、歌二詠美德一也、大澤、謂二天子之惠澤一。

【大澤鄉】1558（ダイタクキャウ） 地名。安徽省宿縣の西南、故蘄縣の西。〔史記、陳涉世家〕二世元年七月、發二閭左一戍二漁陽一、九百人屯二大澤鄉一。〔元和志〕蘄縣有二大澤鄉一、陳涉起レ兵時、夜篝火、爲二狐鳴於此一。

【大澤礨空】1559（ダイタクライクウ） 大きな澤と小さいあな。大小の甚しくかけ離れた喩。礨空は蟻穴。〔莊子、秋水〕計三四海之在二天地之閒一也、不レ似三礨空之在二大澤一乎、計三中國之在二海內一、不レ似三稊米之在二大倉一乎。〔疏〕礨空、蟻穴也。

【大鐸】1560（オホヌデ） 讚岐國の地名。

【大諾】1561（ダイダク） 公文書の終に「行」といふ字を書いて承認の意を示すこと。畫行。〔南史、陳伯之傳〕伯之不レ識レ書、得二文牒辭訟一、惟作二大諾一而已。

【大達】1562（ダイタツ） 唐、端甫(8－25806‥174)の諡。

【大塔】1563（ダイタフ） ❶眞言宗の七堂の一。〔本阿彌行狀記、下、七堂伽藍〕眞言、金堂・講堂・灌頂堂・大師堂・經堂・大塔・五重塔。❷山城國比叡山の中央の大塔。❸（オホタフ）大和國の地名。

【大塔宮】1564（ダイタフノミヤ） 天台座主たる皇族の稱號。又、特に護良親王の御稱號。〔日本政記、後醍醐天皇〕令三護良削レ髮號二尊雲一、補二叡山座主一、因結二僧徒心一、居二大塔一、世稱二大塔宮一。

【大袒】1565（ダイタン） 大はだをぬぐ。〔柳宗元、獻下平二淮夷一雅上表〕士獲二厥心一、大袒高驤。

【大端】1566（ダイタン） ❶大きな端緒。〔禮、禮運〕飮食男女、人之大欲存焉、死亡貧苦、人之大惡存焉、故欲惡者、心之大端也、云云、故禮義也者、人之大端也。〔疏〕端、謂二頭緖一。〔陸機、豪士賦序〕惡欲之大端、賢愚所二共有一。❷あらまし。大體。大概。〔後漢書、隗囂傳〕今略擧二大端一、以喩二吏民一。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕此說雖レ未二必盡然一、大端良惡、亦自可レ見。❸唐、殷聞禮(6－16627‥211)の字。

【大潭】1567（ダイタン） 城の名。福建省建陽縣治。〔吳志、賀齊傳〕賊洪明、云云等五人、率二各萬戶一、連二屯漢興一、吳五六千戶、別屯二大潭一。〔建陽縣志〕縣舊治在二縣南一、晉太元中、移二於縣東北一、唐嗣聖中、又移二治今所一、卽大潭城、吳五所レ屯、相傳、古閩越王築二城於此一以拒レ漢、下瞰二溪潭一、因名。

【大膽】1568（ダイタン） ❶大きな膽。物に臆せぬ心。又、膽力の大きいこと。物事に臆せぬこと。度胸のあること。〔列仙傳、拾遺〕赳赳武夫、公侯干城、謂二大膽一也。〔蘇軾、木山詩〕阿咸大膽忽持去、河伯好事不二汝尤一。❷あつかましいといふ意から、他人への挨拶に用ひる。あつかましいが御免なさいの意。〔水滸傳、二十四回〕王婆只張二武大出去一了、便走二過後頭一來叫道、娘子、老身大膽。❸圖太いこと。横着なこと。〔春色辰巳園、四、七條〕おめへのやうに他の亭主を盜む大膽はしねへよ。

【大灘】1569（ダイタン） 灘の名。江西省永新縣の東、馬頰山の下。江の廣さは半里許りあるが、舟を容れ得る澗隙は僅かに數尺に過ぎぬ。この下流に木黃灘・魚矢灘・畫角灘があつて、四灘が相連なり三十餘里に亘る。

【大男】1570（ダイダン） ❶成年の男子。〔管子、海王〕百口之家、百人食レ鹽、終月、大男食二鹽五升少半一。❷長子をいふ。長男。〔金石稱例、二〕長子稱二大男一、漢郎中鄭固碑序、先レ是、君大男孟子、有二揚烏之才一也。〔杜甫、遭三田父泥飮美二嚴中丞一詩〕回レ頭指二大男一、渠是弓弩手。

【大男小女】1571（ダイダンセウヂョ） 長男と幼い女の子。〔通俗編、倫常、大男小女〕草木子、載下呂思誠寄レ內詩、少米無レ柴休二懊惱一、大男小女好看成上。

【大段】1572（ダイダン） おほむね。あらまし。〔王守仁、答二黃勉之一書〕來書云、韓昌黎博愛之謂レ仁一句、看來大段不レ錯。〔福惠全書、蒞任部、文移諸式〕稍有二不同一、而大段亦不レ過レ如レ是。

【大談】1573（タイダン） 大いに語る。〔後漢書、張衡傳〕方將下師二天老一而友二地典一、與レ之乎高睨而大談上。

【大壇】1574（タイダン） 天を祭る壇。泰壇。〔廣雅、釋天〕圜丘・大壇、祭レ天也、方澤・大折、祭レ地也。

【大檀】1575（ダイダン） 後魏の蠕蠕國の主。社崙の從弟。

初、西界に居たが、國人が之を立てて牟汗紇升蓋可汗と爲す。始光・神䴥の間、屢〻入寇す。北魏の太武帝が親ら之を討つたが利あらず、後、崔浩の計に從ひ、大擧して其の庭を襲ひ、栗水に至つた。是に於て大檀は西奔し、高車の諸部の邀擊に遇ひ、部落は四散し、自身は疾を發して死す。〔魏書、一百三〕・〔北史、九十八〕。

【大地】1576（タイチ ダイチ） ㊀土地。地上。輿地。全地。〔溫子昇、寒陵山寺碑〕高天銷二于猛炭一、大地淪二于積水一。〔李華、杭州開元寺新塔碑〕影入二淸江一、形鎭二大地一。〔中阿含經〕統二領大地一。㊁國家の領地。〔商子、農戰〕諸侯撓二其弱一乘二其衰一、大地侵削而不レ振、則無レ及已。

〖大地測量〗1577（ダイチソクリヤウ） 土地の測量。高等測量。

〖大地東川〗1578（オホチトウセン） 加賀の人。名は昌言。字は士兪・行甫。通稱は新八郎。號は東川・遜軒・毖齋・奚疑。室鳩巢の姪といふ。官は金澤藩儒。經學は程朱を宗とす。寶曆二年歿す、年六十。著に鳩巢文集(編輯)・義人錄後話・奚疑先生文集・奚疑齊文錄・毖齋先生詩草がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕・〔加越能書籍集覽〕。

【大池】1579（タイチ ダイチ） 大きな池。〔漢書、郊祀志下〕其北治二大池漸臺一、高二十餘丈、名曰二泰液一。

【大治】1580（タイチ ダイチ） ㊀大いにをさまる。よくをさまる。又、其のこと。〔禮、禮器〕聖人南面而立、而天下大治。〔新書、五美〕當時大治、後世誦レ聖、一動而五美附、陛下誰憚而久不レ爲二此五美一。〔漢書、劉向傳〕忠正無レ私、欲レ致二大治一。〔藝文類聚、十一〕河圖挺佐輔曰、黃帝修レ德立レ義、天下大治。㊁重大な政治。政治上の重大な事柄。〔周禮、地官、司市〕市師涖焉、而聽二大治・大訟一。㊂（タイチ）年號。㋑元末明初、越(安南)の裕宗、陳皥の時。一に太治に作る。(1358－1369)㋺第七十五代崇德天皇の御代。(1126－1131)㊃（オホハル）尾張國の地名。

〖大治田〗1581（オバタ） 伊勢國の地名。

【大知】1582（タイチ） ㊀大きな知識。すぐれた知識、或は智慧。又、其の人。〔中庸〕子曰、舜其大知也與。〔莊子、逍遙遊〕小知不レ及二大知一、小年不レ及二大年一。〔莊子、齊物論〕大知閑閑、小知閒閒。〔法言、問明〕師之貴也、知二大知一也。㊁大いに知る。〔新書、修政語、上〕然可二以小見一、而不レ可二以大知一。

【大致】1583（タイチ） おほむね。大概。大體のおもむき。〔後漢書、袁安傳論〕雖二有レ不レ類、未レ可二致詰一、其大致歸然矣。〔晉書、劉卞傳〕與二刺史箋一、久不レ成、卞敎レ之數言、卓犖有二大致一。

【大恥】1584（タイチ ダイチ） 大きな恥辱。大醜。〔左氏、昭、五〕奮二其武怒一、以報二其大恥一。〔國語、晉語六〕晉國固有二大恥三一。〔史記、伍子胥傳贊〕棄二小義一雪二大恥一。

【大智】1585（タイチ ダイチ） ㊀すぐれた智慧。又、すぐれた智慧をもつてゐる人。〔荀子、天論〕大巧在レ所レ不レ爲、大智在レ所レ不レ慮。〔呂覽、樂成〕大智不レ形。㊁冠位十二階の第十一位。推古天皇十一年の制定。

〖大智之日〗1586（タイチノヒ） 日光。太陽。〔本朝文粹、十三〕嗟呼、寒二煖木於大智之日一。

〖大智如レ愚〗1587（タイチハグナルガゴトシ） 大智のある人は、こざかしく智慧を働かせないから、一見、愚者のやうに見える。〔蘇軾、賀二歐陽少師致仕一啓〕大勇若レ怯、大智如レ愚、至貴無二軒冕一而榮、至仁不二導引一而壽。

〖大智禪師〗1588（ダイチゼンジ） 唐の懷海(**4－11456**・・20)の謚。勅修百丈淸規八卷の著がある。

〖大智不レ智〗1589（ダイチハチナラズ） 大智のある人は、普通に所謂智者のやうには其の智を用ひない。〔六韜、武韜、發啓〕大智不レ智、大謀不レ謀。

〖大智不レ異レ愚〗1590（タイチハグニコトナラズ） 大智如レ愚(1587)に同じ。〔諸公和尙頌〕衆生與レ佛無レ殊、大智不レ異レ愚。

【大痴】1591（タイチ ダイチ） 大癡の㊀に同じ。

【大癡】1592（タイチ ダイチ） ㊀甚しい痴愚。おほたはけ。大馬鹿。大痴。〔北史、魏劉尼傳〕君大癡人。〔韓愈、送窮文〕凡我所レ爲、驅レ我令レ去二小黠大癡一。㊁元、黃公望(**12－47926**・・1089)の號。〔畫史〕黃公望、自號二大癡一。

〖大癡山人〗1593（ダイチサンジン） 元、黃公望(**12－47926**・・1089)の號。大癡の㊁を見よ。

【大呢】1594 ta^{4} ni^{2} 織目の細かい羅紗。

【大竹】1595（タイチク ダイチク） ㊀大きな竹。おほたけ。〔逸周書、王會解〕路人大竹。〔注〕路人、東方之蠻、貢二大竹一。〔荊州記〕臨賀東山中有二大竹一、數十圍、高亦數十丈、有二小竹一、生二其旁一、皆四五圍。㊁川の名。源は四川省城口縣の東南の篁墩山。西北流して縣の北を經、陝西省紫陽縣に至つて漢水に入る。㊂縣名。㋑唐、置き、元、廢す。故治は四川省渠縣の北。㋺を見よ。㋺漢の宕渠縣の地。南朝梁の鄰山縣、唐の潾山縣。元、大竹縣に併入す。大竹縣治を此處に移す、卽ち今の縣治。四川省に屬す。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、廣安州〕大竹縣、州東北一百六十里、漢宕渠縣地、唐久視元年、析二宕渠之東界一置二大竹縣一、以三地產二大竹一而名、屬二蓬州一、至德二載、改屬二潾山郡一、寶曆元年、省入二潾山縣一、五代唐、復置、宋景佑三年、省入二流江縣一、紹興三年、復置二大竹縣一。〔淸史稿、地理志〕四川、綏定府、縣六、大竹。

【大畜】1596（ダイチク） ㊀易の六十四卦の一。䷙（乾下艮下）。身に積み畜へた德の大きいことを示す。〔易、大畜〕大畜利レ貞、不二家食一吉、利レ涉二大川一。㊁大いにたくはへる。〔吳志、諸葛恪傳、注〕恪嘗獻二權馬一、先鑴二其耳一、范愼時在レ坐、嘲レ恪曰、馬雖二大畜一稟二氣於天一、今殘二其耳一、豈不レ傷レ仁。

【大築】1597（ダイチク） 大きな築。築は、土を擣いて堅くする器。〔呂覽、不屈〕或者操二大築乎城上一、或負レ畚而赴二乎城下一。

【大軸】1598（タイヂク） 一日の芝居の最後の一劇。大づめ。

【大長】1599（ダイチヤウ） 骨牌用語。二倍。〔紅樓夢、四十回〕鴛鴦又道、有二了一副一、左邊是個大長五。

〖大長秋〗1600（ダイチヤウシウ） 官名。漢、置く。皇后宮に附屬した官。宮中の宣命を掌る。秦の將行。〔漢書、百官公卿表上〕將行、秦官、景帝中六年、更二名大長秋一、或用二中人一、或用二士人一。

〖大長公主〗1601（ダイチヤウコウシユ） 天子の姑（ヲバ）。〔宋史、公主傳〕秦國大長公主、太祖同母妹也。〔文獻通考、帝系考、公主〕唐制、皇姑爲二大長公主一、後亦謂二之長長公主一、帝姊爲二長公主一、女爲二公主一、皆封レ國、視二正一品一、太子女爲二郡主一、封レ郡視二從一品一、親王女爲二縣主一、正二品。〔山堂肆考〕帝之姊妹、爲二長公主一、帝之姑、爲二大長公主一。

〖大長老夫〗1602（ダイチヤウラウフ） 首領の老人といふ意。〔史記、南越尉佗傳〕蠻夷大長老夫臣佗、前日高后隔二異南越一。

【大頂】1603（ダイチヤウ） 山の頂上。いただき。〔水滸傳、一回〕望二見大頂一、直侵二霄漢一。

【大漲】1604 ta^{4} chang^{3} 大暴騰。非常に高くなる。

【大腸】1605（ダイチヤウ） 小腸の下端から始まり、迂回して肛門に至る迄の腸。盲腸・結腸・直腸に分れ、不消化物を體外に排出する。〔白虎通、情性〕大腸・小腸。〔太平御覽、人事部、形態〕韓詩外傳曰、大腸、轉輸之府、小腸、受成之府。

【大賬】1606 ta^{4} chang^{4} 總決算。年末に行ふ勘定。

【大廳】1607（タイチヤウ） 大座敷。客間。〔全唐詩話、李約〕某所レ賞者疎野耳、若遠山將レ翠、幕遮二古松一、用二綵物一裹二羶腥一、涴鹿跑泉、音樂亂二山鳥聲一、此則實不レ如レ在二叔父大廳一也。

【大杖】1608（タイチヤウ） ㊀大きなむち。〔孔子家語、六本〕曾子耘レ瓜、誤斬二其根一、曾晳怒、建二大杖一以擊二其背一。〔太平御覽、皇王部、帝舜有虞氏〕帝王世紀曰、舜、姚姓也、云云、父頑母嚚、咸欲レ殺レ舜、舜能和諧、大杖則避、小杖則受。㊁隋の五刑の一で、杖刑の第一級刑。杖制(**6－14469**・・49)を見よ。〔隋書、刑法志〕杖皆用二生荊一、長六尺、有二大杖・法杖・小杖三等之差一。

〖大杖則走〗1609（タイチヤウナレバスナハチハシル） 孝子が親に叱責せられるとき、小杖は受けるが、大杖で打ち殺される樣な時には逃げて、親をして不義に陷らしめない。韓詩外傳卷八には、大杖則逃に作り、說苑、建本篇には大箠則走に作り、孔子家語、六本篇には大杖逃走に作る。〔韓詩外傳、八〕曾子有レ過、曾晳引レ杖擊レ之仆レ地、有レ閒乃蘇、起曰、先生得レ無レ病乎、魯人賢二曾子一以告二夫子一、夫子告二門人一、參來、汝不レ聞、昔者舜爲二人子一乎、小箠則待レ笞、大杖則逃、索而使レ之、未二嘗不一レ在レ側、索而殺レ之、未二嘗可一レ得、今汝委レ身以待二暴怒一、拱立不レ去、非二王者之民一、其罪何如。〔後漢書、崔實傳〕崔烈問二其子鈞一曰、吾居二三公一、於二議者一何如、鈞曰、論者嫌二其銅臭一、烈怒、擧レ杖擊レ之、鈞狼狽而走、烈罵曰、死卒、父檛而走、孝乎、鈞曰、舜之事レ父、小杖則受、大杖則走、非二不孝一也。

【大娘】1610（ダイヂヤウ） ㊀皇后。天子の妻。〔稱謂錄、天

子妻古稱、大娘〕韓魏公傳云、宮中稱二郭后一爲二大娘一、劉妃爲二小娘一、是皇家如レ是稱。㊂おかみさん。御內儀。大媽。大母。大娘子を見よ。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕曹大娘聽二見鑼響一。

〘大娘子〙1611 ta⁴ niang² tzŭ 奧樣。御內儀。おかみさん。〔水滸傳、三回〕他家大娘子、好生利害。

〘大娘婆〙1612 ta⁴ niang² p'o² 夫の父の兄の妻。伯母。

【大場】1613（タイチヤウ） 科擧の第二回及び第三回の試驗をいふ。〔日知錄、科擧、試文格式〕依二大場之式一、概下二二格一。

【大錠】1614（ダイチヤウ） 大銀。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕傾二銷大錠一、以防三駁二換責成一。

【大中】1615（タイチユウ ダイチユウ） ㊀大きくて此の上もない中正。又、その道。〔易、大有〕大中而上下應レ之。〔書、洪範〕五皇極、皇建二其有極一。〔傳〕大中之道、大立二其有中一。〔漢書、孔光傳〕大中之道不レ立、則咎徵薦臻。〔後漢書、周擧傳〕夙興夜寐、思レ協二大中一。〔柳宗元、懲咎賦〕求二大中之所レ宜。㊁明の太祖が國號を明と定める前に其の國に名づけようとした號。當時發行した錢に大中通寶がある。〔池北偶談〕明太祖建二國號一、意在二大中一、既而祈レ天、乃得二大明一、故當時錢文、有二大中通寶一。㊂唐の宣宗、李忱の年號。(847－860) ㊃宋、呂本中(2－3386··266)の原名。㊄明、柳僉(6－14662··160)の字。㊅（ウウチユン） 琉球の地名。

【大中黑】1616（オホナカグロ） ㊀紋所の名。丸に一引（ヒトツヒキ）の一種で、丸の輪郭を細く、一引きの部分を太く黑くしたもの。〔太平記、十四、竹下合戰事〕大中黑と二つ引兩と、二つの旗を入れかへ入れかへ。㊁矢羽の名。切生（キリフ）の一種。上下が白く、中ほどの大部分が黑いもの。〔保元物語、白河殿夜討〕二十四差したる大中黑の矢。

〘大中臣〙1617（オホナカトミ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

〘大中至正〙1618（タイチユウシセイ） 不偏不黨で、極めて公正であること。〔傳習錄、上〕不レ知先生居レ夷三載、處レ困養レ靜、精一之功、固已超二入聖域一、粹然大中至正之歸矣。

〘大中祥符〙1619（タイチユウシヤウフ） 宋の眞宗、趙恆の年號。一に祥符に作る。(1008－1016)

〘大中小劫〙1620（ダイチユウセウコフ） 佛 ㊀人壽の一增(人壽十歲から百年に一を增して八萬四千歲に至るもの)一減(人壽八萬四千歲から百年に一を減じて十歲に至るもの)を各〻小劫といひ、八十中劫を大劫といふ。〔俱舍論〕。㊁一增一減を合して小劫といひ、二十小劫を中劫といひ、四十中劫を大劫といふ。〔大智度論〕。

〘大中大夫〙1621（タイチユウタイフ） 從四位上の唐名。〔職原抄〕從四位上下、唐名、上、大中大夫、下、中大夫。

〘大中通寶〙1622（タイチユウツウハウ） ㊀宋の眞宗の鑄た貨幣。〔董逌錢譜、宋朝錢〕大中通寶、宋眞宗鑄。㊁明の太祖が金陵に寶源局を開いて鑄た銅錢。大中の㊁を見よ。〔古今治平略、二〕洪武初、置二寶源局于應天一、鑄二大中通寶錢一。

【大忠】1623（タイチユウ ダイチユウ） 大きな忠義。この上ない忠義。〔呂覽、權勳〕故小利、大利之殘也、小忠、大忠之賊也。

〘大忠祠〙1624（ダイチユウシ） 祠の名。宋の文天祥・陸秀夫・張世傑の三忠臣を祀つたもの。〔陔餘叢考、大忠祠〕廣東省城有二大忠祠一、祀二宋文天祥・陸秀夫・張世傑一、而新會之厓山、亦有二大忠祠一、祀二此三人一、皆宋末忠臣、陸與レ張皆死二於厓山之戰一、文山雖レ不レ死二於廣一、而其被レ執也、在二潮之五坡嶺一、厓山之敗、文山縶二於元軍中一、又目二擊之一、故以レ之並祀、宜也。

【大柱】1625（タイチユウ） 清、王夏(7－20823··99)の號。

〘大柱國〙1626（ダイチユウコク） 官名。巡撫(4－8684··84)の異稱。〔稱謂錄、巡撫、大柱國〕李日華官制備攷、巡撫從三品、稱二大都憲・大憲臺・大柱國一。

【大誅】1627（タイチユウ ダイチユウ） 大きな誅罰。〔晏子、重而異者〕寡人將レ加二大誅於子一。〔漢書、張釋之傳〕懼二大誅至一。

【大蟲】1628（タイチユウ ダイチユウ） ㊀虎の異稱。〔搜神記、二〕扶南王范尋、養二虎於山一、有レ犯レ罪者、投與、虎不レ噬、乃宥レ之、故虎名二大蟲一、亦名二大靈一。〔傳燈錄〕百丈問二希運一、見二大蟲一麼、運便作二虎聲一。〔唐語林〕汝南周愿曰、愛宣州觀察使、怕二大蟲一、謂レ虎也。㊁蚖蟲。毒蛇。〔史記、太倉公傳〕衆醫不レ知、以爲二大蟲一。〔注〕索隱曰、卽蚖虫也。㊂宋、卞袞(2－2778··11)の綽名。〔宋史、卞袞傳〕袞充二鹽鐵副使一、明敏有二吏幹一、累掌二財賦一、清心治レ局、號爲二稱職一、然性慘毒、掊克嚴峻、專事二捶楚一、至レ有二大蟲之號一。

〘大蟲杖〙1629（ダイチユウチヤウ） 草の名。いたどり。〔和漢三才圖會、濕草類、虎杖〕大蟲杖。

〘大蟲領〙1630（タイチユウレイ） 山名。陝西省寶雞縣の東北。鳳翔縣の界に接す。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府、寶溪縣、大散領〕大蟲領、在二縣東一、宋紹興十年、吳璘・楊政與二金將撒離喝一、夾レ渭而軍、璘置二軍大蟲領一、撒離喝覘レ之、云云、志云、縣東北十里、有二西平原一、原旁卽大蟲領。

〘爲二大蟲一〙1631（ダイチユウトナル） 奴婢を賣つて生活することをいふ。〔通俗編、禽魚、爲二蝗蟲一〕北夢瑣言、咸通中、有二唐五經者一、嘗謂レ人曰、不肖子弟有二三變一、第一變爲二蝗蟲一、謂二鬻レ田而食一也、第二變爲二蠹蟲一、謂二鬻レ書而食一也、第三變爲二大蟲一、鬻二奴婢一而食也。

〘大蟲不レ喫二伏肉一〙1632（タイチユウハフクニクヲクラハズ） 虎は生物を捕へて食ひ、伏し斃れた肉は食はぬ。大蟲は虎。〔水滸傳、二回〕自レ古道、大蟲不レ喫二伏肉一。

【大重】1633（ダイチユウ） 大きく重い任務。重大な責任。〔漢書、霍光傳〕唯光任二大重一、可レ屬二社稷一。

【大著】1634（タイチヨ） ㊀官名。著作郎(9－31410··44)の別名。〔事物紀原、祕殿掌貳部、著作郎〕漢東京使下名儒碩學入二直東觀一、譔中述國史上、謂二之著作一、以二他官一領レ之、未レ以爲レ官也、魏明帝太和中、始置二著作郎一、晉元康二年、又謂二之大著一。〔稱謂錄、翰林院職官古稱、大著作〕晉書職官志、元康二年詔曰、著作舊屬二中書一、而祕書既典二文籍一、今改二中書著作一爲二祕書著作郎一、人謂二之大著一、專掌二史任一。㊁大なる著述。すぐれた著作。又、他人の著作に對する敬稱。

【大豬】1635（ダイチヨ） 動物の名。象をいふ。〔吳志、孫休傳〕使下祭戰到二交阯一、調中孔爵・大豬上。

【大儲】1636（タイチヨ） 大きなまうけ。大きな利得。〔唐書、陸贄傳〕散二小儲一成二大儲一、捐二小寶一固二大寶一。

【大女】1637（ダイヂヨ） ㊀成人した女。一人前の女。〔管子、海王〕大女食レ鹽三升小半。㊁長女をいふ。〔稱謂錄、長女、大女〕列女傳部陽友娣傳、季兒乃告二其大女一曰、汝父殺二吾兄一、義不レ可二以留一。㊂（エムスメ）あねむすめ。〔日本書紀、綏靖紀〕母曰二媛蹈鞴五十鈴媛命一、事代主神之大女（エムスメ）也。

〘大女兒〙1638 ta⁴ nü³ êrh 長女。

【大除】1639（タイヂヨ） 大晦日。十二月三十一日。〔蕭鳴草〕大除與二元旦一。

〘大除目〙1640（ダイヂモク） 任官せられた人の多い除目。除目(11－41669··82)の㊁を見よ。〔百鍊抄〕天福一年六月二十九日、被レ行二大除目一、任人及二三百人一、世以驚レ目。

【大冢】1641（ダイチヨウ） 大きな墓。〔越絕書、越絕外傳記地傳〕獨山大冢者、句踐自治以爲レ冢。

〘大冢宰〙1642（ダイチヨウサイ） 官名。冢宰(2－1585··8)に同じ。

【大寵】1643（ダイチヨウ） 大きなめぐみ。特別の寵愛。〔國語、楚語下〕彼將下思二舊怨一而欲中大寵上。〔後漢書、鮑永傳論〕受二大寵一。

【大直】1644（タイチヨク） ㊀此の上もなくまつすぐなこと。大直若レ屈を見よ。㊁唐、蔣伸(9－31820··61)の字。

〘大直日神〙1645（オホナホビノカミ） 大直毗神に同じ。

〘大直若レ屈〙1646（タイチヨクハクツスルガゴトシ） 此の上もなくまつすぐなものは、俗人の眼には曲つた樣に見える。屈は亦、詘に作る。〔老子、四十五〕大直若レ屈、大巧若レ拙。〔韓詩外傳、九〕大直若レ詘、大辯若レ訥。〔史記、叔孫通傳贊〕叔孫通希二世度一務二制禮一、進退與レ時變化、卒爲二漢家儒宗一、大直若レ詘、道固委蛇、蓋是謂乎。

〘大直毗神〙1647（オホナホビノカミ） 凶事を吉に轉ずる神。大は美稱。直は禍を直す意。日(毗)は奇靈の意。〔古事記、上〕伊邪那岐大神、云云、滌時所二成坐一神名、八十過津日神、次大禍津日神、云云、次爲レ直二其禍一而所レ成神名、神直毗神、次大直毗神。

【大椿】1648（タイチン） ㊀上古の大木の名。八千年を春とし、八千年を秋とし、三萬二千年が人間の一年に當る。轉じて、人の長壽を賀するに此の語を用ひる。大椿壽を見よ。〔莊子、逍遙遊〕上古有二大椿者一、以二八千歲一爲レ春、八千歲爲レ秋、而彭祖

乃今已久特聞。〔列子、湯問〕上古有大椿者、以八千歲爲春、八千歲爲秋、朽壤之上有菌芝者、生於朝死於晦。❷清、楊士林(**6－15112**··558)の字。

【大椿壽】1649（タイチンノジュ） ながいき。長命。長壽。大椿の❶を見よ。〔書言故事、慶誕類〕上壽、云仰祝大椿之壽。

【大鎭】1650（タイチン） 大きな藩鎭。〔舊唐書、李愬傳〕惟愬六遷大鎭、所處先人舊宅一院而已。

【大陳】1652（ダイヂン） 軍陣の名。大陣。〔李衞公問對、中〕臣所本、諸葛亮八陳法也、大陳包小陳。

【大豆】1653（ダイトウ ダイヅ） ❶豆の一種。菽。〔廣雅、釋草〕大豆、尗也。〔本草、大豆〕集解、時珍曰、大豆、有黑・白・黃・褐・靑・斑數色。〔後漢書、許楊傳〕飴我大豆、亨我芋魁。❷（ダイトウ） 上古の人。造父の師。〔呂覽、聽言〕造父始習於大豆。〔注〕大豆、蓋御身人姓名。

【大豆越】1654（オホメコシ） 大和國の地名。

【大豆戸】1655（マメト） 武藏國の地名。

【大豆谷】1656（マメサク） 上總國の地名。

【大豆豉】1657（ダイトウシ ダイヅシ） 納豆。又、大豆みそ。〔本草、大豆豉〕釋名、時珍曰、按、劉熙釋名云、豉、嗜也、調和五味可甘嗜也、許愼說文、謂豉爲配鹽幽菽者、乃鹹豉也。

【大豆生】1658（マメフ） 大和國の地名。

【大豆島】1659（マメジマ） 信濃國の地名。

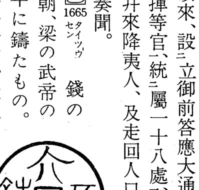
【大豆塚】1660（マメヅカ） 和泉國の地名。

【大豆田】1661（マメダ） 地名。㋑下野國の地名。㋺加賀國の地名。

【大豆黃卷】1662（ダイトウワウクワン） 黑大豆のもやしを乾したもの。〔本草、大豆黃卷〕釋名、豆蘗、弘景曰、黑大豆爲蘗芽、生五寸長、便乾之、名爲黃卷。

【大通】1663（タイツウ） ❶大道をいふ。老莊家で、道は萬物を通生するからいふ。〔莊子、大宗師〕墮肢體、黜聰明、離形去知、同於大通、此謂坐忘。〔疏〕大通、猶大道也、道能通生萬物、故謂道爲大通也。❷大いに通ずる。塞がつてゐるものを通ずる意。禹は耳の孔が三つあつて河水を通じたのでいふ。〔淮南子、脩務訓〕舜二瞳子、是謂重明、作事成法、出言成章、禹耳參漏、是謂大通、興利除害、疏河決江、文王四乳、是謂大仁、天下所歸、百姓所親。〔注〕參、三、漏、穴也、大通、天下擢下滯之物。❸人目につくやうな言行を爲さず、而も融通無碍で窮困しないこと。又、其の人。〔淮南子、詮言訓〕聖人無屈奇之服、無瑰異之行、服不視、行不觀、言不議、通而不華、窮而不懾、榮而不顯、隱而不窮、異而不見怪、容而與衆同、無以名之、此之謂大通。❹よく物事に通達すること。〔蜀志、諸葛亮傳〕所以明大通之道。❺梁の武帝、蕭衍の年號。（527－529）❻川の名。㋑河北省の通惠河をいふ。北京の東便門の外の大通橋を流れるからいふ。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、宛平縣〕大通河、在府城東南、元史、至元二十九年、開大通河、明年成、亦曰通惠河、自是都民免陸輓之勞、公私稱便、歐陽元曰、通惠河、首導昌平白浮之水、次循太行西山之麓、會諸山之流、爲七里泊、東流入都城西水門匯積水潭、云云、東折而南出都城東水門、經大通橋、東流至通州城西北永通橋、又東會於白河、是也。㋺安徽省に在つて、一に管埠河ともいふ。源は南陵縣。㋩滿洲黑龍江省通河縣の境に在る河。㋥古の浩亹水。閤門河ともいふ。青海省の西北阿穆尼尼庫山から出で、東流して大通河となる。❼縣名。㋑清、置く。初、滿洲吉林省依蘭府に屬し、後、黑龍江省に屬す。〔清史稿、地理志〕黑龍江、興東道、縣二、大通。㋺清、置く。漢の臨羌縣の北塞。唐の威戎軍を置いた處で、明の西番の地。青海省に屬す。〔清史稿、地理志〕甘肅、西寧府、縣三、大通。❽鎭の名。安徽省銅陵縣の西南。貴池・桐城二縣の界に接す。〔讀史方輿紀要、江南、池州府、銅陵縣〕大通河、縣四十里、出伏牛天門諸山、匯於車橋湖、至縣西南四十里大通鎭入大江、與貴池縣接界、今有大通巡司。❾城の名。㋑甘肅省臨夏縣の西。〔宋史、地理志三〕大通城。〔注〕舊達南城、崇寧二年、收復改今名。㋺宋、築き、今、闕く。青海省の東境に當る。❿堡の名。甘肅省に在つて、南大通堡と西大通堡とに分かれてゐる。〔讀史方輿紀要、陝西、莊浪衞〕南大通山口堡、衞東四十里、云云、西大通河口堡、在衞西南一百六十里。⓫（ダイツウ） 遊興の道に精通すること。又、其の人。非常な通人。

【大通事】1664（ダイツウジ） 通譯官。飜譯官。〔明會典〕洪武永樂以來、設立御前答應大通事、有都督・都指揮・指揮等官、統屬一十八處、小通事總理來貢四夷、幷來降夷人、及走回人口、凡有一應夷情、譯審奏聞。



大通錢
（三才圖會）

【大通錢】1665（タイツウセン） 錢の名。南北朝、梁の武帝の普通四年に鑄たもの。〔三才圖會、珍寶、大通錢〕顧烜曰、普通四年、鑄大通錢、錢大小輕重、如五銖、文曰五銖大通、背文四出。

【大通年】1666（タイツウネン） 運のよい年。〔海錄碎事、文學、科第〕太和八年放榜、有無名子作詩曰、乞兒還大通年、二十三人椀杖全、薛庶准前騎瘦馬、范酇依舊蓋番氈。

【大通將軍】1667（タイツウシャウグン） 漢代の將軍の名。〔史記、孝武紀〕佩天士將軍・地士將軍・大通將軍・天道將軍印。

【大通禪師】1668（ダイツウゼンジ） 唐、神秀(**8－24673**··256)の諡。

【大通鐵路】1669（ダイツウテツロ） 北寧鐵路の支線。遼寧省大虎山から通遼縣に至る。北寧鐵路中、最大の支線。

【大痛】1670（タイツウ） 大きないたみ。又、甚しく痛嘆すべきこと。〔魏文帝、典論、論文〕日月逝於上、體貌衰於下、忽然與萬物遷化、斯亦志士之大痛也。

【大氏】1671（タイテイ） 大抵に同じ。おほかた。大數。〔淮南子、脩務訓〕以大氏爲本。〔史記、秦始皇紀〕自關以東、大氏盡畔秦吏。〔漢書、食貨志下〕天下大氏無慮、皆鑄金錢。〔注〕師古曰、氏、讀曰抵、抵、歸也、大歸、猶言大凡也。〔漢書、王溫舒傳〕大氏盡靡爛獄中。

【大弟】1672（タイテイ） ❶同輩の年少者を呼ぶ敬稱。〔吳志、呂蒙傳、注〕肅拊蒙背曰、吾謂、大弟但有武略耳。〔北史、元文遙傳〕文遙嘗謂思道云、小兒比日微有所知、是大弟之力。❷皇太弟を稱する語。太弟(**3－5834**··360)を見よ。

【大定】1673（タイテイ） ❶大いに定まる。〔書、武成〕一戎衣、天下大定。〔禮、樂記〕聖人作爲父子君臣、以爲紀綱、紀綱既正、天下大定。❷天地自然の理法に順ひ、定まつて常あること。大常。〔莊子、徐無鬼〕知大信、知大定、至矣、云云、大信稽之、大定持之。❸年號。㋑梁の中宗、宣帝、蕭詧の時。(555－562) ㋺北周の靜帝(宇文闡)の時。(581) ㋩南宋の初、越(安南)の英宗(李天祚)の時。(1140－1162) ㋥金の世宗(完顏雍)の時。(1161－1189) ㋭明の太祖の代、大越(安南)の陳朝の時、楊日禮の僭年號。(1369－1970) ❹府名。㋑遼、置き、中京とす。金、之に因り、後、北京とす。滿洲熱河省の平泉・赤峯及び錦州省の朝陽等の縣の地。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮司、附見〕大寧衞、古營州地、夏商時冀州地、周爲幽州地、云云、遼主隆緒統和二十五年、始城其地、實以漢戶、曰中京大定府、金貞元初、改曰北京路。㋺清、置く。貴州省に屬し、水城廳・平遠・黔西・威寧の三州及び畢節縣を管轄す。〔清史稿、地理志〕貴州、大定府、領廳一、州三、縣一、平遠州、黔西州、威寧州畢節、水城廳。❺縣名。㋑遼、置く。滿洲熱河省平泉縣。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見、大寧衞〕大定廢縣、舊爲衞治、志云、漢遼西郡之新安平縣地、云云、宋景德四年、契丹始建中京大定府、幷置大定縣、爲府治。㋺民國、置く。宋の大萬谷落總管府。清の大定府の地。貴州省貴西道に屬す。❻城の名。㋑甘肅省皐蘭縣の北。宋の元豐中に夏人と界を分つた要衝の地。〔讀史方輿紀要、陝西、臨洮府、蘭州、河會城〕大定城、在州北、亦夏人所置、元豐中與宋分界處也。㋺西藏阿里部に在つて、加噶大克の南から印度に入る要道。

【大定兒】1674 ta^4 ting^4 êrh 結納を送り結婚の約定をすること。男家・女家互に庚帖を送り、卜者に見せて後、男家から結納として首飾等を送るのを小定兒といひ、數日、或は數月の後、再び結納を送るのを大定兒といふ。

【大底】1675（タイテイ） ❶年長のもの。大人。〔王銍默記〕王介甫家、小底不如大底、謝師宰家、大底不如

小底一。❷おほかた。大概。大抵に同じ。〔史記、佞幸傳〕自レ是之後、內寵嬖臣、大底外戚之家。

〔大底四時心總苦就中腸斷是秋天〕1676（タイテイ シイジココロ）（スベテクルシ ナカンヅク ハラワタタツハ コレシウテン） 四時の風物は大概心を苦しめるが、其の中でも特に斷腸の思のあるのは秋の風光である。〔白居易、暮立詩〕黃昏獨立佛堂前、滿地槐花滿樹蟬、大底四時心總苦、就中腸斷是秋天。

【大抵】1677（タイ テイ） おほかた。おほよそ。大概。大氏。〔史記、禮書〕叔孫通頗有レ所二增益減損一、大抵皆襲二秦故一。〔注〕集解曰、應劭曰、抵、至也、瓚曰、抵、歸也、索隱曰、按、大抵、猶二大略一也、臣瓚以レ抵訓爲レ歸、是則大略・大歸、其義通也。〔史記、平準書〕天下大抵無レ慮、皆鑄二金錢一矣。〔注〕索隱曰、服虔曰、抵、歸也、劉氏曰、大抵、猶二大略一也。〔史記、酷吏傳〕大抵盡詆以二不道一。〔注〕索隱曰、大抵、猶二大都一也。〔漢書、杜周傳〕其治大抵放二張湯一。〔新書、銅布〕大抵必雜二石鉛鐵一焉。〔孔叢子、執節〕今子之書、大抵談說而已。〔顏氏家訓、省事〕大抵諸儒所レ爭。

【大阺】1678（ダイテイ ダイチ） 大きなをか。大陵。〔宋玉、高唐賦〕登二巉巖一而下望兮、臨二大阺之稸水一。〔注〕翰曰、阺、陵也。

【大帝】1679（タイ テイ） ❶天。天の神。〔張衡、西京賦〕昔者大帝悅二秦繆公一而覲レ之、饗以二鈞天廣樂一。〔注〕綜曰、大帝、天也。❷紫微宮をいふ。北極星。〔禮、月令、祈二穀于上帝一疏〕紫微宮爲二大帝一。❸特に盛德ある帝王の稱號。〔南史、王僧虔傳〕吳大帝景帝。❹三國、吳の孫權(**3－6987**‥111)の諡。又、大皇ともいふ。

【大貞】1680（タイ テイ） ❶君主を立てる時、及び諸侯を封ずる時に卜して之を定めること。〔周禮、春官、小宗伯〕若國大貞、則奉二玉帛一以詔號。〔注〕鄭司農云、大貞、謂下卜レ立レ君、卜中大封上。❷（オホサタ）姓氏。〔新撰姓氏錄考證、八〕。

【大娣】1681（タイ テイ） 弟の妻。おとうとよめ。〔剪燈餘話、連理樹記〕謝二大娣惠レ鞋、蓮瓣娟娟遠寄將、綉羅猶帶二指尖香一。

【大庭】1682（タイ テイ） ❶外朝。外朝(**3－5750**‥427)を見よ。〔逸周書、大匡解〕周王宅レ程三年、乃召二冢卿三老三吏大夫百執事之人一、朝二於大庭一。〔集訓校釋〕庭、當レ爲レ延、大廷、外朝之廷、在二庫門內雉門外一。〔韓非子、解老〕議二於大庭一而後言、則立二權議之士一知レ之矣。〔高適、留上二李右相一詩〕風俗登二淳古一、君臣挹二大庭一。❷古の帝王の號。或は神農氏(**8－24673**‥427)の別號であるといひ、或は神農氏とは別であるといふ。〔鄭玄詩譜序〕大庭・軒轅、逮二於高辛一。〔疏〕大庭、神農之別號。〔左氏、昭、十八〕梓愼登二大庭氏之庫一以望レ之。〔注〕大庭氏、古國名、在二魯城內一、魯於二其處一作レ庫。〔疏〕大庭氏、古天子之國名也、先儒舊說皆云下炎帝號二神農氏一、一曰中大庭氏上、服虔云レ在二黃帝前一、鄭玄詩譜云三大庭在二軒轅之前一、亦以二大庭一爲二炎帝一也。〔莊子、胠篋〕子獨不レ知二至德之世一乎、昔者容成氏・大庭氏・伯皇氏・中央氏・栗陸氏・驪畜氏・軒轅氏・赫胥氏・尊盧氏・祝融氏・伏犧氏・神農氏、當二是時一也、民結繩而用レ之。〔疏〕已上十二氏、並上古帝王也。〔張衡、東京賦〕則大庭氏何以尙レ茲。〔注〕綜曰、大庭、古國名也。

〔大庭廣衆〕1683 ta^{4} t'ing^{2} kuang^{3} chung^{4} ❶澤山の人が集つて居る處。多數の人が集つて居て公開された場所。❷公然と。

〔大庭之俗〕1684（タイテイ ノゾク） 太古の簡素な風俗。〔本朝文粹、八、藤原時平、延喜格序〕流二淳化於比屋之封一、反二薄弊於大庭之俗一。

【大挺】1685（タイ テイ） 大きなてこ。挺は梃の誤。〔墨子、備蛾傳〕大挺長二尺、大六寸。

【大第】1686（タイ テイ） おほきなやしき。廣大な邸宅。〔漢書、張禹傳〕身居二大第後堂一。〔後漢書、竇融傳〕擁二富貲一居二大第一。〔鹽鐵論、救匱〕大第巨舍。

〔大第室〕1687（ダイテイシツ） おほきなやしき。〔漢書、高帝紀下〕爲二列侯一食レ邑者、皆佩二之印一、賜二大第室一、吏二千石、徙二之長安一、受二小第室一。

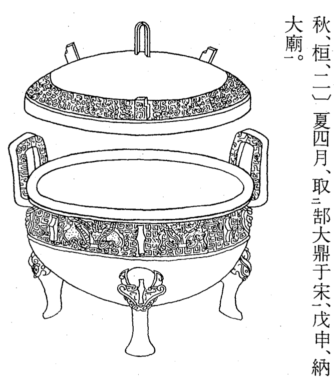
【大堤】1688（タイ テイ） ❶大きな土堤。長堤。〔竇鞏、襄陽寒食寄二宇文籍一詩〕煙水初銷見二萬家一、東風吹レ柳萬條斜、大堤欲レ上誰相伴、馬踏二春泥一半是花。❷（ダイ テイ）樂府の名。襄陽樂から出たもの。大堤曲を見よ。〔剪燈餘話、秋夕訪二琵琶亭一記〕倒二接羅一歌二大堤一。

〔大堤曲〕1689（タイテイ キョク） 樂府清商曲辭の名。雍州曲と共に襄陽樂から出たもの。梁の簡文帝の雍州十曲中に大堤の題があり、唐の張柬之・楊巨源・李白・李賀等は大堤曲を作り、孟浩然は大堤行を作つた。〔樂府詩集、清商曲辭、西曲歌中、襄陽樂〕又有二大堤曲一、亦出二於此一、簡文帝雍州十曲有二大堤・南渚・北渚等曲一。〔梁簡文帝、雍州曲、大堤〕宜城斷二中道一、行旅極二留連一、出妻工レ織レ素、妖姬慣レ數レ錢、炊レ彫留二吐客一、貰レ酒逐二神仙一。〔張柬之、大堤曲〕南國多二佳人一、莫レ若二大堤女一、玉牀翠羽帳、寶袜蓮花炬、魂處自レ目成、色授開レ心許、迢迢不レ可レ見、日暮空愁レ予。

【大程】1690（タイ テイ） 清、米肇灝(**8－26832**‥119)の字。

〔大程子〕1691（ダイテイシ） 宋、程顥(**8－25081**‥23)をいふ。

【大鼎】1692（タイ テイ） 大きなかなえ。〔詩、周頌、絲衣、鼐鼎及鼒、傳〕大鼎、謂二之鼐一、小鼎、謂二之鼒一。〔春秋、桓、二〕夏四月、取二郜大鼎于宋一、戊申、納二于大廟一。



周　大　鼎（西清古鑑）

【大禘】1693（タイ テイ） 天子が正月に天を南郊にまつる祭。禘(**8－24778**)の❷を見よ。〔詩、商頌、長發序〕長發、大禘也。〔箋〕大禘、郊二祭天一也、禮記曰、王者禘三其祖之所二自出一、以二其祖一配レ之、是謂也。

【大泥】1694（タイ デイ） 國の名。明・清時代、馬來半島の暹邏領にあるパタニをいふ。Patani の省音譯。〔東西洋考〕大泥、卽古浡泥、今隸二暹邏一、土產有二西國米一。

〔大泥亞〕1694′（タイデイア） 國の名。デンマーク及びノルウエーをいふ。〔坤輿圖說、大泥亞國〕大泥亞國、沿レ海、產二菽麥一、牛羊最多、牛輸往二他國一、歲常五萬、海中魚蔽二水面一、舟爲レ魚湧、輒不レ能レ行、不レ藉二網罟一、隨レ手取レ之不レ盡。

【大挑】1695（タイ テウ） 清代、擧人が會試に應じて三回合格しなかつた者、及び四川・廣東等の遠省から受驗した者のうち、每省若干人を擇んで一等・二等に分ち、知縣・教職等に任用するものをいふ。〔清會典事例、吏部、除授、擧人大挑〕嘉慶五年諭、各省擧人、自二乾隆六十年乙卯恩科大挑一後、至二明歲會試一、又閱二六載一、著二於辛酉科會一、試後大挑、該部屆レ期查照、向レ例奏辦。〔清國行政法汎論、文官仕途種類〕各省擧人之應二會試一下第三回者、若在二四川・廣東・廣西・福建・湖南・貴州・雲南諸省一、則下第一回之後、添二副其履歷書一、以二同鄉京官六品而上之保結一、申二請吏部一、受二其揀選一、年力精壯者、選二用知縣一、年老不レ勝二治民官一者、選二用教授一、云云、授レ官如レ此、稱曰二大挑一、由レ此爲二知縣一者、亦曰二大挑知縣一。

【大鳥】1696（タイ テウ） 大きな鳥。おほとり。鴻鵠の類。〔史記、滑稽傳〕國中有二大鳥一、止二王之庭一、三年不レ蜚又不レ鳴、王知二此鳥何一也。〔漢書、張騫傳〕以二大鳥卵及犛靬眩人一獻二於漢一。〔鹽鐵論、西域傳〕安息之眞玉・大鳥。

【大朝】1697（ダイ テウ） ❶諸侯或は諸臣が大いに天子に朝すること。又、其の禮。常朝の對。漢以後は、正旦と冬至とに之を行ひ、宋・元の聖節に當り、清朝では元旦・萬壽節・冬至の三大節をいふ。〔管子、立政〕大朝之日、五鄉之師、五屬大夫、皆身習二憲于君前一。〔史記、趙世家〕武靈王十九年春正月、大二朝信宮一、召二肥義一與議二天下一。〔通典、禮、嘉〕後漢、歲首正月爲二大朝一受レ賀。〔李商隱、行次二西郊一作詩〕大朝會二萬方一、天子正臨レ軒。〔清史稿、禮志〕大朝儀、天命元年、始行二元旦慶賀一、制二朝儀一、天聰六年、行二新定朝儀一、此班朝所レ繇、始崇德改レ元、定二元旦進表箋及聖節慶賀儀一、順治八年、定二元旦・冬至・萬壽聖節一爲二三大節一。❷自己の仕へる王朝を尊んでいふ。〔鄭所南、春日偶成詩〕百萬胡兒犯二大朝一、奔レ南狩レ北恨迢迢。

〔大朝覲〕1698（ダイテウキン） 諸侯が大いに會同して天子

に朝する禮。四時の常朝の對。〔周禮、天官、大宰〕大朝覲會同、贊㆓玉幣・玉獻・玉几・玉爵㆒。〔疏〕諸侯四時常朝不㆑稱㆑大、今朝覲稱㆑大者、諸侯大會同而來、故稱㆓大朝覲㆒。

【大貂】1699（タイテウ） 唐代、侍中（**1**－**589**··63）の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以㆓他名㆒標㆓牓官稱㆒、云云、侍中爲㆓大貂㆒、散騎常侍爲㆓小貂㆒。

【大潮】1700（タイテウ） 滿潮。おほしほ。〔宋史、河渠志七〕遇㆓大潮㆒、必盤越流注。

【大鵰】1701（タイテウ） 鳥の名。おほわし。鶚。〔詩、小雅、四月、匪㆑鶉匪㆑鳶、疏〕鵰之大者、又名㆑鶚、孟康漢書音義曰、鶚、大鵰也。〔漢書、鄒陽傳、鷙鳥絫㆑百不㆑如㆓一鶚㆒、注〕孟康曰、鶚、大鵰也。〔韓琦、宴射詩〕大鵰盤㆑空不㆓輕搏㆒、老狐仰視肝膽裂。

【大條】1702 ta^{4} t'iao^{2} 銀の延棒。上海で米國から輸入するのを金山條といひ、歐洲から輸入するものを紅毛條といひ、合せて大條といふ。大條銀。

〔大條銀〕1703 ta^{4} t'iao^{2} yin^{2} 棒狀の銀塊。大條。

〔大條褥〕1704 ta^{4} t'iao^{2} ju^{4} 長いざぶとん。〔紅樓夢、三回〕石青金綫蟒引枕、秋香色蟒大條褥。

【大笛】1705 ta^{4} ti^{2} 西洋の樂器。大ぶえ。

【大敵】1706（タイテキ） 大勢の敵。強い敵。〔左氏、宣、十二〕不穀不德而貪、以遇㆓大敵㆒。〔漢書、衞青傳〕小敵之堅、大敵之禽也。〔後漢書、光武紀上〕今見㆓大敵㆒勇、甚可㆑怪也。〔晉書、文帝紀〕戰不㆑窮㆑武、而大敵殲潰、旗不㆓再麾㆒、而元憝授㆑首。

【大適】1707（タイテキ） ❶大いにかなふ。甚だ適當である。又、大いに意にかなふ。大いにたのしむ。〔晉書、陶潛傳〕每㆓一醉㆒、則大適融然。〔李白、春於㆓姑熟㆒送㆔趙四流㆓炎方㆒序〕僕西登㆓天門㆒、望㆓子於西江之上㆒、吾賢可㆘流㆓水其道㆒、浮㆗雲其身㆖、通方大適、何往不㆑可、何戚㆓戚於岐路㆒哉。❷藥草の名。いぬなづな。ていれき。葶藶。〔爾雅、釋草、葶亭歷、疏〕葶、本草、一名丁歷、一名大室、一名大適。〔本草、葶藶〕釋名、丁藶・葶蒿・太室・大適・狗薺。

【大滌】1708（タイデキ） 山名。浙江省餘杭縣の西南。〔咸淳志〕此山清幽、大可㆔以洗㆓滌塵心㆒、故名、穹崇千尺、迴歷㆓羣巒㆒、中峯曰㆓白鹿山㆒、上有㆓許邁丹竈遺跡㆒、有㆓大滌棲眞石室㆒、道書、第三十四洞天、名曰㆓大滌元蓋之天㆒。

〔大滌子〕1709（タイデキシ） 清、石濤（**8**－**24024**··528）の號。

〔大滌隱人〕1710（タイデキインジン） 元、鄧牧（**11**－**39630**··104）の號。

〔大滌草堂〕1711（タイデキサウダウ） 清、石濤（**8**－**24024**··528）の室名。

〔大滌山人〕1712（タイデキサンジン） 字號。❶明、徐桂（**4**－**10110**··108）の號。❷清、徐國祥（**4**－**10110**··428）の號。❸明、楊家龍（**6**－**15112**··445）の號。

〔大滌山樵〕1713（タイデキサンセウ） 清、吳農祥（**2**－**3365**··814）の號。

〔大滌山房〕1714（タイデキサンバウ） 明、兪汝言（**1**－**1437**··109）の室名。

【大耋】1715（タイテツ） きはめて年老いた人の稱。耋は八十歲、一說に、七十歲。〔陸機、擬古擬㆓東城一何高㆒詩〕三閭結㆓飛轡㆒、大耋嗟㆓落暉㆒。

〔大耋之嗟〕1716（タイテツノナゲキ） 老人の嘆。〔易、離〕九三、日昃之離、不㆓鼓㆑缶而歌㆒、則大耋之嗟、凶。

【大天】1717（タイテン） 唐代、吏部尚書（**2**－**3299**··40）の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以㆓他名㆒標㆓牓官稱㆒、云云、吏部尚書爲㆓大天㆒。

〔大天聖正〕1718（タイテンセイセイ） 南宋の初、高宗の時、楊太の僭年號、大聖天王の一稱。(1134)

〔大天大亮〕1719 ta^{4} t'ien^{1} ta^{4} liang^{4} 夜の明け放れたこと。すつかり夜が明けた。

【大典】1720（タイテン） ❶重要な典籍。又、大部な記錄。〔後漢書、鄭康玄傳論〕括㆓囊大典㆒、網㆓羅衆家㆒。〔歐陽脩、日本刀歌〕先王大典藏㆓夷貊㆒、蒼波浩蕩無㆑通㆑津。❷すぐれた法則。立派なのり。尊ぶべきのり。重要なのり。重要な法典。〔漢書、郊祀志下〕承㆓天之大典㆒、覽㆓羣下㆒。〔任昉、王文憲集序〕公生㆑自㆓華宗㆒、世務簡隔、至㆓於軍國遠圖、刑政大典㆒、既道。〔舊唐書、職官志二〕集賢學士之職、掌㆘刊㆓緝古今之經籍㆒、辨㆗明邦國之大典㆖。❸重大な典禮。國家の重大な儀式。大儀。〔任昉、王文憲集序〕謙光愈遠、大典未㆑申。❹清、邢典（**11**－**39301**··45）の初名。❺釋顯常の號。釋大典（**11**－**40129**··99）を見よ。

〔大典禮〕1721（ダイテンレイ） 禮部尚書の異稱。〔稱謂錄、禮部、大典禮〕叩鉢齋官職攷、禮部尚書稱㆓大典禮㆒、虞書有㆔能典㆓朕三禮㆒。

【大展】1722（タイテン） 尺度をいふ。〔博學記〕尺度曰㆓大展㆒。

【大塡】1723（タイテン） 黄帝の師。大顚（1727）の❷に同じ。〔漢書、古今人表〕大塡。〔注〕黄帝師。

【大戥】1724（タイテン） 大きな秤のおもり。重さ五十兩から百兩までをいふ。十兩から三十兩までを小戥といふ。〔清會典、工部〕凡製㆓權量㆒、皆準以㆓營造尺㆒、辨㆓其體積容積㆒以爲㆑程、權之屬、曰㆓法馬㆒、曰㆑秤、曰㆑戥。〔注〕大戥、五十兩至㆓百兩㆒、小戥、十兩至㆓三十兩㆒。

【大篆】1725（ダイテン／タイテン） 書體の名。周の宣王の時に史籒が作つたといふ。籒文。〔漢書、藝文志、史籒十五篇、注〕周宣王太史、作㆓大篆十五篇㆒。〔孔安國尚書序、疏〕秦有㆓八體㆒、一曰大篆。〔許愼、說文序〕及㆓宣王㆒、大史籒著㆓大篆十五篇㆒、與㆓古文㆒或異。〔曹唐、王遠宴㆓麻姑蔡經宅㆒詩〕大篆龍蛇隨㆓筆札㆒。

【大點】1726（タイテン） ❶大いにけがす。〔隋書、房彥謙傳〕吏民非㆑有㆑構㆓怨本朝㆒、棄㆑德從㆑賊者也、而有司將帥稱㆓其願㆑反、非㆔止誣㆓陷良善㆒、亦恐㆔大點㆓皇猷㆒。❷大きなしづく。大きなつぶ。〔李端、荊門雨歌送㆔兄赴㆓夔州㆒〕重陰大點過欲㆑盡、碎浪柔文相與翻。〔韓偓、雨詩〕樹帶㆓繁聲㆒出㆑竹聞、溪將㆓大點㆒穿㆑籬入。〔陸游、望㆑霽詩〕雨來不㆑駛亦不㆑遲、大點如㆑菽細如㆑絲。

【大顚】1727（タイテン） ❶文王の臣。太顚（**3**－**5834**··365）に同じ。〔漢書、董仲舒傳〕（周文王）師㆓用賢聖㆒、是以閎夭・大顚・散宜生等、亦聚㆓於朝廷㆒。❷黄帝の師で、甲子を作つた人。又、大塡(1723)・大撓(1554)・大墳(2061)に作る。〔太平御覽、人事部、師〕韓詩外傳曰、黄帝學㆓乎大顚㆒。❸唐の僧。姓は楊氏。初、羅浮山に居り、後、潮陽の靈山に居る。韓愈と往來す。〔韓愈、與㆓孟尚書㆒書〕潮州時有㆓一老僧㆒、號㆓大顚㆒、頗聰明識㆓道理㆒。

【大田】1728（タイデン） ❶古の官名。農事を掌る。後世の大司農に當る。大司田。〔晏子、問、上〕桓公聞㆓寧戚歌㆒、擧以爲㆓大田㆒。〔呂覽、勿躬〕管子復㆓於桓公㆒曰、墾㆑田大㆑邑、辟㆑土藝㆑粟、盡㆓地力之利㆒、臣不㆑若㆓寧遬㆒、請置以爲㆓大田㆒。〔韓非子、外儲說左下〕墾㆑草仞㆑邑、辟㆑地生㆑粟、臣不㆑如㆓寗武㆒、請以爲㆓大田㆒。❷肥沃な土地。沃土。〔詩、小雅、大田〕大田多㆑稼、既種既戒。〔箋〕大田、謂㆘地肥美可㆓墾耕㆒、多爲㆑稼可㆓以授㆑民者㆖也。❸大いに狩獵を行ふこと。大田之禮を見よ。❹詩經、小雅、甫田之什の篇名。周の幽王の時、政が煩しく賦が重くて、民が自活し得ぬ爲、王を刺つて作つた詩。朱子は、農夫が其の上を頌美した詩で、之と楚茨・信南山・甫田とは豳雅であらうといふ。〔詩、小雅、大田序〕大田、刺㆓幽王㆒也、言㆓矜寡不㆑能㆓自存㆒焉。〔集傳〕此詩爲㆓農夫之詞㆒、以頌㆓美其上㆒。❺縣名。明、置く。唐の尤溪縣の地。福建省に屬す。〔讀史方輿紀要、福建、延平府〕大田縣、府西南四百里、本尤溪縣地、嘉靖十四年、議以㆘地界㆓延漳泉三府之交㆒、深阻、嘗爲㆗盜藪㆖、乃割㆓尤溪之十四郡㆒、益以㆓永安・漳平・德化諸縣地㆒置㆑縣、明年、築㆑城。〔清史稿、地理志〕福建、永春直隸州、縣二、大田。

〔大田見〕1729（オホタミ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

〔大田獵〕1730（タイデンレフ） 王が親しく行ふ狩獵。田は佃・甸・畋に同じ。大甸獵。大畋獵。〔周禮、地官、山虞〕若㆓大田獵㆒、則萊㆓山田之野及弊田㆓。〔疏〕大田獵者、謂㆓王親行㆒。

〔大田錦城〕1731（オホタキンジヤウ） 加賀の人。名は元貞。字は公幹。通稱は才佐。號は錦城。皆川淇園・山本北山を師とす。官は加賀藩儒。其の師の說に滿足できず、去つて刻苦獨學し、折衷學派の大家となる。其の學風は宋儒の空理を排して考證を主とす。文政八年四月二十三日歿す、年六十一。著に易解・易象箋解・海寇事略・海寇事略續編・海外諸國考・孝經詳說・家學唐詩選・家相師傳神法・學說指要・寒潭晴月・九經談・吉凶方位明辨・疑問錄・虛字例・錦城雜錄・錦城詩稿・錦城詩集・錦城百律・錦城文集・錦城文錄・羣雄割據錄・藝苑折衷・稽古錄・繫辭詳說・鷄肋餘言（正續）・敎說發揮・五行圖解・梧窓微管・三論異同・周易會通纂要・周易象義・周易重言考・周易比例考・詩精義・尚書精義・春草堂隨筆・春草堂外集・仁說三種（一貫名義・洙泗仁說・仁說要義）・正名

錄・小數前空錄・赤城梅花記・大學考・大學原解・大序十謬・多稼軒外集・多稼軒目耕・中庸考・中庸原解・中庸說・直見編・通字例・梅本增多原・白湯集・飛耳長目・文化野錄・兵說・萍遇奇談・壁經辨正・孟子精蘊・毛詩詳說・毛詩六義考・名字考・滅魔燈・譯文錄・漾萍結花・亂賊傳・柳橋漫錄・六義考續考・練兵聞錄・論語大疏・論語名義考がある。〔近世叢語、續、二〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄、後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

〖大田之禮〗1732（タイデンノレイ）　天子諸侯が狩獵を行ひ、それに由つて用兵の練習をし、車徒の數を査閲する禮。田は、佃に同じく、狩獵をいふ。〔周禮、春官、大宗伯〕大田之禮、簡レ衆也。〔注〕古者因レ田習レ兵、閲二其車徒之數一。〔疏〕此謂二天子諸侯親自田獵一。

〖大田祝山〗1733（オホタノハフリヤマ）　姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十四〕。

〖大田晴軒〗1734（オホタセイケン）　加賀の人。錦城の三子。名は敦。字は叔復。通稱は魯三郎。號は晴軒。官は吉田藩儒。家學を奉ず。明治六年十月十五日歿す、年七十九。著に易說・訓蒙淺語・經義類聚・三經小傳・戰國策考・晴軒文稿・中庸說・老子全解がある。〔近代著述目錄、後篇〕。

【大佃】1735（タイデン）　大いに狩獵を行ふ。又、王が親しく行ふ狩獵。大甸。〔魏志、傅嘏傳〕或欲下大佃二疆場一、觀レ釁而動上。

【大甸】1736（タイデン）　天子の四時の田獵をいふ。大佃に同じ。〔周禮、春官、小宗伯〕若二大甸一、則帥二有司一而饁二獸于郊一。〔疏〕言二大甸一者、天子四時田獵也。

〖大甸獵〗1736′（タイデンレフ）　王が親しく行ふ狩獵。大田獵（1730）に同じ。〔周禮、春官、肆師〕凡四時之大甸獵、祭表貉則爲レ位。

【大傳】1737（タイデン）　㊀禮記の篇名。此の篇は祖宗人親の大義を記す故にいふ。〔禮、大傳、疏〕鄭目錄云、名曰二大傳一者、以三其記二祖宗人親之大義一、此於二別錄一屬二通論一。㊁易の繫辭傳をいふ。〔史記、太史公自序〕易大傳、天下一レ致而百レ慮、同レ歸而殊レ塗。〔注〕正義曰、張晏云、謂二易繫辭一、案下二句、是繫辭文。

【大殿】1738（タイデン）　㊀殿軍。後軍。しんがり。〔左氏、襄、二十三〕大殿、商子游御二夏之御寇一。〔注〕大殿、後軍。㊁本邦で、大極殿の異稱。㊂（オホトノ）㋑宮殿の尊稱。おとど。〔萬葉集、一〕大宮はここと聞けども、大殿はここと云へども。㋺大臣の尊稱。おとど。〔平治物語、信西子息遠流被レ宥〕大殿關白。㋩貴人の當主の父に對する尊稱。〔保元物語、義朝幼少弟悉失〕大殿は、頭殿の御承りにて、昨日の曉斬られさせ給ひ候ひき。㋥貴人の世子に對して、當主を呼ぶ稱。〔丹波與作、上〕大殿樣・御袋樣と御盃。

〖大殿油〗1739（オホトノアブラ・オホトナブラ）　古、神殿、又は宮中で燈臺に火を點すに用ひた油。又、其のともしび。〔貞觀儀式、三〕踐祚大嘗祭儀中、悠紀・主基二國、進二大殿油一斗一。

〖大殿祭〗1740（オホトノホガヒ）　新嘗祭・大嘗祭の前後、或は皇居の遷移、齋宮・齋院卜定等の後に、屋船久久遲命・屋船豐宇氣姬命を祭つて、宮殿の災異のない樣に祈り鎭める祭儀。〔宮內省式〕大殿祭、此云二於保登能保加比一。

〖大殿籠〗1741（オホトノゴモリ）　御寢みになること。貴人の寢ることの敬稱。〔名義抄〕。

【大鮎】1742（タイデン）　大きななまづ。〔說文〕鮷、大鮎也。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕鉤二登大鮎一、怒レ頰豕狗。

【大斗】1743（タイト）　㊀酒を酌む大きなひしやく。〔詩、大雅、行葦〕酌以二大斗一、以祈二黃耇一。〔集傳〕大斗、柄長三尺。㊁大きな枡。〔史記、田敬仲世家〕以二大斗一出貸、以二小斗一收。㊂三斗（我が國の三升強）入りの枡。〔舊唐書、食貨志上〕三升爲二大升一、三斗爲二大斗一。㊃大量の意。〔漢書、貨殖、巴寡婦淸傳〕桼千大斗。〔注〕師古曰、大斗者、異下於量二米粟一之斗上也、今俗猶レ有二大量一。

〖大斗軍〗1744（ダイトグン）　唐代の行政區劃の名。甘肅省永昌縣の西南に置く。もと赤水軍といつたのを、玄宗の時、改めて大斗軍と爲す。〔讀史方輿紀要、陝西、涼州衞〕大斗城、在二衞西二百里一、新唐書、本赤水守捉城也、亦曰二赤水軍一、本名赤烏鎭、有二赤烏泉一、西魏時、置二戍於此一、云云、開元十六年、改爲二大斗軍一、因二大斗拔谷一爲レ名、屬二河西節度使一。

〖大斗拔〗1745（ダイトバツ）　谷の名。甘肅省山丹縣の南。又、達斗拔谷に作る。〔讀史方輿紀要、陝西、涼州衞〕大斗拔谷山、衞西二百里、山甚高險、云云、貞觀八年、李靖討二吐谷渾一還、上遣レ使勞二軍於大斗拔谷一、又開元十四年、吐蕃自二大斗拔谷一攻二甘州一、焚掠而去、是也、亦作二達斗拔谷一云。

【大杜】1746（ダイト）　唐の杜甫をいふ。杜牧を小杜といふに對す。〔郡閣雅言〕杜牧舍人、罷任二浙西郡一、道中有レ詩曰、鏡中絲鬢悲來慣、衣上塵痕拂漸難、惆悵江湖釣魚手、置遮二西日一向二長安一、與二杜甫一齊レ名、時號二大小杜一。

【大肚】1747（タイト）　大きな腹。大腹。體軀肥滿の形容。〔北史、齊文宣帝紀〕（楊愔爲二宰輔一）以二其體肥一、呼爲二楊大肚一。

【大兔】1748（タイト）　大きな兔。〔詩、小雅、巧言〕躍躍毚兔、疏〕蒼頡解詁云、毚、大兔也、大兔、必狡猾、又謂二之狡兔一。

【大渡】1749（タイト）　川の名。㊀一名、大度河。又、濊水・沫水に作る。古の涐水。上源は大金川。四川省松潘縣の夷地の大分水嶺から出て南流し、四川省の西境、西康省に近い處を經て小金川と會し、始めて大渡河と稱す。又、南流して西康省瀘定縣の西、漢源縣の南境を經、峨邊縣の西北に至つて越巂河に會し、峨眉縣の南境に至つて靑衣江に會し、又、東、樂山縣の東南に至り、岷江に入る。急流にして礁多く、舟行に不便である。〔讀史方輿紀要、四川、大川〕大渡河、出二雅州西北生羌界一、一名沫水、史記、司馬相如除二邊關一、關益斥、西至二沫若水一、此卽沫水也、流經二雅州蘆山縣北一、又西南流經二黎州所一西折、而東南經二建昌行都司越巂衞北境一、東流入二嘉定州界一、歷二峨眉縣南一、至二州城東南一而入二於大江一、自レ昔設二險於此一、以禦二蠻彝一。㊁雲南省羅平縣の西南。〔馮醒滇考〕宋王金斌平レ蜀、以二滇圖一進、大祖鑒三唐之禍起二於南詔一、以二玉斧一畫二大渡河一曰、外レ此非二吾有一也、由レ是雲南不レ通二中國一。

【大都】1750（タイト）　㊀公の采地。王の子弟の食邑。〔周禮、地官、載師〕以二小都之田一任二縣地一、以二大都之田一任二畺地一。〔注〕大都、公之采地、王子弟所レ食邑也。㊁大きな都邑。〔書、立政〕大都小伯、藝人表臣百司。〔傳〕況大都邑之小長。〔左氏、隱、元〕先王之制、大都不レ過二參レ國之一一。〔史記、貨殖傳〕通邑大都、酤一歲千釀。〔司馬遷、報二任少卿一書〕傳二之其人通邑大都一。㊂おほむね。あらまし。大抵。〔韓愈、畫記〕且命二工人一、存二其大都一焉。〔李山甫、曲江詩〕一種是春長富貴、大都爲レ水也風流。㊃地名。今の北京。元の時、大都といふ。〔剪燈新話、愛卿傳〕趙子有三父黨爲二吏部尚書一、以レ書自二大都一召レ之。〔淸一統志〕宛平縣西北德勝門外八里有二土城一、卽元大都故城也。㊄新書の篇名。

〖大都尉〗1751（ダイトヰ）　匈奴の官名。〔史記、匈奴傳上〕置二左右賢王・左右谷蠡王・左右大將・左右大都尉・左右大當戶・左右骨都侯一。

〖大都憲〗1752（ダイトケン）　官名。明代、巡撫（4－8684‥84）の異稱。〔稱謂錄、巡撫、大都憲〕李日華官制備攷、巡撫從二三品、稱二大都憲・大憲臺・大柱國一。

〖大都護〗1753（ダイトゴ）　官名。唐、置く。大都護府の長官。唐の六都護府の中、安西・安北・北單于の三を大都護府といふ。都護（11－39509‥51）を見よ。〔唐書、百官志四下〕大都護府、大都護一人、從二品、副大都護二人、從三品、副都護二人、正四品上、云云、都護、掌下統二諸蕃一、撫慰征討、敍レ功罰レ過、總中判府事上。〔唐書、百官志四下〕京兆河南牧、大都督・大都護、皆親王遙領、兩府之政、以レ尹主レ之、大都督之政、以二長史一主レ之、大都護府之政、以二副大都護一主レ之、副大都護則兼二王府長史一。

〖大都督〗1755（ダイトトク）　官名。都督の一。都督は、軍兵を指揮統率する意。都督（11－39509‥143）の㊀を見よ。〔北齊書、劉豐傳〕魏永安初、除二靈州鎭城大都督一。〔周書、于謹傳〕太祖臨二夏州一、以レ謹爲二防城大都督兼夏州長史一。〔通典、職官、都督〕大唐諸州復有二總管一、亦加二號使持節一、武德元年、諸州總管、亦加二號使持節一、五年以二洛・荊・幷・幽・交五州一爲二大總管府一、七年改二大總管府一爲二大都督府一、總管府爲二都督府一、復有二行軍大總管者一、蓋有二征伐一、則置二於所レ征之道一、以督二軍事一、自二武德一以來、亦有二元帥之號一、太宗爲二秦王一加二西討

元帥㆒、中宗爲㆓周王㆒爲㆓洮河道元帥㆒、睿宗爲㆓相王㆒爲㆓并州道行軍元帥㆒、太極初、以㆓并・益・荊・揚㆒爲㆓四大都督府㆒、開元十七年、加㆓潞州㆒爲㆑五焉、其餘都督、定爲㆓上中下等㆒、前後制置、改易不㆑恆、難㆑可㆓備敍㆒、凡大都督府、置㆓大都督一人㆒、掌㆓所管都督諸州城隍・兵馬・甲仗・食糧・鎭戍等㆒、親王爲㆑之、多遙㆓領其任㆒、亦多爲㆓贈官㆒、長史居㆑府、以總㆓其事㆒。

〔大都督府〕1756 ダイトトクフ ㊀官府の名。都督(11―39509・・143)及び大都督を見よ。㊁太宰府の唐名。〔職原抄〕太宰府、當㆓唐大都督府㆒。

〔大都好物不㆓堅牢㆒彩雲易㆑散琉璃脆〕1757 オホムネ カウブツハケンラウナラズ サイウンハサンジヤスク ルリハモロシ 概して好い物に脆弱なものが多いのは、恰も、美しい雲が散じ易く、琉璃が碎け易いのと同樣である。琉璃脆(7―20978・・19)を見よ。〔白居易、簡簡吟〕蘇家小女名簡簡、芙蓉花顋柳葉眼、十一把㆑鏡學㆓點粧㆒、十二抽㆑針能繡㆑裳、十三行坐事㆓調品㆒、不㆓肯迷頭白地藏㆒、玲瓏雲髻生㆓菜樣㆒、飄飖風袖薔薇香、殊姿異態不㆑可㆑狀、忽忽轉動如㆑有㆑光、二月繁霜殺㆓桃李㆒、明年欲㆑嫁今年死、丈人阿母勿㆓悲啼㆒、此女不㆓是凡夫妻㆒、恐是天仙謫㆓人世㆒、只合㆓人間十三歲㆒、大都好物不㆓堅牢㆒、彩雲易㆑散琉璃脆。

【大塗】1758 タイト ㊀大きな路。大道。大路。〔易、說卦〕震爲㆑雷、爲㆑龍、爲㆓玄黃㆒、爲㆑旉、爲㆓大塗㆒、爲㆓長子㆒。㊁大きな德。大道。〔莊子、山木〕而況有㆓大塗㆒者乎。

【大土】1759 ta^{4} t'u^{3} 印度から輸入する鴉片。

【大奴】1760 タイド 奴隸の中のかしら。〔漢書、武五子傳〕過㆓弘農㆒、使㆘大奴善以㆓衣車㆒載㆗女子㆖。〔注〕師古曰、凡言㆓大奴㆒者、謂㆓奴之尤長大者㆒也。〔書敍指南〕奴之魁曰㆓大奴㆒。

【大度】1761 タイド 腹が大きいこと。大きな度量。大量。大韻。〔史記、高祖紀〕常有㆓大度㆒、不㆑事㆓家人生產作業㆒。〔漢書、揚雄傳上〕自有㆓大度㆒、非㆓聖哲之書㆒不㆑好也。〔後漢書、鄧禹傳〕沈深有㆓大度㆒。〔潘岳、西征賦〕豁達大度而已也。

〔大度川〕1762 タイドセン 地名。㊀滿洲遼寧省輝南縣の南。淸の宣統の間、海龍府の地を析つて輝南廳を置き、尋いで治を謝家店に移す。㊁滿洲遼寧省東豐縣治。もと海龍廳の東圍場の墾地。

【大冬】1763 ダイトウ ㊀眞冬。極寒の氣節。〔漢書、董仲舒傳〕陰常居㆓大冬㆒、而積㆓於空虛不用之處㆒。㊁稻の名。〔閩書、南產〕春種夏熟曰㆓早稻㆒、秋種冬熟曰㆓晚稻㆒、歲一熟者曰㆓大冬㆒。

【大東】1764 ダイトウ ㊀東のはて。極東。〔詩、小雅、大東〕小東大東、杼柚其空。〔詩、魯頌、閟宮〕奄㆓有龜蒙㆒、遂荒㆓大東㆒。〔箋〕大東、極東也。㊁詩經、小雅、谷風之什の篇名。東國が役に苦しんで財を傷ふことを刺つた詩。〔詩、小雅、大東序〕大東、刺㆑亂也、東國困㆓於役㆒、而傷㆓於財㆒、譚大夫作㆓是詩㆒、以告㆑病焉。㊂唐、趙袛(10―37171・・281)の字。㊃我が國の稱。大東世語を見よ。

〔大東溝〕1765 ダイトウコウ 地名。㊀滿洲遼寧省安東縣の西。銀と石炭との產地。㊁滿洲遼寧省安東縣の西南の沿海、鴨綠江口の港で、日淸戰爭に淸國海軍の大敗した處。淸米通商條約、及び日淸通商航海條約により、安東と同時に開いて商港とし、木材集散地となる。

〔大東世語〕1766 ダイトウセイゴ 書名。五卷。服部南郭撰。南朝宋の劉義慶の世說新語に倣ひ、我が國古來の逸話・奇行を漢文で記したもの。其の目は、卷一は德行・言語・政事、卷二は文學・方正・雅量・識鑒、卷三は賞擧・品藻・規箴・穎悟・夙慧・豪爽・容止、卷四は企羨・傷逝・棲逸・賢媛・術解・巧藝・寵禮・姙誕、卷五は簡傲・排調・輕詆・假譎・黜免・忿狷・尤悔・紕漏・仇隙。大東は日本を指していふ。

〔大東帝國〕1767 ダイトウテイコク 日本國の稱。亞細亞の東端に位する帝國の意。

〔大東本夥〕1768 ta^{4} tung^{1} pen^{2} huo^{3} 大資本家の、自身で事業を經營してゐる者。

【大統】1769 ダイトウ ㊀天子の位。大系統。皇統。〔史記、伯夷傳〕王者大統。〔後漢書、光武紀下〕更始因㆓其資㆒以據㆓帝位㆒、而不㆑能㆔奉㆓承大統㆒。〔蜀志、諸葛亮傳〕奉㆓承大統㆒。〔白居易、册㆓新廻鶻可汗㆒文〕祇嗣㆓大統㆒。㊁國家統一の大業。大統未㆑集を見よ。㊂僧官の名。隋、置く。比丘を統べる官。〔佛祖統紀、五十一〕隋文帝敕㆓僧猛㆒爲㆓隋國大統㆒。㊃西魏の文帝、拓跋寶炬の年號。(535―551)

〔大統領〕1770 ダイトウリヤウ 共和國の元首。人民から選擧せられて、或年限の間、其の位に處る。英語 President の譯語。

〔大統曆〕1771 ダイトウレキ 明一代の曆法。太史院使劉基が太祖に戊申大統曆を上り、洪武三年、大統民曆が作られた。これは元の至元十八年を曆元とする郭守敬の授時曆を其のまま採用したものであるが、其の後、漏刻博士元統が、授時曆から消長法を省き、洪武十七年甲子の歲を曆元とする大統曆法通軌を著して其の大成を計つた。卽ち、一年を三百六十五日二四二五とする點は同じであるが、これより百年に就いて約一萬分の一づつを減ずるという消長法を省いたもので、其の後二百六十餘年間、明末に至るまで回回曆と共に採用せられた。これは中國固有の曆法の最後のもので、其の後、屢〻天象と曆面との不一致を來し、西洋曆學を參考して改正する必要を認められ、萬曆十六年八月、大統曆と回回曆とを廢し、湯若望等によつて造られた崇禎曆が宣布せられたが、其の施行を見ずして明は滅亡した。我が國では貞享元年、澁川春海の上表によつて、一度此の大統曆を採用したが、同年中に貞享曆に代へられた。〔續文獻通考、象緯考〕明太祖洪武十七年閏十月、監令元統著㆓大統曆通法軌四卷㆒。

〔大統未㆑集〕1772 ダイトウイマダナラズ 國家統一の大業が未だ成就せぬこと。〔書、武成〕惟九年、大統未㆑集、予小子、其承㆓厥志㆒。〔傳〕大業未㆑就。〔曾鞏、移㆓滄州㆒過㆑闕上㆑殿劄子〕至㆓于文王㆒、而大統未㆑集、武王成王、始收㆓太平之初㆒。

〔大統歷志〕1773 ダイトウレキシ 書名。八卷、附錄一卷。淸、梅文鼎撰。文鼎は算術に精しく、康熙年中、明史を脩めるに當つて此の書を作り、明の大統曆を推衍注釋して其の得失の原流を明かにした。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【大董】1774 ダイトウ 深く藏すること。〔史記、扁鵲倉公傳〕年六十已上、氣當㆓大董㆒。〔注〕集解曰、徐廣曰、董、謂㆓深藏㆑之。

【大頭】1775 ダイトウ 山名。河南省林縣の西北。一に殿子山ともいふ。〔晉書、庾袞傳〕石勒攻㆓林慮㆒、父老謀曰、此有㆓大頭山㆒、可㆓共保㆑之、袞乃相與登㆓於大頭山㆒、而田㆓於其下㆒。

〔大頭蝦〕1776 ダイトウカ 頭の大きなえび。頭ばかり大きくて肉も味もないところから、奢侈をして貧乏になるものを譏る語となる。〔通俗編、禽魚、大頭蝦〕陳白沙集、有㆓大頭蝦說㆒云、客問、鄉譏㆓不㆑能㆑儉以取㆑貧者㆒曰㆓大頭蝦㆒、父老憂㆓子弟之奢靡㆒而戒㆑之、亦曰㆓大頭蝦㆒、何謂也、予告㆑之曰、蝦有㆓挺鬚瞠目㆒、首長㆓于身㆒、集㆓數百尾㆒烹㆑之、而不㆑能㆑供㆓一啜之羹㆒者、名㆓大頭蝦㆒、甘美不㆑足、豐㆓乎外㆒、餒㆓乎中㆒、如㆓人之不㆑務㆑實者㆒然、鄉人借㆑是、以明㆓譏戒㆒、言雖㆓鄙俗㆒、明理甚當。

〔大頭芥〕1777 ta^{4} t'ou^{2} chieh^{4} 野菜の名。蕪菁。かぶら。大頭菜に同じ。

〔大頭魚〕1778 ta^{4} t'ou^{2} yü^{2} 魚の名。鯛。

〔大頭菜〕1779 ta^{4} t'ou^{2} ts'ai^{4} 野菜の名。かぶら。大頭芥に同じ。

〔大頭兒〕1780 ta^{4} t'ou^{2} êrh ㊀かしら。頭。㊁幸福。㊂金持。お歷歷。

〔大頭賊〕1781 ta^{4} t'ou^{2} tsei^{2} 魚の名。目高。

〔大頭痛〕1782 ダイトウツウ ダイヅツウ ㊀腦病の一種。〔十書、大頭痛〕夫大頭痛者、雖㆑爲㆑在㆓身之上㆒、熱邪伏㆓於內㆒、又感㆓天地四時非㆑節、瘟疫之氣所㆑著、所㆔以成㆓此疾㆒、至㆓於潰裂㆒、膿出而又染㆓他人㆒、所㆔以謂㆓之疫癘㆒也。㊁罽賓國にある山名。〔漢書、西域傳上〕又歷㆓大頭痛・小頭痛之山、赤土・身熱之阪㆒。

〔大頭腦〕1783 ダイヅナウ 肝要の意。頭腦が人體中で最も大切な所であるからいふ。至極のかなめ。主眼點。〔朱子語錄〕要㆘見㆓得一大頭腦㆒分明㆖、便于㆓操舍之間㆒、有㆓用㆑力處㆒。

〔大頭羊〕1784 ta^{4} t'ou^{2} yang^{2} 新疆の山野に群生してゐる緬羊の一種。羳羊。

〔大頭領〕1785 ta^{4} t'ou^{2} ling^{3} 親方。頭分。〔水滸傳、五回〕這桃花山大頭領、坐在寨裏。

〔大頭龍驤〕1786 ダイトウリヨウジヤウ 前秦の苻雄(9―30825・・16)の綽號。頭が大きかつたからいはれる。〔十六國春秋、前秦錄〕東海王雄、字元才、洪之季子也、建武中、拜㆓龍驤將軍㆒、雄頭大足短、故軍中稱爲㆓大頭龍驤㆒。

【大藤】1787 タイトウ　峽の名。廣西省桂平縣の西北、武宣・象・蒙山・桂平・平南・藤等の縣の間に介在する。四山環繞し、數百里に亙る。峽口の大藤が江上に跨り、猺人は之に藉りて江を渡る。明の英宗の時、韓雍、大藤峽の猺を平げ、峽中の大藤を斷つて斷藤峽と名づけ、後又、王守仁・蔡經等が先後して之を討つた。〔讀史方輿紀要、廣西、潯州、桂平縣〕大藤峽、府西北一百五十里、大山夾レ江、自二象州武宣縣一而南、綿亙數百里、山勢險峻、叛猺出二沒於此一、峽口有二大藤一、加レ梁、成化三年、猺賊作レ亂、都御史韓雍討レ之、斷二其藤一、因名二斷藤峽一、正德十二年、都御史陳金、奏改爲二永通峽一。

【大竇】1788 タイトウ　大きなあな。大きな出入口。〔禮、禮運〕故禮義也者、人之大端也、云云、所下以達二天道一、順中人情上之大竇也。〔注〕竇、孔穴也。〔疏〕孔穴開通、人之出二入禮義一者、亦是人之所二出入一、故云、達二天道一順二人情一之大竇也。

【大同】1789 タイドウ　㊀差別をつけぬ。よく同化する。又、天地と一體になる。又、其のこと。〔列子、黃帝〕和者大二同於物一。〔莊子、在宥〕大二同乎涬溟一。〔呂覽、有始〕天地萬物一人之身也、此之謂二大同一。㊁太古、大道の行はれたといふ世。極めて公平で平和な盛世。〔禮、禮運〕孔子曰、大道之行也、與二三代之英一、丘未二之逮一也、而有レ志焉、大道之行也、天下爲レ公、選二賢與一レ能、講レ信修レ睦、故人不三獨親二其親一、不三獨子二其子一、使二老有レ所レ終、壯有レ所レ用、幼有レ所レ長、矜寡孤獨廢疾者、皆有レ所レ養、男有レ分、女有レ歸、貨惡三其弃二於地一也、不三必藏二於己一、力惡二其不一レ出二於身一也、不二必爲一レ己、是故謀閉而不レ興、盜竊亂賊而不レ作、故外戶而不レ閉、是謂二大同一。〔注〕同、猶二和也、平也一。㊂占で、人の考と龜筮の意と合致すること。〔書、洪範〕汝則從、龜從筮從、卿士從、庶民從、是之謂二大同一。〔傳〕人心和順、龜筮從レ之、是謂二大同於吉一。〔蔡傳〕人與二龜筮一皆從、是之謂二大同一。㊃よく人心が和同すること。〔顏氏家訓、風操〕今日天下大同。㊄多少の差異はあつても大體に於て同じであること。大同小異を見よ。〔後漢書、董卓傳〕雖二小違一、要當二大同一。㊅年號。㋑梁、武帝、蕭衍の時。（535－546）㋺遼、太宗、耶律德光の時。（947）㋩第五十一代平城天皇の御代。（806－810）㋥滿洲國時代の年號。（1932－1933）㊆府名。唐、雲州を置き、尋いで大同團練使を置き、升せて節度使とす。遼、建てて西京とし、大同府とす。清は渾源・應の二州、及び大同・懷仁・山陰・陽高・天鎭・廣靈・靈丘の七縣を管轄す。今の山西省大同縣。〔讀史方輿紀要、山西〕大同府、禹貢冀州地、春秋時、爲二北狄所居一、云云、五代唐置二大同軍節度一、石晉歸二於契丹一、置二西京一、改二雲州一曰二大同府一、今因レ之。〔清史稿、地理志〕山西、大同府、領二州二、縣七一、大同・懷仁・渾源州・應州・山陰・陽高・天鎭・廣靈・靈丘。㊇縣名。㋑遼、置く。漢の平城縣、北周以後の雲中路、明・清の山西省大同府治。山西省雁門道に屬す。平綏鐵路の沿線。〔讀史方輿紀要、山西、大同府〕大同縣、漢平城地、屬二雁門郡一、云云、開元二十年、復置二雲州一、又改置二雲中縣一、遼析二雲中一置二大同縣一、元以二雲中縣一省入レ焉。〔清史稿、地理志〕山西、大同府、縣七、大同。㋺唐、置き、宋、廢す。故治は廣西省平南縣の東北。〔讀史方輿紀要、廣西、潯州府、平南縣、陽川廢縣〕大同廢縣、在二縣北五十里一、唐貞觀初、析二武林縣一置、屬二藤州一、尋屬二燕州一、七年改屬二龔州一、亦宋初廢、今爲二大同鄉一。㋩唐、置き、宋、廢す。山西省の境に當る。㊈城の名。內蒙古烏喇特旗の西北。唐には永濟柵、或は永清柵といふ。〔隋書、長孫晟傳〕十九年、染干因レ晟奏、雍閭作攻、具欲レ打二大同城一。㊉鎭の名。㋑明の九邊の一。衞八、所七、堡五百八十有三を所屬とす。山西省の邊外の長城をいふ。〔讀史方輿紀要、州域形勢、明〕設二九邊一以衞二中夏一、遼東、云云、大同、屬二衞八・所七・堡五百八十有三一。㋺湖北省蘄春縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、蘄州〕大同鎭、州北一百八十里、接二河南固始縣界一、有二巡司戍守一。㋩滿洲黑龍省肇州縣の北。⓫明の僧。上虞の王氏の子。字は一雲。號は別峯。持律甚だ嚴。紹興の寶林寺の住持となり、傳徒甚だ多くなり、明の太祖はために無遮大會を設けた。洪武の初、卒す。著に天柱稿・寶林類編がある。〔大明高僧傳、三〕。⓬字號。㋑明、洪異（**6－17402**‥1）の字。㋺明、朱同（**6－14424**‥486）の字。

【大同江】1790 ダイドウカウ　朝鮮の川の名。源を平安南道劍山の附近に發し、西南流して平壤に至り、又、西流して黃海に入る。朝鮮五大江の一で、灌漑の利が多い。大通江ともいふ。舊名は浿水。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮〕大通江、在二平壤城東一、亦曰二大同江一、舊名浿水、史記、秦修二遼東故塞一、至二浿水一爲レ界、云云、明萬歷二十一年、李如松援二朝鮮一至二平壤一、倭悉レ力拒守、云云、別將楊元軍二平壤一、扼二大同江一以通二餉饋一、是也。

【大同行】1791 ta^{4} t‘ung^{2} hang^{2}　一流の錢莊。匯劃莊の別名。

【大同軍】1792 ダイドウグン　行政區劃の名。唐の大中三年、河東節度を分つて大同軍節度を置き、雲州を治とす。山西省大同縣治。〔讀史方輿紀要、山西〕大同府、禹貢冀州地、春秋時爲二北狄所一レ居、云云、唐志、大中三年、置二大同軍節度一治二雲州一、割二河東雲蔚朔三州一隸焉、後廢置不レ一。

【大同書】1793 ダイドウシヨ　書名。清、康有爲撰。公羊傳の春秋三世の義を信じて、傳聞の時代、卽ち衰亂の世、所聞の時代、卽ち升平の世、所見の時代、卽ち太平の世と、夫〻禮運篇の據亂・小康・大同の三世に符節させ、太平大同の世を以て理想とし、先づ小平小康の時代から漸進して太平大同の世に至るべきことを說いたもの。要するに、其の說は禮記の禮運篇に公羊說を附加して、大同の說を以て、孔子を民主共和主義の祖とし、孔子を以て革命の一道士としたもので、其の思想は今日の社會主義・世界主義の思想に近いので、清朝時代には憚る所があつて公にすることが出來なかつたが、民國八年、改めて印行せられた。其の目は、甲、入二世界一觀二衆苦一、乙、去二國界一合二大地一、丙、去二級界一平二民族一、丁、去二種界一同二人類一、戊、去二形界一保二獨立一、己、去二家界一爲二天民一、庚、去二產界一至二極樂一。

【大同山翁】1794 タイドウサンヲウ　元、本誠（**6－14421**‥194）の號。

【大同之風】1795 ダイドウノフウ　大同の世の風氣。大同の㊁を見よ。〔白居易、忠敬質文損益〕盡レ善之道、大同之風、不レ專二於上古一矣。

【大同小異】1796 ダイドウセウイ　少しの相違はあつても大體に於ては同じなこと。〔莊子、天下〕大同而與二小同一異、此之謂二小同異一、萬物畢同畢異、此之謂二大同異一。〔朱熹、中庸章句〕此與二論語文一、意大同小異、記有二詳略一耳。

【大同團結】1797 ダイドウダンケツ　㊀分立する多くの黨派が或る目的の爲に、小異を捨てて團結すること。㊁明治二十年、後藤象二郞の唱道によつて、時の排外黨及び急進自由黨員の合同した黨派の名。

【大同石窟寺】1798 ダイドウセキクツジ　寺の名。山西省大同縣治の西方郊外の雲崗山、（一名、武州寨）に在る。北魏時代の遺物で、寺の後には天然の岩石に彫刻した大小無數の佛像があつて精妙巧緻を極め、其の手法は當時盛に輸入せられた印度西域式の影響を受けてゐる。河南省洛陽の南方三十支里にある龍門の石佛と共に、中國古代美術鑑賞上極めて貴重な代表的作品である。

【大峒】1799 タイドウ　山名。㊀廣東省曲江縣の東北。宋の余靖に大峒山序がある。〔讀史方輿紀要、廣東、韶州府、曲江縣、錢石山〕大峒山、在二府東北八十五里一、宋余靖記略云、自レ州至二水行七十里一、得二月華山一、捨レ舟道二樵徑一、又十五里、乃至二大峒一、其山磅礴聳峭、秀倚二天際一、絶頂之上、千里在レ目、澗聲泠泠、清入二毛骨一、眞可二遺レ世而絶レ俗也。㊁廣西省修仁縣の南。諸猺の居る所。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府、修仁縣、羅仁山〕大峒山、在二縣南一百里一、山嶺層疊、猺獞出沒。

【大童】1800 オホワラハ　㊀結髮が解けて亂れ垂れること。被髮。亂髮。〔平治物語、待賢門軍〕冑も落ちて大童になり給ふ。㊁事に臨んで專心に働くさま。

【大特】1801 ta^{4} t‘ê^{4}　非常に。

【大特哩袞】1802 タイトクリコン　遼の官名。皇族の政教を掌る官。漢代の宗正の職に相當する。

【大得】1803 ダイトク　㊀大いに利得をする。又、非常な利得。大利。〔易、明夷〕南狩之志、乃大得也。㊁すぐれた德。大德。〔莊子、知北遊〕彼至則不レ論、論則不レ至、明見無レ値、辯不レ若レ默、道不レ可レ聞、聞不レ若レ塞、此之謂二大得一。

【大德】1804 ダイトク ❶立派な德。又、それを身に體してゐる人。〔書、仲虺之誥〕王懋昭㆓大德㆒、建㆓中于民㆒。〔左氏、昭、二十六〕陳氏雖㆑無㆓大德㆒、而有㆑施㆓於民㆒。〔孟子、離婁上〕天下有㆑道、小德役㆓大德㆒、小賢役㆓大賢㆒。〔淮南子、說林訓〕大德若㆑不㆑足。❷大きなはたらき。天地造化の仕事。〔易、繫辭下〕天地之大德曰㆑生。〔中庸〕小德川流、大德敦化。❸大節。重要な節度。〔論語、子張〕子夏曰、大德不㆑踰㆑閑、小德出入可也。〔集注〕大德小德、猶㆑言㆓大節小節㆒。❹大きな德澤。高大なめぐみ。〔詩、小雅、谷風〕忘㆓我大德㆒、思㆓我小怨㆒。〔左氏、襄、二十五〕今陳忘㆓周之大德㆒。〔國語、周語中〕以㆓小怨㆒置㆓大德㆒也。❺大位。高位。〔管子、立政〕大德不㆓至仁㆒。❻年號。㋑元、成宗、鐵穆耳の時。(1295－1307) ㋺梁の交趾、南越帝、李賁の年號、天德の一稱。(544－548) ㋩南宋の時、西夏の崇宗、李乾順の時。(1135－1138) ❼冠位十二階の第一位。推古天皇十一年制度。❽［佛］ダイトコ 高僧の稱。〔僧輝記〕行滿德高曰㆓大德㆒。

〖大德不㆑官〗1805 ダイトクハクワンナラズ 大德を有する人、卽ち聖人は、或る職務だけを善くする人とは異り、無爲にして人を治め感化する。官は職務を分掌する役人。〔禮、學記〕大德不㆑官、大道不㆑器。〔疏〕大德、謂㆓聖人之德㆒也、官、謂㆓分㆑職在㆑位者㆒、聖人在㆑上、垂拱無爲、不㆑治㆓一官㆒、故云㆓大德不㆑官也、不㆑官而爲㆓諸官之本㆒。

〖大德滅㆓小怨㆒〗1806 ダイトクハセウヱンヲメッス 大きな德澤は小さな怨を消滅させる。〔左氏、定、五〕王曰、大德滅㆓小怨㆒道也。

〖大德昌國州圖志〗1807 ダイトクシヤウコクシウヅシ 書名。七卷。元、馮復京敦薦等撰。首に三圖があつたから圖志といふが、圖は今佚す。〔四庫提要、史、地理類〕。

〖大德之人必得㆓其壽㆒〗1808 ダイトクノヒトハカナラズソノジユヲウ 大德のある人はきつと長壽を保つ。德が大きいから天祐を得るのである。〔中庸〕大德必得㆓其位㆒、必得㆓其祿㆒、必得㆓其名㆒、必得㆓其壽㆒。

【大慝】1809 ダイトク 大惡人。〔韓愈、平淮西碑〕大慝適去、稂莠不㆑薅。

【大毒】1810 タイドク ダイドク 甚しい毒。〔楞嚴經〕大毒小毒、所㆑不㆑能㆑害。

【大屯】1811 タイトン 地名。❶雲南省蒙自縣の西。❷雲南省宣威縣。銅を產す。❸滿洲遼寧省海城縣の東北。❹滿洲吉林省長春縣の西南。❺滿洲熱河省朝陽縣の南、小淩河の濱。

【大墩】1812 タイトン 大きく築いた堤。〔六部成語、工部、大墩、注解〕河岸積㆑土成㆑墩、以備㆓堵築之用㆒。

【大內】1813 ダイナイ ダイダイ ❶天子の寢所。太內。〔品字箋〕凡人寢室皆曰㆓臥內㆒、而天子之禁中、則曰㆓大內㆒、大、言㆓其廣㆒、亦言㆓其尊㆒、謂㆑非㆔諸王以下之所㆓敢比擬㆒也。❷天子の御所。禁裏。おほうち。宮城をいふ。〔舊唐書、德宗紀〕天寶元年四月癸巳、生㆓於長安大內之東宮㆒。〔楊太眞外傳、下〕及㆑至㆔移㆓入大內甘露殿㆒、悲㆓悼妃子㆒、無㆓日無㆒㆑之。❸天子の府藏を司る官。又、京師の府藏。〔史記、景帝紀〕以㆓大內㆒爲㆓二千石㆒、置㆓左右內官㆒屬㆓大內㆒。〔漢書、嚴助傳〕越人名爲㆓藩臣㆒、貢酎之奉、不㆑輸㆓大內㆒。〔注〕應劭曰、大內、都內也、師古曰、百官公卿表云、治粟屬官有㆓都內令丞㆒也。〔左思、魏都賦〕同賑㆓大內㆒、控㆓引世資㆒。

〖大內記〗1814 ダイナイキ 古の官名。中務省に屬し、詔勅宣命の文を草し、位記を書くことを掌る。唐名は柱下起居郞。〔職員令〕中務省、云云、大內記二人、掌㆘造㆓詔勅㆒、凡御所記錄事㆖。〔職原抄〕中務省、內記、大一人、唐名、柱下起居郞。

〖大內山〗1815 オホウチヤマ 禁中。皇居。〔源氏物語、末摘花〕諸共に大うち山は出でつれど。

〖大內桐〗1816 オホウチギリ 五三の桐の紋樣。〔丹波與作、上〕大內ぎり、覆ひ掛けたる挾箱。

〖大內本〗1817 オホウチボン 古版本の一種。天文頃、周防山口の城主大內氏が出版した書物。內地で刊行したものと、紙を明國に送つて印刷せしめたものとある。刊行したものは、三重韻・山谷詩注・集千家分類杜工部詩・首書十八史略・五經正文・四書大全の六種。大內版。山口版。

〖大內裏〗1818 ダイダイリ 古、平城京又は平安京の宮城の稱。宮城の御所。おほうち。禁裏。禁中。〔續詞花集、雜、下〕大內裏をあづかりて守り侍りけるに。

〖大內松岳〗1819 オホウチシヨウガク 京都の人。本姓は青木。名は澄。字は元徵。號は東庵・松岳。京都の儒醫。元祿十三年九月十二日歿す、年五十一。著に竹雨齋集がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

〖大內熊耳〗1820 オホウチユウジ 陸奧の人。名は承裕。字は子綽。通稱は忠太夫。略稱は餘熊耳。號は熊耳。官は肥前唐津藩儒。古文辭に巧。安永五年四月二十八日歿す、年八十。著に家世遺聞・作文一班・明四先生文範・熊耳文集・熊耳文集後篇・熊耳遺稿がある。〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄、後篇〕。

【大腦】1821 ダイナウ 腦髓の一部。頭蓋の前部に位して、全腦の大部分を占め、意識思慮の本源をなす。

【大難】1822 タイナン ダイナン ❶大きなわざはひ。大きな因難。大災難。大災。〔埤雅〕管子曰、墜岸千仞、人之所㆓大難㆒也。〔易、明夷〕內文明而外柔順、以蒙㆓大難㆒。〔公羊、昭、二十五〕慶子免㆓君於大難㆒矣。〔國語、吳語〕不㆑陷㆓於大難㆒。〔呂覽、執一〕吳起傾㆓造大難㆒、身不㆑得㆑死焉。〔史記、周紀〕不㆑知㆓大難㆒。〔淮南子、泰族訓〕犯㆓大難㆒而不㆑懾。〔漢書、霍光傳〕遭㆓大難㆒躬秉㆑誼。❷ダイダ 臘(冬至後の第三の戌の日)の前一日を大難といひ、疫を拂ふ時とする。おにやらひ。追儺。大儺(1493)の❶に同じ。〔禮、月令〕季冬之月、云云、命㆓有司㆒大難、旁磔、出㆓土牛㆒以送㆓寒氣㆒。

〖臨㆓大難㆒而不㆑懼〗1823 タイナンニノゾミテオソレズ 大きな難儀に直面してもおそれない。〔莊子、秋水〕臨㆓大難㆒而不㆑懼者、聖人之勇也。

【大貳】1824 ダイニ ❶太宰府の次官。帥の下、少貳の上に位するもの。權帥を置かぬ時に置く。唐名は都督大卿。〔職原抄〕太宰府、大貳、唐名、都督大卿、有㆓權帥㆒者、不㆑任㆓大貳㆒、任㆓大貳㆒者、不㆑任㆓權帥㆒、雖㆑無㆓其謂㆒、已爲㆓流例㆒、多是以㆓名家人㆒任㆑之。❷明治四年八月に置かれた鎭臺の次官。卽ち、帥の下、少貳の上に位し、帥の職掌を輔佐する奏任官。同六年一月九日、廢す。〔明治職官沿革表、一〕大貳。

【大日】1825 ダイニチ ［佛］大日如來の略。

〖大日經〗1826 ダイニチキヤウ ［佛］書名。七卷。唐、善無畏譯。大毘盧遮那成佛神變加持經。毘盧遮那は日の別名。祕密部胎藏界眞言の本經。

〖大日子〗1827 オホヒス ❶姓氏。〔拾芥抄〕。❷オホコ 姓氏。〔姓名錄〕。

〖大日如來〗1828 ダイニチニヨライ ［佛］密教の本尊で、梵名を摩訶毘盧遮那(mahāvairocana)といふ。摩訶は大、毘盧遮那は光明遍照の義で、遍照如來ともいふ。又、毘盧遮那は日の別名であるから、大日と譯す。又、最高顯廣眼藏如來ともいふ。內は眞法界を照し、外は一切衆生を照して障礙なく、萬德具備、常住不變、諸佛如來の心性を攝めつくし、一切衆生の心中に本來法爾として存在するをいふ。〔大日經疏、一〕梵音毘盧遮那者、是日之別名、卽除暗遍明之義也、然世間日則別㆓方分㆒、若照㆓其外㆒不㆑能㆑及㆑內、明在㆓一邊㆒不㆑至㆓一邊㆒、又唯在㆑晝光不㆑燭㆑夜、如來智慧日光則不㆑如㆑是、遍㆓一切處㆒作㆓大照明㆒矣、無㆑有㆓內外方所晝夜之別㆒、云云、世間之日、不㆑可㆑爲㆑喩、但取㆓是少分相似㆒、故加以㆓大名㆒、曰㆓摩訶毘盧遮那㆒也。〔金剛頂經義訣〕梵音毘盧遮那、此翻㆓最高顯廣眼藏如來㆒、毘者最高顯也、盧遮那者廣眼也、先有㆑翻、爲㆓遍照如來㆒、又有㆑翻、爲㆓大日如來㆒、此蓋略而名義闕也。

〖大日本國〗1829 ダイニツポンコク 日本國の美稱。〔和漢三才圖會、地理類〕大日本國、當㆓北極星出㆑地三十五度㆒。

〖大日本史〗1830 ダイニホンシ 書名。三百九十七卷。德川光圀撰。明曆三年史局を設けて著手。光圀は未完の中に歿したが其の後も事業は繼續せられ、着手から二百五十年後の明治三十九年に完成した。神武天皇から後小松天皇に至る歷史を記したもの。本紀七十三卷・列傳一百七十卷・志一百二十六卷・表二十八卷から成る。神功皇后を皇妃に列し、大友皇子(弘文天皇)を本紀に揭げ、神器の所在に據つて南朝を正統と定めたこと等は、德川光圀の最も心を用ひたところで、本書編纂の目的が皇統の正閏を正し、人臣を是非し、尊王の大義を明かにするに在つたのであるから、筆鋒頗る端嚴で、勤王思想を鼓舞し、明治維新の大業を成すに與つて大功があつた。

〖大日本帝國〗1831 ダイニツポンテイコク 明治憲法制定後、昭和二十年に至るまでの、日本國の正稱。

〖大日本史論贊〗1832 ダイニホンシロンサン 書名。十卷。安積

澹泊撰。德川光圀が大日本史を編述してから、亨保年間に至つて幕府は屢〻促して史を獻ぜしめた。時に論贊は未だ成らなかつたので、澹泊に命じて之を草せしめて幕府に進獻せしめた。然るに文化六年、水戸藩主德川治紀の時、臣子の分として皇祖皇宗の得失を論ずるは事體宜しからずとの說に由つて、大日本史の中から論贊を削除した。

【大任】1833 タイニン ❶重い役。重任。重大な任務。大役。大重。〔左氏、成、十六〕國有二大任一、焉得レ專レ之。〔孟子、告子下〕天將レ降二大任於是人一也、必先苦二其心志一、勞二其筋骨一。〔呂覽、壅塞〕臣不肖、不レ足三以當二此大任一也。〔李陵、答二蘇武一書〕希當二大任一。❷タイジン 殷の人。摯國の仲女。任姓。周の王季の妃で、文王の母。太任。〔詩、大雅、思齊〕思齊大任、文王之母。〔詩、大雅、大明〕大任有レ身、生二此文王一。〔傳〕大任、仲任也。❸字號。㋑宋、施鉅(**5－13629**‥19)の字。㋺宋、兪觀能(**1－1437**‥91)の字。㋩明、令狐錕(**1－387**‥52)の字。

【大寧】1834 タイネイ ❶大いにやすらか。又、其のこと。太寧。〔漢書、揚雄傳上〕瞰二帝唐之嵩高一兮、脈二隆周之大寧一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕協二神道一而大寧。〔宋書、樂志四〕晉世寧四海平、普天安樂永大寧。〔南史、陸襄傳〕襄爲二鄱陽內史一、在レ政六年、郡中大寧。❷路の名。遼の中京大定府、金の北京路、今の內蒙古の喀喇沁部で、滿洲の熱河・平泉・赤峰・朝陽等の地を含む。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見〕大寧衞、古營州地、夏商時冀州地、周爲二幽州地一、云云、遼主隆緒統和二十五年、始城二其地一、實以二漢戶一、曰二中京大定府一、金貞元初、改曰二北京路一、元至元七年、改曰二大寧路一。❸縣名。㋑北周、置く。漢の北屈縣の地。今、山西省に屬す。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、隰州〕大寧縣、州西南九十五里、漢北屈縣地、後魏爲二五城縣地一、後周析二置大寧縣一、屬二汾州一。〔淸史稿、地理志〕山西、隰州、直隸州、縣二、大寧。㋺明、置く。宋の大寧監。今、四川省に屬す。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕大寧縣、府東北三百二十里、本太昌縣地、宋開寶六年、以二縣之鹽井地一置二大寧監一、元至元二十年、升爲二大寧州一、明洪武九年、降爲レ縣。〔淸史稿、地理志〕四州、夔州府、縣六、大寧。

〖大寧場〗1835 タイネイチヤウ 製鹽場の名。四川省巫溪縣の北に在り、白鹿鹽井がある。又、商業が殷盛で、一に大寧廠ともいふ。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、大寧縣、袁溪鎭〕縣北二十里有二大寧鹽課司一、掌二鹽稅一。

〖大寧枕〗1836 ta^4 ning^2 chen^3 らくまくら。〔紅樓夢、十回〕於是家下媳婦們、捧過大寧枕來。

〖大寧先生〗1837 タイネイセンセイ 元、敬鉉(**5－13303**‥80)の尊稱。

【大熱】1838 タイネツ ❶大暑。高溫。〔越絕書、越絕外傳枕中〕方二夏三月之時一、大熱不レ至、則萬物不レ能レ成。〔杜牧、早秋詩〕大熱去二酷吏一、淸風來二故人一。〔韓琦、苦熱詩〕大熱極二炎苦一、赫日燒二扶桑一。❷體溫の非常に高いこと。

【大年】1839 タイネン ❶としより。高年。長壽。〔莊子、逍遙遊〕小知不レ及二大知一、小年不レ及二大年一。❷明、方旴(**5－13620**‥109)の改名。❸字號。㋑唐、王龜(**7－20823**‥209)の字。㋺宋、阮昌齡(**11－41569**‥62)の字。㋩宋、吳億(**2－3365**‥43)の字。㋥宋、吳壽昌(**2－3365**‥650)の字。㋭宋、趙令穰(**10－37171**‥937)の字。㋬宋、馬永卿(**12－44572**‥696)の字。㋣宋、楊億(**6－15112**‥35)の字。㋠明、徐尊生(**4－10110**‥543)の字。㋷清、吳鼐(**2－3365**‥282)の字。❹オホトシ ㋑元年。㋺一年の最後の日。大晦日。〔伽羅女草子〕大年の夜。

〖大年寄〗1840 オホドシヨリ 德川時代の役名。大老。老中の上に位す。

〖大年朝〗1841 ta^4 nien^2 chao^1 正月元日。

〖大年夜〗1842 ta^4 nien^2 yeh^4 大晦日の夜。除夜。

〖大年三十〗1843 ta^4 nien^2 san^1 shih^2 除夕。大晦日。

〖大年初一〗1844 ta^4 nien^2 ch‘u^1 i^1 正月元旦。

〖大年小夜〗1845 ta^4 nien^2 hsiao^3 yeh^4 歲末除夜の前日と除夜との總稱。

〖大年底下〗1846 ta^4 nien^2 ti^3 hsia 年末。歲末。

【大然】1847 タイネン 清の僧。著に淸原志略がある。〔四庫提要、七十七〕。

【大農】1848 タイノウ ❶漢代の官府の名。長官は大農令。〔史記、平準書〕水衡・小府・大農・太僕、各置二農官一。❷官名。㋑古代、農事を掌つた官。或は大田といふ。〔史記、三代世表〕文王之先爲二后稷一、堯知二其賢才一、立以爲二大農一。㋺漢代の官。大農令の略省。〔史記、孝景帝紀〕更二命治粟內史一爲二大農一。〔史記、河渠書〕是時鄭當時爲二大農一。❸農民。大は美稱。〔六韜、文韜、六守〕大農・大工・大商、謂二之三寶一、農一二其鄉一則穀足、工一二其鄉一則器足、商一二其鄉一則貨足、三寶各安二其處一、民乃不レ慮。❹多くの農地を所有し、人を雇傭して耕作し、自己は坐して其の利を收める者。又、さうして行ふ農業。❺多くの農地を耕作する者。おほびやくしやう。

〖大農令〗1849 タイノウレイ 漢の官名。秦から繼承した治粟內史といふ名稱を、景帝の時、大農令と改め、武帝の時、更に大司農と改めた。〔史記、鄭當時傳〕遷爲二大農令一。〔漢書、百官公卿表上〕治粟內史、秦官、掌二穀貨一、有二兩丞一、景帝後元年、更二名大農令一、武帝太初元年、更二名大司農一。

〖大農組織〗1850 タイノウソシキ 機械の力による大仕掛けの農業組織。

【大坡】1851 タイハ ❶唐代の諫議(**10－35724**‥5)の別稱。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一、云云、諫議爲二大坡一。❷宋の蘇軾をいふ。子の蘇過を小坡といふに對す。〔宋史、蘇過傳〕蘇過有二斜川集二十卷一、其思子臺賦・颶風賦、早行二於世一、時稱爲二小坡一、蓋以レ軾爲二大坡一也。

【大波】1852 タイハ おほなみ。大浪。巨濤。〔爾雅、釋水〕大波爲レ瀾、小波爲レ淪。〔楚辭、九章、悲回風〕淩二大波一而流レ風兮、託二彭咸之所レ居。〔韓愈、岳陽樓別二竇司直一詩〕軒然大波起、宇宙隘而妨。〔孟郊、石淙詩〕朔風入二空曲一、涇流無二大波一。

【大破】1853 タイハ 大いに破る。又、大いにやぶれる。〔史記、范睢傳〕齊所二以大破一者、以三其伐レ楚而肥二韓魏一也。

【大壩】1854 タイハ ❶大きなゐせき。〔福惠全書、教養部、修水利〕于二下流一築二大壩一、寸寸而壅レ之。❷地名。㋑雲南省騰衝縣の西北。緬甸に出る道。㋺蒙古庫倫の東南。張家口から庫倫に至る鐵道の沿線。㋩四川省の境。❸を見よ。❸軍民府の名。元、置く。四川省敍永縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、永寧宣撫司〕太平長官司、宣撫司西南二百五十里、地名二大壩一、北連二都掌一、南迫二芒布一、西接二烏蒙一、東抵二永寧一、延袤二百餘里、元置二大壩軍民府一、云云、改二大壩一爲二太平川一、設二太平長官司一。

【大馬】1855 タイバ ❶大きな馬。〔唐書、文德皇后傳〕后歸寧、舅高士廉妾、見二大馬二丈立二后舍外一、懼占レ之、遇二坤之レ泰一、卜者曰、后妃象也。〔劉基、賣柑者言〕坐二高堂一、騎二大馬一、醉二醇醴一而飫二肥鮮一。❷官名。司馬をいふ。〔莊子、知北遊〕大馬之捶レ鉤者、年八十矣、而不レ失二毫芒一。〔釋文〕大馬、司馬也。〔疏〕大馬、官號、楚大司馬也。

〖大馬色〗1856 ダマスク 都會の名。Damas の音譯。又、ダマスクス(Damascus)ともいふ。シリヤの首府。パラダ河及び其の運河の灌漑する肥沃の平野に位し、四圍に果園花圃があり、古から世界の樂園と稱せらる。

〖大馬爬〗1857 ta^4 ma^3 p‘a^2 四つばひになつて倒れる。

〖大馬全刀的〗1858 ta^4 ma^3 ch‘üan^2 tao^1 tê 仰仰しく。いかめしく。

【大罵】1859 タイバ 大いにののしる。大謗。〔任昉、奏二彈劉整一文〕整及母幷奴婢等六人、來共至二范屋中一、高聲大罵。

〖大罵其罵〗1860 ta^4 ma^4 ch‘i^2 ma^4 大いに罵る。

【大沛】1861 タイハイ 大きな澤。大澤。〔後漢書、崔駰傳〕猶下逸禽之赴二深林一、蝱蚋之趣中大沛上。

【大杯】1862 タイハイ 大きなさかづき。大盃(1864)に同じ。

【大拜】1863 タイハイ 宰相に除せられること。又、宰相をいふ。〔北夢瑣言〕薛昭緯侍郞、恃二才與レ地、常以二宰輔一自許、切二於大拜一。〔稱謂錄、內閣大學士、大拜〕池北偶談、本朝以二學士一大拜者二人、高揚李公、戊戌大拜、兼二工部尚書一、孝感熊公、乙卯大拜、兼二刑部尚書一、李年三十四、熊年四十一、案、以二大拜一稱二宰相一、自レ昔已然、今尤尚二此稱一。

【大盃】1864 タイハイ 大きなさかづき。大杯。巨杯。大白。〔狂言、鱸庖丁〕其の大盃で。

【大茀】1865 タイハイ　彗星。〔揚雄、劇秦美新〕大茀經亘、巨狄鬼信之妖發。〔注〕善曰、茀、彗星也、穀梁傳曰、星孛入二北斗一、孛之爲レ言、猶レ茀也。

【大悖】1866 タイハイ　大いにもとる。〔易、頤〕象曰、十年勿レ用、道大悖也。

【大旆】1867 タイハイ　大きな旗。天子の大旆は、日・月、及び升龍・降龍が畫いてある。〔儀禮、覲禮〕天子乘レ龍載二大旆一、象二日・月・升龍・降龍一。〔左氏、僖二十八〕城濮之戰、晉中軍風二於澤一、亡二大旆之左旃一。

【大敗】1868 タイハイ　㊀大いに敵をやぶる。〔莊子、逍遙遊〕大敗二越人一。㊁大いにまける。又、大まけ。大敗北。〔易、復〕用行レ師、終有二大敗一。〔左氏、桓五〕蔡・衞・陳皆奔、王卒亂、鄭師合以攻レ之、王卒大敗。〔六韜、龍韜、兵徵〕此大敗之徵也。〔史記、吳王濞傳〕吳大敗、士卒多飢死。

【大牌】1869 タイハイ　大きなかけふだ。大きな標牓。〔東京夢華錄〕正月七日、云云、三門各有三綵結二金書大牌一、中曰二都門道一、左右曰二左右禁衞之門一、上有二大牌一、曰、宣レ和與レ民同レ樂。

【大擺】1870 ta⁴ pai³　大威張り。傲然たる態度。

【大貝】1871 タイバイ　㊀貝の一種。車渠シヤコに似たもの。〔爾雅、釋魚、蟦小而橢、疏〕案、大傳云、西伯既戡レ黎、紂囚二之羑里一、散宜生之二江淮之浦一、取二大貝一、大如二大車之渠一、以贖二其辠一、是也。〔書、顧命〕大貝・鼖鼓在二西房一。〔傳〕大貝、如二車渠一。㊁新の王莽の時の貨幣。貝貨五品の一。〔漢書、食貨志下〕大貝四寸八分以上、二枚爲二一朋一、直二二百一十六。

【大梅】1872 タイバイ　大きな梅。〔風土記〕清江酒大梅、如二數間屋一。

〔大梅山館〕1873 タイバイサンクワン　清、姚燮(**3**―**6202**‥80)の室名。

〔大梅一絲和尚語錄〕1873′ タイバイイツシヲシヤウゴロク　佛書名。五卷。又、佛頂國師語錄ともいひ、佛頂國師一絲文守和尚一代の語錄を集めたもの。靈元天皇の敕序を附す。和尚は岩倉具堯の第三子で、澤庵の高足。正保二年に寂す、年三十八。

【大禖】1874 タイバイ　子授けの神の祠。〔漢書、王莽傳中〕以二新都侯東第一爲二大禖一、歲時以祀。

【大賣】1875 ta⁴ mai⁴　大安賣。

【大方】1876 タイハウ　㊀大きな四角。〔老子、四十一〕大方無レ隅、大器晚成、大音希聲、大象無レ形。㊁非常に方正なこと。〔柳宗元、懲咎賦〕蹈二乎大方一兮、物莫二能嬰一。㊂地。大地。〔淮南子、俶眞訓〕能戴二大員一者履二大方一。〔注〕言二能戴レ天履レ地之道一。〔管子、內業〕人能正靜、乃能戴二大圜一而履二大方一。〔纂詁〕尹知章云、大圜、天也、大方、地也。㊃かたよらないといふ意。各〻をして其の分を得させること。〔莊子、徐無鬼〕知二大均一、知二大方一。〔注〕休レ之、使三各得二其分一、則萬方俱得、所三以爲二大方一也。㊄大なる法則。根本的な法則。〔陸機、五等諸侯論〕有下以見二綏世之長御一、識中人情之大方上。〔注〕善曰、大方、法也、呂氏春秋曰、凡耕之大方、力者欲レ柔。㊅正しい道。正しい方法。大道(1545)の㊃に同じ。見レ笑二大方一を見よ。㊆茶の名。浙江・安徽に產す。清代には朝廷の用とした。㊇城の名。貴州省大定縣治。明の崇禎九年の建立。〔貴州通志〕明天啓三年、王三善討二水西一、逼二大方賊一、焚二其巢一、遁入二火灼堡一、崇禎二年、督臣朱燮元圍二大方一、賊降。〔大定府志〕明崇禎九年、土目阿烏謎等納レ土、建二大方城一、尋復叛據、清設二大定府一、建二府治於大方城一。㊈字號。㋑宋、劉承規(**2**―**2224**‥1072)の字。㋺元、溥圓(**7**―**17957**‥2)の字。㋩服部誼の號。服部大方(**5**―**14345**‥115)を見よ。㊉ta⁴ fang¹　㋑鷹揚な。㋺地味な。

〔大方醫〕1877 タイハウイ　大方脈に同じ。

〔大方脈〕1878 タイハウミヤク　成人を診療する醫者。小兒科を小方脈といふに對す。〔輟耕錄、醫科〕醫有二十三科一、考二之聖濟總錄一、大方脈雜醫科・小方脈科・風科・產科、兼二婦人雜病科一、眼科、口齒、兼二咽喉科一、正骨、兼二金鏃科・瘡腫科・鍼灸科・祝由科一、則通而兼言。

〔大方之家〕1879 タイハウノイヘ　世間の識者。見レ笑二大方一を見よ。

〔見レ笑二大方一〕1880 タイハウニワラハル　智識が淺薄で、世の識見ある人に笑はれること。〔莊子、秋水〕秋水時至、百川灌レ河、云云、河伯欣然自喜、以二天下之美一爲二盡在一レ己、順レ流而東、行至二於北海一、東面而視、不レ見二水端一、於レ是焉、河伯始旋二其面目一、望レ洋向レ若而歎曰、云云、今我睹二子之難一レ窮也、吾非レ至二於子之門一則殆矣、吾長見レ笑二於大方之家一。〔疏〕方、猶レ道也。〔釋文〕司馬云、大方、大道也。

【大邦】1881 タイハウ　大きな國。大國。轉じて、國の美稱。特に中國をいふ。〔書、武成〕大邦畏二其力一、小邦懷二其德一。〔傳〕言二天下諸侯、大者畏レ威、小者懷一レ德。〔詩、小雅、采芑〕蠢爾蠻荊、大邦爲レ讎。〔詩、大雅、板〕价人維藩、大師維垣、大邦維屛、大宗維翰。〔後漢書、朱浮傳〕豈有下身帶二三綬一、職典二大邦一、而不レ顧二恩義一、生レ心外畔者上乎。〔後漢書、黃琬傳〕江夏大邦、而蠻多士少。

【大庖】1882 タイハウ　㊀天子の庖厨。〔詩、小雅、車攻〕徒御不レ驚、大庖不レ盈。〔集傳〕大庖、君庖也。㊁非常に巧みな料理人。〔呂覽、貴公〕大匠不レ斲、大庖不レ豆。〔淮南子、說林訓〕大庖不レ豆。

【大放】1883 タイハウ　大いに放棄する。〔書、康誥〕惟威惟虐、大放二王命一、乃非二德用乂一。〔傳〕於二其小臣、外正官之吏一、幷爲二威虐一、大放二棄王命一、乃由レ非二德用治一之故。

〔大放無拘〕1884 ta⁴ fang⁴ wu² chü¹　向う見ずの。無鐵砲な。

【大砲】1885 タイハウ　兵器の名。おほづつ。火砲。砲熕。大礮。〔守汴日志〕安二大砲百位一。

〔大砲手〕1886 タイハウシユ　大砲をうつ兵卒。〔守汴日志〕大砲手二百人。

【大舫】1887 タイバウ　もやひぶね。舟を二隻以上並べて連結したもの。〔南史、駱瑒傳〕瑒出鎭二郢州一、合二十餘船一爲二大舫一、於二中立亭池一、植二荷芰一、每二良辰美景一、賓僚並集、泛二長江一而置酒、亦一時之勝賞焉。

【大袍】1888 タイハウ　大きい上衣。〔後漢書、禮儀志上〕皆服二都紵大袍單衣、皁緣領袖中衣一。

【大烹】1889 タイハウ　盛饌。盛大な饗應。大馳走。大亨(270)の㊁に同じ。

【大報】1890 タイハウ　㊀大いに報いる。あまねく報いる。〔禮、郊特牲〕大報レ天、而主レ日也。〔注〕大、猶レ偏也、天之神、日爲レ尊。〔庾信、周祀圓丘歌、昭夏〕大報反レ命、居レ陽兆レ日、六變二鼓鐘一、三和二琴瑟一。〔宋史、樂志七〕大報二上帝一、盛德升聞、醴齊良潔、粢盛苾芬。㊁大いに知らせる。大いに報知する。〔宋書、樂志二〕沈禁深淪、告成大報。㊂ta⁴ pao⁴　文章體の新聞紙。言文一致體の小新聞を「白話報」又は「小報」といふに對す。

〔大報恩寺〕1891 ダイハウオンジ　寺の名。江蘇省江寧縣城(南京)の南。三國、吳の赤烏の閒、康僧が舍利を將來し、吳の大帝は之が爲に建初寺及び阿育王塔を建てたが、元末の兵火に燬けたので、明の永樂中、之を再建して大報恩寺の額を賜うた。規模が宏壯で、塔の高さは百餘丈あつたが、洪楊の時、再び燬けた。〔江南通志〕大報恩寺、寺在二江寧府聚寶門外一、古長干里、吳赤烏閒、康僧會致二舍利一、吳大帝神二其事一、置二建初寺及阿育王塔一、江南塔寺之始也、晉太康閒、劉薩阿得二舍利於長干里一、復建二長干寺一、晉簡文帝、敕二長干一、造二三級塔一、梁武帝詔修、宋改二天禧寺一、建二聖感塔一、元改二天禧慈恩旌忠寺一、元末燬二於兵一、明永樂十年、敕建二梵宇一、悉準二宮闕一、造二九級琉璃塔一、賜二額大報恩寺御製碑記一、宣德再賜二御製碑一。

【大彭】1892 タイハウ　㊀古の國の名。彭祖の封ぜられた國。今の江蘇省銅山縣。西方の大彭山は其の跡であると傳へられ、山の左右を大彭村といふ。〔史記、五帝紀、天下歸レ舜、云云、彭祖、注〕正義曰、彭祖自二堯時舉用一、歷二夏殷一、封二於大彭一。㊁複姓。〔國語、鄭語〕大彭豕韋爲二商伯一矣。〔注〕大彭、陸終第三子、曰レ籛、爲二彭姓一、封二于大彭一、謂二之彭祖一、彭城是也。

【大幫】1893 ta⁴ pang¹　多數の團體。

【大寶】1894 タイハウ　㊀貴いたからもの。至寶。〔周禮、天官、天府〕凡國之玉鎭大寶器藏焉。〔荀子、儒效〕夫故有二師法一者、人之大寶也。〔魏志、衞覬傳〕夫鹽、國之大寶也。〔唐書、陸贄傳〕捐二小寶一、固二大寶一也。㊁天子の位。帝位。寶祚。〔易、繫辭下〕天地之大德曰レ生、聖人之大寶曰レ位。㊂自分の身をいふ。〔呂覽、先己〕凡事之本、必先治レ身、嗇二其大寶一。〔注〕大寶、身也。㊃富貴榮華をいふ。〔張協、七命〕今將下榮レ子以二天人之大寶一、悅レ子以中縱レ性之至娛上。〔注〕向曰、天人之大寶、謂二富貴榮華一也、縱レ性之至娛、謂二聲色滋味一也。㊄

年號。㋑梁の簡文帝、肅綱の時。一に太寶に作る。（550－551）㋺五代、南漢の後主、劉鋹の時。（958－971）㋩宋の南詔の段正興稱す。㋥明の英宗の代、大越（安南）の太宗、黎麟（黎元龍）の時。（1440－1442）㋭明の世宗の代、妖人蔡伯貫の僭年號。（1565）㋬四十二代文武天皇の御代。（701－704）㊅山名。㋑滿洲遼寧省鐵嶺縣の東南。其の北に小寶山がある。〔遼史、地理志二〕貴德州有二陀河大寶山一。㋺四川省彭縣。銅を産す。

『大寶龜』1895 タイハウキ　トに使ふ大きな龜の甲。〔書、大誥〕寧王遺二我大寶龜一、紹二天明一、卽レ命、曰、有三大艱二于西土一、西土人亦不レ靜、越レ茲蠢。

『大寶箴』1896 タイハウシン　文章の名。唐、張蘊古作。唐の太宗の卽位の初、張蘊古が中書省に在つて規鑑を致す爲に上つた書。全篇押韻の文。唐文粹・古文眞寶後集等に載す。〔唐書、謝偃傳〕直中書省張蘊古上二大寶箴一、其辭挺切、擢二大理丞一。〔張蘊古、大寶箴〕今來古往、俯察仰觀、惟辟作レ福、爲レ君實難。〔容齋五筆、張蘊古大寶箴〕唐太宗初卽レ位、直中書省張蘊古上二大寶箴一、凡六百餘言、遂擢二大理丞一、新唐史雖レ具二姓名於文藝謝偃傳末一、又不レ載二此文一、但云下諷レ帝以二民畏而未レ懷、其辭挺切上而已、資治通鑑僅載二其略一、云云、其文大抵不レ凡、既不レ爲二史所一レ書、故學者亦罕二傳誦一、蘊古爲レ丞四年、以レ無レ罪受レ戮、太宗尋悔レ之、乃有二覆奏之旨一、傳亦不レ書、而以爲二坐レ事誅一、皆失レ之矣、舊唐書全載二此箴一、仍專立レ傳、不レ知宋景文何爲削レ之也。

『大寶律』1897 タイハウリツ　文武天皇の大寶年間に大寶令と共に制定せられた律。六卷。概ね天武天皇の律に準據し、多少の修正を加へたもの。元正天皇の養老二年に修正せられて養老律といふ。

『大寶令』1898 タイハウリヤウ　文武天皇の大寶年間に制定せられた令。十一卷。概ね天武天皇の令に準據したもの。元正天皇の養老二年修正せられて養老令といふ。

『大寶積經』1899 タイハウシヤクキヤウ　［佛］書名。百二十卷。唐、菩提流志譯。寶積經ともいふ。大乘深妙の法を解說す。

『大寶法王』1900 タイハウハフワウ　元、八思巴（**2**－1450··560）の號。

【大礮】1901 タイハウ　大砲（1885）に同じ。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、定海縣〕威遠城、招寶俯二瞰縣城一、相隔不レ過二數十武一、賊一登據、置二大礮其上一、縣城可二不レ攻而破一。

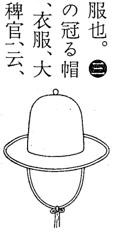
【大防】1902 タイバウ　㊀大きな隄防。〔爾雅、釋丘〕墳、大防也。〔周禮、考工記、匠人〕凡爲レ防、廣與レ崇方、其閷參分去レ一、大防外閷。〔注〕閷者薄二其上一。〔唐書、李適之傳〕開元中、爲二河南尹一、玄宗患三穀洛歲暴溢耗二徭力一、詔二適之一、以二禁錢一作二三大防一、曰二上陽・積翠・月陂一、自レ是水不レ能レ患。㊁山名。大房の㊅を見よ。㊂宋、樓鑰（**6**－15430··76）の字。㊃ ta^4 fang^2 法則。

【大房】1903 タイバウ　㊀牲の半體を盛る、玉で飾つた俎。祭器。〔詩、魯頌、閟宮〕毛炰胾羹、籩豆大房。〔箋〕大房、玉飾俎也。㊁城下の町で盜賊などの集まつて居る所。都市內にある盜賊の巢窟。〔宋史、王巖叟傳〕都城羣偸所レ聚、謂二之大房一、每區容二數十百人一、淵藪詭僻、不レ可二勝究一。㊂おやしき。〔紅樓夢、二十四回〕到二儞大房裏一。㊃大きな房室。主なへや。〔政事要略、七十、蠱毒厭魅反巫覡等〕依三父兄住二大房一、弟住二小房一耳。㊄宗族のこと。唐書、宰相世系表に大房・小房・第二房・第三房の號がある。俗に宗族を稱して某房とするのは此に本づく。〔唐書、宰相世系表〕崔氏定二著十房一、一曰、鄭州、二曰、鄢陵、三曰、南祖、四曰、清河大房、五曰、清河小房、六曰、清河青州房、七曰、博陵安平房、八曰、博陵大房、九曰、博陵第二房、十曰、博陵第三房、宰相二十三人。㊅山名。河北省房山縣の西北。小房山と並ぶ。一に大防山に作る。〔水經、聖水注〕防水出二大防山南一。〔魏書、地理志上〕良鄉縣有二大房山神一。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、涿州、房山縣〕大房山、縣西十五里、境內諸山、此山最爲二雄秀一、古碑云、幽燕之奧室也、云云、志云、山亦名二大防山一、亦曰二大房嶺一。

『大房身』1904 タイバウシン　地名。㊀滿洲遼寧省金縣の南。㊁滿洲遼寧省鳳城縣の南。㊂滿洲吉林省德惠縣の治。

【大望】1905 タイバウ タイマウ　㊀大いに怨む。望は怨。〔漢書、灌夫傳〕後蚡使三藉福請二嬰城南田一、嬰大望曰、老僕雖レ棄、將軍雖レ貴、寧可二以レ勢相奪一乎。〔注〕師古曰、望、怨也。㊁大きな希望。分に過ぎた願。〔運步色葉集〕大望。

【大帽】1906 タイバウ　㊀大きな帽子。〔五代史、前蜀世家〕王氏晚年、俗競爲二小帽一、僅覆二其頂一、俛レ首卽墮、謂二之危腦帽一、衍好戴二大帽一、每微服出二遊民閒一、民閒以二大帽一識レ之、因令二國中一皆戴二大帽一。㊁大帽子の㊀に同じ。〔事物紀原、冠冕首飾部、大帽〕大帽、野老之服也。㊂科擧の受驗者の冠る帽子。〔三才圖會、衣服、大帽圖說〕嘗見二稗官一云、國初、高皇幸レ學、見三諸生班二烈日中一、因賜二遮蔭帽一、此其制也、今起家科貢者則用レ之。㊃山名。㋑江西省尋鄔縣の南。連綿數百里に亙り、中に老虎隘がある。一に大望山に作る。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府、長寧縣〕大帽山、縣南二百里、與二廣東程鄉・平遠・和平・興寧・龍川等縣一接レ壤、山綿亙數百里、中有二老虎隘一、林木深阻、烏道三十里、羣盜窟二其閒一、多歷二年所一。㋺福建省閩侯縣の西南。古靈山。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、侯官縣〕方山、府南五十里、端方如レ几、云云、又西曰二古靈山一、羣峯奇峻、一名大帽、又名二席帽山一、有二石室甘泉諸勝一。㋩福建省詔安縣の東海の濱。宋末、丞相陸秀夫が帝昺を扶けて舟を泊めた處。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府、詔安縣、漸山〕大帽山、在二縣東一、負レ海最奇聳、宋末丞相陸秀夫・陳宜中、扶二帝昺一、泊二舟于此一。


大帽㊁
（三才圖會）

『大帽子』1907 ダイバウシ　㊀山閒草野の人の服。溫帽。大帽の㊁を見よ。〔中華古今注〕大帽子、本嵒叟草野之服也、至二魏文帝一、詔二百官一、常以二立冬日一貴賤通戴、謂二之溫帽一。㊁ ta^4 mao^4 tzŭ ㋑顯貴の人に賴つて勢を得るものをいふ。㋺清朝の禮帽。

【大謗】1908 タイバウ　非常なそしり。大罵。〔左氏、昭、二十七〕今又殺二三不辜一、以興二大謗一。〔淮南子、說林訓〕崔杼弑二其君一、而被二大謗一。

【大白】1909 タイハク　㊀極めていさぎよい。潔白の極致。又、其の人。〔老子、四十一〕大白若レ辱。〔河上公注〕大潔白之人、若二汙辱一、不二自彰顯一。〔莊子、寓言〕大白若レ辱、盛德若レ不レ足。〔疏〕夫人廉潔貞清者、猶如二汙辱一也。〔列子、黃帝〕大白若レ辱。㊁大きなさかづき。大杯。巨觥。白は、罰爵の名。〔左思、吳都賦〕里讌巷飮、飛レ觴擧レ白。〔注〕良曰、大白、杯名、有二犯レ令者一、擧而罰レ之。〔說苑、善說〕魏文侯與二大夫一飮レ酒、使三公乘不仁爲二觴政一、曰、飮不レ嚼者、浮以二大白一。〔硏北雜志〕蘇子美讀二漢書一、至下張良擊二秦始皇一誤中中副車上曰、惜乎擊レ之不レ中、遂滿引二一大白一。㊂殷の白旗の名。〔周禮、春官、巾車〕建二大白一、以卽レ戎。〔注〕大白、殷之旗、猶二周大赤一、蓋象二正色一也。〔禮、明堂位〕殷之大白、周之大赤。〔疏〕殷之大白、謂二白色旗一。㊃太白星。卽ち金星。太白。

『大白旗』1910 タイハクキ　旗の名。殷の旗。〔史記、周紀〕武王持二大白旗一以麾二諸侯一、諸侯畢拜二武王一。〔逸周書、克殷解〕王乃手二大白一、以麾二諸侯一。〔集訓校釋〕孔曰、大白、旗名、愚謂、通帛爲レ旜、夏大黑、殷大白、周大赤、皆以レ色別レ之。

『大白冠』1911 タイハククワン　太古の白布冠。大帛。〔禮、雜記上〕大白冠、緇布之冠、皆不レ蕤。〔注〕大白冠、大古之布冠也。〔說苑、反質〕齊桓公更制二練帛之衣、大白之冠一、朝一年而齊國儉也。

『大白硲』1912 オホシロハザマ　常陸國の地名。

【大伯】1913 タイハク　㊀大長官の意。伯は長。〔左氏、莊、十九〕楚人以爲二大閽一、謂二之大伯一。〔會箋〕伯、長也、不二敢呼レ閽、謂二之大伯一。㊁夫の兄をいふ。〔釋親考〕夫之兄爲二兄公一、丘氏曰、俗謂二之大伯一。㊂父の友をいふ。〔稱謂錄、父之友、大伯〕米芾與レ人帖、承二借賸員一、其人不レ名、自稱曰二張大伯一、是何老物、輒欲レ爲二人父之兄一、若爲二大叔一猶之可也。㊃酒屋で酒をはかる者をいふ。〔稱謂錄、酒、大伯〕東京夢華錄、凡店內賣二下酒一廚子、謂二之量酒博士一、至二店中小兒一、通謂二之大伯一。

『大伯子』1914 ta^4 pai^2 tzŭ　夫の兄。

【大帛】1915 タイハク　㊀白布の冠。大白冠。大帛不レ緌を見よ。㊁粗絲で織つた帛。諸侯の諒闇の服をつくる。〔左氏、閔、二〕衞文公、大布之衣、大帛之冠。〔注〕大帛、厚繒也、蓋用二諸侯諒闇之服一。㊂大きな布。〔徐陵、報二尹義尙書一〕伊昔梁朝、共二奉

嘉聘㆒、張㆓茲大帛㆒、處㆓彼高閎㆒。

〖大帛不㆑綏〗1916（タイハクハスイセズ）　白布の冠は凶服であるから飾を去り、その紐をつけぬ。綏は、冠のひも。〔禮、玉藻〕大帛不㆑綏、玄冠紫緌。〔注〕帛、當㆑爲㆑白、聲之誤也、大帛、謂㆓白布冠㆒也、不㆑綏、凶服去㆑飾。〔疏〕正義云、知㆓帛當㆑爲㆑白者、以㆘雜記云㆓大白冠・緇布冠皆不㆑綏、彼大白與㆓緇布㆒連文㆖、故知㆓此大帛謂㆓白布冠㆒也、左傳、閔二年、衞文公、大布之衣、大帛之冠、白繒冠也、與㆓大布㆒相對、與㆑此異也。

【大泊】1917（タイハク）　水の白いさま。一說に、ふなつきば。〔柳宗元、招㆓海賈㆒文〕其外大泊泙濔淪、終古迴薄旋㆓天垠㆒。

【大狛】1918（オホコマ）　姓氏。〔新撰姓氏錄考證、二十〕。

【大迫】1919（オホハサマ）　㊀地名。㋑陸前國の地名。㋺陸中國の地名。㋩（オホサマ）肥後國の地名。㊁（オホサコ　オホセコ）　姓氏。

【大舶】1920（タイハク）　大きな船。大船。大舟。〔佛國記〕多摩梨帝國、卽是海口、佛法亦具、法顯住㆑此二年、寫㆓經及畫像㆒、於㆑是載㆓商人大舶㆒、汎㆑海西南行、得㆓初冬信風㆒、晝夜十四日、可㆑到㆓師子國㆒。〔李白、淮陰書㆑懷寄㆓王宗城㆒詩〕沙墩至㆓梁苑㆒、二十五長亭、大舶夾㆓雙櫓㆒、中流鵝鸛鳴。

【大璞】1921（タイハク）　大きなあら玉。大きな玉璞。大璞不㆑完を見よ。

〖大璞不㆑完〗1922（タイハクハマツタカラズ）　人爲を加へた玉は寶貴ではあるが、自然の大璞の貴さは壞されてしまふ。祿位に制せられた人物も同樣に其の眞姿を失つて、其の形骸精神が害せられてゐる。〔戰國、齊策〕夫玉生㆓於山㆒、制則破焉、非㆑弗㆓寶貴㆒矣、然大璞不㆑完、士生㆓乎鄙野㆒、推選則祿焉、非㆑不㆓尊遂㆒也、然而形神不㆑全。

【大莫】1923（タイバク）　莊子が理想境として假設した國の名。莫は無の義。〔莊子、山木〕去㆓君之累㆒、除㆓君之憂㆒、而獨與㆑道游㆓於大莫之國㆒。〔注〕欲㆑令㆔蕩然無㆓有㆑國之懷㆒。〔疏〕大莫、猶㆓大無㆒也、言㆔天下無㆓能雜㆑之。

〖大莫干〗1924（タイバクカン）　複姓。〔魏書、官氏志〕大莫干氏、後改爲㆓郃氏㆒。〔萬姓統譜〕大莫干、周末元章後。

【大麥】1925（タイバク　オホムギ）　麥の一種。〔本草、大麥〕集解、恭曰、大麥、出㆓關中㆒、卽青稞、麥形似㆓小麥㆒而大、皮厚。〔後漢書、酷吏、董宣傳〕董宣云云、爲㆓洛陽令㆒、云云、在㆑縣五年、年七十四、卒㆓於官㆒、詔遣㆓使者㆒臨視、唯見㆔布被覆㆑屍、妻子對哭、有㆓大麥數斛、敝車一乘㆒、帝傷㆑之曰、董宣廉絜、死乃知㆑之、以㆔宣嘗爲㆓二千石㆒、賜㆓艾綬㆒、葬以㆓大夫禮㆒。

〖大麥郊〗1926（タイバクカウ）　地名。山西省隰縣の東北。

〖大麥苺〗1927（タイバクマイ）　苺の一種。くまいちご。ごしよいちご。〔本草、覆盆子〕釋名、茥・蒛葐・西國草・畏楞伽・大麥苺・插田藨・烏藨子、時珍曰、五月、子熟、其色烏赤、故俗名㆓烏藨・大麥苺・插田藨㆒。

【大幕】1928（タイバク）　㊀大きな幕。〔周禮、天官、掌次〕凡祭祀張㆓其旅幕㆒。〔注〕公卿以下、卽㆘位所㆓祭祀㆒之門外㆖、以待㆑事、爲㆑之張㆓大幕㆒。㊁大沙漠。大漠の㊁に同じ。〔史記、衞將軍驃騎傳〕約㆓輕齎㆒、絕㆓大幕㆒、涉獲㆓章渠㆒。〔漢書、五行志、中之下〕武帝遣㆓大將軍衞青霍去病㆒、攻㆓祁連㆒、絕㆓大幕㆒、窮㆓追單于㆒。〔注〕師古曰、幕、沙磧也。

【大漠】1929（タイバク）　㊀廣い砂はら。大沙漠。大幕。〔王維、使至㆓塞上㆒詩〕大漠孤煙直、長河落日圓。〔李華、二孝讚〕大漠黃沙、空山白雲。㊁ゴビ沙漠のこと。大磧ともいふ。東は興安嶺の西麓から起り、黑龍江省・察哈爾省・外蒙古・新疆省の邊境に至る。東北から西南に向ひ、凡そ三千六百里、南北は相去ること千二百里から二千二百里に至る。海面より高きこと約四千尺。一望涯なき廣漠の野である。但し、張家口から庫倫に至る間には驛站があり、水草が備はり、附近の各部が其の間に游牧を業としてゐる。每年四月頃、狂飆が屢〻起り、沙石を飛揚する。これを流沙といふ。此の沙漠によつて蒙古を二分し、漢南を內蒙古、漢北を外蒙古といひ、額魯特蒙古も亦分れて二となり、漢南を河西額魯特、漢北を金山額魯特といふ。〔後漢書、竇憲傳〕陵㆓高闕㆒、下㆓雞鹿㆒、經㆓磧鹵㆒、絕㆓大漠㆒。〔注〕沙土曰㆑漠。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕出㆓大漢之外㆒、入㆓彊胡之域㆒。

【大發】1930（タイハツ）　㊀大いに發する。〔漢書、常惠傳〕烏孫公主上書言、車師與㆓匈奴㆒爲㆑一、共侵㆓烏孫㆒、唯天子救㆑之、於㆑是、漢大發㆓十五万騎㆒、五將軍分㆑道出、以㆑惠爲㆓校尉㆒、持㆑節護㆓烏孫兵㆒。㊁ta^{4} fa^{1}　俄か分限。成金。

〖大發財〗1931　ta^{4} fa^{1} tsʻai^{2}　大金持ちとなる。

〖大發財主〗1932　ta^{4} fa^{1} tsʻai^{2} chu　俄か分限。成金。

【大拔】1933（タイバツ）　複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕大拔氏、突騎施首領、開元左武衞大將軍燕山王大拔石失卑、生㆓歸仁㆒、襲㆓燕山王㆒。

【大罰】1934（タイバツ）　重い懲罰。〔左氏、成、二〕貪㆑色爲㆑淫、淫爲㆓大罰㆒。

【大法】1935（タイハフ）　㊀重要な法則。おきて。大較。大憲。大象。大卞。〔書、洪範、傳〕洪、大、範、法也、言㆓天地之大法㆒。〔荀子、儒效〕其言行已有㆓大法㆒矣。〔漢書、杜欽傳〕爲㆓萬世大法㆒。〔後漢書、卓茂傳〕律設㆓大法㆒、禮順㆓人情㆒。㊁複姓。〔武進縣志〕大法欒霖、中㆓咸淳三年丁卯科榜㆒。㊂佛（ホフ）　㋑大乘微妙の佛法をいふ。〔法華經、序品〕今佛世尊、欲㆘說㆓大法㆒、云云、演㆗大法義㆖。㋺小乘の法に對して、大乘の法をいふ。㋩御修法に就いての大法。〔謠曲、葵上〕大法・祕法・醫療、さまざまの御事に候へども。

〖大法眼〗1936（ダイハフゲン）　南唐、文益(**5**—**13450**··53)の謚。

〖大法小廉〗1937（タイハフセウレン）　上下の臣が皆忠良なこと。大臣は法にかなひ、小臣は廉直なこと。〔禮、禮運〕大臣法、小臣廉、官職相序、君臣相正、國之肥也。

〖吹㆓大法螺㆒〗1938（オホホラヲフク）　大きい法螺貝を吹く。轉じて、大言を吐くことをいふ。〔金光明經、二〕吹㆓大法螺㆒、擊㆓大法鼓㆒、燃㆓大法炬㆒。

【大凡】1939（タイハン）　㊀おほよそ。あらまし。大旨(943)に同じ。〔禮、祭法〕大凡生㆓於天地之閒㆒者、皆曰㆑命。〔荀子、大略〕禮之大凡、事㆑生飾㆑歡也、送㆑死飾㆑哀也、軍旅飾㆑威也。〔史記、吳太伯世家〕大凡從㆓吳太伯㆒至㆓壽夢㆒十九世。〔漢書、食貨志下、大氏、注〕師古曰、氏、讀曰㆑抵、抵、歸也、大歸、猶㆑言㆓大凡㆒也。〔韓愈、送㆓孟東野㆒序〕大凡物不㆑得㆓其平㆒則鳴。㊁石川之淸の號。石川大凡(**8**—**24024**··477)を見よ。

〖大凡人〗1940（オホヨソビト）　普通の人。凡人。〔後撰和歌集、戀、四〕おほよそ人になして見ましや。

【大半】1941（タイハン）　㊀おほかた。ほとんど。なかばすぎ。過半。過半數。大袢。〔列子、說符〕丁壯者皆乘㆑城而戰、死者大半。〔戰國、齊策〕傷㆑弩破㆑車、罷㆑馬亡㆓矢之大半㆒。〔史記、淮陰侯傳〕龍且軍大半不㆑得㆑渡。〔淮南子、覽冥訓〕殫㆓盡大半㆒。〔注〕大半、過半也。〔吳志、華覈傳〕據㆓九州之地㆒、有㆓大半之衆㆒。〔陸機、辨亡論下〕彊寇敗績宵遁、喪㆓師大半㆒。〔李白、明堂賦〕沓㆓蒼穹之絕垠㆒、跨㆓皇居之大半㆒。〔白居易、商山路有㆑感詩〕所㆑經多舊館、大半主人非。㊁三分の二をいふ。大半小半を見よ。

〖大半小半〗1942（タイハンセウハン）　三分の二を大半といひ、三分の一を小半といふ。〔通俗編、數目、大半小半〕周禮司裘注、侯中丈四尺者、鵠方四尺六寸大半寸、侯中一丈者、鵠方三尺三寸少半寸、疏云、三分寸之二、是大半寸也、三分得㆓一分㆒、名爲㆓少半寸㆒、漢書膠西王傳、削㆓其國㆒去㆓大半㆒、張晏注亦云、三分之二爲㆓大半㆒、一爲㆓小半㆒。

【大汎】1943（タイハン）　大いにひろい。〔沈約、大言應令詩〕隘㆓此大汎庭㆒、方知㆓九垓局㆒。

【大伴】1944（オホトモ）　我が國の上代、道臣命を祖とする部民で、武官の家として皇室に仕へた。〔古事記、中〕爾大伴連等之祖、道臣命、久米直等之祖、大久米命二人、召㆓兄宇迦㆒。

【大判】1945（タイハン）　㊀大いに判斷する。〔文心雕龍、總術〕才之能通、必資㆑曉㆑術、自㆑非㆘圓㆓鑒區域㆒、大㆗判條例㆖、豈能控㆓引淸源㆒、制㆓勝文苑㆒哉。㊁（オホバン）㋑天正の頃から江戶幕府の末まで發行せられた、楕圓板狀の大きな金銀貨。卽ち、慶長大判金・元祿大判金・享保大判金・天保大判金・南鐐大判・桐大判銀・橘姬大判銀の類。一枚を以て小判金十枚に當てた。〔金銀圖錄、七〕。㋺紙の、通常のより寸法の大なるものの稱。

〖大判事〗1946（タイハンジ）　古、刑部省の上級の判事。唐名は司直・大理正・司直評事・決斷令・理正司。〔職員令〕刑部省、云云、大判事二人、掌㆘案㆓覆鞫狀㆒、斷㆓定刑名㆒、判㆗諸爭訟㆖。〔職原抄〕刑部省、大判事一人、唐名、司直・大理正・司直評事・決斷令・理正司。

【大坂】1947（タイハン）　大きな坂。大阪。〔說文〕隴、天水大坂也。

【大阪】1948 タイハン ❶大きなさか。大坂。〔易林〕兩輪自輪、南上二大阪一。❷オホサカ 都市の名。今の大阪市。室町時代には小坂、或は大坂と呼ばれたが、明治に至つて大阪と改む。明治二十二年、市制が施行せられてから、兩度の大擴張にて、現在十五區を包有する大市域となる。

〔大阪格子〕1949 オホサカガウシ 戸の横棧の閒に、格子を細かく組んだ小障子をはめたもの。

〔大阪定番〕1950 オホサカヂヤウバン 江戸幕府の職名。大阪に在住して城中の警備を掌る。大阪城番。

【大板】1951 タイハン ❶大きな板。大版。〔詩、大雅、靈臺、虡業維樅、箋〕虡也、栒也、所三以懸二鍾鼓一也、設二大版于上一、刻レ畫以爲レ飾。❷罪人を打つひらたい棒。〔紅樓夢、十四回〕已拖出去挨二了二十大板一、還要二進來叩謝一。

〔大板兒書〕1952 ta^4 pan^3 êrh shu^1 講釋師の一種。

【大版】1953 タイハン 牆を築く板。〔爾雅、釋器〕大版謂二之業一。〔注〕築レ牆版也。

【大班】1954 ta^4 pan^1 外國商館の支配人。

【大畔】1955 オホクロ 下總國の地名。

【大袢】1956 タイハン あらまし。大半(1941)に同じ。〔鶡冠子、道端〕富者觀二其所一レ予、足二以知一レ仁、貴者觀二其所一レ擧、足二以知一レ忠、觀二其大袢一。

【大藩】1957 タイハン ❶大きな藩。領地の大きな諸侯。〔南史、明山賓傳〕昭明太子、聞二築レ室不一レ就、有レ令曰、明祭酒雖下出二撫大藩一、擁レ旌推レ轂、珥レ金拖上レ紫、而恆事屢空、聞二構レ宇未一レ成、今送二薄助一。〔舊唐書、盧祖尙傳〕交州大藩、去レ京甚遠。❷明治元年二月十一日、祿高を以て諸藩を三等に區別したものの一。同三年九月十日、改めて十五萬石以上の藩を稱し、同四年七月十四日、藩を廢して縣を置くこととなり廢せられた。〔明治三年九月十日太政官布告、藩制〕藩分爲レ三物成、拾五萬石以上を大藩とし、五萬石以上を中藩とし、五萬石未滿を小藩とす。

〔大藩侯〕1958 タイハンコウ 官名。明代、布政使の異稱。〔稱謂錄、布政使、大藩侯〕李日華官制備攷、布政司、左右從二品、稱二大方伯・大藩侯一。

【大番】1959 オホバン ❶殿上人が殿上に當直すること。小番(**4**－**7473**‥1086)の對。〔樋口祕記〕殿上は昔雲客のつめ所也、是れを大番といひ。❷諸國の武士が交替して京都に駐在し、宮城を護衞する役。王朝の頃からあつて、もと三年であつたが、源賴朝の時、六箇月となり、後また三箇月となつた。おほばんやく。〔明月記〕天福元年十一月三日、御法事夜、僧房之童、如二女姿一、昇二堂上一、大番武士搦。

〔大番衆〕1960 オホバンシユウ 諸國から交替に上京して、禁裏を護り、洛中を巡警する武士。大番の❷を見よ。〔砂石集、二、上〕五條の橋に大番衆とおぼしき武士。

〔大番席〕1961 オホバンセキ 德川時代に、旗本の扶持高二千石未滿から廩米二百俵までの者。

〔大番組〕1962 オホバングミ 德川時代に交替で江戸・京都・大阪の三城を守つた役。

【大萬】1963 タイバン ❶億をいふ。きはめて多いこと。〔漢書、劉向傳〕營二起邑居一、期レ日迫レ卒、功費二大萬百餘一。〔注〕應劭曰、大萬、億也、大、巨也。〔漢書、匈奴傳下〕往者、圖二西域一、制二車師一、置二城郭一、都護三十六國、費歲以二大萬一計。❷山名。貴州省銅仁縣の南。〔元史、地理志六〕思州軍民安撫司、大萬山・蘇葛辦等處。〔讀史方輿紀要、貴州、銅仁府、大萬山長官司、新坑山〕大萬山、在二司南三里一、司以レ此名。

〔大萬谷落〕1964 ダイバンコクラク 府の名。宋の開寶の閒、蠻酋の普景が內附し、羅甸國を析つて大萬谷落總管府を置く。貴州省貴陽縣の北。嘉定中、今の貴陽縣治に移す。

【大盤】1965 タイバン 漢代、天子崩御の時、尸の腐敗を防ぐ爲に、冰を盛つて尸牀の下に置く槃。大槃。夷槃(**3**－**5852**‥126)を見よ。〔禮記、喪大記〕君設二大盤一造レ冰焉、大夫設二夷盤一造レ冰焉、士倂二瓦盤一無レ冰。〔注〕禮自二仲春一之後、旣襲旣小斂、先內二冰盤中一、乃設二牀於其上一、不レ施レ席而遷レ尸焉、秋涼而止。

〔大盤石〕1965′ タイバンジヤク 大きな盤石。堅固なことにいふ。大磐石。〔廬山記〕峯頭有二大盤石一。

【大槃】1966 タイバン 大盤の❶に同じ。〔周禮、天官、凌人、大喪共二夷槃冰一、注〕漢禮器制度、大槃廣八尺、長丈二尺、深三尺、漆赤レ中。

【大磐】1966′ タイバン 金の人。大臭の子。本名は蒲速越。宋を伐つた功により符寶郎となり、拱衞直都指揮使に遷る。〔金史、八十〕。

【大比】1967 タイヒ ❶三年ごとに民の衆寡を調査すること。今の國勢調査の類。〔周禮、秋官、小司寇〕及二大比一登二民數一、自二生齒一以上、登二于天府一。〔注〕大比、三年大數二民之衆寡一也。❷三年每に官吏の成績を考査すること。〔周禮、地官、鄕大夫〕三年則大比、攷二其德行道藝一、而興二賢者能者一。〔疏〕三年一閏、天道小成、則大安二比當鄕之內一。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕大比是宜。❸科擧をいふ。〔書言故事大全、科第類〕科擧年、謂二大比之秋一。❹鄕試のこと。〔紅樓夢、一回〕且喜三明歲正當二大比一。

【大伾】1968 タイヒ 山名。❶河南省濬縣の東南。一に黎山・黎陽山・青壇山ともいふ。史記、夏紀には大邳に作る。〔書、禹貢〕至二于大伾一。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、濬縣〕大伾山、縣東二里、周五里、高四十丈有奇、峯巘秀拔、若レ倚二屛障一、孔安國曰、山再成曰レ伾、李巡曰、山再重曰レ英、一重曰レ邳、伾、與レ邳同也、云云、今亦名二黎陽一、云云、又名二青壇山一。❷河南省汜水縣の西北。大澗が九曲してゐる故に、九曲山ともいふ。上に成皐の舊城がある。

【大邳】1968′ タイヒ 山名。大伾の❶に同じ。〔史記、夏紀〕東過二雒汭一、至二于大邳一。

【大庇】1969 タイヒ 大いにかばふ。大いにおほふ。〔左氏、昭、元〕子盍下亦遠績二禹功一、而大庇上民乎。〔王巾、頭陀寺碑文〕開二八正之門一、大庇二交喪一。〔杜甫、茅屋爲二秋風一所レ破歌〕安得二廣廈千萬閒一、大庇二天下寒士一倶歡レ顏。

【大批】1970 ta^4 pʻi^1 大量。多數。

〔大批貨〕1971 ta^4 pʻi^1 huo^4 大口の貨物。大量の品。

〔大批售出〕1972 ta^4 pʻi^1 shou^4 chʻu^1 大口に捌く。大量に賣出す。

【大岯】1973 タイヒ 山の名。大伾の❶に同じ。〔張衡、東京賦〕厎柱輟レ流、鐔以二大岯一。〔注〕善曰、尙書曰、導レ河至二於厎柱一、東過二大岯一。

【大非】1974 タイヒ 川の名。青海省の青海の西にあり、一名を布喀といふ。〔讀史方輿紀要、陝西、西寧鎭〕大非川、在二鎭西一、唐十道圖、大非川在二青海一、南烏海・星宿海・柏海、並在二其西一、互相灌注、唐貞觀八年、李靖敗二吐谷渾於大非川一、後爲二吐蕃所一レ據、云云、唐志、川在二積石軍西一、胡氏曰、河口、積石河口也、自二唐鄯州鄯城縣一西行三百餘里、卽大非川矣。

〔大非川〕1975 ダイヒセン 青海の西に在る青海省最大の河。今の布喀河。〔讀史方輿紀要、陝西、西寧鎭〕大非川、在二衞西一、唐十道圖、大非川、在二青海南一、烏海・星宿海・柏海、並在二其西一、互相灌注。

【大飛】1976 タイヒ 大いに飛ぶ。〔論衡、道虛〕今無二小升之兆一、卒有二大飛之驗一。

【大被】1977 タイヒ ❶夜着。〔說文〕衾、大被也。〔蔡邕、協和婚賦〕長枕橫施、大被竟レ牀。❷明、張澤(**4**－**9812**‥531)の字。

【大悲】1978 ダイヒ 佛 佛の三德の一。廣大な慈悲心。悲は衆生の苦惱を救ふこと。〔涅槃經、十一〕三世諸世尊、大悲爲二根本一、云云、若無二大悲一者、是則不レ名レ佛。

〔大悲經〕1979 ダイヒキヤウ 佛 書名。五卷。高齊、那連提耶舍譯。佛が涅槃に臨んで舍利を供養する功德、死後結集の法を教へた書。

〔大悲呪〕1980 ダイヒジユ 佛 千手千眼觀世音菩薩の內證功德を說いた呪。大悲心陀羅尼ともいふ。〔千手經〕若能稱二誦大悲呪一、婬欲火滅心除。

〔大悲乳〕1981 ダイヒニユウ 佛 如來が衆生を救ふことを、慈母の乳に喩へていふ。〔海錄碎事、道釋、經〕如來慈母育二衆生一、普飮二衆生大悲乳一。

〔大悲菩薩〕1982 ダイヒボサツ 佛 觀世音(**10**－**34993**‥126)の異稱。〔觀經定善義〕因三大悲菩薩入二開華三昧一、疑障乃除。

〔大悲心陀羅尼經〕1983 ダイヒシンダラニキヤウ 佛 書名。一卷。唐、伽梵達磨譯。千手千眼觀世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經の略。

【大費】1984 タイヒ 大いにつひやす。又、大きなつひえ。甚しく心身を勞すること。〔老子、四十四〕甚愛必大費、多藏必厚亡。〔戰國、秦策〕三國攻レ秦入二函谷一、秦王謂二樓緩一曰、三國之兵深矣、寡人欲下割二河東一而講上、對曰、割二河東一、大費也、免二於國患一、大利也。

【大尾】1985タイビ ❶大きい尻尾。〔易林、大畜之第二十六、遯〕大尾小腰、重不レ可レ搖。❷最終。おほぎり。結尾。大團圓。

【大美】1986ダイビ ❶大いに美しいもの。道。〔莊子、知北遊〕天地有二大美一而不レ言、四時有二明法一而不レ議、萬物有二成理一而不レ說。❷大なる美點。〔淮南子、道應訓〕忘二人之大美一。〔漢書、陳湯傳〕論二大功一者不レ錄二小過一、擧二大美一者不レ疵二細瑕一。〔魏志、三少帝、高貴鄉公髦紀〕堯之大美、在二乎則レ天。❸淸、蔡蓁春(**9－31818**··197)の字。

【大備】1987タイビ ❶大いにそなはる。〔禮、禮器〕是故大備、大備、盛德也。〔任昉、王文憲集序〕闕典未レ補、大備二茲日一。〔歐陽脩、吉州學記〕此三代極盛之時、大備之制也。❷オホソナヘ 戰陣の陣立てが、多大の數から成るもの。〔義殘後覺〕小早川、大備へなれば、先陣し給ふ。

【大鼻】1988タイビ 大きい鼻。鼻の大きいこと。〔漢書、遊俠、陳遵傳〕遵大率常醉、然事亦不レ廢、長八尺餘、長頭大鼻、容貌甚偉。〔晉書、王湛傳〕身長七尺八寸、龍顙大鼻、少二言語一。〔易林、乾之第一、未濟〕長面大鼻、來解二己憂一。〔韓翃、送二別鄭明府一詩〕長頭大鼻鬢如レ雪、早歲連レ兵劍鋒折。

【大拂】1989タイヒツ 輔佐の官。拂は弼に通ず。〔新書、輔佐〕上執二政職一、大拂秉レ義立レ誠。

【大弼】1990ダイヒツ 古の官名。彈正臺の次官。弼の上位。唐名は御史中丞。〔職原抄〕彈正臺、大弼一人、唐名、御史中丞。

【大筆】1991タイヒツ ❶大きな筆。おほふで。〔通典、職官、尙書、上、歷代郎官〕丞郎月賜二赤管大筆一雙、隃糜墨一丸一。❷人の書いた文字の尊稱。〔蘇軾、次二韻錢穆父一詩〕大筆推レ君西漢手、一言置レ我二劉間。❸雄渾な筆蹟または文章。椽大の筆。〔文同、送二張宗益工部知二相州一詩〕禁掖便當レ提二大筆一。❹ta^4 pi^3 大きな文字。

【大病】1992タイビヤウ 重い病氣。重病。重患。大患。〔禮、檀弓上〕子之病革矣、如至二乎大病一、則如レ之何。〔莊子、徐無鬼〕至二于大病一、則寡人惡乎屬レ國而可。〔後漢書、明德馬皇后紀〕且衞尉年尊、兩校尉有二大病一。

【大貧】1992'タイヒン 大いにまづしい。〔列子、天瑞〕齊之國氏大富、宋之向氏大貧、自レ宋之レ齊、請二其術一。

【大賓】1993タイヒン ❶貴い賓客。敬重すべき大事な客。賓客となつて來た諸侯、又、諸侯の所へ來た賓客。〔周禮、秋官、大行人〕掌二大賓之禮及大客之儀一、以親二諸侯一。〔注〕大賓、要服以內諸侯、大客、謂二其孤卿一。〔論語、顏淵〕出レ門如レ見二大賓一、使レ民如レ承二大祭一。〔疏〕大賓、公侯之賓也。❷字號。㋑唐、趙蕤(**10－37171**··241)の字。㋺明、袁稽(**10－34152**··65)の字。㋩明、高尙賢(**12－45313**··1203)の字。

【大蘋】1994タイヒン 水草の名。萍をいふ。〔淮南子、原道訓〕夫萍樹根二於水一、〔注〕萍、大蘋也。

【大夫】1995タイフ ❶官稱。夏・殷・周には卿の下、士の上に位し、上大夫・中大夫・下大夫の三に分れ、秦漢以來、尙ほ御史大夫・光祿大夫・大中大夫の諸名があるが、官稱となつて、三代と制を異にした。隋唐から明淸に至る迄は文散官の稱となり、專ら封贈に用ひられた。民國の官等には上大夫・中大夫・少大夫の別がある。文官官秩(**5－13450**··247)を見よ。〔書、說命中〕樹二后王君公一、承以二大夫師長一。〔周禮、春官、典命〕王之三公八命、其卿六命、其大夫四命。〔禮、王制〕王者之制二祿爵一、公侯伯子男凡五等、諸侯之上大夫卿、下大夫、上士、中士、下士、凡五等。〔禮、王制〕天子三公九卿、二十七大夫、八十一元士。〔左氏、哀、七〕大夫不レ出レ門。〔公羊、昭、三十二〕大夫之義不レ得レ世。〔孝經、卿大夫章〕蓋卿大夫之孝也。〔國語、晉語四〕大夫食レ邑。〔列子、仲尼〕童兒曰、我聞二之大夫一。〔管子、立政〕將軍大夫以朝。〔漢書、百官公卿表上〕大夫、掌二論議一、有二太中大夫・中大夫・諫大夫一、皆無レ員、多至二數十人一、武帝元狩五年、初置二諫大夫一、秩比八百石、太初元年、更二名中大夫一、爲二光祿大夫一、秩比二百石、大中大夫、秩比千石如レ故。〔白虎通、爵〕大夫之爲レ言、大扶進レ人者也、故傳云、進レ賢達レ能、謂二之大夫一也。❷古の官名。周の鄉大夫・遂大夫・朝大夫・家大夫、晉の公族大夫、左氏傳の原大夫、溫大夫等は其の例で、公邑に大夫といひ、私邑に宰といふ。〔周禮、地官、鄉大夫〕鄉大夫之職、各掌二其鄉之政敎禁令一。〔通典、職官典、縣令〕縣邑之長曰レ宰、曰レ尹、曰レ公、曰二大夫一。〔注〕晉謂二之大夫一、魯衞謂二之宰一、楚謂二之公尹一。❸爵位の名。秦の時に功勞を賞する爲に制定したもの、等五級に位す。漢も之に因る。〔漢書、百官公卿表上〕爵一級曰二公士一、云云、五大夫。〔注〕師古曰、列位從二大夫一。❹ひろく官位ある者をいふ。〔漢書、疏廣傳〕道路觀者皆曰、賢哉二大夫。〔漢書、董仲舒傳〕今子大夫、褎然爲二擧首一。〔東方朔、答二客難一〕今子大夫脩二先王之術一。❺太醫院の長官。轉じて、一般に醫者をいふ。〔陔餘叢考、博士待詔大夫郎中〕夷堅志又云、張二大夫者、京師醫家、後徙二臨安一、官至二翰林醫官一、人仍稱爲二張二大夫一、則北方醫生之稱二大夫一、亦起二於宋一矣。❻松の異稱。五大夫の故事。大夫樹を見よ。〔書言故事大全、花木類、大夫〕謂レ松曰二大夫一、秦始皇登二泰山一、風雨暴至、休二樹下一、封レ松爲二五大夫一。〔泰山記〕小天門有二秦時五大夫松一。❼複姓。〔漢書、淮南厲王長傳〕大夫但、士伍開章等七十人、與二棘蒲侯太子奇一謀反。〔注〕張晏曰、大夫、姓也、上云二男子但一、明二其本姓大夫一也。❽㋑大名の家老の異稱。㋺ダイブ 職(中宮職・春宮職等)の長官。〔官位令〕從四位、中宮大夫。〔續日本紀、二十二〕天平寶字三年十一月丁卯、從四位下御使王、爲二大膳大夫一。㋩タイフ 五位の稱。古くは五位以上をもいふ。〔日本書紀、孝德紀〕仍賜二食封大夫以上一、各有レ差。〔公式令〕凡授レ位任レ官之日喚辭、三位以上先レ名後レ姓、云云、唯於二太政官一、三位以上稱二大夫一、四位稱レ姓、五位先レ名後レ姓、其於二寮以上一、四位稱二大夫一、云云、司及中國以下、五位稱二大夫一。㋥かんぬし。祠官。神職。〔東鑑、四〕元曆二年四月二十日、伊豆國三島社、云云、神主盛方、號二東大夫一、云云、神主盛成、號二西大夫一。㋭藝人又は倡妓等の名の下に添へて呼ぶことば。

【大夫元】1996タイフモト 演藝の興行人。興行元。座元。〔本朝若風俗、五〕舞子、云云、大夫元、云云、客をうかうかもてなし。

【大夫樹】1997タイフジュ 松の異名。秦の始皇が、太山に上り、風雨を松樹の下に避け、其の樹を五大夫に封じた故事に本づく。〔史記、秦始皇紀〕(始皇)上二泰山一、立レ石封、祠祀、下、風雨暴至、休二於樹下一、因封二其樹一爲二五大夫一。〔宋之問、藥園宴沙將軍詩〕風高大夫樹、露下將軍藥。

【大夫種】1998タイフショウ 春秋、越の大夫。句踐に仕へた人。文種。〔史記、越世家〕越大夫種曰、臣觀二吳王政一驕矣。〔淮南子、說山訓〕大夫種知三所二以強レ越、而不レ知三所二以存レ身。

【大夫人】1999タイフジン ❶正夫人。〔漢書、王莽傳中〕令三諸侯立二大夫人一、夫人世子亦受二印韍一。❷天子の御生母たる夫人。女御の尊稱。皇太夫人。〔續日本紀、九〕神龜元年二月丙申、敕、尊二正一位藤原夫人一稱二大夫人一。

【大夫郎】2000タイフラウ 官名。郎中令の屬官。〔漢書、百官公卿表上〕郎中令、秦官、掌二宮殿掖門戶一、云云、屬官、有二大夫郎・謁者一、皆秦官。

【大夫鷺】2001タイフサギ 五位鷺(**1－257**··10)の異稱。五位の人を大夫といふので此の稱がある。

【大夫烏公】2002タイフウコウ 唐の人。烏重胤(**7－18998**··449)のこと。御史大夫となつたからいふ。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕大夫烏公、以二鈇鉞一鎭二河陽一之三月。

【大夫之憂】2003タイフノウレヘ 大夫の位に居る者(一般に君に事へて政を行ふ者をいふ)の憂患。〔莊子、漁父〕能不レ勝レ任、官事不レ治、行不二淸白一、羣下荒怠、功美不レ有、爵祿不レ持、大夫之憂也。

【大夫判官】2004タイフハウグワン 檢非違使尉で、五位の人。大夫尉。〔吉野拾遺〕たいふはうぐわん赤松光範。

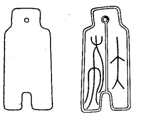
【大父】2005タイフ ❶父の父。祖父。〔墨子、節葬下〕其大父死。〔史記、封禪書〕坐中有二九十餘老人一、少君乃言下與二其大父一共游射處上、一坐甚驚。〔史記、留侯世家〕大父開地、相二韓昭侯宣惠王襄哀王一。〔注〕集解曰、應劭曰、大父、祖父。❷母方の祖父。外祖。〔漢書、婁敬傳〕冒頓在、固爲二子壻一、死、外孫爲二單于一、豈曾聞下外孫敢與二大父一亢禮上哉。

【大父行】2006タイフノカウ 祖父に當るやうな年頃の人。大父は祖父、行は排行。〔史記、鄭當時傳〕年少官薄、然其游知交、皆其大父行、天下有名之士也。

【大父母】2007タイフボ 祖父母。〔漢書、宣帝紀〕自今諸有二大父母・父母喪一者、勿二繇事一。

【大布】2008タイフ ❶粗末な布。地のあらい布。粗布。

〔莊子、山木〕莊子衣㆓大布㆒。〔釋文〕大布、麤布也。〔墨子、兼愛下〕大布之衣、且苴之履。㊁新の王莽の時の貨幣。布貨十品の一。〔漢書、食貨志下〕大布・次布・弟布・壯布。㊂大いに敷く。〔王譓、南至雲物賦〕調㆓玉燭㆒而陰陽燮和、撫㆓黔首㆒而時令大布。



新王莽大布
（金石索）

【大布之衣】2009（タイフノイ）　地のあらい布で作った衣服。〔左氏、閔、二〕衞文公、大布之衣、大帛之冠、務㆑財訓㆑農、通㆑商惠㆑工、敬㆑教勸㆑學、授㆑方任㆑能、元年革車三十乘、季年乃三百乘。〔注〕大布、麤布、大帛、厚繒、蓋用㆓諸侯諒闇之服㆒。〔會箋〕大布・大帛、特言㆓其儉朴㆒、何必是諒闇之服。〔淮南子、齊俗訓〕晉文公、大布之衣、羘羊之裘、韋以帶㆑劍。

【大府】2010（タイフ）　㊀朝廷の府庫。府は文書庫。〔管子、立政〕入㆓籍于大府㆒。㊁丞相の府。〔漢書、張湯傳〕以㆑湯爲㆓無害㆒、言㆓大府㆒。〔注〕師古曰、大府、丞相府也。㊂上級の官廳の稱。又、上官をいふ。〔史記、酷吏、郅都傳〕景帝乃拜㆑都爲㆓濟南太守㆒、云云、旁十餘郡守、畏㆑都如㆓大府㆒。〔韓愈、送㆓鄭尙書㆒序〕府各置㆑帥、然獨嶺南節度爲㆓大府㆒。㊃官名。周官では天官に屬す。財幣を掌る官。秦・漢は司農小府に倂合し、梁・後魏は大府卿を置き、國庫財物を掌らせ、明の時に廢した。太府(**3−5834**··394)を見よ。〔周禮、天官、序官、大府、注〕大府、爲㆓王治藏之長㆒、若㆓今司農㆒矣。〔周禮、天官、大府〕掌㆓九貢九賦九功之貳㆒。〔唐書、百官志三〕大府寺、凡四方貢賦百官俸秩、謹㆓其出納㆒、賦物任㆓土所㆑出、定㆓精麤之差㆒、祭祀幣帛皆攻焉。㊄元代、駐防將軍をいふ。〔元史、兵志二〕世祖之時、海宇混一、然後命㆓宗王㆒、將㆑兵鎭㆓邊徼襟喉之地㆒、而河洛山東、據㆓天下腹心㆒、則以㆓蒙古探馬赤軍㆒、列㆓大府㆒以屯㆑之。㊅㋑大藏省の唐名。〔拾芥抄、中本〕大藏卿、大藏省、大府。㋺幕府の敬稱。㋩大名の家老の異稱。㊆ta⁴ fu³ 總督巡撫の別名。

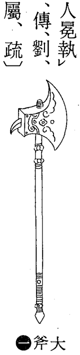
【大府卿】2011（タイフケイ）　大藏卿の唐名。〔職原抄〕大藏省、卿一人、唐名、大府卿。

【大府侍郎】2012（タイフジラウ）　大藏大輔の唐名。〔職原抄〕大藏省、大輔一人、唐名、大府侍郎歟。

【大府主簿】2013（タイフシユボ）　大藏錄の唐名。〔職原抄〕大藏省、錄、唐名、大府主簿。

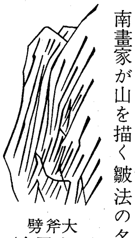
【大府少卿】2014（タイフセウケイ）　大藏少輔の唐名。〔職原抄〕大藏省、少輔一人、唐名、大府少卿。

【大府郎中】2015（タイフラウチユウ）　大藏丞の唐名。〔職原抄〕大藏省、丞、唐名、大府郎中歟。



大斧㊀
（備志）

【大斧】2016（タイフ）　㊀大きなをの。大をの。〔書、顧命〕一人冕執㆑劉、傳、劉、鉞屬、疏〕劉、蓋今鑱斧、鉞、大斧。〔晉書、石季龍載記下〕所在掠㆓百姓大斧㆒、施㆓一丈柯㆒、攻戰若㆑神。㊁大夫(1995)の㊀に同じ。〔直方詩話〕京師人呼㆓大夫㆒爲㆓大斧㆒、蓋語訛也。



大斧劈
（三才圖會）

【大斧劈】2017（タイフヘキ）　南畫家が山を描く皴法の名。山石を點染するに、斧劈のやうにするもの。唐の馬遠・夏珪等が多く用ひた。〔玉珊瑚網〕大斧劈皴、李唐・馬遠・夏珪。

【大阜】2018（タイフ）　大きな岡。〔爾雅、釋地〕高平曰㆑陸、大陸曰㆑阜、大阜曰㆑陵。

【大婦】2019（タイフ）　㊀適長子の妻。冢婦。〔古樂府、相逢行〕大婦織㆓綺羅㆒、中婦織㆓流黃㆒、小婦無㆑所㆑爲、挾㆑瑟上㆓高堂㆒。〔張謂、春園家宴詩〕南園春色正相宜、大婦同行少婦隨。㊁ta⁴ fu⁴ 本妻。妾を小婦といふの對。

【大傅】2020（タイフ）　㊀天子のお守役。三公の一。太傅。〔禮、文王世子〕立㆓大傅小傅㆒以養㆑之。〔左氏、宣、十六〕爲㆓大傅㆒。〔宋玉、神女賦〕顧㆓女師㆒命㆓大傅㆒。㊁左大臣の唐名。〔職原抄〕左大臣一人、唐名、大傅・左丞相・左僕射。

【大富】2021（タイフ／タイフウ）　㊀大いに富む。〔列子、天瑞〕齊之國氏大富、宋之向氏大貧、自㆑宋之㆑齊、請㆓其術㆒。㊁明、蔣貴(江都の人)(**9−31820**··19)の字。

【大富長者】2022（ダイフチヤウジヤ）　金滿家をいふ。〔百喩經〕必作㆓大富長者㆒。

【大富貴亦壽考】2023（ダイフウキマタジユカウナリ）　富貴であると共に壽考（長命）でもある。唐の郭子儀が七夕の夜、長壽富貴を祈つたところ、織女が答へた語。〔感遇集〕郭子儀至㆓銀州㆒、夜見㆓左右皆赤光㆒、仰㆓視空中㆒、駢車繡幄、中有㆓一美女㆒、自㆑天而下降、子儀拜祝曰、今七月七夕、必是織女降臨、願賜㆓長壽富貴㆒、女笑謂曰、大富貴亦壽考、言訖升㆑天。

【大富由㆑命小富由㆑勤】2024（ダイフハメイニヨリセウフハツトメニヨル）　大富は天命によるもので人力では如何ともし難いが、小富は天命でなく努力の如何によること。〔女論語、營家、九〕大富由㆑命、小富由㆑勤。〔通俗編、境遇〕大富由㆑命、小富由㆑勤、元人漁樵記曲、作㆓小富由㆑人。

【大榑】2025（オホクレ）　美濃國の地名。

【大譜】2026　ta⁴ p'u³ 事柄の大體。大概。

【大武】2027（タイブ）　㊀周の武王の樂の名。武王が紂を討ち、武功を以て天下を平定したことを表はしたもの。又、單に武ともいふ。〔周禮、春官、大司樂〕以㆓樂舞㆒教㆔國子㆒舞㆓雲門・大卷・大咸・大磬・大夏・大濩・大武㆒。〔注〕大武、武王樂也、武王伐㆑紂、以除㆓其害㆒、言㆔其德能成㆓武功㆒。〔禮、祭統〕朱干玉戚、以舞㆓大武㆒、八佾以舞㆓大夏㆒、此天子之樂也。〔公羊、昭、二十五〕八佾以舞㆓大武㆒。〔呂覽、古樂〕爲作㆓大武㆒。㊁立派な武德。〔管子、執〕大武三層、而偃㆓武與㆑力。㊂牛をいふ。〔禮、曲禮下〕凡祭㆓宗廟㆒之禮、牛曰㆓一元大武㆒。〔注〕元、頭也、武、迹也。㊃五胡十六國の一、成（蜀）の太祖武帝、李雄の年號、晏平の一稱。(306−310)

【大武解】2028（タイブカイ）　逸周書の篇名。

【大武藝】2029（ダイブゲイ）　唐の人。高王大祚榮の子。渤海國第二代の王。開元中、渤海郡王を襲ぎ、大いに土宇を斥き、東北の諸夷を畏服せしめ、年號を仁安と改む。會〻黑水靺鞨の唐に入朝するや、武藝は唐と謀つて我を挾擊するとなし、弟門藝を遣して兵を發して黑水を擊たせようとしたが、門藝は之に從はず、よつて危害の加はるを恐れて唐に奔る。武藝は使を遣して朝貢し、門藝を殺さうと請ひ、玄宗は許さず、之から唐と惡くなつた。彼の治世の八年（聖武天皇神龜四年）、使を我が國に遣して修好を求む。其の國、武王と私謚す。〔舊唐書、一百九十九〕・〔唐書、二百十九〕。

【大武生】2030（タイブセイ）　牛姓の人をいふ。大武は牛の隱語。大武の㊂を見よ。〔湘山野錄、下〕石曼卿一日謂㆓祕演㆒曰、云云、不㆓數日㆒、引㆓一納粟牛監簿者㆒、云云、慕㆓師交游㆒、云云、因㆑是攜㆑之、以謁㆓曼卿㆒、云云、曼卿閒語㆑演曰、繁臺寺閣、虛爽可㆑愛、久不㆓一登㆒、云云、一日休沐、約㆑演同登、云云、曼卿、云云、以題云、石延年曼卿、同㆓空門詩友老演㆒登㆑此、生拜叩曰、云云、乞㆑挂㆓一名㆒、以光㆓賤迹㆒、石雖㆓大醉㆒、猶握㆑筆沈慮、云云、演醉舞佯㆑聲諷㆑之曰、大武生牛也、捧㆑硏用㆑事可也、竟不㆑免、題曰、牛某捧㆑硏。

【大部】2031（タイブ）　㊀書籍の浩瀚なこと。〔梁高僧傳〕大部經文。㊁澤山な部分。〔史記、酷吏、楊僕傳〕斬㆑首大部、或至㆓萬餘級㆒。㊂ta⁴ pu⁴ 申請書公牘などでいふ中央各官廳の敬稱。貴部。

【大部屋】2032（オホベヤ）　㊀大きな部屋。ひろま。㊁劇場の樂屋の三階にある廣い部屋。下廻りの俳優の雜居して舞臺へ出る支度をする處。㊂下廻りの俳優の稱。㊃江戸の大名屋敷にあつた小者人足などを多勢詰めさせる部屋。㊄大賭場をいふ。

【大廡】2033（タイブ）　大きいひさし。轉じて、大きな家。大建築。大廈。〔史記、李斯傳〕居㆓大廡之下㆒、不㆑見㆓人犬之憂㆒。

【大風】2034（タイフウ）　㊀おほかぜ。はげしい風。強い風。大亂の喩。〔管子、七臣七主〕大風漂㆑屋。〔漢高祖、大風歌〕大風起兮雲飛揚。㊁大いに風が吹く。〔資治通鑑、漢記〕（獻帝）建安十三年、遇㆓泥濘㆒道不㆑通、天又大風。㊂西風。西風は、物を豐成するからいふ。〔詩、大雅、桑柔〕大風有㆑隧、有㆓空大谷㆒。〔箋〕西風、謂㆓之大風㆒。〔疏〕釋天、大作㆑泰、孫炎曰、西風成㆑物、物豐泰也。㊃大國の音樂。又、立派な音樂。〔左氏、襄、二十九〕爲㆑之歌㆑齊、曰、美哉、泱泱乎大風也哉。㊄惡疾の名。㋑かつたゐ。癩病。今、中國では俗に大痲瘋といふ。〔素問、長刺節論〕病㆓大風㆒、骨節重、鬚眉墮、名曰㆓大風㆒。〔千金方、惡疾大風〕惡疾大風、有㆓多種㆒不㆑

同、初得雖二遍體無一レ異、而眉鬢已落、有二遍體已壞、而眉鬢儼然一、有下諸處不レ異二好人一、而四肢腹背有二頑處一、重者手足十指已墮落上、有下患二大寒一而重レ衣不上レ煖。〔六書、總論〕內經曰、癘風者、有二榮氣熱附一、其氣不レ清、故使二鼻柱壞而色敗、皮膚瘍潰一、故先風寒客二於脈一而不レ去、名曰二癘風一、又曰二脈風一、成爲レ癘、俗云二癩病一也、故治法云、大風、骨節重、鬚眉墮、名曰二大風一、刺肌肉病、故汗出百日、王注曰、泄二衞氣之怫熱一、刺二骨髓一汗出百日、泄二榮氣之怫熱一、凡二百日、鬚眉而止レ鍼。㋺大風氣に同じ。〔史記、倉公傳〕奴之病、得下之流汗數出、炙二於火一而以出見中大風上也。㊅堯が羿に射殺させた惡鳥の名。〔淮南子、本經訓〕堯乃使下羿誅二鑿齒於疇華之野一、云云、繳中大風於青丘之澤上、〔注〕大風、鷙鳥也、能壞二人屋舍一。㊆清、張風(4－9812‥650)の字。

【大風歌】2035（タイフウノウタ）　漢の高祖が淮南王黥布を擊つて歸るとき、故鄕の沛を過ぎ、親族故舊を會して宴を開き自ら謠つた歌。〔史記、高祖紀〕十二年十月、高祖已擊二布軍會甀一、布走、令二別將追一レ之、高祖還歸、過レ沛、留置二酒沛宮一、悉召二故人父老子弟一縱レ酒、發二沛中兒一得二一百二十人一、教二之歌一、酒酣、高祖擊レ筑、自爲二歌詩一曰、大風起兮雲飛揚、威加二海內一兮歸二故鄕一、安得二猛士一兮守二四方一。

【大風氣】2036（タイフウキ）　病氣の名。中風などの類。風氣(12－43756‥93)の㊆を見よ。〔史記、倉公傳〕病得二之數飲一レ酒、以見二大風氣一。

【大風子】2037（タイフウシ）　果實の名。柬蒲塞・暹羅・馬來等に產し、形は椰子の實に似て圓く、數十の種子があり、其の種子から搾取した油は癩病、其の他の皮膚病の藥とする。大楓子。〔本草、大風子〕集解、時珍曰、大風子、今海南諸番國皆有レ之、按、周達觀眞臘記云、大風乃大樹之子、狀如二椰子一而圓、其中有二核數十枚一、大如二雷丸子一、中有レ仁、白色、久則黃、而油不レ堪レ入レ藥。

【繳二大風一】2038（タイフウヲイル）　堯が大風といふ惡鳥を青丘の野にいぐるみして捕へ、民害を除去したことをいふ。〔淮南子、本經訓〕堯之時、十日並出、焦二禾稼一、殺二草木一、而民無レ所レ食、猰貐鑿齒、九嬰大風、封豕脩蛇、皆爲二民害一、堯乃使下羿誅二鑿齒於疇華之野一、殺二九嬰於凶水之上一、繳二大風於青丘之澤一、上射二十日一而下殺二猰貐一、斷二脩蛇於洞庭一、禽中封豕於桑林上。

【大風有レ隧】2039（タイフウスイアリ）　大風の吹いて來るには道がある。賢愚の行は自ら其の本の有る喩。〔詩、大雅、桑柔〕大風有レ隧、有二空大谷一。〔傳〕隧、道也。

【大服】2040（タイフク）　大いに服從する。〔禮、明堂位〕朝二諸侯于明堂一、制レ禮作レ樂、頒二度量一、而天下大服。〔左氏、僖、二十八〕殺二舟之橋一以狥二于國一、民于レ是大服。〔史記、荊燕世家〕諸大臣未二大服一。

【大副】2041　ta^{4} fu^{4}　航海員の職名。船長に次ぐ者。汽船の事務長。

【大幅】2042（タイフク）　㊀大きな掛軸。〔清齋位置〕堂中宜レ挂二大幅橫披一。㊁（オホハバ）　木綿幅の二倍の幅。又、其の布。〔好色一代女〕帶は唐織のおほはば。

【大復】2043（タイフク）　㊀山名。河南省桐柏縣の東。桐柏山の支峯。〔後漢書、郡國志四、荊州、南陽郡〕平氏桐柏、大復山、淮水出。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、桐柏縣〕大復山、在二縣東三十里一、水經注、淮水出二桐柏支岡一、潛二行地下一三十餘里、東出二大復山南一、謂二之陽口水一、南卽復陽縣也。㊁字號。㋑明、何景明(1－511‥251)の號。㋺明、朱長春(6－14424‥922)の字。

【大復集】2044（ダイフクシフ）　書名。三十八卷。明、何景明撰。李夢陽が唱へた復古論に和したもので、諧雅の音に富む。その目は、賦二卷、辭一卷、古詩一卷、樂府二卷、五言古詩三卷、七言歌行五卷、五言律九卷、五言排律一卷、七言排律四卷、五六七言絕句一卷、七言絕句一卷、何子一卷、內篇一卷、疏・書一卷、序二卷、碑文・墓誌共一卷、行狀一卷、誄・祭文・雜著共一卷、外に附錄一卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【大腹】2045（タイフク）　大きなはら。大肚。〔易、說卦〕離爲レ火、云云、其於レ人也爲二大腹一。

【大腹賈】2046（タイフクコ）　富商をいふ。金持ちの商人。〔潮嘉風月記〕女郎之未レ經二梳攏一者、皆濃妝豔服、紈袴子弟、裘屐少年、爭備二金繒一、擇二佳麗者一、以レ次給レ之、受者名曰二得標一、得レ標多者、聲名噪甚、卽有二大腹賈一、不レ惜二千金一、爲製二衣飾一、與レ之梳攏。

【大腹子】2047（タイフクシ）　果實の名。檳榔の一種。嶺南地方に產す。〔本草、大腹子〕釋名、大腹檳榔・豬檳榔、集解、時珍曰、大腹子、出二嶺表滇南一、卽檳榔中一種、腹大形扁而味澁者、不レ似二檳榔尖長味良一耳。

【大腹皮】2048（タイフクヒ）　檳榔子の皮。〔本草、大腹子〕大腹皮、思邈曰、鴆鳥多集二檳榔樹上一、凡用二檳榔皮一、宜二先以レ酒洗一、後以二大豆汁一再洗過、曬乾入二灰火一、燒熴切用。

【大福】2049（タイフク）　㊀大きな福。大幸。〔禮、樂記〕有二大福一、必有レ禮、以樂レ之。〔易林、訟之第六、漸〕明神達德、君受二大福一。㊁大恩。〔漢書、王莽傳上〕揖二大福之恩一、事事謙退。

【大福海】2050（ダイフクカイ）　海のやうな大きな幸福。〔海錄碎事、道釋、經〕一切衆生福德力、佛毛孔中皆顯現、現已令レ歸二大福海一。

【大福帳】2051（ダイフクチヤウ）　商家の元帳。臺帳。〔傾城反魂香、中〕大福帳かたけて來る。

【大福餠】2052（ダイフクモチ）　菓子の名。餠で餡を包んだもの。

【大福長者】2053（ダイフクチヤウジヤ）　おほがねもち。非常に富有な人。金滿家。〔平家物語、五、新都〕雙びなき大福長者。

【大福不レ再】2054（タイフクフタタビセズ）　大幸は二度とは來ないこと。〔左氏、昭、十三〕大福不レ再、祇取レ辱焉。

【大祓】2055（オホハラヒ）　親王以下在京の百官を朱雀門前の廣場に會して、萬民の罪穢を祓ふ神事。恒例と臨時との二つあり、恒例のは每年六月・十二月の晦日に行ふ。現今でも宮中を始め、各神社で之を行ふ。臨時のは大嘗祭・大神宮奉幣・齊王卜定、其の他、事ある時に行ふ。〔神祇令〕凡六月十二月晦日大祓、東西文部上二祓詞一訖、百官男女聚二集祓所一、中臣宣二祓詞一、卜部爲二解除一。

【大佛】2056（ダイブツ）　㊀大きな佛像。おほぼとけ。〔北史、齊幼主紀〕鑿二晉陽西山一爲二大佛像一、一夜燃レ油萬盆、光照二宮內一。〔行都紀事〕中塑二大佛一。㊁寺の名。北京東四牌樓の西。〔北京指南、京城地名表〕大佛寺、東四牌樓錢糧胡同西。㊂樓の名。北京雍和宮中の二層殿。㊃（オサラギ・オホサラギ）　姓氏。〔姓林全書〕。

【大佛供】2057（ダイブク）　姓氏。〔姓林全書〕。

【大佛手】2058　ta^{4} fo^{2} shou^{3}　植物の名。ぶしゆかん。佛手柑。〔紅樓夢、四十回〕盤內盛著數十個嬌黃玲瓏大佛手。

【大佛頭】2059（ダイブツトウ）　山名。浙江省象山縣の南方の海上に、高く聳えてゐる。古、我が國の中國に渡る者は、此の山を以て目標とした。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、象山縣〕大佛頭山、縣南一百五十里海中、其地名二南田一、海中十洲、此爲二第一一、日本入貢、每望二此山一爲レ嚮。

【大物】2060（タイブツ）　㊀大きなもの。大きな事物。〔墨子、魯問〕世俗之君子、知二小物一而不レ知二大物一者、此若言之謂也。〔莊子、在宥〕夫有レ土者、有二大物一也。〔疏〕九五尊高、四海宏巨、是稱二大物一也。〔荀子、賦〕爰有二大物一。〔注〕言三於レ此有二大物一、夫人之大者、莫レ過二於禮一、故謂二之大物一也。㊁隧をいふ。隧は地を穿つて設けたあな路。〔國語、周語中〕班二先王之大物一、以賞二私德一。〔注〕大物、謂レ隧也。㊂兵器をいふ。戎器。〔國語、周語中〕建二大德一昭二大物一也。〔注〕大物、戎器也。㊃（オホモノ）　㋑すぐれたる器量あるもの。並々でない大人物。㋺杉原紙の一種。縱一尺一寸、橫一尺五寸のもの。

【大墳】2061（タイフン）　上古の人。黃帝の師。又、大眞・大塡にも作る。〔韓詩外傳、五〕黃帝學二乎大墳一。〔注〕墳、新序雜事作レ眞、荀子注引作レ塡。

【大分】2062（タイブン）　㊀おほよそのきまり。大體のさだめ。大綱。〔荀子、勸學〕禮者、法之大分、羣類之綱紀也。〔荀子、榮辱〕榮者常通、辱者常窮、是榮辱之大分也。㊁大なる名分。大道。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕存亡大分、無レ可二奈何一。㊂壽命。壽數。〔南史、陶潛傳〕疾患以來、漸就二衰損一、親舊不レ遺、每有二藥石一見レ救、自恐二大分將レ有レ限也。㊃親しい交り。親交。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕傾レ蓋雖レ終レ朝、大分邁二疇昔一。㊄㋑（ダイブン）　だいぶ。すこぶる。餘程。かなり。〔狂言、文相撲〕新座の者を、大分抱へようと思ふが。㋺（オホイタ）　豐後國の地名。㋩（オホキタ）　姓氏。〔姓林全書〕。

【大分龍】2063（タイブンリヨウ）　宋代、五月二十日をいふ。分龍(2－1853‥408)を見よ。〔占候書〕兩浙以二四

月二十㆒爲㆓小分龍㆒、五月二十爲㆓大分龍㆒、池俗以㆓五月二十九㆒爲㆓分龍㆒、閩俗以㆓夏至後㆒爲㆓分龍㆒。〔燕京歲時記、分龍兵〕宋謂㆓四月二十日㆒爲㆓小分龍㆒、五月二十日爲㆓大分龍㆒。

【大文】2064 ダイブン ㊀立派な文德。〔管子、埶〕大文三曾、而貴㆓義與㆑德。㊁大文章。〔北史、薛道衡傳〕道衡有㆓子五人㆒、收最知㆑名、出後㆓族父孺㆒、孺清貞孤介、不㆑交㆓流俗㆒、涉㆓歷經史㆒、有㆓才思㆒、雖㆑不㆑爲㆓大文㆒、所㆑有詩詠、大致㆓清遠㆒。㊂大きなあや模樣。おほもやう。大きな文飾。〔太玄經、文〕大文彌樸、孚似㆑不㆑足。〔梁簡文帝、七勵〕溫麗瓊臺、密華承寢、當戶之穀、大文之錦。㊃字號。㋑清、徐林鴻(**4**―**10110**‥654)の字。㋺清、博爾都(**2**―**2761**‥215)の號。

【大文字】2065 ダイモンジ ㊀大きな形の文字。㊁大といふ文字。㊂大文字火の略。古、陰曆七月十六日(今、陽曆八月十六日)に、京都の如意嶽の中腹で行つた點火。大の字狀の大いなる火を點ず。〔蕪村句集、秋〕相阿彌の宵寢おこすや大文字。㊃偉大なる文章。

【大文宗】2066 ダイブンソウ 官名。明代、提學(**5**―**12344**‥20)の異稱。〔稱謂錄、學政、大文宗〕明李日華官制備考、提學、稱㆓大文宗・大宗師㆒。

【大蚊】2067 ta^{4} wen^{2} 稻麥に害をなす蟲の名。黃褐色、長さ五六分。

【大丙】2068 タイヘイ ㊀神の名。御を善くするもの。太一神の御者。一說に、道を體得して、善く陰陽を御した古の人の名。〔淮南子、原道訓〕昔者馮夷大丙之御也、乘㆓雲車㆒、入㆓雲蜺㆒、排㆓閶闔㆒、淪㆓天門㆒、末世之御、雖㆑有㆓輕車良馬、勁策利鍛㆒、不㆑能㆓與㆑之爭㆑先。〔注〕夷、或作㆑遲、丙、或作㆑白、皆古之得㆑道能御㆓陰陽㆒者也。〔淮南子、覽冥訓〕鉗且・大丙之御也。〔注〕此二人太乙之御也、一說、古得㆑道之人、以㆓神氣㆒御㆓陰陽㆒也。〔張衡、東京賦〕大丙弭㆑節、風后陪乘。〔注〕濟曰、大丙、太一御也。㊁山名。陝西省略陽縣の南。大景山ともいふ。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、寗羌州、略陽縣〕大丙山、縣南三十里、山有㆓丙穴㆒、其相連者曰㆓小丙山㆒、志云、山在㆓沔縣西北八十里㆒、蓋與㆑縣接㆑界也、亦名㆓大景・小景山㆒、唐諱㆑丙改曰㆑景。

【大兵】2069 タイヘイ ㊀多くの兵士。大軍。〔六韜、武韜、發啓〕大兵發而萬物皆服。㊁大戰をいふ。〔禮、月令〕仲冬行㆓秋令㆒、國有㆓大兵㆒。〔注〕兵、亦軍之氣。㊂タイヒヤウ からだの大きいこと。又、其の人。小兵(**4**―**7473**‥1138)の對。〔井筒業平河內通、五〕此方は大兵。

〔大兵肥滿〕2070 タイヒヤウヒマン からだが太つて大きなこと。

【大坪】2071 タイヘイ 地名。㊀湖南省沅陵縣。㊁湖北省建始縣。銅を產す。㊂四川省峨眉山の天池峯の洪椿坪の東。坪の寺を淨土寺といひ、今は大坪寺と稱す。

〔大坪流〕2072 オホツボリウ 馬術の一流派。足利時代に大坪廣秀の創めた馬術。〔傾城稚兒淵〕馬は大坪流。

【大柄】2073 タイヘイ ㊀大きな權力。大權。〔禮、禮運〕禮者、君之大柄也。〔宋史、趙普傳〕公正之道、莫㆑先㆓於賞罰㆒、斯爲㆑政之大柄也。㊁オホガラ ㋑身體の通常より大きなこと。㋺編柄の普通より大きなこと。

【大屛】2074 タイヘイ 大きな屛風。〔玉海、器用、屛障〕御坐後有㆓金漆大屛㆒。

【大萍】2075 タイヘイ 水草の名。蘋をいふ。大蓱。〔呂覽、本味〕菜之美者昆侖之蘋、〔注〕蘋、大萍。

【大瓶】2076 タイヘイ 大きい瓶。おほがめ。〔顧瑛、玉鸞謠〕大瓶酒瀉鸕鷀綠、滿頭花插鴛鴦紅。

【大聘】2077 タイヘイ 諸侯が三年毎に卿をして天子に聘問せしめること。〔儀禮、聘禮〕唯大聘有㆓几筵㆒。〔禮、王制〕諸侯之于㆓天子㆒也、比年一小聘、三年一大聘、五年一朝。〔注〕小聘、使㆓大夫㆒、大聘、使㆑卿、朝、則君自行。

【大弊】2078 タイヘイ 大きな弊害。大害。〔宋史、黃震傳〕震言㆓當時之大弊㆒、曰民窮、曰兵弱、曰財匱、曰士大夫無㆑恥。

【大蓱】2079 タイヘイ 水草の名。蘋をいふ。大萍。〔詩、召南、采蘋、傳〕蘋、大蓱也。

【大袂】2080 タイベイ 大きなたもと。〔禮、儒行、衣㆓逢掖之衣㆒、注〕逢、猶㆑大也、大掖之衣、大袂禪衣也。〔管子、五輔〕博帶梨、大袂列。

〔大袂袍〕2081 タイベイハウ 大きいたもとの布子。〔魏志、夫餘傳〕在國衣尙㆑白、白衣・大袂袍・袴履・革鞜。

【大表】2082 タイヘウ 外部。表面。〔史記、扁鵲傳〕病應見㆓於大表㆒、不㆑出㆓千里㆒、決者至衆、不㆑可㆓曲止㆒也。

【大票】2083 ta^{4} p‘iao^{4} 江蘇省鎭江で行はれる約束手形。

【大瓢】2084 タイヘウ ㊀大きなひさご。〔宋史、陳摶傳〕中有㆓大瓢㆒、挂㆓壁上㆒、道士賈休、復心欲㆑之。㊁清、楊賓(**6**―**15112**‥332)の號。

〔大瓢山人〕2085 タイヘウサンジン 清、楊賓(**6**―**15112**‥332)の號。

【大廟】2086 タイベウ ㊀天子諸侯の始祖の廟。魯では周公の廟をいふ。宗廟。太廟。〔禮、明堂位〕季夏六月、以㆓禘禮㆒祀㆓周公於大廟㆒。〔注〕周公稱㆓大廟㆒、魯公稱㆓世室㆒、羣公稱㆑宮。〔春秋、桓、二〕戊申、納㆓于大廟㆒。〔杜注〕大廟、周公廟也。〔管子、霸形〕明日皆朝㆓於大廟之門朝㆒。〔荀子、禮論〕大廟之未㆑入㆑尸也、始卒之未㆓小斂㆒也、一也。㊁峽の名。廣東省英德縣の南の虎頭山の下。北江の源。㊂伊勢大神宮の稱。

〔大廟犧〕2087 タイベウノギ 大廟の祭に用ひられる犧牲。大廟に用ひられる犧牲は、上品ではあるが、殺される。轉じて、世上の名利をいふ。〔韓愈、寄㆓崔二十六立之㆒詩〕孤豚眠㆓糞壤㆒、不㆑慕㆓大廟犧㆒。

〔入㆓大廟㆒每㆑事問〕2088 タイベウニイリテハコトゴトニトフ 孔子が始めて魯に仕へ大廟の祭を助けた時、一事一事、人に問ひ尋ねたこと。孔子の態度の謹愼をいふ。〔論語、八佾〕子入㆓大廟㆒、每㆑事問、或曰、孰謂㆓鄹人之子知㆑禮乎、入㆓大廟㆒每㆑事問、子聞㆑之曰、是禮也。〔集解〕包咸曰、大廟、周公廟、孔子仕㆑魯、魯祭㆓周公㆒而助㆑祭也、孔安國曰、雖㆑知㆑之、當㆓復問㆒、愼之至也。

【大辟】2089 タイヘキ ㊀古の五刑の一。死刑。死罪。大戮。辟は刑。〔書、呂刑〕大辟疑赦、其罰千鍰。〔傳〕死刑也。〔禮、文王世子〕其死罪則曰、某之罪在㆓大辟㆒。〔漢書、路溫舒傳〕大辟之計、歲以㆑萬數。㊁死をいふ。辟は法。〔後漢書、張綱傳〕大辟所㆑宜㆑加也。〔說苑、脩文〕曾子有㆑疾、孟儀往問㆑之、曾子曰、鳥之將㆑死、必有㆓悲聲㆒、君子集㆓大辟㆒、必有㆓順辭㆒。㊂㋑オホサケ 姓氏。〔姓氏錄〕。㋺オホサキ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、二十二〕。

〔大辟刻肌之法〕2090 タイヘキコクキノハフ 刑罰の名。大辟と刻肌との刑。大辟は死刑。刻肌は墨・劓・臏・刖の刑。〔後漢書、梁統傳〕三王有㆓大辟刻肌之法㆒。〔注〕大辟、罪之大者、謂㆓死刑㆒也、刻肌、謂㆓墨劓臏刖㆒。

【大璧】2091 タイヘキ 大きなたま。〔左氏、襄、十七〕賊曰、皐比私有㆑討㆓於吳㆒、遂幽㆓其妻㆒、曰、畀㆓余而大璧㆒。

【大闢】2092 ダビデ Davidの音譯。又、大衛に作る。古のイスラエルの王。治世は三十三年。武勇あり音樂を善くす。

【大別】2093 タイベツ ㊀山名。㋑其の所在に二說がある。大峢。(甲)安徽省霍丘縣の西南。霍丘縣は古の安豐の地。一名、安陽山。〔書、禹貢〕道㆓嶓冢㆒、至㆓于荊山㆒、內方至㆓于大別㆒。〔鄭注〕大別、在㆓廬江安豐縣㆒。〔漢書、地理志下、六安國、安豐、注〕禹貢、大別山在㆓西南㆒。〔水經、禹貢山水澤地所在〕大別山在㆓廬江安豐縣西南㆒。(乙)湖北省漢陽縣の東北。一名、魯山。卽ち今の龜山。〔書、禹貢、內方至㆓于大別㆒、傳〕內方大別二山名、在㆓荊州㆒、漢所㆑經。〔疏〕杜預解㆓春秋㆒云、大別闕、不㆑知㆓何處㆒、或曰、大別在㆓安豐縣西南㆒、左傳云、吳既與㆑楚夾㆑漢、然後楚乃濟㆑漢而陳、自㆓小別㆒至㆓于大別㆒、然則二別近㆑漢之名、無㆓緣得㆑在㆓安豐縣㆒、要與㆓內方㆒相接、漢水所㆑經、必在㆓荊州界㆒也。〔蔡傳〕左傳、吳與㆑楚戰、濟㆑漢而陳、自㆓小別㆒至㆓於大別㆒、蓋近㆑漢之山、今漢陽軍漢陽縣北大別山、是也。〔左氏、定、四〕乃濟㆑漢而陳、自㆓小別㆒至㆓於大別㆒。〔元和志〕魯山、一名㆓大別山㆒、在㆓漢陽縣東北一百步㆒、其山南枕㆓蜀江㆒、北帶㆓漢水㆒。㋺北嶺の湖北・河南の間にあるものを大別山脈といひ、江淮の間の分水嶺を爲す。京漢線が通過してゐる。もと關上に黃土・平靖・武勝・九里・大勝・墨斗・白河・東黃土・穆陵・雙廟・長嶺・松子・銅鑼の十三の關隘を設けてあつた。㊁おほきくわける。大まかに區分する。

【大峢】2094 タイベツ 山名。大別(2093)の㊀㋑に同じ。〔廣韻〕峢、大峢、山名、書亦作㆑別。

【大鼈】2995 タイベツ 大きなすつぽん。〔埤雅、釋魚〕黿、大鼈也。〔括異志〕宋傅慶中家、得㆓一大鼈㆒。

【大扁】2096 タイヘン 杏の實の核中の仁。扁平で尖り、味がよく、又、藥用にする。杏仁(**6－14461**‥38)を見よ。〔本草、杏〕集解、時珍曰、王禎農書云、北方肉杏、甚佳赤大而扁、謂二之金剛拳一。

【大偏】2097 タイヘン 兵車十五乘をいふ。〔左氏、成、七、舍二偏兩之一、注〕司馬法、百人爲レ卒、二十五人爲レ兩、車九乘爲二小偏一、十五乘爲二大偏一。

【大匾】2098 タイヘン 大きな匾額。大額。〔紅樓夢、三回〕先看二見一個赤金九龍青地大匾一。

【大遍】2099 タイヘン 歌曲の段數の完全無缺なもの。遍は歌曲の解數。〔唐書、禮樂志十二〕大曆元年、又有二廣平太一樂、涼州曲一、本西涼所レ獻也、其聲本宮調、有二大遍小遍一。〔夢溪筆談、樂律一〕所謂大遍者、有二序引歌䣠嗺哨催攧衮破行中腔踏歌之類一、凡數十解、每レ解有二數疊一者、裁截用レ之、則謂二之摘遍一、今人大曲、皆是裁用、悉非二大遍一也。

【大篇】2100 タイヘン 詩歌文章の篇章の長く雄大なもの。又、大著作。〔蔡襄、和二答孫推官久病新起見レ過詩〕大篇短韻時見レ投、開霽清陽穿二戶牖一。

【大騙】2101 タイヘン 大いにだますこと。大かたり。〔稱謂錄、拐騙、大騙〕琵琶記載有二此齣一。

【大變】2102 タイヘン ㊀大きな變化。轉じて、非常な出來事。大いに驚くべき出來事。一大凶變。〔戰國、魏策〕恐天下將レ有二大變一也。〔史記、天官書〕夫天運三十歲、一小變、百年中變、五百載大變、三大變一紀。〔史記、張儀傳〕東方有二大變一、然後王可二以多割一レ地也。〔後漢書、章帝紀〕上天降レ異、大變隨レ之。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕以致二大變一。㊁自然の變化。〔莊子、天運〕惟循二大變一、無レ所レ湮者、爲二能用一レ之。〔疏〕唯當下順二於人理一、隨二於變化一、達二於物情一而無中滯塞上者。㊂甚だ。大いに。非常に。

【大卞】2103 タイベン 大きな法則。大法。〔書、顧命〕皇后馮二玉几一、道二揚末命一、命レ汝嗣レ訓、臨二君周邦一、率二循大卞一、燮二和天下一、用答二揚文武之光訓一。〔傳〕用二是道一臨二君周國一、率二羣臣一循二大法一。〔疏〕正義曰、卞之爲レ法、無二正訓一也、告以爲二法之道一、令下率二羣臣一循上レ之、明所レ循者法也、故以二大卞一爲二大法一、王肅亦同也。

【大弁】2104 タイベン 重いおきて。大法(1935)の㊀に同じ。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕太常命レ吏、以レ能增レ秩、相レ儀考レ禮、大弁斯畢。

【大便】2105 ダイベン ㊀大きな便益。〔新書、益壤〕立二大便一、以成二大功一。㊁ふん。くそ。大用。〔本草、人屎〕釋名、人糞、大便。

【大辨】2106 タイベン ㊀宋、李宗訥(**6－14459**‥1630)の字。㊁元、希陵(**4－8813**‥155)の諡。㊂我が國の古、辨官の上位。左と右とがある。おほともひ。〔官位令〕從四位、左右大辨。

〔大辨正廣智三藏〕2107 タイベンセイクヮウチサンザウ 唐、不空三藏(**1－19**‥241)の諡。

【大辯】2108 タイベン 優れた辯舌。又、辯舌の優れた人。大辯若レ訥を見よ。〔淮南子、詮言訓〕大道無レ形、大仁無レ親、大辯無レ聲、大廉不レ嗛、大勇不レ矜。

〔大辯如レ訥〕2109 タイベンハトツナルガゴトシ 優れた雄辯は却つて訥辯に似て口舌を弄せぬこと。〔老子、四十五〕大巧若レ拙、大辯若レ訥。〔韓詩外傳、九〕大辯若レ訥、大巧若レ拙。

〔大辯不レ言〕2110 タイベンハイハズ すぐれた辯舌ある人はみだりに口舌を弄することをしない。大辯如レ訥に同じ。〔莊子、齊物論〕大辯不レ言、大仁不レ仁。

【大步】2111 ハゴ 下總國の地名。

【大保】2112 タイホ ㊀宋代、保甲の制、五十家をいふ。〔宋史、兵志六〕熙寧初、王安石變二募兵一而行二保甲一、帝從二其議一、乃詔二畿內之民一、十家爲二一保一、選下主戶有二幹力一者上、一人爲二保長一、五十家爲二一大保一、選二一人一爲二大保長一、十大保爲二一都保一。㊁右大臣の唐名。〔職原抄〕右大臣一人、唐名、大保・右丞相・右僕射。㊂オンボ ㋑大和國の地名。㋺筑後國の地名。

〔大保國〕2113 タイホコク 二簧西皮劇の一種。一名、忠心保國、又、李良篡位。明の穆宗の歿後の紛糾した政治の爭奪事情を筋書の骨子としたもの。

【大埔】2114 タイホ ㊀縣名。明、置く。晉の義招縣。廣東省蕉嶺縣の東南。〔讀史方輿紀要、廣東、潮州府〕大埔縣、明初爲二海陽縣地一、成化以後爲二饒平縣地一、嘉靖五年、析二饒平縣之灤州・清遠二都地一置二今縣一。〔清史稿、地理志〕廣東、潮州府、縣九、大埔。㊁鎭名。廣東省寶安縣の東南、九龍半島の北にある。

【大溥】2115 タイホ 大きな水厓。〔漢書、揚雄傳上〕儲二與虖大溥一、聊二浪虖宇內一。〔注〕服虔曰、溥、水厓也。

【大輔】2116 タイホ ㊀天子の輔佐役。〔新書、輔佐〕大輔聞レ善則以獻。㊁タイフ 古の官名。省の次官。少輔の上に居る。神祇官では大副、八省では大輔と書く。〔職員令〕中務省、云云、大輔一人、掌同レ卿、唯規諫不二獻替一。

【大酺】2117 タイホ ㊀官から人民一同に酒食を賜ふこと。〔史記、秦始皇紀〕二十五年五月、天下大酺。〔注〕正義曰、天下歡樂大飮酒也。〔漢書、文帝紀〕十六年秋九月、得二玉杯一、刻曰、人主延壽、令二天下大酺一。〔丹元子、步天歌〕享宴大酺五星守。㊁詞牌の名。唐の教坊曲中にある。又、宋代にこれによつて作られたものがある。〔清眞樂府〕。

【大鋪】2118 タイホ 大きなみせ。おほみせ。〔通俗編、藝術、開二大鋪一〕李涉詩、都市廣長開二大鋪一、疾來求者無二相悞一、按、鋪、皆从レ金、流俗別作レ舖、未レ見二字書一。

【大母】2119 タイボ ㊀祖母をいふ。太母(**3－5834**‥465)の㊀を見よ。〔墨子、節葬下〕負二其大母一而棄レ之。〔漢書、文三王、梁平王襄傳〕李太后、親平王之大母也。〔注〕師古曰、大母、祖母也。㊁太后をいふ。〔齊東野語〕穆陵初年、上元日、奉二恭聖太后於清讌殿一、有二所謂地老鼠者一、經至二大母聖座下一、大母驚惶、拂レ衣徑越。㊂地の異稱。〔通書〕乾爲二大父一、坤爲二大母一。㊃ta^4 mu^3 伯父の妻。伯母。

【大拇】2120 タイボ おやゆび。拇指。〔五雜組、人部〕大拇指拆而生レ珠、漸長大如レ杯。

〔大拇脚指〕2121 ta^4 mu^2 chiao^2 chih^3 足の親指。

〔大拇指頭〕2122 ta^4 mu^3 chih^2 t'ou おやゆび。

【大姥】2123 タイボ 山名。㊀福建省福鼎縣の南。山の絕頂を摩霄峯といひ、遠眺を以て知らる。〔方輿勝覽〕王烈蟠桃記云、堯時有二老母一、得二九轉丹法一、登二仙於此一、有二三十六峯一。〔讀史方輿紀要、福建、名山〕大姥山、在二福寧州東北一百里一、高十餘里、周四十里、舊名、才山、力牧錄云、黃帝時容城先生嘗棲レ此、王烈蟠桃記、堯時有二老母一、居レ此仙去、因名二大母山一、漢武帝命二東方朔一校二天下名山一、又改レ母爲レ姥。㊁浙江省縉雲縣の西南。上に巉巖、下に石室があり、數百人を容れる。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府、縉雲縣、黃龍山〕大姥山、在二縣西南二十五里一、上有二巉巖一、下有二石室一、可レ容二數百人一。

【大媽】2124 ta^4 ma^1 父の兄の妻。伯母。大母。

〔大媽媽〕2125 タイボボ 宋の寧宗が曾祖母憲聖吳皇后を稱した語。〔四朝見聞錄〕宋寧宗、呼二曾祖母憲聖吳皇后一爲二大媽媽一。

【大暮】2126 タイボ 長夜。轉じて、死をいふ。〔陸機、歎逝賦〕寤二大暮之同寐一。〔注〕善曰、大暮猶二長夜一也。

【大封】2127 タイホウ ㊀古の軍禮の一。封疆を正すこと。〔周禮、春官、大宗伯〕大封之禮合レ衆也。〔注〕正二封疆溝塗之固一、所三以合二聚其民一。㊁大いに封ずる。大いに封地を與へる。〔左氏、昭、三十〕吳子使三徐人執二掩餘一、使三鍾吾人執二燭庸一、二公子奔レ楚、楚子大封而定二其徙一。〔注〕大封、與二土田一、定二其所レ徙之居一。㊂大きな封地。廣大な封土。〔後漢書、鄧訓傳〕猥推二嘉美一、竝享二大封一。㊃黃帝の臣の名。西方を治め、司馬となる。轉じて、後世、司馬を大封といひ、或は太尉といひ、又、大尉に作る。〔管子、五行〕得二大封一、辯二於西方一、故使レ爲二司馬一。〔路史、黃帝紀〕大封辨二乎西一、云云、以爲二司馬一。

【大峯】2128 タイホウ ㊀山名。福建省平和縣の東南。一に大枋山といひ、邑の鎭山。漳浦・詔安・海澄の諸山は皆、脈を此處に發す。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府、平和縣、三平山〕大峯山、亦在二縣東南一、縣之鎭山也、一名大峯崎、山高峻、巉巖石峯、凡十有七、自二山麓一至レ巔、可二五十餘里一、登陟一望、遠近城邑、悉在二目前一、商船渡レ海、以二此山一爲二表山一、云云、志云、漳浦・詔安・海澄・鎭海衞諸山脈、皆發二于此一。㊁字號。㋑宋、杜鼎昇(**6－14477**‥374)の字。㋺冢田虎の號。冢田大峯(**2－1585**‥29)を見よ。

【大鳳】2129 タイホウ 宋代、翰林學士(**9－28780**‥52)の稱。〔山堂肆考〕宋以二翰林學士一爲二大鳳一。

〔大鳳輦〕2130 ダイホウレン 天子の車。〔宋史、輿服志一〕唐制、輦有レ七、一曰大鳳輦。〔遼史、儀衞志一、漢輿〕大鳳輦、赤質、頂有二金鳳一、壁畫二雲氣金翅一、前有レ軾、云云。

【大蓬】2131 タイホウ ❶官名。祕書監(**8－24663**‥49)の異稱。蓬は蓬萊で、其の官署に喩へる。〔鄭氏談綺〕祕監曰二大蓬一。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一標二牓官稱一、云云、祕書監爲二大蓬一。❷山名。㋑四川省什邡縣の西。一に鎣華山といひ、山頂に都佛臺がある。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、漢州、什邡縣、章山〕大蓬山、在二縣西五十二里一、高崖矗レ天、瀑布飛レ瀉、志云、山高踰二一百里一、六月積雪不レ消、或謂二之鎣華山一。㋺四川省營山縣の東北。一に綏山をいふ。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、蓬州、營山縣〕大蓬山、縣東北七十里、與二小蓬山一對峙、相距二一里許、唐以レ山名レ州、一名綏山。

〔大蓬蒿〕2132 タイホウカウ 草の名。食用となる。〔農政全書、大蓬蒿考〕生二密縣山野中一、莖似二黃蒿莖一、色微帶レ紫、葉似二山芥菜葉一而長大、極多二花叉一、又似二風花菜葉一、叉亦多、又似二漏蘆葉一卻微短、開二碎瓣黃花一、苗葉味苦。

【大豐】2133 タイホウ ❶豐年。〔周禮、地官、廩人〕凡萬民之食食者人四鬴上也人三鬴中也人二鬴下也、〔疏〕上、謂二大豐年一也、中、謂二中豐年一。〔物理論〕正月朔四方黃氣、其歲大豐。❷唐の時、南詔の靖王、勸利晟の年號。（820－823）

【大鵬】2134 タイホウ ❶想像上の大鳥の名。おほとり。〔莊子、逍遙遊〕北冥有レ魚、其名爲レ鯤、鯤之大、不レ知二其幾千里一也、化而爲レ鳥、其名爲レ鵬、鵬之背、不レ知二其幾千里一也。〔潛夫論、釋難〕大鵬之動、非二一羽之輕一也、騏驥之速、非二一足之力一也。〔左思、吳都賦〕大鵬繽翻、翼若二垂天一。〔李嶠、海詩〕三山巨鰲湧、萬里大鵬飛。〔北史、王晧傳〕大鵬始欲レ擧、燕雀何啾喞。❷山名。㋑福建省閩侯縣の北。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、永春縣〕大鵬山、縣城北、形如二飛鵬乘レ翅、絕頂三峯、秀二出雲表一、稍西南爲二大羽山一。㋺廣東省寶安縣の東南。一に七娘山といふ。今名は九龍半島。前に老大鵬山がある。❸灣の名。廣東省寶安縣の東南。大鵬嘴と長短嘴と對峙して口門をなす。廣さ約五海里、水深五尋から十尋で、巨大の軍鑑も行くことが出來る。灣の西岸に沱羅港がある。英國と九龍租借條約を結んで英國の租借區域となる。

【大戊】2135 タイボウ 複姓。〔萬姓統譜〕大戊、姬姓、晉公子大戊之後。

〔大戊午〕2136 ダイボウゴ 戰國、趙の人。趙の肅侯が大陵に遊ばうとして鹿門から出た時、肅侯の馬を扣いて、耕事方に急なり、一日作さざれば百日食はず、と諫めたので、肅侯は車を降りて謝した。〔史記、四十三〕

【大謀】2137 タイボウ 大きなはかりごと。大數。〔論語、衞靈公〕子曰、巧言亂レ德、小不レ忍、則亂二大謀一。〔北史、李順傳〕太武將レ討二赫連昌一、謂二崔浩一曰、朕前北征、李順獻二策數事一、實合二經略大謀一、今欲レ使レ總二前驅之事一、何如。

〔大謀不レ謀〕2138 タイボウハハカラズ 大きな謀は遠大で小細工を弄しないから、俗人には氣がつかない。〔六韜、武韜、發啓〕大謀不レ謀、大勇不レ勇。

【大北】2139 タイホク 大いに敗れる。大敗して逃げる。〔國語、吳語〕不レ鼓不レ譟、以襲二攻之一、吳師大北。

〔大北勝〕2140 タイホクショウ 牡丹(**7－19933**‥16)の異名。〔清異錄、花、小南強〕世宗遣二使入レ嶺、館接者遺二茉莉一、文二其名一曰二小南強一、及二本朝一、張主面縛到レ闕、見二洛陽牡丹一、縉紳謂曰、此名二大北勝一。

【大卜】2141 タイボク 官名。❶殷代の官名といふ。神を主る官。〔禮、曲禮下〕天子建二天官一、先二六大一、曰、大宰・大宗・大史・大祝・大士・大卜、典二司六典一。〔注〕此蓋殷時制也、周則大宰爲二天官一、大宗曰二宗伯一、宗伯爲二春官一、大史以下屬レ焉、大士以レ神仕者。〔疏〕與二大祝大卜一相連、皆主レ神之士、故知二神仕一也。❷周官の名。春官の屬。卜筮官の長。太卜。〔周禮、春官、序官、大卜、注〕問レ龜曰レ卜、大卜、卜筮官之長。〔周禮、春官、大卜〕大卜、掌二三兆之灋一、一曰玉兆、二曰瓦兆、三曰原兆。

〔大卜師〕2142 タイボクシ 陰陽師の唐名。〔職原抄〕陰陽寮、陰陽師、唐名、大卜師。

〔大卜正〕2143 タイボクセイ 陰陽博士の唐名。〔職原抄〕陰陽寮、陰陽博士、唐名、大卜正。

〔大卜令〕2144 タイボクレイ 神祇伯の唐名。〔職原抄〕神祇官、伯一人、唐名、大常伯・大卜令、又、祠部尙書。

【大木】2145 タイボク ❶大きな樹木。おほき。巨木。巨樹。大樹。〔書、金縢〕天大雷電以風、禾盡偃、大木斯拔。〔孟子、梁惠王下〕爲二巨室一、則必使三工師求二大木一、工師得二大木一、則王喜以爲三能勝二其任一也。❷字號。㋑明、鄭成功(**11－39647**‥470)の字。㋺清、郁植(**11－39371**‥14)の字。㋩清、曹森(**5－14297**‥123)の字。㊁清、張粱(**4－9812**‥728)の字。㋭清、馮廷櫆(**12－44579**‥272)の字。

〔大木廠市〕2146 タイボクシャウシ 地名。湖北省房縣の西北。大木廠河の東岸。

【大朴】2147 タイボク 唐、周朴(**2－3441**‥475)の字。

【大僕】2148 タイボク 周官の名。夏官の屬。天子の服位等の事を掌る官で、侍從長に似たもの。後世は大僕寺の一衙門となつた。太僕。〔周禮、夏官、序官、大僕、注〕僕、侍二御於尊者一之名、大僕、其長也。〔周禮、夏官、大僕〕大僕、掌下正二王之服位一出中入王之大命上。〔新書、等齊〕天子衞御、號曰二大僕一、銀印秩二千石、諸侯之御、號曰二大僕一、銀印秩二千石、則御已齊矣。

【大本】2149 タイホン ❶おほもと。根本。〔中庸〕中也者、天下之大本也。〔莊子、天道〕此之謂二大本大宗一。〔荀子、王制〕夫是之謂二大本一。〔漢書、孔光傳〕平二刑罰一、薄二賦斂一、恩澤加二於百姓一、誠爲レ政之大本、應レ變之至務也。❷大字本(970)に同じ。❸南宋、理宗の時、大理の段智興の年號。〔歷代紀元編、上〕年次不明。❹字號。㋑明。黃天性(**12－47926**‥1265)の字。㋺明、時中(**5－13890**‥313)の字。㋩明、宋禮(**3－7078**‥213)の字。㊁明、潘中(**7－18236**‥73)の字。

〔大本營〕2150 ダイホンエイ もと、戰時に大元帥陛下が陸海軍を統帥せられた本營。卽ち、天皇の大纛下に置く最高の統帥部。幕僚及び各機關の高等部を置き、參謀總長及び軍令部長は各其の幕僚に長として帷幄の機務に奉仕し、作戰に參畫し、終局の目的を稽へ、陸海兩軍の策應・協同を圖つた。

〔大本堂〕2151 ダイホンダウ 明の太祖が建てた堂の名。四方の名儒を徵して太子諸王を敎育したところ。〔江南通志、江寧府〕大本堂在レ府、明洪武初、以爲二太子諸王授レ經之所一、延二四方耆儒于其中一、公侯子弟皆就レ學焉、今廢。

【大奔】2152 タイホン 大いに奔る。大敗して逃げる。〔左氏、隱、九〕戎師大奔。〔注〕後駐レ軍不二復繼一也。〔會箋〕後者大潰也、云云、上文云二戎人之前遇覆者奔一、是戎先隊既奔矣、而此又云二戎師大奔一、是後隊亦奔矣。

〔大奔星〕2153 ダイホンセイ 大きな流星。〔史記、天官書〕天狗、狀如二大奔星一、有レ聲。

【大盆】2154 タイボン ❶大きな盆。酒杯などの極めて大きなもの。〔墨子、備穴〕大盆毋レ少二四斗一。〔晉書、阮咸傳〕諸阮皆飲酒、咸至二宗人閒一共集、不下復用二杯觴一斟酌上、以二大盆一盛レ酒、圓坐相向、大酌更飲。❷山名。浙江省東陽縣の東南。形が覆盆のやうなので名づけられた。〔讀史方輿紀要、浙江、金華府、東陽縣〕大盆山、縣東南一百三十里、接二台州府天台縣界一、其南爲二大溪水所一出、其北則東陽江之源也、志云、山高五百丈、周一百三十里、形如二覆盆一、其傍有二小盆山一、東陽江別源出二於此一。

【大麻】2155 タイマ ❶植物の名。あさ。莖の皮から纖維を採つて布を製る。〔本草、大麻〕釋名、火麻・黃麻・漢麻、雄者名二麻枲・牡麻一、雌者名二苴麻・苧麻一、花名二麻蕡・麻勃一。❷㋑神に奉る幣。おほぬさ。ごへい。〔神宮典略、上、齋宮年中行事、六月晦日大祓〕寮官諸司亦同列、於二南門外一中臣行二大麻一。㋺神社から授與する神符。

〔大麻索〕2156 タイマサク 大きな麻繩。〔墨子、備蛾傅〕以二大麻索一編レ之、染二其索一塗レ中。

〔大麻仁〕2157 タイマジン 麻の實。苧種。〔本草、大麻〕麻仁、宗奭曰、卽此大麻子中仁也。

〔大麻竹〕2158 ta⁴ ma² chu² 馬來地方に產する竹の名。竹類のうちで最大なもの。

〔大麻瘋〕2159 タイマフウ 痲瘋(**7－22254**‥8)に同じ。癩。

〔大麻油〕2160 ta⁴ ma² yu² ひまし油。

〔大麻蠅〕2161 ta⁴ ma² ying² 蠅の屬。縞蠅。又、麻蠅・肉蠅といひ、複眼赤褐、最も穢惡なもの。(**12－47887**‥61)に同じ。

【大米】2162 ta⁴ mi³ ❶白米。小米、卽ち粟の對。❷オホノキ 姓氏。

【大米飯】2163 ta^4 mi^3 fan^4 米の飯。

【大枚】2164 ダイマイ タイマイ 金だかの多いこと。多額。〔七十一番職人盡歌合、穢多〕此の革はだいまいかな。

【大毛】2165 タイマウ 金銀淺羊・灰狐・白狐・玄狐の類の毛皮。〔紅樓夢、十四回〕連夜打二點大毛衣服一。

〖大毛公〗2166 ダイマウコウ 漢の毛亨をいふ。毛萇を小毛公といふに對す。毛詩(**6**−**16772**‥91)を見よ。〔詩、毛詩、國風、疏〕譜云、魯人大毛公、爲二詁訓傳一於其家一、河間獻王、得而獻レ之、以二小毛公一爲二博士一。〔經典釋文、序錄〕毛詩者、出レ自二毛公一、河間獻王好レ之、徐整云、子夏授二高行子一、高行子授二薛倉子一、薛倉子授二帛妙子一、帛妙子授二河間人大毛公一、毛公爲二詩故訓一傳二於家一、以授二趙人小毛公一(一云、名萇)、小毛公爲二河間獻王博士一、以レ不レ在二漢朝一、故不レ列二於學一。

【大網】2167 タイマウ 大きいあみ。〔杜甫、觀二打魚一歌〕漁人漾舟沉二大網一、截江一擁數百鱗。

〖大網疏小網數〗2168 タイマウハ セウマウハ ソニシテ サクナリ 大網は目があらく、小網は目がこまかい。〔後漢書、朗顗傳〕自下慢レ事愈甚、所謂大網疏小網數。

【大末】2169 タイマツ 縣名。漢、置く。浙江省龍游縣の治。〔漢書、地理志上〕會稽郡、縣二十六、大末。

【大滿】2170 タイマン 大いに驕ること。〔國語、魯語下〕笑二吾子之大滿一也。〔注〕滿、驕滿也。

〖大滿禪師〗2171 ダイマンゼンジ 唐、弘忍(**4**−**9709**‥115)の諡。

【大味】2172 タイミ ❶すぐれてよい味。〔漢書、揚雄傳下〕大味必淡、大音必希。❷オホアヂ 食物の味のこまやかでないこと。

【大眠】2173 タイミン 蠶兒の最後のねむり。三眠蠶では第三眠、四眠蠶では第四眠をいふ。〔蠶書〕不レ食二一日、謂二之大眠一。

【大務】2174 タイム 大きな務。重大な職務。〔呂覽、博志〕先王有二大務一。〔漢書、禮樂志〕古之王者、莫レ不下以二教化一爲中大務上。〔漢書、董仲舒傳〕莫レ不下以二教化一爲中大務上。〔揚雄、長楊賦〕國家之大務。

【大夢】2175 タイム ❶長いあひだの夢。轉じて、道に昧きものは常に夢中に在るが如きより、迷へる人生に喩へる。〔莊子、齊物論〕有二大覺一、而後知二其大夢一也。〔雲笈七籤〕有二大夢一則有二大寤一。❷タイバウ 藪澤の名。雲夢の澤。〔淮南子、墬形訓〕南方曰二大夢一、曰二浩澤一。〔注〕夢、雲夢也、浩、亦大也。

【大霧】2176 タイム 濃霧をいふ。又、大いに霧がかかる。〔史記、韓王信傳〕上出二白登一、匈奴騎圍レ上、上使三人厚遺二閼氏一、居七日、胡騎稍引去、時天大霧、漢使人往來、胡不レ覺。〔庾信、周車騎大將軍贈小司空宇文顯和墓誌銘〕自大霧浮レ河、長虹映レ渚、承二源于弱水一、纂二系于蒼林一。

【大名】2177 タイメイ ❶立派な名前。おほきなほまれ。さかんな評判。すぐれた名譽。〔左氏、閔、元〕卜偃曰、畢萬之後必大、萬、盈數也、魏、大名也、以レ是始賞、天啓レ之矣。〔戰國、秦策〕此燕之長利、而君之大名也。〔呂覽、審應〕君若封レ之則大名。〔史記、陳涉世家〕壯士不レ死則已、死卽擧二大名一耳。〔後漢書、皇甫嵩傳〕將三何以保二大名一乎。〔逸周書、諡法解〕大行受二大名一。〔干寶、晉紀論晉武帝革命〕漢魏外禪、順二大名一也。〔唐書、陸贄傳〕君德合二于天一曰レ皇、合二于地一曰レ帝、合二于人一曰レ王、父レ天母レ地、以養レ人治レ物、得二其宜一者曰二天子一、皆大名也。❷道の名。民國、置く。直隸省に屬す。治は大名縣。清の直隸省の大名・順德・廣平の三府及び冀趙二州の地。大名・南樂・清豐・東明・濮陽・長垣・邢臺・沙河・南和・平鄉・廣宗・鉅鹿・唐山・內丘・任・永年・曲周・肥鄉・雞澤・廣平・邯鄲・成安・威・清河・磁・冀・衡水・南宮・新河・棗強・武邑・趙・柏鄉・隆平・臨城・高邑・寧晉の三十七縣を管轄す。今、廢す。❸府の名。五代漢、置く。三國魏の陽平郡、北周の魏州。唐の天雄軍治。故治は河北省大名縣。清は開州及び大名・元城・南樂・清豐・東明・長垣の六縣を管轄す。〔唐書、田悅傳〕田悅國號レ魏、僭二稱魏王一、以レ府爲二大名府一。〔讀史方輿紀要、直隸〕大名府、禹貢、兗州之域、夏爲二觀扈之國一、春秋晉地、云云、五代唐同光初、升爲二東京興唐府一、三年、改二東京一曰二鄴都一、晉曰二廣晉府一、漢曰二大名府一、云云、金仍爲二大名府路一、元曰二大名路一、明曰二大名府一、領二州一、縣十一。〔清史稿、地理志〕直隸、大名府、領二州一、縣六一、大名・元城・南樂・清豐・東明・開州・長垣。❹路の名。㋑金、置き、大名府を治とす。河北省大名縣治。❸を見よ。㋺元、置く。河南省の道口以西、及び河北省大名縣以南の地。治は元城。河北省大名縣治。❸を見よ。❺縣名。五代漢、置く。漢の元城縣の地。河北省廣平縣の東南。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府〕大名縣、府東南十里、本漢元城縣地、云云、五代梁乾化末、晉王存勗入二魏州一、改曰二廣晉縣一、漢曰二大名縣一、宋熙寧六年、省入二元城縣一。〔清史稿、地理志〕直隸、大名府、縣六、大名。❻相手の名を尊んでいふ語。御高名。御尊名。❼清、王方魏(**7**−**20823**‥2013)の號。❽ダイミヤウ ㋑平安朝の末、多くの名田を有したものの稱。㋺鎌倉時代に、將軍の家臣の中の領地知行の多い守護・地頭に與へた稱號。〔東鑑、三〕壽永三年三月一日、下、土佐國大名國信・國元・助光入道等所。㋩德川時代に、知行一萬石以上の武家の稱。〔官中祕策、一〕七拾箇國大名數、都合、二百六十二人。

〖大名行列〗2178 ダイミヤウギヤウレツ 德川時代に大名が規定の儀衞を備へて通行する時の行列。又、それに模した行列。〔近代世事談〕。

〖大名之下難二久居一〗2179 タイメイノモトニハ ヒサシクヲリガタシ 大きな名譽をあげた後は、却つて人々の嫉視を受けて禍を招く基となるから、久しく其の名譽を受けてゐることが出來ない。〔史記、越世家〕句踐以霸、而范蠡稱二上將軍一、還二反國一、范蠡以爲、大名之下難二以久居一、且句踐爲レ人可二與同一レ患、難二與處一レ安、爲レ書辭二句踐一。

【大命】2180 タイメイ ❶天命。天子となる命。王位。〔書、太甲上〕天監二厥德一、用集二大命一、撫二綏萬方一。〔傳〕天視二湯德一、集二王命於其身一、撫二安天下一。〔詩、大雅、蕩〕曾是莫レ聽、大命以傾。〔國語、晉語三〕不レ更二厥貞一、大命其傾。〔韓詩外傳、二〕伊尹知二大命之將一レ去、擧レ觴造レ桀曰、君王不レ聽二臣言一、大命去矣、亡無レ日矣。〔逸周書、命訓解〕天生レ民而成二大命一。〔集訓校釋〕丁曰、命兼二理數一言。❷君の命令。天子の命令。〔周禮、夏官、太僕〕掌下正二王之服位一、出中入王之大命上。〔注〕出二大命一、王之教也。〔禮、祭統〕勤二于大命一、施二于烝彝鼎一。〔注〕言三我將レ行二君之命一、又刻二著於烝祭之彝鼎彝尊二也。〔後漢書、王常傳〕臣蒙二大命一、得下以二鞭策一託中身陛下上。❸大きな運命の理。〔莊子、列禦寇〕達二大命一者隨。❹壽命。〔韓非子、難、一〕管仲有レ病、桓公往問レ之、曰、仲父病、不幸卒二大命一、將三奚以告二寡人一。〔枚乘、七發〕精神越渫、百病咸生、聰明眩曜、悅怒不レ平、久執不レ廢、大命乃傾。❺命の綱。命脈。〔新書、無畜〕夫蓄積者、天下之大命也。❻軍隊を出す命令。〔左氏、襄、八〕子國怒レ之曰、爾何知、國有二大命一、而有二正卿一、童子言焉、將レ爲レ戮矣。〔注〕大命、起レ師行レ軍之命。

〖大命降下〗2181 タイメイカウカ もと天皇が內閣を組織せしむべき候補者を御召になつて、之に內閣組織の勅命を下されたこと。

〖大命興勝〗2182 タイメイコウショウ 明の熹宗の時、徐鴻儒の僭年號、興勝の一稱。一に大乘興勝にも作る。(1622)

【大明】2183 タイメイ ❶太陽の異稱。太明。〔禮、禮器〕大明生二於東一。〔注〕大明、日也。〔後漢書、馬融傳〕大明生レ東、月朔二西陂一。〔管子、內業〕鑑二於大清一、視二於大明一。〔纂詁〕尹知章云、大明、日月也。❷日月をいふ。❸至人の智が日月の如く、甚だ明かなこと。〔莊子、在宥〕我爲レ女遂二於大明之上一矣。〔疏〕至人應動之時、智照如二日月一、名二大明一也。❹大いに明かにする。〔書、周官〕王乃時巡、考二制度于四岳一、諸侯各朝二于方岳一、大明二黜陟一。❺年號。㋑南朝宋、孝武帝、劉駿の時。(457−464) ㋺五代唐、南詔の肅恭帝、楊于眞の時。〔歷代建元考〕年次不明。❻詩經、大雅、文王之什の篇名。文王に明德があつたので、天が復た武王に命じた事を歌つた詩。一說に、周公が成王を戒めた詩。〔詩、大雅、大明序〕大明、文王有二明德一、故天復命二武王一也。〔集傳〕此亦周公戒二成王一之詩。❼宮殿の名。陝西省長安縣の東。唐の東內。〔元和志〕大明宮、高宗龍朔二年置、高宗嘗染二風痺一、以二大內湫濕一、置二宮於斯一、其地卽龍首山之東麓。〔舊唐書、地理志一、關內道、京師〕皇城在二西北隅一、謂二之西內一、云云、東內曰二大明宮一、在二西內之東北一、高宗龍朔二年置。〔雍錄〕大明宮地、本太極宮之後苑、東北面二射殿一也、地在二龍首山上一、太宗初於二其地一營二永安宮一以備二太上皇清暑一、九年正月、雖三嘗改二名大明宮一、然太上皇仍居二大安一、不二曾徙入一也、龍朔二年、高宗

染㆓風痺㆒、惡㆓太極宮卑下㆒、故就修㆓大明宮㆒、改㆓名蓬萊宮㆒、取㆓殿後蓬萊池㆒爲㆑名也、至㆓三年四月㆒移㆓仗御蓬萊宮之含元殿㆒、二十五日、始御㆓紫宸㆒、改㆓咸亨元年㆒、改㆓蓬萊宮㆒爲㆓含元殿㆒、長安五年、又改爲㆓大明宮㆒、宮南端門名㆓丹鳳㆒、則在㆓平地㆒矣。❽湖の名。山東省歷城縣治の西北隅。今、積土が游墊し、蘆葦荷柳が茂つてゐる。〔水經、濟水注〕濼水北爲㆓大明湖㆒、西卽大明寺。〔明一統志〕大明湖、占㆓府城之一㆒、瀰漫無㆑際、遙望㆓華不注峯㆒、若㆑在㆓水中㆒、蓋歷城下絕勝處也。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、歷城縣〕大明湖、在㆓府城內西北隅㆒、源出㆓歷下諸泉㆒、匯而爲㆑湖、周十餘里、繇㆓北水門㆒出流、注㆓小淸河㆒、一名㆓西湖㆒、通志、水經注云、濼水北爲㆓大明湖㆒、一統志、湖源出㆓舜泉㆒、今濼水遶㆓城北㆒流、而東出不㆑入城、云云、又舊時湖流浩衍、望㆓華不注峯㆒、如㆑浸㆓水中㆒、今多爲㆑居、民塡塞治㆑圃、環㆑沼僅存㆓曲港㆒、可㆑通㆓小舟㆒、而蔬菓菱芡魚蝦之屬、甚爲㆓民利㆒、宋史、景定二年、李壇以㆓濟南㆒來降、蒙古攻㆑之、城將㆑陷、壇乘㆑舟入㆓大明湖㆒投㆓水中㆒、水淺不㆑得㆑死爲㆓蒙古所㆑殺。❾三國魏、周昕（**2**−3441・・112）の字。❿（タイミン）明國の尊號。〔明史、太祖紀二〕頒㆓定大明律㆒。⓫（ダイミャウ）大明日の略。

【大明國】2184（タイミンコク）明國をいふ。大宋國（1449）を見よ。

【大明神】2185（タイミャウジン）❶神の尊稱。明神。〔東鑑、一〕治承四年九月十日、是偏大明神之所㆓示給㆒也、何無㆓其恃㆒哉。❷ta^4 ming^2 shen^2 朝日の神。

【大明竹】2186（タイミンチク）竹の名。葉が短く細かなもの。大名竹。寒山竹。

【大明日】2187（ダイミャウニチ）陰陽家の語。最上の吉日。甲辰・甲申・乙未・乙丑・丙辰・丙午・丁卯・丁未・戊辰・己卯・己酉・庚戌・辛未・辛酉・辛亥・壬午・壬申・癸巳・癸酉の日。〔運歩色葉集〕大明日、甲辰申乙未丑丙辰午丁卯未戊辰己卯酉庚戌辛未酉亥壬午申癸巳酉、諸事大吉日也。

【大明律】2188（ダイミンリツ）書名。明律（**5**−13805・・577）を見よ。

【大明會典】2189（ダイミンエテン）書名。明會典（**5**−13805・・615）を見よ。

【大明集禮】2190（ダイミンシフレイ）書名。明集禮（**5**−13805・・646）を見よ。

【大明禪師】2191（タイメイゼンジ）唐、懶殘（**4**−11455・・5）の謚。

【大明武解】2192（タイメイブカイ）逸周書の篇名。

【大明㆓終始㆒】2193（オホイニシユウシヲアキラカニス）大いに天道の終始を明かにする。〔易、乾〕大明㆓終始㆒、六位時成。

【大明一統志】2194（ダイミンイツトウシ）書名。明一統志（**5**−13805・・681）を見よ。

【大明一統名勝志】2195（ダイミンイツトウメイシヨウシ）書名。明一統名勝志（**5**−13805・・718）を見よ。

【大冥】2196（タイメイ）❶道をいふ。混冥。〔淮南子、本經訓〕在㆓于混冥之中㆒。〔注〕混、大也、大冥之中、謂㆑道也。❷北方の澤。〔淮南子、墜形訓〕北方曰㆓大冥㆒、曰㆓寒澤㆒。〔注〕北方多寒也、故曰㆓寒澤㆒也。

【大盟】2197（タイメイ）天子が親臨して結ぶ盟約。大盟約。〔周禮、地官、封人〕凡喪紀賓客、軍旅大盟、則飾㆓其牛牲㆒。〔注〕大盟、會同之盟。〔疏〕大盟、謂㆓天子親往臨㆑盟。

【大盟約】2198（タイメイヤク）天子が親臨して結ぶ盟約。大盟に同じ。〔周禮、秋官、大司寇〕凡邦之大盟約、涖㆓其盟書㆒而登㆓之于天府㆒。〔疏〕凡邦之大盟約者、謂㆘王與㆓諸侯㆒因㆓大會同㆒而與盟㆖。

【大妙】2199（タイメウ）極めて奧深いこと。道の極所。極妙。〔莊子、寓言〕顏成子游謂㆓東郭子綦㆒曰、自㆔吾聞㆓子之言㆒、一年而野、七年而天成、八年而不㆑知㆑死、不㆑知㆑生、九年而大妙。〔疏〕妙、精微也。

【大面】2200（タイメン）戲劇で淨、卽ち敵役をいふ。一名、大花面。代面（**1**−386・・139）の❸を見よ。〔樂府雜錄〕大面、出㆓於北齊㆒、蘭陵王長恭、才武而貌美、常著㆓假面㆒以對㆑敵、擊㆓周師㆒、勇冠㆓三軍㆒、齊人壯㆑之、爲㆓此舞㆒以效㆓其指麾擊刺之容㆒、謂㆓之蘭陵王入陣曲㆒。

【大面皮兒】2201 ta^4 mien^4 p'i^2 êrh 大抵の。大概の。

【大棉】2202 ta^4 mien^2 上等の棉花。

【大緬】2203（ダイメン）細い絲。〔事物異名錄、布帛、絲〕六書故、今之絡絲者、別㆓其最細者㆒爲㆑緬、次曰㆓大緬㆒。

【大茂】2204（タイモ）❶大いにしげる。〔南史、南海王子罕傳〕母嘗寢㆑疾、子罕晝夜祈禱、於㆑時以㆑竹爲㆓燈纘㆒照㆑夜、此纘宿昔枝葉大茂、母病亦愈、咸以爲㆓孝感所㆑致。❷山名。河北省阜平縣の東北。曲陽縣の界に接す。卽ち恒山の嶺。一名、神尖。〔太平御覽、地、恆山〕太史公云、北岳者有㆓五名㆒、一名蘭臺府、二名列女宮、三名華陽臺、四名紫微宮、五名太一宮、或云㆓太茂山㆒、山北四百餘里、號㆓飛狐之口㆒、有㆓率然蛇㆒、孫吳諭㆓兵勢㆒。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、唐縣〕大茂山、縣西北百八十里、卽恆岳也、北亙㆓雲蔚㆒、南連㆓鎭定㆒、爲㆓河東河北之翰蔽㆒、緣㆑山有㆑村、曰㆓石門㆒、志云、今有㆓嶽嶺口㆒、巡司在㆓縣西北百十里㆒、卽大茂山之東麓。

【大蒙】2205（タイモウ）❶西方邊遠の地。太陽の沒する西のはて。蒙汜。〔爾雅、釋地〕西至㆓日所㆑入爲㆓大蒙㆒。〔注〕卽蒙汜。〔淮南子、汜論訓〕丹穴大蒙、反踵空同、是非各異、習俗相反。〔注〕大蒙、西方日所㆑入處也。❷藥の名。〔管子、地員〕羣藥安㆑生、小辛大蒙。❸淸、奚濤（**3**−5930・・33）の字。

【大目】2206（タイモク）❶大きな目。莊子は一方を偏視せず、絕對の境に立つて見る意に用ふ。〔莊子、徐無鬼〕大目視㆑之、大均緣㆑之。❷大まかに分けた條目。又、重要な條目。〔性理大全、性理、心性情〕北溪陳氏曰、只是就㆓性中㆒發來、不㆓是別物㆒、其大目則爲㆓喜怒哀懼愛惡欲七者㆒。

【大目付】2207（オホメツケ）江戶幕府の職名。幕府の政務を監察し、及び諸大名の糺彈を掌る。おほよこめ。〔東職紀聞、一〕大目付四人、從五位下、掌㆘監㆓一切之善惡㆒、鐵砲・宗門・分限帳等、諸改之事㆖。

【大目麁籠】2208（オホマアラコ）古語。目のあらいかご。〔日本書紀、神代紀下〕取㆓其竹㆒、作㆓大目麁籠㆒。

【大目乾連冥間救母變文】2209（ダイモクケンレンメイカンキウボヘンブン）ペリオ將來の敦煌遺書の一。五代間の寫本。語り物の一種。目連緣起と關係がある。目連が地獄に墮在した母を尋ねる有樣を眼目として委曲詳敍し、遂に母を天上に生れさせるを結束とする。〔鄭振鐸、中國文學史〕。

【大門】2210（ダイモン）❶大きな門。正門。おほもん。〔禮、曲禮上〕車驅而騶、至㆓于大門㆒。〔左氏、哀、十四〕攻㆔闈與㆓大門㆒。〔注〕大門、公門也。❷寺の總門。〔柳宗元、永州龍興寺東丘記〕登㆓高殿㆒可㆔以望㆓南極㆒、闢㆓大門㆒可㆔以瞰㆓湘流㆒。❸立派な家柄。〔陸游、示㆑子詩〕大門舊業微如㆑綫。❹碁の打方の一。げたかけること。〔圍棋義例、詮釋〕門、閉也、閉㆑之使㆑不㆑得㆑出曰㆑門、隔㆓一路㆒曰㆓行門㆒、二路曰㆓大門㆒。

【大門官】2211（ダイモンクワン）唐代、御史大夫の稱。大朝會の時、未明の刻に、百官の班序を正して兩觀にならばせるからいふ。〔資治通鑑、唐紀〕文宗、大和六年、德裕驚喜泣下、曰、此大門官。〔注〕唐制、大朝會、御史大夫、帥㆓其屬㆒正㆓百官之班序㆒、遲明列㆓於兩觀㆒、故以爲㆓大門官㆒。

【大門戶】2212 ta^4 men^2 hu^4 富家。豪族。

【大門纛】2213 ta^4 men^2 tu^2 葬式の行列の先頭に立つてゐる大旗。

【大門中】2214（ダイモンチユウ）死んだ祖父をいふ。〔顏氏家訓、風操〕祖父若沒、言須㆑及者、則斂㆑容肅坐、稱㆓大門中㆒、世父叔父、則稱㆓從兄弟門中㆒。

【大紋】2215（ダイモン）❶大きな紋がら。〔宇津保物語、樓上、上〕御簾の帽額には大もんの錦をせさせ給ふ。❷大形の紋所。〔源平盛衰記、三十五、義經院參事〕大文を三つづつ書きたる直垂。❸大形の紋所を五箇所にあらはした布製の直垂。鎌倉時代諸大夫の多く用ひたもの。

【大問】2216（タイモン）❶諸侯が互に卿をして聘問させること。〔儀禮、聘禮、疏〕鄭目錄云、大問曰㆑聘、諸侯相於㆓久無㆑事、使㆓卿相問㆒之禮、小聘使㆓大夫㆒。❷天子の御質問。〔後漢書、楊賜傳〕吾以㆓微薄之學㆒、充㆓先師之末㆒、累世見㆑寵、無㆓以報㆑國、猥當㆓大問㆒、死而後已。

【大也】2217（タイヤ）淸、姚夏（**3**−6202・・15）の字。

【大冶】2218（タイヤ）❶鑄鐵工。〔莊子、大宗師〕今大冶鑄㆑金。〔史記、平準書〕桑弘羊、以㆓計算㆒用㆑事、侍中咸陽齊之大煮鹽、孔僅南陽大冶、皆致㆔生累㆓千金㆒。❷縣名。五代南唐、置く。湖北省武昌縣の東南、鐵を產す。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、興國州〕大冶縣、州西北一百五十里、隋武昌縣地、唐爲㆓永興縣地㆒、置㆓大冶靑山場院㆒、南唐保

大十三年、升爲㆓大冶縣㆒屬㆓鄂州㆒。〔清史稿、地理志〕湖北、武昌府、縣九、大冶。㊂清、陳世鎔(11－41698‥1035)の字。

〖大冶鑛〗2219 ダイヤテツクワウ　鑛山の名。湖北省大冶縣の北。唐の永興年間から已に冶鐵場を設け、宋代も之を繼續した。清の光緒二年、盛宣懷が聘した英國の技師に發見せられ、湖廣總督の張之洞に依つて漢陽鐵廠が建てられ、ついで漢冶萍煤鐵廠鑛有限會社となる。鑛區は下陸山・康山・雌雄獅子山・象別山・龍洞砂帽翅山・鐵門鑛・陳家山・金山店等で、面積計二百方里、二億七千三百萬噸を藏するといはれる。

〖大冶鐵路〗2220 ダイヤテツロ　鐵道の名。湖北省大冶縣の鐵山鋪から江邊の石灰窰に至る。長さ五十四里、專ら大冶鐵鑛の鐵を運ぶ。支線があつて得道灣から獅子山に至る。長さ十五里。皆、清の光緒十八九年間に築いたもの。

【大夜】2221 タイヤ　㊀死の世界。黃泉。〔王僧孺、從子永寧令謙誄〕昭塗長已、大夜斯安。〔唐武后、高宗天皇大帝哀冊文〕去㆓重陽之奕奕㆒、襲㆓大夜之悠悠㆒。㊁火葬の前夜。逮夜。伴夜。伴大夜(1－475‥42)を見よ。

【大野】2222 タイヤ　㊀廣大な野原。おほの。〔爾雅、釋地〕大野曰㆑平、廣平曰㆑原。〔蘇轍、上㆓樞密韓太尉㆒書〕無㆔高山大野可㆓登覽以自廣㆒。㊁藪澤の名。〔爾雅、釋地〕魯有㆓大野㆒、晉有㆓大陸㆒。〔書、禹貢〕大野既豬。〔鄭注〕大野、在㆓山陽鉅野北㆒、名㆓鉅野澤㆒。野、一作㆑壄。〔周禮、夏官、職方氏〕河東曰㆓兗州㆒、其山鎭曰㆓岱山㆒、其澤藪曰㆓大野㆒。〔注〕大野、在㆓鉅野㆒。〔左氏、哀、十四〕西狩㆓於大野㆒、叔孫氏之車子鉏商獲㆑麟。〔史記、孔子世家〕魯哀公十四年春、狩㆓大野㆒。〔注〕集解曰、服虔曰、大野、藪名、魯田圃之常處、蓋今鉅野、是也。〔水經注、禹貢山水澤地所在〕大野澤、在㆓山陽鉅野縣東北㆒。〔春秋釋例、盟會圖疏〕大野卽鉅鹿、括地象云、大野澤、在㆓鄭州㆒。㊂複姓。〔魏書、孝靜帝紀〕(天平元年十一月)南青州刺史大野拔、據㆓瑕丘㆒反。㊃若月大中の號。若月大野(9－30796‥46)を見よ。

〖大野竹瑞〗2223 オホノチクズイ　豐後の人。道海の子。名は董喜。字は玄格。號は竹瑞・庚金。官は富山藩儒。初、江戸に塾を開いて教授す。著に赤城義臣傳補遺・易學啓蒙解・近思錄啓蒙・慶安江戸事略・庚金文集・四書集注講義・初學算法講義・小學口義・鎭西氏民賊志・燔蛤新話・文章知覺がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大爺】2224 ta^{4} yeh^{2}　㊀伯父。父の兄。㊁奴婢が主人を呼ぶ敬稱。旦那。㊂人民が府縣の長官などを呼ぶ尊稱。

【大洋】2225 タイヤウ　㊀おほうみ。大海。〔賈躭、遊㆓華夷圖玉山㆒記〕循㆓山之麓㆒、升降凡十有五里、至㆓大洋㆒。㊁川の名。廣西省中渡縣。渡は古化縣の古底の鳥籠山。㊂寨名。福建省莆田縣の西北。東は福清縣、西は仙遊縣、北は永泰縣に通ずる要衝。〔讀史方輿紀要、福建、興化府、莆田縣、迎仙寨〕大洋巡司、在㆓府西北八十里㆒、山谷中蹊徑叢雜、奸民嘯聚、萬歷中增㆓置今司㆒。㊃元、郭德海(11－39474‥392)の字。㊄太平洋・大西洋・印度洋・北極洋のやうな地球の表面の海水に被はれた部の廣く深いもの。海の面積は地表全面積の四分の三を占む。㊅ta^{4} yang^{2} ㋑一圓銀貨。㋺一圓銀貨一枚を十錢銀貨十枚に當てて計算する勘定法。

〖大洋湖〗2226 タイヤウコ　湖の、洋海に近いもの。一に古餘湖ともいひ、もと洋海の一部であつたのが、海岸の發達によつて湖を形成したもの。

〖大洋洲〗2227 タイヤウシウ　六大州の一。南洋を中心とし、濠洲・馬來諸島等を含む地域をいふ。オセアニア。

【大陽】2228 タイヤウ　㊀山名。湖北省京山縣の北。富水の源。上に猿鹿多く、其の西北に青巖がある。〔宋書、柳元景傳〕(元景)又副㆓沈慶之㆒征㆓鄖山㆒、進克㆓大陽㆒。㊁縣名。漢、置く。大河の北に在るからいふ。故城は山西省平陸縣の東北。〔漢書、地理志上〕河東郡、縣二十四、大陽。〔注〕吳山在㆑西、上有㆓吳城㆒、周武王封㆓太伯後於此㆒、是爲㆓虞公㆒、爲㆓晉所㆑滅、有㆓天子廟㆒、應劭曰、在㆓大河之陽㆒。㊂鎭の名。㋑山東省東平縣の東北。又、大羊集に作る。近年、貿易が盛である。㋺山西省晉城縣の北。陽阿の故城。㋩山西省臨汾縣の境。㊃戍の名。南朝宋、置く。湖北省蘄春縣の西北。〔水經、蘄水注〕晉改爲㆓蘄陽縣㆒、縣徙㆓江洲㆒、置㆓大陽戍㆒、後齊齊昌郡、移㆓治于此㆒也。

〖大陽先生〗2229 タイヤウセンセイ　宋、陽枋(11－41725‥213)の尊稱。

〖大陽明脈〗2230 タイヤウメイミヤク　經脈の名。大陽明は手の陽明。〔史記、倉公傳〕臣意灸㆓其左大陽明脈㆒。

【大樣】2231 ta^{4} yang^{4}　威張る。えらぶる。

【大約】2232 タイヤク　㊀おほよそ。おほまか。大略。〔新書、匈奴〕若夫大變之應、大約以權㆓決塞㆒。㊁根本的な重要な點。大法をいふ。〔逸周書、寶典解〕不㆑釋㆓大約㆒、見㆑利忘㆑親。〔注〕釋、解、約、要也、言㆑不㆑中㆓竅要㆒。

【大藥】2233 タイヤク　金丹を練つた仙藥。〔枕中方〕凡服㆓金丹大藥㆒、雖㆑未㆑去㆑世、百邪不㆓敢近㆑人、若服㆓草木小藥㆒、餌㆓八石㆒、適可㆓除㆑病延㆑年、不㆑足㆑禱㆓外禍㆒。〔楊載、再用㆑韻贈㆓黃子久㆒詩〕古書嘗歷覽、大藥豈難㆑求。

【大庾】2234 タイユ　縣名。唐、置く。江西省南康縣の西。故治は今治の西南に在り、宋、今治に移す。〔唐書、地理志五、江南道〕虔州南康郡、縣七、大庾。〔讀史方輿紀要、江南、南安府〕大庾縣、附郭、漢南埜縣地、相傳、武帝時、遣㆘庾勝討㆓南越㆒築㆗城於此㆖、因有㆓大庾之名㆒、晉以後爲㆓南康縣地㆒、云云、隋開皇十年、立㆓大庾鎭㆒、唐神龍元年、升爲㆑縣、仍屬㆓虔州㆒。〔清史稿、地理志〕江西、南安府、縣四、大庾。

〖大庾嶺〗2235 タイユレイ　嶺の名。五嶺の一。江西省大庾縣の南。古、塞上といふ。漢が南越を伐ち、庾勝をして城を此處に築かしめ、大庾と名づく。又、臺嶺ともいひ、贛粵の衝に當る。唐の張九齡が新經を開鑿し、梅を植ゑて梅嶺と名づけ、梅の名所となる。五代の後は全く荒廢に歸したが、宋の時、蔡挺が松を道傍に植ゑ、關を嶺上に立て、梅關と命名した。〔漢書、南粵王趙佗傳〕使㆘人函㆓封漢使節㆒置㆗塞上㆖。〔後漢書、郡國志四、揚州、豫章郡〕南野有㆓臺領山㆒。〔輿地志〕臺嶺、卽塞上、今名㆓大庾㆒。〔水經、溱水注〕連水出㆓南康縣涼熱山㆒、連溪山卽大庾嶺也、五嶺之最東矣、故曰㆓東嶠㆒。〔白孔六帖〕大庾多㆑梅、南枝既落、北枝始開。〔廣州記〕大庾・始安・臨賀・桂陽・揚陽、是謂㆓五嶺㆒。〔讀史方輿紀要、江西、重險〕大庾嶺、在㆓南安府西南二十五里、廣東南雄府北六十里㆒、磅礴高聳、爲㆓五嶺之一㆒、云云、在㆓秦時㆒謂㆓之塞上㆒、亦名㆓塞嶺㆒、漢伐㆓南越㆒時、有㆓監軍庾姓者㆒、城㆑此、故名㆓大庾㆒、又漢志亦名爲㆓臺嶺山㆒、以㆓嶺上有㆑石如㆑臺也、或以㆔形如㆓廩庾㆒、故謂㆓之庾嶺㆒、又謂、漢庾勝者、本梅鋗將、爲㆑漢守㆓臺嶺㆒、築㆓城嶺下㆒、因有㆓大庾之名㆒云云、張九齡集云、初嶺東廢路、人苦㆓峻極㆒、開元四載冬、俾㆘使臣左拾遺內供奉張九齡、緣㆓磴道㆒披㆓灌叢㆒、相㆓其山谷之宜㆒、革㆗其坂險之故㆖、人始便㆑之、自㆔九齡鑿㆓新路㆒後、兩壁峭立、中途坦夷、上多植㆑梅、因又名爲㆓梅嶺㆒、云云、自㆓五代㆒後、驛路又復荒遠、室廬稀疏、而梅嶺之名亦虛、宋嘉祐八年、蔡挺詳㆓刑江西㆒、弟抗㆓漕廣東㆒、乃商㆓度工用陶土㆒爲㆑甓、各甃㆓其境㆒、北路廣八尺、長一百零九丈、南路廣一丈二尺、長三百一十有五丈、仍復夾㆑道種㆑松、以休㆓行旅㆒、遂成㆓車馬之途㆒、又立㆓關於嶺上㆒、植㆑柱揭名㆓梅關㆒、以分㆓江廣之兩界㆒。

〖大庾嶺之梅早落誰問㆓粉粧㆒〗2236 タイユレイノウメハハヤクオチヌタレカフンサウヲトハン　梅の名所の大庾嶺の梅花は已に散り果てたので、白粉で粧つたやうな花の風趣を訪ねて來る者がない。〔倭漢朗詠集、柳、大江維時、內宴停㆑盃看㆓柳色㆒序〕大庾嶺之梅早落、誰問㆓粉粧㆒、匡廬山之杏未㆑開、豈趁㆓紅艷㆒。

【大勇】2237 タイユウ　まことの勇氣。義理に奮ひ立つ勇氣。又、まことの勇者。〔孟子、公孫丑上〕昔者曾子謂㆓子襄㆒曰、子好㆑勇乎、吾嘗聞㆓大勇於夫子㆒矣。〔六韜、武韜、發啓〕大謀不㆑謀、大勇不㆑勇。〔淮南子、說林訓〕大勇不㆑鬭。

〖大勇若㆑怯〗2238 タイユウハケフナルガゴトシ　まことの勇者は容易に激せぬので、一見臆病に見える。〔蘇軾、賀㆓歐陽少師致仕㆒啓〕大勇若㆑怯、大智如㆑愚。

〖大勇不㆑忮〗2239 タイユウハソコナハズ　まことの勇者は猥りに勇氣を出して物を害せぬ。〔莊子、齊物論〕大廉不㆑嗛、大勇不㆑忮。

【大雄】2240 タイユウ　［佛］佛の尊稱。佛は大智・大力があつて、能く魔障を屈伏せしめるからいふ。〔法華經〕大雄猛世尊諸釋之法王。

【大熊】2241 タイユウ　大きなくま。〔晉書、苻健載記〕健母

羌氏、夢㆓大熊㆒而孕㆑之。

〖大熊座〗2242（オホクマザ）　星座の名。北極に近い大星座。中點の概略の位置は赤經十一時、赤緯北五十八度。北斗七星を含む。午後十二時頃、冬には北極星の右方に、夏には左方に在る。

〖大熊星〗2243（タイユウセイ）　大熊座中の星。主なものは北斗七星。

〖大熊秦川〗2244（オホクマシンセン）　備中の人。名は寅。字は子亮・伯虎。通稱は文叔。號は秦川・克齋・龜陰・膽庵。安政年中の人。大阪に下帷教授す。著に龜陰詩鈔・三魏文鈔・月瀨觀梅詩舫・浪華擷芳譜がある。〔大阪名家著述目錄〕

【大融】2245（タイユウ）　川の名。源は廣西省西延縣の界。一名、大溶江。南流して興安縣を經、靈川縣に至つて灕水と合す。

【大予】2246（タイヨ）　音樂の名。又、樂官の名。漢の大樂を後漢の明帝の時に大予と改稱した。〔廣雅、釋樂〕大護・大武・勺・大予。〔後漢書、明帝紀〕永平三年、改㆓大樂㆒爲㆓大予樂㆒。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕大予協㆑樂、上庠肆㆑敎。〔注〕善曰、東觀漢記、孝明詔曰、正大樂官、曰㆓大予樂官㆒。

【大與】2247（タイヨ）　官名。漢、置く。爵祿を掌る官。〔漢書、高惠高后文功臣表〕閼氏節侯馮解散、以代㆓大與㆒、漢王三年、降、爲㆓鴈門守㆒。〔注〕師古曰、大與、主㆓爵祿㆒之官。

【大餘】2248（タイヨ）　曆法上の用語。朔法・至法の二方法で日數をかぞへ、一年の總日數を六十で除し、六十未滿の數を大餘といひ、一日に足らぬ時間を小餘といふ。例へば、朔法では、平年三百五十四日九百四十分の三百四十八日を、六十で割つた殘りの五十四日を大餘といひ、九百四十分の三百四十八日が小餘である。至法では三百六十五日三十二分の八日であるから、五日が大餘で、三十二分の八日が小餘である。〔史記、曆書〕太初元年、歲名㆓焉逢攝提格㆒、月名㆓畢聚㆒、日得㆓甲子㆒、夜半朔旦冬至、正北十二、無㆓大餘㆒、無㆓小餘㆒。〔注〕正義曰、置㆓大餘五十四算㆒、每年加㆓五十四日㆒、滿㆓六十日㆒除㆑之、奇算留㆑之、每㆓至㆑閏後㆒、一年加㆓二十九算㆒、亦滿㆓六十日㆒除㆑之、奇算留㆑之、若纔足㆓六十日㆒、明年云㆘無㆓大餘㆒無㆗小餘㆖也、又明年以置㆓五十四算㆒、如㆓上法㆒置㆓小餘三百四十八算㆒、每年加㆓三百四十八分㆒、滿㆓九百四十分㆒、成㆓一日㆒、歸㆑上、餘算留㆑之、若㆓至㆑閏後㆒、一年加㆓八百四十七分㆒、亦滿㆓九百四十分㆒成㆑日、歸㆓大餘㆒、奇留㆑之、明年以加㆓三百四十八算㆒、如㆓上法㆒也。

【大輿】2249（タイヨ）　大きなこし。〔易、大壯〕壯㆓于大輿之輹㆒。〔易、說卦〕坤、爲㆑地、爲㆑母、爲㆑布、爲㆑釜、爲㆓吝嗇㆒、爲㆑均、爲㆓子母牛㆒、爲㆓大輿㆒。〔宋書、禮志五〕庖羲畫㆓八卦㆒而爲㆓大輿㆒、服㆑牛乘㆑馬、以利㆓天下㆒。

【大譽】2250（タイヨ）　大きな名譽。〔書、康誥〕乃別播敷、造㆓民大譽㆒。〔淮南子、氾論訓〕人有㆓厚德㆒、無㆑問㆓其小節㆒、而有㆓大譽㆒、無㆑疵㆓其小故㆒。

【大用】2251（タイヨウ）　㊀朝覲の時の賜はりもの。〔周禮、天官、內府〕掌㆘受㆓九賦九貢九功之貨賄、良兵良器㆒、以待㆗邦之大用㆖。〔注〕大用、朝覲之頒賜。㊁大いに任用する。大きく用ひる。〔史記、孔子世家〕康子使㆑召㆓冉求㆒。孔子曰、魯人召㆑求、非㆔小㆓用之㆒、將㆔大㆓用之㆒也。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕作㆓木牛流馬法㆒曰、木牛者、載多而行少、宜可㆓大用㆒、不㆑可㆓小使㆒。㊂大なる使ひみち。有用。莊子は無用の用の意に用ふ。〔莊子、人間世〕夫柤梨橘柚果蓏之屬、實熟則剝、剝則辱、大枝折、小枝泄、此以㆓其能㆒苦㆓其生㆒者也、故不㆑終㆓其天年㆒而中道夭、自掊㆓擊於世俗㆒者也、物莫㆑不㆑若㆑是、且予求㆑無㆑所㆑可㆑用久矣、幾死乃今得㆑之、爲㆓予大用㆒、使㆓予也而有㆑用、且得㆑有㆓此大㆒也邪、且也若與㆑予也、皆物也、奈何哉其相㆑物也、而幾死之散人、又惡知㆓散木㆒。〔注〕積㆓無用㆒乃爲㆓濟生之大用㆒。㊃（タイヨウ）大便。㊄字號。㋑唐、王駕（**7－20823**・・115）の字。㋺五代唐、盧文進（**8－23050**・・288）の字。㋩金、赤盞尉忻（**10－36993**・・121）の字。㋥金、王汝梅（**7－20823**・・1694）の字。㋭元、宮天授（**3－7156**・・258）の字。㋬元、申屠致遠（**7－21726**・・126）の字。㋣元、脫脫（**9－29539**・・102）の字。㋠元、馬亨（**12－44572**・・60）の字。㋷元、必才（**4－10299**・・13）の字。㋦元、別兒怯不花（**2－1924**・・246）の字。㋸明、蔣廷貴（**9－31820**・・198）の字。㋾明、楊砥（**6－15112**・・179）の字。㋻明、羅賢（**9－28397**・・92）の字。㋕明、梁材（**6－14825**・・91）の字。

【大埇】2252（オホソネ）　土佐國の地名。

【大容】2253（タイヨウ）　㊀上古の人。黃帝の樂師。太容。〔後漢書、張衡傳〕素撫㆑弦而餘音兮、大容吟曰念哉。〔注〕大容、黃帝樂師也。㊁山名。廣西省容縣の西北。〔讀史方輿紀要、廣西、梧州府、容縣〕大容山、縣西北二十五里、高五百餘丈、周圍一千餘里、以㆓其迴闊無㆑所㆑不㆑容、因名㆓大容㆒、北流興業諸縣、鬱林高潯諸州、分㆓據其麓㆒、以㆓此山㆒爲㆑望。㊂明、丁川（**1－2**・・123）の字。

【大庸】2254（タイヨウ）　縣名。民國、置く。漢の充縣、唐以後の慈利縣。淸の永定縣。湖南省慈利縣の西南。

【大膺】2255（タイヨウ）　大きな胸。〔史記、趙世家〕大膺大胷、修下而馮。

【大甕】2256（オホミカ）　磐城國の地名。

【大峪】2257（タイヨク）　川の名。陝西省郃陽縣の西。源は縣の西北の望鄉崖。西南流して澄城縣を經て洛水に入る。水が甚だ淸い。一に樸地河といひ、俗に薄底河・李家河といふ。

【大欲】2258（タイヨク）　大きな慾望。又、大いに欲する。大慾。〔禮、禮運〕飮食男女、人之大欲存焉。〔孟子、梁惠王上〕將㆕以求㆔吾所㆓大欲㆒也。〔陸機、豪士賦序〕大欲不㆑乏㆓於身㆒。

【大蜮】2259（タイヨク）　大きな害毒。蜮は害蟲の名。大害。〔漢書、東方朔傳〕國家之大賊、人主之大蜮也。

【大翼】2260（タイヨク）　大きなつばさ。〔莊子、逍遙遊〕風之積也不㆑厚、則其負㆓大翼㆒也無㆑力、故九萬里、則風斯在㆑下矣。

【大羅】2261（タイラ）　㊀天の名。大羅天。〔王建、同㆓于汝錫㆒遊㆓降聖觀㆒詩〕秦時桃樹滿山坡、騎鹿先生降㆓大羅㆒。〔雲笈七籤〕上一天名曰㆓大羅㆒、在㆓玄都玉京之上㆒。〔康溪詩話〕神仙多是大羅客、我比㆓大羅㆒超一格。㊁官名。大羅氏。〔楊諫、大蜡賦〕伊耆之禮必㆑易、大羅之職有㆑常。㊂山名。浙江省永嘉縣の東南。一名、泉山。〔永嘉記〕山北有㆓衆泉㆒、天旱此泉不㆑乾、故以名㆑山、山東有㆓瀑布數十丈㆒、頂有㆓大湖㆒、中有㆓孤巖獨立㆒。㊃複姓。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕大羅氏、周禮羅氏、掌㆑羅㆓鳥獸㆒。㊄攝津國の地名。〔倭名類聚抄〕。

〖大羅氏〗2262（タイラシ）　古の官名。鳥獸の事を掌る。周禮の羅氏。〔禮、郊特牲〕大羅氏、天子之掌㆓鳥獸㆒者也。〔疏〕天子掌㆓鳥獸㆒之官、謂㆓大羅㆒也、謂爲㆓大羅㆒者、鄭云、能以㆑羅捕㆓鳥獸㆒者也。

〖大羅地〗2263 ta^4 lo^2 ti^4　紙の名。福建省の上杭・長汀地方から廣東を經て賣買せられる上質の紙。

〖大羅天〗2264（タイラテン）　想像上の天界の一。單に天上の意にも用ひ、又、仙界の意にも用ひる。〔酉陽雜俎、玉格〕三界外曰㆓四人境㆒、云云、四人天外曰㆓三淸㆒、云云、三淸上曰㆓大羅㆒、又有㆓九天・波利等九名㆒。

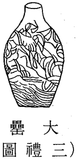
【大來】2264′（タイライ）　明、唐泰（普荷）（**2－3709**・・250）の㊁の字。

【大雷】2265（タイライ）　㊀大きな雷。〔尙書中候〕天震大雷有㆑火。㊁山名。江蘇省吳縣の西南の大湖の中。〔楊修、五湖賦〕大雷小雷、湍激相逐。〔周處、風土記〕太湖中有㆔大雷山與㆓小雷山㆒、相距六十里。㊂地名。晉、大雷戍を置き、陳、大雷郡を置く。今の安徽省望江縣の治。〔南史、陳武帝紀〕帝與㆓王僧辯㆒進次㆓大雷㆒。〔隋書、地理志下〕同安郡、統縣五、望江。〔注〕陳置㆓大雷郡㆒、開皇十一年、改曰㆓義鄉㆒、十八年、改㆑名焉。

〖大雷戍〗2266（タイライジュ）　地名。安徽省望江縣の治。晉の時、戍を置く。〔太平寰宇記〕新治縣、卽大雷戍、陳置㆓大雷郡㆒、隋改爲㆓望江㆒。

【大賚】2267（タイライ）　㊀大きなたまもの。又、大いに賜はる。大賜。大理。〔書、武成〕大賚㆓于四海㆒、而萬姓悅服。〔傅亮、爲㆓宋公㆒求㆔加㆓贈劉前軍㆒表〕大賚所㆑及。㊁縣名。民國、置く。遼の長春州の北境。明の時、科爾沁の據る所。後、分けて其の弟に與へ、札賚特旗とす。綽爾河の濱に在るから綽爾城ともいふ。淸、直隸廳とす。今、滿洲黑龍江省嫩江縣の東。〔淸史稿、地理志〕黑龍江、大賚直隸廳、光緒三十年、以㆓札賚特旗、莫勒紅岡子墾地㆒置。㊂（ドル）アメリカ貨幣の單位。打拉とも書く。Dollar の音譯。

【大罍】2268（タイライ）　瓦罍。罍はさかだる。〔周禮、春官、鬯人〕凡祭祀社壝用㆓大罍㆒。〔注〕大罍、瓦罍。〔王維、暮春太師云云



大罍
（三禮圖）

於㆓韋氏逍遙谷㆒讌集序〕樽以㆓大罍㆒、烹用㆓五鼎㆒。

【大老】2269 タイラウ ❶すぐれた老人。年老いた賢人。後世、齡・德・位の高い者をいふ。〔孟子、離婁上〕二老天下之大老也、而歸㆑之、是天下之父歸㆑之也。〔集注〕二老、伯夷・太公也、大老、言㆑非㆓常人之老者㆒。❷祖父をいふ。〔通俗編、稱謂、大老〕宋時、江州民、呼㆓其公㆒亦曰㆓大老㆒、見㆓侯鯖錄㆒。❸宋、呂沖之(**2**—**3386**‥240)の字。❹㋑豐臣時代、豐臣家の置いた最高の執政官。大年寄。〔豐臣秀吉譜、中〕天正十九年、以㆓大權現・前田利家・浮田秀家・毛利輝元、小早川隆景㆒、爲㆓天下大老㆒。㋺江戸幕府の職名。老中の上に位し、將軍を輔佐して政務を總攝したもの。〔藩翰譜、五、土井〕連署の事許され、云云、大老と稱せらる。

〖大老官〗2270 タイラウクヮン 尊大ぶつて人氣を得ようとする者をいふ。〔通俗編、稱謂、大老〕南史沈慶曇傳、吾處㆑世無㆓才能㆒、圖㆑作㆓大老子㆒耳、按、此與㆓孟子云大老㆒別、流俗謂、藉㆑勢張大、好㆓人趨承㆒、曰㆓大老官㆒、是也。

〖大老爺〗2271 ta^4 lao^3 yeh ❶清に於て、人民が州縣の長官に對する尊稱。〔紅樓夢、四回〕望大老爺拘拏凶犯。❷清に於て、四品五品の官員の尊稱。

【大牢】2272 タイラウ 天子が社稷を祭る時の供物で、牛羊豕の三牲の備はるものをいふ。轉じて、盛大な膳羞をいふ。太牢(**3**—**5834**‥509)を見よ。〔禮、王制〕天子社稷、皆大牢、諸侯社稷、皆少牢、大夫士宗廟之祭、有㆑田則祭、無㆑田則薦。〔禮、郊特牲〕郊特牲而社稷大牢。〔禮、玉藻〕日少牢、朔月大牢。〔左氏、桓、六〕以㆓大子生之禮㆒擧㆑之、接以㆓大牢㆒。〔注〕大牢、牛羊豕也。〔公羊、桓、八、冬曰㆑烝、注〕禮、天子諸侯卿大夫、牛羊豕凡三牲、曰㆓大牢㆒、天子元士、諸侯之卿大夫、羊豕凡二牲、曰㆓少牢㆒、諸侯之士、特豕。〔老子、二十〕衆人熙熙、如㆑享㆓大牢㆒、如㆓春登㆑臺。

【大郎】2273 タイラウ ❶天仙をいふ。〔顧非熊、妙女傳〕妙女呼㆓大郎㆒復唱、其聲轉厲。❷父が子をいふ辭。〔稱謂錄、父稱㆑子、大郎〕晉書、王導、子悅、附傳、導性儉節、帳下甘果爛敗、令㆑棄㆑之云、勿㆑使㆓大郎知㆒案、世說注云、大郎、王悅也。

【大朗】2274 タイラウ 村の名。❶廣東省治の北。番禺縣の地。又、大塱に作る。杧果を產す。粤漢鐵路の沿線。❷廣東省東莞縣の東南の青鶴灣水の下流。

【大勞】2275 タイラウ ❶大きなほねをり。國家の心配ごとをいふ。〔左氏、襄、九〕大勞未㆑艾、君子勞㆑心、小人勞㆑力、先王之制也。❷山名。山東省墨縣の東南。〔後漢書、逄萌傳〕琅邪勞山。〔注〕在㆓今萊州卽墨縣東南㆒、有㆓大勞少勞山㆒。

【大潦】2276 タイラウ 大みづ。洪水。又、水が氾濫する。〔史記、趙世家〕大潦、漳水出。〔管子、乘馬〕十仞見㆑水、不㆓大潦㆒、五尺見㆑水、不㆓大旱㆒。

【大洛】2277 タイラク 城の名。綏遠省清水河縣。〔魏書、太宗紀〕永興三年、尉古眞、統㆓兵五千㆒、鎭㆓西境大洛城㆒。

〖大洛稽〗2278 タイラクケイ 複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕大洛稽氏、改爲㆓稽氏㆒。

【大駱】2279 タイラク 上古の人。秦の祖先。〔史記、秦紀〕太几生㆓大駱㆒、大駱生㆓非子㆒。

【大亂】2280 タイラン 非常にみだれる。又、大きなみだれ。甚しい騷亂。〔孝經、五刑章〕此大亂之道也。〔國語、晉語二〕大喪大亂之剡也。〔墨子、非儒下〕是夫大亂之賊也。〔戰國、燕策〕彼大將擅㆓兵於外㆒、而內有㆓大亂㆒、則君臣相疑。〔呂覽、諭大〕天下大亂。〔史記、樂書〕老幼孤寡、不㆑得㆓其所㆒、此大亂之道也。〔孟子、滕文公下〕及㆓紂之身㆒、天下又大亂。

【大蘭】2281 タイラン ❶藥草の名。瞿麥(**8**—**23747**‥28)の異名。〔爾雅、釋草、大菊蘧麥、疏〕大菊、一名、蘧麥、藥草也、郭云、一名麥句薑、卽瞿麥、按、本草云、瞿麥、一名巨句麥、一名大菊、一名大蘭。❷山名。一名、大嵐山。浙江省餘姚縣の南。劉綱夫婦が此處で仙去したと傳ふ。其の南は四明山と接し、東には九曲・分水の諸嶺がある。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、餘姚縣〕大蘭山、縣南八十里、其南與㆓四明㆒相接、東有㆓九曲分水諸嶺㆒、唐咸通初、王式討㆓裘甫㆒、擒㆓之於剡縣㆒、餘黨逸入㆓大蘭山㆒、諸將追獲㆑之。

〖大蘭王〗2282 タイランワウ 猪(**7**—**20534**)の異名。〔袁淑、大蘭王九錫文〕大亥十年九月乙亥朔、十三日丁亥、北燕伯使㆔使者豪豨、冊㆓命大蘭王㆒曰、咨惟君稟㆓太陰之沉精㆒、標㆓羣形於玄質㆒、體肥腯而洪茂、長無心以遊逸、資㆓豢養於人主㆒、雖㆑無㆑爵而有㆑秩、此君之純也、君昔封㆓國殷商㆒、號曰㆓豕氏㆒、業隆㆓當時㆒、名垂㆓於世㆒、此君之美也、白蹢彰㆓於周詩㆒、涉波應㆓乎隆象㆒、歌詠出㆓于人口㆒、經㆓千載㆒而流㆑響、此君之德也、君相與野遊、唯君爲㆑雄、顧㆑羣數百、自㆑西徂㆑東、俯歕㆑沫則成㆑霧、仰奮㆑鬣則生㆑風、猛毒必噬、有㆑敵必攻、長驅直突、陳無㆓全鋒㆒、此君之勇也。

【大吏】2283 タイリ 高位の官吏。大官。〔史記、秦始皇紀〕大吏持㆑祿取㆑容。〔韓愈、平㆓淮西㆒碑〕凡玆廷臣、汝擇自從、惟其賢能、無㆑憚㆓大吏㆒。〔蘇洵、張益州畫像記〕朕一二大吏、孰爲㆔能處㆓玆文武之間㆒。〔資治通鑑、周紀〕赧王、四十九年、今自㆓有秩㆒以上、至㆓諸大吏㆒。〔注〕大吏、謂㆓左右中吏以上爲㆑吏者㆒也。

【大利】2284 タイリ ❶大きな利益。大儲。大得。〔禮、表記〕大言入則望㆓大利㆒、小言入則望㆓小利㆒。〔左氏、哀、十五〕多饗㆓大利㆒、猶思㆓不義㆒。〔穀梁、定、十三〕是大利也。〔國語、楚語下〕曜㆑之以㆓大利㆒。〔管子、法法〕毋㆑赦者、小害而大利者也。〔呂覽、權勳〕不㆑去㆓小利㆒、則大利不㆑得。〔漢書、杜業傳〕幾㆑獲㆓大利㆒。❷縣名。隋、置き、唐、廢す。故城は綏遠省清水河縣の境。〔隋書、高祖紀下〕開皇十九年、以㆓突厥利可汗㆒爲㆓啓人可汗㆒、築㆓大利城㆒處㆓其部落㆒。❸明の英宗時代の越(安南)の仁宗、黎濬(黎邦基)の年號である太和の一稱。(1443—1453)

〖大利稽〗2285 タイリケイ 複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕大利稽氏、官氏志、改爲㆓部氏㆒、周賜㆓蔡祐姓大利稽㆒。

〖大利不㆑利〗2286 タイリハリナラズ 大利は目前の小利を求めないから、一見利益でないやうに見える。〔六韜、武韜、發啓〕大勇不㆑勇、大利不㆑利。

【大李】2287 タイリ 唐の將軍、李思訓をいふ。李思訓が右武衞大將軍のとき、世間では大李將軍と呼んだ。李思訓(**6**—**14459**‥1314)を見よ。

〖大李將軍〗2288 タイリシヤウグン 唐の李思訓をいふ。

〖大李小李〗2289 ダイリセウリ 唐の畫家、李思訓父子をいふ。父の思訓を大季といひ、子の昭道を小季といふ。〔唐名畫錄〕季思訓、開元中除㆓衞將軍㆒、與㆓其子昭道㆒、俱得㆓山水之妙㆒、時稱㆓大季・小季㆒。〔圖繪寶鑑〕世稱㆓思訓㆒爲㆓大季將軍㆒、昭道爲㆓小季將軍㆒。

【大里】2290 ウフザト 琉球の地名。

【大理】2291 タイリ ❶大きな道理。〔莊子、秋水〕爾將㆑可㆔與語㆓大理㆒。〔荀子、解蔽〕闇㆓於大理㆒。〔管子、四時〕陰陽者、天地之大理也。〔潘岳、楊荊州誄〕惟此大理、國之大章。❷大いに治める。〔禮、禮器〕大理㆑物博。〔疏〕大理㆑物博者、言、王者大領㆓理萬物之事㆒、廣博如㆑此。❸大いに賜ふ。大賚(2267)の❶に同じ。〔史記、殷紀〕爾尙及㆓予一人㆒、致㆓天之罰㆒、予其大理㆑女。〔注〕集解曰、尙書曰、理字作㆑賚、鄭玄曰、賚、賜也。❹官名。刑獄を司る官。今の司法官。後世は大理寺の一衙門となる。大理寺(2295)を見よ。〔禮、月令、命㆑理瞻㆑傷、注〕理、治獄官也、有虞氏曰㆑士、夏曰㆓大理㆒、周曰㆓大司寇㆒。〔史記、五帝紀〕皋陶爲㆓大理㆒、平民各伏得㆓其實㆒。〔春秋元命苞〕堯爲㆓天子㆒、得㆓皋陶㆒、聘爲㆓大理㆒。〔呂覽、勿躬〕管子復㆓於桓公㆒曰、決獄折中、不㆑殺㆓不辜㆒、不㆑誣㆓無罪㆒、臣不㆑若㆓弦章㆒、請置以爲㆓大理㆒。〔注〕大理、治獄官。〔韓非子、外儲說左下〕桓公問㆓置㆑吏於管仲㆒、曰、辯㆓察於辭㆒、清㆓潔於貨㆒、習㆓人情㆒、夷吾不㆑如㆓弦商㆒、請立以爲㆓大理㆒。〔淮南子、主術訓〕皋陶瘖而爲㆓大理㆒。〔事物紀原、九寺卿少部、大理〕齊職儀曰、古官也、管子曰、黃帝得㆓后土㆒辨㆓於四方㆒、使㆑爲㆑李、春秋元命包曰、堯爲㆓天子㆒、得㆓皋陶㆒爲㆓大理㆒、舜時爲㆓士官㆒、韓詩外傳、有㆕晉文公使㆔李離爲㆓大理㆒、春秋左氏傳、衞侯與㆓元咺㆒訟、士榮爲㆓大理㆒、新序、楚平王以㆓伍奢㆒爲㆓大理㆒、則大理自㆑古有矣、秦爲㆓廷尉㆒、漢景帝中元中、更㆓名大理㆒、蓋漢復㆓古號㆒也、舊唐書志曰、取㆘天官貴人之牢曰㆓大理㆒之義㆖、卽周禮士師之職、孟詵錦帶前書載、三代法官之名、則曰㆑士、夏曰㆓大理㆒也。❺星の名。刑獄を主る。〔晉書、天文志上〕宮門左星內二星曰㆓大理㆒、主㆔平㆑刑斷㆑獄。❻國の名。今、雲南省の地。唐の天寶の後、南詔蒙氏がここに據つて大蒙國と號し、羊苴咩城、卽ち今の大理縣を治とし、後、大禮國と改號した。又、五代の晉の時、段思平が據つて大

理國と號し、宋の元祐の時、高氏が代つて立ち、大中國と號した。元符二年、段氏が復興し、後理國を建て、淳祐十二年、元の憲宗に滅ぼされた。〔讀史方輿紀要、雲南、一〕自二開元之季一、南詔漸強、天寶九載、遂有二雲南之地一、僭二國號一曰二大蒙一、貞元十年、改二國號一曰二南詔一、大中十三年、改稱二大禮一、光化四年、國亂改稱二大長和一、後唐天成三年、國號二大天興一、明年稱二大義寧一、石晉天福二年、屬二於大理一、宋初因レ之、自二熙寧八年一以後、段氏衰、元祐元年、高氏立、代號二大中國一、元符二年、段氏復興、號二後理國一、淳祐十二年、蒙古忽必烈滅二大理一。❼川の名。源は陝西省靖邊縣の東北。東流して横山縣を經て小理河に會し、又東、米脂縣を經て綏德縣に至り無定河に入る。卽ち古の平水。又、大力川ともいふ。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、綏德州、米脂縣〕大理水、縣西百里、又有二小理水一、俱流入二綏德州一、下流入二無定河一。❽府の名。明、置く。もと大理國の地。元の憲宗がこれを滅して大理路を置き、兼ねて軍民總管府と宣慰司都元帥府理とを置いた。明は改めて大理府とし、清、之に因り、趙・鄧川・賓川・雲龍の四州、太和・雲南・浪穹の三縣及び十二關長官司を管轄し、雲南省に屬す。〔讀史方輿紀要、雲南、大理府〕禹貢、梁州南境、漢武開二西南夷一、此爲二益州郡地一、後漢時屬二永昌郡一、蜀漢屬二雲南郡一、晉初因レ之、永嘉中、又分置二東河陽郡一、宋齊因レ之、梁末沒二於羣蠻一、唐武德七年、爲二羈縻南雲州地一、貞觀三年、改爲二匡州一、天寶以後、沒二於南詔一、石晉時、段氏代有二其地一、稱二大理國一、元憲宗三年、改附、六年立二上下二萬戶府一、至元七年、改置二大理路一、明朝洪武十七年、改爲二大理府一、〔清史稿、地理志〕雲南、大理府、領二州四、縣三、長官司一一、太和、趙州、雲南、鄧川州、浪穹、賓川州、雲龍州、十二關長官司。❾縣名。民國、置く。漢の葉楡縣。後漢の楪楡。南朝梁の末、蠻に入る。唐の開元中、南詔蒙氏これに據り、羊苴咩城を置く。五代石晉の後、段氏之に據る。元の憲宗は其の地を收め、理州を置く。尋いで改めて太和縣とす。明の時、雲南大理府治。今の雲南省賓川縣の西。縣西の點蒼山からは大理石が出る。❿檢非違使別當の尊稱。〔東鑑、八〕文治四年五月十七日、大理。

【大理院】 2292 ダイリヰン　官署の名。清の光緒三十二年、中央官制の大改革に伴ひ、刑部と法部とを改め、司法行政を管理させ、大理寺を改めて大理院とし、裁判事務を總べしめた。我が國の大審院に當る。長官を正卿、次官を少卿といひ、全院の事務を綜覽し、其の下に民刑二科を分設し、各科の長官を推丞（我が部長）といひ、刑科に推事（我が判事）十九人を置き、四庭に分ち、民科には推事九人を置き、二庭に分ち、每庭推事五人を以て裁判を行はせ、其の中の一人を裁判長とした。〔清史稿、職官志〕大理寺、乾隆十七年、改二左右寺正一爲二寺丞一、光緒二十四年、省入二刑部一、尋復レ故、三十二年、更レ寺爲レ院。

【大理花】 2293 ダイリクワ　草の名。大麗花・天竺牡丹・洋菊ともいふ。多年生草木。花期は夏秋の閒。

【大理卿】 2294 タイリケイ　官名。❶大理寺の長官。大理寺を見よ。❷檢非違使別當の唐名。〔職原抄〕檢非違使、別當一人、唐名、大理卿。

【大理寺】 2295 タイリジ　官署の名。刑獄を掌る役所。大理は古の刑獄の官、秦漢改めて廷尉とし、北齊復た大理と爲し、又、始めて寺稱を加へて大理寺（寺は官署の意）とす。隋に至り大理寺の制確立し、其の長を大理寺卿とし、略して大理卿といふ。唐は之を承く。隋唐は六部の制已に備はり、刑部を以て司法の專官としたが、大理寺は特別司法官廳として存立す。宋以後は左右に分れ、左寺は各地方の奏劾及び大罪の疑獄を掌り、右寺は在京百司の刑獄の審判を掌る。清に至るまで大體之に因つたが、清末改めて大理院と稱す、卽ち我が大審院に當る。大理の❹を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕廷尉、秦官、掌二刑辟一、有二正左右監一、秩皆千石、景帝中六年、更二名大理一、武帝建元四年、復爲二廷尉一、宣帝地節三年、初置二左右平一、秩皆六百石、哀帝元壽二年、復爲二大理一、王莽改曰二作士一。〔隋書、百官志中〕大理寺、掌三決二正刑獄一、正監評各一人。〔隋書、百官志中〕後齊制レ官多循二後魏一、云云、大理云云、是爲二九寺一、置二卿・少卿・丞一、各一人一。〔隋書、百官志下〕高祖既受レ命、改二周之六官一、其所レ制名、多依二前代之法一、云云、置二大理云云等寺一。〔唐書、百官志下〕大理寺卿一人。從三品、少卿二人、從五品下、掌二折獄詳刑一、凡罪抵二流死一、皆上二刑部一、覆二於中書門下一、繫者五日一慮。〔通典、職官、諸卿、大理卿〕今大理者、亦舜攝二帝位一、皋繇作レ士、正二五刑一、周秋官之任、秦爲二廷尉一、漢因レ之、掌二刑辟一、凡獄必質二之朝廷一、與レ衆共レ之之義也、兵獄同レ制、故曰二廷尉一、景帝中元六年、更二名大理一、武帝建元四年、復爲二廷尉一、哀帝元壽二年、復爲二大理一、後漢廷尉卿、凡郡國讞疑、皆處レ當以報、皆以二世家一爲レ之、而郭氏尤盛、建安中、復爲二大理一、魏黃初元年、改爲二廷尉一、歷代皆爲二廷尉一、梁國初、建曰二大理一、天監元年、復改爲二廷尉一、舊用二黃門一、後視二祕書監一、有二正監平三人一、元會廷尉三官、與二建康三官一、皆法冠玄衣朝服、以監二東西中華門一、手執二方木一、長三尺一寸、謂二之執方一、陳因レ之、後魏亦曰二廷尉一、北齊曰二大理寺一、置二卿少卿各一人一、後周有二刑部中大夫一、掌二五刑之法一、附二萬人之罪一、屬二大司寇一、亦其任也、隋初與二北齊一同、至二煬帝一、加二置少卿二人一、大唐龍朔二年、改二大理一爲二詳刑一、咸亨元年復レ舊、光宅元年、改爲二司刑一、神龍元年復レ舊、卿一人、掌下鞫レ獄定二刑名一、決中諸疑讞上、少卿二人、正二人、丞六人、主簿二人、司直六人、評事十二人。〔宋史、職官志五〕大理寺、云云、卿一人、小卿二人、云云、卿掌二折レ獄詳レ刑鞫レ讞之事一、凡職務分二左右一、天下奏劾、命官將校、及大辟囚以下、以レ疑請讞者、隸レ左斷刑、則司直評事詳斷、丞議レ之、正審レ之、若在レ京、百司事當二推治一、或特旨委勘、及係官之物、應二追究一者、隸レ右治レ獄、則丞專推鞫、蓋少卿分二領其事一、而卿總焉。〔明史、職官志二〕大理寺、卿一人、左右少卿各一人、左右二寺丞各一人、其屬司務廳司務二人、左右寺各寺正一人、寺副二人、評事四人、卿掌下審レ讞平二反刑獄一之政令上、少卿寺丞贊レ之、左右寺分二理京畿十三布政司刑名之事一。〔清會典、大理寺〕大理寺、卿、滿洲一人、漢一人、少卿、滿洲一人、漢一人、掌レ平二天下之刑名一、凡重辟、則率二其屬一而會勘、大政事下九卿議者則與焉、云云、左寺、寺丞、滿洲一人、漢軍一人、漢一人、評事、漢一人、右寺、寺丞、滿洲一人、漢軍一人、評事、漢一人、掌三分二覈內外之刑名一、凡重辟、在レ京者、左右寺各會三其刑司與二其道一而聽レ之、以質二成於卿少卿一。

【大理丞】 2296 ダイリジョウ　官名。❶大理寺の屬官。大理寺を見よ。❷少判事の唐名。〔職原抄〕刑部省、少判事一人、唐名、大理丞。

【大理正】 2297 ダイリセイ　官名。❶大理寺の屬官。大理寺を見よ。❷大判事の唐名。〔職原抄〕刑部省、大判事一人、唐名。大理正。

【大理石】 2298 ダイリセキ　雲南省大理府から出る石灰岩の一種。質は緻密で、純白を本來の色とし、裝飾石材に用ひる。〔五雜組、地部〕滇中大理石、白黑分明、大者七八尺、作二屛風一、價有下値二百餘金一者上、然大理之貴、亦以二其處遐荒一、至二中原一甚費レ力耳。

【大麗】 2299 ダイリ　大音に群音が附隨すること。麗は附。〔荀子、樂論〕聲樂之象、鼓大麗。〔集解〕先謙案、作レ大者、是鼓之爲レ物大、音亦大也、麗者、方言三、郭注、偶レ物爲レ麗。

【大瘤】 2300 タイリウ　大きなこぶ。〔列女傳、辯通、齊宿瘤女傳〕項有二大瘤一、故號曰二宿瘤一。

【大陸】 2301 タイリク　❶大きな陸地。〔爾雅、釋地〕高平曰レ陸、大陸曰レ阜。❷藪澤の名。河北省任縣の東北。鉅鹿・隆平二縣と界を接す。廣阿・鉅鹿・泰陸・大麓・沃川等ともいひ、俗に張家泊と稱す。古時、澤地甚だ廣く、寧晉泊と連なつてゐたが、後分れて二となり、寧晉を北泊とし、大陸を南泊とす。〔爾雅、釋地〕魯有二大野一、晉有二大陸一。〔注〕今鉅鹿北廣河澤、是也。〔書、禹貢〕恆衞既從、大陸既作。〔墨子、兼愛中〕東爲レ漏二大陸一。❸縣名。隋、廣阿を析ちて置き、尋いで象城縣を改めて大陸縣とし、もとの大陸縣と合す。河北省寧晉縣の東南。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、趙州、寧晉縣、癭陶城〕大陸城、在二縣東南十里一、隋開皇十六年、析二廣阿一置二大陸縣一、屬二趙州一、大業初、改二象城縣一爲二大陸一、而以二故大陸縣一幷入焉、卽此城也、今名魚臺村。❹複姓。〔萬姓統譜〕大陸、姜姓、齊太公之後食二邑陸鄉一、周號二大陸氏一。❺英語 continent の譯。ユーラシヤ・アフリカ・北ア

メリカ・南アメリカ・オーストラリヤの類の海水面に露れてゐる地表の廣大なもの。大洋（2225）の對。南極大陸を加へる場合もある。現在は地球表面積の約四分の一を占む。

〖大陸的〗2302 タイリクテキ　大陸に特有なこと。又、大陸の特性に似てゐるもの。

〖大陸氣候〗2303 タイリクキコウ　雨量が少なく、寒暑の差が甚しい氣候。大陸的氣候。

〖大陸山人〗2304 タイリクサンジン　淺田寛の號。淺田上山（**7**―**17697**‥130）を見よ。

〖大陸條例〗2305 タイリクデウレイ　一八〇六年、ナポレオン第一世が歐洲大陸の諸國に檄を飛ばして英國と通商することを嚴禁した條約。伯林條例。大陸封鎖令。Continental barier の譯。

【大僇】2306 タイリク　大戮に同じ。

【大戮】2307 タイリク　大きな刑罰。死刑に處し屍をさらす。又、大なる恥辱。大辟。大僇。大辱。〔左氏、宣、十二〕古者明王伐二不敬一、取二其鯨鯢一而封レ之、以爲二大戮一。〔國語、晉語七〕不レ堪二君訓一、而陷二於大戮一。〔荀子、王霸〕身死國亡、爲二天下大戮一。〔史記、鼂錯傳〕計畫始行、卒受二大戮一。

【大律】2308 タイリツ　❶大きなおきて。大法。大則。〔商子、戰法〕兵大律在二謹論レ敵察一レ衆。〔班固、典引〕汪汪乎丕天之大律。❷北周の時撰定せられた法令。二十五篇ある。〔隋書、刑法志〕周文帝之有二關中一也、以二河南趙肅一爲二廷尉卿一、撰二定法律一、肅積思累年、遂感二心疾一而死、乃命二司憲大夫託拔迪一掌レ之、至二保定三年三月庚子一乃就、謂二之大律一、凡二十五篇。

〖大律禪師〗2309 タイリツゼンジ　唐、玄素（**7**―**20814**‥221）の謚。

【大立】2310 タイリフ　清、高孝本（**12**―**45313**‥1076）の字。

〖大立者〗2311 オホダテモノ　一座の中で最も伎倆のすぐれた俳優。轉じて、其の社會での最も重んぜられる人物。

【大良】2312 タイリヤウ　❶大頭目。かしら。良は長、或は官名、又は人名といふ。〔左氏、桓、六〕六月大敗二戎師一、獲二其二帥大良少良甲首三百一、以獻二於齊一。〔會箋〕大良・小良、官名、秦有二大良造一、或云、人名也、猶二大連・小連一。❷堡の名。廣東省順德縣治。もと南海縣の地。明の正統十四年、黃蕭養が、東陽王と稱して亂を爲したので、景泰元年討平し、縣治を大良堡に置く。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府〕順德縣、府西南八十里、本南海縣南境、東涌・馬寧・西琳三都濱海地、景泰三年、始析二其地一置レ縣、治二大良堡一。

〖大良造〗2313 タイリヤウザウ　秦の第十六爵の名。太上造。大梁造。〔史記、商君傳〕孝公以二衞鞅一爲二左庶長一、卒定二變法之令一、行レ之十年、秦民大悅、於レ是以レ鞅爲二大良造一。〔注〕索隱曰、卽太上造、秦之第十六爵名也、今云二良造一者、或後變二其名一耳。

〖大良路〗2314 タロヂ　大和國の地名。

【大兩】2315 タイリヤウ　三兩をいふ。〔唐無名氏、權衡判〕三兩爲二一大兩一、未レ爽二於通規一、百黍以爲二一銖一、頗合二於古制一。〔日知錄、政事、大斗大兩〕唐六典、云云、二十四銖爲レ兩、三兩爲二大兩一、十六兩爲レ斤。

【大梁】2316 タイリヤウ　❶星次の名。十二次の一。〔爾雅、釋天〕大梁、昴也。〔禮、月令、季春之月、注〕季春者、日月會二於大梁一。〔漢書、王莽傳中〕天鳳七年、歲在二大梁一。❷大きなうつばり。〔陸機、擬古、擬二明月皎夜光一詩〕大梁不レ架レ楹。❸地名。㋑河南省開封縣。黃河の南。戰國の魏の都。〔史記、魏世家〕惠王三十一年、徙二治大梁一。〔史記、秦始皇紀〕始皇二十二年、王賁攻レ魏、引二河溝一灌二大梁一、大梁城壞、其王請レ降、盡取二其地一。㋺山西省天鎭縣の東北。❹河の名。滿洲遼寧省の太子河をいふ。太子河（**3**―**5834**‥189）の❶を見よ。❺ta^4 liang^2 乞食の親方が乞食を打つ棒。

〖大梁造〗2317 タイリヤウザウ　秦代の爵の名。〔戰國、東周策〕石行秦謂二大梁造一曰、欲レ決二霸王之名一、不レ如レ備二兩周辯智之士一。

【大涼】2318 タイリヤウ　山名。四川省境にあり、西康省大雪山脈の支脈。大涼山脈といふ。

【大量】2319 タイリヤウ　❶大きな度量。大きな器量。大度。〔晉書、車濟傳〕濟字萬度、果毅有二大量一。〔南史、齊高帝紀〕上少有二大量一、喜怒不レ形二于色一。❷大きなます。大きなはかり。〔漢書、貨殖、巴寡婦淸傳、黍千大斗、注〕師古曰、大斗者、異下於量二米粟一之斗上也、今俗猶レ有二大量一。❸大きな分量。多量。〔木華、海賦〕爾其大量也、則南澰二朱崖一、北灑二天墟一。❹明、黎擴（**12**―**47994**‥16）の字。❺ta^4 liang^4 酒量の大きいこと。大酒のみ。

〖大量生產〗2320 タイリヤウセイサン　大量に生產すること。短時間に大量の財貨を生產すること。

【大領】2321 タイリヤウ　❶大きなくび。大頸。〔詩、小雅、節南山〕駕二彼四牡一、四牡項領。〔傳〕項、大也。❷我が國、中古時代の郡の長官。所部を撫養し、郡の事を檢察す。〔職員令〕大郡、大領一人、掌下撫二養所部一、檢中察郡事上。

【大諒】2322 ta^4 liang^4 大抵。おほかた。

【大略】2323 タイリヤク　❶大きなはかりごと。遠大な智略。秀でた才略。人なみすぐれた智略。〔史記、酈生其傳〕沛公慢而易レ人、多二大略一。〔漢書、武帝紀贊〕如二武帝之雄材大略一、不レ改二文景之恭儉一、以濟二斯民一。〔後漢書、耿恭傳〕慷慨多二大略一。〔魏志、荀彧傳〕秉二至公一以服二雄傑一、大略也。❷あらまし。おほむね。概略。大體。大約。〔孟子、滕文公上〕此其大略也、若夫潤二澤之一、則在二君與レ子矣。〔莊子、大宗師〕我爲レ汝言二其大略一。〔荀子、大略〕大略君レ人者、隆レ禮尊レ賢而王。❸荀子の篇名。

【大隆】2324 タイリユウ　❶至高至善なること。〔荀子、禮論〕貴レ本之謂レ文、親レ用之謂レ理、兩者合而成レ文、以歸二太一一、夫是之謂二大隆一。〔猪飼敬所、補遺〕大隆、猶レ言二至善一也。❷隆は格の誤で、大格は、大いにたたかふことをいふ。〔呂覽、察徵〕吳楚以レ此大隆。〔注〕隆、當レ作レ格、格、鬭也。

【大呂】2325 タイリヨ　❶周の宗廟の大鐘の名。九鼎と共に周の寶器。轉じて、貴重の義。九鼎大呂。〔史記、平原君傳〕使三趙重二於九鼎大呂一。〔注〕正義曰、大呂、周廟大鐘。❷齊の鐘名。〔呂覽、侈樂〕齊之衰也、作爲二大呂一。〔戰國、燕策〕大呂陳二於元英一、故鼎反二乎曆室一。〔注〕大呂、齊鐘名。❸十二律の一。十二月に配するので又、十二月の異名とす。呂は拒で、陽氣の動き出でんとするのを陰が拒ぎ抑へる義。我が雅樂十二律の斷金に當る。〔周禮、春官、大司樂〕乃奏二黃鐘一、歌二大呂一、舞二雲門一、以祀二天神一。〔禮、月令〕季冬之月、律中二大呂一。〔注〕大呂者、蕤賓之所レ生也、三分益レ一、律長八寸二百四十三分寸之百四、季冬氣至、則大呂之律應。〔國語、周語下〕元閒大呂、助二宣物一也。〔注〕十二月曰二大呂一。〔呂覽、音律〕蕤賓生二大呂一。〔注〕大呂、十二月律。〔淮南子、天文訓〕律受二大呂一。〔通典、樂、十二律〕大呂、十二月之時、陽方生育之功、其道廣大、故謂二之大呂一、呂者、侶也、言三與レ陽爲レ侶、對二生萬物一、又、呂者、距也、言、陽氣欲レ出、陰氣不レ許、恐二出傷一レ己、故距レ之。❹明、錢茂律（**11**―**40563**‥436）の字。

【大旅】2326 タイリヨ　天帝のまつり。〔周禮、天官、掌次〕王大二旅上帝一、則張二氊案一設二皇邸一。〔注〕大二旅上帝一、祭二天於圓丘一、國有レ故而祭亦曰レ旅、此以レ旅見レ祀也。〔周禮、春官、眡瞭〕大喪廞二樂器一、大旅亦如レ之。〔禮、禮器〕大饗之禮、不レ足二以大旅一。〔注〕大旅、祭二五帝一也。

【大慮】2327 タイリヨ　❶遠大な思慮。〔荀子、榮辱〕彼固天下之大慮也。〔管子、大匡〕惕而有二大慮一。❷謀策。〔六韜、龍韜、陰書〕諸有二陰事大慮一。〔漢書、哀帝紀〕擧下明二兵法一有二大慮一者上。〔注〕師古曰、慮、謂二謀策思慮一。

【大淩】2328 タイリヨウ　川の名。滿洲遼寧省錦縣の東。源は熱河省淩源縣の尾蘇圖山。もと蒙古の科爾沁左翼の牧地。蒙古語は鄂木倫で、古の白狼河。東南流して朝陽縣義縣城の閒を經、東南流して海に入る。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、廣寧後屯衞〕大淩河、衞西北六十里、源出二廢大衞之松山一、流入レ境、東南流經二衞東一、又經二廣寧左右屯衞界一、下流入レ海。

【大陵】2329 タイリヨウ　❶大きな丘。〔爾雅、釋地〕高平曰レ陸、大陸曰レ阜、大阜曰レ陵、大陵曰レ阿。〔管子、七臣七主〕割二大陵一、倮二大衍一、伐二大木一、斬二大山一。❷大聲が細聲をしのぐ。〔國語、周語下〕細抑大陵、不レ容二於耳一、非レ龢也。〔注〕細、無射也、大、大林也、言、大聲陵レ之、細聲抑而不レ聞、不レ容二於耳一、耳不レ能二容別一也。❸地名。㋑河南省臨潁縣の北。春秋、鄭の地。巨陵亭ともいふ。〔左氏、莊、十四〕鄭厲公自レ櫟侵レ鄭、及二大陵一、獲二傅瑕一。〔注〕大陵、鄭地。〔水經、溳水注〕京相璠曰、臨潁縣東北有二故巨陵亭一、古大陵也。㋺山西省文水縣の東北。春秋、晉の平陵邑を趙は大陵、又は大陸

といひ、漢、ここに大陵縣を置く。㊃を見よ。〔史記、趙世家〕十六年、肅侯游二大陵一、出二於鹿門一。〔注〕集解曰、徐廣曰、太原有二大陵縣一、亦曰レ陸。〔史記、趙世家〕王遊二大陵一、他日、王夢見二處女鼓レ琴而歌一。㊃縣名。漢、置く。山西省文水縣の東北。㊂の㋺を見よ。〔漢書、地理志上〕太原郡、縣二十一、大陵。㊄城の名。㋑山西省文水縣の東北。漢の大陵縣城。㊃を見よ。〔史記、趙世家、肅侯游二大陵一、注〕正義曰、括地志云、大陵城、在二幷州文水縣北十三里一、漢大陵縣城。㋺滿洲遼寧省錦縣の東。明の宣德三年、中左千戶所を置く。總兵祖大壽が兵を率ゐて大凌河城を守り、屢〻清の太宗と戰ひ、遂に清に降つた所。今、大凌河店といひ、瀋（沈）山鐵路が通じてゐる。

【大綾】2330 タイリョウ　絖絹。ぬめぎぬ。〔宋史、輿服志五〕京官殿直以下、皆賜二紫大綾一。

【大龍】2331 タイリョウ　㊀大きな龍。〔戊辰雜鈔〕有二大龍一、蜺二於太湖之湄一、其鱗甲中出レ蟲、頃刻化爲二蜻蜓一、人取レ之者病レ瘧、今人見二蜻蜓朱色者一、謂二之龍孫一。㊁龍圖閣直學士をいふ。〔稱謂錄、內閣各官古稱、大龍〕方勺泊宅編、舊制、直龍圖閣謂二之假龍一、龍圖閣待制謂二之小龍一、龍圖閣直學士謂二之大龍一、龍圖閣學士謂二之老龍一。

【大力】2332 タイリョク タイリキ　㊀大きなちから。すぐれて強いちから。おほぢから。〔晉書、郭璞傳〕大力而遲鈍。〔南史、王擒傳〕所謂大力者、負レ之而趨。㊁造物者。〔李白、長歌行〕大力運二天地一、羲和無レ停レ鞭。㊂明、章世純（**8**－**25761**・・209）の字。

【大力子】2333 タイリョクシ　藥草の名。惡實（**4**－**10824**・・87）の異名。〔本草、惡實〕釋名、鼠黏・牛蒡・大力子・旁翁菜・便牽牛・蝙蝠刺、時珍曰、根葉皆可レ食、人呼爲二牛菜一、術人隱レ之呼爲二大力子一、俚人謂二之便牽牛一、河南人呼爲二夜叉頭一。

【大綠】2334 タイリョク　綠青。〔和漢三才圖會、雜石類、綠青〕大綠。

【大林】2335 タイリン　㊀鐘の名。林鐘をいふ。其の音律が林鐘にあたる。〔國語、周語下〕（景王）二十三年、王將下鑄二無射一、而爲中之大林上。〔注〕賈侍中云、無射、鐘名、律中二無射一也、大林、無射之覆也、作二無射一而爲二大林一以覆レ之、其律中二林鐘一也、或說云、鑄二無射一而以二林鐘之數一益レ之、昭謂、下言二細抑大陵一、又曰二聽レ聲越遠一、如レ此則賈言二無射有一レ覆、近レ之矣。㊁大きなはやし。〔六韜、虎韜、絕道〕吾軍過二大林廣澤平易之地一。㊂元、了性（**1**－**226**・・29）の號。

【大林奔】2336 タイリンホン　山名。廣東省惠州府の西南。〔讀史方輿紀要、惠州府、歸善縣〕大林奔山、在二府西南一、臘石社產二白堊一、攢峯疊獻、林木蔚薈、猺人耕二種其上一、有レ岩如二廈屋一、容二五六百人一、門至逼仄、一人持レ戟而守、千人攻レ之不レ能レ入。

【大倫】2337 タイリン　㊀大きな道理。大理。〔禮、學記〕此七者、教之大倫也。〔注〕倫、理也。〔疏〕言、前七等之事、是教學大理也。㊁人類が踏まねばならぬ大きな道すぢ。人倫の大道。五倫をいふ。〔論語、微子〕欲レ潔二其身一、而亂二大倫一、君子之仕也、行二其義一也。〔集注〕倫、序也、人之大倫有レ五、父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信、是也。〔孟子、公孫丑下〕內則父子、外則君臣、人之大倫也。〔史記、儒林傳〕婚姻者、居レ室之大倫也。〔孟子、萬章上〕男女居レ室、人之大倫也。㊂晉、刁彝（**2**－**1846**・・2）の字。

【大綸】2338 タイリン　明、袁經（**10**－**34152**・・50）の字。

【大臨】2339 タイリン　㊀大いに哭する。臨は哭。〔左氏、宣、十二〕國人大臨、守レ陴者皆哭。〔注〕臨、哭也。㊁八愷の一人。八愷（**2**－**1450**・・44）を見よ。㊂字號。㋑唐、溫彥博（**7**－**17968**・・263）の字。㋺明、姚臨（**3**－**6202**・・122）の字。㋩清、徐昂發（**4**－**10110**・・359）の字。

【大類】2340 オホルイ　姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【大令】2341 タイレイ　㊀大法令。〔國語、晉語八〕國有二大令一、何故犯レ之。㊁中書令をいふ。後、晉の王獻之の稱となる。〔晉書、王珉傳〕代二王獻之一爲レ長、兼二中書令一、二人素齊レ名、世謂二獻之一爲二大令一、珉爲二小令一。㊂知縣の別名。〔淸國行政法汎論、行政區劃及地方官廳、官職古名〕知縣、大令・明府・邑尊。㊃淸、謝靖孫（**10**－**35827**・・306）の字。

【大例】2342 タイレイ　㊀立派な權威ある規程。すぐれたおきて。〔晉書、刑法志〕人立二異議一、曲適二物情一、虧二傷大例一。〔晉書、劉頌傳〕此擧罪深淺之大例也。㊁しきたり。ならはし。〔五嶽眞形圖法序〕大例、祭餘肉以二別甕一盛二座左一、餘脯著レ柈盛二座右一。

【大戾】2343 タイレイ　大きい罪とが。甚しく道に乖いたこと。大きな災害。變亂。〔詩、小雅、節南山〕昊天不レ惠、降二此大戾一。〔箋〕戾、乖也。

【大荔】2344 タイレイ タイリ　㊀大きなおほにら。〔管子、地員〕纑土之次曰二五壏一、五壏之狀、芬焉若レ糠以肥、其種大荔・細荔、青莖黃秀。㊁古の戎國の名。秦の時、取つて臨晉と改む。陝西省大荔縣の治。〔後漢書、西羌傳〕洛川有二大荔之戎一。〔注〕大荔、古戎國、秦獲レ之、改曰二臨晉一。㊂縣名。晉、置く。秦、臨晉の地。陝西省朝邑縣の西。〔淸史稿、地理志〕陝西、同州府、縣八、大荔。

【大厲】2345 タイレイ　㊀大惡。〔詩、大雅、瞻卬〕孔塡不レ寧、降二此大厲一。〔傳〕厲、惡也。〔國語、齊語〕退問二其鄕一、以觀二其所レ能而無二大厲一、升以爲二上卿之贊一。〔注〕厲、惡也。㊁幽靈をいふ。〔左氏、成、十〕晉侯夢二大厲一、被レ髮及レ地、搏レ膺而踊。〔注〕厲、鬼也。

【大嶺】2346 ウフムミ　琉球の地名。

【大禮】2347 タイレイ　㊀すぐれた禮。〔禮、樂記〕大樂與二天地一同レ和、大禮與二天地一同レ節。㊁王の親ら行ふ天地人の鬼神を祭る禮。〔周禮、春官、大宗伯〕詔二大號一、治二其大禮一、詔二相王之大禮一。〔疏〕治二大禮一者、謂三天地人之鬼神祭禮、王親行レ之爲二大禮一。㊂朝廷の重大な禮式。卽位・立后などの儀式。〔後漢書、章帝紀〕今年大禮復擧、加以二先帝之坐一。㊃天子が諸侯を饗する禮。〔左氏、文、四〕君辱貺レ之、其敢干二大禮一以自取レ戾。㊄君臣間の大きな禮。〔六韜、文韜、大禮〕文王問二太公一曰、君臣之禮如何、太公曰、爲レ上唯臨、爲レ下唯沈、臨而無レ遠、沈而無レ隱、爲レ上唯周、爲レ下唯定、周則天也、定則地也、或天或地、大禮乃定。㊅大きな法則。大法。〔管子、中匡〕遠擧二賢人一、慈二愛百姓一、外存二亡國一、繼二絕世一、起二諸孤一、薄二稅斂一、輕二刑罰一、此爲レ國之大禮也。㊆君主のお召しをいふ。〔阮籍、詣二蔣公一奏記〕猥煩二大禮一、何以當レ之。〔注〕良曰、大禮、謂二辟命一。㊇生涯中の最も重要な禮式。冠・婚・喪・祭の類。〔花柳春話、附錄三〕婚媾は人の大禮。㊈六韜、文韜の篇名。㊉冠位十二階の第五位。推古天皇十一年の制定。

【大禮議】2348 タイレイノギ　明の世宗は藩侯の身で大統を繼いだので、卽位の後、生父興獻王を追尊する爲、禮官に命じて典禮を論議せしめたところ、禮官は、成例を固執して帝の意に從はず、三年の久しきに及んで決定する所がなかつたので、張璁・桂萼等の言を用ひて興獻王を尊んで皇考とした。茲に於て群臣が大いに憤り、闕下に哭して力諫したが帝は聞かず、群臣は騷いで去らず、遂に二百餘名が獄に下され、廷臣の意氣沮喪し、璁・萼等の勢が益〻張り、更に大禮を定め、孝宗を皇伯考、章聖皇太后を聖母として尊稱が遂に定まり、帝の意志が貫かれた事件をいふ。陔餘叢考、卷十四にも見ゆ。〔二十二史劄記、大禮之議〕孝宗崩、子武宗立、武宗崩、無レ子、而孝宗弟興獻王有レ子、倫序當レ立、大學士楊廷和以二遺詔一迎二立之一、是爲二世宗一、世宗卽位、詔議三追二崇所レ生、廷和檢二漢定陶王宋濮故事一、授二尙書毛澄一曰、是可レ爲レ據、澄大會二文武百官一議、請レ帝稱二孝宗一曰二皇考一、改二稱興獻王一爲二皇叔父興獻大王一、妃爲二皇叔母興獻王妃一、自稱二姪皇帝一、議三上三卻、進士張璁獨疏、謂宜三別立二聖考廟於京師一、聖母則母以レ子貴、尊與レ父同、帝大喜、於レ是連駁二禮官議一、廷臣不レ得レ已、請尊二孝宗一爲二皇考一、興獻王爲二本生皇考興獻帝一、興國太妃爲二本生皇太后一、已而桂萼疏上、謂宜下稱二孝宗一曰二皇伯考一、興獻帝爲二皇考一、別立二廟大內一、正二興國太后之禮一、定稱中聖母上、張璁又疏繼レ之、并謂宜レ去二本生之稱一、帝是レ之、而廷臣伏レ闕哭爭、帝大怒、杖謫者數十人、於レ是席書等議、孝宗、皇伯也、宜レ稱二皇伯考一、昭聖皇太后、伯母也、宜レ稱二皇伯母一、興獻帝、父也、宜レ稱二皇考一、章聖皇太后、母也、宜レ稱二聖母一、武宗仍帝二皇兄一、莊肅皇后宜レ稱二皇嫂一、乃詔二告天下一、尊稱遂定、今案、諸臣之疏、固各有レ說、謂レ宜レ考二孝宗一者、楊廷和・毛澄・汪俊、及滿朝諸臣也、廷和疏曰、禮謂二所レ後者一爲レ父、而以二所レ生者一爲二伯叔父母一、此古今不易之典也、

毛澄疏曰、漢成帝立二定陶王一爲二皇太子一、立二楚孝王孫景一爲二定陶王一、奉二共王後一、共王者、皇太子本生父也、師丹以爲二恩義備至一、宋濮安懿王之子、入二繼仁宗一、是爲二英宗一、司馬光謂、濮王宜三尊以二高官大爵一、稱二皇伯一而不レ名、乃立二濮王園廟一、以二宗樸一爲二濮國公一、奉二濮王祀一、程頤之言曰、爲二人後一者、謂レ所レ後爲二父母一、而謂レ所レ生爲二伯叔父母一、此人之大倫也、然所生之義至尊、宜下別立二殊稱一、曰中皇伯叔父某國大王上、則正統明、而所生亦尊矣、此考二孝宗一之說、援二引漢哀帝・宋英宗二案一爲レ據、擧朝宗レ之者也、張璁・桂萼等則謂、哀帝英宗由二成帝仁宗一、預立爲レ嗣、養二之宮中一、其爲二人後一之義甚明、今武宗無レ嗣、大臣以二陛下倫序當一レ立、而迎立レ之、與下預養在二宮中一者上不レ同、是陛下乃繼レ統、非二繼嗣一也、統與レ嗣、非二必父死子繼一也、漢文帝則以レ弟繼、宣帝則以二兄孫一繼、何必奪二此父子之情一、建二彼父子之號一也、已而璁萼又疏言、今日之禮、不レ在二皇與一レ不レ皇、惟在二孝與一レ不レ孝、而方獻夫・席書等亦宗二其說一、言爲二人後一者、父嘗立レ之爲レ子、子嘗事レ之爲レ父也、今孝宗本有二武宗一矣、未下嘗以二陛下一爲上レ子也、陛下於二孝宗一未二嘗爲一レ子也、且武宗君二天下一十六年、今不レ忍 孝宗之無一レ後、獨忍二武宗之無一レ後、陛下生二於孝宗崩後二年一、乃不レ繼二武宗之大統一、超越十有六年、上考二孝宗一、天倫大義、固已乖舛矣、此考二興獻帝一之說、璁・萼・獻夫・書等之所レ執也、究而論レ之、廷和等援二引漢哀宋英二案一、固本二先儒一成レ說、然世宗之立、與下漢哀宋英二君、預立爲二儲君一者上不レ同、第以二倫序當一レ立、奉二祖訓兄終弟及之文一、入二繼大統一、若謂二繼レ統必繼一レ嗣、則宜下稱二武宗一爲上レ父矣、以二武宗從兄一不レ可レ稱レ父、遂欲丁抹二煞武宗一代一、而使丙之考乙未二嘗爲一レ父之孝宗甲、其理本窒礙而不レ通、故璁論一出、楊一清卽謂二此論不一レ可レ易也、明史於二毛澄等列傳一、卽詳下其援二引古義一之疏上、張璁等傳、又詳下載繼統非二繼嗣一之疏上、使下閱者各見二其是一、自有中折衷上、而於二澄等傳贊一、謂下諸臣徒見二先儒成說可一レ據、而忘中乎世宗之與二漢哀宋英一不上レ同、爭レ之愈力、失レ之愈深、眞屬二平允至當之論一、可レ爲二萬世法一矣。

〔大禮堂〕2349 ta^4 li^3 t'ang^2 大講堂。大式場。

〔大禮服〕2350（タイレイフク） 朝拜・參賀・參拜等重大な公の儀式に著用する禮服。官等又は文武官によつて區別がある。

〔大禮必簡〕2351（タイレイハカナラズカンナリ） すぐれた禮は必ず簡素である。〔禮、樂記〕大樂必易、大禮必簡。

〔大禮不レ辭二小讓一〕2352（タイレイハセウジヤウヲジセズ） 重大な禮節を全うせんがためには、些細な禮讓は問題にしない。〔史記、項羽紀〕大行不レ顧二細謹一、大禮不レ辭二小讓一。

【大靈】2353（タイレイ） 淸、胡方(**9－29400**‥301)の字。

【大料】2354（タイレウ） ㊀大いにかぞへる。〔國語、周語上〕不レ謂二其少一而大料レ之、是示レ少而惡レ事也。〔注〕言、王不レ謂二其衆少一、而大料二數之一、是示以二寡少一、又厭二惡政事一、不レ能レ修之意也。㊁ta^4 liao^4 ㋑大抵。おほよそ。㋺菜を料理するに使ふ香料の名。八角茴香の實。

【大僚】2355（タイレウ） 位が高く任務の重い役人。大官。大吏。〔書、多方〕尙二爾事一、有三服在二大僚一。〔傳〕有下所二服行一在中大官上。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕世服二大僚一。

【大蓼】2356（タイレウ） 藥草の名。いぬたで。馬蓼。〔本草、馬蓼〕釋名、大蓼、墨記草、時珍曰、凡物大者皆以レ馬名レ之、俗呼二大蓼一、是也。

【大曆】2357（タイレキ） ㊀大略の數。大歷。〔管子、海王〕此其大曆也。〔注〕曆、數也。〔纂詁〕曆、俗字、古直作レ厤、至レ漢加レ止作レ歷。㊁年號。㋑唐の代宗、李豫の時。(966－979) ㋺宋代、儂智高の僭年號。〔歷代紀元編、上〕年次不明。

〔大曆體〕2358（タイレキタイ） 中唐の大曆十才子の詩風。大曆十才子を見よ。〔滄浪詩話〕大曆體、大曆十才子之詩。

〔大曆元寶〕2359（タイレキゲンパウ） 唐の代宗の鑄た貨幣。〔董逌錢譜、平錢〕大曆元寶、唐代宗鑄。

〔大曆十才子〕2360（タイレキノジフサイシ） 唐の代宗の大曆年間に名聲のあつた十人の詩人。盧綸・吉中孚・韓翃・錢起・司空曙・苗發・崔峒・耿湋・夏侯審・李端の倂稱。皆五言詩を善くするので交を結び、一時相唱和して名を都下に馳せた。其の詩風を大曆體といふ。〔舊唐書、李虞仲傳〕父端、登二進士第一、工レ詩、大曆中、與二韓翃・錢起・盧綸等一、文詠唱和、馳二名都下一、號二大曆十才子一。〔唐書、文藝、盧綸傳〕綸與二吉中孚・韓翃・錢起・司空曙・苗發・崔峒・耿湋・夏侯審・李端一、皆能レ詩齊レ名、號二大曆十才子一。

【大歷】2361（タイレキ） 大曆(2357)の㊀に同じ。

【大烈】2362（タイレツ） 大なる事業。大業。烈は、事業、又、德があり功のあること。〔書、立政〕以覲二文王之耿光一、以揚二武王之大烈一。〔集傳〕大烈、業也。

【大獵】2363（タイレフ） ㊀大いに狩をする。又、大規模の狩獵。〔漢書、元帝紀〕永光五年冬、幸二長楊宮射熊館一、布二車騎一大獵。㊁獲物の多いこと。收穫の多いこと。

【大連】2364（タイレン／ダイレン） ㊀港市の名。遼寧省金縣の南、大連灣の西南岸。もと青泥窪と呼ぶ一村落に過ぎなかつたが、日淸戰役後、露國が租借してダルニー(極東の意)と命名して都市を建設し、東洋經營の根據地とした。日露戰役後、我が國の租借地となり、大連と改名、第二次世界大戰後、中國に還付。今、空・海・陸の交通の要衝。㊁灣の名。遼寧省金縣の南、旅順口の東北、金州半島(遼東半島)の東南に當る。灣內が廣く(東西・南北、各〻約八海里)、水深が深く、且、沿岸は出入が多くて更に數多の小灣を形成し、船舶の碇泊に適する。又、裏長山・外長山・海洋・光祿の諸島が其の東に錯峙し、大三山島が灣口を擁して、天然の勝景をなす。㊂古の人の名。〔禮、雜記下〕少連・大連、善居レ喪、三日不レ怠、三月不レ解、期悲哀、三年憂、東夷之子也。㊃晉、劉隗(**2－2224**‥205)の字。㊄（オホムラジ） 上代の職名。大臣（オホオミ）と並んで後世の大臣のやうに朝政に參與し、多くは連（ムラジ）及び臣（オミ）の姓の家から之に任ぜられた。〔日本書紀、雄略紀〕以二大伴連室屋・物部連目一爲二大連一。

【大廉】2365（タイレン） ㊀此の上もなく廉潔なこと。大廉不レ嗛(2367)を見よ。㊁山名。廣東省合浦縣の東北。博白縣の蟠鱗山と連なる。合浦の太守となつて廉名のあつた後漢の費貽が任地を去る時、人民が名殘を惜しんで此の山まで送つて來たのでかくいふ。〔元和志〕唐廉州、取二大廉洞一爲レ名。〔輿地紀勝〕大廉縣有二大廉洞一。〔廉州府志〕東漢時、費貽爲二合浦太守一、有二廉名一、去之日、百姓追送至レ此、遂以名レ山。

〔大廉憲〕2366（タイレンケン） 按察使(**5－12038**‥26)の㊀をいふ。〔稱謂錄、按察使、大廉憲〕官制備攷、按察使・廉使、正三品、稱二大廉憲・大憲台一。

〔大廉不レ嗛〕2367（タイレンハケンナラズ） 努めて廉潔にならうとする人は、常に自ら檢束して、意にみたない所があるが、此の上もなくすぐれて廉潔な人は意にみたない所がない。嗛は、慊で、不足の義。〔莊子、齊物論〕大仁不レ仁、大廉不レ嗛。

【大練】2368（タイレン） あつぎぬで作つた衣。〔後漢書、循吏傳序〕身衣二大練一、色無二重綵一。〔資治通鑑、漢紀〕(明帝、永平三年)常衣二大練一、裙不レ加レ緣。〔注〕賢曰、大練、大帛也、杜預注二左傳一曰、大帛、厚繒也。

〔大練忌〕2369（タイレンキ） 死後、四十九日の忌をいふ。休薪忌・脫光忌ともいふ。大斂忌。〔尺素往來〕凡三十五日謂二之小練忌一、四十九日謂二之大練忌一。

【大輦】2370（タイレン） 天子の乘る手ぐるま。〔事物紀原、輿駕羽衞部、大輦〕宋朝會要曰、周官巾車氏、有二輦車一、以レ人組挽レ之、宮中從容所レ乘、建隆四年、南郊陶穀爲二禮儀使一、創レ意造二爲大輦一也。

【大斂】2371（タイレン） 小斂の翌日(死後三日目)に行ふ、死者を棺に納める儀式。〔周禮、春官、小宗伯〕涖二大斂・小斂一、帥二異族一而佐。〔儀禮、既夕禮〕大二斂于阼一。〔禮、喪大記〕小二斂於戶內一、大二斂於阼一、君以二簟席一、大夫以二蒲席一、士以二葦席一。

【大戀】2372（タイレン） 大いにこひ慕ふこと。〔陸機、弔二魏武帝一文〕嗟大戀之所レ存、故雖レ哲而不レ忘。

【大臠】2373（タイレン） 切り肉の大塊。〔禮、少儀、聶而切之爲レ膾、疏〕謂二先牒一爲二大臠一、而後細二切之一爲レ膾也。〔晉書、梁王彤傳〕彤謂二參軍王銓一曰、我從兄爲二尙書令一、不レ能レ啖二大臠一。〔徐陵、謝賚レ麕啓〕頻蒙二大臠一、更異二梁王一。

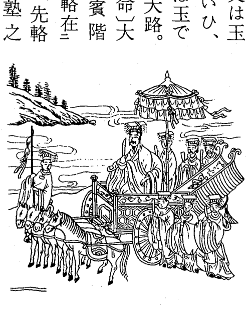
【大鹵】2374（タイロ） ㊀廣い土地。〔春秋說題辭〕高平曰二大原一、廣延曰二大鹵一。㊁古の地名。太原のこと。〔春秋、昭、元〕晉荀吳帥レ師、敗二狄于大鹵一。〔杜注〕大鹵、大原、晉陽縣也。〔公羊、昭、元〕晉荀吳帥レ師、敗二狄于大原一、此大鹵也。〔穀梁、昭、元〕傳曰、中國曰二大原一、夷狄曰二大鹵一。

【大路】2375 タイロ ❶大きな道。大道に同じ。〔詩、鄭風、遵大路〕遵二大路一兮、摻二執子之袪一兮。〔孟子、告子下〕夫道若二大路一然。〔宋玉、登徒子好色賦〕遵二大路一兮攬二子袪一。❷天を祭る時に天子の乘る車。又、諸侯の乘る車。大輅（2379）に同じ。〔禮、月令〕乘二大路一、駕二黃駵一。〔注〕大路、殷路也。〔禮、禮器〕大路・繁纓一就。〔疏〕大路、殷祭レ天之車也、殷猶質以レ木爲レ車、無二別雕飾一、乘以祭レ天、謂二之大路一也。〔左氏、桓、二〕是以淸廟茅屋、大路越席。〔注〕大路、玉路、祀レ天車也。〔疏〕諸侯之車、亦稱爲レ路、路之最大者、巾車・五路・玉路爲レ大、故杜以二玉路一爲二大路一。〔公羊、昭、二十五〕設二兩觀一乘二大路一。〔注〕禮、天子大路、諸侯路車、大夫大車、士飾車。〔國語、齊語〕遂下拜、升受レ命、賞服、大路・龍旂・九旒・渠門・赤旂、諸侯稱レ順焉。〔注〕唐尙書云、大路、玉路、非也、賈侍中云、大路、諸侯朝服之車。〔荀子、正論〕乘二大路一、越席以養レ安。〔漢書、郊祀志下〕大路所レ歷、黎元不レ知。〔注〕師古曰、大路、天子祭レ天所レ乘之車也。〔淮南子、齊俗訓〕大路龍旂。〔注〕大路、天子車也。

【大路貨】2376 ta^{4} lu^{4} huo^{4} 賣口のよい商品。

【大路口】2377 ta^{4} lu^{4} kʻou^{3} 四通八達の場所。

【大路頭】2378 ta^{4} lu^{4} tʻou 大街道。〔還魂記、寇間〕大路頭影兒沒一個、小路頭尋去。


大　輅　（三才圖會）

【大輅】2379 タイロ 天子の乘る車。後世は諸侯も使ふ。金輅、又は玉輅ともいひ、金、又は玉で飾る。大路。〔書、顧命〕大輅在二賓階面一、綴輅在二阼階面一、先輅在二左塾之前一、次輅在二右塾之前一。〔蔡傳〕大輅、玉輅也。〔禮、樂記〕大輅者、天子之車也。〔疏〕大輅、謂二金輅一也。〔史記、晉世家〕大輅・彤弓・矢百。〔班固、東都賦〕乃動二大輅一。

【大輅之服】2380 タイロノフク 大輅に乘る時の服裝。驚冕の服。又、服は乘者の衣服の外、車馬の諸飾をも含むといふ。〔左氏、僖、二十八〕策二命晉侯一爲二侯伯一、賜二之大輅之服、戎輅之服一。〔注〕大輅、金輅、戎輅、戎車也、二輅各有レ服也。〔疏〕大輅之服、當レ謂二驚冕之服一、戎輅之服、當レ謂二韋弁服一也。〔會箋〕蓋車馬之諸飾、鉤樊纓大旆之類、及乘者衣服、悉具以賜、故曰二大輅之服一。

【大輅椎輪】2381 タイロノツヰリン 椎輪は古の車で、竹木の材のままで飾が無い。後に發達して大輅となる。凡て物の始となるものを指して大輅椎輪といふ。〔梁昭明太子、文選序〕若夫椎輪爲二大輅之始一、大輅寧有二椎輪之質一。〔注〕向曰、椎輪、古棧車、大輅、玉輅。

【大櫓】2382 タイロ ❶車上のおほひ。〔六韜、虎韜、軍用〕武翼大櫓矛戟、扶胥七十二具。❷フトロ 北海道後志國の地名。

【大螻】2383 タイロウ 大きなけら。土蟲。〔呂覽、名類〕黃帝之時、天先見二大螾・大螻一。

【大隴】2384 タイロウ 山名。甘肅省秦安縣の東北。隴山の一部。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、秦州、秦安縣〕大隴山、在二縣東六十里一、卽隴坻之險也。

【大鹿】2385 タイロク ❶大きな鹿。おほしか。〔晉書、戴洋傳〕尋有二大鹿一向二西城門一、洋曰、野獸向レ城、主人將レ去。❷山のふもとの廣大な林。鹿は麓。大麓の❶に同じ。〔尙書大傳、虞夏傳〕招樂興二於大鹿之野一、及作二大唐之歌一。〔魏受禪碑〕書陳レ納二於大鹿一。❸島の名。滿洲遼寧省莊河縣の東、黃海の北岸大孤山港の外。日淸戰爭に、日本軍が北洋艦隊を破つた處。❹オホカ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【大祿】2386 タイロク ❶多くの祿高。厚祿をいふ。高祿。〔禮、表記〕故君子不下以二小言一受中大祿上。〔國語、魯語上〕無二大功一而欲二大祿一。❷西域、烏孫國の官名。漢の尙書に當る。〔漢書、西域傳上〕烏孫國、相大祿、左右大將二人、侯三人、大將・都尉各一人、大監二人、大吏一人、舍中、大吏二人、騎君一人。

【大錄】2387 タイロク 統べ治める。總錄。統錄。大麓の❷に同じ。〔書、舜典、納二于大麓一烈風雷雨弗レ迷、傳〕麓、錄也、納レ舜使三大二錄萬機之政一。〔孔叢子、論書〕堯既得レ舜、歷二試諸難一、已而納二之於尊顯之官一、使三大二錄萬幾之政一。〔漢書、于定國傳〕上報曰、君相二朕躬一、不二敢怠息一、萬方之事、大二錄于君一。〔注〕師古曰、大錄、總錄也。〔北史、蘇綽傳〕大誥曰、百揆庶度、公惟大錄。

【大麓】2388 タイロク ❶山のふもとの廣大な林。舜が疾風雷雨に遭つた野。又、堯が舜に位を禪つた場所。〔書、舜典〕納二于大麓一、烈風雷雨弗レ迷。〔釋文〕麓、音鹿、馬鄭云、山足也。〔蔡傳〕麓、山足也、烈、迅、迷、錯也、史記曰、堯使三舜入二山林川澤一、暴風雷雨、舜行不レ迷、蘇氏曰、洪水爲レ害、堯使下舜入二山林一相中視原隰上、雷雨大至、衆懼失レ常、而舜不レ迷、其度量有二絕レ人者一、而天地鬼神、亦或有二以相一レ之歟。〔淮南子、泰族訓〕既入二大麓一、烈風雷雨而不レ迷。〔注〕堯使三舜入二林麓之中一、遭二大風雨一不レ迷也。〔風俗通、山澤〕謹按、尙書、堯禪レ舜、納二于大麓一、麓、林屬二於山一者也。〔論衡、亂龍〕舜以二聖德一入二大麓之野一、虎狼不レ犯、蟲蛇不レ害。〔水經、濁漳水注〕衡水、又北、逕二鉅鹿縣故城東一、應劭曰、鹿者、林之大者也、尙書曰、堯將レ禪レ舜、納二之大麓之野一、烈風雷雨不レ迷、致レ之以二昭華之玉一、而縣取レ目焉。〔太平御覽、皇親部、太子〕尙書大傳曰、堯推二尊舜一而尙レ之、屬二諸侯一致二天下於大麓之野一。〔路史發揮、五〕虞夏傳曰、堯推二尊舜一、屬二諸侯一、致二天下於大麓之野一。〔注〕山足曰レ麓。❷大いに統べ治める。又、天子の事をすべ治める官。漢の尙書に類す。〔書、舜典〕納二于大麓一。〔傳〕麓、錄也、納レ舜使三大二錄萬機之政一、陰陽和、風雨時、各以二其節一、不レ有二迷錯愆伏一、明三舜之德合二於天一。〔疏〕麓、聲近レ錄、故爲レ錄也、皋陶謨云、一日二日萬幾、言、天下之事、事之微者有レ萬、喩二其多無數一也、納レ舜使三大二錄萬機之政一、還是納二於百揆一、揆二度百事一、大二錄萬機一、揔是一事、不レ爲レ異也、但此言三德合二于天一、故以二大錄一言耳、論語稱、孔子曰、迅雷風烈必變、書傳稱、越常之使久矣、天之無二烈風淫雨一、則烈風是猛疾之風、非二善風一也、經言、烈風雷雨弗レ迷、言下舜居二大錄一之時、陰陽和、風雨時、無二此猛烈之風一、又雷雨各以二其節一、不上有二迷錯愆伏一也。〔漢書、王莽傳上〕秉二冢宰職一、塡二安國家一、四海輻湊、靡レ不レ得レ所、書曰、納二于大麓一、烈風雷雨不レ迷、公之謂矣。〔漢書、王莽傳中〕予前在二大麓一、至二於攝假一。〔注〕師古曰、大麓者、謂下爲二大司馬宰衡一時上。〔孔叢子、論書〕宰我問、書云、納二于大麓一、烈風雷雨弗レ迷、何謂也、孔子曰、此言三人事之應二乎天一也、堯既得レ舜、歷二試諸難一、已而納二之於尊顯之官一、使三大二錄萬幾之政一、是故陰陽淸和、五星來備、烈風雷雨、各以二其應一、不レ有二迷錯愆伏一、明三舜之行合二於天一也。〔後漢書、竇憲傳〕班固作レ銘曰、納二于大麓一、惟淸緝熙。〔注〕麓、錄也、納レ之使三大二錄萬機一也。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕覽二總大麓一、經二營天物一。〔注〕麓、錄也、言三大二錄萬機之政一。〔後漢書、百官志一、太尉・公一人、注〕新論曰、昔堯試二於大麓一者、領二錄天子事一、如二今尙書官一矣。〔晉書、職官志〕尙書有二錄名一、猶二唐虞大麓之職一也。❸攝政の異稱。攝籙（**5－13010**‥75）に同じ。〔和漢三才圖會、官位〕攝政、大麓。❹字號。㋑松浦鴻の號。松浦大麓（**6－14516**－388）を見よ。㋺萩原萬世の號。萩原大麓（**9－31333**‥9）を見よ。

【大論】2389 タイロン ❶高大で立派な議論。〔申鑒、雜言下〕不レ聞二大論一、則志不レ弘、不レ聽二至言一、則心不レ固。〔魏志、管輅傳、注〕於レ是唱二大論之端一。❷大いに議論すること。〔韓愈、進學解〕荀卿守レ正、大論是弘。〔歐陽脩、鎭陽讀書詩〕大論斥二佛老一、高聲誦二唐虞一。❸鹽鐵論の篇名。

【大和】2390 タイワ タイクワ ❶最良のもの。〔周禮、考工記、弓人〕大和無レ灂、其次、筋角皆有レ灂而深、其次、有レ灂而疏、其次、角無レ灂。〔注〕大和、尤良者也。❷大いに調和する。又、すぐれた調和。〔易、乾〕各正二性命一、保二合大和一、乃利貞。〔左氏、襄、十三〕晉國之民、是以大和、諸侯遂睦。〔莊子、齊物論〕飄風則大和。〔淮南子、覽冥訓〕通二于大和一者。❸樂府、近代曲辭の名。〔樂府詩集、近代曲辭、大和〕樂苑曰、大和、羽調曲也。〔薛逢、大和〕國門卿相舊山莊、聖主移來宴綠芳、簾外輾爲車馬路、花間踏出舞人場。❹五代十國の一、吳（淮南）の睿帝、楊溥の年號、太和の一稱。（929－934）❺元、鄭文融（**11－39647**‥551）の字。❻ヤマト ㋑五畿內の一。もと倭と書いたが、和はこれに通ずる字であるので、元明天皇の御代、地名は二字を用ひることと定められた時、大の字を冠して美稱とし、訓

は元のままとした。又、大倭に作る。〔和漢三才圖會、日本大和、大和〕大和、本作二山跡字一、而帝都始二于當國一、故本朝總名稱二大和一、蓋和與レ倭通、故用二大倭字一、又略爲二倭國一、後王城遷二于諸國一、至二天智天皇之朝一、改名二大日本國一、停レ稱二和國一。㋺帝都が大和に始まつたので、轉じて、日本國の稱。やまとのくに。㊅の㋑を見よ。㊆（オホヤマト）姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十四〕。

〖大和錦〗2391（ヤマトニシキ）　我國で製した錦。唐織の錦を唐錦といふに對す。倭錦。

〖大和繪〗2392（ヤマトヱ）　倭繪。㊀我が國の山川・風物などを畫いた繪。〔古今著聞集、十一〕上に唐繪を書き、下にやまと繪を書きたり。㊁漢畫に對して、藤原・鎌倉時代に於ける土佐派などの繪畫の稱。〔住吉物語〕紙屛風にやまとゑかきたる。㊂浮世繪の別稱。

〖大和魂〗2393（ヤマトダマシヒ）　日本人が固有する大精神。忠君愛國・尙武・廉潔・義俠を根幹とする。大和心。日本魂。

〖大和詞〗2394（ヤマトコトバ）　㊀漢語などの影響を受けない、日本固有の言葉。〔謠曲、岩船〕姿は唐人なるが、聲は大和詞なり。㊁和歌。〔源氏物語、東屋〕やまとことばだに、つきなく習ひにければ。

〖大和尙〗2395（ダイヲシヤウ）　㊀高德の僧。〔魏書、釋老志〕石勒時、有二天竺沙門浮圖澄一、云云、號爲二大和尙一。㊁僧位の名。法印大和尙のこと。淸和天皇の貞觀六年、法橋上人位・法眼和尙位・法印大和尙位の三階を置く。〔類聚三代格〕。㊂身體の長大な僧。

〖大和綴〗2396（ヤマトトヂ）　書物・帳簿等の綴方の一種。紙を中央から折り、其の折目に孔を穿ち、絲を貫いて綴ぢる綴方。又、このやうに綴ぢたもの。胡蝶綴・粘葉の總稱。〔調度口傳、書物之事、綴樣〕大和綴と云ふは、紙を二つに折りたる折目の方をとぢる。

〖大和舞〗2397（ヤマトマヒ）　風俗舞の一つ。上代の大和地方の風俗舞に起り、中世以降、朝廷の樂として用ひられる。倭舞。

〖大和言葉〗2398（ヤマトコトバ）　和歌。やまとうた。やまとことのは。大和詞の㊁に同じ。

〖大和俗訓〗2398′（ヤマトゾククン）　書名。八卷。貝原益軒が修身禮儀作法について書いた通俗的教訓書。

〖大和卓木〗2399（タイワタクボク）　淸、博羅尼都(**2－2761**··225)の一名。

〖大和撫子〗2400（ヤマトナデシコ）　㊀なでしこの雅名。〔古今和歌集、戀、四〕垣ほに咲けるやまとなでしこ。㊁日本女子の美稱。

〖大和物語〗2401（ヤマトモノガタリ）　書名。二卷。撰者未詳。和歌を主とした說話。

〖大和民族〗2402（ヤマトミンゾク）　古來、我が萬世一系の天皇の統治下に日本國を組織して來た民族。又、特に我が皇室と同血族の民族の稱。

〖大和沖夷先生〗2403（タイワチユウイセンセイ）　宋、羅晏(**9－28397**··2)の號。

【大倭】2404（タイワ）　おほやまと。日本國の古名。〔後漢書、東夷、倭傳〕世世傳レ統、其大倭王居二邪馬臺國一。

【大話】2405 ta^4 hua^4　大言。法螺話し。

【大王】2406（タイワウ　ダイワウ）　㊀偉大な王者。〔墨子、貴義〕子墨子、南游二於楚一、見二楚獻惠王一、獻惠王以レ老辭、使三穆賀見二子墨子一、子墨子說二穆賀一、穆賀大悅、謂二子墨子一曰、子之言則誠善矣、而君王天下之大王也、毋下乃曰二賤人之所レ爲而不上レ用乎。㊁君主の敬稱。〔戰國、趙策〕今大王垂拱而兩有レ之、是臣之所下以爲二大王一願上也。〔漢書、樊噲傳〕大王今日至聽二小人之言一。〔漢書、高帝紀下〕大王陛下。〔宋玉、風賦〕大王之雄風。㊂周の古公亶父をいふ。太王。〔中庸〕武王纘二大王・王季・文王之緒一、云云、周公成二文武之德一、追二王大王・王季一。〔孟子、梁惠王下〕大王事二獯鬻一、句踐事レ吳。㊃晉の書家、王羲之をいふ。王獻之を小王といふ對。〔張懷瓘、書估〕遂以二王羲之一爲二標準一、如二大王草書・眞字一、直一百、五字乃敵二一行一、云云、如二小王書所レ貴。㊄峯の名。福建省崇安縣の武夷山に在り、形が紗帽に似てゐるので、紗帽峯ともいふ。〔讀史方輿紀要、福建、名山〕武夷山、在二建寧府崇安縣南三十里一、云云、其山綿亙一百二十里、有二三十六峯三十七巖一、一溪繚二繞其間一、分爲二九曲一、云云、第一曲爲二大王峯一、在二山東南一、一名天柱峯、亦曰二仙蛻巖一、方圓十里、高五千丈、一面向レ東瞰二北溪一、一面向レ南瞰二西溪一。

〖大王父〗2407（タイワウフ）　㊀曾祖父をいふ。〔文苑英華、裴光庭碑〕大王父定、大父仁基。㊁祖父をいふ。〔韓愈、監察御史元君妻京兆韋氏夫人墓誌銘〕其大王父沼。

〖大王風〗2408（タイワウノフウ）　獨り大王だけが持つすぐれた德風。大王の風格。大王之雄風に同じ。

〖大王爺爺〗2409 ta^4 wang^2 yeh^2 yeh　龍神を祭つた大王廟のこと。〔桃花扇、逢舟〕人行好事、大王爺爺自然加護的。

〖大王之雄風〗2410（タイワウノユウフウ）　大王の爲に吹く快適な風。轉じて、大王の德風、又は風格。庶人之雌風(**4－9373**··56)に對す。〔宋玉、風賦〕故其風中レ人狀、直憯悽惏慄、淸涼增レ欷、淸淸泠泠、愈レ病析レ酲、發二明耳目一、寧レ體便レ人、此所謂大王之雄風也。

【大橫】2411（ダイワウ）　卜兆の名。龜の文が正しく橫になつたこと。〔漢書、文帝紀〕代王報二太后一、計猶豫未レ定、卜レ之、兆得二大橫一、占曰、大橫庚庚、余爲二天王一、夏啓以光。〔注〕應劭曰、龜曰レ兆、筮曰レ卦、卜以レ荆灼レ龜、文正橫也。

【大惑】2412（タイワク）　大きなまどひ。甚しいまよひ。〔莊子、天地〕知二其惑一者非二大惑一也。〔呂覽、重己〕此之謂二大惑一。〔晉書、羊祜傳〕人臣樹レ私則背レ公、是大惑也。

〖大惑星〗2413（ダイワクセイ）　㊀太陽系の中で地球より質量の大きな惑星。木星・土星・天王星・海王星など。㊁小惑星に對する語。水星以下の九惑星。大遊星(2423)を見よ。

〖大惑者終身不レ解〗2414（オホイニマドフモノハシユウシントケズ）　甚しく惑つてゐる凡人は一生涯眞理の在る所を悟ることができない。〔莊子、天地〕大惑者終身不レ解、大愚者終身不レ靈、三人行而一人惑、所レ適者猶可レ致也、惑者少也、二人惑則勞而不レ至、惑者勝也、而今也以二天下一惑、予雖レ有二祈嚮一、不レ可レ得也。

【大宛】2415（タイワン）　島の名。臺灣(**9－30161**··120)に同じ。〔和漢三才圖會、異國人物〕大宛、臺灣、塔曷沙古、和用二高砂字一。

【大灣】2416（タイワン）　㊀灘の名。福建省古田縣の南、水口鎭の北。㊁（ウフワン）琉球の地名。

〖大灣墟〗2417（タイワンキヨ）　地名。㊀廣東省南海縣の西北江の東岸。㊁廣東省英德縣の西北、波羅水と連州江と會合する處。㊂廣東省鬱南縣の東南、南江の左岸、羅定縣の界。㊃廣西省桂平縣の西南、鬱江の南岸、貴縣の界。㊄廣西省來賓縣の東北、柳江の西、象縣の界。

【大畑】2418（オホコバ）　肥後國の地名。

【大阿哥】2419（タイアカ）　淸朝で皇帝の長子をいふ。〔淸會典事例、宗人府、封爵、追封〕道光三十年諭、朕長兄大阿哥早年薨逝、皇考深爲二悼惻一、蒙恩追二封多羅貝勒一。

【大阿福】2420（タイアフク）　㊀陝西省郿縣の南の、太白山の頂にある鐵製の神牌。〔名山記〕太白山、鍾二西方金宿之秀一、關中諸山、莫レ高二於此一、上有二鐵鑄山神牌三一、曰二大阿福・二阿福・三阿福一。㊁ta^4 a^1 fu^2　江蘇省無錫に產する女の泥人形。胖女孩。

【大襖兒】2421 ta^4 ao^3 êrh　上衣。袍子。

【大姶良】2422（オホアヒラ）　大隅國の地名。

【大遊星】2423（ダイイウセイ）　遊星中、水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星の九星。

【大諲譔】2424（タイインセン）　渤海國第十五代の哀王。契丹の天顯元年、契丹の太祖阿保機に攻められて首都忽汗城が陷つたため降を乞ひ、渤海國は十五代二百二十餘年で滅びた。〔遼史、二〕。

【大英庚】2425 ta^4 ying^1 kêng^1　英國製の靴底の皮。

【大衞斯】2426（ダーヴヰス）　海峽の名。グリーランドとバフインランド島との間にあり、英人ダーヴヰスが發見した。Davis の音譯。

【大窰溝】2427（タイエウコウ）　地名。もとの滿洲遼寧省錦西縣。石炭を產し、京奉鐵路の女兒河驛から輕便鐵道が通じてゐる。

【大謁者】2428（ダイエツシヤ）　謁者の長官。謁者は賓客を接待することを掌る。〔史記、荆燕世家〕田生如二長安一、不レ見レ澤而假二大宅一、令二其子求レ事二呂后所レ幸大謁者張子卿一。

【大價錢】2429 ta^4 chia^4 ch'ien^2　高い値。

【大伽藍】2430（ダイガラン）　佛大きな構への寺院。〔太平記、二、南都比嶺行幸事〕興福寺、云云、藤氏尊崇の大伽藍。

【大岡寺】2431（オホカジ）　但馬國の地名。

【大康乂】2432（ダイカウガイ）　遼、渤海の人。開泰の間、南府

宰相となり、後、出でて黃龍府の長官となる。〔遼史、八十八〕。

【大監部】2433 ダイカンブ　漕運を司る長官。〔稱謂錄、漕務官、大監部〕隨書、郭衍傳、衍爲ニ開漕渠大監部一、率ニ水工一鑿レ渠、引ニ渭水一、經ニ大興城北一、東至ニ潼關一、漕運四百里、關中賴レ之。

【大企業】2434 ダイキゲフ　大規模の經營で行ふ事業。

【大九歸】2435 ta^{4} chiu^{3} kuei^{1}　一一から九九までの二桁除算の掛聲。

【大九九】2436 ta^{4} chiu^{2} chiu^{3}　かけ算の九九。

【大九州】2437 ダイキウシウ　宇宙の全土をいふ。戰國時代の騶衍の説に、大宇宙は、中國に似た大陸九つから成り、其の各州を裨海が環り、又其の外を大瀛海が環つてゐるといふ。〔史記、孟子荀卿傳〕以爲下儒者所謂中國者、於ニ天下一乃八十一分居ニ其一分一耳上、中國名曰ニ赤縣神州一、赤縣神州內、自有ニ九州一、禹之序ニ九州一、是也、不レ得レ爲ニ州數一、中國外如ニ赤縣神州一者九、乃所謂九州也、於レ是有ニ裨海一環レ之、人民禽獸莫ニ能相通者一、如ニ一區中一者、乃爲ニ一州一、如レ此者九、乃有ニ大瀛海一環ニ其外一、天地際焉。〔淮南子、墬形訓〕何謂ニ九州一、東南神州曰ニ農土一、正南次州曰ニ沃土一、西南戎州曰ニ滔土一、正西弇州曰ニ幷土一、正中冀州曰ニ中土一、西北台州曰ニ肥土一、正北濟州曰ニ成土一、東北薄州曰ニ隱土一、正東陽州曰ニ申土一。〔林則徐、塞外雜詠詩〕裨海還成大九州、平生欲下策ニ六鼇一游上。

【大鋸筋】2440 ダイキヨキン　肩上の筋肉。

【大茴香】2442 ダイクワイカウ　香草名。茴香の一種。八角茴香。〔本草、蘹香〕集解、時珍曰、茴香、宿根、深冬生レ苗作レ叢、肥莖絲葉、五六月開レ花、如ニ蛇牀花一而色黃、結レ子大如ニ麥粒一、輕而有ニ細稜一、俗呼爲ニ大茴香一。

【大晦日】2443 オホミソカ　オホツゴモリ　十二月の晦日をいふ。除日。〔狂言記、連歌毘沙門〕今日ははや大つごもりとなつてござる。

【大懷眞】2444 ダイクワイシン　金、遼陽の人。字は子正。官は彰國安武軍節度使。〔金史、九十二〕。

【大外甥】2445 ta^{4} wai^{4} shêng^{1}　姉妹の長男。

【大廣間】2446 オホヒロマ　❶非常に廣いへや。〔播州佐用軍記、上〕城中、云云、大廣間へ出でられける。❷德川時代、國主・外樣大名の列席した江戸城內の廣間。

【大外記】2447 ダイゲキ　古昔の官名。太政官の屬。內記の詔書案文を勘へ正し、太政官の奏文を作り、又、儀式を取計ふことを掌る。唐名は外史・門下錄事。おほいとのしるすつかさ。〔續日本紀、三十七〕延曆二年五月丁亥、太政官奏偁、外記之官、職務繁多、詔敕格令自レ此而出、至ニ於官品一、合ニ昇進一、其大外記二人、元正七位上官、今爲ニ正六位上官一。〔職原抄〕太政官、外記、大二人、少三人、唐名、外史・門下錄事。

【大袈裟】2448 オホゲサ　❶大きいけさ。〔伊勢大輔集〕おほげさ縫はせしに。❷さほどでもない事を大きくいふこと。大形。針小棒大。❸肩から斜に切りおろすこと。

【大景致】2449 ダイケイチ　すぐれた景色。〔紅樓夢、十七回〕再請レ題、偺大景致、若干亭榭。

【大閨女】2450 ta^{4} kuei^{1} nü^{3}　年頃のむすめ。處女。大妞兒。

【大夾棍】2451 ダイケフコン　大きなはさみ棒。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕令下該班選ニ大夾棍一伺候上。

【大見武】2452 ウフンチヤキ　琉球の地名。

【大兼久】2453 ウホガネク　琉球の地名。

【大兼レ小】2454 ダイハセウヲカヌ　形の大きなものは小さなものの代用をもする。〔春秋繁露、度制〕夫已有ニ大者一又兼ニ小者一。

【大監物】2455 ダイケンモツ　官名。中務省の被官の一。出納を監察し、官鑰・鈴・印・使符・飛驛の函などの事を掌る。唐名は城門郎、又、文主監。〔職員令、中務省〕大監物二人、掌下監ニ察出納一、請中進管鑰上。

【大玄錫】2456 ダイゲンシヤク　渤海國第十三代の王。宣王仁秀の孫。虔晃の弟。〔舊唐書、一百九十九〕・〔唐書、二百十九〕。

【大言義】2457 ダイゲンギ　渤海國第八代の王。諡號は僖王。康王嵩璘の次子。定王元瑜の弟。年號は朱雀。〔唐書、二百十九〕。

【大個子】2458 ta^{4} kê^{4} tzŭ　大きな體。肥滿した人。

【大鈷子】2459 ta^{4} ku^{1} tzŭ　鐵鍋。

【大公鼎】2460 ダイコウテイ　遼、渤海の人。咸雍の進士。良鄉令となり、天祚中、中京留守に拜す。〔遼史、一百五〕。

【大後兒】2461 ta^{4} hou^{4} êrh　明明後日。

【大後天】2462 ta^{4} hou^{4} t'ien^{1}　しあさつて。明明後日。大後兒。

【大後年】2463 ta^{4} hou^{4} nien^{2}　明明後年。

【大昆彌】2464 ダイコンビ　烏孫で君主をいふ。〔漢書、西域傳下〕烏孫國、大昆彌治ニ赤谷城一。

【大鹺侯】2465 ダイサコウ　官名。鹽運使(**12**−**47579**‥193)の異稱。又、運同をもいふ。〔稱謂錄、鹽務官、大鹺侯〕歷代官職攷、運使、一名都運、亦稱ニ大鹺侯一、運同・運判・運副稱ニ鹺貳一、亦稱ニ大佐一、李日華官制備攷、鹽運使從三品、運同從四品、並稱ニ大鹺侯一。

【大座船】2466 ta^{4} tsuo^{4} ch'uan^{2}　おほふね。

【大早計】2467 ダイサウケイ　はやまり過ぎること。はや合點。はやのみこみ。太早計。〔莊子、齊物論〕汝亦大早計、見レ卵而求ニ時夜一、見レ彈而求ニ鴞炙一。

【大四相】2468 ダイシサウ　佛此の身が此の世に存する生相と、此の身が此の世に住する住相と、幼から老に至るに從つて容貌の變つてゆく異相と、命が盡きて死ぬ滅相との四つの相。〔俱舍論、五〕頌曰、相、謂諸有爲生住異滅性、論曰、由ニ此四種是有爲相一、法若有レ此應ニ是有爲一、與レ此相違是無爲法、此於ニ諸法一能起名レ生、能安名レ住、能衰爲レ異、能壞爲レ滅。

【大柹子】2469 ta^{4} shih^{4} tzŭ　おほがき。北京にある柹の一種。

【大紫冠】2470 タイシクワン　冠位十三階の第五位。孝德天皇大化三年の制定。

【大自覺】2471 ダイジカク　自分の行爲或は經驗を、自我の働き自我の狀態であると反省判斷する意識狀態をいふ。自覺(**9**−**30095**‥87)の❶を見よ。

【大自在】2472 ダイジザイ　❶佛㋑廣大の神通力を有し、何事をもなし得ることをいふ。〔法華經、弟子授記品〕諸佛有ニ大自在神通之力一。㋺大自在天の略。大自在天を見よ。❷少しの束縛、又は障碍をも受けない眞の自由。

〖大自在天〗2473 ダイジザイテン　佛自在天外道の主神。色界の頂にあつて三千界の主と稱せられる。其の像は八臂、三目を有し、白拂を執つて白牛に乘る。〔智度論、二〕摩醯首羅天、秦言ニ大自在一、八臂三眼、騎ニ白牛一。

【大繡冠】2474 タイシウクワン　冠位十三階の第三位。孝德天皇大化三年の制度。

【大執事】2475 ta^{4} chih^{2} shih^{4}　走會の人が持つ旗。走會(**10**−**37034**‥15)を見よ。

【大佘太】2476 タイシヤタイ　縣名。民國、置く。綏遠省に屬す。

〖大佘太村〗2477 タイシヤタイソン　地名。綏遠省五原縣の東、常河套の北。淸の光緒二十九年、五原廳治を置き、後、興盛旺に移す。東北に小佘太村がある。

【大沙門】2478 ダイシヤモン　佛佛の尊號。〔涅槃經、十八〕佛世尊、常不ニ變易一、具足十力四無所畏、大師子吼、名ニ大沙門大婆羅門一。

【大樟溪】2479 タイシヤウケイ　川の名。上源を滻溪といひ、福建省德化縣北の戴雲山から出で、南流して縣治の南を經、永泰縣を經て大樟溪となる。三十五灘の險峻がある。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、永福縣〕大樟溪、縣東五里、源出ニ德化縣一、流入レ境、又東入ニ侯官縣界一、爲ニ澤苗江一。

【大借款】2480 ダイシヤククワン　大正二年、中國が日英獨佛露の五國銀行團から二千五百萬ポンドを借入れたことで、善後借款ともいふ。

【大聚解】2481 タイシユウカイ　逸周書の篇名。

【大循環】2482 ダイジユンクワン　血液が全身を環流すること。體循環ともいふ。

【大庶長】2483 タイシヨチヨウ　秦漢の爵位の名。下から第十八番目の爵。〔史記、衞將軍驃騎傳〕校尉自爲ニ爵大庶長一。〔漢書、百官公卿表上〕爵一級曰ニ公士一、云云、十八大庶長、十九關內侯、二十徹侯、皆秦制、以賞ニ功勞一。

【大丞相】2484 ダイジヨウシヤウ　大宰相の意。偉い大臣。大は尊稱。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕惟大丞相衞國公則不レ然。

【大織冠】2485 タイシヨククワン　孝德天皇大化三年に定められた冠位十三階の第一位。後の正一位に當る。藤原鎌足が此の冠を賜はつたことから、鎌足の異稱ともなる。冠位(**2**−**1580**‥2)を見よ。〔日本

書紀、天智紀〕八年十月庚申、天皇遣二東宮大皇弟於藤原内大臣家一、授三大織冠與二大臣位一。

【大辛螺】2486ダイシンラ　貝の名。あき。赤螺の類。〔和名類聚抄、龜貝部、龜貝類、大辛螺〕阿岐。

【大津繪】2487オホツヱ　㊀粗く走りがきした戲畫。近江國大津から賣り出した。初は佛畫が多かつたといふ。又、大津の住人浮世又平などが書き初めたともいふ。〔芭蕉句〕大津繪の筆の初めは何佛。㊁清元また長唄に合せて演ずる踊の一種。

【大垂手】2488ダイスイシュ　樂府雜曲の歌辭。舞つて其の手を垂らすからいふ。〔樂府詩集、雜曲歌辭、大垂手〕樂府解題曰、大垂手・小垂手、皆言三舞而垂二其手一也、隋江總、婦病行曰、夫壻府中趨、誰能大垂手、是也、又獨垂手與レ此同。〔吳均、大垂手〕垂手忽迢迢、飛燕掌中嬌。〔聶夷中、大垂手〕金刀翦二輕雲一、盤用二黃金縷一。

【大嵩所】2489タイスウショ　地名。浙江省鄞縣の東南。元、巡司を置く。海鹽を產し、清、鹽課大使を設く。

【大晟詞】2490タイセイシ　宋の曲名。宋の熙寧中、大晟府、卽ち雅樂寮を造つて詞人・音律家を選任し、每日作らせた新曲の名。

【大鷦鷯】2491オホサザキ　鳥の名。みそさざい。〔日本書紀〕。

【大寂子】2492タイセキシ　清、彭賓(**4**－**10003**··107)の號。

【大舌頭】2493　ta^4 shê^2 t'ou　舌が長くて發音に不便な。舌がまはらぬ。

【大渲口】2494タイセンコウ　地名。江蘇省無錫縣の西南。大湖に出る要道で、稅務分局がある。

【大銓衡】2495ダイセンカウ　吏部尙書の異稱。〔稱謂錄、吏部、大銓衡〕叩鉢齋集、吏部尙書、稱二大銓衡一。

【大單于】2496ダイゼンウ　匈奴の君長の尊號。單于(**2**－**3993**··18)を見よ。〔史記、匈奴傳上〕天所レ立匈奴大單于敬問、皇帝無レ恙。

【大祚榮】2497ダイソエイ　唐、渤海の酋長。もと粟末靺鞨の高麗に附き、高麗が滅びると、殘衆を率ゐて遁れ去る。武后の時、李楷固に命じて討たせたが、却つて祚榮に敗られた。祚榮は遂に衆を率ゐて、東のかた桂婁の故地を保有し、自立して震國王と爲る。中宗が立ち、張行岌を遣して招慰したので、祚榮は子を遣して入侍せしめ、冊拜せられて渤海郡王となる。開元中、卒し、高王と私諡す。〔舊唐書、一百九十九〕・〔唐書、二百十九〕。

【大租權】2498タイソケン　臺灣にあつた地權の一。開墾權者が有する權利。大租は其の納稅、小租は永代小作人の納稅。

【大沱石】2499タイタセキ　石床の名。湖北省巴東縣の西北、大江の濱。〔名勝志〕大沱石、在二舊縣下一、歐陽文忠公硯譜云、東大沱石頗發レ墨。

【大太刀】2500オホダチ　㊀大きい刀。〔日本書紀、武烈紀〕おほだちを誰れ佩きたちて。㊁背に負ひ、又は肩に擔げて軍陣に携へる長い刀。〔嘉吉物語〕六尺餘りの大だち。

【大袋鼠】2501　ta^4 tai^4 shu^3　獸の名。カンガルー。

【大桃戍】2502タイタウジュ　地名。陝西省略陽縣の東。宋の元嘉十一年、蕭承之が楊難當を討つた時、其の黨趙溫等の據つた處。

【大托山】2503タイタクサン　島の名。廣東省中山縣の西南海中。清、雍正中、砲臺を築く。

【大多數】2503′ダイタスウ　㊀かずが非常に多いこと。㊁或る數の過半以上全部に近い數。

【大多和】2503″オホト　㊀姓氏。〔字林拾葉〕。㊁オホリウ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【大答理】2504　ta^4 ta^2 li^3　あしらふ。かまふ。氣を配る。〔紅樓夢、二十五回〕只見彩霞淡淡的不大答理。

【大擔嶼】2505ダイタンショ　島の名。福建省同安縣の東南。小擔嶼と連なる。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、同安縣、浯州嶼〕縣東南大海中、陸行至レ縣九十里、水行五十里、云云、又有二大擔嶼・小擔嶼一、周圍皆數里。

【大團圓】2506ダイダンエン　終局。大尾。最後の場面。團圓(**3**－**4834**··5)の㊁に同じ。

【大丈夫】2507ダイヂャウフ　㊀意志のしつかりした立派な男兒。ますらを。丈夫は一人前の男子をいふ。大は稱美の辭。〔孟子、滕文公下〕景春曰、公孫衍・張儀、豈不二誠大丈夫一哉、一怒而諸侯懼、安居而天下熄、孟子曰、云云、富貴不レ能レ淫、貧賤不レ能レ移、威武不レ能レ屈、此之謂二大丈夫一。〔老子、三十八〕是以大丈夫處二其厚一、不レ處二其薄一。〔史記、高祖紀〕嗟乎大丈夫當レ如レ此也。〔後漢書、袁紹傳〕大丈夫當二前鬬死一、而反逃二垣墻閒一邪。㊁ダイヂャウブ　あぶなげがない。確實。堅固。又、殊に壯健なこと。

【大丈夫處レ世當三掃二除天下一】2508ダイヂャウフヨニヲルマサニテンカヲサウヂョスベシ　大丈夫たる者は此の世に處るからには、當然天下の亂をはらひのぞいて太平にすべきである。後漢の陳蕃の故事。〔後漢書、陳蕃傳〕陳蕃、字仲擧、汝南平輿人、年十五、嘗閑二處一室一、而庭宇蕪穢、父友薛勤來候レ之、謂レ蕃曰、孺子何不三洒掃以待二賓客一、蕃曰、大丈夫處レ世、當三掃二除天下一、安事二一室一乎、勤知三其有二清世志一、甚奇レ之。

【大丈夫當二雄飛一安能雌伏】2509ダイヂャウフマサニユウヒスベシイヅクンゾヨクシフクセン　大丈夫たる者は當然大いに活動すべきで、決して埋もれた境遇に甘んじてゐるべきではない。後漢の趙溫の故事。〔後漢書、趙典傳〕典兄子謙、謙弟溫、云云、溫、字子柔、初爲二京兆郡丞一、歎曰、大丈夫當二雄飛一、安能雌伏、遂棄レ官去、遭二歲大飢一、散二家糧一以賑二窮餓一、所レ活萬餘人、獻帝西遷レ都、爲二侍中一、同二輿輦一至二長安一、封二江南亭侯一、代二楊彪一爲二司空一。

【大丈夫生不二五鼎食一死則五鼎烹】2510ダイヂャウフイキテゴテイニハマズンバシシテスナハチゴテイニニラレン　大丈夫たる者は此の世に生きて五鼎の肉を食ふ諸侯の身分に榮進しないならば、寧ろ死んで五鼎に烹られよう。五鼎食(**1**－**257**··860)を見よ。〔漢書、主父偃傳〕丈夫生不二五鼎食一、死則五鼎亨耳。〔注〕張晏曰、五鼎食、牛・羊・豕・魚・麋也、諸侯五、卿大夫三、師古曰、五鼎亨レ之、謂レ被二鑊亨之誅一。

【大孃孃】2511タイヂャウヂャウ　母をいふ。〔稱謂錄、子稱レ母、大孃孃〕蘇軾龍川雜記、仁宗謂二劉氏一爲二大孃孃一、楊氏爲二小孃孃一。

【大樗堂】2512ダイチョダウ　清、王隼(**7**－**20823**··583)の室名。

【大丁草】25 3ダイテイサウ　草の名。むらさきたんぽぽ。せんぼんやり。〔本草、蒲公英〕集解、時珍曰、庚辛玉冊云、地丁、葉似二小萵苣一、花似二大旋葍一、一莖聳レ上三四寸、斷レ之有二白汁一、二月采レ花、三月采レ根、可三制レ汞伏二三黃一、有二紫花一者、名二大丁草一、出二太行・王屋諸山一。

【大邸閣】2514タイテイカク　閣の名。河南省項城縣。三國、魏の正元二年、毋丘儉・文欽の亂に王基が據つた處。〔河南通志、開封府〕大邸閣在二項城縣北南頓城内一、漢延熙間、都督毋丘儉討二司馬師一不レ克、死レ節之所。

【大涅淀】2515タイテイテン　淀の名。河北省安新縣の北。古の大渥淀。〔水經、易水注〕易水又東、涅水注レ之、水上承二二陂于容城縣東南一、謂二之大涅淀・小涅淀一、其水南流注二易水一、謂二之涅洞口一。

【大濔溝】2516タイテイコウ　川の名。山東省荷澤縣の西南。〔曹州府志〕大濔溝、亦名二冤水一、漢冤句縣、以レ此名。

【大鐵鑊】2517ダイテツクワク　大きな釜。おほがま。〔洛陽記〕宮牆外有二大鐵鑊一、盛レ水以救レ火、火鑊受二百斛一、百步一置。〔山堂肆考〕潤州甘露寺大鐵鑊二、梁武帝所二鑄造一、食以施レ僧者。

【大添倉】2518　ta^4 t'ien^1 ts'ang^1　河南地方で、正月二十五日に穀倉を充たす行事。塡倉。

【大臀筋】2519ダイデンキン　闊背筋の下部にあつて、臀部を形成する筋肉。

【大登科】2520　ta^4 têng^1 k'ê　科擧の試驗に合格すること。〔燕子箋、辨奸〕大小登科、一齊成就了門生罷。

【大動脈】2521ダイドウミャク　心臟左室の大動脈口から出て、左上方に走り、彎曲して大動脈弓を形成し、胸椎體の左方に沿つて下降し、橫隔膜の裂孔を通過し、第四腰椎に至つて左右總腸骨動脈となる。

【大納言】2522ダイナゴン　㊀我が國、古の官名。太政大臣の次官、中納言の上に位し、大政に參與し、可否を獻替し、宣旨を敷奏することを掌る。おほいものまうすつかさ。唐名は亞相・獻納・亞槐。〔令義解、職員令〕太政官、云云、大納言、謂、納言、王者喉舌之官也、言下納二下言於上一、宣中上言於下上也、四人、掌三參二議庶事一。〔職原抄〕太政官、大納言、唐名、亞相・獻納・亞槐、其職掌、與二右大臣以上一參二議天下事一、云云、然者大臣不レ候之閒、奉行與二大臣一同、故云二亞相之官一也。㊁明治二年七月八日に置かれた太政官の職員で、㊀と同様の事を掌る。㊂小紋の一。かじまやこもん。

【大奶奶】2523　ta^4 nai^3 nai　㊀奧樣。召使が年若

い夫人に對していふ。㊁兄の妻。

【大楠公】2524 ダイナンコウ　楠木正成をいふ。子の正行を小楠公といふ對。〔梁川星巖、大楠公詩〕豹死留レ皮豈偶然、湊川遺跡水連レ天、人生有レ限名無レ盡、楠氏精忠萬古傳。

【大念佛】2525 ダイネンブツ　佛大聲で佛名を唱へて祈禱すること。〔名醫類按〕大念佛數珠一串。〔羣疑論、七〕大念者、大聲稱レ佛也、小念者、小聲稱レ佛也。

〔大念佛宗〕2526 ダイネンブツシユウ　佛融通念佛宗（**10－33384**・・31）の略稱。

【大包攬】2527 ta^4 pao^1 lan^3　全體引括めて請負ふ。

【大忘八】2528 ta^4 wang^2 pa　天下の八恩を忘れる大馬鹿者。忘八（**4－10333**・・61）を見よ。〔紅樓夢、二十三回〕明兒我掉在池子裏敎個癩頭黿呑了去、變個大忘八。

【大八件】2529 ta^4 pa^1 chien^4　食品の名。八種の乾菓子。大八樣ともいふ。

【大八洲】2530 オホヤシマ　日本國の古稱。大八洲國の略。〔公式令、詔書〕明神御二大八洲一天皇詔旨。

〔大八洲國〕2531 オホヤシマグニ　日本國の古稱の一。大は美稱。八は彌で、多くの意。洲は島。多くの島から成つた國の意。古事記及び日本書紀には大倭豐秋津洲（本土）・伊豫二名洲（四國）・筑紫（九州）及び淡路・壹岐・對馬・隱岐・佐渡の八洲の總稱とす。〔日本書紀、神代紀上〕大八洲國之號。

〔大八洲遊記〕2532 オホヤシマイウキ　書名。十三卷。青山鐵槍齋の著。國內の遊記を輯めたもの。

【大盋菴】2533 ダイハツアン　清、長海（**11－41100**・・77）の室名。

【大販子】2534 ta^4 fan^4 tzŭ　重慶地方の仲立營業者。

【大磐石】2535 ダイバンジヤク　㊀極めて大きな磐。〔陳舜兪、廬山記〕峰頭有二大磐石一。〔太平記、三、笠置軍事〕尋常の人の百人しても動かし難き大磐石。㊁物の堅固で動かぬこと。又、丈夫なものの喩。

【大拍子】2536 ダイビヤウシ オホビヤウシ　芝居の囃子の一。大太鼓を打ち、三味線をも入れる。社頭・鳥居・玉垣・神樂堂などで用ひる。

【大冰雨】2537 オホヒサメ　盛に降る氷雨。〔古事記、中〕於レ是零二大氷雨一、打二惑倭建命一。〔古事記、下〕於レ是穴穗御子興レ軍到二其門一時、零二大氷雨一。

【大不義】2538 ダイフギ　甚しく義にそむいた行。〔淮南子、說山訓〕此行二大不義一而欲レ爲二小義一者。

【大不敬】2539 ダイフケイ　甚しい不敬。後、法律上の用語となり、天子・皇后、其の他皇室及び神祇に對する不敬罪をいふ。十惡の一。〔漢書、昭帝紀〕皆劾二大不敬一。〔後漢書、陸康傳〕援二引亡國一、以譬二聖明一、大不敬。〔唐律、名例、十惡〕六曰、大不敬。〔注〕謂下盜二大祀神御之物、乘輿服御物一、及僞二造御寶一、合二和御藥一、誤不レ如二本方一、及封題誤、若造二御膳一、誤犯二食禁一、御幸舟船、誤不二牢固一、指二斥乘輿一、情理切害、及對二捍制使一、而無中人臣之禮上。〔清會典、刑部〕重二十惡之辟一、一曰、謀反、云云、六曰、大不敬。〔注〕謂下盜二大祀神御物、乘輿服御物一、及僞二造御寶一、合二和御藥一、誤不レ依二本方一、及封題錯誤、若造二御膳一、誤犯二食禁一、御幸舟船、誤不中堅固上。

【大不是】2540 ダイフゼ　甚だよろしくない。〔通俗編、品目、大不是〕北史、隋元德太子傳、性謙沖、未二嘗忿怒一、其有下深可二嫌責一者上、但云二大不レ是。

【大不了】2541 ta^4 pu liao^3　㊀大きくなり得ない。大した事にはならない。㊁たまらない。やり切れない。

【大蔽レ牛】2542 オホキサウシヲオホフ　大きさが牛の全身を蔽ひ隱す程ある。非常に大きい喩。〔莊子、人閒世〕匠石見二櫟社樹一、其大蔽レ牛、觀者如レ市。

【大苗代】2543 オノシロ　和泉國の地名。

【大浦市】2544 タイホシ　地名。㊀湖南省常寧縣の西。北、湖水に臨み、西、祁陽縣に界す。一に大堡に作る。㊁江蘇省東海縣の東海口。隴秦豫海鐵路の終點。

【大品經】2545 タイホンキヤウ　佛大品般若經（摩訶般若波羅蜜經）のこと。羅什譯の摩訶般若波羅蜜經に二十七卷本と、十卷本との二經あり、一を大品般若經といひ、一を小品般若經といふ。般若波羅蜜（實相を明かにする智慧は苦の此岸から樂の彼岸に到る船筏のごとし）の法を說いた經。〔白孔六帖〕陳後主在二東宮一、令三徐陵講二大品經義一、名僧自レ遠雲集。

【大梵天】2546 ダイボンテン　佛梵とは清淨の意で、淫欲を離れた色界諸天の通名。色界の內の初禪天にある三天の一。〔正理論、三十一〕廣善所レ生、故名爲レ梵、此梵卽大、故名二大梵一、由三被獲二得中閒定一故、最初生故、最初沒故、威德等勝故、名爲レ大。

〔大梵天王〕2547 ダイボンテンワウ　佛大梵天は初禪天の王であるからいふ。大梵王・梵王ともいふ。色界十八天に通ずる名であるが、普通には初禪梵天の王についていふ。

【大妹妹】2548 ta^4 mei^4 mei　己より年少者の妻に對する敬稱。奧樣。

【大豫舞】2549 タイヨノマヒ　晉代に行はれた雅舞の名。武舞の一種。〔晉書、樂志上〕咸寧元年、詔定二祖宗之號一、而廟樂乃停二宣武・宣文二舞一、而同用二荀勖所レ使、郭瓊宋識等所レ造正德大豫二舞一云。

【大甬路】2550 ta^4 yung^3 lu^4　石を敷いた道。〔紅樓夢、三回〕一條大甬路直接出大門的。

【大邏便】2551 タイラベン　㊀突厥の酒器の名。太く短いので、肥えて脊の低い人の綽名に用ひる。木杆可汗の子が此の名を以て呼ばれた。又、官名にも用ひた。邏は、一に羅に作る。〔資治通鑑、陳紀〕（宣帝、太建十三年）突厥佗鉢可汗病、且レ卒、謂二其子菴邏一曰、吾兄不レ立二其子一、委二位於我一、我死、汝曹當レ避二大邏便一。〔注〕大邏便者、木杆之子、杜佑曰、突厥以二勇健者一、爲二莫賀弗一、肥麁者爲二大羅便一、大羅便、酒器也、似レ角而麁短、體貌似レ之、故以爲レ號、此官特貴、唯其子弟爲レ之。㊁隋、阿波可汗（**11－41599**・・499）の名。

【大浪船】2552 ダイラウセン　大きい川舟。

【大廊下】2553 オホラウカ　德川時代に、江戸城にあつた座敷。上下に分れ、將軍家親族の大名の着席場。

【大磖子】2554 タイラフシ　地名。㊀滿洲吉林省依蘭縣の東。㊁滿洲吉林省和龍縣の治。又、和龍磖・峪子ともいふ。

【大流迫】2555 ツルサコ　日向國の地名。

【大良造】2556 ダイリヤウザウ　秦の爵位の名。大上造（1078）に同じ。〔史記、商君傳〕以レ鞅爲二大良造一。〔注〕索隱曰、卽大上造也、秦之第十六爵名也、今云二良造一者、或後變二其名一耳。

【大閭洋】2557 タイリヨヤウ　浙江省永嘉縣の東海中に在り、元末、方國珍が元兵を破つたところ。

【大漏天】2558 タイロウテン　四川省宜賓縣の大黎山に朝暮雲霧がかかり、四時霖霔すること。〔海錄碎事、地、總載、山〕大黎・小黎二山、在二戎州宜賓縣一、朝暮雲霧、四時霖霔、俗謂二之小漏天・大漏天一。

【大往生】2559 ダイワウジヤウ　安かに死ぬこと。〔大原問答青葉笛、五〕中品中生こそ世に有り難き大往生の素懷なれ。

【大阿爾泰】2560 ダイアルタイ　山名。阿爾泰山（**11－41599**・・112′）の本脈。阿爾泰から斜に東方に延び、科布多の西境及び南境に亙り、沙漠に達す。山巓頗る高峻。海拔九千尺以上、一萬尺に至る。

【大飮長歠】2561 タイインチヤウセツ　大いに飮み長くする。〔海錄碎事、帝王、賜宴〕魏都守曲阜、食飮兼レ人、每三賜二食於前一、大飮長歠、左右相屬、數人益レ之乃供、太祖壯レ之。

【大迂山人】2562 タイウサンジン　宋、俞德鄰（**1－1437**・・131）の號。

【大癭先生】2563 タイエイセンセイ　明、程邦賢（**8－25081**・・275）の尊稱。

【大鄉信齋】2564 オホガウシンサイ　越前の人。名は良則。字は伯儀。通稱は金藏。號は信齋・麻布村學究。官は越前鯖江藩儒・城南讀書樓教授。經學は程朱を宗とす。弘化元年十月十四日歿す、年七十一。著に學舍書・目本邦部・記錄解題・慶元以降書目・心學臆見論・諸葛孔明傳注・信齋文集・道聽塗說・忠經注・知道詩篇・知道詩篇續篇・武家制度書錄・遊囊賸記・列祖新田義貞公傳・增訂和漢軍談記略考大成がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大含細入】2565 タイガンサイニフ　漢の揚雄の太玄經が博大精深の美を極めてゐること。〔揚雄、解嘲〕顧默而作二太玄五千文一、云云、深者入二黃泉一、高者出二蒼天一、大者含二元氣一、細者入二無閒一。〔注〕善曰、無閒、言二至微一也。

【大巖頭山】2566 タイガントウザン　島の名。浙江省平陽縣の東南海中に在る。〔海防考〕倭自二南麂・鳳凰・霓嶴・蒲岐・楚門・玉環一而來、俱經二此山一、巡哨最切。

【大己貴山】2567 オホナムチヤマ　加賀國に在る山。

【大槻磐溪】2568 オホツキバンケイ　仙臺の人。名は清崇。字は士廣。通稱は平次。號は磐溪・磐翁。磐水の第二子。家學を承け、後、昌平黌に學ぶ。官は仙臺藩儒・養賢堂學頭。戊辰の役に軍國文書の事を掌つたので獄に下された。後、東京に住す。詩文に巧。明治十一年六月十三日歿す、年七十八。著に愛古堂漫稿・烟霞骨董・遠西紀聞・家藏珍玩十八品圖記・何獨不然・合衆國小誌・鞠育餘愛・其臭如蘭・奇文欣賞・金海奇觀・近古史談・金蘭遺臭・皇朝十八孝傳・經子史日抄・經說・瓊浦筆語・賢友益矣・言其餘錄・獻芹微衷（正續）・鴻雪餘痕・鴻漸齋一百詩鈔・國詩史略・國史百詠・古經文視・續古經文集・桑弧報志・昨夢詩曆・三體詩絕句解・師友文錄・聚於所好錄・詩經國風十篇解・四書集字吟・仲義實錄・新選十二家絕句・新選唐賢絕句拾遺・聖德太子憲法解釋・西遊紀程・說苑咀華・洋兵教練小隊圖式・絕句通韻格・泰西年表・叨恩紀榮・徒然草評・丁卯紀事・東來逐具・讀孟管窺・土龍罪源・二十四孝續選・二十四孝圖贊・二頼連璧・寧靜閣雜纂・寧靜閣集・寧靜閣叢書・磐溪詩稿・磐溪隨筆・磐溪小稿・磐溪文稿・風月頭陀・武將佳話・英文飜譯彼理紀行・戊辰紀事・戊辰愚忠錄・孟子約解・松島奇賞・妙在不經思・洋砲圖說・流風餘韻・呂宋國漂流記・論語約解がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大槻磐水】2569 オホツキバンスイ　陸奥の人。名は茂質。幼名は陽吉・元節。字は子煥。通稱は玄澤。號は磐水。杉田玄伯に醫術、前野良澤に蘭學を學ぶ。官は仙臺侯侍醫。蘭學及び西洋醫術に精通し、幕命を以て飜譯する所多し。詩文に巧。文政十年三月三十日歿す、年七十一。正四位を贈らる。著に英船雜誌・醫師育才呈案・齋瓮考證・沿海遊志・畹港漫錄・遠西新話・薦錄・和蘭冠履辭考・溫泉參考・海外異聞・解問雜記・葛西考・奇奇次第・既齋欖法・金海一味・金城祕韞・金城祕韞補遺・環海異聞・官能眞言・厚世新編・銃砲起源考・宇音發微・芝蘭堂雜記・芝蘭堂雜抄・辭類譯名鈔・西客對話・醒世諭言・仙臺本城銃器佛郎機考案・扇馬譯說・續海外異聞・續環海異聞・續譯瘍醫新書・泰西醫說・泰西新話・大西徽瘡方・中山聘使錄・重訂解體新書・底野迦考證・痘麻病由集說・痘麻病由集說起因考・豐島考・婆心祕稿・附捕影問答・磐水遺稿・磐水雜鈔・磐水漫草・磐水漫筆・北槎集錄・北地抄餘・北邊探事・北邊探事補遺・痲疹啓迪・夢遊金華山記・駱駝考・蘭畹摘芳・蘭學階梯・蘭學佩觿・蘭說辨正・蘭說辨惑（一名、磐水夜話）・蘭說夜話・蘭譯要訣・蘭譯梯航・六物新志がある。〔續近世先哲叢談〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄、後篇〕・〔磐水存響〕。

【大槻平泉】2570 オホツキヘイセン　陸奥の人。名は清準。字は子繩。通稱は民治。號は平泉・繩翁。官は仙臺藩儒・養賢堂學頭。經學は程朱を宗とす。嘉永三年一月十七日歿す、年七十八。正五位を贈らる。著に鯨海遊志・漫遊祕錄・講堂小誌・鯨史稿がある。〔仙臺史傳〕。

【大菅中養】2571 オホスガチユウヤウ　近江の人。名は圭。字は瓚美。通稱は權兵衞。號は中養・中養父。官は彥根藩儒。古文辭學及び皇典を修め、和歌に巧。安永七年正月四日歿す、年は六十七。著に伊勢物語抄・雅筵隨筆・愚問賢注抄・源氏桐壺抄・皇和隱逸傳・俗說譬・中叟詩集・中叟漫錄・讀呂子漫鈔・日本紀古事記和歌注・日參一百首・白華漫鈔・編年和歌集・龍吟橘評管考がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【大菅蘭澤】2572 オホスガランタク　近江の人。名は集。字は翔之。通稱は權之丞。號は蘭澤・南陂。官は彥根藩儒。經史詩文に通じ、最も經濟に長ず。文化十一年一月十五日歿す、年六十一。著に管子管見・周禮弓矢人國字解・春秋經傳集解省覽略義・荀子管見・仙島祕錄・徂徠集考・南陂疏抄・彥根史外傳・蘭澤文集・老莊列韓考がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大驚小怪】2573 ta^4 ching^1 hsiao^3 kuai^4　些細な事を臆測して驚く。大さわぎする。〔長生殿、刺逆〕四雜軍上、爲何大驚小怪。

【大桀小桀】257 タイケツセウケツ　暴虐な君をいふ。惡い爲政者をいふ。古來理想的なものとせられた十分の一の稅率を、更に增して之を重くしようとする者は、桀にも比すべき惡人であつて、其の重くすることの大なる者は大桀といふべく、小なる者は小桀といふべきである。〔公羊、宣、十五〕什一者、天下之中正也、多二乎什一一、大桀・小桀、寡二乎什一一、大貉・小貉。〔疏〕解云、夏桀無道、重賦二於人一、今過二什一一、與レ之相似、若十取二四五一、則爲二桀之大貪一、若取二二三一、則爲二桀之小貪一、故曰、多二乎什一一大桀・小桀、所二以不レ言レ紂者、略擧以爲レ說耳、舊說云、不レ言レ紂者、近事不レ嫌レ不レ知。〔孟子、告子下〕欲レ輕二之於堯舜之道一者、大貉・小貉也、欲レ重二之於堯舜之道一者、大桀・小桀也。〔集注〕什一而稅、堯舜之道也、多則桀、寡則貉、今欲三輕二重之一、則是小貉・小桀而已。

【大薩摩節】2576 オホサツマブシ　俗曲の一種。慶安の頃、薩摩淨雲大夫のはじめたもので、後分れて小薩摩・河東などの數派となる。

【大二小二】2577 タイジセウジ　後魏の崔長謙と、崔休の子の仲文とが、共に第二子で、而も同年の生れ、長謙の方が早生れであつたので、長謙を大二といひ、仲文を小二といつた。長謙は崔休の甥。〔通俗編、稱謂、大二小二〕北史崔儦傳、崔長謙、與二崔休第二子仲文一同年而月長、其家謂二大二小二一、長謙乃休姪也。

【大而無レ當】2578 ダイニシテソコナシ　あてどのない程大きい。議論のとりとめのないこと。當は底。〔莊子、逍遙遊〕肩吾問二於連叔一曰、吾聞二言於接輿一、大而無レ當、往而不レ返。

【大彰寶嗣】2579 タイシヤウハウシ　南宋の初、高宗の時、大越（安南）の神宗、李陽煥の年號、天彰寶嗣の一稱。（1133－1138）

【大鄣山人】2580 タイシヤウサンジン　明、吳子玉（**2**－**3365**・・599）の號。

【大寂禪師】2581 タイジヤクゼンジ　唐、道一（**11**－**39010**・・13）の諡。

【大森快庵】2582 オホモリクワイアン　甲斐の人。名は欽。字は舜民。號は快庵。朝川善庵を師とす。詩に巧で、又、國學に精通す。農業に從事し、又、商を營んで富を致した。嘉永二年十一月歿す。著に甲斐叢記・蔡雲吳歙抄・不二紀行詩・樂園雜詩がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大刃之齊】2583 タイジンノセイ　刀劍を作る合金の法。六齊の一で、三分の金に一分の錫を合せる。齊は合金の割合。〔周禮、考工記、輈人〕參二分其金一而錫居レ一、謂二之大刃之齊一。

【大潛山房】2584 ダイセンサンバウ　清、劉銘傳（**2**－**2224**・・1333）の室名。

【大髯小髯】2585 タイゼンセウゼン　明の詩人陳惟寅・陳惟允の兄弟をいふ。〔妮古錄〕陳惟寅、高士有二雅宜一、山居、其弟陳惟允、亦長二山川一、寅號二大髯一、允號二小髯一。

【大丹生浦】2586 オホニフノウラ　越前國の地名。

【大塚觀瀾】2587 オホツカクワンラン　日向の人。名は靜。字は子儉。通稱は太一郎。號は觀瀾・梅樓・拙齋・冬扇子・考槃窩。官は日向高鍋藩儒・明倫堂教授。文政八年九月二十日歿す、年六十五。著に觀瀾集・觀瀾手錄・螢雪錄・教學大意・國家私議・骨董錄・朱子論性說・解義・諸孝略傳・藩官考・藩祖事略・備塞錄・負笈紀聞・本朝正學淵源錄・本藩系譜・本藩實錄がある。

【大塚松處】2588 オホツカシヨウシヨ　肥前の人。名は道恒。字は子和。通稱は良左衞門。號は松處。官は佐賀藩儒。荻生徂徠の學を奉ず。享和元年十月歿す、年九十五。著に松處遺稿がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大塚孚齋】2589 オホツカフサイ　熊本の人。名は久成。通稱は丹左衞門。號は孚齋・退野。官は熊本藩儒。陽明學を奉ず。寬延三年三月五日歿す、年七十四。著に易學啓蒙助講・紫陽言仁要錄・大學體驗記・退野軒集・孚齋存稿・孚齋存稿拾遺がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔肥後文獻叢書〕。

【大疊山房】2590 タイデフサンバウ　清、姚覲元（**3**－**6202**・・146）の室名。

【大包買賣】2591 ta^4 pao^1 mai^3 mai　輸出稅其の他の諸掛りを賣主の負擔とする賣買方法。

【大博小博】2592 タイハクセウハク　大きな博弈と小さな博弈。〔顏氏家訓、雜藝〕古爲二大博一則六著、小博則二煢。

【大貉小貉】2593 タイバクセウバク　文化の低い野蠻人的な爲政者をいふ。古來理想的なものとせられた十分の一の稅率を更に損減して、之を輕くしようと

する者は、蠻貊にも比すべく、其の輕くすることの大なる者は大貊といふべく、小なる者は小貊といふべきである。貊は野蠻人。〔公羊、宣、十五〕什一者、天下之中正也、多㆓乎什一㆒、大桀・小桀、寡㆓乎什一㆒、大貊・小貊。〔注〕蠻貊、無㆓社稷宗廟百官制度之費㆒、稅薄。〔疏〕解云、若十四五乃取㆓其一㆒、則爲㆓大貊行㆒、若十二十三乃取㆑一、則爲㆓小貊行㆒、故曰、寡㆓於什一㆒、則大貊・小貊也、然則多㆓於什一㆒、則有㆓爲㆑桀之譏㆒、寡㆓於十一㆒、則有㆓蠻貊之恥㆒、是以什一而稅、三王所㆑不㆑易、故傳比㆓于中正之言㆒。〔孟子、告子下〕欲㆑輕㆓之於堯舜之道㆒者、大貊・小貊也、欲㆑重㆓之於堯舜之道㆒者、大桀・小桀也。〔集注〕什一而稅、堯舜之道也、多則桀、寡則貊、今欲㆔輕㆓重之㆒、則是小貊・小桀而已。

【大范老子】2594 タイハンラウシ　宋の范雍をいふ。范仲淹を小范老子といふ對。老子は、知州を呼ぶ西夏地方の戎夷の語。〔名臣言行錄、范仲淹〕〔公領㆓延安㆒、閱㆑兵選㆑將、日夕訓練、又請㆘戒㆓諸路㆒養㆑兵蓄㆑銳毋㆖得㆓輕動㆒、夏人聞㆑之、相戒曰、無㆘以㆓延州㆒爲㆖意、今小范老子、腹中自有㆓數萬用兵㆒、不㆑比㆓大范老子可㆑欺也、戎人呼㆓知州㆒爲㆓老子㆒、大范、謂㆑雍也。

【大般若經】2595 ダイハンニヤキヤウ　佛書名。六百卷。唐、玄奘譯。大般若波羅蜜多經の略。般若波羅蜜の義を說く諸部の經典を集成したもの。〔開元目錄、一〕。

【大泌山房】2596 タイヒサンバウ　明、李維楨(**6－14459**‥848)の室名。

【大謬不然】2597 タイビウフゼン　甚しくあやまつてゐること。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕事乃有㆓大謬不㆑然者㆒夫。

【大不列顚】2598 ダイブリテン　Great Britain の譯。英吉利の本土。イングランド・ウエールズ・スコットランドを包括す。

【大桴山人】2599 タイフサンジン　清、陳詩(**11－41698**‥299)の號。

【大毋㆑侵㆑小】2600 ダイセウヲヲカスナカレ　大きな者は小さな者を侵してはならない。〔左氏、襄、十九〕盟㆓于督揚㆒曰、大毋㆑侵㆑小。

【大撫大蓋】2601 ta^4 fu^3 ta^4 kai^4　傲慢な。不遜な。

【大垪和東】2602 オホハグワヒガシ　美作國の地名。

【大模大樣】2603 ta^4 mu^2 ta^4 yang^4　❶大々的の樣子。大袈裟の樣子。❷わうへい。橫柄。

【大睦親府】2604 タイボクシンプ　官署の名。金代、睿宗の諱を避けて大宗正府を改めていふ。〔金史、百官志一〕大宗正府、泰和六年、避㆓睿宗諱㆒、改爲㆓大睦親府㆒。

【大養德國】2605 オホヤマトノクニ　聖武天皇の天平九年から同十九年まで、本邦の國號。〔續日本紀〕。

【大俞山房】2606 タイユサンバウ　清、黃璋(**12－47926**‥453)の室名。

【大剌剌的】2607 ta^4 la^1 la^1 tê　橫柄者。

【大拉翅兒】2608 ta^4 la^1 ch‘ih^4 êrh　滿洲婦人が頭髮の上に置くかつら。

【大梨樹溝】2609 ダイリジュコウ　地名。❶滿洲遼寧省長白縣に在つて、沙金を產す。❷滿洲遼寧省通化縣の東。石炭を產す。❸滿洲吉林省濛江縣の東北と遼寧省撫松縣との界。

【大柳舍人】2610 ダイリウシヤジン　唐、柳公權(**6－14662**‥253)をいふ。柳璟を小柳舍人といふの對。〔因話錄〕元和中、柳柳州書、後生多師倣、就中尤長㆓於章草㆒、爲㆓時所㆑寶、湖湘以南、童稚悉學㆓其書㆒、頗有㆓能者㆒、長慶已來、柳尙書公權、又以㆓博聞強識工㆑書、不㆑離㆓近侍㆒、柳氏言㆑書者、近世有㆓此二人㆒、尙書與㆓族孫璟㆒、開成中、同在㆓翰林㆒、時稱㆓大柳舍人・小柳舍人㆒。

【大椋置始】2611 オホクラオキソメ　❶姓氏。〔新撰姓氏錄考證、九〕。❷オホクラノオイソヘ　姓氏。〔姓名錄抄〕連。

【大窪詩佛】2612 オホクボシブツ　常陸の人。名は行。字は天民。通稱は柳太郎。號は詩佛・瘦梅・詩聖堂・江山翁・柳坨。詩に巧。江戶下谷練塀小路に塾を開いて教授し、後、秋田藩に仕ふ。天保八年歿す、年七十一。著に再遊集・再北遊詩草・詩學自在・詩聖堂百絕・詩聖堂詩集・詩聖堂遺稿・詩聖堂詩話・詩聖堂詩話二編・詩聖堂詩話三編・諸韻牋・西遊集・西遊詩草・宋三大家絕句箋解・宋詩礎・增訂宋詩礎・池頭集・佩文韻府兩韻便覽・卜居集・北遊詩草・北征集・龍閑集・聯珠詩格箋注がある。〔近代名家著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【遺㆑大投㆑艱】2613 ダイヲオクリカンヲトウズ　天が重大な任務を我が身におくり與へて艱難に遭はせる。〔書、大誥〕予造㆓天役㆒、遺㆑大、投㆓艱于朕身㆒。〔傳〕我周家爲㆓天下役事㆒、遺㆓我甚大㆒、投㆓此艱難於我身㆒、言㆑不㆑得㆑已。

【壞㆑大爲㆑小】2614 ダイヲヤブリテセウトナス　大なるものをこはして小さくする。大道を亂すこと。〔漢書、藝文志〕道之亂也、患出㆓於小人㆒、而強欲㆑知㆓天道㆒者、壞㆑大爲㆑小、削㆑遠以爲㆑近、是以道術破碎而難㆑知也。

【事㆑大字㆑小】2615 ダイニツカヘセウヲメグム　大きなものにつかへ、小さいものを惠む。〔左氏、昭、十六〕僑聞、爲㆑國非㆘不㆑能㆓事㆑大字㆑小之難㆖。

【事㆑大養㆑小】2616 ダイニツカヘセウヲヤシナフ　大きい者にはよく事へ、小さい者はよく養ふ。〔晏子春秋、問、下〕事㆑大養㆑小、安㆑國之器也。

【大英博物館】2617 ダイエイハクブツクワン　英國の倫敦にあり、其の東洋部には多數の漢籍・漢畫、及びスタインが中國の西陲、和闐・燉煌・樓蘭等の故址から發見した漢・蕃・竺・突厥・回鶻・粟特・波斯等の古逸書・佛典及び古畫・古物等を藏し、支那學上の資料が極めて豐富である。

【大高坂芝山】2618 オホタカサカシザン　土佐の人。名は季明。字は清甫。通稱は清助。號は芝山・一峯・黃軒・黃裳閣・喬松子。谷一齋の說を奉ず。官は松山藩儒。初め巖城侯・稻葉侯に遊事す。經學は程朱を宗とす。正德三年五月二日歿す、年六十五。著に易本義翼・學庸集考・居家規・近思錄正義・喬松子・語孟疑問・芝山會稿一・芝山存一稿・餘花編・芝山別集・詩書疑問・春天集・正學要言・焦餘集・積英集・唐四賢精詩纂・重修萃言・適從錄・南學傳・日新集がある。〔先哲叢談、正、四〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄、後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【大崑崙山人】2619 ダイコンロンサンジン　清、單烺(**2－3993**‥283)の號。

【大者爲㆓棟梁㆒】2620 ダイナルモノハトウリヤウトナス　木材の大きいものは棟とし梁とする。才能のすぐれた人材を重要な地位に用ひる喩。〔宋史、張宏傳〕(宋太宗嘗謂㆓樞密史張宏㆒)曰、朕自㆑御㆑極以來、親擇㆓羣材㆒、大者爲㆓棟梁㆒、小者爲㆓榱桷㆒。

【大者不㆑踰㆑閑】2621 ダイナルモノハノリヲコエズ　重要な禮は法則を超えてはならない。〔論語、子張〕子夏曰、大德不㆑踰㆑閑、小德出入可也。〔晏子春秋、雜、上〕大者不㆑踰㆑閑、小者出入可也。

【大者宜㆑爲㆑下】2622 ダイナルモノハヨロシククダルコトヲナスベシ　大なるものはむしろ謙遜して下位に就くがよい。その時にこそ天下の人心もこれに歸注するからである。〔老子、六十一〕大國者下流、天下之交、天下之牝、牝常以㆑靜勝㆑牡、以㆑靜爲㆑下、故大國以下㆓小國㆒、則取㆓小國㆒、小國以下㆓大國㆒、則取㆓大國㆒、故或下以取、或下而取、大國不㆑過㆑欲㆓兼㆓畜人㆒、小國不㆑過㆑欲㆓入事㆑人、夫兩者各得㆓其所㆑欲、大者宜㆑爲㆑下。

【大宣教禪師】2623 ダイセンケウゼンジ　唐、懷暉(**4－11456**‥29)の謚。

【大洞庭主人】2624 ダイドウテイシユジン　宋、高克明(**12－45313**‥1176)の號。

【大養德恭仁】2625 ヤマトクニ　元明天皇の皇宮の號。〔續日本紀〕。

【大亞細亞主義】2626 ダイアジアシユギ　亞細亞人の自決によつて、白人の支配を離れ、亞細亞人の亞細亞を建設する主義。孫文の唱へたもの。汎亞細亞主義。

【大廣益會玉篇】2627 ダイクワウエキクワイギヨクヘン　書名。三十卷。宋の大中祥符六年、陳彭年等奉敕重修。梁の顧野王の玉篇は其の後幾度か改修を經たが、此の書は其の最後の改修のもので、明の梅鼎祚の字彙以前の部首分類式辭書の代表的なものである。〔四部叢刊、第七十九－八十一冊〕。

【大饅頭堵了嘴了】2628 ta^4 man^2 t‘ou tu^3 la tsuei^3 la　大きな饅頭を口につめる。餘計な事をいふ。

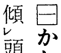
【大蘿蔔還用尿澆】2629 ta^4 luo^2 po hai^2 yung^4 niao^4 chiao^1　大きくなつた大根に尿を注ぐ必要はない。

【將㆑治㆑大者不㆑治㆑細】2630 マサニダイヲヲサメントスルモノハサイヲヲサメズ　大事を治めようとする者は細事を治めない。〔列子、楊朱〕將㆑治㆑大者不㆑治㆑細、成㆓大功㆒者不㆑成㆑小。

【大晴主㆑旱大雨主㆑澇】2631 タイセイハカンヲツカサドリタイウハラウヲツカサドル　宋代、四月二十日を小分龍といひ、五月二十日を大

分龍といふ。此の兩日が大晴なれば旱となり、大雨なれば洪水となるといふ。澇は洪水。〔燕京歲時記、分龍兵〕宋謂㆓四月二十日㆒爲㆓小分龍㆒、五月二十日爲㆓大分龍㆒、大晴主㆑旱、大雨主㆑澇。

【矢】5832


小篆

㊀シヨク　シキ　〔集韻〕札色切　職

㊁レツ　レチ　〔集韻〕力結切　屑

㊀**かしらを傾ける**。〔說文〕矢、傾㆑頭也、从㆑大、象形。㊁**左にかたむける**。〔集韻〕矢、左仄。

解字　象形。一說に指事。本義は頭を傾ける意。故に大(人の全形に象る)に从ひ、其の頭を屈曲して、かたむける意を表はす。〔說文、矢、段注〕人部曰、傾者矢也、矢象㆓頭傾㆒、因以爲㆓凡傾之偁㆒。〔說文通訓定聲〕矢、傾㆑頭也、从㆑大、象形、按、指事、與㆑夭同誼、夭者、屈也、夭折㆓于右㆒、矢傾㆓于左㆒、經傳多以㆑側爲㆑之。

一畫

【天】5833

小篆

㊀テン　〔集韻〕他年切　先　ㄊㄧㄢ　t'ien¹

㊁テン　〔集韻〕鐵因切　眞

㊀❶**あめ**。そら。㋑顚(至高無上)の意。〔說文〕天、顚也、至高無㆑上、从㆓一大㆒。㋺顯(あきらか)の意。〔釋名、釋天〕天、顯也、在㆑上高顯也。㋩坦(おほきい)の意。〔釋名、釋天〕天、坦也、坦然高而遠也。㋥氣が集積してできたもの。〔論衡、談天〕天、氣也。〔顏氏家訓、歸心〕天爲㆓積氣㆒。❷**天體**。**又、其の運行**。〔史記、太史公自序〕命㆓南正重㆒以司㆑天。〔鶡冠子、夜行〕天、文也。❸**太陽**。〔禮、王制、柴而望㆓祀山川㆒、疏〕天、謂㆑日也。❹**宇宙の主宰者**。造化の神。神・鎭(しづめをさめる)の意。〔爾雅、釋天、釋文〕天之爲㆑言、神也。〔論語、陽貨〕天何言哉、四時行焉、百物生焉。〔孟子、離婁上〕順㆑天者存、逆㆑天者亡。〔春秋繁露、郊義〕天者、百神之君也。〔白虎通、天地〕天之爲㆑言、鎭也、居㆑高理㆑下、爲㆓人鎭㆒也。〔鶡冠子、度萬〕天者、神也。❺**自然**。**無爲自然の道**。〔莊子、天道〕先明㆑天而道德次㆑之。〔注〕天者、自然也。〔荀子、解蔽〕莊子蔽㆓於天㆒、而不㆑知㆑人。〔注〕天、謂㆓無爲自然之道㆒。❻**君**。王。帝。〔爾雅、釋詁〕天、君也。〔詩、大雅、蕩〕天降㆓滔德㆒。〔傳〕天、君也。〔孟子、離婁上〕天之方蹶。〔注〕天、謂㆓王者㆒。〔張衡、東京賦〕僉㆓安天位㆒。〔注〕綜曰、天位、帝位也。❼**父**。**又、夫**。〔詩、鄘風、柏舟〕母也天只。〔傳〕天、謂㆑父也。〔儀禮、喪服傳〕父者、子之天也、夫者、妻之天也。〔左氏、桓、十五、父一而已、注〕婦女在㆑室則天㆑父、出則天㆑夫。〔漢書、列女、曹世叔妻傳〕夫者、天也。❽**たのみとすべきもの**。〔漢書、酈食其傳〕王者以㆑民爲㆑天、而民以㆑食爲㆑天。❾**時節**。季候。〔元淮、小滿詩〕映㆑水黃梅多半老、鄰家蠶熟麥秋天。❿**ひ**。**にち**。〔中華大字典〕天、謂㆑日曰㆑天、如㆘今日曰㆓今天㆒、昨日曰㆓昨天㆒、明日曰㆓明天㆒之類㆖。⓫**陽**。〔易、乾〕飛龍在㆑天。〔張注〕天、陽也。〔呂覽、有始〕天微以成。〔注〕天、陽也。⓬**乾**。〔易、无妄〕天之命也。〔注〕乾爲㆑天。⓭**世の中**。境遇。〔路鐸、題㆓鄒公所㆑藏淵明歸去來圖㆒詩〕無㆑機還我酒中天。⓮**運命**。自然の分。〔列子、仲尼〕樂㆑天知㆑命、故不㆑憂。〔注〕天者、自然之分。⓯**うまれつき**。性。〔淮南子、原道訓〕不㆓以㆑人易㆑天。〔注〕天、性也。⓰**いのち**。身。〔呂覽、大樂〕全㆓其天㆒。〔注〕天、身也。⓱**大きい**。〔廣雅、釋詁一〕天、大也。⓲**すみうつ**。額を切って墨をさす刑。〔易、睽〕其人天且劓。〔虞注〕黥㆑額爲㆑天。〔釋文〕天、剠也。⓳**髮きる**。髮を剃りおとす刑。而(9−28871)・耏(9−28878)に通ず。〔說文通訓定聲〕天、爲㆓而字之誤字㆒、易睽、其人天且劓、按、此借㆑而爲㆓髡耏之耏㆒、形誤爲㆑天也、虞注失㆑之。⓴**先んずる**。さきに。先(1−1349)に通ず。〔說文通訓定聲〕天、叚借爲㆑先。〔書、太甲上〕惟尹躬先、見㆓于西邑夏㆒。〔禮、緇衣〕惟尹躬天、見㆓于西邑夏㆒。〔注〕天、當㆑爲㆑先、字之誤。㉑古は宎(2−1571)・兂(1−49)・宂(1−42)・蒦(9−31529)・兲(2−1461)に作る。〔康熙字典〕天、古文宎・兂・宂・蒦・兲。㉒或は元(1−1352)に作る。〔集韻〕天、唐武后作㆑元。㉓**姓**。〔萬姓統譜〕天、見㆓姓苑㆒。〔奇姓通〕唐有㆓天文㆒、爲㆓親軍指揮使㆒。㉔佛　㋑梵語 deva 又は sura の譯語。(deva の音譯は提婆、sura の音譯は素羅)。光明・清淨・自在・最勝などの意で、天人の住む妙なる世界。其の一部は須彌山にあり、一部は大空の中にあり、此處に住む佛を天とし、又、鬼神を天とする。〔大毘婆沙論、百七十二〕於㆓諸趣中㆒、彼趣最勝・最樂・最善・最妙・最高、名爲㆓天趣㆒。㋺天竺(1111)の❶の略稱。〔景德傳燈錄、三、菩提達磨〕西天去。㊁**あめ**。〔集韻〕天、顚也、至高無㆑上。邦　**あめ**。**あま**。㋑天神の住む所。㋺高天原(タカマノハラ)。または其れに關係する事物をいふ語。

名乘　タカ。

解字　會意。大と一との合字。本義はおほぞら。轉じて、凡て高い・尊いの意と爲す。おほぞらは至高でそれ以上に高いものがなく、其の大は並ぶものがない。故に一と大とを合はせて其の意を表はす。一說に、指事。大は人の意に用ひ、一はおほぞらの形を示す。おほぞらは人の頭上を覆ひ、常に頭を擧げて仰ぎ見る所であるから、大に从ひ、其の上に一を畫いて、おほぞらの意を示すといふ。又一說に、指事。本義は人の頭のいただき。轉じて、おほぞらの意。大(人の全形に象る)に从ひ、其の頂點に一を畫いて、頭のいただきの意を示す。古文に に作るものあるのを見れば自ら明かであるといふ。〔說文〕天、顚也、至高無㆑上、从㆓一大㆒。〔段注〕顚者、人之頂也、以爲㆓凡高之偁㆒、始者、女之初也、以爲㆓凡起之偁㆒、然則天亦可㆑爲㆓凡顚之偁㆒、臣於㆑君、子於㆑父、妻於㆑夫、民於㆑食、皆曰㆑天、是也、至高無㆑上、是其大無㆑有㆓二也、故从㆓一大㆒、於㆓六書㆒爲㆓會意㆒。〔說文、夫、段注〕天之一冒㆓大上㆒、爲㆓會意㆒、夫之一毌㆓大首㆒、爲㆓象形㆒、亦爲㆓會意㆒。〔說文通訓定聲〕天、按、大猶㆑人也、天在㆓人上㆒、仰㆑首見㆑之、一、指事。

參考　天(3−5838)は別字。

【天阿】1 テンア　星座の名。〔淮南子、天文訓〕天有㆓九野㆒、九千九百九十九隅、去㆑地五億萬里、五星・八風・二十八宿・五官・六府・紫宮・太微・軒轅・咸池・四守・天阿、云云、天阿者、羣神之闕也。

【天愛】2 テンアイ　生れつきの情愛。〔陶潛、祭㆓從弟敬遠㆒文〕孝發㆓幼齡㆒、友自㆓天愛㆒。

【天殃】3 テンアウ　天の降す禍害。上帝のとがめ。天咎。〔禮、月令〕孟春之月、是月也、不㆑可㆑稱㆑兵、稱㆑兵必有㆓天殃㆒。〔孟子、梁惠王下〕不㆑取必有㆓天殃㆒。〔國語、晉語三〕天殃流行、國家代有。〔呂覽、季夏〕擧㆓大事㆒、則有㆓天殃㆒。

【天安】4 テンアン　❶天竺迦毘黎國にあった寺の名。〔宋書、天竺迦毘黎國傳〕乃改㆓中興㆒、曰㆓天安寺㆒。❷門の名。北京舊皇城の正門。中華門の中、東西兩長安門の中央に在る。明の承天門。〔北京指南、地理、疆域〕中華之內曰㆓天安㆒、原名㆓承天㆒、前清順治九年改㆓今名㆒。❸年號。㋑北魏の顯祖、獻

文帝、拓跋弘の時。(466－467) ㋺晉の桓謙の僭年號。一に天康に作る。〔玉海、十三〕年次不明。㋩陳の廢帝、臨海王、陳伯宗の年號、天康の一稱。(566) ㋥第五十五代文德天皇、第五十六代清和天皇の御代。(854－859)

〔天安禮定〕5（テンアンレイテイ） 宋時、西夏の惠宗、李秉常の年號。(1086)

【天衣】6（テンイ） ❶天子の衣。袞衣。〔南齊書、輿服志〕袞衣、漢世出二陳留襄邑所一レ織、宋末用二繡及織一成、建武中、明帝以レ織成レ重、乃采畫爲レ之、加二飾金銀薄一、世亦謂爲二天衣一。〔杜甫、傷春詩〕煙塵昏二御道一、耆舊把二天衣一。〔盧綸、皇帝感詞〕天衣五鳳彩、御馬六龍文。❷仙人の衣。〔白居易、和レ送三劉道士遊二天台一詩〕靈旆星月象、天衣龍鳳紋。〔許老翁傳〕仙女天衣、有二金縷單絲錦縠銀泥五暈羅帔一。〔集仙錄〕謝自然在二靜室一、有下仙人將二天衣一來迎上、郎乘二麒麟一升レ天。❸佛天人の衣。〔阿含經〕四天王天、身長半由旬、衣重半兩、忉利天、身長一由旬、衣重六銖、餤摩天、身長二由旬、衣重三銖、兜率天、身長四由旬、衣重二銖、化樂天、身長八由旬、衣重一銖、他化自在天、身長十六由旬、衣重半銖。〔瓔珞本業經、下〕譬一里二里、乃至十里石、方廣亦然、以二天衣重三銖一、人中日月歲數、三年一拂二此石一、乃盡、名二一小劫一。〔徐陵、天台山徐則法師碑〕夫海水揚レ塵、幾千年而可レ見、天衣拂レ石、幾萬歲而應レ平。❹（アマゴロモ）❸に同じ。〔古今六帖、二〕あまごろも撫づる千歲の巖をも。

〔天衣無縫〕7（テンイムホウ） 天女の著てゐる衣服の、ぬひめのないこと。詩文など、斧鑿の痕がなく、自然にすらすらと出來てゐる喩。〔靈怪錄、郭翰〕暑月臥二庭中一、云云、仰視二空中一、有レ人冉冉而下、曰、吾天上織女也、云云、徐視二其衣一、竝無レ縫、翰問レ之、謂曰、天衣本非二針線爲一也。

【天陔】8（テンイ） ❶坂の名。漢の天陔縣に在る。❷を見よ。〔說文〕陔、酒泉天陔阪也。〔段注〕地理志酒泉郡天陔縣、師古曰、此地有二天陔阪一、故以名。❷縣名。漢、置く。天陔阪があるから名づけた。今の甘肅省の境。〔漢書、地理志下〕酒泉郡、縣九、天陔。〔注〕師古曰、音衣、此地有二天陔阪一、故以名。

【天倚】9（テンイ） 清、李長熙(6－14459··1714)の號。

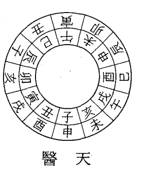
【天意】10（テンイ） ❶天の心。主宰者の意志。天心。〔詩、大雅、文王〕文王陟降在二帝左右一。〔箋〕文王能觀二知天意一、順二其所一レ爲、從而行レ之。〔公羊、僖、十六〕爲二王者之後一記レ異也。〔注〕故詳錄二天意一也。〔墨子、天志上〕順二天意一者、兼相愛交相利。〔墨子、天志上〕故欲二富且貴一者、當二天意一而不レ可レ不レ順。〔漢書、董仲舒傳〕此天意也、王者承二天意一以從レ事。❷帝王の心。〔杜甫、送三從弟亞赴二河西判官一詩〕詔書引上レ殿、奮レ舌動二天意一。

〔天意人緣〕11 t'ien¹ i⁴ jen² yüan² 緣因。合「緣奇緣。

【天漪】12（テンイ） 深見玄岱の號。深見天漪(7－17687··111)を見よ。

【天彝】13（テンイ） 字號。❶宋、時少章(5－13890··464)の字。❷明、應典(4－11330··176)の字。❸清、李貽德(6－14459··831)の字。

【天醫】14（テンイ） 叢辰の名。天の巫醫。正月に、戌の方位から起り、十二辰を順行する。天醫に當つた日は、藥を請ひ、病を避け、巫を尋ねて禱祀するによい。天喜(372)の❸を見よ。〔協紀辨方書、義例二、成〕總要曆曰、天醫者、天之巫醫、其日宜三請レ藥避レ病尋二巫禱祀一、曆例曰、天醫者、正月起レ戌、順二行十二辰一。



天醫
(協紀辨方書)

〔天醫節〕15（テンイセツ） 八月一日をいふ。黃帝・岐伯を祭る。〔潛居錄〕八月朔、古人以二此日一爲二天醫節一、祭二黃帝・岐伯一。

〔天醫殿〕16 t'ien¹ i¹ tien⁴ 浙江餘姚に在る廟の名。

【天位】17（テンヰ） ❶天の位。〔禮、禮運〕祭二帝於郊一、所三以定二天位一也。❷天子の位。〔易、需〕位二乎天位一、以正中也。〔疏〕以二九五一、居二乎天子之位一。〔書、太甲下〕天位艱哉。〔傳〕言、居二天子之位一難。〔詩、大雅、大明〕天位殷適、使レ不レ挾二四方一。〔傳〕天位、天子之位也。❸天の掌る官位。天が與へた官位。〔孟子、萬章下〕弗三與共二天位一也、弗三與治二天職一也、弗三與食二天祿一也。〔集注〕范氏曰、位曰二天位一、職曰二天職一、祿曰二天祿一、言、天所下以待二賢人一、使上レ治二天民一、非二人君所一レ得レ專者一也。

【天威】18（テンヰ） ❶上帝の威力。天の刑罰。〔書、秦誓上〕皇天震怒、命二我文考一、肅將二天威一、大勳未レ集。〔傳〕言下天怒二紂之惡一、命二文王一、敬行二天罰一、功業未レ成而崩上。〔詩、周頌、我將〕我其夙夜、畏二天之威一、于レ時保レ之。〔潘岳、狹室賦〕重陰晦冥、天威震曜。〔宋書、鄧琬傳〕天威雷發、氛沴冰消。❷天子の威光。天威咫尺を見よ。〔三略、上略〕圖二制無疆一、扶二成天威一。〔羊祜、讓二開府一表〕違レ命誠忤二天威一。〔注〕善曰、左氏傳、齊侯對二宰孔一曰、天威不二違レ顏咫尺一。❸天の如き威力。又、それを有する人。〔魏志、張邈傳〕布令下門侯於二營中一舉中一隻戟上、布言、諸君觀三布射二戟小支一、一發中者、諸軍當二解去一、不レ中、可二留決鬥一、布舉レ弓射レ戟、正中二小支一、諸將皆驚言、將軍天威也。〔漢晉春秋〕獲曰、公天威也、南人不二復反一。❹城の名。山西省井陘縣の東北。金の威州。威州城・威州堡・井陘店ともいふ。〔宋史、地理志二、河北路、西路〕眞定府、縣九、井陘。〔注〕熙寧六年、省入二獲鹿・平山一、八年復置、徙レ治二天威軍一、卽縣治置レ軍使レ隸レ府、有二天威軍・小作口・王家谷三砦一。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、井陘縣〕天威城、縣東北五十里、宋初置二天威砦於此一、尋曰二天威軍一、熙甯八年、移二井陘縣治一焉、金初置二威州一、亦治レ此、後仍還二舊治一、今亦謂二之威州城一、又名二威州堡一、亦曰二井陘店一。❺金の宣宗の時、耶律斯布の僭年號、天成の一稱。(1216)

〔天威咫尺〕19（テンヰシセキ） 天子の威光が咫尺以内にある。天子に接近し奉つておそれ多いこと。一說に、天の鑒察が眼前に在る。咫は八寸。咫尺は極めて近い意。天顏咫尺。〔左氏、僖、九〕對曰、天威不二違レ顏咫尺一、小白余敢貪二天子之命一、無二下拜一、恐隕二越于下一、以遺二天子羞一、敢不二下拜一。〔注〕言三天鑒察不レ遠、威嚴常在二顏面之前一、八寸曰レ咫。〔會箋〕天威、卽天子之威也、注作二天監一、與二下文一不レ協、此言四天威之切近、未三始有二違レ顏咫尺之間一也、宰孔含二王命一在レ前、故曰二天威不レ違レ顏咫尺一、說者多以二違字一貼二不字一、解爲三天威不レ違レ顏、僅在二咫尺之近一、失二語氣一。

【天偉】20（テンヰ） 元、孟昉(3－6960··231)の字。

【天爲】21（テンヰ） 天のしわざ。自然のはたらき。人爲(1－344··6)の對。〔漢書、董仲舒傳〕春者天之所レ爲也。

【天睢】22（テンヰ テンキ） 星の名。〔史記、天官書〕閹茂歲、歲陰在レ戌、星居レ巳、以二九月一與二翼軫一晨出曰二天睢一、白色大明。〔注〕索隱曰、睢、劉氏音吁唯反。

【天維】23（テンヰ） 天を支へる綱。天の成立するおほもと。國家の綱記。〔後漢書、黃瓊傳〕天維陵弛。〔張衡、西京賦〕爾乃振二天維一。〔束晳、玄居釋〕振二天維一以贊二百務一。

【天有】24（テンイウ） 明、余爵(1－515··34)の字。

〔天有レ眼〕25（テンニメアリ） 天に眼がある。天がよく人の善惡を監視する意。〔蔡琰、胡笳十八拍〕爲二天有レ眼兮、何不レ見二我獨漂流一。

〔天有レ頭〕26（テンニアタマアリ） 天に頭がある。〔蜀志、秦宓傳〕溫復問曰、天有レ頭乎、宓曰、有レ之。

〔天有レ還レ形〕27（テンカタチヲカヘスコトアリ） 天は一旦變化した形體をもとにかへすことがある。〔國語、越語下〕得レ時弗レ成、天有レ還レ形。

〔天有二十日一〕28（テンニジフジツアリ） 天に甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の十の日がある。〔左氏、昭、七〕天有二十日一、人有二十等一。〔注〕甲至レ癸也。〔魏志、程昱傳〕春秋傳曰、天有二十日一、人有二十等一。

【天佑】29（テンイウ） ❶天のたすけ。天祐。〔書、湯誥〕上天孚二佑下民一、罪人黜伏。〔書、咸有一德〕非三天私二我有商一、惟天佑二于一德一。❷明、邵錫(11－39343··33)の字。❸明、孫天祐(3－6987··509)の一名。

【天祐】30（テンイウ） ❶天のたすけ。天帝の加護。天佑。天助。天贊。〔易、大有〕上九、自レ天祐レ之。〔漢書、杜鄴傳〕俱享二天祐一。〔宋書、樂志二〕天祐聖皇、萬邦來賀。❷年號。㋑唐の昭宗の時。昭宣帝、なほ之に依る。(904－907) ㋺五代十國の一、吳(淮南)の太祖武帝(楊行密)、烈祖景帝(楊渥)、高祖宣帝(楊隆演)の時。(904－919) ㋩宋の南詔の保定帝(段正明)の時。(1082－1098) ㋥金の乞奴の僭號。〔歷代紀元編、上〕年次不明。㋭元末、順帝の時、張士誠の私號。(1352－1567)

㋬明の世宗の代、大越の英宗峻皇帝（黎維邦）の時。（1557）❸字號。㋑宋、柴宗慶（**6－14664**・・115）の字。㋺元、陳祜（**11－41698**・・237）の一名。㋩明、張祐（**4－9812**・・21）の字。

〔天祐垂聖〕31 テンイウスイセイ　宋時、夏毅宗・李諒祚の年號。（1050－1052）

〔天祐民安〕32 テンイウミンアン　宋時、夏の崇宗、李乾順の年號。（1090－1098）

【天游】33 テンイウ　❶天遊の❶❷を見よ。❸字號。㋑宋、曾開（**5－14299**・・18）の字。㋺明、何適（**1－511**・・165）の號。

〔天游閣〕34 テンイウカク　清、顧太清（**12－43689**・・321）の室名。

〔天游館〕35 テンイウクワン　伊藤龜年の號。

〔天游生〕36 テンイウセイ　元、陸廣（**11－41708**・・74）の號。

【天遊】37 テンイウ　❶自然に合し、物に累されず、自由であること。天放。〔莊子、外物〕胞有二重閬一、心有二天遊一。〔注〕天遊、遊不レ係也。〔疏〕虛空、故自然之道遊二其中一。❷天子の出遊をいふ。〔袁奭、從駕游山詩〕天遊響二仙蹕一、春望動二神衷一。〔沈佺期、初冬從レ幸二漢故靑門一應制詩〕天遊戒二東首一、懷昔駐二龍軒一。❸峯の名。福建省崇安縣、武夷山の仙掌峯の北。頂に天遊道院があり、其の前を一覽臺といふ。〔讀史方輿紀要、福建、名山〕武夷山、在二建寧府崇安縣南三十里一、云云、第六曲有二天游峯一、在二隱屛之後一、外高敞而內幽邃、其右爲二仙掌峯一、穹崖壁立、高廣百餘仞、旁有二瀑布泉一。❹宋の僧。成都の鄭氏の子。號は典牛。廬山で剃髮し、隆興府の雲巖寺に居る。後、庵を武寧に結び、年、百歲に近くして示寂す。〔新續高僧傳、十二〕。

【天鬻】38 テンイク　自然にうけるもの。天のやしなひ。天稟。〔莊子、德充符〕四者、天鬻也、天鬻也者、天食也。〔注〕言二自然而稟一レ之也。〔疏〕鬻、食也、食、稟也、天、自然也。

【天一】39 テンイツ テンイチ　❶星の名。紫微宮の門の右の星の南に在る。天帝の神。戰鬪を主り、人の吉凶を知る。天乙。〔史記、天官書〕前列直二斗口三星一、隨二北端兌一、若見若不、曰二陰德一、或曰二天一一。〔注〕正義曰、天一一星、彊二閶闔外一、天帝之神、主二戰鬪一、知二人吉凶一、明而有レ光、則陰陽和、萬物成、人主吉、不レ然反レ是、太一一星、次二天一南一、亦天帝之神、主下使二十六神一、知中風雨水旱兵革饑饉疾疫上、占以二不レ明及移一爲レ災也、星經云、天一・太一二星、主丁王者卽レ位、令丙諸立二赤子一、而傳乙國位甲者、星不レ欲レ微、微則廢立不レ當二其次一、宗廟不二享食一矣。〔隋書、天文志上〕天一一星、在二紫宮門右星南一、天帝之神也、主二戰鬪一、知二人吉凶一者也。❷天の數。一は陽。天は陽であるからいふ。天一地二（48）を見よ。〔淮南子、墜形訓〕天一、地二、人三。〔注〕一陽、二陰也、人生二於天地一、故曰レ三也。❸北極神の別名。〔史記、封禪書〕亳人謬忌奏下祠二太一方上曰、天神貴者大一、云云、古者天子三年壹用二太牢一祠二神三一、天一・地一・太一。〔注〕索隱曰、樂汁徵圖曰、天宮、紫微、北極、天一・太一、宋均云、天一・太一、北極神之別名。❹宋、鮮于天（**12－46133**・・13）の一名。❺字號。㋑清、陳濆（**11－41698**・・181）の字。㋺清、劉淸（**2－2224**・・424）の字。

〔天一涯〕40 テンノイチガイ　天の一方のはて。相去ることの極めて遠いこと。〔古詩十九首〕相去萬餘里、各在二天一涯一。〔注〕善曰、廣雅曰、涯、方也、翰曰、涯、畔也。

〔天一閣〕41 テンイツカク　明の范欽の藏書閣の名。浙江省鄞縣に在る。天一閣書目を見よ。

〔天一隅〕42 テンノイチグウ　天の一方の隅。天の一涯。〔李陵、與二蘇武一詩〕風波一失レ所、各在二天一隅一。

〔天一神〕43 テンイチジン　陰陽家の祭る神の名。己酉の日に天から下り、家の東北隅に居ること五日、順次に南西北を廻り、四隅に居ること各〻六日、四方に居ること各〻五日、計四十四日で癸巳の日に正北から上天し、己酉の日に再び天から下つて前のやうに廻る。なかがみ。〔假名曆略注、天一天上〕天一神、常に八方に運行して祟りをなす。

〔天一方〕44 テンノイツパウ　遠い彼方。天の一涯。天の一隅。〔庾肩吾、有所思樂府〕佳人遠二于隔一、乃在二天一方一。〔蘇軾、前赤壁賦〕望二美人兮天一方一。

〔天一面〕45 テンノイチメン　天の一方のはて。天一涯に同じ。〔何遜、與二蘇九德一別詩〕何況杳來期、各在二天一面一。

〔天一居士〕46 テンイチコジ　清、李淸（**6－14459**・・499）の號。

〔天一道人〕47 テンイチダウジン　清、陳夢雷（**11－41698**・・1261）の號。

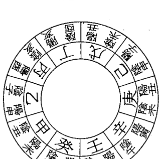
〔天一地二〕48 テンイチチニ　天の數と地の數。その中に宇宙の變化を含む。〔易、繫辭上〕天一、地二、天三、地四、天五、地六、天七、地八、天九、地十。〔疏〕此言二天地陰陽自然奇偶之數一也。

〔天一天上〕49 テンイチテンジヤウ　天一神が上天して居ること。其の期間は、癸巳の日から十六日。天一神（43）を見よ。〔小右記〕長和三年三月六日、天一天上之間、蓋レ屋同所レ忌也。

〔天一閣書目〕50 テンイツカクシヨモク　書名。四卷。附、碑目一卷、續增一卷。明の范欽の天一閣の藏書目錄。嘉慶八・九年の間、阮元が范氏に命じて作つたもので、內容は經・史・子・集の四部に分ち、其の細目は、經部（易・詩・書・禮・春秋・經總・四書・樂・小學）、史部（正史・編年・紀事本末・別史・雜史・詔令奏議・傳記・史鈔・載記・時令・職官・政書・目錄・史評）、子部（儒家・兵家・法家・農家・醫家・天文・術數・藝術・譜錄・雜家・類書・小說・釋家・道家）、集部（楚辭・別集・總集・雜著・詩文評・詞曲・補遺・范氏著作）。碑目一卷は周から元に至る迄の碑目を列擧し、年月・撰者・字樣を記す。續增一卷はその補遺である。〔玉簡齋叢書、八・九冊〕。

【天乙】51 テンイツ　❶星の名。天一（39）の❶に同じ。〔丹元子、步天歌〕天乙太乙當二門路一、左樞右樞夾二南門一。❷殷の湯王をいふ。天は、帝の意で、尊稱。〔史記、殷紀〕主癸卒、子天乙立、是爲二成湯一。〔注〕索隱曰、稱二天乙一者、譙周云、夏殷之禮、生稱レ王、死稱二廟主一、皆以二帝名一配レ之、天亦帝也、殷人尊レ湯、故曰二天乙一。〔荀子、成相〕十有四世、乃有二天乙一、是成湯。

〔天乙貴人〕52 テンイツキジン　叢辰の名。干德合方の神。陽貴・陰貴の別があり、陽貴は子に起つて順行し、陰貴は申に起つて逆行する。吉慶を與へ、凶厄を解くことを掌る。〔協紀辨方書、義例五、天乙貴人〕蠡海集曰、天乙貴人當レ有二陽貴陰貴之分一、蓋陽貴起二於子一而順、陰貴起二於申一而逆、此神實得二陰陽配合之和一、故能爲二吉慶一、可レ解二凶厄一也。



天乙貴人
（協紀辨方書）

〔天乙山人〕53 テンイツサンジン　清、陸灝（**11－41708**・・47）の號。

【天軼】54 テンイツ　まゆずみの神。〔瑯嬛記〕膏神曰二雁孃一、黛神曰二天軼一。

【天逸】55 テンイツ　楠本孚嘉の號。楠本碩水（**6－15152**・・10）を見よ。

〔天逸閣〕56 テンイツカク　清、梅庚（**6－14830**・・23）の室名。

【天鳦】57 テンイツ　鳥の名。燕の異名。〔何宗彥、東宮儲學賦〕天鳦既至、倉庚載鳴。

【天邑】58 テンイフ　❶天の建てた國。邑は、都邑、ここは國をさす。〔書、多士〕肆予敢求二爾于天邑商一。〔疏〕鄭玄云、言二天邑商一者、亦本二天之所レ建。❷天下の中央の邑。轉じて、京師をいふ。〔後漢書、馬融傳〕是以大漢之初基也、宅二茲天邑一。〔陸機、答二賈長淵一詩〕爰茲有魏、卽二宮天邑一。〔注〕向曰、言、於レ此有魏就二居於天中之邑都一也。

【天揖】59 テンイフ　組み合せた手を推して、少し擧げて禮をする。又、その禮。〔周禮、秋官、司儀〕天二揖同姓一。〔注〕天揖、推レ手小擧レ之。

【天印】60 テンイン　山名。一に方山といふ。江蘇省江寧縣の東南。丹陽記に、形、方印の如しといふ。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕方山、府東南四十五里、志云、山高一百六十丈、周二十七里、形如二方印一、一名天印山、秦鑿二金陵山一、疏二淮水一爲レ瀆處也。

【天姻】61 テンイン　天子皇后の親戚。〔宋書、孝武文穆王皇后傳〕閭閣有レ對、本隔二天姻一。〔李商隱、戊辰會二靜中一出貽二同志一詩〕玉管會二元圃一、火棗承二天姻一。

【天胤】62 テンイン　天子の繼嗣。帝王の血統。〔書、高宗肜日〕王司レ敬レ民、罔レ非二天胤一。〔蔡傳〕胤、嗣。

【天陰】63 テンイン　天がくもる。〔張衡、週天大象賦〕天陰進二謀於腹心一。〔宋書、五行志二〕太康五年六

月早、此年正月、天陰解而復合。〔高適、苦雪詩〕二月猶北風、天陰雪冥冥。

〖天陰雨濕〗64（テンインウシフ）　天が曇つて雨がふる。〔杜甫、兵車行〕新鬼煩冤舊鬼哭、天陰雨濕聲啾啾。

【天隱】65（テンイン）　㊀天德に合して融通無碍、他人が其の眞を窺ひ知ることができないこと。又、其の人。〔文中子、周公〕至人天隱、其次地隱、其次名隱。〔注〕藏二其大眞一、高莫二窺測一。〔聽雨紀談〕隱一也、昔之人謂、有二天隱一、有二地隱一、有二人隱一、有二名隱一云云、天隱者、無二往而不レ適、如二嚴子陵一之類是也、地隱者、避レ地而隱、如二伯夷太公一之類是也、人隱者、跪レ跡混レ俗、不レ異二俗人一、如二東方朔一之類是也、名隱者、不レ求レ名而隱、如二劉遺民一之類是也。㊁字號。㋑宋、阮逸（11－41569・・2）の字。㋺宋、曾恬（5－14299・・126）の字。㋩元、圓至（3－4819・・80）の號。㋥元、繆主一（8－27855・・63）の字。

〖天隱子〗66（テンインシ）　㊀書名。一卷。撰者未詳。唐の司馬承禎の序がある。神仙・易簡・漸門・齋戒・安處・存想・坐忘・神解の八篇から成る。〔四庫提要、子、道家類〕。㊁明、嚴果（2－4589・・62）の㊀の號。

〖天隱堂〗67（テンインダウ）　清、凌霞（2－1669・・19）の室名。

【天韻】68（テンヰン）　㊀帝王の作つた詩歌。〔徐安貞、奉二和聖製喜レ雨賦一〕仰二宸儀之法度一、聞二天韻之宮徵一。㊁詩の自然に流露して巧なこと。〔沈與求、劉行簡見レ借二詩稾一以二長句一歸レ之詩〕劉郎天韻眞不レ凡、飛騰宜レ在二蓬萊島一。

【天宇】69（テンウ）　㊀天下。あめがした。〔宋書、樂志二〕澤霑二地境一、化充二天宇一。㊁帝都。みやこ。〔宋書、傅亮傳〕乞歸二天宇一、不レ樂二外出一。㊂天空。おほぞら。〔陶潛、辛丑歲七月赴レ假還二江陵一夜行二塗口一詩〕昭昭天宇闊、皛皛川上平。〔注〕翰曰、天宇、謂二天之覆レ地如二屋宇一也。〔張九齡、西江夜行詩〕悠悠天宇曠、切切故鄉情。〔宋史、禮志七〕天宇澄霽。㊃字號。㋑明、王應鵬（7－20823・・1220）の字。㋺明、王承裕（7－20823・・1707）の字。

〖天宇地廬〗70（テンウチロ）　天と地。天地。〔左思、魏都賦〕天宇駭、地廬驚。〔注〕翰曰、駭二驚天地一。

【天羽】71（テンウ）　㊀清、趙吉士（10－37171・・465）の字。㊁（アマウ）姓氏。〔姓名錄抄〕。

〖天羽衣〗72（アマノハゴロモ）　㊀天人の衣服。〔竹取物語〕天人の中に持たせたる箱あり、あまのはごろも納まれり。㊁昔、天皇が、神今食（ジンゴンジキ）・新嘗祭などの祭事に、湯沐したまふ時の御衣。〔江家次第、十〕新嘗祭、縫司供二天羽衣一。

【天雨】73（テンウ・テンアメフル）　㊀雨が降る。又、雨。〔史記、韓非傳〕宋有二富人一、天雨牆壞。〔史記、孟嘗君傳〕今旦代從レ外來、見下木偶人與二土偶人一相與語上、木偶人曰、天雨子將レ敗矣。〔宋玉、高唐賦〕遇二天雨之新霽一兮、觀二百谷之俱集一。〔注〕向曰、天雨初晴、百谷之水、皆騰涌淡淡、並入二蓄水之所一。㊁時を得た雨。時雨。〔說苑、貴德〕子游曰、譬子產之與二夫子一、其猶三浸水之與二天雨一乎、浸水所レ及則生、不レ及則死、斯民之生也、必以二時雨一、既以生、莫レ愛二其賜一、故曰、譬子產之與二夫子一也、猶三浸水之與二天雨一乎。㊂元、張雨（4－9812・・42）の一名。

〖天雨血〗74（テンチヲフラス）　天が血をふらせる。〔漢書、五行志中之下〕佞人祿、功臣僇、天雨レ血。

〖天雨粟〗75（テンゾクヲフラス）　天が粟をふらせる。太陽が西から昇り、河が逆に流れると同樣に、あり得ぬ喩。〔史記、刺客傳贊〕世言、荊軻其稱二太子丹之命一、天雨レ粟、馬生レ角也。〔注〕索隱曰、燕丹求レ歸、秦王曰、烏頭白、馬生レ角乃許耳、丹乃仰レ天歎、烏頭卽白、馬亦生レ角、風俗通及論衡皆有二此說一。〔論衡、感虛〕傳書言、燕太子丹朝二於秦一、不レ得レ去、從二秦王一求レ歸、秦王執二留之一、與レ之誓曰、使二日再中、天雨レ粟、令三烏頭白、馬生レ角、廚門木象生二肉足一、乃得レ歸、當二此之時一、天地祐レ之、日爲二再中一、天雨レ粟、烏白レ頭、馬生レ角、廚門大象生二肉足一、秦王以爲レ聖、乃歸レ之、此言虛也。

〖天雨粟鬼夜哭〗76（テンゾクヲフラセキヨルコクス）　古、蒼頡が文字を作つた時、天は、人民が之によつて本を棄て末をつとめ、詐僞を事とする樣になり、耕作の業を棄てて餓ゑるであらうと悲しんで、粟をふらせ、鬼神が哭したといふ故事。〔淮南子、本經訓〕昔者蒼頡作レ書、而天雨レ粟、鬼夜哭。〔注〕蒼頡始視二鳥迹之文一造二書契一、則詐僞萌生、詐僞萌生、則去レ本趨レ末、棄二耕作之業一、而務二錐刀之利一、天知二其將レ餓、故爲レ雨レ粟。

【天雲】77（テンウン）　天の雲。又、高いことの形容。〔後漢書、諒輔傳〕未レ及二日中時一、而天雲晦合。〔曹植、七啓〕獨馳二思乎天雲之際一。〔謝靈運、述二祖德一詩〕達人貴二自我一、高情屬二天雲一。〔注〕善曰、天雲、言レ高也。

【天運】78（テンウン）　㊀天から授かつた運命。自然のまはりあはせ。天步。天造。〔六韜、武韜、順啓〕天運不レ能レ移。〔後漢書、公孫瓚傳論〕舍二諸天運一。㊁天體のめぐること。天の運行。〔莊子、天運〕天其運乎、地其處乎。〔釋文〕爾雅云、運、徙也、廣雅云、轉也。〔文子、道原〕天運地埒、輪轉而無レ廢。〔史記、天官書〕天運三十歲一小變、百年中變、五百載大變。〔渾天儀〕天運如二車轂一。㊂莊子の篇名。㊃年號。㋑明代、張普薇の僭年號。（1637）㋺清代、張丙の僭年號。（1831）

【天永】79（テンエイ）　㊀天の永命。永く天下を保つべき天の命。〔書、召誥〕欲下王以二小民一受中天永命上。㊁第七十四代鳥羽天皇の年號。（1110－1113）〔大江匡房勘文〕尚書曰、欲下王以二小民一受中天永命上。

【天英】80（テンエイ）　㊀妖星の名。〔呂覽、明理〕其星有二熒惑一、有二彗星一、有二天棓一、有二天欃一、有二天竹一、有二天英一、有二天干一。㊁美しい空の形容。〔張融、海賦〕山海藏レ陰、雲塵入レ岫、天英偏華、日色盈秀。㊂金、李經（6－14459・・285）の字。

【天裔】81（テンエイ）　清、陳潢（11－41698・・181）の字。

【天嬰】82（テンエイ）　仙藥の名。龍骨に似て痤を癒やすといふ。痤は、えのご、淋巴腺炎。〔山海經、中山經〕金星之山、多二天嬰一、其狀如二龍骨一、可二以已レ痤。

【天營】83（テンエイ）　星の名。紫微（8－27337・・378）の異名。〔晉書、天文志〕紫宮垣十五星、一曰二紫微一、大帝之座也、一曰二天營一。

【天妖】84（テンエウ）　天祆に同じ。〔呂覽、先識〕示二晉公一以二天祆一、日月星辰之行、多以レ不レ當。〔晉書、劉琨等傳贊〕天妖是徵、國恥奚雪。

【天祆】85（テンエウ）　天にあらはれるわざはひのしるし。又、天の爲す災。天妖。〔漢書、天文志〕太白出、蚤爲二月食一、晚爲二天祆及彗星一、將レ發二於亡道之國一。

【天役】86（テンエキ）　天の使役。天に使はれる者。〔書、大誥〕予造二天役一、遺レ大、投二艱于朕身一。〔蔡傳〕然我之所レ爲、皆天之所二役使一。

【天益】87（テンエキ）　字號。㊀清、黃學謙（12－47926・・1019）の字。㊁清、葉謙（9－31387・・41）の字。㊂清、呂謙恆（2－3386・・197）の字。

〖天益人〗88（アメノマスヒト）　天津神のめぐみを受けて日に日に榮え行く人。人民をいふ。〔祝詞式、大祓〕國中爾成出武天益人等。

【天悅】89（テンエツ）　宋、王豫（7－20823・・1032）の字。

【天鉞】90（テンエツ）　㊀星の名。天槍に同じ。〔晉書、天文志上〕天槍三星、在二北斗杓東一、一曰二天鉞一、天之武備也、故在二紫宮之左右一、所二以禦一レ難也。㊁氣の名。城中の東方に出て、黃色のもの。此の氣があらはれた時には、此の城を攻めてはならないといふ。〔海錄碎事、武、兵法〕城中氣出二東方一、其色黃、名二天鉞一、不レ可レ攻。

【天延】91（テンエン）　第六十四代圓融天皇の年號。（973－976）〔天延改元詔書〕古已維新、與レ民更始之意也、其改二天祿四年一、爲二天延元年一。

〖天延閣〗92（テンエンカク）　清、梅清（6－14830・・170）の室名。

【天淵】93（テンエン）　㊀天と淵。天地。〔詩、大雅、旱麓〕鳶飛戾レ天、魚躍二于淵一。〔漢書、敍傳上〕聲盈二塞於天淵一。〔揚雄、劇秦美新〕炎光飛響、盈二塞天淵之閒一。〔注〕善曰、項岱曰、上達二皇天一、下洞二重泉一。㊁懸隔の甚しい形容。〔張表、超然臺賦〕何善惡之足レ較兮、固天淵之異レ區。〔陸游、讀レ書示二子遹一詩〕望レ古雖二天淵一、視レ俗亦冰炭。㊂星の名。〔廣雅、釋天〕天淵謂二之紐玆一。〔張衡、週天大象賦〕天淵委二輸於南海一、狗國分二權於北幽一。〔張鏡、觀象賦〕其列皇之表、五車之閒、乃有二咸池・鴻沼・玉井・天淵・建樹・百果・竹林在一焉。㊃池の名。㋑河南省洛陽縣の東。一名、天泉。天泉（929）の㊁㋑を見よ。〔魏志、文帝紀〕黃初五年、穿二天淵池一。㋺江蘇省江寧縣の北。一名天泉。天泉（929）の㊃㋺を見よ。〔建康志〕宋元嘉二十三年鑿、一名天泉池、陳江總有二樺林園天淵池銘一、今宮城後法寶寺西南荒池、尙餘二一畝一、卽天淵池也。〔明一統志〕天淵池、在二江寧府華林

園中一、劉宋元嘉中鑿、沈約八詠有レ云、先泛二天淵池一。㊄明末、田斌の僭年號。〔歷代紀元編、上〕年次不明。

〔天淵之差〕94 テンエンノサ 高い空と低い淵との相違。甚しい相違。天地の差。雲泥之差。天淵の㊁を見よ。

〔天淵冰炭〕95 テンエンヒヨウタン 天と淵、冰と炭。隔たりの甚しい喩。〔陸游、讀レ書示二子遹一詩〕望レ古雖二天淵一、視レ俗亦冰炭。

【天厭】96 テンエン ㊀天がにくみ棄てる。〔左氏、隱、十一〕天而既厭二周德一矣。〔論語、雍也〕子見二南子一、子路不レ說、夫子矢レ之曰、予所レ否者、天厭レ之、天厭レ之。〔集注〕厭、棄絕也。㊁道家で忌み嫌つてたべない鳥。雁をいふ。〔爾雅翼、釋魚、鱧〕鱧魚、圓長而斑點有二七點一、作二北斗之象一、云云、鱧者、古人所レ重、今道家戒レ之、以二其首戴レ斗也、又指爲レ厭、故有二天厭雁・地厭犬・水厭鱧之說一。〔正字通〕鴈、又釋氏雁謂二之僧婆一、道家謂二之天厭一。

〔天厭子〕97 テンエンシ 蟲の名。竹蝨(**8**−**25841**··182)の異名。〔本草、竹蝨〕釋名、竹佛子・天厭子、集解、時珍曰、竹蝨、生二諸竹及草木上一、皆有レ之、初生如二粉點一、久便能動、百十成レ簇、形大如レ蝨。

【天演】98 t‘ien^1 yen^3 世界の生物が無形の競爭を續けて自然の進化を遂げること。進化。

〔天演界〕99 t‘ien^1 yen^3 chieh^4 進化界。

〔天演論〕100 t‘ien^1 yen^3 luen^4 ダーウヰンの進化論。

〔天演之公例〕101 t‘ien^1 yen^3 chih^1 kung^1 li^4 生存競爭のきまり。進化の原則。「を見よ。

【天緣】102 テンエン 自然に定まつてゐる緣。天緣奇遇

〔天緣奇遇〕103 t‘ien^1 yüan^2 ch‘i^2 yü^4 不思議な緣でめぐり合ふこと。〔桃花扇、棲眞〕這也是天緣奇遇。

〔天緣湊巧〕104 t‘ien^1 yüan^2 ts‘ou^4 ch‘iao^3 天緣奇遇に同じ。

【天燕】105 テンエン 星座の名。蠍座の南五十度にある小星座。風鳥座の中國名。

【天閹】106 テンエン 生れながらに生殖器の不完全なもの。閹は男子の去勢したもの。天宦。天閹黃門を見よ。

〔天閹黃門〕107 テンエンクワウモン 子のない男子をいふ。黃門は明代、子の無い者をいふ俗語。〔輟耕錄、黃門〕世有二男子一、雖レ娶レ婦、而終レ身無二嗣育者一、謂二之天閹一、世俗命レ之曰二黃門一。

【天怨】108 テンエン ㊀天が怨む。又、其の怨。〔莊子、天道〕知二天樂一者無二天怨一、無二人非一。〔疏〕德合二於天一、故無二天怨一、行順二於世一、故無二人非一。〔元史、宋本傳〕刑政失レ度、民憤天怨。㊁天に對する怨。〔韓詩外傳、十〕東海有二勇士一、曰二菑丘訢一、以二勇猛一聞二於天下一、遇二神淵一、曰、飲レ馬、其僕曰、飲二馬於此一者、馬必死、曰、以二訢之言一、飲レ之、其馬沈、菑丘訢去二朝服一、拔レ劍而入、三日三夜、殺二三蛟一龍一而出、雷神隨而擊レ之、十日十夜、眇二其左目一、要離聞レ之、往見レ之曰、訢在乎、曰、送二有レ喪者一、往見二訢于墓一曰、聞三雷神擊レ子十日十夜、眇二子左目一、夫天怨不レ全レ日、人怨不レ旋レ踵、至レ今弗レ報何也。

【天苑】109 テンエン ㊀星の名。勾曲九星の第二。畢星の南にある。〔史記、天官書〕其西有二句曲九星一、二曰二天苑一。〔注〕正義曰、天苑十六星、如二環狀一、在二畢南一、天子養二禽獸一所、稀暗則多二死亡一。〔後漢書、安帝紀〕永初三年十二月乙亥、有三星孛二于天苑一。〔注〕天苑、星名。〔晉書、天文志上〕天苑十六星、在二昴畢南一、天子苑囿養レ獸之所也。㊁天子の御苑。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕皇帝翊二四園於帝閑一、廻二六龍于天苑一。〔鄭愔、奉三和春日幸二望春宮一詩〕忽排二花上一遊二天苑一、却坐二雲邊一看二帝京一。

【天媛】110 テンエン ㊀たなばた。たなばたひめ。〔謝朓、七夕賦奉二護軍令一作〕步二廣庭一而延睞、屬二天媛之淹留一。〔海錄碎事、天、七夕〕天媛貪忙爲二靈匹一、幾時留レ巧向二人間一、劉子儀詩。㊁天女をいふ。〔崔融、嵩山啓母廟碑〕肅肅習習、天媛來二風雨一、雰雰霏霏、神姬下レ霜。

【天菀】111 テンエン 星の名。〔後漢書、天文志中〕孝安永初三年十二月、彗星起二天菀南一。

【天園】112 テンエン 星の名。天苑の南にある。〔張衡、週天大象賦〕天園曲列兮儲二芳樹一、天苑圓開兮畜二異禽一。〔晉書、天文志上〕苑南十三星、曰二天園一、植二果菜一之所也。〔宋史、天文志四〕天園十三星在二天苑南一、植二菜果一之處、曲而鉤、菜果熟。

【天遠】113 テンエン そらが遠い。〔杜甫、遣興詩〕地卑荒野大、天遠暮江遲。〔張鳴鶴、空賦〕雨盡天遠、雲空澗深。〔李賀、送二秦光祿北征一詩〕天遠星光沒、沙平草葉齊。

〔天遠樓〕114 テンエンロウ 明、徐顯卿(**4**−**10110**··408)の室名。

【天翁】115 テンヲウ 唐代、物語上の天の神。天のあるじ。〔酉陽雜俎、諾皐記上〕天翁、姓張、名堅、字刺渴、漁陽人、少不羈、無レ所二拘忌一、常張レ羅得二一白雀一、愛而養レ之、夢天劉翁責怒、每欲レ殺レ之、白雀輒以報レ堅、堅設二諸方一待レ之、終莫二能害一、天翁遂下觀レ之、堅盛設二賓主一、乃竊騎二天翁車一、乘二白龍一、振レ策登レ天、天翁乘二餘龍一追レ之、不レ及、堅既到二元宮一、易二百官一、杜二塞北門一、封二白雀一爲二上卿侯一、改二白雀之胤一、不レ產二於下土一、劉翁失レ治、徘二徊五嶽一、作レ災、堅患レ之、以二劉翁一爲二太山太守一、主二生死之籍一。〔韓愈、嗟哉董生行〕嗟哉董生孝且慈、人不レ識惟有二天翁知一。

【天應】116 テンオウ ㊀天が應ずる。又、上帝の感應。人事に對する天の應報。天の同意。〔公羊、桓、十四〕御廩災何以書記レ災也、注〕桓無下惻二痛於民一之心上、不レ重二宗廟之尊一、逆レ天危二先祖一、鬼神不レ饗、故天應以レ災二御廩一。〔國語、越語下〕范蠡對曰、人事至矣、天應未也。〔史記、三王世家〕天應甚彰。〔漢書、天文志〕必有二天應見レ杓。〔北史、崔浩傳〕天應人和。㊁年號。㋑五代の時、南詔の恭惠帝、鄭隆亶の時。(926−927) ㋺明の時、交趾の陳暠の僭年號。一に應天に作る。(1516) ㋩第四十九代光仁天皇の御代。(780−781)

〔天應節〕117 テンオウセツ 十一月五日。宋代、此の日に上帝を圜丘に祀る。〔宋史、禮志十五〕諸慶節、政和三年十一月五日、以修二祀事一、天眞示見、詔爲二天應節一。〔事物異名錄、歲時、十一月〕宋史、徽宗政和三年十一月六日、祀二上帝於圜丘一、太師奏二天神降格一、尋以二是日一爲二天應節一。

〔天應レ老〕118 テンマサニオイタルベシ 夜がふけたことをいふ。〔范成大、余與二陸務觀一自二聖政所一分レ袂云云詩〕月生二後夜一天應レ老、淚落二中巖一水不レ流。〔高啓、梅花詩〕春愁寂寞天應レ老、夜色朦朧月亦香。

〔天應政平〕119 テンオウセイヘイ 南宋の理宗の時、太祖、陳昊の年號。略して政平に作る。(1232−1240)

【天恩】120 テンオン ㊀造化の恩。上帝の惠。又、天子の恩惠。皇恩。君恩。〔後漢書、鄧隲傳〕上全二天恩一、下完二性命一。〔後漢書、班超傳〕天恩殊絕、誠非二小臣所レ當二被蒙一。〔晉書、劉琨傳〕猥蒙二天恩一、光授殊寵。〔張嘉貞、昆明池應制詩〕地脈山川勝、天恩雨露饒。㊁叢辰の名。德を施して下を寬くする辰。此の日は恩賞を施すなどによいとされてゐる。〔協紀辨方書、義例三、天恩〕天寶曆曰、天恩者、施レ德寬レ下之辰也、天有二四禁一、當レ開二一門一、甲爲二陽德一、配レ己成二養育之功一、故甲配レ子、己配二卯酉一、各五日而爲レ恩也、萬物非レ土不レ生、故以二己土一配レ甲成レ功、其日可下以施二恩賞一布二政事一、恤二孤惸一興中宴樂上。㊂北周、王德(**7**−**20823**··859)の字。

〔天恩日〕121 テンオンニチ 天から恩澤を下し萬民に幸福を垂れるといふ最上の吉日。陰陽家の語。〔運步色葉集〕天恩日、正丑・二黃・三卯・四辰・五巳・六午・七未・八申・九酉・十戌・十一亥・十二子。

【天下】122 テンカ ㊀あめがした。天宇。世界中。中國全土。又、一國內。〔易、乾〕乾元用九、天下治也。〔書、大禹謨〕奄二有四海一、爲二天下君一。〔大學〕國治而后天下平。〔論語、泰伯〕三以二天下一讓。〔孝經、開宗明義章〕先王有二至德要道一、以順二天下一。〔老子、二〕天下皆知二美之爲レ美、斯惡已。〔莊子、天下〕天下之治二方術一者多矣。〔荀子、勸學〕心利三之有二天下一。〔墨子、尙同下〕天子又總二天下之義一。㊁莊子の篇名。㊂㋑德川時代、將軍を指していふ。㋺我儘に振舞ふこと。

〔天下一〕123 テンカイチ 天下に比べるもののないこと。最もすぐれたもの。〔漢書、賈誼傳〕吳公爲二河南守一、治爲二天下第一一。

〔天下樂〕124 テンカガク 曲調の名。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕天下樂、只疑是銀河落二九天一。

〔天下貴〕125 テンカノキ 天下で一番貴いもの。〔老子、五十六〕不レ可二得而貴一、不レ可二得而賤一、故爲二天下貴一。〔注〕無三物可二以加一レ之也。

〔天下谿〕126 テンカノタニ 己を謙下して、天下で一番低

い地位に置くこと。天下の谷。〔老子、二十八〕知㆓其雄㆒守㆓其雌㆒、爲㆓天下谿㆒、爲㆓天下谿㆒、常德不㆑離、復㆓歸於嬰兒㆒。〔河上公注〕人能謙下如㆓深谿㆒、則德常在、不㆔復離㆓於己㆒。

【天下檢】127 テンカノケン　天下の凡ての人が手本とする法則。檢はのり。〔法言、修身〕天下有㆓三檢㆒、衆人用㆓家檢㆒、賢人用㆓國檢㆒、聖人用㆓天下檢㆒。〔注〕家人自以爲㆑法。

【天下口】128 テンカノクチ　天下の人の口。〔杜甫、故著作郎貶㆓台州司戶㆒滎陽鄭公虔詩〕文傳天下口、大字猶㆑在㆑榜。〔吳融、贈㆓方干處士㆒歌〕句滿㆓天下口㆒、名聒㆓天下耳㆒。

【天下谷】129 テンカノタニ　天下谿に同じ。谷は谿の大なるもの。〔莊子、天下〕知㆓其白㆒、守㆓其辱㆒、爲㆓天下谷㆒。

【天下才】130 テンカノサイ　天下にならびない才能を有する人。天下奇才(160)を見よ。〔國語、齊語〕夫管子天下之才也、所㆑在之國、則必得㆓志於天下㆒。

【天下宰】131 テンカノサイ　天下を治める人。〔漢書、陳餘傳〕項羽爲㆓天下宰㆒不㆑平、盡王㆓諸將善地㆒、徙㆓故王㆒王㆓惡地㆒。

【天下士】132 テンカノシ　天下の人の中での大人物。〔史記、魯仲連傳〕吾乃今日知㆔先生爲㆓天下之士㆒也。〔孔子家語、王言解〕因㆓天下之祿㆒、以富㆓天下之士㆒、此之謂㆓至賞不㆑費而天下之士悅㆒。〔高適、詠史詩〕不㆑知㆓天下士㆒、猶作㆓布衣㆒看。

【天下式】133 テンカノシキ　天下の模範。〔老子、二十二〕聖人抱㆑一、爲㆓天下式㆒。〔注〕式、猶㆑則㆑之也。

【天下主】134 テンカノシュ　天下の主人。天子。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕援㆓立陛下㆒、爲㆓天下主㆒、永安㆓漢室㆒、綏㆓靜四海㆒。

【天下樞】135 テンカノスウ　天下の樞要の地。〔戰國、秦策〕王若欲㆑霸、必親㆓中國㆒、而以爲㆓天下樞㆒。〔史記、范雎傳〕韓魏中國之處、而天下之樞也。〔李商隱、爲㆓尙書渤海公㆒擧㆑人自代狀〕伏以、京邑爲㆓四方之極㆒、咸秦乃天下之樞。

【天下笑】136 テンカノワラヒ　世の中のものわらひ。〔戰國、秦策〕身死國亡、爲㆓天下笑㆒。〔史記、伍子胥傳〕終爲㆓天下笑㆒耳。〔賈誼、過秦論〕身死㆓人手㆒、爲㆓天下笑㆒。

【天下先】137 テンカノサキ　天下の人々の先達。〔老子、六十七〕不㆔敢爲㆓天下先㆒、故能成㆓器長㆒。〔河上公注〕不㆑爲㆓天下首先㆒。〔漢書、景帝紀〕粢盛祭服、爲㆓天下先㆒。

【天下選】138 テンカノセン　天下の人の中から選ばれた立派な人。〔海錄碎事、人事、才能〕今執事之臣、皆天下之選已。

【天下則】139 t'ien^1 hsia^4 tsê^2　世界の模範。

【天下馬】140 テンカノウマ　天下に勝れた良馬。〔莊子、徐無鬼〕吾相㆑馬、直者中㆑繩、曲者中㆑鉤、方者中㆑矩、圓者中㆑規、是國馬也、而未㆑若㆓天下馬㆒也。

【天下法】141 テンカノハフ　天下の法度。〔漢書、高帝紀下〕太公曰、帝人主、奈何以㆑我亂㆓天下法㆒。

【天下半】142 テンカノハン　天下の半分。〔東方朔、與㆓公孫弘㆒借㆓車場㆒書〕呂望未㆘嘗與㆓文王㆒同㆑席而坐㆖、一朝讓以㆓天下半㆒。〔左思、吳都賦〕歘㆓硿乎數州之間㆒、灌㆓注乎天下之半㆒。

【天下母】143 テンカノハハ　❶萬物を生育する母。道をいふ。道家で道をいふ。〔老子、二十五〕可㆔以爲㆓天下母㆒。〔河上公注〕道育㆓養萬物精氣㆒、如㆓母之養㆑子。❷國の母主。國母。皇后。〔漢書、外戚下、孝武成趙皇后傳〕無㆘爲㆓天下母㆒之義㆖。〔後漢書、明德馬皇后紀〕詔曰、吾爲㆓天下母㆒、而身服㆓大練㆒。

【天下無】144 テンカニナシ　天下に比べられるものがない。天下無雙。〔蘇軾、菩提寺南漪堂杜鵑花詩〕南漪杜鵑天下無、披香殿上紅氍毹。

【天下雄】145 テンカノユウ　❶天下第一の英雄。〔史記、秦楚之際月表序〕故憤㆓發其所㆑爲㆓天下雄㆒、此乃傳之所謂大聖乎。❷天下に於て最も勝れたもの。〔馬祖常、壯遊詩〕京國天下雄、豪英盡㆓一世㆒。

【蓋㆓天下㆒】146 テンカヲオホフ　及ぶ所の廣大な喩。〔莊子、應帝王〕明王之治、功蓋㆓天下㆒、而似㆑不㆑自㆑己。〔淮南子、詮言訓〕功蓋㆓天下㆒。

【寄㆓天下㆒】147 テンカヲヨス　天下を寄託する。託㆓天下㆒に同じ。〔老子、十三〕故貴以㆑身爲㆓天下㆒者、可㆔以寄㆓天下㆒。

【棄㆓天下㆒】148 テンカヲスツ　天子の崩御をいふ。〔後漢書、順帝紀〕孝安皇帝、聖德明茂、早棄㆓天下㆒、陛下正統、當㆑奉㆓宗廟㆒。

【恐㆓天下㆒】149 テンカヲオソル　天の法度を恐れる。〔碁盤太平記〕天下を恐るる敵討。

【小㆓天下㆒】150 テンカヲセウナリトス　天下を小さなものと見る。眼界の廣いことにいふ。〔孟子、盡心上〕孟子曰、孔子登㆓東山㆒而小㆑魯、登㆓泰山㆒而小㆓天下㆒。〔集注〕此言㆓所㆑處益高、則其視㆑下益小、所㆑見旣大、則其小者不㆑足㆑觀也。

【託㆓天下㆒】151 テンカヲタクス　天下をゆだねる。寄㆓天下㆒に同じ。〔老子、十三〕愛以㆑身爲㆓天下㆒者、可㆔以託㆓天下㆒。

【呑㆓天下㆒】152 テンカヲノム　天下を併呑する。〔戰國、秦策〕可㆘以幷㆓諸侯㆒呑㆗天下㆖。

【眇㆓天下㆒】153 テンカニベウタリ　天下に高く秀でる。眇は高遠の意。〔荀子、王制〕彼王者不㆑然、仁眇㆓天下㆒、義眇㆓天下㆒、威眇㆓天下㆒。〔集解〕余謂、眇者高遠之稱、言㆘仁高㆓天下㆒、義高㆓天下㆒、威高㆗天下㆖耳。

【天下尤物】154 テンカノイウブツ　世の中のすぐれた物。〔梅譜〕梅天下尤物。

【天下有㆑道】155 テンカニミチアリ　天下に道が行はれ、よく治まること。〔禮、表記〕天下有㆑道、則行有㆓枝葉㆒。〔論語、季氏〕孔子曰、天下有㆑道、則禮樂征伐自㆓天子㆒出、天下無㆑道、則禮樂征伐自㆓諸侯㆒出。〔論語、微子〕天下有㆑道、丘不㆓與易㆒也。

【天下一家】156 テンカイツカ　天下の人が一家の人のやうに和すること。天下が統一せられて太平に治まること。〔禮、禮運〕故聖人耐以㆓天下㆒爲㆓一家㆒、以㆓中國㆒爲㆓一人㆒者、非㆑意㆑之也。〔後漢書、桓帝紀〕郡縣當㆘爲㆓飢餒者㆒儲㆗天下一家趣㆖。

【天下一統】157 テンカイツトウ　天下が一つに統べられること。〔漢書、異姓諸侯王表序〕天下一統、廼以㆑年數、訖㆓于孝文㆒、異姓盡矣。

【天下一品】158 テンカイツピン　天下にただ一つしかない品。他に雙びない品。

【天下皆春】159 テンカミナハル　世の中が春となる。〔鶡冠子、環流〕斗柄東指、天下皆春、斗柄南指、天下皆夏。

【天下奇才】160 テンカノキサイ　天下の人々にすぐれた才能。又、その才能のある人。司馬仲達が蜀の諸葛孔明を評した語。〔蜀志、諸葛亮傳〕及㆓軍退㆒、宣王案㆓行其營壘處所㆒曰、天下奇才也。

【天下喉咽】161 テンカノコウイン　天下で最も緊要な所。喉咽は、のど。樞要の地をいふ。〔漢書、顏延年傳〕河南天下喉咽。〔注〕師古曰、喉咽、言㆕其所㆑在襟要、如㆔人體之有㆓喉咽㆒也。

【天下國家】162 テンカコクカ　天下と國家。天下は中國全土、國は封建の一國、家はその大夫の家をいふ。〔孟子、離婁上〕孟子曰、人有㆓恆言㆒、皆曰、天下國家、天下之本在㆑國、國之本在㆑家、家之本在㆑身。

【天下三分】163 テンカサンブン　天下が三つに分れる。三國時代、魏・蜀・吳の三國鼎立をいふ。〔後漢書、獻帝紀〕劉備稱㆓帝于蜀㆒、孫權亦自王㆓於吳㆒、於㆑是天下遂三分矣。〔諸葛亮、前出師表〕今天下三分、益州罷敝、此誠危急存亡之秋也。

【天下之公】164 テンカノコウ　天下の公有するもの。〔蘇洵、春秋論〕賞罰者、天下之公也。

【天下之垢】165 テンカノコウ　天下中で一番けがれたもの。天下中で最もつまらないもの。〔莊子、天下〕人皆取㆑先、己獨取㆑後、曰㆑受㆓天下之垢㆒。〔注〕雖辱後下之類、皆物之所謂垢。

【天下之才】165′ テンカノサイ　天下にまれな才能。又、その才能のある者。〔國語、齊語〕夫管子天下之才也。

【天下之志】166 テンカノココロザシ　天下の人々の考。天下の人々の共通の志。〔易、同人〕唯君子爲㆔能通㆓天下之志㆒。〔疏〕唯君子之人、於㆓同人之時㆒、能以㆓正道㆒、通㆓達天下之志㆒。

【天下之身】167 テンカノミ　天下のすべての人々の身。

【公㆓天下之身㆒】167′ テンカノミヲオホヤケニス　天下のすべての人々の身を我が身の如く考へて、休戚を共にする。〔列子、楊朱〕公㆓天下之身㆒、公㆓天下之物㆒、其唯至人矣、此之謂㆓至至者㆒也。〔注〕天下之身、同㆓之我身㆒、天下之物、同㆓之我物㆒。

【天下之大】168 テンカノダイ　大きな天下。〔淮南子、說林訓〕以㆓天下之大㆒、託㆓於一人之才㆒。

【天下之鎭】169 テンカノチン　天下のしづめ。天下を鎭める人。〔魏志、常林傳〕將軍爲㆓天下之鎭㆒也。

【天下之望】170 テンカノバウ　天下の人々が仰望すること。天下の人望。〔魏志、武帝紀〕持㆑疑而不㆑進、失㆓天下之望㆒。

【天下之肥】171 テンカノヒ　天下が繁榮すること。〔孔子家語、禮運〕百姓以㆑睦相守、天下之肥也。

【天下之平】172（テンカノヘイ） 天下のはかり。天下の公平を保つもの。平は衡の意。〔漢書、張釋之傳〕今已下二廷尉一、廷尉天下之平也、壹傾、天下用レ法、皆爲レ之輕重、民安所レ錯二其手足一。

【天下之務】173（テンカノツトメ） 天下の時務。天下の施政。天下に於てなすべき仕事。〔宋書、顏延之傳〕天下之務、當下與二天下一共上レ之、豈一人之智所レ能。

【天下之祿】174（テンカノロク） 天下の富。〔孔子家語、王言解〕因二天下之祿一、富二天下之士一、此之謂二至賞一、不レ費而天下之士悅。

【天下眞花】175（テンカノシンクワ） 牡丹（**7**—**19933**・・16）の異名。〔歐陽脩、洛陽牡丹記、花品序〕花至二牡丹一則不レ名、直曰レ花、其意謂二天下眞花獨牡丹一。

【天下大變】176（テンカノタイヘン） 天下の大事變。〔蘇轍、陳州爲二張安道一論二時事一書〕是時天下雖二大變之後一、而無レ不下翹然想二聞德音一、以忘中其憂上。

【天下太平】177（テンカタイヘイ） 天下がよく治まつて平和なこと。天下泰平。〔禮、仲尼燕居〕言而履レ之禮也、行而樂レ之樂也、君子力二此二者一、以南面而立、夫是以天下太平也。〔呂覽、大樂〕天下太平、萬物安寧。〔漢書、路溫舒傳〕是以囹圄空虛、天下太平。〔後漢書、陳球傳〕天下太平、可二翹レ足而待一也。〔宋史、岳飛傳〕或問、天下何時太平、飛曰、文臣不レ愛レ錢、武臣不レ惜レ死、天下平矣。〔華嚴經〕天下太平、國土安穩。

【天下泰平】178（テンカタイヘイ） 天下太平に同じ。

【天下第一】179（テンカダイイチ） 天下で第一等。天下無雙。〔漢書、賈誼傳〕治平爲二天下第一一。〔後漢書、李忠傳〕三公奏レ課、爲二天下第一一。

【天下莫レ敵】180（テンカニテキナシ） 天下無敵に同じ。〔魏志、武帝紀〕公破レ紹、天下莫レ敵矣。

【天下文宗】181（テンカノブンソウ） 文章に於ける天下の宗。天下第一の大文章家。〔舊唐書、陳子昂傳〕此子必爲二天下文宗一矣、由レ是知レ名。

【天下模楷】182（テンカノボカイ） 天下の人の模範。模楷は、のり・てほん。〔後漢書、黨錮傳序〕學中語曰、天下模楷、李元體。

【天下亡雙】183（テンカムサウ） 天下無雙に同じ。〔漢書、李廣傳〕李廣材氣、天下亡雙。

【天下無雙】184（テンカムサウ） 天下にならぶ者がない。天下第一。〔史記、李將軍傳〕李廣才氣、天下無雙、自負二其能一、數與レ虜敵戰。〔後漢書、黃香傳〕遂博學二經典一、究二精道術一、能二文章一、京師號曰、天下無雙、江夏黃童。

【天下無レ道】185（テンカニミチナシ） 天下が亂れて道が行はれない。〔禮、表記〕故天下有レ道、則行有二枝葉一、天下無レ道、則辭有二枝葉一。〔注〕行有二枝葉一、所二以益レ德也、言有二枝葉一、是衆二虛華一也、枝葉依レ幹而生、言行亦由レ禮出。〔論語、季氏〕天下無レ道、則禮樂征伐、自二諸侯一出。

【天下無レ敵】186（テンカムテキ） 天下に匹敵するものが無い。天下莫レ敵。〔莊子、說劍〕王大說レ之曰、天下無レ敵矣。〔孔叢子、獨治〕必宗二此人一、天下無レ敵矣。

【天下名器】187（テンカノメイキ） 天下第一の寶器。〔戰國、秦策〕臣聞、周有二砥厄一、宋有二結綠一、梁有二懸黎一、楚有二和璞一、此四寶者、工之所レ失也、而爲二天下名器一。

【爲二天下笑一】188（テンカノワラヒトナル） 天下中の者の笑ひ草となる。〔戰國、齊策〕智伯卒身死國亡、爲二天下笑一。〔史記、蘇秦傳〕以二先生之故一、爲二天下笑一。〔新書、過秦上〕一夫作レ難而七廟墮、身死二人手一、爲二天下笑一者何也。〔鹽鐵論、非鞅〕卒車裂族夷、爲二天下笑一。

【爲二天下僇一】189（テンカノリクトナル） 大なる刑罰を受ける。天下の民に誅討せられる。僇は、戮に同じ。〔禮、大學〕有レ國者、不レ可二以不一レ愼、辟則爲二天下僇一矣。〔注〕邪辟失レ道、則有二大刑一。〔疏〕僇、謂二刑僇一也、君若邪辟、則爲三天下之民共所二誅討一。〔釋文〕僇、力竹反、與レ戮同。

【經二緯天下一】190（テンカヲケイヰス） 天下ををさめととのへる。〔史記、秦始皇紀〕普施二明法一、經二緯天下一、永爲二儀則一。

【掃二除天下一】191（テンカヲサウヂヨス） 世の中の邪惡を掃ひ清めて、正しく治めること。〔後漢書、陳蕃傳〕蕃年十五、嘗閑二處一室一、而庭宇蕪穢、父友同郡薛勤來候レ之謂レ蕃曰、孺子何不三洒掃以待二賓客一、蕃曰、大丈夫處レ世、當三掃二除天下一、安事二一室一乎。

【治二天下一匠】192（テンカヲヲサムルノシヤウ） 天下を治める匠人。政治を掌る人をいふ。匠は、大工・工人。〔輟耕錄、治二天下一匠〕耶律文正王楚材、云云、歸二於我朝一、從二太祖一征二伐諸國一、夏人常八斤者、以レ治レ弓見レ知二於上一、詫レ王曰、本朝尚レ武、而明公欲二以レ文進一、不二已左一乎、王曰、且治レ弓尚須二弓匠一、豈治二天下一不レ用下治二天下一匠上耶、上聞レ之喜。

【獨二步天下一】193（テンカニドツポス） 特にすぐれて、天下に追隨する者のないこと。他に類例のないこと。甚しく傑出すること。〔後漢書、戴良傳〕謝季孝問曰、子自視二天下一、孰可レ爲レ比、良曰、我若下仲尼長二東魯一、大禹出中西羌上、獨二步天下一、誰與爲レ偶。

【橫二行天下一】194（テンカヲワウカウス） 天下中を思ふままに步く。世の中で思ふ存分に我が儘をふるまふこと。又、思ふ存分に活動すること。〔史記、伯夷傳〕盜跖聚レ黨數千人、橫二行天下一、竟以レ壽終。〔北史、高昂傳〕男兒當下橫二行天下一、自取中富貴上。

【天下有二三危一】195（テンカニサンキアリ） 天下に三つの危いものがある。卽ち、德がなくて寵愛のあること、才がなくて高位に在ること、功が無くて厚祿あること。〔淮南子、人閒訓〕天下有二三危一、少レ德而多レ寵、一危也、才下而位高、二危也、身無二大功一而有二厚祿一、三危也。

【天下才子書】196（テンカサイシシヨ） 淸の金聖歎が批評を加へた六種の書。卽ち莊子・楚辭・史記・杜甫律詩・水滸傳・西廂記。此の中で西廂記・水滸傳のみ盛行し、餘は未だ業を卒へるに及ばなかつた。六才子書（**2**—**1453**・・658）を見よ。

【天下之安危】197（テンカノアンキ） 天下の安らかに治まることとあやふくなり亂れること。〔重野成齋、贈正四位佐久間象山先生碑〕先生一介士夫、而以レ身繫二乎天下之安危一。

【天下之綱紀】198（テンカノカウキ） 天下を保つてゆく法度。〔淮南子、泰族訓〕五帝三王之道、天下之綱紀、治之儀表也。

【天下之至奇】199（テンカノシキ） 天下に於て最もめづらしいもの。〔齋藤拙堂、下二岐蘇川一記〕蓋天下之至奇至美者、每在二於艱難危險之地一。

【天下之至美】200（テンカノシビ） 天下に於て最も美しいもの。天下之至奇を見よ。

【天下之宗師】201（テンカノソウシ） 天下の人々が、齊しく尊敬する師。博士の官をいふ。〔稱謂錄、博士、天下宗師〕朱浮上書曰、博士之官、爲二天下之宗師一。

【天下之大過】202（テンカノタイクワ） 世の中に於ける最も大きなあやまち。天下の大惡行。〔史記、太史公自序〕君不レ君、臣不レ臣、父不レ父、子不レ子、云云、此四行者天下之大過也。

【天下之達道】203（テンカノタツダウ） 天下古今に通じて人々の共に由る所の道。〔中庸〕天下之達道五、所二以行一レ之者三、曰、君臣也、父子也、夫婦也、昆弟也、朋友之交也、五者天下之達道也。〔章句〕達道者、天下古今所二共由一之路。

【天下盡知レ秋】204（テンカコトゴトクアキヲシル） 桐の一葉が落ちて天下の人々が皆秋を知る。一葉落知二天下秋一（**1**—**1**・・82）を見よ。

【天下第一州】205（テンカダイイチシウ） 北京の第一の關門たる州の意で、河北省通州（今の通縣）の異稱。

【天下都散漢】206（テンカトサンカン） 唐、呂洞賓（**2**—**3386**・・248）の號。

【天下同文集】207（テンカドウブンシフ） 書名。元、周南瑞編。四十四卷。原本五十卷。今、六卷を佚す。元代の文章を集めたもの。〔四庫提要、集部、總集類〕。

【天下逋逃主】208（テンカホタウノシユ） 天下の逃亡した罪人の主。亡命者の君主。紂の輩をいふ。〔書、武成〕今商王受無道、暴二殄天物一、害二虐烝民一、爲二天下逋逃主一、萃二淵藪一。〔傳〕逋、亡也、天下罪人逃亡者、而紂爲二魁主一。〔蔡傳〕紂殄レ物害レ民、爲二天下逋逃罪人之主一。

【天下無二冤民一】209（テンカニエンミンナシ） 裁判が公平で、天下中、無實の罪に處せられる人民がない。冤は、無實の罪。〔漢書、于定國傳〕張釋之爲二廷尉一、天下無二冤民一。

【天下無二棄物一】210（テンカニキブツナシ） 天下の物は皆利用せられて、一物でも棄てるべきものが無い。世間にすたり物は無い。〔老子、二十七〕是以聖人常善救レ人、故無二棄人一、常善救レ物、故無二棄物一。

【爲二天下大戮一】211（テンカノタイリクトナル） 天下の人々に辱かしめられる。天下の物笑となる。〔荀子、王霸〕身死國亡、爲二天下大戮一。〔注〕爲二天下大戮辱一也、春秋傳曰、古者明王伐二不敬一、取二其鯨鯢一而

封レ之、以爲二大戮一。

〔開二天下之口一〕212 天下の人をして口を開いて諫めさせること。忠言を好んで聞くこと。〔漢書、路溫舒傳〕唯陛下除二誹謗一、以招二切言一、開二天下之口一、廣二箴諫之路一。

〔笑二殺天下人一〕213 天下の人をひどく笑はせること。殺は、程度の甚しい意を表はす助語。〔唐書、鄭綮傳〕歎曰、萬一然、笑二殺天下人一。

〔無レ敵二於天下一〕214 天下に敵する者がない。天下の凡てが心服すること。〔孟子、公孫丑上〕如レ此則無レ敵二於天下一、無レ敵二於天下一者天吏也、然而不レ王者未二之有一也。

〔居二天下之廣居一〕215 身に仁を守ることの喩。廣居は、廣大なる居處、仁に喩へていふ。〔孟子、滕文公下〕居二天下之廣居一、立二天下之正位一、行二天下之大道一、得レ志與レ民由レ之、不レ得レ志獨行二其道一。〔集注〕廣居、仁也。

〔閉二箝天下之口一〕216 世人の口を閉ぢて發言させないこと。言論の自由を壓迫すること。〔漢書、爰盎傳〕君自閉二箝天下之口一、而日益レ愚。

〔天下郡國利病書〕217 書名。百二十卷。清、顧炎武撰。首に輿地山川を總論し、次に各省に及び、邊備・河套・西域・交趾・海外諸蕃入貢互市のことに至る。各省は別に細目に分れ、府州縣志及び歷代奏疏文集並に明代の實錄、人民の利害等に關することを隨錄す。四庫提要には未成の稿本とす。〔四庫提要、史、地理類存目一〕。

〔天下之惡歸二桀紂一〕218 天下の惡事はすべて夏の桀王、殷の紂王の所爲とせられた。惡人であると他人の惡事までなすりつけられる意。〔列子、楊朱〕天下之美、歸二之舜禹周公一、天下之惡、歸二之桀紂一。

〔天下之勢猶レ持レ衡〕219 天下の勢は、秤の平衡を保つてゐるやうなもので、平均を保つことが大切である。衡は、はかりのさを。〔唐書、李石傳〕天下之勢、猶レ持レ衡然、此首重則彼尾輕。

〔天下人交天下友〕220 t'ien^1 hsia^4 jen^2 chiao^1 t'ien^1 hsia^4 yu^3 天下の勝れた人物は天下の勝れた人物に交はる。天下之善士斯友二天下之善士一(244)に同じ。

〔天下誰人不レ識レ君〕221 天下に誰が君の高名を知らないものがあらうか。〔高適、別二董大一詩〕莫レ愁前路無二知己一、天下誰人不レ識レ君。

〔天下第六才子書〕222 清の金聖歎が批評を加へた西廂記をいふ。第六才子書(8－25943··107)を見よ。

〔天下的水往東流〕223 t'ien^1 hsia^4 tê shuei^3 wang^3 tung^1 liu^2 天下の水は東方に流れる。中國は地勢が西に山脈多く、東は海に面して一般に低いからである。

〔天下得二一知己一足〕224 天下に一人の知己を得れば十分である。〔吳志、虞翻傳、注〕翻別傳曰、云云、翻放二弃南方一云、自恨、疏節骨體不レ媚、犯レ上獲レ罪、當下長沒二海隅一、生無レ可二與語一、死以二青蠅一爲中弔客上、使二天下一人知レ己者、足二以不一レ恨。

〔天下兵馬大元帥〕225 官名。唐、置く。〔稱謂錄、八旗都統、天下兵馬大元帥〕玉海、唐、天寶末、置二天下兵馬大元帥都統朔方盧龍節度一、都統之名自レ此始。

〔天下名山僧占多〕226 天下の名山は、多くは僧徒が占有し、寺院を建立してゐる。〔通俗編、地理、天下名山僧占多〕韻府羣玉、占字下引レ此、云二唐人詩一。

〔以二天下一易二其脛毛一〕227 天下をすねの毛よりも輕侮する。〔孔叢子、抗志〕雖下以二天下一易中其脛毛上、無レ所レ概二於志一矣。

〔三二分天下一有二其二一〕228 天下の三分の二の地面を所有する。天下の大半を己が有とする。❶殷の紂王の時、周の文王は西伯となつて聖德があり、文王に歸する者が漸く多く、遂に天下の三分の二を有するに至つたこと。〔論語、泰伯〕三二分天下一有二其二一、以服二事殷一、周之德、其可レ謂二至德一也已矣。❷漢の高祖の故事。〔史記、太史公自序〕使下漢三二分天下一有二其二一、以滅中項籍上。

〔天下熙熙皆爲レ利來〕229 天下の人は皆喜んで利益を逐うて來る。熙熙は、和悅のさま。〔史記、貨殖傳〕天下熙熙皆爲レ利來、天下攘攘皆爲レ利往。

〔天下難事必作二於易一〕230 天下の難事は必ずなんでもない極めてつまらない事から起る。〔老子、六十三〕天下難事、必作二於易一、天下大事、必作二於細一。〔河上公注〕欲レ爲二大事一、必作二於小一、禍亂從レ小來也。

〔天下不レ可二一日無一レ君〕231 天下には一日として君主がなくてはならぬ。〔魏志、文帝紀、注〕堯損二骨肉一、而禪二有虞一、終無二恡色一、舜發二隴畝一、而君二天下一、若二固有一レ之、其相受授、間不二替漏一、天下已傳矣、所三以急二天命一、天下不レ可二一日無一レ君也。

〔天下無二不レ是底父母一〕232 此の世に惡い親は無い。底は、助辭、「の」に當る。〔小學、嘉言〕羅仲素論下瞽瞍底レ豫、而天下之爲二父子一者定上云、只爲三天下無二不レ是底父母一、了翁聞而善レ之。

〔稱二量天下一繩二墨四海一〕233 秤で物をはかり、墨繩で曲直を正すやうに、法則で天下を正し治める。〔後漢紀〕執レ銓提レ衡、稱二量天下之人一、揚レ清激レ濁、繩二墨四海之士一。

〔天下有レ道卻二走馬一以糞〕234 天下に大道が行はれて太平無事な時には、軍用の駿馬も用がないから、卻けて農馬とし、耕作の用に供する。〔老子、四十六〕天下有レ道、卻二走馬一以糞、天下無レ道、戎馬生二於郊一。〔河上公注〕糞者、糞レ田也、兵甲不レ用、卻二走馬一治二農田一。

〔天下之禍莫レ甚二於殺一レ人〕235 人を殺すことが、天下最大の禍である。〔避暑錄話〕天下之禍、莫レ甚二於殺一レ人、爲二陰德一者、亦莫レ大二於活一レ人。

〔天下之大事必作二於細一〕236 天下の大事件は、必ず微細な事から起る。天下難事必作二於易一(230)を見よ。

〔天下之美歸二舜禹周孔一〕237 天下の善事は、皆、帝舜・夏禹・周公・孔子の所爲とせられた。立派な人には他人のした善事まで其の人の爲事とせられる。天下之惡歸二桀紂一(218)を見よ。

〔天下者祖宗之天下也〕238 天下は先祖相傳の天下で、現在の天子一人のものでない。天下之天下非二獨陛下之天下一(245)を見よ。〔胡銓、上二高宗一封事〕夫天下者、祖宗之天下也、陛下所レ居之位、祖宗之位也、奈何以二祖宗之天下一、爲二犬戎之天下一、以二祖宗之位一、爲二犬戎藩臣之位一。

〔天下英雄唯使君與レ操耳〕239 天下に蜂起してゐる群雄のうちで、眞の英雄は只、君と吾輩曹操との二人だけである。〔蜀志、先主劉備傳〕曹公從容謂二先主一曰、今天下英雄、唯使君與レ操耳、本初之徒、不レ足レ數也、先主方食、失二匕箸一。

〔天下之所二以平一者政平也〕240 天下が太平であるのは政治が公平であるからである。〔子華子、北宮子仕〕天下之所二以平一者、政平也、政之所二以平一者、人平也、人之所二以平一者、心平也。

〔天下不レ如レ意恒十居二七八一〕241 天下の事柄は、思ふ通りにならぬことが十中の七八を占めてゐる。〔晉書、羊祜傳〕祜請レ伐レ吳、議者多不レ同、祜歎曰、天下不レ如レ意、恒十居二七八一。

〔天下本無事庸人擾レ之耳〕242 天下は本來太平無事であるのに、凡人がこれを亂すのだ。〔唐書、陸象先傳〕嘗曰、天下本無事、庸人擾レ之爲レ煩耳、第澄二其源一、何憂レ不レ簡邪。

〔天下安注二意相一天下危注二意將一〕243 治平の時には宰相を思ひ、危殆の時には將帥を思ふ。時に隨つて心の用ひ方が異なること。〔史記、陸賈傳〕陸生曰、天下安注二意相一、天下危注二意將一。

〔天下之善士斯友二天下之善士一〕244 天下の勝れた人物は天下の勝れた人物を友とし交はる。〔孟子、萬章下〕孟子謂二萬章一曰、一鄕之善士、斯友二一鄕之善士一、一國之善士、

斯友二一國之善士一、天下之善士、斯友二天下之善士一。

〔天下之天下非二獨陛下之天下一〕245 天下は天下の共有で、陛下が獨占する天下でない。天下者祖宗之天下也（238）・天下非二一人之天下一天下之天下（249）を見よ。〔魏志、高堂隆傳〕由レ此觀レ之、天下之天下、非二獨陛下之天下一也。

〔天下不レ患レ無レ臣患レ無二君以使一レ之〕246 天下の患は賢臣が無いことではなく、賢臣を使ふ明君が無いことである。〔管子、牧民〕天下不レ患レ無レ臣、患レ無二君以使一レ之、天下不レ患レ無レ財、患レ無二人以分一レ之。

〔以二天下之目一視、以二天下之耳一聽〕247 人主は、己の耳目を用ひないで、天下衆人の耳目に依つて視聽せねばならぬ。天下の人々をして十分に能力を發揮させて、之を用ゐることをいふ。〔淮南子、主術訓〕人主者以二天下之目一視、以二天下之耳一聽。

〔以二天下一與レ人易、爲二天下一得レ人難〕248 國家を人に讓り與へることは容易であるが、國家を治める爲に人物を得ることは難い。〔孟子、滕文公上〕分レ人以レ財謂二之惠一、教レ人以レ善謂二之忠一、爲二天下一得レ人者謂二之仁一、是故以二天下一與レ人易、爲二天下一得レ人難。

〔天下非二一人之天下一〕249 天下は天下の人々の共有で、君主一人の占有ではない。天下之天下非二獨陛下之天下一（245）を見よ。〔六韜、文韜、文師〕太公曰、天下非二一人之天下一、乃天下之天下也、同二天下之利一者、則得二天下一、擅二天下之利一者、則失二天下一。〔呂覽、貴公〕天下非二一人之天下一也、天下之天下也、陰陽之和、不レ長二一類一、甘露時雨、不レ私二一物一、萬民之主、不レ阿二一人一。

〔先二天下之憂一而憂、後二天下之樂一而樂〕250 志士仁人は天下國家の憂を、天下の人の未だ憂へない前に憂へ、天下國家の樂を天下の人の樂しんだ後に樂しむ。一身の憂樂を以て憂樂としないこと。〔范仲淹、岳陽樓記〕居二廟堂之高一、則憂二其民一、處二江湖之遠一、則憂二其君一、是進亦憂、退亦憂、然則何時而樂耶、其必曰下先二天下之憂一而憂、後二天下之樂一而樂上歟。〔宋名臣言行錄、范仲淹〕公少有二大節一、云云、而慨然有レ志二於天下一、常自誦曰、士當下先二天下之憂一而憂、後二天下之樂一而樂上也。

〔天家〕251 天下を以て家となす者の意。天子をいふ語。〔後漢書、曹節傳〕車馬服玩、擬二於天家一。〔獨斷〕天家、百官小吏之所レ稱、天子無レ外、以二天下一爲レ家、故稱二天家一。〔晉書、胡奮傳〕歷二觀前代一、與二天家一婚、未レ有二不レ滅レ門者一、但早晚事耳。〔韓翃、贈二張千牛一詩〕蓬萊闕下是天家、上路新回白鼻騧。

【天嘉】252 ❶天帝が嘉みする。〔宋書、符瑞志下〕天嘉二明懿一、民樂二薰風一。❷年號。㋑陳、文帝、陳蒨の時。(560－566) ㋺宋、寧宗の時、安南の高宗、李龍翰の年號、天資寶祐の一稱。(1202－1205)

【天霞】253 ❶霞をいふ。霞は日光が低空の雲霧を照して生ずる紅色の光彩。〔孟郊、和二薔薇花歌一〕天霞落レ地攢二紅光一、風枝嫋嫋時一颺。❷清、朱雲煇(6－14424··673)の字。

【天鰕】254 水蟲の名。大飛蟻に似、小翅があつて飛ぶ。〔桂海虞衡志、志蟲魚〕天鰕、狀如二大飛蟻一、秋社後有二風雨一、則羣墮二水中一、有二小翅一、人候二其墮一、掠二取之一爲レ鮓。

【天河】255 ❶あまのがは。晴夜、天空に河のやうに見える灰白色の星雲。銀河。天漢。天江。天杭。天潢。〔爾雅、釋天〕析木謂二之津一、箕斗之閒、漢津也、〔疏〕箕斗之閒、是天漢之津也、劉炫謂、是天漢卽天河也。〔詩、大雅、雲漢、箋〕雲漢、謂二天河一也。〔韓非子、飾邪〕天河、殷搶、歲星。〔物理論〕天河、水之精也、氣發而升、精華浮上、宛轉隨レ流、名曰二天河一也。❷星の名。山林の妖變を察する星。〔晉書、天文志上〕天高西一星曰二天河一、主レ察二山林妖變一。❸縣名。唐、置く。古の蠻地。廣西省宜山縣の北。故城は今治の北。元、今治の西南に徙し、明、今治に徙す。〔明一統志〕天河縣、在二慶遠府城北九十里一。〔讀史方輿紀要、廣西、慶遠府〕天河縣、府北九十里、云云、唐武德中、置二天河縣一、屬二粤州一、尋屬二宜州一、宋因レ之、大觀初、改隸二融州一。〔清史稿、地理志〕廣西、慶遠府、縣三、天河。

〔天河海〕256 湖の名。一名、羚海。廣東省新會縣。〔廣州府志〕其水源自二廣西大江一來、至二肇慶一而下。

〔天河口〕257 鎭の名。湖北省鄖西縣。天河が漢水に入る口。

〔天河生〕258 芋頭をいふ。おやいも。〔詞林海錯〕康巢縣、呼二芋頭一爲二天河生一。

〔天河石〕259 鑛物の名。微斜長石中の綠色をなすもので、飾に用ひられる石。

〔天河釣叟〕260 明、世宗(1－31··225)の「號。

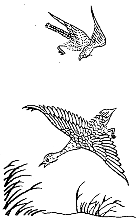
〔天河南北〕261 tʻien¹ hê² nan² pei³ 天の川が南北に出ると、其の年は暑氣が嚴しい。河南の農諺。

〔天河東西小娃哼喞〕262 tʻien¹ hê² tung¹ hsi¹ hsiao³ wa² hêng¹ chi¹ 天の川が東西に出れば、其の年は寒氣が烈しくて、小兒がうなりむづかる。河南の農諺。

【天峩】263 縣名。民國二十五年、置く。廣西省凌雲縣の東北。もと凌雲・鳳山・南丹三縣の所屬。

【天蛾】264 昆蟲の名。❶夏秋の閒、群飛し、夜は燈火を尋ねて集まる。ひとりむし。〔岳陽風土記〕岳州、夏秋水漲、卽生二飛蛾一、蔽レ空而飛、夜見レ明卽投、至レ不レ可レ燃レ燭、雖二樽俎之閒一、須臾徧滿、久レ之復投二水中一、俗謂二天蛾一。❷えびがらすずめ。ゆふがほべつたう。幼蟲は甘藷・朝顏等の葉を食ふ。

【天鵝】265 ❶鵠。くぐひ。白鳥。〔本草、鵠〕釋名、天鵝、時珍曰、吳僧贊寧云、凡物大者皆以レ天名、天者大也、則天鵝名義、蓋亦同レ此。〔李商隱、鏡檻詩〕撥レ弦驚二火鳳一、交レ扇拂二天鵞一。〔元史、祭祀志三〕正月特祭二太廟一、用二馬一牛一、羊鹿野豕天鵝各七一。〔袁桷、支家口詩〕蕩底天鵝雜二櫓聲一、南鄉今有二幾長亭一。❷星座の名。琴座の東に在る。白鳥座。


❶天鵝（三才圖會）

〔天鵝絨〕266 tʻien¹ ê² jung² 毛を立て揃へて織つた一種の織物。ビロード。南京で製織せられるものに建絨（黑色）・漳絨（黑色、衣料）・珠絨（雜色）・獺絨等の種類がある。

〔天鵝縐〕267 tʻien¹ ê² chou⁴ 南京地方で製織せられる薄手のビロード。宣統の始、魏某の發明したもの。

【天戒】268 天のいましめ。又、天がいましめる。天誡。天械。〔書、胤征〕先王克謹二天戒一。〔公羊、僖、十五〕天戒レ之、故大レ之也。〔漢書、元帝紀〕思二天戒一、愼レ身修レ永。〔後漢書、天文志上〕顯二天戒一、明二王事一。

【天界】269 ❶おほぞら。天空。〔陶潛、己酉歲九月九日詩〕清氣澄二餘滓一、杳然天界高。〔張融、海賦〕淹二漢星虛一、滲二河天界一。❷[佛]天に在る世界。天上界。〔劉潛、平等刹下銘序〕天界飾二其四圍一、龍宮陳二其七寶一。〔韋應物、同二元錫題二瑯琊寺一詩〕花香天界事、松竹人閒別。

【天海】270 ❶虛空をいふ。空の廣さを海に喩へていふ。〔孔稚珪、褚先生百玉碑文〕子晉笙歌、馭二鳳於天海一、王喬雲擧、控二鶴於元都一。❷天と海。〔李商隱、柳枝詩序〕作二天海風濤之曲、幽憶怨斷之音一。〔白居易、讀二謝靈運一詩〕大必籠二天海一、細不レ遺二草樹一。❸非常に隔たつてゐる喩。〔張問陶、詩〕天海弟兄遙。❹星の名。壁の西南にある。天池。三池。〔晉書、天文志上〕九坎閒十星曰二天池一、一曰二三池一、一曰二天海一。〔甘氏星經〕天海十星、在二壁西南一。

〔天海樓〕271 清、李懿曾(6－14459··836)の室名。

【天械】272 天のいましめ。天戒。〔韓愈・孟郊、雨中寄二孟刑部幾道一聯句〕美君知二道腴一、逸步謝二天械一。

【天開】273 ❶天がひらける。からつと打ち開ける。〔郭璞、江賦〕巘如二地裂一、豁若二天開一。〔盧仝、楊子津詩〕鵬騰鼇倒且快レ性、地坼天開總是閑。❷年號。㋑北宋、仁宗、趙禎の時、高麗の妙清の僭號。(1035) ㋺南宋の寧宗の時、後理（南詔）の神宗、段智祥の年號。一に天轄・天開仁壽

に作る。(1205－1238)

【天開眼】274 テンカイガン　天空に現はれる奇異の光輝。黃道光(12－47926・・614)を見よ。〔欒郊私語〕己亥秋九月晦、余曉詣二嘉禾一、時曉星猶在二樹杪一、忽西南天裂數十百丈、光燄如二猛火一、照二徹原野一、若下金融二於冶鑄一者上、少時方合、操レ舟謂レ予、此天開眼也。

【天開縣レ物】275 テンヒラケテモノヲカク　天が裂けひらけて物の姿が現れることをいふ。〔史記、天官書〕天開縣レ物、地動坼絕。〔注〕集解曰、孟康曰、謂三天裂而見二物象一。

【天開仁壽】276 テンカイジンジュ　南宋、寧宗の時、後理(南詔)の神宗、段智祥の年號。天附の一稱。又、天轄にも作る。(1205－1238)

【天開圖畫】277 テンカイヅグワ　亭の名。㊀江蘇省儀徵縣。〔宋詩紀事引儀眞縣志〕姚伯愿使君、築二亭眞州子城西北隅一、盡得二江山之勝一、乞二名于四明王正己一、因誦二山谷天開圖畫卽江山之句一、遂以名レ亭。㊁江西省玉山縣。〔明一統志〕天開圖畫亭、在二廣信府玉山縣治一、南宋邑人韓祥築。

【天開圖畫樓】278 テンカイトグワロウ　清、郭柏蔭(11－39474・・399)の室名。

【天階】279 テンカイ　㊀天に登るきざはし。轉じて、天子の左右にある省閣をいふ。〔潘尼、贈二侍御史王元貺一詩〕游鱗萃二靈沼一、撫レ翼希二天階一。〔注〕良曰、靈沼・天階、喩二左右省閣一也。〔沈約、爲二柳兗州世隆一上二舊宮一表〕故能屬二輦道於天階一、命二帝闕於霄路一。〔韋應物、雜體詩〕豈非二至賤物一、一奏升二天階一。㊁星の名。三台星をいふ。〔黃帝占〕三台爲二天階一。

【天解】280 テンカイ　天意を明かに知ること。物の道理を明かに知ること。〔淮南子、原道訓〕故窮二無窮一、極二無極一、照レ物而不レ眩、響應而不レ乏、此之謂二天解一。故得レ道者、志弱而事強、心虛而應當。〔宋書、天竺迦毘黎國傳〕故甘辭興二於有レ欲、而滅二於悟レ理、淡說行二於天解一、而息二於貪僞一。

【天誡】281 テンカイ　天のいましめ。天戒に同じ。〔漢書、成帝紀〕公卿申敕二百寮一、深思二天誡一、有下可三省減便二安百姓一者上、條奏、所三振二貸貧民一勿レ收。

【天害】282 テンガイ　自然の災害。天災。〔公羊、襄、九、宋火、疏〕春秋之義、不レ記二人火一、火者、皆是天害也。

【天涯】283 テンガイ　天のはて。極めて遠いところ。天倪。〔論衡、率性〕源從二天涯一。〔張九齡、南還以レ詩代レ書贈二京都舊寮一詩〕故園從二海上一、良友邈二天涯一。〔杜甫、野望詩〕海內風塵諸弟隔、天涯涕淚一身遙。

【天涯海角】284 テンガイカイカク　㊀天のはてと海のすみ。極めて遠い地。〔遊宦記聞〕今之遠宦及遠服賈者、皆云二天涯海角一、蓋言レ遠也。㊁書名。一卷。撰者未詳。〔宋史、藝文志五〕天涯海角經一卷、不レ知二作者一、九江李麟注解。

【天涯地角】285 テンガイチカク　天のはてと地のすみ。極めて遠いところ。〔徐陵、武皇帝作レ相時與二嶺南酋豪一書〕天涯藐藐、地角悠悠。〔韓愈、祭二十二郎一文〕一在二天之涯一、一在二地之角一。〔閻朝隱、晴虹賦〕挂二天涯一而臨二地角一。

【天涯若二比鄰一】286 テンガイヒリンノゴトシ　遠隔の地も考へ方によつては隣家のやうに近く思はれること。〔王勃、杜少府之二任蜀州一詩〕海內存二知己一、天涯若二比鄰一。

【天街】287 テンガイ　㊀星の名。昴星と畢星との間に在る。〔史記、天官書〕昴畢閒爲二天街一、其陰陰國、陽陽國。〔後漢書、蘇竟傳〕天街歲星、不レ舍二氐房一。〔晉書、天文志上〕昴西二星曰二天街一。㊁都中の街道。みやこおほぢ。〔裴夷直、和二周侍御洛城雪一詩〕天街飛轡踏二瓊英一、四顧全疑在二玉京一。㊂佛の居る所。〔梁元帝、梁安寺刹下銘〕觀二慧樓一而下拜、望二天街一而興善。

【天蓋】288 テンガイ　㊀天。地をおほふそら。〔後漢書、延篤傳〕不レ知二天之爲レ蓋、地之爲一レ輿。〔獨孤及、季冬自二嵩山一赴レ洛道中作〕天蓋西北傾、眾星隕如レ雨。㊁佛佛具の名。佛龕や棺の上に懸けるおほひ。もと佛の頭上を蓋うて、雨露塵埃を避ける意を寓したもの。〔菩薩處胎經〕天繪天蓋懸二處處虛空一。㊂南齊、吳苞(2－3365・・348)の字。㊃㋑虛無僧のかぶる藺草製の深編笠。轉じて、虛無僧の稱。㋺武具。指物の名。㋩鮹のこと。僧の隱語。

【天巧】289 テンカウ　自然のたくみ。天工。〔韓愈、答二孟郊一詩〕規模背二時利一、文字覰二天巧一。〔王炎、冬雪行〕玉妃剪レ水出二天巧一、飛花萬點爭二清妍一。㈡大建築物の天井をいふ。

【天江】290 テンカウ　あまのがは。天河。天漢。〔晉書、天文志上〕天津九星、橫二河中一、一曰二天漢一、一曰二天江一。

【天行】291 テンカウ　㊀天の運行。又、天道の流行。〔莊子、刻意〕聖人之生也天行、其死也物化。〔疏〕其生也如二天道之運行一、其死也類二萬物之變化一。〔荀子、天論〕天行有レ常。〔注〕天自有二常行之道一也。〔揚雄、甘泉賦〕歷二吉日一協二靈辰一、星陳而天行。〔唐書、歷志三上〕三代之興、皆揆二測天行一、考二正星次一。㊁時節によつて流行する病氣。時のけ。はやりやまひ。天行赤目を見よ。㊂字號。㋑明、丁乾學(1－2・・248)の字。㋺清、查日乾(6－14643・・99)の字。

【天行健】292 テンカウケン　天體の運行のすこやかなこと。日月星辰、春夏秋冬が順序正しく進むこと。以て自強不息の戒とする。〔易、乾〕天行健、君子以自彊不レ息。〔疏〕天行健者、謂三天體之行、晝夜不レ息、周而復始、无二時虧退一、故云二天行健一、此謂二天之自然之象一。

【天行仙】293 テンギヤウセン　佛德が高く體が堅固な仙人。〔楞嚴經・八〕堅固津液而不二休息一、潤德圓成名二天行仙一。

【天行眼花】294 t‘ien^{1} hsing^{2} yen^{3} hua^{1}　はやりめ。天行赤目を見よ。

【天行時氣】295 テンカウジキ　流行病をいふ。〔千金方〕凡冬月忽有二大熱之時一、夏月忽有二大涼之時一、皆勿レ受レ之、有下患二天行時氣一者上、皆由レ犯レ此也。

【天行赤熱】296 テンカウセキネツ　眼病の一種。はやりめ。〔證治準繩、天行赤熱〕目赤痛、或脾腫頭重、怕レ熱羞レ明、涕淚交流等證、一家之內、一里之內、往往老幼相傳者、是也。

【天行赤目】297 テンカウセキモク　眼病の一種。はやり目。〔危亦林得效方、外障四十五證〕天行赤目、目忽赤腫、晨昏痛澀、長幼相似、此天行時疾、宜下服二瀉肝散一、洗以中五行湯上。

【天行斑瘡】298 t‘ien^{1} hsing^{2} pan^{1} ch‘uang^{1}　痘瘡。あばた。

【天行不レ信不レ能レ成レ歲】299 テンカウシンナラザレバトシヲナスアタハズ　日月星辰の運行が法則に從はず、其の常を失ふ時には、五穀が十分にみのることが出來ない。〔呂覽、貴信〕天行不レ信、不レ能レ成レ歲、地行不レ信、草木不レ大。

【天吭】300 テンカウ　天の喉。〔盧肇、海潮賦〕孰觀二地喙一乎、深泉之涯、孰指二天吭一乎、巨海之窟。

【天岡】301 テンカウ　星の名。北斗星をいふ。天罡(312)に同じ。

【天幸】302 テンカウ　上天のめぐみ。〔莊子、漁父〕孔子又再拜而起曰、今者丘得レ遇也、若二天幸一然。〔戰國、燕策〕齊不幸、而燕有二天幸一也。〔淮南子、道應訓〕臣有二天幸一。〔史記、霍去病傳〕軍亦有二天幸一。〔王維、老將行〕衞青不レ敗由二天幸一、李廣無レ功緣二數奇一。

【天昊】303 テンカウ　歲陰の名。〔漢書、天文志〕太歲在レ丑曰二赤奮若一、十二月出、石氏曰、名二天昊一。

【天杭】304 テンカウ　天の河。天河。天漢。〔太玄經、劇〕海水羣飛、蔽二於天杭一。〔注〕天杭、天漢也。

【天郊】305 テンカウ　南郊に天をまつる祭の名。大郊。〔後漢書、禮儀志上〕正月、天郊夕牲。〔晉書、禮志上〕天郊所レ祭曰二皇天之神一。

【天香】306 テンカウ　㊀天から起る香。勝れてよいかをり。〔庾信、奉二和同泰寺浮圖一詩〕天香下二桂殿一、仙梵入二伊笙一。〔李綱、蓮花賦〕貯二盈盈之眞色一、汎二苒苒之天香一。〔沈佺期、樂城白鶴寺詩〕潮聲迎二法鼓一、雨氣濕二天香一。㊁新年・節句、其の他朔望等に香を焚いて天を敬すること。又、其の香。〔夢粱錄、元旦大朝會〕元旦侵晨、禁中景陽鐘罷、主上精虔炷二天香一。〔王惲、三山元日詩〕臺爇天香簇二絳紗一、三山簫鼓樂二年華一。㊂詞牌の名。〔詞譜〕法苑珠林云、天童子天香甚香、調名本レ此。

【天香閣】307 テンカウカク　室名。㊀清、唐之鳳(2－3709・・425)の室名。㊁清、張澤瑊(4－9812・・1338)の室名。

【天香菜】308 テンカウサイ　蔬菜の名。苦菜(9－30797・・105)の異名。にがな。〔本草、苦菜〕釋名、天香菜、集解、時珍曰、苦菜、卽苦蕒也、家栽者呼爲二苦苣一、實一物也。

【天香桂花】309 テンカウケイクワ　月の中に生えてゐるといふ桂。〔長生殿、十二齣〕好個霓裳羽衣、非二虛假一、

果合ニ伴天香桂花一。

〔天香國色〕310 テンカウコクシヨク 牡丹(**7**−**19933**‥16)の異名。天下第一のかをりと、國中一等の美色とを有つとの意からいふ。〔唐詩紀事、李正封〕唐文皇好レ詩、大和中賞ニ牡丹一、上謂ニ程脩己一曰、今京邑人傳ニ牡丹詩一、誰爲ニ首出一、對曰、中書舍人李正封詩、天香夜染レ衣、國色朝酣レ酒。〔書言故事、花木類〕牡丹曰ニ天香國色一。

〔天香書屋〕311 テンカウシヨヲク 室名。❶清、翁嵩年(**9**−**28635**‥81)の室名。❷清、王圖炳(**7**−**20823**‥1977)の室名。

【天罡】312 テンカウ ❶星の名。北斗星。〔參同契〕二月、榆魁臨ニ于卯一、八月、麥生天罡據レ西。〔注〕卽北斗也。❷叢辰の名。十二月將の一。日と月とが八月に辰宮に於て相會するをいふ。月將(**5**−**14330**‥165)の❷・十二月將(**2**−**2695**‥420)を見よ。

【天高】313 テンカウ ❶天が高い。又、秋空の高く澄みわたつてゐるのをいふ。〔詩、小雅、正月〕謂ニ天蓋高一、不ニ敢不一レ局、〔箋〕局蹐者、天高而有ニ雷霆一、地厚而有ニ陷淪一也。〔謝靈運、初去レ郡詩〕天高秋月明。❷星の名。㋑畢宿の第五星をいふ。邊將。〔晉書、天文志上〕畢八星、主ニ邊兵一、主ニ弋獵一、其大星曰ニ天高一、一曰ニ邊將一。㋺望氣之臺ともいふ。〔觀象玩占〕天高四星、諸王南、參旗西北、一曰ニ望氣之臺一。

〔天高氣清〕314 テンタカクキキヨシ 秋の空が高く、氣が清く澄みわたるをいふ。〔楚辭、宋玉、九辯〕悲哉秋之爲レ氣也、云云、天高而氣清。

〔天高地下〕315 テンタカクチヒクシ 天は高く地は低い。物には凡て上下の差別があること。〔禮、樂記〕天高地下、萬物散殊、而禮制行矣。

〔天高地厚〕316 テンタカクチアツシ 天は高く地は厚い。〔道德指歸論、爲學日益篇〕上知ニ天高一、下知ニ地厚一。

〔天高聽卑〕317 テンタカキモヒクキヲキク 天は高いが低いところのことをもよく聽き知る。〔史記、宋微子世家〕子韋曰、天高聽レ卑、君有ニ君人之言三一。〔新序、雜事四〕子韋還走北面再拜曰、天之處レ高而聽レ卑、君有ニ仁人之言三一、天必三賞レ君。〔魏志、陳思王植傳〕天高聽レ卑、皇肯照レ微。〔南齊書、王融傳〕皇鑒燭レ幽、天高聽レ下。

【天康】318 テンカウ 年號。❶陳の廢帝、臨海王、陳伯宗の時。一に天安に作る。(566) ❷晉の時、桓謙の僭年號、天安の一稱。〔玉海、十三〕年次不明。

【天皓】319 テンカウ 星の名。〔史記、天官書〕赤奮若歲、歲陰在レ丑、星居レ寅、以ニ十二月一與ニ尾箕一晨出、曰ニ天皓一、黫然黑色甚明。

【天綱】320 テンカウ ❶天の綱紀。天體のおほもと。〔唐書、天文志〕雲漢自レ坤抵レ艮爲ニ地紀一、北斗自レ乾攜レ巽爲ニ天綱一。❷王者が天下の治安を維持する法則。天下の綱紀。天紀。〔後漢書、陳蕃傳贊〕陳蕃蕪室、志レ清ニ天綱一。〔馬融、廣成頌〕然後擧ニ天綱一、頓ニ八紘一。〔蜀志、郤正傳〕今天綱已綴、德樹ニ西鄰一。〔干寶、晉紀總論〕天綱解レ紐。❸水の廣大なこと。水をいふ。〔木華、海賦〕天綱浡潏。〔注〕善曰、言ニ水之廣大、爲ニ天綱紀一。〔韋丹、洛出レ書詩〕海內昔凋瘵、天綱斯浡潏。❹星の名。〔晉書、天文志上〕北落西南一星曰ニ天綱一、主ニ武帳一。

【天衡】321 テンカウ 物の形をした雲氣。天衡。衡は、物の氣。〔呂覽、明理〕其雲狀、有下若レ犬若レ馬若ニ白鵠一、若中衆車上、有三其狀若ニ人蒼衣赤首不一レ動、其名曰ニ天衡一。〔注〕雲氣形狀如ニ物之形一、衡、物之氣。

【天貄】322 テンカウ 獸の名。形は狐に似、赤白色で、尾は太く、君臣・父子・昆弟の別があり、獸を見れば必ず之に敎へ、曉には高峯の上に鳴號するといふ。〔正字通〕貄、獸名、天貄、形似レ狐、赤白色、尾大、有ニ君臣・父子・昆弟之別一、見レ獸必敎レ之、曉則鳴ニ號高峯之上一、說詳ニ贊寧物類志一。

【天號】323 テンガウ ❶天に基いた名號。〔白虎通、號〕帝者天號、王者五行之稱也。❷天子の名號。天子の位。〔陸機、辨亡論〕遂躋ニ天號一、鼎峙而立。

【天角】324 テンカク ❶天の一隅。天隅。〔庾信、和ニ張侍中述懷一詩〕折レ柱傾ニ天角一。❷ひたひ。日角。額角。〔李德林、天命論〕天角洪大、雙上權骨。

【天格】325 テンカク 天地自然の風格。天則。〔姚合、答ニ韓湘一詩〕疎散無ニ世用一、爲レ文乏ニ天格一。〔孟郊、品松詩〕此松天格高、聳異千萬重。

【天覺】326 テンカク 宋、張商英(**4**−**9812**‥1160)の字。

【天鶴】327 テンカク 星の名。南天星座の一で、南魚座の南。鶴座の中國名。

【天岳】328 テンガク ❶山名。㋑湖南省岳陽縣の西南。又、巴陵山・巴丘山といふ。巴陵(**4**−**8745**‥98)の❶・巴丘(**4**−**8745**‥20)の❶を見よ。㋺岳は、一に嶽に作る。天嶽(336)の❶❷を見よ。❷字號。㋑清、本畫(**6**−**14421**‥237)の字。㋺岡本巍の號。岡本天岳(**4**−**7962**‥67)を見よ。

〔天岳山人〕329 テンガクサンジン 清、龔策(**12**−**48837**‥25)の號。

〔天岳山樵〕330 テンガクサンセウ 清、李元度(**6**−**14459**‥1174)の號。

〔天岳山館文鈔〕331 テンガクサンクワンブンセウ 書名。四十卷。清、李元度の文集。天岳は、一に天嶽に作る。〔清史稿、藝文志〕。

【天樂】332 テンガク ❶天上の音樂。妙なる音樂。又、宮中の音樂。〔李白、宮中行樂詞〕春風開ニ紫殿一、天樂下ニ珠樓一。〔劉禹錫、八月十五日夜桃源翫レ月詩〕天樂一聲肌骨寒。〔劉禹錫、與ニ歌者何戡一詩〕二十餘年別ニ帝京一、重聞ニ天樂一不レ勝レ情。❷元代の役所の名。初名は昭和署。音樂を掌る。〔元史、百官志一〕天樂署、初名ニ昭和署一、云云、至大四年、改爲ニ天樂署一。❸テンラク 天眞から出たたのしみ。〔莊子、天道〕與レ人和者謂ニ之人樂一、與レ天和者謂ニ天樂一。

〔天樂堂〕333 テンガクダウ 宋、趙師秀(**10**−**37171**‥628)の室名。

【天學】334 テンガク 天文學。天學會通を見よ。

〔天學會通〕335 テンガククワイツウ 書名。一卷。清、薛鳳祚撰。天文に就いて述ぶ。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【天嶽】336 テンガク 山名。嶽、一に岳に作る。❶江西省吉水縣の南。一名、黃岡嶺。〔明一統志〕天嶽山、在ニ吉安府吉水縣南五十里一。❷湖南省平江縣の東北、江西省修水縣の西。江西・湖北・湖南三省の界山。一名、幕阜山。幕阜(**4**−**9051**‥47)を見よ。〔范梈、曉山謠〕昔我望ニ天嶽一、於レ時春正深。❸湖南省岳陽縣城內の西南隅。卽ち巴丘山。

【天蝎】337 テンカツ ❶夏季、南方に見える星座の名。房・心・尾の三宿の合したもの。蠍座。〔天步眞原、雜會論天氣〕月離ニ日或金星一一百八十度、或白羊・天秤・天蝎・雙魚、內有ニ雷電雨一。❷天文家のいふ十二宮の一。大火の次、十二辰に於ては卯にあたり、陽曆十月二十四日に太陽が此の宮に至る時を霜降の時とす。Scorpio

【天鴿】338 テンガフ 南天星座の一。オリオン座の南。鳩座の中國名。

【天干】339 テンカン ❶甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸をいふ。十干(**2**−**2695**‥53)に同じ。天干地支を見よ。❷妖星の名。〔呂覽、明理〕星有ニ出而無レ光、其星有ニ熒惑一、云云、有ニ天干一、有ニ賊星一。

〔天干地支〕340 テンカンチシ 甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の十干と子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の十二支とをいふ。十干十二支。〔玉照神應眞經、總斷、兩分交戰、識ニ取尊卑一、注〕天干尊也、地支卑也。〔張果星宗、入門起例〕天干、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸、地支、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥。〔輟耕錄、授時曆法〕天干三數、地支七。

【天旱】341 テンカン ひでりが續く。〔淮南子、本經訓〕天旱地坼、鳳凰不レ下。〔史記、武帝紀〕夏旱、公孫卿曰、黃帝時封則天旱。〔魏志、管輅傳〕過ニ清河倪太守一、時天旱、倪問ニ輅雨期一、輅曰、今夕當レ雨。

【天陷】342 テンカン 天然の陷穽。沼の泥濘など、人馬が馳驅し難い土地をいふ。〔孫子、行軍〕天羅・天陷・天隙。〔注〕卑下汙濘、車騎不レ通。

【天寒】343 テンカン 冬のさむさ。又、氣候が寒い。〔莊子、讓王〕天寒既至。〔史記、高祖紀〕會ニ天寒一、士卒墮レ指者什二三。〔杜甫、歲晏行〕漁父天寒網罟凍。

〔天寒火冷〕344 t'ien¹ han² hou² lêng³ 氣候が寒く火もつめたい。極寒の時をいふ。

【天閑】345 テンカン ❶天子が馬を養ふ所。〔陸游、感レ秋詩〕古來眞龍駒、未三必置ニ天閑一。〔楊載、李伯時畫浴馬圖詩〕不レ至三天閑觀ニ帝服一、如レ此骨相何由知。❷清、馮李驊(**12**−**44579**‥294)の字。

【天漢】346 テンカン ❶あまのがは。銀河。雲漢。天河。〔詩、小雅、大東〕維天有レ漢、監亦有レ光。〔傳〕漢、天河也。〔列子、湯問〕天漢之流。〔魏文帝、雜詩〕天漢廻レ西流。❷星の名。㋑天津星をいふ。〔晉書、天文志上〕天津九星、橫ニ河中一、一曰ニ天漢一、一曰ニ天江一。㋺箕宿をいふ。箕宿(**8**−**26143**‥35)を

見よ。❸年號。㋑漢、武帝、劉徹の時。（B.C.99―B.C.96）㋺五代十國の一、前蜀、高祖、王建の時。（917）

【天監】348 テンカン ❶天が下界の善惡を監視する。又、其のこと。天の照覽。天鑒。〔書、太甲上〕天監二其德一、用集二大命一、撫二綏萬方一。〔傳〕監、視也、天視二湯德一、集二王命於其身一、撫二安天下一。〔詩、大雅、大明〕天監在レ下、有レ命既集。〔箋〕天監二視善惡於下一。〔張衡、思玄賦〕彼天監之孔明兮、用棐レ忱而祐レ仁。❷梁、武帝、蕭衍の年號。（502―519）

【天翰】349 テンカン 明、呂翀（2―3386・・125）の字。

【天鑒】350 テンカン 天の照覽。天監。〔白居易、策林十六、議二祥瑞一〕君修二改悔之誠一、以答二天鑒一。

【天鑒堂】351 テンカンダウ 清、沈近思（6―17189・・474）の室名。

【天岸】352 テンガン 元、弘濟（4―9709・・72）の號。

【天眼】353 テンガン テンゲン ❶佛 肉眼で見ることの出來ない物事を見透す眼力。千里眼。〔佛國記〕阿那律以二天眼一遙見二世尊一。〔顏氏家訓、歸心〕若有二天眼一、鑒二其念念隨滅、生生不レ斷、豈可レ不二怖畏一耶。〔徐陵、雙林寺傳大士碑〕大士天眼所レ照、預覩二未來一。❷眼球が上方へひきつること。

【天眼鏡】354 テンガンキヤウ ❶人相見の用ひる凸レンズのめがね。❷望遠鏡をいふ。〔續史愚抄〕借二請天眼鏡一。〔本注〕一名、號二萬里鏡一、此器贈太政大臣吉宗所三尋二求于異國一也、窺二天文一如レ載レ掌。

【天眼通】355 テンガンツウ テンゲンツウ ❶佛 六神通の一。能く六道の衆生の生死・苦樂の相、及び一切世間種々の形色を見透すことが出來る神通力。〔法界次第、中之上〕修二天眼一者、若於二深禪定中一、發二得色界四大清淨造色一、住二眼根中一、卽能見二六道衆生死レ此生レ彼、及見二一切世間種種形色一、是爲二天眼通一。❷事物を洞見すること。先見の明かなこと。

【天雁】356 テンガン 流星をいふ。〔晉書、天文志中〕流星、有レ光靑赤、長二三丈、名曰二天雁一、軍中之精華也。

【天顏】357 テンガン 天子の御顏。龍顏。天顏咫尺を見よ。〔宋書、樂志二〕仰祇二天顏一、厥猷孔昭。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕永侍二天顏一、以惟レ畢レ世。〔杜甫、紫宸殿退朝口號詩〕天顏有レ喜近臣知。

〖天顏咫尺〗358 テンガンシセキ 天子の御側近くに侍ること。咫は八寸、尺は十寸。咫尺は距離の極めて近いこと。天威咫尺（19）を見よ。〔白居易、醉後走レ筆酬二劉五主簿一云云詩〕立去二天顏一無二咫尺一。〔劉禹錫、望賦〕如レ雲兮、天顏咫尺、如レ草兮、臣心踊躍。〔朱放、九日陪二中丞宴一送レ客詩〕咫尺謁二天顏一。

【天忌】359 テンキ ❶天が忌みきらふこと。〔左氏、成、十六〕舊不二必良一、以犯二天忌一、我必克レ之。❷虹や彗星の類。天の忌み嫌ふ心の表はれであるといふ。〔淮南子、天文訓〕虹蜺彗星者、天之忌也。

【天其】360 テンキ 清、黃松（12―47926・・492）の字。

【天奇】361 テンキ 明、本瑞（6―14421・・185）の字。

【天姬】362 テンキ 天子の息女。公主。〔山堂肆考〕公主曰二天姬一、亦曰二寵主一。

【天癸】363 テンキ 古は男子の精液、女子の月經を併せ稱したが、後世は專ら女子の月經をいふ。〔素問、上古天眞論〕女子七歲腎氣盛、齒更髮長、二七而天癸至、任脈通、太衝脈盛、月事以レ時下、故有レ子、云云、丈夫八歲腎氣實、髮長齒更、二八腎氣盛、天癸至、精氣溢寫、陰陽和、故能有レ子。〔輟耕錄、上頭入月〕天癸曰二月事一。

【天紀】364 テンキ ❶天の綱紀。天象の運行する原則。天綱。〔書、胤征〕畔レ官離レ次、俶擾二天紀一。〔傳〕紀、謂二時日一。〔新書、數寧〕明通以足二天紀一、又當二天宜一。〔蔡邕、釋誨〕消息盈沖、取二諸天紀一。❷星の名。㋑天綱（320）の❹に同じ。〔魏志、明帝紀〕彗星見レ犯二宦者天紀星一。〔晉書、天文志上〕天紀九星、在二貫索東一、九卿也、主二萬事之紀一理二怨訟一也。㋺外廚の南の一星。〔晉書、天文志上〕廚南一星曰二天紀一、主二禽獸之齒一。❸三國吳、歸命侯、孫晧の年號。（277―280）

【天軌】365 テンキ 天のみち。天路。〔漢書、揚雄傳上〕惟天軌之不レ辟兮、何純絜而離紛。〔注〕師古曰、天軌、猶レ言二天路一。

【天氣】366 テンキ ❶天の氣。地氣（3―4890・・72）の❶の對。〔禮、月令、孟春之月〕是月也天氣下降、地氣上騰。〔莊子、在宥〕天氣不レ和、地氣鬱結。〔管子、幼官〕十二天氣下賜與。〔淮南子、泰族訓〕聖人懷二天氣一、抱二天心一。❷空模樣。天候。〔韋應物、善福精舍秋夜遲二諸君一詩〕仰觀二天氣涼一、高詠二古人篇一。〔李端、送二友人遊レ蜀詩〕嘉陵天氣好、百里見二雙流一。〔皇甫曾、路中口號詩〕車馬上二河橋一、城中好天氣。❸㋑天皇の御機嫌。天機。〔平治物語、光賴卿參內〕天氣にて候ひしかば。㋺善い日和。晴天。㋩晴曇・雨雪・風向・風速・氣溫・氣壓・濕度などの氣象狀態。

〖天氣圖〗367 テンキヅ 或る地區全般の一定時の氣壓・氣溫・雲量・風向・風速等を測定し、等壓線、等溫線・等偏差線等を用ひて天氣の狀態を示す圖。これが天氣豫報の基本となる。

〖天氣清朗〗368 テンキセイラウ 天氣がよくて、からりと晴れてゐること。

〖天氣豫報〗369 テンキヨハウ ❶氣象を未然に推測判斷して、豫め報知すること。❷あてにならぬ豫言を皮肉にいふ語。

【天鬼】370 テンキ 在天の鬼神。〔墨子、尙賢中〕爲二酒醴粢盛一、以祭二祀天鬼一。

【天基】371 テンキ 字號。㋑清、黃松（12―47926・・492）の字。㋺清、石成金（8―24024・・965）の字。

【天喜】372 テンキ ❶天帝の喜。〔越絕書、越絕外傳枕中〕聖人緣二天心一助二天喜一、樂二萬物之長一。❷天子の喜。〔黃庭堅、常父惠二示丁卯雪十四韻一謹同レ韻賦レ之詩〕近臣知二天喜一、玉色動二冕旒一。❸叢辰の名。正月は戌、二月は亥、三月は子、四月は丑と十二月を順輪する。建除中の成日と位を同じくするから名づく。其の成るを喜ぶ意。天醫（14）を見よ。〔協紀辨方書、義例二、成〕選擇宗鏡曰、天喜者、正月戌・二月亥・三月子・四月丑、順二輪十二月一、乃月支與二月建一三合、故曰二天喜一、通書曰、春戌・夏丑・秋辰・冬未、今人不レ原二其理一、嘗於二卦書中一得二其要領一、大抵取三日辰與二月建一相合爲二天喜一也、與二成日一同レ位。❹tʻien¹ hsi³ 天然痘。❺テンギ 第七十代後冷泉天皇の年號。（1053―1058）

【天晷】373 テンキ 日光。〔陸機、皇太子宴二玄圃宣猷堂一有レ令賦詩〕協風傍駭、天晷仰澄。〔注〕善曰、說文曰、晷、日景也。

【天期】374 テンキ ❶天の與へた最も都合の良い時期。〔詩、大雅、大明〕肆伐二大商一、會朝清明、〔箋〕以二天期已至、兵甲之彊、師率之武一、故今伐レ殷。❷氣候をいふ。〔周禮、地官、遂師〕以救二其時事一、〔注〕有二天期・地澤・風雨之急一。❸天子の期待。〔漢書、武五子傳〕奉二天期一兮、不レ得二須臾一。〔注〕張晏曰、奉二天子期一、當レ死、不レ得二復延一レ年。

【天貴】375 テンキ ❶高い地位。貴い身分。〔南齊書、豫章王嶷傳〕共起二布衣一、俱登二天貴一、生平游處、何事不レ同。❷吉星。男女宮を主る。星名家の語。〔張衡、週天大象賦〕下爲二社靈一、上爲二天貴一。〔張果星宗、天貴〕身遇二高強及印權一、命宮三合、更更相聯、貴多刑少居二官祿一、職位榮華祿更遷。

【天祺】376 テンキ 宋、張戩（4―9812・・493）の字。

〖天祺節〗377 テンキセツ 宋代、四月一日をいふ。この日に天書再降の祥瑞があつたからいふ。〔事物紀原、正朔曆數部、天祺〕宋朝會要曰、天禧元年正月詔、大中祥符元年四月一日、天書再降二內中功德閣一、其建爲二天祺節一、一如二天貺節例一、乾興元年二月禮儀院上言、四月一日天書降日節名、下一字與二御名一同、合レ行二回避一、詔以二天祺節一爲レ名。

【天葵】378 テンキ 草の名。つるむらさき。〔羣芳譜〕天葵、雷公所謂紫背天葵也、葉如レ錢而厚、嫩背微紫、生二崖石一、凡丹石之類、得レ此始神。

【天旗】379 テンキ 星の名。❶句曲九星の第一。畢星の南にある。〔史記、天官書〕其西有二句曲九星一、三處羅、一曰二天旗一、二曰二天苑一、三曰二九游一。❷建星の六星。南斗の北にある。〔晉書、天文志上〕建星六星、在二南斗北一、亦曰二天旗一、天之都關也。

【天器】380 テンキ 生れつきの才能。天性。〔淮南子、說山訓〕此全二其天器一者。〔注〕器、猶レ性也、孟子曰、人性善、故曰、全二其天性一。

【天機】381 テンキ ❶天の祕密。造化の機密。〔淮南子、原道訓〕內有三以通二于天機一。〔注〕機、微也。〔集仙傳〕黃帝天機之書、非二奇人一不レ可二妄傳一。〔癸辛雜識〕葉亦愚右丞忽夢二一老人一、曰、汝前爲二文昌相一、坐三漏二泄天機一、遭レ謫、能悔レ過、當レ復レ職。❷自然にそなはつてゐる機關。㋑手足などをいふ。〔莊子、秋水〕蚿曰、不レ然、子不レ見二夫唾者一乎、噴則大者如レ珠、小者如レ霧、雜而下者、不レ可レ勝レ數也、今予動二吾天機一、而不レ知三其所二以然一。〔疏〕今蚿之衆足、乃是天然機關、運動而行。㋺心・素質・能力などをいふ。天機不レ張を見

よ。〔列子、說符〕若二皐之所一レ觀、天機也。〔注〕天機、形骨之表、所三以使二蹄足一者、得二之於心一、不レ顯二其見一。㊂天の運行する機關。〔潘岳、悼亡詩〕曜靈運二天機一、四節代遷逝。〔注〕銑曰、天機者、言三天運動有二機關一也。㊃天子の位。天位。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕用集二寶命一、仰陟二天機一。〔注〕善曰、天機、喩二帝位一也。〔徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑〕迷二我天機一、自窺二梁鼎一。㊄天子の執り行ふ政治。國家の政事。〔吳志、孫權傳〕君臨二萬國一、秉二統天機一。〔晉書、劉隗傳論〕同薄相濟、並運二天機一。〔魏書、任城王澄傳〕皇太后總二御天機一、乾乾夕惕。㊅星の名。南斗六星をいふ。〔星經〕斗六星、狀如二北斗一、亦曰二天機一。〔晉書、天文志上〕南斗六星、天廟也、一曰二天機一。㊆天馬をいふ。千里の馬。天驥(389)の㊀に同じ。〔張協、七命、天驥之駿、注〕善曰、天驥、天馬也、驥、或作レ機。㊇天子の御機嫌。天氣。〔百合若大臣野守鏡、一〕天機を安んじ奉らん。

〖天機伺〗382 テンキウカガヒ　宮中に參內して、天皇陛下の御機嫌を伺ふこと。

〖天機星〗383 テンキセイ　叢辰の名。計神の別名。計神(**10－35220**‥48)を見よ。

〖泄二天機一〗384 テンキヲモラス　天の機密をもらす。轉じて、祕密をもらす。天機の㊀を見よ。〔神仙感遇傳〕一碩儒言、星降二人間一、將レ福二三子一、今泄二天機一、三子免レ禍幸矣。

〖天機不レ張〗385 テンキハラズ　意識的に心を用ひることはしないで、自然のままにすること。天機の㊁の㋺を見よ。〔莊子、天運〕聖也者達二於情一、而遂二於命一也、天機不レ張、而五官皆備、此之謂二天樂一。〔疏〕天機、自然之樞機。

【天璣】386 テンキ　北斗星の第三星をいふ。〔春秋運斗樞〕北斗有二七星一、云云、第一天樞、第二璇、第三璣、第四權、第五衡、第六開陽、第七搖光。

【天龜】387 テンキ　㊀周官の龜人の掌る六龜の一種。黑色の龜をいふ。〔周禮、春官、龜人〕掌二六龜之屬一、各有二名物一、天龜曰二靈屬一、地龜曰二繹屬一、云云、各以二其方之色與二其體一辨レ之。〔注〕色、謂二天龜玄、地龜黃一、云云。㊁星の名。〔石氏星經〕天龜六星、在二尾南漢中一。

【天禧】388 テンキ　㊀年號。㋑宋、眞宗、趙恆の時。(1017－1021)　㋺西遼の末主、耶律直魯古の時。(1168－1201、一說、1177－1211)　㊁明、姚廣孝(**3－6202**‥152)の號。

【天驥】389 テンキ　㊀千里の馬。天機。天馬。〔張協、七命〕大夫曰、天驥之駿、逸態超越。〔注〕善曰、天驥、天馬也、驥、或爲レ機。〔顏延之、赭白馬賦〕漢道亨而天驥呈レ才。〔注〕善曰、天馬歌曰、天馬來、從二西極一。〔晉書、庾闡傳〕莫邪挺レ鍔、天驥汙レ血。㊁宋、盧襄(**8－23050**‥89)の初名。

【天宜】390 テンギ　天のみち。〔新書、數寧〕明通以足二天紀一、又當二天宜一。

【天儀】391 テンギ　㊀天ののり。天のおきて。〔漢書、禮樂志〕孝奏二天儀一、若二日月光一。〔注〕師古曰、言、以二孝道一進二承於天一、天神下降、故有レ光。〔宋書、律歷志下〕七政致レ齊、寔謂二天儀一。〔陸肱、乾坤爲二天地一賦〕於レ剛乃天之儀、於レ柔乃地之樞。㊁天子の容儀。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕既賜下奉二朝請一、咫中尺天儀上。〔謝朓、三日侍二宴曲水一代レ應レ詔詩〕歡二茲廣讌一、穆是天儀。㊂宋、何鳳(**1－511**‥193)の字。

〖天儀治平〗392 テンギチヘイ　宋の時、西夏、崇宗、李乾順の年號。(1087－1089)

【天九】393 テンキウ　鬪牌の語。武牌は九點を以て尊しとするからいふ。〔牧豬閒話〕。

【天久】394 アミク　琉球の地名。

【天休】395 テンキウ　㊀天の賞譽。天の稱讚。天の立派な道。休は美。〔書、湯誥〕各守二爾典一、以承二天休一。〔傳〕守二其常法一、承二天美道一。〔詩、商頌、長發〕受二小球大球一、爲二下國綴旒一、何二天之休一。〔箋〕擔二負天之美譽一。〔左氏、宣、三〕用能協二于上下一、以承二天休一。〔漢書、禮樂志、安世房中歌〕承二保天休一、令問不レ忘。〔注〕師古曰、休、美也、令、善也、問、名也。㊁宋、鄭戩(**11－39647**‥197)の字。

〖天休節〗396 テンキウセツ　道家で四月二十八日をいふ。上元星官の下降する日。〔事物異名錄、歲時、四月〕道書、四月二十八日、上元星官下降、爲二天休節一。

【天臼】397 テンキウ　木の名。たうはぜ。鬼臼(**12－45758**‥24)の異名。〔本草、鬼臼〕釋名、九臼・天臼・鬼藥。

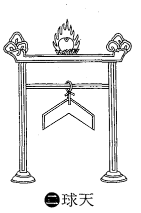
【天灸】398 テンキウ　㊀灸の一種。小兒の頭又は腹に點ずれば百病を去るといふもの。〔荊楚歲時記〕八月十四日、民竝以二朱水一點二兒頭額一、名爲二天灸一、以厭レ疾。〔潛居錄〕八月朔、以二盌盛一取二樹葉露一、研二辰砂一、以二牙筋一點二染身上一、百病俱消、謂二之天灸一。㊁毛茛(**6－16772**‥75)の別名。こがねばな。〔本草、毛茛〕釋名、天灸・自灸、時珍曰、山人截レ瘧、采レ葉挼貼二寸口一、一夜作レ泡、如二火燎一、故呼爲二天灸・自灸一。

【天咎】399 テンキウ　天のとがめ。天殃。〔列女傳、仁智、魯公乘姒傳〕非レ有二天咎一、必有二人禍一。〔揚雄、兗州箴〕有レ國雖レ久、必畏二天咎一、有レ民雖レ長、必懼二人殃一。

【天韭】400 テンキウ　草の名。垣衣(**3－5060**‥1)の異名。しのぶぐさ。〔本草、垣衣〕釋名、垣嬴・天韭・鼠韭・昔邪。

【天救】401 テンキウ　天がたすける。天祐。〔左氏、昭、二十七〕季氏之復、天救レ之也。〔說苑、建本〕君子居二于是國一、不レ崇二仁義一、不レ尊二賢臣一、未二必亡一也、然一旦有二非常之變一、車馳人走、指而禍至、乃乾喉焦脣、仰レ天而歎、庶二幾焉天其救一レ之、不二亦難一乎。

【天球】402 テンキウ　㊀古、雍州から貢した玉の名。其の色が空の色に似るから名づく。〔書、顧命〕大玉・夷玉・天球・河圖、在二東序一。〔疏〕天球、雍州所レ貢之玉、色如レ天者。〔孔武仲、慈孝寺山亭送三子敦都運待制赴二河北一詩〕簪裳合二俊彥一、河圖並二天球一。〔陸游、讀書詩〕天球及河圖、千古所二共祕一。㊁琴の名。〔輟耕錄、古琴名〕古琴名、天球。〔三才圖會、器用、天球〕郊特牲言、擊二玉磬一、明堂位言、四代樂器、而博二拊玉磬一、先王因二天球一以爲レ磬、以爲二堂上首一レ樂之器一、書言、戛擊鳴球。㊂天球儀(403)の略。㊃宋、薛良貴(**9－32123**‥255)の初名。㊄宋、程琳(**8－25081**‥147)の字。



㊁天球
（三才圖會）

〖天球儀〗403 テンキウギ　地球を中心とした空間を球狀に象り、總べての天象の分布を球中に羅列して其の位置を示したもの。地球儀(**3－4890**‥88)の對。

【天廏】404 テンキウ　㊀星の名。東壁の北にあり、馬を司る官に當てられてゐた。〔晉書、天文志上〕東壁北十星、曰二天廏一、主馬之官、若二今驛亭一也。㊁天子の廏。〔杜甫、沙苑行〕王有二虎臣一司二苑門一、入レ門天廏皆雲屯。〔宋史、兵志十二〕太平興國五年、改二龍飛一爲二天廏坊一、雍熙四年、改二天廏一爲二左右騏驥院一。

【天牛】405 テンギウ　甲蟲の名。桑樹の害蟲。かみきりむし。幼蟲を蝤蠐といふ。〔爾雅、釋蟲、蠰齧レ桑、注〕似二天牛一角長、體有二白點一。〔酉陽雜俎、廣動植、蟲篇〕天牛蟲、黑甲蟲也。〔遯齋閒覽〕阜角木、五六月多二大黑甲蟲一、俗呼爲二天牛一。

【天吉】406 テンキツ　明、張祐(**4－9812**‥21)の字。

【天泣】407 テンキフ　雲が無くて降る雨。ひでりあめ。〔唐書、五行志三〕元和十二年正月乙酉、星見而雨、古曰、無レ雲而雨、是謂二天泣一。

【天晛】408 テンキヤウ　宋、仰忻(**1－400**‥19)の字。

〖天晛節〗409 テンキヤウセツ　宋代、舊曆六月六日をいふ。此の日に天書の再降の祥瑞があつたからいふ。〔宋史、眞宗紀三〕四年、詔以二六月六日天書再降日一爲二天晛節一。

〖天晛寶象〗410 テンキヤウハウシヤウ　北宋、英宗の時、越の聖宗、李日尊の年號。(1068－1069)

【天鏡】411 テンキヤウ　㊀天上のかがみ。〔南齊書、高帝紀上〕自二軒黃一以降、墳索所レ紀、略可レ言者、莫レ崇二乎堯舜一、披二金繩一而握二天鏡一、開二玉匣一而總二地維一。〔梁簡文帝、大法頌序〕自憑二玉几一握二天鏡一、履二璿璣一而端拱、居二巖廊一而淵默。〔徐陵、皇太子臨二辟雍一頌序〕握二天鏡一而授二河圖一、執二玉衡一而運二乾象一。㊁月をいふ。〔宋之問、遊二禹穴一回出二若邪一詩〕石帆搖二海上一、天鏡落二湖中一。㊂天然の大きな鏡。湖水をいふ。〔陸游、病後往二來湖山閒一戲書詩〕結レ茅所レ幸得二佳處一、石帆天鏡無二纖塵一。〔薩天錫、走レ筆贈二燕孟初一詩〕西湖天鏡碧墮レ地、吳山蛾眉春入レ窗。

〖天鏡亭〗412 テンキヤウテイ　宋、張鎡(**4－9812**‥361)の室名。

【天弓】413（テンキュウ） ❶虹(10－32830)の異名。帝弓。〔淵鑑類函、天、虹霓、天弓〕白虎通曰、虹、天弓也、亦謂二之帝弓一。〔侯鯖錄〕天弓、虹也、又謂二之帝弓一。❷星の名。弓弩を掌る。參旗、又、孤矢ともいふ。〔晉書、天文志上〕天弓主二司弓弩之張一、候レ變禦レ難。

【天宮】414（テンキュウ） ❶天帝の宮殿。轉じて、天空をいふ。〔水經、渭水注〕秦始皇作二離宮于渭水南北一、以象二天宮一。〔岑參、與二高適薛據一同登二慈恩寺浮圖一詩〕孤高聳二天宮一。〔紅樓夢、四十一回〕我就像三到二了天宮裡一。❷佛（テング） 天人の宮殿。梵語、泥縛補羅(Devapura)。〔圓覺經〕地獄天宮、皆爲二淨土一、有性無性、齊成二佛道一。

【天窮】415（テンキュウ） 天意によつてうける苦しみ。〔蘇軾、登州海市詩〕率然有レ請不二我拒一、信我人厄非二天窮一。

【天居】416（テンキョ） 天子の居所。〔徐陵、太極殿銘〕天居爽塏、大寢尊嚴。〔鮑照、代陸平原君子有所思行〕層閣肅二天居一、馳道直如レ髮。

【天魚】417（テンギョ） 星の名。〔甘氏星經〕天魚一星、在二尾河中一。

【天棘】418（テンキョク） ❶木の名。柳の異名。〔通志、昆蟲草木略、木類〕柳之類亦多、柳曰二天棘一、南人呼爲二楊柳一。〔事物異名錄、樹木、楊柳〕王元之詩、天棘舞二金絲一。❷草の名。天門冬。くさすぎかづら。顚棘。〔本草、天虋冬〕虋冬・顚勒・顚棘・天棘。〔杜甫、已上人茅齋詩〕江蓮搖二白羽一、天棘夢二青絲一。

【天極】419（テンキョク） ❶自然の道。〔莊子、盜跖〕若枉若直、相二而天極一、面二觀四方一、與レ時消息。〔疏〕無レ問二枉直一、順二自然之道一、觀二照四方一、隨二四時一而消息。❷天道の至り極まるところ。〔國語、越語下〕無レ過二天極一、究レ數而止。〔注〕無レ過二天道之所一レ至、窮二其數一而止也。❸星の名。天極星を見よ。〔史記、秦始皇紀〕作二信宮渭南一、已更命二信宮一爲二極廟一象二天極一。〔史記、秦始皇紀〕以象三天極閣道、絕レ漢抵二營室一也。❹天文學用語。地軸の延長と天球との交點。天球の南北極。

〖天極星〗420（テンキョクセイ） 北極星。天の中宮に當る。〔史記、天官書〕中宮天極星、其一明者、太一常居也。

【天殛】421（テンキョク） 天のとがめ。天咎。〔柳宗元、先侍御史府君神道表〕天殛薦酷、名在二刑書一。

【天玉】422（テンギョク） 字號。❶明、鄭爲虹(11－39647・・296)の字。❷清、許珌(10－35298・・196)の字。

【天均】424（テンキン） ❶天鈞(427)の❶に同じ。〔莊子、齊物論、天鈞、釋文〕天鈞、本又作レ均、崔云、鈞、陶鈞也。〔莊子、寓言〕始卒若レ環、莫レ得二其倫一、是謂二天均一。〔疏〕是謂二天然齊等之道一。❷宋、李仕衡(6－14459・・1303)の字。

【天囷】425（テンキン） 星の名。倉廩の屬を主る。〔星經〕天囷十三星、主二倉廩之屬一。

【天琴】426（テンキン） 星座の名。織女星はこの宿に屬する。〔梁簡文帝、相宮寺碑銘〕天琴夜下、紺馬朝翔。

【天鈞】427（テンキン） ❶是非を通じて之を齊しくする理。自然平等の理。天均。〔莊子、齊物論〕是以聖人和レ之以二是非一、而休二乎天鈞一。〔疏〕天鈞者、自然均平之理也。❷極北の寒地。〔淮南子、俶眞訓〕處二玄冥一而不レ闇、休二于天鈞一而不レ碣。〔注〕天鈞、北極之地、積寒之野、休レ之輒敗、唯體レ道者能不レ敗也。❸樂器の名。〔雲笈七籤〕前吹二鳳鸞一、後奏二天鈞一。〔皮日休、上眞觀詩〕天鈞鳴響亮、天祿行蹣跚。

【天禽】428（テンキン） 星の名。天符。〔庾肩吾、奉二和春夜一應令詩〕天禽下二北閣一、織女入二西樓一。〔唐會要、九宮壇〕黃帝九帝經、天符爲二天禽一。

【天錦】429（テンキン） 清、朱霞(建寧の人)(6－14424・・66)の字。

【天垠】430（テンギン） 天のかぎり。天際。〔張協、七命〕爾乃踰二天垠一、越二地隔一。〔注〕向曰、垠、畔、隔、界也。〔柳宗元、招二海賈一文〕終古廻薄旋二天垠一、八方易レ位更錯陳。

【天區】431（テンク） 天をいふ。又、四方上下をいふ。〔張衡、東京賦〕聲教布護、盈二洋天區一。〔注〕綜曰、天區、謂二四方上下一也。〔宋書、符瑞志下〕洽惠和二於地絡一、燭皇明二於天區一。〔南齊書、樂志〕鐘鼓震二天區一、禮容塞二皇闈一。〔潘岳、西征賦〕存威格二乎天區一、亡墳掘而莫レ禦。〔注〕良曰、言、高祖生則存二威德一、至二于天地一。〔魏書、邢巒傳〕清二蕩天區一、在二於今一矣。

【天衢】432（テンク） ❶天の路。天道。〔易、大畜〕上九、何二天之衢一、亨、象曰、何二天之衢一、道大行也。〔疏〕何氏云、天衢既通、道乃大亨。〔揚雄、劇秦美新〕荷二天衢一、提二地釐一。〔注〕善曰、上荷二天道一、而下提二地理一。〔後漢書、崔駰傳〕何二天衢於盛世一兮、超二千載一而垂レ績。❷京師。國都。〔漢書、敍傳下〕庸夫攀レ龍附レ鳳、並乘二天衢一。〔吳志、胡綜傳〕遠處二河朔一、天衢隔絕。❸星の名。〔晉書、天文志上〕房四星爲二明堂一、中閒爲二天衢一、爲二天關一、黃道之所レ注也。

【天愚】433（テング） ❶神の名。〔山海經、中山經〕又東二十七里曰二堵山一、神天愚居レ之。❷清、謝起龍(10－35827・・259)の字。

〖天愚老人〗434（テングラウジン） 萩野信敏の號。萩野鳩谷(9－31333・・11)を見よ。

【天虞】435（テング） 大荒(3－5831・・560)の中に住んでゐたといふ人の名。〔山海經、大荒西經〕有レ人反レ臂、名曰二天虞一。〔注〕亦尸虞也。

〖天虞山人〗436（テングサンジン） 清、馬元馭(12－44572・・767)の號。

【天空】437（テンクウ） ❶天のからりとして廣いこと。〔貫休、送二鄭準赴レ擧詩〕海靜三山出、天空一鶚高。〔貫休、送三僧歸二天台寺一詩〕天空聞二聖磬一、瀑細落二花巾一。❷大ぞら。天宇。天界。

〖天空海闊〗438（テンクウカイクワツ） 天が空虛で海が廣闊なこと。氣象が洪大快活で、何のわだかまりもないこと。〔古今詩話〕海闊從二魚躍一、天空任二鳥飛一。

【天隅】439（テングウ） ❶天空のすみ。大空のはて。天角。〔張華、鷦鷯賦〕鷦螟巢二於蚊睫一、大鵬彌二乎天隅一。❷轉じて、僻遠の地をいふ。〔杜甫、送二何侍御歸レ朝詩〕春日垂二霜鬢一、天隅把二繡衣一。

【天戈】440（テンクワ） ❶天子のほこ。轉じて、帝王の軍隊。王師。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕天戈所レ麾、莫レ不二寧順一。〔韓愈、石鼓歌〕周綱陵遲四海沸、宣王憤起揮二天戈一。❷星の名。〔宋史、天文志二〕天戈一星、又名二玄戈一、在二招搖北一。

【天火】441（テンクワ） ❶自然に起つて原因の分らぬ火。雷電等から起る火。〔左氏、宣、十六〕凡火、人火曰レ火、天火曰レ災。〔會箋〕天火不レ知二何起一。〔史記、景帝紀〕三年、天火燔二雒陽東宮大殿城室一。〔漢書、武五子、燕剌王旦傳〕天火燒二城門一。❷病の名。丹毒。〔千金方、丹毒〕丹毒、一名天火、肉中忽有レ赤、如二丹塗之色一。❸陰陽家の語。天火日の略。

〖天火日〗442（テンクワニチ） 陰陽家の語。天に火氣の盛な日。この日、屋根葺き・棟上げ・竈造り・種蒔きなどを忌む。天火。〔運歩色葉集〕天火日、正・五・九(子日)・二・六・十(卯日)・三・七・十一(午日)・四・八・十二(酉日)、造作種蒔忌レ之。

【天瓜】443（テンクワ） からすうり。王瓜。〔爾雅、釋草、果臝之實栝樓、注〕今齊人呼レ之爲二天瓜一。〔本草、栝樓〕釋名、時珍曰、齊人謂二之天瓜一。

【天花】444（テンクワ・テンゲ） ❶雪の異名。天華(451)の❶に同じ。〔張安國、詠レ雪詞〕陰風慘淡天花落。❷佛天上の妙花。天華(451)の❷に同じ。〔維摩經〕佛告二文殊師利一、汝詣二維摩詰一問レ病、時、維摩詰室有二一天女一、見二諸大人一、聞二所レ說法一、便現二其身一、以二天花一散二諸菩薩大弟子上一、而爲二供養一。❸ t'ien¹ hua¹ 天然痘。

〖天花菜〗445（テンクワサイ） 茸の一種。舞ひ茸。〔本草、天花蕈〕釋名、天花菜、集解、瑞曰、天花菜、出二山西五臺山一、形如二松花一、而大香氣、如レ蕈白色、食レ之甚美。

〖天花蕈〗446（テンクワジン） 茸の一種。ひらたけ。まひたけ。天花菜を見よ。

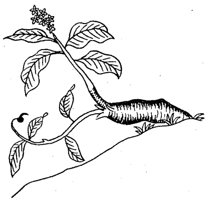
〖天花女〗447（オホヤマレンゲ） 木の名。もくれん科に屬する落葉小喬木で、山地に生じ、夏期、白色の花を開く。

〖天花墜〗448（テンゲオツ） 佛梁の武帝の時、雲光法師が經を講じたとき蓮花が天上から舞ひ散つたこと。〔輿地紀勝〕梁武帝時、有二雲光法師一、講二經於此一、感レ天雨レ花。〔高僧傳〕梁僧法雲講次、天花散墜。

〖天花板〗449（テンクワバン） 天井の裏板。古、天井を井形にして、花模樣などを畫いて裝飾したからいふ。〔通俗編、居處、天花板〕山房隨筆、元好問妹、手自補二天花板一、作レ詩云、補レ天手段暫施レ張、不レ許織塵落二畫梁一、按、天花板卽古所謂綺井。

〖天花粉〗450（テンクワフン） 草の名、其の根から製した澱

粉をあせもの藥として用ひる。〔本草、栝樓〕天花粉、周憲王曰、秋冬采㆑根去㆑皮、寸切水浸、逐㆑日換㆑水、四五日取出搗泥、以㆓絹衣㆒濾㆑汁澄、粉曬乾用。


天花粉（三才圖會）

【天華】451 テンクワ ❶雪をいふ。天花。〔蒲道源、雪軒賦〕天華散墮、彌望如㆑一。❷佛 テンゲ 天上の妙華。又、天の花の如く妙好な花。或はそれに擬して紙を蓮花の瓣の如く切り、法會の時、佛前で散らすもの。天花。〔智度論、九〕云何爲㆓天華㆒、天華芬薰、香氣逆㆑風、復次天竺國法、名㆓諸好物㆒皆名㆓天物㆒、雖㆑非㆓天上華㆒、以㆓其妙好㆒、故名㆓天華㆒。〔梁簡文帝、大法頌序〕地芝候㆑月、天華逆㆑風。〔徐陵、麈尾銘〕既落㆓天華㆒、亦通㆓神語㆒。

【天禍】452 テンクワ 天の降したわざはひ。天災。〔公羊、宣、十二〕邊垂之臣、以干㆓天禍㆒。〔國語、周語下〕貪㆓天禍㆒。〔韓非子、內儲說下〕今天反㆓夫差㆒、亦天禍也。〔管子、四時〕皆受㆓天禍㆒。〔潘岳、寡婦賦〕遘㆓天禍之未㆑悔。

【天怪】453 テンクワイ 天の怪事。〔越絕書、越絕外傳記地傳〕仰㆓望天氣㆒、觀㆓天怪㆒也。

【天廻】454 テンクワイ 天がめぐる。又、天のやうにめぐる。〔左思、蜀都賦〕流漢湯湯、驚浪雷奔、望㆑之天廻、卽㆑之雲昏。〔新論、惜時〕天廻日轉、其謝如㆑矢。

【天會】455 テンクワイ ❶節會の丙午の日。〔月令廣義〕節會日、丙午天會、壬午地會、壬子人會。❷年號。㋑金、太宗、完顏晟・熙宗完顏亶の時。(1123－1137) ㋺金、宣宗、完顏珣の時、金山の僭年號、天德の一稱。一に天成に作る。(1216－1217) ㋩五代、北漢、睿宗孝和帝、劉承鈞・英武帝、劉繼元の時。(957－973)

【天魁】456 テンクワイ 叢辰の名。十二月將の一。日と月とが二月に戍宮に於て相會するをいふ。月將(**5**－**14330**・・165)の❶及び十二月將(**2**－**2695**・・420)を見よ。

【天懷】457 テンクワイ 天性の美しい氣持。〔袁宏、三國名臣序贊〕豈非㆓天懷發㆑中、而名教束㆑物者㆒乎。〔注〕翰曰、豈非㆘自出㆓天性之懷㆒、發㆓於中心㆒、而名教拘束、使㆖至㆓於此㆒也。

【天繪】458 テンクワイ 亭の名。風景がよく、天然の繪のやうだとの意味で名づけた。〔春渚紀聞〕昭州郡圃有㆑亭、名㆓天繪㆒、建炎中、呂丕爲㆑守、以㆑近㆓金國年號㆒、思㆑易㆑之、時徐師川避㆓地於昭㆒、呂乞㆑名、久而未㆑獲、復乞㆓於范滋㆒、乃以㆓清輝㆒易㆑之、一日徐策㆑杖過㆑亭、得㆓亭記於積壤中㆒、乃寺丞丘濬作、其略云、余擇㆑勝得㆓此亭㆒、名曰㆓天繪㆒、取㆓其景物自然㆒也、後某年某日、當㆘有㆓俗子㆒、易㆗名清輝㆖、可㆑謂㆓一笑㆒、考㆓范易㆑名之日㆒無㆓毫髮差㆒也。

【天外】459 テングワイ ❶天のそと。遙かに遠い所。又、高い所。〔宋玉、大言賦〕長劍耿耿倚㆓天外㆒。〔揚雄、羽獵賦〕木仆山還、漫若㆓天外㆒。〔後漢書、張衡傳〕乃今窮㆓乎天外㆒。〔吳志、吾粲傳〕隱㆓形於天外㆒。〔晉書、天文志上〕黃帝書曰、天在㆓地外㆒、水在㆓天外㆒、水浮㆑天而戴㆑地者也。〔岑參、送㆓崔子還㆑京詩〕疋馬西從㆓天外㆒歸。❷清、石龐(**8**－**24024**・・652)の字。

〖天外老人〗460 テングワイラウジン 戴性易の號。戴曼公(**5**－**11685**・・211)を見よ。

〖天外載笠人〗461 テングワイサイリフジン 戴性易の號。戴曼公(**5**－**11685**・・211)を見よ。

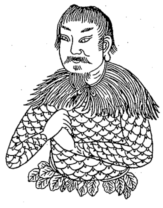
〖天外黑風吹㆑海立〗462 テングワイノコクフウウミヲフイテタツ 遙かに遠い所から黑雲を吹いてくる烈風によつて海が波だつ。〔蘇軾、有美堂暴雨詩〕天外黑風吹㆑海立、浙東飛雨過㆑江來。

【天光】463 テンクワウ ❶天に輝くひかり。日のひかり。日光。〔漢書、息夫躬傳〕仰㆓天光㆒兮。〔江淹、詣㆓建平王㆒上書〕加以㆘涉㆓旬月㆒迫㆗季秋㆖、天光沈陰、左右無㆑色。〔范仲淹、岳陽樓記〕上下天光、一碧萬頃。❷靈妙な光彩。靈光。〔莊子、庚桑楚〕宇泰定者、發㆓乎天光㆒。〔注〕夫德宇泰然而定、則其所㆑發者天光耳、非㆓人耀㆒。❸t'ien^1 kuang^1 色の赤い一種の砂糖。

〖天光之貴〗464 テンクワウノキ 太陽。天に光るものの中で貴いもの。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳〕日者、衆陽之宗、天光之貴、王者之象、人君之位也。

【天宏】465 テンクワウ 明、葛浩(**9**－**31420**・・8)の字。

【天皇】466 テンクワウ テンワウ ❶天帝。天の神。〔後漢書、張衡傳〕叫㆓帝閽㆒使㆑闢㆑扉兮、覿㆓天皇於瓊宮㆒。〔注〕天皇、天帝也。〔晉書、天文志上〕文昌北六星、曰㆓內階㆒、天皇之階也。❷太古の天子の號。三皇の首。三皇(**1**－**12**・・369)を見よ。〔史記、三皇紀〕一說、三皇、謂㆓天皇・地皇・人皇㆒爲㆓三皇㆒、云、天地初立、有㆓天皇氏㆒、十二頭、澹泊無㆑所㆓施爲㆒。〔史記、秦始皇紀〕古有㆓天皇㆒、有㆓地皇㆒、有㆓泰皇㆒。〔春秋保乾圖〕天皇・地皇・人皇、兄弟九人、分㆓九州㆒長㆓天下㆒也。❸天子の稱。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕夫越王句踐雖㆓東僻㆒、亦得㆑繫㆓於天皇之位㆒。〔稱謂錄、天子古稱、天皇〕唐書高宗紀、上元二年八月壬辰、皇帝稱㆓天皇㆒、皇后稱㆓天后㆒。❹歲陰の名。〔漢書、天文志〕太歲在㆑亥曰㆓大淵獻㆒、十月出、石氏曰、名㆓天皇㆒。❺年號。唐の德宗の時、朱泚の潛年號。(784) ❻肇國以來、殊に明治憲法下では、我が國を統治する元首。現行憲法では、天皇は、日本國の象徵であり日本國民統合の象徵であつて、この地位は、主權の存する日本國民の至高の總意に基く、と規定されてゐる。〔日本書紀、神武紀〕神日本磐余彥天皇、諱彥火火出見、彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊第四子也。


天皇氏（三才圖會）

【天皇旗】467 テンワウキ 紅地に金色の御紋章を出した錦旗。天皇行幸の際、前驅が捧げる。明治二十二年九月の制定。

〖天皇大帝〗468 テンワウダイテイ ❶星の名。北極紫微垣の中央、勾陳の口にある。北極大帝。〔禮、曲禮上、太上貴㆑德、疏〕熊氏云、三皇稱㆑皇者、皆行合㆓天皇之星㆒、故詩緯含神務宋均注云、北極天皇大帝、其精生㆑人、然則稱㆑皇者、皆得㆓天皇之氣㆒也。〔晉書、天文志上〕鉤陳口中一星、曰㆓天皇大帝㆒、其神曰㆓耀魄寶㆒、主㆓御羣靈㆒、執㆓萬國圖㆒、抱㆓北極㆒。❷南漢、劉龑(**2**－**2224**・・64)の諡。

【天荒】469 テンクワウ ❶絕遠の地。八荒。〔論衡、恢國〕匈奴時、擾㆓正朔㆒、不㆑及㆓天荒之地㆒。❷天地未開のときの混沌としたさま。❸天荒解・破天荒(**8**－**24124**・・190)を見よ。

〖天荒解〗470 テンクワウカイ 破天荒(**8**－**24124**・・190)に同じ。唐の劉蛻が進士に及第した故事。荊州の地は、毎歲、擧人を解送したが、一名も及第するものがなかつたから、荒蕪草昧の義をとつて天荒といひ、劉蛻が其の先例を破つて初めて及第したことを、天荒解、又、破天荒といふ。〔摭言〕荊南解比號㆓天荒㆒、大中四年、劉蛻以㆓是府解㆒及第、時崔鉉作㆑鎭、以㆓破天荒錢七十萬㆒資㆑蛻。

〖天荒地老〗471 t'ien^1 huang^1 ti^4 lao^3 天地も覆る程の大事變。天地滅亡。

【天潢】472 テンクワウ ❶星の名。一に天橫に作る。〔史記、天官書〕王良旁有㆓八星㆒、絕㆑漢、曰㆓天潢㆒。〔晉書、天文志上〕五車五星、三柱九星、其中五星曰㆓天潢㆒。❷天の河。天津。天漢。〔張衡、思玄賦〕乘㆓天潢之汎汎㆒兮、浮㆓雲漢之湯湯㆒。〔注〕善曰、宋均曰、天潢、天津之別名也。〔盧照鄰、七夕浮㆑舟詩〕天潢殊漫漫、日暮獨悠哉。❸皇族。天子の一族。天潢之派を見よ。❹軍隊が大海等をわたるに用ひる橋の如きもの。一名、天船。〔六韜、虎韜、軍用〕渡㆓大水㆒飛江、廣一丈五尺、長二丈以上、八具、以㆓環利通索㆒張㆑之、天浮、鐵螳螂、矩㆑內圓㆑外、徑四尺以上、環絡自副、三十二具、以㆓天浮㆒張㆓飛江㆒、濟㆓大海㆒、謂㆓之天潢㆒、一名㆓天船㆒。

〖天潢之派〗473 テンクワウノハ 皇室。皇族。天潢は天の河で、王子王孫を天河の分派に比していふ。〔北史、魏宗室傳論〕魏氏始㆑自㆓幽都㆒、肇基㆓帝業㆒、上谷公等、分㆓支若木㆒、疏㆓派天潢㆒。〔庾信、周大將軍義興公蕭太墓誌銘〕派㆓別天潢㆒、支㆓分若木㆒。〔庾信、爲㆓杞公㆒讓㆓宗師㆒表〕憑㆓天潢之派水㆒、附㆓弱木之分枝㆒。〔張昱、輦下曲〕州橋拜伏兩珉龍、向㆑下天潢一派通。〔書言故事、人君類〕宗室曰㆓天潢之派㆒。

〖天潢宗派〗474 テンクワウソウハ 皇族。天潢之派を見よ。〔皇朝通志、氏族略、國姓〕天潢宗派、以㆓顯祖宣皇帝本支㆒爲㆓宗室㆒、繫㆓黃帶㆒。

【天廓】475 テンクワク 相術家の語。左の耳たぶ。流年

運氣(6－17431‥307)を見よ。

【天官】476 テンクワン ❶周代の官名。六官の一。其の長官を冢宰といひ、今の總理大臣に當る。六十の屬官がある。周官(2－3441‥127)の❸を見よ。〔周禮、天官、序官、天官冢宰、第一、疏〕天官冢宰、鄭目錄云、象レ天所レ立之官、冢、大也、宰者、官也、天者統二理萬物一、天子立二冢宰一、使レ掌二邦治一、亦所下以摠二御衆官一、使上レ不レ失レ職。〔禮、曲禮下〕天子建二天官一先二六大一、曰、大宰・大宗・大史・大祝・大士・大卜、典二司六典一。❷天子に仕へる官吏。〔後漢書、班固傳〕天官景從、祲威盛容。〔注〕蔡邕獨斷曰、百官小吏曰二天官一。〔王粲、贈二士孫文始一詩〕良人在レ外、誰佐二天官一。〔注〕向曰、言、文始在レ外、誰當レ任二天子之官一。❸天文をいふ。天官書を見よ。〔史記、大史公自序〕太史公、既掌二天官一、不レ治レ民、有レ子曰レ遷。〔漢書、司馬遷傳〕太史公學二天官于唐都一。〔漢書、霍光傳〕善爲二天官一。❹耳・目・口・鼻・形態の五官。〔荀子、天論〕耳目鼻口形能、各有レ接而不二相能一也、夫是之謂二天官一。〔注〕耳辨レ聲、目辨レ色、鼻辨レ臭、口辨レ味、形辨二寒熱疾癢一。〔王念孫、讀書雜志〕能讀爲レ態、云云、古字能、與レ耐通、故亦與レ態通。❺道家の三官神（天官・地官・水官）の一。舊曆正月十五日を上元と云ひ、天官下降の日とする。天官賜福を見よ。〔宋史、苗守信傳〕淳化二年、守信上言、正月一日爲二一歲之首一、每月八日、天帝下二巡人世一、察二善惡一、太歲日、爲二歲星之精、人君之象一、三元日、上元天官、中元地官、下元水官、各主レ錄二人之善惡一。❻尉繚子の篇名。

〖天官書〗477 テンクワンシヨ 史記の篇名。八書の一。星座を人間社會の組織に擬して、之に帝王・百官・人物・土地・建築物・器物・動植物等の名稱を附加し、又、木・火・土・金・水五個の遊星が此等の星座と相結んで、人間界の治亂、年の豐凶に及ぼす影響、又、君主の政治の美惡が此等天體の現象に及ぼす反應、又、彗星・流星、其の他異樣の現象の生成する所以と其の吉凶禍福の作用とを詳述す。要するに天官書は、冬至點の測定と五行運行の智識とを本とし、咒術又は民間信仰と結合して、占星術と星辰崇拜とを說いてゐる。而して兩者について最も重要なのは木星で、北極と赤道・黃道とを支配して、天官の全組織を動かす中心的勢力を爲してゐる。〔史記、太史公自序〕論二其行事一、驗二于軌度一、以レ次作二天官書第五一。〔史記、天官書、注〕索隱曰、按、天文有二五官一、官者、星官也、星座有二尊卑一、若二人之官曹列位一、故曰二天官一。

〖天官賜福〗478 テンクワンシフク 上元節。天官下降の日。即ち舊曆の正月十五日をいふ。天官の❺を見よ。〔通俗編、祝誦、天官賜福〕梁元帝旨要、上元爲二天官賜福之辰一、中元爲二地官赦罪之辰一、下元爲二水官解厄之辰一。

【天冠】479 テンクワン 玉で飾つた天子の冠。又、單に冠をいふ。天官地屨を見よ。〔南齊書、林邑國傳〕王服二天冠一、如二佛冠一。〔梁簡文帝、湘宮寺碑銘〕洛陽白馬、帝釋二天冠一。

〖天冠地屨〗480 テンクワンチク 頭にかぶる冠と足にはくくつ。懸隔の甚しい喩。〔史記、日者傳〕夫卜而有レ不レ審、不レ見レ奪レ糈、爲二人主一計而不レ審、身無レ所レ處、此相去遠矣、猶二天冠地屨一也。

【天宦】481 テンクワン 去勢した男子で、內宮に侍仕するもの。宦者。天閹。〔靈樞經〕岐伯曰、宦者、去二其宗筋一、傷二其衝脈一、血寫不レ復、皮膚內結、脣口不レ榮、故鬚不レ生、黃帝曰、其有二天宦者一、未二嘗被一レ傷、不レ脫二於血一、然其鬚不レ生。

【天患】482 テンクワン 天然のわざはひ。天災。〔周禮、地官、司救〕凡歲時有二天患民病一、則以レ節巡二國中及郊野一、而以二王命一施惠。〔注〕天患、謂二裁害一也。

【天關】483 テンクワン ❶星の名。㋑角星。〔史記、天官書〕天關爲レ之動。〔晉書、天文志上〕二十八舍東方角二星爲二天關一、其閒天門也、其內天庭也。㋺北辰。北斗星。〔揚雄、長楊賦〕高祖奉レ命、順二斗極一運二天關一。〔天官星占〕北辰、一名天關。〔太公金匱〕春三月、斗爲二天關一、戰背二天關一向二天梁一、敵不レ可レ當。❷二十八宿の一。奎(3－5911)の異名。〔太公金匱〕冬月奎爲二天關一。❸牽牛神。〔星經〕牽牛神、一名天關。❹脊骨をいふ。脊接骨。〔相牛經〕膺庭欲レ得レ廣、天關欲レ得レ成。〔注〕膺庭、胸前也、天關、脊接骨。❺口をいふ。〔黃庭內景經〕關二塞三關一握固停。〔注〕經云、口爲二天關一、精神機、手爲二人關一、把二盛衰一、足爲二地關一、生命扉。

【天歡】484 テンクワン 天子のよろこび。又、天子の御宴。〔海錄碎事、帝王、御宴〕李宗楚等謝曰、既陪二天歡一、不二敢不一レ醉。

【天君】485 テンクン ❶心をいふ。〔荀子、天論〕心居二中虛一以治二五官一、夫是之謂二天君一。〔范俊、心箴〕君子存レ誠、克念克敬、天君泰然、百體從レ令。❷三韓で、天神を祭ることを主るもの。〔後漢書、三韓傳〕諸國邑、各以二一人一主レ祭二天神一、號爲二天君一。❸天神をいふ。〔海錄碎事、政治、祭祀〕又祭二天神一號二天君一。

【天訓】486 テンクン 天子のをしへ。聖訓。〔國史略、天智天皇〕爲二宰執一述懷曰、道德承二天訓一、鹽梅寄二眞宰一、羞無二監撫術一、安能臨二四海一。

【天刑】487 テンケイ ❶自然の法則。又、天の降す刑罰。天罰。〔國語、周語下〕上非二天刑一、下非二地德一、中非二民則一。〔注〕刑、法也。〔國語、魯語下〕少采夕月、與二太史司載一糾二虔天刑一。〔注〕刑、法也。〔黃佐、乾清宮賦〕猶糾二虔乎天刑一、夕惕二厲乎哀職一。❷天が其の人に刑罰を與へる。〔莊子、德充符〕無趾語二老聃一曰、孔丘之於二至人一、其未邪、云云、胡不丁直使丙彼以二死生一爲二一條一、以二可不可一爲二一貫一者解乙其桎梏甲、其可乎。無趾曰、天刑レ之、安可レ解。❸去勢すること。又、去勢。〔後漢書、襄楷傳〕今黃門常侍、天刑之人。

〖天刑病〗488 テンケイビヤウ 癩病(7－22622‥11)の別名。

【天系】489 テンケイ 天子の御血統。皇統。帝系。

【天啓】490 テンケイ ❶天がひらく。天がみちびく。天のみちびき。又、天が人の運命などを大いにする。〔左氏、閔、元〕以レ是始賞、天啓レ之矣。〔國語、鄭語〕天之所レ啓、十世不レ替、夫其子孫必光啓レ土。〔魏書、高閭傳〕天啓聖姿。〔謝朓、始出二尙書省一詩〕英袞暢二人謀一、文明固天啓。〔注〕向曰、明帝文明之德、天啓レ之也。❷年號。㋑明、熹宗、朱由校の時。(1621－1627) ㋺北魏、孝明帝の時、元法僧の僭年號。一に大啓。(525) ㋩陳、武帝の時、永嘉王莊の僭年號。(558－560) ㊁元の順帝の時、徐壽輝の僭年號、治平の一稱。(1351－1360) ㋭唐代、南詔の昭成帝、晟豐祐の時。(824－859) ❸字號。㋑宋、蔡肇(9－31818‥99)の字。㋺明、汪元錫(6－17154‥218)の字。

〖天啓帝〗491 テンケイテイ 明、熹宗、朱由校(6－14424‥647)をいふ。

【天卿】492 テンケイ 明、施大經(5－13629‥167)の字。

【天惠】493 テンケイ ❶天子の恩惠。天眷。〔曹植、又贈二丁儀王粲一詩〕皇佐揚二天惠一、四海無レ交レ兵。〔注〕翰曰、能闡二揚天子之惠一。❷天のめぐみ。自然の恩惠。

【天景】494 テンケイ テンエイ 天氣。空模樣。又、日光。日。〔盧綸、蕭常侍癭柏亭歌〕松閒汲レ井烟翠寒、洞裏圍レ碁天景好。〔孟郊、灞上輕薄行〕長安無二緩步一、況値二天景暮一。

【天經】495 テンケイ ❶天の常道。天の正しい道。〔莊子、在宥〕鴻蒙曰、亂二天之經一、逆二物之情一、玄天弗レ成。〔疏〕亂二天然常道一。❷孝をいふ。〔孝經、三才章〕夫孝、天之經也、地之義也、人之行也。❸禮をいふ。〔左氏、昭、二十五〕夫禮、天之經也、地之義也、民之行也、天地之經、而民實則レ之。❹日をいふ。〔袁同、直寅賓出日賦〕日爲二天經一、春爲二歲始一。❺經水。月經。

〖天經堂〗496 テンケイダウ 明、余藩卿(1－515‥116)の室名。

〖天經地緯〗497 テンケイチヰ 天地の正しい道。又、天地の道によつて行ふこと。〔左思、魏都賦〕天經地緯、理有二大歸一。〔注〕善曰、新序曰、單襄公、經レ之以レ天、緯レ之以レ地。〔徐陵、爲二貞陽侯一與二陳司空一書〕後主天經地緯、義貫二人靈一。

〖天經地義〗498 テンケイチギ 天が常を得、地が宜しきを得る道。轉じて、正當不易の道理。〔孝經、三才章〕夫孝、天之經也、地之義也、民之行也。〔注〕經、常也、利レ物爲レ義、孝爲二百行之首一、人之常德。〔潘岳、世祖武皇帝誄〕永言孝思、天經地義。

〖天經或問前集〗499 テンケイワクモンゼンシフ 書名。一卷。清、游藝撰。天道の運行に就て問答の形式で推論したもので、極めて精核である。後集も同じ趣旨で書かれたものであるが支離汗漫の談が多い。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【天閨】500 テンケイ 天子の宮殿の閨。轉じて、帝王の妃をいふ。閨は、婦人の居る室。〔宋書、后妃傳論〕正二位天閨一、禮亢二尊極一。

【天慶】501 テンケイ ㊀上帝から賜はるよろこび。〔儀禮、士冠禮〕黃耇無レ疆、受ニ天之慶一。〔漢書、兒寬傳〕唯天子、建ニ中和之極一、兼總ニ條貫一、金聲而玉振レ之、以順ニ成天慶一、垂ニ萬世之基一。〔班固、東都賦〕永延長兮膺ニ天慶一。〔注〕向曰、言代祚延長、而當ニ上天之福慶一。㊁年號。㋑遼、天祚帝、耶律延禧の時。(1111－1120) ㋺遼、聖宗、耶律隆緒の時、渤海の大延琳の僭年號。(1029－1030) ㋩宋代、西夏、桓宗李純佑の時。(1194－1205) ㋥明、宣宗の代、大越(安南)の陳暠の時。(1426－1428) ㋭テンギヤウ 第六十一代朱雀天皇の御代。(938－947) ㊂明、鍾雲瑞(**11－40672**・・139)の字。

【天慶觀】502 テンケイクワン 觀の名。㊀湖北省秭歸縣。唐、貞觀中に建つ。〔入蜀記〕出ニ巫峽門一、過ニ天慶觀一、少留、觀ニ唐天寶元年碑一、觀下卽叱灘。㊁湖南省常德縣の西。唐の時に建つ。初名は乾明。〔名勝志〕天慶觀碑、白雲先生管師復集、柳公權書。

【天慶節】503 テンケイセツ 宋代、正月三日をいふ。この日に天書が降つた祥瑞があつたからいふ。〔事物紀原、正朔曆數部、天慶〕宋朝會要曰、大中祥符元年十一月、詔以ニ正月三日天書降日一爲ニ天慶節一、休暇五日。

【天慶元寶】504 テンケイゲンパウ 遼の天祚帝の鑄た貨幣。〔續文獻通考、錢幣考〕天祚帝鑄ニ乾統元寶錢一、又鑄ニ天慶元寶錢一。

【天磬】505 テンケイ 道家で、指を以て齒を叩くことをいふ。

【天薊】506 テンケイ 草の名。朮(**6－14423**)の異名。うけら。〔本草、朮〕釋名、時珍曰、吳普本草、一名山芥、一名天薊、因ニ其葉似レ薊而味似ニ薑芥一也、西域謂ニ之吃力伽一。

【天雞】507 テンケイ ㊀星の名。〔晉書、天文志上〕狗國北二星曰ニ天雞一、主ニ候時一。㊁鳥の名。㋑桃都山上の大樹にすみ、毎朝、天下の雞に先んじて鳴くといふ雞。〔述異記、下〕東南有ニ桃都山一、上有ニ大樹一、名曰ニ桃都一、枝相去三千里、上有ニ天鷄一、日初出照ニ此木一、天鷄則鳴、天下鷄皆隨レ之鳴。〔施肩吾、海邊遠望詩〕扶桑枝邊紅皎皎、天雞一聲四溟曉。㋺野雞の類。にしきどり。〔爾雅、釋鳥〕鶾、天雞。〔注〕鶾雞、赤羽、逸周書曰、文鶾若ニ彩雞一、成王時、蜀人獻レ之。〔急就篇、注〕野雞生在ニ山野一、鷸雞、鶡雞・天雞・山雞之類、皆是也。〔謝靈運、於ニ南山一往ニ北山一經ニ湖中一瞻眺詩〕天雞弄ニ和風一。㊂蟲の名。㋑こほろぎ。莎雞。〔爾雅、釋蟲〕螒、天雞。〔注〕小蟲、黑身赤頭、一名ニ莎雞一、又曰ニ樗雞一。㋺蜻蛉の類。かねつけとんぼ。こんやとんぼ。〔古今注、魚蟲〕紺蝶、一名蜻蛉、云云、遼東人呼爲ニ紺幡一、亦曰ニ童幡一、亦曰ニ天雞一。

【天雞山人】508 テンケイサンジン 志賀忍の號。志賀理齋(**4－10331**・・11)を見よ。

【天繼】509 テンケイ 天の意をつぐ。天の時をいふ。天時。一說に、史記の文は、罔レ非ニ天繼ニ常祀一と讀むべきであるといふ。〔史記、殷紀〕嗚呼、王嗣敬レ民、罔レ非ニ天繼一、常祀毋レ禮於弃レ道。〔注〕集解曰、孔安國曰、王者主レ民、當レ敬ニ民事一、無レ非ニ天時一、天時所ニ常祀一也、祭祀有レ常、不レ當ニ特豐ニ於近一也。〔考證〕李笠曰、愈樾群經平議、以レ罔レ非ニ天爲レ句、言、王嗣レ位敬行ニ民事一、罔レ非ニ天所レ命也、與ニ余意一暗合、繼ニ常祀一者、言ニ繼ニ續經常之祀一、所謂典ニ厥義一也、毋レ豐ニ於棄レ道、言、毋レ豐ニ厚於非道之祀一、所ニ以防ニ淫慝一也。〔書、高宗肜日〕王司レ敬レ民、罔レ非ニ天胤一、典レ祀無レ豐ニ于昵一。〔注〕胤、嗣、昵、近也、云云、王者主レ民、當レ敬ニ民事一、民事無レ非ニ天所ニ嗣常一也、祭祀有レ常、不レ當ニ特豐ニ於近廟一。〔蔡傳〕況祖宗莫レ非ニ天之嗣一、主レ祀其可ニ獨豐ニ於昵廟一也。

【天警】510 テンケイ 天のいましめ。〔說苑、敬愼〕妖孽者、天所ニ以警ニ天子諸侯一也。〔張載、大順城記〕天警ニ我宋一、羌蠢而動。

【天倪】511 テンゲイ ㊀自然の分。天然の分際。〔莊子、齊物論〕何謂ニ和レ之以ニ天倪一。〔注〕天倪者、自然之分也。〔疏〕天、自然也、倪、分也。㊁天涯。天界。〔高適、宋中遇ニ林慮楊十七山人一因而有レ別詩〕遙見林慮山、蒼蒼戛ニ天倪一。〔岑參、宿ニ鐵關西館一詩〕雪中行ニ地角一、火處宿ニ天倪一。㊂字號。㋑清、陳王賓(**11－41698**・・1316)の字。㋺信夫粲の號。信夫恕軒(**1－707**・・215)を見よ。

【天黥】512 テンゲイ あざ。ほくろ。痘疤。面花。〔茶香室叢鈔〕明徐渭有ニ郁君小像贊一、注云、面天黥者、其詞云、瓜匏白肥、但可ニ醃葅一、松柏多レ鱗、乃中ニ梁柱一、相ニ君之貌一、安得レ不ニ去レ彼而取レ之、按、天黥、當レ謂ニ痘疤一、卽唐人所レ詠之面花也。

【天教】513 テンケウ 天のをしへ。〔呂覽、上德〕順ニ天教一。

【天橋】514 テンケウ ㊀古の攻城の具。木を以て空に架して攻め登るもの。〔宋史、陳規傳〕李横圍レ城、造ニ天橋一塡レ濠、鼓噪臨レ城。㊁星の名。〔晉書、天文志上〕王良五星、亦曰レ梁、爲ニ天橋一。㊂地名。湖北省恩思縣。石炭の產地。㊃峽の名。山西省河曲縣。天橋とは、冬、積氷の成す橋で、長さ九十丈、黃河が其の中を流れ、禹の鑿つた痕があるといふ。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、河曲縣〕黃河、縣西北六里、自ニ故東勝州境一轉而西南流八十里、至ニ平泉邨一、又西流九十里、至ニ天橋子一。㊄橋の名。雲南省大理縣の西南。一名、天生橋、或は石馬橋。〔大理府志〕天橋、下斷上連、憑レ虛凌レ空、可レ渡ニ一人一、故名ニ天橋一、橋邊激レ水濺レ珠、宛如ニ梅樹一、謂ニ之不謝梅一。〔讀史方輿紀要、雲南、大理府、太和縣〕天橋、府西南三十五里、一名石馬橋、下斷上連、絕壑深險、洱河之水、從レ此、洩而南注ニ郡境一、無ニ泛溢之患一、志云、天橋、石梁横亙、憑レ虛凌レ空、渡者仄レ足而過、稱爲ニ絕險一。㊅ t'ien^1 ch'iao^2 ㋑體操器具の名。細い木を高く架して、其の上を渡らせるもの。㋺鐵道の上を渡る橋。陸橋。㋩車の中央にあつて、車輪と積荷との摩擦を防ぐ木。㋥死者を極樂に導く橋。

【天橋路】515 テンケウロ 北京の天壇附近に在る著名の歡樂地。

【天驕】516 テンケウ 匈奴をいふ。天の驕子、卽ち、天がその剛驕さを許した子の意。〔漢書、匈奴傳上〕胡者、天之驕子也。〔杜甫、諸將詩〕韓公本意築ニ三城一、擬下絕ニ天驕一拔中漢旌上。〔王維、出塞作詩〕居延城外獵ニ天驕一、白草連レ天野火燒。

【天隙】517 テンゲキ ㊀天然に出來た地の割目。兩山の間の狹惡な道をいふ。〔孫子、行軍〕凡地有ニ絕澗、云云天陷・天隙一、必亟去レ之。〔注〕兩山相向、洞道狹惡。㊁天時の間隙。亂世をいふ。〔後漢書、公孫述傳〕若奮ニ威德一、以投ニ天隙一、霸王之業成矣。〔注〕天時之間隙也。

【天缺】518 テンケツ ㊀いなびかり。列缺。〔韓非子、飾邪〕非ニ天缺・孤逆・刑星・熒惑・奎・台一、數年在レ東也。〔翼毳〕文選思玄賦云、豐隆軯ニ其震霆一兮、列缺曄ニ其照夜一、注、列缺、電也、應劭曰、天隙電照也、漢書司馬相如傳云、貫ニ列缺之倒景一兮、涉ニ豐隆之滂濞一、注、列缺、天閃也、愚按、天缺對ニ上文豐隆一、相如文亦相對、則天缺爲ニ電母一明矣、天閃之天、列缺之缺、互ニ其字一耳。㊁天の缺けた場所。〔陸龜蒙、雜諷詩〕女媧鍊ニ五石一、天缺猶可レ補。

【天闕】519 テンケツ ㊀天帝の居所。天門。〔史記、天官書〕兩河天闕間爲ニ關梁一。〔徐陵、勸ニ進梁元帝一表〕南望ニ牛頭一、方稱ニ天闕一。㊁天子の宮門。轉じて、宮城・京師。〔宋書、桂陽王休範傳〕便當下投ニ命有司一、謝中罪天闕上。㊂星の名。斗宿(**5－13489**・・47)を見よ。

【天月】520 テンゲツ 天にかかつてゐる月。〔曹植、棄婦篇〕天月相終始、流星沒無レ精。〔謝惠連、秋懷詩〕皎皎天月明。

【天月二德】521 t'ien^1 yüeh^4 êrh^4 tê^2 甚だ好都合なことにいふ。天德・月德は共に吉祥の星。

【天業】522 テンゲフ 帝王の事業。帝業。〔後漢書、周章傳論〕如令下君器、易以ニ下議一、卽ニ斗筲一、必能叨中天業上、狂夫豎臣亦自奮矣。〔杜牧、爲ニ中書門下一請ニ追尊號一表〕天業益張。

【天建】523 テンケン ㊀星の名。〔星經〕鈎鈐二星主レ法、去ニ房宿一七寸、第一名ニ天健一、二名ニ天宮一。㊁北魏、孝明帝の時、莫折念生の僭年號。(524)

【天眷】524 テンケン ㊀天の眷顧。天のめぐみ。又、天子のめぐみ。天惠。〔書、大禹謨〕皇天眷命、奄ニ有四海一爲ニ天下君一。〔晉書、庾冰傳〕非ニ天眷之隆一、將何以至レ此。〔溫子昇、舜廟碑〕天眷功高、民歸ニ德盛一。〔徐陵、陳武帝卽位詔〕式從ニ天眷一、俯協ニ民心一。㊁金、熙宗、完顏亶の年號。(1138－1140)

【天憲】525 テンケン 朝廷の定めた法令。國家の法令。〔後漢書、朱穆傳〕手握ニ王爵一、口含ニ天憲一。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕國綱天憲。〔五代會要、御史臺〕御史臺、事總ニ朝綱一、職司ニ天憲一。

【天險】526 テンケン 天然のけはしいところ。自然の要害の地。〔易、坎〕天險不レ可レ升也。〔疏〕言ニ天之爲レ險、懸邈高遠、不レ可ニ升上一、此天之險也。〔後漢書、孔融傳〕天險可ニ得而登一也。〔潘岳、西征賦〕

看二天險之襟帶一。〔魏書、邢巒傳〕劍閣天險、古來所レ稱。

【天懸】527 テンケン ㊀甚しくへだたる。天懸地隔を見よ。㊁天からかかる。天にかかる。〔世說新語、言語〕絕壁天懸、騰波迅急。

〖天懸地隔〗528 テンケンチカク 天地雲泥の差あるをいふ。隔りの甚しい形容。天地懸隔。〔南史、陸厥傳〕一人之思、遲速天懸、一家之文、工拙壤隔。

【天譴】529 テンケン 天のとがめ。天罰。〔宋書、文帝紀〕上答二天譴一、下恤二民瘼一。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕此天譴也。〔周書、明帝紀〕朕將三覽察以答二天譴一。

【天權】530 テンケン ㊀星の名。北斗七星の第四星。〔春秋運斗樞〕北斗有二七星一、云云、第四權。㊁鶡冠子の篇名。

【天顯】531 テンケン ㊀天の明かな道。尊卑上下の分をいふ。〔書、康誥〕于レ弟弗レ念二天顯一、乃弗レ克レ恭二厥兄一。〔蔡傳〕天顯、猶二孝經所謂天明一、尊卑顯然之序也。〔書、酒誥〕迪二畏天顯小民一。〔蔡傳〕畏二天之明命一、畏二小民難レ保。〔南齊書、鬱林王紀〕恣レ情肆レ意、罔レ顧二天顯一。㊁天が明かにする。天が顯明にする。〔後漢書、郅惲傳〕堯舜不下以二天顯一自與上、故禪二天下一。〔注〕堯舜盛德、天之所レ顯、猶不二自與一、以レ位禪レ人。㊂遼の太祖、耶律億・太宗耶律德光の年號。（926－938）

【天元】532 テンゲン ㊀天の元氣の運行すること。〔史記、歷書〕改二正朔一、易二服色一、推二本天元一、順二承厥意一。〔注〕索隱曰、言、王者易レ姓而興、必當下推二本天之元氣行運所レ在、以定二正朔一、以承中天意上。㊁十一月建子を正月とする周の曆。天統。三統（**1－12**・・1375）の㊀を見よ。〔後漢書、陳寵傳〕十一月、天以爲レ正、周以爲レ春、十二月、地以爲レ正、殷以爲レ春、十三月、人以爲レ正、夏以爲レ春、三微成レ著、以通二三統一、周以二天元一、殷以二地元一、夏以二人元一。㊂君主の稱。〔唐書、陸贄傳〕古之人君、德合二於天一曰レ皇、合二於地一曰レ帝、合二於人一曰レ王、父レ天母レ地、以養レ人、治レ物得二其宜一者曰二天子一、皆大名也、三代而上所レ稱象二其德一、不二敢有レ加焉、至レ秦乃兼曰二皇帝一、流及二後世一、昏僻之君、始有二聖劉天元之號一。㊃算術の一。其の法は、古の九章方程に本づく。天元術を見よ。〔宋史、藝文志五〕陽遁天元局法、一卷。㊄碁盤の面の九つの黑星の中、其の中央の星。㊅年號。㋑明初、北元の後主古思帖木兒の時。（1378－1387）㋺第六十四代圓融天皇の御代。（978－983）

【天元術】533 テンゲンジュツ 宋末・元初に發達した代數學の稱。一元、卽ち一つの未知數を立て、算木を用ひて數學方程式を布列作製し、其の近似の解法を行ふもの。又、立天元一術・天元一術といふ。元の朱世傑は四つの未知數を立てて解く四元術を唱へた。其の後、中國には此の法が絕え、朝鮮から我が國に傳はつて演段術・點竄術となつた。〔秦九韶、數學九章〕・〔李治、測圓海鏡〕・〔李治、益古演段〕・〔朱世欅、算學啓蒙〕。

〖天元皇帝〗534 テンゲンクワウテイ 北周、宣帝（**3－7132**・・164）の自稱。

【天玄】535 テンゲン 天空の色はくろい。〔易、坤〕天玄而地黃。〔疏〕天色玄、地色黃。

【天彥】536 アマビコ ㊀音の反響。こだま。やまびこ。㊁天上の人。天人。〔夫木和歌抄、八〕天彥よ雲のまがきにことづてん。

【天原】537 テンゲン ㊀天のもと。天原發微を見よ。㊁アマノハラ おほぞら。〔萬葉集、十五〕あまのはらふりさけ見れば夜ぞ更けにける。

〖天原發微〗538 テンゲンハツビ 書名。五卷、二十五篇。宋、鮑雲龍撰。天數に象り、易によつて數理を明かにす。〔四庫提要、子、術數類〕。

【天黿】539 テンゲン 星座の名。元枵。〔國語、周語下〕星在二天黿一。〔注〕天黿、次名、一曰二玄枵一、從二須女八度一至二危十五度一爲二天黿一。

【天弧】540 テンコ 星の名。〔揚雄、羽獵賦〕熒惑司レ命、天弧發レ射。〔注〕善曰、天弧、虛上二星。〔庾信、周柱國大將軍紇于弘神道碑〕天弧射法、太乙營圖。

【天狐】541 テンコ 天上に住む靈狐。〔元中記〕狐千歲卽與レ天通、爲二天狐一。〔白孔六帖〕天狐、九尾金色、役二於日月宮一、洞二達陰陽一。〔陸游、醉舞詩〕天狐伎倆本無レ多。

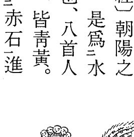
【天庫】542 テンコ ㊀星の名。〔史記、天官書〕軫南衆星曰二天庫樓一。〔晉書、天文志上〕招搖與二北斗杓一間曰二天庫星一。㊁天子の庫。〔王建、贈二田將軍一詩〕回殘疋帛歸二天庫一、分好旌旗入二禁營一。

【天祜】543 テンコ 天から降すさいはひ。〔詩、小雅、信南山〕曾孫壽考、受二天之祜一。〔箋〕祜、福也。〔禮、禮運〕以正二君臣一、以篤二父子一、以睦二兄弟一、以齊二上下一、夫婦有レ所、是謂レ承二天之祜一。〔郭璞、山海經圖、軒轅國贊〕軒轅之人、承二天之祜一、冬不レ襲レ衣、夏不レ扇レ暑。

【天鼓】544 テンコ ㊀雷をいふ。〔漢武帝內傳〕鳴二天鼓一、飮二玉漿一。〔陸倕、天光寺碑〕擊二天鼓一、撞二地鐘一。〔李白、梁甫吟〕我欲三攀レ龍見二明主一、雷公砰訇震二天鼓一。〔雲仙雜記〕雷曰二天鼓一、雷神曰二雷公一。㊁雷に似た音。〔史記、天官書〕天鼓、有レ音如レ雷非レ雷、音在レ地而下及レ地、其所レ往者、兵發二其下一。㊂星の名。河鼓星の別名。〔晉書、天文志〕河鼓三星、旗九星、在二牽牛北一、天鼓也、主二軍鼓鈇鉞一。㊃佛寺で撞く曉の鐘。〔宣室志〕。㊄道家で、指で腦をたたくことをいふ。〔類說〕學レ道、須下鳴二天鼓一以召中衆神上。

【天顧】545 テンコ 天子の恩顧。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕陪廁迴二天顧一、朝讌流二聖情一。〔注〕向曰、延年陪二廁朝廷之閒一、爲二帝顧遇一。

【天吳】546 テンゴ 海神の名。人面にして八首、八足八尾なりといふ。〔山海經、海外東經〕朝陽之谷神曰二天吳一、是爲二水伯一、其爲レ獸也、八首人面、八足八尾、皆靑黃。〔謝靈運、遊二赤石一進帆レ海詩〕川后時安レ流、天吳靜不レ發。〔注〕銑曰、天吳、水伯。〔柳宗元、招二海賈一文〕奔螭出抃兮翔鵬振舞、天吳九首兮更笑迭怒。



天吳（三才圖會）

【天語】547 テンゴ ㊀天子のおことば。帝王の言。〔李白、明堂賦〕聽二天語之察察一、擬二帝居之將將一。〔沈佺期、紅樓院應制詩〕經聲夜息聞二天語一。〔歐陽脩、拜レ敕詩〕丁寧天語深。㊁アマガタリ 姓氏。〔拾芥抄〕。㊂アマガタラヒ 姓氏。〔姓名錄〕。㊃アメノカタリゴト 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十一〕。

【天口】548 テンコウ ㊀星の名。〔太平御覽、天、天部上〕詩記歷樞曰、箕爲二天口一、主レ出レ氣。㊁善く談ずる者。〔漢書、藝文志、田子二十五篇、自注〕名駢、齊人、游二稷下一、號二天口駢一。〔任昉、宣德皇后令〕辯析二天口一、而似レ不レ能レ言。〔注〕善曰、七略曰、齊田駢好二談論一、故齊人爲語曰二天口駢一、天口者、言、田駢子不レ可レ窮二其口一、若レ事レ天。㊂天の口。天に代つて言ふこと。聖人の言。〔潛夫論、考績〕夫聖人爲二天口一、賢人爲二聖譯一、是故聖人之言、天之心也、賢者之所レ說、聖人之意也。㊃［佛］テンク 婆羅門で、火を天口といふ。火に供物を燒けば諸天が之を食ふといふ。〔百論疏、上之中〕再供二養火一、爲レ欲レ生レ福、外道謂二火是天口一。

【天工】549 テンコウ ㊀天の職事。天下を治める仕事。天工人其代レ之を見よ。〔顏延之、直二東宮一答二鄭尙書一詩〕皇居體二環極一、設レ險祗二天工一。〔注〕銑曰、工、官也、言、守衞敬二天子一官也。〔陸倕、新漏刻銘〕神道無レ跡、天工罕レ代。〔注〕向曰、工、官、罕、希也、言、神妙之道、天官希二能代一也。〔王維、送二韋大夫東京留守一詩〕天工寄二人英一、龍袞瞻二君臨一。㊁天然の力で出來た細工。かみわざ。又、技藝の巧なことにいふ。天功。天匠。〔趙孟頫、贈下放二煙火一者上詩〕人閒巧藝奪二天工一、鍊レ藥燃レ燈淸晝同。〔陸游、新燕詩〕天工不レ用翦刀催、山杏溪桃次第開。㊂明、陳良謨（鄞の人）（**11－41698**・・1304）の原名。

〖天工開物〗550 テンコウカイブツ 書名。三卷。明、宋應星撰。中國の天產、人工を擧げて說明してゐる。其の原本は我が國の靜嘉堂文庫に藏する。

〖天工人其代レ之〗551 テンコウヒトソレコレニカハル 天の職事を人が代つて行ふこと。人が天に代つて天下を治めるものであるから、私心を用ひてはならぬ戒。〔書、皐陶謨〕無レ曠二庶官一、天工人其代レ之。〔傳〕言、人代レ天理レ官、不レ可下以二天官一私上レ非二其才一。〔蔡傳〕天工、天之工也、人君代レ天理レ物、庶官所レ治、無レ非二天事一、苟一職之或曠、則天工廢矣。

【天公】552 テンコウ ㊀天子をいふ。〔後漢書、南匈奴傳〕棄二蔑天公一、坐樹二大鯁一。〔注〕天公、謂二天子一也。㊁天帝。天公無二皁白一を見よ。〔皎然、問レ天詩〕天公何時有、談者皆不經。㊂司徒をいふ。司馬を人公、司空を地公といふに對す。〔論衡、順鼓〕尙書大傳曰、煙氛郊社不レ修、山川不レ祝、風雨

不レ時、霜雪不レ降、責二於天公一。㊃天公將軍。後漢の靈帝の時、黃巾の道を創めた張角の自稱の號。弟、寶は地公將軍、又、その弟梁は人公將軍といつた。〔後漢書、皇甫嵩傳〕角稱二天公將軍一、角弟寶稱二地公將軍一、寶弟梁稱二人公將軍一。

【天公掌】553 テンコウシヤウ　やまのいもの大なるものの異名。〔清異錄、果、天公掌〕淇上薯藥、稱二最大者一號二天公掌一、次者號二楫柮羊一。

【天公主】554 テンコウシユ　回鶻の可汗の妻をいふ。〔稱謂錄、方言稱レ妻、天公主〕五代史、附錄、回鶻、其可汗常樓居、妻號二天公主一。

【天公絮】555 テンコウジヨ　雲をいふ。天帝の絮の意。絮は、わた(綿)。〔清異錄、天文、天公絮〕雲者山川之氣、今秦隴村民稱爲二天公絮一。

【天公玉戲】556 テンコウギヨクギ　雪をいふ。〔清異錄、天文、天公玉戲〕比丘清傳、與二一客一同入二湖南一、客曰、凡雪、仙人亦重レ之、號二天公玉戲一。

【天公無二皁白一】557 テンコウサウハクナシ　天には恩怨がない。皁白は黑白。〔宋書、天文志〕安西將軍庾翼、與二兄冰書一曰、云云、此復是天公憒憒、無二皁白一之徵也。

【天公故自開二雲幙一】558 テンコウコトサラニミツカラウンバクヲヒラク　天帝が特に自ら雲の幕を開いて美しい山貌を現はし出してくれた。〔李頎、雲開見二華山一詩〕天公故自開二雲幙一、乞二與蓮峯一仔細看。

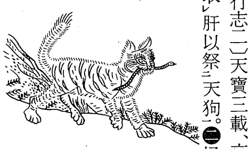
【天功】559 テンコウ　㊀天の職事。天に代つて行ふ天子の仕事。天工。〔書、舜典〕欽哉惟時、亮二天功一。〔荀子、天論〕天職既立、天功既成。〔漢書、五行志〕總命二羣賢一、以亮二天功一。㊁天のいさをし。天の功績。〔左氏、僖、二十四〕竊二人之財一、猶謂二之盜一、況貪二天之功一、以爲二己力一乎。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一第一表〕締二構草昧一、敢叨二天功一。

【天功齋】560 テンコウサイ　道家の語。道教に關する總ての經典を藏する部屋。〔雲笈七籤〕靈寶清齋、三川梁漢之人、歲皆崇事、巴南謂二之清齋一、蜀上謂二之天功齋一。

【亮二天功一】561 テンコウヲタスク　能く民を治めて天の職事を相ける。〔書、舜典〕咨汝二十有二人、欽哉惟時、亮二天功一。〔蔡傳〕使下之各敬二其職一以相中天事上也。

【天后】562 テンコウ　㊀叢辰の名。正月、申に起り、四孟(寅・申・巳・亥)を逆行する。天后に當つた日は遠行・赴任・移居に宜しい。驛馬(12―45030‥43)を見よ。㊁天子。〔宋史、眞宗御製歌〕峩峩雙闕、濟濟明堂、諸侯執レ帛、天后當レ陽。㊂唐の武后の稱。〔唐書、高宗則天皇后武氏傳〕上元元年、進二號天后一。㊃天子の母をいふ。〔稱謂錄、天子母古稱、天后〕柴季通書敍指南、晉后妃太后曰二天后一。㊄海神の名。一に天妃。宋の林愿の第六女は幼時から神異、年二十で卒したが、後、屢〻靈應を海上に顯はし、遂に海神となる。航海業者は皆之を禱祀す。天妃(1284)を見よ。〔明一統志〕天妃廟、在二瓊州府城北十里海口一、昔宋莆田人林氏女、歿爲レ神、極靈驗、凡渡レ海者、必祭卜、歷代累封號二天妃一。

【天狗】563 テンコウ　㊀流星の一。落下の際音響を發する。てんぐぼし。〔史記、天官書〕天狗、狀如二大奔星一、有レ聲、其下止レ地類レ狗、所レ墮及二炎火一、望レ之如二火光一、炎炎衝レ天。〔後漢書、獻帝紀〕四年六月辛丑、天狗西北行。〔注〕前書音義曰、有レ聲爲二天狗一、無レ聲爲二枉矢一。〔唐書、五行志二〕天寶三載、京師訛言、官遣二棖棖一捕レ人、取レ肝以祭二天狗一。㊁怪獸の名。狸に類して白首、よく凶を避けるといふ。〔山海經、西山經〕陰山有レ獸焉、其狀如レ狸而白首、名曰二天狗一、其音如二榴榴一、可二以禦一レ凶。㊂獸の名。貛(10―36653)の異名。あなぐま。〔事物異名錄、獸畜、貛〕正字通、狗貛、蜀人呼二天狗一。㊃小鳥の名。魚狗。〔爾雅、釋鳥〕鴗、天狗。〔注〕小鳥也。㊄植物の名。人參(1―344‥276)の㊀の異名。㊅叢辰の名。月中の凶神で、月建前の二辰に居る。天狗に當つた日は鬼神に祈り、福願を求めることを忌む。〔協紀辨方書、義例二、滿〕樞要曆曰、天狗者、月中凶神也、其日忌下禱二祀鬼神一、祈中求福願上、曆例曰、天狗者、常居二月建前二辰一。㊆テング ㋑人の形をして鼻が長く、羽があつて、深山に棲み、空中を飛行するといふ想像上の怪物。〔宇津保物語、俊蔭〕かく遙かなる山に、誰れか物の音調べて遊びゐたらん、天狗のするにこそあらめ。㋺天狗の鼻の高いことから、自慢する者にいふ。



天狗 ㊁ (三才圖會)

【天狗下】564 テンコウクダル　魏の羊祉は刑罰を好み、極めて慘酷であつたから、時人が羊祉の來ることを稱して天狗下ると言つた故事。〔魏書、酷吏、羊祉傳〕祉自レ當レ官、不レ憚二強禦一、朝廷以爲二剛斷一、時有二檢覆一、每レ令二出使一、好二慕名利一、頗爲二深文一、所レ經之處、人號二天狗下一、及三出將二臨州一、並無二恩潤一、兵民患二其嚴虐一焉。

【天狗倒】565 テングダフシ　深山の中などで、突然暴風のやうな音が起つて物が倒壞すること。〔太平記、二十七、長講見物事〕二百餘間の棧敷、皆天狗倒に遭ひてけり。

【天狗黨】566 テングタウ　元治年間に水戶藩の志士によつて結成せられた尊攘黨の急進派の稱。藤田小四郎・竹內百太郎等これに屬し、武田伊賀守耕雲齋が其の首領となる。

【天狗俳諧】567 テングハイカイ　俳諧の遊戲。數人が隨意に作つた五字・七字・五字の句を、別々に紙に書いて一緒にまぜ、其の中から偶然的に五・七・五の句を拾ひ集め、之を繼ぎ合せて一句十七字の形にまとめる。〔葛藤〕仕りけり天狗はいかい。

【天候】568 テンコウ　空模樣。ひより。天氣。

【天構】569 テンコウ　自然が作り出すこと。又、天然のつくり。〔梁簡文帝、和三蕭東陽祀二七里廟一詩〕萬里實幽宗、三神亦天構。〔任昉、王文憲集序〕雲屋天構、匠者何工。

【天興】570 テンコウ　年號。㊀北魏、太祖、道武帝、拓跋珪の時。(398―404) ㊁金、哀宗、完顏守緒・末帝、完顏承麟の時。(1232―1234) ㊂隋の時、劉武周の僭年號。(617―620) ㊃宋、高宗の代、蒙古の烈祖神元皇帝、敎羅勃極烈の時。(1147―1205) ㊄明代、大越(安南)の黎琮の時。(1559―1560) ㊅遼、天祚帝の時、蕭幹の僭年號。天嗣の一稱。(1122―1123)

【天谷】571 テンコク　㊀青城山の異名。青城(12―42564‥295)の㊂を見よ。〔事物異名錄、坤輿、諸名山〕寰宇記、青城山、玉匱經曰、黃帝封爲二五岳丈人一、一名赤城、一名天谷。㊁梁川孟緯の號。梁川星巖(6―14825‥347)を見よ。

【天黑】572 テンコク　天の闇黑なこと。又、天が暗い。〔杜甫、大雲寺贊公房詩〕天黑閉二春院一、地淸棲二暗芳一。〔宋史、李全傳上〕天黑故以レ火燭レ之。〔文天祥、正氣歌〕陰房闃二鬼火一、春院閟二天黑一。

【天國】573 テンゴク　㊀山名。四川省崇慶縣。青城山の支阜。〔九域志〕永康縣有二天國山一、爲二青城山八大洞之一一。〔青城山記〕青城山有二八大洞一、此乃第五洞也。㊁耶蘇教で、其の信徒の死者の靈魂が行くといふ天上の世界。

【天獄】574 テンゴク　㊀星の名。殺伐を主る。〔晉書、天文志上〕參十星、主二斬刈一、又爲二天獄一、主二殺伐一。〔庾信、周柱國大將軍大都督同州刺史段永神道碑〕三度有レ星、名二天獄一、八卦有レ坎、象二刑書一。㊁地形の險惡なこと。〔魏志、劉放傳、注〕資別傳曰、云云、數言下南鄭直爲二天獄中一、斜谷道爲中五百里石穴上耳、言、其深險喜出二淵軍一之辭也。

【天骨】575 テンコツ　うまれつきの骨格。生れつきの風格。天性。〔魏志、管輅傳、注〕不レ得下騁二天骨一起中風塵上。〔袁宏、三國名臣序贊〕天骨疎朗、牆宇高嶷。〔注〕翰曰、天性疏通而明朗。〔杜甫、天育驃騎歌〕矯矯龍性合二變化一、卓立天骨森開張。

【天根】576 テンコン　㊀星宿の名。氐宿(6―17027‥2)の別名。ともほし。〔爾雅、釋天〕天根、氐也。〔注〕角亢下繫二於氐一、若二木之有一レ根。〔國語、周語中〕天根見而水涸。〔注〕天根、亢氐之閒也。〔史記、天官書〕氐爲二天根一。㊁自然の根ざし。うまれつき。〔新書、等齊〕貴賤之別、非三人天根着二於形容一也。㊂脚にある脈。長壽の相といふ。〔魏志、管輅傳〕輅曰、吾額上無二生骨一、眼中無二守精一、鼻無二梁柱一、脚無二天根一、背無二三甲一、腹無二三壬一、此皆不レ壽之驗。㊃莊子の寓言にあらはれた人名。〔莊子、應帝王〕天根遊二於殷陽一。〔釋文〕天根、崔本云、人姓名也。

【天婚】577 t'ien¹ huen¹　中國の結婚は、先づ男女雙方の生年月日を書き出した庚帖を取り交はし、之を易者に判斷させて後、約束を取定めるのを常例とするが、此の手續きを省いて、直ちに約束を取定めることを天婚と名づける。

【天溷】578 テンコン 星の名。〔宋史、天文志四〕天溷七星、在二外屏南一。

【天閫】579 テンコン ❶天の門。天。天閫地垠を見よ。❷官門。九重。雲上。〔李白、明堂賦〕若レ嵬若レ業、似二天閫地門之開闔一。

〖天閫地垠〗580 テンコンチギン 天のしきみと地のかぎり。天地四方をいふ。〔揚雄、甘泉賦〕天閫決兮地垠開、八荒協兮萬國諧。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、閫、門限也、向曰、閫、限、決、開也、言下天地之門開通、以出二德澤一、故八荒萬國、無上レ不二諧和一也。〔陳樵、月庭賦〕抉二天閫一以西流、磔二地垠一而東適。

【天閽】581 テンコン ❶天帝の門衞。〔楚辭、遠遊〕命二天閽一其開レ關兮。〔注〕告二帝衞臣一啓二禁門一。〔宋書、禮志三〕麾二天閽一使レ啓レ關、謁二紫宮一朝二太一一。❷帝王の宮門。〔蔣防、藩臣戀二魏闕一詩〕恩波懷二魏闕一、獻納望二天閽一。〔宋史、孟昶傳〕抗二手疏一以陳レ誠、伏二天閽一而請レ命。

【天座】582 テンザ 天帝のゐるところ。天帝の座所。〔劉子翬、四不忍詩〕危城屑曲驚雲擾、簠簋無レ光天座杳。

【天才】583 テンサイ ❶うまれつきすぐれた才智。又、其の人。〔蜀志、周羣傳〕時州後部司馬蜀郡張裕、亦曉二占候一、而天才過レ羣。〔嵇康、與二山巨源一絕交書〕不レ欲三以枉二其天才一。〔北史、李德林傳〕少孤未レ有レ字、魏收謂レ之曰、識度天才、必至二公輔一、吾輒以レ此字レ卿。〔元稹、酬二孝甫見レ贈詩一〕杜甫天才頗絕倫、毎レ尋二詩卷一似レ尋レ親。❷宋、汪覃(**6－17154**··102)の字。

〖天才絕〗584 テンサイゼツ 生れつきの才智が人なみ外れてすぐれてゐること。〔海錄碎事、文學、文章〕唐人以二李白一爲二天才絕一、白樂天人才絕、李賀思才絕。

〖天才教育〗585 テンサイケウイク 天才兒を特別に教育して、專らその才能を延ばしてゆく教育法。

【天災】586 テンサイ 天然のわざはひ。水旱・疫癘・海嘯・地震の類。天栽。天菑。天害。天禍。乾災。〔書、伊訓〕罔レ有二天災一。〔左氏、僖、十三〕天災流行、國家代有、救レ災恤レ鄰、道也。〔國語、吳語〕孤不三敢忘二天災一、其敢忘二君王之大賜一乎。〔莊子、刻意〕無二天災一、無二物累一。

〖天災地妖〗587 テンサイチエウ 天地の起す變災妖怪。〔說苑、敬愼〕天災地妖亦不レ能レ殺也。〔孔子家語、五儀解〕存亡禍福、皆己而已、天災地妖、不レ能レ加也。

〖天災地變〗588 テンサイチヘン 天地の起すわざはひ。天然のわざはひ。〔魏書、崔浩傳〕加比年以來、天災地變、都在二秦涼一。

【天宰】589 テンサイ 百官を統べ率ゐ、天子を輔けて政をする役。冢宰。〔唐書、趙彥昭傳〕趙履溫曰、公天宰而爲二一介使一、不二亦鄙一乎。〔唐書、李吉甫傳贊〕吉甫踐二天宰一、謀謨是矣。

【天栽】590 テンサイ 流行病や洪水・旱魃などをいふ。天災。〔周禮、春官、大祝〕國有二大故天栽一、彌祀二社稷一禱祠。〔注〕天栽、疫癘・水旱也。

【天祭】591 テンサイ 天をまつること。〔揚雄、劇秦美新〕奇偉倜儻譎詭、天祭地事。〔注〕善曰、言、衆瑞所二以咸臻一者、由二能祭レ天事一レ地。

【天菑】592 テンサイ 天災に同じ。菑は災に同じ。〔左氏、定、九〕無二天菑一。〔史記、晉世家〕天菑流行。〔管子、內業〕不レ逢二天菑一。〔墨子、尙同中〕天菑將二猶未一レ止也。

【天裁】593 テンサイ 天子の御裁決。勅裁。

【天載】594 テンサイ 南宋、高宗の時、鍾相の僭年號。(11－30)

【天際】595 テンサイ ❶天のはて。そらの彼方。天垠。〔易、豐〕豐二其屋一、天際翔也。〔謝朓、之二宣城一出二新林浦一向二版橋一詩〕天際識二歸舟一、雲中辨二江樹一。〔李白、黃鶴樓送三孟浩然之二廣陵一詩〕孤帆遠影碧空盡、惟見長江天際流。❷清、石崙森(**8－24024**··1055)の字。

〖天際帆〗596 テンサイノハン 天際にただよふ舟。あてもなく漂泊するにいふ。〔薛據、登二秦望山一詩〕予本萍泛者、乘レ流無二西東一、茫茫天際帆、棲泊何時同。

〖天際眞人〗597 テンサイシンジン 天上の眞人。高尙なことをいふ。〔世說新語、容止〕桓大司馬曰、諸君莫レ輕レ道、仁祖企二腳北窗下一、彈二琵琶一、故自有二天際眞人想一。

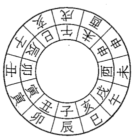
【天齋】598 テンサイ 明、辛全(**10－38630**··46)の號。

【天材】599 テンザイ ❶天才(583)の❶に同じ。天才を見よ。〔禮、月令、仲春之月、注〕其子必得二天材一。❷天然の物產。天產。〔荀子、彊國〕山林川谷美、天材之利多、是形勝也。〔注〕所レ出物產多也。

〖因二天材一就二地利一〗600 テンザイニヨリチリニツク 天然の物產及び地形を利用する。〔管子、乘馬〕凡立二國郡一、因二天材一、就二地利一、故城郭不三必中二規矩一、道路不三必中二準繩一。

【天財】601 テンザイ 天然の財物。又、天下の財物。〔管子、山國軌〕有レ官二天財一。〔後漢書、南匈奴傳論〕窮二竭武力一、單二用天財一。

【天倉】602 テンサウ ❶星宿の名。㋑婁の宿の南にあり、穀を藏するといふ。〔晉書、天文志上〕天倉六星、在二婁南一、倉穀所レ藏也。〔宋史、天文志四〕天倉六星、在二婁宿南一、倉穀所レ藏也、待二邦之用一。㋺胃宿をいふ。〔史記、天官書〕胃爲二天倉一。〔楊炯、渾天賦〕胃爲二天倉一、婁爲二衆聚一。❷叢辰の名。天庫の神。正月、寅に起り、十二辰を逆行する。天倉に當る日は倉庫を修め、賞賜を受ける等に宜しい。〔協紀辨方書、義例四、天倉〕總要曆曰、天倉者、天庫之神也、其日可下以修二倉庫一、受二賞賜一、納レ財牧養上、曆例曰、天倉者、正月起レ寅、逆二行十二辰一。❸山名。四川省灌縣の西南。〔明一統志〕天倉山、在二成都府灌縣西南八十里一、連崖隱軫、分爲二三十六倉一。



天倉
(協紀辨方書)

【天曹】603 テンサウ ❶天上の役所。〔神仙傳、王遠〕山上皆有二宮室一、主二天曹事一。❷清代、吏部、或は其の役所をいふ。〔福惠全書、蒞任部、到衙門〕某蒙二皇上鴻恩一、天曹銓選、叨宰二茲邑一。

【天窓】604 テンサウ 一に天窻・天窗・天牕に作る。❶高まど。ひきまど。てんまど。〔孔融、臨終詩〕涓涓江漢流、天窓通二冥室一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕懸棟結阿、天窓綺疎。〔注〕載曰、天窓、高窓也。〔李白、明堂賦〕藻井綵錯以舒レ蓬、天窓絕翼而銜レ霓。〔李商隱、因書詩〕猿聲連二月檻一、鳥影落二天窓一。〔居家必要〕天窓宜下就二左邊一開上。❷巖穴の中から見上げた崖の裂けめ。〔漢官儀〕泰山下直上七十里、至二天門一、如下從二穴中一窺中天窗上矣。❸つむり。頭。〔馮子振、十八公賦〕天窓騰而頂暢顱亮、地錐銳而條縻綆縈。

【天莊】605 テンサウ 帝京の異名。〔盧照鄰、至二陳倉一曉晴望二京邑一詩〕今朝好風色、延矚極二天莊一。〔事物異名錄、郡邑上、京師〕山堂肆考、帝京謂二之天莊一、唐詩、延矚極二天莊一、又曰二日畿一、言、帝畿千里、象三日所二經廻一也。

【天槍】606 テンサウ 星の名。紫宮の左にある。天鉞。〔史記、天官書〕紫宮左之星曰二天槍一。〔漢書、天文志〕紫宮左三星曰二天槍一。〔晉書、天文志上〕天槍三星、左二北斗杓東一、一曰天鉞、天之武備也。

【天瘡】607 テンサウ 天然痘をいふ。天花(444)の❸をみよ。

【天燥】608 テンサウ ひでり。〔六韜、虎韜、火戰〕敵人因二天燥疾風之利一、燔二吾上風一。

【天藻】609 テンサウ 天上のあやもやう。又、天子の文章。〔陳子昂、爲二陳御史一上奉下和秋景觀二競渡一詩上表〕帝歌爰作二天藻一。〔李適、幸二臨渭亭一遊二禁苑一遇レ雪應制詩〕寫レ曜銜二天藻一、呈レ祥拂二御衣一。

【天竈】610 テンサウ 大きな谷の入口。〔吳子、治兵〕起對曰、無レ當二天竈一、無レ當二龍頭一、天竈者、大谷之口、龍頭者、大山之端。

【天造】611 テンザウ ❶天が萬物を創造することをいふ。天造草昧を見よ。〔庾信、小園賦〕諒天造兮昧昧、嗟生民兮渾渾。❷天然につくられたもの。天工。〔曹組、艮嶽賦〕功奪二天造一。❸唐代、劉黑闥の僭年號。(622－623)

〖天造草昧〗612 テンザウサウマイ 天地の開けるはじめ、時運のまだ開けぬこと。天が萬物を創造しはじめたばかりで天地が未だ明かでないこと。〔易、屯〕象曰、天造草昧、宜レ建レ侯而不レ寧。〔注〕屯者、天地造始之時也、造物之始、始二于冥昧一、故曰二草昧一也。〔班固、幽通賦〕亂曰、天造草昧、立二性命一兮。〔注〕善曰、曹大家曰、亂、理也、天道始造二萬物一、草二創於冥昧之中一、皆立二其性命一也。

〖天造地設〗613 テンザウチセツ 天地が作り設ける。〔曹組、艮嶽賦〕且山嶽之大、天造地設、開闢之初、元氣凝結。

【天藏】614 テンザウ ❶天の與へた倉。天然の倉。〔元雍、奉下禁二鹽池一復置二監司一取上レ稅文〕鹽池天藏、資二育羣生一、仰惟先朝限者、亦不下苟與二細民一競中茲贏

利上。㊁唐代、宮中の府庫の名。〔唐書、百官志二、殿中省、注〕有二天藏府一、開元二十三年省。㊂佛菩薩の名。〔酉陽雜俎、廣知〕近佛畫中、有二天藏菩薩・地藏菩薩一。

【天冊】615 テンサク 年號。㊀三國吳の歸命侯、孫皓の時。(275－276) ㊁唐の時、童昌の僭年號。順天の一稱。(895－896)

【天冊萬歲】616 テンサクバンザイ 唐、武后の年號。(695－696)

【天作】617 テンサク ㊀天が作る。天によつて作られる。又、自然に出來る。〔詩、周頌、天作〕天作二高山一、大王荒レ之。〔傳〕作、生、荒、大也、天生二萬物於高山一、大王行レ道、能安二天之所レ作也。〔禮、樂記〕樂由二天作一。〔疏〕樂生二于陽一、是法レ天而生也。〔韓愈、燕喜亭記〕凡天作而地藏レ之、以遺二其人一乎。㊁詩經、周頌清廟之什の篇名。先王・先公を祀る樂章。〔詩、周頌、天作序〕天作、祀二先王・先公一也。

【天作之合】618 テンサクノガフ 天の配合によつて成立した婚姻。後、婚姻をむすぶ時の言葉に用ひる。〔詩、大雅、大明〕天監在レ下、有レ命既集、文王初載、天作二之合一、在二洽之陽一、在二渭之涘一。〔集傳〕天之監照、實在二於下一、其命既集二於周一矣、故於二文王之初年一、而默定二其配一。

【天作孽猶可レ違自作孽不レ可レ逭】619 テンノナセルワザハヒハナホサクベシミヅカラナセルワザハヒハノガルベカラズ 天災は努力によつて避けることが出來るが、自ら招いた禍は逃れることが出來ない。〔書、太甲中〕欲敗レ度、縱敗レ禮、以速二戾于厥躬一、天作孽猶可レ違、自作孽不レ可レ逭。〔傳〕孽、災、逭、逃也、言下天災可レ避、自作災不上レ可レ逃。〔孟子、公孫丑上〕太甲曰、天作孽猶可レ違、自作孽不レ可レ活。〔集注〕違、避也、活、生也、書作レ逭、逭、猶レ緩也。

【天策】620 テンサク ㊀星の名。傅說星。〔左氏、僖、五〕鶉之賁賁、天策焞焞。〔注〕天策、傅說星。〔國語、晉語二〕天策焞焞。〔注〕天策、尾上一星、名曰二天策一、一名傅說。㊁勝れたはかりごと。良策。〔庾信、賀レ平二鄴都一表〕天策勇決、無レ待二問於容成一。〔薛道衡、隋高祖文皇帝頌序〕運二天策于帷扆一、播二神威于沙朔一。㊂天策上將の略。

【天策府】621 テンサクフ 天策上將の役所。〔唐書、杜如晦傳〕天策府建爲二中郞一。

【天策上將】622 テンサクジヤウシヤウ 王公の上に位する官名。唐の太宗の功德が偉大で、古の官號では稱するに足りないので、高祖が之に天策上將と加號した。〔唐書、太宗紀〕高祖以謂、太宗功高、古官號不レ足二以稱一、乃加二號天策上將一、領二司徒陝東道大行臺尙書令一、位在二王公上一。〔唐書、唐儉傳〕帝拔レ劍斷レ豕、顧笑曰、天策長史、不レ見二上將擊一レ賊邪、何懼之甚。

【天殺】623 テンサツ ㊀天性、人を殘殺するを好むこと。又、大いに人を殺すこと。〔莊子、人閒世〕有レ人二於此一、其德天殺。〔疏〕蒯聵稟二天然之凶德一。〔釋文〕天殺、謂レ如二天殺一レ物也。㊁天が殺す。〔韋莊、射レ虎歌〕天生天殺豈天怒、忍使三朝朝餵二猛虎一。

【天殺的】624 t'ien^{1} sha^{1} tê 人を罵る語。にくらしい。罰當り奴。憎むべき奴。又、稱贊の意にも用ひる。〔燕子箋、駝泄〕天殺的、倆肚子裏怎生有許多好東西。

【天產】625 テンサン ㊀天然の物產。天產物。天材。〔禮、郊特牲〕醯醢之美、而煎鹽之尙、貴二天產一也。〔張餘慶、青玉案賦〕青瑩自二乎天產一、追琢資二于匠人一。㊁動物、特に六牲の屬をいふ。植物を地產といふに對す。〔周禮、春官、大宗伯〕以二天產一作二陰德一、以二中禮一防レ之。〔注〕玄謂、天產者動物、謂二六牲之屬一、地產者植物、謂二九穀之屬一。

【天產物】626 テンサンブツ 天然の產物。特に其の中の有用なものをいふ。

【天算】627 テンサン ㊀天年（1223）に同じ。壽命。〔後漢書、曹褒傳論〕業絕二天算一、議黜二異端一。〔注〕業絕二天算一、謂二章帝晏駕一也。㊁天文算法の略。

【天贊】628 テンサン ㊀天のたすけ。天祐。〔吳志、孫策傳、注〕必須三天贊與二人力一也。〔吳志、賀邵傳〕拓レ土萬里、雖レ承二天贊一、實由二人力一也。㊁契丹(遼)太祖、耶律億の年號。(922－926)

【天贊通寶】629 テンサンツウハウ 遼の太祖の鑄た貨幣。〔續文獻通考、錢幣考〕太祖鑄二天贊通寶錢一。

【天蠶】630 テンサン 蟲の名。やままゆが科に屬し、日本原產の野蠶。家蠶の絹絲より强伸力があり、光澤もよい。天明年閒、長野縣南安曇郡有明地方で飼育され、現在に至る。やままゆ。やまこ。

【天蠶絲】631 テンサンシ てぐす絲。樟蠶の繭から取つた絲。釣絲に使ふ。〔和漢三才圖會、魚獵具、釣〕天蠶絲、出二於廣東一、相傳、此物生二水中一、長二丈許、似二三絃之線一而黃色、甚强勁、堪レ爲二緡綸一。

【天山】632 テンザン ㊀山脈の名。古名は白山・雪山・祁連山。祁連は、匈奴の語で、天の意。又、唐の時には折羅漫山。天山は、もと天山山脈東方の一高山の名であつたが、後、この山脈全體の名となつた。新疆省疏勒縣の西北、葱嶺の烏赤別里山から起り、一は西北に走り、露領中央亞細亞に入つて薩阿剌嶺となり、一は東北に延びて廓克沙里嶺と爲る。祁連(**8**－**24634**··26)の㊁を見よ。〔史記、李將軍傳〕擊二匈奴右賢王祁連天山一。〔漢書、西域傳下〕蒲類國王治二天山西疏楡谷一。〔後漢書、西域、蒲類傳〕蒲類國居二天山一。〔讀史方輿紀要、陝西、附考、土魯番〕天山、在二土魯番西北三百里一、亙二天山・蒲澤兩縣界交一、河水源出二於此一、亦名二祁連山一、亦謂二之白山一、西河舊事、白山冬夏有レ雪、匈奴謂二之天山一。〔讀史方輿紀要、陝西、名山〕祁連山、在二甘州衞西南百里一、山甚高廣、本名二天山一、匈奴呼レ天爲二祁連一也。㊁熱河省の局名。民國、置く。㊂字號。㋑清、顧藹吉(**12**－**43689**··212)の號。㋺龜井昱の號。龜井昭陽(**12**－**48847**··93)を見よ。㋩阪本俊豈の號。阪本天山(**11**－**41562**··26)を見よ。

【天山堂】633 テンザンダウ 清、白夢鼐(**8**－**22678**··1407)の室名。

【天山草堂】634 テンザンサウダウ 室名。㊀明、何維柏(**1**－**511**··215)の室名。㊁清、李文燦(**6**－**14459**··1907)の室名。

【天山額魯特】635 テンザンガクロトク 新疆省北境の部落名。五部十三旗より成り、編して二盟とし、一を巴啓色特啓勒圖、一を烏訥恩素珠克圖といふ。額魯特蒙古(**12**－**43586**··59)を見よ。

【天山不レ辨何年雪合浦應レ迷舊日珠】636 テンザンニハイヅレノトシノユキゾワキマヘズガフホニハマヨヒヌベシキウジツノタマ 禁中の月光が非常に清く、何年か降り積つた天山の雪か、合浦の名珠かと紛ふ程である。天山は四時雪が消えないといふ山。合浦は名珠を產する地。漢の時、合浦の貪穢な太守が猥りに珠を採取したので、珠は交址の界に移つたが、孟嘗がこの地の太守となつて弊風を改めたので、もとの珠がまた還つて來たといふ。〔倭漢朗詠集、月、三統理平、禁庭翫レ月詩〕天山不レ辨何年雪、合浦應レ迷舊日珠。

【天塹】637 テンザン 天然のほり。揚子江をいふ。〔南史、孔範傳〕長江天塹、古來限二隔虜軍北一。〔李白、金陵詩〕金陵空二壯觀一、天塹淨二波瀾一。

【天攙】638 テンザン テンシン 彗星の名。天欃。〔史記、天官書〕退而西北三月、生二天攙一、長四丈、末兌。

【天欃】639 テンザン テンサン 天攙に同じ。〔爾雅、釋天、彗星爲二欃槍一、疏〕石氏不レ出二三月一、迺生二天欃一。〔呂覽、明理〕其星有二熒惑一、云云、有二天欃一。〔漢書、天文志〕甘氏不レ出二三月一、迺生二天欃一。

【天讒】640 テンザン 星の名。巫醫を主る。〔隋書、天文志上〕卷舌六星、在レ北、主二口語一以知二佞讒一也、中一星曰二天讒一、主二巫醫一。〔張衡、週天大象賦〕卷舌列二天讒之表一、附耳屬二天高之隅一、天高望レ氣、天讒備レ巫。

【天士】641 テンシ ㊀天文に精通してゐる人。天道を知る人。〔漢書、李尋傳〕拔二擢天士一、任以二大職一。〔注〕李奇曰、天士、知二天道一者也。㊁漢の將軍の名。〔漢書、郊祀志上〕迺拜レ大爲二五利將軍一、居月餘、得二四印一、得二天士將軍・地士將軍・大通將軍印一。

【天子】642 テンシ ㊀天命を受けて國に君たる人の稱。古は天が民を治めるものとなし、之に代つて天下を治めるものを天子と稱した。卽ち、天帝の子の意。天家。天公。天后。〔易、大有〕九三、公用亨二于天子一、小人弗レ克。〔書、說命上〕天子惟君二萬邦一、百官承レ式。〔書、洪範〕天子作二民父母一、以爲二天下王一。〔詩、小雅、采菽〕彼交匪レ紓、天子所レ予。〔禮、曲禮下〕君二天下一曰二天子一。〔孝經、天子章〕蓋天子之孝也。〔老子、六十二〕立二天子一、置二三公一。〔管子、輕重甲〕夫桀之國者、天子之國也。〔墨子、天志上〕我未五嘗聞四天下之所三求二祈福於天子一者也。〔漢書、郊祀志下〕王者父二事天一、故爵稱二天子一。〔白虎通、爵〕天子者、爵稱也、王者父レ天母レ地、爲二天之子一也、聖人受レ命、皆天所レ生、故謂二之天子一。㊁天皇。〔日本紀略、

一〕延喜十年九月某日、天子聞㆑之、遣㆑使增命、授㆓法眼和尚位㆒。㊁特に祭祀の場合に天皇を稱す。〔儀制令〕天子、祭祀所㆑稱。

【天子氣】643（テンシノキ） 天子、或は將來天子となるべき者の居る所に立ち昇る雲氣。又、天子の行くべき地に立ち昇る雲氣。其の氣の色は、或は五色といひ、或は內が赤く外が黃色だといふ。〔史記、項羽紀〕吾令㆔人望㆓其氣㆒、皆爲㆓龍虎㆒、成㆓五采㆒、此天子氣也。〔漢書、高帝紀上〕此天子氣、急擊㆑之、勿㆑失。〔隋書、天文志下〕天子氣、內赤外黃、云云、若天子欲㆑有㆓游往㆒處、其地亦先發㆓此氣㆒。

【天子劍】644（テンシノケン） 天子が使ふ劍。〔莊子、說劍〕有㆓天子劍㆒、有㆓諸侯劍㆒、有㆓庶人劍㆒。

【天子鄣】645（テンシノシヤウ） 山名。廬山(**4**－**9535**・・21)の異名。〔海錄碎事、地、總載、山〕廬山、名有㆑二、一曰㆓天子都㆒、一曰㆓天子鄣㆒。

【天子都】646（テンシノト） 山名。廬山(**4**－**9535**・・21)の異名。天子鄣を見よ。

【天子馬】647（テンシノウマ） 天子のお乘りになる馬。〔穆天子傳、一〕天子之馬走㆓千里㆒。

【天子妃】648（テンシノヒ） 猫の俗稱。唐の蕭妃が、武后に殺される時、死後、武后を鼠となし、自ら猫となつて、武后の喉を扼したいと言つた故事。〔鶴林玉露、地、猫捕㆑鼠〕唐武后斷㆓王后・蕭妃之手足㆒、置㆓於酒甕中㆒曰、使㆓此二婢骨醉㆒、蕭妃臨㆑死曰、願武爲㆑鼠、吾爲㆑猫、生生世世扼㆓其喉㆒、亦可㆑悲矣、今俗聞相傳、謂㆑猫爲㆓天子妃㆒、蓋本㆑此也。

【天子路】649（テンシノロ） 江蘇省武進縣にある道路の名。秦の始皇が游んだところといふ。〔海錄碎事、地、道路〕武進縣有㆓一道㆒、相傳云㆓天子路㆒、或謂㆓秦皇所㆑游、或云㆓孫氏舊迹㆒。

【天子祭㆑天】650（テンシハテンヲマツル） 天を祭るのは天子の職權で、天子でなければ祭つてはならぬといふ意。〔公羊、僖、三十一〕魯郊何以非㆑禮、天子祭㆑天、諸侯祭㆑土。

【天子之孝】651（テンシノカウ） 天子が行ふ孝道。〔孝經、天子章〕子曰、愛㆑親者不㆔敢惡㆓於人㆒、敬㆑親者不㆔敢慢㆓於人㆒、愛敬盡㆓於事㆑親、而德敎加㆓於四海㆒、刑㆓于四海㆒、蓋天子之孝也。〔呂覽、孝行〕愛㆓其親㆒不㆓敢惡㆑人、敬㆓其親㆒不㆓敢慢㆑人、愛敬盡㆓於事㆑親、光耀加㆓於百姓㆒、究㆓於四海㆒、此天子之孝也。

【天子之義】652（テンシノギ） ㊀天子の守るべき道。〔司馬法、天子之義〕天子之義必純、取㆓法天地㆒、而觀㆓於先聖㆒。㊁司馬法の篇名。

【天子之田】653（テンシノデン） 天子が公卿・大夫・元士に祿を與へる爲に領する土地。〔禮、王制〕天子之田、方千里。〔注〕此謂㆔縣內以祿㆓公卿・大夫・元士㆒。〔孫希旦集解〕愚謂、田、猶㆑地也。

【天子之吏】654（テンシノリ） 直接に天子の指圖を受ける臣。大臣。侍臣。〔禮、曲禮下〕五官之長曰㆑伯、是職方、其擯㆓於天子㆒也、曰㆓天子之吏㆒。〔史記、管蔡世家〕餘五叔皆就㆑國、無㆘爲㆓天子吏㆒者㆖。

【天子四友】655（テンシノシイウ） 梁の謝朏・褚炫・江斅・劉悛をいふ。〔梁書、謝朏傳〕齊高帝爲㆓驃騎將軍㆒輔㆑政、選㆑朏爲㆓長史㆒、勅與㆓河南褚炫・濟陽江斅・彭城劉悛㆒俱入侍㆓宋帝㆒、時號爲㆓天子四友㆒。

【天子至尊】656（テンシシソン） 天子は人間社會に於て最も尊いものであるといふ意。〔儀禮、喪服〕傳曰、天子至尊也。

【天子取㆑婦】657（テンシフヲメトル） 漢の成帝が自ら婦を娶ると號して、張放に婦を娶らしめた故事。〔漢書、張延壽傳〕放取㆓皇后弟平恩侯許嘉女㆒、上爲㆑放供帳、賜㆓甲第㆒、充以㆓乘輿服飾㆒、號爲㆓天子取㆑婦、皇后嫁㆑女。

【天子聖哲】658（テンシセイテツ） ㊀天子の英邁なこと。㊁周捨が梁の武帝に四聲を問はれたとき、天子聖哲の語を以て答へた故事。天は平聲、子は上聲、聖は去聲、哲は入聲であるのを利用して問に答へ、併せて天子の聖德を讚へたのである。〔梁書、沈約傳〕帝問㆓周捨㆒曰、何謂㆓四聲㆒、捨曰、天子聖哲、是也。

【天子南庫】659（テンシノナンコ） 南方にある天子の庫。〔海錄碎事、臣職、市舶〕市舶錄云、市舶者、其利不㆑貲、擢㆓金山珠海㆒、天子南庫也。

【天子不㆑舉】660（テンシアゲズ） 國に大事があつた場合、天子が盛饌を廢すること。舉は、御馳走すること。〔左氏、昭、十七〕日有㆑食㆑之、天子不㆑舉。〔注〕不㆑舉㆓盛饌㆒。〔疏〕殺㆑牲盛㆑饌曰㆑舉、故天子不㆑舉、謂㆑去㆓盛饌㆒也。

【天子無㆑妻】661（テンシニツマナシ） 天子は人間社會に於て最も尊いから、之にならぶ妻がないこと。妻は、齊、卽ち對等の意。〔荀子、君子〕天子無㆑妻、告㆓人無㆑匹也。〔注〕妻者、齊也、天子尊無㆓與二㆒、故無㆑匹也。

【天子無㆑父】662（テンシニチチナシ） 天子は人間社會に於て最も尊いから、その上に位する父の無いこと。

【天子門生】663（テンシノモンセイ） 狀元(進士の試驗に第一位で合格したもの)をいふ。殿試に、天子が親しく試驗するからいふ。〔程史〕盤石趙逵、以㆓紹興辛未㆒魁㆓集英之唱㆒、高宗更化、擢㆓著作佐郎㆒、謂㆑之曰、卿乃朕自擢、秦檜日薦㆑士、曾無㆓一言及㆑卿、以㆑此知㆘卿不㆑附㆓權貴㆒、眞天子門生㆖也。〔稱謂錄、甲第總稱、天子門生〕揮麈前錄、馬巨勝語㆑客曰、凡省闈解送則有㆓主文㆒、故所㆑取士、得㆑稱㆓門生㆒、殿試、蓋天子自爲㆓座主㆒、豈可㆑稱㆓門生於他人㆒、臨㆑軒親試、故謂㆓之天子門生㆒。

【天子六師】664（テンシハリクシ） 天子に屬する親兵は六軍あることをいふ。一軍は一萬二千五百人。〔三略、中略〕諸侯二師、方伯三師、天子六師。

【天子有㆓方望㆒】665（テンシニハウバウアリ） 天子が四方の群神、日月・星辰・風伯・雨師、及び山川等三十六所を望祭すること。〔公羊、僖、三十一〕天子祭㆑天、諸侯祭㆑土、天子有㆓方望之事㆒、無㆑所㆑不㆑通。〔注〕方望、謂㆘郊時所㆓望祭㆒四方羣神、日月・星辰・風伯・雨師・五嶽・四瀆、及餘山川、凡三十六所㆖。

【天子感生說】666（テンシカンセイセツ） 中國の或る帝王或は其の祖先の或る者は、其の母親が天帝の神靈に感じて生まれたとする說。其の說は概ね緯書に本づき、其等の帝王、或は其の祖、引いては其の子孫の神聖・優秀の度を高める意圖を以て說かれたものである。而して、帝王感生の原因である天帝は五帝(蒼帝・赤帝・黃帝・白帝・黑帝)であり、其の一帝の精が或は天象となり、或は靈象となつて現れ、女子が之に感じて懷妊するのであるといふ。故に其の天帝を感生帝といひ、其の出生の原因は、文獻上、次の四つの場合に大別せられる。㊀母が天象に感じて生まれた。㋑附寶は大電が北斗を繞つて郊野を照した光に感じて黃帝を生んだ。〔竹書紀年、上、黃帝軒轅氏、注〕母曰㆓附寶㆒、見㆘大電繞㆓北斗樞㆒、星光照㆗郊野㆖、感而孕、二十五月而生㆓帝於壽丘㆒。〔太平御覽、皇王部、黃帝軒轅氏〕詩含神霧曰、大電繞㆑樞炤㆓郊野㆒、感㆓附寶㆒生㆓黃帝㆒。㋺女樞は、白虹が月を貫くを見、其れに感じて顓頊を生んだ。〔竹書紀年、上、顓頊高陽氏、注〕母曰㆓女樞㆒、見㆓瑤光之星、貫㆑月如㆑虹、感㆓己於幽房之宮㆒、生㆓顓頊㆒。〔太平御覽、皇王部、顓頊高陽氏〕河圖曰、瑤光之星如㆑蜺、貫㆑月正白、感㆓女樞㆒、幽房之宮、生㆓黑帝顓頊㆒。㋩握登は大虹を見、其れに感じて舜を生んだ。〔竹書紀年、上、帝舜有虞氏、注〕母曰㆓握登㆒、見㆓大虹㆒、意感而生㆓舜於姚墟㆒。〔太平御覽、皇王部、帝舜有虞氏〕詩含神霧曰、握登見㆓大虹㆒、意感生㆓帝舜㆒。㋥扶都は白氣が月を貫くのを見、其れに感じて殷の湯王を生んだ。〔太平御覽、皇王部、殷帝成湯〕河圖曰、扶都見㆓白氣貫㆑月、感生㆓黑帝湯㆒。㊁母が地上の靈象に感じて生まれた。㋑華胥は巨人の足跡を履み其れに感じて伏犧を生んだ。〔太平御覽、皇王部、太昊庖犧氏〕詩含神霧曰、大跡出㆓雷澤㆒、華胥履㆑之生㆓伏犧㆒。㋺姜嫄(帝嚳の元妃)は野に出て、巨人の跡を履み、其れに感じて周の祖なる后稷を生んだ。〔詩、大雅、生民、時維后稷、疏〕河圖曰、姜嫄履㆓大人迹㆒、生㆓后稷㆒。〔史記、周紀〕周后稷名弃、其母有邰氏女、曰㆓姜原㆒、姜原爲㆓帝嚳元妃㆒、姜原出㆑野、見㆓巨人蹟㆒、心忻然說、欲㆑踐㆑之、踐㆑之而身動如㆓孕者㆒、居期而生㆑子。㊂母が卵(天帝の精)を吞んで生まれた。㋑簡狄(殷の祖、契の母)は玄鳥の卵を吞んで契を生んだ。〔詩、商頌、玄鳥〕天命㆓玄鳥㆒、降而生㆑商。〔傳〕玄鳥、鳦也、春分玄鳥降、湯之先祖、有娀氏之女簡狄、配㆓高辛氏㆒、帝率與㆑之祈㆓于郊禖㆒而生㆑契、故本爲㆓天所㆑命、以㆓玄鳥至㆒而生焉。〔箋〕天使㆓鳦下而生㆑商者、謂㆘鳦遺㆑卵、有娀氏之女簡狄、吞㆑之而生㆖契。〔太平御覽、皇王部、殷帝成湯〕尚書中候曰、玄鳥翔㆑水、遺㆓卵于流㆒、娀簡拾吞生㆑契、封㆑商。〔史記、殷紀〕殷契母曰㆓簡狄㆒、有娀氏之女、爲㆓帝嚳次妃㆒、三人行浴、見㆔玄鳥墮㆓其卵㆒、簡狄取吞㆑之、因孕生㆑契。㋺秦の先、帝顓頊の苗裔孫にあ

たる女脩も亦、玄鳥の卵を呑んで大業を生んだ。〔史記、秦紀〕秦之先、帝顓頊之苗裔孫曰二女脩一、女脩織、玄鳥隕レ卵、女脩呑レ之、生二子大業一。❹母が龍と交つて堯を生んだ。慶都は赤龍と交はつて堯を生んだ。〔太平御覽、皇王部、帝堯陶唐氏〕春秋合誠圖曰、堯母慶都有レ名二於世一、云云、有二赤龍一負レ圖出、慶都讀レ之、赤受二天運一、下有レ圖二人衣一レ赤、光面八彩、鬚髮長七尺二寸、兌上豐下、署曰、赤帝起誠天下寶龜、龍陰風雨、赤龍與二慶都一合昏、有レ娠、龍消不レ見、既乳、堯貌如二圖表一、及二堯有レ知、慶都以レ圖予レ堯。

〖天子之二守〗667テンシノニシユ　諸侯の守臣たる三卿のうち、二卿は天子に命ぜられ、他の一卿は其の國から命ぜられる。この天子に命ぜられる二卿をいふ。〔左氏、僖、十二〕有二天子之二守國高在一。〔注〕國子・高子、天子所三命爲二齊守臣一、皆上卿也。

〖天子之力臣〗668テンシノリヨクシン　天子の力となる臣。〔禮、玉藻〕凡自稱、天子曰二予一人一、伯曰二天子之力臣一。〔注〕伯、上公九命、分レ陝者。〔疏〕言三己是天子運力之臣一。

〖天子不レ處レ全〗669テンシハマツタキニヲラズ　完全なものはやがて缺ける運命に在るから、天子は其の缺けることを慮つて完全な所には居らない。〔呂覽、博志〕天子不レ處レ全、不レ處レ極、不レ處レ盈、全則必缺、極則必反、盈則必虧。

〖天子無二戲言一〗670テンシニギゲンナシ　天子は一言一行を愼むべきもの故、戲れの言葉を發してはならぬ。〔史記、晉世家〕成王與二叔虞一戲、削二桐葉一爲レ珪、以與二叔虞一曰、以レ此封レ若、史佚因請三擇レ日立二叔虞一、成王曰、吾與レ之戲耳、史佚曰、天子無二戲言一、於レ是遂封二叔虞於唐一。〔呂覽、重言〕臣聞レ之、天子無二戲言一、天子言、則史書レ之、工誦レ之、士稱レ之。〔柳宗元、桐葉封レ弟辯〕成王以二桐葉一與二小弱弟一戲曰、以封レ汝、周公入賀、王曰、戲也、周公曰、天子不レ可レ戲。

〖天子自稱曰レ朕〗671テンシハミツカラシヨウシテチントイフ　天子が自ら呼ぶ稱を朕といふ。秦以後の制。朕(**5－14361**)の字解を見よ。〔史記、秦始皇紀〕命爲レ制、令爲レ詔、天子自稱曰レ朕。〔注〕集解曰、蔡邕曰、朕、我也、古者上下共稱レ之、貴賤不レ嫌、則可二以同一レ號之義也、皐陶與レ舜言、朕言惠、可レ底レ行、屈原曰、朕皇考、至レ秦然後天子獨以爲レ稱、漢因而不レ改。

〖天子以二四海一爲レ家〗672テンシハシカイヲモツテイヘトナス　天下を治めるべき人であるといふ意。四海は、天下・全世界。〔史記、高祖紀〕蕭何曰、天下方未レ定、故可三因遂就二宮室一、且夫天子以二四海一爲レ家、非二壯麗一無二以重レ威。

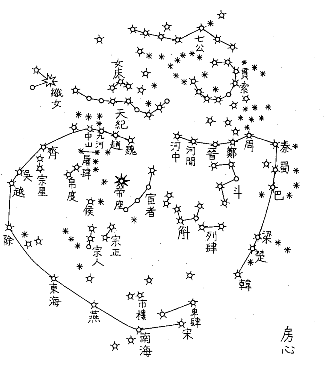
〖天子不レ下レ堂而見二諸侯一〗673テンシダウヲクダラズシテシヨコウヲミル　天子は尊嚴であるから、堂を下つて諸侯の謁見を受けることはない。卽ち、堂上にゐるままで之を受ける。〔禮、郊特牲〕覲禮、天子不レ下レ堂而見二諸侯一、下レ堂而見二諸侯一、天子之失レ禮也、由二夷王一以下。

〖天子不レ得レ臣諸侯不レ得レ友〗674テンシモシントスルコトヲエズシヨコウモトモトスルコトヲエズ　處士の高潔な者は、天子諸侯も、其の節を屈せしめて、之を臣とし友とすることが出來ない。隱不レ違レ親（**11－41891**・・226）を見よ。〔禮、儒行〕儒有下上不レ臣二天子一、下不上レ事二諸侯一。〔後漢書、郭太傳〕或問二汝南范滂一曰、郭林宗何如人、滂曰、隱不レ違レ親、貞不レ絶レ俗、天子不レ得レ臣、諸侯不レ得レ友、吾不レ知二其他一。

〖自二天子一以至二庶人一壹是皆以レ修レ身爲レ本〗675テンシヨリモツテシヨジンニイタルマデイツシニミナミヲヲサムルヲモツテモトトナス　上は天子から下は平民に至るまで、皆、自分の身を修めることを根本とし、先づ之に努めるべきである。修身(修己)は治人の根本であるから。〔大學〕自二天子一以至二於庶人一、壹是皆以レ修レ身爲レ本、其本亂而末治者否矣、其所レ厚者薄、而其所レ薄者厚、未二之有一也。

【天尸】676テンシ　星の名。二十八宿の一。鬼宿。〔觀象玩占〕鬼四星曰二輿鬼一、爲二朱雀頭眼一、鬼中央白色如二粉絮一者、謂二之積尸一、一曰二天尸一、如レ雲非レ雲、如レ星非レ星、見レ氣而已。

【天市】677テンシ　星垣の名。三垣の一。房・心の東北に在り、國の聚市交易及び斬戮の事を掌る。三垣(**1－12**・・96)を見よ。〔史記、天官書〕東北曲十二星曰レ旗、旗中四星曰二天市一、中六星曰二市樓一、市中星衆者實、其虛則耗。〔注〕正義曰、天市二十二星、房心東北、主二國聚市交易一之所、一曰二天旗一。〔張衡、週天大象賦〕中有二崇垣一、厥名天市。〔晉書、天文志〕天市垣二十二星、在二房心東北一、主二權衡一、主二聚衆一、一曰二天旗庭一、主二斬戮之事一也。〔丹元子、步天歌、天市垣〕下元一宮名二天市一、兩面垣牆二十二、當レ門六箇是市樓、門右兩星是車肆、兩箇宗正四宗人、宗星一雙亦依レ次、帛度兩星屠肆前、候星偏在二帝座邊一、帝座一星常光明、四箇微茫宦者星、以二次兩星一名二列肆一、斗斛帝前依二其次一、斗是五星斛是四、垣北九箇貫索星、索口橫著七公成、天紀恰是七公形、數著分明多二兩星一、紀北三星名二女牀一、此座還依二織女旁一、魏趙九河中山繼、齊吳越兮徐宿當、東海與二燕及南海一、宋國分明在レ左裝、河中河閒晉鄭周、秦蜀巴兮梁楚求、韓地右當二垣十一一、天市宮中仔細歌。



天　市　垣　(新法曆書)

【天矢】678テンシ　星の名。天屎。〔史記、天官書〕黃帝行レ德、天矢爲レ之起。〔漢書、天文志〕天厠下一星曰二天矢一。

〖天矢陰〗679テンシイン　矛(**8－23846**)の異名。〔事物異名錄、武器、矛〕龍魚河圖、矛名二天矢陰一。

【天旨】680テンシ　天子の意志。天子の御心。天意。〔梁元帝、召二學生一教〕況吾親承二天旨一、聞レ禮聞レ詩。〔劉峻、辨命論〕謹述二天旨一。

【天至】681テンシ　生れながら充分そなはつてゐること。〔後漢書、明德馬皇后紀〕肅宗、恩性天至、母子慈愛、始終無二纖介之閒一。〔宋書、范泰傳〕陛下孝慈天至、友于過隆。

【天志】682テンシ　❶天の意志。〔論衡、譴告〕周公推レ心合二天志一也。❷墨子の篇名。上中下の三篇がある。

【天豕】683テンシ　星の名。奎(**3－5911**)の一名。溝瀆を掌る。〔史記、天官書〕奎曰二封豕一爲二溝瀆一。〔注〕正義曰、奎、天之府庫、一曰二天豕一、亦曰二封豕一、主二溝瀆一。〔太平御覽、天部、星〕樂汁圖曰、奎、天豕也。

【天使】684テンシ　❶天の使。天帝の使者。〔史記、趙世家〕余霍泰山山陽侯天使也。㋑日月をいふ。〔淮南子、天文訓〕日者陽之主也、是故春夏則羣獸除、日至而麋鹿解、月者陰之宗也、是以月虛而魚腦減、月死而蠃蛖膲、日月者、天之使也。㋺流星をいふ。〔晉書、天文志中〕流星、天使也。㋩火星をいふ。〔後漢書、郎顗傳〕熒惑者、至陽之精也、天之使也。〔注〕天文要集曰、天有二五帝一、五星爲二之使一。❷天子の使。皇帝の使者。敕使。〔劉禹錫、謝レ賜二冬衣一表〕九月授レ衣、載馳二天使一。〔資治通鑑、唐紀〕大尉待二天使一不レ敬。❸天のしわざ。人欲を離れた自然の心をいふ。〔莊子、人閒世〕爲二人使一易二以僞一、爲二天使一難二以僞一。❹耶蘇教で、上帝の意を奉じて人界に派遣せられるといふ使者。

【天咫】685テンシ　❶天威咫尺の略で、天子の座席をさること遠くないといふ意であるが、轉じて、帝王の居る所、京師の意に用ふ。天咫偶聞を見よ。〔左氏、僖、九〕對曰、天威不二違レ顏咫尺一。〔注〕言、天鑒察不レ遠、威嚴常在二顏面之前一、八寸曰レ咫。❷西陽雜俎の篇名。

〖天咫偶聞〗686テンシグウブン　書名。清、震鈞撰。北京の事蹟を記す。

【天姿】687テンシ　❶天然のすがた。〔魏志、明帝紀、葬二高平陵一、注〕魏明帝、天姿秀出、立髮垂レ地。❷天子の容貌。〔陸機、皇太子宴二元圃宣猷堂一有レ令賦詩〕茂德淵冲、天姿玉裕。❸自然に與へられた才能。うまれつき。天資(701)に同じ。〔史記、伏生傳〕孝文帝時、徐生以レ容爲二禮官大夫一、傳レ子至二孫徐延・徐襄一、襄其天姿善爲レ容、不レ能レ通二禮經一。〔吳志、陸胤傳〕胤天姿聰明。〔馬融、長笛賦〕唯笛因二其天姿一、不レ變二其材一。〔注〕善曰、天姿、天然之姿也。〔王粲、雜詩〕天

姿既否戾、受性又不レ閑。

〖天姿國色〗688 テンシコクシヨク 天成の美人。生れながらの美婦人。國色(**3**－**4798**‥325)の❶を見よ。

【天屎】689 テンシ 星の名。天厠。天矢。〔張衡、週天大象賦〕亦有二天屎一、質黃效レ靈。

【天施】690 テンシ 天がほどこす。又、天のほどこし。又、天子の恩惠。〔易、益〕天施地生、其益无レ方。〔荀子、大略〕王者先レ仁而後レ禮、天施然也。

【天祉】691 テンシ 天から降されるさいはひ。〔韓詩外傳、八〕惟鳳爲下能通二天祉一應中地靈上。〔說苑、辨物〕隨二天祉一、象二百狀一。〔唐書、李訓傳〕陛下宜三親往以承二天祉一。

【天師】692 テンシ ❶天子の軍隊。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕萬里肅齊、六師無レ事、故大擧二天師百萬之衆一、與二匈奴南單于呼完廚、及六郡烏桓・丁令・屠各、湟中羌僰一、霆奮席卷、自二壽春一而南。〔注〕翰曰、六師、六軍也、天子之兵也。❷黃帝の師たる、襄城の童子。〔莊子、徐無鬼〕小童曰、夫爲二天下一者、亦奚以異二乎牧レ馬者一哉。亦去二其害レ馬者一而已矣。黃帝再拜稽首、稱二天師一而退。❸岐伯をいふ。〔古三墳〕皇曰、岐伯天師、爾司二日月・星辰・陰陽・曆數一、爾正爾考、無レ有二差貸一、先レ時者殺、不レ及レ時者殺、爾惟戒哉。〔路史、神農命二僦貸季一〔注〕天師岐伯對二黃帝一云、我於二僦貸季一理二色脈一、已二世矣。❹すぐれた道士。轉じて、後漢の張道陵の稱となす。後、其の教へを天師道といひ、其の子孫を張天師といふ。〔元史、世祖紀〕正建二漢祖天師正一祠於京城一。〔元史、張宗演傳〕正一天師者始レ自二漢張道陵一、其後四代曰二盛來一、居二廣信之龍虎山一、相傳至二三十六代宗演一。❺ t'ien¹ shih¹ ㋑道教の主長。㋺天文師。觀象家。

〖天師艾〗693 テンシノガイ 艾を鬚とし蒜を拳とした張道陵の塑像。端午の日、之を作つて門上に置く。〔事文類聚〕端午、都人塑二張天師一、以レ艾爲レ鬚、以レ蒜爲レ拳、置二於門上一。〔蘇轍、學士院端午帖子皇太妃閣詩〕太醫爭獻二天師艾一。

〖天師道〗694 テンシダウ 後漢の張道陵の教をいふ。天師の❹を見よ。〔晉書、郄超傳〕愔事二天師道一、而超奉レ佛。

〖天師符〗695 テンシフ 五月五日、市中に賣る、尺幅の黃紙に朱印を捺し、或は鍾馗などを畫いた一種の咒符。又、蘇州地方で、五月一日に道院から受ける咒札をいふ。〔燕京歲時記、天師符〕每レ至二端陽一、市肆間、用二尺幅黃紙一、蓋以二硃印一、或繪二畫天師鍾馗之像一、或繪二畫五毒符咒之形一、懸而售レ之、都人士爭相購買、粘二之中門一、以避二祟惡一。按、後漢禮儀志、五月五日、朱索五色印爲二門戶飾一、以止二惡氣一、是卽天師符之由來歟。

〖天師栗〗696 テンシリツ 果實の名。栗に似てゐるが、一窠一實。娑羅子。〔本草、天師栗〕集解、時珍曰、按、宋祁益州方物記云、天師栗、惟西蜀青城山中有レ之、他處無レ有也、云、張天師學二道於此一所レ遺、故名、似レ栗而味美、惟獨房若レ橡爲レ異耳、今武當山所レ賣娑羅子、恐卽此物也。

【天厠】697 テンシ 星の名。天屎。〔史記、天官書〕小三星隅置曰二觜觿一、爲二虎首一、其南有二四星一、曰二天厠一。

【天視】698 テンシ 天の照覽。天視自二我民視一を見よ。

〖天視自二我民視一〗699 テンノミルハワガタミノミルニシタガフ 天帝には目がないが、民の目に因つて善惡を見て禍福を下す。〔書、泰誓中〕天視自二我民視一、天聽自二我民聽一。〔傳〕言、天因レ民以視聽、民所レ惡者、天誅レ之。

【天嗣】700 テンシ ❶天の繼嗣。〔荀子、哀公〕若二天之嗣一、其事不レ可レ識。〔注〕嗣、繼也、言下聖人如二天之繼嗣一、衆人不上レ能レ識二其意一。❷年號。㋑宋、英宗の代、大越(安南)の聖宗、李日尊の年號、龍彰天嗣の略。(1066－1067) ㋺宋の時、遼、蕭幹の僭年號。或は天阜・天興に作る。(1123)

【天資】701 テンシ うまれつき。〔史記、商君傳贊〕商君其天資刻薄人也。〔淮南子、精神訓〕隨二其天資一、安レ之不レ極。〔注〕資、時也、一曰、性也。〔漢書、淮南厲王長傳〕竊聞、大王剛直而勇、慈惠而厚、貞信多斷、是天以二聖人之資一奉二大王一也、甚盛、不レ可レ不レ察、今大王所レ行、不レ稱二天資一。〔魏志、文帝丕傳評〕文帝天資文藻、下レ筆成レ章。

〖天資嘉瑞〗702 テンシカズイ 南宋の時、安南、高宗、李龍翰の年號。(1186－1201)

【天賜】703 テンシ ❶天のたまもの。天錫。〔左氏、僖、二十三〕子犯曰、天賜也。〔注〕得レ土有レ國之祥、故以爲二天賜一也。〔庾信、武丁迎二傳說一贊〕賢臣入レ夢、天賜無レ違。❷天子の賜物。〔崔樞、賜二耆老布帛一詩〕布帛忻二天賜一、生涯作二主恩一。❸年號。㋑北魏、道武帝、拓跋珪の時。(404－409) ㋺金の時、劉永昌の僭年號。〔歷代紀元編、上〕年次不明。❹後魏、拓跋瑞(**5**－**11958**‥49)の字。

〖天賜國慶〗704 テンシコクケイ 宋の時、西夏の惠宗、李秉常の年號、天賜禮盛國慶の一稱。(1071－1075)

〖天賜禮盛國慶〗705 テンシレイセイコクケイ 宋の時、西夏の惠宗、李秉常の年號。(1071－1075)

【天駟】706 テンシ 星宿の名。房宿(**5**－**11714**‥73)の別名。添ひ星。〔爾雅、釋天〕天駟、房也。〔注〕龍爲二天馬一、故房四星、謂二之天駟一。〔國語、周語下〕月在二天駟一。〔注〕天駟、房星也。〔史記、天官書〕漢中四星曰二天駟一。〔星經〕房四星、一名二天旗一、二名二天駟一、三名二天龍一、四名二天馬一。

〖天駟監〗707 テンシカン 宋代、御馬を掌る役所。太宗の時、置く。〔宋史、太宗紀一〕太平興國五年春正月壬午、新作二天駟左右監一、以二左右飛龍使一爲二左右天廐使一、閑廐使爲二崇儀使一。

【天耳】708 テンジ ❶天の耳。天は高い所に居ても下界のことを聞き知るといふ。〔蜀志、秦宓傳〕天有レ耳乎、宓曰、天處レ高而聽レ卑。〔晉書、天文志〕昴七星、天之耳也、主二西方一、主二獄事一。❷［佛］テンニ 色界の諸天人の有する耳根。能く六道衆生の言語と一切の音聲とを聞くもの。〔倶舍光記〕天眼天耳是所レ依根。

〖天耳通〗709 テンニツウ ［佛］天耳智證通の略。六通の一。天耳と相應する智慧を以て欲界色界の聲を聞く微妙なはたらき。〔倶舍光記、二七〕從二根及能證一、爲レ名二天眼智證通・天耳智證通一。

【天自】710 テンジ 明、繆泳(**8**－**27855**‥5)の字。

〖天自高〗711 テンオノヅカラタカシ 天は高くならうとしてはゐないが、自然に高い。至人の德の喩。〔莊子、田子方〕至人之於レ德也、不レ修而物不レ能レ離焉、若二天之自高、地之自厚、日月之自明一、夫何脩焉。

〖天自在山人〗712 テンジザイサンジン 五代南唐、耿先生(**9**－**29026**‥67)の號。

【天事】713 テンジ 天の行ふわざ。〔左氏、昭、十七〕天事恆象。〔注〕天道恆以二象類一告二示人一。〔大戴禮、虞戴德〕天事曰レ明、地事曰レ昌、人事曰レ比。〔史記、河渠書〕江河之決、皆天事。

【天兒】714 アマガツ 祓の際、幼兒の身につけ、諸〻の凶事を移し負はせる爲の形代（カタシロ）として用ひた木偶（デク）人形。後世、轉じて、守として幼兒の枕頭に置く幼兒に模した人形をいふ。〔源氏物語、薄紫〕めのと少將、云云、御はかし、あまがつやうの物とりて乘る。

【天時】715 テンジ ❶天のとき。天は時を以て運行するから、天道をいふ。又、日の吉凶等をいふ。時日・干支・孤虛・旺相の屬。天時不レ如二地利一を見よ。〔易、乾〕先レ天而天不レ違、後レ天而奉二天時一。〔書、盤庚中〕鮮二以不一レ浮二于天時一。〔傳〕浮、行也、少下以不上レ行二於天時一者上、言三皆行二天時一。〔周禮、春官、大史〕大師抱二天時一、與二大師一同レ車。〔疏〕天時、謂下天文見二時候一者上。〔中庸〕上律二天時一、下襲二水土一。〔莊子、田子方〕冠二圜冠一者知二天時一、履二句屨一者知二地形一。〔管子、牧民〕不レ務二天時一、則財不レ生。❷天の降す災。天災。〔書、盤庚中〕鮮二以不一レ浮二于天時一。〔蔡傳〕雖レ有二天時之災一、鮮レ不下以二人力一勝上之也。❸天子の機嫌。天子の心持。天候に喩へて用ひた語。〔南史、何敬容傳〕御史中丞張綰奏、敬容協私罔レ上、合二棄市一、詔特免レ職、到漑謂二朱异一曰、天時便覺二開霽一、其見レ嫉如レ此。

〖天時不レ作〗716 テンジオコラズ 天災が起らない。〔國語、越語下〕夫聖人隨レ時以行、是謂レ守レ時、天時不レ作、弗レ爲二人客一。〔注〕作、起也、攻者爲レ客、起謂二天時利害災變之應一。

〖天時不レ如二地利一〗717 テンノトキハチノリニシカズ 事を爲すに時日・干支・天候等の宜しきを得ても、地理の宜しきには及ばない。戰爭などで、天の時に乘じて攻めても、要害の地に構へてゐるものに及ばないことをいふ。〔孟子、公孫丑下〕天時不レ如二地利一、地利不レ如二人和一。〔集注〕天時、謂二時日・支干・孤虛・王相之屬一也。

【天慈】718 テンジ 天子の慈愛。〔晉書、紀瞻傳〕今以二天慈一、使二官曠事滯一。〔庾信、爲二杞公一讓二宗師驃騎一表〕天慈無レ濫、私願レ獲レ從。

【天磁】719 テンジ 山名。一に天滋に作る。江西省萍

鄉縣の南。其の派は蓮花縣の馬迹嶺から來てゐる。支脈の安源山は石灰を產す。

【天璽】720 テンジ ❶漢の元后がまだ其の生家にゐた時、白燕が銜へて來た白い石。其の石の中に、元后が將來、皇后になるといふ豫言が記してあつたからいふ。〔西京雜記、四〕元后在レ家、嘗有二白燕銜一白石、大如レ指、墜二后績筐中一、后取レ之、石自剖爲レ二、其中有レ文曰、母二天地一、后乃合レ之、遂復還合、乃寶錄焉、後爲二皇后一、常幷二置璽笥中一、謂爲二天璽一也。❷年號。㋑三國吳、歸命侯、孫皓の時。(276) ㋺十六國北涼、段業の時。(399−401)

【天囚】721 テンシウ ❶星命家の凶星。牢獄の患へを掌る。〔張果星宗、天囚〕天囚若レ在二四刑宮一。❷周王をいふ。公羊家の語。〔何休、公羊傳序、以レ無爲レ有、疏〕公羊經傳、本無下以二周王一爲二天囚一之義上、而公羊說及莊顏之徒、以二周王一爲二天囚一。❸西村時彥の號。西村碩園(**10**−**34763**‥400)を見よ。

【天舟】722 テンシウ 星座の名。南天に在り、大犬座の東南。天船座ともいふ。アルゴ座の中國名。

【天秀】723 テンシウ 字號。❶明、蘇民(**9**−**32427**‥181)の字。❷明、熊蘭(**7**−**19294**‥125)の字。

【天帚】724 テンシウ 天門山の頂に生えてゐる竹の名。倒に垂れて地を掃つてゐるからいふ。〔荊州記〕天門山角上、特生二一竹一、倒垂拂拭、謂二之天帚一。〔張養浩、田居自和詩〕山展野屛隨レ地遠、風揮二天帚一掃二雲空一。

【天秋】725 テンシウ 天に秋氣の滿ちること。〔韋應物、藍嶺精舍詩〕日落羣山陰、天秋百泉響。〔李白、秋思詩〕天秋木葉下、月冷莎雞悲。

【天修】726 テンシウ 明、程士鯤(**8**−**25081**‥211)の字。

【天讎】727 テンシウ 不俱戴天の仇。必ず討つべき仇。〔南史、邵陵攜王綸傳〕大敵猶強、天讎未レ雪。

【天識】728 テンシキ 人の天性。〔劉禹錫、大唐曹溪第六祖大鑒禪師第二碑〕能使三學者還二其天識一。

【天室】729 テンシツ 天の宮室。都をいふ。〔史記、周紀〕王曰、定二天保一、依二天室一。〔注〕正義曰、武王答二周公一云、定三知天之安二保我位一、得レ依二天之宮室一。

【天疾】730 テンシツ 生來の惡疾。〔穀梁、昭、二十〕有二天疾一者、不レ得レ入二乎宗廟一。

【天質】731 テンシツ うまれつき。天性。〔後漢書、崔駰傳〕因二天質之自然一、誦二上哲之高訓一。〔晉書、嵇康傳〕人以爲、龍章鳳姿、天質自然。

【天日】732 テンジツ ❶太陽。天晷。〔吳志、胡綜傳〕欵心赤實、天日是鑒。〔潘岳、哀二永逝一文〕視二天日一兮蒼茫、面二邑里一兮蕭散。〔雲仙雜記〕不レ視二天日一。〔杜牧、阿房宮賦〕覆二壓三百餘里一、隔二離天日一。❷天子をいふ。見二天日一・天日之表を見よ。

【天日鹽】733 テンジツエン 天日にさらして造つた鹽。

〖見二天日一〗734 テンジツヲミル 太陽の光を見る。❶天子にまみえること。〔宋史、外國六、于闐傳〕厮溫跪奏曰、臣萬里來朝、獲レ見二天日一、願聖人萬歲與二遠人一作レ主。❷罪人が赦免せられること。❸盲目が癒えて視力を回復すること。

〖指二天日一〗735 テンジツヲサス 太陽を指して固く誓ふこと。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕握レ手出二肺肝一相示、指二天日一涕泣、誓三生死不二相背負一。

〖天日之嗣〗736 テンジツノシ あまつひつぎ。天日の血統。天照大神の御よつぎ。〔弘道館記述義、上〕夫赫赫之威、莫レ盛二於天日一、煦育之恩、亦莫レ大二於太陽一、恩者仁之施也、威者義之發也、天皇既承二天日之嗣一、撫二育蒼生一、又據二太陽之所一レ出、君二臨萬方一、恩威兼施、仁厚勇武並行。

〖天日之表〗737 テンジツノヘウ 四海に君臨すべき人相。〔唐書、太宗紀〕及レ見二太宗一曰、龍鳳之姿、天日之表、其年幾レ冠、必能濟レ世安レ民。

〖天日人心〗738 テンジツジンシン 道のあらはれ。其の天に現はれたものが太陽で、人に現はれたものが人の心である。〔管子、樞言〕道之在レ天者日也、其在レ人者心也。

〖回二天日於既墜一〗739 テンジツヲキツイニカヘス 既に西に沒した日輪を舊の位置に引戻す。衰へた皇室の御威光を再び盛りかへすこと。天日を天皇に比した語。〔日本外史、新田氏前記、楠氏論〕回二天日於既墜一、何其壯也。

【天車】740 テンシヤ ❶北斗星、又は軫星(**10**−**38243**‥8)の異名。〔事物異名錄、乾象、星〕漢書天文志、斗爲二帝車一、又晉書作二天車一、運二於中央一、臨二制四海一、故名。〔事物異名錄、乾象、星〕荊州星占、軫爲二天車一、又北斗亦名二天車一。❷高麗地方の語で、中國の使者をいふ。〔王寂、送三張中謀使二三韓一詩〕遺民笑指天車道、酷似南陽異姓王。〔注〕高麗稱二中原使節一、皆曰二天車某官一、事見二閻予秀鴨江行記一。

【天社】741 テンシヤ ❶南極の星の名。恒星(**4**−**10527**‥84)を見よ。〔晉書、天文志上〕弧南六星爲二天社一、昔共工氏之子句龍、能平二水土一、故祀以配レ社、其精爲レ星。〔大清會典圖、七十三、天文、恒星〕其北、天社第三四五六星。❷蟲の名。くそむし。渠蜋。〔說文〕蜋、渠蜋、一曰二天社一。

【天赦】742 テンシヤ ❶叢辰の名。過ちを赦し、罪を宥す吉辰。春は戊寅、夏は甲午、秋は戊申、冬は甲子の日に在る。此の日は刑獄を緩くし、冤枉を雪ぎ恩惠を施すに宜しい。又、德神と合すれば興造に宜しい。〔協紀辨方書、義例三、天赦〕天寶曆曰、天赦者、赦レ過宥レ罪之辰也、天之生育、甲與レ戊、地之成立、子午寅申、故以二甲戊一配二成天赦一、其日可下以緩二刑獄一、雪二冤枉一、施中恩惠上、若與二德神一會合、尤宜二興造一、曆例曰、春戊寅、夏甲午、秋戊申、冬甲子、是也。〔曆林問答集、下、釋天赦〕天赦者、天之生二養萬物一、宥二其罪一日也、故曰二天赦一、百神上天之日也、無レ所二禁忌一。❷天の救ひ。宋の、富弼の母が、天赦の有ることを夢みて弼を生んだといふ。〔宋史、富弼傳〕母韓有レ娠、夢下旌旗鶴雁降二其庭一、云上レ有二天赦一、已而生レ弼。❸大赦をいふ。〔李益、大禮畢皇帝御二丹鳳門一改二元建中一大赦詩〕靈雞鼓舞承二天赦一、高翔百尺垂二朱幡一。

〖天赦日〗743 テンシヤニチ 陰曆で年に四回ある最上の吉日。天社日。春の戊寅・夏の甲午・秋の戊申・冬の甲子の日。天赦の❶に同じ。〔宋史、苗訓傳〕春戊寅・夏甲午・秋戊申・冬甲子爲二天赦日一、及二上慶誕日一、皆不レ可三以斷二極刑一。

【天匠】744 テンシヤウ 天の工人。自然のたくみ。又、非常にすぐれた工人。〔歐陽脩、依レ韻和二聖兪見一レ寄詩〕天匠染二青紅一、花腰呈二裊娜一。〔蘇軾、游二白水山佛迹巖一詩〕方其欲レ合時、天匠麾二月斧一。〔張羽、峴山詩〕十手可二對飮一、斧鑿自天匠。

【天倡】745 テンシヤウ ❶天が先づとなへ出す。天が眞先に事をなすをいふ。〔越絕書、越絕外傳枕中〕天倡而見レ符、地應而見レ瑞。❷星の名。〔史記、樂書〕天倡、星名、主二俳倡一。〔春秋緯合誠圖〕翼爲二天倡一。

【天將】746 テンシヤウ ❶天の將軍。〔宋書、天文志二〕占曰、牽牛、天將也、犯二中央星一、大將軍死。❷官軍の大將。〔王維、燕支行〕漢家天將才且雄、來時謁レ帝明光宮。

〖天將軍〗747 テンノシヤウグン 太白星をいふ。太白(**3**−**5834**‥369)を見よ。〔海錄碎事、天、星〕如淳曰、太白、天之將軍。

【天祥】748 テンシヤウ ❶天の示す祥瑞。天瑞。〔管子、五輔〕上度二之天祥一。〔孔叢子、執節〕妖恠之事、非二所謂天祥一也。❷㋑唐、殷七七(**6**−**16627**‥161)の名。㋺元、紀君祥(**8**−**27234**‥93)の一名。

【天章】749 テンシヤウ ❶天のあや。天文。又、天をいふ。〔張說、奉二宇文黃門融酒一詩〕聖德垂二甘露一、天章降二三光一、聖澤該二九州一。〔蘇軾、潮洲韓文公碑〕手抉二雲漢一分二天章一。❷帝王の翰墨。宸翰。〔徐陵、丹陽上庸路碑〕御紙風飛、天章海溢、皆紫庭黃竹之詞、晨路卿雲之藻。❸字號。㋑元、儲企范(**1**−**1284**‥77)の字。㋺明、蔡鍙(**9**−**31818**‥1)の字。㋩明、周璽(廬州の人)(**2**−**3441**‥234)の字。㋥明、南漢(**2**−**2750**‥133)の字。㋭明、呂雯(**2**−**3386**‥140)の字。㋬明、廖漢(**4**−**9464**‥7)の字。㋣清、吳璋(**2**−**3365**‥216)の字。㋠清、吳雯(**2**−**3365**‥373)の字。㋷清、陳錦(**11**−**41698**‥165)の字。

【天章閣】750 テンシヤウカク 宋の眞宗の藏書閣の名。會慶殿の西、龍圖閣の北にある。天禧四年、丁謂等の奏請に因つて設け、御集を奉安し、天章閣學士・直學士・待制等の官を置いた。〔宋史、眞宗紀三〕天禧四年、丁謂等請下作二天章閣一奉中安御集上。〔宋史、職官志二〕天章閣學士・直學士・待制、天禧四年建、在二會慶殿之西、龍圖閣之北一、明年仁宗卽レ位、修二天章閣一、畢以奉二安眞宗御製一、云云、以三在レ位受二天書祥符一、改曰二天章一、取下爲二章于天一之義上。

〖天章有道〗751 テンシヤウイウダウ 南宋の寧宗の時、安南の昭皇、李佛金の年號、天彰有道の一稱。(1224−1

225）

【天象】752テンシヤウ ㊀天體の現象。日月星辰をいふ。〔易、繫辭上〕天垂レ象、見二吉凶一、聖人則レ之。〔書、胤征〕昏二迷于天象一。〔史記、歷書、索隱述贊〕推二步天象一、消二息母子一。㊁そら模樣。

【天奬】753テンシヤウ 天子のすすめ。又、天子のめぐみ。〔任昉、奉レ答二勅示七夕詩一啓〕謹輙牽二率庸陋一、式訓二天奬一。〔注〕良曰、奬、猶レ恩也。

【天障】754テンシヤウ ㊀天然の障碍。㊁嶺の名。〔水經、溫水注〕山南長嶺、連二接天障嶺西一。

【天漿】755テンシヤウ ㊀天然に出來た甘汁。㋑甘い石榴をいふ。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕石榴甜者謂二之天漿一、能已二乳石毒一。㋺茘枝をいふ。〔蘇軾、食二茘枝一詩〕炎雲駢二火實一、瑞露酌二天漿一。㊁天上の飲み物。思索の深遠なるにいふ。〔韓愈、調二張籍一詩〕刺手拔二鯨牙一、擧レ瓢酌二天漿一。〔注〕魏道輔云、高至三於酌二天漿一、斷至三於拔二鯨牙一、其思賾深遠如レ此。㊂川の名。源は河南省濟源縣の南。〔水經、濟水、注〕湨水、又東南流、天漿澗水注レ之、水出二軹南阜一、云云、其水有二二源一、倶導各出二一溪一、東北流合爲二一川一、名曰二天漿溪一。㊃鎭名。河南省濟源縣の東南。又、添漿に作る。〔濟源縣志〕水經注、天漿溪出二軹南一、今按、軹南有二四澗水一、一出二紅土溝一、一出二怪潭一、倶東北流、逕二鍾公壘一、東南五里、有二天漿村一。

【天漿子】756テンシヤウシ 毛蟲（**6**－**16772**‥169）の㊁の異名。多く石榴の樹上に生ずるから名づく。天漿は石榴。〔本草、雀甕〕釋名、天漿子、時珍曰、俗呼二毛蟲一、又名二楊瘌子一、因レ有二螫毒一也、此蟲多生二石榴樹上一、故名二天漿一、天漿乃甜榴之名也、宗奭曰、多在二棘枝上一、故曰二棘剛子一。

【天賞】757テンシヤウ 天の與へる賞與。〔呂覽、明理〕有二天賞一得レ爲レ主。〔管子、四時〕明聖者皆受二天賞一。

【天上】758テンジヤウ ㊀てんのうへ。天空。〔易、小畜〕風行二天上一、小畜。〔易、大莊〕象曰、雷在二天上一、大壯。〔說苑、談叢〕生二禍福一、非下從二地中一出上、非下從二天上一來上、己自生レ之。〔後漢書、夫餘國傳〕前見二天上一、有レ氣大如二雞子一。〔杜甫、贈二花卿一詩〕此曲祇應二天上有一、人間能得二幾回聞一。㊁中國をいふ。〔孫逖、同二洛陽李少府一觀二永樂公主入レ蕃詩〕美人天上落、龍塞始應レ春。㊂天へ昇ること。昇天。上天。〔狂言記、針立雷〕身共は天上するぞ。㊃死をいふ。逝去。〔宇津保物語、俊蔭〕親の天上し給ひて後。㊄物事の至り極まること。〔浮世風呂、四編、上〕天上の榮花。この上も無いこと。

【天上界】759テンジヤウカイ ［佛］六道の一。最善の世界。天界。地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上を六道といふ。六道（**2**－**1453**‥431）の㊃を見よ。

【天上樂】760テンジヤウノガク 天上界の音樂。〔海錄碎事、音樂、樂〕響犀槌、其槌響犀也、雲檀香爲レ架、上令レ奏二涼州一、音韻清趣、上謂曰二天上樂一、杜陽編。〔陳師道、次二韻回山人一詩〕痴子未レ知天上樂、先生今解世間書。〔鄧文原、升龍圖詩〕未レ識嫦娥天上樂、廣寒丹桂五雲深。

【天上種】761テンジヤウノシユ 天上界に生ずる種。櫻花の美稱。〔藤森弘庵、詠レ櫻詩〕萬古依然天上種、我櫻眞個是花王。

【天上樹】762テンジヤウノジユ 藥樹の名。〔李紳、新昌宅書堂前有二藥樹一株一、今已盈レ拱前長慶中於二翰林院内西軒藥樹下一移得纔長一寸僕夫封二一泥丸一以歸植今則長成名二之天上樹一詩〕白楡星底開二紅甲一、珠樹宮中長二紫霄一、丹彩結心纔辨レ質、碧枝抽レ葉乍成レ條、羽衣道士偸二玄圃一、金簡眞人護二王苗一、長帶九天餘二雨露一、近來蔥翠欲レ成レ喬。

【天上春】763テンジヤウノハル 天上界の春。〔李白、鳳凰曲〕嬴女吹二玉簫一、吟弄天上春。

【天上天】764テンジヤウテン 天の更に上にある天。〔通俗編、天文、天上天〕白居易、元始天尊贊、元聖何在天上天、酉陽雜俎、三界外曰二四人天一、四人天外曰二三清一、三清之上曰二大羅天一、大羅之上又有二九天一、此所謂天上天也。

【天上苦レ人】765テンジヤウハヒトヨリクルシ 天上界の方が人間界より甚だ窮窟で苦しい。白石先生が彭祖に答へた語。〔神仙傳、白石先生〕不レ肯レ修二昇レ天之道一、但取二不死一而已、云云、彭祖問レ之曰、何不レ服二昇天之藥一、答曰、天上復能樂、比二人間一乎、但莫レ使二老死一耳、天上多二至尊一、相奉事、更苦二於人間一。

【天上五衰】766テンジヤウノゴスイ ［佛］天人の死ぬ時にあらはれる五つの衰相。天人五衰。〔大論〕諸天命欲レ終時、五死相現、一、華冠萎、二、腋下汗出、三、蠅來著レ身、四、見三更有レ天坐二已坐處一、五、自不レ樂二本座一。〔倶舍論〕復有二五種大衰相一現、一、衣染二塵埃一、二、華鬘萎悴、三、兩腋汗出、四、臭氣入レ身、五、不レ樂二本座一、此相五現、必定當レ死。

【天上地府】767 t'ien¹ shang⁴ ti⁴ fu³ 天國と地獄。

【天上麒麟兒】768テンジヤウノキリンジ 優れた小兒。天上石麒麟（769）を見よ。

【天上石麒麟】769テンジヤウノセキキリン 優れた小兒。寶誌が陳の徐陵を稱した語。後世、人の子を天上石麒麟と稱するのはこれによる。〔陳書、徐陵傳〕陵年數歲、家人攜以候レ之、寶誌手摩二其頂一曰、天上石麒麟也。

【天上謫仙人】770テンジヤウノタクセンニン 天上から地上へ流謫せられた仙人。唐の賀知章が李白を稱した語。謫仙（**10**－**35868**‥13）の㊃を見よ。〔唐書、李白傳〕天寶初、南入二會稽一、與二吳筠一善、筠被レ召、故白亦至二長安一、往見二賀知章一、知章見二其文一、歎曰、子謫仙人也。

【天上白玉京】771テンジヤウノハクギヨクキヤウ 天宮の稱。神仙家の語。〔李白、經二亂離一後云云詩〕天上白玉京、十二樓五城。

【天上沒有落下來】772 t'ien¹ shang⁴ mei² yu lao⁴ hsia⁴ lai 無い物は落ちて來ない。棚から牡丹餅は落ちて來ない。

【天上人間會相見】772′テンジヤウジンカンカナラズアヒミン 男女の心さへ變らなければ、死んで天界に居る身と人間界に居る身とも、必ず相會ふことができよう。楊貴妃が玄宗皇帝に述べた語。〔白樂天、長恨歌〕但令三心似二金鈿堅一、天上人間會相見。

【天上人間方便第一】773テンジヤウジンカンハウベンダイイチ 天上界も人間界も方便が第一である。〔通俗編、釋道、天上人間方便第一〕景行錄、千經萬典孝義爲レ先、天上人間方便第一。

【天上天下唯我獨尊】774テンジヤウテンゲユイガドクソン ［佛］天地の間に於て己に及ぶ者がない意。天上天下唯我最勝。釋迦が誕生した時自ら言つた語。〔大唐西域記、六、劫比羅伐窣堵國〕菩薩生、已不レ扶而行二於四方一各七步、而自言曰、天上天下、唯我獨尊。

【天城】775テンジヤウ 相術家の語。左の外耳の中央をいふ。流年運氣（**6**－**17431**‥307）を見よ。

【天常】776テンジヤウ 天の常理。人倫五常の道。〔左氏、文、十八〕傲二很明德一、以亂二天常一。〔左氏、哀、六〕夏書曰、惟彼陶唐、帥二彼天常一、有二此冀方一。〔後漢書、袁紹傳〕滔二亂天常一、侵二奪朝威一。〔潘勗、冊二魏公九錫一文〕後及下黃巾反二易天常一、侵二我三州一、延中于平民上、君又討レ之。

【天常爲二帝王之筆舌一】777テンジヤウハテイワウノヒツゼツタリ 帝王は必ず五常の道によらねばならぬことを、書は必ず筆により、言は必ず舌によらねばならぬことに喩へた語。〔法言、問道〕孰有二書不レ由レ筆、言不レ由レ舌、吾見二天常一、爲二帝王之筆舌一也。〔注〕天常、五常也。

【天情】778テンジヤウ ㊀人が天から受けた感情。〔荀子、天論〕形具而神生、好惡喜怒哀樂臧焉、夫是之謂二天情一。㊁天の心。〔鮑照、河清頌〕精昭二日月一、事洞二天情一。㊂天の正しい道理。〔南齊書、王文殊傳〕婚義滅二於天情一、官序空二於素抱一。㊃天子の愛情。〔顏延之、赭白馬賦〕加二弊帷一收二仆質一、天情周皇恩畢。

【天壤】779テンジヤウ あめつち。天と地。天地。轉じて、懸隔の甚しい喩。又、きはまりない喩。又、廣大な喩。〔戰國、齊策〕名與二天壤一相敝也。〔史記、魯仲連傳〕業與二三王一爭レ流、而名與二天壤一相敝也。〔管子、幼官〕食二天壤山川之故祀一。〔墨子、辭過〕天壤之情。〔莊子、應帝王〕吾示レ之以二天壤一。〔張協、詠史詩〕清風激二萬代一、名與二天壤一倶。

【天壤閣】780テンジヤウカク 清の王懿榮の廳事の名。懿榮、字は廉生、山東福山の人。官、國子祭酒となり、金石文字に詳しい。著書に天壤閣雜記があり、又、天壤閣叢書を刊行した。

【天壤懸隔】781テンジヤウノケンカク 天と地とのへだたり。相隔たることの甚しいこと。〔抱朴子、内篇、論仙〕已有二天壤之隔一、何獨怪三仙者之異二凡人一乎。〔南齊書、陸厥傳〕一人之思、遲速天懸、一家之文、工拙壤隔、何獨宮商律呂、必責二其如レ一邪。

【天壤無窮】782テンジヤウムキユウ 天地と共に永久にきはまりないこと。國祚の長久などにいふ。〔日本書紀、神代紀、下〕勅二皇孫一曰、葦原千五百秋之

瑞穗國、是吾子孫可レ王之地也、宜二爾皇孫就而治一焉、行矣、寶祚之隆、當下與二天壤一無上レ窮者矣。

〔天壤王郞〕783 テンジヤウワウラウ　晉の王凝之の妻の謝氏が、其の夫の一門が皆すぐれてゐる中に、凝之だけ劣るのを罵つた語。〔晉書、王凝之妻謝氏傳〕初適二凝之一、還甚不レ樂、安曰、王郞逸少子不レ惡、汝何恨也、答曰、一門叔父則有二阿大中郞一、羣從兄弟復有二封胡羯末一、不レ意天壤之中乃有二王郞一。

【天錫】784 テンシヤク テンセキ　㊀天から賜はる。又、其のもの。天授。天賜。〔書、仲虺之誥〕天乃錫二王勇智一、表二正萬邦一。〔詩、魯頌、閟宮〕天錫二公純嘏一、眉壽保レ魯。〔陸雲、大將軍宴會被レ命作詩〕天錫難レ老、如二岳之崇一。㊁字號。㋑宋、郭緖(11－39474・・127)の字。㋺宋、郭承祐(11－39474・・332)の字。㋩宋、任澤(1－416・・137)の字。㋥宋、李昌齡(6－14459・・1389)の字。㋭金、馬百祿(12－44572・・926)の字。㋬元、郭畀(11－39474・・189)の字。㋣元、薩都剌(9－32189′・・22)の字。㋠元、徐賜(4－10110・・145)の字。㋷明、夏祚(3－5720・・189)の字。㋦明、霍恩(12－42321・・9)の字。㋸明、伍福(1－435・・35)の字。㋻明、侯應爵(1－633・・102)の字。㋾明、謝祐(10－35827・・9)の字。㋕明、申祐(7－21726・・2)の字。㋵明、孫祿(3－6987・・308)の字。㋟明、馬永(12－44572・・24)の字。㋹明、兪恩(錢塘の人)(1－1437・・11)の字。㋞清、馬良(12－44572・・620)の字。

【天爵】785 テンシヤク　㊀天から受ける爵位。盛德があつて、自然に尊いこと。有德をいふ。人爵の對。〔孟子、告子上〕有二天爵者一、有二人爵者一、仁義忠信、樂レ善不レ倦、此天爵也、公卿大夫、此人爵也。〔集注〕天爵者、德義可レ尊、自然之貴也。〔後漢書、呂強傳〕重二天爵一、明二勸戒一。〔魏志、夏侯尙傳〕夫天爵下通、是庶人議レ柄也。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕必待二天爵具脩一、人紀咸事。㊁字號。㋑明、陸俸(11－41708・・228)の字。㋺清、楊宗仁(6－15112・・660)の字。

〔天爵堂〕786 テンシヤクダウ　新井君美の號。新井白石(5－13572・・640)を見よ。

【天若】787 テンジヤク　明、梁萬爵(6－14825・・314)の字。

〔天若有レ情天亦老〕788 テンモシジヤウアラバテンモマタオイン　天が若し人間のやうに有情のものならば、やはり老衰するであらう。〔李賀、金銅仙人辭レ漢歌〕衰蘭送レ客咸陽道、天若有レ情天亦老、攜レ盤獨出月荒涼、渭城已遠波聲小。

〔天若不レ愛レ酒酒星不レ在レ天〕789 テンモシサケヲアイセズンバシユセイテンニアラズ　若し天が酒がきらひなら、天上に酒星はないはずである。〔李白、獨酌詩〕天若不レ愛レ酒、酒星不レ在レ天、地若不レ愛レ酒、地應レ無二酒泉一。

【天雀】790 テンジヤク　雲雀(12－42235・・311)の異名。〔爾雅、釋鳥、鷚天鸙、義疏〕今此鳥、俗謂二之天雀一、毛色全似二阿鷚一、而形差小、高飛直上、鳴聲相屬、有レ如二告訴一、或謂二之告天鳥一。

【天主】791 テンシユ　㊀神の名。八神の一。〔史記、封禪書〕八神、一曰二天主一、祠二天齊一。㊁南朝宋の時、呵羅單國が宋王を呼んだ稱。〔宋書、呵羅單國傳〕揚州城無憂天主、愍二念羣生一、安二樂民人一、律儀清淨、慈心深廣。㊂㋑天守(794)の㊁に同じ。㋺耶蘇教の神。デウス。天主教を見よ。

〔天主閣〕792 テンシユカク　天守閣(795)に同じ。

〔天主教〕793 テンシユケウ　耶蘇舊教の一派。羅馬法王を教主と仰ぐ。耶蘇教の中で最も早く我が國に傳はつた。切支丹。〔二十二史劄記、天主教〕意大理亞國、在二大西洋中一、萬麻中、其國人利瑪竇、至二京師一、爲二萬國全圖一、言、天下有二大州五一、云云、大抵歐羅巴諸國、悉奉二天主教一、天主耶酥生二於女德亞一、卽古大秦國也、其國在二亞細亞洲之中一、云云、至二萬麻九年一、利瑪竇始泛レ海九萬里、抵二廣州之香山澳一、其教漸行、二十九年入二京師一、以二方物一獻、幷貢二天主及天主母圖一。

【天守】794 テンシユ　㊀自然の道を保ち守る。天性を守る。〔莊子、達生〕夫若レ是者、其天守全、其神无レ郤、物奚自入焉。〔疏〕若レ是者、其保二守自然之道一、全而不レ虧。〔列子、黃帝〕其天守全、其神無レ郤。㊁城の本丸の中に築いた高い櫓。殿主の義。天主。天主閣。〔大和事始、二、居處〕天守、城中の高樓を天守といふ。

〔天守閣〕795 テンシユカク　城の本丸の中に、特に高く設けた物見櫓の稱。三層・五層・七層などで、八棟造りなどに建てる。天主閣の名は、松永久秀が多聞城を築いた地に、織田信長が安土城を築いて、天主を祀つたことに起るといふ。一說に、佛教の帝釋を中央に、四隅に四天王を祀つて守護神としたことに起るといふ。又、上杉謙信が、天主の稱を憎んで天守と改めたともいふ。一に殿主に作る。〔織田家譜〕久秀、云云、始造二殿守一。

【天酒】796 テンシユ　天上界の酒。又、天が釀した酒。又、甘露(7－21643・・216)の㊀の異名。〔神異經、西北荒經〕西北海外有レ人、長二千里、云云、但日飮二天酒五斗一。〔瑞應圖〕甘露、美露也、神靈之精、仁瑞之澤、其凝如レ脂、其甘如レ飴、一名膏露、一名天酒。〔梁簡文帝、謝三敕賚レ銅供二造善覺寺塔露盤一啓〕甘露入レ盤、足レ稱二天酒一。

〔天酒虹〕797 テンシユコウ　虹の一種。〔續博物志、一〕天酒虹、依二雲陰一而晝見二於日衝一。

【天趣】798 テンシユ　自然の趣。天然の韻趣。〔畫鑒〕李甲字景元、作二翎毛一有二天趣一。

〔天趣軒〕799 テンシユケン　明、張弼(4－9812・・631)の室名。

【天授】800 テンジユ　㊀天からのさづかり。天得。又、生れつき。天賦。〔史記、淮陰侯傳〕陛下所謂天授、非二人力一也。〔淮南子、齊俗訓〕其遭二桀紂之世一、天授也。〔論衡、命祿〕陛下所謂天授、非二智力所一レ得。〔班彪、王命論〕謂二之天授一、非二人力一也。㊁年號。㋑唐、武后の時。(690－692)㋺北魏、孝明帝の時、劉獲の僭年號。(527)㋩西夏、景宗、李元昊の年號、天授禮法延祚の略稱。(1038－1048)㋥五代の時、高麗の太祖神聖王、王建の時。(918－943)㋭宋の時、大理の段正淳の年號、明開天政の一稱。(大凡 1105－1107)㋬第九十八代長慶天皇の御代。(1375－1381)㊂宋、譙定(10－35976・・24)の字。

〔天授禮法延祚〕801 テンジユレイハフエンソ　宋の時、西夏、景宗、李元昊の年號。禮は、一に理に作る。(1038－1048)

【天壽】802 テンジユ　㊀自然に定まつてゐる壽命。天年。〔史記、楚世家〕今乃得下以二天壽一終上、孤之幸也。〔拾遺記〕環重十兩、上有二天壽永吉之字一。㊁山名。河北省昌平縣の北。本名は黃土山。俗に十三陵と稱す。〔明一統志〕天壽山、在二順天府北一百里一、自二西山一帶一、東折而北至二此羣峰一、聳拔若二龍翔鳳舞一、自レ天而下一、其旁諸山、則玉帶・軍都、連亙環抱、銀山神嶺、羅列拱護、勢雄氣固、以奠二三陵一、名二天壽一。〔水東日記〕舊名東榨子山、明永樂七年、卜建二山陵一、因改二今名一、諸帝陵寢皆在焉。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州〕天壽山、在二州北十八里一、本名二黃土山一、卽軍都諸山之岡阜、志云、山脈自二西山一蜿蜿來、羣峯連亙、流泉環遶。㊂唐、高祖の時、許の宇文化及の僭年號。(618－619)

〔天壽節〕803 テンジユセツ　天子の御誕生日。天長節。〔金史、章宗紀一〕詔以二生辰一爲二天壽節一。〔元史、禮樂志一〕遇二八月帝生日一、號曰二天壽聖節一、用二朝儀一自レ此始。

【天聚】804 テンシユウ　天與の福祿。聚は、財の多いこと。〔國語、晉語四〕周室而俾レ守二天聚一者、必武族也。〔注〕聚、財衆也。

【天宿】805 テンシユク　星宿の名。氐宿。〔星經〕氐四星爲二天宿宮一。

【天術】806 テンジユツ　天のわざ。又、天の道理。天道(1002)の㊀に同じ。〔後漢書、隗囂傳〕詭二亂天術一、援二引史傳一。〔孟郊、弔二元魯山一詩〕善教復天術、美詞非二俗箴一。

【天駿】807 テンシユン　明、張駿(4－9812・・403)の字。

【天順】808 テンジユン　年號。㊀明、英宗、朱祁鎭の時。(1457－1464)㊁南宋の際、大越(安南)の神宗、李陽煥の時。一に大順に作る。(1128－1132)㊂金、宣宗の時、楊安兒の僭年號。(1216)㊃元の太子、阿速吉八の時。(1328)㊄明の時、錢塘の賊、李珍の僭年號。(1456)㊅明末の張獻忠の僭年號大順の一稱。(1643)㊆唐、昭宗の年號、天祐の一稱。(904－907)

〔天順帝〕809 テンジユンテイ　明、英宗、朱祁鎭(6－14424・・708)をいふ。

【天杵】810 テンシヨ　星の名。〔晉書、天文志中〕太白散爲二天杵・天柎・伏靈・大敗・司姦・天狗・天殘・卒起・白彗一。

【天苴】811 テンシヨ　植物の名。芭蕉(9－30730・・2)の別名。〔本草、甘焦〕釋名、芭蕉・天苴・芭苴。

【天書】812 テンショ ❶天子の書。詔敕。〔李白、口號贈二盧徵君鴻一詩〕雲臥留二丹壑一、天書降二紫泥一。〔王維、春日直二門下省一早朝詩〕玉漏隨二銅史一、天書拜二夕郎一。〔劉長卿、寄二別朱拾遺一詩〕天書遠召滄浪客、幾度臨レ岐病未レ能。❷道教で元始天尊の言葉を記した書。〔隋書、經籍志四〕所レ說之經、云云、凡八字、盡二道體之奧一、謂二之天書一、字方一丈、八角垂芒、光輝照耀、驚レ心炫レ目。❸宋の眞宗の時、天から降つたといふ書。眞宗、澶淵の役を恥ぢ、天瑞に依つて封禪して四海を鎭めんとし、夢に神人が天書を降したと謬言し、之を承天門と泰山とに得て、群臣と共に狂喜した。眞宗の崩ずるや、其の書を共に葬つたといふ。〔宋史、眞宗紀二〕大中祥符元年春正月乙丑、有二黃帛曳二左承天門南鴟尾上一、守門卒塗榮告、有司以聞、上召二羣臣一、拜二迎於朝元殿一、啓二封號一稱二天書一、云云、己卯、詔以二天書之應一、中二徹在位一、云云、六月乙未、天書再降二於泰山醴泉北一、云云、壬寅、迎二泰山天書於含芳園一、雲五色見、云云、六年十二月己巳、天書扶侍使趙安仁等、上二奉天書車輅鼓吹儀仗一、壬辰、獻二天書於朝元殿一、遂告二玉清昭應宮及太廟一。〔宋史、眞宗紀贊〕眞宗英晤之主、及二澶淵既盟一、封禪事作、祥瑞沓臻、天書屢降、導迎奠安、一國君臣、如二病狂一然、吁可レ怪也、仁宗以二天書一殉二葬山陵一、嗚呼賢哉。❹玄女が宋江に授けたといふ書。〔水滸傳、八十八回〕青衣請三宋江入二簾內一、跪在二香案之前一、擧レ目觀望、殿上祥雲靄靄、紫霧騰騰、正面九龍牀上、坐二着九天玄女娘娘一、頭戴二九龍飛鳳冠一、身穿二七寶龍鳳絳綃衣一、腰繫二山河日月裙一、足穿二雲霞珍珠履一、手執二無瑕白玉珪一、兩邊侍從女仙、約有二三二十箇一、玄女娘娘、與二宋江一曰、吾傳二天書一與レ汝、不レ覺又早數年矣、汝能忠義堅守、未二嘗少怠一、今宋天子、令二汝破レ遼、勝負如何、宋江俯伏在レ地、拜奏曰、臣自得蒙三娘娘賜二與天書一、未四嘗輕二慢泄三漏於人一、今奉二天子敕命一破レ遼、不レ期被三兀顏統軍設二此混天象陣一、累敗數次、臣無二計可一レ施、正在二危急之際一。

【天暑】813 テンショ 氣候があついこと。〔素問、離合眞邪論〕天地溫和、則經水安靜、天寒地凍、則經水凝泣、天暑地熱、則經水沸溢。〔說苑、貴德〕孔子之レ楚、有二漁者一獻レ魚、甚強、孔子不レ受、獻レ魚者曰、天暑遠レ市、賣レ之不レ售、思欲レ棄レ之、不レ若レ獻二之君子一、孔子再拜受。

【天緒】814 テンショ 天子の胤。天子の血統。〔後漢書、順冲質帝紀贊〕冲夭未レ識、質弑以レ聰、陵折在レ運、天緒三終。〔注〕言、陵遲夭折、在二於時運一、所三以天之胤緒、頻致二三終一也。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕毀二人倫之敍一、亂二男女之節一、恭孝日虧、悖傲滋甚、不レ可下以承二天緒一奉中宗廟上。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕聖德嗣興、方恢二天緒一。

【天如】815 テンジョ ❶字號。㋑元、惟則（4―10820··82）の字。㋺明、張溥（4―9812··647）の字。㋩清、姚學灝（3―6202··137）の字。❷テンニョ 元の僧。名は惟則。號は天如。中峯に學び、姑蘇の獅子林に住す。元・明の學者多くこれを宗とす。

【天助】816 テンジョ 天が助ける。又、天のたすけ。天祐。〔易、繫辭上〕天之所レ助者順也、人之所レ助者信也。〔莊子、庚桑楚〕天助レ之。〔漢書、劉向傳〕此皆以レ和致レ和、獲二天助一也。〔王安石、本朝百年無事劄子〕天下無レ事、過二於百年一、雖レ曰二人事一、亦天助也。

【天序】817 テンジョ ❶日月の自然の移りかはり。天の秩序。〔陶弘景、華陽樞域頌〕三宿麗二天序一、兩金標二地英一。❷帝王の位。帝王の統嗣。〔漢書、成帝紀〕可下以承二天序一繼中祭祀上。〔蜀志、劉永傳〕朕承二天序一、繼二統大業一。❸晉の鼓吹曲の名。傅玄作。古曲の芳樹行に當る。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、晉鼓吹曲天序〕古芳樹行、古今樂錄曰、天序、言三聖皇應レ歷受レ禪、洪濟大化、用レ人各盡二其才一也。〔傅玄、天序〕天序歷應、受レ禪承二靈祜一、御二羣龍一勒二螭虎一、弘濟二大化一、英雋作レ輔、明明統二萬機一、赫赫鎭二四方一、咎繇稷契之疇、協二蘭芳一禮二王臣一、覆二兆民一化レ之、如二天與レ地、誰敢愛二其身一。

【天敍】818 テンジョ 明、張經（潘陽の人）（4―9812··255）の字。

【天承】819 テンショウ テンジョウ 第七十五代崇德天皇の年號。（1131―1132）〔左部大輔藤原敦光勘文〕漢書匡衡傳曰、聖王之自爲、動靜周旋、奉レ天承レ親、臨レ朝享レ臣、物有二節文一、以章二人倫一。

【天秤】820 テンショウ ❶星宿の名。天蝎の右に位し、夏季に南方に見える。〔天步眞原、雜會論天氣〕月離二日或金星一一百八十度、或白羊・天秤・天蝎・雙魚、內有二雷電雨一。❷てんびん。兩方の重みを平均させて目方を量る器械。天平。

〖天秤卓〗821 t‘ien^{1} ch‘êng^{4} chuo^{1} 天秤を置く細長いテーブル。

【天衡】822 テンショウ 物の形をした雲氣。天衡（321）に同じ。〔呂覽、明理〕其雲狀有下若レ犬若レ馬、若二白鵠一、若中衆車上、有三其狀若二人蒼衣赤首不一レ動、其名天衡。〔晉書、天文志中〕七曰天衡、出如レ人、蒼衣赤頭不レ動。

【天縱】823 テンショウ ❶天がゆるしてほしいままにさせる。轉じて、生れつき。又、生れながらに優れてゐること。〔論語、子罕〕固天縱レ之將レ聖、又多能也。〔南齊書、海陵王紀〕天縱英輔、大匡二社稷一。〔隋書、音樂志中〕眇哉神啓、鬱矣天縱。〔李衞公問對、上〕陛下天縱聖武、非レ學而能。〔名畫錄〕天縱生知、不レ從二師學一。〔陸游、示二子孫一詩〕巍巍夫子雖二天縱一、禮樂官名盡有レ師。❷閏月。〔鄭仲夔耳新〕曆家謂二閏月一爲二天縱一、朱鬱儀閏三日飮二龍沙一詩、且極二天縱娛一、相將傾二桂醑一。

〖天縱之大聖〗823′ テンショウノタイセイ 天がその人に十分の才能を發揮させた聖人。孔子をいふ。

【天式】824 テンショク 天の法。式は法。〔楚辭、天問〕天式從橫、陽離爰死。〔注〕式、法也。

【天色】825 テンショク 天の色。そらのいろ。又、空の樣子。〔書、禹貢、禹錫二玄圭一告二厥成功一、傳〕玄、天色。〔唐彥謙、夜泊二東溪一有レ懷詩〕水昏天色晚、崖下泊二行舟一。〔劉禹錫、和二樂天秋涼閒臥一詩〕暑退人體輕、雨餘天色改。〔元稹、遣レ春詩〕空濛天色嫩、杳淼江面平。〔宋史、樂志十六〕蒼蒼天色。〔林泉高致〕天色、春晃・夏蒼・秋淨・冬黯。

〖天色已晚〗826 テンショクステニオソシ 最早、日が暮れた。日、已に晚し。

【天食】827 テンショク 自然から禀けたもの。生れつき。天鬻。天禀。〔莊子、德充符〕天鬻也者、天食也。〔疏〕鬻、食也、食、禀也、天、自然也、以下前四事蒼生有レ之、禀自二天然一、各率中其性上、聖人順レ之、故無レ所レ用レ己也。

【天植】828 テンショク ❶心。心は天が人に賦與して萬事を植立させるものであるからいふ。〔管子、版法〕凡將レ立レ事、正二彼天植一。〔注〕解云、天植者心也、心者天之所三以命レ人植二立萬事一、故名曰二天植一。❷清、駱國挺（12―44734··21）の字。

【天稷】829 テンショク 星の名。〔張衡、週天大象賦〕天稷播二五稼之勤一、東歐表二三夷之類一。〔海錄碎事、天、星〕天稷五星、在二農正南一。

【天燭】830 テンショク ❶樹の名。南天。〔本草、南燭〕釋名、南天燭。❷天のともしび。又、天然のともしび。目の善く見えることにいふ。〔蘇軾、贈二眼醫王生彥若一詩〕而況清淨眼、內景含二天燭一。

【天職】831 テンショク ❶天の職分。四時を運行し、百物を生成するの類をいふ。〔荀子、天論〕不レ爲而成、不レ求而得、夫是之謂二天職一、云云、天職既立、天功既成。❷天が與へた職務。人の盡さなければならない職分。〔孟子、萬章下〕弗三與共二天位一也、弗三與治二天職一也。〔集注〕范氏曰、位曰二天位一、職曰二天職一、祿曰二天祿一、言、天所下以待二賢人一使上レ治二天民一、非二人君所一レ得レ專者一也。

【天矚】832 テンショク 天子の眷顧。矚は、視ること。〔王融、三月三日曲水詩序〕去レ肅表二乎時訓一、行レ慶動二於天矚一。〔江淹、爲レ蕭重讓二揚州一表〕寫レ魂誓レ膽、庶レ留二天矚一。

【天心】833 テンシン ❶天の心。天帝の心。〔書、咸有一德〕克享二天心一、受二天明命一。〔鬼谷子、本經陰符〕懷二天心一、施二德養一。〔漢書、杜周傳〕順二天心一、說二民意一。〔淮南子、泰族訓〕以二天心一呿唫者也。〔後漢書、申屠剛傳〕不レ合二天心一。〔蜀志、秦宓傳〕上當二天心一、下合二人意一。❷天子の心。帝王の心。天意。〔王維、奉四和聖制送三不蒙都護兼鴻臚卿歸二安西一詩〕無レ戰是天心、天心同覆載。〔侯冽、花發二上林一詩〕鮮芳盈二禁籞一、布澤荷二天心一。❸天の中心。天の中央。〔雲仙雜記〕皇甫湜稱二愈文一曰、穿二天心一出二月脇一。〔盧仝、月下寄二徐希仁一詩〕夜半沙上行、月瑩天心明。〔邵雍、清夜吟〕月到二天心一處、風來二水面一時。❹峯の名。福建省崇安縣の武夷山の北。永樂禪寺があり、遊息の所である。❺岡倉覺三の號。

〖天心水面亭〗834 テンシンスイメンテイ 元、李洞（6―14459··

278)の室名。

【天申】835 テンシン 宋、謝佃(10－35827‥184)の一名。

【天信】836 テンシン 明、江潮(6－17140‥315)の字。

【天津】837 テンシン ❶星の名。箕斗の間に在る天の河の中の星。天漢。〔楚辭、離騷〕朝發㆓軔於天津㆒兮。〔後漢書、天文志中〕孝和永元元年三月丙辰、流星起㆓天津㆒。〔晉書、天文志上〕天津九星、横㆓河中㆒、一曰㆓天漢㆒、一曰㆓天江㆒、主㆓四瀆津梁㆒。❷府の名。清、置く。河北省に屬し、滄州及び天津・青・靜海・南皮・鹽山・慶雲の六縣を轄管した。〔清史稿、地理志〕直隸、天津府、領㆓州一、縣六㆒、天津・青・靜海・滄州・南皮・鹽山・慶雲。❸縣名。清、置く。河北省に屬す。〔清史稿、地理志〕直隸、天津府、縣六、天津。❹都市の名。漢の章武縣、及び泉州縣の地。元、靜海縣の地とし、海濱鎭を置き、明の永樂の閒、天津衞・天津左右衞を此處に置き、清初、之に因り、雍正の閒、衞を改めて州とし、又、天津府を設け、天津縣を置いて府治とす。後、直隸に移し、總督が其の地に駐し、天津鎭總兵も亦之に駐す。光緒二十六年、拳匪の亂に各國聯合軍が之に據り、其の城垣を毀ち、修築しないことを約す。民國の初、府を廢し、縣を留めて直隸省治とす。十七年、縣治附近の地を劃して天津特別市を置き、津海道を廢す。十九年、天津市と改稱し、行政院に直隸す。永定・滹沱・滱・北運・南運の五大河が合流する處で、汽船が暢通し、北寧・津浦兩鐵道が此處に集まる。人煙繁庶、商業殷盛、中國北部の門戸をなす。〔清史稿、地理志〕直隸、天津府。❺橋の名。河南省洛陽縣の西南。隋の煬帝が洛陽に遷都した時、洛水が都城の中を貫流してゐたので、之を天漢に比して此の橋を建設し、天津と名づけた。初は鐵鎖を以て大船を連ねて橋としたが、唐の貞觀十四年、石工に命じ、方石を累ねて脚を造り、又、宋の建隆二年、向拱が重修した。今、上浮橋といふ。〔舊唐書、肅宗紀〕廣平王入㆓東京㆒、陳㆓兵天津橋南㆒、士庶歡㆓呼路側㆒。〔劉廷芝、公子行〕天津橋下陽春水、天津橋上繁華子。〔明一統志〕天津橋、在㆓河南府城外西南㆒、架㆓洛水㆒、隋煬帝建、云云、宋邵雍聞㆓杜鵑㆒處。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、洛陽縣〕天津橋、在㆓府西南洛水上㆒、舊爲㆓洛水橋㆒、在㆓洛陽故城南㆒、後漢時建、魏晉因㆑之、云云、隋大業初、遷㆑都、以㆔洛水貫㆑都有㆓天漢之象㆒、因建㆓此橋㆒、用㆓大船㆒連以㆓鐵鎖㆒、南北夾㆓起四樓㆒、名曰㆓天津㆒、李密破㆓回洛倉㆒、遂燒㆓天津橋㆒、唐武后長壽中、始命㆓李德昭㆒、甃㆑石爲㆑岸、開元二十年、又改造焉、廣平王入㆓東都㆒、陳㆓兵於天津橋㆒、南宋建隆二年、留守向拱重修、甃以㆓巨石㆒、基址甚固、横㆓亙洛水㆒、爲㆓都城之勝㆒。

【天津衞】838 テンシンエイ 河北省天津の俗稱。明の永樂の初、衞を置いたからいふ。天津の❷を見よ。〔讀史方輿紀要、直隸、河閒府、天津衞〕永樂二年、築㆑城置㆑戍、三年、調㆓天津衞及天津左衞治㆒焉。

【天津璽】839 アマツシルシ ❶天上界のものといふしるし。❷天皇の位のしるし。卽ち、三種の神器。〔祝詞、大殿祭〕天璽の劍鏡。

【天津甕星】840 アマツミカボシ 天の惡神の名。〔日本書紀、神代紀下〕天有㆓惡神㆒、名曰㆓天津甕星㆒。

【天津日嗣】841 アマツヒツギ 皇位の繼承。又、天皇の御位。天津日繼。天之日嗣。〔古事記、上〕天神御子之天津日繼。〔萬葉集、十八〕高御座、安麻能日嗣。〔續日本紀、神護景雲三年九月〕天之日嗣、必立㆓皇緒㆒。

【天津條約】842 テンシンデウヤク 明治十七年、朝鮮に獨立・事大兩黨の爭亂があつた時、清國が事大黨を助けて獨立黨を破り、我が公使館を燒いたので、伊藤博文が全權大使となり、清の李鴻章と天津に會して結んだ條約。兩國が朝鮮に於ける駐在兵を撤退し、爾後、出兵の際は互に相通知する等のことを約した。

【天津橋上聞㆓杜鵑㆒】843 テンシンケウジヤウトケンヲキク 宋の邵雍が洛陽の天津橋上でほととぎすの聲を聞き、天下の亂れることを豫知した故事。〔邵氏聞見前錄、十九〕康節先公先天之學、伯溫不肖不㆓敢稱贊㆒、平居于㆓人事禨祥㆒、未㆓嘗輒言㆒、治平閒、與㆑客散步、天津橋上聞㆓杜鵑聲㆒慘然不㆑樂、客問㆓其故㆒、則曰、洛陽舊無㆓杜鵑㆒、今始至有㆑所㆑主、客曰、何也、康節先公曰、不㆓三五年㆒、上用㆓南士㆒爲㆑相、多引㆓南人㆒、專務㆓變更㆒、天下自㆑此多事矣、客曰、聞㆓杜鵑㆒何以知㆑此、康節先公曰、天下將㆑治、地氣自㆑北而南、將㆑亂、自㆑南而北、今南方地氣至矣、禽鳥飛類、得㆑氣之先者也、春秋書、六鷁退飛、鸜鵒來巣、氣使㆑之也、自㆑北南、方草木皆可㆑移、南方疾病瘴瘧之類、北人皆苦㆑之矣、至㆓熙寧初㆒、其言乃驗、異哉、故康節先公嘗有㆑詩曰、流鶯啼處春猶在、杜宇來時春已非、又曰、幾家大第横斜照、一片春殘啼㆓子規㆒、其旨深矣。

【天晉】844 テンシン 歲陰の名。〔漢書、天文志〕太歲在㆑申曰㆓涒灘㆒、七月出、石氏曰、名㆓天晉㆒、在㆓東井輿鬼㆒。

【天眞】845 テンシン ❶天から與へられた純粹の性。人の本性。〔魏志、胡昭傳〕天眞高絜、老而彌篤。〔晉書、阮籍等傳論〕粲㆑和履㆑純、以保㆓天眞㆒。〔杜甫、寄㆓李十二白㆒二十韻詩〕劇談憐㆓野逸㆒、嗜㆑酒見㆓天眞㆒。❷顏面の一部分で、兩眉の角。〔太平清話〕紫微夫人誥、仰和㆓天眞㆒、俯按㆓山源㆒、天眞、是兩眉之角、山源、是鼻下人中也。❸道教の神の名。〔隋書、經籍志四〕天尊之開㆑劫也、乃命㆓天眞皇人㆒、改囀㆓天音㆒而辨㆓析之㆒、自㆓天眞㆒以下、至㆓於諸仙㆒、展轉節級、以㆑次相授。

【天眞閣】846 テンシンカク 清、孫原湘(3－6987‥395)の室名。

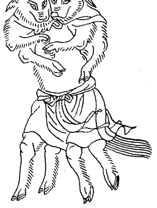
【天眞混】847 テンシンコン 明代、李文の僭年號。(大凡1580)

【天眞獨朗】848 テンシンドクラウ ［佛］不生無作の本體に悟入し、生死の差別を超越し、朗然として大覺の佛となること。傳教大師が在唐の時、道邃和尚から觀心の口訣として傳授せられたといふ語。

【天眞爛漫】849 テンシンランマン 天與の純粹な心のままを言動にあらはして、つつみかくしのないこと。自然のままがありありと現はれるさま。〔輟耕錄、狷潔〕嘗自寫㆓一幅㆒、長丈餘、高可㆓五寸許㆒、天眞爛漫、超㆓出物表㆒、題云、純是君子、絕無㆓小人㆒、深山之中、以㆑天爲㆑春。

【天眞之淑聖】850 テンシンノシユクセイ 生れつき立派な德。〔魏志、陳思王植傳〕陛下體㆓天眞之淑聖㆒、登㆓神機㆒以繼㆑統。

【天神】851 テンシン ❶天の神。あまつかみ。地祇(3－4890‥78)の對。〔周禮、春官、大宗伯〕掌㆘建㆓邦之天神・人鬼・地示㆒之禮㆖。〔禮、郊特牲〕所㆓以別㆑事㆔天神與㆓人鬼㆒也。〔史記、殷紀〕帝武乙無道、爲㆓偶人㆒、謂㆓之天神㆒。〔淮南子、天文訓〕天神之貴者、莫㆑貴㆓於青龍㆒。〔司馬相如、封禪文〕修㆓禮地祇㆒、謁㆓款天神㆒。❷神の名。牛に似て二首馬尾、淫水に住む。これが現はれると其の邑に兵が起るといふ。〔山海經、西山經〕又西三百二十里曰㆓槐江之山㆒、爰有㆓淫水㆒、其清洛洛、有㆓天神㆒焉、其狀如㆑牛而八足、二首馬尾、其音如㆓勃皇㆒、見則其邑有㆑兵。❸テンジン 菅原道眞を祀つた天滿宮の稱。



淫水天神
(山海經圖)

【天神林】852 テンジンハヤシ 常陸國の地名。〔松屋筆記〕。

【天神壽詞】853 アマツカミノヨゴト 天皇踐祚の日、中臣氏が奏問して大御代を祝ぎ奉る詞。中臣壽詞。〔日本書記〕。

【天神地祇】854 テンシンチギ 天上にゐる神と大地に住む神。あまつかみと國つかみ。天神は昊天上帝を主とするが、外に日月星辰・司中・司命・風師・雨師等があり、地祇は后土を主とするが、外に社稷・五祀・五嶽などがある。我が國では天神は高天原の神、卽ち天照大神・豐受大神など。地祇は國土の神、卽ち大物主神・大國魂神などをいふ。〔周禮、春官大宗伯〕以㆓禋祀㆒祀㆓昊天上帝㆒、以㆓實柴㆒祀㆓日月星辰㆒、以㆓槱燎㆒祀㆓司中司命飌師雨師㆒、以㆓血祭㆒祭㆓社稷五祀五嶽㆒、以㆓貍沈㆒祭㆓山林川澤㆒。〔令義解、神祇令〕天神者、伊勢(天照大神・豐受大神)、云云地神者、大神(大物主神)・大倭(大國魂神)。〔弘道館記述義、上〕天神地祇、見㆓於古史㆒、列㆓於祀典㆒者、不㆑可㆓勝數㆒。

【天紳】855 テンシン 天上から懸かる大帶。瀑布をいふ。〔韓愈、送㆓惠師㆒詩〕是時雨初霽、懸瀑垂㆓天紳㆒。〔韓駒、入㆓鳴水洞㆒詩〕得㆑非㆑拖㆓天紳㆒、常恐浮㆓地脈㆒。〔淮南雜識〕詩人多以㆓瀑布㆒爲㆓天紳㆒、孟東野詩、檐溜擲㆓天紳㆒、韓退之詩、懸瀑垂㆓天紳㆒。

【天人】856 テンジン テンニン ❶天と人。又、天意と人事。天人際を見よ。〔易、繫辭上〕天之所㆑助者順也、人之

所レ助者信也。〔漢書、刑法志〕天人之和。〔南齊書、高帝紀上〕從二天人一而齊二七政一、凝二至德一而撫二四維一。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕明公宜下承二聖旨一、受二茲介福一、允當中天人上。〔注〕銑曰、天人、謂二天意人事一也。〔書言故事大全、神相類〕天人佑助。㊁天上界の人。仙人の類。〔神仙傳〕忽有二天人下一、千乘萬騎、金車羽蓋。〔李商隱、鸞鳳詩〕王子調二清管一、天人降二紫泥一。〔杜牧、杜秋娘詩〕畫堂授二傅姆一、天人親捧持。〔蘇軾、范文正公文集序〕軾曰、此天人也耶、則不二敢知一、若亦人耳、何爲其不可。㊂容貌の秀でた人。美人。〔杜甫、八哀詩〕汝陽讓帝子、眉宇眞天人、虬鬚似二太宗一、色映二塞外春一。〔張昱、輦下曲〕西方舞女卽天人、玉手曇花滿レ把春。㊃天子をいふ。〔晉書、應貞傳〕順レ時貢職、入二覲天人一。〔沈佺期、夏日都門送二司馬員外逸客孫員外佺北征一詩〕廟略天人授、軍麾相國持。㊄才學・武勇などの非常に優れた人をいふ。〔魏志、曹仁傳〕初見二仁出一皆懼、及レ見二仁還一乃歎曰、將軍眞天人也、三軍服二其勇一。〔魏志、王粲傳、注〕魏略曰、淳一名竺、云云、嘆二植之材一、謂二之天人一。㊅有道の人。道を修めた人。〔莊子、天下〕不レ放二於宗一、謂二之天人一、不レ離二於精一、謂二之神人一。〔文中子、天地〕薛收問、仲長子光何人也、子曰、天人也、收曰、何謂二天人一、子曰、渺然小乎、所三以屬二於人一、曠哉大乎、獨能成二其天一。㊆天下の人。〔列子、楊朱〕舜耕二於河陽一、陶二於雷澤一、四體不レ得二暫安一、口腹不レ得二美厚一、父母之所レ不レ愛、弟妹所レ不レ親、行年三十不レ告而娶、及レ受二堯之禪一、年已長、智已衰、商鈞不才、禪二位於禹一、戚戚然以至二於死一、此天人窮毒者也。〔鬳齋口義〕天人者、言二天下之人一也、在二此天下之人之中一、最爲二窮獨一。㊇佛（テンニン）天上界の人。〔皎然、遙酬下袁使君高春暮行レ縣過二報德寺一見上レ懷詩〕咫尺空界色、天人花落時。

〖天人家〗857（テンジンカ） 術數七家の一。太一家（**3**－5834‥11）を見よ。

〖天人菊〗858（テンニンギク） 草の名。やぐるまてんにんぎく。きく科に屬する北亞米利加原產の一年草。花期は夏。花は黃色で中ほどに紅紫色を呈する。

〖天人會〗859（テンジンノクワイ） 天意と人心と相會ふこと。〔晉書、周嵩傳〕雖下陛下乘二奕世之德一、有二天人之會一云云上。

〖天人際〗860（テンジンノサイ） 天意と人道との關係。〔史記、司馬相如傳〕天人之際已交、上下相發、允答二聖王之德一、兢兢翼翼也。〔漢書、董仲舒傳〕以觀二天人相與之際一、甚可レ畏也。〔世說新語、文學〕何平叔注二老子一始成、詣二王輔嗣一、見二王注精奇一、迺神伏曰、若レ斯人、可三與論二天人之際一矣。

〖天人師〗861（テンニンシ） 佛 如來十號の一。天と人との敎師の意。〔智度論、二〕復名二舍多提婆摩菟舍喃一、舍多秦、言二敎師一、提婆、言レ天、摩菟喃、言レ人、是名二天人敎師一。〔五燈會元〕佛於二二月八日朝星出時一成道、號二天人師一。

〖天人五衰〗862（テンニンノゴスイ） 佛 天人の臨終にあらはれると云ふ五つの死相。天上五衰。〔涅槃經〕釋提桓因、命將レ欲レ終、有二五相現一、一者、衣裳垢膩、二者、頭上花萎、三者、身體臭穢、四者、腋下汗出、五者、不レ樂二本座一。

〖天人勝處〗863（テンニンシヨウシヨ） 佛 五戒を遵奉した人が、死後再び生れる正理の世界。天上界、又は正しい人間界。〔魏書、釋老志〕又有二五戒一、奉二持之一則生二天人勝處一、虧犯則墜二鬼畜諸苦一、又善惡生處、凡有二六道一焉。

〖天人冥合〗864（テンジンメイガフ） 天と人とが暗合する。人の言行が正しければ、自ら天の意志と合すること。

【天潯】865（テンジン） 天のはて。天涯。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕鎖二神躬于壞末一、散二靈魄於天潯一。〔注〕善曰、潯、涯也。〔王勃、出レ境遊レ山詩〕振レ翮凌レ霜吹、企レ日佇二天潯一。

【天水】866（テンスイ） ㊀湖の名。甘肅省天水縣の西南。〔秦州記〕郡前有レ湖、冬夏無二增減一、故有二天水之名一。〔明一統志〕天水湖、在二鞏昌府秦州南七里一、其水冬夏無二增減一、天水郡以レ此得レ名。㊁郡名。㋑漢、置く。治は平襄。甘肅省甘谷縣の西南。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、漢〕天水郡、本隴西地、元鼎三年、分二置天水郡一、領二平襄等縣十六一、今鞏昌府以東、秦州之境、是。㋺晉、置く。治は上邽。甘肅省天水縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府〕秦州、古西戎地、秦始封二於此一、及レ幷二天下一、置爲二隴西郡一、漢析二置天水郡一、云云、永平十七年、更爲二漢陽郡一、三國魏增二置秦州一、晉因レ之、又改二漢陽一爲二天水郡一、亦治二上邽一、其後爲二氐所一レ據。㋩南朝宋、二度置く。一は秦州に屬し、治は陝西省南鄭縣。一は益州に屬し、治は四川省の境。㋥後魏、置く。北周以後廢す。郡治は甘肅省西河縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、西和縣〕水南城、在二縣西南二十里一、後魏太平眞君二年、置二水南縣於此一、爲二天水郡治一、後周郡廢、幷廢レ縣入二長道縣一。㊂縣名。㋑民國、置く。秦の邽縣、漢の上邽の地。甘肅省甘谷縣の南。㋺南朝梁、置く。故城は江西省彭澤縣の東。〔讀史方輿紀要、江西、九江府、彭澤縣、太原城〕天水廢縣、在二縣東五十里一、和城廢縣、在二縣東北二百二十里一、俱梁置、屬二太原郡一、陳幼初、與レ郡俱廢。㋩後魏、置く。安徽省の境。㋥唐初、置く。甘肅省天水縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、秦州〕天水城、州西南七十里、漢上邽縣地、唐初析二置天水縣一、旋廢、宋復置、屬二秦州一、紹興初、州沒二於金一、分二置南北二天水縣一、南天水縣隸二成州一、北天水縣亦羈附焉、嘉定初、幷爲二天水軍一、九年移二於天水縣舊治一。㊃あまみづ。㊄山中天水（**4**－**7869**‥770）を見よ。

〖天水牛〗867（テンスイギウ） 蟲の名。かたつむり。天牛。蝸牛。〔本草、天牛〕釋名、天水牛・八角兒、一角者名二獨角仙一。

〖天水闋〗868（テンスイクワン） 二簧西皮劇の一。一名、初出祁山取三郡。三國時代に於ける諸葛孔明に關連した逸事を仕組んだもの。

〖天水碧〗869（テンスイヘキ） 水色。水淺黃色。南唐の後主李煜の妓妾が嘗て衣を碧に染めて、一夜、室外に放置した所、露が下つて其の色が愈〻鮮かとなつたのを李煜が愛し、宮中の人が皆競つて之に倣ひ、天水碧と稱した。天水は趙宋の姓で、南唐が趙宋に滅される讖を爲したといふ。〔宋史、南唐李煜世家〕煜之妓妾嘗染レ碧、經レ夕未レ收、會露下、其色愈鮮明、煜愛レ之、自レ是宮中競收二露水一、染レ碧以衣レ之、謂二之天水碧一、及二江南滅一、方悟二趙國姓一也、天水、趙之望也。〔鐵圍山叢談〕昔江南李重光、染レ帛多爲二天水碧一、天水、國姓也、當二是時一、藝祖方受レ命、言二天水碧一者、世謂二逼迫兆一、未レ幾王師果下二建業一。〔劉因、薔薇詩〕色染女眞黃、露凝天水碧。

〖天水淮〗870（テンスイワイ） 溝渠の名。一に節度淮といふ。福建省晉江縣の東南。〔明一統志〕天水淮、在二泉州府城西南一、刺史趙棨開、灌レ田一百五十頃。〔福建通志〕唐守趙棨、鑿レ渠環レ之、疏二三十六凾一、旁導二江流一入レ渠、淮之爲レ言、圍也。

〖天水漁者〗871（テンスイギヨシヤ） 桂山義樹の號。桂山彩巖（**6**－**14755**‥51）を見よ。

〖天水先生〗872（テンスイセンセイ） 唐、趙德（**10**－**37171**‥300）の尊稱。

【天粹】873（テンスイ） ㊀天の純粹の氣。〔法言、問神〕天精天粹、萬物作レ類。〔注〕天以二精粹一覆二萬物一、各成二其類一。㊁天然のまま純粹なこと。〔黃庭堅、金壁字說〕惟天粹之質、可二以琢磨而成一レ器。㊂明、董琦（**9**－**31433**‥39）の字。

【天翠】874（テンスイ） 天の翠色。〔張九齡、候使登二石頭驛樓一詩〕遠林天翠合、前浦日華浮。〔梅堯臣、日夜與二兄公度一納涼閑行至二御橋一詩〕空庭引二天翠一、爽氣生二懷抱一。

【天錐】875（テンスイ） 草の名。附子（トリカブト）の一種。〔本草、附子〕集解、時珍曰、宋人楊天惠、著二附子記一、云云、其初種レ之、小者爲二烏頭一、附二烏頭一而旁生者爲二附子一、又左右附而偶生者爲二鬲子一、附而長者爲二天雄一、附而尖者爲二天錐一、附而上出者爲二側子一、附而散生者爲二漏藍子一、皆脈絡連貫、如二子附一レ母、而附子以貴、故專二附名一也。

【天邃】876（テンスイ） 奧ふかいこと。天のやうに奧深いといふ意。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕離宮天邃、別殿雲懸。

【天瑞】877（テンズイ） ㊀天から降す瑞祥。天祥。天符。〔史記、武帝紀〕宜下以二天瑞一命上。〔漢書、董仲舒傳〕天下之人同レ心歸レ之、若レ歸二父母一、故天瑞應レ誠而至。〔何晏、景福殿賦〕彰二天瑞之休顯一、昭二遠戎之來庭一。㊁列子の篇名。㊂字號。㋑宋、法雲（**6**－**17290**‥13）の字。㋺元、石天麟（**8**－**24024**‥1004）の字。㋩明、史琳（**2**－**3249**‥162）の字。㋥明、陳璧（**11**－**41698**‥547）の字。㋭明、文翔鳳（**5**－**13450**‥998）の字。㋬明、李文祥（**6**－**14**

459‥1911)の字。㋣明、林世璧(6－14551‥367)の字。㋠明、廉仲祥(4－9436‥125)の字。

〖天瑞景星〗878（テンズイケイセイ）　五代の時、南詔の肅文帝、鄭旻嗣の年號。(大凡、910－925)

【天隨】879（テンズイ）　❶天が從ふ。天が理に從つて行ふ。〔莊子、在宥〕尸居而龍見、淵默而雷聲、神動而天隨。〔注〕神順レ物而動、天隨レ理而行。〔唐國史補、下〕趙璧彈二五絃一、人問二其術一、答曰、吾之于二五弦一也、始則心驅レ之、中則神遇レ之、終則天隨レ之。❷字號。㋑唐、陸龜蒙(11－41708‥283)の號。㋺宋、魏幾(12－45872‥24)の字。「の號。

〖天隨子〗880（テンズイシ）　唐、陸龜蒙(11－41708‥283)の號。

【天數】881（テンスウ）　❶天の數。一三五七九の奇數をいふ。二四六八十の偶數を地數をいふ對。〔易、繫辭上〕天數五、地數五。〔禮、郊特牲〕戴二冕璪十有二旒一、則天數也。〔注〕天之大數、不レ過二十二一。❷天の道。自然の理法。自然の運命。〔荀子、王制〕夫兩貴之不レ能二相事一、兩賤之不レ能二相使一、是天數也。〔注〕天之數也。〔呂覽、仲秋〕凡擧レ事無レ逆二天數一。〔注〕天數、天道。❸天文をいふ。〔史記、天官書贊〕昔傳二天數一者、高辛之前重黎、於二唐虞一羲和、有夏昆吾、殷商巫咸、周室史佚・萇弘、於レ宋子韋、鄭則裨竈、在レ齊甘公、楚唐眛、趙尹皐、魏石申。

【天樞】882（テンスウ）　❶天の中樞。天の中心。〔論語、爲政〕子曰、爲レ政以レ德、譬如下北辰居二其所一、而衆星共上レ之。〔集注〕北辰、北極、天之樞也。〔晉書、天文志上〕北極五星、鉤陳六星、皆有二紫宮中一、北極、北辰、最尊者也、其紐星天之樞也。❷星の名。㋑北極星をいふ。北辰。紫微垣(8－27337‥379)を見よ。〔觀象玩占〕北極五星、在二紫微宮中一、一曰二天樞一、一曰二北辰一、天之最尊星也、其紐星、天之樞也、天運無レ窮、三光迭耀、而極星不レ移、故曰、居二其所一而衆星拱レ之。㋺北斗の第一星。紫微垣(8－27337‥379)を見よ。〔春秋緯運斗樞〕第一天樞、第二璇、第三璣、第四權、第五衡、第六開陽、第七搖光、第一至二第四一爲レ魁、第五至二第七一爲レ杓、合而爲レ斗、居レ陰布レ陽、故稱二北斗一。〔星經〕第一名二天樞一、爲二土星一、主二陽德一、亦曰二政星一也、是太子象。❸國土の中央。都をいふ。又、天下の政權をいふ。〔後漢書、崔駰傳〕重レ侯累レ將、建二天樞一、執二斗柄一。〔庾信、賀レ平二鄴都一表〕伏惟、皇帝陛下握二天樞一、秉二地軸一。❹唐の周武氏の十一年、武三思が武氏の功德を刻んで端門外に立てた銅柱。三思の撰文で、武后が自ら大周萬國頌德天樞と題した。開元二年に毀たれた。〔唐書、高宗則天武后氏傳〕延載二年、武三思率二蕃夷諸酋及耆老一、請下作二天樞一、紀二太后功德一、以黜レ唐興上レ周、制可、使二納言姚璹護作一、乃大裒二銅鐵一合二治之一、署曰二大周萬國頌德天樞一、置二端門外一、其制若レ柱、度高一百五尺。〔寇坦、詠二銅柱一詩〕天門街裏倒二天樞一、火急先須レ卸二火珠一。❺人體經穴の名。臍をいふ。〔素問、六微旨大論〕天樞之上、天氣主レ之、天樞之下、地氣主レ之。

【天井】883（テンセイ）　❶日月星辰をいふ。古、葬るに壙中を天地に象つて、其の上の覆ふ部分を天井といふ。天象。〔陸機、挽歌詩〕側聽二陰溝涌一、臥觀二天井懸一。〔注〕善曰、古之葬者、於二壙中一爲二天象及江河一、陰溝、江河也、天井、天象也。云云、史記曰、始皇治二驪山一、以二水銀一爲二江河一、上具二天文・天官・星占一、曰二東井一、一名二天井一。❷峻坂に圍まれた谷の集まる窪地。〔孫子、行軍〕絶澗・天井・天牢。〔集注〕四面峻坂、澗壑所レ歸。❸川の名。山西省曲沃縣の北。〔水經、汾水注〕天井水、出二東陘山西一、云云、其水、三泉奇發、西北流、總成二一川一、西逕二堯城南一、又西流入レ汾。❹谷の名。河南省濟源縣の北、盤谷の西北。〔明一統志〕天井谷、在二懷慶府濟源縣北二十里、盤谷西北一、石上有二數坎一、其深若二井水一。❺關の名。㋑河南省武安縣。今は天井峧。〔讀史方輿紀要、河南、彰德府、磁州、武安縣、三門山〕在二縣西北八十里一、山有二三足一、峻峙如レ門、寰宇記云、洛水所レ出也、又有二天井巖一、絶壁四圍、極二其險峻一、云云、慕容垂、滅二西燕一、出二滏口一入二天井關一、當レ在二此地一。㋺山西省晉城縣の南。一名、太行關。〔漢書、地理志上、上黨郡、縣十四、高都、注〕有二天井關一。〔元和志〕天井故關、一名太行關、在二晉城縣南四十五里太行山上一。〔宋史、地理志二、河東路、澤州、關一、雄定、注〕舊天井關、屬二晉城縣一、靖康元年、改二今名一。❻井の名。〔山海經、中山經〕東南五十里曰二視山一、其上多レ韭、有レ井焉、名曰二天井一。❼（テンジャウ）　屋の裏に太い棧を方形に組み、上に板を張つたもの。今、之を格天井といひ、普通の天井は常には横棧だけで板を張る。井は井戸の意。又、井宿が火災を去ることを掌るのに取つて名づけたといふ。藻井。〔張衡、西京賦〕蔕二倒茄於藻井一、披二紅葩之狎獵一。〔注〕綜曰、茄、藕莖也、以二其莖一倒殖二於藻井一、其華下向反披、狎獵、重接貌、藻井、當二棟中一交レ木、方爲レ之、如二井幹一也、云云、風俗通曰、今殿作二天井一、井者、東井之象也、菱、水中之物、皆所二以厭レ火也。❽中庭。院子(11－41665‥10)の❷に同じ。〔通俗編、居處、天井〕按、今江以南人、多稱二庭墀際一曰二天井一、或云、卽本二孫子一。

【天正】884（テンセイ）　❶周の曆法。建子の月（初昏に北斗七星の柄が子の方向を指す月）を正月とする。三正の一。天統。〔漢書、律曆志上〕黃鐘、子爲二天正一、林鐘、未之衝、丑爲二地正一、太族寅爲二人正一。〔後漢書、章帝紀〕春秋、於レ春每月書レ王者、重二三正一、愼二三微一也。〔注〕三正、謂二天地人之正一、所二以有レ三者、由レ有二三微之月一、王者所レ當二奉而成レ之、三微者、三正之始、萬物皆微、物色不レ同、故王者取レ法焉、十一月、時陽氣始施二於黃泉之下一、色皆赤、赤者陽氣、故周爲二天正一、色尚レ赤、十二月、萬物始牙而色白、白者陰氣、故殷爲二地正一、色尚レ白、十三月、萬物莩甲而出、其色皆黑、人得二加レ功展レ業、故夏爲二人正一、色尚レ黑。〔白虎通、三正〕周爲二天正一。❷年號。㋑梁、豫章王の時。(551－552)㋺梁、元帝の時、武陵王紀の僭年號。(552－553)㋩遼、移剌窩斡の僭年號。(1162)㋥北宋、徽宗の代、南詔、中宗、段正淳の時。(1103－1105)㋭清、世祖の時。東明土賊の僭年號。(1648)㋬（テンシヤウ）　第百六代正親町天皇、第百七代後陽成天皇の御代。(1573－1592)

〖天正節〗885（テンセイセツ）　道家で二月一日をいふ。〔事物異名錄、歲時、二月〕道書、二月一日爲二天正節一。

【天生】886（テンセイ）　❶天が物を生ずる。〔易、繫辭上〕天生二神物一、聖人則レ之。〔疏〕天生二神物一、聖人則レ之者、謂下天生二蓍龜一、聖人法二則之一、以爲中卜筮上也。〔禮、禮運〕故天生レ時、而地生レ財。〔韓非子、解老〕夫能自全也、而盡隨二於萬物之理一者、必且有二天生一、天生也者、生心也、故天下之道、盡之生也。〔集解〕王先謙曰、有二善心一、故天救而生レ之。❷生れつき。天付。天賦。〔姚發、送二蕭穎士一詩〕天生良史筆、浪跡擅二文藻一。〔李商隱、櫻桃答詩〕衆果莫二相誚一、天生名品高。〔白居易、長恨歌〕天生麗質難二自棄一、一朝選在二君王側一。❸城の名。四川省萬縣の西。俗に天子城と呼ぶ。蜀漢の昭烈帝が嘗て兵を駐めた所。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、萬縣、都歷山〕天城山、在二縣西五里一、四面峭立如レ堵、惟西北一徑可レ登、又名二天生城一、相傳、漢昭烈嘗駐二兵於此一、常璩所レ云、小石城也。❹砦の名。貴州省銅仁縣。上に天生橋がある。〔讀史方輿紀要、貴州、銅仁府、銅仁縣、石子營〕天生砦、在二府北一百二十里一、正德八年、官軍討二叛苗一入二天生砦一、函二絶蠻峒水道一、賊平、今其地有二天生橋一。❺港の名。㋑江蘇省南通縣の南、長江の濱。南通の商貨の輸出入の要地。㋺江蘇省靖江縣の南。南岸の黃田港砲臺と相對して砲臺がある。❻清、李因篤(6－14459‥862)の字。

〖天生橋〗887（テンセイケウ）　❶地名。雲南省緬寧縣。猛猛土巡檢の境に接し、もと千總額外外委駐防があつた。❷橋の名。㋑雲南省馬關縣の南。〔讀史方輿紀要、雲南、徵江府、路南州〕天生橋、有二一、一在二州北五十里一、一在二州東北十二里一、皆石梁可レ渡、不レ假二人力一、因名。㋺雲南省大理縣の西南。天橋(514)の❺を見よ。㋩貴州省廣順縣の北。〔貴州通志〕在二州東從仁里一、水穿二山腹一、因而成レ橋。㋥貴州省安順縣の東北、龍潭洞の前。〔安順府志〕石壁千仞、環繞如レ城、水經二其下一、驚濤急流、乃天設之險也。

〖天生仙〗888（テンセイセン）　進士の試驗の第一甲三人をいふ。〔稱謂錄、甲第總稱、天生仙〕彭時筆記、翰林官、職清務簡、優游自如、世謂二之玉堂仙一、因謂二第一甲三人一爲二天生仙一。

〖天生羽翼〗889（テンセイノウヨク）　兄弟をいふ。兄弟が互に羽翼となつて助け合ふ意。〔唐書、三宗諸子、讓皇帝憲傳〕帝嘗以レ書賜二憲等一曰、魏文帝詩、西山一何高、高高殊無レ極、上有二兩仙童一、不レ飲亦

不レ食、賜二我一丸藥一、光耀有二五色一、服レ之四五日、身體生二羽翼一、朕每言、服レ藥而求二羽翼一、寧如二兄弟天生之羽翼一乎。

【天生天化】890 テンセイテンクワ　天が萬物を化生すること。〔通俗編、天文、天生天化〕陰符經、天生天化、道之理也、一本作二天生天殺一。

【天生二德於予一】891 テンヨニトクヲシヤウズ　天が我に聖德を與へた。孔子が宋の司馬桓魋に殺されようとした時に言つた語。〔論語、述而〕天生二德於予一、桓魋其如レ予何。

【天生レ民而立二之君一】892 テンタミヲシヤウジテコレガキミヲタツ　天が此の世に人間を生み、之を治めさせる爲に天子を置く。〔左氏、襄、十四〕天生レ民而立二之君一、使三司二牧之一、勿レ使レ失レ性。

【天生二烝民一有レ物有レ則】893 テンジヨウミンヲシヤウズモノアレバノリアリ　天がこの世に民を生ずる時には、事事物物必ず法則をも與へてゐる。耳目のはたらきもそれであり、君臣の義、父子の親もそれである。〔詩、大雅、烝民〕天生二烝民一、有レ物有レ則、民之秉彝、好二是懿德一。〔會箋〕天生二衆民一、有二是物一必有二是則一、蓋自二耳目鼻口一、達二之君臣父子夫婦長幼朋友一、無レ非レ物也、而莫レ不レ有レ法焉。

【天生二烝民一樹レ之以レ君】894 テンジヨウミンヲシヤウジテコレニタツルニキミヲモツス　天生レ民而樹二之君一に同じ。〔劉琨、勸進表〕臣聞、天生二烝民一、樹レ之以レ君。

【天成】895 テンセイ　❶天の運行が順序だつて萬物がよく生長を遂げること。〔書、大禹謨〕地平天成、六府三事允治。〔傳〕五行敍曰レ成。〔蔡傳〕言、水土既平、而萬物得二以成遂一也。❷自然にして道に合ふこと。無爲。〔莊子、寓言〕顏成子游謂二東郭子綦一曰、自三吾聞二子之言一、一年而野、二年而從、三年而通、四年而物、五年而來、六年而鬼入、七年而天成、八年而不レ知レ死不レ知レ生、九年而大妙。〔注〕無レ所二復爲一。〔疏〕合二自然一成。❸自然に成る。意を用ひないで巧みなこと。〔宋書、謝靈運傳論〕至二於高言妙句、音韻天成、皆闇與レ理合一。〔南史、文學傳論〕放言落レ紙、氣韻天成。❹年號。㋑後唐、明宗、李嗣源の時。(826—830)㋺梁、貞陽侯の時。(555)㋩宋、仁宗の時、大越(安南)の太宗、李佛馬の時。(1028—1034)㋥隋、煬帝の時、操師乞の僭年號、始興の一稱。(616)㋭唐、肅宗の時、安慶緖の僭年號、載初の一稱。(757—759)㋬宋の時、金山の僭年號、天德の一稱。(1216—1217)㋣金、宣宗の時、耶律斯布の僭年號。(1216)❺隋、操師乞(**5**—**12806**··82)の一名。❻㋑宋、范純祐(**9**—**30834**··199)の字。㋺明、張世賢(**4**—**9812**··1236)の字。㋩清、何其傑(**1**—**511**··231)の字。

【天成始安】896 テンセイシアン　唐、高祖の時、燕、高開道の僭年號、始興の一稱。(618—620)

【天征】897 テンセイ　天子の征伐。親征。〔蜀志、楊戲傳〕姦凶懟險、天征未レ加。

【天性】898 テンセイ　❶うまれつき。人の常性。天器。天質。天素。天然。〔書、西伯戡黎〕不レ虞二天性一、不三迪二率典一。〔傳〕王不三度二知天性命所レ在、而所レ行不三蹈二循常法一。〔禮、樂記〕人生而靜、天之性也。〔孟子、盡心上〕形色、天性也、惟聖人然後可二以踐レ形。〔孝經、父母生績章〕父子之道、天性也。〔莊子、達生〕觀二天性一、形軀至矣。〔荀子、儒效〕是非二天性一也。〔史記、李將軍傳〕廣爲レ人長猿臂、其善レ射、亦天性也。〔漢書、陸賈傳〕反二天性一、棄二冠帶一。❷明、王良(**7**—**20823**··1064)の字。

【天政】899 テンセイ　❶天が行ふまつりごと。善に福し惡に禍する政。賞罰の政令。〔大戴禮、少閒〕天政曰レ正、地政曰レ生、人政曰レ辨。〔荀子、天論〕順二其類一者謂二之福一、逆二其類一者謂二之禍一、夫是之謂二天政一。〔注〕天政、言レ如二賞罰之政令一。❷宋の時、南詔、段正淳の年號。

【天青】900 テンセイ　❶天が青く晴れ渡ること。天晴。〔杜甫、傷春詩〕天青風捲レ幔、草碧水通レ池。〔陸游、曉望二海山一詩〕開レ窻望二海山一、天青霧方斂。❷紺色。青色に紅色の浮かんだ色。青・紅二色を含んだ色。紫紺色。〔釋名、釋采帛〕紺、含也、青而含二赤色一也。〔同文算指〕大綠者每丈四兩、天青者每丈六兩。

【天青色緞】901 テンセイシヨクダン　南京に產する紺繻子。

【天青地白】902 チチコグサ　草の名。きく科に屬する一年草で、原野に自生する。花期は四・五月頃。花は赭赤色。

【天星】903 テンセイ　❶日月星辰をいふ。〔周禮、春官、保章氏〕保章氏、掌二天星一、以志二星辰日月之變動一、以觀二天下之遷一、辨二其吉凶一。〔注〕星、謂二五星一、辰、日月所レ會。〔揚雄、羽獵賦〕渙若二天星之羅一、浩如二濤水之波一。❷寨の名。湖南省鳳凰縣。苗族の住地の中で尤も絕險の地。

【天星米】904 テンセイマイ　四川省の金川地方で植ゑる米の名。黍粒に似、喇嘛酥ともいふ。〔金川瑣記〕俗喜蓺二天星米一、一名二喇嘛酥一、米如二黍粒一、可レ作二糧食一、葉經レ霜紅、如二老少年一。

【天眚】905 テンセイ　天の降す災害。天災。地震・風雷・洪水など。〔後漢書、安帝紀論〕推二咎台衡一、以答二天眚一。〔宋書、禮志一〕況聞二天眚將レ至、行二慶樂之會一、於レ禮乖矣。

【天晴】906 テンセイ　❶空が晴れわたること。天青。晴天。〔述異記、上〕吐綬鳥、云云、若天晴景淑、卽吐レ綬長一尺。〔宋書、朱百年傳〕天晴復迎レ之。〔杜甫、雨詩〕江雨舊無レ時、天晴忽散レ絲。❷パアレツ　讚美驚嘆の語。

【天盛】907 テンセイ　南宋の時、西夏、仁宗、李仁孝の年號。(1149—1170)

【天暒】908 テンセイ　空がよく晴れてゐること。天精。〔漢書、天文志〕天暒而見二景星一。〔注〕孟康曰、暒、精明也。

【天聖】909 テンセイ　年號。❶宋、仁宗、趙禎の時。(1023—1232)❷明の時、大越(安南)、胡季犛の僭年號。聖元の一稱。(1400)❸唐の時、董昌の僭年號、大聖の一稱。(894)

【天聖元寶】910 テンセイゲンパウ　宋の仁宗の鑄た貨幣。〔董逌錢譜〕宋朝錢、天聖元寶。

【天精】911 テンセイ　❶空がよく晴れてゐること。天暒。〔史記、天官書〕天精而見二景星一。〔注〕索隱曰、韋昭云、精、謂二青朗一。❷天の純粹の氣。〔法言、問神〕天精天粹、萬物作レ類。〔注〕天以二精粹一覆二萬物一、各成二其類一。❸日月星辰、雷電風雨をいふ。〔淮南子、本經訓〕天愛二其精一、地愛二其平一、人愛二其情一、天之精、日月星辰、雷電風雨也、地之平、水火金木土也、人之情、思慮聰明喜怒也。❹木の名。枸杞(**6**—**14588**··7)の異名。〔本草、枸杞〕釋名、枸檵・枸棘・苦杞・甜菜・天精・地骨・地節・地仙・卻老・羊乳・仙人杖・西王母杖。

【天齊】912 テンセイ　❶天が人間の心意や行爲を正すこと。〔書、呂刑〕天齊二于民一。〔傳〕天整二齊於下民一。〔舊唐書、禮儀志三〕天下封二泰山神一、爲二天齊王一。❷泰山(**6**—**17325**··45)の神の封號。〔陔餘叢考、東嶽天齊〕舊唐書、明皇封二禪泰山一、加二號天齊一、宋史、大中祥府元年、封禪畢、詔加二號泰山一爲二仁聖天齊王一、五年、又加二天齊仁聖帝一、元至元十八年、詔加二天齊大生仁聖帝一、天齊之名、蓋本下史記封禪書、齊所二以爲レ齊當中天齊上也、故假借用レ之、以爲下峻二極于天一之意上、然封禪書八神祠、一曰レ天、主レ祠二天齊一、居二臨淄南郊一、二曰レ地、主レ祠二泰山梁父一、則泰山與二天齊一、各爲二一祠一、本不二相涉一、況天齊云者、謂下當二天之中一如中天之臍上也、今乃不三相二顧其本義一、但取二其字之可レ通、而剽剝附二會之一、蓋出二于張說之舞文一也。❸泉の名。山東省臨淄縣の東南。〔史記、封禪書〕八神、一曰天、主レ祠二天齊一、天齊淵水、居二臨淄南郊山下一者。〔注〕索隱曰、顧氏按二解道彪齊記一云、臨淄城南有二天齊泉一、五泉竝出、有レ異二於常一、言レ如二天之腹齊一也。〔水經、淄水注〕淄水、又東逕二臨淄縣故城南東一、得二天齊水口一、水出二南郊山下一、謂二之天齊淵一、五泉竝出。

【天齊廟】913 テンセイベウ　二簧劇の一。斷太后(**5**—**13611**··217)の別名。

【天齊王】914 テンセイワウ　泰山(**6**—**17325**··45)の神の封號。天齊の❷を見よ。〔通典、禮、山川〕開元十三年、封二泰山神一爲二天齊王一、天寶五載、封二中岳神一爲二中天王一、南岳神爲二司天王一、北岳神爲二安天王一。

【天醒】915 テンセイ　瑞星の名。〔駢雅、釋天〕天醒、瑞星也。〔庶物異名疏、天部〕天醒、景星也、孫氏瑞應圖云、狀如二半月一、生二於晦朔一、助レ月爲レ明、王者不レ私レ人則見。

【天聲】916 テンセイ　❶天の發する聲。雷霆の聲。又、雷霆のやうな大きな聲。〔揚雄、甘泉賦〕天聲起兮勇士厲。〔注〕善曰、天聲、如二天之聲一、言二其大一也。〔後漢書、竇憲傳〕振二大漢之天聲一。〔注〕天聲、雷霆之聲。❷天子の聲。〔班固、封二燕然山一銘〕下以安二固後嗣一、恢二拓境宇一、振二大漢之天聲一。〔注〕濟曰、言、下固二子孫一、大開二境宇一、振二我天子之

聲也。〔韓休、奉和聖制送張說巡邊詩〕定功彰武事、陳頌紀天聲。㊂自然に發する民衆の聲。

【天臍】917 テンセイ 黄河の、砥石の地に至つて海に入るあたりをいふ。天の腹臍の意。〔河圖括地象〕河有九曲、發崑崙爲地首、至積石爲地門、出龍門爲天橋、至卷重山爲地咽、貫砥柱觸閼流山爲地喉、至洛汭爲地腰、至大伾山爲地齒、至大陸爲地腹、至砥石入於海爲天臍。

【天笑】918 テンセウ 雨が降らないで電光のひらめく現象。〔太平御覽、工藝部、投壺〕神異經曰、東荒山中、有大石室、東王公居焉、與一玉女投壺、設有入不出者、天爲之笑。〔注〕張華曰、天笑者、開口流光。〔李商隱、祭伏波廟文〕何煩玉女之投壺、方聞天笑、不待樵人之取箭、已見風廻。

【天詔】919 テンセウ みことのり。〔韋應物、送韋侍御卻使西蕃詩〕歸奏聖朝行萬里、卻銜天詔報蕃臣。〔李嘉祐、送袁員外云云詩〕氣迎天詔喜、恩發土膏春。

【天霄】920 テンセウ 大ぞら。天宵。〔木華、海賦〕氣似天霄。〔柳宗元、禮部賀甘露表〕發於天霄、特降宮樹。

【天石】921 テンセキ 字號。㊀清、龔翔麟(**12**—**48837**··76)の字。㊁清、吳孔嘉(**2**—**3365**··558)の號。㊂清、茅麐(**9**—**30836**··18)の字。㊃清、淩銘麟(**2**—**1669**··150)の字。

【天節】922 テンセツ ㊀天の時節。〔國語、越語下〕天節固然、唯謀不遷。㊁星の名。〔張衡、週天大象賦〕天節宣威於邦域。〔晉書、天文志上〕畢附耳南八星曰天節、主使臣之所持者也。

【天仙】923 テンセン ㊀仙人をいふ。〔漢武帝內傳〕王母乘紫雲之輦、駕九色斑龍、別有五十天仙、側近鸞輿。㊁仙人の中の一階級。㋑天に昇る力をもつ仙人。地仙・解尸仙の對。〔抱朴子、論仙〕按仙經云、上士擧形昇虛、謂之天仙、中士遊於名山、謂之地仙、下士先死後蛻、謂之尸解仙。㋺九仙中の一。上仙・高仙等の對。〔雲笈七籤〕其九仙者、第一上仙、二高仙、三大仙、四元仙、五天仙、六眞仙、七神仙、八靈仙、九玉仙。㊂天と神仙。〔理趣分、述讚〕五趣之極曰天、人有神德曰仙。㊃美人の喩。〔徐陵、玉臺新詠序〕寵聞長樂、陳后知而不平、畫出天仙、閼氏覽而遙妬。

【天仙果】924 テンセンクワ 落葉灌木の名。高さ丈餘。樹皮の纖維は製絲の原料となる。山枇杷。いちじゆく。〔益部方物略〕天仙果樹、高八九尺、無花、其葉似荔枝、而小子如櫻桃、纍纍綴枝間、六七月熟、味至甘。

【天仙子】925 テンセンシ ㊀詞牌の名。もと唐の教坊の曲名。〔樂府雜錄〕龜茲部、云云、萬斯年曲是朱崖李太尉進、此曲名卽天仙子、是也。㊁草の名。莨菪(**9**—**31075**··1)の異名。はしりどころ。〔本草、莨菪〕釋名、天仙子。

【天仙人】926 テンセンニン 天上の仙人。〔海錄碎事、道釋、仙〕攀花弄秀色、遠贈天仙人。

【天仙道人】927 テンセンダウジン 清、李士棻(**6**—**14459**··1280)の號。

【天占】928 テンセン 天にあらはれた吉凶の兆候。〔國語、吳語〕天占既兆、人事又見。

【天泉】929 テンセン ㊀星の名。灌漑溝渠のことを掌る。〔史記、天官書〕困敦歲、歲陰在子、星居卯、以十一月與氐・房・心晨出、曰天泉、玄色甚明。〔甘氏星經〕天泉十星、在鼈東。㊁池の名。㋑洛陽縣の東。一名天淵。天淵(93)の㊃㋑を見よ。〔晉書、禮志下〕陸機云、天泉池南石溝、引御溝水。〔柳宗元、爲王京兆賀嘉蓮表〕香激大王之風、影耀天泉之水。㋺江蘇省江寧縣の北。一名天淵。天淵の㊃㋺を見よ。〔宋書、少帝紀〕景平二年、遊天淵池。㊂人體の經穴の名。腋下、二寸に在る。〔靈樞經、經脈〕心主手厥陰心包絡之脈、注分寸歌、心包起自天池間、乳後一寸腋下三、天泉曲腋下二寸、曲澤屈肘陷中央、郄門去腕方五寸、間使腕後三寸量、內關去腕止二寸、大陵掌後兩筋間、勞宮屈中名指取、中指之末中衝良。㊃字號。㋑明、潘仲驂(**7**—**18236**··201)の字。㋺清、汪灝(臨清の人)(**6**—**17154**··24)の字。

【天穿】930 テンセン 正月二十日。一說に正月二十三日。太古、女媧氏が天を補つたといふ日。俗に煎餅を屋上に供へて之を祭る。〔堅瓠集〕宋以前以正月二十三日爲天穿節、相傳、女媧氏以是日補天、以煎餅置屋上、名曰補天穿、葛魯卿有鶩山溪一闋、詠天穿節郊射也。〔事文類聚〕江東俗、號正月二十日爲天穿日。

【天閃】931 テンセン 電光。〔漢書、司馬相如傳下〕貫列缺之倒景兮、注〕服虔曰、列缺、天閃也。

【天船】932 テンセン 星の名。天潢(472)に同じ。〔後漢書、明帝紀〕有星孛於天船北。〔晉書、天文志上〕太陵北九星曰天船。〔注〕天船、星名。

【天箭】933 テンセン 星座の名。北天の銀河の中にあつて星光の弱い星の群。矢座の中國名。

【天線】934 t'ien^1 hsien^4 アンテナ。

【天戰】935 テンセン 宋の時、陳萬の年號。

【天遷】936 テンセン 天仙の㊀に同じ。〔漢武帝內傳〕別有五十天遷。

【天錢】937 テンセン 星の名。〔晉書、天文志上〕壘壁陣西北有十星、曰天錢。

【天全】938 テンゼン ㊀天眞が失はれないこと。〔莊子、達生〕夫若是者、其天守全、其神無郤、物奚自入焉、夫醉者之墜車、雖疾不死、骨節與人同、而犯害與人異、其神全也、乘亦不知也、墜亦不知也、死生驚懼、不入乎其胸中、是故遻物而不慴、彼得全於酒而猶若是、而況得全於天乎。〔亢倉子、全道〕聖人之制萬物也、全其天也、天全則神全矣。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕其天者全而其性得矣。㊁州の名。清、置く。四川省に屬す。民國、縣に改め、今、西康省に屬す。〔清史稿、地理志〕四川、雅州府、州一、天全州。㊂縣名。民國、置く。漢の徙縣の地。西康省雅安縣の西。㊃明、徐有貞(**4**—**10110**··329)の號。

【天全子】939 テンゼンシ 清、華坡(**9**—**31214**··340)の號。

【天全堂】940 テンゼンダウ 明、安希范(**3**—**7072**··528)の室名。

【天阻】941 テンソ 天然にけはしい要害の地。天險。〔曹植、朔風詩〕俯降千仞、仰登天阻。〔晉書、苻生傳〕據天阻之固、策三秦之銳。〔南史、沈約傳〕潼關天阻、所謂形勝之地。

【天疽】942 t'ien^1 chü^1 腫物の惡性なるもの。くびきりちやう。

【天祖】943 テンソ 天照大神。皇祖。〔會澤正志齋、新論、國體上〕夫大嘗之祭、天皇以天祖之遺體、而膺天祖之事。

【天祚】944 テンソ ㊀天がさいはひする。又、天から降されたさいはひ。特に、天子の御位。〔左氏、宣、三〕天祚明德、有所底止。〔國語、晉語四〕天祚將在武族。〔後漢書、崔駰傳〕將天祚之攸適、愍余生之不造兮。〔劉琨、勸進表〕天祚大晉、必將有主。㊁五代の時、吳、睿帝、楊溥の年號。(935—937)

【天祚帝】945 テンソテイ 遼、耶律延禧(**9**—**29008**··45´)をいふ。

【天素】946 テンソ ㊀うまれつき。天性。〔諸葛亮、又與劉巴論張飛書〕足下雖天素高亮、宜少降意也。㊁明、朱朴(**6**—**14424**··550)の字。

【天鼠】947 テンソ ㊀蝙蝠。かはほり。かうもり。〔本草、伏翼〕釋名、蝙蝠・天鼠。〔王羲之、雜帖〕天鼠膏治耳聾。〔唐書、吐蕃傳上〕其獸犛牛・名馬・犬・羊・彘・天鼠之皮、可爲裘。㊁防風(**11**—**41576**··92)の異名。〔海錄碎事、百工、藥名〕天鼠、防風也。

【天鼠屎】948 t'ien^1 shu^2 shih^3 蝙蝠の糞から製した藥品。眼病に功がある。夜明砂。

【天蘇】949 テンソ 草の名。白朮(**8**—**22678**··576)の異名。〔事物異名錄、藥材上、草類〕山堂肆考、白朮、一名天蘇。

【天宗】950 テンソウ ㊀日月星辰。〔禮、月令〕天子乃祈來年於天宗。〔注〕天宗、謂日月星辰也。㊁太極沖和の氣。〔晉書、禮志上〕六宗者、太極沖和之氣、爲六氣之宗者也、虞書謂之六宗、周書謂之天宗。㊂歲陰の名。〔漢書、天文志〕太歲在子曰困敦、十一月出、石氏曰名天宗。

【天叟】951 テンソウ 宋、黃仲元(**12**—**47926**··1249)の字。

【天聰】952 テンソウ ㊀天の與へた聽。又、すぐれた聽。聽は、聽いたことをよく理解し正しく判斷する能力。〔韓非子、解老〕人也者、乘於天明以視、寄於天聽以聽、託於天智以思慮。〔曹植、求通親親表〕冀陛下儻發天聽、而垂神聽也。〔梁簡文帝、六根懺文〕願捨此穢耳、得彼天聽。㊁天子の耳。天聽(1134)の㊂に同じ。〔清國行政

法汎論、工巡總局、受二理京控一凡督撫以下地方官之裁判、不二公平一而人民有二寃枉一則可下控二訴之都察院、及步軍統領衙門一以達中天聽上謂二之京控一。㊂清、太宗、文皇帝の年號。(1627－1636)

〖天聰通寶〗953 テンソウツウハウ 清の太宗の鑄た貨幣。漢字・滿字の二種がある。〔清國行政法、內務行政、貨幣及度量衡、法定錢幣〕太宗鑄二天聰通寶二品一、分二鑄滿漢字一。

〖天聽明自二我民聰明一〗954 テンノソウメイハワガタミノソウメイニシタガフ 天は民の視聽し判斷するところによつて、人君の行爲を判斷する。〔書、皐陶謨〕天聰明自二我民聰明一、天明畏自二我民明威一、達二于上下一、敬哉有土。〔傳〕言、天因レ民而降二之福一、民所レ歸者天命レ之、天視二聽人君之行一、用レ民爲二聰明一。〔蔡傳〕天之聰明、非レ有二視聽一也、因二民之視聽一以爲二聰明一。

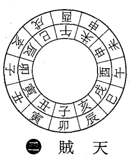
【天足】955 t'ien^1 tsu^2 纏足しない自然の足。天然足。

【天則】956 テンソク ㊀天地自然の法則。天裕。〔易、乾〕乾元用九、乃見二天則一。〔漢書、禮樂志、安世房中歌〕馮馮翼翼、承二天之則一。〔宋書、桂陽王休範傳〕外矯二天則一、內誣二人鬼一。㊁鶡冠子の篇名。㊂元、許則祖(10－35298・・346)の字。

【天側】957 テンソク 天のかたはら。天の一方。〔陶潛、聯句詩〕顧侶正徘徊、離離翔二天側一。

【天族】958 テンゾク 皇族。〔晉書、慕容超載記〕向見二北海王子一、天資弘雅、神爽高邁、始知二天族多レ奇、玉林皆寶一。〔桯史〕韓平原在二慶元初一、祁門客邸壁間一詩、乃天族之試二南宮一者所レ作、曰、路人莫レ作二皇親看一、姓趙如今不レ似レ韓。

【天賊】959 テンゾク ㊀天をそこなふもの。天意に叛き天罰を得る者。〔墨子、天志中〕桀・紂・幽・厲、焉所二從事一、曰從二事別一、不三從二事兼一、別者、處二大國一則攻二小國一、處二大家一則亂二小家一、強劫レ弱、衆暴レ寡、詐謀レ愚、貴傲レ賤、觀二其事一、上不レ利二乎天一、中不レ利二乎鬼一、下不レ利二乎人一、三不利無レ所レ利、是謂二天賊一、聚二斂天下之醜名一而加レ之焉、曰此非レ仁也、非レ義也、憎レ人賊レ人、反二天之意一、得二天之罰一者也。〔後漢書、王符傳〕古者唯始受レ命之君、承二大亂之極一、寇賊姦軌、難レ爲二法禁一、故不レ得レ不レ有二一赦一、與レ之更新、頤二育萬物一、以成二大化一、非三以養レ姦活レ罪、放二縱天賊一也。㊁叢辰の名。月中の盜神。正月に丑の方位に在り、十二辰を逆行する。此に當る日は遠行を忌む。〔協紀辨方書、義例四、天賊〕神樞經曰、天賊者、月中盜神也、其日忌二遠行一、李鼎祚曰、天賊者、正月在レ丑、逆二行十二辰一。



㊂天賊（協紀辨方書）

【天屬】960 テンゾク ㊀天然のつながり。天然の親屬。父子兄弟をいふ。〔莊子、山木〕棄二千金之璧一、負二赤子一而趨、何也。林回曰、彼以レ利合、此以レ天屬也。〔疏〕寶璧、利合也、赤子、親屬也。〔晉書、石弘載記〕中山王雖レ爲二皇太后所一レ養、非二陛下天屬一。㊁天性。〔王儉、褚淵碑文〕雖二事緣レ義感一、而情均二天屬一。〔注〕翰曰、天屬、猶二天性一也。〔杜甫、行次二昭陵一詩〕天屬尊二堯典一、神功協二禹謨一。

【天存】961 テンソン 明、徐有貞(4－10110・・329)の號。

【天孫】962 テンソン ㊀織女星の一名。たなばた。〔柳宗元、乞巧文〕下土之臣、竊聞三天孫專二巧于天一。〔蘇軾、潮州韓文公碑〕天孫爲織二雲錦裳一。㊁天子の諸孫をいふ。〔稱謂錄、皇諸孫、天孫〕焦氏易林、天孫帝子、與二日月一處。㊂泰山(6－17325・・45)の異名。〔博物志、山〕泰山一曰二天孫一、言レ爲二天帝孫一也。㊃清、童錦(8－25775・・25)の字。㊄琉球國王の自稱。㊅天神の子孫。天津彥彥火瓊瓊杵尊の異稱。〔日本書紀、神代紀下〕天孫。〔神皇正統記、二〕。㊆アモヒコ 姓氏。〔和爾雅〕。

〖天孫降臨〗963 テンソンカウリン 天津彥火瓊瓊杵尊が我が國土平定のために高天原から天降られたこと。〔日本書紀、神代紀下〕天照大神、乃賜二天津彥彥火瓊瓊杵尊八坂瓊曲玉及八咫鏡・草薙劍三種寶物一、又以二中臣上祖天兒屋命・忌部上祖太玉命・猨女上祖天鈿女命云云五部神一、使二配侍一焉、因勅二皇孫一曰、葦原千五百秋之瑞穗國、是吾子孫可レ王之地也、宜二爾皇孫就而治一焉、行矣、寶祚之隆、當下與二天壤一無上レ窮者矣。〔弘道館記述義、上〕天孫之降二臨下土一也、天祖手持二寶鏡一授レ之、因祝曰、吾兒視二此寶鏡一、當レ猶レ視レ吾。

【天尊】964 テンソン ㊀天が高く上方にあること。天尊地卑を見よ。㊁神仙(8－24673・・324)の尊稱。〔宋書、禮志二一〕穆穆天尊、降レ禮動レ容。〔雲笈七籤〕三代天尊者、過去元始天尊・見在太上玉皇天尊・未來金闕玉晨天尊。㊂佛佛(1－517)の別稱。〔無量壽經、上〕今日天尊行二如來德一。

〖天尊像〗965 テンソンザウ 道教の神の像。神仙の像。〔周書、宣帝紀〕是歲初、復二佛像及天尊像一。〔唐律、賊盜〕盜毀二天尊佛像一。

〖天尊地卑〗966 テンソンチヒ 天は高く上に在り、地は低く下にあること。轉じて、君臣上下の分。〔易、繫辭上〕天尊地卑、乾坤定矣。〔禮、樂記〕天尊地卑、君臣定矣。〔後漢書、周擧傳〕易稱二天尊地卑、乾坤以定一。

〖天尊地卑神明之位〗967 テンソンチヒハシンメイノクラヰ 天が高く地が低いのは、神明の位次である。〔莊子、天道〕天尊地卑、神明之位也、春夏先、秋冬後、四時之序也。

【天損】968 テンソン 天が降す損害。〔莊子、山木〕無レ受二天損一易、無レ受二人益一難。〔陸機、君子行〕天損未レ易レ辭、人益猶可レ歡。

【天蛇】969 テンダ ㊀天のへび。騰蛇星をいふ。〔晉書、天文志〕騰蛇二十二星、在二營室北一、天蛇也、主二水蟲一。㊁草間の濕地に棲息する蠕形動物の名。笄蛭(8－26005・・5)の別名。

〖天蛇頭〗970 テンダトウ 腫物の一種。瘭疽ヘウソの類。〔證治準繩、天蛇頭〕手中指頭、結毒興赤腫痛、或不レ拘二何指一、倶名二天蛇頭一、若有レ膿裂開、有三口脣如二蛇頭狀一、是以名焉。

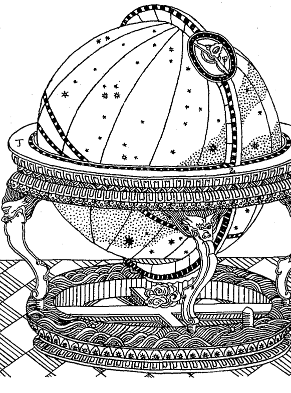
【天泰】971 テンタイ 金、宣宗の時、富鮮萬努の僭年號。(1215－1216)

【天對】972 テンタイ 唐の柳宗元が著した文。屈原の天問中の語に對へたもの。〔沈晦、柳文後序〕以二楚詞天問一校二天對一、以二左傳國語一校二非國語一。

【天體】973 テンタイ 天上の物體。日月星辰などの總稱。〔易、乾、本二乎天一者親レ上、疏〕天體運動、含靈之物亦運動。〔宋書、天文志一〕漢靈帝議郞蔡邕、於二朔方一上書曰、論二天體一者三家。〔元稹、有レ酒詩〕一元既二分二濁清一、地居二方直一天體明。

〖天體學〗974 テンタイガク 天體を研究する學問。星學(5－13837・・51)に同じ。

〖天體儀〗975 テンタイギ 天體を書きあらはした球。清の康熙十二年、康熙帝が西人南懷仁に命じて作らせたもの。北京欽天監內の備品。〔清會典、欽天監〕凡儀器、曰二天體儀一、曰二赤道經緯儀一、曰二黃道經緯儀一、曰二地平經儀一、曰二象限儀一、曰二紀限儀一、曰二地平經緯儀一、曰二璣衡撫辰儀一。



天體儀（靈臺儀象志）

〖天體日表〗976 テンタイニチヘウ 曆の一種。天體の日々の位置・運動・現象等を掲げた表。天體曆。

〖天體力學〗977 テンタイリキガク 天文學の一分科。力學を應用して、天體、主として惑星・月の運動狀態を研究する學問。

〖天體物理學〗978 テンタイブツリガク 天文學の一分科。天體の物理學的特徵、卽ち光度・スペクトル・溫度・輻射・大氣・表面及び內部の物理的狀態等を研究する學問。又、新天文學といふ。

〖天體分光學〗979 テンタイブンクワウガク 天體の光を分析し、精微なスペクトルを求め、之によつて天體の運動の速度・溫度・壓力並びに化學的成分等を研究する學問。

【天大】980 テンダイ ㊀天の大きいこと。〔老子、二十五〕道大、天大、地大、王亦大、域中有二四大一。〔通俗編、天文、天大地大〕說文、天大、地大、人亦大。㊁t'ien^1 ta^4 甚だ大きな。無上の。〔桃花扇、辭院〕兄還不知、有天大禍事。

〖天大的〗981 t'ien^1 ta^4 tê 非常に大きな。極めて大きい事物を形容する語。

〔天大將軍〕982 テンダイシヤウグン 星の名。〔晉書、天文志上〕天大將軍十二星、在婁北、主武兵、中央大星、天之大將也。

【天台】983 テンダイ ❶鼻。天臺の❶に同じ。❷山名。㋑浙江省天台縣。括蒼・雁蕩・四明・金華の諸山に接す。漢の劉晨・阮肇が、此の山に藥を採り、二女子に遇つて留ること半年、歸つて見ると已に十世を經てゐたといふ。〔眞誥〕山有八重、四面如一、當斗牛之分、上應台宿、故曰天台。〔太平廣記〕劉晨・阮肇入天台採藥、遠不得返、經十三日饑、遙望山上、有桃樹子熟、遂至其下、噉數枚、饑止體充、云云、溪邊有二女子、色甚美、忻然如舊相識、因邀還家、至十日求還苦、留半年、氣候草木常是春、時歸思甚苦、女遂相送、指示還路、鄉邑零落、已十世矣。㋺陝西省麟遊縣の西。唐の九成宮の故墟。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府、麟遊縣〕天台山、在縣西五里、唐九成宮之墟。㋩四川省羅江縣の南。〔太平寰宇記〕山似越之天台、折脚水出焉。㋥四川省廣元縣。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、廣元縣烏奴山〕天台山、志云、在縣西二十里、其北爲九隴山、環拱九十九峯、如劍戟之排列、亦謂之九峯山、天台當其南、峭崖蒼鬱、盤道縈迴、獨木危橋、委曲而上、至巓、乃卽平陸、若天台然、因名。㋭我が國の比叡山の異名。〔平家物語〕。❸縣名。五代呉越、置く。漢の章安縣。三國、呉の始平縣の地。浙江省臨海縣の北。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府〕天台縣、漢章安縣地、三國呉析置南始平縣、云云、五代梁開平中、呉越改曰天台、云云、宋復曰天台縣。〔清史稿、地理志〕浙江、台州府、縣六、天台。❹佛天台宗の❶❷を見よ。

〔天台宗〕984 テンダイシユウ 佛❶中國の佛教十三宗の一派。北齊の慧文禪師が龍樹の中論の旨を悟つて、南嶽の慧思に傳へ、再び智者大師に傳へて大いに顯はれた。大師が浙江省の天台山にゐたから天台宗といふ。❷我が國、八宗の一。天平勝寶年間、唐僧鑑眞が之を傳へ、後、僧最澄が入唐し、天台山の智者大師から傳へ、歸朝の後、叡山で弘めた宗門。法華經を所依とす。

〔天台逸民〕985 テンダイイツミン 梁、庾肩吾(4-9398‥59)の號。

〔天台座主〕986 テンダイザス 比叡山延曆寺の貫主。〔神皇正統記、四〕宗の長をも天台座主といふめり。

〔天台山人〕987 テンダイサンジン 明、何適(1-511‥165)の號。

〔天台前集〕988 テンダイゼンシフ 書名。前集三卷、前集別編一卷、續集三卷、續集別編六卷。宋、李庚輯、林師蒧・林表民增續。天台の題詠を集めたもの。〔四庫提要、集、總集類〕。

〔天台大師〕989 テンダイダイシ 佛天台宗の開祖、智者大師の別稱。穎川の人。姓は陳、名は智顗。天台山の石城で入寂したからいふ。〔智者大師別傳〕・〔唐高僧傳、十七〕。

〔天台丈人〕990 テンダイヂヤウジン 天台山に住む仙人。晉の王羲之の書に感じて顯れたといふ。〔海錄碎事、文學、書札〕羲之、年三十七、書黄庭經、空中有語曰、卿書感我、而況人乎、吾是天台丈人也。

〔天台再來人〕991 テンダイサイライジン 清、馮甦(12-44579‥113)の號。

【天臺】992 テンダイ ❶鼻をいふ。天台。〔黄庭內景經、天中之岳精謹修雲宅、注〕天中之岳、謂鼻也、一名天臺。❷北周の宣帝の居所をいふ。〔周書、宣帝紀〕帝自稱天元皇帝、所居稱天臺。❸山名。㋑河南省滑縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、滑縣〕天臺山在縣城西、云云、舊志、山在滑州城西北隔河。㋺河南省光山縣の西南。上に鐵瓦寺があり、下に龍池がある。㋩湖北省黄安縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、黄州府、黄安縣〕天臺山、縣北百里、其頂平曠、可容千家。㋥湖北省大冶縣の西南。雲霧茶を產す。㋭貴州省廣順縣の西南。〔讀史方輿紀要、貴州、貴陽軍民府、金築安撫司〕天臺山、司西南二十里、孤聳如臺。㋬陝西省南鄭縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、南鄭縣、七峯山〕天臺山、在府西北七十里、頂平如臺、郡治坐其岡脈、有飛泉數百尺、匯爲深淵、號佛子潭。㋣廣東省新會縣の西南。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、新會縣〕茂山、縣西南三十里、一名天臺山。❹嶺の名。陝西省寧羌縣の東。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、寧羌州〕天臺嶺志云、在州東五十里、其山高而頂平、因名嶺。❺砦の名。四川省長壽縣の北。もと天臺寺があり、地勢峻險。

〔天臺烏藥〕993 テンダイウヤク 木の名。くすのき科に屬する常綠灌木で、春期、淡黄綠色の小花を着ける。

【天弢】994 テンタウ 天の與へた弓ぶくろ。〔莊子、知北遊〕解其天弢、墮其天袠。〔疏〕弢、囊藏也。〔釋文〕字林云、弓衣也。

〔天弢居士〕995 テンタウコジ 明、王世貞(7-20823‥1763)の號。

【天討】996 テンタウ 天が惡人を討つこと。轉じて、有德の人が天に代つて行ふ征討。王師の征伐。天誅。〔書、皐陶謨〕天討有罪、五刑五用哉。〔傳〕言天以五刑討有罪。〔漢書、刑法志〕書云、天秩有禮、天討有罪。〔後漢書、光武紀贊〕遞行天討。〔柳宗元、懲咎賦〕懼乎天討兮。

【天濤】997 テンタウ 字號。❶清、呉浩(歸安の人)(2-3365‥61)の字。❷清、李世倬(6-14459‥1543)の號。

【天堂】998 テンダウ ❶神のいます天上の殿堂。天宮。〔元稹、人道短詩〕諡作玄玄帝、魂魄坐天堂。❷相術家の語。額より上部をいふ。〔齊東野語〕道者歎曰、天堂已破、必不能全終矣。❸唐の則天武后の作つた宮殿の名。〔唐書、高宗則天皇后武氏傳〕度明堂後爲天堂、鴻麗嚴奧。❹山名。安徽省潛山縣の西北。四壁高峻、中は平で堂の如く、萬人を容れる廣さがある。清の咸豐九年、胡林翼が將を遣して大平軍を此處に破つた。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府、潛山縣〕天堂山、縣西北百四十里、四壁高峻、中敞如堂、平廣可容萬騎。❺國の名。元代、アラビヤ紅海沿岸、マホメツトの生地なるメツカ(Mecca)をいふ。明代には天方といふ。天方(1251)を見よ。〔島夷志略、天堂〕地多曠漠、卽古筠冲之地、又名爲西城、風景融和、四時之春也、云云、有回回曆、與中國授時曆、前後只爭三日、其選日永無差異。❻佛極樂世界。天堂地獄を見よ。〔景德傳燈錄、二十九、境照不二〕地獄天堂一相。

〔天堂墟〕999 テンダウキヨ 地名。❶湖南省寧遠縣の西。❷廣東省新興縣の西。

〔天堂州〕1000 テンダウシウ 西皮劇の一。賣馬(10-36825‥98)の別名。

〔天堂地獄〕1001 テンダウヂゴク 佛天堂と地獄。佛家の勸善懲惡の說で、死後、善人は天堂に升り、惡人は地獄に陷るといふ。〔宋書、天竺迦毘黎國傳〕敍地獄則民懼其罪、敷天堂則物歡其福。〔螢雪叢說〕人言、天堂高而在上、地獄幽而在下、疑其勢之相遼絕也、據某所見、大有不同、爲善卽天堂、爲惡卽地獄、天堂地獄不在乎他、而在乎一念之閒、不可有毫髮差。

【天道】1002 テンダウ ❶天の道。天の道理。天理。天統。天衢。自然の法則。〔易、說卦〕立天之道、曰陰與陽。〔書、大禹謨〕滿招損、謙受益、時乃天道。〔書、仲虺之誥〕欽崇天道。〔中庸〕誠者天之道也。〔左氏、昭、十八〕天道遠、人道邇、非所及也。〔論語、公冶長〕夫子之言性與天道、不可得而聞也。〔管子、霸言〕擧大事、用天道。❷天地を主宰する神。天道無親を見よ。〔易、謙〕天道下濟而光明。〔晉書、鄧攸傳〕天道無知、使鄧伯道無兒。❸天の運行。〔老子、四十七〕不窺牖見天道。❹天をいふ。〔莊子、天道〕天道運而無所積、故萬物成。〔疏〕天道運轉、覆育蒼生。〔呂覽、圜道〕天道圜、地道方。〔元史、曆志一〕天道運行、如環無端。❺天象占驗をいふ。人故の對。〔國語、周語下〕吾非瞽史、焉知天道。〔注〕瞽樂太師、掌知音樂風氣、執同律以聽軍聲、而詔吉凶、史太史掌抱天時、與太師同車、皆知天道者。❻叢神の名。天德の在る方。正月・九月は南、二月は西南、三月・七月は北、四月・十二月は西、五月は西北、六月・十月は東、八月は東北、十一月は東南に在る。此の方に於て事を行へば吉なりといふ。天德(1202)の❺を見よ。〔協紀辨方書、義例三、天道〕乾坤寶典曰、天道者、天之元陽順理之方也、其地宜興擧衆務、向之、上吉、廣聖曆曰、天道、正月・九月在南方、二月在西南方、三月・七月在北方、四月・十二月在西方、五月在西北方、六月・十月在東方、八月在東北方、十一月在東南方也、考原

曰、按、天道者、天德所レ在之方也。㊆莊子の篇名。㊇佛欲界・色界・無色界の總稱。〔無量壽經、下〕天道自然不レ得二蹉跌一。㊈テンタウ 太陽。日輪。

〖天道可レ畏〗1003 テンダウ オソルベシ 天は畏るべきものである。其の敬ひ從ふべきものであるをいふ。〔讀書錄〕天道可レ畏、聖帝明王、事レ天如レ事二父母一。

〖天道好レ還〗1004 テンダウ ハ カヘルコトヲコノム 天は其の本にかへるを好む。今、惡事を行へば其の應報をうけるをいふ。〔日本政記、後醍醐天皇論〕天道好レ還如レ此、亦不二獨可レ罪二貞時一也。

〖天道自會〗1005 テンダウ オノヅカラクワイス 天の道理には自ら統一がある。〔列子、力命〕窈然無レ際、天道自會。

〖天道將軍〗1006 テンダウ シヤウグン 漢代の將軍の名號。〔史記、孝武紀〕居月餘、得二四金印一、佩二天士將軍・地士將軍・大通將軍・天道將軍印一。

〖天道難レ知〗1007 テンダウ ハ シリガタシ 天の道理は深遠で、人知では知り難い。〔左氏、昭、十八〕子產曰、天道遠、人道邇、非レ所レ及也、何以知レ之、竈焉知二天道一。〔論衡、偶會〕實事則不レ然、天道難レ知。

〖天道寧論〗1008 テンダウ ナニヲカロンゼン 天は常に善に福するものと限らないことを嘆いた語。天道は、天地主宰の神。〔江淹、恨賦〕試望二平原一、蔓草縈レ骨、拱木斂レ魂、人生到レ此、天道寧論。〔注〕翰曰、人生至二於此一、誰復論二其天道一。

〖天道不レ諂〗1009 テンダウ ウタガハズ 天には不公平はなく、善人には幸福、惡人には禍を降す。〔左氏、昭、二十六〕天道不レ諂、不レ貳二其命一。〔注〕諂、疑也。〔會箋〕不レ諂、謂二一定不レ變。〔晏子春秋、重而異者〕天道不レ諂、不レ貳二其命一。

〖天道不レ容〗1010 テンダウ イレズ 天は惡人を受け容れない。〔南史、謝超宗傳〕超宗曰、有二天道一焉、天所レ不レ容、地所レ不レ受、投二畀河伯一、河伯不レ受。

〖天道無レ親〗1011 テンダウ シンナシ 天は公平で、特に或る人をえこひいきすることはない。天道無レ親常與二善人一を見よ。〔後漢書、皇甫嵩傳〕天道無レ親、百姓與レ能。〔孔子家語、觀周〕天道無レ親而能下レ人。

〖天道至則反〗1012 テンダウ イタレバ スナハチ カヘル 天の道は、其の極に達すれば、復、もとに歸るものである。四時の循環して止まぬ類。〔管子、重令〕天道之數、至則反、盛則衰、人心之變、有レ餘則驕、驕則緩怠。〔纂詁〕若二四時之相推遷一然。

〖天道盈而不レ溢〗1013 テンダウ ハ ミチテアフレズ 天の道はみちて十分になつても、あふれこぼれるものではない。〔國語、越語下〕天道盈而不レ溢、盛而不レ驕。

〖天道虧レ盈益レ謙〗1014 テンダウハミツルヲカキテ ケンニエキス 天は盈滿する者は之を虧き、謙遜する者は之を益すものである。日月の昃盈の類。〔易、謙〕天道虧レ盈而益レ謙、地道變レ盈而流レ謙、鬼神害レ盈而福レ謙、人道惡レ盈而好レ謙。

〖天道是耶非耶〗1015 テンダウ ゼカヒカ 天は果して正しいものか、正しくないものか。或は善を行つて禍を得、惡を行つて福を得るので、天道の是非を疑ふ意。天を怨恨する語。〔史記、伯夷傳〕若下至二近世一、操行不レ軌、專犯二忌諱一、而終身逸樂、富厚累世不レ絕、或擇レ地而蹈レ之、時然後出レ言、行不レ由レ徑、非二公正一不レ發レ憤、而遇中禍災上者、不レ可レ勝レ數也、余甚惑焉、儻所謂天道是耶非耶。

〖天道福レ善禍レ淫〗1016 テンダウハゼンニサイハヒシ インニワザハヒス 天は善人に幸福を與へ、惡人に禍災を下すものである。〔書、湯誥〕天道福レ善禍レ淫、降二災于夏一、以彰二厥罪一。〔傳〕政善天福レ之、淫過天禍レ之、故下二災異一。〔蔡傳〕天之道、善者福レ之、淫者禍レ之。

〖天道不レ使二物有一レ兼〗1017 テンダウ モノヲシテ ケンアラシメズ 天は一事物にすべてのはたらきを兼ね備へさせないものである。〔顏氏家訓、省事〕能走者奪二其翼一、善飛者減二其指一、有レ角者無二上齒一、豐後者無二前足一、蓋天道不レ使二物有一レ兼焉也。

〖天道無レ親常與二善人一〗1018 テンダウハ シンナシ ツネニゼンニンニクミス 天には偏私の親しみなく、唯、善行ある人にのみ親しみ與みするものである。天道は、天地を主宰する神。老子では主として無爲自然を指す。〔老子、七十九〕故有德司レ契、無德司レ徹、天道無レ親、常與二善人一。〔史記、伯夷傳〕天道無レ親、常與二善人一。

〖天道先レ春後レ秋以成レ歲〗1019 テンダウハ ハルヲサキニシ アキヲノチニシテ モツテ トシヲナス 天の道は春の和を先にし、秋の嚴を後にして一年を成す。政治を施すには、戒令によつて民を和らげ、それに服せぬ者のある場合、はじめて刑罰を用ふべきことをいふ。〔法言、先知、注〕天道先レ春後レ秋以成レ歲、爲レ政先レ令後レ誅以成レ治。

【天託】1020 テンタク 天帝のたのみ。〔日本政記、後土御門天皇論〕懼下負二天託一而取中其譴上也。

【天擇】1021 t'ien¹ tsê² 自然淘汰。

【天澤】1022 テンタク ㊀天と澤。上下をいふ。〔易、履〕上天下澤、履。〔程傳〕天在レ上、澤居レ下、上下之正理也。㊁天のめぐみ。天子の恩澤。天恩。〔宋書、陸徽傳〕天澤雲行、時德雨施。〔宋書、索虜傳〕咸同下旱苗之待二天澤一、赤子之望中慈親上。〔柳宗元、爲二王京兆一賀レ雨表一〕密雲與二綸言一繼發、時雨將二天澤一並流。㊂元、孟珍(**3**-**6960**··207)の號。㊃明、陳履(**11**-**41698**··585)の原名。

【天塌】1023 t'ien¹ t'a¹ 天がくづれること。

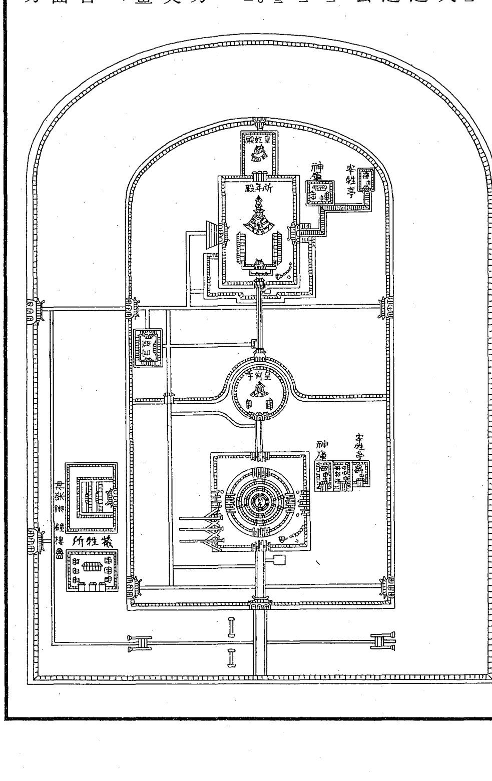
〖天塌地陷〗1024 t'ien¹ t'a¹ ti⁴ hsien⁴ 天地も崩れる程の大變事。

【天胆】1025 t'ien¹ tan³ 大膽。豪膽。

【天短】1026 t'ien¹ tuan³ 日の短いこと。

【天端】1027 テンタン 季節の始。春をいふ。〔公羊、隱、元〕謂二文王一也、注〕上繫二天端一。〔疏〕天端、卽春也、故春秋說云、以二元之深一正二天之端一、以二天之端一正二王者之政一、是也。〔春秋繁露、二端〕以二元之深一、正二天之端一、以二天之端一、正二王之政一。〔陳立、公羊義疏〕春爲二天之始一、故繫二王於春一、故爲三上繫二天端一。

【天男】1028 テンダン 天上界の男子。相貌の美しい男子。〔畫史〕蘇蓍少子、風神如レ畫、目如二點漆一、面如二凝肥一、天男相、有二器度一、好レ學。



天壇總圖（清會典圖）

【天壇】1029 テンダン ㊀天を祭る壇。〔宋書、禮志三〕光武建武中、不レ立二北郊一、故后地之祇、常配二食天壇一。〔南齊書、禮志上〕郊爲二天壇一。㊁明・清の皇帝が新しく天を祀つた壇。北京の正陽門外の南郊に在り、もと圜丘といつたが、明の嘉靖十三年に天壇と改めた。後、屢〻修葺し、清朝も之に因り、重ねて繕治を加へた。其の制、圓形で、三層に分れ、下は廣く、上は縮まり、白石・青琉璃を以て築いてある。〔續通典、禮、郊天〕嘉靖十三年二月詔、更二圜丘一爲二天壇一、方澤爲二地壇一。〔清會典、禮部、神牌以奉御、注〕天壇・地壇、於二齋宮鳴鐘時一。〔北京指南、食宿遊覽、園林寺觀〕天壇、在二正陽門外南郊一、周十里、繚以二垣牆一、形圓象レ天、內有二圜丘祈年殿・皇乾殿・齋宮・神樂署等處一。㊂山名。河南省濟源縣の西。王屋山の絕頂。軒轅が天に祈つた所といふ。〔通志、地理略〕王屋山、在二濟源縣西八十里一、形如二王者車蓋一、故名、其絕頂曰二天壇一、蓋濟水發レ源之處。〔明一統志〕天壇山、在二懷慶府濟源縣西一百二十里、王屋山北一、山峯突兀、其東曰二日精一、西曰二月華一、絕頂有二石壇一、云

云、卽唐司馬承貞得レ道之所。㊃星座の一名。南天にある。

〖天壇憲法〗1030 テンダンケンパフ 民國二年七月二十二日、憲法草案起草委員が北京天壇に於て起草した憲法草案。同年十一月、之を國會憲法會議に提出して、袁世凱に解散を命ぜられた。

【天地】1031 テンチ ㊀天と地。あめつち。天壤。霄壤。〔易、乾〕夫大人者、與二天地一合二其德一。〔易、說卦〕天地定レ位、山澤通レ氣。〔書、泰誓上〕惟天地萬物父母。〔中庸〕天地位焉、萬物育焉。〔孝經、三才章〕夫孝、天地之經也。〔老子、一〕無名天地之始。〔莊子、天地〕天地雖レ大、其化均也。〔荀子、勸學〕在二天地之閒一者畢矣。㊁非常に相違してゐることにいふ。雲泥。月鼈。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕否泰如二天地一。㊂よのなか。世界。境界。〔李白、山中問答詩〕桃花流水窅然去、別有三天地非二人閒一。㊃莊子・白虎通・文中子の篇名。㊄t'ien^{1} ti^{4} ㋑狀態。地位。㋺滿洲で土地一頃をいふ。㊅うへした。上下。又、物の頂と底。

〖天地會〗1032 テンチクワイ 清代の祕密結社の名。三合會・三點會等ともいふ。康熙帝のとき西藏人が邊地に寇し、官軍に利なく、小林寺の僧等が戰つてこれを破つた。然るに、朝廷が讒を信じ却つて僧徒を討つたので、僧徒等は逃れて清朝の覆滅をはかり、黨を結ぶ。乾隆帝時代の林爽文等の叛、猺族の勾結等は、皆これと關係があり、終に清朝一代の禍根となる。孫文の革命も亦その流裔であるといふ。三合會（**1—12**··234）を見よ。

〖天地根〗1033 テンチノコン 天地の根源。又、鼻・口をいふ。天地の元氣を通ずるからいふ。〔老子、六〕玄牝之門、是謂二天地根一。〔河上公注〕根、元也、言二鼻口之門、是乃通二天地之元氣一、所二從往來一。

〖天地藏〗1034 テンチノザウ 自然の產物の府庫。天產の豐かな處の意。〔史記、平準書〕上二鹽鐵丞孔僅咸陽言一、山海、天地之藏也、皆宜レ屬二少府一、陛下不レ私、以屬二大農一佐レ賦。

〖天地壽〗1035 テンチノジュ 天地のやうに長い壽命。〔老子、七〕天長地久、天地所二以能長且久一者、以三其不二自生一、故能長生。〔後漢書、桓譚傳〕若使下人居二天地壽一、如中金石上、要二長生一、而避二死地一可也。〔王維、奉二和聖製十五夜燃レ燈繼以酺宴一應制詩〕願將二天地壽一、同以獻二君王一。

〖天地桌〗1036 テンチタク 北京で、除夜、家の庭に長テーブルを並べて、諸天神聖の全圖を安置し、前に供物を供へて祭る行事をいふ。〔燕京歲時記、天地桌〕每レ屆二除夕一、列二長案於中庭一、供以二一百分一、一百分者、乃諸天神聖之全圖也、百分之前、陳二設蜜供一層蘋果乾果饅頭素菜年糕各一層一、謂二之全供一、云云、及レ接二神時一、將二百分一焚化、接遞燒香、至二燈節一而止、謂二之天地桌一。

〖天地燈〗1037 テンチトウ 北京の新年燈節に放つ爆竹の中の一種。〔燕京歲時記、燈節〕花炮棚子、製二造各色烟競花一、競レ巧爭レ奇、有二盆子花盆・云云・天地燈等名目一。

〖天地母〗1038 テンチノハハ 天子の母をいふ。〔稱謂錄、天子母古稱、天地母〕魏書宣武帝皇后胡氏傳、有二趙胡者一、善二卜相一、云、有二大貴之表一、方爲二天地母一、生二天地主一。

〖刮二天地一〗1039 テンチヲケヅル 寒風が吹きすさぶ形容。〔岑參、冬夕詩〕浩汗霜風刮二天地一、溫泉火井無二生意一。

〖動二天地一〗1040 テンチヲウゴカス 天地を感動させる。〔詩、大序〕故正二得失一、動二天地一感二鬼神一、莫レ近二於詩一。〔申鑒、政體〕君子之所下以動二天地一應二神明一、正二方物一而成中王治上者、必本二乎眞實一而已。

〖配二天地一〗1041 テンチニハイス 天地と匹敵する。〔易、繫辭上〕廣大配二天地一、變通配二四時一。

〖天地位下〗1042 t'ien^{1} ti^{4} wei^{4} hsia^{4} 神の棚。〔中夏俗語藪、二〕。

〖天地爲レ鑪〗1043 テンチヲロトナス 天地を熔鑛爐とする。天地が萬物を生成することを爐に比していふ。鑪は爐。〔莊子、大宗師〕以二天地一爲二大鑪一、以二造化一爲二大冶一。〔賈誼、鵩鳥賦〕天地爲レ鑪兮、造化爲レ工、陰陽爲レ炭兮、萬物爲レ銅。

〖天地一指〗1044 テンチハイツシ 天地も一本の指である。天地閒の萬物は凡て差別相を超越して見れば、齊一なものであるといふ意。〔莊子、齊物論〕以レ指喩二指之非レ指、不レ若三以レ非レ指喩二指之非レ指也、以レ馬喩二馬之非レ馬、不レ若三以レ非レ馬喩二馬之非レ馬也、天地一指也、萬物一馬也。〔注〕指、手指也、馬、戲籌也。〔疏〕天地雖レ大、一指可二以蔽レ之、萬物雖レ多、一馬可二以レ理盡一。

〖天地一室〗1045 テンチハイツシツ 天地は、たとへば一つの部屋のやうなものである。〔呂覽、制樂〕今室閈、戶牖動、天地一室也。

〖天地一體〗1046 テンチハイツタイ 博く愛すれば天地閒の萬物は我と一體となること。〔莊子、天下〕汎愛二萬物一、天地一體也。〔疏〕萬物與レ我爲レ一、故汎愛レ之、二儀與レ我並生、故同體也。

〖天地絪縕〗1047 テンチインウン 天地の二氣が相和會して盛に萬物を生み出すさま。絪縕は二氣の和會附着すること。〔易、繫辭下〕天地絪縕、萬物化醇、男女構レ精、萬物化生。〔疏〕絪縕、相附著之義、言、天地无レ心、自然得レ一、唯二氣絪縕、共相和會、萬物感レ之、變化而精醇也。

〖天地交泰〗1048 テンチカウタイ 天と地とが相交はつて通ずること。〔易、泰〕象曰、天地交泰、后以財成、天地之道。〔注〕泰者、物大通之時也、上下大通、則物失二其節一、故財成而輔相、以左二右民一也。

〖天地合日〗1049 テンチガフジツ 五月十六日。道家の說で、この日、天地が合するといふ。〔天中記〕・〔月令演〕五月、天地合、十六。

〖天地閒集〗1050 テンチカンシフ 書名。一卷。宋、謝翶撰。文天祥の華南山、謝枋得の武彝山中等の詩二十一首を載せて居る。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖天地懸隔〗1051 テンチケンカク 天と地のへだたり。物事の甚しいへだたりがあるにいふ。〔古寫本節用集〕天地懸隔。

〖天地玄黃〗1052 テンチゲンクワウ 天の色は玄、地の色は黃。〔易、坤〕上六、龍戰二于野一、其血玄黃、云云、文言曰、夫玄黃者、天地之雜也、天玄而地黃。〔疏〕天色玄、地色黃、故血有二天地之色一。〔千字文〕天地玄黃、宇宙洪荒。

〖天地相合〗1053 テンチアヒガツス 天地の氣の和合すること。〔老子、三十二〕天地相合、以降二甘露一。

〖天地之鑒〗1054 テンチノカガミ 聖人の心は天地の事象を映すかがみである。〔莊子、天道〕水靜猶明、而況精神、聖人之心靜乎、天地之鑒也、萬物之鏡也。

〖天地之紀〗1055 テンチノキ 天地の綱紀。〔史記、五帝紀〕順二天地之紀、幽明之占、死生之說、存亡之難一。〔注〕正義曰、言三黃帝順二天地陰陽四時之紀一也。

〖天地之常〗1056 テンチノツネ 天地閒に行はれる運轉・虧盈・晦明の常道。〔國語、越語下〕古之善用レ兵者、因二天地之常一、與レ之俱行。〔注〕隨二其運轉・虧盈・晦明之常一也。

〖天地之心〗1057 テンチノココロ 天地の公平な心。〔後漢書、光武紀上〕上當二天地之心一、下爲二元元所レ歸。

〖天地之道〗1058 テンチノミチ 天地の常道。又、天の道と地の道。陽の道と陰の道。〔列子、天瑞〕天地無二全功一、云云、故天職生覆、地職形載、云云、然則天有レ所レ短、地有レ所レ長、云云、天地之道、非レ陰則陽。

〖天地之中〗1059 テンチノチユウ 天地の中心。〔呂覽、有始〕白民之南、建木之下、日中無レ影、呼而無レ響、蓋天地之中也。

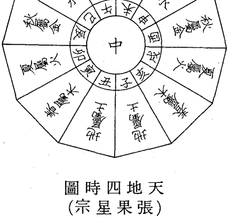
〖天地之方〗1060 テンチノハウ 天地の常道。〔班固、答賓戲〕一陰一陽、天地之方。〔注〕善曰、孔安國論語注曰、方、猶レ常也。

〖天地之美〗1061 テンチノビ 天地の美しさ。又、純美。〔莊子、天下〕寡下能備二於天地之美一、稱中神明之容上。

〖天地之平〗1062 テンチノヘイ 天地が公平であること。〔莊子、刻意〕夫恬惔寂漠虛無無爲、此天地之平而道德之質也。〔疏〕天地以二此法一爲二平均之源一。

〖天地之類〗1063 テンチノルイ 天地閒の物類。〔列子、楊朱〕人肖二天地之類一、懷二五帝之性一。

〖天地四時〗1064 テンチシイジ 天地と春夏秋冬。〔張果星宗、天地四時圖說〕日月麗二乎天一、地勢起二於北一、故日居レ午、月居レ未、子丑皆屬レ土、天道左旋、寅配レ春屬レ木、卯配レ夏屬レ火、辰配レ秋屬レ金、巳配レ冬屬レ水、地道右轉、亥配レ春屬レ木、戌配レ夏屬レ火、酉配レ秋屬レ金、申配レ冬屬レ水、逆順之中、各有二次序一、行二乎天地之



天地四時圖
（張果星宗）

閒一、乃先天之體也。

【天地自然】1065（テンチシゼン） 天地の自然。轉じて、本來のまま。人爲の加はらないこと。〔韓詩外傳、二〕能隨二天地自然一、爲二能勝一レ理。

【天地長子】1066（テンチノチヤウシ） 雷をいふ。雷は二月始めて鳴り、八月地に收まり、常に萬物の生滅に先だつからいふ。〔圓機活法〕

【天地定レ位】1067（テンチクラヰヲサダム） 天地が其の位置を保つて安定を得ること。〔易、說卦〕天地定レ位、山澤通レ氣。

【天地判合】1068（テンチハンガフ） 天と地と合すること。又、夫婦の義に用ひる。判は片、判合は二つが合して始めて完全となる意。〔漢書、翟方進傳〕天地判合、乾坤序レ德。〔注〕師古曰、天地乾坤夫妻之義、相配合也、判之言、片也。

【天地不レ仁】1069（テンチハジンナラズ） 天地は萬物を生成化育するに、強ひて仁心を用ひないで、自然のままに行ふ。〔老子、五〕天地不レ仁、以二萬物一爲二芻狗一。〔河上公注〕天施地化、不レ以二仁恩一、任二自然一也。

【天地剖判】1070（テンチホウハン） 天と地とがわかれること。世のひらけはじめ。天地開闢。〔漢書、陸賈傳〕自二天地剖判一、未二始有一也。

【天地無レ窮】1071（テンチハキハマリナシ） 天地は悠久できはまり盡きることがない。〔莊子、盜跖〕天與レ地無レ窮、人死者有レ時。

【經二緯天地一】1072（テンチヲケイヰス） 天地の道を經（タテイト）とし緯（ヨコイト）として用ひる。天地の常法に則つて行ふをいふ。〔左氏、昭、二十八〕經二緯天地一曰レ文。〔注〕經緯相錯、故織成レ文。〔疏〕易稱、聖人先レ天而天弗レ違、後レ天而奉二天時一、言二德能順レ天、隨二天所一レ爲、如三經緯相錯、織二成文章一、故爲レ文也。〔會箋〕周語、經レ之以レ天、緯レ之以レ地、經緯不レ爽、文之象也、蓋則二天之經一、因二地之義一、巍巍乎有二成功一、煥乎有二文章一、此文王之文也。

【若レ無二天地一】1073（テンチナキガゴトシ） 天地を失つたやうである。悲しみの甚しい形容。〔李彪、求三復修二國史一表〕惟孝文皇帝、承二天地之寶一、崇二祖宗之業一、景功未レ就、奄焉崩殞、凡百黎萌、若レ無二天地一。

【天地爲二稊米一】1074（テンチハテイベイタリ） 天地のやうに大きなものも、米粒のやうな小さなものと等しい。稊は、野びえの實。〔莊子、秋水〕知三天地之爲二稊米一也、知三毫末之爲二丘山一也。

【天地君親師】1075（テンチクンシンシ） 尊ぶべき五者を總稱する語。天・地・君・親・師。

【天地創造說】1076（テンチサウザウセツ） 天地・宇宙の創造に關する古代傳說の一。神或は超自然力を有する神的英雄により創造せられたとする。

【天地之經緯】1077（テンチノケイヰ） 天地に天地としての資質を備へさせる所以のもの。卽ち禮をいふ。經（タテイト）と緯（ヨコイト）とで織物の文（アヤ）が形成せられるやうに、天地は禮によつて其の天地たる資質を成就するをいふ。〔左氏、昭、二十五〕禮、上下之紀、天地之經緯、民之所二以生一也。〔疏〕言、禮之於二天地一、猶三織之有二經緯一、得二經緯相錯一乃成レ文、如二天地得レ禮始成就一。

【天地正大氣】1078（テンチセイダイノキ） 天地間に存する至高至大の元氣。浩然の氣をいふ。正氣（**6－16255・・76**）の❶を見よ。〔弘道館記述義、上〕蓋國體不レ得二獨尊嚴一、必有レ資二天地正大之氣一、天地之氣、不レ得二獨正大一、亦必有レ參二於仁厚義勇之風一。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕天地正大氣、粹然鍾二神州一。

【天地卽衾枕】1079（テンチハスナハチキンチン） 天を蒲團とし、地を枕とする。大自然に融合すること。〔李白、友人會宿詩〕滌二蕩千古愁一、留連百壺飮、良宵宜二淸談一、皎月誰能寢、醉來臥二空山一、天地卽衾枕。

【天地賭二一擲一】1079′（テンチヲイツテキニカク） 天下を賭けて思ひ切つて事をする。一擲賭二乾坤一。乾坤一擲。〔李白、經二亂離一後天恩流二夜郎一憶二舊遊一書レ懷贈二江夏韋太守良宰一詩〕天地賭二一擲一、未レ能レ忘二戰爭一。

【天地無二全功一】1080（テンチゼンコウナシ） 天の德は覆ふにあり、地の德は載せるにあり、兩者各〻覆と載とを兼ねることは出來ない。天地でも完全な能力は有し得ない意。〔列子、天瑞〕天地無二全功一、聖人無二全能一。

【奪二天地造化一】1081（テンチノザウクワヲウバフ） 造物者のしわざを人が奪つてすること。人の力の大きいこと。〔關尹子、七釜〕人之力、有下可三以奪二天地造化一者上。

【與二天地一同レ休】1082（テンチトキウヲオナジクス） 天地と其の善美の德を同じくすること。休は善美。〔神異經、西北荒經〕西北荒中、有二玉饋之酒一、酒泉注焉、上有二玉尊玉籩一、取二一尊一、一尊復生焉、與二天地一同レ休、無二乾時一。

【與二天地一同レ壽】1083（テンチトジユヲオナジクス） 悠久な天地と壽命を等しくする。極めて長命なこと。〔楚辭、九章、涉江〕吾與二天地一兮比レ壽、與二日月一兮齊レ光。

【天地一大戲場】1084（テンチハイチダイギヂヤウ） 天地の閒は、其處に諸種の事象が生起消滅するので、恰も一つの大きな戲場のやうなものである。戲場は、芝居などの舞臺。〔侗庵筆記〕日月燈、江海油、雷霆鼓板、天地一大戲場。〔坤齋日抄〕宋毛珝詩、閱レ世今知百戲場、錢宗伯又云、乾坤百戲場、康熙御製語本二于此一。

【天地者形之大者】1085（テンチハカタチノダイナルモノ） 天地は形あるものの中で最も大きいものである。〔莊子、則陽〕天地者、形之大者也、陰陽者、氣之大者也。

【天地尙不レ能レ久】1086（テンチスラナホヒサシキアタハズ） 無理をすれば、天地のすることでさへ長くは續かぬ。〔老子、二十三〕飄風不レ終レ朝、驟雨不レ終レ日、孰爲レ此者、天地、天地尙不レ能レ久、而況於レ人乎。

【天地包含之恩】1087（テンチハウガンノオン） 天地が萬物を包含するやうな廣大な恩德。天子の恩德をいふ。〔蘇轍、爲二兄軾下一レ獄上書〕竊恃二天地包含之恩一、不二自抑畏一。

【除二去天地之害一】1088（テンチノガイヲヂヨキヨス） 天地閒の害惡をのぞき去る。〔禮、經解〕除二去天地之害一、謂二之義一。

【天地以二四時一成レ功】1089（テンチハシイジヲモツテコウヲナス） 天地は春夏秋冬の運行によつて造化の仕事を成就する。〔魏志、高柔傳〕天地以二四時一成レ功、元首以二輔弼一興レ治。

【天地革而四時成】1090（テンチアラタマリテシイジナル） 天地陰陽の氣がうつり變つて四時を生じ、萬物が生成する。〔易、革〕彖曰、天地革而四時成、湯武革命、順二乎天一、而應二乎人一。

【天地鬼神惡二滿盈一】1091（テンチキシンハマンエイヲニクム） 天地や鬼神は、人閒が謙遜するを好み、慢心增長するを憎む。〔易、謙〕彖曰、云云、天道虧レ盈而益レ謙、地道變レ盈而流レ謙、鬼神害レ盈而福レ謙、人道惡レ盈而好レ謙。〔顏氏家訓、止足〕天地鬼神之道、皆惡二滿盈一、謙虛沖損、可二以免一レ害。

【天地之性人爲レ貴】1092（テンチノセイヒトヲタツトシトナス） 天地閒に性命を受けた者の中で、人が最も貴い。〔孝經、聖治章〕天地之性、人爲レ貴。〔漢書、宣元六王、楚孝王囂傳〕天地之性、人爲レ貴、人之行、莫レ大二於孝一。

【天地之大德曰レ生】1093（テンチノダイトクヲセイトイフ） 天地の最も大きな德は萬物を生成することである。〔易、繫辭下〕天地之大德曰レ生。〔注〕施レ生而不レ爲、故能常生、故曰二大德一也。〔魏志、高堂隆傳〕天地之大德曰レ生、聖人之大寶曰レ位。

【天地寂寥山雨歇】1094（テンチセキレウトシテサンウヤム） 天地が寂寥と物淋しく、山閒の雨がやんだ。謝枋得の詩の句。〔謝枋得、武夷山中詩〕天地寂寥山雨歇、幾生修得到二梅花一。

【天地位焉萬物育焉】1095（テンチクラヰシバンブツイクス） 天地が其の正位を得、萬物が生育する。中和の德を積むの效果をいふ。〔中庸〕中也者、天下之大本也、和也者、天下之達道也、致二中和一、天地位焉、萬物育焉。

【天地睽而其事同也】1096（テンチソムクモソノコトオナジ） 天は高く地は低く、二者同じではないが、和合して萬物を生育することは同じである。〔易、睽〕彖曰、天地睽而其事同也、男女睽而其志通也、萬物睽而其事類也。

【天地者萬物之逆旅】1097（テンチハバンブツノゲキリヨ） 天地は、其の閒に萬物が現れて來ては消えて行くから、恰も旅人を夕に迎へ朝に送る宿屋のやうなものである。〔李白、春夜宴二桃李園一序〕夫天地者萬物之逆旅、光陰者百代之過客、而浮生如レ夢、爲レ懽幾何、古人秉レ燭夜遊、良有レ以也。

【無レ所レ逃二于天地之閒一】1098（テンチノカンニノガルルトコロナシ） 天地の閒にのがれるべき所がない。絕對に避け得ないこと。〔莊子、人閒世〕子之愛レ親命也、云云、臣之事レ君義也、云云、無レ所レ逃二於天地之閒一。

【天地之閒其猶二橐籥一乎】1099（テンチノカンハソレナホタクヤクノゴトキカ） 天地の閒は丁度ふいがうのやうである。其の中は

虛無で萬物を生ずるからいふ。槖籥は、ふいがう。〔老子、五〕天地之閒、其猶㆓槖籥㆒乎。〔注〕槖籥中空虛、人能有㆓聲氣㆒。

【天池】1100 テンチ ❶造物者の作つた大池。海をいふ。〔莊子、逍遙遊〕海運則將㆑徙㆓於南冥㆒、南冥者、天池也。〔列子、湯問〕終髮之北、有㆓溟海者㆒、天池也。〔韓愈、應㆓科目㆒時與㆑人書〕天池之濱。❷人體の經穴の名。乳傍直腋下肋骨の閒。腋下三寸、乳後一寸のところにある。天泉(929)の❸を見よ。❸星の名。〔晉書、天文志上〕九坎閒十星、曰㆓天池㆒、一曰㆓三池㆒。❹山名。四川省平武縣の南。〔太平寰宇記〕上有㆑池、其水常滿、號曰㆓天池㆒、本名㆓石人山㆒、唐改㆓靈液山㆒。❺峯の名。㋑江西省九江縣の廬山に在る。〔桑喬廬山疏〕廬山石門者、山之天池・鐵船二峯、對峙如㆑門也。㋺四川省峨眉縣の峨眉山の仙峯寺の西北。山頂に天然石池がある。❻池の名。㋑滿洲遼寧省長白縣の北。長白山の頂に在る圖們泊の一名。松花江の源。㋺河南省澠池縣の東南。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、澠池縣、穀水〕天池、在㆓縣南㆒、貞觀十八年、畋㆓於澠池之天池㆒、水經注、熊耳山際有㆑池、池水東南流入㆓洛水㆒、側有㆓一池㆒、世謂㆓之黽池㆒、天池、蓋近㆓宜陽西北境㆒。㋩山西省寧武縣の西南。管涔山の上。〔水經、㶟水注〕㶟水又東北流、左會㆓桑乾水㆒、其水潛承㆓太原汾陽縣北燕京山之大池㆒、池在㆓山原之上㆒、世謂㆓之天池㆒。〔淸一統志〕水經注云、桑乾泉、卽溹涫水、耆老云、其水潛通承㆓燕京山之大池㆒云云、則天池乃桑乾河源之最遠者。㊁甘肅省文縣の北。一名、洋湯池。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、階州、文縣、素嶺山〕天魏山、在㆓縣西北一百三十里㆒、有㆓天魏湫㆒、合㆓衆山凹㆒爲㆓大壑㆒、環一百五十里、積㆓水其中㆒、水平㆓山頟㆒、不㆑見㆓畔岸㆒、亦謂㆓之天池㆒、山與㆓階州㆒接㆑界。㋭四川省宜賓縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、宜賓縣〕天池、府西二十里、一名滇池、又名㆓波淩池㆒。㋬四川省平武縣の南、天池山の上に在る。❹の㋑を見よ。㋣廣西省昭平縣の北陀山。❼縣名。㋑唐末、置く。山西省靜樂縣の北。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、靜樂縣〕天池城、舊唐書天池縣、在㆓樓煩城西南五十里㆒。㋺唐、置く。雲南省舊楚雄府の境。㋩唐、置く。四川省舊敍州府の境。❽字號。㋑明、徐渭(**4**－**10110**‥5)の字。㋺明、陸采(**11**－**41708**‥112)の號。㋩清、周鯤(**2**－**3441**‥199)の字。㊁清、湯鵬(蕪湖の人)(**7**－**17874**‥126)の字。㋭清、龍鯤(**12**－**48818**‥211)の號。

〖天池山人〗1101 テンチサンジン 清、魚翼(**12**－**45956**‥275)の號。

〖天池髮僧〗1102 テンチハツソウ 明、宋旭(**3**－**7078**‥55)の「號。

【天智】1103 テンチ ❶天の與へた智慧。〔韓非子、解老〕聰明睿智、天也、動靜思慮、人也、人也者、乘㆓於天明㆒以視、寄㆓於天聰㆒以聽、託㆓於天智㆒以思慮。❷美玉の名。〔逸周書、世俘解〕商王紂于㆓商郊㆒、時甲子夕、商王紂取㆓天智玉㆒、琰㆓璲身㆒厚以自焚、凡厥有㆓庶告㆒焚玉四千㆒、五日、武王乃俾㆓於千人求㆒㆑之、四千庶則銷、天智玉五在㆓火中㆒不㆑銷、凡天智玉、武王則寶與同。❸唐の僧。于闐國の人。武后の時、渡來す。華嚴經・法界無差別論等六部七卷の飜譯がある。〔宋高宗傳、二〕。❹テンヂ 第三十八代の帝謚。

【天馳】1104 テンチ 明、張路(**4**－**9812**‥750)の字。

〖天馳使〗1105 アマハセヅカヒ 天を走る早い使。〔古事記、上〕石たぶやあまはせづかひ。

【天墜】1106 テンチ 天地(1031)の❶に同じ。墜は、古の地字。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕生㆓天墜㆒之若㆑過兮、忽爛漫而無㆑成。〔漢書、敍傳上〕惟天墜之無㆑窮兮。〔注〕師古曰、言㆓天地長久而人壽短促㆒也。〔漢書、敍傳上〕參㆓天墜㆒而施㆑化。

【天治】1107 テンヂ 第七十五代崇德天皇の年號。(1124－1126)〔藤原敦光勘文〕易緯曰、帝者、德配㆓天地㆒、天子者繼㆑天治㆑物。

【天竹】1108 テンチク ❶妖星の名。〔呂覽、明理〕其星有㆓熒惑㆒、有㆓天竹㆒、有㆓天英㆒。❷植物の名。南天。〔通雅〕南燭草、卽南天燭、俗所謂天竹、是也。

〖天竹黃〗1109 テンチククワウ 竹の節の閒に生ずる粉。藥用となる。〔本草、竹黃〕釋名、竹膏、志曰、天竺黃、生㆓天竺國㆒、今諸竹內往往得㆑之、人多燒㆓諸骨及葛粉等㆒雜㆑之、時珍曰、此竹極大、又名㆓天竹㆒、其內有㆑黃、可㆓以療㆒㆑疾、本草作㆓天竺㆒者、非矣。

〖天竹山房〗1110 テンチクサンバウ 清、車鼎晉(**10**－**38172**‥284)の室名。

【天竺】1111 テンヂク ❶國の名。印度の古稱。印度の名の中國の典籍に見える最古のものは史記大宛傳の身毒であり、次いで漢書西域傳上には捐毒と記され、後漢書西域傳には天竺と書かれてゐる。其の他、申毒・信度・辛頭・身豆・眞定・呬度・賢豆・乾篤・天毒・天督・天篤・天豆・天定・印土・印度等がある。此等の文字を以て音譯せられた直接の原語は一つではあるまいが、其の大本は信度(Sindhu 今の Indus)河に起因すると考へられてゐる。(印度アリアン人は此の河及び其の流域地方をSindu と呼び、それが古代波斯に於てHindu 等と呼ばれて印度全體の稱となり、希臘に入つてIndos河・India 國となつた。又、緬甸語ではTindu といふ)。天竺そのものの原語に就いては未だ定說がないが、康熙字典の毒の條下に顏師古の說を引いて、今之天竺、蓋身毒聲轉爲㆓天篤㆒、篤省文作㆑竺、又轉爲㆓竺音㆒、と言つてゐるのは參考に値する。尙、此等の名稱は主として西域諸國に用ひられた稱呼を音譯したもので、印度人自身は其の國を因陀羅婆他那(Indravardhana)・閻浮提(Jambudvipa)等と呼んだ。而して佛典に於ては魏晉以後一般に天竺を用ひ、印度は唐以後に多く用ひられた。〔後漢書、西域傳〕天竺國、一名㆓身毒㆒、在㆓月氏之東南數千里㆒、俗與㆓月氏㆒同。〔大唐西域記、二〕詳㆓夫天竺之稱㆒、異議糾紛、舊云㆓身毒㆒、或曰㆓賢豆㆒、今從㆓正音㆒、宜㆑云㆓印度㆒、印度者、唐云㆑月、月有㆓多名㆒、斯其一稱、云云、良以㆔其土聖賢繼㆑軌、導㆑凡御㆑物、如㆓月照臨㆒、由㆓是義㆒、故謂㆓之印度㆒。❷山名。㋑江西省大庾縣の東北。巖壑綿亙し、東に月峯がある。㋺浙江省杭縣の靈隱山飛來峯の南。上中下の三竺に分る。〔白居易、答㆔客問㆓杭州㆒詩〕山名㆓天竺㆒堆㆓青苔㆒、湖號㆓錢塘㆒瀉㆓綠油㆒。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府、錢塘縣〕靈隱山、府西十二里、云云、宋建炎三年、金人寇㆓臨安㆒、遊騎入㆓靈隱㆒至㆓天竺山㆒、亦名㆓靈苑㆒、云云、又南爲㆓天竺㆒、峯三、天竺寺列焉。❸寺の名。浙江省杭縣。三寺あり、一は飛來峯の南、下天竺寺といひ、一は稽留峯の北、中天竺寺といふ。共に隋の時の建立。一は北高峯の麓、上天竺寺といひ、五代吳越の建立。〔浙江通志〕上天竺寺、寺在㆓北山㆒、舊志、天竺之名、起㆓于晉㆒、後七百載、而觀音大士發㆓跡西峯㆒、則自㆓晉天福閒㆒始、時有㆓僧道翊㆒結㆑庵、山中得㆓奇木㆒、刻爲㆓觀音大士像㆒、乾祐閒、有㆓僧崇勳㆒、自㆓洛陽㆒持㆓古佛舍利㆒、置㆓頂中㆒、妙相咸備、晝放㆓白光㆒、吳越王建㆓天竺看經院㆒、宋咸平中、浙西大旱、郡守張法華有㆑禱、輒應、嘉祐中、沈文通治㆑郡、命㆓僧辨才㆒主㆑之、累代有㆓宣賜㆒、宋孝宗・理宗俱有㆑贊、至㆑今靈感神異、每歲春正月至㆓四月㆒、士女進㆑香者、以㆓百萬㆒計、雨暘祈禱輒應、中天竺寺、寺在㆓府城西一十七里㆒、宋太平興國初建、下天竺寺、寺在㆓府城西一十五里㆒、晉咸和中建、寺前復有㆓飛來・蓮花諸峯㆒、有㆓合澗跳珠泉㆒、有㆓夢謝・流盃・月桂諸亭㆒、遊人多至㆓其閒㆒。❹㋑空。㋺高處。頂上。

〖天竺葵〗1112 テンヂクアフヒ 草の名。つるてんぢくあふひ。ふうろさう科に屬する宿根草。夏、淡紅色又は濃紅色の花を開く。

〖天竺花〗1113 テンヂククワ 草の名。❶觀音菊(**10**－**34993**‥12)の異名。〔西湖志〕百菊集譜云、觀音菊、天竺花、是也、自㆓五月㆒開至㆓九月㆒、花頭細小、其花純紫、枝葉如㆓嫩柳㆒、其幹之長與㆑人等。〔大和本草、花草〕天竺花、花史云、觀音菊、天竺花、是也、五月開至㆓七月㆒、花頭細小、其色純紫、枝葉如㆓嫩柳㆒、其幹之長與㆑人等。❷萩(**9**－**31333**)の異名。〔書言字考節用集、生植〕萩、萬葉用㆓芽子字㆒、今案、萩、蒿之類也、本朝俗、以㆓天竺花㆒爲㆑萩、謬來舊矣。

〖天竺桂〗1114 テンヂクケイ 樹の名。やぶにくけい。月桂。〔本草、天竺桂〕集解、珣曰、天竺桂、生㆓南海山谷㆒、時珍曰、此卽今閩粵浙中山桂也、而台州天竺最多、故名、大樹繁花、結㆑實如㆓蓮子狀㆒、天竺僧人稱爲㆓月桂㆒、是矣。

〖天竺書〗1115 テンヂクシヨ ［佛］四十二章經をいふ。〔酉陽雜俎、廣知〕百體中有㆓懸鍼書・云云・天竺書㆒。〔墨藪〕天竺書、梵王所㆑作、涅槃經所謂四十二章經也。〔四十二章經注〕比丘宋言、或名㆓破煩惱㆒、或名㆓淨乞食㆒、或名㆓能怖魔㆒、天竺一

名、該㆓此四義㆒。

【天竺鼠】1116（テンヂクソ） ぶたねずみ。豚鼠（10－36352・・11）を見よ。

【天竺臘】1117（テンヂクラフ） 十二月十六日をいふ。天竺で此の日を臘とするからいふ。〔事物異名錄、歲時、十二月〕西域諸國志、天竺國、以㆓十二月十六日㆒爲レ臘。

【天竺五山】1118（テンヂクゴザン） 佛㊀天竺の五山。鞞婆羅跋恕・薩多般那求呵・因陀羅勢羅求呵・薩簸恕魂直迦鉢婆羅・耆闍崛。〔智度論、三〕問曰、佛何以多住㆓王舍城㆒、答曰、以㆓坐禪精舍多㆒故、餘處無レ有レ如㆓竹園㆒、鞞婆羅跋恕・薩多般那求呵（南山石室）・因陀羅勢羅求呵・薩簸恕魂直迦鉢婆羅・耆闍崛、五山中有㆓五精舍㆒、竹園在㆓平地㆒。㊁天竺五山に在る寺。祇園精舍・竹林精舍・大林精舍・誓多林精舍・那蘭陀寺。〔下學集、下〕祇園精舍・竹林精舍・大林精舍・誓多林精舍・那蘭陀寺、右五者天竺之五山也。

【天竺山人】1119（テンヂクサンジン） 明、徐𤊹（4－10110・・288）の號。

【天竺四姓】1120（テンヂクノシシヤウ） 佛古代、印度の四種の社會階級。一、婆羅門（Brāhmaṇa）、淨行者の意。淨行を修して涅槃（さとり）を求める者。僧侶及び學者の階級で四姓の最上位にある。二、剎帝利（Kṣatriya）、王種の意。國王、及び武士の階級。支配階級。三、吠奢（Vaiśya）、毘舍ともいふ。商賈隨類の意。平民の階級。四、首陀羅（Śūdra）、首陀ともいふ。賤民奴隸階級。〔譬喩經〕諸外人計、梵王生㆓四姓㆒、王口生㆓婆羅門㆒、臂生㆓剎利㆒、脇生㆓毘舍㆒、足生㆓首陀㆒。

【天竺牡丹】1121（テンヂクボタン） 洋菊。ダリヤ。

【天竺木綿】1122（テンヂクモメン） 舶來の一種の木綿。地質が厚く丈夫である。

【天竺浪人】1123（テンヂクラウニン） 一定の住所なく、所々を漂泊するもの。やどなし。〔吾吟我集、三〕行く先も雲のかまひよ、笠をきる月や天竺浪人のはて。

【天秩】1124（テンチツ） ㊀天がついでる。天が品秩する。〔書、皐陶謨〕天秩㆓有禮㆒、自㆓我有禮㆒、有レ庸哉。〔傳〕天次㆓敘有禮㆒。〔蔡傳〕秩者、尊卑貴賤、等級隆殺之品秩也。㊁天の與へるさいはひ。天祿。〔何晏、景福殿賦〕庶事既康、天秩孔明。〔注〕銑曰、言、衆事既安、天祿甚明。㊂天子の秩祿。〔潘岳、夏侯常侍誄〕宜㆘享㆓遐紀㆒、長保㆗天秩㆖。〔注〕良曰、天秩、天子祿秩也。㊃明、伍禮（1－435・・37）の字。

【天袠】1125（テンチツ） 天の與へた劍ぶくろ。〔莊子、知北遊〕解㆓其天弢㆒、墮㆓其天袠㆒。

【天長】1126（テンチヤウ） ㊀天の悠久なこと。天長地久を見よ。〔沈佺期、九日臨渭亭侍レ宴應制詩〕年年重㆓九慶㆒、日月奉㆓天長㆒。㊁縣名。唐、千秋縣を改め置く。今、安徽省東境に在る。〔唐書、地理志五〕揚州廣陵郡、縣、天長、本千秋、天寶元年置、七載更レ名。〔清史稿、地理志〕安徽、泗州直隸州、縣三、天長。㊂第五十三代淳和天皇の年號。（824－834）㊃t'ien¹ ch'ang² 日の長いこと。

【天長節】1127（テンチヤウセツ） ㊀唐の玄宗皇帝の誕生日。もと千秋節といつたのを天寶七年に改めたもの。〔明皇實錄〕開元十七年百官上表、請以㆓八月五日㆒爲㆓千秋節㆒、天寶七年、改爲㆓天長節㆒。㊁もとの四大節の一。天皇陛下の御誕生を賀する祝日。

【天長地久】1128（テンチヤウチキウ） 天地は永久に盡きない。極めて長久なことにいふ。〔老子、七〕天長地久、天地所㆓以能長且久㆒者、以㆔其不㆓自生㆒、故能長生。〔張衡、思玄賦〕天長地久歲不レ留、俟㆓河之清㆒祇懷レ憂。〔虞羲、詠㆓霍將軍北伐㆒詩〕天長地自久、人道有㆓虧盈㆒。〔杜審言、大酺詩〕火德雲官逢㆓道泰㆒、天長地久屬㆓年豐㆒。〔白居易、長恨歌〕天長地久有レ時盡、此恨綿綿無㆓絕期㆒。〔楊炯、庭菊賦〕雨還風去、天長地久。

【天長地闊】1129（テンナガクチヒロシ） 天は悠々として長く連り、地は茫々として廣い。見渡す天地のはてしなく廣いさまをいふ。〔李華、弔㆓古戰場㆒文〕地闊天長、不レ知㆓歸路㆒。〔沈佺期、遙同㆓杜員外審言過レ嶺詩〕天長地闊嶺頭分、去レ國離レ家見㆓白雲㆒。

【天頂】1130（テンチヤウ） ㊀天。そら。又、いただき。てつぺん。〔張說、三月二十日詔宴㆓樂遊園㆒賦得㆓風字㆒詩〕北闕連㆓天頂㆒、南山對㆓掌中㆒。㊁天頂點の略。

【天頂儀】1131（テンチヤウギ） 望遠鏡を子午面內に回轉し得るように裝置して、天頂距離を測定する器械。

【天頂點】1132（テンチヤウテン） 天文學用語。觀測者の眼を通過する垂直線が、觀測者の頭上で天球と交る點。

【天頂距離】1133（テンチヤウキヨリ） 天文學用語。天頂點から垂直圈に沿うて或る星まで測つた時、其の星に對する角距離の稱。

【天聽】1134（テンチヤウ） ㊀天が聽くこと。天聰（952）の㊀及び天聰明自㆓我民聰明㆒（954）を參看せよ。〔書、泰誓中〕天聽自㆓我民聽㆒。〔孟子、萬章上〕泰誓曰、天視自㆓我民視㆒、天聽自㆓我民聽㆒。㊁天聰（952）の㊀に同じ。〔魏志、高柔傳〕庶有㆘裨㆓起天聽㆒、弘㆗益大化㆖。〔晉書、石崇傳〕陛下天聽四達、靈鑒昭遠。㊂天子のお耳。又、天子の思考・判斷。天聰（952）の㊀㊁を參看せよ。〔胡銓、上㆓高宗㆒封事〕惟務㆓詐誕㆒、欺㆓罔天聽㆒、驟得㆓美官㆒。

【天仗】1135（テンヂヤウ） ㊀天子の衞兵。近衞兵。〔岑參、寄㆓左省杜拾遺㆒詩〕曉隨㆓天仗㆒入。〔蘇頲、奉㆔和初春幸㆓太平公主南莊㆒應制詩〕鳳皇樓下交㆓天仗㆒。〔宋史、樂志十三〕天仗回㆓嶢闕㆒、皇輿入㆓應門㆒。㊁北周の宣帝が自ら群臣に施した刑罰。笞を用ひ、百二十回捶つを以て限度とした。〔周書、宣帝紀〕每㆔笞㆓捶人㆒、皆以㆓百二十㆒爲レ度、名曰㆓天杖㆒。

【天⿱山柱】1136（テンチユ） 山名。一に天柱に作る。安徽省霍山縣の南。〔廣韻〕⿱山柱、天⿱山柱、案、爾雅曰、霍山爲㆓南嶽㆒、郭璞云、卽天柱山、字俗從レ山。

【天中】1137（テンチユウ） ㊀天の眞中。天の中央。〔列子、天瑞〕終日在㆓天中㆒行止。〔論衡、談天〕天極爲㆓天中㆒。〔晉書、天文志上〕運㆓乎天中㆒、而臨㆓制四方㆒。〔王褒、京師突厥寺碑〕上極㆓天中㆒、下窮㆓地際㆒。㊁相術家の語。額の上部。卽ち印堂の上一寸、天庭の上にある。流年運氣（6－17431・・307）を見よ。㊂山名。河南省汝南縣の北。〔明一統志〕天中山、在㆓汝寧府城北三里㆒、亦名㆓天台山㆒、云云、以㆔其在㆓天地之中㆒、故曰㆓天中㆒。㊃清、季開生（3－6965・・287）の字。

【天中記】1138（テンチユウキ） 書名。六十卷。明、陳耀文撰。著者は楊愼・胡應麟と共に博洽を以て明代に著聞す。此の書も、博洽で且つ根據があり、間間辨證を附す。五十卷本と六十卷本の二種があり、後者は晩年の足本である。其の居が天中山に近かつたから名づけた。內容は乾坤・歲時・律曆・地理・帝王・都邑・人倫・身體・人事・職官・釋教・經傳・文房・技藝・禮樂・飮食・衣服・樹木・草花・蟲魚甲介・鳥・獸に分る。〔四庫提要、子、類書類〕。

【天中節】1139（テンチユウセツ） ㊀陰曆五月五日の午の時をいふ。〔淵鑑類函、歲時部、五月五日〕提要錄曰、五月五日午時、爲㆓天中節㆒。㊁道家で正月一日をいふ。天臘節（1460）を見よ。

【天中柱】1140（テンノチユウチユウ） 中天を支へる柱。崑崙山が天に届くほど高いので、これに見做していふ。崑崙（4－8173・・59）を見よ。〔海錄碎事、地、總載山〕龍魚河圖曰、崑崙山、天中柱也。

【天中天】1141（テンチユウノテン） 佛佛の尊號。天は人の尊ぶ所、佛は更に天の尊ぶ所であるからいふ。又、佛の第二小字。〔法華經、化城喩品〕聖主、天中天。〔海錄碎事、道釋、佛〕淨飯王嚴駕、抱㆓太子㆒、謁㆓自在天神廟㆒、神像起禮㆓拜太子足㆒、王驚嘆曰、我子於㆓天神中㆒更爲㆓尊勝㆒、宜レ字㆓天中天㆒、卽佛第二小字也、本行經。

【天中之岳】1142（テンチユウノガク） 鼻の異名。天中之山に同じ。〔黃庭內景經〕天中之岳、精謹修㆓雲宅㆒、既淸㆓玉帝遊㆒。〔事物異名錄、形貌、鼻〕黃庭經、天中之岳、謂レ鼻也、一名天臺。

【天中之山】1142′（テンチユウノヤマ） 鼻をいふ。天中岳に同じ。〔魏志、管輅傳〕鼻者艮、此天中之山。

【天柱】1143（テンチユウ） ㊀天を支へてゐるといふ柱。轉じて、世を支へ保つ道義。天柱折地維缺を見よ。〔神異經、中荒經〕崑崙之山有㆓銅柱㆒焉、其高入レ天、所謂天柱也、圍㆓三千里㆒、周圓如レ削。〔武帝內傳〕三天太上道君、下觀㆓六合㆒、瞻㆓河海之長短㆒、察㆓丘山之高卑㆒、立㆓天柱㆒。〔文天祥、正氣歌〕天柱賴以尊。㊁星の名。㋑紫微宮の中にある五星。〔星經〕天柱五星、在㆓紫微宮內㆒、近㆓東垣㆒、主㆓建教等二十四氣㆒也。㋺三台星。〔周禮、春官、大宗伯、以㆓實柴㆒祀㆓日月星辰㆒、疏〕案、武陵太守

星傳云、三台、一名天柱。〔晉書、天文志上〕三台六星、一曰㆓天柱㆒、三公之位也。㊂耳の異名。〔長沙耆舊傳〕太傅劉壽、少遇㆓相師㆒、曰、耳爲㆓天柱㆒、今君耳有㆓城郭㆒、必典㆓家邦㆒。㊃骨の名。印堂骨。〔事物異名錄、形貌、骨〕稗編、印堂有㆑骨、上至㆓天庭㆒、名㆓天柱骨㆒、又耳亦名㆓天柱㆒。㊄人體の經穴の名。項の後で、毛の生え際の凹んだ所。〔黃帝靈樞經、經脈、膀胱經諸穴之圖、膀胱足太陽脈、注〕其直行者、由㆓通天絡郄・玉枕㆒入㆑絡、腦復出㆓下項㆒、以抵㆓天柱㆒。㊅蟲の名。蟯蛝(**10－33154‥1**)の異名。〔說文〕蝍、渠蝍、一曰天社。〔段注〕社、一作㆑柱、云云、廣雅曰、天柱、蟯蛝也。〔事物異名錄、昆蟲下、蟯蛝〕庶物異名疏、天柱、蟯蛝也、見㆓說文㆒。㊆茶の名。〔秦韜玉、採茶歌〕天柱香芽露香發、爛研瑟瑟穿㆓荻篾㆒。〔薛能、謝㆔劉相寄㆓天柱茶㆒詩〕雨串㆓春團㆒敲㆓夜光㆒、名題㆓天柱㆒印維揚。㊇山名。㋑滿洲遼寧省瀋陽縣の東北。本名は東牟山。清の太祖の福陵がある。㋺山東省平度縣の北。魏の光州刺史鄭道昭の銘がある。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、平度州〕天柱山、州北五十里、絕頂巉巖、聳立如㆑柱。㋩霍山(**12－42321‥23**)の㊀の㋩の別名。一名、衡山。安徽省潛山縣の西北。皖山の最高峰。漢の武帝が之を禮し、號して南嶽といふ。〔史記、武帝紀〕上巡㆓南郡㆒至㆓江陵㆒、而東登㆓禮潛之天柱山㆒、號曰㆓南嶽㆒。〔注〕應劭曰、潛縣、屬㆓廬江㆒、文穎曰、天柱山、在㆓潛縣南㆒。〔讀史方輿紀要、江南、廬州府、六安府、霍山〕縣南五里、本名㆓天柱山㆒、亦曰㆓南岳山㆒、又名㆓衡山㆒。㋥宛委山の異名。宛委(**3－7110‥1**)を見よ。㋭浙江省餘杭縣の西。道書の第五十七福地といふ。〔明一統志〕天柱山、在㆓餘杭縣西南一十八里㆒、四隅陡絕、聳翠參㆑天、爲㆓道家第五十七福地㆒。㋬陝西省山陽縣の東南。一名、牛山。〔段成式名山記〕上津天柱山、絕巖壁立、秀㆓出衆嶺㆒、有㆑穴、名㆓遊仙洞㆒、洞口有㆓竹數莖㆒、寒風凜然、人不㆓敢入㆒。㋣陝西省の岐山をいふ。〔地理通釋〕岐山、在㆓鳳翔府岐山縣東北十里㆒、亦名㆓天柱山㆒、漢右扶風美陽縣西北、周大王所㆑邑、文王始亦治焉。㋠四川省中江縣の西南。一名、覆船山。〔太平寰宇記〕覆船山、舊名泊山、十道錄云、堯遭㆓洪水㆒、維㆑舟泊㆑此、覆㆓於樹下㆒、因名。㊈巖の名。河北省房山縣。㊉觀の名。浙江省餘杭縣。昔、高士郭文常の隱れた處。〔梁吳筠記〕。(十一)縣名。明、置く。唐の朗溪縣の南獠の地。宋の會同縣。貴州省に屬す。〔讀史方輿紀要、湖廣、靖州〕天柱縣、州西北二百里、本蠻地、洪武二十五年、置㆓守禦天柱千戶所於此㆒、萬曆二十五年、改置㆑縣。〔淸史稿、地理志〕貴州、鎭遠府、縣三、天柱。

【天柱折地維缺】 1144 テンチュウヲレチヰカク 天を支へる柱が折れ、地をつなぐ綱がきれる。紛亂の甚しいことにいふ。〔列子、湯問〕共工氏、與㆓顓頊㆒爭㆑爲㆑帝、怒而觸㆓不周之山㆒、折㆓天柱㆒絕㆓地維㆒、故天傾㆓西北㆒、日月星辰、就焉、地不㆑滿㆓東南㆒、故百川水潦歸焉。〔史記、三皇紀〕天柱折、地維缺。〔博物志、地〕共工氏、與㆓顓頊㆒爭㆑帝而怒、觸㆓不周之山㆒、折㆓天柱㆒絕㆓地維㆒。

【天衷】 1145 テンチュウ 天の心。天意。又、天が人に與へた良心。〔左氏、定、四〕施及㆓寡人㆒、以獎㆓天衷㆒、君之惠也。〔蔡邕、郭泰碑序〕先生誕應㆓天衷㆒。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕宅㆓天衷㆒、立㆓民極㆒。〔注〕良曰、衷、心也、言、天子居㆓天心㆒、立㆓人本㆒。

【天誅】 1146 テンチュウ 天の行ふ誅罰。天討。又、有德者が天に代つて行ふ誅罰。〔孟子、萬章上〕伊訓曰、天誅造攻、自㆓牧宮㆒。〔墨子、魯問〕今擧㆑兵、將㆓以攻㆑鄭、天誅其不㆑至乎、魯陽文公曰、先生何止㆓我攻㆑鄭也、我攻㆑鄭、順㆓於天之志㆒、鄭人三世殺㆓其父㆒、天加㆑誅焉、使㆓三年不㆑全、我將㆑助㆓天誅㆒也。〔越絕書、越絕外傳記范伯〕壞㆓人之善㆒、毋㆓後世㆒、敗㆓人之成㆒、天誅行。〔漢書、陳湯傳〕將㆓義兵㆒、行㆓天誅㆒。〔新書、大政上〕何天誅之遲也。〔後漢書、西南夷、哀牢傳〕今攻㆓鹿茤㆒、輒被㆓天誅㆒。

【天誅組】 1147 テンチュウグミ 文久三年、三條實美以下七卿の長門落ちの後、藤本鐵石・松本奎堂・吉村寅太郎等の志士が君側の姦を除かんとして、侍從中山忠光を奉じ、兵を大和に擧げた、其の團體の稱。

【天誅地滅】 1148 t'ien^1 chu^1 ti^4 mieh^4 天地の罪を受けて誅戮せられること。〔紅樓夢、二十九回〕我便天誅地滅、儞又有什麼益處。

【天廚】 1149 テンチュウ ㊀天のくりや。〔漢武帝內傳〕王母自設㆓天廚㆒、眞妙非㆑常。〔神仙傳、麻姑〕此酒乃出㆓天廚㆒、其味醇醲。㊁星の名。柳宿ともいふ。〔張衡、週天大象賦〕天廚廠兮供㆓百宰㆒、傳舍開兮通㆓四方㆒。〔晉書、天文志上〕紫宮東北維外六星曰㆓天廚㆒、主㆓盛饌㆒。㊂天子のくりや。〔蕭至忠、送㆔張亶赴㆓朔方㆒應制詩〕推食天廚至、投醪御酒傳。〔韓濬、淸明賜火詩〕朱騎傳㆓紅燭㆒、天廚賜㆓近臣㆒。

【食天廚】 1150 テンチュウニクラフ 天子のくりやで食物を食ふ。〔海錄碎事、百工、圖畫〕顧長康畫㆘淸夜游㆓西園㆒圖㆖、梁人跋云、圖上若干人、遂食㆓天廚㆒、尙書故實。

【天猪】 1151 テンチョ 草花の名。菖蒲(**9－31174‥2**)をいふ。〔海錄碎事、百工、藥名〕天猪、菖蒲也。

【天女】 1152 テンヂョ テンニョ ㊀織女星の一名。たなばた。天之眞女。〔史記、天官書〕其北織女、織女、天女孫也。〔注〕索隱曰、荊州占云、織女、一名㆓天女㆒、天子女也。〔柳宗元、乞巧文〕秋孟七夕、天女之孫將㆑嬪㆓於河鼓㆒。㊁天界に居る女。あまつをとめ。轉じて、美人の形容。天人。〔魏書、序記〕欻見㆓輜軿自㆑天而下㆒、既至、見㆓美婦人㆒、侍衞甚盛、帝異而問㆑之、對曰、我天女也。㊂鳥の名。燕の異名。〔古今注、鳥獸〕鷰、一名天女、又名㆓鷙鳥㆒。〔採蘭雜志〕昔有㆑燕、飛入㆓人家㆒、化㆓一小女子㆒、長僅三寸、自言㆓天女㆒、能知㆓吉凶㆒、故至㆑今名㆑燕爲㆓天女㆒。㊃［佛］テンニョ 梵語 devakanyā の譯語。（音譯は、泥縛迦儞也）。㋑欲界六天に住む女性。㋺女神の名の下に添へる語。吉祥天女といふの類。

【天女祠】 1153 テンニョシ 天女を祀つた祠。四川省西北境の岷山にある。〔宋九域志〕岷山上有㆓天女祠㆒。

【天女散花】 1154 テンヂョサンクワ ㊀北京人の愛好する菊の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕蓋京師之菊種亟繁、有㆓陳秧・新秧・粗秧・細秧之別㆒、云云、如㆓天女散花・云云㆒、皆新秧中之細種也。㊁［佛］テンニョサンゲ 菩薩や大弟子等が法を行ふ時に、天女が華を降らせ、其の華が大弟子の體に著いて落ちなかつたこと。〔維摩經、觀衆生品〕時維摩詰室、有㆓一天女㆒、見㆓諸大人㆒、聞㆑所㆑說法、便現㆓其身㆒、卽以㆓天華㆒散㆓諸菩薩大弟子上㆒、華至㆓諸菩薩㆒卽皆墮落、至㆓大弟子㆒便著不㆑墮、一切弟子、神力去㆑華、不㆑能㆑令㆑去、爾時天女問㆓舍利弗㆒、何故去㆑華、答曰、此華不如法、是以去㆑之、天女曰、勿㆘謂㆓此華㆒爲㆗不如法㆖、所以者何、是華無㆑所㆓分別㆒、仁者自生㆓分別想㆒耳、云云、觀㆓諸菩薩㆒、華不㆑著者、已斷㆓一切分別想㆒故、譬如㆓人畏時、非人得㆓其便㆒、如㆑是弟子畏㆓生死㆒故、色聲香味觸得㆓其便㆒也、已離㆑畏者、一切五欲、無㆓能爲㆒也。〔顧雲、華淸詞〕太上符籙龍蛇蹤、散花天女侍㆓香童㆒。

【天除】 1155 テンヂョ 星の名。大微。〔長生殿、神訴〕呈㆑錦過㆓天除㆒。

【天徵】 1156 テンチョウ 淸、孔尙典(**3－6933‥320**)の字。

【天寵】 1157 テンチョウ ㊀天帝のいつくしみ。〔易、師〕象曰、在㆑師中吉、承㆓天寵㆒也。〔王粲、安臺新福歌〕荷㆓天寵㆒延㆓壽尸㆒。㊁天子のいつくしみ。〔劉孝綽、侍宴詩〕自㆑昔承㆓天寵㆒、於㆑茲被㆓人爵㆒。〔韋應物、送㆘馮著受㆓李廣州署㆒爲㆗錄事㆖詩〕州伯荷㆓天寵㆒、還當㆑翊㆓丹墀㆒。

【天琛】 1158 テンチン 天然のたから。天寶。〔木華、海賦〕其垠則有㆓天琛・水怪・鮫人之室㆒。〔注〕善曰、天琛、自然之寶也。

【天鎭】 1159 テンチン 縣名。淸、置く。唐の天成軍。今、山西省に屬す。〔淸史稿、地理志〕山西、大同府、縣七、天鎭。

【天陳】 1160 テンヂン 用兵軍陣の名。日月星辰斗柄の形に象り、一は左に、一は右に、一は向ひ、一は背いて備へるもの。三陣の一。〔六韜、虎韜、三陣〕日月星辰斗杓、一左、一右、一向、一背、此謂㆓天陳㆒。〔顏氏家訓、書證〕太公六韜、有㆓天陳・地陳・人陳・雲鳥之陳㆒。

【天墜】 1161 テンツイ 天が墜落する。〔列子、天瑞〕杞人有㆘憂㆓天地崩墜㆒者㆖。

【天鎚】 1162 テンツイ 武具の名。方首の鐵鎚。〔六韜、虎韜、軍用〕方首鐵鎚、重八斤、柄長五尺以上、千二百枚、一名㆓天鎚㆒。

【天廷】 1163 テンテイ 天帝の宮廷。三能(三台)星・三衡星をいふ。又、太微星をいふ。天庭。〔史記、天官書〕三能・三衡者、天廷也、客星出㆓天廷㆒、有㆓奇令㆒。〔注〕正義曰、晉書天文志云、云云、太微、天子宮庭也、太微爲㆑衡、衡、主㆑平也、爲㆓天庭㆒理、法平辭理也、按、言㆓三台・三衡者、皆天帝之庭㆒、號令舒散平理也、故言㆓三台・三衡㆒。

【天定】1164 テンテイ ❶天が定める。又、天の定め。又、天が定まる。〔李東陽、對鷗閣賦〕數雖二天定一、業乃人爲。❷年號。㋑宋の時、徐眞一の僭年號。〔歷代紀元編、上〕年次不明。㋺南詔、段智興の時。(1251) ㋩元、順帝の時、徐壽輝の僭年號。(1359－1360) ㋥明初、越(安南)の陳朝、楊日禮の僭年號、大定の一稱。(1369－1370) ㋭明、憲宗の代、福建の妖僧の僭年號。(1465) ㋬清、世祖章皇帝(順治帝)の代、劉守兮の僭年號。(1644)

〔天定亦能破レ人〕1165 テンマタ サダマッテヨクヒトヲヤブル 亂世には惡人の榮えることもあるが、天運が循環して天が本來の力を發揮するやうになると遂に惡人を亡ぼす。〔史記、伍子胥傳〕吾聞レ之、人衆者勝レ天、天定亦能破レ人。〔注〕正義曰、申包胥言、聞、人衆者、雖二一時凶暴勝一レ天、及三天降二其凶一、亦破二於彊暴之人一。

【天底】1166 テンテイ ❶井戸の底に映つてゐる空。井戸の底。〔楊萬里、玉井亭晚立詩〕竹兼二樹影一眠二天底一、人凭二闌干一立二鏡中一。❷天文學用語。觀測點から地平面への垂線を作り、それを下に向つて延長し、反對側の天球に合した所を天底點、略して天底といふ。nadir の譯語。

〔天底下〕1167 t'ien^1 ti^3 hsia^4 世の中。

【天帝】1168 テンテイ ❶天の主宰者。造化の神。上帝。天父。〔詩、鄘風、君子偕老〕胡然而レ天也、〔箋〕何由然女見二尊敬一如二天帝一乎。〔荀子、正論〕居如二大神一、動如二天帝一。〔南齊書、禮志上〕明堂、本祭二天帝一。〔雲笈七籤〕四司者、天帝之禁官也。❷星の名。帝星ともいふ。北極五星のうち最も明かなもの。

〔天帝女〕1169 テンテイヂヨ 鳥の名。姑獲鳥(3－6174··71)の異名。〔本草、姑獲鳥〕釋名、乳母鳥・夜行遊女・天帝少女。〔西陽雜俎、廣動植、羽篇〕夜行遊女、一曰二天帝女一、一名二釣星一、夜飛晝隱、如二鬼神一。

〔天帝外臣〕1170 テンテイノグワイシン 造化の神の外臣。仙人が自ら稱した語。〔海錄碎事、道釋、仙〕余素愛二寶訣一、爲二三十六天帝之外臣一、白自謂。

〔借二天帝錢一〕1171 テンテイニゼニヲカル 牽牛星が織女星を娶るとき、天帝にかねを借りた故事。〔海錄碎事、天、七夕〕道書云、牽牛娶二織女一、取二天帝錢二萬一備レ禮、久而不レ還、被レ驅在二營室一、故劉子儀詩云、天帝娉錢還得否、晉人求レ富是虛辭。

【天庭】1172 テンテイ ❶星の名。天府(1299)の❺を見よ。❷天帝の宮廷。太微星をいふ。天廷。〔禮、月令、疏〕大微爲二天庭一、中有二五帝座一。〔後漢書、天文志上〕太白爲レ兵、太微爲二天廷一。❸天をいふ。又、天帝の宮廷。〔揚雄、甘泉賦〕選二巫咸一兮叫二帝閽一、開二天庭一兮延二羣神一。〔法言、脩身〕仰二天庭一而知二天下之居レ卑也。〔班固、答賓戲〕未下仰二天庭一而覩中白日上也。〔注〕銑曰、未三仰レ天見二白日之光一也。❹天子の庭。星位に象る。禁庭。〔左思、蜀都賦〕摛レ藻掞二天庭一。〔注〕劉曰、班固述二雄傳一曰、初擬二相如一獻二賦黃門一、故曰三摛レ藻掞二天庭一。〔沈佺期、奉二和洛陽翫レ雪應制詩〕灑レ瑞天庭裏、驚レ春御苑中。❺崑崙山の頂をいふ。層城。〔水經、河水注〕崑崙之山三級、下曰二樊桐一、一名二板桐一、二曰二玄圃一、一名二閬風一、上曰二層城一、一名二天庭一、是爲二太帝之居一。❻相術の語。額の中央。天中の下。流年運氣(6－17431··307)を見よ。〔黃庭內景經注〕兩眉之間、爲二天庭一。〔魏志、管輅傳〕此二人天庭及口耳之間、同有二凶氣一。〔事物異名錄、形貌、額〕漢書註、天庭、額之中。

【天挺】1173 テンテイ 天が挺す。又、天が特に拔出した才德。すぐれた才德。〔後漢書、黃瓊傳〕光武以二聖武天挺一、繼レ統興レ業。

〔天挺之姿〕1174 テンテイノシ すぐれた才德を備えた姿。〔晉書、宣帝紀論〕宣皇以二天挺之姿一、應レ期佐レ命。

【天梯】1175 テンテイ ❶天に登るはしご。山路のけはしさの形容。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕緣二天梯一兮北上、登二太一兮玉臺一。〔李白、蜀道難〕地崩山摧壯士死、然後天梯石棧相鉤連。❷山名。甘肅省武威縣の南。〔十六國春秋〕京兆人劉宏、挾二左道一、客二居天梯第五山一、然レ燈懸二鏡於山穴中一、爲二光明一以惑二百姓一。〔讀史方輿紀要、陝西、涼州衞〕天梯山、衞南八十里、山路崎嶇、層折而上、因名。

【天朝】1176 テンテウ 朝廷の尊稱。皇朝。〔晉書、鄭默傳〕宮臣皆受二命天朝一、不レ得レ同二之藩國一、事遂施行。〔陸雲、九愍〕悼二天朝之遂晦一。〔宋史、南唐李煜世家〕唯堅二臣節一、上奉二天朝一。

【天條】1177 テンデウ 天帝の定めた法。自然の法則。〔還魂記、冥判〕唗有二天條一、擅用二囚婦一者斬。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕非三干二犯天條一。

【天翟】1178 テンテキ ❶星の名。〔晉書、天文志中〕天樞・天翟・天沸。❷怪獸の名。〔呂覽、諭大〕地大則有二常祥・不庭・歧母・羣抵・天翟一。〔注〕皆獸名也。❸鳥の名。〔呂覽、古樂〕帝嚳命二咸黑一作二爲聲歌一、云云、因令二鳳鳥・天翟舞一レ之、帝嚳大喜。

【天哲】1179 テンテツ 天の與へたまことにして明かなもの。又、天の與へた智。〔班固、典引〕夫圖書亮章、天哲也。〔注〕蔡邕曰、亮、信也、章、明也、言、河圖洛書、至信至明而出、天賜レ之、使二視而行一レ之、翰曰、哲、智也。

【天天】1180 t'ien^1 t'ien^1 まいにち。日々。〔紅樓夢、三回〕怨不得老祖宗天天口頭心頭。

〔天天兒〕1181 t'ien^1 t'ien^1 êrh 每日。

【天田】1182 テンデン ❶星の名。蒼龍星の左角に在る。〔史記、封禪書〕其令三郡國縣立二靈星祠一、〔注〕張晏曰、龍星左角曰二天田一、則農祥也、晨見而祭。〔後漢書、祭祀志下〕高帝令三天下立二靈星祠一、舊說、星謂二天田星一也。❷天子が上帝や祖廟に供へる爲に自ら耕作する田地。籍田。〔張衡、東京賦〕躬三推二於天田一、脩二帝籍之千畝一。〔注〕濟曰、天田、天子之籍田。〔李白、明堂賦〕帝躬二乎天田一、后親二於郊桑一。

〔天田老農〕1183 テンデンラウノウ 明、姚綬(3－6202··66)の號。

【天兔】1184 テント 星座の名。オリオン座の南に在る。兔座の中國名。

【天都】1185 テント ❶天帝のみやこ。天帝の居所。又、單に天をいふ。〔淮南子、泰族訓〕視二天都若一レ蓋、江河若レ帶。〔王維、終南山詩〕太乙近二天都一、連山到二海隅一。❷天子の都。帝都。〔儲光羲、貽二崔太祝一詩〕天都分二禮閣一、肅肅臨二清渠一。〔皎然、陪三顏使君餞二宣諭蕭常侍一詩〕江濤凋瘵後、遠使發二天都一。❸星の名。七星をいふ。〔晉書、天文志上〕七星、一名天都、主二衣裳文繡一、又主二急兵盜賊一。❹山名。㋑甘肅省皐蘭縣の南。〔讀史方輿紀要、陝西、蘭州、白石山〕天都山、亦在二州南三十里一、一統志、宋宦者李憲、遣下苗綬自二蘭州一伐上レ夏、嘗蹤二此山一、誤也、今固原西安所有二天都山一。㋺甘肅省固原縣の西北。〔宋史、夏國傳下〕元豐四年、李憲等征レ夏、營二於天都山下一、焚二夏之南牟內殿一、幷二其館庫一。❺峯の名。安徽省歙縣の黃山の最高峯。其の旁に合掌・仙人下轎・五老上天都・仙人守門の諸峯がある。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、歙縣〕黃山、府西北一百二十里、舊名黟山、云云、元汪炎昶記曰、山在二宣歙閒一、云云、焦村而南、有二數峯一凌レ空、最名者曰二天都、芙蓉・朱沙一、而天都爲二尤高一、鳥道如レ線、上多二名藥一、採者裹レ糧以上、三日始可レ達。

〔天都外史〕1186 テントグワイシ 明、汪道昆(6－17154··304)の號。

〔天都去邪子〕1187 テントキヨジヤシ 清、鮑楷(12－46074··6)の號。

【天塗】1188 テント 天のみち。天路。〔後漢書、張衡傳〕豈愁慕之可レ懷、出二閶闔一兮降二天塗一。〔晉書、王鑒傳〕方將下振二長轡一而御二八荒一、掃二河漢一而清中天塗上。

【天度】1189 テンド 天の度數。天の法度。〔素問、六節藏象論〕天度者、所三以制二日月之行一也。〔後漢書、律曆志下〕昬明之生以二天度一、乘二晝漏一。〔白虎通、喪服〕顯二天度數一、萬物咸得。

【天怒】1190 テンド ❶天のいかり。暴風・疾雷などをいふ。〔詩、大雅、板〕敬二天之怒一。〔疏〕天之怒者、謂二暴風疾雷一也。〔論衡、雷虛〕天怒不レ旋レ日、人怨不レ旋レ踵。〔唐書、吳武陵傳〕霆砰電射、天怒也。❷天子の怒。逆鱗。〔魏明帝、櫂歌行〕皇上悼二愍斯一、宿昔奮二天怒一。

【天豆】1191 テントウ 豆の一種。はまささげ。雲實。〔廣雅、釋草〕天豆、雲實也。〔本草、雲實〕釋名、員實・雲英・天豆・馬豆。

【天棟】1192 テントウ 星の名。大角(3－5831··296)の❸をいふ。〔晉書、天文志上〕大角者、天王座也、又爲二天棟一。

【天統】1193 テントウ ❶周の曆をいふ。建子の月(初昏に斗柄が子の方向を指す月)、卽ち仲冬を以て正月となす。夏の十一月に當る。天正。正朔(6－16255··183)の❶・三統(1－12··1375)の❶を見よ。〔禮、檀弓上、周人尙レ赤、注、以二建子之月一爲レ正、物萌色赤、疏〕建子之月爲レ正者、謂二之天

統一、以下天之陽氣始生、萬物得二陽氣一微稍動變上、故爲二天統一。〔宋書、禮志一〕天統之正、在レ子、物萌而赤。㊁天の綱紀。天維。天道。〔後漢書、郎顗傳〕逆二天統一、違二人望一、逆二天統一、則災眚降、違二人望一、則化不レ行。㊂天の正しい血すぢ。天子の位。〔史記、高祖紀贊〕故漢興承レ敝易レ變、使二人不一レ倦、得二天統一矣。〔史記、三王世家〕陛下奉二承天統一。㊃年號。㋑北齊、後主、溫公高緯の時。(565－569) ㋺北魏、孝莊帝の時、邢杲の僭年號。(529) ㋩元、順帝の時、夏の明玉珍の僭年號。(1363－1366)

【天燈】1194テントウ 河南地方で元旦の夜、庭に長竿を立てて松柏の枝を吊して燃す。其の火をいふ。高所にある燈火の意。〔輿地記〕正月元旦、民皆盛服焚レ香、禮二天地一拜二祖考一、尊長姻友、投レ刺互拜曰二拜年一、比戶竿標二燈樓一、揭以二松柏枝一、夜燃レ之、曰二天燈一。

【天動】1195テンドウ 天が運行する。〔公羊、文、九、動地也、注〕天動地靜者、常也。〔揚雄、羽獵賦〕洶洶旭旭、天動地岋。〔宋史、葉清臣傳〕天動地靜、主尊臣卑。

〔天動神移〕1196テンドウシンイ 天の如く動き、神の如く移る。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕天動神移、淵旋雲被、以降二於行所一、禮也。

〔天動星廻〕1197テンドウセイクワイ 天が動き星が廻る。〔李康、運命論〕天動星廻、而辰極猶居二其所一、璣琁輪轉、而衡軸猶執二其中一。

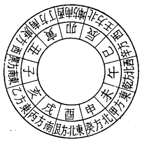
【天童】1198テンドウ ㊀山名。㋑浙江省鄞縣の東。一に天潼に作る。〔明一統志〕天童山、在二寧波府城東六十里一。㋺浙江省定海縣の西。㊁寺の名。浙江省鄞縣の天童山に近い太白山中に在る。晉の僧義興が此處に屋を結んだ時、一童子が日々薪水を給し、後、吾は太白星なりといつて見えなくなつたといふ。一名、弘法寺。〔明一統志〕天童寺、在二天童山中一、晉時、僧義興結レ屋、山間有二一童子一、日給二薪水一、後辭去曰、吾太白辰也、言訖不レ見、寺以レ此得レ名。㊂清、謝泰交(**10**－**35827**‥316)の號。

【天得】1199テントク 天から得る。天授。〔任昉、王文憲集序〕懸然天得、不レ謀成レ心。〔注〕濟曰、懸、遠也、言、遠然得二之於天一。

〔天得レ一以淸〕1200テンイツヲエテモツテキヨシ 天は一を得てゐるから淸らかなのである。一とは數の始で、物の極をいふ。〔老子、三十九〕昔之得レ一者、天得レ一以淸、地得レ一以寧。〔注〕一、數之始、而物之極也。

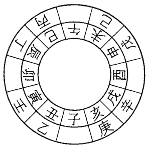
【天督】1201テントク 國の名。天竺(1111)の㊀に同じ。〔杜篤、論都賦〕連二緩耳一、瑣二雕題一、摧二天督一、牽二象犀一。〔注〕緩耳、儋耳也、雕題、交阯、天督、卽天竺國也。

【天德】1202テントク ㊀天の德。萬物を化育する廣大無邊な自然のはたらき。〔易、乾〕飛龍在レ天、乃位二乎天德一。〔疏〕乃位二乎天德一者、位當二天德之位一、言、九五陽居二於天一、照臨廣大、故云二天德一也。〔書、呂刑〕惟克二天德一、自作二元命一。〔中庸〕苟不下固聰明聖知達二天德一者上、其孰能知レ之。〔荀子、不苟〕變化代興、謂二之天德一。㊁天子の德。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕皇聖昭二天德一、豐澤振二沈泥一。〔沈佺期、昆明池侍レ宴應制詩〕我后光二天德一、垂衣文教成。㊂天の福德を掌る神。此の神の居る國は兵が必ず昌え、之に向ふに兵を以てすれば凶なりといふ。〔周禮、春官、保章氏、以二十有二歲之相一觀二天下之妖祥一、疏〕龍、東方宿、天德之貴神、其所レ在之國兵必昌、向レ之以レ兵則凶。㊃無爲にして爲すを天といひ、無爲にして言ふを德といふ。〔莊子、天地〕古之君二天下一、无レ爲也、天德而已矣、云云、无爲爲レ之之謂レ天、无爲言レ之之謂レ德。㊄叢神の名。天の福德。正月は丁、二月は坤、三月は壬、四月は辛、五月は乾、六月は甲、七月は癸、八月は艮、九月は丙、十月は乙、十一月は巽、十二月は庚に在る。此の方、及び此の日は土功を興し、宮室を營むに宜しい。〔協紀辨方書、義例三、天德〕乾坤寶典曰、天德者、天之福德也、所レ理之方、所レ值之日、可下以興二土功一營中宮室上。堪輿經曰、天德者正月丁、二月坤、三月壬、四月辛、五月乾、六月甲、七月癸、八月艮、九月丙、十月乙、十一月巽、十二月庚。㊅行政區畫の名。天德軍を見よ。㊆年號。㋑五代十國の一、閩の王延政の時。(942－944) ㋺梁の時、交趾(南越)の李賁の時。(544－548) ㋩宋、高宗の代、金の海陵王、完顏亮の時。(1149－1153) ㋥宋の時、僞遼國王、金山の僭年號。一に天成に作る。(1216－1217) ㋭第六十二代村上天皇の御代。(957－961) ㊇字號。㋑後魏、韓均(**12**－**43159**‥66)の字。㋺明、徐達(**4**－**10110**‥213)の字。



天道天德
（協紀辨方書）

【天德合】1203テントクガフ 叢辰の名。合德の神。正月は壬、三月は丁、四月は丙、六月は己、七月は戊、九月は辛、十月は庚、十二月は乙に在り、四仲の月は四維に居るから合が無い。此の方は宮室を營み、城垣を築くに宜しく、此の日は將を命じ、師を出し、山川を禱禮する等に宜しい。〔協紀辨方書、義例三、天德合〕天寶曆曰、天德合者、合德之神也、所レ理之方、宜下營二構宮室一、修中築城垣上、所レ值之日、宜下覃恩肆赦、命レ將出レ師、禱二禮山川一、祈中請福願上、曆例曰、天德合者、正月壬、三月丁、四月丙、六月己、七月戊、九月辛、十月庚、十二月乙、是也、四仲之月、天德居二四維一、故無レ合也、考原曰、天德合者、卽各以二其月天德所一レ合之干一爲レ之。



天德合
（協紀辨方書）

【天德軍】1204テントクグン 行政區畫の名。唐、置く。綏遠省境內の蒙古烏喇特旗の西北。〔元和志〕天德軍、本安德都護、舊理二西受降城一、天寶中、於二大同川西一築レ城、名曰二天安軍一、移レ理焉、乾元後改爲二天德軍一。

〔天德寺〕1205テントクジ 紙を外皮にし、中に藁を充たした蒲團。〔松月堂不角住吉奉納〕猫飼うて、さはる衾も天德寺なり。

〔天德甁〕1206テントクビヤウ 佛天上の德甁。心に願望するものを出す甁。〔華嚴經〕菩提心者、則爲二天德甁一、滿二足一切所二樂欲一故。〔探玄記、二十〕天德甁者、於レ中所レ索、悉皆得、故如二如意珠一也。

〔天德王〕1207テントクワウ 清、洪大全(**6**－**17402**‥258)の封號。

〔天德不レ可レ爲レ首〕1208テントクシユトナルベカラズ 天德は陽剛であるから、柔和を以て下に接すべきであり、剛を用ひて物の首となることはよくない。〔易、乾〕用九、天德不レ可レ爲レ首也。〔疏〕天德剛健、當下以二柔和一接中待於下上、不レ可下更懷二尊剛一爲中物之首上。

〔天德十二堯舜一皇恩霑二萬民一〕1209テントクゲウシユンニジフニシクワウオンバンミンヲウルホス 天子の德は堯舜に十倍する程であり、其の恩惠は萬民をうるほしてゐる。〔懷風藻、紀麻呂、春日應詔詩〕天德十二堯舜一、皇恩霑二萬民一。

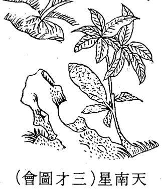
【天毒】1210テンドク ㊀天が下民の惡をこらしめるために之に災をくだすこと。〔書、微子〕天毒降レ災、荒二殷邦一。〔傳〕天生レ紂爲レ亂、是天毒下レ災。㊁國の名。天竺(1111)の㊀に同じ。〔山海經、海內經〕東海之內、北海之隅、有レ國、名曰二朝鮮・天毒一、其人水居。〔注〕天毒、卽天竺國。

【天南】1211テンナン 天の南方。南方。〔張籍、送二蠻客一詩〕借問炎州客、天南幾日行。〔戴叔倫、屯田詩〕艱辛歷盡誰得レ知、望二斷天南一淚如レ雨。〔楊萬里、潮陽海岸望レ海詩〕身行二島北一新春後、眼到二天南一最盡頭。

〔天南廻〕1212テンミナミニカヘル 天が南に廻る。夏になることをいふ。〔海錄碎事、天、節序〕天南廻而變レ夏、火西飛而獻レ秋、李白。

〔天南國〕1213テンナンコク 安南國をいふか。〔異國御朱印帳〕自二日本一到二天南國一、商舟也、云云、昔者安南、蓋今者號二天南國一乎、不二分明一。

〔天南星〕1214テンナンシヤウ 植物の名。天南星科に屬す。山野に自生し、地下の莖塊に多量の澱粉を含む。やまこんにやく。むさしあぶみ。虎の尾。〔本草、虎掌・天南星〕釋名、頌曰、天南星、卽本草虎掌也、小者名二由跋一、古方多用二虎掌一、不レ言二天南星一、南星近出、唐人中風痰毒方中用レ之、乃後人採用別立二此名一爾。〔宋史、張汝明傳〕汝明字舜文、世爲二廬陵人一、徙



天南星（三才圖會）

居㆓眞州㆒、汝明事㆑親孝、執㆑喪、水漿不㆑入㆑口三日、云云、夢父授以㆘服㆓天南星㆒法㆖、用㆑之驗、人以爲㆓孝感㆒。

【天南逸叟】1215 テンナンイツソウ 明、王襞（7－20823・・952）の號。

【天南星科】1216 テンナンシヤウクワ 植物の科の名。此の科の植物は或は草、或は灌木で、多く地下莖があり、特徵は葉の下部が略〻鞘形をなし、花は單性、果實は大抵漿果を爲すことである。天南星・白菖等の類。

【天南遯叟】1217 テンナントンソウ 淸、王韜（7－20823・・749）の號。

【天難】1218 テンナン 天の下す禍難。〔潘岳、寡婦賦〕嗟㆓余生之不㆑造兮、哀㆓天難之匪㆑忱。〔注〕良曰、天降禍難。

【天難㆑諶】1219 テンハマコトナリガタシ 天意は不變のものとばかりは信賴し得ない。天は有德の者を助けて其の位を保たせるが、德のない者からは去つて之を助けない。故に天は無德の者に對して常の信はない。〔書、咸有一德〕天難㆑諶、命靡㆑常。〔蔡傳〕諶、信也、天之難㆑信、以㆓其命之不㆑常也、然天命雖㆑不㆑常、而常㆓於有㆑德者㆒、君德有㆑常、則天命亦常而保㆓厥位㆒矣。

【天乳】1220 テンニユウ 星の名。氐宿の北にあり、甘露を掌る。〔列星圖〕天乳一星、在㆓氐北㆒、主㆓甘露㆒。〔張衡、週天大象賦〕陣車雷㆓擊乎其南㆒、天乳露㆓滋乎其北㆒。

【天仁】1221 テンニン 第七十四代鳥羽天皇の年號。（1108－1110）〔大江匡房・菅原在良勘文〕文選曰、統㆑天仁風遐揚。

【天寧】1222 テンネイ ❶宋の徽宗の誕生日。十月十日。〔宋史、徽宗紀一〕丁未、以㆓帝生日㆒爲㆓天寧節㆒。❷寺の名。㋑北京の廣寧門外。後魏の孝文の時建つ。始、光林寺といひ、隋の仁壽中、弘業寺、唐の開元中、天王寺、金の大定中、大萬安寺、明の宣德の時、天寧寺、正統中、萬壽戒壇などいひ、今は天寧寺といふ。〔明一統志〕天寧寺、在㆓順天府西㆒、舊名天王寺、正統七年、重建。㋺江蘇省江都縣の天寧門外。〔江都縣志〕寺在㆓東晉時㆒、爲㆓謝安別墅㆒、義興中、有㆓梵僧佛馱跋陁羅尊者㆒、譯㆓華嚴經㆒、請㆓於謝司空琰㆒、建㆓興嚴寺㆒、宋政和中、改㆓今名㆒。㋩江蘇省武進縣城の東。唐、建つ。有名な古刹で、佛殿宏麗、寺僧甚だ多く、五百羅漢の石刻がある。㋥廣東省海康縣の西關の外。唐の時建つ。舊名は報恩。宋の蘇軾が萬山第一の四字を門に書す。李綱・趙鼎・胡銓等が南に謫せられた時、皆此處に寓した。

【天年】1223 テンネン 天から享けた命數。壽命。天壽。〔戰國、韓策〕老母今以㆓天年㆒終。〔莊子、山木〕得㆑終㆓其天年㆒。〔韓非子、解老〕無㆓禍害㆒、則盡㆓天年㆒。〔史記、刺客、聶政傳〕老母今以㆓天年㆒終。〔漢書、張安世傳〕近㆓醫藥㆒、專㆓精神㆒、以輔㆓天年㆒。

【天年不㆑遂】1224 テンネントゲズ ❶天年を全うしない。〔通俗編、境遇、天年不㆑遂〕後漢書、鄧皇太后立㆓安帝㆒詔、天年不㆑遂、悲痛斷㆑心。〔古樂府、雁門太守行〕天年不㆑遂、早就㆓奄昬㆒。❷後に誤つて、穀物がみのらないことにいふ。凶作。〔通俗編、境遇、天年不㆑遂〕按、今或以㆓歲事不㆑登當㆑之、誤。

【天然】1225 テンネン ❶自然。人爲の加はらぬもの。又、そのこと。❷うまれつき。天性。天禀。〔史記、主父偃傳〕陛下天然之聖、寬仁之資。〔漢書、谷永傳〕天然之性。〔後漢書、賈逵傳〕陛下通㆓天然之明㆒、建㆓大聖之本㆒。❸人力で左右し得ぬ狀態。❹造化の神。造物主。❺唐の僧。初、儒業を習ひ、進士の第に擧げられようとし、禪僧に遇つて悟る所があり、馬大師の弟子となる。後、南陽に棲止し、長慶中、示寂す。寶曆の初、知通禪師を諡せられた。〔宋高僧傳、十一〕・〔琅琊代醉編、三十一〕。

【天然足】1226 t'ien^1 jan^2 tsu^2 纏足しない足。天足。

【天然痘】1227 テンネントウ 傳染病の一種。はうさう。痘瘡。天花。

【天然果實】1228 テンネンクワジツ 物の用法に從つて採取する產出物。鑛物・果物の類。天然滋息。

【天然之姿】1229 テンネンノスガタ 自然のすがた。〔後漢書、鄧隲傳〕陛下躬㆓天然之姿㆒、體㆓仁聖之德㆒。

【天然之德】1230 テンネンノトク 自然に具はつてゐる德。〔後漢書、第五倫傳〕陛下卽位、躬㆓天然之德㆒、體㆓晏晏之姿㆒、以㆓寬弘㆒臨㆑下。

【天然滋息】1231 テンネンジソク 天然果實に同じ。

【天然崇拜】1232 テンネンスウハイ 自然物、又は自然力を神として崇拜すること。自然崇拜（9－30095・・374）に同じ。

【天然地理】1233 テンネンチリ 地球上の自然現象を研究する地理學。自然地理。

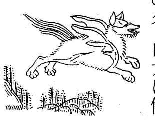
【天然記念物】1234 テンネンキネンブツ 史蹟名勝天然記念物保存法により指定せられた動物・植物・地質・鑛物等の天然物及び自然地域。特有のもの・珍稀のもの・滅亡の惧れあるもの・遺物發見地、其の他、學術研究上必要な地域等で、自然界の紀念として價値あり、且、保護保存を必要とするもの。

【天然色映畫】1235 テンネンシヨクエイグワ 萬物の所有する色彩を其のまま映し出す映畫。

【天然圖畫樓】1236 テンネンヅグワロウ 明、潘允端（7－18236・・117）の室名。

【天波】1237 テンパ ❶天子の恩澤の喩。〔陸機、謝㆓平原內史㆒表〕塵洗㆓天波㆒、謗絕㆓衆口㆒。〔注〕銑曰、天波、喩㆓天子恩澤㆒。〔南史、袁昂傳〕天波既洗、雲油遽沐。❷空をひたす波。〔王維、渡㆑河到㆓清河㆒作詩〕汎㆑舟大河裏、積水窮㆓天涯㆒、天波忽開拆、郡邑千萬家。

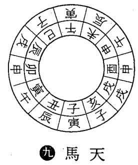
【天葩】1238 テンパ 天然の美しい花。葩は華。〔韓愈、醉贈㆓張祕書㆒詩〕東野動驚㆑俗、天葩吐㆓奇芬㆒。



天馬❸（三才圖會）

【天馬】1239 テンバ ❶上帝が乘つて空を驅ける馬。伯樂星の司る馬。天駟星を以て之に當てる。〔晉書、天文志上〕天駟爲㆓天馬㆒、主㆓車駕㆒。❷轉じて、すぐれた馬。駿馬。特に大宛國產の馬をいふ。汗血馬。其の先は天馬の子であるといふ。❹及び天馬子を見よ。〔漢書、武帝紀〕獲㆓汗血馬㆒來、作㆓西極天馬之歌㆒。〔阮籍、詠懷詩〕天馬出㆓西北㆒、由來從㆓東道㆒。〔王維、送㆔劉司直赴㆓安西㆒詩〕苜蓿隨㆓天馬㆒、蒲萄逐㆓漢臣㆒。❸獸の名。白犬に似て黑頭、人を見れば飛び去るといふ。〔山海經、北山經〕馬成之山、有㆑獸焉、其狀如㆓白犬㆒而黑頭、見㆑人則飛、其名曰㆓天馬㆒、其鳴自訆。❹樂府、漢の郊祀歌の名。十九首の一。漢の武帝の時、大宛國から天馬が來たので作つた。〔史記、樂書〕又嘗得㆓神馬渥洼水中㆒、復次以爲㆓太一之歌㆒、歌曲曰、太一貢兮天馬下、霑㆓赤汗㆒兮沫流㆑赭、騁容與兮跇㆓萬里㆒、今安匹兮龍爲㆑友、後伐㆓大宛㆒、得㆓千里馬㆒、馬名㆓蒲梢㆒、次作以爲㆑歌、歌詩曰、天馬來兮從㆓西極㆒、經㆓萬里㆒兮歸㆓有德㆒、承㆓靈威㆒兮降㆓外國㆒、涉㆓流沙㆒兮四夷服。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕太一況天馬下、霑㆓赤汗㆒沫流㆑赭、志俶儻精權奇、籋㆓浮雲㆒晻上馳、體容與迣㆓萬里㆒、今安匹龍爲㆑友、元狩三年、馬生㆓渥洼水中㆒作、天馬徠從㆓西極㆒、涉㆓流沙㆒九夷服、天馬徠出㆓泉水㆒、虎脊兩化若㆑鬼、天馬徠、歷㆓無草㆒徑㆓千里㆒循㆓東道㆒、天馬徠執徐時、將㆓搖擧㆒誰與期、天馬徠開㆓遠門㆒、竦㆓予身㆒逝㆓昆侖㆒、天馬徠龍之媒、游㆓閶闔㆒觀㆓玉臺㆒、天馬十、太初四年、誅㆓宛王㆒獲㆓宛馬㆒作。〔樂府詩集、郊廟歌辭、漢郊祀歌、天馬〕漢書武帝紀曰、元鼎四年秋、馬生㆓渥洼水中㆒、作㆓天馬之歌㆒、太初四年春、貳師將軍李廣利斬㆓大宛王首㆒、獲㆓汗血馬㆒來、作㆓西極天馬之歌㆒、禮樂志曰、天馬歌、元狩三年、馬生㆓渥洼水中㆒作、李斐曰、南陽新野有㆓暴利長㆒、武帝時遭㆑刑、屯㆓田燉煌界㆒、數於㆓渥洼水旁㆒、見㆓羣野馬㆒、中有㆓奇者㆒、與㆓凡馬㆒異、來飲㆓此水㆒、利長先作㆓土人㆒、持㆓勒靽㆒於水旁㆒、後馬玩習、久㆑之代㆓土人㆒持㆓勒靽㆒、收得㆓其馬㆒獻㆑之、欲㆔神㆓異之㆒、云㆘從㆓水中㆒出㆖也、西域傳曰、大宛國、多㆓善馬㆒、馬汗㆑血、言㆓其先天馬子㆒也、應劭云、大宛有㆓天馬種㆒、蹏蹋㆑石汗㆑血、蹋㆑石者、謂㆓蹋㆑石而有㆑跡、言㆓其蹏堅利㆒、汗㆑血者、謂㆘汗從㆓前肩髆㆒出如㆖㆑血、號㆓一日千里㆒也、張騫傳曰、漢武帝初、發㆓書易㆒曰、神馬當㆘從㆓西北㆒來㆖、得㆓烏孫馬㆒好、名曰㆓天馬㆒、及㆑得㆓宛馬㆒、汗㆑血益壯、更名㆓烏孫馬㆒曰㆓西極馬㆒、宛馬曰㆓天馬㆒云、按、史記樂書稱、武帝伐㆓大宛㆒得㆓千里馬㆒、名㆓蒲梢㆒、作㆑歌曰、天馬來兮從㆓西極㆒、經㆓萬里㆒兮歸㆓有德㆒、承㆓靈威㆒兮降㆓外國㆒、涉㆓流沙㆒兮四夷服、與㆑此不㆑同。〔古樂府、天馬〕太一況、天馬下、霑㆓赤汗㆒、沫流㆑赭、志俶儻、精權奇、籋㆓浮雲㆒、晻上馳、體容與、迣㆓萬里㆒、今安匹、龍爲㆑友。❺狐の毛皮。白狐の毛皮。〔淸一統志〕沙狐、生㆓沙磧中㆒、身小色白、皮集爲㆑裘、在㆓腹下㆒者名㆓天馬皮㆒、頷下者名㆓烏雲豹㆒、皆貴重。❻手を

いふ。〔眞誥〕手、爲二天馬一。〔李商隱、爲二擧人一上二翰林蕭侍郎一啓〕手爲二天馬一、心繪二國圖一。❼蟲の名。かまきり。いぼじり。いぼむしり。〔爾雅翼〕螗蜋、世謂二之天馬一、蓋驤レ首奮レ臂、頸長而身輕、其行如レ飛、有二馬之象一。❽洛陽の宮城內にあつた銅製の馬をいふ。〔張衡、東京賦〕龍雀蟠蜿、天馬半漢。〔注〕綜曰、天馬、銅馬也、善曰、華嶠後漢書曰、明帝至二長安一、迎二取飛廉幷銅馬一、置二上西門平樂觀一也。❾叢辰の名。天の驛騎。正月午に起り、六陽辰を順行する。此の日は公卿を拜し、賢良を擇び、政事を宣布し、遠行出征するに宜しい。〔協紀辨方書、義例、四、天馬〕神樞經曰、天馬者、天之驛騎也、其日宜下拜二公卿一、擇二賢良一、宣二布政事一、遠行出征上、李鼎祚曰、天馬者、正月起レ午、順二行六陽辰一。❿關の名。雲南省の騰越八關の一。明の萬曆二十二年に置き、猛廣・猛密・猛曲等の路を控制す。騰衝から緬甸に至る要道。〔讀史方輿紀要、雲南、永昌軍民府保山縣〕天馬關、在二府南境一、又有二漢龍關一、萬曆二十一年、緬蠻入寇、撫臣陳用賓擊走レ之、遂城二天馬・龍漢二關一、是也。⓫山名。㋑江蘇省松江縣の西北。干山(4－9165・・39)を見よ。㋺江西省上饒縣の南。㋩雲南省澂江縣の東南。峯は馬形をなし、東は大池江、南は撫仙湖、北は湯池を望む。〔讀史方輿紀要、雲南、澂江府、陽宗縣〕天馬山、在二炒甸南三十里一、山形肖レ馬、故名。



天馬❾（協紀辨方書）

【天馬歌】1240 テンバカ　漢の郊祀歌の名。天馬の❹を見よ。

【天馬子】1241 テンバノコ　大宛國に產する名馬。其の先は天馬の子といふ。天馬の❷に同じ。〔史記、大宛傳〕多二善馬一、馬汗レ血、其先天馬子也。〔注〕集解曰、漢書音義曰、大宛國、有二高山一、其上有レ馬、不レ可レ得、因取二五色母馬一、置二其下一、與交生レ駒、汗レ血、因號曰二天馬子一。

【天馬媒】1242 テンババイ　戲曲の名。清、劉晉充撰。

【天馬皮】1243 テンバヒ　白狐の毛皮。天馬の❺を見よ。

【天馬毛】1244 tʻien^1 ma^3 mao^2　衣服の襟に用ひる兎の毛。

【天馬徠】1245 テンバライ　漢の郊祀歌の名。天馬の❹を見よ。

【按二天馬一】1246 テンバヲアンズ　手を揉むこと。〔海錄碎事、道釋、養生〕清晨按二天馬一、馬、手也。

【天馬行レ空】1247 テンバクウヲユク　天馬が大空をかけめぐる。文勢・筆勢などの秀でてゐる形容。又、思想・行動などの束縛なく自由なさまを形容するに用ひる。天馬(1239)の❹を見よ。

【天馬山房】1248 テンバサンバウ　明、朱淛(6－14424・・412)の室名。

【天馬山房遺集】1249 テンバサンバウキシフ　書名。八卷。明、朱淛撰。其の文は南洋水利の議、山寇・海寇の防衛等を論じ、其の詩は和平である。〔四庫提要、集、別集類〕。

【天杯】1250 テンパイ　天子から賜はる盃。天盃。〔上官昭儀、駕幸二三會寺一應制詩〕宸翰陪二瞻仰一、天杯接二獻酬一。〔沈佺期、三日梨園侍宴詩〕野花飄二御座一、河柳拂二天杯一。〔無可、菊詩〕野香盈二客袖一、禁蕊泛二天杯一。

【天廢】1251 テンパイ　天がすてる。天がすててかへりみぬこと。〔資治通鑑、宋紀〕(明帝、泰始七年)裴子野論、宋德告レ終、非二天廢一也。

【天方】1252 テンパウ　國の名。天堂に同じ。天堂(998)の❺を見よ。〔明外史、天方傳〕天方、古筠冲地、一名二天堂一、又曰二默伽水道一。

【天方國】1253 tʻien^1 fang^1 kuo^2　アラビヤ。天方を見よ。

【天方夜譚】1254 tʻien^1 fang^1 yeh^4 tʻan^2　書名。千一夜話。アラビヤンナイト（Arabian Night）をいふ。

【天方至聖實錄年譜】1255 テンパウシセイジツロクネンプ　書名。二十卷。清、劉介廉撰。回教の祖マホメットの生涯を書いたもの。

【天放】1256 テンパウ　自然のままで放逸なこと。〔莊子、馬蹄〕一而不レ黨、命曰二天放一。〔司空圖、詩品〕若二其天放一、如レ是得レ之。

【天放樓】1257 テンパウロウ　清、趙烈文(10－37171・・946)の室名。

【天放山人】1258 テンパウサンジン　清、陳履謙(11－41698・・1294)の號。

【天放野人】1259 テンパウヤジン　明、豐越人(10－36304・・228)の號。

【天保】1260 テンパウ　❶天が安らかにしてくれる。天が天子の地位を安定させてくれること。轉じて、天子の位をいふ。〔詩、小雅、天保〕天保定二爾一、亦孔之固。〔箋〕保、安、爾、女也、女、王也、天之安二定女一、亦甚堅固。〔史記、周紀〕惟天建レ殷、其登二名民三百六十夫一、不レ顯、亦不二賓滅一、以至レ今、我未レ定二天保一、何暇レ寐。〔潘岳、西征賦〕夜申旦而不レ寐、憂二天保之未一レ定。〔庾信、哀江南賦〕嗟天保之未レ定、見二殷憂之方始一。❷詩經、小雅、鹿鳴之什の篇名。美を君に歸し、君に福祿あらんことを歌つたもの。〔詩、小雅、天保序〕天保、下報レ上也、君能下レ下、以成二其政一、臣能歸レ美、以報二其上一矣。❸山名。廣西省天保縣。舊名は嚮泉山。明初、土知府岑天保を山下に葬り、其の德を思うて名づく。❹城の名。江蘇省江寧縣城の東、鍾山西峰の巓。地勢險惡、戰蹟に富み、今、浙軍紀念塔がある。❺縣名。清、置く。廣西省田南道。〔清史稿、地理志〕廣西、鎭安府、縣一、天保。❻年號。㋑北齊、文宣帝、高洋の時。(550－559) ㋺梁、明帝、蕭巋の時。(562－585) ㋩第百二十代仁孝天皇の御代。(1830－1844) ❼明、周祚(2－3441・・341)の字。❽天保錢の略。

【天保學】1261 テンパウガク　水戶學をいふ。

【天保汎】1262 テンパウシン　軍隊の名。一名、偏保。雲南省西疇縣の西南、清水河の東岸、汎長之に駐在し、麻栗坡對汎督辨に屬す。其の西岸は船頭寨。

【天保錢】1263 テンパウセン　❶天保六年に鑄造した銅錢。小判形で、中央に方形の孔があり、表に天寶通寶の四字、裏に當百の二字を鑄す。❷此の錢は明治以後は八厘に通用し、一錢に足らぬので、轉じて、役に立たぬ者を賤しめていふ稱となる。

【天保九如】1264 テンパウキウジヨ　壽を祝する詞。天保は詩經、小雅の篇名。其の詩は、君の長壽福祿を祈り、其の句中に如の字が九個あるによつて生まれた語。〔詩、小雅、天保〕天保定二爾一、以莫レ不レ興、如レ山如レ阜、如レ岡如レ陵、如二川之方至一、以莫レ不レ增、云云、如二月之恆一、如二日之升一、如二南山之壽一、不レ騫不レ崩、如二松柏之茂一、無レ不二爾或承一。

【天報】1265 テンパウ　天が報いる。又、天の報、自然のむくい。〔史記、吳王濞傳〕蓋聞、爲レ善者、天報レ之以レ福、爲レ非者、天報レ之以レ殃。〔說苑、談叢〕爲レ善者、天報以レ福。〔後漢書、魯恭傳〕愛レ人者、必有二天報一。

【天棓】1266 テンパウ　❶星の名。〔呂覽、明理〕其星有二熒惑一、有二彗星一、有二天棓一、有二天欃一。〔史記、天官書〕紫宮右五星曰二天棓一。〔漢書、天文志〕右四星曰二天棓一。❷武具の名。〔六韜、虎韜、軍用〕方首鐵棓維肦、重十二斤、柄長五尺以上、千二百枚、一名二天棓一。

【天棚】1267 テンパウ　夏日、暑熱を避ける爲に中庭に高く木を架し、あんぺらを張つて日蔽ひとしたもの。〔遼史、禮志一〕若旱、擇二吉日一行二瑟瑟儀一以祈レ雨、前レ期置二百柱天棚一。

【天寶】1268 テンパウ　❶天の與へた寶物。又、天然の珍寶。天琛。〔王勃、滕王閣序〕物華天寶、龍光射二斗牛之墟一。❷神の名。陳寶(11－41698・・506)の❸を見よ。〔揚雄、羽獵賦〕追二天寶一、出二一方一。〔注〕善曰、應劭曰、天寶、陳寶也、晉灼曰、天寶、雞頭而人身。〔李白、大獵賦〕獲二天寶於陳倉一、載二飛熊於渭濱一。❸道家の語。道教は初中上の三境に分け、上教を洞眞天寶といふ。〔雲笈七籤〕既登二上境一、智用無レ滯、故上教名二洞眞天寶一也。❹山名。㋑河北省宛平縣。石炭を產す。㋺滿洲吉林省延吉縣の西。鑛物に富む。輕便鐵道が通じて朝鮮の圖們鐵道と接す。㋩福建省龍溪縣の西北。〔讀史方輿紀要、漳州府、龍溪縣〕天寶山、府西三十里、王峯峭立、周百餘里、郡之望山也。㋥四川省會理縣。❺洞の名。江西省新建縣の西。西山の最勝の處。〔讀史方輿紀要、江西、南昌府、新建縣〕西山、在二城西大江之外三十里一、一名厭原山、又名二南昌山一、云云、又蛇行十里、得二天寶洞一、洞爲二山最勝處一。❻年號。㋑唐、玄宗、李隆基の時。(742－756) ㋺五代十國の一、吳越の太祖、錢鏐の時。(908－923) ❼後魏、爾朱榮(7－19750・・39)の字。

【天寶當年】1269テンパウタウネン 唐の玄宗の天寶のあの時代。轉じて、古の盛時を追想する語。唐の元稹の詩に本づく。〔元稹、行宮詩〕寥落古行宮、宮花寂莫紅、白頭宮女在、閑坐說㆓玄宗㆒。〔薛逢、社日遊㆓開元觀㆒詩〕因求天寶年中夢、故事分明載㆓折碑㆒。

【天亡】1270テンバウ 天が亡ぼす。〔史記、項羽紀〕天亡㆑我、非㆓用㆑兵之罪㆒也。〔後漢書、齊武王縯傳〕王莽暴虐、百姓分崩、今枯旱連年、兵革並起、此亦天亡之時。

【天氓】1271テンバウ 天の生じた民。人民。天民(1397)の❷に同じ。〔韓愈、柳州羅池廟碑〕茲土雖㆑遠㆓京師㆒、吾等亦天氓。

【天望】1272テンバウ ❶人の死んだ直後、天を望んで叫び魂氣を招くこと。〔禮、禮運〕及㆓其死㆒也、升㆑屋而號曰、皐某復、然後飯㆑腥而苴㆑孰、故天望而地藏也。〔疏〕天望、謂㆓始死望㆑天而招㆑魂。❷天下の仰望。〔後漢書、蔡邕傳〕思㆓惟萬機㆒、以答㆓天望㆒。

【天麥】1273テンバク 天の與へた麥。天のめぐみによって生長した麥。〔異苑、四〕涼州張駿字公彥、九年、天雨㆓五穀於武威・燉煌㆒、植㆑之悉生、因名㆓天麥㆒。

【天瀑】1274テンバク 林衡の號。林述齋(**6－14551**‥355)を見よ。

【天鉢】1275テンパツ 天から降った鉢。香飯が滿ち、之を食へば七日も餓ゑぬといふ。〔異苑〕汲郡衞士度、母家常飯㆑僧、時日將㆑中、母出㆓齋堂㆒、與㆓諸尼僧㆒逍遙眺望、忽見㆓空中有㆓一物下㆒、正落㆓母前㆒、乃是天鉢、中滿㆓香飯㆒、母自分㆓行齋人㆒食㆑之、皆七日不㆑飢。〔黃庭堅、天鉢禪院準禪師舍利塔記〕維東福勝、故號㆓天鉢㆒。

【天罰】1276テンバツ 上帝の加へる罰。神罰。天刑。〔書、甘誓〕今予惟恭行㆓天之罰㆒。〔書、泰誓上〕以㆓爾有衆㆒底㆓天之罰㆒。〔傳〕用㆓汝衆㆒致㆓天罰於紂㆒。〔左氏、昭、二十六〕毋㆑速㆓天罰㆒。〔國語、晉語五〕晉爲㆓盟主㆒、而不㆑脩㆓天罰㆒。〔列子、力命〕可㆓以生㆒、而不㆑生、天罰也。〔淮南子、道應訓〕熒惑、天罰也。〔漢書、敍傳下〕龔行㆓天罰㆒。

【天半】1277テンパン そらのなかば。中天。〔晉書、天文志上〕地處㆓天之半㆒。〔李白、瑩禪師房觀㆓山海圖㆒詩〕征帆飄㆓空中㆒、瀑水灑㆓天半㆒。〔儲光羲、貽㆓劉高士㆒別詩〕初日照㆓龍闕㆒、峩峩在㆓天半㆒。〔張問陶、由㆓三分水㆒至㆓楠木園㆒出㆓巫峽㆒詩〕江聲蟠曲亂山開、天半濛濛萬古苔。

【天半朱霞】1278テンパンノシユカ ❶中天の赤い霞。人品が高く秀でて衆目を引くにいふ。〔南天、劉訏傳〕訏超超越㆑俗、如㆓天半朱霞㆒。❷テンパンシユカ 北京人の愛好する菊花の一。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按㆓日下舊聞考㆒、蓋京師之菊種亟繁、天半朱霞。

【如㆓天半雲㆒】1279テンパンノクモノゴトシ 中天にたなびく雲に似てゐる。山などの聳え立つさま。霞は、雲霧が日光に赤く染つてゐるもの。〔三秦記〕華山在㆓長安東三百里㆒、不㆑知㆓幾千仞㆒、如㆓天半之雲㆒。

【天畔】1280テンパン 天のあたり。遙かな所。〔杜甫、卽事詩〕天畔羣山孤草亭、江中風浪雨冥冥。〔宋之問、新年作詩〕鄉心新歲切、天畔獨潸然。

【天晚】1281テンバン 日の暮。夕方。〔許渾、晚泊㆓七里灘㆒詩〕天晚日沈沈、歸舟繫㆓柳陰㆒。

【天晚了】1282 t'ien^1 wan^3 la 時刻がおそくなった。

【天盤】1283テンバン ❶堪輿家の用ひる羅針盤の一。十二支を以て十二宮と爲し、每宮、雙山共に二層、一は左旋して天運に應じ、一は右轉して天度に應じ、格龍及び消砂・納水の用を爲す。〔九天元女青囊海角經、浮針方氣之圖說〕元女畫以㆓太陽出沒㆒、而定㆓方所㆒、夜以㆓子宿分野㆒、而定㆓方氣㆒、因㆓蚩尤㆒而作㆓指南㆒、是以得㆓分㆑方定㆑位之精微㆒、始有㆓天干方所、地支方氣㆒、後作㆓銅盤㆒、合局二十四向、天干輔而爲㆓天盤㆒、地支分而爲㆓地盤㆒。❷術數家の用ひる器。天上十二辰の分野を作って、隨時に轉移することが出來るやうにしたもの。〔奇門遁甲、天盤星圖〕此天盤九星、隨㆓時于直符所㆑指而轉移。

【天妃】1284テンピ ❶海神の名。〔通雅〕水神屬㆑陰、故曰㆓天妃㆒。〔元史、世祖紀七〕正善慶顯濟㆓天紀㆒。〔元史、祭祀志五〕南海女神靈惠夫人、至元中以㆘護㆓海運㆒有㆗奇應㆖、加㆓封天妃㆒。〔剪燈新話、水宮慶會錄〕天妃捧㆓玉盤㆒。〔通俗編、神鬼、天妃〕潛說友臨安志、神爲㆓五代時閩王統軍兵馬使林願第六女㆒、能乘㆑席度㆑海、雲㆓游島嶼㆒、人呼㆓龍女㆒、宋雍熙四年昇化。〔琅琊代醉編、天妃〕天妃宮、江淮海神、多有㆑之、其神爲㆓女子三人㆒。〔陔餘叢考、天妃〕江淮間操㆑舟者、率奉㆓天妃㆒、而海上尤甚。❷辯才天(**10－38677**‥24)の異稱。

【天妃閘】1285テンピカフ 江蘇省淮陰縣の北、草壩下の北岸に在る水門。明の潘季馴が建濟閘を甘羅城南泰山墩に移して天妃閘としたのを、清の時、今の地に移す。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、山陽縣〕通濟閘、在㆓淮陰故城南㆒、卽濁水入㆑淮處、云云、隆慶中、河臣萬恭復開㆓天妃口閘㆒以濟㆑運、既而復閉㆓天妃口閘㆒、繇㆓通濟閘㆒、六年、河臣潘季馴奏遷㆓通濟閘於甘羅城南㆒、今因㆑之。

【天庇】1286テンピ 天の加護。又、君主の加護。〔齊映、出官後自敍表〕臣有㆓微功㆒、實由㆓天庇㆒。

【天飛】1287テンピ 清、張鵬翀(**4－9812**‥1521)の字。

【天扉】1288テンピ 清、張鵬翀(**4－9812**‥1521)の字。

【天鄙】1289テンピ 東夷の九種族の一。〔禮、王制、東方曰㆑夷、疏〕東夷傳九種、一曰元菟、二曰樂浪、三曰高驪、四曰滿飾、五曰鳧臾、六曰索家、七曰東屠、八曰倭人、九曰天鄙。

【天畢】1290テンピツ 星の名。畢星。〔詩、小雅、大東〕有㆓捄天畢㆒、載施㆓之行㆒。〔集傳〕天畢、畢星也。〔張衡、西京賦〕華蓋承㆑辰、天畢前驅。

【天筆】1291テンピツ 天子の筆。宸筆。〔孔稚珪、上㆓新定律注㆒表〕聖照玄覽、斷自㆓天筆㆒、始就㆓成立㆒。〔李白、溫泉侍從詩〕激賞搖㆓天筆㆒、承㆑恩賜㆓御衣㆒。

【天牝】1292テンピン 海をいふ。〔太玄經、飾〕次五、下言如㆑水、實以㆓天牝㆒。〔司馬光注〕天牝、謂㆑海也、海自下而百川赴㆑之、故能成㆓其大㆒、君自下而衆善歸㆑之、故能成㆓其聖㆒。

【天稟】1293テンピン 天から受けた性質。うまれつき。天賦。天然。〔宋史、呂公著傳〕暑不㆑揮㆑扇、寒不㆑親㆑火、簡重清靜蓋天稟然。〔宋史、溫益傳〕益仕宦從㆑微至㆑著、無㆓片善可㆑紀、至㆓其狡譎傅會㆒、蓋天稟然。〔王安石、酬㆓王伯虎㆒詩〕予生少而戇、好㆑古乃天稟。

【天父】1294テンプ ❶天の父。天帝。〔魏志、高柔傳〕臣愚以爲、宜㆘除㆓妖謗賞告之法㆒、以隆㆗天父養物之仁㆖。❷天子をいふ。〔宋書、禮志一〕安有㆘天父之尊而稱㆓臣下之命㆒、以納㆗伉儷㆖、安有㆘臣下之卑而稱㆓天父之名㆒、以行㆗大禮㆖。

【天父天兄天王太平天國】1295テンプテンケイテンワウタイヘイテンゴク 清の道光中、洪秀全の建てた國號。太平天國(**3－5834**‥447)の❶を見よ。

【天付】1296テンプ ❶天の授けたうまれつき。天生。天賦。天稟。〔舊唐書、僖宗紀〕神傳將略、天付忠貞。❷天のしわざ。〔韻府引、文同、詩〕中閒列㆓亭榭㆒、佳景實天付。

【天布】1297テンプ 天が無心で萬物にあまねく施すこと。〔莊子、列禦寇〕施㆓於人㆒而不㆑忘、非㆓天布㆒也。〔唐書、柳公綽傳〕太醫箴曰、天布㆓寒暑㆒、不㆑私㆓於人㆒。

【天巫】1298テンプ 叢神の名。月中の善神。常に月建前の二辰に居る。此に當る日は藥を調合し、神願を求める等に宜しい。〔協紀辨方書、義例二、滿〕總要曆曰、天巫者、月中善神也、所㆑値之日、宜㆘合㆑藥請㆑醫、祀㆓鬼神㆒、求㆗福願㆖、曆例曰、常居㆓月建前二辰㆒。

【天府】1299テンプ ❶自然の府庫。天然の要害を爲し、地味が肥沃で、財物が多い土地。〔戰國、秦策〕蘇秦始將㆓連橫㆒說㆓秦惠王㆒曰、大王之國、西有㆓巴蜀漢中之利㆒、北有㆓胡貉代馬之用㆒、南有㆓巫山黔中之限㆒、東有㆓殽函之固㆒、田肥美、民殷富、戰車萬乘、奮擊百萬、沃野千里、蓄積饒多、地勢形便、此所謂天府、天下之雄國也。〔史記、劉敬傳〕且夫秦地被㆑山帶㆑河、四塞以爲㆑固、卒然有㆑急、百萬之衆可㆑具也。因㆓秦之故資、甚美膏腴之地㆒、此所謂天府也。〔後漢書、耿弇傳〕據㆓天府之地㆒、以㆑義征伐。〔蜀志、諸葛亮傳〕益州險塞、沃野千里、天府之土、高祖因㆑之、以成㆓帝業㆒。❷天然の藏は、取っても盡きぬことから轉じて、學問の深遠なこと、或は道を體得したもの、學問の深いものにいふ。〔莊子、齊物論〕孰知㆓不言之辯、不道之道㆒、若有㆓能知㆒、此之謂㆓天府㆒。〔注〕浩然都任㆑之也。〔荀子、大略〕六貳之博、則天府已。〔注〕求㆓財於六貳之博㆒、得㆑之不㆑窮、故曰㆓天府㆒、天府、天之府藏。〔集解〕盧文弨曰、貳、當㆑作㆑埶、聲之誤也、卽六經也。❸宮中の府庫。天子のくら。〔魏書、韓顯宗傳〕猥損㆓天府之儲㆒。〔晉書、武帝紀〕詔以制㆑幣告㆓于太廟㆒、藏㆓之天府㆒。〔宋書、後廢帝紀〕天府虛

散、垂三十年。❹周官の名。春官の屬。祭器・寶物・官文書等の守藏を掌る。〔周禮、地官、鄕大夫〕再拜受之、登于天府。〔注〕天府、掌祖廟之寶藏者。〔周禮、春官、天府〕天府、掌祖廟之守藏與其禁令、凡國之玉鎭大寶器藏焉。❺星の名。〔漢書、天文志〕房爲天府。〔星經〕亢四星、名天府、一名天庭、總四海。❻天に在るといふくら。〔開元天寶遺事〕遊月宮、見天府。❼天上にある天神の役所。〔脞說〕申天府。❽身體の一部の名。肘後の內側にある脈。〔素問、至眞要大論〕天府絕、死不治。〔注〕天府、在肘後內側。

〖天府之國〗1300 テンプノクニ 天然の要害を以て守られ、且、財物が多く、自然の府庫を爲してゐる國。天産の豐かな國。〔史記、留侯世家〕夫關中左殽函、右隴蜀、沃野千里、南有巴蜀之饒、北有胡苑之利、阻三面而守、獨以一面東制諸侯、諸侯安定河渭、漕輓天下、西給京師、諸侯有變、順流而下、足以委輸、此所謂金城千里、天府之國也。

〖天府之險阻〗1301 テンプノケンソ 天然の險しい要害。〔蜀志、法正傳〕資益州之殷富、馮天府之險阻。

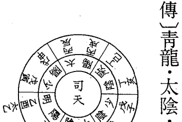
【天斧】1302 テンプ ❶星の名。〔星經〕木星、春夏木、秋冬水、一名天斧、二名天關、三名天機。❷武具の名。〔六韜、虎韜、軍用〕伐木天斧、重八斤、柄長三尺以上。

【天阜】1303 テンプ 遼の天祚帝の時、蕭幹の僭年號、大嗣の一稱。(1122－1123)

【天浮】1304 テンプ ❶武具の名。〔六韜、虎韜、軍用〕以天浮張飛江、濟大海、謂之天潢。❷星の名。〔星經〕四天浮星、在左旗南北列、主漏刻。

〖天浮橋〗1305 アマノウキハシ 神代に、天地の間に架けわたしたといふ橋。〔日本書紀、神代紀上〕伊奘諾尊・伊奘冉尊、立於天浮橋之上、共計曰、底下豈無國歟。

【天符】1306 テンプ ❶天の降す祥瑞。天祥。天瑞。又、天の符命。〔呂覽、知度〕唯彼天符、不周而周。〔漢書、王莽傳上〕天符仍臻、元氣大同。〔吳志、魯肅傳〕終搆帝基、以協天符。〔晉書、戴洋傳〕天符有吉凶、土地有盛衰。〔宋書、樂志四〕永世合天符。❷草の名。〔韻府引本草〕天符、草名、葉如荔支長。❸星の名。天禽。〔星經〕氐、一名天符。〔舊唐書、舒元輿傳〕青龍・太陰・天符・攝提。❹天の運行を掌る司天の氣と、地上の運行を掌る中氣とが其の運行を同じく合した時をいふ。符は合。〔汪機運氣易覽、論天符〕司天者、司直也、主行天之令、上之位也、歲運者、運動也、主天地間人物化生之氣、中之位也、在泉者、主地之化、行乎地中、下之位也、一歲之中、有此上中下三氣、各行化令、而氣偶符會而同者、則同其化、雖無剋復之變、則有中病徐暴之異、是謂當年之中、司天之氣與中氣運同者、命曰天符、符之爲言、合也、天符共十二年、中又有與當年十二律五行同者、又是歲會、命曰太乙天符、太乙者、尊之之號也。



天符❹之圖
(汪機運氣易覽)

〖天符睿武〗1307 テンプエイブ 北宋、徽宗の時、大越(安南)の仁宗、李乾德の年號。(1120－1127)

〖天符慶壽〗1308 テンプケイジュ 南宋の初、越(安南)の仁宗、李乾德の年號。(1127)

【天賦】1309 テンプ 天が與へる。又、天から與へられたもの。又、うまれつき。もちまへ。天付。天授。天稟。〔劉峻、辨命論〕所謂命者、死生焉、貴賤焉、貧富焉、治亂焉、禍福焉、此十者、天之所賦也。〔舊唐書、僖宗紀〕神資壯烈、天賦機謀。〔陸龜蒙、茶人詩〕天賦識靈草、自然鍾野姿。

〖天賦人權說〗1310 テンプジンケンセツ 人權は天が人類に平等に賦與したもので、他人の侵犯を許さぬといふ法律上の學說。

【天武】1311 テンブ ❶天が掌る武。又、天が武を掌ること。〔國語、楚語下〕王曰、三事者何也、對曰、天事武、地事文、民事忠信。〔逸周書、大明武解〕畏嚴大武曰、維四方畏威乃寧、天作武修戎兵、以助義正違。❷隋、竇毅(**8－25695**・・14)の字。❸テンム 第四十代の帝諡。

【天部】1312 テンブ ❶天の區分。二十八宿の區分をいふ。〔史記、歷書〕招致方士唐都、分其天部。〔注〕集解曰、漢書音義曰、謂分部二十八宿爲距度。❷天文・曆數等を司る官。欽天監。〔拾遺記、三〕錄曰、宋子韋世司天部妙觀星緯、抑亦梓愼裨竈之儔。❸二十八宿の配置の如くに列すること。〔江淹、爲蕭驃騎謝甲杖入殿表〕官騎辰居、羽林天部。

【天風】1313 テンプウ ❶天の風。空吹く風。あまつかぜ。〔易卦象歌〕乾爲天風。〔蔡邕、飮馬長城窟行〕枯桑知天風、海水知天寒。〔王守仁、泛海詩〕波靜海濤三萬里、月明飛錫下天風。❷民國、胡適(**9－29400**・・272)の號。

〖天風堂〗1314 テンプウダウ 明、李開芳(**6－14459**・・928)の室名。

〖天風海濤亭〗1315 テンプウカイタウテイ 亭の名。宋の時建つ。福建省閩侯縣、鼓山の上。朱子の書額等がある。

【天覆】1316 テンプウ ❶天が萬物をおほうてゐること。〔中庸〕天之所覆、地之所載。〔莊子、天下〕天能覆之、而不能載之。❷天が廣くおほふやうに、恩澤が廣く及ぶこと。〔漢書、匡衡傳〕陛下聖德天覆、子愛海內。〔後漢書、霍諝傳〕天覆厚恩。

〖天覆之心〗1317 テンプウノココロ 天が萬物を覆育するやうに、ひろくゆきわたる仁愛の心。〔說苑、至公〕孔子懷天覆之心、挾仁聖之德。

〖天覆地載〗1318 テンプウチサイ 天は上にあつて萬物を覆ひ、地は下にあつて萬物を載せ保つ。轉じて、天地のやうに廣大な仁慈。〔中庸〕天之所覆、地之所載。

【天復】1319 テンプク 年號。❶唐、昭宗、李傑の時。(911－914) ❷遼、天祚帝の時、奚酋、回離保の僭年號。(1123)

【天福】1320 テンプク ❶天の與へるさいはひ。〔左氏、襄、二十六〕此湯所以獲天福也。〔列子、力命〕可以生而生、天福也。〔漢書、宣帝紀〕朕之不德、屢獲天福。❷星の名。天輻を見よ。〔星經〕天福三星、在房西。❸年號。㋑五代、後晉、高祖、石敬塘・出帝、石重貴の時。(936－944) 後漢の劉智遠、襲いで之を稱す。㋺遼の時、耶律淳の僭年號、建福の一稱。(1122) ㋩宋の時、大越(安南)の大行皇、黎桓の時。(980－988) ㋥宋、高宗の世、西遼の承天后蕭氏の年號、崇福の一稱。(1154－1167)一說、(1164－1178)㋭第八十七代四條天皇の御代。(1133－1134) ❹宋、高錫(**12－45313**・・537)の字。

【天輻】1321 テンプク 星の名。天福ともいふ。〔隋書、天文志〕房西二星、南北列曰天輻、主乘輿之官。

【天物】1322 テンブツ 天然に生じた物。天の與へたもの。〔商子、算地〕夫棄天物遂民淫者、世主之務過也。〔後漢書、鄧皇后紀〕覽總大麓、經營天物。

〖暴天物〗1323 テンブツヲソコナフ 天の生じた物をそこなふこと。禮法を亂すこと。〔書、武成〕暴殄天物、害虐烝民。〔疏〕謂天下百物、鳥獸草木、皆暴絕之。〔禮、王制〕田不以禮、曰暴天物。〔陸龜蒙、南涇漁父詩〕孜孜戒吾屬、天物不可暴。

〖暴殄天物〗1323 テンブツヲバウテンス 天の生じて與へてくれた品物をそこなひすてる。又、禮法をみだすことにもいふ。暴天物に同じ。

【天分】1324 テンブン ❶天の分け與へたもの。天與の才能。天稟の性。〔列子、天瑞〕精神者、天之分。〔魏志、管輅傳、注〕至於推運會、論災異、自當出吾天分。〔世說新語、賢媛〕王江州夫人語謝遏曰、汝何以都不復進、爲是塵務經心、天分有限。❷天が分れる。〔陸雲、九愍〕迹同塵而擴絕、景和光而天分。

〖天分高〗1325 t'ien^1 fen^4 kao^1 生れつき賢い。天性怜悧。

【天文】1326 テンブン テンモン ❶天空の現象。日月星辰などをいふ。天の紋樣の意。天官。天章。天文學を見よ。〔易、繫辭上〕仰以觀於天文、俯以察於地理。〔史記、秦始皇紀〕上具天文、下具地理。〔漢書、宣元六王、楚孝王囂傳〕頗知天文。〔何晏、景福殿賦〕遠而望之、若摛朱霞而耀天文。〔蜀志、杜瓊傳〕初不視天文、有所論說。〔六部成語、禮部、天文、注解〕天上星象之事、統名曰天文。❷テンブン 第百五代後奈良天皇の年號。(1532－1555)

〖天文學〗1327 テンモンガク 天體の距離・大きさ・運行等すべて天體に關することを研究する學問。中國に於ける天文學の源は古く、上古は月の朔望によつて日を數へる方法を用ひた。堯舜時代に至り、漸く農業時代に入ると共に、四時の變化を明かにして、民に季節を授ける必要が起つたので、所謂觀象授時は政治の要務となるに至つた。而して季節を定める爲に觀測した標準とな

る星象を辰と稱し、其の內容は參・大火・北斗・十二辰・日等と次第に轉移し、更に二十八宿法を用ひるに至つた。春秋時代の中頃に至り、周髀（垂直に立てる俸）によつて日影を計る法が始まり、其の最長最短の時を日至と稱した。戰國時代に入り、歲星による紀年法の創案、五行星運の觀測、五行道の唱道、恆星天の測定、甘石星經の編纂、星占の爲の分野法の創案等があり、次いで漢の武帝の太初元年には、始めて太初曆の制定となつた。近世に至り、西洋天文學の輸入と共に航海天文學・星辰天文學等が發達し、又、近時は太陽理學・天體物理學の發展と共に在來の天文學は長足の進步をなした。

【天文鏡】1328 テンモンキヤウ 望遠鏡。

【天文訓】1329 テンモンクン 淮南子の篇名。

【天文時】1330 テンモンジ 平均太陽時。正午から翌日の正午迄の二十四時間。

【天文生】1331 テンモンセイ ㊀司天臺に屬して天文を研究する學生。〔稱謂錄、天文科、天文生〕舊唐書百官志、司天臺、注、天文生六十人。㊁陰陽寮の學生。〔職員令、陰陽寮〕天文生十人、掌三習二候天文氣色一。㊂t'ien¹ wen² shêng¹ 天文學者。

【天文䄠】1332 テンモンゼン 日月をまつるまつり。䄠は禪で、祭のこと。〔漢書、武帝紀〕望二見泰一一、脩二天文䄠一。〔注〕文穎曰、䄠、祭也、師古曰、朝レ日夕レ月、卽天文䄠之謂也。

【天文臺】1333 テンモンダイ 天文を觀測する高臺。司天臺。

【天文圖】1334 テンモンヅ 星座の圖。

【天文地質】1335 テンハブン チハシツ 天は上方に在つて日月星辰の文飾あり、地は下方に在つて質素で飾がない。〔太玄經、文〕天文地質、不レ易二厥位一。〔注〕天動二于上一故爲レ文、地安二于下一故爲レ質。

【天文地理】1336 テンモンチリ ㊀天文と地理。天文は日月星辰、地理は山川海澤。〔易、繫辭上〕仰以觀二天文一、俯以察二地理一。〔漢書、郊祀志下〕天文、日月星辰、所二昭仰一也、地理、山川海澤、所二生殖一也。㊁天文學・數學と關係する事項を研究する地理學。數學地理ともいふ。

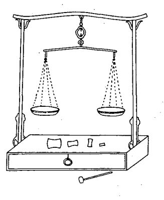
【天文博士】1337 テンモンハカセ 昔、陰陽寮所屬の官。天文に關することを掌り、天文生に天文を教へた。唐名は司天（2－3257・・181）、或は靈臺郎（12－42532・・230）。〔職員令〕天文博士、一人、掌下候二天文氣色一、有レ異密封、及教中天文生等上。

【天文密奏】1338 テンモンミツソウ 中古、天文に異變がある時、天文博士が其の理由を勘錄し、陰陽頭が之を密封して奏聞したことをいふ。〔新儀式、四〕天文密奏事、若有二天文異變一、其道博士、竝蒙二宣旨一獻二密奏一者、具勘二錄其變異一、先觸二第一大臣一、加レ封返二與博士一、博士以レ之參二藏人所一、付二藏人一奏レ之。

【觀二乎天文一以察二時變一】1339 テンモンヲミテモツテジヘンヲサツス 日月星辰の運行を觀察して、四時寒暑の變化を察すること。〔易、賁〕觀二乎天文一以察二時變一、觀二乎人文一以化二成天下一。〔注〕觀二天之文一、則時變可レ知也。

【天丙】1340 アマヒヨウ 姓氏。〔姓林全書〕。

【天平】1341 テンヘイ テンペイ ㊀天が和平である。天に異變がない。〔魏書、李騫傳〕各秉レ文而經レ武、故天平而地成。㊁山名。㋑河南省林縣の西。宋の柳開に遊天平山記がある。〔讀史方輿紀要、彰德府、林縣〕天平山在二縣西南三十里一、峯巒泉石、奇勝萬端、其別阜有二將軍山一。㋺江蘇省吳縣の西、支硎山の南。山頂の望湖臺は遠公庵の遺址。山腹の亭は白雲泉の源を爲す。山下に范仲淹の墓があり、旁に范氏義莊がある。〔明一統志〕天平山、在二蘇州府城西二十里一、巍然特出、羣峯拱揖、最爲二崙崒一、郡之鎭也。㊂渠の名。萬金渠の通稱。河南省安陽・臨漳二縣の境。東魏の孝靜帝の天平年間に漳水を引いて作る。後、久しく湮廢してをつたが、清の光緒の初、晉・豫二州の旱魃以來、復興の工事を起し、民國二年に竣工す。〔魏書、地形志上〕天平中、決二漳水一爲二萬金渠一、今世號二天平渠一。㊃年號。㋑東魏、孝靜帝、拓跋善見の時。（534－537）㋺テンピヤウ 第四十五代聖武天皇の御代。（729－749）㊄テンビン はかり。天秤。平は秤（8－24993）に同じ。ビンは唐音。〔三才圖會、器用十二、天平〕其制以レ銅爲レ梁、又有二兩銅盤一、以二銅索一縣二於梁之兩端一、梁之中間上下、各有二銅筭一、筭相對則輕重各等、不レ然則互有レ所レ欹矣。〔六部成語、戶部、天平、注解〕稱レ銀之秤也。



天平㊄（三才圖會）

【天平革】1342 テンビヤウガハ 白革の地を柹色に染め、模樣を白く擢出したもの。

【天平軍】1343 テンペイグン 唐の元和十四年、馬總を鄆・曹・濮三州の節度使觀察使に任じ、翌年、其の軍を褒賞して賜はつた名。馬總の治は鄆州、今の山東省東平縣の西北。〔唐書、馬總傳〕李師道平、析二鄆・曹・濮等一爲二一道一、除二總節度一、賜二號天平軍一。〔韓愈、鄆州谿堂詩序〕憲宗之十四年、始定二東平一、三二分其地一、以二華州刺史禮部尙書兼御史大夫扶風馬公一爲二鄆曹濮節度觀察等使一、鎭二其地一、既一年褒二其軍一、號曰二天平軍一。

【天平桌】1344 t'ien¹ p'ing² chuo¹ はかりを載せる臺卓。天秤臺。

【天平桶】1345 t'ien¹ p'ing² t'ung³ 天秤の皿。

【天平盤】1346 t'ien¹ p'ing² p'an² 天秤の皿。

【天平感寶】1347 テンピヤウカンポウ 第四十五代聖武天皇の年號。（749）

【天平勝寶】1348 テンピヤウシヨウホウ 第四十六代孝謙天皇の年號。（749－757）

【天平神護】1349 テンピヤウジンゴ 第四十八代稱德天皇の年號。（765－767）

【天平地平】1350 テンペイチヘイ 天地の理を知り、人を平穩に治めること。〔越絕書、越絕外傳枕中〕聖人上知レ天、下知レ地、中知レ人、此之謂二天平地平一、以レ此爲二天圖一。

【天平寶字】1351 テンピヤウホウジ 第四十六代孝謙天皇・第四十七代淳仁天皇の年號。（757－765）

【天兵】1352 テンペイ 天子の軍兵。官軍。王師。又、天意に合した軍隊。〔吳志、孫堅傳〕親率二天兵一。〔宋書、王僧達傳〕聞者天兵未レ獲、已肆二其輕レ漢之心一。〔李白、塞下曲〕塞虜乘レ秋下、天兵出二漢家一。

【天兵軍】1352′ テンペイグン 行政區劃の名。唐、置く。今の山西省太原縣。〔唐書、張嘉貞傳〕突厥九姓、新內屬、雜二處太原北一、張嘉貞請置二天兵軍一、綏二護其衆一。

【天兵四臨】1353 テンペイシリン 官軍が四方から攻め入ること。〔揚雄、長楊賦〕天兵四臨、幽都先加。

【天陛】1354 テンペイ 皇宮のきざはし。御所の階段。〔韋應物、賈常侍林亭燕集詩〕高賢侍二天陛一、跡顯心獨幽。〔王庭珪、贈二胡紹立一詩〕此去飛騰對二天陛一、不レ應三顛頷困二書生一。

【天屛】1355 テンペイ 星の名。〔宋史、天文志四〕屛二星、一作二天屛一、在二玉井南一。

【天表】1356 テンペウ ㊀天のそと。天の彼方。又、空高く。天外。〔班固、西都賦〕遊二目於天表一。㊁帝王の儀容。〔晉書、裴秀傳〕天表如レ此、固非二人臣之相一也。〔魏書、李諧傳〕何建武之明傑、茂二雄姿於天表一。㊂天があらはし示す。〔漢書、東方朔傳〕臣聞、謙遜靜愨、天表二之應一。〔徐陵、陣文帝哀策文〕洛書天表、河紀靈命。㊃天子のみしるし。〔中朝事實、武德章〕樹二風聲於四方一、著二天表於所レ愾。

【天飇】1357 テンペウ そら高く吹く強風。飇の原義は、つむじ風。天飇。〔李蘭、天晴景星見賦〕光芒振曜、若レ擊二夫天飇一。〔陳孚、黃鶴樓歌〕但見天飇吹レ髮寒鬖鬖。〔藤井竹外、芳野詩〕古陵松柏吼二天飇一、山寺尋レ春春寂寥。

【天廟】1358 テンベウ 星の名。㊀營室（7－19457・・64）の一名。〔國語、周語上〕日月底二于天廟一、土乃脈發。〔注〕天廟、營室也。㊁張星の南にあり、天子の祖廟にあたる星。〔晉書、天文志上〕張南十四星、曰二天廟一、天子之祖廟也。㊂輿鬼（10－38468・・7）の異名。〔廣雅、釋天〕輿鬼、謂二之天廟一。

【天辟】1359 テンペキ 天子をいふ。辟は君。〔漢書、五行志中之下〕天辟惡レ之。〔注〕如淳曰、天辟、謂二天子一也。

【天甓】1360 テンペキ 清、徐瑤（4－10110・・14）の字。

【天鼈】1361 テンベツ 星の名。〔星經〕天鼈十五星、在二斗南一、主二太陰水蟲一。

【天楄】1362 テンペン 樹木の名。〔山海經、中山經〕堵山、其上有レ木焉、名曰二天楄一、方莖而葵狀、服者不レ噎。

【天邊】1363 テンペン 大空のほとり。そらのはて。又、遠隔の地。〔杜甫、江月詩〕天邊長作レ客、老去一霑レ巾。〔孟浩然、南歸阻レ雪詩〕孤煙邨際起、歸

隖天邊去。〔王昌齡、送薛大赴安陸詩〕遙送扁舟安陸郡、天邊何處穆陵關。

【天變】1364（テンペン） 天空にあらはれる變事。天象の怪異。日月蝕・隕星の類。〔漢書、蕭望之傳〕察於天變。〔新語、思務〕聖人因天變而正其失。〔說苑、辨物〕天變動於上。

〔天變地異〕1365（テンペンチイ） 天變と地異。天變は日蝕・隕星など、地異は地震・海嘯など。〔古今圖書集成、曆象彙編、庶徵典〕庶徵總部・天變部・日異部・月異部・星變部・風異部、云云、疫災部・地異部。

〔天變地變〕1366（テンペンチヘン） 天變と地變。天變地異に同じ。〔漢書、劉向傳〕天變見於上、地變動於下。

【天弁】1367（テンベン） 星の名。〔星經〕天弁九星、在建近河、爲市官之長。〔張衡、週天大象賦〕天弁寫映於清流。

【天步】1368（テンポ） 天の運行。時のめぐり。國家の運命。星象の運行がやまないことからいふ。〔後漢書、張衡傳〕察三辰於上、跡禍福乎下、經緯曆數、然後天步有常。〔陸機、辨亡論上〕淸天步而歸舊物。〔陸機、贈弟士龍詩〕天步多艱、性命艱誓。

〔天步艱難〕1369（テンポカンナン） 天の運行に支障のあること。轉じて、時運が非で艱難の多いこと。天步を見よ。〔詩、小雅、白華〕天步艱難、之子不猶。〔杜甫、喜聞官軍已臨賊境詩〕天步艱方盡、時和運更遭。〔藤田東湖、和文天祥正氣歌〕一朝天步艱、邦君身先淪。

〔天步眞原〕1370（テンポシンゲン） 書名。西洋人、穆尼閣撰。淸、薛鳳祚譯。天文について書いたもの。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【天輔】1371（テンポ） ❶天がたすける。〔漢書、孔光傳〕言有誠道天輔之也。❷年號。㋑金、太祖、完顏旻の時。(1117－1123) ㋺宋の時、南詔、神宗、段智祥の年號、天開の一稱。(1205－1238)

【天姥】1372（テンボ） 山名。浙江省新昌縣の東。東は天台山の華頂峯に接し、西は沃洲山に連なる。〔謝靈運、登臨海嶠詩〕暝投剡中宿、明登天姥岑。〔李白、夢遊天姥吟〕天姥連天向天橫、勢拔五嶽掩赤城。〔太平寰宇記〕登此山者、或聞天姥歌謠之聲、道書以爲第十六福地、其最高峰曰撥雲尖。〔方輿勝覽〕台州有天姥山。

【天封】1373（テンポウ） 山名。〔張衡、南都賦〕若夫天封大狐、列山之阪。〔注〕善曰、天封、未詳、或曰山名也。

【天峯】1374（テンポウ） 明、王乾(7－20823・・351)の號。

〔天峯煤〕1375（テンポウバイ） 墨の名。〔大唐龍記〕馮盛盛有墨、一枚號天峯煤。「9)

【天鳳】1376（テンポウ） 漢末、新の王莽の僭年號。(14－1

【天鋒】1377（テンポウ） 星の名。〔史記、天官書〕斗、杓端有兩星、一內爲矛、招搖、一外爲盾、天鋒。

【天鵬】1378（テンポウ） 淸、羅思擧(9－28397・・345)の字。

【天篷】1379（テンポウ） 日除け天井。天篷魚缸石榴樹を見よ。

〔天篷魚缸石榴樹〕1380（テンポウギヨカウセキリウジユ） 日除け天井と魚を飼ふ缸（カメ）と柘榴。北京で、夏日に各家で皆備へつけるもの。夏の必需品をいふ成語。此の語は又、我も我もと人眞似をすることを譏る意を寓してゐる。〔燕京歲時記、石榴夾竹桃〕京師五月、榴花正開、鮮明照眼、凡居人等、往往與夾竹桃羅列中庭、以爲淸玩、榴竹之間、必以魚缸配之、朱魚數頭、游泳其中、幾於家家如此、故京師諺曰、天篷魚缸石榴樹、蓋譏其同也。

【天⿱逢缶】1381（テンポウ） 星の名。〔漢書、天文志〕一外爲盾、天⿱逢缶。〔注〕晉灼曰、外、遠北斗也、在招搖南、一名天⿱逢缶。

【天木】1382（テンボク） 字號。❶淸、詹方柱(10－35458・・65)の字。❷淸、李樸(6－14459・・750)の字。

〔天木時中〕1383（アマキジチユウ） 尾張の人。名は時中。通稱は善六。號も時中。佐藤直方・三宅尚齋の說を奉ず。元文元年歿す、年四十一。著に爲貧說・氣块然筆記・五服飮食居所制・祠堂制祭・四世說・兒訓書・調息箴筆記・命說がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【天牧】1384（テンボク） ❶諸侯。天に代つて民を治め養ふものだからいふ。牧は、世話をし養ふ者。〔書、呂刑〕王曰、嗟四方、司政典獄、非爾惟作天牧。〔傳〕非汝惟爲天牧民乎。❷淸、惠士奇(4－10822・・151)の字。

【天麻】1385（テンマ） 藥草の名。おにのやがら。ぬすびとのあし。又、特に其の根をいふ。〔本草、天麻〕釋名、時珍曰、天麻卽赤箭之根、集解、志曰、天麻生鄆州・利州・太山・嶗山諸處。

【天魔】1386（テンマ） ❶舞の名。もと唐時の舞。天魔舞を見よ。〔薩都剌、上京卽事詩〕十六天魔舞袖長。〔張昱、輦下曲〕舞罷天魔供奉曲、君王常在月宮聽。〔楊維楨、王左轄席上夜宴詩〕南國遺音誇北士、西蠻小隊舞天魔。❷［佛］四魔の一。欲界第六天の天子波旬をいふ。人の心を迷はせ、人を邪道に誘ふ。天上に居る惡鬼。惡鬼。惡魔。〔一切經音義、六〕梵言磨羅、此云殺者、斷慧命、故名爲魔也。〔大藏法數四魔〕此魔卽欲界第六天也、若人勤修勝善、欲超越三界生死、而此天魔爲作障礙。〔白居易、題孤山寺山石榴花示諸僧衆詩〕恐是天魔女化身。

〔天魔舞〕1387（テンマノマヒ） 元の順帝が遊宴に荒み、宮女十六人を珠瓔で飾り、佛菩薩の相を爲して舞はせた舞。王建の宮詞、十六天魔舞袖長の句にもとづくもの。天魔の❶を見よ。〔元史、順帝紀六〕以宮女三聖奴・妙樂奴・文珠奴等一十六人按舞、名爲十六天魔、首垂髮數辮、戴象牙佛冠、身被纓絡大紅綃、金長短裙、金雜襖雲、肩合袖、天衣綬帶鞋襪、各執加巴剌般之器、內一人執鈴杵奏樂。

〔天魔外道〕1388（テンマゲダウ） ［佛］天魔と外道。共に佛道に害を作すもの。〔梵網經、上〕天魔・外道、相視如父母。

〔天魔之隊〕1389（テンマノタイ） 天魔舞の一隊。轉じて、美人をいふ。天魔舞を見よ。〔剪燈餘話、至正妓人行〕茜罽縫袍竺國師、霞綃蹙被天魔之隊。

【天罔】1390（テンマウ） 天網に同じ。〔詩、大雅、瞻卬〕天之降罔、維其優矣。〔傳〕天下罔羅、以致有罪、亦甚寬。〔漢書、敍傳下〕觀天罔之紘覆兮。

【天網】1391（テンマウ） ❶天が惡人を捕へる爲に張るあみ。自然の制裁。轉じて、天子の行ふ刑罰。天罰。天罔。天羅。天網恢恢疏而不失を見よ。〔後漢書、朱穆傳〕張理天網、補綴漏目。〔曹植、上責躬應詔詩表〕誠以天網不可重罹。〔歐陽建、臨終詩〕天網布紘綱。❷星の名。畢星(7－21829・・47)の異名。〔後漢書、蘇竟傳〕月入於畢、畢爲天網、主網羅無道之君。

〔天網之漏〕1392（テンマウノロウ） 天の制裁の遺漏。天罰に漏れること。〔晉書、劉頌傳〕苟不致於害政、則皆天網之所漏、所犯在甚泰。

〔天網恢恢疏而不失〕1393（テンマウクワイクワイソニシテウシナハズ） 天が惡人を捕へる爲に張る網は、恢恢と廣大で其の目は疏略であるが、結局、取逃すことがない。善は必ず榮え惡は必ず滅びること。天網を見よ。〔老子、七十三〕天網恢恢、疏而不失。〔河上公注〕天所網羅、恢恢甚大、雖疏遠、司察人善惡、無有所失。〔後漢書、郎顗傳〕今蒙氣不除、日月變色、則其效也、天網恢恢、疏而不失。

〔天網恢恢疏而不漏〕1394（テンマウクワイクワイソニシテモラサズ） 天網恢恢疏而不失に同じ。〔魏書、任城王傳〕老聃云、其政察察、其民缺缺、又曰、天網恢恢、疏而不漏。

【天幕】1395（テンマク） ❶天井に張つた幕。〔李商隱、假日詩〕誰向劉靈天幕內、更當陶令北窗風。❷露宿するに張る圓錐形、又は屋根形の布。テント。

【天末】1396（テンマツ） そらのはて。天涯。天際。〔陸機、擬行行重行行詩〕遊子眇天末、還期不可尋。〔謝莊、月賦〕氣霽地表、雲斂天末。〔杜甫、天末懷李白詩〕涼風起天末、君子意如何。

【天民】1397（テンミン） ❶天の法則に從ふ民。天理を盡くす民。〔孟子、盡心上〕有天民者、達可行於天下、而後行之者也。〔集注〕民者、無位之稱、以其全盡天理、乃天之民、故謂之天民。❷天の生じた民。人民。天氓。〔禮、王制〕此四者、天民之窮而無告者也。〔孟子、萬章上〕予天民之先覺者也。〔集注〕程子曰、謂、我乃天生此民中、盡得民道、而先覺者也。〔列子、楊朱〕此天民之逸蕩者也。〔墨子、非攻下〕刺殺天民。〔魏志、齊王芳傳〕所謂天民之窮者也。❸道を體得した人。〔莊子、庚桑楚〕人之所舍、謂之天民、天之所助、謂之天子。〔注〕出則天子、處則天民、此二者俱以泰然而自得、非爲而得之也。❹國の名。〔淮南子、墬形訓〕修股民・天民・肅愼民。❺字號。㋑宋、石斗文(8－24024・・1006)の字。㋺宋、廖行之(4－9464・・43)の字。㋩明、魏兆鳳(12

－**45872**‥266)の號。㊁明、虞摶(**9**－**32723**‥115)の字。㋭明、張員(**4**－**9812**‥37)の字。㋬清、張問達(**4**－**9812**‥1551)の字。

【天命】1398（テンメイ） ❶天の命令。天から受けた運命。又、天の與へた使命。〔易、萃〕利レ有レ攸レ往、順二天命一也。〔書、君奭〕天命不レ易、天難レ諶。〔詩、小雅、小宛〕各敬二爾儀一、天命不レ又。〔左氏、襄、二十九〕善之代二不善一、天命也。〔論語、爲政〕五十而知二天命一。〔孟子、離婁上〕天命靡レ常。〔史記、高祖紀〕吾以二布衣一提二三尺劍一取二天下一、此非二天命一乎。❷天の與へたいのち。壽命。〔漢書、揚雄傳下〕遯二于不虞一、以保二天命一。❸天が賦與したもの。天命之謂レ性を見よ。❹天をいふ。天命降監・天命不レ謟を見よ。❺清、太祖、努爾哈赤の年號。(1616－1626)

〔終二天命一〕1399（テンメイヲヲハル） 壽命を全くして一生を終ること。〔史記、匈奴傳〕使下老者得レ息、幼者得レ長、各保二其首領一而終中其天命上。

〔宅二天命一〕1400（テンメイヲサダム） 天命が天子から去らないやうに立派な政をすること。一說、天命に居ると讀み、天命に順ひ居ること。〔書、康誥〕亦惟助レ王、宅二天命一、作二新民一。〔傳〕居二順天命一。〔蔡傳〕以助レ王安二定天命一、而作二新斯民一也。

〔天命有レ反〕1401（テンメイカヘルアリ） 天の與へた運命は、盛者が衰へ、不幸な者が福を得るやうにめぐりかはる。〔國語、吳語〕夫天命有レ反。〔注〕反、謂二盛者更衰、禍者有レ福。

〔天命降監〕1402（テンメイカウカンス） 天は下民の視聽し判斷する所に監みて事を行ふといふ意。〔詩、商頌、殷武〕天命降監、下民有レ嚴。〔集傳〕監、視。

〔天命通寶〕1403（テンメイツウハウ） 清の太祖が滿洲で鑄造した銅錢。鑄造の數も少く、その制も明かでない。〔皇朝文獻通考、錢幣考、鑄天命通寶錢〕天命元年、鑄二天命通寶錢一。

〔天命不レ謟〕1404（テンメイタウセズ） 天は常に公正で變らぬものである。〔左氏、哀、十七〕子高曰、天命不レ謟。〔注〕謟、疑也。〔會箋〕謟・滔通、滔、慢也、言二一定不一レ變。

〔天命之謂レ性〕1405（テンノメイコレヲセイトイフ） 天が人に命令的に定め與へたものを性といふ。性は吾人が先天的に具有するもの、本性。〔中庸〕天命之謂レ性、率レ性之謂レ道、脩レ道之謂レ教。〔章句〕命、猶レ令也、性、卽理也、天以二陰陽五行一化二生萬物一、氣以成レ形、而理亦賦焉、猶二命令一也、於レ是人物之生、因三各得二其所一レ賦之理一、以爲二健順五常之德一、所謂性也。

〔天命二有德一五服五章哉〕1406（テンイウトクニメイズゴフクゴシヤウセン） 天は有德の君子に命じてそれぞれの地位を與へる。故に其の地位を彰はすのに尊卑の彩章の異なつた五等の服、卽ち天子・諸侯・卿・大夫・士の章服を以てしよう。〔書、皐陶謨〕天命二有德一、五服五章哉。〔傳〕五服、天子・諸侯・卿・大夫・士之服也、尊卑彩章各異、所三以命二有德一。

【天明】1407（テンメイ） ❶天から受けた命。天命の❶に同じ。一說、天の明かな意。〔書、大誥〕寧王遺二我大寶龜一、紹二天明一卽レ命。〔蔡傳〕寧王遺二我大寶龜一者、以下其可丙以紹二介天命一、以定乙吉凶甲。〔今古文注疏〕紹二天明一、漢書作三迺紹二天明意一。〔周書、晉蕩公護傳〕太祖不レ受二天明一、造二我周室一。❷天の明かな道。〔左氏、昭、二十五〕則二天之明一、因二地之性一。❸天に在る明かなもの。日月の類。〔周禮、春官、司常、王建二太常一、注〕王畫二日月一、象二天明一也。〔後漢書、輿服志上〕日月升龍、象二天明一也。❹天のあたへた明。〔韓非子、解老〕人也者、乘二於天明一以視、寄二於天聽一以聽。❺夜があける。又、あけがた。〔韓愈・劉師服云云、石鼎聯句序〕奴曰、天且レ明、道士起出レ門。〔李渉、長安作詩〕宵分獨坐到二天明一、又策二羸驂一信レ腳行。〔杜牧、贈別詩〕蠟燭有レ心還惜レ別、替レ人垂レ淚到二天明一。〔元稹、夢二昔時一詩〕夜半初得處、天明臨レ去時。❻年號。㋑唐の高祖の代、輔公祏稱の僭年號。(623－624) ㋺宋の時、南詔、一に乾德に作る。(大凡、1041－1043) ㋩第百十九代光格天皇の御代。(1781－1789)

〔天明釜〕1408（テンミヤウガマ） 釜の名。茶人が珍重する鐵釜。伏見天皇の頃、下野の天明(佐野)から產出したと傳へる。天猫釜。

【天目】1409（テンモク） ❶天の目。輿鬼の五星を之に當てる。〔晉書、天文志上〕輿鬼五星、天目也、主二視明一、察二姦謀一。❷山名。㋑江蘇省泰縣の東。〔太平寰宇記〕海陵縣天目山、土山也、在二縣東六十里一、山有二雙井一相對、其水清冽、呼爲二天目一。㋺浙江省臨安縣の西北。山に二つの池があり、臨安に在るのを東天目、於潛縣に在るのを西天目といふ。梁の昭明太子が西天目で讀書し、東天目で參禪したといふ。〔元和志〕山有二兩峯一、峯頂各一池、左右相對、名曰二天目一。〔太平寰宇記〕水緣レ山曲折、東西巨源若二兩目一、故名。㋩四川省閬中縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、閬中縣、重錦山〕東二十里曰二天目山一、上有二二洞一、一曰二天目一、一曰二天溪一、相傳、葛洪修煉處。㊁山梨縣東八代郡木賊村に在る。もとの名は木賊山。吉野朝の時、僧業海が此の山に棲霞寺を開き、中國の天目山に倣つて今の名に改めた。武田勝賴が戰死し、小宮山友信が殉死した所。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕或殉二天目山一、幽囚不レ忘レ君。❸茶家の用ひる抹茶茶碗の一種。擂鉢形をしたもの。天目茶碗。〔庭訓往來、十月〕茶具者建盞・天目。❹清、顧大信(**12**－**43689**‥317)の字。

〔天目臺〕1410（テンモクダイ） 天目茶碗を載せる臺。〔和漢茶誌、二〕漆雕祕閣、十二先生之一、俗云二天目臺一也。

〔天目寓僧〕1411（テンモクグウソウ） 明、如曉(**3**－**6060**‥49)の號。

〔天目山齋〕1412（テンモクサンサイ） 明、吳維嶽(**2**－**3365**‥426)の號。

〔天目山人〕1413（テンモクサンジン） 明、徐中行(**4**－**10110**‥577)の尊稱。

〔天目山樵〕1414（テンモクサンセウ） 清、張文虎(**4**－**9812**‥1484)の號。

〔天目山房〕1415（テンモクサンバウ） 室名。❶明、夏義甫(**3**－**5720**‥294)の室名。❷明、陳良謨(安吉の人)(**11**－**41698**‥1304)の室名。

〔天目茶碗〕1416（テンモクチヤワン） 天目の❸に同じ。

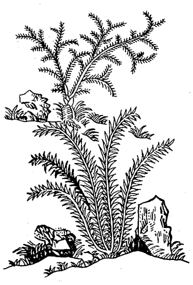
〔天目老人〕1417（テンモクラウジン） 清、通琇(**11**－**38892**‥197)の號。

〔天目山堂集〕1418（テンモクサンダウシフ） 書名。二十卷。附錄一卷。明、徐中行撰。內容は五古一卷・七古一卷・五絕・七絕・六言共一卷・五律二卷・五排一卷・七律・七排四卷・序三卷・記一卷・行狀・碑・墓誌・墓表共一卷・墓誌銘一卷・傳一卷・祭文一卷・雜著一卷・書一卷。附錄は徐中行の墓誌銘・行狀・哀辭・誄・輓詞を收めてゐる。〔四庫提要、集、別集類存目〕。

【天門】1419（テンモン） ❶萬物が生々する門戶。衆妙之門(**8**－**23321**‥217)に同じ。天門開闔を見よ。❷天上の門。天帝の居所の宮門。又、紫微宮の稱。〔老子、十、天門開闔、河上公注〕天門、謂二北極紫微宮一。〔揚雄、甘泉賦〕登二椽欒一而狃二天門一兮。〔注〕善曰、云云、王逸曰、閶闔、天門也。〔淮南子、原道訓〕排二閶闔一、淪二天門一。〔注〕天門、上帝所レ居、紫微宮門也。〔沈佺期、龍池篇〕池開二天漢一分二黃道一、龍向二天門一入二紫微一。❸角宿の二星の間をいふ。〔史記、天官書〕蒼帝行レ德、天門爲レ之開。〔注〕索隱曰、天門、卽左右角閒也。〔漢書、禮樂志〕天門開、詄蕩蕩。〔星經〕天門二星、在二左角南一。〔晉書、天文志上〕天門二星、在二平星北一。〔宋書、薛安都傳〕夢仰レ頭視レ天、正見二天門開一、謂二左右一曰、汝見二天門開一不、至レ是歎曰、夢二天開一、乃中興之象邪。〔宋史、天文志三〕東方角宿二星爲二天闕一、其閒則天門也。❹天子の御所の門。宮門。〔杜甫、宣政殿退朝晚出二左掖一詩〕天門日射黃金牓、春殿晴曛赤羽旗。〔王建、寄二楊十二祕書一詩〕閑出二天門一醉騎レ馬、可レ憐蓬閣祕書郎。❺戌亥の閒で、乾の據る所をいふ。〔後漢書、郎顗傳〕神在二天門一、出入候聽、言下神在二戌亥一司候上。〔注〕天門、戌亥之閒、乾所レ據者。〔宅經〕乾、天門、陰極陽首。❻塔のいただき。〔古今詩話〕俗言二塔頂一爲二天門一、蘇國老有レ詩云、上到二天門最高處一、不レ能レ容レ物只容レ身、以譏二在レ位者一。❼鼻の孔。又、兩眉の間。〔老子、十、天門開闔、河上公注〕天門謂二鼻孔一。〔黃庭內景經〕上合二天門一、入二明堂一。〔法苑珠林〕頭爲二殿堂一、額爲二天門一。❽漢の郊祀歌の名。天門開、詄蕩蕩、から名づく。〔樂府詩集、郊廟歌辭一、漢郊祀歌、天門〕天門開、詄蕩蕩。❾山名。㋑泰山の峯の名。〔泰山志〕經二小天門・大天門一。〔山東通志〕泰山、週廻一百六十里、屈曲盤道百餘、逕二南天門、東西三天門一、至二絕頂一、高四十餘里。㋺河南省修武縣の西北。〔讀史方輿紀要、河南、懷慶府、修武縣〕天門山、縣西北四十里、諸山唯此最低、故名二天門一。㋩河南省輝縣の西北。一に石門山。〔水經、清水注〕焦泉、發二于天

門之左、天井固右、天門山、石自空、狀若ㇾ門焉。㋥安徽省當塗縣及び和縣にある梁山の一名。梁山（6－14825・・94）の❶の㋩を見よ。㋭安徽省銅陵縣の東南。唐の李白に天門山銘がある。〔讀史方輿紀要、江南、池州府、銅陵縣、銅官山〕又有㆓天門山㆒、其勢聳㆓插雲表㆒。㋬浙江省奉化縣の南。〔漢書、地理志〕鄞東南有㆓越天門山㆒。〔眞誥〕天門山、在㆓鄞縣南、寧海北㆒、半亞㆓於海㆒。㋣浙江省象山縣の南方。海中に兩峯が對峙してゐる。一に蜃樓門とも、東門山ともいふ。㋠湖北省天門縣の西。一名、火門山。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、象山縣〕東門山、縣南一百二十里、其狀若ㇾ門、下有㆓橫石㆒、如ㇾ闕、一名天門山、高二百丈、周二十五里。〔輿地紀勝〕天門山、有㆓鄒夫子別墅㆒、卽火門山、後以㆓俗忌㆒改ㇾ名。㋷湖南省大庸縣の南。古の松梁山。一名、嵩梁山。〔水經、澧水注〕永安六年、武陵郡嵩梁山、高峯孤竦、素壁千尋、望ㇾ之若ㇾ亭有ㇾ似㆓香爐㆒、其山洞、開朗如ㇾ門、高三百丈、廣二百丈、門角上各生㆓一竹㆒、倒垂下拂、謂㆓之天帚㆒、孫休以爲㆓嘉祥㆒、分㆓武陵㆒、置㆓天門郡㆒。❿郡名。三國吳、置く。陳代、石門郡といふ。湖南省石門縣の地。〔讀史方輿紀要、岳州府、澧州〕春秋時楚地、秦屬㆓黔中郡㆒、漢屬㆓武陵郡㆒、吳分㆓置天門郡㆒。⓫縣名。清、置く。古の風國。漢の竟陵縣の地。湖北省に屬す。〔清史稿、地理志〕湖北、安陸府、縣四、天門。⓬字號。㋑明、郭都賢（11－39474・・390）の字。㋺清、瞿龍躍（8－23747・・49）の字。

〖天門冬〗1420（テンモントウ） 草の名。杉の葉に似て、夏、白花を開き、黒い實を結ぶ。根は食用・藥用に供す。すべるぐさ。くさすぎかづら。天棘。〔三才圖會、天門冬〕天門冬、生㆓奉高山谷㆒、今處處有ㇾ之、云云、二月・八月・除日、採ㇾ根曝乾、十日成。〔列仙傳〕赤須子豐人也、好食㆓松實・天門冬・石脂㆒、齒落更生。



天門冬（三才圖會）

〖天門開闔〗1421（テンモンカイカフ） 天門は、紫微宮で、衆妙の門の喩。開闔は、開閉で、變化の意。萬物の生々變化するをいふ。〔老子、十〕天門開闔、能爲ㇾ雌乎。〔河上公注〕天門、謂㆓北極紫微宮㆒。〔王注〕天門、謂㆔天下之所㆓由從㆒也。〔南齊書、顧歡傳〕天門開闔、自ㇾ古有ㇾ之。

〖天門登八〗1422（テンモントウハチ） 仕官して其の極に近づけば身を危くする喩。晉の陶侃が夢に八翼を生じて昇天し、天の八門を過ぎ、最後の一門に至つて入ることができず、門番に杖で擊たれて地に墜ち、左翼を折つた。後、八州を都督し、更に高官を望む心を生じたが、常に翼を折つた夢を思ひ出して自ら抑止した故事。〔晉書、陶侃傳〕侃夢生㆓八翼㆒、飛而上ㇾ天、見㆓天門九重㆒、已登㆓其八㆒、惟一門不ㇾ得ㇾ入、閽者以ㇾ杖擊ㇾ之、因墜ㇾ地折㆓其左翼㆒、及㆘都㆓督八州㆒、據㆓上流㆒、握㆗強兵㆖、潛有㆓窺窬之志㆒、每思㆓折ㇾ翼之祥㆒、自抑而止。

〖天門弗ㇾ開〗1423（テンモンヒラカズ） 道に入る門が開かない。道に入ることができないこと。〔莊子、天運〕其心以爲ㇾ不ㇾ然者、天門弗ㇾ開矣。〔疏〕天機之門、擁而弗ㇾ開、天門、心也。〔釋文〕天門、一云、謂ㇾ心也、一云、大道也。

〖天門中斷楚江開〗1424（テンモンチユウダンシテソカウヒラク） 天門山が眞二つに分れたやうに見える其の閒を、揚子江が洋々と流れてゐる。此の天門山は、安徽省にある梁山。天門の❾の㋥を見よ。楚江は、楚の地を流れる江の意。〔李白、望㆓天門山㆒詩〕天門中斷楚江開、碧水東流至ㇾ北迴。

【天問】1425（テンモン） ❶天子のおたづね。〔晉書、傅咸傳〕敢不㆔自竭以對㆓天問㆒。❷楚辭の篇名。屈原作。百八十餘句から成り、宇宙の事實及び說話に關し疑問を設けて天に問うたもの。〔史記、屈原傳贊〕余讀㆓離騷・天問・招魂・哀郢㆒、悲㆓其志㆒。〔楚辭、天問、王逸章句〕何不ㇾ言㆓問天㆒、天尊不ㇾ可ㇾ問、故曰㆓天問㆒也。❸唐、史維則（2－3249・・171）の字。

〖天問閣〗1426（テンモンカク） 清、李長祥（6－14459・・1720）「の室名。

〖天問略〗1427（テンモンリヤク） 書名。一卷。明代、西洋人、陽瑪諾撰。天文に就いて問答の形式で說明したもの。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

〖天問補注〗1428（テンモンホチユウ） 書名。一卷。清、毛奇齡撰。〔西河合集、三十一冊〕。

【天爺】1429 tʻien^1 yeh^2 天帝。神樣。

〖天爺生日〗1430 tʻien^1 yeh^2 shêng^1 jih^4 正月九日をいふ。天帝の生れた日。河南の語。

【天羊】1431（テンヤウ） 藥の名。雄黃をいふ。〔海錄碎事、百工、藥名〕天羊、雄黃也。

【天陽】1432（テンヤウ） ❶天の陽氣。〔禮、郊特牲〕天子大社、必受㆓霜露風雨㆒、以達㆓天地之氣㆒也、是故喪國之社屋ㇾ之、不ㇾ受㆓天陽㆒也。〔歐陽脩、與㆓李侍讀㆒狀〕七日吿ㇾ期、候㆓天陽之來復㆒。❷日をいふ。〔法苑珠林〕日爲㆓天陽㆒、火爲㆓地陽㆒、地陽上升、天陽下降。

【天養】1433（テンヤウ） ❶天のやしなひ。天が禽獸野菜等を產して、人の飮食衣服に供し、よく人を養ふことをいふ。〔荀子、天論〕財非㆓其類㆒、以養㆓其類㆒、夫是之謂㆓天養㆒。〔注〕財與ㇾ裁同、飮食衣服、與ㇾ人異ㇾ類、裁而用ㇾ之、可ㇾ使ㇾ養㆓口腹形體㆒、故曰、裁ㇾ非㆓其類㆒、以養㆓其類㆒、是天使㆓奉養㆒之道、如ㇾ此也。❷（テンヤウ） 第七十六代近衞天皇の年號。（1144－1145）〔藤原茂明勘文〕後漢書曰、此天之意也、人之慶也、仁之本也、儉之要也、焉有ㇾ應ㇾ天養ㇾ人、爲ㇾ仁爲ㇾ儉、而不ㇾ降㆓福者㆒乎。

【天龠】1434（テンヤク） 鳥の名。ひばり。天鸙（1437）に同じ。〔說文〕鷚、天龠也。

【天籥】1435（テンヤク） 星の名。天鑰。〔晉書、天文志上〕天籥八星、在㆓南斗柄西㆒、主㆓開閉㆒。〔星經〕天籥七星、在㆓斗杓第二星西㆒、主㆓關籥開閉㆒。

【天鑰】1436（テンヤク） 星の名。天籥に同じ。〔張衡、週天大象賦〕天鑰司㆓其啓閉㆒、丈人存㆓其播種㆒。

【天鸙】1437（テンヤク） 鳥の名。ひばり。雲雀。天龠。天鷚。〔爾雅、釋鳥〕鷚、天鸙。〔注〕大如㆓鷃雀㆒、色似ㇾ鶉、好高飛作ㇾ聲、今江東名ㇾ之曰㆓天鷚㆒。

【天庾】1438（テンユ） ❶星の名。〔晉書、天文志上〕天倉六星、在㆓婁南㆒、倉穀所ㇾ藏也、西南四星、曰㆓天庾㆒、積㆓廚粟㆒之所也。❷國家の管理する食糧の倉庫。〔六部成語、戶部、天庾、注解〕庾、食廩也、天庾者、國之倉稟。

【天雄】1439（テンユウ） 草の名。附子（トリカブト）の一。細く長いもの。藥用となる。〔本草、附子〕集解、弘景曰、天雄似㆓附子㆒、細而長、乃至㆓三四寸㆒。〔淮南子、繆稱訓〕天雄・烏喙、藥之凶毒也、良醫以活ㇾ人。〔博物志、藥物〕烏頭・天雄・附子一物、春秋冬夏採、各異也。

〖天雄軍〗1440（テンユウグン） 行政區域の名。後周、置き、宋、之に因る。唐の魏博節度使の治めた地。治は魏州。今の河北省大名縣治。〔韻府引、宋史、地理志〕以㆓大名府㆒爲㆓天雄軍㆒。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府〕五代唐同光初、升爲㆓東京興唐府㆒、三年、改㆓東京㆒曰㆓鄴都㆒、晉曰㆓廣晉府㆒、漢曰㆓大名府㆒、周顯德初、復罷㆓鄴都㆒爲㆓天雄軍㆒、而府如ㇾ故、宋因ㇾ之。

【天予】1441（テンヨ） 天與に同じ。〔國語、越語下〕時不㆓再來㆒、天予不ㇾ取、反爲㆓之災㆒。

【天與】1442（テンヨ） ❶天があたへる。又、天のあたへたもの。天予。天與不ㇾ取反受㆓其咎㆒を見よ。〔蜀志、先主傳〕天與不ㇾ取、悔不ㇾ可ㇾ追。❷明、英宗の時、大越（安南）、黎宜民（黎琮）の年號、天興の一稱。（1559－1560）❸字號。㋑宋、陳良祐（11－41698・・1301）の字。㋺明、黎福（12－47994・・71）の字。

〖天與不ㇾ取反受㆓其咎㆒〗1443（テンヨトラザレバカヘツテソノトガメヲウク） 天の與へるものを取らなければ、却つて其の咎めを受ける。〔史記、越世家〕范蠡曰、會稽之事、天以ㇾ越賜ㇾ吳、吳不ㇾ取、今天以ㇾ吳賜ㇾ越、越其可ㇾ逆ㇾ天乎、云云、且夫天與不ㇾ取、反受㆓其咎㆒。〔史記、淮陰侯傳〕蓋聞、天與弗ㇾ取、反受㆓其咎㆒。

【天容】1444（テンヨウ） 天の樣子。天の容儀。〔世說新語、本行〕承㆓天功㆒、象㆓天容㆒。〔張融、海賦〕照㆓天容於鮷渚㆒、鏡㆓河色於魦潯㆒。〔蘇軾、六月二十日夜渡ㇾ海詩〕雲散月明誰點綴、天容海色本澄淸。

【天鷹】1445（テンヨウ） 星座の名。北天の織女星の南の左寄りに在り、中列の三星は織女と同一線にあり、且つ正しく相對して、甚だ辨識し易い。中央の大星は河鼓。

【天羅】1446（テンラ） ❶天網（1391）に同じ。〔眞誥〕天羅之與㆓籠樊㆒、倶一物耳。〔陳書、高祖紀上〕公回㆓茲地軸㆒、抗㆓此天羅㆒。❷草木が繁茂して、天然の網をかぶせたやうな土地。密林地帶。〔孫子、行軍〕天牢・天羅・天陷。〔注〕天羅、草木蒙密、鋒鏑莫ㇾ

施。㊂防禦に用ひる戰具の名。〔六韜、虎韜、軍用〕天羅・虎落・鎖連一部、廣一丈五尺、高八尺、一百二十具。㊃絲瓜（ヘチマ）の異名。天羅絮に同じ。

【天羅絮】1447 テンラジヨ 絲瓜（8－27448・・16）の異名。〔事物異名錄、蔬穀、上、瓜〕草木記、絲瓜、一名天羅絮、又名二布瓜一。

【天羅地網】1448 テンラチマウ ㊀天の網と地の網。自然の制裁をいふ。〔宣和遺事、前集上〕値二天羅地網灾一。〔琵琶記、祝髮買葬〕提二起天羅地網人一。㊁星命家及び選擇家の語。天干の辰を以て天羅と爲し、戌を地網と爲す。〔張果星宗、諸星起例、天羅地網〕辰爲二天羅一、忌二乙生レ人、戌爲二地網一、怕二辛生レ人、經云、辰戌爲二惡弱之地一、天乙不レ臨、天乙乃貴人也、又云、辰爲二天羅一、戌爲二地網一、乙辛生レ人、切莫レ遇レ之。

【天來】1449 テンライ ㊀天から來る。轉じて、技術などの神妙で人間業でないことにいふ。〔易林〕太乙駕レ鰡、從二天上一來。〔關圖、巨靈擘二太華一賦〕決二九河之波浪一、杳自レ天來。㊁清、曹源宏（5－14297・・227）の字。

【天來入神】1450 テンライニフシン 技術などが巧で神妙の域に入ること。

【天駷】1451 テンライ 金、馬天來（12－44572・・895）の一名。

【天籟】1452 テンライ ㊀自然の音響。自然に鳴る風の聲。地籟（3－4890・・467）・人籟（1－344・・483）の對。〔莊子、齊物論〕女聞二人籟一、而未レ聞二地籟一、女聞二地籟一、而未レ聞二天籟一夫、云云、敢問二天籟一、子綦曰、夫吹萬不レ同、而使二其自レ己也。〔趙冬曦、陪二燕公一遊二灉湖上寺一詩〕琴將二天籟一合、酒共二鳥聲一催。〔李頎、宿二瑩公禪房一聞レ梵詩〕曉聞二天籟一發二清機一。〔呂溫、終南精舍月中聞二磬聲一詩〕天籟疑難レ辨、霜鐘詎可レ分。㊁詩文等の圓熟して絶妙な喩。

【天籟閣】1453 テンライカク 藏書閣の名。浙江省嘉興縣。明の項元汴、字は子京、號は墨林子が、兄の子長と共に佳書名畫を購ひ、閣を築いて之を藏し、天籟閣帖を刊した。清兵が至るに及び、汪六水に掠奪された。

【天籟集】1454 テンライシフ 書名。二卷。金、白樸撰。撰者は幼にして元好問に習ひ、清婉秀逸の詞辭は張炎と匹敵した。もと刻板がなく、傳本もなかつたが、康熙中、朱彝尊が始めて序をつくつて、之を傳へた。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【天老】1455 テンラウ ㊀上古の人。黃帝の七輔の一人。雜子陰道二十五卷を著す。〔竹書紀年、上〕黃帝五十年、云云、天霧、三日三夜晝昏、帝問二天老一。〔列子、黃帝〕黃帝既寤、悟然自得召二天老・力牧・太山稽一。〔說苑、辨物〕於レ是乃問二天老一。〔李白、大獵賦〕天老掌レ圖。〔注〕天老、黃帝時臣。〔繹史、五、太古、黃帝紀〕論語摘輔象、黃帝七輔、云云、天老受二天籙一。㊁宰相をいふ。〔稱謂錄、相臣古稱、天老〕杜甫詩、天老書二題目一、春官驗二討論一、注、天老、謂二宰相一也。

【天老兒】1456 t'ien¹ lao³ êrh 生れつき白髮の者。俗に白子（シラコ）といふ。

【天牢】1457 テンラウ ㊀山の三面が嶮しくて、入り易いが出にくい處。自然の牢獄のやうな嶮しい地。〔孫子、行軍〕天井・天牢・天羅。〔注〕天牢、三面環絶、易レ入難レ出。㊁星の名。天の牢獄の意。〔史記、天官書〕赤帝行レ德、天牢爲レ之空。〔張衡、週天大象賦〕爾乃天牢崇圍、設二禁暴之隄防一。〔晉書、天文志上〕天牢七星、在二北斗魁下一。

【天狼】1458 テンラウ 星の名。地球に最も近い恒星。冬春の際に南方に現はれる。〔楚辭、九歌、東君〕擧二長矢一兮射二天狼一。〔注〕天狼、星名。〔漢書、揚雄傳上〕彏二天狼之威弧一。〔後漢書、馬融傳〕棲三招搖與二元弋一、注二枉矢於天狼一。〔注〕招搖・元弋・天狼、並星名也。

【天臘】1459 テンラフ 道家の語。正月一日をいふ。天臘節。〔雲笈七籤、齋戒說〕正月一日名二天臘一、五月五日名二地臘一。

【天臘節】1460 テンラフセツ 道家の語。正月一日をいふ。〔事物異名錄、歲時、正月〕道書、正月一日爲二天臘節一、又曰二天中節一。

【天藍】1461 t'ien¹ lan² 藍色。

【天覽】1462 テンラン 天皇がごらんになること。〔太平記、十二、聖廟事〕一時に作二十首詩一、可レ備二天覽一。

【天吏】1463 テンリ ㊀天の命を奉ずる官吏。天道を立派に行ふ官吏。〔孟子、公孫丑上〕無レ敵二於天下一者、天吏也。〔集注〕呂氏曰、奉二行天命一、謂二之天吏一。〔孟子、公孫丑下〕彼如曰三孰可二以伐レ之、則將三應レ之曰、爲二天吏一、則可二以伐レ之。㊁天子の官吏。〔書、胤征〕天吏逸德、烈二于猛火一。〔傳〕天王之吏、爲二過惡之德一。㊂叢辰の名。月中の兇神をいふ。此に當る日は赴任や訴訟などを忌む。〔協紀辨方書、義例四、天吏〕樞要曆曰、天吏者、月中凶神也、其日忌二臨官・赴任・遠行・詞訟一、曆例曰、天吏者、正月起レ酉、逆行二四仲一、曹震圭曰、天吏者、三合・五行死氣之位、五行至レ此死而無レ氣、乃天之凶吏、全無二生意一也、其忌可レ知、按、天吏者、三合之死氣也、故又爲二致死一。

【天理】1464 テンリ ㊀天の條理。萬事萬物が調和を保つ自然の條理。天道。天倫。〔韓詩外傳、五〕倚二天理一、觀二人情一。〔莊子、天運〕順レ之以二天理一。〔史記、衞青傳〕逆二天理一、亂二人倫一。〔漢書、董仲舒傳〕有レ所レ詭二於天之理一與。〔江淹、知己賦〕談二天理之開基一、辯二人道之始終一。㊁天然の本性。正しい道理を具へてゐる人の本性。〔禮、樂記〕夫物之感レ人無レ窮、而人之好惡無レ節、則是物至而人化レ物也、人化レ物也者、滅二天理一而窮二人欲一者也。〔疏〕理、性也、是天之所レ生本性滅絶矣。㊂星の名。〔史記、天官書、在二斗魁之中、貴人之牢一、注〕集解曰、孟康曰、傳云、天理四星、在二斗魁中、貴人牢一、名曰二天理一。〔隋書、天文志上〕魁中四星、爲二貴人之牢一、曰二天理一也。〔春秋緯合誠圖〕天理在二斗中一、司二三公一也、如三人喉在レ咽、以理二舌語一。

【天理教】1465 テンリケウ ㊀妖教の一。又、八卦教といふ。白蓮教の一分派。清の乾隆年間に起り、教祖の皓生文は乾隆三十六年に處刑せられたが、其の徒は各地にひろがつた。嘉慶十八年、教魁、河南の李文成・山東の林清は、皆善く天文を觀、人事を豫言して、人に尊信せられたが、後、官軍に平定せられた。〔東華錄、十一〕嘉慶十八年九月壬午諭、首逆林清見經二拏獲訊據一、供認下八卦教、今改二名天理教一、人數衆多、散中布各處上。㊁神道の一派。天保年中、大和の中山みき女が唱道した神道。國常立尊・面足命等十柱の神を合せ祀つて天理王命、或は天理大神といふ。其の教義は天理に順應して一切の執着心を去り、奉仕生活・相互扶助によつて、其の理想たる甘露臺の建設に力めることを目的とする。其の本社は奈良縣丹波市に在る。天理王尊を見よ。

【天理滅】1466 テンリメツス 天の正理がほろびること。〔禮、樂記〕好惡無レ節二于內一、知誘二于外一、不レ能レ反レ躬、天理滅矣。〔淮南子、原道訓〕好憎成レ形、而知誘二於外一、不レ能レ反レ己、而天理滅矣。

【天理人情】1467 テンリニンジヤウ 天の條理と人の情。天理の㊀を見よ。〔清會典事例、禮部、風教〕天理・人情、心所二同具一、心存二於情理之中一、身必不レ陷二於法律之內一。

【天理人欲】1468 テンリジンヨク 天の條理と人の欲心。〔孟子、梁惠王下、王如好レ色、云云、集注〕蓋鐘鼓・苑囿・遊觀之樂、與二夫好レ勇好レ貨好レ色之心一、皆天理之所レ有、而人情之所レ不レ能レ無者、然天理・人欲、同レ行異レ情、循レ理而公二於天下一者、聖賢之所三以盡二其性一也、縱レ欲而私二於一己一者、衆人之所三以滅二其天一也。

【天理昭彰】1469 t'ien¹ li³ chao¹ chang¹ 天理は昭々として彰らかである。

【天理報應】1470 t'ien¹ li³ pao⁴ ying⁴ 因果應報は自然の道理である。

【天理王尊】1471 テンリワウノミコト 天理教の本尊。國常立尊・國狹槌尊・豐斟渟尊・大苫邊尊・面足尊・惶根尊・伊奘諾尊・伊奘冉尊・大日孁尊・月夜見尊の十柱の神を合せた神。

【天鷚】1472 テンリウ ひばりの異名。告天子。雲雀。〔天鸙。〔爾雅、釋鳥〕鷚、天鸙。〔注〕今江東名レ之曰二天鷚一。

【天良】1473 テンリヤウ 生れながらの善心。良心。天性。〔清國行政法汎論、官吏分限、迴避〕若官吏而喪二其天良一、有下專營二私利一之念上。

【天亮】1474 テンリヤウ ㊀心があきらかで誠があること。〔宋書、武帝紀上〕忠誠天亮、神武命世。㊁夜明け。黎明。天明。

【天粱】1475 テンリヤウ ㊀漢の建章宮中にあつた宮殿の名。〔三輔黃圖、三、建章宮〕天粱宮、梁木至二於天一、言二宮之高一也、四宮皆在二建章宮一。〔班固、西都賦〕洞二枍詣一以與二天粱一。〔注〕善曰、天粱、亦宮名也。㊁天のうつばり。南斗六星中の南の二星を之に當てる。〔晉書、天文志上〕南斗六星、天廟

也、云云、南二星魁、天梁也。

【天領】1476（テンリヤウ） ㊀天皇の領地。㊁德川時代には僭して將軍の領地の稱。

【天龍】1477（テンリヨウ） ㊀星宿の名。北斗と織女との間に在つて、長蛇の形をしてゐる。〔星經〕三名二天龍一、四名二天馬一。㊁天宮を守る龍。〔孝經緯援神契〕龍有二四種一、天龍守二天宮一、持住不レ落者。㊂蟲の名。蜈蚣(10－33099‥1)の異名。むかで。〔木草、蜈蚣〕釋名、蝍蛆・天龍。㊃山名。山西省太原縣の境にあり、北魏、拓拔氏の佛像がある。㊄（テンチヨウ）天寵に同じ。天寵(1157)の㊀を見よ。〔詩、商頌、長發〕受二小共大共一、爲二下國駿厖一、何二天之龍一。〔箋〕龍、當レ作レ寵、寵、榮名之謂。㊅佛（テンリユウ） 諸天と龍神。天龍八部を見よ。

【天龍寺】1477′（テンリユウジ） ㊀中國の五山の一。五山(1－257‥428)の㊁の㋑を見よ。㊁京都の五山の一。五山(1－257‥428)の㊁の㈧㊙を見よ。〔雍州府志〕天龍寺、號二靈龜山一、禪刹五山之第一、而舊檀林寺之跡也、等持院尊氏公、爲二後醍醐天皇追薦一所二創建一也、云云、夢窓國師爲二開祖一。

【天龍寺船】1478（テンリユウジブネ） 室町時代、足利尊氏が天龍寺を建立せんとし、其の費用を得るため元に派遣した船。天龍船ともいふ。〔善鄰國寶記、上、光明院〕曆應年中、新建二天龍寺一、由レ是有二入元之船一、不レ可レ有二兩國通信之使一、惟海舶往來、互不二相拒一、今天龍船亦然乎。〔續本朝通鑑、五十五〕曆應四年十二月朔、此船達二元國一、載二若干器物一歸、云云、世稱レ之曰二天龍寺船一。

【天龍八部】1479（テンリユウハチブ） 佛諸天の鬼神と龍とを分けて八部と爲す。一天・二龍・三夜叉・四乾闥婆・五阿脩羅・六迦樓羅・七緊那羅・八摩睺羅伽。〔法華經、提婆品〕天龍八部、人與二非人一、皆遙見二彼龍女成佛一。〔翻譯名義集〕八部、一天・二龍・三夜叉・四乾闥婆・五阿脩羅・六迦樓羅・七緊那羅・八摩睺羅伽。〔普菴、大德禪師釋談章〕無數天龍八部、百萬火首金剛。

【天力】1480（テンリヨク） ㊀天の力。自然の作用。〔漢書、霍光傳〕中孺扶服叩頭曰、老臣得レ托二命將軍一、此天力也。㊁天子の德。天德。〔蘇軾、鄧忠臣母周氏挽詞〕微生眞草木、無レ處レ謝二天力一。

【天倫】1481（テンリン） ㊀天然に備はつた人倫の次第。父子・兄弟など。父は先で子は後、兄は先で弟は後の如きは、天然の倫次である。〔穀梁、隱、元〕兄弟、天倫也、爲レ子受二之父一、爲二諸侯一受二之君一、已廢二天倫一而忘二君父一、以行二小惠一、曰二少道一也。〔注〕兄先、弟後、天之倫次。〔南齊書、豫章文獻王嶷傳〕雖二天倫有レ本、而因レ事增レ情、宜下廣二田邑一、用申中恩禮上。〔劉峻、重答二劉秣陵沼一書〕値三余有二天倫之感一。〔徐陵、封二始興王一詔〕漢祖天倫、伯叔追封。〔李白、春夜宴二桃李園一序〕序二天倫之樂事一。㊁天の道理。天理。〔莊子、刻意〕一レ之精通、合二於天倫一。〔疏〕倫、理也、既與レ神爲レ一、則精智無レ礙、故合二乎自然之理一。〔文子、上義〕肆二一人之欲一、而長二海內之患一、此天倫所レ不レ取也。㊂相術家の語。兩外耳の上部をいふ。流年運氣(6－17431‥307)を見よ。

【天廩】1482（テンリン） 星の名。〔張衡、週天大象賦〕天廩備レ稷以祈レ歆。〔隋書、天文志中〕天廩四星、在二昴南一。

【天臨】1483（テンリン） ㊀天が下土に照臨する。又、天の如く臨む。天子が天下を立派に治めること。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕太上正レ位、天臨レ海鏡。㊁路名。元、置く。禹貢の荊州の域。今の湖南省攸縣以北、安化縣以東、湘陰縣以南の地。其の治は今の湖南省長沙縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣〕長沙府、禹貢荊州之域、春秋戰國時屬レ楚、秦爲二長沙郡一、云云、元曰二潭州路一、天曆二年、改爲二天臨路一。

【天麟】1484（テンリン） ㊀明、吳麟(2－3365‥407)の一名。㊁元、汪時中(6－17154‥249)の字。

【天壘】1485（テンルイ） 星の名。〔星經〕天壘十三星、如二貫索狀一、在二哭泣之南一。〔張衡、週天大象賦〕敗臼察レ災而揚レ輝、天壘守レ夷而駢照。

【天癘】1486（テンレイ） 天の降すわざはひ。流行病。天患。〔左氏、襄、三十一〕盜賊公行、而天癘不レ戒。〔注〕癘、猶レ災也、言二水潦無レ常無レ時也。〔校勘記〕石經・宋本・淳熙本・纂圖本・明翻岳本、天厲作二天癘一、毛誼父六經正誤云、云云、案二杜氏注一、當レ作二天地之天一、然經有レ言二癘疫夭札一、則天癘亦不レ爲レ非、陸粲附注云、天厲者、天之厲氣、猶二周官司救所レ謂天患一、陳樹華云、毛氏未レ見二石經一、故不レ能二遽定一、哀元年傳云、天有二菑癘一、更是一證、又案、凡經典癘疾・癘鬼字皆從レ疒、而轉寫傳刻多譌爲レ厲、正レ之不レ可レ勝レ正。

【天醴】1487（テンレイ） 天のあまざけ。天から降る醴酒。〔蘇軾、人參詩〕玄泉傾二海腴一、白露洒二天醴一。

【天蓼】1488（テンレウ） たでの實。〔本草、葒草〕釋名、石龍・天蓼・大蓼。

【天曆】1489（テンレキ） ㊀天の曆數。天之曆數(1620)を見よ。㊁年號。㋑元、文宗、圖帖穆爾・明宗、和世㻋の年號。(1328－1330) ㋺（テンリヤク） 第六十二代村上天皇の御代。(947－957) ㊂淸の咸豐元年から同治三年まで使用した曆の名。其の制は一年を三百六十六日、十二箇月とし、全體は舊制の陰曆と似、且、週別は西洋の區分と一致させてゐる。太平天國が制定した曆。

【天歷】1490（テンレキ） ㊀天のめぐり。〔史記、太史公自序〕五年而當二太初元年一、十一月甲子朔旦冬至、天歷始改、建二於明堂一、諸神受レ紀。㊁天の曆數。天曆。天之曆數(1620)を見よ。〔宋書、樂志四〕禪讓應二天歷一、睿聖世相承。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕陶唐既謝、天歷在レ虞。〔注〕善曰、天歷、天之歷數。

【天裂】1491（テンレツ） 天がさける。〔漢書、天文志〕地動陰有レ餘、天裂陽不レ足、皆下盛彊、將レ害レ上之變也。〔梁周翰、五鳳樓賦〕門呀洞缺、若二天之裂一。

【天路】1492（テンロ） ㊀天子のまつりごと。〔後漢書、安帝紀贊〕彼日而微、遂祲二天路一。〔注〕言二君道闇亂、政化陵遲一。㊁天ののり。天の法則。〔班固、幽通賦〕既仁得二其信一、然兮、仰二天路一而同レ軌。〔注〕善曰、劉德曰、人道既然、仰視二天道一、又同レ法也。〔馮衍、顯志賦〕惟天路之同レ軌兮、或二帝王之異レ政。㊂天上の路。又、遙かに遠い路。天塗。〔漢武帝、車子侯歌〕天路遠兮無レ期、不レ覺涕下兮霑レ裳。〔枚乘、雜詩〕美人在二雲端一、天路隔無レ期。〔張衡、西京賦〕美二往昔之松喬一、要二羨門乎天路一。〔謝靈運、入二華子崗一是麻源第三谷詩〕險徑無二測度一、天路非二術阡一。

【天漏】1493（テンロウ） 天の、雨のもる所。又、天が漏る。雨が多く降ること。〔杜甫、九日寄二岑參一詩〕安得レ誅二雲師一、疇能補二天漏一。〔書言故事、天文類〕雨多曰二天漏一。

【天螻】1494（テンロウ） 蟲の名。けら。すくもむし。〔爾雅、釋蟲〕螜、天螻。〔注〕螻蛄也。〔方言、十一〕蠀螬謂二之蟦一、自レ關而東謂二之蝤蠀一、或謂二之蛬蠾一、或謂二之蝖蠀一、梁益之間謂二之蛒一、或謂二之蝎一、或謂二之蛭蛒一、秦晉之間謂二之蠹一、又謂二之天螻一、四方異語而通者也。〔古今注、魚蟲〕螻蛄、一名天螻、一名螜、一名碩鼠。

【天鹿】1495（テンロク） ㊀靈獸の名。一に天祿に作る。天祿辟邪を見よ。〔漢書、西域上、烏弋傳〕有二桃拔・師子・犀・牛一。〔注〕孟康曰、桃拔一名二符拔一、似レ鹿長尾、一角者或爲二天鹿一、兩角者或爲二辟邪一。〔宋書、符瑞志下〕天鹿、純靈之獸也。㊁明、沈賡(6－17189‥137)の字。

【天祿】1496（テンロク） ㊀上帝から授かる福祿。天から授かる幸福。天のめぐみ。天惠。〔書、大禹謨〕四海困窮、天祿永終。〔傳〕天之祿籍、長終二汝身一。〔蔡傳〕君之天祿、一絕而不二復續一。〔詩、大雅、桑柔〕力民代食。〔傳〕力民、代二無レ功者一食二天祿一也。〔論語、堯曰〕四海困窮、天祿永終。〔孟子、萬章下〕弗三與治二天職一也、弗三與食二天祿一也。〔國語、吳語〕天祿亟至、是吳命之短也。〔史記、西南夷傳贊〕楚之先、豈有二天祿一哉。〔漢書、刑法志〕功成事立、則受二天祿一而永二年命一。〔陸機、漢高祖高臣頌〕肇載二天祿一。㊁天子の位。天位(17)に同じ。〔後漢書、桓帝紀贊〕桓自二宗支一、越躋二天祿一。〔注〕天祿、天位也。㊂天祿閣の略。天祿閣を見よ。㊃獸の名。天祿蝦蟆・天祿辟邪を見よ。〔古玉圖譜〕漢多以爲二雕刻之飾一、圖爲二天祿書鎭一、漢器也。㊄年號。㋑遼、世宗、耶律兀欲の時。(947－951) ㋺第六十四代圓融天皇の御代。(970－973) ㊅明、顧祿(12－43689‥208)の初名。㊆明、馬中錫(12－44572‥886)の字。

【天祿閣】1497（テンロクカク） 漢の時、祕書を藏した殿閣の名。劉向・揚雄等が祕書をこの閣で校合した。〔漢書、揚雄傳贊〕時雄校二書天祿閣一。〔三輔黃圖、六、閣〕天祿閣、藏二典籍一之所。〔班固、西都賦〕右有二天祿・石渠、典籍之府一。

【天祿蝦蟆】1498（テンロクガマ） 天祿は獸の名。蝦蟆はがま。古、建築・器具等の飾として之を雕刻した。天祿・天祿辟邪を見よ。〔後漢書、靈帝紀〕修二玉

堂殿、鑄銅人四、黃鐘四、及天祿・蝦蟆、又鑄四出文錢。〔注〕天祿、獸也。

【天祿大夫】1498′（テンロクタイフ） 酒をいふ。〔漢書、食貨志、下〕酒者、天之美祿。〔淸異錄、酒漿、天祿大夫〕王世充僭號、謂羣臣曰、朕萬機繁壅、所以輔朕和氣者、惟酒功耳、宜封天祿大夫、永賴醇德。

【天祿辟邪】1499（テンロクヒジヤ） 獸の名。後漢の宗資の墓前に二つの石獸があり、左の一角のを天祿、右の二角のを辟邪といひ、夫々の膊上に各〻の名が刻してある。形は鹿に似て尾が長い。淸代には三品官の墓碑に之を用ひた。天祿は又、天鹿・天䴥に作る。天祿・天祿蝦蟆を見よ。〔漢書、西域上、烏弋傳〕有桃拔・師子・犀・牛。〔注〕孟康曰、桃拔、一名符拔、似鹿長尾、一角者、或爲天鹿、兩角者、或爲辟邪。〔集古錄、後漢天祿辟邪字〕右漢天祿辟邪四字、在宗資墓前石獸膊上。按後漢書、宗資、南陽安衆人也、今墓在鄧州南陽界中、墓前有二石獸、刻其膊上、一曰天祿、一曰辟邪。〔顧氏說略〕獸有天祿・辟邪、天祿、一作天鹿、一作天䴥。〔淸通禮〕品官墓碑、三品、天祿・辟邪首。

【天祿琳瑯】1500（テンロクリンラウ） 書目の名。淸の乾隆四十年、勅命により內府所藏の宋・元・明の善本を以て天祿琳瑯書目十卷を編し、續いて嘉慶二年、又、二十卷を續編し、その所藏の室を天祿琳瑯殿といひ、後楹を五經萃室と爲し、宋の岳珂の刊板五經を藏した。〔宸垣識略〕乾淸宮之左爲昭仁殿、貯宋元明舊板書籍四百餘部。

【天祿閣校書】1501（テンロクカクニシヨヲカウス） 漢の劉向が天祿閣上で書籍を校合してゐる時、太乙の精から洪範五行の文をうけた故事。〔拾遺記、六〕劉向於成帝之末、校書天祿閣、專精覃思、夜有老人、着黃衣、植靑藜杖、登閣而進、見向暗中獨坐誦書、老父乃吹杖端、煙燃、因以見向、說開闢以前、向因受五行洪範之文、向請問姓名、云、我是太一之精、天帝聞卯金之子、有博學者、下而觀焉、乃出懷中竹牒、有天文地圖之書。

【天錄】1502（テンロク） 天の帳簿。又、それに書かれてあること。天の記錄。人籍(**1**−**344**・325)の㊁の對。〔鄺炎、見志詩〕富貴有人籍、貧賤無天錄。

【天䴥】1503（テンロク） 獸の名。天祿辟邪を見よ。

【天論】1504（テンロン） 荀子の篇名。

【天和】1505（テンワ） ㊀天の和氣。〔淮南子、俶眞訓〕含哺而游、鼓腹而熙、交被天和、食于地德。〔注〕和、氣也。〔漢書、禮樂志〕嘉承天和、伊樂厥福。〔王褒・靈壇銘〕浩庭霄度、吐納天和。㊁調和を得た自然の道。〔莊子、知北遊〕若正汝形、一汝視、天和將至。〔疏〕自然和理、歸至汝身。㊂天と和すること。〔王康琚、反招隱詩〕推分得天和、矯性失至理。〔注〕善曰、莊子曰、夫明白於天地之德者、此之謂太平大宗、與天和者也。㊃年號。㋑北周、高祖、武帝、宇文邕の時。(566−572) ㋺唐の時、安慶緒の僭年號、天成の一稱。(757−759) ㊇（テンナ） 第百十二代靈元天皇の御代(1681−1684) ㊄（テンワ） 明、顏頤壽(**12**−**43591**・・127)の字。

【天和式】1506 t'ien^1 hê^2 shih^4 麻雀の點數計算方法の一種。

【天話】1507（テンワ） 天界の話。轉じて、架空な話。〔升庵外集〕滇中有某提學、訓諸生讀書爲文之法甚悉、語畢、問諸生曰、吾言是否、中有一人應曰、公天人、所言皆天話也、相傳以爲笑、蓋俗以託空爲天話耳。

【天王】1508（テンワウ） ㊀天子の稱。〔禮、曲禮下〕臨諸侯、畛於鬼神、曰有天王某甫。〔疏〕此謂天子巡守、祝告神辭也。〔春秋、隱、元〕秋七月、天王使宰咺來歸惠公仲子之賵。〔春秋、隱、九〕天王使南季來聘。〔國語、吳語〕天王親趨玉趾。〔莊子、天道〕天王之用心何如。〔荀子、王制〕使天下莫不順比從服、天王之事也。〔史記、孝文紀〕所謂天王者、乃天子。〔獨斷〕天王諸夏之所宗、天下之所歸往、故稱天王。〔日知錄、天王〕尙書但稱王、春秋則曰天王、以別於當時楚・吳・徐・越僭王。㊁天の王。心宿の輝きの最も強い星を之に當てる。〔史記、天官書〕大星天王、前後星子屬。〔注〕索隱曰、鴻範五行傳曰、心之大星、天王也。〔後漢書、襄楷傳〕中耀、天王也、傍小星者、天王子也。〔晉書、天文志上〕心三星、天王正位也。㊂［佛］欲界六天の最下天で、須彌山半腹の四方に在る四人の天王をいふ。持國天王・廣目天王・增長天王・多聞天王。

【天王河】1509（テンワウカ） ウスリ河の異名。烏蘇里江(**7**−**18998**・・197)を見よ。

【天王星】1510（テンワウセイ） 太陽系の第七惑星。四個の衞星がある。西紀一七一八年ドイツのハーミエルが發見したもの。公轉週期八四・〇一三年。自轉週期十時間五十分位。

【天王堂】1511（テンワウダウ） 堂の名。州府城の西北隅及び佛寺にあり、毘沙門天王の第二子獨健を祀る。〔談藪〕今軍營中有天王堂、按僧史、天寶初、西蕃寇安西、奏乞援兵、明皇詔不空三藏、誦仁王護國經、帝見神人帶甲荷戈在帝前、不空云、此毘沙門天王第二子獨健、往救安西也、後安西奏、有神人、長丈餘、被金甲、鼓角大鳴、蕃寇奔潰、斯須城上天王見形、謹圖形上進、因勅諸節鎭、所在州府、於城西北隅、各立天王形像、佛寺亦別院安置、但不知何時流入軍營耳。〔陔餘叢考、天王堂〕僧寺多有名天王堂者。

【天王大單于】1512（テンワウダイゼンウ） 前秦、苻健(**9**−**30825**・・2)の自稱。

【天橫】1513（テンワウ） 星の名。天河。天漢。〔漢書、天文志〕王梁之旁有八星、絕漢、曰天橫。

【隱天】1514（テンヲカクス） 天を蔽ひかくす。〔班固、西都賦〕其陽則崇山隱天、幽林穹谷。

【應天】1515（テンニオウズ） 天命に順應して事を行ふ。應天順人を見よ。

【應天順人】1516（テンニオウジヒトニシタガフ） 天命と人道とに順つて事を行ふ。革命(**12**−**42710**・・68)を見よ。〔漢書、敍傳下〕革命創制、三章是紀、應天順民、五星同晷。〔班彪、王命論〕雖其遭遇異時、禪代不同、至于應天順人、其揆一焉。

【御天】1517（テンヲギヨス） 天位に陞つて天下を統治する。〔易、乾〕時乘六龍以御天。

【罄天】1518（テンヲツクス） 天をつくす。天のはてまで行きわたること。〔顏延之、宋郊祀歌〕亙地稱皇、罄天作主。

【造天】1519（テンニイタル） 天までとどく。〔枚乘、七發〕苗松豫章、條上造天。〔注〕善曰、孔安國尙書傳曰、造、至也。

【託天】1520（テンニタクス） 天命にかこつける。〔史記、呂后紀〕爲王而餓死兮、誰者憐之、呂氏絕理兮、託天報仇。

【憑天】1521（テンニヨル） 天命を恃みにする。〔晉書、苻堅載記下〕諺云、憑天俟時。

【拂天】1522（テンヲハラフ） 空高く聳え立つこと。〔班固、東都賦〕羽旄掃霓、旌旗拂天。

【蔽天】1523（テンヲオホフ） 天一ぱいになること。〔班固、西都賦〕風毛雨血、灑野蔽天。

【捫天】1524（テンヲサグル） 天をさぐる。捫は、摸索の摸。〔司馬相如、上林賦〕仰攀橑而捫天。〔注〕善曰、捫、摸也。

【籲天】1525（テンヲヨブ） 天に向つてさけび、訴へること。籲は呼。〔書、泰誓中〕無辜籲天。〔傳〕籲、呼也、民皆呼天告冤無辜。

【賴天】1526（テンニヨル） 天の恩惠を受ける。天子のめぐみをうける。〔戰國、楚策〕妾賴天潛子男、則是君之子爲王也。〔史記、三王世家〕皇子賴天、能勝衣趨拜。

【樂天】1527（テンヲタノシム） 天命を樂しむ。天命に安住する。樂天知命を見よ。〔孟子、梁惠王下〕樂天者保天下。〔陶潛、歸去來辭〕樂夫天命、復奚疑。

【樂天知命】1528（テンヲタノシミメイヲシル） 天命を悟り樂しんで之に順應すること。〔易、繫辭上〕樂天知命、故不憂。〔疏〕順天施化、是歡樂於天、識物始終、是自知性命、任自然之理、故不憂也。

【戾天】1529（テンニイタル） 天に至る。〔詩、小雅、采芑〕鴥彼飛隼、其飛戾天。〔傳〕戾、至也。〔詩、大雅、旱麓〕鳶飛戾天、魚躍於淵。

【麗天】1530（テンニツク） 天に附く。日月などが天空にかかること。〔易、離〕日月麗乎天。〔疏〕日月麗乎天、百穀草木麗乎土者、此廣明附著之義。

【天綩綖】1531（テンエンエン） 藤の異名。〔事物異名錄、百草、藤〕事物紺珠、天綩綖、在樹上絲絡、峩眉山名爲普賢袈裟、按、卽藤也。

【天可汗】1532（テンカカン） 唐の貞觀四年、西北の君長が太宗に上つた尊號。〔唐書、太宗紀〕貞觀四年四月戊戌、西北君長請上號爲天可汗。

【天茄子】1533 テンカシ 藥草の名。うしほほづき。いぬほほづき。解熱及び利尿に特効がある。龍葵。〔本草、龍葵〕釋名、苦葵・苦菜・天茄子・水茄・天泡草・老鴉・酸漿草・老鴉眼睛草。

【天茄苗】1534 テンカベウ 草の名。天茄苗兒を見よ。

〖天茄苗兒〗1535 テンカベウジ 草の名。莖に稜があり、五瓣の小白花を開き、紫黑色の野葡萄大の實をつける。味は甜い。〔農政全書、天茄苗兒考〕生二田野中一、苗高二尺許、莖有二線楞一、葉似二姑娘草葉一而大、又似二和尚菜葉一卻小、開二五瓣小白花一、結子似二野葡萄一大、紫黑色、味甜。

【天假レ手】1536 テンテヲカル 天は人力を假りて事を行ふ。〔書、伊訓〕皇天降レ災、假二手于我有命一。〔傳〕言、桀不レ循二其祖道一、故天下二禍災一、借二手於我有命商王一、誅二罰之一。〔左氏、隱、十一〕鄭伯曰、天禍二許國一、鬼神實不レ逞二于許君一、而假二手于我寡人一。〔注〕借二手于我寡德之人一、以討レ許。

【天芥菜】1537 テンカイサイ 藥草の名。葉は芥に似、味は苦い。蛇傷に效がある。〔本草、天芥菜〕時珍曰、生二平野一、小葉如二芥狀一、味苦、一名雞痾黏、主二蛇傷一、同二金沸草一、入レ鹽搗傅レ之。

【天杠轂】1539 テンカウコク 天のこしき。こしきは、車輪の中央にあり、輻の集つてゐる所。北極星(2－2574・・136)を之に喩へる。〔隋書、天文志上〕北極爲二天杠轂一、二十八宿爲二天橑輻一。

【天降石】1540 テンカウセキ 隕石をいふ。

【天岩戶】1541 アマノイハト 天石窟戶の略。〔宇津保物語、貴宮〕春霞あまの岩とをたちもこめなん。

【天逆手】1542 アマノサカテ ❶古、退く時に打つ拍手。〔古事記、上〕天逆手矣於二青柴垣一打成而隱也。❷古、人をのろふ時に打つた拍手。〔伊勢物語〕あまのさかてを打ちてなんのろひをる。

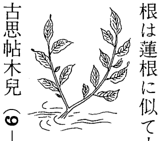
【天逆鉾】1543 アマノサカホコ 神代にあつたといふ鉾の名。〔播磨風土記〕其土塗二天之逆鉾一。

【天御蔭】1544 アメノミカゲ 天子のおはします御殿。〔祝詞式、大祓〕天之御蔭、日之御蔭。

【天御門】1545 アメノミカド 天子の御門。主上。〔萬葉集、二十〕かしこきやあめのみかどをかけつれば。

【天具帖】1546 テングデフ 質が薄く柔軟な紙。貴重品の包紙、又は紙布、版下などに用ひる。典具帖。

【天藕兒】1547 テングウジ 草の名。根は蓮根に似て小。食用となる。〔三才圖會〕天藕兒、天藕兒根、如レ藕而小、煑熟食、枝葉不レ可レ食。



天藕兒
(三才圖會)

【天完帝】1548 テンクワンテイ 元、脫古思帖木兒(9－29539・・149)の號。

【天劍草】1549 テンケンサウ 草花の名。ひるがほ。はやひとくさ。旋花。〔本草、旋花〕釋名、旋葍・筋根・續筋根・鼓子花・㹠腸草・美草・天劍草・纏枝牡丹。

【天胡荽】1550 テンコスイ 草の名。石胡荽(8－24024・・930)の異名。ちどめぐさ。〔本草、石胡荽〕釋名、天胡荽・野園荽・鵞不食草・雞腸草。

【天湖子】1551 テンコシ 明、樂純(6－15399・・138)の號。

【天箜篌】1552 テンクゴ テンコウゴ 天上の樂器の名。〔海錄碎事、天箜篌〕天蠡・天鼓・天箜篌・天牟陁羅・天自在樂、如二天樂一也。

【天在レ內】1553 テンウチニアリ 天然の道は心の中にある。〔莊子、秋水〕天在レ內、人在レ外。〔注〕天然在レ內、而天然之所レ順者在レ外。

【天散生】1554 テンサンセイ 荒川秀の號。荒川天散(9－30953・・246)を見よ。

【天之休】1555 テンノキウ 天の與へる美名、又さいはひ。〔儀禮、士冠禮〕承二天之休一、壽考不レ忘。〔注〕休、美也。不レ忘、長有二令名一。

【天之祜】1556 テンノコ 天の與へるさいはひ。天祜。〔儀禮、士冠禮〕祭二此嘉爵一、承二天之祜一。

【天之贊】1557 テンノサン 天のたすけ。天助。〔左氏、昭、二十七〕有二齊楚之援一、有二天之贊一、有二民之助一。

【天之樞】1558 テンノスウ 天の樞紐。天の中心。〔李白、秦嶺賦〕爲二天之樞一、爲二坤之維一。

【天之天】1559 テンノテン 自然の自然たる所。〔莊子、達生〕不レ開二人之天一而開二天之天一。〔注〕不レ慮而知、開レ天也、知而後感、開レ人也、然則開レ天者、性之動也、開レ人者、知之用也。〔史記、酈生傳〕臣聞、知二天之天一者、王事可レ成、不レ知二天之天一者、王事不レ可レ成。

【天之度】1560 テンノド 天の法度。天度。〔白虎通、五刑〕聖人治二天下一必有二刑罰一何、所三以佐レ德助レ治順二天之度一也。

【天之祿】1561 テンノロク 天から下される福祿。天祿。〔蘇洵、嚳妃論〕是其享二天之祿一、以能久有二社稷一。

【天絲瓜】1562 テンシクワ 植物の名。絲瓜。へちま。〔本草、絲瓜〕釋名、天絲瓜・天羅・布瓜・蠻瓜・魚鰦。

【天邪鬼】1563 アマノジヤク ❶佛兩金剛が踏まへてゐる小惡鬼。❷わざと人の言にさからつて、片意地を張るもの。あまのざこ。〔難語考〕さる女をさして天之邪古また天之自夜久なども云へり。

【天所レ赭】1564 テンノシヤニスルトコロ 天が罰して赤衣を著せる。〔蘇軾、司馬君實獨樂園詩〕名聲逐二吾輩一、此病天所レ赭。

【天親竹】1565 テンシンチク 竹の名。ふたまただけ。雙竹。〔清異錄、竹、天親竹〕秦維言、雙竹自是一種、有二成レ林者一、因レ出二三拄杖兩岐一、後問二浙人一、云、此是天親竹、有三時出二一番雙筍一、故例皆分岐、亦非二年年有レ之。

【天垂線】1566 t‘ien^1 ch‘uei^2 hsien^4 垂直線。

【天少女】1567 アマツヲトメ ❶天津乙女。天女。天人。〔新古今和歌集、雜、中〕あまつをとめが夏衣。❷五節の舞姬。〔後撰和歌集、雜、一〕天つをとめとなりにける。

【天樵子】1568 テンセウシ 清、韓畕(12－43159・・61)の號。

【天尺樓】1569 テンセキロウ 明、施兆昂(5－13629・・172)の室名。

【天瘦閣】1570 テンソウカク 清、李士棻(6－14459・・1280)の室名。

【天鐵熊】1571 テンテツユウ 唐の高宗の時、伽毗葉國から獻じた熊。〔酉陽雜俎、廣動植、毛篇〕唐高宗時、伽毗葉國獻二天鐵熊一、擒二白象獅子一。

【天霸山】1572 テンパザン 山名。四川省中江縣にある。〔海錄碎事、地、總載、山〕天霸山、在二梓州中江縣一、其山險峻、冠二絕衆峯一、故名。

【天泡瘡】1573 テンパウサウ 病の名。水泡瘡の類。皮膚や黏膜の上に豌豆大の水泡を發生し、紅色となり、中に透明の液を含む。〔證治準繩、天泡瘡〕天泡瘡、狀如二水泡一、屬二肺胃二經一、風熱苦二發熱一、焮痛邪在レ表也、用二人參一敗レ毒、散二發熱一、咳嗽邪在レ肺也。

【天邦囤】1574 テンパウトン 小廩の名。貴州省甕安縣の廢草塘司の西北。

【天彭闕】1575 テンパウケツ 山名。❶四川省彭縣。一名、彭門山。兩峯相對して門のやうだからいふ。〔水經、江水注〕東南下百餘里、至二白馬嶺一而歷二天彭闕一、亦謂レ之爲二天彭谷一也、秦昭王以二李冰一爲二蜀守一、冰見三氏道縣有二天彭山兩山相對、其形如レ闕、謂二之天彭門一、亦曰二天彭闕一、江水自レ此已上至微弱、所謂發源濫觴者也。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、彭縣〕彭門山、縣北三十里、兩峯對立、其高若レ闕、名二天彭門一、亦曰二天彭闕一。❷四川省灌縣、灌口山の西嶺。嶺上に二大石が門狀をなすからいふ。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、灌縣〕灌口山、縣西北二十六里、漢文翁穿二湔江一灌二溉平陸一處也、云云、李膺曰、湔水路西七里、灌口山、古謂二之天彭門一。

【天不レ言】1576 テンイハズ 天は言葉で其の意志を發表することがない。〔荀子、不苟〕天不レ言、而人推レ高焉、地不レ言、而人推レ厚焉。

〖天不レ言而信〗1577 テンイハズシテシンナリ 天は言葉では言はないが、其の行ふ所は常にたがはない。例へば、四時は常に規則正しくめぐつて來るなど。〔禮、樂記〕天則不レ言而信、神則不レ怒而威。〔疏〕天則不レ言而信者、謂二四時不一レ失。

【天麩羅】1578 テンプラ ❶料理の名。魚介などをうどん粉でまぶして、油であげたもの。西班牙語 tempora の宛字。❷砂糖のすり蜜を衣にした菓子。〔嬉遊笑覽〕。❸鍍金したもの。❹外貌ばかりよく見えるもの。

【天富場】1579 テンプウヂヤウ 浙江省に在る製鹽場の名。〔宋史、食貨志下四〕至二岱山昌國一、又東南爲二溫州雙穗・南天富・北天富場一。

【天碧深】1580 テンペキフカシ 天のあをみが深い。天空があをあをと澄んでゐること。〔海錄碎事、天上、天〕後主詩、日映仙雲薄、秋高天碧深。

【天補樓】1581 テンポロウ 清、李士棻(6－14459・・1280)の室名。

【天剖レ符】1582 テントフヲワカツ 天とわりふを二分する。天がわりふを與へる。符籙に應じて天下の王となること。〔揚雄、劇秦美新〕與レ天剖二神符一、地合二靈契一、創二億兆一、規二萬世一。〔注〕善曰、分二天之符一、合二地之契一、言二應レ錄而王一也。

【天名精】1583 テンメイセイ　藥草の名。やぶたばこ。はまふぢ。〔本草、天名精〕釋名、天蔓菁・天門精・地菘・埊松・玉門精・麥句薑・蟾蜍蘭・蝦蟇藍・蚵蚾草・家首・彘顱・活鹿草・劉儘草・皺面草・母豬芥、實名二鶴蝨一、根名二杜牛膝一。〔酉陽雜俎、廣動植、草篇〕天名精、一曰二鹿活草一。

【天褕生】1584 テンユセイ　清、黃周星(**12－47926**‥1126)の號。

【天庸子】1585 テンヨウシ　清、沈白(**6－17189**‥325)の號。

【天傭子】1586 テンヨウシ　字號。❶明、艾南英(**9－30648**‥81)の號。❷明、沈白(**6－17189**‥325)の號。

【天墉城】1587 テンヨウジヤウ　崑崙山の一角に在る城の名。〔海內十洲記〕崑崙山三角、其一角有三積レ金爲二天墉城一、面方千里、城上安二金臺五所、玉樓十二所一、其北戶山承淵山、又有二墉城一、金臺玉樓相鮮、西王母之所レ治也。

【天雷公】1588 テンライコウ　雷神の名。〔抱朴子〕天雷公、雷神之名。

【天雷報】1589 テンライハウ　二簧劇の一。一名、青風亭。張元秀と妻周氏とに育てられた薛繼寶といふ者が、不正であつた爲、天雷に打ち殺されるといふ因果應報劇。

【天靈蓋】1590 テンレイガイ　頭蓋骨の上部。顱頂骨。〔資治通鑑、唐紀〕(肅宗、至德元載)或以二鐵棓一揭二其腦蓋一。〔注〕人顱門有二骨蓋一、其上謂二之腦蓋一、今方書所レ云天靈蓋、卽其物。

【天臠炙】1591 テンレンシヤ　あかがひの肉を燒いた料理。〔嶺表錄異〕瓦屋子、蓋蚌蛤之類也、殼中有レ肉、紫色而滿レ腹、廣人尤重レ之、多燒以薦レ酒、俗呼爲二天臠炙一。

【薄レ天遊】1592 テンニセマツテアソブ　天に近づき迫つてあそぶ。天空高く飛びあそぶこと。〔嵆康、琴賦〕眇翩翩兮薄レ天遊。〔注〕善曰、廣雅曰、薄、至也、銑曰、薄、迫也。

【薄レ天飛】1593 テンニセマツテトブ　天に近づき迫つてとび翔ける。天空高く飛ぶこと。〔海錄碎事、鳥獸、飛鳥〕翔鳥薄レ天飛。

【摩レ天游】1594 テンヲマシテアソブ　天に近づきせまつてあそぶ。天空高く飛びあそぶこと。〔王粲、從軍詩〕寒蟬在レ樹鳴、鸛鵠摩レ天游。

【欲レ到レ天】1595 テンニイタランドホツス　地平の果に見える天に達すかと思はれるほど遙々遠くまで來た意。〔岑參、磧中作詩〕走レ馬西來欲レ到レ天、辭レ家見二月兩回圓一。

【天誘二其衷一】1596 テンソノチユウヲミチビク　天は人の良心を誘導する。天衷(1145)を見よ。〔左氏、定、四〕天誘二其衷一、致二罰於楚一。

【天圓地方】1597 テンハヱンチハハウ　天の形は圓く、地の形は方形である。〔呂覽、圜道〕五曰、天道圜、地道方、聖王法レ之、所三以立二上下一、何以說二天道之圜一也、精氣一上一下、圜周復雜、無レ所二稽留一、故曰二天道圜一、何以說二地道之方一也、萬物殊レ類殊レ形、皆有二分職一、不レ能二相爲一、故曰二地道方一。

【天何言哉】1598 テンナニヲカイハンヤ　天は何をいふか、何もいはない。無言のうちに其の道を行ふ意。〔論語、陽貨〕子曰、天何言哉、四時行焉、百物生焉、天何言哉。〔集注〕程子曰、孔子之道、譬如二日星之明一、猶患二門人未レ能二盡曉一、故曰二予欲レ無レ言、若二顏子一、則便默識、其他則未レ免二疑問一、故曰、小子何述、又曰、天何言哉、四時行焉、百物生焉、則可レ謂二至明白一矣。

【天假二之年一】1599 テンコレニトシヲカス　天が壽命を貸し與へて長生させること。〔左氏、僖、二十八〕晉侯在レ外十九年矣、而果得二晉國一、險阻艱難備嘗レ之矣、民之情僞、盡知レ之矣、天假二之年一、而除二其害一、天之所レ置、其可レ廢乎。〔注〕獻公之子九人、唯文公在、故曰三天假二之年一也。

【天降二喪亂一】1600 テンサウランヲクダス　上天が喪亂を國家に下す。〔詩、大雅、桑柔〕天降二喪亂一、滅二我立王一、降二此蟊賊一、稼穡卒痒。〔集傳〕言、天降二喪亂一、固已滅二我所レ立之王一矣。

【天隔二南北一】1601 テンナンボクヲヘダツ　揚子江が中國を南北に分けてゐるのは、天の爲せる業で、人力では如何ともすることができないといふ意。魏の文帝が吳を討たうとして江に臨み、波濤の洶涌するを見て歎じた語。〔吳志、吳主孫權傳、注〕魏文帝至二廣陵一、臨レ江觀レ兵、有二渡レ江之志一、帝見二波濤洶涌一、嘆曰、嗟乎、固天所三以隔二南北一也、遂歸。

【天感至寶】1602 テンカンシハウ　南宋、孝宗の時、安南の英宗、李天祚の年號。(1174－1175)

【天感聖武】1603 テンカンセイブ　北宋、仁宗の時、大瞿越(安南)の太宗、李佛馬の年號。(1044－1049)

【天僖夢叟】1604 テンキムソウ　明、守仁(**3－7071**‥132)の號。

【天凝地閉】1605 テンコリチトヅ　天地もこりかたまつてゐるやうに見えること。冬の寒さのはげしいことを形容した語。〔晉書、張協傳〕天凝地閉、風厲霜飛。

【天傾二西北一】1606 テンセイホクニカタムク　太古、共工氏が天柱を折り地維を絕つた爲、天が西北に傾いたといふ。中國の地勢は西北が高いからいふ。〔列子、湯問〕其後共工氏、與二顓頊一爭レ爲レ帝、怒而觸二不周之山一、折二天柱一絕二地維一、故天傾二西北一、日月星辰就焉、地不レ滿二東南一、故百川水潦歸焉。

【天尅地衝】1607 tʻien^{1} kʻê^{4} ti^{4} chʻung^{1}　天干相尅し、地支相衝く象。選擇家及び星命家が倶に大凶とする。

【天昏地暗】1608 tʻien^{1} huen^{1} ti^{4} an^{4}　眞暗闇。天地晦冥。

【天饞居士】1609 テンザンコジ　五代、毛勝(**6－16772**‥110)の號。

【天之一目】1610 テンノイチモク　臨安縣の西の石洞中にある龍池の名。〔海錄碎事、地、池沼〕臨安縣西有二石洞一、中有二龍池一、云二是天之一目一。

【天之驕子】1611 テンノケウシ　天の我まま子。

【天之所レ壞】1612 テンノヤブルトコロ　天が破壞するもの。〔左氏、定、元〕天之所レ壞、不レ可レ支也。

【天之眞女】1615 テンノシンヂヨ　天の立派な女。天女。織女(**8－27892**‥48)をいふ。〔續齊諧記〕織女、天之眞女。

【天之小人】1616 テンノセウジン　天から見れば人は皆小人であるといふ意。〔莊子、大宗師〕天之小人、人之君子、人之君子、天之小人也。〔注〕以二自然一言レ之、則人無二小大一、以二人理一言レ之、則侔二於天一者、可レ謂二君子一矣。

【天之直人】1617 テンノチヨクジン　天理にかなつた正直の人。〔文中子、天地〕子謂二魏徵一曰、汝與レ凝皆天之直人也。

【天之美祿】1618 テンノビロク　酒をいふ。〔漢書、食貨志下〕酒者、天之美祿、帝王所下以頤二養天下一、享祀祈レ福、扶レ衰養上レ疾。

【天之戮民】1619 テンノリクミン　天の罪人。〔莊子、大宗師〕孔子曰、丘、天之戮民也。

【天之曆數】1620 テンノレキスウ　帝王となる自然の順序。天曆。天歷(1490)を見よ。〔書、大禹謨〕天之曆數在二汝躬一、汝終陟二元后一。〔傳〕曆數、謂二天道一也。〔論語、堯曰〕堯曰、咨、爾舜、天之曆數在二爾躬一。〔集注〕曆數、帝王相繼之次第、猶二歲時節氣之先後一也。

【天彰有道】1621 テンシヤウイウダウ　南宋、寧宗の時、安南の昭皇、李佛金の年號。一に天章有道に作る。(1224－1225)

【天彰寶嗣】1622 テンシヤウハウシ　南宋の初、高宗の時、大越(安南)の神宗、李陽煥の年號。一に大彰寶嗣に作る。(1133－1138・一說、1133－1131)

【天仁地義】1623 テンジンチギ　天の仁と地の義。又、天のやうに仁慈に、地のやうに正しいこと。〔管子、內業〕天仁地義、則淫然而自至。

【天制天敕】1624 テンセイテンチヨク　天子の賜はるみことのり。北周の宣帝の時、制詔を天制、敕を天敕と改め稱した。〔北史、周宣帝紀〕宣帝改二制詔一、爲二天制、敕爲二天敕一。

【天旋地轉】1625 テンメグリチテンズ　天地が舊に復する。戰亂が治まること。〔白居易、長恨歌〕天旋地轉回二龍馭一、到レ此躊躇不レ能レ去。

【天叢雲劍】1626 アメノムラクモノツルギ　叢雲劍の美稱。草薙劍(**9－30945**‥212)を見よ。〔日本書紀、神代紀、上、草薙劍、注〕一書云、本名、天叢雲劍。

【天奪二之魄一】1627 テンコレガハクヲウバフ　天がたましひを奪ふ。將に死せんとするさま。〔左氏、宣、十五〕不レ及二十年一、原叔必有二大咎一、天奪二之魄一矣。

【天圖鐵路】1628 テントテツロ　鐵道の名。滿洲吉林省延吉縣の天寶山から圖們江の岸に至る。民國十二年開通。

【天同一生】1629 テンドウイツセイ　清、王錫闡(**7－20823**‥1816)の號。

【天篤山人】1630 テントクサンジン　清、康濤(**4－9376**‥111)の號。

【天發神讖】1631 テンパツシンシン　吳の天璽紀功碑をいふ。〔曝書亭集〕吳天璽紀功碑跋云、吳天璽元年紀功碑、一名二天發神讖一、舊在二巖山段石岡一、山

謙之丹陽記、巖山東有二大碣石一、長二丈、折爲二三段一、今其石移二置學舍中一、累レ之高止二數尺一、謙之蓋神二其說一耳、字在二篆隷之間一、雖二古而近レ拙、金陵瑣事謂二是蘇建書一、不レ知二何據一。

【天棐忱辭】1632（テンノタスクルマコトノジ） 天が人を輔けるに誠信の辭を以てすること。一說、天は誠信の辭をたすける。棐はたすける、忱はまこと。〔書、大誥〕天棐忱辭、其考二我民一。〔傳〕言、我周家有二大化一、誠辭爲二天所一レ輔、其成二我民一矣。〔蔡傳〕是天輔以二誠信之辭一。

【天不二再與一】1633（テンハフタタビアタヘズ） 天の恩惠はただ一度だけであること。〔呂覽、首時〕天不二再與一、時不二久留一。

【天不レ能レ殺】1634（テンコロスアタハズ） 天は人を殺すことは出來ない。人が自ら死ぬのであるの意。〔山谷題跋〕其不レ應二凍餓溝壑一者、天不レ能レ殺也。

【天不幇襯】1635 t'ien^1 pu^4 pang^1 sh'en^4 天は自分の方から助けようとはしない。

【天富二淫人一】1636（テンインジンヲトマス） 天が惡人を富ませる。それはわざはひであるの意。〔左氏、襄、二十八〕天殆富二淫人一、慶封又富矣。

【天瓶居士】1637（テンペイコジ） 清、張照(**4**−**9812**··473)の號。

【天崩地坼】1638（テンクヅレチサク） 天が墜ち地がくだける。大變動・大事變の喩。又、非常に大きな聲の喩。〔史記、魯仲連傳〕周烈王崩、齊後往、周怒、赴二於齊一曰、天崩地坼、天子下レ席、東藩之臣因齊後至、則斲。〔錢謙益、投筆集〕地坼天崩桂樹林。

【天翻地覆】1639（テンヒルガヘリチクツガヘル） ❶天地がくつがへる。秩序の亂れる喩。〔中庸或問〕三辰失レ行、則必天翻地覆。〔雲笈七籤〕大劫之周、天翻地覆、金玉化消、人淪山沒、六合冥一。❷t'ien^1 fan^1 ti^4 fu^4 烈しく。

【天無二私覆一】1640（テンニシフウナシ テンニシフナシ） 天道は公平無私で、其の覆育はかたよることがない。〔禮、孔子閒居〕天無二私覆一、地無二私載一、日月無二私照一。

【天無二二日一】1641（テンニニジツナシ） 天に二つの太陽はない。國に二君のない喩。〔禮、曾子問〕孔子曰、天無二二日一、土無二二王一。〔孟子、萬章上〕孔子曰、天無二二日一、民無二二王一。〔史記、高祖紀〕天無二二日一、土無二二王一。

【天無レ不レ覆】1642（テンオホハザルナシ） 天は廣大で萬物すべてを覆うてゐる。又、天無二私覆一と同意。〔莊子、德充符〕夫天無レ不レ覆、地無レ不レ載。

【天慵先生】1643（テンヨウセンセイ） 元、熊朋來(**7**−**19294**··172)の尊稱。

【天朗氣清】1644（テンホガラカニキキヨシ） 天色は明朗、氣候は清和。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕是日也、天朗氣清、惠風和暢。

【天靈山人】1645（テンレイサンジン） 明、謝杰(**10**−**35827**··65)の號。

【天寥道人】1646（テンレウダウジン） 明、葉紹袁(**9**−**31387**··220)の號。

【天聾地啞】1647（テンロウチア） 文昌帝君の二從者の名。他人の聰明を用ひようとしない意を寓して名づけた。〔蠡海錄〕梓潼文昌君二從者曰二天聾・地啞一、蓋不レ欲二人之聰明用盡一、故假二聾啞一以寓レ意、夫天地豈可二以聾啞一哉。

【天六地五】1648（テンロクチゴ） 天の六氣(陰・陽・風・雨・晦・明)と地の五行(金・木・水・火・土)。〔國語、周語下〕天六地五、數之常也。〔注〕天有二六氣一、謂二陰・陽・風・雨・晦・明一也、地有二五行一、金・木・水・火・土也。

【以レ天爲レ父】1649（テンヲモツテチチトナス） 天を父とする。〔莊子、大宗師〕彼特以レ天爲レ父。〔淮南子、精神訓〕以レ天爲レ父、以レ地爲レ母。

【以レ天合レ天】1650（テンヲモツテテンニガツス） 自然の性を以て自然に合する。自然を離れないこと。〔莊子、達生〕以レ天合レ天、器之所二以疑レ神者、其是歟。〔疏〕機變雖レ加二人工一、木性常因二自然一、故以合レ天也。

【倚レ天長劍】1651（テンニヨスルチヤウケン） 天外によせかけてある長劍。〔宋玉、大言賦〕方地爲レ車、圓天爲レ蓋、長劍耿耿倚二天外一。

【移レ天易レ日】1652（テンヲウツシヒヲカフ） 姦臣が政權を盜弄する喩。天・日は君主をいふ。〔晉書、齊王冏傳〕趙庶人聽二任孫秀一、移レ天易レ日。

【移レ天徙レ日】1653（テンヲウツシヒヲウツス） 移レ天易レ日に同じ。〔北史、廣平王傳〕雖レ未二指レ化爲レ馬、移レ天徙レ日、實使下蘊籍之士、聳二氣座端一、懷道之夫、結中舌筵次上。

【移レ天適レ人】1654（テンヲウツシヒトニユク） 出でて嫁すること。女は出嫁しない前は父を天とし、出嫁すれば夫を天とする故にいふ。〔海錄碎事、人事、女〕移レ天適レ人、謂二嫁出一。

【開レ天制レ殿】1655（テンヲヒライテデンヲセイス） 天にもとどく程の高い宮殿を建造する。〔江淹、雜體、顏特進延年侍宴詩〕列レ漢構二仙宮一、開レ天制二寶殿一。

【號レ天叫レ屈】1656（テンニサケビクツヲサケブ） 天に向つてさけび、無實の罪をうつたへる。〔通俗編、天文、號レ天叫レ屈〕歐陽脩論尹師魯墓志云、不下必號レ天叫レ屈、然後爲二師魯一稱上寃也。

【仰レ天而唾】1657（テンヲアフイデツバス） 上を向いて唾を吐けば顏面に落ちることから、人を害せんとして却つて己を傷ふ喩。〔雲笈七籤〕惡人害二善人一、如二仰レ天而唾一、唾不レ汙レ天、還自汙レ身。〔四十二章經〕惡人欲レ害二賢者一、仰レ天而唾、唾不レ汙レ天、還汙二己面一。

【仰レ天大笑】1658（テンヲアフイデオホイニワラフ） 上を向いて大笑する。〔史記、滑稽傳贊〕淳于髡仰レ天大笑。

【仰レ天大笑出レ門去】1659（テンヲアフイデタイセウシモンヲイデテサル） 天を仰いで大笑し、門を出て行く。〔李白、南陵別二兒童一入レ京詩〕仰レ天大笑出レ門去、我輩豈是蓬蒿人。

【去レ天一握】1660（テンヲサルコトイチアク） 極めて天に近いこと。〔海錄碎事、地、總載、山〕興元之南、有レ路通二巴州一、三日而達二于山頂一、其絕高處、謂二之孤雲兩角一、諺云、孤雲兩角、去レ天一握。

【去レ天尺五】1661（テンヲサルコトシヤクゴ） 天子の都に極めて近いこと。〔海錄碎事、人事、族望〕韋曲杜鄠近二長安一、諺云、韋曲杜鄠、去レ天尺五。

【局レ天蹐レ地】1662（テンニセククマリチニヌキアシス） 天は高いのに、それにさへ頭をうたないかと心配して脊を曲げ、地は厚いのに、それをさへ踏み破つて落ちないかと心配してぬき足で步く。戒愼恐懼の甚しいさま。跼天蹐地。局蹐。〔詩、小雅、正月〕謂二天蓋高一、不二敢不レ局、謂二地蓋厚一、不二敢不レ蹐。〔傳〕局、曲也、蹐、累レ足也。

【掀レ天揭レ地】1663（テンニアゲチニカカグ） 才名を世にあらはすこと。〔故事成語考、地輿〕掀レ天揭レ地、方是奇才。〔注〕莊子達生篇、脩レ身以明レ汙、昭昭乎若下揭二日月一而行上也。

【光二天之下一】1664（テンノシタニヒカル） 天下にひかりかがやく。〔書、益稷〕帝光二天之下一、至二于海隅蒼生一。

【經レ天營レ地】1665（テンヲケイシチヲエイス） 天地を經營する。〔淮南子、精神訓〕有二二神一混生、經レ天營レ地。

【繼レ天接レ聖】1666（テンヲツギセイヲツグ） 皇位を繼承すること。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕大人長レ物、繼レ天接レ聖。〔注〕善曰、漢書曰、庖犧繼レ天而王、爲二百王先首一。

【繼レ天立レ極】1666′（テンニツギキヨクヲタツ） 天子の位をついて、至極の標準を天下に立てる。〔朱熹、大學章句序〕此伏羲・神農・黃帝・堯・舜、所二以繼レ天立レ極。

【呼レ天不レ聞】1667（テンヲヨベドモキコエズ） 天に向つてさけび、無實の罪をうつたへても天に聞えない。〔後漢書、張奐傳〕凡人情、寃則呼レ天、窮則叩レ心、今呼レ天不レ聞、叩レ心無レ益、誠自痛傷。

【在レ天成レ象】1668（テンニアリテシヤウヲナス） 天にあつて日月星辰の現象をなす。〔易、繫辭上〕在レ天成レ象、在レ地成レ形、變化見矣。〔疏〕象、謂二懸象一、日月星辰也、形、謂二山川草木一也、懸象運轉、而成二昏明一、山澤通レ氣、而雲行雨施、故變化是也。

【指レ天畫レ地】1669（テンヲサシテチヲクワクス） ❶天を指し、四方の地を指す。一方の地を指した手の高さをそのままにして四方に向つて體をまわすので、畫すといふ。畫は、境界を區切ること。道家の敕勒の術で、まじなひをする時の動作。〔風俗通、皇霸〕有二指レ天畫レ地、神化潛通。〔魏志、管輅傳、注〕有二失レ物者一、輅使下明晨於二寺門外一看上、當レ逢二一人一、使二指レ天畫レ地、擧レ手四向一、自當レ得レ之。❷動作のほしいままで憚るところのないさま。〔後漢書、侯霸傳〕韓歆云云、好二直言一無二隱諱一、云云、歆又證三歲將二飢凶一、指レ天畫レ地、言甚剛切。坐免歸二田里一。

【指レ天射レ魚】1670（テンヲサシテウヲヲイル） 天を望んで魚を射る。物を求めるのに方法をあやまる喩。〔說苑、尊賢〕秦用二趙高一、而天下知二其亡一也、非二其人一而欲レ有レ功、譬其若下夏至之日、而欲二夜之長一也、射レ魚指レ天、而欲中發レ之當上也。

【謝レ天謝レ地】1671（テンニシヤシチニシヤス） 天地の神に感謝する。〔通俗編、天文、謝レ天謝レ地〕邵子擊壤集、每日清

晨一炷香、謝天謝地謝三光。

【從天而下】1672（テンヨリクダル） にはかに至ること。忽然として現はれることをいふ。〔漢書、周亞夫傳〕諸侯聞之、以爲將軍從天而下也。

【順天應人】1673（テンニシタガヒヒトニオウズ） 上、天命に順ひ、下、人心に應ずる。〔易、革〕順乎天而應乎人、革之時大矣哉。

【順天者存】1674（テンニシタガフモノハソンス） 天理に順ふものは存續し繁榮する。〔孟子、離婁上〕順天者存、逆天者亡。〔集注〕天者、理勢之當然也。

【助天爲虐】1675（テンヲタスケテギヤクヲナス） 天が已に虐道を行つてゐるのに、更に天を助けて虐を加へる。〔左氏、昭、二〕再拜稽首辭曰、死在朝夕、無助天爲虐。〔國語、越語下〕王孫雄曰、子范子、先人有言曰、無助天爲虐、助天爲虐者不祥。

【貪天之功】1676（テンノコウヲムサボル） 天の功を貪り取つて我がものとする。〔左氏、僖、二十四〕竊人之財、猶謂之盜、況貪天之功、以爲己力乎。

【知天知地】1677（テンヲシリチヲシル） 天の時を知り、地の利を察知する。〔孫子、地形〕知天知地、勝乃不窮。

【偸天換日】1678（テンヲヌスミヒヲカフ） 俗語で、絶大の弊害を作すことをいふ。〔漁家樂傳奇〕願將身代入金屋、做個偸天換日、因風動燭。

【統天載物】1679（テンヲスベモノヲノス） 天をすべ、あらゆるものをのせる。天下を統べ治めることをいふ。〔蜀志、後主劉禪傳〕於戲其進聽朕命、蓋統天載物、以咸寧爲大、光宅天下、以時雍爲盛、故孕育羣生者、君人之道也。

【幕天席地】1680（テンヲマクトシチヲセキトス） 天を幕とし、地を坐席とする。志氣の豪放なこと。〔劉伶、酒德頌〕幕天席地、縱意所如。

【莫神於天】1681（テンヨリシンナルハナシ） 天ほど靈妙なものはない。〔莊子、天道〕莫神於天、莫富於地。

【補天柱地】1682（テンヲオギナヒチヲササフ） 天をつくろひ、地をささへる。偉大な業蹟を讚へる語。〔陸倕、新漏刻銘〕業類補天、功均柱地。

【淚天淚地】1683（テンニナキチニナク） 天を仰いで泣き、地に伏して泣く。甚しく泣くさま。〔紅樓夢、二十五回〕平兒豐兒等、哭的淚天淚地。

【天勢圍平野】1684（テンセイヘイヤヲカコム） 天空が曠茫たる平野をかこむ。〔暢當、登鸛雀樓詩〕天勢圍平野、河流入斷山。

【天不人不因】1685（テンヒトニアラズンバヨラズ） 天の下す禍福は人に原因がある。〔法言、重黎〕天不人不因、人不天不成。

【天不奪人願】1686（テンハヒトノネガヒヲウバハズ） 天は人のまごころこめた願に從ふ。〔晉子夜歌〕天不奪人願、故使儂見郎。

【天無三日晴】1687（テンニミツカノハレナシ） 晴天は三日とは續かない。人世に無事狀態は長くは續かない喩。〔明詩綜〕天無三日晴、地無三尺平。

【非天不離數】1688（テンニアラザレバスウヲヘズ） 天運がなければ、數世とは續かない。離は歷。〔國語、晉語一〕非德不及世、非天不離數。〔注〕離、歷也。

【奉天而法古】1689（テンヲホウジテイニシヘニノツトル） 天命を尊び、古道に法る。〔春秋繁露、楚莊王〕春秋之道、奉天而法古。

【天處高而聽卑】1690（テンタカキニヲルモヒククキニキク） 天帝は高い所に居ても、低い人間界のことをよく聽き知る。〔呂覽、制樂〕天之處高而聽卑、君有至德之言三、天必三賞君。

【不怨天不尤人】1691（テンヲウラミズヒトヲトガメズ） 天をも人をも怨んだり責めたりはしない。〔論語、憲問〕不怨天、不尤人、下學而上達、知我者其天乎。

【不愧天不怍人】1692（テンニハヂズヒトニハヂズ） 天にも人にもはづる所がない。潔白なことをいふ。〔孟子、盡心上〕仰不愧於天、俯不怍於人、二樂也。

【天之生民非爲君】1693（テンノタミヲシヤウズルハキミノタメニアラズ） 天が民を生んだのは君主の爲ではなく、民の爲である。〔荀子、大略〕天之生民、非爲君也、天之立君、以爲民也。

【天不產而萬物化】1694（テンサンセズシテバンブツクワス） 天は萬物を生ずる意志はないが、萬物は自然に生ずる。〔莊子、天道〕天不產而萬物化、地不長而萬物育。

【得天之道者爲帝】1695（テンノミチヲウルモノハテイトナル） 天道を得體してゐる者は天子となる。〔呂覽、行論〕得天之道者爲帝、得地之道者爲三公。

【天之所違雖成必敗】1696（テンノタガフトコロハナルトイヘドモカナラズヤブル） 天が反對する事柄は、一時は成就しても後には必ず敗れる。〔管子、形勢〕天之所助、雖小必大、天之所違、雖成必敗。

【天知地知我知子知】1697（テンシルチシルワレシルシシル） 天と地と私と貴殿とが知つてゐる。他人の目の届かない所で行動しても必ず知る者があるといふ意。不正事・惡事などの必ず露見する喩。後漢の楊震が賄賂を却けた時の語。四知。〔後漢書、楊震傳〕四遷荊州刺史・東萊太守、當之郡、道經昌邑、故所擧荊州茂才王密、爲昌邑令、謁見、至夜懷金十斤以遺震、震曰、故人知君、君不知故人、何也、密曰、暮夜無知者、震曰、天知、神知、我知、子知、何謂無知、密愧而出。〔資治通鑑、漢紀〕（安帝、永初四年）時震年已五十餘、累遷荊州刺史・東萊太守、當之郡、道經昌邑、故所擧荊州茂才王密、爲昌邑令、夜懷金十斤以遺震、震曰、故人知君、君不知故人、何也、密曰、暮夜無知者、震曰、天知、地知、我知、子知、何謂無知者、密愧而出、後轉涿郡太守。

【上天無路入地無門】1698（テンニノボルニミチナクチニイルニモンナシ） 萬策盡きた喩。〔通俗編、天文、上天無路入地無門〕五燈會元、西余柔・泐潭英、倶擧此二語。

【天莫空句踐時非無范蠡】1699（テンコウセンヲムナシウスルナカレトキニハンレイナキニシモアラズ） 兒島高德が櫻樹に題した句。後醍醐天皇を越王句踐に比し奉り、己を句踐の臣、范蠡に比し、天よ天皇を佑け給へ、時には范蠡に比すべき自分のやうな輔佐の臣が無いわけではない。一時蒙塵し給ふとも、他日回復の機あるを諷したもの〔太平記〕。

【迨天之未陰雨綢繆牖戶】1700（テンノイマダインウセザルニオヨンデイウコヲチウビウス） 鳥は天が曇つて雨の降らない前に、已が巣の窓や戶を修繕する。人も天下太平のうちに亂を忘れないで、準備しておくがよい。〔詩、豳風、鴟鴞〕迨天之未陰雨、徹彼桑土、綢繆牖戶、今女下民、或敢侮予。〔集傳〕亦爲鳥言、我及天未陰雨之時、而往取桑根、以纏綿巢之隙穴、使之堅固、以備陰雨之患、則此下土之民、誰敢有侮予者、亦以比己深愛王室、而預防其患難之意、故孔子贊之曰、爲此詩者、其知道乎、能治其國家、誰敢侮之。

【天不爲人之惡寒也而輟冬】1701（テンヒトノサムキヲニクムガタメニハフユヲヤメズ） 天は、人が冬を嫌ふからとて冬をやめはしない。天地には常行がある。〔荀子、天論〕天不爲人之惡寒也而輟冬、地不爲人之惡遼遠也而輟廣。

【工乎天而俍乎人者惟全人能之】1702（テンニタクミニシテヒトニヨキモノハタダゼンジンノミコレヲヨクス） 天の道理を得、人爲を去つて自然に從ひ、而も人爲の多い人間社會と調和してゆくことは、ただ全人だけができる。俍は善、全人は神人。〔莊子、庚桑楚〕羿工乎中微、而拙乎使人無己譽、聖人工乎天而拙乎人、夫工乎天而俍乎人者、唯全人能之。〔注〕任其自然、天也、有心爲之、人也、工於天、即俍於人矣、謂之全人。〔疏〕俍、善也、全人、神人也。

【太】

5834

㊀タイ　〔集韻〕他蓋切　ㄊㄞˋ　t'ai⁴　泰

㊁タツ　タチ　〔集韻〕他達切　曷

慣タ

㊀❶**はなはだしい。はなはだ。**〔玉篇〕太、甚也。〔五代史、李業傳〕昨太草草耳。❷**とほる。**〔廣韻〕太、通也。〔陸雲、九愍〕命險太其靡常、道離隆而匪易。❸**おほきい。**〔廣韻〕太、大也。❹**尊稱に用ひる。**太后(149)・太君(116)を見よ。❺泰(**6－17325**)・大(**3－5831**)に通ず。〔後漢書、郭太傳、郭太字林宗、注〕范曄父、名泰、故改爲此太。〔增韻〕經史古大字無點、後人加點、以別小大之大。〔正字通〕按、說文、泰、古文作夳、篆作𡘙、省作太、云云、並與大同、范曄撰後漢書、避家諱改从太、集韻、夳或作太・大・泰、音義通、非太與小大之大別也。❻夳(**3－5846**)に同じ。❼**姓。**〔元和姓纂〕文王四友太顚之後。㊁太末は、縣名。太末(475)を見よ。邦**ふとい。**㊀❶または

りが大きい。さしわたしがある。㊁氣がつよい。だいたん。㊂づうづうしい。横着。

名乘 オホ(姓)。タカ。フト。モト。

【太阿】1 タイア ㊀古の寶劍の名。泰阿。〔史記、李斯傳〕服二太阿之劍一、乘二纖離之馬一。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕鉛刀進御兮、遙棄二太阿一。〔注〕太阿、利劍也。〔楚辭、王褒、九懷、株昭〕鉛刀厲御兮、頓弃二太阿一。〔晉書、張華傳〕中有二雙劍一、竝刻題、一曰二龍泉一、一曰二太阿一。㊁漢の王莽の時の官名。阿衡の字に取つて名づけた。〔漢書、王莽傳中〕少阿義和京兆尹紅休侯劉歆爲二國師嘉新公一、云云、大阿右拂大司空衞將軍廣陽侯甄豐爲二更始將軍廣新公一。〔注〕宋祁曰、少阿、晉灼音義作二少陭一、阿、訓レ陭、取二阿衡一字一也。㊂阿衡(**11－41599**‥42)に同じ。伊尹をいふ。〔潘岳、楊荊州誄序〕殷憑二太阿一。〔注〕善曰、太阿、阿衡、謂二伊尹一也。㊃清、張鐆(**4－9812**‥637)の字。

【倒二太阿一授二其柄一】2 タイアヲサカシマニシソノヘイヲサヅク 名劍太阿を倒さに持つて其の柄を他人に授ける。己を斃す便宜を他に與へる喩。權柄を他人に與へる喩。泰阿倒持(**6－17325**‥2)を見よ。

【太安】3 タイアン 年號。㊀晉、惠帝、司馬衷の時。(302－303)㊁北魏、文成帝、拓拔帝の時。(455－459)㊂五胡十六國、前秦、哀平帝、苻丕の時。(385－386)㊃五胡十六國、後涼、太祖懿武帝、呂光の時。(386－389)㊄柔然(蠕蠕)侯、其伏代庫者可汗(悅樂也)の時。(492－505)

【太夷】4 タイイ 民國、鄭孝胥(**11－39647**‥318)の字。

【太醫】5 タイイ ㊀官名。皇帝・皇室の侍醫。御醫。太醫院を見よ。秦・漢以來、歷朝にあつた。侍醫。〔史記、扁鵲傳〕秦太醫令李醯、自知二伎不レ如二扁鵲一也。〔史記、匈奴傳〕有レ詔捕二太醫令隨但一。〔漢書、百官公卿表上〕奉常、秦官、云云、屬官有二大卜・太醫一。〔後漢書、桓榮傳〕榮每二疾病一、帝輒遣二使者一存問、太官太醫相二望於道一。㊁丸藥の名。〔列女傳、續列女、霍夫人顯傳〕衍承二其言一、擣二附子一、碎二太醫太丸中一、持入遂藥秖。

【太醫院】6 タイイヰン 周代に始まつた醫療の最高機關。後世、一般の醫療をすることは少く、宮中、及び百官の醫療と、醫術の研究とを掌る。其の職制・名稱は時代に依つて異なる。周官には醫師といひ、醫の政令を掌り、秦・兩漢には太醫令丞があつて、醫藥を掌り、魏晉以後、之に因る。後魏には太醫博士があり、北齊は又、太醫令といひ、後周に太醫下大夫、隋に太醫署といふ。唐は隋制を承け、醫藥を掌り、針灸・按摩・呪禁の事を領す。宋には醫官院あり、醫藥を供奉し、又、衆人の疾を療すことを掌る。以後、遼に太醫局、金に太醫院、元に提點太醫院、明・清に太醫院といふ。〔周禮、天官、醫師〕掌二醫之政令一、聚二毒藥一以共二醫事一。〔漢書、百官公卿表上〕少府、秦官、屬官有二太醫・云云・十二官令丞一。〔通典、職官、太常卿〕太醫署、周官有二醫師一、上士・下士、掌二醫之政令一、秦・兩漢有二太醫令丞一、亦主二醫藥一、屬二少府一、魏因レ之、晉銅印墨綬、進賢一梁冠、絳朝服而屬二宗正一、過レ江省二宗正一而屬二門下省一、宋齊隷二侍中一、梁陳因レ之、後魏有二太醫博士助教一、北齊又曰二太醫令丞一、後周太醫下大夫、隋太醫署令二人、大唐因レ之、主二醫藥一、凡領二醫針灸・按摩・呪禁一、各有二博士一。〔文獻通考、職官考、太常卿〕宋制、翰林醫官院使副各二人、並領二院事一、以二尙藥奉御一充、或有レ加二諸司使者一、直院四人、尙藥奉御六人、醫官醫學祇候無二定員一、掌下供二奉醫藥一、及承レ詔視二療衆疾一之事上。〔事物起源、會府臺司部、太醫局〕周有二醫師一、秦置二太醫一、歷代皆置、宋朝神宗又置レ局、曉レ醫者一人、判二局事一、按、唐亦有二太醫署一、而神宗創置、以教二生徒一、如二學校一也。〔淸會典、太醫院〕太醫院、院使一人、左院判一人、右院判一人、掌レ考二九科之術一、率二其屬一以供二醫事一。

【太醫令】7 タイイレイ 官名。太醫の長官。〔後漢書、百官志三〕太醫令一人、六百石、掌二諸醫藥一。〔舊唐書、職官志三〕太醫令、掌二醫療之法一。

【太醫局程文】8 タイイキヨクテイブン 書名。九卷。撰者未詳。宋代の醫學考試の法式を記す。墨義九道・脈義六道・大義三十七道・論方八道・假令十八道・運氣九道の六格に分かつ。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【太尉】9 タイヰ ㊀官名。秦官。武事を掌る。漢、之に仍り、位は丞相と等しい。武帝の時、大司馬と改めたが、後漢の光武帝の時、舊名に復して三公の首とした。後、歷代、之を置く。但、後周だけは置かない。宋の政和以後は武階の首として節度使の上に位し、金は漢制に因つて三公の首とし、明に至つて廢した。三公(**1－12**‥535)を見よ。〔史記、吳王濞傳〕天子乃遣二太尉條侯周亞父一、將二三十六將軍一、往擊二吳楚一。〔漢書、百官公卿表上〕太尉、秦官、金印紫綬、掌二武事一。〔通典、職官、太尉〕太尉、秦官、漢因レ之、金印紫綬、掌二武事一、漢文三年省、景帝三年復置、其尊與二丞相一等、五年又省、元狩四年、更名二大司馬一、後漢建武二十七年復レ舊、名爲二太尉公一、每二帝初卽レ位、多與二太傅一同錄二尙書事一、府門無レ闕、掌二四方兵事功課一、歲盡則奏二其殿最一而行二賞罰一、云云、魏亦有レ之。〔文獻通考、職官考、太尉〕歷代、唯後周無、其餘皆有、悉爲二三公一、宋循二歷代之制一、以二太尉一與二司徒・司空一並爲二三公一、政和時罷レ之、復二周制一、以二太師・太傅・太保一爲二三公一、少師・少傅・少保爲二三孤一、以二太尉本秦主レ兵官一、定爲二武階之首一、正一品、在二節度使之上一。㊁漢の王莽の時の官名。都尉をいふ。〔漢書、王莽傳中〕都尉曰二太尉一。㊂山名。廣東省英德縣の西南。湞陽峽を隔てて皐石山と相對す。

【太一】10 タイイツ ㊀萬有を包含する大道。天地創造の混沌たる元氣をいふ。〔莊子、天下〕主レ之以二太一一。〔疏〕太者、廣大之名、一、以レ不レ二爲レ稱、言下大道曠蕩、無レ不二制圍一、括二囊萬有一、通而爲上レ一、故謂二之太一一也。〔呂覽、大樂〕萬物所レ出、造二於太一一、化二於陰陽一。〔注〕太一、道也。〔孔子家語、禮運〕夫禮必本二於太一一。〔注〕太一者、元氣也。㊁天神の名。又、天帝・天皇大帝をいふ。又、星の名。〔史記、封禪書〕天神貴者太一。〔注〕索隱曰、宋均云、天一、太一、北極神之別名。〔史記、天官書〕中宮天極星、其一明者、太一常居也。〔注〕正義曰、泰一、天帝之別名也、劉伯莊云、泰一、天神之最尊貴者也。〔楚辭九歌、東皇太一、注〕五臣云、每篇之目、皆楚之神名、云云、太一、星名、天之尊神、祠在二楚東一、以配二東帝一、故云二東皇一。〔補注〕漢書郊祀志云、天神貴者太一、太一佐曰二五帝一、古者天子以二春秋一祭二太一東南郊一、天文志曰、中宮天極星、其一明者、太一常居也、淮南子曰、太微者、太一之庭、紫宮者、太一之居、說者曰、太一、天之尊神、曜魄寶也、天文大象賦注云、天皇大帝、一星在二紫微宮內、勾陳口中一、其神曰二曜魄寶一、主下御二羣靈一、秉中萬機神圖上也、其星隱而不レ見、其占以見、則爲レ災也、又曰、太一一星、次二天一南一、天帝之臣也、主下使二十六龍一、知中風雨・水旱・兵革・飢饉・疾疫上、占不レ明、反移爲レ災。〔宋玉、高唐賦〕醮二諸神一、禮二太一一。〔注〕良曰、太一、天神也。〔淮南子、天文訓〕太微者、太一之庭也、紫宮者、太一之居也。〔注〕太一、天神也。〔日知錄、天象術數、太一〕太一之名、不レ知レ始二於何時一、史記天官書、中宮天極星、其一明者爲二太一常居一。㊂山名。終南山をいふ。清の胡渭の禹貢錐指には禹貢の惇物とす。又、太乙・太壹に作る。〔漢書、地理志〕武功、太壹山、古文以爲二終南一。〔通鑑地理通釋〕西京賦以二終南太一一幷列、唐六典又以二終南太白一幷列、明非二一山一、蓋終南、南山之總名、太一・太白、此山之別號。

【太一家】11 タイイツカ 術數七家の一。〔史記、日者傳〕褚先生曰、孝武帝時、聚二會占家一問レ之、某日可レ取レ婦乎、五行家曰、可、堪輿家曰、不可、建除家曰、不吉、叢辰家曰、大凶、歷家曰、小凶、天人家曰、小吉、太一家曰、大吉、辯訟不レ決。

【太一宮】12 タイイツキユウ 太一の神を祀る宮殿。〔宋會要〕楚芝蘭言、五福太一、所レ在無二兵疫一、人民豐樂、凡四十五年一移、請二築レ宮以祀一、雍熙元年、建二東太一宮一、天聖七年、建二西太一宮一、至二熙寧中一、又建二中太一宮一。

【太一燈】13 タイイツトウ 正月十五日、太一神を祭るためにともす燈火。〔史記、樂書〕漢家常以二正月上辛一祠二太一甘泉一、以二昏時一夜祠、到レ明而終。〔太平御覽、時序部、正月十五日〕史記樂書曰、漢家祀二太一一、以二昏時一祠、到レ明。〔注〕今人正月望日夜游觀レ燈、是其遺事。

【太一爐】14 タイイツロ 道家で神藥を煮る爐。〔褚載、贈二道士一詩〕惟教三鶴探二丹丘信一、不レ遣三人窺二太一爐一。

【太一玉臺】15 タイイツノギヨクダイ 玉で作つた天帝のすま

ひ。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕登㆓太一兮玉臺㆒。〔注〕太一、天帝、所㆑在以㆑玉爲㆑臺也。

【太一餘糧】16 タイイツヨリヤウ 石の名。又、藥の名。つぼいし。太乙餘糧。〔本草、太一餘糧〕釋名、石腦・禹哀、集解、別錄曰、太一餘糧、生㆓太山山谷㆒、九月采。

【太一蓮舟】17 タイイツレンシウ 太乙神を祭る、燈火をつけた舟。〔楊萬里、太平寺水詩〕是身飄然在㆓中流㆒、奪得太一蓮葉舟。〔元好問、太一蓮舟圖三首爲㆓濟源奉先老師㆒賦詩〕泠泠風外到㆓仙臞㆒、琢玉羊欣定不㆑如、六合空明一蓮葉、更須㆔遮㆑眼要㆓文書㆒。

【太乙】18 タイイツ ㊀北辰の神の名。天帝。太一(10)の㊁に同じ。〔易緯乾鑿度〕太乙取㆓其數㆒、以行㆓九宮㆒。〔鄭玄注〕太乙、北辰神名也。㊁叢辰の名。十二月將の一。日と月とが七月に巳宮に於て相會するをいふ。 月將(5―14330‥165)の㊁及び十二月將(2―2695‥420)を見よ。㊂山名。太一(10)の㊂に同じ。㊃字號。㋑元、張嗣德(4―9812‥1132)の號。㋺明、陳汝元(11―41698‥1003)の字。㋩清、康乃心(4―9376‥190)の字。㋥清、劉青藜(2―2224‥1119)の字。㋭村瀨黎の號。村瀨太乙(6―14464‥181)を見よ。

【太乙宮】19 タイイツキユウ ㊀山名。北嶽(2―2574‥61)の異名。〔事物異名錄、坤輿、嶽〕括地志、北嶽有㆓五別名㆒、一曰蘭臺府、二曰列女宮、三曰華陽臺、四曰紫微宮、五曰太乙宮、或曰大茂山。㊁漢代、長安にあつた宮殿。〔太平御覽、居處部〕漢宮闕名曰、長安有㆓太乙宮㆒。

【太乙舟】20 タイイツシウ 清、陳用光(11―41698‥1284)の號。

【太乙式】21 タイイツシキ 太乙星の八方遊行の位を求めて吉凶を占ふ法。太乙星の占ひ。太乙占の法。太一式。〔唐六典、太卜署、太卜令〕凡式占辨㆓三式之同異㆒。〔注〕一曰雷公式、二曰太乙式、並禁㆓私家畜㆒、三曰六壬式、士庶通㆓用之㆒。

【太乙星】22 タイイツセイ 陰陽家でいふ靈妙不可思議な星。其の本位は北天に在つて、八方に遊行し、兵亂・禍災・生死を掌る。其の八方遊行の位を求めて吉凶を占ふを太乙占法といふ。〔二占要略、上、太乙占法〕。

【太乙山人】23 タイイツサンジン 明、張鍊(4―9812‥748)の號。

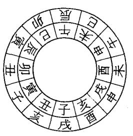
【太乙眞人】24 タイイツシンジン 細合方明の號。細合斗南(8―27344‥330)を見よ。

【太乙金鏡式經】25 タイイツキンキヤウシキキヤウ 書名。十卷。唐、王希明撰。太乙家の易占の理法を述べた書。〔四庫提要、子、術數類〕。

【太乙總元洞天】26 タイイツソウゲンドウテン 山名。恒山(4―10527‥57)の㊀の㋑の異名。〔事物異名錄、坤輿、嶽〕洞淵集、恒山名㆓太乙總元洞天㆒。

【太壹】27 タイイツ 山名。太一(10)の㊂を見よ。

【太陰】28 タイイン ㊀陰氣ばかりで陽氣の少しも無い狀態。又、其のものをいふ。純陰。〔史記、天官書〕北方、水、太陰之精、主㆑冬。〔漢書、律歷志上〕太陰者、北方、北、伏也、陽氣伏㆓於下㆒、於㆑時爲㆑冬、云云、太陽者、南方、南、任也、陽氣任㆑養㆑物、於㆑時爲㆑夏、云云、少陰者、西方、西、遷也、陰氣遷㆓落物㆒、於㆑時爲㆑秋、云云、少陽者、東方、東、動也、陽氣動㆑物、於㆑時爲㆑春。〔春秋元命苞〕太陰、水精、爲㆑月。㊁北をいふ。㊀を見よ。㊂冬をいふ。㊀を見よ。〔獨斷〕冬爲㆓太陰㆒、夏爲㆓太陽㆒。㊃月をいふ。㊀を見よ。〔性理會通〕西山眞氏曰、月、太陰也、本有㆑質而無㆑光。㊄天神の名。青龍(12―42564‥639)の㊂の異名。〔淮南子、天文訓〕天神之貴者、莫㆑貴㆓於青龍㆒、或曰天一、或曰太陰。㊅醫家でいふ脈の名。手太陰・足太陰がある。〔史記、倉公傳〕腎氣有㆑時閒濁、在㆓太陰脈口㆒而希、是水氣也。〔素問、陰陽離合論〕廣明之下、名曰㆓太陰㆒、太陰根起㆓於隱白㆒、名曰㆓陰中之陰㆒。㊆叢辰の名。太歲神の皇后。太歲後の二辰に居り、子年に戌に起り、十二辰を順行する。此に當る方位は興修を忌む。我が國の陰陽家では、之を方位の八將神の一とし、臨產・嫁娶等を忌む。たいおん。〔揚雄、甘泉賦〕詔㆔招搖與㆓太陰㆒兮。〔注〕善曰、太陰、歲後三辰也。〔協紀辨方書、義例一、太陰〕神樞經曰、太陰者、歲后也、常居㆓歲後二辰㆒、所㆑理之地、不㆑可㆓興修㆒、曹震圭曰、后妃所㆑居者后宮也、后宮之星、在㆓帝後二辰㆒、故太陰常居㆓太歲後二辰㆒、子年起㆑戌、順㆓行十二辰㆒、如子年則在㆑戌、丑年則在㆑亥、寅年則在㆑子、是也。〔和漢三才圖會、曆占類、八將神、太陰〕按、太陰自㆓太歲㆒二位前、是也、如㆘子年在㆓戌方㆒、丑年在㆗亥方㆖、余推可㆑知、向㆓此方㆒不㆑可㆑產。㊇相術家の語。右まぶたの目もとに寄つたところ。流年運氣(6―17431‥307)を見よ。


辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥 子 丑 寅 卯
午 未 申 酉 戌 亥 子 丑 寅 卯 辰 巳

㊆太陰
（協紀辨方書）

【太陰草】29 タイインサウ 惡草の名。鉤吻(11―40319‥90)の異名。〔博物志、方士〕太陰之草、名曰㆓鉤吻㆒、不㆑可㆑食、入㆑口立死。

【太陰曆】30 タイインレキ 月の盈虛を基礎としたこよみ。滿月から滿月までは約二十九日半であるから、大の月を三十日、小の月を二十九日とし、一年を十二箇月とし、不足の日數を補ふために二年或は三年每に閏月を置き、十三箇月として調節する。主に東洋諸國・回教國に用ひられる。陰曆。

【太陰鍊形】31 タイインレンケイ 道家の術。死者の尸體が、生時と同じく、爪髮などの潛長する法。〔西陽雜俎續集、支諾中〕上都務本坊、貞元中有㆓一家㆒、因㆓打㆑墻掘㆑地、遇㆓一石函㆒、發㆑之見㆑物、如㆓絲蒲㆒滿㆑函、飛出㆓於外㆒、驚視㆑之、次忽有㆓一人㆒起㆓於函㆒、被㆓白髮㆒長丈餘、振㆑衣而起、出㆑門失㆑所㆑在、其家亦無㆑他、前記之中、多言㆓此事㆒、蓋道門太陰鍊形、日將㆑滿、人必露㆑之。

【太衞】32 タイエイ 漢の王莽の時の官名。衞尉をいふ。〔漢書、王莽傳中〕太僕曰㆓太御㆒、衞尉曰㆓太衞㆒。

【太易】33 タイエキ ㊀宇宙混成以前をいふ。未だ氣のあらはれぬ時。太極。〔列子、天瑞〕有㆓太易㆒、有㆓太初㆒、有㆓太始㆒、有㆓太素㆒、太易者、未㆑見㆑氣也、太初者、氣之始也、太始者、形之始也、太素者、質之始也。〔孔穎達、周易正義序〕故有㆓太易㆒、有㆓太初㆒、有㆓太始㆒、有㆓太素㆒、太易者、未㆑見㆑氣也。㊁天地の變動。〔三墳〕太易者、天地之變也。

【太液】34 タイエキ ㊀池の名。㋑漢の太液池。長安縣の西北。〔史記、封禪書〕建章宮北治㆓大池漸臺㆒、高二十餘丈、命曰㆓太液㆒。〔三輔黃圖、四、池沼〕太液池、在㆓長安故城西建章宮北、未央宮西南㆒。〔張衡、西京賦〕顧臨㆓太液㆒。㋺唐の太液池。長安縣東の大明宮中。〔白居易、長恨歌〕太液芙蓉未央柳。㋩明・清の太液池。元の西華潭で、北京の西苑內。池水の源は玉泉山で、地安門の水門から流れ入る。池の上に長い橋があり、其の橋の北を北海、南を中海、其の又南、瀛臺以南を南海と稱し、中海の東岸に蕉園舊址、稍〻南に萬善殿がある。〔馬汝驥、西苑、太液池詩序〕子城西乾明門外有㆓太液池㆒、周凡數里、水從㆓玉泉㆒流入、延亘㆓大內㆒、舊名西海子。〔清會典事例、工部、宮殿〕西苑、苑在㆓西華門西㆒、門三、東嚮、門內爲㆓太液池㆒、源出㆓玉泉山㆒、從㆓德勝門水關㆒導入、匯爲㆓巨池㆒、周廣數里、上跨㆓長橋㆒、修數百步、東西樹坊各一、曰金龜、曰玉蝀、橋之北曰㆓北海㆒、南曰㆓中海㆒、又南曰㆓南海㆒、卽瀛臺禁池、爲㆓皇帝駐蹕之所㆒。㊁清、王士鵠(7―20823‥1511)の號。

【太液晴波】35 タイエキセイハ 北京十景の一。〔李東陽、京都十景、太液晴波詩〕太液池頭春水生、更無㆓風雨㆒只宜㆑晴、鳥飛不㆑動朱旂影、魚躍時驚綵柑聲、天上銀河非㆓舊路㆒、人閒瀛海是虛名、何如周囿開㆓靈沼㆒、長與㆓君王㆒樂㆓治平㆒。

【太延】36 タイエン 北魏、太武帝、拓跋燾の年號。(435―440)　「號。

【太炎】37 タイエン 民國、章炳麟(8―25761‥233)の

【太淵】38 タイエン ㊀天上にある眞人の居所。〔參同契、明知兩竅〕眞人至妙、若㆑有若㆑無、髣髴太淵、乍沈乍浮。〔袁良、求志賦〕御㆓飈輪㆒以登㆓太淵㆒兮、叩㆓招搖㆒以周旋。㊁仙人の居所にある淵。〔黃庭外景經〕還過㆓七門㆒、飮㆓太淵㆒。㊂臍をいふ。〔雲笈七籤〕臍者、人之命也、一名中極、一名太淵、一名崑崙、一名特樞、一名五城。㊃人體の經穴の名。太泉。〔靈樞經、本輸〕肺脈注㆓於太淵㆒、太淵、魚後一寸陷者中也。㊄宋、林泳(6―14551‥22)の字。

【太翁】39 タイオウ ㊀ひいぢぢ。曾祖父。〔南史、廢帝鬱林王紀〕高帝爲㆓相王㆒鎭㆓東府㆒、時年五歲、牀前戲、高帝方令㆔左右拔㆓白髮㆒、問㆑之曰、兒言㆓我誰㆒耶、答曰、太翁、高帝笑謂㆓左右㆒曰、豈有㆘爲㆑人作㆓曾祖㆒而拔㆓白髮㆒者㆖乎、卽擲㆓鏡鑷㆒。㊁祖父をいふ。〔通俗編、稱謂、太翁〕陸游戲遺㆓老懷㆒

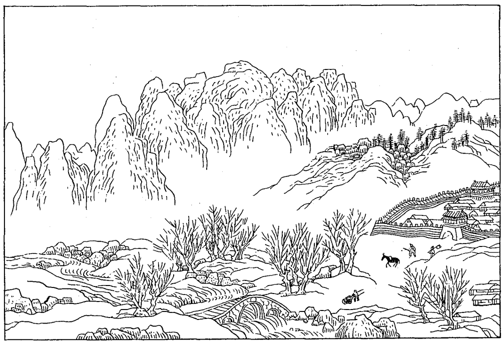
詩、阿団略知郎罷意、稚孫能伴太翁嬉、似㆓但謂㆑祖。㊂海上の大船で舵を司る人。船頭。〔通雅〕陶九成曰、海船中呼㆓司柁㆒曰㆓太翁㆒。

【太應】40（タイオウ） 唐、李光進（**6－14459**··1057）の字。

【太河】41（タイカ） 黃河（**12－47926**··91）の一名。〔史記、孫子吳起傳〕常山在㆓其北㆒、太河徑㆓其南㆒。

【太階】42（タイカイ） ㊀星の名。上階・中階・下階の三階あり、上階の上星を天子、下星を女主に象り、中階の上星を諸侯・三公、下星を卿・大夫に象り、下階の上星を元士、下星を庶人に象る。三階の星に異狀がなければ、五穀豐饒、天下太平であるといふ。泰階。〔揚雄、長楊賦〕是以玉衡正而太階平也。〔注〕善曰、玉衡正、太階平、出㆓黃帝六符經㆒、泰階者、天之三階也、上階上星爲㆓天子㆒、下星爲㆓女主㆒、中階上星爲㆓諸侯三公㆒、下星爲㆓卿大夫㆒、下階上星爲㆓元士㆒、下星爲㆓庶人㆒、三階平、則陰陽和、風雨時、歲大登、民人息、天下平、是謂㆓太平㆒。㊁三公の位をいふ。〔王儉、褚淵碑文〕公之登㆓太階㆒、而尹㆓天下㆒、君子以爲㆓美談㆒。〔注〕銑曰、太階星、三公位也。

【太行】43（タイカウ） ㊀山脈の名。河南省濟源縣に起り、陵川・壺關・平順・潞城・黎城・武鄉・遼・和順・平定・石陽等の縣に跨がり、河南省の輝・武安、河北省の井陘・獲鹿等の縣に及び、古から險岨を以て名高い。今は汾河以東、碣石以西、長城・黃河の間の諸山を太行山脈といふ。太行八陘をも參看せよ。〔括地志〕太行連㆓亙河北諸州㆒、凡數千里、始㆓於懷㆒而終㆓於幽㆒、爲㆓天下之脊㆒。〔讀史方輿紀要、河南、名山〕太行山、一名五行山、亦曰㆓王母山㆒、又名㆓女媧山㆒、在㆓懷慶府城北二十里㆒、接㆓山西澤州南界㆒、羊腸險道在焉、禹貢曰、太行・恆山至㆓於碣石㆒、云云、述征記、首始㆓河內北㆒至㆓幽州㆒、凡百嶺、連㆓亙十三州之界㆒、有㆓八陘㆒、第一軹關陘、第二太行陘、第三白陘、第四滏口陘、第五井陘、第六飛狐陘、第七蒲陰陘、第八軍都陘。㊁山名。山西省晉城縣の南。太行山脈の主峰。列子の大形山、淮南子の五行山、隋書地理志の王母山、太平寰宇記の皇女山・女媧山。尙、漢書地理志に兩太行があり、一は壄王縣（今の河南省河內縣治）の西北の太行山、一は山陽縣（今の河南省修武縣の西北）の北の東太行山。〔書、禹貢〕太行・恆山。〔淮南子、俶眞訓〕神經㆓於驪山・太行㆒。〔淮南子、墬形訓〕何謂㆓九山㆒、會稽・泰山・王屋・首山・太華・岐山・太行・羊腸・孟門。



太行山（名山圖）

【太行險】44（タイカウノケン） 太行山の險阻な道。〔史記、建、詩〕不㆑涉㆓太行險㆒、誰知㆓斯路難㆒。〔于濆、贈㆓太行開路者㆒詩〕斸㆓盡太行險㆒、君心更摩㆑天。

【太行道】45（タイカウノミチ） 太行山の險阻な道。〔史記、白起傳〕攻㆓南陽㆒、太行道絕㆑之。〔漢書、馮奉世傳〕秦攻㆓上黨㆒、絕㆓太行道㆒。〔注〕師古曰、太行、山名、險道所㆓經行㆒也。〔阮籍、詠懷詩〕北臨㆓太行道㆒、失㆑路將㆓如何㆒。

【太行路】46（タイカウロ） 樂府の名。唐の白居易作。太行山の險阻を人心の險隘に喩へ、夫婦の好合を君臣の遇合に喩へて、君の恩寵の續き難いことを歌つてゐる。〔白居易、太行路詩〕太行之路能摧㆑車、若比㆓君心㆒是坦途、巫峽之水能覆㆑舟、若比㆓君心㆒是安流、君心好惡苦不㆑常、好生㆓毛羽㆒惡生㆑瘡、與㆑君結髮未㆓五載㆒、豈期牛女爲㆓參商㆒、古稱色衰相棄背、當時美人猶怨悔、何況如今鸞鏡中、妾顏未㆑改君心改、爲㆑君薰㆓衣裳㆒、君聞㆓蘭麝㆒不㆓馨香㆒、爲㆑君盛㆓容飾㆒、君見㆓珠翠㆒無㆓顏色㆒、行路難、難㆓重陳㆒、人生莫㆑作㆓婦人身㆒、百年苦樂由㆓他人㆒、行路難、難㆓於山㆒、險㆓於水㆒、不㆓獨人間夫與㆒㆑妻、近代君臣亦如㆑此、君不㆑見左納言右納史、朝承㆑恩暮賜㆑死、行路難、不㆑在㆑水不㆑在㆑山、唯在㆓人情反覆間㆒。〔注〕白樂天以㆓人心之險㆒、比㆓山川之險㆒、以㆓夫婦之好合㆒、比㆓君臣之遇合㆒、文意新。

【太行八陘】47（タイカウハツケイ） 太行山脈中の八つの陘。陘は連山の中斷する所。一、河南省濟源縣の軹關陘。二、河南省沁陽縣の太行陘。三、河南省輝縣の白陘。四、河北省磁州の滏口陘。五、河北省獲鹿縣の井陘。六、山西省蔚州の飛狐陘。七、河北省易州の蒲陰陘。八、京兆昌平州の軍都陘。〔讀史方輿紀要、河南、名山〕述征記、太行首始㆓河內㆒、北至㆓幽州㆒、凡百嶺、連㆓亙十三州之界㆒、有㆓八陘㆒、第一軹關陘、第二太行陘、第三白陘、第四滏口陘、第五井陘、第六飛狐陘、第七蒲陰陘、第八軍都陘。

【太亨】48（タイカウ） 東晉、安帝、司馬德宗の年號、大亨「の一稱。（403）

【太庚】49（タイカウ） 殷の第四代の王。殷王太甲の子。沃丁の弟。沃丁が崩じて太庚が立つ。竹書紀年には小庚に作る。卜辭には大庚があつて小庚はない。紀年の說は誤。〔史記、三〕・〔增訂殷虛書契考釋、上〕。

【太昊】50（タイカウ） 伏羲氏をいふ。太皞（61）に同じ。〔楚辭、王逸、九思、疾世〕訪㆓太昊兮道要㆒。〔注〕太昊、東方青帝也。〔漢書、五行志下之下〕陳、太昊之虛也。〔太平御覽、皇王部、太昊庖犧氏〕皇王世紀曰、太昊帝庖犧氏、風姓也、蛇身人首、有㆓聖德㆒、都㆑陳。〔路史、禪通紀〕太昊伏羲氏方牙、一曰蒼牙、風姓。

【太昊陵】51（タイカウノリヨウ） 太昊伏羲氏の陵。河南省淮陽縣の西北。其の側に廟が在る。〔史記、三皇紀、注〕集解曰、按、皇甫謐、伏羲葬㆓南郡㆒、或曰、冢在㆓山陽高平之西㆒也。〔路史〕太昊葬㆓山陽㆒。〔注〕世紀云、葬㆓南郡㆒、在㆓襄陽㆒、按、帝冢今在㆓山陽高平西北高平襄陽之境㆒。〔開封府志〕太昊陵、在㆓陳州北三里㆒。〔清一統志〕史記注、皇甫謐曰、伏羲葬㆓南郡㆒、或曰、冢在㆓山陽高平西㆒、從不㆑聞㆔其葬處在㆓都邑㆒也、以㆔太昊陵在㆓陳州宛邱㆒、則自㆓宋太祖乾德四年㆒始。

【太浩】52（タイカウ） 天をいふ。太皓（59）の㊁に同じ。又、自然をいふ。〔淮南子、覽冥訓〕蒲且子連㆓鳥於百仞之上㆒、而詹何之騖㆓魚於大淵之中㆒、此皆得㆓清淨之道、太浩之和㆒也。

【太高】53（タイカウ） 祖父以上の通稱。祖先。〔駢雅、釋名稱〕太高、祖先也。〔稱謂錄、遠祖、太高〕淮南子氾論訓、饗㆓太高㆒者而彘爲㆓上牲㆒、高誘注、太高、祖也、案、太高、爲㆓祖以上之通稱㆒、非㆘專指㆓王父㆒而言㆖也。

【太康】54（タイカウ） ㊀太平（400）に同じ。〔晉書、摯虞傳〕吳寇新平、天下乂安、上㆓太康頌㆒、以美㆓晉德㆒。㊁縣名。隋、置く。秦の陽夏縣。今、河南省に屬す。〔讀史方輿紀要、河南、開封府〕太康縣、在㆓府東南二百里㆒、相㆓傳夏太康所㆑築城㆒、漢置㆓陽夏縣㆒、屬㆓淮陽國㆒、云云、開皇七年、改㆑縣曰㆓太康㆒、屬㆓陳州㆒。〔清史稿、地理志〕河南、陳州府、縣七、太康。㊂夏王の名。啓の子。盤游して民事を忘れ、有窮の君の羿に逐はれて陽夏に崩ず。在位十九年。〔史記、二〕。㊃年號。㋑晉、武帝、司馬炎の時。（280－289）㋺梁、武帝稱す。㋩前涼、張天錫稱す。

【太康體】55（タイカウタイ） 詩體の一。三張（張載・張亢・張協）・二陸（陸機・陸雲）・兩潘（潘尼・潘岳）・一左（左思）等の詩風。太康は晉の武帝の時の年號。〔滄浪詩話〕太康體、晉左思・潘岳・三張・二陸諸公之詩。

【太康元寶】56（タイカウゲンパウ） 遼の道宗の鑄た貨幣。〔續文獻通考、錢幣考〕泉志曰、太康錢有㆓二品㆒、竝徑九分、重二銖四參、以㆓太康通寶・太康元寶㆒爲㆑文。

【太康通寶】57（タイカウツウハウ） 遼の道宗の鑄た貨幣。太「康元寶を見よ。

【太康三年地記】58（タイカウサンネンチキ） 書名。一卷。晉、王隱撰。太康三年に於ける州縣の所屬を明かにす。既に亡佚したが、清の畢沅が諸書中に引用せられたものを輯めて一卷とし、漢學堂叢書中に收む。〔說郛、第六十冊〕。

【太皓】59（タイカウ） ㊀太皞（61）に同じ。〔楚辭、遠遊〕歷㆓太皓㆒以右轉兮。〔注〕遂過㆓庖犧㆒而諮訪也、

東方甲乙、其帝太皓、其神句芒、太皓始結㆓罔罟㆒、以畋以漁、制㆓立庖廚㆒、天下號㆑之爲㆓庖犧氏㆒、皓、一作㆑皥。㊁天をいふ。〔後漢書、郎顗傳〕太皓悅和、雷聲乃發。〔注〕太皓、天也。

【太項】60 t'ai^{4} hsiang^{4} 代數式に於て既知數のみを含む項をいふ。既知項。

【太皞】61 タイカウ 古の帝の名。伏犧氏。風姓。木德。燧人氏に代つて王となり、始めて八卦を畫し、書契を作り、嫁娶の制を定め、網罟を結び、犧牲を養ひ、琴瑟を造る。太昊。太皓。大皞(**3**－**5831**‥287)を見よ。〔史記、三皇紀〕太皞庖犧氏、風姓、代㆓燧人氏㆒繼㆑天而王、母曰㆓華胥㆒、履㆓大人迹於雷澤㆒、而生㆓庖犧於成紀㆒、蛇身人首、有㆓聖德㆒、仰則觀㆓象於天㆒、俯則觀㆓法於地㆒、旁觀㆓鳥獸之文與㆒地之宜㆒、近取㆓諸身㆒、遠取㆓諸物㆒、始畫㆓八卦㆒以通㆓神明之德㆒、以類㆓萬物之情㆒、造㆓書契㆒以代㆓結繩之政㆒、於㆑是始制㆓嫁娶㆒、以㆓儷皮㆒爲㆑禮、結㆓網罟㆒以敎㆓佃漁㆒、故曰㆓宓犧氏㆒、養㆓犧牲㆒以庖廚、故曰㆓庖犧㆒、有㆓龍瑞㆒、以㆑龍紀㆑官、號曰㆓龍師㆒、作㆓三十五弦之瑟㆒、木德王、注㆓春令㆒、故易稱㆔帝出㆓乎震㆒、月令、孟春其帝太皞、是也。〔呂覽、孟春紀〕其日甲乙、其帝太皞。〔注〕太皞伏羲氏、以㆓木德㆒王㆓天下㆒之號、死祀㆓於東方㆒、爲㆓木德之帝㆒。

【太羹】62 タイカウ 五味を調和しない肉汁。大羹(**3**－**5831**‥288)を見よ。

〔太羹玄酒〕63 タイカウゲンシュ 太羹と玄酒。太羹は五味を調和しない肉汁、玄酒は水。轉じて、淡泊無味な文章をいふ。大羹玄酒(**3**－**5831**‥290)の㊀を見よ。

【太剛】64 タイガウ はなはだつよい。剛にすぎる。〔淮南子、氾論訓〕太剛則折、太柔則卷。〔漢書、雋不疑傳〕太剛則折、太柔則廢。

【太囂】65 タイガウ 金星(**11**－**40152**‥641)の異名。大囂(**3**－**5831**‥295)の㊁に同じ。〔騈雅、釋天〕太囂、太白也。

【太角】66 タイガク 星の名。大角(**3**－**5831**‥296)の㊂に同じ。〔說苑、辨物〕星茀㆓太角㆒、太角以亡。

【太岳】67 タイガク ㊀山名。山西省霍縣の東南。霍山(**12**－**42321**‥23)の㊀の㋺の別名。〔書、禹貢〕壺口雷首、至㆓于太岳㆒。〔疏〕地理志、河東彘縣東有㆓霍太山㆒、周禮職方氏、冀州、其山鎭曰㆓霍山㆒、卽此太岳、是也。〔蔣廷錫、尙書地理今釋〕太岳、一名霍太山、今爲㆓中鎭㆒、在㆓山西平陽府霍州東三十里㆒。㊁明、張居正(**4**－**9812**‥927)の號。

【太樂】68 タイガク ㊀官名。周官の春官の屬官に大司樂があり、成均の法を掌り、又、樂尹とも稱し、樂舞を以て國子に敎へた。之が後世の太樂の源。秦漢に至り、奉常の屬官に太樂を置き、少府の屬官に樂府を置く。後漢に至り太樂を大子樂と改め、伎樂人を掌り、國の祭饗に諸奏樂を掌る。其の後、時代によつて名稱・制度に多少の變遷があり、唐の太樂は、音樂を敎へ、樂人の簿籍を掌る。以後、之に仍る。大樂。太樂署を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕奉常、秦官、掌㆓宗廟禮儀㆒、云云、屬官有㆓太樂・太祝㆒。〔通典、職官、太常卿〕太樂署、周官有㆓大司樂㆒、掌㆓成均之法㆒、亦謂㆓之樂尹㆒、以㆓樂舞㆒敎㆓國子㆒、秦・漢奉常屬官有㆓太樂令及丞㆒、又少府屬官幷有㆓樂府令丞㆒、後漢永平三年、改㆓太樂㆒爲㆓大子樂令㆒、掌㆓伎樂人㆒、凡國祭饗掌㆓諸奏樂㆒、魏復曰㆓太樂令丞㆒、晉亦有㆑之、齊銅印墨綬、進賢一梁冠、絳朝服、梁陳因㆑之、後魏置㆓太樂博士㆒、北齊曰㆓太樂令丞㆒、後周有㆓大司樂㆒、掌㆓成均之法㆒、後改爲㆓樂部㆒、有㆓上士・中士㆒、隋有㆓太樂令丞各一人㆒、大唐因㆑之、掌㆘習㆓音樂㆒、樂人簿籍㆖。〔隋書、百官志中〕太常寺云云、其屬官、太樂、掌㆓諸樂及行禮節奏等事㆒。〔隋書、百官志下〕太常寺又有㆓博士四人、協律郞二人㆒、統㆓太樂・清商・鼓吹等署㆒。〔文獻通考、職官考、太常卿〕宋制、太樂局、令一人、丞一人。㊁タラグ 姓氏。〔姓林全書〕。

〔太樂署〕69 タイガクショ 官署の名。太樂官の役所。後齊に始めて太樂署といひ、隋・唐之に仍り、宋には太樂局と稱した。太樂の㊀を見よ。

【太學】70 タイガク 古、王者の建てた學校。大學(**3**－**5831**‥316)の㊀を見よ。〔魏志、文帝丕傳〕夏四月、立㆓太學㆒、制㆓五經課試之法㆒、置㆓春秋穀梁博士㆒。

〔太學生〕71 タイガクセイ 太學の學生。〔後漢書、皇甫規傳〕諸公及太學生張鳳等三百餘人。〔唐書、選擧志上〕凡學生皆隸㆓於國子監㆒、國子學生三百人、太學生五百人、四門學生千三百人。

〔太學體〕72 タイガクタイ 宋代流行した難澁奇怪な文體。〔宋史、歐陽脩傳〕知㆓嘉祐二年貢擧㆒、時士子尙爲㆓險怪奇澀之文㆒、號㆓太學體㆒、脩痛排㆓抑之㆒、凡如㆑是者輒黜。

〔太學博士〕73 タイガクハカセ 太學の教官。漢の武帝が五經博士を置き、少年五十人を擇んで博士弟子員に補したのに始まる。後漢の光武帝は、太學を營み、博士十四人を置く。晉の武帝は國子學を設け、國子祭酒・博士・助教を置く。六朝皆置き、北齊に至り、始めて博士・助教に國子及び太學四門の別があり、唐は國子・太學・四門・律・書・算の六館を設け、學每に博士助教を置いた。宋も亦太學博士を置き、元・清には國子博士、明には五經博士と稱した。〔漢書、武帝紀〕建元五年、置㆓五經博士㆒。〔後漢書、光武紀上〕初起㆓太學㆒、車駕還㆑宮、幸㆓太學㆒、賜㆓博士弟子㆒各有㆑差。〔唐書、百官志三〕太學博士六人、正六品上、助教六人、從七品上、掌㆑教㆓五品以上及郡縣公子孫㆒。〔文獻通考、職官考、國子監〕太學博士、晉江左增㆓置國子博士十六人㆒、謂㆓之太學博士㆒、品服同㆓國子博士㆒、梁置㆓太學博士八人㆒、陳因㆑之、後魏亦然、北齊國子寺有㆓太學博士十八人㆒、後周置㆓太學博士下大夫六人㆒、隋初置㆓太學博士五人㆒、仁壽元年、罷㆓國子㆒、唯立㆓太學㆒、置㆓博士五人㆒、大業三年、減㆓置二人㆒、唐仍㆑之。〔宋史、職官志五〕太學博士十人。

【太嶽】74 タイガク 官名。堯の時の四嶽の一。大嶽。〔廣韻〕許、本爲㆓許國㆒、太嶽之胤、周武王伐㆑紂所㆑封。〔史記、陳世家〕姜姓、太嶽之後、物莫㆓能兩大㆒。

【太甲】75 タイカフ ㊀書經、商書の篇名。僞古文。商の史官伊尹の告戒と太甲の辭とを錄し、上中下の三篇あり、上篇は伊尹が太甲の不明を訓戒したが聽かれないので之を桐宮に幽することを述べ、中篇は王が桐宮に在つて德をつつしんだので之を亳に迎へ、且つ王と伊尹とが互に德と忠とを嘉頌することを述べ、下篇は王の克く德を修め民を憐み天命を愼むべきを言ひ、かさねて王の將來を戒しめたことを述ぶ。〔書、太甲序〕太甲既立、不明、伊尹放㆓諸桐㆒、三年復㆓歸于亳㆒、思㆑庸、伊尹作㆓太甲三篇㆒。㊁商(殷)の太宗。第二代の王。殷王仲壬が崩じ、伊尹が成湯の適長孫なる太丁の子、太甲を立てた。太甲は立つて三年、縱欲度無く、暴虐にして湯の法に遵はず、德を亂したので、伊尹は之を桐宮に放つ。居ること三年、太甲は過ちを悔い自ら責めて善に反る。是に於て伊尹は太甲を迎へて政を授け、太甲は德を修め、諸侯が盡く之に歸し、百姓は安寧、殷道が大いに興つた。伊尹は之を嘉し、太甲三篇を作つたといふ。太宗と稱す。在位三十三年。一說に十三年といふ。〔書、太甲〕・〔孟子、萬章上〕・〔史記、三〕。

〔太甲之思㆑庸〕76 タイカフヨウヲオモフ 殷の太甲が伊尹の爲に桐宮に放たれて過ちを悔い、亳に歸つてから常道を守ることに力を用ひたこと。庸は、常の道、不變の正道。太甲を見よ。〔後漢書、孔融傳〕是太甲之思㆑庸、穆公之霸㆑秦。〔注〕尙書、太甲既立、不明、伊尹放㆓諸桐㆒、三年復㆓歸于亳㆒、思㆑庸、孔注曰、念㆓常道㆒也。

【太閤】77 タイカフ 上古は攝政、又は太政大臣の尊稱。後、關白を辭して尙、內覽の宣旨を被つた人、又は關白を其の子に讓つた人の稱。後、豐臣秀吉の尊稱となる。〔興福寺緣起〕法華會、右會於㆓南圓堂㆒所㆑行也、弘仁八年、閑院贈太政大臣太閤奉㆓爲先考長岡相府諱名內丸㆒所㆓始行㆒也。〔臥雲日件錄〕寬正七年七月十二日、外記常忠居士來、予就㆓本朝故事㆒問㆓不審㆒、云云、今一條殿稱㆓太閤㆒、此號如何、曰、父已爲㆓關白㆒、其子又必關白、父尙存則稱㆓太閤㆒。〔和漢三才圖會、官位部、關白〕按、陽成帝元慶四年、藤原基經公、罷㆓攝政㆒爲㆓關白㆒、此號始㆓於此㆒、奉㆓天子敕㆒、執㆓行天下之政㆒、以坐㆓人臣上㆒、稱㆓一人㆒、父公號㆓太閤㆒、法體號㆓禪閤㆒。

〔太閤記〕78 タイカフキ 書名。二十二卷。小瀨甫庵撰。豐臣秀吉一代の事蹟を錄す。

【太函】79 タイカン 明、汪道昆(**6**－**17154**‥304)の號。

【太監】80 タイカン 官名。遼の太府監の長官を太監といひ、元の太府中尙章佩等の監にも太監を置き、明、之に因つて內官諸監を置き、每監に各太監を置き、何れも宦官を以てこれに任じたから、後、俗に宦官の稱となつた。〔元史、百官志六〕

太府監、秩正三品、領二左右藏等庫一、掌二錢帛出納之數一、太卿六員、正三品、太監六員、從三品、少監五員、從四品、云云、大德九年、改爲レ院、秩從二品、院判叅二用宦者一。〔明史、職官志三〕宦官十二監、毎監各太監一員、正四品。

【太簡】81（タイカン） ❶簡略に過ぎて敬を缺くこと。大簡(3－5831‥358)の❸に同じ。❷字號。㋑宋、韓丕(12－43159‥193)の字。㋺宋、蘇易簡(9－32427‥211)の字。㋩宋、雷簡夫(12－42245‥177)の字。㋥元、裴居敬(10－34362‥112)の字。

【太姬】82（タイキ） 天子の長女。大姬(3－5831‥370)に同じ。

【太暉】83（タイキ） 清、陳朗(11－41698‥582)の字。

【太熙】84（タイキ） 晉、武帝、司馬炎の年號。(290)

【太儀】85（タイギ） ❶萬物の根源。宇宙の元氣。太極。〔張華、勵志詩〕太儀斡運、天廻地遊。〔注〕善曰、太儀、太極也、以生二天地一、謂二之大成一、形之始、謂二之儀一。❷唐代、公主の母の稱。〔柳冕、請レ定二公主母稱號一狀〕其長公主之母、歷代故事並無レ稱、案、六典、內命婦有二六儀一、位次二三妃一、秩正三品、公主母既因二女貴一、伏請下降二王母一命爲中太儀上、各以二公主本封一加二太儀之上一、其品位同、儀者取二母儀之盛太者一、請因レ子而尊レ庶辨レ等、威以宏二敦睦一。〔王建、宮詞〕太儀前日暖房來。❸天帝の庭。威儀を習ふ所。〔楚辭、遠遊〕朝發二軔於太儀一。〔注〕太儀、天帝之庭、習二威儀一之處也。

【太丘】86（タイキウ） 縣名。後漢、置く。春秋、宋の犬丘の地。漢には敬丘縣といふ。河南省永城縣の西北。〔後漢書、郡國志二〕沛國、太丘。〔後漢書、陳寔傳〕旬月以二朞喪一去レ官、復再遷除二太丘長一。〔注〕太丘縣屬二沛國一、故城在二今亳州永城縣西北一也。

〖太丘道廣〗87（タイキウハミチヒロシ） 後漢の陳寔が太丘の長となり、廣く交はり過ぎて友情のゆきとどかなかつた故事。濫交。〔後漢書、許劭傳〕劭嘗到二潁川一、多二長者之遊一、唯不レ候二陳寔一、又陳蕃喪レ妻、還葬、鄉人畢至、而劭獨不レ往、或問二其故一、劭曰、太丘道廣、廣則難レ周、仲擧性峻、峻則少レ通、故不レ造也。〔李端、下第上二薛侍郞一詩〕終慙二太丘道一、不レ爲二小生私一。

【太狂】88（タイキヤウ） 明、曹學(5－14297‥32)の號。

【太姜】89（タイキヤウ） 周の人。姓は呂氏。太王の妃。文王の祖母。大姜。太姒(240)を見よ。

【太虛】90（タイキヨ） ❶宇宙の大元氣。混氣。又、宇宙生成の始。又、天・天空をいふ。太極。太空。〔鬼谷子、本經陰符〕乃能內視反聽定レ志、思二之太虛一。〔宋玉、小言賦〕超二於太虛之域一。〔孫綽、遊二天台山一賦〕太虛遼廓而無レ閡、運二自然之妙有一。〔注〕善曰、太虛、天也、云云、管子曰、虛而無レ形、謂二之道一、翰曰、太虛、混氣也。〔夏侯湛、長夜謠〕亭二檐隅一以逍遙兮、眄二太虛一以仰觀。〔近思錄、道體〕氣坱然太虛、升降飛揚、未二嘗止息一。❷虛無深玄の理をいふ。〔莊子、知北游〕道不レ遊二乎太虛一。〔疏〕太虛、是深玄之理。❸字號。㋑宋、沈虛中(6－17189‥470)の字。㋺宋、秦觀(8－24995‥68)の字。㋩宋、陳景元(11－41698‥786)の字。㋥元、何中(1－511‥157)の字。

〖太虛寶洞〗91（タイキヨハウドウ） 南嶽、卽ち衡山(10－34078‥36)の異名。〔事物異名錄、坤輿、嶽〕山堂肆考、南嶽者、朱陵靈臺、太虛寶洞、又洞淵集、衡山名二朱陵太虛洞天一。

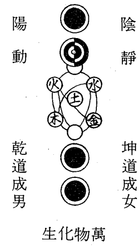
【太御】92（タイギヨ） ❶王莽の制定した官名。太僕をいふ。〔漢書、王莽傳中〕更二名光祿勳一曰二司中一、太僕曰二太御一。❷清、王基(吳縣の人)(7－20823‥190)の字。

【太極】93（タイキヨク） ❶宇宙の太元氣。宇宙を構成する陰陽二元氣の根本。大道。太極。太易。太儀。太虛。太極圖(96)を見よ。〔易、繫辭上〕易有二太極一、是生二兩儀一。〔班固、典引〕太極之元、兩儀始分。❷宮殿の名。陝西省長安縣の北、故宮城內。隋の大興宮、唐の西內。〔長安志〕龍朔後、天子常居二大明宮一、乃謂二此宮一曰二西內一、神龍元年、又改曰二太極宮一。〔雍錄〕唐諸帝多居二大明宮一、或遇二大禮・大事一、復在二太極一。❸唐、睿宗、李旦の年號。(712)

〖太極拳〗94（タイキヨクケン） 拳術の名。宋の張三丰の創始といはれる。

〖太極硯〗95（タイキヨクケン） 硯の名。瓦頭の圓い部分で作つたもの。〔遵生八牋、續硯式〕琴硯・鶯硯、云云、太極硯・漢壺硯。

〖太極圖〗96（タイキヨクヅ） 宋の周敦頤が工夫した圖形。其の解釋を記したものを太極圖說といふ。太極、卽ち宇宙の根本を圖解し、萬物發展の理由を明かにしたもの。天地萬物の本源を太極といひ、之によつて陰陽二氣を生じ、二氣が分れて木・火・土・金・水の五行となり、五行の精が凝合して人類を生ずる。人類は五行によつて仁・義・禮・智・信の五性を得るから萬物の靈となる。然し乍ら此の五性を動かして外物と接する時、其の行事に善惡の差別を生ずるから、聖人は中正仁義の道を立てて靜を主とし、以て正に復歸せしめると說く。〔周敦頤、太極圖說〕無極而太極、太極動而生レ陽、動極而靜、靜而生レ陰、靜極復動、一動一靜、互爲二其根一、分陰分陽、兩儀立焉、陽變陰合、而生二水・火・木・金・土一、五氣順布、四時行焉、五行、一陰陽也、陰陽、一太極也、太極、本無極也、五行之生也、各一二其性一、無極之眞、二五之精、妙合而凝、乾道成レ男、坤道成レ女、二氣交感、化二生萬物一、萬物生生、而變化無レ窮焉、惟人也、得二其秀一而最靈、形既生矣、神發レ知矣、五性感動、而善惡分、萬事出矣、聖人定レ之、以二中正仁義一而主レ靜、立二人極一焉、故聖人與二天地一合二其德一、日月合二其明一、四時合二其序一、鬼神合二其吉凶一、君子修レ之吉、小人悖レ之凶、故曰、立二天之道一、曰二陰與レ陽、立二地之道一、曰二柔與レ剛、立二人之道一、曰二仁與レ義、又曰、原レ始反レ終、故知二死生之說一、大哉易也、斯其至矣。〔宋史、道學傳〕周子作二太極圖一。



太極圖
（古今圖書集成學行典）

〖太極殿〗97（タイキヨクデン） 天子の居住する正殿の名。魏以來、代々此の名を用ひた。〔水經、穀水注〕魏明帝上法二太極一、于二洛陽南宮一、起二太極殿于漢崇德殿之故處一、改二雉門一爲二閶闔門一。〔魏略〕青龍二年起二太極殿一。〔淵鑑類函、居處部、殿〕洛陽宮殿簿有二魏太極・九龍・芙蓉・九華・承光諸殿一、漢晉春秋有二景福・聽政諸殿一、晉宮閣名有二靈圃・百子・虞泉・清冥諸殿一。歷代殿名、或沿或革、唯魏之太極、自レ晉以降、正殿皆名レ之。

〖太極仙翁〗98（タイキヨクセンヲウ） 三國吳、葛玄(9－31420‥30)の號。

〖太極圖說〗99（タイキヨクヅセツ） 書名。一卷。宋、周敦頤撰。この書は僅かに二百四十九字に過ぎないが、朱子に過信せられて宋學の淵源と稱せられ、易・中庸と共に儒學の深奧を發揮するものとなる。然るに毛奇齡・伊藤東涯・大田錦城等は其の所言が道家に本づくことを明かにした。太極圖(96)を見よ。〔四庫提要、子、儒家類〕。《參考書》【太極圖解】一卷宋、朱熹撰。【太極辨】三卷元、孫自強撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【太極圖說述解・通書述解・西銘述解】各一卷明、曹端撰。〔四庫提要、子、儒家類〕。【太極圖分解】一卷明、羅鶴撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【太極繹義・通書繹義】各一卷明、舒芬撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【太極圖說遺議】一卷清、毛奇齡撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【太極圖說集注】一卷清、孫子昶撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【太極圖說注解】清、陳兆成撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【太極圖說論】十四卷清、王嗣槐撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【太極解拾遺・通書解拾遺・後錄・西銘解拾遺・後錄】各一卷清、李文炤撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【太極圖說管窺】一卷伊藤長胤撰。【太極圖說解】一卷三宅重固撰。【太極圖述】二卷室直清撰。

【太鈞】100（タイキン） 造物者をいふ。造物者が萬物を作るのは、陶工が器を鈞上で作るのに似てゐるからいふ。鈞は轆轤（ロクロ）。大鈞。〔漢書、賈誼傳〕太鈞播レ物、坱圠無レ垠。〔注〕如淳曰、陶者作二器於鈞上一、此以二造化一爲二大鈞一也、師古曰、今造レ瓦者、謂二所レ轉者一爲レ鈞、言下造化爲レ人、亦猶二陶之造レ瓦耳上。

【太禁】101（タイキン） 神の名。太一神の輔佐神。大禁。〔漢書、郊祀志上〕神君最貴者曰二太一一、其佐曰二太禁一。

【太空】102（タイクウ） ❶おほぞら。天空。太虛。大空。〔關尹子、二柱〕一運之象、周二乎太空一。〔蘇軾、喜雨亭記〕太空冥冥。〔王守仁、泛レ海詩〕險夷原不レ滯二胸中一、何異三浮雲過二太空一。❷宋、許月卿(10－

35298‥277)の字。

【太華】103タイクワ ❶山名。㋑陝西省華陰縣の南。華山。西嶽。西の少華に對していふ。山の中峯を蓮花峯、東峯を仙人掌、南峯を落雁峯といひ、世に華嶽三峯と稱す。嶽頂の東北に雲臺峯、北に公主峯・白雲峯、西北に毛女峯があり、其の外、虎頭・灝天・仰天・朝天・三盤・松檜・朝來・玉柱・玉秀・白石の諸峯がある。〔書、禹貢〕西傾㆓朱圉鳥鼠㆒、至㆓于太華㆒。〔周禮、夏官、職方氏〕豫州、其山鎭曰㆓華山㆒。〔山海經、西山經〕太華之山、削成而四方、其高五千仞、其廣十里。〔讀史方輿紀要、陝西、名山〕泰華山、在㆓西安府華州華陰縣南十里㆒、卽西嶽也、舜典、八月西巡狩至㆓於西嶽㆒、禹貢導㆑河、至㆓於華陰㆒、卽華山之北矣、周禮、職方、豫州其山鎭曰㆓華山㆒、山海經、太華之山、削成而四方、高五千仞、廣十里、遠而望㆑之若㆑華然、故曰㆓華山㆒、漢成帝元延二年、幸㆓河東㆒、陟㆓西嶽㆒而歸、後漢初平四年、華山崩裂、災異志云、漢亡之徵也、水經注、華嶽有㆓三峯㆒、直上數千仞、基廣而峯峻、疊秀迄㆓於領表㆒、有㆑如㆓削成㆒、山頂有㆓二泉㆒、東西分流、掛溜騰虛、直㆓瀉山下㆒、今其山盤回峻挺、翼㆓帶河濱㆒、控㆓臨關險㆒、壯㆓都邑之形勝㆒、扼㆓雍豫之噤喉㆒、秦中險塞、甲㆓於天下㆒、豈不㆓以踐㆑華爲㆑城、因㆑河爲㆑池、山川之雄、泰華㒵然、稱㆑首哉、唐武德二年、大獵㆓於華山㆒、上元初、復較㆓獵於華山曲武原㆒、天寶九載、郡臣請㆑封㆓西嶽㆒不㆑果、六典、關內道、名山曰㆓泰華㆒、其峯巒洞谷、參差錯列、而峯之最著者、爲㆓蓮花諸峯㆒、洞之最著者、爲㆓碧雲諸洞㆒、谷之最著、爲㆓牛心諸谷㆒、登㆓華嶽之巓㆒、俯㆓視雲煙㆒、皆出㆓其下㆒、帝座微茫、彷彿可㆑通也。㋺四川省彰明縣の西北。江油縣と界を接す。〔明一統志〕羣仙錄載、黃奉先攜㆓家人㆒入㆓此山㆒、山有㆓牡丹花㆒、開時望㆑之、如㆓錦幛㆒然。㋩雲南省昆明縣の西南。滇池の西岸。其の麓を太平山、其の左を華亭山といひ、皆名勝である。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府、昆明縣〕碧雞山、府西南三十里、東瞰㆓滇池㆒、蒼崖萬丈、云云、又碧雞西北有㆓太華山㆒、有㆓太華寺㆒、下瞰㆓滇池㆒、左環右繞、稱㆓滇城絕勝㆒。❷字號。㋑明、孔貞時(3−6933‥353)の字。㋺山縣禎の號。山縣太華(4−7869‥337)を見よ。㋩莅戸鵬の號。莅戸太華(9−31024‥19)を見よ。

〔太華逸民〕104タイクワイツミン 宋、李廌(6−14459‥581)の號。

〔太華歸雲叟〕105タイクワキウンソウ 清、張開福(4−9812‥860)の號。

【太皇】106タイクワウ ❶古の帝王の最も尊い者。泰皇(6−17325‥35)に同じ。❷天をいふ。〔淮南子、精神訓〕登㆓太皇㆒、馮㆓太一㆒、玩㆓天地於掌握之中㆒。〔注〕太皇、天也。❸天子の祖母。太皇太后の❶に同じ。〔宋史、賈似道傳〕太皇許㆓我不㆑死。

〔太皇太后〕107タイクワウタイコウ ❶天子の祖母の尊稱。漢の武帝の時、文帝の竇皇后を太皇太后と稱したのに始まる。〔漢書、外戚傳序〕漢興、因㆓秦稱號㆒、帝母稱㆓皇太后㆒、祖母稱㆓太皇太后㆒。〔後漢書、禮儀志下〕太皇太后・皇太后崩。〔漢書、薛宣傳〕以㆓太皇太后詔㆒賜㆓主藥㆒。〔事物紀原、帝王后妃部、太皇〕漢因㆓秦事㆑母號㆓皇太后㆒、故尊㆓祖母㆒曰㆓太皇太后㆒、其禮雖㆑始㆓於漢㆒、要㆑之自㆓孝武㆒始也、按㆓史記㆒、景帝二年四月壬午、孝文太后崩、高祖薄后也、景帝之祖母爾、時未㆑號㆓太皇㆒、武帝卽㆑位、迎㆓魯申公㆒、議㆓明堂事㆒、司馬遷於㆓儒林傳㆒乃始稱㆔太皇竇太后好㆓老子言㆒、是太皇之號、自㆓漢武㆒始、明矣、竇氏、文帝后、於㆓武帝㆒爲㆓祖母㆒、班固於㆓景帝旣立㆒、則以稱㆓薄后㆒、然遷自武帝時人、不㆑應㆓誤書㆒也。❷天皇の御祖母で、皇后・皇太后でいらせられた御方。〔公式令〕皇后・皇太后・太皇太后。〔義解〕謂㆘天子祖母登㆓后位㆒者㆖、爲㆓太皇太后㆒。

〔太皇太妃〕108タイクワウタイヒ 天皇の御祖母で、先々帝の妃でいらせられた御方。〔令義解、公式令〕太皇太后、謂㆘天子祖母登㆓后位㆒者㆖、爲㆓太皇太后㆒、居㆓妃位㆒者、爲㆓太皇太妃㆒。

〔太皇太夫人〕109タイクワウタイフジン 天皇の御祖母で、先々帝の夫人でいらせられた御方。〔令義解、公式令〕太皇太后、謂㆘天子祖母登㆓后位㆒者㆖、爲㆓太皇太后㆒、云云、居㆓夫人位㆒者、爲㆓太皇太夫人㆒也。

〔太皇太后宮職〕110タイクワウタイコウグウシキ 古、中務省の被官で、太皇太后宮の御事を掌つた官。〔職原鈔〕太皇太后宮職。

【太官】111タイクワン 官名。秦、置き、漢、之を繼承す。少府の屬。宮中の膳羞を掌る。以後、歷代皆之を置いたが、元以後、廢した。〔漢書、百官公卿表上〕少府屬官有㆓太醫・太官㆒。〔注〕師古曰、太官、主㆓膳食㆒。〔漢書、宣帝紀〕詔曰、今歲不㆑登、其令㆓太官損㆑膳。〔通典、職官、光祿卿〕太官署令丞、於㆓周官㆒爲㆓膳夫・庖人・外饔㆒、中士・下士、蓋其任也、秦爲㆓太官令丞㆒、屬㆓少府㆒、兩漢因㆑之、桓帝延熙元年、使㆓太官令得㆑補㆓二千石㆒、魏亦屬㆓少府㆒、晉屬㆓光祿勳㆒、宋齊屬㆓侍中㆒、梁門下省領㆓太官㆒、陳因㆑之、後魏分㆓太官㆒爲㆓尚食㆒、中尚食知㆓御膳㆒、隸㆓門下省㆒、而太官掌㆓百官之饌㆒、屬㆓光祿卿㆒、北齊因㆑之、後周有㆓典庖中士・內膳中士㆒、隋如㆓北齊㆒、大唐因㆑之、各一人。〔宋史、職官志四〕太官令、掌㆓膳羞割烹之事㆒。〔事物紀原、九寺卿少部、太官令〕太官令、周官膳夫・庖人・外饔、皆其任也、秦置㆓太官令㆒、屬㆓少府㆒、漢不㆑改、晉屬㆓光祿㆒、後魏分㆓太官㆒、爲㆓尚食㆒、知㆓御膳㆒、太官掌㆓百官之饌㆒。

〔太官署〕112タイクワンショ 官署の名。太官の役所。太官を見よ。

〔太官葱〕113タイクワンソウ 草の名。冬葱(2−1610‥87)の異名。〔本草、葱〕集解、時珍曰、冬葱卽慈葱、或名㆓太官葱㆒、謂、其莖柔細而香、可㆓以經㆑冬、太官上供宜㆑之、故有㆓數名㆒、漢葱、一名木葱、其莖粗硬、故有㆓木名㆒。

〔太官獻丞〕114タイクワンケンジヨウ 漢の官名。貢獻物を掌る。〔漢書、張延壽傳〕元帝初卽㆑位、詔㆓列侯㆒擧㆓茂才㆒、勃擧㆓太官獻丞陳湯㆒。〔注〕蘇林曰、獻丞、主㆓貢獻物㆒也。

【太患】115タイクワン 甚しい憂患。大患(3−5831‥589)の❷に同じ。〔漢書、鼂錯傳〕國之太患、故在㆓於此㆒。

【太君】116タイクン ❶官人の母で、封邑を有する者の稱。轉じて、他人の母の稱。〔宋史、職官志十〕祖母・母並封㆓郡太君㆒、貴人母封㆓縣太君㆒。〔司馬光、書儀、喪儀五、慰㆓人父母㆒疏狀、自注〕母亡、云㆓先太夫人・先太君㆒、無㆓封邑㆒者、止云㆓先夫人㆒。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕太夫人、恭儉仁愛而有㆑禮、初封㆓福昌縣太君㆒、進㆓封樂安・安康・彭城三郡太君㆒。〔事物紀原、嬪御命婦部、太君〕太君、唐制、四品妻爲㆓郡君㆒、五品爲㆓縣君㆒、其母邑號皆加㆑太、君封稱㆑太、此其始也。❷他人の父を稱して尊太君といふ。大君。尊大君(4−7445‥139)を見よ。

【太形】117タイケイ 山名。太行(43)に同じ。〔列子、湯問〕太形・王屋二山、方七百里、高萬仞。〔注〕形、當㆑作㆑行、太行、在㆓河內野王縣㆒。

【太計】118タイケイ 大計(3−5831‥631)に同じ。

【太溪】119タイケイ 人の腎脈の氣。〔素問、至眞要大論〕太溪絕、死不㆑治。〔注〕太溪、腎脈氣也。

【太慶】120タイケイ 元の仁宗の時、大越(安南)の明宗、陳奣の年號、大慶の一稱。(1314−1323)

【太建】121タイケン 陳、宣帝、蕭頊の年號。一に大建に作る。(569−582)

【太絹】122フトギヌ 太織の絹。絁。

【太元】123タイゲン ❶太古の曆の名。〔史記、封禪書〕其贊饗曰、天增㆓授皇帝太元神策㆒、周而復始。〔注〕索隱曰、太元者、古昔上皇創曆之號。❷髮の神の字アザナ。〔黃庭內景經〕髮神蒼華、字太元。❸山名。玄芝を出す。〔抱朴子、微旨〕太元之山、玄芝萬株。〔蘇軾、和㆔陶讀㆓山海經㆒詩〕玄芝生㆓太元㆒、黃精出㆓長谷㆒。❹年味。㋑三國吳、大帝、孫權の時。(251−252) ㋺晉、孝武帝、司馬曜の時。(376−396) ㋩五胡十六國、前涼、世祖文王、張駿の時。(324−345) ❺字號。㋑後周、張沆(4−9812‥106)の字。㋺元、張嗣成(4−9812‥1131)の號。

〔太元經〕124タイゲンキヤウ 書名。太玄經(126)に同じ。

【太玄】125タイゲン ❶虛無恬淡の道をいふ。〔嵇康、贈㆓秀才入㆑軍詩〕俯仰自得、游㆓心太玄㆒。〔注〕善曰、楚辭曰、漢虛靜以恬愉兮、澹無爲而自得、泰玄、謂㆑道也。❷太玄經をいふ。〔揚雄、解嘲〕時雄方草㆓創太玄㆒、有㆔以自守㆓泊如㆒也。〔注〕濟曰、太玄經也、云云、謂㆘雄造㆓作太玄經㆒、以守㆗淡泊無爲之務㆖也。〔漢書、揚雄傳贊〕經莫㆑大㆓於易㆒、故作㆓太玄㆒。〔後漢書、張衡傳〕衡常耽㆓好玄經㆒、謂㆓崔瑗㆒曰、吾觀㆓太玄㆒、方知㆘子雲妙㆓極道數㆒、乃與㆓五經㆒相擬㆖。❸字號。㋑晉、鮑靚(12−46074‥49)の字。㋺唐、李抱眞(6−14459‥1851)の字。㋩元、張嗣成(4−9812‥1131)の號。

〖太玄經〗126 タイゲンキャウ　書名。十卷。漢、揚雄撰。易に擬して作る。玄は天地萬物の起源、太は其の功德を形容す。漢志以下、みな太玄經といひ、司馬光の集注本には太玄と稱す。其の篇名を易の篇名に比較すれば、家―卦、玄首―彖、玄贊―爻、玄測―象、玄文―文言、五辭（玄攡・玄瑩・玄掜・玄圖・玄告）―繫辭、玄數―說卦、玄衝―序卦、玄錯―雜卦。〔四庫提要、子、術數類〕。

〖參考書〗【太玄經注】十卷晉、范望撰。後漢の宋衷の注と吳の陸績の釋とを合輯したもの。〔四庫提要、子、術數類〕。【太玄集注】十卷宋、司馬光撰。【太玄本旨】九卷明、葉子奇撰。〔四庫提要、子、術數類〕。【太玄別訓】五卷清、劉斯組撰。〔四庫提要、子、術數類存目〕。【太玄解】一卷清、焦袁熹撰。

〖太玄眞人〗127 タイゲンシンジン　元、酈希誠（**11**－**39753**・・14）の號。

【太原】128 タイゲン　㊀地名。㋑今の山西省舊太原汾州二府の地。大鹵・大夏・夏墟にも作る。〔書、禹貢〕既修二太原一、至二於岳陽一。㋺周の宣王の料民の地。今の太原縣の陽曲に當る。清一統志は今の甘肅省固原縣の北界とす。大原（**3**－**5831**・・72）の㊁㋺に同じ。㊁府名。㋑唐、置く。治は晉陽。今の山西省太原縣。五代の後唐、西京を建て、後、北京と改む。周の時、北漢の都となる。宋・明の太原府。清は岢嵐州及び陽曲・太原・楡次・太谷・祁・徐溝・交城・文水・嵐・興の十縣を管轄す。〔讀史方輿紀要、山西〕太原府、禹貢冀州地、春秋時爲二晉國一、戰國時屬レ趙、秦置二太原郡一、兩漢因レ之、兼置二幷州一治焉、云云、大業初、改曰二太原郡一、唐初曰二幷州一、武后長壽元年、置二北都一、旋復曰二幷州一、開元十年、又置二北都一、改二幷州一爲二太原府一。〔清史稿、地理志〕山西、太原府、領二州一、縣十一、陽曲・太原・楡次・太谷・祁・徐溝・交城・文水・岢嵐州・嵐・興。㋺明、置く。宣德の後、安南に入る。安南東京の北。〔讀史方輿紀要、廣西、附考、安南〕太原府、左二交州府西北四百五十里一、永樂二年置、領二縣十一一、曰富良・司農・武禮・峒喜・永通・宣化・弄石・大慈・安定・感化・太原、宣德後、仍二太原府地一置二太原承政司一、領二府三一、曰太原・富平・通化。㊂郡名。㋑秦、置く。周の幷州の域、初、唐國といひ、後、晉國と改む。今の山西省舊太原汾州の二府及び舊保德・平定・忻州等之に隸す。故治は今の山西省太原縣。〔讀史方輿紀要、州域形勢、秦〕分二天下一爲二三十六郡一、云云、太原、今太原府汾州府、郡治晉陽、趙故都也。〔讀史方輿紀要、州域形勢、漢〕分二天下一爲二十三部一、云云、幷州刺史部、太原郡、秦郡、漢初爲二韓國地一、又爲二代郡一、文帝二年、又分爲二太原國一、五年、復爲二代國一、元鼎二年、復爲二太原郡一、領二晉陽等縣二十一一、今太原府至二汾州府一是。㋺南朝宋、置く。故城は山東省長清縣の東北。㊃の㋑を見よ。㋩梁の武帝、僑置す。故治は江西省彭澤縣の東。今、秋浦縣の太原鄉は故郡の名に循ふ。〔讀史方輿紀要、江西、九江府、彭澤縣〕太原城、縣東北五十里、志云、梁僑二置太原郡一、領二彭澤等縣一、陳郡廢。㊃縣名。㋑晉、置く。升城ともいふ。故城は今の山東省長清縣の東北。水經注・隋志には俱に東太原郡に作る。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、長清縣〕升城、在二縣東北一、舊戍守處也、晉義熙中、僑二置太原縣於此一、屬二泰山郡一、劉宋元嘉十年、割二濟南泰山郡一立二太原郡一、云云、後魏曰二東太原一、魏收志、東太原郡・太原縣俱治二升城一、是也。㋺隋、置く。古の唐國の地。春秋の晉陽の邑。秦の晉陽縣の地。今、山西省に屬す。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕太原縣、府西南四十五里、周叔虞始封地、春秋・戰國、皆曰二晉陽一、秦置二晉陽縣一爲二太原郡治一、漢・晉以後因レ之、云云、元屬二太原路一、明初、復移二縣於汾水西一、洪武八年、復爲二太原縣一。〔清史稿、地理志〕山西、太原府、縣十、太原。㋩後魏、置く。安徽省舊潁州府の境。㊄鎭の名。明の九邊の一。今の山西省の北境及び東界の河北省の長城。〔讀史方輿紀要、州域形勢、明〕設二九邊一以衞二中夏一、云云、太原、屬二關三一、雁門・寧武・偏頭、堡三十九、口十九一。㊅字號。㋑後魏、元遙（**1**－**1340**・・46）の字。㋺清、董恆湛（**9**－**31433**・・200´）の字。

〖太原成王〗129 タイゲンセイワウ　晉、司馬輔（**2**－**3257**・・310）の封謚號。

〖太原列王〗130 タイゲンレツワウ　晉、司馬瓌（**2**－**3257**・・242）の封謚號。

【太古】131 タイコ　㊀おほむかし。〔列子、黃帝〕太古之時、則與レ人同處、與レ人並行。〔荀子、非十二子〕告レ之以二太古一。〔漢書、揚雄傳上〕太古之觀二東嶽一。〔後漢書、班固傳下〕韶舞備、太古畢。〔注〕太古、遠古也。〔貫休、春山詩〕重疊太古色、濛濛花雨時。㊁學問上で區劃した年代の最も古い期間。人文の開け始めた時代、卽ち上古以前をいひ、地文學上では生物がまだ地上に現はれなかつた原始時代をいふ。㊂字號。㋑宋、孫知微（**3**－**6987**・・497）の字。㋺明、盛鳴世（**8**－**23005**・・236）の字。㋩明、王適（**7**－**20823**・・836）の字。

〖太古界〗132 タイコカイ　地球最古の時期。「名。

〖太古居〗133 タイコキョ　明、吳琉（**2**－**3365**・・224）の室

〖太古堂〗134 タイコダウ　明、高弘圖（**12**－**45313**・・1173）の室名。

〖太古眞君〗135 タイコシンクン　道家でいふ北宗七眞の一。郝太古。太古廣寧通玄妙極眞君に封ぜられて、華山の正宗を開く。〔道譜、源流圖〕。

〖太古傳宗〗136 タイコデンソウ　書名。六卷。清、莊親王撰。戲曲の樂譜を記す。乾隆殿刊本あり、稀本。「よ。

【太沽】137 タークー　地名。大沽口（**3**－**5831**・・736）を見

【太湖】138 タイコ　㊀山名。安徽省含山縣の南。山麓に、もと湖があつたが、久しい以前に湮沒した。其の側の鼓山には大徹禪院がある。〔讀史方輿紀要、江南、和州、含山縣、石門山〕太湖山、在二縣南七十里一、舊有レ湖、歲久湮廢、山奇峯十餘、削立秀挺、狀如二列戟一。㊁湖の名。㋑古の震澤。又、具區・笠澤・五湖ともいふ。江蘇・浙江二省に跨がり、湖中には小山が多く、其の上には多くの果園があり、景色が勝れてゐるので、世に洞天福地といふ。〔讀史方輿紀要、江南、大川〕太湖、在二蘇州府西南三十里、常州府東南八十里、浙江湖州府北二十八里一、其濱レ湖之縣、曰二吳縣・吳江・武進・無錫・宜興・烏程・長興一、縱廣二百八十三里、周回三萬六千頃、或謂二之震澤一、禹貢曰、三江既入、震澤底定、是也。㋺安徽省太湖縣の西。今は湮滅してしまつた。〔太平寰宇記〕原出二太湖縣西稻積山一、東南流入二大江一。〔南畿志〕在二縣西南一、今爲レ陸、所レ存者其名耳。㊂縣名。南朝宋、置く。元嘉の末、今の治に移す。安徽省に屬す。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府〕太湖縣、府西北二百二十里、漢皖縣地、劉宋元嘉二十五年、以二豫部蠻民一立二太湖左縣一、屬二晉熙郡一、以二地有二太湖一也。〔清史稿、地理志〕安徽、安慶府、縣六、太湖。

〖太湖精〗139 タイコノセイ　唐の張旭をいふ。〔李頎、贈二張旭一詩〕張公性嗜レ酒、豁達無レ所レ營、皓首窮二草隸一、時稱二太湖精一。

〖太湖石〗140 タイコセキ　峯・溪・洞などの形をした石。中國の太湖から出るからいふ。盆景・庭石等に用ひる。〔舊唐書、白居易傳〕樂天罷二杭州刺史一、得二天竺石一、華亭鶴二一以歸、始作二西平橋一、開二環池路一、罷二蘇州刺史一時、得二太湖石五、白蓮、折腰菱、青板舫一以歸。〔五雜組、地部〕洞庭西山出二太湖石一、黑質白理、高逾二尋丈一、峯巒窟穴、賸有二天然之致一。〔揚州畫舫錄〕太湖石、乃太湖中石骨、浪激波滌、年久孔穴自生、因レ在二水中一、殊難二運致一。

【太鼓】141 タイコ　㊀樂器の一。木を圓くくり拔いて胴とし、其の兩面に牛又は犬の革を張つたもの。桴（バチ）で擊つて鳴らす。大鼓（**3**－**5831**・・748）の㊁に同じ。〔和漢三才圖會、樂器類、太鼓〕按、今猿樂所レ用太鼓、近世之製、其鼜短、而以二二桴一擊レ之。㊁たいこもち。幇間。〔織留、三〕貧なるたいこが付きて。

〖太鼓判〗142 タイコバン　㊀古甲金の一。一分金・二朱金・一朱金の三種があり、一分金の背に桐の紋の有るものと無いものとがあり、紋の無いのを太鼓判古金一分といひ、紋の位置によつて逆桐・橫桐・背桐・背重桐の名稱がある。㊁大形の印判をいふ。

【太公】144 タイコウ　㊀祖父をいふ。〔史記、齊世家〕於レ是周西伯獵、果遇二太公於渭水之陽一、與大語曰、云云、曰、吾太公望レ子久矣、故號レ之曰二太公望一。〔東方朔、答二客難一文〕太公體二行仁義一。〔後漢書、李固傳〕李氏滅矣、自二太公一以來、積レ德累レ仁、何以遇レ此。〔注〕太公、謂二祖父一也。〔輟耕錄、太公〕今人謂二曾祖父一曰二太公一、此蓋相承之謬、當下稱二祖父一爲上レ是、後漢李固之父部爲二司空一、固女

當二固伏レ誅日一曰、太公以來云、注、太公謂二祖父部一也。❷父をいふ。〔史記、高祖紀〕高祖、五日一朝二太公一、如二家人父子禮一、太公家令、說二太公一曰、云云、今高祖雖レ子人主也、太公雖レ父人臣也。❸他人の父の尊稱。〔後漢書、袁譚傳〕劉表以レ書諫レ譚曰、然孤與二太公一志同願等。〔注〕言二太公一者、尊レ之、謂レ紹也。❹高年者の尊稱。〔琵琶記、蔡公逼レ試〕說話之閒、早見二張太公來一了。❺曾祖父の俗稱。〔陔餘叢考、太公〕蓋古今稱謂不レ同、今人既呼レ祖曰レ公、則呼二曾祖一爲二太公一、亦等級之自然者也。〔稱謂錄、祖、太公〕案、古有二稱レ父曰レ公者一、故稱レ祖曰二太公一、今俗則稱レ祖曰レ公、而曾祖曰二太公一矣。〔釋親考〕王父之考爲二曾祖王父一、王父之妣爲二曾祖王母一、郭氏曰、曾、猶レ重也、丘氏曰、今稱二曾祖父・曾祖母一、會典、卽太公・太婆。❻複姓。〔莊子、則陽〕少知問二於太公調一曰、何謂二丘里之言一、太公調曰、丘里者合二十姓一百名而以爲二風俗一也。❼漢、劉執嘉(**2**－**2224**‥1024)をいふ。

【太公任】145タイコウジン　春秋の人。孔子が陳蔡の野に圍まれた時に、往いて之を弔慰した。〔莊子、山木〕。

【太公泉】146タイコウセン　泉の名。河南省の汲縣。齊の太公の墓の在る處といふ。〔金石萃編〕。

【太公望】147タイコウバウ　❶周の文王の師、呂尙の號。文王の祖父、古公亶父が當に聖人が周に適き、周は將來其の人の力によつて興起するであらうといつたことに因つて、太公が望み待つ意に取つて名づけた。太公は祖父。呂尙(**2**－**3386**‥85)を見よ。〔史記、齊太公世家〕西伯獵、果遇二太公於渭之陽一、與語大說曰、自二吾先君太公一曰、當下有二聖人一適レ周、周以興上、子眞是邪、吾太公望レ子久矣、故號レ之曰二太公望一、載與倶歸、立爲レ師。❷釣をする者をいふ。太公望呂尙が渭水に釣した故事に本づく。

【太公家教】148タイコウカケウ　燉煌の石室から出た書名。四字の韻語を以て綴り、俚鄙の教話を書いたもの。宋代迄は存在したと傳へられるが、鄙俗の故に著錄せられてゐない。太公は曾祖・高祖などの意で、太公望呂尙の意ではない。〔玉照新志〕世傳二太公家教一、其書極淺陋鄙俚、然見二之唐李習之文集一、至下以二文中子一爲中一律上、觀二其中一、猶引二周漢以來事一、當二是有唐村落閒老校レ書爲レ之、太公者猶二曾高祖之類一、非二渭濱之師臣一明矣。

【太后】149タイコウ　天子の母をいふ。秦の昭王から始まつた稱。〔史記、秦紀〕昭襄母、楚人、姓芈氏、號二宣太后一。〔史記、張釋之傳〕文帝與二太后一言レ之。〔漢書、外戚傳序〕帝母稱二皇太后一、祖母稱二太皇太后一。〔後漢書、董卓傳〕遂脅二太后一。〔事物紀原、帝王后妃部、太后〕史記秦本紀曰、昭王母芈氏、號二宣太后王母一、於レ是始以爲レ稱、故范雎說二秦王一、有下獨聞二太后一之語上、其後趙孝成王新立、亦有二太后用レ事之說一、是太后之號、自二秦昭王一始也、漢襲レ秦、故號二皇帝一、故亦尊レ母曰二皇太后一也。

【太興】150タイコウ　年號。㋑東晉、元帝、司馬睿の年號、大興の一稱。(318－321)　㋺十六國、北燕、昭成帝、馮弘の時。(431－436)

【太興鐵路】151タイコウテツロ　山西省太原縣から起り、同省の興縣に至る鐵道。民國二十三年、起工。

【太鴻】152タイコウ　淸、厲鶚(**2**－**3041**‥10)の號。

【太谷】153タイコク　❶谷の名。洛陽の西南。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕太谷何寥廓、山樹鬱蒼蒼。〔注〕善曰、薛綜東京賦注曰、太谷、在二洛陽西南一。❷縣名。隋、置く。今、山西省に屬す。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕太谷縣、府東南一百二十里、本晉大夫陽處父邑、漢爲二陽邑縣一、屬二太原郡一、云云、隋開皇十八年、改曰二太谷縣一。〔淸史稿、地理志〕山西、太原府、縣十、太谷。❸明、溫新(**7**－**17968**‥143)の號。

【太谷派】154タイコクハ　大成教は明末に起つたが、淸の道光の時、周太谷(名は星垣)が之を盛にし、一時隆盛を極めた。偶〻黨禁の厄に會つて獄に下されたので、弟子が其の遺說を集めて大谷經を編纂し、太谷派を立てた。後、再傳して南北二派に分かれた。大成教(**3**－**5831**‥1288)の❶を見よ。

【太谷山堂】155タイコクサンダウ　淸、夢麟(**3**－**5802**‥153)の室名。

【太坤】156タイコン　西洋の皇帝の母をいふ。坤はクイーン queen の音譯。〔乘槎筆記〕瑞國太坤、前レ期遣レ官約レ見。〔注〕西國國主之母、稱二太坤一。

【太宰】157タイサイ　❶官名。㋑殷代、六大の一。周官六卿の一なる天官冢宰に當り、冢宰は邦の六典を建て、王を佐けて邦國を治めることを掌る。秦・魏・漢は之を置かず。晉初、太師を改めて太宰と稱し、三公の職に充てたが、其の任務は周の冢宰と異る。南北朝は廢置一ならず。北齊・陳は贈官とし、隋以後はこの官が無い。唯、宋の崇寧の時、左僕射を太宰、右僕射を少宰と改稱したが、幾もなく舊名に復した。大宰(**3**－**5831**‥836)の❶・三公(**1**－**12**‥535)を見よ。〔通典、職官、太宰〕太宰於レ殷爲二六太一、於レ周爲二六卿一、亦曰二冢宰一、周武時、周公始居レ之、掌レ建二邦之治一、秦・漢・魏並不レ置、晉初依二周禮一置二三公一、三公之職、太師居レ首、以二景帝名師一、故置二太宰一以代レ之、而以二安平獻王孚一居焉、增二掾屬十人一、蓋爲二太師之互名一、非二周冢宰之任一也、宋大明中、用二江夏王義恭一爲レ之、冠綬服秩、悉與二太傅一同、至レ齊以爲レ贈、梁初有レ之、至レ陳又以爲レ贈、有レ事則權二兼之一云云、後周文帝又依二周禮一、建二六官一、遂置二天官大冢宰一、卿一人、掌二邦治一、以建二邦之六典一、佐二皇帝一治二邦國一、自レ隋而無。〔晉書、職官志〕太宰・太傅・太保、周之三公官也、魏初唯置二太傅一、以二鍾繇一爲レ之、末年、又置二太保一以二鄭沖一爲レ之、晉初、以二景帝諱一、故又採二周官官名一置二太宰一、以代二太師之任一、秩增二三司一、與二太傅・太保一皆爲二上公一、論レ道經レ邦、燮二理陰陽一、無二其人一則闕。〔宋書、百官志上〕太宰一人、周武王時、周公旦始居レ之、掌二邦治一、爲二六卿之首一、秦・漢・魏不二常置一、晉初、依二周禮一、備二置三公一、三公之職、太師居レ首、景帝名師、故置二太宰一以代レ之、太宰、蓋古之太師也。〔隋書、百官志上〕梁武受レ命之初、官班多同二宋・齊之舊一、有二丞相・太宰・太傅・太保・大將軍・大司馬・太尉・司徒・司空・開府儀同三司等官一。〔宋史、職官志一〕政和中、改二左右僕射一爲二太宰・少宰一、仍兼二兩省侍郎一、靖康中、復改爲二左右僕射一。㋺漢代、燕食を掌る官。〔漢書、百官公卿表上〕奉常屬官有二廱太宰太祝令丞一。〔注〕師古曰、太宰、卽是熟食之官。〔丹鉛總錄〕太宰荷レ斗倚レ升、而不二敢煎調一。❷複姓。〔姓考〕吳太宰嚭之後。❸ダザイ　姓氏。

【太宰監】158ダザイノゲン　太宰府の判官。大・少がある。唐名は都督郎中。〔職原鈔〕太宰府、監、唐名、都督郎中。

【太宰帥】159ダザイノソチ　ダザイノソツ　太宰府の長官。唐名は都督。〔職原鈔〕太宰府、帥、唐名、都督。

【太宰典】160ダザイノテン　太宰府の屬官。さくわん。大・少がある。唐名は都督錄事。〔職原鈔〕太宰府、典、唐名、都督錄事。

【太宰嚭】161タイサイヒ　春秋、楚の人。後、吳に奔り、吳王夫差の宰相となる。伯嚭(**1**－**466**‥389)を見よ。〔墨子、所染〕吳夫差染二於王孫雒・太宰嚭一。〔淮南子、人閒訓〕至二於吳一見二太宰嚭一、太宰嚭甚悅レ之。

【太宰府】162ダザイフ　❶古、筑前國に置かれた官府の名。九國・二島、卽ち西海道を總管し、外寇を防ぎ、兼ねて外交の事を掌る。其の長官に帥、其の下に權帥・大貳・少貳・大監・少監・大典・少典等の諸官がある。唐の大都督府に當る。〔職原鈔〕太宰府、當二唐大都督府一。❷筑前國の地名。

【太宰權帥】163ダザイゴンノソツ　ダザイノゴンノソツ　太宰府の官。親王が帥に任じられた場合は、權帥が代つて專ら府務を統督したが、大臣が左遷せられてこの官に任ぜられた場合は府務には預からない。〔職原鈔〕太宰府、權帥。

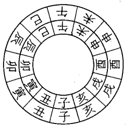
【太宰春臺】164ダザイシユンダイ　信濃の人。名は純。字は德夫。號は春臺・紫芝園。通稱は彌右衞門。延享四年歿す、年六十八。著に倭楷正訛・紫芝園稿・聖學問答・斥非・紫芝園漫筆・赤穗四十六士論・產語・經濟錄・律呂通考・六經略說・和讀要領・辨道書・詩書古傳・周易反正・老子特解・論語古訓正文がある。〔先哲叢談、正、六〕。

【太宰少貳】165ダザイノセウニ　太宰府の次官。大貳の下に位す。唐名は都督少卿。〔職原鈔〕太宰府、少貳、唐名都督少卿。

【太宰大貳】166ダザイノダイニ　太宰府の次官。親王が帥に任じて權帥がない場合は、大貳が代つて府務

を統べる。唐名は都督大卿。〔職原鈔〕太宰府、大貳、唐名都督大卿。

【太歳】167 タイサイ ❶木星の異名。十二歳を以て天を一周するから、古人は其の經行の躔次を以て年を紀し、太歳甲に在るを閼逢、又、寅に在るを攝提格などいふ。術數家は太歳を以て人君の象とし、諸神を率領し、方位を統正し、時序を斡運し、歳功を總成するとし、此に當る方位はすべて犯すべからざるものとする。木星(**6**—**14415**・・264)・歳星(**6**—**16326**・・96)を見よ。我が國では八將神の一とする。〔爾雅、釋天〕太歳在レ甲曰二閼逢一。〔列子、湯問〕要レ之以二太歳一。〔荀子、儒效〕東面而迎二太歳一。〔漢書、律歷志上〕太歳在レ子。〔論衡、難歳〕徙抵二太歳一凶、負二太歳一亦凶。抵二太歳一、名曰二歳下一、負二太歳一、名曰二歳破一、故皆凶也。假令太歳在二甲子一、天下之人皆不レ得二南北徙一、起レ宅嫁娶、亦皆避レ之。〔餘冬序錄〕國初肇祀二太歳一、因及二陰陽家說十二月將一、十二時所レ值神名、謂、非二經見一、唐宋不レ載二祀典一、惟元時每レ有二大興作一、祭二太歳・月將・日直于太史院一、太祖乃定祭二于山川壇之正殿一、而以二春夏秋冬四時月將一分二祀兩廡一。〔協紀辨方書、義例一、太歳〕神樞經曰、太歳、人君之象、率二領諸神一、統二正方位一、斡二運時序一、總二成歳功一、以二上元閼逢困敦之歳一起二建於子一、歳徙二一位一、十二年一週、若下國家巡狩・省方・出師・略地、營二造宮闕一、開中拓封疆上、不レ可レ向レ之、黎庶修二營宅舍一、築二壘墻垣一、並須二迴避一。黃帝經曰、太歳所レ在之辰、必不レ可レ犯。曹震圭曰、太歳者、歳星也、故木星十二年行二一週天一、一年行二一次一也。〔陔餘叢考、太歳大將軍〕術家有二太歳大將軍之說一、動レ土者必避二其方一。〔和漢三才圖會、曆占類、太歳〕按、太歳則其年支之方也、曆家云、向二此方一不レ可レ剪二樹木一、言、是木星之精也。❷惡者のかしら。〔福惠全書、刑名部、詞訟、禁二打架一〕輒爲三攢毆而折二股肱一、號爲二太歳一。



太歳❶

（協紀辨方書）

〖太歳彈〗168 タイサイダン 西域の報達國に產する大珠の名。報達は今のイラクのBaghdadの音譯。〔事物異名錄、珍寶、珠〕劉郁西使記、西域報達國所レ產大珠、曰二太歳彈一。

【太倉】169 タイサウ ❶都に設けた政府の米藏。太倉稊米を見よ。〔漢書、高帝紀下〕七年二月、至二長安一、蕭何治二未央宮一、立二東闕・北闕・前殿・武庫・太倉一。〔越絕書、越絕吳內傳〕武王未レ下レ車、封二比干之墓一、發二太倉之粟一、以贍二天下一。〔魏志、袁渙傳〕以二太倉穀千斛一賜二郞中令之家一。❷官名。周官の廩人に當る。秦は太倉を置き、漢には大司農に隸屬した。以後、歷代之を置き、倉廩の出納を掌る。但、後周には司倉といひ、宋に至つて提領倉監と改めた。〔漢書、百官公卿表上〕治粟內史、秦官、云云、武帝太初元年更二名大司農一、屬官有二太倉・均輸・平準・都內・籍田五令丞、斡官・鐵市兩長丞一。〔通典、職官、司農卿〕太倉署、於二周官一有二廩人下大夫上士一、秦官有二大倉令丞一、漢因レ之、屬二大司農一、後漢令レ主レ受二郡國傳漕穀一、其滎陽敖倉官、中興皆屬二河南伊一、歷代並有レ之、北齊亦然、後周曰二司倉下大夫一、隋有二令二人・丞六人一、大唐有二令三人・丞二人一、掌二倉廩出納一。❸胃をいふ。〔黃庭內景經〕脾長一尺、掩二太倉一。〔注〕太倉、胃也。❹州名。明、置く。清時には鎭洋・崇明・嘉定・寶山の四縣を管轄す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕江蘇、太倉直隸州、領二縣四一、鎭洋・崇明・嘉定・寶山。❺縣名。民國、置く。もと東倉といふ。明初、太倉衞を置き、又、鎭海衞を置く。弘治中、始めて崑山・常熟・嘉定三縣の地を割いて太倉州を置く。民國、改めて縣とす。江蘇省に屬す。〔太倉州志〕元至元十九年、宣二慰朱清張瑄等一、建二議海漕一、置二海運倉於此一、是時海外諸番、交通市易、謂二之六國馬頭一。〔清一統志〕按、太倉之名、始二於宋郟亶水利書一、於レ古並無レ所レ見。❻明、王式(**7**—**20823**・・486)の號。

〖太倉庫〗170 タイサウコ 銀を畜へておく庫。明の英宗の正統七年の設置。戶部に屬す。〔續文獻通考、國用考、歷代國用〕(明英宗、正統七年)設二戶部太倉庫一、專以貯レ銀。

〖太倉令〗171 タイサウレイ 官名。太倉署の長官。郡國から轉漕する米穀を受理することを掌る。太倉の❷を見よ。〔唐書、百官志三〕太倉署令三人、從七品下、掌二廩藏之事一。〔資治通鑑、漢紀〕(光武帝、建武二十年)大司徒戴涉坐レ入二故太倉令奚涉罪一、下レ獄死。〔注〕百官志、太倉令屬二大司農一、主レ受二郡國漕轉穀一、秩六百石。

〖食二太倉一〗172 タイサウニハム 俸祿を受ける意。〔馬存、浩浩歌〕用レ之解レ帶食二太倉一、不レ用拂レ枕歸二山阿一。

〖太倉稊米〗173 タイサウノテイベイ 太倉の中に在る小米。滄海の一粟と同義。極めて廣大なものの中に於ける極小のものの喩。稊米は、稗に似た草の小さい實、のびえ。〔莊子、秋水〕計三中國之在二海內一、不レ似三稊米之在二太倉一乎。〔釋文〕稊米、小米也。〔疏〕稊草、似レ稗而米甚細少也。

〖太倉稊米集〗174 タイサウテイベイシフ 書名。七十卷。宋、周紫芝撰。樂府二十七卷、文四十三卷から成る。紫芝は年六十を越えてから始めて典籍に通じた人。集中には秦檜父子を諛頌したものが非常に多い。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖太倉之粟陳陳相因〗175 タイサウノゾクチンチンアヒヨル 天下太平で、而も豐年のために、官倉中の米が使ひきれず、相累積してゐることをいふ。〔史記、平準書〕太倉之粟、陳陳相因、充溢露二積於外一。

【太操】176 タイサウ 明、潘梧(**7**—**18236**・・30)の字。

【太山】178 タイザン ❶山名。泰山(**6**—**17325**・・45)の❶に同じ。太山不レ讓二土壤一を見よ。〔韓非子、大體〕太山不レ立二好惡一、故能成二其高一。〔淮南子、說林訓〕海水不レ受二流胔一、太山不レ上二小人一。〔法言、問神〕太山與二螘垤一。❷複姓。太山稽を見よ。

〖太山君〗179 タイザンクン 晉、荀顗(**9**—**30929**・・14)をいふ。〔海錄碎事、人事、聖賢〕荀顗爲二太山君一。

〖太山稽〗180 タイザンケイ 人の名。黃帝の宰相。〔列子、黃帝〕黃帝既寤、怡然自得、召二天老・力牧・太山稽一。〔注〕三人、黃帝相也。

〖太山之安〗181 タイザンノヤスキ 太山のやうに極めて安泰なこと。〔魏志、張邈傳〕於レ是說レ布曰、曹公奉二迎天子一、輔二讚國政一、威靈命世、將レ征二四海一、將軍宜三與協同策謀、圖二太山之安一。

〖重二於太山一〗182 タイザンヨリオモシ 太山よりも重い。事の重要なるをいふ。〔司馬遷、報二任少卿一書〕人固有二一死一、死或重二於太山一、或輕二於鴻毛一、用之所レ趣異也。

〖太山不レ讓二土壤一〗183 タイザンハドジヤウヲユヅラズ 太山は僅かの土壤も嫌はないで受け入れるから彼の高山となる。人も度量を廣くして多くの人や物を受け容れるべきであるといふ。〔韓詩外傳、三〕太山不レ讓二礫石一、江海不レ辭二小流一。〔戰國、秦策〕李斯上書曰、臣聞、地廣者粟多、國大者人衆、兵彊則士勇、是以太山不レ讓二土壤一、故能成二其大一、河海不レ擇二細流一、故能就二其深一、王者不レ却二衆庶一、故能明二其德一。〔韓非子、大體〕太山不レ立二好惡一、故能成二其高一。〔說苑、尊賢〕夫太山不レ辭二壤石一、江海不レ逆二小流一、所二以成レ大也。

〖挾二太山一超二北海一〗184 タイザンヲワキバサンデホクカイヲコユ 太山(泰山)を脇にかかへて北海(渤海)を飛びこえる。不可能なことの喩。〔孟子、梁惠王上〕不レ爲者、與二不レ能者一之形、何以異、曰、挾二太山一以超二北海一、語レ人曰、我不レ能、是誠不レ能也、爲二長者一折レ枝、語レ人曰、我不レ能、是不レ爲也。

〖太山不レ可二丈尺一也〗185 タイザンハチヤウシヤクスベカラズ 太山は高くて、物指では測ることが出來ない。〔淮南子、泰族訓〕八極不レ可二道里一也、太山不レ可二丈尺一也。

〖登二太山一而小二天下一〗186 タイザンニノボリテテンカヲセウトス 太山に登つて見ると天下を小さいものと感ずる。眼界見識を廣くする喩。〔孟子、盡心上〕孟子曰、孔子登二東山一而小レ魯、登二太山一而小二天下一、故觀二於海一者、難レ爲レ水、遊二於聖人之門一者、難レ爲レ言。

【太士】187 タイシ 複姓。〔姓氏辯證〕古獄官曰二大士一、以レ官爲レ氏、後訛而爲レ太。

〖太士子牛〗188 タイシシギウ 春秋、齊の人。景公に仕へ、公平な裁判を行つた。

【太子】189 タイシ ❶天子諸侯の長男。周の武王が太子と稱したのに始まる。周代は天子及び諸侯の嫡子を或は太子といひ、或は世子といつたが、漢に至り、天子の嫡子を皇太子、諸王の子を太子といひ、金・元の時、天子の庶子も亦太子といひ、明以後は天子の嫡子を皇太子、親王の嫡子を世子と稱した。大子。〔禮、王制〕樂正崇二四術一、立二四教一、王太子・王子・羣后之太子、卿・大

夫・元士之適子、國之俊秀、皆造焉。〔史記、竇嬰傳〕今將軍傳㆓太子㆒。〔漢書、孝成許皇后傳〕初入㆓太子家㆒。〔稱謂錄、太子〕白虎通、爵、天子之子稱㆓太子㆒。〔事物紀原、帝王后妃部、太子〕唐虞而上、皆傳㆓之賢㆒、故無㆓太子之文㆒、夏・商之王、雖㆑傳㆓之子㆒、其文略矣、至㆑周始見㆓文王世子之目㆒、武王繼㆑之稱㆓太子發㆒、此其始也、漢天子號㆓皇帝㆒、故其嫡稱㆓皇太子㆒、漢書高祖紀、五年二月甲午、漢王卽㆓皇帝位㆒、尊㆓太子㆒曰㆓皇太子㆒、此其始也。〔綠雪亭雜言〕古者天子之嫡子、亦稱㆓世子㆒、諸侯之子、亦稱㆓太子㆒、西漢、天子嫡子稱㆓皇太子㆒、諸王之子稱㆓太子㆒、如㆘皇太子殺㆓梁王太子㆒之類㆖、是也、金・元、庶子皆稱㆓太子㆒、如㆓四太子兀朮之類㆒、是也、本朝東宮稱㆓皇太子㆒、親王嫡子稱㆓世子㆒、郡王嫡子稱㆓長子㆒。〔名物六帖〕春秋之時、天子諸侯嗣子、通稱㆓世子㆒、稱㆓太子㆒、及㆓漢時㆒、侯國亦稱㆓太子㆒、而天子元子則稱㆓皇太子㆒、吳太子侍㆓皇太子㆒飲博、是也、後世則唯天子得㆑稱㆓皇太子㆒、而諸侯則稱㆓世子㆒也。❷川の名。滿洲遼寧省遼陽縣の北。一名、大梁水、或は東梁河。今、太資河といふ。〔讀史方輿紀要、遼東都指揮使司、定遼中衞〕太子河、在㆓司東北五里㆒、一名東梁河、一名大梁水、源出㆓幹羅山㆒、云云、或曰、太子河、卽故衍水、燕太子丹匿㆓於衍水中㆒、後人因名爲㆓太子河㆒。❸塔の名。浙江省定海縣の普陀山の普濟寺の南。元代の諸王が孚中禪師のために建てたもの。凡て五層で、毎層の四周に皆佛像を鐫む。今、上層は已にくづれた。❹星の名。㋑北極五星の第一星。㋺大微垣の中、五帝坐の北にある一星。〔晉書、天文志〕五帝坐北一星曰㆓太子㆒、帝儲也。❺わが國で聖德太子を單に太子といふ。〔吉野詣記〕本堂にまゐり、太子の御影開帳はなきよし。

【太子洑】190（タイシフク） 揚子江沿岸の港の名。湖北省黃梅縣の南。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、蘄州、黃梅縣〕大江志云、縣南七十里、有㆓太子洑㆒、舊傳、梁武帝於㆑此得㆑子、因名、非也、云云、宋時已有㆓此洑㆒矣、舊有㆓太子驛㆒、唐改爲㆓臨江驛㆒、今亦名㆓太子洑㆒。

【太子坪】191（タイシヘイ） 地名。四川省峨眉縣の峨眉山三倒拐觀音巖の上。古智禪師がここに寺を建て、內に太子を供す。萬行庵ともいふ。

【太子家令】192（タイシカレイ） 官名。秦、置く。漢には詹事に屬し、倉穀飲食を掌り、後漢・晉には司農少府に屬し、刑獄・穀貨・飲食を掌り、隋には刑法・食膳・倉庫・什物・奴婢等を掌り、唐は隋制に因つたが、刑法は掌らなかつた。以後も之を置く。〔通典、職官、東宮官、太子家令〕家令、秦官、屬㆓詹事㆒、漢因㆑之、有㆑丞、主㆓倉穀飲食㆒、職似㆓司農少府㆒、云云、自㆓宋・齊㆒以來、清流者不㆑爲㆑之、至㆓梁天監六年㆒、武帝以㆓三卿陵替㆒、乃詔革㆓選家令㆒、視㆓常侍黃門㆒、陳因㆑之、云云、大唐復爲㆓家令寺㆒、置㆓家令一人㆒、唯不㆑主㆓刑法㆒、餘與㆑隋同。〔後漢書、百官志四〕太子家令、一人、千石、本注曰、主㆓倉穀・飲食㆒、職似㆓司農少府㆒。〔晉書、職官志〕家令、主㆓刑獄・穀貨・飲食㆒、職比㆓司農少府㆒。〔隋書、百官志下〕家令、掌㆓刑法・食膳・倉庫・什物・奴婢等事㆒。〔資治通鑑、漢紀〕（文帝十一年）太子家令潁川鼂錯、上㆓言兵事㆒曰、兵法曰、有㆓必勝之將㆒、無㆓必勝之民㆒、繇㆑是觀㆑之、安㆓邊境㆒、立㆓功名㆒、在㆓於良將㆒、不㆑可㆑不㆑擇也。〔注〕太子家令、屬㆓詹事㆒、張晏曰、太子稱㆑家、故曰㆓家令㆒、臣瓚曰、茂陵中書、太子家令、秩八百石。

【太子侍講】193（タイシジカウ） 官名。魏、置く。後漢の張酺が皇太子に講授した事に始まる。太子に學業を授けることを掌る。宋も亦置く。〔宋史、職官志二〕太子侍讀、侍講、神宗升㆑儲、始置㆓各一人㆒。〔事物紀原、持憲儲闈部、太子侍講〕後漢張酺以㆓尚書㆒講論授㆓皇太子㆒、其事始見㆓於此㆒、魏官品始有㆓太子侍講㆒、此置㆑官之始也。

【太子侍讀】194（タイシジトク） 官名。唐、置く。太子に侍して朝夕誦讀を掌る。漢の宣帝が王褒等をして太子宮に於て太子に侍し、朝夕誦讀せしめた事に始まる。太子侍講を見よ。〔事物紀原、持憲儲闈部、太子侍讀〕漢宣帝詔㆓王褒等㆒、皆之㆓太子宮㆒、娛㆓侍太子㆒、朝夕誦讀、此蓋其始也、宋有㆓諸王侍讀㆒、唐正觀中、許叔牙爲㆓王侍讀㆒、高宗升㆓春宮㆒、仍兼㆓侍讀㆒、職林云、開成元年十一月、宰相李石、奏置㆓太子諸王侍讀㆒。

【太子舍人】195（タイシシヤジン） 官名。秦、置く。漢には太子太傅の屬。後漢には宮中に宿衞することを掌る。以後、歷代、置き、梁には文記を掌り、唐には侍從・表啓・宣行・令旨等のことを掌る。宋以後も之を置く。太子太傅を見よ。〔通典、職官、東宮官、太子庶子〕舍人、秦官也、漢因㆑之、比㆓郎中㆒、選㆓良家子孫㆒、云云、齊有㆓一人㆒、梁有㆓十六人㆒、掌㆓文記㆒、陳因㆓梁制㆒、後魏亦有㆑之、北齊典書坊置㆓二十人㆒、隋典書坊有㆓八人㆒、云云、大唐復爲㆓太子舍人四人㆒、掌㆓侍從・表啓・宣行・令旨㆒、分㆓判坊事㆒。〔後漢書、百官志四〕太子舍人、二百石、本注曰、無㆑員、更直㆓宿衞㆒、如㆓三署郎中㆒。〔晉書、職官志〕舍人、十六人、職比㆓散騎中書等侍郎㆒。〔宋書、百官志下〕舍人十六人、職如㆓散騎中書侍郎㆒、晉制也、二漢無㆑員、掌㆓宿衞㆒、如㆓三署中郎㆒。

【太子庶子】196（タイシシヨシ） 官名。秦・漢の時、古の天子の庶子の官に因つて此の官を置き、太子太傅に屬す。晉代は其の職、散騎常侍・中書監令に比し、梁には左右に侍して得失を獻納し、功の高い者一人は高功舍人と共に其の坊の禁令を掌り、唐には左右春坊の事を掌る。宋以後も之を置く。太子太傅を見よ。〔通典、職官、東宮官、太子庶子〕古者天子有㆓庶子之官㆒、職㆓諸侯・卿大夫之庶子㆒、掌㆔其戒令與㆓其教理㆒、有㆓大事㆒則帥㆓國子㆒而致㆓於太子㆒、唯所㆑用㆑之、秦因㆑之、置㆓中庶子・庶子員㆒、漢因㆑之、有㆓庶子員五人㆒、云云、大唐亦各二人、分㆓掌左右春坊事㆒。〔後漢書、百官志四〕太子庶子、四百石、本注曰、無㆑員、如㆓三署中郎㆒。〔晉書、職官志〕庶子、四人、職比㆓散騎常侍・中書監令㆒。〔隋書、百官志上〕庶子、四人、掌㆘侍㆓從左右㆒、獻㆗納得失㆖、高功者一人、與㆓高功舍人㆒、共掌㆓其坊之禁令㆒。〔宋史、職官志二〕太子左庶子・右庶子・左諭德・右諭德、舊制不㆓常設㆒。

【太子晉解】197（タイシシンカイ） 逸周書の篇名。

【太子少尹】198（タイシセウヰン） ❶官名。唐の龍朔二年、少詹事を改稱す。〔通典、職官、東宮官、太子詹事〕唐、龍朔二年、改㆓詹事㆒爲㆓端尹㆒、少詹事爲㆓少尹㆒。❷春宮坊大夫の唐名。〔職原鈔〕春宮坊、大夫、唐名、太子少尹。

【太子少師】199（タイシセウシ） 官名。六傅・三少の一。職は太子少傅に同じ。太子太傅・太子少傅を見よ。

【太子少傅】200（タイシセウフ） 官名。漢、置く。太子の師保二傅は殷周の時から既に有り、太子を輔導することを掌る。漢には太傅と少傅とを置き、共に太子を輔導し、太子官の屬を統べ率ゐた。後漢・魏は率ね之に因る。晉、始めて太師・太傅・太保・少師・少傅・少保の六傅を置き、北魏・隋・唐以後、淸に至るまで皆置く。但、宋・齊・梁・陳・後周は少傅のみ置く。唐には天子の三公の如く、則闕の官とした。少師・少傅・少保を三少といひ、三師の德行を明かにして皇太子に諭し、太子を奉じて三師の道德を觀ることを掌る。太子の出御には三師は前に在り、三少は後に居る。太子太傅を見よ。〔後漢書、百官志四〕太子少傅、二千石、本注曰、亦以㆓輔導㆒爲㆑職、悉主㆓太子官屬㆒。

【太子少保】201（タイシセウホ） 官名。六傅・三少の一。職は太子少傅に同じ。太子太傅・太子少傅を見よ。

【太子洗馬】202（タイシセンバ） 官名。漢、置く。太子太傅の屬。後世、皆有り、漢書には先馬に作る。其の職は、漢には謁者の如く、太子の出行には前導を掌る。晉には圖籍を掌り、又、釋奠には經を講じ、太子が出行すれば前驅して威儀を導く。唐には司經局に屬し、經籍の出入、及び東宮に上る圖書を藏することを掌る。太子太傅を見よ。〔後漢書、百官志四〕太子洗馬、比六百石、本注曰、舊注云、員十六人、職如㆓謁者㆒、太子出、則當直者在㆑前、導㆓威儀㆒。〔晉書、百官志〕洗馬、八人、職如㆓謁者・祕書㆒、掌㆓圖籍㆒、釋奠講㆑經、則掌㆓其事㆒、出則直者前驅、導㆓威儀㆒。〔唐書、百官志四上〕司經局、洗馬、二人、從五品下、掌㆓經籍出入㆒、侍從圖書上㆓東宮㆒者、皆受而藏㆑之。〔資治通鑑、晉紀〕（武帝、泰始三年）徵㆓犍爲李密㆒爲㆓太子洗馬㆒。〔注〕洗馬、自㆑漢以來有㆑之、晉職官志、太子洗馬職、爲㆓謁者・祕書㆒、掌㆓圖書㆒、釋奠講㆑經、則掌㆓其事㆒、出則直者前驅、導㆓威儀㆒、洗、漢書作㆑先、如淳曰、先、前驅也、國語、越王句踐、親爲㆓夫差先馬㆒、先、一作㆑洗。

【太子詹事】203（タイシセンジ） 官名。秦、置き、漢、繼承す。漢には皇后・太子家のことを掌り、北齊には東宮內外の事を悉く統べ、唐には三寺十率府の政

令を統べ掌つた。以後、歷代、皆、置く。我が國の東宮坊大夫に當る。〔漢書、百官公卿表上〕詹事、秦官、掌二皇后・太子家一、有レ丞、屬官有二太子率更・家令・丞・僕・中盾・衞率・廚廐・長丞一、又中長秋・私府・永巷・倉廐・祠祀・食官・令長丞・諸宦官皆屬焉。〔隋書、百官志中〕詹事、總二東宮內外衆務一、事無二大小一皆統レ之。〔唐書、百官志四上〕詹事府、太子詹事一人、正三品、少詹事一人、正四品上、掌レ統二三寺十率府之政一、少詹事爲二之貳一。〔資治通鑑、唐紀〕〔高祖、武德二年〕禮部尙書李綱、領二太子詹事一。〔注〕漢書百官表、詹事、秦官、掌二皇后太子家一、應劭云、詹、省也、給也、言、給二事太子家一、晉宋及後魏用レ人漸重、北齊總二東宮內外衆事一、無二大小一皆統レ之、後周置二子宮正宮尹一、隋復置二詹事一、唐統二東宮三寺十率府之政令一。

【太子太師】204 タイシタイシ　官名。六傅・三師の一。太子太傅を見よ。

【太子太傅】205 タイシタイフ　官名。漢、置く。太子の師保二傅の官は周時代から既に有り、太子を輔導することを掌る。漢は太子太傅・少傅を置き、共に太子の官屬を統べ率ゐた。後漢・三國は率ね之に因る。晉、始めて太師・太傅・太保・少師・少傅・少保の六傅を置き、北魏・隋・唐以後、淸に至る迄、皆、置く。但、宋・齊・梁・陳には太傅のみ有り、後周には置かなかつた。唐には三公の如く則闕の官で、太師・太傅・太保を三太、或は三師と稱し、共に太子の師範となり、訓導輔翼することを掌る。太子の外出に、三師は前に、三少は後に居る。唐には、太子は三師を殿門に迎拜し、坐作進退悉く之に從ひ、太子の鹵簿には必ず三師が從行した。我が國の東宮傅に當る。〔漢書、百官公卿表上〕太子太傅・少傅、古官、屬官有二太子門大夫・庶子・先馬・舍人一。〔後漢書、百官志四〕太子太傅、一人、中二千石、本注曰、職掌三輔二導太子一、禮如レ師、不レ領二官屬一。〔晉書、職官志〕及二愍懷建レ宮、乃置二六傅一、三太・三少。〔魏書、官氏志〕太子太師・太子太傅・太子太保、云云、右第二品、太子少師・太子少傅・太子少保・中書令・太子詹事・侍中・列曹尙書・四平將軍、云云、右第三品。〔隋書、百官志中〕太子太師・太傅・太保、是爲二三師一、掌五師二範訓三導輔四翊皇太子一、少師・少傅・少保、是爲二三少一、各一人、掌下奉二皇太子一、以觀中三師之德上、出則三師在レ前、三少在レ後。〔唐書、百官志四上〕太子太師・太傅・太保、各一人、從一品、掌三輔二導皇太子一、每レ見迎二拜殿門一、三師答拜、每レ門必讓、三師坐、太子乃坐、與二三師一書、前名惶恐、後名惶恐再拜、太子出、則乘レ路備二鹵簿一以從、少師・少傅・少保各一人、從二品、掌下曉二三師德行一、以諭二皇太子一、奉二太子一、以觀中三師道德上、自二太師一以下、唯其人不二必備一。

【太子太保】206 タイシタイホ　官名。六傅・三師の一。太子太傅を見よ。

【太子賓客】207 タイシヒンカク　官名。唐、置き、歷代これによる。漢の高祖が太子を易へようとした時、呂后が留侯の計を用ひて四皓を迎へて太子を定め、之を賓客と稱したのに始まる。太子に侍從して規諫し、又、禮儀を助けることを掌る。單に賓客ともいふ。我が國の東宮學士に當る。〔唐書、百官志四上〕太子賓客、四人、正三品、掌三侍從・規諫、贊二相禮儀一。〔事物紀原、持憲儲闈部、賓客〕漢高祖欲レ易二太子一、呂后用二留侯計一、迎二四皓一以定二太子一、故賓客之名、始起二於此一、孝文爲二太子一立二思賢苑一、以招二賓客一、孝武爲二太子一立二博望苑一、使レ通二賓客一、洎二晉愍懷建レ宮、惠帝使三衞庭司馬略等五人、更往來備二賓友一、雖レ非レ官而謂二之東宮賓客一、唐顯慶元年正月、以二于志寧等一爲二太子賓客一、遂以名レ官、定置二四人一、蓋取二法於四皓一。

【太子文學】208 タイシブンガク　官名。魏、置き、晉以後は置かず。後周、置き、唐、復置いて司經局に屬し、經籍を分知し、文章に侍奉し、經籍を總輯することを掌る。遼・元、置き、宋・金・明には無い。〔通典、職官、東宮官、太子庶子〕文學、漢時郡及王國並有二文學一、而東宮無レ聞、魏武置二太子文學一、自後並無、至二後周建德三年一、太子文學十人、後省、龍朔三年、置二太子文學四員一、屬二桂坊一、桂坊廢而屬二司經一、開元中、定レ制爲二三員一、掌下侍奉分二掌四部書判書功一事上。〔資治通鑑、唐紀〕玄宗、天寶四載、溫始爲二新豐丞・太子文學一。〔注〕唐六典曰、魏置二太子文學一、魏武爲二丞相一、命二司馬宣王一爲二文學掾一、甚爲二世子所レ信、與二吳質・朱鑠・陳羣一爲二太子四友一、自レ晉之後不レ置、至二後周建德三年一、置二太子文學十人一、後廢、唐顯慶中、始置二太子文學二人一、屬二司經局一、掌下分二知經籍一、侍二奉文章一、總中緝經籍上、繕寫裝染之功、筆札給用之數、皆料二度之一。〔續通典、職官、東宮官、太子庶子〕文學、唐置二三人一、分二知經籍一、侍二從文章一、宋無、遼南面官司經局有二太子文學一、金不レ設、元至正時、宮傅府置二文學二人一、明亦不レ設。

【太子率更】209 タイシリツカウ　官名。漢、置く。詹事の屬。漏刻の政を掌り、後漢には庶子・舍人の更直を主り、晉には宮殿門戶及び賞罰の事を掌る。唐には率更寺があり、宗族の次序、禮樂・刑罰及び漏刻の政を掌る。宋・金・元・明には置かない。太子詹事を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕詹事、秦官、云云、屬官有二太子率更一。〔注〕師古曰、掌レ知二漏刻一、故曰二率更一。〔後漢書、百官志四〕太子率更、令一人、千石、本注曰、主二庶子・舍人更直一、職似二光祿一。〔晉書、職官志〕率更令、主二宮殿門戶及賞罰事一、職如二光祿勳衞尉一。〔唐書、百官志四上〕率更寺、令一人、從四品上、掌二宗族次序、禮樂刑罰、及漏刻之政一。〔續通典、職官、東宮官、太子率更令〕唐制、率更寺、令一人、掌二宗族次序、禮樂刑罰、及漏刻之政一、太子釋奠、講二學齒胄一、則總二其儀一、出入乘二軺車一爲レ導、居二家令之次一、宋無、遼南面官太子率更寺、有二太子率更令一、金・元・明皆不レ設。

【太子少詹事】210 タイシセウセンジ　❶太子詹事府の次官。太子詹事を見よ。❷春宮坊亮の唐名。〔職原鈔〕春宮坊、亮、唐名、太子少詹事。

【太子中舍人】211 タイシチユウシヤジン　官名。晉、置く。漢・魏の太子舍人。舍人の中の才學のすぐれた者を擧げて中舍人とし、中庶子と共に文翰を掌らせた。梁には中舍人の功の高い者一人が中庶子祭酒と共に其の坊の禁令を掌つた。唐には侍從・獻納・啓奏等を掌り、宋・遼、皆置き、金・元・明には置かない。〔晉書、百官志〕中舍人、四人、咸寧四年置、以二舍人才學美者一爲レ之、與二中庶子一共掌二文翰一、職如二黃門侍郞一、在二中庶士下、洗馬上一。〔隋書、百官志上〕中舍人、四人、功高者一人、與二中庶子祭酒一、共掌二其坊之禁令一。〔資治通鑑、唐紀〕玄宗、先天元年、累二遷太子中舍人一。〔注〕唐六典曰、太子中舍人、本漢魏太子舍人也、晉惠帝在二儲宮一、以二舍人四人一有二文學才美一者、與二中庶子一共理二文書一、至二咸寧二年一、齊王攸爲二太傅一、遂加レ名爲二中舍人一、與二中庶子一共掌二禁令一、糾二正違闕一、侍二從左右一、儐二相威儀一、盡規二獻納一。〔續通典、職官、東宮官、太子庶子〕中舍人、唐置二二人一、貳二右庶子一、掌二侍從・獻納・啓奏一、皇太子監國下二令書一、則畫日至二春坊右庶子一宣傳、中舍人奉行、宋至道天禧時、置二中舍人一人一、神宗・欽宗、升レ儲亦置、寧宗嘉定初、除二一人一、遼南面官右春坊、亦有二太子中舍人一、金・元・明皆無。

【太子中庶子】212 タイシチユウシヨシ　官名。後漢、置く。職、侍中に似る。梁には功の高い者一人が祭酒となり、太子の外出の時、璽を負ひて駕を護ることを掌る。〔後漢書、百官志四〕太子中庶子、六百石、本注曰、員五人、職如二侍中一。〔宋書、百官志下〕中庶子、四人、職如二侍中一、漢東京員五人、晉減爲二四人一、秩六百石。〔隋書、百官志上〕中庶子、四人、功高者一人、爲二祭酒一、行則負レ璽、前後部護レ駕。

【太子天下本】213 タイシテンカノモト　太子は天下の根本である。〔史記、叔孫通傳〕太子天下本、本一搖、天下振動。

【太子門大夫】214 タイシモンタイフ　官名。漢、置く。太子太傅の屬官。〔漢書、百官公卿表上〕太子太傅・少傅、古官、屬官有二太子門大夫・庶子・先馬・舍人一。

【太史】215 タイシ　❶官名。殷では六大の一で、六典を掌る。周では春官の屬で、六典を建て、年歲を正して事を序し、朔(曆)を邦國に頒布することを掌る。卽ち三代は史官及び曆官の長。秦・漢から六朝迄は、太常に屬し、天文星曆等を掌る。隋は太史監を置き、唐・宋は太史局と改め、元は又太史院と改めた。但、隋から元に至る各王朝に於ける名稱は夫々必ずしも一つではないが、掌る所は略〻秦・漢に同じく、皆、祕書省に屬す。明・淸以來、天文占候の事は欽天監に屬し、史官の事は翰林院に屬した。大史(**3**－**5831**‥919)を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕奉常、秦官、掌二宗廟禮儀一、

有丞、景帝中六年、更名太常、屬官有太樂・太祝・太宰・太史・太卜・太醫六令丞。〔後漢書、百官志四〕太史令、一人、六百石、本注曰、掌天時星曆、凡歲將終、奏新年曆、凡國祭祀喪娶之事、掌奏良日及時節禁忌、凡國有瑞應災異、掌記之。〔宋書、百官志上〕太史令、一人、丞、一人、掌三辰時日、祥瑞妖災、歲終則奏新曆、太史三代舊官、周世掌建邦之六典、正歲年以序事、頒朔於邦國。〔隋書、百官志下〕煬帝卽位、多所改革、三年定令、改太史局爲監。〔唐書、百官志二、注〕武德四年、改太史監曰太史局、隸祕書省。〔宋史、職官志四〕太史局、掌測驗天文、考定曆法。〔元史、百官志四〕太史院、秩正二品、掌天文曆數之事。❷翰林（**9**－**28780**・・47）の別稱。明清以來、翰林が史官の事に任じたからいふ。〔歷代職官表、翰林院、歷代建置、三代〕謹案、今翰林院專掌文翰、其源實本於此、然世稱翰林官爲太史、則稽之古制、殊未盡。❸川の名。古の九河の一。二說ある。㋑今の河北省東光縣の交河の南。〔爾雅、釋水、疏〕李巡曰、太史、禹大使徒衆通其水道、故曰太史、云云、在東光之北、成平之南。㋺南皮縣の北。〔齊乘〕踰漳而南、清・滄二州之閒、有古河隄岸數重、皆沮洳沙鹵、太史等河、當在其地。❹星の名。五諸侯五星のうちの一星。〔晉書、天文志上〕五諸侯五星、在東井北、云云、一曰帝師、二曰帝友、三曰三公、四曰博士、五曰太史。❺複姓。〔元和姓纂〕齊太史子餘之後。〔路史〕蔡仲後有太史氏。

【太史監】216（タイシカン） 隋及び唐の或る時期に於て、太史局をいふ。太史の❶を見よ。〔稱謂錄、欽天監、太史監〕舊唐書百官志、司天臺、舊爲太史局、云云、景雲元年、改爲太史監。

【太史簡】217（タイシノカン） 春秋、齊の崔杼が君を弑した時、太史が死を犯し、之を簡に直書して諱まなかつた故事。〔春秋、襄、二十五〕夏五月乙亥、齊崔杼弑其君光。〔左氏、襄、二十五〕夏五月、莒爲且于之役故、莒子朝于齊、甲戌、饗諸北郭、崔子稱疾不視事、乙亥、公問崔子、遂從姜氏、姜氏入于室、與崔子自側戶出、公拊楹而歌、侍人賈舉止衆從者而入、閉門、甲興、公登臺而請、弗許、請盟、弗許、請自刃於廟、弗許、皆曰、君之臣杼疾病、不能聽命、近於公宮、陪臣干掫、有淫者、不知二命、公踰墻、又射之中股、反隊、遂弑之、云云、太史書曰、崔杼弑其君、崔子殺之、其弟嗣書、而死者二人、其弟又書、乃舍之、南史氏聞太史盡死、執簡以往、聞既書矣、乃還。〔文天祥、正氣歌〕在齊太史簡、在晉董狐筆。

【太史局】218（タイシキョク） 唐代、司天臺の舊稱。太史の❶を見よ。〔稱謂錄、欽天監、太史局〕舊唐書百官志、司天臺、舊爲太史局。〔事物紀原、會府臺司部、太史局〕少昊曆正曰鳳鳥氏、夏曰太史、隋以名謂曰太史曹、煬帝改曰監、唐曰局、乾元元年、曰司天臺、後復曰太史、宋朝以來亦曰司天臺、神宗改官制、復爲太史局也。

【太史敫】219（タイシケウ） 戰國、齊の莒の人。淖齒の亂に、湣王の子法章が姓名を變じて敫の家傭となる。敫の女は其の容貌のすぐれてゐるのを見、竊かに其の衣食の世話をし、後、法章が齊王となるや、其の后となる。敫は其の女が正式の手續きを踏まず勝手に嫁したことを怒り、終身、后に會はなかつた。〔戰國、齊策〕。

【太史公】220（タイシコウ） ❶官名。太史令の一稱。❷を見よ。〔隨園隨筆〕衞宏漢儀注、以太史公位在丞相上、天下記書先上太史公、云云、晉灼非之、以爲、百官表所無也、史遷亦自謂、先人文史星曆近乎卜祝之閒、則位在丞相上之說、可疑、于文定公以爲、位者、朝著之位、非爵位也、如唐宋螭頭記注之制、在人主左右耳、故不見于百官表、兩見于儀注也、太子二字、見尚書立政篇。❷漢の司馬談と、其の子、遷との專稱。共に太史令となつたからいふ。公は遷が其の父を尊んで稱した語。一說に太史の尊貴は三公と等しいからいふ。又、兩漢刊誤補遺には縣公の公とし、癸巳類稿には諸子の子の義とし、清の朱一新の漢書管見には令の誤とし、清の李慈銘は官府の通稱としてゐる。〔史記、太史公自序〕喜生談、談爲太史公。〔注〕索隱曰、公者、遷所著書、尊其父云公也、正義曰、虞喜志林云、古者主天官者皆上公、自周至漢、其職轉卑、然朝會坐位猶上公、尊天之道、其官屬仍以舊名尊而稱也、太史公既掌天官、不治民、有子曰遷、云云、觀此文、虞喜說爲長、乃書談及遷爲太史公者、皆遷自書之。〔日知錄、藝文、非三公不得稱公〕太史公者、司馬遷稱其父談、故尊而公之也。〔集釋〕錢氏曰、太史公、官名、遷父子相繼爲之、非專爲尊其父也、史記惟自敍前半及封禪篇中、有像其父爲太史公者、其餘皆遷自稱、又曰、衞宏漢官儀言、位在丞相上、宏漢人、其言可信、而後人多疑之、予謂、位在丞上者、謂殿中班位在丞相之右、非職任尊于丞相者也。❸史記の原稱。史記（**2**－**3249**・・31）の❶を見よ。〔漢書、藝文志〕太史公百三十篇。〔講疏〕存、清四庫史部正史類、著錄史記一百三十卷。

【太史曹】221（タイシサウ） 官名。隋代、太史令を改めていふ。〔稱謂錄、欽天監、太史曹〕通典、隋改太史令爲太史曹、煬帝又改曹爲監、唐初改監爲局。

【太史氏】222（タイシシ） 歷史を掌る官にある者。〔韓愈、送楊少尹序〕太史氏又能張大其事、爲傳繼二疏蹤跡否。

【太史慈】223（タイシジ） 三國、吳の黃の人。字は子義。郡の奏曹史に仕へ、事に坐して禍を遼東に避く。孫策の東渡するに及び、建昌都尉となる。卒年四十一。〔三國志、四十九〕。

【太史丞】224（タイシジョウ） 太史の次官。漢以後、歷代之を稱し、唐・元には司天臺少監、明清に欽天監監正といふ。太史の❶を見よ。〔事物紀原、祕殿掌貳部、太史丞〕司馬彪續漢書曰、太史有丞一人、歷代同之、疑漢官也。

【太史正】225（タイシセイ） 太史の長官。歷代、長官を令と稱したが、唐の開元以後、改めて少監といひ、後、又改めて正といふ。太史の❶を見よ。〔事物紀原、祕殿掌貳部、太史正〕唐長安二年、置太史令二人、開元以後、以令爲監、改令一員爲少監、國家亦曰司天監・少監、官制改除少監、置太史正。

【太史餠】226 t‘ai^4 shih^2 ping^3 胡麻をつけた一種の菓子。

【太史令】227（タイシレイ） 太史の長官。三代以下皆之を稱したが、周官には下大夫、後周には春官太史中大夫、唐・金等は司天臺監、明・清には欽天監監正と稱した。太史の❶を見よ。〔資治通鑑、唐紀〕（高祖、武德九年）太史令傅弈上疏。〔注〕唐太史令、從五品下、掌觀察天文、稽定歷數、凡日月星辰之變、風雲氣色之異。〔事物紀原、祕殿掌貳部、太史令〕少昊鳳鳥氏爲歷正、夏后曰太史、周禮爲春官宗伯之屬、秦爲太史令、唐乾元元年、改曰司天監、宋朝神宗正官名、復爲太史令。

【太史中大夫】229（タイシチュウタイフ） 官名。後周、太史の長官の稱。太史令を見よ。〔資治通鑑、陳紀〕（宣帝、太建十二年）堅夜召太史中大夫庾季才。〔注〕太史、掌天文歷數、周制、太史中大夫、屬春官、五命。

【太侈】230（タイシ） 甚だおごる。〔韓非子、亡徵〕宮室供養太侈、而人主弗禁。〔史記、穰侯傳〕涇陽君・高陵君之屬、太侈富於王室。

【太始】231（タイシ） ❶天地のはじめ。形の始。太初の次。大始。太昭（304）。〔廣雅、釋天〕太始、形之始也。〔列子、天瑞〕有太初、有太始。〔孔穎達、周易正義序〕有太易、有太初、有太始。〔太平御覽、天、太始〕易乾鑿度曰、太始者、形之始也。〔太平御覽、天、太始〕張衡元圖曰、玄者、無形之類、自然之根、作於太始、莫之與先。❷年號。㋑漢、武帝、劉徹の時。（B.C.5－B.C.2）㋺西晉、武帝、司馬炎の年號、泰始の一稱。（265－274）㋩五胡十六國、前涼、沖王、張玄靚の時。（355－356）㊁南北朝、梁の時、侯景の僭年號。（652－653）㋭唐代、渤海の簡王、大明忠の時。（817）

【太師】232（タイシ） ❶官名。周代、三公（太師・太傅・太保）の一。三公は、天子を輔佐し、國事を經緯し、陰陽を燮理することを職とした則闕の官。秦、廢し、漢、大司馬・大司徒・大司空を置いて三公と爲し、別に太師・太傅・太保を置いて三公の上に位せしめたが、存廢は不定であつた。後漢、太傅のみを置き、三國、太傅・太保を置く。晉、太宰・太傅・太保を置き、宋・齊・梁・陳、皆之に仍る。太宰は晉初、景帝の諱、師を避けて改めたもので、其の任は全く太師に同じい。後魏、古制に

復して太師・太傅・太保を置き、三師と稱して二大・三公の上に位せしめた。後周、廢し、隋、復す。唐、大尉・司徒・司空を三公と爲し、天子を佐けて、陰陽を理め、邦國を治め、又、太師・太傅・太保を三師と爲し、三公の上に位して天子の師とならしめたが、職は無い。宋、政和以後三師の名を廢して三公の舊に復す。以後、清に至るまで歴代皆置き、則闕の官で、常に羣官の上に位し、時には最高榮譽の名として贈官に用ひられたが、近代は職責なく、空名の榮官に過ぎない。別に太子太師・太傅・太保の官があるが、一等を下る。〔書、周官〕立㆓太師・太傅・太保㆒、茲惟三公、論㆑道經㆑邦、燮㆓理陰陽㆒、官不㆓必備㆒、惟其人。〔傳〕師、天子所㆓師法㆒、傅、傅㆓相天子㆒、保、保㆓安天子於德義㆒者、此惟三公之任、佐㆑王論㆑道、以經㆓緯國事㆒、和㆓理陰陽㆒、言㆓有德乃堪㆒㆑之、三公之官不㆓必備㆑員、惟其人有㆑德乃處㆑之。〔漢書、百官公卿表上〕夏殷亡㆑聞焉、周官則備矣、天官冢宰・地官司徒・春官宗伯・夏官司馬・秋官司寇・冬官司空、是爲㆓六卿㆒、各有㆓徒屬職㆒、分㆓用於百事㆒、太師・太傅・太保、是爲㆓三公㆒、蓋參㆓天子㆒、坐而議㆑政、無㆑不㆓總統㆒、故不㆘以㆓一職㆒爲㆗官名㆖。〔漢書、百官公卿表上〕太傅、古官、高后元年、初置、金印紫綬、後省、八年、復置、後省、哀帝元壽二年、復置、位在㆓三公上㆒、太師・太保皆古官、平帝元始元年、皆初置、金印紫綬、太師位在㆓太傅上㆒、太保次㆓太傅㆒。〔晉書、職官志〕太宰・太傅・太保、周之三公官也、魏初、唯置㆓太傅㆒、以㆓鍾繇㆒爲㆑之、末年、又置㆓太保㆒、以㆓鄭沖㆒爲㆑之、晉初、以㆓景帝諱㆒、故又採㆓周官官名㆒、置㆓太宰㆒、以代㆓太師之任㆒、秩增㆓三司㆒、與㆓太傅・太保㆒、皆爲㆓上公㆒、論㆑道經㆑邦、燮㆓理陰陽㆒、無㆓其人㆒則闕。〔魏書、官氏志〕太師・太傅・太保、右三師上公、大司馬、大將軍、右二大、太尉・司徒・司空・開國郡公、右第一品上。〔唐書、百官志一〕三師、三公、太師・太傅・太保、各一人是爲㆓三師㆒、太尉・司徒・司空、各一人、是爲㆓三公㆒、皆正一品、三師天子所㆑師、法無㆓所㆑總職㆒、非㆓其人㆒則闕、三公佐㆓天子㆒、理㆓陰陽㆒、平㆓邦國㆒、無㆑所㆑不㆑統、親王拜者、不㆔親事㆓祭祀㆒、闕則攝。〔宋史、職官志一〕政和二年、京落致仕、依㆘前太師、三日一至㆓都堂㆒治㆑事、九月詔、以㆓太師・太傅・太保、古三公之官、今爲㆓三師㆒、古無㆓此稱㆒、合㆘依㆓三代㆒爲㆓三公㆒、爲㆗眞相之任㆖。〔元史、百官志一〕三公、太師・太傅・太保、各一員、正一品。〔明史、職官志一〕太師・太傅・太保、爲㆓三公㆒、正一品。〔歷代職官表、師傅保加銜、國朝官制〕太師・太傅・太保、正一品、云云、以上皆虛銜無㆓職掌㆒、亦無㆓員額㆒、凡大臣宣㆓力中外㆒、勞績懋著者、則奉㆓特旨㆒加銜、或爲㆓贈典㆒、以示㆓優寵㆒焉。❷古、樂官の長。多く瞽者をあてた。大師（**3**－**5831**‥957）の❶を見よ。〔論語、八佾〕子語㆓魯太師樂㆒曰、樂其可㆑知也。〔集注〕太師、樂官名。❸複姓。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕太師氏、商有㆓太師摯㆒、周有㆓太師疵㆒。❹佛（ダイシ） 朝廷から高僧に賜はる尊號。唐の懿宗に始まる。大師（**3**－**5831**‥957）の❼に同じ。❺（タイシ） 太政大臣を太師とす。〔和漢三才圖會、官位、太政大臣〕天智天皇十年、以㆓大友皇子㆒爲㆓太政大臣㆒、此其始也、孝德天皇朝、改爲㆓太師㆒。

【太師椅】233（タイシノイ） 宋の太師秦檜が坐つたといふ椅子。背部が高く圓形のもの。今、大圈椅をいふ。〔桯史〕秦檜賜㆑第、詔就㆑第賜㆑燕、假以㆓教坊㆒、優伶有㆓參軍㆒、前褒㆓檜功德㆒、一伶以㆓交椅㆒從、參軍方拱揖就㆑椅、忽墜㆓其幞頭㆒、露㆓巾鐶㆒、伶指問曰、此何鐶、曰二聖鐶、伶曰、爾但坐㆓太師交椅㆒、此鐶掉在㆓腦後㆒可耶、檜怒下㆓伶於獄㆒。

【太師硯】234（タイシケン） 硯の一種。唐代、官吏が事務用に作つたもの。〔遵生八牋、高似孫硯箋諸式〕鳳池硯・玉堂硯、云云、水池硯・太師硯。

【太師窗】235（タイシサウ） 宋の太師秦檜が相となつた時、其の第中の窓の上下に一二の四角な眼を作り、他を櫺子（レンジ）とした窓。〔老學庵筆記、十〕秦太師作㆑相時、裹㆑頭巾、當㆑面偶作㆓一摺㆒、謂㆓之太師錯摺樣㆒、第中窗上下及中一二眼作㆓方眼㆒、餘作㆓疎櫺㆒、謂㆓之太師窗㆒。

【太師青】236（タイシセイ） 宋の太師蔡京が相となつた時に着た青い道衣。太師轎を見よ。

【太師轎子】237（タイシケウシ） 宋の太師蔡京が出入に乘つた、頂を棕櫚で編んだかご。〔老學庵筆記、十〕蔡太師作㆑相時、衣㆓青道衣㆒、謂㆓之太師青㆒、出入乘㆓樓頂轎子㆒、謂㆓之太師轎子㆒。

【太師錯摺樣】238（タイシサクシフヤウ） 宋の太師秦檜が相となつた時、被つた頭巾の面に偶〻ひだの出來たさまをいふ。太師窗（235）を見よ。

【太紫】239（タイシ） 太微（390）星の宮と紫微（**8**－**27337**‥378）星の宮。〔班固、西都賦〕據㆓坤靈之正位㆒、倣㆓太紫之圓方㆒。〔注〕良曰、謂、學㆓太微・紫微星宮㆒、以爲㆓規矩㆒。

【太姒】240（タイジ） 周の文王の妃。武王の母。莘國の女。賢婦人の譽れが高く、號して文母といふ。大姒。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕三母者、太姜・太任・太姒、太姜者、王季之母、有呂氏之女、大王娶以爲㆑妃、生㆓太伯・仲雍・王季㆒、貞順率㆑道、靡㆑有㆓過失㆒、太王謀㆑事遷徙、必與㆓太姜㆒、君子謂、太姜廣㆓于德教㆒、德教本也、而謀事次㆑之、詩云、古公亶父、來朝走㆑馬、率㆓西水滸㆒、至㆓於岐下㆒、爰及㆓姜女㆒、聿來胥㆑宇、此之謂也、蓋太姜淵智非㆑常、雖㆓太王之賢聖㆒、亦與㆑之謀、其知㆘太王仁恕、必可㆗以比㆓國人㆒而景附㆖矣、太任者、文王之母、摯任氏中女也、王季娶爲㆑妃、太任之性、端一誠莊、惟德之行、及㆓其有㆑娠、目不㆑視㆓惡色㆒、耳不㆑聽㆓淫聲㆒、口不㆑出㆓敖言㆒、能以㆓胎教㆒溲㆓于豕牢㆒、而生㆓文王㆒、文王生而明聖、太任教㆑之、以㆑一而識㆑百、君子謂、太任爲㆑能㆓胎教㆒、古者婦人姙㆑子、寢不㆑側、坐不㆑邊、立不㆑蹕、不㆑食㆓邪味㆒、割不㆑正不㆑食、席不㆑正不㆑坐、目不㆑視㆓于邪色㆒、耳不㆑聽㆓于淫聲㆒、夜則令㆔瞽誦㆑詩道㆓正事㆒、如㆑此、則生子形容端正、才德必過㆑人矣、故姙㆑子之時、必愼㆑所㆑感、感㆓于善㆒則善、感㆓于惡㆒則惡、人生而肖㆓父母㆒者、皆其母感㆓于物㆒、故形音肖㆑之、文王母可㆑謂㆑知㆓肖化㆒矣、太姒者、武王之母、禹后有莘姒氏之女、仁而明㆑道、文王嘉㆑之、親㆓迎于渭㆒、造㆑舟爲㆑梁、及㆑入、太姒思㆑媚㆓太姜・太任㆒、旦夕勤勞、以進㆓婦道㆒、太姒號曰㆓文母㆒、文王理㆓陽道㆒而治㆑外、文母理㆓陰道㆒而治㆑內、太姒生有㆓十男㆒、長伯邑考、次則武王發、次則周公旦、次則管叔鮮、次則蔡叔度、次則曹叔振鐸、次則霍叔武、次則成叔處、次則康叔封、次則聃季載、太姒教㆓誨十子㆒、自㆑少及㆑長、未㆔嘗見㆓邪辟之事㆒、及㆓其長㆒、文王繼而教㆑之、率成㆓武王・周公之德㆒、武王纘㆓太王・王季・文王之緒㆒、壹戎衣而有㆓天下㆒、身不㆑失㆓天下之顯名㆒、尊爲㆓天子㆒、富有㆓四海之內㆒、宗廟饗㆑之、子孫保㆑之、云云、故君子謂、太姒仁明而有㆑德、詩曰、大邦有㆑子、俔㆓天之妹㆒、文定㆓其祥㆒、親迎㆓于渭㆒、造㆑舟爲㆑梁、不㆑顯㆓其光㆒、又曰、太姒嗣㆓徽音㆒、則百斯男、此之謂也、頌曰、周室三母、太姜任姒、文武之興、蓋由㆑斯起、太姒最賢、號曰㆓文母㆒、三姑之德、亦甚大矣。

【太柔】241（タイジウ） 甚だやはらかい。〔淮南子、氾論訓〕太剛則折、太柔則卷。

【太室】242（タイシツ） ❶祖廟の中央の室をいふ。又、單に祖廟をいふ。大室（**3**－**5831**‥1012）の❶に同じ。〔書、洛誥〕王入㆓太室㆒祼。〔蔡傳〕太室、淸廟中央室也。❷山名。嵩山に三十六峯あり、太室は其の一で山に石室があるから名づく。又、嵩山の異名として用ひる。河南省登封縣の北。〔左氏、昭、四〕陽城太室荊山中南、九州之險也。〔疏〕太室、卽嵩高也、釋山云、嵩高爲㆓中岳㆒、郭璞云、太室山也、別名外方、今在㆓河南陽城縣西北㆒、土地名云、太室、河南陽城縣西、嵩高山中嶽也、地理志云、武帝置㆓嵩高縣㆒、以奉㆓太室之山㆒、是爲㆓中嶽㆒、又有㆓少室㆒、在㆓太室之西㆒也。〔史記、封禪書〕太室、嵩高也。〔潘岳、懷舊賦〕前瞻㆓太室㆒、傍眺㆓嵩丘㆒。〔注〕善曰、山海經曰、太室之山、郭璞曰、卽中嶽嵩高山也、今在㆓陽城縣西㆒、漢書曰、太室、嵩山也、戴延之西征記曰、嵩高、中嶽也、東謂㆓太室㆒、西謂㆓少室㆒、揔名㆑嵩也、小說曰、昔傅亮北征、在㆓河中流㆒、或人問㆑之曰、潘安仁作㆓懷舊賦㆒曰、前瞻㆓太室㆒、傍眺㆓嵩丘㆒、嵩丘・太室一山、何云㆓前瞻傍眺㆒哉、亮對曰、有㆓嵩丘山㆒、去㆓太室㆒七十里、此是寫書誤耳。❸複姓。〔姓氏辯證〕太室山、在㆓河南陽城縣西南㆒、其先民人因㆑山爲㆑氏。❹小幡文華の號。小幡太室（**4**－**7473**‥1580）を見よ。

【太室之盟】243（タイシツノメイ） 嵩山に於てした盟ひ。太室は嵩山の一峯。〔史記、楚世家〕幽王爲㆓太室之盟㆒、戎翟叛㆑之。

【太室書院】244（タイシツシヨヰン） 書院の名。河南省登封縣太室山の南麓。宋には嵩陽書院と改め、宋代の四書院の一。嵩陽書院（**4**－**8348**‥65）を見よ。〔玉海、宮室、院、嵩陽書院〕至道一年七月甲辰、

賜二院額及印本九經書疏一、祥符三年四月癸亥、賜二太室書院九經一、景祐二年九月十五日己丑、西京重二修太室嵩陽書院一、詔以二嵩陽書院一爲レ額、云云、嵩陽・嶽麓・睢陽及白鹿洞、爲三尤著二天下一、所謂四書院者也。

【太室少室】245（タイシツセウシツ） 山名。嵩山三十六峯中の二峯。又、嵩高山の別名にも用ひられる。太室の㊁を見よ。〔淮南子、墜形訓〕少室・太室、在二冀州一。〔注〕少室・太室、在二陽城一、嵩高山之別名。〔春秋大事表〕嵩山三十六峯、東曰二太室一、西曰二少室一、嵩高、其總名。

【太室石闕銘】246（タイシツセキケツノメイ） 嵩山の中嶽廟に在る銘。漢の安帝の元初五年、陽城の呂常作。〔金石文字記、嵩山太室神道石闕銘〕八分書、元初五年四月、今在二登封縣中嶽廟南百餘步一、銘八行、年月及職官姓名共十三行。

【太社】247（タイシヤ） 王が天下の爲に祀る社。大社。〔後漢書、祭祀志中〕元初六年三月庚辰、初更立二六宗一、云云、禮比二太社一也。〔白虎通、社稷〕王者二社、爲二天下一立レ社曰二太社一。

【太昌】248（タイシヤウ） 年號。㊀北魏、孝武帝、拓跋修の時。(532) ㊁新羅、眞興王、彡麥夫の時。(568—571)

【太祥】249（タイシヤウ） 死後二十五箇月目の祭。大祥(3—5831・・1063)の㊀に同じ。

【太章】250（タイシヤウ） 禹の臣。健脚で、大地の東のはてから西のはてまで歩いたといふ。〔淮南子、墜形訓〕禹乃使下太章步自二東極一至中于西極上、二億三萬三千五百里七十五步、使下豎亥步自二北極一至中于南極上、二億三萬三千五百里七十五步。〔注〕太章・豎亥、善行人、皆禹臣也。

【太上】251（タイジヤウ） 大上(3—5831・・1076)に同じ。㊀三皇五帝の世。太古。〔禮、曲禮上〕太上貴レ德、其次務二施報一。〔疏〕太上、謂二三皇五帝之世一也。〔法言、問道〕太上無レ法而治、法非三所二以爲レ治也、曰、鴻荒之世、聖人惡レ之、是以法始二乎伏犧一、而成二乎堯一。㊁最上のもの。至上。極上。至極。〔大戴禮、曾子立事〕太上樂レ善、其次安レ之、其下亦能自彊。〔注〕太上、德之最上者。〔史記、天官書〕太上修レ德、其次修レ政、其次修レ救、其次修レ禳。〔韓非子、說疑〕太上禁二其心一、其次禁二其言一。〔呂覽、禁塞〕凡救守者、太上以レ說、其次以レ兵。〔管子、法法〕太上以レ制制レ度、其次失而能追レ之。〔墨子、親士〕太上無レ敗、其次敗而有二以成一。〔閒詁〕案、太上、對二其次一爲レ文、謂二等之最居レ上者一、不レ論二時代今古一也。㊂天子をいふ。又、皇后をもいふ。〔荀子、君子〕莫三敢犯二大上之禁一。〔注〕大讀爲レ太、太上、至尊之號。〔漢書、淮南厲王長傳〕今大王不レ察二古今之所二以安レ國便レ事、而欲下以二親戚之意一望中於太上上、不レ可レ得也。〔注〕如淳曰、太上、天子也。〔漢書、匡衡傳〕孔子論レ詩、以二關睢一爲レ始、言、太上者民之父母、后夫人之行不レ侔二乎天地一、則無下以奉二神靈之統一而理中萬物之宜上。〔注〕師古曰、太上、居二尊上之位一也。〔王褒、四子講德論〕太上聖明。㊃太上皇をいふ。〔北齊書、幼主紀〕太上皇幷皇后、攜二幼主一走二青州一、云云、高阿那肱召二周軍一、約三生致二齊主一、而屢使二人告言一、賊軍在レ遠、已令三人燒二斷橋路一、太上所二以停緩一、周軍奄至二青州一、太上窘急、將レ遜二於陳一、置二金囊於鞍後一。〔宋史、禮志十五〕皇帝詣二褥位一、北向再拜、在位官皆再拜、皇帝詣二太上御坐東褥位一、西向立、皇太子、文武百僚再拜。㊄五胡十六國、南燕の昭文帝、慕容超の年號。(405—410)

【太上皇】252（タイジヤウクワウ・ダジヤウクワウ） 皇帝の父の尊號。又、位を禪つた天子の稱。秦の始皇が莊襄王を尊んで太上皇と稱したのに始まり、始皇の上にあるから太上と稱したので、死後、追尊の號であつたが、漢の高祖に至り、太公を尊んで太上皇と稱し、北齊の武成帝や唐の睿宗が皆、位を太子に讓つて自ら太上皇と稱して政を聞いてから、天子の生存の父の稱となつた。太上皇帝を見よ。〔史記、秦始皇紀〕追二尊莊襄王一爲二太上皇一。〔漢書、高帝紀下〕五日一朝二太公一、太公擁レ篲迎レ門卻行、高祖大驚、下扶二太公一、於レ是尊爲二太上皇一。〔注〕師古曰、太上、極尊之稱也、皇、君也、天子之父、故號曰レ皇、不レ預レ治レ國、故不レ言レ帝也。〔文獻通考、帝系考三〕太上皇・太皇太后・皇太后、唐高祖武德九年、詔禪二位於皇太子一、稱二太上皇一。〔文獻通考、帝系考三〕八月庚子、玄宗卽レ位、尊二睿宗一爲二太上皇一、上皇自稱曰レ朕。〔日知錄、禮制、太上皇〕秦始皇本紀、追二尊莊襄王一爲二太上皇一、是死而追尊之號、猶三周曰二太王一也、漢則以爲二生號一、而後代並因レ之矣。〔楊太眞外傳、下〕次問二天寶十四載已還一、言訖憫然、指二碧衣女一、取二金釵鈿合一折二其半一、授二使者一曰、爲レ我謝二太上皇一、謹獻二是物一、尋二舊好一也、方士將レ行、色有レ不レ足、玉妃因徵二其色一、乃復前跪到レ詞、請當時一事不レ聞二于他人一者、驗二于太上皇一、不レ然、恐金釵鈿合、負二新垣平之詐一也。

【太上皇后】253（タイジヤウクワウゴウ） 天子の嫡母の尊號。皇太后。〔北齊書、幼主紀〕隆化二年、春正月乙亥、卽二皇帝位一、時八歲、改元爲二承光元年一、大赦、尊二皇太后一爲二太皇太后一、帝爲二太上皇帝一、后爲二太上皇后一。〔宋史、禮志十三〕上二太上皇帝尊號一、曰二光堯壽聖太上皇帝一、太上皇后尊號、曰二壽聖太上皇后一。

【太上皇帝】254（タイジヤウクワウテイ） 天子の父の尊號。太上皇を見よ。〔魏書、獻帝紀〕於レ是羣公奏曰、昔三皇之世、澹泊無爲、故稱レ皇、是以漢高祖既稱二皇帝一、尊二其父一爲二太上皇一、明レ不レ統二天下一、今皇帝幼沖、萬機大政、猶宜二陛下總レ之、謹上二尊號太上皇帝一、乃從レ之、己酉、太上皇帝徙二御崇光宮一、採椽不レ斲、土階而已、國之大事咸以聞。〔北齊書、武成帝紀〕於レ是羣公上二尊號一爲二太上皇帝一、軍國大事、咸以奏聞。

【太上天皇】255（タイジヤウテンワウ・ダジヤウテンワウ） ㊀道家の神の名。〔漢武帝內傳〕吾之五嶽眞形太寶、乃太上天皇所レ出、其文寶妙而爲二天僊之信一、豈復應三下授二於劉徹一耶。㊁天皇の父君の尊號。太上皇に同じ。〔和漢三才圖會、人倫、仙洞〕文武天皇大寶三年、尊二先帝持統天皇一、贈二號太上天皇一、此其始也。

【太上老君】256（タイジヤウラウクン） 道家で用ひる老子の尊稱。〔老子內傳〕太上老君、姓李、名耳、字伯陽、一名重耳、生而白首、故號二老子一、耳有二三漏一、又號二老聃一。

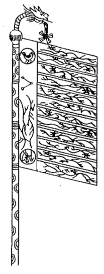
【太上感應篇】257（タイジヤウカンオウヘン） 道教の經典の名。善書の一。宋史藝文志及び道藏に著錄す。通說は老子の撰とし、清の惠棟は抱朴子の作とす。其の詞を老君の師の太上に託し、勸善懲惡の意を述ぶ。宋の理宗が刊行してから、元明以後、盛に行はれ、清の順治帝は之によつて勸善要言を作る。注解は宋代既に有り、清の惠棟・姚學塽が合注を施し、兪樾も太上感應讚義二卷を作る。〔粵雅堂叢書、第一百三十八冊〕。

【太上玄元皇帝】258（タイジヤウゲンゲンクワウテイ） 唐の高宗の時、老子に贈つた追號。〔唐書、高宗紀〕(乾封元年)二月己未、如二亳州一、祠二老子一、追二號太上玄元皇帝一。

【太城】259（タイジヤウ） 今の四川省成都城をいふ。もと府の南城を太城、西城を少城といつた。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、成都縣〕府城、舊有二太城一、有二少城一、云云、太城、府南城也、秦張儀・司馬錯所レ築、一名二龜城一、俗傳、儀築レ城未レ立、有二大龜一出二於江一、周行旋走、隨而築レ之、城因以立也、少城、府西城也、惟西南北三壁、東卽太城之西墉、昔張儀既築二太城一、後一年、又築二少城一、蜀都賦、亞以二少城一、接二於其西一、謂レ此也。

【太常】260（タイジヤウ） ㊀官名。秦官の奉常。漢、改めて太常といひ、一に大常に作る。周官の春官の職に當り、宗廟禮儀を掌る。後漢以後、相繼いで置き、北齊に至り始めて太常寺といひ、卿・少卿、各〻一人あり、歷代、之に仍る。但、後周では大宗伯といひ、以後、清に至るまで皆置く。大常(3—5831・・1084)の㊁を見よ。〔通典、職官、諸卿上、太常卿〕今太常者、亦唐虞伯夷爲二秩宗一、兼二夔典樂之任一也、周時曰二宗伯一爲二春官一、掌二邦禮一、秦改曰二奉常一、漢初曰二太常一、欲レ令二國家盛大常存一、故稱二太常一、惠帝更二名奉常一、景帝六年、更二名太常一、後漢秩與レ漢同、每二祭祀一、前奏二其禮儀一、及レ行レ事贊二天子一、每選二試博士一、奏二其能否一、大射・養老・大喪、皆奏二其儀一、每月前レ晦察二行陵廟一、助レ祭、則平冕七旒、漢舊制以二列侯忠孝敬愼者一居レ之、後漢不二必侯一也、舊制陵縣悉屬、歲舉二孝廉一、後漢則否、建安中、爲二奉常一、魏黃初元年、改爲二大常一、魏・晉皆銀章青綬、進賢兩梁冠、絳朝服、佩二水蒼玉一、宋・齊皆有レ之、舊用二列曹尙書好一遷二選曹尙書一領護、梁視二金紫光祿大夫一、陳因レ之、後魏爲二上卿一、兼置二少卿官一、北齊曰二太常寺一、置二卿及少卿丞各一人一、掌二陵廟・羣祀・禮樂・儀制・天文・術數・衣冠之屬一、後周建二六官一、置二大宗伯一、卿一人、是爲二春官一、隋曰二太常一、與二

北齊一同、煬帝加二置少卿二人一、大唐因レ之、龍朔二年、改二太常一爲二奉常一、咸亨元年、復レ舊、光宅元年、改二太常一爲二司禮一、神龍初、復レ舊、卿一人、掌二禮儀・祭祀一、總二判寺事一、少卿二人、通判領丞一人、主簿二人、博士四人、太祝三人、奉禮郎・協律郎各二人、齋郎五百五十二人、郊社・太公廟・大樂・鼓吹・太醫・太卜・廩犧等署、各有レ令。〔漢書、百官公卿表上〕奉常、秦官、掌二宗廟禮儀一、有レ丞、景帝中六年、更二名太常一、屬官有二太樂・太祝・太宰・太史・太卜・太醫六令丞一。〔注〕應劭曰、常、典也、掌二典三禮一也、師古曰、太常、王者旌旗也、畫二日月一焉、王有二大事一、則建以行レ禮、官主奉二持之一、故曰二奉常一也、後改曰二太常一、尊大之義也。〔後漢書、百官志二〕太常卿、一人、中二千石、本注曰、掌二禮儀・祭祀一、每二祭祀一、先奏二其禮儀一、及レ行レ事常贊二天子一。〔隋書、百官志中〕太常・光祿云云、是爲二九寺一、置二卿・少卿・丞各一人一。〔唐書、百官志三〕太常寺、卿一人、正三品、少卿二人、正四品上、掌二禮樂・郊廟・社稷之事一、總二郊社太樂・鼓吹・太醫・太卜・廩犧・諸祠廟等署一、少卿爲二之貳一。〔事物紀原、九寺卿少部、太常〕太常、亦周禮春官職也、秦有二奉常一、漢初改曰二太常一、蓋秦官也、初學記曰、高祖改、漢百官表曰、景帝中六年、更。〔歷代職官表、太常寺、國朝官制〕太常寺卿、滿洲・漢人各一人、正三品。㊁日・月・星辰・交龍を畫いた旗。天子には十二旒を具ふ。大事があれば建てて禮を行ひ、太常の官が之を捧持する。㊀及び大常(**3－5831‥1084**)の㊀を見よ。〔書、君牙〕惟乃祖乃父、世篤二忠貞一、服二勞王家一、厥有二成績一、紀二于太常一。〔傳〕其有二成功一、見三紀錄書二於王之太常一、以表二顯之一、王之族旗、畫二日月一、曰二太常一。〔張衡、東京賦〕建二辰旒之太常一、紛焱悠以容裔。〔注〕綜曰、辰、謂二日月星一也、畫二之於旌旗一、垂二十二旒一也、常上畫二三辰一、以象二天明一也、謂、天子十二旒、諸侯九旒、大夫三旒、向曰、辰、日月星辰、畫二之於旒一、垂二十二旒一、名二太常一。



太常（三禮圖）

【太常引】261 タイジヤウイン ㊀詞牌の名。太常導引の曲。㊁曲牌の名。北曲は仙呂調隻曲、南曲は高大石調引に入る。

【太常妻】262 タイジヤウノツマ 後漢の周澤の妻。澤が太常となり、常に潔齋して宗廟に事へてゐる中、偶偶齋宮に病臥した。妻が澤の老病を哀んで、之を慰問したところ、澤は、妻が齋禁を破つたことを怒り、之を獄に送つて罪を謝せしめた。〔後漢書、周澤傳〕數月、復爲二太常一、清潔循行、盡二敬宗廟一、常臥二疾齋宮一、其妻哀二澤老病一、闚二問所苦一、澤大怒以三妻干二犯齋禁一、遂收送二詔獄一謝レ罪、當世疑二其詭激一、時人爲レ之語曰、生レ世不レ諧、作二太常妻一、一歲三百六十日、三百五十九日齋。〔注〕漢官儀、此下云、一日不レ齋醉如レ泥。

【太常寺】263 タイジヤウジ 官署の名。北齊、始めて稱す。太常の㊀を見よ。

【太常雅樂】264 タイジヤウガガク 太常寺の掌る音樂。唐の玄宗の時、立部・坐部の二部に分ち、立部は庭下に立つて奏し、坐部は堂に坐つて奏した。〔資治通鑑、唐紀〕（肅宗、至德元載）先設二太常雅樂坐部・立部一。〔注〕太常雅樂、唐初祖孝孫・張文收所レ定樂也、玄宗分レ樂爲二二部一、堂下立奏、謂二之立部伎一、堂上坐奏、謂二之坐部伎一、立部八、一安舞、二太平樂、三破陣樂、四慶善樂、五大定樂、六上元樂、七聖壽樂、八光聖樂、坐部六、一燕樂、二長壽樂、三天授樂、四鳥歌萬歲樂、五龍池樂、六小破陣樂。

【太常仙蝶】265 タイジヤウセンテフ 明の嘉靖から清代に至るまで數百年間、太常寺署中に居たといふ蝴蝶。〔宸垣識略〕太常寺署中、有二蝴蝶一一、色黃、大如二茶盌一、吏人欲レ見レ之、呼曰二老道一、則飛至二掌中一、相傳、自二明嘉靖一至レ今、數百年物也、乾隆時、有二御製太常仙蝶詩一。

【太常續考】266 タイジヤウゾクカウ 書名。八卷。撰者未詳。明の崇禎頃の作。案牘の文を錄し、沿革損益の由、名物度數の細に至る。明會典・明集禮の及ばぬ所が多い。〔四庫提要、史、職官類〕。

【太常博士】267 タイジヤウハカセ 官名。太常の屬。魏の文帝、始めて置き、乘輿を導引することを掌り、王公以下の追謚を議定す。北齊以後は太常寺博士といひ、唐には五禮儀注を撰し、乘輿を導引し、謚誄を定める等のことを掌る。以後歷代、皆置いたが、唯、後周のみは置かない。〔晉書、職官志〕太常博士、魏官也、魏文帝初置、晉因レ之、掌三引二導乘輿一、王公已下、應二追謚一者、則博士議二定之一。〔通典、職官、諸卿上、太常卿〕博士、魏官也、魏文帝初置、晉因レ之、掌三引二導乘輿一、王公以下應二追謚一者、則博士議二定之一、端委佩玉、朝之大典必於二詢度一、歷代皆有、隋有二四人一、大唐因レ之、甚爲二清選一、資位與二補闕一同、掌下撰二五禮儀注一、導二引乘輿一、贊二相祭祀一、定二誄謚一、及守二祧廟一、開二閉埳室一、及祥瑞之事上。

【太常因革禮】268 タイジヤウインカクレイ 書名。一百卷。宋、歐陽脩等奉敕撰。初、宋の太祖が儒臣に命じて開寶通禮を作らせ、仁宗の初年に至り、禮官王皡が太宗・眞宗の事を論じて禮閣新編を作る。尋いで嘉祐中、蘇洵・歐陽脩等が敕を奉じて此の書を重修し、名を太常因革禮と賜はつた。後、佚亡したが、清の嘉慶中、阮元によつて發見せられ、四庫未收書に著錄せられた。内容は總禮二十八卷、吉禮三十三卷、嘉禮九卷、軍禮三卷、凶禮三卷、廢禮一卷、新禮二十一卷、廟儀十二卷。〔四庫未收書目提要、二〕。

【太主】269 タイシユ 帝の姑をいふ。漢、始めて稱す。漢代は帝女を公主、姑姊妹を長公主といひ、唐代は帝の姊妹を長公主、姑を大長公主と稱した。大主(**3－5831‥1103**)の㊁に同じ。〔漢書、東方朔傳〕初帝姑館陶公主號二竇太主一。〔注〕如淳曰、竇太后之女也、故曰二竇太主一也。

【太守】270 タイシユ ㊀官名。秦は天下を三十六郡に分ち、各郡に郡守を置いて民を治めさせた。漢の景帝の時、始めて太守と改稱し、後、之に仍る。秩二千石。唐の高祖の時、郡を改めて州と爲し、太守を刺史と稱し、玄宗の時、舊に復して郡と爲し、太守と稱した。宋以後、郡を改めて府と稱してから、知府も太守と稱せられた。大守。〔史記、秦始皇紀〕廷尉議、是分二天下一以爲二三十六郡一、郡置二守・尉・監一。〔漢書、百官公卿表上〕郡守、秦官、掌レ治二其郡一、秩二千石、有レ丞、邊郡又有二長容一、掌二兵馬一、秩皆六百石、景帝中二年、更二名太守一。〔後漢書、百官志五〕每レ郡置二太守一人、二千石、丞一人一。〔唐書、高祖紀〕武德元年五月甲子、改レ郡爲レ州、太守爲二刺史一。〔唐書、玄宗紀〕天寶元年二月、改レ州爲レ郡、刺史爲二太守一。〔宋史、王應麟傳〕起知二徽州一、其父撝嘗守二是郡一、父老皆曰、此清白太守子也。㊁㋑古、親王の任國と定められた上總・常陸・上野の三箇國の守の稱。〔帝王編年記、十三〕仲野親王爲二上總太守一、賀陽親王爲二常陸太守一、葛井親王爲二上野太守一、親王任國、自レ此始レ之。〔職原抄、下〕諸國、守、上總・常陸・上野、太守、爲二親王一、介爲二受領一。㋺後、國主大名の稱。〔快元僧都記、天文二年四月十九日〕太守北條社參。

【太叔】271 タイシユク ㊀天子の叔父。〔唐書、宣宗紀〕宣宗、諱忱、憲宗第十三子、始封二光王一、會昌六年、立二光王一爲二皇太叔一。㊁複姓。〔通志、氏族略、以レ次爲レ氏〕太叔氏、姫姓、衛文公之子太叔儀之後也、漢有二尚書太叔雄一。

【太叔辯給】272 タイシユクベンキフ 蒙求の標題。晉の太叔廣が雄辯で、摯虞が之に應對できなかつた故事。〔晉書、摯虞傳〕東平太叔廣、樞機清辯、廣談、虞不レ能レ對、虞筆、廣不レ能レ答、更相嗤笑、紛二然於世一云。

【太祝】273 タイシユク ㊀官名。周官には春官の屬、祝官の長。漢には太常の屬、祠祀を掌る。後漢以後、皆相ついで置き、唐には祝文を讀み、神主を出納することを掌る。三國・五代には置かない。大祝(**3－5831‥1130**)の㊀を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕奉常、秦官、掌二宗廟禮儀一、有レ丞、景帝中六年、更二名太常一、屬官有二太樂・太祝・太宰・太史・太卜・太醫六令丞一、云云、景帝中六年、更二名太祝一爲二祠祀一、武帝太初元年、更曰二廟祀一。〔通典、職官、諸卿上、太常卿〕太祝、殷官、與二太宰一等、官爲二六太一、周官太祝、下大夫二人、上士四人、掌二六祝之辭一、以祈二福祥一、秦・漢有二太祝令丞一、後漢亦曰二太祝令丞一、晉・宋・齊・梁・陳・後魏・北齊、皆因レ之、後周依二周官一、至レ隋置二太祝署太祝令丞一、煬帝罷レ署、太祝八人、大唐初、有二七人一、後增爲二九人一、開元二十三年、減置二三人一、掌下讀二祝文一出中納神主上。㊁複姓。〔姓譜〕古者擇下先聖之後

有二光烈一、而能知二山川之號、高祖之主一、肅二恭明神一者上、以爲二太祝一、故後世以レ官爲レ氏。

【太初】274 タイショ ❶氣の始。太易の次。天地開闢の前。上古。〔廣雅、釋天〕太初、氣之始也。〔易、繫辭上、易有二太極一、疏〕太極、謂二天地未レ分以前、元氣混而爲一レ一、卽是太初太一也。〔莊子、列禦寇〕形累不レ知二太初一。〔列子、天瑞〕太初者、氣之始也。〔太平御覽、天、太初〕帝王世紀曰、元氣始萌、謂二之太初一。〔太平御覽、天、太初〕揚雄檄靈賦曰、太易之始、太初之先、馮馮沈沈、奮搏無レ端。〔孔穎達、周易正義序〕有二太易一、有二太初一、有二太始一。❷道の本。〔莊子、知北遊〕外不レ觀二乎宇宙一、內不レ知二乎太初一。〔疏〕太初、道本也。❸年號。㋑漢、武帝、劉徹の時。(B.C.104－101) ㋺南朝宋、文帝の時、元凶劭の僭年號。(453) ㋩五胡十六國、前秦、太宗、高帝の時。(386－394) ㋥五胡十六國、西秦、高祖武元王、乞伏乾歸の時。(388－400) ㋭五胡十六國、南涼、烈祖武王、禿髮烏孤の時。(397－399) ㋬漢、哀帝の太初元將の略稱。(B.C.5) ❹字號。㋑三國魏、夏侯玄(**3**－**5720**‥102)の字。㋺唐、劉闢(**2**－**2224**‥595)の字。㋩五代吳越、方昊(**5**－**13620**‥49)の字。㋥宋、石茂良(**8**－**24024**‥1040)の字。㋭宋、潘彙征(**7**－**18236**‥111)の字。㋬宋、李沆(**6**－**14459**‥113)の字。㋣宋、陸夢發(**11**－**41708**‥425)の字。㋠宋、汪楚材(**6**－**17154**‥276)の字。㋷元、奕赫抵雅爾丁(**3**－**5922**‥27)の字。㋦元、魏初(**12**－**45872**‥82)の字。㋸元、倪道源(**1**－**792**‥63)の字。㋾元、董旭(**9**－**31433**‥45)の字。㋻元、董朴(**9**－**31433**‥155)の字。㋕明、游樸(**7**－**17792**‥298)の字。㋵明、易先(**5**－**13814**‥116)の字。㋟明、顧起元(**12**－**43689**‥236)の字。㋹明、孫一元(**3**－**6987**‥321)の字。㋞明、張允孝(**4**－**9812**‥785)の字。㋡明、張汝元(**4**－**9812**‥1201)の字。㋧清、陳沆(**11**－**41698**‥70)の字。㋤清、鄧士錦(**11**－**39630**‥150)の字。

【太初曆】275 タイショレキ 漢の武帝の太初元年に閎鄧平の作つた曆。太初元年を曆元とし、一年を冬至から始めて十九年七閏法を用ひ、其の體は十二等分し、其の時期を十一月中・十二月中・一月中・二月中等と名づけ、一箇月中に含む中氣の名を以て名づけ、三箇月每に中氣を含まぬ月を閏月とする。史記曆書に見えてゐる曆術甲子篇及び三統曆も共に太初曆である。〔漢書、律歷志上〕十一月甲子朔旦冬至、日月在二建星一、太歲在レ子、已得二太初本星度新正一、姓等奏、不レ能レ爲レ算、願募二治レ歷者一、更造二密度一、各自增減以造二漢太初曆一。〔後漢書、律曆志論〕至二武帝元封一、不二與レ天合一、乃會二術士一作二太初曆一。

【太初元將】276 タイショゲンシヤウ 漢、哀帝、劉欣の年號。(B.C.5)

【太初日月】277 タイショジツゲツ 蒙求の標題。三國、魏の夏侯玄(字は太初)が、人柄の朗朗たること日月の懷に入るが如しといはれた故事。〔世說新語、容止〕時人目二夏侯太初一、朗朗如二日月之入一レ懷、李安國頹唐、如二玉山之將一レ崩。〔蒙求、上〕太初日月、季野陽秋。

【太初道人】278 タイショダウジン 金、趙淇(**10**－**37171**‥88)の號。

【太松】279 タイショウ 清、黃松(**12**－**47926**‥492)の號。

【太衝】280 タイショウ ❶叢辰の名。十二月將の一。日と月とが九月に卯宮に於て相會するをいふ。月將(**5**－**14330**‥165)の❷・十二月將(**2**－**2695**‥420)を見よ。❷人體の肝脈の氣。〔素問、至眞要大論〕太衝絕、死不レ治。〔注〕太衝、肝脈氣也。

【太織】281 フトオリ 粗く太い絹絲で織つた織物。

【太眞】282 タイシン ❶宇宙を構成する陰陽の二元氣。宇宙の原質。太貞(363)を見よ。〔韻府引子華子〕太眞剖割、通レ三而爲レ一、離レ之而爲レ兩、各有二精專一、是名二太眞一。❷金の異名。〔本草、金〕釋名、黃牙・太眞、弘景曰、仙方名レ金爲二太眞一。❸人名。㋑西王母の小女。〔雲笈七籤〕太眞夫人、王母小女也。㋺唐の玄宗皇帝の妃、楊貴妃をいふ。〔唐書、楊貴妃傳〕丐二籍女官一、號二太眞一。❹字號。㋑晉、溫嶠(**7**－**17968**‥58)の字。㋺唐、徐師道(**4**－**10110**‥459)の字。

【太眞玉臺】283 タイシンギョクダイ 蒙求の標題。晉の溫嶠(字は太眞)が、玉鏡臺を以て婦を得た故事。〔蒙求、中、太眞玉臺〕世說曰、嶠喪レ婦、從姑劉氏家、經レ亂離散、唯有二一女一、甚有二姿慧一、姑屬レ公覓レ婚、公有二自婚意一、答曰、佳婿難レ得、但如レ嶠云何、姑云、喪敗之餘、乞二粗存活一、便是慰二吾餘年一、何敢希二汝比一、後少日、公報レ姑云、已得二婚處一、門地婿身、盡不レ減レ嶠、因下二玉鏡臺一枚一、姑大喜、既交禮、女以レ手披二紗扇一、撫レ掌大笑曰、我固疑二是老奴一、果如レ所レ卜、玉鏡臺、是公爲二劉越石長史一、北征二劉聰一所レ得也。

【太眞外傳】284 タイシングワイデン 書名。楊太眞外傳(**6**－**15112**‥674)を見よ。

【太秦】285 ウツマサ ❶京都市右京區にある町の名。昔、秦の遺民が歸化して此の地に居住し、雄略天皇の時、禹都萬佐の姓を賜はつて遂に地名となる。❷河內國の地名。❸姓氏。〔姓名錄抄〕。

【太寢】286 タイシン 祖先のみたまや。祖廟。〔呂覽、孟春〕反執二爵于太寢一。〔注〕太寢、祖廟也。

【太任】287 タイジン 商の人。摯國の仲女。任姓。周の王季の妃。文王の母。太姒(240)を見よ。

【太甚】288 タイジン はなはだしい。〔詩、大雅、雲漢〕旱既太甚。〔漢書、黃霸傳〕凡治道去二其太甚者一耳。〔說苑、立節〕彼譖レ人者、亦已太甚。

【太數】289 tʻai^4 shu^4 既に値の知られてゐる數。既知數。

【太正】290 タイセイ 太白星をいふ。大正(**3**－**5831**‥1279)の❸に同じ。〔騈雅、釋天〕太正、太白也。

【太征】291 タイセイ 複姓。〔姓苑〕下邳人有二太征氏一、張澍云、必其先有二征伐太功一、故以爲レ氏。

【太青】292 タイセイ 明、文翔鳳(**5**－**13450**‥998)の號。

【太清】293 タイセイ ❶道。天道。〔莊子、天運〕行レ之以二禮義一、建レ之以二太清一。〔疏〕太清、天道也。〔淮南子、精神訓〕抱二其太清之本一、而無レ所二容與一、而物無二能營一。❷天をいふ。〔鶡冠子、度萬〕唯聖人能正二其音一、調二其聲一、故其德、上及二太清一、下及二太寧一、中及二萬靈一。〔陸佃解〕太清、天也。〔後漢書、仲長統傳〕敖二翔太清一。〔孟浩然、望二洞庭一上二張丞相一詩〕八月湖水平、涵レ虛混二太清一。❸道家の三清の一。四十支里上層の空間をいふ。〔抱朴子、雜應〕上昇四十里、名曰二太清一、太清之中、其氣甚剛。❹年號。㋑五胡十六國、前涼、悼公、張天錫の時。(363－376) ㋺梁、武帝、蕭衍の時。(547－552)

【太清氅】294 タイセイシヤウ 夏に着る外衫の名。甚だ涼しいから名づく。〔清異錄、衣服、小太清〕臨川上饒之民、以二新智一剏二作醒骨紗一、用二純絲蕉骨一、相兼撚織、夏月衣レ之、輕涼適レ體、陳鳳閣喬、始以爲二外衫一、號二太清氅一。

【太清樓】295 タイセイロウ 宋代、朝廷の圖書を藏した宮殿の名。〔宋史、仁宗紀三〕慶曆四年九月丁亥、宴二宗室太清樓一、射二於苑中一。〔玉海、宮室、樓、咸平太清樓〕咸平三年、云云、詔二三館一寫二四部書一本一、置二禁中太清樓一、以便二觀覽一。

【太清神鑑】296 タイセイシンカン 書名。六卷。後周の王朴撰と傳へるが、朴の事迹とは關係なく、依託の書である。相術を說く。引用の諸家の古相書も亦已に滅びた。〔四庫提要、子、術數類〕。

【太清眞人】297 タイセイシンジン 南朝宋、彭宗(**4**－**10003**‥84)の號。

【太清尊者】298 タイセイソンジヤ 消石(**6**－**17529**‥73)の異名。〔事物異名錄、藥材下、石類〕清異錄、侯寧極藥譜、太清尊者、朴消也。

【太清樓帖】299 タイセイロウデフ 宋の徽宗の大觀中、石に刻した法帖。二十二卷。大觀帖ともいふ。〔輟耕錄、淳化閣帖〕又刻二孫過庭書譜及貞觀十七帖一、總爲二二十二卷一、謂二之大觀太清樓帖一。

【滓二穢太清一】300 タイセイヲシワイス 天をけがす。清らかに晴れた空に雲が出ることをいふ。晉の司馬道子が謝景重の、清天には微雲あるを善しとすといつたのを貶した語。〔世說新語、言語〕司馬太傅、齋中夜坐、於レ時天月明淨、都無二纖翳一、太傅歎以爲レ佳、謝景重在レ座、答曰、意謂、乃不レ如二微雲點綴一、太傅曰、卿居レ心不レ淨、乃復強欲三滓二穢太清一邪。

【太清西林春】301 タイセイセイリンシユン 清、顧太清(**12**－**43689**‥321)の號。

【太誓】302 タイセイ 書經の篇名。泰誓(**6**－**17325**‥106)に同じ。〔史記、齊太公世家〕武王卽レ位九年、欲下修二文王業一、東伐以觀中諸侯集否上、師行、云云、遂至二盟津一、諸侯不レ期而會者、八百諸侯、諸侯皆曰、紂可レ伐也、武王曰、未レ可、還レ師、與二太公一作二此太誓一。

【太聲】303 タイセイ 明、陳鐸(**11**－**41698**‥456)の字。

【太昭】304 タイセウ ❶天地開闢以前をいふ。太始。〔淮南子、天文訓〕天墜未レ形、馮馮翼翼、洞洞灟灟、故曰二太昭一。❷時を祭る時、少牢を埋めるところ。〔孔叢子、論書〕埋二少牢於太昭一、所二以祭一レ時也。❸縣名。民國、置く。もと西藏の江達の地。西康省に屬す。丹達山麓に當り、康藏交通の關鍵をなす。

【太宵】305 タイセウ 長い夜。大宵。〔淮南子、精神訓〕甘二瞑于太宵之宅一。〔注〕太宵、長夜之中。

【太拙】306 タイセツ 清、徐振芳(4－10110‥501)の字。

【太占】307 フトマニ 上古、鹿の骨を焚き、裂けた文によつて吉凶を占つた占ひ方。〔日本書紀、神代紀上〕太占、此云二布刀磨爾一。

【太前】308 フトマヘ ひろまへ。神佛の御まへ。〔祝詞式、祈年祭〕天照大神能太前爾白久。

【太祖】309 タイソ ❶物の始。原始。〔文子、道原〕無形者、物之太祖、無音者、類之大宗。❷初代の帝王の廟號。又、始祖をいふ。大祖。〔禮、王制〕天子七廟、三昭三穆、與二太祖之廟一而七。〔荀子、禮論〕故王者天二太祖一、諸侯不二敢壞一。〔注〕太祖、若二周之后稷一。㋑三國魏の武帝。曹操(5－14297‥91)を見よ。㋺西晉の文王。司馬昭(2－3257‥280)を見よ。㋩五胡十六國、西秦の第三世、文昭王。乞伏熾磐(1－170‥66)を見よ。㋥後秦の武昭帝。姚萇(3－6202‥94)を見よ。㋭後涼の懿武帝。呂光(2－3386‥48)を見よ。㋬西夏の神武帝。李繼遷(6－14459‥1116)を見よ。㋣北涼の武宣王。沮渠蒙遜(6－17238‥17)を見よ。㋠後趙の武帝。石虎(8－24024‥283)を見よ。㋷南朝宋の第三世、文帝。劉義隆(2－2224‥799)を見よ。㋦南齊の祖、高帝。蕭道成(9－32012‥468)を見よ。㋸北齊、渤海の獻武王。又、高祖ともいふ。高歡(12－45313‥233)を見よ。㋾後魏の平文帝。拓跋鬱律(5－11958‥75)を見よ。㋻後魏の道武帝。拓跋珪(5－11958‥34)を見よ。㋕北周の文帝。宇文泰(3－7067‥64)を見よ。㋵五代梁の第一世。朱全忠(6－14424‥892)を見よ。㋟五代、唐の武帝。李克用(6－14459‥1238)を見よ。㋹五代、吳の武帝。楊行密(6－15112‥452)を見よ。㋞五代、閩の第一世、昭武帝。王審知(7－20823‥1733)を見よ。㋡五代、周の第一世。郭威(11－39474‥3)を見よ。㋧宋の第一世。趙匡胤(10－37171‥467)を見よ。㋤遼の第一世。耶律阿保機(9－29008‥150)を見よ。㋶金の太祖。完顏旻(3－7079‥42)を見よ。㋰元の第一世。鐵木眞(11－40945‥409)を見よ。㋒明の第一世。朱元璋(6－14424‥759)を見よ。㋼清の第一世。愛親覺羅努爾哈赤。清、太祖(7－17695‥890)を見よ。㋨高麗の第一世。姓は王。名は建。㋔朝鮮李朝の第一世。姓は李。名は成桂。

〖太祖高帝〗310 タイソカウテイ ❶漢の高祖。劉邦(2－2224‥541)を見よ。❷南齊の高帝。蕭道成(9－32012‥468)を見よ。

〖太祖文帝〗311 タイソブンテイ 北周の文帝。宇文泰(3－7067‥64)を見よ。

〖太祖道武帝〗312 タイソダウブテイ 後魏の道武帝。拓跋珪(5－11958‥34)を見よ。

〖太祖文皇帝〗313 タイソブンクワウテイ 南朝宋の文帝。劉義隆(2－2224‥799)を見よ。

〖太祖高皇帝聖訓〗314 タイソカウクワウテイセイクン 書名。四卷。康熙二十五年、康熙帝敕修。九十二章、二十六目から成り、萬方に示して開國の鴻謨を說く。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【太素】315 タイソ ❶物質の始。太始の次に當るといふ。天地の未だ成立しない時。開闢以前。〔列子、天瑞〕太素者、質之始也。〔太平御覽、天部、太素〕易乾鑿度曰、太素者、質之始也。〔太平御覽、天部、太素〕帝王世紀曰、形變有レ質、謂二之太素一、太素之前、幽清寂寞、不レ可レ爲レ象、惟虛無、蓋道之根、道既建、猶無レ生、有二太素一、質始萌、萌而未レ兆、謂二之厖洪一、蓋道之乾、既育二萬物一成レ體、於レ是剛柔始分、清濁始位、天成二於外一而體陽、故圓以動、蓋道之實。〔北史、許善心傳〕太素將レ萌、洪荒初判。〔孔穎達、周易正義序〕有二太始一、有二太素一。❷極めて質樸の性。又、質素。質樸。〔淮南子、俶眞訓〕偃二其聰明一、而抱二其太素一。〔注〕素、樸性也。〔張衡、東京賦〕遵二節儉一、尚二素樸一。〔何晏、景福殿賦〕絕二流遁之繁禮一、反二人情於太素一。〔注〕善曰、太素、樸素也。❸字號。㋑唐、李浩(6－14459‥120)の字。㋺宋、宗白(3－7106‥223)の字。㋩宋、賴文俊(10－36861‥42)の字。㋥元、白樸(8－22678‥1064)の字。㋭明、田頊(7－21723‥63)の字。

〖太素脈〗316 タイソミヤク 脈をみて人の吉凶壽命を卜ふ術。唐の隱者、張太素が董威輩からこの術を授けられて、始めて行つたから名づく。〔雞肋編〕有二太素脈法一卷、序言、本唐隱者董威輩、以授二張太素一、太素始行二其術一、故名。

〖太素籙〗317 タイソロク 大空を飛行し、身を隱す術を書いた祕籙。〔三洞經教釋〕太素玉籙者、晨君所レ修、五帝神使レ祕二于素靈上宮一、得者飛二行太空一、能隱能藏。

〖太素道人〗318 タイソダウジン 清、奕繪(3－5922‥12)の號。

【太疎】319 タイソ 甚だまばらなこと。〔白虎通、巡狩〕所二以五歲巡狩一何、爲二太煩一也、過二五年一爲二太疎一也、云云、故五歲一巡狩。

【太宗】320 タイソウ ❶事物の本をいふ。〔淮南子、要略〕語不下剖二判純樸一、靡中散太宗上。〔注〕太宗、事本也。❷古の官名。周の宗伯に當る。〔書、顧命〕太保・太史・太宗、皆麻冕彤裳。〔傳〕太宗、上宗、卽宗伯也。❸太祖に繼いで、王朝公室に最も功德のあつた祖先に奉る廟號。〔史記、太史公自序〕廣レ恩博レ施、厥稱二太宗一。〔新書、數寧〕禮祖二有功一、宗二有德一、始取二天下一爲レ功、始治二天下一爲レ德、因顧成之廟、稱爲二天下太宗一、承二太祖一與二天下一、漢長亡レ極耳。㋑商の王。太甲(76)を見よ。㋺漢の文帝。劉恆(2－2224‥278)を見よ。㋩東晉の第二世、簡文帝。司馬昱(2－3257‥210)を見よ。㋥前秦の高帝。苻登(9－30825‥13)を見よ。㋭西夏の王。李德明(6－14459‥1828)を見よ。㋬南朝宋の明帝。劉彧(2－2224‥16)を見よ。㋣梁の第二世、簡文帝。蕭綱(9－32012‥43)を見よ。㋠北魏の第二世、明元帝。拓跋嗣(5－11958‥41)を見よ。㋷唐の第二世、文武帝。李世民(6－14459‥1550)を見よ。㋦宋の第二世。趙炅(10－37171‥136)を見よ。㋸梁の第二世。耶律德光(9－29008‥126)を見よ。㋾金の第二世。完顏晟(3－7079‥32)を見よ。㋻元の第二世。窩闊台(8－25579‥47)を見よ。㋕清の第二世。清、太宗(7－17695‥892)を見よ。

〖太宗師〗321 タイソウシ 試驗官の稱呼。大宗師(3－5831‥1458)の❸を見よ。

〖太宗正院〗322 タイソウセイヰン 官署の名。宗人府(3－7106‥168)に同じ。〔稱謂錄、宗人府、太宗正院〕明史、洪武三年、置二太宗正院一、二十二年、改爲二宗人府一、並以二親王一領レ之。

〖太宗呑レ蝗〗323 タイソウイナゴヲノム 唐の太宗が、身を以て百姓の災難に代らんとして、蝗を呑んで百姓の害を攘つた故事。〔貞觀政要、務農〕貞觀二年、京師旱、蝗蟲大起、太宗入レ苑視レ禾、見二蝗蟲一、掇二數枚一而呪曰、人以レ穀爲レ命、而汝食レ之、是害二于百姓一、百姓有レ過、在二予一人一、爾其有レ靈、但當レ蝕二我心一、無レ害二百姓一、將レ呑レ之、左右遽諫曰、恐成レ疾、不可、太宗曰、所レ冀、移二災朕躬一、何疾之避、遂呑レ之、自レ是蝗不二復爲一レ災。〔白居易、捕蝗詩〕又聞貞觀之初道欲レ昌、文皇仰レ天呑二一蝗一。

〖太宗簡文帝〗324 タイソウカンブンテイ 梁の簡文帝。蕭綱(9－32012‥43)を見よ。

〖太宗明皇帝〗325 タイソウメイクワウテイ 南朝宋の明帝。劉彧(2－2224‥16)を見よ。

〖太宗明元帝〗326 タイソウメイゲンテイ 北魏の明元帝。拓跋嗣(5－11958‥41)を見よ。

〖太宗文皇帝聖訓〗327 タイソウブンクワウテイセイクン 書名。六卷。清、世祖章皇帝敕撰。康熙二十六年編次す。凡て一百一十一章、分つて二十三目とす。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【太蔟】328 タイソウ 太簇(329)の❶に同じ。〔呂覽、孟春紀〕律中二太蔟一、其數八。〔注〕太蔟、陽律也、竹管音與二太蔟聲一和、太陰氣衰、少陽氣發、萬物動生、蔟レ地而出、故曰二律中二太蔟一。

【太簇】329 タイソウ ❶六律の一。黃鐘から第三番目の律。十二支の寅に配し、夏曆の正月に配す。我が國の平調に相當する。大蔟(3－5831‥1469)・泰簇(6－17325‥117)・十二律(2－2695‥407)を見よ。〔淮南子、時則訓〕律中二太簇一、其數八。〔注〕陰衰陽發、萬物太二簇地一而生、故曰二太簇一。❷正月の異名。〔呂覽、音律〕太簇之月、陽氣始生、草木繁動、令二農發一レ土、無レ或レ失レ時。〔注〕太簇、正月、冬至後四十六日立春、故曰二陽氣始

生㆒。

【太息】330 タイソク　ためいき。又、ためいきをする。大息。〔戰國、齊策〕宣王太息、動㆓於顏色㆒。〔史記、高祖紀〕喟然太息。〔史記、蘇秦傳〕按㆑劍仰㆑天太息。〔注〕索隱曰、太息、久蓄㆑氣而大呼也。〔莊子、天運〕豈直太息而言㆓仁孝㆒乎哉。〔韓非子、內儲說下〕大夫種受㆑書讀㆑之、太息而歎曰、殺㆑之越與㆑吳同㆑命。〔晏子、重而異者〕公喟然太息。〔曹植、雜詩〕太息終㆓長夜㆒、悲嘯守㆓青空㆒。

【太孫】331 タイソン　天子のまご。皇孫。〔漢書、成帝紀〕孝成皇帝、元帝太子也、母曰㆓王皇后㆒、元帝在㆓太子宮㆒、生㆓甲觀畫堂㆒、爲㆓世嫡皇孫㆒、宣帝愛㆑之、字曰㆓太孫㆒、常置㆓左右㆒。

【太尊】332 タイソン　㊀高祖の尊稱。〔揚雄、長楊賦〕所㆘以奉㆓太尊之烈㆒、遵㆗文武之度㆖。〔注〕善曰、太尊、高祖也。㊁星の名。中台の北の一星。〔晉書、天文志上〕中台之北一星曰㆓太尊㆒、貴戚也。㊂t'ai^{4} tsuen^{1}　知府の別稱。

【太多】333 タイタ　甚だ多い。非常に多い。〔方干、酬㆓孫發㆒詩〕二十八言猶太多。

【太太】335 タイタイ　明代、官吏の中丞以上の者の妻を呼ぶ稱。又、人の妻の敬稱。〔通俗編、稱謂、太太〕胡應麟甲乙剩言、有㆔一邊道轉㆓御史中丞㆒、作㆓除夕詩㆒云、幸喜荊妻稱㆓太太㆒、且斟㆓栢酒㆒樂㆓陶陶㆒、蓋部民呼㆓有司眷屬㆒、惟中丞以上得㆑呼㆓太太㆒耳、故幸而見㆑之歌咏、讀者絕倒、何良俊四友齋叢說、松江十來年間、凡士夫妻年未㆓三十㆒、卽呼㆓太太㆒、前輩未㆑有㆑此、大爲㆑可㆑笑也、按、今燕秦之地、雖㆓丐婦㆒、無㆘不㆑稱㆓太太㆒者㆖。〔紅樓夢、三回〕想是太太記錯了。

〖太太公〗336 タイタイコウ　高祖父の俗稱。〔釋親考〕太太公、太太婆。〔注〕按、稱㆓高祖王父母㆒者、古之稱也、高祖父母者、正稱也、太太公婆者、俗稱也。

〖太太婆〗337 タイタイバ　高祖母の俗稱。太太公を見よ。

〖太太神樂〗338 ダイダイカグラ　伊勢神宮へ庶人の奉る神樂。〔安齋隨筆〕。

【太棹】339 フトザヲ　三味線の棹の普通より太いもの。淨瑠璃節に用ひる。細棹の對。〔浮世風呂、三編下〕ふとざをの一の絲。

【太刀】340 タチ　㊀上古、刀劍の汎稱。〔古事記、上〕たちが緒も未だ解かずて。㊁中古以來、儀仗・軍陣に用ひる大刀の稱。〔倭名類聚抄、調度部、征戰具〕刀、四聲字苑云、似㆑劍而一刃曰㆑刀。〔注〕太刀、太知、小刀、賀太奈。

〖太刀音〗341 タチオト　太刀で鬪ふ音。〔浦島年代記、三〕切り合ひ打ち合ふ太刀音・鍔音。

〖太刀魚〗342 タチノウヲ　魚の名。形ははもに似、刀身の如く細長く、長さ五六尺に至る。たちいを。たちうを。〔和漢三才圖會、江海無鱗魚、鱭〕俗云㆓太刀魚㆒。

〖太刀遣〗343 タチツカヒ　㊀太刀のつかひ方。㊁太刀を巧みに遣ふ人。

〖太刀搔〗344 タチカキ　太刀でうつこと。太刀うち。〔日本書紀、崇神紀〕八廻擊刀（タチカキス）。

〖太刀取〗345 タチトリ　㊀切腹の介錯人。又、斬罪に刑人の首を刎ねる者。〔保元物語、爲義最期〕正清太刀取にて失ひ參らすべきにて候。㊁相撲の太刀取。横綱の土俵入の時に太刀を持つて從ふ力士。太刀持。

〖太刀緒〗346 タチノヲ　太刀のおびとりのを。あしのを。〔大和物語、上〕たちのをにすべき草。

〖太刀先〗347 タチサキ　太刀のほさき。太刀のきつさき。〔本朝若風俗、四〕太刀先にて埒あけん。

〖太刀打〗348 タチウチ　㊀太刀で戰ふこと。刃向ふこと。たちかき。〔長祿記〕一番の太刀打ち也。㊁槍の口金から血溜りまでの稱。

〖太刀持〗349 タチモチ　㊀主君の太刀を取つて、其の側に侍る役。〔俳諧古選、附錄〕太刀持は雪にころんで見えぬなり。㊁相撲の太刀取。太刀取(345)の㊁に同じ。

〖太刀風〗350 タチカゼ　㊀太刀を鋭く振る時に起る風。〔大友興廢記、妙林一城持事〕國光の刀するりと拔き、二三人の耳に太刀風をあてられければ。㊁戰ひ振りの勇ましいこと。武威。〔蜂須賀文書、秀吉小早川左衞門佐贈書狀〕筑前守太刀風に驚き。

〖太刀捌〗351 タチサバキ　太刀の取扱ひ方。〔國姓爺合戰、四〕上段下段の太刀捌き。

〖太刀絡〗352 タチガラミ　太刀を鎧に絡みつける、籐などで作つた環。

〖太刀佩部〗353 タチハキベ　上古、帶刀して貴人に供奉した部族。〔日本書紀、垂仁紀、注〕太刀佩部。

【太治】354 タイチ　元末・明初、大越(安南)の裕宗、陳暐の年號、大治の一稱。(1358－1369)

【太稺】355 タイチ　明、黃景昉(**12**－**47926**··1065)の字。

【太癡】356 t'ai^{4} ch'ih^{2}　おろかなこと。太痴。〔紅樓夢、一回〕石頭笑答曰、我師何太痴也。

【太妞】357 t'ai^{4} niu^{1}　二十歲前後の處女をいふ。滿洲及び北支那の語。

【太沖】358 タイチユウ　㊀萬物を創造する陰陽の二元氣をいふ。太虛。〔莊子、應帝王〕列子入以告㆓壺子㆒、壺子曰、吾鄉示㆑之以㆓太沖莫勝㆒。〔疏〕沖、虛也。〔列子、黃帝〕向吾示㆑之以㆓太沖莫朕㆒。㊁字號。㋑晉、左思(**4**－**8720**··219)の字。㋺後魏、崔頤(**4**－**8178**··2)の字。㋩唐、韓滉(**12**－**43159**··75)の字。㋥南唐、呉仲擧(**2**－**3365**··779)の字。㋭宋、孫道夫(**3**－**6987**··491)の字。㋬明、朱謀鸛(**6**－**14424**··997)の字。㋣清、黃宗羲(**12**－**47926**··1209)の字。㋠清、呉熙(**2**－**3365**··90)の字。㋷清、鄒世任(**11**－**39562**··100)の字。

【太丁】359 タイテイ　殷の湯王の子。卽位しないで卒す。崩じて弟外丙、立つ。清の羅振玉は、孟子及び史記に皆、太丁は卽位しないといふが、卜辭の中に其の名が屢〻見えることに依れば、太丁を帝の禮を以て祭つたことは明かであり、卽位しない者をかくの如く遇するのは道理に合はない、或は孟子や史記に誤があるのかも知れない、といつてゐる。〔孟子、萬章、上〕・〔史記、三〕・〔增訂殷虛書契考釋、上〕。

【太弟】360 タイテイ　天子の弟の尊稱。皇弟。皇太弟。〔晉書、劉聰載記〕聰初讓㆓其弟北海王乂㆒、云云、於㆑是以㆓永嘉四年㆒、僭卽㆓皇帝位㆒、云云、尊㆓元海妻單氏㆒曰㆓皇太后㆒、其母張氏爲㆓帝太后㆒、乂爲㆓皇太弟㆒、領㆓大單于大司徒㆒。〔前趙錄〕爲㆓帝太弟㆒。〔皇年代略記〕正治二年四月十五日、立㆓太弟㆒、承元四年十一月二十五日己酉、受㆑禪。

【太帝】361 タイテイ　㊀伏犧氏をいふ。〔史記、封禪書〕或曰、太帝使㆔素女鼓㆓五十絃瑟㆒、悲、帝禁不㆑止、故破㆓其瑟㆒爲㆓二十五絃㆒。〔注〕正義曰、太帝、謂㆓太昊伏羲氏㆒。㊁天帝をいふ。太帝之居を見よ。

〖太帝之居〗362 タイテイノキョ　天帝の居所。〔淮南子、墜形訓〕崑崙之丘、或上倍㆑之、是謂㆓涼風之山㆒、云云、登㆑之乃神、是謂㆓太帝之居㆒。〔注〕太帝、天帝也。

【太貞】363 タイテイ　宇宙を構成する元氣。太極の氣。太眞。〔子華子、陽城胥渠問〕太貞剖割、通㆑三而爲㆑一、離㆑之而爲㆑兩、各有㆓精專㆒、是名㆓陰陽㆒。〔傅毅、舞賦〕啓㆓太貞之否隔㆒兮。〔注〕善曰、太貞、太極之氣也。

【太典】364 タイテン　重い位。〔任昉、王文憲集序〕謙光愈遠、太典未㆑申。〔注〕濟曰、太典、重位也。

【太顚】365 タイテン　古の人の名。文王の臣、成王の師。一に泰顚に作る。〔史記、周紀〕文王禮㆓下賢者㆒、太顚・閎夭・散宜生・鬻子・辛甲・大夫之徒、皆往歸㆑之。〔後漢書、班彪傳〕昔成王之爲㆓孺子㆒、出則周公・召公・太史・史佚、入則太顚・閎夭・南宮括・散宜生、左右前後、禮無㆓違者㆒。

【太寧】366 タイネイ　㊀極めてやすらかなこと。大寧。〔莊子、列禦寇〕知在㆓毫末㆒、而不㆑知㆓太寧㆒。〔忠經〕天地太寧、君之德也。㊁地をいふ。泰寧(**6**－**17325**··138)の㊁に同じ。㊂年號。㋑晉、明帝、司馬紹の時。(323－326)　㋺北齊、武成帝、高湛の時。(561－562)　㋩五胡十六國、後趙、石虎の時。(349)　㋥宋代、大越(安南)の仁宗、李乾德の時。(1072－1076)

【太婆】367 タイバ　㊀祖母をいふ。〔孔平仲、代㆓小子廣孫㆒寄㆑翁詩〕太婆八十五、寢膳近何似。㊁曾祖母の俗稱。太公(144)の㊄を見よ。〔稱謂錄、祖母、太婆〕案、古有㆓稱㆑母曰㆑婆者㆒、故稱㆓祖母㆒曰㆓太婆㆒、今俗則稱㆓祖母㆒曰㆑婆、而曾祖母曰㆓太婆㆒矣。

【太寶】368 タイハウ　年號。㋑梁、簡文帝、蕭綱の年號、大寶の一稱。(550－551)　㋺南宋、高宗の代、後理(南詔)の景宗、段正興の時。(1148－1171)

【太白】369 タイハク　㊀甚だ潔白なこと。潔白の極致。大白(**3**－**5831**··1909)の㊀に同じ。㊁星の名。金星(**11**－**40152**··641)の異名。太囂。太正。〔爾雅、釋天〕明星、謂㆓之啓明㆒。〔注〕太白星也、晨見㆓東方㆒爲㆓啓明㆒、昏見㆓西方㆒爲㆓太白㆒。〔廣雅、釋天〕太白謂㆓之長庚㆒、或謂㆓之太囂㆒。〔太平御覽、天

部〕天官星占曰、太白、一名天相、一名大正。〔史記、天官書〕其與㆓太白㆒倶出㆓東方㆒。〔漢書、李尋傳〕太白發、越犯㆑庫。〔後漢書、杜篤傳〕命㆓騰太白㆒、親發㆓狼弧㆒。㊂殷の旗。紋様がなくて白色。大白（**3－5831**‥1909）の㊂を見よ。〔戰國、趙策〕卒斬㆓紂之頭㆒、而懸㆓太白㆒者、是武王之功也。㊃河の神。河伯（**6－17245**‥217）の異名。〔枚乘、七發〕六㆓駕蛟龍㆒、附㆓從太白㆒。〔注〕善曰、許愼曰、馮遲・太白、河伯也。㊄大きい杯の異名。大白（**3－5831**‥1909）の㊁に同じ。㊅山名。㋑滿洲吉林省の長白山。北史には從太山に作る。太皇山ともいふ。㋺河南省淅川縣の東南。峯巒高峻、下は丹水に臨む。縣境の羣山が回環し、關中の南山・秦嶺と參差映帶す。關中の太白山に似てゐるから名づく。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鄧州、內鄉縣〕太白山、縣南一百二十里、峯巒高峻、下臨㆓丹河㆒、舊指㆓此山㆒爲㆓順陽・淅川二縣分㆑界處㆒、志云、縣境羣山回環、連接綿遠、與㆓關中之南山・秦嶺㆒參差映帶、此山亦以㆑似㆓關中之太白㆒而名。㋩浙江省嵊縣の西。縣治の西の障をなし、三邑に跨がり、地方によつて西白・東白・北白等といふ。〔高似孫剡錄〕峻極㆓崔巍㆒、吐㆑雲納㆑景、趙廣信昇仙處也、一名太平山、又名㆓岑山㆒、上有㆓瀑布㆒、卽水經注之白石山也。㋥陝西省郿縣の南。洋縣の界に接す。太一・大壹ともいふ。〔水經、渭水注〕地理志曰、縣有㆓太一山㆒、古文以爲㆓終南㆒、杜預以爲㆓中南㆒也、亦曰㆓太白山㆒、在㆓武功縣南㆒、去㆓長安二百里㆒、不㆑知㆓其高幾何㆒。㋭甘肅省慶陽縣の北。黑水河の源。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府、景山〕太白山、在㆓府北一百五十里㆒、黑水河發㆓源於此㆒。㊆湖の名。㋑湖北省漢陽縣の西南。沔陽縣の界。一名、九眞湖。又、白湖。〔水經、沔水注〕沔水又東逕㆓沌水口㆒、水南通㆓縣之太白湖㆒。㋺湖北省黃梅縣の西南。其の近い所に長安湖・陶水湖があり、倶に楊林湖に通ず。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、蘄州、黃梅縣、源感湖〕太白湖、在㆓縣西南四十里㆒、其相近者曰㆓南北柴池湖㆒。㊇樓の名。㋑山東省濟寧縣の南城の上。唐の李白が任城に遊び、縣令賀知章と此處に宴したので、後人が樓を建てた。㋺湖北省漢陽縣の南紀門內の舊府署の前。唐の李白の嘗て宴した處。㋩安徽省當塗縣の采石磯。謫仙樓ともいふ。唐の李白が醉後月を捉へようとして采石江に落ちて死んだといふ傳說に依る。清の朱筠が安徽の督學となり、幕僚を此處に會して詩を賦す。㊈字號。㋑唐、李白（**6－14459**‥663）の字。㋺元、葉李（**9－31387**‥141）の字。㊉精製した純白の砂糖。⑪太い絹絲。

【太白神】370（タイハクジン） 陰陽家の祀る神。太白星の精、白帝の子。大將軍の象で兵凶を主る。一の日には東に在り、二の日には巽に在り、此のやうにして南・坤・西と順次に遊行し、九の日には天上に在り、十の日には地に在る。其の在る所の方は百事に凶とする。ひとひめぐり。太白遊方を見よ。〔運步色葉集〕大白遊行方、朔日東、二日巽、三日南、四日坤、五日西、六日乾、七日北、八日艮、九日天、十日地、中旬下旬同、是塞之方也、一東・二角・三角・四角・五西・六角・七北・八角・九天・十地、可㆑考。〔宿曜經〕凡太白所㆑在、出行及一切動用、不㆑得㆓抵犯㆒、避㆑之吉。〔中右記、嘉保三年正月十日〕明日太白神在㆑東、然者可㆑被㆑用㆓西陣㆒歟。

【太白石】371（タイハクセキ） 毒石の名。礜石。〔本草、礜石〕釋名、白礜石・太白石・立制石・青介石・固羊石・石鹽・澤乳・鼠鄉、時珍曰、礜義不㆑解、許氏說文云、礜、毒石也。

【太白體】372（タイハクタイ） 唐の李白の詩體。〔滄浪詩話、詩體〕太白體。

【太白堂】373（タイハクダウ） 清、黃丕烈（**12－47926**‥1296）の室名。

【太白老】374（タイハクラウ） 唐の李白をいふ。〔崔成甫、贈㆓李十二白㆒詩〕天外常求太白老、金陵捉得酒仙人。

【太白樓】375（タイハクロウ） 清、黃丕烈（**12－47926**‥1296）の室名。

【太白遊方】376（タイハクイウハウ） 選擇家の語。太白星の遊行する方向。其の方向は每月、一の日には正東、二の日には東南、三の日には正南と順次に巡つて、九の日には中央、十の日には天にあり、十日を以て一轉する。此の方位に向つては一切の行動を忌む。〔協紀辨方書、奏議〕時憲書載、太白遊方、不㆑宜㆓抵向㆒、其法、每月一日・十一日・二十一日在㆓正東㆒、二日・十二日・二十二日在㆓東南㆒、以㆑次轉至㆓東北㆒、八方既周、則以㆓九日・十九日・二十九日㆒爲㆑在㆓中宮㆒、十日・二十日・三十日爲㆑在㆑天、査、太白星隨㆓太陽㆒出入、前引後從、總不㆓遠離㆒、太陽右行、太白豈能左行、以㆓算術㆒求㆑之、萬不㆑能㆓符考㆒、其根源出㆓於西域日時吉凶善惡宿曜經㆒、徧査㆓釋藏㆒、並無㆓此經㆒、不㆑知㆓其出㆑何、印度但彼處以㆓每月初三㆒爲㆓一日㆒、又或以㆓每月上弦㆒爲㆓一日㆒、與㆓中國朔望㆒總不㆓相合㆒、然則太白卽使㆓左行㆒、亦與㆓中國日辰㆒不㆑同、況又萬無㆓此理㆒、應㆓刪去㆒。

【太白陰經】377（タイハクインケイ） 書名。八卷。唐、李筌撰。行軍に勝ちを制する術を詳說したもの。杜佑の通典に其の說を多く採用す。〔四庫提要、子、兵家類〕。

【太白經㆑天】378（タイハクテンヲフ） 太白星が午を過ぎる。凶兆とする。〔漢書、劉向傳〕辰星出㆓於四孟㆒、太白經㆑天而行。〔注〕孟康曰、過㆑午爲㆑經㆑天也。

【太白山人】379（タイハクサンジン） 字號。㊀明、孫一元（**3－6987**‥321）の字。㊁清、李柏（**6－14459**‥665）の號。㊂佐久間義和の號。佐久間洞巖（**1－506**‥76）を見よ。

【太白酒星】380（タイハクシユセイ） 唐の時、遜思邈が、常に酒家に遊んだ仙人に名づけた名。〔海錄碎事、道釋、仙〕成都有㆓鬻㆑酒家㆒、每有㆓紗帽杖藜四人㆒、來飮、愛㆓說孫思邈㆒、因奏㆓其事㆒、明皇問㆓思邈㆒、對曰、此太白酒星、每遊㆓人間世㆒飮㆑酒也、唐逸史。

【太白食㆑昴】381（タイハクバウヲハム） 太白星が昴宿を干して其の光を奪ふ。地上の異變が天に感じて現れるといふ象。昴は趙の分野、秦の白起が趙を攻め滅すことの兆。〔漢書、鄒陽傳〕昔荊軻慕㆓燕丹之義㆒、白虹貫㆑日、太子畏㆑之、衞先生爲㆑秦畫㆓長平之事㆒、太白食㆑昴、昭王疑㆑之。〔注〕蘇林曰、白起爲㆑秦伐㆑趙、破㆓長平軍㆒、欲㆓遂滅㆑趙、遣㆓衞先生㆒說㆓昭王㆒、益㆓兵糧㆒、爲㆓應侯所㆒㆑害、事用不㆑成、其精誠上達㆓於天㆒、故太白爲㆑之食㆑昴、昴、趙分也、將㆑有㆑兵、故太白食㆑昴、食、干㆓歷之㆒也。

【太白捉㆑月】382（タイハクツキヲトラフ） 李太白が采石で酒に醉ひ、水中の月を捉らうとして溺死した故事。〔侯鯖錄〕李白過㆓采石㆒、酒狂入㆑水、捉㆑月而死。

【太白山人漫稿】383（タイハクサンジンマンカウ） 書名。八卷。明、孫一元撰。詩には激壯の音が多く、淋漓豪宕の氣が溢れてゐる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【太伯】384（タイハク） ㊀複姓。〔通志、氏族略、以㆑次爲㆑氏〕太伯氏、姬姓、周古公之長子、讓㆓國季歷㆒爲㆓周之太伯㆒、故以爲㆑氏。㊁字號。㋑漢、翟宣（**9－28727**‥27）の字。㋺前涼、張祚（**4－9812**‥504）の字。

【太璞】385（タイハク） 採掘したままの全く加工しない玉。大璞（**3－5831**‥1921）を見よ。

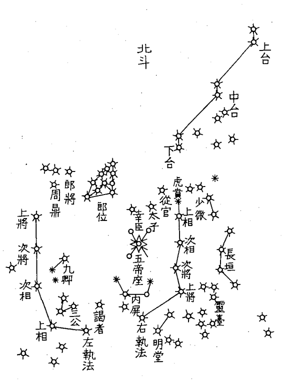
【太半】386（タイハン） 三分した二を太半といひ、一を少半といふ。轉じて、又、おほかた。過半。大半。〔管子、國畜〕千乘衢處、壤削少半、萬乘衢處、壤削太半。〔史記、項羽紀〕漢有㆓天下太半㆒。〔注〕集解曰、韋昭曰、凡數三分有㆑二爲㆓太半㆒、一爲㆓少半㆒。〔漢書、貢禹傳〕諸離宮及長樂宮衞、可㆘減㆓其太半㆒、以寬㆗繇役㆖。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕年既已過㆓太半㆒兮、然轗軻而留滯。〔後漢書、左雄傳〕寇賊連年、死亡太半。

【太煩】387（タイハン） 甚しく繁雜。〔白虎通、巡狩〕所㆓以五歲巡狩㆒何、爲㆓太煩㆒也、過㆓五年㆒爲㆓太疎㆒也、云云、故五歲一巡狩。

【太妃】388（タイヒ） 諸王の母の尊稱。魏に始まる。晉の哀帝に至り、生母を尊んで皇太妃と稱す。卽ち、皇后の位に卽かない帝母の尊稱。又、宋の眞宗が楊貴妃を冊して皇太妃と稱した。〔晉書、汝南王亮傳〕太妃、嘗有㆓小疾㆒、祓㆓於洛水㆒。〔事物紀原、帝王后妃部、太妃〕魏以來、諸王之母爲㆓太妃㆒、此蓋其始稱也、司馬氏之晉、帝母、其嫡爲㆓皇太后㆒、所㆑生爲㆓皇太妃㆒、晉書后妃傳、章太妃周氏、生㆓哀帝㆒、拜㆓貴人㆒、帝卽㆑位、有司議㆓位號㆒、詔崇爲㆓皇太妃㆒、其禮自㆓晉哀帝㆒始也、宋朝眞宗皇帝、亦冊㆓楊貴妃㆒爲㆓皇太妃㆒、晉元帝所㆑生母、稱㆓夏侯太妃㆒。

【太眉】389（タイビ） 清、許棫（**10－35298**‥221）の字。

【太微】390（タイビ） 星垣の名。三垣の一。翼・軫の北に在り、天子の宮廷、五帝の座、十二諸侯の府等に象る。現在の獅子座の西端附近の十星に當る。



太微垣圖（新法曆書）

〔史記、天官書〕衡・太微、三光之廷、匡衞十二星、藩臣。〔注〕正義曰、太微宮垣十星、在㆓翼軫地㆒、天子之宮庭、五帝之坐、十二諸侯之府也、其外藩、九卿也。〔漢書、李尋傳〕太微四門、廣開㆓大道㆒。〔晉書、天文志上〕太微、天子庭也、五帝之座也、十二諸侯府也、少微、在㆓太微西㆒、士大夫之位也。〔丹元子、步天歌、太微垣〕上元天庭太微宮、昭昭列㆑象布㆓蒼穹㆒、端門只是門之中、左右執法門西東、門左皂衣一謁者、以㆑次卽是烏㆓三公㆒、三黑九卿公背滂、五黑諸侯卿後行、四箇門西主㆓軒屛㆒、五帝內座於㆓中正㆒、幸臣太子幷從官、烏列㆓帝後㆒從㆑東定、郎將虎賁居㆓左右㆒、常陳郎位居㆓其後㆒、常陳七星不㆓相誤㆒、郎位陳東十有五、兩面宮垣十星布、左右執法是其數、宮外明堂布政宮、三箇靈臺候㆓雲雨㆒、少微四星西南隅、長垣雙雙微西居、北門西外接㆓三台㆒、與㆑垣相對無㆓兵災㆒。

【太謬】391 t'ai^4 miu^4 大失錯。

【太嬪】392 タイヒン 清代、皇祖皇考の嬪を尊封していふ。〔稱謂錄、尊封列宮〕皇貴太妃・貴太妃・太妃・太嬪、本朝會典禮部、尊封儀注、載㆓此諸稱㆒、皆所㆔以尊㆓封皇祖皇考之列宮㆒也。

【太父】393 タイフ ぢぢ。祖父。〔書言故事、祖父母類〕祖曰㆓太父㆒、漢鄭當時知友、皆太父行。

【太府】394 タイフ 官名。周官では天官に屬し、府藏會計を掌る。秦・漢は司農少府に倂合す。梁・後魏は復、太府卿を置き、帑藏・財物を掌らしめた。北齊、置き、後周、省き、隋、復置き、唐には外府・司府等とも稱し、以後、相ついで置き、明に至つて廢す。大府（3−5831‥2010）の❹を見よ。〔通典、職官、諸卿中、太府卿〕周官有㆓太府下大夫㆒、掌㆓貢賦之貳㆒、受㆓其貨賄之入㆒、頒㆓其貨賄於受藏之府㆒、歷代不㆑置、然其職在㆓司農少府㆒、至㆓梁天監七年㆒、置㆓太府卿㆒、位視㆓宗正㆒、掌㆓金帛府帑、及關津市肆㆒、陳因㆑之、後魏太和中、又改㆓少府㆒爲㆓太府卿㆒、兼有㆓少卿㆒、掌㆓財物庫藏㆒、北齊曰㆓太府寺㆒、亦有㆓卿・少卿各一人㆒、又兼掌㆑造㆓器物㆒、後周有㆓太府中大夫㆒、掌㆓貢賦貨賄㆒、以供㆓國用㆒、屬㆓大冢宰㆒、隋初與㆓北齊㆒同、所㆑掌左右藏及尙方司・染甄官等署、煬帝置㆓少卿二人㆒、又分㆓太府寺㆒置㆓少府監㆒、管㆓尙方・織染等署㆒、而太府但管㆓京都市及平準・左右藏㆒、大唐龍朔二年、改㆓太府㆒爲㆓外府㆒、咸亨元年、復㆑舊、光宅元年、改爲㆓司府㆒、神龍元年、復㆑舊、卿一人、少卿二人、領㆓兩京諸市平準・左右藏・常平等九署㆒、署各有㆓令丞㆒。〔唐六典、二十、太府卿〕凡官府都鄙之吏、及執㆑事者、受㆓財用㆒焉、則今太府之任也。〔續通典、職官、諸卿、中、太府卿〕遼南面官置㆓太府監㆒、云云、金太府監、置㆓監・小監等官㆒、云云、元太府監、太卿六人、太監六人、少監五人、云云、明無㆓太府監㆒。

【太傅】395 タイフ ❶官名。三公の一。太師の次に位す。太師（232）の❶を見よ。〔書、周官〕立㆓太師・太傅・太保㆒、茲惟㆓三公㆒。〔傳〕傅、傅㆓相天子㆒。〔漢書、百官公卿表上〕太師・太傅・太保、是爲㆓三公㆒。〔注〕師古曰、傅、相也。❷複姓。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕太傅氏、漢太子太傅疏廣、曾孫彥則避㆓王莽亂於太原㆒、因氏焉。❸天皇が未だ成年に達せられぬ時、其の保育の任に當る職。〔皇室典範、第二十六條〕。

【太武】396 タイブ 山名。福建省漳浦縣の東北。海上に屹立し、東方、大洋の中に十四景を望み、好事者の遊行するところ。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府、漳浦縣、大帽山〕太武山、在㆓縣東北百里㆒、一名大母山、山高千仞、周廻互㆓一百餘里㆒、屹㆓立海上㆒、端重聳峭。

〖太武帝〗397 タイブテイ 後魏の帝。拓跋燾（5−11958‥57）を見よ。

【太物】398 フトモノ ❶靭皮・木綿等の纖維から紡いだ太絲で織つた布帛。❷衣服にする布帛の總稱。反物。吳服。〔拾要抄、三〕嘉永元年四月、老中江進達、通町組、小間物・太物。

【太汾】399 タイフン 古の九塞の一。晉に在る。大汾。〔淮南子、墜形訓〕何謂㆓九塞㆒、曰、太汾・澠阨・荊阮・方城・殽阪・井陘・令疵・句注・居庸。〔注〕太汾、在㆑晉。

【太平】400 タイヘイ ❶二十七年耕作して九年の食を積儲し、百工の業を進上すること。泰平（6−17325‥151）の❷を見よ。❷極めて平かなこと。極めて平和に治まる世。極盛の世。〔莊子、天道〕此之謂㆓太平㆒。〔史記、秦始皇紀〕黔首修潔、人樂㆓同則㆒、嘉㆓保太平㆒。〔漢書、王莽傳上〕天下太平、五穀成孰。〔後漢書、陳球傳〕天下太平、可㆓翹㆑足而待㆒也。〔王建、宮詞〕太平天子朝㆓元日㆒、五色雲車駕㆓六龍㆒。❸東方極遠の地。〔爾雅、釋地〕東至㆓日所㆑出爲㆓太平㆒。〔爾雅、釋地〕太平之人、仁。❹年號。㋑三國吳、廢帝、侯官侯亮の時。（256−258）㋺梁、敬帝、蕭方智の時。（556−557）㋩遼、聖宗、耶律隆緒の時。（1021−1030）㋥晉、孝惠帝の代、趙廞の時。（300−301）㋭五胡十六國、北燕、太祖、文成帝、馮跋の時。（409−430）㋬南北朝時代、柔然（蠕蠕）の伏名敦可汗（恆也）の時。（485−492）㋣隋末・唐初、楚の林士宏の僭年號。（616−622）㋠東晉の時、南燕王始の時。㋷北宋の初、大瞿越（安南）の先皇、丁部領稱萬勝王・衞王丁璿の時。（970−980）㋦南宋の時、李婆備の僭年號。〔歷代紀元編、上〕年次不明。❺山名。㋑滿洲遼寧省蓋平縣の北。㋺滿洲吉林省五常縣の東。支山に斯莫勒・街津・恆道・額圖・秦得力等がある。㋩滿洲黑龍江省蘭西縣の東北。青岡縣に通ず。㋥福建省建陽縣の西。縣の主山。其の北の寒泉林には朱子の母の墓がある。〔讀史方輿紀要、福建、建寧府、建陽縣〕太平山、縣西三十里、峯巒秀偉、峭拔千仞、爲㆓縣主㆒、山有㆓寒泉林㆒、朱子葬㆓母於此㆒、築㆓舍墓旁㆒、曰㆓寒泉精舍㆒。㋭浙江省紹興縣の東南。晉の謝敷が十餘年間この山中に隱居す。㋬浙江省餘姚縣の西南。上虞縣と界し、東は四明に連なり、其の形が織に似てゐるので織山ともいふ。餘姚江の源。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、餘姚縣〕大蘭山、縣南八十里、其南與㆓四明㆒相接、云云、其相接者、曰㆓太平山㆒、志云、山東連㆓四明㆒、南接㆓天臺㆒、姚江源出㆓於此㆒、東去㆓慈谿縣㆒六十里、爲㆓接㆑境處㆒、一名曰㆓門山㆒。㋣湖北省廣濟縣の東南。晉の僧、惠遠の錫をとどめた處。㋠湖北省陽新縣の南。江西省武寧縣と接し、九宮山と相連なる。山の南麓に太平山鎭あり、清代、外委把總駐防を置く。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、興國州、五龍山〕西七十里爲㆓太平山㆒、與㆓通山縣九宮山㆒相接。㋷甘肅省禮縣の西。壁立すること千仞、左右兩峯が拱立し、險要の地。㋦雲南省昆明縣の西南、太華山の傍。太華（103）の❶の㋩を見よ。❻川の名。㋑江西省清江縣の西。源は新喩縣北の蒙山。東南流して袁江に入る。〔讀史方輿紀要、江西、臨江府、清江縣〕太平江、府西三十五里、出㆓新喩縣蒙山之陽㆒、南流爲㆓太平江㆒、又東南入㆓於袁江㆒。㋺雲南省騰衝縣の西。檳榔河の下流で、太平街を經てからを太平江といふ。曲折西流して大盈江に合す。❼橋の名。㋑滿洲吉林省阿城縣の西北、阿什河の西岸。濱江縣の界。㋺江西省玉山縣の東北、太平橋水の上。一に屛風關といふ。清時、巡司が駐在した。太平橋水の源は橋北數里の天桂峯。㋩四川省南部縣の東南。閬中と南充との間の要路。㋥廣東省南雄縣の南門外。嘉靖五年に建つ。後、太平關を橋北に置く。〔讀史方輿紀要、廣東、南雄府、保昌縣、鹽關〕志云、南有㆓太平橋㆒、跨㆓湞江上㆒、橋之南卽鹽關也。❽驛の名。㋑山西省長治縣の西北。唐、置き、今、廢す。〔宋史、李筠傳〕張暉自㆓團柏谷㆒入、營㆓梁侯驛㆒、筠遣㆓護軍穆令㆒、均營㆓於太平驛㆒、驛東南距㆑潞八十里。㋺廣東省靈山縣の西、那良江の上流。もとの把總駐防。西鄕巡司が駐在した。〔讀史方輿紀要、廣東、廉州府、欽州、靈山縣、西鄕鎭〕太平驛、在㆓縣治西㆒。❾府の名。㋑明、置き、清、之に因り、當塗・蕪湖・繁昌の三縣を管轄す。治は安徽省當塗縣。〔讀史方輿紀要、江南〕太平府、禹貢揚州之域、春秋時吳地、後屬㆑越、云云、五代時、南唐置㆓新和州於此㆒、尋改㆓雄遠軍㆒、宋開寶九年、改曰㆓平南軍㆒、太平興國二年、改爲㆓太平州㆒、元爲㆓太平路㆒。〔清史稿、地理志〕安徽、太平府、領㆓縣三㆒、當塗・蕪湖・繁昌。㋺漢、交趾郡に屬す。晉宋以來、蠻獠の住

地となる。唐、羈縻州を置き、宋、分ちて太平砦を置く。元、太平路を置き、明、改めて太平府とす。清は明江、龍州・憑祥の三廳、左・養利・永康・寧明の四州、崇善縣、太平・安平・萬承・茗盈・全茗・龍英・佶倫・結安・鎭遠・都結・思陵・江・思・下石西・上下凍の十五土州、羅白・羅陽の二土縣及び上龍土司を管轄す。治は廣西省崇善縣。〔讀史方輿紀要、廣西〕太平府、古南粵地、漢屬二交阯郡一、晉宋以來爲二夷獠所一レ據、唐爲二羈縻蠻地一、云云、元初仍爲二太平寨一、後改置二太平路一、控二制左江州縣峒一、明朝洪武二年、改爲二太平府一。〔清史稿、地理志〕廣西、太平府、領二廳二、州四、縣一、土州十六、土縣二、土司一一、崇善、左州・養利州・永康州・寧明州・明江廳・龍州廳・憑祥廳、太平土州・安平土州・萬承土州・茗盈土州・全茗土州・龍英土州・佶倫土州・結安土州・鎭遠土州・都結土州・思陵土州・土江州・土思州・下石西土州・上下凍土州・羅白土縣・羅陽土縣・上龍土司。❿郡名。㋑北齊、神武郡を改め置く。故城は山西省寧武縣の東北。今の名は太平村。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕朔州、戰國時燕地、秦爲二鴈門・代二郡地一、云云、後魏置二桑乾・神武二郡一、後齊改二桑乾一曰二廣寧一、神武曰二太平一、並屬二朔州一、後周郡廢。㋺後魏、置く。故治は山西省聞喜縣治。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、解州〕聞喜縣、州東北一百二十里、春秋時、晉之曲沃地、秦改爲二左邑一、屬二河東郡一、云云、後魏置二太平郡於此一、後屬二正平郡一、隋初郡廢。⓫縣名。㋑後魏、泰平縣を置く。今の山西省汾城縣の東北。北周、改めて太平とす。隋、今治の東北三十支里に移す。唐、後魏の故治に移し、後、敬德堡に移す。卽ち今の汾城縣治。民國、太平を汾城と改む。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府〕太平縣、府西南九十里、漢臨汾縣地、後魏眞君七年、析二置泰平縣一、屬二平陽郡一、後周諱レ泰、改曰二太平一。〔清史稿、地理志〕山西、平陽府、縣十、太平。㋺後魏の孝昌中、置く。故治は山西省壽陽縣の北。㋩後魏、置く。故治は山西省寧武縣の東北。㋥後魏、置く。今、河北省徐水縣の西。㋭北齊、置く。故城は山西省大同縣の西。北周、改めて雲中といふ。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、大同縣〕平齊城、府西三十里、漢平城縣地、云云、後齊曰二太平縣一、後周曰二雲中縣一、隋曰二雲內縣一。㋬唐、涇縣を分ち置く。故城は今の安徽省太平縣の北。尋で廢し、後、今の治に移し置く。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府〕太平縣、府西南二百四十里、本漢陵陽縣、涇縣地、唐天寶十一載、析二置太平縣一、屬二宣城郡一。〔清史稿、地理志〕安徽、寧國府、縣六、太平。㋣唐、置き、尋いで省く。故治は四川省達縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、達州、永穆廢縣〕太平廢縣、在二縣西南一、劉昫曰、唐武德初、割二永穆縣地一、置二太平・恆豐二縣一、屬二萬州一。㋠明、置き、浙江省台州府に屬す。民國改めて溫嶺縣とす。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府〕太平縣、府東南一百四十里、本黃巖縣及樂清縣地、明朝成化五年、分二黃巖南境一置レ縣。〔清史稿、地理志〕浙江、台州府、縣六、太平。㋷隋の隆平縣を、唐、改めて太平といふ。今の安南の北境。〔讀史方輿紀要、廣西、附考、安南、交州府〕太平城、在二府西北一、本封谿縣地、云云、開皇十八年、改曰二隆平縣一、唐武德四年、置二隆州一、幷置二義廉・封谿二縣一、尋徙二州治一、云云、先天元年、改曰二太平縣一、仍屬二交州一。㋦明、置き、四川省綏定府に屬す。民國、萬源縣と改む。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、達州〕太平縣、州東北二百里、本東鄕縣地、正德二年、割二東鄕之太平里一置レ縣。〔清史稿、地理志〕四川、綏定府、縣六、太平。⓬鎭の名。㋑滿洲遼寧省東豐縣の東北。㋺金、置く。今、缺く。山東省舊泰安府の境。㋩河南省羅山縣の南。㋥金、置く。江蘇省漣水縣の北。〔九域志〕漣水縣、有二太平鎭一。㋭江西省上饒縣の東北。信江水の濱に當る。㋬福建省建甌縣の西。㋣湖北省孝感縣の東北。㋠四川省永川縣の西北㋷廣東省梅縣の西北。明、巡司を置き、清、之に因る。〔讀史方輿紀要、廣東、潮州府、程鄕縣、梅口鎭〕太平縣、縣西一百里、在二巡司一、洪武三年、置二於縣一。㋦廣東省高明縣の東。滄江に臨んで市街をなす。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、高明縣〕太平鎭、縣東五里、舊爲二高明砦一、洪武初、改置二巡司一、宏治中、置二高明縣一、因遷二司太平都一、改曰二太平巡司一、尋遷二都含海口一。㋸湖北省隨縣の東。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州、陵寨〕太平鎭、在二縣東二十五里一。⓭字號。㋑金、劉玧（**2**－**2224**・・356）の初名。㋺清、王遵坦（**7**－**20823**・・1682）の字。

【太平引】401 タイヘイイン 曲の名。魏、嵆康作。〔文士傳〕嵆康臨レ死、顏色不レ變、謂二其兄一曰、向以レ琴來否、兄曰、已至、康取調レ之、爲二太平引一、曲成、歎息曰、太平引絕二於今日一耶。

【太平樂】402 タイヘイガク ❶樂府、近代曲辭の名。商調。唐の王維・白居易、曲辭を作る。〔樂府詩集、近代曲辭、太平樂〕樂苑曰、太平樂、商調曲也。〔王維、太平樂〕風俗今和厚、君王在二穆清一、行看二採花曲一、盡是泰階平。〔白居易、太平樂〕歲豐仍節儉、時泰更銷レ兵、聖念長如レ此、何憂レ不二泰平一。❷詞牌の名。瑞鷓鴣（**7**－**21131**・・137）を見よ。❸タイヘイラク ㋑雅樂の道調曲の名。又、武昌太平樂・項荘鴻門曲・巾舞・泰平樂・武將泰平樂といふ。唐樂、新樂の中曲で、太食調曲に屬す。道行に朝小子を用ひ、破に武昌樂を用ひ、急に合歡鹽を用ひる。舞があり、四人を以て舞ふ。破陣樂。〔倭名類聚抄、四〕道調曲、太平樂。㋺すきはうだい。でたらめ。又、のんきにかまへてゐること。〔浮世風呂、三編、上〕居てやるんだなぞと太平樂さ。

【太平記】403 タイヘイキ 書名。四十一卷。撰者未詳。普通には小島法師の作とするが、小島法師の事蹟は明かでない。後花園天皇の文保二年から後村上天皇の正平二十二年に至る五十年間の事を記す。

【太平經】404 タイヘイキヤウ 道家の經典の名。一百七十卷。後漢の順帝の時、琅琊の宮崇が、其の師、于吉の、曲陽泉水の上に得た神書を獻上したもの。甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の十部に分れ、毎部十七卷。太平清領書。〔後漢書、襄楷傳〕臣前上下琅邪宮崇受二于吉一神書上、不レ合二明聽一。〔注〕干姓、吉名也、神書、卽今道家太平經也、其經以二甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸一爲レ部、毎部一十七卷也。

【太平墟】405 タイヘイキヨ 地名。❶廣東省東莞縣の西南、虎門の東。海口の要地。❷廣東省雲浮縣の西南、雙溶水の上游。もと西山巡司が駐す。❸廣西省藤縣の西北。濛江の左岸。

【太平花】406 タイヘイクワ 花の名。四川省劍南地方に產す。桃花に似、枝頭に朶生す。宋の天聖中、仁宗がこの名をつけた。〔天祿識餘、太平花〕太平花、出二劍南一、似レ桃四出、千百包駢萃成レ朶、宋天聖中、獻至二京師一、仁宗賜二名太平花一。

【太平管】407 タイヘイクワン 樂器の名。形は跋膝に似て九竅、頭は觱篥に似る。〔文獻通考、樂考〕太平管、形如二跋膝一而九竅、是黃鐘一均、所レ異者、頭如二觱篥一爾。

【太平軍】408 タイヘイグン 清の時、洪秀全が兵を起し、自ら國號を太平天國と稱す。世人、よつて其の軍を太平軍といふ。洪秀全（**6**－**17402**・・241）・長髮賊（**11**－**41100**・・719）を見よ。

【太平拳】409 t'ai⁴ p'ing ch'üan² 拳法の一種。〔紅樓夢、九回〕有趁勢帮着、打太平拳的。

【太平鼓】410 タイヘイコ 鼓の名。鐵で八角の框を作り、糊で重ね合せて革のやうにした皮紙を張り、彩畫を施し、柄に鐵環十餘を貫いて、擊つ時に之を幷せ振ひ以て街市を游行する。今、北方に在る。宋代は打斷といつたが政和の初、禁ぜられてから、民間で太平鼓と稱した。臘鼓（**9**－**30009**・・8）に同じ。〔通雅〕。

【太平溝】411 タイヘイコウ 地名。❶滿洲遼寧省安東縣の西南。大東溝をいふ。清時、檢分防を置く。❷滿洲遼寧省撫順縣の東北。金を產す。❸滿洲遼寧省寬甸縣の東。金を產す。❹滿洲黑龍江省蘿北縣の北。金を產す。觀音山廠に隸屬す。

【太平策】412 タイヘイサク 天下を太平にする策。隋の文中子は文帝に太平十二策を上つた。〔杜淹、文中子世家〕西遊二長安一、見二隋文帝一、因奏二太平策十有二策一、尊二王道一、推二伯略一、稽レ今驗レ古、恢恢乎運二天下於指掌一矣。

【太平市】413 タイヘイシ 地名。❶江西省清江縣の西南、太平江の東岸。新喩縣に通ず。❷江西省崇仁縣の西南、西寧水の濱。南、宜興縣に接す。❸廣東省清遠縣の西南。舊時、廻岐巡司が駐在した。

【太平時】414 タイヘイジ 詞牌の名。〔古今詞話〕賀方

回衍二杜牧之秋盡江南葉末レ彫詩一、陳子高衍二王之渙李夫人病已經レ秋詩一、以二七字現成句一而和以二三字一爲レ調、花閒集起二於張泌顧敻一、換頭句仍押二仄韻一、六一詞獨押二平韻一、一名二添聲楊柳枝一。

〘太平洲〙415（タイヘイシウ） 揚子江の中の島の名。江蘇省揚中縣。淸時は丹徒・丹陽・泰興三縣に分屬す。宣統閒、太平廳同知を設く。民國、太平縣とし、又、揚中縣と改む。漁業が極めて盛で、土地も亦肥沃である。

〘太平車〙416（タイヘイシャ） 宋代、荷車の大きいものをいふ。大車。牛車。〔東京夢華錄〕東京般載車、大者曰二太平一、其次有二平頭車一。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕端的是太平車約有二十餘載一。

〘太平酒〙417（タイヘイシュ） 蓬萊山の中にあるといふ酒。之を飮めば長生するといふ。〔眞誥〕楊羲、夢遊二蓬萊山一、見二許主簿于夾石之閒一、仙公謂二主簿一曰、吾爲レ汝置二酒四升一、在二山中一、可二往飮一レ之、此太平家酒、治二人腸一也、諺云、欲レ得二長生一、飮二太平一。

〘太平簫〙418 tʻai^4 pʻing hsiao^1 樂器の名。チャルメラ。

〘太平川〙419（タイヘイセン） 地名。滿洲遼寧省源縣の南方。

〘太平錢〙420（タイヘイセン） 戲曲の名。淸、李玉撰。張果老が太平錢を以て韋氏を聘したことを記す。太平廣記の張老の事を增飾したもの。

〘太平賊〙421（タイヘイゾク） 長髮賊をいふ。首領洪秀全が其の國號を太平天國と稱したからいふ。長髮賊(**11**—**41100**‥719)を見よ。

〘太平道〙422（タイヘイダウ） 後漢の末、張角の唱へた妖術。九節杖を持つて符呪を行ひ、病者に懺悔させ、符水を飮ませて病を治癒すると稱した。〔魏志、張魯傳、注〕典略曰、熹平中、妖賊大起、三輔有二駱曜一、光和中、東方有二張角一、漢中有二張脩一、駱曜敎二民緬匿法一、角爲二太平道一、脩爲二五斗米道一、太平道者、師持二九節杖一爲二符呪一、敎二病人叩レ頭思レ過、因以二符水一飮レ之、得レ病或日淺而愈者、則云、此人信レ道、其或不レ愈、則爲レ不レ信レ道、云云、實無レ益二于治一レ病、但爲二淫妄一、然小人昏愚、競共事レ之、後、角被レ誅、脩亦亡。

〘太平場〙423（タイヘイチヤウ） 地名。❶廣東省從化縣。❷四川省華陽縣。❸四川省鹽邊縣の東北。銅を產す。❹四川省新津縣の西。❺四川省資中縣の東。❻四川省眉山縣の南。❼四川省南充縣の南。西、嘉陵江に臨む。

〘太平梯〙424 tʻai^4 pʻing tʻi^1 非常梯。

〘太平店〙425（タイヘイテン） 地名。❶湖北省隨縣の北。❷湖北省穀城縣の東南、漢水の東岸。もと巡檢千總駐防を置く。

〘太平門〙426 tʻai^4 pʻing men^2 非常門。

〘太平洋〙427（タイヘイヤウ） 世界三大洋の一。亞細亞の東南、亞米利加の西にあり、世界最大の海洋で、面積は一萬六千五百七十二萬方粁。Pacific Ocean

〘太平令〙428（タイヘイレイ） 曲の名。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕太平令、若不二是大恩人拔レ刀相助一、怎能二勾好夫妻似レ水如レ魚。

〘太平嶺〙429（タイヘイレイ） 地名。❶滿洲遼寧省西豐縣。❷滿洲吉林省穆稜縣の東。東寧縣と界を接す。❸陝西省留壩縣の北。

〘太平歌詞〙430（タイヘイカシ） 歌曲の名。蓮花落が當局に禁止されて後、之を改作して太平歌詞と稱した。花鼓戲(**9**—**30734**‥174)を見よ。〔津門雜記〕北方之唱二蓮花落一者、謂二之落子一、卽如二南方之花鼓戲一也、係二妙齡女子登場度曲一、雖下於二妓女外一、別樹中一幟上、然名異實同、前經二當道示レ禁、邇來復有二作者一、改二名太平歌詞一云。

〘太平閒人〙431（タイヘイカンジン） 宋、仲殊(**1**—**403**‥220)の號。

〘太平氣象〙432（タイヘイノキシヤウ） 天下太平のさま。天下のよく治まつてゐるやうす。〔依田百川、宮城〕城內古松鬱蒼、瑞雲靉靆、可三以見二太平氣象一矣。

〘太平記讀〙433（タイヘイキヨミ） 昔、路傍などに筵を敷き、太平記を讀んで錢を乞うたもの。後世の講釋師の始祖。〔人倫訓蒙圖彙〕太平記讀、近世より始まれり。

〘太平御覽〙434（タイヘイギヨラン） 書名。一千卷。宋の太平興國二年、李昉等奉敕撰。太宗が一日に三卷づつ讀み、一年閒を以て閱了したから名づく。引用の書は一千六百九十種に及び、蒐羅浩博、考證學の淵藪と稱せられる。其の門は五十五、卽ち天・時序・地・皇王・偏霸・皇親・州郡・居處・封建・職官・兵・人事・逸民・宗親・禮儀・樂・文・學・治道・刑法・釋・道・儀式・服章・服用・方術・疾病・工藝・器物・雜物・舟・車・奉使・四夷・珍寶・布帛・資產・百穀・飮食・火・休徵・咎徵・神鬼・妖異・獸・羽族・鱗介・蟲豸・木・竹・果・菜・香・藥・百卉。〔四庫提要、子、類書類〕。

〘太平廣記〙435（タイヘイクワウキ） 書名。五百卷。宋、李昉等奉勅撰。太平興國中に成り、漢から五代に至る迄の小說家言を採取し、多くは鬼怪神奇の說だが、名物典故をその閒に錯出する。引用書は三百四十五種に及び、小說研究上必要なもの。其の部目は神仙・女仙・道術・方士・異人・異僧・釋證・報應・徵應・定數・感應・讖應・名賢・廉儉・義氣・知人・精察・俊辨・幼敏・器量・貢擧・詮選・職官・權倖・將帥・驍勇・豪俠・博物・文章・才名・儒行・樂・書・畫・算術・卜筮・醫・相・伎巧・器玩・酒・食・交友・奢侈・詭詐・諂・謬誤・治生・褊急・詼諧・嘲誚・嗤鄙・無賴・輕薄・酷暴・婦人・夢・幻術・妖妄・神・鬼・夜叉・神魂・妖怪・精怪・再生・悟前生・塚墓・銘記・雷・雨・山・石・水・寶・草木・龍・虎・畜獸・狐・蛇・禽鳥・水族・昆蟲・蠻夷・雜傳記・雜錄。〔四庫提要、子、小說家類〕。

〘太平官府〙436（タイヘイクワンプ） 立派な地方長官をいふ。唐の姜謩が秦州の刺史となり、治績が甚だ擧つたので、時人が太平官府と呼んだ故事。〔唐書、姜謩傳〕擢二秦州刺史一、撫二邊俗一以二恩信一、盜賊衰止、人喜曰、不レ意復見二太平官府一。

〘太平君子〙437（タイヘイノクンシ） ❶世を太平に治める君子。〔詩、小雅、南有嘉魚序〕太平君子、至誠樂下與二賢者一共上之也。❷唐の穆宗が西涼州から出る葡萄酒に名づけた名。〔淸異錄、酒漿、太平君子〕穆宗臨二芳殿一、賞二櫻桃一、進二西涼州葡萄酒一、帝曰、飮レ此頓覺二四體融和一、眞太平君子也。

〘太平元寶〙438（タイヘイゲンパウ） 遼の聖宗の鑄た貨幣。〔續文獻通考、錢幣考〕聖宗鑄二太平元寶錢一。

〘太平公主〙439（タイヘイコウシユ） 唐の高宗の女。母は武后。武后在位の時、寵臣張易之・張昌宗を除かうとし、睿宗、其の功勞を賞す。其の後威柄を恃み、遂に廢立を謀るに至つたので、玄宗、死を賜はる。〔唐書、八十三〕。

〘太平興國〙440（タイヘイコウコク） ❶寺の名。湖北省漢陽縣の北、大別寺。唐、建て、宋の太平興國年閒に重ねて建つ。文殊院ともいふ。〔明一統志〕舊名大別寺、宋蘇軾嘗遊レ此、作二方丈銘一、寺前有レ柏、俗傳、大禹治レ水時所レ植。❷宋、太宗、趙炅の年號。(976—984)

〘太平山房〙441（タイヘイサンバウ） 明、鄒元標(**11**—**39562**‥88)の室名。

〘太平之風〙442（タイヘイノフウ） 世が穩かにをさまつてゐるすがた。〔漢書、路溫舒傳〕太平之風、可レ興二於世一。

〘太平將軍〙443 tʻai^4 pʻing chiang^4 chün^1 戰場に出馬したことのない武士。

〘太平眞君〙444（タイヘイシンクン） 北魏、太武帝、拓跋燾の年號。(440—451)

〘太平水桶〙445 tʻai^4 pʻing shuei^2 tʻung^3 消火用用水桶。天水桶。

〘太平通寶〙446（タイヘイツウハウ） 宋の太宗の鑄た貨幣。〔宋史、食貨志下二〕太宗改二元太平興國一、更鑄二太平通寶一。

〘太平天國〙447（タイヘイテンゴク） ❶淸の道光中、長髮賊の亂を起した洪秀全の國號。上帝の敎を奉ずるからとてかく名づけた。長髮賊(**11**—**41100**‥719)を見よ。❷洪秀全の僭年號。(1851—1864)

〘太平天王〙448（タイヘイテンワウ） 淸、洪秀全(**6**—**17402**‥242)の自稱。

〘太平土州〙449（タイヘイドシウ） 土司の名。古名は匏陽。廣西省に屬す。宋の時、太平州を置く。明の土官李氏が歸附して知州の世襲を許され、淸も亦、世職を與ふ。〔讀史方輿紀要、廣西、太平府〕太平州、舊蠻洞地、唐爲二羈縻州地一、屬二邕州都督府一、宋爲二太平州一、隸二太平寨一、云云、明初因レ之、土夷考、洪武初、土官李以忠歸附、世二襲知州一、設二流官一、吏目佐レ之。〔淸史稿、地理志〕廣西、太平府、土州十六、太平土州。

〘太平年頭〙450 tʻai^4 pʻing nien^2 tʻou 太平無事の時。平時。

〘太平萬歲〙451（タイヘイバンザイ・タイヘイマンザイ） 天子を頌する吉語。〔王建、宮詞〕每遍舞頭分兩向、太平萬歲字當レ

中。

〘太平無レ象〙452（タイヘイシャウナシ）　太平に特に定まつた形象があるわけではない。どうなれば太平だといふ特定の標準のすがたがあるわけではない。〔唐書、牛僧孺傳〕宰相曰、公等有レ意二於太平一乎、何道以致レ之、僧孺曰、云云、然太平亦無レ象、今雖レ未レ及二至盛一、亦足レ爲レ治矣、而更求二太平一、非二臣所一レ及。

〘太平鑼鼓〙453　t'ai^{4} p'ing luo^{2} ku^{3}　葬式の音樂。一坪程の布を張り、四本の柱で支へ、四人が其の柱を持ち、四人が其の中で笛鉦等の音樂を奏して行く。

〘太平寰宇記〙454（タイヘイクワンウキ）　書名。一百九十三卷。宋、樂史撰。一名、太平寰宇志。宇內一統地誌の意。宋の太宗の時、閩越・北漢を平げた始末を考究し、其の目を河南・關西・河東・河北・劍南・江南東・江南西・淮南・山南・隴右・嶺南の十一道及び四夷に分ち、極めて豐富な史料を以て編纂し、後世の地誌の濫觴をなす。〔四庫提要、史、地理類〕。

〘太平清領書〙455（タイヘイセイレイショ）　道家の經典の名。太平經(404)を見よ。〔後漢書、襄楷傳〕初順帝時、琅邪宮崇詣レ闕、上下其師干吉於二曲陽泉水上一所レ得神書百七十卷上、皆縹白素朱介、青首朱目、號二太平清領書一。

〘太平經國之書〙456（タイヘイケイコクノショ）　書名。十一卷。宋、鄭伯謙撰。目、二十。周禮を借りて論ず。葉時の書と相出入す。其の中、宰相の權を重んじて人主は儉約を崇ぶべからず等といふのは、必ずしも妥當の論ではない。〔四庫提要、經、禮類〕。

〘太平惠民和濟局方〙457（タイヘイケイミンクワサイキヨクハウ）　書名。十卷。指南總論三卷を含む。舊本には宋、陳師文等奉敕編と題す。元豐に創り、大觀に重修し、紹興・寶慶・淳和中それぞれ增加す。南宋の醫院は此の書を以て祖となして藥劑を調劑したが、朱震亨は人體を耗傷すること多しとて排斥してゐる。〔四庫提要、子、醫家類〕。

〘太平之世風不レ鳴レ條〙458（タイヘイノヨカゼエダヲナラサズ）　天下がよく治まれば氣候も順調で、大風が吹いて樹木の枝を鳴らすこともない。〔董仲舒、雨雹對〕太平之世、則風不レ鳴レ條。〔論衡、是應〕儒者論二太平瑞應一、皆云、風不レ鳴レ枝、雨不レ破レ塊、五日一風、十日一雨。

〘太平人樂レ德而惡レ刑〙459（タイヘイノヒトハトクヲタノシンデケイヲニクム）　太平の世の人は德義を行ふことを樂しんで、刑法を用ひることを惡む。〔唐書、陳子昂傳〕太平之人、樂レ德而惡レ刑、刑之所レ加、人必慘怛、故聖人貴レ措レ刑也。

〘太平治迹統類前集〙460（タイヘイチセキトウルイゼンシフ）　書名。三十卷。宋、彭百川撰。北宋の舊事を材料とし、門を分けて記載す。朝廷の大政と名臣の始末とは詳密を極めてゐるから、史傳と相參することが出來るが、ただ斷爛して訛が多い。〔四庫提要、史、雜史類〕。

〘太平本自二將軍一致不レ許三將軍見二太平一〙461（タイヘイハモトシヤウグンニヨリテイタサルルモシヤウグンハタイヘイヲミルヲユルサレズ）　太平はもと將軍の力によつて招かれるが、將軍は太平の天下を見ないで戰死してしまふ。〔通俗編、武功、太平本自二將軍一致不レ許三將軍見二太平一〕五燈會元、天衣懷定慧本、俱擧二此二語一。

【太屛】462（タイヘイ）　明、顏容暄(**12**－**43591**‥195)の號。

【太廟】463（タイベウ）　❶天子の祖廟。宗廟。大廟(**3**－**5831**‥2086)を見よ。〔公羊、文、十三〕周公稱二太廟一、魯公稱二世室一、羣公稱レ宮。〔呂覽、仲冬〕天子居二玄堂太廟一。〔六韜、龍韜、立將〕之二太廟一鑽二靈龜一。〔漢書、五行志中之上〕前堂曰二太廟一。❷伊勢大神宮の別稱。

【太保】464（タイホ）　❶官名。三公の一。天子が德義を守るやうに、之を保ち安んずる意。太師(232)の❶を見よ。〔書、周官〕立二太師・太傅・太保一、茲惟三公。〔傳〕保、保二安天子於德義一者。〔漢書、百官公卿表上〕太師・太傅・太保、是爲二三公一。〔注〕應劭曰、保、養也。❷廟を奉祀する祝官。巫。〔姚氏紀事編〕康熙二十五年三月上諭、嚴二禁五聖廟一、革二除太保一。〔通俗編、藝術、太保〕宋史孫子秀傳、爲二吳縣簿一、有二妖人一、自稱二水仙太保一、子秀按二治之一、沈二諸太湖一。〔書齋夜話〕今之巫者、言三神附二其體一、南方俚俗、稱爲二太保一。〔稱謂錄、巫、太保〕菽園雜記、師巫稱二太保一、此胡元不レ明二名分一之舊習也。

【太母】465（タイボ）　❶祖母をいふ。大母(**3**－**5831**‥2119)の❶を見よ。〔老學庵筆記、四〕太母、祖母也、猶三謂レ祖爲二大父一、熙寧・元豐閒、稱二曹太皇一爲二太母一、元祐中、稱二高太皇一爲二太母一、皆謂二帝之祖母一爾、元符中、謂二向太后一爲二太母一、紹興中、謂二韋太后一爲二太母一、則非矣。❷天子の母をいふ。〔稱謂錄、天子母古稱、太母〕舊唐書憲宗后郭氏傳、歷二位七朝一、五居二太母之尊一、宋史、王倫言二於金將思謀一曰、歸二我二帝太母一、復二我疆土一。

【太姥】466（タイボ）　山名。福建省浦城縣の東北。〔太平寰宇記〕太姥、卽魏夫人、老子玉貞經云、夫人以二羅浮・天台・大霍・洞宮四處一爲二棲眞之所一、此山乃洞宮之鄰也。〔福建通志〕太姥、堯時人、以レ練レ藍爲レ業、家二於路傍一、有二道士一求レ漿、母飲以レ醪、道士奇レ之、授以二九轉丹砂之法一、七月七日乘二九色龍馬一而仙、因名二太姥山一。

【太峯】467（タイホウ）　淸、令狐亦岱(**1**－**387**‥62)の字。

【太豐】468（タイホウ）　豐年。大豐(**3**－**5831**‥2133)の❶を見よ。

【太戊】469（タイボウ）　商の第七代の王。太甲の孫で、太庚の子、小甲・雍己の弟。雍己崩じて立つ。亳に桑穀の妖があつた時、大戊は宰相伊陟の言を用ひて德を修めたので、桑穀は自ら枯死した。又、巫咸・臣扈の諸賢を用ひて殷室を復興し、諸侯歸順す。位に在ること七十五年。中宗と稱す。王國維は、殷虛文字中に中宗祖乙の文があるので大戊は中宗でないといふ。〔史記、三〕・〔殷卜辭中所見先公先王續考〕。

【太卜】470（タイボク）　官名。卜筮の官の長。殷、置き、周官には春官に屬し、秦、奉常に屬し、漢、太常に屬す。後漢には太史に併せ、以後、省き、後魏・北齊、置き、以後、相ついで置いたが、遼・金・元には省き、明には稽疑司といふ。卜正。大卜(**3**－**5831**‥2141)を見よ。〔史記、日者傳〕太卜之起、由二漢興一而有。〔漢書、百官公卿表上〕奉常、秦官、云云、屬官有二太史・太卜・太醫一。〔通典、職官、諸卿上、太常卿〕太卜署、殷官、太卜爲二六太一、周官太卜掌二三兆之法一、秦・漢有二太卜令一、後漢幷二於太史一、自後無レ聞、後魏有二太卜博士一、北齊有二太卜局丞一、後周有二太卜大夫・小卜上士・龜占中士一、隋曰二太卜一、令丞二人、大唐因レ之。〔續通典、職官、諸卿上、太常卿〕宋以二太卜一隸二司天臺一、不レ置二專官一、遼・金・元皆無レ之、明洪武十七年、置二稽疑司令一人一。

【太朴】471（タイボク）　❶太古の純樸な道。大道。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕太朴既虧、則高尙之標顯。〔注〕良曰、太朴、大道也。❷唐、李元素(**6**－**14459**‥171)の字。

【太僕】472（タイボク）　官名。周官では夏官の屬。秦・漢、之に因る。九卿の一。輿馬及び牧畜の事を掌る。北齊には太僕寺といひ。以後歷代、之に仍つたが、後周には無く、金には提控諸烏哷濟庫といひ、淸の光緒年閒、陸軍部に倂入した。大僕(**3**－**5831**‥2148)を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕太僕、秦官、掌二輿馬一、有二兩丞一、屬官有二大廏・未央・家馬三令一、各五丞・一尉、又車府・路軨・騎馬・駿馬四令丞、又龍馬・閑駒・橐泉・騊駼・承華五監長丞、又邊郡・六牧師菀令、各三丞、又牧橐・昆蹏令丞皆屬焉。〔後漢書、百官志二〕太僕卿、一人、中二千石。〔隋書、百官志中〕太僕云云、是爲二九寺一、置二卿・少卿・丞一、各一人一。〔唐書、百官志三〕太僕寺、卿一人、從三品、少卿二人、從四品上、丞四人、從六品上、主簿二人、從七品上、錄事二人、從九品上、卿掌二廏牧輦輿之政一。〔宋史、職官志四〕太僕寺、卿・少卿・丞・主簿、各一人、掌二車輅廏牧之令一。〔明史、職官志三〕太僕寺、卿一人、少卿二人、寺丞四人。〔歷代職官表、太僕寺、國朝官制〕太僕寺、卿、滿洲・漢人、各一人、少卿、滿洲・漢人、各一人、掌二兩翼牧馬場之政令一。

〘太僕主人〙473（タイボクシユジン）　明、沈節甫(**6**－**17189**‥578)の號。

【太樸】474（タイボク）　字號。❶唐、李元素(**6**－**14459**‥171)の字。❷明、危素(**2**－**2849**‥104)の字。❸明、黎淳(**12**－**47994**‥44)の字。

【太末】475（タイマツ）　縣名。漢、置く。浙江省龍游縣治。〔集韻〕太、太末、縣名、在二會稽一。

【太滿】476（タイマン）　甚だ驕滿なこと。〔國語、魯語下〕景伯問レ之、對曰、笑二吾子之太滿一也。〔注〕滿、驕滿也。

【太無】477（タイム）　空虛。虛穴。〔雲笈七籤〕紫精之天、

處二太無之中一。

【太命】478 タイメイ 天子の命。大命(3−5831··2180)の❷に同じ。〔論衡、骨相〕是則二夫趙王、無二帝王太命一。

【太明】479 タイメイ 日の異名。大明。〔事物異名錄、乾象、日〕雲笈七籤、九天眞人呼レ日爲二濯耀羅一、三天眞人呼爲二圓光蔚一、太素天中呼爲二眇景皇一、上清眞人呼爲二九曜生一、泰清天中仙人呼爲二太明一、太極天中呼爲二圓明一、玉賢天中呼爲二微元一、東華眞人呼爲二紫曜明一、亦名二圓珠一、亦謂二始暉一。

【太冥】480 タイメイ 北方をいふ。〔張協、七命〕寒山之桐、出二自太冥一。〔注〕翰曰、太冥、北方也。

【太蒙】481 タイモウ 大蒙(3−5831··2205)に同じ。

【太爺】482 t'ai⁴ yeh² ❶知事の尊稱。〔紅樓夢、一回〕衆人都說、新太爺到任。❷祖父の尊稱。

【太洋】483 タイヤウ 大陸を包圍する大海。そとうみ。

【太洋島】484 タイヤウタウ 太洋中の孤島。大陸と隔たつて、成立も地脈も全く無關係な島嶼。

【太陽】485 タイヤウ ❶陽氣ばかりで陰氣の少しも無い狀態、又、其のものをいふ。〔漢書、律歷志上〕太陰者、北方、北、伏也、陽氣伏二於下一、於レ時爲レ冬、云云、太陽者、南方、南、任也、陽氣任レ養レ物、於レ時爲レ夏、云云、少陰者、西方、西、遷也、陰氣遷二落物一、於レ時爲レ秋、云云、少陽者、東方、東、動也、陽氣動レ物、於レ時爲レ春。〔風俗通、皇霸〕尙書大傳說、遂人爲二遂皇一、云云、遂人以レ火紀、火、太陽也、陽尊、故託二遂皇於天一。〔張衡、靈憲序〕日者、陽精之宗、積而成レ鳥象レ鳥。❷南をいふ。❶を見よ。❸夏をいふ。❶を見よ。〔獨斷〕冬爲二太陰一、夏爲二太陽一。❹日をいふ。❶を見よ。〔後漢書、桓帝紀〕太陽虧レ光。〔晉書、王導傳〕及三帝登二尊號一、百官陪列、命レ導升二御牀一共坐、導固辭、至二于三四一、曰、若太陽下同二萬物一、蒼生何由仰レ照、帝乃止。〔謝惠連、雪賦〕太陽曜不レ固二其節一。❺人體の脈の名。古醫家の言に手太陽・足太陽等の語がある。〔史記、倉公傳〕太陽色乾。〔素問、陰陽離合論〕少陰之上、名曰二太陽一、太陽根起二於至陰一、結二於命門一、名曰二陰中之陰一。❻相術家の語。左まぶたの目もとに寄つた所。流年運氣(6−17431··307)を見よ。❼頭をいふ。〔水滸傳、三回〕只一拳太陽上正著。❽こめかみ。太陽穴。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕額角・太陽・目眥・鼻山根。

【太陽膏】486 t'ai⁴ yang kao¹ 頭痛膏。

【太陽糕】487 タイヤウカウ 米麵を丸めて小餠を作り、五枚重ねて、上に寸餘の小雞を作つて挿した食物。二月一日、北京で日を祭るに用ひる。太陽齋を見よ。〔燕京歲時記、太陽糕〕二月初一日、市人以二米麵一團成二小餠一、五枚一層、上貫以二寸餘小雞一、謂二之太陽糕一、都人祭レ日者、買而供レ之、三五具不レ等。

【太陽旗】488 タイヤウキ 日の丸の旗。日章旗。

【太陽宮】489 タイヤウキュウ 祠廟の名。北京崇文門外、磁器口の東南に在り、某節婦を祀ると稱す。每年、二月一日から五日閒の緣日がある。〔北京指南、名勝、廟宇〕太陽宮、在二崇文門外、磁器口東南行三里許一、廟後殿三楹供二偶像三一、其中一牌大書二太陽星君之位一、殿外懸二一匾額一曰二節操松筠一、殊不レ可レ解、或云、此殿會供二某節婦木主一者、其說近レ是、此廟每レ屆二二月一、初一至二初五日一、開レ廟五日。

【太陽系】490 タイヤウケイ 太陽を中心として運行する天體の一團體。太陽・惑星・衞星・慧星・流星等。

【太陽穴】491 t'ai⁴ yang hsüeh⁴ こめかみ。蟀谷。

【太陽齋】492 タイヤウサイ 二月一日をいふ。此の日は太陽の生れた日として齋食する。太陽糕を見よ。〔天咫偶聞〕二月一日、太陽宮進レ香、人家以二米糕一祀レ日、糕以二彩麪一作二雞形一。〔帝京歲時紀〕二月初一日祭二太陽一、北平舊家尙沿二此例一。

【太陽草】493 タイヤウサウ 草の名。黃精(12−47926··542)に同じ。〔博物志、方士〕太陽之草、名曰二黃精一、餌而食レ之、可二以長生一。〔朱弁、蘇子翼送二黃精酒一詩〕仙經何物堪レ卻レ老、較レ功無レ如二太陽草一。

【太陽時】494 タイヤウジ 太陽が正南にある時を正午として測定する時閒。

【太陽日】495 タイヤウジツ 太陽が子午線を經過して、再び子午線に到る閒を以て一日とする數へ方。恆星日(4−10527··87)に對す。

【太陽地】496 t'ai⁴ yang ti⁴ ひなた。日向。

【太陽蟲】497 タイヤウチュウ 動物の名。太陽蟲目アクチノフリス科の原生動物。湖沼に浮游し、體はほぼ球形、多數の假虛足を射出す。Actinosphaerium

【太陽燈】498 タイヤウトウ 水銀弧燈の一種。石英水銀弧燈をいふ。強度の菫外線を發し、醫療・殺菌・物質鑑識等に用ひる。

【太陽年】499 タイヤウネン 太陽が春分點を過ぎ、再び春分點に至る迄の時閒、卽ち三百六十五日五時四十八分四十六秒。

【太陽毛】500 タイヤウマウ 髮の異名。〔事物異名錄、形貌、髮〕七修類藁、髮乃太陽之毛、屬二心火一、火炎上、故上レ毛。

【太陽陵】501 タイヤウリョウ 晉の惠帝の陵の名。河南省洛陽縣の東南。〔晉書、懷帝紀〕光熙元年十二月己酉、葬二孝惠皇帝於太陽陵一。〔河南府志〕太陽陵、在二洛陽東南一。

【太陽曆】502 タイヤウレキ 地球が太陽を一周する三百六十五・二四二二日の日數を一年とした曆。二四二二の端數は四年に殆ど一日となるから、四年每に三百六十六日とし之を閏年とする。陽曆。新曆。太陰曆(30)の對。

【太陽過レ宮】503 タイヤウキュウヲスグ 太陽が星座を過ぎてゆくこと。〔夢溪筆談、象數一〕太陽過レ宮者、正月、日躔二娵訾一、二月、日躔二降婁一之類。

【太陽系儀】504 t'ai⁴ yang hsi⁴ i² 太陽・遊星等、天體の運行を說明する器具。

【太陽老人】505 タイヤウラウジン 淸、劉崑(2−2224··285)の號。

【太陽黑點說】506 タイヤウコクテンセツ 恐慌週期學說の一。約十一年の週期で太陽の黑點が增加し、凶作を見るといふ說。

【太庾】507 タイユ 赤松弘の號。赤松太庾(10−36993··192)を見よ。

【太容】508 タイヨウ 古の人の名。黃帝の樂師。大容。〔張衡、思玄賦〕素女撫レ絃而餘音兮、太容吟曰念哉。〔注〕銑曰、太容、黃帝樂師。〔陸機、前緩聲歌〕太容揮二高絃一、洪崖發二淸歌一。

【太牢】509 タイラウ 祭に牛・羊・豕の三牲が備はることをいふ。轉じて、盛な御馳走。大牢(3−5831··2272)・太牢滋味を見よ。〔大戴禮、曾子天圓〕諸侯之祭、牛曰二太牢一、大夫之祭、牲羊曰二少牢一、士之祭、牲特豕曰二饋食一。〔史記、孔子世家〕高皇帝過レ魯、以二太牢一祠焉。〔老子、二十〕衆人熙熙、如レ享二太牢一、如二春登レ臺。〔呂覽、仲春〕是月也、玄鳥至、至之日、以二太牢一祀二于高禖一。〔注〕三牲具曰二太牢一。〔管子、事語〕諸侯太牢、大夫少牢。

【太牢具】510 タイラウノグ 牛・羊・豕の三牲を供へた鼎俎。〔史記、陳丞相世家〕漢王爲二太牢具一。〔漢書、陳平傳〕漢爲二太牢之具一擧進。

【太牢公】511 タイラウコウ 唐の李德裕が、牛僧孺を憎恨して附けた綽號。牛は太牢に供へる牲であるからいふ。〔舊唐書、牛僧孺傳〕德裕南遷、所レ著窮愁志、引二里俗犢子之讖一以斥二僧孺一、又目爲二太牢公一、其相憎恨如レ此。

【太牢筆】512 タイラウノヒツ 牛僧孺の文筆。太牢公を見よ。〔海錄碎事、人事、言談〕京師語曰、太牢筆、少牢口、東西南北何處走、太牢、牛僧孺、少牢、楊虞卿。

【太牢滋味】513 タイラウノジミ 牛・羊・豕のおいしい味。盛大な御馳走をいふ。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕羹レ藜唅レ糗者、不レ足三與論二太牢之滋味一。

【太梁】514 タイリヤウ 地名。戰國、魏の都。河南省開封縣。大梁。〔阮籍、詠懷詩〕徘二徊蓬池上一、還顧二望太梁一。

【太隆】515 タイリユウ 禮の最高最盛を頌する語。〔史記、禮書〕兩者合而成レ文、以歸二太一一、是謂二太隆一。

【太陵】516 タイリヨウ ❶陵の名。隋の文帝の陵。陝西省武功縣の西南、三詩原の上。〔隋書、文帝紀下〕(仁壽四年)冬十月己卯、合二葬於太陵一。〔文獻通考、王禮考、山陵〕隋文帝崩、葬二太陵一、與二獨孤后一同レ墳異レ穴。〔扶風縣志〕隋文帝陵、在二邑東南四十五里一、陵地九頃餘、城垣遺址尙存。❷星の名。太陵爲レ疫を見よ。

【太陵爲レ疫】517 タイリヨウエキトナル 太陵星の氣が害をなして人が疫病になる。〔後漢書、魯恭傳〕人傷二於疫一。〔注〕太陵之氣爲レ害也、太陵、星名、春秋合誠圖曰、太陵、主二死喪一也。

【太櫓】518 フトロ 北海道後志國の郡名。

【太藺】519 フトキ 草の名。藺の一種。水澤中に生じ、長さ丈餘に及ぶ。莞。水葱。

【太和】520 タイワ タイクワ ❶陰陽の調和した氣。萬物生成

の元氣。大和。〔後漢書、馬融傳〕殆非㆜所㆛以逢㆓迎太和㆒、裨㆚助萬福㆙。❷世がよく治まつてゐること。太平。〔魏志、陳思王植傳〕混㆓同宇內㆒、以致㆓太和㆒也。〔曹植、七啓〕吾子爲㆓太和之民㆒。〔注〕向曰、太和、太平也。❸樂府の名。㋑晉の鼓吹曲の名。漢の上邪を改め稱す。明帝、皇位を繼ぎ、德澤流布するを詠ず。〔晉書、樂志下〕改㆓上邪㆒爲㆓太和㆒、言㆓明帝繼㆑體承㆑統、太和改元、德澤流布㆒也。㋺唐の郊廟歌辭の名。皇帝の行く時、及び軒に臨む時、奏す。〔樂府詩集、郊廟歌辭、唐祀㆓圜丘㆒樂章〕皇帝行及臨㆑軒奏㆓太和㆒。〔樂府、太和〕穆穆我后、道應㆓千齡㆒、登㆓三處㆑大、得㆓一居㆑貞、禮唯崇㆑德、樂以㆓和聲㆒、百神仰止、天下文明。❹年號。㋑三國魏、明帝、曹叡の時。(227－233) ㋺晉、海西公の時。(366－371) ㋩北魏、孝文帝、拓跋宏の時。(477－499) ㋥唐、文宗、李涵の時。(827－835) ㋭五胡十六國、後趙、高祖、明帝、石勒の時。(328－329) ㋬五胡十六國、成漢、歸義侯、李勢の時。(344－345) ㋣五代十國、呉、睿帝、楊溥の時。一に大和に作る。(929－934) ㋠明の英宗の代、大越(安南)の仁宗、黎濬の時、一に大利に作る。(1443－1453) ㋷新羅、新德王、勝曼の時。(647－653) ㋦持統天皇の私年號。(695) ❺嶺の名。山西省朔縣の東。〔元史、成宗紀三〕大德四年、幸㆓上都㆒、置㆓西京太和嶺屯田㆒、立㆓烏撒烏蒙等郡縣㆒。❻宮殿の名。北京の舊紫禁城の太和門の內。明の皇極殿。一名、奉天殿。清代、每歲の元旦・冬至・萬壽の三大節、及び國家の大慶の式典を行ふ。〔清會典、工部、宮殿〕紫禁城、云云、正中爲㆓太和殿㆒殿基高二丈、殿高十一丈、廣十一間、縱五間、上爲㆓重檐垂脊㆒、正吻二、旁吻四、前後金扉四十、金瑣窗十六、中間設㆓御座㆒。〔注〕每歲元旦・冬至・萬壽三大節、國有㆓大慶㆒、則御㆑殿受㆑賀、又凡大朝會・燕饗・命將・傳臚、及百僚除授謝恩、咸御焉。❼門の名。北京、舊紫禁城の午門の內。左右の二門があり、左を昭德、右を貞度といふ。前に金水河を環らし、石橋五を架す。清の光緒中、火に燬かれたが、後、重ねて建つ。〔清會典、工部、宮殿〕紫禁城、云云、正中南嚮者、爲㆓太和門㆒、廣宇九楹、三門、重檐崇基、石闌層列、前後階各三出、左右陛各一出、級各二十八、陛間列㆓寶鼎四㆒。❽縣名。㋑北周、烏突郡及び烏突縣を置き、隋、郡縣を改めて倶に太和といひ、尋いで郡を廢す。山西省臨縣の西。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府〕臨縣、府西北二百里、漢離石縣地、屬㆓西河郡㆒、後周置㆓烏突縣㆒、兼置㆓烏突郡㆒、治㆑焉、隋郡廢、縣改曰㆓太和㆒、屬㆓石州㆒、唐初改爲㆓臨泉縣㆒、置㆓北和州㆒治㆑焉。㋺隋末、置く。故城は山西省興縣の北。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、岢嵐州、興縣、合河城〕太和廢縣、在㆓縣北㆒、隋末置、唐初屬㆓東會州㆒、尋屬㆓嵐州㆒、九年省、貞觀三年、復置㆓太和縣㆒、八年、又省入㆓合河縣㆒。㋩宋、汝陰を分つて萬壽縣を置き、宣和の後、泰和と改む。今、安徽省太和縣の北。元、省き、後復置き、泰を太に改む。安徽省に屬す。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、潁州〕太和、州西北九十里、漢汝南郡細陽縣地、後爲㆓汝陰縣地㆒、宋開寶中、析㆓置萬壽縣㆒、以㆓萬壽鄕㆒而名、宣和中、改爲㆓泰和縣㆒、元初省入㆓潁州㆒、後復置、改㆑泰曰㆑太。〔清史稿、地理志〕安徽、潁州府、縣六、太和。㋥宋、太和砦を置き、金、太和縣を置く。陝西省神木縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、葭州、神木縣〕太和砦、在㆓縣西五十五里㆒、地名㆓太和谷㆒、宋元符二年、置㆑砦、元志、金末嘗升㆓太和砦㆒爲㆑縣、至元六年、廢入㆓神木縣㆒。㋭元、置く。明・清、皆雲南省大理府治とし、民國、大理縣と改む。〔讀史方輿紀要、雲南〕太和縣、漢楪楡縣地、屬㆓益州郡㆒、云云、開元二十六年、南詔皮羅閣逐㆓洱河蠻㆒取㆓太和城㆒、城蓋蠻所㆑置也、其後遂據㆓其地㆒、段氏因㆑之、元立㆓太和上中下三十戶所㆒、至元中、改置㆓理州及河東縣㆒、後省㆑州、改㆑縣曰㆓太和㆒屬㆓大理路㆒。〔清史稿、地理志〕雲南、大理府、縣三、太和。❾城の名。雲南省大理縣の南。今名、太和村。〔唐書、南詔傳〕開元末、皮羅閣逐㆓河蠻㆒、取㆓太和城㆒、夷語、山陂陀爲㆑和、故謂㆓太和㆒、以處㆓閣羅鳳㆒。❿鎭の名。四川省射洪縣の南。梓潼河と涪江との會合する口に當る。⓫砦の名。㋑河北省撫寧縣の東南、戴家江の西岸。㋺宋、置く。土名は麻也娘。陝西省神木縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、葭州、神木縣〕太和砦、在㆓縣西五十五里㆒、云云、又北二十里爲㆓太和堡㆒、亦是時所㆑置也。⓬字號。㋑明、顏寶(12－43591‥91)の字。㋺清、錢九韶(11－40563‥275)の字。㋩清、柳同春(6－14662‥287)の字。

【太和記】521 タイワキ　明曲の篇名。曲錄には楊愼作といひ、曲品及び顧曲雜言には許潮の作の泰和記といふ。

【太和宮】522 タイワキュウ　❶道家で口をいふ。〔黃庭內景經〕口爲㆓玉池太和宮㆒。❷湖北省武當山にある宮觀の名。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、均州〕武當山、州南一百二十里、山周八百餘里、有㆓天柱等峯七十二、玉虛等巖三十六㆒、云云、本名太嶽山、一名太和山、又名參上山、亦名㆓謝羅山㆒、云云、太和山建㆓太和・南巖・紫霄・五龍・玉虛等宮觀㆒、又於㆓天柱峯頂㆒建㆓眞武神殿㆒、備極宏麗。

【太和湯】523 タイワタウ　❶酒の別名。〔邵雍、無名公傳〕性喜㆓飮酒㆒、嘗命㆑之曰㆓太和湯㆒。❷熱湯をいふ。〔本草、熱湯〕釋名、百沸湯・麻沸湯・太和湯。

【太和堂】524 タイワダウ　明、屠勳(4－7761‥20)の室名。

【太和場】525 タイワヂヤウ　地名。❶四川省城口縣の南。清の嘉慶の教匪の亂に糧臺を設く。❷四川省眉山縣の北。彭川縣に通ずる路がある。

【太和曆】526 タイワレキ　曆の名。三國魏の景初曆の前に行はれたもの。〔魏志、明帝紀〕景初元年、云云、以㆓建丑之月㆒爲㆑正、改㆓太和曆㆒曰㆓景初曆㆒。

【太和先生】527 タイワセンセイ　字號。❶唐、王玄宗(7－20823‥1440)の號。❷唐、王旻(7－20823‥919)の號。

【太和正音譜】528 タイワセイオンプ　書名。二卷、明、寗王權(朱權)撰。樂府體式・古今英賢樂府格勢・雜劇十二科群英所㆑編雜劇・善歌之士・音律宮調・詞林須知・樂府の數項に分つて詞曲を論ず。此の書は中國に亡佚したが、獨り我が舊昌平校學問所に藏し、今、國會圖書館に傳ふ。

【太龢】529 タイワ　はなはだやはらぐ。又、極めて和平なこと。龢は和。〔班固、答賓戲〕沐㆓浴玄德㆒、稟㆓仰太龢㆒。〔注〕善曰、法言曰、或問㆓太和㆒、曰、其在㆓唐虞・成周㆒也、龢、古和字。翰曰、各受㆓太和平均之道㆒也。

【太王】530 タイワウ　周の文王の祖、古公亶父をいふ。〔書、武成〕公劉克篤㆓前烈㆒、至㆓于太王㆒、肇基㆓王迹㆒。〔史記、周紀〕追㆓尊古公㆒爲㆓太王㆒、公季爲㆓王季㆒。蓋王瑞自㆓太王㆒興。

【太橫】531 タイワウ　甚だ不正なこと。〔史記、主父偃傳〕大臣皆畏㆓其口㆒、賂遺累㆓千金㆒、人或說㆑偃曰、太橫。

【太霞洞】532 タイカダウ　明、杜文煥(6－14477‥384)の室名。

【太憨生】533 タイカンシヤウ　嬌やかで然も愚かな姿態になる。嬌癡の態が表現される。〔唐詩紀事、虞世南〕顏師古隋朝遺事載、洛陽獻㆓合蒂迎輦花㆒、煬帝令㆓袁寶兒持㆑之、號㆓司花女㆒、時詔㆓世南㆒、草㆓征遼指揮德音敕於帝側㆒、寶兒注視久㆑之、帝曰、昔傳、飛燕可㆓掌上舞㆒、今得㆓寶兒㆒方昭㆓前事㆒、然多㆓憨態㆒、今注㆓目於卿㆒、卿才人、可㆓便嘲㆑之、世南爲㆓絕句㆒曰、學㆑畫㆓鴉黃㆒半未㆑成、垂㆑肩嚲㆑袖太憨生、緣㆑憨卻得君王惜、長把㆓花枝㆒傍㆑輦行。

【太玉串】534 フトタマグシ　玉串の美稱。〔祝詞式、六月月次〕大中臣太玉串爾隱侍天。

【太花野】535 ダゲノ　越後國の地名。

【太晤士】536 テームス　川の名。テームス河。泰姆士。Thamesの音譯。

【太早計】537 タイサウケイ　はやまり過ぎた考。〔莊子、齊物論〕汝亦太早計、見㆑卵而求㆓時夜㆒、見㆑彈而求㆓鴞炙㆒。

【太草草】538 タイサウサウ　非常に早急なこと。〔五代史、漢臣、李業傳〕威擧㆑兵反、隱帝遣㆓左神武統軍袁義・侍衞馬軍都指揮使閻晉卿等㆒、率㆑兵拒㆓威于澶淵㆒、兵未㆑出、威已至㆓滑州㆒、帝大懼、謂㆓大臣㆒曰、昨太草草耳。

【太政官】539 ダジヤウクワン　❶大寶令の制度で八省を統轄し、大政を統理する官廳。其の長官を太政大臣とし、左大臣・右大臣とし、之を三公と稱し、中に大納言・中納言・參議があつて宮中の事を通攝し、下に少納言・左右辨官の三局があつて事務を分掌する。おほいまつりごとのつかさ。だいじやうぐわん。〔日本書紀、持統紀〕太政官卿等、奉敕奉宣。〔職員令義解〕太政官、謂、太政官內總

有二三局一、少納言・左辨官・右辨官、是也、大納言以上、卽兼通接也。㊂明治二年七月に置いて、諸省を統理せしめた最高の官廳。左・右大臣、大納言・參議・大・中・小辨、正・權大・小史、史生、官掌、使部の職員を置く。同三年十一月、舍人・雅樂の二局を置き、同四年七月、辨官を廢し、同月、官制を改め、正院・左右院・式部局を設け、左右大臣・大納言・史生・官掌を廢し、同年八月、式部・舍人・雅樂の三局を廢し、式部寮を置く。同八年四月、左右兩院を廢し、式部寮を宮內省に屬せしめ、同十年一月、正院の稱を廢し、同十八年十二月、廢した。〔明治二年七月八日職員令〕太政官。

【太政官札】540 ダジャウクワンサツ 明治初年、太政官から發布した不換紙幣。

【太政官日誌】541 ダジャウクワンニッシ 明治初年、太政官から朝廷の日々の行事を記載して公布したもの。今の官報の類。

【太詔辭】542 フトノリト 神に告り申すことば。又、祓の言葉。一定の文體があり、上古の語を用ひる。太祝詞。

【太申染】543 タイジンソメ 昔、江戸三十三間堀の和泉屋甚助が染出した染模樣の一種。

【太瘦生】544 タイソウセイ ㊀詩家の語。甚だやせてゐること。生は助字で、作麽生の生の類。〔李白、戲贈二杜甫一詩〕爲問別來太瘦生。〔歐陽脩、六一詩話〕太瘦生、唐人語也、至レ今猶以レ生爲二語助一、如二作麽生・何似生之類一、是也。㊁字號。㋑明、金湜(**11－40152**··609)の號。㋺清、孫立綱(**3－6987**··551)の號。

【太先生】545 タイセンセイ ㊀父の先生。又は、先生の先生の尊稱。〔稱謂錄、父之師師之師、太先生〕案、今之稱二太老師一、亦有下稱二太先生一者上、本レ此。㊁諡號。㋑唐、元亨の私諡。〔唐書、元結傳〕祖亨、字利貞、云云、卒、年七十六、門人私諡曰二太先生一。㋺唐、元延祖(**1－1340**··644)の私諡。

【太麤生】546 タイソセイ 甚だ粗暴の人をいふ。〔臨濟錄〕普化踏二倒飯牀一、師曰、太麤生。

【太憎生】547 タイゾウセイ 甚だにくいこと。生は助辭。太俗生を見よ。

【太俗生】548 タイゾクセイ 甚だ鄙俗なこと。生は助辭。〔增續韻府〕傳燈錄、南泉坐レ次、一僧叉手而立、南泉曰、太俗生、僧合掌、南泉曰、太憎生。

【太茶苗】549 ブトチヤンナイ 北海道北見國の地名。

【太不花】551 タイフクワ 元の人。世冑を以て宮に入り、遼陽行省平章政事に累遷し、至正中、平章政事となる。後、丞相脫脫に黨す。驕傲で朝命を遵奉しなかつたので官爵を削られ、尋いで部將に殺された。〔元史、一百四十一〕

【太夫人】552 タイフジン ㊀父に嗣いで諸侯となつた子が、其の母を呼ぶ稱。〔漢書、文帝紀、七年冬十月、無レ得レ擅二徵捕一、注〕如淳曰、列侯之妻稱二夫人一、列侯死、子復爲二列侯一、乃得レ稱二太夫人一。〔事物紀原、嬪御命婦部、太夫人〕前漢文帝紀、七年十月令、列侯太夫人無レ得レ擅二徵捕一、如淳云、列侯子復爲二列侯一、母稱二太夫人一、蓋漢制也、晉虞譚母、亦拜二武昌侯太夫人一、晉始加二冊命一。㊁老母。〔剪燈新話、愛卿傳〕趙子因問、太夫人安在、曰、尊姑在レ世無レ罪。

【太穆后】553 タイボクコウ 唐の高祖の后。竇后(**8－25695**··25)の諡。

【太老師】554 タイラウシ 父の師、又は師の師をいふ。〔稱謂錄、父之師師之師、太老師〕敏求軒述記、洪稚存書遺事云、翁學士方綱、與二武虛谷億一有二淵源一、武顧不レ喜レ之、殿試對二策保和殿一、日晡、翁派收レ卷亦在レ殿、謂レ武曰、汝爲二我小門生一、知レ之乎、武忿怒抵レ几起曰、此豈認二太老師一處乎。

【太老爺】555 t‘ai^4 lao^3 yeh 夫の父。

【太鶴山人】556 タイカクサンジン 字號。㊀明、陳中州(**11－41698**··1133)の號。㊁清、端木國瑚(**8－25806**··18)の號。

【太玉山人】557 タイギョクサンジン 宋、兪德鄰(**1－1437**··131)の號。

【太政大臣】558 ダジャウダイジン ㊀太政官中の最高の官。職掌はなく、天皇の師範として四海の儀表となる。則闕の官。古は歿後の增官で、生前、陞進したものが少かつたが、藤原良房以來、攝關であつたものが多く任命せられる事となつた。だいじやうだいじん。唐名は大師・相國・大尉。〔職原鈔〕太政官、太政大臣、唐名、大師・相國・大尉。〔和漢三才圖會、官位、太政大臣〕天智天皇十年、以二大友皇子一爲二太政大臣一、此其始也。㊁明治四年七月、太政官に置かれた正院の長官で、天皇を輔翼し、庶政の總判・祭祀・外交・宣戰・講和・立約・海陸軍の事を統治する勅任官。同十年一月、正院の稱を廢し、十八年十二月廢す。〔明治四年七月二十九日太政官職制〕太政大臣、相二當正二位一。

【太青針島】559 タイセイシンタウ 島の名。廣東省寶安縣の東南。香港の東。一名、太星礬。巖石が崎嶇としてゐる小島だが、船舶航行の標的となるので、著名である。

【太中大夫】560 タイチュウタイフ 官名。秦、置き、議論を掌る。漢・晉以來、皆之に因る。後魏以後は散官とし、淸は設けない。〔史記、萬石傳〕稍遷至二太中大夫一。〔漢書、百官公卿表上〕大夫、掌二論議一、有二太中大夫・中大夫・諫大夫一、皆無レ員、多至二數十人一、武帝元狩五年、初置二諫大夫一、秩比八百石、太初元年、更二名中大夫一、爲二光祿大夫一、秩比二千石、太中大夫、秩比千石、如レ故。〔事物紀原、勳階寄祿部、太中〕秦官也、掌二議論一、而劉向說苑、有三晉太中屠餘見二晉平公之驕一、則晉亦有二其官一矣、當二是晚周列國之官一、秦以二太中一爲二大夫一也。〔通典、職官、秩品〕後魏百官、從三品、太中大夫。〔續通典、職官、文散官〕唐制、從四品上曰二太中大夫一、下曰二中大夫一、宋、從四品上曰二太中大夫一、下曰二中大夫一、遼無、金、從四品上曰二太中大夫一、中曰二中大夫一、下曰二少中大夫一、元、從三品曰二太中大夫・中大夫・亞中大夫一、明、從三品初授二亞中大夫一、陞授二中大夫一、加二授太中大夫一。

【太田頑鷗】561 オホタグワンオウ 京都の人。本姓は甲賀。名は象。字は伯魏。通稱は榮助。號は頑鷗。天明年間の人。著に咏物雜體一百首・咏物一百首・頑鷗詩集・笑明詩・非詩話がある。〔近代著述目錄、後篇〕。

【太田翠陰】562 オホタスイイン 仙臺の人。名は成章・重厚。字は士達。通稱は彥八郞・正五郞・治太夫・丹下。號は翠陰。林氏の門に學ぶ。官は秋田藩儒。寶曆四年二月十六日歿す、年七十九。著に太田成章上書・群玉寶鑑・詩文遺稿がある。〔卿土文獻綜合目錄〕・〔秋田人物傳〕。

【太田全齋】563 オホタゼンサイ 備後の人。名は方。字は叔龜。通稱は八郞。號は全齋。天明年間の人。官は福山藩儒。江戶に住居す。音韻學に精通し、又、印刷術の功勞者。著に音徵不盡・同窠音徵・漢吳音圖・重訂韓非子翼毳・重訂韓非子翼毳附錄・古今諺草・三千字文・全齋走筆・全齋讀例・墨子考要・名實編・呂氏春秋折諸がある。〔近代著述目錄、後編〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【太田方齋】565 オホタハウサイ 名は保世。字は君明。通稱は善藏。號は方齋。官は壬生藩儒。著に資善錄・政典先例・如是我聞・論語證注がある。〔近代著述目錄、後編〕。

【太安麻呂】566 オホノヤスマロ 奈良朝の人。神武天皇の皇子の神八井耳命の後裔。養老七年、歿す。博學にして故典に精通し、又、文章に巧。官は文武天皇の時、民部卿。位は從四位上。和銅四年、文武天皇の勅を奉じて古事記三卷を撰す。

【太弋山樵】567 タイヨクサンセウ 明、謝兆申(**10－35827**··333)の號。

【太郞冠者】568 タラウクワジャ 能の狂言で、大名などの從僕をいふ。其の脇を次郞冠者といふ。〔狂言記、狐塚〕太郞冠者・次郞冠者を山田へ遣はして御座る。

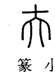
【太馭中大夫】569 タイギョチュウタイフ 官名。大馭の長官。周官の大馭は夏官の屬で天子の乘車を掌る。大馭(**3－5831**··477)の㊀を見よ。〔資治通鑑、陳紀〕(文帝、天嘉五年)太馭中大夫長樂公若干鳳爲二徐公一。〔注〕周官、太馭中大夫、掌下馭二玉路一以祀、及犯軷上、屬二夏官一。

【夫】
5835

㊀フ 〔集韻〕風無切 ㄈㄨ fu^1 虞

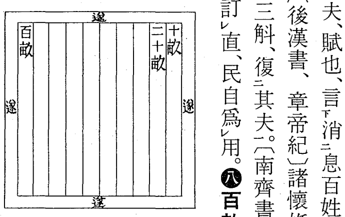
㊁ブ フ 〔集韻〕馮無切 ㄈㄨˊ fu^2 虞

慣フウ



小篆

［一］❶をとこ。をのこ。〔說文〕夫、丈夫也、从二大一、一目象レ先、周制八寸爲レ尺、十尺爲レ丈、人長八尺、故曰二丈夫一。〔詩、小雅、車攻〕射夫既同。〔疏〕夫、男子之總名。〔禮、曲禮上〕若夫坐如レ尸。〔釋文〕夫、丈夫也。〔晉書、蔡謨傳〕丁夫戰二于外一。❷**師傅**。〔詩、陳風、墓門〕夫也不レ良。〔傳〕夫、傅相也。❸**をつと**。つま。せこ。〔儀禮、喪服傳〕夫者、妻之天也。〔孟子、離婁下〕其良人出、注〕良人、夫也。〔後漢書、列女傳〕夫者、天也。〔注〕夫者、妻之天也。〔白虎通、號〕夫者、扶也、以レ道扶接者也、謂二婦之夫一也。❹**つはもの**。〔左氏、哀、元〕夫屯晝夜九日。〔注〕夫、猶レ兵也。❺**こもの**。〔晉書、范甯傳〕奮二人居宅一、工夫萬計。〔唐書、李德裕傳〕輦夫多死。❻**たすける**。〔白虎通、號〕夫者、扶也。❼**えだち**。**ぶやく**。官に徵せられて勤勞に服すること。〔後漢書、百官志、注〕夫、賦也、言下消二息百姓一、均中其役賦上也。〔後漢書、章帝紀〕諸懷姙者、賜二胎養穀一人三斛、復二其夫一。〔南齊書、王敬則傳〕均レ夫訂レ直、民自爲レ用。❽**百畝の田**。周代、男子が成丁に達すれば田百畝を支給せられたからいふ。〔周禮、地官、小司徒〕九夫爲レ井。〔注〕晦百爲レ夫。〔左氏、襄、二十五〕夫井衍沃。〔注〕畝百爲レ夫。❾**治める**。敷(**5**-**13359**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夫、叚借爲レ敷。〔周禮、天官、序官、宰夫、疏〕夫者、治也。〔禮、王制〕夫二圭田一無レ征。〔注〕夫、猶レ治也。❿**易で震にあたる**。〔易、小畜〕夫妻反目。〔虞注〕震爲レ夫。［二］❶**かな**。句末・句中に在る感歎の助辭。〔經傳釋詞、十〕夫、猶レ乎也。歎辭也、在二句末一者、禮檀弓曰、三年之喪、亦已久矣夫、是也、在二句中一者、檀弓曰、仁夫公子重耳、是也。〔呂覽、審應〕申子說レ我而戰、爲二吾相一也夫。〔注〕夫、不滿之辭。❷**か**。疑問の助辭。〔左氏、昭、十六〕猶義也夫。〔疏〕夫、是疑怪之辭。❸**その**。**この**。指事の代名詞。〔經傳釋詞、十〕夫、指事之辭也、禮檀弓曰、予惡二夫涕之無一レ從也、僖二十四年左傳曰、夫袪猶在。〔禮、檀弓上〕夫夫也、爲二習於禮一者。〔注〕夫夫、猶レ言二此丈夫一也。〔左氏、昭、十六〕且夫易不レ可二以占一レ險。〔注〕夫易、猶二此易一。❹**かれ**。**それ**。第三者をさす人代名詞。〔經傳釋詞、十〕夫、猶レ彼也、禮記三年問曰、夫焉能相與羣居而不レ亂乎、荀子禮論篇、夫作レ彼、襄二十六年左傳曰、夫獨無二族姻一乎、楚語作三彼有二公族甥舅一、齊語曰、夫爲二其君一勤也、管子小匡篇、夫作レ彼。〔漢書、賈誼傳〕夫將二爲レ我危一。〔注〕夫、夫人也、亦猶二彼人一耳。❺**かの**。**それ**。**また**。發語の助辭。〔經傳釋詞、十〕夫、發聲也、周禮司烜氏曰、掌下以二夫遂一取中明火於日上、鄭司農曰、夫、發聲也、禮記少儀曰、加二夫襓與一レ劍焉、鄭注曰、夫、或爲レ煩、皆發聲。〔禮、禮運〕夫禮之初。〔疏〕夫者、發語之辭。〔孟子、盡心下〕夫舜惡得而禁レ之。〔注〕夫、辭也。〔張衡、思玄賦〕獲二我所一レ求、夫何思。〔注〕衡曰、夫、復也。❻**おほい**。多くの。〔經傳釋詞、十〕夫、猶レ凡也、衆也。〔國語、周語中〕夫人奉レ利而歸二諸上一。〔注〕夫人、猶二人人一也。〔淮南子、本經訓〕夫人相樂。〔注〕夫人、衆人也。❼**姓**。〔廣韻〕夫、姓也。



百畝爲夫（農政全書）

名乘　フ。ヲ。

解字　會意。大（人の義に用ふ）と一（かんざしの形に象る）との合字。本義はおとな。男子は二十にして冠し、冠して簪を加へる。故に大に从ひ、一を以て其の上部を貫いて、簪を加へたるおとなの意を表はす。〔說文、夫、段注〕天之一冒二大上一、爲二會意一、夫之一毌二大首一、爲二象形一、亦爲二會意一。

【夫夷】1 イフ　❶川の名。源を廣西省全縣の西に發し、東北流して湖南省武岡縣に至り、資水に注ぐ。〔讀史方輿紀要、湖廣、寶慶府武岡州、新寧縣〕縣南里許、源出二廣西全州界一、流入レ境、下流會二于都梁水一、又新寨水、在二縣東南山花溪山一、流經二縣南石門洞一、合二于夫夷水一、志云、縣西十里有二長湖一、自二都梁山一發レ源、滙二流于此一、東入二夫夷水一。❷縣名。漢、置く。侯國。湖南省武岡縣の東北。〔漢書、地理志上〕零陵郡、縣十、夫夷。

【夫栘】2 イフ　木の名。唐棣(**2**-**3709**‥275)の別名。〔爾雅、釋木〕唐棣、栘。〔注〕似二白楊一、江東呼二夫栘一。

【夫彝】3 イフ　❶縣名。南朝梁、置く。漢の夫夷侯國。故城は湖南省新寧縣の東北。❷川の名。廣西省西延鎭から東北に流れて湖南省新寧縣を經、邵陽縣の西南に至り、資水に入る。

【夫于】4 ウフ　地名。春秋、齊の地。山東省長山縣の西南。〔左氏、昭、十〕子周如レ之、而與二之夫于一。〔注〕濟南於陵縣西北有二于亭一。

【夫役】5 フエキ　公事に民を使役すること。又、公事の爲に使役せられる民。夫課。えだち。ぶやく。〔續文獻通考、職役考、歷代役法〕世宗、嘉靖元年九月、令二河南山東人戶一、徵レ銀雇二修レ河夫役一。

【夫屋】6 フヲク　周代、鄉遂の地で穀稅を出す時、隱誤を防ぐ爲、一井の九夫が互に相保任する制。夫三を屋とし、屋三を井とす。〔周禮、地官、小司徒〕正二政事一、攷二夫屋一。〔注〕夫三爲レ屋、屋三爲レ井、出二地貢一者、三三相任。〔疏〕夫屋者、考二練其三夫一爲レ屋、出二地貢一之時、以相保任不レ得二隱誤一云云、今云二夫三爲レ屋、屋三爲レ井者、以三其溝洫雖レ爲レ貢、出レ貢之時、亦三三相保任、以出二穀稅一、故鄭云、出二地貢一者三三相任也、一井之內九夫、三夫爲レ屋、是一屋三夫、自相保任、故云、三三相任、據二一井一而言也。

【夫家】7 カフ　❶男女をいふ。〔周禮、地官、遂人〕以二歲時一登二其夫家之衆寡一。〔注〕夫家、猶レ言二男女一也。❷夫と妻。夫妻。夫家之征を見よ。〔周禮、地官、媒氏〕司下男女之無二夫家一者上。〔注〕無二夫家一、謂二男女之鰥寡者一。❸おつとの家。〔漢書、劉向傳〕婦人內二夫家一、外二父母家一。

【夫家之征】8 フカノセイ　周代、民の常業のないものに罰金として出させる稅。農民の一組の夫婦に與へられる百畝の田に對する稅に相當する額の稅。〔周禮、地官、載師〕凡民無二職事一者、出二夫家之征一。〔注〕夫稅者、百畮之稅。

【夫槩】9 フガイ　春秋、吳の人。闔閭の弟。楚を敗つて郢に入り、之に處つたが、秦が楚を救つて吳を敗るに及び、夫槩は先づ亡げ歸つて自立す。闔閭が之を聞き、夫槩を攻めたので、夫槩は楚に奔り、堂谿に封ぜられて堂谿氏となる。〔史記、吳太伯世家〕。

【夫蕖】10 フキヨ　蓮の花。芙蕖。扶渠。〔曹植、芙蓉賦〕「夫蕖蹇產。

【夫課】11 フクワ　ぶやく。夫役。〔宋書、自序傳〕基築既廣、夫課又嚴。

【夫君】12 フクン　❶君上をいふ。〔楚辭、九歌、雲中君〕思二夫君一兮太息。〔注〕君、謂二雲神一、五臣曰、夫君、謂二雲神一以喩レ君也。❷妻が夫を呼ぶ敬稱。郞君。〔高駢、閨怨詩〕人世悲歡不レ可レ知、夫君初破二黑山一歸、如今又獻征南策、早晚催レ縫帶號衣。❸朋友をいふ。かのきみ。〔孟浩然、遊二精思觀一云云詩〕衡門猶未レ掩、佇立待二夫君一。

【夫權】13 フケン　舊民法の觀念で、夫が妻に對して有した權利。卽ち、特に妻の行爲を許可する權利。住居を選定して妻を同居させる權利など。

【夫差】14 フサ　春秋の人。吳王闔閭の子。越王句踐を夫椒に敗つて讎を報じたが、後、句踐に滅ぼされた。〔史記、三十一〕。

【夫差內傳】15 フサナイデン　吳越春秋の篇名。

【夫妻】16 フサイ　夫と妻。めをと。夫婦。夫家。〔管子、

版法解〕飾父子・兄弟・夫妻之義。〔漢書、貨殖、蜀卓氏傳〕夫妻推輦行。

【夫妻一體】17 夫婦は一つの體のやうなものである。〔儀禮、喪服〕傳曰、父子一體也、夫妻一體也、昆弟一體也。

【夫妻相督】18 夫婦が互にせめあふこと。〔論衡、寒溫〕父子相怒、夫妻相督。

【夫妻反目】19 夫婦が相爭ふこと。夫婦のなかがわるいこと。〔易、小畜〕九三、輿說輻、夫妻反目。

【夫妻牉合】20 夫婦は一つの物の半分づつで、その片を二つ合せて一つの完全體となるものである。夫婦判合(68)を見よ。〔儀禮、喪服〕父子首足也、夫妻牉合也、昆弟四體也。

【夫妻本是同林鳥】21 夫妻は元來、同じ林に宿つた鳥が、明朝、別々に飛去るやうなもので、一時は一處に起居しても、やがて又別れる運命にあるものである。合せものは離れもの。輕薄な女の語。〔法苑珠林〕有人耕田、被蛇嚙殺、或詣其家、以語其婦、婦說喩言、譬如飛鳥、暮集高樹、同林共宿、伺明早起、各自飛去、行求飮食、有緣更合、無緣卽離、我等夫婦、亦復如是。

【夫早】22 にんそく。人足。人夫。〔福惠全書、涖任部、發到任示票〕凡鋪兵吹手傘扇夫早、幷執事各役、悉照舊規、俱在于某處伺候。

【夫子】23 ㊀古、男子の通稱。〔易、恆〕六五、恆其德貞、婦人吉、夫子凶。〔疏〕夫子、男子也。㊁將士をいふ。〔書、泰誓中〕勗哉夫子、罔或無畏、寧執非敵。〔傳〕夫子、謂將士。㊂春秋時代、太子・大夫・先生・長者を呼ぶ尊稱。孔門の弟子が專ら孔子を稱してから、後世、師の專稱となる。〔左氏、文、元〕(秦伯曰)孤實貪以禍夫子、夫子何罪、復使爲政。〔論語、憲問〕信乎、夫子不言不笑不取乎。〔史記、孔子世家贊〕中國言六藝者、折中于夫子、可謂至聖矣。〔墨子、非儒〕非夫子、則吾終身不知孔某之與白公同也。〔陔餘叢考卷三十六、夫子〕邢昺疏謂、孔子所以稱夫子者、孔子嘗爲魯國大夫、子者、男子之稱、故弟子連官稱尊之、以別於餘人、按、此說非也、左傳、孟明之敗、或勸秦穆公殺之、公曰、孤實貪以禍夫子、夫子何罪、甯嬴論陽處父曰、夫子其不歿乎、晉賈季奔狄、趙盾使臾駢送其帑、或勸駢殺之、駢曰、夫子禮于賈季、我報私怨不可、楚薳子馮曰、吾見申叔夫子、所謂生死而肉骨者、韓宣子聘齊、齊大夫多笑之、晏子曰、夫子君子也、鄭子皮死、子產哭曰、惟夫子知我、子產勸子大叔爲政、以猛不從、既而多盜、悔之、乃曰、吾早從夫子、不及此、孟僖子病、謂家臣曰、必屬說與何忌於夫子、國語、晉悼公初居于周、單襄公論之曰、此十一德者、夫子皆有焉、楚莊王以教太子之事、問申叔時、申叔時曰、夫子踐位則退、夫子指太子也、屈到嗜芰、既卒、宗老將薦芰曰、夫子屬之、夫子指到也、沈子高曰、楚國之平均者夫子也、夫子謂子西也、是夫子、本春秋時、先生長者之稱、故孔門弟子、稱孔子皆曰夫子、顏淵曰、夫子循循善誘、曾子曰、夫子之道、忠恕、子貢曰、夫子之文章、蓋皆沿當時之稱、非特創也、惟專稱曰子、則自孔門弟子之稱孔子始、如論語所記、及孟子禮記所引孔子之言、皆稱子曰、中庸雖有仲尼曰、然係首引孔子之言、以後卽皆稱子曰、明乎、子卽仲尼也、此則孔門創例、孔子以前未有專稱子者也、然則專稱子乃孔門所創、而稱夫子則當時所同、邢昺所云以孔子嘗爲大夫、而連官稱之、以別於餘人者、乃臆說也、厥後因孔門有夫子之稱、於是夫子遂爲師之專稱、如史記司馬相如傳、有嚴忌夫子、鄒陽傳亦曰、枚先生、嚴夫子、注、當時尊尚師稱之、北史斛斯徵傳、周武帝、命徵授皇子經、諸皇子皆呼徵夫子、是也、因孔門有專稱爲子之例、於是又有以子爲師之專稱者、公羊傳序、有子公羊子・子司馬子、何休釋曰、加子于姓上、名其爲師也、若非師而但有德者、不以子冠氏也、梁溪漫志云、列子書、亦其門人所集、故曰子列子、子冠氏上、明其爲師也、不但言子者、所以避孔子也、又陳后山以南豐瓣香、稱爲子曾子、朱晦菴稱周程曰子周子・子程子、亦自托於弟子之列也、此又皆因孔門之稱、而援以爲例者也。〔稱謂錄、師友、夫子〕論語稱夫子者、一十五處。㊃妻が夫を呼ぶ稱。字解の㊂を見よ。〔孟子、滕文公下〕女子之嫁也、母命之、往送之門、戒之曰、往之女家、必敬必戒、無違夫子。㊄子が父を呼ぶ稱。〔孟子、離婁上〕夫子教我以正、夫子未出於正也、則是父子相夷也。㊅科擧の試驗の合格者が試驗官を呼ぶ稱。〔觚不觚錄〕京師稱謂、極尊者曰老先生、自內閣以至大小九卿、皆如之、門生稱座主、亦不過曰老先生而已、至分宜當國、而諛者稱老翁、其厚之甚者、稱夫子、此後門生稱座主、俱曰老師。㊆fū-tzŭ にんそく。伕子。

【夫子甕】24 後漢の鍾離意が魯の相となり、孔子廟で得た甕。〔後漢書、鍾離意傳、注〕意別傳曰、意爲魯相、到官出私錢萬三千文、付戶曹孔訢、修夫子車、身入廟、拭机席劍履、男子張伯除堂下草、土中得玉璧七枚、伯懷其一、以六枚白意、意令主簿安置几前、孔子教授堂下牀首有縣甕、意召孔訢問、此何甕也、對曰、夫子甕也、背有丹書、人莫敢發也、意曰、夫子聖人也、所以遺甕、欲以懸示後賢、因發之、中得素書、文曰、後世修吾書、董仲舒、護吾車、拭吾履、發吾笥、會稽鍾離意、璧有七、張伯藏其一、意卽召問、伯果服焉。

【夫子牆】25 孔子の家のかきね。孔子の德行の深遠な諭。高い牆壁をめぐらされた家の內部が、外人にたやすく見えないやうに、孔子の深遠な德行は容易にうかがはれないこと。〔論語、子張〕夫子之牆數仞、不得其門而入、不見宗廟之美、百官之富。〔柳宗元、以碩德偉材屈於誣枉云云詩〕獨棄傖人國、難窺夫子牆。

【夫子廟】26 孔子の廟。〔歐陽脩、襄州穀城縣夫子廟記〕釋奠、釋菜祭之略者也。

【夫子自道】27 孔子が自分のことを自分で言つたこと。轉じて、本人が自ら自分のことをいふ意。〔論語、憲問〕子曰、君子道者三、我無能焉、仁者不憂、智者不惑、勇者不懼、子貢曰、夫子自道也。

【夫主】28 をつと。夫。良人。〔通俗編、倫常、夫主〕後漢書、班昭女誡、正色端操、以事夫主。〔釋親考〕夫・夫子・良人・夫主、綉繻記、夫主早亡、失身塵坌。

【夫須】29 草の名。蓑笠を作るに用ひる。すげ。はますげ。莎草。轉じて、蓑笠をいふ。〔爾雅、釋草〕臺、夫須。〔疏〕陸機云、舊說、夫須、莎草也、可以爲蓑笠。〔詩、小雅、南山有臺〕南山有臺。〔注〕臺、夫須也。〔疏〕陸機疏云、舊說、夫須、莎草也、可爲蓑笠。

【夫諸】31 怪獸の名。白鹿に似て四本の角があり、現はれれば必ず大水があるといふ。〔山海經、中山經〕敖岸之山、有獸焉、其狀如白鹿而四角、名曰夫諸、見則其邑大水。

【夫鐘】32 地名。春秋、郕の地。今の山東省寧陽縣の北。〔春秋、桓、十一〕公會宋公于夫鐘。〔杜注〕夫鐘、郕地。〔左氏、文、十二〕郕伯卒、郕人立君、太子以夫鐘與郕邽來奔。

【夫鱓】33 川魚の一。はや。鮠。〔倭名類聚抄〕。

【夫人】34 ㊀諸侯の正妻。又、貴人の妻。夫は扶で、夫を扶ける義。〔禮、曲禮下〕天子之妃曰后、諸侯曰夫人、大夫曰孺人、士曰婦人、庶人曰妻。〔注〕夫之言、扶。〔春秋、隱、二〕夫人子氏薨。〔疏〕仲子、實妾、桓未爲君、故仲子不應稱夫人也。〔公羊、隱、二〕女在其國稱女、在塗稱婦、入國稱夫人。〔白虎通、嫁娶〕天子妃、謂之后、云云、國君之妻、稱之曰夫人、何、明當扶進夫人。㊁皇后。王后。〔周禮、考工記、玉人〕夫人以勞諸侯。〔注〕玄謂、夫人、王后也。㊂皇后の次に位し、世婦等の上に位する、後宮の婦人。天子の妾の一種。〔禮、曲禮下〕天子有后、有夫人、有世婦、有嬪、有妻、有妾。〔通典、禮、天子冊妃嬪夫人〕周制、天子后立六宮・三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一御女、以聽天下之內治。㊃婦人の封號。列侯の妻に贈るもの。王莽に始まる。〔事物紀原、嬪御命婦部、封夫人〕唐虞夏商、公侯之妻尙無夫人之號、由周克商、列爵惟五、於其封國皆稱君、其妻皆爲夫人、其事雜見於詩・禮、雖皆命於天子、亦無封冊之禮、漢崔篆母師氏、通經學百家之言、王莽寵以殊禮、賜號義成夫人、則夫人之

封、自二王莽一始也、蓋自下魯昭公娶二於吳一爲中同姓上、夫人始不レ命二於天子一、至レ莽乃加二封號一云。❺他人の母の稱。〔史記、刺客、聶政傳〕故進二百金一者、將三用爲二夫人麤糲之費一。〔注〕正義曰、韋昭云、古者名二男子一爲二丈夫一、尊二大嫗一爲二夫人一。〔韓愈、貞曜先生墓誌〕年幾五十、始以二尊夫人之命一來二集京師一、從二進士試一。❻己の母の稱。〔後漢書、應奉傳、明二達政事一、注〕汝南記曰、元義謂レ人曰、此我故婦、非レ有二它過一、家夫人遇レ之實酷。❼正妻の稱。〔袁昂書評〕羊欣書、如大家婢爲二夫人一、雖レ處二其位一、而舉止羞澀、終不レ似レ眞。❽婦人の尊稱。〔史記、刺客、聶政傳〕政姊榮、云云、曰、其是吾弟乎、云云、如二韓之市一、而死者果政也、伏レ屍哭極哀、云云、市行者諸衆人皆曰、此人暴虐、吾國相王、縣二購其名姓千金一、夫人不レ聞與、何敢來識レ之也。❾多くの人。衆人。人々。〔周禮、考工記、總目〕粵之無レ鎛也、非レ無レ鎛也、夫人而能爲レ鎛也。〔孫詒讓正義〕夫人、猶二衆人一也、周語韋注曰、夫人、猶二人人一也。〔左氏、襄、八〕夫人愁痛。〔注〕夫人、猶二人人一也。❿彼の人。〔左氏、昭、三十一〕君惠二顧先君之好一、施及二亡人一、將レ使下歸糞二除宗祧一、以事上レ君、則不レ能レ見二夫人一、己所三能見二夫人一者、有レ如レ河。〔注〕夫人、謂二季孫一也。⓫城の名。㋑河北省行唐縣。〔太康地記〕行唐縣北二十里有二夫人城一、卽玉女神所レ築。〔太平寰宇記〕後魏太和初、移二置行唐縣於夫人城一、孝昌四年復移二於舊城一、卽今地也。㋺湖北省襄陽縣の西北。〔晉書、朱序傳〕初、苻丕之來攻也、序母韓自登レ城履行、謂、西北角當二先受レ弊、遂領二百餘婢并城中女子一、於二其角一斜築レ城二十餘丈、云云、襄陽人謂二此城一爲二夫人城一。⓬㋑古、我が國で、妃の次に位する、後宮の婦人。定員三人。三位以上の女を充てた。〔後宮職員令〕夫人三員、右三位以上。㋺現代、相當の身分・地位・財産等のある人の妻。㋩他人の妻の敬稱。

〖夫人竹〗35 フジンチク 竹の名。湖北省漢陽の桃花洞息夫人の祠の附近に產す。女子が伐れば完全に伐れるが、男子が伐れば寸々に裂けるといふ。〔陳鼎竹譜〕夫人竹、產二漢陽桃花洞息夫人祠側一、伐レ竹、忌二男子持レ斤、男子伐レ之、竹寸寸裂、女子伐レ之則完。

〖夫人裙帶〗36 フジンノクンタイ 妻のもすそとおび。妻の力によつて高官に昇ること。宋の蔡卞が王安石の女を娶つて官を得たのを宦官が譏つた語。〔清波雜志〕宋蔡卞拜二右相一、家宴張レ樂、伶人揚言曰、右丞今日大拜、都是夫人裙帶、蔡卞妻、王安石女、譏二其自レ妻而得レ官也。

〖夫人稱謂〗37 フジンノショウヰ 諸侯の夫人の名稱。夫人が天子に對して自ら稱するには老婦といひ、諸侯に對しては寡小君といひ、其の君に對しては小童といふ。又、邦人が夫人を稱するには君夫人といひ、他國の人に對しては寡小君といふ。他國の人が此の夫人を稱するときは君夫人といふ。〔禮、曲禮下〕天子之妃曰レ后、諸侯曰二夫人一、大夫曰二孺人一、士曰二婦人一、庶人曰レ妻、公侯有二夫人一、有二世婦一、有レ妻、有レ妾、夫人自二稱於天子一曰二老婦一、自二稱於諸侯一曰二寡小君一、自二稱於其君一曰二小童一、自二世婦一以下、自稱曰二婢子一、子於二父母一則自名也。〔論語、季氏〕邦君之妻、君稱レ之曰二夫人一、夫人自稱曰二小童一、邦人稱レ之曰二君夫人一、稱二諸異邦一曰二寡小君一、異邦人稱レ之亦曰二君夫人一。

〖夫人治レ內〗38 フジンハウチヲヲサム 夫人は家の奧向を治める。男子は外を治めるの對。〔呂覽、精諭〕仲父治レ外、夫人治レ內。

〖如二夫人一者〗39 フジンノゴトキモノ 正妻の如き待遇を受けてゐる者。寵愛せられてゐる妾をいふ。〔左氏、僖、十七〕齊侯好レ內、多二內寵一、內嬖如二夫人一者六人。〔書言故事、寵妾類〕稱二人寵妾一、如二夫人一。

〖賊二夫人之子一〗40 カノヒトノコヲソコナフ あの子に害を與へる。學問未熟な年少者を仕官させれば、結局、其の年少者を毒し、其の少年のためにならないといふこと。〔論語、先進〕子路使三子羔爲二費宰一、子曰、賊二夫人之子一。

【夫遂】41 フスイ 日光を利用して火を取る具。陽遂。〔周禮、秋官、司烜氏〕掌下以二夫遂一取二明火於日一、以レ鑒取中明水於月上。〔注〕夫遂、陽遂也。〔疏〕云二夫遂陽遂也一者、以三其日者、太陽之精、取二火於日一、故名二陽遂一。

【夫壻】42 フセイ をつと。又、妻が夫を呼ぶ稱。良人。〔古詩、陌上桑〕東方千餘騎、夫壻居二上頭一、何用識二夫壻一、白馬從二驪駒一。〔魏志、倭人傳〕倭國亂、相攻伐歷レ年、乃共立二一女子一爲レ王、名曰二卑彌呼一、事二鬼道一、能惑レ衆、年已長大、無二夫壻一、有二男弟一、佐二治國一、自レ爲レ王以來、少レ有二見者一。〔庾信、結客少年場行〕今年喜三夫壻新拜二羽林郞一。〔王昌齡、閨怨詩〕忽見二陌頭楊柳色一、悔レ教三夫壻覓二封侯一。

【夫稅】43 フゼイ 一夫の田の租稅。一夫の與へられてゐる田は百畝。〔周禮、地官、載師〕凡民無二職事一者出二夫家之征一。〔注〕夫稅者、百畮之稅。

【夫椒】44 フセウ 山名。江蘇省吳縣西南の太湖の中。卽ち包山。〔左氏、哀、元〕吳王夫差、敗二越于夫椒一。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、吳縣〕包山、府西南八十五里太湖中、志云、以三湖包二四面一而名、地占二三鄉一、土宜二橘柚一、有二居人數千家一、云云、通典、包山、一名夫椒山。

〖夫椒山人〗45 フセウサンジン 清、張式(**4－9812**··433)の號。

【夫襓】46 フゼウ 刀鞘。劍衣。袂(**10－34119**)の❹を見よ。〔禮、少儀〕劍則啓レ櫝、蓋襲レ之、加二夫襓一與レ劍焉。〔注〕夫襓、劍衣也。

【夫錢】47 ブセン 武家時代、夫役の代償として徵收した稅錢。〔北條五代記、四〕北條氏茂百姓憐愍事、夫錢・棟別・野山の役をかけ。

【夫租】48 フソ 縣名。漢、置き、樂浪郡に屬す。今の朝鮮の境。〔漢書、地理志下〕樂浪郡、縣二十五、夫租。

【夫粟】49 フゾク 一夫が耕す百畝の田から納める粟。夫稅(43)を見よ。〔管子、乘馬〕視二貨離之實一、而出二夫粟一。〔纂詁〕夫粟、一夫所レ受百畝之粟也。

【夫黨】50 フタウ 夫の親族。〔柳宗元、亡妻弘農楊氏墓誌〕敦睦夫黨、致二肅雍之美一。

【夫娘】51 フヂヤウ ❶夫人と娘子。❷及び夫娘子を見よ。〔通俗編、婦女、夫娘〕升菴外集、南宋蕭齊、崇二尙佛法一、法琳辨正論云、閣內夫娘悉令二持戒一、麾下將士咸使レ誦レ經、夫娘之稱、本レ此、謂二夫人・娘子一、蓋美稱也、是時北則胡后郤二扇於曇猷一、南則徐妃薦二枕於瑤光一、龜茲王納二女於鳩摩羅什一、不二以爲レ恥、後世緣以二夫娘一爲二惡稱一、陶九成直謂二罵語一、蓋未レ見二六朝雜說一耳。❷苗族が妻を呼ぶ稱。又、南方人が婦人の素行の惡い者を呼ぶ稱。❶及び夫娘子を見よ。〔輟耕錄、婦女曰レ娘〕苗人謂レ妻曰二夫娘一、南方謂二婦人之無レ行者一亦曰二夫娘一。

〖夫娘子〗52 フヂヤウシ 草の實の名。細かくて臭氣があり、よく人の衣につく。不品行な婦人の意より名づく。夫娘の❶❷を見よ。〔留青日札〕草子甚細、其氣臭惡、善惹二人衣一者、名曰二夫娘子一、南方謂二婦人無レ行者一曰二夫娘一、蓋言二其臭穢善惹レ人耳。

【夫頭】53 fu¹ t'ou² 人夫の頭。

【夫南】54 フナン 古の國名。カンボジア南部、及び交趾支那地方に在つた。扶南(**5－11840**··101)に同じ。〔左思、吳都賦〕烏滸狼𦡝、夫南西屠儋耳黑齒之酋。〔注〕夫南特有二才巧一、不下與二衆夷一同上。

【夫馬】55 フバ ❶清代、官吏が旅費として受取る手當。〔清會典、兵部、郵政〕奉差官夫馬舟車廩給、及從僕口糧、均以二品秩一定二差等一。❷物件を荷運びする馬。〔六部成語、兵部、夫馬、注解〕專備三馱二軍物件一之馬、如二人中之夫役一也。❸フマ 姓名。〔和爾雅〕。

【夫牌】56 フハイ 馬子や附添人。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕夫牌飼レ秣、又減二茭芻一。

【夫不】57 フフ 鳥の名。小鳩。雅鳩。楚鳩。謹み深い鳥といふ。又、雉稚に作る。〔爾雅、釋鳥〕隹其、雉稚。〔注〕今雅鳩。〔疏〕舍人曰、雉、一名夫不、李巡云、今楚鳩也、某氏引二春秋一云、祝鳩氏、司徒、祝鳩、卽雉其、夫不、孝、故爲二司徒一也。〔詩、小雅、四牡、翩翩者雉、傳〕雉、夫不也。〔箋〕夫不、鳥之愨謹者。

【夫夫】58 フフ ❶此の丈夫。此のをとこ。〔禮、檀弓上〕曾子指二子游一而示レ人曰、夫夫也、爲レ習二於禮一者。〔注〕夫夫、猶レ言二此丈夫一也。❷大夫。〔莊子、田子方〕于二是旦一而屬二之夫夫一。〔釋文〕夫夫、大夫也。

【夫布】59 フフ 周代、職業を有せず勤勞しない者に課する稅。布は布泉の略で、錢をいふ。〔周禮、地官、閭師〕凡無レ職者出二夫布一。〔疏〕云レ出二夫布一者、亦使レ出二一夫口稅之泉一也。

【夫婦】60 フウフ ❶夫と婦。夫妻。めをと。〔易、序卦〕有二天地一、然後有二萬物一、有二萬物一、然後有二男女一、有二男女一、然後有二夫婦一、有二夫婦一、然後有二父子一。〔左氏、隱、八〕鍼子曰、是不レ爲二夫婦一。〔管子、宙合〕夫婦和勉矣。〔荀子、富國〕男女之合、夫婦之分。〔漢書、孔光傳〕夫婦之道。〔孔叢子、答問〕人之夫婦。❷一夫一婦の意で、凡人をいふ。匹夫匹婦。愚夫愚婦。〔中庸〕夫婦之愚、可二以與知一焉。〔疏〕又明下中庸之道、初則起二於匹夫匹婦一、終則偏中於天地上。

【夫婦愛】61 フウフアイ 夫婦間の愛情。

【夫婦花】62 フウフクワ 蘭花と水仙。納采の時に羅錦・金銀絲等で此の花を製し、一處に合成して、夫婦の永く和諧する兆としたからいふ。〔聞見錄〕蘭花・水仙・爲二夫婦花一、人家納采、以二羅錦絨縷金銀絲一製二此花一、合二成一處一、以爲二夫婦永諧之兆一、語曰、不レ貽二夫婦花一、金玉亦咨嗟、夫婦花一盒、笑語喧二閨閣一。

【夫婦別】63 フウフノベツ 夫は外、婦は內と各〻定まつた職分の相違があること。又、夫婦の間に守るべき禮儀。互に相犯さないことを其の主旨とする。〔禮、哀公問〕孔子對曰、夫婦別、父子親、君臣嚴。〔孟子、滕文公上〕父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序。朋友有レ信。

【夫婦木】64 メヲトギ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【夫婦一體】65 フウフイツタイ 夫婦は元來一體で、別々のものでないこと。〔漢書、哀帝紀〕建平二年六月庚申、帝太后丁氏崩、上曰、朕聞、夫婦一體、詩云、穀則異レ室、死則同レ穴。

【夫婦合葬】66 フウフガフサウ 夫婦を一緒に葬る。其の時は、墓標に夫の名だけを書いて夫人の名を書かない。〔金石綜例〕誌敍下李君與二夫人一合葬上、而標題獨書二李君一、唐人墓銘之例、不三苟爲二牽連一如レ此、王氏昶曰、夫婦合葬、同作二一碑一、始見二於此一。

【夫婦外內】67 フウフグワイナイ 夫は外を治め妻は內を治めること。夫婦別を見よ。〔左氏、昭、二十五〕爲二夫婦外內一、以經二二物一。

【夫婦判合】68 フウフハンガフ 夫婦は一つのものの半片宛で、兩方が合して始めて完全體であること。夫妻牉合(20)を見よ。〔漢書、郊祀志下〕天墜合レ精、夫婦判合、祭二天南郊一、則以レ墜配、一體之誼也。

【夫婦財產制】69 フウフザイサンセイ 夫婦間の財產に關し特別に定めた制度。

【夫婦生時同レ室】70 フウフハセイジニシツヲオナジクス 夫婦は生きてゐる間は同室にゐる。〔白虎通、崩薨〕緣二夫婦生時同レ室、死同葬レ之。

【夫蒙】71 フモウ 複姓。〔通志、氏族略、關西複姓〕夫蒙氏、西羌人、後秦建威將軍夫蒙、羌人、姓纂云、今同・蒲二州多二此姓一。

【夫餘】72 フヨ ❶種族の名。一に扶餘に作る。遼東に廣く存した古代種族で、ツングース種であるとせられてゐる。❷を見よ。❷國の名。一に扶餘に作る。夫餘族の建てた國。高句麗の鄰境にあつたと思はれ、大體、今の滿洲吉林省雙城縣以南、遼寧省昌圖縣以北の地。其の名は、遼東が戰國時代の燕の領地であつた頃から知られ、後漢・晉代に中國に貢し、前燕に滅された。金は蒲與路、明は福餘衞を置く。皆、扶餘の音轉である。〔後漢書、東夷傳〕夫餘國、玄菟北千里、南與二高句驪一、東與二挹婁一、西與二鮮卑一接。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考〕夫餘、舊志、夫餘、在二元菟千里一、有二鹿山一、其王所レ居也、王莽時、班二符命一、東出至二元菟・樂浪・高句麗・夫餘一、後漢時、屢爲二遼東邊患一云云、夫、亦作レ扶。❸複姓。〔史記、貨殖傳〕北鄰有二烏桓夫餘一。〔通志、氏族略、諸方複姓〕夫餘氏、風俗通、吳太子夫槩王奔レ楚、餘子在レ吳、以二夫餘一爲レ氏。

【夫容】73 フヨウ 蓮の花。芙蓉(9－30694・・10)の❶に同じ。〔楚辭、招魂〕夫容已發。〔淮南子、本經訓〕夫容芰荷。〔注〕夫容、藕華也。〔漢書、司馬相如傳上〕外發二夫容蔆華一。〔漢書、揚雄傳上〕被二夫容之朱裳一。

【夫離】74 フリ 草の名。ふとゐ。席を造るに用ひる。莞。苻蘺。〔漢書、東方朔傳〕莞蒲爲レ席。〔注〕師古曰、莞、夫離也。〔楚辭、劉向、九歎、愍命、注〕莞、夫離也。

【夫己氏】75 フキシ 某氏といふに同じ。其の人を直指しない言ひ方。彼己子。〔左氏、文、十四〕齊公子元、不レ順二懿公之爲一レ政也、終不レ曰レ公、曰二夫己氏一。〔注〕猶レ言二某甲一。〔杜解補正〕夫己氏、猶レ言二彼己之子一。

【夫山伏】76 ヤマブシ 山伏の、夫役に出たもの。〔太平記、五、大塔宮熊野落事〕我れ等は夫山伏にて候間。

【夫匠人】77 fu^1 chiang^4 jen^2 人夫と大工。

【承二夫分一】78 フノブンヲウク 夫が家財の分配を受けないで死んだ時、子が無く、妻がなほ志を守つて夫家に在れば、夫の相續すべき財產を承けつぐ。〔淸律、戶律、戶役、立嫡子違法〕婦人夫亡無レ子、守レ志者、合レ承二夫分一、須下憑二族長一擇二昭穆相當之人一繼嗣上。

【夫貴妻榮】79 ヲツトタツトケレバツマサカユ 夫が貴くなれば、妻はそれに隨つて榮耀を受ける。妻は夫次第で貴くなる。夫尊妻貴を見よ。〔魏書、濟南王匡傳〕詔曰、夫貴二於朝一、妻榮二於室一、婦女無レ定、升從二其夫一、三藩既啓、王封妃名、亦宜二同等一。

【夫死從レ子】80 ヲツトシスレバコニシタガフ 婦人は夫の死後は子に從ふべきものである。三從(1－12・・871)の一。〔儀禮、喪服〕婦人有二三從之義一、無二專用之道一、故未レ嫁從レ父、既嫁從レ夫、夫死從レ子。

【夫倡婦隨】81 フシヤウフズイ 夫が先づ倡へて婦が之に隨ふこと。夫婦のよく和合する道。〔關尹子、三極〕天下之理、夫者倡婦者隨、牡者馳、牝者逐、雄者鳴、雌者應、是以聖人制二言行一、而賢人拘レ之。

【夫唱婦隨】81′ フシヤウフズイ 夫倡婦隨に同じ。

【夫尊妻貴】82 ヲツトタツトケレバツマタツトシ 夫貴妻榮に同じ。〔儀禮、喪服〕傳曰、夫尊二於朝一、妻貴二於室一矣。〔白虎通、爵〕婦人無レ爵、云云、故夫尊二於朝一、妻榮二於室一。〔通俗編、祝誦、夫尊妻貴〕儀禮、夫尊二于朝一、妻貴二于室一矣。

【夫里之布】83 フリノフ 夫布と里布。布は錢。夫布は、職業の無い者から徵する稅。里布は、居宅に桑麻を植ゑないものから徵する稅。〔孟子、公孫丑上〕廛無二夫里之布一、則天下之民、皆悅而願レ爲二之氓一矣。〔集注〕周禮、宅不レ毛者有二里布一、民無二職事一者、出二夫家之征一、鄭氏謂、宅不レ種二桑麻一者、罰レ之使レ出二一里二十五家之布一、民無二常業一者、罰レ之使レ出二一夫百畝之稅、一家力役之征一也。

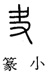
【夫者妻之天也】84 ヲツトハツマノテンナリ 夫は妻がいただいて天とすべきものである。〔儀禮、喪服〕傳曰、父者、子之天也、夫者、妻之天也。

【夫負妻戴攜レ子以入二於海一】85 ヲツトハオヒツマハイタダキコヲタヅサヘテモツテウミニイル 家財道具をまとめて、夫は脊負ひ、妻は頭にいただき、子をつれて海へ逃れて行く。舜が天下を石戶の農に讓らうとしたら、石戶が之を斷つて逃げた故事。〔莊子、讓王〕舜以二天下一讓二其友石戶之農一、石戶之農曰、云云、於レ是夫負妻戴、攜レ子以入二於海一、終身不レ反也。

【夬】5836

㈠ クワイ ケ 〔集韻〕古邁切 ㄍㄨㄞˋ kuai^4 卦

㈡ ケツ ケチ 〔集韻〕古穴切 屑



小篆

㈠❶**わける**。叏(2－3130)に同じ。〔正字通〕夬、同レ叏。〔說文〕叏、分決也、从二又中一、象二決形一。❷**きめる**。〔廣韻〕夬、決也。〔呂覽、辯土〕夬二心中央一。〔注〕夬、決也。❸**易の六十四卦の一**。䷪（乾下兌上）。小人が窮蟄し、君子の達揚するさま。〔易、夬〕夬、揚二于王庭一。㈡❶**ゆがけ**。鉤弦。〔集韻〕叏、所二以闓レ弦者。❷或は玦(4－9735)に作る。〔集韻〕夬、或从レ弓。❸通じて決(6－17174)に作る。〔集韻〕夬、通作レ決。

名乘 サダ。ムラ。

參考 央(3－5840)は別字。

【夬夬】1 クワイクワイ 思ひきりのよいさま。果決のさま。決斷して疑を有たないさま。〔易、夬〕君子夬夬、終无レ咎也。〔疏〕若能夬夬決レ之不レ疑、則終无レ咎矣。

【夬履】2 クワイリ 正しい道をきめてふみ行ふこと。〔易、履〕九五、夬履貞厲。〔疏〕夬履者、夬者、決也、得レ位處レ尊、以レ剛決レ正、履レ道行レ正、故夬履也。

【夬】 5837 クヮイ

叏(2−3130)の俗字。〔正字通〕夬、俗叏字。

【夭】 5838

[一] エウ 〔集韻〕於喬切 ㄧㄠ yao^1 蕭

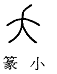
[二] アウ オウ 〔集韻〕烏浩切 ㄠˇ ao^3 皓

[三] エウ 〔集韻〕於兆切 ㄧㄠˇ yao^3 篠

[四] ヨク オク 〔集韻〕烏酷切 沃

[五] ヤ 〔白居易詩自注〕伊耶切 麻

[六] ワイ 〔正字通〕音歪


小篆

[一]❶**わかい**。いとけない。〔詩、檜風、濕有萇楚〕夭之沃沃。〔傳〕夭、少也。❷**たける**。盛長のさま。〔書、禹貢〕厥草惟夭。〔馬注〕夭、長也。❸**もののさま**。夭夭(6)を見よ。❹**わざはひ**。不吉。祅(**8−24736**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夭、叚借爲レ祅。〔周禮、秋官、哲蔟氏〕掌レ覆二夭鳥之巢一。〔注〕夭鳥、惡鳴之鳥。[二]❶**わかご**。生れたばかりの禽獸の稚子。〔禮、月令〕(孟春之月)毋レ殺二孩蟲胎夭一。〔疏〕胎、謂下在二腹中一未上出、夭、爲二生而已出者一。❷**はらご**。又、けものの初生の子。〔淮南子、本經訓〕刳レ胎殺レ夭。〔注〕夭、麛子也。❸**わか木**。草木の成長しきらぬもの。〔國語、魯語〕澤不レ伐レ夭。〔漢書、貨殖傳〕澤不レ伐レ夭。〔注〕師古曰、此夭、謂二草木之方長未レ成者一也。[三]❶**かがむ**。屈抑して伸びぬさま。〔說文〕夭、屈也、从レ大、象形。〔段注〕象二首夭屈之形一也。〔漢書、五行志〕德不レ試、空言レ祿、茲謂二主窳臣夭一。❷**わかじに**。**わかじにする**。〔釋名、釋喪制〕少壯而死曰レ夭、如レ取二物中夭折一也。〔左氏、昭、四〕民不二夭札一。〔注〕夭、短折也。〔束晳、補亡詩〕人無レ道レ夭。〔注〕善曰、年未二三十一而死曰レ夭。❸**をれる**。〔廣雅、釋詁一〕夭、折也。❹**ぬく**。〔廣雅、釋詁三〕夭、拔也。❺**ころす**。〔後漢書、蔡邕傳〕夭夭是加。〔注〕上夭、當レ作レ天、下夭、殺也。❻**獸のひとつがひ**。〔集韻〕夭、一說、獸雙爲レ夭。❼**くらい**。杳(**6−14501**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夭、叚借爲レ杳。〔素問、玉機眞藏論〕色夭不レ澤。〔注〕夭、謂二不レ明而惡一。〔素問、三部九候論〕五藏已敗、其色必夭。〔注〕夭、謂二死色異常之候一也。❽**ふさぐ**。とめる。遏(**11−39004**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夭、叚借爲レ遏、夭・遏、雙聲。〔左氏、宣、十二〕水遇二夭塞一。〔疏〕夭塞、是壅塞之義。[四]諸夭は、地名。〔山海經、海外西經〕軒轅之國、諸夭之野。〔注〕夭、音妖。〔畢注〕注非、當レ云レ沃。[五][六]**よこしま**。夭斜(24)を見よ。

[解字] 指事。大(人の全形に象る)に从ひ、其の頭を右方に屈曲して、まがるの意を示す。故に、本義は、かがまる。物のめばえは其の形が巻曲してをり、初生のままで枯死することあれば、巻曲したままで伸びることがない。故に轉じて、わかじにの意に用ひる。〔說文、夭、段注〕象二首夭屈之形一也、云云、物初長者、尚屈而未レ申、段令不二成遂一、則終二於夭一而已矣、故左傳・國語注曰、短折曰レ夭。〔說文通訓定聲〕夭、按、从レ大而屈二其首一、指事、申者、腰之直、夭者、頭之曲。▽ (金文) 象形。若い巫女が身をくねらせて舞う姿に象る。

[參考] 夨(**3−5832**)・天(**3−5833**)は別字。

【夭惡】1 エウアク わかじに。夭死。夭遏。夭閼。〔莊子、至樂〕夫天下之所レ尊者、富貴壽善也、所レ下者、貧賤夭惡也。〔列子、黃帝〕土無二札傷一、人無二夭惡一。

【夭遏】2 エウアツ ❶とどめさへぎる。ふさぎとどめる。抑止。夭閼。〔淮南子、俶眞訓〕天地之間、宇宙之內、莫二能夭遏一。❷天命を全うしないで殺されること。〔新書、脩政語下〕聖王在レ上、民無二夭遏之誅一。

【夭閼】3 エウアツ ❶くじきとめる。ふさぎとどめる。夭遏。壅閼。〔莊子、逍遙遊〕而後乃今培レ風、背負二青天一、而莫二之夭閼一者。〔疏〕夭、折也、閼、塞也。〔歐陽脩、冊正黃庭經序〕不二自戕賊夭閼一。❷わかじに。夭壽。〔劉峻、辨命論〕故性命之道、窮通之數、夭閼紛綸、莫レ知二其辨一。〔注〕良曰、夭、謂二年壽不レ長也、閼、止也、言、年可二止住而不レ逝也。

【夭隱】4 エウイン わかじにして世にあらはれないこと。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕伯夷死二於首陽一兮、卒夭隱而不レ榮。〔注〕言、伯夷餓二於首陽一、夭命而死、不下饗二其爵祿一、得中其榮寵上也。

【夭英】5 エウエイ 花を折り拔く。〔管子、禁藏〕毋レ夭レ英、毋レ拊レ竿。

【夭夭】6 エウエウ ❶もののありさま。〔廣雅、釋訓〕夭夭、容也。㋑若く美しいさま。若く壯んなさま。〔詩、周南、桃夭〕桃之夭夭、灼灼其華。〔傳〕夭夭、其少壯也。〔集傳〕夭夭、少好之貌。㋺盛なさま。〔詩、邶風、凱風〕棘心夭夭、母氏劬勞。〔傳〕夭夭、盛貌。㋩和らぎのびるさま。容貌ののびのびしてゐるさま。〔論語、述而〕子之燕居、申申如也、夭夭如也。〔集解〕馬融曰、夭夭、和舒之貌。〔皇疏〕夭夭者、貌舒也。❷天が殺す。上の夭は天の誤。〔後漢書、蔡邕傳〕速速方レ轂、夭夭是加。〔注〕上夭、當レ作レ天、下夭、殺也。

【夭妖】7 エウエウ ❶わざはひ。まが。〔說苑、權謀〕示二晉公一以二天妖、日月星辰之行多不一レ當。❷まだ成長しない物を殺傷すること。はらごを殺す。〔說苑、脩文〕不レ麛不レ卵、不二夭妖一、不レ覆レ巢。

【夭疫】8 エウエキ 壽命を奪ふ流行病。疾疫。〔史記、歷書〕陰陽調、風雨節、茂氣至、民無二夭疫一。

【夭姣】9 エウカウ わかく美しいさま。〔張羽、戴山迎二送神一曲〕靈夭姣兮好服、神弗レ言兮意已傳。

【夭喬】10 エウケウ 草木が盛に生長すること。〔書、禹貢〕淮海惟揚州、厥草惟夭、厥木惟喬。

【夭撟】11 エウケウ しきりにのびをする。〔爾雅、釋獸、人曰レ撟、注〕頻伸、夭撟。〔疏〕人之罷倦頻伸夭撟舒展屈折名レ撟。

【夭矯】12 エウケウ ❶飛びあがるさま。〔郭璞、江賦〕撫二凌波一而鳧躍、吸二翠霞一而夭矯。〔注〕向曰、夭矯、飛騰貌。❷自得のさま。〔郭璞、江賦、注〕善曰、夭矯、自得之貌。❸ほしいままなさま。〔後漢書、張衡傳〕偃蹇夭矯、娩以連卷兮。〔注〕並翺翔自恣之貌也。❹家屋の飾。〔淮南子、本經訓〕夭矯曾撓、芒繁紛挐。〔集解〕皆屋飾也。❺屈曲のさま。〔白居易、和二微之春日投二簡陽明洞天一五十韻詩〕船頭龍夭矯、橋脚獸睢盱。〔老學庵筆記、一〕海檜亦有二二種一、海檜夭矯堅瘦、皆天成。

【夭蟜】13 エウケウ ❶龍の飛びあがるさま。〔司馬相如、大人賦〕低卬夭蟜、裾以驕驁兮。❷しきりにのびをすること。夭撟。〔司馬相如、上林賦〕夭蟜枝格。〔注〕善曰、夭蟜、頻申也。❸木の曲るさま。〔揚雄、羽獵賦〕踔二夭蟜一、嬉二閒閒一。〔注〕向曰、夭蟜、樹木盤屈貌。❹ひとり拔きんでてゐるさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕旁夭蟜以橫出。〔注〕善曰、夭蟜・黝糾、特出之貌。❺材木の相連なりめぐつてゐるさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕傍夭蟜以橫出。〔注〕向曰、夭蟜、材木相連繞貌。

【夭紅】14 エウコウ 目ざめるばかりあざやかな紅。又、その花。〔蔡襄、詩〕的的夭紅野水濱。

【夭昏】15 エウコン ❶わかじに。早死。夭は短折、昏は生れて命名しないうちに死ぬこと。〔左氏、昭、十九〕寡君之二三臣、札瘥夭昏。〔注〕短折曰レ夭、未レ名曰レ昏。〔疏〕子生三月、父名レ之、未レ名曰レ昏、謂下未二三月一而死上也。〔晏子、重而異者〕夭昏孤疾。〔後漢書、輿服志上〕無二夭昏暴陵之災一。❷わか死と氣狂。〔國語、周語下〕無二夭昏札瘥之憂一。〔注〕短折曰レ夭、狂惑曰レ昏。

【夭殙】16 エウコン 夭昏の❶に同じ。〔說文、殙、段注〕左傳、札瘥夭殙、杜曰、未レ名而死曰レ殙、今傳作レ昏。

【夭采】17 エウサイ 桃の花。〔王融、三月三日曲水詩序〕雜二夭采于柔荑一。〔注〕銑曰、夭采、桃花也。

【夭摧】18 エウサイ わかじに。夭折。〔後漢書、靈思何皇后紀〕身爲レ帝兮命夭摧、死生路異兮從レ此乖。

【夭札】19 エウサツ 早死。壽命を完うしないものを夭といひ、疫病で死ぬものを札といふ。夭死。〔左氏、昭、四〕癘疾不レ降、民不二夭札一。〔國語、魯語

上〕抑刑戮也、其夭札也。〔注〕不レ終曰レ夭、疫死曰レ札。

【夭殺】20エウサツ　壽命の終らない者をころす。結局、殺人は皆、夭殺といへる。〔史記、吳王濞傳〕夭二殺無罪一。

【夭死】21エウシ　わかじに。又、わかじにする。夭折。〔韓非子、備內〕匠人成レ棺、則欲二人之夭死一也。〔管子、七臣七主〕民多二夭死一。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕今吾子夭死。〔論衡、書虛〕蓋以下精神不レ能レ若二孔子一、彊力自極、精華竭盡上、故早夭死。

【夭柔】22エウジウ　年若く美しくて溫柔なこと。〔梅堯臣、漢古詩〕棚簾夾レ道多二夭柔一。

【夭疾】23エウシツ　若死したり病氣で苦しんだりすること。〔漢書、魏相傳〕民不二夭疾一、衣食有レ餘。

【夭斜】24ヤシヤ ワイジヤ　正しくない。容姿が端正でなく、なまめかしく淫靡なことをいふ。夭邪。〔白居易、和二深春一詩〕揚州蘇小小、人道最夭斜。〔自注〕夭、伊耶切。〔通俗編、狀貌、夭斜〕丹鉛錄、唐詩、錢唐蘇小小、人道最夭斜、又長安女兒雙髻鴉、隨レ風趁レ蝶學二夭斜一、夭與レ夭不レ同、讀若レ歪、俗以二婦人身容不一レ正曰二夭斜一。

【夭邪】25ワイジヤ　正しくない。よこしま。妖斜。〔說文、鍨側意也、段注〕鍨、卽今之歪字、唐人曰二夭邪一。〔陳與義、清明詩〕街頭女兒雙髻鴉、隨レ蜂趁レ蝶學二妖邪一。

【夭傷】26エウシヤウ　わかじに。夭殤。〔戰國、秦策〕萬物各得二其所一、生命壽長、終二其年一、而不二夭傷一。〔史記、蔡澤傳〕終二其天年一、而不二夭傷一。〔漢書、谷永傳〕萬物夭傷。〔鹽鐵論、水旱〕國無二夭傷一。

【夭殤】27エウシヤウ　若死。夭折。夭傷。〔列子、黃帝〕不レ知レ樂レ生、不レ知レ惡レ死、故無二夭殤一。〔柳宗元、愬螭文〕壽善夭殤終何爲兮。

【夭壽】28エウジユ　早死と長命。短命と長壽。壽夭。〔論衡、齊世〕形體同則醜好齊、醜好齊則夭壽適。

【夭顇】29エウスイ　年若くて憔悴すること。〔揚雄、反離騷〕遭二季夏之凝霜一兮、慶夭顇而喪レ榮。

【夭逝】30エウセイ　わかじに。〔魏志、高柔傳〕陛下聰達、窮レ理盡レ性、而頃皇子連多二夭逝一。

【夭紹】31エウセウ　態度のゆつたりしたさま。あでやかなさま。〔詩、陳風、月出〕佼人燎兮、舒夭紹兮。〔傳疏〕後箋云、文選西京賦、要紹修態、麗服颺菁、注、要紹、謂三嬋娟作二姿容一也、又南都賦、致飾程蠱、要紹便娟、又靈光殿賦、曲折要紹而環句、注、要紹、曲貌、此諸言二要紹一者、皆與二夭紹一同。〔張衡、七辯〕蟬綿宜レ愧、夭紹紆折、此女色之麗也。

【夭膌】32エウセキ　若死とやせ衰へること。膌は瘠に同じ。〔呂覽、聽言〕老弱・凍餒・夭膌・壯狡。

【夭折】33エウセツ　わかじに。又、わかじにする。短命。短折。夭死。夭摧。夭命。夭枉。〔釋名、釋喪制〕少壯而死曰レ夭、如二取レ物中夭折一也。〔列子、力命〕怨二夭折一者、不レ知レ命者也。〔荀子、榮辱〕憂險者常夭折。〔漢書、鄭崇傳〕衰世之君、夭折蚤沒。〔後漢書、朱浮傳〕物暴長者必夭折。〔吳志、孫登傳〕孫登臨レ終、上疏曰、顏回有二上智之才一、而尙夭折、況臣愚陋、年過二其壽一。

【夭絕】34エウゼツ　壽命の終らない者を殺すこと。夭殺。〔漢書、刑法志〕羅二元元之民一、夭二絕亡辜一、豈不レ哀哉。

【夭疽】35エウソ　頸に生ずるできものの名。〔方書〕發二於嗌一名レ猛、發二於頸一名二夭疽一。〔靈樞經、癰疽篇〕發二於頸一、名曰二夭疽一、其癰、大以赤黑、不二急治一、則十餘日而死矣。

【夭娜】36エウダ　なまめかしいさま。又、其の姿。妖那。〔袁桷、集廉園詩〕中列萬寶枝、夭娜瑤池神。

【夭胎】37エウタイ　幼いものと胎兒。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕衆庶熙熙、施二及夭胎一。〔注〕少長曰レ夭、在レ孕曰レ胎。〔逸周書、文傳解〕無レ殺二夭胎一。

【夭桃】38エウタウ　若やかで元氣潑剌たる桃。轉じて、若い婦女の容色の喩。〔詩、周南、桃夭〕桃之夭夭、灼灼其華、之子于歸、宜二其室家一。〔傳〕夭夭、其少壯也。〔徐凝、長慶春詩〕身上五勞仍病レ酒、夭桃窗下背レ華眠。

〖夭桃紈扇〗39エウタウグワンセン　戲曲の名。明、葉憲祖作。石中英と任夭桃(南院の妓)との情事を述ぶ。盛明雜劇本の一。

〖夭桃始花〗40　yao^{1} t'ao^{2} shih^{3} hua^{1}　年頃な女子の形容。

〖夭桃穠李〗41エウタウヂヨウリ　詩經の桃夭と何彼穠矣とから出た語。夭桃は少女の容色の盛なるに喩へ、穠李は王姬の顏色の盛なるに喩へる。二詩共に婚嫁の事を詠じてゐるので、後世、此の語を人の婚娶を頌する辭として用ひる。〔詩、周南、桃夭〕桃之夭夭、灼灼其華。〔箋〕喩下時婦人皆得中以二年盛時一行上也。〔詩、召南、何彼穠矣〕何彼穠矣、唐棣之華、云云、何彼穠矣、華如二桃李一。〔箋〕喩二王姬顏色之美盛一。

【夭鳥】42エウテウ　氣味惡く不吉な聲で鳴く鳥。ふくろふなど。〔周禮、秋官、哲蔟氏〕掌レ覆二夭鳥之巢一。〔注〕夭鳥、惡鳴之鳥、若二鴞鵩一。〔疏〕鴞之與レ鵩、二鳥俱是夜爲二惡鳴一者也。

【夭年】43エウネン　年わかいこと。若年。〔漢書、王莽傳下〕夭年隕レ命、嗚呼哀哉。

【夭伐】44エウバツ　植物が成長しない中に伐ること。〔謝靈運、游二赤石一進帆レ海詩〕終然謝二夭伐一。〔注〕善曰、莊子曰、孔子圍二於陳一、太公任往弔レ之曰、直木先伐、甘泉先竭。

【夭沒】45エウボツ　わかじにする。夭歿。〔後漢書、馬援傳〕援卒後、客卿亦夭沒。

【夭歿】46エウボツ　わかじにする。夭沒。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕諸皇子夭歿。〔韓愈、祭二十二郎一文〕少者強者而夭歿、長者衰者而存全乎。

【夭魔】47エウマ　まもの。へんげ。妖魔。〔水經、河水注〕東南上十五里、到二耆闍崛山一、云云、復有二一石窟一、阿難坐禪處、天魔波旬、化作二雕鷲一恐二阿難一、佛以二神力一隔レ石、舒レ手摩二阿難肩一、怖卽得レ止、鳥跡手孔悉存、故曰二雕鷲窟一也。〔紀昀等校〕案、夭・妖通、近刻訛作レ天。

【夭命】48エウメイ　命の短いこと。〔左氏、昭、十五〕一歲而有二三年之喪二一焉、疏〕言レ將二夭命而橫死一也。〔論衡、氣壽〕人有下爲二兒夭命一而傷上。

【夭冶】49エウヤ　なまめかしい。妖冶(3－6086‥92)に同じ。

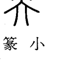
【夭厲】50エウレイ　疫病。又、疫病にかかること。天癘(3－5833‥1486)を見よ。〔管子、侈靡〕百姓不二夭厲一。〔漢書、嚴安傳〕民不二夭厲一、和之至也。〔注〕厲、病也。

【夭枉】51エウワウ　わかじに。夭折。〔謝靈運、廬陵王墓下作詩〕夭枉特兼レ常。〔唐書、西域上、黨項傳〕少死則曰二夭枉一。

【太】5839　リツ　立(8－25721)に同じ。〔正字通〕立、本作レ太。

二畫

【央】5840



小篆

㈠ヤウ アウ　〔集韻〕於良切　陽　一尢　yang^{1}

㈡エイ ヤウ　〔集韻〕於驚切　庚

㈠㊀**まんなか**。中央。中心。〔說文〕央、央中也、从三大在二冂之內一、大、人也、央・旁同意。〔荀子、正論〕今人或入二其央瀆一、竊二其豬彘一。〔注〕央瀆、中瀆也。㊁**なかば**。中途。〔漢書、外戚傳上〕惜二蕃華之未レ央。〔注〕師古曰、未レ央、猶レ未レ半也。㊂**ひさしい**。**遠い**。〔說文〕央、一曰、久也。〔素問、生氣通天論〕精神乃央。〔注〕央、久也。〔素問、四氣調神大論〕與レ道相失、則未レ央絕滅。〔注〕央、久也、遠也。㊃**つきる**。〔廣雅、釋詁一〕央、盡也。〔楚辭、離騷〕時亦猶其未レ央。〔注〕央、盡也。㊄**やむ**。〔廣雅、釋詁四〕央、已也。〔楚辭、九歌、雲中君〕爛昭昭兮未レ央。〔注〕未レ央、未レ已也。㊅**方六里の社の中にある邑**。〔管子、乘馬〕方六里、名レ之曰レ社、有レ邑焉、名レ之曰レ央。㊆**廣いさま**。央央(1)の㊂を見よ。㊇**求める**。願ひもとめる。央求(3)・央及(4)を見よ。㊈現賴む。㈡㊀**あざやかなさま**。央央(1)の㊁を見よ。〔集韻〕央、鮮明皃。㊁**聲のやはらぐさま**。央央(1)の㊀を見よ。㊂或は⿰巾央(4－8990)に作る。〔集韻〕央、或作レ⿰巾央。㊃英(9－30808)に通ず。〔詩、小雅、出車〕央央、〔釋文〕央、本亦作レ英。㊄鉠(11－40315)に通ず。〔詩、周頌、載見〕和鈴央央。〔張衡、

東京賦、注〕綜曰、和鈴鉠鉠。

名乘 チカ。テル。ナカ。ヒサ。

解字 會意。H（同・坰の古文。國界の意）と亣（人の意）との合字。Hの內に大を畫いて、人がHの中卽ち國界の中央に居る義を示し、まんなかの意を表はす。〔說文、央、段注〕人在二H內一、正居二其中一。▽ （金文）象形。首枷を施された人の形に象る。

參考 夬（3－5836）・史（2－3249）は別字。

【央央】1（エイ エイ） ❶聲の和ぐさま。鉠鉠。〔詩、周頌、載見〕龍旂陽陽、和鈴央央。〔集傳〕央央・有鶬、皆聲和也。❷鮮明なさま。〔詩、小雅、出車〕出車彭彭、旂旐央央。〔傳〕央央、鮮明也。〔釋文〕央、本亦作レ英。〔詩、小雅、六月〕白旆央央。〔傳〕央央、鮮明貌。❸（アウ アウ）廣いさま。〔司馬相如、長門賦〕覽二曲臺之央央一。〔注〕善曰、央央、廣貌。❹山神の名。〔事物異名錄、神鬼、山神〕地境、未レ到レ山百步、呼曰二林林央央一、此山王名、知レ之卻二百邪一。

【央匱】2（アウ キ） 藥草の名。阿魏（11－41599・・57）の異名。〔事物異名錄、藥材下、木類〕正字通、阿魏、波斯國呼爲二阿虞一、天竺國呼爲二形虞一、涅槃經謂二之央匱一。

【央求】3（アウ キウ） 賴む。願ふ。要求する。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕央二求問官一、圓融詳覆。

【央及】4（アウ キフ） 懇願する。歎願する。〔納蘭成德、詞〕央二及流鶯喚一。

【央告】5 yang¹ kao⁴ 求める。願ふ。要求する。央浼。央託。央請。央煩。央屬。

【央請】6 yang¹ ch'ing³ 央告に同じ。

【央屬】7（アウ シヨク） たのむ。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕選官之後、親知遂有下送二家丁一伺候者上、或自央二屬長班管家一。

【央託】8（アウ タク） 賴む。求める。願ふ。央告に同じ。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕不レ得レ不下爭二爲央託一說合一講上錢。

【央中】9 yang¹ chung¹ 媒介人を要求する。媒介者を賴む。

【央中說合】10 yang¹ chung¹ shuo¹ hê² 媒介者を賴んで話を纏める。

【央瀆】11（アウ トク） 臺所から水を流し出す溝。〔荀子、正論〕今人或入二其央瀆一、竊二其豬彘一。〔注〕央瀆、中瀆也、如今人家出レ水溝也。

【央亡】12（アウ バウ） わるがしこい。狡獪。鞅罔。〔方言、十〕央亡・嚜尿・姡、獪也、江湘之閒、或謂二之無賴一、或謂二之漻一、凡小兒多レ詐而獪、謂二之央亡一。

【央煩】13 yang¹ fan² たのむ。央告。〔紅樓夢、三回〕令雨村央煩林如海、轉向都中去、央煩賈政。

【央浼】14 yang¹ mei³ 賴み込む。世話を願ふ。

【央浼營幹】15（アウベン エイカン） 上官に自己に有利なやうに賴みこむこと。〔六部成語、吏部、央浼營幹、注解〕屬員若屬二託上官親信之人一、求下其傳二達上官一爲中自己謀上、求レ得下派二美差一、或補缺以及中一切有利之事上者、皆曰二央浼營幹一。

【夯】 5841

カウ 〔字彙〕呼朗切 ㄏㄤ- hang¹ 養

❶かつぐ。になふ。力を用ひて肩で物を擧げる。〔字彙〕夯、大用レ力以レ肩擧レ物。〔禪林寶訓〕黃龍南和尙曰、昔同二文悅一遊二湖南一、見二衲子擔レ籠行脚者一、悅呵曰、自家閨閤中物、不二肯放下一、反累及二他人擔夯一。❷木で土地をたたき固めること。夯硪（一）を見よ。

【夯硪】1（カウ ガ） 地面を固めること。夯は木で地面を擣くこと。硪は石碌で地面を轉壓すること。〔福惠全書、庶政部、河隄歲修〕堤根浮土、務要二剗平夯硪堅實一。〔六部成語、工部、夯硪、注解〕以レ木築レ地曰レ夯、以二石碌一壓レ地曰レ硪、築レ堤時、層層夯硪、取二其堅寔一也。

【夯市】2（カウ シ） 市中で奪掠を行ふこと。〔涑水紀聞〕太祖謂二諸將一曰、近世帝王、初擧レ兵入二京城一、皆縱レ兵大掠、謂二之夯市一、汝曹毋レ得三夯市及犯二府庫一。

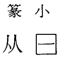
【夯杵】3（カウ シヨ） 土をたたき固める杵。〔六部成語、工部、夯杵三遍、注解〕以二夯杵一築レ地三次也。

【夯夫】4（カウ フ） 杵で土をたたき固める人夫。〔六部成語、工部、夯夫、注解〕打夯之夫役也、夯[illegible]同。

【夾】 5842

エキ 亦（1－293）の本字。〔正字通〕夾、亦本字。

【夼】 5843



小篆

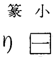
㊀カウ コウ 〔集韻〕古老切 皓

㊁カウ ゴウ 〔集韻〕下老切 皓

㊀㊁❶はなつ。〔說文〕夼、放也、从二大八一、八、分也。❷氣。昦（5－13799）に通ず。〔正字通〕夼、元包經、泰夼入二于困一、傳曰、夼入二于困一、天氣降也、注、夼、音昦、氣也、與二說文一音訓別、合二夼・昦一爲レ一、今不レ從。

解字 會意。大（人の意に用ふ）と八（分ち離す意）との合字。本義は人を放ち逐ふ義。一說に、ほしいままの意。一說に、指事。大に从ひ、八は之を分ち離す意を指し示すといふ。〔說文、夼、放也、从二大八一、八分也、段注〕放者、逐也、夼者、大分之意也。〔說文通訓定聲〕夼、放也、从レ大而八分也、按、八者、指事。

【失】 5844



小篆

㊀シツ シチ 〔集韻〕式質切 ㄕ- shih¹ 質

㊁イツ イチ 〔集韻〕弋質切 質

㊀❶うしなふ。㋑なくする。とりおとす。〔說文〕失、縱也、从レ手乙聲。〔段注〕在レ手而逸去爲レ失。〔荀子、富國〕如レ是則人有二失レ合之憂一、而無二爭レ色之禍一矣。〔注〕失レ合、謂レ喪二其配偶一也。㋺にがす。にげる。〔書、泰誓上〕時哉、弗レ可レ失。㋩見うしなふ。〔史記、孔子世家〕孔子適レ鄭、與二弟子一相失。㋥あやまる。みだれる。〔廣韻〕失、錯也。〔國語、周語上〕不レ失二其序一。〔大戴禮、禮祭〕鄉飮酒之禮廢、則長幼之序失。㋭見そこなふ。〔淮南子、說山訓〕有二相レ馬而失レ馬者一。〔注〕失、不レ知也。㋬のこす。忘れる。〔增韻〕失、遺也。〔鶡冠子、環流〕賢者萬擧而一失。㋣そこなふ。そこねる。〔孝經、孝治章〕治レ家者、不三敢失二於臣妾一。〔疏〕失、謂レ不レ得二其意一。㋠たがふ。くるふ。〔素問、三部九候論〕三部九候、皆相失者死。〔注〕失、謂三氣候不二相類一也。㋷かへる。〔淮南子、原道訓〕徙レ樹者失二其陰陽之性一。〔注〕失、易也。㋦去る。〔禮、禮運〕故人情不レ失。〔注〕失、猶レ去也。❷あやまち。錯誤。〔漢書、路溫舒傳〕秦有二十失一。❸ゆきすぎ。〔禮、經解〕詩之失、愚。〔注〕失、謂下不レ能レ節二其教一者上。❹ふでき。〔漢書、宣帝紀〕循二行天下一、察二吏治得失一。㊁❶はなつ。ほしいままにする。〔集韻〕失、放也、鄭司農曰、放二失六畜一。❷のがれる。逸（11－38951）に通ず。〔荀子、哀公〕其馬將レ失。〔注〕失、讀爲レ逸。❸たのしむ。泆（6－17271）に通ず。〔說文通訓定聲〕失、叚借爲レ泆、周禮、大宗伯、注、防二其淫失一。❹佚（1－516）に通ず。〔說文通訓定聲〕失、叚借爲レ佚、左昭二十二傳、魯君世從二其失一、王氏懷祖曰、縱二其佚一也。

參考 矢（8－23929）は別字。

【失愛】1（シツ アイ） 愛すべきものを愛さないこと。〔新書、禮〕禮、天子愛二天下一、諸侯愛二境內一、大夫愛二官屬一、士庶各愛二其家一、失レ愛不仁、過レ愛不義。

【失意】2（シツ イ） ❶氣嫌を損ふ。㋑面白くなく思はれる。にくまれる。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕女憲曰、得二意一人一、是謂二永畢一、失二意一人一、是謂二永訖一。㋺面白くなく思ふ。腹をたてる。〔魏

志、呂布傳〕董卓、性剛而褊、忿不レ思レ難、嘗小失レ意、拔二手戟一擲レ布、布拳捷避レ之。〔鮑照、結客少年場行〕失レ意杯酒閒、白刃起相讎。❷思ふやうにならない。得意(4−10137··3)の❶の對。〔鬼谷子、捭闔〕言二死・憂患・貧賤・苦辱・棄損・亡利・失意・有害・刑戮・誅罰一、爲レ陰曰レ終。

【失位】3（シツヰ） 地位を失ふ。〔禮、禮運〕養レ人則不レ足、事レ人則失レ位。〔左氏、成、二〕蔡侯・許男不レ書、乘二楚車一也、謂二之失位一、君子曰、位其不レ可レ不レ愼也乎、蔡・許之君、一失二其位一、不レ得レ列二於諸侯一、況其下乎。〔孟子、滕文公下〕士之失レ位也、猶二諸侯之失二國家一也。

【失韋】4（シツヰ） 北滿洲・東部蒙古に據つた民族の名。又、其の國名。其の名は魏書に初めて見え、其の種族は、蒙古種を骨子とし、之にツングース種の混じたものであらうといふ。室韋。尚、興安嶺以西の室韋は蒙古種で、唐末に韃靼と呼ばれた。〔魏書、失韋國傳〕失韋國、在二勿吉北千里一、去レ洛六千里、路出二和龍一北千餘里、入二契丹國一。

【失遺】5 shih¹ i² わすれる。失ふ。遺失。

【失一】6（シツイツ） ❶一を失ふ。〔周禮 天官、醫師〕歲終則稽二其醫事一、以制二其食一、十全爲レ上、十失レ一次レ之、十失レ二次レ之。❷極めて少し誤る。わづかばかりあやまる。〔史記、淮陰侯傳〕貴賤在二於骨法一、憂喜在二於容色一、成敗在二於決斷一、以レ此參レ之、萬不レ失レ一。

【失隕】7（シツヰン） うしなふ。おとす。失墜。〔左氏、昭、七〕奉承以來、弗二敢失隕一、而致二諸宗祧一。

【失抎】8（シツウン） うしなふ。抎は失に同じ。〔戰國、齊策〕宣王說曰、寡人愚陋、守二齊國一、唯恐三失二抎之一、焉能有レ四焉。〔注〕抎、失也。

【失謁】9（シツエツ） 名札をとりおとす。〔史記、平原君傳〕使者懼而失レ謁、跪拾レ謁。

【失音】10（シツオン） かれた聲音。又、聲がかれ、或は出なくなつたこと。〔酉陽雜俎、廣知〕作レ灰治二失音一。

【失家】11（シツカ） ❶己の家を失ふこと。〔列子、天瑞〕行而不レ知レ歸、失レ家者也。❷ shih¹ chia¹ 妻をなくする。

【失迓】12 shih¹ ya² 不在で失禮しました。書翰「用語。

【失賀】13 shih¹ hê⁴ お祝ひを忘れた詫び言。

【失行】14（シツカウ） ❶過つた行爲。〔韓非子、難一〕故曰、管仲有二失行一、霄略有二過譽一。〔新書、春秋〕今我有二失行一。❷運行の道をまちがへる。〔史記、天官書〕其出レ西失レ行、外國敗、其出レ東失レ行、中國「敗。

【失效】15（シツカウ） 效力を失ふ。無效になる。

【失格】16（シツカク） 資格を失ふ。

【失覺】17 shih¹ chüeh² ぼんやりする。ぼける。

【失學】18 shih¹ hsüeh² 教育を受けない。無教育。

【失合】19（シツガフ） 配偶者を失ふ。失儷。〔荀子、富國〕婚姻娉內送逆無レ禮、如レ是則人有二失レ合之憂一、而有二爭レ色之禍一矣。〔注〕失レ合、謂レ喪二其配偶一也。

【失陷】20（シツカン） ❶あやまつ。あやまち。〔荀子、不苟〕如レ是則常不二失陷一矣。〔墨子、經說下〕無二失陷一。❷損ひ滅ぼす。〔蘇軾、論二積欠一狀〕祖宗非レ不レ知二官物失陷、姦民幸免之弊一。

【失氣】21（シツキ） ❶勇氣をうしなふ。意氣沮喪する。〔魏志、陳泰傳〕將士失レ氣。〔晉書、周浚傳〕前破二張悌一、吳人失レ氣。❷氣を失ふ。氣絕する。〔楚辭、王逸、九思、悼辭〕惶悸兮失レ氣。〔注〕失レ氣、晻然而將レ絕。

【失喜】22（シツキ） 非常に喜ばしく、其の情を抑へきれないこと。狂喜する。〔宋之問、牛女詩〕失喜先臨レ鏡。〔杜甫、遠遊詩〕似レ聞二胡騎走一、失喜問二京華一。〔注〕失喜、言レ出三於不二自覺一。

【失期】23（シツキ） 期限を失ふ。時期を失する。約束の時期に遲れる。〔漢書、陳勝傳〕會天大雨、道不レ通、度已失レ期、失レ期法斬。

【失機】24（シツキ） ❶時機を失ふ。適當なしほどきを失ふ。〔啓顏錄〕盧思道好二滑稽一、隋命二思道一聘レ陳、陳主敕令下在路諸處、不レ得二共語一、致レ令失上機。❷ shih¹ chi¹ 戰に敗れる。

【失歸】25（シツキ） 歸趨を失ふ。〔張衡、西京賦〕喪レ精亡レ魂、失レ歸忘レ趨。

【失義】26（シツギ） 義を失ふ。義をすてる。〔老子、三十八〕失レ義而後禮。〔莊子、知北遊〕失レ義而後禮。

【失儀】27（シツギ） 禮儀を失する。

【失儀罪】28（シツギザイ） 禮を失した罪。〔淸國行政法汎論、官吏義務、遵二奉儀禮一之義務〕失誤朝賀罪、失儀罪。

【失牛】29（シツギウ） 逃げ走つた牛。失は、佚、のがれる。〔呂覽、首時〕齊高國之難、失牛潰レ之、衆因レ之以殺二子陽高國一。

【失卻】30（シツキャク） 失ふ。〔湘山野錄〕大年曰、世上何人號二最閑一、司諫拂レ衣歸二華山一、錢曰、世上何人號二最忙一、紫微失二卻張君房一。

【失腳】31（シツキャク） 足を踏みはづす。地位を失ふ。〔張詠、寄二傳逸人一詩〕當年失腳下二漁磯一。〔棠陰比事〕不レ覺失腳、亦墜二于井一。

【失去】32（シツキョ） うせ去る。なくなる。〔方干、東山瀑布詩〕遙夜看來疑二月照一、平明失去被二雲迷一。

【失據】33（シツキョ） よりどころを失ふ。恃み所を失ふ。〔後漢書、皇甫嵩傳〕州郡失レ據、長吏多逃亡。

【失御】34（シツギョ） 失馭に同じ。〔劉琨、勸進表〕宸極失レ御、登二遐醜裔一。

【失馭】35（シツギョ） 馬を御する法をあやまる。轉じて、國家の統御をあやまる。失御。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕宋人失レ馭、淮汴崩離。〔舊唐書、任瓌傳〕隋氏失レ馭、天下沸騰。

【失偶】36（シツグウ） 配偶者を失ふ。失儷。失合。失耦。〔顏延之、庭誥〕慌若二迷レ塗失レ偶、黶如二深夜撤レ燭。

【失火】37（シツクワ） あやまつて火災を起す。〔周禮、夏官、司爟〕掌二行火之政令一、凡國失レ火、野焚レ萊、則有二刑罰一焉。〔韓非子、外儲說右下〕故失レ火之嗇夫、不レ可レ不レ論也。〔墨子、兼愛中〕焚レ舟失レ火。〔漢書、高五王、齊哀王襄傳〕失レ火之家、豈暇下先言二丈人一後救上レ火乎。

【失火罪】38（シツクワザイ） 過失に因つて火事を起した「罪。

【失火人】39 shih¹ huo³ jen² 火事の火元。

【賀二失火一】40（シツクワヲガス） 春秋、晉の平公の寶藏が燒けた時、公子晏子が、王が百姓から搾取して藏畜するのを天が誡めたものであるとして、之を賀した故事。〔韓詩外傳、十〕晉平公時、藏レ寶之臺燒、士大夫聞、皆趨レ車馳レ馬救レ火、三日三夜乃勝レ之、公子晏子、獨束帛而賀曰、甚善矣、平公勃然作レ色曰、珠玉之所レ藏也、國之重寶也、而天火レ之、士大夫皆趨レ車走レ馬而救レ之、子獨束帛而賀何也、有レ說則生、無レ說則死、公子晏子曰、何敢無レ說、臣聞レ之、王者藏二於天下一、諸侯藏二於百姓一、商賈藏二於篋匱一、今百姓之二於外一、短褐不レ蔽レ形、糟糠不レ充レ口、虛而賦斂無レ已、收二大半一而藏二之臺一、是以天火レ之。

【失過】41（シツクワ） あやまち。過失。〔新書、官人〕能擧二君之失過一、不レ難二以レ死持一レ之者、左右也。

【失官】42（シツクワン） 官吏が其の職を修めないこと。一說に、官職が廢止せられること。〔左氏、昭、十七〕吾聞レ之、天子失レ官、官學在二四夷一、猶信。〔注〕失官、官不レ脩二其職一也。〔會箋〕蓋天子失レ官、則官多廢、故無レ有下能擧二先代之典一者上。

【失官體】43 shih¹ kuan¹ t'i³ 官吏の體面を傷ける。官吏の威嚴を失ふ。

【失歡】44 shih¹ huan¹ 面白くない。

【失君】45（シツクン） 道をふみ外してゐる君主。〔管子、任法〕失君則不レ然、舍レ法而任レ智。

【失刑】46（シツケイ） 刑罰の適用が宜しきを得ないこと。〔春秋、莊、二十二〕肆二大眚一、〔胡傳〕肆眚而曰二大眚一、譏レ失レ刑也。〔國語、晉語三〕失レ刑亂レ政、不レ威。〔注〕有レ罪不レ殺、爲レ失レ刑。

【失計】47（シツケイ） 考へ方を誤る。やり方を誤る。考へちがひ。しそこなひ。失策。失算。〔大戴禮、保傅〕成王中立而聽レ朝、則四聖維レ之、是以慮無レ失レ計。〔史記、越世家〕今王知二晉之失一レ計、而不三自知二越之過一、是目論也。〔史記、春申君傳〕是王失レ計也。〔鬼谷子、內揵〕策無レ失レ計。〔新書、保傅〕是以慮無レ失レ計。〔朱浮、爲二幽州牧一與二彭寵一書〕嬌婦之失計。〔東坡志林〕周之失計、未レ有下如二東遷之甚一者上。

【失敬】48（シツケイ） ❶禮儀に外れること。又、人に對して敬意を缺くことを謝する語。失禮。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕小疾偶作不レ能二動止一、所二以失一レ敬。❷別れる時の挨拶の語。左樣ならの意。❸擧手の禮。

【失迎】49 shih¹ ying² 出迎をしなかつたこと、又は人の訪問を受けながら、不在であつたことを謝する語。〔桃花扇、聽稗〕原來是陳吳二位相公、老漢失迎了。

【失迎候】50 shih¹ ying² hou⁴ 失迎に同じ。

【失迎得很】51 shih¹ ying² tê hen³ 不在で非常に失禮致しました。

【失曉】52 shih¹ hsiao³ 寢坊する。〔水滸傳、二回〕太公問道、客官失曉、好起了。

【失蹶】53シツケツ つまづく。〔福惠全書、郵政部、喂養〕多受二鞭箠一、而防二失蹶一。

【失業】54シツゲフ 職をうしなふ。生活の道を失ふ。失職。〔漢書、元帝紀〕朕憂二蒸庶之失一レ業。〔白虎通、鄕射〕以レ故天下失レ業。〔吳志、蔣欽傳〕有レ罪失レ業。〔拊掌錄〕奕者多廢レ事、率皆失レ業。

〖失業救濟〗55シツゲフキウサイ 社會事業の一。特に失業者に對して職業を紹介したり、或は事業を起して之に從事させたりなどして、之を救濟すること。

【失權】56シツケン 權力、又は權利を失ふこと。

【失言】57シツゲン ㊀言つた言葉が何の役にもたたず、又、時には害を將來すること。〔論語、衞靈公〕可二與言一、而不二與之言一、失レ人、不レ可二與言一、而與レ之言、失レ言。㊁言つてはならないことをいふこと。又、その言。失辭。過言。失口(62)に同じ。〔穀梁、襄、二十五〕莊公失言、淫二於崔氏一。〔疏〕失言、謂二放言一。〔國語、晉語二〕又失二言於衆一矣。〔漢書、王商傳〕鳳大慙自恨二失言一。

【失己】58シツコ 自分の本性を無くする。〔莊子、大宗師〕利害不レ通、非二君子一也、行レ名失レ己、非レ士也。

【失怙】59シツコ 父の死去をいふ。怙は、たのむ。たよる、怙恃と熟して、子の賴む所、卽ち父母の意に用ひる。怙恃(**4－10454··5**)を見よ。〔詩、小雅、蓼莪〕無レ父何怙、無レ母何恃。

【失伍】60シツゴ 隊伍を離れ失ふ。行列をはなれる。失列。落伍。〔孟子、公孫丑下〕子之持戟之士、一日而三失レ伍、則去レ之否乎。

【失誤】61シツゴ あやまり。あやまち。過失。過誤。〔漢書、文三王傳〕定二失誤之法一。

【失口】62シツコウ 口の容儀を失つて、其の容止を缺くこと。口がすべつて言つてはならぬことを言つてしまふこと。〔禮、表記〕君子不レ失二足於人一、不レ失二色於人一、不レ失二口於人一。〔注〕失、謂レ失二其容止之節一也、玉藻曰、口容止。〔疏〕不レ失二口於人一者、口容須二安止一、不下失二此口之容儀一、而作中諂私曲媚於衆人上也。

【失候】63シツコウ ㊀適當な時を失ふ。時宜を失ふ。〔齊民要術、造二神麴幷酒一〕清麴法、春十日或十五日、秋十五或二十日、所二以爾一者、寒暖有二早晚一故也、但候二麴香沫起一、便下釀、過久麴生レ衣、則爲レ失レ候、失レ候則酒重鈍、不二復輕香一。㊁無沙汰をする。〔燕子箋、寫像〕小弟也有二些二小恙一、因レ此失二候鮮于兄一。㊂shih¹ hou⁴ 來客に、出迎へないことを謝する語。

【失魂】64シツコン ㊀たましひを失ふ。氣ぬけする。〔新序、雜事五〕葉公見レ之棄而還走、失二其魂魄一、五色無レ主。㊁shih¹ huen² 氣絶する。

【失喪】65シツサウ うしなふ。なくする。喪失。〔禮、三年問〕失二喪某羣匹一。〔荀子、富國〕人皆失二喪之一。

【失贓】66 shih¹ tsang¹ 賊に盜まれた贓品。

【失策】67シツサク はかりごとをあやまる。方法をあやまる。しそこなふ。又、しそこなひ。考へそこなひ。失計。〔禮、仲尼燕居〕田獵戎事失二其策一。〔鹽鐵論、刺議〕謀及レ下者無二失策一、擧及レ衆者無二頓功一。〔說苑、權謀〕故萬擧而無二遺籌失策一。〔後漢書、胡廣傳〕慮無二失策一。〔吳質、在二元城一與二魏太子一牋〕思二淮陰之奇譎一、亮二成安之失策一。〔陸機、辨亡論上〕謀無二遺諝一、擧不レ失レ策。

【失錯】68シツサク あやまち。しそこなふ。しくじる。〔周禮、春官、大史、讀二禮書一而協レ事、疏〕恐下事有二失錯一、物有中不レ供故也。

【失察】69シツサツ ㊀取調べを誤る。㊁監督不行屆。〔福惠全書、保甲部、漁埠編保〕保長正等、免二失察之罪、本甲十長船戶連坐一。

【失產】70シツサン 生業を失ふ。失業する。〔漢書、元帝紀〕破レ業失レ產、親戚別離。

【失參】71シツサン 謁見の疎忽。失禮。〔福惠全書、典禮部、拜牌接詔〕負レ弩鳧趨、莫レ致二失參之咎一。

【失散】72 shih¹ san⁴ ㊀ばらばらになること。〔桃花扇、逃難〕嬪妃們走動著、不要失散了。㊁見失ふ。

【失算】73 shih¹ suan⁴ 勘定違ひ。見込み違ひ。

【失志】74シツシ 志を失ふ。心の行くべき方向を失ふ。又、がつかりする。心がぼんやりする。〔左氏、哀、十六〕失レ志爲レ昏。〔史記、孔子世家〕失レ志爲レ昏、失レ所爲レ愆。

【失次】75シツジ 居るべき位置に居ないこと。又、居るべき地位のないこと。又、地位が不當に高い（或は低い）こと。〔史記、天官書〕大有レ光 其失レ次、有レ應見レ張、名曰二降入一、其歲大水。〔魏書、世宗紀〕子孫沈滯、或宦途失レ次。

【失事】76シツジ ㊀事を誤る。事の處置を誤る。失錯する。事故を起す。〔素書〕安在レ得レ人、危在レ失レ事。㊁shih¹ shih⁴ 災難に罹る。變事にあふ。

【失恃】77シツジ 母の死去をいふ。失怙(59)を見よ。

【失時】78シツジ 時機を失ふ。好機をにがす。〔左氏、昭、三〕將下奉二貨幣一以無上レ失レ時。〔論語、陽貨〕好レ從レ事、而亟失レ時。〔列子、說符〕失レ時者亡。

【失辭】79シツジ 言ふべからざることをいふ。失言。失口(62)に同じ。〔左氏、昭、十二〕子失レ辭。〔史記、秦始皇紀〕受レ命應對、吾未二嘗敢失一レ辭也。

【失囚】80シツシウ 罪囚をとりにがす。〔唐律、捕亡、將三吏追二捕罪人一、疏議〕假有二徒流死囚、一時逃走一、捕二得死罪一人一、雖レ不レ得二徒流九人一、仍除二其罪一、雖二是一人捕得一、衆共失レ囚之人、並同免レ法。

【失修】81 shih¹ hsiu¹ こはれたままで修繕しないこと。

【失日】82シツジツ 日を忘れる。〔韓非子、說林上〕紂爲二長夜之飮一、悞以失レ日。

【失實】83シツジツ 事實とちがつてゐる。〔後漢書、臧宮傳〕北狄尙彊、而屯田警備、傳聞之事、恆多失レ實。

【失摺】84 shih¹ chê² 通帳を遺失する。又、落した通帳。

【失舍】85シツシヤ 歲星が止舍すべき星座を失ふこと。〔史記、天官書〕當レ出不レ出、當レ入不レ入、是謂二失舍一。

【失城】86シツジヤウ 城を失ふ。〔孔叢子、問軍禮〕亡レ將失レ城、則皆哭七日。

【失手】87シツシユ 手をはづす。手をすべらす。〔方干、題レ贈二李校書一詩〕名場失レ手一年年、月桂嘗聞到二手邊一。

〖失手差脚〗88 shih¹ shou³ ch'a¹ chiao³ つまづく。間違ふ。失策する。

【失主】89シツシユ ㊀正道をふみはづしてゐる君。〔管子、霸言〕若二失主一不レ然。㊁物を失つた人。おとしぬし。遺失主、〔福惠全書、刑名部、詞訟〕失主知覺追擒。〔六部成語、刑部、失主失事、注解〕被レ劫失レ財之主人也。

〖失主狗〗89′ shih¹ chu² kou³ のらいぬ。

【失守】90シツシユ ㊀とり守つてゐた志をうしなふ。操守を失ふ。〔易、繫辭下〕失二其守一者、其辭屈。〔疏〕居不レ値レ時、失二其所レ守之志一、故其辭屈撓不レ能レ申也。㊁執り守ることを怠る。執り守らない。〔左氏、成、十五〕前志有レ之、曰、聖達レ節、次守レ節、下失レ節、爲レ君非二吾節一也、雖レ不レ能レ聖、敢失レ守乎。㊂職として守るべきことを怠る。〔左氏、宣、十〕凡諸侯之大夫違、告二於諸侯一曰、某氏之守臣某、失レ守二宗廟一、敢告。〔左氏、昭、二十〕亡人不佞、失レ守二社稷一。㊃守備を失ふ。陷落する。落城する。〔劉兼、蜀都道中詩〕千載龜城終失レ守、一堆鬼錄漫留レ名。

【失衆】91シツシユウ 大衆の心を失ふ。人々の信望を失ふ。〔左氏、襄、十八〕社稷之主、不レ可二以輕一、輕則失レ衆。

【失出】92シツシユツ 罪が重いのに罰が輕くて、法の宜しきを失ふこと。失入(159)の對。失入者不レ加レ罪(160)を見よ。〔唐書、徐有功傳〕后召詰曰、公比斷獄多二失出一、何邪、對曰、失出臣小過、好生陛下大德、后默然。〔六部成語補遺、刑部、失出、注解〕罪重者誤失二之輕一也。

【失術】93シツジユツ 手段を失ふ。手段を誤る。失謀。〔論衡、定賢〕夫聖賢之治レ世也有レ術、得二其術一則功成、失二其術一則事廢。

【失所】94シツシヨ 身のおき所を失ふ。〔史記、孔子世家〕失レ志爲レ昏、失レ所爲レ愆。〔後漢書、光武紀下〕彊弱相陵、元元失レ所。〔魏志、何夔傳〕自二喪亂一已來、民人失レ所。

【失序】95シツジヨ 順序をみだす。又、順序が亂れる。〔公羊、文、七〕公失レ序也。〔史記、三王世家〕尊卑相踰、列位失レ序。〔史記、司馬相如傳〕君臣易レ位、尊卑失レ序。〔漢書、元帝紀〕陰陽不レ調、五行失レ序。

【失稱】96シツシヨウ つりあひを失ふ。〔荀子、正論〕凡爵列官職、賞慶刑罰、皆報也、以レ類相從者也、一物失レ稱、亂之端也。

【失蹤】97 シッショウ 行方を見失ふ。失踪(127)に同じ。

【失色】98 シッショク ㊀顏色をかへる。甚しく驚きおそれることにいふ。〔莊子、天地〕子貢卑陬失レ色。〔漢書、霍光傳〕羣臣皆驚鄂失レ色。〔後漢書、光武紀上〕官屬皆失レ色。〔魏志、崔琰傳〕賓客皆伏失レ色。㊁顏色の容止はおごそかなるべきに、其の節を失つて顏色を柔げへつらふこと。〔禮、曲禮上〕故君子戒愼、不レ失二色於人一。〔禮、表記〕君子不レ失二足於人一、不レ失二色於人一、不レ失二口於人一。〔注〕失、謂レ失二其容止之節一也、玉藻曰、色容莊。

【失職】99 シッショク ㊀職務を怠り、或は過誤を犯すこと。〔禮、射義〕卿大夫以レ循レ法爲レ節、士以レ不レ失レ職爲レ節。〔左氏、襄、十〕世世無レ失レ職。〔左氏、昭、二十九〕一日失レ職、則死及レ之。㊁父祖の本業を易へる。又、仕事を失ふ。失業。〔周禮、地官、大司徒〕十日、以二世事一教レ能、則民不レ失レ職。〔注〕世事、謂二士農工商之事一、少而習焉、其心安焉、因教以レ能、不レ易二其業一。

【失心】100 シッシン ㊀本心を失ひ、ぼんやりすること。〔類按〕失心已數年。㊁心が狂ふ。氣が違ふ。精神病をいふ。〔東軒筆錄〕王荊公次子、名雱、素有二心疾一、云、荊公知二其子失心一。㊂氣絶する。失神。

〖失心風〗101 shih¹ hsia¹ fêng¹ 氣狂。

【失身】102 シッシン ㊀操守を失ふ。身をもちくづす。不義に陷る。特に、女子が貞操を失ふこと。〔孟子、離婁上〕孟子曰、事孰爲レ大、事レ親爲レ大、守孰爲レ大、守レ身爲レ大、不レ失二其身一、而能事二其親一者、吾聞レ之矣、失二其身一、而能事二其親一者、吾未二之聞一也。〔漢書、司馬相如傳上〕今文君既失二身於司馬長卿一。〔舊五代史、梁敬翔傳〕劉于二曲室一讓レ翔曰、卿鄙三余曾失二身于賊一邪。㊁生命を失ふ。〔易、繫辭上〕君不レ密則失レ臣、臣不レ密則失レ身。〔疏〕君不レ密則失レ臣者、云云、衆共嫉怒、害二此臣一而殺レ之、是失レ臣也、臣不レ密則失レ身者、言下臣之言行、既有二虧失一、則失上身也。〔史記、日者傳〕居二赫赫之勢一、失レ身且レ有レ日矣。〔後漢書、李雲傳論〕李雲草茅之生、不レ識二失レ身之義一。

【失信】103 シッシン ㊀まことを失ふ。〔易、坎〕水流而不レ盈、行レ險而不レ失二其信一。㊁信用を失ふ。〔國語、晉語四〕公曰、得レ原而失レ信。

【失眞】104 シッシン 眞相を誤る。又、まことの道を失ふ。又、もとの姿を失ふ。〔史記、十二諸侯年表〕魯君子左丘明、懼下弟子人人異レ端、各安二其意一、失中其眞上、故因二孔子史記一具論二其語一、成二左氏春秋一。〔後漢書、王充傳〕充好二論說一、以爲、俗儒守レ文、多失二其眞一、乃閉レ門潛レ思、著二論衡八十五篇一。〔李白、訓二王補闕惠翼莊廟宋丞泚贈別一詩〕朴散不レ尙レ古、時訛皆失レ眞。〔杜甫、李潮八分小篆歌〕嶧山之碑野火焚、棗木傳刻肥失レ眞。

【失神】105 シッシン 氣を失ふ。氣絶する。又、氣を取られる。喪神。失心。

【失愼】106 shih¹ shen⁴ 注意を怠る。

【失寢】107 シッシン ねそびれる。失寐。〔南史、到溉傳〕從レ夕達レ旦、或復失レ寢、加以二低睡一。

【失人】108 シッジン 人を失ふ。人が自分から離れ去ること。人に見棄てられること。〔論語、衞靈公〕可二與言一而不二與之言一、失レ人、不レ可二與言一而與レ之言、失レ言。

【失仁】109 シッジン 仁を棄てる。〔老子、三十八〕失レ仁而後義、失レ義而後禮。

【失飪】110 シッジン 煮物を煮た程度の不適當なこと。なまにえ、又は、にえすぎ。〔論語、鄕黨〕失レ飪不レ食、不レ時不レ食。〔集解〕孔安國曰、失レ飪、失二生熟之節一也。

【失水】111 シッスイ 水を失ふ。權勢のある人が其の憑る所を失ふ喩。〔莊子、庚桑楚〕呑舟之魚、碭而失レ水、則蟻能苦レ之。

【失正】112 シッセイ 政治の法を誤る。政治のやり方が惡いこと。失政。〔漢書、陸賈傳〕夫秦失二其正一、諸侯豪桀竝起。〔注〕師古曰、正亦政也。

【失制】113 シッセイ おきてを施行する力を失ふ。制馭する力を失ふ。掟を失ふ。〔新書、先醒〕周室壞微、天子失レ制。

【失政】114 シッセイ 政治の法を誤る。又、其のこと。失正。〔左氏、襄、二十一〕怠レ禮失レ政。〔淮南子、時則訓〕正月失レ政、七月涼風不レ至、二月失レ政、八月雷不レ藏、三月失レ政、九月不レ下レ霜。〔漢書、五行志下之下〕四國失レ政相似。

【失勢】115 シッセイ 勢力を失ふ。〔管子、七臣七主〕事無レ常、而法令申不レ牾、則國失レ勢。〔揚雄、解嘲〕夕失レ勢、則爲二匹夫一。〔後漢書、天文志〕春秋、星隕如レ雨、爲二王者失レ勢、諸侯起レ伯之異一也。

【失精】116 シッセイ 遺精・夢精等によつて精氣を失ふ。〔金匱要略、失精〕夫失精家、小腹弦急、陰頭寒、目眩、髮落、脈極虛芤遲、爲二淸穀亡血失精一。

【失聲】117 シッセイ ㊀あまり泣いて聲が出なくなること。〔禮、檀弓下〕文伯之喪、云云、朋友諸臣、未レ有二出レ涕者一、而內人皆行レ哭失レ聲。〔孟子、滕文公上〕相嚮而哭、皆失レ聲。〔孔子家語、曲禮子夏問〕公父文伯卒、其妻妾皆行レ哭失レ聲。㊁shih¹ shêng¹ 思はず知らず聲を立てる。

【失笑】118 シッセウ をかしさをおさへることができないで、ふき出して笑ふこと。噴飯。〔吳志、步隲傳、多蒙二濟賴一注〕吳錄云、每レ讀二步隲表一、輒失笑。〔蘇軾、送二碧香酒一與二趙明叔教授一詩〕諸生聞レ語定失笑、冬暖號レ寒臥無レ帳。

〖失笑噴飯〗119 シッセウフンパン 食事中、可笑しくて、こらへきれずに飯を噴き出すこと。又、失笑してふき出した飯。〔蘇軾、篔簹谷偃竹記〕發レ函得レ詩、失笑噴飯滿レ案。〔孫光憲、北夢瑣言〕不レ覺失笑、噴飯滿レ案。

【失跡】120 シッセキ 行方を見失ふ。又、あとかたをかくす。失踪。〔韓愈、送二靈師一詩〕中閒不レ得レ意、失跡成二延遷一。

【失節】121 シッセツ 節操を失ふ。節操を守らない。失身(102)の㊀に同じ。〔左氏、成、十五〕子臧辭曰、前志有レ之、曰、聖達レ節、次守レ節、下失レ節。〔漢書、五行志下之下〕失レ節之郵。〔陸機、五等諸侯論〕忌二其失レ節。

【失占】122 シッセン うらなひちがひ。〔晉書、摯虞傳〕今尺長二于古尺一、幾二于半寸一、史官用レ之、歷象失レ占。

【失閃】123 shih¹ shan³ 災難に出あふ。意外の出來事。

【失善】124 シッゼン 善を失ふ。善人を失ふ。〔左氏、襄、二十六〕賞僭則懼レ及二淫人一、刑濫則懼レ及二善人一、若不幸而過、寧僭無レ濫、與二其失レ善、寧其利レ淫、無二善人一、則國從レ之、詩曰、人之云亡、邦國殄瘁、無二善人一之謂也。

【失措】125 シッソ 處置をあやまる。狼狽する。〔李嶠、爲二王及善一讓二內史一第二表〕祇奉還答、周惶失レ措。〔宋史、夏國傳下〕茫然失レ措。〔歐陽脩、吉州學記〕皆震恐失レ措、俯伏頓首言。

【失送】126 shih¹ sung⁴ 客が辭し去る際、主人がいふ挨拶で、御見送りしません、失禮しますの意。

【失踪】127 シッソウ 行方を見失ふ。又、姿をかくす。踪は蹤。失蹤。失跡。人の所在及び生死が不明なこと。

【失足】128 シッソク ㊀たちゐふるまひに於て、足は重重しくすべきなのに、其の節度を失つて輕々しく進退すること。〔禮、表記〕君子不レ失二足於人一、不レ失二色於人一、不レ失二口於人一。〔注〕失、謂レ失二其容止之節一也、玉藻曰、足容重。〔疏〕不下失二此足之容儀一、而作中夸毗進退於衆人上也。㊁足をふみはづす。失脚(31)に同じ。

【失俗】129 シッゾク 惡くなつた風俗。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕欲下褒二嵩聖道一以匡中失俗上。

【失賊】129′ shin¹ tsei² 盜難にかかる。失盜。

【失損】130 シッソン うしなひそこなふ。〔大戴禮、曾子立事〕戰戰唯恐三失二損之一。〔墨子、非命下〕失二損其國家一。

【失打】131 シッダ 大食國で骰子の第六面をいふ。〔事物異名錄、玩戲、骰子〕譜雙、大食以レ木爲二骰子一、六面、么曰レ亦、二曰二塗打一、三曰二栖打一、四曰二察打一、五曰二班竹一、六曰二失打一、又占城、么曰レ薩、二曰二塗打一、三曰二帝伽一、四曰レ暗、五曰二班滓一、六曰レ喃、眞臘、么曰レ枚、二曰二枚毗一、三曰レ琳、四曰二不琳毗一、五曰レ班、六曰レ辛。

【失態】132 シッタイ 失體に同じ。

【失體】133 シッタイ ㊀標準の體裁に合はない。〔北史、劉仁之傳〕性好二文字一、吏書失レ體、便加二鞭撻一。㊁面目を失ふ。〔宋史、周必大傳〕不レ從失レ體、從則壞レ法。

【失第】134 シッダイ 官吏登用試驗に落ちる。下第。落第。〔唐詩紀事、閻濟美〕濟美、大曆九年春下第、將レ出レ關、獻二座主張謂詩六韻一曰、云云、謂覽レ之、問二失第之因一。

【失盜】135 shih^{1} tao^{4} 盜難にかかる。失賊。

【失當】136 シッタウ 理に合はない。正當で無い。不當。〔宋史、太祖紀、三〕翰林學士知貢擧李昉、坐㆓試㆑人失當㆒、責授㆓太常少卿㆒。

【失道】137 シッダウ ❶無爲自然の道を失ふ。〔老子、三十八〕失㆑道而後德。❷道義に外れる。〔賈誼、過秦論〕是以三主失㆑道。〔漢書、董仲舒傳〕國家將㆑有㆓失道之敗㆒、而天廼先出㆓災害㆒、以譴㆓告之㆒。❸そむきはなれる道。〔呂覽、愼小〕人臣之情、不㆑能㆑爲㆑所㆑怨、人主之情、不㆑能㆑愛㆑所㆑非、此上下大相失道也。

【失脫】138 シッダツ ぬけ去る。〔周禮、秋官、野廬氏〕聚㆓欜之㆒、〔疏〕有㆓賓客止宿㆒、卽使㆔聚㆓欜之㆓、不㆑使㆓失脫㆒也。

【失單】139 シッタン 紛失物屆出の書きつけ。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、起㆑贓〕事主失單。

【失地】140 シッチ 戰敗等によつて國土を失ふこと。又、取られた土地。

〖失地回復〗141 シッチクワイフク 失地をとりもどすこと。

【失丟】142 shih^{1} tiu^{1} 失ふ。失去。

【失晝】143 シッチウ 晝も構はず淫行すること。〔福惠全書、刑名部、姦情、總論〕鵲巢鳩踞、故爲㆓失晝之梟㆒。

【失疇】144 シッチウ ともを失ふ。〔王褒、洞簫賦〕悼悷瀾漫、亡㆑耦失㆑疇。

【失聽】145 シッチヤウ 聽覺を失ふ。聽覺が痲痺する。きこえなくなる。きこえない。〔王延壽、魯靈光殿賦〕耳嘈嘈以失㆑聽、目矎矎而喪㆑精。〔何遜、七召〕監㆓丹綠㆒其無㆑主、聞㆓鐘鼓㆒以失㆑聽。

【失中】146 シッチユウ 適正な度合を失する。中庸を得ないこと。〔漢書、天文志〕亂臣賊子師旅數起、刑罰失㆑中。

【失箸】147 シッチヨ 驚いて手中の匕箸をとり落す。〔蜀志、先主劉備傳〕曹公從容謂㆓先主㆒曰、今天下英雄、唯使君與㆑操耳、本初之徒、不㆑足㆑數也、先主方㆑食、失㆓匕箸㆒。

【失寵】148 シッチヨウ 恩寵を失ふこと。〔晉書、潘尼傳〕握㆑權則赴者鱗集、失㆑寵則散者瓦解。

【失隊】149 シッツイ 失墜に同じ。〔左氏、文、十八〕行父奉以周旋、弗㆓敢失隊㆒。〔校勘記〕石經、凡隊字、皆作㆑墜、此處獨作㆑隊。〔左氏、昭、二十五〕羣臣以㆑死守㆑之、弗㆓敢失隊㆒。

【失墜】150 シッツイ うしなふ。おとす。やりそこなふ。失隊。失隕。〔後漢書、梁統傳〕臣下奉㆑憲、無㆑所㆓失墜㆒。

【失涕】151 シッテイ なみだを流す。流涕。〔陳琳、爲㆓袁紹㆒與㆓公孫瓚㆒書〕愍㆓彼無辜㆒、未㆔嘗不㆓慨然失涕㆒也。

【失調】152 シッテウ 調子はづれ。不調和。〔沈約、答㆓陸厥㆒書〕子野操㆑曲、安得㆔忽有㆓闡緩失調之聲㆒。

【失跌】153 シッテツ つまづく。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗㆓各種死傷㆒〕須㆑看㆓脚迹失跌處痕㆒。

【失傳】154 shih^{1} chʻuan^{2} 傳授を失ふこと。

【失圖】155 シット はかりごとをあやまつ。失計。〔左氏、昭、七〕孤與㆓其二三臣㆒、悼㆑心失㆑圖、社稷之不㆑皇、況能懷㆓思君德㆒。

【失度】156 シッド 平常の態度を失ふ。あわてふためく。〔資治通鑑、周紀〕(赧王三十一年)遂進㆑軍深入、齊人果大亂失㆑度。〔注〕失度、失㆓其常度㆒也。

【失得】157 シットク 失ふことと得ること。失敗と成功。得失(**4**－**10137**··64)に同じ。〔易、繫辭下〕明㆓失得之報㆒。〔王褒、四子講德論〕方伯之失得。

【失德】158 シットク 德義に外れる。德にもとつた行をする。又、そしられる。愆尤。〔詩、小雅、伐木〕民之失㆑德、乾餱以愆。〔箋〕失㆑德、謂㆑見㆓謗訕㆒也。〔國語、越語下〕失㆑德滅㆑名。〔老子、三十八〕失㆑德而後仁。〔史記、留侯世家〕今秦失㆑德弃㆑義。

【失入】159 シツニフ 罪が輕いのに、罰が重くて法の適用の宜しきを失ふこと。失出(92)の對。失入者不㆑加㆑罪を見よ。〔宋史、査陶傳〕陶持㆑法深刻、用㆑刑多失㆑中、前後坐㆓罰金百餘斤㆒、皆以失入、無㆓誤出者㆒。〔六部成語補遺、刑部、失入、注解〕罪輕者、誤失㆓之重㆒也。

〖失入者不㆑加㆑罪〗160 シツニフシヤニツミヲクハヘズ 輕い罪に對して重すぎる刑罰を課した法官は罪に問はない。失入を見よ。〔大學衍義補、愼㆓刑憲㆒、存㆓欽恤之心㆒〕太宗時、有㆓失入者㆒不㆑加㆑罪、太宗問㆓大理卿劉德威㆒曰、近日刑網稍密、何也、對曰、此在㆓主上㆒、不㆑在㆓羣臣㆒、人主好㆑寬則寬、好㆑急則急、律文失入減㆓三等㆒、失出減㆓五等㆒、今失入無㆑辜、失出更獲㆓大罪㆒、是以吏各自免、競就㆓深文㆒、非㆔有㆑教使㆓之然㆒、畏㆑罪故耳、儻一斷以㆑律、則此風立止矣、太宗悅從㆑之、自㆑是斷㆑獄平允。

【失念】161 シツネン 忘れる。忘却。〔遺教經〕若失念者、則失㆓諸功德㆒。〔法苑珠林〕出㆑觀失㆑念。

【失黏】162 シツネン 詩句や駢儷文の平仄の調はないものをいふ。〔耆舊續聞〕表啓之類、近代聲律尤嚴、或乖㆓平仄㆒、則謂㆓之失黏㆒。

〖失黏體〗163 シツネンタイ 詩文の、平仄式などの篇法にかなはぬ體。拗體。失黏を見よ。

【失敗】164 シツパイ しくじること。しそこなひ。〔李衞公問對、下〕故有㆓出而交綏、退而不㆑逐、各防㆓其失敗㆒者也。

【失陪】165 shih^{1} pʻei^{2} ❶左樣なら。❷出席すべき時に失禮したことにいふ。

【失亡】166 シツバウ うしなふ。亡失。〔荀子、禮論〕失㆓亡其羣匹㆒。〔史記、白起傳〕廉頗軍多失亡。〔漢書、武帝紀〕樓船將軍楊僕、坐㆓失亡多㆒、免爲㆓庶民㆒。

【失忘】167 shih^{1} wang^{4} 忘れる。お見それする。〔水滸傳、七十二回〕在下眼拙、失忘了足下、適蒙呼喚、願求大名。

【失望】168 シツバウ 望を失ふ。希望を失ふ。又、あてがはづれる。〔左氏、昭、三〕齊侯使㆔晏嬰請㆑繼㆓室於晉㆒、曰、云云、不腆先君之適、以備㆓內官㆒、焜㆓燿寡人之望㆒、則又無祿早世隕㆑命、寡人失㆑望。〔史記、高祖紀〕項羽遂西、屠㆓燒咸陽秦宮室㆒、所㆑過無㆑不㆓殘破㆒、秦人大失㆑望。〔漢書、萬石君傳〕朕失㆑望焉。〔漢書、王莽傳上〕無㆑使㆓百僚元元失㆑望。〔後漢書、光武紀下〕群臣百姓、莫㆑不㆑失㆑望。〔吳志、孫策傳〕策攻㆑康拔㆑之、術復用㆓其故吏劉勳㆒爲㆓太守㆒、策益失㆑望。

【失魄】169 シツパク 魄を奪はれる。氣ぬけする。〔新序、雜事五〕葉公見㆑之、棄而還走、失㆓其魂魄㆒、五色無㆑主。〔晉書、天文志中〕有㆑雲如㆓蛟龍㆒、所㆑見處將軍失㆑魄。

【失法】170 シツパフ 法度を失ふ。〔白虎通、五經〕見㆘夫子遭㆓事異變㆒、出㆓之號令㆒失㆖法。

【失匕】171 シツピ 驚いて手中の匕箸を落す。失箸(147)を見よ。

【失費】172 シツピ ものいり。費用がかかる。

【失避】173 shih^{1} pi^{4} 車上の人に出逢つた際、先方が車を下りて禮をするのに對していふ挨拶。失避失避といふ。御迷惑をかけぬやうに避ける筈でしたがの意。

【失寐】174 シツビ ねむれない。ねそこなふ。失寢。〔新論、防慾〕夫蜂蠆㆑指、則窮日煩擾、蚊蟲噆㆑膚、通宵失寐。〔紅樓夢、二十七回〕因㆓夜間失㆑寐、次日起來遲了。

【失謬】175 シツビウ あやまつ。又、あやまち。〔應瑒、奕勢〕時或失謬、取㆑奔攝㆑北。

【失負】176 シツプ まける。又、まけ。〔史記、貨殖傳〕必爭㆑勝者、重㆓失負㆒也。

【失風】177 shih^{1} fêng^{1} ❶氣違ひ。狂者。❷難破する。

【失物】178 shih^{1} wu^{4} ❶物を失ふ。❷遺失物。

〖失物數來人〗179 shih^{1} wu^{4} shu^{3} lai^{2} jen^{2} 家で物が紛失すると、先づ其の日に來た人に疑をかける。

【失票】180 shih^{1} pʻiao^{4} 紛失した手形。無効の手形。

【失本】181 シツポン 根本を失ふ。〔淮南子、泰族訓〕失㆑本則亂、得㆑本則治。

【失眠】182 シツミン ねそびれる。夜、眠れないこと。失寐。〔世說新語、賞譽〕王丞相招㆓祖約㆒夜語、至㆑曉不㆑眠、明旦有㆑客、公頭鬢未㆑理、亦小倦、客曰、公昨如㆑是、似㆑失㆑眠。

【失名】183 シツメイ 人の姓名を忘れる。又、姓名の分らぬこと。又、原稿などに名を記し忘れること。又、記さぬこと。逸名。

【失命】184 シツメイ ❶命令にたがふ。〔左氏、昭、十三〕王問㆓犨櫟㆒、降㆑服而對、曰、臣過失㆑命、未㆓之致㆒也。❷生命を失ふ。落命。

【失明】185 シツメイ ❶視力を失ふ。めくらになる。〔史記、太史公自序〕左丘失㆑明、厥有㆓國語㆒。〔漢書、外戚、孝文竇皇后傳〕皇后疾失㆑明。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕左丘失㆑明。❷かがやきを失ふ。〔白虎通、災變〕陰失㆑明也。

【失迷】186 shih^{1} mi^{2} とりちがへる。まよふ。

【失目】187 shih^{1} mu^{4} 盲になる。失明。

【失約】188 シツヤク 約束を外す。約束をたがへる。背約。〔漢書、高帝紀上〕沛公乃夜引㆑軍、云云、圍㆓宛城㆒三匝、南陽守欲㆓自剄㆒、其舍人陳恢曰、死未㆑

晩也、乃踰レ城見ニ沛公一曰、臣聞、足下約、先入ニ咸陽一者王レ之、云云、今足下盡レ日止攻、士死傷者必多、引レ兵去レ宛、宛必隨ニ足下一、足下前、則失ニ咸陽之約一、後有ニ彊宛之患一、爲ニ足下一計、莫レ若下約レ降封ニ其守一、因使ニ止守一、引ニ其甲卒一、與レ之西上。

【失容】189 シツヨウ　容儀を失ふ。❶身づくろひのひまのないこと。〔詩、小雅、北山、或王事鞅掌、傳〕鞅掌、失レ容也。〔疏〕傳以ニ鞅掌一爲ニ煩勞之狀一、故云レ失レ容、言、事煩鞅掌然、不レ暇レ爲ニ容儀一也。❷驚くさま。〔班固、東都賦〕主人之辭未レ終、西都賓矍然失レ容。

【失欲】190 イツヨク　遊び怠つて欲を恣にする。失は佚。逸欲。〔漢書、杜欽傳〕書云、或四三年言ニ失欲之生レ害也。〔注〕師古曰、失、讀曰レ佚、佚、與レ逸同。

【失落】191 shih¹ luo⁴　失ふ。なくする。失敗する。

【失刺】192 シツラツ　元、高纜（**12－45313**··251）の賜名。

【失闌】193 シツラン　宮門の警守者が、不注意で他人の闌入を防止しないこと。〔漢書、王嘉傳〕坐下戸ニ殿門一失上レ闌免。〔注〕師古曰、戸、止也、嘉掌レ守ニ殿門一、止レ不レ當レ入者、而失レ闌ニ入之一、故坐免也、春秋左氏傳曰、屈蕩戸レ之。

【失利】194 シツリ　❶利益を失ふ。❷敗れる。負ける。〔後漢書、袁紹傳〕與戰失レ利。❸落第する。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕遂偕ニ二兄一往就レ試、鸞鶯失レ利。

【失利波羅】195 シリポロ　複姓。一に矢黎婆羅に作る。〔太平寰宇記〕盤盤國、有ニ哥羅一、王姓失利波羅、名米失鉢羅。

【失理】196 シツリ　道理にはづれる。乖理。背理。〔詩、大序、政教失、疏〕政教言レ失者、非レ無ニ政教一、但施レ之失レ理耳。〔易林〕龍鬬ニ時門一、失レ理傷レ賢。〔晉書、劉頌傳〕帝以ニ頌持レ法失一レ理、左ニ遷京兆太守一。〔孔子家語、五儀解〕一物失レ理、亂亡之端。

【失律】197 シツリツ　❶軍律に隨はないこと。〔易、師〕出以レ律、失レ律、凶也。❷軍律を十分に施行しないこと。轉じて、戰に敗れること。〔南史、張永傳〕以ニ北行失一レ律、固求ニ自貶一。

【失領】198 シツリヤウ　まちがつて受けとる。〔福惠全書、荒政部、賑濟〕可レ無ニ失領複給之弊一矣。

【失禮】199 シツレイ　禮儀を失ふ。禮に合はない。失儀。失敬。無禮。無作法。〔左氏、文、二〕秋八月丁卯、大ニ事于大廟一、躋ニ僖公一、逆祀也、云云、君子以爲レ失レ禮。〔左氏、定、十〕於レ神爲ニ不祥一、於レ德爲レ愆レ義、於レ人爲レ失レ禮、君必不レ然。〔莊子、漁父〕遇レ長不レ敬、失レ禮也、見レ賢不レ尊、不レ仁也。〔史記、平原君傳〕未ニ嘗敢失一レ禮。〔孔叢子、抗志〕則有ニ失禮之僭一焉。〔孔子家語、相魯〕於レ人爲レ失レ禮。

【失儷】200 シツレイ　配偶者をうしなふ。失偶。失合。〔左氏、成、十一〕婦人曰、鳥獸猶不レ失レ儷、子將ニ若何一。

【失列】201 シツレツ　列をはなれる。失伍。〔墨子、非攻下〕又況失レ列北橈乎哉、罪死無レ赦。〔閒詁〕舊本失作レ先、赦作レ殺、王云、先列二字、義不レ可レ通、當ニ是失列之誤一、謂レ失ニ其行列一也。

【失戀】202 シツレン　こひがかなはないこと。又、かなはぬこひ。

【失路】203 シツロ　❶みちに迷ふ。❷立身の道をうしなふ。出世しそこなふ。〔揚雄、解嘲〕當レ途者升ニ青雲一、失レ路者委ニ溝渠一。❸處置をあやまる。〔後漢書、竇融傳〕計若レ失レ路。

【失漏】204 シツロウ　もらす。缺點などを隱しきれず、もらし現はすこと。〔論衡、荅佞〕小佞材下、對鄕失漏、際會不レ密、君警悟、得レ知ニ其故一。

【失鹿】205 シツロク　帝位を失ふ喩。鹿を以て君に喩へる。逐鹿（**11－38877**··92）の❶を見よ。〔漢書、蒯通傳〕秦失ニ其鹿一、天下共逐レ之。〔漢書、敍傳上〕昔秦失ニ其鹿一、劉季逐而掎レ之。

【失或】206 シツワク　失惑に同じ。或は惑（**4－10789**）に同じ。〔大戴禮、曾子制言上〕貧賤吾恐ニ其失或一也。〔注〕或、猶レ惑也。

【失惑】207 シツワク　まどふ。まよふ。〔史記、呂后紀〕迺失惑惛亂。〔漢書、高后紀〕迺失惑惛亂、不レ能下繼嗣奉ニ宗廟一守中祭祀上、不レ可レ屬ニ天下一。〔後漢書、清河孝王慶傳〕皇太子有ニ失惑無常之性一。

【失語症】208 シツゴシヤウ　言語を發し、又は言語を理會することの出來ない病氣。

【失躱避】209 shih¹ tu³ pi⁴　避けそこなふ。

【失樂園】210 シツラクエン　詩の名。英吉利、ミルトン作。Paradise Lost

【失刺孫】211 シツラツソン　豹（**10－36499**）の異名。〔本草、豹〕釋名、程・失刺孫、時珍曰、沈氏筆談云、秦人謂レ豹爲レ程、至レ今延州猶然、東胡謂ニ之失刺孫一。

【失里伯】212 シリポ　元、蒙古の人。至元中、水軍四萬を率ゐて襄陽を攻め、宋將、范文虎と戰つて其の軍を破り、進んで樊城を圍み、其の將、張貴を擒にす。官は淮西道宣慰使。〔元史、一百三十三〕・〔新元史、一百五十二〕。

【失列門】213 シラムン　元の人。太宗の孫。定宗の崩後、皇后海迷失は失列門を立てようとしたが、憲宗が卽位したので果さなかつた。後、海迷失は憲宗の暗殺をはかつたが事があらはれて殺され、失列門もやがて殺された。〔新元史、一百十二〕。

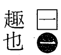
【失驚打怪】214 シツキヤウダクワイ　膽をつぶして驚き怪しむ。〔夷堅三志、善謔詩詞〕張才甫太尉居ニ烏戍一、効ニ遠公蓮社一、與ニ僧俗一爲ニ念佛會一、御史論ニ其白衣吃菜一、遂賦ニ鵲橋仙詞一云、遠公蓮社、流ニ傳圖畫一、千古聲名猶在、後人多少繼ニ遺蹤一、到レ我便失驚打怪。

【失祿楷泥】215 シロガネ　しろがねの音譯。銀。〔事物異名錄、珍寶、銀〕日本寄語、銀曰ニ失祿楷泥一。

【失刺拔都兒】216 シラバトール　元の人。阿速氏。丞相、伯顏に從つて南征し、又、乃顏の叛を平げて功をたてた。官は武德將軍・尚乘寺少卿。〔元史、一百三十五〕・〔新元史、一百五十二〕。

【夲】5845

🈩タウ トウ　〔集韻〕他刀切　豪
🈔ホン　〔集韻〕補衮切　阮


小篆

🈩❶**はやく進む**。〔說文〕夲、進趣也、从ニ大十一、大十者、猶レ兼ニ十人一也、讀若レ滔。〔段注〕趣者、疾也、云云、言ニ其進之疾、如レ兼ニ十人之能一也。❷**往來して見るさま**。〔正字通〕夲、往來見貌。🈔本（**6－14421**）の譌字。〔五經文字序例〕六者、造字之本也。〔廣雅、釋木、本幹也、疏證〕蓋本字、俗作レ夲。〔字彙、醒誤〕本、本末之本、从レ木从レ一、今誤作レ夲。夲、音叨、進趨也、又往來見貌、从レ大从レ十。

解字　會意。大（人の意に用ふ）と十との合字。大と十とを合せて十人がけで進むことのはやい意を表はす。〔說文、夲、段注〕趣者、疾也、从ニ大十一、會意、猶レ兼ニ十人一也、說下从ニ大十一之意上、言ニ其進之疾、如レ兼ニ十人之能一也。

三畫

【夳】5846

タイ　❶泰（**6－17325**）の古字。〔說文〕泰、夳、古文泰如レ此。❷太（**3－5834**）に同じ。〔集韻〕夳、或省。

【内】5847

デウ　義未詳。〔篇韻〕内、嫋去聲。

【奔】5848

カウ　夰（**3－5843**）の譌字。〔正字通〕奔、夰字之譌。

【夵】5849

🈩エン　〔集韻〕以冉切　琰
🈔タウ トウ　〔集韻〕他刀切　豪

🈩❶**物の上が大きくて、下が小さいこと**。〔廣韻〕夵、上大下小。❷**物の本が廣くて、末が狹いこと**。〔集韻〕夵、本廣末狹、謂ニ之夵一。🈔**すすむ**。〔集韻〕夵、進也、从レ小从レ大。

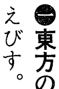
【夶】5850

ヒ　比（**6－16743**）の古字。〔說文〕比、夶、古文比。

【夰】 5851 タウ

奎(3−5926)に同じ。〔篇海類編〕夰、與ㇾ奎同。

【夷】 5852 イ 〔集韻〕延知切 ㄧˊ i² 支


小篆

❶**東方の君子國の人**。又、東方のえびす。東夷。〔說文〕夷、東方之人也、从ㇾ大从ㇾ弓。〔說文通訓定聲〕夷、字亦作ㇾ𡰥、與㆓古文仁㆒同、云云、蠻閩从ㇾ虫、狄从ㇾ犬、貉从ㇾ豸、羌从ㇾ羊、皆異ㇾ種、僰僥从ㇾ人、夷獨从ㇾ大、夷俗仁壽、有㆓君子不死之國㆒、故子欲ㇾ居㆓九夷㆒也。〔徂徠集、二十二、與㆓富春山人㆒書〕廼以㆓東夷之人㆒、而得㆓聖人之道於遺經㆒者。〔禮、王制〕東方曰ㇾ夷。〔大戴禮、千乘〕東辟之民曰ㇾ夷。❷**えびす**。四方遠國の民族の總稱。〔左氏、文、十六、戎伐㆓其西南㆒、注〕戎、山夷也。〔疏〕夷、爲㆓四方總號㆒。〔范甯、春秋穀梁傳序〕四夷交侵。〔注〕四夷者、東夷・西戎・南蠻・北狄之總號也。❸**九畿の一**。遠方、海外の地。夷畿(31)を見よ。〔周禮、夏官、大司馬〕又其外方五百里曰㆓夷畿㆒。〔國語、周語上〕夷蠻要服〔注〕夷、夷圻也。〔淮南子、原道訓〕四夷納ㇾ職。〔注〕四夷、海外也。〔越絶書、越絶吳內傳〕夷、海也。❹**たひらか**。**たひらぐ**。徲(4−10096)に通ず。〔說文通訓定聲〕夷、叚借爲ㇾ徲。㋑たひら。ひらたい。〔淮南子、原道訓〕馳㆓騁夷道㆒。〔注〕夷、平也。㋺おだやか。なごむ。〔詩、召南、草蟲〕我心則夷。〔箋〕夷、平也。〔詩、小雅、出車〕玁狁于夷。〔傳〕夷、平也。㋩をさまる。〔詩、大雅、桑柔〕亂生不ㇾ夷。〔傳〕夷、平也。〔詩、大雅、召旻〕實靖㆓夷我邦㆒。〔傳〕夷、平也。㋥たひらにする。ならす。〔左氏、成、十六〕將㆓塞ㇾ井夷ㇾ竈而爲ㇾ行也。〔注〕夷、平也。〔呂覽、似順〕往而夷㆓夫壘㆒。〔注〕夷、平也。❺**なみ**。普通。〔書、泰誓中〕有㆓億兆夷人㆒。〔傳〕平人、凡人也。〔蔡傳〕夷、平也、夷人、言㆔其智識不㆓相上下㆒也。❻**なぐ**。**かる**。薙(9−32121)に通ず。〔說文通訓定聲〕夷、叚借爲ㇾ薙。㋑刈りとる。〔周禮、秋官、薙氏〕夏日至而夷ㇾ之。〔注〕夷ㇾ之、以㆓鉤鎌㆒迫ㇾ地芟ㇾ之也。㋺はらふ。のぞく。〔漢書、酷吏傳序〕呂氏已敗、遂夷㆓封侯之家㆒。〔注〕夷、除也。㋩ほろぼす。〔廣雅、釋詁四〕夷、滅也。〔國語、周語下〕是以人夷㆓其宗廟㆒。〔注〕夷、滅也。㋥ころす。〔後漢書、班固傳上〕禽獸殄夷。〔注〕夷、猶ㇾ殺也。❼**たやすい**。〔爾雅、釋詁〕夷、易也。〔疏〕易者、不ㇾ難也。❽**よろこぶ**。**こころよい**。台(2−3246)・恞(4−10572)に通ず。〔說文通訓定聲〕夷、叚借爲ㇾ台。〔爾雅、釋言〕恞、悅也。〔釋文〕恞、本又作ㇾ夷。〔詩、小雅、節南山〕既夷既懌。〔箋〕夷、說也。〔楚辭、王褒、九懷、淘壅〕羨㆓余術兮可ㇾ夷。〔注〕夷、喜也。❾**きず**。きりきず。痍(7−22148)に通ず。〔說文通訓定聲〕夷、叚借爲ㇾ痍。〔左氏、成、十六〕察㆓夷傷㆒。〔注〕夷、亦傷也。〔服注〕金創爲ㇾ夷。❿**そこなふ**。きずつける。〔孟子、離婁上〕繼ㇾ之以ㇾ怒、則反夷矣。〔注〕夷、傷也。⓫**かへる**。あらためる。〔廣雅、釋詁三〕夷、敡也。⓬**すき**。〔管子、小匡〕惡金以鑄㆓斤斧鉏夷鋸欘㆒。〔注〕夷、鋤類也。⓭**つらねる**。尸(4−7629)・侇(1−582)に通ず。〔說文通訓定聲〕夷、叚借爲ㇾ尸。〔禮、喪大記〕奉ㇾ尸夷㆓于堂㆒。〔注〕夷、陳也、〔釋文〕夷、本或作ㇾ侇。⓮**なきがら**。〔周禮、天官、凌人〕大喪、共㆓其夷槃冰㆒。〔注〕夷之言、尸也、云云、尸之槃曰㆓夷槃㆒、牀曰㆓夷牀㆒、衾曰㆓夷衾㆒、移ㇾ尸曰ㇾ夷㆓于堂㆒、皆依ㇾ尸而爲ㇾ言者也。⓯**うづくまる**。禮を失した形。巺(4−8761)・跠(10−37492)に通ず。〔說文通訓定聲〕夷、叚借爲ㇾ巺。〔論語、憲問〕原壤夷俟。〔集注〕夷、蹲踞也。⓰**おごる**。たかぶる。〔廣雅、釋詁三〕蹲・跠・𡰱・啟・肆、倨也。〔疏證〕跠、與㆓下𡰱㆒字同、亦通作ㇾ夷。〔荀子、脩身〕不ㇾ由ㇾ禮、則夷固僻違。〔注〕夷、倨也。⓱**とも**。**なかま**。儕(1−1227)に通ず。〔說文通訓定聲〕夷、叚借爲ㇾ儕。〔禮、曲禮上〕在㆓醜夷㆒不ㇾ爭。〔注〕夷、儕也。〔史記、留侯世家〕皆陛下故等夷。〔注〕集解曰、夷、儕也。⓲**つね**。彝(4−9950)に通ず。〔說文通訓定聲〕夷、叚借爲ㇾ彝。〔孟子、告子上〕民之秉ㇾ夷。〔注〕夷、常也。〔揚雄、劇秦美新〕罔ㇾ不㆓夷儀㆒。〔注〕善曰、夷儀、言ㇾ有㆓常儀㆒也。⓳**大きい**。〔詩、周頌、有客〕降ㇾ福孔夷。〔集傳〕夷、大也。⓴**あきらか**。〔玉篇〕夷、明也。㉑**つつしむ**。〔玉篇〕夷、敬也。㉒**無色**。〔老子、十四〕視ㇾ之不ㇾ見、名曰ㇾ夷。〔河上公注〕無色曰ㇾ夷、言㆘一無㆓采色㆒、不㆖可ㇾ得㆓視而見㆒ㇾ之。㉓**語助**。〔經傳釋詞、三〕夷、語助也、周官、行人曰、居㆓於其國㆒、則掌㆓行人之勞辱事㆒焉、使則介ㇾ之、鄭注曰、使、故書曰ㇾ夷、使・夷、發聲、是也、云云、孟子盡心篇曰、夷考㆓其行㆒、而不ㇾ掩焉者也、言㆘考㆓其行㆒而不㆖ㇾ掩也、夷、語助也。㉔**謚**。〔逸周書、謚法解〕克殺秉政曰ㇾ夷、安心好靜曰ㇾ夷。㉕**國名**。周の諸侯、妘姓。後、齊に入る。今の山東省卽墨縣の莊武が其の故城。〔左氏、隱、元〕紀人伐ㇾ夷。〔注〕夷國、在㆓陽城莊縣㆒。㉖**地名**。周の畿內の邑。後、晉に入る。〔左氏、莊、十六〕晉武公伐ㇾ夷、執㆓夷詭諸㆒。〔注〕詭諸、周大夫、夷、采地名。〔左氏、文、六〕晉蒐㆓于夷㆒。〔注〕夷、晉地。㉗古は𡰥(4−7636)・夸(3−5853)に作る。〔康熙字典〕夷、古文𡰥。〔集韻〕夷、古書作ㇾ夸。〔漢書、高帝紀上〕司馬𡰥將ㇾ兵、北定㆓楚地㆒。〔注〕師古曰、𡰥、古夷字。㉘或は尼(4−7635)に作る。〔集韻〕夷、或作ㇾ尼。㉙遲(11−39113)に通ず。〔詩、小雅、四牡、周道陵遲、釋文〕遲、韓詩作ㇾ夷。㉚弟(4−9737)に通ず。〔易、渙〕匪㆓夷所ㇾ思。〔釋文〕夷、荀本作ㇾ弟。㉛睇(8−23360)に通ず。〔易、明夷〕夷㆓于左股㆒。〔釋文〕夷、子夏本作ㇾ睇、又作ㇾ眱。㉜桋(6−14765)に通ず。〔爾雅、釋木〕無姑、其實、夷。〔釋文〕夷、舍人本作ㇾ桋、同。㉝**姓**。〔通志、氏族略、以ㇾ國爲ㇾ氏〕夷氏、邳姓、春秋夷詭諸之裔、杜預云、在㆓城陽莊武縣所ㇾ治、夷安縣、是其地、子孫以ㇾ國爲ㇾ氏、又逸民夷逸、齊大夫夷仲年之後、邾大夫夷射姑、皆以ㇾ字爲ㇾ氏。

［邦］**えびす**。㋑えぞ。蝦夷。㋺荒々しい武士。㋩惠美須。神の名。㋥佐渡國の地名。

［名乘］ ヒラ。

［解字］ 會意。大(人の義に用ふ)と弓との合字。本義は東方の君子國のたみ。東方に君子不死の國あり、其の民は性、順理、俗、仁にして壽、故に夷の字は大に从つて、蠻・閩・狄・貉・羌等が虫・犬・豸・羊に从つて字を成すに分ち、且つ其の民は楛矢石砮の類を貢するが故に弓に从ひ、以て東方君子國のたみの意を表はす。一說、形聲。大と𡰣(尸の篆形)との合字。大は義を表はし、尸は音を表はすといふ。假借して、侇・恞・彝・儕・尸・台・痍・薙・巺等とす。〔說文、夷、段注〕羊

部曰、南方蠻閩从レ虫、北方狄从レ犬、東方貉从レ豸、西方羌从レ羊、西南僰人焦僥从レ人、蓋在二坤地一、頗有二順理之性一、惟東夷从レ大、大、人也、夷俗仁、仁者壽、有二君子不死之國一、按、天大地大人亦大、大象二人形一、而夷篆从レ大、則與レ夏不レ殊、夏者、中國之人也、从レ弓者、肅愼氏貢二楛矢石砮之類一也。▽ （金文）象形。紐の巻きついたいぐるみに象る。

【夷穢】1 イアイ　東方の穢國。夷は東方、穢は夷の國名。〔呂覽、恃君〕夷穢之鄕。〔注〕東方曰レ夷、穢、夷國名。

【夷安】2 イアン　縣名。㊀漢、置く。春秋、齊の夷維の邑。今、山東省高密縣治。〔漢書、地理志下〕高密國、縣五、夷安。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、膠州、高密縣〕夷安城、通典曰、今縣外城也、應曰、古萊夷維邑、晏平仲夷維人也、漢置二夷安縣一屬二高密國一、後漢屬二北海國一、鄧禹少子封二夷安侯一、卽此。㊁南齊、置く。今の陝西省南鄭縣。

【夷晏】3 イアン　平らかで淸い。〔陸倕、新漏刻銘〕河海夷晏。〔注〕銑曰、夷、平、晏、清也、言、河海不二波浪一也。

【夷易】4 イイ　たひらで安らかなこと。平易。夷簡。〔史記、五帝紀〕其民夷易。〔司馬相如、封禪文〕軌跡夷易、易レ遵也。〔注〕善曰、夷易、皆平也。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕發軌喪二夷易一。

【夷維】5 イヰ　㊀地名。春秋、齊の邑。今、山東省高密縣治。〔史記、管晏傳〕晏平仲嬰者、萊之夷維人也。〔注〕應劭云、故萊夷維邑。㊁複姓。

【夷由】6 イイウ　㊀むささびの異名。鼯鼠。〔爾雅、釋鳥〕鼯鼠、夷由。〔注〕狀如二小狐一、似二蝙蝠一、肉翅。㊁行かないでためらふ。遲疑して決しないさま。夷猶。〔後漢書、馬融傳〕或夷由未レ殊、顚狽頓躓。

【夷猶】7 イイウ　ぐづぐづして決しない。ためらふ。夷由に同じ。遲疑。猶豫。〔楚辭、九歌、湘君〕君不レ行兮夷猶。〔注〕夷猶、猶豫也。〔左思、吳都賦〕輕禽狡獸、周章夷猶。〔謝朓、新亭渚別二范零陵一詩〕停レ驂我悵望、輟レ棹子夷猶。

【夷逸】8 イイツ　人名。周の逸民。隱居して仕へず。世を輕んじ志を肆にす。〔論語、微子〕逸民、伯夷・叔齊・虞仲・夷逸・朱張・柳下惠・少連。

【夷隕】9 イヰン　平らげほろぼす。又、平らげほろぼされる。〔史記、吳王濞傳〕爭レ技發レ難、卒亡二其本一、親レ越謀レ宗、竟以夷隕。

【夷懌】10 イエキ　よろこぶ。悅樂。夷悅。〔詩、小雅、節南山〕旣夷旣懌、如二相醻一矣。〔傳〕懌、服也。〔箋〕夷、說也。〔詩、商頌、那〕我有二嘉客一、亦不二夷懌一。〔集傳〕亦不二夷懌一乎、言、皆悅懌也。

【夷說】11 イエツ　よろこぶ。怡悅。夷懌。〔孔子家語、五帝德〕舜流二四凶一、而天下服、其言不レ忒、其德不レ回、四海之內、舟輿所レ及、莫レ不二夷說一。

【夷越】12 イエツ　越の國。于越。夷は助字。〔蜀志、諸葛亮傳〕西和二諸戎一、南撫二夷越一。

【夷延】13 イエン　地勢の平らで廣いさま。〔柳宗元、晉問〕其按衍則平盈旋緣、紆徐夷延。

【夷遠】14 イヱン　無雜作で高尚なこと。〔任昉、王文憲集序〕性託二夷遠一、少屛二塵雜一。〔注〕良曰、言、公性託二簡易一、志在二高遠一。

【夷音】15 イオン　夷狄の言葉。〔唐律、名例、譯人、釋文〕譯人能作二夷音一、以傳二道夷戎之語一。

【夷夏】16 イカ　夷狄と中國。夏夷。〔陳書、陸子隆傳〕綏二集夷夏一、甚得二民和一、當時號爲レ稱レ職。

【夷歌】17 イカ　えびすの歌。〔後漢書、西南夷傳論〕夷歌巴舞。〔左思、蜀都賦〕夷歌成レ章。〔杜甫、閣夜詩〕野哭千家聞二戰伐一、夷歌幾處起二漁樵一。

【夷雅】18 イガ　平らでただしい。〔任昉、王文憲集序〕夷雅之體、無レ待二韋弦一。〔注〕向曰、夷、平也。

【夷屆】19 イカイ　平らぎきはまる。平定する。夷は平、屆は極。〔詩、大雅、瞻卬〕蟊賊蟊疾、靡レ有二夷屆一。〔集傳〕夷、平、屆、極。

【夷界】20 イカイ　えびすの地。蠻界。〔杜甫、西山詩〕夷界荒山頂、蕃州積雪邊。

【夷考】21 イカウ　公平に考へる。〔孟子、盡心下〕夷二考其行一、而不レ掩焉者也。〔注〕夷、平也。

【夷岡】22 イカウ　平らな岡。〔夏侯湛、春可レ樂〕登二夷岡一以迴眺兮、超矯駕二乎山隅一。

【夷庚】23 イカウ　㊀車馬の通る平坦な道。庚は、道。〔左氏、成、十八〕今將下崇二諸侯之姦一、而披二其地一、以塞中夷庚上。〔注〕夷庚、吳晉往來之要道。〔會箋〕然則夷庚者、通謂二車馬往來平道一也、夷、平也、庚、道也。㊁車を藏めるところ。〔陸機、辨亡論上〕旋二皇輿於夷庚一。〔注〕善曰、夷庚者、藏レ車之所。㊂萬物の因つて生ずる恒常不變の道。王者の德に喩へる。〔束晳、補亡詩〕蕩蕩夷庚、物則由レ之。〔注〕善曰、毛萇詩傳曰、夷、常也、萬物由レ之以生也、喩二王者之德、羣生仰レ之以安一也。

【夷皋】24 イカウ　春秋晉、靈公の名。晉靈公（5－13898‥161）を見よ。〔春秋、宣、二〕秋、九月乙丑、晉趙盾弑二其君夷皋一。

【夷皓】25 イカウ　伯夷（1－466‥2）と四皓（3－4682‥117）。ともに深山に逃れた賢人。〔資治通鑑、漢紀〕（孝獻帝、建安四年）孫盛曰、歆旣無二夷皓韜邈之風一、又失二王臣匪躬之操一。

〖夷皓之節〗25′ イカウノセツ　伯夷や商山四皓のやうな公平でいさぎよい節操。夷皓を見よ。〔魏志、管寧傳〕玄虛靜素、有二夷皓之節一。

【夷獋】26 イカウ　夷皋に同じ。〔公羊、宣、二〕秋、九月乙丑、晉趙盾弑二其君夷獋一。

【夷隔】27 イシニ　姓氏。〔和爾雅〕。

【夷樂】28 イガク　えびすの音樂。〔周禮、春官、旄人〕掌レ敎二舞散樂・舞夷樂一、凡四方之以レ舞仕者屬焉。

【夷簡】29 イカン　平易でわづらはしくない。平淡で簡易。平淡質樸。夷易。〔梁書、庾詵傳〕性託二夷簡一、特愛二林泉一。

【夷鬼】30 イキ　東夷の祭る神。次睢の社をいふ。〔蘇軾、宋襄公論〕況用二人於夷鬼一以求レ霸。

【夷畿】31 イキ　古の九畿の一。蠻畿の外、方五百里をいふ。夷服。九畿（1－167‥95）・九服（1－167‥576）を見よ。〔周禮、夏官、大司馬〕又其外方五百里曰二蠻畿一、又其外方五百里曰二夷畿一。

【夷儀】32 イギ　㊀常ののり。常儀。〔揚雄、劇秦美新〕羣公先正、罔レ不二夷儀一。〔注〕善曰、夷儀、言レ有二常儀一也。㊁地名。㋑河北省邢臺縣の西。俗に隨宜城といふ。夷儀山がある。〔左氏、僖、元〕邢遷二于夷儀一。〔注〕夷儀、邢地。〔管子、大匡〕桓公築二夷儀一以封レ之。〔注〕夷儀、邢城。㋺山東省聊城縣の西南。〔後漢書、郡國志三〕東郡聊城有二夷儀聚一。

【夷居】33 イキョ　うづくまる。禮を失した形。倨傲のさま。夷踞。〔書、泰誓上〕惟受罔レ有二悛心一、乃夷居。〔蔡傳〕夷、蹲踞也。

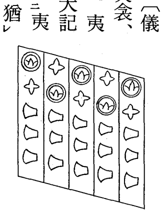
【夷踞】34 イキョ　うづくまる。又、片膝を立てて坐る。箕踞。夷居。〔後漢書、郭太傳〕衆皆夷踞相對、容獨危坐。

【夷魚】35 イギョ　伯夷（1－466‥2）と史魚（2－3249‥37）。〔後漢書、周擧傳〕故光祿大夫周擧、性侔二夷魚一、忠踰二隨管一。

【夷曲】36 ヒナブリ　㊀古樂府に於て、歌曲の節奏の風に因つて名づけた一種の曲の稱。〔日本書紀、神代紀下〕此兩首歌辭、今號二夷曲一。㊁狂歌。〔後撰夷曲集、跋〕夷曲のさま、わかち見侍らばや。

【夷玉】37 イギョク　東夷から産する美玉。〔書、顧命〕大玉・夷玉・天球・河圖在二東序一。〔釋文〕馬云、東夷之美玉、說文、夷玉、卽珣玗琪。

【夷衾】38 イキン　古の喪禮に於て、小斂が終つた後、尸柩にかける覆物。〔儀禮、士喪禮〕牀笫夷衾、饌二于西坫南一。〔注〕夷衾、覆レ尸之衾、喪大記曰、自二小斂一以往用二夷衾一、夷衾質殺之裁、猶レ冒也。〔疏〕釋曰、云二夷衾覆レ尸之衾一者、小斂訖、奉レ尸夷二於堂一、幠用二夷衾一矣、故陳二之於西坫南一、案、曲禮云、在レ牀曰レ尸、在レ棺曰レ柩、此夷衾、小斂以往、用レ之覆二尸柩一。〔胡培翬正義〕下幠用二夷衾一、注云、覆二尸柩一之衾、故賈疏云、此衾本爲レ覆レ尸覆レ柩、不レ用レ入レ棺、今案、小斂幠用二夷衾一、是覆レ尸、旣夕啓殯幠用二夷衾一、是覆レ柩、故注又云下覆二尸柩一之衾上也。〔禮、喪服大記〕自二小斂一以往用二夷衾一、夷衾質殺之裁、猶レ冒也。〔注〕小斂又覆以二夷衾一、裁、猶レ制也。


夷衾（三禮圖）

【夷隅】39 イスミ　上總國の郡名。

【夷光】40 イクヮウ　越の美女の名。西施。〔拾遺記、周靈王〕越又有二美女二人一、一名二夷光一、二名二修明一、以貢二於吳一。〔注〕卽西施・鄭旦之別名。

【夷曠】41 イクヮウ　㊀おだやかでゆつたりしてゐる。〔晉書、傅玄傳贊〕志厲二彊直一、性乖二夷曠一。〔唐書、李石傳〕君臣以二夷曠一致二傾覆一。㊁唐、柳渾（6－14662‥104）の字。

【夷闕】42 イクヮン　闕所を破壞して塞ぐ。〔孫子、九

地〕夷レ關折レ符。〔集注〕梅堯臣曰、夷、滅也、折、斷也、擧レ政之日、滅ニ塞關梁一。

【夷惠】43 イケイ　古の二賢人の名。伯夷(1－466‥2)と柳下惠(6－14662‥31)。〔法言、淵騫〕曰、是夷惠之徒與、曰、不レ夷不レ惠、可否之閒也。〔吳志、嚴畯傳〕裴彥黃問ニ子欽齊桓・晉文・夷・惠四人優劣一。

【夷羿】44 イゲイ　夏の末、有窮の君。射を善くす。讒人寒浞を用ひた爲に國を亡ぼした。〔左氏、襄、四〕。

【夷徼】45 イケウ　えびすの國境。〔柳宗元、邕州馬退山茅亭記〕壤接ニ荒服一、俗參ニ夷徼一。

【夷堅】46 イケン　古のものしりの名。〔列子、湯問〕有レ魚焉、其名爲レ鯤、有レ鳥焉、其名爲レ鵬、世豈知レ有ニ此物一哉、大禹行而見レ之、伯益知而名レ之、夷堅聞而志レ之。〔注〕夷堅、未レ聞、亦古博物者也。

【夷堅志】47 イケンシ　書名。五十卷。宋、洪邁撰。神怪仙鬼の諸事を雜錄す。列子湯問に見える夷堅聞而志レ之の語に依つて名づく。書錄解題に據るに、凡べて四百二十卷。今、傳へるものは其の支志五十卷。但し、阮元は四庫未收書目に於て、甲志二十卷、乙志二十卷、丙志二十卷、丁志二十卷を著錄す。〔四庫未收書目提要、三〕。

【夷嶮】48 イケン　夷險に同じ。〔晉書、范甯傳〕然後可下以經ニ夷嶮一而不上レ憂。〔晉書、沮渠蒙遜載記〕雖レ歷ニ夷嶮一、執レ義不レ回。

【夷險】49 イケン　土地の平坦と險惡。又、順境と逆境。險夷。夷嶮。夷陂。〔淮南子、本經訓〕直道夷險。〔注〕夷、平也。〔晉書、庾袞傳〕分ニ夷險一、序ニ長幼一。〔潘岳、射雉賦〕夷險殊レ地。〔歐陽脩、相州書錦堂記〕勤ニ勞王家一、而夷險一レ節。

【夷言】50 イゲン　えびすの言語。〔左氏、哀、十二〕衞侯歸效ニ夷言一。〔徐陵、勸進元帝表〕胡服夷言、咸爲ニ京觀一。

【夷戶】51 イコ　雲南・雲龍・騰越・順寧・普洱等に棲息する蕃族の戶籍。〔淸會典、戶部〕雲南・雲龍・騰越・順寧・普洱等處、所レ屬有ニ夷戶一。

【夷固】52 イコ　傲慢でかたくななこと。〔荀子、脩身〕由レ禮則雅、不レ由レ禮、則夷固辟違、庸衆而野。〔楊注〕夷、倨也、固、陋也。

【夷鼓】53 イコ　❶複姓。〔史記、五帝紀〕黃帝二十五子、其得レ姓者十四人。〔注〕索隱曰、唯青陽與ニ夷鼓一、同己姓。❷夷狄の鼓。〔駢雅、釋器〕都曇、夷鼓也。

【夷鴣】54 イコ　えびすの地のしやこ。〔論衡、遭虎〕夷鴣野鳥入レ宮、亡之應也。

【夷吾】55 イゴ　❶名號。㋑春秋晉、惠公(4－10822‥44)の名。㋺春秋齊、管仲(8－26162‥129)の名。❷複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕夷吾氏、姬姓、晉惠公、名夷吾、懷公繼レ之不レ亨ニ其位一、其後支庶以レ名爲レ氏也。

【夷姤】56 イコウ　公平で手厚い。〔管子、地員〕其人夷姤。〔注〕夷、平也、姤、好也、言ニ均善一也。

【夷寇】57 イコウ　えびすのあだ。〔後漢書、曹節傳〕辟召選擧、釋レ賢取レ愚、故蟲蝗爲レ之生、夷寇爲レ之起。

【夷國】58 イコク　えびすの國。外國。〔禮、明堂位〕九夷之國、東門之外、西面北上。

【夷竈】59 イサウ　竈を取りこはす。〔左氏、襄、二十六〕若塞レ井夷レ竈、成レ陳以當レ之、欒范易レ行以誘レ之、中行二郤、必克ニ二穆一。

【夷殺】60 イサツ　たひらげころす。ころしほろぼす。〔史記、田單傳〕齊人遂夷ニ殺其將騎劫一。

【夷之】61 イシ　戰國の人。始、墨家の學を治めたが、孟子の弟子徐辟に因つて孟子に見え、竟に墨學の非を悟つた。〔孟子、滕文公上〕。

【夷市】62 イシ　地名。一に彝市に作る。今、湖北省鄂城縣城の東。晉の陶侃が市場に設けて、五水蠻と交易し、大利を收めたところ。

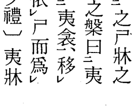
【夷俟】63 イシテマツ　うづくまつて人をまつ。禮を失したやり方。〔論語、憲問〕原壤夷俟。〔集注〕夷、蹲踞也、俟、待也、言、見ニ孔子來一、而蹲踞以待レ之也。

【夷視】64 イシ　安易に視る。〔柳宗元、劍門銘〕夷ニ視阻艱一、破ニ裂層壘一。

【夷酋】65 イシウ　夷のをさ。酋長。〔日本政記、堀河天皇〕寬治元年、冬十二月、出羽夷酋淸原武衡家衡等作レ亂。

【夷洲】66 イシウ　後漢の時の東夷の一。臨海の東南。霜雪なく、草木枯れず、四面山に圍まれてゐるといふ。〔後漢書、東夷、倭傳〕又有ニ夷洲及澶洲一。〔注〕沈瑩臨海水土志曰、夷洲在ニ臨海東南一、去レ郡二千里、土地無ニ霜雪一、草木不レ死、四面是山谿、人皆髡髮穿レ耳、女人不レ穿レ耳、土地饒沃、既生ニ五穀一、又多ニ魚肉一、有レ犬、尾短如ニ麢尾狀一、此夷舅姑子婦、臥息共ニ一大牀一、略不ニ相避一、地有ニ銅鐵一、唯用ニ鹿格一爲レ矛以戰鬭、摩ニ礪青石一以作ニ弓矢一、取ニ生魚肉一、雜ニ貯大瓦器中一以鹽ニ鹵之一、歷ニ月餘日一、仍啖ニ食之一、以爲ニ上肴一也。

【夷牀】67 イシヤウ　屍を安臥させる牀。夷は尸。〔周禮、天官、凌人〕大喪共ニ夷槃冰一。〔注〕夷之言、尸也、實ニ冰于夷槃中一、置ニ之尸牀之下一、所ニ以寒レ尸、尸之槃曰ニ夷槃一、牀曰ニ夷牀一、衾曰ニ夷衾一、移レ尸曰レ夷ニ于堂一、皆依レ尸而爲レ言者也。〔儀禮、既夕禮〕夷牀饌ニ于階閒一。〔注〕夷之言、尸也、朝正レ柩用ニ此牀一。〔疏〕釋曰、云ニ夷之言尸也一者、遷ニ尸於堂一、亦言ニ夷尸盤衾一、皆依レ尸而言、故云、夷之言尸也、云ニ朝正レ柩用ニ此牀一者、謂、柩至ニ祖廟兩楹之閒一、尸北首之時、乃用ニ此牀一、故名ニ夷牀一也。



夷牀（三禮圖）

【夷敞】68 イシヤウ　土地などの平らでひろびろとしたさま。〔水經、江水注〕其地夷敞、北據ニ大江一。〔應璩、與ニ滿公琰一書〕沙場夷敞、淸風肅穆。

【夷傷】69 イシヤウ　きず。傷ついたもの。又、傷つく。〔左氏、成、十六〕子反命ニ軍吏一、察ニ夷傷一、補ニ卒乘一。〔戰國、齊策〕夷傷者空レ財而共レ藥。〔論衡、禍虛〕天下心未レ定、夷傷未レ瘳。

【夷弱】70 イジヤク　おとろへ弱る。衰弱。〔尉繚子、兵教〕凡圍必開ニ其小利一、使ニ漸夷弱一。

【夷主】71 イシユ　豐の卦の第四爻が、己と同じ德の初爻と相應ずること。〔易、豐〕遇ニ其夷主一、吉行也。〔程傳〕夷主、其等夷也、相應、故謂ニ之主一。

【夷酒】72 イシユ　常に酒を飲むこと。彝酒。〔周禮、秋官、萍氏、謹レ酒、注〕書酒誥曰、有政有事、無レ夷レ酒。〔疏〕夷、常也、不レ得ニ常飲一。

【夷種】73 イシユ　一族のこらず誅滅する。〔說苑、奉使〕漢誠聞レ之、掘ニ燒君王先人冢墓一、夷ニ種宗族一。

【夷初】74 イシヨ　民國、馬敍倫(12－44572‥831)の字。

【夷心】75 エビスゴコロ　いやしいこころ。未開人のあらあらしい心。〔伊勢物語〕さがなきえびすごころ。

【夷振】76 ヒナブリ　夷曲(36)に同じ。〔古事記、下〕此歌者、夷振也。

【夷人】77 イジン　❶凡人をいふ。夷は平。〔書、泰誓中〕受有ニ億兆夷人一、離レ心離レ德。〔傳〕平人、凡人也。〔蔡傳〕夷、平也、夷人、言ニ其智識不ニ相上下一也。❷えびすの人。外國人。野蠻人。〔明會典〕洪武永樂以來、設ニ立御前答應大通事一、有ニ都督都指揮指揮等官一、統ニ屬一十八處一、小通事總ニ理來貢四夷、幷來降夷人、及走回人口一、凡有ニ一應夷情一、譯審奏聞。

【夷人營】78 イジンエイ　地名。四川省成都縣。禹の生地。〔海錄碎事、地、地〕夷人營、禹生處、在ニ蜀郡一、華陽國志云、其地方百里、不ニ敢畜牧一、有レ過逃ニ其野中一、不ニ敢追一レ之、畏ニ禹能神一、藏ニ三年一、爲ニ人所一レ得、則共原レ之、云、禹神祐レ之、此石細縣也。

【夷水】79 イスイ　川の名。❶古の鄢水。一名、蠻水。鄢水(11－39614‥3)を見よ。〔水經、沔水注〕夷水、蠻水也。❷湖北省宜都縣の北。今の淸江。淸江(7－17695‥107)の❷を見よ。〔水經、夷水〕夷水、又東過ニ夷道縣北一。

【夷粹】80 イスイ　たひらかで雜りけがない。〔唐書、沈傳師傳〕傳師性夷粹無競、更ニ二鎭一十年、無ニ書賄入ニ權家一。

【夷陬】81 イスウ　蠻夷の住する邊鄙の地。〔晉書、呂光等載記論〕蕞爾夷陬、承レ風霧卷、宏圖壯節、亦足レ稱焉。

【夷世】82 イセイ　しづかに治まる世。太平の世。〔鮑照、代放歌行〕夷世不レ可レ逢、賢君信愛レ才。

【夷齊】83 イセイ　伯夷・叔齊の兄弟をいふ。〔孔叢子、陳士義〕夷齊無レ欲、雖ニ文武一不レ能レ制。〔郭璞、遊仙詩〕高蹈風塵外、長揖謝ニ夷齊一。

【夷齊盜跖俱亡羊】84 イセイタウセキトモニバウヤウ　潔白な伯夷叔齊も、大盜の盜跖も倶に得ようと思つたものを得なかつた。人の世は大きな理想慾望を持つよりも、その時々の歡を盡すをよしとするをいふ。〔蘇軾、薄薄酒〕夷齊盜跖俱亡羊、不レ如ニ眼前一醉是非憂樂兩都忘一。

【夷惜】85 イセキ　川の名。又、彝惜水に作る。四川省峩眉縣の東南。〔一統志〕夷惜水、在ニ峩眉縣東南

五十里一。

【夷跖】86 イセキ 伯夷と盜跖。伯夷は廉にして盜跖は貪。善人と惡人との喩。〔沈炯、獨酌謠〕彭殤無レ異レ葬、夷跖可レ同レ朝。

【夷節】88 イセツ 伯夷の節操。〔曹植、蟬賦〕皎皎貞素、侔二夷節一兮、帝臣是戴、尙二其潔一兮。

【夷翦】89 イセン 三族をきりたひらげる。三族を夷滅する。〔隋書、刑法志序〕恣二興夷翦一、取二快情靈一。

【夷然】90 イゼン 落着いて物に動かぬさま。平然。〔日本政記、陽成天皇論〕故雖三症有二劇變一、夷然不レ驚。

【夷疏】91 イソ 夷狄や疏遠なもの。〔管子、揆度〕夷疏滿レ之。〔纂詁〕夷狄疏遠者、來滿二京師一也。

【夷宗】92 イソウ 同宗のものを殺すこと。連坐の罪。〔資治通鑑、周紀〕（安王、二十一年）坐レ起夷宗者七十餘家。〔注〕夷、殺也、夷宗者、殺二其同宗一也。

【夷則】93 イソク 十二律の一。黃鐘から第九番目の律。申に配し、孟秋（七月）に配し、又、辰に於ては鶉尾に當てる。轉じて、陰曆七月の異名。我が雅樂の鸞鏡に當る。十二律（**2**－**2695**‥407）の❶を見よ。〔周禮、春官、大司樂〕鍾舞大夏、以祭二山川一、乃奏二夷則一。〔禮、月令〕孟秋之月、云云、其音商、律中二夷則一。〔注〕孟秋氣至、則夷則之律應、夷則者、大呂之所レ生也、三分去レ一、律長五寸七百二十九分寸之四百五十一、周語曰、夷則所下以詠二歌九則一、平レ民無上レ貳。〔國語、周語下〕五曰二夷則一、所下以詠二歌九則一、平レ民無上レ貳也。〔呂覽、音律〕大呂生二夷則一。〔史記、律書〕七月也、律中二夷則一、夷則、言三陰氣之賊二萬物一也。〔淮南子、天文訓〕律受二夷則一。〔歐陽脩、秋聲賦〕商聲主二西方之音一、夷則爲二七月之律一、商、傷也、物既老而悲傷、夷、戮也、物過レ盛而當レ殺。

【夷俗】94 イゾク 夷狄の風俗。〔荀子、王制〕使三夷俗邪音不二敢亂一レ雅、大師之事也。

【夷族】95 イゾク 宗族を夷滅する刑。〔後漢書、曹節傳〕赦二夷族之罪一。〔陸機、謝二平原內史一表〕非三毀レ宗夷レ族、所二能上報一。

【夷蹲】96 イソン うづくまる。蹲夷。〔王褒、僮約〕入レ市不レ得二夷蹲・旁臥・惡言・醜罵一。

【夷泰】97 イタイ たひらで廣い。〔阮籍、大人先生傳〕開二不周一而出レ車兮、步二九野之夷泰一。

【夷蕩】98 イタウ やすらかにおだやかなこと。〔晉書、食貨志〕故能使二八表夷蕩、區內輯寧一。

【夷道】99 イダウ ❶たひらなみち。平坦な道路。坦路。平路。夷塗。〔淮南子、原道訓〕馳二騁夷道一。❷縣名。漢、置く。故城は今の湖北省宜都縣の西北。〔漢書、地理志上〕南郡、縣十八、夷道。〔注〕應劭曰、夷水出レ巫、東入レ江。〔水經、江水注〕夷道縣、漢武帝伐二西南夷一、路由二此出一、故曰二夷道一矣、王莽更二名江南一、桓溫父名彝、改曰二西道一。

【夷坦】100 イタン 穩かで平らなこと。平坦。坦夷。〔南史、顏協傳〕胸襟夷坦、有二士君子之操一焉。

【夷男】101 イダン ❶えびすの男子。〔唐書、薛延陀傳〕夷男以爲レ寵。❷唐、眞珠毘伽可汗（**8**－**23235**‥360）の名。

【夷瘳】102 イチウ 路が平らになり、又、疾が癒えるやうに、人民の困苦が休まること。夷は常、瘳は癒。〔詩、大雅、瞻卬〕罪罟不レ收、靡レ有二夷瘳一。〔傳〕夷、常也、瘳、愈也。〔集傳〕夷、平。

【夷場】103 i^2 ch'ang^3 外國居留地。

〖夷場新〗104 i^2 ch'ang^3 hsin^1 上海市場で通用する二七寶。二七寶は紋銀に比し、五十兩につき二兩七錢五分の打步を付する銀塊。

【夷仲】105 イチュウ 字號。❶唐、顧少連（**12**－**43591**‥25）の字。❷宋、顏岐（**12**－**43689**‥301）の字。❸宋、黃廉（**12**－**47926**‥955）の字。❹宋、畢仲衍（**7**－**21829**‥110）の字。

【夷通】106 イツウ 平らに通ずる。〔後漢書、鄭弘傳〕弘奏開二零陵桂陽嶠道一、於レ是夷通、至レ今遂爲二常路一。〔注〕夷、平也。

【夷定】107 イテイ 平らに定める。平定。〔逸周書、明堂解〕是以周公相二武王一以伐レ紂、夷二定天下一。

【夷亭】108 イテイ 鎭の名。江蘇省吳縣の東。一名、維亭。又、唯亭に作る。今、滬寧鐵路の沿線。〔吳地記〕夷亭館、養魚之亭。〔吳郡志〕闔閭十年、東夷侵二逼吳境一、下二營於此一、因以爲レ名。

【夷庭】109 イテイ 平らでただしい。庭は、正。〔張衡、西京賦〕旁開二三門一、參塗夷庭。〔注〕綜曰、夷、平也、庭、猶レ正也。

【夷狄】110 イテキ えびす。未開の國。東方に夷、北方に狄といふ。夷翟。〔論語、八佾〕夷狄之有レ君、不レ如二諸夏之亡一也。〔公羊、隱、七〕不レ與三夷狄之執二中國一也。〔史記、吳王濞傳贊〕毋下親二夷狄一、以疏中其屬上。〔白虎通、王者不臣〕夷狄者、與二中國一絕レ域異レ俗。

〖夷狄之道〗111 イテキノミチ 野蠻人の道。禮にかなはない道。〔孔子家語、相魯〕子獨以二夷狄之道一教二寡人一。

【夷翟】112 イテキ 夷狄に同じ。〔國語、鄭語〕或在二王室一、或在二夷翟一、莫二之數一也。

【夷塗】113 イト 平らな途。夷道。〔張衡、西京賦〕襄岸夷塗、脩路峻險。〔注〕綜曰、夷、平也。

【夷德】114 イトク ❶えびすの心情。〔左氏、定、四〕夷德無レ厭。❷德を常にして易へることのないこと。〔逸周書、武穆解〕揆二民之任一、夷二德之用一。〔集訓校釋〕夷、常。

【夷破】115 イハ やぶり平げる。〔王褒、四子講德論〕燕昭有二郭隗樂毅一、夷二破彊齊一。

【夷陂】116 イハ 平らかなことと平らかでないこと。陂は阪の意。〔何晏、景福殿賦〕悟二政刑之夷陂一。〔謝莊、爲二朝士一與二袁顗一書〕夫夷陂相因、興革遞數。

【夷望】117 イバウ ❶山名。湖南省桃源縣の西南。今の名は水心崖。隋書、望夷山につくるは夷望の誤。〔水經、沅水注〕沅南縣西有二夷望山一、孤二竦中流一、浮險四絕、昔有二蠻民避レ寇居レ之、故謂二之夷望一也。❷溪谷の名。湖南省桃源縣の西南。俗に怡望溪と訛る。漁網溪ともいふ。〔水經、沅水注〕南有二夷望溪水一、南出二重山一、遠注レ沅。

【夷白】118 イハク ❶清貧に安んじて、惡習にそまぬこと。〔南史、吳苞傳〕李擕謂二江斅一曰、古人稱、安レ貧清白曰レ夷、涅而不レ淄曰レ白、至下如二蔡休明一者上、可レ不レ謂二之夷白一乎。❷明、楊珽（**6**－**15112**‥284）の字。

〖夷白齋〗119 イハクサイ 字號。❶宋、度正（**4**－**9313**‥54）の號。❷元、陳基（**11**－**41698**‥119）の號。❸明、顧元慶（**12**－**43689**‥263）の號。

〖夷白齋稿〗120 イハクサイカウ 書名。三十五卷。外集一卷。元、陳基撰。陳基は業を黃溍の門に受く。〔四庫提要 集、別集類〕。

【夷舶】121 イハク えびすの船。外國の船。蠻船。〔弘道館記述義、下〕北虜擾二蝦夷一、至二於文政年閒一、夷舶出二沒東海一者、無二歲無一レ之。

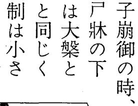
【夷博】122 イハク 平らでひろい。〔唐書、突厥上、車鼻傳〕惟一面可レ容二車騎一、壤土夷博、即據レ之。

【夷貉】123 イバク 夷貊に同じ。〔管子、小稱〕雖二夷貉之民一、可三化而使二之愛一。

【夷貊】124 イバク 東北方のえびす。夷貉。〔荀子、勸學〕干越夷貊之子、生而同レ聲。〔注〕貊、東北夷。〔史記、日者傳〕夷貊不レ服不レ能レ攝。〔後漢書、東夷、東沃沮傳〕爲二夷貊所一レ侵。

【夷拔】125 イバツ 城を攻め落す。〔魏書、陽城王鸞傳〕進不レ能三夷二拔賊城一、退不レ能レ殄二茲小寇一。

【夷槃】126 イバン 周代、天子崩御の時、尸の腐敗を防ぐ爲に、冰を盛つて尸牀の下に置いた盤。諸侯には大槃といふ。大夫には天子と同じく夷槃といふが、其の制は小さい。漢代には、天子にも大槃といふ。夷盤に同じ。〔周禮、天官、凌人〕大喪共二夷槃冰一。〔注〕夷之言、尸也、實二冰于夷槃中一、置二之尸牀之下一、所二以寒一レ尸、尸之槃曰二夷槃一、牀曰二夷牀一、衾曰二夷衾一、移レ尸曰レ夷二于堂一、皆依レ尸而爲レ言者也、漢禮器制度、大槃廣八尺、長丈二尺、深三尺、漆赤レ中。〔疏〕云二漢禮器制度一云云者、叔孫通前漢時、作二漢禮器制度一、多得二古之周制一、故鄭君依而用レ之也、依二制度一云、天子大槃、度八尺、長丈二尺、深三尺、漆赤レ中、此經雖レ云二夷槃一、無二形制一、故依レ焉、若然、此周謂二之夷槃一、漢謂二之大槃一、是別レ大異レ名、案、喪大記、君設二大盤一者、彼諸侯不下敢與二天子一同名中夷盤上、故名二大盤一、彼大夫云二夷盤一者、卑不レ嫌レ得下與二天子一同上レ名、其制則小也。



夷盤（三禮圖）

【夷盤】127 イバン 夷槃に同じ。〔禮、喪大記〕君設二大盤一造レ冰焉、大夫設二夷盤一造レ冰焉、士倂二瓦盤一無レ冰。

【夷靡】128 ビイ ❶地形のくづれこはれること。〔潘岳、射雉賦〕或乃崇墳夷靡。〔注〕爰曰、夷靡、頹弛也。❷音樂の節奏のゆるやかなこと。〔潘岳、笙

賦〕或案衍夷靡、或竦勇剽急。〔注〕善曰、夷靡、平而漸靡也。

【夷謐】129 イヒツ やすらかでしづかなこと。〔郝名遠、大廈賦〕六合清晏、八荒夷謐。

【夷泯】130 イビン ほろび盡きる。〔風俗通、祀典〕今營寓夷泯。〔陸機、挽歌詩〕妍骸永夷泯。〔注〕善曰、廣雅曰、夷、滅也、爾雅曰、泯、盡也。

【夷俘】131 イフ とりこ。中國のとりこを先王の宮に獻ずるを忌んで殊更に夷といふ。〔左氏、襄、十〕以二偪陽子一歸、獻二于武宮一、謂二之夷俘一。〔注〕諱レ俘二中國一、故謂二之夷一。

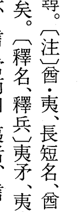
【夷服】132 イフク 九服の一。蠻服の外方五百里をいふ。夷畿。九畿(**1**―**167**‥95)・九服(**1**―**167**‥576)の㊀を見よ。〔周禮、夏官、職方氏〕又其外方五百里曰二蠻服一、又其外方五百里曰二夷服一。〔疏〕言レ夷者、以三其在二夷狄中一、故以レ夷言レ之。

【夷覆】133 イフク やぶれくつがへる。〔後漢書、王常傳〕以二秦項之勢一、尙至二夷覆一。

【夷平】134 イヘイ ㊀一家眷族をみなごろしにする。〔漢書、郊祀志上〕人有二上書告一、平所レ言皆詐也、下レ吏治誅夷平。〔注〕師古曰、夷者、平也、謂三盡平二除家室宗族一。㊁平らなこと。〔揚雄、河東賦〕瀸二南巢之坎坷一兮、易二豳岐之夷平一。

【夷甫】135 イホ 字號。㊀晉、王衍(**7**―**20823**‥78)の字。㊁宋、常秩(**4**―**8955**‥248)の字。

【夷矛】136 イボウ ほこの一種。酋矛に對して、長いほこをいふ。〔周禮、考工記、廬人〕酋矛常有四尺、夷矛三尋。〔注〕酋・夷、長短名、酋之言、遒也、酋近、夷長矣。〔釋名、釋兵〕夷矛、夷常也、其矜長丈六尺、不レ言レ常而曰レ夷者、言四其可三夷二滅敵一、亦車上所レ持也。



夷矛（三才圖會）

【夷牟】137 イボウ 黃帝の時の人。始めて矢を作る。一に浮游に同じといふ。〔禮、射義、射義第四十六、疏〕世本云、揮作レ弓、夷牟作レ矢、注云、揮・夷牟、黃帝臣。〔路史、黃帝紀〕夷牟造レ矢。

【夷濮】138 イボク 漢代、西南夷の氏族の名。〔試齋雜記〕漢武帝時、有二竹王一、興二于豚水一、有二一女子一、浣二于水濱一、有二三節大竹一、流入二女子足閒一、推レ之不レ去、聞レ有レ聲、持歸破レ之、得二一男兒一、遂雄二夷濮氏一、竹爲レ姓。

【夷昧】139 イマイ ㊀くらいこと。蒙昧。〔阮籍、通易論〕庖犧氏當二天地一終一、値二人物憔悴、利用不レ存、法制夷昧、神明之德不レ通、萬物之情不レ類、于レ是始作二八卦一。㊁人名。春秋時代、吳王壽夢の第三子。季札の兄。又、夷末・餘昧に作る。〔史記、吳世家〕壽夢有二子四人一、長曰二諸樊一、次曰二餘祭一、次曰二餘昧一、次曰二季札一。〔注〕索隱曰、夷末、惟史記公羊作二餘昧一、左氏及穀梁竝爲二餘祭一。

【夷漫】140 イマン ㊀平げほろぼす。平滅。〔潘岳、西征賦〕皆夷漫滌蕩、無二其處一而有二其名一。〔注〕向曰、夷漫滌蕩、平滅皃。〔孫逖、立秋日題二安昌寺北山亭一詩〕覽レ古嗟二夷漫一、淩レ空愛二泬寥一。㊁磨滅して平らなこと。〔泉志〕右古文錢、徑一寸、重四銖五參、背文夷漫、面肉坦平、微有二輪郭一、頗類二圜法一。

【夷民】141 イミン 民を安んずる。〔左氏、昭、十七〕五雉爲二五工正一、利二器用一、正二度量一、夷レ民者也。〔注〕夷、平也。

【夷滅】142 イメツ ㊀平げほろぼす。〔史記、呂后紀〕今皆已夷二滅諸呂一。〔漢書、劉向傳〕季布有レ罪、至二於夷滅一。〔楊惲、報二孫會宗一書〕自以夷滅、不レ足二以塞一レ責。〔魏志、臧洪傳〕受二夷滅之禍一。㊁地形などの埋まつて平らなこと。〔水經、渠注〕城隍夷滅、略存二故跡一。

【夷面】143 イメン えびすのやうな面貌。〔韓愈、送二區冊一序〕小吏十餘家、皆鳥言夷面、始至、言語不レ通。

【夷門】144 イモン ㊀山名。河南省開封縣の城內の東北隅。一に夷山といふ。山勢の平夷なところから名づけらる。㊁門の名。大梁の夷門は、戰國時代、魏の侯嬴が監者となつた所。〔史記、信陵君傳〕魏有二隱士一、曰二侯嬴一、年七十、家貧、爲二大梁夷門監者一。〔傅亮、爲二宋公一修二張良廟一敎〕或佇二想於夷門一。㊂複姓。〔元和姓纂〕侯嬴爲二夷門抱關一、後因氏焉。㊃明、侯懋功(**1**―**633**‥155)の號。

【夷門監者】145 イモンカンシヤ 戰國魏、侯嬴(**1**―**633**‥7)をいふ。

【夷門廣牘】146 イモンクワウトク 書名。一百五十八卷。明、周履靖編。歷代の稗官野記を輯集す。

【夷羊】147 イヤウ ㊀神獸の名。〔國語、周語上〕商之興也、檮杌次二於丕山一、其亡也、夷羊在レ牧。〔注〕夷羊、神獸。〔逸周書、度邑解〕夷羊在レ牧、飛鴻過レ野。㊁賢者に喩へる。〔李白、古風詩〕夷羊滿二中野一、菉葹盈二高門一。㊂複姓。〔左氏、成、十七〕胥童夷羊五、帥二甲八百一、將レ攻二郤氏一。

【夷愉】148 イユ 喜ぶ。心中に悅服する。〔韓愈、上巳日燕二大學一聽二彈琴一詩序〕優遊夷愉。〔宋史、李侗傳〕閨門內外、夷愉蕭穆、若レ無二人聲一。

【夷輿】149 イヨ 縣名。漢、置く。故城は河北省延慶縣の東北。〔漢書、地理志下〕上谷郡、縣十五、夷輿。

【夷萊】150 イライ 齊の東方に在つたえびすの國。禮儀の無い國にいふ。〔管子、輕重戊〕齊者夷萊之國也。〔纂詁〕齊東有二萊夷一、故云二夷萊之國一、言、禮俗未レ開、動習二夷風一、故多二游傲者一也。

【夷牢】151 イラウ 山名。又、彝牢に作る。四川省宜賓縣の西南。

【夷獠】152 イラウ 西南のえびす。〔後漢書、西南夷傳〕夷獠咸以三竹王非二血氣所一レ生、甚重レ之。

【夷落】153 イラク えびすの部落。〔左思、魏都賦〕蠻陬夷落、譯導而通者、鳥獸之氓也。

【夷陸】154 イリク 平らな陸地。平地。〔司馬相如、上林賦〕散二渙夷陸一、亭皐千里、靡レ不レ被レ築。〔注〕銑曰、夷、平也、謂二廣平地一也。

【夷戮】155 イリク 平げ殺す。誅戮する。〔後漢書、張衡傳〕恭儉畏忌、必蒙二祉祚一、奢淫諂慢、鮮レ不二夷戮一。〔晉書、劉頌傳〕不善者必夷戮、以警レ衆。

【夷隆】156 イリユウ 低いと高い。盛と衰。〔班固、兩都賦〕道有二夷隆一、學有二麤密一。

【夷陵】157 イリヨウ 縣名。漢、置く。もと楚の先王の墓名。故城は湖北省宜昌縣。五說あり。㊀縣の東。晉宋以前の故城。〔史記、六國年表〕楚頃襄王二十一年、秦拔二我郢一、燒二夷陵一。〔漢書、地理志上〕南郡、縣十八、夷陵。〔注〕應劭曰、夷山在二西北一。㊁縣西北の下牢戍。隋以前の故城。〔唐書、地理志四〕峽州中夷陵郡、本治二下牢戍一、貞觀九年、徙二治步闡壘一。㊂縣西北の石鼻山。〔宋史、地理志四〕峽州中夷陵郡軍事、建炎中、移二治石鼻山一、紹興五年、復レ舊。㊃縣の東南。〔宋史、地理志四〕峽州、端平元年、徙二治于江南一。㊄今の宜昌縣治。卽ち唐の故治。〔元史、地理志二〕峽州路夷陵、宋末、隨州遷レ治不レ常、歸附後、復歸二江北舊治一。

【夷厲】158 イレイ 周の夷王と厲王。轉じて、衰世の王をいふ。〔後漢書、劉陶傳〕周宣用二申甫一、以濟二夷厲之荒一。

【夷隸】159 イレイ 周官の名。秋官の屬。牧人を使つて牛馬と鳥とを養ふことを掌る。〔周禮、秋官、夷隸〕掌下役二牧人一、養二牛馬一、與レ鳥言上。「㊇の名。

【夷列】160 イレツ 西遼、仁宗(**1**―**349**‥163)の㊀の

【夷路】161 イロ 平らな道。坦道。〔潘尼、贈二河陽一詩〕逸驥騰二夷路一、潛龍躍二洪波一。

【夷王】162 イワウ ㊀周の第九代の王。名は燮、懿王の太子。〔史記、周紀〕諸侯復立二懿王太子燮一、是爲二夷王一。㊁漢の人。楚元王の子。〔韋孟、諷諫詩〕子夷王及孫王戊。

【夷詭諸】163 イキシヨ 周の大夫。夷は其の采地。初、晉の武公に執へられたが、蔿國の請に因つて免る。既にして之に報いず、國子亂を爲すに及んで、蔿・晉人に殺さる。〔左氏、昭、十六〕。

【夷三族】164 イサンゾク サンゾクヲタヒラグ 一人の罪に因つて其の三族(父族・母族・妻族)まで殺すこと。〔荀子、君子〕一人有レ罪、而三族皆夷。

【夷之蒐】165 イノシウ 權臣跋扈の端を開くこと。夷は晉の地名、蒐は春獵の名。晉に於ては蒐に事寄せて重臣相會し、以て政を行ふを例とした。魯の文公六年、晉は夷の地に春獵を催し、狐射姑を中軍に將として趙盾を佐とし、尋いで盾を將とした。其の結果、遂に趙盾が晉の國政を專らにするやうになつた。〔左氏、文、六〕春、晉蒐二于夷一、舍二二軍一、使三狐射姑將二中軍一、趙盾佐レ之、陽處父至レ自レ溫、改蒐二于董一、易二中軍一、陽子、成季之屬也、故黨二於趙氏一。〔注〕夷、晉地、前年四卿卒、故蒐以謀二軍帥一。

【夷不菫】166 イフキン 遼、興宗(**9**―**30226**‥100)の名。

【夷離菫】167 イリキン 官名。遼、置く。部族軍政の事を掌る。太宗の時、改めて北南院大王となす。

【夷離畢】168（イリヒツ） 官名。遼、置く。法律刑罰を掌る。中國の刑部に當る。〔遼史、百官志一〕凡遼朝官、北樞密視二兵部一、南樞密視二吏部一、北南二王視二戶部一、夷離畢視二刑部一、宣徽視二工部一、敵烈麻視二禮部一。〔遼史、百官志一〕夷離畢院、掌二刑獄一、夷離畢、左夷離畢、右夷離畢、有二左右夷離畢一。

【夷蠻戎狄】169（イバンジユウテキ） 四方の野蠻國。東夷南蠻西戎北狄をいふ。〔禮、王制〕東方曰レ夷、被レ髮文レ身、有下不二火食一者上矣、南方曰レ蠻、雕レ題交レ趾、有下不二火食一者上矣、西方曰レ戎、被レ髮衣レ皮、有下不二粒食一者上矣、北方曰レ狄、衣二羽毛一穴居、有下不二粒食一者上矣。

【夷濱釣叟】170（イヒンテウソウ） 飯田忠彥の號。飯田默叟(**12−44064‥90**)を見よ。

【夷不レ亂レ華】171（イクワヲミダサズ） えびすの國は中國を亂してはならない。〔孔子家語、相魯〕裔不レ謀レ夏、夷不レ亂レ華。

【以レ夷制レ夷】172（イヲモツテイヲセイス） 己は手を下さないで、外國を利用して外國を制御する外交策。以レ夷攻レ夷に同じ。

【以レ夷攻レ夷】173（イヲモツテイヲセム） 外敵を以て外敵を抑制する。他力を以て自利を占めること。〔王安石、翰林侍讀學士知許州軍州事梅公神道碑〕公請三擇レ人使二潘羅支一、兵法所謂以レ夷攻レ夷。

【匪レ夷匪レ惠】174（イニアラズケイニアラズ） 伯夷のやうに淸でもなく、柳下惠のやうに和でもない。〔資治通鑑、唐紀〕(昭宗、天祐二年)司空圖棄レ官居二虞鄉王官谷一、昭宗屢徵レ之不レ起、柳璨以二詔書一徵レ之、圖懼、詣二洛陽一入見、陽爲二衰野一墜レ笏失レ儀、璨乃復下レ詔、略曰、匪レ夷匪レ惠、難レ居二公正之朝一。〔注〕柳璨言、司空圖既非二伯夷之淸一、又非二柳下惠之和一。〔孟子、萬章下〕孟子曰、伯夷、聖之淸者也、伊尹、聖之任者也、柳下惠、聖之和者也、孔子、聖之時者也。

【匪二夷所レ思】175（ツネノオモフトコロニアラズ） 常人の思慮の及ぶ所でない。夷は常、匪は非。〔易、渙〕六四、渙二其羣一、元吉、渙有レ丘、匪二夷所レ思。

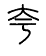
【夷匪犯境聞見錄】176（イヒハンキヤウブンケンロク） 書名。六卷。撰者未詳。夷匪とは、淸人がイギリス人を夷狄視した語。淸の道光中、イギリスが淸の南境を犯した顚末を記錄したもの。

【夸】5853

イ 夷(**3−5852**)に同じ。〔集韻〕夷、古書作レ夸。

【夸】5854

一 クヮ ケ 〔集韻〕枯瓜切 ㄎㄨㄚ k'ua¹ 麻
二 ク 〔集韻〕匈于切 虞
三 ク 〔集韻〕區遇切 遇
四 クヮ ケ 〔集韻〕苦瓦切 馬
五 クヮ 〔康熙字典〕苦禾切 歌
慣 コ


小篆

一 ❶**おごる**。〔說文〕夸、奢也、从レ大亏聲。〔荀子、仲尼〕貴而不レ爲レ夸。〔注〕夸、奢侈也。❷**おほげさに振舞ふ**。**ほこる**。たかぶる。〔廣雅、釋詁一〕夸、大也。〔呂覽、下賢〕富有二天下一而不二聘夸一。〔注〕夸、詫而自大也。〔史記、賈生傳〕夸者死レ權兮。〔注〕集解曰、瓚曰、夸、泰也。❸**はる**。はりひろげる。はびこる。〔史記、劉敬傳〕此宜二夸矜見レ所レ長。〔漢書、司馬相如傳上〕夸條直暢。〔注〕郭璞曰、夸、張布也。❹**きそふ**。〔漢書、嚴安傳〕帶劍者、夸殺レ人、以矯奪。〔注〕師古曰、夸、競也。❺**むなしい**。〔呂覽、本生〕非二夸以爲レ名也。〔注〕夸、虛也。❻**うつくしい**。華(**9−31214**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夸、叚借爲レ華。〔傅毅、舞賦〕夸容乃理。〔注〕善曰、夸、猶レ美也。❼**みだら**。汙(**6−17132**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夸、叚借爲レ汙。〔方言、十二〕夸、婬也。❽**よわい**。しなやか。柔弱。侉(**1−585**)に通ず。夸毗(23)を見よ。〔說文通訓定聲〕夸、叚借爲レ侉。〔爾雅、釋訓〕夸毗、體柔也。〔淮南子、脩務訓〕形夸骨佳。〔注〕夸、弱也。〔史記、賈生傳〕夸者死レ權兮。〔注〕集解曰、應劭曰、夸、毗也。❾**みみず**。しやくとり。蠖(**10−33752**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夸、叚借爲レ蠖。〔洪範五行傳、華孽、注〕夸、蚓蟲之生二于土一而游二于土一者。❿或は夲(**3−5859**)に作る。〔集韻〕夸、或作レ夲。⓫䠸(**10−38077**)に通ず。〔爾雅、釋言、釋文〕夸毗、字書作二䠸𨉷一。⓬誇(**10−35474**)に通ず。〔爾雅、釋詁、注〕夸奢。〔釋文〕夸、或作レ誇。⓭**諡**。〔逸周書、諡法解〕華言無レ實曰レ夸。⓮**姓**。〔尙友錄〕夸、見二姓苑一。⓯現英國の容量の單位quartの音譯字として用ひる。我が國の約六合三勺に當る。二**美しいさま**。**又**、**おごる**。或は姱(**3−6235**)に作る。〔集韻〕姱、美兒、或省。〔集韻〕夸、奢也、或从レ女。三**おごる**。〔集韻〕夸、奢也。四五**ほこる**。夸夵。一の❷に同じ。〔集韻〕夸、夸夵、自大。〔陸機、感舊賦〕或沖虛以後已兮、或招レ世而自夸。

【夸淫】1（コイン） おごつてみだらなこと。〔詩、小雅、小宛〕壹醉日富、〔箋〕夸淫自恣、以レ財驕レ人。

【夸耀】2（コエウ） ほこりかがやかす。誇耀。〔柳宗元、與二楊京兆憑一書〕若二宗元一者、才力缺敗、不レ能下遠騁高厲、與二諸生一摩二九霄一撫二四海一、夸中耀於後之人上矣。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕出二於庸夫愚婦之不意一、以驚駭而夸二耀之一也。

【夸蛾】3（コガ） 古の仙人の名。〔列子、湯問〕帝感二其誠一、命二夸蛾氏二子一負二二山一、一厝二朔東一、一厝二雍南一、自レ此冀之南、漢之陰、無二隴斷一焉。〔注〕夸蛾氏、傳記所レ未レ聞、蓋神力者也。

【夸姣】4（コカウ） 顏が美しい。なまめかしい。美好のさま。〔宗臣、釣臺賦〕何佳人之夸姣以抗行兮、抱二孤貞一而自全。

【夸矜】5（コキヨウ） ほこる。たかぶる。誇矜。〔史記、劉敬傳〕兩國相擊、此宜二夸矜見レ所レ長。〔鹽鐵論、大論〕嫫母飾レ姿而夸矜、西子彷徨而無レ家。

【夸詡】6（コク） ほこりたかぶる。誇詡。〔海錄碎事、人事、奢豪〕夸詡、音許、自光大也、春秋傳曰、會同主レ詡、揚雄云、誇二詡衆庶一、是也。

【夸言】7（コゲン） 誇大な話。おほげさな話。大言。誇言。〔晏子、問下〕夸言愧行、自勤二于饑寒一、不レ及二醜儕一。

【夸衒】8（コゲン） ほこりてらふ。誇衒。〔葉適、送二王恭父一詩〕通レ方要二歸宿一、立レ異豈夸衒。

【夸詐】9（コサ） 大言を吐きいつはる。ほらを吹く。〔漢書、韓信傳〕齊夸詐多レ變、反覆之國。

【夸恣】10（コシ） たかぶりおごつて氣儘なこと。〔晉書、五行志中〕盛致二聲色一、窮レ珍極レ麗、至二元康中一、夸恣成レ俗。

【夸視】11（コシ） ほこり示す。〔漢書、刑法志〕以爲二戲樂一、用相夸視。

【夸爾】12 k'ua¹ êrh 英米容量の名。クォート。Quart 我が國の約六合三勺に當る。

【夸者】13（コシヤ） ほこりたかぶる人。又、榮譽を好む人。〔史記、伯夷傳〕夸者死レ權、衆庶馮レ生。〔注〕索隱曰、言、貪二權勢一以矜夸者、至レ死不レ休、故云レ死レ權也。〔史記、賈生傳〕夸者死レ權兮、品庶馮レ生。〔注〕集解曰、應劭曰、夸、毗也、好レ榮死二於權利一、瓚曰、夸、泰也、莊子曰、權勢不レ尤、則夸者悲也。

【夸烝】14（コジヨウ） 自分より身分の尊い女に私通する。上淫。〔方言、十二〕夸烝、婬也。〔注〕上婬爲レ烝。〔廣雅、釋詁二〕夸烝通媱、婬也。

【夸人】15（コジン） ❶大言を吐く人。ほらふき。〔文中子、事君〕徐陵庾信、古之夸人也、其文誕。❷人にほこること。〔列子、楊朱〕欲下尊二禮義一以夸レ人、矯二情性一以招上レ名。

【夸節】16（コセツ） 大きい節操。〔後漢書、馮衍傳下〕纂二前脩之夸節一兮、曜二往昔之光勳一。

【夸奓】17（クワタ） ほこる。自ら大とする。〔韻會〕夸、夸奓、自大也。

【夸詑】18（コタ） ほこりあざむく。誇誕。〔呂覽、下賢〕富有二天下一而不二聘夸一、高注〕夸詑而自大也。

【夸汰】19（コタイ） ほこりおごる。〔荀子、議兵、矜糾收繚之屬、注〕矜、謂二夸汰一。

【夸大】20 コダイ　おほげさ。ほこつて尊大にかまへる。誇大。〔詩、秦風、小戎序〕矜ニ其車甲一、〔箋〕矜、夸大也。〔孫楚、爲ニ石仲容一與ニ孫皓一書〕苟以ニ夸大一爲レ名。

【夸誕】21 コタン　おほげさで出たらめ。誇誕。〔荀子、不苟〕夸誕生レ惑、云云、言ニ己之光美一、擬ニ舜禹一、參ニ於天地一、非ニ夸誕一也。〔魏書、釋老志〕夸誕大言、不レ本ニ人情一。

【夸條】22 コデウ　枝のはびこること。〔司馬相如、上林賦〕夸條直暢。〔注〕善曰、云云、郭璞曰、夸、張布也。

【夸毗】23 コヒ　身をひくくして人にへつらひしたがふ。躬躮。侉仳。〔爾雅、釋訓〕夸毗、體柔也。〔注〕夸毗、屈レ己卑レ身、以レ柔順レ人也。〔疏〕李巡曰、屈レ己卑レ身、求レ得ニ於人一曰ニ體柔一。〔詩、大雅、板〕天之方懠、無レ爲ニ夸毗一。〔傳〕夸毗、以レ體柔レ人也。〔箋〕女無下夸毗以ニ形體一順中從之上。〔後漢書、崔駰傳〕君子非レ不レ欲レ仕也、恥ニ夸毗以求一レ舉。〔注〕夸毗、謂ニ佞人足恭、善爲ニ進退一。

【夸毗子】24 コヒシ　人にへつらひ求める者。〔阮籍、詠懷詩〕如何夸毗子、作レ色懷ニ驕腸一。

【夸誣】25 コフ　でたらめ。〔果堂集、禮記明堂位問〕因ニ記者夸誣之多一、而盡疑レ之、則又過矣。

【夸父】26 コホ　❶獸の名。〔呂覽、求人〕犬戎之國、夸父之野。〔注〕夸父、獸名也。❷山名。㋑河南省閿鄕縣の東南。〔水經、河水注〕湖水出ニ桃林塞之夸父山一。㋺湖南省沅陵縣の東北。南、沅水に臨み、東、桃源縣の界に接す。俗稱は撐架山。〔朝野僉載〕夸父山在ニ辰州東一、三石品立、鋭十餘丈、形如ニ鼎足一、古老傳曰、鄧夸父與レ日競走、至レ此炊飯、三石者、夸父支レ鼎之石也。❸上古の人名。夸父追ニ日影一を見よ。〔張協、七命〕夸父爲レ之投レ策。〔注〕善曰、山海經曰、夸父與レ日競走、渴飲ニ河渭一、河渭不レ足、北飲ニ大澤一、未レ至、道渴而死、弃ニ其杖一、爲ニ鄧林一。

【夸父追ニ日影一】27 コホニチエイヲオフ　夸父が己の力を量らずに太陽と競走し、竟に渴死した故事。己の力を量らずに大事を企てる喩。〔列子、湯問〕夸父不レ量レ力、欲レ追ニ日影一、逐ニ之於隅谷之際一、渴欲レ得レ飲、赴飲ニ河渭一、河渭不レ足、將三走レ北飲ニ大澤一、未レ至、道渴而死。〔山海經、海外北經〕夸父與レ日逐走、入日、渴欲レ得レ飲、飲ニ於河渭一、河渭不レ足、北飲ニ大澤一、未レ至、道渴而死、弃ニ其杖一、化爲ニ鄧林一。

【夸邁】28 コマイ　きはめて遠ざかる。〔石崇、思歸引序〕余少有ニ大志一、夸ニ邁流俗一。〔注〕銑曰、夸、猶レ極也、邁、遠也、言、極ニ遠於流俗之事一。

【夸謾】29 コマン　ほこりあなどる。〔韓愈、烏氏廟碑銘〕夸謾兇驕、出ニ不遜言一。

【夸譽】30 コヨ　ほこり。〔阮籍、詠懷詩〕豈爲ニ夸譽名一、憔悴使ニ心悲一。

【夸容】31 コヨウ　うつくしい姿。美容。〔傅毅、舞賦〕埒レ材角レ妙、夸容乃理。

【夸呂】32 クワリヨ　吐谷渾第十五代の君主。伏連籌の子。自ら始めて可汗と號す。西魏・北周に對して屢〻寇を爲したが、隋が陳を平定してからは恐れて敢て寇しなかつた。〔魏書、一百一〕。

【夸麗】33 コレイ　美しい。誇麗。〔荀子、富國〕非三特以爲ニ淫泰夸麗之聲一。〔左思、吳都賦〕雖ニ茲宅之夸麗一、曾未レ足ニ以少寧一。

【夸論】34 コロン　おほげさの論。事實にあたらない誇大な論。〔吳質、在ニ元城一與ニ魏太子一牋〕彼豈虛談夸論、誑ニ曜世俗一哉。

【奊】 5855　ケイ　ゲイ　〔廣韻〕胡雞切　齊

❶**獸の足跡**。〔玉篇〕奊、獸跡。〔集韻〕奊、獸迹。❷**邑名**。〔廣韻〕奊、亦邑名、在ニ洛陽一。

【⿱大丁】 5856　カイ

介(**1**−**359**)に同じ。〔字彙補〕⿱大丁、音義與レ介同。

【⿵冂大】 5857　ナイ

内(**1**−**1418**)の古字。〔集韻〕内、古作レ⿵冂大。

【⿱大廾】 5858　セイ

青(**12**−**42564**)の古字。〔集韻〕青、古作レ⿱大廾。

【夲】 5859　㊀クワ　㊁ホン

㊀夸(**3**−**5854**)に同じ。〔集韻〕夸、或作レ夲。㊁本(**6**−**14421**)の譌字。〔廣雅、釋木、本榦也、疏證〕本、各本譌作レ夲。

【乔】 5860　ケイ　ケ　〔字彙補〕古惠切　霽

姓。〔字彙補〕乔、姓也。

【⿱一⿵冂大】 5861　ギヨク

義未詳。〔字彙補〕⿱一⿵冂大、音玉。

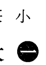
四畫

【夽】 5863　グン　〔集韻〕牛吻切　吻

小篆

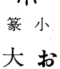
❶**おほきい**。〔說文〕夽、大也、从レ大云聲、讀若レ齳。

【夻】 5864　シユン　ジユン　〔集韻〕殊倫切　眞


小篆

❶**おほきい**。〔說文〕夻、大也、从レ大屯聲、讀若レ鶉。❷通じて純(**8**−**27277**)に作る。〔集韻〕夻、通作レ純。

【⿱大介】 5865　カイ　〔集韻〕古拜切　卦

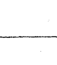

小篆

おほきい。〔說文〕⿱大介、大也、从レ大介聲、讀若レ蓋。〔方言、一〕⿱大介、大也、東齊海岱之閒、曰レ⿱大介。

【⿱大巴】 5866　ハ　ヘ　〔集韻〕披巴切　麻

おほきい。〔集韻〕⿱大巴、大也。

【夾】 5867　㊀カフ　〔集韻〕古狎切　洽　ㄐㄧㄚ　chia$^{1\cdot2}$　㊁ケフ　〔集韻〕吉協切　葉　慣ケフ


小篆

㊀❶**はさむ**。㋑左右から持つ。〔說文〕夾、持也、从ニ大夾ニ二人一。〔段注〕夾ニ持人一、故从ニ二人一、大者、人也、一人而二人居ニ其亦一、故曰レ从ニ大夾ニ二人一。㋺さしはさむ。左右にある。挾(**5**−**12118**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夾、叚借爲レ挾。〔禮、檀弓上〕與ニ賓主一夾レ之也。〔釋文〕夾、本又作レ挾。〔儀禮、既夕禮記〕圉人夾ニ牽之一。〔注〕在ニ左右一曰レ夾。㋩おびる。〔書、禹貢〕夾ニ右碣石一。〔釋文〕夾、帶也。㋥碁の手法の名。〔圍棊義例、詮釋〕夾、甲也、兩子夾ニ一子一、曰ニ實夾一、兩子自夾曰ニ虛夾一。❷**たすける**。〔一切經音義、十二〕夾、輔也。❸**ちかづく**。〔書、多方〕爾曷不三夾介乂ニ我周王一。〔傳〕夾、近也。❹**かねる**。あはせる。まじる。〔韻會〕夾、又兼也、相雜也。〔字彙〕夾、兼也。❺**はめる**。入れこむ。〔柳宗元、乞巧文〕膠加鉗夾。❻**はさみ**。㋑治器。鑄型を夾みもつもの。鋏(**11**−**40450**)に通ず。〔說文通訓定聲〕夾、叚借爲レ鋏。〔周禮、夏官、射鳥氏〕矢在レ侯高、則以ニ幷夾一取レ之。〔注〕幷夾、鍼箭具。〔茶經〕竹夾、或以ニ桃柳蒲葵木一爲レ之、或以ニ柿心木一爲レ之、長一尺、銀裹ニ兩頭一。㋺ものを數へる單位。〔宋史、天竺國傳〕貝葉梵書一夾。❼**せまい所**。川のせまい所。谷閒。**又、とまり**。假泊所。〔陸游、長歌行〕朝浮杜若洲、莫宿蘆花夾。

㊇**夾室**。〔儀禮、聘禮〕堂上之饌八、西夾六。㊈**あはせ**。袷。〔邵氏聞見錄〕仁宗四時衣レ夾。㊉**はじまる**。甲（7－21725）に通ず。〔書、多方、因甲二于內亂一、疏〕夾聲近レ甲、古文甲與レ夾通用。(十一)郟（11－39433）に通ず。〔說文通訓定聲〕夾、叚借爲レ郟。〔左氏、襄、二十九〕郟敖。〔史記、呉世家〕夾敖。(十二)［現］加はる。［二］㊀**つか**。にぎり。〔莊子、說劍〕韓魏爲レ夾。〔釋文〕夾、馬云、把也、一本作レ鋏。〔周禮、考工記、桃氏、爲二之莖圍一、注〕鄭司農云、莖、謂二劍夾一人所レ握、鐔以上也。㊁**弓の一體**。〔周禮、夏官、司弓矢〕夾弓庾弓。〔注〕往體多、來體寡、曰二夾庾一。㊂**かたはら**。或は俠（1－706）に作る。〔集韻〕夾、傍也、或从レ人。㊃**せまい**。狹（8－20428）に通ず。〔後漢書、東夷傳〕基地東西夾、南北長。〔注〕夾、音狹。㊄**姓**。〔萬姓統譜〕夾、春秋有二夾氏一。

［解字］會意。大（人の象形）と兩人との合字。本義は、さしはさむ。故に大の兩腋に人の字を畫いて、人が其の兩腋に二人をわきばさむ意を示し、以てさしはさむの意と爲す。一說、夾（わきの義）の省形である大と二人との合字。本義は、左右から兩人が一人をさしはさんで對ひたすける意。故に大の兩旁に二人を畫いてむかひたすける意を表はす。〔說文、夾、段注〕夾二持人一、故从二二人一、大者、人也、一人而二人居二其亦一、猶二一人二亦閒褒レ物也、故曰レ从三大夾二二人一。〔六書正譌〕夾、从二二人一、从二大省一、二人對二輔于肘大之下一、會二夾意一。▽ （金文）象形。手をひろげて立つ人の兩脇を左右から手ではさむ形に象る。

［參考］二入に从ふの夾（3－5868）とは別。〔說文通訓定聲〕夾、與二从レ亦之夾一迥別。〔字彙、辨似、二字相似〕夾、減入聲、左右持也。夾、音閃、盜攘物。

【夾襖】1 chia² ao³ 袷の長上衣。

【夾右】2 ケフイウ 右にかかへこむ。〔書、禹貢〕夾二右碣石一。〔蔡傳〕碣石、地志、在二北平郡驪城縣西南河口之地一、今平州之南也、冀州北方貢賦之來、自二北海一入レ河、南向西轉、而碣石在二其右轉屈之閒一、故曰二夾右一也。

【夾河】4 ケフガ 川の名。㊀河北省武邑縣の南。漳水の分流。㊁江蘇省碭山縣の西南。大河の分れる所。一說、大河の別名。〔讀史方輿紀要、江南、徐州、碭山縣〕夾河、縣西南五十里、大河支分處也、或曰、卽大河之別名。

【夾介】5 ケフカイ 左右に侍してたすける。〔書、多方〕爾曷不下夾介乂二我周王一、享中天之命上。〔蔡傳〕夾、夾輔之夾、介、賓介之介。

【夾開】6 chia¹ k'ai¹ はさみきる。

【夾江】7 ケフカウ ㊀江をさしはさむ。〔揚雄、蜀都賦〕夾レ江緣レ山。〔左思、蜀都賦〕夾レ江傍レ山。㊁縣名。隋、置く。漢の南安縣の地。四川省樂山縣の西北。縣城は青衣江の東岸。〔讀史方輿紀要、四川、嘉定州〕夾江縣、州西北八十里、東北至二青神縣一六十里、本龍遊・平羌二縣地、隋開皇三年、析二置夾江縣一屬二嘉州一、唐宋因レ之。〔清史稿、地理志〕四川、嘉定府、縣七、夾江。㊂chia¹ chiang¹ 大江の濱に、沙洲の沖積に因つて、別にできた一小江。

【夾巷】8 ケフカウ せまいちまた。小路。夾衖。〔古詩十九首〕長衢羅二夾巷一、王侯多二第宅一。

【夾鏡】9 ケフキヤウ 左右二箇の鏡。駿馬の目の爛爛たる形容。〔顏延之、赭白馬賦〕雙瞳夾レ鏡、兩權協レ月。〔杜甫、驄馬行〕隅目青熒夾鏡懸、肉騣碨礧連錢動。

【夾弓】10 ケフキユウ 弓の名。六弓の一。弓幹が曲り易くて、豻侯及び鳥獸等、近距離のものを射るに用ひる力の弱い弓。夾庾（108）を見よ。〔周禮、夏官、司弓矢〕夾弓庾弓、以授下射二豻侯鳥獸一者上。〔注〕往體多、來體寡、曰二夾庾一、云云、豻侯五十步、及射二鳥獸一、皆近射也、近射用二弱弓一。

【夾緊】11 chia¹ chin³ きつくはさむ。

【夾蕙】12 ケフケイ 蕙蘭を懷に納めることで、胸中にゆたかな品格詩藻を備へてゐる喩。蕙は香草。挾蕙。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕懷二芬香一而挾レ蕙兮、佩二江蘺之菲菲一。

【夾擊】13 ケフゲキ はさみうつ。夾攻。〔史記、淮陰侯傳〕於レ是漢兵夾擊大破、虜二趙軍一。〔漢書、韓信傳〕漢兵夾擊破、虜二趙軍一。〔魏志、武帝紀〕乃縱二虎騎一夾擊大破レ之。

【夾結】14 ケフケツ 夾纈に同じ。〔唐語林、賢媛〕玄宗柳婕妤有二才學一、上甚重レ之、婕妤妹適二趙氏一、性巧慧、因使下工鏤レ板、爲二雜花一象上レ之、而爲二夾結一、因二婕妤生日一、獻二王皇后一匹一、上見而賞レ之、因敕二宮中一依レ樣制レ之、當時甚祕、後漸出遍二于天下一。

【夾纈】15 ケフケツ 唐の柳婕妤の妹が發見した染法。二枚の板に同樣の花紋を彫刻し、絹布を折り重ねて、此の二板に入れて染めるもの。花紋が對稱に染め出される。かうけち。いたじめ。夾結。〔丹鉛總錄〕元時、染工有二夾纈之名一、別有二檀纈・蜀纈・漿水纈・三套纈・綠絲斑纈諸名一、問二之今時機坊一、亦不レ知也。

【夾攻】16 ケフコウ はさみうち。夾擊。〔國語、呉語〕越人分爲二二師一、將三以夾二攻我師一。

【夾溝】17 ケフコウ みぞをさしはさむ。〔國語、呉語〕將二夾レ溝而㢓レ我、我無二生命一矣。

【夾谷】18 ケフコク ㊀春秋の地名。孔子が魯の定公を相けて齊侯と會した所。其の所在に三說がある。〔春秋、定、十〕夏公會二齊侯于夾谷一。〔史記、孔子世家〕定公十年春、及レ齊平、夏、齊大夫黎鉏言二於景公一曰、魯用二孔丘一、其勢危レ齊、乃使下使告レ魯爲二好會一、會中於夾谷上、魯定公且下以二乘車一好往上、孔子攝二相事一、云云、定公曰、諾、具二左右司馬一、會二齊侯夾谷一。㋑春秋、莒の地。一名、祝其。今、江蘇省贛榆縣の西。〔左氏、定、十、夏公會二齊侯于祝其一、實夾谷、注〕夾谷、卽祝其也。〔會箋〕夾谷有レ三、一謂レ在二東海祝其縣一、今江蘇海州贛榆縣、是也、然贛榆在二春秋一爲二莒地一、北至二曲阜一三百餘里、而齊更在二魯北一、齊強魯弱、豈能屈レ駕至二魯之南境一而與會、魯又何苦越二其國都一、而會二齊於國之南鄙一耶。〔後漢書、郡國志三〕春秋時曰二祝其夾谷之地一。〔太平寰宇記〕夾谷山在二懷仁縣西三十八里一。㋺春秋、齊の地。一名、祝其山。又、甲山。今、山東省淄川縣の西南。〔左氏、定、十、公會二齊侯于祝其一、實夾谷、會箋〕二則濟南淄川縣西南三十里有二甲山一、亦名二夾山一、一名祝其山、其陽有二夾谷臺一、然齊魯兩君相會、不レ應二去レ齊若レ此之近、去レ魯若レ此之遠一。〔金史、地理志中〕淄川有二夾谷山一。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、淄川縣〕夾谷山、縣西南三十里、一名祝其、又謂二之甲山一、其陽卽齊魯會盟處、萌水出焉。㋩春秋、齊の地。今、山東省萊蕪縣の南。〔左氏、定、十、公會二齊侯于祝其一、實夾谷、會箋〕三則泰安府萊蕪縣有二夾谷峪一、名勝志、以爲下萊兵劫二魯侯一處上、一統志亦載レ之、顧炎武曰、水經注、萊蕪縣城在二萊蕪谷一、舊說云、齊靈公滅レ萊、萊民播二流此谷一、邑落荒蕪、故曰二萊蕪一、號二其故國一爲二東萊一、禹貢所謂萊夷也、宣尼稱、夷不レ亂レ華、是也、是則會二於此地一、故得レ有二萊人一、非レ召二之東萊千里之外一也、不レ可下泥二祝其之名一、而遠求中之海上上矣。㊁複姓。〔金史、國語解〕夾谷曰レ仝。〔元史、夾谷之奇傳〕夾谷之奇、字士常、其先出二女眞一、加古部後訛爲二夾谷一。

【夾谷衡】19 ケフコクカウ 人名。金、山東西路三十一猛安益打把謀克の人。本名は阿里不山、諡は貞獻。大定の進士。承安年閒、平章政事となり、英國公に封ぜらる。〔金史、九十四〕。

【夾谷胡剌】20 ケフコクコラツ 金、上京宋葛屯猛安の人。初、元帥撻懶の帳下にあつて武德將軍となる。正隆の末、山東に盜起るや、之を討平す。後、宋を伐ち、陣中に歿す。〔金史、八十六〕。

【夾谷查剌】21 ケフコクサラツ 金、失撒古河の人。謝奴の子。天德の初、護衞となり、後、西北路招討使となる。女眞契丹の書を善くす。〔金史、八十六〕。

【夾谷之奇】22 ケフコクシキ 元、滕州の人。字は士常。至元年閒、翰林學士・吏部尙書となる。〔元史、一百七十四〕・〔新元史、一百八十八〕。

【夾谷謝奴】23 ケフコクシヤド 金、納魯悔河の人。女眞契丹の大小字及び漢文に通ず。太祖に仕へ、戰功を以て平涼尹・昭義軍節度使に歷仕す。〔金史、八十二〕。

【夾谷守中】24 ケフコクシユチユウ 金、咸平の人。本名は土古。大定の進士。大安年閒、通遠軍節度使となる。夏兵の入寇に城陷つて執へられ、佯り降り、平涼城に至るや、大呼して、外兵、矢盡きて將に

遁れんとす、愼んで降る勿れと稱して殺さる。〔金史、一百二十一〕。

【夾谷淸臣】25（ケフコクセイシン）金、胡里改路桓篤の人。戰功を以て樞密副使となる。明昌の初、其の女、昭儀となるに因つて平章政事に累進し、左丞相を拜す。〔金史、九十四〕。

【夾谷吾里補】26（ケフコクゴリホ）金、暗土渾河の人。戰功を以て孛特本部族節度となり、芮國公に封ぜらる。卒年百五。〔金史、八十二〕。

【夾谷石里哥】27（ケフコクセキリカ）金、上京路猛安の人。明昌の進士。官は宿州提控。後、戰功を以て定海軍節度使に進む。〔金史、一百二〕。

【夾棍】28（ケフコン）刑具の名。罪人の兩脚をはさむに用ひる。夾棒。〔淸會典、刑部〕順治十七年題准、凡問刑衙門、無二眞贓證一、及戶婚田土小事、不レ得三濫用二夾棍一。〔六部成語、刑部、夾棍、注解〕三尺木之刑也。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕夾棍桚指辱レ之、示レ衆則枷。

【夾彩】29（ケフサイ）瓷の上全體に一色を塗り、その上を更に彩色したもの。

【夾載】30（ケフサイ）兩方から挾んで乘せる。〔漢書、溝洫志〕以二竹落長四丈大九圍一、盛以二小石一、兩船夾載而下レ之。

【夾寨】31（ケフサイ）❶兩方から挾む形に作つたとりで。〔五代史、王彥章傳〕晉已盡有二河北一云云、築二河南北一、爲二兩城一、號二夾寨一。❷城の名。山西省長治縣の西。今、南寨村・北寨村といふ。

【夾寨夫人】32（ケフサイフジン）後唐の莊宗が梁の軍を夾城に攻めた時、符道昭の妻侯氏を得て專ら之を寵愛したので、當時、宮中の人が侯氏の稱呼とした語。壓寨夫人。〔五代史、唐家人、皇后劉氏傳〕莊宗攻二梁軍於夾城一、得二符道昭妻侯氏一、寵專二諸宮一、宮中謂二之夾寨夫人一。

【夾漈】33（ケフサイ）山名。福建省莆田縣の西北。一名、東山。旁の西巖は、宋の鄭樵が讀書した處。故に世人、鄭樵を呼んで夾漈先生といふ。附近の薌林山は樵の從兄厚が讀書した處。〔讀史方輿紀要、福建、興化府、莆田縣〕夾漈山、府西北八十里、一名東山、旁有二西崖一、鄭樵讀書處也、其相近者有二薌林山一、樵從兄厚讀書處、亦有二泉石之勝一、又南爲二環山一。

【夾漈遺稿】34（ケフサイヰカウ）書名。三卷。宋、鄭樵撰。詩五十六首、文七篇を收む。〔四庫提要、集、別集類〕。

【夾漈先生】35（ケフサイセンセイ）宋、鄭樵の尊稱。其の讀書した所の山名に取つて名づく。〔宋史、鄭樵傳〕鄭樵、字漁仲、興化軍莆田人、好著レ書、不レ爲二文章一、自負不レ下二劉向揚雄一、居二夾漈山一、謝二絕人事一云云、學者稱二夾漈先生一。

【夾倉】36（ケフサウ）鎭の名。山東省日照縣の東南。石城がある。明・淸、皆、巡司を置く。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、莒州、日照縣〕夾倉鎭、縣南二十五里、有二石城一、置二巡司於此一。

【夾窗】37（ケフサウ）戶の兩旁に設けるあかり窗。〔周禮、考工記、匠人〕四旁兩夾窗。〔注〕窗、助レ戶爲レ明、每室四戶八窗。〔疏〕言二四旁一者、五室、室有二四戶一、四戶之旁、皆有二兩夾窗一、則五室二十戶四十窗也。

【夾桚】38（ケフサツ）はさみゆびの刑。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕刑杖夾桚之具、皆竹木爲レ之。

【夾雜】39 chia^{1} tsa^{2} まじる。混合する。

【夾雜物】40 chia^{1} tsa^{2} wu^{4} まじりもの。

【夾衫】41（ケフサン）上衣。袷の長上衣。〔樂府雜錄〕令下衣二白夾衫一、命二優伶一戲弄辱上レ之。〔李賀、酬答詩〕金魚公子夾衫長、密裝腰鞓割二玉方一。

【夾竿】42（ケフサン）竹を長さ三寸、幅五分許りに薄く削り、三分の二まで割りかけて、裂けぬやうに絲で纏つたもの。割目に文書を挾むに用ひ、又、讀みさしの書物を挾んで標とする。後世の栞に同じ。竿は算に同じ。夾算。枝折。〔西宮記、除目直物〕刺二夾竿一、勾二申文一。〔江家次第、四、除目〕置レ刀執レ筆書レ之、刺二夾竿一置レ之。〔江次第抄〕夾竿長三寸、以レ竹作レ之、以レ絲結レ之、或以二細紙捻一結レ之、兩說也。

【夾山】43（ケフザン）山名。❶安徽省和縣の北。巖嶂環峙し、中に夾山關がある。渭野關ともいふ。〔讀史方輿紀要、江南、和州〕夾山關、州北五十五里、有二夾山鋪一、兩山壁立、聳峭夾レ道、山口崎嶇、與二滁州一接レ界、爲二南北咽喉一、明正德中、巨寇劉六等犯レ境、州同知薛渭野、壘レ石置二寨於此一、以控二守要害一、今寨廢、而石垣尙存、亦名二渭野關一。❷綏遠省薩拉齊縣の西北、烏喇特旗の界に接す。遼の延禧が金兵に襲はれた時、此の山に遁入した。〔金史、地理志上〕柔服、夾山、在二城北六十里一。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、大同縣〕夾山、在二雲內州北六十里一、宋宣和四年、金人襲二遼主延禧於白水濼一、遼主遁二入夾山一。

【夾子】44 chia^{1} tzŭ ❶蟹のはさみ。〔紅樓夢、三十八回〕只吃了一點夾子肉。❷物をはさむに用ひる器具。

【夾刺】45（ケフシ）はさみさすこと。〔戰國、楚策〕園死士夾二刺春申君一、斬二其頭一、投二之棘門外一。

【夾廁】46（ケフシ）はさまりまじる。〔史記、律書〕夾鐘者、言二陰陽相夾廁一也。

【夾侍】47（ケフジ）❶左右にはべる。又、其の人。〔唐書、禮樂志一〕致齋之日、乘輿出レ自二西房一、卽二御座一東向、侍臣夾侍。❷〖佛〗佛像の左右に侍る者。挾侍(**5**－**12118**··43)に同じ。

【夾室】48（ケフシツ）室の名。堂の奧の室をはさむ兩側の部屋。東を東夾室、西を西夾室といふ。家廟では此處に祧主を藏する。高祖以上、親盡きれば祧とし、昭の祧は東夾室に、穆の祧は西夾室に藏する。堂室(**3**－**5207**··64)を見よ。〔禮、雜記下〕夾室中レ室。〔韓愈、禘祫議〕宜三永藏二之夾室一。

【夾膝】49（ケフシツ）竹製の倚りかかり。竹夫人。竹夾膝。〔南史、元帝紀〕龍光殿上所レ御肩輿、復見下小蛇縈二屈輿中一、以レ頭駕中夾膝前金龍頭上上、見レ人走去、逐レ之不レ及。

【夾日】50（ケフジツ）太陽をさしはさむ。〔史記、楚世家〕昭王病二於軍中一、有二赤雲一、如レ鳥、夾レ日而蜚。〔呂溫、狄梁公立盧陵王傳贊〕乃建二國本一、代レ天張レ機、取二日虞泉一、浣二光咸池一、潛授二五龍一、夾レ之以飛。

【夾寫】51 chia^{1} hsieh^{3} 書き入れる。書き添へる。

【夾牆】52（ケフシヤウ）二重のかべ。重壁。〔物理小識〕作二夾牆一。

【夾爵】53（ケフシヤク）君が飮みをはつて後、復、自ら酌むこと。〔儀禮、鄉射禮〕若飮レ君、如レ燕則夾爵。〔注〕夾爵者、君旣卒レ爵、復自酌。

【夾助】54（ケフジヨ）たすけること。〔漢書、律歷志上〕夾鐘、言下陰夾二助太族一、宣二四方之氣一、而出中種物上也。

【夾承】55（ケフシヨウ）兩方からうけ捧げる。〔左氏、昭、二十七〕執レ羞者坐行而入、執レ鈹者夾二承之一。

【夾鍾】56（ケフシヨウ）十二律の一。第四番目の律。卯に配し、仲春に配し、又辰に於て降婁に當てる。轉じて、陰曆二月の異名。我が雅樂の勝絕に當る。夾鐘。十二律(**2**－**2695**··407)を見よ。〔周禮、春官、大司樂〕乃奏二無射一、歌二夾鍾一、舞二大武一、以享二先祖一。〔注〕無射、陽聲之下也、夾鍾爲二之合一、夾鍾、一名圜鍾。〔禮、月令〕仲春之月、云云、其音角、律中二夾鍾一。〔注〕夾鍾者、夷則之所レ生、三分益レ一、律長七寸三千一百八十七分寸之千七十五、仲春氣至、則夾鍾之律應、周語曰、夾鍾出二四隙之細一。〔國語、周語下〕二閒夾鍾、出二四隙之細一也。〔注〕二月夾鍾、坤六五也。〔淮南子、天文訓〕夾鍾者、種始莢也。

【夾鐘】57（ケフシヨウ）夾鍾に同じ。

【夾乘】58（ケフジヨウ）さしはさんで乘る。〔史記、袁盎傳〕盎兄子種爲二常侍騎一、持レ節夾乘。

【夾食】59（ケフシヨク）はさみ象棋。〔太平御覽、工藝、夾食〕藝經曰、夾食者、二人黃黑各十七棊、橫列二於前一、第四道上甲乙迭推、二棊夾レ一爲二食棊一、不レ得レ食レ兩、不レ得二邊食一、不レ由レ道則不レ行、碁入レ夾不レ取、食二一棊一爲レ籌、賭多少隨二人所一レ制。

【夾振】60（ケフシン）はさんでふる。〔禮、樂記〕夾二振之一而駟伐、盛二威於中國一也。

【夾疹】61 chia^{1} chen^{3} 發疹。吹出物。

【夾訊】62（ケフジン）夾棍(28)の刑具を用ひて拷問すること。〔六部成語、刑部、夾訊、注解〕三尺木也、俗名二夾棍一、乃刑中之最酷者、用以審二訊重犯一。

【夾水】63（ケフスイ）川をさしはさむ。〔左氏、哀、十七〕越子伐レ吳、吳子禦二之笠澤一、夾レ水而陳。

【夾繞】64（ケフゼウ）はさみめぐる。〔呂覽、知分〕有二兩蛟一、夾二繞其船一。

【夾石】65（ケフセキ）山名。安徽省桐城縣の北。一に硤石に作る。今、北峽山といふ。〔吳志、呂蒙傳〕蒙乃薦二甘寧一、爲二升城督一、督攻在レ前、蒙以二精銳一繼レ之、侵レ晨進攻、食時破レ之、旣而張遼至二夾石一、聞二城已拔一、乃退。

【夾剪】66 chia¹ chien³ はさみ。鋏。

【夾層】67 chia¹ tsʻêng² 兩片の中に介在する物。

【夾塞】68（ケフソク） はさまりふさがる。〔管子、霸形〕夾二塞兩川一、使二水不レ得二東流一。

【夾打】69 chia¹ ta³ 夾板で手を挾む刑。〔桃花扇、閙話〕那時闖賊搜二查朝官一、逼二索兵餉一、將吾監禁夾打。

【夾帶】70（ケフタイ） ❶他物の中に混入してごまかし携へること。祕密に携帶する。密輸入する。〔宋史、食貨志下四〕仍嚴立下輒踰レ疆至、夾二帶私鹽一之禁上。〔六部成語、戶部、夾帶、注解〕糧船之中、夾二帶各貨一、運レ京發售、曰二夾帶一。〔福惠全書、刑名部、監禁〕恐有レ夾二帶兵器一。❷受驗者が試驗場に書物等をかくして持つて行くこと。懷挾。懷帶。〔清會典事例、禮部、貢與〕諭、科場懷挾之弊、例禁甚嚴、今鄉試在レ邇、聞丙得外閒不肖士子、故智復萌、豫先賃下倩繕二寫細字一之人上、鈔二錄文藝一、爲乙入場夾帶之具甲。〔六部成語、禮部、夾帶、注解〕以二文章一夾二入衣物之中一、以圖二抄寫徼幸一、如レ此入場、謂二之夾帶一。

【夾袋】71（ケフタイ） 衣服のかくし。ポケットの類。〔宋史、施師點傳〕師點惓惓搜二訪人才一、手書置二夾袋中一。

〔夾袋冊子〕72（ケフタイサツシ） 衣服のかくし等に入れて手控へに供する冊子。手帳。メモ。〔名臣言行錄、呂蒙正〕公夾袋中有二冊子一、每二四方人替罷謁見一、必問三其有二何人才一、客去、隨卽疏レ之、悉分二門類一、或有二一人而數人稱レ之者一、必賢也、朝廷求レ賢、取二之囊中一、故公爲レ相、文武各稱レ職者、以レ此。

〔夾袋中人物〕73（ケフタイチユウノジンブツ） 祕書官。ふところ「がたな。

【夾道】74（ケフダウ） 路をさしはさむ。〔周禮、秋官、鄉士〕師二其屬一、夾レ道而蹕二三公一。

〔夾道子〕75 chia¹ tao⁴ tzŭ 兩側に壁や並木が續く道。

【夾宅】76（ケフタク） さしはさんですまひする。宅夾二清漳一（3－7064··45）を見よ。〔海錄碎事、地、屋宅〕南史、劉繪與二張融・周顒一、雅有二風則一、時人爲レ之語曰、三人共夾二宅清漳一、張南、周北、劉中央。

【夾單】77（ケフタン） 清代、下級官吏が稟申する時、稟請書に添へて上官に差出す上申書。〔清會典事例、吏部、滿洲開列、京堂翰詹開列夾單〕四年議准、京堂翰詹員缺、如有二應レ補人員一、照レ例開列、其應レ升人員、惟罰俸例不二停升一、其餘降革留任、並各項參罰事故、均不二開列一、於二題本內一聲明扣除、至二其次應レ升人員一、均逐レ名開列、別繕二夾單一、與二題本一一同進呈、如有二前項不レ合レ例事故一、亦於二本人名下一注明。

【夾灘】78（ケフタン） 灘の名、河南省靈寶縣の北。金の天興の初、義軍の張信侯が壯士三百餘人を集め、水柵を立てて守つたところ。

【夾呢】79 chia² ni² 給地のセル。

【夾持】80（ケフヂ） 挾んで携帶する。隱して持つ。夾帶。挾持（5－12118··59）に同じ。

【夾杖】81（ケフヂヤウ） さしはさんでゐる杖。〔任昉、奏二彈劉整一文〕婢采音偸二車欄夾杖龍牽一。

【夾注】82（ケフチユウ） 書物の注。わり注。二行の小注をいふ。〔杜荀鶴、戲題二王處士書齋一詩〕欺レ春祇愛和醅酒、諱レ老猶看夾注書。

〔夾注號〕83 chia¹ chu⁴ hao⁴ 標點符號の一種。文中に注を加へるために入れる（　）〔　〕等の符號。

【夾陳】84（ケフチン） はさみならべる。〔左思、魏都賦〕長庭砥平、鐘虡夾陳。

【夾脰】85（ケフトウ） 兩方からえりくびをはさむ。〔左氏、襄、十八〕兩矢夾レ脰。〔注〕脰、頸也。

【夾破】86（ケフハ） はさみやぶる。夾擊して破る。はさみうち。夾擊（13）を見よ。

【夾拜】87（ケフハイ） 男女間の禮拜の名。男が一拜するのに對して、女が二度答拜すること。〔清波雜誌〕男子施二敬於婦女一、男一拜、婦答兩拜、名曰二夾拜一。

【夾榜】88（ケフバウ） 門關の兩旁にかかげるふだ。〔神異經、中荒經〕西南銅關夾榜、題曰二人往門一。

【夾板】89（ケフバン） ❶清代、地方長官が上奏する時、夾板に奏摺を收め、棉紙で封じ、黃綾で包んで驛遞に付すること。〔清會典事例、兵部郵政、郵遞〕乾隆二十九年議准、軍臺官兵、如有下將二報匣夾板及兵部加封事件一、擅敢拆動、以致三洩二漏事情一者上、無レ論二官兵馬夫一、均按二軍法一從事、其專管臺站之文武員弁革職拏問。❷書籍を挾む板。〔書林清話、國朝刻書多二名手寫錄一亦有二自書者一〕又云、亨帚樓刻呂衡州李翺等集、顧澗翁更覓得二足本一、沈亞之等集七家、皆用二昌皮紙一、浼翰屛精寫不レ加二裝釘一、但用二夾板一。❸chia¹ pan³ ㋑合はせ板。ベニヤ板。㋺荷物をはさむ板。はさみ板。

〔夾板船〕90（ケフバンセン） 汽船發明前に和蘭人が用ひた帆前船。舷側が板で二層になつてゐる樣に見えるからいふ。〔海上紀略〕紅毛卽荷蘭國、其船最大、用二板兩層一、斲而不レ削、製極堅厚、中國人目爲二夾板船一、其實圓木爲レ之、非レ板也、又多二巧思一、爲レ帆如二蛛網盤旋一、八面受レ風、無二往不一レ順。

〔夾板公文〕91 chia¹ pan³ kung¹ wen² 夾板の❶を見よ。

〔夾板子氣〕91′ chia¹ pan³ tzŭ cʻhi⁴ 雙方から怒られ、中間にたつて苦しむ。

〔夾板兒鋪〕92 chia¹ pan³ êrh pʻu⁴ 舶來の吳服物を賣る店。

〔夾板醫二駝子一〕93（ケフハンダシヲイス） はさみ板でせむしをなほす。駝子は、駱駝に似たせむし。病氣は癒つても命がもたない意。〔通俗編、藝術、夾板醫二駝子一〕百喩經、譬如下有レ人卒患二脊僂一、詣レ醫療治、醫以レ酥塗、上下著レ板、用レ力痛壓、不覺雙目一時倂出、脊雖レ得レ直、命不上レ得レ存。

【夾被】94 chia² pei⁴ あはせの夜具。

【夾碑】95（ケフヒ） 碑をさしはさむ。碑は宮廟の中庭のたて石。〔儀禮、聘禮〕醯醢百罋夾レ碑、十以爲レ列。〔注〕夾レ碑、在二鼎之中央一也。

【夾平】96（ハサミヒヤウ） 作詩上の語。孤平（3－6966··223）に同じ。

【夾扶】97（ケフフ） 左右に侍してたすけること。〔唐書、禮樂志九〕三老五更皆杖、各二人夾扶。

【夾陛】98（ケフヘイ） 殿階をさしはさむ。〔漢書、韓延壽傳〕騎吏持レ戟、夾レ陛列立。

【夾浦】99（ケフホ） ❶川の名。江蘇省吳江縣の北。吳縣と界を分つ。西は、太湖の鮎魚口に當り、東は、吳淞江に接す。吳江は吳浙の咽喉をなし、夾浦は又その要衝である。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、吳江縣、運河〕又引而西北曰二北塘河一、亦曰二古塘河一、凡二十里至二夾浦一、入二長洲縣界一。❷鎭の名。浙江省長興縣の東北、太湖の西岸。商業の中心地。

【夾輔】100（ケフホ） 左右からはさみたすける。輔佐。〔左氏、僖、四〕五侯九伯、女實征レ之、以夾二輔周室一。〔國語、晉語四〕股二肱周室一、夾二輔平王一。〔後漢書、光武紀下〕夾二輔王室一。〔魏志、齊王芳紀〕夾二輔朕躬一。

〔夾輔之勳〕101（ケフホノクン） 天子の左右に居て之を輔佐する手柄。幼君を助ける功績。〔沈初、周以宗彊賦〕任二光宗子協一、圖二夾輔之勳一。

〔夾輔之福〕102（ケフホノフク） 兩方から輔佐を受ける幸福。〔蜀志、先主劉備傳〕建二諸姬一、實賴二晉鄭夾輔之福一。

【夾棒】103 chia¹ pang⁴ 刑具の名。夾棍（28）に同じ。

【夾磨】104 chia¹ mo² ❶練磨する。❷こせつく。せきつく。

【夾門】106（ケフモン） 門をさしはさむ。〔莊子、說劍〕劍士夾レ門、而客三千餘人。

【夾臾】107（ケフユ） 夾弓と臾弓。弓幹が曲り易くて、豻侯及び鳥獸等、近距離を射るに用ひる力の弱い弓。夾庾。〔周禮、考工記、弓人〕往體多、來體寡、謂二之夾臾之屬一。〔孫詒讓正義〕往體、謂二弓體外撓一、來體、謂二弓體內向一、凡弓必兼二往來兩體一、而後有二張弛之用一、但以二往來之多少一、爲二強弱之差一、此夾臾、謂二弓之最弱者一也、云レ利レ射二侯與一レ弋者、侯、蓋通二梓人三侯一言レ之、凡大射・燕射・賓射、弓皆用二夾臾一也。

【夾庾】108（ケフユ） 夾臾に同じ。〔周禮、夏官、司弓矢〕夾弓庾弓、以授下射二豻侯鳥獸一者上。〔注〕往體多、來體寡、曰二夾庾一。

【夾楡】109（ケフユ） 木の名。車轂の材とする。田楡。〔資治通鑑、唐紀〕（昭宗、天祐二年）車轂須レ用二夾楡一。〔注〕說文、楡、白枌、所謂夾楡、乃今之田楡也。

【夾擁】110（ケフヨウ） はさみまもる。〔晉書、天文志上〕攝提爲レ楯、以夾二擁帝座一也、主二九卿一。

【夾衣裳】111 chia² i¹ shang 袷。

【夾鼓眼】112 chia¹ ku² yen³ 目つきで知らせる。

【夾轂隊】113（ケフコクタイ） 南朝宋の時、諸王の左右を衞る親兵の名。〔資治通鑑、宋紀〕（孝武帝、大明五年）休茂與二伯超等一、帥二夾轂隊一。〔注〕宋諸王有二夾轂隊一、蓋左右親兵也、出則夾レ車爲レ衞。

【夾骨敲】114 chia^1 ku^3 ch'iao^1 間接に人を詐害すること。

【夾象石】115（ケフシヤウセキ） 地名。雲南省騰衝縣の東。龍川江の東岸。〔讀史方輿紀要、雲南、永昌軍民府、騰越州〕夾象石、在二州東龍川江東岸一、渡レ江而西、卽高黎共山麓也。

【夾信子】116（ケフシンシ） 鎭の名。㊀滿洲遼寧省西安縣の東北。吉林省磐石縣に通ずる道。㊁滿洲吉林省同賓縣の東北。螞蜒河の左岸に當り、方正・依蘭諸縣に通ずる孔道。一に夾心子に作る。

【夾舌蟲】117（ケフゼツチユウ） 蟹をいふ。〔清異錄、魚、夾舌蟲〕盧絳從弟純、以二蟹肉一爲二一品膏一、嘗曰、四方之味、當下許二含黃伯一爲中第一上、後因食、二螯夾二傷其舌一、血流盈レ襟、絳自レ是戲呼レ蟹爲二夾舌蟲一。

【夾當兒】118 chia^1 tang^4 êrh 時。場合。

【夾竹桃】119（ケフチクタウ） 落葉灌木の名。幹の高さ丈餘。葉は輪生で三葉から成り、披針形で革質。夏、紅又は白色の美花を梢上に開く。東印度の原產。我が國の暖地にも栽培せられ、觀賞用とする。有毒。〔本草、鳳仙〕釋名、急性子、旱珍珠、金鳳花、小桃紅、夾竹桃、海蒳、染指甲草、菊婢。〔羣芳譜〕夾竹桃、花五瓣、瓣微尖、淡紅嫡豔、類二桃花一、葉狹長類レ竹、故名二夾竹桃一。

【夾馬營】120（ケフバエイ） 地名。河南省洛陽縣の東北。宋の太祖の生れたところ。太祖が生れた時、異香が一夜を經て散らなかつたから、之を香孩兒營といふ。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、洛陽縣〕夾馬營、在二府東北二十里一、朱梁開平初、置二營于此一、有二指揮使掌一レ之、後因而不レ廢、宋太祖誕生焉、眞宗時、建爲二應天寺一、後又改爲二發祥寺一。

【夾皮溝】121（ケフヒコウ） 地名。㊀滿洲遼寧省寬田縣の東。金と硫礦とを產す。㊁滿洲遼寧省臨江縣の東南。六道溝內。沙金・石炭・鐵・硫礦を產す。㊂滿洲吉林省樺甸縣の南、松花江の右岸。葦沙河から溝に循つて進めば、地勢漸く高くて層梯を涉るやうであるから、加級溝ともいふ。最高の處に廛肆があり、溝市といふ。溝中、盛に金沙を產し、淸の同光年間、山東の人韓顯宗は、沙金及び鑛石を采取せんとして、鑛丁四・五萬人を集めたといふ。顯宗は邊外と號したので、其の地を韓邊外と呼ぶ。

【夾鼻鏡】122 chia^1 pi^2 ching^4 鼻眼鏡。

【夾嘴夾面】123 chia^1 tsuei^3 chia^1 mien^4 やかましく云ふ。

【夾七夾八】124 chia^1 ch'i^1 chia^1 pa^1 種種様様。何かとりまぜる。じやらじやらといふ。

【㚒】5868

㈠セン 〔集韻〕失冉切 琰

㈡セキ シヤク 〔集韻〕施隻切 陌

小篆

㈠㈡㊀かくす。物を盜んで懷に入れる。〔說文〕㚒、盜竊褱レ物也、从二亦有レ所レ持、俗謂二蔽人俾㚒一、是也。〔說文通訓定聲〕按、與下從レ大從二二人一之夾上迥別、夾者、公然持レ人、㚒者、私有レ懷レ物。㊁或は奕（3－5989）に作る。〔集韻〕㚒、或作レ奕。

解字 指事。本義は、物をぬすんで、ふところにかくしてゐること。亦（今、亦に作る。わきの義）に从ひ、其の兩わきにへを加へて、ぬすんだ物をわきにかくしてゐる意を表はす。〔說文通訓定聲〕㚒、盜竊褱レ物也、从二亦有一レ所レ持、指事。

參考 大に从ひ、二人に从ふ夾の字とは別。〔說文通訓定聲〕夾、按、與下从レ大从二二人一之夾上迥別。〔字彙、辨似、二字相似〕夾、減入聲、左右持也。㚒、音閃、盜二攘物一。

【⿱大木】5869 ライ 〔字彙〕力改切 賄

小船のかぢ。〔字彙〕⿱大木、小船梢木。

【⿱大干】5870 音未詳 〔字彙補〕音未詳

みき。木⿱大干。〔康熙字典〕⿱大干、廣雅、木⿱大干、榦也。

【⿱大互】5871 テイ 奃（**3－5880**）に同じ。〔字彙補〕⿱大互、同レ奃。

【⿱不大】5872 バウ 〔觚賸粤觚〕音茫

やせる。〔觚賸粤觚〕粤中語少二正音一、書多二俗字一、人物之瘦者爲レ⿱不大、音茫。

【⿱父大】5873 ケイ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱父大、音兮。

【⿱大引】5874 コ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱大引、音枯。

【⿱大斗】5875 クヮ 夸（**3－5854**）に同じ。〔康熙字典〕⿱大斗、日月燈、夸字。

【⿱大幺】5876 テイ ㊀おほきい。〔篇海類編〕⿱大幺、大也。㊁奃（**3－5880**）の譌字。〔康熙字典〕⿱大幺、卽奃字之譌。

五畫

【⿱大瓜】5877

㈠ワ ヱ 〔集韻〕烏瓜切 麻

㈡コ ク 〔集韻〕攻乎切 虞

小篆

㈠㈡**おほきい。**〔說文〕⿱大瓜、⿱大瓜大也、从レ大瓜聲。

【⿱大乍】5878 サ ジヤ 〔集韻〕仕下切 馬

ほこる。おごる。夸⿱大乍。〔集韻〕⿱大乍、夸⿱大乍、自大。

【⿱大廾】5879 ハン バン 〔集韻〕孚萬切 願

㊀**上が大きい。**〔集韻〕⿱大廾、上大也。㊁**ひとよざけ。**⿱大酉（**11－39828**）に同じ。〔廣韻〕⿱大酉、一宿酒也、⿱大廾、上同。

【奃】5880

㈠テイ タイ 〔集韻〕典禮切 薺

㈡テイ タイ 〔集韻〕都黎切 齊

㈢テイ タイ 〔集韻〕丁計切 霽

小篆

㈠㈡㈢**おほきい。**〔說文〕奃、大也、从レ大氐聲、讀若レ氐。

【奄】5881

㈠エン 〔集韻〕衣檢切 琰 ㄧㄢˇ yen^3

㈡エン 〔正韻〕衣炎切 鹽 ㄧㄢ yen^1

㈢エン 〔集韻〕於贍切 豔

小篆

㈠㊀**おほふ。**奄（**3－5949**）に同じ。〔正字通〕奄、本作レ奄。〔說文〕奄、覆也、大有レ餘也、从二大申一、申、展也。〔詩、魯頌、閟宮〕奄二有龜蒙一。〔箋〕奄、覆也。〔淮南子、脩務訓〕知不レ足二以奄一レ之。〔注〕奄、蓋レ之也。㊁**なでる。なつける。**〔詩、大雅、韓奕〕奄二受北國一。〔傳〕奄、撫也。㊂**大きい。大いに。**〔詩、大雅、皇矣〕奄有二四方一。〔傳〕奄、大也。㊃**おなじ。ともに。**

ことごとく。〔集韻〕奄、一曰、同也。〔書、大禹謨〕奄二有四海一。〔傳〕奄、同也。〔蔡傳〕奄、盡也。❺**ひさしい。ひさしく。**ながく。〔詩、周頌、臣工〕奄觀二銍艾一。〔傳〕奄、久也。❻**宦官。**〔周禮、天官、序官〕酒人、奄十人。〔注〕奄、精氣閉藏者、今謂二之宦人一。❼**あくびする。**〔說文〕奄、又欠也。❽**いこふ。**倓（1－768）に通ず。〔說文通訓定聲〕奄、段借爲レ倓。〔方言、十〕奄、息也。❾**にはか。**覢（10－34885）に通ず。〔說文通訓定聲〕奄、段借爲レ覢。〔方言、二〕奄、遽也、陳潁之閒、曰レ奄。❿**門番。**閹（11－41372）に通ず。〔說文通訓定聲〕奄、段借爲レ閹。〔禮、月令〕命二奄尹一、申二宮令一、審二門閭一。⓫**變化のすみやかなさま。**奄欻（8）を見よ。⓬**物のさま。**奄奄（5）を見よ。[二]❶**ひさしい。とどまる。**淹（7－17697）に通ず。〔漢書、禮樂志〕神奄留、臨須搖。〔注〕師古曰、奄、讀曰レ淹。❷**殷の國名。**嬴姓。春秋、魯の地。今、山東省曲阜縣の東。⿰奄阝（11－39468）に同じ。〔說文、⿰奄阝、周公所レ誅⿰奄阝國在レ魯、段注〕玉篇作二周公所レ誅叛國商奄一、是也、奄⿰奄阝二字、周時並行、今則奄行、而⿰奄阝廢矣。〔書、多方〕王來レ自レ奄。〔鄭注〕奄國、在二淮夷之旁一。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、曲阜縣〕曲阜舊城卽古奄地、亦曰二商奄里一、又名二奄至鄉一。❸**姓。**〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕風俗通云、奄、國號、卽商奄也、魯地、衞祝佗曰、因二商奄之民一、以命二伯禽一、今袞州有二奄城一、尚書、成王既踐レ奄、左傳、秦大夫奄息其後也、望出二內黃一。[三]**宦者。**[一]の❻に同じ。〔集韻〕奄、精氣閉藏也、周禮奄人、劉宗昌讀。

[名乘]　ヒサ。

[解字]　會意。大と申（のべひろげる義）との合字。本義は、上から大きくひろげおほふこと。故に大と申とを合せて其の意を表はす。〔說文通訓定聲〕奄、覆也、大有レ餘也、从レ大从レ申、會意、申、展也。▽ （金文）會意。申と大との合字。いなづまが人の頭上をおほふ意を表はす。

【奄藹】1エンアイ　雲氣のたなびくさま。暗いさま。奄靄。〔王粲、鶯賦〕日奄藹以西邁、忽逍遙而既冥。

【奄靄】2エンアイ　雲氣のたなびくさま。暗いさま。奄藹。〔阮籍、清思賦〕几筵設而莫レ輔、載二雲輿之奄靄一兮。

【奄有】3エンイウ　土地をことごとく有して之が主となること。〔書、大禹謨〕皇天眷命、奄二有四海一、爲二天下君一。〔傳〕奄、同也。〔蔡傳〕奄、盡也。〔詩、魯頌、閟宮〕奄二有下國一、俾二民稼穡一。〔箋〕奄、猶レ覆也。〔韓詩外傳、十〕奄二有四方一。〔莊子、大宗師〕傅說得レ之以相二武丁一、奄二有天下一。〔中論、法象〕成湯不二敢怠遑一、而奄二有九域一。

【奄尹】4エンイン　官名。宦官の長。周の內宰。閹尹（11－41372‥1）に同じ。〔禮、月令〕是月也、命二奄尹一、申二宮令一、審二門閭一、謹二房室一、必重閉。〔注〕奄尹、主二領奄豎一之官也。〔淮南子、時則訓〕命二奄尹一。〔注〕奄、官也、尹、正也。〔稱謂錄、太監古稱、奄尹〕蔡邕月令問答、奄尹者、內官也、主二宮室一、出二入宮中一。

【奄奄】5エンエン　❶息がふさがつて絕えかかるさま。生氣の無いさま。〔李密、陳情表〕劉日薄二西山一、氣息奄奄。〔注〕向曰、奄奄、將レ絕也。〔唐書、杜讓能傳〕朕顧奄奄度レ日、坐觀レ此邪。❷暗いさま。晻晻（5－14013‥6）の❶に同じ。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕奄奄黃昏後、寂寂人定初。

【奄棄】6エンキ　俄かにすてる。〔蘇洵、上二韓昭文一論二山陵一書〕今一旦奄二棄臣下一、而有司遹欲下以二末世葬送無益之費一、侵中削先帝休息長養之民上。

【奄虞】7エング　大いにたのしむ。〔漢書、禮樂志〕神夕奄虞蓋孔享。〔注〕師古曰、虞、樂也。

【奄欻】8エンクツ　たちまち。變化のすみやかなさま。〔左思、吳都賦〕芒芒黖黖、慌罔奄欻。〔注〕良曰、奄欻翕忽、變化疾速貌。

【奄官】9エンクワン　宦官をいふ。奄兒。〔後漢書、五行志四〕儒說、奄官無二陽施一、猶二婦人一也。

【奄觀】10エンクワン　久しく多い。一說に、偏く見る。〔詩、周頌、臣工〕命二我衆人一、庤二乃錢鎛一、奄觀二銍艾一。〔箋〕奄、久、觀、多也。〔會箋〕奄、大也、偏也、云云、言、汝須下告二喩衆民一以力レ田、具二農器一以資レ民、上下恪敬、至二秋成一而大觀中民之豐收上也。

【奄藝】11アムキ　伊勢國の舊郡名。

【奄口】12エンコウ　口をおほふ。〔史記、封禪書〕方士皆奄レ口。

【奄忽】13エンコツ　たちまち。はやい。にはか。奄然。〔通雅、釋詁〕奄忽、一作二⿰風奄⿰風勿一、李登聲類曰、僾俙之作二靉霼一、猶三奄忽之作二⿰風奄⿰風勿一也、僾俙不レ明、莫レ如レ雲、奄忽迅速莫レ如レ風。〔駢雅、釋訓下〕奄忽、俄頃也。〔漢書、嚴延年傳〕奄忽如レ神。〔古詩十九首、其十一〕奄忽隨レ物化、榮名以爲レ寶。〔馬融、長笛賦〕奄忽滅沒。〔注〕善曰、奄、遽也。〔蜀志、先主劉備傳〕奄忽升遐。〔顏氏家訓、文章〕奄忽登遐。

【奄蔡】14エンサイ　漢代、西域の國名。一に闔蘇に作る。後魏の時、粟特といひ、又、溫那沙と名づく。大秦國の東、今のクリミヤ半島の地。もと康居に屬し、後、匈奴に滅さる。〔史記、大宛傳〕奄蔡在二康居西北可二二千里一。〔漢書、西域傳上〕北道西踰二葱嶺一、則出二大宛・康居・奄蔡・焉耆一。

【奄兒】15エンジ　宦官をいふ。閹官。〔桃花扇、先聲〕那柳麻子、新做二了奄兒阮鬍子的門客一。

【奄受】16エンジュ　受けて安撫すること。奄は撫。〔詩、大雅、韓奕〕奄二受北國一、因以其伯。〔傳〕奄、撫也。〔箋〕令三撫二柔其所レ受王畿北面之國一。

【奄人】17エンジン　宦官をいふ。閹人。〔周禮、天官、序官〕酒人、奄十人。〔注〕奄、精氣閉藏者、今謂二之宦人一。

【奄征】18エンセイ　おほひ征する。〔左氏、襄、十三〕撫二有蠻夷一、奄二征南海一。

【奄冉】19エンゼン　❶ぐづぐづする。因循。〔晉書、慕容暐載記〕奄冉偸レ榮、徭責彌厚。〔陶潛、閑情賦〕時奄冉而就過。❷歲月などの忽ち過ぎ去ること。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕不レ覺流光奄冉、七夕又臨。

【奄然】20エンゼン　❶符合するさま。ぴつたりと合ふさま。〔韓詩外傳、五〕張レ法而度レ之、奄然如レ合二符節一。❷おほはれるさま。くらいさま。〔晏子、問、上〕魯之君臣、猶好レ爲レ義、下之妥妥也、奄然寡レ聞、是以上能養二其下一、下能事二其上一。❸にはかなさま。奄忽。〔後漢書、侯霸傳〕未レ及二爵命一、奄然而終、嗚呼哀哉。❹氣息の將に絕えんとするさま。奄奄。〔顏氏家訓、終制〕先有二風氣之疾一、常疑二奄然一、聊書二素懷一以爲二汝誡一。❺いこふさま。〔漢書、司馬相如傳下、奄二息葱極一、注〕張揖曰、奄然休息也。

【奄息】21エンソク　❶いこふこと。休息。〔史記、司馬相如傳〕奄二息總極一。〔漢書、司馬相如傳下〕奄二息葱極一。〔注〕張揖曰、奄然休息也。❷人名。秦の穆公の時の人。〔詩、秦風、黃鳥〕誰從二穆公一、子車奄息。〔傳〕子車、氏、奄息、名。

【奄到】22エンタウ　にはかにいたる。〔北史、僭僞附庸、赫連昌傳〕時冬至之日、昌宴饗、王師奄到、上下驚擾、云云、昌乃出戰。

【奄宅】23エンタク　久しく居る。〔千字文〕奄二宅曲阜一。

【奄智】24アンチ　姓氏。〔和爾雅〕。

【奄遲】25エンチ　敵が近づいても動かないこと。淹留遲緩。〔三略、兵略〕敵迫而不レ動、名レ之曰二奄遲一。

【奄奠】26エンテン　おほひさだめる。〔明史、太祖紀贊〕崛二起布衣一、奄二奠海宇一。

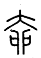
【奄莫】27エンバク　くらいさま。〔列女傳、續列女、班婕妤傳〕白日忽以移レ光兮、遂奄莫而昧幽。

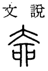
【奄畱】28エンリウ　久しくとどまる。永く滯在する。〔漢書、禮樂志〕神奄畱、臨須搖。〔注〕師古曰、奄、讀曰レ淹。

【奄閭】29エンリヨ　草の名。よもぎ。又、菴藺に作る。〔漢書、司馬相如傳上〕蓮藕觚盧、奄閭軒于。〔注〕張揖曰、奄閭、蒿也、子可レ治レ疾。

【⿱冖关】5882　グン　軍（10－38179）の古字。〔字彙〕⿱冖关、古文軍字。

【奅】5883　ハウ　ヘウ　〔集韻〕披教切　[效]

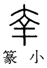

小篆（說文）


小篆（段注本）

❶大きい。おほげさにいふ。奅に同じ。〔正字通〕奅、說文作㆑奅。〔說文〕奅、大也、从㆑大丣聲。〔段注〕此謂㆓虛張之大㆒。〔正字通〕奅、方言、以㆓大言㆒冒㆑人曰㆑奅。❷むなしい。〔史記、建元以來王子侯者年表、南奅侯公孫賀、注〕索隱曰、奅、空也、虛大也。❸かもす。〔廣韻〕奅、起釀也。❹なげいし。砲(8－24120)・礮(8－24580)に通ず。〔正字通〕奅、砲、礮同、軍戰石也。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕投㆑奅鬧碚礊。〔注〕碚礊、奅石聲、奅、音砲。

【㚔】 5884

[一] デフ ネフ 〔集韻〕昵輒切 [葉]
[二] ゼフ ネフ 〔集韻〕日涉切 [葉]
[三] ジフ ニフ 〔集韻〕日執切 [緝]
[四] カウ


小篆（說文）

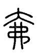
小篆（段注本）

[一]❶おどろかす。〔說文〕㚔、所㆓吕驚㆑人也、从㆑大从㆑𢆉、一曰、讀若㆑瓠、讀若㆑籋。❷おほごゑ。〔說文〕㚔、一曰、大聲也。❸ぬすみがやまない。〔說文〕㚔、一曰、俗語曰㆓盜不㆑止爲㆑㚔。❹姦詐を恃んで終身改めない。〔六書精蘊〕㚔、怙終也。❺隸書は幸(4－9176)に作る。〔集韻〕㚔、隸作㆑幸。[二][三]ぬすみがやまない。[一]の❸に同じ。〔集韻〕㚔、盜不㆑止。[四]幸(4－9176)の古字。〔玉篇〕㚔、古文幸。

解字 會意。大と𢆉(干の篆形。をかす義)との合字。本義は、人を驚かすこと。故に大と𢆉とを合せて其の意を表はす。一說に、字形、㚔に作り、大と𢆉との合字。大は人を表し、𢆉は、犯すことの稍〻甚しきを意味する。故に㚔は人を稍〻甚しく犯して驚かすことを意味する。〔說文、㚔、段注〕干者、犯也、其人有㆓大干犯㆒而觸㆑罪、故其義曰㆔所㆓以驚㆑人、其形从㆓大干㆒、會意。〔說文通訓定聲〕㚔、所㆓以驚㆑人也、从㆑大从㆑𢆉、會意。

【⿱大弗】 5885

[一] ヒツ ビチ 〔集韻〕薄宓切 [質]
[二] フツ フチ 〔集韻〕分物切 [物]


小篆

[一][二]❶おほきい。〔說文〕⿱大弗、大也、从㆑大弗聲、讀若㆓予違汝弼㆒。❷或は⿰弗大(3－5886)・⿱弗大(3－5887)に作る。〔集韻〕⿱大弗、或書作㆓⿰弗大・⿱弗大㆒。

【⿰弗大】 5886

ヒツ ⿱大弗(3－5885)に同じ。〔集韻〕⿱大弗、或書作㆑⿰弗大。

【⿱弗大】 5887

フツ ⿱大弗(3－5885)に同じ。〔集韻〕⿱大弗、或書作㆑⿱弗大。

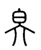
【⿱大亘】 5888

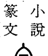
ケン グヱン 〔玉篇〕求阮切 [阮]

甚だ大きい。〔正字通〕⿱大亘、甚大也。

【⿱白大】 5889

[一] カウ コウ 〔集韻〕古老切 [皓]
[二] セキ シヤク 〔集韻〕施隻切 [陌]
[三] タク ヂヤク 〔集韻〕直格切 [陌]


小篆（說文）


小篆（段注本）

[一][二]つや。白く強い光澤。〔說文〕⿱白大、大白也、从㆓大白㆒。〔集韻〕⿱白大、大白澤也。[三]つや。澤の古字。〔集韻〕澤、說文、光澤也、古作㆑⿱白大。

解字 會意。白と大との合字。本義は、白く強い光澤。故に白と大とに從ふ。〔說文、⿱白大、段注〕各本白下有㆓澤字㆒、其誤不㆑知㆑始㆓於何時㆒、獸名㆓白澤㆒故、非㆔經典卽有㆓此物㆒、孰別㆓其大小㆒乎、全書之例、於㆑形得㆑義之字、不㆑可㆑勝㆑計、⿱白大以㆓白大㆒會意、則訓㆑之曰㆓大白㆒也。〔說文通訓定聲〕⿱白大、大白澤也、从㆑大从㆑白、會意、按、澤字衍、周禮巾車、建㆓大白㆒、殷之旗色也。

【⿱大且】 5890

シヤ ジヤ 〔集韻〕才邪切 [麻]

❶**口の大きいさま。**⿱大且⿱大且。〔玉篇〕⿱大且、⿱大且、大口也。〔廣韻〕⿱大且、大口皃。❷**大きいさま。**⿱大且⿱大且。〔集韻〕⿱大且、⿱大且⿱大且、大皃。

【㚘】 5891

ハン バン 〔集韻〕部滿切 [旱]

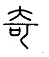
小篆

❶ならび行く。〔說文〕㚘、竝行也、从㆓二夫㆒、輦字从㆑此、讀若㆓伴侶之伴㆒。〔錢坫注〕此伴侶字、故從㆓二夫㆒。❷とも。〔六書本義〕㚘、侶也。

解字 會意。本義は、ならび行く意。故に夫(おとなの義)を二つ並べて其の義を表はす。〔說文通訓定聲〕㚘、並行也、从㆓二夫㆒、會意。

【奇】 5892

[一] キ ギ 〔集韻〕渠羈切 ㄑㄧˊ ch'i^{2} [支]
[二] キ ギ 〔集韻〕居宜切 ㄐㄧ chi^{1} [支]
[三] キ 〔集韻〕丘奇切 [支]
[四] イ 〔集韻〕隱綺切 [紙]
[五] アイ ア 〔字彙補〕倚蟹切 [蟹]


小篆

[一]❶ことなる。かはつてゐる。めづらしい。また、ひとつ。〔說文〕奇、異也、一曰、不耦。从㆑大从㆑可。〔楚辭、九章、涉江〕余幼好㆓此奇服㆒兮。〔注〕奇、異也。〔淮南子、主術訓〕珍怪奇物。〔注〕非常爲㆑奇。〔荀子、非相〕奇衣婦飾。〔注〕奇衣、珍異之衣。❷あやしい。不思議。〔漢書、五行志中之上〕尨奇無㆑常。〔注〕應劭曰、奇、奇怪。❸すぐれる。ぬきでる。〔皮日休、古杉詩〕三尋黑稍奇。❹ひそか。〔淮南子、兵略訓〕刑德奇賌之數。〔注〕奇賌、陰陽奇祕之要。〔中華大字典〕疑卽胲字。❺不意。だしぬけ。〔後漢書、袁紹傳〕簡㆓其精銳㆒、分爲㆓奇兵㆒。〔注〕奇者、擊㆓其不備㆒。❻よこしま。〔禮、曲禮上〕國君不㆑乘㆓奇車㆒。〔釋文〕奇車、奇邪不正之車。❼いつはり。いつはる。權詐。〔老子、五十七〕以㆑奇用㆑兵。〔管子、小問〕以㆑奇。〔注〕奇、謂㆓權譎以勝㆑敵也。〔史記、田單傳〕以㆑奇勝。〔注〕索隱曰、奇、謂㆓權詐㆒也。❽ながい。〔淮南子、詮言訓〕聖人無㆓屈奇之服㆒。〔注〕奇、長也。❾甚だ。〔世說新語補、德行〕綿定奇溫、因流涕悲慟。❿ことにする。別にあつかふ。〔史記、外戚世家〕卜㆓筮之㆒曰、兩女皆當㆓富貴㆒、因欲㆑奇㆓兩女㆒。〔注〕索隱曰、奇者、異㆑之也。⓫或は觭(10－35105)・畸(7－21893)に作る。〔集韻〕奇、說文、異也、或作㆓觭・畸㆒。⓬琦(7－21062)に通ず。〔荀子、非十二子〕玩㆓琦辭㆒。〔注〕琦、讀爲㆓奇異之奇㆒。⓭姓。〔通志、氏族略、以㆑字爲㆑氏〕奇氏、伯奇之後、以㆓王父字㆒爲㆑氏、又後魏河南官志、奇斤氏、改爲㆓奇氏㆒、望出㆓河南㆒、今開封府有㆓此姓㆒。[二]❶**ひとつ。かたがた。**踦(10－37655)に通ず。

〔說文通訓定聲〕奇、叚借爲レ踦。〔淮南子、墬形訓〕奇股民。〔注〕奇、隻也。❷**陽數**。二で割れぬ數。〔易、繫辭下〕陽卦奇。〔白虎通、嫁娶〕陽數、奇。〔儀禮、鄕射禮〕一筭爲レ奇。〔注〕奇、猶レ虧也。❸**缺ける**。❹**あまり**。はした。餘數。畸(**7－21693**)に通ず。〔集韻〕畸、說文、殘用也、通作レ奇。〔說文通訓定聲〕奇、叚借爲レ畸。〔易、繫辭上〕歸二奇於扐一、以象レ閏。〔管子、禁藏〕旁入二奇利一。〔注〕奇、餘也。〔漢書、食貨志下〕首長八分有奇。〔注〕師古曰、奇、謂レ有レ餘也。〔漢書、食貨志下〕以收二奇羨一。〔注〕師古曰、奇、殘餘也。❺**ふしあはせ。あはない。しくじる**。〔說文通訓定聲〕觭(**10－35105**)に通ず。奇、叚借爲レ觭、漢書李廣傳、以爲二李廣數奇一、按、觭者、角一俛一仰、轉注爲二鉏鋙不一レ合之意一、孟康曰、奇、隻不レ耦也、非レ是。❻或は倚(**1－775**)に作り、通じて觭(**10－35105**)に作る。〔集韻〕奇、不耦也、或作レ倚、通作レ觭。㊂敧(**5－13072**)に同じ。〔集韻〕敧、說文、敧嘔也、或作二𣪠・郈・奇・欹一。㊃**よる**。倚(**1－776**)に同じ。〔集韻〕倚、說文、依也、或作レ奇。㊄**こびと**。矮(**8－23995**)に同じ。〔字彙補〕奇、同レ矮、短人也。

名乘 アヤ。スク。ヨリ。

解字 會意形聲。大と可との合字。本義を異、卽ち、ことなる義とす。故に、大と可（よしとして許す詞）とを合す。大いによしとして許すは、他にぬきんでる義。他にぬきんでるものは他と異なる。故に、段注は不羣之謂也とす。可は又聲。一に不耦と言ふは、他に異なるものは耦せざる故なり。〔說文繫傳〕奇、異也、一曰、不耦、從レ大從レ可、臣鍇曰、大可是異也。〔說文、奇、異也、段注〕不羣之謂也、會意、可亦聲。

【奇愛】1 キアイ 他と異なつて愛する。特別に愛する。〔漢書、外戚上、趙倢伃傳〕又感二其生與レ衆異一、甚奇二愛之一。

【奇奥】2 キアウ すぐれて奥深い。〔後漢書、第五種傳〕當丁何由得丙申二其補レ過之功一、建乙其奇奥之術甲乎。

【奇衣】3 イキ めづらしい衣物。〔荀子、非相〕奇衣婦飾。〔注〕奇衣、珍異之衣。〔後漢書、祭遵傳〕身無二奇衣一、家無二私財一。

【奇異】4 イキ 常と異つてめづらしいこと。〔宋玉、神女賦〕狀甚奇異。〔漢書、昭帝紀〕本以レ有二奇異一、得レ幸。〔後漢書、方術下、樊志張傳〕宜下翼二聖朝一、咨中詢奇異上。

【奇意】6 イキ めづらしい心。又、巧な趣。〔江淹、恨賦〕鬱二青霞之奇意一、入二脩夜之不一レ暘。

【奇偉】7 キヰ すぐれて立派なこと。〔史記、魯仲連傳〕好二奇偉俶儻之畫策一。〔荀子、非相〕足三以爲二奇偉偃却之屬一。〔宋玉、高唐賦序〕珍怪奇偉。〔列女傳、孽嬖傳〕收下倡優侏儒狎徒、能爲二奇偉戲一者上。〔漢書、張陳王周傳贊〕其貌魁梧奇偉。〔論衡、對作〕非三苟調レ文飾レ辭、爲二奇偉之觀一也。

【奇瑋】8 キヰ めづらしく美しい。〔傅玄、李賦〕翫二斯味之奇瑋一兮、然後知二報之爲一レ輕。

【奇友】9 キイウ 蠟梅(**10－33786‥43**)の異名。〔事物異名錄、花卉、蠟梅〕山堂肆考、曾端伯以二蠟梅一爲二奇友一。

【奇逸】10 キイツ すぐれまさる。〔後漢書、孔融傳〕鴻豫亦稱、文擧奇逸博聞。

【奇韻】11 キヰン めづらしい韻律。〔潘岳、笙賦〕新聲變レ曲、奇韻橫逸。

【奇雲】12 キウン めづらしい形の雲。〔李白、江上望二皖公山一詩〕奇峯出二奇雲一、秀木含二秀氣一。

【奇穎】13 キエイ めづらしくすぐれる。〔宋史、周王元儼傳〕少奇穎、太宗特愛レ之。

【奇贏】14 キエイ 餘分の財で買ひ集めためづらしいもの。一說に、奇は殘餘の物。〔漢書、食貨志上〕商賈大者積貯倍息、小者坐列販賣、操二其奇贏一、日游二都市一。〔注〕師古曰、奇贏、謂下有二餘財一而蓄中聚奇異之物上、一說、奇謂二殘餘物一也。

【奇曜】15 キエウ めづらしい光。〔孟佶、哭二李觀一詩〕文星落二奇曜一、寶劍摧二修鋩一。

【奇液】16 キエキ めづらしい液體。〔庾闡、斷酒戒〕靈和陶醞、奇液特生。

【奇緣】17 キエン 不思議につながるえにし。思ひがけない關係。〔杜濬、長千阿育王塔詩〕登危須レ定レ力、覩瑞有二奇緣一。

【奇翁】18 キヲウ 明、王履(**7－20823‥1058**)の號。

【奇賌】19 キカイ 奇胲に同じ。〔淮南子、兵略訓〕刑德奇賌之數。〔注〕奇賌、陰陽奇祕之要。

【奇侅】20 キガイ 非常をいふ。奇胲に同じ。〔說文〕侅、奇侅、非常也。

【奇咳】21 キガイ 奇胲に同じ。〔史記、倉公傳〕受二其脈書上下經、五色診・奇咳術一。

【奇胲】22 キガイ 祕密な非常の術。一說、胲は軍中の約束。又、奇侅・奇咳・奇賌に作る。〔漢書、藝文志〕五音奇胲用兵二十三卷。〔注〕如淳曰、音該、師古曰、許愼云、胲、軍中約也。〔講疏〕亡、胲・侅・咳・賌、古字通、奇胲者、非常也、師古說、非也、王念孫讀書雜志曰、說文、奇胲、非常也、淮南兵略訓、明二於奇賌・陰陽・刑德・五行・望氣・候星・龜策・禨祥一、高注、奇賌、陰陽奇祕之要、非常之術、史記倉公傳、受二其脈書上下經、五色診・奇咳術一、然則奇侅者、非常也、侅、正字也、胲・咳・賌、皆借字耳、脈法之有二五色診奇侅術一、皆言二其術之非常一也、顏以二奇胲用兵四字連文一、遂以レ胲爲二軍中約一、不レ知三軍中約之字自作レ該、非二奇胲之義一、且奇胲二字、同訓爲二非常一、若以レ賌爲二軍中約一、則與二奇字義一不二相屬一矣。

【奇巧】23 キカウ めづらしいたくみ。又、いつはりの多いたくらみ。〔莊子、人閒世〕泰至則多二奇巧一。〔疏〕奇譎巧詐。〔管子、治國〕止二奇巧一而利二農事一。〔後漢書、和帝紀〕商賈小民、或忘二法禁一、奇巧靡貨、流積公行。

〔奇巧珠花〕24 chʻi² chʻiao³ chu¹ hua¹ 手工の妙を極めた頭飾の造花。卽ち招牌用文字のこと。

【奇好】25 キカウ めづらしいこのみ。〔通俗編、品目、奇好〕北史、張讜傳、文成曰、南人奇好、能重二室家之義一。

【奇行】26 キカウ 人なみならぬ行爲。普通でない奇拔な行。風がはりの行。〔史記、趙世家〕是鄒魯無二奇行一也。〔管子、任法〕無二偉服一、無二奇行一。

【奇昂】27 chʻi² ang² 暴騰する。價格が著しく上ること。

【奇狡】28 キカウ よこしまでわるがしこい。〔新書、淮難〕聚二罪人奇狡少年一、通二機奇之徒一。

【奇香】29 キカウ めずらしい香。〔眞率齋筆記〕袁運、字子先、嘗以二奇香一丸一、與二莊姬一藏二于笥一、終歲潤澤、香達二於外一。

【奇倖】30 キカウ 思ひがけないさいはひ。こぼれざいはひ。僥倖。

【奇效】31 キカウ ❶めづらしいてがら。奇功に同じ。❷不思議なききめ。靈妙な效驗。

【奇寒】32 キカン めづらしい寒氣。〔酉陽雜俎、語資〕劼問二少遐一曰、今歲奇寒、江淮之閒、不二乃冰凍一、少遐曰、在レ此雖レ有二薄冰一、亦不レ廢レ行、不レ似二河冰一合、便勝二車馬一。

【奇幹】33 キカン 北狄をいふ。〔逸周書、王會解〕奇幹善芳、善芳者、頭若二雄雞一、佩レ之令二人不一レ眯。〔注〕奇幹、亦北狄、善芳、鳥名、不眯、不忘也。〔王融、三月三日曲水詩序〕奇幹善芳之賦。〔注〕善曰、周書曰、成王時、貢二奇幹善芳一者、頭若二雄雞一、佩レ之令二人不一レ眯、孔晁曰、奇幹亦北狄、善芳者鳥名。

【奇巖】34 キガン めづらしい形の巖石。〔虞集、舒城縣學明倫堂記〕奇巖幽谷、往往有二昔賢一。

【奇卉】35 キキ 珍しい草花。〔左思、魏都賦〕珍樹猗猗、奇卉萋萋。

【奇奇】36 キキ 甚だ不思議なこと。奇奇怪怪を見「よ。

〔奇奇怪怪〕37 キキクワイクワイ 極めて奇怪なこと。甚だあやしいこと。奇怪を重ねて言つた語。〔韓愈、送レ窮文〕其次曰二文窮一、不レ專二一能一、怪怪奇奇、不レ可二時施一、祇以自嬉。〔紅樓夢、三十九回〕什麼奇奇怪怪的事不レ見呢。

【奇紀】38 キキ めづらしい書物。奇書。〔孫綽、遊二天台山一賦〕故事絕二於常篇一、名標二於奇紀一。〔注〕善曰、奇紀、卽內經山記。

【奇氣】39 キキ めづらしい氣象。〔蘇轍、上二樞密韓太尉一書〕故其文疎蕩、頗有二奇氣一。

〔奇氣稜稜〕40 キキリヨウリヨウ 常人に異なつた氣象があつて、かどかどしく正しいこと。稜稜(**8－251**

23・・11)の❷を見よ。

【奇鬼】41 キキ　人業ならぬ怪しい振舞をなすもの。〔呂覽、疑似〕是必夫奇鬼也、我固嘗聞レ之矣。

〔奇鬼傳〕42 キキデン　小說の名。唐、杜青荑撰。神鬼に關する話を輯錄す。道正坊宅・倪彥思・孫稚・李則・新鬼の五篇に分る。〔唐人說薈、第十九冊〕。

【奇貴】43 キキ　めづらしく貴いもの。〔法苑珠林〕此物奇貴、非二我所レ須。

【奇詭】44 キキ　めづらしくことなる。奇異。〔唐書、陸贄傳〕事有二便宜一、謀有二奇詭一。

【奇器】45 キキ　めづらしい器。珍器。〔禮、王制〕作二淫聲・異服・奇技・奇器一、以疑レ衆殺。〔漢書、宣元六王、定陶共王康傳〕上奇二器之一。

〔奇器圖說〕46 キキヅセツ　書名。一卷。明代、西洋人鄧玉函撰。附は、明、王徵撰。器械を圖說したもので、凡て三十九圖、各〻系說す。機械學の書物の嚆矢。〔四庫提要、子、譜錄類〕。

【奇伎】47 ギキ　奇技に同じ。〔新語、懷慮〕不下先二仁義一而尚中道德上、懷二奇伎一。〔六韜、龍韜、奇兵〕奇伎者、所下以越二深水一渡中江河上也。

【奇技】48 ギキ　あやしく異なつた手わざ。奇伎。奇能。奇技淫巧を見よ。〔禮、王制〕作二淫聲・異服・奇技・奇器一。

〔奇技淫巧〕49 キギインカウ　奇異なわざと過度の巧。〔書、泰誓下〕作二奇技淫巧一以悅二婦人一。〔蔡傳〕奇技、謂二奇異技能一、淫巧、謂二過度之巧一。

【奇戲】50 ギキ　めづらしいたはむれ。世に類のないあそび。〔史記、大宛傳〕出二奇戲諸怪物一。〔晉書、五行志下〕恭帝爲二琅邪王一、好二奇戲一、嘗閉二一馬於門內一、令二人射一レ之。

【奇響】51 キキヤウ　めづらしいひびき。〔劉峻、辨命論〕聞二孔墨之挺生一、謂三英睿擅二奇響一。

【奇魚】53 キギヨ　めづらしい魚。〔山海經、西山經〕自二崈山一至二于鐘山一、四百六十里、其閒、盡澤也、是多二奇鳥怪獸奇魚一、皆異物焉。

【奇曲】54 キキヨク　めづらしい曲。すぐれた音樂。〔宋玉、笛賦〕夫奇曲雅樂、所二以禁一レ淫也。

【奇嶷】55 キギヨク　すぐれてさとい。〔後漢紀、孝明紀上〕客卿幼而奇嶷、年六歲、能應二接諸公一、專對二賓客一。

【奇斤】56 キキン　複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕奇斤氏、蠕蠕別帥歸二中國一、後改爲二奇斤氏一。

【奇窘】57 ch'i^{2} chiung^{3}　缺乏する。ひどく逼迫する。

【奇禽】58 キキン　めずらしい鳥。奇鳥。〔後漢書、西南夷傳〕有二雕飾一、畫二山神・海靈・奇禽・異獸一。

【奇句】59 キク　人のいひ及ばないめづらしい詩句。〔宋史、隱逸、林逋傳〕逋善二行書一、喜爲レ詩、其詞澄浹峭特、多二奇句一。

【奇偶】60 キグウ　奇耦に同じ。〔說苑、脩文〕取二之天地一而制二奇偶一。

【奇遇】61 キグウ　思ひがけなくめぐり會ふ。奇覯。〔鄧文原、題二李思訓畫一詩〕徽廟題來字字眞、把玩殷勤迺奇遇。

【奇耦】62 キグウ　❶奇數と偶數。單數と雙數。奇偶。〔易、繫辭下〕陽卦奇、陰卦耦。〔孔子家語、執轡〕各有二奇耦一、氣分不レ同。❷詩文中の駢儷(**12**－**44795**・・49)を耦とし、駢儷でないものを奇といふ。〔楊基、詩〕五齡琢レ句對二虛實一、聯青儷黃配二奇耦一。

【奇崛】63 キクツ　❶山のけはしく變化あるさま。〔何遜、渡二連圻一詩〕懸崖抱二奇崛一、絕壁駕二崚嶒一。❷詩文の奇拔ですぐれてゐるさま。〔金史、元德明傳〕其詩奇崛而絕二雕劇一、巧縟而謝二綺麗一。

【奇果】64 キクワ　めづらしいくだもの。珍果。〔後漢書、桓榮傳〕詔賜二奇果一、受者皆懷レ之、榮獨擧レ手捧レ之以拜、帝笑指レ之曰、此眞儒生也。

【奇花】65 キクワ　めづらしい花。〔宋史、地理志一〕延福宮、云云、景龍江、江夾レ岸皆奇花珍木。

【奇貨】66 キクワ　❶めづらしい品。利用して意外の利を得る物。奇貨可レ居を見よ。❷轉じて、うまい金まうけ。もつけのさひはひ。好機會。〔福惠全書、蒞任部、謹操守〕黷レ貨居レ心、視爲二奇貨一。

〔奇貨可レ居〕67 キクワオクベシ　❶めづらしい品は後日大利を得べきものであるから、之を貯藏して時を待つべきをいふ。秦の商人呂不韋が、趙に人質となつて冷遇せられてゐる秦の王子子楚を見て、奇貨置くべしとし、之に金を與へ、後、子楚が莊襄王となるや、呂不韋は丞相となり、不信侯に封ぜられた故事。〔史記、呂不韋傳〕子楚爲レ秦質二子於趙一、秦數攻レ趙、趙不三甚禮二子楚一、子楚・秦諸庶孼孫、質二於諸侯一、車乘進用不レ饒、居處困、不レ得レ意、呂不韋賈二邯鄲一、見而憐レ之曰、此奇貨可レ居、乃往見二子楚一。〔注〕集解曰、以二子楚一方二財貨一也。❷ch'i^{2} huo^{4} k'ê^{3} chü^{1}　得たりかしこし。

【奇禍】68 キクワ　思ひがけないわざはい。〔文子、符言〕不レ求レ得、不レ辭レ福、從二天之則一、內無二奇福一、外無二奇禍一。〔列女傳、仁智、晉羊叔姬傳〕有二奇福一者、必有二奇禍一。

【奇畫】69 キグワ　❶珍しい畫。〔嬾眞子〕筆法簡易、眞奇畫也。❷キクワク　珍しい計畫。奇策。奇謀。〔晉書、文帝紀〕奇畫指授、制二勝千里一。

【奇怪】70 キクワイ　❶尋常ならずあやしい。又、其の物。奇恠。不思議。〔史記、周紀〕乃求二有莘氏美女・驪戎之文馬・有熊九駟・他奇怪物一。〔呂覽、知度〕化二九陽奇怪之所一レ際。〔六韜、文韜、盈虛〕奇怪珍異不レ視。〔墨子、七患〕備二車馬衣裘奇怪一。〔越絕書、外傳記吳地傳〕虞山者巫咸所レ出也、虞故神出奇怪。〔漢書、五行志中之上〕剽輕奇怪之服。❷論衡の篇名。❸キツクワイ　けしからぬこと。あやしく咎むべきこと。〔古今著聞集、十七〕きつくわいに覺えて。❹c'hi^{2} kuai　法外な。

〔奇怪千萬〕71 キツクワイセンバン　甚だ奇怪なこと。〔天神記、五〕二度の勅使を背く條、奇怪千萬。

〔奇怪的笑話兒〕72 ch'i^{2} kuai^{4} tê hsiao^{4} hua^{4} êrh　ひどいこと。〔紅樓夢、三回〕將來只怕、比這更奇怪的笑話兒還有呢。

【奇恠】73 キクワイ　奇怪の❶に同じ。〔管子、小匡〕奇恠時來。〔新語、懷慮〕驚レ人以二奇恠一。

【奇瑰】74 キクワイ　めづらしい物。珍奇。奇瓌に同じ。

【奇懷】75 キクワイ　❶ふしぎな思。〔陶潛、和二劉柴桑一詩〕良辰入二奇懷一、挈レ杖還二西廬一。❷めづらしい物。奇瓌に同じ。〔孟郊、石淙詩〕地遠有二餘美一、我遊采二奇懷一。

【奇瓌】76 キクワイ　めづらしくすぐれたもの。奇瑰。奇懷。〔白居易、雜興詩〕吳王心日侈、服翫盡二奇瓌一。

【奇荒】77 キクワウ　ひどくあれる。又、そのこと。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕復有二四年之奇荒・七年之地震一、田禾顆粒無レ收。

【奇觀】78 キクワン　めづらしいみもの。偉觀。〔論衡、別通〕必欲レ入レ都、都多二奇觀一也。〔楊萬里、覺競渡詩〕奇觀初逢慰二道塗一。

【奇玩】79 キグワン　めづらしいもてあそびもの。めづらしい玩具。〔後漢書、董卓傳〕奇玩積如二丘山一。〔陸機、辨亡論上〕奇玩應レ響而赴。

【奇勳】80 キクン　すぐれたいさを。偉勳。奇功。〔李白、送二張秀才從軍一詩〕當レ令三千古後、麟閣著二奇勳一。

【奇形】81 キケイ　めづらしいかたち。異樣なかたち。奇狀。〔晉書、溫嶠傳〕至二牛渚磯一、水深不レ可レ測、世云、其下多二怪物一、嶠遂燬二犀角一而照レ之、須臾見二水族覆レ火、奇形異狀。

【奇計】82 キケイ　めづらしいすぐれたはかりごと。奇謀。〔史記、陳丞相世家〕凡六出二奇計一。〔漢書、張良傳〕良從レ上擊レ代、出二奇計一。

〔奇計策〕83 キケイサク　めづらしいすぐれた計畫。〔史記、陳丞相世家〕用二其奇計策一、卒滅レ楚。

【奇擎】84 キケイ　めづらしいものとして賞玩する。〔燕子箋、拒挑〕一定要二手奇擎一。

【奇警】85 キケイ　すぐれてさとい。〔宋史、王珪傳〕弱歲奇警、出レ語驚レ人。

【奇藝】86 キゲイ　めづらしい藝當。妙技。

【奇矯】87 キケウ　人と異なつた言行。又、言行がなみはづれてゐること。〔敖陶孫詩評〕鮑明遠如二饑鷹獨出一、奇矯無レ前。

【奇隙】88 キゲキ　奇異な物。〔左思、吳都賦〕珍怪麗、奇隙充。〔注〕銑曰、隙、異也。

【奇傑】89 キケツ　めづらしくすぐれた人物。

【奇譎】90 キケツ キキツ　たくらんであざむく。又、たくらみ。權詐。〔六韜、龍韜、王翼〕行二奇譎一、設二殊異一。〔漢書、朱博傳〕所レ到輒出二奇譎一如レ此。〔左思、蜀都賦〕卓犖奇譎。

【奇業】91 キゲフ　めづらしい仕事。〔鹽鐵論、授時〕無二奇業旁入一、而猶以レ富給、非レ儉則力也。

【奇見】92 キケン　奇拔な見識。〔韓愈、送三水陸運使韓侍御歸二治所一序〕懷二奇見一而不レ得二施設一也。

【奇乾】93 キケン ❶縣名。民國、置く。滿洲黑龍江省の西北境の奇乾河口。吉拉林の東北。舊の奇雅河卡倫にて呼倫府に屬す。今、奇乾卡といふ。形勢扼要。❷川の名。滿洲黑龍江省奇乾の北。額爾古納河の支流。北流して黑龍江に入る。金を產す。

【奇劍】94 キケン 北斗星中の鬼神の名。〔雲笈七籤〕北斗星中有二鬼神一、名奇劍、字靈綱。〔雲笈七籤〕元精結レ感、化爲二大神一、名曰二奇劍一、厥字靈綱、正坐二斗中一、遊二我明堂一。

【奇險】95 キケン めづらしくけはしい。〔宋史、米芾傳〕芾爲レ文奇險、不三蹈二襲前人一。

【奇驗】96 キケン ふしぎなしるし。すぐれたききめ。〔劇談錄〕吉凶屢有二奇驗一。

〘奇驗坊〙97 キケンバウ 藥の一。楊梅瘡に効がある。土茯苓を主成分として作る。〔雍州府志、六、土產門上、藥品部〕奇驗坊、專治二楊梅瘡一、方中主二土茯苓一者也。

【奇幻】98 キゲン ふしぎなまぼろし。〔張衡、西京賦〕奇幻儵忽、易レ貌分レ形。

【奇言】99 キゲン めづらしいことば。おもしろいことば。奇語。〔傳玄、惟漢行〕空レ卮讓二霸王一、臨レ急吐二奇言一。

【奇古】100 キコ めづらしく古めかしい。〔唐書、李商隱傳〕商隱初爲レ文瓌邁奇古。

【奇股】101 キコ 古、西方の國名。一本足の國。〔淮南子、墬形訓〕奇股民・一臂民。〔注〕奇、隻也、股、腳也、云云、皆西方之國也。

【奇觚】102 キコ めづらしい書籍。奇書。觚は簡策。〔急就篇、一〕急就二奇觚一與レ衆異。〔注〕言、學僮急當レ就二此奇好之觚一、其中深博、與二衆書一有レ異也。

【奇語】103 キゴ めづらしい言葉。面白い言葉。奇言。〔李純甫、病中書事詩〕暗中摸索出二奇語一、字字不レ減二瓊瑤据一。

【奇功】104 キコウ めづらしいてがら。奇勳。奇效。〔漢書、陳湯傳〕湯爲レ人沈勇有二大慮一、多二策謀一、喜二奇功一。

【奇肱】105 キコウ 古、西方の國名。一本腕の國。〔山海經、海外西經〕奇肱之國、在二其北一、其人一臂三目。〔淮南子、氾論訓〕奇肱脩股之民。

【奇恆】106 キコウ 不思議な病氣。〔素問、玉板論要〕奇恆者言二奇病一也。

【奇貢】107 キコウ めづらしいみつぎもの。〔梁書、張率傳〕納二奇貢於絕區一、致二龍媒于殊域一。

【奇構】108 キコウ 尋常ならざる構造。〔陸機、七徵〕豐居華殿、奇構磊落。

【奇覯】109 キコウ 思ひがけなくめぐりあふこと。不思議な對面。奇遇。〔張說、奉三酬韋祭酒嗣立偶遊二龍門北溪一作詩〕不下同二奇覯一往上、空覯二斯文來一。

【奇克】110 キコク 縣名。民國、置く。黑河の東南、黑龍江の南岸。土名、奇克特。もとの奇克特卡倫。今、滿州黑龍江省に屬す。附近には平原沃野が多い。

〘奇克特〙111 キコクトク 奇克縣の土名。奇克を見よ。

〘奇克特卡倫〙112 キコクトクカリン 奇克縣の舊名。奇克を見よ。

【奇骨】113 キコツ 人に異なる骨相。又、めづらしい氣骨のあること。節をまげぬ俊秀な人物。〔論衡、講瑞〕聖人有二奇骨一。〔晉書、桓溫傳〕桓溫、字元子、譙國龍亢人、生未レ朞、而太原溫嶠見レ之曰、此兒有二奇骨一、可二試使一レ啼、及レ聞二其聲一、曰、眞英物也。〔白居易、有二小白馬一詩〕何處埋二奇骨一、誰家覓二弊帷一。

【奇左】114 キサ 右臂の無い人。片腕の人。〔山海經、大荒西經〕壽麻國有レ人、名曰二吳回一、奇左、是無二右臂一。〔注〕卽奇肱也、吳回、祝融弟、亦爲二火正一也。

【奇才】115 キサイ めづらしくすぐれた器量。すぐれた才智。又、その人。奇智。奇材。〔史記、商君傳〕年雖レ少、然奇才也。〔蜀志、諸葛亮傳〕及二軍退一、宣王案二行其營壘處所一、曰、天下奇才也。〔吳志、周瑜魯肅呂蒙傳評〕周瑜魯肅、建二獨斷之明一、出二衆人之表一、實奇才也。〔左思、詠史詩〕何世無二奇才一、遺レ之在二草澤一。〔杜甫、短歌行贈二王郎司直一〕我能拔二爾抑塞磊落之奇才一。

【奇災】116 キサイ 思ひがけない災禍。奇灾に同じ。

【奇灾】117 キサイ 思ひがけないわざはひ。奇災。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕郯邑屢被二奇灾一、殘黎無レ幾。

【奇彩】118 キサイ 奇綵に同じ。〔子夜四時歌、春歌其一〕山林多二奇彩一、陽鳥吐二清音一。

【奇菜】119 キサイ めづらしい野菜。〔郭璞、山海經圖、蕢草贊〕爰有二奇菜一、厥號曰レ蕢。

【奇綵】120 キサイ めづらしく美しいいろどり。奇彩。〔北史、邢巒傳〕所レ珍在レ素、不レ務二奇綵一。

【奇材】121 キザイ 奇才に同じ。〔史記、淮南王安傳〕賂二遺郡國諸侯游士奇材一。

〘奇材劍客〙122 キザイケンカク 器量すぐれ劍術に達した人。〔漢書、李陵傳〕臣所レ將屯レ邊者、皆荊楚勇士、奇材劍客也、力扼レ虎、射命レ中、願得三自當二一隊一。

〘抱二奇材一〙123 キザイヲイダク 非凡の才を持つてゐること。〔韓愈、贈二唐衢一詩〕虎有レ爪兮牛有レ角、虎可レ搏兮牛可レ觸、奈何君獨抱二奇材一、手把二鋤犂一餓二空谷一。

【奇相】124 キサウ ❶めづらしい人相。異相。〔金史、睿宗貞懿皇后李氏傳〕吾兒有二奇相一、貴不レ可レ言。❷江神の名。〔廣雅、釋天〕江神、謂二之奇相一。〔史記、封禪書、江水祠レ蜀、注〕索隱曰、廣雅云、江神謂二之奇相一、江記云、帝女也、卒爲二江神一。〔郭璞、江賦〕奇相得レ道而宅レ神、乃協二靈爽於湘娥一。

【奇草】125 キサウ ❶めづらしいくさ。珍卉。〔李德林、天命論〕神禽異獸、珍木奇草。❷芝草（**9－30699**‥31）をいふ。〔郭璞、游仙詩〕圓丘有二奇草一、鍾山出二靈液一。〔注〕向曰、奇草、芝草。

【奇莊】126 キサウ 珍しいやしき。變つた住居。〔孫嗣、蘭亭集詩〕望レ巖懷二逸許一、臨レ流想二奇莊一。「思。

【奇想】127 キサウ 風がはりの思想。奇拔な著眼。奇

〘奇想天外〙128 キサウテングワイ 極めて奇拔な思ひつき。普通人の想像もつかぬ思ひつき。

【奇鶬】129 キサウ 鳥の名。九頭の鳥。鬼車鳥。鬼車（**12－45758**‥83）の❶を見よ。〔郭璞、江賦〕龍鯉一角、奇鶬九頭。〔注〕善曰、劉騊駼玄根賦曰、一足之夔、九頭之鶬。

【奇策】130 キサク 人の意表に出るめづらしいはかりごと。奇計。奇謀。〔史記、淮陰侯傳〕欲下爲二奇策一而感中動之上。〔漢書、李尋傳〕天下未レ聞二陛下奇策一。〔司馬遷、報二任少卿一書〕有二奇策才力之譽一。

〘奇策縱橫〙131 キサクジユウワウ 奇策の自由自在に出ること。

【奇產】132 キサン 珍しい產物。〔日本政記、清和天皇〕地居二海中一、殷阜多二奇產一。

【奇算】133 キサン かずとりの一本。かずとりのあまり。投壺の勝敗を決定するとき、司射（投壺の禮を掌る者）はかずとりを二本づつ數へるが、その際餘つた一本をいふ。二算を純といふ。奇は隻。〔禮、投壺〕二算爲レ純、一純以取、一算爲レ奇、遂以二奇算一告。〔注〕一算爲レ奇、奇則縮。〔疏〕奇、隻也、故云二一算爲一レ奇。

【奇山】134 キザン めづらしい形の山。〔沈約、早發二定山一詩〕夙齡愛二遠壑一、晚涖見二奇山一。

【奇士】135 キシ 衆にすぐれた人物。奇傑の士。〔史記、陳丞相世家〕項王不レ能レ信レ人、雖レ有二奇士一不レ能レ用。〔漢書、周昌傳〕君之史趙堯年雖レ少、然奇士。〔司馬遷、報二任少卿一書〕自守二奇士一。〔魏志、臧洪傳〕海內奇士也。

【奇之】136 キシ 宋、馮椅（**12－44579**‥5）の字。

【奇姿】137 キシ 不思議な姿。變つた容相。〔禰衡、鸚鵡賦〕惟西域之靈鳥、挺二自然之奇姿一。

【奇思】138 キシ ❶常人と異なつた考。忠信をいふ。〔楚辭、九辯〕閔二奇思之不一レ通兮。〔注〕傷三己忠策、無二由入一也、思、一作レ恖、五臣云、閔、自傷也、奇思、謂二忠信一也。❷奇拔な考。奇想。〔李孝光、詠レ棊詩〕國手功名滿二世間一、幾多奇思上二眉端一。

〘奇思妙想〙139 ch‘i^2 ssŭ^1 miao^4 hsiang^3 奇妙な考。思ひも寄らぬ考案。

【奇字】140 キジ 文字の六體の一。古文に似てゐるが、それとも異なつた形をしたもの。漢の揚雄・後漢の衞宏等が好んでこれを學んだといふ。〔漢書、藝文志〕六體者、古文・奇字・篆書・隸書・繆篆・蟲書。〔注〕師古曰、古文、謂二孔子壁中書一、奇字、卽古文而異者也。〔漢書、揚雄傳贊〕劉棻嘗從レ雄、學レ作二奇字一。〔東觀餘論〕古文、高質而難二遽浩一、若二三代鼎彝遺篆一、是也、奇字、怪巧而差易レ工、若下漢劉棻從二揚雄一所レ學、及二近世一、夏鄭公集四聲韻所上レ載、是已、今人往往不レ能レ辨レ之、遂盡以二奇字一爲二古文一焉。

〘奇字韻〙141 キジヰン 書名。五卷。明、楊愼撰。字體の變つたものを四聲によつて分類して解釋す。周秦の遺文に於て十に三四を得てゐる。〔四庫

提要、經、小學類〕。

【奇字齋】142キジサイ 明、顧起經(12－43689‥235)の號。

【奇事】143ジキ 不思議な事。〔關尹子、五鑑〕爲二鬼所レ攝者、或解二奇事一、或解二異事一。

【奇兒】144ジキ すぐれたこども。〔五代史、唐莊宗紀下〕此奇兒也、後二十年、其能代レ我、戰二于此一乎。

【奇辭】145ジキ 奇怪な言辭。〔荀子、解蔽〕治二怪說一玩二奇辭一、以相撓滑也。

【奇秀】146キシウ めづらしくすぐれてゐる。〔江淹、雜體、謝臨川遊山詩〕岧嶢轉奇秀、岑崟還相蔽。

【奇岫】147キシウ めづらしい形をした巖穴。〔陸龜蒙、丁隱君歌〕連江大抵多二奇岫一、獨話君家最奇秀。

【奇臭】148キシウ めづらしい臭氣。變つた臭。異臭。〔荀子、正名〕香臭芬鬱、腥臊洒酸奇臭、以レ鼻異。〔注〕奇臭、衆臭之異者。

【奇羞】149キシウ めづらしい御馳走。〔海錄碎事、飲食、食〕後主、百品盛二奇羞一。

【奇醜】150キシウ あやしくみにくい。並外れてみにくい。頗醜。〔世說新語、賢媛〕許允婦、是阮衞尉女、德如妹、奇醜交禮、竟允無二復入理一。〔老學庵筆記、八〕賀方回狀貌奇醜、色青黑而有二英氣一、俗詔二之賀鬼頭一。〔通俗編、婦女、頗醜〕按、今言二醜之至者一曰二奇醜一、當三以レ頗爲二典則一。

【奇獸】151キジウ めづらしいけもの。異獸。〔書、旅獒〕珍禽奇獸、不レ育二于國一。〔班固、典引〕奇獸神禽。

【奇識】152キシキ 人に異なるちゑ。正しくないかんがへ。〔人物志、七繆〕奇識而舒遲輕暗者、竝困二於不レ足。

【奇疾】153キシツ ふしぎな病。奇病。〔宋史、呂夏卿傳〕得二奇疾一、身體日縮、卒時纔如二小兒一。〔輟耕錄、奇疾〕今上之長公主之駙馬剛哈剌咱慶王、因レ墜レ馬得二一奇疾一、兩眼黑睛俱無、而舌出至レ胷、諸醫罔レ知レ所レ措、廣惠司卿聶只兒乃也、里可溫人也、嘗識二此證一、遂剪二去之一、頃間復生二一舌一、亦剪レ之、又於二眞舌兩側一、各去二一指許一、卻塗以レ藥而愈、時元統癸酉也、廣惠司者、回回之爲二醫者隸一焉。

【奇質】154キシツ めづらしい性質。〔宋史、劉珙傳〕珙生有二奇質一、從二季父子翬一學。

【奇日】155キジツ 奇數の日。偶日(1－899‥28)の對。〔資治通鑑、唐紀〕(敬宗、寶曆二年)每奇日未二嘗不一レ視レ朝。〔注〕奇、隻也、唐制、天子以二隻日一視レ朝。

【奇實】156キジツ めづらしい果物。〔北戶錄〕南方果之美者荔枝、其肪瑩白、不レ減二水精一、性熱液甘、乃奇實也。

【奇習】157キシフ めづらしいならはし。

【奇襲】158キシフ 祕計をめぐらして敵を襲擊すること。

【奇澀】159キジフ 普通と異なつてゐてすらすらはかどらぬこと。かはつてゐて流暢でないこと。澀は、澁の本字。〔唐書、孟郊傳〕郊爲レ詩有二理致一、最爲二愈所一レ稱、然思苦奇澀。〔宋史、歐陽脩傳〕士子尙爲二險怪奇澀之文一、號二太學體一、脩痛排二抑之一。

【奇車】160キシヤ 制度にかなはぬ車。〔禮、曲禮上〕國君不レ乘二奇車一。〔注〕出入必正也、奇車獵衣之屬。〔釋文〕奇車、居宜反、奇邪不正之車、何云、不レ如レ法之車。

【奇邪】161キジヤ 常理にはづれてゐること。よこしま。中正にもとること。奇衺。〔禮、祭義〕雖レ有二奇邪一而不レ治者則微矣。〔管子、任法〕植固而不レ動、奇邪乃恐。

【奇衺】162キジヤ ㊀正しくないこと。常理にはづれてよこしまなこと。奇邪。〔周禮、天官、宮正〕去下其淫怠與二其奇衺一之民上。〔注〕奇衺、譎觚非常。〔釋文〕衺、亦作レ邪。〔疏〕奇衺、譎觚非常者、兵書有二譎觚之人一、謂二譎詐桀出觚角非常一也。〔白居易、續古詩〕冢婦獨守レ禮、羣妾互奇衺。〔曾鞏、范貫之奏議集序〕至三於奇衺恣睢、有二爲レ之者一、亦輒敗悔。㊁あやしげな巫祝の術で悅を取ること。媚道(3－6513‥25)の㊀を見よ。〔周禮、天官、內宰〕禁二其奇衺一。〔注〕奇衺若二今媚道一。〔疏〕媚道、謂下道二妖巫蠱一、以自衒媚上。

【奇章】163キシヤウ ㊀めづらしい篇章。〔詩品〕謝朓詩其源出二謝混一、奇章秀句、足レ使二叔源失レ步、明遠變レ色。㊁貍(10－36561)の異名。〔事物異名錄、獸畜、貍〕山童報道黑衣郎、字曰二李貍一氏奇章。㊂隋の牛弘(7－19922‥66)の封號。〔隋書、牛弘傳〕弘送レ素至二中門一而止、素謂レ弘曰、大將出征、故來敍レ別、何相送之近也、弘遂揖而退、素笑曰、奇章公、可レ謂二其智可一レ及、其愚不レ可レ及也。

【奇章嗜レ石】164キシヤウイシヲタシナム 隋の牛弘が奇石を蓄へることを趣味とした故事。〔白居易、太湖石記〕古之達人、皆有レ所レ嗜、玄晏先生嗜レ書、嵆中散嗜レ琴、靖節先生嗜レ酒、今丞相奇章公嗜レ石。

【奇狀】165キジヤウ めづらしいかたち。奇形。奇態。〔孟浩然、遊二明禪師西山蘭若一詩〕西山多二奇狀一、秀出傍二前楹一。

【奇趣】166キシユ めづらしいおもむき。妙趣。奇致。〔謝朓、敬亭山詩〕要欲レ追二奇趣一、卽レ此陵二丹梯一。

【奇樹】167キジユ ふしぎな木。めづらしい木。珍木。〔古詩十九首、其九〕庭中有二奇樹一、綠葉發二華滋一。〔郭璞、山海經圖、迷穀贊〕爰有二奇樹一、產自二招搖一。

【奇樹齋】168キジユサイ 清、邵逸先(11－39343‥89)の號。

【奇出】169キシユツ 副產物。奇は餘。〔管子、輕重戊〕柴者、吾國之奇出也。〔纂詁〕奇、猶レ餘也。

【奇術】170キジユツ ㊀ふしぎな技術。妖術。奇方。〔管子、任法〕奇術技藝之人、莫下敢高言孟行、以過二其情一、以遇中其主上矣。〔輟耕錄、西域奇術〕任子昭云、向寓二都下一時、鄰家兒患二頭疼一不レ可レ忍、有二回回醫官一、用レ刀割二開額上一、取二一小蟹一、堅硬如レ石、尙能活動、頃焉方死、疼亦遄止、當求二得蟹一、至レ今藏レ之、夏雪簑云、嘗於二平江閶門一、見二過客馬腹膨脹倒一レ地、店中偶有二老回回一、見レ之、於二左腿內一、割二取小塊一出、不レ知二何物一也、其馬隨卽騎而去、信西域多二奇術一哉。㊁てじな。魔術。

【奇儁】171キシユン すぐれて才識あるもの。〔北史、儒林傳序〕超二擢奇儁一、厚賞二諸儒一。

【奇駿】172キシユン 普通と異なつてすぐれた馬。〔傅玄、馳射馬賦〕何逸羣之奇駿。〔宋史、薛懷讓傳〕駝馬有二大烏小烏者一、尤奇駿。

【奇胥】173キシヨ 清、葉鼎奇(9－31387‥241)の字。

【奇書】174キシヨ めづらしい文書。不思議な書籍。奇觚。奇紀。〔漢書、郊祀志上〕言此牛腹中有二奇書一。〔張湛、列子序〕三君總角、競錄二奇書一。

【奇勝】175キシヨウ ㊀珍しくすぐれた景色。〔唐書、王維傳〕別墅在二輞川一、地奇勝。㊁奇謀を用ひて敵に勝つ。奇捷。〔孫子、兵勢〕凡戰者以レ正合、以レ奇勝。〔李衞公問對、中〕唯務二奇勝一。

【奇勝堂】176キシヨウダウ 細井知愼の號。細井廣澤(8－27344‥334)を見よ。

【奇蹤】177キシヨウ 世にすぐれた英雄の事跡。〔陸機、辨亡論上〕以二奇蹤一襲二於逸軌一。〔注〕向曰、言、孫權以二奇異英雄之蹤一、繼二父兄超逸之跡一、聖智之心、因成二善謀一也。

【奇人】178キジン ㊀氣質、擧動が常人と異なつた人。〔後漢書、隗囂傳〕其傍時有二奇人一。㊁家業を支へるに必要な者以外の人。手すきの人。ひま人。閒人。奇は餘。〔韓非子、十過〕有二奇人一者、使レ治二城郭之繕一。〔注〕奇、餘也、謂二閒人一。㊂風がはりの人。かわりもの。畸人(7－21893‥10)に同じ。

【奇水】179キスイ 雨雲がないのに降る雨。〔清異錄、天文、奇水〕雨無レ雲而降、非レ龍而作、唐人號爲二奇水一。

【奇瑞】180キズイ 珍しい吉兆。靈妙な瑞相。異瑞。〔論衡、宣漢〕陰陽和則萬物育、萬物育則奇瑞出。

【奇數】181キスウ ㊀二で割りきれぬ數。偶數(1－899‥33)の對。〔易學啓蒙、本圖書第一〕洛書以二五奇數一統二四耦數一、而各居二其所一。㊁ふしぎな方術。奇術。〔後漢書、王昌傳〕時趙繆王子林好二奇數一、任二俠於趙魏閒一。〔注〕術數。〔吳志、薛綜傳〕如但中人、近守二常法一、無二奇數異術一者、則羣惡日滋、久遠成レ害。

【奇正】182キセイ 側面から不意を打つ奇兵と正面から堂々と攻める正兵。又、奇襲と正攻とを用ひる。〔孫子、兵勢〕三軍之衆、可レ使二必受レ敵而無一レ敗者、奇正是也。〔集注〕李筌曰、當レ敵爲レ正、傍出爲レ奇。〔尉繚子、武議〕今以二莫邪之利・犀兕之堅・三軍之衆一、有レ所二奇正一、則天下莫レ當二其戰一矣。〔史記、田單傳贊〕奇正還相生。〔左思、魏都賦〕執二奇正一以四伐。

【奇正相生】183キセイサウセイ 戰爭の奇襲法と正攻法とは絕對的區別があるのではなく、互に因果となり合つて循環するものであること。〔孫子、兵勢〕戰勢不レ過二奇正一、奇正之變、不レ可レ勝レ窮也、

奇正相生、如二循環之無一レ端、孰能窮レ之。

【奇生】184 キセイ 植物などのめづらしく生えること。〔馬融、長笛賦〕惟籦籠之奇生兮、于二終南之陰崖一。〔注〕向曰、奇生、謂二生奇質一也。

【奇請】185 キセイ 常文の外、別に請うて罪を定めること。〔漢書、刑法志〕奇請它比、日以益滋。〔注〕師古曰、奇請、謂二常文之外、主者別有一レ所レ請、以定レ罪也。

【奇聲】186 キセイ 怪しげな聲。奇妙な聲。〔荀子、正名〕聲音清濁、調竽奇聲、以レ耳異。

【奇峭】187 キセウ 山などのけはしく峙つこと。〔金史、趙秉文傳〕稍涉二奇峭一、卽遭二絀落一。

【奇石】188 キセキ ㊀めずらしい石。〔江淹、雜體詩、郭弘農璞遊仙〕崦山多二靈草一、海濱饒二奇石一。〔琅琊代醉編、奇石〕汴京天津橋上有二奇石一、大片有二自然華夷圖一、山青水綠、河黃路白、粲然如レ畫、眞異物也、今聞、移二置汴京文廟中一作二拜石一、癸辛雜識。㊁廣東省新會縣崖門の海濱に在る石の名。もと「張宏範滅二宋於此一」の七字を刻す。明の陳獻章が「宋」の一字を首に加へ、また「忍奪二中華一與二外夷一、乾坤回レ首重堪レ悲、鐫二功奇石一張宏範、不二是胡兒一是漢兒」の一詩を作つて併せ刻した。〔新會縣志〕。

〖拜二奇石一〗189 キセキヲハイス 宋の米芾が奇石を愛して拜した故事。〔石林燕語〕米芾好二奇石一、知二無爲軍一、初入二州廨一、見二立石頗奇一、喜曰、此足三以當二吾拜一、遂命取二袍笏一拜レ之、毎呼曰二石丈一、爲二言者所一レ彈。

【奇跡】190 キセキ めづらしい事蹟。又、人間の常情を超越した不思議な現象。奇蹟。〔陸機、漢高祖功臣頌〕無知叡敏、獨昭二奇跡一。

【奇績】191 キセキ 不思議なてがら。めづらしい功績。〔南史、司馬中傳〕若使二撫レ衆守レ城、必有二奇績一。

【奇蹟】192 キセキ 奇跡に同じ。

〖奇蹟劇〗193 キセキゲキ 古代歐洲の演劇の一。舊約聖書中の事蹟によつて、聖徒、又は殉教者の生活の奇蹟的な插話を劇化したもの。

【奇說】194 キセツ かはつた言論。人を驚かす言說。〔管子、七法〕金城之守者、用二貨財一、設二耳目一也、一體之治者、去二奇說一、禁二雕俗一也。

【奇節】195 キセツ すぐれたみさを。奇特な節操。〔史記、蕭相國世家贊〕蕭相國何、於二秦時一爲二刀筆吏一、錄錄未レ有二奇節一。

【奇絕】196 キゼツ すぐれてめづらしい。〔蘇軾、六月二十日夜渡レ海詩〕九二死南荒一吾不レ恨、茲遊奇絕冠二平生一。

【奇捷】197 キセフ 奇勝(175)の㊁に同じ。

【奇扇】198 キセン めづらしいあふぎ。〔徐幹、團扇賦〕惟合歡之奇扇、肇伊洛之纖素。

【奇羨】199 キセン キエン 商賣の餘利。剩餘。〔史記、貨殖傳〕中國委輸、時有二奇羨一。〔注〕索隱曰、奇羨、謂三時有二餘衍一也。〔漢書、食貨志下〕已收二奇羨一。

【奇瞻】200 キセン 珍しくゆたかなこと。〔歷代名畫記〕王右丞之重深、楊僕射之奇瞻。

【奇饌】201 キセン 珍奇な御馳走。〔神仙傳〕奇饌異果、芬芳羅列。

【奇韉】202 キセン 珍しいしたぐら。韉は、鞍下のおほひ。〔乾淳歲時記、端午〕奇韉寶轡、克滿二道塗一。

【奇膳】203 キゼン めずらしい料理。珍膳。〔西京雜記、二〕競致二奇膳一。〔陸機、七徵〕奇膳玉食、窮レ滋致レ豐。

【奇繒】204 キソウ 珍しい絹織物。〔史記、貨殖傳〕求二奇繒物一、閒獻二遺戎王一。

【奇贈】205 キソウ キゾウ めづらしいおくりもの。〔劉回、記レ夢詩〕金母臨レ行有二奇贈一、玉簫瓊管聲清佳。

【奇態】206 キタイ ㊀めづらしいかたち。奇狀。〔沈約、和二劉雍州繪博山香爐一詩〕奇態實玲瓏。〔晉書、后妃傳序〕婉孌含レ辭、作二南國之奇態一。㊁ふしぎ。奇妙。

【奇大】207 キダイ なみはづれて大きなこと。〔南史、何敬容傳〕公家苟既奇大、父亦不レ小。

【奇臺】208 キダイ 縣名。清、置く。新疆省迪化縣の東。漢・唐の蒲類・金滿の地。元には回鶻に屬し、明には衞拉納に屬す。清初は準噶爾の地。

【奇道】209 キダウ ㊀めづらしい方法。非凡な計策。〔史記、吳王濞傳〕無二佗奇道一、難二以就一レ功。㊁普通人の通らない道路。間道。〔六韜、犬韜、戰車〕騎貴レ知二別經奇道一。

【奇男】210 キダン すぐれてぬきんでた男。奇男子に同じ。

〖奇男子〗211 キダンシ めづらしい男。奇行ある男子。奇男兒。〔韓愈、試大理評事王君墓誌銘〕乃蹐レ門告曰、天下奇男子王適、願見二將軍一白レ事。

【奇談】212 キダン めづらしいはなし。奇話。奇譚。

【奇譚】213 キタン キダン めづらしい話。奇談。

【奇致】214 キチ めづらしいおもむき。奇趣。〔南史、蕭範傳〕招二集文才一、率レ意題レ章、亦時有二奇致一。

【奇智】215 キチ 秀れたちゑ。すぐれた考。奇才。〔新書、連語〕梁王曰、陶之朱叟以二布衣一而富侔レ國、是必有二奇智一。

【奇竹】216 キチク めづらしい竹。〔艮嶽記〕奇竹異花。

【奇畜】217 キチク キキウ キキク めづらしい家畜。〔史記、匈奴傳〕其奇畜則橐駞・驢贏・駃騠・騊駼・驒騱。

【奇中】218 キチユウ めづらしくあたる。不思議にあたる。〔史記、封禪書〕少君資好レ方、善爲二巧發奇中一。

【奇蟲】219 キチユウ めづらしいむし。〔鹽鐵論、散不足〕戲二弄蒲人雜婦百獸馬戲鬬虎唐銻追人奇蟲胡妲一。

【奇女】220 キヂヨ 珍しい女。〔漢書、外戚上、孝武鉤弋趙倢伃傳〕望氣者言、此有二奇女一。〔列女傳、辯通、齊宿瘤女傳〕王曰、此奇女也、惜哉。〔吳永和、虞姬詩〕大王眞英雄、姬亦奇女子。

【奇徵】221 キチヨウ めづらしいしるし。〔北史、后妃上、孝文文昭皇后傳〕宗曰、此奇徵也、云云、此女將下被二帝命一誕中育人君上之象也。

【奇珍】222 キチン ㊀奇妙。ふしぎ。珍奇。〔漢書、景十三王、江都易王劉非傳〕錦帛奇珍。㊁清、羅毓珉(9－28397‥293)の字。

〖奇珍異寶〗223 ch'i^2 chen^1 i^4 pao^3 珍奇貴重なもの。

【奇琛】224 キチン めづらしいたから。奇寶。〔法苑珠林〕奇琛瓔珞、一切寶藏、自然出現。

【奇陣】225 キヂン めづらしい陣。人の意表に出る陣立て。〔史記、李牧傳〕李牧多爲二奇陳一、張二左右翼一擊レ之。

【奇挺】226 テキテイ 常ならずぬきんでる。〔孫綽、遊二天台山一賦〕嗟台嶽之所二奇挺一、寔神明之所二扶持一。〔白居易、與二陳給事一書〕夫蘊二奇挺之才一。

【奇詆】227 テキテイ 巧みにそしる。〔海錄碎事、人事、讒謗〕奇詆、巧毀レ之也、唐書音訓。

【奇鳥】228 キテウ めづらしい鳥。奇禽。〔山海經、西山經〕是多二奇鳥怪獸奇魚一、皆異物焉。

【奇童】229 キドウ 珍しく才智に富んだ童子。優れた兒童。〔後漢書、杜根傳〕年十三入二太學一、號二奇童一。〔唐書、李百藥傳〕(百藥)七歲能屬レ文、父友陸乂等共讀二除陵文一、有下刈二瑯邪之稻一語上、歎レ不レ得二其事一、百藥進曰、春秋鄅子藉レ稻、杜預謂、在二瑯邪一、客大驚號二奇童一。

【奇特】230 キトク ㊀特にすぐれてゐること。たぐひなくめづらしい。〔宋書、武帝紀上〕身長七尺六寸、風骨奇特。〔譚子化書〕好二行惠一者恩不レ廣、務二奇特一者功不レ大。㊁ch'i^2 t'ê^4 奇怪なこと。㊂キドク ㋑すぐれた行。極めてほむべきこと。〔謠曲、現在七面〕げに奇特なる信心かな。㋺不思議なしるし。〔謠曲、融〕猶も奇特を見るやとて。㋩香の名。伽羅の類。〔志野香銘錄〕。

〖奇特頭巾〗231 キドクヅキン 寛保の頃から行はれた頭巾の名。黑い絹などで面部を覆ひ、目ばかり出す。氣儘頭巾。〔好色一代女、四〕奇特頭巾より目ばかりあらはし。

【奇能】232 キノウ ㊀めづらしい技能。奇技。〔列女傳、辯通傳〕亦有二何奇能一哉。〔新序、雜事二〕欲レ干二萬乘之主一、亦有二奇能一乎。㊁明、艾能奇(9－30648‥82)の一名。

【奇葩】233 キハ めづらしい花。すぐれて類の無い花。〔司馬相如、美人賦〕奇葩逸麗、淑質豔光。

【奇拜】234 キハイ 禮の簡單なもので、一たび拜すること。奇は隻。奇𢷬。〔說文、拜、段注〕奇拜者、一拜也、䠞首、一頓首、亦是也、簡少之詈也。〔周禮、春官、大祝〕辨二九𢷬一、七曰、奇𢷬。〔注〕奇、讀爲二奇偶之奇一、謂三先屈二一膝一、今雅拜、是也、或云、奇、讀曰レ倚、倚拜、謂二持レ節持レ戟拜、身倚レ之以拜一、鄭大夫云、奇拜、謂二一拜一也。

【奇煤】235 キバイ めづらしい墨。名墨。〔張耒、魯直惠硯詩〕平生筆墨萬金直、奇煤利翰盈レ篋收。

【奇方】236 キハウ 不思議なわざ。神祕な方術。奇術。又、珍奇靈妙な藥方。〔史記、封禪書〕齊人之上疏、言二神怪奇方一者、以レ萬數。

【奇寶】237 キハウ めづらしいたから。奇琛。〔後漢書、西域傳〕多二金銀奇寶一、有二夜光璧・明月珠・駭

雞犀・珊瑚・琥珀・琉璃・琅玕・朱丹・青碧一。

【奇庬】238 キバウ　めづらしく大きい。〔孫子七書〕將必擇二其奇庬福厚者一。〔唐書、李勣傳〕臨レ事選レ將、必訾二相其奇庬福艾者一遣レ之。

【奇璞】239 キハク　めづらしいあらたま。かくれた偉材にいふ。〔司馬彪、贈二山濤一詩〕誰能證二奇璞一。〔陸機、與二趙王倫一薦二戴淵一牋〕誠東南之遺寶、聖朝之奇璞也。

【奇薄】240 キハク　數奇で薄幸な運命。〔潘岳、寡婦賦〕何遭レ命之奇薄兮、遘二天禍之未レ悔。

【奇拔】241 キバツ　すぐれぬきんでる。なみなみでない。又、思ひもよらぬこと。〔世說新語、文學〕才藻奇拔、衆咸稱レ善。

【奇祕】242 キヒ　世間に知られてゐないもの。祕密。〔晉書、張華傳〕天下奇祕、世所二希有一者、悉在二華所一。

【奇筆】243 キヒツ　めづらしい書きもの。人なみならず勝れた手跡。〔唐書、張旭傳〕旭因問レ所レ藏、盡出二其父書一、旭視レ之、天下奇筆也、自レ是盡二其法一。

【奇品】244 キヒン　珍しい品。珍品。奇物。〔癸辛雜識〕此書中奇品也。〔司馬光、和三安國寺及諸園賞二牡丹一詩〕一城奇品推二安國一。

【奇夫】245 キフ　ふしあはせな人。〔說苑、雜言〕寶藏殖焉、奇夫息焉。

【奇武】246 キブ　清、蔣勛(**9－31820**‥35)の字。

【奇舞】247 キブ　めづらしい舞。〔阮籍、詠懷詩〕北里多二奇舞一、濮上有二微音一。

【奇伏】248 キフク　思ひがけない所に設けた伏兵。〔魏志、武帝紀、注〕遂設二奇伏一、晝夜會戰、戰輒禽獲。

【奇服】249 キフク　あやしい服裝。異服。〔周禮、天官、閽人〕奇服怪民、不レ入レ宮。〔新書、服疑〕奇服文章。〔曹植、洛神賦〕奇服曠レ世、骨像應レ圖。

【奇福】250 キフク　おもひがけない幸福。僥倖。〔文子、符言〕不レ求レ得、不レ辭レ福、從二天之則一、內無二奇福一、外無二奇禍一。〔列女傳、仁智、晉羊叔姬傳〕有二奇福一者、必有二奇禍一。

【奇物】251 キブツ　めづらしいもの。奇品。珍物。〔韓詩外傳、四〕奇物變怪。〔管子、任法〕珍恠奇物、不レ能レ惑也。〔史記、殷紀〕益收二狗馬奇物一、充二牣宮室一。〔漢書、張騫傳〕皆大國多二奇物一。〔司馬相如、封禪文〕奇物譎詭。

【奇芬】252 キフン　めづらしい善いにほひ。類のない芳香。〔韓愈、醉贈二張祕書一詩〕東野動驚レ俗、天葩吐二奇芬一。

【奇文】253 キブン　めづらしい文章。すぐれた文章。〔後漢書、方術傳序〕尙二奇文一、貴二異數一。〔陶潛、移居詩〕奇文共欣賞、疑義相與析。

【奇文瑰句】254 キブンクワイク　めづらしくすぐれた語句。〔元史、胡長孺傳〕卓行危論、奇文瑰句。

【奇聞】255 キブン　珍しいうはさ。珍しい話。〔蘇轍、上二樞密韓太尉一書〕求二天下奇聞壯觀一、以知二天地之廣大一。

【奇兵】256 キヘイ　❶異常の計略を用ひて敵の不意に乘ずる兵。〔老子、五十七〕以レ正治レ國、以レ奇用レ兵。〔尉繚子、制談〕奇兵捐レ將而走。〔史記、趙奢傳〕趙括既代二廉頗一、秦將白起聞レ之、縱二奇兵一、佯敗走。〔漢書、藝文志〕權謀十三家、權謀者以レ正守レ國、以レ奇用レ兵、先計而後戰、兼二形勢一、包二陰陽一、用二技巧一者也。〔後漢書、袁紹傳〕簡二其精銳一、分爲二奇兵一。〔魏志、夏侯尙傳〕以二奇兵一潛行。〔李衞公問對、上〕平二突厥一時、用二奇兵一、今言二正兵一、何也。❷一箇の武器。刀劍の屬。〔韓非子、愛臣〕是故不レ得二四從一、不レ載二奇兵一、非レ傳非レ遽、載二奇兵革一、罪死不レ赦。〔集解〕王先謙曰、淮南墬形訓高注、奇、隻也、奇兵、佩二刀劍之屬一。❸小指をいふ。〔事物異名錄、形貌、手〕丹鉛錄、奇兵、小指也。❹六韜、龍韜の篇名。

【奇表】257 キヘウ　めづらしい相貌。非凡で偉大な態度。〔六韜、犬韜、練士〕有二奇表長劍、接レ武齊レ列者一。〔後漢書、李固傳〕固貌狀有二奇表一。

【奇辟】258 キヘキ　奇僻に同じ。〔戰國、趙策〕是以、涖レ國者不レ襲二奇辟之服一。

【奇僻】259 キヘキ　珍しくかたよる。常と異なつてゐること。奇辟。〔晏子、問、上〕衣冠無レ不レ中、故朝無二奇僻之服一。

【奇癖】260 キヘキ　不思議な性癖。かはつた性癖。〔鄧文原、題二顧善夫藏張僧繇畫翠嶂瑤林園一詩〕善夫夙有レ耽二奇癖一。

【奇片】261 キヘン　複姓。〔魏書、官氏志〕神元皇帝時、餘部諸姓內入者、云云、奇片氏、後改爲二奇氏一。

【奇偏】262 キヘン　めづらしくかたよつてゐる。常と異つてゐること。〔鄒陽、於レ獄上書自明書〕繫二奇偏之辭一哉。〔新序、雜事三〕繫二奇偏之辭一哉。

【奇篇】263 キヘン　めづらしい書物。〔唐詩紀事、段成式〕成式、字柯古、文昌之子、博學強記、多二奇篇祕籍一。

【奇變】264 キヘン　奇兵を用ひて行ふ變化ある戰。〔後漢書、皇甫嵩傳〕兵有二奇變一、不レ在二衆寡一。〔魏志、諸葛誕傳〕大將軍乃使下反閒以二奇變一說中全懌等上。

【奇辯】265 キベン　すぐれた辯說。〔說苑、善說〕子貢爲二勇悍一矣、今未三嘗見二子之奇辯一也。

【奇甫】266 キホ　宋、孫偉(**3－6987**‥4)の字。

【奇謨】267 キボ　めづらしいはかりごと。すぐれたはかりごと。奇謀。〔後漢書、荀彧傳〕奇謨拔出。〔晉書、孫惠傳〕含二奇謨于朱脣一、握二神策于玉掌一。

【奇峯】268 キホウ　❶めづらしい形の峯。〔陶潛、四時詩〕春水滿二四澤一、夏雲多二奇峯一、秋月揭二明輝一、冬嶺秀二孤松一。〔張問陶、由二三分水一至二楠木園一出二巫峽一詩〕千丈奇峯立如レ壁、蛟龍窟裏一帆來。❷㋑清、徐鎬(**4－10110**‥48)の字。㋺明、李琪枝(**6－14459**‥997)の號。

【奇逢】269 キホウ　清、李琪枝(**6－14459**‥997)の號。

【奇鋒】270 キホウ　❶不意を突く切先。意表に出る銳鋒。〔後漢書、賈復傳贊〕奇鋒震レ敵、遠圖謀レ國。❷めづらしいほこ。〔張協、七命〕奇鋒異レ模、形震二薛燭一。

【奇謀】271 キボウ　世の常ならぬはかりごと。又、すぐれたはかりごと。奇策。奇畫。奇謨。奇略。〔史記、夏紀〕毋レ教二邪淫奇謀一。〔六韜、龍韜、奇兵〕所三以行二奇謀一也。〔漢書、陳平傳〕進二奇謀之士一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕奇謀六奮。〔北史、獨孤信傳〕美風度雅、有二奇謀大略一。

【奇木】272 キボク　めづらしい木。奇樹。〔漢書、終軍傳〕時又得二奇木一、其枝旁出、輒復合二於木上一。〔漢書、西域傳上〕雜草奇木。

【奇味】273 キミ　めづらしい味。珍味。〔西京雜記、二〕婁護豐辯傳二食五侯閒一、各得二其懽心一、競致二奇膳一、護乃合以爲レ鯖、世稱二五侯鯖一、以爲二奇味一焉。

【奇脈】274 キミヤク　❶八奇經のうち、衝・任の二脈の色をいふ。〔素問、五藏生成篇〕凡相二五色之奇脈一、面黃目青、面黃目赤、面黃目白、面黃目黑者、皆不レ死也。〔張志聰集注〕奇脈、奇經衝・任之脈色也、衝・任爲二經血之海一、五臟之血、皆歸二於肝一、故外榮二於目一也、面主二氣色一、目主二血色一。❷脈膊が呼吸によつて變化すること。

【奇民】275 キミン　正業に從事しない民。浮浪の人。〔史記、平準書〕浮食奇民、欲下擅二管山海之貨一、以致二富羨一、役中利細民上。〔注〕索隱曰、奇音羈、謂レ候也、非二農工之儔一、故言レ奇也。

【奇夢】276 キム　不思議な夢。〔劉迎、詩〕赤黃晚歲徵二奇夢一、清白平生繼二古風一。

【奇名】277 キメイ　めづらしい名。〔左思、吳都賦〕闤闠譎詭、異出二奇名一。

【奇茗】278 キメイ　すぐれてよい茶。〔蘇軾、黃魯直以レ詩饋二雙井茶一次韻爲レ謝詩〕江夏無雙種二奇茗一、汝陰六一誇二新書一。

【奇妙】279 キメウ　❶奇にして妙なこと。珍しく不思議なこと。〔晉書、律曆志中〕是必使二洪奇妙之式、不レ傳二來世一。❷なみはづれて巧なこと。〔梁書、武帝紀〕草隸尺牘、騎射弓馬、莫レ不二奇妙一。❸めづらしくすぐれる。〔法華經、藥王菩薩本事品〕容顏甚奇妙、光明照二十方一。❹物事が豫期しないで思ふ壺にはまること。〔八笑人、二下〕。

【奇門】280 キモン　術數のこと。十干中の乙丙丁を以て三奇と爲し、休・生・傷・杜・景・死・驚・開を以て八門と爲すからいふ。古は又、遁甲ともいふ。遁甲(**11－38982**‥7)を見よ。〔圖書編、奇門遁甲總敍〕昔大撓造二甲子一、風后復演爲二遁甲一、其法幽深隱祕、未レ易二窺測一、故謂二之遁一。〔奇門遁甲、煙波釣叟歌句解、上〕因レ命風后演成レ文、遁甲奇門從レ此始、帝得二風后於海隅一、登以爲レ相、得二力牧於大澤一、進以爲レ將、風后作二兵法十三篇・孤虛法十二卷一、始立二遁甲一千八十局一、遁者隱也、幽隱之道、甲者儀也、遁爲二直符一、謂二六甲六儀一也、天乙之貴神也、常隱二於六戊之下一、蓋取三用兵機微之理通二於神明之德一、故以二遁甲一爲レ名也、奇者、

乙丙丁爲㆓三奇㆒也、門者、休生傷杜景死驚開之八門。詳見㆓下文㆒。

【奇門遁甲】281（キモントンカフ） 奇門(280)を見よ。

【奇紋】282（キモン） めづらしい織模樣。〔蘇軾、東川清絲云云詩〕但放㆓奇紋㆒出㆓領袖㆒、吾髯雖㆑老無㆓人憎㆒。

【奇藥】283（キヤク） めづらしいくすり。よくきくくすり。妙藥。珍藥。〔史記、秦始皇紀〕方士欲㆔練以求㆓奇藥㆒。〔謝靈運、山居賦〕尋㆓名山之奇藥㆒、越㆓靈波㆒憇㆑轅。

【奇樂】284（キラク） 世の常ならぬたのしみ。〔莊子、人閒世〕泰至、則多㆓奇樂㆒。〔疏〕多方奇異歡樂、何極也。

【奇利】285（キリ） ㊀餘りの利益。〔管子、禁藏〕夫民之所㆑生、衣與㆑食也、云云、布帛麻絲、旁入奇利、未㆑在㆓其中㆒也。㊁思ひがけない利益。

【奇利雅克】286（ギリヤーク） 人種の名。ツングース族の一支種。黑龍江下流及び北樺太地方に住す。Gruyaks

【奇律】287（キリツ） 珍しい音律。〔張協、七命〕追㆓逸響于八風㆒、采㆓奇律于歸昌㆒。

【奇兩】288（キリヤウ） 遊戲の名。悁悶(**4－10623**··11)を見よ。〔徐岳、數術紀遺注〕藝經云、悁悶者、周公作也、乃是奇兩之術。

【奇略】289（キリヤク） 非凡なはかりごと。奇謀。めづらしい手段。〔吳志、陸遜傳〕用㆓其奇略㆒、終建㆓勳祚㆒。

【奇零】290（キレイ） 數のあまり。單位以下の端數。三·一四一六を三奇零一四一六といふ。畸零。〔宋史、食貨志三〕數既奇零。〔晏才傑、田賦芻議〕最可㆑異者、奇零折算、轉輾增重。

【奇嶺】291（キレイ） めづらしい形の山。〔沈約、鍾山詩、應㆓西陽王教㆒〕發㆑地多㆓奇嶺㆒、干㆑雲非㆓一狀㆒。

【奇麗】292（キレイ） すぐれてうるはしい。綺麗。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕衆嫭竝、綽奇麗。〔後漢書、禰衡傳〕必有㆓奇麗之觀㆒。〔左思、吳都賦〕翫㆓其奇麗㆒。

【奇齡】293（キレイ） めづらしいよはひ。人なみでない長壽。〔郭璞、遊仙詩〕奇齡邁㆓五龍㆒、千歲方嬰孩。

【奇鬣】294（キレフ） 鯛(**12－46226**)の異名。〔和漢三才圖會、江海有鱗魚、鯛〕棘鬣·奇鬣·吉鬣·赤鬃·平魚。

【奇弄】295（キロウ） めづらしい曲。奇曲。〔嵇康、琴賦〕改㆑韻易㆑調、奇弄乃發。

【奇論】296（キロン） めづらしい議論、又は論說。〔漢書、貢禹傳〕今未㆑得㆔久聞㆓生之奇論㆒也。〔論衡、齊世〕作㆓奇論㆒、造㆓新文㆒。

【曜㆑奇】297（キヲカガヤカス） 奇策を世に耀かすこと。〔袁宏、三國名臣序贊〕卓卓若人、曜㆓奇赤壁㆒。〔注〕銑曰、曜奇、謂㆔曜㆓明奇策㆒也。

【奇渥溫】298（キアクヲン） 複姓。元の帝室の姓。淸代、卻特氏と改譯す。〔元史、太祖紀〕太祖法天啓運聖武皇帝、諱鐵木眞、姓奇渥溫氏。

【奇雅河】299（キガカ） 地名。滿洲黑龍江省の北境。もとの奇雅河卡倫。民國、奇乾縣を置く。今の奇乾卡。奇乾(93)を見よ。

【奇礓石】300（キキヤウセキ） 梁の到溉の宅に在つた石の名。到公石ともいふ。〔南史、到溉傳〕溉第居近㆓淮水㆒、齋前山池有㆓奇礓石㆒、長一丈六尺、帝戲與賭㆑之、并㆓禮記一部㆒、溉並輸焉、云云、石卽迎置㆓華林園宴殿前㆒、移㆑石之日、都下傾㆑城縱觀、所謂到公石也。

【奇洪壽】301（キコウジユ） 高麗、幸州の人。字は大古。諡は景懿。高麗の明·神·熙の三朝に仕へ、官は特進壁上三韓三重大匡門下侍郎同中書門下平章事判吏部事。〔高麗史〕。

【奇靜脈】302（キジヤウミヤク） 靜脈の名。胸椎の右側にあり、肋骨閒の靜脈血を集めて大靜脈に送るもの。

【奇晉齋】303（キシンサイ） 淸、陸烜(**11－41708**··95)の號。

【奇大升】304（キダイシヨウ） 朝鮮李朝、幸州の人。字は明彥。號は高峯。諡は文憲。官は工曹參議大諫。著に論思錄がある。〔海東名臣錄〕。

【奇蹄類】305（キテイルイ） 動物分類上の一亞目。偶蹄類(**1－899**··56)の對。有蹄類に屬す。馬·犀など。

【奇南香】306（キナンカウ） 名香の名。きやら。伽羅。迦南。黑沈香。伽南香。又、奇楠香に作る。〔潛確類書〕。

【奇楠香】307（キナンカウ） 奇南香に同じ。〔趙學敏、本草綱目拾遺〕伽楠香、今俗作㆓奇楠㆒、乘雅作㆓奇南㆒。

【奇不過】308 ch‘i^{2} pu kuo^{4} 甚しく奇怪な。

【奇鳳堂】309（キホウダウ） 淸、柴紹炳(**6－14664**··112)の室名。

【奇絡結】310（キラクケツ） 絡脈の結び聚まる處。〔史記、太倉公傳〕臣意教以㆓經脈高下、及奇絡結㆒。〔注〕正義曰、素問云、奇經八脈往來舒時、一止而復來、名㆑之曰㆑結也。

【奇拉夫】311（ジラフ） 動物の名。キリン。長頸鹿。Giraffe

【奇經八脈】312（キケイハチミヤク） 人身の經脈の名。人身十二經脈の外、陰維·陽維·陰蹻·陽蹻·衝·任·督·帶の八脈をいふ。〔史記、倉公傳、其脈書上下經云云、注〕正義曰、八十一難云、奇經八脈者、有㆓陽維㆒、有㆓陰維㆒、有㆓陽蹻㆒、有㆓陰蹻㆒、有㆑衝、有㆑督、有㆑任、有㆓帶之脈㆒、凡此八者、皆不㆑拘㆓於經㆒、故曰㆓奇經八脈㆒也。

【奇經八脈考】313（キケイハチミヤクカウ） 書名。一卷。明、李時珍撰。奇經八脈について其の治療法を詳かにし、併せて氣口九道脈の圖を附し、內經の旨を闡發す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【奇而又奇】314（キニシテマタキ） 奇中の奇。甚しく珍しいこと。〔論衡、超奇〕夫丘山以㆓土石㆒爲㆑體、其有㆓銅鐵㆒、山之奇也、銅鐵既奇、或出㆓金玉㆒、然鴻儒、世之金玉也、奇而又奇矣。

【操㆑奇計㆑贏】315（キヲトリエイヲハカル） 餘財ありて奇異の物を聚め畜へるをいふ。一說に、奇とは殘物のことで、操奇とは、殘餘の儲をとること。〔漢書、食貨志上〕商賈大者、積貯倍㆑息、小者坐列販賣、操㆓其奇贏㆒、日游㆓都市㆒。〔注〕師古曰、奇贏、謂㆘有㆓餘財㆒而畜㆗聚奇異之物㆖也、一說、奇、謂㆓殘餘物㆒也。

【立㆑奇造㆑異】316（キヲタテイヲツクル） めづらしい說を立て、あやしい論を作る。奇異の論說を立て造る。〔論衡、書虛〕多欲㆔立㆑奇造㆑異、作㆓驚目之論㆒。

【奇勒稽思泊】317（チロチスポ） 湖の名。乞兒吉思湖をいふ。又、奇爾吉斯·奇耳吉滋にも作る。外蒙古の科布多城の東北。湖邊に灌木雜草多く、牧畜に適する。

【奇悉爾伊爾馬克】318（ギジルイルマク） 川の名。トルコ中部にあり、黑海に注ぐ河の名。Kizil-Irmak

【奈】5893

🈩 ダイ ナイ 〔集韻〕乃帶切 泰 ㄋㄞˋ nai^{4}

🈔 ダ ナ 〔廣韻〕奴箇切 箇

慣 ナ

🈩㊀**木の名。** 柰(**6－14659**)の譌字。〔說文通訓定聲〕柰、果也、从㆑木示聲、字亦誤作㆑奈。㊁**いかん。いかんせん。**㋑那(**11－39305**)に通ず。〔說文通訓定聲〕柰、叚借發聲之詞、云云、廣雅釋言、柰、那也、按、那者、柰何之合音。㋺いかんともするなし。無奈の略。〔姜夔、琵琶仙詞〕奈愁裏怱怱換㆓時節㆒。㊂如(**3－6060**)に通ず。〔經傳釋詞、六〕柰、如也、晉語曰、柰㆓吾君㆒何。㊃俗に㮈に作る。〔集韻〕奈、俗作㆑㮈、非㆑是。㊄**姓**。〔萬姓統譜〕奈、見㆓姓苑㆒。🈔**いかん**。〔廣韻〕奈、奈何。

參考 奈は柰の通用字。正しくは柰と書くから、注解には柰の形を用ひた。猶、熟語は柰を併せ見よ。

【奈因】1 nai^{4} yin^{1} 如何せん云云により。

【奈何】2（イカン） ㊀どうして。なぜ。いかんぞ。柰何(**6－14659**··3)に同じ。〔禮、曲禮下〕國君去㆓其國㆒、止㆑之曰㆔奈何去㆓社稷㆒也、大夫曰㆔奈何去㆓宗廟㆒也、士曰㆔奈何去㆓墳墓㆒也。㊁どうする。どのようにする。〔漢書、周昌傳〕昌泣曰、臣初起從㆓陛下㆒、陛下獨奈何中道而棄㆓之於諸侯㆒乎。㊂（ナカ） 橋の名。山東省泰安縣の泰山に在つて渿河に架す。〔山東考古錄〕嶽之西南有㆑水、出㆓谷中㆒、爲㆓西溪㆒、自㆓大峪谷㆒至㆓州城之西南㆒、流入㆓於泮㆒、曰㆓渿河㆒、其水在㆓高里山之左㆒、有㆑橋曰㆓渿河橋㆒、世傳、人死魂不㆑得㆑過、故曰㆓奈何㆒。

【奈何帝】3（ナカテイ） 帝を奈何せんの義。南朝陳、後主の時の災異の一。蔣山の衆鳥が奈何帝、奈何帝と鳴いたこと。〔南史、陳後主紀〕蔣山衆鳥、鼓㆓兩翼㆒以拊㆑膺曰、奈何帝、奈何帝。

【奈何天】4（ナカテン） 傳奇の名。淸、李漁撰。十種曲の一。喜劇。闕十全が、醜貌を以てして鄒先民の

女・何某の女・袁の妾吳氏等の美妻を娶つた始末を記す。

〘奈何木〙5 ナカボク　城を守る用具。城壁をよぢ上るのを防ぐに用ひる。柰何木(6-14659・5)に同じ。

【奈河】6 ナカ　死後に行く血の河。〔宣室志〕董觀死、行至二一水一、廣不二數尺一、流而西南、觀問二僧靈習一、習曰、此俗所謂奈河、其源出二於地府一、觀卽視二其水一皆血、而腥穢不レ可レ近。

【奈癸】6′ ナキ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

〘奈癸私〙6″ ナギサイチ　姓氏。

【奈端】7 ニュートン　英國の數學・物理學者。ニュートン。牛董。牛頓。Newton

【奈曼】8 ナイマン　㊀韃靼の別部。方輿紀要には、葱嶺の西南に在るといふ。もと、乃蠻に作る。今の外蒙古札薩克圖汗部から新疆省塔爾巴哈台に至る地を奄有したが、元の太祖に滅さる。〔讀史方輿紀要、陝西、哈密衞、欽察國〕乃蠻國、亦在二葱嶺西南一、宋嘉定中、蒙古鐵木眞擊二滅乃蠻諸部一、是也。㊁部落の名。舊制、內蒙古昭烏達盟八部の一。滿洲熱河省の東南端に位し、潢河と老哈河との合流地の南岸。東は喀爾喀左翼、南は土默特、西は敖漢、北は翁中特と界す。

【奈良】9 ナラ　大和國の地名。寧樂。乃樂。平城。

〘奈良晒〙10 ナラザラシ　苧の纖維で織り、灰で煮て晒した麻布。奈良地方に產す。〔好色五人女、二〕奈良ざらしの中くらゐなるを。

〘奈良紙〙11 ナラガミ　昔、奈良から產した薄い紙。〔三好筑前守義長亭江御成記〕御西淨之內に棚あり、それに置く紙、ならがみあり。

〘奈良漬〙12 ナラヅケ　酒糟になほしの燒酎を加へ、瓜又は大根などを漬けたもの。多く奈良地方から產す。〔醒睡笑、一〕瓜の糟づけ・奈良づけ。

〘奈良刀〙13 ナラガタナ　奈良の鍛冶の鍛へた刀。鈍刀といはれる。〔庭訓往來、四月〕奈良刀。

〘奈良彫〙14 ナラボリ　彫金法の一流。奈良利輝を祖とするもの。雅致に富み、最も花鳥などを巧に彫刻す。

〘奈良朝〙15 ナラテウ　和銅三年、元明天皇が大和國平城に遷都せられてから、延曆十三年、桓武天皇の平安京遷都までの間の稱。當時、韓・唐と交通し、佛法興隆して、文化藝術等、大いに進んだ。

〘奈良本〙15′ ナラホン　繪卷物・御伽話などを假名文で認めた寫本で、足利の中期から桃山時代にかけて多く行はれた。紺紙に金泥もて美しい繪を書いてゐるので奈良繪本ともいふ。

〘奈良茶粥〙16 ナラチヤガユ　奈良茶飯に同じ。〔博多小女郞波枕、長者經〕身はならはしよ奈良茶粥。

〘奈良茶飯〙17 ナラチヤメシ　大豆・小豆・栗などを加へた茶飯。奈良の東大寺・興福寺で炊ぎ初めたから名づく。〔本朝食鑑、一、飯〕奈良茶飯者、本南都東大洪福兩寺之僧舍所レ製。

〘奈良人形〙18 ナラニンギヤウ　奈良から作り出す人形。白木彫に彩色を施し、多く根附けに用ひる。春日神社改築の際の舊材を用ひて製するといふ。

〘奈良風爐〙19 ナラブロ　奈良で作り出した土製の風爐。扁平で、口を一方の緣にかけて切り、方形の小板に載せて用ひる。席上において、茶の湯を沸かすに用ひる。〔茶具備討集〕奈良風爐。

〘奈良法師〙20 ナラボフシ　昔、奈良の東大寺・興福寺などで養つた僧兵。後、東大寺が衰へて、興福寺が獨り盛となるや、強暴の振舞多く、春日神木を捧げて京都に入り、強訴したこともある。〔平家物語、劍卷〕奈良法師くるす山まで溢り來て。

〘奈良饅頭〙21 ナラマンヂユウ　元の人、林淨因が歸化して大和の國奈良に住し、姓を鹽瀨氏と改めて作り始めた饅頭。我が國の饅頭の最初といふ。〔日次紀事〕十一月十三日、淨因幷道雲以二鹽瀨一爲二稱號一、住二南都一、造二饅頭一、依レ之世稱二奈良饅頭一、是本朝饅頭之始也。

〘奈良七大寺〙22 ナラシチダイジ　今の奈良市及び其の附近にある七大寺。東大寺・西大寺・法隆寺・藥師寺・大安寺・元興寺・興福寺。

【奈落】23 ナラク　㊀［佛］那落迦(naraka)の略。地獄をいふ。捺落。那落。捺落(5-12221‥9)を見よ。〔十訓抄、五〕言ふならく、ならくの底に入りぬれば。㊁劇場で舞臺の下に設けた穴ぐらをいふ。

【奈女魚】24 ナメイヲ　鮠の俗名。〔和漢三才圖會、江海無鱗魚、鮠〕鮠、俗云二奈女魚一。

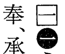
【奈亭給爾】25 ナイチンゲール　人名。英國の女流慈善家。赤十字社を開く。Nightingale

【奈解尼師今】26 ナカイニシキン　新羅の王。伐休尼師今の孫、伊買の第二子。伐休に繼いで卽位す。時に日本は任那を領してゐた。在位三十四年。

【奈勿尼師今】27 ナコツニシキン　新羅の王。味鄒尼師今の弟、末仇の子。一に那密に作る。脫解尼師が薨ずるや、金氏を以て卽位す。高勾麗の廣開土王の時に質子實聖を送つて之と通じ、依つて倭寇の時、廣開土王の援を得た。在位四十六年。

【奉】 5894

［一］ホウ ブ　〔集韻〕父勇切　ㄈㄥˋ fêng⁴　［腫］
［二］ホウ ブ　〔集韻〕房用切　［宋］
［三］ホウ ブ　〔中華大字典〕符容切　［冬］


小篆

［一］㊀**うける。うけ守る**。〔說文〕奉、承也、从二手廾一丰聲。㊁**ささげる**。〔廣雅、釋詁三〕奉、持也。〔匡謬正俗、三〕奉、謂二恭而持一レ之。㊂**たてまつる**。〔廣雅、釋言〕奉、獻也。〔周禮、地官、大司徒〕祀二五帝一、奉二牛牲一。〔注〕奉、進也。㊃**やしなふ**。〔左氏、昭、六〕奉レ之以レ仁。〔注〕奉、養也。㊄**たすける**。〔淮南子、說林訓〕風雨奉レ之。〔注〕奉、助也。㊅**くみする**。〔左氏、僖、三十二〕天奉レ我也。〔注〕奉、與也。㊆**しく。しきもの**。〔國語、齊語〕鏤纂以爲レ奉。〔注〕奉、藉也。㊇**おくる**。〔周禮、春官、天府〕若遷レ寶則奉レ之。〔注〕奉、送也。〔呂覽、懷寵〕得二民虜一奉而題歸レ之。〔注〕奉、送也。㊈**載せ行く**。〔周禮、春官、小宗伯〕奉二主車一。〔注〕奉、謂レ將行。〔國語、晉語二〕是之不レ果レ奉。〔注〕奉、行也。㊉**つとめる**。〔漢書、食貨志下〕春以奉レ耕、夏以奉レ耘。〔注〕師古曰、奉、謂レ供レ事也。(十一)**おしいただく**。〔左氏、襄、二十五〕奉二戴厲公一。〔注〕奉戴、猶二奉事一。(十二)**あつかふ**。待遇。〔史記、孔子世家〕奉レ子以二季氏一。吾不レ能。(十三)**ささげもの。みつぎ**。〔儀禮、聘禮〕加二其奉於古皮上一。〔注〕奉、所二奉以致一レ命。(十四)**やしなひ。まかなひ**。〔孟子、告子上〕妻妾之奉。〔孫子、用間〕百姓之費、公家之奉。(十五)**ろくだか**。俸(1-734)に通ず。〔廣雅、釋詁四〕奉、祿也。〔周禮、天官、大宰、以二八則一治二都鄙一四曰祿位、注〕祿、若二月奉一也。〔釋文〕奉、本或作レ俸。(十六)**天子・神佛などのことに對する敬語**。奉迎(44)・奉贊(62)などの例を見よ。(十七)或は捧(5-12189)に作る。〔集韻〕奉、或作レ捧。〔禮、曲禮下〕凡奉者當レ心。〔釋文〕奉、本亦作レ捧。(十八)古は叏(2-3155)・拲(5-12536)に作る。〔集韻〕奉、古作レ叏。〔六書本義〕拲、古文奉字。(十九)**姓**。〔通志、氏族略〕奉氏、見二姓苑一。奉揮漢馬軍使。(二十)［現］上級官署の文書をうけて、これに復する文。［二］**祿**。俸(1-734)に同じ。〔集韻〕俸、秩祿也、或作レ奉。〔漢書、高后紀〕幸得レ賜二餐錢奉邑一。［三］捀(5-12120)に同じ。〔中華大字典〕奉、掬也、本作レ捀。［邦］**たてまつる**。自己の動作にそへて、先方へ敬意をあらはす語。

［名乘］　ウケ。トモ。ナ。

［解字］　會意形聲。手と廾(又、収に作る。ナと又との合字で、兩手をそばだてて物をささげ持つ意)と丰との合字。本義は、うけささげる意。故に手と廾とに从つて、うけささげる意を表し、丰は音を表す。既に廾に从つて、更に手を加へるのは複。〔說文、奉、承也、从二手廾一丰聲、段注〕从レ手、ナ又雙引也。〔說文通訓定聲〕奉、承也、从レ手从レ収、會意、丰聲。

【奉安】1 ❶君父を葬ること。〔漢書、劉向傳〕其賢臣孝子、亦承レ命順レ意、而薄二葬之一、此誠奉二安君父一、忠孝之至也。〔後漢書、明帝紀〕司徒訢奉二安梓宮一、司空魴將レ校二復土一。〔注〕言、下レ棺訖、復以レ土爲レ墳。❷清代、帝王の棺を山陵に葬ること。〔清會典事例、禮部、喪禮〕恭奉二龍轝一出レ宮、奉二安梓宮於瀋陽城中西北隅一。❸神體・佛像・位牌等を一定の場所にすゑ置くこと。安置。

【奉移】2 清代、帝后の大喪に、嗣帝が梓宮を奉じて殯殿に移すこと。〔清會典事例、禮部、喪禮〕初二日、奉二移梓宮一、至二壽皇殿一。

【奉委】3 fêng^4 wei^3 命令を奉ずる。委任の命を受ける。

〔奉委派〕4 fêng^4 wei^3 p'ai^4 委任派遣の命を受ける。

【奉遺】5 ささげおくる。〔史記、劉敬傳〕陛下誠能以二適長公主一妻レ之、厚奉二遺之一。

【奉有】6 かうむる。拜受。〔福惠全書、莅任部、詳文贅說〕奉二有十一月二十五日恩詔一。

【奉邑】7 宗廟祭祀の費用を給する邑。知行所をいふ。〔史記、張儀傳〕臣有二奉邑六里一。〔漢書、高五王、齊哀王襄傳〕爲二呂王奉邑一。〔吳志、呂範傳〕寧國爲二奉邑一。

【奉引】8 公卿が天子の乘輿を引いて前導すること。〔史記、韓長孺傳〕奉引墮レ車蹇。〔漢官儀〕大駕則公卿奉引。〔張衡、東京賦〕奉引既畢。

【奉盈】9 器物に滿ちたものをくつがへさぬやうに捧げ持つこと。轉じて、敬心のあついこと。〔禮、祭義〕孝子如レ執レ玉、如レ奉レ盈。

【奉邀】10 出むかへる。〔剪燈新話、龍堂靈會錄〕施二禮於前一曰、龍王奉邀。

【奉烟】11 fêng^4 yen^1 煙草を客にすすめる。

【奉加】12 勸進によつて神佛に財物を加納すること。奉納。〔東鑑、十四〕建久五年五月二十九日、最初建立以來、以二奉加一成二大功一訖。

〔奉加錢〕13 神佛に奉加する金錢。〔蔭涼軒目錄〕長祿二年八月十六日、寂路庵惠光、爲レ不レ出二建仁寺修造高麗奉加錢一、被二罪科一。

〔奉加帳〕14 神佛に寄進奉加の目錄を記す帳簿。緣簿。

【奉迓】15 招待すること。奉迎。迓は迎。〔劍俠傳〕今日方欲二奉迓一、邂逅相遇。

【奉峨】16 清、陳璋(海寧の人)(**11－41698**‥323)の字。

【奉行】17 ❶君命を奉じて施し行ふ。命を受けて事を行ふ。〔漢書、魏相傳〕方今務在三奉二行故事一而已。〔後漢書、安帝紀〕郡縣多不二奉行一。〔孔子家語、六本〕終身奉行焉。〔白居易、贈レ友詩〕君出臣奉行。❷武家時代の職名。或る一局部の事務の長官。鎌倉・室町時代には政所・評定衆・問注所・侍所等に屬し、豐臣時代には特に五奉行を置き、江戸時代には老中・若年寄所屬のものの外、寺社奉行等があり、幕末に至つては陸軍・海軍等の諸奉行を增置する等、其の數頗る多く、大抵、常置の職であつた。〔新御式目〕弘安七年五月二十日許、引附衆幷奉行事。〔東鑑、六〕文治二年七月二十八日、俊兼爲二奉行一。

【奉孝】18 字號。❶三國魏、郭嘉(**11－39474**‥22)の字。❷三國蜀、劉理(**2－2224**‥643)の字。

【奉高】19 ❶縣名。漢、置く。泰山郡治。故治は山東省泰安縣の東北。〔漢書、地理志上〕泰山郡、縣二十四、奉高。❷後漢、袁閬(**10－34152**‥153)の字。

【奉客】20 客に賄ふこと。〔史記、孟嘗君傳〕其食客三千人、邑入不レ足二以奉一レ客。

【奉諱】21 死者を敬つて在世中の名を諱むこと。又、人の喪に居ることにいふ。〔禮、曲禮上〕卒哭乃諱。〔注〕敬二鬼神之名一也、諱、避也。

【奉饋】22 食をささげすすめること。奉饋之臣を見よ。

〔奉饋之臣〕22′ 君に食をささげすすめることを掌る臣。〔晏子、雜、上〕晏子侍二于景公一、朝寒、公曰、請進二暖食一、晏子對曰、嬰非二君奉饋之臣一也、敢辭。

【奉義】23 ❶義を守る。〔左氏、哀、六〕吾子奉レ義而行者也。❷行政區劃の名。唐の貞元中置く。初、安黃節度といひ、後、奉義軍の號を賜ふ。安・黃二州を領す。今、湖北省江漢道北部の地。治は安州。今の湖北省安陸縣治。元和の初、省く。〔讀史方輿紀要、州域形勢、唐〕治安州、貞元十四年、置二安黃節度使一、十九年、賜二號奉義軍一、元和初、省入二鄂岳觀察使一。

【奉議】24 縣名。民國、置く。宋の奉議州、明の奉議衞、清の奉議州の地。民國二十五年、又、田陽縣と改む。田陽(**7－21723**‥300)を見よ。〔讀史方輿紀要、廣西、奉議州〕漢交趾郡地、隋唐以來、爲二谿洞地一、宋置二奉議州一、元因レ之、明朝洪武五年、省入二來安府一、七年復置、二十八年、改爲二奉議衞一、尋罷レ衞復置レ州。〔清史稿、地理志〕廣西、鎭安府、州一、奉議州。

〔奉議郎〕25 官名。宋、置く。宗正寺の屬官。〔文獻通攷、宗正卿〕丞、漢亦用二皇族一、後漢一人、歷代皆有レ之、隋有二二人一、唐因レ之、宋初爲二寄祿官一、後改爲二奉議郎一。

【奉求】26 fêng^4 ch'iu^2 お願ひする。懇願。奉託。

【奉畜】27 助け養ふ。扶持を與へやしなふ。〔書、盤庚中〕用奉二畜汝衆一。〔蔡傳〕用以奉二養汝衆一而已。

【奉給】28 あたへる。ささげ供へる。〔墨子、節用中〕凡足三以奉二給民用一。〔史記、張儀傳〕使三臣陰奉二給君資一。〔漢書、張耳傳〕女家厚奉二給耳一。〔北史、穆崇傳〕往來奉給、時人無二及者一。

【奉御】29 ❶ささげすすめる。〔莊子、則陽〕史鰌奉御而進レ所、搏レ幣而扶翼。〔注〕幣者、奉御之物。❷官名。隋、置き、唐以後、之に仍る。殿中監の屬、尚食・尚藥・尚衣・尚舍・尚乘・尚輦の六局の長官。北齊には典御といふ。〔通典、職官、諸卿中、殿中監〕魏置二殿中監官一、隋改爲二殿內局一、置二監二人一、云云、有二監・少監・丞各一人一、掌二諸供奉一、領二尚食・尚藥・尚衣・尚舍・尚乘・尚輦等六局一、每局各置二奉御二人一、以總レ之。〔事物紀原、祕殿掌貳部、奉御〕北齊門下省、初置二典御之官一、隋改曰二奉御一、以隸二殿中省一。

【奉供】30 ささげそなへる。〔新語、無爲〕四海之內、奉供來臻。

【奉金】31 後晉、相里金(**8－23151**‥328)の字。

【奉具】32 ささげそなへる。〔沈亞之、乞巧文〕恭聞二司巧之多方一、妄修二馨香一以奉具。

【奉屈】33 他人に枉駕を乞ふ語。招待すること。〔劍俠傳〕久聞三君有二妙技一、今煩二一君奉屈一。

【奉化】34 ❶山名。浙江省奉化縣の東南。一名、瑞峯山。四面皆名を異にす。〔讀史方輿紀要、浙江、甯波府、奉化縣〕奉化山、縣南五里、周三十里、有二數山一相聯絡、山之東麓有二桃花嶺一、去レ縣十五里、嘉靖中、官軍擊二倭賊於鄞縣一、倭由二桃花嶺一南遯卽此、志云、奉化山、四面各異レ名、亦謂二之瑞峯山一。❷川の名。浙江省奉化縣の北。其の上流を剡溪といふ。源は嵊縣の界の六詔諸嶺。東北流して九曲し、奉化縣の東北に至つて奉化江と名づけ、北渡江ともいふ。東北流して鄞縣の界に入り、甬江に合す。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、奉化縣〕奉化江、縣北二十里、其上源、自二嵊縣六詔諸嶺一引レ流入レ界、亦謂二之剡溪一、亦曰二剡源溪一、云云、又北至二縣北四十里之坊橋一、而合二勤江一、亦曰二北渡江一。❸州の名。㋑元、奉化縣を升せて奉化州とす。今、浙江省奉化縣。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府〕奉化縣、府南八十里、漢鄞縣地、唐爲二鄮縣地一、云云、元元貞初、升爲二奉化州一、明初復爲レ縣。㋺本名は羅槃甸。元、羅槃部とす。明、因遠羅必甸長官司を置いたが、後、改めて奉化州とし、土官の子孫を以て分掌せしむ。清、滇を平げ、幷せて元江府とす。故治は雲南省元江縣の北。❹縣名。㋑唐鄮縣の地を析ち置く。浙江省寧波府。今、浙江省鄞縣の南。東は鄞江に臨み、北に奉化江がある。〔讀史方輿紀要、浙江、甯波府、奉化縣〕府南八十里、南至二台州府甯海縣一百二十里、西至二紹興府嵊縣一百七十里、漢鄞縣地、唐爲二鄞縣地一、開元二十六年析置、今縣屬二明州一、宋因レ之、元元貞初、升爲二奉化州一、明初、復爲レ縣、嘉靖三十一年、以二倭患一始築レ城、周六里有奇、編戶百四十九里。〔清史稿、地理志〕浙江、寧波府、縣六、奉化。㋺清、置く。遼寧省昌圖府に屬す。今改めて梨樹縣とす。四平街の北。〔清史稿、地理志〕奉天、昌圖府、縣三、奉化。

【奉光】35 梁、王瑩(**7－20823**‥60)の字。

【奉官】36 fêng^4 kuan^1 政府の命を受ける。官吏に任ぜられる。

〔奉官准〕37 fêng^4 kuan^1 chuen^3 官許を受ける。

【奉還】38ホウクワン かへしたてまつる。上へ返上する。大政奉還（3－5831··1299）を見よ。

【奉勸】39 fêng⁴ ch'üan⁴ お勸めする。忠告。

【奉君】40ホウクン 後漢、費貽（10－36717··1）の字。

【奉圭】41ホウケイ 天子にたてまつる圭。〔書、康王之誥〕皆布㆓乘黃朱㆒、賓稱㆓奉圭兼㆑幣。〔蔡傳〕諸侯擧㆓所㆑奉圭兼㆑幣。

【奉計】42ホウケイ 計吏をいふ。〔後漢書、明帝紀〕衆郡奉計。〔注〕奉計、謂㆓計吏㆒也。

【奉卿】43ホウケイ 後漢、皐弘（8－22714··18）の字。

【奉迎】44ホウゲイ 貴人を出迎へる。お迎へする。〔後漢書、章帝紀〕遣㆑使奉迎。

【奉檄】45ホウゲキ 召書を受ける。後漢の毛義が、就任の檄をうけて喜悅を面にあらはした故事から、今、官に就くことを言ふ。檄は、召書。捧檄。〔後漢書、劉平傳序〕廬江毛義、家貧、以㆓孝行㆒稱、南陽人張奉慕㆓其名㆒、往候㆑之、坐定而府檄適至、以㆑義守令、義奉㆑檄而入、喜動㆓顏色㆒、奉者志尙士也、心賤㆑之、云云、及㆓義母死㆒、去㆑官行㆑服云云、公車徵、遂不㆑至、張奉歎曰、賢者固不㆑可㆑測、往日之喜、乃爲㆑親屈也。〔注〕檄、召書也。

【奉業】46ホウゲフ 陳、廢帝（4－9492··113）の字。

【奉軒】47ホウケン 清、李佑厚（6－14459··852）の字。

【奉賢】48ホウケン 縣名。清、置く。もと華亭縣の地。縣の東南に奉賢涇あるを以て名づく。江蘇省松江府。今、江蘇省上海縣の南。〔清史稿、地理志〕江蘇、松江府、縣七、奉賢。

【奉憲】49ホウケン 法にしたがひ守る。〔漢書、景帝紀〕酷吏奉㆑憲失㆑中。〔漢書、陳湯傳〕罪當㆑在㆓於奉憲㆒。

【奉獻】50ホウケン 獻ずる。獻上する。奉呈。〔史記、呂不韋傳〕奉㆓獻於親㆒。〔後漢書、光武紀下〕鄯善國遣㆑使奉獻。

【奉元】51ホウゲン 地名。元代、陝西行省を奉元路と改む。陝西省長安縣以東の地。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府〕皇慶初、又改爲㆓奉元路㆒、明初、改爲㆓西府領㆒。

【奉公】52ホウコウ ❶公事のために盡力すること。〔左氏、定、十三〕奉㆑公以伐㆓范氏中行氏㆒。〔史記、廉頗藺相如傳〕趙奢曰、今縱㆓君家㆒而不㆑奉㆑公、則法削。〔漢書、朱博傳〕竭㆑誠奉㆑公。〔後漢書、祭遵傳〕憂㆑國奉㆑公。❷主人に仕へる。主どりをする。又、其の人を奉公人といふ。〔新加制式〕一季奉公輩事、右經㆓歷諸方㆒而致㆓奉公㆒之輩、當㆓其月㆒乞㆑暇、常習也。

【奉候】53ホウコウ 貴人の御機嫌を伺ふ。〔宋書、武帝紀〕公卿以下頻日奉㆓候於新亭㆒。

【奉貢】54ホウコウ みつぎものを献納する。〔後漢書、和帝紀〕九年春正月、永昌徼外蠻夷及撣國、重㆑譯奉貢。

【奉告】55ホウコク ❶神祇に告げ奉る。神を祭る時、祭文を讀んで諸事を告げる。❷ fêng⁴ kao⁴ お知らせする。お話する。

【奉國】56ホウコク ❶縣名。南朝梁、置き、元、省く。故城は、四川省蒼溪縣の東。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、蒼溪縣〕奉國城、在㆓縣東㆒、南梁置㆓奉國縣㆒、爲㆓白馬郡治㆒、隋開皇初、郡廢、縣屬㆓隆州㆒。❷字號。㋑後魏、寇讚（3－7209··15）の字。㋺後魏、刁遵（2－1846··30）の字。

〘奉國將軍〙57ホウコクシヤウグン 封爵の名。清代、宗室封爵十二等の第十一位。輔國將軍の下に位す。奉恩公（176）を見よ。

【奉懇】58 fêng⁴ k'en³ お賴み致します。お願ひします。

【奉佐】59ホウサ たすけること。〔漢書、終軍傳〕臣願盡㆑精厲㆑氣、奉㆓佐明使㆒。

【奉齋】60ホウサイ 身心を清めて神につかへまつること。

【奉朔】61ホウサク 正朔を奉ずる。一王朝の治下に立ち、其の制定になる曆を使用すること。其の曆を奉ずることは、其の治下に屬したことになる。〔蘇頲、賀㆓封禪㆒表〕車書不㆑及而來王、日月所㆑臨而奉朔。

【奉贊】62ホウサン たすけること。〔顏氏家訓、勉學〕奉㆓贊大猷㆒、化㆓行都邑㆒。

【奉之】63ホウシ 明、胡侍（9－29400··164）の字。

【奉仕】64ホウシ ❶つかへたてまつる。御側につかへる。❷自己を棄てて他のために盡す。❸待遇する。サービス。

【奉此】65 fêng⁴ tz'ŭ³ 公文書の用語。云云の趣承知仕候。下僚が上官の命令を奉ずる意味の語。

【奉旨】66ホウシ 上意を承ける。勅旨を奉ずる。〔宋書、謝莊傳〕莊居守以㆓啓信或虛㆒、執不㆑奉㆑旨。〔清會典事例、吏部、滿洲開列、四五品京堂開列〕奉㆑旨記㆑名者、另行㆓注冊㆒、按、照㆑名次㆓先後㆒、遇有㆓四品之太常寺少卿・鴻臚寺卿・太僕寺少卿缺出㆒、於㆓應㆑升人員之末㆒、列㆓入參領一員㆒。〔清國行政法汎論、成文法、詔勅〕清國公文、有㆓諭旨之語㆒多矣、或曰㆓奉上諭㆒、或曰㆓奉旨㆒、是也。

【奉使】67ホウシ ❶使命を奉じて行く。〔漢書、昭帝紀〕奉㆑使全㆑節。〔後漢書、馮衍傳〕懷㆑金垂㆑紫、揭㆑節奉㆑使。❷說苑の篇名。

〘奉使俄羅斯日記〙68ホウシオロシヤニツキ 書名。一卷。清、張鵬翮撰。康熙二十七年、露支戰爭講和のため露國に使した時、其の往復の事情を詳記したもの。俄羅斯は露西亞。〔說鈴、二冊〕。

【奉祀】69ホウシ 神をまつる。郊廟の祭祀を奉行する。〔左氏、成、十三〕穆公不㆑忘㆓舊德㆒、俾㆘我惠公用能奉㆗祀于晉㆖。〔漢書、南粤王趙佗傳〕歲時奉祀。

【奉祠】70ホウシ ❶神をまつる。〔史記、封禪書〕其在㆓秦中㆒、最小鬼之神者、各以㆓歲時㆒奉祠。〔漢書、郊祀志上〕郡縣遠方祠者、民各自奉祠、不㆑領㆓於天子之祝官㆒。❷宋代、祠祿（8－24676··37）の官を設け、老患疲者の職にたへないものを罷め、宮觀に仕へる職を與へて餘生を送らしめた特典。〔宋史、道學三、朱熹傳〕進不㆑得㆑已、奪㆓仲友江西㆒、新命以授㆑熹、辭不㆑拜、遂歸且乞㆓奉祠㆒。

【奉賜】71ホウシ 俸給と恩賜の物。〔史記、鄭當時傳〕仰㆓奉賜㆒以給㆓諸公㆒、然其餽㆓遺人㆒、不㆑過㆓算器食㆒。

【奉事】72ホウジ 長上につかへる。〔戰國、秦策〕齊女入㆑魏而怨㆓薛公㆒、終以㆑齊奉㆓事王㆒矣。

【奉侍】73ホウジ 長者の御側に事へはべる。〔唐書、魏徵傳〕臣奉㆓侍帷幄㆒十餘年、陛下許㆑臣以㆓仁義之道㆒。

【奉茲】74ホウジ 清、張聲玠（4－9812··1255）の字。

【奉修】75ホウシウ 君命を奉じ行ふ。奉行。〔蜀志、譙周傳〕但奉㆓修先帝所㆑施、下爲㆓子孫節儉之教㆒。

【奉車】76ホウシヤ 官名。漢、武帝置く。三都尉の一。乘輿を御することを掌る。以後、歷朝之を置いたが、唐には副車を馭するを掌り、常置せず。宋、廢す。〔漢書、百官公卿表上〕奉車都尉、掌㆑御㆓乘輿車㆒。〔通典、職官、武官下、三都尉〕奉車・駙馬・騎三都尉、並漢武帝元鼎二年初置、云云、後漢並屬㆓光祿勳㆒、奉朝請無㆑員本不㆑爲㆑官云云、大唐、奉車都尉五員、掌㆑馭㆓副車㆒、不㆓常置㆒。

〘奉車都尉〙77ホウシヤトヰ 奉車の長官。奉車を見よ。

【奉射】78ブシヤ 神事祈禱の爲、社頭で大的を射ること。〔四季草、春草下、奉射〕神事に大的を射て神にたむけ奉るを奉射といふ。

【奉商】79 fêng⁴ shang¹ 御相談申上げます。

【奉將】80ホウシヤウ 命を奉じ行ふ。奉行。〔書、胤征〕奉㆓將天罰㆒。〔傳〕將、行也。

【奉嘗】81ホウシヤウ 新穀を供へてまつる。又、そのまつり。嘗は新穀を供へてまつること、又、そのまつり。祭祠。〔漢書、朱邑傳〕初邑病且㆑死、屬㆓其子㆒曰、我故爲㆓桐鄉吏㆒、其民愛㆑我、必葬㆓我桐鄉㆒、後世子孫奉㆓嘗我㆒、不㆑如㆓桐鄉民㆒。〔注〕師古曰、嘗、謂㆓蒸嘗之祭㆒。

【奉觴】82ホウシヤウ 盃をささげる。盃を差上げる。〔禮、投壺〕當㆑飮者皆跪、奉㆑觴曰、賜灌、勝者跪曰、敬養。〔史記、滑稽傳〕奉㆑觴上㆑壽。〔漢書、東方朔傳〕臣朔奉㆑觴、味死再拜、上㆓萬歲壽㆒。

【奉上】83ホウジヤウ ❶上につかへる。君に忠を致す。〔詩、小雅、吉日、序〕無㆑不㆓自盡以奉㆓其上㆒焉。〔北史、陸馛傳〕奉㆑上接㆑下、行止取與。〔清會典、內閣〕肫誠翊贊曰㆑忠、危㆑身奉㆑上曰㆑忠、慈惠愛㆑親曰㆑孝、大慮行㆑節曰㆑孝。❷ fêng⁴ shang⁴ 差上げる。拜呈する。進上する。

【奉城】84ホウジヤウ 城の名。湖北省江陵縣の南。卽ち江津戍。太平寰宇記は訛つて蚌城に作る。〔水經、江水注〕洲上有㆓奉城㆒、云云、謂㆓之奉城㆒、亦曰㆓江津戍㆒也。

【奉常】85ホウジヤウ 官名。秦の九卿の一。宗廟禮儀を掌り、周官の宗伯に當る。漢には太常と改め、以後、清に至るまでこの稱を用ふ。但、唐の龍朔年中、奉常と稱した。太常（3－5834··260）の❶を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕奉常、秦官、掌㆓宗廟禮儀㆒、有㆑丞、景帝中六年、更名㆓太常㆒。〔注〕師古曰、太常、王者旌旗也、畫㆓日月㆒焉、王有㆓大事㆒、

則建以行㆑禮、官主奉㆓持之㆒、故曰㆓奉常㆒也。〔新書、輔佐〕奉常典㆑天、以掌㆓宗廟社稷之祀㆒。〔舊唐書、職官志一〕龍朔二年、太常爲㆓奉常㆒、卿並爲㆓正卿㆒、咸亨元年詔、依㆑舊。〔書言故事大全、卿監類〕禮官曰㆓奉常・大常㆒。

〔奉常大夫〕86 ホウジヤウタイフ　太常少卿をいふ。唐の龍朔年中、太常を奉常と改め、少卿を大夫と稱した。〔唐書、百官志三〕太常寺、卿一人、正三品、少卿二人、正四品上、掌㆓禮樂郊廟社稷之事㆒。〔注〕龍朔二年、改㆓太常寺㆒曰㆓奉常寺㆒、九寺卿皆曰㆓正卿㆒、少卿曰㆓大夫㆒、武后光宅元年、復改㆓太常寺㆒曰㆓司禮寺㆒。

【奉若】87 ホウジヤク　受けしたがふ。奉順。〔書、説命中〕明王奉㆓若天道㆒、建㆑邦設㆑都。〔蔡傳〕明王奉㆓順天道㆒、建㆑邦設㆑都。

【奉手】88 ホウシユ　長者の手をうける。奉順。捧手。〔禮、曲禮上〕長者與㆑之提攜、則兩手奉㆓長者之手㆒。

【奉守】89 ホウシユ　奉じ守る。〔史記、外戚世家〕會稽郡置㆓園邑三百家㆒、長丞已下吏奉㆓守家㆒。

【奉叔】90 ホウシユク　梁、王亮(**7－20823**··1067)の字。

【奉祝】91 ホウシユク　祝ひ奉る。

【奉准】92 ホウジユン　奉到(130)に同じ。

【奉循】93 ホウジユン　奉順に同じ。〔漢書、郊祀志下〕今皇帝寬仁孝順、奉㆓循聖緒㆒、靡㆑有㆓大愆㆒。

【奉順】94 ホウジユン　まもりしたがふ。奉循。奉遵。〔戰國、燕策〕寡人不佞、不㆑能㆔奉㆓順君意㆒、故君捐㆑國而去、則寡人之不肖明矣。〔漢書、哀帝紀〕奉㆓順神祇㆒。〔新序、雜事三〕不㆑能㆔奉㆓順君志㆒。

【奉詢】95 fêng^4 hsün^2　お尋ね致します。御問合せ。

【奉遵】96 ホウジユン　まもりしたがふ。奉順。〔後漢書、光武紀下〕奉㆓遵法度㆒。〔魏志、管寧傳〕奉㆓遵明訓㆒。

【奉書】97 ホウシヨ　㊀君上の文書をささげ攜へること。〔周禮、夏官、虎賁氏〕奉㆑書以使㆓於四方㆒。㊁室町時代、將軍の命を受けて奉行などから下した文書。〔東鑑、三十四〕仁治二年六月十一日、自㆑今以後、不㆑可㆔申㆓成御教書㆒、以㆓奉行人奉書㆒、可㆑加㆓下知㆒。㊂室町時代、奉行所から出す下知狀の異稱。〔簡禮記、四、御下知法式〕御下知之事、奉行所より書出す狀也、是れを奉書とも云ふ。㊃江戸時代、將軍の命を奉じて老中の下す文書。〔教令類纂、初、三十九〕寬永十一年三月三日、奉書判形之事。㊄奉書紙の略。〔紙譜〕奉書類、越前より出づる所。㊅奉書足袋の略。〔正月揃、五、紙屋正月〕奉書のもみ足袋。㊆奉書紬の略。

〔奉書紙〕98 ホウシヨガミ　檀紙の一種。上等の楮皮を原料とし、白米の粉末を加へてつくる。大判で色白く、質柔く、おもに儀式上の文書を書くに用ひる。

〔奉書紬〕99 ホウシヨツムギ　羽二重に似た精良の絹織物。奉書紙のやうに純白であるからいふ。

〔奉書足袋〕100 ホウシヨタビ　奉書紙で作った足袋。元祿頃、吉原通ひに用ひたもの。〔柳亭記〕吉原へ通ふ者は奉書足袋といふをはきたり。

【奉承】101 ホウシヨウ　㊀丁寧に受ける。恭しくおうけする。奉受。〔禮、祭義〕奉承而進㆑之。〔中庸〕使㆔天下之人、齊明盛服、以承㆓祭祀㆒。〔章句〕使㆓人畏敬奉承㆒。〔左氏、昭、七〕奉承以來、弗㆓敢失隕㆒。〔戰國、燕策〕臣不佞、不㆑能㆘奉㆓承先王之教㆒、以順㆗左右之心㆖。〔漢書、郊祀志下〕奉㆓承聖業㆒、靡㆑有㆓解怠㆒。〔通俗編、交際、奉承〕按、諸皆奉㆑禮奉㆑法之謂、而世以㆔趨㆓奉尊貴㆒言㆑之、謬矣。㊁つかへる。侍奉。〔墨子、兼愛下〕奉㆓承親戚㆒。㊂fêng^4 ch'êng^2　手厚くする。こびへつらふ。

【奉職】102 ホウシヨク　職を奉ずる。官職を勤めること。〔史記、循吏傳序〕奉㆑職循㆑理、亦可㆓以爲㆑治、何必威嚴哉。〔漢書、叔孫通傳〕吏人人奉職、四方輻輳。

【奉信】103 ホウシン　後晉、石敬威(**8－24024**··920)の字。

【奉新】104 ホウシン　縣名。五代南唐、置く。漢の海昏縣、後漢の新吳縣の地。江西省南昌市の西。〔讀史方輿紀要、江西、南昌府〕奉新縣、府西百二十里、南至㆓瑞州府㆒九十里、西北至㆓靖安縣㆒五十里、漢豫章郡海昏縣地、後漢中平中、分㆓置新吳縣㆒、三國吳及晉宋以後因㆑之、云云、南唐昇元元年、改㆓今名㆒。〔清史稿、地理志〕江西、南昌府、縣七、奉新。

【奉仁】105 ホウジン　南朝宋、向靖(**2－3301**··57)の字。

【奉世】106 ホウセイ　宋、李承之(**6－14459**··1495)の字。

【奉制】107 ホウセイ　みことのりを受ける。〔論衡、率性〕陸賈説以㆓漢德㆒、懼以㆓聖威㆒、蹶然起坐、心覺㆓改悔㆒、奉㆑制稱㆑蕃。

【奉盛】108 ホウセイ　器に盛った黍稷をささげもつ。〔左氏、桓、六〕奉㆑盛以告曰、絜粢豐盛、謂㆓其三時不㆑害、而民和年豐㆒也。

【奉聖】109 ホウセイ　陳、歐陽紇(**6－16185**··68)の字。

〔奉聖夫人〕110 ホウセイフジン　明、熹宗の乳媼、客氏(**3－7128**··61)の封號。〔明史、熹宗紀〕封㆓乳保客氏㆒、爲㆓奉聖夫人㆒。

【奉誠】111 ホウセイ　陳、任忠(**1－416**··144)の字。

【奉請】112 fêng^4 ch'ing^3　お招きいたします。

【奉擾】113 fêng^4 jao^3　お邪魔しました。御面倒をかけました。

【奉節】114 ホウセツ　縣名。唐、置く。春秋時代の魚邑。漢の魚復縣の地。今、四川省雲陽縣の東。地は長江の北岸に臨み、交通の要衝に當り、三峽の西口を扼して全蜀最要の門戶たり。城は山に依つて築き、二百餘級の石段を登つて始めて城門に達する。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕奉節縣、附郭、秦置㆓魚復縣㆒屬㆓巴郡㆒、漢因㆑之、江關都尉治焉、後漢亦曰㆓魚復縣㆒、云云、唐初亦曰㆓人復縣㆒、夔州治焉、貞觀二十三年、改曰㆓奉節縣㆒、宋因㆑之。〔清史稿、地理志〕四川、夔州府、縣六、奉節。

【奉捷】115 ホウセフ　縣名。漢、置く。甘肅省清水縣境。〔漢書、地理志下〕天水郡、縣十六、奉捷。

【奉先】116 ホウセン　㊀宋代の近衞兵の名。〔事物起原、軍伍名額部、奉先〕大中祥符四年五月、眞宗宣㆓示永安指揮㆒以奉㆓諸陵㆒、軍額猶隷㆓西京㆒、本城廂軍、可㆘賜㆓名奉先㆒、陞爲㆗禁軍㆖。㊁先祖の德業を受け守る。又、先祖を祭ること。奉祖。〔書、太甲中〕奉㆑先思㆑孝、接㆑下思㆑恭。〔傳〕以㆑念㆓祖德㆒爲㆑孝。〔李涪、刊誤〕事㆑生尚擇㆓其人㆒、奉㆑先尤宜㆑盡㆑敬。〔盧琦、中元家祭詩〕七月十五月正圓、中元遺俗知㆑奉㆑先。㊂宮殿の名。清の順治十四年、景雲門の東に建つ。〔清會典事例、工部、宮殿〕順治十四年、敕建㆓奉先殿前後殿㆒、各七楹。〔北京指南、地理、故宮志〕奉先殿、殿東夾㆑道、卽蒼震門前直街也、街東爲㆓甯壽宮㆒。㊃縣名。㋑唐の時、蒲城を奉先と稱した。今、陝西省蒲城縣治。〔讀史方輿紀要、陝西、華州〕蒲城縣、州北百二十里、漢重泉縣地、云云、開元四年、改爲㆓奉先縣㆒、屬㆓京兆府㆒、天祐中、復屬㆓同州㆒、五代時、屬㆓京兆㆒、宋初、屬㆓同州㆒、開寶四年、復爲㆓蒲城縣㆒、縣改屬㆓華州㆒、今城周八里有奇、編戶六七十里。㋺遼、置く。故治は滿洲遼寧省北鎭縣の東南。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、廣寧衞〕無慮城、今衞治、本漢之無慮縣、屬㆓遼東郡㆒、云云、遼置㆓奉先縣㆒、爲㆓顯州治㆒。㊇金、萬寧縣を置き、後に奉先と改む。元の房山縣。今の河北省房山縣治。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、涿州〕房山縣、州西北四十里、本良鄕・宛平・范陽三縣地、云云、明昌二年改爲㆓奉先縣㆒、元至元二十七年改爲㆓房山縣㆒、屬㆓涿州㆒。㊄字號。㋑後漢、呂布(**2－3386**··134)の字。㋺唐、孔祖舜(**3－6933**··339)の字。

【奉宣】117 ホウセン　ささげのべる。うけのべる。〔漢書、循吏、黃霸傳〕吏不㆓奉宣㆒。〔後漢書、循吏、王渙傳〕奉㆓宣詔書㆒。

【奉倩】118 ホウセン　三國魏、荀粲(**9－30929**··31)の字。

【奉錢】119 ホウセン　人の旅行費をたすける錢。餞別。〔史記、蕭相國世家〕高祖以㆑吏繇㆓咸陽㆒、吏皆送㆓奉錢三㆒、何獨以㆑五。〔注〕索隱曰、奉、音扶用反、謂㆔資㆓俸之㆒、如㆑字讀、謂㆔奉㆓送之㆒也。〔漢書、蕭何傳、注〕師古曰、出㆑錢以資㆑行也、人皆三百、何獨五百。

【奉膳】120 ホウゼン　膳をすすめる。〔周禮、天官、膳夫〕王燕食則奉㆑膳、贊㆑祭。〔注〕奉膳、奉㆓朝之餘膳㆒。

【奉祖】121 ホウソ　祖先に事へる。奉先。〔後漢書、西羌傳〕臣聞、子孫以㆑奉㆑祖爲㆑孝。「字。

【奉宗】122 ホウソウ　三國蜀、陳祇(**11－41698**··294)の字。

【奉奏】123 ホウソウ　申し上げる。〔後漢書、和帝紀〕北單于遣㆓弟右溫禺鞮王㆒奉奏貢獻。

【奉送】124 ホウソウ　㊀貴人を見送る敬語。〔白虎通、崩薨〕故分爲㆓三部㆒、有㆓始死先奔者㆒、有㆘得㆔中來盡㆓其哀㆒者㆖、有㆘得㆔會喪奉㆓送君㆒者㆖。㊁fêng^4 sung^4　㋑差上げる。進呈する。㋺御發送。御送附。

【奉粟】125 ホウゾク 俸祿としてもらふ米。ふち米。〔史記、孔子世家〕奉粟六萬、衛人亦致二粟六萬一。

【奉率】126 ホウソツ うけひきゐる。又、うけついで行ふ。〔墨子、非攻下〕湯乃敢奉二率其衆一。〔晉書、武帝紀〕欲レ令下奉二率德義一、爲中天下式上。

【奉尊】127 ホウソン 尊ぶの敬語。〔新書、淮難〕奉二尊罪人之子一。

【奉戴】128 ホウタイ いただくの敬語。つかへいただく。〔左氏、襄、二十五〕我又與二蔡人一奉二戴厲公一。〔注〕奉戴、猶二奉事一。

【奉體】129 ホウタイ 上意を承けて行ふ。恭しく身に行ふ。

【奉到】130 ホウタウ 上からの文書などを接手すること。受領する。奉准。〔清會典、稽査欽奉上諭事件處〕八旗事件、毎二十日一將三奉二到上諭一、彙送一次。〔福惠全書、蒞任部、設内外號簿〕某月某日、奉二到某衙門某字號公文一角一。

【奉託】131 ホウタク おたのみする。依賴する。〔前定錄〕少間有二以奉託一、幸至二逆旅一。

【奉達】132 fêng⁴ ta² 奉致(135)に同じ。

【奉答】133 ホウタフ つつしんでこたへる。我が國では從來皇室にのみ用ひた。〔書、洛誥〕奉二答天命一。〔陸厥、奉二答内兄希叔一詩〕嘉惠承二帝子一、躧履奉二王孫一。

【奉地】134 ホウチ 納貢の地。〔新書、益壤〕此終非レ可三久以爲二奉地一也。

【奉致】135 fêng⁴ chih⁴ まうし上げる。御知らせする。奉達。

【奉墀】136 ホウチ 清、李超孫(6－14459・・1790)の字。

【奉持】137 ホウヂ ささげもつ。捧持。〔論衡、命祿〕命祿不レ能二奉持一、猶二器之盈レ量、手之持レ重也。

【奉茶】138 fêng⁴ ch'a² 客に茶を進める。

【奉敕】139 ホウチョク 勅命をうける。奉詔。〔任昉、奉三答敕示二七夕詩一啓〕臣昉啓、奉敕、幷賜レ示二七夕五韻一。

【奉追】140 ホウツイ 命を奉じて追捕する。〔剪燈新話、令狐生冥夢錄〕徑至二其前一、曰、地府奉追、譔大驚。

【奉呈】141 ホウテイ さしあげる。獻上する。奉獻。〔清國行政法汎論、刑部、職權〕皇帝下二附各省奉呈之擬律案於刑部一。

【奉趙】142 ホウテウ 返却する。借りたものを本人にかへす。趙の藺相如が璧を完うして趙に歸つた故事。反璧(**2**－3127・・245)・完レ璧歸レ趙(**7**－21269・・56)を見よ。〔戒菴漫筆〕。

【奉天】143 ホウテン ㊀天を奉ずる。天命にしたがふ。〔書、泰誓中〕惟天惠レ民、惟辟奉レ天。〔傳〕言、君二天下一者、當三奉レ天以愛二レ民。〔漢書、匡衡傳〕奉レ天承レ親。〔論衡、雷虛〕天人相違、非二奉レ天之義一也。㊁省名。清、置く。古の青・幽二州の地域で、戰國の燕、漢の遼東・遼西・玄菟、三郡の地。晉には慕容氏・馮氏、之に據り、後、高句麗に入る。唐には渤海に入り、五代及び宋には契丹に入り、東京・南京の地となる。後、女眞・蒙古に入る。明初、遼東都指揮使司に屬し、清の天命七年、東京を遼陽に建てたが、十年、瀋陽に遷し、天聰五年、盛京とす。順治十四年、奉天府府尹を置く。光緒三十一年、府尹を廢し、三十三年、將軍を廢して巡撫を設け、省名を改めて奉天といひ、並びに東三省總督を設けて之に駐在せしむ。光緒三十三年以後、省の規模大いに備はつた。現在、遼寧省。㊂府名。㋑清、置く。清の太祖、遼陽より此に遷都して盛京といふ。盛京將軍に隸屬す。金州廳、及び遼陽・復の二州、承德・撫順・開原・鐵嶺・海城・蓋平・遼中・本溪の八縣を管轄す。治は承德縣。今の滿州遼寧省瀋陽市。清の光緒二十九年、米支通商條約により、開放して商埠とす。〔清史稿、地理志〕奉天、奉天府、領二廳一・州二・縣八一、承德、遼陽州、復州、撫順、開原、鐵嶺、海城、蓋平、遼中、本溪、金州廳。㋺清、置く。今、湖南省武岡縣。〔小腆紀年考〕。㊃縣名。唐、置く。故城は陝西省乾縣。唐の德宗、難を此に避く。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、乾州〕奉天廢縣、在二州治東一、漢爲二池陽縣地一、後魏爲二甯尼縣地一、隋爲二醴泉縣地一、唐初因レ之、高宗葬二梁山一謂二之乾陵一、文明元年、因レ析二醴泉好時等地一置レ縣、曰二奉天一。㊄市名。民國十二年奉天市を設け、奉天市政公所を置いたが、後瀋陽市と改名。滿州國また之を奉天市とした。現在、瀋(沈)陽市。遼寧省の中偏西部に位し、長大、沈山、沈吉三人鐵路の接衝點に當り渾河の北沿に在る。東北工業地區の中心、全國屈指の大工業都市。

【奉天皇帝】144 ホウテンクワウテイ 唐の玄宗の子、李琮(**6**－**14459**・・539)の追謚。

【奉天承運】145 ホウテンショウウン 清代、詔書に用ひた文字。天命にしたがひ、帝運を承ける意。〔野獲編〕太祖奉天二字、千古獨見、故祖訓中云、皇帝所レ執大圭上、鏤二奉天法祖四字一、臣下誥敕命中、必首云二奉天承運皇帝一。〔清國行政法汎論、皇室、敬稱〕又皇帝稱レ朕之外、更有二奉天承運皇帝字樣一、皇帝獨用二之於皇太后萬壽節之恩詔、及殿試策題之冒頭等一。

【奉天承運皇帝】145′ ホウテンショウウンクワウテイ 清代、詔書に用ひた皇帝の自稱。奉天承運を見よ。

【奉奠】146 ホウテン 謹んでささげ物をする。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕其日、至尊親奉二奠某皇帝一。

【奉頭】147 ホウトウ 頭をかかへる。奉頭鼠竄を見よ。

【奉頭鼠竄】148 ホウトウソザン 頭をかかへてこそこそと逃げかくれる。今、抱頭鼠竄に作る。〔漢書、蒯通傳〕始常山王成安君、故相與爲二刎頸之交一、及レ爭二張黶陳釋之事一、常山王奉頭鼠竄、以歸二漢王一。〔宋史、宦者三、方臘傳〕及レ臨レ事、乃蓄縮畏懾、奉頭鼠竄、何面目復見二天子一乎。〔宣和遺事、後集〕但要二奉頭鼠竄一。

【奉讀】149 ホウドク つつしんで讀む。〔吳質、答二魏太子一牋〕二月八日庚寅、臣質言、奉二讀手命一。

【奉納】150 ホウナフ 神社佛閣等に金品を寄附すること。〔源平盛衰記、十六、圓滿院大輔登山事〕法華の千部を奉納せり。

【奉納試合】151 ホウナフジアヒ 神佛の祭禮などに、諸人に縱覽させる爲に行ふ武術試合。

【奉陪】152 fêng⁴ p'ei² 天子又は貴人のお供をする。〔桃花扇、修札〕老漢無事、便好奉陪。

【奉訪】153 fêng⁴ fang³ お訪ね申し上げる。

【奉髮】154 ホウハツ つやのある美しい毛髮。奉は一に秦に作る。秦は螓首（ナツゼミ）で、髮が螓首の幼蟲の蠐螬に似るからいふ。〔史記、太倉公傳〕其尺索刺麤、而毛美奉髮。〔注〕集解曰、徐廣曰、奉、一作レ奏、又作レ秦、索隱曰、一作レ秦、秦、謂二螓首一、言三髮如二蠐螬一。〔評林〕按、毛美奉髮、卽下色澤也。

【奉法】155 ホウハフ 法にしたがひまもる。〔韓非子、飾邪〕當下燕之方明奉レ法、審二官斷一之時上、東縣二齊國一、南盡二中山之地一。

【奉煩】156 ホウハン 御面倒をかける。〔通俗編、交際、奉煩〕白居易和二元微之一詩序云、微之以二近作四十三首一命二和題一曰、奉煩只此一度、幸勿レ見レ辭。

【奉攀】157 ホウハン 御案内申し上げる。〔桃花扇、訪翠〕擇二定吉期一、賤妾就要二奉攀一了。

【奉布】158 fêng⁴ pu⁴ 申し陳べる。

【奉符】159 ホウフ 縣名。宋、置く。古の博縣の地。唐、乾封縣となし、岱嶽鎭といふ。今、山東省泰安縣の東南。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、泰安州〕奉符廢縣、今州治、春秋時、齊之博邑也、云云、唐初置二東泰州一、尋還屬二兗州一、乾封初、改爲二乾封縣一、總章初、復曰二博城一、神龍初、又爲二乾封一、宋開寶五年、移二縣治岱岳鎭一、卽今州治也、大中祥符初、改レ縣曰二奉符一、又築二新城一、在二今州東南三里一、而以二岱岳鎭一爲二舊鎭城一。

【奉復】160 fêng⁴ fu⁴ 御返事申し上げます。

【奉聞】161 fêng⁴ wen² お知らせ致します。お耳に入れる。

【奉幣】162 ホウヘイ 幣物を獻上する。〔漢書、公孫弘傳〕莫レ不二說レ義奉レ幣而來朝一、此和之極也。

【奉幣使】163 ホウヘイシ 天皇が神に幣帛を奉る時、命を承けて其の社に使する勅使。

【奉命】164 ホウメイ 命令をうける。〔清會典、禮部〕皇子奉レ命謁レ陵、素服、至二下馬牌處一下馬。

【奉明】165 ホウメイ 縣名。漢、置く。故治は陝西省長安縣の北。〔漢書、地理志上〕京兆尹、縣十二、奉明。〔注〕宣帝置也。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、長安縣、杜陵城〕奉明城、在二故長安城東一、漢宣帝置レ縣、屬二京兆一。

【奉問】166 ホウモン つつしんでうかがひたづねる。〔漢書、哀帝紀〕臣願且得レ留二國邸一、旦夕奉二問起居一。

【奉揚】167 ホウヤウ つつしんで宣揚する。〔新書、禮容語下〕奉二揚武王之德一。〔晉書、袁宏傳〕出爲二東陽郡一、云云、取二一扇一而授レ之曰、聊以贈行、宏應レ聲答曰、輒當下奉二揚仁風一、慰中彼黎庶上。

【奉陽】168 ホウヤウ 戰國、趙の人。肅侯の弟。〔荀子、臣

道〕趙之奉陽、齊之孟嘗。

【奉養】169（ホウヤウ） ❶父母又は目うへの人に事へて之をやしなふ。〔戰國、西周策〕君何不レ買二信貨一哉、奉養無レ有レ愛二於最一也、使二天下見一レ之。〔列子、楊朱〕奉養之餘、先散二之宗族一。〔管子、形勢解〕主惠而不レ解、則民奉養。〔史記、平準書〕皆各爲二私奉養一焉。〔漢書、文帝紀〕百官之奉養。〔漢書、宣帝紀〕奉養甚謹。❷飲食起居をいふ。〔史記、齊太公世家〕令三其秩服奉養比二太子一。

【奉諭】170（ホウユ） 諭示を奉ずる。訓諭を守る。〔清會典事例、禮部、大祀、孟春〕雍正年閒恭奉二皇考聖諭一、飭二禮臣一定議。

【奉翼】171（ホウヨク） たすける。〔逸周書、太子晉解〕以利二天下一、奉二翼遠人一。

【奉立】172（ホウリツ） 立てることの敬語。位に立てる。〔日本政記、後土御門天皇論〕以二八歲童子一、爲三諸將所二奉立一。

【奉陵】173（ホウリョウ） 縣名。遼、乾州廣德軍を置き、又奉陵縣を置いて州治とす。金、州を廢し、縣を改めて閭陽といふ。今、滿洲遼寧省義縣の東境。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、廣寧衞、鍾秀城〕閭陽城、在二衞西南三十五里一、漢無慮縣地、遼景宗賢葬レ此、謂二之乾陵一、因置二乾州廣德軍一、幷置二奉陵縣一爲二州治一、金天會八年、州廢、更二縣名一曰二閭陽一、屬二廣寧府一。

【奉祿】174（ホウロク） ふち。ろく。秩祿。俸祿（**1－734‥32**）に同じ。〔史記、平津侯傳〕弘位在二三公一、奉祿甚多。〔漢書、公孫弘傳〕奉祿甚多。〔說苑、政理〕奉祿少、鬻鬻不レ足レ及二親戚一。〔後漢書、伏湛傳〕悉分二奉祿一、以賑二鄕里一。

【奉和】175（ホウワ） 貴人の詩句に和韻すること。〔宋之問、奉三和幸二長安故城未央宮一應制詩〕漢王未レ息レ戰、蕭相乃營レ宮。〔蘇頲、奉三和春日幸二望春宮一應制詩〕東望二望春一春可レ憐、更逢二晴日一柳含レ烟。

【奉恩公】176（ホウオンコウ） 清代、皇族の封爵の名。十二等のうち、奉恩の二字を冠するものは奉恩鎭國公と奉恩輔國公との二公、及び奉恩將軍である。〔清會典、宗人府〕凡宗室封爵之等十有二、曰二和碩親王一、曰二多羅郡王一、曰二多羅貝勒一、曰二固山貝子一、曰二奉恩鎭國公一、曰二奉恩輔國公一、曰二不入八分鎭國公一、曰二不入八分輔國公一、曰二鎭國將軍一、曰二輔國將軍一、曰二奉國將軍一、曰二奉恩將軍一。

【奉字軍】177（ホウジグン） 清代、綠營の一部隊。奉天將軍の部下に屬す。〔清會典、兵部〕。

【奉春君】178（ホウシュンクン） 漢、婁敬の號。劉敬（**2－2224‥233**）を見よ。〔漢書、婁敬傳〕賜二姓劉氏一、拜爲二郎中一、號曰二奉春君一。

【奉宸苑】179（ホウシンエン） 清代、官署の名。內務府の一課。御苑の禁令を掌る。總理大臣・卿二人・郎中二人・員外郎四人・主事一人を置く。〔清會典、內務府〕奉宸苑、總理大臣、卿二人、掌二苑囿之禁令一。

【奉宸庫】180（ホウシンコ） 宋代、倉庫の名。もと五庫であつたが、仁宗の康定元年、合して一庫となして此の名を附す。〔宋史、食貨志上六〕秋成官爲二理償一、又不レ足則出二內藏或奉宸庫金帛一。〔事物紀原、京邑館閣部、奉宸庫〕宋朝會要曰、舊五庫、一宜聖殿、二穆清殿、三崇聖殿、四受二納眞珠一、五樂器、康定元年九月、合爲二一庫一、改名二奉宸庫一也。

【奉宸府】181（ホウシンフ） 官署の名。唐の武后、控鶴府を置き、幸臣、張易之を命じて監としたが、後、更めて奉宸府といふ。〔唐書、張易之傳〕聖曆二年、始置二控鶴府一、拜二易之一爲レ監、久之更號二奉宸府一、以二易之一爲レ令。

【奉朝請】182（ホウテウセイ） 朝廷で儀式を行ふ時、臨時に任命する官。漢代は多く外戚及び將軍・公卿・列侯等を以てし、朝會の請召を奉ずることを掌る。晉以後、奉車・駙馬・騎三都尉を以てし、南朝に及んで六百人の多數に至る。隋に至り、之をやめて朝請大夫・朝請郎を置き、文散官となし、歷朝之に從つたが、清に至つて廢す。〔晉書、職官志〕奉朝請、本不レ爲レ官、無レ員、漢東京罷二三公外戚宗室諸侯一、多レ奉二朝請一、奉二朝請一者、奉二朝會請召一而已、武帝亦以二宗室外戚一爲二奉車駙馬騎三都尉一、而奉二朝請一焉。〔世說新語、德行下〕王僕射、子恢之、被レ召爲二祕書郎一、僕射爲求二奉朝請一、語二恢之一曰、祕書有レ限、故有レ競、朝請無レ限、故無レ競、吾欲レ使三汝處二不競之地一、太祖嘉而許レ之。

【奉冕局】183（ホウベンキョク） 官名。唐代、尙衣局を改めていふ。〔唐書、百官志二〕尙衣局、奉御二人、直長四人、掌レ供二冕服几案一。〔注〕龍朔二年改二尙衣局一曰二奉冕局一。

【奉禮郎】184（ホウレイラウ） 官名。禮式の幇助を掌る。漢代には治禮郎と稱し、唐の高宗の永徽二年に至り始めて奉禮郎といふ。北齊及び隋に奉禮といふは唐代から遡つて稱したもの。尙、唐代には治を諱んで理といふ。板位を設け、儀を執り、事を行ふを掌る。宋・元、之に依り、明・清には贊禮郎といふ。清末、廢す。〔通典、職官、諸卿上、太常卿〕奉禮郎、漢大鴻臚有二理禮郎四十七人一、晉理禮郎四人、屬二大行令一、後魏理禮郎四人、北齊有二奉禮郎三十人一、屬二鴻臚寺之司儀署一、後周有二理禮中士下士各一人一、隋有二奉禮郎十六人一、屬二太常寺一、煬帝減二置六人一、大唐初有二理禮郎四員一、掌下設二板位一、執二儀禮一行上レ事、至二永徽二年一、以二廟諱一改爲二奉禮郎一、開元二十三年減二二員一。〔事物紀原、九寺卿少部、奉禮郎〕漢大鴻臚有二治禮郎一、蓋設レ官之始也、按二通典一、歷代皆爲二治禮郎一、唐初亦有レ掌下設二板位一執レ儀行上レ事、永徽二年、以レ諱改爲二奉禮一、杜佑云、奉禮、本名二治禮一、國家撰二五代史志一、至二永徽七年一乃成、於レ時此官已改、故北齊及隋治禮、皆爲二奉禮一、奉禮之名、雖レ見二於史一、其改始レ自二永徽一。

【奉醫大夫】185（ホウイタイフ） 官名。唐代、奉御を改めていふ。〔唐六典、殿中省、尙藥局〕尙藥局、奉御二人、正四品下。〔注〕龍朔二年改二奉御一爲二奉醫大夫一、咸亨元年復レ舊。

【奉恩將軍】186（ホウオンシャウグン） 清代、宗室封爵十二等の第十二位。奉國將軍の次に位し、封爵の最下級。奉恩公（176）を見よ。

【奉海鐵路】187（ホウカイテツロ） 鐵道の名。奉天から起り、西豐・西安・東豐縣を經て海龍縣に至る。

【奉吉鐵路】188（ホウキツテツロ） 鐵道の名。奉天から撫順・興京・柳河・海龍等の縣を經て吉林に至る。

【奉政大夫】189（ホウセイタイフ） 官名。金、置く。文職。正六品。元は正五品とし、明・清も亦、之に依る。〔續文獻通考、職官考、金文散官〕正六品正曰二奉政大夫一、下曰二奉議大夫一。

【奉直大夫】190（ホウチョクタイフ） 官名。宋、置く。文散官。元・明・清は皆文職、從五品。〔文獻通考、職官考、文散官〕奉直大夫、古無二此階一、宋大觀閒新置。

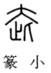
【奉恩鎭國公】191（ホウオンチンコクコウ） 清代、宗室封爵十二等の第五位。奉恩公（176）を見よ。

【奉恩輔國公】192（ホウオンホコクコウ） 清代、宗室封爵十二等の第六位。奉恩公（176）を見よ。

【奒】5895

㈠カイ 〔集韻〕許介切 [卦]

㈡シ 〔集韻〕淺氏切 [紙]



小篆

㈠❶**怒つて出すおほごゑ。**〔說文〕奒、瞋大聲也、从レ大此聲。❷或は⿱此大（**3－5896**）に作る。㈡**まつすぐで大きい。**⿱此大（**3－5896**）に同じ。〔集韻〕⿱此大、直大也、或書作レ奒。

【⿱此大】5896

カイ・シ

奒（**3－5895**）に同じ。〔集韻〕奒、或書作レ⿱此大。⿱此大、或書作レ奒。

【⿱吅大】5897

グン

軍（**10－38179**）の古字。〔集韻〕軍、古作レ⿱吅大。

【⿱屮介】5898

ゴ

吳（**2－3365**）の古字。〔說文〕吳、⿱屮介、古文如レ此。

【⿱廾大】5899

ゴ

吳（**2－3365**）の古字。〔集韻〕吳、古作レ⿱廾大。

【奋】5900

㈠カウ 〔篇海類編〕古朗切 [養]

㈡ホン 〔篇海類編〕音本

㈠㈡**鹽の出る澤。**〔篇海類編〕奋、鹽澤也。

【奃】5901 テイ　夽(3-5876)に同じ。〔篇海類編〕奃、同レ夽。

【臭】5902 カウ　臭(3-5889)の譌字。〔康熙字典〕臭、按、卽臭字之譌。

【泰】5903 ハウ　義未詳。〔海篇〕泰、音滂。

【盇】5904 バン　義未詳。〔海篇〕盇、音盤。

【奕】5905 タウ　套(3-5926)に同じ。〔字彙補〕奕、同レ套。

【架】5906 カ　義未詳。〔龍龕手鑑〕架、音加。

【夸】5907 クワ　夸(3-5854)の俗字。〔正字通〕夸、俗作レ夸。

【奌】5908 テン　點(12-48083)の略字。

六畫

【奊】5909
[一]ケツ ゲチ　〔集韻〕奚結切　屑
[二]レツ レチ　〔集韻〕力結切　屑
[三]ヘイ ベ　〔集韻〕扶畦切　齊

奊（小篆）　[一]❶**頭の形がまがつて正しくない。**〔說文〕奊、頭衺骫奊態也、从レ矢圭聲。❷**操がない。**奊詬。〔漢書、賈誼傳〕奊詬亡レ節。〔注〕師古曰、奊詬、謂レ無二志分一也。〔王先謙補注〕劉台拱曰、奊、本作レ謑、古字省耳、說文、謑、恥也、謑、或从レ奊、廣雅、謑詬、恥也。[二]❶**頭の形がまがつて正しくない。**奊莫。[一]の❶に同じ。〔集韻〕奊、奊莫、頭衺態。❷**節が多い。**〔集韻〕奊、一曰、多二節目一也。❸或は类(8-26876)に作る。〔集韻〕奊、或作レ类。[三]**頭を傾けてしなを作る。**〔集韻〕奊、傾レ頭作レ態也。

【奆】5910
[一]クワン グワン　〔集韻〕胡官切　寒
[二]カン ガン　〔集韻〕河干切　寒
[三]エン ヲン　〔集韻〕雨阮切　阮
[四]ケン クワン　〔集韻〕火遠切　阮

奆（小篆）　[一][二][三][四]❶**おごる。**〔說文〕奆、奢奆也、从レ大亘聲。❷**おほきい。**〔集韻〕奆、大也。❸**おほきい口。**〔玉篇〕奆、大口也。

【奎】5911
[一]ケイ ケ　〔集韻〕傾畦切　齊　ㄎㄨㄟˊ　k'uei²
[二]キ　〔集韻〕苦委切　紙

奎（小篆）　[一]❶**また。**またぐら。兩髀の閒。〔說文〕奎、兩髀之閒、从レ大圭聲。〔段注〕兩髀之閒、人身寬闊處、故从レ大。❷**星宿の名。**二十八宿の一。西方の十六星をいふ。文章を主る。一說に、武庫或は溝瀆を主る。〔史記、天官書〕奎曰二封豕一、爲二溝瀆一。〔注〕正義曰、奎、天之府庫、一曰二天豕一、亦曰二封豕一、主二溝瀆一。〔漢書、天文志〕西方十六星、象二兩髀一、故亦曰レ奎。〔後漢書、蘇竟傳〕奎爲二毒螫一、主二庫兵一。〔注〕春秋合誠圖曰、奎主二武庫之兵一也。〔初學記、二十一〕孝經援神契曰、奎主二文章一、宋均注曰、奎星、屈曲相鉤、似二文章之畫一。[二]❶**足を開いて行くさま。**奎踽。〔張衡、西京賦〕袒裼戟レ手、奎踽盤桓。〔注〕綜曰、奎踽、開レ足也。❷跬(10-37699)に同じ。〔集韻〕跬、跬踵、開レ足皃、或省。

【奎運】1 ケイウン　文運。奎は西方の星宿の十六星で文章を主るから、轉じて、文運をいふ。字解[一]の❷を見よ。

【奎翰】2 ケイカン　かきもの。瓊翰。

【奎踽】3 ケイク　足を開いて行くさま。〔張衡、西京賦〕袒裼戟レ手、奎踽盤桓。〔注〕綜曰、奎踽、開レ足也。

【奎光】4 ケイクワウ　❶學問が博く光のあること。字解[一]の❷及び奎運を見よ。〔琵琶記、高堂稱レ慶〕子雲識レ字浪傳レ名、奎光已透三千丈。❷清、程貞白(8-25081・・263)の字。

【奎光堂】5 ケイクワウダウ　明、詹鳳翔(10-35458・・67)の室名。

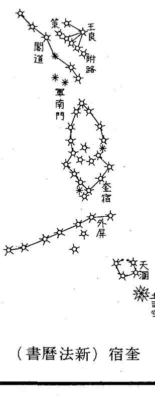
【奎畫】6 ケイクワク　天子の御筆。宸翰。奎章。〔玉海、聖文、御書、紹興書大成殿牓〕高宗皇帝、雲章奎畫、昭二回于天一。〔書言故事、人君類〕御筆聖翰曰二奎畫一。

【奎桂】7 k'uei² kuei⁴　ジヤガタラ肉桂。

【奎章】8 ケイシヤウ　❶天子の御筆。宸翰。奎畫。〔桯史〕山南有二萬山寺一、本仁皇所レ建、奎章在焉。❷天の文章。〔剪燈餘話、幔亭遇仙錄〕奎章已拜看雲賜。

【奎章政要】9 ケイシヤウセイエウ　書名。元、揭傒斯撰。天子を諷諫する爲に作つたもの。〔輟耕錄、奎章政要〕文宗之御二奎章一日、學士虞集、博士柯九思、常侍從以二討論法書名畫一爲レ事、時授經郎揭傒斯亦在レ列、比下之集九思之承二寵眷一者上、則稍疏、因潛著二一書一、曰二奎章政要一以進、二人不レ知也、萬幾之暇、每賜二披覽一、及二晏朝一有レ畫、授經郎獻二畫圖一、行二於世一、厥有二深意存一焉、句曲外史張伯雨題レ詩曰、侍書愛レ題二博士畫一、日日退レ朝書滿レ牀、奎章閣上觀二政要一、無二人知レ有二授經郎一、蓋柯作レ畫虞必題、故云。

【奎宿】10 ケイシユク　奎星の宿。二十八宿の一。白虎七宿の首宿。十六星あり、九は仙女座に屬し、七は雙魚座に屬す。大體の位置は赤經零度四〇分、赤緯北三〇度の邊。字解[一]の❷を見よ。〔禮、月令〕季夏之月、旦、奎中。〔孝經緯援神契〕奎主二文章一。〔注〕奎星屈曲相鉤、似二文字之畫一。〔史記、天官書〕奎曰二封豕一、爲二溝瀆一。〔注〕正義曰、奎、天之府庫、一曰二天豕一、亦曰二封豕一、主二溝瀆一、西南大星、所謂天豕目。〔丹元子、步天歌〕奎、腰細頭尖似二破鞋一、一十六星繞レ鞋生、外屏七烏奎下橫、屏下七星天溷明、司空右畔土之精、奎上一宿軍南門、河中六箇閣道形、附路一星道傍明、五箇吐レ花王良星、良星近上一策名。



奎宿（新法曆書）

【奎星】11 ケイセイ　二十八宿の中、兵を以て暴を禁ずることを司る星。又、溝瀆を主り、文運を主る。奎宿・奎運を見よ。〔晉書、天文志上〕奎十六星、天之武庫也、主二以レ兵禁レ暴、又主二溝瀆一。

【奎星閣】12 ケイセイカク　學者が天を禮拜する樓閣。〔山東通志、南雄府〕奎星閣、在二府學文會堂後一、訓導桑悅記。

【奎堂】13 ケイダウ　松本衡の號。松本奎堂(6-14516・・392)を見よ。

【奎蹄】14 ケイテイ　蹄の曲つた所。〔莊子、徐無鬼〕濡需者、豕蝨是也、擇二疏鬣一、自以爲二廣宮大囿一、奎蹄曲隈、乳閒股脚、自以爲二安室利處一。〔黃庭堅、二十八宿歌〕奎蹄曲隈取二脂澤一、婁豬艾豭彼何擇。

【奎屯】15 ケイトン ❶川の名。新疆省烏蘇縣の東南。源は爾噶山。烏蘇河に入り、額畢湖に注ぐ。❷地名。新疆省烏蘇縣の東、奎屯河の濱。

【奎南】16 ケイナン 明、李辰(6－14459··468)の字。

【奎分】17 ケイブン 奎星の分野にあたる地。〔名山記〕闕里當二奎分一、斯文在レ茲。

【奎文】18 ケイブン 學問文物。字解[一]の❶を見よ。

【奎龍】19 ケイリヨウ 宋、陳章伯(11－41698··953)の字。

【奎婁】20 ケイロウ 星の名。奎星と婁星。〔漢書、李尋傳〕后帝共レ政、相二留於奎婁一。

【奎載堂】21 ケイサイダウ 清、瞿中溶(8－23747··43)の室名。

【㚇】5912 コ ク 〔集韻〕攻乎切 虞

大きい。〔集韻〕㚇、大也。

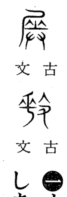
【㚈】5913 デウ ネウ 〔字彙〕乃了切 篠

柔かく美しいさま。〔字彙〕㚈、輭美貌。

【㚉】5914 クワウ 〔集韻〕口觥切 庚

おほきい。〔集韻〕㚉、大也。

【奏】5915 ソウ ス 〔集韻〕則候切 宥 ㄗㄡˋ tsou⁴



❶すすめる。申しあげる。もと𡴨(4－7856)に作る。〔正字通〕奏、本作レ𡴨。〔說文〕𡴨、奏進也、从レ夲从レ収从レ屮、屮、上進之義。〔廣雅、釋詁二〕奏、進也。〔書、舜典〕敷奏以レ言。〔傳〕奏、進也。〔疏〕奏、是進上之語、故爲レ進也。〔漢書、丙吉傳〕數奏二甘毳食物一。〔范甯、穀梁傳序〕夫婦之道絕、則谷風之篇奏。〔疏〕言レ奏者、謂三奏二進此詩一。〔後漢書、西羌傳〕軍書未レ奏二其利害一、而離反之狀已言矣。〔注〕奏、猶レ上也。〔張衡、西京賦〕祕舞交奏。〔注〕綜曰、奏、進也。〔孔子家語、弟子行〕敷二奏其勇一。〔注〕奏、薦。❷申しぶみ。上奏文。上書。〔廣雅、釋詁四〕奏、書也。〔論衡、對作〕上書謂二之奏一。〔陸機、文賦〕奏、平徹以閑雅。〔注〕善曰、奏以陳レ情敍レ事。❸なす。〔小爾雅、廣言〕奏、爲也。〔詩、小雅、六月〕以奏二膚公一。〔傳〕奏、爲。❹かなでる。〔詩、商頌、那〕奏レ鼓簡簡。〔箋〕奏レ鼓、奏二堂下之樂一也。〔禮、玉藻〕奏而食。〔注〕奏、奏レ樂也。〔左氏、襄、四〕金二奏肆夏之三一。〔疏〕奏、謂レ作レ樂也。❺音樂の一曲の終ること。〔正字通〕樂一更レ端曰レ奏、故九成謂二之九奏一。❻身うごき。身ぶりの調子。〔禮、樂記〕要二其節奏一。〔疏〕奏、謂二動作一。❼ふだ。晉で、王公を召す時に用ひたふだ。〔正字通〕奏、晉法、召二王公一以二一尺奏一、王公以下、用二一尺版一。❽はしる。おもむく。むく。走(10－37034)に通ず。〔說文通訓定聲〕奏、叚借爲レ走。〔詩、大雅、緜〕予曰有二奔奏一。〔釋文〕奏、本亦作レ走。〔史記、蕭相國世家、諸將皆爭走、注〕索隱曰、奏者、趨二向之一也。〔漢書、金日磾傳〕日磾奏レ厠心動。〔注〕師古曰、奏、向也。❾あつまる。湊(7－17822)に通ず。〔周禮、夏官、合方氏〕掌レ達二天下之道路一、〔注〕津梁相奏。〔釋文〕奏、本或作レ湊。〔漢書、成帝紀〕帥二羣臣一橫二大河一、奏二汾陰一。❿きめ。腠(9－29670)に通ず。〔儀禮、公食大夫禮〕載レ體進レ奏。〔注〕奏、謂二皮膚之理一也。〔儀禮、鄉飲酒禮〕皆右體進レ奏。〔釋文〕奏、本又作レ腠、理也。⓫或は癹・𢿱(5－13264)・屐(4－7774)に作る。〔集韻〕𡴨、隸作レ奏、或作二癹・𢿱・屐一。⓬古は𡗗(3－6005)・𡴨(4－7865)に作る。〔康熙字典〕奏、古文𡗗・𡴨。

解字 會意。奏は屮(草木の初生、物を示す)と𠬞(兩手でささげる意)と夲(進み出る意)との合字。即ち本義はすすめささげること、進獻することを意味する。

【奏按】1 ソウアン 奏問して罪をしらべる。奏案に同じ。

【奏案】2 ソウアン ❶上奏文をのせる机。〔吳志、周瑜傳、注〕孫權拔レ刀斫二前奏案一。❷奏請して罪を治める。〔後漢書、何敞傳〕今二府執事、不三深惟二大義一、惑二於所レ聞、莫二以爲レ咎、公縱二姦慝一、惟明公運二獨見之明一、昭然勿レ疑、敞不レ勝レ所レ見、請獨奏案、田乃許焉。❸上奏して御裁可を經た事件。〔清會典、刑部〕以二事之輕重一、分爲二三等一、奏案爲二大籤一、竊盜爲二小籤一、其餘爲二中籤一。❹上奏文のしたがき。

【奏委】3 tsou⁴ wei³ 奏請し御裁可を經て任命する。

【奏廕】4 ソウイン 宋代の官吏登用法。父祖の官廕で官職を奏授すること。奏蔭。〔大學衍義補、正二百官一、公二銓選之法一〕宋制、凡入試有二貢舉・奏廕・攝署・流外・從軍五等一。

【奏蔭】5 ソウイン 奏廕に同じ。〔稱謂錄、蔭生、奏蔭〕洪皓鄱陽集、金國以二進士一爲レ上、奏蔭次レ之、軍功與二他出身一最下。

【奏可】6 ソウカ 上奏の事柄を裁可する。〔漢書、武帝紀〕丞相綰奏、所レ舉賢良、或治二申商韓非蘇秦張儀之言一、亂二國政一、請皆罷、奏可。

【奏假】7 ソウカ 大樂を奏すること。或は、假は升で、堂に升る樂を奏すること。一說に、假は格で、樂を奏して祖考の靈を感じいたすこと。奏鬷。〔詩、商頌、那〕湯孫奏レ假、綏二我思一成。〔傳〕假、大也。〔箋〕假、升、云云、湯孫太甲、又奏二升レ堂之樂一、弦二歌之一、乃安二我心所レ思而成レ之、謂二神明來格一也。〔集傳〕假、與レ格同、言、奏レ樂以格二于祖考一也。〔中庸〕詩曰、奏假無レ言、時靡レ有レ爭。〔章句〕假、格同、奏、進也、云云、言、進而感二格於神明一之際、極二其誠敬一、無レ有二言說一而人自化レ之也。

【奏歌】8 ソウカ 音樂をかなで歌ふこと。〔鄭谷、丞相孟夏祇薦南郊紀獻十韻詩〕奏レ歌三酒備、表レ敬百神柔。

【奏賀】9 ソウガ ❶賀詞を奏上すること。❷官名。朝賀の時、奉賀の宣命を讀むことを掌る。〔北山抄、三、朝賀〕奏賀位、南去三尺、東去八尺。

【奏劾】10 ソウガイ 罪過を上奏して彈劾すること。奏參。奏彈。〔晉書、傅玄傳〕每レ有二奏劾一、或値二日暮一、捧二白簡一、整二簪帶一、竦踊不レ寐、坐而待レ旦。

【奏凱】11 ソウガイ 戰勝の凱歌を奏すること。奏愷。〔李乂、奉下和幸二望春宮一送中朔方軍大總管張仁亶上詩〕勿レ謂公孫老、行聞二奏凱一歸。〔溫公詩話〕萬國休二兵外一、羣生奏二凱中一。

【奏愷】12 ソウガイ 戰勝の音樂を奏すること。奏凱。〔周禮、春官、大司樂〕王師大獻、則令レ奏二愷樂一。〔注〕大獻、獻二捷於祖一、愷樂、獻レ功之樂。

【奏交】13 ソウカウ 奏請して引渡す。〔清會典、禮部〕皇后宮設二燕禮節一、均由レ部奏二交內務府一、轉二交監一恭進。

【奏效】14 ソウカウ ❶いさをを奏上すること。〔戰國、秦策〕臣請奏二其效一。〔注〕奏二事效驗一也。❷ききめがあらはれる。效を奏する。奏功。

【奏稾】15 ソウカウ 奏文の下書き。奏案。奏草。稾は又、藁に作る。〔唐書、陸元方傳〕取二奏稾一焚レ之曰、吾陰德在レ人、後當レ有二興者一。

【奏藁】16 ソウカウ 奏稾に同じ。〔程頤、答レ人示二奏草一書〕辱示二奏藁一、足三以見二仁人君子愛民之心一。

【奏樂】17 ソウガク 音樂をかなでる。奏曲。〔中庸〕奏二其樂一。〔後漢書、章帝紀〕明日又祠二顯宗于始生堂一、皆奏樂。

【奏記】18 ソウキ ❶牘に記して上奏する書。〔漢書、朱博傳〕文學儒吏、時有二奏記一。〔文心雕龍、書記〕迄レ至二後漢一、稍有二名品一、公府奏記、而郡將奏牋、記レ之言レ志、進二己志一也。❷官名。唐、置く。

奏記の事を掌る。〔唐書、百官志四下〕節度使封ニ郡王一、則有ニ奏記一人一、兼ニ觀察使一。

【奏擬】19 ソウギ 奏請して云云せんと欲すること。擬は欲。〔清會典事例、兵部、官制、盛京等處駐防〕咸豐九年諭、玉明奏擬レ請下將ニ候補人員分ニ缺一簡中用一摺上。

【奏議】20 ソウギ 文體の一。意見を天子に奏聞する。君主に上る意見書。上奏文。奏議を輯めたものに、陸宣公奏議二十二卷・包孝肅奏議十卷・李忠定公奏議六十九卷、附錄九卷・歷代名臣奏議三百五十卷・右編四十卷・華野疏稿五卷・欽定名臣奏議二十卷・林文忠公政書三十卷・胡文忠公遺集十卷・曾文正公奏議三十卷・左文襄公奏稿六十四卷・謝摺一卷等がある。〔漢書、成帝紀贊〕公卿稱レ職、奏議可レ述。〔任昉、王文憲集序〕奏議符策、文辭表記。

【奏御】21 ソウギョ 天子に申上げる。〔漢書、霍光傳〕奏ニ御天子一。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕事畢奏御。

【奏曲】22 ソウキョク 音樂を奏する。奏樂。〔莊子、漁父〕孔子弦歌鼓レ琴、奏レ曲未レ半、有ニ漁父者一。

【奏琴】23 ソウキン 琴をひく。彈琴。〔史記、司馬相如傳〕臨邛令ニ前奏レ琴曰、竊聞長卿好レ之。

【奏課】24 ソウクワ 政治の成績を奏上すること。〔任昉、王文憲集序〕風化之美、奏レ課爲レ最。〔注〕良曰、課、考也。〔韓愈、送ニ水陸運使韓侍御歸ニ治所一序〕奏課常爲ニ天下第一一。

【奏啓】25 ソウケイ 君主に上る上奏文。〔文心雕龍、奏啓〕昔唐虞之臣、敷奏以レ言、秦漢之輔、上書稱レ奏、陳ニ政事一、獻ニ典儀一、上ニ急變一、劾ニ僭謬一、總謂ニ之奏一、奏者、進也、言敷ニ于下一、情進ニ於上一也。

【奏慶】26 ソウケイ ❶官位に任敍せられた人が、禁裏に參內して御禮を申上げること。拜賀。慶賀。〔西宮記、正月中、女敍位〕昔忠仁公妻、一世源氏、預ニ敍位一日、參ニ嵯峨院一、令ニ奏慶一由、申ニ太上皇一。〔北山抄、九〕除目奏慶事。❷慶賀を天子に奏すること。

【奏繳】27 ソウケウ 軍營の豫算を決算し、剩餘金があれば其の內容を明かにして朝廷に返納すること。〔六部成語、兵部、奏繳、注解〕以ニ軍營田餘之項一奏明繳ニ還朝廷一。

【奏決】28 ソウケツ 奏上してきめる。奏裁。〔長編〕天下獄悉欲ニ奏決一。

【奏闋】29 ソウケツ 音樂の終ること。〔謝偃、觀舞賦〕曲變終雅奏闋、清角止流商絕。

【奏讞】30 ソウゲツ 訟獄を奏上すること。〔後漢書、郭躬傳〕躬奏ニ讞法科一、多レ所ニ生全一。

〔奏讞掾〕31 ソウゲツエン 官名。奏議の屬官。〔史記、儒林傳〕是時張湯方鄕レ學、以爲ニ奏讞掾一。

【奏鼓】32 ソウコ つづみを打つ。〔詩、商頌、那〕奏レ鼓簡簡。〔左氏、昭、十七〕辟移レ時、樂奏レ鼓。〔逸周書、本典解〕奏レ鼓以章レ樂。〔司馬法、嚴位〕上暇重、奏鼓輕。

【奏公】33 ソウコウ 事の成るを告げる。成功を告げる。〔詩、大雅、靈臺〕鼉鼓逢逢、矇瞍奏レ公。〔傳〕公、事也。〔集傳〕聞ニ鼉鼓之聲一、而知ニ矇瞍方奏ニ其事一也。

【奏功】34 ソウコウ ❶功をたてる。又、事の成功を君に言上する。轉じて、ひろく事の成就すること。〔詩、小雅、六月〕以奏ニ膚公一〔傳〕奏、爲、膚、大、公、功也。❷清、趙殿最（**10－37171**‥805）の字。

【奏裁】35 ソウサイ 天子に奏上して裁決する。奏決。〔唐書、百官志三〕大事奏裁、小事專達。

【奏催】36 ソウサイ 既に奏請した事項につき、更に奏請して裁可を要求すること。

【奏草】37 ソウサウ 上奏文の草稿。奏藁。奏案。〔漢書、朱雲傳〕時陳咸在レ前聞レ之、以語レ雲、雲上書自訟、咸爲定ニ奏草一。〔蘇頲、授ニ于經野給事中一制〕中臺奏草、已承ニ更直之榮一。

【奏箚】38 ソウサツ 君主に上る文書。〔吳訥、文章辯體〕進レ言者日衆、或曰ニ奏箚一、或曰ニ奏狀一。

【奏參】39 ソウサン 奏請して彈劾する。奏劾。〔清會典事例、兵部、郵政、郵遞〕各該辦事大臣、即將ニ何件公文折動之處一、報ニ知該督一、實力查究、仍一面奏參、將ニ該管臺站員弁、及管理臺站之大員一、交レ部議處。

【奏事】40 ソウジ ❶事を申上げる。〔史記、武安侯傳〕丞相入奏レ事。〔漢書、百官公卿表上〕受ニ公卿奏レ事擧レ劾按レ章。〔後漢書、明德馬皇后紀〕時諸將奏レ事。❷奏上する事柄。〔史記、秦始皇紀〕宦者輒從ニ轀涼車中一、可ニ其奏事一。〔沈約、恩倖傳論〕侍レ中身奉ニ奏事一。

〔奏事處〕41 ソウジショ 清代、官吏の奏事を掌る役所。宮中に特設す。京官及び外官が事を奏上する場合、必ず此處に提出し、奏事太監が之を御前に奏した。〔清會典、內閣、各衙門鈔事、皆傳知焉、注〕每日軍機處・奏事處、交發事件應ニ傳鈔一者、分ニ別清文漢文一、傳到ニ各該處一、司員到レ閣鈔出。

【奏瑟】42 ソウシツ ことをひく。奏琴。〔史記、廉頗藺相如傳〕秦王飲レ酒、酣曰、寡人竊聞ニ趙王好レ音、請奏レ瑟、趙王鼓レ瑟。

【奏者】43 ソウシャ ❶事を奏上する者。〔源平盛衰記、十八、文覺高雄勸進事〕院御所、云云、奏者此の由を申し入れず。❷室町時代、武家で取次をする職。〔信玄家法、上〕一、他人養子之事、達ニ奏者一、可三申ニ請遺跡一。❸奏者番の略。❹演奏者の略。

〔奏者番〕44 ソウジャバン 德川時代、諸侯以下の將軍に謁見する者を取り次ぐ役。〔東職紀聞、一〕奏者番、無ニ定員數一、至ニ二三十人一、掌下年始五佳節朔望、諸侯大夫謁ニ將軍家一時、候ニ御前一申ニ次之一、且賜ニ諸侯一御使等上之職也。

【奏章】45 ソウシャウ 天子に申上げる文書。上奏の文書。上奏文。上書。奏疏。〔歐陽脩、太尉文正王公神道碑銘〕其後公薨、史官修ニ眞宗實錄一、得ニ內出奏章一。〔薩都剌、題ニ進士索士岩詩卷一云云詩〕平明出ニ奏章一。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕急切奏章及緊要差使。

【奏笙】46 ソウシャウ 笙をふく。〔倪瓚、題ニ張氏蘩竹軒一詩〕苔石寒依レ玉、風泉夜奏レ笙。

【奏獎】47 ソウシャウ 清代、官吏に功績があり、及び人民が義捐金を出した場合、當該官廳から其の事實を奏上して、恩典を加へ獎勵せんことを請ふこと。〔皇朝政治學問答〕官員有ニ勞績一、民人有ニ捐輸一、一一開單、附ニ入摺內一、請ニ皇上加レ恩獎勵一、謂ニ之奏獎一。

【奏上】48 ソウジャウ 君主に申上げる。奏陳。〔史記、灌夫傳〕幸レ得ニ復召見一、書奏上。〔漢書、蕭何傳〕輒奏上可ニ許以從レ事。

【奏狀】49 ソウジャウ 奏上の文書。〔吳訥、文章辯體〕厥後進レ言者日衆、或曰ニ奏箚一、或曰ニ奏狀一。

【奏授】50 ソウジュ 奏薦御裁可を經て位記を授ける。

【奏准】51 ソウジュン 清代、京外の各大官が一定の順序を經て公務上當然行ふべき事項について希望を上陳し、之に裁可を與へたもの。〔皇朝政治學問答〕事有レ應ニ如レ此辨一、具摺奏明、奏レ旨允准、謂ニ之奏准一。

〔違ニ奏准事例一〕52 ソウジュンジレイニタガフ 奏准と事例とに違反する。事例は上諭及び奏准等から緊要なものを采取し、永遠に保存して行政及び司法の參考に資するもの。〔清律、雜律、違令、附注〕如下故違ニ詔旨一坐ニ違制一、故違ニ奏准事例一坐中違令上。

【奏書】53 ソウショ ❶天子に上奏する文書。奏疏（70）に同じ。〔清會典、禮部〕順治八年、世祖章皇帝親レ政、恭上ニ聖母皇太后徽號一、曰ニ昭聖慈壽皇太后一、前レ期一日、進ニ奏書一。❷叢辰の名。歲の貴神。一說、水神で、歲君の奏記を主り、伺察を主る。〔協紀辨方書、義例一、奏書〕廣聖曆曰、奏書者、歲之貴神也、掌ニ奏記一、主ニ伺察一、所レ理之地、宜下祭祀求レ福營ニ建宮室一、修中飾墻垣上、蓬瀛書曰、歲在ニ東方一、奏書在ニ東北維一、歲在ニ南方一、奏書在ニ東南維一、歲在ニ西方一、奏書在ニ西南維一、歲在ニ北方一、奏書在ニ西北維一、曹震圭曰、奏書者、水神也、爲ニ歲君之諫臣一、察レ私屈レ揚、德意之神也、常居近ニ歲後維一、方謂三輔佐之道不ニ敢先一也、初起ニ於乾一者、順レ天之道也、所レ理之方、可レ擧ニ賢能一、與レ國有レ益。

【奏稱】54 ソウショウ 奏上する。〔清會典事例、禮部、大祀、南郊大祀〕恭遇ニ世祖章皇帝忌辰、遣官恭代之例一、奏ニ稱今年郊祀之期一、應下照ニ此例一遣官恭代上、朕爲レ此五中輾轉、今年不三親行ニ郊祀之禮一、於レ心甚爲レ不レ安。

【奏食】55 ソウショク 音樂を奏して食事をする。〔禮、玉藻〕奏而食、日少牢、朔月大牢。〔注〕奏、奏レ樂也。

【奏申】56 ソウシン 天子に申上げる。奏白。

【奏進】57 ソウシン 奏上して位階を進める。〔國史略、白河天皇〕上嘗夢ニ顯賴引レ手進行一、故寵遇特重、而爲レ郎、奏ニ進除目一。

【奏審】58 ソウシン 皇帝の直接審判に對して若し不當のものあれば、國家の最高審判機關より其の案件を審判して上奏すること。〔宋史、職官志一〕紹聖五年、云云、非ニ有司所レ可レ行者、申ニ中書省或

樞密院㆒奏審。

【奏瑞】59 ソウズイ ❶瑞祥を奏上すること。〔唐書、禮樂志四〕黃門侍郎給事中進跪奏㆑瑞。❷官名。朝賀の時、諸國より報じた祥瑞を奏上することを掌る。〔江家次第、十二月〕元日大極殿擬侍從、奏瑞、從四位上藤原朝臣某。

【奏正】60 ソウセイ 上奏して正すこと。〔後漢書、寇榮傳〕寘㆓於嚴棘之下㆒、便奏㆓正臣罪㆒。

【奏請】61 ソウセイ 奏上して裁可を請ふ。〔漢書、韓信傳〕廷尉奏請、遂夷㆓越宗族㆒。

【奏鈔】62 ソウセウ 唐代、門下省に上る奏文。〔唐書、百官志二〕門下省、下之通㆑上、其制有㆑六、一曰奏鈔。

【奏銷】63 ソウセウ 清代、收支の內容を明かにし、摺に具して奏上すること。銷は決算報告。〔皇朝政治學問答〕凡官項銀錢、動用後、皆應㆓報銷㆒、按㆑數開出、具㆑摺奏明、謂㆓之奏銷㆒。〔皇朝文獻通考、國用考、會計〕雍正元年諭、各省奏銷、除㆓地方正項錢糧、及軍儒㆒之外、其餘一應奏銷、積弊甚大。〔六部成語、戶部、奏銷、注解〕奏㆓開報銷㆒也。〔六部成語、工部、奏銷、注解〕用過款項、奏㆓明銷算㆒也。

【奏銷銀】64 ソウセウギン 各官廳から朝廷に向かつて公費の決算報告をすること。中央の財務機關に報告する。〔六部成語、戶部、奏銷銀、注解〕承㆓辦公務㆒完竣、將㆓所㆑用之款㆒赴㆑部銷算。

【奏捷】65 ソウセフ 勝利の報を天子に奏聞する。〔金史、斡魯傳〕斡魯使㆓使奏㆑捷曰、賴㆓陛下威靈㆒、屢敗㆓敵兵㆒、遼主無㆑歸、勢必來降。

【奏摺】66 ソウセフ 奏上の文書。摺は折り疊む意。清代、奏章より諸官衙の公牘に至る迄、均しく之を用ひるを通例とした。〔清會典、內閣〕朝審秋審本皆繕㆑冊、其鄉會試試錄題名錄、欽天監時憲書式、及隨本奏摺如㆑之。

【奏宣】67 ソウセン 天子に申上げる。奏陳。〔職員令〕少納言三人、掌㆔奏㆓宣小事㆒。

【奏扇】68 ソウセン 扇をすすめること。〔論衡、逢遇〕以㆑夏進㆑鑪、以㆑冬奏㆑扇。

【奏薦】69 ソウセン 普通の任官の形式に由らず、吏部から直接選拔し、又は本屬官廳から選拔の上、吏部に交涉して推薦の手續をなし、其の任命を上請することの總稱。〔清國行政法汎論、文官任命形式、奏薦〕奏薦之者、不㆑由㆓前項諸種形式㆒、而或由㆓吏部㆒、或由㆓本屬衙門㆒選拔、以交㆓吏部㆒、奏㆓請任命㆒之總稱也。

【奏疏】70 ソウソ 文體の名。羣臣が上に對して意見などを述べる上奏文書の總稱。秦以前は皆上書といつたが、秦代、改めて奏といひ、漢代、之を章・奏・表・議の四者に分け、魏晉以後、啓のみ盛に行はれ、唐代、表・狀の二者が用ひられ、宋元に至つて、箚子が最も盛に用ひられた。此の他、對策・射策・進策・帖括・牋・封事・彈文・露布等の名稱がある。上疏。奏書。奏章。〔文體明辯、奏疏〕按、奏疏者、羣臣論諫之總名也、奏御之文、其名不㆑一、故以㆓奏疏㆒括㆑之也、亡國以前、皆稱㆓上書㆒、秦初改㆑書曰㆑奏、漢定㆓體儀㆒、則有㆓四品㆒、一曰章、以謝㆑恩、二曰奏、以按㆑劾、三曰表、以陳㆑請、四曰議、以執㆑異、然當時奏章、或上㆓災異㆒、則非㆓專以謝㆑恩、至㆓於奏㆑事、亦稱㆓上疏㆒、則非㆓專以按㆑劾也、又按劾之奏、別稱㆓彈事㆒、尤可㆕以徵㆔彈劾爲㆓奏之一端㆒也、又置㆓八儀密奏陰陽皂囊封板㆒、以防㆓宣泄㆒、謂㆓之封事㆒、而朝臣補㆑外、天子使㆓人受㆑所㆑欲㆑言、及㆑有㆓事下㆒、議者竝以㆑書對、則漢之制、豈特四品而已哉、云云、魏晉已下、啓獨盛行、唐用㆓表狀㆒、亦稱㆓書疏㆒、宋人則監㆓前制㆒而損㆓益之㆒、故有㆓箚子㆒、有㆑狀、有㆑書、有㆑表、有㆓封事㆒、而箚子之用居㆑多、蓋本㆓唐人牓子錄子之制㆒、而更㆓其名㆒、乃一代之新式也。〔宋史、朱倬傳〕奏疏凡數十。〔歐陽脩、上㆓范司諫㆒書〕謂宜㆓朝拜㆑官而夕奏㆑疏也。

【奏鬷】71 ソウソウ 嘉樂を奏すること。奏假。〔晏子、重而異者〕奏鬷無㆑言、時靡㆑有㆑爭。

【奏對】72 ソウタイ 天子に申上げる。又、天子の問ひに奉答すること。〔唐書、李揆傳〕揆美㆓風儀㆒、善㆓奏對㆒。〔宋史、哲宗紀一〕詔、講讀官御㆓經筵㆒退、留㆓二員㆒奏㆓對邇英閣㆒。

【奏刀】73 ソウタウ 刀を動かして料理すること。〔莊子、養生主〕庖丁爲㆓文惠君㆒解㆑牛、云云、奏㆑刀騞然、莫㆑不㆑中㆑音。

【奏當】74 ソウタウ 訟獄の決定を上奏すること。當とは罪の法に當たること。〔漢書、路溫舒傳〕蓋奏當之成、雖㆓咎繇㆒聽㆑之、猶以爲㆔死有㆓餘辜㆒。〔注〕師古曰、當、謂㆑處㆓其罪㆒也。

【奏達】75 ソウタツ 申上げる。〔太平記、十二、兵部卿親王流刑事〕伏仰㆓奏達㆒、誠惶誠恐謹言。

【奏彈】76 ソウダン 天子に奏上して役人の罪過をただす。上奏彈劾。奏劾。〔梁書、劉之遴傳〕憲臺奏彈、皆之遴草焉。〔白居易、庾承宣可㆓尙書右丞㆒制〕得㆔奏㆓彈御史㆒。

【奏陳】77 ソウチン 天子に申上げる。奏宣。奏上。奏申。〔歐陽脩、論㆑選㆓皇子㆒疏〕臣亦嘗因㆓災異㆒竊有㆓奏陳㆒。

【奏調】78 ソウテウ 官吏の交代、事件の變更等につき、先づ奏上して裁可を仰いで行ふこと。〔皇朝政治學問答〕調㆓某官員㆒、請㆓某案卷㆒、凡應㆓請用㆒者、皆准㆓奏調㆒。〔清國行政法汎論、文官任命形式、題調〕若有㆑使㆔甲乙二人、互爲㆓轉官㆒、則謂㆓之對調㆒、而調以就㆓同省官吏㆒而行㆑之、爲㆓其原則㆒、又以㆑由㆓上奏㆒、故謂㆓之奏調㆒。

【奏笛】79 ソウテキ 笛を吹く。吹笛。〔晉書、桓尹傳〕幷請㆓一吹㆑笛人㆒、帝善㆓其調達㆒、乃敕㆓御伎㆒奏㆑笛。

【奏牘】80 ソウトク 天子に申上げる書きつけ。上奏の書牘。奏牋。〔論衡、量知〕乃成㆓奏牘㆒。〔王廷畦、送㆓胡邦衡㆒詩〕百辟動㆑容觀㆓奏牘㆒、幾人回㆑首愧㆓朝班㆒。

【奏任】81 ソウニン ❶古、太政官より奏上して任じた官。內外諸官の主典以上をいふ。❷奏任官の略。

【奏任官】82 ソウニンクワン もと三等以下の高等官。天皇が內閣總理大臣・主任大臣、若しくは宮內大臣の奏薦によつて任命した。

【奏任待遇】83 ソウニンタイグウ もと奏任官でなくて、奏任官の待遇を受けたもの。

【奏派】84 ソウハ 長官が奏請の上、敕裁を仰いで官吏を派遣する。〔清會典、宗人府〕恭㆓繕玉牒一部㆒、送㆓盛京敬典閣㆒尊藏、由㆑府奏派㆓王公㆒祗送、其底本仍裝㆓成帙㆒、由㆓工部㆒備㆓造黃櫃儲庫㆒敬藏。〔清國行政法汎論、新設官廳〕稱㆓新設官廳之職員㆒曰㆓差使㆒、卽由㆓於此意義㆒、唯其任㆓命差使㆒之形式、則自有㆓二種㆒、一爲㆘長官奏㆓請敕裁㆒者㆖、一爲㆘因㆓其鑑識㆒委任者㆖、前者稱曰㆓奏派㆒、後者稱曰㆓委任㆒。

【奏報】85 ソウハウ 文武官が承命事項、卽ち職務上の經過を摺に具して奏上報告すること。〔皇朝政治學問答〕凡具㆑摺入奏、報㆓明某事㆒、皆爲㆓奏報㆒。

【奏白】86 ソウハク 天子に申上げる。奏申。〔周禮、春官、內史、內史讀㆑之、疏〕諸侯凡事有㆔書奏㆓白于王㆒、內史讀示㆑王。

【奏百】87 ソウヒヤク 百里を走ること。奏は走に通ず。〔韓非子、八說〕登降周旋、不㆑逮㆓日中奏百㆒。〔集解〕文弨曰、荀子議兵篇、魏之武卒、日中而趨㆓百里㆒。

【奏稟】88 ソウヒン 上申することと、命令を受けること。〔唐書、裴度傳〕恐㆓萬機奏稟、有㆑所㆓壅閼㆒。〔宋史、職官志一〕中書省、大事奏稟、得㆑旨者爲㆓畫黃㆒、小事擬進、得㆑旨者爲㆓錄黃㆒。

【奏舞】89 ソウブ まひをまふ。〔晉書、樂志上〕登歌奏舞、神樂其和。

【奏聞】90 ソウブン ソウモン 臣が天子へ上申すること。〔後漢書、安帝紀〕既不㆓奏聞㆒。〔魏志、曹爽傳〕先收㆓毓印綬㆒、然後奏聞。

【奏本】91 ソウホン 緊要事件についての上奏書。〔明會典〕國初定制、臣民具疏、上㆓於朝廷㆒者爲㆓奏本㆒。〔清國行政法汎論、中央官廳、職權〕奏本必要㆓正副二本㆒、正本送㆓呈內閣大學士㆒、副本呈㆓軍機處大臣㆒。

【奏明】92 ソウメイ ❶光りかがやくこと。〔雲笈七籤〕二景奏㆑明、陰陽以判。❷上奏する。〔皇朝政治學問答〕凡官項銀錢、動用後、皆應㆓報銷㆒、按㆑數開出、具㆑摺奏明、謂㆓之奏銷㆒。

【奏目】93 ソウモク 天子に上申した事柄の條目。〔薩都剌、題㆓進士索士岩卷㆒云云詩〕故人傳㆓奏目㆒、請㆔便趣㆓行裝㆒。

【奏留】94 ソウリウ 官吏が一定の任期を滿了し、他に適當な人がなく、其の人物の留任を必要とするとき、上司から奏請して任地に留めて執務させること。〔清會典、刑部〕滿洲蒙古漢軍司員筆帖式題升題補、及保擧奏留等事、回㆑堂定奪、具㆑稿以奏。

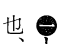
【奏立】95 ソウリツ 申上げて官に立てること。〔漢書、

杜欽傳〕方進復奏二立黨友一、後將軍朱博・鉅鹿太守孫宏・故少府陳咸、皆免レ官。

【奏文書】96 tsou⁴ wen² shu¹ 上奏文書。

【奏鳴曲】97 ソウメイキヨク ソナタ。sonata の譯。關聯した數箇の樂章から成る器樂獨奏曲。

【奐】5916


小篆

〔集韻〕呼玩切 ㄏㄨㄢˋ huan⁴ ［翰］ クワン

❶とりかへる。〔說文〕奐、取奐也、从レ廾夐省聲。〔說文繫傳〕夐、營求也、取之義也。❷大きい。〔說文〕奐、一曰、大也。❸さかん。〔漢書、韋元成傳〕惟懿惟奐。〔注〕師古曰、奐、盛也。❹おほい。〔禮、檀弓下〕美哉奐焉。〔注〕奐、言二衆多一。❺あやあるさま。あきらか。文采の煥爛たるさま。〔廣韻〕奐、文彩明皃。〔禮、檀弓下〕美哉奐焉。〔疏〕王云、奐、言二其文章之貌一也。❻散るさま。渙(7−17757)に通ず。〔說文通訓定聲〕奐、叚借爲レ渙。〔嵆康、琴賦〕叢集累積、奐二衍於其側一。〔注〕善曰、奐、散貌。❼煥(7−19224)に通ず。〔禮、檀弓下〕美哉奐焉。〔釋文〕奐、音渙、本亦作レ煥。❽姓。〔萬姓統譜〕奐、見二姓苑一。〔奇姓通〕明、奐忠、歸州人、永樂擧人。

【奐衍】1 クワンエン 散りしくさま。又、多いさま。渙焉。〔嵆康、琴賦〕叢集累積、奐二衍於其側一。〔注〕善曰、奐、散貌、衍、溢也、良曰、渙衍、多貌。

【奐焉】2 クワンエン あやあるさま。奐乎。奐然。〔禮、檀弓下〕晉獻二文子成レ室、晉大夫發焉、張老曰、美哉輪焉、美哉奐焉。〔釋文〕奐、本作レ煥。〔疏〕王云、奐、言二其文章之貌一也。

【奐奐】3 クワンクワン 光りかがやく。光明のさま。煥煥。〔丘光庭、補二新宮一詩〕奐奐新宮、禮樂其融。

【奐乎】4 クワンコ あやあるさま。煥乎。〔張載、安石榴賦〕煥乎郁郁、焜乎煌煌。

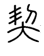
【奐彩】5 クワンサイ 清、白煥彩(8−22678··1286)の一名。

【奐然】6 クワンゼン ❶奐焉に同じ。〔大戴禮、四代〕君先レ眇而後レ善、中備以二君之言一、可二以知レ古、可二以察レ今、奐然而興民壹始。❷唐、趙彥昭(10−37171··538)の字。

【奐副】7 クワンフク 後漢、張奐の副將軍をいふ。〔後漢書、皇甫規傳〕徵拜二度遼將軍一、至レ營數月上レ書、薦二中郎將張奐一以自代、願二乞冗官一、以爲二奐副一。

【奐爛】8 クワンラン 多いさま。多く盛なさま。〔禮、檀弓下、美哉奐焉、疏〕奐、謂二其室奐爛衆多一也。〔釋文〕奐、音渙、本亦作レ煥、奐爛、言二衆多一也。〔嵆康、琴賦〕豐融披離、斐韡奐爛。〔注〕銑曰、斐暐奐爛、聲繁盛貌。

【契】5917


小篆

［一］ケイ 〔集韻〕詰計切 ㄑㄧˋ ch'i⁴ ［霽］

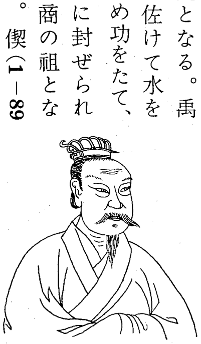
［二］ケツ ケチ 〔集韻〕詰結切 ㄑㄧㄝ ch'ieh¹·⁴ ［屑］

［三］セツ セチ 〔集韻〕私列切 ㄒㄧㄝˋ hsieh⁴ ［屑］

［四］キツ コチ 〔集韻〕欺訖切 ［物］

［五］カツ ケチ 〔集韻〕訖黠切 ［黠］

［一］❶かきつけ。しるし。〔說文〕契、大約也、从レ大㓞聲、易曰、後世聖人、易レ之曰二書契一。〔周禮、天官、小宰〕六曰、聽二取予一以二書契一。〔注〕書契、謂二出予受入之凡要一、凡簿書之最目、獄訟之要辭、皆曰レ契。❷わりふ。てがた。〔禮、曲禮上〕獻レ粟者、執二右契一。〔注〕契、券要也。〔管子、輕重乙〕使レ無二券契之責一。〔注〕合レ之曰レ契。❸ちぎり。ちぎる。㋑ちなみ。因緣。〔晉書、王謐傳論〕叶二宣尼之遠契一。㋺ちかひ。約束。〔戰國、周策〕獨知之契也。㋩まじはり。〔晉書、王敦傳〕定二金蘭之密契一。㊁ちぎる。かなふ。〔詩品〕少與レ道契、終與レ俗違。❹龜甲を灼く、又、其の道具。〔詩、大雅、緜〕爰契二我龜一。〔箋〕契二灼其龜一而トレ之。〔集傳〕契、所二以然レ火而灼レ龜者也、卽儀禮所謂楚焞、是也。❺たつ。割(2−2112)に通ず。〔說文通訓定聲〕契、叚借爲レ割。〔爾雅、釋詁〕契、絕也。〔注〕今江東呼三刻二斷物一爲二契斷一。❻きざむ。栔(6−14691)に通ず。〔說文通訓定聲〕契、叚借爲レ栔。〔釋名、釋書契〕契、刻也、刻二識其數一也。〔疏證〕以レ契爲レ刻者、呂氏春秋察今篇、契レ舟求レ劍、淮南齊俗訓、越人契レ臂、皆以レ契爲レ刻。❼かく。〔漢書、毋將隆傳〕契二國威器一。〔注〕李奇曰、契、缺也。❽きる。〔列子、湯問〕契レ臂以誓。〔釋文〕契レ臂、刓レ臂出レ血也。❾とる。挈(5−12035)に通ず。〔說文通訓定聲〕契、叚借爲レ挈。〔荀子、議兵〕掎契司詐。〔注〕契、讀爲レ挈、挈、取也。〔漢書、毋將隆傳〕契二國威器一。〔注〕晉灼曰、契、取也。❿きる。又、いためる。〔周禮、考工記、輈人〕馬不二契需一。〔注〕契、讀爲下爰契二我龜一之契上、需、讀爲二畏需之需一、謂二不レ傷レ蹄、不レ需二道里一。⓫角の揃はないさま。觢(10−35066)に通ず。〔說文通訓定聲〕契、叚借爲レ觢、易、睽、子夏傳、契、一角仰也。⓬うれへ苦しむ。又、あわただしい。契契(16)を見よ。⓭姓。〔萬姓統譜〕契、見二姓苑一。［二］❶うれへ苦しむ。又、あわただしい。［一］の⓬に同じ。❷つとめ苦しむ。契闊(14)の❶を見よ。〔集韻〕契、契闊、勤苦也。❸うとい。契闊(14)の❷を見よ。［三］人名。高辛氏の子。舜の時、司徒となる。禹を佐けて水を治め功をたて、商に封ぜられて商の祖となる。偰(1−893)・禼(2−2820)に通ず。〔說文通訓定聲〕契、叚借爲レ偰、爲レ禼。〔書、舜典〕讓二於稷契曁皋陶一。〔傳〕契・皋陶、二臣名。〔詩、商頌、玄鳥、箋〕始合二祭于契之廟一。〔釋文〕契、本又作レ偰、同、又作レ禼、古字也。〔漢書、東方朔傳〕契爲二鴻臚一。〔注〕師古曰、契、讀與レ禼同。［四］北夷の號。契丹(45)を見よ。〔集韻〕契、字林、契丹、北夷號。［五］たはむれる。〔集韻〕契、戲也。


司徒契（三才圖會）

［名乘］ヒサ。

【契押】1 ケイアフ 證文書判。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕或將二田房契押一、百不レ抵レ十。

【契友】2 ch'i⁴ yu³ 親密な朋友。

【契印】3 ケイイン 書類が二枚以上あるとき、紙面が連なつてゐることを證明する爲に、兩紙に跨げて押す印形。わりいん。

【契家】4 ケイカ 親族。〔錢塘瑣記〕初願レ納レ交、或稱二契家一、言二鄉里族屬、吻合相稔一。

【契交】5 ch'i¹ chiao¹ 親密に交はる。

【契合】6 ケイガフ ❶割符を合せた樣に合ふ。一致する。符合。〔律呂新書〕參同契合、無レ不レ通、蓋數之自然也。❷契合法の略。❸ch'i⁴ hê² 親密。

【契合法】7 ケイガフハフ 歸納法の一。種々の現象を比較し、其の共通事情を以て、其の現象の原因又は結果の通則を發見する研究法。

【契機】8 ケイキ 動かすこと。轉じて、或る物を動かし、或は決定する根據。又、或る物の要素。又、動的過程としての物の轉機・段階の意にも用ひられる。moment の譯。

【契龜】9 ケイキ ❶龜甲を燒いてトふ。龜ト。一說、契は龜甲を灼く道具をいふ。〔詩、大雅、緜〕爰

契㆓我龜㆒。〔箋〕契㆓灼其龜㆒而卜㆑之。〔疏〕契開者、言㆔契㆑龜而開㆓出其兆㆒、非㆓訓㆑契爲㆑開也。〔集傳〕契、所㆓以然㆑火而灼㆑龜者也、儀禮所謂楚焞、是也。㊁龜卜に合すること。〔班固、幽通賦〕嫣巢㆓姜於孺筮㆒兮、且算㆓祀于契龜㆒。〔注〕翰曰、契㆓合於龜㆒也。

【契經】 10 ケイキヤウ 佛經文・經典のこと。經 sūtra は糸の意で、佛典を糸で綴つて散逸を防いだからいふ。契は、道理に契ひ、又、聞法の人の能力にも契ふ意。〔華嚴探玄記、一〕修多羅、或云㆓修妬路㆒、或言㆓素怛羅㆒、此云㆓契經㆒、契有㆓二義㆒、謂契㆑理合㆑機故、經亦二義、謂貫㆓穿法相㆒故、攝㆓持所化㆒故。

【契據】 11 ch'i^4 chü^4 契約の證書。

〖契據專員〗 12 ch'i^4 chü^4 chuan^1 yüan^2 官名。國民政府が新しく發布した土地法による土地登記につき、特に設けたもの。登記申請書及び關係書類一切を審査することを掌る。

【契會】 13 ケイクワイ むすびあふ。ちぎる。纏綿。〔文心雕龍、定勢〕雖㆓復契會相參、節文互雜、譬㆘五色之錦、各以㆓本采㆒爲㆖地矣。

【契闊】 14 ケツクワツ ㊀勤め苦しむ。〔詩、邶風、擊鼓〕死生契闊、與㆑子成㆑說。〔傳〕契闊、勤苦也。〔後漢書、文苑、傅毅傳〕契闊夙夜、庶不㆓懈忒㆒。〔注〕詩云、與㆑子契闊、 契闊、謂㆓辛苦㆒也。〔風俗通、愆禮〕妻者既齊㆓於己㆒、澄㆓灑酒㆒、以養㆓姑舅㆒、契㆓闊中饋㆒、經㆓理蠶織㆒、垂㆑統傳㆑重。〔吳志、孫權傳、注〕魏略曰、權乃遣㆑周爲㆑牋㆓魏王㆒曰、云云、公私契闊、未㆑獲㆓備擧㆒。〔晉書、會稽王道子傳〕阿衡二世、契㆓闊皇家㆒。〔魏書、慕容白曜傳〕辛㆓勤於戎旅之際㆒、契㆓闊於矢石之閒㆒。〔宋書、顏師伯傳〕契㆓闊大難㆒、宜㆑蒙㆓殊報㆒。㊁遠く隔たる。疎遠になる。久別。久闊。疎闊。睽隔。〔詩、邶風、擊鼓、死生契闊、集傳〕契闊、隔遠之意。〔後漢書、獨行、范冉傳〕冉見㆓奐車徒駱驛㆒、遂不㆓自聞㆒、惟與㆑弟共辯㆓論於路㆒、奐識㆓其聲㆒、卽下㆑車與相揖對、奐曰、行路倉卒、非㆘陳㆓契闊㆒之所㆖、可㆔共前亭宿息、以敍㆓分隔㆒。〔北史、李彪傳〕頃來契闊、多㆑所㆓廢離㆒。〔王僧達、祭㆓顏光祿㆒文〕游顧移年、契闊宴處。〔李商隱、爲㆓濮陽公㆒陳情表〕契闊星霜、羈㆓離戎旅㆒。㊂離れることと合ふこと。離合。〔義府〕今人謂㆓久別㆒曰㆓契濶㆒、本㆓詩邶風死生契濶之語㆒、按㆓詩意㆒、死生與㆓契濶㆒並對言、契、合也、濶、離也、死生契濶、與㆑子成㆑說、執㆓子之手㆒、與㆑子偕老、言、有㆑生必有㆑死、有㆑契必有㆑濶、此人事之不㆑可㆑保者、然我與㆑子、必誓相偕老、此初時執㆓子之手㆒而言、既有㆓成說㆒矣、詎意今之不㆑然也。㊃誓約を結ぶ。堅い交りを結ぶ。〔魏武帝、短歌行〕越㆑陌度㆑阡、枉用相存、契闊談讌、心念㆓舊恩㆒。〔宋書、始安王休仁傳〕詔曰、年少以來、恆相追隨、難否之日、每共契闊。〔南齊書、張敬兒傳〕情存㆓契闊㆒、義著㆓斷金㆒。〔梁書、蕭琛傳〕高祖在㆓西邸㆒、早與㆑琛狎、琛亦奉㆓陳昔恩㆒、上答曰、雖㆑云㆓早契闊㆒、乃自非㆓同志㆒。㊄步き廻る。跋涉する。〔晉書、邵續傳論〕契㆓闊喪亂之辰㆒、驅㆓馳戎馬之際㆒。〔魏書、蘇湛傳〕莊帝曰、前聞卿答㆓蕭寶夤㆒、甚有㆓美辭㆒、爲㆑我說也、湛頓首謝曰、臣與㆓寶夤㆒、周游契闊、言得㆑盡㆑心、而不㆑能㆑令㆓其不㆑反、臣之罪也。㊅ふけりおぼれる。流連。〔宗炳、畫山水序〕眷㆓戀廬衡㆒、契㆓闊荆巫㆒、不㆑知㆓老之將㆑至。

【契兄】 15 ch'i^4 hsiung^1 兄弟の約束をした兄の方。義兄。弟の方を契弟といふ。

【契契】 16 ケイケイ ケツケツ 憂苦に堪へないさま。〔爾雅、釋訓〕契契、愈遐急也。〔注〕賦役不㆑均、小國困竭、賢人憂歎、遠益急切。〔詩、小雅、大東〕契契寤歎、哀㆓我憚人㆒。〔傳〕契契、憂苦也。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕望㆓高丘㆒而歎涕兮、悲吸吸而長懷、孰契契而委棟兮、日晻晻而下頹。〔注〕契契、憂貌也。〔淮南子、泰族訓〕夫天地之施㆑化也、嘔㆑之而生、吹㆑之而落、豈此契契哉。

【契券】 17 ケイケン わりふ。手がた。契照。契票。〔荀子、君道〕合㆓符節㆒別㆓契券㆒者、所㆓以爲㆑信也。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕告㆓田土㆒者、必以㆓契券地隣㆒爲㆑據。

【契元】 18 ケイゲン 宋、楊璞(**6**－**15112**・・322)の字。

【契胡】 19 キツコ 胡族の名。〔北史、尒朱榮傳〕高祖羽健、魏登國初爲㆓領人酋長㆒、率㆓契胡武士㆒、從平㆓晉陽㆒。

〖契胡提〗 20 キツコテイ 後魏、陸延(**11**－**41708**・・23)の字。

【契吳】 21 キツゴ 山名。陝西省橫山縣の北。〔十六國春秋〕赫連勃勃北游㆓契吳㆒、歎曰、美哉、臨㆓廣澤㆒而帶㆓清流㆒、自㆓馬嶺㆒以北、大河以南、未㆓之有㆒也。

【契厚】 22 ch'i^4 hou^4 交情が厚い。

【契骨】 23 キツコツ 國名。古の堅昆。〔北史、突厥傳〕東走㆓契丹㆒、北幷㆓契骨㆒。

【契根】 24 ケイコン 清代、契書の根に貼附して契約の正確を保證するもの。雍正六年に制定せられ、布政使司から印刷して州縣に頒給す。後、廢して契尾制を採用した。〔戶部則例、十〕。

【契此】 25 ケイシ 唐の高僧。明州奉化縣に住し、常に杖を持ち布囊を荷つてゐたので、時人、布袋和尚と稱す。天復年間に卒す。江浙の閒、多く其の像を圖す。〔宋高僧傳、二十一〕。

【契紙】 26 ケイシ 契約書。又、契約書用紙。凡そ動產不動產の賣買をするには、必ず契紙を以て官廳の承認を經なければならない。〔文獻通考、征榷考、雜征斂〕(高宗)紹興五年、初令、諸州通判印㆓賣田宅㆒契紙、自㆑今民閒競㆑產而執㆓出白契㆒者、毋㆑得㆓行用㆒、從㆓兩浙運副吳革請㆒也。

〖契紙費〗 27 ch'i^4 chih^3 fei^4 地券其の他の登記手數料のこと。地方財政に屬する雜稅中に含まれる。

【契字】 28 ch'i^4 tzŭ^4 契約證書。賣契(賣買契約證)・書起耕典田契字(小作を取り上げ、田を引渡して質とする證書)・招耕帶借字(質入證書の類)・典契字(質入證書の一)・典店屋契字(家屋の質入證書)・胎借(抵當貸借)・合同(契約書)・屋批(借屋證書)・護照(旅行免狀)・保結(保證書)・滙票(爲替手形)等の別がある。

【契舟】 29 ケイシウ 舟にきざむ。楚人が舟中から劍を水に落したとき、刀で其の舟の舷に刻して、此處から劍が沈んだとて舟が止つてから之を求め、舟の移つたのを知らなかつた故事。舊法に拘泥して事情に疎い喩。〔釋名、釋書契〕契、刻也、刻㆓識其數㆒也、〔疏證〕以㆑契爲㆑刻者、呂氏春秋察今篇、契㆑舟求㆑劍。〔呂覽、察今〕楚人有㆓涉㆑江者㆒、其劍自㆓舟中㆒墜㆓於水㆒、遽契㆓其舟㆒曰、是吾劍之所㆓從墜㆒也、舟止、從㆓其所㆑契者㆒、入㆑水求㆑之、舟已行矣、而劍不㆑行、求㆑劍若㆑此、不㆓亦惑㆒乎。

【契狀】 30 ケイジヤウ 契約の文書。約束狀。これに一方的のものと、相互共同的のものとがあり、何れにしても、終りに起請の文句がある時は一種の起請文と見られる。契約狀。〔沙汰未練書〕契狀とは約束狀の事也。

【契需】 31 ケイジユ 蹄をいためて、道路の遠いのをおそれること。一說に、怯懦とする。〔周禮、考工記、輈人〕行數千里、馬不㆓契需㆒。〔注〕鄭司農云、契、讀爲㆘爰契㆓我龜㆒之契㆖、需、讀爲㆓畏需之需㆒、謂㆓不㆑傷㆑蹄、不㆑需㆓道里㆒。〔正義〕戴震引㆓方言㆒謂、畏懦爲㆓契需㆒。

【契繻】 32 ケイジユ 官中の符信。關所と市場に用ひて貨稅を徵收する證とする。〔蘇軾、愛㆓玉女洞中水㆒既致㆓兩缾㆒恐㆘後復取而爲㆓使者㆒見㆑紿因破㆑竹爲㆑契使㆘寺僧藏㆓其一㆒以爲㆗往來之信㆖戲謂㆓之調水符㆒詩〕欺謾久成㆑俗、關市有㆓契繻㆒。

【契書】 33 ケイショ 手形。證券。〔文獻通考、征榷考、雜征斂〕徽宗崇寧三年敕、諸縣典㆓賣牛畜㆒契書、幷稅租鈔旁等、印㆓賣田宅㆒契書、並從㆓官司㆒印賣、除㆓紙墨工費㆒外、量㆓收息錢㆒助㆓贍學用㆒、其收息不㆑得㆑過㆓一倍㆒。

【契人】 34 ch'i^4 jen^2 保證人。

【契嵩】 35 ケイスウ 宋の高僧。藤州鐔津の李氏の子。字は仲靈(中靈)。慶曆中、杭州の靈隱寺に住し、號を明教大師と賜はる。廣く內典に通ず。著に原教篇・禪門定祖圖・傳法正宗記・輔教篇・鐔津文集がある。〔新續高僧傳、三十三〕。

【契稅】 36 ケイゼイ 登錄稅の一種。土地家屋の賣買や質入れの際、官署に登錄する時に課する稅。起源は東晉時代で、奴隸・牛馬・田宅等の賣買に際し、錢一萬につき賣主三百錢、買主百錢の割で課した。唐代には官より契紙を下して公券・市券と稱し、宋には民印契錢を課して契錢を納めしめ、元は契本の制とし、明・清も亦之による。而して契稅は登錄の際、納稅と共に契尾と稱する官印を捺した認許證を貼付す。普通、官印及び契尾のない證書を白契といひ、官印と契尾とのあるものを紅尾といふ。〔文獻通考、征榷考、雜征斂〕牙契、稅契始㆓於東晉㆒、歷代相承、史文簡略、不㆑能㆓盡考㆒、宋太祖開寶二年、始收㆓民印契

錢一、令下民典二賣田宅一輸上錢、印契稅契限二兩月一。〔清會典事例、戶部、雜賦、田房稅契〕康熙十七年、增二山東等省田房契稅一。

【契照】37（ケイセウ） わりふ。手がた。照は、てらし合はせて證據とする義。契券(17)に同じ。〔文獻通考、田賦考五〕紹興三年、面問二來歷一、取二索契照一。

【契絕】38 chʻieh^1 chüeh^2 たえはなれること。斷絕。

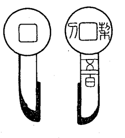
【契箭】39（ケイセン） 矢文。令箭(**1－387**‥121)に同じ。〔唐書、裴行儉傳〕是日傳二契箭一、召二諸部酋長一、悉來請レ命。

【契錢】40（ケイセン） 登錄稅として納める錢。契稅(36)を見よ。

【契素】41 chʻi^4 su^4 なじみ。昵懇。

【契帶】42 chʻi^4 tai^4 引連れる。連れ立つ。

【契刀】43（ケイタウ） 漢代、王莽の造つた錢。其の環は大錢の如く、身形は刀の如くで、契刀五百の文がある。〔漢書、食貨志下〕王莽居レ攝、變二漢制一、以三周錢有二子母相權一、於レ是更造二大錢一、云云、又造二契刀・錯刀一、契刀、其環如二大錢一、身形如レ刀、長二寸、文曰二契刀五百一、云云、莽卽レ眞以爲、書二劉字一有二金刀一、迺罷二錯刀・契刀及五銖錢一、而更作二金銀龜貝錢布之品一。〔補注〕錢坫款識曰、契刀二字在二周郭一、五百二字在レ柄、長二寸、字並陽識。


契刀（金石索）

【契刀囊】44（ケイタウナウ） 契刀を入れるふくろ。〔通典、職官、僕射〕凡諸尙書文詣二中書省一者、密事、皆以二契刀囊一盛レ之、封以二丞相印一。

【契丹】45（キツタン キタイ） 國名。東胡の種族。秦漢の時、匈奴に破られ、鮮卑山の地を保つ。三國、魏の青龍中、其の酋長の軻比能が魏に殺されて衰微し、後魏に至つて契丹と號し、漢水の南、黃龍の北を保つ。唐の時、分れて八部となり、部の長を大人といふ。後梁の時、耶律阿保機が七部を幷せ、奚及び渤海を破り、室韋・女眞を侵し、又、突厥の故地を取り、今の蒙古・東三省・熱河省・綏遠省、及び河北省の北部の地を有して勢強大となつたが、後晉の時、國號を遼と改め、金に滅された。遼(**11－39137**)を見よ。〔唐書、契丹傳〕契丹本東胡種、其先爲二匈奴所レ破、保二鮮卑山一、云云、至二元魏一自號曰二契丹一。〔李衞公問對、上〕近契丹奚皆內屬。

【契丹國志】46（キツタンコクシ） 書名。二十七卷。宋、葉隆禮奉敕撰。帝紀十二卷・后妃傳一卷・諸王傳一卷・外戚傳一卷・列傳四卷・晉表以下宋遼外交文書一卷・南北朝饋獻禮物及外國貢進禮物一卷・雜載地理一卷・典章制度一卷・行程錄二卷・諸蕃紀一卷・歲時雜記一卷から成り、卷首には契丹世系圖・地理圖・契丹國初興本末・契丹國九主年譜等がある。多く傳聞を掇拾したので、誕妄疏漏を免れ難いが、而も遼金元三史の成立以前に遼の事を記したものは、ただこの書だけである。淸初、訂正して面目が改まつた。〔四庫提要、史、別史類〕。

【契丹太祖】47（キツタンノタイソ） 耶律阿保機(**9－29008**‥150)を見よ。

【契單】48 chʻi^4 tan^1 約束書。

【契男】49 chʻi^4 nan^2 子供分にする。義子。

【契斷】50（ケイダン） たちきる。〔爾雅、釋詁〕契滅殄、絕也。〔注〕今江東呼三刻二斷物一爲二契斷一。

【契冲】51（ケイチユウ） 攝津の人。俗姓は下川氏。字は空心。契沖(冲)は法號。高野山に登つて密乘を究め、大坂圓珠庵に自適す。國學に造詣深く、又、和歌を能くす。江戶時代の國學勃興の祖。元祿十四年歿す、年六十二。著は注釋書に、萬葉代匠記・古今和歌六帖・厚顏抄・百人一首改觀抄・古今餘材抄・勢語臆斷・源注拾遺・新敕撰評・拾遺集考要等があり、語學書には、正字類音集覽・正語假字篇・詞草正採抄・和字正韻・和字正濫抄・和字正濫要略・勝地吐懷編・類字名所補翼抄・類字名所外集・大和國地名類字・勝地通考目錄・河社・圓珠庵雜記・圓珠庵雜々記・妙法字記・應需雜記等があり、校本・書入本には萬葉集校本・頭書菅家萬葉集・蜻蛉日記考證・後拾遺集難評・四季出題和歌・ゆきかひ詞・和歌唱和集・詠富士山百首和歌・一題一首和歌・十八番詠歌合がある。〔續日本高僧傳、四〕・〔契沖事跡考〕・〔契沖阿闍梨〕・〔契沖書簡集〕・〔契沖傳〕・〔契沖傳記資料〕・〔明治以後契沖に關する著書論文目錄〕。

【契弟】52 chʻi^4 ti^4 兄弟の約束を結んだ弟。義弟。

【契帖】53 chʻi^4 tʻieh^3 證書。保證狀。

【契臂】54（ケイヒ） 臂にきずをつけ、其の血を歃つて盟ふ。盟誓のしるし。〔釋名、釋書契〕契、刻也。刻二識其數一也。〔疏證〕以レ契爲レ刻者、云云、淮南齊俗訓、越人契レ臂、皆以レ契爲レ刻。〔左氏、莊、三十二〕割レ臂盟レ公。〔會箋〕淮南齊俗訓、越人契レ臂、高誘注、刻レ臂出レ血、割レ臂刻レ臂同義、是歃二臂血一爲レ盟也。〔淮南子、齊俗訓〕胡人彈レ骨、越人契レ臂、中國歃レ血、所レ由各異、其於レ信一也。

【契尾】55（ケイビ） 淸代、田地家屋の劵狀を賣買する時、制規の稅を納め、役所で其の劵狀の末尾に稅金完納の證を附箋したもの。〔皇朝文獻通考、食貨考〕順治四年定、凡買二田地房屋一、增二用契尾一、每兩輸二銀三分一。〔六部成語、戶部、契尾、注解〕田房文契後尾、所レ粘之官給憑票也。

【契斌】56（ケイヒン） 明の高僧。字は俱空。嵩山に住す。

【契父】57 chʻi^4 fu^4 養父。義父。やしなひおや。

【契符】58（ケイフ） わりふ。符節。〔華陽國志、序志、述漢中志第二〕井絡啓耀、文昌契符。

【契分】59（ケイブン） ちぎり。ちなみ。さだめ。〔李摯、與二李敏一同姓同歲同門同年登第詩〕因緣三紀合、契分四般同。

【契文】60（ケイブン） ❶殷墟發掘の獸骨龜甲に刻した文字。契刀で刻したからいふ。契文擧例を見よ。❷chʻi^4 wen^2 誓ひの書きつけ。契約書。

【契文擧例】61（ケイブンキヨレイ） 書名。二卷。淸、孫詒讓撰。殷墟發掘の獸骨龜甲文字に就いて研究したもの。〔吉石庵叢書、三集、第四・五冊〕。

【契票】62（ケイヘウ） 約束證文。手形。契劵(17)に同じ。〔福惠全書、刑名部、問擬、釋擧照〕一應契票文書、僞造償結者。

【契苾】63（ケイヘツ） ❶種族の名。敕勒諸部の一。新疆省焉耆縣の西北。〔唐書、回鶻傳下〕契苾亦曰二契苾羽一、在二焉耆西北、鷹娑川多覽葛之南一。❷複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕契苾氏、九姓、廻鶻匈奴苗裔、後魏謂二之高車一、亦曰二敕勒一、周隋又曰二鐵勒一、居二金山之陰獨洛河北一、其一曰二契苾部一、號二楡溪州一。

【契苾兒】64（ケイヘツジ） 歌曲の名。唐代、武后の垂拱以後、洛陽地方で歌はれた流行歌。〔唐書、五行志二〕垂拱後、東都有二契苾兒歌一、皆淫豔之詞、契苾爲二張易之小字一也。

【契苾明】65（ケイヘツメイ） 唐の人。契苾何力の子。字は若水。諡は靖。幼にして上柱國を授けらる。柏海道經略使として戰功を建て、武后の時、姓を武と賜はり、仕へて左鷹揚衞大將軍に至る。〔唐書、一百十〕・〔舊唐書、一百九〕。

【契苾何力】66（ケイヘツカリヨク） 唐の人。突厥可汗の孫。諡は毅。貞觀中、母と與に衆千餘を率ゐ沙州に詣つて內屬す。吐谷渾を討ち、尋いで高昌龜茲を平ぐ。高宗の時、左驍衞大將軍となり、郕國公に封ぜられ、李勣に從つて高麗を攻め、其の王を虜にし、功を以て鎭軍大將軍に進み、涼に徙封せらる。〔唐書、一百十〕・〔舊唐書、一百九〕。

【契母】67 chʻi^4 mu^3 やしなひはは。ままはは。養母。義母。繼母。

【契本】68（ケイホン） 官から下附する證明書。元代では田宅を抵當にして賣却するとき、隣人親戚等が證書に連署し、官に赴いて一定の稅を納め、官より買主に對して契本を下付して其の權利を保證した。〔元典章、十九〕。

【契約】69（ケイヤク） ❶とりきめ。やくそく。〔魏書、鹿悆傳〕契約既固。〔白居易、與二執恭一詔〕欲レ求二契約一、固合允從。❷私法上の效果を生ぜしめる目的を以てする、二人以上の意思の合致をいふ。

【契領】70（ケイリヤウ） 首を切る。領は、首。〔後漢書、馬融傳、田開古治、注〕公孫捷・田開彊、皆反二其桃一、契レ領而死、古治子曰、二子死レ之、吾獨生、不仁、亦契レ領而死。

【契生二於卵一】71（セツタマゴヨリシヤウズ） 殷の祖、契は卵から生れ出たといふ傳說。〔淮南子、脩務訓〕禹生二於石一、契生二於卵一。〔史記、殷紀〕殷契、母曰二簡狄一、有娀氏之女、爲二帝嚳次妃一、三人行浴、見三玄鳥墮二其卵一、簡狄取呑レ之、因孕生レ契。

【違レ契不レ償】72（ケイニタガヒテツグナハズ） 債務者が契約を履行しないこと。〔唐律、雜律、負レ債違レ契不レ償〕凡

負㆑債違㆑契不㆑償者一匹以上、違二十日、笞二十、二十日加㆓一等㆒、罪止㆓杖六十㆒、三十匹加㆓二等㆒、百匹又加㆓三等㆒、各令㆓備償㆒。〔明律、戶律、錢債、違㆑禁取㆑利〕其負㆓欠私債㆒、違㆑約不㆑還者、五貫以上、違三月、笞一十、每㆓一月㆒加㆓一等㆒、罪止㆓笞四十㆒、五十貫以上、違三月、笞二十、每㆓一月㆒加㆓一等㆒、罪止㆓笞五十㆒、二百五十貫以上、違三月、笞三十、每㆓一月㆒加㆓一等㆒、罪止㆓杖六十㆒、竝追㆓本利㆒給㆑主。

【奒】 5918　カイ　〔集韻〕丘哀切　灰

大きい。〔集韻〕奒、大也。

【奤】 5919　㊀ケイ　〔集韻〕顯計切　霽　㊁ケツ ケチ　〔集韻〕顯結切　屑

㊀㊁❶**さかんなさま。**〔字彙〕奤、盛貌。❷**肥える。**〔集韻〕奤、大肥也。〔集韻〕奤、廣雅、奤奤、肥也。

【奓】 5920

㊀タ　〔集韻〕陟加切　麻

㊁シャ　〔集韻〕齒者切　馬

㊂タ　〔集韻〕陟嫁切　禡

㊃シャ　〔集韻〕充夜切　禡

㊄シャ　〔集韻〕詩車切　麻

㊅シ　〔集韻〕敞尒切　紙

㊀㊁㊂㊃❶**はる。**〔集韻〕奓、張也。❷**下が大きい。**〔玉篇〕奓、下大也。❸**おごる。**〔張衡、西京賦〕紛㆓瑰麗㆒以奓靡。〔注〕綜曰、奓靡、奢放也。❹**あける。**〔莊子、知北游〕日中奓㆑戶而入。〔釋文〕奓、司馬云、開也。㊄**はる。**奢（**3－5964**）の籀文。〔集韻〕奢、說文、張也、籀作㆑奓。㊅**おごる。**侈（**1－583**）に同じ。〔集韻〕侈、說文、掩脅也、一曰、奢也、大也、或作㆑奓。〔張衡、西京賦〕心奓體忲。〔注〕善曰、聲類曰、奓、侈字也、昌氏切。

【奓闊】1 シャクワツ　おごる。贅澤なこと。〔成公綏、天地賦〕何陰陽之難㆑測、偉㆓二儀之奓闊㆒。

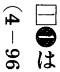
【奓言】2 シャゲン　おごりたかぶつた言葉。〔唐書、陸贄傳〕奓言無㆑驗、不㆔必用㆓質言㆒。

【奓戶】3 シャコ　戶をひらく。〔莊子、知北遊〕婀荷甘日中奓㆑戶而入。〔釋文〕奓、司馬云、開也。

【奓心】4 シャシン　おごる心。〔張衡、西京賦〕有㆓憑虛公子者㆒、心奓體忲。〔注〕善曰、聲類曰、奓、侈字也。

【奓靡】5 シャビ　おごつてほしいままなこと。〔抱朴子、守塉〕道德之功建、而奓靡之門閉矣。〔張衡、西京賦〕紛㆓瑰麗㆒以奓靡。〔注〕綜曰、奓靡、奢放也。

【奔】 5921　㊀ホン　〔集韻〕逋昆切　元　ㄅㄣ pen$^{1\cdot 4}$　㊁フン　〔集韻〕方問切　問　㊂ホン　〔集韻〕補悶切　願


小篆

㊀❶**はしる。**㋑疾行する。もと⿱夭卉（**4－9612**）に作る。〔正字通〕奔、本作㆑⿱夭卉。〔說文〕⿱夭卉、走也、从㆑夭卉聲、與㆑走同意、俱从㆑夭。〔段注〕走者、屈㆓其足㆒、凡行疾、則屈㆑腳疾。〔爾雅、釋宮〕堂上謂㆓之行㆒、堂下謂㆓之步㆒、門外謂㆓之趨㆒、中庭謂㆓之走㆒、大路謂㆓之奔㆒。㋺おもむく。〔釋名、釋姿容〕奔、變也、有㆓急變㆒、奔㆓赴之㆒也。〔左氏、昭、三十一〕攻難之士、將㆔奔㆓走之㆒。〔注〕奔走、猶㆓赴趨㆒也。〔鮑照、舞鶴賦〕奔機逗節。〔注〕善曰、奔、獨赴也。㋩なれあふ。正式の禮を踏まないで結婚する。野合。〔國語、周語上〕有㆓三女㆒奔㆑之。〔注〕奔、不㆑由㆓媒氏㆒也。㋥逐ふ。〔穀梁、宣、十八〕是以奔㆑父也。〔注〕奔、猶㆑逐也。㋭にげる。〔春秋、宣、元、晉放㆓其大夫胥甲父于衞㆒、杜注、放者受㆑罪黜免、疏〕釋例曰、奔者、窘迫而去、逃㆓死四鄰㆒、不㆓以㆑禮出㆒也。❷**おふ。**〔穀梁、宣、十八〕是以奔㆑父也。〔注〕奔、猶㆑逐也。❸**はやい。**〔周禮、考工記、弓人〕忿埶以奔。〔注〕奔、猶㆑疾也。❹**おちる。**〔謝靈運、七里瀨詩〕徒旅苦㆓奔峭㆒。〔注〕善曰、奔、亦落也。❺奔星は、ながれ星。〔爾雅、釋天〕奔星。〔注〕流星大而疾曰㆑奔。〔漢書、司馬相如傳上〕奔星更㆓於閨闥㆒。〔注〕師古曰、奔星、流星也。❻**あがる。**〔淮南子、覽冥訓〕後㆓奔蛇㆒。〔注〕奔蛇、騰蛇也。❼**つく。**つきあたる。〔張衡、西京賦〕駭瞿奔觸。〔注〕綜曰、奔觸、唐突也。❽**たふれる。**僨（**1－1119**）に通ず。〔說文通訓定聲〕奔、段借爲㆑僨。❾賁（**10－36727**）に通ず。〔詩、鄘風、鶉之奔奔〕鶉之奔奔。〔禮、表記〕鶉之賁賁。❿古は犇（**7－20058**）に作る。〔集韻〕奔、古作㆑犇。⓫或は⿰足奔（**10－37622**）に作る。⓬⿰馬奔（**12－45032**）に通ず。〔一切經音義、四〕古文⿰馬奔、今作㆑奔、同。⓭**姓。**〔奇姓通〕石敬塘將、奔洪進。㊁**まける。やぶれる。**敗走する。通じて賁（**10－36727**）に作る。〔集韻〕奔、覆敗也、詩傳奔軍之將、通作㆑賁。㊂❶**急ぎおもむく。**〔集韻〕奔、急赴也。❷**はしる。**〔增韻〕奔、走也。❸**あつまる。**〔增韻〕奔、湊集也。

【奔育】1 ホンイク　孟賁・夏育。共に古の勇士。賁育（**10－36737‥2**）に同じ。〔戰國、秦策〕烏獲之力而死、奔育之勇而死、死者人之所㆓必不㆑免。

【奔佚】2 ホンイツ　はしりのがれる。奔逸。〔列子、仲尼〕體將㆑僵者、先亟奔佚。

【奔軼】3 ホンイツ　走りにげる。奔佚。〔元史、史天澤傳〕深溝高壘、絕㆓其奔軼㆒。

【奔逸】4 ホンイツ　はしりにげる。又、自由氣ままの行動をすること。逃走。逸走。奔佚。奔逸絕塵を見よ。〔王守仁、教條示㆓龍場諸生㆒、立志〕漂蕩奔逸、終亦何所㆑底乎。

【奔逸絕塵】5 ホンイツゼツヂン　迅速にして、車塵を絕すること。極めて速かに走るさま。〔莊子、田子方〕顏淵問㆓於仲尼㆒曰、夫子步亦步、夫子趨亦趨、夫子馳亦馳、夫子奔逸絕塵、而回瞠㆓若乎後㆒矣。〔疏〕奔逸絕塵、急走也。

【奔殪】6 ホンエイ　はしりたふれる。〔後漢書、光武帝紀上〕莽兵大潰、走者相騰踐奔㆓殪百餘里閒㆒。

【奔邀】7 ホンエウ　はやく走る。〔潘岳、笙賦〕懰慠羅以奔邀、似㆓將㆑放而中匱㆒。〔注〕銑曰、懰慠羅・奔邀、言㆑疾也。

【奔起】8 ホンキ　はしりたつこと。〔枚乘、七發〕其旁作而奔起也、飄飄焉、如㆘輕車之勒㆑兵六㆓駕蛟龍㆒附㆗從太白㆖。

【奔暉】9 ホンキ　すみやかに馳せ去るひかり。〔劉子翬、詩〕奔暉不㆓肯停㆒。

【奔驥】10 ホンキ　すみやかにかける駿馬。〔陸雲、盛德頌〕鳴鑾在㆑衡、奔驥服㆑輅、良平鳳棲、信布虎據。

【奔義】11 ホンギ　正しきに赴く。正道を行ふ。〔史記、太史公自序〕末世爭㆑利、維彼奔㆑義、讓㆑國餓死、天下稱㆑之、作㆓伯夷列傳第一㆒。

【奔救】12 ホンキウ　はしつて行つてすくふ。〔宋書、孝義、賈恩傳〕元嘉三年、母亡居㆑喪過㆑禮、未㆑葬爲㆓鄰火所㆑逼、恩及妻桓氏、號哭奔救、隣近赴助、棺櫬得㆑免、恩及柏俱見㆑燒死。

【奔牛】13 ホンギウ　❶走る牛。戰國時代、齊の將、田單が牛尾に火をつけ敵軍に奔走させた故事。〔陳琳、爲㆓曹洪㆒與㆓魏文帝㆒書〕攄㆓八陣之列㆒、騁㆓奔牛之權㆒。〔注〕向曰、田單守㆓卽墨城㆒、爲㆓燕軍所㆑攻、單乃率㆓城牛千餘頭㆒、畫以㆓五色㆒爲㆓龍文㆒、橫致㆓刃於角㆒、束㆓葦草㆒灌㆑油、括㆓於牛尾㆒、火燒㆑之、鑿㆑城爲㆑穴、夜縱㆑牛出、牛驚痛而怒奔㆓突燕軍㆒、燕人驚亂、死復無㆑數。❷鎭の名。江蘇省武進縣の西。又、奔牛塘・奔牛堰ともいふ。南朝宋の元凶劭の亂に、華欽等をやつて義軍を拒いだ地。孟河と運河と會する所に當り、商業が盛で

ある。京滬鐵路の沿線で、今、支線が孟河に達せんとしてゐる。〔九域志〕縣有二奔牛鎭一、又有二奔牛堰一、相傳、古有二金牛一、奔レ此、故名、鎭西有二奔牛臺一、亦名二金牛臺一。

【奔競】14ホンキャウ 走りきそふ。競走する。われがちに爭ふ。射倖心に奔つて虛名をきそふこと。あらそつて利祿を求める。競爭。〔任昉、王文憲集序〕夫奔競之塗、有二自來一矣。〔南史、顏延之傳〕外示二寡求一、內懷二奔競一。〔盧照鄰、五悲雜言〕適足下誇二耀時俗一、奔中競功名上。〔白居易、得選擧司取二有名之士一云云判〕思レ得二士於聲華一、懼レ誘二人於奔競一。

【奔渠】15ホンキョ 急流なみぞ。〔錢蘀石、出二東林一六七里望二廬山一詩〕連峯出レ雲雲半開、奔渠捲レ雪響二春雷一。

【奔潰】16ホンクヮイ くづれはしる。潰走。〔宋史、吳芾傳〕諸城望レ風奔潰。

【奔軍】17ホングン にげ走る軍隊。〔孔子家語、觀鄕射〕使下子路執二弓矢一出レ列延中射者上曰、奔軍之將、亡國之大夫、與爲二人後一者、不レ得レ入。其餘皆入。

【奔詣】18ホンケイ はせ至る。〔世說新語、文學〕支謂レ謝曰、君一往奔詣、故復自佳耳。〔唐書、穆寧傳〕德宗在二奉天一、寧奔二詣行在一。

【奔鯨】19ホンゲイ 逃げはしるくぢら。〔謝朓、和二王著作八公山一詩〕長蛇固能翦、奔鯨自レ此曝。

〔奔鯨沛〕20ホンゲイハイ 唐の鼓吹鐃歌の名。唐、柳宗元作。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、唐鼓吹鐃歌、奔鯨沛〕奔鯨沛言下輔氏憑二江淮一、竟二東海一、命レ將平上レ之也。

【奔激】21ホンゲキ 河流のはげしくはやいこと。激しく流れる。〔魏書、高閭傳〕洪波奔激、則隄防宜レ厚。〔潘岳、滄海賦〕詳二察波浪之來往一、遍聽二奔激之音響一。

【奔擊】22ホンゲキ 馳せ進んでうつ。〔後漢書、岑彭傳〕董訢別將將二數千人一遮レ道、車騎不レ可レ得レ前、彭奔擊大破レ之。

【奔月】23ホンゲツ ❶羿の妻が不死の藥を盜んで月界に奔つたといふ故事。〔淮南子、覽冥訓〕羿請二不死之藥於西王母一、恒娥竊以奔レ月。〔後漢書、天文志上、注〕羿請二無死之藥於西王母一、姮娥竊レ之以奔レ月、云云、遂託二身于月一、是爲二蟾蠩一。〔張衡、靈憲〕羿請二不死之藥于西王母一、姮娥竊レ之以奔レ月。〔柳亭詩話〕嫦娥竊レ藥奔レ月、張衡靈憲篇亦引レ之、昔人謂、常儀占レ月之訛、是矣。❷蟾蠩(10−33676・・18)の異名。〔爾雅翼、蟾蠩〕蟾蠩者、蝦蟇之類、云云、然按、張衡靈憲云、羿得二不死之藥於西王母一、嫦娥竊レ之以奔レ月、遂託二身於月一、是爲二蟾蠩一、然則詹諸、蓋嫦娥之別名、非二黿鼉之類一也。〔搜神記、十四〕羿請二無死之藥於西王母一、嫦娥竊レ之以奔レ月、將レ往、枚二筮之於有黃一、有黃占レ之曰、吉、翩翩歸妹、獨將二西行一、逢二天晦芒一、毋レ恐毋レ驚、後且二大昌一、嫦娥遂托二身於月一、是爲二蟾蠩一。

【奔狐】24ホンコ きつねを追ふこと。〔王褒、四子講德論〕收レ秋則奔レ狐馳レ兎、穫刈則顚倒殪仆。〔注〕翰曰、奔・馳、皆追逐也。

【奔虎】25ホンコ にげはしる虎。〔王延壽、魯靈光殿賦〕奔虎攫拏以梁倚、仡奮舋而軒レ鬐。

【奔洪】26ホンコウ 激しく流れる河水。激流。〔揭傒斯、詩〕雪霜翻二濺瀑一、雷雨瀉二奔洪一。

【奔渾】27ホンコン ❶水がはやく流れること。〔元稹、春蟬詩〕安得二天上雨一、奔渾河海傾。❷水のはやい流れ。奔流。〔蘇軾、答二呂梁仲屯レ田詩〕但訝清泗流奔渾。

【奔壯】28ホンサウ 走ることの壯んなこと。〔成公綏、嘯賦〕或冉弱而柔擾、或澎濞而奔壯。

【奔掙】29ホンサウ かけもがく。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕被二熏逼一、奔掙口開、呼吸出入。

【奔喪】30ホンサウ ❶異鄕で親の死を聞き、奔り歸つて喪に服すること。古は親のみでなく、親屬にもいふ。禮記に奔喪篇がある。〔禮、奔喪〕奔喪之禮、始聞二親喪一、以レ哭答二使者一、盡レ哀問レ故。〔孫希旦集解〕奔喪者、在レ外聞二其親屬之喪一而歸也、曰レ奔者、著二其急一也、以二喪之輕重一、則有レ父有レ母有二齊衰以下一。〔左氏、襄、十五〕鄭公孫夏如レ晉奔レ喪。〔白虎通、喪服〕奔喪百里。〔後漢書、桓榮傳〕榮奔二喪九江一。❷禮記の篇名。〔禮、奔喪、疏〕案、鄭目錄云、名曰二奔喪一者、以下其居二他國一、聞レ喪奔歸之禮上、此於二別錄一屬二喪服之禮一矣、實逸曲禮之正篇也、漢興後得二古文一、而禮家又貪二其說一、因合二於禮記一耳、奔喪禮屬二凶禮一也。

〔奔喪違限勒停〕31ホンサウヰゲンロクテイ 官吏懲戒の一法。父母の喪に奔つた官吏が一定の期限に違犯した時、其の進退を拘束し其の俸給を停止すること。〔元典章、吏部、假故〕奔喪違限勒停。

【奔想】32ホンサウ はせ移る想ひ。〔雲笈七籤〕奔想飛馳、迅二于游鳥一。

【奔散】33ホンサン 逃げ走つて離散する。犇散。〔漢書、禮樂志〕樂官師瞽、抱二其器一而奔散。〔魏志、陳泰傳〕餘皆奔散。

【奔竄】34ホンザン はしりのがれる。逃げ隱れる。〔後漢書、馮緄傳〕州郡將吏、死レ職之臣、相逐奔竄、曾不二反顧一。〔吳志、薛綜傳〕鳥驚獸駭、長驅奔竄。〔潘岳、西征賦〕或開レ關以延レ敵、競遁逃以奔竄。〔世說新語、德行〕王僕射、在二江州一、爲二殷桓所レ逐、奔二竄豫章一、存亡未レ測。

【奔士】35ホンシ すばやい士。〔墨子、備梯〕奔士主將、皆聽二城鼓之音一而出。

【奔師】36ホンシ 軍隊をはしらせる。投降するをいふ。又、敗走する軍隊。〔漢書、武五子、燕刺王旦傳〕萬夫長、千夫長、三十有二帥、降レ旗奔レ師。〔注〕如淳曰、昆邪王偃二其旗鼓一而來降也。

【奔駛】37ホンシ 騎馬や水流などの勢の急なこと。奔馳。〔洛陽名園記〕水清淺則鳴漱、湍瀑則奔駛、皆可レ喜也。

【奔駟】38ホンシ はしる駟馬。〔魏志、王基傳〕息二奔駟於未レ盡。〔張協、七命〕水截二蛟鴻一、陸灑二奔駟一。

【奔兕】39ホンジ はしる野牛。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕若下駭鯨之決二細網一、奔兕之觸中魯縞上。

【奔襲】40ホンシフ はしりおそふ。急に至る。〔樓鑰、求仲抑招遊レ山歸途遇レ雨詩〕衝レ泥上二湖船一、雨陣遽奔襲。

【奔車】41ホンシャ はしる車。奔車之上無二仲尼一を見よ。

〔奔車之上無二仲尼一〕42ホンシャノウヘニチュウヂナシ 奔り狂ふ車上には孔子はゐない。奔車は危亂の國の喩。卽ち人主の勢が危く法が亂れると、聖智の人は其の國を去るをいふ。〔韓非子、安危〕奔車之上無二仲尼一、覆舟之下無二伯夷一、故號令者、國之舟車也。

【奔戎】43ホンジュウ えびすの名。〔列子、周穆王〕奔戎爲レ右。〔後漢書、西羌傳〕王伐二條戎奔戎一。

【奔出】44ホンシュツ ほとばしり出る。〔後漢書、耿恭傳〕有レ頃水泉奔出、衆皆稱二萬歲一。

【奔駿】45ホンシュン はやく走る良馬。〔崔釋、射牛判對〕東州奔駿、方一日而千里。

【奔衝】46ホンショウ はしりつく。次々と絕間なくはしりいたる。〔李白、魏郡別二蘇明府一因北游詩〕淇水流二碧玉一、舟車日奔衝。

【奔食】47ホンショク はしりながら食ふ。〔左氏、定、四〕吳人及レ之、奔食而從レ之、敗二諸雍澨一、五戰及レ郢。

【奔觸】48ホンショク はしりふれる。走つてぶつかる。〔張衡、西京賦〕百禽㥄遽、騤瞿奔觸。〔注〕綜曰、奔觸、唐突也。

【奔水】49ホンスイ 複姓。又、承桑氏・桑水氏に作る。〔萬姓統譜〕奔水、神農納二奔水氏一。

【奔箠】50ホンスイ かけ廻つて年貢未納者を打つ。犇箠。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕爲二排年一釋二犇箠之累一、其落レ甲分レ催之不レ可レ已也。

【奔趨】51ホンスウ ホンシュ はしりおもむく。〔韓愈、魏博節度觀察使沂國公先廟碑銘〕叫譟奔趨、乘レ門請レ起。

【奔星】52ホンセイ そらを飛ぶ星。よばひぼし。流星。〔爾雅、釋天〕奔星爲二彴約一。〔注〕流星大而疾曰レ奔。〔司馬相如、上林賦〕奔星更二於閨闥一。〔注〕師古曰、奔星、流星也。〔說苑、奉使〕唐且曰、夫專諸刺二王僚一、彗星襲レ月、奔星晝出。

【奔逝】53ホンセイ はしり行く。疾行。〔漢書、陳湯傳〕卒興レ師奔逝、橫厲二烏孫一、踰集二都賴一。

【奔精】54ホンセイ 流星をいふ。〔顏延之、宋郊祀歌〕奔精昭レ夜、高燎煬レ晨。〔注〕善曰、奔精、星流也。

【奔峭】55ホンセウ くづれた岸。〔謝靈運、七里瀨詩〕孤客傷二逝湍一、徒旅苦二奔峭一。

【奔宵】56ホンセウ 馬の名。周の穆王の八駿の一。〔拾遺記、周穆王〕王馭二八龍之駿一、云云、三名二奔宵一、

【奔涉】57ホンセフ 走り渡りあるく。〔劉崧、與二李提擧一書〕奔二涉深峻一、抵二冒炎暑一。

【奔箭】58ホンセン 飛び行く箭。〔太平記、六、民部卿三位局御夢想事〕年光不レ停、如三奔箭下二流水一。

【奔沮】59ホンソ　やぶれてはしること。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕金鼓響振、布衆奔沮。

【奔走】60ホンソウ　㊀はしりまはる。走り行くこと。事の急に趨くこと。〔書、武成〕邦甸侯衞、駿奔走。〔詩、周頌、淸廟〕駿奔走在レ廟。〔左氏、昭、三十一〕攻難之士、將三奔二走之二。〔注〕奔走、猶二赴趣一也。〔禮、大傳〕執二豆籩一逡奔走。〔楚辭、離騷〕忽奔走以先後兮。〔孫子、行軍〕奔走而陳二兵車一者期也。〔史記、淮陰侯安傳〕奔走而東至二於丹徒一。〔班固、東都賦〕奔走而來賓。〔後漢書、史弼傳〕及レ下二廷尉詔獄一、平原吏人、奔走詣レ闕訟レ之。㊁周旋する。世話する。盡力する。運動する。〔韓愈、與二陳給事一書〕衣食於奔走、不レ得二朝夕繼見一。㊂奔走して使令を奉ずる人。〔國語、魯語下〕士有二陪乘一、告二奔走一也。〔注〕奔走、使令也。㊃奔奏に同じ。

【奔走人】61ホンソウノヒト　道路に走り歩く俗人。〔伊藤東涯、早春漫書詩〕歳晩吾非二奔走人一、春回不二是拜趨身一。

〔奔走之友〕62ホンソウノトモ　周旋して盡力する友人。〔後漢書、黨錮、何顒傳〕袁紹慕レ之、私與往來、結爲二奔走之友一。

【奔奏】63ホンソウ　王の德を諭し譽を宣べて之に歸趨させること。奔走。奔輳。〔詩、大雅、緜〕予曰有二奔奏一。〔傳〕喩レ德宣レ譽曰二奔奏一。〔箋〕奔奏、使三人歸二趨之一。〔釋文〕奏、本亦作レ走。〔疏〕奔走者、此臣能曉二諭天下之人一、以二王德一、宣二揚王之聲譽一、使二人知一、令三天下皆奔走而歸二趍之一、故曰二奔走一也。

【奔湊】64ホンソウ　はしりあつまる。はしつて會合に赴く。〔後漢書、馬防傳〕賓客奔湊、四方畢至。〔晉書、會稽王道子傳〕勢傾二天下一、由レ是朝野奔湊。〔陸機、挽歌詩〕周親咸奔湊。〔北史、義徽傳〕有二沙門惠憐一、以二呪水一飮レ人、云、能愈レ疾、百姓奔湊、日以レ千數。

【奔潨】65ホンソウ　瀧をいふ。飛潨。〔李白、送三王屋山人魏萬還二王屋一詩〕鬼谷上窈窕、龍潭下奔潨。

【奔輳】66ホンソウ　奔奏に同じ。〔尙書大傳、殷傳〕周文王胥附奔輳、先後禦侮、謂二之四鄰一。

【奔屬】67ホンゾク　はしつてつづくこと。〔楚辭、離騷〕前二望舒一使二先驅一兮、後二飛廉一使二奔屬一。

【奔蛇】68ホンダ　大蛇。騰蛇(**12**－**44915**・・52)の㊀に同じ。〔淮南子、覽冥訓〕黃雲絡、前二白螭一、後二奔蛇一。〔注〕奔蛇、騰蛇也。

【奔退】69ホンタイ　はしりしりぞく。奔絀。〔晉書、石勒載記上〕赴レ水死者五百餘人、奔退百里。

【奔到】70ホンタウ　はしりいたること。〔國史略、花山天皇〕左中辨惟成、奔到二行在一。

【奔逃】71ホンタウ　にげはしる。〔說苑、敬愼〕賴二逢丑父之欺一、奔逃得レ歸。

【奔濤】72ホンタウ　はげしい大なみ。怒濤。奔浪。〔虞茂、望レ海詩〕長瀾疑レ浴レ日、連島類二奔濤一。

【奔盪】73ホンタウ　水のはしりすぎるさま。〔水經、滱水注〕傾瀾洩注、七丈有餘、奔盪之音、奇爲二壯猛一、觸レ石成レ井、水深不レ測。

【奔湍】74ホンタン　はやせ。急湍。奔瀧。〔杜甫、營屋詩〕洶洶開二奔湍一。〔王炎、舟行過二白石一詩〕轉レ柂涉二奔湍一、支レ笻入二幽塢一。〔賴山陽、下二筑後河一過二菊池正觀公戰處一感而有レ作詩〕歸來河水笑洗レ刀、血迸二奔湍一噴二紅雪一。

【奔馳】75ホンチ　馬に乘つてかける。奔駛。〔漢書、五行志下之上〕或乘二車騎一奔馳。〔鹽鐵論、刑德〕執レ轡非二其人一、則馬奔馳。〔後漢書、隗囂傳〕赤車奔馳。〔李密、陳情表〕臣欲二奉レ詔奔馳一。

【奔螭】76ホンチ　はしるみづち。〔何晏、景福殿賦〕赫如二奔螭一。〔柳宗元、招二海賈一文〕奔螭出レ抃兮。

【奔躓】77ホンチ ホンシツ　はしりつまづく。〔柳宗元、晉問〕乍進乍止、乍伏乍起、乍奔乍躓。

【奔逐】78ホンチク　はしりおふ。〔後漢書、公孫瓚傳〕望レ塵奔逐、或繼レ之以レ夜。

【奔衄】79ホンヂク　戰に負けて逃げる。敗北。敗走。〔南史、侯景傳〕其有二奔衄一、必低レ頭不レ前。〔晉書、謝琰傳〕孫恩奔衄歸レ海、何能復出。

【奔注】80ホンチュウ　勢よく流れそそぐ。〔柳宗元、鈷鉧潭記〕冉水自レ南奔注、抵二山石一、屈折東流。〔杜甫、送三高司直尋二封閬州一詩〕溪行水奔注。

【奔絀】81ホンチュツ　はしりしりぞく。奔退。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕暨レ至二衆賢奔絀一、三國爲レ墟。

【奔女】82ホンヂョ　正式の禮を備へないで男の許に走る女。淫奔女。〔列女傳、辯通傳〕使下妾不レ受二父母之教一而隨中大王上、是奔女也。

【奔程】83 pen^{1} ch'êng^{2}　道を急ぐ。

【奔霆】84ホンテイ　はげしい電光。奔電。〔蘇軾、芙蓉城詩〕夢中同躡鳳皇翎、徑二度萬里一如二奔霆一。

【奔踶】85ホンテイ　人が乘れば暴れ奔り、側に立てば人をふむ馬。暴れ馬をいふ。〔漢書、武帝紀〕蓋有二非常之功一、必待二非常之人一、故馬或奔踶、而致二千里一、士或有二負俗之累一、而立二功名一。〔注〕師古曰、踶、蹋也、奔、走也、奔踶者、乘レ之則奔、立則踶レ人也。

【奔潮】86ホンテウ　はげしく流れるうしほ。奔濤。〔柳惲、贈二吳均一詩〕寒雲晦二滄洲一、奔潮溢二南浦一。

【奔電】87ホンデン　ひらめくいなづま。奔霆。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕追二奔電一、逐二遺風一、周二流八極一、萬里一息。

【奔徒】88ホント　はしり逃げたやから。敗殘兵。〔左氏、定、五〕其子帥二奔徒一、以從二子西一。〔注〕奔徒、楚散卒也。

【奔睹】89ホント　金、完顏昂(**3**－**7079**・・18)の名。

【奔投】90 pen^{4} t'ou^{2}　急いで赴く。

【奔騰】91ホントウ　走りのぼる。かけあがる。〔後漢書、和帝紀〕奔二騰阻險一、死者繼レ路。

【奔突】92ホントツ　疾走して突入する。勢よく走つてつきあたる。〔後漢書、楊琁傳〕馬驚奔二突賊陣一。〔班固、西都賦〕窮虎奔突。〔嵆康、琴賦〕顚波奔突、狂赴爭流。

【奔豚】93ホントン　病名。少腹脹滿し、氣が上衝し、豕の奔突するやうであるからいふ。〔金匱要略、奔豚氣第八〕師曰、病有二奔豚一、云云、奔豚病、從二少腹一起、上二衝咽候一、發作欲レ死、復還止、皆從二驚恐一得レ之、奔豚、氣上衝、胷腹痛、往來寒熱、奔豚湯主レ之。

【奔遯】94ホントン　はしりのがれる。〔嵆康、琴賦〕從橫駱驛、奔遯相逼。

【奔巴】95ホンパ　瓶をいふ。西藏語である。〔淸會典、理藩院〕皆入二名於奔巴金瓶一而掣定焉。〔注〕由二駐藏大臣具奏一、不下復入二奔巴金瓶一掣定上。

【奔波】96ホンパ　㊀早く流れる水。急流。又、激しく打ち寄せる波。〔水經、漸江水注〕濬流驚急、奔波聒レ天。㊁爭ひ趨くこと。奔走する。又、苦勞する。〔晉書、慕容垂載記〕妻會上疏曰、三年之喪、天下之達制、云云、故能杜二豪強之門一、塞二奔波之路一。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕公星言奔波。〔韓愈、論二佛骨一表〕老少奔波、棄二其業次一。

〔奔波重沓〕97ホンパチユウタフ　驅け走つてこみ合ふ。重沓(**11**－**40132**・・342)を見よ。

【奔破】98ホンパ　敗れて逃げ走ること。〔後漢書、段熲傳〕曾未二浹日一、凶醜奔破。

【奔播】99ホンパ　逃げ走る。〔干寶、晉紀總論〕愍帝奔播之後、徒廁二其虛名一。

【奔馬】100ホンバ　逃げはしる馬。それ馬。逸馬。〔六韜、犬韜、武車士〕走能逐二奔馬一。〔越絕書、越絕德序外傳記〕氣若二奔馬一。〔說苑、政理〕子貢問二治レ民於孔子一、孔子曰、懍懍焉、如下以二腐索一御中奔馬上。〔枚乘、七發〕狀如二奔馬一。〔五代史、王進傳〕王進爲レ人勇悍、走及二奔馬一。

〔奔馬草〕101ホンバサウ　藥草の名。丹參(**1**－**99**・・122)の異名。〔本草、丹參〕釋名、赤參・山參・郄蟬草・木羊乳・逐馬・奔馬草、炳曰、丹參治二風軟脚一、可レ逐二奔馬一、故名二奔馬草一。

〔擒二奔馬一〕102ホンバヲトリコニス　暴れ走る馬をとらへる。力の強いことに喩へる。〔舊唐書、史敬奉傳〕敬奉形甚短小、若レ不レ能レ勝レ衣、至二於野外馳逐一、能擒二奔馬一。

〔奔馬之禍〕103ホンバノワザハヒ　火災をいふ。馬舞之災(**12**－**44572**・・530)を見よ。

【奔北】104ホンパイ ホンボク　戰爭して敗走すること。北は背、敗走の意。奔敗。敗北。〔書、甘誓〕弗レ用レ命、戮二于社一。〔傳〕不レ用レ命奔北者、則戮二之於社主前一。〔疏〕奔北、謂二背レ陳走一也。〔荀子、議兵〕遇レ敵處レ戰則必北、勞苦煩辱則必犇。〔注〕北、敗走也、犇、與レ奔同。〔孔叢子、問軍〕其奔北犯レ令者、則加二刑罰一、戮二于社主之前一。〔說苑、脩文〕夫殺者、乃亂亡之風、奔北之爲也。〔後漢書、袁紹傳〕冀州失レ策、自取二奔北一。〔魏志、胡質傳〕古人之交也、取レ多知二其不レ貪、奔北知二其不レ怯。

【奔敗】105ホンパイ　戰爭して敗走すること。奔北。〔晉書、周顗傳〕王敦構レ逆、王師敗績、顗奉レ詔詣レ

敦、敦曰、伯仁、卿負ㇾ我、顗曰、公戎車犯ㇾ順、下官親率二六軍一、不ㇾ能二其事一、使二王旅奔敗一、以ㇾ此負ㇾ公、敦不ㇾ知ㇾ所ㇾ答。

【奔放】106 ホンパウ　㊀勢よく走る。疾走するさま。〔後漢書、禰衡傳〕飛兔騕褭、絕足奔放、良樂之所ㇾ急。㊁水勢のはやいこと。〔韓愈、岳陽樓別二竇司直一詩〕南匯羣崖水、北注何奔放。㊂氣勢橫逸のさま。詩文の勢のよい形容。〔成公綏、隸書體〕良馬騰驤、奔放向ㇾ路。〔陸機、文賦〕或奔放以諧合、務嘈囋而妖冶。〔注〕濟曰、或有下奔馳放二縱其思一、以求中和合上云云、謂爲ㇾ文不ㇾ可二苟徒悅ㇾ目偶ㇾ俗而已、須ㇾ窮二妙理一者也。

【奔迸】107 ホンパウ　はしりにげる。逃げ散る。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕海盜奔迸、黑山順ㇾ軌。〔注〕銑曰、迸、散。

【奔亡】108 ホンバウ　はしりにげる。〔管子、禁藏〕故奔亡者無ㇾ所ㇾ匿。〔史記、齊太公世家〕家皆奔亡。〔漢書、酷吏、義縱傳〕孔暴之屬、皆奔亡。

【奔忙】109 pen^{1} mang^{2}　忙しい。〔紅樓夢、一回〕省了口舌是非之害、腿腳奔忙之苦。

【奔瀑】110 ホンバク　はげしく落下するたき。〔水經、江水注〕又東逕二流頭灘一、其水竝峻激奔瀑、魚鼈所ㇾ不ㇾ能ㇾ游、行者常苦ㇾ之。〔權德輿、奉二使宜春一夜渡二新塗江一陸路至二黃蘗館一路上遇二風雨一作詩〕萬竅相怒號、百泉睹二奔瀑一。

【奔辟】111 ホンピ　はしつて逃げさける。〔左氏、成、二〕且懼奔辟而忝二兩君一、臣辱二戎士一。

【奔稟】112 ホンヒン　驅けつけて申したてる。犇稟。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕及二調元犇稟一其把總不ㇾ加二約束一。

【奔訃】113 ホンプ　喪のしらせに接して急ぎゆく。奔赴。〔宋史、戚綸傳〕同文卒二於隨州一、綸徒步奔ㇾ訃千餘里。

【奔赴】114 ホンプ　㊀はしりおもむく。〔釋名、釋姿容〕奔、變也、有二急變一奔二赴之一也。〔漢書、丙吉傳、犇命、注〕師古曰、犇、古奔字也、有ㇾ命、則奔二赴之一。〔唐無名氏、望二海日一賦〕倚二九天一以照臨、見二百川三奔赴一。㊁喪の知らせに接して急ぎゆく。奔訃。〔後漢書、延篤傳〕以二師喪一棄ㇾ官奔赴。

【奔䱐】115 ホンプ　海中の動物の名。海豚の類。〔酉陽雜俎、廣動植、鱗介〕奔䱐、一名瀱、非ㇾ魚非ㇾ蛟、大如ㇾ船、長二三丈、色如ㇾ鮎、有三兩乳在二腹下一、雄雌陰陽類ㇾ人、頂上有二孔通頭一、氣出嚇嚇作ㇾ聲、必大風、行者以爲ㇾ候、相傳、嬾婦所ㇾ化、殺二一頭一、得ㇾ膏三四斛、取ㇾ之燒ㇾ燈、照二讀書紡績一輒暗、照二歡樂之處一則明。

【奔鶩】116 ホンブ　疾く走る。〔楚辭、劉向、九歎、怨思〕背二玉門一以奔鶩兮、蹇離ㇾ尤而干ㇾ詬。

【奔飈】117 ホンペウ　はやて。〔李白、大鵬賦〕運二逸翰一以傍擊、鼓二奔飈一而長驅。

【奔蜂】118 ホンポウ　小さい蜂。こばち。又、土蜂。〔莊子、庚桑楚〕奔蜂不ㇾ能ㇾ化二藿蠋一。〔釋文〕奔蜂、司馬云、奔蜂、小蜂也、一云、土蜂。

【奔奔】119 ホンポン　鳥の雌雄の關係が定まつて、常に其の類を亂さないさま。一說、鬪爭して醜いさま。〔詩、鄘風、鶉之奔奔〕鶉之奔奔、鵲之彊彊。〔傳〕鶉則奔奔、鵲則彊彊然。〔箋〕奔奔・彊彊、言下其居有二常匹一、飛則相隨之貌上。〔疏〕言、鶉則鶉自相隨、奔奔然、鵲則鵲自相隨、彊彊然、各有二常匹一、不ㇾ亂二其類一、云云、序云、鶉鵲之不ㇾ若、則以三奔奔彊彊爲二相匹之善一、故爲三居有二常匹一、定本集注皆云、居有二常匹一、則爲ㇾ倶者、誤也、表記引ㇾ此、證三君命逆、則臣有二逆命一、故注云、彊彊奔奔、爭鬪惡貌也。

【奔邁】120 ホンマイ　はしり進む。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕士卒奔邁、其會如ㇾ林。〔注〕向曰、邁、行也。

【奔命】121 ホンメイ　㊀君命に奔走する。忙しくかけまはる。東奔西走。犇命。〔莊子、駢拇〕天下莫ㇾ不三奔二命於仁義一。〔漢書、丙吉傳〕習下知邊塞發二犇命一警備事上。〔注〕師古曰、有ㇾ命、則奔二赴之一、言二應速一也。〔說苑、尊賢〕魏文侯從二中山一奔二命安邑一。〔曾國藩、求闕齋讀書錄〕犇命、犇走之極急也、發二犇命一、猶下今言中發二急足一警備上、言三邊塞有ㇾ警告二戒嚴一也。㊁亡命（1－287・・97）の㊁に同じ。〔後漢書、光武紀上〕北擊二中山一、拔二盧奴一、所ㇾ過發二奔命兵一、移二檄邊部一、共擊二邯鄲一。〔後漢書、鄧禹傳〕使三禹發二奔命一、得二數千人一、令二自將ㇾ之。㊂pen^{4} ming^{4}　一所懸命に。

【罷二於奔命一】122 ホンメイニツカル　君命に奔走して疲れること。罷は疲に同じ。〔左氏、成、七〕余必使下爾罷二於奔命一以死上。〔左氏、襄、二十六〕吳於ㇾ是伐ㇾ巢取ㇾ駕、克ㇾ棘入二州來一、楚罷二於奔命一、至ㇾ今爲ㇾ患、則子靈之爲也。〔魏志、袁紹傳〕使三敵疲二於奔命一。

【奔揚】123 ホンヤウ　はしりあがる波。〔宋玉、高唐賦〕奔揚踊而相擊兮。〔司馬相如、子虛賦〕湧泉起、奔揚會。

【奔湧】124 ホンヨウ　わきおこる。〔北史、任城王澄傳〕鬚鬢倶張、仰ㇾ面看ㇾ屋、憤氣奔湧、長歔而不ㇾ言。

【奔來】125 pen^{4} lai^{2}　近寄り來る。

【奔雷】126 ホンライ　はげしく鳴るかみなり。〔杜甫、朝詩〕巫山冬可ㇾ怪、昨夜有二奔雷一。

【奔浪】127 ホンラウ　はしり狂ふ浪。奔騰する波。奔濤。〔杜甫、暫如二臨邑一至二㟉山湖亭一奉ㇾ懷二李員外一率爾爲ㇾ興詩〕鼉吼風奔浪、魚跳日映ㇾ山。

【奔瀧】128 ホンラウ　はやせ。たきつせ。急流。奔流。〔范成大、寄二題贛江亭一詩〕鼓旗西征上二奔瀧一、所思不ㇾ見心難ㇾ降。

【奔離】129 ホンリ　はしりはなれる。〔後漢書、隗囂傳〕孺卿以二奔離之卒一、拒二要阸一、當二軍衝一、視二其形勢一何如哉。

【奔流】130 ホンリウ　はやい流れ。急流。奔瀧。〔唐太宗、詠二飮馬一詩〕駿骨飮二長涇一、奔流灑二絡纓一。〔蘇轍、上二樞密韓太尉一書〕比顧二黃河之奔流一、慨然想二見古之豪傑一。

【奔龍】131 ホンリユウ　はしる龍。〔謝惠連、七月七日夜詠二牛女一詩〕留ㇾ情顧二華寢一、遙ㇾ心逐二奔龍一。

【奔輪】132 ホンリン　はやく走る車輪。〔蘇軾、次下韻述古過二周長官一夜飮上詩〕曷不二勸ㇾ公勤秉ㇾ燭、老來光景似二奔輪一。

【奔壘】133 ホンルイ　はしり續ける。又、はしつてくつがへる。一說に、馬が驚き走つて敵壘にいたるをいふ。〔法言、寡見〕奔壘之車、沈流之航。〔注〕言、治ㇾ國及修ㇾ身者、如二車奔舟覆一、故欲ㇾ救ㇾ之、祕曰、車之奔敗、航之沈溺、光曰、奔壘、謂下馬驚逸抵二敵壘一者上。

【奔鹿】134 ホンロク　はやく走る鹿。〔晉書、唐彬傳〕彬身長八尺、走及二奔鹿一、強力兼ㇾ人。

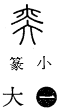
【奔紅赤】135 ホンコウセキ　唐の太宗の十良馬の一。〔琵琶記、春宴二杏園一〕兔兒黃恰配二燕子青一、奔紅赤正對二照夜白一。

【奔子欄】136 ホンシラン　村寨の名。雲南省維西縣の金沙江の西岸。もと把總外委駐防を置く。一に崩子蘭に作る。王氏の世襲で、清の雍正中、奔子欄・杵臼・慕頂・角壩・銅頂・了拉郎等の村寨を管理した。

【奔南狩北】137 ホンナンシユホク　天子が難を避けて南北に逃れること。〔鄭所南、春日偶成詩〕百萬胡兒犯二大朝一、奔南狩北恨迢迢。

【奕】5922

エキ　ヤク　〔集韻〕夷益切　i^{4}　陌


小篆

㊀**おほきい**。〔說文〕奕、大也、从ㇾ大亦聲、詩曰、奕奕梁山。〔爾雅、釋詁〕奕、大也。〔太玄經、格〕往小來奕。〔注〕奕、大也。㊁**うつくしい**。〔方言、二〕奕・僷、容也、自ㇾ關而西、凡美容、謂二之奕一、或謂二之僷一。〔注〕奕・僷、皆輕麗之貌。〔廣雅、釋詁四〕奕、容也。㊂**なれる**。閑習。〔詩、商頌、那〕萬舞有ㇾ奕。〔傳〕奕奕然、閑也。〔箋〕其干舞又閑習。㊃**かさなる。つづく**。〔增韻〕奕葉、累世也。〔國語、周語上〕奕世載ㇾ德。〔後漢書、楊秉傳〕臣奕世受ㇾ恩。〔注〕奕、猶ㇾ重也。㊄**もののさま**。奕奕(3)を見よ。㊅**ゐご。ばくち**。弈（**4－9611**）に通ず。〔正字通〕奕、从ㇾ大、六書統、改从ㇾ廾、作ㇾ奕爲ㇾ正。㊆繹（**8－27975**）に通ず。〔詩、魯頌、閟宮〕新廟奕奕。〔周禮、夏官、隸僕、注〕寢廟繹繹。㊇亦（**1－293**）に通ず。〔詩、大雅、文王〕不ㇾ顯亦世。〔後漢書、袁術傳、奕世、注〕詩曰、不ㇾ顯奕代。

名乘　シゲ。

參考　圍棊の弈とはもと別字。弈は說文収部に

あり、奕は說文亣部にあるが、兩字は久しく混用せられて居る。卽ち廣韻には、弈、美皃、又博弈とあり、集韻には、弈、圍棊也、一曰、盛也、容也とあり、字彙に奕、圍棊也とある。〔字彙、醒誤〕弈、搏弈、今誤作㆑奕。奕、奕葉累世。

【奕菴】1（エキアン）清、實行（**3**－**7294**‥10）の字。

【奕雲】2（エキウン）清、盛大鏞（**8**－**23005**‥224）の字。

【奕奕】3（エキエキ）❶大きいさま。〔詩、小雅、巧言〕奕奕寢廟。〔詩、大雅、韓奕〕奕奕梁山。〔傳〕奕奕、大也。❷美しいさま。美盛のさま。〔廣雅、釋訓〕奕奕、容也。〔詩、魯頌、閟宮〕新廟奕奕。〔箋〕奕奕、佼美也。❸さかんなさま。〔廣雅、釋訓〕奕奕、盛也。❹光りかがやくさま。〔詩、小雅、車攻〕四牡奕奕。〔張衡、東京賦〕六㆓玄虬之奕奕㆒。〔注〕綜曰、奕奕、光明。❺行くさま。〔廣雅、釋訓〕奕奕、行也。❻ならふさま。〔詩、商頌、那〕萬舞有㆑奕。〔傳〕奕奕然、閑也。〔箋〕其干舞又閑習。❼舞ふさま。〔張衡、東京賦〕萬舞奕奕。〔注〕綜曰、奕奕、舞形也。❽輕く美しいさま。〔左思、吳都賦〕儐從奕奕。〔注〕善曰、奕奕、輕靡之貌。❾うれへるさま。心の定まらないさま。〔詩、小雅、頍弁〕憂心奕奕。〔傳〕奕奕然、無㆑所㆑薄也。〔疏〕奕奕、憂之狀、憂則心遊不㆑定、故爲㆑無㆑所㆑薄也。❿うちつづくさま。〔獨斷、下〕頌曰、寢廟奕奕、言㆓相連㆒也。

【奕偞】4（エキエフ）容貌の美しいさま。奕僷に同じ。〔皮日休、桃花賦〕或奕偞而作㆑態、或窈窕而騁姿。

【奕葉】5（エキエフ）だいだい。累世。奕世。〔增韻〕奕葉、累世也。〔曹植、王仲宣誄〕伊君顯考、奕葉佐㆑時。〔潘岳、楊仲武誄〕伊子之先、奕葉熙隆。〔注〕濟曰、奕、累。

【奕僷】6（エキエフ）容貌の美しいさま。奕偞。〔方言、二〕奕僷、容也、自㆑關而西、凡美容、謂㆓之奕㆒、或謂㆓之僷㆒。〔注〕奕僷、皆輕麗之皃。

【奕開】7（エキカイ）明、徐縉芳（**4**－**10110**‥504）の字。

【奕巖】8（エキガン）清、宋鎔（**3**－**7078**‥205）の字。

【奕喜】9（エキキ）清、祁班孫（**8**－**24634**‥43）の字。

【奕棊】10（エキキ）圍碁。〔南史、徐羨之傳〕頗工㆓奕棊㆒、觀㆑戲常若㆑未㆑解、當世以㆑此推㆑之。

【奕訢】11（エキキン）清の人。宣宗の第六子。諡は忠。少より穎敏。宣宗之を愛して立てんとしたが、訢は固く讓つて立たず、文宗立つや恭親王に封ぜらる。同治の初、肅順等政を專にするや、孝欽皇后と倶に之を誅せんことを謀る。孝欽政を聽くや、訢、議政王と稱す。後、軍機大臣を拜命し、總理各國事務衙門を領す。〔清史稿、二百二十七〕。

【奕繪】12（エキクワイ）清の人。高宗の曾孫。號は太素道人。又、幻園居士。觀古齋主人・妙蓮居士・寫春精舍。嘉慶中、貝勒を襲爵す。官は正白旗漢軍副都統。著に明善堂がある。〔清史稿、一〕。

【奕譞】13（エキケン）清の宣宗の第七子。諡は賢。咸豐の初、醇親王に封ぜらる。穆宗卒して、子、載湉が大統を繼ぐや、奕訢に代つて軍機に入り、李鴻章と北洋海軍を創立す。〔清史稿、二百二十七〕。

【奕載】14（エキサイ）清、黃恩長（**12**－**47926**‥1002）の字。

〘奕載堂〙15（エキサイダウ）清、瞿中浴（**8**－**23747**‥43）の室名。

【奕山】16（エキザン）❶清の宗室。鑲藍旗人。諡は莊簡。鴉牙の役起るや粵に赴いて攻勦し、英人が廣東省城を犯すや、煙價六百萬を給せんことを許し、香港を割いて和す。咸豐の間、黑龍江將軍を拜命す。時に英佛內侵し、露國、間に乘じて國境の協定を求めた時、奕山は地勢に不明なため、地を失ふことが甚だ多かつた。同治の間、一等鎭國將軍に封ぜらる。〔清史稿、三百七十九〕・〔清史列傳、五十六〕。❷清、張梁（**4**－**9812**‥728）の字。

【奕世】17（エキセイ）だいだい。累代。奕葉。〔國語、周語上〕奕世載㆑德、不㆑忝㆓前人㆒。〔漢書、敍傳上〕奕世載㆑德。〔後漢書、楊秉傳〕臣奕世受㆑恩。〔注〕奕、猶㆑重也。〔曹植、責㆑躬詩㆒表〕篤生㆓我皇㆒、奕世載㆑聽。〔魏書、禮志四〕惟周之士、不㆑顯㆓奕世㆒。

【奕千】18（エキセン）字號。❶清、顧士俊（**12**－**43689**‥270）の字。❷清、吳俊（**2**－**3365**‥228）の字。

【奕倩】19（エキセン）明、冼桂奇（**6**－**17379**‥119）の字。

【奕誴】20（エキソウ）清の宣宗の第五子。諡は定。同治の初、敦親王に進み、光緒の間、卒す。〔清史稿、二百二十七〕。

【奕代】21（エキダイ）だいだい。奕世。累代。〔後漢書、袁術傳、明公雖㆓奕世克昌㆒、注〕奕、猶㆑重也、詩云、不㆑顯奕代。〔陶潛、閑情賦序〕綴文之士、奕代繼作。〔舊唐書、李虞仲傳〕奕代文學達而不㆑矜。

【奕致】22（エキチ）廣東地方で容貌の美しいことをいふ語。〔新方言、嶺外三州語〕方言、奕、容也、凡美容、謂㆓之奕㆒、云云、三州謂㆓人貌美㆒曰㆑奕、或曰㆓奕致㆒。

【奕詝】23（エキチヨ）清、文宗（**5**－**13450**‥633）の名。

【奕夫】24（エキフ）清、李開葉（**6**－**14459**‥926）の字。

【奕謨】25（エキボ）清の仁宗の孫。號は心泉。封は貝子。官は鑲藍旗漢軍都統、後、右宗令。〔清史稿、一〕。

【奕洛瓌】26（エキラククワイ）前燕、慕容廆（**4**－**11088**‥57）の字。

【奕赫抵雅爾丁】27（イホテヤールチン）元の人。回回氏。字は太初。邢部郎中を拜命し、江東肅政廉訪使に轉じ、太初中、參議中書省事に陞進す。〔元史、一百三十七〕。

【㚇】5923 タイ

義未詳。〔篇海類編〕㚇、音太。

【㚈】5924 ソ

義未詳。〔龍龕手鑑〕㚈、千奴切。

【㚉】5925 キ

義未詳。〔字彙補〕㚉、音希、見㆓釋典㆒。

七畫

【套】5926

㊀タウ トウ 〔集韻〕土皓切 皓

㊁タウ トウ 〔集韻〕叨號切 號 去幺 t'ao^4

㊀**おほきくながい。**〔集韻〕套、長大也。

㊁❶**かさねもの。かさねる。**〔正字通〕套、凡物重沓者爲㆑套。❷**おほひ。**〔通俗編、器用〕凡物有㆑所㆑冒、謂㆓之套㆒。〔宋史、輿服志〕金轄有㆓金鍍銅套㆒。❸**くま。**曲つた所。〔集韻〕套、地曲、後唐與㆓梁人㆒戰㆓于胡盧套㆒。❹**ひとそろひ。**一組。〔西湖志餘〕官家進㆓白玉雙蓮杯・柈碾玉香脫兒一套六箇㆒。❺套（**3**－**5947**）の俗字。〔正字通〕套、俗作㆑套。❻現㋑籠絡される。㋺眞似する。㋩わな。探し出す。㋥定まつた通りの。㋭黑龍江附近で田地六畝を晌といひ、二晌を套といふ。

【套鞋】1 t'ao^4 hsieh^2 オーバーシューズ。雨天などに靴の上にはくゴム製の上靴。

【套印】2（タウイン）二度刷。套板（35）に同じ。

〘套印本〙3（タウインボン）明末から清初にかけて盛に行はれた俗本。別名、朱墨本ともいふ。套とは、總じてものの重なるにいふ。二度重ねて印刷する意。黑で印刷した原文の上に、朱を以て評點を印してゐる。二色が普通であるが、康熙時代には五色本さへ作製された。〔書林清話、顏色套印書始㆓於明季㆒盛㆓於清道咸以後㆒〕朱墨套印、明啓禎間、有㆓閔齊伋・閔昭明・淩汝亨・淩濛初・淩瀛初㆒、皆一家父子兄弟、刻㆑書最多者也。

【套間】4 t'ao^4 chien^1 最も奧まつた室。

〘套間兒〙5 t'ao^4 chien^1 êrh 室の中から通行できる兩方の室。小部屋。

【套虛】6 t'ao^4 hsü^1 虛言をいふ。

【套曲】7（タウキヨク）曲の數調が相聯つて套を成し、每調が獨立してゐないもの。套數（25）を見よ。

【套近】8 t'ao^4 chin^4 富貴の人に緣故あることを殊更に言ひふらすこと。

【套拳】9 t'ao^4 ch'üan^2 拳術を行ふ。

【套言】10 t'ao^4 yen^2 虛飾の文句。きまり文句。

〘套言不敍〙11 t'ao^4 yen^2 pu^2 hsü^4 常套の文句は省いて述べない。

【套壺】12 t'ao^4 hu^2 酒瓶を浸して酒を煖めるに

用ひる急須様のもの。

【套袴】13 タウコ はかま。脛衣。〔說文〕袴、脛衣也。〔段注〕今所謂套袴也。

【套褲】14 t'ao⁴ k'u⁴ 支那服のズボンの上を被ふ上掛。膝から足首までを紐で褲帶につるす。

【套語】15 タウゴ ありきたりのことば。きまり文句。常套語。套話。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕鴻略叙二套語一、絶不三談及二縣事一。

【套寇】16 タウコウ 明代、河套の寇をいふ。韃靼人の伽嘉色凌が河套に入り、長く患害をなし、英宗の時、明兵に破られて北に去つた。河套(**6－17245··160**)を見よ。

【套糟】17 t'ao⁴ ts'ao¹ 重慶を始め、長江沿岸で行はれた銀倆の一種。新票老票に比し、一二割劣るもの。

【套菜】18 t'ao⁴ t'sai⁴ 一人前の料理。定食。

【套索】19 t'ao⁴ suo³ 輪繩。

【套子】20 タウシ ㊀上被ひ。サック。しきたり。〔福惠全書、刑名部、賊盗上、申報〕在二事主一、不レ過二刀筆套子一。㊁t'ao⁴ tzŭ わな。

【套兒】21 タウジ ㊀半長ぐつ。〔長生殿、禊游〕一隻鳳鞋套兒。㊁t'ao⁴ êrh わな。

【套車】22 t'ao⁴ ch'ê¹ 馬車を仕立てる。

【套敍】23 t'ao⁴ hsü⁴ きまり文句。

【套數】24 タウスウ 賓白（セリフ）の無い清曲で、多くの曲が相聯り、套で數へられるからいふ。〔輟耕錄、雜劇曲名〕成二文章一曰二樂府一、有二尾聲一曰二套數一、時行二小令一曰二葉兒一、套數當レ有二樂府氣味一、樂府不レ可レ似二套數一。〔任訥、散曲概論〕套數乃多曲相聯、而有レ首有レ尾者、因必以レ套計數、曰二一套・兩套等一、故名。

【套設】25 タウセツ ありきたり。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕彼知三式非二套設一、則告狀者自留二心於合一レ式。

【套搭】26 タフタフ 混淆する。重複する。〔六部成語、戸部、套搭之引、注解〕此商所レ領之鹽引、又輾轉而與二彼商一、或彼此互相搭配銷售。

【套中】27 タウチユウ わるさのしかけのうち。〔福惠全書、錢穀部、漕項、收兌〕無レ論二糧之多寡、人之貧富一、俱難レ出二其套中一。

【套帖】28 t'ao⁴ t'ieh¹ 集帖。帙。

【套頭】29 t'ao⁴ t'ou² 順次。次第。

［套頭裹腦］30 t'ao⁴ t'ou² kuo² nao³ 己の利益を貪る爲に人に關係をつけること。

【套馬】31 t'ao⁴ ma³ kan¹ 馬に輪繩（ナハ）をかける。

［套馬杆］32 t'ao⁴ ma³ kan¹ 馬を結び付ける棒。

【套杯】33 t'ao⁴ pei¹ 重なつた酒杯。三つ組の酒「杯。

【套房】34 t'ao⁴ fang² 納戸。ねや。

【套板】35 t'ao⁴ pan³ 三色又は五色の文字を用ひて印刷した書籍。

【套猫】36 t'ao⁴ mao¹ 猫にわなをかける。

【套毛】37 t'ao⁴ mao² 山西省の南部地方から産出する羊毛の一種。毛布類を製造するに用ひる。

【套問】38 t'ao⁴ wen⁴ たづねること。

【套利】39 タウリ 投機で同時に現物を買つて先物を賣り、或は近期を買つて遠期を賣る等の方法で其の相差の利益を得ること。

【套禮】40 タウレイ 喪が終つて官に歸るとき、土産の物を以て上官に謁する禮。世にこれを俗套といふ。後、禮物を進呈する時、一定の品數の外に珍異及び土産の物など、數種を添へて選擇に備へた。〔野獲編〕先王大父終レ養歸、後入補レ官、嚴分宜レ當レ國、以二一紗二扇一謁レ之、嚴欣然款接、受レ扇而卻レ紗、二十年來、卽平交必用二一幣一、今且至二八幣一、而以二他物一如レ數侑レ之、謂二之八大八小一、而當レ之者反以爲二俗套一、不二肯盡收一、乃於二八大八小之後一、另開二珍異及土宜適用之物一、以備二選擇一。

【套料】41 タウレウ 陶磁器の製造で、上にかさね施す色料をいふ。套とは白地に采色を施すこと。〔勇廬閒詰〕套者、白受レ采也、先爲二之質一曰レ地、地則玻瓈・車渠・珍珠。

【套話】42 t'ao⁴ hua⁴ 日常の挨拶語。きまり文句。套語。

【套交情】43 tao⁴ chiao¹ ch'ing² 身分のある人と交を結ぶ。

【套半車】44 t'ao⁴ pan⁴ ch'e¹ 寡婦の、連子して嫁せんとする者。

【套拉攏】45 t'ao⁴ la¹ lung³ 枝葉に亙つた話をする。

【套畫押字】46 タウグワクアフジ 文書を僞造し他人の署名を模造すること。〔六部成語、刑部、套畫押字、注解〕假二作文券一、倣二畫他人押字一、以爲レ憑也。

【套連環兒】47 t'ao⁴ lien²huan² êrh 色々の方面から續いてゐること。

【奙】5927

コン ゴン 〔字彙〕胡本切 阮

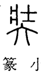
大いに束ねる。又、大束。〔字彙〕奙、大束也。

【奘】5928

［一］サウ ザウ 〔集韻〕在朗切 ㄓㄨㄤˇ 養 chuang³

［二］サウ ザウ 〔集韻〕才浪切 ㄗㄤˋ 漾 tsang⁴

慣 ジヤウ


小篆

［一］㊀**おほきい。**〔說文〕奘、駔大也、从二大壯一、壯亦聲。〔方言、一〕秦晉之閒、凡人之大、謂二之奘一、或謂二之壯一。㊁**さかん。**〔玉篇〕奘、盛也。㊂**すこやか。**〔集韻〕奘、健也。㊃現よそほふ。裝(**10－34321**)に通ず。［二］**おほきい。**〔集韻〕奘、大也。

解字 會意形聲。壯と大との合字。本義はさかんで大きいこと。故に壯と大とを合せて其の義を表はし、且つ壯は音を兼ねる。

參考 奘(**7－20418**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕奘奘二字、皆藏上聲、奘、大也、从レ大、奘、健犬从レ犬。

【奘腰】1 chuang³ yao¹ 大きい腰。ふとごし。

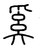
【奘細】2 chuang³ hsi⁴ 太いと細い。

【奄】5929

ホン 畚(**7－21809**)の譌字。〔正字通〕奄、畚字之譌。

【奚】5930

ケイ ゲイ 〔集韻〕弦雞切 ㄒㄧ 齊 hsi¹


小篆

㊀**ふくれた腹。**〔說文〕奚、大腹也、从レ大𦃃省聲。㊁**女奴。**罪に坐して官に没入せられた女の奴隸。㜎(**3－6617**)に通ず。〔說文通訓定聲〕奚、叚借爲レ㜎。〔周禮、秋官、禁暴氏〕凡奚隸聚而出入者、則司二牧之一。〔注〕奚隸、女奴・男奴也。㊂**めしつかひ。**こもの。〔唐書、李賀傳〕從二小奚奴一、背二古錦嚢一。㊃**なんぞ。なんすれぞ。**反語を表はす助辭。何(**1－511**)に通ず。〔說文通訓定聲〕奚、叚借爲二發聲之詞一。〔小爾雅、廣言〕奚、何也。〔論語、爲政〕奚其爲レ爲レ政。〔皇疏〕奚、何也。〔論語、八佾〕奚取二於三家之堂一。〔呂覽、貴公〕臣奚能言。〔注〕奚、何也。㊄**なに。なにをか。**疑問を表はす助辭。何(**1－511**)に通ず。〔戰國、秦策〕奚以遽言叱也。〔注〕奚、何也。〔呂覽、分職〕必任二巧匠一奚故。〔注〕奚、何也。㊅**地名。**春秋、魯の地。山東省滕縣の東南。〔春秋、桓、十七〕夏五月丙午、及二齊師一戰二於奚一。〔杜注〕奚、魯地也。〔會箋〕今兗州府滕縣南奚公山下有二奚邑一。㊆**種族の名。**もとの東胡種。元魏の時、自ら庫眞奚と號し、鮮卑の故地に居た。突厥と同族で、隋に至り始めて奚と號し、今の熱河省の灤平・平泉・承德・豐寧諸縣の地に居つた。〔唐書、北狄傳〕奚亦東胡種、爲二匈奴所一レ破、保二烏丸山一、漢曹操斬二其帥蹋頓一、蓋其後也、元魏時、自號二庫眞奚一、居二鮮卑故地一、直二京師東北四千里一、其地東北接二契丹一、西突厥、南白狼河、北霫、與二突厥一同レ俗、逐二水草一畜牧、云云、至レ隋始去二庫眞一、但曰レ奚。㊇**獸の名。**騱(**12－449**

16)に通ず。〔史記、匈奴傳〕其奇畜則橐佗・驢驘・駃騠・騊駼・驒奚。〔注〕師古曰、驒奚、駏驉類也。㊈**姓**。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕奚氏、夏車正奚仲之後、漢功臣表、魯侯奚涓、成陽侯奚意、傳二封三代一、又薄奚氏、改爲二奚氏一、望出二譙國一。

【奚隱】1 ケイイン　字號。㊀遼、耶律官奴(**9**－**29008**‥69)の字。㊁遼、耶律李胡(**9**－**29008**‥142)の字。

【奚岡】2 ケイカウ　清、錢塘の人。字は純章。號は鐵生。別號は蝶野子・蒙泉外史・鶴渚生・蒙道士・蘿龕・散木居士・冬花菴。又、排行が九に當るを以て奚九と呼ばれた。性、僻介。弱冠にして畫を以て有名、詩書倶に清曠で、奚道士といはれた。書室を散木樓といふ。著に冬花菴燼餘稿がある。〔清史稿、五百九〕・〔國朝耆獻類徵、四百四十〕。

【奚翰】3 ケイカン　遼、奚回离保(61)の一名。

【奚疑】4 ケイギ ナンゾウタガハンヤ　㊀何も疑ふことはない。〔陶潛、歸去來辭〕聊乘レ化以歸レ盡、樂二夫天命一復奚疑。㊁ケイギ 清、烏程の人。字は子復。號は虛伯(虛白)、又、樂夫・布衣。詩畫を善くし、賓客を喜び、居る所を月上樓といひ、後、榆蔭樓と改め、榆樓先生と稱す。卒年、八十四。〔續碑傳集、七十一〕。㊂大地昌言の號。大地東川(**3**－**5831**‥1578)を見よ。

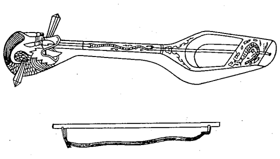
〖奚疑塾〗5 ケイギジユク　山本信有の號。山本北山(**4**－**7869**‥991)を見よ。

【奚九】6 ケイキウ　清、奚岡の俗稱。

【奚距】7 ケイキヨ　なんぞ。なんすれぞ。〔韓非子、難、四〕衞奚距然哉、則侏儒之未レ見也。〔翼毳〕奚距、猶レ云二何由一也。

【奚斤】8 ケイキン　後魏の人。簞の子。諡は昭。道武の初、禁兵を統べ、後、侍郎となり、山陽公を賜はる。大武に仕へ、宜城王に進み、弘農王に改められ、萬騎大將軍となる。〔魏書、二十九〕・〔北史、二十〕。

【奚琴】9 ケイキン　樂器の名。胡弓の一種。奚族の好んだ樂器。〔文獻通考、樂考、絲之屬、胡部〕奚琴、胡中奚部所レ好之樂、出二於奚鼗一、而形亦類焉、其制兩絃間以二竹片一軋レ之、民間或用。



奚琴　（清會典圖）

【奚官】10 ケイクワン　㊀官名。㋑晉、置く。馬を養ふことを掌る。少府に屬す。〔晉書、職官志〕少府統二材官校尉・中左右三尙方・中黃左右藏・左校・甄官・平準・奚官等令・左校坊・鄴中黃左右藏・油等丞一、及二渡江一、哀帝省、幷二丹陽尹一、孝武復置、自二渡江一、唯置二一尙方一、又省二御府一。〔蘇軾、韓幹十四馬詩〕老髯奚官騎且顧、前身作レ馬通二馬語一。㋺奚人の內府者に與へた官。〔唐書、裴耀卿傳〕開元二十年、副二信安王禕一討二契丹一、又持二帛二十萬一賜二立レ功奚官一。㊁官署の名。南朝及び隋に奚官署があり、宮人の疾病・罪罰・喪葬等の事を掌る。唐には奚官局といひて內侍省に屬す。〔隋書、百官志下〕內侍省、內侍・內常侍、各二人、內給事四人、內謁者監六人、內侍伯二人、內謁者十二人、寺人六人、伺非八人、並用二宦者一、領二內尙食・掖庭・宮闈・奚官・內僕・內府等局一。〔唐書、百官志〕奚官局、令二人、正八品下、掌二奚隸工役、宮官之品一、宮人病則供二醫藥一、死給二衣服一。

〖奚官奴〗11 ケイクワンド　馬を養ふ奚官の奴。奚官の㊀の㋑を見よ。〔大學衍義補、愼二刑憲一、定二律令之制一〕晉武帝時、有二邵廣者一、坐レ盜二官物一當二棄市一、其二幼子宗雲、撾二登聞鼓一乞レ恩、求下自沒爲二奚官奴一以贖中父命上、議者欲下特聽減二廣死罪一、爲中五歲刑上、宗等付二奚官一爲レ奴。

【奚冠】12 ケイクワン　清、奚濤(33)の原名。

【奚軍】13 ケイグン　奚人の軍。字解の㊆を見よ。〔金史、兵志〕所謂奚軍者、奚人遙輦昭古牙九猛安之兵也、奚軍初徙二於山西一、後分二遷河東一。

【奚奚】14 ケイケイ　腹の大きなさま。〔說文〕豯、生三月豚、腹奚奚皃也。〔段注〕奚奚、各本作二豯豯一、今正、大部曰、奚、大腹也。

【奚結】16 ケイケツ　種族の名。敕勒の別部で、同羅の北、僕固の東に在る部。〔唐書、回鶻傳上〕奚結爲二雞鹿州一、思爲二別部蹛林州一。

【奚眷】17 ケイケン　後魏、代の人。明元の時、虎牢鎭將となり、大武の時、南陽公となる。蠕蠕を征するや、策を誤つて、都南に斬らる。〔魏書、三十〕・〔北史、二十〕。

【奚胡】18 ケイコ　蠻族の名。字解の㊆を見よ。〔日本政記、後醍醐天皇論〕尊氏門地、非二奚胡之比一也。

【奚吾】19 ケイゴ　恥辱をいふ。謑詬。〔墨子、節葬下〕僻淫邪行之民、出則無レ衣也、入則無レ食也、內續二奚吾一、並爲二淫暴一、而不レ可レ勝レ禁也。〔閒詁〕兪云、四字不レ可レ解、疑當レ爲二內積奚后一、皆字之誤也、奚后、卽謑詬之叚音、說文言部、謑、恥也、重文謨曰レ謑、或從レ奊、又曰、詬謑、詬恥也、重文詢曰レ詬、或從レ句、荀子、非十二子篇、作二謑詢一、是其本字、漢書賈誼傳、作二奊詬一、奊卽謨之省、墨子作二奚后一、奚、卽謑之省、后、卽詬之省、古文以レ聲爲レ主、故省不レ從レ言耳、內積二謑詬一者、內積二恥辱一也、蓋出則無レ衣、入則無レ食、不レ勝二其恥辱一、故竝爲二淫暴一、而不レ可レ勝レ禁也。

【奚相】20 ケイサウ　蟲の名。〔爾雅、釋蟲〕諸慮奚相、蜉蝣渠略。

【奚翅】21 ケイシ　なんぞただに。何但。翅と啻と音通、翅は啻の假借。〔孟子、告子下〕取二食之重者與二禮之輕者一而比レ之、奚翅食重、取二色之重者與二禮之輕者一而比レ之、奚翅色重。〔集注〕翅、與レ啻同、古字通用、云云、奚翅、猶レ言二何但一。

【奚斯】22 ケイシ　春秋、魯の公子、魚の字。〔詩、魯頌、閟宮〕新廟奕奕、奚斯所レ作。〔傳〕新廟、閔公廟也、有二大夫公子奚斯者一、作二是廟一也。〔疏〕如二傳文一、蓋名魚、而字奚斯。〔左氏、閔、二〕使二公子魚請一、不レ許、哭而往、共仲曰、奚斯之聲也。〔班固、兩都賦序〕臯陶歌レ虞、奚斯頌レ魯。〔注〕善曰、薛君曰、奚斯、魯公子也、言其新廟奕奕然盛、是詩公子奚斯所レ作也。

【奚自】23 ケイジ　いづれより。どこから來たか。〔論語、憲問〕子路宿二於石門一、晨門曰、奚自、子路曰、自二孔子一。〔集注〕自、從也、問三其何所二從來一也。〔許堯佐、淸濟貫二濁河一賦〕絕レ河而去、孰與レ我爭レ先、導レ沇斯來、孰謂二我奚自一。〔李程、石鏡賦〕匪レ因二人力一、其成也何時、倬彼神功、其來也奚自。

【奚似】24 hsi^1 ssŭ^4　何物も及ばない。

【奚兒】25 ケイジ　胡人をいふ。胡兒(**9**－**29400**‥165)に同じ。〔杜甫、悲青坂詩〕黃頭奚兒日向レ西、數騎彎レ弓敢馳突。〔周昂、詩〕奚兒飮レ馬歸。

【奚昌】26 ケイシヤウ　明、吳縣の人。字は元啓。易・尙書に邃く、年五十にして進士に中たる。〔續吳先賢讚、十〕。

【奚若】27 イカン　いかん。いかんぞ。なんすれぞ。何如。〔禮、檀弓下〕吾欲レ暴レ尫而奚若。〔注〕奚若、何如也。〔墨子、法儀〕當皆法二其父母一奚若。〔閒詁〕當、與レ嘗通、云云、畢云、奚若、與二何如一同。〔孔子家語、六本〕殺二天子之民一、其罪奚若。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕其道奚若、爾無二面從一。〔注〕向曰、奚、何、若、如。

【奚如】28 ケイジヨ　いかん。何如(**1**－**511**‥112)に同じ。〔史記、虞卿傳〕寡人使三平陽君爲二媾於秦一、秦已內二鄭朱一矣、卿以爲二奚如一。

【奚深】29 ケイシン　複姓。〔賈耽四夷述〕。

【奚齊】30 ケイセイ　春秋、晉の獻公の庶子。獻公卒し、荀息が奚齊を立てるや、里克・丕鄭は重耳を納れんとし、三公子の徒を以て亂を爲し、喪寢に之を殺す。〔左氏、莊、二十八。僖、四・九〕・〔荀子、解蔽〕・〔史記、三十九〕。

【奚鼠】31 ケイソ　はつか鼠。鼷鼠(**12**－**48477**‥2)に同じ。〔東方朔、答客難、鼱鼩、注〕善曰、李巡爾雅注曰、鼱鼩、一名奚鼠。

【奚鼐】32 ケイダイ　唐、易水の人。善く墨を製す。弟の鼎も亦墨を製す。南唐に至り、鼐の子超と其の子廷珪と歙州に居り、姓を李と賜はる。廷珪の製した墨を、世に李廷珪墨と稱す。〔墨經〕唐匠氏惟聞二祖敏一、其後有二易水奚鼐一。

【奚濤】33 ケイタウ　清、昆山の人。原名は冠。字は沅山、一字は大蒙。明の諸生。清に入つて儒冠を棄て、渭塘に隱居す。詩畫に巧。書室を傷快閣・肆閒草堂といふ。著に傷快閣歸閒堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十七〕。

【奚簞】34 ケイタン　後魏、代の人。馬牧を典り、昭成帝に寵せらる。庫仁を傷つけて衞辰に奔り、道武が衞辰を滅すに及んで歸る。〔魏書、二十九〕。

【奚仲】35 ケイチユウ　㊀夏の人。禹の臣。始めて車に馬を稅し、命ぜられて車正となる。綏旆を建てて尊卑の等級を別つ。鄭玄の六藝論には、黃帝の七佐に奚仲あり、車を造るとある。〔墨子、非儒

下〕・〔荀子、解蔽〕。㊁星の名。〔隋書、天文志上〕天津北四星如㆓衞狀㆒、曰㆓奚仲㆒、古車正也。

【奚陟】36 ケイチョク 唐、京兆の人。字は殷卿。大曆の末、進士文詞清麗の科に擢んでられ、德宗の時、吏部侍郎に遷る。〔唐書、一百六十四〕・〔舊唐書、一百四十九〕。

【奚蔵】37 ケイテン 奚容蔵(47)の一名。

【奚奴】38 ケイド しもべ。召使。奚隸。〔周禮、天官、序官、酒人、奚三百人、注〕古者從坐男女沒㆓入縣官㆒爲㆑奴、其少㆓才知㆒以爲㆑奚、今之侍史官婢、或曰㆓奚宦女㆒。〔稱謂錄、僕、奚奴〕禮記疏、有㆓才能㆒曰㆑奚、無㆓才能㆒曰㆑奴、今混㆓稱僕㆒曰㆓奚奴㆒。〔李商隱、李賀小傳序〕恆從㆓小奚奴㆒。

【奚童】39 ケイドウ 僕童。〔邵長蘅、夜遊㆓孤山㆒記〕從㆓一奚童㆒、登㆓放鶴亭㆒。

【奚毒】40 ケイドク 毒草の名。附子。雞毒。溪毒。奥毒。〔廣雅、釋草〕蕉・奚毒、附子也、一歲爲㆓葥子㆒、二歲爲㆓烏喙㆒、三歲爲㆓附子㆒、四歲爲㆓烏頭㆒、五歲爲㆓天雄㆒。〔太平御覽、藥部、附子〕淮南子曰、夫天下之物、莫㆑凶㆓於奚毒㆒、然而良醫橐而藏㆑之、有㆑所㆑用也。〔注〕奚毒、附子。

【奚囊】41 ケイナウ 從者に持たせ、名勝を探つて行吟した詩歌を入れる袋。轉じて、詩文を入れる袋。詩囊。うたぶくろ。〔唐書、李賀傳〕每旦日、出騎㆓弱馬㆒、從㆓小奚奴㆒、背㆓古錦囊㆒、遇㆑所㆑得、書投㆓囊中㆒。〔柳貫、夜行溪谷間梅花云云詩〕正爲先生行役苦、故留㆓皺玉㆒薦㆓奚囊㆒。

【奚望】42 ケイバウ 山名。察哈爾省豐鎭縣南の得勝口の北、新城・得勝二河の經る所。上に圖雞臺がある。唐の乾符中、雲中の守捉使李克用・偕程信等、萬人の士を募つて此處にやどる。今、望城坡といふ。〔金史、地理志〕大回縣有㆓奚望山㆒。

【奚婢】43 hsi^{1} pei^{4} 下女。下婢。

【奚牧】44 ケイボク 後魏、代の人。道武に寵遇せられ、稱して仲兄といふ。幷州刺史を拜したが、姚興に誣ひられて戮せらる。〔魏書、二十八〕・〔北史、二十〕。

【奚養】45 ケイヤウ 幽州の藪名。又、豯養にも作る。〔說文〕藪、九州之藪、云云、幽州奚養。〔漢書、地理志上、琅邪郡、縣五十一、長廣、注〕奚養澤在㆑西。

【奚容】46 ケイヨウ 複姓。奚容蔵を見よ。

【奚容蔵】47 ケイヨウテン 春秋、衞の人。字は子晳。孔子の弟子。〔史記、仲尼弟子傳〕奚容蔵、字子晳。〔注〕正義曰、衞人。

【奚落】48 ケイラク 面前でけなす。罵る。〔通俗編、言笑、謑落〕高則誠琵琶曲有㆓奚落語㆒、奚、蓋謑之誤。〔長生殿、絮閣〕把㆑人無㆑端奚落。

【奚慮】49 hsi^{1} lü^{4} 思ひ掛けなく。

【奚隸】50 ケイレイ 女奴と男奴。奚奴。字解の㊁を見よ。

【奚蠡】51 ケイレイ ひさご。水を盛るもの。〔墨子、備城門〕盛㆑水有㆓奚蠡㆒。〔閒詁〕杜子春注㆓周官鬯人㆒曰、瓢、謂㆓瓠蠡㆒也、瓠蠡・奚蠡、一聲之轉。

【奚康生】52 ケイカウセイ 後魏、洛陽の人。諡は武貞。孝文の時、直閤將軍となり、後、功を以て右衞將軍河南尹に至る。元叉と與に靈太后を廢せんことを謀つて殺さる。〔魏書、七十三〕・〔北史、三十七〕。

【奚元朗】53 ケイゲンラウ 元、倪瓚(1−792··12)の號。

【奚玄朗】54 ケイゲンラウ 元、倪瓚(1−792··12)の號。

【奚緝營】55 ケイシフエイ 清、寶山の人。字は聖輝。父母に事へて至孝。〔清史稿、五百二〕・〔國朝耆獻類徵、三百八十九〕・〔國朝先正事略、五十九〕。

【奚什盧】56 ケイジフロ 複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕奚什盧氏、官氏志、改爲㆓索盧氏㆒。

【奚世亮】57 ケイセイリヤウ 明、黃岡の人。字は明仲、一の字は汝寅。嘉靖の進士。南京戸部主事を授けらる。延平府同知を歷て興化府に移攝し、倭寇を禦いで死す。〔明史、二百九十〕・〔萬斯同明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【奚道士】58 ケイダウシ 清、奚岡(2)をいふ。

【奚庭珪】59 ケイテイケイ 南唐、李廷邽(6−14459··1770)の本姓名。

【奚和朔奴】60 ケイクワサクド 遼の人。字は籌寧。奚可汗の裔。統和中、奚六部長・南面行軍副部署となり、宋の曹彬・米信等を燕南に破り、地を東南に掠し、高麗の北界に循つて還る。〔遼史、八十五〕。

【奚回离保】61 ケイクワイリホ 遼の人。一名は翰。字は挼懶。諸番を破つて功あり、奚六部大王に遷り、總知東路兵馬事を兼ね、後、自立して奚國皇帝と號し、天復と改元す。郭藥師に敗られて死す。〔遼史、一百十四〕・〔金史、六十七〕。

【奋】5931 ホン 畚(7−21809)の本字。〔正字通〕畚、本作㆑奋。

【亶】5932 クヮン 查(3−5910)の本字。〔正字通〕亶、查本字。

【奥】5933 ラウ 牢(7−19934)の古字。〔集韻〕牢、古作㆑奥。

【奎】5934 音未詳 姓。〔字彙補〕奎、音未詳。〔三尊譜錄〕金明七眞、法姓奎。

【豋】5935 クヮン グヮン 〔搜眞玉鏡〕求玩切 翰 **おほきい**。〔搜眞玉鏡〕豋、大也。

【契】5936 キフ 〔字彙補〕孤入切 緝 **たはむれる**。〔字彙補〕契、戲也。

【臾】5937 コン 坤(3−4969)に同じ。〔焦氏筆乘〕臾、卽坤字。

【㘴】5938 ヲン 穩(8−25344)に同じ。〔搜眞玉鏡〕㘴、與㆑穩同、安坐也。

八畫

【奣】5939 クヮウ 〔字彙〕虛晃切 養 **開け明るい**。ほがらか。あきらか。〔字彙〕奣、開明也。

【㚗】5940 ヘツ ヘチ 〔集韻〕必結切 屑 ㊀**おほきい**。〔玉篇〕㚗、大也。㊁**大力**。勔(2−2405)に同じ。〔集韻〕勔、巨力也、或作㆑㚗。

【奤】5941 イツ 壹(3−5661)に同じ。〔正字通〕奤、同㆑壹。

【奉】5942 ソウ 奏(3−5915)の本字。〔字彙〕奉、奏本字。

【奜】5943 🈩ヒ 〔廣韻〕敷尾切 尾 🈔ヒ 〔集韻〕父沸切 未 🈪ヒ 〔集韻〕匪微切 微 🈩🈔**おほきい**。〔廣韻〕奜、大也。🈪**姓**。斐(5−13469)に同じ。〔集韻〕斐、姓也、春秋傳、晉有㆓斐豹㆒、或書作㆑奜。

參考 斐(5−13469)は別字。

【奝】5944 テウ 〔集韻〕丁聊切 蕭 **大きい**。**又、多い**。⿰多周(3−5807)に同じ。〔集韻〕⿰多周、大也、多也、亦从㆑大。

【奝然】1 テウネン 我が國東大寺の僧。圓融天皇の永觀年間に宋に使して、今文鄭注孝經を宋の太宗に獻じた。〔宋史、日本傳〕奝然之來、復得㆓孝經一卷・越王孝經新義第十五一卷㆒。

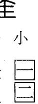
【奞】5945

㊀シユン 〔集韻〕須閏切 震

㊁シン 〔集韻〕思晉切 震

㊂スイ 〔集韻〕宣隹切 支

㊃セウ 〔集韻〕思邀切 蕭


小篆

㊀㊁㊂はばたく。〔説文〕奞、鳥張ニ毛羽一自奮奞也、从ニ大隹一、讀若レ睢。㊃羽を張るさま。〔集韻〕奞、張レ羽兒。

解字 會意。大（毛羽を張りひろげた形に象つた字）と隹（尾の短い鳥）との合字。本義は鳥が將に飛ばんとしてつばさを張つてはばたく意。故に大と隹とを合せて、その義を表はす。〔六書故〕戴侗曰、象ニ鳥將レ飛、頸項毛羽先奮張之形一。

參考 奎(3—5954)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕奞、同レ卂。奎、音窺、星名。

【奟】5946

㊀ヨク ヰキ 〔集韻〕越逼切 職

㊁キヨク コク 〔集韻〕忽域切 職

㊀大力のさま。〔集韻〕奟、字林、大力兒。

㊁❶おほきい。〔玉篇〕奟、大也。〔集韻〕奟、一曰、大也。❷四方。域(3—5158)に通ず。〔廣雅、釋詁一〕奟、方也。〔疏證〕廣韻、奟・域、同音、奟、與レ域通。

【套】5947 タウ 套(3—5926)の本字。〔正字通〕套、俗作レ套。

【秉】5948 ケン 秉(4—9184)に同じ。〔集韻〕秉、或作レ秉。

【奄】5949 エン 奄(3—5881)の本字。〔正字通〕奄、本作レ奄。

【執】5950 シツ 執(3—5193)に同じ。〔字彙〕執、同レ執。

【翕】5951

㊀コウ 〔集韻〕肯登切 蒸

㊁ハウ ヒヤウ 〔集韻〕晡橫切 庚

㊀❶強く大きいさま。傍翕。〔集韻〕翕、傍翕、彊大兒。❷或は勈(2—2373)に作る。〔集韻〕翕、或从レ力。㊁大力。勈(2—2337)に同じ。〔集韻〕勈、大力也、或作レ翕。

【奧】5952 カウ 衡(10—34078)の古字。〔玉篇〕奧、古文衡。

【𡗷】5953 シツ 瑟(7—21133)の古字。〔集韻〕瑟、古作レ𡗷。

【奎】5954

ケイ ケ 〔字彙補〕苦圭切 齊

星の名。奎(3—5911)に同じ。〔佩觿集〕奎、星名、當レ作レ奎。

參考 奞(3—5945)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕奞、同レ卂。奎、音窺、星名。

【卌】5955

ボ モ 〔集韻〕蒙晡切 虞

のり。おきて。さだめ。模(6—15453)に同じ。〔集韻〕模、説文、法也、或从ニ大卌一。〔篇海類編〕卌、法也、刑也、規也。

【森】5956

㊀シン 〔篇海類編〕疏簪切 侵

㊁シン 〔篇海類編〕所錦切 寢

㊀㊁おそれる。〔篇海類編〕森、恐怖也。

【㚏】5957

ケイ ケ 〔五音篇海〕許慧切 霽

肥えるさま。〔五音篇海〕㚏、肥貌。

【𡙏】5958 ケン 義未詳。〔字彙補〕𡙏、其元切、音拳。

【爽】5959 サウ 爽(7—19746)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕爽、目連記作レ爽。

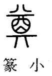
九畫

【奠】5960

㊀テン デン 〔集韻〕堂練切 霰 ㄉㄧㄢˋ tien⁴

㊁テイ ヂヤウ 〔集韻〕徒徑切 徑

㊂テイ ヂヤウ 〔韻會〕唐丁切 青


小篆

㊀❶物を供へて祭る。奠(4—9633)に同じ。〔説文〕奠、置祭也、从レ酋、酋、酒也、丌、其下也、禮有ニ奠祭一。〔段注〕置祭者、置ニ酒食一而祭也、故从ニ酋丌一、丌者、所レ置レ物之質也、如置ニ於席一、則席爲レ丌、云云、置之物多矣、言レ酒者、擧ニ其一耑一也。❷喪葬の時に物を供へる祭。〔説文、奠、禮有ニ奠祭一、段注〕禮、謂ニ禮經一也、士喪禮・既夕禮、祭皆謂ニ之奠一、葬乃以レ虞易レ奠。〔釋名、釋喪制〕喪祭曰レ奠、奠、停也、言ニ停久一也。〔禮、檀弓下〕奠、以ニ素器一。〔疏〕奠、謂ニ始死至レ葬之時祭名一、以三其時無レ尸、奠ニ置於地一、故謂ニ之奠一也。❸そなへものを地に置く。〔禮、內則〕奠レ之而后取レ之。〔注〕奠、停レ地也。❹定時でない祭。〔禮、祭統〕受レ書以歸、而舍ニ奠于其廟一。〔注〕非レ時而祭曰レ奠。❺さだめる。さだまる。定(3—7109)に通ず。〔説文通訓定聲〕奠、叚借爲レ定。〔集韻〕奠、一曰、定也。〔周禮、天官、職幣〕皆辨ニ其物一、而奠ニ其錄一。〔注〕奠、定也。❻とめる。とまる。とどまる。〔儀禮、士冠禮〕贊者奠ニ纚笄櫛于筵南端一。〔注〕奠、停也。❼おく。〔廣雅、釋詁四〕奠、置也。〔詩、召南、采蘋〕于以奠レ之。〔傳〕奠、置也。❽すすめる。ささげる。たてまつる。敶(5—13357)に通ず。〔説文通訓定聲〕奠、叚借爲レ敶。〔廣雅、釋言〕奠、薦也。〔禮、玉藻〕唯世婦命ニ於奠繭一。〔注〕奠、獻也。❾ととのへる。ととのふ。調(10—35609)に通ず。〔説文通訓定聲〕奠、叚借爲レ調。〔廣雅、釋詁四〕奠、調也。❿たる。尊(4—7445)に通ず。〔儀禮、士喪禮〕冪レ奠用ニ功布一。〔注〕古文、奠爲レ尊。㊁❶かりる。〔集韻〕奠、假也。❷おく。〔集韻〕奠、置也。❸食を貯ふ。飣(12—44024)に同じ。〔廣韻〕飣、貯レ食、奠、上同。㊂とめる。とまる。〔周禮、考工記、匠人〕凡行ニ奠水一、磬折以參伍。〔注〕奠、讀爲レ停。〔釋文〕奠、音亭。

名乘 サダ。

解字 會意。酋（かもして久しくたつた酒）と丌（物をのせる臺）との合字。本義は酒食を供へて祭ること。故に酋と丌とを合せて、その意を表はす。

參考 字形、奠にも作る。

【奠安】1 テンアン おちつくこと。安奠(3—7072・・367)に同じ。

【奠位】2 テンヰ 位をさだめる。〔太玄經、玄攡〕天地奠レ位。〔注〕奠、定也。

【奠瘞】3 テンエイ 祭祀の時、圭璧の類を地上に置き、犧牲の類を土中に埋めること。〔詩、大雅、雲漢〕

上下奠瘞、靡二神不レ宗。〔傳〕奠二其禮一瘞二其物一。〔疏〕奠、謂レ置二之於地一、瘞、謂レ埋二之於土一、禮與レ物、皆謂二爲レ禮事レ神之物、酒食牲玉之屬一也。

【奠鴈】4 テンガン 鴈をたてまつること。古、卿・大夫が君に見える時、聘物として鴈を用ひた。又、昏禮の贄として鴈を用ひた。其の陰陽往來に順ふに取るといひ、一說に、再偶せざるの義に取るといふ。今、親迎に鴈を贈るのは古禮である。〔儀禮、聘禮〕大夫奠レ鴈再拜。〔注〕不レ言レ卿、卿與二大夫一同執レ鴈。〔疏〕周禮秋官掌客云、凡諸侯之禮、上公五積、卿皆見以レ羔、侯伯四積、卿皆見以レ羔、是主國之卿、見二朝君一皆執レ羔、引レ之證下主國卿見二聘客一、不上レ得レ執レ羔、與二大夫一同用レ鴈、不レ見二朝君一故也。〔儀禮、士昏禮〕昏禮下達、納采用レ鴈。〔注〕用レ鴈爲レ贄者、取三其順二陰陽往來一。〔義疏〕敖氏繼公曰、用レ鴈者、先儒謂取三其不二再偶一、義恐或然。〔江筠、讀儀禮私記〕鴈不二再偶一、是以取レ之、蓋郊特牲所謂、一與レ之齊、終身不レ改之義也。〔胡培翬正義〕用レ鴈者、取二其隨レ時南北不レ失二其節一、明レ不レ奪二女子之時一也、又取二飛成レ行、止成レ列、明三嫁娶之禮、長幼有レ序、不二相踰越一也。〔庾信、周儀同松滋公拓跋競夫人尉遲氏墓誌銘〕奠レ鴈迎レ門、濡蘋實レ俎。

【奠基】5 テンキ ❶淸、李榮陞(6－14459・・874)の字。❷tien⁴ chi¹ 礎石を定める。

【奠饋】6 テンキ 祭の供物。〔王僧達、祭二顏光祿一文〕以レ此忍レ哀、敬陳二奠饋一。

【奠儀】7 tien⁴ i² 香奠。奠敬。

【奠牛】8 テンギウ 祭に供へる牛。〔周禮、地官、牛人〕喪事共二其奠牛一。〔注〕喪所二薦饋一曰レ奠。

【奠金】8′ tien⁴ chin¹ 香奠。

【奠敬】9 tien⁴ ching⁴ 香奠。供物。

【奠繫】10 テイケイ 帝繫・世本の類をいふ。〔周禮、春官、瞽矇〕諷二誦詩一、世二奠繫一、鼓二琴瑟一。〔注〕故書、奠、或爲レ帝、云云、杜子春云、帝、讀爲レ定、其字爲レ奠、書亦或爲レ奠、世二奠繫一、謂二帝繫一、諸侯卿大夫、世本之屬、是也、云云、瞽矇主下誦レ詩、幷誦二世繫一、以戒中勸人君上也。

【奠繭】11 テンケン 古、蠶事の禮。三宮で夫人・世婦の吉者をトし、諸侯の蠶室で養蠶せしめ、繭が出來上れば夫人より之を君に獻ずること。奠は獻。〔禮、玉藻〕唯世婦命二於奠繭一。〔注〕奠、猶レ獻也。〔疏〕凡獻レ物必先奠二於地一、故云二奠猶レ獻也一。〔集解〕世婦、謂二諸侯之內世婦一也、奠繭、猶二獻繭一也、諸侯有二公桑蠶室一、卜二於三宮夫人世婦之吉者一使レ蠶、既成、則從二夫人一而獻二之於君一也。

【奠祭】12 テンサイ 送葬の時、物を供へて祭ること。字解の❷を見よ。〔北史、周宗室導傳〕會葬者萬餘人、奠二祭於路一、悲號振レ野。〔唐書、李光弼傳〕光弼葬二長安南原一、將相奠祭、凡四十四幄、時以爲レ榮。

【奠菜】13 テンサイ 神前に野菜をそなへること。〔儀禮、士昏禮〕婦人三月、乃奠レ菜。〔注〕奠菜者、以レ篚祭レ菜也。〔白虎通、嫁娶〕婦入三月、奠二菜于廟一。

【奠酬】14 テンシウ 酬の一つ。賓者が酒杯をうけて、他に返酬せずに之をおくこと。旅酬(5－13644・・49)の對。〔詩、小雅、小弁、君子信レ讒如レ或醻レ之、疏〕酬酢皆作レ酬、此作レ醻者、古字得二通用一也、酬有二二等一、既酢而酬二賓者一、賓奠レ之不レ擧、謂二之奠酬一。〔禮、郊特牲〕奠レ酬而工升歌、發レ德也。

【奠酒】15 テンシユ ❶堡の名。四川省北川縣の西。附近に平番・赤土の諸堡がある。明の嘉靖三十四年、白草等の十八寨の蠻が平番・奠酒の二堡を犯した時、撫臣張時徹、偏帥何卿を督して之を平げしめた。〔讀史方輿紀要、四川、龍安府、石泉縣、復土堡〕奠酒啞堡、亦在二縣西一、其相近又有二平番赤土諸堡一、皆控二扼白草番一之處。❷tien⁴ chiu³ 神酒を捧げる。酒を以て死者を祭る。

【奠水】16 テンスイ とどこほつた水。止水。渟水。〔周禮、考工記、匠人〕凡行二奠水一、磬折以二參伍一。〔注〕鄭司農云、奠、讀爲レ停。

【奠竁】17 テンセイ 墓の穴の中にそなへ入れること。竁は墓穴。〔周禮、夏官、量人〕掌二喪祭奠竁之俎實一。〔疏〕竁、穿壙之名、此言二奠竁一、則奠二入於壙一、是以云二所レ包遣奠一也。

【奠湯】18 テンタウ 佛禪宗で、佛前・靈前、又は大衆に湯をそなへること。點湯。〔運步色葉集〕奠湯、茶毗之時。

【奠茶】19 tien⁴ ch'a² ❶神前などに茶を捧げること。❷佛 テンチヤ 佛前・死者の靈前に茶を供へること。〔禪林象器箋、喪薦門〕勅修淸規、尊宿遷化、擧哀之後、有二奠佛事一。

【奠枕】20 テンチン 枕をさだめる。轉じて、おちつく。安定する。〔法言、寡見〕昔在姬公用二於周一、而四海皇皇、奠二枕于京一。〔宋史、辛棄疾傳〕棄疾出知二滁州一、寬レ征薄レ賦、招二流散一、教二民兵一、議二屯田一、乃刱二奠枕樓一、繁二雄館一、辟二江東安撫司參議官一。〔楊載、詩〕中天會合寧非レ數、坐見蒼生奠枕安。

【奠定】21 テンテイ 定める。おちつく。基礎づける。

【奠鼎】22 テンテイ 都を定める。鼎は帝位、又は都の意。奠都。〔淸國行政法汎論、皇族財產〕淸朝奠二鼎燕京一之後、近京各府州縣、荒地極多。

【奠醊】23 テンテツ テンテイ 酒をそそいで祭ること。〔後漢書、王渙傳〕元興元年、病渙卒、百姓市道莫レ不二咨嗟一、男女老壯、皆相與賦斂、致二奠醊一以レ千數。〔注〕醊、音張芮反、說文曰、祭酹也。

【奠都】24 テント みやこを定める。奠鼎。肇都。

〔奠都祭〕25 テントサイ 奠都の記念に行ふ祭。

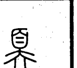
【奠文】26 テンブン 祭奠の文。〔白居易、祭二微之一文〕作二哀詞二首一、今載二於是一、以附二奠文一。

【奠牧】27 テンボク よく地方を鎭定する。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕有二睟叡蕃一、爰レ履奠レ牧。〔注〕善曰、爰レ履奠レ牧、謂下於二所レ履之地一、能鎭中定其郊牧上也。

【奠酹】28 テンライ 神を祭祀すること。酹は祭に酒を地にそそぐ。〔風俗通、十反〕上闕二奠酹一、下困二餬口一、非二孝道一也。〔任昉、上二蕭太傅一固二辭奪禮一啓〕且奠酹不レ親。〔白居易、祭二小弟一文〕吾親奠二酹於爾牀前一。

【臭】5961 チヤク 臭(7－20560)の譌字。〔集韻考正〕臭、案二類篇一、臭入二犬部一、此下从レ大、誤。

【奡】5962 ガウ ゴウ 〔集韻〕魚到切 ㄠ ao⁴ 號


小篆

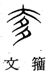
❶あなどる。おごる。傲(1－1015)に同じ。〔說文〕奡、嫚也、从レ百从レ夰、夰亦聲、虞書曰、若二丹朱奡一、讀若レ傲、論語、奡湯レ舟。〔段注〕奡、與レ傲音義皆同。❷つよい。多力のさま。〔說文、奡、段注〕引伸爲二排奡一、多力皃。〔六書故〕奡、彊項也。〔韓愈、薦レ士詩〕妥貼力排レ奡。❸人名。夏の人、寒浞の子。奡盪レ舟を見よ。❹姓。〔萬姓統譜〕奡、見二直音一。

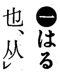
解字 會意形聲。百(首に同じ)と夰(ほしいまま)との合字。本義はおごりあなどること。おごるものは每に首を昂げる故に百と夰とを合せて、おごりあなどる意を表はし、且つ夰は音を兼ねる。〔說文、奡、段注〕傲者昂レ頭、故从レ首。

【奡盪レ舟】1 ガウフネヲウゴカス 夏の時、寒浞の子奡が多力で能く陸地に舟を推し動かしたといふ故事。〔論語、憲問〕南宮适問二於孔子一曰、羿善レ射、奡盪レ舟、倶不レ得二其死一然。〔集解〕孔安國曰、羿、有窮國之君也、篡二夏后相之位一、其臣寒浞殺レ之、因二其室一而生レ奡、奡多レ力、能陸地行レ舟、爲二夏后少康所一レ殺。

【㚊】5963 ケツ 缺(9－28122)に同じ。〔正字通〕㚊、同レ缺。

【奢】5964 シヤ 〔集韻〕詩車切 ㄕㄜ shê¹ 麻


小篆


籀文

❶はる。〔說文〕奢、張也、从レ大者聲。〔段注〕張者、施二弓弦一也、引伸爲二凡充庰之稱一。❷まさる。〔爾雅、釋詁〕奢、勝也。❸おごる。ぜいたく。〔論語、八佾〕禮與二其奢一也寧儉。〔皇疏〕奢、侈也。❹ほこる。おほげさにいふ。〔司馬相如、子虛賦〕奢二言淫樂一而

顯二侈靡一。〔注〕善曰、郭璞曰、奢、闊也。㊄たかぶる。〔左氏、隱、三〕驕奢淫泆。〔疏〕奢、謂二夸矜僭上一。㊅籒文は奓(3－5920)に作る。〔說文〕奢、奓、籒文。〔集韻〕奢、籒作レ奓。㊆姓。〔字彙補〕奢、苗姓、明末時奢寅、反二于蜀一。㊇［現］すぎる。

［名乘］ハル。

【奢佚】1（シャイツ） おごりに耽つて遊び怠る。〔後漢書、郎顗傳〕方今時俗奢佚、淺レ恩薄レ義。

【奢溢】2（シャイツ） おごる。〔史記、禮書〕奢溢僭差者、謂二之顯榮一。

【奢因】3（チェーン） 英米で測地に用ひる尺度の名。二十二ヤード。約二十米十二糎に當る。

【奢淫】4（シャイン） おごりみだる。〔漢書、哀帝紀〕制レ節謹レ度、以防二奢淫一。〔續列女傳、霍夫人顯傳〕奢淫虐害、不レ循二軌度一。〔魏志、袁術傳〕奢淫肆欲。

【奢延】5（シャエン） ㊀川の名。一に生水といひ、又、石窯川河といふ。源を綏遠省鄂爾都斯の境内に發し、東南流して陝西省橫山縣の境に入つて恍忽都河となり、東北に折れて海克圖河に合し、無定河となる。〔後漢書、段熲傳〕熲復追レ羌至二奢延澤一、乃將二輕兵一兼行、云云、擊二破之一。〔水經、河水注〕奢延水、出二橋門一、至二走馬水上一、尋聞三虜在二奢延縣西南一。㊁縣名。漢、置く。故城は蒙古鄂爾都斯右翼前旗の西南。奢延水によつて名づけられた。〔漢書、地理志下〕上郡、縣二十三、奢延。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭〕奢延城、在二故夏州西南一、漢縣屬二上郡一、以レ在二奢延水旁一而名、後漢因レ之、漢末廢。

【奢傲】6（シャガウ） おごる。傲奢。〔左氏、昭、十六〕君幼弱、六卿彊而奢傲。

【奢綺】7（シャキ） おごつてはでやか。〔吳志、諸葛融傳〕錦罽文繡、獨爲二奢綺一。

【奢虐】8（シャギャク） おごりしひたげる。〔後漢書、張讓傳論〕三世以二嬖色一取レ禍、嬴氏以二奢虐一致レ災。

【奢夸】9（シャクワ・シャコ） おごりほこる。〔潛夫論、班祿〕夏殷二國之政不レ得、乃用二奢夸廓大一、上帝憎レ之、更求二民之瘼一。

【奢華】10（シャクワ） おごつてはなやか。おごり飾る。〔韓愈、李花詩〕當レ春天地爭二奢華一、洛陽園苑尤紛拏。

【奢廣】11（シャクワウ） おごつて廣大なこと。ひろすぎること。〔後漢書、五行志四〕制度奢廣、多壞二吏民冢一。

【奢驕】12（シャケウ） 驕奢(12－45008‥46)に同じ。

【奢儉】13（シャケン） 奢侈と儉約。〔漢書、地理志下〕皆思二奢儉之中一、念二死生之慮一。〔風俗通、正失〕奢儉好醜。〔魏志、王粲傳〕奢儉之節、必視二世之豐約一也。

【奢言】14（シャゲン） おほげさにいふ。大言する。〔司馬相如、子虛賦〕奢二言淫樂一、而顯二侈靡一。〔注〕善曰、郭璞曰、奢、闊也。

【奢葬】15（シャサウ） はでやかにはうむる。靡葬。〔唐書、姚崇傳〕死者無レ知、自同二糞土一、豈煩二奢葬一。

【奢侈】16（シャシ） おごり。ぜいたく。奢忲。奢は華美、侈は豐富。〔國語、晉語八〕驕泰奢侈。〔六韜、文韜、上賢〕禁二暴亂一止二奢侈一。〔墨子、辭過〕其君奢侈而難レ諫也。〔史記、齊太公世家〕奢侈厚レ賦重レ刑。〔漢書、食貨志上〕爭二於奢侈一。〔孔子家語、辨政〕此傷二奢侈不レ節以爲レ亂者一也。

【奢侈稅】17（シャシゼイ） 酒・煙草等の奢侈品に課する高率の稅。

【奢恣】18（シャシ） おごつてほしいままなこと。奢肆。奢放。〔後漢書、袁術傳〕奢恣無レ猒、百姓患レ之。〔吳志、華覈傳〕至二於富貴商販之家一、重以二金銀一奢恣尤甚。

【奢肆】19（シャシ） 奢恣に同じ。〔唐書、魏徵傳〕頃既奢肆、思レ用二人力一。

【奢遮】20 shê^1 chê^1 聲威が盛で人を壓すること。〔水滸傳、十四回〕我不中用、也是一個親兄弟、你便奢遮殺、到底是我親哥哥。

【奢尙】21（シャシャウ） 綺羅を飾る。贅澤をする。〔北史、魏孝文帝紀〕人漸奢尙、婚葬越レ軌。

【奢縱】22（シャショウ） おごつてほしいままなこと。〔後漢書、章帝紀〕奢縱無レ度。〔魏志、后妃傳序〕末世奢縱。

【奢飾】23（シャショク） おごりかざること。〔後漢書、安帝紀〕朝廷躬自菲薄、去二絕奢飾一。

【奢僭】24（シャセン） 分外の贅澤をする。おごりたかぶる。〔漢書、成帝紀〕奢僭罔レ極。〔後漢書、光武紀下〕富者奢僭、貧者單レ財。

【奢俗】25（シャゾク） ぜいたくなしきたり。〔晉書、世祖武帝紀〕去二雕琢之飾一、制二奢俗一以變二儉約一。

【奢忲】26（シャタイ） おごる。奢侈。〔晉書、何遵傳〕性亦奢忲、役二使御府工匠一。

【奢汰】27（シャタイ） おごる。奢泰に同じ。〔荀子、仲尼〕閨門之內、般樂奢汰。〔注〕汰、侈也。

【奢泰】28（シャタイ） おごる。奢侈の過ぎること。奢汰。〔荀子、王霸〕齊桓公、閨門之內、懸樂奢泰、遊抏之脩。〔注〕泰、與レ汰同。〔漢書、禮樂志〕世俗奢泰文巧、而鄭衞之聲興。〔漢書、夏侯勝傳〕奢泰亡レ度、天下虛耗。〔漢書、杜欽傳〕抑二女寵一、防二奢泰一。〔論衡、非韓〕貪則奢泰不レ止。〔張衡、西京賦〕奢泰肆レ情、而馨烈彌茂。〔吳志、潘璋傳〕然性奢泰、末年彌甚。

【奢年】29 shê^1 nien^2 年若い。年少。

【奢放】30（シャハウ） おごつてほしいままなこと。奢恣。〔詩、唐風、蟋蟀、好レ樂無レ荒、疏〕樂者令二人歡樂一、惟恐二奢放一。

【奢望】31 shê^1 wang^4 過分の希望。

【奢比】32（シャヒ） 黃帝の臣。奢龍をいふ。〔山海經、海外東經〕奢比之尸在二其北一、獸身人面大耳、珥兩青蛇、一曰二肝楡之尸一、在二大人北一。〔路史、黃帝紀〕奢比辨二乎東一、以爲二土師一而平レ春。〔注〕卽奢龍。

【奢費】33（シャヒ） おごりの費用。〔潛夫論、浮侈〕孝文皇帝、盛夏苦レ暑、欲レ起二一臺一、計レ直百萬、以爲二奢費一而不レ作也。

【奢彌】34（シャビ・シャミ） ［佛］樹の名。別名、賒彌・枸杞。茄科の落葉灌木。葉は飯に和して炊ぐべく、又、茶の代用となる。〔合部金光明經、六〕奢彌・枸杞草。

【奢靡】35（シャビ） 身分不相應なおごり。〔漢書、地理志〕嫁取送死奢靡。〔說苑、權謀〕霍氏奢靡。〔後漢書、明帝紀〕競爲二奢靡一。〔顏氏家訓、止足〕形骸之內、尙不レ得二奢靡一。〔南齊書、武帝紀〕吉凶奢靡、動違二規則一。〔南史、羊侃傳〕窮二極奢靡一。

【奢欲】36（シャヨク） おごりを好む欲。〔後漢書、宦者傳序〕剝二割萌黎一、競恣二奢欲一。

【奢龍】37（シャリョウ） 上古、黃帝の臣。土師となる。又、奢比・蒼龍に作る。〔管子、五行〕得二奢龍一、而辯二於東方一、云云、故使レ爲二土師一。〔纂詁〕劉績云、一本奢、作レ蒼、云云、衡謂、古本作レ蒼。

【奢輪】38 shê^1 luen^2 小鳥籠。

【奢麗】39（シャレイ） おごつて美しくすること。〔書、畢命〕敝レ化奢麗、萬世同レ流。〔後漢書、羊續傳〕權豪之家、多尙二奢麗一。〔張衡、東京賦〕相高以二奢麗一。

【奢崇明】40（シャスウメイ） 明の人。其の先は猓玀種。明代世〻永寧に居り、宣撫司となる。傳へて崇明に至り、亂を好み、嘉崇の時、成都を圍んで、國を大梁と號し、自ら羅甸大王と稱したが、後、朱燮元に討平された。〔明史、三百十二〕・〔萬斯同明史、四百十〕。

【奢摩他】41（シャマタ） ［佛］Samathaの音譯。精神をただ一點に集中すること。〔大乘起信論〕所レ言止者、謂、止二一切境界相一、隨二奢摩他觀義一故。

【奢摩他室曲叢】42（シャマタシツキョクソウ） 戲曲の叢書の名。民國、吳梅編。初・二の兩集あり、初集には嵇永仁の揚州夢・雙報恩、沈起鳳の報恩緣以下四曲を收め、第二集には周憲王の牡丹品以下二十八曲を收めてゐる。

【奢者心嘗貧】43（オゴルモノココロツネニマヅシ） おごりを好む者は心に足ることを知らないから、其の心は常に貧しい。嘗は、常。〔譚子化書、儉化〕奢者富不レ足、儉者貧有レ餘、奢者心嘗貧、儉者心嘗富。

【報】
5965

ハウ

報(3－5275)の本字。〔正字通〕報、報本字。

【奣】
5966

［一］ワウ　〔集韻〕烏猛切　［梗］

［二］クワウ　〔集韻〕古猛切　［梗］

［一］［二］㊀あきらか。〔六書略〕奣、明也、一曰、六合皆淸明。㊁橋の名。〔字彙補〕奣、橋名、在二蘇州崑山縣一、元末、方國珍趨二奣子橋一、與二張士誠一戰。

【㚖】5967 カウ　衡(**10－34078**)の古字。〔玉篇〕㚖、古文衡。

【㚗】5968 シン　眞(**8－23235**)の古字。〔玉篇〕㚗、古文眞。

【㚚】5969 キヨク コク　〔集韻〕迄力切　職

肥える。㚚㚚。〔集韻〕㚚、博雅、㚚㚚、肥也。

【奤】5970 ㈠ハン　〔集韻〕普伴切　旱　㈡タイ　〔中華大字典〕湯改切　賄　㈢ハク　〔廣韻〕匹各切　藥

㈠**かほが大きい。**〔集韻〕奤、面大。㈡**人を罵る語。**〔菽園雜誌〕南人詈㆓北人㆒爲㆓奤子㆒。㈢**かほが大きい。**顊(**12－43592**)の俗字。〔廣韻〕顊、面大皃、奤、俗。

【㚘】5971 ケツ　兔の子。㚘(**6－16759**)に同じ。〔字彙補〕㚘、與㆑㚘同、兔子。

【㚓】5972 レン　〔集韻〕離鹽切　鹽

くしげ。又、香箱。籢(**8－26766**)・奩(**3－5991**)に同じ。〔集韻〕籢、說文、鏡籢也、或作㆑奩。〔正字通〕奩、亦作㆑㚓。〔海篇〕㚓、盛㆑香器也。

【奔】5973 サン　〔龍龕手鑑〕音傘

かさ。おほひ。〔龍龕手鑑〕奔、蓋也。

【㚙】5974 音未詳　姓。〔字彙補〕㚙、音未詳。〔三尊譜錄〕太上眞皇、法姓㚙。

【㚞】5975 サイ　載(**10－38309**)に同じ。〔字彙補〕㚞、武則天所㆑製載字。

【㚝】5976 ヰ　義未詳。〔五音篇海〕㚝、音胃。

【㚣】5977 カウ　皎(**8－22724**)に同じ。〔字彙補〕㚣、與㆑皎同。

【奓】5978 カイ　義未詳。〔五音篇海〕奓、音開。

【㚇】5979 テン　義未詳。〔海篇〕㚇、音天。

【㚓】5980 チ　義未詳。〔字彙補〕㚓、知雉切、智上聲、出㆓釋藏疑字函㆒。

【奥】5981 アウ　奧(**3－5985**)の俗字。〔正字通〕奧、俗作㆑奥。

十畫

【㷀】5982 ケウ　〔集韻〕馨幺切　蕭

❶**長く大きいさま。**〔集韻〕㷀、長大皃。❷**大きい。**〔集韻〕㷀、博雅、大也。❸**肥える。**〔集韻〕㷀、肥也。

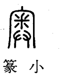
【葵】5983 シ　〔字彙〕津私切　支

❶**よこしま。**正しくない。〔玉篇〕葵、不㆑正。❷**おほきい。**〔字彙〕葵、大也。

【𤼽】5984 ブ ム　〔字彙〕亡遇切　遇

❶**おほきい。**〔玉篇〕𤼽、大也。❷**こと。わざ。**〔字彙〕𤼽、事也。

【奧】5985 ㈠アウ オウ　〔集韻〕於到切　號　ào　㈡ヰク　〔集韻〕乙六切　屋　㈢イウ ウ　〔集韻〕於求切　尤　㈣サン　〔正字通〕讀爲㆑爨。


小篆

㈠❶**おく。**㋑室の西南隅で室中の最も尊いところ。もと𡘙(**3－7301**)に作る。〔正字通〕奧、本作㆑𡘙。〔說文〕𡘙、宛也、室之西南隅、从㆑宀𢍏聲。〔段注〕宛・奧、雙聲、宛者、委曲也、室之西南隅、宛然深藏、室之尊處也。〔爾雅、釋宮〕西南隅、謂㆓之奧㆒。〔釋名、釋宮室〕宮中西南隅曰㆑奧、不㆑見㆓戶明㆒、所在祕奧也。〔論語、八佾〕與㆔其媚㆓於奧㆒、寧媚㆓於竈㆒。〔集解〕孔安國曰、奧、內也。〔疏〕奧、內也、謂㆓室內西南隅㆒也。〔楚辭、宋玉、招魂〕經㆑堂入㆑奧。〔注〕西南隅、謂㆓之奧㆒。㋺室の東南隅。〔後漢書、周磐傳〕講㆓於陰堂之奧㆒。〔注〕東南隅謂㆓之奧㆒。㊇おくざしき。〔後漢書、梁冀傳〕堂寢皆有㆓陰陽奧室㆒。〔注〕奧、深室也。㊁くま。すみ。入りこんだところ。〔張協、七命〕呑㆓響乎幽山之窮奧㆒。〔注〕善曰、奧、隱處也。❷**うち。**國內。〔左氏、昭、十三〕國有㆓奧主㆒。〔疏〕奧、是內之義、奧主、國內之主也。❸**おも。かなめ。**主要。〔禮、禮運〕故人以爲㆑奧也。〔注〕奧、猶㆑主也。❹**ふかい。**〔廣韻〕奧、深也。〔孔安國、尙書序〕雅誥奧義。〔注〕濟曰、奧、深也。〔陸機、塘上行〕結㆑根奧且堅。〔注〕善曰、奧、猶㆑深也。❺**かすか。**〔漢書、王襃傳〕去㆓卑辱奧渫㆒。〔注〕張晏曰、奧、幽也。❻**ひそか。**〔太玄經、玄文〕冥反㆓其奧㆒。〔注〕奧、祕也。❼**かくれる。をさめる。**〔廣雅、釋詁四〕奧、藏也。❽**つち。**土。墺(**3－5504**)に通ず。〔說文通訓定聲〕奧、叚借爲㆑墺、書大傳、壇四奧、注、內也、安也、失㆑之。❾**家の小屋。**〔莊子、徐无鬼〕吾未㆓嘗爲㆑牧、而牂生㆓于奧㆒。〔釋文〕奧、豕牢也。❿**にごる。**㶑(**7－17986**)に通ず。〔說文通訓定聲〕奧、叚借爲㆑㶑。〔班固、典引〕有㆓沈而奧㆒。〔注〕蔡邕曰、奧、濁也。⓫**にる。**鐭(**11－40922**)に通ず。〔說文通訓定聲〕奧、叚借爲㆑鐭。〔荀子、大略〕泔㆑之傷㆑人、不㆑若㆑奧㆑之。〔注〕泔・奧、皆亨和之名。⓬或は宩(**3－7342**)に作る。〔集韻〕奧、或作㆑宩。⓭**姓。**〔萬姓統譜〕奧屯茂、大名人、大德閒、任㆓河東陝西都轉運鹽使司運使㆒。㈡❶**へやのなか。**〔集韻〕奧、室中。❷**あたたか。**燠(**7－19458**)に通ず。〔說文通訓定聲〕奧、叚借爲㆑燠。〔詩、唐風、無衣〕安且奧兮。〔釋文〕奧、本作㆑燠。❸**くま。**隩(**11－41872**)に通ず。〔漢書、地理志〕四奧既宅。〔書、禹貢〕四隩既宅。❹澳(**7－18412**)に通ず。〔詩、衞風、淇奧〕瞻㆓彼淇奧㆒。〔大學〕瞻㆓彼淇澳㆒。㈢**いたみ思ふ聲。**燠(**7－19458**)に同じ。〔集韻〕燠、燠休、痛念聲、或作㆑奧。㈣**かまどの神の祭。**竈(**8－25703**)に通ず。〔說文通訓定聲〕奧、叚借爲㆑竈。〔禮、禮器〕燔㆓柴於奧㆒、

夫奥者、老婦之祭也。〔疏〕奥者、夏祀二竈神一、其禮尊、以二老婦一配レ之耳。邦 **おく**。㋑一家の內で、家人の常に居る室。㋺德川時代、將軍の居室。㋩大名・旗本等の屋敷で、主人の公務を見る表に對して、夫人等の居室をいふ。㋥身分の高い大名等が、己の妻を呼ぶ稱。㋭他人の妻の敬稱。㋬心中に奥深く祕めかくしてゐること。㋣學問や藝道の神髓。奥儀。㋠陸奥の略。㋷結果。物事の終。㋦奥書の略。㋸左の方をいふ。㋾姓氏の一。

名乘 ウチ。スミ。ムラ。

【奥庵】1（アウアン） 笠間惟房の號。笠間奥庵（**8－25924**‥9）を見よ。

【奥意】2（オクイ） ❶祕密。底の心。❷奥の手。奥義。

【奥域】3（アウヰキ） 奥深い土地。轉じて、墓をいふ。〔王勃、益州綿竹縣武都山淨慧寺碑〕武都仙鎭、龍墟奥域。

【奥印】4（オクイン） ❶奥書に捺す印。〔明良洪範、九〕貴殿、奥印有べしと云。❷官署又は公署で事實の眞なるを證する爲、書類の終に捺す印。〔明治二十三年七月閣令第四號官吏遺族扶助法施行規則第七條〕。

【奥宇】5（アウウ） 奥ふかい家。〔嵇康、琴賦〕詳觀下其區土之所二產毓一、奥宇之所中寶殖上。

【奥羽】6（アウウ） 陸奥・出羽の略稱。今の福島・宮城・岩手・青森・山形・秋田の六縣の地をいふ。東北地方。〔國史略、堀河天皇〕家衡微服爲レ奴而亡、亦被二射殺一、斬二戮其黨四十八人一、奥羽乃平。

〔奥羽四天王〕7（アウウシテンワウ） 寛政・文化の頃、東北地方に於ける俳諧の巨匠四人の稱。卽ち乙二・五明・長卒・素卿をいふ。

【奥窔】8（アウエウ） 室內のおく。奥は室の西南隅、窔は東南隅。〔爾雅、釋宮〕西南隅謂二之奥一、東南隅謂二之窔一。〔韓詩外傳、四〕奥窔之間、衽席之上。〔荀子、非十二子〕奥窔之間、簟席之上。〔注〕西南隅謂二之奥一、東南隅謂二之窔一、言レ不レ出二堂室之內一也。

【奥衍】9（アウエン） 文章の意味の奥深いこと。〔唐書、韓愈傳〕其原道・原性・師說等數十篇、皆奥衍閎深、與二孟軻・揚雄一相表裏。

【奥苑】10（アウエン） 奥深い花園。〔管子、五行〕天爲二奥苑一、草木養長。

【奥遠】11（アウエン） 奥深い。深遠。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕古義弘深、聖問奥遠、非三臣所二能詳盡一。

【奥行】12（オクユキ） 地面・家屋などの前面から後面に至る迄の長さ。卽ち間口に直角な一邊。

【奥縞】13（オクジマ） さんとめ縞。近世初期以來、西印度の聖多默（サントメ）から輸入した、赤線入り縱縞の織物。〔東海道名所記、六〕知り人に行き逢はじと、奥縞の道服を打ちかづき。

【奥學】14（アウガク） 奥深い學問。〔宋史、王禹偁傳論〕禹偁醇文奥學、爲二世宗仰一。

【奥氣】15（アウキ） ひそんでゐる氣。〔漢書、五行志中之下〕奥氣不レ臧、則華實復生。

【奥義】16（アウギ オクギ） 高尙で奥深い道理。おくぎ。奥祕。奥旨。〔孔安國、尙書序〕至二于夏商周之書一、雖二設レ教不倫一、雅誥奥義、其歸一レ揆。〔宋史、蔡元定傳〕講二論諸經奥義一。

【奥義書】17（アウギシヨ） 佛 ウパニシヤッド Upanisad の譯語。古代印度の哲學・宗教に關する根本聖典たる吠佗 Veba を解說した書。紀元前八世紀頃から同五世紀頃の間に編纂せられたもの。

〔奥儀抄〕17′（アウギセウ） 書名。三卷。藤原淸輔撰。和歌の式、作歌の法を論じ、且、和歌の奥儀を解釋したもの。〔群書備考、十八〕藤原淸輔、顯輔之子、云云、尤善二和歌一、著二奥儀鈔・初學鈔・袋草子等一。

【奥境】18（アウキヤウ） 奥深い境地。おくの手。〔唐書、徐曠傳〕先生所レ說、紙上語耳、若二奥境一、彼所レ未レ見者、當二何觀一。

【奥曲】19（アウキヨク） 奥義を極めた音樂のふし。〔參同契〕備明二奥曲一、得レ倣二仙眞一。

【奥勤】20（オクヅトメ） 貴人の奥向につとめること。

【奥區】21（アウク） 奥深い所。國の中央の地。邊境（**11－39216**‥39）の對。奥隅。隩區。〔後漢書、班固傳上〕防禦之阻、則天下之奥區焉。〔注〕奥、深也、言、秦地險固、爲二天下深奥之區域一。〔張衡、西京賦〕寔爲二地之奥區神皋一。〔王融、三月三日曲水詩序〕芳林園者、福地奥區之湊。〔文心雕龍、宗經〕洞二性靈之奥區一。〔宋史、吳越世家〕撫二奥區於吳會一。

【奥隅】22（アウグウ） 奥區に同じ。〔易林、否之レ觀〕天之奥隅、堯舜所レ居。

【奥廣】23（アウクワウ） 奥深くて廣いこと。〔後漢書、陳寔傳贊〕太丘奥廣、模二我彝倫一。

【奥槨】24（オクツキ） 墓をいふ。〔萬葉集、三〕眞間の手兒名が奥槨を。

【奥鞬】25（キクケン） 地名。〔漢書、匈奴傳上〕匈奴遣三左右奥鞬各六千騎與二左大將一、再擊下漢之田二車師城一者上、不レ能レ下。〔注〕師古曰、奥音郁、鞬音居言反。

〔奥鞬城〕26（キクケンジヤウ） 城の名。漢代、西域の奥鞬王が治めたところ。〔漢書、西域傳上〕五曰二奥鞬王一、治二奥鞬城一、去二都護一六千九百六里、去二陽關一八千三百五十五里。

【奥姑】27（アウコ） 契丹の舊俗の一。婚燕の禮に、尊敬すべき女子を奥に坐らせ、これを奥姑といふ。〔遼史、公主表〕契丹故俗、凡婚燕之禮、推下女子之可二尊敬一者上坐二於奥一、謂二之奥姑一。

【奥妻】28（オクヅマ） 大切にかしづく妻。〔萬葉集、十七〕はしけやしあがおくづま。

【奥草】29（アウサウ） 深く茂つた草。〔國語、周語中〕野無二奥草一。〔注〕奥、深也。〔柳宗元、永州新堂記〕翳二于奥草一有レ泉焉。〔柳宗元、桂州訾家洲亭記〕伐二惡木一、刜二奥草一。

【奥藏】30（アウザウ） 奥深く隱れた所。〔韓詩外傳、二〕闚二其戶一、不レ入二其中一、安知二其奥藏之所一レ在。

【奥賾】31（アウサク） 奥深いこと。深密のさま。〔陳書、袁憲傳〕二賢雖レ窮二奥賾一、得レ無レ憚、此後生耶。〔許敬宗、勸二封禪一表〕參二三才之奥賾一、驗二百神之感通一。

【奥旨】32（アウシ） 學藝などの極所。おくの手。奥義。〔柳宗元、故銀青光祿大夫云云宜城縣開國伯柳公行狀〕凡爲レ學、略二章句之煩亂一、採二摭奥旨一、以レ知レ道爲レ宗。〔邢昺、孝經注疏序〕奥旨微言。

【奥思】33（アウシ） 深いおもひ。深遠な考。〔洛陽名園記〕富鄭公園景物最勝、云云、皆曲有二奥思一。

【奥祉】34（アウシ） かくれたさいはひ。〔呂溫、皇帝親二庶政一頌〕宣二八聖之重光一、集二百靈之奥祉一。

【奥州】35（アウシウ） みちのく。本州の東北地方の稱。奥州駒を見よ。

〔奥州駒〕36（アウシウゴマ） 奥州、主として南部地方から產する馬をいふ。〔東鑑、嘉禎三年十一月十七日〕駿河式部丞泰村、獻二奥州駒五疋於御所一。

【奥室】37（アウシツ） 奥深いへや。〔後漢書、梁冀傳〕堂寢皆有二陰陽奥室一。〔顏氏家訓、風操〕世人或端二坐奥室一、不レ妨二言笑一。

【奥壤】38（アウジヤウ） 片田舍の地。邊僻の地。〔晉書、孝武帝紀〕三吳奥壤、股肱望郡、而水旱併臻、百姓失レ業。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕姑蘇奥壤、任切二關河一。〔注〕善曰、奥壤、猶二奥區一也。〔白居易、除范傳正宣歙觀察使制〕陵陽奥壤、土廣人庶。

【奥手】39（オクノテ） ❶肱。二の腕。一說に、左手をいふ。〔萬葉集、九〕左手の我が奥の手。❷技藝の祕訣。謀略の祕策。〔艷狩劍本地、三〕親をだしに使ふは、物取の奥の手。❸容易に示さない隱し藝。

【奥主】40（アウシユ） ❶奥まつた處に居る主人。奥は室の隅で尊者の居所。又、國內の主をいふ。〔左氏、昭、十三〕國有二奥主一。〔疏〕奥、是內之義、奥主、國內之主也。〔會箋〕謂二靈王儼然尙在一レ奥也、仲尼燕居篇、目巧之室、則有二奥阼一、蓋隅有レ奥、則尊者所レ處而別二於卑一、禮運篇、人情以爲レ田、故人以爲レ奥、鄭云、奥、猶レ主也、田無レ主則荒。❷深奥沈着で人を知る明のある君。〔陸機、五等諸侯論〕雖丁復時有丙鳩二合同志一、以謀乙王室甲、然上非二奥主一、下皆市人。〔注〕濟曰、奥、深也、言レ非二深沈知レ人之主一也。

【奥趣】41（アウシユ） 奥深いおもむき。〔柳宗元、永州龍興寺東丘記〕水亭陿室、曲有二奥趣一。

【奥術】42（アウジユツ） おくの手。祕奥の術。〔李昇、曆生失レ度判〕三元奥術、六律幽源。

【奥書】43（オクガキ） ❶書物・卷物等の終に其の來歷などを記すかきいれ。跋文。〔十六夜日記〕歌の草子どもの奥書などして。❷願書の文面に相違無きことを證明するかきいれ。

【奥處】44（アウシヨ） ❶奥まつたところに居る。〔張華、歸田賦〕冬奥二處城邑一、春遊二放于外廬一。❷（オクカ） 奥深い處。遠いはて。又、學問・伎藝などの奥義

をいふ。〔萬葉集、五〕常知らぬ國のおくか。

【奥如】45（アウジョ） こんもりとして奥深いさま。〔柳宗元、永州龍興寺東丘記〕遊之適、大率有二、曠如也、奥如也。

【奥勢】46（オクゼイ） 奥羽の軍勢。奥州勢。〔太平記、十九〕進奥勢跡道道合戰事。

【奥渫】47（アウセツ・イクセツ） くらくきたない。汙濁をいふ。〔漢書、王褒傳〕去卑辱奥渫而升本朝。〔注〕張晏曰、奥、幽也、渫、狎也、汚也。〔王先謙補注〕王念孫曰、張訓奥爲幽、誤分奥渫爲二義、奥者、濁也、言去卑辱汙濁之中而升於朝廷也。

【奥說】48（アウセツ） 深遠な說。〔王僧孺、懺悔禮佛文〕究香城之妙理、窮金河之奥說。

【奥絕】49（アウゼツ） 奥深くて世俗と交涉を絕つこと。〔沈約、恩倖傳論〕夫人君南面、九重奥絕。

【奥阼】50（アウソ） 奥と阼。奥は室の西南隅、尊者の居る所、阼は堂の東階、主人の升降する所。〔禮、仲尼燕居〕目巧之室、則有奥阼。〔疏〕云奥阼賓主之處也者、爾雅云、西南隅謂之奥、奥之外則有賓位所在、東階謂之阼、故曰賓主之處。〔新書、禮〕無奥剽之位。〔注〕剽、恐當作阼。

【奥大】51（アウダイ） 奥深く大きい。〔蘇舜欽、上孔待制書〕幼而淑質、長而令聞、其學奥大而不雜。

【奥宅】52（アウタク） おくまつた家。〔王漸逵、游羅浮賦〕望羅浮之故墟、感神明之奥宅。

【奥殿】53（オクデン） 奥御殿。

【奥得】54（オーデル） 河の名。ドイツ東部の川。オーデル山脈に源を發し、ドイツに入り、バルト海に注ぐ。Oder

【奥毒】55（アウドク） 毒草の名。奚毒(**3**－**5930**・・40)に同じ。〔史記、蘇秦傳、不食烏喙者、注〕正義曰、廣雅云、蘇、奥毒、附子也、一歲爲烏喙、三歲爲附子、四歲爲烏頭、五歲爲天雄。

【奥屯】56（アウトン） 複姓。〔金史、國語解〕奥屯曰曹。

【奥屯襄】57（アウトンジヤウ） 金、上京路の人。〔金史、奥屯襄傳〕奥屯襄、本名添壽、上京路人。平南湯江將軍を拜命し、功を以て昌武軍節度使に歷任す。崇慶中、元帥左都監となり、西京を救はんとして一軍盡く殪れたので除名せられたが、宣宗立つて宣撫使となり北京を留守す。尋いで完顏習烈に害せらる。〔金史、一百三〕。

〔奥屯忠孝〕58（アウトンチユウカウ） 金、胡土虎猛安の人。字は全道。諡は惠敏。大定の進士。官は參知政事、後、出でて知濟南府事となる。〔金史、一百四〕。

〔奥屯醜和尙〕59（アウトンシウクワシヤウ） 金の人。官は代州經略使。貞祐中、元兵を代州に防ぎ、敗れて死す。〔金史、一百二十二〕。

【奥敦】60（アウトン） 複姓。〔元史、奥敦世英傳〕奥敦世英、女眞人也、其先世仕金、爲淄州刺史、歲癸酉、太祖兵下山東、淄州民奉世英及弟保和迎降、皆授以萬戶。

〔奥敦世英〕61（アウトンセイエイ） 元、女眞の人。其の先世は金に仕ふ。太祖の兵、山東に下るや、弟保和と共に降り、萬戶を授けられ、德興府尹に累遷す。〔元史、一百五十一〕。

【奥內】62（アウナイ） 室の中でおくまつたところ。〔釋名、釋飮食〕腴、奥也、藏肉於奥內、稍出用之也。〔漢書、杜鄴傳〕所白奥內、唯深察焉。〔注〕師古曰、奥內、室中隱奥之處也。

【奥方】63（オクガタ） 身分高い人の妻。〔義光物語〕輝宗公の御奥方より輿に召され。

【奥房】64（アウバウ） 奥深いへや。深房。〔魏志、王朗傳〕子發未舉於椒蘭之奥房、藩王未繁於掖庭之衆室。

【奥博】65（アウハク） ふかく且つひろい。深く藏し廣く蓄へること。〔顏氏家訓、治家〕南陽有人、爲生奥博、性殊儉吝。〔陸機、君子有所思行〕善哉膏粱士、營生奥且博。〔白居易、與元九書〕以康樂之奥博、多溺於山水。

【奥祕】66（アウヒ） 奥深い祕密。奥義。〔蜀志、郤正傳〕挺身取命、幹茲奥祕。〔會稽典錄〕上窮陰陽之奥祕、下據人情之歸極。〔潘岳、西征賦〕窮山海之奥祕。

【奥府】67（アウフ） おくまつた庫。〔易林〕江河淮海、天之奥府。〔文心雕龍、宗經〕贊曰、性靈鎔匠、文章奥府。

【奥附】68（オクヅケ） 書物の終に、著者・發行者の氏名・發行年月日・定價等を記した紙。

【奥富】69（オクト） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【奥屛】70（アウヘイ） 奥まつた處に屛居すること。〔王褒、洞簫賦〕處幽隱而奥屛兮、密漠泊以獥猭。

【奥剽】71（アウヘウ） 奥と阼。奥阼(50)に同じ。〔新書、禮〕尋常之室、無奥剽之位、則父子不別。〔注〕剽、恐當作阼。

【奥墓】72（オクツキ） 墓。〔萬葉集、十九〕奥墓をここと定めて。

【奥妙】73（アウメウ） ❶奥義(16)に同じ。〔呂溫、代文武百寮進農書表〕深居穆清、親覽奥妙、匪崇朝而盡更田畝。〔孫奭、孟子正義序〕莫窮於奥妙。❷奥深くすぐれる。〔賈島、寄武功姚主簿詩〕靜棊功奥妙、閑作韻清淒。

【奥樣】74（オクサマ） 人妻に對する敬稱。奥方の義。〔狂言記、墨塗〕美しい奥樣。

【奥蘭】75（アーランド） 島嶼の名。ボスニヤ灣口に散在する三百餘の島群。Aland

【奥李】76（ヰクリ） 樹の名。しでざくら。郁李。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、唐棣之華〕唐棣、奥李也。

【奥略】77（アウリヤク） 深遠な計略。〔晉書、劉弘傳〕詔曰、將軍文武兼資、剋滅羣寇、其恢宏奥略、鎭綏南海、以副推轂之望焉。

【奥魯】78（アウロ） 複姓。〔元史、奥魯赤傳〕赤、札剌台人、曾祖豁火察驍果善騎射。

〔奥魯赤〕79（アウロセキ） 元、札剌台の人。諡は忠宣。至元中、襄陽を攻めて蒙古軍萬戶を授けらる。丞相伯顏に從つて宋を伐ち、鎭國上將軍・江西行省平章政事を加へられ、成宗の時、上柱國に累進す。〔元史、一百三十一〕。

【奥論】80（アウロン） 深遠な論。〔國朝漢學師承記、跋〕綴王肅之危詞、棄鄭君之奥論。

【奥扈從】81（オクコシヨウ） 奥勤の小姓。奥小姓(83′)に同じ。

【奥克蘭】82（オークランド） 地名。大洋洲、新西蘭北島の東北岸にある。Auckland

【奥津城】83（オクツキ） 墓。〔萬葉集、九〕奥津城に妹が臥せる。

【奥小姓】83′（オクゴシヤウ） 奥勤の小姓。〔曾我虎磨、中〕奥小姓御簾を捲けば。

【奥地利】84（オーストリア） 國の名。ヨーロッパ中部の共和國。Austria

【奥帳場】85（オクチヤウバ） 商店・商家で、重役・支配人などの居る所。卽ち奥にある帳場。

【奥登塞】86（オーデンセイ） 地名。デンマークの港市。オーデンセイ灣にのぞむ。Odense

【奥南蠻】87（オクナンバン） 德川時代、歐羅巴洲の稱。

【奥柳條】88（オクシマ） 織物の名。奥縞(13)に同じ。〔和漢三才圖會、絹布類、奥柳條〕聖多默・咬𠺕吧・錫蘭山。

【奥倫治】89（オレンジ） 地名。Orange ❶英領南阿聯邦の一州。❷フランス東南部の一邑。

【奥格斯堡】90（アウグスベルグ） 地名。ドイツのスワビヤ、及びノイブルグの首都。Augusburg

【奥貫友山】91（オクヌキイウザン） 武藏の人。名は正卿。字は伯雅。號は友山。通稱は五平次。天明七年歿す、年八十。〔先哲叢談、後、七〕。

【奥山華嶽】92（オクヤマクワガク） 近江の人。名は共建。字は子樹。通稱は石膳。號は華嶽・嘯月樓。野村東皐に師事し、詩を善くす。官は彥根藩儒。寬政元年九月歿す、年六十二。著に嘯月樓詩集がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【奥山榕齋】93（オクヤマヨウサイ） 出羽の人。本姓は絲井。名は高翼。字は君鳳。通稱は九兵衞。號は榕齋・槎湖・虎塘。官は秋田藩儒。日知館教授・明德館文學。天保十二年歿す。著に潮海堂遺稿・榕齋小稿・榕齋日抄・榕齋雜稿・辨藝苑鉏莠がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔秋田人著述目錄〕。

【奥村止齋】94（オクムラシサイ） 加賀の人。名は榮實。通稱は丹後。號は止齋。官は加賀藩儒。歿年は未詳。著に賀陽年代要覽・國典異證・古言衣延辨・止齋漫錄・兵賦考略・零餘別錄・大學纂述・徹法考がある。〔應長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔加越能書籍集覽〕。

【奥村茶山】95（オクムラチヤザン） 相模の人。名は愼猷。字は修夫。號は茶山。江戶に住す。著に孝經私說・左傳附注・小家珍說・論語師說がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【奥村蒙窩】96（オクムラモウクワ） 加賀の人。名は庸禮。字は師儉。通稱は壹岐。號は蒙窩。林大學頭・木下順庵・朱舜水等を師とし、經學は程朱を宗とす。官は金澤藩儒。後、家老となる。貞享三年冬歿す、年六十一。著に讀書拔尤集がある。〔國書解題〕。

【奧田鶯谷】97（オクダアウコク） 尾張の人。名は永業。字は叔建。通稱は與三郎。號は鶯谷。岡田新川に師事す。官は名古屋藩儒。天保元年歿す、年七十一。著に釋辭・牧齋隨身卷がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【奧田三角】98（オクダサンカク） 伊勢の人。名は士亨。字は喜甫。通稱は宗四郎。號は蘭汀・南山・三角亭。柴田蘋洲・伊藤東涯に師事し、仁齋の學を奉ず。官は津藩儒。天明三年歿す、年八十一。著に詠象詩・相馬圖說・三角集・枕山樓詩話・枕山樓詩集がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔先哲叢談、正、八〕。

【奧田松齋】99（オクダショウサイ） 播磨の人。本姓は那波。名は元繼。字は志李。通稱は尙齋。號は松齋・仙樓。浪華に教授す。經學は程朱を宗とし、尤も左傳を好む。文化四年八月十二日歿す、年七十九。著に左占指象・左傳釋例稿案・左傳釋例續貂・左傳捷覽・左傳始末統類・十二律考・掌中聯錦・清詩選・赤城梅花記・拙古堂遺稿・拙古堂雜錄・拙古堂文集・仙樓定本大學・仙樓文草・增訂左傳評林・滅魔燈・兩好餘話がある。〔近代著述目錄、後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【奧野小山】100（オクノセウザン） 大阪の人。名は純。字は溫夫。通稱は彌太郎。號は小山・寸碧樓。篠崎小竹に師事し、經學は程朱を宗とす。官は三上藩儒。安政五年八月二十日歿す、年五十九。著に邱首稿・寸碧樓詩抄・在界稿小山詩鈔・小山文鈔・小山堂詩文集・焚餘稿・劉誠意文鈔がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【奧利諾克】101（オリノコ） 川の名。南アメリカ北部の大河。シエラパリマ山脈に源を發し、大西洋に注ぐ。Orinoco

【奧林帕斯】102（オリンパス） 山名。ギリシヤ中北部にある。ギリシヤ神話上に有名な山。Olympus

【奧林比亞】103（オリンピア） 地名。ギリシヤ、モレヤ半島にあり、古代ギリシヤ人が四年に一度づつオリンピア祭を行つたところ。Olympia

【奧斯特里齊】104（アウステルリッツ） 地名。オーストリヤ、モラヴイヤ州の都市。三帝會戰の地。Austerlitz

【奧林庇克】105 ao⁴ lin² pi⁴ k‘o⁴ オリンピック。

【⿳大隹又】5986 ダツ 奪（3－5994）の本字。〔正字通〕⿳大隹又、奪本字。

【⿱⺈⿵冂夫】5987 ヰ 韋（12－43108）の古字。〔韻會〕⿱⺈⿵冂夫、古文韋字。

【奫】5988 イン 〔龍龕手鑑〕於倫切 眞

❶いづみ。〔龍龕手鑑〕奫、泉水。❷水のいきほひ。〔龍龕手鑑〕奫、水勢也。

【⿱亠夾】5989 シヨク シキ 〔五音集韻〕賞職切 職

盜みかくす。〔五音集韻〕竊盜挾藏、謂二之⿱亠夾一。

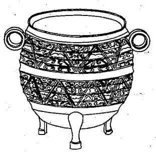
【⿱夭辰】5990 クワン 義未詳。〔五音篇海〕⿱夭辰、音寬。

【奨】5990′ シヤウ 奬（3－5997）の略字。

十一畫

【奩】5991 レン 〔字彙〕力鹽切 ㄌㄧㄢˊ 鹽 lien²

❶香ばこ。〔韻會〕匳、俗作レ奩、後皇后紀注、匣也、廣韻、藏レ香器。❷くしげ。〔後漢書、外戚上、光烈陰皇后紀〕帝從レ席前、伏二御牀一、視二大后鏡奩中物一。〔注〕奩、鏡匣也。❸はこ。〔一切經音義、十〕奩、斂也、收二斂物一也。〔蘇軾、書二王子敬帖一詩〕春蚓秋蛇總入レ奩。❹籢（8－26766）・匳（2－2655）・匲（2－2652）・奩（3－5972）・籨（4－9146）に同じ。〔正字通〕奩、說文、籢也、鏡籢也、或作レ匳、集韻作レ匲、亦作二奩・籨一、俗作レ奩。


漢雲紋奩
（西清古鑑）

【奩安】1 lien² an¹ 婦人に送る書簡文の末尾の套語。

【奩儀】2 lien² i² 婚禮の祝儀に贈る金。

【奩鏡】3 lien² ching⁴ 姿見の鏡。

【奩具】4（レングン） 嫁入道具。〔唐書、高宗則天皇后武氏傳〕太后操二奩具一、坐二重幃一、而國命移矣。

【奩敬】5 lien² ching⁴ 婚禮の祝儀の封包に書く字。

【奩資】6 lien² tzŭ¹ 嫁女が持參するもの。嫁資。

【奩軸】7（レンヂク） 書畫の裝飾した軸。〔唐書、王涯傳〕前世名書畫、嘗以二厚貨一鈎致、或私以レ官鬻レ垣納レ之、重複祕固、若二不レ可レ窺者一、至レ是爲下人破レ垣剔二取奩軸金玉一、而棄中其書畫於道上。〔仇池筆記〕剔二取金玉奩軸一、棄二書畫于道一。

【奩田】8（レンデン） 妻が化粧料として持參する田地。けしやうだ。けはひでん。奩は粧奩、田は田地。〔元典章、十八〕隨嫁奩田等物、今後應レ嫁婦人、不レ問二生前離異、夫死寡居一、但欲三再適二他人一、其隨嫁粧奩財產等物、聽二前夫之家爲一レ主、並不レ許二似レ前搬取隨一レ身。

【奩飯】9（レンパン） 香を盛る小器に盛つた飯。〔說苑、復恩〕以三奩飯與二一鮒魚一、其祝曰、下田洿邪、得二穀百車一、蟹堁者宜レ禾。

【奩幣】10（レンペイ） 嫁入道具とお金。〔湘山野錄〕擇二一壻一、具二奩幣一歸レ之。

【奩盝】11（レンロク） 香ばこ。〔秦觀、茶詩〕上客集二堂葵一、圓月探二奩盝一。

【⿳大隹臼】5992 トウ ツ 〔字彙〕多漚切 宥

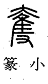
とる。〔字彙〕⿳大隹臼、取也、一曰、⿳大隹又字之譌。

【⿱規大】5993 スイ 〔字彙〕子隨切 支

おほきい。〔字彙〕⿱規大、大也。

【奪】5994

一 タツ ダチ 〔集韻〕徒活切 ㄉㄨㄛˊ 曷 tuo²
二 タイ ヅイ 〔字彙〕杜對切 隊
慣 ダツ


小篆

一❶うばふ。敓（5－13223）に通ず。〔說文通訓定聲〕奪、叚借爲レ敓。㋑とりあげる。〔論語、憲問〕奪二伯氏駢邑三百一。〔淮南子、本經訓〕子之與奪也。〔注〕奪、取也。㋺せまり取る。〔集韻〕奪、彊取也。〔史記、蕭相國世家〕母爲二勢家所一レ奪。㋩擊ち取る。〔史記、淮陰侯傳〕襲奪二齊王軍一。㋥ぬすむ。かすめる。〔書、呂刑〕奪攘矯虔。〔後漢書、劉盆子傳〕兵士輒剽奪レ之。㋭かへる。易はる。〔後漢書、盧植傳論〕未レ有下不二宂豫奪レ常者上也。〔注〕奪、謂下易二其常分一者上也。❷うしなふ。うしなはす。⿳大隹又（3－5986）に同じ。〔集韻〕⿳大隹又、或从レ寸。〔說文〕⿳大隹又、手持レ隹失レ之也、从二又奞一。〔段注〕凡手中遺二落物一、當レ作二此字一、今乃用レ脫爲レ之、而用レ奪爲二爭敓字一、相承久矣。〔孟子、梁惠王上〕勿レ奪二其時一。〔史記、酈食其傳〕自奪二其便一。❸さる。〔素問、腹中論〕勿二動亟奪一。〔注〕奪、去也。〔素問、通評虛實論〕精氣奪則虛也。〔注〕奪、謂三精氣減少如二奪去一也。❹あがる。〔廣雅、釋詁三〕奪、敭也。❺みだす。〔禮、仲尼燕居〕給奪二

慈仁一。〔注〕奪、猶レ亂也。❻**あやまる**。〔廣雅、釋詁三〕奪、誤也。❼**さだめる**。可否を決定する。〔名義考〕行移家以二詳定一爲レ奪。❽**姓**。〔萬姓統譜〕奪、見二姓苑一。❾［現］文字の脱漏をいふ。［二］**せまいみち**。隧(**11－41870**)に通ず。〔禮、檀弓下〕齊莊公襲二莒于奪一。〔注〕隧・奪、聲相近。

［解字］會意。奞（鳥が飛び立たんとしてはばたきする義）と又（右の手）との合字。本義は手中にした鳥がはばたきして逃げ去る意。故に奞と又とを合せて、にげさる意を表はす。轉じて、物を落し失ふ義と爲す。今、遺失の義には脱を用ひ、奪は專ら爭奪の義に用ひる。〔説文、奪、段注〕引伸爲下凡失二去物一之偁上、凡手中遺二落物一、當レ作二此字一、今乃用レ脱爲レ之、而用レ奪爲二爭敓字一、相承久矣、又、手也、持レ隹而奞、少縱卽逝也。▽ (金文）會意。衣と雀と寸（手）との合字。衣中の小鳥を手でうばい取る意。

【奪移】1 ダツイ うばひうつす。〔後漢書、獻帝紀〕神之所レ寶、不レ可二奪移一。〔曹攄、感舊詩〕廉藺門易レ軌、田竇相奪移。

【奪鑒】2 ダツカン 鑒を奪ふこと。自ら照して鏡とすべき模範を失ふこと。〔左氏、僖、二〕虢公敗二戎于桑田一、晉卜偃曰、虢必亡矣、亡二下陽一不レ懼、而又有二是功一、是天奪二之鑒一而益二其疾一也。

【奪氣】3 ダツキ 氣を奪はれる。膽氣を喪失する。聲威に懾れること。〔梁書、曹景宗傳〕韋叡至與二景宗一進頓二邵陽州一、立レ壘云云、軍儀甚盛、魏人望レ之奪レ氣。

【奪錦】4 ダツキン ❶詩文が優秀で他人の榮譽を奪ふこと。唐の武后が洛南の龍門に遊んだ時、從臣に詩を作らせ、東方虬の詩が先に出來たので之に錦袍を賜はつたが、ついで宋之問の詩が出來たところ、武后之を見て嗟賞し、先に東方虬に與へた錦袍を奪ひかへして之問に賜はつた故事。〔唐書、宋之問傳〕武后遊二洛南龍門一、詔二從臣一賦レ詩、左史東方虬詩先成、后賜二錦袍一、之問俄頃獻、后覽レ之嗟賞、更奪レ袍以賜。❷官吏の登用試驗に及第すること。奪標。奪錦之人を見よ。

【奪錦才】5 ダツキンノサイ 奪錦の❶を見よ。〔高啓、謝二賜衣一詩〕被レ澤徒深厚、慙レ無二奪錦才一。

【奪錦之人】6 ダツキンノヒト 官吏登用試驗に及第した人。唐の盧肇が黃頗と倶に科擧の試驗に赴いたとき、頗は富んでゐたので、郡牧の餞別する者が甚だ多く盛大であつたが、肇は貧しいため、見送る者もなかつた。明年、肇が狀元に及第して歸るや、刺史以下が迎接した。因つて席上、錦標を奪得して歸ると詠じた故事。〔摭言〕盧肇宜春人、與二同郡黃頗一赴レ擧、頗富肇貧、郡牧餞レ頗甚盛、肇策レ蹇而過、明年肇狀元及第歸、刺史以下迎接、因看二競渡一、肇席上賦レ詩曰、向道二是龍一剛不レ信、果然奪二得錦標一歸。

【奪火】7 ダツクワ 鎭の名。永和隘の異名。山西省陵川縣の南。河南省修武縣に通ず。明の崇禎三年、賊老回回、平陽より此處に至り、冀寧道の王肇生に平げらる。

【奪魁】8 tuo^2 k‘uei^2 試驗の優等者となる。

【奪還】9 ダツクワン とりもどすこと。とりかへすこと。〔蘇軾、鹿鳴宴詩〕連騎忽忽畫鼓喧、喜君新奪二錦標一還。

【奪魂】10 ダツコン 失神する。奪魄(41)に同じ。

【奪魂鬼】11 ダツコンキ ［佛］人が死ぬときに閻魔廳から來て魂を奪ふ鬼。〔十王經〕閻魔法王遣二閻魔卒一、一名二奪魂鬼一、二名二奪精鬼一、三名二縛魄鬼一。

【奪采】12 ダツサイ ❶采邑をうばふ。〔王融、謝三竟陵王賜二納裘一啓〕降レ飾自尊、垂レ榮及レ賤、玄玉不レ純、曾波奪レ采。❷tuo^2 ts‘ai^3 勝を取る。抽籤などに當る。

【奪志】13 ダツシ 強迫して人の志をまげさせること。志操をかへさせる。〔論語、子罕〕三軍可レ奪レ帥也、匹夫不レ可レ奪レ志也。〔集解〕孔安國曰、三軍雖レ衆、人心不レ一、則其將帥可二奪而取一レ之、匹夫雖レ微、苟守二其志一、不レ可二得而奪一也。

【奪囚】14 ダツシウ 囚人を獄中から奪ひ出す。〔宋史、曾鞏傳〕鞏知二齊州一、其治以二疾姦急盜一爲レ本、章丘民聚二黨村落間一、號二霸王社一、椎剽奪レ囚、無レ不レ如レ志、鞏配二三十一人一。

【奪舍】15 ダツシヤ 道家の法。青年の屍を湯で浴させ、道士が其の前で結跏趺坐し、やがて道士は屍化し、青年は蘇生すること。〔茶香室三鈔〕癸辛雜識云、建康有二陳道人一、常與レ仵作二行人往來一、飮酒甚狎、曰、吾欲レ得二一十七八健壯男子尸一、一夕、忽有三劉太尉鞭二死小童一、仵輿致レ之、道人作レ湯浴二其尸一、加二自己之衣巾一、作二趺坐於一榻上一、道人亦結二趺其前一、至レ明、道人尸化、而童尸生矣。

【奪情】16 ダツジヤウ 喪中に出仕を命ずること。國家に大事のある場合、父母の喪中に居る人でも德望と才能とがあれば、詔を發して喪服のまま職に就かしめること。奪情とは、親の喪に服する孝心を奪ふ意。奪禮。起復。〔北史、李德林傳〕尋丁二母艱一以二至孝一聞、朝廷嘉レ之、裁百日、奪レ情起復。〔清國行政法汎論、官吏分限、守制〕雖下無三關二係軍務一者上、其人固有二德望才能一、不レ能レ使三須臾離二其職一、則治喪後、仍素服供レ職、當二是之時一、乃因二上諭一、表下白不レ可レ不レ起二斯人一之理由上、以明下斯人雖二喪中視一レ事、無中復顧二慮於天下後世一之意上、稱曰二奪情一、又曰二移孝作忠一。

【奪情起復】17 ダツジヤウキフク 喪中に出仕を命ずること。起復とは、喪中苫塊の中に生活してゐたものを起して其の官職に復すること。〔六部成語、吏部、奪情起復、注解〕督撫司道、及帶兵大員、忽然丁レ憂、則皇上命、其在レ官守レ制不二開缺一、或已開缺回レ籍、皇上欲レ用レ之則降二旨命一、其不レ待二服滿一、卽行二補官一、謂二之奪情起復一、奪情、言レ奪二其孝思一也。〔資治通鑑、唐紀、（太宗、貞觀十五年）尋起復就レ職、注〕起復者、起二之於苫塊之中一、而復二其官職一也、亦謂二之奪情一。

【奪情從公】18 ダツジヤウジユウコウ 喪中に出仕を命ずること。〔玉葉、承安二年閏十二月十二日〕奪情從公之輩、指二何人一哉。

【奪情復任】19 ダツジヤウフクニン 喪中に復任を命ずること。〔式部省式〕凡官省判補雜色之輩、遭レ喪解任、若有二才用一者、聽二奪情復任一。

【奪攘】20 ダツジヤウ ぬすみとる。〔書、呂刑〕鴟義姦宄、奪攘矯虔。

【奪爵】21 ダツシヤク 其の爵を奪つて士伍に下すこと。律の除名(**11－41669‥78**)の❶に同じ。〔漢書、景帝紀〕奪レ爵爲二士伍一免レ之。〔藝文類聚、五十一〕依レ律有二奪爵之法一。

【奪手】22 tuo^2 shou^3 手をはなす。

【奪朱】23 ダツシユ 朱はあかの正色であるが、これに似てゐる紫がその正色を奪ふことで、他の惡に化せられて正しきを失ふ喩。〔論語、陽貨〕惡二紫之奪一レ朱也。〔集解〕孔安國曰、朱、正色、紫、閒色之好者、惡三其邪好而奪二正色一也。

【奪取】24 ダツシユ うばひとる。〔漢書、元后傳〕奪二取其國一。〔唐書、尉遲敬德傳〕奪二取賊矟一、還刺レ之。

【奪職】25 tuo^2 chih^2 官職をうばひとる。免職させる。

【奪壻】26 ダツセイ 人の壻を奪ふ惡行。〔大戒上品、序〕居レ世奪二人壻一者、今報以二少寡一。

【奪席】27 ダツセキ 坐席を奪ふことで、その地位を他のものが奪ひとること。〔後漢書、戴憑傳〕戴憑、字次仲、習二京氏易一、正旦朝賀、百僚畢會、帝令三羣臣能説レ經者、更相難詰一、義有レ不レ通、輒奪二其席一以益二通者一、憑遂重レ坐五十餘席、故京師爲二之語一曰、解レ經不レ窮戴侍中。

【奪節】28 ダツセツ 節操をうばふこと。〔漢書、高后紀〕章欲レ奪レ節、謁者不レ肯。

【奪先】29 ダツセン 果實の名。茘枝(**9－30865‥9**)をいふ。〔王十朋、茘支七絶、奪先詩〕奪先人送二奪先紅一。

【奪扇】30 ダツセン 人の賞を奪ふ。詩文の才の優れたこと。南齊の王儉が賓客を集めて隷事、卽ち故事を以て相隷屬せしめて文を作らせた時、何憲が獨り勝れてゐたので、五花簟・白團扇を以て賞したが、王摛が後れて至り、筆を操つて立ちどころに草した文辭がすぐれてゐて、擧坐擊賞したので、自ら先の簟・扇を奪ひ取つて去つたといふ故事。〔南史、王摛傳〕儉嘗使二賓客隷事一、多者賞レ之、事皆窮、唯盧江何憲爲レ勝、乃賞以二五花簟・白團扇一、坐レ簟執レ扇、容氣甚自得、摛後至、儉以レ所レ隷示レ之曰、卿能奪レ之乎、摛操レ筆便成、文章既奧、辭亦華美、擧坐擊賞、摛乃命二左右一抽二憲簟一、手自掣二取扇一、登レ車而去。

【奪宗】31 ダツソウ 諸侯の宗子たることを奪ふこと。〔漢書、梅福傳〕諸侯奪レ宗、聖庶奪レ適。〔注〕如淳曰、奪宗、始封之君、尊爲二諸侯一、則奪下其舊爲二

宗子一之事上也。〔白虎通、宗族〕諸侯奪レ宗、明二尊者宜一レ之、大夫不レ得レ奪レ宗何、曰、諸侯世世傳二子孫一、故奪レ宗、大夫不レ傳二子孫一、故不レ奪レ宗也。

【奪胎】32 ダツタイ　古人の詩にもとづいて語を作ること。奪胎換骨を見よ。

【奪胎換骨】33 ダツタイクワンコツ　古人の詩にもとづいて語を作るを換骨といひ、古詩の意を本とし、語の作りやうで、稍ゝ意の換はるを奪胎といふ。もと道家の語。　換骨奪胎（5−12358・・23）を見よ。〔冷齋夜話〕山谷云、詩意無レ窮、不レ易二其意一而造二其語一、謂二之換骨法一、窺二入其意一而形二容之一、謂二之奪胎法一。〔捫蝨新話〕文章雖レ不レ要三蹈二襲古人一言一句一、然自有二奪胎換骨等法一、所謂靈丹一粒、點レ鐵成レ金也。

【奪膽】34 ダツタン　氣力をうしなふ。〔梁武帝、移二京邑一檄〕武夫喪レ魄、義夫奪レ膽。

【奪褫】35 ダツチ　うばひはぎとる。〔韓非子、外儲說右下〕是何也、奪褫之資、在二子之一也。

【奪寵】36 ダツチヨウ　他人の寵愛をうばふ。〔李白、怨歌行〕寧知趙飛燕、奪レ寵恨無レ窮。〔白居易、怨詞〕奪レ寵心那慣、尋思倚二殿門一。

【奪嫡】37 ダツテキ　奪適を見よ。

【奪適】38 ダツテキ　庶子を以て嫡子に代立させること。〔漢書、梅福傳〕諸侯奪レ宗、聖庶奪レ適。〔注〕如淳曰、奪適、文王舍二伯邑考一而立二武王一、是也、師古曰、適、讀爲レ嫡。

【奪佔】39 tuo^2 chan^4　うばふ。占領する。

【奪袍】40 ダツパウ　❶奪錦(4)の❶を見よ。❷袍を奪ひ取る。〔淵鑑類函、服飾部、袍〕唐明皇召二李白一作二樂章一、白佯醉不レ起、帝曰、賦成以二貂豹錦袍一與レ卿、白起援レ筆而成、帝故戲レ之不レ與、白奪二其袍一、帝笑而與レ之。〔杜甫、寄二李十二白一詩〕龍舟移棹晚、獸錦奪袍新。

【奪魄】41 ダツパク　失神させる。奪魂。〔左氏、宣、十五〕原叔必有二大咎一、天奪二之魄一矣。

【奪百】42 ダツビヤク　百種の聲を出すこと。一說に、怪音を發するものの名。〔山海經、西山經〕翼望之山、無二草木金玉一、有レ獸焉、其狀如レ貍、一目而三尾、名曰レ讙、其音如レ奪二百聲一。〔注〕如レ奪二百聲一、言其能作二百種物聲一也、或曰、奪百、物名。

【奪服】43 ダツプク　忌服を免ずること。〔後漢書、桓焉傳〕焉以二母憂一自乞レ聽、以二大夫一行レ喪、踰レ年詔二使者一賜二牛酒一奪レ服。

【奪柄】44 ダツペイ　他人の權力を奪ふこと。權力を失ふこと。〔管子、任法〕藉レ人以二其所一レ操、命曰二奪柄一。

【奪標】45 ダツペウ　試驗に合格すること。轉じて、優勝することをいふ。奪錦之人(6)を見よ。

【奪名】46 tuo^2 ming^2　名譽を奪ふ。信用を竊む。

【奪目】47 ダツモク　強烈な光りで目がくらむ。〔北史、竇泰傳〕初、泰母夢、風雷暴起、若レ有二雨狀一、出レ庭觀レ之、見二電光奪レ目、駛雨霑灑一、寤而驚汗、遂有レ娠。〔元好問、嵩山玉鏡詩〕光輝奪二人目一。

【奪門】48 ダツモン　❶城門を占領すること。〔舊唐書、韓遊瓌傳〕賊急奪レ門、遊瓌與レ賊隔レ門血戰。❷垣をやぶり門を壞して主上を迎へること。明の英宗が、土木の變に衞拉に捕はれ、尋いで南宮に太上皇帝となり、朝謁する者がなかつたが、徐有貞が兵を以て垣をやぶり門を奪つて入り、上皇を位に復したので、奪門の功を稱せられた故事。〔明史、英宗後紀〕天順元年、春正月壬午昧爽、武清侯石亨・都督張輗張軏・左都御史楊善・副都御史徐有貞・太監曹吉祥、以レ兵迎二帝於南宮一、云云、論二奪門迎復功一、封二石亨忠國公、張軏太平侯、張輗文安伯、楊善興濟伯、曹吉祥嗣子欽都督同知一。

【奪予】49 ダツヨ　うばふこととあたへること。予奪。奪與。〔韓非子、三守〕惡二自治之勞憚一、使三羣臣輻二湊用事一、因傳レ柄移藉、使三殺生之機、奪予之要、在二大臣一、如レ是者侵。

【奪與】50 ダツヨ　奪予に同じ。〔潛夫論、遏利〕天之制二此財一也、猶三國君之有二府庫一也、賦賞奪與、各有二衆寡一。

【奪勞】51 ダツラウ　官吏が私罪を犯せば其の官を奪つて勞役に服せしめること。〔隋書、刑法志〕奪勞百日、杖督一百。〔補宋書、刑法志〕永初元年夏六月丁卯、大二赦天下一、云云、亡官失爵禁錮奪勞、一依二舊準一。

【奪掠】52 ダツリヤク　うばひかすめる。掠奪（5−12273・・13）に同じ。

【奪略】53 ダツリヤク　うばひとる。略奪（7−21839・・35）に同じ。

【奪倫】54 ダツリン　❶音諧の倫次をうばひ亂すこと。秩序をみだすこと。又、正しい訓へをうばひ亂すこと。〔書、舜典〕八音克諧、無三相二奪倫一。〔疏〕倫之爲レ理、常訓也、八音能諧相應和也、各自守レ分、不三相二奪道理一、是言三理不二錯亂相奪一也。〔蔡傳〕人聲既和、乃以二其聲一被二之八音一而爲レ樂、則無レ不二諧協一、而不三相侵亂失二其倫次一。〔馬融、長笛賦〕無三相二奪倫一、以宣二八風一。❷tuo^2 luen^2　卓越せる。拔群なる。

【奪禮】55 ダツレイ　喪中に出仕させること。奪情(16)に同じ。〔任昉、上二蕭太傅一固二辭奪禮一啓〕昉啓近啓歸訴、庶諒二窮欵一、奉二被還旨一、未レ垂二哀察一、悼心失レ圖、泣血待レ旦。

【奪衣婆】56 ダツエバ　佛三途河で亡者の衣類をうばひ取るといふ鬼女。〔十王讚歎鈔〕葬頭河曲有二奪衣婆一、脫二亡人衣一。

【奪命龍】57 ダツメイリヨウ　劍の隱語。〔清異錄、武器、小遂巡〕王建初起、軍中隱語代二器械之名一、以二犯者一爲二不祥一、至三孟氏時一、猶有下能道二其略一者上、劍曰二奪命龍一。

【奪畫押字】58 tuo^2 hua^4 ya^3 tzŭ^4　文書を僞造して他人の署名を模造すること。

【奫】5995　ヰン　〔集韻〕紆倫切　眞

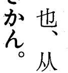
❶**泉の水**。わき出る水。〔廣韻〕奫、泉水。❷**水の深く廣いさま**。奫潫(3)の❷を見よ。〔集韻〕奫、奫潫、水深廣皃。

【奫奫】1 ヰンヰン　水の深く廣いさま。〔元結、補樂歌、九淵〕聖德至深兮、奫奫如レ淵。

【奫淪】2 ヰンリン　水の深く廣いさま。〔白居易、和二三月三十日四十韻一詩〕魚尾上二奫淪一、草芽生二沮洳一。〔柳宗元、招二海賈一文〕其外大泊泙奫淪。〔注〕奫淪、水深廣皃。〔常袞、浮萍賦〕出入經二其潭洞一、高下歸二其奫淪一。

【奫潫】3 ヰンワン　❶水のめぐりかへるさま。〔左思、吳都賦〕泓澄奫潫。〔注〕善曰、奫潫、洄復之皃。❷水の深く廣いさま。〔集韻〕奫、奫潫、水深廣皃。

【⿹戈⿱大土】5996　㈠チツ ヂチ　〔集韻〕直質切　質　㈡テツ デチ　〔集韻〕徒結切　屑


小篆

㈠㈡❶**おほきい**。〔說文〕⿹戈⿱大土、大也、从レ大𢦏聲、讀若二詩⿹戈⿱大土⿹戈⿱大土大猷一。❷**さかん**。〔集韻〕⿹戈⿱大土、盛也。

【奬】5997　シヤウ　獎（7−20637）の俗字。〔六書正譌〕獎、俗作レ奬。

【⿱大黾】5998　エン　〔字彙補〕余險切　琰

小國の君名。〔字彙補〕⿱大黾、小國君名。

【⿱臾大】5999　ヘツ ベチ　〔字彙補〕朋舌切　屑

行ひが正しくない。〔字彙補〕⿱臾大、行不レ正也。

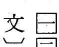
【⿱㐺大】6000　サン　傘（1−966）に同じ。〔韻會〕⿱㐺大、與レ傘同。

【⿱大⿱由田】6001　ホン　畚（7−21891）の譌字。〔字彙補〕⿱大⿱由田、畚字之譌。

十二畫

【奭】6002 ［一］セキ シャク 〔集韻〕施隻切 ㄕˋ shih⁴ ［陌］。［二］カク キャク 〔集韻〕郝格切 ［陌］。［三］カク 〔集韻〕黑各切 ［藥］。

小篆


小篆

［一］［二］［三］❶さかん。〔說文〕奭、盛也、从㆑大从㆑皕、皕亦聲、此燕召公名、讀若㆑郝、史篇、名醜。❷いかるさま。〔字彙〕奭、怒也。〔漢書、竇嬰傳〕有㆑如㆓兩宮奭將軍㆒。〔注〕師古曰、奭、怒貌也、音赫。❸赤いさま。赫(10-37010)・赩(10-37004)に通ず。〔說文通訓定聲〕奭、叚借爲㆑赫、字亦變作㆑赩。〔詩、小雅、采芑〕路車有㆑奭。〔傳〕奭、赤貌。❹へる。とける。忒(4-10319)に通ず。〔說文通訓定聲〕奭、叚借爲㆑忒。〔廣雅、釋詁二〕奭、減也。❺古は〓(3-6022)に作る。〔集韻〕奭、古作㆑〓。❻或は〓に作る。〔集韻〕奭、或作㆑〓。❼姓。〔萬姓統譜〕奭、見㆓姓苑㆒、漢奭偉北海太守。

［解字］ 會意形聲。大と皕(數の盛んに大きい意)との合字。本義は盛なこと。皕は音を兼ねる。〔說文、奭、段注〕皕、與㆑大皆盛意也。

【奭懌】1 セキエキ 樂しくこころよい。〔易林〕欣喜奭懌、所㆑言得㆑當。

【奭然】2 セキゼン 解けるさま。〔莊子、秋水〕奭然四解、淪㆓於不測㆒。〔疏〕奭然、無㆑礙。

【〓】6003 ケン 〓(3-6015)の譌字。〔正字通〕〓、舊本譌作㆑〓。

【〓】6004 ダツ 奪(3-5994)の古字。〔字彙補〕〓、古文奪字。〔山海經、西山經〕其音如㆑〓㆓百聲㆒。〔畢注〕〓、卽奪字、奪、爲㆓奪本字㆒。

【〓】6005 ソウ 奏(3-5915)の古字。〔字彙補〕〓、古文奏字。

【〓】6006 サイ 載(10-38309)の古字。〔字彙補〕〓、古文載字。

【〓】6007 クヮイ 〔篇海〕音咼。 よこしま。正しくない。〔篇海〕〓、不㆑正也。

【〓】6008 コン 〓(6-15760)の譌字。〔字彙補〕〓、〓字之譌。

【〓】6009 ヘツ 弼(4-9816)に同じ。〔字彙補〕〓、與㆑弼同。

【〓】6010 ヘイ 弊(4-9644)の俗字。〔說文通訓定聲〕〓、字亦作㆑弊、按、誤爲㆑大、又作㆑廾也。

十三畫

【〓】6011 ム 無(7-19113)に同じ。〔字彙補〕〓、同㆑無。〔鶡冠子、世兵〕坱軋〓㆑垠。

【奮】6012 フン 〔集韻〕方問切 ㄈㄣˋ fen⁴ ［問］。

小篆

❶ふるふ。ふるはす。㋑とぶ。〔說文〕奮、翬也、从㆔奞在㆓田上㆒、詩曰、不㆑能㆓奮飛㆒。〔段注〕羽部曰、翬、大飛也。㋺あがる。〔廣韻〕奮、揚也。㋩すすむ。〔廣雅、釋詁二〕奮、進也。㋥はげむ。いきごむ。〔淮南子、說林訓〕人莫㆑不㆑奮㆓于其所㆑不㆑足。〔注〕奮、厲也。㋭はやる。きほふ。〔荀子、富國〕民心奮而不㆑可㆑說也。〔注〕奮、謂㆓起而爭競㆒也。㋬さかん。〔管子、宙合〕奮、盛。〔漢書、刑法志〕魏惠以㆓武卒㆒奮。〔注〕師古曰、奮、盛起。㋣つよい。〔呂覽、君守〕奮能自殃。〔注〕奮、彊也。㋠勢が強くはやい。たけりはやる。〔禮、樂記〕奮㆑之以㆓風雨㆒。〔注〕奮、迅也。〔疏〕萬物得㆓風雨㆒、奮迅而出也。〔史記、樂書〕奮疾而不㆑拔也。〔注〕正義曰、奮、迅、云云、伐㆑紂時、士卒歡喜、奮迅急速、以尙㆓威勢㆒、猛而不㆓傾側㆒也。㋷いさましい。いさむ。〔戰國、秦策〕是貴㆑奮也。〔注〕奮、勇也。㋦いかる。いきどほる。〔史記、高祖紀〕項羽怨㆔秦破㆓項梁軍㆒奮。〔注〕索隱曰、奮、憤激也。㋸ほこる。〔荀子、子道〕奮㆓於言㆒者華、奮㆓於行㆒者伐。〔注〕奮、振矜也。㋾うごく。動かす。ゆする。〔廣雅、釋詁一〕奮、動也。〔易、豫〕雷出地奮。〔鄭注〕奮、動也。〔禮、樂記〕奮㆓至德之光㆒。〔注〕奮、猶㆑動也。〔張衡、思玄賦〕奮㆓余榮㆒而莫㆑見兮。〔注〕奮、動也。㋻振る。〔廣雅、釋言〕奮、振也。〔禮、曲禮上〕奮㆑衣由㆑右上。〔注〕奮、振㆓去塵㆒也。〔疏〕奮、振也。〔宋書、世祖紀〕手奮㆓長刀㆒。㋕のびる。〔廣雅、釋詁四〕奮、舒也。㋵おこす。おこる。〔書、舜典〕有㆔能奮㆑庸熙㆓帝之載㆒。〔傳〕奮、起也。〔淮南子、天文訓〕赤奮若之歲。〔注〕奮、起也。㋟ひらく。〔史記、樂書〕奮㆓至德之光㆒。〔注〕集解曰、奮、發也。〔班固、答賓戲〕李斯奮㆓時務㆒而要㆓始皇㆒。〔注〕善曰、項岱曰、奮、發也。㋹あきらか。あきらかにする。〔書、舜典〕有㆔能奮㆑庸熙㆓帝之載㆒。〔馬注〕奮、明。❷つよい雉。〔爾雅、釋鳥〕雉絶有㆑力、奮。❸つよい雞。〔爾雅、釋畜〕雞絶有㆑力、奮。❹つよい羊。〔爾雅、釋畜〕羊絶有㆑力、奮。❺敗れくつがへる。僨(1-1119)に通ず。〔說文通訓定聲〕奮、叚借爲㆑僨。

［解字］ 會意。奞(鳥が飛び立たんとしてはばたきする意)と田との合字。從つて奮の本義は鳥がつばさを張つて田野の上に飛びあがらうとする意。〔說文通訓定聲〕奮、翬也、从㆔奞在㆓田上㆒、會意。

【奮軋】1 フンアツ 草木の發生すること。〔禮、月令〕其日甲乙、〔疏〕奮㆓軋於乙㆒、則乙軋也。

【奮衣】2 フンイ 衣を振つて塵を去る。〔禮、曲禮上〕奮㆑衣由㆑右上、取㆓貳綏㆒。〔注〕奮、振㆓去塵㆒也。

【奮恚】3 フンイ いきどほりいかる。〔孔叢子、答問〕由乃左手建㆑杖、右手制㆓其頭㆒、妻亦奮恚。

【奮意】4 フンイ はげむ心もち。〔魏志、荀攸傳〕三軍以㆑將爲㆑主、主衰則軍無㆓奮意㆒。

【奮威】5 フンヰ 征討將軍の稱。〔六韜、龍韜、王翼〕奮威四人、主㆘擇㆓材力㆒、論㆓兵革㆒、風馳電擊、不㆖知㆑所㆑由。〔漢書、元帝紀〕八月、以㆓太常任千秋㆒爲㆓奮威將軍㆒。

【奮逸】6 フンイツ ふるひたつこと。〔嵇康、琴賦〕闉爾奮逸、風駭雲亂。〔注〕銑曰、奮逸、騰起也。

【奮銳】7 フンエイ するどい武器を奮ふこと。〔青山佩弦、赤穗四十七士傳〕爲㆓之臣子㆒者、孰不㆑欲㆔挺㆑身奮㆑銳、以襲㆓仇家㆒。

【奮越】8 フンエツ ふるひ立つて飛びかかる。〔博物志〕魏武於㆓馬上㆒逢㆓獅子㆒、使㆑格㆑之、獅子哮呼奮越。

【奮行】9 フンカウ はげみ行ふこと。〔史記、大宛傳〕

奮行者官過二其望一、以二適過一行者、皆絀二其勞一。

【奮效】10フンカウ ふるひつとめる。〔後漢書、皇規傳〕規素悉二先事一、志自奮效。

【奮氣】11フンキ 勇氣をふるひおこす。〔晉書、夏侯湛傳〕値二有道之世一、當二太平之會一、不二攘レ袂奮一レ氣。

【奮起】12フンキ ふるひたつ。〔後漢書、薊子訓傳〕驢應レ聲奮起。〔洞天清錄〕危樓奮起。

【奮棄】13フンキ ふりすてる。〔王褒、洞簫賦〕或雜遝以聚斂兮、或拔撥以奮棄。〔注〕翰曰、聲或衆多如二相聚一、或分散奮迅如二棄滐一也。

【奮撝】14フンキ 麾を奮つて指揮すること。撝は麾、さしづばた。〔班固、典引〕靡二號レ師矢敦、奮撝之容一。〔注〕銑曰、撝、與レ麾同。

【奮鬐】15フンキ ひれをふるふ。大いに活動する。〔莊子、外物〕已而大魚食レ之、牽二巨鉤一、錎沒而下、鶩揚而奮鬐、白波若レ山。

【奮矜】16フンキヨウ 競うて自らほこること。〔荀子、正名〕有二兼聽之明一、而無二奮矜之容一。

【奮舋】17フンキン ふるひたつ。〔王延壽、魯靈光殿賦〕奔虎攫挐以梁倚、仡奮舋而軒レ鬐。〔注〕善曰、杜預左氏傳注曰、舋、動也。

【奮釁】18フンキン ふるひたつて勢のはげしいこと。奮迅。奮舋。〔晉書、索靖傳〕蓋草書之爲レ狀也、類二阿那一以贏レ形、欻奮釁而桓桓。

【奮戈】19フンクワ ほこをふるふ。〔陸機、漢高祖功臣頌〕奮二戈東城一、擒レ項定レ功。

【奮勁】20フンケイ ふるひたつて強いこと。〔魏志、鍾會傳、注〕彼皆忠烈奮勁、知レ死而往。

【奮戟】21フンゲキ ほこをふるふ。〔史記、張儀傳〕貫頤奮戟者、至レ不レ可レ勝レ計。〔注〕集解曰、駰案、言二執レ戟奮怒而入一レ陳也。〔孔子家語、困誓〕奮レ戟將二與レ之戰一。

【奮激】22フンゲキ はげしくふるひたつ。〔北史、辛雄傳〕莫レ不三奮激競赴二敵場一。

【奮擊】23フンゲキ 力をふるつて敵をうつこと。又、其の兵士。〔戰國、秦策〕戰車萬乘、奮擊百萬。〔吳子、勵士〕介冑而奮二擊之一者以レ萬數。〔漢書、景十三王、廣川惠王越傳〕奮二擊匈奴一。

【奮乎】24フンコ ふるひたつさま。〔安井息軒、日本三景、松島〕奮乎兩猊之相鬭。

【奮興】25フンコウ ふるひおこる。〔史記、曆書〕百草奮興、秭鳺先滜。

【奮藻】26フンサウ 文辭をふるひあらはす。又、其のこと。〔張衡、歸田賦〕揮二翰墨一以奮藻、陳二三皇之軌模一。〔注〕善曰、奮藻、謂レ著二文章一。

【奮士】27フンシ ふるひたつ人。〔史記、李斯傳〕長子剛毅而武勇、信人而奮士。

【奮死】28フンシ 奮戰して死ぬこと。〔韓非子、初見秦〕夫斷レ死與二斷レ生者一不レ同、而民爲レ之者、是貴二奮死一也。

【奮志】29フンシ 志をふるひおこす。〔陸贄、鴻漸賦〕飛鳴有レ檢、動靡レ求レ棲、遊皆遠レ險、思レ奮二志於寥廓一。

【奮翅】30フンシ つばさをふるつて飛ぶ。〔易林〕奮レ翅鼓レ翼、翱二翔外國一。

【奮斯】31フンシ 清、彭鵬(4-10003・・111)の字。

【奮肆】32フンシ たけりはやつてほしいままなこと。〔馬融、長笛賦〕震鬱怫以憑怒兮、耾碭駭以奮肆。〔注〕善曰、杜預左氏傳注曰、肆、放也。

【奮辭】33フンジ 大言。ほら。〔戰國、魏策〕且夫從人多二奮辭一、而寡レ可レ信。〔注〕奮辭、猶二大言一也。

【奮袖】34フンシウ そでを振ふ。ふるひたつさま。〔後漢書、符融傳〕融幅巾奮レ褎、談辭如レ雲。〔注〕褎、古袖字。

【奮疾】35フンシツ たけりはやること。〔禮、樂記〕奮疾而不レ拔、極幽而不レ隱。

【奮翔】36フンシヤウ 翼をふるつて飛ぶこと。〔後漢書、班彪傳論〕進有二羽翮奮翔之用一、退有二杞梁一介之死一。

【奮首】37フンシユ 首を振り動かす。疲勞の極、道路に仆れ、ただ首を動かすばかりなこと。〔淮南子、覽冥訓〕晚世之時、七國異レ族、諸侯制レ法、各殊二習俗一、云云、人羸車弊、泥塗至レ膝、相二攜於道一、奮二首於路一。〔注〕奮首、民疲仆レ路、僅能搖レ頭、言二疲困一也。

【奮隼】38フンシユン ふるひたつはやぶさ。〔張衡、西京賦〕奮隼歸鳧、沸卉軿訇。

【奮奞】39フンシユン 鳥が羽を張るさま。〔玉篇〕奞、先進切、鳥張レ羽自奮奮。〔廣韻〕奞、奮奞、鳥張二羽毛一也。

【奮竦】40フンシヨウ ふるひうごく。奮起。〔王褒、四子講德論〕枹レ鼓鏗鏘、而介士奮竦。

【奮心】41フンシン ふるひたつ心。〔左氏、哀、十六〕其亦夫有二奮心一。〔會箋〕其亦人人皆有二奮發討レ賊之心一。〔風俗通、葉令祠〕其亦無レ有二奮心一。

【奮信】42フンシン ふるひおこる。奮起する。〔管子、埶〕大周之先、可二以奮信一。〔注〕奮信、振起貌。

【奮振】43フンシン ふるひおこる。奮厲。奮勵。〔枚乘、七發〕侯波奮振、合二戰於藉藉之口一。

【奮進】44フンシン ふるひすすむ。〔曹植、蟬賦〕樹無レ幹而不レ緣、翳二輕驅一而奮進兮。

【奮震】45フンシン 振ふ。搖ぐ。〔崔瑗、北軍中候箴〕鷹揚旅武、闞然奮震。

【奮迅】46フンジン ふるひたつて勢のはげしいこと。奮訊。奮釁。〔爾雅、釋畜、絕有レ力奮、注〕諸物有二氣力多者一、無レ不二健自奮迅一、故皆以名云。〔楚辭、王逸、九思、遭厄〕起二奮迅一兮奔走、違二羣小一兮謑訽。〔後漢書、耿純傳〕奮迅拔起、期月之間、兄弟稱レ王。〔後漢書、黨錮、李膺傳論〕使二天下之士、奮迅感槩、波蕩而從一レ之。〔禰衡、鸚鵡賦〕顧二六翮之殘毀一、雖二奮迅一其焉如。〔晉書、樂志下〕孫堅奮二迅猛志一、念在二匡救一。〔潘岳、西征賦〕或被髮左袵、奮二迅泥滓一。〔嵇康、贈二秀才入一レ軍詩〕奮迅勢不レ便、六翮無レ所レ施。

【奮訊】47フンジン 奮迅に同じ。〔詩、邶風、雄雉、泄二泄其羽一、箋〕興者、喩下宣公整二其衣服一而起奮二訊其形貌一、志在二婦人一而已、不上恤二國之政事一。

【奮箾】48フンセウ ふるひ動く。〔馬融、長笛賦〕纖末奮箾、錚鐄譻嗃。〔注〕善曰、方言曰、稍、動也、箾、與レ稍同。

【奮跡】49 fen^4 chi^1 壓迫する。

【奮戰】50フンセン ふるひたたかふ。力戰。奮鬭。〔華陽國志〕鍾會圍二樂城一、遣二別將一攻レ關、分將蔣舒開レ門降、督傅僉奮戰而死。

【奮然】51フンゼン ふるひ立つさま。氣を引き立てるさま。〔歐陽脩、王彥章畫像記〕諸將多懷二顧望一、獨公奮然自必、不二少屈懈一。

【奮髯】52フンゼン ひげをふるひ動かす。意氣あがるさま。〔劉伶、酒德頌〕奮レ髯踑踞、枕レ麴藉レ糟。

【奮討】53フンタウ ふるひたつて征伐する。〔蜀志、劉備傳〕或忠義奮討、或上天降レ罰。

【奮擲】54フンテキ ふるふ。勇み振ふ。〔稗史〕跳跟奮擲、狂奔疾超。

【奮怒】55フンド 憤りいかる。〔漢書、王莽傳〕忠臣孝子、莫レ不二奮怒一。〔孔融、與二曹操一論二酒禁一書〕非二家肩鍾酒一、無三以奮二其怒一。〔杜甫、青陽峽詩〕磎西五里石、奮怒向レ我落。

【奮鬭】56フントウ ふるひたたかふ。奮戰。〔宋史、吳挺傳〕金人捨レ騎、操二短兵一奮鬭。

〔奮鬭主義〕57フントウシユギ つとめはげんで向上進歩をはかる主義。

〔奮鬭的生活〕58フントウテキセイクワツ 奮鬭主義の生活。

【奮動】59フンドウ ふるひうごくこと。〔漢書、五行志下之上〕上微弱則下奮動、故有二射妖一。

【奮搏】60フンパク 勇を奮つて打ちあふ。

〔奮搏迅鷙〕61フンパクジンシ 烈しく敵と戰ふこと。

【奮發】62フンパツ ❶ふるひおこる。激勵振作する。奮起。〔漢書、陳湯傳〕義勇奮發。〔後漢書、伏隆傳〕陛下、神武奮發、以レ少制レ衆。〔後漢書、宦者傳序〕時或奮發。〔論衡、初稟〕勇氣奮發。〔魏志、司馬朗傳〕此忠臣義士奮發之時也。〔桓溫、與二撫軍一牋〕光武奮發、中二興漢室一。〔白居易、與二元陽一詔〕其戰者奮發。〔李白、與二韓荊州一書〕忠義奮發。❷もれ出る。〔楚辭、大招〕春氣奮發。〔注〕發、洩也。

〔奮發有爲〕63 fen^4 fa^1 yu^3 wei^2 奮起すれば事は必ず成功する。

【奮飛】64フンピ ふるひとぶ。高くとびあがるさま。〔詩、邶風、柏舟〕靜言思レ之、不レ能二奮飛一。〔傳〕不レ能レ如二鳥奮レ翼而飛去一。〔箋〕臣不レ遇二於君一、猶不レ忍レ去、厚之至也。〔張說、撥川郡王碑〕奮飛橫絕、搏レ空直上。

【奮臂】65フンピ ひぢをふるふ。力を出し勇を鼓する。〔史記、秦始皇紀〕陳涉不レ用二湯武之賢一、不レ藉二公侯之尊一、奮二臂於大澤一、而天下響應者、其民危也。〔漢書、異姓諸侯王表序〕奮レ臂威二於甲兵一。〔淮南子、人閒訓〕奮レ臂大呼。〔鹽鐵論、論勇〕孟賁奮レ臂。〔陸機、漢高祖功臣頌〕奮レ臂雲興。〔注〕銑曰、奮、振也、言二其心勇疾如レ雲起一。

【奮武】66フンブ ❶武をふるふこと。〔書、禹貢〕二百里奮二武衞一。〔傳〕文教外之二百里、奮レ武衞二天子一、所二以安一。〔詩、大雅、常武〕王奮二厥武一、如レ

震如レ怒。〔崔駰、虎賁中郎箴〕赫矣帝臣、爰奮ニ厥武一。〔魏文帝、述征賦〕命ニ元司一以簡レ旅、予願レ奮ニ武乎南鄴一。❷官名。新の王莽の時、執金吾を改めていふ。〔漢書、王莽傳中〕執金吾曰ニ奮武一、中尉曰ニ軍正一。

【奮武校尉】67フンブカウヰ 官名。淸、置く。武職正八品の封階。隋の武散官奮武尉。

【奮武將軍】68フンブシヤウグン 征討將軍（4－10077··60）の稱。〔漢書、馮奉世傳〕拜ニ太常弋陽侯任千秋一爲ニ奮武將軍一以助焉。

【奮棅】69フンペイ 權柄をふるふこと。棅は柄。〔莊子、天道〕天下奮レ棅而不ニ與レ之偕一、審ニ乎無假一、而不ニ與レ利遷一。

【奮袂】70フンペイ 袂をふるつて起ち上る。奮發するさま。〔淮南子、氾論訓〕奮レ袂執レ銳。〔曹植、求ニ自試一表〕奮レ袂攘レ衽、撫レ劍東顧、而心已馳ニ於吳會一矣。〔注〕奮レ袂、擧レ袖也。〔劉伶、酒德頌〕奮レ袂攘レ襟。

【奮末】72フンマツ 四肢を動かし使ふこと。〔禮、樂記〕粗厲猛起、奮末廣賁之音作、而民剛毅。〔注〕奮末、動ニ使四支一也。

【奮命】73フンメイ 命のあらん限り力を盡す。〔吳志、孫桓傳〕桓投レ刀奮レ命、與レ遜戮レ力、備遂敗走。

【奮揚】74フンヤウ 發揚する。〔史記、秦始皇紀〕皇帝哀レ衆、遂發ニ討師一、奮ニ揚武德一。

【奮躍】75フンヤク ふるひをどる。勇み進む。〔潘岳、楊荊州誄〕奮ニ躍淵塗一。〔宋史、李綱傳上〕綱下レ令、能殺レ敵者厚賞、衆無レ不ニ奮躍一。

【奮勇】76フンユウ 勇氣をふるふ。〔隋煬帝、手詔ニ史祥一〕賊爾日塞ニ兩關之路一、據ニ倉阻河一、云云、公竭レ誠奮レ勇、一擧剋定。

【奮用】77フンヨウ ふるひもちひる。盛に用ひる。〔魏志、常林傳〕今主上幼沖、賊臣虎據、華夏震慄、雄才奮用之秋也。

【奮涌】78フンヨウ ふるひわく。盛にわきたつ。〔成公綏、嘯賦〕逸氣奮涌、繽紛交錯。

【奮庸】79フンヨウ いさをしをふるひおこす。〔書、舜典〕有ニ能奮レ庸熙ニ帝之載一。〔傳〕奮、起、庸、功、載、事也、訪下羣臣有中能起ニ發其功一、廣ニ堯之事一者上。

【奮翼】80フンヨク 翼をふるふ。〔史記、楚世家〕奮レ翼鼓レ翅。〔宋玉、高唐賦〕振レ鱗奮レ翼。〔鄒陽、上ニ書吳王一書〕蛟龍驤レ首奮レ翼。

【奮雷】81フンライ 雷鳴をはげしくする。〔夏侯湛、雷賦〕奮ニ迅雷之崇崇一、馳ニ壯音于天上一兮。

【奮驪】82フンリ 黑色の馬をふるひ走らせること。驪は黑色の馬。〔曹植、求ニ自試一表〕必乘レ危躡レ險、騁レ舟奮レ驪、突レ刃觸レ鋒、爲ニ士卒先一。〔注〕善曰、鄭玄云、馬黑色曰レ驪。

【奮略】83フンリヤク 戰の計略をめぐらす。〔後漢書、蔡邕傳〕於レ是智者騁レ詐、辯者馳レ說、武夫奮レ略、戰士講レ銳。

【奮旅】84フンリヨ 衆を奮ひはげます。〔漢書、敍傳下〕「爰茲發レ迹斷レ蛇奮レ旅。

【奮力】85フンリヨク 力を奮ふ。奮發する。〔人物志、八觀〕列士樂ニ奮力之功一。〔曹植、諫レ伐ニ遼東一表〕伊管之臣、得レ施ニ其術一、孫吳之將、得レ奮ニ其力一。〔牛上士、獅子賦〕及ニ夫朝晡未レ辰、鼓レ鬐奮レ力、後勁雙臏、前張闊臆。

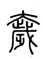
【奮厲】86フンレイ ふるひはげます。ふるひはげむ。〔後漢書、第五倫傳〕奮ニ厲其衆一。〔晉書、荀晞傳〕三軍奮厲。

【奮勵】87フンレイ 奮ひはげむ。又、ふるひはげます。奮厲。奮振。〔魏志、陳留王傳〕起出以ニ輔言一宣ニ語諸軍一、遂使ニ將士益懷ニ奮勵一。

【奮烈】88フンレツ 功烈をふるふこと。〔逸周書、武寤解〕王赫奮烈、八方咸發。

【奮鬣】89フンレフ たてがみをふるふ。〔張衡、西京賦〕於レ是、蚩尤秉レ鉞、奮レ鬣被レ般。

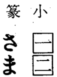
【奯】6013 クワツ クワチ 〔集韻〕呼括切 曷


小篆

❶**廣々として大きい**。〔說文〕奯、空大也、从レ大歲聲、讀若ニ詩施レ罟濊濊一。❷**目を大きくひらく**。〔廣韻〕奯、大開レ目也。〔元包經〕豐睛之奯。

【⿰坴夬】6014 ケツ 奊（**3－5963**）に同じ。〔字彙〕⿰坴夬、與レ奊同。

【⿳罒目大】6015 [一]エン オン 〔集韻〕於建切 願 [二]ケン ゲン 〔集韻〕逵員切 先


小篆

[一][二]**大きいさま。又、きほひたつさま**。〔說文〕⿳罒目大、大皃、从レ大⿱罒目聲、或曰、拳勇字、讀若レ傿。〔段注〕⿱罒目、讀若ニ書卷之卷一、拳、當レ作レ捲、手部、捲、气勢也。

參考 字形、廣韻は⿱罒具に作る。

【⿱䒑⿱罒大】6016 ヰ 韋（**12－43108**）の古字。〔字彙補〕⿱䒑⿱罒大、古文韋字。

【⿱爽心】6017 シツ 瑟（**7－21133**）の古字。〔集韻〕瑟、古作レ⿱爽心。

【⿱⿰天天⿰天天】6018 ケツ 結（**8－27398**）に同じ。〔篇海〕⿱⿰天天⿰天天、同レ結。

【⿰大無】6019 ボ 模（**6－15453**）に同じ。〔韻會〕⿰大無、同レ模。

十四畫

【奞】6020 クワン 〔集韻〕呼官切 寒

❶**はじめ**。〔方言、十二〕奞、始也。❷**かはる**。〔方言、十二〕奞、化也。❸或は⿱艹奞に作る。〔集韻〕奞、或作レ⿱艹奞。

【⿱大⿱夂巳】6021 サウ 喪（**2－3985**）の古字。〔字彙補〕⿱大⿱夂巳、古文喪字。

【⿻大亘】6022 セキ 奭（**3－6002**）の古字。〔集韻〕奭、古作レ⿻大亘。

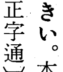
【⿱天道】6023 コウ ク 〔字彙補〕古東切 東

おほやけ。〔字彙補〕⿱天道、無レ私也。

【⿱大貝】6024 ハウ 義未詳。〔五音篇海〕⿱大貝、音萌。

十五畫

【奰】6025 ヒ ビ 〔集韻〕平祕切 寘


小篆

❶**壯んで大きい**。本、⿱⿰目⿰目目⿰大⿰大大（**3－6035**）に作る。〔正字通〕奰、本作レ⿱⿰目⿰目目⿰大⿰大大。〔說文〕⿱⿰目⿰目目⿰大⿰大大、壯大也、从ニ三大三目一、二目爲レ⿳罒目大、三目爲レ⿱⿰目⿰目目⿰大⿰大大、益大也、讀若ニ易虙羲氏一。〔段注〕虙、古音讀如レ密、奰、古音同。〔說文、眉、段注〕西京賦・吳都賦、皆用ニ奰眉字一、說者謂ニ作力之皃也一、奰、見ニ大部一、奰、俗譌レ贔、眉、又譌レ屓、又譌レ屭、今學者罕レ知ニ其本字一矣。❷**せまる**。〔說文〕⿱⿰目⿰目目⿰大⿰大大、一曰、迫也。❸**いかる**。〔詩、大雅、蕩〕內奰ニ于中國一、覃ニ及鬼方一。〔傳〕不レ醉而怒曰レ奰。〔疏〕奰者、怒而自作レ氣之貌、故爲レ怒也。

解字 會意。三目と三大との合字。二目に从ふ⿳罒目大の字は大きい義。今、之に更に一目を加へて、益大なる義を表はす。字解を見よ。

【奰眉】1キヒ 壯大なさま。奰屓に同じ。〔集韻〕眉、奰眉、壯大貌、亦作レ屭。

【奰屓】2キヒ 氣力を作すさま。奰屭。〔吳徵、浮丘仙賦〕偃蹇而驕者、奰屓而怒者。

【奰屭】3キヒ 奰眉・奰屓に同じ。〔詩、大雅、蕩、內

奰㆓于中國㆒、疏〕西京賦云、巨靈奰屭、以流㆓河曲㆒。〔韓愈、月蝕詩〕寒氣奰屭頑無㆑風。

【奰逆】4 （ヒギャク） 憤が積って亂を爲すこと。〔庾信、哀江南賦〕既奸回之奰逆。

【⿱大畾】6026 ライ 〔集韻〕魯猥切 賄 **おほきい。**〔集韻〕⿱大畾、大也。

【⿱巽大】6027 音未詳 中嶽の名。〔字彙補〕⿱巽大、音未詳。〔金液神氣經〕中嶽、姓楎、名⿱巽大君。

十六畫

【⿱黃大】6028 タイ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱黃大、音帶。

十七畫

【⿱大堅】6029 ヘイ 〔五音篇海〕音丙 **南方。**〔五音篇海〕⿱大堅、南方也。

十八畫

【⿱大雈】6030 クヮン 奮(**3－6020**)に同じ。〔廣雅、釋詁三〕⿱大雈、七也。〔中華大字典〕⿱大雈、按、字同㆑奮、方言・廣雅・玉篇、皆作㆑奮。

参考 字形、集韻は⿱大雈に作る。

十九畫

【奱】6031 レン 〔集韻〕閭員切 先 **よぢる。** 或は孿(**3－6912**)に作る。〔集韻〕奱、說文、樊也、或作㆑孿。

二十畫

【⿱大雝】6032 ワツ ワチ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱大雝、烏刮切。

【⿱大夐】6033 キャク クヮク 〔集韻〕厥縛切 藥 **すこやかなさま。**〔集韻〕⿱大夐、健皃。

二十一畫

【奲】6034

㊀シャ 〔集韻〕齒者切 馬

㊁セン 〔集韻〕齒善切 銑

㊂タ 〔集韻〕典可切 哿

小篆

㊀㊁**ゆるやかで大きい。**〔集韻〕奲、寛大也。㊂**富むさま。又、重くて垂れるさま。**〔說文〕奲、富奲奲皃、从㆑奢單聲。〔段注〕當㆑作㆓奲奲富皃㆒。〔說文繫傳〕奲、鍇曰、謂㆓重而垂㆒也。〔說文、奲、段注〕奲、爲㆓本字㆒、那、爲㆓段借字㆒耳、俗用㆓嚲字㆒、訓㆓垂下皃㆒、亦疑奲之變也。

【奲奲】1 （シャシャ） 富み豐かなさま。〔說文〕奲、富奲奲皃。

【奲都】2 （シャト） 西夏の毅宗、李諒祚の年號。(1057－1062)〔宋史、夏國傳上〕諒祚殂、年二十一、在㆑位二十年、改元、延嗣寧國一年、天祐垂聖三年、福聖承道四年、奲都六年、拱化五年。

【⿱⿱吅大⿰⿱吅大⿱吅大】6035 ヒ 奰(**3－6025**)の本字。〔正字通〕奰、本作㆑⿱⿱吅大⿰⿱吅大⿱吅大。

女部

【女】6036

㊀ ヂョ ニョ 〔集韻〕碾與切 語 ㄋㄩˇ nü³

㊁ ジョ ニョ 〔集韻〕忍與切 語 ㄖㄨˇ ju³

㊂ ヂョ ニョ 〔集韻〕尼據切 御 ㄋㄩˋ nü⁴

㊃ ジョ ニョ 〔集韻〕人余切 魚

慣 ニョウ

小篆

㊀❶**をんな。め。** 男(**7－21730**)の對。〔說文〕女、婦人也、象形、王育說。〔段注〕渾㆓言之㆒、女亦婦人、析㆓言之㆒、適㆑人乃言㆓婦人㆒也。〔白虎通、嫁娶〕女、如也、從㆓如人㆒也。〔晉書、林邑國傳〕貴㆑女賤㆑男。❷**むすめ。** 處子。婦(**3－6432**)の對。〔說文通訓定聲〕對㆑文則處子曰㆑女、適㆑人曰㆑婦。〔禮、雜記上〕女子附㆓於王母㆒則不㆑配。〔注〕女子、謂㆓未㆑嫁者㆒也。❸**陰陽に配して、陰にあてる。**〔楚辭、離騷〕衆女嫉㆓余之蛾眉㆒兮。〔注〕女、陰也。〔後漢書、劉瑜傳〕今女嬖令色、充㆓積閨帷㆒。〔注〕女、陰物也。❹**易では、坤・兌・巽・離等にあてる。**〔易、繫辭上〕坤道成㆑女。〔易、觀、闚觀利㆓女貞㆒、虞注〕兌爲㆑女。〔易、說卦〕巽爲㆓長女㆒。〔易、說卦〕離爲㆓中女㆒。〔易、說卦〕兌爲㆓少女㆒。❺**しなやか。又、小さいものの喩。**〔詩、豳風、七月〕猗㆓彼女桑㆒。〔傳〕女桑、荑桑也。〔荀子、賦〕此夫身女好而頭馬首者與。〔注〕女好、柔婉也。❻**星の名。** 二十八宿の一。うるき。布帛・嫁娶のことを主る。須女。〔晉書、天文志〕須女四星、天少府也。〔楊炯、渾天賦〕須女主㆓布帛㆒、牽牛主㆓關梁㆒。❼古は乇(**2－2899**)に作る。〔集韻〕女、古作㆑乇。❽**姓。**〔世本〕天皇封㆓弟瑀於女水陽㆒、後爲㆓天子㆒、因稱㆓女皇㆒、其後爲㆓女氏㆒。〔正字通〕姓、漢賢良女敦、晉大夫女叔寛。❾**をんなへん。** 漢字の偏の名。㊁**なんぢ。** 汝(**6－17138**)に通ず。〔孝經、開宗明義章〕女知㆑之乎。〔釋文〕本或作㆑汝。〔莊子、齊物論〕女聞㆓人籟㆒。〔釋文〕女、本亦作㆑汝。㊂❶**めあはす。**〔書、堯典〕女㆓于時㆒。〔傳〕女、妻也。〔左氏、桓、十一〕宋雍氏女㆓於鄭莊公㆒、曰㆓雍姞㆒。〔注〕以㆑女妻㆑人曰㆑女。❷**つかへる。**〔漢書、揚雄傳上〕奚必云女㆓彼高邱㆒。〔注〕師古曰、女、仕也。㊃如(**3－6060**)の古字。〔集韻〕如、古作㆑女。

解字 象形。人の字の變形で、𠂇は手の容に象り、下筆の屈曲してゐるのは、膝を屈した容で、柔婉順謹の意である。〔說文、女、象形、王育說、段注〕王育說、是象形也、蓋象㆓其揜斂自守之狀㆒。

【女娃】1 （ヂョアイ） 炎帝の少女の名。〔山海經、北山經〕炎帝之少女、名曰㆓女娃㆒、女娃遊㆓於東海㆒、溺而不㆑返、故爲㆓精衛㆒。

【女罃】2 （ヂョアウ） 帝舜の妃。女英(12)に同じ。〔漢書、古今人表〕女罃、舜妃。〔注〕師古曰、即女英也、〔路史、有虞紀〕女罃生㆓義鈞㆒、封㆓於商㆒、是爲㆓商鈞㆒。

【女夷】3 （ヂョイ） 神の名。❶春秋に萬物の長養を司る神。〔淮南子、天文訓〕女夷鼓歌、以司㆓天和㆒。〔注〕女夷、主㆓春夏長養㆒之神也。❷花の神。〔庶物異名疏〕花神名㆓女夷㆒、乃魏夫人弟子。❸風の神。〔康熙字典〕夷、女夷、風神名。

【女醫】4 （ヂョイ ニョイ） 女で醫師となつた者。〔漢書、孝宣

許皇后傳〕女醫淳于衍者、霍氏所レ愛。〔醫疾令〕女醫取二官戸婢年十五以上廿五以下、性識慧了者卅人一、別所安置、教以二安胎產難、及創腫傷折針灸之法一。

〖女醫博士〗5 ニヨイハカセ　典藥寮に屬する產科・婦人科の醫博士。女醫を教へる事を掌る。唐名も同じ。〔續日本紀、九、養老六年十一月〕始置二女醫博士一。〔職原鈔〕典藥寮、女醫博士、相當唐名同レ上。

【女萎】6 ヂヨヰ　草の名。ぼたんづるの異名。〔本草、女萎〕集解、恭曰、女萎、葉似二白斂一、蔓生、花白、子細、荊襄之閒、名爲二女萎一。

【女葳】7 ヂヨヰ　草の名。紫葳（**8－27337**··8）の異名。〔本草、紫葳〕釋名、淩霄・陵苕・陵時・女葳・茇華・武威・瞿陵・鬼目。

【女憂】8 ヂヨイウ　女についての心配。〔漢書、五行志下之上〕國將レ有二女憂一也。

【女優】9 ヂヨイウ　をんなやくしや。女子の俳優。女倡。女伶。〔夢溪筆談、故事一〕百官上日、惟翰林學士、敕設用レ樂、他雖二宰相一、亦無二此禮一、優伶並二開封府點集一、陳和叔除二學士一時、和叔知二開封府一、遂不レ用二女優一、學士院敕設不レ用二女優一、自二和叔一始。

【女陰】10 ヂヨイン　㊀女子は陰である。〔論衡、順鼓〕俗圖二畫女媧之象一、爲二婦人之形一、又其號曰レ女、仲舒之意、殆謂二女媧古婦人帝王者一也、男陽而女陰、陰氣爲レ害、故祭二女媧一求二福祐一也。㊁女子の陰部。〔說文〕也、女侌也。㊂縣名。漢、置き、汝南郡に屬せしむ。又、汝陰に作る。今の安徽省阜陽縣治。〔漢書、地理志上〕汝南部、縣三十七、女陰。〔注〕故胡國、都尉治、莽曰、汝墳。〔漢書、地理志上、汝南郡、云云、縣三十七、云云、女陽、注〕師古曰、女讀曰レ汝、其下汝陰、亦同。

【女院】11 ニヨウヰン ニヨヰン　國母又は女御・內親王等で、特に院號を賜はつた御方の稱。〔名目抄〕女院、常の音によなり、名目時引レ之。〔大鏡、中〕母后入道せさせたまひて、云云、女院と聞えさせき。

【女英】12 ヂヨエイ　帝堯の次女。娥皇の妹。女瑩（女罃）、或は女匽に作る。娥皇と同じく舜の妃となる。後、娥皇と俱に江湘の間に死し、俗に湘君・湘夫人といふ。〔列女傳、母儀、有虞二妃傳〕有虞二妃、帝堯之二女也、長娥皇、次女英。〔帝王世紀〕娥皇無レ子、女英生二商鈞一。

【女瑩】13 ヂヨエイ　㊀女英に同じ。〔史記、五帝紀、舜飭下二二女於嬀汭一如二婦禮一、注〕索隱曰、列女傳云、二女、長曰二娥皇一、次曰二女英一、系本作二女瑩一、大戴禮作二女匽一。㊁後漢、梁后（**6－14825**··79）の名。

【女謁】14 ヂヨエツ　宮女が、君主の寵を賴み權を弄して、請ひ求めること。婦人の內密の賴み事。〔韓非子、詭使〕近習女謁並行。〔漢書、李尋傳〕牽二於女謁一、有レ所二畏難一。〔素書、遵義〕女謁公行者亂。〔說苑、君道〕湯之時、大旱七年、云云、於レ是、使下人持二三足鼎一祝中山川上、教二之祝一曰、政不レ節耶、使二人疾一耶、苞苴行耶、讒夫昌耶、宮室營耶、女謁盛耶、何不レ雨之極也、蓋言未レ已而天大雨。〔後漢書、鍾離意傳〕昔成湯遭レ旱、以二六事一自責曰、云云、女謁盛邪。〔後漢書、黃瓊傳〕躬節儉、閉二女謁一。〔晉書、五行志上〕後宮萬餘、女謁數行。

【女匽】15 ヂヨエン　舜の妃、女英（12）に同じ。〔大戴禮、帝繫〕帝舜娶二于帝堯之子一、謂二之女匽氏一。

【女娟】16 ヂヨエン　戰國、趙の人。渡守の娘。身を以て父の死を救ひ、趙簡子の夫人となる。〔列女傳、辯通傳〕女娟者、趙河津之女也、初、簡子南擊レ楚、津吏醉臥不レ能レ渡、簡子欲レ殺レ之、娟懼持レ檝而走、云云、妾願以二鄙軀一易二父之死一、中流、爲二簡子一發二河激之歌一、簡子歸、爲二夫人一。

【女垣】17 ヂヨエン　ひめがき。低い垣根。女牆。〔說文〕堞、城上女垣也。〔說文通訓定聲〕古城用レ土、加以二專牆一、爲二之射孔一、以伺二非常一、曰二女垣一、云云、言レ女、皆小意、猶レ言二小牆一也。〔墨子、旗幟〕到二女垣一、鼓七、擧二五幟一。

【女菀】18 ヂヨエン　藥草の名。ひめしをんの異名。〔本草、女菀〕釋名、白菀・織女菀・女復・茆、時珍曰、其根似二女體一柔婉、故名。

【女家】19 ヂヨカ　嫁の生家。嫁のさとかた。〔漢書、張耳傳〕女家厚奉二給耳一。

【女戒】20 ヂヨカイ　女色に就いてのいましめ。〔漢書、杜欽傳贊〕以二建始之初一、深陳二女戒一。

【女界】21 nü³ chieh⁴　婦人社會。

【女楷】22 ヂヨカイ　をんなのてほん。女鑑。〔梁簡文帝、慈覺寺碑〕貴嬪金聲早振、淑範增徽、才實母レ師、行爲二女楷一。

【女誡】23 ヂヨカイ　書名。一卷。後漢、曹昭撰。卑弱・夫婦・敬順・婦行・專心・曲從・和叔妹の七篇に分けて、女子の行を說く。〔說郛、七十〕。

【女孩】24 ヂヨガイ　女の子。女兒。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕時有二一女孩一、約十餘歲。

〖女孩子〗25 nü³ hai² tzŭ　女役者。

〖女孩兒〗26 nü³ hai² êrh　女の子。

【女好】27 ヂヨカウ　女らしくやさしい。〔荀子、賦〕此夫身女好而頭馬首者與。〔注〕女好、柔婉也。

【女⿰石杲】28 ヂヨカウ　玉に似た石。〔廣韻〕⿰石杲、女⿰石杲、石似レ玉。

【女角】29 nü² chiao³　をやま。女脚（55）に同じ。

【女客】30 ヂヨカク　婦女の賓客。をんなきやく。〔玄怪錄〕貴爲二諸侯妻一、何不下盛陳二盤筵一邀中召女客上。

【女樂】31 ヂヨガク　㊀婦人の演ずる音樂。又、音曲歌舞を藝とする女。歌妓。〔左氏、昭、二十八〕其大宗賂以二女樂一。〔論語、微子〕齊人歸二女樂一、季桓子受レ之、三日不レ朝、孔子行。〔國語、越語下〕玩二好女樂一。〔列子、周穆王〕選二女樂一以娛レ之。〔管子、輕重甲〕女樂三萬人。〔墨子、節葬下〕輿馬女樂皆具。〔楚辭、招魂〕肴羞未レ通、女樂羅些。〔史記、孔子世家〕桓子卒受二齊女樂一。〔後漢書、馬融傳〕常坐二高堂一、施二絳紗帳一、前授二生徒一、後列二女樂一。〔事物紀原、樂舞聲歌部、女樂〕列女傳曰、夏桀既棄二禮義一、淫二於婦人一、求二四方美女一、積二之後宮一、作二爛漫之樂一、晉獻公欲レ伐レ虞、遺以二女樂二八一、左傳、鄭賂二晉侯一以二女樂一、論語、齊人歸二魯女樂一、自二周末一皆有、而桀爲二之始一。㊁ラツ　姓氏。

〖女樂子〗32 nü³ lo⁴ tzŭ　各種の流行唄を蛇味線に合せて歌ひ錢を乞ふ婦人。

【女學】33 ヂヨガク　㊀女の學問。又、女子教育。又、女子の學校。〔錄異錄〕長安富平縣、云云、有二甫女學西女學一。㊁書名。六卷。淸、藍鼎元撰。女子の教訓書。體例は朱子の小學に本づき、女學總要・婦德上下・婦言・婦容・婦功の五篇、三百五條に分ち、古人の嘉言善行を擧ぐ。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。

〖女學校〗34 ヂヨガクカウ　女子の普通教育及び專門の學術技藝を教育する學校。女學。

〖女學士〗35 ヂヨガクシ　才學のある女をいふ。㊀陳の後主の宮人、袁大捨は、文學の才があつたので、後主は之を女學士とした。〔陳書、後主張貴妃傳〕以下宮人有二文學一者袁大捨等上爲二女學士一、後主每下引二賓客一對二貴妃等一遊宴上、則使下諸貴人及女學士與二狎客一共賦二新詩一互相贈答上。㊁南唐の盧文進の女。〔南唐書、高越傳〕武軍節度使盧文進稱、女美而慧、善屬レ文、時稱二女學士一。

〖女學生〗36 ヂヨガクセイ　㊀女の生徒。女生。〔紅樓夢、二回〕雨村拍レ案笑道、怪道這女學生。㊁女學校の生徒。

【女監】37 ヂヨカン　女の罪人を容れる監獄。女牢。〔福惠全書、刑名部、監禁〕高二其墻垣一、榜曰二女監一。〔福惠全書、刑名部、監禁〕禁中原有二女監一。

【女几】38 ヂヨキ　㊀山名。河南省宜陽縣の西。俗に石雞山といふ。〔山海經、中山經〕女几之山、洛水出焉、東注二于江一。〔晉書、張軌傳〕張軌少隱二於宜陽女几山一。㊁人名。陳市で酤婦をしてゐたが、後、道術を學ぶ。〔妝樓記〕女几、陳市上酒婦也、陳仲以二素書一倚二酒於女几家一、几盜寫學二其術一。

〖女几野人〗39 ヂヨキヤジン　金、辛愿（**10－38630**··25）の號。

【女岐】40 ヂヨキ　夏の人。澆の嫂。古の女神。夫が無くて九人の子を生んだといふ。〔楚辭、天問〕女岐無レ合レ夫、焉取二九子一。〔注〕女岐、神女、無レ夫而生二九子一也。

【女希】41 ヂヨキ　女媧氏（63）の㊀に同じ。〔史記、三皇紀〕女媧氏有二神聖德一、代二宓犧一、立レ號曰二女希氏一。〔路史、禪通紀〕女皇氏、媧、雲姓、一曰二女希一、太昊氏之女弟。〔注〕世紀云、蛇身人首、一曰二女希一、是爲二女皇一。

【女歧】42 ヂヨキ　夏の人。澆の嫂。澆と不義をなして少康に殺さる。〔竹書紀年、夏帝相紀〕少康使二汝艾諜一レ澆、初浞娶二雄狐氏一、有レ子早死、其婦曰二女歧一、寡居、澆強圉、往至二其戶一、陽有レ所レ求、女歧爲レ之縫レ裳、共舍而宿、汝艾夜使二人襲斷二其首一、乃女歧也。〔楚辭、天問〕惟澆在レ戶何求二于嫂一、何少康逐レ犬而顚二隕厥首一、女歧縫レ裳而館同爰止、何顚二易厥首一而親以逢レ殆。〔注〕澆、古多力者

也、論語曰、澆盪レ舟、言下澆無レ義、淫二佚其嫂一、往至二其戶一、佯有レ所レ求、因與行中淫亂上也、言下夏少康、因二田獵一、放レ犬逐レ獸、遂襲二殺澆一而斷中其頭上、女歧、澆嫂也、館、舍也、爰、於也、言二女歧與レ澆淫佚、爲レ之縫レ裳、於レ是、共レ舍而宿止一也、逢、遇也、殆、危也、言下少康夜襲、得二女歧頭一、以爲レ澆、因斷レ之、故言二易レ首遇二危殆一也。

【女祁】43 ヂョキ 縣名。漢、置き、後漢、省く。故城は今の河北省龍關縣の東。〔漢書、地理志下〕上谷郡、縣十五、女祁。〔注〕東部都尉治。

【女紀】44 ヂョキ ❶女子の守るべきのり。〔列女傳、貞順傳〕君子稱揚、以爲二女紀一。❷西北の陰地。〔淮南子、天文訓〕至二于女紀一、是謂二大還一。〔注〕女紀、西北陰地。

【女鬼】45 nü^2 kuei^3 女の幽靈。

【女嬉】46 ヂョキ 有莘氏の女。鯀の妻となる。女志。女狄。〔吳越春秋、越王無余外傳〕鯀娶二於有莘氏之女一、名曰二女嬉一、年壯未レ孳、嬉於二砥山一、得二薏苡一而呑レ之、意若レ爲二人所一レ感、因而姙孕、剖レ脅而產二高密一、家二于西羌一、地曰二石紐一。

【女歸】47 ヂョキ 女子がとつぐ。又、そのこと。〔易、漸〕女歸、吉、利レ貞。

【女騎】48 ヂョキ 馬に乘つた婦人。〔海錄碎事、飮食、宴會〕石季龍以二女騎一千一爲二鹵簿一、皆著二紫綸巾・熟錦袴・金銀鏤帶一、遊二于戲馬觀一。

【女伎】49 ヂョギ 女妓に同じ。

【女妓】50 ヂョギ 藝妓。うたひめ。まひこ。〔北史、盧文偉傳〕動作狂俠、嘗于二晉陽一置酒、賓游滿レ座、中書舍人馬士達、目下其彈二箜篌一女妓上云、手甚纖素、宗道卽以遺レ之。〔唐書、順宗紀〕貞元二十一年、三月庚午、放二後宮三百人一、癸酉、放二後宮及教坊女妓六百人一。

【女戲】51 nü^3 hsi^4 をんなしばゐ。女優劇。

【女鳩】52 ヂョキウ 殷の湯王の賢臣。伊尹は湯の所を去つて夏に適つたが、やがて有夏を醜なりとして、また亳に歸り、北門から入つた時、女鳩と女房とに遇つて、女鳩女房といふ文を作つた。房は一に方に作る。〔史記、殷紀〕伊尹去レ湯適レ夏、既醜二有夏一、復歸二于亳一、入レ自二北門一、遇二女鳩・女房一、作二女鳩・女房一。

【女麴】53 ヂョキク 麥の麴。むぎかうぢ。〔本草、女麴〕釋名、䴷子・黃子、時珍曰、此乃女人以二完麥一罨成二黃子一、故有二諸名一。

【女給】54 ヂョキフ カフエー・喫茶店等で客の接待・給仕をする女。特にカフエーの女給仕、卽ち從業婦をいふ。

【女脚】55 nü^2 chiao^3 をやま。女形の役者。女角。

【女宮】56 ヂョキユウ ❶刑を受け宮中に沒入せられて奴となつた女。〔周禮、天官、寺人〕掌二王之內人、及女宮之戒令一。〔注〕女宮、刑女之在二宮中一者。〔疏〕謂下男女沒二入斯宮一爲レ嬪者上也。〔校勘記〕惠校本、作二男女沒入爲レ奴者也一、此誤。〔後漢書、宦者傳序〕寺人掌二女宮之戒一。❷ヲンナミヤ 皇女。內親王。ひめみや。〔宇津保物語、國讓、上〕一宮女宮達一つ車にて、五位四位數知らず。

【女御】57 ヂョギョ ❶周官の名。天官の屬。天子の食事に侍し、御寢のおとぎをし、又、每歲定められた時期に絲枲を布帛となして獻上する。〔周禮、天官、女御〕女御掌三御二敍于王之燕寢一、以二歲時一獻二功事一。〔注〕絲枲成功之事。〔後漢書、皇后紀序〕女御序二于王之燕寢一、頒レ官分レ務、各有二典司一。❷ニョウゴ 中宮の次に位する女官。天子の御寢に侍る。初、四位・五位の間に過ぎなかつたが、仁明天皇以後、數朝を歷て次第に貴く、後には女御から直ちに皇后となるに至つた。〔日本後紀、二十四、弘仁六年十月壬戌〕敕、親王・內親王・女御及三位以上嫡妻子、並聽レ著二蘇芳色象牙刀子一。

【女御屋】58 ニョウゴヤ 女御の住むつぼね。〔榮華物語、三、樣樣悅〕御手車・女御屋など。

【女御代】59 ニョウゴダイ 大嘗會御禊の儀を行はせられる時、選定せられて、女御の代りとして勤仕する女官。〔蜻蛉日記、上、下〕これより女御代出でたるべし。〔江家次第、十四、大嘗會御禊〕女御代車、列二立郁芳門外北掖一。

【女花】60 ヂョクワ 菊の異名。女華(68)の❷に同じ。

【女科】61 nü^3 k'ê^1 婦人科の醫師。〔還魂記、道覡〕俺不是女科。

【女媧】62 ヂョクワ ❶女媧氏の❶を見よ。〔淮南子、說林訓〕此女媧所二以七十化一也。〔曹植、洛神賦〕女媧淸歌。❷太行山(3－5843··43)の別名。〔事物異名錄、坤輿、山〕十道山川考、太行山爲二天下之脊一、一名王母、一名女媧。

【女媧氏】63 ヂョクワシ ❶上古の帝名。伏羲氏の妹。五色の石を鍊つて天を補ひ、鼇の足を斷つて四極を補ひ、蘆灰を積んで滔水を止めたといふ。一に女希氏に作り、又、媧皇といふ。〔史記、三皇紀〕女媧氏、亦風姓、蛇身人首、有二神聖之德一、代二宓犧一立、號曰二女希氏一、無二革造一、惟作二笙簧一、故易不レ載、不レ承二五運一、一曰、女媧亦木德王、蓋宓犧之後、已經二數世一、金木輪環、周而復始、特擧二女媧一、以三其功高而充二三皇一、故頻木王也、當二其末年一也、諸侯有二共工氏一、任二智刑一、以レ強霸而不レ王、以レ水乘レ木、乃與二祝融一戰、不レ勝而怒、乃頭觸二不周山一、崩、天柱折、地維缺、女媧乃鍊二五色石一以補レ天、斷二鼇足一以立二四極一、聚二蘆灰一以止二滔水一、以濟二冀州一、於レ是、地平天成、不レ改二舊物一。〔陔餘叢考、女媧或以爲二婦人一〕女媧、古帝王之聖者、古無二文字一、但以レ音呼、後人因レ音而傳以レ字、適得二此女媧二字一、初非下以三其爲二婦人一而加中此號上也。❷禹の妃。女嬌。〔帝王世紀〕禹納二塗山女一、曰二女媧一。

【女媧石】64 ヂョクワセキ 歸美山にある岩石の名。〔南康記〕歸美山、山石紅丹、赫若二綵繪一、峨峨秀レ上、切レ霄隣レ景、名曰二女媧石一。

【女媧陵】65 ヂョクワノリョウ 女媧氏の陵。所在地に五說あり。❶山西省趙城縣。〔路史〕女媧氏、其神居二於栗廣之野一、是爲二風陵堆一。〔注〕墓、今在二潼關口河潬上一、圪然分レ河、有二木數株一、雖二瀑漲一不二漂沒一、今屬二陝之閿鄉縣一、按、元和郡縣志、風陵堆、在二河東縣南五十一、與二潼關一對、寰宇記、風陵城、在二其下鄉津一、去レ縣三里、卽風陵故關也、女媧之墓、秦漢以來俱係二祀典一、然九域・寰宇、濟二之任城東南三十九里一、又有二女媧陵城一、冢記云、女媧墓有レ五、其一在二趙簡子城東一、今在二晉之趙城東南五里一、高三丈、九域志、晉州有二帝女媧廟一、寰宇記、在二趙城故列祀一、亦在二趙城一。〔文獻通考、王禮考、山陵〕女媧葬二趙城縣東南一、在二晉州一。❷山東省趙城縣。〔平陽府志〕媧皇陵、在二趙城縣侯村里一、有二二冢一、東西相距四十九步、各高二丈、周圍各四十八丈。❸河南省閿鄉縣。〔河南府志〕女媧陵、在二閿鄉縣黃河濱一、唐天寶末、忽失、乾元初、復湧出、遂名二風陵渡一、蓋后風姓故也。❹陝西省潼關縣。〔陝西通志〕上古風陵、卽女媧氏陵、左二潼關衞城北黃河中一。❺山東省濟寧縣。〔兗州府志〕女媧陵、在二濟寧州東南三十九里一。

【女媧補天】66 ヂョクワホテン 蒙求の標題。女媧氏が五色の石を鍊つて天を補つた故事。女媧氏の❶を見よ。

【女媧煉二五色石一補レ天】67 ヂョクワ ゴシキノイシヲ ネッテ テンヲオギナフ 女媧氏が五色の石を鍊つて天を補つた。女媧氏の❶・天柱折地維缺(3－5833··1144)を見よ。

【女華】68 ヂョクワ ❶人名。㋑帝顓頊の苗裔で秦の先祖となつた大業の妻。〔史記、秦紀〕秦之先、帝顓頊之苗裔、孫曰二女脩一、云云、生二子大業一、大業取二少典之子一、曰二女華一、女華生二大費一。〔唐書、宰相世系表一上〕裴氏、出レ自二風姓一、顓頊裔孫、大業生二女華一、女華生二大費一。㋺桀が寵愛した婦人。〔管子、輕重甲〕女華者、桀之所レ愛也、湯事レ之以二千金一、曲逆者、桀之所レ善也、湯事レ之以二千金一、內則有二女華之陰一、外則有二曲逆之陽一、陰陽之議合、而得レ成二其天下一、此湯之陰謀也。❷菊(9－31153)の異名。〔本草、菊〕釋名、節華・女節・女華・女莖・日精・更生・傳延年・治蘠・金蕊・陰成・周盈、時珍曰、崔寔月令云、女節・女華、菊華之名也。〔張賁、白菊詩〕雪彩冰姿號二女華一、寄レ身多是地家仙。❸山名。陝西省同官縣の西北。又、陝西省洵陽縣の南。〔太平寰宇記〕女華山、高峯秀出、每レ有二大風雷一、多從二華嶽一至レ此、故老傳云、華嶽女官降二此山上一、因立レ祠、曰二女華婦人祠一。〔淸一統志〕唐書地理志、同官縣有二女迴山一、蓋卽女華山、音近而訛耳、洵陽縣南、亦有二女華山一。

【女禍】69 ヂョクワ 女色に關するわざはひ。女色に耽つて失敗すること。女難。〔唐書、睿宗紀贊〕自二高祖一至二於中宗一數十年閒、再罹二女禍一、唐祚既絕而復續。

【女儈】70 ヂョクワイ 女衒(103)をいふ。人買ひ。儈は仲買ひ。〔賓退錄〕東朝王繼勳、殘暴愈甚、女儈及粥棺者、出二入其門一不レ絕。

【女繪】71 ヲンナヱ 美人畫。〔源氏物語、四十六、總角〕

をかしげなる女繪どもの。

【女皇】72 ヂョクワウ　❶女媧氏をいふ。女媧氏（63）の❶を見よ。〔帝王世紀〕女媧氏、亦風姓也、承二庖犧制度一、亦蛇身人首、一號二女希一、是爲二女皇一。❷堯の妃。〔史記、五帝紀、注〕集解曰、皇甫謐云、堯娶二散宜氏之女一、曰二女皇一、生二丹朱一、又有二庶子九人一、皆不肖也。

【女媓】73 ヂョクワウ　女皇の❷に同じ。〔廣韻〕媓、女媓、堯妻。

【女官】74 ヂョクワン　❶宮中に奉仕する女。〔漢書、李尋傳〕女官在レ後。〔唐書、玄宗貴妃楊氏傳〕丐レ籍二女官一。❷女道士。女冠（79）に同じ。❸ニョウクワン ニョクワン　女の官人の總稱。又、禁中の御湯殿・御臺盤所・殿司等で御用を勤める下臈の女房の稱。〔名目抄〕女官、女公人之惣名也。〔禁祕抄、下〕臺所女官、御裝束沙汰、云云、御湯殿女官、奉二公物一也。

【女官道士】75 ヂョクワンダウシ　宮中に出入する女道士。〔南史、梁高祖紀下〕海中浮鵠山、去二餘姚岸一可二千餘里一、上有二女人一、年三百歲、有二女官道士四五百人一、年並出レ百。〔宣和遺事、前集上〕使下人喚二玉環一出家爲中女官道士上。

【女官除目】76 ニョウクワンノヂモク　除目の一。女官の敍任を行ふ式。〔西宮記、二〕寛平九年八月十四日、大納言藤・菅兩卿、於二陣頭一有二女官除目一。

【女官十九等】77 ヂョクワンジフクトウ　唐代の女官の十九等。貴妃・淑妃・德妃・賢妃・昭儀・昭容・昭媛・修儀・修容・修媛・充儀・充容・充媛・婕妤・美人・才人・寶林・御女・采女。〔羣書拾唾〕唐女官十九等、曰、貴妃・淑妃・德妃・賢妃・昭儀・昭容・昭媛・修儀・修容・修媛・充儀・充容・充媛・婕妤・美人・才人・寶林・御女・采女、開元時、又置二惠妃・麗妃・華妃一。

【女官十四等】78 ヂョクワンジフシトウ　漢代の女官の十四等。昭儀・婕妤・美娥・傛華・美人・八子・充依・七子・良人・長使・少使・五官・順常・無涓。〔羣書拾唾〕漢女官十四等、曰、昭儀・婕妤・美娥・傛華・美人・八子・充依・七子・良人・長使・少使・五官・順常・無涓、此下又有二共和・娛靈・保林・良使・夜者・上家人子・中家人子一、擇二良家子一入二宮中一、未レ有二稱號一、倶號二良家子一、宦官掌二內事一、皇后統レ之、班固西都賦云、後宮之號、十有四位。

【女冠】79 ヂョクワン　❶女道士。女冠子。〔舊唐書、則天皇后紀〕令下釋教在二道法之上一、僧尼處中道士女冠之前上。〔元結、登二九疑第二峰一詩〕何人居二此處一、云是魯女冠。〔南唐近事〕女冠耿先生、鳥爪玉貌、甚有二道術一。〔宋史、徽宗紀四〕宣和元年、詔、改二女冠一爲二女道一、尼爲二女德一。❷ヲンナカウブリ　昔の制度で、女の敍位をいふ。男冠の對。〔宇津保物語、國譲下〕女かうぶりに、女御・更衣、みなかうぶり賜はりぬ。

【女冠院】80 ヂョクワンヰン　女道士の寮。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕有下指二女冠院一語上之。

【女冠子】81 ヂョクワンシ　❶女冠の❶に同じ。〔還魂記、道覡〕女冠子有二幾個同氣連枝一。❷詞牌の名。又、曲牌の名。南曲では南呂宮正曲に入り、又、黃鍾宮引に入り、又、南呂宮引に入る。小女冠子といふ。北曲では大石角隻曲に入り、又、雙鳳翹と名づく。〔調譜〕唐教坊曲名、小令始二於溫庭筠一、長調始二於柳永一、樂章隻淡煙飄薄詞注二仙呂調一、斷煙殘雨詞注二大石調一、元高拭詞注二黃鐘宮一、柳永詞、一名二女冠子幔一。

【女寬】82 ヂョクワン　春秋晉、女叔寬（186）の一名。

【女觀】83 ヂョクワン　湖の名。湖北省江陵縣の東北。東晉の初、荊州の將趙誘等が杜曾と戰つて敗歿した處。今、湮沒す。〔水經、沔水注〕柞溪水、出二江陵縣北一、云云、東注二船官湖一、湖水又東北入二女觀湖一、湖水又東入二于揚水一。

【女君】84 ヂョクン　❶妾が適妻（正妻）を呼ぶ稱。妾が夫を男君と呼ぶに對す。〔儀禮、喪服〕妾爲二女君一、傳曰、何以期也、妾之事二女君一、與三婦之事二舅姑一等。〔注〕女君、君適妻也。〔釋名、釋親屬〕妾謂二夫之嫡妻一曰二女君一、夫爲二男君一、故名レ妻曰二女君一也。❷皇后をいふ。女主。〔魏志、文德郭后傳、注〕魏書曰、誡不レ足下以假二女君之盛位一、處中中饋之重任上。

【女訓】85 ヂョクン　女たるもののいましめ。女子に對するをしへ。女誡。〔宋史、列女、謝枋得妻傳〕謝枋得妻李氏、色美而慧、通二女訓諸書一。

【女裙】86 nü³ ch'ün²　婦人の裳。

【女軍】87 メイクサ　女子で組織した軍隊。娘子軍。〔日本書紀、神武紀〕於二女坂一置二女軍一、男坂置二男軍一。

【女羣】88 ヂョグン　女のむれ。

【女兄】89 ヂョケイ　あね。〔說文〕姊、女兄也。〔正字通〕兄、按、兄者、男女之通稱、故今女先生者、稱レ姊稱二女兄一。〔史通、浮詞〕史記世家有レ云、趙鞅諸子、無卹最賢、云云、至レ如下僞會二隣國一進レ計行レ伐、俾中同氣女兄、摩レ笄引決上、云云、焉得レ謂二之賢一哉。

【女形】90 ヂョケイ　❶女のかたち。〔慵齋叢話〕小梅數人、著二女形假面一。❷ヲヤマ ヲンナガタ　芝居などで、女に裝ふ役者。をんながた。〔守貞漫稿、十九、娼家上〕江戸にて芝居の女形を於山とも云也。〔東海道名所記〕だうけ者が女形。

【女系】91 ヂョケイ　女の系統。女の血統。男系の對。

〖女系制〗92 ヂョケイセイ　女の血統を中心として相續者を決定する制度。母系制に同じ。原始社會・原始的社會に於て之を見る。

【女莖】93 ヂョケイ　菊（**9－31153**）の異名。〔本草、菊〕釋名、節華・女節・女華・女莖・日精・更生・傅延年・治蘠・金蕊・陰成・周盈。

【女嬌】94 ヂョケウ　塗山氏の女、夏の禹王の妃。啓の母。女僑。女趫。女媧。〔吳越春秋、越王無余外傳〕禹因娶二塗山一、謂二之女嬌一、取二辛壬癸甲一、禹行十月、女嬌生二子啓一。

【女僑】95 ヂョケウ　女嬌に同じ。〔大戴禮、帝繫〕禹娶二于塗山氏一、塗山氏之子、謂二之女僑氏一、產レ啓。〔系本〕塗山氏女、名女僑。

【女趫】96 ヂョケウ　女嬌に同じ。〔漢書、古今人表〕女趫、禹妃、塗山氏女、生レ啓。

【女戟】97 ヂョゲキ　地名。太行山の西。〔史記、蘇秦傳〕已得二安邑一塞二女戟一。〔讀史方輿紀要、州域形勢、戰國魏〕女戟、劉氏曰、在二太行山西一。

【女傑】98 ヂョケツ　をんなのえらもの。女の豪傑。

【女孼】99 ヂョゲツ　女子で、罪を得た者。〔漢書、李尋傳〕朝廷驚駭、女孼入レ宮、此獨未レ效。

【女眷】100 nü³ chüan⁴　女の家族。又、家族中の女。

【女權】101 ヂョケン　婦人の、社會上・政治上、又は法律上に於ける權利。女子の權利。女子の勢力。

〖女權擴張運動〗102 ヂョケンクワクチャウウンドウ　婦人の、社會上・政治上・法律上に於ける權利を擴張せんとする運動。

【女衒】103 ゼゲン ヂョゲン　江戸時代、遊女の口いれを業とする者。ひとかひ。女儈。〔東牖子、二〕東都にて傾城奉公人の肝煎する者を女衒と云ふ。衒は售なればなり。

【女戶】104 ヂョコ　女やもめの家。男がゐないで、婦女が主となつてゐる民戶。〔後漢書、章帝紀、元和二年五月加二賜河南女子百戶牛酒一、注〕即今之女戶也。〔宋史、食貨志上六〕凡無レ夫無レ子、則爲二女戶一。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕女戶單丁。

〖女戶主〗105 ヲンナコシユ　女の戶主。女主人。

【女湖】106 ヂョコ　湖の名。廣東省東莞縣の東。〔輿地紀勝〕在二東莞縣東一百餘里一、湖中多二支磯石一、故名、又雙女湖、在二縣東南七十里一。

【女賈】107 ヂョコ　女商人。ひさぎめ。〔左氏、昭、二十六〕申豐從二女賈一。〔會箋〕女賈、女人爲レ賈者。

【女口】108 ヂョコウ　❶女のいふこと。女の言。〔漢書、五行志上〕齊桓好レ色聽二女口一。❷女子をいふ。〔舊五代史、漢隱帝紀下〕尙食奉御王紹隱除名、流二沙門島一、坐レ匿二軍營女口一也。

【女工】109 ヂョコウ　❶女のしごと。女功に同じ。〔管子、七臣七主〕主好二文采一、則女工靡。〔墨子、辭過〕女工作二文采一。〔尸子、勸學〕女工繅レ之、以爲二美錦一。〔漢書、地理志下〕勸以二女工之業一。〔漢書、食貨志上〕冬、民既入、婦人同レ巷、相從夜績、女工一月得二四十五日一。〔注〕服虔曰、一月之中、又得二夜半一、爲二十五日一、凡四十五日也。〔孔叢子、公孫龍〕以二絲麻一加二之女工一。〔新書、瑰瑋〕黼黻文繡纂組害二女工一。〔法言、吾子〕或曰二霧縠之組麗一、曰二女工之蠹一矣。〔後漢書、鄧皇后紀〕汝不下習二女工一以供中衣服上。〔晉書、武元楊皇后傳〕姿質美麗、閑二於女工一。〔詩品〕陳思於二文章一、譬下音樂之有二琴笙一、女工之有中黼黻上。❷女の職人。工作に從ふ女子。裁縫する女工。〔周禮、天官、序官、縫人〕奄二人、女御八人、女工八十人、奚三十人。〔注〕女工、女奴曉二裁縫一者。〔疏〕有二女工者一、謂二女奴巧者一、鄭云、曉二裁縫一者也。〔韓詩外傳、五〕繭之性爲レ絲、弗レ得下女工燔以二沸湯一、抽中其統理上、不レ成レ爲レ絲。〔國語、晉語七〕鄭伯嘉、來納二女工・妾三十人一。

〔注〕或云、女工、有㆓伎巧㆒者也。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕吾欲㆘采㆑葛、使㆗女工織㆓細布㆒獻㆖之。〔吳志、華覈傳〕女工停㆓機杼之業㆒。〔拾遺記、周〕〔成王〕五年有㆓因祇之國㆒、去㆓王都㆒九萬里、獻㆓女工一人㆒。〔吳質、在㆓元城㆒與㆓魏太子㆒牋〕女工吟㆓詠於機杼㆒。

【女工場】110（ヂヨコウヂヤウ・ジヨコウバ）　女子の働く工場。女紅場。

【女公】111（ヂヨコウ）　夫の姉をいふ。女妐。〔爾雅、釋親〕夫之姊爲㆓女公㆒。

〖女公子〗112（ヂヨコウシ）　❶諸侯の女をいふ。〔左氏、莊、三十二〕雩講㆓于梁氏㆒、女公子觀㆑之。〔注〕女公子、子般妹。❷nü^{3} kung^{1} tzŭ　他人のむすめの尊稱。お孃さん。

〖女公主〗113（ヂヨコウシユ）　皇女。〔史記、匈奴傳〕高帝乃使㆘劉敬奉㆓宗室女公主㆒爲㆗單于閼氏㆖。

【女功】114（ヂヨコウ）　をんなの手わざ。女子の職業。女仕事。女事。女工。女紅。紡織等の事をいふ。〔周禮、天官、典婦功〕授㆓嬪婦及內人、女功之事齎㆒。〔注〕鄭司農云、云云、女功事齎、謂㆓女功絲枲之事㆒。〔禮、郊特牲〕黼黻文繡之美、疏布之尙、反㆓女功之始㆒也。〔公羊、宣、十五、什一行而頌聲作矣、注〕男女同㆑巷、相從夜績、至㆓夜中㆒、故女功一月得㆓四十五日作㆒。〔管子、山國軌〕宮中四榮㆓樹其餘㆒、曰㆑害㆓女功㆒。〔史記、貨殖傳〕太公勸㆓其女功㆒、極㆓技功㆒。〔易林、否之㆓中孚㆒〕女功不㆑成、冬寒無㆑衣。

【女后】115（ヂヨコウ）　皇后。きさき。〔宋史、后妃上、楊淑妃傳〕豈宜㆑使㆓女后相繼稱㆑制乎。

【女紅】116（ヂヨコウ）　をんなの手わざ。女工の❶に同じ。〔漢書、哀帝紀〕諸官織㆓綺繡㆒、難㆑成、害㆓女紅之物㆒。〔注〕紅、亦工也。〔鹽鐵論、本議〕農人納㆓其獲㆒、女紅效㆓其功㆒。

〖女紅紗〗117（ヂヨコウシヤ）　戲曲の篇名。淸、來集之作。文運・臭銅・白丁三人の受驗者を假設して、試驗の弊を諷刺したもの。

〖女紅場〗118　nü^{3} hung^{1} ch'ang^{3}　女工場（110）に同じ。

〖女紅害則寒之原也〗119（ヂヨコウソコナハルルハスナハチサムサノモトナリ）　衣服をつくる女の手わざが害せられることは、寒いめをする原因となる。〔漢書、景帝紀〕詔曰、雕文刻鏤、傷㆓農事㆒者也、錦繡纂組、害㆓女紅㆒者也、農事傷則飢之本也、女紅害則寒之原也。

【女哭】120（ヂヨコク）　女が聲をあげてなく。〔劉基、悲㆓杭城㆒詩〕健兒披㆑髮走如㆑風、女哭男啼撼㆓城郭㆒。

【女國】121（ヂヨコク）　國名。❶女だけが住んで居る國。東方の海中に在ると傳へられた。〔後漢書、東夷、東沃沮傳〕又說、海中有㆓女國㆒、無㆑男、人或傳、其國有㆓神井㆒、闚㆑之輒生㆑子。〔南史、扶桑國傳〕東千餘里有㆓女國㆒、容貌端正、云云、髮長委㆑地、至㆓二三月㆒、競入㆑水則妊娠、六七月產㆑子、百日能行、三四年則成人矣。❷南北朝時代に、葱嶺の南に在つた。〔北史、西域傳〕女國、在㆓葱嶺南㆒、其國、世以㆑女爲㆑王、云云、復有㆓小女王㆒、共知㆓國政㆒。

【女倱】122（ヂヨコン）　新婦をいふ。〔通俗編、婦女、女倱〕毛甡越語肯綮錄、俗呼㆓新婦㆒爲㆓女倱㆒、其汎相呼則曰㆑倱、稍年長者曰㆓老倱㆒。

【女粇】123（ヂヨコ）　酒の名。〔初學記、器物部、酒〕酒經曰、云云、烏梅・女粇、甜醹九投、澄㆓淸百品㆒、酒之終也。

【女妻】124（ヂヨサイ）　年少の妻をいふ。〔易、大過〕枯楊生㆑稊、老夫得㆓其女妻㆒。〔疏〕衰者更盛、猶若㆘枯槁之楊、更生㆓少壯之稊㆒、枯老之夫、得㆓其少女㆒爲㆖妻也。

【女桑】125（ヂヨサウ）　めぐは。樹が小さく、枝の長い柔弱な桑。〔爾雅、釋木〕女桑、桋桑。〔注〕今俗呼㆓桑樹小而條長者㆒、爲㆓女桑樹㆒。〔詩、豳風、七月〕猗㆓彼女桑㆒。〔傳〕女桑、荑桑也。〔箋〕女桑、少枝長條、不㆓枝落㆒者。〔枚乘、七發〕女桑河柳。

【女草】126（ヂヨサウ）　草の名。ゐみぐさ。あまどころ。葳蕤草。萎蕤（**9－31269**‥12）の異稱。〔述異記、下〕葳蕤草、一名麗草、又呼爲㆓女草㆒、江浙中呼㆓娃草㆒。〔宋之問、早發㆓韶州㆒詩〕觸㆑影含沙怒、逢㆑人女草搖。

【女裝】127（ヂヨサウ）　男が女の裝ひをすること。女のよそほひ。〔瀛涯勝覽〕皆女裝也。

【女士】128（ヂヨシ）　❶女で立派な行ひある者。教育を受けた女子。〔詩、大雅、既醉〕其僕維何、釐㆓爾女士㆒。〔集傳〕女士、女之有㆓士行㆒者。❷女の姓の下に附ける敬語。女子の通稱。

【女子】129（ヂヨシ）　❶をんな。をなご。むすめ。〔左氏、成、二〕辟㆓女子㆒。〔管子、侈靡〕中寢諸子、告㆓宮中女子㆒。〔墨子、節用上〕女子年十五、毋㆓敢不㆑事㆑人。❷國名。女子國を見よ。

〖女子國〗130（ヂヨシコク）　國名。今の四川省の西邊、西番の境、胡白虎寨の閒といふ。女國。〔山海經、海外西經〕女子國、在㆓巫咸北㆒。

〖女子子〗131（ヂヨシシ）　女子の❶に同じ。古は男女を通じて子と稱し、男を丈夫子、女を女子子といふ。〔禮、曲禮上〕姑姊妹女子子、已嫁而反。〔疏〕不㆔直云㆓女子㆒而云㆓女子子㆒者、凡男子女子、皆是父生、同爲㆓父之子㆒、男子則單稱㆑子、女子則重㆓言子㆒者、案、鄭注㆓喪服㆒云、重㆓言女子子㆒、是別㆓於男子㆒、故云㆓女子子㆒。〔孫希旦、集解〕但曰㆓女子㆒、則無㆔以著㆓其爲㆑子、但曰㆑子則無㆔以別㆓其爲㆑女、故兼而稱㆑之。〔日知錄、經義、女子子〕女子子、謂㆓己所㆑生之子㆒、若㆔兄弟之子言㆓女子㆒者、別㆓於男子㆒也。

〖女子民〗132（ヂヨシミン）　女の民。〔淮南子、墬形訓〕女子民・丈夫民。

〖女子善懷〗133（ヂヨシヨクオモフ）　女子は善く物思ひをする。〔詩、鄘風、載馳〕陟㆓彼阿丘㆒、言采㆓其蝱㆒、女子善懷、亦各有㆑行、許人尤㆑之、衆穉且狂。

〖女子遠丈夫〗134（ヂヨシヂヤウフヲトホザク）　女子は、常に男子に遠ざかるべきをいふ。〔左氏、定、五〕王將㆑嫁㆓季芈㆒、季芈辭曰、所㆔以爲㆓女子㆒、遠㆓丈夫㆒也、鍾建負㆑我矣、以妻㆓鍾建㆒、以爲㆓樂尹㆒。

〖女子化爲丈夫〗135（ヂヨシクワシテヂヤウフトナル）　女が變化して男となる。〔漢書、五行志下之上〕魏有㆔女子化爲㆓丈夫㆒。

〖女子與小人難養〗136（ヂヨシトセウジントハヤシナヒガタシ）　婦人や僕隸の類は、多くは道理を解しないから、甚だ御し難い。〔論語、陽貨〕子曰、唯女子與㆓小人㆒爲㆑難㆑養也、近㆑之則不孫、遠㆑之則怨。

〖女子有行遠父母兄弟〗137（ヂヨシカウアリフボケイテイニトホザカル）　女子は他家へ嫁すべきものであり、從つて實家の父兄には遠ざかるべき運命にある。行は出嫁の道をいふ。〔詩、邶風、泉水〕出宿㆓于泲㆒、飮㆓餞于禰㆒、女子有㆑行、遠㆓父母兄弟㆒、問㆓我諸姑㆒、遂及㆓伯姊㆒。〔箋〕行、道也、婦人有㆓出嫁之道㆒。〔詩、鄘風、蝃蝀〕蝃蝀在㆑東、莫㆓之敢指㆒、女子有㆑行、遠㆓父母兄弟㆒。〔詩、衞風、竹竿〕泉源在㆑左、淇水在㆑右、女子有㆑行、遠㆓父母兄弟㆒。

【女史】138（ヂヨシ）　❶周官の名。㋑天官の屬。王后の禮事を掌る。女奴で、文字に通曉する者を以て之に充てる。一說に、良家の婦女で文字に通曉する者を以て之に充てる。〔周禮、天官、序官、女史〕女史掌㆓王后之禮職㆒、掌㆓內治之貳㆒、以詔㆑后治㆓內政㆒。〔周禮、天官、序官、女史、注〕女史、女奴曉㆑書者。〔孫詒讓、正義〕女史者、說文史部云、史、記㆑事者也、惠士奇云、女史視㆓大史小史㆒、詒讓案、亦兼視㆓內史外史㆒、詳㆓本職疏㆒、注云㆓女史、女奴曉㆑書者㆒者、謂㆘通㆓曉文字㆒者㆖、亦與㆓女酒㆒同、案、女史疑當㆘以㆓良家婦女知㆑書者㆒爲㆖之。㋺春官、世婦の屬。宮中に仕へる女奴で、才知ある者。〔周禮、春官、序官、世婦〕每宮卿二人、下大夫四人、中士八人、女府二人、女史二人、奚十有六人。〔注〕女府・女史、女奴有㆓才知㆒者。❷後宮の記錄を掌る女官。後宮の女書記。〔漢書、外戚、孝成班倢伃傳〕顧㆓女史㆒而問㆑詩。〔孔叢子、答問〕內朝則有㆓女史㆒。〔後漢書、皇后紀序〕女史彤管、記㆑功書㆑過。〔續列女傳、班婕妤傳〕顧㆓女史㆒而問㆑詩。〔張華、女史箴、注〕良曰、女史、女人之官、執㆓彤管㆒書㆓后妃之事㆒。〔潘岳、寡婦賦〕憲㆓女史之典戒㆒。❸星の名。〔晉書、天文志上〕柱史北一星曰㆓女史㆒、婦人之微者、主㆑傳㆑漏、故漢有㆓侍史㆒。❹女の學者・藝術家等の稱。

〖女史花〗139（ヂヨシクワ）　水仙花の異名。〔內觀日疏〕姚姥住㆓長離橋㆒、十一月夜半大寒、夢觀㆘星墜㆓於地㆒化爲㆗水仙花㆖、一叢甚香美、摘食㆑之、覺而產㆓一女㆒、長而令淑、有㆑文、因以名焉、觀㆑星、卽女史在㆓天柱下㆒、故迄㆑今水仙名㆓女史花㆒、又名㆓姚女花㆒。

〖女史箴〗140（ヂヨシシン）　文章の篇名。❶晉、張華撰。皇后の一族の盛なるを懼れて、女史箴を作り、女史の職を戒めて后族を諷したもの。〔晉書、張華傳〕張華懼㆓后族之盛㆒、作㆓女史箴㆒。❷裴頠・皇甫規にも同名の文がある。〔玉海、藝文、箴、晉女史箴〕裴頠亦有㆓女史箴㆒、皇甫規有㆓女史箴㆒。

【女市】141（ヂヨシ）　遊女屋。妓院（**3－6083**‥2）に同じ。〔北史、龜茲國傳〕龜茲國、俗性多淫、置㆓女市㆒、收㆓男子錢㆒以入㆑官。

【女志】142（ヂヨシ）　鮌の妃。女嬉（46）に同じ。〔漢書、古

今人表〕女志。〔注〕鮌妃、有嫯氏女、生レ禹。〔大戴禮、帝繫〕鯀娶二于有莘氏一、有莘氏之子、謂二之女志氏一、產二文命一。

【女使】143 チョシ ❶女子の使者。をんなのつかひ。〔禁祕抄、中、御使〕依レ人依レ事有二差別一云云、中品事殿上將佐也、又女使有レ之時、皆式定事也。❷ヲンナヅカヒ 昔、二月と十一月との上の申の日に、大和國春日神社へ勅使として差遣された內侍。又、賀茂祭にも遣された。〔尺素往來〕今日賀茂祭、云云、近衞使之飾車、女使之絲毛車。❸nü² shih³ 賤民の婦女で儀禮の時に使役せられるもの。

【女娡】144 チョシ 鮌(骸)の妃。女嬉(46)に同じ。〔廣韻〕娡、有莘氏之女、骸娶レ之、謂二之女娡一。

【女師】145 チョシ 女の師保をいふ。〔詩、周南、葛覃〕言告二師氏一。〔傳〕師、女師也、古者、女師教以二婦德・婦言・婦容・婦功一。〔墨子、尙賢下〕昔伊尹爲二莘氏女師僕一。〔宋玉、神女賦〕顧二女師一命二太傅一。〔注〕善曰、古者、皆有二女師一教以二婦德一、今神女亦有レ教也、毛詩序曰、尊二敬師傅一、可三以歸二寧父母一、漢書音義曰、婦人年五十無レ子者爲レ傳。

【女廝】146 チョシ めしつかひの女。〔方言、三〕燕齊之間、養レ馬者謂二之娠一、官婢女廝謂二之娠一。〔注〕女廝者、婦人給使者、亦名二之娠一。

【女贄】147 チョシ 女子が人に面謁する時に執る禮物。男贄に對す。〔左氏、莊、二十四〕御孫曰、男贄、大者玉帛、小者禽鳥、以章レ物也、女贄不レ過二榛栗棗脩一、以告レ虔也。

【女事】148 チョジ 女子の爲すべき仕事。女功。〔周禮、地官、閭師〕任レ嬪以二女事一。〔禮、內則〕執二麻枲一、治二絲繭一、織レ紝組レ紃、學二女事一、以共二衣服一。〔管子、立政〕女事繁二於文章一。〔商子、畫策〕女事盡二於內一。

【女侍】149 チョジ こしもと。侍女。〔唐書、禮樂志五〕其應二采桑一者四人、各有二女侍者一、進二筐鉤一、載レ之而行。〔國史略、堀河天皇〕上更密命下其所二親昵一女侍上、迎令レ吹レ之、而上乃匿聽焉。

【女侍中】150 チョジチュウ 女の侍中。後宮の嬪御の事を司る。〔北史、胡國珍傳〕胡國珍女、卽靈太后妹、爲二元叉妻一、爲二女侍中一。〔稱謂錄、列宮古稱、女侍中〕金石錄、趙彥深母傅太妃碑額、題二齊故女侍中宜陽國貞穆太妃傅氏碑一、案二北史一、後魏女侍中視二二品一、本後宮嬪御之職、今以二宰相母一爲レ之。

【女兒】151 チョジ ❶をんなのこ。小娘。〔史記、武安侯傳〕效二女兒一呫囁耳語。〔漢書、張耳陳餘傳〕今女兒乃不下爲二將軍一下車上。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕昔作二女兒一時、生小出二野里一。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕洛陽女兒惜二顏色一、行逢二落花一長歎息。❷蠶の俗稱。〔事物異名錄、昆蟲、蠶〕蠶書、菀窳、婦人先蠶者也、蜀有二蠶女馬頭娘一、故世俗謂レ蠶爲二女兒一。❸川の名。源は滿洲熱河省朝陽縣の邊境、土默特の界。烏馨河・鄂欽河ともいふ。東流して遼寧省錦西縣の界に入り、女兒河となる。又、東流して呂蒙山を遶り、錦州縣の南に至つて小淩河を合し、河の旁に女兒河鎭がある。❹港の名。江西省九江縣の東南。源は廬山。東北流して彭蠡湖に入る。女兒浦ともいひ、旁に女兒港市がある。〔讀史方輿紀要、江西、九江府、德化縣〕女兒港、府東南三十五里、源出二廬山一、東北流二十五里、入二彭蠡湖一、水漲可レ容二百餘艘一、因三大孤在二其側一、俗譌レ孤爲レ姑、故有二女兒之稱一、亦曰二女兒浦一。

【女兒腰】152 チョジエウ 柳の枝にたとへる。女兒の腰のやうになよなよしてゐるからいふ。〔杜甫、絕句漫興詩〕隔レ戶楊柳弱嫋嫋、恰似二十五女兒腰一。

【女兒香】153 チョジカウ 香の名。廣東省東莞縣に產する。〔粵遊小志〕其香木、如二樹蘭一而叢密、葉似二黃楊一、淩レ寒不レ落。〔廣東新語〕莞人多種レ香、世享二其利一、凡種レ香家、其婦女輒於二香之稜角一、潛割二少許一藏レ之、名二女兒香一。

【女兒葛】154 チョジカツ 織物の名。廣東の增城から產する。市に賣らず、未婚の少女が織り、嫁して其の夫に衣せるものといふ。〔廣東新語〕。

【女兒經】155 チョジケイ 書名。撰者未詳。婦女への庭訓。三言五言の韻文より成る。

【女兒紅】156 チョジコウ 赤くて小さい蘿葡。〔孫樗、餘墨偶談〕揚州土人、謂二蘿葡紅而小者一、爲二女兒紅一、自二初冬一賣至二晚春一、其色嬌豔可レ愛。

【女兒子】157 チョジシ 樂府、淸商曲辭、西曲歌の一。作者不明。〔樂府詩集、淸商曲辭、西曲歌、女兒子〕古今樂錄曰、女兒子、倚歌也、巴東三峽猿鳴悲、夜鳴三聲淚沾レ衣。

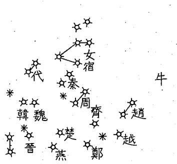
【女兒酒】158 チョジシュ 紹興酒の一種。女子の出產の時に釀して貯へ置き、其の女が嫁する時に始めて開いて用ひる酒。女酒(179)の❷を見よ。〔兩般秋雨盦隨筆〕紹興之女兒酒者、鄕人於二女子初生之年一、便釀二此酒一、迨二出嫁時一、始開用レ之、此各家祕藏、並不レ售レ人、其花罎大酒、悉是贗本。

【女兒節】159 チョジセツ 未婚の少女を着飾らせ、榴花を簪にさせて行ふ祝日。五月一日から五日まで行ふ。〔帝京景物略〕五月一日至二五日一、家家姸二飾小閨女一、簪以二榴花一、曰二女兒節一。

【女兒茶】160 チョジチャ 青桐の芽を摘んで點じた茶。泰山にはよい茶がないので、山中の人が之を用ひる。〔李日華、紫桃軒雜綴〕泰山無二佳茗一、山中人摘二青桐芽一點飲、號二女兒茶一。

【女囚】161 チョシウ 女の罪人。

【女宿】162 チョシュク チョシウ 星宿の名。二十八宿の一。玄武七宿の第三宿。水瓶座の西方 ouv 附近に當る。うるきぼし。〔禮、月令〕孟夏之月、旦、婺女中。〔丹元子、步天歌〕女、四星如レ箕、主二嫁娶一、十二諸國在レ下陳、先從二越國一向レ東論、東西兩周次二二秦一、雍州南下雙鴈門、代國向レ西一晉申、韓魏各一晉北輪、楚之一國魏西屯、楚城南畔獨燕軍、燕西一郡是齊鄰、齊北兩邑平原君、欲レ知鄭在二越下存、十六黃星細區分、五箇離珠女星上、敗瓜之上匏瓜生、兩箇各五匏瓜明、天津九箇彈弓形、兩星入レ牛河中橫、四箇奚仲天津上、七箇仲側扶二筐星一。〔羅隱、暇日投二錢尙父一詩〕牛斗星邊女宿間、棟梁虛敞麗江關。



女宿（新法暦書）

【女室】163 チョシツ 女の部屋。轉じて、婦人をいふ。〔左氏、昭、元〕是謂下近二女室一疾如上レ蠱。〔會箋〕女室、乃女也。

【女膝】164 チョシツ かかとの灸點をいふ。女須穴。〔癸辛雜說〕俗云、丈母腹痛、灸二女壻腳後跟一、乃舛而至レ此、又云二女須穴一。

【女車】165 ヲンナグルマ 女の乘る車。〔枕草子、十二〕道に逢ひたりける女車。

【女匠】166 チョシャウ 鳥の名。みそさざい。女鷗。〔詩、周頌、小毖〕肇允彼桃蟲。〔疏〕郭璞云、桃蟲、巧婦也、方言、自レ關而東、謂二之桑飛一、或謂二之女匠一。〔陸疏廣要〕鴟鴞、幽州人謂二之鸋鴂一、或曰二巧婦一、或曰二女匠一。

【女牀】167 チョシャウ ❶星宿の名。紀星の北の後宮に在つて女の事を掌る三星。〔晉書、天文志上〕女牀三星、在二紀星北一、後宮御也、主二女事一。〔張淵、觀象賦〕女牀別二窈窕之色一。❷山名。陝西省華陰縣の西。〔張衡、東京賦〕鳴二女牀之鸞鳥一。〔注〕綜曰、女牀、山名、在二華陰西六百里一。〔山海經、西山經〕女牀之山、其陽多二赤銅一、其陰多二石涅一。

【女牀山民】168 チョシャウサンミン 淸、蔣仁(9－31820・・65)の號。

【女倡】169 チョシャウ 女優(9)に同じ。〔後漢書、盧植傳〕小與二鄭玄一俱事二馬融一、融外戚豪家、多列二女倡一、歌二舞於前一、植侍講積年、未二嘗轉眄一。〔魏志、楊阜傳〕令三女倡著二羅縠之衣一。

【女將】170 チョシャウ ❶婦人の將軍。女將軍。〔宋史、李全傳上〕旁有二繡旗一、女將馳レ槍突鬭。❷ニョシャウ 客商賣の家の主婦。おかみ。

【女將軍】171 チョシャウグン をんなの將軍。又、干涉して威力を振ふ婦人。

【女漿】172 チョシャウ 周禮、天官、漿人の屬。宮中に仕へる女奴で、飲料の事に通じた者。〔周禮、天官、序官、漿人〕奄五人、女漿十有五人、奚百有五十人。〔注〕女漿、女奴曉レ漿者。

【女牆】173 チョシャウ 城の上に建てた垣。ひめ垣。女垣。〔釋名、釋宮室〕城上垣曰二睥睨一、亦曰レ陴、亦曰二女牆一、言下其卑小、比二之於城一、若丙女子之於乙丈夫甲也。〔杜甫、上二白帝城一詩〕城峻隨二天壁一、樓高望二女牆一。〔韋莊、天井關詩〕太行山上雲深處、誰向二雲中一築二女牆一。

【女鷗】174 チョシャウ 梟の別名。女匠(166)に同じ。〔方言、八〕桑飛、自レ關而東、或謂二之女鷗一。〔廣雅、釋鳥〕女鷗、工雀也。

【女情】175 チョジャウ ニョジャウ 女子の愛情。〔智度論、十四〕女

情惑レ人。

【女爵】176 ヂョシャク　肩背の神の字アザナ。〔雲笈七籤〕肩背神、字女爵。

【女手】177 ヂョシュ　❶女の手。をんなで。〔詩、魏風、葛屨〕摻摻女手、可二以縫一レ裳。❷ヲンナデ ㋑女の筆跡。㋺ひらがな。女文字。〔宇津保物語、國讓上〕男手も女でもならひ給ふめれ。

【女主】178 ヂョシュ　❶皇后をいふ。女君。〔荀子、彊國〕女主亂二之宮一。〔漢書、翟方進傳〕陰精女主。〔後漢書、皇后紀序〕東京皇統屢絶、權歸二女主一。❷一家の主人たる女。をんなあるじ。〔禮、喪大記〕其無二女主一、則男主拜二女賓于寢門內一、其無二男主一、則女主拜二男賓于阼階下一。❸女子の君主。女帝。❹星の名。一名、女王。軒轅の第十四星。軒轅(**10－38187‥7**)の❸を見よ。〔史記、天官書〕南宮朱鳥權衡、軒轅黄龍體、前大星女主象、旁小星御者後宮屬。

【女酒】179 ヂョシュ　❶周禮、天官、酒人の屬。宮中に仕へる女奴で、酒の事に通曉する者。〔周禮、天官、序官、酒人〕奄十人、女酒三十人、奚三百人。〔注〕女酒、女奴曉レ酒者。❷紹興酒の一種。女子が人に嫁せんとするとき賀客に供する酒。女貞酒(247)・女兒酒(158)に同じ。〔南方草木狀〕女酒、草麴、南海多矣、酒不レ用二麴蘖一、但杵米粉雜、以二衆草葉一治二葛汁一、滌二溲之一、大如レ卵、置二蓬蒿中一、蔭二蔽之一、經レ月而成、用レ此合レ糯爲レ酒、故劇二飲之一、既醒猶頭熱涔涔、以三其有二毒草一故也、南人有二女數歲一、卽大釀レ酒、卽漉、候二冬陂池竭時一、寘二酒罌中一、密二固其上一、瘞二陂中一、至二春瀦水滿一、亦不二復發一矣、女將レ嫁、乃發レ陂取レ酒、以供二賀客一、謂二之女酒一、其味絶美。

【女嬃】180 ヂョシュ ヂョス　屈原の姉の名。〔楚辭、離騷〕女嬃之嬋媛兮、申申其詈レ予。〔注〕女嬃、屈原姉也。〔說文、楚人謂レ姉爲レ嬃、段注〕王逸・袁山松・酈道元、皆言二女嬃屈原之姉一、惟鄭注二周易一、屈原之妹名二女須一。〔桂注〕集韻、洪興祖楚辭補注、並引作二楚人謂レ女爲レ嬃。

【女嬬】181 ニヨジュ ニヨウジュ　昔、內侍司等の諸司に分屬して掃除・點燈を掌った女官の稱。〔日本書紀、舒明紀〕女嬬鮪女等八人幷數十人、侍二天皇之側一。

【女孺】182 ヂョジュ　こしもと。をんなわらは。召使の少女。

【女衆】183 ヂョシュウ　❶團體を成してゐる女達。〔法苑珠林〕女向二女衆一。❷ヲンナシュウ をんなたち。女達。

【女戎】184 ヂョジュウ　女に原因する禍。女禍。〔國語、晉語一〕史蘇告二大夫一曰、夫有二男戎一、必有二女戎一。〔注〕戎、兵也、女兵、言二其禍猶レ兵也。

【女叔】185 ヂョシュク　❶妻から夫の妹を指していふ。小姑。〔禮、昏義、和二於室人一、注〕室人、謂二女妐・女叔・諸婦一也。〔疏〕女妐、謂二壻之姉一、女叔、謂二壻之妹一也。〔稱謂錄、夫之妹、女叔〕表異錄、小姑曰二女妐一、亦曰二女叔一。❷叔母をいふ。〔稱謂錄、父之姉妹、女叔〕見二六典一。❸複姓。

〖女叔寬〗186 ヂョシュククヮン　春秋、晉の人。魏舒の家臣。一名、女寬。魏舒が賂を受けんとするを諷諫す。〔左氏、昭、二十八〕。

〖女叔齊〗187 ヂョシュクセイ　春秋、晉の大夫。一名、女齊。又、司馬侯と名づく。魯の昭公が晉に往った時、女叔齊は昭公を評して、昭公は儀は知ってゐるが禮の大本を知らないといった。〔左氏、昭、五〕。

【女祝】188 ヂョシュク　周官の名。天官の屬。後宮にあつて、祭祀祈禱して、病氣或は禍災をはらひ除くことを掌る。〔周禮、天官、女祝〕女祝、掌二王后之內祭祀、凡內禱祠之事一、掌下以レ時招二梗禬禳之事一、以除中疾殃上。

【女荀】189 ヂョジュン　後漢、陰瑜妻(**11－41691**‥364)の字。

【女順】190 ヂョジュン　女の從順なこと。〔禮、昏義〕天子脩二男敎一、父道也、后脩二女順一、母道也。

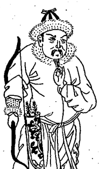
【女妐】191 ヂョショウ　夫の姉をいふ。〔禮、昏義、和二於室人一、注〕室人、謂二女妐・女叔・諸婦一也。〔疏〕女妐、謂二壻之姉一。

【女色】192 ヂョショク　❶女のいろか。女の容貌。〔書、五子之歌〕內作二色荒一、〔傳〕色、女色。〔荀子、樂論〕目不レ視二女色一。〔史記、鄭世家〕飲食哀樂女色所レ生也。❷女との關係。女との情事。いろごと。〔晉書、五行志下〕自二咸寧太康之後一、男寵大興、甚二於女色一。

【女職】193 ヂョショク　❶女の職務。〔曹植、敍愁賦文〕迄二盛年而始立一、修二女職於衣裳一。❷婦人の官司。〔北史、后妃傳序〕孝文改二定內官一、云云、置二女職一以典二內事一。

【女心】194 ヂョシン　女のこころ。をんなごころ。〔詩、小雅、杕杜〕女心傷止、征夫遑止。〔箋〕婦人思二望其君子一。

【女眞】195 ヂョシン　種族の名。古の肅愼氏。後漢の時、挹婁といひ、元魏の時、勿吉といひ、隋唐の際、靺鞨といふ。隋の開皇の時、其の族が六部に分れたが、其の一の黑水部が女眞である。唐の貞觀中に靺鞨が來朝し、太宗が其の風俗を問うた時、女眞の事に言及したことがあり、此の時に初めて中國に其の名を知られた。尋いで、開元中に酋長が來朝したのを勃利州刺史に拜し、黑水部を置き、部長を都督とし、長史を置いて監督させた。五代の時、契丹主宗眞の諱を避けて女直とし、俗に女質ともいふ。尋いで其の遼に服屬したるを熟女眞といひ、松花江及び其の以北に在るものを生女眞といふ。北宋の末、生女眞部長の完顏阿骨打が自立して大金皇帝と爲り、一傳して遼及び北宋を滅し、遂に中原を奄有し、女眞族の最盛時代を生じたが、尋いで元に滅された。明末に及んで、滿洲に根據を保って清朝を興した。〔文獻通考、四裔考、女眞〕女眞、蓋古肅愼氏、云云、後漢謂二之挹婁一、元魏謂二之勿吉一、隋唐謂二之靺鞨一、姓拏氏、於二夷狄中一最微且賤、隋開皇時、嘗入貢、其族分二六部一、有二黑水部一、卽今女眞、云云、唐貞觀中、靺鞨來朝、太宗問二其風俗一、因言二及女眞之事一、自レ是、中國始聞二其名一、契丹目レ之曰二慮眞一、云云、唐開元中、其酋來朝、拜爲二勃利州刺史一、遂置二黑水部一、以二部長一爲二都督一、朝廷爲置二長史一監レ之、訖レ唐、世貢不レ絶、五代時、始稱二女眞一、後避二契丹主宗眞諱一、更爲二女直一、俗訛爲二女質一、阿保機吞二北方三十六蕃一、此其一也、阿保機慮二其爲一レ患、誘遷二豪右數千家於遼陽南一、而著籍焉、使レ不レ得下與二本國一相通上、謂二之合蘇館一、合蘇館者、女眞也、又曰二黄頭女眞一、其人戇朴勇鷙、不レ能レ別二死生一、自二咸州一東北分レ界、入二宮口一、至二東沫江一、中間所レ居者、以隷二咸州兵馬司一、與二其國一往來無レ禁、謂二之回霸一、回霸者、非二熟女眞一、亦非二生女眞一也。



女眞國
（三才圖會）

〖女眞子〗196 nü³ chen¹ tzŭ　強壯藥の一種。

〖女眞文字〗197 ヂョシンモンジ　金の太祖が天輔三年八月に完顏希尹に命じ、契丹文字に倣って作らせた文字。女直字。尋いで太宗の時、女眞字書を頒行し、世祖の時には女眞大小字を以て尙書を譯して諸路に頒行した。近年、明の四夷館に女眞漢字對照の語彙が存してゐたのを、獨逸人グルーベー氏が讀解した。女眞文字の研究資料としては、大金皇帝都統經略郞君行道碑(陝西省乾縣)・女眞進士題名碑(河南省開封縣城內)・大金得勝陀碑(吉林省拉林河下流)・摩崖女眞字刻文(吉林省海龍縣)・永寧寺碑(浦鹽斯德國立極東大學藏)・舊朝鮮咸鏡北道慶源所在女眞字碑(元京城總督府博物館藏)・朝鮮咸鏡南道北青所在女眞寺碑・京城李王家博物館藏女眞字鏡々背等の銘刻と、金史・華夷譯語等の典籍とがある。女直字(241)を見よ。

【女神】198 ヂョシン　女の神。めがみ。

【女水】199 ヂョスイ　川の名。山東省臨淄縣の東南。〔水經、淄水注〕女水、出二東安平縣之蛇頭山一、云云、或云、齊桓公女冢在二其上一、故以名レ水也。

【女生】200 ヂョセイ　女の生徒。女學生。女生徒の略。

〖女生徒〗201 ヂョセイト　女の生徒。女學生。

〖女生外嚮〗202 ヂョセイグヮイキヤウ　女が生れる時は、外にむいて生れ出る。女は他家へ嫁して夫に從ふからである。〔白虎通、封公侯〕男生內嚮、有二留レ家之義一、女生外嚮、有二從レ夫之義一。

【女性】203 ヂョセイ　❶女の性質。女の性情。❷文法用語。名詞・代名詞の有する性が女に屬するもの。男性(**7－21730**‥50)・中性(**1－73**‥517)の❶❷の對。❸ニヨシヤウ 女子。婦人。女人。〔源平盛衰記、二十、石橋合戰事〕女性は何事かあるべき。

〖女性觀〗204 ヂョセイクヮン　女性に對する觀察、及び觀念をいふ。

〖女性美〗205 ヂョセイビ　女性の靜淑で典雅・柔和な性

質上の美と肉體美とをいふ。

【女政】206 nü^3 chêng^4 婦人政治。女權。

【女青】207 ヂヨセイ ❶草の名。へくそかづらの異名。〔本草、女青〕釋名、雀瓢、集解、別錄曰、女青、蛇銜根也、生㆓朱厓㆒、八月採陰乾。❷樹の名、ねずみもち。南越筆記に見ゆ。女貞(245)の❷を見よ。

〖女青鬼律〗208 ヂヨセイキリツ 書名。十卷。道家の符籙。〔通志、藝文略〕道家符籙、有㆓女青鬼律十卷㆒。

【女星】209 ヂヨセイ 水仙(6-17083・・505)の異名。〔事物異名錄、花卉、水仙〕三餘帖、配元卽今水仙也、一名儷蘭、亦名㆓女星㆒。

【女倩】210 ヂヨセイ むこ。むすめの夫。女壻。〔方言、三〕東齊之閒、壻、謂㆓之倩㆒。〔史記、倉公傳、黃氏諸倩、注〕集解曰、徐廣曰、倩者、女壻也。

【女壻】211 ヂヨセイ むこ。むすめの夫。女婿。女倩。〔漢書、宣元六王、淮陽憲王欽傳〕博女婿京房、以㆑明㆓易陰陽㆒、得㆑幸㆓於上㆒、數召見言㆑事。〔漢書、王莽傳上〕引㆓光女壻甄邯㆒爲㆓侍中奉車都尉㆒。〔魏志、董卓傳〕卓女壻中郎將牛輔、典㆑兵別屯㆑陝。〔顏氏家訓、治家〕冬至後、女壻謁㆑之。〔杜甫、李監宅詩〕門闌多㆓喜氣㆒、女壻近乘㆑龍。

【女婿】212 ヂヨセイ 女壻に同じ。

【女齊】213 ヂヨセイ 春秋晉、女叔齊(187)の一名。

【女石】214 nü^3 shih^2 嫉妬。女石は合して妬の字となる。

【女節】215 ヂヨセツ ❶菊の異名。女華(68)の❷を見よ。❷上古の方雷氏の女。黃帝の妃で帝摯の母。〔宋書、符瑞志上〕帝摯少昊氏母曰㆓女節㆒、見㆓星如㆑虹下流㆓華渚㆒、既而夢接意感、生㆓少昊㆒。

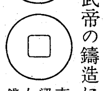
【女妾】216 ヂヨセフ 妾をいふ。〔詩、邶風、綠衣、女所㆑治兮、箋〕女、女妾。〔漢書、五行志下之上〕內爲㆓後宮女妾之害㆒。〔後漢書、楊震傳〕紱璽委㆓女妾㆒。

【女仙】217 ヂヨセン 女の仙人。〔稽神錄〕有㆓二木鶴㆒、二女仙乘㆑之。〔雲笈七籤〕侍女名六出、誓不㆑受㆑辱、投㆓嵩山女仙韓西華㆒、救而度㆑之。

〖女仙外史〗218 ヂヨセングワイシ 書名。清、呂熊撰。建文帝に忠節を盡した宮女の物語を記したもので、明の永樂十八年二月、唐賽兒といふ婦女が亂を起し、間もなく討平せられた事實にもとづいて、賽兒が一女子の身を以て殉難諸臣の子弟を糾合し、燕王に當つて之を蔑にするといふ顚末を述べてゐる。

【女媊】219 ヂヨセン 星の名。〔星經〕太白號㆓上公㆒、妻曰㆓女媊㆒、居㆓南斗㆒、食㆓厲鬼㆒、天下祭㆑之、曰㆓明星㆒。

【女錢】220 ヂヨセン 古の錢幣の名。梁武帝の鑄造に係り、五銖の文があり、錢肉を薄くし、肉郭を取り去つてある。又、背に好郭のあるものを公式女錢といふ。女布。〔隋書、食貨志〕梁武帝乃鑄㆑錢、肉好周郭、文曰㆓五銖㆒、重如㆓其文㆒、而又別鑄除㆓其肉郭㆒、謂㆓之女錢㆒、二品並行。〔金石索、泉刀之屬、南梁錢〕別鑄㆓五銖㆒、除㆓其肉郭㆒、背有㆓好郭㆒者、謂㆓之公式女錢㆒、背無㆓好郭㆒者、止謂㆓之女錢㆒。



南梁女錢（金石索）

【女宗】221 ヂヨソウ 春秋、宋の鮑蘇の妻。よく姑を養つたので、宋公が其の閭に表して女宗といふ。女としての儀表の意。〔列女傳、賢明傳〕女宗者、宋鮑蘇之妻也、養㆑姑甚謹、鮑蘇仕㆑衞三年、而娶㆓外妻㆒、女宗養㆑姑愈敬、因㆓往來者㆒、請㆓問其夫㆒、賂㆓遺外妻㆒甚厚、女宗姒謂曰、可㆓以去㆒矣、女宗曰、何故、姒曰、夫人既有㆑所㆑好、子何留乎、女宗曰、婦人一醮不㆑改、夫死不㆑嫁、執㆓麻枲㆒、治㆓絲繭㆒、織㆑紝組㆑紃、以供㆓衣服㆒、以事㆓夫室㆒云云、豈以㆑專㆓夫室之愛㆒爲㆑善哉、云云、宋公聞㆑之、表㆓其閭㆒、曰㆓女宗㆒。

【女僧】222 ヂヨソウ をんなの僧侶。あま。比丘尼。〔王叔承、宮詞〕女僧閒作㆓盂蘭會㆒、乞㆓假中元㆒施㆓寶簪㆒。

【女則】223 ヂヨソク 書名。唐、文德長孫皇后撰。古の婦人の善事を集め記す。〔唐書、后妃上、文德長孫皇后傳〕嘗采㆓古婦人事㆒、著㆓女則十篇㆒。

【女賊】224 ヂヨゾク ❶婦人の賊。〔魏志、周宣傳〕當㆑殺㆓女子而作㆑賊者㆒、頃之、女賊鄭姜遂俱夷討。❷［佛］ニヨゾク 女色の、善心を害すること。〔智度論、十四〕女賊害㆑人、是不㆑可㆑禁。

【女孫】225 ヂヨソン 子の娘。孫娘。〔儀禮、喪服、孫適㆑人者、注〕孫者子之子、女孫在㆑室亦大功也。〔史記、陳丞相世家〕戶牖富人有㆓張負㆒、張負女孫五嫁、而夫輒死、人莫㆓敢娶㆒、平欲㆑得㆑之。〔漢書、張安世傳〕其女孫敬、爲㆓霍氏外屬婦㆒、當㆓相坐㆒。

【女體】226 ニヨタイ 女相、卽ち女性の形態。男體の對。〔謠曲、竹生島〕辨財天は女體にて。

【女檔】227 nü^3 tang^4 藝妓。女藝人。

〖女檔子〗228 nü^3 tang^4 tzŭ 女落子(375)に同じ。

【女道】229 ヂヨダウ ❶女道士。〔宋史、徽宗紀四〕宣和元年詔、改㆓女冠㆒爲㆓女道㆒、尼爲㆓女德㆒。❷女のふみ行ふべき道。❸ニヨダウ 女ぐるひすること。女道樂。〔好色五人女〕衆道・女道を晝夜のわかちもなく、さまざま遊興つきて。

〖女道士〗230 ヂヨダウシ 道教の尼。女冠(79)の❶を見よ。〔李白、江上送㆔女道士褚三清遊㆓南嶽㆒詩〕吳江女道士、頭戴㆓蓮花巾㆒。〔楊太眞外傳、上〕使㆔高力士取㆓楊氏女於壽邸㆒、度爲㆓女道士㆒。〔雲笈七籤〕盧神姑不㆑願㆑在㆓京掖㆒、乃度爲㆓女道士㆒、放㆓歸南海㆒。〔全唐詩話〕魚元機、西京咸宣觀女道士也。

【女旦】231 nü^3 tan^4 女優。女役者。

【女智】232 ヂヨチ 女の智慧。〔孔子家語、曲禮子夏問〕女智無㆑若㆑婦。

【女丑】233 ヂヨチウ ❶神の名。〔山海經、海外西經〕女丑之尸、生而十日炙㆓殺之㆒、在㆓丈夫北㆒、以㆓右手㆒障㆓其面㆒、十日居㆑上、女丑居㆓山之上㆒。〔山海經、大荒西經〕有㆑人衣㆑青、以㆑袂蔽㆑面、名曰㆓女丑之尸㆒。❷nü^2 ch'ou^3 女形役者。彩旦。

【女腸】234 ヂヨチヤウ 藥草の名。女菀(18)に同じ。〔廣雅、釋草〕女腸、女菀也。

【女中】235 ヂヨチユウ ❶多くの女子の中。〔魏書、后妃傳〕此乃吾女中王也。❷㋑をんな。女子。〔西鶴織留、一〕一門の女中、花を飾り。㋺傭はれをんな。下女。婢。〔續猿蓑集、春〕七つより花見におきる女中哉。㋩宮仕へのをんな。〔花營三代記、應永二十八年六月七日〕自㆓女中㆒五重色色被㆑下㆑之。❸女子中學校。

〖女中詞〗236 ヂヨチユウコトバ 御殿ことば。女房ことば。

〖女中郎〗237 ヂヨチユウラウ 男子程の才氣ある女。をとこまさり。郎は男子の稱。〔白居易、李勢女詩〕色爲㆓天下艷㆒、心卽女中郎。

〖女中堯舜〗238 ヂヨチユウノゲウシユン 賢明な后妃。宋の高后をいふ。〔宋史、英宗宣仁聖烈高皇后傳〕哲宗嗣㆑位、尊爲㆓太皇太后㆒、臨㆑政九年、朝廷清明、華夏綏定、力行㆓故事㆒、抑㆓絕外家私恩㆒、人以爲㆓女中堯舜㆒。

【女寵】239 ヂヨチヨウ 女に對する寵愛。〔漢書、杜欽傳〕唯陛下正㆓后妾㆒抑㆓女寵㆒。

【女直】240 ヂヨチヨク 女眞をいふ。遼の興宗の名が宗眞といふので、遼人が其の諱を避け、女眞を改めて女直といふ。女眞(195)を見よ。

〖女直字〗241 ヂヨチヨクジ 女眞文字(197)に同じ。〔書史會要〕太祖命㆓完顏希尹㆒撰㆓本國字㆒、希尹乃依㆓倣漢人楷字㆒、因㆓契丹字㆒、合㆓本國語㆒、製㆓女直字㆒、其後、熙宗亦製㆓女直字㆒、與㆓希尹所㆑製字㆒俱行、希尹所㆑撰、謂㆓之女直大字㆒、熙宗所㆑撰、謂㆓之女直小字㆒。

【女圖】242 ヂヨヅ 婦女を描いた繪卷物の類。〔班婕伃、自悼賦〕申㆓佩離㆒以自思、陳㆓女圖㆒以鏡鑑兮。

【女弟】243 ヂヨテイ 妹。女妹。〔說文〕妹、女弟也。〔爾雅、釋親〕夫之女弟爲㆓女妹㆒。〔史記、春申君傳〕出㆓李園女弟㆒謹舍。〔漢書、外戚、中山衞姬傳〕子豪女弟、爲㆓宣帝倢伃㆒。〔後漢書、循吏、孟嘗傳〕上虞有㆓寡婦㆒、至孝養㆑姑、姑年老壽終、夫女弟先懷㆓嫌忌㆒、乃誣㆘婦厭㆓苦供養㆒、加㆗鴆其母㆖、列㆓訟縣庭㆒、郡不㆑加㆓尋察㆒、遂結㆓竟其罪㆒、嘗先知㆓枉狀㆒、備言㆓之於太守㆒。〔白虎通、嫁娶〕娣者何、女弟也。

【女帝】244 ヂヨテイ ニヨテイ 女の天子。女王。〔文心雕龍、史傳〕庖犧以來、未㆑聞㆓女帝者㆒也。

【女貞】245 ヂヨテイ ❶女の操の正しいこと。〔易、家人〕家人利㆓女貞㆒。❷樹木の名。ねずみもち。常綠の灌木で、夏時、小白花をつけ、小さい楕圓形の果實を結ぶ。鼠梓木。女楨。冬青。〔本草、女貞〕釋名、貞女・冬青・蠟樹、時珍曰、此木淩㆑冬青翠、有㆓貞守之操㆒、故以㆓貞女㆒狀㆑之、琴操載、魯有㆓處女㆒、見㆓女貞木㆒而作㆑歌者、卽此也、蘇顏頌序云、女貞之木、一名冬青、負㆑霜葱翠、振㆑柯淩㆑風、故清士欽㆓其質㆒、而貞女慕㆓其名㆒、是矣。〔羣芳譜〕女貞、一名貞木、一名蠟樹。〔琴操〕魯有㆓處女㆒、見㆓女貞木㆒而作㆑歌。

〖女貞觀〗246 ヂヨテイクワン 女道士の道觀。〔還魂記、旁疑〕這女貞觀傍、可放着個書生話長。

〖女貞酒〗247 ヂヨテイシユ 紹興酒の一種。女子が出產して洗三滿月の祝に送り來つた米で、酒を釀して

貯へおき、其の女子の嫁する時に至つて飲用し、或は市に賣る酒。女酒。女兒酒（158）を見よ。

【女楨】248チョテイ　女貞の❷に同じ。〔廣韻〕楨、女楨、冬不レ凋木也。〔山海經、東山經〕太山、上多二金玉楨木一。〔注〕楨木、女楨也、葉冬不レ凋。

【女祧】249チョテウ　祧廟を守る女の官名。女奴で才智ある者を用ふ。〔周禮、春官、序官、守祧〕奄八人、女祧每廟二人、奚四人。〔注〕女祧、女奴有二才知一者。

【女鳥】250チョテウ　一種の蟲。小兒の衣を見れば必ず毛を飛ばせて、其の兒をして寒熱を病ましむといふ。夜飛遊女（3－5763‥317）を見よ。〔猗覺寮雜記〕嶺外人家、嬰兒衣、暮則急收、不レ可二露夜一、土人云、有レ蟲、名二暗夜一、見二小兒衣一、必飛レ毛著二其上一、兒必病二寒熱一、久則瘦不レ可レ療、其形如二大蝴蝶一、水經、豫章逕陽縣、多二女鳥一、玄中記曰、新陽男子、於二水際一得レ之、與共居、生二一女一、悉衣レ羽而去、豫章閒、養レ兒不レ露二其衣一、言下是鳥落二塵於兒衣中一、令中兒病上、亦謂二夜飛遊女一。

【女狄】251チョテキ　有莘氏の女。夏の禹王の母。女嬉（46）に同じ。〔遁甲開山圖〕女狄、暮汲二石紐山下泉一、水中得二月精一、如二雞子一、愛而含レ之、不レ覺レ呑、遂有レ娠、十四月生二夏禹一。

【女姪】252チョテツ　めひ。兄弟姉妹のむすめ。今、俗に姪女といふ。〔柳毅傳〕錢唐君謂レ毅曰、女姪不幸爲二頑童所一レ辱。

【女徒】253チョト　罪を得てしもべとなつた女。〔漢書、丙吉傳〕吉擇二謹厚女徒一。〔後漢書、光武紀上〕卽就驗二女徒一。〔資治通鑑、漢紀〕（昭帝、元平元年）擇二謹厚女徒渭城胡組、淮陽郭徵卿一、令下乳二養曾孫一、置中閒燥處上。〔注〕李奇曰、輕罪、男子守レ邊一歲、女子輭弱、不レ任レ守、復令レ作二於官一、亦一歲、故班史謂二之女徒復作一、復作者、復爲二官作一、滿二其本罪月日一。

【女奴】254チョド　❶官に沒收せられた女奴隸。〔周禮、天官、序官、酒人、注〕女酒、女奴曉レ酒者、古者從坐、男女沒二入縣官一爲レ奴。❷下女。女婢。〔唐書、李錡傳贊〕蒼頭女奴。〔高啓、宮女圖詩〕女奴扶レ醉踏二蒼苔一、明月西園侍レ宴廻、小犬隔レ花空吠レ影、夜深宮禁有レ誰來。❸猫ネコの異名。〔採蘭雜志〕猫、一名女奴。

【女登】255チョトウ　炎帝神農氏の母。帝王外紀及び路史には安登に作る。〔史記、三皇紀〕炎帝神農氏、姜姓、母曰二女登一、有嬀氏之女、爲二少典妃一、感二神龍一而生二炎帝一、人身牛首、長二於姜水一、因以爲レ姓。〔帝王世紀〕炎帝神農氏、姜姓也、母曰二任姒一、有二蟜氏女登一、爲二少典妃一、遊二華陽一、有二神龍首一、感生二炎帝一、人身牛首、長二于姜水一、有二聖德一。〔春秋元命苞〕女登游二華陽一、有二神龍首一、感二之於常羊一、生レ子、人面龍顏好レ耕、是爲二神農一。〔宋書、符瑞志上〕炎帝神農氏母曰二女登一、遊二於華陽一、有二神龍首一、感二女登於常羊山一、生二炎帝一、人身牛首、有二聖聽一、致二大火之瑞一、嘉禾生、醴泉出。

【女童】256チョドウ　十五歲以下の女子。めのわらは。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳〕女童入レ殿。〔列女傳、辯通、楚處莊姪傳〕有二一女童一、伏二於幟下一。〔搜神記〕得レ啖二女童一。

【女德】257チョトク　❶女の行ふべき道。又、女の道に適つた行爲。婦德。〔國語、晉語八〕宵靜二女德一、以伏二蠱慝一。〔王融、永嘉長公主墓銘〕肅穆婦容、靜恭女德。❷女の性情。女德無レ極を見よ。❸女色をいふ。〔史記、晉世家〕重耳愛二齊女一、毋二去心一、齊女曰、子一國公子、窮而來レ此、數士者、以レ子爲レ命、子不二疾反レ國報二勞臣一、而懷二女德一、竊爲レ子羞レ之。〔漢書、杜欽傳〕女德不レ厭、則壽命不レ究二於高年一。〔注〕師古曰、女德不レ厭、言レ好レ色之甚一也。〔漢書、佞幸傳贊〕柔曼之傾意、非二獨女德一、蓋亦有二男女一焉。〔魏志、齊王芳傳〕太后令曰、皇帝芳春秋已長、不レ親二萬歲一、耽二淫內寵一、沈二漫女德一。❹佛教の尼。宋の徽宗が尼を改めて女德といつた。女道（229）の❶を見よ。

【女德無レ極】258チョトクキハマリナシ　婦女子の性情は、之を愛し近づければ足ることを知らない。〔左氏、僖、二十四〕女德無レ極、婦怨無レ終。〔注〕婦女之志、近レ之則不レ知二止足一。

【女難】259チョナン　婦人關係から生ずる災禍。女禍。〔七偏人、中、二〕女難は勿論、盜難・劍難。

【女人】260チョジン ニョニン　❶女子。〔後漢書、東夷、倭傳〕女人被髮屈紒。〔班昭、女戒、卑弱〕三者蓋女人之常道。〔涅槃經、九〕一切女人、皆是衆惡之所レ住處。❷nü³ jen² 己の妻。

【女人拜】261ニョニンハイ　〖佛〗女人の行ふ拜をいふ。立ち乍ら膝だけを屈して拜する。〔傳燈錄、南泉願章〕師與二歸宗麻谷一、同去參二禮高陽國師一、師先於二路上一畫二一圓相一云、道得卽去、師宗卽於二圓相中一坐、麻谷作二女人拜一。〔傳燈一山解〕女人拜、女人立拜屈レ膝而已、又曰、以二兩手一當二胸前一些子鞠躬。

【女人禁制】262ニョニンキンセイ　〖佛〗女子の出入することをさしとめるおきて。女子は身に汚れがあり、又、五障の罪あるものとせられてゐるので、靈場への出入を禁ぜられてゐる。〔謠曲、竹生島〕此の島は女人禁制とこそ承りて候。

【女人成佛】263ニョニンジャウブツ　〖佛〗女子は罪障が多いけれども、佛に供養し經を受持すれば、その功德によつて成佛するといふ意。〔開目鈔〕女人成佛の時、悲母の成佛も顯はれ、達多惡人成佛の時、慈父の成佛も顯はるれ。

【女拜】264チョハイ　婦人のゐしやく。〔禮、內則〕凡女拜尚二右手一。

【女方】265チョハウ　❶女房の❶を見よ。❷ヲサガタ　下野國の地名。

【女房】266チョハウ　❶湯の賢臣。一に女方に作る。〔史記、殷紀〕伊尹去レ湯適レ夏、復歸二于亳一、入レ自二北門一、遇二女鳩・女房一、作二女鳩女房一。〔注〕集解曰、孔安國曰、鳩・房二人、湯之賢臣也。❷チョバウ　をんなの居室。〔北夢瑣言〕淮海小將、姓朱、妄二其名一、有レ女未レ嫁、爲二鬼物所一レ祟、常呼二韓郎一、往來如二生人一、唯不レ見レ形、朱以二異事一不二敢隱祕一、乃告二府主一、高燕公唯書レ名、俾下朱歸貼二於女房門上一、其邪來見、咨嗟言レ別而去上、聞二於劉山甫一。❸ニョウバウ　㋑女官の曹司（部屋）。〔源氏物語、廿一、少女〕女房の曹司ども。㋺昔、禁中に仕へた女官の稱。みやづかへの女。〔枕草紙、一〕家の御だち・女房。㋩婦人の稱。〔東海道名所記〕旅人をとどむる女房どもの聲。㋥ニョウボ　妻。家內。內儀。〔太平記、十、安東入道自害事〕武士の女房たる者。

【女房詞】267ニョウバウコトバ　昔、禁中の女房などの用ひた特別の言葉。團子をいしいし、豆腐をおかべといふ類。〔大上﨟御名之事〕女房ことば。

【女房輿】268ニョウバウゴシ　女房が乘用する輿。簾などを美しく飾る。〔明月記、建仁二年二月二日〕自二鳥羽一御二幸八幡一、女房輿三。

【女伯】269チョハク　父の姉。伯母をいふ。〔稱謂錄、父之姉妹〕女伯見二六典一。

【女瀑】270メダキ　二條の瀑布のうち、水勢ゆるく、又、低く小さいもの。〔風俗文選、六〕髮の花、女瀧男瀧の飾かな。

【女撥】271 nü³ po¹　女の乞食。

【女妭】272チョバツ　女魃に同じ。〔玉篇〕妭、文字指歸曰、女妭、禿無レ髮、所レ居之處、天不レ雨也。

【女魃】273チョバツ　旱テリの神。女妭。〔山海經、大荒北經〕係昆之山、有レ人、衣二青衣一、名曰二黃帝女魃一、蚩尤作レ兵伐二黃帝一、黃帝乃令三應龍攻二之冀州之野一、應龍畜レ水、蚩尤請二風伯雨師一、縱二大風雨一、黃帝乃下二天女一、曰レ魃、雨止、遂殺二蚩尤一、魃不レ得二復上一、所レ居不レ雨、叔均言二之帝一、後置二之赤水之北一。〔後漢書、張衡傳〕女魃北而應龍翔。〔注〕女魃、旱神也、北、猶レ退也、應龍、能興二雲雨一者也。〔北史、魏紀〕其裔始均、仕レ堯時、逐二女魃於弱水北一、人賴二其勳一、舜命爲二田祖一。〔可談〕世傳、婦人有下產二鬼形一者上、不レ能レ執而殺レ之則飛去、夜復歸就レ乳、多瘁二其母一、俗呼爲二旱魃一、亦分二男女一、女魃、竊二其家物一以出、男魃、竊二外物一以歸。

【女伴】274チョハン　女のつれ。女のともがら。〔孟浩然、庭橘詩〕女伴爭攀摘、摘窺礙葉深。〔張籍、古釵歎〕女伴傳看不レ知レ主、羅袖拂拭生二光輝一。〔趙孟頫、題二耕織圖一云云詩〕救忙多女伴、笑語方喧然。

【女坂】275ヲンナザカ　神社・佛閣に通ずる二つの坂の中、勾配のゆるやかな方の坂をいふ。

【女婢】276チョヒ　女の召しつかひ。下女。女奴。〔見聞錄〕公所二受賜一女婢李姬、果與レ焉。

【女臂】277チョヒ　越瓜シロウリの異名。〔廣志〕瓜之所レ出、以二遼東廬江燉煌種一爲レ美、有二魚瓜・狸瓜・蜜筩瓜・女臂瓜一、其名不レ一。

【女賓】278チョヒン　婦人の賓客。をんなきやく。〔禮、喪大記〕其無二女主一、則男主拜二女賓于寢門內一。

【女夫】279チョフ　娘の夫。婿をいふ。〔晉書、羊祜傳〕祜女夫嘗勸二祜有レ所二營置一、令レ有二歸戴者一、可レ不レ美乎、祜默然不レ應。

【女布】280 ヂョフ ❶漢唐時代に、今の湖南省零陵縣の邊から貢した布の名。〔後漢書、王符傳〕且其徒御僕妾、皆服㆓文組采牒、錦繡綺紈、葛子升越、筩中女布㆒。〔注〕南越志曰、蕉布之品有㆑三、有㆓蕉布㆒、有㆓竹子布㆒、又有㆑葛焉、荊州記曰、秭歸縣室多㆓幽閑㆒、其女盡織㆑布、至㆓數十升㆒、今永州俗猶呼㆓貢布㆒爲㆓女子布㆒也。❷古の錢幣の名。五銖錢の肉郭が無くて、其の質の弱いもの。女錢(220)に同じ。

【女巫】281 ヂョフ 周官の名。春官の屬。舞をまひ、神おろし祈禱などをする女みこ。〔周禮、春官、女巫〕女巫、掌㆓歲時祓除釁浴㆒、旱暵則舞雩。〔隋書、百官志下〕太卜署有㆓卜師二十人、相師十八人、男覡十六人、女巫八人㆒。〔輟耕錄、婦女曰㆑娘〕世謂㆓穩婆㆒曰㆓老娘㆒、女巫曰㆓師娘㆒、都下及江南、謂㆓男覡㆒亦謂㆓師娘㆒。

【女膚】282 ヂョフ 女のはだ。〔陳師道、謝㆔寇十一惠㆓端硯㆒詩〕滑如㆓女膚㆒色馬肝。

【女舞】283 ヂョブ 女の舞。〔唐書、柴紹傳〕紹安坐遣㆑人、彈㆓胡琵琶㆒、使㆓二女子舞㆒。〔續文獻通考、樂考〕八隊婦女二十人、冠㆓廣翠冠㆒、銷金綠衣、執㆓牡丹花㆒舞、唱㆓前曲㆒、與㆓樂聲㆒相和、進至㆓御前㆒。

【女富】284 ヂョフウ 寵愛を受ける婦女の家の富み榮えること。〔左氏、昭、三〕道殣相望、而女富溢尤。

【女服】285 ヂョフク 婦人の衣服。婦人服。

【女復】286 ヂョフク 藥草の名。女菀(18)の異名。〔廣雅、釋草〕女復、女菀也。〔本草、女菀〕釋名、白菀・織女菀・女復・茆。

【女墳】287 ヂョフン 湖の名。江蘇省吳縣の西北。吳王が女を葬つた所。〔吳地記〕墳後陷成㆑湖、今號㆓女墳湖㆒。〔皮日休、女墳湖詩、自注〕卽吳王葬㆑女之所。〔太平寰宇記〕以㆑水繞㆑墳、因名㆓女墳湖㆒。

【女文】288 ヲンナブミ 婦人の書く文章。〔源氏物語、帚木〕さるまじきどちの女ぶみに、半ばすぎて書きすくめたる。

〖女文字〗289 ヲンナモンジ ヲンナモジ ❶平假名。男文字(7－21730‥99)の對。〔賀古教信七墓廻、五〕流れの女文字、情色めくいろは假名。❷女の筆跡。女筆。

【女嬖】290 ヂョヘイ 氣に入りの女。〔後漢書、劉瑜傳〕女嬖令色。〔續列女傳、班婕妤傳〕有㆓女嬖㆒。

【女表】291 ヂョヘウ 模範となる女。女のかがみ。〔南史、孝義、蕭矯妻羊傳〕又時有㆓羊緝之女佩任者㆒、烏程人、隨㆑母還㆓舅氏㆒、母亡、晝夜號哭、不㆑食三日而亡、鄉里號曰㆓女表㆒。

【女貓】293 ヂョベウ めねこ。牝猫。〔日知錄、考證、草驢女貓〕山東河北人、謂㆓牝貓㆒爲㆓女貓㆒。〔瑟樹叢談〕女貓二字、見㆓玄怪錄所㆑載崔紹事㆒、蓋其語起㆓於唐時㆒。

【女冪】294 ヂョベキ 周禮、天官、冪人の屬。宮中に仕へる女奴で、冪に通曉する者。冪は巾を以て物をおほふこと。〔周禮、天官、序官、冪人〕冪人、奄一人、女冪十人、奚二十人。〔注〕以㆑巾覆㆑物、曰㆑冪、女冪、女奴曉㆑冪者。

【女籩】295 ヂョヘン 周禮、天官、籩人の屬。竹器に物を盛ることをつかさどる下婢。〔周禮、天官、序官、籩人〕奄一人、女籩十人。〔注〕女籩、女奴之曉㆑籩者。

【女木】296 キメ 工匠の語。木の食合せの凹狀をなすもの。凸狀をなすものを男木（ヲギ）といふの對。

【女僕】297 ヂョボク 下婢。下女。〔稱謂錄、婢、女僕〕天寶遺事、長安名妓劉國容、有㆓姿色㆒、與㆓進士郭昭述㆒相愛、後昭述授㆓天長簿㆒、與㆓國容㆒別、詰旦赴㆑任、國容使㆔女僕齎㆓短書㆒。

【女犯】298 ニョボン ［佛］僧が邪淫戒を破つて女ををかすこと。〔御定書百箇條〕女犯之僧、御仕置之事。

【女妹】299 ヂョマイ ❶夫の妹。〔爾雅、釋親〕夫之女弟爲㆓女妹㆒。〔注〕今謂㆓之女妹㆒是也。〔韓非子、詭使〕今士大夫不㆑羞㆓汙泥醜辱㆒、而宦㆓女妹私義之門㆒。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕昭女妹曹豐生。〔潛夫論、本政〕依㆓女妹之寵㆒以驕㆑士。❷いもうと。女弟。

【女門】300 nü³ men² 女子の嫁ぎ先。

【女陽】301 ヂョヤウ ❶亭の名。越王句踐の夫人が女子を產んだ處。〔越絕書、越絕外傳記地傳〕女陽亭者、句踐入㆓官於吳㆒、夫人從、道產㆓女此亭㆒、養㆓於李鄉㆒、句踐勝㆑吳、更㆓名女陽㆒。❷縣名。漢、置き、汝南郡に屬せしむ。又、汝陽に作る。今の河南省商水縣の西北。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、女陽。〔注〕師古曰、女、讀曰㆑汝。

【女傭】302 ヂョヨウ 雇女。下女。

【女羅】303 ヂョラ 女蘿の❶に同じ。〔楚辭、九歌、山鬼〕若㆑有㆑人兮山之阿、被㆓薜荔㆒兮帶㆓女羅㆒。〔注〕女羅、兔絲也、羅、一作㆑蘿。

【女蘿】304 ヂョラ ❶苔の一種。地衣類に屬し、松柏に生ずる。さるをがせ。ひかげのかづら。さがりこけ。松苔。女蘿は松蘿で、詩の毛傳等に兔絲（ネナシカヅラ）といへるは誤。〔爾雅、釋草〕女蘿、菟絲。〔廣雅、釋草〕女蘿、松蘿也。〔詩、小雅、頍弁〕蔦與㆓女蘿㆒。〔傳〕女蘿、菟絲、松蘿也。〔本草、松蘿〕釋名、女蘿、松上寄生、時珍曰、按、毛萇詩注云、女蘿、兔絲也、吳普本草、兔絲、一名松蘿、陶弘景謂、蔦是桑上寄生、松蘿是松上寄生、陸佃埤雅言、蔦是松柏上寄生、女蘿是松上浮蔓、又言、在㆑木爲㆓女蘿㆒、在㆑草爲㆓兔絲㆒、鄭樵通志言、寄生有㆓二種㆒、大曰㆑蔦、小曰㆓女蘿㆒、陸機詩疏言、兔絲蔓㆓生草上㆒、黃赤如㆑金、非㆓松蘿㆒也、松蘿蔓㆓延松上㆒、生㆑枝正青、與㆓兔絲㆒殊異、羅願爾雅翼云、女蘿色青而細長、無㆓雜蔓㆒、故離騷云、被㆓薜荔㆒兮帶㆓女蘿㆒、謂㆓青長如㆑帶也、兔絲黃赤不㆓相類㆒、然二者附㆑物而生、有㆑時相結、故古樂府云、南山冪冪兔絲花、北陵青青女蘿樹、由來花葉同一心、今日枝條分㆓兩處㆒、唐樂府云、兔絲故無㆑情、隨㆑風任㆓顚倒㆒、誰使㆓女蘿枝、而來強縈抱㆒、兩草猶㆓一心㆒、人心不㆑如㆑草、據㆓此諸說㆒則女蘿之爲㆓松上蔓㆒、當㆓以㆓二、陸羅氏之說㆒爲㆑的、其曰㆓兔絲㆒者誤矣。〔漢書、禮樂志、安世房中歌〕豐草葽女蘿施。〔古詩十九首、其八〕與㆑君爲㆓新婚㆒、兔絲附㆓女蘿㆒。〔郭璞、遊仙詩〕女蘿辭㆓松栢㆒。❷清の人。姓は蔡。名は含。字は女蘿。冒辟疆の侍姬。長齋繡佛し、經典に精通す。

〖女蘿衣〗305 ヂョラノイ ひかげのかづらの葉。〔馬戴、山中興作詩〕高高丹桂枝、嫋嫋女蘿衣。

【女牢】306 ヂョラウ 女の罪人を入れる監獄。女監。〔說文〕埍、一曰㆓女牢㆒。

【女浪】307 メナミ 浪の一種。高く強い浪(男浪)の打ち寄せる合間に寄せる低く弱い浪をいふ。男浪の對。

【女郎】308 ヂョラウ ❶少女をいふ。〔木蘭辭〕同行十二年、不㆑知木蘭是女郎。〔鄭谷、曲江紅杏詩〕女郎折得殷勤看、道是春風及第花。❷山名。㋑山東省章丘縣の東南。一名、小田山。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、章丘縣〕女郎山、志云、在㆓縣北一里㆒、頂有㆓三陽洞㆒、甚深邃、三齊記、章亥妾溺死葬㆑此、謂㆓之章丘㆒、縣因以名。〔顧炎武、山東錄〕三齊記曰、章亥有㆓三女㆒、溺死葬㆑此、考㆓淮南子㆒、大章・豎亥、是兩人、今云㆓三女㆒、章女乎、亥女乎、蓋因㆔縣北山名㆓女郎㆒而附㆓會其說㆒、今案、爾雅釋丘曰、上正、章丘、注曰、頂平、然則章丘之名、已見㆓於古經傳㆒矣。㋺陝西省褒城縣の西南。〔水經、沔水注〕漢水南有㆓女郎山㆒、山上有㆓女郎冢㆒、云云、下有㆓女郎廟、及擣衣石㆒、言㆓張魯女㆒也、有㆓小水㆒、北流入㆑漢、謂㆓之女郎水㆒。㋩四川省溫江縣の北。〔司馬彪、郡國志〕梁州女郎山、張魯女浣㆓衣於上㆒、女便懷孕、生㆓二龍㆒、及㆓女死將㆑殯、柩車忽騰躍升㆓此山㆒、遂葬焉。❸川の名。漢水の支流。❷の㋺を見よ。❹遊女。あそびめ。倡妓。傾城。

〖女郎花〗309 ヂョラウクワ ❶木蘭(6－14415‥468)の一名。〔白居易、題㆓令狐家木蘭㆒詩〕從㆑此時時春夢裡、應㆑添一樹女郎花。❷辛夷（コブシ）(10－38630‥1)の一名。〔陸游、春晚雜興詩〕閒看女郎花。〔自注〕唐人謂㆓辛夷㆒爲㆓女郎花㆒。❸をみなへし。秋の七草の一。敗醬。〔和漢三才圖會、山草、女郎花〕按、女郎花生㆓山麓㆒、高二三尺、莖有㆓稜理㆒而似㆓蒿之莖㆒、枝兩兩對生、節際生㆑葉亦對生、其葉似㆓三七及前胡葉㆒而細長、七月出㆑穗開㆑花、最細小、正黃色可㆑愛、本朝文粹載㆓源順詩㆒曰、花色如㆓薰粟㆒、俗呼爲㆓女郎㆒者、是也、隨結㆑子。

〖女郎花月〗310 ヲミナヘシヅキ 陰曆七月の異名。〔藏玉抄、十二月異名〕七、女郎花月。

【女里】311 ヂョリ 遼、補積慶宮の人。字は涅烈衮。太尉に累官す。性、貪猥。保寧の末、死を賜はる。〔遼史、九十七〕。

【女流】312 ヂョリウ をんなの仲間。又、をんな。女性。〔琵琶記、南浦囑別〕家中並無㆓親人㆒、只有㆓一箇媳婦㆒、又是女流之輩。

〖女流歌人〗313 ヂョリウカジン 女性の歌人をいふ。

〖女流文學〗314 ヂョリウブンガク 女性文學者によつて作られた文學。

【女綹】315 nü² liu³ 女のすり。

【女栗】316 ヂョリツ 地名。〔春秋、文、十〕及㆓蘇子㆒盟㆓于女栗㆒。〔杜注〕女栗、地名也、闕也。

【女良】317 ラメ 姓氏。〔和爾雅〕。

【女閭】318ヂヨリヨ　伎院。いろまち。花柳の巷。婦閭。〔廣韻藻〕娃館、女閭。〔戰國、東周策〕齊桓公宮中七市、女閭七百、國人非㆑之。〔注〕閭、里中門也、爲㆑門㆓爲㆑市㆔於宮中㆒、使㆓女子居㆒㆑之。

【女伶】319ヂヨレイ　女の樂人。〔拾遺記、燕昭王〕乃使㆔女伶代唱㆓其曲㆒。〔唐書、禮樂志十二〕帝制㆓新曲㆒、教㆘女伶數十百人、衣㆓珠翠緹繡㆒、連袂而歌㆖。

【女隸】320ヂヨレイ　㊀奴隸となつた女。官婢とせられた女子。〔資治通鑑、晉紀〕孝武帝、寧康三年、選㆓閹人及女隸敏慧者㆒、詣㆓博士㆒授㆑經。〔注〕女隸、沒入爲㆓官婢㆒者、奚官女、是也。㊁女の召しつかひ。〔柳宗元、乞巧文〕女隸進曰、今茲秋孟七夕、天女之孫、將㆑嬪㆓於河鼓㆒、邀而祠者、幸而與㆓之巧㆒。〔孫覿、詩〕剖㆑瓜女隸方祈㆑巧。

【女禮】321ヂヨレイ　女のたしなむべき禮式作法。女のたちゐふるまひの禮式。

【女靈】322ヂヨレイ　女神。〔三水小牘〕汝州魯山縣西小山間、有㆑祠、曰㆓女靈觀㆒、其像、獨一女子焉、低鬟嚬蛾、豔冶而有㆓怨慕之色㆒、詢㆓之老人㆒、云、大中初、斯地忽暴風驟雨、遂有㆓茲山㆒、其神見㆓於樵蘇者㆒曰、吾商於之女也、帝命有㆓此百里之地㆒。

【女連】323ウナツラ　對馬國の地名。

【女鹿】324メガ　姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【女王】325ヂヨワウ ニヨワウ　㊀をんなの天子。女帝。〔梁書、扶南國傳〕扶南國俗、本裸㆓體身㆒被㆑髮、不㆑制㆓衣裳㆒、以㆓女人㆒爲㆑王、號曰㆓柳葉㆒。〔北史、西域傳〕女國、在㆓蔥嶺南㆒、其國世以㆑女爲㆑王、居㆓九層之樓㆒、侍女數百人、五日一聽㆑朝、復有㆓小女王㆒、共知㆓國政㆒。㊁東夷の國名。〔後漢書、東夷、倭傳〕自㆓女王國㆒、東度㆑海千餘里、至㆓拘奴國㆒。㊂㋑蜜蜂や蟻などの雌蟲の稱。ぢよわうばち。㋺古、内親王の宣下のない皇族の姫君。㋩五世以下の皇族女子。

〖女王祿〗326ヂヨワウロク　昔の公事。毎年正月十一日に、女王に祿を賜はつたこと。昔は、王四百二十九人、女王二百六十二人と定められてゐた。女の字を訓まぬのが故實である。〔儀式、八〕正月八日、賜㆓女王祿㆒儀。

【玉㆑女】327ナンヂヲタマニス　汝を寶玉のやうに立派なものに仕上げる。又、汝を寶玉のやうに大切にする。〔詩、大雅、民勞〕王欲㆑玉㆑女、是用大諫。〔集傳〕玉、寶愛之意。〔張載、西銘〕貧賤憂戚、庸玉㆓女於成㆒也。

【女爲㆑男】328ヲンナヲトコトナル　女が男に變る。變成男子。〔十六國春秋、北燕錄、馮跋〕十七年二月、北部人趙壽女、既嫁、化爲㆑男、娶㆑妻而無㆑子、跋問㆓諸羣臣㆒曰、此何祥、尙書左承傳權對曰、漢世雌雞爲㆑雄、陰變爲㆑陽、君替臣僭之象、卒有㆓婦人㆒、專寵㆓王莽㆒篡㆑位、今女爲㆑男、臣將㆑無㆑君之徵。

【女鹽澤】329ヂヨエンタク　鹽池の名。山西省解縣の西北。〔水經、涑水注〕鹽澤池西又有㆓一池㆒、謂㆓之女鹽澤㆒、東西二十五里、南北二十里。〔元和志〕女鹽池鹽、味小苦、不㆑及㆓縣東大池㆒、俗言、此地亢旱、鹽卽凝結、如逢㆓霖雨㆒、鹽則不㆑正、唐開元中、嘗置㆓女鹽監㆒、亦名㆓紫泉監㆒、時或生㆑鹽、淡苦不㆑可㆑食、又生㆑硝、亦名㆓硝池㆒。

【女和尙】330ヂヨヲシヤウ　尼をいふ。〔稱謂錄、尼、女和尙〕雞肋篇、京師僧諱㆓和尙㆒、稱曰㆓大師㆒、尼諱㆓師姑㆒、呼曰㆓女和尙㆒。

【女翁主】331ヂヨヲウシユ　諸王の女。〔史記、大宛傳〕願得㆘尙㆓漢女翁主㆒爲㆗昆弟㆖。

【女孝經】332ヂヨカウキヤウ ヲンナカウキヤウ　書名。一卷。唐、侯莫陳邈の妻鄭氏撰。孝經にならひ、十八章に分ち、孔子に代へるに漢の曹大家を以てし、曹大家と女姪との問答に託し、以て婦德の涵養に充てたもの。五代以後頗る世に行はれた。〔四庫提要、子部、儒家類存目〕。〔續百川學海、三十冊〕。

【女香樹】333ヂヨカウジユ　香木の名。〔洞冥記〕影娥池中有㆓女香樹㆒、細枝葉、婦人戴㆑之、香終年不㆑滅。

【女校書】334ヂヨカウシヨ　うたひめ。藝妓。藝者。唐代、蜀の薛濤といふ文才のある妓女が、書物を校正したからいふ。〔王建、寄㆓蜀中薛濤校書㆒詩〕萬里橋邊女校書、枇杷花裏閉㆑門居。〔鑑戒錄〕蜀人呼㆓營妓㆒爲㆓女校書㆒。

【女額子】335 nü^{3} ê^{2} tzŭ　演劇用の女形の額當て。

【女起解】336 nü^{2} ch'i^{2} chieh^{3}　秦腔劇の一種。又、蘇三起解・玉堂春といふ。蘇三といふ妓女を中心とした裁判事件を脚色したもの。

【女及第】337ヂヨキフダイ　養蠶が終つてから、之に從事した女がお禮參りすること。〔清異錄、人事〕齊魯燕趙之種㆑蠶、收㆑繭訖、主㆑蠶者、簪㆓通花銀碗㆒、謝㆓祠廟㆒、村野指爲㆓女及第㆒。

【女化原】338オナバケハラ　常陸國の地名。

【女貨郞】339 nü^{3} huo^{4} lang^{2}　女の小間物行商人。〔燕子箋、僞緝〕打點昭彰、明白是牽頭女貨郞。

【女懷清】340ヂヨクワイセイ　臺の名。今、四川省長壽縣の南。〔史記、貨殖傳〕巴寡婦清、其先得㆓丹穴㆒、而擅㆓其利㆒數世、家亦不㆑訾、清寡婦也、能守㆓其業㆒、用㆑財自衞、不㆑見㆓侵犯㆒、秦始皇帝以爲㆓貞婦㆒而客㆑之、爲築㆓女懷清臺㆒。〔漢書、貨殖、巴寡婦清傳〕築㆓女懷清臺㆒。

【女黃冠】341ヂヨクワウクワン　女道士。〔劉克莊、紫澤觀詩〕修持盡是女黃冠。

【女奚烈】342ヂヨケイレツ　複姓。〔金史、國語解〕女奚烈、曰㆑郞。

〖女奚烈斡出〗343ヂヨケイレツアツシユツ　金の人。楨州刺史となり、元兵と戰ひ、花帽軍張提控に脅かされたが、屈せず、遂に殺さる。〔金史、一百二十二〕。

〖女奚烈資祿〗344ヂヨケイレツシロク　金、咸平の人。本姓は張氏。興定の初、西寧州刺史となる。姓を女奚烈と賜ひ、金安軍節度使に累遷す。兵を將ゐて鄜州を救はんとして敗れ、執へ殺さる。〔金史、一百二十二〕。

〖女奚烈守愚〗345ヂヨケイレツシユグ　金、眞定の人。字は仲晦。性至孝。明昌の進士。臨沂令となる。貞祐中、保大軍節度使に除せられ、翰林學士に進む。〔金史、一百二十八〕。

【女居士】346ヂヨコジ　㊀女丈夫(368)の㊀を見よ。〔古尊宿語錄、序〕覺心居士、出㆓善女倫㆒、稟烈丈夫志操。㊁〔佛〕ニヨコジ　佛門に歸依した女子をいふ。

【女護島】347ニヨゴノシマ　㊀女子ばかり住んでゐるといふ想像上の島。㊁伊豆の八丈島の異名。㊂ニヨゴタウ　高橋閔愼の號。高橋女護島(**12**―**45313**‥260)を見よ。

【女⿰女坐丘】348ヂヨサキウ　丘の名。沙鹿(**6**―**17212**‥249)の㊀の異名。〔水經、河水注〕郡國志曰、五鹿、故沙鹿、有㆓沙亭㆒、周穆王喪㆓盛姬㆒、東征舍㆓于五鹿㆒、其女叔⿰女坐、屆㆑此思哭、是曰㆓女⿰女坐之丘㆒、爲㆓沙鹿之異名㆒也。〔太平寰宇記〕沙鹿、在㆓元城縣東㆒、亦名㆓女⿰女坐丘㆒。

【女曹兒】349ヂヨサウジ　女子供。〔漢書、灌夫傳〕今日長者爲㆑壽、迺效㆓女曹兒㆒呫囁耳語。〔注〕師古曰、女曹兒、猶㆑言㆓兒女輩㆒也。

【女藏人】350ニヨクラウド ニヨクランド　古、宮中に奉仕した女房の職名。命婦の下で雜役に從事した。〔亭子院歌合〕女藏人四人づつさぶらはせ給ふ。

【女三昧】351ヲンナザンマイ　女色に荒び遊ぶこと。

【女珊瑚】352ヂヨサンゴ　珊瑚の一種。〔述異記〕光武時、南海獻㆓珊瑚婦人㆒、帝命植㆓於殿前㆒、謂㆓之女珊瑚㆒。

【女四書】353ヂヨシシヨ ヲンナシシヨ　書名。四卷。清、王相編。古來女訓として有名な女誡・内訓・女論語・女範の四種を集めたもの。我が國では嘉永年間、加賀の府學助教西坂天錫が飜刻し、又、明曆二年、辻原元甫は女範に代へるに女孝經を以てし、女四書として和譯印行した。尙、大正元年刊の棚橋絢子の女四書、千河岸櫻所の女訓評釋は、以上の五種を全收してゐる。

【女芝居】354ヲンナシバヰ　女優を中心とする歌舞伎芝居。女優劇。〔古今役者大全、四、三箇津若女形評判〕女芝居は永祿の頃に始まり。

【女秀才】355ヂヨシウサイ　才氣の秀でた女。〔遼史、列女、邢簡陳氏傳〕父陘、五代時、累㆓官司徒㆒、陳氏甫笄、涉㆓通經義㆒、凡覽㆓詩賦㆒、輒能誦、尤好㆓吟咏㆒、時以㆓女秀才㆒名㆑之、云云、歸㆓於簡㆒、云云、教㆑子、後二子抱朴・抱質皆以㆑賢位㆓宰相㆒、贈㆓魯國夫人㆒。〔董恂、宮閨聯名譜〕明初識㆑字婦女、得㆘擧㆓女秀才㆒、入㆗尙功局㆖、有㆓敖用敬妻易淵碧㆒、洪武二十六年、擧㆓女秀才㆒、以㆑疾還㆑鄕。

【女沙彌】356ニヨシヤミ　〔佛〕尼をいふ。沙彌尼。〔佛母般泥洹經〕有㆓女沙彌三人㆒、一人得㆓不還道㆒。〔白居易、龍花寺主家小尼詩〕頭青眉眼細、十四女沙彌。

【女尙書】357ヂヨシヤウシヨ　女官の名。三國魏、置き、省外の奏事を掌る。〔魏略〕明帝選㆘女子知㆑書可㆓付信㆒者六人㆖、以爲㆓女尙書㆒、使㆑典㆓省外奏事㆒。

【女相如】358ヂヨシヤウジヨ　隋の煬帝の御女、吳絳仙をいふ。其の文才を漢の司馬相如に比していふ。〔山堂肆考〕隋煬帝御女吳絳仙、能畫㆓長眉㆒、嘗以㆓紅箋㆒進㆑詩謝㆑帝、帝曰、絳仙才調、女相如也。〔南

部煙花記〕隋煬帝、以㆓合歡水果㆒賜㆓吳絳仙㆒、絳仙以㆓紅牋㆒進㆑詩謝、帝曰、絳仙才調、女相如也。

【女狀元】359（ヂヨジヤウゲン）　戲曲の篇名。明、徐渭作。一名、辭凰得鳳。四聲猿の一。南曲を用ひ、五折より成り、黃崇嘏が男裝した事を構想としてゐる。

【女書史】360 nü^3 shu^1 shih^3　婦人書記。

【女敍位】361（ニヨジヨヰ ヲンナジヨヰ）　正月八日を以て女官に位階を勅授せられる儀式。隔年に行はれた。〔江家次第、三〕女敍位、隔年行㆑之、式日八日、近代擇㆓吉日㆒。

【女世帶】362（ヲンナジヨタイ ヲンナセタイ）　女ばかりの世帶。女所帶。

【女先生】363 nü^3 hsien^1 shêng　占卦をする女。

【女太夫】364（ヲンナダイフ）　演藝を業とする女。〔塵塚談、下〕をんなだいふに出ると、良き家に緣組出來ず。

【女待詔】365 nü^3 tai^4 chao^4　❶女髮結。❷小閒使。

【女大學】366（ヲンナダイガク）　書名。一卷。貝原益軒撰。一說に、其の妻東軒撰。又、益軒の和俗童子訓の中、女子教法を本として後人が作つたとする說がある。其の結構・主旨・文章ともに童子訓に類似し、十九章に分ち、儒教精神に基いて婦女の道を說き、女子の德は、和順貞正、父母・夫・舅姑によく仕へ、家政を治めるに在りと說いてゐる。江戶時代の女性觀を代表してゐるもので、女子教育に著しい影響を與へた。

【女蹈歌】367（ヲンナタウカ メダウカ）　昔、禁中で正月十六日に行つた公事。此の日、舞姬四十人が、紫宸殿の南庭より校書殿を廻り、年始の祝言を歌つて舞ひ、その曲の終に必ず重ねて「萬年あられ」と唱へて退出した。蹈歌(**10**－**37744**・・3)を見よ。〔伊呂波字類抄〕女蹈歌、聖武天皇天平十四年正月十六日、云云、更令㆓少年童女蹈歌㆒。

【女丈夫】368（ヂヨヂヤウフ）　❶男らしい氣象を持つた女。をとこまさりの女。〔吳越春秋、王僚使公子光傳〕貞明執㆑操、其丈夫女哉。❷戲曲の篇名。清、馮夢龍作。張鳳翼の紅拂記、凌濛初の虯髯翁、劉晉充の某曲を合訂したもの。

【女二天】369（ヂヨニテン）　草の名。やまぜりの異名。當歸。藥用に供する。〔藥譜〕當歸爲㆓女二天㆒。

【女袍子】370 nü^3 p'ao^2 tzŭ　女の着る袍子。

【女博士】371（ヂヨハカセ）　女の博士。學才に優れた女子をいふ。〔魏志、文昭甄皇后傳、注〕魏書曰、后年九歲喜㆑書、視㆑字輒識、數用㆓諸兄筆硯㆒、兄謂㆑后言、汝當㆑習㆓女工㆒、用㆑書爲㆑學、當㆑作㆓女博士㆒邪。〔黃庭堅、贈㆓李輔聖㆒詩〕相看絕歎女博士、筆硯管絃成㆓古丘㆒。

【女部屋】372（ヲンナベヤ）　女の住む室。

【女別當】373（ニヨベツタウ）　齋宮寮及び齋宮司に奉仕した女官。〔本朝世紀、仁平三年九月十四日〕被㆑下㆓齋宮女別當（藤原經子）・內侍（顯子女王）・宣旨（藤原能子）等宣旨㆒。

【女奉書】374（ニヨホウシヨ）　古、勾當內侍が勅を承けて下す文書。女房奉書。

【女落子】375 nü^3 luo^4 tzŭ　妓女が男子の絃に伴つて唄ふもの。

【女喇嘛】376 nü^2 la^3 ma　蒙古・西藏の女僧。

【女論語】377（ヂヨロンゴ ヲンナロンゴ）　書名。❶漢、曹大家撰。立身・學作・學禮・早起・事父母・事舅姑・事夫・訓男女・營家・待客・和柔・守節の十二章に分ち、女子の教戒を記したもの。說郛卷七十に載す。❷十篇。唐の女學士、宋若莘撰。舊唐書には若華に作る。其の體裁は論語に習ひ、女子の戒を記したもの。其の妹若昭が之を校訂申釋した。〔舊唐書、女學士尚宮宋氏傳〕著㆓女論語十篇㆒、其言摸㆓倣論語㆒、以㆓韋逞母宣文君宋氏㆒代㆓仲尼㆒、以㆓曹大家等㆒代㆓顏閔㆒、其閒問答、悉以㆓婦道所㆒㆑尚。

【女惑㆑男】378（ヲンナヲトコヲマドハス）　女が男を誘惑する。〔左氏、昭、元〕在㆓周易㆒、女惑㆑男、風落㆑山、謂㆓之蠱㆒。

【女有㆓四行㆒】379（ヂヨニシカウアリ）　婦人には行ふべき四つの道がある。四行とは、貞淑自省の婦德、言辭正美の婦言、清潔無垢の婦容、紡績調理の婦行をいふ。〔曹大家、女誡〕女有㆓四行㆒、一曰婦德、二曰婦言、三曰婦容、四曰婦功、云云、幽閒貞靜、守㆑節整齊、行㆑己有㆑恥、動靜有㆑法、是謂㆓婦德㆒、擇㆑辭而說、不㆑道㆓惡語㆒、時然後言、不㆑厭㆓於人㆒、是謂㆓婦言㆒、盥㆓浣塵穢㆒、服色鮮潔、沐浴以㆑時、身不㆓垢辱㆒、是謂㆓婦容㆒、專㆑心紡績、不㆑好㆓戲笑㆒、潔㆓齊酒食㆒、以奉㆓賓客㆒、是謂㆓婦功㆒、此四者、女人之大德、而不㆑可㆑乏㆑之者也、然爲㆑之甚易、惟在㆓其心㆒耳、古人有㆑言、仁遠乎哉、我欲㆑仁而斯至矣、此之謂也。

【女曰雞鳴】380（ヂヨエツケイメイ）　詩經、鄭風の篇名。古は士大夫・賓客の德有る者を遇したことを言つて、今の德を貴ばぬことを刺つた詩。一說に、賢夫婦が相警めた辭を述べたものといふ。〔詩、鄭風、女曰雞鳴序〕女曰雞鳴、刺㆑不㆑說㆑德也、陳㆓古義㆒、以刺㆓今不㆑說㆑德而好㆑色也。〔集傳〕此詩人述㆓賢夫婦相警戒之詞㆒。

【女化爲㆑男】381（ヲンナクワシテヲトコトナル）　女が變化して男となる。〔漢書、五行志下之上〕女化爲㆑男、婦政行也。

【女字邊干】382 nü^3 tzŭ^4 pien^1 kan^1　奸の字をいふ。媾曳すること。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕西廂待月、等得更闌、著你跳東牆、女字邊干。

【女尊男卑】383（ヂヨソンダンピ）　女を尊び男を卑しめること。男尊女卑の對。

【爲㆑女妄言】384（ナンヂノタメニバウゲンセン）　汝の爲に、心に思ふ儘の勝手なことを述べよう。〔莊子、齊物論〕長梧子曰、是黃帝之所㆓聽熒㆒也、而丘也何足㆓以知㆒㆑之、且女亦大早計、見㆑卵而求㆓時夜㆒、見㆑彈而求㆓鴞炙㆒、予嘗爲㆑女妄㆓言之㆒、女以妄㆓聽之㆒。

【有㆑女懷㆑春】385（ヂヨアリハルヲオモフ）　女子が春に當つて婚姻せんことを懷ふ。〔詩、召南、野有死麕〕野有㆓死麕㆒、白茅包㆑之、有㆑女懷㆑春、吉士誘㆑之。〔箋〕有㆓貞女㆒、思㆓仲春以㆑禮與㆑男會㆒。

【有㆑女如㆑雲】386（ヂヨアリクモノゴトシ）　婦女が雲の如く多い。一說、雲が風に從つて浮動するやうに女に定まつた心のないこと。〔詩、鄭風、出其東門〕出㆓其東門㆒、有㆑女如㆑雲、雖㆓則如㆒㆑雲、匪㆓我思存㆒、縞衣綦巾、聊樂㆑我員。〔傳〕如㆑雲、衆多也。〔箋〕有㆑女、謂㆓諸見㆑棄者㆒也、如㆑雲者、如㆓雲從㆒㆑風、東西南北、心無㆑有㆑定。

【女以㆑男爲㆑家】387（ヂヨハダンヲモツテイヘトナス）　女は夫の家を以て身の落着き所とする。〔左氏、桓、十八〕申繻曰、女有㆑家、男有㆑室、無㆓相瀆㆒也。〔疏〕家者、內外之大名、戶內曰㆑室、但男子一家之主、職主㆓內外㆒、故曰㆑家、婦人主㆓閨內之事㆒、故爲㆑室也。〔孟子、滕文公下、丈夫生而願㆓爲㆑之有㆒㆑室、女子生而願㆓爲㆑之有㆒㆑家、集注〕男以㆑女爲㆑室、女以㆑男爲㆑家。

【女正㆓位乎內㆒】388（ヂヨハクラヰヲウチニタダス）　婦人は家內に在つて家政を守り、其の立場を正す。〔易、家人〕彖曰、家人女正㆓位乎內㆒、男正㆓位乎外㆒、男女正、天地之大義也。

【女大十八變】389 nü^3 ta^4 shih^2 pa^1 pien^4　女は生長するまでに十八回姿がかはる。

【女大不㆓中留㆒】390（ヲンナダイニシテウチニトドマラズ）　女子は生長すれば嫁として他家の人となり、生家に留らない。〔西廂記、草橋店夢㆓鶯鶯㆒雜劇〕他每不㆑識㆑憂不㆑識㆑愁、一雙心意兩相投、夫人得㆓好休㆒、便好休、這其閒何必苦追求、常言道、女大不㆓中留㆒。

【女無㆑媒不㆑嫁】391（ヂヨバイナケレバカセズ）　女子は媒妁が無ければ人に嫁ぐべきでない。〔禮、曲禮上〕男女非㆑有㆓行媒㆒、不㆓相知㆒㆑名。〔孔叢子、雜訓〕士無㆑介不㆑見、女無㆑媒不㆑嫁。〔白虎通、嫁娶〕男不㆓自專娶㆒、女不㆓自專嫁㆒、必由㆓父母㆒、須㆓媒妁㆒何、遠㆑恥防㆓淫泆㆒也。

【女模女樣兒】392 nü^3 mu^2 nü^3 yang^4 êrh　にやけた。

【女治容而淫】393（ヂヨヤヨウナレバインナリ）　女が容貌を飾ると、やがて淫亂になる。治容誨㆑淫(**2**－**1621**・・40)を見よ。〔蔡邕、釋誨〕女治容而淫、士背㆑道而辜、人毀㆓其滿㆒、神疾㆓其邪㆒。

【嫁㆑女須㆑勝㆓吾家㆒】394（ヂヨヲカスルハスベカラクワガイヘヨリマサルベシ）　女を嫁するには、財產名望等我が家より勝れた家を擇ぶべきである。〔小學、嘉言〕安定胡先生曰、嫁㆑女必須㆘勝㆓吾家㆒者㆖、勝㆓吾家㆒、則女之事㆑人、必欽必戒、娶㆑婦必須㆘不㆑若㆓吾家㆒者㆖、不㆑若㆓吾家㆒、則婦之事㆓舅姑㆒、必執㆓婦道㆒。

【女惡㆔華丹之亂㆓窈窕㆒】395（ヂヨハクワタンノエウテウヲミダルヲニクム）　女子は、華麗な裝飾が窈窕たる貞靜の姿を亂すことを惡む。〔法言、吾子〕女惡㆔華丹之亂㆓窈窕㆒也、書惡㆔淫辭之淈㆓法度㆒也。

【女無㆓美惡㆒入㆑宮見㆑妒】396（ヂヨハビアクトナクキユウニイレバネタマル）　女は容貌の美醜の別なく、すべて後宮に入れば他の同輩にねたまれる。〔史記、魯仲連鄒陽傳〕女無㆓美惡㆒、入㆑宮見㆑妒、士無㆓賢不肖㆒、入㆑朝見㆑嫉。

【女承㆑筐无㆑實士刲㆑羊无㆑血】397（ヂヨハキヤウヲウクルニジツナク シハヤウヲサクニチナシ）　祖先の祭に當つて、婦人は薦めるべき筐

中に盛り供へる物が無くて夫の祭を佐けることが出來ず、男子も亦羊を割くに血が無くて祭られない。婦人の行爲の美は夫の命を承順するにあり、男子の事は下に應和する妻があつて全いのに、之が行はれないから、夫婦の道の全うせられないことをいふ。〔易、歸妹〕上六、女承レ筐无レ實、士刲レ羊无レ血。〔疏〕女之爲レ行、以三上有二承順一爲レ美、士之爲レ功、以三下有二應命一爲レ貴、上六處二卦之窮一、仰則无レ所二承受一、故爲二女承レ筐、則虛而无レ實、又下无二其應一、下命、則无二應レ之者一、故爲二士刲レ羊、則乾而无レ和、故曰、女承レ筐无レ實、士刲レ羊无レ血、則進退莫レ與、故无レ所レ利。

【生レ女勿二悲酸一生レ男勿二喜歡一】398（ヂヨヲウムモヒサンスルナカレ　ダンヲウムモキクワンスルナカレ） 女子を生んだとて悲しむな、男子を生んだとて喜ぶな。女子は氏なくして玉の輿に乗り、其のお蔭で一族が安樂に暮せるやうになるから。〔陳鴻、長恨歌傳〕當時謠詠有レ云、生レ女勿二悲酸一、生レ男勿二喜歡一、又曰、男不レ封レ侯女作レ妃、君看女却爲二門楣一、其爲二人心羨慕一如レ此。

二畫

【⿰女匕】6037　ヒ　妣(**3－6103**)の籀文。〔說文〕妣、⿰女匕、籀文妣省。

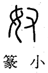
［參考］⿰女七(**3－6038**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕⿰女匕、同レ妣。⿰女七、音叱、女不レ謹。

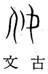
【⿰女七】6038　シツ　シチ　〔集韻〕尺栗切　［質］

女の、謹みのないこと。〔集韻〕⿰女七、女不レ謹也。

［參考］⿰女匕(**3－6037**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕⿰女匕、同レ妣。⿰女七、音叱、女不レ謹。

【奴】6039　🈩ドヌ　〔集韻〕農都切　ㄋㄨˊ　nu²　［虞］　🈔ドヌ　〔集韻〕奴故切　［遇］


小篆


古文

🈩❶**やつこ。奴隸。**㋑罪に坐して官の賤業に服する男女。〔說文〕奴、奴婢、皆古辠人、周禮曰、其奴、男子入二于辠隸一、女子入二于舂槀一、从二女又一。〔周禮、秋官、司厲〕其奴、男子入二于辠隸一、女子入二于舂槀一。〔注〕奴、從坐而沒二入縣官一者、男女同名。〔呂覽、開春〕叔嚮爲二之奴一而朡。〔注〕奴、戮也、律、坐二父兄一沒入爲レ奴。㋺しもべ。男奴。〔宋書、沈慶之傳〕耕當レ問レ奴、織當レ問レ婢。㋩こもの。賤しい業に從ふもの。〔晉書、陶侃傳〕樗蒲者、牧豬奴技耳。❷**とりこ。**俘囚。上代、捕虜は奴隸とした。〔逸周書、作雒解、俘維九邑、注〕俘囚爲レ奴。❸**自己の卑稱。**自らを奴隸に比していひ、男女共に之を用ひる。〔宋史、陸秀夫傳〕楊太妃、垂レ簾與二羣臣一語、猶自稱レ奴。〔稱謂錄、自稱、奴〕錢大昕十駕齋養新錄、婦人自稱レ奴、蓋始二於宋時一。〔赤松滄洲、大石良雄自畫像記〕大石君、將レ移二居洛東山科一、大父聞レ之、乃造謁曰、奴聞、主去二此地一、遠徙二山科一、奴老矣、恐無二復奉レ謁之日一。❹**動物・植物・什物等の名の接尾語に用ひる。**〔黃庭堅、乞猫詩〕聞道狸奴將二數子一、買レ魚穿レ柳聘二啣蟬一。〔黃庭堅、竹夫人詩〕青奴元不レ解二梳粧一。〔郝經、橄欖詩〕始覺衆果俗、橘奴復梨兒。❺**いやしいもの。劣るもの。**帑(**4－8838**)・駑(**12－44661**)に通ず。〔說文通訓定聲〕奴、凡下賤之稱、皆曰レ奴、木之類近レ根者奴、今妻帑・鳥帑、字以レ帑爲レ之、駑馬、字別作レ駑。❻**たまり水。**⿰氵孥(**7－17954**)に通ず。〔說文通訓定聲〕奴、叚借爲レ⿰氵孥。〔水經、滱水注〕水黑曰レ盧、不レ流曰レ奴。❼古は伖(**3－6040**)に作る。〔集韻〕奴、古从レ人。❽或は仅(**1－353**)に作る。〔集韻〕奴、或作レ仅。❾**姓。**〔萬姓統譜〕奴、盧奴之後、盧州府六合縣有二奴氏一。❿［現］福州地方で我の意に用ひる。🈔**他人を賤しむ語。**〔集韻〕奴、賤稱。〔後漢書、嚴光傳〕狂奴故態也。［邦］❶**やつこ。**㋑下男・下部（しもべ）の義から轉じて、下部の結髮の風。頂額の髮を廣く深く剃り落し、僅かに頂後の髮を殘して、髻を短く結んだもの。後、俠客の仲間にいふ。㋺昔、武家に奉公し、主人の供をして歩いた勇みはだの男。草履とり。㋩方形のもの。奴豆腐の類。❷**やつ。**他人を賤しみ呼ぶ稱。

【奴役】1ドエキ　奴隸の仕事。又、奴隸のやうに酷使する。〔論衡、變虛〕人病且レ死、色見二於面一、人或謂レ之曰、此必死之徵也、雖レ然、可レ移二於五鄰一、若移二於奴役一、當レ死之人。

【奴下】2ドカ　才能の劣ること。駑下(**12－44661**··3)に同じ。〔論衡、累害〕屈平潔白、邑犬群吠、吠所レ怪也、非レ俊疑レ傑、固庸能也、偉士坐以二俊傑之才一、招二致羣吠之聲一、夫如レ是、豈宜下更勉二奴下一、循中不肖上哉、不肖奴下、非レ所レ勉也、豈宜二更偶レ俗全レ身以弭レ謗哉、偶レ俗全レ身、則鄉原也。

【奴家】3ドカ　女子が己を卑下していふ稱。賤妾。女子の自稱代名詞。〔稱謂錄、自稱、奴〕六朝人多自稱レ儂、蘇東坡詩、他年一舸鴟夷吾、應レ記儂家舊姓西、儂家猶二奴家一也、奴、卽儂之轉聲也。

【奴角】4ドカク　❶犀牛(**7－20045**··9)の異名。〔酉陽雜俎、廣動植、毛篇〕犀前脚直、常倚レ木而息、木欄折則不レ能レ起、犀牛、一名奴角、有レ鴆處必有レ犀也。❷犀の鼻梁の上の角。犀角。〔本草、犀〕集解、頌曰、犀似二水牛一、三角、一在二頂上一、一在二額上一、一在二鼻上一、鼻上者、食角也、又名二奴角一、小而不レ墮。

【奴客】5ドカク　出入りのもの。〔漢書、尹翁歸傳〕奴客持二刀兵一、入レ市鬪變。

【奴干】6ドカン　北周、伊婁穆(**1－432**··138)の字。

【奴畜】7ドキク　しもべのやうに卑しんで養ふ。〔史記、衞青傳〕先母之子、皆奴二畜之一。〔論衡、吉驗〕令三其母收取奴二畜之一。

【奴橘】8ドキツ　橘をいふ。〔陸龜蒙、丹陽道中寄二友生一詩〕舊栽奴橘老、新刈女桑肥。〔李商隱、陸發二荊南一始至二商洛一詩〕青辭二木奴橘一、紫見二地仙芝一。

【奴屩】9ドキヤク　魚の名。〔太平御覽、鱗介部、奴屩魚〕臨海水土記曰、奴屩魚、長一尺、如二屩形一。

【奴會】10ドクワイ　香木の名。盧會(**8－23050**··41)に同じ。〔本草、盧會〕釋名、奴會・訥會・象膽。

【奴官】11ドクワン　しもべ。こものの官。〔唐書、王毛仲傳〕北門奴官、太盛。

【奴軍】12ドグン　明の太祖が功臣に賜はつた兵。鐵冊軍(**11－40945**··384)を見よ。

【奴怯】13ドケフ　才が下劣で卑怯なこと。〔潛夫論、邊議〕太守令長、皆奴怯畏偄、不二敢擊一。

【奴袴】14ドコ（サシヌキ）　袴の一種。指貫(**5－12034**··36)の❷に同じ。縛袴。

【奴狗】15ドコウ　やとひ人夫。〔稱謂錄、長工、奴狗〕嵩谿織志、狳猱之爲レ庸者、謂二之奴狗一。

【奴才】16ドサイ　❶劣等の才。〔晉書、劉元海載記〕（成都王既敗）元海曰、穎不レ用二吾言一、逆自奔潰、眞奴才也。❷自己の謙稱。明代、宦官は天子に對して奴才と稱し、清代、滿洲人は上奏書に奴才と稱した。〔通俗編、稱謂、奴才〕水經注、李特至二劍閣一歎曰、劉氏有二此地一、而面二縛于人一、豈不二奴才一也、唐書、郭子儀曰、子儀諸子、皆奴才也、鮑鈐稗勺、明代宦官對レ上稱二奴儕一、今人訛レ儕爲レ才。❸人を罵る語。〔陔餘叢考、奴才〕罵レ人曰二奴才一、世謂レ起二於郭令公子儀諸子皆奴才之語一、非也。❹nu²　tsʻai　奴僕。〔紅樓夢、三十二回〕這會子又叫我做、我成了倆們的奴才了。

【奴才爺】17 nu²　tsʻai　yeh²　しもべが主人の子を呼んでいふ稱呼。

【奴皁】18ドサウ　しもべ。奴隷。〔稱謂錄、僕、奴皁〕蘇轍詩、王伯出二奴皁一。

【奴子】19ドシ　㊀しもべ。めしつかひ。僮僕。〔魏書、溫子昇傳〕爲二廣陽王淵賤客一、在二馬坊一敎二諸奴子書一。〔梁武帝、河中之水歌〕平頭奴子擎二履箱一。㊁唐、董好子(9―31433・・179)の一名。

【奴視】20ドシ　奴隷と見なす。奴のやうにあつかふ。みさげる。あなどりさげすむ。奴僕視。〔楊允孚、灤京雜詠詩〕皮囊乳酒鑼鍋肉、奴視山陰對角羊。

【奴柘】21ドシヤ　樹の名。桑の一種。葉にきざみがあつて、桑より薄い。いぬぐは。やまぐは。〔本草、奴柘〕集解、藏器曰、生二江南山野一、似レ柘、節有レ刺、冬不レ凋、時珍曰、此樹似レ柘而小、有二刺葉一、亦如二柞葉一而小、可レ飼レ蠶。

【奴書】22ドシヨ　いくら勉強しても上手になれない人の字をいふ。〔金壺記〕歐陽詢曰、學而不レ變、謂二之奴書一。〔釋棲霞、論書〕若執レ法不レ變、縱能入レ木三分、亦被レ號爲二奴書一、終非二自立之地一。

【奴性】23 nu^{2} hsing^{4}　奴隷根性。

【奴星】24ドセイ　唐の韓愈の奴僕の名。〔韓愈、送レ窮文〕主人使二奴星結レ柳作レ車、縛レ草爲レ船。〔注〕孫曰、星、公之奴名。

【奴千】25ドセン　北周、宇文深(3―7067・・56)の字。

【奴卒】26ドソツ　やつこ。しもべ。〔宋史、文彥博傳〕奴卒就レ誅。

【奴奴】27ドド　北周、楊忠(6―15112・・279)の小名。

【奴輩】28ドハイ　㊀しもべども。召使たち。〔晉書、石崇傳〕崇乃嘆曰、奴輩利二吾家財一。㊁私ども。自己の卑稱。〔大槻磐溪、雲居和尙〕奴輩苦二饑寒一、欲レ乞二貴僧草鞋錢一。㊂人を賤しめていふことば。きやつら。やつら。〔晉書、石崇傳〕及三車載詣二東市一、崇乃歎曰、奴輩利二吾家財一。

【奴婢】29ドヒ ヌヒ　男のしもべと女のしもべ。下男を奴といひ、下女を婢といふ。奴も婢も、元來は奴隷である。而して、古來、奴婢を二別して罪隷の奴婢と契賣の奴婢とするが、前者は犯罪で沒せられたもの、後者は賣買に因るものである。初は犯罪に因る奴婢が多かつたが、秦漢時代以後、苛斂誅求と富強兼幷とで、貧民は生活に窮して、子女を賣買するに至り、各地に奴婢市場が開設せられ、牛馬と棚を同じうして賣買せられた。其の名も地方によつて異なり、揚雄の方言によるに、晉・秦の閒では侮、燕・齊の閒では娠、荆・淮・海・岱では奴を臧、婢を獲、齊北・燕南では男子が婢を妻とするものを臧、女子が奴を夫とするものを獲と稱し、後世は投靠之奴婢といふ。清朝では法律で之を認め、報告書を作つて地方官に報告させた。〔說文〕奴、奴婢、皆古辠人。〔方言、三〕燕齊之閒、養レ馬者謂二之娠一、官婢女廝、謂二之娠一云云、臧甬侮獲、奴婢賤稱也、荆淮海岱雜齊之閒、罵レ奴曰レ臧、罵レ婢曰レ獲、齊之北鄙、燕之北郊、凡民男而壻レ婢、謂二之臧一、女而歸レ奴、謂二之獲一、亡奴謂二之臧一、亡婢謂二之獲一、皆異方罵二奴婢一之醜稱也、自レ關而東、陳魏宋楚之閒、保庸謂二之甬一、秦晉之閒、罵二奴婢一曰レ侮。〔周禮、秋官、司厲〕其奴、男子入二于罪隷一、女子入二于舂槀一。〔注〕鄭司農云、今之爲二奴婢一、古之罪人也。〔史記、匈奴傳〕得レ人以爲二奴婢一。〔漢書、高帝紀下〕民以二饑餓一自賣爲二人奴婢一者、皆免爲二庶人一。〔後漢書、殤帝紀〕諸官府郡國王侯家奴婢。〔風俗通、怪神〕鞭二撻奴婢一、皆得二其過一。〔魏志、毛玠傳〕漢律、罪人妻子、沒爲二奴婢一、黥レ面。〔意林〕風俗通曰、古制本無二奴婢一、奴婢皆是犯レ事者、或原レ之、奴者劣、婢者卑陋。

〖略二和誘奴婢一〗30ドヒヲリヤククワイウス　奴婢を誘出し逃亡させること。略和誘は略誘人・和誘人の略語で、前者は同意しない者を方略を設けて誘出すること、後者は兩者相和合して誘出することをいふ。〔唐律、賊盜、略二和誘奴婢一〕諸略二奴婢一者、以二強盜一論、和誘者、以二竊盜一論、各罪止二流三千里一、卽奴婢別賚二財物一者、自從二強竊法一、不レ得二累而科一レ之。

【奴僕】31ドボク　㊀しもべ。奴皁。〔漢書、公孫弘等傳贊〕衞青奮二於奴僕一、日磾出二于降虜一。〔論衡、幸偶〕賤至二奴僕一。〔杜甫、課二伐木一詩〕長夏無レ所レ爲、客居課二奴僕一。㊁相術家の語。顎をいふ。流年運氣(6―17431・・307)を見よ。

〖奴僕宮〗32ドボクグウ　星相家の語。十二宮の一、奴僕の事を主る。星命家は命宮から第五宮を逆推し、相術家は地閣を以て奴僕宮と爲す。〔張果星宗、十二宮例〕凡定二十二宮一者、逆數輪轉、如二命宮在レ寅、財帛在レ丑、兄弟在レ子、田宅在レ亥、男女在レ戌、奴僕在レ酉、妻妾在レ申、疾厄在一レ未、餘同レ此。

〖奴僕視〗33ドボクシ　人を奴僕のやうに見くだしてあしらふ。奴視に同じ。

〖奴僕面〗34ドボクメン　奴僕の風采。〔賴山陽、詠史詩〕漢將猶存奴僕面、楚人誰道沐猴冠。

【奴僇】35ドリク　奴戮に同じ。〔漢書、季布傳贊〕及レ至二困厄奴僇一、苟活而不レ變、何也。〔注〕師古曰、僇、古戮字也、奴僇、謂二髡鉗爲レ奴而賣一レ之也。

【奴戮】36ドリク　辱めて奴隷とする。奴隷として賣る。奴僇。〔周禮、秋官、司厲、注〕今之爲二奴婢一、古之罪人也、故書曰、予則奴二戮汝一。〔漢書、王莽傳中〕予則奴二戮女一。〔注〕師古曰、奴戮、戮レ之爲レ奴也。

【奴虜】37ドリヨ　捕へられて奴隷となつたもの。〔史記、貨殖傳〕齊俗賤二奴虜一。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕幼孤爲二奴虜一。

【奴隷】38ドレイ　㊀しもべ。僕隷。〔顏氏家訓、勉學〕斷役奴隷。〔晉書、劉元海載記〕晉爲二無道一、奴隷御レ我。〔唐書、顏杲卿傳〕父故將妻子奴隷尙三百餘人。㊁國法の保護なく、自由を束縛せられて牛馬同樣に使役せられる人。〔後漢書、西羌傳〕羌無弋爰劍者、秦厲公時、爲三秦所二拘執一、以爲二奴隷一。

〖奴隷人〗39ドレイジン　いやしいしもべ。馬丁の類。〔韓愈、雜說四〕雖レ有二名馬一、祇辱二於奴隷人之手一。

〖奴隷制度〗40ドレイセイド　奴隷の賣買・使役を認許する制度。

【奴爪】41ヤツコダコ　武家の奴の袖を張つたさまに造つた爪。〔伊賀越道中雙六、七〕奴だこ、絲目の切れし如くなり。

【愛レ奴】42ドヲアイス　奴僕を愛する。〔元稹、陰山道詩〕從騎愛レ奴絲布衫。

【奴丫頭】43 nu^{2} ya^{1} t'ou　下婢。下女。

【奴產子】44ドサンシ　家奴の生んだ小兒。家生奴。〔漢書、陳勝傳〕秦令三少府章邯免二驪山徒人奴產子一。〔注〕服虔曰、家人之產奴也、師古曰、猶三今人云二家生奴一也。

【奴兒干】45ヌルカン　國名。又、努兒干に作る。其の名は始めて元史地理志に見える。明の洪武中、使を遣して中國に來たが達しなかつた。治は寧古塔。其の管轄地は吉林全省より樺太と蘇聯の東海濱省の地に及んだが、後、威力を失墜し、正統の初、退いて遼東の鐵嶺衞を守る。奴兒干はもと其の民を吉利迷といひ、苦夷等の諸胡と雜居してゐたが、明の永樂九年、內官亦失哈等を遣つて撫諭せしめ、奴兒干都司を設けて諸部を收集し、三百八十四衞、二十四所を領せしめた。事は露領東海濱省の奴兒干永寧寺碑に詳しい。〔元史、地理志二〕〔注〕有俊禽曰、海東青由二海外一飛來、至二奴兒干一。

【奴借屋】46イカリヤ　姓氏。〔和爾雅〕。

【奴價倍レ婢】47ドノアタヒヒニバイス　奴僕の價は婢女の倍である。晉の祖納が至孝にして、母の爲に食を作り奴のやうに働いたので、王平北が之に兩婢をおくり、且つ中郎に召しかかへた時、或る人が戲れて祖納にいつた故事。〔世說新語、德行〕祖光祿、少孤貧、性至孝、常自爲レ母炊爨作レ食、王平北以二兩婢一餉レ之、因取爲二中郎一、有二人戲レ之者一曰、奴價倍レ婢、祖云、百里奚、亦何必輕二於五羖之皮一邪。

【奴顏婢膝】48ドガンヒシツ　奴婢の態度。人に交るに卑屈な態度をするをいふ。奴顏婢睞。〔抱朴子外篇、交際〕以二奴顏婢睞一爲二曉解一。〔陸龜蒙、散人歌〕奴顏婢膝眞乞丐、反以二正直一爲二狂癡一。〔宋史、陳仲微傳〕俛レ首吐レ心、奴顏婢膝。

【認レ奴作レ郎】49ドヲミトメテラウトナス　奴僕を見て主人と思ふ。〔指月錄〕香嚴義端禪師、僧問、某今辭二和尙一、未レ審有二何指示一、師曰、禮拜著、僧禮拜、師曰、禮拜一任二禮拜一、不レ得二認レ奴作一レ郎。

【買レ奴得レ翁】50ドヲカヒテヲウヲウ　奴僕が、計らずも少時逃亡してゐた父親であつたといふ故事。〔太平御覽、居處部、井〕風俗通曰、龐儉、父先逃走、隨レ母流宕、後居二鄉里一、鑿レ井得レ銅、生遂溫富、後買レ奴、曰、堂上者我婦也、問二其故一、奴曰、我婦姓艾、字阿宏、足下有二黑子一、腋下有二赤志一、母曰、我翁也、遂爲二夫妻一、時人曰、鑿レ井得レ銅、買レ奴得レ翁。

【⿰亻女】6040 ド

奴(3－6039)の古字。〔說文〕奴、⿰亻女、古文奴。

【奵】6041 ［一］テイ チヤウ 〔集韻〕當經切 ［青］ ［二］テン 〔集韻〕他典切 ［銑］ ［三］テイ チヤウ 〔集韻〕都挺切 ［迥］

［一］❶**女の名**。〔集韻〕奵、女名。❷嫇奵は、顏がひらたい。〔集韻〕奵、嫇奵、面平。［二］娗奵は、みめよいさま。〔集韻〕奵、娗奵、好皃。［三］❶嫇奵は、きりりとしたさま。〔集韻〕奵、嫇奵、自持。❷**顏がひらたい**。［一］の❷に同じ。〔集韻〕奵、一曰、面平。

【⿰女八】6042 ハツ

義未詳。〔篇海〕⿰女八、普八切、音八、姡八也。

【奶】6043 ダイ ナイ 〔辭海〕你矮切 ［蟹］ ㄋㄞˇ nai^3

乳。乳母。母。はぐくむ。嬭(3－6824)の俗字。〔正字通〕嬭、俗讀乃、改作レ奶。〔直語補證〕艿、鐘鼎字、音乃、乳也、今人呼レ乳爲レ奶、呼二乳娘一爲二奶娘一、亦有レ所レ自。

【奶油】1 nai^3 yu^2 バター。butter

【奶牙】2 nai^3 ya^2 乳齒。

【奶公】3 nai^3 kung^1 乳母の夫。

【奶子】4 nai^3 tzŭ ❶乳。❷乳母。

【奶酒】5 nai^3 chiu^3 蒙古人の飲む酒。腐敗した牛乳を醱酵せしめ蒸餾して製する。

【奶樹】6 ダイジユ 草の名。つるにんじん。桔梗科の多年生草本。夏秋の間、鐘狀の花を開く。羊乳(9－28425‥156)の❷を見よ。

【奶酥】7 nai^3 su^1 チーズ。cheese

【奶奶】8 ダイダイ ❶しもべが年若い主婦を稱する辭。〔柳永、詞〕願奶奶蘭心蕙性。❷nai^3 nai 婦人に對する敬稱。〔西廂記、草橋店夢鶯鶯雜劇〕前日晚夕、奶奶睡了。❸孫から祖母を呼ぶ稱。❹兄の妻の稱。

【奶奶兒】9 nai^3 nai êrh 母。妻。

【奶茶】10 nai^3 ch'a^2 牛乳入りの茶。

【奶茶館】11 nai^3 ch'a^2 kuan^3 牛乳屋。

【奶娘】12 nai^3 niang^2 乳母。

【奶頭】13 nai^3 t'ou^2 乳首。

【奶餅】14 nai^2 ping^3 チーズ。cheese

【奶母】15 nai^2 mu^3 乳母。奶娘。奶媽。奶婆。

【奶媽】16 nai^3 ma^1 乳母。

【奶名】17 nai^3 ming^2 誕生の時、父母が命じた「名。

【奶皮子】18 nai^3 p'i^2 tzu 搾つた牛乳の表面に凝縮した皮で造つた湯葉の類。蒙古人の食用とするもの。蒙古語ではウルモといふ。

【奶他出家】19 nai^3 t'a^1 ch'u^1 chia^1 小兒が大病にかかつて寺に願を掛け、平癒した時、其の小兒を出家させること。

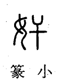
【奶糊子還沒退】20 nai^3 hu^2 tzŭ hai^2 mei^2 t'uei^4 まだ乳臭い。

三畫

【奷】6044 セン 〔集韻〕倉先切 ［先］

女のあざな。〔集韻〕奷、女字。

【奸】6045 ［一］カン 〔集韻〕居寒切 ［寒］ ㄍㄢ kan^1 ［二］カン ケン 〔集韻〕居顏切 ［刪］ ㄐㄧㄢ chien^1


小篆

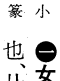
［一］❶**姦婬の罪を犯す**。〔說文〕奸、犯レ婬也、从レ女干聲。〔段注〕此字謂レ犯二姦婬之罪一、非二卽姦字一也、今人用レ奸爲レ姦、失レ之、引二伸之一、爲二凡有レ所レ犯之稱一。❷**をかす**。干(4－9165)に通ず。〔說文通訓定聲〕奸、段借爲レ干。〔小爾雅、廣言〕奸、犯也。〔左氏、襄、十四〕臣敢奸レ之。〔注〕奸、猶レ犯也。〔左氏、成、十六〕奸レ時以動。〔釋文〕奸、本作レ干。❸**みだす**。〔玉篇〕奸、亂也。❹**もとめる**。〔莊子、天運〕以奸者七十二君。〔史記、齊太公世家〕以二漁釣一奸二周西伯一。〔漢書、孔光傳〕章二王之過一、以奸二直忠一、人臣大罪也。〔注〕師古曰、奸、求也、求二直忠之名一也。❺亦、姧(3－6218)に作る。〔集韻〕奸、亦作レ姧。［二］❶**たはむれる**。**をかす**。〔集韻〕奸、犯レ淫也。❷**みだら**。よこしま。いつはる。私する。姦(3－6217)に通ず。〔六書故〕奸、男女干踰也、又作レ姦。

參考 熟語は干(4－9165)・姦(3－6217)を見よ。

【她】6046 ［一］チ ヂ 〔集韻〕陳知切 ［支］ ［二］シヤ セ 〔集韻〕子野切 ［馬］ ［三］タ 〔辭海〕讀如レ他。ㄊㄚ t'a^1 ［四］イ 〔辭海〕讀伊

［一］**女のあざな**。〔集韻〕她、女字。［二］**はは**。姐(3－6172)に同じ。〔集韻〕姐、蜀謂レ母曰レ姐、或作レ她。［三］［四］**婦人の第三人稱**。彼の女。〔辭海〕她、今語體文、用以代二女性之第三者一。

【㚢】6047 キウ ク 〔集韻〕己有切 ［有］


小篆

❶**女のあざな**。〔說文〕㚢、女字也、从レ女久聲。❷**やもめが操を立てて再嫁しないこと**。〔正字通〕㚢、嫠婦守レ貞不レ移也。

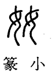
【奺】6048 キウ

㚢(3－6047)に同じ。〔廣韻〕㚢、亦作レ奺。

【⿱夂女】6049 カウ

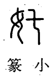
姣(3－6214)の古字。〔玉篇〕⿱夂女、古文姣。

【奻】6050 ［一］ダン ナン 〔集韻〕尼還切 ［刪］ ［二］ダン ナン 〔集韻〕女患切 ［諫］


小篆

［一］［二］**いひ爭ふ**。いさかふ。〔說文〕奻、訟也、从二二女一。〔段注〕訟者、爭也、周易、睽、傳曰、二女同レ居、其志不二同行一、革、傳曰、二女同レ居、其志不二相得一、此奻从二二女一之意也。

【奼】6051 ［一］タ 〔集韻〕丑下切 ［馬］ ［二］タ 〔集韻〕陟嫁切 ［禡］ ㄔㄚˋ ch'a^4 ［三］ツト 〔集韻〕都故切 ［遇］

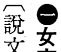

小篆

［一］［二］❶**をとめ**。或は姹(3－6248)に作る。〔說文〕奼、少女也、从レ女乇聲。〔集韻〕奼、或作レ姹。❷**美女**。〔玉篇〕奼、美女也。❸**ほこる**。吒(2－3302)・詫(10－35431)に通ず。〔說文通訓定聲〕奼、段借爲レ吒。〔司馬相如、子虛賦〕畋罷、子虛過二奼烏有先生一。〔注〕善曰、張揖曰、奼、誇也、字當レ作レ詫。［三］**美女**。〔集韻〕奼、美女。

【奼女】1 タヂヨ ❶水銀をいふ。道家の語。丹汞。

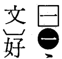
〔參同契、奼〕河上奼女、靈而最神、得レ火則飛、不レ見二埃塵一。〔注〕河上奼女者、眞汞也、見レ火則飛騰。〔本草、水銀〕釋名、汞・澒・靈液・奼女。❷少女をいふ。〔參同契〕老翁復二丁壯一、老嫗成二奼女一。❸美女。字解㊂に同じ。

【㚤】 6052 ヨク イキ 〔集韻〕逸織切 職。


小篆

❶女官。妃・婕妤の次に位する。〔說文〕㚤、婦官也、从レ女弋聲。〔北史、周紀〕皇后率二六宮二妃三㚤一、祭二先蠶西陵氏神一。❷弋(4−9656)に通ず。〔廣韻〕㚤、鉤㚤宮。〔漢書、外戚上、趙倢伃傳〕拳夫人、進爲二倢伃一、居二鉤弋宮一。❸姬(3−6230)に通ず。〔說文、段注〕玉裁按、如淳曰、姬、音怡、衆妾之總稱也、引二漢官姬妾數百一、瓚曰、漢祿秩令及茂陵書、姬、內官也、位次二婕妤下一、瓚說・淳音、皆是也、婦官字當レ作レ㚤、漢時借レ姬爲レ之、音怡、如二姒姓本作レ以、春秋亦用レ弋爲レ之、皆一聲之轉然也。

【好】 6053 ㊀カウ コウ 〔集韻〕許皓切 ㄏㄠˇ hao³ 皓。㊁カウ コウ 〔集韻〕虛到切 ㄏㄠˋ hao⁴ 號。


小篆

㊀❶うつくしい。みめよい。〔說文〕好、媄也、从二女子一。〔段注〕好、本謂二女子一、引伸爲二凡美之偁一。〔方言、二〕自レ關而西、秦晉之間、凡美色、或謂二之好一。〔國語、晉語一〕不レ可レ謂レ好。〔注〕好、美也。❷よい。好ましい。正しい。〔詩、鄭風、緇衣〕緇衣之好兮。〔傳〕好、宜也。〔詩、小雅、何人斯〕作二此好歌一。〔箋〕好、善也。〔禮、仲尼燕居〕領レ惡而全レ好者歟。〔注〕好、善也。❸くはしい。〔顏氏家訓、音辭〕夫物體自有二精麤一、精麤謂二之好惡一。❹むつまじい。なかがよい。〔詩、鄭風、女曰雞鳴〕知二子之好一レ之。〔箋〕謂二與レ己同好一。〔詩、小雅、常棣〕妻子好合、如レ鼓二琴瑟一。〔高適、贈二別晉處士一詩〕知己從來不レ易レ知、慕二君爲レ人與一レ君好。❺よしみ。友好。〔周禮、春官、典瑞〕琬圭以治レ德、以結レ好。〔左氏、文、十二〕藉二先君之命一、結二二國之好一。❻よし。又、べし。輕く添へる肯定の助辭。〔魏志、李勝傳〕好レ建二功勳一。〔韓愈、左遷至二藍關一示二姪孫湘一詩〕知汝遠來應レ有レ意、好收二吾骨一瘴江邊。❼よく。㋑ともすれば。しばしば。〔楚辭、離騷〕好蔽レ美而嫉妬。㋺氣ままに。〔宋史新編〕好爲レ之。❽をはる。完了する。〔韓偓、無題詩〕粧好方長歎。〔羅隱、送二宿松傅少府一詩〕縣好也知臨二皖水一、官閒應レ得レ看二灊水一。❾よろこぶ。好好(33)の❶を見よ。❿ちひさい。かはいらしい。〔易、中孚〕我有二好爵一。〔釋文〕好、小也。⓫あな。璧の孔。孔(3−6933)に通ず。〔說文通訓定聲〕好、爲二孔之誤一。〔爾雅、釋器〕肉倍レ好、謂二之璧一。〔注〕好、孔也。〔周禮、考工記、玉人〕璧羨度尺、好三寸。〔注〕好、璧孔也。⓬古は𡥆(3−6947)・玫(3−6097)に作る。〔集韻〕好、古作二𡥆・玫一。⓭古は瓘(7−21368)に作る。〔康熙字典〕好、古文瓘。⓮現 ㋑たやすく。㋺きげんがよい。ぶじ。㋩都合がよい。㊁❶このむ。すく。㋑とる。〔顏氏家訓、音辭〕人心有レ所二去取一、去取謂二之好惡一。㋺めでる。〔楚辭、九章、惜誦〕父信レ讒而不レ好。〔注〕好、愛也。㋩よみする。〔詩、小雅、鹿鳴〕人之好レ我。〔箋〕好、猶レ善也。㋥よろこぶ。〔論語、里仁〕惟仁者能好レ人、能惡レ人。〔詩、小雅、彤弓〕中心好レ之。〔傳〕好、說也。〔呂覽、壅塞〕齊宣王好レ射。〔注〕好、喜也。㋭たのしむ。〔法言、孝至〕習レ亂則好二始治一也。〔注〕好、樂也。㋬くみする。〔詩、小雅、小明〕好二是正直一。〔箋〕好、猶レ與也。㋣かたよりこのむ。私愛。私好。〔書、洪範〕無レ有レ作レ好。〔馬注〕好、私好也。❷このみ。すき。〔南史、周捨傳〕語及二嗜好一。❸このんで。〔漢書、霍光傳〕今陛下好與二諸生一語。❹ひきでもの。〔左氏、昭、五〕宴有二好貨一。〔注〕宴飮以レ貨爲レ好。〔會箋〕好貨者、酬幣也。❺はなはだ。〔新方言、釋詞〕今人謂レ甚曰レ好、如下甚大曰二好大一、甚快曰中好快上。❻姓。〔通志、氏族略、去聲〕好氏、見二纂要一。

名乘 スミ。タカ。ヨシ。

參考 よい・このむの二つの場合、音を異にするのは後世のことである。〔說文、段注〕凡物之好惡、引伸爲二人情之好惡一、本無二二音一、而俗強別二其音一。

【好啊】 1 hao³ a 御機嫌宜しうございますか。今日は。好哇。

【好哇】 2 hao³ wa 好啊に同じ。

【好愛】 3 カウアイ すきこのみ。〔舊唐書、柳公綽傳〕惟謹二好愛一、能保二其身一。

【好鞍】 4 カウアン 立派な鞍。〔李白、少年行〕好鞍好馬乞與レ人、十千五千旋沽レ酒。

【好衣】 5 カウイ 美しい衣服。美衣。〔漢書、貢禹傳〕商賈求レ利、東西南北、各用二智巧一、好衣美食、歲有二十二之利一、而不レ出二租稅一。〔新書、匈奴〕出二好衣閼一、且自爲レ贛レ之。

【好易】 6 カウイ たやすいことをこのむ。〔譚子化書〕奢者好レ難、儉者好レ易。

【好異】 7 カウイ 珍しいものをこのむ。〔書、畢命〕政貴レ有レ恆、辭尙二體要一、不二惟好レ異。

【好意】 8 カウイ しんせつ心。厚情。〔蘇軾、送二張嘉州一詩〕歸來還受一大錢、好意莫レ違黃髮叟。

【好意思】 9 hao³ i⁴ ssŭ 心地よく。

【好友】 10 カウイウ 善い友。仲睦じい友。〔詩、小雅、車舝〕雖レ無二好友一、式燕且喜。

【好遊】 11 カウイウ あそびをこのむ。〔孟子、盡心上〕子好レ遊乎、吾語二子遊一。〔淮南子、道應訓〕盧敖曰、敖幼而好レ遊、至レ長不レ渝。

【好佚】 12 カウイツ 安佚を好む。〔逸周書、小開解〕舍二人之好レ佚。

【好陰】 13 カウイン 美しいかげ。心地よいかげ。〔元稹、桐花詩〕朧月上二山館一、柴桐垂二好陰一。〔白居易、晚涼偶詠詩〕新葉多二好陰一、初筠有二佳色一。

【好飮】 14 カウイン 飮酒を好む。〔史記、陳軫傳〕陳軫過レ梁、欲レ見二犀首一曰、公何好レ飮也、犀首曰、無レ事也。

【好讔】 15 カウイン 道に背いた誤の言葉を好む。〔呂覽、重言〕荊莊王立、三年不レ聽而好レ讔、成公賈入諫、王曰、有レ鳥、止二于南方之阜一、三年不レ動、不レ飛不レ鳴、是何鳥也、王射レ之。〔注〕讔、謬言。

【好韻】 16 カウヰン よい韻。〔全唐詩話〕酉陽雜俎云、予在レ城時、常與レ客聯句、共押二平聲好韻一。

【好雨】 17 カウウ 丁度よい時に降る雨。よいうるほひの雨。〔杜甫、春夜喜レ雨詩〕好雨知二時節一、當レ春乃發生。〔王惲、過二沙溝店一詩〕淸風破レ暑連二三日一、好雨依レ時抵二萬金一。

【好雲】 18 カウウン よい雲。〔羅隱、緜谷迴寄二蔡氏昆仲一詩〕芳草有レ情皆礙レ馬、好雲無レ處不レ遮レ樓。

【好雲樓】 19 カウウンロウ 淸、李聯琇(6−14459・2012)の室名。

【好運】 20 カウウン よい運命。よいめぐりあはせ。好采。好彩。

【好詠】 21 カウエイ 好い詩歌。立派な詩歌。〔高啓、梅花詩〕自レ去二何郞一無二好詠一、東風愁寂幾回開。

【好園】 22 カウヱン よいその。立派な庭園。〔張說、同二王僕射一山亭餞二岑廣武羲一得二言字一詩〕琴爵留二佳境一、山池借二好園一。

【好惡】 23 カウヲ このみとにくしみ。すききらひ。

愛憎。〔禮、樂記〕謹三其所二好惡一而已矣。〔左氏、襄、十一〕同二好惡一獎二王室一。〔孝經、三才章〕示レ之以二好惡一而民知レ禁。〔孟子、告子上〕其好惡與レ人相近也者、幾希。〔莊子、寓言〕利義陳二乎前一而好惡是非。〔列子、楊朱〕五情好惡、古猶レ今也。〔韓非子、孤憤〕若下夫卽二主心一同中乎好惡上、固其所二自進一也。〔管子、牧民〕召レ民之路、在三上之所二好惡一。〔楚辭、離騷〕民好惡其不レ同兮、惟此黨人其獨異。〔史記、管仲傳〕與レ俗同二好惡一。

〖好惡之情〗24（カウヲノジヤウ）　すききらひの心持。〔莊子、漁父〕適二受與之度一、理二好惡之情一。

〖好惡同レ之〗25（カウヲコレヲオナジウス）　すききらひを同じくする。〔左氏、昭、二十五〕戮レ力壹レ心、好惡同レ之。

〖好惡不レ愆〗26（カウヲアヤマラズ）　すききらひの情を公正にしてあやまらない。〔左氏、昭、十五〕好惡不レ愆、民知レ所レ適、云云、率レ義不レ爽、好惡不レ愆。

〖好惡者德之失〗27（カウヲナルモノハトクノシツ）　矢鱈にすききらひすることは德を失ふもとである。〔莊子、刻意〕喜怒者道之過、好惡者德之失。

〖好惡無レ節二於內一知誘二於外一〗28（カウヲウチニセツナクチソトニイザナハル）　好惡の情に節制なく、知識が外物に引かれる。〔禮、樂記〕好惡無レ節二於內一、知誘二於外一、不レ能レ反レ躬、天理滅矣。

【好漚】29（カウオウ）　鷗をこのむ。漚は鷗に通ず。〔列子、黃帝〕海上之人、有下好二漚鳥一者上。

【好音】30（カウオン・カウイン）　❶善いこゑ。うるはしい音聲。〔詩、魯頌、泮水〕食二我桑黮一、懷二我好音一。〔漢書、郊祀志上〕李延年、以二好音一見。〔禰衡、鸚鵡賦〕采采麗容、咬咬好音。〔杜甫、蜀相詩〕映レ堦碧草自春色、隔レ葉黃鸝空好音。〔歐陽脩、送二徐無黨南歸一序〕予竊悲、其人文章麗矣、言語工矣、無レ異二草木榮華之飄風、鳥獸好音之過レ耳也。❷よいおとづれ。よいたより。〔詩、檜風、匪風〕誰將二西歸一、懷二之好音一。

〖留二好音樂一〗31（コノミヲオンガクニトドム）　音樂を愛好する。〔漢書、史丹傳〕元帝被レ疾、不レ親二政事一、留二好音樂一。〔注〕孟康曰、留二意於音樂一。

【好歌】32（カウカ）　善い歌。立派な歌。〔詩、小雅、何人斯〕作二此好歌一、以極二反側一。〔王安石、示二兪秀老一詩〕暮年要與レ君攜レ手、處處相煩作二好歌一。

【好呀】33 hao^3 ya　ごきげんよう。好在。〔紅樓夢、六回〕劉姥姥迎上來問道、好呀、周嫂子。

【好開】34（カウカイ）　よくひらく。〔杜甫、秋盡詩〕不レ辭萬里長爲レ客、懷抱何時得二好開一。

【好艾】35（カウガイ）　嬖臣を寵愛すること。好內(283)の對。〔國語、晉語一〕國君好レ艾、大夫殆。〔注〕艾、當レ爲レ外、聲相似誤也、好レ外多二嬖臣一也。

【好交】36（カウカウ）　交際を好む。〔漢書、朱博傳〕伉俠好レ交、隨二從士大夫一、不レ避二風雨一。

【好好】37（カウカウ）　❶喜ぶさま。〔詩、小雅、巷伯〕驕人好好、勞人草草。〔傳〕好好、喜也。〔韓詩外傳、二〕其意好好。❷甚だよい。〔李商隱、送三崔珏往二西川一詩〕浣花牋紙桃花色、好好題レ詩詠二玉鉤一。❸よい者を好む。〔國語、晉語一〕君子好レ好而惡レ惡、樂レ樂而安レ安。〔注〕好者好レ之、惡者惡レ之。❹女子の名。〔張耒、贈二張公賁一詩〕酒市逢二好好一。

〖好好的〗38 hao^3 hao tê　❶極めてよい。❷よく。注意して。❸故無く。わけなく。

〖好好爺〗39（カウカウヤ）　人の良いおやぢ。わる氣のない老夫。

〖好好先生〗40（カウカウセンセイ）　何事にでもよしよしといふ人。好人物。〔通俗編、品目、好好先生〕譚槩、後漢司馬徽不レ談二人短一、與レ人語、美惡皆言レ好、有三人問二徽安否一、答曰、好、有三人自陳二子死一、答曰、大好、妻責レ之曰、人以二君有德一、故此相告、何聞二人子死一、反亦言レ好、徽曰、如二卿之言一亦大好、今人稱二好好先生一、本レ此。

【好香】41（カウカウ）　よいにほひ。〔李中、柴司徒牡丹詩〕翠幄密籠鶯未レ識、好香難レ掩蝶先知。

【好客】42（カウカク）　よい客。〔王維、登二裴迪秀才小臺一作詩〕好客多乘レ月、應門莫レ上レ關。〔白居易、秋霖卽事聯句三十韻詩〕好客無二來者一、貧家但悄然。

【好樂】43（カウガク）　❶音樂を好む。〔孟子、梁惠王下〕莊暴見二孟子一曰、暴見二於王一、王語レ暴以レ好レ樂、暴未レ有二以對一也、曰、好レ樂何如、孟子曰、王之好レ樂甚、則齊國其庶幾乎。〔漢書、匡衡傳〕衡竊見、聖德純茂、專精二詩書一、好レ樂無レ厭。❷（カウガウ）好みねがふ。〔大學〕有レ所二好樂一、則不レ得二其正一。〔章句〕好・樂、並去聲。❸（カウラク）好みたのしむ。又、好み。嗜好。〔韓愈、答二柳柳州食二蝦蟇一詩〕常懼染二蠻夷一、失二平生好樂一。

【好學】44（カウガク）　❶學問を好む。〔禮記、射義〕好レ學不レ倦、好レ禮不レ變。〔左氏、昭、十三〕好レ學而不レ貳。〔論語、雍也〕有二顏回者一好レ學。〔論語、公冶長〕敏而好レ學、不レ恥二下問一。〔中庸〕好レ學近二乎知一。〔荀子、脩身〕好レ學遜敏焉。〔法言、學行〕可レ謂レ好レ學已乎。〔班固、東都賦〕匪二唯主人之好レ學。❷字號。㋑唐、夏侯孜(**3－5720**··103)の字。㋺宋、蕭之敏(**9－32012**··393)の字。㋩明、姬敏(**3－6230**··82)の字。㋥明、崔敏(**4－8178**··151)の字。

【好喝】45（カウカツ）　佛好い一喝。〔五燈會元〕慈明上レ堂、方會二禪師出一レ問、幽鳥語喃喃辭、雲入二亂峯一時如何、明曰、我行二荒草裏一、汝又入二深村一、師曰、官不レ容レ針更借二一問一、明便喝、師曰、好喝、明又喝、師亦喝、明連喝、兩喝、師禮拜。

【好狎】46（カウカフ）　したしみなれる。〔禮、曲禮上〕不二侵侮一、不二好狎一。

【好合】47（カウガフ）　❶心が合ふ。仲が善い。愛情こまやか。親密。〔詩、小雅、常棣〕妻子好合、如レ鼓二琴瑟一。〔箋〕好合、志意合也。〔後漢書、皇后紀序〕孝章以下、漸用レ色授二恩遇一、好合遂忘二淄蠹一。〔陸機、贈三馮文羆遷二斥丘令一詩〕疇昔之遊、好合纏緜。❷似合ひの結婚。〔陳鴻、長恨歌傳〕好合如レ舊。

【好看】48（カウカン）　❶好い景色。良景。好景。〔李中、和二潯陽宰感舊絕句一詩〕潯陽物景眞難レ及、練瀉澄江最好看。❷このましい。〔水滸傳、四回〕許多面皮、都不二好看一。❸hao^3 k'an^4 美しい。綺麗な。立派な。美貌。

【好閒】49 hao^4 hsien^2　惰ける。怠る。

【好感】50（カウカン）　よいかんじ。うれしいかんじ。意にかなつた印象。

【好漢】51（カウカン）　役に立つ立派なをとこ。善い人物。快男子。又勇敢な者。漢の武帝が匈奴を征し、其の威が行はれて、匈奴が漢兵を漢兒・好漢と稱して畏れた故事。〔舊唐書、狄仁傑傳〕初則天嘗問二仁傑一曰、朕要二一好漢任使一、有乎、仁傑曰、荊州長史張柬之、其人雖レ老、眞宰相才也。〔蘇軾、諸公餞二子敦一軾以レ病不レ往復次二前韻一詩〕人間一好漢、誰似二張長史一。〔詢蒭錄〕漢自三武帝征二伐匈奴一二十餘年、聞二漢兵一莫レ不二畏者一、稱レ之爲二漢兒一、又曰二好漢一、自後遂爲二男子之稱一。

【好漢子】52 hao^3 han^4 tzŭ　快男子。好漢に同じ。

〖好漢識二好漢一〗53（カウカンハカウカンヲシル）　立派な男子は立派な男子の價値を認める。〔水滸傳、二回〕惺惺惜二惺惺一、好漢識二好漢一。

〖好漢不當兵〗54 hao^3 han^4 pu^4 tang^1 ping^1　好人不當兵(216′)に同じ。

【好諫】55（カウカン）　よく諫める。〔孔子家語、致思〕夫好諫者思二其君一。

【好奇】56（カウキ）　奇異のことを好む。好事。〔論衡、案書〕好奇無レ已。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕秉二愛好奇一。

〖好奇心〗57（カウキシン）　ものずきの心。

【好氣】58（カウキ）　❶血氣にはやる。〔史記、貨殖傳〕好レ氣任俠爲レ姦。❷天地の美しい氣。〔梁簡文帝、謝下敕二賚錢幷白檀香一充中法會上啓〕黃紙詔書、先開二泉府一、青雲好氣、次集二桂宮一。❸よいかをり。〔梁簡文帝、傷二美人一詩〕熏爐含二好氣一、庭樹吐二華滋一。

〖好氣兒〗59 hao^3 ch'i^4 êrh　氣持が良い。

【好喜】60 hao^4 hsi　喜ぶ。好む。

【好幾】61 hao^2 chi^3　いくつも。澤山に。

〖好幾家〗62 hao^2 chi^3 chia^1　幾軒も。

〖好幾遭〗63 hao^2 chi^3 tsao^1　幾度か。度々。

〖好幾次〗64 hao^2 chi^3 tz'ŭ^4　何遍も。幾度も。

〖好幾天〗65 hao^2 chi^3 t'ien^1　數日。澤山の日數。

【好期】66（カウキ）　よい時期。

【好機】67（カウキ）　よい機會。善いをり。

〖好機會〗68（カウキクワイ）　よい機會。好機。

【好義】69（カウギ）　❶正しい道を行ふことを好む。〔大學〕未レ有二上好レ仁、而下不レ好レ義者一也。〔論語、顏淵〕夫達也者、質直而好レ義、察レ言而觀レ色、慮以下レ人、在レ邦必達、在レ家必達。❷明、鄭士利(**11－39647**··400)の字。

【好誼】70（カウギ）　よしみ。しんせつ。親善。

【好戲】71カウギ ㊀角力を好む。〔史記、秦紀〕韓武王有レ力、好レ戲、力士任鄙・烏獲・孟說、皆至二大官一。㊁戲れを好む。冗談を好む。〔南史、褚炤傳〕彥回、性好レ戲、以二軺車一給レ之。

【好久】72 hao² chiu³ 永い間。隨分暫く。

【好仇】73カウキウ よい相手。似つかはしいつれあひ。仇は匹。一說に、仇敵と仲直りする。好逑に同じ。〔詩、周南、兔罝〕赳赳武夫、公侯好仇。〔箋〕怨耦曰レ仇、此兔罝之人、敵國有二來侵伐者一、可レ使三和二好之一。〔疏〕毛以爲、赳赳然有二威武一之夫、有レ文有レ武、能匹二耦於公侯之志一、爲二公侯之好匹一。〔漢書、匡衡傳〕詩曰、窈窕淑女、君子好仇。〔注〕師古曰、仇、匹也。〔後漢書、文苑下、邊讓傳〕攜二窈窕一、從二好仇一。〔注〕仇、匹也、毛詩曰、君子好仇。〔曹植、七啓〕望二雲際一兮有二好仇一、天路長兮往無レ由。〔嵇康、琴賦〕凌二扶搖一兮憩二瀛洲一、要二列子一兮爲二好仇一。

【好休】74 hao³ hsiu¹ 無事に濟ます。〔西廂記、草橋店夢鶯鶯雜劇〕夫人得好休、便不休。

【好逑】75カウキウ 善いつれあひ。よい配偶。よい相手。好仇。好匹。〔詩、周南、關雎〕窈窕淑女、君子好逑。〔傳〕逑、匹也、言下后妃有二關雎之德一、是幽閒貞專之善女、宜上レ爲二君子之好匹一。〔後漢書、皇后紀贊〕詩美二好逑一。〔元稹、有鳥詩〕飛飛漸上高高閣、百鳥不レ猜稱二好逑一。

【好逑傳】76カウキウデン 明末の小說の篇名。名教中人編。作者の姓名不詳。十八回より成る。一名、俠義風月傳。

【好裘】77カウキウ 立派なかはごろも。〔南史、中天竺國傳〕出二金縷・織成・金罽・細靡・白疊・好裘・毾㲪一。

【好吃】78 hao³ chʻih 味のよい。うまい。

【好吃懶做】79 hao⁴ chʻih¹ lan³ tsuo⁴ 食ふことを好み懶惰な。食ひしん坊の仕事嫌。怠者の形容。

【好吃羊卵肉】80 hao⁴ chʻi¹ yang² luan³ jou⁴ 人情を思ひやらぬ者に喩へる。滿洲の諺。

【好喫】81カウキツ よくたしなむ。〔獨醒雜志〕范文正公云、常調官好做二家常飯一、好喫二眞名言一。

【好況】82カウキヤウ 相場が次第に上つて景氣がよいこと。

【好強】83カウキヤウ hao³ chʻiang² 剛情な。

【好虛】84カウキヨ うそを好む。根も葉もないことを信ずる。〔論衡、感虛〕下世好レ虛、不レ原二其實一。

【好虛體面】85 hao⁴ hsü¹ tʻi³ mien 見榮坊。虛榮心の強い人。

【好興】86カウキヨウ このましいおもむき。〔牟融、春遊詩〕笑拂二吟鞭一邀二好興一、醉欹二烏帽一逞二雄談一。

【好金】87カウキン 質のよい黃金。良金。〔英雄記〕朝廷以二呂布一爲二平東將軍一、魏太祖手書與レ布曰、國家無二好金一、孤自取二家好金一、更相爲作レ印。

【好句】88カウク 善い文句。〔六一詩話〕詩人貪レ求二好句一、而理有レ不レ通、亦語病也。

【好苦】89 hao² kʻu³ 甚だ憐れな。又、甚だ苦しい。

【好果】90カウクワ 善い結果。好結果。よいでき。良成績。

【好花】91カウクワ 美しい花。好華。〔吳融、廢宅詩〕幾樹好花閑二白晝一、滿庭荒草易二黃昏一。〔蘇轍、送二文太師致仕還レ洛詩〕盈尺好花扶二几杖一、拂天修竹倚二庭除一。

【好花錢】92 hao⁴ hua¹ chʻien² 金使ひを好む。

【好花羞レ上二老人頭一】93カウクワラウジンノカシラニノボルヲハヅ 美しい花は老人の頭にさされるのを羞ぢる。蘇軾の吉祥寺賞二牡丹一詩の句に本づく。〔通俗編、草木、好花羞レ上二老人頭一〕蘇軾詩、年老簪レ花不二自羞一、花應レ羞レ上二老人頭一。

【好貨】94カウクワ 好いしなもの。又、宴會の際の引出物。〔左氏、昭、五〕宴有二好貨一、飧有二陪鼎一。〔注〕宴飲以レ貨爲レ好。〔會箋〕好貨者、酬幣也。〔國語、周語中〕王叔簡公飲二之酒一、交酬好貨皆厚。〔注〕好貨、宴飲以レ貨爲レ好。

【好華】95カウクワ 美しい花。好花に同じ。

【好窠】96カウクワ 錦をいふ。〔鄭谷、錦詩〕禮部郎官人所レ重、省中別占好窠名。

【好過】97カウクワ ㊀物をすきこのむあやまち。〔管子、心術上〕宮潔レ之者、去二好過一也。〔注〕去二嗜好之過一。㊁ hao³ kuo⁴ 過しよい。好過的年を見よ。

【好過的年】98 hao³ kuo⁴ tê nien² すごしよい年。暮らすに樂な年。

【好快】99 hao³ kʻuai⁴ 甚だはやい。

【好會】100カウクワイ よしみを結ぶ寄合。交歡の會合。嘉會。〔史記、孔子世家〕乃使三使告レ魯、爲二好會一、會二於夾谷一。〔說苑、奉使〕晉楚之君、相與爲二好會於宛丘之上一。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕貽レ宴好會、不レ常二厥數一。

【好懷】101カウクワイ よいおもひ。樂しい思ひ。〔陶潛、飲酒詩〕清晨聞レ叩レ門、倒レ裳往自開、問レ子爲レ誰歟、田父有二好懷一。

【好外】102カウグワイ ㊀好んで賢人に交はること。賢士を禮遇する。〔管子、侈靡〕疏レ戚而好レ外。〔注〕言下自疏二己親一好交中外人上。㊁好艾(35)に同じ。㊂ hao⁴ wai⁴ ㋑奇妙なものを好む。いか物食ひ。㋺男色を好む。

【好レ外士死レ之】102′ソトヲコノメバシコレニシス 賢士を愛しこれを禮遇して居れば、知遇に感じて、士はその人のために命を捧げる。〔國語、魯語下〕好レ內女死レ之、好レ外士死レ之。〔孔子家語、曲禮子夏問〕吾聞、好レ外者士死レ之、好レ內者女死レ之。

【好官】103カウクワン ㊀よい官職。美官。〔宋書、羊玄保傳〕太祖嘗曰、每レ有二好官缺一、我未四嘗不三先憶二羊玄保一。〔張籍、送二汀州源使君一詩〕曾成趙北歸朝計、因拜王門最好官。〔宋史、曹彬傳〕彬退曰、人生何必使レ相、好官亦不レ過二多得レ錢爾。㊁ hao³ kuan¹ よい役人。

【好官須二我爲レ之】104カウクワンハスベカラクワレコレトナルベシ 自分は善い官に就きたいとばかり思つてゐる。〔宋史、鄧綰傳〕綰曰、笑罵從レ汝、好官須二我爲レ之。

【好冠】105カウクワン 立派な冠。高位の人の用ひる冠。〔穀梁、哀、十三〕吳子欲下因二魯之禮一、因中晉之權上、而請二冠端而襲一、云云、吳王夫差曰、好冠來、孔子曰、大矣哉、夫差未レ能レ言レ冠、而欲レ冠也。

【好還】106カウクワン もとへかへることを好む。〔老子、三十〕以レ道佐二人主一者、不三以レ兵強二天下一、其事好レ還。

【好玩】107カウグワン もてあそびもの。玩弄品。又、好んでもてあそぶ。好翫。〔梅堯臣、和二吳冲卿學士石屛一詩〕留爲三千古作二好玩一、愼勿三傾樸同二玉碑一。〔孔平仲、雞冠詩〕及レ今乃腐草、好玩安可レ常。

【好翫】108カウグワン 好んでもてあそぶ。好玩。〔吳志、韋曜傳〕今世之人、多不レ務二經術一、好二翫博奕一。

【好薰】109カウクン よいかをり。〔法苑珠林〕名香好薰、遍布二遠近一。

【好徑】110カウケイ よこみちを好む。よこしまなことを好む。〔老子、五十三〕大道甚夷、而民好レ徑。〔注〕言、大道蕩然正平、而民猶尙舍レ之而不レ由、好從二邪徑一。

【好景】111カウケイ よいけしき。好風景。勝景。好看。〔蘇軾、贈二劉景文一詩〕一年好景君須レ記、正是橙黃橘綠時。〔劉秉忠、寄二友人一詩〕好景與レ時渾易レ過、可レ人和レ月只難レ圓。

【好溪】112カウケイ 川の名。浙江省の境。源は浙江省縉雲縣の東北の大盆山。西南流して麗水縣を經、大溪に注ぐ。水怪が多かつたので、もと惡溪といふ。〔唐書、地理志五〕麗水縣東十里有二惡溪一、多二水怪一、宣宗時、刺史段成式有二善政一、水怪潛去、民謂二之好溪一。〔太平寰宇記〕惡溪、出二麗水縣東北大甕山一、西南二百十五里、至二括州城下一、謝靈運答二從弟一書云、出二惡江一至二大溪一、水清如レ鏡。

【好屐】113カウゲキ 履物を好む。晉の阮孚が屐を好み、祖の約が財を好んだのと、その得失を爭つた故事。〔晉書、阮孚傳〕初祖約、性好レ財、孚性好レ屐、同是累而未レ判二其得失一、有レ詣レ約、見三正料二財物一、客至屛當不レ盡、餘兩小簏、以著二背後一、傾レ身障レ之、意未レ能レ平、或有レ詣レ阮、正見二自蠟レ屐、因自嘆曰、未レ知二一生當レ著二幾量屐一、神色甚閑暢、於レ是、勝負始分。

【好逆】114カウゲキ 好意を以てむかへる。逆はむかへる。歡迎。〔左氏、昭、五〕君若驩焉、好二逆使臣一、滋二敝邑休殆一、而忘二其死一、亡無レ日矣。〔左氏、定、八〕好二逆其使一、猶懼レ不レ至。〔會箋〕好逆、歡迎也。

【好缺】115カウケツ 良い職。好地位。〔清國行政法汎論、文官缺、備考〕於二任地豐饒、人民殷富、而官吏收得最多之時一、乃曰二美缺好缺一。

【好潔】116カウケツ 清潔をこのむ。潔癖。〔左氏、定、三〕莊公卞急而好レ潔。〔琅琊代醉編、好潔〕庾炳之性好レ潔、上大夫造レ之者去出レ戶、輒令二拭レ席洗レ牀、王思微好レ潔、左右提レ衣、悉令下用二白紙一裹中手指上、宅中有レ犬、汙二屋棟一、思微令二門生洗レ之、更令二刮削一、復不レ足、遂令レ易レ柱。

【好月】117（カウゲツ）　よい月。良月。〔李白、尋二高鳳石門山中元丹丘一詩〕高松來二好月一、空谷宜二清秋一。〔雍陶、題二大安池亭一詩〕好風好月無二人宿一、夜夜水禽船上棲。

【好業】118（カウゲフ）　よい仕事。〔管子、樞言〕其事レ親也、妻子具、則孝衰矣、其事レ君也、有二好業一、家室富足、則行衰矣、爵祿滿、則忠衰矣。

【好見】119（カウケン）　好んで見る。〔左氏、昭、元〕我好見レ之、不レ知三其有二異志一也。

【好言】120（カウゲン）　❶よい言葉。立派な言葉。好辭。好語。善言。〔詩、小雅、正月〕好言自レ口、莠言自レ口。〔韓非子、解老〕實心愛而不レ知、故好言繁辭以信レ之。❷好んで口にする。好言二人之惡一謂二之讒一を見よ。❸ hao^3 yen^1 言葉巧みに。

〖好言二人之惡一謂二之讒一〗121（コノンデヒトノアクヲイフ コレヲザントイフ）　好んで人の惡事をいふことを讒といふ。〔莊子、漁父〕不レ擇二是非一而言、謂二之諛一、好言二人之惡一、謂二之讒一。

【好儉】122（カウケン）　儉約を好む。〔漢書、匡衡傳〕晉侯好レ儉而民畜聚。〔國史略、村上天皇〕朝廷實能惡レ奢好レ儉。

【好賢】123（カウケン）　賢者を好む。〔孔叢子、記義〕於二緇衣一見二好レ賢之心至一也。

【好謙】124（カウケン）　❶へりくだることをこのむ。〔易、謙〕人道惡レ盈而好レ謙。〔韓詩外傳、三〕人道惡レ盈而好レ謙。〔後漢書、樊宏傳〕常戒二其子一曰、天道惡レ滿而好レ謙、前世貴戚、皆明戒也。❷字號。㋑後周、劉詞(**2**－**2224**··321)の字。㋺元、朱夏(**6**－**14424**··63)の字。

【好古】125（カウコ）　❶古のことをこのむ。昔をしのび慕ふ。〔論語、述而〕述而不レ作、信而好レ古。〔孔安國、尚書序〕若好レ古博雅君子、與レ我同レ志、亦所レ不レ隱也。〔孔叢子、公儀〕樂レ道好レ古。〔陳琳、檄二呉將校部曲一文〕耽レ學好レ古。❷字號。㋑宋、唐敏求(**2**－**3709**··506)の字。㋺宋、李師愈(**6**－**14459**··1331)の字。㋩宋、李伯敏(**6**－**14459**··1867)の字。㋥元、宋敏(**3**－**7078**··188)の字。㋭元、彭九萬(**4**－**10003**··139)の字。㋬明、徐善述(**4**－**10110**··532)の字。

〖好古軒〗126（カウコケン）　鈴木行義の號。鈴木龍洞(**11**－**40267**··39)を見よ。

〖好古堂〗127（カウコダウ）　清、姚際恆(**3**－**6202**··160)の「室名。

【好胡】128（カウコ）　金、蕭懷忠(**9**－**32012**··334)の本名。

【好箇】129（カウコ）　丁度善い。適當な。〔朱子語類、二〕冀都是正天地中間好箇風水山脈、從二雲中一發來。

【好語】130（カウゴ）　よいことば。立派な言葉。うまい言葉。好言。〔史記、南越尉佗傳〕不レ可下以說二好語一入見上。〔蘇軾、歸二宜興一留二題竹西寺一詩〕山寺歸來聞二好語一、野花啼鳥亦欣然。

〖好語似レ珠〗131（カウゴタマニニル）　詩文中の善い語句をいふ。〔蘇軾、次二韻答子由一詩〕好語似レ珠穿二一一一、妄心如レ膜退二重重一。

【好口】132（カウコウ）　自分勝手なことをいふこと。〔水滸傳、十一回〕備這斯、還自好口。

【好困】133　hao^3 k'un^4　非常に睡氣がさす。

【好些】134　hao^3 hsieh^1　多く。澤山。少し良い。

〖好些個〗135　hao^3 hsieh^1 ke　澤山。幾つも。

〖好些樣兒〗136　hao^3 hsieh^1 yang^4 êrh　幾種も。

【好才】137（カウサイ）　立派な才能。又、すぐれた才能の人。妙才(**3**－**6090**··86)の❶に同じ。

【好采】138（カウサイ）　好彩に同じ。

【好彩】139（カウサイ）　よい運命。好運。好采。〔李白、送二外甥鄭灌從軍一詩〕六博爭レ雄好彩來、金盤一擲萬人開。〔劉績、放歌行〕也知六博無二高手一、時至君看好彩來。

【好菜】140　hao^3 ts'ai^4　好い菜。うまい料理。

【好在】141（カウザイ）　❶達者で暮す。又、別れる時に先方の人を祝していふことば。健全なれかし。御きげんよう。健在。〔杜甫、送二蔡希魯都尉還二隴右一因寄二高三十五書記一詩〕因レ君問二消息一、好在阮元瑜。〔杜詩鏡詮〕朱注、好在、乃存問之詞。〔白居易、初到二忠州一贈二李六一詩〕好在天涯李使君、江頭相見日黃昏。〔蘇軾、送二王緘一詞〕故山知二好在一、孤客自悲涼。❷ hao^3 tsai^4　仕合せよく。幸に。

【好相】142（カウサウ）　立派な相貌。立派な人相。〔晉書、羊祜傳〕祜嘗遊二汶水之濱一、遇二父老一、謂レ之曰、孺子有二好相一、年未二六十一、必建二大功於天下一、既而去、莫レ知レ所レ在。

【好像】143　hao^3 hsiang^4　よく似る。まるで云云の樣である。

【好煞】144　hao^3 sha^4　愛著する。あてつける。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕燈下交鴦頸、端詳可憎、好煞人也。

〖好煞野〗145　hao^3 sha^4 yeh^3　甚だ野鄙なこと。

【好山】146（カウザン）　美しい山。〔張詠、晚泊二長臺驛一詩〕自戀二明時一休未レ得、好山非三是不二相容一。〔貫休、春山行〕好山行恐レ盡、流水語相隨。〔戴復古、杜仲高相遇約二李尉一詩〕苦恨好山移不レ得、生憎俗客去還來。

【好士】147（カウシ）　❶立派な人物を好む。〔荀子、君道〕愛レ民而安、好レ士而榮。❷立派な人物。〔魏志、陳思王植傳、注〕太祖從レ之、尋辟レ儀爲レ掾、到二與論議一、嘉二其才朗一曰、丁掾好士也。

【好仕】148（カウシ）　役人になることを好む。役人になりたがる。〔論衡、問孔〕何以解二於貪官好仕一。

【好死】149（カウシ）　❶死ぬことを好む。❷死んで立派に葬られること。好死不レ如二惡活一を見よ。❸ hao^2 ssŭ^3　天壽を全うして死ぬ。

〖好死不レ如二惡活一〗150（カウシハアククワツニシカズ）　死んで立派に葬られるより、生きてゐる方がよい。〔通俗編、識餘、變古〕蘇軾詩、富死未三必輸二生貧一、又、珠襦玉匣萬人相送歸二北邙一、不レ知三懸鶉百結獨坐負二朝陽一、今變レ之曰二好死不レ如二惡活一。

【好使】151　hao^3 shih^3　使ひ易い。

【好枝】152（カウシ）　よい枝。〔王建、烏夜啼詩〕風飄雨濕亦不レ移、君家樹頭多二好枝一。

【好施】153（カウシ）　よく施す。又、施を好む。〔風俗通、聲音〕聞二其羽聲一、使二人善養而好施一。

【好紙】154（カウシ）　よい紙。上等な紙。〔蒲生褧亭、近世偉人傳〕家貧不レ能三多給二好紙一。

【好畤】155（カウシ カウヂ）　❶秦の始皇が天神を祠った處。畤は、祭のには。〔說文〕畤、好畤・鄜畤、皆黃帝時築、或云、秦文公立。〔史記、封禪書〕秦文公、云云、自未レ作二鄜畤一也、而雍旁故有二吳陽武畤一、雍東有二好畤一、皆廢無レ祠。❷縣名。㋑漢、置き、北周、省く。故城は今の陝西省乾縣の東。〔漢書、地理志上〕右扶風、縣二十一、好畤。㋺隋、置く。後魏の漢西縣の地。故城は今の陝西省乾縣の西北。唐、復、好畤を漢谷の東南に置き、後、隋の上宜縣の地に移したが、元、省く。今の陝西省乾縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、乾州〕好畤廢縣、在二州東南四十里一、自レ古以二雍州一爲二神明之奥一、故立レ畤以郊二上帝一、諸神祠皆聚焉、好畤、蓋秦文公時作、所謂雍東有二好畤一者也、漢王定二三秦一、敗二雍王章邯於好畤一、後因置レ縣、屬二右扶風一、後漢初、封二耿弇一爲二侯邑一、後廢、晉永安初、雍州刺史劉沈、自二新平一討二河閒王顒一、敗二顒將虞夔於好畤一、卽此、後魏太和十一年、改置二漢西縣一、屬二武功郡一、隋開皇十八年、又改爲二好畤縣一、大業三年廢、入二上宜縣一、唐武德二年、復分二醴泉縣一、置二好畤縣一、屬二雍州一、四年、獵二好畤一、貞觀二十年、改置二上宜縣一、旋復曰二好畤一、上元三年、黨項寇二好畤一、興元初、李懷光叛、屯二好畤一、掠二涇陽三原富平一、貞元中、以二神策軍一分二屯近畿一、此爲二好畤鎭一、五代周、縣廢、杜佑曰、漢好畤城、在二唐城南十三里一。

〖好畤侯〗156（カウシコウ カウヂコウ）　紙(**8**－**27293**)の異名。楮先生。〔文房四譜〕楮知白、字守玄、華陰人也、封二好畤侯一。

【好嗜】157　hao^4 shih^4　嗜好。

【好詩】158（カウシ）　立派な詩。〔耶律楚材、遊二河中西園一和二王君玉韻一詩〕好字好詩獨我得、不二來賡和一擬二胡爲一。

【好嘴】159　hao^2 tsuei^3　多言。饒舌。

【好賜】160（カウシ）　よいたまもの。〔周禮、天官、玉府〕凡王之好賜、共二其貨賄一。

【好字】161（カウジ）　立派な文字。又、よい意味をもった文字。〔螢雪叢說〕嘗觀二進士同年錄一、江南人、習二尚機巧一、故其小名、多是好字、足レ見二自高之心一、江北人、大體任レ眞、故其小名、多非二佳字一、足レ見二自貶之意一。〔耶律楚材、遊二河中西園一和二王君玉韻一詩〕好字好詩獨我得、不二來賡和一擬二胡爲一。

【好寺】162（カウジ）　よい寺。立派な寺。〔羅隱、大梁見二喬詡一詩〕好寺松爲レ徑、空江桂作レ橈。

【好似】163（カウジ）　よく似る。〔白居易、盧侍御小妓乞レ詩座上留贈詩〕好二似文君一還對レ酒、勝二於神女一不レ歸レ雲。

【好事】164 カウジ ❶善いこと。恩澤を施す事。有益な事。善事。〔周禮、天官、内小臣〕有三好二事于四方一。〔孫詒讓正義〕好事、恩澤之事。〔錄異記〕嘉陵江側有二婦人一、年五十以來、自稱二十八姨一、往往來二民家一、不レ飮不レ食、每教二諭於人一、但作二好事一、莫三違二負神理一。〔五代史、唐明宗紀〕數問二宰相馮道等民閒疾苦一、聞四道等言三穀帛賤、民無二疾疫一、則欣然曰、吾何以堪レ之、當下與二公等一作二好事一以報中上天上。❷よく仕へる。〔左氏、文、元〕好事二鄰國一以衞二社稷一。❸經を讀み佛事を營むこと。法事。〔元史、順帝紀〕孛羅帖木兒、請三禁二止西番僧人好事一。❹慶事。〔桃花扇、卻奩〕倚レ枕春宵短、敲レ門好事多。❺カウズ めづらしいことをこのむ。凝る。ものずき。好奇。好事者を見よ。〔孔叢子、答問〕好レ事而未レ鑿也。〔論衡、道虛〕今時好レ事之人。〔顏氏家訓、省事〕此好レ名好レ事之辱也。〔歐陽脩、日本刀歌〕百金傳入好事手、佩服可三以禳二妖凶一。

【好事家】165 カウズカ ものずきな人。好事者。

【好事近】166 カウズキン ❶詞牌の名。〔冷齋夜話〕少游既謫歸、常於二夢中一作二好事近一、有レ云、醉臥二古籐花下一、杳不レ知二南北一、果至二藤州一、方醉起、以二玉盂一汲レ泉、笑逝而化。〔揮麈後錄〕胡邦衡在二新興一、嘗賦二好事近一、有レ云、欲下駕二巾車一歸去上、有二豺狼當レ轍、郡守張棣、繳二上之一、以謂二譏訕一、秦愈怒、移二送吉陽軍一編レ管、邦衡與二其骨肉一、徒步以涉二瘴癘一、路人莫レ不レ憐レ之。❷曲牌の名。南曲は中呂宮引、又、中呂宮正曲に入る。

【好事者】167 カウズシヤ ものずきな人。物事に深く心を寄せる人。好事家。〔孟子、萬章上〕好レ事者爲レ之也。〔漢書、揚雄傳贊〕時有二好事者一、載二酒肴一從遊學。

【好事之客】168 カウズノキヤク 物事に深く心を寄せる客。〔應璩、與二侍郎曹長思一書〕堂無二好事之客一、才劣二仲舒一。

【好事多レ磨】169 カウジマオホシ うまいことには邪魔が入り易い。結婚にひびが入る。好事多レ魔に同じ。〔李漁、蜃中樓傳奇〕可レ見二從來的好事必竟多レ磨。〔通俗編、行事〕好事多レ磨、見二高則誠琵琶記、會瑞卿留鞋記一。

【好事多レ魔】170 カウジマオホシ 好い事にはとかく妨害が入り易い。〔琵琶記、幾言諫レ父〕誰知道好事多レ魔起二風波一。

【不レ作二好事一】171 カウジヲナサズ 善い事をしない。〔通俗編、行事、不レ作二好事一〕唐書、昭宗責二王建一曰、汝爲二節度使一、不レ作二好事一。

【好事不レ如レ無】172 カウジハナキニシカズ 好い事があれば又、惡い事があるから、始めから好い事のない方がよい。〔岩棲幽事〕便宜勿二再往一、好事不レ如レ無。

【知レ行二好事一莫レ要レ問二前程一】173 カウジヲオコナフヲシツテゼンテイヲトフヲエウスルコトナカレ 人間は只好い事ばかり行つて居ればよいので、前途はどうなるかなどと考へなくてもよい。〔馮道、天道詩〕窮達皆有レ命、何勞發二歎聲一、只知レ行二好事一、莫レ要レ問二前程一、冬去冰須レ泮、春來草自生、請君觀二此理一、天道甚分明。

【好事不レ出レ門惡事行二千里一】174 カウジモンヲイデズアクジセンリヲユク 好い事は世間に知れぬが、惡い事は速かに知れ渡る。〔北夢瑣言、六〕好事不レ出レ門、惡事行二千里一。〔傳燈錄〕僧問二紹宗一、如何是西來意、紹宗曰、好事不レ出レ門、惡事行二千里一。

【好兒】175 カウジ よい兒。〔杜甫、偶題詩〕騄驥皆良馬、麒麟帶二好兒一。

【好餌】176 カウジ よいゑさ。このましいゑさ。

【好辭】177 カウジ ❶よい言葉。巧みな言葉。好言。〔戰國、韓策〕諸侯不レ料二兵之弱、食之寡一、而聽二從人之甘言好辭一、比周以相飾一也。❷辭を好む。好んで辭を作ること。〔史記、屈原傳〕楚有二宋玉唐勒景差之徒者一、皆好レ辭而以レ賦見レ稱。

【好秋】178 カウシウ よい秋。〔戴復古、寄二復齋陳寺丞一詩〕夜浮二星子一邀二明月一、雨對二廬君一說二好秋一。

【好羞】179 カウシウ うまい食物。ごちさう。好菜。〔周禮、天官、庖人〕共二祭祀之好羞一、共二喪紀之庶羞一。

【好醜】180 カウシウ 顏のよいわるい。美醜。妍醜。〔列子、楊朱〕賢愚好醜、成敗是非、無レ不二消滅一。〔後漢書、五行志一〕隨二縣好醜一、豐約有レ賈。〔風俗通、正失〕奢儉好醜。

【好日】181 カウジツ ❶よい日。良日。吉日。〔岑參、鳳翔府行軍送三程使君赴二成州一詩〕程侯新出守、好日發二行軍一。〔碧巖集、雲門十五日〕垂二箇問頭一云レ衆云、十五日已前不レ問レ汝、十五日已後道二將一句一來、坐二斷千差一不レ通二凡聖一、自代云、日日是好日、十五日已前、這語已坐二斷千差一、十五日已後、這語也坐二斷千差一。❷hao^3 jih^4 誕生日。

【好日子】182 hao^3 jih^4 tzŭ ❶吉日。❷誕生日。

【好日頭】183 hao^3 jih^4 t'ou 吉日。

【好者】184 カウシヤ ❶すきこのむこと。好者爲樂を見よ。❷スキシヤ ㋑ものずきな人。風流人。㋺茶事を好む者。❸スキモノ 色好みの人。好色家。〔伊勢物語〕いみじのすきもののしわざや。

【好者爲樂】185 hao^4 chê^3 wei^2 lê^4 好むことには樂しみがある。すきこそ物の上手なれ。

【好寫】186 カウシヤ よく寫す。〔漢書、河閒獻王德傳〕德修レ學好レ古、從レ民得二善書一、必爲二好寫一與レ之、留二其眞一加二金帛一賜以招レ之。

【好尙】187 カウシヤウ このみたつとぶ所。すきこのみ。嗜好。欲望。〔曹植、與二楊德祖一書〕人各有二好尙一。〔蜀志、法正傳〕雖二好尙不レ同、以二公義一相取。〔顏氏家訓、序致〕賜以二優言一、問レ所二好尙一。〔南史、劉休傳〕帝頗有二好尙一。〔宋史、眞德秀傳〕今日改レ絃更張、正當下褒二崇名節一明中示好尙上。

【好將】188 カウシヤウ 立派な將軍。〔魏志、徐晃傳〕太祖之征二陶謙一、紹使下（朱）靈督二三營一助中太祖上戰有レ功、云云、靈後遂爲二好將一、名亞二晃等一。

【好爵】189 カウシヤク 立派な官位。よい爵位。〔易、中孚〕九二、我有二好爵一、吾與レ爾靡レ之。〔陸雲、贈二汲郡太守一詩〕我有二好爵一、既成二爾服一、入贊二崇華一、遂登二帷幄一。〔潘岳、關中詩〕好爵既靡、顯戮亦從。〔孔稚珪、北山移文〕雖レ假二容於江皐一、乃纓二情於好爵一。

【好手】190 カウシユ 技術のたくみな者。上手。妙手。高手。名人。〔杜甫、奉先劉少府新畫山水障歌詩〕畫師亦無數、好手不レ可レ遇。〔楊萬里、虞丞相挽詞〕世無二生仲達一、好手未レ須レ論。〔楊維楨、詩〕長年捩レ柁稱二好手一。

【好手藝】191 hao^2 shou^3 i^4 良い腕前。

【好取】192 カウシユ 好んで取る。みだりに取上げる。〔荀子、王制〕好取侵奪。

【好珠】193 カウシユ 立派な珠。〔南州異物志〕合浦民善游採レ珠、兒年十餘歲、便教レ入レ水、官禁二民採レ珠、巧盜蹲二水底一、剖レ蚌得二好珠一、呑レ之而出。

【好酒】194 カウシユ ❶よいさけ。美酒。〔鮑照、代三少年時至二衰老一行〕好酒多二芳氣一、餚味厭二時新一。❷酒をこのむ。〔南史、焦度傳〕性好レ酒。

【好種】195 カウシユ よいたね。〔杜預、論二水利一疏〕東南以二水田一爲レ業、人無二牛犢一、今既壞レ陂、可下分二種牛二萬五千頭一、以付二二州將吏士庶一、使レ及二春耕一、其所レ留好種萬頭、而卽令中右典牧都尉官屬養上レ之。

【好壽】196 カウジユ 甚だ長生であること。〔劉因、雜詩〕地寒人好壽、草淺畜宜レ羊。

【好樹】197 カウジユ よい樹木。〔白居易、東園翫レ菊詩〕秋蔬盡蕪沒、好樹亦凋殘。〔韓愈、秋懷詩〕窗前兩好樹、衆葉光薿薿。〔杜牧、睦州詩〕好樹鳴二幽鳥一、晴樓入二野烟一。〔溫庭筠、會昌丙寅豐歲歌〕門前好樹靑茸茸。

【好俊】197′ hao^3 chün^4 優れた。

【好春】198 カウシユン よい春。〔楊萬里、除夜宿二石塔寺一詩〕幸無三爆竹驚二寒夢一、休レ羨椒花頌二好春一。〔王惲、淸明後一日雨中招二林韓李三君子一小酌且爲二梨花洗粧一詩〕風簷數點催二粧雨一、辦與二梨花一作二好春一。〔柳貫、次韻答二鄕友吳立夫見レ寄之作云云詩〕接レ席連二芳晝一、看レ花惜二好春一。

【好書】199 カウシヨ ❶友好の書信。〔史記、范雎傳〕秦昭王聞三魏齊在二平原君所一、欲下爲二范雎一必報中其仇上、乃詳爲二好書一、遺二平原君一。❷書をこのむ。〔法言、吾子〕好レ書而不レ要二諸仲尼一。

【好處】200 カウシヨ ❶好い處。〔韓愈、早春呈二水部張十八員外一詩〕最是一年春好處、絕勝花柳滿二皇都一。〔鄭谷、舟行詩〕村逢二好處一嫌二風便一、酒到二醒來一覺二夜寒一。〔皮日休、明月灣詩〕好境無二處住一、好處無二境刪一。❷極樂淨土。〔長生殿、埋玉〕願娘娘好處生レ天。❸hao^3 ch'u ㋑好意。好情。㋺好い事。㋩利益。

【好處分】201 カウシヨブン よい取りはからひ。〔北史、王遵業傳〕胡太后臨レ朝、天下方亂、謀レ避レ地、自求二徐州一、太后曰、王誦罷二幽州一、始作二黃門一、卿何乃欲二徐州一也、更待二一二年一、當レ有二好處分一。

【好如】202 hao^3 ju^2 恰も云云の如き。

【好勝】203（カウショウ） ❶勝つことを好む。〔孔子家語、觀周〕好レ勝者、必遇二其敵一。❷hao^4 shêng^4 ㋑負けぎらひ。勝氣。㋺丁度良いことには。

〔好勝的皮氣〕204 hao^4 shêng^4 tê pʻi^2 chʻi 勝氣な氣象。まけじだましひ。

【好色】205（カウショク） ❶美色をこのむ。女色をこのむ。をんなずき。好嫖。好內。〔論語、子罕〕吾未レ見二好レ德如レ好レ色者一也。〔孟子、梁惠王下〕寡人有レ疾、寡人好レ色。〔管子、小匡〕寡人有二汚行一、不幸而好レ色。〔漢書、杜欽傳〕知二好色之伐レ性短レ年。〔嵇康、養生論〕好レ色不レ倦、以致二乏絶一。❷美しいいろ。又、美人。〔孟子、萬章上〕好色人之所レ欲、妻二帝之二女一、而不レ足二以解レ憂。〔莊子、至樂〕目不レ得二好色一、耳不レ得二音聲一。〔新語、本行〕夫人之好色、非二脂粉所二能飾一。

〔好色家〕206（カウショクカ） ❶すきもの。好色な人。❷遊女等を置く家。女郎屋。〔東鑑、仁治二年十一月二十九日〕於二下馬橋西頰好色家一、有二酒宴亂舞會一。

〔好色不レ淫〕207（カウショクニシテインナラズ） 好色ではあるが、みだらでない。詩經の國風を評した語。〔史記、屈原傳〕國風好色而不レ淫、小雅怨誹而不レ亂、若二離騷一者、可レ謂レ兼レ之矣。

〔如レ好二好色一〕208（カウショクヲコノムガゴトシ） 美しい色（一說に美人）を好むやうに心の自然に從つて少しの詐もない。〔大學〕如レ惡二惡臭一、如レ好二好色一、此之謂二自謙一。

〔好色必惡心〕209（カウショクカナラズアクシン） 美人薄情の意。〔國語、晉語一〕雖二好色一、必惡心、不レ可レ謂レ好。

【好食】210（カウショク） よい食物。美食。〔宋書、朱脩之傳〕性儉剋少二恩情一、姊在二鄉里一、饑寒不レ立、脩之未二嘗供レ膳、嘗往視レ姊、姊欲レ激レ之、爲設二菜羹麤飯一、脩之曰、此乃貧家好食、致レ飽而去。

【好心】211（カウシン） 好意。好情。好心好報を見よ。

〔好心好報〕212（カウシンカウハウ） 良い心と良い報い。良い心に良い報いがある。〔通俗編、境遇、好心好報〕隋書譙國夫人傳、我事二三代主一、唯用二一好心一、今賜物俱存、忠孝之好報也。

【好信】213（カウシン） ❶信義を好む。〔論語、陽貨〕好レ信不レ好レ學、其蔽也賊。❷よいたより。〔羅隱、梅花詩〕欲レ寄二所思一無二好信一、爲レ君惆悵又黃昏。

【好愼】214（カウシン） ❶愼を好む。愼み深い。❷hao^3 shên^4 好生(219)の❷❸❺に同じ。

【好人】215（カウジン） ❶仕事の上手な人。〔詩、魏風、葛屨〕要之襋之、好人服レ之。〔傳〕好人、好女手之人。❷夫をいふ。大人といふに同じ。〔詩、魏風、葛屨、好人服レ之、集傳〕好人、猶二大人一也。❸品行純正の人。善人。〔北齊書、魏收傳〕卿何由知二其好人一。

〔好人物〕216（カウジンブツ） 氣だての善い人。心いきの善い人。好士。善人。好好先生。

〔好人不當兵〕216′ hao^3 jen^2 pu^4 tang^1 ping^1 善人は兵隊にならぬ。好鐵不打釘と對諺をなす。

【好水】217（カウスイ） ❶よい水。〔趙師秀、官田之集翁聘レ君失レ期陳伯壽賦二詩率爾一次韻詩〕好水不レ厭レ閑、好風不レ厭レ涼。❷川の名。甘肅省隆德縣の東。源は六盤山。西南流して苦水と合する。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、靜寧州、隆德縣〕好水、縣東二里、源出二固原州界六盤山一、西南流合二於莊浪縣之苦水一。

【好穗】218（カウスイ） 實のりのよい穗。〔齊民要術、收種〕粟黍穄粱秫、常歲歲別收選二好穗一。

【好生】219（カウセイ） ❶生を好む。好生德を見よ。〔孔子家語、好生〕其政好レ生而惡レ殺。❷甚だ。すこぶる。〔琵琶記、寺中遺像〕你就這裏好生彈着、厚賞レ你。❸よく。十分に。よく氣を付けて。注意して。生は語助の詞。〔介石智明禪師語錄〕諸人好生聽取。〔石溪心月禪師語錄〕好生觀。❹孔子家語の篇名。❺hao^3 shêng^1 ㋑全く。㋺どうしても。

〔好生德〕220（カウセイノトク） 他人の生を好む德。仁心があつて殺傷をきらふ心。〔書、大禹謨〕好レ生之德、洽二于民心一。

〔好生愛民〕220′（カウセイアイミン） 仁心が深くて殺傷を好まず、民を愛撫する。〔藤田東湖、弘道館記述義〕上之人以二好レ生愛レ民爲レ德。

〔好生養贍〕221（カウセイヤウセン） 氣ながに保養して身體を大事にする。〔紅樓夢、二回〕令二其好生養贍一、以待二尋訪女兒下落一。

【好性】222 hao^3 hsing^4 人が良い。

〔好性情〕223 hao^3 hsing^4 chʻing 天性善良。

【好晴】224（カウセイ） よい天氣。善いひより。快晴。

【好勢】225（カウセイ） 市場用語。相場が良好の狀態にあつて、市場に活氣のあること。不勢(1－19··612)の對。

【好靜】226（カウセイ） 靜を好む。〔老子、五十七〕我無レ爲而民自化、我好レ靜而民自正。

【好聲】227（カウセイ） よい聲。好音。美聲。〔陶潛、停雲詩〕斂レ翮閒止、好聲相和。〔楊巨源、觀二打毬一有レ詩詩〕入レ門百拜瞻二雄勢一、動レ地三軍唱二好聲一。

【好笑】228（カウセウ） ❶好んで笑ふ。〔北史、尉瑾傳〕見二人好笑一。❷hao^3 hsiao^4 ㋑非常にをかしい。〔紅樓夢、一回〕此事說來好笑。㋺よい笑草。笑の的。

〔好笑也不好笑〕229 hao^3 hsiao^4 yeh^3 pu^4 hao^3 hsiao^4 何と面白いではないか。

【好照】230（カウセウ） 佛明鏡。坐禪の時に用ひる道具。〔行事鈔、鉢器〕大論供二給坐禪一法、禪杖・禪毱・禪鎭・骨人・禪經・好佛・好照・衣服等。

【好燒】231 hao^3 shao^1 良く燃える。

【好瞧】232 hao^3 chʻiao^2 立派。體裁が良い。

【好說】233（カウセツ） ❶說を好む。議論を好む。〔法言、吾子〕好レ說而不レ見二諸仲尼一、說鈴也。❷hao^3 shuo^1 どういたしましての意。〔桃花扇、卻奩〕好說。

〔好說歹說〕234 hao^3 shuo^1 tai^3 shuo^1 かれこれといふ。

〔好說話兒〕235 hao^3 shuo^1 hua^4 êrh 心易い。

【好船】236（カウセン） よい船。〔創業起居注〕帝將レ渡二渭津一、以見下船朽二破於灤水一、流中數十里上、更取二好船一、苦二於水淺一、其夜三更、水暴漲數尺、逆流而上、衆咸駭異。

【好僊】237（カウセン） 仙人を好む。僊は仙に同じ。〔後漢書、祭祀志論〕本由レ好レ僊、信二方士之言一。

【好戰】238（カウセン） 戰爭をこのむ。〔孟子、梁惠王上〕王好レ戰。請以レ戰喩。〔漢書、主父偃傳〕司馬法曰、國雖レ大、好レ戰必亡、天下雖レ平、忘レ戰必危。

【好氈】239（カウセン） 立派な毛の敷きもの。〔南史、渴盤陁國傳〕多二牛馬駱駝羊等一、出二好氈一。

【好善】240（カウゼン） ❶よいこと。〔周禮、夏官、合方氏〕除二其怨惡一、同二其好善一。❷善を好む。〔禮、樂記〕君子以好レ善、小人以聽レ過。〔左氏、昭、二十六〕子西長而好レ善。〔吳志、孫奮傳評〕慮和並有二好レ善之姿一。

【好禪】241（カウゼン） 坐禪して佛道の妙理を究めることを好む。〔獨孤及、睢陽太守李公碑〕晚節住レ禪、味二耽道論一。

【好僧】242（カウソウ） 立派な僧侶。〔薛能、相國隴西公南征能以二留務一獨宿二府城一作詩〕殊憶好僧招不レ及、夜來倉卒鏁二嚴城一。

【好繒】243（カウソウ・カウショウ） 善いきぬ。精好な絹。〔後漢書、王符傳〕或刻二畫好繒一、以書二祝辭一、或虛二飾巧言一、希レ致二福祚一。

【好憎】244（カウソウ） このみとにくしみ。愛憎。〔漢書、杜周傳〕玩レ色無レ厭、必生二好憎之心一。

【好村】245 hao^3 tsʻuen^1 ゐなかくさいこと。〔水滸傳、一百十回〕燕青慌忙攔道、李大哥、儞怎地好村。

【好多】246（カウタ） ❶好むことが多い。又、色々なことを好む。〔大戴禮、曾子立事〕多知而無レ親、博學而無レ方、好多而無レ定者、君子弗レ與也。❷hao^3 tuo^1 非常に澤山。

〔好多時〕247 hao^3 tuo^1 shih^2 餘程の閒。

【好打】248（カウダ） ❶よくも打つたな、おぼえて居れの意。〔桃花扇、鬨丁〕好打好打。❷よい打擊。

〔好打扮〕249 hao^4 ta^3 pan^4 體裁を飾る。うはべをつくろふ。

〔好打抱不平〕250 hao^4 ta^3 pao^4 pu^4 pʻing^2 人に代つて怒る。人の分まで腹を立てる。

【好歹】251 hao^2 tai^3 ❶よかれ惡しかれ。兎に角。必ず。〔紅樓夢、七回〕還說媽好歹快來。〔元曲、鴛鴦被〕你好歹早些兒來回話。❷㋑良否。善惡。㋺不幸。死ぬ。

【好替】252（カウタイ） よい代りの者。〔北史、陳元康傳〕初司馬子如、高季式與二孫搴劇一飮、搴醉死、神武命求二好替一。

【好大】253（カウダイ） ❶大をこのむ。誇大を好む。〔管子、侈靡〕賤レ寡而好レ大、此所二以危一。〔法言、脩身〕好レ大而不レ爲レ大。〔法言、問明〕或問、堯將レ讓二天下於許由一、由恥、有レ諸、曰、好レ大者爲レ之也。❷hao^3 ta^4 非常に大きい。

〔好大膽〕254 hao^{3} ta^{4} tan^{3} 膽の太い好い男。〔水滸傳、一回〕好大膽直來。

〔好大架子〕255 hao^{3} ta^{4} chia^{4} tzŭ 大法螺を吹く。

〔好大氣性〕256 hao^{3} ta^{4} chʻi^{4} hsing 怒りっぽい性質。

〔好大氣派〕257 hao^{3} ta^{4} chʻi^{4} pʻai^{4} 大ぎやうな。

〔好大喜功〕258 大きなことをして其の功を誇る。〔浣紗記傳奇〕既侈其好大喜功之念、又發其毆賢用佞之心。

【好道】259 道家の道を好む。〔論衡、道虛〕曼都好道學仙、委家亡去、三年而返家。

【好男】260 立派な男。好男子を見よ。

〔好男子〕261 ❶ますらを。好漢。〔橫井小楠、題楠中將圖詩〕君自天成好男子、奚曾一點愛名心。❷いろをとこ。美男子。

【好竹】262 よい竹。〔晉書、王徽之傳〕吳中一士大夫家、有好竹。〔王建、薛二十池亭詩〕異花多是非時有、好竹皆當要處生。〔韓琦、再題狎鷗亭詩〕簷前好竹今成篠、波下修鱗舊種針。〔戴復古、山中見梅詩〕踏破溪邊一徑苔、好山好竹少人來。

【好聽】263 hao^{3} tʻing^{1} 聞きよい。聞き苦しくない。

【好住】264 健在。又、健在なれの意。〔戎昱、送李參軍詩〕好住好住王司戶、珍重珍重李參軍。〔范成大、初發太城留別田父詩〕翁皆好住莫相思。

【好女】265 美しい女。美女。〔戰國、秦策〕以文繡千匹、好女百人、遺義渠君。〔荀子、君道〕好女之色、惡者之孽也。〔史記、殷紀〕九侯有好女、入之紂。〔漢書、王吉傳〕武帝時、又多取好女。〔古樂府、陌上桑〕秦氏有好女、自名爲羅敷。

〔好女兒〕266 詞牌の名。〔詞譜〕此調有兩體、四十五字者、起於黃庭堅、因詞有懶繫酥胸羅帶、羞見繡鴛鴦句、名繡帶兒・花草粹編、一作繡帶子、六十二字者、起於晏幾道、與黃詞迥別。

〔好女兒花〕267 草の名。金鳳花。〔四朝聞見錄、戊集、好女兒花〕金鳳花、如鳳味飛舞、每種各具一色、聚開則五色成華、自夏至秋尤盛、謂之金鳳花、中都習宮闈嫌語、謂鳳兒花、慈懿之生、有鸞鷟儀於墨民、名曰鳳孃、迨正坤極、六宮避舊稱、曰好女兒花、今行在猶然。

〔好女不穿嫁時衣〕268 美女は嫁入りの時の衣裳を再び着て、其の美しさを增さうとはしない。立派な人は他人の力に賴らない喩。〔通俗編、婦女、好女不穿嫁時衣〕見元曲選擧案齊眉劇。

〔好女不穿兩嫁衣〕269 hao^{2} nü^{3} pu^{4} chʻuan^{1} liang^{3} chia^{4} i^{1} 良女は貞節を守って再嫁しない。

【好鳥】270 美しい鳥。〔曹植、公讌詩〕潛魚躍清波、好鳥鳴高枝。〔吳均、與朱元思書〕泉水激石、泠泠作響、好鳥相鳴、嚶嚶成韻。〔歲華紀麗〕弱草茂林、陽禽好鳥。

【好調】271 ❶よい調子。❷相場が騰貴の傾向にあること。

【好嘲】272 嘲ることを好む。〔宋史、陳彭年傳〕佻薄好嘲。

【好敵】275 よい相手。好敵手。〔近古史談、阿閉掃部〕不幸未遇好敵。

〔好敵手〕276 よい相手。好敵に同じ。〔日本外史、足利氏後記、上杉氏〕舍箸而歎曰、失吾好敵手矣。

【好適】277 よく適してゐること。ふさはしいこと。

【好天】278 hao^{3} tʻien^{1} 上天氣。

【好轉】279 よい傾向に轉ずること。

【好田】280 狩獵を好む。〔禮、郊特牲〕好田好女者、亡其國。〔左氏、襄、二十八〕齊慶封好田而耆酒、與慶舍政。

【好投】281 よく投げること。

【好德】282 ❶立派な德。〔漢書、武帝紀〕士壹適謂之好德。〔說苑、脩文〕士一適謂之好德。❷德を好む。〔論語、子罕〕吾未見好德如好色者也。〔孔子家語、王言解〕上好德則下不隱。❸字號。㋑宋、翁邵(**9**－**28635**··42)の字。㋺宋、李攸(**6**－**14459**··24)の字。㋩明、吳福(**2**－**3365**··369)の字。

【好內】283 女色を好む。好色。內は婦人。〔左氏、僖、十七〕齊侯好內、多內寵、內嬖如夫人者六人。〔漢書、中山靖王勝傳〕勝爲人、樂酒好內。

【好熱】285 hao^{3} jê^{4} ❶非常な熱さ。❷非常に熱心。

〔好熱鬧〕287 hao^{3} jê^{4} nao 非常に賑か。

【好馬】288 立派な馬。良馬。〔南史、曹武傳〕武雖武士、頗有知人鑒、梁武及崔慧景之在襄陽、于時崔方貴盛、武性儉嗇、無所餉遺、獨饋梁武、謂曰、卿必大貴、我當不及見、今以弱子相託、每密送錢物幷好馬。〔李白、少年行〕好鞍好馬乞與人、十千五千旋沽酒。

【好望】290 前途に好ましい望みのあること。

〔好望角〕291 hao^{3} wang^{4} chiao^{3} 喜望峯。

【好貌】292 よいかたち。よいすがた。〔吳均、主人池前鶴詩〕摧藏多好貌、清唳有奇音。〔閻朝隱、鸚鵡猫兒篇〕彼何爲兮、窘窘蠢蠢、此何爲兮、好貌好音。

【好髮】293 立派な髮。〔吳志、薛綜傳〕珠崖之廢、起於長吏、覩其好髮、髡取爲髮。

【好比】294 ❶よく親しむ。又、美しくて相親しむ。〔楚辭、宋玉、招魂〕容態好比、順彌代些。〔注〕態、姿也、比、親也、彌、久也、言美女衆多、其貌齊同、恣態好美、自相親比、承順上意、久則相代也。〔補注〕好、王逸作美好之美、五臣作好愛之好。❷hao^{2} pi^{3} 譬へば。

【好美】295 甚だ美しい。絕美。又、單に、美しい意。〔戰國、中山策〕今者臣來、至境入都邑、觀人民謠俗、容貌顏色、殊無佳麗好美者。〔史記、陳丞相世家〕人固有好美如陳平、而長貧賤者乎、卒與女。

【好匹】296 よいつれあひ。好逑(75)に同じ。〔詩、周南、關雎、窈窕淑女君子好逑、傳〕幽閒貞專之善女、宜爲君子之好匹。

【好評】297 善いひやうばん。ほまれ。

【好便】298 ❶よいたより。❷よいついで。

〔好便宜〕299 よい都合。

【好不】300 hao^{3} pu^{4} はなはだ。好の字を單用するのと略〻同じ。

〔好不好〕301 hao^{3} pu^{4} hao^{3} ❶よいか惡いか。❷如何でせう。❸ともかくも。

【好布】302 立派な布。〔史記、循吏、公儀休傳〕見其家織布好、而疾出其家婦、燔其機。

【好婦】303 立派な婦人。〔古樂府、隴西行〕好婦出迎客、顏色正敷愉。〔搜神記、十一〕楊公伯雍、汲水作義漿於坂頭、行者皆飮之、三年、有一人就飮、以一斗石子與之、使至高平好地有石處種之云、玉當生其中、楊公未娶、又語云、汝後當得好婦、語畢不見、乃種其石。

【好武】304 武事をこのむ。〔褚少孫、魏丞相傳〕其人好武、皆令諸吏帶劍。〔杜甫、陪鄭廣文遊何將軍山林詩〕將軍不好武、稚子總能文。

【好風】305 こころよい風。〔陶潛、讀山海經詩〕微雨從東來、好風與之俱。〔唐彥謙、緋桃詩〕坐久好風休掩袂、夜來微雨已霑巾。〔錢起、秋夜同梁鍠文宴詩〕好風能自至、明月不須期。

〔好風景〕306 好い景色。好景。〔杜甫、江南逢李龜年詩〕正是江南好風景、落花時節又逢君。

〔好風多便〕308 hao^{3} fêng^{1} tuo^{1} pien^{4} 良い便り。

【好佛】309 佛教を好むこと。〔國史略、淳仁天皇〕后素好佛、嘗勸聖武帝、每國造國分寺。

【好物】310 ❶良いもの。〔漢書、楊惲傳〕美食好物。〔魏志、東夷、倭傳〕鄭重賜汝好物也。❷好む事。好きな事。〔左氏、昭、二十五〕生、好物也、死、惡物也。〔會箋〕物者、事也、生者人所好之事、而死者人所惡之事。❸好きこのむ食物。

〔好物不堅牢〕311 好い物は長く保たない。〔白居易、簡簡吟〕大都好物不堅牢、彩雲易散琉璃脆。

〔好物不在多〕312 質の善い物は分量の多いことを要しない。〔南唐近事〕唐元宗、曲江宴、命近臣賦詩、朱鞏進一聯、不能終篇、曰、好物不在多。

【好文】313 ❶學問をこのむ。〔岑參、感舊賦〕幸逢時主之好文、不學滄浪之垂釣。〔錢起、盧龍塞行送韋掌記詩〕聖主好文兼好武、封侯莫比漢皇年。❷梅の異名。好文木を見よ。〔德川

齊昭、弘道館賞二梅花一詩〕好文豈是無二威武一、雪裏占レ春天下魁。

【好文木】314 カウブンボク 梅（**6－14830**）の異名。晉の武帝が學問に親しめば梅が開き、學問を廢すれば開かなかつた故事。〔謠古抄〕好文木、晉起居注云、哀帝讀レ書、則四時隨レ之開レ花、故云二好文木一也。〔東見記〕梅云二好文木一、故事在二晉起居注一、晉武好レ文則梅開、廢レ學則梅不レ開。

【好兵】315 カウヘイ 立派な兵士。〔吳志、周魴傳〕當下以二新羸兵一置レ前、好兵在上レ後。

【好嫖】316 hao^4 p'iao^2 好色（205）の㊀に同じ。

〔好嫖的〕317 hao^4 p'iao^2 tê 女郎買ひ。傾城買ひ。

【好辦】318 hao^3 pan^4 しやすい。やさしい。

【好辯】319 カウベン 辯論をこのむ。辯說で人に勝つことを好む。〔孟子、滕文公下〕公都子曰、外人皆稱二夫子好一レ辯、敢問、何也、孟子曰、予豈好レ辯哉、予不レ得レ已也。〔晏子、問、上〕好レ辯以爲レ忠、流湎而忘レ國。〔論衡、逢遇〕主好レ辯、有レ口則遇。

【好慕】320 カウボ このんで仰ぎ慕ふ。〔柳宗元、送レ澥序〕其文、蓄積甚富、好慕甚正。

【好朋】321 カウホウ よい友。良友。又、朋黨を好む。好んで黨を作る。〔楚辭、離騷〕世並擧而好レ朋兮、夫何煢獨而不二予聽一。

【好峯】322 カウホウ 景色のよい峯。〔朱熹、懷二潭溪舊居一詩〕憶住二潭溪一四十年、好峯無數列二窗前一。〔梅堯臣、魯山山行詩〕好峯隨處改、幽徑獨行迷。〔張詠、舟次二辰陽一詩〕雖下指二公餘一便東下上、好峯猶得二捲レ簾看一。

【好墨】323 カウボク 上等の墨。上墨。〔正倉院文書、四十八〕請二占菟毛筆一二許、好墨端少少一。

【好米】325 カウマイ よい米。〔魏文帝、與二朝臣一書〕江表惟長沙名有二好米一、何得レ比二新城秔稻一耶、上風炊レ之、五里聞レ香。

【好味】326 カウミ 味がよい。又、よいあぢ。〔陶潛、止レ酒詩〕好味止園葵、大懽止稚子。

【好夢】327 カウム よい夢。吉夢。〔張建、梨花詩〕月影曉窗留二好夢一、雨聲深夜鎖二淸愁一。

【好名】328 カウメイ ㊀名譽を好む。〔孟子、盡心下〕好レ名之人、能讓二千乘之國一。〔顏氏家訓、省事〕此好レ名好レ事之辱也。㊁hao^3 ming^2 好い評判。

【好命】329 カウメイ よしみを結ぶ命令。〔左氏、文、十二〕不腆先君之敝器、使下下臣致二諸執事一、以爲二瑞節一、要中結好命上。〔會箋〕要二約交一結二國交好之命一。

【好茗】330 カウメイ よい茶。茗は茶。〔桐君錄〕西陽晉陵武昌、皆出二好茗一。

【好妙】331 hao^3 miao^4 絕妙。甚だ都合よい。

〔好妙算〕332 hao^3 miao^4 suan^4 妙計。

【好面】333 カウメン 立派な顏。〔梁簡文帝、答二新渝侯和詩一書〕影裡細腰、令二與レ眞類一、鏡中好面、還將レ畫等。

〔好面子〕334 hao^3 mien^4 tzŭ 面目を立ててやる。

【好問】335 カウモン ㊀好んで問ふ。下問を好む。〔書、仲虺之誥〕好レ問則裕、自用則小。〔傳〕問則有レ得、所二以足一、不レ問專固、所二以小一。〔中庸〕舜好レ問而好察二邇言一。〔史記、平津侯傳〕故曰、好レ問近二乎智一。㊁字號。㋑後唐、周知裕（**2－3441**・・77・8）の字。㋺明、耿裕（**9－29026**・・49）の字。

〔好問堂〕336 カウモンダウ 山崎美成の號。山崎北峰（**4－7869**・・1206）を見よ。

【好約】337 カウヤク 儉約を好む。〔張衡、東京賦〕我后好レ約、乃宴斯息。

【好勇】338 カウユウ 勇を好む。〔左氏、文、十二〕好レ勇而狂。〔論語、公冶長〕由也好レ勇過レ我、無レ所レ取レ材。〔孟子、梁惠王下〕王曰、大哉言矣、寡人有レ疾、寡人好レ勇。

【好用】339 カウヨウ 宴を催して、愛好する者に物を賜ふこと。〔周禮、天官、大宰〕以二九式一均二節財用一、云云、九曰、好用之式。〔注〕好用、燕好所二賜予一。

【好利】340 カウリ ㊀利を好む。〔尉繚子、十二陵〕禍在二於好レ利。〔孔子家語、問禮〕好レ利無レ厭。㊁hao^3 li^4 旨い利益。

〔好利得〕341 カウリトク よいもうけ。

【好李】342 カウリ よいすもも。〔世說新語、儉嗇〕王戎有二好李一、賣レ之、恐三人得二其種一、恒鑽二其核一。

【好力】343 カウリヨク 勇力を好む。〔史記、刺客、曹沫傳〕曹沫者魯人也、以二勇力一事二魯莊公一、莊公好レ力、曹沫爲二魯將一。

【好令】344 カウレイ 恩澤の命令。〔周禮、天官、內小臣〕后有三好二事于四方一、則使レ往、有三好二令於卿大夫一、則亦如レ之。〔孫詒讓正義〕好令、亦恩澤之令。

【好禮】345 カウレイ ㊀禮儀を好む。〔禮、射義〕好レ學不レ倦、好レ禮不レ變。㊁立派な禮。〔柳宗元、嶺南節度使饗軍堂記〕嘉樂好禮。㊂字號。㋑明、程富（**8－25081**・・128）の字。㋺明、黎崇（**12－47994**・・53）の字。

【好麗】346 カウレイ うるはしくよい。〔荀子、君道〕以爲二好麗一邪。

【好廉】348 カウレン 潔白を好む。〔顏延之、陶徵士誄序〕若二其寬樂令終之美、好廉克己之操一、有レ合二諡典一。

【好弄】349 カウロウ たのしみ戲れる。又、戲玩を好む。〔左氏、僖、九〕夷吾弱不レ好レ弄、能鬪不レ過。〔注〕弄、戲也。

【好話】350 hao^3 hua^4 ㊀好い話。好い事。うまい話。㊁言葉達者な。

【好一回】351 hao^3 i^4 hui^2 餘程しばらくして。

【好一程】352 hao^3 i^4 ch'êng^2 暫くの間。

【好因緣】353 カウインネン よい因緣。〔剪燈新話、秋香亭記〕好因緣是惡因緣、只怨二干戈一不レ怨レ天。

【好下物】354 カウカブツ 善いさかな。佳肴。下物は酒を下すものの義。飮儲。〔世說新語補、豪爽〕公笑曰、有二如レ此下物一、一斗不レ足レ多也。〔注〕下レ酒物。

【好家居】355 ヨクカキヨセヨ まだ年少で德が薄いのに、出て仕へるのは禍を招くから、よく家居して德を修めよ。〔海錄碎事、人事、家道〕會稽王道子、少年專レ政、委二任羣小一、陸汭望レ闕而嘆曰、好家居、纖兒欲三撞二壞之一耶。

【好行レ市】356 コノンデイチニユク 物を市上で賣買することを好む。〔海錄碎事、草木、雜花〕石竹花詩、莫下管二金錢一好行上レ市、寂寥相對是山家。

【好嬉子】357 カウキシ 趣がある、面白いといふ意。兩浙の方言。元の吾丘衍が誤つて捺した印章を趙松雪が稱した故事。〔荻樓雜抄〕趙松雪夫人管道昇、善二書畫一、吾竹房嘗題二其所レ畫竹石一、竹房有二好嬉子三字私印一、卽以三倒用二於所レ畫跋尾一、人以爲二竹房之誤一、松雪見レ之曰、這瞎子道婦人會レ作レ畫、到二好嬉子一。

【好結果】359 カウケツクワ よい結果。好果。

【好歇時】360 hao^3 hsieh^1 shih^2 餘程久しくたつて。

【好堅樹】361 カウケンジユ 大樹の名。一說に、梅檀樹。〔智度論、十〕譬如三有レ樹名爲二好堅一、是樹在二地中一百歲、枝葉具足、一日出生、高百丈、是樹出已欲下求二大樹一以蔭中其身上、此時林中有レ神、語二好堅樹一言、世中無二大レ汝者一、諸樹皆當レ在二汝蔭中一、佛亦如レ是。

【好戶頭】362 hao^3 hu^4 t'ou 良い客。

【好呼者】363 カウコシヤ 博弈を好む者。〔錢塘瑣記〕好呼者、或使二之旁觀一、以二金玉資錙一易二瓦礫一、訪レ之則封レ門兮。

【好姑娘】364 hao^3 ku^1 niang よい娘。〔紅樓夢、二十四回〕這就是寶二爺房裡的好姑娘。

【好爽快】365 hao^2 shuang^3 k'uai^4 非常に愉快な。氣分の勝れた。

【好喪氣】366 hao^3 sang^4 ch'i^4 氣分が惡い。緣起が惡い。悄氣る。

【好造化】367 hao^3 tsao^4 hua 好運な。

【好時光】368 カウジクワウ 詞牌の名。唐の明皇の作といふ。結句に莫レ負二好時光一の句があり、其の三字をとつて題とした。〔開元軼事〕明皇諳二音律一、善度レ曲、嘗製二一曲一、曰二春光好一、方二奏時一、桃李俱發、又製二一曲一、云二秋風高一、奏レ之風雨颯然、詞俱失レ傳。〔詞譜〕或疑、此詞非二明皇筆一、然尊前集所レ收、固唐詞也。

【好秀才】369 カウシウサイ 甚だしい秀才。眞秀才。〔隋書、杜正玄傳〕開皇末、擧二秀才一、尙書試二方略一、正玄應對如レ響、下レ筆成レ章、僕射楊素負レ才傲レ物、正玄抗辭酬對、無レ所二屈撓一、素甚不レ悅、會林邑獻二白鸚鵡一、素促召二正玄一、使者相望、及レ至、卽令レ作レ賦、正玄倉卒之際、援レ筆立成、云云、素乃嘆曰、此眞秀才、吾不レ及也。

【好身手】370 カウシンシユ さかんでたけしいこと。體格の雄健なこと。〔杜甫、哀王孫詩〕朔方健兒好身手、昔何勇銳今何愚。〔王逢、天門行詩〕羽林堅銳莫二汝攖一、愼勿三輕誇二好身手一。

【好消息】371 カウセウソク 善いおとづれ。〔舊唐書、崔元暐傳〕母誡レ之曰、兒子從レ宦、有レ人來云、貧乏不レ能レ存、此是好消息、若聞二貲貨充足、衣馬輕肥一、此惡消息。

【好體面】372 hao^2 t'i^3 mien 非常に立派。

【好題目】373 カウダイモク よい題目。よいとなへ。

【好端端】374 hao^3 tuan^1 tuan^1 平穩無事の時代。

【好娘子】375 hao^3 niang^2 tzŭ 美しい女。

【好都合】376（カウツガフ） 都合がよい。勝手がよい。便利。便宜。

【好賭的】377 hao^4 tu^3 tê 博奕好きの人。

【好東西】378 hao^3 tung^1 hsi 好いもの。

【好頭腦】379 hao^3 t'ou^2 nao ❶良い相手。❷怜悧な頭腦。

【好本事】380 hao^2 pen^3 shih すぐれた技倆。

【好樣式】381 hao^3 yang^4 shih 容子がいい。外見が立派。

【好容易】382 hao^3 jung^2 i 漸くの事で。やつと。

【好兩日】383 hao^2 liang^3 jih^4 しばらく。幾日。〔水滸傳、二十回〕背後有人、叫一聲、押司、那里去來、好兩日不見面。

【好穢氣】384 hao^3 huei^4 ch'i 非常な臭氣。惡臭。

【阿レ所レ好】385（コノムトコロニオモネル） 自分のすきこのむものに媚びおもねる。〔孟子、公孫丑上〕汙不レ至レ阿二其所一レ好。

【攸レ好德】386（コノムトコロハトク） 好んで德を行ふことは福を致す道である。〔書、洪範〕九、五福、云云、四曰攸レ好德。〔傳〕所レ好者、德福之道。

【好爲二事端一】387（コノンデジタンヲナス） 好んで事件の緖口をつくる。好んで事件をひきおこす。〔晉書、文明王后傳〕后每言二於帝一曰、會見レ利忘レ義、好爲二事端一、寵過必亂、不レ可二大任一。

【好爲二人師一】388（コノンデヒトノシトナル） 物知り顏して人の師となるを好む。〔孟子、離婁上〕孟子曰、人之患在三好爲二人師一。

【好行二小慧一】389（コノンデセウケイヲオコナフ） 得意になつて小ざかしい知慧をふりまはす。小刀細工を好む。猿智慧を好む。〔論語、衞靈公〕子曰、羣居終日、言不レ及レ義、好行二小慧一、難矣哉。

【好共歹兒】390 hao^3 kung^4 tai^3 êrh 良い事も惡い事も。

【好勁天氣】391 hao^3 ching^4 t'ien^1 ch'i 至極の好天氣。

【好混賬人】392 hao^3 huen^4 chang^4 jen^2 惡たれ者。惡黨。

【好蠢東西】393 hao^2 ch'uen^3 tung^1 hsi 馬鹿な。〔紅樓夢、八回〕好蠢東西、儞也輕二此兒一。

【好戴二高帽一】394（コノンデカウバウヲイタダク） 法螺を吹きたがる喩。威張りたがる。〔通俗編、服飾、好戴二高帽一〕按、今謂下虛自張大冀二人譽一レ已者上曰二好戴二高帽子一。

【好無道理】395 hao^3 wu^2 tao^4 li 全くわけが解らぬ。

【所レ好爲レ禍】396（コノムトコロクワトナル） 自分の好みとすることが却つて身のわざはひとなる。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕君子各以レ所レ好爲レ禍。

【好常常來往】397 hao^3 ch'ang^2 ch'ang lai^2 wang^3 ふだん往來し易い。

【好深湛思室】398（カウシンタンシシツ） 淸、孫義鈞(**3－6987**‥364)の室名。

【好鐵不打釘】399 hao^2 t'ieh^3 pu^4 ta^3 ting^1 良い鐵は釘に製しない。

【好半會工夫】400 hao^3 pan^4 huei^3 kung^1 fu や暫くの閒。

【㚰】6054

セン 〔集韻〕相然切 先

女のあざな。〔集韻〕㚰、女字。

【㚷】6055

㊀グワン 〔集韻〕于願切 願

㊁ハン ホン 〔廣韻〕芳万切 願

小篆

㊀㊁**かしこい女。**〔說文〕㚷、闕。〔段注〕謂二其義其形其音說皆闕一也。〔說文通訓定聲〕六書統、女之慧而員者、云云、殊屬二杜撰一。〔六書統〕㚷、女之慧而員者、从二女丸一、言二機如レ丸也。

【奿】6056

グワン

㚷(**3－6055**)に同じ。〔說文長箋〕奿、與レ㚷同。

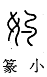
【㚤】6057

コ

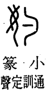
嫭(**3－6679**)に同じ。〔集韻〕嫭、或作レ㚤。

【妁】6058

シャク 〔集韻〕職略切 藥 ㄕㄨㄛˋ shuo^4



小篆



小篆（聲定訓通）

❶**なかうど。**〔說文〕妁、酌也、斟二酌二姓一者也、从レ女勺聲。❷**姓。**〔字彙〕妁、姓也。

【好】6059

ウ 〔字彙〕雲俱切 虞

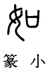
禮儀をふんで交はる。〔字彙〕好、人以レ禮交也。

【如】6060

㊀ジョ ニョ 〔集韻〕人余切 ㄖㄨˊ ju^2 魚

㊁ジョ ニョ 〔集韻〕如倨切 御

㊂ナ ダ 〔集韻〕乃箇切 箇



小篆

㊀❶**ごとくす。ごとくにす。**㋑したがふ。〔說文〕如、從隨也、从レ女从レ口。〔段注〕隨從必以レ口、从レ女者、女子從レ人者也。〔左氏、宣、十二〕有レ律以如レ己也。〔注〕如、從也。〔列子、力命〕胥如レ志也。〔注〕如、隨也。〔史記、高祖紀〕項羽使三人還報二懷王一、懷王曰、如レ約。㋺同じくする。其の通りにする。らしくする。らしくする。〔孟子、離婁下〕如レ舜而已矣。❷**ごとし。ごとき。**㋑おなじい。ひとしい。〔詩、王風、大車〕謂二予不信一、有レ如二皦日一。〔詩、大雅、常武〕如レ雷如レ霆。㋺らしい。やうだ。〔詩、曹風、鳲鳩〕心如レ結兮。㋩ほど。ばかり。〔史記、孟嘗君傳〕出如二食頃一、秦追、果至レ關。㊁指定する語。〔孟子、公孫丑上〕如レ此則動レ心否乎。㋭似る。〔漢書、爰盎傳〕丞相如レ有二驕主色一。〔注〕師古曰、如、似也。❸**しく。**〔說文、段注〕引二伸之一、凡相似曰レ如。㋑ひとしい。〔廣雅、繹言〕如、均也。㋺ならぶ。〔史記、武帝紀〕可三爲レ觀如二緱氏城一。〔注〕集解曰、如、猶レ比也。㋩あたる。〔戰國、宋策〕夫宋之不レ足レ如レ梁也、寡人知レ之矣。〔注〕如、當也。❹**しかず。**〔公羊、隱、元〕如レ勿レ與而已矣。〔注〕如、卽不レ如、齊人語也。❺**ゆく。**いたる。〔說文、段注〕凡有レ所レ往曰レ如、從隨之引伸也。〔爾雅、釋詁〕如、往也。〔小爾雅、廣詁〕如、適也。〔左氏、隱、五〕公將三如レ棠觀二魚者一。〔國語、晉語四〕有レ如二河水一。〔注〕如、往也。〔呂覽、首時〕與二將軍之節一以如レ秦。〔注〕如、之也。❻**いかん。いかんせん。**柰(**6－14659**)に通ず。〔經傳釋詞、七〕如、昭十二年公羊傳注曰、如、猶レ柰也、凡經言二如何・如レ之何一者、皆是。〔書、盤庚上〕曰其如レ台。〔論語、子罕〕匡人其如レ予何。〔皇疏〕如レ予何者、猶レ言二柰レ我何一也。❼**接續の助辭。**㋑して。て。而(**9－28871**)に通ず。〔集韻〕如、一曰、而也。〔經傳繹詞、七〕如、猶レ而也。〔左氏、僖、二十六〕室如縣罄。〔注〕如、而也。〔春秋、莊、七〕夜中星隕如雨。〔杜注〕如、而也。〔荀子、儒効〕鄉レ是如不レ臧、倍レ是如不レ亡。〔注〕如、讀爲レ而。〔鶴林玉露、如字訓而〕春秋星隕如雨、釋者曰、如、而也、歐陽公集古錄載、後漢郭先生碑云、其長也寬舒如好レ施、是以宗族歸懷、東坡得二古鏡一、

背有レ銘云、漢有二善銅一出二白楊一取爲レ鏡、清如明、皆訓レ如爲レ而也。㋺そこで。〔經傳釋詞、七〕如、猶レ乃也、云云、大戴記少閒篇曰、臣之言未レ盡、請盡二臣之言一、君如財レ之、言下請俟二臣之言盡一、君乃裁上レ之也。㋩すなはち。〔經傳釋詞、七〕如、猶レ則也、史記淮南王傳、王曰、上無二太子一、宮車卽晏駕、廷臣必徵二膠東王一、不レ如二常山王一、言二云云、否則常山王一也、漢書作二不卽常山王一、卽亦則也。㋥および。と。〔經傳釋詞、七〕如、猶レ與也、及也、書堯典曰、脩二五禮五玉三帛二牲一死贄一、如五器、如者、及也、云云、儀禮鄉飲酒禮、公如二大夫一入、謂下公與二大夫一入上也、鄭讀レ如爲レ若、若亦與也。❽副詞として制限する助辭。㋑もし。〔集韻〕如、一曰、若也。〔論語、先進〕如用レ之。〔皇疏〕如、若也。㋺さき。さきに。〔書、洛誥〕王如弗三敢及二天基一命定レ命。〔傳〕如、往也、言、王往日幼少、不三敢及レ知下天始命二周家一、安二定天下一之命上、故已攝。㋩まさに云云すべし。〔經傳釋詞、七〕如、猶レ當也、云云、爲二相當之當一、又爲二當レ如レ是之當一、僖二十二年左傳曰、若愛二重傷一、則如レ勿レ傷、愛二其二毛一、則如レ服焉、正義曰、如、猶レ不レ如、古人之語然、猶似二敢卽不レ敢、家大人曰、孔說非也、如、猶レ當也、言、若愛二重傷一、則當レ勿レ傷レ之、愛二其二毛一、則當三服二從之一也。㋥まさに云云せんとす。〔經傳釋詞、七〕如、猶レ將也、宣十二年左傳曰、有二喜而憂、如二有レ憂而喜一乎、言、憂喜各因二其事一、若有レ喜而憂、則亦將レ有二憂而喜一乎、云云、又孟子公孫丑篇、寡人如二就見一者也、如字、亦與レ將同義。❾語の中にある助辭。㋑に。おいて。〔經傳釋詞、七〕如、猶レ於也、莊子德充符篇、申徒嘉謂二子產一曰、先生之門、固有レ執二政焉如此一哉、言、先生之門、固無レ執二政於此一也。㋺より。比較する語。〔經傳釋詞、七〕如、猶レ於也、云云、呂氏春秋愛士篇、人之困窮、甚二如饑寒一、言レ甚二於饑寒一也。❿語の終に置く助辭。㋑かな。〔經傳釋詞、七〕如、猶レ乎也、禮記祭義、善如爾之問也、呂氏春秋孝行篇作二善乎而問一レ之、是善如、卽善乎也。㋺語調を整へる語。然(7－19149)に通ず。〔經傳釋詞、七〕如、猶レ然也、若二論語鄉黨篇、恂恂如・踧踖如・勃如・躩如之屬一、是也、云云、如・然、語之轉、故詩葛屨、宛然左辟、說文引作二宛如左僻一。〔易、屯〕屯如邅如。〔釋文〕如、辭也。⓫二月の異稱。〔爾雅、釋天〕二月爲レ如。⓬古は女(3－6036)に作る。〔集韻〕如、古作レ女。⓭〖佛〗法性。實相。眞如。思慮分別を加へない、あるがままのすがた。〔起信論〕此眞如體、無レ有レ可レ遣、以二一切法悉皆眞一故、亦無レ可レ立、以二一切法皆同如一故。⓮姓。〔通志、氏族略、平聲〕如氏、桓譚新論、有二道人如子禮一、漢書、長安富人如氏、又如羅氏、改爲二如氏一。〖二〗❶ゆく。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕忽容容其安之兮、超慌忽其焉如。〔張衡、歸田賦〕安知二榮辱之所一レ如。〔注〕向曰、如、往也。❷しく。〔左氏、僖、四〕筮短龜長、不レ如レ從レ長。〔釋文〕如、依レ字讀、或音而據反。❸にる。〔集韻〕如、似也。〖三〗ごとし。〔集韻〕如、若也。

〖名乘〗スケ。ナホ。ユキ。

【如菴】1（ジョアン）字號。❶金、完顏璹(3－7079··30)の號。❷元、眞淨(8－23235··152)の字。❸元、溥圓(7－17957··2)の號。

【如意】2（ニョイ）❶意の如くする。我が思ふままにする。又、思ふが儘なこと。〔漢書、京房傳〕陛下雖レ行二此道一、猶不レ得レ如レ意。〔搜神記〕河閒管弼、僑居臨レ水作二商賈一、往往如レ意。❷道士の持つ道具。木・玉・鐵等で造る。昔道士が陰德ある一貧士に與へたもので、之を振り上げると、思ふままの物が出るといふ。〔晉書、石崇傳〕王愷以示レ崇、崇便以二鐵如意一擊レ之、應レ手碎。〔晉書、王敦傳〕以二如意一打二唾壺一爲レ節、壺邊盡缺。〔瑯嬛記〕昔有二貧士一多二陰德一、遇二道士一、送二與一物一、謂二之如意一、凡心有レ所レ欲、一擧レ之、頃隨卽如レ意、因卽以名レ之也。〔南史、韋叡傳〕叡雖二臨レ陣交一レ鋒、常緩服乘レ輿、執二竹如意一以麾進止。〔事物紀原、什物器用部、如意〕吳時、秣陵有三掘二得銅匣一、開レ之得二白玉如意一、所レ執處皆刻二螭虎蠅蟬等形一、胡綜謂、秦始皇東遊埋レ寶、以當二王氣一、則此也、蓋如意之始、非二周之舊一、當二戰國事一爾。❸唐の則天武后年號。(192)❹山名。京都市鹿ケ谷の上方に聳え、近江國に跨がる。俗稱、大文字山。〔服部蘇門、上三如意山二詩〕城東鎭嶽簇二雲霞一、道歷二談溪一石磴斜。❺〖佛〗法會・講讚の時に導師・講師の持つ具。木或は鐵製の一尺許りの平たい棒で、先が太く曲つて蕨の芽の形に似てゐる。もと背の痒い所をかく具で、痒い所に手がとどく義から如意といふ。如意杖。〔釋氏要覽、中〕梵名阿那律(Anurubbha)、秦言二如意一、指歸云、古之爪杖也、云云、用以搔抓、如二人之意一、故曰二如意一。

【如意館】3（ニョイクヮン）宮中の畫所。〔李頎、鄭櫻桃歌〕鳳陽重門如意館、百尺金梯倚二銀漢一。

【如意菜】4（ニョイサイ）おもだか。澤瀉苗。〔閩雜記〕如意菜、卽澤瀉苗也、延建人以爲二常蔬一、長一尺餘、似二蒜苗一而麤、上靑下綠、其中純白、春杪夏初、莖端結レ蕊淡碧色、形如二如意一、故名。

【如意草】5 ju^2 i^1 tsʻao^3 苜蓿。うまごやし。

【如意珠】6（ニョイシュ）❶道家の還丹(11－39174··93)をいふ。〔雲笈七籤〕還丹或號二如意珠一。❷〖佛〗佛舍利から出たといふ寶玉。此の珠を持てば思ふがままに願がかなふといふ。摩尼珠。如意輪、如意寶珠。〔智度論、十〕如意珠生レ自二佛舍利一、若法沒盡時、諸舍利皆變爲二如意珠一。

【如意針】7 ju^2 i^4 chen^1 止め針。

【如意杖】8（ニョイヂヤウ）如意の❺に同じ。〔法苑珠林〕秦燉煌沙門竺曇猷、遊二會稽剡縣赤城山一、有二羣虎來前一、猷爲說レ法、一虎獨眠、乃以二如意杖一打レ頭。

【如意娘】9（ニョイヂヤウ）樂府、商調曲の名。唐、則天武后作。〔樂府詩集、近代曲辭、如意娘〕樂苑曰、如意娘、商調曲、唐則天皇后所レ作也。〔溫庭筠、如意娘〕看レ朱成レ碧思紛紛、憔悴支離爲レ憶レ君、不レ信比來長下レ淚、開レ箱驗取石榴裙。

【如意通】10（ニョイツウ）〖佛〗五種の神通力の一。變現自在意の如くなることからいふ。神足通・神境通ともいふ。五通(1－257··843)の❷の㋑を見よ。

【如意輪】11（ニョイリン）〖佛〗❶佛家の用ひる法器。〔夢溪筆談、神奇〕吳僧文捷、戒律精苦、奇跡甚多、嘗持二如意輪一、呪二瓶中水一、呪レ之則涌出。❷自在に法の功德を顯はすこと。輪は功德を轉輪するとの象徵。❸六つの手が有つて、如意寶珠・如意輪寶を持つて居る觀世音の像。如意輪觀音を見よ。

【如意君傳】12（ニョイクンデン）書名。作者未詳。淫書で、我が國の譯本に、通俗如意君傳（五冊）・通俗後宮傳（五冊）がある。

【如意小車】13（ニョイセウシャ）人力車に似た車。〔長生殿、窺浴〕上二如意小車一、回二華淸宮一去。

【如意寶珠】14（ニョイホウジュ）〖佛〗如意珠の❷を見よ。

【如意輪觀音】15（ニョイリンクヮンノン）〖佛〗福德を衆生に與へる黃色六臂の觀音。〔觀自在菩薩如意輪瑜伽〕手持二如意寶一、六臂身金色、云云、第一手思惟、愍二念有情一故、第二手持二意寶一、能滿二一切願一、第三手持二念珠一、爲レ度二傍生苦一、左按二光明山一、成二就無傾動一、第二持蓮手、能淨二諸非法一、第三挈輪手、能轉二無上法一、六臂廣博體、能遊二於六道一。

【如一】16（ジョイツ）❶一つのやうである。同じ。かはらない。一つと同じ。〔禮、內則〕糝取二牛羊豕之肉一、三如レ一、小切之。〔疏〕三如レ一者、謂下取二牛羊豕之肉一、等分如上レ一。〔漢書、董仲舒傳〕夏因二於虞一、而獨不レ言レ所二損益一者、其道如レ一、而所レ上同也。〔後漢書、馬后紀〕內外從レ化、被服如レ一。

〔王延壽、魯靈光殿賦〕千門相似、萬戸如レ一。〔謝朓、還塗臨レ渚聯句〕白沙澹無レ際、青山眇如レ一。❷明、李鶚翀(6－14459··966)の字。

【如雨】17ジョウ 如レ雨(12－42210··194)を見よ。

〔如雨露〕18ジョウロ 如露(134)に同じ。

【如曜】20ジョエウ 明、方孟式(5－13620··618)の字。

【如耀】21ジョエウ 明、方孟式(5－13620··618)の字。

【如煙】22ジョエン 煙のやうである。煙に似てゐる。〔陸機、隴西行〕我靜如レ鏡、民動如レ烟。〔郭璞、江賦〕氣滃浡以霧杳、時鬱律其如レ煙。〔李白、烏夜啼〕機中織レ錦秦川女、碧沙如レ煙隔レ牕語。〔宣都三川記〕郡西北有二丹山一、天晴山嶺忽有二霧起一、迴轉如レ煙、不レ過二再朝一、雨必降。

【如何】23イカン ❶いかが。いかに。どうであるか。問ふ言葉。怎樣の意。〔書、皐陶謨〕曰若稽二古皐陶一、曰允迪二厥德一、謨明弼諧、禹曰、兪、如何。〔詩、小雅、庭燎〕夜如何其、夜未レ央。〔宋玉、神女賦序〕王曰狀如何也。❷どうして。いかんぞ。反語の辭。〔論語、先進〕有二父兄在一、如レ之何其聞斯行レ之也。〔孟子、梁惠王上〕如レ之何其使二斯民飢而死一也。❸どうしよう。いかにせん。なんとせん。奈何。〔詩、秦風、晨風〕如何如何、忘レ我實多。〔左氏、襄、二十三〕陳文子見二崔武子一曰、將如二君何一。〔論語、述而〕天生二德於予一、桓魋其如レ予何。〔論語、衞靈公〕不レ曰二如レ之何如レ之何一者、吾末二如レ之何一也已矣。〔孟子、滕文公下〕一薛居州獨如二宋王一何。〔史記、叔孫通傳〕二世召二博士諸儒生一、問曰、楚戍卒攻レ蘄入レ陳、於レ公如何。❹なんぞ。詰問の辭。而何の意。如は而。〔左氏、襄、二十三〕夫鼠晝伏夜動、不レ穴二於寢廟一、畏レ人故也、今君聞二晉之亂一、而後作焉、寧將レ事レ之、非レ鼠如何。〔公羊、宣、六〕史曰、爾爲レ仁爲レ義、人弑二爾君一、而復レ國不レ討レ賊、此非レ弑レ君如何。〔戰國、趙策〕非レ反如何也。〔晏子、諫下〕譬瘠非レ害二國家一而如何也。❺ジョカ 樹の名。〔神異經、南荒經〕南方大荒有レ樹焉、名曰二如何一、三百歲作レ華、九百歲作レ實、云云、實有レ核、形如二棗子一、長五尺、圍如レ長、金刀剖レ之則酸、蘆刀剖レ之則辛、食レ之地仙。〔顧凱之、啓蒙記〕如何隨レ刀而改レ味。

〔不レ可二如何一也〕24イカントモスベカラザルナリ どうにも仕方がない。どうにもしやうがない。〔易、小過〕初六、象曰、飛鳥以凶、不レ可二如何一也。

【如岡】25ジョカウ 明、陳大科(11－41698··1093)の「號。

【如皐】26ジョカウ 縣名。晉、置き、隋、廢し、五代南唐、復置く。今、江蘇省南通縣の西北、運鹽河の東南岸に濱す。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、泰州〕如皐縣、州東南四十里、東南至二通州一百四十里、西至二泰興縣一百里、漢海陵縣地、東晉安帝時始置、今縣屬二海陵郡一、宋齊因レ之、隋省、唐爲二海陵縣之如皐鎭一、南唐復升爲レ縣、屬二泰州一、今城周五里、編戸四十二里。〔清史稿、地理志〕江蘇、通州直隸州、縣二、如皐。

【如岳】27ジョガク 梁、裴之横(10－34362··134)の字。

【如干】28ジョカン 數目の大略をいふ語。いくばく。若干。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕食邑如干戸。〔注〕濟曰、如干戸、猶二若干一也。〔任昉、王文憲集序〕是用綴二緝遺文一、永貽二世範一、爲二如干帙、如干卷一。

【如己】29ジョキ おのれにしたがふ。法が却つて人に從ふをいふ。〔左氏、宣、十二〕衆散爲レ弱、川壅爲レ澤、有レ律以如レ己也。〔注〕如、從也、法行則人從レ法、法敗則法從レ人、坎爲二法象一、今爲レ衆則散、爲レ川則壅、是失二法之用一、從レ人之象。

【如姬】30ジョキ 戰國、魏の安釐王の寵姬。〔史記、信陵君傳〕侯生屛レ人閒語曰、嬴聞、晉鄙之兵符、常在二王臥內一、而如姬最幸、出二入王臥內一、力能竊レ之、嬴聞、如姬父爲二人所レ殺、如姬資レ之三年、自レ王以下、欲レ求レ報二其父仇一、莫二能得一、如姬爲二公子一泣、公子使三客斬二其仇頭一、敬進二如姬一、如姬之欲下爲二公子一死上、無レ所レ辭、顧未レ有レ路耳、公子誠一開レ口、請二如姬一、如姬必許諾、則得二虎符一、奪二晉鄙軍一、北救レ趙、西卻レ秦、此五霸之伐也、公子從二其計一、請二如姬一、如姬果盜二晉鄙兵符一與二公子一。〔陸厥、中山王孺子妾歌〕如姬寢二臥內一。

【如期】31 ju² ch'i² 期限通り。

【如擬】32 ju² ni³ 立案した如く。

【如許】33ジョキョ かくの如しの意。〔宋史、楊萬里傳〕吾頭顱如レ許、報國無レ路、惟有二孤憤一。〔袁枚、普陀寺詩〕一寺藏二山凹一、松竹淡如レ許。

【如玉】34ジョギョク 明、陸崑(11－41708··108)の字。

【如愚】35ニョグ 明の高僧。江夏の人。字は蘊璞。金陵の碧峯寺に住す。僧洪恩に師事し、周汝登・曹學佺等と游ぶ。空華・飲河・止啼・石頭菴・寶善堂等の集がある。〔嘉興府志〕。

【如果】36 ju² kuo³ もしはたして。もしも。

【如晦】37ジョクワイ ❶くらやみのやうである。よるさながら。〔詩、鄭風、風雨〕風雨如レ晦。〔傳〕晦、昏也。❷字號。㋑宋、葛長庚(9－31420··135)の字。㋺宋、黃夢炎(12－47926··1327)の字。㋩宋、謝汝明(10－35827··300)の字。㋥宋、辛炳(10－38630··72)の字。㋭宋、王明(7－20823··1003)の字。㋬明、程明哲(8－25081··295)の字。㋣清、吳炎(2－3365··36)の字。

【如會】38ニョクワイ 唐の高僧。韶州の人。諡は傳明大師。大曆の間、國一禪師の門下に從ひ、後、長沙の東寺に住す。長慶中、歿す。〔宋高僧傳、十一〕。

【如黃】39ジョクワウ 犬の名。又、茹黃(9－30921··7)に作る。如簧。〔廣雅、釋獸、楚黃犬屬、音釋〕楚有レ犬、名二如黃一。〔說苑、正諫〕荆文王得二如黃之狗、箘簬之矰一、以畋二於雲夢一。

【如簧】40ジョクワウ 如黃に同じ。〔抱朴子、君道〕烹二如簧一以謚二司原之箴一、折二菀渃一以迪二梁伯之美一。

【如願】41ジョグワン ❶婢の名。〔搜神記、四〕如願者、青洪君婢也、明將レ歸、所レ願輒得、數年大富。❷願のやうになる。願がかなふ。〔宋史、西蜀孟氏世家〕劉鈞卽如二母所レ願。〔揭傒斯、小孤山詩〕豐城客子無二一錢一、但當二作レ詩乞レ如レ願。❸北周、獨孤信(7－20725··84)の本名。

【如君】42ジョクン 妾をいふ。如夫人(140)に同じ。〔稱謂錄、妾〕次妻・如君・細君・姨娘・姬娘・姑娘、俞正燮癸巳類稿、又載二此數稱一、均未レ言三其出二於何書一、姑爲附二錄於後一。

【如兄】43ジョケイ ❶兄弟のやうに親しむ。〔詩、邶風、谷風〕宴二爾新昏一、如レ兄如レ弟。〔淮南子、兵略訓〕上視レ下如レ弟、則下視レ上如レ兄。❷ju² hsiung¹ 義兄。

【如圭】44ジョケイ 片岡基成の號。片岡如圭(7－19813··126)を見よ。

【如卿】45ジョケイ 字號。❶明、謝瑜(10－35827··223)の字。❷明、須用綸(12－43352··51)の字。

【如稽】46ジョケイ 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕如稽氏、改爲二緩氏一。

【如馨】47ジョケイ 如レ此(6－16259··43)に同じ。如馨地を見よ。〔郝氏晉宋書故〕寧馨者、晉宋方言、卽爲二如レ此之意一、其云レ馨者、乃語詞、世說容止篇注、王仲祖每レ覽レ鏡自照曰、王文開那生二如馨兒一、此卽寧馨之義、如、讀若レ女、爲二寧之轉音一也、又文學篇品藻篇作二爾馨一、義亦同。

〔如馨地〕48ジョケイチ 晉時代の俗語。如レ此といふに同じ。馨の字は語助。また爾馨(7－19750··23)・寧馨(3－7296··45)に作る。〔世說新語、方正下〕桓大司馬詣二劉尹一、臥不レ起、桓彎レ彈彈二劉枕一、丸迸碎二牀褥閒一、劉作レ色而起曰、使君如馨地、寧可二鬬戰求レ勝、桓甚有二恨容一。

【如曉】49ニョゲウ 明の僧。蕭山の人。字は萍蹤。號は天目寓僧。崇禎中、烏石峯の側に茅屋を結び、名づけて巖艇といふ。

【如玦】50ジョケツ 半環の狀をなすこと。玦は佩玉の一種で、一部が缺けてゐるもの。〔竹堂遊記〕俯則海波如レ玦、嶽影落レ水、上下相映。

【如月】51ジョゲツ 陰曆二月の異名。きさらぎ。夾鐘。〔爾雅、釋天〕二月爲レ如。〔郝懿行義疏〕如者、隨從之義、萬物相隨而出、如如然也。

【如乾】52ジョケン 清の高僧。四川の人。字は憨休。嘗て陝西興善燉煌等の主となる。著に敲空遺響がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【如幻】53ジョゲン 幻のやうである。はかないこと。〔蘇軾、李公擇過二高郵一見下施大夫與二孫莘老一賞レ花詩上憶下與レ僕去歲會二於彭門一折花餽筍故事上作二詩二十四韻一見レ戲依レ韻奉答亦以戲二公擇一云詩〕此生如レ幻耳、戲語君勿レ惱。

〔如幻居士〕54ジョゲンコジ 元、倪瓚(1－792··12)の「號。

【如原】55ジョゲン 梁、裴之平(10－34362··132)の字。

【如故】56ジョコ ❶もとのごとし。以前の通り。〔漢書、高帝紀上〕吏民皆安堵如レ故。〔魏文帝、短歌行〕其物如レ故、其人不レ存。〔南史、吳均傳〕柳惲爲二吳興一、召補二主簿一、均嘗不レ得レ意、贈二惲詩一而去、久之復來、惲遇レ之如レ故。❷昔からの友人のやうである。故舊の如し。〔漢書、鄒陽傳〕白頭如レ新、傾レ蓋如レ故。

【如晤】57ジョゴ　お目にかかる氣持で申上げる。晤は對面。書翰文用語。

【如今】58ジョコン　今の世。ただいま。現在。〔史記、項羽紀〕如今人方爲二刀俎一、我爲二魚肉一。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一劉楨詩〕辰事既難レ諧、歡願如今幷。〔杜甫、春日江村詩〕艱難昧二生理一、飄泊到二如今一。〔劉商、送二王永一詩〕如今送レ別臨二溪水一、他日相思來二水頭一。〔張謂、贈二喬琳一詩〕如今五侯不レ待レ客、羨君不レ入二五侯宅一。〔杜牧、悵別詩〕如今風擺花狼藉、綠葉成レ陰子滿レ枝。〔朱子全書、學、小學〕如今爲レ學甚難。

〖如今晩兒〗59 ju² chin¹ wan³ êrh　現在。ただいま。如今。

【如山】62ジョザン　㊀清、滿洲鑲藍旗人。姓は赫舍里氏。字は冠九。道光の進士。官は直隸按察使。內典に專心し、小品文字に巧で、書は北朝の堂奧に入り、書室を寫秋軒といふ。著に寫秋軒詩存がある。〔清畫家詩史、庚、下〕。㊁字號。㋑梁、裴子高(10－34362‥131)の字。㋺宋、翁巖壽(9－28635‥65)の字。㋩宋、顔度(12－43591‥84)の號。㋥清、許山(10－35298‥98)の字。㊂清、趙鎭寰(10－37171‥792)の名。

【如此】63ジョシ　此のやうである。かくの如し。如馨。〔孟子、萬章上〕其自任以二天下之重一如レ此。

〖如此如此〗64ジョシジョシ　しかじか。かくかく。云云。〔漢書、汲黯傳、上曰吾欲二云云一、注〕師古曰、云云、猶レ言二如此如此一也。〔孫樵、與二高錫望一書〕今世俚言文章、謂レ得二史法一、因牽二韓吏部一曰如此如此。

【如是】65ジョシ ニョゼ　㊀指示の辭。かくの如く。かやうに。如斯。〔論語、子路〕夫如レ是則四方之民、襁二負其子一而至矣。〔孟子、梁惠王上〕誠如レ是也、民歸レ之、由二水之就一レ下沛然、誰能禦レ之。〔資持記、上一之一〕如是者指示之詞。㊁印可の辭。尤も。その通り。〔勝鬘寶窟、上本〕是印述之辭、如是如是誠如二聖教一、如是如是如二汝所說一、云云、言三是法稱二合道理一、故言二如是一。㊂清初の名妓、柳如是をいふ。色藝、時に冠絶し、詞翰に巧。後、錢牧齋に嫁し、其の死後、殉死す。㊃攝津國の地名。

〖如是翁〗66ニョゼヲウ　元、周馳(2－3441‥369)の號。

【如是觀】67ニョゼクワン　戲曲の名。清、張大復撰。原本は久しく佚して、今僅かに流傳・剌字等の數折を殘すのみ。岳飛が大功を成し、秦檜が誅戮を受ける事を演ずる。別名、倒精忠・翻精忠。俗に誤つて精忠記といふ。

〖如是我聞〗68ニョゼガモン　㊀〘佛〙かくのごとくわれきく。經文の冒頭のことば。蓋し、佛の入滅後、諸弟子が佛說を結集するに、多聞第一の阿難が聞いた所を宣唱して、諸經の開卷に皆此の四字を置いた。卽ち阿難が唱へた第一句で、我佛者に聞くことこのやうである意。〔佛地經論、一〕如是我聞者、謂三總顯二已聞一、傳二佛教一者言、如レ是事、我昔曾聞如レ是。㊁書名。四卷。清、紀昀撰。凡て二百五十六條。鬼魅狐怪など異聞小說話を輯めたもの。

【如厠】69ジョシ　便所に行く。便所に入る。上厠。〔左氏、成、十〕晉侯欲レ麥、使二甸人獻一レ麥、饋人爲レ之、召二桑田巫一、示而殺レ之、將レ食、張、如レ厠、陷而卒。〔史記、項羽紀〕沛公起如レ厠、因招二樊噲一出。〔後漢書、楊彪傳〕建安元年、大會二公卿一、曹操上レ殿、見レ彪色不レ悅、託レ疾如レ厠、因出還レ營。

【如絲】70ジョシ　絲の如し。㊀王の言にいふ。王の言は一たび出れば絕對に元へはもどらないこと、宛も繭の絲の一度出て元に歸らないのと同一であるからいふ。〔禮、緇衣〕子曰、王言如レ絲、其出如レ綸。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕奉二待漏之書一、銜二如絲之旨一。㊁川が細く見える形容。〔李白、西嶽雲臺歌送二丹丘子一〕西嶽崢嶸何壯哉、黃河如レ絲天際來。〔韓琮、駱谷晚望詩〕秦川如レ畫渭如レ絲、去レ國還レ家一望時。㊂氣の上る形容。〔杜甫、太平寺泉眼詩〕如レ絲氣或上、瀾漫爲二雲雨一。㊃細い煙の形容。〔蔡松年、詩〕爐烟暈如レ絲。㊄細雨の形容。〔陸游、春遊詩〕似レ蓋微雲纔障レ日、如レ絲細雨不レ成レ泥。㊅涙の形容。〔王維、送別詩〕送レ君南浦涙如レ絲、君向二東周一使二我悲一。㊆絲を操るやうに轡を自在に操ることの形容。〔詩、小雅、皇皇者華〕我馬維騏、六轡如レ絲。〔傳〕言二調忍一也。㊇情緒の亂れる形容。〔江淹、燈賦〕秋夜如レ歲、秋情如レ絲。㊈鶯語の形容。〔劉基、絶句漫興十一首詩〕新鶯枝上語如レ絲、似下與二羇魂一話中所思上。㊉篆文の細い形容。〔薛逢、靈臺家兄古鏡歌〕一尺圓潭深黑色、篆文如レ絲人不レ識。

【如時】71 ju² shih²　時刻通りに。時刻をあやまらずに。

【如實】72ニョジツ　㊀其の儘の通りに。眞實そのままに。〔論衡、卜筮〕如實論レ之、卜筮不レ問二天地一。㊁〘佛〙思慮分別を加へないありのままのすがた。眞如・法界・如如。〔勝天般若經、二〕云何如實、云云、此可二智知一、非二言能說一、何以故、過二諸文字一、離二語境界口境界一故。〔行宗記、一上之二〕眞如平等、體離二虛妄一、故云二如實一。

【如上】73ジョジャウ　上に述べたやうに。前に言つた通り。右の通り。以上の通り。

【如常】74 ju² ch'ang²　常に。〔水滸傳、一回〕貧道等如常亦難得見、怎生教人請得下來。

【如淨】75ニョジャウ　宋の僧。號は長翁。後、天童に住し、宗珏を嗣ぐ。〔繼燈錄〕。

【如須】76ジョシュ　明、姜垓(3－6205‥9)の字。

【如春】77ジョシュン　春のやうである。溫和なこと、恩澤あること、又、快樂あることなどの形容。〔班固、答賓戲〕養レ之如レ春。〔注〕善曰、朝錯新書曰、臣聞、帝王之道、包レ之如レ海、養レ之如レ春。〔夏侯太初、樂毅論〕我澤如レ春、下應如レ草。

【如淳】78ジョジュン　三國、魏の馮翊の人。官は陳郡丞。漢書に注す。〔漢書、敍例〕。

【如初】79ジョショ　はじめ通り。最初の通り。〔書、舜典〕八月西巡守、至二于西岳一、如レ初。〔周禮、地官、州長〕正歲則讀二教灋一如レ初。〔儀禮、大射儀〕司馬降、釋レ弓反レ位、小臣委レ矢、司馬師乘レ之、皆如レ初。〔左氏、隱、元〕遂爲二母子一如レ初。

【如如】80ジョジョ　㊀相隨ふさま。如月(51)を見よ。㊁變らないさま。〔白居易、讀二禪經一詩〕不禪不動卽如如。〔賈島、寄二無得頭陀一詩〕當レ空月色自如如。㊂〘佛〙ニョニョ　思慮分別を加へないありのままのすがた。法界・眞如・實相・實際。〔智度論、一〕人等世界故有、第一義故無、如如法性實際世界故無、第一義故有。〔大乘義章、三〕言二如如一者、是前正智所契之理、諸法體同、故名爲レ如、就二一如中一體備二法界恆沙佛法一、隨レ法辨レ如、如義非レ一、彼此皆如、故曰二如如一。

【如心】81ジョシン　㊀心のごとし。己の心と同じやうにする。〔說文長箋〕如レ心爲レ恕。〔聞見錄〕太祖坐二萬歲殿一、洞二開諸門一、端直如二引繩一、歎曰、此如二吾心一、小有二邪曲一人皆見矣。㊁字號。㋑宋、蔡志學(9－31818‥186)の號。㋺元、許恕(10－35298‥125)の字。㋩元、吳恕(2－3365‥234)の字。㋥明、田守忠(7－21723‥380)の字。㋭明、傅恕(1－939‥75)の字。㊂ju² hsin¹　思ひ通りになる。

〖如心爲恕〗82ジョシンヲジョトナス　己の身に省みて我が心に感ずる思ひを他人の上に推し及ぼすことが恕である。恕の字を如レ心（ココロノゴトクスル）と分解して解釋したもの。〔說文長箋〕如レ心爲レ恕。〔論語、里仁、子曰參乎吾道一以貫レ之、云云、曾子曰夫子之道忠恕而已矣、集注〕或曰、中心爲レ忠、如レ心爲レ恕。

【如神】83ジョシン　神のやうである。㊀智のある形容。〔列子、黃帝〕有二神巫一、自レ齊來處二於鄭一、命曰二季咸一、知二人死生・存亡・禍福・壽夭一、期以二歲月旬日一如レ神。〔史記、五帝紀〕帝堯者、放勳、其仁如レ天、其知如レ神。〔注〕索隱曰、如二神之微妙一也。〔漢書、趙廣漢傳〕發レ姦擿レ伏如レ神。〔帝王世紀〕帝堯、其仁如レ天、其智如レ神。㊁威儀のある形容。〔國史略、文武天皇〕紫袍帛帶、威儀如レ神。

【如水】84ジョスイ　㊀水のやうである。㋑多いことの形容。〔詩、齊風、敝笱〕齊子歸止、其從如レ水。〔傳〕水、喩レ多也。㋺融合することの形容。〔禮、表記〕君子之接如レ水。〔注〕水相得レ合而已。㋩融通無限なこと。〔梁元帝、釋奠祭二孔子一文〕上善如レ水、至人若レ鏡。㋥青々としてゐることの形容。〔溫庭筠、瑤琴怨〕冰簟銀牀夢不レ成、碧天如レ水夜雲輕。㋭恩澤あることの形容。〔趙嘏、獻二淮南李僕射一詩〕新諾似レ山無力負、舊恩如レ水滿身流。㋬流れさつて歸らないことの形容。如流。〔賴山陽、十有三春秋詩〕十有三春秋、逝者已如レ水。㋣あつさりしてゐることの形容。若水に同じ。㊁清、陳天清(11－41698‥157)の字。

【如嵩】85ジョスウ　明、陸嵩(11－41708‥163)の字。

【如數】86ジョスウ　數の通り。〔周禮、夏官、司弓矢〕大

射燕射、共二弓矢一如レ數。〔注〕如レ數、如二當レ射者之數一也。〔後漢書、律曆志上〕均二其中弦一、令下與二黃鐘一相得上、案レ畫以求二諸律一、無下不二如レ數而應一者上矣。

【如性】87ジョセイ 明、王貞善(7－20823‥1952)の字。

【如靖】88ジョセイ 明、李定國(6－14459‥1775)の初名。

【如石】89ジョセキ 明、趙之璽(10－37171‥610)の字。

【如昔】90ジョセキ 鎭の名。廣東省防城縣の北。又、如昔砦に作る。〔九域志〕安遠有二如昔鎭一。〔宋史、地理志六〕安遠有二如洪・如昔二砦一。〔輿地紀勝〕如昔砦、據二大山之巓一、勢甚險阻、舊置レ砦、管二轄如昔等七峒一。

【如錫】91ジョセキ 明、黃福(12－47926‥812)の字。

【如川】92ジョセン 字號。❶費若(10－36717‥45)の字。❷清、超盛(10－37096‥60)の號。

【如船】93 ju^2 chʻuan^2 うきぶくろ。浮嚢。

【如茸】94ジョソ 漢代、京師の富人。如氏と茸氏。〔漢書、貨殖、程鄭傳〕至二成哀閒一、成都羅裒、訾至二鉅萬一、初裒賈二京師一、隨レ身數十百萬、爲二平陵石氏一持レ錢、其人彊力、石氏訾次二如茸一。〔漢書、貨殖、宣曲任氏傳〕自二元成一訖二王莽一、京師富人、杜陵樊嘉・茂陵摯網・平陵如氏茸氏。

【如村】95ジョソン 元、劉麟瑞(2－2224‥1360)の字。

〖如村老人〗96ジョソンラウジン 宋、胡嶧(9－29400‥22)の號。

【如邨】97ジョソン 元、劉麟瑞(2－2224‥1360)の號。

【如孫】98ジョソン 明、劉三吾(2－2224‥939)の名。

【如卓】99ジョタク 明、錢養度(11－40563‥439)の號。

【如湛】100ニョタン 宋の高僧。永嘉の焦氏の子。紹興の閒、歿す。著に淨業記・護國記がある。〔新續高僧傳、四十二〕。

【如晝】101ジョチウ 晝のやうに明るいこと。〔帝王世紀〕帝堯、其仁如レ天、其智如レ神、其明如レ晝、其晦如レ陰。〔崔國輔、從軍行詩〕刀光照二寒月一、陣色明如レ晝。〔國史略、淸和天皇〕陸奧地大震、夜有レ光如レ晝。

【如弟】102ジョテイ ❶兄弟のやうに親しむ。如兄(43)の❶を見よ。❷ ju^2 ti^4 義弟。

【如亭】103ジョテイ 字號。❶清、瑩川(7－21155‥11)の字。❷江村如圭の號。江村如亭(6－17140‥280)を見よ。❸柏木昶の號。柏木如亭(6－14617‥71)を見よ。

【如泥】104ジョデイ 如レ泥(6－17311‥124)を見よ。

【如適】105ジョテキ したがひかなふ。〔通俗編、祝誦、如適〕鹽鐵論、人人安和如適。

【如貼】106 ju^2 tʻieh^1 十分行きとどく。拔目がない。

【如同】107 ju^2 tʻung^2 同じ。云云のやうに。

【如農】108ジョノウ 明、姜埰(3－6205‥38)の字。

【如破】109ジョハ 破るが如し。勢のはげしい形容。〔詩、小雅、車攻〕不レ失二其馳一、舍レ矢如レ破。〔孟子、滕文公下〕詩云、不レ失二其馳一、舍レ矢如レ破。

【如胞】110 ju^2 pao^1 兄弟のやうに親しいこと。胞は同胞。書簡文用語。

【如磐】111ジョバン 清、安致遠(3－7072‥568)の名。

【如敏】112ニョビン 後唐の高僧。號は知聖大師。韶州靈樹院に住す。時に南漢の劉氏、番禺の霸となり、常に如敏を迎へて疑を決す。〔宋高僧傳、二十二〕。

【如璧】113ニョヘキ 宋の高僧。臨川の饒氏の子。名は節。號は倚松老人。博學能文。著に倚松老人集がある。饒節(12－44400‥33)を見よ。〔新續高僧傳、六十〕。

【如勃】114ジョボツ 明、趙一韓(10－37171‥403)の字。

【如法】115ニョホフ ❶佛⃞法にかなひ、理にかなふことをいふ。〔無量壽經、下〕應二當信順如法修行一。〔維摩詰所說經、方便品〕夫說法者、當二如法說一。❷かたの如く。〔維摩經、中〕若無レ所二分別一是則如法。

〖如法暗夜〗116ニョホフアンヤ 眞のやみ。

〖如法炮製〗117 ju^2 fa^3 pʻao^2 chih^4 型の如くしまつする。

【如民】118ジョミン 清、李世芳(6－14459‥1548)の號。

【如面】119 ju^2 mien^4 面會したやうなもの。

【如容】120ジョヨウ 明、朱欽相(6－14424‥717)の字。

【如羅】121ジョラ 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕如羅氏、改爲二羅氏一。

【如來】122ニョライ 佛⃞ほとけの尊稱。佛の十號の一。〔金剛般若經〕無レ所二從來一、亦無レ所レ去、故名二如來一。〔大般若經〕佛得二如實相性一故、名爲二如來一。〔王巾、頭陀寺碑文〕是以如來、利レ見二迦維一。

〖如來藏〗123ニョライザウ 佛⃞❶生死流轉の據り所であると同時に又涅槃常住の當體。卽ち人閒の本性。佛性。〔勝鬘經〕生死者依二如來藏一。〔同〕如來藏者、離二有爲相一。云云、世尊、若無二如來藏一者、不レ得レ厭レ苦樂レ求二涅槃一。❷如來所說の一切の經藏。〔增一阿含經、序品〕其有三專心持二增一一、便爲レ總二持如來藏一。

〖如來禪〗124ニョライゼン 佛⃞自らも悟り、他にも妙なはたらきをなす如來の三昧境。〔楞伽經、三〕云何諸如來禪、謂入二佛地一住二自證聖智三種樂一、爲二諸衆生一作二不思議事一、是名二諸如來禪一。

〖如來山人〗125ニョライサンジン 細井德民の號。細井平洲(8－27344‥335)を見よ。

【如雷】126ジョライ 雷の如し。物音のとどろく形容。〔詩、大雅、常武〕震二驚徐方一、如レ雷如レ霆。〔戰國、齊策〕蘇秦說二齊宣王一曰、齊車之良、五家之兵、疾如二錐矢一、戰如二雷電一、解如二風雨一。

【如蘭】127ニョラン ❶明の高僧。富陽の人。相術を善くする。〔新續高僧傳、六〕。❷ジョラン 明、呼良朋(2－3471‥99)の字。

〖如蘭亭〗128ジョランテイ 藤堂良道の號。藤堂龍山(9－32340‥69)を見よ。

【如流】129ジョリウ 流水のやうである。❶隨從することの形容。〔書、秦誓〕責レ人斯無レ難、惟受レ責俾レ如レ流。❷疾いことの形容。〔左氏、昭、十三〕從レ善如レ流。〔注〕言二其疾一也。❸裳の裾が地に曳くさま。〔禮、玉藻〕圈豚行不レ擧レ足、齊如レ流。〔集解〕足旣不レ擧、身又俯折、則裳下委レ地、曳レ足如二水流狀一也。❹すらすら運んで留滯することのないさま。〔晉書、陶侃傳〕遠近書疏、莫レ不二手答一、筆翰如レ流、未二嘗壅滯一。〔南史、劉穆之傳〕內總二朝政一、外供二軍旅一、決斷如レ流、事無二壅滯一。〔北史、李孝伯傳〕風容閑雅、應答如レ流。❺逝いてかへらないことの形容。如水。〔孔融、論二盛孝章一書〕歲月不レ居、時節如レ流。

【如輪】130ジョリン ❶小鳥の名。頰白ホホジロと同類。❷魚の鱗の狀をなす木目。

〖如輪木〗131ジョリンモク 輪のやうな木目。

【如令】132ジョレイ 命令の通りにする。〔韓非子、飾邪〕先レ令者殺、後レ令者斬、則古者必貴レ如レ令矣。

【如廉】133ジョレン 蘆の莖を編んで造り小さい簾のやうなもので、食器の上などを被ふに用ひる。

【如露】134ジョロ 水まき。又、植木などに水を注ぐに用ひる器。ブリキ製の水入れに蓮の實がたの注口を取りつけたもの。如雨露。

【如和】135ジョワ 唐、甯純(7－21717‥11)の字。

【如京使】136ジョケイシ 官名。宋、置く。倉庫を管理するもの。詩、小雅、甫田の如レ坻如レ京の義に取る。後、武略太夫と改む。〔宋史、職官志九〕如京使、轉二莊宅使一、有二戰功一、轉二東作坊使一。

【如眞生】137ジョシンセイ 李登(6－14459‥632)の號。

【如小兄】138 ju^2 hsiao^3 hsiung^1 從兄。

【如電頃】139ジョデンケイ いなづまのひらめく閒の如しの意。極めて短い時間をいふ。轉じて、人生のはかない喩。

【如夫人】140ジョフジン 人の妾を呼ぶ稱。如君。〔左氏、僖、十七〕齊侯好レ內、多二內寵一、內嬖如二夫人一者六人。〔陔餘叢考、如夫人・小妻・傍妻・下妻・少妻・庶妻〕左傳、齊桓公多二內嬖一、有下如二夫人一者六人上、後世稱二人之妾一爲二如夫人一、本レ此也。

【如夢令】141ジョムレイ 詞牌の名。唐の莊宗が內苑を修めた時に得た斷碑の面の詞により、樂工に曲を作らせ、又、翰林に數篇を作らせたもの。又、曲牌の名、南曲の小石調に入る。〔唐音癸籤、樂通二〕唐莊宗修二內苑一、掘二得斷碑一、有レ詞云、曾宴二桃源深洞一、一曲舞レ鸞歌レ鳳、長記別レ伊時、和レ淚出レ門相送、如レ夢如レ夢、殘月落花烟重、名二宴桃源一、莊宗使二樂工入一レ律歌レ之、又使三翰林作二數篇一、後人改爲二如夢令一。〔詞譜〕宋蘇軾詞注、此曲本唐莊宗製、名二憶仙姿一、嫌二其名不一レ雅、故改爲二如夢令一、蓋因三此詞中有二如レ夢如レ夢疊句一也、周邦彥又因二此詞首句一、改名二宴桃源一、沈會宗詞有二不レ見不レ見疊句一、名二不見一、張輯詞有下比二著梅花諸瘦句一、名二比梅一、梅苑詞名二古記一、鳴鶴餘音詞名二無夢令一、魏泰雙調詞名二如意令一。

【如隱居士】142ジョインコジ 明、陳錄(11－41698‥615)の號。

【如舟吟館】143ジョシウギンクワン 清、瑞常(7－21131‥78)の室名。

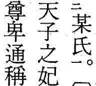
【如不好再換】144 ju^2 pu^4 hao^3 tsai^4 huan^4 若

しも惡ければ又取り換へる。

【如毛嬙飛燕一般】145 ju^2 mao^2 ch'iang^2 fei^1 yen^4 i^4 pan^1 婦人の美しい形容。

【妃】6061

㊀ヒ 〔集韻〕芳微切 微 ㄈㄟ fei^1
㊁イ 〔集韻〕盈之切 支
㊂ハイ 〔集韻〕滂佩切 隊


小篆

㊀❶**つま**。配偶者。〔說文〕妃、匹也、从㆓女己㆒。〔段注〕妃、本上下通併、後人以爲㆓貴稱㆒耳、云云、各本下有㆓聲字㆒、今刪。〔爾雅、釋詁〕妃、合也、對也、媲也。〔儀禮、少牢饋食禮〕以㆓某妃㆒配㆓某氏㆒。〔注〕某妃、某妻也。〔禮、曲禮下〕天子之妃曰㆑后。〔疏〕皆云㆔某妃配㆓某氏㆒、尊卑通稱也。〔左氏、隱、元〕惠公元妃孟子。〔疏〕妃者、配匹之言、非㆑有㆓尊卑之異㆒。〔左氏、桓、二〕嘉耦曰㆑妃。❷**きさき**。きさい。㋑皇后の次に位する嬪御。〔正字通〕妃、古嬪御之貴、次㆓于后㆒者、曰㆑妃。〔禮、檀弓上〕舜葬㆓於蒼梧之野㆒、蓋三妃未㆓之從㆒也。〔呂覽、季春紀〕后妃齋戒。〔注〕妃、卽夫人、與㆑后參㆑職、王者一后三夫人。㋺皇太子の嫡室。〔字彙〕妃、太子之嫡室也。〔唐書、禮樂志〕皇太子納㆑妃。❸**つれあひ**。**とりあはせ**。〔左氏、昭、九〕火、水妃也。〔注〕火畏㆑水、故爲㆓之妃㆒。〔釋文〕妃、方非反、一音配。❹**神女の尊稱**。〔楊烱、少室山少姨廟碑〕有㆓西華之紫妃㆒。〔歐陽脩、蓮賦〕近而視㆑之、靚若㆓星妃臨㆑水。❺或は嫛に作る。〔集韻〕妃、或作㆑嫛。㊁**ひめ**。妾。姬(**3－6230**)に同じ。〔集韻〕姬、衆妾總稱、或作㆑妃。㊂❶**つれあふ**。そふ。通じて配(**11－39771**)に作る。〔集韻〕妃、匹也、通作㆑配。〔左氏、文、十四〕子叔姬妃㆓齊昭公㆒。〔釋文〕妃、本亦作㆑配。❷**つれあひ**。㊀の❸に同じ。❸**くみあはす**。くみあふ。〔左氏、昭、九〕妃以㆑五成。〔注〕妃、合也。〔釋文〕妃、音配。邦**皇族の配偶者**。

解字 段玉裁は从㆑女己聲を女と己との會意字に改め、女を以て己に儷する意といふ。

【妃合】1（ハイガフ／ヒガフ） つれあひ。妃耦。〔荀爽、延熹九年擧㆓至孝對策㆒陳㆓便宜㆒〕臣愚以爲、諸非㆓禮聘㆒、未㆓幸御㆒者、一皆遣出、使㆑成㆓妃合㆒。〔易林、大過之二十八、謙〕醯苦不㆑熟、未㆑有㆓妃合㆒。

【妃宮】2（ヒキユウ） 寵妃の宮室。〔後漢書、楊賜傳〕昔虹貫㆓牛山㆒、管仲諫㆓桓公無㆑近㆓妃宮㆒。〔注〕春秋文曜鉤曰、白虹貫㆓牛山㆒、管仲諫曰、無㆑近㆓妃宮㆒、君恐失㆑權。

【妃偶】3（ハイグウ） 妃耦に同じ。〔北史、列女傳序〕或有㆓王公大人之妃偶㆒、肆㆓情於淫僻之俗㆒。

【妃耦】4（ハイグウ） つれあひ。妃合。妃偶。配偶。〔詩、衞風、氓序〕或乃困而自悔㆑喪㆓其妃耦㆒。〔左氏、成、八〕士之二三、猶喪㆓妃耦㆒、而況霸主。〔左氏、昭、三十二〕天有㆓三辰㆒、地有㆓五行㆒、體有㆓左右㆒、各有㆓妃耦㆒。

【妃子】5（シヒ） ❶皇妃をいふ。〔王建、宮詞〕妃子院中初降誕、內人爭乞洗兒錢。❷園の名。楊貴妃が嗜んだ茘枝を產したから園の名となつた。四川省涪陵縣。〔輿地紀勝〕在㆓涪州西四十里㆒、其地多㆓茘枝㆒、昔楊妃所㆑嗜、當時以㆓馬遞㆒馳載、七日七夜至㆑京。〔蔡君謨、茘枝譜〕貴妃涪州茘枝、歲命驛致。

【妃子笑】6（ヒシセウ） 茘枝(**9－30865··9**)の名。廣東省佛山に產す。〔杜牧、過㆓華淸宮㆒詩〕一騎紅塵妃子笑、無㆔人知㆓是茘枝來㆒。〔曹蕃、茘枝譜序〕閩中果實推㆓茘枝㆒爲㆓第一㆒、卽巴蜀所㆑產、能挾㆘一騎紅塵博㆓妃子笑㆒者㆖亦未㆑得。

【妃嬙】7（ヒシヤウ） 女官の名。妃と嬙。嬪御より位の貴い者。〔左氏、哀、元〕今聞、夫差次有㆓臺榭陂池㆒焉、宿有㆓妃嬙嬪御㆒焉。〔注〕妃嬙、貴者、嬪御、賤者、皆內官。

【妃色】8（ヒシヨク／ハイシヨク） ❶女色。新書保傅篇には好色に作る。〔漢書、賈誼傳〕及㆔太子少長知㆓妃色㆒、則入㆓於學㆒。〔注〕師古曰、妃色、妃匹之色。❷fei^1 sê^4 とき色。淡紅色。濃いものを緋色、淡いものを妃色といふ。俗に楊妃色ともいふ。

【妃妾】9（ヒセフ／ハイセフ） めかけ。そばめ。側室。〔漢書、元后傳〕我乃人之妃妾。〔曹植、求㆑通㆓親親㆒表〕妃妾之家、膏沐之遺。

【妃輩】10（ハイハイ） 妃匹に同じ。

【妃匹】11（ハイヒツ） つれあひ。又、つれあふ。配偶。妃輩。配匹。〔管子、君臣下〕未㆑有㆓夫婦妃匹之合㆒。〔漢書、王莽傳上〕妃匹無㆑二。〔說苑、政理〕壹㆓妃匹之際㆒。〔列女傳、仁智、魏曲沃負傳〕自㆑古聖王、必正㆓妃匹㆒。〔後漢書、明德馬皇后紀〕太子諸王、妃匹未㆑備。

【妃匹之愛】12（ハイヒツノアイ） 夫婦の愛。〔漢書、外戚傳序〕甚哉、妃匹之愛、君不㆑能㆑得㆓之臣㆒、父不㆑能㆑得㆓之子㆒、況卑下乎。

【妃嬪】13（ヒヒン） 女官の名。〔列女傳、節義、楚昭越姬傳〕一婢子之身、爲㆓苞苴玩好㆒、今乃比㆓于妃嬪㆒。

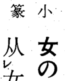
【妃嬪媵嬙】14（ヒヒンヨウシヤウ） 女官の名。妃嬪は貴く、媵嬙は賤しい。〔杜牧、阿房宮賦〕妃嬪媵嬙、王子皇孫、辭㆑樓下㆑殿、輦來㆓於秦㆒。〔注〕自㆓皇后㆒而下、次爲㆑妃、次爲㆑嬪、又其次爲㆑媵爲㆑嬙、皆宮女之在㆓阿房宮中㆒者。

【妃呼豨】15（ヒコキ） 曲調の餘聲。散聲。卽ち嗟歎の詞で、噫・吁・嘻の類。〔漢樂府、有所思〕妃呼豨、秋風肅肅晨風颸。〔王世貞注〕妃呼豨、樂之聲辭。

【妃殿下】16（ヒデンカ） 王妃の尊稱。皇族の妃をうやまつていふ語。

【改】6062

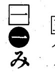
キ 〔集韻〕苟起切 紙


小篆

女のあざな。〔說文〕改、女字也、从㆑女己聲。〔史記、殷紀〕紂嬖㆓於婦人㆒、愛㆓妲改㆒。

【妄】6063

㊀バウ／マウ 〔集韻〕巫放切 漾 ㄨㄤˋ wang^4
㊁バウ／マウ 〔集韻〕武方切 陽
㊂ハイ 〔集韻〕鋪枚切 灰


小篆

㊀❶**みだれる**。**みだり**。**根も葉もない**。道理や禮法にもとること。〔說文〕妄、亂也、从㆑女亡聲。〔禮、儒行〕今衆人之命㆑儒也妄。〔釋文〕妄、虛妄也。〔太玄經、法〕法妄恣也。〔注〕妄、亂也。❷**みだりに**。むなしく。あてもなく。〔禮、曲禮上〕不㆓妄指㆒。〔疏〕妄、虛也。〔戰國、秦策〕故不㆓敢妄賀㆒。〔注〕妄、猶㆑空也。〔法言、問神〕無㆑驗而言、之謂㆑妄。❸**不法のさま**。〔左氏、哀、二十五〕彼好㆑專㆑利而妄。❹**あやまる**。〔素問、五常政大論〕其動炎灼妄擾。〔注〕妄、謬也。❺**いつはる**。しひる。〔增韻〕妄、誕也、罔也。〔易、无妄、彖、疏〕妄、謂㆓虛妄矯詐、不㆑循㆓正理㆒。❻**およそ**。ひろく。もろもろ。すべて。〔漢書、李廣傳〕諸妄校尉已下、材不㆑能㆑及㆑中、以㆓軍功㆒取㆑侯者數十人。〔注〕張晏曰、妄、猶㆑凡也。❼**のぞむ**。望(**5－14368**)に通ず。〔說文通訓定聲〕妄、叚借爲㆑望。〔易、无妄〕无妄之往、何之矣。〔鄭注〕妄之言、望、人所㆑望宜㆑正、行而無㆑所㆑望、是失㆓其正㆒、何可㆑往也。❽**わすれる**。忘(**4－10332**)に通ず。〔易、无妄〕物與无㆑妄。〔虞注〕妄、忘也。❾**目しひ**。**思慮がない**。盲(**8－23132**)に通ず。〔說文通訓定聲〕妄、叚借爲㆑盲、孟子、此亦妄人也已矣、注、妄作之人無㆑知者。❿**眞實でないこと**。**まよひ**。〔圓覺經〕認㆑妄爲㆑眞、雖㆑眞亦妄。㊁**なし**。**なかれ**。無(**7－19113**)・亡(**1－287**)に通ず。〔集韻〕妄、無也。〔經傳釋詞、十〕無、

轉語詞也、字或作レ亡、或作レ忘、或作レ妄、或言二亡其一、或言二意亡一、或言二亡意一、亦或言二將妄一、其義一也、云云、越語曰、道固然乎、妄三其欺二不穀一邪、莊子庚桑楚篇曰、是其於レ辯也、將妄下鑿二垣牆一而殖中蓬蒿上也、新序雜事篇曰、云云、妄レ爲二楚國妖一與、以上皆轉語詞。㊂**みだら**。〔集韻〕妄、人無レ行。

【妄意】1（マウイ） ❶みだりにおもふ。あてもなく考へる。〔莊子、胠篋〕夫妄二意室中之藏一聖也。❷みだらな心。〔韓非子、飾邪〕是妄意之道行、治國之道廢也。〔蘇軾、風水洞二首、和二李節推一詩〕虛心聞二地籟一、妄意覓二桃源一。

【妄尉】2（マウヰ） すべての校尉。妄はすべて、もろもろ。校尉(**6－14713**‥3)を見よ。〔漢書、李廣傳〕諸妄校尉已下、材不レ能レ及レ中、以二軍功一取レ侯者數十人、廣不レ爲レ後レ人、然終無二尺寸功一以得二封邑一者何也。〔注〕張晏曰、妄、猶レ凡也。

【妄有】3（マウイウ） みだらな煩惱。〔白居易、覺偈〕不レ離二妄有一、而得二眞空一。

【妄妖】4（マウエウ） みだりであやしい。取りとめがない。〔舊唐書、張蘊古傳〕素有二風疾一、而語涉二妄妖一。

【妄瑕】5（バウカ） 新論の篇名。

【妄行】6（マウカウ） みだりに行ふ。又、其の行ひをみだりにする。〔荀子、天論〕倍レ道而妄行。〔韓非子、解老〕凡失二其所レ欲之路一、而妄行者、之謂レ迷、迷則不レ能レ至二於其所レ欲至矣。〔管子、法法〕國毋二常經一、則民妄レ行矣。〔漢書、杜業傳〕恣意妄行。

【妄覺】7（マウカク） みだらな知覺。實在しない現象を實在するかのやうに感覺すること。

【妄冀】10（マウキ） みだりにこひねがふ。〔蜀志、劉璋傳評〕神明不レ可二虛要一、天命不レ可二妄冀一。

【妄僞】11（マウギ） いつはる。いつはり。〔陸游、跋二樂毅論一〕其餘妄僞亂レ眞、大抵如レ此。

【妄議】12（マウギ） みだりに論ずる。私意で論議する。〔朱熹、中庸章句序〕於二道統之傳一、不二敢妄議一。

【妄求】13（マウキウ） みだりにもとめる。〔宋史、楊繪傳〕諫官言、是斯可レ窒二異日妄求一矣。

【妄據】14（マウキヨ） みだりによる。〔班彪、王命論〕苟昧二權利一、越レ次妄據、外不レ量レ力、內不レ知レ命。

【妄擧】15（マウキヨ） ❶みだりにあげ用ひる。〔韓非子、二柄〕人主有二二患一、任レ賢則臣將下乘二於賢一以劫中其君上、妄擧則事沮不レ勝。〔管子、版法解〕用而不レ知レ所二利害一、謂二之妄擧一。❷みだりに動かす。みだりに動く。又、妄らな行動。妄動。〔李衞公問對、上〕無レ事兵不二妄擧一。

【妄花】16 wang^4 hua^1 みだりに金錢を費す。浪費。

【妄計】17（マウケイ） みだりなはかりごと。無謀な計畫。〔王維、胡居士臥レ病遺レ米因贈詩〕妄計苟不レ生、是身孰休レ咎。〔郤掃編〕至レ加下苟隨二妄計一者上、且不レ忍二張レ目視レ之。

【妄啓】18（マウケイ） みだりにひらく。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕故精廬妄啓、必窮二鐫勒之盛一。

【妄繫】19（マウケイ） 罪を糾問しないで妄りに囚へる。〔唐書、杜兼傳〕妄繫二令狐運一、而陷李藩欲レ殺レ之。

【妄見】20（マウケン） 佛虛妄不實の分別。我見・邊見の類。〔南本涅槃經、八〕爲レ除二世間諸妄見一故。

【妄言】21（マウゲン） ❶みだりにいふ。道理に合はないことをいふ。又、みだらな言語。妄語。〔列子、仲尼〕好レ怪而妄言。〔韓非子、南面〕人臣莫二敢妄言一矣、又不二敢默然一矣、言默則皆有レ責也。〔管子、山至數〕請士所謂妄言也。〔史記、項羽紀〕無二妄言一、族矣。〔史記、范雎傳〕令レ無二妄言者一。〔越絕書、越絕外傳本事〕聖人不二妄言一。❷佛十惡の一。みだりなことをいふ。又、みだらな言葉。妄語。〔無量壽經、下〕妄言綺語。

〖妄言則亂〗22（マウゲンスレバスナハチミダル） みだりに言說をなせば心が亂れる。〔淮南子、主術訓〕夫目妄視則淫、耳妄聽則惑、口妄言則亂、夫三關者、不レ可レ不二愼守一也。

〖妄言妄聽〗23（マウゲンマウチヤウ） みだりに言ひ、みだりに聽く。〔莊子、齊物論〕予嘗爲レ汝妄二言之一、女以妄二聽之一。〔疏〕至理無レ言、言則孟浪、我試爲レ汝妄說、汝亦妄二聽之一。〔淮南子、主術訓〕夫目妄視則淫、耳妄聽則惑、口妄言則亂、夫三關者、不レ可レ不二愼守一也。

【妄呼】24（マウコ） みだりに呼ぶ。〔漢書、叔孫通傳〕醉或妄呼、拔レ劍擊レ柱。

【妄語】25（マウゴ） ❶いつはりの言葉。妄言。妄談。〔後漢書、王霸傳〕候吏果妄語也。〔南史、何遠傳〕每戲語レ人云、卿能得二我一妄語一、則謝レ卿以二一縑一。❷佛詐をいふこと。いつはり。そらごと。五戒の一。又、十惡の一。妄言。〔大乘義章〕言不レ當レ實、故稱爲レ妄、妄有レ所レ談、故名二妄語一。〔智度論、十四〕妄語者、不淨心欲レ誑レ他、覆二隱實一、出二異語一、生二口業一、是名二妄語一。

〖妄語兒〗26（マウゴジ） 虛語をいふ者。うそつき。〔世說新語補、言語上〕卿博學洽聞、故前欲レ令下卿一詣レ許、交二見朝士一、以折中中國妄語兒上、卿不レ願レ行、便使二張子綱一、恐子綱不レ能レ結二兒輩舌一也。

〖妄語人〗27 wang^4 yü^3 jen^2 うそつき。

〖自レ不二妄語一始〗28（マウゴセザルヨリハジマル） 誠の修養は妄語しないことから着手する。司馬溫公が其の弟子劉安世に教へた語。〔小學、善行〕劉忠定公見二溫公一、問下盡レ心行レ己之要、可二以終レ身行レ之者上、公曰、其誠乎、劉公問、行レ之何先、公曰、自レ不二妄語一始。

【妄苟】29（マウコウ） みだりでかりそめなこと。〔呂覽、離俗〕世之所レ不レ足者、理義也、所レ有レ餘者、妄苟也。

【妄控】30 wang^4 k'ung^4 妄告に同じ。

【妄告】31 wang^4 kao^4 みだりに告訴する。無實の訴をする。

【妄造】32（マウザウ） みだりにつくる。濫造。〔後漢書、來歷傳〕妄二造虛無一、構二讒太子及東宮官屬一。

【妄想】33（マウザウ） 佛みだりなかんがへ。現實を離れた思ひ。妄念。〔楞嚴經〕一切衆生、從二無始一來、生死相續、皆由レ不レ知二常住眞心性淨明體一、用二諸妄想一、此想不レ眞、故有二輪轉一。〔註維摩、三〕生曰、妄想、妄分別之想也。〔大乘義章、三本〕凡夫迷レ實之心、起二諸法相一、執レ相施レ名、依レ名取レ相、所レ取不レ實、故曰二妄想一。

〖妄想之繩〗34（マウザウノナハ） 佛身を苦しめるまよひ。〔法藏寶論〕徒縛二妄想之繩一、空醉二無明之酒一。

【妄作】35（マウサク） みだりにつくる。みだりにする。又、其のこと。〔孟子、離婁下、此亦妄人也已矣、注〕妄人、妄作之人。〔焦循正義〕不レ知而作、是爲二妄作一。〔老子、十六〕不レ知レ常妄作凶。〔管子、法法〕愚民操二事於妄作一。〔劉琨、答二盧諶一詩序〕嗣宗之爲二妄作一也。

〖妄作胡爲〗36 wang^4 tsuo^4 hu^2 wei^2 猥りに不都合の行爲をする。

【妄殺】37（マウサツ） みだりにころす。濫殺。〔史記、酷吏傳贊〕河東褚妄殺。〔說苑、談叢〕智者不二妄爲一、勇者不二妄殺一。

【妄死】38（マウシ） みだりに死ぬ。無駄死。〔晏子、問上〕有レ難而死レ之、是妄死也。

【妄施】39（マウシ） みだりに施す。〔莊子、讓王〕豈可丁以レ貪二爵祿一而使丙吾君有乙妄施之名甲乎。

【妄執】40（マウシフ） 佛むやみに迷ひこんだ執念。無分別な執心。〔法華經、方便品〕深著二虛妄法一、堅受不レ可レ捨。〔釋門歸敬儀、中〕無始妄習執見。

【妄集】41（マウシフ） みだりに集まる。〔禰衡、鸚鵡賦〕飛不二妄集一、翔必擇レ林。

【妄翔】42（マウシヤウ） みだりにかけまはる。〔論衡、講瑞〕毛角有奇、又不下妄翔苟遊、與二鳥獸一爭上飽、則謂二之鳳皇騏驎一矣。

【妄賞】43（マウシヤウ） みだりに賞する。濫賞。〔漢書、鼂錯傳〕妄賞以隨二喜意一、妄誅以快二怒心一。

【妄取】44 wang^4 ch'ü^3 ぬすむ。竊取。

【妄書】45（マウシヨ） いつはりの書。僞書。〔史記、封禪書〕視二其書不經一、疑二其妄書一。

【妄處】46（マウシヨ） みだりにをる。〔班彪、王命論〕神明之祚、可二得而妄處一哉。

【妄證】47 wang^4 chêng^4 うその證據。僞證。

【妄心】48（マウシン） 佛無明のこころ。みだりに分別を生ずる心。〔大藏法數〕全眞成レ妄、隨レ境生滅、念念不レ實、故曰二妄心一。〔大乘起信論〕一切衆生、以レ有二妄心一、念念分別。

【妄信】49（マウシン） むやみに信ずる。わけもなく信用する。〔清國行政法汎論、欽天監〕抑推二陰陽之理數一、附二會於人事一、以卜二吉凶禍福一、實屬二支那古來舊習一、迷惑妄信、至レ今尙未レ能レ去。

【妄進】50（マウシン） みだりにすすむ。〔論衡、狀留〕不二敢妄進苟取一。〔唐書、周墀傳〕駙馬都尉韋讓、求レ爲二京兆一、持不レ與、由レ是妄進者少衰。

【妄人】51 マウジン　わけのわからぬ人。滅茶な人。〔孟子、離婁下〕君子曰、此亦妄人也已矣。〔注〕妄人、妄作之人。〔焦循正義〕不㆑知而作、是爲㆓妄作㆒。〔荀子、非相〕夫妄人曰、古今異㆑情。〔史記、商君傳〕子之客、妄人耳。

【妄笑】52 マウセウ　みだりにわらふ。〔南史、王玄謨傳〕性嚴、未㆓嘗妄笑㆒。

【妄折】53 マウセツ　みだりにをれる。〔呂覽、士容〕難㆓動以㆑物、而必不㆓妄折㆒。

【妄設】54 マウセツ　みだりに設ける。〔漢書、眭弘傳〕妄㆓設祅言㆒惑㆑衆、大逆不道、皆伏㆑誅。

【妄說】55 マウセツ　みだりに說く。みだりな言說。〔禮、曲禮上〕禮不㆓妄說㆑人。〔漢書、霍光傳〕喜㆓妄說狂言㆒、不㆑避㆓忌諱㆒。〔班彪、北征賦〕何夫子之妄說兮。〔蘇軾、八陳磧詩〕後世徒妄說。

【妄族】56 マウゾク　みだりに族滅する。罪咎がないのに一族を刑戮する。〔後漢書、隗囂傳〕妄族㆓衆庶㆒、行㆓炮烙之刑㆒、除㆓順時之法㆒。

【妄誕】57 マウタン　うそ。いつはり。〔漢書、朱買臣傳〕皆醉大呼曰、妄誕耳。〔梅堯臣、讀㆓黃莘祕校卷㆒詩〕賢明以㆑之知㆓盛衰㆒、愚昧以㆑之爲㆓妄誕㆒。

【妄歎】58 マウタン　みだりになげく。〔曹植、與㆓楊德祖㆒書〕吾亦不㆑能㆓妄歎㆒者、畏㆓後世之嗤㆑余也。

【妄談】59 マウダン　いつはりの言葉。妄語(25)の❶に同じ。〔後漢書、竇融傳〕採㆓取虛僞㆒、誇誕妄談、令㆓忠孝失㆑望。

【妄斷】60 マウダン　みだりに斷定すること。みだりな斷定。〔太玄經、斷〕盜蒙決夬測曰、盜蒙之決、妄斷也。

【妄聽】61 マウチヤウ　みだりにきく。考なしにきき入れる。〔莊子、齊物論〕汝以妄㆓聽之㆒。〔顏氏家訓、教子〕耳不㆓妄聽㆒。

【妄誅】62 マウチユウ　みだりに誅する。〔史記、趙世家〕諸君將㆑誅㆓其後㆒、是非㆓先君之意㆒、而今妄誅、妄誅謂㆓之亂臣㆒。

【妄傳】63 マウデン　あやまつた言ひ傳へ。デマ。〔宋書、樂志三〕達人識㆓眞僞㆒、愚夫好㆓妄傳㆒。

【妄動】64 マウドウ　みだりにうごく。みだりな活動。妄擧。〔戰國、燕策〕今王事㆑秦、秦王必喜、趙不㆓敢妄動㆒。〔史記、張儀傳〕趙不㆓敢妄動㆒。〔後漢書、鄧禹傳〕無㆑得㆓妄動㆒。

【妄認】65 マウニン　誤つて認める。誤認。〔晉書、王延傳〕其人後自知㆓妄認㆒、送㆑犢還㆑延、叩頭謝㆑罪。

【妄念】66 マウネン　佛迷の心念。妄想(33)に同じ。〔宋、陸游、禹迹寺南有㆓沈氏小園㆒云云詩〕年來妄念消除盡、回㆓向禪龕㆒一炷香。

【妄敗】67 マウハイ　恣に敗る。〔吳志、陸杭傳〕居盧桑果、不㆑得㆓妄敗㆒。

【妄冒】68 マウバウ　みだりにをかす。〔任昉、爲㆓范尚書㆒讓㆓吏部封侯㆒第一表〕至㆓於虧㆑名損㆑實爲㆑國爲㆑身、知㆓其不可㆒、不㆓敢妄冒㆒。

【妄發】69 マウハツ　みだりに發する。〔春秋繁露、王道通三〕藏㆓此四者㆒、而勿㆑使㆓妄發㆒、可㆑謂㆑天矣。

【妄扳】70 マウハン　無理にいひかける。〔福惠全書、刑名部、逃人、拿獲〕吾實妄扳、公勿㆓深究㆒可乎。

【妄批】71 マウヒ　みだりに批評する。他人の詩文などを批評することの謙稱。妄評。

【妄費】72 wang^{4} fei^{4}　浪費。

【妄謬】73 マウビウ　うそやあやまり。でたらめ。〔論語注疏解經序、疏〕必經㆓論撰㆒、然後載㆑之、以示㆑非㆓妄謬㆒也。

【妄評】74 マウヒヤウ　みだりに品さだめをする。無遠慮に批評する。勝手な批評。妄批。

【妄辯】75 マウベン　とりとめもなく辯論する。〔荀子、解蔽〕無正而恣睢、妄辯而幾㆑利。

【妄予】76 マウヨ　みだりにあたへる。〔韓非子、飾邪〕及㆓法慢妄予㆒、而國日削矣。

【妄譽】77 マウヨ　みだりにほめる。又、其のこと。〔法言、淵騫〕妄譽、仁之賊也、妄毀、義之賊也。

【妄用】78 マウヨウ　妄りに用ひる。

【妄庸】79 マウヨウ　愚かなこと。愚劣。〔史記、齊悼惠王世家〕人謂㆓魏勃勇㆒、妄庸人耳、何能爲乎。〔注〕索隱曰、按、妄庸、謂㆓凡妄庸劣之人㆒也。〔蘇軾、上㆓神宗皇帝㆒書〕如㆑此則妄庸輕剽、浮浪姦人、自㆑此爭言㆓水利㆒矣。〔陸游、與㆑尉論㆓捕盜㆒書〕三代聖人之遺法、尚可㆓改以便㆑事、而況近歲妄庸者所㆑爲乎。

【不㆓妄染㆒】80 マウセンセズ　妄りに筆を染めない。みだりに書かない。〔北史、崔宏傳〕魏初重㆓崔盧之書㆒、宏、自㆑非㆓朝廷文誥、四方書檄㆒、初不㆓妄染㆒、故世無㆓遺文㆒。

【妄下斷語】81 wang^{4} hsia^{4} tuan^{4} yü^{3}　出鱈目に判斷する。

【妄自尊大】82 ミダリニミヅカラソンダイニス　妄りに自身のみを優れたものと誇つて、他を輕んずること。〔後漢書、馬援傳〕是時公孫述稱㆓帝於蜀㆒、囂使㆓援往觀㆑之、歸謂㆑囂曰、子陽井底蛙耳、而妄自尊大、不㆑如㆓專意東方㆒。

【妄自菲薄】83 ミダリニミヅカラヒハクニス　自分自身をやたらに卑下して、非常に德のうすい者と考へる。自ら重んずべきことを知らぬ意。〔諸葛亮、出師表〕不㆑宜㆘妄自菲薄、引㆑喩失㆑義、以塞㆗忠諫之道㆖也。〔資治通鑑、晉紀〕(孝武帝、太元二年)不㆑應㆔妄自菲薄、以虧㆓時遇㆒。

【妄生㆓異議㆒】84 ミダリニイギヲシヤウズ　多くの人の議論が皆一致してゐる時、一二人が不合理の異說を唱へること。〔六部成語、吏部、妄生㆓異議㆒、注解〕衆人議論皆同、獨有㆓一二人㆒、與㆑衆不㆑同、而且所㆑說的也不㆑合㆑理、謂㆔之妄生㆓異議㆒。

【認㆑妄爲㆑眞】85 マウヲミトメテシントナス　佛妄りなことを認めて眞とする。うそいつはりを眞實と考へる。〔圓覺經〕認㆑妄爲㆑眞、雖㆑眞亦妄。

【妄與不㆑如㆔遺㆓棄物於溝壑㆒】86 ミダリニアタフルハモノヲコウガクニキスルニシカズ　妄りに物を與へることは、之をみぞや谷間に棄てるにも劣つて何にもならない。與へなくてもよい人に妄りに物を與へることを戒めた語。〔說苑、立節〕子思居㆓於衞㆒、縕袍無㆑表、二旬而九食、田子方聞㆑之、使㆔人遺㆓狐白之裘㆒、恐㆓其不㆑受、因謂㆑之曰、吾假㆑人、遂忘㆑之、吾與㆑人也如㆑棄㆑之、子思辭而不㆑受、子方曰、我有、子無、何故不㆑受、子思曰、伋聞㆑之、妄與不㆑如㆔遺㆓棄物於溝壑㆒、伋雖㆑貧也、不㆑忍㆔以㆑身爲㆓溝壑㆒、是以不㆓敢當㆒也。

【妅】 6064　コウ　ク　〔集韻〕胡公切　東

女のあざな。 娂(**3－6261**)に同じ。〔集韻〕娂、女字、或从㆑工。

【⿰女丌】 6065　キ　姬(**3－6230**)の古字。〔同文備考〕⿰女丌、古姬字。

【⿰女广】 6066　ゲン　〔集韻〕魚檢切　琰

婦人の容儀の整うたさま。 通じて嬐(**3－6764**)に作る。〔集韻〕⿰女广、婦人齊整皃、通作㆑嬐。

【⿰女丈】 6067　チヤウ　ヂヤウ　〔集韻〕直亮切　漾

女のあざな。〔集韻〕⿰女丈、女字。

【⿰女大】 6068　タイ　ダイ　〔字彙補〕同柰切　隊

姉。〔字彙補〕⿰女大、姉稱也。

【⿰弓女】 6069　テキ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰弓女、音的。

【⿰女厶】 6070　エウ　yao　妻。廣東地方で使用する俗字。

四畫

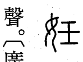
【妉】 6071　タン　媅(**3－6479**)に同じ。〔集韻〕媅、或作㆑妉。

【妊】 6072

㈠ ジン　ニン　〔集韻〕如鴆切　沁

㈡ ジン　ニン　〔集韻〕如林切　侵　日ㄣ　jen^{2}

㈢ ジン　ニン　〔集韻〕忍甚切　寑


小篆

［一］［二］［三］㊀**はらむ**。身もちになる。〔說文〕妊、孕也、从二女壬一、壬亦聲。〔廣雅、釋言〕妊、娠也。㊁姙（3－6201）に同じ。〔說文通訓定聲〕妊、字亦作レ姙、後漢章帝紀、今諸懷姙者、注引說文曰、姙、孕也。㊂姙（3－6200）に作る。〔集韻〕妊、亦書作レ姙。㊃任（1－416）に通ず。〔說文通訓定聲〕妊、以レ任爲レ之。〔漢書、元后傳〕初李親、任二政君一在レ身。〔注〕師古曰、任、懷任。

名乘 サネ。モツ。

解字 會意形聲。女と壬とを合はせ、壬は又、聲。壬もはらむ意。女を附してその意を明かにす。

【妊娠】1（ニンシン） はらむ。懷妊。姙娠。妊娠。〔廣雅、釋言〕妊、娠也。〔和訓栞、前、二十四〕。

【妊娠調節】2（ニンシンテウセツ） 避妊法を用ひて妊娠を調節すること。

【妊𡜵】3（ニンシン） 姙娠に同じ。𡜵は娠に同じ。

【妊娘】4（ニンヂヤウ） はらみ女。妊婦。〔侍兒小名錄〕唐進士段何、賃居臥レ病、有下四人負二金碧一而從中二青衣上、皆絕色、說喩再三、何終不レ應、題レ詩而去、詩云、樂廣淸羸經二幾年一、妊娘相托不レ論レ錢、輕盈妙質歸二何處一、惆悵碧樓紅玉鈿、紙末惟書二一我字一、何自レ此疾日退。

【妊孕】5（ニンヨウ） はらむ。みもちになる。みおもになる。懷妊。懷胎。姙孕。〔異苑〕婦人妊孕、未レ滿二三月一、著二壻衣冠一、平旦左繞レ井三匝、映二井水一詳觀レ影而去、勿二反顧一、勿レ令二壻見一、必生レ男。

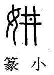
【妋】6073

［一］フ 〔集韻〕風無切 ［虞］
［二］イウ 〔集韻〕於求切 ［尤］

［一］**むさぼるさま**。〔集韻〕妋、貪皃。［二］**うらむ**。女が目をはり眉をひそめて怨むさま。〔集韻〕妋、鼻目閒有レ恨也。〔字彙〕妋、女貌。［邦］**せ**。**せうと**。古は夫の義に用ひる。此の字は、妹に對して、夫兄の意。類聚名義抄に妹妋（イモ、セ）、字鏡集に妋（セウト）、天台六十巻音義に妋（セウト）などとある。

【妌】6074

［一］セイ ジヤウ 〔集韻〕疾郢切 ［梗］
［二］セイ ジヤウ 〔集韻〕疾正切 ［敬］


小篆

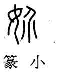
［一］［二］㊀**しづか**。〔說文〕妌、靜也、从レ女井聲。〔繫傳〕女德不二妄動一也。㊁**いさぎよい**。女の貞潔なこと。〔廣雅、釋詁三〕妌、潔也。〔廣韻〕妌、女人貞絜也。

【妍】6075

ケン 姸（3－6247）に同じ。〔字彙〕妍、同レ姸。

【妎】6076

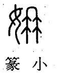
［一］カイ ガイ 〔集韻〕下介切 ［卦］
［二］カイ ガイ 〔集韻〕下蓋切 ［泰］
［三］ケイ ゲイ 〔集韻〕胡計切 ［霽］
［四］カイ 〔集韻〕居拜切 ［卦］


小篆

［一］［二］［三］㊀**ねたむ**。〔說文〕妎、妬也、从レ女介聲。〔廣雅、釋詁二〕妎、妬也。㊁**わづらはしい**。〔集韻〕妎、一曰、煩苛。㊂**おほふ**。〔國語、楚語下〕弭二其百苛一、妎二其讒慝一。〔注〕妎、覆也。㊃**きる**。さく。のぞく。扴（5－11838）に通ず。〔說文通訓定聲〕妎、叚借爲レ扴、楚語、妎二其讒慝一、按、刮也。㊄**心がはっきりしない**。〔字彙〕妎、心不レ了也。㊅或は㛫（3－6605）に作る。〔集韻〕妎、或作レ㛫。［四］**女のあざな**。

【㚩】6077

［一］ゼン ネン 〔集韻〕而琰切 ［琰］
［二］デン ネン 〔集韻〕乃玷切 ［琰］


小篆

［一］［二］㊀**女の容姿のしなやかですらりとしたさま**。〔說文〕㚩、弱長皃、从レ女冄聲。㊁**かよわい**。たをやか。〔集韻〕㚩、纖細也。㊂或は姌（3－6167）に作る。〔集韻〕㚩、或作レ姌。

【妏】6078

［一］ブン モン 〔集韻〕文運切 ［問］
［二］ブン モン 〔集韻〕無分切 ［文］

［一］㊀**女のあざな**。〔集韻〕妏、女字。㊁**うまれる**。〔字彙〕妏、生也。㊂或は娩（3－6337）に作る。〔集韻〕妏、或从レ免。［二］**女のあざな**。〔集韻〕妏、女字。

【㚪】6079

カウ 魹（12－45775）に同じ。〔集韻〕魹、或作レ㚪。

【妐】6080

シヨウ シユ 〔集韻〕諸容切 ［冬］ ㄓㄨㄥ chung¹

㊀**夫の兄**。こじうと。〔爾雅、釋親〕夫之兄爲二兄妐一。〔玉篇〕妐、夫之兄也。㊁**夫の父**。〔正字通〕妐、呂覽遇合篇、姑妐知レ之曰、爲二我婦一而有二外心一、不レ可レ畜、指二翁姑一而言、非二夫之兄一也。〔呂覽、遇合〕姑妐知レ之。〔集釋〕畢沅曰、釋名曰、俗或謂レ舅曰レ章、又曰レ妐。㊂**夫の姊**。こじうとめ。女妐。〔禮、昏義、和二於室人一、注〕室人、謂二女妐・女叔諸婦一也。〔疏〕女妐、謂二壻之姊一也。㊃公（2－1452）に通ず。〔爾雅、釋親、兄妐、釋文〕妐、本今作レ公。㊄伀（1－421）に通ず。〔釋名、釋親屬〕夫之兄曰レ公、俗閒曰二兄章一、又曰二兄伀一。〔疏證〕今本伀作レ忪、今改正、又伀、一作レ妐。㊅通じて鍾（11－40672）に作る。〔集韻〕妐、通作レ鍾。

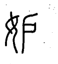
【妑】6081

［一］ハ ヘ 〔集韻〕邦加切 ［麻］
［二］ハ ヘ 〔集韻〕把巴切 ［麻］

［一］㊀**女の名**。〔集韻〕妑、女名。㊁妑頭は、女兒の二つまげ。〔字彙〕妑、妑頭、女兒雙髻。［二］**女の字**。〔集韻〕妑、女字。

【妒】6082

ト ツ 〔集韻〕都故切 ［遇］ ㄉㄨˋ tu⁴


小篆

㊀**ねたむ**。やく。妻が夫をねたむ。婦女が互にねたむ。〔說文繫傳〕妒、婦妒レ夫也、从レ女戶聲。〔詩、召南、小星序〕夫無二妒忌之行一。〔箋〕以レ色曰レ妒、以レ行曰レ忌。〔六書故〕妒、女忌レ同也。〔左氏、襄、二十一〕叔向之母、妒二叔虎之母美一而不レ使。㊁**そねむ**。〔正字通〕妒、凡嫉忌者皆曰レ妒。〔列子、說符〕爵高者、人妒レ之。㊂**つもる**。**ふさぐ**。〔釋名、釋疾病〕乳癰曰レ妒、妒、褚也、氣積褚不レ通、至二腫潰一也。㊃或は妬（3－6121）に作る。〔集韻〕妬、說文、婦妒レ夫也、或作レ妬。〔字彙〕妒、俗作レ妬、非。

參考 段注本說文には妬（3－6121）に改めてある。

【妒友】1（トイウ） ねたみぶかい友人。〔荀子、大略〕士有二妒友一、則賢交不レ親。

【妒害】2（トガイ） ねたみそこなふ。又、其のこと。〔後漢書、伏皇后紀〕陰懷二妒害一、苞二藏禍心一。

【妒悍】3 トカン 嫉妬深く氣があらい。〔南唐近事〕其妻張氏、妒悍尤急。

【妒忌】4 トキ ねたみいむ。色に現はれるを妒、行に現はれるを忌といふ。〔詩、召南、小星序〕夫人無二妒忌之行一。〔箋〕以レ色曰レ妒、以レ行曰レ忌。〔漢書、禮樂志〕人性有二男女之情、妒忌之別一。〔後漢書、安思閻皇后紀〕后專レ房妒忌。〔魏志、東夷、倭人傳〕婦人不レ淫不二妒忌一。

【妒氣】5 トキ ねたむ氣持。りんき。〔梅妃傳〕嫉色庸「庸、妒氣冲冲。

【妒賢】6 トケン 賢人をねたむ。〔史記、范睢蔡澤傳〕妒レ賢嫉レ能、御レ下蔽レ上。

【妒嫮】7 トコ 嫉妬深い人と美人。嫮は美人。〔後漢書、張衡傳〕咨二妒嫮之難レ並兮、想二依レ韓以流亡一。〔注〕妒、忌也、嫮、美也。

【妒恨】8 トコン ねたみうらむ。又、ねたみとうらみ。〔隋書、劉焯傳〕咸懷二妒恨一、遂爲二飛章所一レ謗。

【妒妻】9 トサイ 嫉妬ぶかい妻。〔史記、平原君虞卿傳〕是必不レ免レ爲二妒妻一。〔梅堯臣、桓妒妻詩〕昔聞桓司馬、娶レ妾貌甚都、其妻南郡主、悍妒誰與俱、持レ刀擁二羣婢一、逕往將二必屠一。

【妒猜】10 トサイ ねたみそねむ。〔白居易、新樂府、陵園妾詩〕憶昔宮中被二妒猜一、因レ讒得レ罪配レ陵來。

【妒殺】11 トサツ 非常にねたむ。甚しく嫉妬する。殺は助辭。〔萬楚、五日觀レ妓詩〕紅裙妒殺石榴花。

【妒疾】12 トシツ ねたみにくむ。嫉妬。妒忌。〔後漢書、五行志三〕小人專レ制擅レ權、妒二疾賢者一。

【妒嫉】13 トシツ ねたむ。嫉妬。〔荀子、不苟〕不能則妒嫉怨誹、以傾二覆人一。〔白虎通、五經〕尊レ嫡絕二妒嫉之原一。

【妒心】15 トシン ねたみごころ。妬心。〔詩、周南、樛木序〕樛木、后妃逮レ下也、言三能逮レ下、而無二嫉妒之心一焉。

【妒臣】16 トシン ねたみぶかい臣。〔荀子、大略〕君「有二妒臣一則賢人不レ至。

【妒譖】17 トシン ねたみそしる。〔漢書、佞幸、李延年傳〕議者於レ是稱レ顯、以爲、不三妬二譖望之一矣。

【妒男】18 トダン ねたみ深い男。〔潛夫論、賢難〕國不レ乏二於妒男一也、猶二家不レ乏二於妒女一也。

【妒癡】19 トチ 度に過ぎたりんき。唐の李益の嫉妬甚しいのを時人が稱した語。〔舊唐書、李益傳〕李益多二猜忌一、防二閑妻妾一、過爲二苛虐一、而有二散灰扃戶之譚一、時謂二妒癡一爲二李益疾一。

【妒女】20 トヂョ ねたみ深い女。妒男を見よ。〔宋之問、和三趙員外桂陽橋遇二佳人一詩〕妒女猶憐鏡中髮、侍兒堪レ感路傍人。

〖妒女祠〗21 トヂョシ 唐代に有つた祠の名。盛服して通過すれば神が之を妒んで風雷を致したといふ。〔唐書、狄仁傑傳〕帝幸二汾陽宮一、道出二妬女祠一、俗言、盛服過者致二風雷之變一、更發二卒數萬一、改二馳道一、仁傑曰、天子之行、云云、何妬女避邪。

〖妒女泉〗22 トヂョセン 泉の名。婦人が盛服して至れば之を妒んで雨雹を降らすといふ。一說に、介子推の妹を祀るといふ。〔述異記〕幷州妒女泉、婦人不レ得三艶妝綵服至二其地一、必興二雨雹一、一云、是介推妹。

【妒敵】23 トテキ にくい敵。ねたましい敵。〔劉孝威、鬬雞篇〕丹雞翠翼張、妒敵復專レ場。

【妒媢】24 トバウ 妻が夫をねたみ、夫が妻をねたむ。夫嫁が互にやく。嫉妬。〔史記、五宗世家〕王后亦以二妒媢一、不二常侍一レ病。〔注〕索隱曰、郭璞注二三蒼一云、媢、丈夫妒也、又云、妒女爲レ媢。〔史記、黥布傳贊〕妒媢生レ患、竟以滅レ國。〔注〕索隱曰、論衡云、妒夫媢婦、則媢、是妬之別名。〔漢書、五行志中之下〕相有二妒媢之心一。〔注〕媢、謂二夫妒一レ婦也。〔列女傳、母儀、湯妃有㜪傳〕咸無二妒媢逆理之人一。

【妒媚】25 トビ ねたみこびる。〔漢書、外戚、孝成趙皇后傳〕誣二汚先帝傾惑之過一、成二結寵妾妒媚之誅一。

【妒夫】26 トフ ねたみぶかいをつと。〔論衡、論死〕妒夫媢妻、同レ室而處、淫亂失レ行。

【妒婦】27 トフ ❶ねたみぶかい女。やきもちやきの女。〔新序、善謀〕是必不レ免レ爲二妒婦一。〔後漢書、東夷傳序〕男女淫皆殺レ之、尤治二惡妒婦一。❷黃芩の異名。わうごん。根が外黃內黑で、妬女の心の黑いのに似てゐるから名づける。〔本草、黃芩〕釋名、妒婦、時珍曰、宿芩乃舊根多中空、外黃內黑、卽今所謂片芩、故又有二腐腸・妒婦諸名一、妒婦心黯、故以比レ之。

〖妒婦記〗28 トフキ 書名。南朝宋、虞通之撰。婦人の嫉妬を記す。〔南史、王藻傳〕宋世諸主、莫レ不二嚴妒一、明帝每疾レ之、湖熟令袁慆妻以レ妒賜レ死、使三近臣虞通之撰二妒婦記一。

〖妒婦津〗29 トフシン 渡場の名。晉の劉伯玉の妻が伯玉を怨んで身を投じたところ。後、婦人の此の津を渡る者、必ず衣を壞し、粧をくづさなければ、風波がにはかに起つたといふ。〔酉陽雜俎、諾臯記上〕臨淸有二妬婦津一、相傳言、晉大始中、劉伯玉妻段氏、字明光、性妬忌、伯玉常於二妻前一誦二洛神賦一、語二其妻一曰、娶レ婦得レ如レ此、吾無レ憾矣、明光曰、君何得下以二水神美一而欲上レ輕レ我、吾死、何愁レ不レ爲二水神一、其夜乃自沈而死、死後七日、託レ夢語二伯玉一曰、君本願レ神、吾今得レ爲レ神也、伯玉寤而覺レ之、遂終レ身不二復渡一レ水、有下婦人渡二此津一者上、皆壞レ衣枉レ粧、然後敢濟、不レ爾、風波暴發、醜婦雖二粧飾而渡一、其神亦不レ妬也、婦人渡レ河無二風浪一者、以爲二己醜不一レ致二水神怒一、醜婦諱レ之、無レ不下皆自毀二形容一以塞中嗤笑上也。故齊人語曰、欲レ求二好婦一、立在二津口一、婦立二水傍一、好醜自彰。

【妒紛】30 トフン 嫉妒爭ひしてみだれること。〔管子、君臣〕宮中亂曰二妒紛一、兄弟亂曰二黨偏一。

【妒昧】31 トマイ ねたみかくす。〔荀子、大略〕蔽レ公者謂二之昧一、隱レ良者謂二之妒一、奉二妒昧一者謂二之交譎一、交譎之人、妒昧之臣、國之薉孽也。

【妒鱗】32 トリン 妒婦の威を、逆鱗の犯すべからざるに喩へていふ。〔張纘、妒婦賦〕忽有レ逆二其妒鱗一。

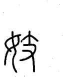
【妒母草】33 トボサウ 筍(8－25997)の異名。筍は十六日もたつと母と齊しくなるからいふ。〔埤雅、釋草、竹〕今俗呼レ筍爲二妒母草一、言二筍旬有六日而齊一レ母。

【妒羅綿】34 トラメン 雲をいふ。色が白く薄くて、羅と綿とに似てゐるからいふ。〔事物異名錄、乾象、雲〕內典、妒羅綿世界謂レ雲也、言三其色白而薄、似二羅與一レ綿也、作二兜羅一非。

【妓】6083

㊀キ ギ 〔集韻〕巨綺切 ㄐㄧˋ chi⁴ 紙

㊁キ 〔集韻〕居宜切 支


小篆

㊀❶婦人の持つ小品。〔說文〕妓、婦人小物也、从レ女支聲、讀若レ跂。〔段注〕今俗用爲二女伎之字一。❷うたひめ。歌妓。藝妓。〔華嚴經音義、上〕妓、女樂也。〔晉書、桓伊傳〕乃敕二御妓一奏レ笛。❸まひひめ。〔白居易、喜雪詩〕光迎二舞妓一動、寒近二醉人一消。❹あそびめ。娼妓。〔陳孚、眞州詩〕翠戶妝二鶯妓一、紅橋稅二海商一。❺たをやめ。美しい女。〔華嚴經音義、上〕妓、美女也。❻或は㚣(3－6253)に作る。〔集韻〕妓、或从レ多。㊁女のすがた。妓姕。〔集韻〕妓、妓姕、女容。

【妓圍】1 キヰ 唐の申王が冬寒に、多くの妓女を座側にならべ侍らして牆とし、寒氣をふせぎ、之を妓圍と稱したこと。肉屛風。〔開元天寶遺事、妓圍〕申王每下至二冬月一、有中風雪苦寒之際上、使三宮妓密二圍於坐側一、以禦二寒氣一、自呼爲二妓圍一。

【妓院】2 ギヰン 遊女屋。青樓。妓樓。妓家。〔北京指南、食宿遊覽、妓院、西洋妓院〕西洋妓院、在二崇文門內東單牌樓二條胡同一。

【妓筵】3 ギエン 藝者の侍するざしき。〔李商隱雜纂、殺風景〕妓筵說二俗事一。

【妓家】4 chi⁴ chia¹ 妓樓。娼婦を置く家。藝者屋。おきや。

【妓航】5 ギカウ 藝者をのせた船。あさづまぶね。〔梁元帝、夕出二通波閣下一觀レ妓詩〕樹交臨二舞席一、荷生夾二妓航一。

【妓樂】6 ギガク うたひめの奏でる音曲。〔孔子家語、辯政〕五官妓樂、不レ解二於時一。〔劉憲、閏九月九日幸二總持寺一登二浮圖一應制詩〕駐輦天花落、開レ筵妓樂陳。

【妓館】7 ギクワン 遊女屋。妓樓。妓家。〔歐陽脩、妓館詩〕妖冶風情天與措、淸瘦肌膚冰雪妍。

【妓姿】8 ギシ 女のすがた。〔集韻〕妓、妓姿、女容。

【妓生】9 キーサン 朝鮮の官妓。一牌・二牌・三牌がある。一・二牌は妓生、三牌は準妓生。一牌の中にも等級順序があり、成績行狀に依つて進むもの

と貶せられるものとある。またこの中から官妓を出した。妓生の教養は歌舞・音曲・讀書・習字・詩・畫などで、今日では宴席に侍して歌舞音曲を以て酒間を斡旋する。

【妓籍】10 ギセキ 藝妓の籍。又、藝妓。〔宋史、楊簡傳〕知㆓溫州㆒、移㆓文首㆒、罷㆓妓籍㆒、尊㆓敬賢士㆒。

【妓堂】11 ギダウ 遊女屋。妓樓。妓家。娼樓。〔海錄碎事、地、廳堂〕京口東南有㆓謝公妓堂遺跡㆒。

【妓女】12 ギヂヨ ❶うたひめ。藝者。倡妓。遊女。〔後漢書、梁冀傳〕因行㆓道路㆒、發㆓取妓女御者㆒。〔李商隱雜纂、必不來〕窮措大呼㆓妓女㆒。❷萱草(9－31344)の異名。わすれぐさ。〔本草、萱草〕釋名、忘憂・療愁・丹棘・鹿葱・鹿劍・妓女・宜男。

【妓夫】13 ギフ 遊女屋の客引き男。一說に、もと人名の及（フキ）に始まるといふ。ぎふ。

【妓媵】14 ギヨウ そばめ。〔顏氏家訓、治家〕吾有㆓疏親㆒、家饒㆓妓媵㆒。

【妓寮】15 chi^4 liao^2 妓樓。遊女屋。

【妓樓】16 ギロウ 女郎屋。貸座敷。倡家。青樓。〔沈佺期、同㆓李舍人㆒冬日集㆓安樂公山池㆒詩〕紫巖妝閣透、青嶂妓樓懸。

【挾ㇾ妓賭博】17 ギヲサシハサミテトバクス 妓女を招き、聚まつて賭博する。〔六部成語、刑部、挾ㇾ妓賭博、注解〕招ㇾ妓聚賭也。

【令㆓妓燒㆒ㇾ指】18 ギヲシテユビヲヤカシム 後魏の高聽が、病むに及び、妓の他人に適くを恐れ、指を燒かせ炭を吞んで尼とならせた故事。〔北史、高聽傳〕聽有㆓妓十餘人㆒、云云、及ㇾ病、欲ㇾ不ㇾ適㆓他人㆒、並令㆓燒ㇾ指吞ㇾ炭、出家爲ㇾ尼。

【妔】6084

㊀ カウ ガウ 〔集韻〕寒剛切 陽

㊁ カウ キヤウ 〔集韻〕丘庚切 庚

㊀❶女のあざな。〔集韻〕妔、女字。❷**女の性質のはげしいこと**。伉(1－431)に通ず。〔正字通〕妔、女性急戾也、一曰、與ㇾ伉通。㊁**美しい女**。〔集韻〕妔、美女。

【妕】6085

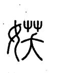
チユウ チユ 〔集韻〕陟仲切 送

女のあざな。〔集韻〕妕、女字。

【妖】6086

㊀ エウ 〔集韻〕於喬切 ㄧㄠ yao^1 蕭

㊁ カウ


小篆

㊀❶**なまめく。あてやか**。しなを作る。𡝩(3－6409)に同じ。〔說文〕𡝩、巧也、云云、从ㇾ女芺聲。〔段注〕俗省作ㇾ妖。〔一切經音義、一〕妖、姸也。〔漢書、司馬相如傳上〕妖冶閑都。〔注〕師古曰、妖冶、美好也。〔司馬相如、上林賦、注〕善曰、字書曰、妖、巧也。〔傅毅、舞賦〕貌嬈妙以蠱兮。〔注〕善曰、妖蠱、淑豔也。❷**女子の笑ふさま**。〔說文〕𡝩、詩曰、桃之𡝩𡝩、女子笑皃。❸**あやしい。わるい。まがごと。もののけ**。䄏(8－24736)・祅(8－24637)に通ず。〔說文通訓定聲〕𡝩、叚借爲ㇾ䄏。〔釋名、釋天〕妖、殀也、殀㆓害物㆒也。〔禮、禮運〕民無㆓凶饑妖孼之疾㆒。〔釋文〕妖、又作ㇾ祅。〔國語、晉語六〕辨㆓妖祥於謠㆒。〔注〕妖、惡也。〔呂覽、愼大〕若國有ㇾ妖乎。〔注〕妖、怪也。〔呂覽、制樂〕妖者、禍之先者也。〔論衡、自紀〕不㆓常有㆒而忽見曰ㇾ妖。❹夭(3－5838)に通ず。〔說文通訓定聲〕𡝩、叚借爲ㇾ夭、〔呂覽察賢〕疾病妖厲去矣。〔莊子、大宗師〕美妖。〔釋文〕妖、本又作ㇾ夭。❺訞(10－35264)に通ず。〔左氏、昭、二十六〕秦人降ㇾ妖。〔釋文〕妖、本又作ㇾ訞。㊁姣(3－6214)に同じ。〔集韻〕姣、亦作ㇾ妖。

【妖痾】1 エウア まがごとと長い病。〔漢書、五行志中之上〕旣與㆓妖痾祥眚㆒同ㇾ類、不ㇾ得㆓獨異㆒。

【妖惡】2 エウアク あやしく惡い。まがごと。〔後漢書、章帝紀〕諸以㆓前妖惡禁錮者㆒一皆蠲㆓除之㆒。〔後漢書、寒朗傳〕咸共言㆓妖惡大故㆒。

【妖異】3 エウイ あやしく不思議。奇怪。妖怪變化。〔後漢書、郎顗傳〕陛下宜㆔審詳㆓明堂布政之務㆒、然後妖異可ㇾ消。〔後漢書、公沙穆傳〕誦ㇾ經自若、亦無㆓妖異㆒。

【妖淫】4 エウイン あやしくみだら。〔通書〕代變新聲、妖淫愁怨。

【妖雲】5 エウウン あやしいけはひのある雲。〔駢雅、釋天〕天衡、妖雲也。

【妖禜】6 エウエイ あやしいまつり。〔後漢書、第五倫等傳贊〕宋均達政、禁㆓此妖禜㆒。

【妖妖】7 エウエウ なまめかしく美しいさま。〔舒元輿、牡丹賦〕妁妁妖妖、逶逶迤迤。

【妖艷】8 エウエン 美しくなまめかしい。なまめかしく色めく。あてやか。妖豔。又、其の女。〔盧思道、美女篇〕京洛多㆓妖艷㆒、餘香愛㆓物華㆒。〔劉廷芝、春女行〕自憐妖艷姿、妝成獨見時。

【妖婉】9 エウエン なまめかしく美しい。妖冶。〔王勃、春思賦〕南鄰少婦多㆓妖婉㆒。

【妖媛】10 エウエン なまめかしい女。妖女(68)の❶に同じ。

【妖姣】11 エウカウ あてやか。〔張羽、戴山迎送神曲〕靈妖姣兮好服、神弗ㇾ言兮意已傳。

【妖倖】12 エウカウ 美しくてお氣に入りのもの。〔范曄、後漢書皇后紀論〕妖倖毀ㇾ政之符、外姻亂ㇾ邦之迹。

【妖客】13 エウカク 桃をいふ。〔西溪叢語〕桃爲㆓妖客㆒。

【妖萼】14 エウガク うつくしい花ぶさ。〔蕭子雲、東郊望春云詩〕蛺蝶戀㆓殘花㆒、黃鶯對㆓妖萼㆒。

【妖姬】15 エウキ なまめかしいひめ。妖艷な婦人。〔白居易、有㆓小白馬㆒云云詩〕跨將迎㆓好客㆒、惜不ㇾ換㆓妖姬㆒。

【妖氣】16 エウキ 惡い氣。怪しい氣。惡氣。妖氛。〔論衡、言毒〕太陽妖氣、自如㆓其色㆒也。

【妖鬼】17 エウキ もののけ。妖怪(24)に同じ。

【妖僞】18 エウギ まどはしいつはる。〔後漢書、陽球傳〕假ㇾ手請ㇾ字、妖僞百品。〔申鑒、時事〕簡㆓小忌㆒、去㆓淫祀㆒、絕㆓奇怪㆒、則妖僞息矣。

【妖咎】19 エウキウ わざはひ。〔魏志、管輅傳〕今卦中見ㇾ象、而不ㇾ見㆓其凶㆒、知ㇾ非㆓妖咎之徵㆒、自無ㇾ所ㇾ憂也。

【妖凶】20 エウキヨウ 惡魔。まがまがしいもの。妖兇。〔宋若昭、奉㆓和御製麟德殿宴㆓百僚㆒應制詩㆒〕修文昭㆓隱伏㆒、尙武殄㆓妖兇㆒。〔歐陽脩、日本刀歌〕百金傳入好事手、佩服可㆔以禳㆓妖凶㆒。

【妖釁】21 エウキン わざはひのきざし。釁は兆。妖孼。〔春秋、僖、十九、梁亡、疏〕遂溝㆓其宮㆒、以盪㆓百姓之心㆒、開㆓大國之志㆒、是妖釁之先徵、自亡之實應。

【妖火】22 エウクワ あやしい火。怪火。〔漢書、五行志上〕君不ㇾ思ㇾ道、厥妖火燒ㇾ宮。

【妖花】23 エウクワ あやしくうつくしい花。人を惑はせるほど美しい女にいふ。

【妖怪】24 エウクワイ ばけもの。もののけ。妖魅。妖精。妖鬼。妖恠。妖靈。妖魔。〔漢書、循吏、龔遂傳〕久之宮中數有㆓妖怪㆒。〔論衡、感虛〕然而己身先ㇾ時已有㆓妖怪㆒矣。

【妖恠】25 エウクワイ 妖怪に同じ。〔孔叢子、執節〕妖恠之事、非㆓所謂天祥㆒也。

【妖玩】26 エウグワン あてやかなもてあそびもの。美女をいふ。〔楚辭、宋玉、招魂〕鄭衞妖玩、來雜陳些。〔注〕妖玩、好女也。

【妖教】27 エウケウ あやしい宗教。耶蘇教をいふ。〔弘道館記述義、下〕戰國搶攘之閒、外夷覬覦、乘㆓我政教廢弛㆒、乃敢布㆓其妖教㆒、豐臣氏嘗禁ㇾ之、至㆓於東照宮㆒、更大設㆓憲令㆒。

【妖嬌】28 エウケウ 人をなやます程うつくしくあでやかなこと。又、あやしいまでにあてやかな婦人。妖艷美麗。

【妖孼】29 エウゲツ わざはひ。災異。不祥。わざはひする。又、わざはひのきざし。妖釁。〔禮、禮運〕民無㆓凶饑妖孼之疾㆒。〔中庸〕國家將ㇾ亡、必有㆓妖孼㆒。〔疏〕妖孼、謂㆓凶惡之萌兆㆒也。〔章句〕妖孼者、禍之萌。〔國語、吳語〕撓㆓亂百度㆒、以妖㆓孼吳國㆒。〔莊子、人閒世〕爲ㇾ妖爲ㇾ孼。〔漢書、董仲舒傳〕上下不ㇾ和、則陰陽繆盭、而妖孼生矣。〔說苑、敬愼〕故妖孼者、天所㆔以警㆓天子諸侯㆒也。

【妖孽】30 エウゲツ 妖孼に同じ。〔史記、龜策傳〕妖孽數見、傳爲㆓單薄㆒。〔注〕正義曰、說文云、衣服謌謠草木之怪、謂㆓之妖㆒、禽獸蟲蝗之怪、謂㆓之孽㆒。

【妖蠥】30′ エウゲツ 妖孼に同じ。〔禮、禮運〕民無㆓凶饑妖蠥之疾㆒。〔釋文〕孼、又作ㇾ蠥。

【妖姸】31 エウケン なまめいて美しい。又、其の婦人。妖冶。〔越絶書、越絶外傳計倪〕盡㆓妖姸於圖畫㆒。〔鮑照、代朗月行〕窓中多㆓佳人㆒、被服妖且姸。〔唐太宗、帝京篇〕建章歡㆓賞夕㆒、二八盡㆓妖姸㆒。

【妖愆】32 エウケン わざはひ。あやまち。〔揚雄、劇秦美新〕回而昧㆑之者、極㆓妖愆㆒。

【妖幻】33 エウゲン 怪しい法術でまどはす。たぶらかしまどはす。〔北史、魏景穆十二王上傳〕時冀州沙門法慶、既爲㆓妖幻㆒。

【妖言】34 エウゲン あやしくて正しくない言。怪誕不經の言。訞言。〔六韜、龍韜、兵徵〕妖言不㆑止、衆口相惑。〔史記、文帝紀〕今法有㆓誹謗妖言之罪㆒。〔史記、淮南衡山傳〕妄作㆓妖言㆒諂㆓諛王㆒。〔漢書、律歷志上〕誦㆓不祥之辭㆒作㆓妖言㆒。

【妖言令】35 エウゲンレイ 妖言をなす者を罰する法令。〔漢書、高后紀〕元年春正月、詔曰、前日孝惠皇帝言、欲㆑除㆓三族辠・妖言令㆒。

【妖言惑㆑衆】36 エウゲンシユウヲマドハス あやしい言葉をはなつて衆人をまどはす。〔六部成語補遺、刑部、妖言惑㆑衆、注解〕口爲㆓妖異亂言㆒、蠱㆓惑衆人㆒也。

【妖狐】37 エウコ 人をばかすきつね。〔玉海、兵捷、露布〕妖狐就㆑擒、猶守㆓舊穴㆒。

〔逞㆓妖狐㆒〕38 エウコヲタクマシクス 媚を呈することの喩。〔長生殿、疑讖〕更和㆓那私門貴戚㆒、一例逞㆓妖狐㆒。

【妖蠱】39 エウコ しなを作つて人を媚惑すること。人を惑はせる程うつくしくあてやかなこと。〔張衡、西京賦〕妖蠱豔㆓夫夏姬㆒。〔注〕善曰、女惑㆑男謂㆓之蠱㆒云云、良曰、妖蠱、豔美也。〔傳毅、舞賦〕貌嫽妙以妖蠱兮、紅顏曄其揚㆑華。〔注〕善曰、妖蠱、淑豔也。

【妖災】40 エウサイ わざはひ。〔左氏、宣、十五〕天反㆑時爲㆑災、地反㆑物爲㆑妖、民反㆑德爲㆑亂、亂則妖災生。〔疏〕凡天反㆓其時㆒、地反㆓其物㆒、以害㆓其物性㆒、皆爲㆓妖災㆒。〔范甯、春秋穀梁傳序〕是以妖災因㆑釁而作。〔後漢書、鄭興傳〕人反㆑德爲㆑亂、亂則妖災生。

【妖巢】41 エウサウ 賊徒の根據地。〔宋史、田況傳〕計者謂、非㆑欲㆘深絕㆓沙磧㆒以窮㆗妖巢㆖、但淺入㆓山界㆒以挫㆓賊氣㆒。

【妖姿】42 エウシ なまめかしいすがた。冶容。妖容。〔蕭子範、羅敷行〕城南日半上、微步弄㆓妖姿㆒。

【妖獸】43 エウジウ ❶狐をいふ。〔說文〕狐、妖獸也。❷怪しいけもの。〔庾信、擬㆓詠懷㆒詩〕哭㆑市聞㆓妖獸㆒、頹㆑山起㆓恠雲㆒。

【妖日】44 エウジツ あやしい日。あやしい太陽。〔墨子、非攻下〕妖日宵出、雨㆑血三朝。

【妖邪】45 エウジヤ あやしくよこしま。又、其のこと。〔搜神後記〕宋襄城李頤、其父爲㆑人不㆑信㆓妖邪㆒。

【妖祥】46 エウシヤウ ❶わざはひとしあはせ。禍福。吉凶。〔周禮、春官、眡祲〕以觀㆓妖祥㆒辨㆓吉凶㆒。〔注〕妖祥、善惡之徵。〔疏〕祥、是善之徵、妖、是惡之徵、故言㆓善惡之徵㆒、此妖祥相對、若散㆑文、祥亦是惡徵、毫有㆓祥桑㆒之類是也。〔周禮、春官、保章氏〕皆有㆓分星㆒、以觀㆓妖祥㆒。〔國語、晉語六〕辨㆓妖祥於謠㆒。〔荀子、非相〕知㆓其吉凶妖祥㆒。❷わざはひのきざし。〔禮、樂記〕疾疢不㆑作、而無㆓妖祥㆒。〔吳子、料敵〕百姓怨怒、妖祥數起。

【妖象】47 エウシヤウ あやしいしるし。〔論衡、祀義〕妖象厲鬼、象鬼之形、則象鬼之言。

【妖嬙】48 エウシヤウ なまめかしい女官。〔梁簡文帝、戲贈㆓麗人㆒詩〕麗姐與㆓妖嬙㆒、共拂㆓可憐粧㆒。

【妖壽】49 エウジユ 短命と長命。夭壽(**3**―**5838**‥28)に同じ。

【妖術】50 エウジユツ あやしいわざ。怪異の術。魔法。邪術。妖法。〔元稹、賽神詩〕因㆑言遣㆓妖術㆒、滅㆔絕由㆓本根㆒。〔元史、順帝紀五〕蘄州羅田縣人徐壽輝、與㆓黃州麻城人鄒普勝等㆒、以㆓妖術陰謀㆒聚㆑衆、遂擧㆑兵爲㆑亂。

【妖色】51 エウシヨク 美しい色。あてやかな色。〔何遜、七召〕艷草妖色、嘉樹珍名。

【妖燭】52 エウシヨク あやしいともしび。酒酣な宴席には暗くなり、宴が罷めば再び明るくなるといふ。〔開元天寶遺事、妖燭〕寧王好㆓聲色㆒、有㆔人獻㆓燭百炬㆒、似㆑蠟而膩、似㆑脂而硬、不㆑知㆓何物所㆒㆑造也、每㆑至㆓夜筵、賓妓閒座、酒酣作㆑狂、其燭則昏、昏然如㆓物所㆒㆑掩、罷則復矣、莫㆑測㆓其怪㆒也。

【妖人】53 エウジン yao^1 jen^2 魔法使。妖術者。巫者。

【妖神】54 エウジン 怪しい神。禍をなす神。〔左氏、僖、十九〕夏、宋公使㆔邾文公用㆓鄫子于次睢之社㆒、注〕此水次有㆓妖神㆒、東夷皆社㆓祀之㆒。

【妖彗】55 エウスイ ❶はきぼし。わざはひぼし。妖孛。〔晉書、天文志中〕妖星、一曰㆓彗星㆒、所謂掃星。〔李庾、東都賦〕天落㆓妖彗㆒、風摧㆓陣雲㆒。❷わざはひをなす惡者。妖賊。〔穆員、驃騎大將軍劉公墓誌銘〕偉哉段公、與㆑我同㆑德、將㆘滅㆓妖彗㆒、載㆗清宸極㆖。

【妖星】56 エウセイ あやしい不吉な星。古は彗星を妖星といふ。祅星(**8**―**24637**‥9)に同じ。〔左氏、昭、十〕居㆓其維首㆒、而有㆓妖星㆒焉。〔晉書、天文志中〕妖星、一曰㆓彗星㆒、二曰㆓孛星㆒。

【妖眚】57 エウセイ わざはひ。〔後漢書、劉瑜傳〕怨毒之氣結成㆓妖眚㆒。

【妖精】58 エウセイ ばけもの。もののけ。妖靈。妖怪。〔高啓、觀㆓軍裝㆒十詠、刀詩〕妖精泣㆓太陰㆒。〔紅樓夢、四十回〕把㆑儞打扮的成㆓了個老妖精㆒了。

【妖聲】59 エウセイ あやしい聲。不吉な聲。〔宣和遺事、後集〕蓬蓬蓬又、乍乍乍蓬又、是這蓬又乍、此妖聲也。

【妖韶】60 エウセウ なまめかしくうるはしい。妖嬈。〔陸機、七徵〕舒㆓姸暉㆒以妖韶、若㆓陵危之未㆒㆑安。〔陳造、志喜賦〕野芳嫮兮妖韶。

【妖嬈】61 エウゼウ 美しくなまめかしい。又、其の婦人。妖韶。妖豔。〔曹植、感婚賦〕顧有㆑懷㆓兮妖嬈㆒、用搔㆑首兮屛營。

【妖僧】62 エウソウ あやしい僧。まやかし坊主。〔藤田東湖、和㆓文天祥正氣歌㆒〕清丸嘗用㆑之、妖僧肝膽寒。

【妖賊】63 エウゾク あやしい賊。怪賊。〔後漢書、順帝紀〕(陽嘉元年)三月、揚州六郡妖賊章河等、寇㆓四十九縣㆒。〔後漢書、清河孝王慶傳〕甘陵人劉文、與㆓南郡妖賊劉鮪㆒交通。〔吳志、孫堅傳〕會稽妖賊許昌、起㆓於句章㆒、自稱㆓陽明皇帝㆒。

【妖蛇】64 エウダ あやしい蛇。〔元稹、諭寶詩〕鏡懸姦膽露、劍拂妖蛇裂。

【妖態】65 エウタイ しなを作つてなまめき媚びる姿。情を含んだ様子。〔後漢書、梁冀傳〕梁冀妻孫壽、色美而善爲㆓妖態㆒、作㆓愁眉㆒。

【妖誕】66 エウタン あやしげなそらごと。怪誕。〔宋史、方技傳序〕一切焄蒿妖誕之說、皆以㆓巫醫㆒爲㆑宗。

【妖癡】67 エウチ yao^1 ch‘ih^2 なまめかしいこと。

【妖女】68 エウヂヨ ❶なまめかしい女。妖媛。〔曹植、名都篇〕名都多㆓妖女㆒、京洛出㆓少年㆒。〔注〕向曰、妖、美也。❷外面は美しくて、内心の奸惡な女。

【妖穠】69 エウヂヨウ あてやかでさかん。〔梅堯臣、冬夕會飮聯句〕捧執無㆓妖穠㆒。

【妖鳥】70 エウテウ 怪しい鳥。夭鳥。〔歐陽脩、寄㆓梅聖兪㆒詩〕叢林白晝飛㆓妖鳥㆒。

【妖童】71 エウドウ 美少年。又、男色をいふ。妖僮。〔後漢書、仲長統傳〕妖童美妾、塡㆓乎綺室㆒。〔盧照鄰、長安古意〕妖童寶馬鐵連錢、娼婦盤龍金屈膝。

【妖慝】72 エウトク わざはひ。〔傅玄、桃賦〕禦㆓百鬼之妖慝㆒兮、列㆓神荼㆒以司㆑姧。

【妖毒】73 エウドク あやしい害毒。〔論衡、訂鬼〕杜伯之厲爲㆑妖、則其弓矢投措、皆妖毒也。

【妖覇】74 エウハ あやしい覇者。〔高允、徵士頌〕掃㆓盪遊氛㆒、克㆓揃妖覇㆒。

【妖妄】75 エウバウ あやしくみだりがましい。あやしくて出たらめ。〔後漢書、劉根傳〕太守史祈、以㆑根爲㆓妖妄㆒。〔魏志、劉曄傳〕太祖曰、此妖妄之國耳。〔杜預、春秋左氏傳序〕先儒以爲、制作三年、文成致㆑麟、既已妖妄。

【妖法】76 エウハフ 妖術。魔法。〔日本政記、敏達天皇〕物部守屋中臣勝海、奏㆘劾其信㆓妖法㆒、惑㆑民致㆖祟、請㆘燒㆓寺塔㆒逐㆗善信等㆖。

【妖叛】77 エウハン わざはひしそむく。〔後漢書、劉陶傳〕高門獲㆓東觀之辜㆒、豐室羅㆓妖叛之罪㆒。

【妖靡】78 エウビ 美しくなまめかしい。又、其の者。〔列子、湯問〕妖靡盈㆑庭。〔曹植、七啓〕演㆓聲色之妖靡㆒。

【妖夫】79 エウフ あやしい男。男のばけもの。〔楚辭、天問〕妖夫曳衒、何號㆓于市㆒。〔注〕妖、怪也。

【妖巫】80 エウフ あやしいみこ。人を惑はすみこ。〔後漢書、光武紀下〕秋七月、妖巫李廣等、羣起據㆓晥城㆒。

【妖婦】81 エウフ なまめかしい女。人をまどはす怪しい女。毒婦。〔吳志、陸凱傳〕昔桀紂滅由㆓妖婦㆒、幽厲之亂、在㆓嬖妾㆒。

【妖風】82 エウフウ あやしいかぜ。〔後漢書、郎顗傳〕日乘則有㆓妖風㆒、日蒙則有㆓地裂㆒。

【妖物】83 エウブツ あやしいもの。ばけもの。〔荀悅、神怪論〕逆二中和之理一則含レ血、失二其節一而妖物妄生。

【妖氛】84 エウフン わるい氣。不祥の氣。わざはひ。惡氣。妖氣。轉じて、戰亂をいふ。〔左氏、昭、十五〕吾見二赤黑之祲一。〔注〕祲、妖氛也。〔李白、塞下曲詩〕橫行負二勇氣一、一戰淨二妖氛一。〔長生殿、獻飯〕只待下淨二掃妖氛一、一同返中帝鄕上。

【妖嬖】85 エウヘイ なまめかしくてお氣に入りの者。

【妖變】86 エウヘン あやしく變つたこと。〔後漢書、陳寵傳〕政有二得失一、則感二動陰陽一、妖變爲レ應。〔論衡、感虛〕故其妖變、致二天雨レ粟鬼夜哭一也。

【妖魔】87 エウマ あやしい魔もの。鬼怪。妖怪。〔歐陽脩、讀二徂徠集一詩〕存レ之警二後世一、古鑑照二妖魔一。

【妖魅】88 エウミ あやしいばけもの。妖怪。〔拾遺記、高辛〕昔皇帝除二蚩尤及四方羣凶一、幷二諸妖魅一、塡レ川滿レ谷、積血成レ淵、聚骨如レ岳。〔司空圖、月下留二丹竈一詩〕妖魅敢揚レ威。

【妖夢】89 エウム あやしい夢。奇怪な夢。怪夢。〔左氏、僖、十五〕晉之妖夢是踐、豈敢以至。

【妖霧】90 エウム ❶害を及ぼす惡いきり。惡霧。毒氣。〔元稹、巴蛇詩〕巴山晝昏黑、妖霧毒濛濛。❷惡い風習。惡習。〔福惠全書、錢穀部、比較〕未レ有レ不レ墮二其妖霧一矣。

【妖妙】91 エウメウ 上品で美しい。〔韻府引、歐陽脩、詩〕飛瓊始十八、妖妙猶二雙環一。

【妖冶】92 エウヤ なまめかしく美しい。又、その容姿。あてやかな婦人。妖姸。妖婉。妖美。〔易、繫辭上、冶容誨淫、疏〕女子妖二冶其容一、身不二精慤一、是教二誨淫者一、使二來淫一レ己也。〔漢書、司馬相如傳上〕妖冶閑都。〔注〕師古曰、妖冶、美好也、閑都、雅麗也。〔陸機、文賦〕務嘈囋而妖冶。〔注〕濟曰、妖冶、美麗也。〔陸雲、爲二顧彥先一贈レ婦詩〕京室多二妖冶一、粲粲都人子。〔注〕濟曰、妖冶、美貌。

【妖沴】93 エウレイ わざはひ。〔白居易、代二忠亮一答二吐蕃東道節度使論結都離等一書〕皇威不レ露、妖沴自淸。

【妖厲】94 エウレイ あやしくわるいもの。もののけ。まがごと。〔呂覽、察賢〕疾病妖厲去矣。〔注〕妖、怪、厲、惡。

【妖麗】95 エウレイ なまめいてうつくしい。又、其の婦人。〔漢書、文三王、梁懷王傳〕梁國之富、足下以厚二聘美女一、招中致妖麗上。〔陸機、擬二東城一何高一詩〕京洛多二妖麗一。

【妖靈】96 エウレイ ばけもの。もののけ。妖怪。

〖妖靈星〗97 エウレイボシ エウレボシ 怪しい星。〔太平記、五、相模入道弄二田樂一事〕天王寺の、えうれいぼしを見ばや。

【妖惑】98 エウワク あやしい言葉で人をまどはす。〔後漢書、劉陶傳〕妖二惑小民一。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕來命陳二彼妖惑之罪一。

【妖由レ人興】99 エウハヒトニヨリテオコル あやしいわざはひは人の心の不正から起る。〔左氏、莊、十四〕人之所レ忌、其氣燄以取レ之、妖由レ人興也、人無レ釁焉、妖不二自作一、人棄レ常則妖興、故有レ妖。

【妖不レ勝レ德】100 エウハトクニカタズ わざはひは正しい德に打勝つことは出來ない。〔史記、殷紀〕伊陟曰、臣聞、妖不レ勝レ德、帝之政、其有レ闕與、帝其修レ德。

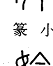
【妗】6087

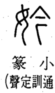
［一］セン 〔集韻〕處占切 鹽

［二］ケン 〔集韻〕馨兼切 鹽

［三］カン ケン 〔集韻〕虛咸切 咸

［四］キン ゴン 〔集韻〕巨禁切 ㄐㄧㄣˋ 沁 chin^4

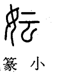

小篆

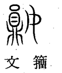

小篆（聲定訓通）

［一］［二］❶**しなよく笑ふさま**。〔說文〕妗、婆妗也、从レ女今聲、一曰、善笑皃。〔玉篇〕妗、婆妗、美笑皃。〔集韻〕妗、妗婆、喜笑皃。❷**うつくしい**。〔廣韻〕妗、美也。［三］❶**よろこぶさま**。〔廣韻〕妗、喜皃。❷**女のかるがるしいさま**。〔集韻〕妗、女輕薄皃。❸通じて欦（6－16120）に作る。〔集韻〕妗、通作レ欦。［四］**母の兄弟の妻**。〔集韻〕妗、俗謂二舅母一曰レ妗。

【妘】6088

ウン 〔集韻〕于分切 ㄩㄣˊ yün^2 文


小篆


籀文

❶**姓**。䢵（11－39308）に同じ。〔說文〕妘、祝融之後、姓也、从レ女云聲。〔說文通訓定聲〕鄅・鄶・路・偪・陽・鄢、皆妘姓之國。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕䢵氏、亦作レ妘、嬴姓、子爵、祝融之後、封二於羅一、號二妘子一。❷**女のあざな**。〔集韻〕妘、一曰、女字。❸古、⿰女鼏（3－6878）に作る。〔集韻〕妘、古从レ鼏。

【⿱云女】6089

ウン 妘（3－6088）に同じ。〔篇海類編〕⿱云女、同レ妘。

【妙】6090

［一］ベウ メウ 〔集韻〕彌笑切 ㄇㄧㄠˋ miao^4 嘯

［二］ベウ メウ 〔集韻〕弭沼切 篠

［一］❶**たへ**。㋑うつくしい。〔廣雅、釋詁一〕妙、好也。〔後漢書、班固傳下〕妙二古昔一而論レ功。〔注〕妙、猶レ美也。㋺よい。〔莊子、寓言〕九年而大妙。〔注〕妙、善也。㋩くはしい。念入りである。〔正字通〕妙、精微也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕咨用レ力之妙勤。〔注〕善曰、妙勤、精妙功勤也。㋥不思議。おくふかい。はかり知れない。〔正韻〕妙、神妙也。〔增韻〕妙、神化不レ測也。〔呂覽、審分〕所レ知者妙矣。〔注〕妙、微也。❷**すぐれる**。精美至善の極致。〔老子、一〕以觀二其妙一。〔河上公注〕妙、要也。〔王注〕妙者、微之極也。❸**わかい**。ちひさい。〔廣雅、釋詁二〕妙、小也。〔正字通〕妙、小年也。〔錢起、送三傅管記赴二蜀軍一詩〕才異從橫年且妙。❹**かすか**。はるか。眇（8－23188）に通ず。〔易、說卦〕神也者、妙二萬物一而爲レ言者也。〔釋文〕妙、王肅本作レ眇。〔後漢書、班固傳下〕妙二古昔一而論レ功。〔注〕妙、或作レ眇。❺或は⿰幺少（4－9197）に作る。〔集韻〕妙、或从レ幺。❻玅（7－20815）に同じ。〔玉篇〕玅、今作レ妙。❼**姓**。〔萬姓統譜〕妙、見二姓苑一。〔奇姓通〕宋妙頤眞、南陽人、善レ畫。❽［現］㋑都合がよい。㋺おもしろい。［二］嫽妙は、女のさま。〔集韻〕妙、嫽妙、女皃。

［名乘］タユ。タダ。タフ。タへ。

【妙幄】1 メウアク 美しいとばり。〔沈約、棲禪精舍銘〕往辭二妙幄一、今承二梵筵一。

【妙案】2 メウアン すぐれて巧な考。

【妙衣】3 メウイ たへなる法衣。妙服。佛道の悟の喩。〔梁簡文帝、相宮寺碑〕雪山忍辱之草、天宮陁樹之花、能令下扶二解脫法一、果出中妙衣上、鹿苑豈殊、祇林何遠。

【妙異】4 メウイ 不思議にたへなること。〔論衡、須頌〕絃歌爲二妙異之曲一。

【妙意】5 メウイ 奧深い考。奧ふかいおもむき。〔關尹子、九藥〕苟知二非言非意在二彼微言妙意之上一、乃契二吾說一。〔蘇軾、十一月二十六日松風亭下梅花盛開詩〕妙意有レ在終無レ言。

【妙引】6 メウイン ❶すぐれた歌詞。引は樂府の一體。〔李商隱、上二河東公一啓〕周朝貝葉、列二妙引于王褒一、梁日枳園、灑二芳詞於沈約一。❷すぐれた詞曲。たへなるふし。〔劉筠、大酺賦〕箜篌之妙引初畢、笳管之新聲更揚。

【妙因】7 メウイン ［佛］至妙の行因。菩薩の大行をいふ。〔法華文句會、十〕妙因斯滿、極果頓圓。

【妙有】8 メウウ ［佛］非有の有。非空の空を眞空といふの對。〔業疏濟緣記、一上〕是知妙有則一毫不レ立、眞空則因果歷然。〔孫綽、天台山賦〕太虛遼廓而無レ閡、運二自然之妙有一。〔注〕善曰、謂レ之爲二妙有一者、欲レ言レ有、不レ見二其形一、則非レ有、故謂二之妙一、欲レ言二其無一、物由レ之以生、則非レ無、故謂二之有一也、斯乃無中之有、謂二之妙有一也。

〖妙有大師〗9 メウイウダイシ 唐、閭丘方遠（11－41334‥22）の賜號。

【妙英】10（メウエイ） 美しいはな。美花。〔徐渭、梅賦〕孤稟矜競、妙英雋發。

【妙葉】11（メウエフ） 美しい木の葉。〔梁簡文帝、元圃園講頌〕鳥弄二翅於瓊音一、樹葳二蕤於妙葉一。

【妙演】12（メウエン） ❶立派にのべる。〔晉書、郭象傳〕先レ是注二莊子一者數十家、莫三能究二其旨統一、向秀於二舊注外一而爲二解義一、妙二演奇致一、大暢二玄風一。❷巧にかなでる。〔謝朓、秋夜講解詩〕惠唱摛二清湧一、妙演發二金相一。

【妙緣】13（メウエン） ふしぎな因緣。〔梁簡文帝、菩提樹頌序〕此實生善之妙緣、進行之深福。〔李華、潤州鶴林寺故徑山大師碑銘〕眞乘妙緣、靈祥嘉應。

【妙遠】14（メウエン） かすかでおくふかい。はるかにとほい。〔韓非子、難言〕閎大廣博、妙遠不レ測、則見三以爲二夸而無レ用。〔論衡、自紀〕言姦辭簡、指趨妙遠。

【妙遠堂】15（メウヱンダウ） 明、馬之駿(12－44572‥792)の室名。

【妙應】16（メウオウ） ❶宋の僧。六合の人。姓は李氏。相術に精通す。〔揮麈餘話〕❷宋、李德柔(6－14459‥1823)の賜號。

【妙音】17（メウオン） ❶たへなる音。巧な音樂。妙聲。妙樂。〔戰國、楚策〕大王誠能聽二臣之愚計一、則韓・魏・齊・燕・趙・衞之妙音美人、必充二後宮一矣。〔郭璞、遊仙詩〕姮娥揚二妙音一。❷佛㋑婆沙四大論師の一人。世友・法救・覺天と共に四論師といひ、脇尊者と大毘婆沙論を編纂す。〔倶舍光記、二十〕音聲妙故、名曰二妙音一、梵云二懼沙一、舊云二瞿沙一訛也。㋺菩薩の名。淨光莊嚴國の佛で、釋迦が靈鷲山で法華經を說いた時、この菩薩は來會して衆生濟度を誓つた。〔法華經、妙音菩薩品〕。〔法華嘉祥疏、十〕此菩薩、過去以二十番種伎樂一供二養佛一、故得二美妙音聲一、固以立レ名。

【妙音壻】18（メウオンセイ） すぐれてよい聲のをつと。すぐれて立派な男子。〔法苑珠林〕漢黃原平旦開レ門、忽有三青犬在二門外一、原獵、隨レ犬至二一穴一、有二女姿容妍媚一、見レ原笑曰、此青犬所レ致妙音壻也。

【妙音鳥】19（メウオンテウ） 極樂に居るといふ鳥の名。妙聲鳥。迦陵頻伽(11－38789‥38)に同じ。

【妙音天】20（メウオンテン） 妙音樂天の略。

【妙音樂天】21（メウオンガクテン） 佛辯才天(10－38677‥24)の異名。妙音天。其の妃を辯才天女といふ。Sarasvati 譯〔大日經疏、五〕次地置二薩囉伐底一、譯云二妙音樂天一、或曰二辯才天一、次地幷置二其妃一。

【妙歌】22（メウカ） たへなる歌。すぐれて聲が美しく、節廻しの巧な歌。〔法苑珠林〕是琴音聲及妙歌聲、隱二蔽欲界諸天音樂一。〔黃庭堅、遊二王舍人園一詩〕幅巾延レ客酒妙歌小紅裳

【妙娥】23（メウガ） 宋代、甘肅省平涼縣に居た種族の名。〔宋史、眞宗紀二〕景德三年、渭州妙娥族三千餘帳內附、復置二高州一。

【妙楷】24（メウカイ） すぐれて巧な楷書。絕妙な楷書。〔東觀餘論、跋二漢劉文饒碑後一〕想二文饒之高風一、玩二中郞之妙楷一。

【妙楷臺】25（メウカイダイ） 隋の煬帝が古の筆蹟を藏したうてなの名。〔隋書、經籍志〕聚二魏已來古跡名畫於殿一、後起二二臺一、東曰二妙楷臺一、藏二古跡一、西曰二寶墨臺一、藏二古畫一。

【妙解】26（メウカイ） 不思議に善く解する。巧に解する。又、其のこと。〔晉書、王珉傳〕時有二外國沙門一、名二提婆一、妙二解法理一、爲二珣兄弟一講二毘曇經一。〔梁肅、天台法門議〕贊二龍樹之遺論一、從二南岳之妙解一。

【妙巧】27（メウカウ） すぐれてたくみ。絕妙な巧さ。〔郭泰機、答二傳咸一詩〕寒女雖二妙巧一、不レ得レ秉二杼機一。〔劉峻、廣絕交論〕若乃匠人輟二成風之妙巧一。

【妙好】28（メウカウ） ❶首飾の神の名。〔瑯嬛記〕首飾神曰二妙好一。❷すぐれてよい。〔榮花物語、玉臺〕彌陀如來、云云、妙好高貴の相は形體にあり。

【妙香】29（メウカウ） たへなる香。すぐれてよいにほひ。〔增一阿含經〕有二妙香三種一、謂二多聞香・戒香・施香一、此三香、逆風順風、無レ不レ聞レ之。〔杜甫、大雲寺贊二公房一詩〕心清聞二妙香一。

【妙香閣】30（メウカウカク） 清、孫雲桂(3－6987‥327)の室名。

【妙香館】31（メウカウクワン） 清、銘岳(11－40385‥4)の室「名。

【妙香室】32（メウカウシツ） 清、胡達源(9－29400‥548)の室名。

【妙香居士】33（メウカウコジ） 清、龍啓瑞(12－48818‥668)の號。

【妙高】34（メウカウ） ❶峰の名。㋑江蘇省丹徒縣の金山の上で、金山の最高の處。東は焦山を望み、西は金陵、南は京口を俯瞰し、北は瓜洲に對す。形勝第一。山頂の妙高臺は宋の僧、了元の建立で、一名、曬經臺。〔讀史方輿紀要、江南、鎭江府、丹徒縣〕金山、府西北七里、大江中風濤環遶、勢欲二飛動一、一名浮玉山、一名氏父山、又名二獲苻山一、云云、其頂曰二金鼇峯・妙高峯一、有二浮圖一、冠二其上一、汪藻所レ云、攬二數州之秀于俛仰之閒一者也。㋺福建省建陽縣の東。宋の黃幹、龜峯精舍を此處に建てて道を講じ、後、更に環峯書院と名づく。〔讀史方輿紀要、福建、建寧府、建陽縣〕東山、縣東十里、雄壯秀麗、中有二一峯一、高出二羣山一、曰二妙高峯一、其相接者曰二橫山一。㋩湖南省長沙縣の南。江流環帶し、諸山屛列す。下の琤琮谷は宋の張栻の城南書院の舊址。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府、長沙縣〕嶽麓山、志云、縣南一里、又有二妙高峯一、最高聳。❷佛梵語 Sumeru の意譯。大海の中にある高さ八萬四千由旬の山。日が此の山に入れば夜となり、出づれば晝となるといふ。須彌山（シュミセン）。蘇迷盧（ソメイロ）。〔祕藏記、本〕蘇者妙也、迷盧者高也、故曰二妙高山一。❸新潟縣中頸城郡の南方に聳える山。

【妙高道人】35（メウカウダウジン） 清、金張(11－40152‥84)の號。

【妙客】36（メウカク） 遊女に養はれてゐる男。〔北里志〕或私畜二侍レ寢者一、亦不下以二夫禮一待上。〔注〕多有二游惰者一、於二三曲中一而爲二諸娼所一レ豢、俗呼爲二妙客一。

【妙格】37（メウカク） 極めてよい品格。〔圖畫見聞誌〕夙擅二家聲一、皆躋二妙格一。

【妙覺】38（メウカク） 佛❶善いさとり。佛果の無上正覺。〔梁簡文帝、上二大法頌一表〕天上天下、妙覺之理獨圓。〔三藏法數、二十六〕自覺覺他覺行圓滿不可思議、故名二妙覺性一。❷佛名。毗舍婆佛の子。〔法苑珠林〕佛名、毗舍婆佛有レ子、名二妙覺一。

【妙樂】39（メウガク） ❶たへなる音樂。妙音。妙曲。〔陳造、餞二寄定海交代一詩〕妙樂喧二江浪一、清譚到二理窟一。❷（メウラク） 善美で樂しい。〔顏氏家訓、歸心〕妙樂之世、禳佉之國、則有二自然稻米無盡寶藏一。

【妙感】40（メウカン） 不思議な感應。神妙なはかり知られぬ感應。〔雲笈七籤〕眞會妙感、陟二降太元一。

【妙簡】41（メウカン） 精妙にえらぶ。十分にえらぶ。妙選。〔魏志、高貴鄕公紀〕養レ老興レ敎、必有三三老五更一、以崇二至敬一、宜下妙二簡德行一、以充中其選上。〔潘岳、夏侯常侍誄〕設レ官建レ輔、妙二簡邦良一。

【妙顏】42（メウガン） たへなる顏。うつくしい顏。〔陶潛、讀二山海經一詩〕玉臺凌レ霞秀、王母怡二妙顏一。〔虞集、步虛詞〕肅然降二靈氣一、穆若愉二妙顏一。

【妙姬】43（メウキ） 美しい女。美姬。〔鮑照、蕪城賦〕東都妙姬、南國麗人、蕙心紈質、玉貌絳脣。

【妙氣】44（メウキ） 靈妙なる氣。〔陸機、晉平西將軍孝侯周處碑〕膂力絕二於天下一、妙氣挺二於人閒一。〔梁武帝、淨業賦〕觀二人生之天性一、抱二妙氣一而清淨。〔梁簡文帝、大法頌〕掩二入殿之紫雲一、奪二鴻門之妙氣一。

【妙喜】45（メウキ） 佛維摩居士の國土。〔維摩經、見阿閦佛國品〕佛告二舍利佛一、有レ國名二妙喜一、佛號二無動一、是維摩詰、於二彼國一沒、而來生レ此。

【妙喜菴】46（メウキアン） 宋、宗杲(3－7106‥32)の室「名。

【妙器】47（メウキ） すぐれたうつは。又、立派な人材。〔魏志、崔林傳〕誠台輔之妙器、袞職之良才也。〔江淹、橫吹賦〕妙器奇製、見レ貴二歷代一。

【妙機】48（メウキ） ❶佛微妙の感應を受くべき人。機は機根能力ある人をいふ。〔法華玄義、六〕妙機召二究竟妙應一。❷氣運の微妙な變化。又、絕妙な機會。

【妙妓】49（メウギ） 技藝に秀でた妓女。〔曹植、七啓〕亦將レ有下才人妙妓、遺レ世越レ俗、揚二北里之流聲一、紹中陽阿之妙曲上。〔張華、輕薄篇〕新聲踰二激楚一、妙妓絕二陽阿一。

【妙技】50（メウギ） 巧な技術。すぐれて巧なわざ。〔後漢書、邊讓傳〕妙技單收二尊俎一、徹二鼓盤一。〔阮瑀、箏賦〕曲高和寡、妙技難レ工、伯牙能レ琴、於レ茲爲レ朦。

【妙義】51（メウギ） すぐれた義理。奧深いことわり。〔徐陵、丹陽上庸路碑〕高文象レ緯、妙義幾レ神。

【妙儀】52（メウギ） 北齊の女官の名。〔北史、后妃傳序〕妙儀、云云、則爲二八十一御女一、比二正四品一。

【妙戲】53（メウギ） たへなるわざ。巧な遊戲。妙技。〔張

衡、西京賦〕臨二迴望之廣場一、程二角觝之妙戲一。〔唐無名氏、兩階舞二干羽一賦〕黜二掌上之纖腰一、弛二庭中之妙戲一。

【妙境】54 メウキャウ はかり知られぬ善美の境地。又、すぐれて巧な箇所。妙所。〔王僧孺、答二釋法雲書難二范縝神滅論一〕燭二茲微言一、若レ開二金石一、洞二茲妙境一、曾靡二榛蹊一。〔杜甫前出塞詩評〕黃生曰、前四語、似レ謠似レ諺、最是樂府妙境。

【妙響】55 メウキャウ たへなるひびき。〔梁簡文帝、七勵〕鳴二繞梁之妙響一、發二愁戶之淸音一。〔沈約、詠レ篪詩〕江南簫管地、妙響發二孫枝一。

【妙行】56 メウギャウ 佛 たへなる行法。身・口・意の善業。〔大方等陀羅尼經、四〕不レ離二善友一、常說二衆生妙行一。

【妙曲】57 メウキョク すぐれた音樂。妙樂。〔後漢書、仲長統傳〕發二淸商之妙曲一。〔論衡、講瑞〕必以附從效二凰皇一、是用和多爲二妙曲一也。〔曹植、七啓〕紹二陽阿之妙曲一。〔嵇康、琴賦〕爾乃理二正聲一、奏二妙曲一、揚二白雪一、發二淸角一。〔司馬彪、贈二山濤一詩〕焉得レ成二琴瑟一、何由揚二妙曲一。

【妙極】58 メウキョク ㊀たへなるきはみ。不思議の極。〔沈約、千佛讚〕帝萃二羣聖一、均二此妙極一。㊁miao^4 chi^2 けつこう。〔紅樓夢、一回〕那僧道、妙極妙極。

【妙勤】59 メウキン よくつとめる。精妙なはたらき。〔王延壽、魯靈光殿賦〕何宏麗之靡靡、咨用レ力之妙勤。〔注〕善曰、妙勤、精妙功勤也。

【妙句】60 メウク たくみに言ひまはした文句。うまい句。〔陳琳、答二東阿王一牋〕淸辭妙句。〔宋書、謝靈運傳論〕至二於高言妙句一、音韻天成、皆闇與レ理合。

【妙空】61 メウクウ ㊀唐の僧。名は守納。雲峯卯一齋の法を嗣ぎ、嘉祐禪院に住した。㊁明、慧心(**4－11116**··51)の號。

【妙果】62 メウクワ 佛 妙因によつて生ずる殊にすぐれた結果。佛果。〔金剛經新注〕既行二勝因一、必定二妙果一。

【妙華】63 メウクワ ㊀美しい容貌。美貌。〔鮑照、中興歌〕三五容色滿、四五妙華歇。㊁佛 メウケ 殊にたへなる花。〔無量壽經、上〕天雨二妙華一。

【妙畫】64 メウグワ すぐれた繪畫。〔晉書、顧愷之傳〕妙畫通レ靈。〔樓鑰、錢淸王千里得二王太令保母甎刻一爲賦二長句一詩〕甎雖二破裂一文多全、妙畫遠過二蘭亭鐫一。

【妙畫通レ靈】65 メウグワレイニツウズ 極めてすぐれた畫は、神靈に通じて飛び去ることがある。すぐれた畫家のうでまへを褒めたたへる言葉。〔晉書、顧愷之傳〕愷之嘗以二一廚畫一糊二題其前一、寄二桓玄一、玄發レ廚後竊取レ畫、而緘閉如レ舊以還レ之、紿云、未レ開。愷之直云、妙畫通レ靈、變化而去、亦猶二人之登レ仙了、無二怪色一。〔書言故事大全、畫者類〕稱二頌畫工一、曰二妙畫通レ靈。

【妙管】66 メウクワン たへなる音色の管樂器。管は吹き鳴らす樂器。笛の類。たへなる音樂。〔許敬宗、奉下和聖製登二三臺一言上レ志應制詩〕妙管含二秦鳳一、仙姿麗二斗牛一。〔韋應物、驪山行〕羽旗旄節憩二瑤臺一、淸絲妙管從レ空來。〔吳師道、遊二西山玉泉一詩〕常時御レ舟此遊幸、淸簫妙管魚龍聽。

【妙觀】67 メウクワン くはしく見る。〔曹植、魏德論〕超二天路一而高峙、階二淸雲一以妙觀。〔郭璞、江賦〕考二川瀆一而妙觀、實莫レ著二於江河一。

【妙觀察智】68 メウクワンサッチ 佛 ㊀四智の一。顯教の說。凡夫の第六識を轉じて佛果に至り得るもので、妙に諸法を觀察する智をいふ。〔成唯識論、十〕妙觀察智相應心品、謂此心品善觀二諸法自相共相一、無礙而轉。㊁五智の一。密教の說。西方無量壽佛の智慧に配する。〔菩提心論〕西方阿彌陀佛由レ成二妙觀察智一、亦名二蓮華智一。〔祕藏記、本〕妙觀察智五眼高臨、邪正不レ謬、因以爲レ名。

【妙訓】69 メウクン すぐれたをしへ。意味深遠な教訓。名教。〔沈約、究竟慈悲論〕晚說二大典一、弘宣二妙訓一。

【妙偈】70 メウゲ 佛 たへなる偈。意味深遠な偈。偈は佛德を歎美し、又は法理を衍述した詩詞。〔蘇軾、次二韻子由浴罷一詩〕楞嚴在二牀頭一、妙偈時仰讀。

【妙形】71 メウケイ たへなる形。〔傅玄、蟬賦〕含二精粹之貞氣一兮、體二自然之妙形一。〔邢邵、文襄金像銘〕妙形難レ象、至理希レ詮、形之所レ極、理亦在焉。

【妙契】72 メウケイ 不思議に合ひかなふ。契は契合。〔二十四詩品〕海之波瀾、山之嶙峋、倶似二大道一、妙契二同塵一。

【妙計】73 メウケイ すぐれたはかりごと。妙算。妙籌。「妙略。妙策。

【妙慧】74 メウケイ ㊀不思議な才智。又、すぐれてさとい。〔山谷題跋、跋周元翁龍眠居士大悲贊〕吾友周壽元翁、云云、其言語文章、發明妙慧、非レ爲二作使之合一。㊁明、馬如玉(**12－44572**··826)の名。㊂佛 メウヱ 深妙の智慧。〔法華經、序品〕佛子心無二所着一、以二此妙慧一求二無上道一。

【妙教】75 メウケウ 佛 殊妙な教。妙法蓮華經に說く教。〔法華文句記、六〕今開二妙教一、須レ附二妙宗一。

【妙訣】76 メウケツ すぐれた方法。極めてうまいおくのて。靈妙な祕訣。〔葉適、贈二孫十五道人一詩〕欲レ度二世人一無二妙訣一、睡長留レ日住二簷牙一。

【妙頰】77 メウケフ 美しいほほ。〔蘇軾、新渡寺席上次下趙景貺二陳履常韻一送中歐陽叔弼上比來諸君唱和叔弼但袖手旁睨而已臨レ別忽出二一篇一頗有二淵明風致一坐皆驚歎詩〕神屠不二目全一、妙頰惟粧レ牛。

【妙見】78 メウケン ㊀佛 菩薩の名。北斗星の本地で、國土を護り、貧窮を救ひ、諸願を成就せしめる佛。妙見菩薩。〔七佛所說神呪經〕西北辰菩薩名曰二妙見菩薩一、今欲下說二神呪一擁中護諸國土上、處二於閻浮提一、所レ作奇特、故名曰二妙見一、衆星中最勝、神仙中之仙、菩薩之大將。㊁ヨシミ 姓氏。玅見。〔和爾雅〕。

【妙鍵】79 メウケン たへなる鍵。立派な教の喩。〔蘇味道、和下武三思於二天中寺一尋二復禮上人一之作上詩〕五行幽機暢、三蕃妙鍵開。

【妙言】80 メウゲン たくみな言。たへなる言葉。〔黃庭堅、奉三和王世弼寄二上七兄先生一用二其韻一詩〕妙言對二賓客一、稱二渠萬金產一。

【妙古】81 メウコ はるかな古代。又、善美な古代。〔陸雲、逸民賦〕欽二妙古之達言一兮、信懷レ莊而悅レ賈。

【妙悟】82 メウゴ 十分によくさとる。深く會得する。極致に達した深いさとり。〔宋史、仁宗紀三〕仁宗天性慈孝、聰明恭儉、通二達儒術一、妙二悟釋典一、嘗曰、明レ心見レ性、佛教爲レ深、修レ身治レ國、儒道爲レ切。〔涅槃無名論〕玄道在二於妙悟一、妙悟在二於卽眞一。

【妙語】83 メウゴ おもむきのある言語。妙味ある語。微妙な語。〔蘇軾、雪後便欲下與二同僚一尋上春云云詩〕知君苦二寂寞一、妙語嚼二芳鮮一。〔黃庭堅、次三韻文潛同遊二王舍人園一詩〕掃レ花坐二晚吹一、妙語益難レ忘。

【妙工】84 メウコウ すぐれた細工。又、すぐれた細工をする人。藝に巧妙なもの。〔梁簡文帝、明君詞〕妙工偏見レ詆、無レ由二情恨通一。〔江淹、扇上綵畫賦〕臨淄之穉女、宋鄭之妙工。

【妙吼】85 メウコウ 獸のほえるたへなる聲。〔沈約、內典序〕妙吼遐徹、鸞音自遠。

【妙才】86 メウサイ ㊀すぐれた才。傑出した才能。妙材。〔文心雕龍、辯騷〕然其文辭麗雅、爲二詞賦之宗一、雖レ非二明哲一、可レ謂二妙才一。㊁三國魏、夏侯淵(**3－5720**··96)の字。

【妙綵】87 メウサイ 美しいいろどり。〔宋玉、神女賦序〕極服妙綵照二萬方一、振二繡衣一被二袿裳一。

【妙材】88 メウザイ すぐれた才。すぐれた技能のあるもの。妙才。〔張衡、西京賦〕秘舞更奏、妙材騁レ伎。

【妙劑】89 メウザイ 奇妙にきく藥。妙藥。〔蘇轍、病中郭尉見レ訪詩〕却問二藥王一求二妙劑一、慙非二摩詰一已虛圓。

【妙相】90 メウサウ すぐれた姿。すぐれた樣子。たへなる容姿。妙姿。〔梁簡文帝、大愛敬寺剎下銘〕儼如二常住一、妙相長存。〔耶律楚材、和三搏霄韻代二水陸疏文一云云詩〕山色水光呈二妙相一、鳥啼猿嘯露二圓音一。

【妙想】91 メウサウ たへなる思想。微妙なかんがへ。妙案。〔蒲道源、贈二傳神李肖巖一詩〕畫師筆底要二眞似一、妙想乃與二天機一通。

【妙操】92 メウサウ 極めてすぐれた節操。妙節。〔論衡、程材〕其高志妙操之人、恥二降レ意損レ崇、以稱レ媚取レ進。

【妙像】93 メウザウ ㊀立派な像。〔晉書、左貴嬪傳〕不レ見二圖畫之妙像一兮、不レ聞二先哲之典謨一。㊁たへなるすがた。妙姿。〔郭璞、遊仙詩〕明道雖レ若レ味、其中有二妙像一。

【妙算】94 メウサン たくみなはかりごと。すぐれた分

別。高策。妙計。〔晉書、石苞傳〕齊桓忘二管仲之奢僭一、而錄二其匡合之大謀一、漢高捨二陳平之汙行一、而取二其六奇之妙算一。〔陳書、虞寄傳〕此將軍妙算遠圖、發二於衷誠一者也。

【妙士】95 メウシ ❶すぐれた人物。〔曹植、畫贊〕見二高節妙士一、莫レ不レ忘レ食。〔南史、劉之遴傳〕子三達、字三善、數歲能清言、及レ屬レ文、年十二、聽二江陵令賀革講レ禮還、仍覆述不レ遺二一句一、年十八卒、之遴深懷二悼恨一、乃題レ墓曰二梁妙士一、以旌レ之。❷清、陳詩庭(**11－41698**‥927)の號。

【妙旨】96 メウシ すぐれたむね。微妙な趣旨。妙指。妙趣。〔吳志、胡綜傳〕微言妙旨、不レ得二上達一。〔顏氏家訓、歸心〕迷二大聖之妙旨一。〔梁書、沈約傳〕窮二其妙旨一、自謂二入神之作一。

〖剖二析妙旨一〗97 メウシヲホウセキス 微妙な旨意を說き明かにする。〔江木鰐水、山陽行狀〕必摘二發蘊奧一、剖二析妙旨一。

【妙姿】98 メウシ たへなる姿。立派なすがた。妙相。妙態。〔蘇軾、紅梅詩〕也知造物含二深意一、故與二施朱一發二妙姿一。

【妙思】99 メウシ 深く考へる。すぐれたかんがへ。靈妙な思想。妙想。〔論衡、藝增〕妙思所レ集、宜レ如二其實一。〔魏文帝、與二梁朝歌令吳質一書〕妙二思六經一、逍二遙百氏一。

【妙指】100 メウシ すぐれたむね。いふにいはれぬすぐれた趣。妙旨。〔張衡、歸田賦〕彈二五絃之妙指一、詠二周孔之圖書一。

【妙詩】101 メウシ 精妙な詩。すぐれてよい詩。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕妙詩申二篤好一、清義貫二幽賾一。

【妙齒】102 メウシ うらわかい。妙齡(213)に同じ。

【妙字】103 メウジ ❶すぐれた文字。立派な文章。〔賈島、送三僧歸二天台一詩〕妙字研磨講、應齊智者蹤。〔蘇軾、書二林逋詩後一文〕遺篇妙字處處有、步遶二西湖一看不レ足。❷妙の字。〔嬾眞子〕荊公字二解妙字一云、爲レ少爲レ女爲二無妄一、少女卽不二以レ外傷一レ內者也、莊子云、綽約若二處子一、注云、處子不三以レ外傷二內、公之言、蓋出二於此一。

【妙耳】104 メウジ 妙音を聽きわける耳。〔蘇軾、九月十五日觀レ月聽二琴西湖一示二坐客一詩〕哀彈本二舊曲一、妙耳非二昔聞一。

【妙辭】105 メウジ すぐれてよい辭句。〔徐陵、麈尾銘〕拂二靜塵暑一、引二飾妙辭一。

【妙識】106 メウシキ たくみに識る。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕侍言二稱辭一、惇史秉レ筆、妙二識幾音一、王載有レ述。

【妙質】107 メウシツ すぐれた生れつき。立派な性質。〔禰衡、鸚鵡賦〕體二金精之妙質一、含二火德之明煇一。〔陸雲、與二陸典一書〕挺二自然之妙質一、稟二淵姿之弘毅一。〔蘇軾、次二韻三舍人省上一詩〕嗟君妙質皆瑚璉、顧我虛名俱箕斗。

【妙實】108 メウジツ ❶すぐれた實績。立派な實質。〔鮑照、奉二始興王命一作二白紵舞曲一啓〕言既無レ雅、聲未レ能レ文、不レ足下以宣二贊聖旨一、抽中拔妙實上。❷不思議な木の實。〔陸雲、贈二鄱陽府君張仲膺一詩〕神林何有、奇華妙實。

【妙車】109 メウシヤ 立派な乘りもの。〔法華經、譬喩品〕以二是妙車一、等賜二諸子一。

【妙章】110 メウシヤウ 後漢、竇后(**8－25695**‥25)の名。

【妙賞】111 メウシヤウ 非常にほめる。絕讚。〔張雨、緝熙殿御製墨梅詩帖詩〕宣和妙賞緇衣句、傳在二夷門一作二勝談一。

〖妙賞樓〗112 メウシヤウロウ 明、高濂(**12－45313**‥1014)「の室名。

【妙鑠】113 メウシヤク 元の僧。大德中、沅州から沅陵に至り、普安寺を縣東に建つ。〔辰州府志〕。

【妙手】114 メウシユ 巧な手法。すぐれたうでまへ。又、甚だ上手な人。〔蔡洪、圍棊賦〕命二班倕之妙手一、制二朝陽之柔木一。〔樂府解題〕伯牙爲二天下妙手一。〔蘇軾、孫莘老寄レ墨詩〕珍材取二樂浪一、妙手惟潘翁。

〖妙手空空〗115 miao^4 shou^3 kʻung^1 kʻung^1 空手で仕事をする。空拳で事業を成す。

〖妙手回春〗116 miao^4 shou^3 huei^2 chʻuen^1 醫師の技術を稱讚する語。

〖妙手空空兒〗117 メウシユクウクウジ ❶唐代の劍俠の名。〔聶隱娘傳〕隱娘曰、後夜當レ使二妙手空空兒繼至一、空空兒之神術、人莫二能窺二其用一、鬼莫レ得レ躡二其蹤一、能從二空虛一入レ冥、善無形而滅レ影、隱娘之藝、故不レ能レ造二其境一、此卽繫二僕射之福一耳。❷miao^4 shou^3 kʻung^1 kʻung^1 êrh 空手で事業をするもの。俗に竊盜をいふ。

【妙趣】118 メウシユ たへなるおもむき。又、いふにいはれぬ興趣。入神のあぢはひ。妙旨。妙致。妙味。〔列仙傳、關令尹喜贊〕俱濟二流沙一、同歸二妙趣一。

【妙術】119 メウジユツ 不思議な手だて。靈妙な術。〔陸機、漏刻賦〕信二探頤妙術一、雖レ無レ神其若レ靈。〔新論、隨時〕雖レ有二妙術一、歸二於無用一。〔隋書、高祖紀下〕妙術精微。

【妙瞬】120 メウシユン たへなるまたたき。〔段成式、吳道子畫詩〕妙瞬乍疑レ生、參差奪二人魄一。

【妙所】121 メウシヨ 妙處(123)に同じ。

【妙書】122 メウシヨ 精妙な筆跡。非常に巧な筆蹟。〔劉孝綽、酬二陸長史倕一詩〕殷勤覽二妙書一、留連披二雅韻一。

【妙處】123 メウシヨ すぐれたところ。いふにいはれぬ味のあるところ。妙所。妙境。〔世說新語、巧藝〕顧長康、畫レ人或數年、不レ點二目精一、人問二其故一、顧曰、四體姸蚩、本無レ關二於妙處一、傳神寫照、正在二阿堵中一。〔陸游、風雨中望二峽口諸山一奇甚戲作短歌詩〕妙處元在二煙雨中一。

〖妙處不傳〗124 メウシヨフデン 妙處は言語によつて傳へることは出來ず、自ら體得すべきものである。〔世說新語、文學〕司馬太傅問二謝車騎一、惠子其書五車、何以無二一言入一レ玄、謝曰、故當二是其妙處一不レ傳。〔黃庭堅、題下小雀捕二飛蟲一畫扇上詩〕丹青妙處不レ可レ傳、輪扁斲輪如レ此用。

【妙色】125 メウシヨク たへなる顏色。靈妙な色。〔梁簡文帝、菩提樹頌〕儼然妙色、蔭二此曲枝一、顯若二金山一、尊如二聚月一。〔盧照鄰、畫贊〕徵二奇綃于水府一、採二妙色于霞莊一。

【妙飾】126 メウシヨク 美しいかざり。〔劉楨、答三魏太子丕借二廓落帶一書〕恨楨所レ帶、無二他妙飾一、若實殊異、尚可レ納也。

【妙織】127 メウシヨク すぐれた織物。〔梁昭明太子、扇賦〕匠人之巧製、女工之妙織。

【妙心】128 メウシン ［佛］心をいふ。心の本體は不可思議なものであるところから妙といふ。〔圓覺經〕如來圓覺妙心。

【妙身】129 メウシン 幼少の身。〔漢三老袁君碑〕朕以二妙身一、襲レ表繼レ業。

【妙人】130 miao^4 jen^2 ❶美人。❷すぐれた人。

【妙甚】131 メウジン たへなることが甚しい。非常にすぐれてゐること。妙絕。〔張翥、題二息齋竹石古木一詩〕森然一片鐵石筆、妙甚七字瓊瑰詞。

【妙尋】132 メウジン よくたづねる。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕昔在暇日、妙二尋通理一。

【妙盡】133 メウジン よくきはめつくす。〔王儉、褚淵碑文〕毗佐之選、妙二盡國華一。

【妙吹】134 メウスイ 笛などを巧に吹く。〔列仙傳、上〕簫史妙吹、鳳雀舞レ庭。〔唐詩紀事、李群玉〕群玉好レ吹レ笙、善二急就章一、喜食レ鵞、及下授二校書一東歸上、盧肇送レ詩云、妙吹應レ諧レ鳳、工書定得レ鵝。

【妙樞】135 メウスウ 最も大切な箇所。〔梁肅、述初賦〕悟二幻有之遷斡一、得二環中之妙樞一。

【妙婧】136 メウセイ 美人のさま。細腰のさま。訬婧(**10－35292**‥3)に同じ。

【妙聲】137 メウセイ ❶たへなる音。すぐれた音色。妙音。〔王褒、洞簫賦〕其妙聲則清靜厭瘱、順敍卑迭、若二孝子之事一レ父也。〔注〕善曰、妙聲、聲之微妙也。〔向秀、思舊賦〕妙聲絕而復尋。❷明の僧。吳縣の人。字は九皐。元末に景德寺に居り、後、平江北禪寺の主となり、袁桷・張翥と友となる。著に東皐集がある。〔明詩綜、九十一〕・〔列朝詩集小傳、閏〕。

〖妙聲鳥〗138 メウシヤウテウ 極樂に居るといふ鳥の名。その鳴聲はやはらぎととのつて美しいので、聽く者は恍惚となるといふ。妙音鳥。迦陵頻伽。〔慧苑音義、下〕迦陵頻伽鳥、此云二美音鳥一、或曰二妙聲鳥一、云云、其音和雅、聽者无レ猒也。

【妙迹】139 メウセキ すぐれた筆蹟。妙筆。妙墨。又、すぐれた事迹。〔晉書、王羲之傳〕常歎二妙迹永絕一。〔李嶠、紙詩〕妙迹蔡侯施、芳名左伯馳。

【妙說】140 メウセツ すぐれた言論。〔魏書、常景傳〕味レ道綜二微言一、端レ耆演二妙說一。〔王融、遊仙詩〕綠帙起二眞詞一、丹經流二妙說一。

【妙節】141 メウセツ ❶すぐれて立派なみさを。妙操。〔後漢書、馮衍傳下〕離二塵垢之窈冥一兮、配二喬松之妙節一。❷たへなる音樂の調子。〔梁簡文帝、七勵〕飛二七盤之妙節一、動二六變之清和一。

【妙舌】142 メウゼツ たくみな辯舌。妙辯。〔黃庭堅、再

答并簡康國兄弟頌〕妙舌寒山一居士、淨名金粟幾如來。

【妙絕】143 メウゼツ　非常にすぐれてゐること。神妙の極に達したこと。妙甚。絕妙。〔陸厥、奉答內兄希叔詩〕賦歌能妙絕。〔杜甫、冬日洛城北謁玄元皇帝廟詩〕森羅移地軸、妙絕動宮牆。

【妙絕古今】144 メウゼツココン　書名。四卷。宋、湯漢編。春秋左氏傳から宋の蘇明允に至るまでの二十一家、七十九篇の文を輯む。〔四庫提要、集、總集類〕。

〖妙絕時人〗145 メウニゼツスジジン　詩文などの善美なことが當時の人にかけ離れてすぐれてゐること。〔後漢書、文苑下、張超傳〕超又善於草書、妙絕時人、世共傳之。〔魏文帝、又與吳質書〕公幹有逸氣、但未遒耳、其五言詩之善者、妙絕時人。〔世說新語、文學〕簡文稱許掾云、玄度五言詩、可謂妙絕時人。

【妙染】146 miao^{4} jan^{3}　見事な畫。〔桃花扇、寄扇〕扇頭妙染、怎不賞鑒。

【妙選】147 メウセン　十分によくえらぶ。又、其のえらばれた者。妙簡。妙擇。〔漢書、劉輔傳〕妙選有德之世、考卜窈窕之女。〔晉書、裴楷傳〕武帝爲撫軍、妙選僚采、以楷爲參軍事。〔白居易、除郎官分牧諸州制〕今之臺郎一時妙選。

【妙饌】148 メウセン　不思議な御馳走。立派な食膳。〔王勃、龍懷寺碑〕蘋苔翠蘚、具不盡之靈衣、石乳瓊漿、入無生之妙饌。

【妙善】149 メウゼン　すぐれてよい。精美至善。〔謝靈運、田南樹園激流植援詩〕賞心不可忘、妙善冀能同。〔王融、三月三日曲水詩序〕妙善居質。〔注〕善曰、桓子新論曰、聖賢之材不世、而妙善之技不傳。

〖妙善公主〗150 メウゼンコウシユ　［佛］觀音菩薩の前身。〔編年通論〕南山宣律師、嘗問天神觀音大師緣起、天神對曰、往昔過去劫有主曰莊嚴、夫人曰寶應、生三女、長妙欲、次妙音、三妙善、現千手千眼聖像。

【妙然】151 メウゼン　たへなるさま。奧深くはかり知られぬさま。〔白居易、唐東都奉國寺禪德大師照公塔銘序〕其教之大旨、以如然不動爲體、以妙然不空爲用。

【妙足】152 メウソク　❶駿馬をいふ。〔顏延之、赭白馬賦〕伊逸倫之妙足、自前代而間出。❷蹴鞠の名人。〔近代世事談〕近世の妙足。

【妙速】153 メウソク　詩や文章を作ることがたくみで速かなこと。〔晉書、苻融載記〕融聰辯明慧、下筆成章、云云、未有升高不賦、臨喪不誄、朱彤趙整等、推其妙速。

【妙態】154 メウタイ　たへなる姿。妙姿。〔傅毅、舞賦〕姿絕倫之妙態、懷慤素之絜清。

【妙諦】155 メウタイ　奧儀。祕訣。

【妙棠】156 メウタウ　靈妙な海棠の木。〔謝朓、謝隨王賜紫梨啓〕帝臺妙棠、安期靈棗。

【妙道】157 メウダウ　たへなるみち。最上のやり方。〔莊子、齊物論〕我以爲妙道之行也。〔枚乘、七發〕要言妙道。〔梁肅、藥師琉璃光如來繡像贊〕得妙道者、聖之大、感罔極者孝之至。

〖妙道人〗158 メウダウジン　清、吳志忠(**2**－3365・・616)の號。

〖妙道眞人〗159 メウダウシンジン　字號。❶宋、林道玖(**6**－14551・・391)の號。❷清、吳志忠(**2**－3365・・616)の號。

【妙斲】160 メウタク　たくみに木をけづる。〔蘇軾、次韻李端叔謝送牛戩鴛鴦竹石圖詩〕時來未可知、妙斲待輪扁。〔陳造、寄二孫詩〕良匠有妙斲、惰農無厚收。

【妙擇】161 メウタク　精しくえらぶ。妙簡。妙選。〔唐書、李嶠傳〕陛下誠用臣言、妙擇能者委之、莫不盡力效死矣。

【妙達】162 メウタツ　すぐれて其の道に通じてゐる。〔晉書、樂志上〕阮咸妙達八音、論者謂之神解。〔宋書、謝靈運傳論〕一簡之內、音韻盡殊、兩句之中、輕重悉異、妙達此旨、始可言文。〔南史、南郡王大連傳〕南郡王大連、妙達音樂、兼善丹青。

【妙彈】163 メウダン　たくみに樂器をかき鳴らす。〔李嶠、箏詩〕蒙恬芳軌設、遊楚妙彈開。

【妙斷】164 メウダン　たくみにたちきる。〔宋之問、雨從箕山來詩〕深入清淨理、妙斷往來趣。

【妙致】165 メウチ　すぐれたおもむき。妙趣(118)に同じ。

【妙智】166 メウチ　靈妙な智。佛智。〔無量壽經、上〕妙智無等倫。

【妙籌】167 メウチウ　たくみなはかりごと。妙計(73)に同じ。

【妙竹】168 メウチク　たへなるふえ。〔李中、吹笛兒詩〕隴頭休聽月明中、妙竹嘉音際會逢。

【妙女】169 メウヂヨ　唐代、旌德の崔氏の婢。もと題頭賴吒天王の小女であつたが、天門間のことを洩らした爲、人世に墮ちたといふ。年十三四、飮食を斷ち、蜀葵花と鹽茶のみを喰つて生活した。〔妙女傳〕唐貞元元年五月、旌德崔氏婢、名妙女、年可十三四、夕汲庭中、忽見一僧、云云、言是本題頭賴吒天王小女、爲泄天門間事故、謫墮人世、云云、一日妙女吟唱、空中忽有片雲如席、雲中有笙聲、聲調清鏘、云云。

【妙珍】170 メウチン　❶すぐれてめづらしい。又、その物。珍妙。〔邊讓、章華賦〕設長夜之歡飮兮、展中情之燕婉、竭四海之妙珍兮、盡人生之祕翫。❷珍しい話。〔松登妓話〕ちんは大きにありさ、拂ひもんのつばじやあねへが、妙ちんが有やす。

【妙適】171 メウテキ　悠々自適の境地。〔王勃、青苔賦〕契山客之寄情、諧野人之妙適。

【妙典】172 メウテン　微妙の法を說いた典籍。佛書をいふ。〔梁簡文帝、大法頌序〕極修始之妙典、研龍宮之祕法。〔梁昭明太子、謝敕賚制旨大涅槃經講疏啓〕甘露妙典、先降殊恩。〔教行信證〕如來興世之正說、奇特最勝之妙典。

【妙囀】173 メウテン　たへなるひびき。たへなるしらべ。〔元稹、善歌如貫珠賦〕吟斷章而離離若間、引妙囀而一一皆圓。

【妙土】174 メウド　［佛］殊妙な佛の報土。立派な土地。〔無量壽經、上〕一向專志、莊嚴妙土、所修佛國、恢廓廣大、超勝獨妙。〔梁簡文帝、神山寺碑〕自非莊嚴妙土、吉祥福地、何以標茲淨域、置此伽藍。

【妙德】175 メウトク　❶すぐれてたへなる德。又、その德を具へた人。〔南史、袁粲傳〕粲嘗著妙德先生傳、以續嵇康高士傳後、以自況。❷［佛］文殊師利(Mañjuśrī)菩薩の譯名。〔法華文句、二上〕文殊師利、此云妙德。

【妙年】176 メウネン　年の若いこと。又、その人。少年。若年。妙齡。〔曹植、求自試表〕終軍以妙年使越、欲得長纓占其王、羈致北闕。〔陳書、高宗紀〕或蓍艾絕倫、或妙年異等。〔杜甫、奉贈嚴八閣老詩〕扈聖登黃閣、明公獨妙年。

【妙方】177 メウハウ　すぐれた處方。〔史記、扁鵲倉公傳〕是吾年少所受妙方也、悉與公、毋以敎人。

【妙房】178 メウバウ　すぐれた德行があつまる處の意。〔急就篇〕秦妙房。〔注〕妙、謂德行高妙也、房、謂德之所聚也。

【妙璞】179 メウハク　たへなるあらたま。極めてすぐれたあらたま。璞は琢かない玉。〔魏文帝、彈棊賦〕局則荊山妙璞、發藻揚暉。

【妙微】180 メウビ　こまかで美しい。微妙。〔曹植、七啓〕佩則結緣懸黎、寶之妙微。

【妙靡】181 メウビ　すぐれて美しい。又、其のこと。〔王融、三月三日曲水詩序〕發參差於王子、傳妙靡於帝江。

【妙筆】182 メウヒツ　たへなる筆のあと。極めて上手な書や畫。妙迹。〔圖畫見聞志〕太宗御札云、卿所進墨跡古畫、俱是妙筆。〔米芾、蕭閒堂詩〕美哉何方彥、精絕入妙筆。〔樓鑰、跋李少陵修禊序詩〕右軍以來皆妙筆、名勝異代如相從。

【妙品】183 メウヒン　すぐれた作品。名作。傑作。古人の書畫の評には、妙品を神品の下、能品の上に置く。〔宋史、李公麟傳〕李公麟自夏商以來、鐘鼎彝尊、皆能考定世次、辨測款識、聞一妙品、雖捐千金不惜。〔輟耕錄、敍畫〕余友人吳興夏文彥、字士良、號蘭渚生、其家世藏名蹟、鮮有比者、朝夕玩索、心領神會、加以游於畫藝、悟入厥趣、故鑒賞品藻、萬不失一、云云、所論畫之三品、蓋擴前人所未發、論曰、氣韻生動、出於天成、人莫窺其功者、謂之神品、筆墨超絕、傳染得宜、意趣有餘者、謂之妙品、得其形似、而不失規矩者、謂之能品。

【妙稟】184 メウヒン　すぐれた生れつき。すぐれた天稟。〔甯封、火解贊〕奇矣封子、妙稟自然。

【妙普】185 メウフ　宋の僧。漢州の人。號は性空。紹興の間、海に沈んで死す。〔大明高僧傳、七〕・〔新續高僧傳、三十九〕。

【妙部】186 メウブ　俳優の仲間。〔桃花扇、媚座〕妙部新奇、見慣司空自品題。

【妙舞】187 メウブ　たへなる舞。極めて上手な舞の手。〔後漢書、邊讓傳〕繁手超二於北里一、妙舞麗二於陽阿一。〔謝莊、月賦〕樂二宵宴一收二妙舞一。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕姸歌妙舞之容。〔謝朓、永明樂〕清歌留二上客一、妙舞送二將歸一。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕公子王孫芳樹下、清歌妙舞落花前。

【妙服】188 メウフク　立派な法衣。妙衣。〔梁簡文帝、謝三賚二納袈裟一啓〕邁二彼良疇一、成二斯妙服一。

【妙物】189 メウブツ　すぐれたもの。たへなる物。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕乃知三天壤之所ㇾ生、誠有二自然之妙物一也。〔王巾、頭陀寺碑文〕識二妙物之功一。

【妙辯】190 メウベン　たへなる辯論。すぐれた辯論。〔徐陵、東陽雙林寺傅大士碑〕妙辯無ㇾ相、深言不ㇾ生。〔駱賓王、和下王記室從二趙王一春日遊中陀山寺上詩〕雕談筌二奧旨一、妙辯漱二玄津一。

【妙峯】191 メウホウ　山名。河北省宛平縣の西北。昌平縣の界。西山の支峯。春日、桃・杏開花の時は、全山皆桃・杏の花となり、海棠開花の時は、全山皆海棠となり、玫瑰開花の時は、全山皆玫瑰となり、香は數十里の遠くまで達する。秋日は全山紅葉するが、京を去ること遠いので、遊客が稀で喧傳せられない。高さ約三千尺。山に古寺數多く、頂にあるのを靈感宮といふ。向側に東嶽廟があり、妙峯山の名勝地である。〔燕京歲時記、妙峯山〕妙峯山碧霞元君廟、在二京城西北八十餘里一、山路四十餘里、共一百三十餘里、地屬二昌平一、每ㇾ屆二四月一、自二初一日一開ㇾ廟、半月香火亟盛。

【妙墨】192 メウボク　立派な筆跡。妙迹。〔黃庭堅、跋二法帖一〕書下孔明對二劉玄德一語上、章草法甚妙、不ㇾ知下與二王中令書一先後上、要皆爲二妙墨一。〔朱熹、仙洲新亭詩〕共說二新亭好一、眞堪二妙墨留一。

【妙法】193 メウホフ　佛　たへなるのり。義理の深遠な佛法。特に妙法蓮華經をいふ。〔法華經、方便品〕如ㇾ是妙法、云云、如二優曇鉢華時一現一耳。〔維摩詰所說經、佛國品〕以二斯妙法一、濟二羣生一。

〖妙法藏〗194 メウホフザウ　佛　妙法を貯へた藏。〔千手千眼觀世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經〕當知其人是妙法藏、普攝二一切諸陀羅尼門一故。

〖妙法船〗195 メウホフセン メウホツセン　佛　妙法が能く人を濟度するのを船に譬へていふ。〔心地觀經、一〕善逝恆爲二妙法船一、能截二愛流一超二彼岸一。

〖妙法燈〗196 メウホフトウ　佛　妙法がよく世間の闇を照すことを船に譬へていふ。〔唐譯華嚴經、二〕能然ㇾ照世妙法燈、境界無邊亦無盡。

〖妙法蓮華經〗197 メウホフレンゲキヤウ　佛　佛經の名。七卷、或は八卷。秦、鳩摩羅什譯。

【妙味】198 メウミ　すぐれたあぢはひ。たへなるおもむき。妙趣。〔晉書、王接傳〕斯玉鉉之妙味、經世之徽猷也。〔李綱、荔枝賦〕醞二難言之妙味一、吐二自然之清音一。

【妙密】199 メウミツ　くはしくこまやか。〔陶潛、閑情賦〕始妙密以閑和、終寥亮而藏摧。

【妙明】200 メウミヤウ　❶佛　少しのくもりもないこと。又、くもりのない智。さとり。〔楞嚴經、序〕妙明覺體、非ㇾ因非ㇾ緣非二自然一。〔韓駒、送二東明珪老遊ㇾ閩詩〕詩如二雪竇一加二奇峭一、禪似二雪居一更妙明。❷宋の僧。臨川の人。姓は胡氏。號は無相。常に面壁靜坐し、詩文を能くす。晚年、菴を常清觀の西に結び、趺坐して化す。〔新續高僧傳、二十六〕。❸メウメイ　清、葉慧光(**9－31387**‥182)の字。

〖妙明書屋〗201 メウメイシヨヲク　清、金焜(**11－40152**‥417)の室名。

【妙妙】202 メウメウ　すぐれてたくみなさま。極めて妙なさま。

【妙門】203 メウモン　佛　殊妙の法門。涅槃を妙とし、妙に入る門を妙門といふ。六妙門(**2－1453**‥645)を見よ。〔唐譯華嚴經、二〕普應下羣情闡二妙門一、令上ㇾ入二難ㇾ思清淨法一。

【妙藥】204 メウヤク　たへなるくすり。靈妙なききめのある藥。神藥。靈藥。妙劑。〔沈約、齊禪林寺尼淨秀行狀〕或得二妙藥一、或聞二異香一。〔李華、潤州鶴林寺徑山大師碑銘〕勝二大敵一者、那羅延身、銷二大毒一者、伽陀妙藥。

【妙譽】205 メウヨ　すぐれたほまれ。〔孔稚珪、北山移文〕張二英風於海甸一、馳二妙譽於浙右一。

【妙用】206 メウヨウ　たへなるはたらき。神妙なる功用。〔李白、草創大還贈二柳官迪一詩〕自然成二妙用一、孰知二其指的一。〔李羣玉、送二房處士閒遊一詩〕刀圭藏二妙用一、巖洞契二冥搜一。

【妙容】207 メウヨウ　すぐれた容貌。〔孔融、薦二禰衡一表〕激楚陽阿、至妙之容、掌ㇾ伎者之所ㇾ貪。

【妙理】208 メウリ　すぐれた道理。玄妙な理。眞理。〔曹攄、思二友人一詩〕精義測二神奧一、清機發二妙理一。〔北史、高允傳〕天下妙理至多。

【妙力】209 メウリキ　佛　不思議な力。靈妙なはたらき。〔楞嚴經、六〕皆以二三昧聞熏聞修無作妙力一、自在成就。〔沈約、內典序〕靈性特達、得ㇾ自二懷抱一、神功妙力、無ㇾ待二學成一。

【妙律】210 メウリツ　すぐれてたへなる音律。〔王勃、善寂寺碑〕凝二妙律於神珠一、肅二靈椒於寶印一。

【妙略】211 メウリヤク　すぐれた策略。妙計。奇計。〔晉書、孫楚傳〕主上欽明、委以二萬機一、長轡遠御、妙略潛授、偏師同ㇾ心、上下用ㇾ力。〔宋之問、請ㇾ造二神武頌碑一表〕佐二莫大之英猷一、參二非常之妙略一。〔杜甫、警急詩〕才名舊楚將、妙略擁二兵機一。

【妙麗】212 メウレイ　容貌のすぐれて奇麗なこと。美麗。〔漢書、外戚、孝武李夫人傳〕孝武李夫人、本以ㇾ倡進、云云、平陽主因言、延年有二女弟一、上乃召見ㇾ之、實妙麗善ㇾ舞、由ㇾ是得ㇾ幸。

【妙齡】213 メウレイ　❶年がわかい。うらわかい。年頃。妙年。妙齒。〔宋史、綦崇禮傳〕崇禮妙齡、秀發聰敏絕ㇾ人。〔吳萊、寄二張子長一詩〕志氣需二來哲一、才華壓二妙齡一。〔黃公度、送二林梅卿赴ㇾ闕詩〕林卿妙齡才秀發。❷miao^4 ling^2 丁度よい頃。

【妙靈】214 miao^{4}ling^2 巧妙な。

【妙弄】215 メウロウ　たくみに樂器をかなでる。又、たくみな音樂のしらべ。〔梅堯臣、答二中上人卷一詩〕爾爲ㇾ學ㇾ笙歟、頗已臻二妙弄一。

【妙吉祥】216 メウキチジヤウ　佛　文殊師利(Manjusri)菩薩の譯名。〔心地觀經、八〕印二文殊師利一言、善哉善哉、汝今眞是三世佛母、云云、三世覺母妙吉祥。

〖妙吉祥室老人〗217 メウキツシヤウシツラウジン　清、鄧廷楨(**11－39630**‥182)の號。

【妙美井】218 シミツ　❶清水。〔倭名類聚抄、天地部、水土類、妙美井〕之三豆。❷イハシミヅ　岩清水。〔字林拾葉〕。

【妙鬘雲】219 メウマンノクモ　美人の髮のやうな雲。

【妙蓮經】220 メウレンキヤウ　佛典の名。妙法蓮華經の略。〔翠雨軒詩話〕清人某詩、手寫二妙蓮經一、載二隨園詩話續編一。

【妙合而凝】221 メウガフシテコル　陰と陽とが相合して凝り固まることをいふ。〔太極圖說〕無極之眞、二五之精、妙合而凝。

【妙濟大師】222 メウサイタイシ　宋、張惠明(**4－9812**‥967)の「の封號。

【妙在二心手一】223 メウハシンシユニアリ　わざのたへなるは、其の人の心と手とに存する。〔後山叢談〕善書不ㇾ擇二紙筆一、妙在二心手一。

【妙莊嚴路】224 メウサウゲンロ　勝景を以て名高い參道の名。浙江省定海縣の普陀白華山前の森林の中。海岸から直ちに普濟寺の前に達し、長さ凡そ五六支里、皆みがいた石で疊み、兩旁に古木多く、風景殊に勝る。

【妙蓮居士】225 メウレンコジ　清、奕繪(**3－5922**‥12)の「號。

【𡛁】6091

サフ　〔集韻〕悉合切　合。

女のあざな。姶𡛁。〔集韻〕𡛁、姶𡛁、女字。

【妚】6092

㊀フウ　㊁ハイ

㊀𡛥(**3－6252**)に同じ。〔集韻〕妚、好皃、一曰、女儀、或作ㇾ𡛥。㊁胚(**9－29390**)に同じ。〔正字通〕妚、同ㇾ胚。

【㚸】6093

シ

姼(**3－6253**)に同じ。〔說文〕姼、㚸、姼或从ㇾ氏。

【妛】6094

シ

嫸(**3－6579**)に同じ。〔集韻〕嫸、或作ㇾ妛。

【妜】6095

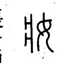
㊀エツ エチ　〔集韻〕一決切　屑。

㊁ケツ ケチ　〔集韻〕古穴切　屑。

㊂ケツ ケチ　〔集韻〕娟悅切　屑。

小篆 ［一］㊀**鼻すぢの表情**。〔說文〕妜、鼻目閒皃、从レ女夬聲。〔段注〕謂下若二眉語目成一然上也。㊁**鼻目のあひだの輕薄なさま**。〔廣韻〕妜、鼻目閒輕薄、曰レ妜也。㊂**あでやか**。〔廣韻〕妜、娟也。㊃**うれへねたむ**。〔字彙〕妜、憂妒也。［二］**美しいさま**。〔集韻〕妜、美皃。［三］㊀**鼻すぢの表情**。［一］㊀に同じ。〔集韻〕妜、說文、眉目閒皃。㊁**いかる**。**又、うれへる**。〔集韻〕妜、一曰、怒也、憂也。

【妝】 6096 サウ シヤウ 〔集韻〕側羊切 ㄓㄨㄤ chuang¹ ［陽］


小篆 ㊀**よそほふ**。かたちづくる。〔說文〕妝、飾也、从レ女爿聲。〔南史、張貴妃傳〕嘗於二閣上一靚妝。㊁**よそほひ**。けはひ。〔李商隱、對レ雪詩〕忍レ寒應レ欲レ試二梅妝一。㊂**ふりをする**。妝喬(7)を見よ。㊃或は裝(**3−6330**)・糚(**8−27088**)・粧に作る。〔集韻〕妝、或作二裝・粧・糚一。㊄俗に粧(**8−26945**)に作る。〔韻會〕妝、說文、云云、徐曰、今俗作レ粧。〔正字通〕妝、俗作レ粧。㊅通じて莊(**9−31035**)に作る。〔韻會〕妝、通作レ莊。

【妝域】1 シヤウヰキ 宮人の遊戲の具。獨樂の一種。千千(**2−2697**・276)・空鐘(**8−25415**・184)を見よ。〔杭世駿、妝域聯句序〕妝域者、形圜如レ璧、徑四寸、以二象牙一爲レ之、面平、鏤以二樹・石・人・物一、丹碧粲然、背微隆起、作二坐龍蟠屈狀一、旁刻二妝域二小字一、楷法精謹、當二背中央凸處一、置二鐵鍼一、僅及レ寸、界以レ局、手旋レ之、使二鍼卓立輪轉如一レ飛、復以レ袖拂、則久久不レ能レ停、踰レ局者有レ罰、相傳爲二前代宮人角勝之戲一、如二武林舊事所レ載之千千、日下舊聞之放空鐘之類一。

【妝幺】2 シヤウエウ 虛話。つくり話をする。妝腔。粧腔(**8−26945**・5)に同じ。〔元曲、玉鏡台〕則道三我沈二醉黃公舊酒爐一、怎知我也有二妝幺處一。

【妝閣】3 シヤウカク 化粧するためのたかどの。化粧部屋。〔王維、班婕妤詩〕怪來妝閣閉、朝下不二相迎一。

【妝匣】4 シヤウカフ 化粧ばこ。玉くしげ。妝奩。〔楊炯、和二崔司空傷レ姬詩〕妝匣凄二餘粉一、薰爐滅二舊烟一。

【妝閤】5 シヤウカフ 化粧部屋の戶。〔白居易、兩朱閤詩〕妝閤伎樓何寂靜、柳似二舞腰一池似レ鏡。〔高啓、題二美人對レ鏡圖一詩〕起開二妝閤一笑窺レ奩、月裏分明見二娥影一。

【妝具】6 シヤウグ 化粧道具。〔蘇軾、諫レ買二浙燈一狀〕詔造二銀盞子妝具二十事一。

【妝喬】7 シヤウケウ 僞りつくらふ。ふりをする。〔燕子箋、購倖〕做二張智妝喬一不レ允。

【妝次】8 シヤウジ 女子に對する敬語。婦女子の手紙の名宛の下に用ひる敬語。例へば賢姊大人妝次。男子に對する机下(**6−14435**・3)に同じ。粧次。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕奉二啓芳卿可人妝次一。

【妝梳】9 シヤウショ シヤウソ よそほひくしけづる。化粧をする。妝飾。〔古樂府、歎疆場〕聞道行人至、妝梳對二鏡臺一。〔劉禹錫、曆陽書事七十韻詩〕容華本二南國一、妝梳學二西京一。

【妝飾】10 シヤウシヨク サウシヨク よそほひかざる。裝飾。糚飾(**8−27088**・1)に同じ。

【妝靚】11 シヤウセイ よそほひかざる。靚は裝飾。〔韓愈、東都遇レ春詩〕川原曉服鮮、桃李晨妝靚。

【妝臺】12 シヤウダイ 化粧臺。轉じて、婦人の室。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕恨レ不レ得レ腋二翅於妝臺左右一。

【妝點】13 シヤウテン ㊀化粧。おつくり。妝飾。粧點(**8−26945**・21)に同じ。㊁誇大にいひつくらふ。

【妝殿】14 シヤウデン 宮人の化粧する御殿。〔王建、宮詞〕更築二歌臺一起二妝殿一、明朝先進二畫圖一來。

【妝扮】15 シヤウフン 扮裝する。よそほふ。〔沈明臣、竹枝詞〕女兒妝扮采レ蓮來。

【妝鑾】16 シヤウラン 梁棟斗拱・塑像・什器等に色彩を施すもの。〔李誡、營造法式〕。

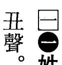
【妝淚】17 シヤウルイ 化粧をした顏に流すなみだ。〔白居易、琵琶引〕夜深忽夢少年事、夢啼妝淚紅闌干。

【妝奩】18 シヤウレン 化粧ばこ。妝は梳妝、奩は鏡匣。妝匣。〔庾信、鏡賦〕暫設二妝奩一、還抽二鏡屜一。〔韓愈、大行皇太后挽歌詞〕只有二朝レ陵日一、妝奩一暫開。

【妝樓】19 シヤウロウ 婦人の室。〔沈佺期、侍二宴安樂公主新宅一應制詩〕妝樓翠幌教二春住一。〔桃花扇、題畫〕慢慢的上二了妝樓一。

【妝盒兒】20 chuang¹ hê² erh 化粧ばこ。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕放在妝盒兒上。

【㚱】 6097
［一］カウ コウ 〔集韻〕虛到切 ［號］
［二］カウ コウ 〔集韻〕許皓切 ［皓］


小篆 ［一］㊀**姓**。〔說文〕㚱、人姓也、从レ女丑聲。㊁**このむ**。好(**3−6053**)に通ず。〔說文〕㚱、商書曰、無レ有レ作レ㚱。〔段注〕今尙書作レ好、此引經說二段借一也。〔集韻〕好、愛也、通作レ㚱。㊂或は𡥆(**3−6947**)に作る。〔集韻〕㚱、或从レ子。［二］㊀**みめよい**。好(**3−6053**)の古字。〔集韻〕好、說文、美也、古作レ㚱。㊁**姓**。〔廣韻〕㚱、人姓。

【妞】 6098 チウ ニユ 〔集韻〕女久切 ㄋㄧㄡ niu¹ ［有］ 慣チウ

㊀**姓**。〔集韻〕妞、姓也、高麗有レ之。㊁**少女**。妞妞(2)を見よ。

［參考］ 玉篇女部に、妞、呼道切、姓也、亦作レ㚱、とあり、之に依れば、妞・㚱はもと同一字の如くであり、段玉裁・桂馥も亦ともに妞・㚱、同一字と說く。今は集韻に從つて各〻別出す。

【妞兒】1 niu¹ êrh 娘。少女。

【妞妞】2 niu¹ niu 娘。少女。〔紅樓夢、百一回〕把妞妞抱過來罷。

【妟】 6099
［一］アン エン 〔集韻〕於諫切 ［諫］
［二］エン 〔集韻〕伊甸切 ［霰］

小篆 ［一］㊀**やすらか**。**やすめる**。〔說文〕妟、安也、从レ女从レ日、詩曰、㠯妟二父母一。〔段注〕今毛詩無レ此、蓋周南歸二寧父母一之異文也。㊁晏(**5−13914**)に通ず。〔正字通〕妟、同レ晏。［二］**さはやかな日の出**。〔集韻〕妟、日出清明也。

【妠】 6100
［一］ダフ ナフ 〔集韻〕諾荅切 ［合］
［二］ダツ ネチ 〔集韻〕女刮切 ［黠］
［三］ダン ナン 〔集韻〕奴紺切 ［勘］
［四］ダン ナン 〔集韻〕乃甘切 ［覃］

［一］㊀**めとる**。〔集韻〕妠、娶也。〔後漢書、皇后下、順烈梁皇后紀〕順烈梁皇后、諱妠。〔注〕聲類曰、妠、娶也、音納。㊁**物をあつめる**。姶妠。〔集韻〕妠、一曰、姶妠、聚レ物。［二］**小兒の肥えたさま**。婠妠。婠(**3−6328**)に同じ。〔廣韻〕妠、婠妠、小兒肥皃。〔集韻〕婠、或作レ妠。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕卭文裁二斐亹一、巴艷收二婠妠一。〔注〕上、烏八切、下、女刮切、小兒肥貌。［三］［四］㊀**女のあざな**。〔集韻〕妠、女字。㊁**いれる**。〔廣雅、釋詁三〕妠、入也。㊂**とる**。〔集韻〕妠、一曰、取也。〔疏證〕妠、亦納也、方俗語轉耳。㊃或は婻(**3−6328**)に作る。〔集韻〕妠、或作レ婻。

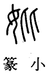
【妡】 6101 キン コン 〔集韻〕許斤切 ［文］

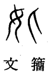
女のあざな。〔集韻〕妡、女字。

【妢】6102 フン ブン 〔集韻〕符分切 文

妢胡は古、楚國の附近にあつた國の名。〔周禮、考工記、總目〕燕之角、荊之幹、妢胡之笴、吳粵之金錫、此材之美者也。〔注〕妢胡、胡子之國、在二楚旁一。

【妣】6103 一 ヒ 〔集韻〕補履切 ㄅㄧˇ pi³ 紙 二 ヒ 〔集韻〕必至切 寘


小篆


籀文

一二❶**なき母**。亡母。〔說文〕妣、歿母也、从レ女比聲。〔釋名、釋喪制〕母死曰レ妣。〔禮、曲禮下〕生曰レ父、曰レ母、曰レ妻、死曰レ考、曰レ妣、曰レ嬪。❷**はは**。〔爾雅、釋親〕母爲レ妣。〔疏〕妣、媲也、媲二匹於父一。❸籀文、𡚱(3－6037)に作る。〔說文〕𡚱、籀文、妣省。

【妣考】1 ヒカウ 亡母と亡父。又、母と父。字解の一二の❶❷を見よ。〔琵琶記、書館悲逢〕我剪二頭髮一賣レ錢來送二伊妣考一。

【妣祖】2 ヒソ 亡母と先祖。〔詩、小雅、斯干〕似二續妣祖一、築レ室百堵。〔箋〕妣、先妣、姜嫄也、祖、先祖也。

【⿱比女】6104 ヒ ビ 〔集韻〕兵媚切 寘

女の名。又、女のあざな。〔集韻〕⿱比女、女名。〔篇海類編〕⿱比女、女字。

【妤】6105 ヨ 〔集韻〕羊諸切 ㄩˊ yü² 魚

❶婕妤は漢の女官の名。〔史記、外戚世家〕婕妤秩比二列侯一。❷伃(1－425)に同じ。〔集韻〕妤、說文、婦官也、漢有二倢伃一、伃、美皃、或从レ女。

【⿰女勻】6106 キン 〔集韻〕規倫切 眞

女が化粧し始める。〔集韻〕⿰女勻、女始レ粧也。

【妥】6107 一 タ 〔集韻〕吐火切 ㄊㄨㄛˇ tʻuo³ 哿 二 タイ ツイ 〔集韻〕通回切 灰 慣 ダ

小篆（段注本）

一❶**やすらか**。おだやか。〔說文〕妥、安也、从二爪女一、妥、與レ安同意。〔段注〕說文失二此字一、偏・旁用レ之、今補。〔集韻〕妥、安也。〔正字通〕妥、平也。〔韓愈、答二曼叔一詩〕出レ詩且二百篇一、語法就二平妥一。❷**とまる**。〔爾雅、釋詁〕妥、止也。❸**安らかにすわる。安らかにすわらせる**。〔爾雅、釋詁〕妥、安坐也。〔詩、小雅、楚茨〕以妥以侑。〔傳〕妥、安坐也。〔儀禮、少牢饋食禮〕祝主人皆拜妥レ尸。〔注〕拜妥レ尸、拜レ之使二安坐一也。❹**くだる**。さがる。綏(8－27501)に通ず。〔禮、曲禮下、國君綏視、注〕綏、讀爲レ妥。〔疏〕妥、下也、云云、庾氏云、妥、頽下之貌。❺**おちる**。墮(3－5481)に通ず。〔說文通訓定聲〕妥、叚借爲レ墮、後人謂二花落一曰レ妥。〔漁隱叢話〕西北方言、以レ墮爲レ妥。〔杜甫、重過二何氏一詩〕花妥鶯捎レ蝶、溪喧獺趁レ魚。〔段克己、夜雨詩〕雲壓二虛檐一黯不レ收、雨聲飛妥碧山頭。❻或は敓(5－13210)に作る。〔集韻〕妥、或作レ敓。❼現商取引の手合せ。二**安坐する**。〔集韻〕妥、安坐也。

名乘 ヤス。

【妥安】1 ダアン おだやかになる。やすらかにおちつく。安妥。妥綏。〔唐書、韋雲起傳〕不レ若下戢レ兵務レ農、須二關中妥安、士氣餘飽一、然後議二討伐一、一擧可上定。

【妥員】2 tʻuo³ yüan² 安心して任用し得る官員。信任すべき官員。又、確實な人。

【妥役】3 ダエキ 信頼し得る役人。確實な役人。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕差二老成妥役一、立レ限嚴拿幷提二取兇器一。

【妥靠】4 tʻuo³ kʻao⁴ 確實な。信頼すべき。妥實。

【妥恰】5 tʻuo³ chʻia⁴ 都合よくはこぶ。事がおだやかに進行する。

【妥洽】6 tʻuo³ hsia⁴ 妥當な。適合した。工合よい。

【妥幹】7 tʻuo³ kan⁴ 堪能な。能力ある。

【妥擬】8 tʻuo² ni³ 適當に定める。立案する。

【妥議】9 ダギ おだやかに評議する。適當に評議する。又、おだやかな相談。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕立爲二妥議一。

【妥結】10 ダケツ 都合よく始末をつける。程よく終局する。

【妥協】11 ダケフ 兩方おだやかに話合をつける。をり合ふ。

【妥尸】12 ダシ かたしろを安らかに坐らせる。〔儀禮、士虞禮〕主人及レ祝、拜妥レ尸、尸拜遂坐。〔注〕妥、安坐也。〔禮、郊特牲〕詔二妥尸一。

【妥視】12′ ダシ 相手の顏よりも稍〻低く、衣服の襟よりも稍〻高いところを見る。諸侯の臣下が其の君を視る時の禮。綏視(8－27501・・21)を見よ。〔禮、曲禮下〕天子視不レ上二於袷一、不レ下二於帶一、國君綏視。〔注〕綏、讀爲レ妥、妥視、謂三視上二於袷一。〔疏〕國君、諸侯也、妥、下也、若臣視レ君、上視一也、庾氏云、妥、頽下之貌、前執レ器、以レ心不レ得三平二視於面一、當レ視二面下袷上一、既卑、稍得二爲レ平、故以レ下爲レ妥、此視以レ面爲レ平、故妥下二於面一、則上二於袷一也。

【妥實】13 tʻuo³ shih² 確實な。信頼すべき。妥靠。

【妥商】14 tʻuo³ shang¹ 適當に相談する。

【妥愼】15 ダシン しかとつつしむ。〔福惠全書、保甲部、調集、符信〕方爲二妥愼一。

【妥綏】16 ダスイ おだやかにやすんずる。妥安。〔陸機、皇太子宴二玄圃宣猷堂一有レ令賦詩〕儀二刑祖宗一、妥二綏天保一。〔注〕濟曰、綏、安。

【妥招】17 ダセウ しかとした白狀書。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕速確檢審、妥招解報。

【妥切】18 tʻuo³ chʻieh⁴ 都合がよい。

【妥善】19 tʻuo³ shan⁴ 妥當な。措置の宜しきを得た。

〖妥善辨法〗20 tʻuo³ shan⁴ pan⁴ fa³ 好都合の方法。適當な取扱ひかた。

【妥速】21 tʻuo³ su² 迅速に。敏捷に。妥捷。

【妥妥】22 ダダ やすらかに安んずる。〔晏子、問、上〕下之妥妥也、奄然寡レ聞。

〖妥安當當〗23 tʻuo³ tʻuo³ tang¹ tang 安全で好都合な。

【妥當】24 ダタウ おだやかにあたる。よくあてはまる。穩當な。適當な。妥便。

〖妥當性〗25 ダタウセイ ❶適切に當てはまる性質。哲學で、ある判斷が認識價値を有する場合、卽ち眞實である場合に、其の判斷は妥當性を有するといふ。

【妥孃】26 ダヂヤウ 明、鄭如英(11－39647・・446)の小名。

【妥定】27 tʻuo³ ting⁴ おだやかにまとめる。決定する。

【妥帖】28 ダテフ 穩當な。工合良い。適當な。妥怗。〔陸機、文賦〕或妥帖而易レ施、或岨峿而不レ安。〔注〕善曰、妥帖、易施貌。〔韓愈、薦士詩〕妥帖力排奡。〔品字箋〕帖、貼也、又凡事之靜而不レ動、謂二之妥帖一。

【妥怗】29 ダテフ おだやか。穩當。妥帖に同じ。〔南史、陸厥傳〕齟齬妥怗之談。〔李原同、江漢朝宗賦〕臨二茲水之妥怗一兮、乃靡然而來通。〔通俗編、品目、妥怗〕王逸、楚辭序、義多二乖易一、事不二妥怗一、按、怗字、从レ心、不レ當レ从レ巾从レ貝。

【妥貼】30 ダテフ おだやか。穩當。妥帖に同じ。〔資治通鑑、唐紀〕(德宗、貞元元年)泌曰、易レ帥之際、軍中煩言、乃其常理、泌到自妥貼矣。〔注〕史炤曰、妥、安也、貼、伏也。

【妥防】31 tʻuo³ fang² 適當に防禦の處置をする。

【妥尾】32 ダビ 尾を地に垂れる。〔神僧傳〕法顯至二崛山一、有二黑獅子一來、顯誦レ經不レ輟、乃低レ頭妥レ尾、伏二顯足前一。

【妥保】33 tʻuo³ pao³ 確實な保證人。

【妥練】34 t'uo^3 lien^4　適當に經驗を積む。熟達して信賴すべき。

【妥得璘】35（ダトクリン）　清、陝西の回人。同治の閒、烏魯木齊に赴き、索漢章の反に推されて盟主となり、淸眞王と稱す。後、安集延の酋、帕夏に敗れ、綏來に走つて死す。

【妥懽貼睦爾】36（トゴンチムール）　元、順帝(**12－43349··1**「14」)の名。

【妦】6108

ホウ フ　〔集韻〕敷容切　[冬]

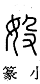
❶**みめよい。美しくて身がるなこと。**〔方言、一〕秦晉之閒、凡好而輕者、謂二之娥一、云云、趙魏燕代之閒、曰レ姝、或曰レ妦、好、其通語也。❷**豐滿なさま。**丰(**1－76**)に通ず。〔詩、鄭風、丰、子之丰兮、釋文〕丰、方言作レ妦。❸或は⿰女夆(**3－6310**)に作る。〔集韻〕妦、或作レ⿰女夆。

【妧】6109

㊀ゲン グヮン　〔集韻〕愚袁切　[元]
㊁グヮン　〔集韻〕吾官切　[寒]
㊂グヮン　〔集韻〕五換切　[翰]

㊀㊁**女のあざな。**〔集韻〕妧、女字。㊂**みめよいさま。**〔集韻〕妧、字林、好皃。

【⿰女殳】6110

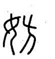

小篆

シュ　〔集韻〕春朱切　[虞]

❶**みめよい。**うつくしい。姝(**3－6206**)に同じ。〔說文〕⿰女殳、好也、从レ女殳聲、詩曰、靜女其⿰女殳。〔段注〕此與レ姝音義皆同、云云、邶風靜女文、今毛詩作レ姝、傳云、姝、美色也。❷袾(**10－34254**)に同じ。〔集韻〕袾、或作レ⿰女殳。

【妨】6111

㊀ハウ　〔集韻〕敷方切　ㄈㄤˊ fang^2　[陽]
㊁ハウ　〔集韻〕敷亮切　[漾]
[慣]バウ


小篆

㊀㊁❶**そこなふ。**いためる。〔說文〕妨、害也、从レ女方聲。〔老子、十二〕難レ得之貨、令二人行妨一。〔河上公注〕妨、傷也。〔楚辭、宋玉、招魂〕敬而無レ妨。〔注〕妨、害也。❷**さまたげる。**つかへる。〔說文〕妨、一曰、礙也。〔六書故〕妨、女人妨二他進一也。〔字彙〕妨、礙也。〔韓愈、落齒詩〕叉牙妨レ食レ物。❸或は彷(**4－10052**)・仿(**4－10363**)に作る。〔集韻〕妨、或作二彷・仿一。❹防(**11－41576**)に通ず。〔漢書、古今人表〕秦女妨。〔史記、三代世表〕女防。

【妨遏】1（バウアツ）　さまたげとどめる。邪魔してさせない。遏は止。妨止。〔後漢書、寇恂傳〕率二厲士馬一、妨二遏他兵一。

【妨害】2（バウガイ）　さまたげる。そこなふ。又、さまたげ。邪魔。妨碍。妨礙。〔荀子、仲尼〕除レ怨而無レ妨二害人一。〔韓非子、飾邪〕赦レ罪以相愛、是與レ下安矣、然而妨二害於治一レ民者也。〔新書、匈奴〕妨二害帝義一。〔後漢書、殤帝紀〕有二水災一、妨二害秋稼一。

【妨碍】3（バウガイ）　妨礙に同じ。

【妨礙】4（バウガイ）　さまたげる。邪魔だてする。又、さまたげ。礙もさまたげる。邪魔。妨碍。妨害。〔淨住子、修理六根門〕初不レ樂レ聞、反生二妨礙一。〔范成大、秋日田園雜興詩〕靜看簷蛛結レ網低、無レ端妨二礙小蟲飛一。

【妨禁】5（バウキン）　ふせぎとめる。防禁(**11－41576··**「35」)に同じ。

【妨賢】6（バウケン）　賢人の進路をさまたげる。〔漢書、王尊傳〕又出レ教敕二掾功曹一、各自底厲、助二太守一爲レ治、其不レ中レ用、趣自避退、毋二久妨一レ賢。

【妨止】7（バウシ）　さまたげとどめる。又、ふせぎとどめる。妨遏。防止(**11－41576··52**)に同じ。

【妨事】8 fang^2 shih^4　妨害する。障礙となる。

【妨阻】9（バウソ）　さまたげる。又、さまたげ。〔丸經〕相去分釐、及レ有二妨阻一、無二復動移一。

【妨紊】10（バウブン）　さまたげみだす。〔陳後主、恤民詔〕便レ公害レ民、爲二己聲績一、妨二紊政道一。

【妨蔽】11（バウヘイ）　さまたげおほふ。〔後漢書、天文志上〕名レ之曰レ孛、孛之爲レ言、猶下有レ所二傷害一、有上レ所二妨蔽一。

【妨訴抗辯】12（バウソカウベン）　被告が原告の訴訟に、訴訟上必要條件が缺けて居るといふ理由で辯論を拒むこと。

【⿰女尤】6112

イウ ウ　〔集韻〕于求切　[尤]

女のあざな。〔集韻〕⿰女尤、女字。

【⿰女厄】6113

クヮ

⿰女厄(**3－6211**)の譌字。〔字彙補〕⿰女厄、⿰女厄字之譌。

【⿰女匹】6114

ヒツ ヒチ　〔集韻〕僻吉切　[質]

女のあざな。〔集韻〕⿰女匹、女字。

【⿰女冗】6115

タン

妉(**3－6071**)に同じ。〔五音篇海〕⿰女冗、同レ妉。

【⿱丅女】6116

タ

妥(**3－6107**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱丅女、同レ妥。

【⿱叉女】6117

サン

⿱奴女(**3－6299**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱叉女、同レ⿱奴女。

【妢】6118

カイ

妎(**3－6076**)に同じ。〔五音篇海〕妢、同レ妎。

【⿱夭女】6119

エツ

義未詳。〔金鏡〕⿱夭女、音謁。

五畫

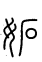
【⿰女丕】6120

㊀ハイ　〔集韻〕鋪枚切　[灰]
㊁ヒ　〔正字通〕補委切　[紙]

㊀胚(**9－29390**)に同じ。〔集韻〕胚、說文、婦孕一月也、或从レ女。㊁**姓。**〔正字通〕⿰女丕、姓也。〔通志、氏族略、以レ姓爲レ氏〕⿰女丕氏、方几切、見二纂要一。

【妬】6121

㊀ト ツ　〔集韻〕都故切　ㄉㄨˋ tu^4　[遇]
㊁セキ ジャク　〔集韻〕常隻切　[陌]

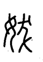

小篆（段注本）

㊀**ねたむ。**やく。妻が夫をねたむ。妒(**3－6082**)に同じ。〔說文〕妬、婦妬レ夫也、从レ女石聲。〔段注〕各本作二戶聲一、篆亦作レ妒、今正。〔集韻〕妬、說文、婦妬レ夫也、或作レ妒。㊁**うまずめ。**〔集韻〕妬、女無レ子。

[參考] 熟語は妒(**3－6082**)を見よ。

【妭】6122

ハツ バチ　〔集韻〕蒲撥切　[曷]


小篆

❶**みめよい婦人。**〔說文〕妭、美婦也、从レ女犮聲。❷**天子の射擊。**〔篇海〕妭、天子射擊也。❸**つま。**〔集韻〕妭、羌人謂レ婦曰レ妭。❹妭姍は、婦人が步くとき、裳の地を曳くさま。〔集韻〕姍、妭姍、婦人行、衣曳レ地皃。❺女妭は、ひでりのかみ。魃(**12－45806**)に同じ。〔正韻〕魃、亦作レ妭。〔文字指歸〕女妭、禿無レ髮、所レ居處、天不レ雨。

【妮】 6123 ヂ ニ 〔集韻〕女夷切 ㄋ一ˊ ni² 支

❶**はしため**。下女。下女を呼ぶ代名詞。〔六書故〕今人呼㆑婢曰㆑妮。❷**女のあざな**。〔集韻〕妮、女字。❸**やはらかくまつはる**。妮古錄(2)を見よ。

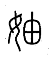
【妮子】1（ヂシ） 下女。〔五代史、晉家人、高祖皇后李氏傳〕以㆑書遺㆓太后㆒、具道㆔已降㆓晉軍㆒、且曰、吾有㆓梳頭妮子㆒、竊㆓一藥囊㆒、以奔㆓于晉㆒、今皆在否。〔燕子箋、寫箋〕適間這妮子在㆑此、我心事不㆑好㆓說出㆒。〔通俗編、婦女、妮子〕王通叟詞、有㆓十三妮子綠窗中句㆒、今山左目㆑婢曰㆓小妮子㆒。

【妮古錄】2（ヂコロク） 書名。四卷。明、陳繼儒撰。法書・名畫及び夏殷周三代並に秦漢の彝器・瑗璧の屬を記す。妮はやはらかくまつはる意。故に古に輭纏するを以て書名とす。〔四庫提要、子、雜家類存目〕。

【㛑】 6124
㈠ アウ エウ 〔集韻〕於絞切 巧
㈡ エウ 〔集韻〕伊鳥切 篠

㈠**しとやかでない**。㛑嫪。〔集韻〕㛑、㛑嫪、不㆑順。㈡**美しいさま**。偠(1−869)に同じ。〔集韻〕偠、偠㒟、美皃、或从㆑幼。

【妯】 6125
㈠ チク ヂク 〔集韻〕佇六切 ㄓㄡˊ chou² ㄓㄨˊ chu² 屋
㈡ ロク 〔集韻〕盧谷切 屋
㈢ トク ドク 〔集韻〕徒沃切 沃
㈣ テキ ヂヤク 〔集韻〕亭歷切 錫
㈤ チウ ヂユ 〔集韻〕陳留切 尤


小篆

㈠❶**あひよめ**。兄弟の妻。兄弟の妻が互に呼び合ふ稱。妯娌。〔爾雅、釋親、娣姒、注〕今相㆓呼先後㆒、或云㆓妯娌㆒。〔廣雅、釋親〕妯娌、娣姒、先後也。❷或は嫡(3−6394)に作る。〔集韻〕妯、或作㆑嫡。❸築(8−26298)に通ず。〔方言、十二、築娌匹也、注〕今關西、兄弟婦相呼爲㆓築里㆒、度六反、廣雅作㆑妯。㈡㈢㈣㈤❶**うごく**。〔說文〕妯、動也、从㆑女由聲。〔詩、小雅、鼓鐘〕憂心且妯。〔傳〕妯、動也。❷**さわぐ**。みだれる。〔方言、六〕蹇、妯、擾也、人不㆑靜曰㆑妯、秦・晉曰㆑蹇、齊・宋曰㆑妯。〔注〕謂㆓躁擾㆒也。❸**いたむ**。悼(4−10738)に通ず。〔說文通訓定聲〕妯、叚借爲㆑悼。〔詩、小雅、鼓鐘〕憂心且妯。〔箋〕妯之言、悼也。❹或は伷(1−765)に作る。〔集韻〕妯、或作㆑伷。

【妯娌】1（チクリ） 兄弟の妻の互に呼び合ふ稱。築娌。字解㈠の❶を見よ。〔漢書、郊祀志上、見㆓神於先後宛若㆒、注〕孟康曰、兄弟妻相㆓謂先後㆒、師古曰、古謂㆓之娣姒㆒、今關中俗、呼爲㆓先後㆒、吳楚俗、呼㆑之爲㆓妯娌㆒。〔楊奐、孫烈婦詩〕屈㆑己接㆓妯娌㆒、盡㆑心奉㆓舅姑㆒。

【妟】 6126 エイ 〔龍龕手鑑〕以制切 霽

ころも。〔龍龕手鑑〕妟、衣也。

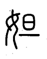
【妰】 6127 チヤク 〔集韻〕陟略切 藥

❶**しづか**。〔集韻〕妰、靜也。❷靜妰は、婦人のさま。〔字彙〕妰、靜妰、婦貌。

【妱】 6128 セウ 〔集韻〕之遙切 蕭

女のあざな。〔集韻〕妱、女字。

【妲】 6129
㈠ タツ タチ 〔集韻〕當割切 ㄉㄚˊ ta² 曷
㈡ タン 〔集韻〕得案切 翰
慣 ダツ


小篆

㈠㈡**女のあざな**。〔說文新附〕妲、女字、妲己、紂妃、从㆑女旦聲。〔集韻〕妲、妲己、有蘇氏女。

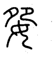
参考 妲(3−6172)は別字。

【妲己】1（ダツキ） 殷の紂王の妃。有蘇氏の女。妲は字。己は姓。紂を助けて暴虐をなし、淫樂に耽る。周の武王は紂を伐つや、妲己の頭を斬つて小白旗に懸けた。〔國語、晉語一〕殷辛伐㆓有蘇㆒、有蘇氏以㆓妲己㆒女焉。〔注〕有蘇、己姓之國、妲己其女也。〔荀子、解蔽〕紂蔽㆓於妲己・飛廉㆒。〔注〕妲己、紂妃。〔新序、雜事一〕紂之亡也、以㆓妲己㆒。〔列女傳、孼嬖傳〕妲己者、殷紂之妃也。

【妳】 6130 ダイ ナイ

嬭(3−6824)の俗字。〔正字通〕妳、俗嬭字。

【妴】 6131
㈠ エン ヲン 〔集韻〕委遠切 阮
㈡ エン ヲン 〔集韻〕於袁切 元
㈢ エン ヲン 〔集韻〕紆願切 願

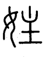

小篆

㈠㈡㈢❶**たをやか**。〔說文〕妴、婉也、从㆑女夗聲。❷妴胡は、獸の名。〔山海經、東山經〕尸胡之山、有㆑獸焉、其狀如㆑麋而魚目、名曰㆓妴胡㆒。

【㚦】 6132 コ

嫭(3−6679)・媩(3−6545)に同じ。〔正字通〕㚦、俗字、或曰、同㆑嫭。〔康熙字典〕㚦、同㆑媩。

【妵】 6133 トウ ツ 〔集韻〕他口切 有


小篆

❶**女のあざな**。〔說文〕妵、女字也、从㆑女主聲。〔左氏、昭、二十二〕華妵居㆓于公里㆒。❷**みめよいさま**。〔增韻〕妵、好貌。

【妶】 6134 ケン ゲン 〔集韻〕胡涓切 先

❶**女の名**。〔集韻〕妶、女名。❷娹(3−6369)に同じ。〔集韻〕娹、說文、有㆑守也、亦省。

【妷】 6135
㈠ チツ ヂチ 〔集韻〕直質切 質
㈡ イツ イチ 〔集韻〕弋質切 質

㈠**兄弟の子**。めひ。をひ。姪(3−6226)に同じ。〔集韻〕姪、兄弟之子、或从㆑失。㈡**みだら**。劮(2−2319)に同じ。〔集韻〕劮、博雅、劮婸也、或作㆑妷。

【㚱】 6136 キウ ク 〔集韻〕祛尤切 尤

女のあざな。〔集韻〕㚱、女字。

【妸】 6137
㈠ ア 〔集韻〕於何切 歌
㈡ ア 〔集韻〕倚可切 哿

小篆

🈩㊀女のあざな。〔說文〕婀、女字也、从レ女可聲、讀若レ阿。㊁婀荷甘は、古の人の姓字。〔莊子、知北遊〕婀荷甘與二神農一同學二於老龍吉一。〔疏〕姓、婀、字、荷甘。㊂或は婀(3－6382)に作る。〔集韻〕婀、說文、女字也、或不レ省。🈔嬰(3－6381)に同じ。〔集韻〕嬰、或省。

【妹】6138

🈩 バイ マイ 〔集韻〕莫佩切 隊 ㄇㄟˋ mei⁴

🈔 バイ マイ 〔集韻〕莫貝切 泰

小篆

🈩🈔㊀いもと。いもうと。〔說文〕妹、女弟也、从レ女未聲。〔爾雅、釋親〕謂二女子先生一爲レ姊、後生爲レ妹。〔白虎通、三綱六紀〕女子先生爲レ姊、後生爲レ妹。㊁易で兌にあてる。〔虞注〕兌爲レ妹。㊂少女。〔易、泰〕帝乙歸レ妹。〔易、歸妹、注〕妹者、少女之稱也。㊃歸妹は、おちぶれた女。〔易、歸妹、干注〕歸妹、衰落之女也。㊄よめ。又、つま。妹妹(18)を見よ。㊅くらい。〔釋名、釋親屬〕妹、昧也、猶二日始入、歷レ時少尙昧一也。㊆すゑ。〔廣雅、釋親〕妹、末也。〔莊子、天道〕鼠壤有二餘蔬一、而棄レ妹、不仁也。〔釋文〕謂二末學之徒一、須レ慈誘レ之、乃見二棄薄一、不仁之甚也。〔戚學標、說文又考〕謂三有レ餘而棄二其親一、卽弟妹之妹、注解爲二末學一、曲說難レ通。㊇地名。妹邦(15)を見よ。

邦 いも。㋑いもうと。後に生れた女のきやうだい。㋺男が女を親しんでいふ語。主として妻にいふ。

參考 字形、未に從ふ。但、段注には、白虎通曰、姊者咨也、妹者末也、又似レ从レ末といつて妹の形を否定しない。〔字彙、辨似、二字相似〕妹、音昧、从レ未。妺、音末、妺嬉从レ末。

【妹許】1 イモガリ 妹の居るところ。轉じて、女のもと。〔萬葉集、十四〕いもがりとへば、氣によばず來ぬ。

【妹勤】2 マイキン 西夏の元昊が驍勇の部下をすぐつて編制した自衞隊の隊長。〔稱謂錄、勇頭、妹勤〕儒林公議、元昊選二部下驍勇一自衞、分爲二十隊一、隊各有レ長、名曰二妹勤一。

【妹姑】4 イモシウトメ 妻の姉妹。姨。〔倭名抄、二、夫妻類〕妻之姉妹爲レ姨、和名、伊毛之宇止女。

【妹子】5 mei⁴ tzŭ 妹。

【妹倩】6 mei⁴ ch'ien⁴ いもうとむこ。妹の夫。妹壻に同じ。

【妹壻】7 マイセイ いもうとむこ。妹の夫。妹丈。妹倩。妹聟。〔舊唐書、蔣鎭傳〕其妹壻源溥、卽、休弟也、故鎭與レ休交。〔白居易、楊六尙書新授二東川節度使一代レ妻戲賀二兄嫂一二絕詩〕覓二得黔婁一爲二妹壻一、可下能空寄二蜀茶一來上。〔稱謂錄、妹之夫、妹壻〕三輔決錄云、趙岐取二馬續女宗姜一爲レ妻、續兄子融、岐曰、妹壻之故、屈二志於融一。

【妹聟】8 マイセイ 妹の夫。聟は壻の俗字。妹壻に同じ。

【妹脊】9 イモセ ㊀夫婦。めをと。〔祝詞式、鎭火祭〕神伊佐奈伎・伊佐奈美乃命、妹脊二柱嫁繼給氏。㊁兄と妹。姉と弟。〔萬葉集、二〕二上山を弟世（イモセ）と我が見ん。㊂女と男。㊃ほととぎすの異名。〔妹脊鳥〕。

【妹脊山】10 イモセヤマ 紀伊國の山。

【妹脊鳥】11 イモセドリ ㊀ほととぎすの異名。㊁せきれいの異名。

【妹脊盃】12 イモセノサカヅキ 三三九度の盃。夫婦盃。

【妹丈】13 マイヂヤウ いもうとむこ。妹の夫。妹壻。妹夫。〔謝承後漢書〕胡毋班、王匡之妹丈。

【妹土】14 マイド 妹の土地。妹は地名で、殷王紂の都したところ。妹邦。〔書、酒誥〕妹土嗣二爾股肱一、純其藝二黍稷一。

【妹邦】15 マイハウ 國の名。妹は地名で、殷王紂の都したところ。今の河南省淇縣の北の妹鄕。又、沬邦に作る。〔書、酒誥〕明二大命于妹邦一。〔傳〕欲レ令三明施二大教命於妹國一、妹、地名、紂所レ都、朝歌以北、是。〔蔡傳〕妹邦、卽詩所謂沬鄕。

【妹尾】16 セノヲ ㊀備中國の地名。㊁姓氏。〔和爾雅〕。

【妹夫】17 マイフ いもうとむこ。妹の夫。妹丈に同じ。〔漢書、王子侯表上〕侯延壽嗣、五鳳三年、坐レ知二女妹夫亡命一、笞二百。〔晉書、裴憲傳〕東海王越、盾妹夫也。〔魏書、宋繇傳〕少而有二志尙一、喟然謂二妹夫張彥一曰、門戶傾覆、負荷在レ繇、不二銜膽自厲一、何以繼二承先業一。

【妹妹】18 マイマイ ㊀よめ。又、つま。〔北史、齊南陽王綽傳〕乳母爲二姊姊一、婦爲二妹妹一。〔通俗編、稱謂、妹妹〕按、猥俗閒有下呼レ妻爲二妹妹一者上、沿二此習一歟。㊁mei⁴ mei 妹。

【妹與我】19 イモトワレ 催馬樂の曲名。

【妺】6139

🈩 バツ マチ 〔集韻〕莫葛切 曷 ㄇㄛˋ mo⁴

慣 マツ

女のあざな。〔集韻〕妺、妺嬉、有施氏女。

參考 妹(3－6138)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕妹、音昧、从レ未。妺、音末、妺嬉从レ末。

【妺喜】1 バツキ マツキ 夏の桀王の妃。有施氏の女。日夜、桀と共に飲酒す。湯王が桀を歷山に破るに及び、桀は妺喜と江に浮び、南巢の山に死す。又、末喜・妺嬉に作る。〔國語、晉語一〕昔夏桀伐二有施一、有施人以二妺喜一女焉。〔注〕有施、喜姓之國、妺喜、其女也。〔漢書、外戚傳序〕桀之放也、用二妺喜一。〔注〕師古曰、妺喜、桀之妃、有施氏之女也、美二於色一、薄二於德一、女子行、丈夫心、桀常置二妺喜於膝上一、聽二用其言一、昏亂失レ道、於レ是湯伐レ之、遂放三桀與二妺喜一、死二南巢一。

【妺嬉】2 バツキ マツキ 妺喜に同じ。〔楚辭、天問〕妺嬉何肆、湯何殛焉。〔集注〕妺、一作レ末。〔晉書、五行志上〕妺嬉冠二男子之冠一、桀亡二天下一。

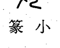
【妻】6140

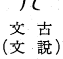
🈩 セイ サイ 〔集韻〕千西切 齊 ㄑㄧ ch'i¹

🈔 シ 〔集韻〕千咨切 支

🈪 セイ サイ 〔集韻〕七計切 霽 ㄑㄧˋ ch'i⁴

小篆


古文（說文）


古文（段注本）

🈩㊀つま。上下の通稱。但し、妃・妾などに對言する時は士・庶人の正適をさす。〔說文〕妻、婦與レ己齊者也、从レ女从レ屮从レ又、又、持レ事、妻職也、屮聲。〔釋名、釋親屬〕士庶人曰レ妻、妻、齊也、夫賤不レ足二以尊稱一、故齊等言也。〔儀禮、喪服〕傳曰、夫妻、牉合也。〔詩、小雅、十月之交〕豔妻煽方處。〔箋〕敵レ夫曰レ妻。〔禮、曲禮下〕庶人曰レ妻。〔孝經、孝治章〕治レ家者不三敢失二於臣妾一、而況於二妻子一乎。〔注〕妻子、家之貴者。〔白虎通、嫁娶〕妻者、齊也、與レ夫齊レ體。㊁易で兌、又は巽にあてる。〔易、困〕不レ見二其妻一。〔虞注〕兌爲レ妻。〔易、小畜〕夫妻反目。〔虞注〕巽爲レ妻。㊂古は𡜏に作る。〔說文〕妻、𡜏、古文妻、从二肖女一、肖、古文貴。㊃古は娄(3－6245)に作る。〔集韻〕妻、古作レ娄。㊄古は𡜌(3－6263)に作る。〔玉篇〕妻、𡜌、古文。🈔ひとしい。〔集韻〕妻、齊也。🈪めあはす。そはせる。〔詩、鄭風、有女同車序〕齊侯請レ妻レ之。〔釋文〕以レ女適レ人曰レ妻。〔論語、公冶長〕以二其子一妻レ之。

解字 會意。女と屮と又との合字。又は手、說文に事を持するものといふ。屮は聲。又、屮は帚、帚を手にもつものの義。一說に、女と疌字の省畫との合字、つつしみはしつて事を持するものの義。故に人のつまをいひ、轉じて、めあはすの義とする。〔說文通訓定聲〕妻、婦與レ夫齊者也、云云、按、从レ女从二疌省一、會意、疾敬持レ事、妻職也、或曰、疌省聲、妻疌亦一聲之轉。

【妻隱】1 ツマゴメ ツマゴミ 夫婦共に棲むこと。〔古事記、上〕出雲八重垣、津麻碁微（ツマゴミ）に。

【妻舅】2 サイキウ 妻の方のこじうと。〔珠璣藪〕阿舅、妻兄弟也、又曰二妻舅一。

【妻琴】3（ツマゴト） 妻をいふ。琴を爪で彈くことの緣語。〔謠曲、水無月祓〕別れにし、其の妻琴。

【妻君】4（サイクン） 人の妻の稱。細君(8－27344‥90)の宛字。

【妻兄】5（サイケイ） 妻の兄。〔史記、孔子世家〕孔子遂適㆑衞、主㆓於子路妻兄顏濁鄒家㆒。

【妻戶】6（ツマド） ❶寢殿造の四隅にある兩開きの戶。❷家の端の方にある開戶（ヒラキド）。〔色葉字類抄〕妻戶。

【妻公】7（サイコウ） 妻の父。しうと。〔唐語林〕進士王如泚者妻公、以㆓伎術㆒供㆓奉玄宗㆒、欲㆓與改㆑官、請曰、臣女壻王如泚、見㆑應㆓進士擧㆒、伏望、聖恩回授、乞㆓一及弟㆒。

【妻財】8（サイザイ） ❶妻財爻に同じ。❷chʻi^1 tsʻai^2 娶つた妻の嫁入の支度の豐富なものをいふ。

【妻財爻】9（サイザイカウ） 筮法の名。六爻の干支と八卦五行生尅とで六親の位を定め、我が尅する者を妻財爻といふ。甲乙が戊己に遇へば戊己を妻財となす類。父母爻(7－19721‥67)を見よ。〔卜筮全書、妻財〕我尅者、謂㆓之妻財㆒也、諸事逢㆑之、無㆑不㆑爲㆑吉、惟占㆓父母及文書㆒、不㆑宜㆑見㆑之、値㆓兄弟㆒則有㆑損、遇㆓福德㆒則愈佳、逢㆓官鬼㆒則洩㆑氣、動靜皆吉、雖㆑然動則生㆑鬼、亦不㆑宜㆓發動㆒也、後之學㆑易者、自當㆓通變㆒。

【妻嫂】10（サイサウ） ❶妻とあによめ。〔史記、蘇秦傳〕蘇秦之昆弟妻嫂、側㆑目不㆓敢仰視㆒、俯伏侍取㆑食。❷妻の兄弟の妻。〔南史、張敬兒傳〕初徵爲㆓護軍㆒、乃潛㆓於密室中㆒、屛㆑人學㆓揖讓答對㆒、空中俯仰、妾侍竊窺笑焉、將㆑拜㆓三司㆒、謂㆓其妻嫂㆒曰、我拜後、府開㆓黃閤㆒、因口自爲㆓鼓聲㆒。

【妻子】11（サイシ） ❶つまこ。妻と子。妻兒。妻帑。〔禮、哀公問〕昔三代明王之政、必敬㆓其妻子㆒也有㆑道。〔孝經、孝治章〕而況於㆓妻子㆒乎。〔孟子、梁惠王上〕俯足㆔以畜㆓妻子㆒。〔荀子、性惡〕妻子具而孝衰㆓於親㆒。〔管子、輕重乙〕且使㆘外爲㆓名於其內鄕㆒、爲㆓功於其親㆒、家爲㆗德於妻子㆖。❷妻。女房。〔詩、小雅、常棣〕妻子好合、如㆑鼓㆓瑟琴㆒。〔杜甫、新婚別詩〕結髮爲㆓君妻㆒、席不㆑煖㆓君牀㆒。〔集注〕洙曰、蘇子卿詩、結髮爲㆓夫妻㆒、恩愛兩不㆑疑。〔日知錄、雜論、妻子〕今人謂㆑妻爲㆓妻子㆒、此不典之言、然亦有㆑所㆑自、韓非子、鄭縣人卜子使㆓其妻爲㆑袴、其妻問曰、令㆓袴何如㆒、夫曰、象㆓吾故袴㆒、妻子因毀㆑新令㆑如㆓故袴㆒、杜子美結髮爲㆓妻子㆒、席不㆑煖㆓君牀㆒。〔通俗編、倫常、妻子〕按、此本僅言㆑妻、而兼助以㆓子字㆒、今語猶有㆑然。

【妻子眷屬】12（サイシケンゾク） つまこや親族。妻子と眷族。一家一門。〔平治物語、二、義朝敗北〕妻子眷族東西に逃げ迷ひ。

【妻子不避】13 chʻi^1 tzŭ pu^2 pi^4 極めて懇意な朋友の間柄。

【妻兒】14（サイジ） 妻と子。妻子。〔韓愈、贈㆓劉師服㆒詩〕妻兒恐㆔我生㆓悵望㆒、盤中不㆑飣栗與㆑梨。

【妻兒老小】15 chʻi^1 êrh^2 lao^2 hsiao^3 家族のもの。

【妻柔】16（サイジウ） 妻たる者が柔德を貴び、ものやはらかなこと。〔左氏、昭、二十六〕夫和而義、妻柔而正。

【妻室】17 chʻi^1 shih^4 妻。妻房。

【妻社】18（ツマヤシロ） 路傍などにある小社。〔夫木和歌抄、三十四〕野中の森のつまやしろ、こや花薄穗に出づる神。

【妻娶】19（サイシユ） めとる。〔後漢書、劉翊傳〕鄕族貧者死亡、則爲具㆓殯葬㆒、嫠獨則助營妻娶。

【妻親】20 chʻi^1 chʻin^1 妻の實家の親族をいふ。

【妻甥】21（サイセイ サイサウ） 妻の姊妹の子。姨甥。〔梁書、裴邃傳〕其妻甥王篆之、密啓㆓高祖㆒云、裴邃多㆓大言㆒、有㆓不臣之迹㆒。

【妻妾】22（サイセフ） 妻と妾。嫡妻と側室。〔孟子、離婁下〕施施從㆑外來、驕㆓其妻妾㆒、由㆓君子㆒觀㆑之、則人之所㆔以求㆓富貴利達㆒者、其妻妾不㆑羞也、而不㆓相泣㆒者幾希矣。〔戰國、秦策〕至㆓於平原君之屬㆒、皆令㆔妻妾補㆓縫於行伍之閒㆒。〔漢書、武帝紀〕令㆑得㆘身帥㆓妻妾㆒、遂㆗其供養之事㆖。

【妻妾宮】23（サイセフキユウ） 星相家十二宮の一。妻妾の事を主る。星命家は命言から逆推して第六宮、相術家は魚尾を以て妻妾宮とする。十二宮(2－2695‥352)の❶を見よ。〔張果星宗、十二宮例〕凡定㆓十二宮㆒者、逆數輪轉、如㆓命宮在㆑寅、財帛在㆑丑、兄弟在㆑子、田宅在㆑亥、男女在㆑戌、奴僕在㆑酉、妻妾在㆑申、疾厄在㆑未、餘同㆑此。

【妻妾之奉】24（サイセフノホウ） 妻妾の生活費。妻妾をやしなふに足る費用。〔孟子、告子上〕爲㆓宮室之美、妻妾之奉、所㆑識窮乏者得㆑我與。

【妻妾失序】25（サイセフジヨヲウシナフ） 妻妾の秩序が亂れる。明律では、妻を以て妾とした者は杖一百、妻があるに拘らず、更に妾を以て妻としたものは杖九十に處する。〔明律、戶律、婚姻〕凡以㆑妻爲㆑妾者、杖一百、妻在、以㆑妾爲㆑妻者、杖九十、並改正、若有㆑妻更娶㆑妻者、亦杖九十離異、其民年四十以上無㆑子者、方聽㆑娶㆑妾、違者笞四十。

【典㆓雇妻妾㆒】26（サイセフヲテンコス） 己の妻妾を、期限を定め價を貰つて他人に貸し與へ、一時他人の妻妾とすること。〔明律、戶律、婚姻〕凡將㆓妻妾㆒受㆑財、典㆓雇與㆑人爲㆓妻妾㆒者、杖八十、典㆓雇女㆒者、杖六十、婦女不㆑坐、若將㆓妻妾㆒妄作㆓姊妹㆒嫁㆑人者、杖一百、妻妾杖八十、知而典娶者、各與同罪、並離異、財禮入㆑官不㆑知者不㆑坐、追㆓還財禮㆒。

【妻族】27（サイゾク） 妻の一族。〔白虎通、宗族〕母族三、妻族二。

【妻帶】28（サイタイ） 妻をもつこと。女房もち。有妻。

【妻黨】29（サイタウ） 妻の一族。妻の親戚。〔爾雅、釋親〕妻之父爲㆓外舅㆒云云、妻黨。〔爾雅、釋親〕父之黨爲㆓宗族㆒、母與㆑妻之黨爲㆓兄弟㆒。〔晏子、雜、下〕且臣以㆓君之賜㆒、父之黨無㆓不㆑乘㆑車者㆒、母之黨無㆘不㆑足㆓于衣食㆒者㆖、妻之黨無㆓凍餒者㆒。

【妻道】30（サイダウ） 妻たる道。〔易、坤〕地道也、妻道也。

【妻女】31（サイヂヨ） ❶つま。女房。〔福惠全書、刑名部、姦情、和姦〕若保㆑官在㆑外而求㆑姦者、止問㆑姦㆓所㆑部妻女㆒、難㆑作㆘姦㆓囚婦㆒之律㆖。❷妻と娘。

【妻弟】32 chʻi^1 ti^4 妻の弟。義弟。

【妻鳥】33（メンドリ） 伊豫國の地名。

【妻孥】34（サイド） 妻と子。妻帑に同じ。〔國語、越語上〕焚㆓宗廟㆒、係㆓妻孥㆒。〔後漢書、陳球傳〕豈顧㆓妻孥㆒、而沮㆓國威重㆒乎。〔孔融、論㆓盛孝章㆒書〕其人困㆓於孫氏㆒、妻孥湮沒。

【妻帑】35（サイド） 妻と子。妻子。又、家人。家族。眷族。妻孥。〔詩、小雅、常棣〕宜㆓爾室家㆒、樂㆓爾妻帑㆒。〔傳〕帑、子也。

【妻訪】36（ツマドヒ） 妻問に同じ。

【妻房】37 chʻi^1 fang^2 妻。妻室。

【妻夫】38（サイフ） 妻と夫。夫妻。〔漢書、朱買臣傳〕入㆓吳界㆒、見㆓其故妻㆒、妻夫治㆑道、買臣駐㆑車、呼令㆔後車載㆓其夫妻㆒。

【妻木】39（ツマギ） ❶小枝などを折つた薪。爪木に同じ。❷伯耆國の地名。

【妻問】40（ツマドヒ） ❶妻の家を問ふこと。妻の許へ通ふこと。〔萬葉集、十〕天人の妻問の夜。❷男女相語らふこと。つれあひを戀ひ求めること。〔萬葉集、三〕帶解きかはし、云云、妻問しけん。

【妻梁】41（ツマバリ） 建物の側面に見える梁。

【妻略】42（サイリヤク） 盜みめとる。〔後漢書、董卓傳〕姦㆓亂公主㆒、妻㆓略宮人㆒。〔後漢書、侯覽傳〕虜㆓奪良人㆒、妻㆓略婦子㆒。

【妻戀】43（ツマゴヒ） ❶つれあひを慕ひ戀ふこと。〔萬葉集、八〕妻戀に鹿鳴く山邊。❷つれあひを慕うて呼ぶこゑ。〔萬葉集、八〕春の野にあさる雉子の妻戀に。

【妻鹿】44（メカ） 姓氏。〔和爾雅〕。

【妻肉僧】45（サイニクソウ） 肉食妻帶する僧。〔陔餘叢考、妻肉僧〕呂藍衍言鯖謂、陝西邊郡山中僧人皆有㆑家小、以爲㆑異、不㆑知其地近㆓蒙古風俗㆒、凡喇嘛多娶㆑妻食㆑肉、毋㆑足㆑怪也。

【妻無草】46（ツマナシグサ） 蓮(9－31722)の異名。

【妻梅子鶴】47（サイバイシカク） 梅を妻とし鶴を子とする。宋の林逋、字は和靖が梅と鶴を愛した故事。梅妻鶴子(6－14830‥286)を見よ。〔古今圖書集成引詩話總龜〕林逋隱㆓於武林之西湖㆒、不㆑娶無㆑子、所㆑居多植㆑梅畜㆑鶴、泛㆓舟湖中㆒、客至則放㆑鶴致㆑之、因謂㆓妻梅子鶴㆒云。

【有㆑妻更娶】48（ツマアリテサラニメトル） 既に妻のある上に更に妻を娶る。之を犯す者は、徒刑一年に處して、官から强制的に離婚を命ずる。〔唐律、戶婚、有㆑妻更娶〕諸有㆑妻、更娶㆑妻者、徒一年、女家減㆓一等㆒、若欺妄而娶者、徒一年半、女家不㆑坐、各離㆑之。〔疏議〕依㆑禮、日見㆓於甲㆒、月見㆓於庚㆒、象㆓夫婦之義㆒、一與㆑之齊、中饋斯重、故有㆑妻而更娶者、合㆓徒一年㆒。

【娶㆑妻當㆑得㆓陰麗華㆒】49（ツマヲメトラバマサニインレイクワヲウベシ） 妻を娶るときは、美しい陰麗華のやうな女をめとる

べきだ。後漢の光武帝の語。陰麗華は光武帝の皇后。〔後漢書、光烈陰皇后紀〕仕レ宦當レ作二執金吾一、娶レ妻當レ得二陰麗華一。

【妼】6141 ［一］ヒ ビ 〔集韻〕毗至切 寘 ［二］ヒツ ビチ 〔集韻〕薄必切 質

［一］［二］**女の容儀あること。**〔集韻〕妼、女多二容止一也。

【㚰】6142 ナウ

嫍(**3－6480**)に同じ。〔字彙〕㚰、同レ嫍。

【妽】6143 シン 〔集韻〕升人切 眞

女のあざな。〔集韻〕妽、女字。

【㚴】6144 テイ タイ 〔集韻〕都黎切 齊

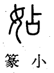
女のあざな。〔集韻〕㚴、女字。

【𡛷】6145 サン 〔集韻〕蒼案切 翰

小篆

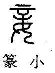
㊀**うつくしい。**はなやか。〔說文〕𡛷、三女爲レ𡛷、𡛷、美也、从レ女歺聲。㊁或は㛑(**3－6299**)に作る。〔集韻〕𡛷、或作レ㛑。㊂粲(**8－26966**)に通ず。〔說文、段注〕𡛷、按、經傳作レ粲、叚借字。

【㚲】6146 ［一］セン 〔集韻〕處占切 鹽 ［二］セフ 〔集韻〕尺涉切 葉 ［三］テン 〔集韻〕都念切 豔


小篆

［一］［二］㊀**かよわい。**〔說文〕㚲、小弱也、从レ女占聲、云云、讀若レ占。㊁**女が體が輕くて善く走ること。**〔說文〕㚲、一曰、女輕薄善走也。㊂**わざが多い。**〔說文〕㚲、一曰、多二技埶一也。［三］**女のさま。**〔集韻〕㚲、女皃。

【妾】6147 セフ 〔集韻〕七接切 葉 ㄑㄧㄝˋ ch'ieh^4


小篆

㊀**はしため。**そばづかひ。奴隷でそばめとなるもの。〔說文〕妾、有レ辠女子、給二事之一、得レ接二於君一者、从二辛女一。春秋傳云、女爲二人妾一、妾不レ娉也。〔書、費誓〕臣妾逋逃。〔傳〕女曰レ妾。〔國語、晉語七〕納二女工妾三十人一。〔注〕妾、給使者。㊁**めかけ。**そばめ。側室。適妻に次ぐもの。小妻。〔六書故〕妾有二貴賤一、古之貴者、娶必有二姪娣一、諸侯娶二於一國一、其國姪娣從、他國亦以レ女媵、自二正室一而下、皆妾也、此貴妾也、記曰、奔則爲レ妾、若レ此者賤妾也。〔稱謂錄、妾〕釋名、妾、接也、以レ賤見二接幸一也。〔儀禮、喪服〕貴妾。〔注〕貴妾、姪娣也。〔禮、月令、后妃齊戒、親東鄉躬桑、注〕夏小正曰、妾子始蠶。〔疏〕皇氏云、妾、謂二外內命婦一。〔禮、內則〕聘則爲レ妻、奔則爲レ妾。〔左氏、昭、十一、僖子使レ助二薳氏之簉一、注、簉、副倅也、疏〕妻爲二正適一、妾爲二副貳一。〔白虎通、嫁娶〕妾、接也、以レ時接見也。〔晉書、王國寶傳〕後房伎妾、以レ百數。㊂**易で兌にあてる。**〔易、說卦〕兌爲レ妾。㊃**わらは。**婦人の卑下していふ自稱。〔史記、陳平世家〕爲二老妾一語レ陵、謹事二漢王一、毋下以二老妾故一持中二心上。〔曹植、出嫁賦〕悅二新婚一而忘レ妾。〔晉書、左貴嬪傳〕嗟余鄙妾、受レ恩特深。㊄**姓。**〔萬姓統譜〕妾胥、漢人。

［解字］會意。辛と女との合字。辛は辠、古、女子のつみあるものは之をはしためとして使用した。故に辛と女とを合して、はしための義とする。〔說文通訓定聲〕妾、有レ辠女子給レ事者、从レ辛从レ女、會意、女曰レ妾、男曰レ童。

【妾御】1 セフギョ めかけが君夫の室に上ること。〔禮、內則〕妻不レ在、妾御莫二敢當一レ夕。

【妾魚】2 セフギョ 小魚の名。たなご。鱊鯞。魚婢。〔爾雅、釋魚、鱊鯞、注〕小魚也、似二鮒子一而黑、俗呼爲二魚婢一、江東呼爲二妾魚一。

【妾子】3 セフシ ㊀命婦と子女。〔禮、月令、后妃齊戒、親東鄉躬桑、注〕夏小正曰、妾子始蠶。〔疏〕皇氏云、妾謂二外內命婦一、子謂二外內子女一。㊁妾の子。〔漢書、五行志中之上〕京房易傳曰、行不レ順、厥咎、人奴冠、天下亂、辟無レ適、妾子拜。〔注〕如淳曰、無二適子一故也。

【妾侍】4 セフジ こしもと。つかひめ。〔南史、張敬兒傳〕初徵爲二護軍一、乃潛二於密室中一、屛レ人學二揖讓對答一、空中俯仰、妾侍竊窺笑焉。〔唐書、李珏傳〕不レ置二妾侍一。

【妾出】5 セフシュツ めかけの生んだ子。めかけばら。「庶出。妾腹(15)に同じ。

【妾處】6 セフショ わらはの居る所。妾は女子の謙遜の語。〔李白、擣衣篇〕君邊雲擁青絲騎、妾處苔生紅粉樓。

【妾人】7 セフジン わらは。女が卑下していふ自稱。一說に、管子の妾人の人は久の誤といふ。〔管子、戒〕妾人聞レ之、君外舍而不二鼎饋一。〔纂詁〕人、當レ爲レ久、字之誤也。

【妾婧】8 セフセイ 春秋、齊の人。管仲の妾。管仲を助けて功を立つ。〔列女傳、辯通傳〕。

【妾小】9 ch'ieh^4 hsiao^3 めかけ。

【妾宅】10 セフタク めかけを圍っておく家。

【妾女】11 セフヂョ めかけ。妾婦(13)に同じ。

【妾妃】12 セフヒ めかけ。〔周必大、太守趙山甫示二和篇一次韻爲レ謝詩〕阿嬌金屋聚二芳菲一、當御連環聚二妾妃一。

【妾婦】13 セフフ 側室。めかけ。妾女。こしもと。〔左氏、襄、十二〕夫婦所レ生若而人、妾婦之子若而人。

【妾婦之道】14 セフフノミチ 是非を辨ぜず、只人に從ふ仕方。女子は從順を以て正道とする故にいふ。〔孟子、滕文公下〕以レ順爲レ正者、妾婦之道也。〔集注〕女子從レ人、以レ順爲二正道一也、蓋言下二子阿諛苟容、竊二取權勢一、乃妾婦順從之道耳、非中丈夫之事上也。

【妾腹】15 セフフク 妾の生んだ子。めかけばら。庶出。

【妾嬖】16 セフヘイ そばめ。妾媵(18)に同じ。〔魏志、夏侯尚傳〕尚有二愛妾嬖幸一、寵奪二適室一。

【妾母】17 セフボ めかけである母。〔漢書、五行志上〕劉向以爲、釐立二妾母一爲二夫人一、以入二宗廟一、故天災二愍宮一。

【妾媵】18 セフヨウ 嫁につきそって夫家に入り妾となる女。媵は古、諸侯の女が嫁する時に之に從って行った同姓の女。やがて、めかけ。そばめ。妾婦。妾嬖。〔列子、楊朱〕衞端木叔行年六十、棄二其家事一、都散二其庫藏珍寶、車服妾媵一、一年之中盡焉。〔後漢書、楊賜傳〕今妾媵嬖人閹尹之徒、共專二國朝一、欺二罔日月一。〔顏氏家訓、後娶〕多以二妾媵一終二家事一。

【妾薄命】19 セフハクメイ 樂府雜曲歌辭の名。美人の薄命を歎じたもの。漢の許皇后の奈二何妾薄命一の語に取って名づく。魏の曹植、梁の簡文帝・劉孝威・劉孝勝、唐の李百藥・杜審言・李白・孟郊・張籍・李端・盧綸等に歌詞がある。〔樂府詩集、雜曲歌舞、妾薄命〕樂府解題曰、妾薄命、曹植云、日月既逝西藏、蓋恨二燕私之歡不一レ久、梁簡文帝云、名都多二麗質一、傷二良人不レ返、王嬙遠聘、盧姬嫁遲一也。〔曹植、妾薄命〕攜二玉手一喜二同車一、比下上二雲閣一飛除上。〔梁簡文帝、妾薄命〕名都多二麗質一、本自恃二容姿一。

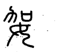
【妾餘草】20 セフヨサウ 草の名。あさざ。妾、もと接と書く。莕菜。接余。〔毛詩陸疏廣要、周南〕王文公借二接余舊名一、以爲二妾餘草一、近二於戲一矣。

【妾身未分明】21 セフガミイマダブンメイナラズ 我が身の前途の事はわからない。新婚早々の婦人が夫の出征を悲しんだ詞。〔杜甫、新婚別詩〕妾身未二分明一、何以拜二姑嫜一。

【妾當レ作二蒲葦一】22（セフマサニホヰトナルベシ）　わたしは自ら縄となつて夫をつなぎとめよう。妾は婦人卑下の自稱。蒲葦は、がまとあしで、縒り合せて縄とする。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕君當レ作二盤石一、妾當レ作二蒲葦一、蒲葦紉如レ絲、盤石無二轉移一。

【買レ妾不レ知二其姓一則卜レ之】23（セフヲカフニソノセイヲシラザレバスナハチコレヲウラナフ）　妾を買ふ際に其の姓系の知れぬ時は、其の可否をトする。同姓は婚せぬからである。〔左氏、昭、元〕故志曰、買レ妾不レ知二其姓一則卜レ之、違二此二者一、古之所レ愼也。

【妿】6148


小篆

[一]ア　〔集韻〕於何切　歌

[二]カ　〔集韻〕居何切　歌

[一][二]**しつけうば**。〔說文〕妿、女師也、从レ女加聲、杜林說、加二教於女一者也、讀若レ阿。〔廣韻〕妿、女師、以教二婦道一。〔集韻〕妿、姆也。

【㚙】6149

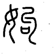
カ　妿(**3－6148**)に同じ。〔字彙〕㚙、同レ妿。

【姀】6150

クヮ　ワ　〔集韻〕胡戈切　歌

女のあざな。〔集韻〕姀、女字。

【姁】6151


小篆

[一]ク　〔集韻〕火羽切　ㄒㄩˇ　hsü³　麌

[二]ク　〔集韻〕區遇切　遇

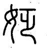
[三]ク　グ　〔集韻〕權俱切　虞

[一]❶**ばば**。老女。おうな。〔說文〕姁、嫗也、从レ女句聲。❷**たのしむ**。〔集韻〕姁、一曰、佚樂謂二之姁一。[二]❶**ばば**。[一]の❶に同じ。〔集韻〕姁、嫗也。❷**つま**。〔集韻〕姁、一曰、河南謂レ婦。[三]❶**うつくしい**。姁婾。〔集韻〕姁、姁婾、美也。❷**やはらぎむつむさま**。〔集韻〕姁、姁姁、和好皃。❸欨(**6－16028**)に通ず。〔說文通訓定聲〕姁、叚借爲レ欨。❹嘔(**2－4200**)に通ず。〔史記、淮陰侯傳〕項王見レ人、恭敬慈愛、言語嘔嘔。〔注〕索隱曰、漢書作二姁姁一、鄧展曰、姁姁、和好貌也。

【姁姁】1（クク）　❶やはらぎ睦むさま。嘔嘔。〔漢書、韓信傳〕項王見レ人恭謹、言語姁姁。〔注〕師古曰、姁姁、和好貌。❷たのしむさま。佚樂のさま。〔呂覽、諭大〕燕雀爭二善處於一室之下一、子母相哺也、姁姁焉相樂也。〔注〕姁姁、佚樂貌。

【姁婾】2（クユ）　❶美しい。〔集韻〕姁、姁婾、美也。❷やはらぎ愉ぶさま。和悅のさま。又、呴喩(**2－3457・・10**)・欨愉(**6－16028・・2**)・嘔喩(**2－4200・・27**)に作る。〔傅毅、舞賦〕姣服極レ麗、姁婾致レ態。〔注〕善曰、姁婾、和悅貌。〔韓愈、河中府連理木頌〕奮肆姁婾、不レ知レ所レ如。

【姂】6152


小篆

[一]ハフ　ボフ　〔集韻〕扶法切　洽

[二]カフ　コフ　〔集韻〕气法切　洽

[三]ヘフ　〔集韻〕匹耴切　葉

[四]ハン　ボン　〔集韻〕孚梵切　陷

[一][二][三][四]❶**婦人のさま**。〔說文〕姂、婦人皃、从レ女乏聲。❷**みめよい**。〔廣雅、釋詁一〕姂、好也。

【姃】6153

[一]セイ　シヤウ　〔集韻〕諸盈切　庚

[二]セイ　シヤウ　〔集韻〕之盛切　敬

[一]❶**女のあざな**。〔集韻〕姃、女字。❷**女の容姿が正しい**。〔正字通〕姃、女容端莊。[二]**女のあざな**。〔集韻〕姃、女字。

【〓】6154

クヮ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、工火切。

【姄】6155

ビン　ミン　〔集韻〕眉貧切　眞

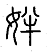
女のあざな。〔集韻〕姄、女字。

【〓】6156

ホ　フ　〔集韻〕普故切　遇

うつくしい女。〔集韻〕〓、美女。

【姅】6157


小篆

ハン　〔集韻〕博漫切　翰

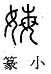
❶**月のもの**。けがれ。さはり。女子の月經。〔說文〕姅、婦人汙也、从レ女半聲、漢律曰、見二姅變一、不レ得レ侍レ祠。❷**みもちがきずつく**。〔集韻〕姅、一曰、褱子傷也。

【〓】6158

トウ　ツ　〔集韻〕都宗切　冬

女のあざな。〔集韻〕〓、女字。

【姆】6159


小篆

[一]ボ　モ　〔集韻〕滿補切　ㄇㄨˇ　mu³　麌

[二]ボウ　モ　〔集韻〕莫候切　宥

[一][二]❶**うば**。**しつけうば**。婦道を教へる婦人。娒(**3－6296**)に同じ。〔集韻〕娒、女師也、或省。〔說文〕娒、女師也、从レ女每聲、讀與レ母同。〔段注〕字林及禮記音義、作レ姆也。〔儀禮、士昏禮〕姆纚笄宵衣在二其右一。〔注〕姆、婦人年五十無レ子、出而不二復嫁一、能以二婦道一教レ人者、今謂二之乳母一。〔疏〕漢時乳母、選二德行有レ乳者一爲レ之、幷使レ教レ子。〔左氏、襄、三十〕待レ姆也。〔注〕姆、女師也。❷**あによめ**。〔正字通〕姆、今俗、弟妻謂二夫之嫂一曰レ姆。❸又、母(**6－16723**)に作る。〔集韻〕姆、亦作レ母。❹[現]女教師。

【姆訓】1（ボクン）　うばのをしへ。女教師の訓誡。〔宋史、禮志十八〕諸王以下納采、儐者入告、主人曰、某之子弗レ閑二於姆訓一、維是腶脩棗栗之饋、未レ知三所二以告虔一也、某聽二命於廟一、敢不レ拜レ嘉。

【姆教】2（ボケウ）　女教師の教。うばが教へる。〔禮、內則〕女子十年不レ出、姆教二婉娩聽從一。

【姆師】3（ボシ）　うば。女教師。保姆。〔廣韻〕姆、女師也。〔稱謂錄、女師、姆師〕呂溫文、姆師教レ之、如下琢二美玉一之易上成。

【姆婦】4（ボフ）　姆傅に同じ。

【姆傅】5（ボフ）　女子にかしづき教へる婦人。うば。姆婦。〔庾信、尉遲夫人志銘〕姆傅習レ言、公宮教レ業。

【姆姆】6（ボボ）　あによめ。弟の妻が兄の妻を呼ぶにいふ。母母(**6－16723・・79**)を見よ。〔事物異名錄、倫屬、夫姊妹〕紫微雜記、呂氏母母受二嬸房婢拜一、嬸卽母母房婢拜卽答、按、俗兄婦呼二弟婦一爲二嬸嬸一、弟妻呼二兄嫂一爲二姆姆一、卽母母也。

【姆姥】7　mu³ mu　❶保姆。❷老母。

【姖】6160

ジ　姒(**3－6177**)の古字。〔集韻〕姒、古作レ姖。〔六書故〕姒婦、爲二姖婦一。

【姇】6161

[一]フ　〔集韻〕方遇切　遇

[二]フ　フウ　〔集韻〕芳無切　虞

[三]ブ　〔集韻〕房尤切　尤

🈩❶美しい顔色。〔集韻〕妴、美色。❷よろこぶ。〔字彙〕妴、悦也。🈔うつくしい。〔集韻〕妴、美也。🈪玉の色。孚(3－6948)に同じ。〔集韻〕孚、玉采也、或作ㇾ妴。

【妳】6162　デイ　嬭(3－6824)に同じ。〔集韻〕嬭、或作ㇾ妳。

【姈】6163　レイ　リヤウ　〔集韻〕郎丁切　青

❶女のあざな。〔集韻〕姈、女字。❷女のさかしいこと。〔正字通〕姈、女佼慧也。

【姊】6164　シ　〔集韻〕蔣兕切　ㄗˇ tzŭ³　紙　ㄐㄧㄝˇ chieh³

小篆

❶あね。〔說文〕姊、女兄也、从ㇾ女𠂔聲。〔爾雅、釋親〕男子謂㆓女子先生㆒爲ㇾ姊。〔釋名、釋親屬〕姊、積也、猶㆓日始出、積ㇾ時多而明㆒也。〔白虎通、三綱六紀〕姊者、咨也。❷はは。姐(3－6172)に通ず。〔正字通〕姊、北齊太子稱㆓生母㆒爲㆓姊姊㆒、己妻爲㆓妹妹㆒、至ㇾ宋則呼㆓嫡母㆒爲㆓大姊姊㆒、妻之于㆓嫡母㆒亦然、宋高宗母韋后、稱㆓徽宗嫡后㆒爲㆓大姊姊㆒、按、母稱ㇾ姊、猶㆓今方俗稱ㇾ母爲ㇾ姐。❸女を親しみ敬つて呼ぶ語。〔李商隱、嬌兒詩〕階前逢㆓阿姊㆒、六甲頗輸ㇾ失。❹夫が妻をいふ。〔稱謂錄、夫稱ㇾ妻、姊〕王獻之別㆓郗氏妻㆒帖、方欲㆘與ㇾ姊極㆓當年之足㆒、以ㇾ之偕老㆖。❺俗に姉(3－6165)に作る。

【姊歸】1 キシ　❶鳥の名。子規（ホトトギス）の異名。〔宋玉、高唐賦〕姊歸・思歸・垂雞高巢、其鳴喈喈。〔注〕善曰、郭璞曰、子嶲也、出㆓蜀中㆒、或曰、即子規、一名姊歸。❷地名。屈原の鄕里。一に秭歸(8－25003)に作る。今の湖北省姊歸縣。〔郡國志〕姊歸縣、屈原暫歸、其姊女須、聞㆓原還㆒亦來喩ㇾ意、因曰㆓姊歸縣㆒。

【姊御】2 アネゴ　❶他人の姊を敬つていふ語。〔曾我物語、二、時政娘事〕あねごは知らせ給ふべし。❷女を親しみ呼ぶ語。又、博徒などの親分の妻。

【姊姊】3 シシ　❶乳母をいふ。〔北齊書、南陽王綽傳〕綽兄弟皆呼ㇾ父爲㆓兄兄㆒、嫡母爲㆓家家㆒、乳母爲㆓姊姊㆒、婦爲㆓妹妹㆒。❷生母をいふ。〔正字通〕姊、北齊太子稱㆓生母㆒爲㆓姊姊㆒。〔北齊書、后妃、文宣皇后李氏傳〕太原王紹德、至ㇾ閤不ㇾ得ㇾ見、慍曰、兒豈不ㇾ知耶、姊姊腹大、故不ㇾ見ㇾ兒。❸嫡母をいふ。又、嫡后をいふ。大姊姊。字解の❷を見よ。❹あねをいふ。女兄。〔司空圖、燈花詩〕姊姊教㆓人且抱ㇾ兒、逐㆓他女伴㆒卸頭遲。

【姊姐】4 シシャ　あね。〔劉基、聽ㇾ蛙詩〕村童叫噪聾㆓學究㆒、悍婦勃谿喧㆓姊姐㆒。

【姊株】5 アネカブ　或る一部の仲間に尊重せられる女。

【姊壻】6 シセイ　あねの夫。あねむこ。姊聟。〔後漢書、梁冀傳〕時猛姊壻邴尊爲㆓議郞㆒、冀恐㆔尊沮㆓敗宣意㆒。〔晉書、荀顗傳〕幼爲㆓姊壻陳羣所ㇾ賞。

【姊聟】7 シセイ　あねの夫。聟は壻の俗字。姊壻に同じ。

【姊丈】8 シヂヤウ　あねの夫。姊夫。〔釋親考續編〕姊丈、尺雙雙魚。

【姊夫】9 シフ　あねの夫。あねむこ。姊壻。姊丈。〔釋名、釋親屬〕姊夫在ㇾ前、妹夫在ㇾ後。〔漢書、霍光傳〕夜設㆓九賓溫室㆒、延㆓見姊夫昌邑關內侯㆒。〔吳志、呂蒙傳〕少南渡、依㆓姊夫鄧當㆒。

【姊分】10 アネブン　假に姊と定めて恃みとする人。義姊。

【姊妹】11 シマイ　❶あねといもうと。女兄弟。〔爾雅、釋親〕男子、謂㆓女子先生㆒爲ㇾ姊、後生爲ㇾ妹、父之姊妹爲ㇾ姑。〔左氏、襄、十二〕無ㇾ女而有㆓姊妹及姑姊妹㆒。〔漢書、外戚、孝武李夫人傳〕夫人姊妹讓ㇾ之。〔後漢書、清河孝王慶傳〕遂出㆓貴人姊妹㆒置㆓丙舍㆒。❷妓女をいふ。〔桃花扇、訪翠〕這一條巷裏、都是有ㇾ名姊妹家。

【姊妹艦】12 シマイカン　同類型の二隻の軍艦。もとの陸奧と長門との類。

【姊妹品】13 シマイヒン　同じ系統に屬し、多くの類似點を有する二つの品物。

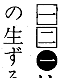
【姊妹篇】14 シマイヘン　小說・戲曲等の、互に關聯を有する二篇をいふ。

【姊羽鶴】15 アネハヅル　鶴の一種。

【爲ㇾ姊煮ㇾ粥】16 アネノタメニカユヲニル　唐の李勣が姊の病氣中、必ず親ら粥を煮て姊をいたはつた故事。〔唐書、李勣傳〕性友愛、其姊病、嘗自爲ㇾ粥、而燎㆓其須㆒。

【姉】6165　シ　姊(3－6164)の俗字。〔方言、十二、趙孟、姊也、注〕今江東江越閒、呼ㇾ姊聲如ㇾ市、此因㆓字誤㆒遂俗也。

【始】6166　🈩シ　〔集韻〕首止切　ㄕˇ shih³　紙　🈔シ　〔集韻〕式吏切　寘



小篆

🈩🈔❶はじめ。はじまり。㋑物の生ずるはじまり。嫁して婦となつたはじめ。〔說文〕始、女之初也、从ㇾ女台聲。〔釋名、釋言語〕始、息也、言㆓滋息㆒也。㋺さき。さきがけ。はじまり。〔易略例〕是事之終始。〔注〕始、初也。〔禮、經解〕君子愼ㇾ始。〔注〕始、謂㆓其微時㆒也。〔論語、泰伯〕師摯之始。〔集解〕鄭玄曰、始、猶ㇾ首也。〔呂覽、無義〕義者、百事之始也。〔注〕始、首也。㋩もと。おこり。〔荀子、王制〕天地者、生之始也。〔注〕始、猶ㇾ本也。〔國語、晉語二〕堅樹在ㇾ始。〔注〕始、本根也。㋥まへかた。當初。〔墨子、經、上〕始、當時也。〔韓愈、殿中少監馬君墓誌〕始余初冠、應㆓進士㆒。❷はじめる。はじまる。㋑第一に着手する。〔國語、晉語七〕安始而可。〔注〕始、先猶ㇾ先也。㋺おこす。〔禮、檀弓下〕君子念㆓始ㇾ之者㆒也。〔注〕始、猶ㇾ生也。㋩もとづく。おこる。〔禮、昏義〕禮始㆓於冠㆒。〔注〕始、猶ㇾ根也。❸はじめに。はじめて。〔禮、月令〕鹿角解、蟬始鳴。〔孟子、梁惠王上〕始作ㇾ俑者、其無ㇾ後乎。〔呂覽、孟冬〕天子始裘。〔注〕始、猶ㇾ先也。❹ついたち。〔太玄經、玄瑩〕凡十有二始。〔注〕始、朔也。❺朝。〔漢書、鮑宣傳〕今日蝕㆓於三始㆒。〔注〕如淳曰、正月一日、爲㆓歲之朝、月之朝、日之朝㆒。始、猶ㇾ朝也。❻をさめる。をさまる。治(6－17256)に通ず。〔說文通訓定聲〕始、叚借爲ㇾ治、實爲ㇾ理、史記夏紀、來㆓始滑㆒、漢書律麻志、七始詠、古文尙書、正作ㇾ在㆓治滑㆒、論語、師摯之始㆓關雎之亂㆒、鄭注、識㆓關雎之聲㆒、而首理㆓其亂㆒、此以ㇾ治訓ㇾ始、非㆓以ㇾ首訓ㇾ始、集解引作㆓始猶ㇾ首也㆒誤、晉書司馬彪傳、關雎旣亂、則師摯脩ㇾ之、本㆓鄭注㆒也。❼古は乱(1－193)・乨(1－181)・迨(1－1378)・皃(2－1770)に作る。〔集韻〕始、古作㆓乱・乨・迨㆒。〔字彙補〕皃、古文始字。❽姓。〔萬姓統譜〕始、見㆓姓苑㆒。

名乘　トモ。ハル。モト。

參考　はじめの義の時は上聲、はじめての義の時は去聲とする說もある。〔正字通〕始、舊註引㆓毛晃㆒曰、本初之始、則上聲、易、資始・大始之類、是也、方始爲之始、則去聲、禮月令、桃始華蟬始鳴之類、是也、按、毛說迂泥甚。

【始安】1 シアン　❶嶺名。越城嶺をいふ。❷郡名。㋑三國吳、置く。南朝宋は改めて始建國とし、南齊は郡とし、唐は建陵郡とし、宋には桂州始安郡といふ。今、廣西省桂林縣治。〔讀史方輿紀要、廣西〕桂林府、禹貢荊州南界、戰國時、爲㆓楚越之交㆒、秦爲㆓桂林郡地㆒、漢屬㆓零陵・蒼梧二郡㆒、後漢

因レ之、三國吳甘露元年、始置二始安郡一、晉因レ之、宋改爲二始建國一、齊復曰二始安郡一、梁大同初、兼二置桂州一、陳因レ之、隋平レ陳廢レ郡、而州如レ故、大業初、又改レ州爲二始安郡一、唐武德四年、平二蕭銑一、仍曰二桂州一、天寶初、亦曰二始安郡一、至德二年、改曰二建陵郡一、乾元初、復爲二桂州一、光化三年、屬二於湖南一、五代周廣順初、屬二於南漢一、宋開寶三年、平二南漢一、仍曰二桂州一、紹興三年、升爲二靜江府一、元曰二靜江路一、明朝洪武初、改曰二桂林府一、今領二州二縣七一。㋺南齊、置く。今、缺く。四川省の境。❸縣名。㋑漢、置き、唐、臨桂と改む。今、廣西省桂林縣治。〔漢書、地理志上〕零陵郡、縣十、始安。〔讀史方輿紀要、廣西、桂林府〕臨桂縣、漢始安縣、屬二零陵郡一、後漢因レ之、三國吳爲二始安郡治一、晉以後因レ之、梁爲二桂州治一、隋唐仍レ舊、貞觀八年、改レ縣曰二臨桂一。㋺南朝宋、置き、南齊、之に因る。今、缺く。四川省舊綏定府の境。㋩南齊、置き、今、缺く。湖北省舊黃州府の境。㊁南朝梁、置き、隋には改めて賓城とし、唐には始安と名づけ、又、渠江と改む。故治は今の四川省廣安縣の北。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、廣安州〕渠江廢縣、州治北五里、漢巴郡宕渠縣地、梁置二始安縣一、後魏屬二流江郡一、隋屬二渠州一、開皇十八年、改曰二賓城縣一、唐武德初、復曰二始安縣一、仍屬二渠州一、天寶初、改曰二渠江縣一。㋭唐、置き、今、缺く。貴州省の境。❹唐の高祖の時、燕の高開道の僭年號、始興の一稱。(618－620)

〖始安貞王〗2 シアンテイワウ　南齊、蕭道生(**9－32012‥467**)の封謚號。

【始影】3 シエイ　星の名。〔瑯嬛記〕女星傍一小星、名二始影一、婦女於二夏至夜一候而祭レ之、得二好顏色一、始影南並レ肩一星、名二琯朗一、男子於二冬至夜一、候而祭レ之、得二好智慧一。

【始孩】4 シガイ　はじめて笑ふ。轉じて、ちのみご。生れたばかりのこども。〔潘岳、寡婦賦序〕孤女藐焉始孩。〔注〕趙岐曰、孩提、謂下二三歲之間始孩笑可二提抱一者上、向曰、孩、嬰兒。

【始康】5 シカウ　❶郡名。晉末、置き、治は始康縣。❷の㋑を見よ。南朝宋、治を成都に徙し、梁の時、今の新都縣の界に徙し、西魏、廢す。❷縣名。㋑晉末、置く。始康郡治。故城は今の四川省新都縣の南。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、新都縣〕金水廢縣、縣東南七十里、本新都縣地、云云、縣治南一里有二始康城一、晉末置二始康郡一、寄二治成都一、始康縣屬レ焉、宋齊因レ之、西魏廢、卽此城矣。㋺南朝宋、置き、隋、廢す。故治は今の廣東省開平縣の東南。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、新會縣、封平廢縣〕始康廢縣、在二縣西南一、劉宋元嘉中置、屬二新會郡一、齊梁因レ之、隋開皇十年、廢二封平縣一。

【始覺】6 シカク　佛　一切衆生の本性は自性清淨心で、これを本覺と名づける。この本覺にめざめないのを不覺といひ、自覺と師教とによつて始めて不覺を除き、本覺に向つて次第に覺つてゆく智を始覺といふ。〔起信論〕始覺義者、依二本覺一故、而有二不覺一、依二不覺一故說レ有二始覺一。

【始寒】7 シカン　寒さのはじまる時節。〔管子、幼官〕十二始寒、盡刑。

【始基】8 シキ　はじめて基を起す。〔左氏、襄、二十九〕吳公子札來聘、云云、請レ觀二於周樂一、使三工爲二之歌二周南召南一、曰、美哉、始基レ之矣。

【始飢】9 シキ　はじめてうゑる。祖飢。〔史記、周紀〕黎民始飢。〔索隱〕徐廣曰、今文尚書曰二祖飢一、故此作二始飢一、祖、始也。

【始虧】10 シキ　日蝕・月蝕がはじまること。〔六部成語、禮部、始虧、注解〕日月蝕初見二缺痕一、謂二之始虧一。

【始鳩】11 シキウ　古の國名、又、鳥の名。〔山海經、海內東經〕始鳩、在二海中轅厲南一。〔注〕國名、或曰、鳥名也。〔郭璞、山海經圖、韓鴈始鳩雷澤神瑯琊臺贊〕韓鴈始鳩、在二海之洲一、雷澤之神、鼓腹優游。

【始花】12 シクワ　若い草木が初めて花をつけること。〔通俗編、草木、始花〕游覽志餘、杭人以二草木稺而初蕚者一曰二始花一、音如レ試、禮月令、桃始華、蟬始鳴、注皆讀レ始去聲。

【始光】13 シクワウ　北魏、太武帝、拓跋燾の年號。(424－428)

【始皇】14 シクワウ　秦の第一世の天子の號。嬴政(**3－6834‥16**)を見よ。〔史記、秦始皇紀〕朕爲二始皇帝一、後世以計レ數、二世三世至二於萬世一、傳二之無窮一。

〖始皇陵〗15 シクワウリヨウ　陵の名。秦の始皇帝を葬る。陝西省臨潼縣の東。〔史記、秦始皇紀〕九月、葬二始皇酈山一、始皇初卽レ位、穿二治酈山一、及レ幷二天下一、天下徒送二詣七十餘萬人一、穿二三泉一、下レ銅而致レ椁、宮觀百官、奇器珍怪、徙レ臧滿レ之、令三匠作二機弩矢一、有下所二穿近一者上、輒射レ之、以二水銀一爲二百川江河大海一、機相灌輸、上具二天文一、下具二地理一、以二人魚膏一爲レ燭、度レ不レ滅者久レ之、云云、葬既已下、或言、工匠爲レ機、藏皆知レ之、藏重卽泄、大事畢、已藏、閉二中羨一、下二外羨門一、盡閉二工匠藏者一、無二復出者一、樹二草木一以象レ山。〔注〕集解曰、皇覽曰、墳高五十餘丈、周廻五里餘、正義曰、關中記云、始皇陵在二驪山一、云云、括地志云、秦始皇陵、在二雍州新豐縣西南十里一。〔文獻通考、王禮考、山陵〕秦二世、葬二始皇驪山一。

【始願】16 シグワン　はじめの願。〔左氏、成、十八〕周子曰、孤始願不レ及レ此、雖レ及レ此、豈非レ天乎。〔吳志、周魴傳〕魴仕二東典郡一、始願已獲、銘レ心立レ報、永矣無レ貳。

【始計】17 シケイ　孫子の篇名。

【始業】18 シゲフ　❶仕事をはじめる。❷授業をはじめる。

〖始業式〗19 シゲフシキ　學校などで、各學年、又は各學期のはじめに行ふ儀式。

【始建】20 シケン　北魏の時、陳雙熾の年號。

〖始建國〗21 シケンコク　漢、王莽の年號。(9－13)

【始乾】22 シケン　清、兪永弼(**1－1437‥81**)の字。

【始元】23 シゲン　❶はじめ。おこり。始原(25)に同じ。❷年號。㋑漢、昭帝、劉弗陵の時。(B.C.86－B.C.80)　㋺五代梁の時、南詔の肅文帝、鄭旻の時。(910－925)

【始彥】24 シゲン　晉、庾希(**4－9398‥11**)の字。

【始原】25 シゲン　はじめ。おこり。始元。始源。原始(**2－2973‥91**)の❷に同じ。

〖始原林〗26 シゲンリン　古の儘に存在する林。伐採・植付け・保護など、人の手を入れたことの無い森林。原始林。

【始源】27 シゲン　始原に同じ。

【始古】28 シコ　最初の時代。太古。〔史記、匈奴傳〕以安二邊民一、以應二始古一。〔鹽鐵論、雜論〕末不レ師二始古一。

【始呼】29 シコ　漢代、西域の戎名。〔後漢書、西羌傳〕自レ是之後、更伐二始呼翳徒之戎一、皆克レ之。

【始興】30 シコウ シキヨウ　❶年號。㋑隋、煬帝の時、操師乞の僭號。一に天成(**3－5833‥895**)の❹の㊁に作る。(616－617)　㋺唐初、燕の高開道の僭號。一に始安(1)に作る。(618－620)　❷郡名。三國吳、置く。南朝宋は、一時、廣興と改む。唐以後、廢す。今、廣東省曲江縣。〔讀史方輿紀要、廣東、韶州府〕曲江縣、漢置レ縣屬二桂陽郡一、吳爲二始興郡治一、隋屬二廣州一、唐宋以來、皆爲二韶州治一。❸縣名。㋑三國吳、始興縣を分ち置く。漢の南埜縣の地。今、廣東省南雄縣の西南。〔讀史方輿紀要、廣東、南雄府〕始興縣、府西南百十里、西南至二韶州府曲江縣一百十里、漢豫章郡南埜縣地、三國吳置二始興縣一屬二始興郡一。〔清史稿、地理志〕廣東、南雄直隸州、縣一、始興。㋺南朝宋、置く。今の四川省舊綏定府の境。㋩金、置く。滿洲吉林省境內の科爾沁右翼前旗の地。

〖始興水〗31 シコウスイ　川の名。北江の上流。水經注の東江、今の湞水。今、上流を清化水といひ、北流して始興縣の西に於て湞水に注ぐ。〔水經、溱水注〕東溪水、出二南康縣界石閣山一、亦名二東江一、又曰二始興水一。

〖始興大江〗32 シコウタイカウ　川の名。溱水をいふ。一說に、今の北江で、其の上流が廣東省始興縣を通るので始興大江といふ。〔水經、溱水注〕溱水、導二源臨武縣西南一、北流逕二縣西一、而北與二武溪一合。

〖始興忠武王碑〗33 シコウチユウブワウノヒ　梁代の碑。江蘇省上元縣黃城村に在り、梁の始興王蕭憺(忠武は謚)の功德を吏民が追頌したもの。文は約三千餘字、磨滅が甚しく、今僅かに三分の一が分るだけである。〔寰宇訪碑錄、梁〕始興忠武王蕭憺墓碑、徐勉撰、貝義淵正書、年月泐。

【始昆】34 シコン　先祖と子孫。初始と後昆。又、終始。〔楚辭、大招〕正二始昆一只。〔注〕昆、後也、正二終始之行一。

【始創】35 シサウ　はじめ作る。創始。〔晉書、輿服志〕聖人見㆓鳥獸容貌、草木英華㆒、始㆓創衣冠㆒。

【始作】36 シサク　はじめておこる。又、はじめてなす。始做。〔論語、八佾〕樂其可㆑知已、始作翕如也、從㆑之純如也。〔莊子、天運〕流㆓光其聲㆒、蟄蟲始作、吾驚㆑之以㆓雷霆㆒。

【始殺】37 ハジメテサツス　建酉の月、卽ち陰曆八月に、肅殺の陰氣がはじめて生ずること。清の王引之は陰曆七月といふ。〔左氏、桓、五〕始殺而嘗。〔注〕建酉之月、陰氣始殺、嘉穀始熟、故薦㆓嘗於宗廟㆒。

【始州】39 シシウ　西魏、置き、隋、廢し、唐初、又置き、尋いで劍州と改む。今の四川省劍閣縣治。〔讀史方輿紀要、四川、保甯府〕劍州、西魏改爲㆓始州㆒、兼㆓置普安郡㆒、隋初、郡廢、仍曰㆓始州㆒、煬帝又改爲㆓普安郡㆒、唐初、仍曰㆓始州㆒、先天二年、改爲㆓劍州㆒。

【始秋】40 シシウ　秋のはじめ。初秋。〔後漢書、襄楷傳〕布穀鳴㆓於孟夏㆒、蟋蟀吟㆓於始秋㆒。〔新書、憂民〕及㆓方今始秋時㆒、可㆓善爲㆒。

【始昌】41 シシヤウ　❶縣名。㋑晉、置く。故城は今の甘肅省西和縣の北。㋺南朝宋、置く。故治は今の廣東省四會縣の北。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、四會縣〕樂昌廢縣、在㆓縣北㆒、劉宋置㆑縣、爲㆓樂昌郡治㆒、兼㆓領始昌㆒。㋩南齊、置く。故治は今の廣東省合浦縣の東。❷南齊、徐孝嗣(**4**−**10110**··357)の字。

【始終】42 シシユウ　❶はじめとをはり。始末。終始。〔史記、秦始皇紀〕先王見㆓始終之變㆒、知㆓存亡之機㆒。〔傳絳、明道論〕始終研究、表裏綜覈。❷はじめからをはりまで。つねに。たえず。一貫する。〔莊子、田子方〕始終相㆓反乎無端㆒、而莫㆑知㆓乎其所㆑窮。〔司馬相如、上林賦〕始㆓終灞滻㆒、出㆓入涇渭㆒。〔唐書、裴度傳〕事㆓四朝㆒、以㆑全㆑德始終。❸シジユウ　終りには。結局。〔太平記、二十九、光明寺合戰事〕寄手は大勢なり、城の構へ未だ拵へず、始終如何あるべからん。

【始春】43 シシユン　後漢、桓鸞(**6**−**14774**··72)の字。

【始初】44 シシヨ　はじめ。はじめの頃。初期。〔漢書、杜周傳〕逮㆓委政之隆㆒、及㆓始初清明㆒。

【始信】45 シシン　峯の名。安徽省歙縣の黃山に在り、峯の頂の江麗田琴臺は、清の乾隆中、琴の名人江麗田が隱居した所といふ。

【始新】46 シシン　縣名。❶三國吳、置き、隋初、新安と改む。故城は今の浙江省淳安縣の西。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府、淳安縣〕始新城、在㆓縣西六十里威平鎭㆒、吳賀齊、本置㆓縣於此㆒。❷南朝宋、置き、南齊、之に因る。今の安徽省の境。

【始審】47 シシン　訴訟事件第一次の審判。初審。第一審。

【始仁】48 シジン　晉、劉演(**2**−**2224**··62)の字。

【始青】49 シセイ　丘の名。〔東方朔、十洲記序〕北至㆓朱陵扶桑之國、溽海冥夜之丘、純陽之陵、始青之下、月宮之閒㆒、內遊㆓七丘㆒、中旋㆓十洲㆒。

【始青道人】50 シセイダウジン　清、笪重光(**8**−**25941**··3)の號。

【始節】51 シセツ　氣節のはじめ。〔管子、幼官〕十二始節、賦㆑事、十二始卯、合㆓男女㆒。

【始祖】52 シソ　❶初代の人。先祖。鼻祖。〔儀禮、喪服〕諸侯及㆓其太祖㆒、天子及㆔其始祖之所㆓自出㆒。〔注〕始祖者、感㆓神靈㆒而生、若㆓稷契㆒也。〔禮、大傳、孫希旦集解〕始封之君、謂㆓之大祖㆒、得㆑姓之祖、謂㆓之始祖㆒。〔程子遺書〕冬至祭㆓始祖㆒。❷廟號。㋑後秦、姚弋仲(**3**−**6202**··214)の廟號。㋺成漢、李特(**6**−**14459**··637)の廟號。㋩金の函普(**2**−**1826**··68)の廟號。

〖始祖鳥〗53 シソテウ　前世紀に住んでゐた齒のある鳥。今、化石となつて發見せられる。

【始卒】54 シソツ シシユツ　始終(42)の❶に同じ。〔後漢書、傳毅傳〕密㆓勿朝夕㆒、聿同㆓始卒㆒。〔注〕卒、終也、言、朝夕黽勉、終始如㆑一也。〔歐陽脩、觀文殿大學士行兵部尚書云云晏公神道碑銘〕始卒一躬。

【始孫】55 シソン　後魏、范紹(**9**−**30834**··71)の字。

【始旦】56 シタン　字號。❶清、陸光旭(**11**−**41708**··300)の字。❷清、王曔(**7**−**20823**··840)の字。「字。

【始長】57 シチヤウ　前燕、黃泓(**12**−**47926**··975)の字。

【始誅】75 シチユウ　孔子家語の篇名。

【始兆】58 シテウ　はじめのまつり。兆は祭の庭。〔蜀志、楊戲傳〕故能承㆓高祖之始兆㆒、復㆓皇漢之宗祀㆒也。

【始寧】59 シネイ　縣名。❶後漢、上虞縣を分つて置く。故城は今の浙江省上虞縣の西南。〔水經、漸江水注〕浦陽江、又東北逕㆓始寧縣西㆒、本上虞之南鄕也。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、上虞縣〕始寧城、縣西南五十里、後漢永建四年、分㆓上虞・南鄕㆒置㆑縣、吳晉以後因㆑之、隋廢。❷南朝梁、置く。故治は今の四川省巴中縣の東。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、巴州〕始寧城、州東百三十里、志云、後漢桓帝、分㆓宕渠之東㆒置㆓宣漢縣㆒、梁分㆓宣漢㆒置㆓始寧縣㆒、幷置㆓遂寧郡㆒、隋開皇初、郡廢、縣屬㆓巴州㆒、唐因㆑之、宋乾德四年、縣廢。

【始望】60 シバウ　はじめののぞみ。〔陸機、謝㆓平原內史㆒表〕臣之始望、尙未㆑至㆑是。

【始平】61 シヘイ　❶郡名。㋑晉、置く。故治は今の陝西省興平縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府〕興平縣、府西一百里、漢槐里縣地、屬㆓右扶風㆒、始元中、爲㆓平陵縣地㆒、云云、晉置㆓始平郡㆒、治㆓槐里㆒、始平縣屬㆑焉。㋺晉、置く。故治は今の湖北省均縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府〕均州、禹貢荊豫二州境、春秋時麇國地、戰國屬㆑楚、秦漢皆屬㆓南陽郡㆒、三國魏屬㆓南鄕郡㆒、晉屬㆓順陽郡㆒、渡江後僑㆓置始平郡㆒、宋爲㆓始平郡治㆒、齊梁因㆑之、後周改㆓豐州㆒。㋩南朝宋、置く。今、陝西省南鄭縣の地。㋥南齊の時、置く。西魏の涪城、北周の安城。故治は今の四川省三台縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州〕涪城廢縣、川西北五十里、漢涪縣地、屬㆓廣漢郡㆒、晉宋因㆑之、蕭梁僑㆓置始平縣及始平郡㆒、西魏改㆑郡曰㆓涪城㆒、後周又改曰㆓安城郡㆒。㋭後魏、置く。今の陝西省の境。❷縣名。㋑三國魏、置く。漢の平陵縣の地。故城は今の陝西省咸陽縣の西北。苻秦、茂陵城に移す。今の陝西省興平縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府〕興平縣、府西一百里、漢槐里縣地、屬㆓右扶風㆒、始元中、爲㆓平陵縣地㆒、三國魏黃初中、改爲㆓始平縣㆒、以㆓縣北始平原㆒名。㋺三國吳、置き、晉、始豐と改む。故城は今の浙江省天台縣治。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府〕天台縣、府西北九十里、漢章安縣地、三國吳析㆓置南始平縣㆒、或曰、後漢興平四年、孫氏析置也。㋩南朝宋、置く。今の陝西省南鄭縣の地。㋥南朝宋、置く。今の湖北省舊襄陽府の境。㋭南朝宋、置く。故治は今の四川省劍閣縣の北。㋬南齊、置く。湖北省の境。㋣南齊、置く。故治は今の四川省成都縣の南。㋠唐、置く。故治は今の江西省清江縣の棲吾山の下の玉虛觀。❸南北朝時代、柔然(蠕蠕)佗汗可汗の年號。(506−507)

〖始平王〗62 シヘイワウ　後魏、元勰(**1**−**1340**··184)の封號。

〖始平孝敬王〗63 シヘイカウケイワウ　南朝宋、劉子鸞(**2**−**2224**··979)の封謚號。

【始豐】64 シホウ　溪流の名。浙江省天台縣の西。また大溪と名づく。東流して縣の北に至り、又、東して臨海縣に入り、百步溪と名づく。又、南流して永安溪に合し、椒江となる。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府、天台縣〕大溪、在㆓縣城西南㆒、志云、始豐溪、源出㆓大盆山㆒、引而東、天台・桐柏二水入焉、故曰㆓大溪㆒、流經㆓縣南㆒。

〖始豐稿〗65 シホウカウ　書名。十四卷。明、徐一夔撰。雜文を集む。〔四庫提要、集、別集類〕。

【始睦】66 シボク　漢、王莽の時の諸侯の名。〔漢書、王莽傳中〕嫣昌爲㆓始睦侯㆒、奉㆓虞帝後㆒。

【始末】67 シマツ　❶はじめとをはり。本末。始終。❷はじめからをはりまで。事の起りから結著まで。顚末。〔晉書、謝安傳〕安雖㆑受㆓朝寄㆒、然東山之志、始末不㆑渝。〔南史、徐勉傳〕爲㆑家以來、不㆑事㆓資產㆒、曁㆑立㆓野舍㆒、似㆑乖㆓舊業㆒、陳㆓其始末㆒、無㆑愧㆓懷抱㆒。❸㋑整へをさめる。處分する。かたづける。㋺金錢の出入をつつしむこと。儉約。節儉。〔博多小女郎波枕、上〕始末・たくはへ。

〖始末屋〗68 シマツヤ　儉約の人。しまりや。

〖始末書〗69 シマツシヨ　しまつがき。事の顚末を記したかきつけ。轉じて、過失が有つた時、過失者から其の原因結果等の次第を明細に認めて、上官又は當局者に差出す文書。〔特許法、第六十四條〕。

〖始末心〗70 シマツゴコロ　儉約の心。〔好色一代女、二〕伽羅もしまつ心つきて焚きかね。

〖始末根由〗71 shih^3 mo^4 ken^1 yu^2　事の始末原因。

【始陽】72 シヤウ　縣名。❶晉、置き、尋いで橫陽と改む。故城は今の浙江省平陽縣の北。〔讀史方輿紀

要、浙江、溫州府〕平陽縣、府西南一百二十里、晉太康四年、析㆓安固縣横奥船屯㆒、置㆓始陽縣㆒、屬㆓臨海郡㆒、尋曰㆓横陽㆒。❷晉、置く。今の廣西省の境。❸西魏、置き、隋、蒙山と改む。故治は今の四川省雅安縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、雅州〕嚴道廢縣、齊亦爲㆓漢嘉縣地㆒、梁因㆑之、西魏置㆓始陽縣㆒、幷置㆓蒙山郡治㆒焉。

【始梁】73 シリヤウ　舌の神の名。字を道岐といふ。始梁峙を見よ。〔酉陽雜俎、廣知〕身神及諸神名異者、腦神曰㆓覺元㆒、髮神曰㆓玄華㆒、目神曰㆓虛監㆒、鼻神曰㆓冲龍王㆒、舌神曰㆓始梁㆒。

〔始梁峙〕74 シリヤウヂ　始梁に同じ。〔雲笈七籤〕舌神、名始梁峙、字道岐。

【始生界】76 シセイカイ　地質學用語。始生代に生成した岩層。化石を含むこと稀で、地層甚だしく攪亂せられ、片麻岩・花崗岩等の變質岩より成る。

【始生代】77 シセイダイ　地質學用語。地質時代中の最古の時代で、無生代の次、原生代の前のもの。此の時代は造山作用が盛に行はれ、陸地の生じたものが多い。

【始生魄】78 シセイハク　陰曆十六日をいふ。魄は月の輪廓に光の無い部分をいふ。朔（一日）後は明が生じ、魄が死し、望（十五日）後は明が死して、魄が生ずる。故に死魄は朔日で、生魄は望日である。そこで始死魄は一日、旁死魄は二日（旁は近である）、哉生明は三日（哉は始である）、始生魄（哉生魄）は十六日といふことになる。始死魄・旁死魄・哉生明・哉生魄の各項參照。〔書、康誥〕惟三月、哉生魄。〔傳〕周公攝政七年、三月始生魄、月十六日、明消而魄生。〔蔡傳〕三月、周公攝政七年之三月也、始生魄、十六日也。

【始遷祖】79 シセンソ　始めて其の地に遷つて來た先祖をいふ。〔帝王世紀〕舜生㆓于姚墟㆒、始遷㆓于負夏㆒。

【始族兄】80 シゾクケイ　緦麻の喪に服する遠緣の兄をいふ。〔北史、劉芳傳〕齊使劉纘至、芳之始族兄也。〔稱謂錄、遠兄弟、始族兄〕北史劉芳傳、緦麻服之兄弟、曰㆓始族兄㆒。

【始族弟】81 シゾクテイ　遠緣の弟をいふ。〔南史・梁武帝紀上〕皇考、諱順之、字文緯、於㆓齊高帝㆒、爲㆓始族弟㆒。

【始衷終】82 シチユウシユウ　始と中と終。物事の全體の經過。〔左氏、哀、二十七〕君子之謀也、始衷終、皆擧㆑之。

【始畢可汗】83 シヒツカカン　隋の時の突厥の主。啓民可汗の子。名は咄吉世。大業中、入寇し、煬帝を雁門に圍む。後、唐の高祖の擧兵を助く。武德の閒に卒す。〔隋書、八十四〕。

【始封之君】84 シホウノキミ　はじめて封ぜられた君。〔白虎通、王者不臣〕始封之君、不㆑臣㆓諸父弟㆒何。〔蜀志、劉封傳〕當㆘更剖㆓符大邦㆒、爲㆗始封之君㆖。

【有㆑始無㆑終】85 ハジメアツテヲハリナシ　事をはじめても成就しないこと。人の操守のない喩。〔晉書、劉聰載記〕小人有㆑始無㆑終、不㆑能㆑如㆓貫高之流㆒也。

【原㆑始要㆑終】86 ハジメヲタヅネヲハリヲモトム　理のはじめを推したづねて、事のをはりをたづね求める。事の終始を殘らず知る。〔易、繫辭下〕易之爲㆑書也、原㆑始要㆑終、以爲㆑質也、六爻相雜、唯其時物也、其初難㆑知、其上易㆑知、本末也、初辭擬㆑之、卒成㆓之終㆒。

【尋㆑始反㆑終】87 ハジメヲタヅネヲハリニカヘル　事物の始をたづねきはめ、終に反りたづねる。始から終までのことをたづね知る。〔易、繫辭上〕尋㆑始反㆑終、是故知㆓死生之說㆒。

【同㆑始異㆑終】88 ハジメヲオナジクスルモヲハリヲコトニス　はじめを同じくするが、をはりを異にする。❶事物は常に變化するもので、常に同一狀態ではない。❷操守の無い喩。〔左氏、昭、七〕同㆑始異㆑終、胡可㆑常也。

【無㆑始無㆑終】89 ハジメナクヲハリナシ　はじめもなくをはりもなく、一切無。天地が未だ生じない時の混沌たるさま。〔莊子、知北遊〕無㆑古無㆑今、無㆑始無㆑終。〔疏〕日新而變、故無㆑始無㆑終、無㆑今無㆑古、故知㆘無未㆑有㆓天地㆒之時者㆖也。

【無㆑始無㆑邊】90 ハジメナクハテナシ　はじめもなくはてしもない。遠大で其の由つて來る所を知ることの出來ないこと。〔南齊書、高逸傳論〕佛法者、理寂㆓乎萬古㆒、迹兆㆓乎中世㆒、淵源浩博、無㆑始無㆑邊。

【愼㆑始而敬㆑終】91 ハジメヲツツシミテヲハリヲツツシム　事の終始をつつしむ。〔禮、表記〕子曰、事㆑君、愼㆑始而敬㆑終。〔左氏、襄、二十五〕書曰、愼㆑始而敬㆑終、終以不㆑困。

【有㆑始者必有㆑終】92 ハジメアルモノハカナラズヲハリアリ　物事ははじめがあれば必ずをはりがある。〔法言、君子〕有㆑生者必有㆑死、有㆑始者必有㆑終、自然之道也。

【始作㆑俑者其無㆑後乎】93 ハジメテヨウヲツクルモノハソレノチナカランカ　はじめて俑を作つた者は、不仁の甚しい者であるから、必ず天の咎を受けて其の子孫は斷絕するに至るであらう。俑は木で作つた人形で、中古、死者のまもりとした。作㆑俑（1－683・・1）を見よ。〔孟子、梁惠王上〕仲尼曰、始作㆑俑者、其無㆑後乎、爲㆓其象㆑人而用㆑之也。〔集注〕俑、從㆑葬木偶人也、古之葬者、束㆑草爲㆑人、以爲㆓從衞㆒、謂㆓之芻靈㆒、略似㆓人形㆒而已、中古、易㆑之以㆑俑、則有㆓面目機發㆒、而太似㆑人矣、故孔子惡㆓其不仁㆒、而言㆓其必無㆑後也。

【始如㆓處女㆒後如㆓脫兔㆒】94 ハジメハシヨヂヨノゴトクノチハダツトノゴトシ　はじめは處女のやうに靜かで敵に油斷をさせ、のちには脫走する兔のやうに急で、敵に防ぐ暇を與へない。〔孫子、九地〕是故始如㆓處女㆒、敵人開㆑戶、後如㆓脫兔㆒、敵不㆑及㆑拒。

【姌】6167　ゼン　姌（**3－6077**）に同じ。〔集韻〕姌、說文、弱長皃、或作㆑姌。

【姘】6168　ヒン　ビン　〔字彙〕毗賓切　眞

そばめ。めかけ。〔字彙〕姘、妾也。

【姍】6169

〘一〙サン　セン　〔集韻〕師姦切　ㄕㄢ　shan¹　刪

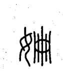
〘二〙サン　〔集韻〕相干切　寒

〘三〙サン　セン　〔集韻〕所晏切　諫

〘四〙ハン　〔集韻〕鋪官切　寒

〘五〙セン　〔集韻〕蕭前切　先

〘六〙サツ　サチ　〔集韻〕桑葛切　曷


小篆

〘一〙〘二〙〘三〙❶**みめよい。**〔廣雅、釋詁一〕姍、好也。❷**そしる。**訕（**10－35241**）に通ず。〔說文〕姍、誹也、从㆑女刪省聲。〔集韻〕姍、毀也。〔漢書、諸侯王表序〕姍㆓笑三代㆒。〔注〕師古曰、姍、古訕字也。❸古は姝（**3－6535**）に作る。〔正字通〕姝、古文姍。〘四〙**みにくい。**〔集韻〕姍、醜也。〘五〙❶**行くさま。**姍姍。〔集韻〕姍、姍姍、行皃。❷**衣のゆれ動くさま。**便姍。〔集韻〕姍、一曰、便姍、衣婆娑皃。〔司馬相如、子虛賦〕便姍嫳屑。❸或は姺（**3－6249**）に作る。〔集韻〕姍、或作㆑姺。〘六〙**婦人が步むに、もすその地を曳くさま。**妭姍。〔集韻〕姍、妭姍、婦人行、衣曳㆑地皃。

【姍笑】1 サンセウ　そしりわらふ。あざわらふ。嘲笑。嗤笑。〔漢書、諸侯王表序〕自任㆓私知㆒、姍㆓笑三代㆒、盪㆓滅古法㆒。〔注〕師古曰、姍、古訕字也、訕、謗也。

【姍誚】2 サンセウ　そしりとがめる。〔唐書、裴伷先傳〕武后畏㆓天下姍誚㆒、更遣㆓使者㆒安㆓撫十道㆒、以㆓好言㆒自解釋。

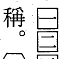
【姍姍】3 センセン　なよなよと行くさま。女の步く形容。蹣跚。〔漢書、外戚、孝武李夫人傳〕立而望㆑之、偏何姍姍、其來遲。〔注〕師古曰、姍姍、行皃。

【姎】6170

〘一〙アウ　〔集韻〕於郎切　陽

〘二〙アウ　〔集韻〕倚朗切　養

〘三〙アウ　〔集韻〕於浪切　漾


小篆

〘一〙〘二〙〘三〙❶**わたくし。**婦人の自稱。〔說文〕姎、女人自偁㆓姎我㆒也、从㆑女央聲。〔新方言、釋言〕今直隸山東農婦、皆自稱㆓老姎門㆒、聲在㆓娘牙之閒㆒、或書作㆑娘、非也。❷卬（**2－2841**）に通ず。〔爾雅、釋詁、卬、我也、注〕卬、猶㆑姎也、語

之轉耳。㊂婸(3－6458)に通ず。〔正字通〕婸、通作レ姎。㊃陽(11－41725)に通ず。〔說文通訓定聲〕姎、按、發聲之詞、爾雅、陽、予也、亦同。

【姎徒】1 アウト　わがともがら。婸徒。〔後漢書、南蠻傳〕名二渠帥一曰二精夫一、相呼曰二姎徒一。〔錢坫、說文斠詮〕姎徒、猶二我徒一也。〔王煦、說文五翼〕姎徒、猶二吾徒一耳。〔稱謂錄、兵頭、姎徒〕表異錄、西南夷蠻、名二渠帥一曰二精夫一、相呼爲二姎徒一。

【姏】

6171

［一］バン マン　〔集韻〕謨甘切　［覃］　ㄇㄢˊ　man^{2}

［二］バン マン　〔集韻〕莫紺切　［勘］

［三］カン　〔字彙〕姑南切　［覃］

［一］［二］［三］ばば。女の老人はよく甘言をなすからいふ。老女。姏婆(1)を見よ。〔集韻〕姏、老女自稱。〔字彙〕姏、老女稱。

【姏婆】1 バンバ　ばば。姏姆に同じ。〔正字通〕姏、婦之老者、能以二甘言一悅レ人、故曰レ姏、今俗呼二姏婆一是也。

【姏母】2 バンボ　姏姆に同じ。〔晉書、五行志上〕會稽王道子、寵二幸尼及姏母一。

【姏姆】3 バンボ　ばば。老婦の稱。姏婆。姏母。〔晉書、簡文三子、會稽文孝王道子傳〕姏姆尼僧、尤爲二親暱一。

【姐】

6172

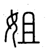
［一］シヤ　〔集韻〕子野切　［馬］　ㄐㄧㄝˇ　chieh^{3}

［二］シ　〔集韻〕蔣氏切　［紙］

［三］シヨ ソ　〔集韻〕臻魚切　［魚］

［四］シヨ　〔集韻〕將豫切　［御］

［慣］ソ


小篆

［一］［二］㊀はは。〔說文〕姐、蜀人謂レ母曰レ姐、淮南謂二之社一、从レ女且聲、讀若レ左。㊁あね。〔通俗編、稱謂〕近世稱二女兄一爲レ姐。㊂女子の通稱。妓女などにもいふ。〔通俗編、稱謂〕繁欽與二魏文帝一牋、史妠謇姐、注、謂二當時樂人一、開天遺事、寧王有二樂妓寵姐一、陶穀清異錄、有二平康妓瑩姐一、東坡集、有二妓人楊姐姐一、特甚賤之稱、俗惟貴家女、方得レ呼レ之、何相戾也。〔朱有燉、元宮詞〕簾前三寸弓鞋露、知是媖媖小姐來。㊃西羌の族名。〔集韻〕姐、羌族。㊄毑(6－16733)に同じ。〔集韻〕毑、母也、或作レ姐。㊅古は毑(6－16729)に作る。〔集韻〕姐、古作レ毑。㊆或は她(3－6046)・媎(3－6491)に作る。〔集韻〕姐、或作二她・媎一。［三］女のすがた。嬳姐。〔集韻〕姐、嬳姐、女態。［四］㊀おごる。㜘(3－6657)に同じ。〔集韻〕㜘、說文、嬌也、或作レ姐。〔嵇康、幽憤詩〕恃レ愛肆レ姐、不レ訓不レ師。〔注〕善曰、說文曰、姐、嬌也、嬌與レ姐同耳。〔嵇康、琴賦〕或怨㜘而躊躇。〔注〕善曰、㜘、嬌也、或作レ姐、古字通假借也。〔新方言、釋言〕蘇州謂二小兒恃レ愛而驕一爲レ姐。㊁色白くみめよい。〔集韻〕姐、嫿也。［邦］あねえ。あねい。あねご。女子を親しみよぶ稱。㋑職人や博徒等の親分の妻。㋺客商賣の家に使はれる女中。㊇若い女を呼ぶ稱。

【姐御】1 アネゴ　女を親しみ呼ぶ語。又、博徒などの親分の妻。姉御。

【姐兒】2 chieh^{3} êrh　姉妹。

【姐姐】3 ソソ　㊀太后をいふ。〔四朝聞見錄〕上嘗語二憲聖一曰、極知二相同勞苦一、反與二後進者一齒、朕甚有レ媿、俟二姐姐歸一、爾其選矣。㊁chieh^{3} chieh　姉。又、女子の敬稱。

【姐丈】4 chieh^{3} chang　姉の夫。姐夫。

【姐夫】5 chieh^{3} fu　姉の夫。あねむこ。

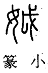
【姐妹】6 chieh^{3} mei^{4}　姉妹。姐は姉。

【姐倆】7 chieh^{2} lia^{3}　姉妹二人。

【娍】

6173

ヱツ ヲチ　〔集韻〕王伐切　［月］

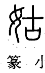

小篆

㊀身がるい。〔說文〕娍、輕也、从レ女戉聲。㊁おろか。〔集韻〕娍、一曰、愚也。

【姑】

6174

コ ク　〔集韻〕攻乎切　［虞］　ㄍㄨ　ku^{1}


小篆

㊀しうとめ。夫の母。〔說文〕姑、夫母也、从レ女古聲。〔爾雅、釋親〕婦稱二夫之母一曰レ姑。〔白虎通、三綱六紀〕親如レ母而非レ母者姑也。㊁をば。〔爾雅、釋親〕父之姉妹爲レ姑。〔釋名、釋親屬〕父之姉妹曰レ姑、姑、故也、言三於レ己已爲二久故之人一也。〔左氏、僖、十五〕姪其從レ姑。〔注〕謂二我姪一者、我謂二之姑一。㊂婦女の通稱。〔正字通〕姑、按、尸子曰、紂棄二黎老之言一、用二姑息之謀一、註、姑、婦女也、息、小兒也、當レ从二尸子註一。㊃しばらく。まあ。ともかく。夃(3－5693)に通ず。〔說文通訓定聲〕姑、叚借爲レ夃。〔小爾雅、廣言〕姑、且也。〔詩、周南、卷耳〕我姑酌二彼金罍一。〔傳〕姑、且也。〔左氏、隱、元〕子姑待レ之。〔注〕姑、且也。㊄蟲の名。螻蛄。〔孟子、滕文公上〕他日過レ之、狐狸食レ之、蠅蚋姑嘬レ之。〔焦循正義〕趙氏佑溫故錄云、姑、螻蛄也。㊅語調をととのへる助辭。〔孟子、滕文公上〕蠅蚋姑嘬レ之、集注〕姑、語助聲。㊆姓。〔康熙字典〕姑、姓、姑浮、越大夫。㊇［現］むすめ。處女。

【姑惡】1 コアク　鳥の名。其の鳴聲が姑惡といふので名づく。〔蘇軾、五禽言、詠二姑惡一、自注〕姑惡、水鳥也、俗云、婦以二姑虐一死、故其聲云。〔劉學箕、姑惡詩〕姑惡姑惡家道立、汝爲二人婦一供二婦職一。〔陸游、夜聞二姑惡一詩〕釣船夜過掠二沙際一、蒲葦蕭蕭姑惡聲。

【姑尤】2 コイウ　二川の名。姑水(大姑河)と尤水(小姑河)。大沽河は、源を山東省招遠縣の會仙山に發し、南流して萊陽を經る。小沽河は、源を掖縣の馬鞍山に發し、南流して大沽河に注ぎ、更に南流して平度縣を經て沽河となり、膠縣に至り、膠萊河と合して海に注ぐ。〔左氏、昭、二十〕聊攝以東、姑尤以西。〔注〕姑尤、齊東界也、姑水、尤水、皆在二城陽郡東南一入レ海。〔陸機、齊謳行〕東被二姑尤側一、南界二聊攝城一。〔齊乘〕姑、卽大姑河、尤、卽小沽河、姑水起二北海一、至二南海一、行三百餘里、絕二齊東界一、故曰二姑尤以西一。

【姑媱】3 コエウ　山名。〔山海經、中山經〕姑媱之山、帝女死焉、其名曰二女尸一、化爲二䔄草一、服レ之媚二于人一。

【姑繇】4 コエウ　㊀河の名。〔穆天子傳、六〕天子乃周二姑繇之水一、以圜二喪車一。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕涉二姑繇一而環迴。㊁大木の名。〔穆天子傳、六〕天子乃釣二于河一、以觀二姑繇之木一。〔注〕姑繇、大木也、山海經云、尋木、長千里、生二河邊一、謂二此木類一。

【姑衍】5 コエン　山名。蒙古の大漠の北に在る。〔史記、匈奴傳〕禪二姑衍一、臨二翰海一而還。〔漢書、霍去病傳〕將軍・相國・當戶・都尉八十三人、封二狼居胥山一、禪二于姑衍一、登二臨瀚海一。

【姑舅】6 コキウ　㊀しうとめとしうと。夫の母と父。舅姑。〔于濆、宮怨詩〕父兄未レ許レ人、畏三妾事二姑舅一。㊁ku^{1} chiu^{4}　從弟。

【姑舅成親】7 ku^{1} chiu^{4} ch'êng^{2} ch'in^{1}　兄弟の子と姉妹の子と結婚する。

【姑舅兩姨姉妹】8 コキウリヤウイシマイ　姑姉妹(20)・舅姉妹(9－30208‥20)・及び兩姨姉妹(1－1436‥4)を併せていふ。〔明律、戶律、婚姻〕若娶二己之姑舅兩姨姉妹一者、杖八十。

【姑溪】9 コケイ　宋、李之儀(6－14459‥1292)の號。

〖姑溪詞〗10コケイシ　書名。一卷。宋、李之儀撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

〖姑溪居士〗11コケイコジ　宋、李之儀(**6－14459**··129 2)の號。

〖姑溪居士前集〗12コケイコジゼンシフ　書名。五十卷。後集二十卷。宋、李之儀撰。之儀の詩文を集めたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【姑姑】13ココ　父の姊妹。をば。〔東坡志林、女妾、賈婆婆薦二昌朝一〕溫成皇后乳母賈氏、宮中謂二之賈婆婆一、賈昌朝連二結之一、謂二之姑姑一。

【姑公】14ココウ　❶しうとしうとめ。〔釋名、釋首飾〕里語曰、不レ瘖不レ聾、不レ成二姑公一。〔南史、庾仲文傳〕不レ癡不レ聾、不レ成二姑公一。❷ku^1 kung^1　祖父の姊妹の夫。

【姑嫂】15コサウ　ku^1 sao^3　しうとめとあによめ。

【姑臧】16コザウ　縣名。漢、置く。後魏、林中と改む。前涼・後涼・南涼・北涼及び唐初の李軌は、皆、此處に都す。唐に至り、吐蕃に陷れらる。今の甘肅省武威縣治。〔漢書、地理志下〕武威郡、縣十、姑臧。〔讀史方輿紀要、陝西、涼州衞〕姑臧廢縣、今衞治、漢置レ縣、爲二武威郡治一、晉因レ之、又爲二涼州治一、張軌・呂光、並都二於此一。

【姑子】17コシ　❶嫁入前の女子。〔古歡好曲〕淑女總角時、喚作二小姑子一。❷父の姊妹の子をいふ。〔鄴侯外傳〕明皇御二樓大酺一、召二三教一講論、泌姑子員俶、年九歲、掖昇二高座一、詞辯鋒起、譚者皆屈。❸ku^1 tzŭ　あま。尼。

〖姑子廟〗18　ku^1 tzŭ miao^4　尼寺。

【姑姊】19コシ　父の姊。伯母。姑姊妹を見よ。〔左氏、襄、二十一〕季武子以二公姑姊一妻レ之。〔釋文〕公姑姊、杜以、公之姑及姊、是二人也、或曰、列女傳稱、梁有二節姑姊一、謂二父之妹一也、此云二姑姊一、是父之姊也、一人耳、以二杜氏一爲レ誤。〔管子、小匡〕姑姊有二不レ嫁者一。〔墨子、節葬下〕姑姊甥舅。〔史記、汲黯傳〕黯姑姊子司馬安。

〖姑姊妹〗20コシマイ　父の姊妹。をば。〔左氏、襄、十二〕無レ女而有二姊妹及姑姊妹一。〔疏〕蓋父之姊爲二姑姊一、父之妹爲二姑妹一。〔公羊、莊、三〕請二後五廟一、以存二姑姊妹一。〔荀子、仲尼〕內行則姑姊妹之不レ嫁者七人。

【姑姼】21コシ　かろがろしい。かるはずみ。〔集韻〕姼、一曰、姑姼、輕薄。

【姑師】22コシ　漢代、西域諸國の一。車師をいふ。今の新彊省鄯善縣の地。〔史記、大宛傳〕樓蘭姑師小國耳。〔注〕集解曰、徐廣曰、卽車師。〔漢書、西域傳上〕及レ破二姑師一、未二盡殄一。

【姑螿】23コシ　蟲の名。よねむし。〔說文〕螿、姑螿、強羊也。

【姑慈】24コジ　しうとめの慈愛。〔晏子、重而異者〕夫和妻柔、姑慈婦聽、禮之經也。

【姑章】25コシヤウ　しうとしうとめ。章は嫜、しうと。姑嫜。舅姑。姑鍾(32)を見よ。

【姑嫜】26コシヤウ　しうとめとしうと。嫜はしうと。〔陳琳、飮馬長城窟行〕善侍二新姑嫜一、時時念二我故夫子一。〔杜甫、新婚別詩〕妾身未二分明一、何以拜二姑嫜一。〔集注〕師曰、姑之夫曰レ嫜。〔琵琶記、臨粧感歎〕所レ憂在二姑嫜一。

【姑孰】27コジユク　❶溪の名。安徽省當塗縣の南。丹陽湖を承け、大江に注ぐ。一に、姑溪、或は姑浦ともいふ。〔元和志〕姑孰水、在二縣南二里一、姑孰城、因レ此名。〔讀史方輿紀要、江南、太平府、當塗縣〕姑孰溪、在二府南二里一、由二丹陽湖一引レ流而北、合二支流諸水一、匯爲二姑孰溪一、亦謂二之姑浦一、又西過二鼉浦一經二城南一、謂二之南州津一。❷城の名。今の安徽省當塗縣治。姑孰溪に濱するによつて名づけらる。東晉の時、城を置き、以後、常に重鎭となる。〔元和志〕姑孰城、以二姑孰溪一名。〔讀史方輿紀要、江南、太平府、當塗縣〕姑孰城、今府治、漢丹陽縣地也、迫二臨江渚一、商賈湊集、魚鹽所レ聚、東晉時、置レ城戍守、幷積二鹽米于此一、城南臨二姑孰溪一、因曰二姑孰城一。

【姑且】28コシヨ　❶しばらく。〔字彙〕且、姑且、又苟且。〔正字通〕且、又姑且也、唐風、且以喜樂是也。❷川の名。〔漢書、匈奴傳上〕單于自將二精兵一、左安侯度二姑且水一。

【姑胥】29コシヨ　❶臺の名。姑蘇(35)の❷に同じ。〔越絕書、越絕外傳記吳地傳〕胥門外有二九曲路一、闔廬造以遊二姑胥之臺一、以望二太湖一、中闚二百姓一、去レ縣三十里。❷山名。姑蘇(35)の❶を見よ。

【姑妐】30コシヨウ　しうとしうとめ。舅姑。妐はしうと。〔呂覽、遇合〕姑妐知レ之曰、爲二我婦一而有二外心一、不レ可レ畜、因出レ之。〔注〕釋名曰、俗或謂レ舅曰レ章、又曰レ妐。

【姑縱】31コシヨウ　しばしゆるむ。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕是非執レ法公斷、不レ得二狥レ情姑縱一。

【姑鍾】32コシヨウ　しうとしうとめ。鍾はしうと。〔匡謬正俗〕古謂二舅姑一爲二姑章一、今俗亦呼爲二姑鍾一。

【姑壻】33コセイ　父の姊妹の夫。をばむこ。〔北史、高隆之傳〕爲二閹人徐成養子一、少時以二賃升一爲レ事、或曰、父幹爲二姑壻高氏所一レ養、因從二其姓一。

【姑洗】34コセン　❶十二律の一。黃鍾から第五番目に在り、十二支の辰に配し、陰曆三月に配す。辰は大梁に在る。轉じて、三月の異名とする。姑は故で舊、洗は鮮で新、萬物舊を去つて新に就く月の義。我が國の下無に當る。十二律(**2－2695**··407)を見よ。〔周禮、春官、大司樂〕乃奏二姑洗一。〔禮、月令〕季春之月、其音角、律中二姑洗一。〔注〕姑洗者、南呂之所レ生也、三分益レ一、律長七寸九分寸之一、季春氣至、則姑洗之律應。〔國語、周語下〕三曰、姑洗。〔呂覽、音律〕南呂生二姑洗一。〔史記、律書〕律中二姑洗一。❷鐘の名。〔左氏、定、四、疏〕知此大呂・姑洗、皆鐘名也、其聲與二此律一相應、故以レ律名焉。

【姑蘇】35コソ　❶山名。江蘇省吳縣の西南。一名、姑胥山、或は姑餘。山上に姑蘇臺がある。〔史記、河渠書〕上二姑蘇一、望二五湖一。〔范成大、吳郡志〕姑蘇山、一名姑胥、一名姑餘。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、吳縣〕姑蘇山、府西三十里、一名姑胥山、一名姑餘山、姑蘇臺在二其上一、闔閭所レ作也。❷臺の名。姑蘇山上に在る。吳王夫差が越を破つて得た美人西施を處く爲に築いたもの。一名、胥臺。姑胥。〔墨子、非攻中〕至二夫差之身一、云云、築二姑蘇之臺一、七年不レ成。〔閒詁〕案二國語一、以レ築二姑蘇一爲二夫差事一、與二此書一正合。〔史記、淮南衡山傳〕臣今見二麋鹿游二姑蘇之臺一也。〔張繼、楓橋夜泊詩〕姑蘇城外寒山寺、夜半鐘聲到二客船一。❸江蘇省吳縣の舊名。姑蘇山があるからいふ。

〖姑蘇行〗36コソカウ　廣東に於けるギルド(產業組合)七十二行の一。江南產の優秀食料品を取扱ふ店。姑蘇は蘇州の古名で、昔から食品の美味優秀を以て稱せられたから此の名を用ひた。

〖姑蘇會〗37コソノクワイ　同年に進士に及第した者の集りをいふ。〔書言故事、同年類〕敍二同年一曰三幸同二姑蘇之會一、范石湖撰姑蘇同年會詩序、進士科始レ隋盛二於唐一、本朝因レ之、偕升者、謂二之同年一、唐人曲江大會、長安坊市爲二半空一、天子至二御樓一以視、當二此時一通レ榜之士、意氣相與甚厚、否則有二青雲紫陌之譏一、宋朝略去二浮侈一、但存二聞喜一宴一、紹興改元、建陽袁起岩張元善、倶使二浙西一、始以二歲五日一、會下同年之在二吳下一者上、於二姑蘇之臺一、賦レ詩相屬、州里傳寫、一夕迨遍。

〖姑蘇志〗38コソシ　書名。六十卷。明、王鏊撰。首に姑蘇の沿革・守令・科第の三表を列し、沿革分野から以下三十一門に分ち、人物門中、又、子目十三に分つ。〔四庫提要、史、地理類〕。

〖姑蘇詞奴〗39コソシド　明、馮夢龍(**12－44579**··28 9)の號。

【姑息】40コソク　❶一時のがれをする。一時しのぎ。〔禮、檀弓上〕曾子曰、君子之愛レ人也以レ德、細人之愛レ人也以二姑息一。〔注〕息、猶レ安也、言二苟容取一レ安也。〔法言、問明〕譊言敗レ俗、譊好敗レ則、姑息敗レ德。〔後漢書、朱穆傳〕絕二其姑息一。〔注〕姑、且也、息、安也、小人之道、苟且取レ安也。❷姑は婦女、息は小兒をいふ。〔正字通〕姑、案、尸子曰、紂棄二黎老之言一、而用二姑息之謀一、註、姑、婦女也、息、小兒也。

【姑媳】41コソク　しうととよめ。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕若姑媳彼此反レ脣、夫妻偶爾角口。

【姑丈】42コヂヤウ　父の姊妹の夫。姑父。姑夫。〔釋親考續編〕姑丈、王梅溪集、祭二姑丈李公佐一。

【姑娘】43コヂヤウ　❶めかけ。妾媵。〔稱謂錄、妾、姑娘〕次妻・如君・細君・姨娘・姬娘・姑娘、兪正燮、癸巳類稿、又載二此數稱一、均未レ言三其出二於何書一、姑爲レ附二錄於後一。❷ku^1 niang　㋑父の姊妹。姑母。㋺未嫁の女。むすめ。㋩妓女。

〖姑娘菜〗44コヂヤウサイ　ほほづきの異名。酸醬。〔農政全書、姑娘菜考〕俗名二燈籠兒一、又名二掛金燈一、本草名二酸醬一、一名二醋漿一。

【姑姪】45 コテツ をばとめひ。〔梁武帝、移㆓京邑㆒檄〕姑姪莫㆑辨、掖庭有㆓裨販之名㆒。〔唐書、狄仁傑傳〕姑姪與㆓母子㆒孰親。

【姑婆】46 コバ 夫の祖父の姊妹。おほをば。〔釋親考續編〕姑婆。

【姑幕】47 コバク 縣名。❶漢、置く。故城は今の山東省諸城縣の西南。俗に薄姑とするのは誤である。〔漢書、地理志上〕琅邪郡、縣五十一、姑幕。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、諸城縣〕姑幕城、縣西四十里、通典、古蒲姑氏國、漢置㆓姑幕縣㆒、屬㆓琅邪郡㆒。❷東晉、僑置す。故城は今の江蘇省武進縣の東南。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、武進縣〕姑幕城、府西南六十里、東晉僑㆓置南東莞郡於晉陵南境㆒、僑㆓置莒縣㆒爲㆑治、又僑㆓置姑幕等縣㆒屬㆑焉、此其舊址也。

【姑夫】48 コフ ❶父の姊妹の夫。姑父。姑丈。〔蜀志、李恢傳〕姑夫爨習爲㆓建伶令㆒。〔南史、范雲傳〕雲六歲就㆓其姑夫袁叔明㆒讀㆓毛詩㆒。❷夫の姊妹の夫。〔因話錄〕盧仲元妻崔氏兄、得㆓金一瓶㆒、密埋㆓室內㆒、臨㆑終語㆓其妻李氏㆒曰、盧仲元來可㆑告也、後仲元來、李氏使㆓婢傳語㆒曰、新婦有㆓哀迫之事㆒、須㆔面見㆓姑夫㆒。〔五代史、淑妃王氏傳〕石敬塘兵犯㆓京師㆒、廢㆑帝聚㆑族將㆓自焚㆒、妃謂㆓太后㆒曰、事急矣、宜㆔少回避以俟㆓姑夫㆒。〔通俗編、倫常、姑夫〕婦人呼㆓小姑之夫㆒、亦曰㆓姑夫㆒。

【姑父】49 ku¹ fu⁴ 父の姊妹の夫。父方のをばむこ。

【姑布】50 コフ 複姓。〔通志、氏族略〕姑布氏、趙簡氏時、姑布子卿善㆑相、見㆓史記㆒、又漢有㆓姑布子㆒、望出㆓東平㆒。

【姑布子卿】51 コフシケイ 春秋、晉の人。趙簡子の時、大夫となり、相術を善くした。〔史記、四十三〕。

【姑復】52 コフク 縣名。漢、置く。故治は今の雲南省永北縣の東南。〔漢書、地理志上〕越巂郡、縣十五、姑復。

【姑表】53 ku¹ piao³ 母方の從兄弟の年長者。姑老表。

【姑表姊妹】54 ku¹ piao² tzŭ³ mei⁴ 母方の從姊妹。

【姑表弟兄】55 ku¹ piao³ ti⁴ hsiung 母方の從兄弟。

【姑蔑】56 コベツ 地名。❶春秋の魯の地。今の山東省泗水縣の東。〔春秋、隱、元〕公及㆓邾儀父㆒盟㆓于蔑㆒。〔杜注〕蔑、姑蔑、魯地、魯國卞縣南有㆓姑蔑城㆒。❷春秋の越の地。又、姑末に作る。今の浙江省龍游縣の北。〔左氏、哀、十三〕孫彌庸見㆓姑蔑之旗㆒曰、吾父之旗也。〔注〕姑蔑、今東陽太末縣。

【姑母】57 ku¹ mu³ 俗に父の姊妹をいふ。をば。

【姑媽】58 コマ ❶父の姊。伯母。〔煙嶼樓筆記〕今俗呼㆓父之姊㆒爲㆓姑媽㆒。❷ku¹ ma¹ おほをば。姑婆(46)に同じ。

【姑墨】59 コボク 國名。漢の西域三十六國の一。北は烏孫に、南は于闐の皮山に接し、東は龜茲に通ず。三國以後は龜茲に屬す。魏書には姑默、唐書には亟墨に作り、又、跋祿迦ともいふ。今の新疆省拜城縣の地。國治は南城、卽ち今の拜城縣西南の哈喇裕勒袞の地。〔漢書、西域傳上〕西北與㆓姑墨㆒接。〔漢書、西域傳下〕姑墨國、王治㆓南城㆒、去㆓長安㆒八千一百五十里。〔唐書、西域傳上〕自㆓龜茲㆒贏六百里、踰㆓小沙磧㆒、有㆓跋祿迦國㆒、小國也、一曰㆓亟墨㆒、卽漢姑墨國。〔讀史方輿紀要、陝西、附考、亦力把力〕姑墨國城、在㆓龜茲西六百七十里㆒、漢西域傳、姑墨國、治㆓南城㆒、去㆓長安㆒八千一百五十里、北接㆓烏孫㆒、南至㆓于闐㆒、馬行十五日、後漢建初三年、班超率㆓疏勒・康居・于闐・拘彌兵㆒、攻㆓姑墨石城㆒破㆑之、是也、其後衰絕、不㆑通㆓中國㆒。

【姑妹】60 コマイ 父の妹。叔母。姑姊(19)を見よ。〔左氏、襄、十二〕無㆑女而有㆓姊妹及姑姊妹㆒。〔疏〕父之妹爲㆓姑妹㆒。〔舊唐書、珍王誠傳〕德宗仁孝、動循㆓法度㆒、雖㆓子弟姑妹之親㆒、無㆑所㆓假借㆒。

【姑末】61 コマツ 地名。浙江省龍游縣の北。姑蔑(56)の❷に同じ。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕吳王聞㆓越王盡㆑心自守、食不㆑重㆑味、衣不㆑重㆑綵、云云、因而賜㆑之以㆑書、增㆑之以㆑封、東至㆓句甬㆒、西至㆓於檇李㆒、南至㆓於姑末㆒、北至㆓於平原㆒、縱橫八百餘里。〔注〕姑末、卽春秋越姑蔑之地、秦屬㆓會稽㆒爲㆓太末縣㆒、今衢州。

【姑射】62 コヤ コシヤ ❶國名。〔山海經、海內北經〕列姑射、在㆓海河州中㆒、姑射國、在㆓海中㆒、屬㆓列姑射㆒。❷山名。㋑仙人の居る山。姑射山の❶に同じ。〔宣和遺事、前集〕月裏嫦娥終有㆑恨、鑑中姑射未㆑應㆑眞。㋺山西省臨汾、襄陵・汾城三縣の界。一に石孔山といふ。〔山海經、東山經〕盧其山、又南三百八十里、曰㆓姑射之山㆒、又南水行三百里、流沙百里、曰㆓北姑射之山㆒、又南三百里、曰㆓南姑射之山㆒。〔郝懿行箋疏〕卽莊子逍遙遊之藐姑射山、在㆓汾水之陽㆒、平陽城西、以下三山、俱名㆓姑射㆒、但分㆓南北㆒、皆山在㆓中國㆒者、海內北經之列姑射、在㆓遠裔㆒者。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、臨汾縣〕姑射山、府西五十里有㆓姑射・蓮花二洞㆒、其南面支阜曰㆓平山㆒、平水出焉、其西北爲㆓分水嶺㆒、西接㆓蒲縣界㆒、舊有㆑關、今廢、又石孔山在㆓府西三十五里㆒、當㆓姑射山前㆒、九孔相通、深不㆑可㆑測。

【姑射山】63 コヤサン ❶はこやのやま。藐姑射山に同じ。藐姑射(9－32267··17)の❶を見よ。仙人の居るといふ山。姑射神人を見よ。❷はこやのやま。太上天皇のいます御所。院の御所。仙洞御所。

【姑射若冰】64 コヤジヤクヒヨウ 蒙求の標題。姑射山に住む神人は、其の肌が氷や雪の如く純白で、處女の如くしなやかであるといふ故事。姑射神人を見よ。

【姑射神人】65 コヤシンジン 姑射山に居る仙人。〔莊子、逍遙遊〕藐姑射山有㆓神人㆒居焉、肌膚若㆓冰雪㆒、淖約若㆓處子㆒、不㆑食㆓五穀㆒、吸㆑風飮㆑露、乘㆓雲氣㆒、御㆓飛龍㆒、而遊㆓乎四海之外㆒。

【姑爺】66 ku¹ yeh² むこ。聟。

【姑楡】67 コユ 木の名。にがにれ。無姑。〔爾雅、釋木〕無姑、其實夷。〔注〕無姑、姑楡也、生㆓山中㆒、葉圓而厚、剝㆓取皮㆒合漬㆑之、其味辛香、所謂蕪荑。

【姑餘】68 コヨ ❶海の名。〔左思、魏都賦〕若㆑咆㆔渤海與㆓姑餘㆒。❷姑蘇山をいふ。姑蘇(35)の❶を見よ。〔淮南子、覽冥訓〕過㆓歸鴈於碣石㆒、軼㆓鶤鷄於姑餘㆒。〔范成大、吳郡志〕姑蘇山、一名姑胥、一名姑餘。

【姑勞】69 コラウ 介蟲の名。車螯に似て殼が薄い。〔太平御覽、鱗介部、姑勞〕臨海水土物志曰、姑勞、如㆓車螯㆒而殼薄。

【姑榔】70 コラウ 桄榔樹の異名。桄榔(6－14758··4)を見よ。〔本草、桄榔子〕釋名、木名㆓姑榔木㆒。

【姑獲鳥】71 コクワクテウ 産婦の化生したといふ鳥。産女鳥。うぶめ。其の聲が小兒の泣くに似てゐるといふ。〔本草、姑獲鳥〕釋名、乳母鳥・夜行遊女・天帝少女・無辜鳥・隱飛・鬼鳥・譩譆・鉤星、時珍曰、昔人言、此鳥産婦所㆑化、隱慝爲㆑妖、故有㆓諸名㆒。〔荊楚歲時記〕正月夜多㆓鬼鳥㆒、家家槌㆑牀打㆑戶、捩㆓狗耳㆒、滅㆓燈燭㆒以禳㆑之。〔注〕按、玄中記云、此鳥名㆓姑獲㆒、好取㆓人女子㆒養㆑之、有㆓小兒㆒之家、卽以㆑血點㆓其衣㆒以爲㆑誌、故世人名爲㆓鬼鳥㆒。

【姑太太】72 ku¹ tʻai⁴ tʻai ❶少しく年老いた人妻の尊稱。❷父方の伯叔母の嫁した後の尊稱。

【姑奶奶】73 ku¹ nai³ nai ❶子の妻の兄弟。❷娘が嫁して人の妻となつて後の尊稱。

【姑老表】74 ku¹ lao² piao³ 母方のいとこの年長者。姑表(53)に同じ。

【姑老爺】75 ku¹ lao³ yeh 婿の尊稱。お婿さん。〔桃花扇、守樓〕楊姑老爺肯去、定娶不錯了。

【姑婁巴】76 クレオパトラ 古の埃及の女王。Cleopatra

【⿰女司】6175 シ 媤(3－3529)に同じ。〔集韻〕媤、或从㆑司。

【⿰女去】6176 キヤ 〔集韻〕去伽切 歌 女のあざな。〔集韻〕⿰女去、女字。

【姒】6177 シ ジ 〔集韻〕象齒切 ㄙˋ ssŭ⁴ 紙 ❶**あね**。娣姒(3－6329··1)を併せ見よ。㋑女子が己と同じ母から生れた姊を呼ぶ稱。娣(3－6329)の🈩に對す。爾雅の注に、同出、謂㆔倶嫁事㆓一夫㆒とあるは誤。姨(3－6222)の❶を見よ。〔爾雅、釋親〕女子同出、先生爲㆑姒、後生爲㆑娣。㋺同一夫に事

へる妻妾の中の、年少者が年長者を呼ぶ稱。娣(3－6329)の🈔の❶を併せ見よ。〔爾雅、釋親〕娣婦謂㆓長婦㆒爲㆓姒婦㆒。〔釋名、釋親屬〕少婦謂㆓長婦㆒曰㆑姒。(甲)妹が、己と倶に同一夫に嫁した同母姉を呼ぶ稱。(乙)妹が、己と倶に同一夫に嫁した同母姉・異母姉・族姉を呼ぶ稱。(丙)同一夫に事へる衆妾中の、年少者が年長者を呼ぶ稱。㋩弟の妻が兄の妻を呼ぶ稱。あによめ。〔儀禮、喪服傳〕娣姒婦者、弟長也。〔注〕娣姒婦者、兄弟之妻相名也。㋥兄弟の妻の互稱。あひよめ。〔正韻〕姒、兄弟之妻相謂、皆曰㆑姒。〔左氏、昭、二十八〕長叔姒生㆑男。〔注〕昆弟之妻、相謂爲㆑姒。❷さいはひ。祉(8－24641)に通ず。〔國語、周語下〕賜㆑姓曰㆑姒。〔注〕姒、猶㆑祉也。❸似(1－485)に同じ。❺を參照。〔說文通訓定聲〕似、字亦變作㆑姒。〔儀禮、特牲饋食禮、主婦及內賓宗婦亦旅西面、注〕擧㆓觶於其姒婦㆒。〔釋文〕姒、本或作㆑似。❹古は姐(3－6160)に作る。〔集韻〕姒、古作㆑姐。❺姓。〔通志、氏族略、以㆑姓爲㆑氏〕姒氏、伯鯀之姓、鯀爲㆓堯崇伯㆒、賜㆓姓姒氏㆒、其子禹、受㆓舜禪㆒爲㆓夏家㆒、至㆑桀而絕、杞國爲㆓姒姓之後㆒、王莽時、封㆓夏後遼西姒豐㆒爲㆓章功侯㆒、按㆓官氏志㆒、姒、亦改爲㆑似、後魏渴侯氏、改爲㆓似氏㆒。

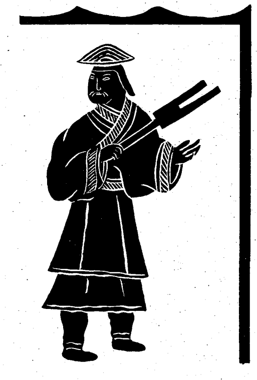
參考　娣(3－6329)の字解を見よ。

【姒癸】1 （キジ）　夏の桀王。姒は姓、癸は名。一名、履癸。孔甲の曾孫。暴虐無道で、妹喜と酒池糟丘を作つて長夜の飮をなし、湯王を夏臺に囚す。後、湯と戰つて鳴條に敗れ、南巢に走つて死す。在位五十三年。國亡ぶ。〔史記、二〕。

【姒娣】2 （ジテイ）　兄よめと弟よめ。あひよめ。〔唐書、竇皇后傳〕始元貞太后、羸老有㆑疾而性素嚴、諸姒娣皆畏、莫㆓敢侍㆑后事㆑之、獨怡謹盡㆑孝。

【姒婦】3 （フジ）　字義❶の㋺を見よ。又、あによめ。〔爾雅、釋親〕娣婦謂㆓長婦㆒爲㆓姒婦㆒。

【姒文命】4 （ジブンメイ）　夏の開國の君、禹王。姒は姓、文命は名。黃帝の曾孫。父、鯀の後をうけて洪水を治め、司空となる。外に在ること十三年、九州を開き、地のよしあしを見て貢を定め、夏伯に封ぜられて伯禹といふ。後、舜の禪を受けて天子となり、在位八年、東に巡狩して會稽に崩ず。〔史記、二〕。

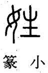

夏　禹　（金石索）

【姒庸道】5 （ジヨウダウ）　元、陝州の人。至正の間、米脂縣の長官となつて循績があつた。〔米脂縣志〕。

【姓】
6178

🈩セイ　シヤウ　〔集韻〕息正切　ㄒㄧㄥˋ　hsing⁴　敬

🈔サウ　シヤウ　〔集韻〕師庚切　庚


小篆

🈩❶**かばね**。血すぢをあらはす稱呼。家がらをあらはす氏に對す。もと其の先祖の生れた時の事情にちなんで付けた稱呼。〔說文〕姓、人所㆑生也、古之神聖人母、感㆑天而生㆑子、故偁㆓天子㆒、因㆑生以爲㆑姓、从㆓女生㆒、生亦聲、春秋傳曰、天子因㆑生吕賜㆑姓。〔詩、唐風、杕杜〕不㆑如㆓我同姓㆒。〔傳〕同姓、同祖也。〔左氏、隱、八〕天子建㆑德、因㆑生以賜㆑姓。〔史記、五帝紀〕姓、姬氏。〔注〕集解曰、鄭玄駁㆓許愼五經異義㆒曰、姓者、所㆘以統㆓繫百世㆒、使㆖不㆑別也、氏者、所㆔以別㆓子孫之所㆑出、故世本之篇、言㆑姓則在㆑上、言㆑氏則在㆑下也。〔白虎通、姓名〕人所㆓以有㆑姓者何、所㆘以崇㆓恩愛㆒厚㆓親親㆒、遠㆓禽獸㆒別㆗婚姻㆖也、故紀㆑世別㆑類、使㆓生相愛、死相哀、同姓不㆑得㆓相娶㆒者、皆爲㆑重㆓人倫㆒也。❷**氏と混用して、家がらをあらはす稱呼**。〔國語、周語中〕百姓兆民。〔注〕百姓、百官也、官有㆓世功㆒、受㆓姓氏㆒也。❸**役人**。〔書、堯典〕平㆓章百姓㆒。〔傳〕百姓、百官。❹**人民**。〔漢書、高帝紀〕鎭㆓國家㆒、撫㆓百姓㆒。❺**生む**。**子**。生(7－21670)に通ず。〔說文通訓定聲〕姓、叚借爲㆑生。〔小爾雅、廣言〕姓、子也。〔廣雅、釋親〕姓、子也。〔左氏、昭、四〕庚宗之婦人、獻以㆑雉、問㆓其姓㆒、對曰、余子長矣、能奉㆑雉而從㆑我矣。〔注〕問㆓有㆑子否㆒。〔釋文〕女生曰㆑姓、謂㆑子也。❻**うから**。**やから**。〔儀禮、特牲饋食禮〕子姓兄弟、如㆓主人之服㆒。〔注〕言㆓子姓㆒者、子之所㆑生。〔禮、喪大記〕父兄子姓、立㆓于東方㆒、云云、姑姉妹子姓、立㆓于西方㆒。〔注〕子姓、謂㆓衆子孫㆒也。❼**易では坤にあてる**。〔易、繫辭下〕百姓與㆑能。〔虞注〕坤爲㆑姓。❽**さが**。稟命。性(4－10478)に通ず。〔說文通訓定聲〕姓、叚借爲㆑性。〔國語、周語中〕不㆓亦瀆㆑姓矣乎。〔注〕姓、命也。❾古は𤯓(7－21692)・眚(7－21686)に作る。〔集韻〕姓、古作㆑𤯓。〔字彙補〕眚、古文姓。❿**姓**。〔尙友錄〕姓、姓望、出㆓臨淄㆒、今南海有㆓此族㆒。〔漢書、食貨志〕臨淄人、姓偉、貲五百萬。🈔**人名**。〔集韻〕姓、闕、人名。〔春秋、哀、四〕蔡殺㆓其大夫公孫姓・公孫霍㆒。〔釋文〕姓、本又作㆑生。**邦**　**かばね**。我が國の上古に於ける、臣（オミ）連（ムラジ）伴造（トモノミヤツコ）國造（クニノミヤツコ）首（オビト）忌寸（イミキ）君（キミ）別（ワケ）縣主（アガタヌシ）稻置（イナギ）直（アタヒ）等の總稱で、例へば、臣の家は大臣となり、連の家は大連となり、國造の家は地方官となるなど、家筋に依る世襲の職名であつたが、天武天皇の時、改めて眞人（マヒト）・朝臣（アソミ）・宿禰（スクネ）・忌寸・道師（ミチノシ）・臣・連・稻置の八級と定め、更めて朝廷から家々に賜ひ、氏に添へて之を稱し、家筋の尊卑の等級をあらはす號となつた。今は氏に通じて用ひる。

名乘　ウヂ。

解字　會意形聲。女と生との合字。一つの祖から生れでたものを他と區別するために用ひた號。故に、子を生む女の字と生の字とを合して姓とす。姓はもと天子から賜はり、或は其の始祖の居住地等に因んでつけた。神農の母が姜水に居つて姜を姓とし、黃帝の母が姬水に居つて姬を姓としたなどは後者の例である。生はまた音符。假借して、生・性とする。〔說文通訓定聲〕姓、人所㆑生也、从㆑女从㆑生、會意、生亦聲、古之神聖母、感㆑天而生㆑子、故稱㆓天子㆒、春秋隱公八年左氏傳曰、天子建㆑德、因㆑生以賜㆑姓、神農母居㆓姜水㆒、黃帝母居㆓姬水㆒、舜母居㆓姚虛㆒、因以爲㆑姓、故从㆓女生㆒。

【姓偉】1 （セイキ）　漢、臨淄の人。成帝・哀帝の頃、財を有すること五千萬、貨殖を以て知られた。〔漢書、九十一〕。

【姓號】2 （セイガウ）　姓。〔史記、平準書〕爲㆑吏者長㆓子孫㆒、居㆑官者以爲㆓姓號㆒。〔注〕如淳曰、倉氏庾氏、是也。

【姓系】3 （セイケイ）　氏族の系統。〔唐書、路敬淳傳〕敬淳、尤明㆓姓系㆒、自㆓魏晉㆒以降、推㆓本其來㆒、皆有㆓條序㆒。

【姓觽】4 （セイケイ）　書名。十卷。明、陳士元撰。韻に依つて編輯し、略〻源流、支派を載す。單姓・複姓、凡そ三千七百二十四を收めてゐるが、徵引する所は萬姓統譜の詳かなのに及ばない。〔四

庫提要、子、類書存目〕。

【姓氏】5セイシ　姓と氏。三代以前は姓氏を二つに分ち、姓は貴賤に關せず、皆之を有してゐたが、氏は貴賤を分つもので、貴い者だけが之を有し、賤しい者にはなかつた。又、姓は婚姻を分つもの故、同姓・異姓・庶姓の別がある。三代以後は姓氏を合して一となし、皆婚姻を分つ所以となり、地望を以て貴賤を明かにした。明の洪武の頃、吳沈は「千家姓」を撰し、姓一千九百六十八を擧げてゐる。〔左氏、隱、八〕天子建レ德、因レ生以賜レ姓、胙二之土一而命二之氏一。〔注〕立二有德一以爲二諸侯一、因二其所一レ由生一以賜レ姓、謂下若二舜由一レ嬀汭一、故陳爲二嬀姓一、報レ之以レ土、而命レ氏曰上レ陳。〔通鑑外紀注〕姓者、統二其祖考之所一レ自出一、氏者、別二其子孫之所一レ自分一。〔通志、氏族略序〕三代之前、姓氏分而爲レ二、貴者有レ氏、賤者有レ名無レ氏、故姓可二呼爲一レ氏、氏不レ可二呼爲一レ姓、姓所三以別二婚姻一、故有二同姓・異姓・庶姓之別一、氏同姓不レ同者、婚姻可レ通、姓同氏不レ同者、婚姻不レ可レ通、三代之後、姓氏合而爲レ一、皆所三以別二婚姻一、而以二地望一明二貴賤一。〔隨園隨筆〕禮疏云、天子賜レ姓賜レ氏、諸侯賜レ氏不レ賜レ姓、貴有レ氏、賤無レ氏、男稱レ氏、女稱レ姓、姓者所下以統二繫百世一而不上レ變者也、氏者所四以別三子孫所二自出一、一傳而變者也、天子賜レ姓、舜之嬀、周之姬、是也、胙二之土一而命二之氏一、舜之有虞、禹之有夏、是也、國君無レ氏、故踐土之盟、稱レ國不レ稱レ氏。〔日知錄、雜論、氏族〕姓氏之稱、自二太史公一始混而爲レ一、本紀、於二秦始皇一則曰二姓趙氏一、於二漢高祖一則曰二姓劉氏一、是也。

【姓氏錄】6セイシロク　書名。唐、許敬宗撰。九等號名氏族志を改め、品位の高下によつて姓氏を記錄したもの。〔唐書、高士廉傳〕。

【姓氏解紛】7セイシカイフン　書名。十卷。清、黃本驥撰。姓觿の繁を刪り、闕を補ひ、韻に依つて編次す。〔三長物齋叢書、第二十八―三十册〕。

【姓氏尋源】8セイシジンゲン　書名。四十五卷。清、張澍撰。姓の始源を尋ねて、歷代姓氏書の誤を闢き、平水韻に依つて編次す。〔姓氏五書〕。

【姓氏急就篇】9セイシキフシウヘン　書名。二卷。宋、王應麟撰。史游の急就篇の體に倣ひ、姓氏を排纂して記誦に便にす。別に又、名物をも列記す。〔四庫提要、子、類書類〕。

【姓氏書辨證】10セイシシヨベンシヨウ　書名。四十卷。宋、鄧名世撰。姓氏の書に就いて詳しく考證をなす。〔四庫提要、子、類書類〕。

【姓字】11セイジ　うぢとあざな。姓。又、姓名。〔韓詩外傳、二〕變二易姓字一。〔墨子、經說上〕聲出レ口俱有レ名、若二姓字一。

【姓字老二樵漁一】12セイジセウギヨニオユ　一生、漁師や樵夫となつて無名にをはること。〔長生殿、疑讖〕不レ爭便姓字老二樵漁一。

【姓族】13セイゾク　名望ある大族。名族。〔後漢書、朱穆傳〕臣聞、漢家舊典、置二侍中・中常侍各一人一、省二尚書事一、黃門侍郎一人、傳二發書奏一、皆用二姓族一。〔注〕引下用士人有二族望一者上。

【姓譜】14セイフ　祖先以來の家系をしるした記錄。系譜。〔四庫提要、子、類書類〕萬姓統譜、一百四十六卷、附、氏族博攷十四卷、明、凌迪知撰、迪知有二左國腴詞一、已著錄、其書以二古今姓氏一分韻編次、略仿二林寶元和姓纂一、以二歷代名人履貫事蹟一、案二次時代一、分二隸各姓下一、又仿二章定名賢氏族言行類槀一、名爲二姓譜一、實則合二譜牒傳記一而其成二一類事一之書也。

【姓名】15セイメイ　❶かばねと名。みやうじと名。名姓。〔漢書、項籍傳〕書足三記二姓名一而已、劍一人敵、不レ足レ學。〔漢書、卜式傳〕上識二式姓名一。〔何晏、論語集解敍〕記二其姓名一。❷白虎通の篇名。

【冒レ姓】16セイヲヲカス　他の姓を名乘ること。母の姓を名乘ることもあり、主君の姓を名乘ることもある。多くは勢力を得る爲である。〔漢書、衞青傳〕青有二同母兄衞長君及姉子夫一、子夫自二平陽公主家一得レ幸二武帝一、故青冒レ姓爲二衞氏一。〔注〕師古曰、冒、謂二假稱一、若三人首之有二覆冒一也。

【姓石非レ右】17セイハセキイウニアラズ　五代、晉の石昂が楊彥朗に謁した時、彥朗の贊者が、彥朗の諱が石であるので、石昂を右昂と改めたところ、石昂が彥朗を責めて、自分の姓は石であつて右ではないと言つた故事。節を屈しない喩。〔新五代史、石昂傳〕昂以二公事一至レ府上謁、贊者以二彥朗諱石一、更二其姓一曰レ右、昂趨二于庭一、仰責二彥朗一曰、內侍奈何以レ私害レ公、昂姓石、非レ右也。

【昭レ姓考レ瑞】18セイヲアキラカニシズイヲカンガフ　臣下の姓を昭らかにし、天地の符瑞を考へる。天子の行ふ大事。〔漢書、兒寬傳〕其封二泰山一、禪二梁父一、昭レ姓考レ瑞、帝王之盛節也。

【妭】6179　ヒ　〔集韻〕攀糜切　［支］

女のあざな。〔集韻〕妭、女字。

【𡛼】6180　バウ　メウ　〔集韻〕莫飽切　［巧］

みめよい。媌(**3－6488**)に同じ。〔集韻〕媌、博雅、好也、或作レ𡛼。

【委】6181

［一］ヰ　〔集韻〕鄔毀切　［紙］　ㄨㄟˇ　wei^{3}

［二］ヰ　〔集韻〕於僞切　［寘］

［三］ヰ　〔集韻〕邕危切　［支］　ㄨㄟ－　wei^{1}

小篆

［一］❶**ゆだねる**。まかせる。諉(**10－35636**)に通ず。〔說文通訓定聲〕委、叚借爲レ諉。〔左氏、文、六〕委二之常秩一。〔注〕委、任也。〔左氏、成、二〕王使レ委二於三吏一。〔注〕委、屬也。〔國語、越語下〕委二制於吳一。〔注〕委、歸也。〔戰國、齊策〕願委二之於子一。〔注〕委、付也。❷**すてる**。すておく。〔廣雅、釋詁一〕委、棄也。〔字彙〕委、棄置也。〔左氏、昭、元〕是委二君貺於草莽一也。〔會箋〕棄三鄭君所二辱貺一也。〔孟子、公孫丑下〕委而去レ之。〔集注〕委、棄也。〔淮南子、精神訓〕委二萬物一而不レ利。〔注〕委、棄也。❸**たまる**。つかへる。とどこほる。〔唐書、杜遜能傳〕詔書雲委。❹**おく**。〔左氏、昭、元〕鄭徐吾犯之妹美、公孫楚聘レ之矣、公孫黑又使二強委レ禽焉。〔管子、山國軌〕大家委貲家。〔纂詁〕委、置。❺**したがふ**。すなほ。おだやか。〔說文〕委、委隨也、从レ女从レ禾。〔段注〕隨、從也。❻**ふす**。〔荀子、仲尼〕委然成レ文、以示二之天下一。〔注〕委然、俯就之貌。❼**まげる**。隈(**11－41748**)に通ず。〔說文通訓定聲〕委、叚借爲レ隈。〔楚辭、劉向、九歎、遠遊〕委二兩館於咸唐一。〔注〕委、曲也。〔後漢書、馮衍傳〕委レ質爲レ臣、無レ有二二心一。〔注〕委レ質、猶レ屈レ膝。❽**やすらか**。**やすんずる**。〔儀禮、士昏禮〕委貌。〔注〕或謂二委貌一爲二元冠一、委、猶レ安也、言四所三以安二正容貌一。❾**冠のへりまき**。冠卷。〔禮、雜記上〕委武玄縞而后蕤。〔注〕委武、冠卷也、秦人曰レ委、齊東曰レ武。❿**周代の冠の名**。委貌(141)を見よ。〔穀梁、僖、三〕桓公委端搢笏、而朝二諸侯一。〔注〕委、委貌之冠也。⓫**つまびらか**。**くはしい**。こまごま。〔史記、司馬相如傳〕委瑣握齪。〔注〕索隱曰、委、曲也。⓬**おこたる**。痿(**7－22290**)に通ず。〔說文通訓定聲〕委、叚借爲レ痿。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕欿愁悴而委惰兮。〔注〕委惰、懈倦也。⓭**なえる**。やむ。𣧑(**6－16487**)に通ず。〔說文通訓定聲〕委、叚借爲レ𣧑。〔孔子家語、終記解〕喆人其委。〔注〕委、頓也。〔謝朓、暫使二下都一夜發二新林一至二京邑一贈二西府同僚一詩〕時菊委二嚴霜一。〔注〕善曰、委、猶レ悴也。⓮**すゑ**。〔正字通〕委、本曰レ原、末曰レ委。〔禮、學記〕或原也、或委也。〔注〕委、流所レ聚也。⓯**つむ**。か

さねる。〔鮑照、蕪城賦〕委ニ骨窮塵一。〔注〕善曰、委、猶レ積也。⓰姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕委氏、周禮有ニ委人一、掌ニ委積一、其後氏レ焉。⓱［現］㋑派遣する。㋺命ずる。㋩確實。

［二］❶たくはへ。かこひ。〔周禮、天官、宰夫〕委積・膳獻。〔注〕委積、謂ニ牢米薪芻、給ニ賓客道用一也。〔周禮、地官、大司徒〕大賓客令ニ野修ニ道委積一。〔注〕少曰レ委、大曰レ積、皆所ニ以給ニ賓客一。〔周禮、地官、遺人〕掌ニ邦之委積一。〔疏〕二十里言レ委、五十里言レ積。❷積む。倉庫に積み入れる。〔孟子、萬章下〕孔子嘗爲ニ委吏一矣。〔注〕委吏、主ニ委積倉庾一之吏也。❸運ぶ。〔後漢書、千乘貞王伉傳〕國土卑溼、租委鮮薄。〔注〕委、謂ニ委輸一也。〔後漢書、張純傳〕督ニ委輸一。〔注〕委輸、轉運也。［三］❶物のさま。委蛇(5)の❶—❽・委委(6)を見よ。❷あやがあるさま。委然を見よ。〔荀子、仲尼〕委然成レ文。〔集解〕王引之曰、委然、文貌也。

［名乘］クツ。ツク。トモ。モロ。

［解字］會意形聲。禾と女との合字。禾はまた聲。女は從順なもの、禾は稻の穗のたれる義、又、和の義。故に禾と女とを合せて從順な貌をあらはす。〔說文、委、隨也、段注〕辵部曰、隨、從也、毛詩羔羊傳曰、委蛇者、行可ニ從迹一也、君子偕老傳曰、委委者、行可ニ委曲從迹一也、按、隨ニ其所レ如曰ニ委委一。

【委它】1 ヰタ タイ 行くさま。委蛇。〔後漢書、儒林傳序〕服ニ方領一習ニ矩步一者、委ニ它乎其中一。〔注〕委它、行貌也。〔王先謙集解〕惠棟曰、委它、卽委蛇也。它、音徒河反。

【委佗】2 ヰタ タイ ❶ゆつたりしたさま。のびやかなさま。委蛇。〔詩、鄘風、君子偕老〕委委佗佗、如レ山如レ河。〔集傳〕委委佗佗、雍容自得之貌。❷行くさま。〔後漢書、任光邳彤傳贊〕任邳識レ幾、嚴城解レ扉、委佗還レ旅、二守焉依。〔注〕佗、音移、行貌也。❸美しいさま。〔爾雅、釋訓〕委委佗佗、美也。〔注〕皆佳麗美豔之貌。〔一切經音義、三〕委佗、德之美貌也。〔詩、鄘風、君子偕老、委委佗佗、釋文〕韓詩云、德之美貌。

【委迤】3 ヰイ うねうねと曲るさま。委蛇。〔古詩十九首〕東城高且長、委迤自相屬。

【委移】4 ヰイ 長驅するさま。〔楚辭、九章、悲回風〕馳委移之焉止。〔注〕雖レ欲ニ長驅一、無レ所レ及也。〔集注〕委、音逶、移、一作レ蛇、止、一作レ至。

【委蛇】5 ヰタ タイ 一に委迤・委佗・委它・逶隨に作る。❶おちついてあせらないさま。ゆつたりしてゐるさま。從容自得のさま。〔詩、召南、羔羊〕退ニ食自レ公、委蛇委蛇。〔箋〕委蛇、委曲自得之貌。〔後漢書、周擧傳〕加ニ賜錢十萬一、以旌ニ委蛇素絲之節一焉。❷面を地につけて腹ばひ行くさま。〔史記、蘇秦傳〕嫂委蛇蒲服。〔注〕索隱曰、委蛇、謂ニ面掩レ地而進、若ニ蛇行一也。❸かがみまがるさま。うねうねとまがるさま。屈曲。〔司馬相如、上林賦〕紆餘委蛇。〔注〕五臣本作ニ逶迤一、良曰、紆餘逶迤、屈曲皃。❹斜に出るさま。斜出。〔成公綏、天地賦〕河漢委蛇而帶レ天。❺旗のひるがへるさま。〔楚辭、離騷〕駕ニ八龍之婉婉一兮、載ニ雲旗之委蛇一。❻すなほにしたがふさま。順從。〔莊子、天運〕夫形充ニ空虛一、乃至ニ委蛇一、女委蛇、故怠。〔注〕夫形充ニ空虛一、無レ身也、無レ身、故能委蛇、委蛇任レ性、而悚懼之情怠也。〔莊子、應帝王〕吾與レ之虛而委蛇。〔注〕委蛇者、無レ心而隨ニ物化一也。❼身をまげて物に從ふさま。委曲。〔易林、困之第四十七、坎〕委蛇循レ河、至ニ北海涯一。❽長いさま。〔嵇康、琴賦〕婉順敍而委蛇。〔注〕向曰、委蛇、長遠貌。〔成公綏、天池賦〕河漢委蛇而帶レ天。❾鬼物の名。〔莊子、達生〕澤有ニ委蛇一、公曰、請問、委蛇之狀何如、皇子曰、委蛇、其大如レ轂、其長如レ轅、紫衣而朱冠、其爲レ物也、惡レ聞ニ雷車之聲一、則捧ニ其首一而立、見レ之者殆ニ乎霸一。〔疏〕桓公見ニ鬼本在ニ澤中一、既聞ニ委蛇一、故問ニ其狀一。❿泥鰌(6−17311・・38)の異名。〔莊子、達生〕食レ之以ニ委蛇一、則平陸而已矣。〔釋文〕司馬云、委蛇、泥鰌。

【委委】6 ヰヰ のびやかで美しいこと。委委佗佗「を見よ。

【委委佗佗】7 ヰヰ イイ のびやかで美しいさま。〔爾雅、釋訓〕委委佗佗、美也。〔疏〕李巡曰、皆寬容之美也。〔詩、鄘風、君子偕老〕委委佗佗、如レ山如レ河。〔傳〕委委者、行可ニ委曲蹤迹一也、佗佗者、德平易也。〔疏〕釋訓、委委佗佗、美也、李巡曰、寬容之美也、孫炎曰、委委、行之美、佗佗、長之美、郭璞曰、皆佳麗美豔之貌、爲ニ宣姜自佳麗美豔、行步有レ儀、長大而美一。

【委萎】8 ヰヰ 藥草の名。ゑみぐさ。〔爾雅、釋草〕熒、委萎。〔注〕藥草也。〔疏〕本草、女萎、萎蕤、一名熒也。

【委維】9 ヰヰ どぢやう。委蛇の❿に同じ。〔山海經、大荒南經〕赤水之東、有ニ蒼梧之野一、爰有ニ文具、云云、委維一。〔注〕委維、卽委蛇也。

【委員】10 ヰヰン 選擧又は任命によつて一定の職務を委囑せられた人。〔清會典事例、刑部、刑律、斷獄、辯ニ明冤枉一〕凡審ニ理事件一、除下事涉ニ兩邑一、或案情重大、發レ審之初、卽委員會審者、仍令中會同審詳上外、其因ニ承審錯誤一、另委ニ別官一審理者、專責委員、虛心質訊、毋レ庸ニ原問官會審一。〔清國行政法汎論、文官任務、差委〕實職或候補候選官吏、於ニ一定期內一、辨ニ理他事務一、又命辨ニ理新設官廳事務一、謂ニ之差委一、差者、皇帝之所レ派、委者、上官之所レ派、故或曰ニ欽差一、又曰ニ委員一。

【委員會】11 ヰヰンクワイ ❶複數の委員を以て組織する合議制の機關。❷國會が本會議の議決前に於て審議又は調査させる委員會。

【委員附託】12 ヰヰンフタク 議案などの審査を委員にまかせること。

【委羽】13 ヰウ 山名。❶九州の外、北極の陰にあり。〔淮南子、墬形訓〕九州之外、乃有ニ八殥一、云云、北方曰ニ積冰一、曰ニ委羽一。〔注〕委羽、山名、在ニ北極之陰一、不レ見レ日。〔謝靈運、擬ニ魏太子鄴中集一詩〕擧レ翮自ニ委羽一。〔注〕銑曰、委羽、北方山名。❷浙江省黃巖縣の南。一名、俱依山。山の東北の洞は、俗に仙人劉奉林が鶴を控へて翮を墜した處と傳へ、道書に第二洞天とす。又、宋の徐中行が科擧を避けて入つた處。〔輟耕錄、委羽山〕吾鄉台之黃巖諸山、脈絡相連、屬ニ大江越州治北一、自レ州出ニ南門一、陸行四五里許、有ニ委羽山一、特立不レ倚、形如ニ落舞鳳一、故得レ名。〔雲笈七籤〕委羽山洞、周迴萬里、在ニ台州黃巖縣一、去レ縣三十里。〔洞天福地記〕第二委羽洞、週周一萬里、名曰ニ九有虛明之天一、在ニ兗州東嶽一。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府、黃巖縣、永寧山〕委羽山、在ニ縣南五里一、一名俱依山、山東北有レ洞、俗傳ニ仙人劉奉林控レ鶴墜レ翮處一、道書以爲ニ天下第二洞天一。

【委羽居士】14 ヰウコジ 宋、左緯(4−8720・・4)の號。

【委鬱】15 ヰウツ ひるがへるさま。〔潘岳、宋孝武宣貴妃誄〕旌委鬱、於飛飛。〔注〕委鬱、飄揚也。

【委雲】16 ヰウン 積み重なつた雲。積雲。〔管子、侈靡〕雲平而雨不レ甚、無ニ委雲一、雨則遬已。〔纂詁〕雲不ニ相塡委一。

【委咽】17 ヰエツ むせぶ。むせび泣く。〔徐彥伯、淮亭吟詩〕崩湍委咽日夜流、孤客危坐心自愁。

【委葉】18 ヰエフ 雜草の名。〔爾雅、釋草〕蒤、委葉。〔疏〕蒤、一名委葉、原田蕪穢之草。

【委捐】19 ヰエン すてる。委棄。〔魏志、武帝紀、冬作ニ銅雀臺一、注〕然欲下孤便爾委ニ捐所レ典兵衆一、以還中執事上。

【委宛】20 wei² wan³ 委婉に同じ。

【委婉】21 wei² wan³ 婉曲に話す。

【委遠】22 ヰエン すてとほざける。〔後漢書、鄧禹傳論〕悲哉、隲悝兄弟、委ニ遠時柄一、忠ニ勞王室一。

【委下】23 wei³ hsia⁴ ❶下に置く。❷まかせて置く。

【委骸】24 ヰガイ すてられたむくろ。〔顏延之、陽給事誄〕路無ニ歸轊一、野有ニ委骸一。

【委巷】25 ヰカウ まがりくねつた街。むさくるしい街。陋巷。〔禮、檀弓上〕小功不レ爲レ位也者、是委巷之禮也。〔集說〕委、曲也、曲巷、猶レ言ニ陋巷一。〔孔叢子、執節〕委巷之鄙事爾。〔孔叢子、居衞〕昔魯委巷、亦有下似ニ君之言一者上。

【委巷之言】26 ヰカウノゲン いやしい言葉。

【委巷叢談】27 ヰカウソウダン 書名。明、田汝成撰。民間の風俗・習慣等に就いて見聞した所を錄したもの。小說戲曲に關する有益な資料に富んでゐる。〔說郛、第十八冊〕。

【委褐】28 ヰカツ 粗服をすてる。仕官することをいふ。釋褐。〔宋書、王僧達傳〕僧達啓求ニ徐州一曰、

臣衰索二餘生一、逢レ辰藉レ業、先帝追二念功臣一、眷及二遺賤一云云、從レ官委レ褐、十有一載。

【委勘】29 ヰカン 申しつけてただす。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕議二覆委勘一、沂州江風口沙壓二荒地一。

【委寄】30 ヰキ まかせる。〔李衛公問對、下〕推二其轂一者、所三以委寄以レ權也。〔舊五代史、唐明宗紀一〕租庸使下孔謙濫二承委寄一、專掌中重權上。

【委棄】31 ヰキ ❶すてる。すてておく。うつちやつておく。委捐。委舍。〔漢書、谷永傳〕書陳二於前一、陛下委棄不レ納。〔後漢書、荀彧傳〕委二棄兗豫一、飢軍深入、踰二越江沔一。〔吳志、胡綜傳〕委二棄封域一。❷土地などの所有權を拋棄して他人の自由處分に委ねること。

【委咎】32 ヰキウ 己の罪を他へ轉嫁する。委罪。〔晉書、石季龍載記上〕冀州八郡大蝗、司隸請レ坐二守宰一、季龍曰、此政之失レ和、朕之不德、而欲三委二咎守宰一、豈禹湯罪レ己之義邪。

【委裘】33 ヰキウ ❶先帝の遺したころも。容衣。靈衣。天子が崩じて新君が未だ朝に坐せぬ時、先帝の衣裘を設け置いて之に事へること。〔漢書、賈誼傳〕植二遺腹一朝二委裘一、而天下不レ亂。〔注〕孟康曰、委裘、若二容衣一、天子未レ坐レ朝、事二先帝裘衣一也。〔梁書、張纘傳〕挾二仲謀之雄氣一、朝二委裘一而作レ輔。❷衣裳を垂れる。〔呂覽、察賢〕堯之容若レ委二衣裘一、以言二少事一也。❸賢者を用ひる喩。〔任昉、爲二蕭揚州一作薦レ士表〕物二色關下一、委二裘河上一。〔注〕善曰、晏子曰、治二天下一若レ委レ裘、用レ賢委レ裘之實、桓公聽二管仲一、而趙襄子信二王登一、此之謂二委裘一、然委裘、謂レ用レ賢也。

【委仰】34 ヰギヤウ その人にまかせる。のぞみをかける。屬望。〔蜀志、費詩傳〕盡不レ信二沖言一、委二仰明公一、無二復已已一。

【委去】35 ヰキヨ すてさる。〔孟子、公孫丑下〕委而去レ之。〔吳志、董襲傳〕受二將軍任一、在レ此備レ賊、何等委去也。〔世說新語、排調〕駛レ車委去、比レ出已遠。

【委曲】36 ヰキヨク ❶こまかによくとどくこと。くはしくこまかなこと。一部始終。委は末、曲は、つぶさ。ひとつひとつ。委悉。委細。詳細。〔三略、上略〕委曲弄レ文。〔史記、天官書〕若至二委曲小變一、不レ可レ勝レ道。〔司馬相如、子虛賦〕紆徐委曲、鬱二橈谿谷一。〔後漢書、班彪傳〕細意委曲、條例不レ經。❷身を屈してしたがふさま。隨從。〔漢書、谷永傳〕委曲從順。〔漢書、儒林、嚴彭祖傳〕何可三委曲從レ俗、苟求二富貴一乎。〔新語、資質〕㝮㝮詰屈、委曲不レ同。〔陶潛、士不遇賦〕不三委曲而累レ己。〔韓愈、答二馮宿一書〕委曲從順。

【委禽】37 ヰキン 婚禮の納采に雁を贈ること。禽は雁をいふ。〔左氏、昭、元〕鄭徐吾犯之妹美、公孫楚聘レ之矣、公孫黑又使二強委禽一焉。〔注〕禽、鴈也、納采用レ鴈也。

【委屈】38 ヰクツ ❶身を屈して人に從ふこと。又、下位に居て意を得ないこと。〔後漢書、孔融傳論〕夫嚴氣正性、覆折而已、豈有四員園委屈可三以每二其生一哉。〔注〕每、貪也。言二寧正直以傾覆摧折、不レ能二委曲以貪レ生也。❷wei³ ch'ü¹ 迷惑。

【委化】39 ヰクワ 造化にまかせる。運にまかせる。〔楊固、演賾賦〕既聽レ天而委レ化兮、無二形志之兩疲一。〔王曾、有物混成賦〕諒潛二形於恍惚一、實委二化於希夷一。〔陳章、腐草爲レ螢賦〕始前衰而委レ化、終後顯而可レ覿。

【委灰】40 ヰクワイ 捨てられた灰。〔陸機、演連珠〕臣聞、郁烈之芳、出二於委灰一、繁會之音、生二於絕絃一。

【委會】41 ヰクワイ おちあふこと。流などの集まり會すること。〔柳宗元、陪二永州崔使君一遊二讌南池一序〕其崖谷之委會、則泓然爲レ池。

【委懷】42 ヰクワイ 思をゆだねる。思を遣る。〔陶潛、始作二鎭軍參軍一經二曲阿一作詩〕弱齡寄二事外一、委レ懷在二琴書一。

【委環】43 ヰクワン まがつた環。〔六韜、虎韜、軍用〕委環鐵杙、長三尺以上三百枚。

【委形】44 ヰケイ 天から付與せられた身體。〔莊子、知北遊〕舜曰、吾身非二吾有一也、孰有レ之哉、曰、是天地之委形也。〔集釋〕杜注曰、委、屬也、天地之委形、謂下天地所二付屬一之形上也。〔列子、天瑞〕舜曰、吾身非二吾有一、孰有レ之哉、曰、是天地之委形也。〔注〕是一氣之偏積者也。

【委係】45 wei³ hsi⁴ 眞に云々に係る。

【委笄】46 ヰケイ かんむりのかうがい。〔國語、晉語五〕吾不レ在、晉國亡無レ日矣、擊レ之以レ杖折二委笄一。

【委決】47 wei³ chüeh² 事が落著する。又、事件の終局。

【委決不下】48 wei³ chüeh² pu hsia⁴ 遲疑して決斷のできないこと。

【委決不可】49 wei³ chüeh² pu k'ê³ 合點がゆかぬ。

【委結】50 ヰケツ ❶あつまりむすぶ。〔莊子、知北遊、注〕氣自委結而蟬蛻也。〔疏〕陰陽結聚。❷恨をいだく。〔後漢書、梁鴻傳〕長委結兮焉究。〔注〕委結、懷レ恨也。

【委篋】51 ヰケフ 箱に積みたくはへたもの。藏書をいふ。〔陸倕、石闕銘〕委篋知レ歸。〔注〕善曰、委篋、則藏書也。

【委業】52 ヰゲフ 仕事を棄て置く。〔後漢書、陰識傳〕劉伯升起二義兵一、識時游二學長安一、聞レ之、委レ業而歸、率二子弟宗族賓客千餘人一、往詣二伯升一、伯升乃以レ識爲二校尉一。

【委權】53 ヰケン 權利を委ねる。兵權を委せる。〔魏志、張遼傳、注〕命レ將出征、推レ轂委レ權、或賴二率然之形一、或憑二犄角之勢一。

【委國】54 ヰコク 國をあげて人にゆだねまかす。〔史記、秦紀〕魏委レ國聽レ令。〔史記、伍子胥傳〕越王句踐、使下大夫種厚レ幣遺二吳太宰嚭一以請上レ和、求三委レ國爲二臣妾一。

【委差】54′ ヰサ 委派(138)に同じ。

【委查】55 ヰサ 命じて調査させる。

【委瑣】56 ヰサ ❶こまかい。ちひさい。小節にとらはれること。〔史記、司馬相如傳〕委瑣握齪、拘レ文牽レ俗。〔注〕索隱曰、孔文祥云、委瑣、細碎。❷容止の鄙俗なことをいふ。

【委細】57 ヰサイ すゐでいやしい。又、くはしくこまか。つぶさ。委曲。〔禮、檀弓上、是委巷之禮也、疏〕是委細屈曲街巷之禮。

【委財】58 ヰザイ 畜積した財。畜財。〔淮南子、齊俗訓〕無二天下之委財一、而欲三遍贍二萬民利一、不レ能レ足也。〔鹽鐵論、本議〕鹽鐵均輸、所下以通二委財一而調中緩急上、罷レ之不レ便也。

【委罪】59 ヰザイ 罪責を他に轉嫁する。委咎。〔晉書、王裒傳〕父儀爲二文帝司馬一、東關之役、帝問二於衆一、誰任二其咎一、儀對曰、責在二元帥一、帝怒曰、司馬欲レ委二罪於孤一耶、遂引出斬レ之。

【委桑】60 ヰサウ 葉の重なり茂つた桑。翳桑。〔淮南子、人閒訓〕趙宣孟活二饑人於委桑之下一、而天下稱レ仁矣。

【委煞】61 ヰサツ なくなる。〔白虎通、五行〕猶二五味得レ辛乃委煞一也。

【委至】62 ヰシ かさなりいたる。集まる。〔韓愈、與二少室李拾遺一書〕年穀熟衍、符貺委至。

【委使】63 ヰシ まかせてつかふ。〔顏氏家訓、涉務〕故多見二委使一、蓋用二其長一也。

【委虒】64 ヰシ 獸名。虎に似て角がある。犀の類。〔說文〕虒、委虒、虎之有レ角者也。

【委貲】65 ヰシ 貨財をつみ貯へる。〔管子、山國軌〕謂二大家委貲家一曰、云云。〔纂詁〕委、置、貲、貨也。

【委質】66 ヰシ 初めて仕官するものが禮物を君の前に置くこと。禮物は死んだ雉を用ひた。死物を用ひるのは、君の爲に必死の意を寓す。委は置、質は贄。委積。委摯。一說に、質は音シツで、一身を君に委すること。〔左氏、僖、二十三〕策レ名委レ質、貳乃辟也。〔疏〕質、形體也、拜則屈レ膝而委二身體於地一、以明三敬二奉之一也。〔會箋〕史記索隱引二服注一云、古者始仕、必先書二其名於策一、委二死之質於君一、然後爲レ臣、示三必死二節於其君一也、死之質者、以レ雉言也、始仕必是爲レ士、士之贄以レ雉、雉必用レ死、白虎通瑞贄篇曰、士以レ雉爲レ贄者、取下其不レ可二誘レ之以レ食、懾レ之以レ威、必死不上レ可二生畜一、士行威介、守レ節死レ義、不レ當二移轉一也、此正服氏所謂委二死之質於君一、示二必死一之義、晉語、處沙釐曰、臣委二質於翟之鼓一、未レ委二質於晉之鼓一也、臣聞レ之、委レ質爲レ臣、無レ有二二心一、韋注、質、贄也、士贄以レ雉、孟子出レ疆必載レ質、又庶人不レ傳レ質以爲レ臣、皆贄質相通用、委與二昏禮納采委レ雁之委一同、置也、凡贄必授レ之、唯見レ君則委而不レ授、云云、一讀、質如レ字、解爲二形體一、卽形質之質、謂三委二致其身一也、秦策、臣推レ體以下二死士一、鮑注、推レ體、猶レ委レ質。〔國語、晉語九〕委レ質爲レ臣。〔注〕言、委二質於君一、書二名於策一、示二必死一也。〔戰國、秦策〕天下

之士相從謀曰、吾將レ還二其委質一、而朝二於邯鄲之君一乎。〔史記、仲尼弟子列傳〕儒服委レ質。〔注〕索隱曰、服虔注二左傳一云、古者始仕、必先書二其名於策一、委二死之質於君一、然後爲レ臣、示三必死二節於其君一也。〔史記、儒林傳序〕往委レ質爲レ臣者、何也。

【委積】67 ヰシ あつめたくはへる。儲蓄する。又、儲畜せられたもの。又、米穀を儲藏して荒歲の救濟に備へること。鄉里の委積、門關の委積、郊里の委積、野鄙の委積などあり、後世の常平倉・社倉・義倉の起源をなす。備荒儲蓄。〔周禮、天官、宰夫〕掌三其牢禮・委積・膳獻・飲食・賓賜之飧牽、與二其陳數一。〔周禮、地官、遺人〕掌二邦之委積一、以待二施惠一、鄉里之委積、以恤二民之艱阨一、門關之委積、以養二老孤一、郊里之委積、以待二賓客一、野鄙之委積、以待二羇旅一、縣都之委積、以待二凶荒一。〔注〕少曰レ委、多曰レ積。〔禮、昏義〕審守二委積蓋藏一。〔荀子、儒效〕得二委積一足三以揜二其口一、則揚揚如也。〔史記、主父偃傳〕匈奴無二城郭之居、委積之守一。〔韓詩外傳、四〕千乘之君、不レ通二貨財一、委積之臣、不レ貪二市井之利一。〔後漢書、馮衍傳下〕伐冰之家、不レ利二雞豚之息一、委積之臣、不レ操二市井之利一。

【委摯】68 ヰシ 委質(66)に同じ。〔禮、曲禮下〕童子委レ摯而退。〔孫希旦集解〕童子見二先生一、或尋二朋友一、不下敢與二成人一相授受上、但奠二委其摯於地一而退、童子之摯、悉用二束脩一、論語、自レ行二束脩一以上、是也、童子於二先生一、不三敢自居二於賓客一、故其摯亦奠レ之、蓋事レ師之敬、與レ事レ君同也。

【委贄】69 ヰシ 委質・委摯に同じ。〔國語、晉語九、臣委二質於翟之鼓一未レ委二質於晉之鼓一也、注〕質、贄也、士贄以レ雉、委レ贄而退。

【委辭】70 ヰジ 辭退する。〔蔡邕、郭泰碑文〕委二辭召貢一、保二此清妙一、降年不レ永、民斯悲悼。

【委悉】71 ヰシツ くはしくつぶさ。委曲。〔齊竟陵王子良、與二孔仲丞一書〕比見レ君別更委悉也。〔北史、韓麒麟傳〕朕自委二悉中省之品卿等所一レ聞。

【委實】72 ヰジツ まことに。確實に。實際。〔長生殿、進果〕今日腳疼、委實走不レ動。〔元曲、金錢記〕小生委實的負二屈銜冤一。

【委舍】73 ヰシヤ すてる。委棄。〔管子、輕重丁〕委二舍其守列一。〔吳志、華覈傳〕委二舍佃事一。

【委聚】74 ヰシユウ 積みあつめる。〔史記、日者傳〕今夫卜筮者之爲レ業也、積レ之無二委聚一、藏レ之不レ用二府庫一。

【委順】75 ヰジユン ㊀自然の運び。自然のなりゆき。〔莊子、知北遊〕性命非二汝有一、是天地之委順也。〔列子、天瑞〕性命非二汝有一、是天地之委順也。〔白居易、故饒州刺吳府君神道碑銘序〕屈伸寵辱、委順而已。㊁自然のなりゆきにまかせる。死をいふ。〔稽古略、一〕謗二祖於邑宰翟仲侃一、翟罪二於祖一、祖乃委順、時年一百七歲。

【委順翁】76 ヰジユンヲウ 宋、哀長吉(**2**－**3580**‥186)の「號。

【委順子】77 ヰジユンシ 宋、王防禦(**7**－**20823**‥2025)の號。

【委順夫】78 ヰジユンプ 明、唐光祖(**2**－**3709**‥384)の「號。

【委黍】79 ヰシヨ 蟲の名。伊威(**1**－**432**‥2)の異名。わらぢむし。鼠婦。〔爾雅、釋蟲〕蛜威、委黍。〔注〕舊說、鼠婦別名。〔詩、豳風、東山、伊威在レ室、傳〕伊威、委黍也。

【委署】80 ヰシヨ ㊀掌る所を捨てる。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十三年)瑜曰、有二軍任一、不レ可レ得二委署一。㊁官署に缺員の生じた時、他の官署の職官をして事務を代理させること。〔六部成語補遺、吏部、委署委差、注解〕外省凡補二實缺官一、必經二奏明一、若署理及各項差事、則可下由二督撫一徑行中委派上。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕任內有無薦罰委署、及陞遷空缺。

【委從】81 ヰシヨウ まかせしたがふ。委縱。〔淮南子、本經訓〕優柔委從。〔說苑、指武〕復柔委從、如二影與レ響。

【委縱】82 ヰシヨウ 委從に同じ。〔淮南子、原道訓〕優游委縱、如二響之與レ影。

【委屬】83 ヰシヨク 委囑に同じ。

【委囑】84 ヰシヨク ゆだねまかす。委屬。委託。

【委心】85 ヰシン 心をまかせる。信賴する。〔漢書、韓信傳〕僕委レ心歸レ計、願子勿レ辭。

【委身】86 ヰシン 身をまかせる。仕へる。〔說苑、正諫〕委レ身曲附。〔盧諶、贈二劉琨一書〕委レ身之日、夷險已レ之。〔注〕銑曰、委レ身之日、謂二事レ琨時一也。

【委信】87 ヰシン 信賴する。〔周書、王褒傳〕元帝惟于レ褒、深相委信。

【委審】88 ヰシン 裁判權を有する地方長官が、直接審判すべき事件の起つた時に、遠隔の地に在れば、便宜上、地守・巡道に審判を委任すること。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、獄二明寃枉二〕按、其罪名係三例應二招解一者、仍照レ舊招解、係三例不二招解一者、即由二委審之員一詳結、其有二委審一之後、復經二上控一者、即令下各上司衙門親提二研鞫一、不上レ得三復行二委審一。

【委親】89 ヰシン 親の世話を親族他人等に委ね賴む。委レ親之レ官(**10**－**34918**‥283)を見よ。〔唐律、名例〕祖父母父母、老疾無レ侍、委レ親之レ官、云云、免二所レ居官一。

【委人】90 ヰジン 周官の名。地官の屬。野の賦稅と薪芻とを斂めることを掌る。〔周禮、地官、委人〕掌下斂二野之賦一斂中薪芻上。

【委蕤】91 ヰスイ やはらかいさま。〔國語、周語下、蕤賓、注〕蕤、委蕤、柔貌也。

【委隨】92 ヰズイ ㊀おとなしくすなほなさま。柔順溫和。溫順。〔後漢書、竇憲傳〕先帝所レ敬、而仁厚委隨。〔注〕委隨、猶二順從一也。〔白虎通、五行〕火之爲レ言、委隨也。㊁柔弱なさま。〔魏書、王嶷傳〕性儒緩委隨不斷。㊂屈伸の自由でないさま。〔枚乘、七發〕四支委隨。〔注〕善曰、隨、不レ能二屈伸一也。㊃道のまはりくねつたさま。逶隨。〔楚辭、王逸、九思、逢尤〕望二舊邦一兮路委隨。〔注〕委隨、迂遠也。

【委成】93 ヰセイ 成るにまかせる。〔任昉、爲二齊明皇帝一作レ相讓二宣城郡公一第一表〕虛二飾寵章一、委二成禦侮一。

【委政】94 ヰセイ 政權を付託する。政治をまかせる。〔左氏、襄、三十一〕子皮以爲レ忠、故委レ政焉、子產是以能爲二鄭國一。〔漢書、杜欽傳〕逮二委政之隆一、及二始初清明一。〔梁書、武帝紀上〕委二政朝臣一。

【委蛻】95 ヰセイ 蛇や蟬などが遺棄したぬけがら。〔莊子、知北遊〕孫子非二汝有一、是天地之委蛻也。〔注〕氣自委結而蟬蛻也。〔疏〕陰陽結聚、故有二子孫一、獨化而成、如二蟬蛻一也。〔列子、天端〕孫子非二汝有一、是天地之委蛻也。〔注〕氣自委結而蟬蛻耳。〔白居易、醉吟先生墓誌銘〕其死也委蛻然。

【委銷】96 wei^3 hsiao^1 商品の委託販賣。

【委折】97 ヰセツ 折れまがる。まがりくねる。〔水經、滱水注〕世謂二之廣昌嶺一、嶺高四十餘里、二十里中、委折五廻、方得レ達二其上嶺一。

【委霰】98 ヰセン 積つたあられ。〔謝莊、和二元日雪花一應詔詩〕委霰下二璇蕤一、疊雪翻二瓊藻一。

【委然】99 ヰゼン ㊀俯して就くさま。身をかがめてしたがふさま。一說に、あやのあるさま。〔荀子、仲尼〕委然成レ文、以示二之天下一。〔注〕委然、俯就之貌。〔集解〕王引之曰、楊說迂回而不レ可レ通、竊謂、委然、文貌也、委、讀二冠緌之緌一、儒效篇、綏綏兮其有二文章一也、楊倞注云、綏、爲二葳蕤之蕤一、蕤與レ緌同音、此云二委然成一レ文、即所謂綏綏有二文章一也。㊁玉の精。〔藝文類聚、寶玉部〕白澤圖曰、玉之精、名曰二委然一、如三美女衣二青衣一、見レ之、以二桃戈一刺レ之、而呼二其名一、則可レ得矣。

【委贈】100 ヰゾウ 人に託して物を送り與へる。〔汪元量、酬二劉桃岡一詩〕明珠忽委贈、價重二九本皐一。

【委粟】101 ヰゾク 山名。㊀山東省臨朐縣の東北。〔水經、巨洋水注〕巨洋、又東北逕二委粟山東一、孤阜秀立、形若二委粟一。㊁河南省洛陽縣の東南。〔魏志、明帝紀〕景初元年、營二洛陽南委粟山一爲二圜丘一。

【委惰】102 ヰダ 倦み疲れる。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕欲愁悴而委惰兮。〔注〕委惰、懈倦也。

【委滯】103 ヰタイ 重なりとどこほる。〔吳志、薛綜傳〕其書遂委滯、迄レ今未二撰奏一。

【委代】104 ヰダイ 後任にまかせる。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕日顯委レ代。

【委托】105 ヰタク ゆだねまかせる。委託に同じ。

【委託】106 ヰタク ゆだねまかせる。たのみ預ける。委囑。〔舊五代史、晉少帝紀贊〕委二託非人一、坐受二平陽之辱一。

【委託人】107 wei^3 t'uo^1 jen^2 交易所の顧客。交易所には仲買人でなければ入場し賣買することが出來ないから、仲買人に託して代理させる。此の場合、仲買人には手數料を拂ふから、顧客は委託人となる。

【委託生】108 ヰタクセイ 或る官省などから學資を補助して、或る學校に委託勉學せしめる學生。

【委託物】109 ヰタクブツ 依頼されて預つた品物。

【委託會社】110 ヰタククワイシヤ 信託契約に於て、受託者に信託事務の委託をする會社。〔大正十一年、法律六十二號、信託法〕。

【委託販賣】111 ヰタクハンバイ 他から依頼せられた商品を賣ること。品物を預つて賣る。

【委託貿易】112 ヰタクボウエキ 他人にたのんで貨物を賣買すること。間接貿易。

【委託林野】113 ヰタクリンヤ 國有林野の保護上の心要により、國家が其の管理・保護を府縣市町村に委託した森林・原野。

【委託式小切手】114 ヰタクシキコギツテ 小切手金額の支拂を、小切手支拂人に委託する方式を以てする小切手。「御支拂相成度候也」の句を用ひる。

【委端】115 ヰタン 委貌の冠と玄端の服。禮服をいふ。端委（**8－25806**‥4）に同じ。〔穀梁、僖、三〕陽穀之會、桓公委端搢笏、而朝諸侯。〔注〕委、委貌之冠也、端、玄端之服。

【委地】116 ヰチ ❶地にすてる。地に置く。又、地におちる。〔莊子、養生主〕動刀甚微、謋然已解、如土委地。〔後漢書、鍾離意傳〕意得珠璣、悉以委地而不拜賜。❷地に垂れる。地にすり引く。〔禮、曲禮下、主佩垂則臣佩委、注〕小俛則垂、大俛則委於地。〔北史、魏昭成帝紀〕身長八尺、隆準龍顏、立髮委地。

【委致】117 ヰチ 依託してやる。傳達する。〔吳朝陽、陽燧賦〕庶圖牒之洽聞、將符貺之委致。

【委遲】118 ヰチ はかどらないさま。まはりどほいさま。倭遲（**1－796**‥26）に同じ。

【委仗】119 ヰヂヤウ よりすがる。まかせる。委杖。〔詩、大雅、卷阿、有馮有翼、疏〕馮者、可以委仗。〔魏志、夏侯玄傳〕執機柄者、有所委仗於上。〔吳志、樓玄傳〕臣夙夜思惟、諸吏之中、任幹之事足委仗者、無勝於樓玄。〔晉書、王導傳〕尤見委仗、情好日隆。〔宋書、王誕傳〕高祖甚委仗之。

【委中】121 ヰチユウ 人體の經穴の名。腿脉中に在る。〔癸辛雜識〕有患頷穿者、鍼委中及女膝穴、是夕膿血卽止。

【委注】122 ヰチユウ 心を傾けてたのむ。〔宋史、蘇舜欽傳〕不敢負陛下委注之意。

【委重】123 ヰチヨウ 重任をまかせる。又、おもく任用する。〔後漢書、梁商傳〕京師翕然、稱爲良輔、帝委重焉。〔北史、尉景傳〕景妻常山君、神武之姉也、以勳戚、每有軍事、與厙狄干常被委重。

【委的】124 wei³ tê 眞に。本當に。委實。

【委奠】125 ヰテン 神に物を薦め具へること。〔沈約、侍皇太子釋奠宴詩〕迴鑾獻爵、摐金委奠。

【委塡】126 ヰテン ふさぎうづめる。〔劉咸、黃河賦〕遇溝陂兮委塡、遇丘陵兮開鑿。

【委篤】127 ヰトク まかせて厚く取扱ふこと。〔法書要錄〕復委篤、恐無興理。

【委頓】128 ヰトン くじける。力がぬける。疲困。〔左氏、襄、四、甲兵不頓、疏〕頓、謂挫傷所壞、今俗語云委頓、是也。〔左氏、襄、九、夫婦辛苦墊隘無所底告、注〕墊隘、猶委頓。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕臣老病委頓、無益視聽。〔晉書、裴楷傳〕楷今委頓、臣深憂之。〔朱子全書、大學〕有嘗鼠藥而中毒者、幾至委頓。

【委任】129 ヰニン ❶たのむ。まかせる。〔史記、馮唐傳〕委任而責成功。〔漢書、昭帝紀贊〕委任霍光。〔漢書、五行志上〕王太后臨朝、委任王莽。❷長官の鑑識によつて委任せられた差使をいふ。〔淸國行政法汎論、新設官廳〕唯其任命差使之形式、則自有二種、一爲長官奏請勅裁者、一爲因其鑑識委任者、前者稱曰奏派、後者稱曰委任。❸當事者の一方が、他に法律行爲の行使をゆだね、相手方が之を承諾することによつて成立する契約。❹wei³ jen² 委任官に同じ。

【委任官】130 wei³ jen⁴ kuan¹ 判任官に相等する文官階級。

【委任狀】131 ヰニンジヤウ 委任したことを證明する爲に委任者から被委任者に與へる證書。

【委任行政】132 ヰニンギヤウセイ 法律の委任に依つて行ふ政治。

【委任代理】133 ヰニンダイリ 委任を受け、本人に代つて法律行爲を取り行ふこと。

【委任統治】134 ヰニントウチ 國際聯盟によつて創設せられ、列強の植民政策に一新紀元を劃した、國際法上、及び國際政治上の新制度。第一次大戰後のドイツ植民地、及びトルコから分離した舊領土は、此の制度によつて國際聯盟監督下に、適當な國の管理、又は後見をうけた。

【委任命令】135 ヰニンメイレイ 法律の委任にもとづいて、發せられた命令。勅令・省令・府縣令等。

【委任裏書】136 ヰニンウラガキ 手形上の權利を有するものが、其の手形面の金額を他人に委任して取立てようとする場合、其の委任を受けた人を被裏書人とする裏書。

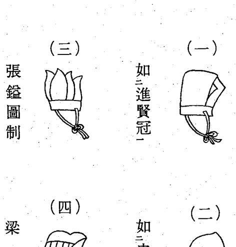
【委任不一亂之媒也】137 ヰニンイツナラザルハランノバイナリ 事に當る人を信じて委せることが出來ずに、之を疑ふのは、使はれる人に謀叛心を起させるもとになる。〔文中子、關朗〕子曰、委任不一、亂之媒也、監察不止、姦之府也。

【委派】138 ヰハ 官廳の長官が屬官に一定の權限を賦與して、或る地方に派遣すること。〔六部成語補遺、吏部、委差、注解〕署理及各項差事、則可由督撫徑行委派。

【委牌】139 ヰハイ 官廳の長官が屬員に委任して所屬官署の事務を辨理せしめる時、屬員の身分權限を保障する爲に劄付を給し、其の文を寫して之を官署の門首に揭出公示する木牌。〔六部成語、吏部、委牌、注解〕督撫委員、辦理事務、例給劄付、而將劄文之語、寫於木牌上、懸掛衙署門首、俾衆共知、曰委牌。

【委廢】140 ヰハイ すてて用ひない。〔柳宗元、陪永州崔使君遊讌南池序〕余既委廢於世、恒得與是山水爲伍。

【委貌】141 ヰバウ 周代の冠の名。皁繒で作り、延板が無く委武のあることは玄冠（**7－20814**‥103）と同じく、笄を施し紘を設けることは皮弁（**8－22823**‥125）に同じ。一に冠弁といふ。政治を行ふ時に用ひる。〔儀禮、士冠禮、主人玄冠朝服、注〕玄冠、委貌也。〔禮、郊特性〕委貌、周道也、章甫、殷道也、毋追、夏后氏之道也。〔注〕或謂委貌爲玄冠。〔後漢書、輿服志下〕委貌冠・皮弁冠同制、如覆杯、前高廣、後卑銳、以皁絹爲之。〔白虎通、紼冕〕委皃者、何謂也、周朝廷理政事、行道德之冠名、士冠經曰、委皃周道、章甫殷道、毋追夏后氏之道、所以謂之委皃何、周統十一月爲正、萬物萌小、故爲冠飾最小、故曰委貌、委貌者、委曲有貌也。〔禮書通故、衣服〕以周案、冠禮、緇布冠無笄、皮弁笄、爵弁笄、鄭注、有笄者、屈組爲紘、乑爲飾、無笄者、纓而結其條、此冠與弁之制异也、冠弁者、冠而如弁、其厺延板而大委武同玄冠、其設笄施紘、又同皮弁、故經謂之冠弁、記謂之委貌。



委貌四種（三禮圖）

【委叛】142 ヰハン すてそむく。〔宋書、趙倫之傳〕吏人苦之、或至委叛。〔北齊書、淸河王岳子勸傳〕今西寇已次幷州、達官多悉委叛。

【委轡】143 ヰヒ たづなを棄てる。脫韁。〔管子、法法〕赦者犇馬之委轡。〔纂詁〕委、棄也、犇馬而棄其轡、必致泛駕。

【委備】144 ヰビ くはしい。つまびらか。〔皇甫湜、贈孫生序〕其詞委備、痛入肝血。〔蘇洵、上歐陽內翰書〕執事之文、紆餘委備。

【委靡】145 ヰビ おとろへる。弱る。振はない。萎靡。骫靡（**12－45105**‥5）に同じ。〔韓愈、送高閑上人序〕泊與淡相遭、頹墮委靡、潰敗不可收拾。

【委付】146 ヰフ ❶まかせる。〔後漢書、桓帝紀〕元服已加、將卽委付、而四方盜竊頗有未靜。〔蜀志、楊洪傳〕委付大任。〔吳志、諸葛恪傳〕恐損先帝委付之明。❷自己の所有に屬する物、又は權利を相手方に付與して、自己と相手方の間に存する法律關係を消滅させること。倒へば、沈

沒した船舶を保險者に委付して保險金額を受取るやうな類で、主に私法上の用語。公法上では移付といふ。

【委府】147 ヰフ　貨物を貯藏するくら。漢の武帝の元封元年、桑弘子の言を用ひて各地に均輸官を置き、又、京師に委府を置いて米穀を貯藏し、以て米價の調節をはかつた。〔鹽鐵論、本議〕開二委府于京一、以籠二貨物一。

【委武】148 ヰブ　冠の下卷シタマキ。冠簷。〔禮、雜記上〕委武玄縞而后蕤。〔注〕委武、冠卷也、秦人曰レ委、齊東曰レ武。

【委伏】149 ヰフク　❶すてられて隱れる。〔後漢書、楊賜傳〕令三搢紳之徒、委二伏畎畝一。❷したがひ伏する。〔韓愈、與二少室李拾遺一書〕彊梁之兇、銷鑠縮栗、迎レ風而委伏。

【委分】150 ヰブン　分に安んじ、成行きに委せる。〔陶潛、自祭文〕勤二靡餘勞一、心有二常閒一、樂レ天委レ分、以至二百年一。

【委辟】151 ヰヘキ　すてる。〔論衡、論死〕如囊穿米出、橐敗粟棄、則囊橐委辟、人瞻二望之一、弗二復見一矣。

【委辦】152 wei^{3} pan^{4}　❶委任して處理する。委任辦理。❷委員。

【委密】153 ヰミツ　細かくて詳しい。〔宋書、劉穆之傳〕穆之外所二聞見一、莫レ不二大小必白一、雖二閭里言謔、塗陌細事一、皆一二以聞、高祖每得二民間委密消息一、以示二聰明一、皆由二穆之一也。

【委命】154 ヰメイ　❶いのちをまかせる。命をさし出す。〔賈誼、過秦論〕俛レ首係レ頸、委二命下吏一。〔魏志、劉放傳〕將軍宜二投レ身委レ命、厚自結納一。❷心を天運にまかせる。〔班固、答賓戲〕愼脩二所レ志、守二爾天符一、委レ命供レ己。

【委面】155 ヰメン　禮物を君前に致して臣となること。面は、北面して臣となること。〔袁宏、三國名臣序贊〕文若懷二獨見之明一、而有二救世之心一、云云、故委二面霸朝一、豫二議世事一。〔注〕銑曰、委レ質北面、以事二魏朝一。

【委約】156 ヰヤク　疲弊する。〔宋玉、九辯〕離二芳藹之方壯一兮、余委約而悲愁。〔注〕逸曰、去二已盛美之光容一、身體疲病而憂窮。

【委輸】157 ヰユ ヰシユ　貨物を運ぶこと。貨物を車上に登載するを委といひ、之を目的地に運んで卸すことを輸といふ。〔說文、輸委輸也、段注〕委者、委隨也、委輸者、委隨輸寫也、以レ車遷レ賄曰二委輸一、亦單言曰レ輸。〔說文、委輸也、段注〕按、隨二其所一レ如曰レ委、委レ之則聚、故曰二委輸一、曰二委積一。〔史記、平準書〕都受二天下委輸一。〔史記、留侯世家〕足二以委輸一。〔漢書、鮑宣傳〕三輔委輸、官不二敢爲一レ姦。〔新序、善謀下〕從レ流而下、足二以委輸一。〔後漢書、張純傳〕部督二委輸一。〔注〕委輸、轉運也。

【委予】158 ヰヨ　あたへる。〔管子、輕重甲〕委予之賞不レ隨、士不レ死二其列陳一。

【委用】159 ヰヨウ　任用する。〔後漢書、宦者傳序〕不レ得レ不下委二用刑人一、寄中之國命上。

【委賴】160 ヰライ　ゆだねたのむ。信賴する。〔宋書、沈攸之傳〕唯有二殷孝祖一、爲三朝廷所二委賴一。〔宋史、趙贊傳〕判官李恕者、本延壽賓佐、深所二委賴一。

【委輅】161 ヰラク　車前の橫木をすてる。漢の婁敬は車を挽くことを業として居たが、其の仕事を止めて、高祖に遷都の策を獻じた故事。〔漢書、婁敬傳〕敬脫二輓輅一。〔注〕蘇林曰、輅、音東洛之洛、一木橫二遮車前一、二人挽レ之、三人推レ之、孟康曰、輅、音胡格反、師古曰、二音同也。〔揚雄、解嘲〕婁敬、委レ輅脫レ輓、掉二三寸之舌一、建二不拔之策一。〔注〕善曰、應劭曰、輅、謂二以レ木當レ胸以輓一レ車、翰曰、婁敬本輓レ車之人也、見二高祖一、所レ都不レ便、言二便宜一、此適二時之務一也。

【委吏】162 ヰリ　倉廩の出納を掌る役人。米穀の聚積をつかさどる官。〔孟子、萬章下〕孔子嘗爲二委吏一矣、曰、會計當而已矣。〔注〕孔子嘗以レ貧而祿仕、委吏、主二委積倉庾一之吏也。

【委利】163 ヰリ　利を積むこと。〔大戴禮、四代〕委レ利生レ孽。〔補注〕委、積也、不レ尙レ義而積レ利、則生レ害。

【委離】164 ヰリ　すてはなれる。死ぬこと。〔顏延之、赭白馬賦〕竟先二朝露一、長委離兮。〔注〕翰曰、言、終先二朝露一而死、委二棄恩惠一、離二別服御一。

【委麗】165 ヰレイ　つらなりゆくさま。ぶらぶら歩くさま。逶麗(**11－38949‥12**)に同じ。〔史記、司馬相如傳〕容以委麗兮。〔漢書、司馬相如傳下〕駕二應龍象輿一之蠖略委麗兮。〔注〕師古曰、蠖略委麗、皆其行步進止之貌也。

【委廬】166 ヰロ　物品を積み貯へたいほり。〔管子、輕重甲〕守二其委廬一。〔纂詁〕守二其委積之廬一。

【委陋】167 ヰロウ　棄ててかへりみられぬ陋しい住居。〔謝朓、思レ歸賦〕雖二曲街之委陋一、猶寤寐而見レ之。

【委和】168 ヰワ　陰陽が聚積し和合する。〔莊子、知北遊〕生非二汝有一、是天地之委和也。〔疏〕委、結聚也、夫天地陰陽結聚、剛柔和順之氣、成二汝身一、形二性命一者也。〔列子、天瑞〕生非二汝有一、是天地之委和也。

【委社司】169 ヰシヤシ　米倉の係官。〔福惠全書、荒政部、積貯〕委社司簡校、吏不レ得レ操。

【委尼斯】170 ベニス　伊太利の地名。Venice の音譯。

【委陵菜】171 カハラサイコ　草の名。いばら科に屬する宿根草。原野に自生し、夏から秋にかけて黃色の花を開く。

【委鬼茄花】172 ヰキカクワ　委鬼は明の魏忠賢を指し、茄花は其の客氏をいふ。魏の字を分解すれば委鬼となり、又、北人の閒では客を讀んで楷といふ。楷と茄とは音通である。〔明史、五行志三〕萬曆末年、有二道士一、歌二於市一曰、委鬼當レ頭坐、茄花遍レ地生、北人讀レ客爲レ楷、茄又轉音、爲二魏忠賢・客氏之兆一。

【委內瑞辣】173 ヴェネズエラ　國名。南アメリカ洲北部の共和國。もとスペインの屬領。首都はカラカス。Venezuela の音譯。

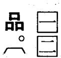
【委拉克路斯】174 ヴェラクルス　地名。メキシコ灣に臨むメキシコ第一の商港。Vera Cruz の音譯。

【⿰女孕】6182　ヨウ　孕(**3－6938**)の俗字。〔正字通〕⿰女孕、俗孕字。

【姕】6183

[一]シ　〔集韻〕將支切　支

[二]シ　〔集韻〕淺氏切　紙


小篆

[一][二]❶**婦人の身のまはりの小品**。〔說文〕姕、婦人小物也、从レ女此聲、詩曰、婁舞姕姕。❷姕妓は、婦人のこびないさま。〔集韻〕姕、姕妓、婦人不レ媚兒。❸**舞ふさま**。〔集韻〕姕、舞也。❹**婦人のさま**。妓姕。〔集韻〕姕、妓姕、女兒。〔集韻〕姕、一曰、婦人兒。❺傞(**1－973**)に通ず。〔詩、小雅、賓之初筵〕屢舞傞傞。〔說文〕姕、詩曰、婁舞姕姕。❻**すがた**。姿(**3－6257**)に同じ。〔字彙〕姕、同レ姿。

【⿰女屵】6184　ゲン　嫄(**3－6435**)に同じ。〔集韻〕嫄、或省作レ⿰女屵。

【姖】6185　キヨ　ゴ　〔字彙補〕臼許切　語

❶吳姖は山名。〔山海經、大荒西經〕有レ山、名二日月山一、天樞也、吳姖天門、日月所レ入。❷**人名**。〔山海經、大荒西經〕金門之山、有レ人、名曰二黃姖之尸一。❸**姓**。〔姓氏尋源〕山海經有二女姖之尸一、姖姓、或出レ此。

【⿱男女】6186　キ　ケ　〔字彙補〕居希切　微

男色。男子が男子に淫すること。雞姦。〔正韻箋〕⿱男女、律有二⿱男女姦罪條一、將レ男作レ女。

【⿰女田】6187　カウ　コウ　〔龍龕手鑑〕呼老切　皓

姓。〔龍龕手鑑〕⿰女田、人姓也。

【⿰女平】6188　ハウ　ヒヤウ　〔集韻〕披耕切　庚

きびしい。いそぐ。又、まじめなさま。怦(**4－10476**)に同じ。〔集韻〕怦、博雅、急也、一曰、忠謹兒、或作レ⿰女平。

【㚷】 6189 クワ ケ 〔集韻〕姑華切 麻
女の名。〔集韻〕㚷、女名。

【㚸】 6190 カウ ケウ 〔集韻〕苦絞切 巧
女のあざな。〔集韻〕㚸、女字。

【姍】 6191 ダイ ナイ 〔龍龕手鑑〕奴買切 蟹
ちち。 乳。〔龍龕手鑑〕姍、乳也。

【㚽】 6192 音未詳 鳥の名。獨㚽は隼。〔字彙補〕㚽、音未詳、鳥名。〔駢雅〕獨㚽、隼屬。

【𡛘】 6193 ケイ キヤウ 〔川篇〕呼榮切 庚
よろこぶ。〔川篇〕𡛘、嬉也。

【𡜊】 6194 ハン 〔川篇〕疋萬切 願
多產の女。 多產。〔川篇〕𡜊、生多也。

【𡛿】 6195 サン 粲（**8−26966**）に同じ。〔龍龕手鑑〕𡛿、同レ粲。

【𡛻】 6196 エイ 義未詳。〔五音篇海〕𡛻、音泄。

【姉】 6197 シ 姊（**3−6164**）に同じ。〔中華大字典〕姉、同レ姊、廣韻、如レ此作。

六畫

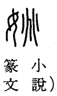
【𡛟】 6198 ハウ 包（**2−2506**）に同じ。𡛟媧は、古代の帝王の名。〔路史〕女皇氏𡛟媧、雲姓。

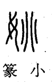
【姘】 6199 ［一］ヒン ［二］ハウ・ヘイ ㄆㄧㄣ p'in¹
［一］嬪（**3−6819**）の古字。〔集韻〕嬪、古作レ姘。［二］姘（**3−6366**）の俗字。〔字彙〕姘、俗姘字。

【姙】 6200 ニン 妊（**3−6072**）に同じ。〔字彙〕姙、同レ妊。
参考 熟語は妊（**3−6072**）を見よ。

【𡜑】 6201 ニン 妊（**3−6072**）に同じ。〔集韻〕妊、或作レ𡜑。

【姚】 6202 ［一］エウ 〔集韻〕餘昭切 蕭 ㄧㄠ yao²
［二］テウ 〔集韻〕他弔切 嘯
［三］タウ ダウ 〔集韻〕徒刀切 豪
［四］エウ 〔集韻〕弋笑切 嘯


小篆（說文）


小篆（段注本）

［一］❶**みめよい。** うつくしい。嬥（**3−6813**）に通ず。〔說文通訓定聲〕姚、叚借爲レ嬥、說文、或爲二姚嬈一也。〔荀子、禮論〕其立二文飾一也、不レ至二於窕冶一。〔注〕姚冶、妖美也。❷**あなどる。** かろんずる。嫯（**3−6681**）に通ず。〔說文通訓定聲〕姚、叚借爲レ嫯、說文、史篇以爲二姚易一也、按、侮傷之傷。❸**はるか。** 遙（**11−39035**）・遥（**11−39242**）に通ず。〔說文通訓定聲〕姚、叚借爲レ遥。〔荀子、榮辱〕其功盛姚遠矣。〔注〕姚、與レ遥同。〔漢書、禮樂志〕雅聲遠姚。〔王先謙補注〕王念孫曰、姚、讀爲レ遥、遥、亦遠也、古人自有二複語一耳、荀子榮辱、其功盛姚遠矣、楊倞云、姚、與レ遥同、是其證。❹**あがる。**〔漢書、禮樂志〕雅聲遠姚。〔注〕師古曰、姚、僄姚、言二飛揚一也。❺窕（**8−25496**）に通ず。〔荀子、禮論〕其立二文飾一也不レ至二於窕冶一。〔注〕窕、讀曰レ姚。❻**姓。**〔說文〕姚、虞舜居二姚虛一、因以爲レ姓、从レ女兆聲、或爲二姚嬈一也、史篇以爲二姚易一也。［二］**かるがるしい。** 窕（**8−25496**）に同じ。〔集韻〕窕、輕也、春秋傳、楚師輕窕、或作レ姚。［三］**人名。** 桃（**6−14757**）に通ず。〔集韻〕姚、鬬、人名、春秋傳、周有二頹叔姚子一、通作レ桃。［四］❶**強くはやいさま。**〔集韻〕姚、剽姚、或は佻（**1−569**）に作る。❷通じて鷂（**12−47207**）に作る。〔集韻〕姚、通作レ鷂。

【姚安】1 エウ アン 縣名。民國、置く。雲南省大姚縣の南。一泡江が金沙江に注ぐ處。姚州（62）の❶を見よ。

【姚祐】2 エウ イウ 宋、長興の人。字は伯受。諡は文僖。元豐の進士。徽宗の時、左司諫を拜命し、鄭州・泰州の知事となり、工部尙書に至る。〔宋史、三百五十四〕・〔宋史新編、一百二十三〕・〔北宋經撫年表、二十二・三十八・五十四・七十六・九十二〕。

【姚佚】3 エウ イツ 煩しいことと安らかなこと。姚は煩勞、佚は安逸。〔莊子、齊物論〕姚佚啓態。〔疏〕姚は姚、則輕浮躁動、佚、則奢華縱放。

【姚雲】4 エウ ウン 元、高安の人。字は聖瑞。初名は雲文。宋の咸淳の進士。官は撫建兩路儒學提擧。詞に巧。著に江村遺稿がある。〔尙友錄、六〕。

【姚瑩】5 エウ エイ 淸の人。範の曾孫。字は石甫。號は東溟・十幸齋。嘉慶の進士。官は湖南按察使。詩・古文を善くす。書室を中復堂といふ。著に東槎紀略・京輶紀行・寸陰叢錄・識小錄・東溟詩文集等がある。〔淸史稿、三百九十〕・〔國朝先正事略、四十三〕・〔續碑傳集、三十五〕。

【姚穎】6 エウ エイ 宋、鄞の人。字は洪卿。淳熙中、進士第一。官は平江府通判。年三十四にして卒す。〔南宋館閣續錄、八〕。

【姚瀛】7 エウ エイ 宋、福安の人。字は子山。少くして文章を以て名あり。隆興の進士。四たび敎官に任ぜらる。著に鳳臺集がある。〔尙友錄、六〕。

【姚姚】8 エウ エウ 美しく盛なさま。又、自得のさま。〔疊雅〕姚姚、自得貌。〔說苑、指武〕孔子曰、美哉德乎、姚姚者乎。

【姚易】9 エウ エキ 宋、浦城の人。字は夢錫。元豐の進士。官は開封推官。著に䇾集がある。〔尙友錄、六〕。

【姚奕】10 エウ エキ 唐の人。崇の子。開元中、睢陽太守を拜命し、尋いで大僕卿に召され、尙書右丞となつたが、後、永陽太守に左遷せられた。〔唐書、一百二十四〕。

【姚媺】11 エウエツ エウタイ みめよいさま。うつくしいさま。姚媺。〔廣韻〕媺、姚媺、美好、又、他會切。〔集韻〕媺、姚媺、好皃。

【姚悅】12 エウ エツ 明、秀水の人。字は汝誾。號は尙亢齋。布衣を以て終る。其の子の兗、孫の舜聰、皆、詩を能くし、合刻して尙亢齋三世詩と爲す。〔蘭臺法鑒錄、四〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十三〕。

【姚兗】13 エウ エン 明の人。悅の子。字は叔信。號は元岳山人。少くして事を以て獄に投ぜられ、詩僧と同じく覊がれたのに因つて其の詩法を得たといふ。著に尙元草がある。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十〕・〔靜志居詩話、十四〕。

【姚遠】14 エウ エン はるかにとほい。〔荀子、榮辱〕其

功盛姚遠矣。〔注〕姚、與レ遙同、言二功業之盛、甚長遠一也。

【姚夏】15エウカ　清、浙江石門の人。字は大也。業を張履祥に受け、後、四方に客游す。著に楊園年譜がある。〔碑傳集、一百二十七〕。

【姚家】16エウカ　昔、牡丹で名を得た洛陽の家。これから牡丹の異名を姚黃といふ。姚黃魏紫(44)を見よ。〔石川丈山、白牡丹詩〕不二是姚家二不二魏家二、玉杯承レ露發二光華一。

【姚顗】17エウガイ　五代、唐の長安の人。字は百眞。梁の時、中書舍人となつたが、唐の莊宗が梁を滅すや、復州司馬に貶せられた。尋いで尙書左丞に擢んでられ、廢帝の時には宰相になつたが、晉の高祖が立つや、戶部尙書に左遷せらる。〔五代史、五十五〕・〔舊五代史、九十二〕。

【姚江】18エウカウ　❶川の名。浙江省餘姚縣治の南。一に蕙江・舜江・舜水ともいふ。源は太平山及び菁山。北流して通明江となり、東流して蕙江となり、餘姚縣の界に入つて姚江となる。又、東流して慈谿江となり、前江ともいふ。鄞縣に至つて甬江に合す。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、餘姚縣〕姚江、在二縣治南一、闊四十丈、源出二太平山一、西至二上虞縣之通明壩一、乃東折而北五十里、中凡十餘曲、東流過二城南之江橋一、又東過二鹹池匯一、復十餘曲、乃東入二慈谿縣一、而爲二前江一、境内曲折流凡二百里、一名舜江、亦曰二蕙江一。❷明の王守仁(7−20823‥1648)をいふ。

【姚江學派】19エウカウガクハ　陽明學派をいふ。明の王守仁は浙江省餘姚の人であるから、川の名、姚江によつて其の學問系統をいふ。餘姚の學ともいふ。〔明儒學案、姚江學案〕有明學術、白沙開二其端一、至二姚江一而始大明、蓋從前習二熟先儒之成說一、未三嘗反レ身理會、推見至レ隱、所謂此亦一述レ朱耳、彼亦一述レ朱耳、高忠憲云、薛文清、呂涇野語錄中、皆無二甚透悟一、亦爲レ是也、自三姚江指二點出良知人人現在、一反觀而自得一、便人人有二個作レ聖之路一、故無二姚江一、則古來之學派絕矣。

【姚江三廉】20エウカウサンレン　明代、姚江の清貧の名士三人、胡東皐・宋冕・胡鐸をいふ。〔明外史、胡東皐傳〕東皐家居六年、以レ身任二鄉邦利害一、浙人倚レ之、同縣孫陞語レ人曰、吾邑登二顯仕一而清貧苦寒晙者三人、胡公東皐、宋公冕、胡公鐸也、因號二姚江三廉一云。

【姚康】21エウカウ　清、桐城の人。字は休那。號は龍戒山人。明末の諸生。明亡びるや、田野に屛居し、鬱邑して終る。書室を酬債堂といふ。著に評貨殖傳・黃巢傳がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十六〕。

【姚岳】22エウガク　❶晉の人。永嘉中、李雄が寧州に寇するや、刺史王遜の命を受けて大いに賊を破り、追ひて瀘水に至りしも、及ばずして還つたので、遜、怒りて岳を鞭うつ。爲に岳、冠を裂いて卒す。時人、寃罪として廟を立つ。〔尙友錄、六〕。❷明、長興の人。字は文鎭。官は宿松縣の知事。〔明名人傳、十〕。

【姚合】23エウガフ　唐の人。崇の玄孫。元和の進士。武功尉となり、詩に巧にして、世に姚武功と號す。監察御史に遷り、祕書監に終る。著に極元集・姚少監詩集がある。〔唐書、一百二十四〕。

【姚澣】24エウカン　明、秀水の人。字は北若。交友を好み、盡く質庫私錢を收めて載酒徵歌し、大いに復社を會し、秦淮河上に同盟するもの幾んど二千人に至る。其の文を聚めて國門廣業を爲る。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十六〕・〔靜志居詩話、二十二〕。

【姚簡】25エウカン　唐、姚思廉(165)の本名。

【姚揆】26エウキ　清、嘉興の人。字は聖符。諸生となる。書を善くし、年八十餘にして、猶ほ蠅頭小楷を能くす。〔國朝畫識、九〕・〔國朝書人輯略、三〕。

【姚夔】27エウキ　❶明の人。伯華の孫。字は大章。諡は文敏。正統中、吏科給事中を拜命し、景泰の初、南京刑部右侍郎に拔擢せられ、天順中、禮部尙書となり、後、太子少保を加へらる。人と爲り、才識優れ、朝儀多く其の一言によつて決したといふ。〔明史、一百七十七〕・〔萬斯同明史、二百二十六〕・〔明史稿、一百六十〕。❷清、浙江山陰の人。字は胄師。號は成莽。順治の舉人。官は安化知縣。書室を飮和堂といひ、著に飮和堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百五十三〕。

【姚驥】28エウキ　明、姚伯良(201)の名。

【姚丘】29エウキウ　姚墟(33)に同じ。〔風土記〕舜東夷之人、生二姚丘一、舊記、舜上虞人、去レ虞三十里、有二姚丘一、舜所レ生也。

【姚球】30エウキウ　清、無錫の人。字は頤眞。著に周易象訓がある。〔四庫提要、十〕。

【姚匡】31エウキヤウ　清、常熟の人。字は石邨(石村)。詩・畫に巧。著に南遊日記がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十二〕。

【姚況】32エウキヤウ　唐の人。德宗の時、官は太子中舍人。性謙遜、功に伐らず。凶歲に遇つて飢死した。〔唐書、一百四十七〕。

【姚墟】33エウキヨ　地名。山東省濮縣の南。姚丘。舜の生地。〔竹書紀年、上〕帝舜有虞氏、母曰二握登一、見二大虹一、意感、而生二舜於姚墟一。〔詩含神霧〕握登見二大虹一、意感而生二舜于姚墟一。〔帝王世紀〕瞍妻握登、生二舜于姚墟一、故得二姓姚氏一。〔括地志〕姚墟在二濮州雷澤縣東十三里一。

【姚旭】34エウキヨク　明、桐城の人。字は景暘。號は蘆溪叟。進士。官は刑科給事中。後、河南參政となる。〔國朝獻徵錄、八十三〕・〔明人小傳、二〕・〔本朝分省人物攷、三十五〕・〔明詩綜、二十一〕。

【姚勖】35エウキヨク　唐の人。崇の玄孫。字は斯勤。長慶の進士。諫議大夫となり、尋いで湖常二州の刺史に歷任す。宰相李德裕に厚遇せられ、後、夔王の傅となつて終つた。〔唐書、一百二十四〕。

【姚吟】36エウギン　南朝宋、山陰の人。義陽の王昶が文學從事に召さんとしたが、起たなかつた。〔宋書、九十三〕。

【姚訔】37エウギン　宋の人。希得の子。常州の知事となる。元の伯顏の兵至るに及んで、節に死す。〔宋史、四百五十〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、五〕。

【姚誾】38エウギン　唐の人。崇の從孫。性豪蕩。官は城父令。張巡と共に睢陽を守つて難に死す。〔唐書、一百九十二〕・〔舊唐書、一百八十七〕。

【姚虞】39エウグ　明、莆田の人。字は澤山。嘉靖の進士。官は淮安府の知事。著に嶺海輿圖がある。〔四庫提要、六十八〕。

【姚宏】40エウクワウ　宋の人。舜明の子。字は令聲。官は衢州江山縣の知事。宿怨により、秦檜の爲に死に陷さる。〔宋史翼、二十八〕・〔宋人軼事彙編、九百七十二〕。

【姚黃】41エウクワウ　牡丹の名。姚家(16)・姚黃花・姚黃魏紫を見よ。

【姚黃花】42エウクワウクワ　牡丹の一種。昔、洛陽の姚氏の家に産した千葉の黃牡丹をいふ。〔歐陽脩、洛陽牡丹記、花釋名〕姚黃花者、千葉黃花、出二於民姚氏家一、姚氏居二白馬坡一、一歲不レ過二數朶一、錢思公嘗曰、人謂二牡丹花王一、今姚黃眞可レ爲レ王、而魏花乃后也。〔蘇軾、荔支歎詩〕洛陽相君忠孝家、可レ憐亦進二姚黃花一。

【姚黃紙】43エウクワウシ　上等の竹紙。〔李日華、六硯齋二筆〕竹紙上品有レ三、曰二姚黃一、曰二學士一、曰二邵公一。

【姚黃魏紫】44エウクワウギシ　牡丹の名。姚黃と魏紫。昔、洛陽の姚氏・魏氏の家から牡丹の名花が出たからいふ。〔歐陽脩、縣舍不レ種レ花惟栽二楠木冬青茶竹之類一云云詩〕伊川洛浦尋レ芳徧、魏紫姚黃照レ眼明。〔歐陽脩、洛陽牡丹記、花釋名〕姚黃者、千葉黃花、出二於民姚氏家一、云云、魏家花者、千葉肉紅花、出二於魏相仁溥家一。〔天彭牡丹譜〕人謂二牡丹花王一、今姚黃眞爲レ王、魏紫后爾。〔聞見錄〕宋洛陽舊不レ進レ花、自二李相迪留守一始進、不レ過二姚黃魏紫數朶一。

【姚渙】45エウクワン　宋、普州の人。字は虛舟。進士。官は光祿卿。〔宋史、三百三十三〕・〔宋史新編、一百十〕。

【姚寬】46エウクワン　宋の人。舜明の子。字は令威。號は西溪居士。官は權尙書戶部員外郞樞密院編修。著に西溪叢語がある。〔宋史翼、二十八〕。

【姚關】47エウクワン　關の名。今、老姚關といふ。雲南省保山縣の東南、潞江の濱、灣甸土州の附近。明の萬曆中、諸々の土司が叛いて姚關に偪つたが、明兵に破らる。後、兵を置いて守備した。〔讀史方輿紀要、灣甸禦夷州〕姚關、州北七十里、東北接二順寧府界一、萬曆十一年、緬陷二木邦一、灣甸酋景宗眞、復導レ緬寇二姚關一、焚二掠順寧一、明年、官軍進討、緬酋復合二東西諸路兵一進寇、姚關參將鄧子龍、大破二之於攀枝花一、其地在二姚關南一也、十三年、添二設姚關一、西南渡二喳哩江一、二十程至二木邦一、自二姚關一南行八日、入二孟定府境一。

【姚楗】48エウケン 清の人。椿の弟。字は建木、一に子樞。官は盧氏縣の知事。後、母の喪に遇つて故里に歸り、兄の樗寮と門を杜ぢて講學したので、時に二姚と稱す。書室を雙紅豆館といふ。著に歸雲堂詩・雙紅豆館詞がある。〔續碑傳集、四十三〕。

【姚顥】49エウケン ❶後秦の人。興の弟。字は子章。諡は文成。文武の才を兼ぬ。官は太尉。〔晉書、一百十七〕。❷明、咸陽の人。字は微之。正統中、鄕擧となつて太學に入り、太僕丞となる。〔明史、一百六十四〕・〔萬斯同明史、三百二十〕・〔明史稿、一百五十〕。

【姚鉉】50エウゲン 宋、合肥の人。字は寶之。太平興國の進士。書に秀で、藏書多し。累遷して兩浙漕司となる。著に文粹百卷がある。〔宋史、四百四十一〕・〔宋史新編、一百七十〕・〔北宋經撫年表、二十三〕。

【姚古】51エウコ 宋の人。雄の弟。靖康の初、金兵が京師に逼るを拒ぐ。尋いで河東制置使を拜命し、兵を總べて太原を援けたが、潰滅す。〔宋史、三百四十九〕・〔宋史新編、一百二十〕・〔東都事略、一百四〕・〔北宋經撫年表、七十二・七十八〕。

【姚瑚】52エウコ 清、吳江の人。字は攻玉。號は蟄菴。性耿介にして、科學を事とせず、張履祥に從つて學ぶ。康熙中、卒す、年七十二。著に困學錄がある。〔國朝耆獻類徵、四百七〕。

【姚洪】53エウコウ 五代、唐の人。本、梁の小校。嘗て董璋に事へ、後、唐に事へて指揮使を拜命し、長興中、閬州を戍る。董璋が反するに及んで洪を招いたが、應ぜず。後、璋のため閬州を破られ、執へられて死す。〔五代史、三十三〕・〔舊五代史、七十〕。

【姚興】54エウコウ ❶後秦の人。萇の長子。字は子略。諡は文桓帝。苻堅の時、太子舍人となる。萇の僭位後、立つて太子となり、其の死後、卽位して皇初と改元す。前秦の苻登・西秦の乞伏乾歸を破り、後涼を滅す。後に夏を伐つて敗る。在位二十二年。廟號は高祖。〔晉書、一百十七〕・〔魏書、十〕。❷宋、相州の人。諡は忠毅。靖康中、武功を以て荊湖南路兵馬副都監に遷り、後、金兵と戰つて節に死す。〔宋史、四百五十三〕・〔宋史新編、一百三十三〕・〔南宋書、二十七〕・〔宋人軼事彙編、七百五十〕。

【姚堃】55エウコン 清、澄城の人。字は子方・廉山。嘉慶の進士。官は御史。嘗て十三經注疏の精要な所を拔鈔して其の子に授く。著に周官識小錄・關中風俗考・子史雜識・咫聞錄・隸釋補正がある。〔續碑傳集、十九〕。

【姚最】56エウサイ 隋の人。察の弟。字は士會。博く經史に通ず。開皇の初、太子門大夫を拜命し、北絳郡公を襲爵す。後、封を察に讓り、蜀王の司馬となる。著に梁後略がある。〔周書、四十七〕。

【姚察】57エウサツ 隋の人。僧垣の子。字は伯審。陳の太建の初、通直散騎常侍を拜命し、後、度支吏部尚書に遷る。隋の時、祕書丞となり、梁陳二史を編輯し、未だ畢らずして卒す。子の思廉、其の業を嗣ぐ。〔陳書、二十七〕・〔南史、六十九〕。

【姚咨】58エウシ 明、無錫の人。字は舜咨、又、潛坤。號は茶夢主人（茶夢菴）、又、皇象山人（皇山人）、皇山樗老ともいふ。藏書を好み、善本にあへば常に手寫す。著に潛坤集・春秋名臣列傳がある。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十〕・〔明詩紀事、己、十九〕・〔列朝詩集小傳、丁、上〕・〔盛明百家詩、二〕。

【姚兕】59エウジ 宋、五原の人。兵學に精通し、環慶巡檢を拜命す。屢〻夏人と戰ひ、功を以て通州團練使に陞り、鄜延總管に終る。幼にして孤、母に事へて至孝。〔宋史、三百四十九〕・〔宋史新編、一百二十〕・〔東都事略、一百四〕。

【姚姒】60エウジ 舜と禹。姚は虞舜の姓、姒は夏の禹王の姓。〔謝莊、爲㆓八座江夏王㆒請㆓封禪㆒表〕蓋陶唐・姚姒商姫之主、莫㆑不㆑由㆓斯道㆒也。〔韓愈、進學解〕上規㆓姚姒渾渾無㆑涯、周誥殷盤佶屈聱牙、春秋謹嚴、左氏浮誇、易奇而法、詩正而葩㆒。

【姚孳】61エウジ 宋、慈谿の人。字は舜徒。熙寧の進士。官は提擧成都府路常平等事。著に桃花源集がある。〔尚友錄、六〕。

【姚州】62エウシウ 州名。❶唐、姚州都督府を置く。古の滇國の地。故城は今の雲南省姚安縣の北。清、州を雲南省楚雄府に屬す。民國、姚安縣と改む。〔讀史方輿紀要、雲南、姚安軍民府〕姚州、附郭、漢爲㆓弄棟縣㆒、屬㆓益州郡㆒、蜀漢屬㆓雲南郡㆒、晉因㆑之、東晉成帝、析置㆓興寧郡於此㆒、宋齊因㆑之、梁末沒㆓於蠻㆒、唐置㆓姚城縣㆒、爲㆓姚州治㆒、天寶末、沒㆓于南詔㆒、爲㆓弄棟府治㆒、大理段氏乃置㆓姚州㆒、元爲㆓姚安路治㆒、今因㆑之、編戶四里。〔清史稿、地理志〕雲南、楚雄府、州三、姚州。❷宋、羈縻州を置く。今、缺く。四川省舊敍州府の境。

【姚昌】63エウシヤウ 清、仁和の人。字は鳳和・文山。諸生となる。康熙の間、施琅に從つて臺灣を平定し、功を以て左都督を拜命す。親に事へて至孝。〔國朝耆獻類徵、三百八十四〕。

【姚祥】64エウシヤウ 明、歸善の人。字は應龍。成化の進士。官は江西道監察御史、後、雲南按察副使。〔蘭臺法鑒錄、十三〕・〔本朝分省人物攷、一百十二〕。

【姚襄】65エウジヤウ ❶城の名。山西省吉縣城の西。〔讀史方輿紀要、平陽府、吉州〕姚襄城、州西五十二里、襄爲㆓桓溫所㆑敗、走㆓平陽㆒時所㆑築、後人因名㆑城、周五里、高二丈、杜佑曰、姚襄城、西臨㆓黃河㆒、控㆓帶龍門㆒、寔爲㆓險峻㆒、爲㆓周齊交爭之處㆒、後周天和五年、宇文護使㆔郭榮築㆓城于姚襄城南、定陽城西㆒、既而齊人取㆓汾州及姚襄之地㆒、而榮所㆑築城獨存、又耿城在㆓州南㆒、相傳、殷祖所㆑築之城、隋因置㆓耿州㆒、杜佑曰、隋耿州置㆓于耿吉城㆒、卽此。❷後秦の人。弋仲の第五子。字は景國。諡は魏武王。少くして英名あり、雄武を以て南夏に著はる。殷浩、其の威名を憚り、魏璟を遣はして討たしめたが、却つて襄に斬らる。襄、乃ち自ら大將軍大單于と稱し、許昌に據つて關右を圖つたが、桓溫に敗られ、尋いで關中を圖らんとして苻堅に殺さる。時に年二十七。〔晉書、一百十六〕・〔魏書、十〕。

【姚綬】66エウジユ 明の人。黼の子。字は公綬。號は穀菴子、又、雲東逸史・上淸仙史・天田老農・蘭臺逸史・紫霞碧月翁。天順の進士。官は監察御史。後、永寧郡守となる。退官の後、室を築いて丹中といひ、時人、丹丘先生と呼ぶ。書室を今始堂・會心處といふ。著に雲東集がある。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十二〕・〔本朝分省人物攷、四十四〕・〔明詩紀事、丙、十〕。

【姚璹】67エウジユ 唐の人。思廉の孫。字は令璋。官は地官尚書。〔唐書、一百二〕・〔舊唐書、八十九〕・〔琅琊代醉編、十七〕。

【姚臣】68エウシン 清、秦寶璣（**8－24995**・・257）の字。

【姚信】69エウシン 三國、吳の武康の人。字は元直・德祐。官は太常卿。天文易數の學に精通す。著に周易注がある。〔陳書、二十七〕。

【姚秦】70エウシン 國名。晉代五胡十六國の一。後秦をいふ。初、羌人姚弋仲、晉の封をうけて高陵郡公となり、其の第五子襄、大單于と稱したが、秦の苻堅に殺さる。後、弋仲の第二十四子萇、苻堅を殺して自立し、長安に據つたのが、卽ち後秦である。苻秦と別けて姚秦といふ。後、東晉に滅さる。

【姚震】71エウシン ❶明、仁和の人。字は起東。官は福建按察副使。〔尚友錄、六〕。❷民國、安徽省貴池縣の人。字は次之。我が國早稻田大學卒業。安直戰以後、段祺瑞の祕書長として安福派の復活に努力し、段の臨時執政府には司法總長に就任す。北京政府倒壞後、國民政府から逮捕令を發せられ、以來、兄姚國楨と共に天津に退く。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【姚諶】72エウシン 清、歸安の人。字は子展。咸豐の擧人。古文に長じ、六書小學に力を致し、嘗て群經を寫定した。書室を景詹閣といふ。著に景詹閣遺集がある。〔續碑傳集、七十五〕。

【姚燧】73エウスイ 元の人。樞の從子。字は端甫。號は牧菴。諡は文。少にして許衡に從つて游ぶ。官は翰林學士承旨。著に國統離合表・牧菴集がある。〔元史、一百七十四〕・〔宋元學案、九十〕。

【姚崇】74エウスウ 唐、硤州硤石の人。字は元之。諡は文獻。玄宗の卽位するや宰相を拜し、爵は梁國公。權倖を抑へ、節儉を勸め、宋璟と心を同じうして政を輔け、遂に開元の治を成したので、世人、姚宋と併稱す。〔唐書、一百二十四〕・〔舊唐書、九十六〕。

【姚樞】75エウスウ 元、柳城の人。字は公茂。諡は文獻。太宗の時、燕京行臺郎中を拜命す。世祖に

從つて大理を征し、之を破るに及んで、民生を安定す。累官して翰林學士承旨に至る。其の學は程朱を本とす。〔元史、一百五十八〕・〔宋元學案、九十〕。

【姚成】76 エウセイ 明、臨安の人。少にして孤。異人に遇つて異術を得、終る所を知らず。〔明史、二百六十六〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百五十三〕。

【姚淛】77 エウセイ 明、錢塘の人。後、江寧に徙る。字は元白。號は秋澗。官は鴻臚卿。詩は大歷を宗とし、書は趙廣を法とす。晚年、心を禪乘に歸し、書室を市隱園といふ。〔皇明詞林人物考、十一〕・〔明詩紀事、己、十七〕・〔明畫錄、七〕。

【姚昭】78 エウセウ 北燕の人。馮跋が僭位するや、昭を征南大將軍とし、馮弘が簒立するや、大司馬となす。後、幾くもなくして弘に殺さる。〔晉書、一百二十五〕。

【姚紹】79 エウセウ ㊀後秦の人。萇の庶母弟。泓が位を嗣ぐや衷心から之に仕へ、功によつて太宰に進む。劉裕が來り伐つや、姚洽を遣して河北に屯せしめたが、洽等が敗れて死するや忿恚し、病を發して死す。〔後秦錄〕。㊁明の人。字は廷述。諡は文憲。成化の進士。官は廣西參政。〔廣東通志〕。

【姚燮】80 エウセフ 清、鎭海の人。字は梅伯。號は復莊・野橋。道光の擧人。長じて博く群籍を見、詩詞・駢體文を善くし、畫に巧。晚年、鄞縣に寓し、諸少年と詩社をつくる。同治三年歿す、年六十。書室を大梅山館・怡道山莊といひ、著に大梅山館集・蛟川詩繫がある。〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、八十一〕。

【姚銑】81 エウセン 明、侯官の人。字は孟聲。永樂の進士。官は都給事中。〔明史、一百六十七〕・〔萬斯同明史、二百十二〕。

【姚暹】82 エウセン 運河の名。別名、白沙河・巫咸河・鹽水。源は山西省夏縣の東北。西南流して虞鄉の界に至り、五姓湖に入る。卽ち古の永豐渠で、北魏の都水校尉元清の開いたもの。隋の都水使者姚暹、重ねて之を修め、民、其の利に賴る。〔讀史方輿紀要、平陽府、解州〕姚暹水、州北十五里、卽永豐渠也、自二安邑縣一流入、又西入二臨晉縣界一、宋國史、天聖五年、詔二陝西漕臣一、修二永豐渠一、自下後魏正始四年、都水校尉元清、引二中條山下平坑水一爲レ渠、西入二黃河一、以運上鹽、名曰二永豐一、周齊間、廢、隋大業中、都水鹽姚暹、浚レ渠、自二陝郊西一入二解縣一、民賴二其利一、唐末湮沒、鹽運大艱、至レ是殿直劉逵、請開下浚自二鮮州安邑一至中蒲州上、自二家場一通レ舟運レ鹽、漕臣王博文、以爲レ便、遂浚レ之、公私果利、今仍曰二姚暹渠一。

【姚善】83 エウゼン 明、安陸の人。字は克一。初の姓は李。洪武の擧人。官は蘇州府の知事。燕兵が南下するや、執へられて死す。〔明史、一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十六〕・〔明史稿、一百三十三〕。

【姚宋】84 エウソウ ㊀唐の玄宗の時、姚崇と宋璟と相繼いで賢相となる。世人之を姚宋と倂稱す。〔舊唐書、玄宗紀論〕靡レ聞二姚宋之言一、妬レ賢害レ功。〔蘇軾、讀二開元遺事一詩〕姚宋亡來事事生、一官銖重萬人輕。㊁清、新安の人。字は雨金。號は羽京。畫に巧にして、能く瓜の種子に十八羅漢を畫き、絶人の藝と稱せらる。〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝畫識、十〕。

【姚村】86 エウソン 地名。㊀河北省定興縣の西南。易縣・徐水縣の界に近い。㊁山東省曲阜縣。津浦鐵道の沿線。曲阜驛をいふ。孔子廟に詣る者は、此處で下車する。

【姚鼐】87 エウダイ 清の人。範の從子。字は姬傳・夢穀。其の書齋を惜抱軒といふ。よつて學者、惜抱先生と尊稱す。乾隆の進士。官は散館主事。郎中に遷つて故鄉に退き、鍾山書院主講となる。卒年八十五。性恬淡。其の學は義理考證詞章を主とし、漢宋の門戶に拘泥せず、古文辭類纂を撰んで、義法を明かにす。世に之を桐城派と稱す。著に惜抱軒全集・九經說・三傳補注・惜抱軒筆記・詩集・書錄・今體詩鈔等がある。〔清史稿、四百九十〕・〔國朝先正事略、四十三〕・〔碑傳集、一百四十一〕。

【姚堂】88 エウダウ 明、慈谿の人。字は彥容。正統の進士。官は廣東參政。著に潤州先賢錄がある。〔萬斯同明史、二百十一〕。

【姚澤】89 エウタク 地名。舜の生れた處。姚墟。〔王融、三月三日曲水詩序〕殷殷均二乎姚澤一。〔注〕良曰、姚澤、舜生地。

【姚坦】90 エウタン 宋、濟陰の人。字は明白。開寶中、進士となる。景德の初、鄧州轉運使となり、大中祥符の初、光州の知事となつて卒す。〔宋史、二百七十七〕・〔宋史新編、七十九〕。

【姚端】91 エウタン 宋の人。濮州の將官。建炎中、金人が入寇するや、決死の士を率ゐて突出す。〔宋史、四百五十二〕。

【姚儋】92 エウタン 唐の人。李希烈の部將。周曾・王玢・韋清志と共に四公子と稱せらる。希烈が叛くや、周曾等と之を殺さんとし、却つて殺さる。〔唐書、一百九十三〕。

【姚伷】93 エウチウ 三國、蜀の閬中の人。字は子緒。建興中、廣漢太守となる。諸葛亮が漢中に駐まるや、召して掾と爲す。萬姓統譜に姚伯に作り、清一統志に姚仙に作るは、皆誤。〔四川通志〕。

【姚萇】94 エウチヤウ 後秦、南安赤亭の人。もと羌種にして、弋仲の第二十四子。字は景茂。諡は武昭帝。苻堅の揚武將軍となり、堅の敗後、渭北に奔り、西州の豪族の盟主となり、仍つて秦王と稱し、苻堅を五將山に殺し、長安を取り、帝號を僭稱し、建初と改元し、國號を大秦とす。史家、之を後秦といふ。在位八年。廟號は太祖。〔晉書、一百十六〕・〔魏書、十〕。

【姚萇集】95 エウチヤウシフ 地名。安徽省巢縣の東北、青龍山・湯山・橫山の間。東晉の時、姚萇が兵を駐めて屯田した處。

【姚琛】96 エウチン 明、潮陽の人。字は弘璧。四世同居し、孝を以て聞ゆ。官は撫州通判。〔廣東通志〕。

【姚椿】97 エウチン 清、婁縣の人。字は春木（春生）・子壽。號は晚學齋・樗寮子。道光中、桐城の姚鼐に從つて遊び、古文を以て知らる。晚年、本郡景吳書院主講となる。墨竹を善くす。年七十七を以て卒す。書室を通藝閣といふ。著に通藝閣詩錄・晚學齋文鈔・清文錄がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、七十八〕。

【姚肇】98 エウテウ 明、富陽の人。號は蒙齋。官は雲南右參政、後、福建布政使。著に蒙齋稿がある。〔尙友錄、六〕。

【姚沾】99 エウテン 明、餘姚の人。字は惟恩。號は墨仙。官は錦衣千古。畫を善くし、詩に巧。〔圖繪寶鑑〕。

【姚婆】100 yao² p'o² 後妻の俗稱。

【姚伯】101 エウハク 姚伷(93)を見よ。

【姚鏌】102 エウバク 明、慈谿の人。字は英之。弘治の進士。右副都御史に至る。嘉靖中、右都御史となつて兩廣の軍務を提督し、岑猛を大破す。尋いで左都御史となり、兵部尙書に陞進し、三邊の軍務を總制す。著に姚東泉文集がある。〔明史、二百〕・〔萬斯同明史、二百九十一〕・〔明史稿、一百八十五〕。

【姚班】103 エウハン 唐の人。璹の弟。武后の時、明經に擢んでられ、六州の刺史に歷任し、太子遷事に陞る。後、右散騎常侍となり、祕書監に遷る。睿宗が立つや、戶部尙書を拜す。〔唐書、一百二〕。

【姚範】104 エウハン 清、桐城の人。字は南菁。乾隆の進士。編修を拜命し、三禮館纂修となる。其の學は深く遺經を究めて精粹を綜べ、世に薑塢先生と稱せらる。書室を援鶉堂といふ。著に援鶉堂筆記、及び詩文集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十六〕。

【姚福】105 エウフク 明、江寧の人。字は世昌。號は守素道人。著に青溪暇筆がある。〔明詩紀事、己、十八〕。

【姚文】106 エウブン 明、崇德の人。字は敏學。永樂の進士。慶遠府・袁州等の知事となる。卒する時、州の父老、庭に會哭す。〔明史、二百九十六〕・〔明名人傳、十〕。

【姚平】107 エウヘイ 漢、河東の人。焦延壽の易を京房に受け、郎博士となつて京氏の學を傳ふ。〔前漢書、八十八〕。

【姚炳】108 エウヘイ 清、錢塘の人。字は彥暉。著に詩識名解がある。〔四庫提要、十六〕。

【姚闢】109 エウヘキ 宋、金壇の人、字は子張。皇祐の進士。官は項城令・通州通判。蘇洵と禮書を修む。著に太常因革禮がある。〔京口耆舊傳、六〕。

【姚勉】110 エウベン 宋、新昌の人。字は成一、號は雪坡。寶祐中、進士第一。官は校書郎。賈似道に忤ひ、

免め歸る。著に雪坡文集がある。〔宋史翼、二十九〕・〔南宋館閣續錄、八・九〕。

【姚勔】111エウベン　宋、山陰の人。字は輝中。進士に擧げらる。官は起居郞・國士祭酒。紹聖の初、呂大防・范純仁に阿附した廉により、信州の知事に謫せられ、再び水部員外郞に貶せられ、南京を分司す。〔宋史翼、二〕・〔元祐黨人傳、二〕。

【姚黼】112エウホ　明、嘉善の人。字は延章。號は松雲。書畫及び詩に巧にして、數室を築き、鼎彝金石法書名畫を列ね、優遊自ら樂しむ。時人、可間先生といふ。〔明人小傳、一〕・〔明詩綜、十九上〕・〔明詩紀事、乙、六〕。

【姚冶】113エウヤ　容貌が美しくなまめかしい。婀娜。妖冶。〔荀子、非相〕莫㆑不㆓美麗姚冶、奇衣婦飾㆒。〔注〕說文曰、姚、美好貌、冶、妖也。〔荀子、禮論〕故其立㆓文飾㆒也、不㆑至㆓於窕冶㆒。〔注〕窕、讀爲㆑姚、姚冶、妖美也。

【姚冶容】114エウヤノカタチ　なまめいて美はしい容貌。妖冶。〔荀子、樂論〕姚冶之容、鄭衞之音、使㆓人心淫㆒。

【姚雄】115エウユウ　宋の人。兕の子。字は毅夫。諡は武憲。年十八、父を佐けて征伐の事に從ひ、檢校司空より寧軍節度使に至る。〔宋史、三百四十九〕・〔宋史新編、一百二十〕・〔東都事略、一百四〕・〔元祐黨人傳、九〕・〔北宋經撫年表、七十八〕。

【姚興】116エウヨ　清、震澤の人。字は英三・益齋。號は震甫。貢生となる。博く典籍を覽、藏書を喜む。著に姚震甫文略がある。

【姚邕】117エウヨウ　後秦の人。興の弟。字は子和。小字を黃兒といふ。濟南公に封ぜらる。音樂を善くし、曲調を增致す。世人傳へて濟南新調と號す。〔後秦錄〕。

【姚鏞】118エウヨウ　宋、剡の人。字は希聲。號は雪篷。又、敬菴。嘉定の進士。官は吉州判官。後、贛州の太守に擢んでられたが、上司に忤らつて、衡陽に貶せらる。著に雪篷集がある。〔尙友錄、六〕。

【姚翼】119エウヨク　明、歸安の人。字は翔卿。號は孺參。又、臥齋。官は廣濟縣の知事。藏書萬卷あり、晚年、海屋子と號す。書室を玩畫齋といふ。著に玩畫齋藏書目錄がある。〔國朝獻徵錄、八十九〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十三〕。

【姚淶】120エウライ　明の人。鏌の子。字は維東。嘉靖中、殿試第一に擧げられ、翰林修撰を拜命す。明倫大典の編修に召されたが、固く辭して與らず。尋いで侍讀學士となる。〔明史、二百〕。

【姚李】121エウリ　複姓。〔山西通志〕姚李、安隆盂縣人、擧人。

【姚臨】122エウリン　明の人。嵓の三世の孫。字は大臨。洪武の初、萊州府同知となり、後、保定府の知事となる。〔尙友錄、六〕。

【姚麟】123エウリン　宋の人。兕の弟。字は君瑞。節度建雄定武軍となり、兄兕と共に二姚と稱せらる。〔宋史、三百四十九〕・〔宋史新編、一百二十〕・〔東都事略、一百四〕。

【姚泓】124エウワウ　後秦の人。興の長子。興の死後、帝位を僭し、永和と改元す。後、劉裕に攻められ、建康に斬らる、時に年三十。在位二年。〔晉書、一百十九〕・〔魏書、十〕・〔琅琊代醉編、三十〕。

【姚慰祖】125エウヰソ　清の人。覲元の子。字は公蓼。號は晉石菴。藏書を好み、晉石厂叢書を刻したが、僅に吳興藏書錄・經籍跋文・鄭氏學錄・古今僞書考の四書を成すのみ。

【姚一元】126エウイツゲン　明、長興の人。字は惟貞。嘉靖の進士。官は山東布政使。後、順天府尹となる。時人、稱して古君子といふ。〔國朝列卿記、一百五十〕・〔明名人傳、十〕。

【姚允恭】127エウインキヨウ　明の人。官は霍山の訓導。崇禎中、賊を鳳陽に防ぎ、自ら縊死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【姚允在】128エウインザイ　明、會稽の人。字は簡叔。畫に巧。〔明畫錄、五〕。

【姚雲文】129エウウンブン　姚雲(4)を見よ。

【姚永樸】130エウエイボク　民國、安徽省桐城縣の人。字は仲實。擧人出身。山東高等學堂、安徽高等學堂、京師法政學堂及び京師大學堂經文科教員、國立東南大學文科教授、安徽大學文學院教授等を歷任す。著に文學研究法がある。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【姚延啓】131エウエンケイ　清、烏程の人。字は季迪。號は敬存。順治の進士。官は山西稷山知縣。後、戶工吏三科を掌る。

【姚畹眞】132エウエンシン　清の人。昭文張蓉鏡の妻。號は芙初女史、又、畹芳女士。鑒別に精しく、其の夫婦藏書の所を雙芙閣といつたのは、蓉鏡の字が芙川なるより名づけたもの。

【姚應鳳】133エウオウホウ　元、慈谿の人。字は時和。號は納軒。文詞に巧。著に納軒稿がある。〔尙友錄、六〕。

【姚獬孫】134エウカイソン　宋、慈谿の人。字は應獬。官は國子助教。後、學錄に改めらる。父の斆、前國子司業となり、諸生東南遺老と稱す。獬孫、之を繼ぎ元に仕へず、雙峯別墅に退隱す。著に雙峯詩文集がある。〔宋季忠義錄、十四〕。

【姚孝錫】135エウカウセキ　宋、豐の人。字は仲純。政和中、登科す。官は代州兵曹。金兵が雁門に入るや、州將、降を議し、官屬畏懼する中に、孝錫獨り床上に大鼾す。後、五臺簿となり、因つて五臺に家す。號は醉軒。著に雞肋集がある。〔尙友錄、六〕。

【姚岳祥】136エウガクシヤウ　明、化州の人。字は于定。萬曆の進士。庶吉士に選ばる。鄒元標が張居正を彈劾して獄に下されるや、獨り往きて慰問す。〔本朝分省人物攷、一百十二〕。

【姚學灝】137エウガクカウ　清の人。字は天如。畫詩に巧。〔國朝畫識、一〕。

【姚學塽】138エウガクサウ　清、歸安の人。字は晉堂（鏡堂）。號は竹素齋。鏡塘先生と稱せらる。嘉慶の進士。中書を拜命し、道光中、兵部郞中に遷る。著に姚兵部詩文集がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔國朝先正事略、三十一〕・〔續碑傳集、七十二〕。

【姚學閔】139エウガクビン　明、武陵の人。字は順山。隆慶の進士。禮刑兵三科給事中を歷任す。著に諫垣疏稿がある。〔四庫提要、五十六〕。

【姚學禮】140エウガクレイ　明、巴縣の人。字は以立。弘治の進士。南京御史に擢んでられ、後、雲南僉事に進み、參議に終る。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十八〕・〔明史稿、一百七十三〕。

【姚柬之】141エウカンシ　清、桐城の人。字は佑之。號は伯山・且看山人。道光の進士。官は大定府の知事。著に漳水圖經・綏猺廳誌、及び詩文集がある。〔清史稿、四百八十四〕・〔續碑傳集、四十二〕。

【姚巖傑】142エウガンケツ　唐の人。崇の裔孫。詩酒を以て江左に放遊す。著に象溪子がある。〔唐詩紀事、六十六〕。

【姚希得】143エウキトク　宋、潼川の人。字は逢源。嘉定の進士。朝夕、六經諸子百家の言を討論す。參知政事となり、潼川郡公を以て致仕す。後、少保を贈らる。著に續言行錄・奏稿・橘洲文集がある。〔宋史、四百二十一〕・〔宋史新編、一百五十九〕・〔南宋書、五十七〕・〔宋大臣年表、三十三・三十四〕・〔南宋館閣續錄、七〕。

【姚希孟】144エウキマウ　明、吳縣の人。字は孟長。號は現聞居士。諡は文毅。萬曆の進士。翰林檢討を拜命したが、天啓中、楊所修の彈劾に遇ひて除籍せらる。崇禎年間に至つて召を受け、尋いで南京少詹事に轉任す。書室を絳趺堂といひ、著に循滄集がある。〔明史、二百十六〕・〔萬斯同明史、三百六十二〕・〔明史稿、二百三〕。

【姚奇允】145エウキイン　明、錢塘の人。字は有僕。崇禎の進士。南海縣の知事を拜命し、尋いで兵部主事・御史に歷任し、贛州の難に死す。〔明史、二百七十八〕・〔萬斯同明史、三百六十七〕・〔明史稿、二百五十九〕。

【姚覲元】146エウキンゲン　清の人。文田の孫。字は彥侍。號は咫進齋・弓齋。道光の擧人。官は廣東布政使。書室を大疊山房といふ。著に大疊山房詩集がある。刻する所の咫進齋叢書、世に稱せらる。

【姚華瓚】147エウクワサン　清、湖南東安の人。字は瑟菴。性、讀書を好み、尤も易に精通す。著に六壬續集・卜易正斷がある。〔國朝耆獻類徵、四百八十四〕。

【姚宏業】148エウクワウゲフ　清、益陽の人。號は劍生、又、競生。我が國の師範學校、大阪工業學校に留學す。後、歸國して、張邦傑・梁喬山等と中國公學を創立したが、財政窮迫して、黃浦江に投ず、年二十四。絕命詞數千言がある。

【姚宏任】149（エウクワウジン）　清、錢塘の人。字は敬恆・思誠。少くして孤。科擧に應ぜず、市廛に隱れて母を養ひ、應撝謙に師事す。晚年、寃罪を以て獄に繫がれ、卽日釋されたが、貧を以て卒す。〔清史稿、四百八十六〕・〔國朝先正事略、二十八〕・〔碑傳集、一百二十八〕。

【姚宏中】150（エウクワウチユウ）　宋、海陽の人。字は安道。嘉定の進士。官は靖江教授。濂洛の諸書を修む。〔尙友錄、六〕。

【姚黃眉】151（エウクワウビ）　後魏の人。興の子。諡は獻。明元帝の昭哀皇后の弟なるを以て帝の厚遇を得、隴西公を賜ひ、陽翟公主を娶る。太武が卽位するや、太常少卿となり、卒して隴西王を贈らる。

【姚廣孝】152（エウクワウカウ）　明、長州の人。年十四にして僧となり、名を道衍といふ。字は斯道。號は天禧・逃虛老人・獨菴老人・嬾閣翁。諡は恭靖。詩畫に巧。道士席應眞に事へて陰陽術數を學ぶ。洪武中、高僧に選ばれ、燕王に從つて慶壽寺の住持となり、常に府中に侍す。後、燕王に勸めて兵を起さしめ、燕王が立つに及んで、太子少師を拜命し、復姓して、名を廣孝と賜はる。卒年八十四。榮國公を贈らる。嘗て太祖實錄を監修し、又、永樂大典を纂修す。著に逃虛子集がある。〔明史、一百四十五〕。

【姚啓聖】153（エウケイセイ）　清、會稽の人。字は熙止。康熙の閒、鄕試第一に擧げられ、香山縣の知事となる。耿精忠が反するや、家財を以て兵を募り、精忠を說得して降し、福建布政使に擢んでられ、尋いで太子少保・兵部尙書に陞進す。書室を憂畏軒といふ。著に憂畏軒集がある。〔淸史稿、二百六十六〕・〔國朝先正事略、九〕・〔碑傳集、十五〕。

【姚景行】154（エウケイカウ）　遼、興中の人。重熙の進士。諡は文憲。翰林學士・參知政事に累官し、道宗の時、北府宰相となる。〔遼史、九十六〕。

【姚繼巖】155（エウケイガン）　明、南通州の人。字は元宵。官は太常少卿。〔明史、一百八十九〕。

【姚元之】157（エウゲンシ）　清、桐城の人。字は伯昂。號は薦靑（廌靑）・五不翁・竹葉亭生。嘉慶の進士。左都御史となつたが、事を以て內閣學士に降さる。隸・行・草に巧。著に竹葉亭雜詩稿がある。〔清史稿、三百八十一〕・〔清史列傳、四十二〕・〔碑傳集補、四〕。

【姚孔鋠】158（エウコウジユン）　清、桐城の人。字は梁貢。號は于巢。康熙中の諸生。書室を華林莊といふ。著に華林莊詩集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【姚句耳】159（エウコウジ）　春秋、鄭の成公の大夫。晉侯が鄭を伐つや、鄭人、之を楚に告ぐ。時に姚句耳も與に往く。楚子が鄭を救はんとするや、姚句耳先づ歸り、楚の敗を言ふ。後、果して然り。〔左氏、成、十六〕。

【姚際恆】160（エウサイコウ）　清、浙江仁和の人。字は立方。一の字は首源。縣の諸生。其の行事及び生卒年月は詳かでないが、著書に據つて康熙の人たるを知る。書室を好古堂といふ。著に古今僞書考・好古堂書目・書畫記・九經通論・庸言錄がある。〔清史列傳、六十八〕・〔碑傳集補、三十九〕。

【姚士陞】161（エウシシヨウ）　清、桐城の人。字は別峯。異才あり。康熙中、京兆試に應じて雋を獲得す。友人の難に赴き、道に卒す。書室を空明閣といふ。著に空明閣詩鈔がある。〔國朝詩人徵略初編、十六〕。

【姚士粦】162（エウシリン）　明、海鹽の人。字は叔祥。秦漢以來の遺文を蒐めて祕冊彙函跋尾を撰し、各〻攷據を爲し、源委を明かにす。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十一〕・〔列朝詩集小傳、丁、下〕。

【姚之駰】163（エウシイン）　清、錢塘の人。字は魯斯。康熙の進士。官は監察御史。著に後漢書補逸・元明事類鈔がある。〔清史列傳、七十〕。

【姚思孝】164（エウシカウ）　明、江都の人。字は永言。崇禎の進士。官は兵科給事中。〔萬斯同明史、三百六十二〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十八〕・〔明詩紀事、辛、十九〕。

【姚思廉】165（エウシレン）　唐、萬年の人。察の子。本名は簡。字を以て世に知らる。諡は康。隋の時、代王侍讀となり、唐の太宗の時、弘文館學士に進んで魏徵と梁書・陳書を撰し、尋で散騎常侍に陞る。〔唐書、一百二〕・〔舊唐書、七十三〕。

【姚述堯】166（エウジユツゲフ）　宋、姚述唐を見よ。一に述堯に作る。

【姚述唐】167（エウジユツタウ）　宋、錢塘の人。字は進道。紹興の進士。詞に巧。著に蕭臺公餘詞がある。〔宋元學案、四十〕。

【姚舜聰】168（エウシユンソウ）　明の人。兗の子。字は伯達。官は休寧訓導。詩を能くす。

【姚舜牧】169（エウシユンボク）　明、烏程の人。字は虞佐。唐一菴・許敬菴の學を慕つて承菴と號す。新興の令、廣易の令となつて治績あり。劉一焜・楊鶴、其の廬に至りて弟子の禮を執る。羽翼六經坊を會城に建つ。著に四書五經疑問・樂陶吟草がある。〔萬斯同明史、三百八十四〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十二〕・〔靜志居詩話、十五〕。

【姚舜明】170（エウシユンメイ）　宋、剡の人。字は延輝。官は徽猷閣待制。〔尙友錄、六〕。

【姚汝循】171（エウジヨジユン）　明、江寧の人。字は敍卿。嘉靖の進士。官は大名府の知事。著に屛居浪遊・耕餘諸集がある。〔皇明詞林人物考、十〕・〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、四十四〕・〔明詩紀事、己、十二〕・〔列朝詩集小傳、丁、上〕。

【姚汝明】172（エウジヨメイ）　明、夏縣の人。天啓の擧人。崇禎の閒、蠡縣の知事。後、河閒同知に陞り、敵と戰ひ、城破れて死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十三〕。

【姚世鈺】173（エウセイギヨク）　清、歸安の人。字は玉裁。號は薏田・孱守齋。諸生。書室を寒鑑樓といひ、著に孱守齋遺稿がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、四百三十二〕。

【姚世錸】174（エウセイライ）　清、歸安の人。字は念慈。後に、名を汝金、字を改之と改む。號は貞菴。雍正の副貢生。官は長沙縣丞。著に孤笑集・五臺山遊草がある。〔鶴徵後錄、七〕。

【姚少監】175（エウセウカン）　唐の姚合（23）をいふ。

〖姚少監詩集〗176（エウセウカンシシフ）　書名。十卷。唐、姚合撰。姚合は早く武功縣詩三十首を以て名を得たので、詩家、遂に之を姚武功といひ、其の詩派を稱して武功體といふ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【姚紹之】177（エウセウシ）　唐、武康の人。監察御史となり、中宗の時、左臺侍御史に擢んでらる。後、贓に坐して瓊山尉に貶謫せられ、括州長史に終る。〔唐書、二百九〕・〔舊唐書、一百八十六〕。

【姚祖同】178（エウソドウ）　清、錢塘の人。字は秉璋、一に亮甫ともいふ。乾隆の時、內閣中書・安徽巡撫となり、道光の時、左副都御史に至る。〔清史稿、三百八十七〕・〔國朝耆獻類徵、一百五〕・〔續碑傳集、十〕。

【姚宋佐】179（エウソウサ）　宋の人。字は輔之。號は北湖。靖康の進士。官は湟州尹掾。後、八桂敎官となり、詩を以て名あり。著に文集がある。〔尙友錄、六〕。

【姚宗之】180（エウソウシ）　宋、興化の人。字は元仲。紹興の進士。孝宗の時、國子學錄となる。古の爭臣の風あり。〔尙友錄、六〕。

【姚宗文】181（エウソウブン）　明、慈谿の人。庶吉士から戶科給事中を拜命し、尋いで吏科右給事中・太常少卿・右都御史に至る。〔明史、三百六〕・〔萬斯同明史、三百五十四〕・〔明史稿、二百二十五〕。

【姚宗明】182（エウソウメイ）　宋、河中永樂の人。其の十世の祖棲雲は、父の喪に當つて終身墓側の廬に在つた。其の子孫は、宋明に至る迄十世同居し、聚族百餘人に及び、三百餘年を經てなほ問題を起す者が無かつた。〔宋史、四百五十六〕・〔宋史新編、一百七十六〕。

【姚僧垣】183（エウソウヱン）　北周、武康の人。字は法衞。梁の時、湘東王記室參軍となる。侯景の亂に、妻子を棄てて難に赴き、簡文帝が位を嗣ぐや、建業に還つて中書舍人を兼ぬ。元帝、侯景を平定するに及んで、晉王府諮議を拜命す。後、于謹に隨つて長安に至り、驃騎大將軍・開府儀同大將軍に累遷す。卒年、八十五。醫術に精通す。〔周書、四十七〕・〔北史、九十〕。

【姚張斌】184（エウチヤウヒン）　明、金谿の人。號は尙絅、又、絅生。天啓の進士。著に尙絅小語がある。〔四庫提要、一百二十五〕。

【姚仲孫】185（エウチユウソン）　宋、商水の人。進士に擧げられ、河北都轉運使となり、後、權三司使に至る。〔宋史、三百〕・〔宋史新編、九十三〕。

【姚女花】186（エウヂヨクワ）　水仙の異名。女史花（**3**－**6036**‥139）を見よ。〔內觀日疏〕故迄㆑今水仙名ニ女史

花、又名二姚女花一。

【姚廷木】187（エウテイボク） 清、南匯の人。字は克修。號は省夫。音律を好くし、畫に巧。

【姚締虞】188（エウテイグ） 清、黃陂の人。順治の進士。成都府推官を拜命し、康熙の間、四川巡撫に至る。〔清史稿、二百八十〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十七〕・〔碑傳集、六十五〕。

【姚天福】189（エウテンプク） 元、絳州の人。字は君祥。幼にして春秋の大義に通ず。官は參知政事兼大興尹。〔元史、一百六十八〕。

【姚東泉】190（エウトウセン） 明、姚鏌(102)をいふ。

【姚登孫】191（エウトウソン） 元、鄞の人。字は廷禮。景定の鄉貢。宋末、雙峯別墅に退隱し、經史百子を究む。元初、國子助教となる。諸生。東南遺老といふ。

【姚桐壽】192（エウドウジユ） 元、睦州の人。字は樂年。號は桐江釣叟。至元中、餘干教授となる。著に樂郊私語がある。〔四庫提要、一百四十二〕。

【姚內斌】193（エウナイヒン） 宋、盧龍の人。初、契丹に仕へて瓦橋關使となる。後、周に歸し、汝州刺史を拜命し、宋に入つて李筠を平定し、後、慶州刺史を拜命す。西夏、其の武猛を恐れ、姚大蟲と號す。〔宋史、二百七十三〕・〔宋史新編、七十七〕・〔東都事略、二十九〕・〔隆平集、十六〕。

【姚南仲】194（エウナンチユウ） 唐、下邽の人。乾元の初、制科に擢んでられ、進んで右補闕となり、德宗の時、義成節度使・尙書右僕射を拜命す。〔唐書、一百六十二〕・〔舊唐書、一百五十三〕。

【姚念曾】195（エウネンソウ） 清、金山の人。字は季方。乾隆の拔貢。官は孝感・應山縣等の知事を歷て、歸德府同知に擢んでらる。詩詞に巧。書室を賜墨齋といふ。著に金石考・賜墨齋詩詞印譜がある。

【姚配中】196（エウハイチユウ） 清、旌德の人。字は仲虞。道光の諸生。易に通じ、琴を好み、書に巧。書室を一經廬といふ。著に周易姚氏學・琴學書學拾遺がある。〔清史列傳、六十九〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十二〕。

【姚培炎】197（エウバイエン） 清、金山の人。字は安圃。諸生。著に遠春詞・緣情草がある。

【姚培謙】198（エウバイケン） 清、江蘇華亭の人。字は平山。號は鱸鄉老人。諸生。交友を好み、名聲江左に滿つ。書室を松桂讀書堂といふ。著に增輯左傳杜注・經史臆見・樂善堂賦注・類腋・朱子年譜・李義山詩箋注・文心雕龍箋注・松桂讀書堂集がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【姚邦基】199（エウハウキ） 宋、大昌の人。政和の進士。洧川令を拜命したが、劉豫の僭竊に憤慨して山林に匿る。豫が、廢せられるに及んで、高宗に嘉せられて京秩を賜はる。〔宋史、四百五十三〕。

【姚伯華】200（エウハククワ） 明、桐廬の人。元末の亂に父母共に殺されてから、每歲一月、葷酒を近づけず、賓客に接せず、爐を擁して泣涙す。〔明史、一百七十七〕。

【姚伯良】201（エウハクリヤウ） 明、鄞の人。名は驥。字を以て世に知らる。洪武中、郴州桂陽丞となり、後、山西按察司僉事となる。著に芸牕稿・小學諷詠補遺がある。〔尙友錄、六〕。

【姚敏修】202（エウビンシウ） 清、秀水の人。字は遜公(遜躬)。號は墨莊。畫に巧。〔清畫家詩史、乙、下〕・〔國朝畫識、八〕。

【姚武功】203（エウブコウ） 唐の姚合の別名。武功尉となり、武功縣詩を以て名を得たからいふ。〔唐書、姚合傳〕合、元和中進士及第、調二武功尉一、善レ詩、世號二姚武功一。

【姚文蔚】204（エウブンヰ） 明、錢塘の人。字は養谷。萬曆の進士。官は南京太僕寺少卿。著に周易旁注會通・省括篇がある。〔四庫提要、八・五十六・一百三十二〕。

【姚文灝】205（エウブンカウ） 明、貴溪の人。字は秀夫。號は鄱東野人。成化の進士。官は湖廣提學僉事。嘗て自ら謂ふ、能くする所の者三。毀譽入らず、請託行はれず、賄賂通ぜざるのみと。著に有學齋稿・經說・雜說・報德錄・中庸本義がある。〔國朝獻徵錄、八十八〕・〔本朝分省人物攷、六十〕。

【姚文奐】206（エウブンクワン） 元、崑山の人。字は子章。號は婁東生。家に野航亭あり、時人、姚野航といふ。官は浙東帥閫掾。著に野航亭稿がある。〔元詩紀事、二十四〕。

【姚文燮】207（エウブンセフ） 清、桐城の人。字は徑三(經三)。號は羹湖(美湖)。順治の進士。官は雲南開化同知。其の畫は妙品に入り、黃檗山樵と號す。書室を賜金園・無異堂といふ。著に無異堂集がある。〔清史稿、四百八十二〕・〔清史列傳、七十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百五十〕。

【姚文然】208（エウブンゼン） 桐城の人。字は弱侯。諡は端恪。明の崇禎の進士。清に入つて刑部尙書となる。書室を虛直軒といふ。著に奏疏及び詩文集がある。〔清史稿、二百六十九〕・〔清史列傳、七〕・〔國朝先正事略、三〕。

【姚文田】209（エウブンデン） 清、歸安の人。字は秋農。號は梅漪老人。諡は文僖。嘉慶の進士。修撰から禮部尙書に進み、其の學は宋儒を宗とす。書室を邃雅堂(篴雅堂)といふ。著に易原・春秋月日表・說文聲系・說文攷異・邃雅堂文集がある。〔清史稿、三百八十〕・〔國朝先正事略、二十四〕・〔續碑傳集、八〕。

【姚平仲】210（エウヘイチユウ） 宋の人。古の子。字は希晏。年、十八にして夏人と戰つて殊功ありしが、後、功成らず、青騾に乘つて亡命し、青城山に至り、また大面山に入り、朝廷の詔にも應ぜず。乾淳中、始めて出で、丈人觀道院に至る。時人、稱して西陲大將といふ。〔宋史新編、一百二十〕・〔南宋書、六十五〕・〔宋人軼事彙編、六百九十六〕。

【姚兵部】211（エウヘイブ） 清、姚學塽(138)をいふ。

【姚明恭】212（エウメイキヨウ） 明、蘄水の人。號は崑斗。萬曆の進士。崇禎中、戶部尙書・文淵閣大學士に累官す。〔明史、二百五十三〕・〔萬斯同明史、三百五十七〕。

【姚茂良】213（エウモリヤウ） 明、武康の人。字は靜山。著に精忠記・雙忠記・金丸記がある。〔曲錄、四〕。

【姚弋仲】214（エウヨクチユウ） 晉の時の羌の酋長。南安赤亭に居る。諡は景元皇帝。永嘉の亂に自ら護西羌校尉・雍州刺史と稱す。石祗が襄國に僭號するや、弋仲を以て右丞相となす。永和中、車騎大將軍・大單于を拜し、高陵郡公を賜はつて卒す。子の萇、僭位し、國名を後秦といひ、弋仲を始祖として追尊す。〔晉書、一百十六〕・〔魏書、十〕。

【姚劉沙】215（エウリウサ） 洲の名。江蘇省崇明縣の東北。〔蘇州府志〕宋時續湧二一沙一、與二東沙一接、稱二姚劉沙一、建炎閒、有二姚劉姓者一、避二兵於此一、因稱二姚劉沙一、元因置二崇明州治一焉。

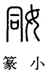
【姚令言】216（エウレイゲン） 唐、河中の人。官は涇原節度使。建中の末、朱泚を擁して亂を爲し、倶に斬らる。〔舊唐書、一百二十七〕。

【姚灣集】217（エウワンシフ） 地名。江蘇省邳縣の南。宿遷縣と界を接す。一に窰灣に作る。地、運河に臨み、殷盛の市集をなす。夏秋、水量豐なるを以て、小汽船、清江浦から此處に達す。

【姚孫棨妻】218（エウソンケイノツマ） 清の人。方維儀(**5－13620‥476**)を見よ。

【姚與祁妻】219（エウヨキノツマ） 明の人。張鴻逑(**4－9812‥1046**)を見よ。

【姛】6203


小篆

［一］トウ ツ 〔集韻〕吐孔切 董

［二］トウ ヅ 〔集韻〕徒弄切 送

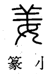
［一］［二］❶**くび筋の正しいさま。** もと⿰同女(**3－6204**)に作る。〔正字通〕姛、本作レ⿰同女。〔說文〕⿰同女、直項貌、从レ女同聲。〔集韻〕⿰同女、項端。❷或は⿰同頁(**12－43460**)に作る。〔集韻〕⿰同女、或从レ頁。

【⿰同女】6204

トウ

姛(**3－6203**)に同じ。〔正字通〕姛、本作レ⿰同女。

【姜】6205


小篆

キヤウ カウ 〔集韻〕居良切 ㄐㄧㄤ 陽 chiang¹

❶**つよい。** 彊(**4－9872**)に通ず。〔說文通訓定聲〕姜、叚借爲レ彊。〔廣雅、釋詁四〕姜、強也。〔詩、鄘風、鶉之奔奔〕鶉之彊彊。〔禮、喪大記〕鶉之姜姜。❷**姓。** 〔說文〕姜、神農尻二姜水一、因㠯爲レ姓、从レ女羊聲。❸俗に生薑の字に借りて用ふ。

【姜維】1 キヤウヰ 三國、蜀の天水の人。字は伯約。官は征西將軍。諸葛亮の卒後、其の衆を掌握し、屢〻魏を伐つたが功なく、後主が出でて降るや、維も亦降る。鍾會の異圖あるを知り、之を殺して蜀の地を回復せんとしたが、將士の亂に會つて殺さる。〔三國志、四十四〕。

〔姜維膽斗〕2 キヤウヰタント 蒙求の標題。三國、蜀の姜維は、魏將の鄧艾と戰つたが、後主劉禪が降つた時、維も魏將鍾會の許に走る。後、鍾會と鄧艾とを倒さんとして捕殺せられた時、維の體を剖いたところ、其の膽は斗枡程の大きさがあつたといふ故事。〔蜀志、姜維傳、注〕世語曰、維死時、見レ剖膽如二斗大一。

【姜彧】3 キヤウキク 元、萊陽の人。字は文卿。參議官に進む。後、燕南河北道提刑按察使に擢んでらる。〔元史、一百六十七〕。

【姜宇】4 キヤウウ 前秦、冀北の人。字は子居。苻堅に仕へ、京兆尹御史中丞となつたが、淮南の戰に敗れて慕容仲に殺さる。〔前秦錄〕。

【姜永】5 キヤウエイ 後魏の人。文學に優れ、善く琴を彈ず。官は漢中太守。〔魏書、七十一〕。

【姜睿】6 キヤウエイ 清、戒聞(**5－11548**・・92)の號。

【姜堰】7 キヤウエン 堰の名。今の江蘇省泰縣の東の姜堰鎭。〔宋史、河渠志七〕紹興四年、詔毀二泰州姜堰一、令レ不レ通二敵船一。

【姜牙】8 キヤウガ 齊の太公望呂尙をいふ。姓は姜氏。字は子牙。〔史記、齊世家、太公望呂尙、注〕索隱曰、譙周曰、姓姜、名牙、炎帝之裔、伯夷之後、云云、蓋牙是字、尙是其名。〔異聞記〕姜牙得レ璜而尙父、仲尼無レ鳳而旅人。

【姜垓】9 キヤウガイ 明の人。埰の弟。字は如須。號は佇石山人。崇禎の進士。官は行人。阮大鋮が南都に仕へて事を用ふるに及んで寧波に走り、後、呉に還つて卒す。門人、貞文先生と私諡す。〔明史、二百五十八〕・〔萬斯同明史、三百七十〕・〔明史稿、二百四十七〕。

【姜昂】10 キヤウカウ 明、太倉の人。字は恒頫。成化の進士。御史を拜命し、福建參政に終る。常に麥をひき粥を作つて食に充てたから、鄕人は之を姜麥粥と呼ぶ。〔明史、一百六十五〕・〔萬斯同明史、二百六十一〕・〔明史稿、一百五十一〕。

【姜浩】11 キヤウカウ 宋、明州の人。字は浩然。官は承信郞を以て平江郡稅務を監す。建炎中、金人が平江を陷れるや、力めて防禦す。〔尙友錄、十一〕。

【姜梗】12 キヤウカウ 清、會稽の人。字は鐵夫。號は桐柏。布衣を以てしてなほ、公卿に重んぜらる。詩翰に巧。書室を飯犢居・曹山草堂といふ。著に曹山草堂・飯犢居等の集がある。

【姜鷔】13 キヤウガウ 春秋、齊の平公。簡公の弟。諡は平。時に田常が齊の相となつて政を專らにし、安平以東を割いて田氏の封邑と爲す。在位二十五年にて卒す。〔史記、三十二〕。

【姜確】14 キヤウカク 唐の人。謨の子。字は行本。諡は襄。貞觀中、少作少匠となる。高昌を平げた功によつて金城郡公に拜せらる。高麗の征伐に從ひ、流矢に中つて卒す。〔唐書、五十九〕。

【姜漢】15 キヤウカン 明、楡林の人。弘治中、世職を嗣いで本衞指揮使となり、尋いで延綏鎭遊擊將軍に充てらる。寇が寧夏興武營を犯すや、之を擊破して寧夏總兵官に進む。〔明史、一百七十四〕・〔萬斯同明史、二百六十二〕・〔明史稿、一百七十五〕。

【姜岐】16 キヤウキ 後漢、上邽の人。字は子平。太守の橋玄から吏に徵されたが、病と稱して就かず。〔後漢書、八十一〕・〔高士傳、下〕。

【姜夔】17 キヤウキ 宋、鄱陽の人。字は堯章。號は白石道人。別號を石帚といふ。武康に寓居し、白石洞天と隣す。其の詩は、風格極めて高く、一時に冠絕す。著に白石詩集・白石道人歌曲・絳帖評・續書譜・大樂議・琴瑟考がある。〔四庫提要、百六十二〕・〔宋史翼、二十八〕・〔皇宋書錄、下〕・〔宋人軼事彙編、八百十九〕。

【姜休】18 キヤウキウ 五代、貫休(**10－36681**・・13)の本姓名。

【姜漁】19 キヤウギヨ ㊀清、安徽の人。呉中に僑居す。字は笠人。人物畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、二〕。㊁清、常熟の人。字は松山。山水畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、一〕・〔國朝畫識、十〕。

【姜愚】20 キヤウグ 宋、京師の人。字は子發。邵雍に師事し、進士を以て六安令となり、俸祿の半を雍に奉じた。後、貧を以て卒す。〔宋史、三百二十九〕・〔宋元學案、三十三〕。

【姜晦】21 キヤウクワイ 唐の人。晈の弟。字は本孫。開元の初、御史中丞を拜命し、尋いで吏部侍郞に遷り、後、海州刺史に終る。〔唐書、九十一〕・〔舊唐書、五十九〕。

【姜光】22 キヤウクワウ 春秋、齊の莊公。靈公の子。諡は莊。時に棠公の妻美なり。其の寡となるや、崔杼、之を娶る。莊公之に通じ、數〻崔氏に往き、杼の冠を人に賜ふに及んで杼に弑さる。在位六年。〔左氏、襄、十九・二十一・二十五・二十七・二十八・二十九〕・〔史記、三十二〕。

【姜環】23 キヤウクワン 春秋、齊の靈公。頃公の子。諡は靈。卽位の二十七年、晉と戰つて敗績し、臨淄に逃走す。晏嬰止むるも從はず。晉兵遂に臨淄を圍み、郭中を焚いて去る。明年、卒す、在位二十八年。〔左氏、成、十七・襄、二・十九・二十五〕・〔史記、三十二〕。

【姜曛】24 キヤウクン 清、江蘇華亭の人。字は曉泉。號は鴛鴦亭長、又、紅茵館主人。書室を洗紅軒といひ、著に洗紅軒詩がある。

【姜晈】25 キヤウケウ 唐の人。柔遠の子。長安中、尙衣奉御を拜命し、玄宗の寵を得て祕書監に陞つたが、事に坐して欽州に流され、病死す。〔唐書、九十一〕・〔舊唐書、五十九〕。

【姜垚】26 キヤウゲウ 清、餘姚の人。字は汝皐。號は蒼崖。貢生から出でて國子監學正となる。黃梨洲に從學し、尤も易に邃し。著に易原・四書別解・樗里山樵稿・柯亭詞がある。

【姜協】27 キヤウケフ 唐の人。寶誼の子。字は壽。諡は威。篆籀を善くす。官は燕然都護夏州都督。爵は成紀州侯。〔唐書、八十八〕。

【姜兼】28 キヤウケン 元、淳安の人。幼にして孤、母に事へて至孝。〔元史、一百九十八〕。

【姜儉】29 キヤウケン 後魏、天水の人。字は文簡。蕭寶夤に拔擢せられて開府を拜命し、尋いで左丞に進む。寶夤が敗れた時、儉も亦殺さる。〔魏書、四十五〕。

【姜原】30 キヤウゲン 姜嫄に同じ。〔漢書、古今人表〕姜原。〔注〕帝嚳妃、生レ弃。

〔姜原見二巨人跡一而孕〕31 キヤウゲンキヨジンノアトヲミテハラム 帝嚳の妃の姜嫄が、大人の足跡を見て周の先祖后稷を懷妊した故事。姜嫄を見よ。〔史記、周紀〕周后稷、名棄、其母有邰氏之女、曰二姜原一、姜原爲二帝嚳元妃一、姜原出レ野、見二巨人跡一、心忻然說、欲レ踐レ之、踐レ之而身動、如二孕者一、居期而生レ子、以爲二不祥一、棄二之隘巷一、云云、初欲レ棄レ之、因名曰レ棄、云云、帝堯聞レ之、擧レ棄爲二農師一、天下得二其利一、有レ功、帝舜曰、棄、黎民始飢、爾后稷、播二時百穀一、封二棄於邰一、號曰二后稷一、別姓姬氏。

【姜嫄】32 キヤウゲン 上古、有邰氏の女。帝嚳の妃。嘗て巨人の足跡を見、之を履んで娠み、遂に后稷を生んだといふ。一に姜原に作る。〔詩、大雅、生民〕厥初生民、時維姜嫄。〔列女傳、母儀、棄母姜嫄傳〕棄母姜嫄者、邰侯之女也。〔唐姜嫄新廟碑〕姜嫄者、炎帝之後、有邰氏之女、姓姜、字嫄、帝嚳之元妃、后稷之母也。

【姜肱】33 キヤウコウ 後漢、廣戚の人。字は伯淮。二弟の仲海・季江と共に孝を以て聞ゆ。五經・星緯に通ず。朝廷の徵に應ぜず、身を隱して海濱に浮び、年を歷て家に卒す。〔後漢書、八十三〕・〔高士傳、下〕。

〔姜肱共被〕34 キヤウコウキヨウヒ 蒙求の標題。後漢の姜肱は、弟の仲海・季江と共に孝行を以て著はる。繼母に事へて篤く、凱風の詩の孝に感じて兄弟被を同じくして寢ね、母の心を慰めた故事。〔後漢書、姜肱傳〕姜肱、字伯淮、彭城廣戚人也、家世名族、肱與二二弟仲海・季江一、俱以二孝行一著聞、其友愛天至、常共臥起。〔注〕謝承書曰、肱性篤孝、事二繼母一恪勤、母既年少、又嚴厲、肱感二愷風之孝一、兄弟同レ被而寢、不レ入二房室一、以慰二母心一也。

【姜洪】35 キヤウコウ ㊀明、廣德の人。字は希範。諡は莊介。成化の進士。御史を拜命し、後、山西巡撫に終る。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十七〕・〔明史稿、一百六十九〕。㊁明、江西樂安の人。字は啓洪。號は松岡。宣德の進士。官は檢討。其の詩は淸麗にして唐人の風あり。著に松岡集がある。〔明人小傳、一〕・〔明詩綜、二十〕。

【姜后】36 キヤウゴウ 周の宣王の后。齊の女。賢德あり。

王嘗て晏く起く。后は簪珥を脫して罪を永巷に待ち、王をして遂に政に勤めしむ。〔列女傳、賢明、周宣姜后傳〕周宣姜后者、齊侯之女也。

【姜才】37 キャウサイ 宋、濠州の人。勇名あり。官は通州副都統。宋が亡んだ時、元兵に執へられて死す。〔宋史、四百五十一〕・〔宋史新編、一百七十四〕・〔南宋書、五十九〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、五〕。

【姜埰】38 キャウサイ 明、萊陽の人。字は如農。號は敬亭。諡は貞毅先生。崇禎の進士。縣の知事から禮科給事中に進む。明が亡んで後、僧となり、自ら敬亭山人・宣州老兵等と號す。著に敬亭集がある。〔明史、二百五十八〕・〔萬斯同明史、三百七十〕・〔明史稿、二百四十七〕。

【姜醋】39 chiang¹ ts'u⁴ 生薑酢。

【姜礤】40 キャウサツ 石の名。〔字彙補〕姜礤、石名。

【姜詩】41 キャウシ 後漢の廣漢の人。母に事へて至孝。赤眉の賊が詩の里を通った時、大孝を驚かさば必ず鬼神に觸れんといひ、兵を弛めて過ぐ。官は江陽令。妻は龐盛の女、亦、姑に事へて至孝。〔後漢書、一百十四〕。

【姜詩妻】42 キャウシノツマ 後漢の廣漢の人。龐盛の女。夫の姜詩と共に姑に事へて至孝。姜詩躍鯉を見よ。〔後漢書、一百十四〕。

【姜詩躍鯉】43 キャウシヤクリ 蒙求の標題。後漢の姜詩は母に事へて至孝。妻の龐氏も亦奉順すること篤く、母が江水を好んだため六七里を距る江に汲み、又、夫婦力作して母の好んだ鱠を求めてこれを供した。或る日、舍側に忽ち涌泉あり、味は江水の如く、且つ每朝二尾の鯉を出したといふ故事。〔後漢書、列女、姜詩妻傳〕廣漢姜詩妻者、同郡龐盛之女也、詩事㆑母至孝、妻奉順尤篤、母好飲㆓江水㆒、水去㆑舍六七里、妻常泝㆑流而汲、後値㆑風、不㆑時得㆑還、母渴、詩責而遣㆑之、妻乃寄㆓止鄰舍㆒、晝夜紡績、市㆓珍羞㆒、使㆔鄰母以㆑意自遺㆓其姑㆒、如㆑是者久㆑之、姑怪問㆓鄰母㆒、鄰母具對、姑感慙呼還、恩養愈謹、其子後因㆓遠汲㆒溺死、妻恐㆓姑哀傷㆒、不㆓敢言㆒、而託以㆓行學不㆑在、姑嗜㆓魚鱠㆒、又不㆑能㆓獨食㆒、夫婦常力作供㆑鱠、呼㆓鄰母㆒共㆑之、舍側忽有㆓涌泉㆒、味如㆓江水㆒、每㆑旦輒出㆓雙鯉魚㆒、常以供㆓二母之膳㆒。

【姜州】44 キャウシウ 州名。❶唐、置き、後、廢す。故治は廣東省合浦縣の西北。〔讀史方輿紀要、廣東、廉州府、合浦縣〕封山廢縣、府西南一百五十里、漢合浦縣地、云云、唐武德五年、於㆑縣置㆓姜州㆒、貞觀十二年、州廢、以㆑縣屬㆓越州㆒。❷唐、羈縻州を置く。今、四川省茂縣の地。❸唐、羈縻州を置き、宋、之に因る。今、缺く。四川省の境。❹元、置き、後、廢す。故治は四川省會理縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、四川行都指揮使司、廢隆州〕廢姜州、在㆓司東南㆒、亦近㆓會川境㆒、本名龍納城、羅落蠻世居㆑此、云云、元時內附、隸㆓闊畔部㆒、至元九年、隸㆓會川路㆒、尋屬㆓建昌路㆒、十五年改置㆓姜州㆒、姜、蠻名也、二十七年、復屬㆓闊畔部㆒、後又屬㆓建昌㆒、明初因㆑之、尋廢。

【姜尙】45 キャウシヤウ 太公望をいふ。呂尙(**2**－**3386**‥85)を見よ。

【姜尙父】46 キャウシヤウホ 太公望をいふ。神祖と呼ばれる。呂尙(**2**－**3386**‥85)を見よ。

【姜壤】47 キャウジヤウ 清、楡林の人。明代、總兵に鎭たりしが、李自成が居庸關に至るや、之に降る。清の順治の初、爾袞が京師を定めた時、機に乘じて大同に入り、遂に鎭となる。尋いで城によつて叛き、阿齊格に圍まれ、其の臣楊振威に斬られた。〔清史列傳、八十〕。

【姜壽】48 キャウジユ 姜協(27)を見よ。

【姜綬】49 キャウジユ 宋、麗水の人。官は忠翊郎。靖康中、金人が再び京師を犯すや、朝廷の募に應じ、邏騎に執へられて害せらる。〔宋史、四百五十二〕・〔宋史新編、一百八十五〕。

【姜戎】50 キャウジユウ 姜姓の戎。西戎の別種で、四嶽の後といふ。〔春秋、僖、三十三〕晉人及㆓姜戎㆒敗㆓秦師于殽㆒。〔注〕姜戎、姜姓之戎、居㆓晉南鄙㆒、戎子駒支之先也。〔國語、周語上〕三十九年、戰㆓于千畝㆒、王師敗㆓績于姜氏之戎㆒。〔注〕西戎之別種。〔竹書紀年、下〕周宣王三十九年、王師伐㆓姜戎㆒、戰㆓于千畝㆒、王師敗逋。

【姜濬】51 キャウシユン 明、江寧の人。字は子澄。小楷に巧。官は雲南按察副使。〔尙友錄、十二〕。

【姜遵】52 キャウジユン 宋、長山の人。字は從式。進士。仁宗の時、給事中となる。〔宋史、二百八十八〕・〔宋史新編、八十八〕・〔東都事略、五十四〕・〔隆平集、十〕。

【姜壬】53 キャウジン 春秋、齊の簡公。悼公の子。一說に、景公の子。諡は簡。初、悼公と俱に魯に在り、闞止を寵愛し、卽位するや、政を爲さしむ。田常之を忌憚し、尋いで田常に弑せらる。在位四年。〔左氏、哀、六十四〕・〔史記、三十二〕。

【姜水】54 キャウスイ 川の名。卽ち岐水。今、陝西省岐山縣の西。源は岐山、南流して橫水に合し、雍に入る。〔水經、渭水注〕岐水又東逕㆓姜氏城㆒、南爲㆓姜水㆒、云云、炎帝長㆓于姜水㆒、是其地也。

【姜姓】55 キャウセイ 姜といふ姓。〔書、甘誓、有扈氏威㆓侮五行㆒、疏〕伯夷是炎帝之後、未㆑賜㆑姓之前、先爲㆓姜姓㆒。〔左氏、莊、二十二〕若在㆓異國㆒、必姜姓也、姜、大嶽之後也。〔注〕姜姓之先、爲㆓堯四嶽㆒。

【姜晟】56 キャウセイ 清、元和の人。字は光宇。號は杜薌。乾隆の進士。湖南巡撫に升り、嘉慶の間、工部尙書に至る。〔清史稿、三百五十八〕・〔清史列傳、二十九〕・〔國朝耆獻類徵、九十八〕。

【姜齊】57 キャウセイ 周の太公望の子孫の齊をいふ。田齊(**7**－**21723**‥179)に對していふ。〔史記、田敬仲完世家、評林〕茅坤曰、繁㆓其枝㆒固㆓其黨與㆒、四世而後滅㆓姜齊㆒、而田齊因以立。

【姜昭】58 キャウセウ 春秋、齊の孝公。桓公の子。諡は孝。桓公、管仲と昭を宋の襄公に屬して太子と爲す。桓公が卒するや、無詭立つて三月、宋の襄公は諸侯の兵を率ゐ、昭を送つて齊を攻伐した。齊人恐れて無詭を殺し、將に昭を立てんとしたが、此の時、四公子の徒が昭を攻めたので、昭は宋に逃走した。宋、遂に四公子と戰つて之を破り、昭を立つ。在位十年にして卒す。〔左氏、僖、十七・十八・二十六・二十七〕・〔史記、三十二〕。

【姜橚】59 キャウセウ 清、保德の人。字は崑麓。康熙の進士。麻城令を拜命し、後、吏部右侍郎に至る。〔國朝耆獻類徵、六十〕。

【姜碩】60 キャウセキ 元、樂安の人。字は公碩。諡は忠烈。官は禮部員外郎。詔を奉じて陳友諒を招かんとしたが、賊將に遇つて害せらる。〔新元史、二百三十二〕。

【姜奭】61 キャウセキ 明の人。漢の子。總兵官となり、後、大同副總兵に至る。〔明史、一百七十四〕・〔萬斯同明史、二百六十三〕・〔明史稿、一百七十五〕。

【姜潛】62 キャウセン 宋、奉符の人。字は至之。孫復に從つて春秋を學び、韓王の伴讀となる。神宗の時、疾を以て罷む。〔宋史、四百五十八〕・〔宋元學案、二〕・〔宋史新編、一百七十七〕。

【姜貸】63 キャウタイ 春秋、齊の康公。平公の孫。諡は康。この時、田常の曾孫田和が始めて諸侯と爲り、公を海濱に遷した。在位二十六年にして卒し、ここに呂氏、其の祀を絕つ。〔史記、三十二〕。

【姜濤】64 キャウタウ 明、忻州の人。字は伯源。永樂の擧人。官は戶部左侍郎。〔山西通志〕。

【姜彭】65 キャウハウ 清、揚州の人。字は又籛。畫に巧。

【姜寶】66 キャウハウ 明、丹陽の人。字は廷善。號は鳳阿。嘉靖の進士。編修を授けられたが、嚴嵩に阿附せず、出でて四川提學僉事となる。後、國子監祭酒に再遷し、禮部尙書を以て致仕す。著に周易傳義補疑・春秋事義全考・姜鳳阿文集がある。〔明史、二百三十〕・〔萬斯同明史、三百四十〕・〔明史稿、二百十七〕。

【姜被】67 キャウヒ 兄弟、被を同じくしてねる。後漢の姜肱が、弟の仲海・季江と共に睦じく母親に事へた故事。姜肱共被(34)を見よ。〔後漢書、姜肱傳、其友愛天至常共臥起、注〕謝承書曰、肱性篤孝、事㆓繼母㆒恪勤、母既年少、又嚴厲、肱感㆓愷風之孝㆒、兄弟同㆑被而寢、不㆑入㆓房室㆒、以慰㆓母心㆒也。〔杜甫、寄㆓張十二山人彪㆒三十韻詩〕歷下辭㆓姜被㆒、關西得㆓孟鄰㆒。

【姜弼】68 キャウヒツ 明の人。應熊の孫。都督僉事・援遼總兵官となる。姜氏の一家、弼に至る迄五世、皆大將として邊功を立つ。〔明史、一百七十四〕・〔萬斯同明史、二百六十三〕・〔明史稿、一百七十五〕。

【姜撫】69 キャウブ 唐、宋州の人。號は沖和。開元の末、召されて東都に至り、長生の術を說いたが効なく、恥ぢて逃れ去る。〔唐書、二百四〕。

【姜謩】70 キャウボ キャウモ 唐、上邽の人。諡は安。隋末、晉陽の長となる。唐の高祖に援かれて司功參軍を拜

命す。長安に從軍し、相國冑曹參軍に任ぜられ、薛仁杲を平定して秦州刺史に拔擢せらる。尋いで隴州の守となる。〔唐書、九十一〕・〔舊唐書、五十九〕。

【姜翼】71キャウヨク　朝鮮李朝、晉州の人。字は仲輔。號は介菴。宣祖の初、野逸から徵されて昭格署參奉に拜せられたが、行かんとして卒す。〔人物考〕。

【姜龍】72キャウリョウ　明の人。昂の子。字は夢賓。正德の進士。禮部侍郎を歷て雲南副使となり、在任四年、大いに治まる。〔明史、一百六十五〕・〔萬斯同明史、二百六十一〕・〔明史稿、一百五十一〕。

【姜麟】73キャウリン　明、蘭谿の人。字は仁夫。成化の進士。事を以て貴州に使し、陳獻章に師事す。〔尙友錄、十一〕。

【姜嶺】74キャウレイ　山名。湖南省醴陵縣の北。姜士會の居處と傳ふ。俗に誤つて姜維嶺といふ。山麓の陶器會社は、陶器を產出すること景德鎭に劣らず。

【姜綰】75キャウワン　明、弋陽の人。字は玉卿。成化の進士。御史を拜命し、後、慶遠知府・右江兵備副使となり、河南按察使に終る。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十六〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【姜曰廣】76キャウエツクヮウ　明、新建の人。字は居之。萬曆の進士。編修を拜命し、天啓の閒、朝鮮に使す。崇禎の初、南京翰林院を掌る。福王が立つや、禮部尙書兼東閣大學士を拜命す。〔明史、二百七十四〕・〔萬斯同明史、三百六十八〕・〔明史稿、二百五十四〕。

【姜應熊】77キャウオウユウ　明の人。奭の子。嘉靖の閒、俺荅の寇を平げ、大同左都督に至る。〔明史、一百七十四〕・〔萬斯同明史、二百六十三〕・〔明史稿、一百七十五〕。

【姜應麟】78キャウオウリン　明、慈谿の人。字は泰符。萬曆の進士。官は太僕少卿。〔明史、二百三十三〕・〔萬斯同明史、三百三十七〕・〔明史稿、三百十五〕。

【姜希顏】79キャウキガン　朝鮮李朝、晉州の人。字は景愚。官は集賢殿直提學。詩書畫三絕を以て稱せらる。〔國朝名臣錄〕。

【姜希轍】80キャウキテツ　清、會稽の人。字は二濱。號は定菴。明の崇禎の擧人。淸に入つて奉天府丞に至る。書室を兩水亭といふ。著に左傳統箋・兩水亭集がある。〔淸史稿、二百八十八〕・〔國朝耆獻類徵、四十三〕・〔碑傳集、五十四〕。

【姜希孟】81キャウキマウ　朝鮮李朝、晉州の人。字は景醇。號は私淑齋。諡は文良。官は禮曹判書、後、左贊成。著に私淑齋集がある。〔成宗實錄〕。

【姜虬綠】82キャウキウリョク　清、烏程の人。字は秋島。號は蒼弁山人(蒼弁山人)、又、大海樵人。著に金井志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【姜恭壽】83キャウキョウジュ　清、如皋の人。字は靜宰。號は香巖・東陽外史。乾隆の擧人。書畫詩に巧。〔淸畫家詩史、丙、下〕・〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝書識、十二〕・〔國朝書人輯略、五〕。

【姜慶初】84キャウケイショ　唐の人。晈の子。楚國公を襲ぎ、新平公主を娶る。官は太常卿。代宗の怒に觸れて死を賜はる。〔唐書、九十一〕・〔舊唐書、五十九〕。

【姜公輔】85キャウコウホ　唐、日南の人。進士。翰林學士を拜命す。德宗之を器とす。後、諫議大夫、同中書門下平章事に陞進したが、尋いで泉州刺史に貶せらる。順宗が立つや、吉州刺史を拜命す。〔唐書、一百五十二〕・〔舊唐書、一百三十八〕。

【姜克讓】86キャウコクジャウ　宋、高安の人。字は仲謙。讀書に志し、尤も易に邃し。初、憲豪に任ぜられた時、豪強を搏つ。〔尙友錄、十一〕。

【姜國霖】87キャウコクリン　清、濰縣の人。字は雲一。周士宏に師事し、頗る論語に通ず。〔淸史稿、四百八十六〕・〔國朝先正事略、二十九〕・〔碑傳集、一百二十九〕。

【姜產之】88キャウサンシ　南朝、宋の人。秦始の初、軍功を以て晉平王休祐の驃騎中兵參軍・龍驤將軍・南濟陰太守を拜命す。後、北伐し、敗れて殺さる。〔宋書、九十四〕。

【姜士昌】89キャウシシャウ　明の人。寶の子。字は仲文。萬曆の進士。官は江西參政。失言の廉に因つて興安典史に謫せられる。〔明史、二百三十〕・〔萬斯同明史、三百四十〕・〔明史稿、二百十七〕。

【姜子牙】90キャウシガ　太公望をいふ。神祖と呼ばる。呂尙(**2**－**3386**‥85)を見よ。

【姜志禮】91キャウシレイ　明、丹陽の人。字は立之。號は同節。萬曆の進士。官は太常少卿。性淳樸にして政績多し。著に姜同節集がある。〔明史、二百三十七〕・〔萬斯同明史、三百二十九〕・〔明史稿、二百十八〕。

【姜思睿】92キャウシエイ　明の人。應麟の從子。字は顓愚。天啓の進士。崇禎の初、御史に擢んでられ、周延儒・溫體仁を彈劾して名聲大いに振ふ。後、出でて河東の鹽政を視る。〔明史、二百三十三〕・〔明史稿、二百十五〕。

【姜思周】93キャウシシウ　清、錢塘の人。字は周臣。號は花酒頭陀。畫に巧。〔國朝畫識、一〕。

【姜師度】94キャウシド　唐、魏の人。明經に擢んでられ、丹陵尉・龍岡令を拜命す。玄宗の時、河中尹となり、同州刺史に轉任し、將作大匠に終る。〔唐書、一百〕・〔舊唐書、一百八十五下〕。

【姜柔遠】95キャウジウヱン　唐の人。確の子。武后の時、左鷹揚衞將軍となる。〔唐書、九十一〕・〔舊唐書、五十九〕。

【姜實節】96キャウジツセツ　清の人。字は學在。號は鶴澗・藝圃。吳縣に僑居し、詩・書・畫に巧。著に焚餘草がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十一〕。

【姜習孔】97キャウシフコウ　明、遂安の人。字は素臣。萬曆の進士。南京吏科給事中となり、後、鴻臚寺卿となる。〔東林列傳、二十〕。

【姜商人】98キャウシャウジン　春秋、齊の懿公。桓公の子。諡は懿。昭公卒し、子舍卽位するや、墓上に於て之を弑して自立す。初、公子たりし時、邴歜の父と領土を爭ひて勝たず。卽位するに及んで、其の尸を掘出して之を刖す。又、閻職の妻の美なるにより、之を宮に納れ、職をして驂乘せしむ。尋いで歜・職の爲に弑せらる。在位四年。〔左氏、文、十四・十八〕・〔史記、三十二〕。

【姜杵臼】99キャウショキウ　春秋、齊の景公。莊公の弟。諡は景。好んで宮室を治め、狗馬を聚む。彗星が見れた時、柏寢に坐して歎じて曰く、美なる哉、泱泱乎たり、堂堂乎たり。誰か此を有すると。群臣皆涕泣し、晏嬰、之を切諫す。後、魯の定公と夾谷に會し、孔子が魯に相たるを以て、其の霸たらんことを懼れ、黎鉏の計に從つて萊樂を進めたが、孔子は禮を以て公に讓つたので、公は慙ぢて魯の侵地を返還した。在位五十八年。〔左氏、襄、二十五。昭、三・十四。哀、五〕・〔史記、三十二〕。

【姜諸兒】100キャウショゲイ　春秋、齊の襄公。莊公の孫。魯の桓公の夫人は公の妹であつたが、公、之と私通す。桓公之を知つて怒る。夫人以て襄公に告ぐ。襄公遂に彭生をして桓公を拉殺せしむ。後、公子無知に弑せらる。在位十二年。嘗て紀を伐つて九世の仇を報復せし事あり。春秋之を大とす。〔春秋、莊、八・九〕・〔左氏、莊、八・文、十一〕・〔史記、三十二〕。

【姜宸英】101キャウシンエイ　清、慈谿の人。字は西溟。號は湛園・葦閒。詩・古文を善くし、書法に通じ、朱彝尊・嚴繩孫と共に江南の三布衣と稱せらる。年七十にして進士に登り、編修を授けらる。後、順天考官となり、康熙三十八年、事を以て獄死す。時に年七十二。書室を眞意堂といふ。著に湛園文稿・葦閒詩集がある。〔淸史稿、四百八十九〕・〔國朝先正事略、四十〕・〔碑傳集、四十七〕。

【姜宸熙】102キャウシンキ　清、烏程の人。字は檢芝。號は笠堂・陵陽山人。諸生。著に陵陽山人集がある。〔國朝詩人徵略、初編、四十二〕。

【姜正學】103キャウセイガク　清、蘭谿の人。字は次生。明末の廩生。其の性孤介。鐫印章に精致を極む。〔國朝耆獻類徵、四百七十〕。

【姜小白】104キャウセウハク　春秋、齊の桓公。襄公の弟。諡は桓。襄公無道なるを以て莒に出奔したが、襄公が弑せらるるや、歸國して卽位す。鮑叔牙の推薦によつて管仲を相に起用し、周室を尊び、夷狄を攘ひ、諸侯を九合し天下を一匡して、終身五霸の首たり。後、管仲の死するや、豎刁・易牙・開方等を起用し、政事を怠り、內寵多きに至つたので、卒するに及んで諸公子爭ひ立ち、霸業遂に衰退す。在位四十三年。〔左氏、莊、九。閔、二。僖、十七・十九・二十三・二十四・二十八・三十三。昭、四・十・十一・十三〕・〔史記、三十二〕。

【姜紹書】105（キヤウセウシヨ） 清、丹陽の人。字は二酉。號は晏如居士・韻石齋。明の時、嘗て南京工部郎となる。畫を善くす。著に韻石齋筆談・無聲詩史がある。〔四庫提要、一百十四・一百二十三〕。

【姜錫嘏】106（キヤウセキコ） 清、內江の人。字は爾常。號は松亭。乾隆の進士。官は禮部員外郎。理學を以て名あり。著に皇華詩鈔がある。〔國朝耆獻類徵、初編、一百四十五〕。

【姜燮鼎】107（キヤウセフテイ） 清、遂安の人。字は理夫。書畫に巧。著に高山集がある。〔清畫家詩史、甲、下〕。

【姜太公】108（キヤウタイコウ） 太公望をいふ。神祖と呼ばる。呂尚（**2**－3386··85）を見よ。

【姜唐佐】109（キヤウタウサ） 宋、瓊山の人。字は公弼。蘇軾に從學す。蘇軾も亦、其の氣和し、言高邁なるを稱す。〔廣東通志〕。

【姜道隱】110（キヤウダウイン） 後蜀の人。一に張道隱といふ。綿竹山に隱居し、老莊の言を研究す。著に筆計がある。〔十國春秋〕。

【姜廷頤】111（キヤウテイイ） 明、巴陵の人。字は以正。嘉靖の進士。官は御史。後、兵部侍郎となる。〔國朝列卿記、一百四十五〕。

【姜廷翰】112（キヤウテイカン） 清、浙江山陰の人。一に餘姚の人ともいふ。字は綺季。畫に巧にして、詩文をも能くす。

【姜兆錫】113（キヤウテウシヤク） 清、丹陽の人。字は上均。康熙の擧人。乾隆の初、三禮館纂修に充てらる。卒年八十。著に禮記章義・大戴禮翼刪・九經補注・詩禮述蘊・家語孔叢注がある。〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、四百十八〕。

【姜兆熊】114（キヤウテウユウ） 明、歸安の人。字は恂如。著に樊川叢話がある。〔四庫提要、一百四十三〕。

【姜特立】115（キヤウトクリツ） 宋、麗水の人。字は邦傑。淳熙中、福建兵馬副都監となる。海賊姜大獠を擒にして閤門舍人に除せられ、太子宮左右春坊に充てらる。太子が卽位するや、知閤門事に除せられ、寧宗の時、慶遠軍節度使を拜命す。著に梅山續稿がある。〔宋史、四百七十〕・〔宋史新編、一百八十五〕・〔南宋書、六十八〕。

【姜寶誼】116（キヤウハウギ） 唐、上邽の人。謚は剛。官は右武衞大將軍。爵は永安縣公。〔唐書、八十八〕。

【姜麥粥】117（キヤウバクジユク） 明、姜昂の綽號。清貧なりしを以て常に麥の粥を食つたからといはれる。〔明外史、姜昂傳〕昂爲レ人方潔、在レ官、日市二少肉一供レ母、而自食二菜茹一、既家居室不レ蔽二風雨一、粟匱則啜二麥粥一、鄕人呼爲二姜麥粥一焉。

【姜炳璋】118（キヤウヘイシヤウ） 清、象山の人。乾隆の進士。石泉縣の知事となり、善政多し。任に江浦に赴くや、舊縣の壩の久廢せるを修築せしめ、堰を作つて田數千畝を開く。民、之を姜公堰と號す。〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、二百三十八〕。

【姜逢元】119（キヤウホウゲン） 明、餘姚の人。字は仲訒。萬曆の進士。官は國子司業。時に魏忠賢、政を擅にし、三朝要典を纂す。逢元、副總裁となり、毎に筆を擱いて歎ず。崇禎の初、禮部尙書となる。〔東林列傳、十八〕。

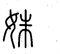
【姜無野】120（キヤウムヤ） 春秋、齊の頃公。桓公の孫。謚は頃。晉の郤克が齊に來り使せし時、公、夫人をして帷中より之を觀せしむ。郤克の跛して登るを見て、夫人笑ふ。郤克國に歸り、魯・衞・曹の師を會して齊を伐つ。公敗績し、悉く魯衞の侵地を返還す。在位十七年。〔左氏、宣、十七・成、二〕・〔史記、三十二〕。

【姜名武】121（キヤウメイブ） 明、保德の人。字は我揚。崇禎の初、杏山城を築き、大盜王科を斬つて通州副總兵に擢んでらる。李自成と戰ひ、開封に死す。〔明史、二百六十九〕・〔明史稿、二百五十〕。

【姜陽生】122（キヤウヤウセイ） 春秋、齊の悼公。景公の子。初、魯に亡命し、季康子の妹を妻とす。歸國して位に卽くに及んで之を迎へしめたが、季夫人は既に季魴侯と通じてゐたので、魯は敢へて與へず。よつて悼公は魯を伐ち、竟に委姬を迎へ、魯の侵地を返還した。鮑子公と隙有りて遂に弑せらる。在位四年。〔左氏、哀、六・八・十〕・〔史記、三十二〕。

【姜立綱】123（キヤウリフカウ） 明、瑞安の人。字は廷憲。號は東溪。官は太常寺卿。〔國朝獻徵錄、二十二〕・〔明名人傳、十三〕・〔明畫錄、三〕。

【姝】
6206


小篆

[一]シユ 〔集韻〕春朱切 ㄕㄨ shu¹ 虞

[二]チユ 〔集韻〕追輸切 虞

[一][二]❶**みめよい**。うつくしい。〔說文〕姝、好也、从レ女朱聲。〔段注〕邶風傳曰、姝、美色也、衞風傳曰、姝、順貌、齊風傳曰、姝、初昏之貌、各隨レ文爲レ訓也。〔方言、一〕娥・嬿、好也、趙魏燕代之閒、曰レ姝。〔一切經音義、六〕姝、好貌也。〔詩、邶風、靜女〕靜女其姝。〔傳〕姝、美色也。❷**したがふさま**。〔詩、鄘風、干旄〕彼姝者子。〔傳〕姝、順貌。❸**うひうひしいさま**。初婚のさま。〔詩、齊風、東方之日〕東方之日兮、彼姝者子。〔傳〕姝者、初昏之貌。〔疏〕彼姝者女、言二其就レ女親迎之事一、故以レ姝爲二初婚之貌一。❹**くらい**。おろか。〔詩、齊風、東方之日、疏〕王肅云、言二人君之明盛一、刺二今之昏闇一。❺娵（**3**－6364）に通ず。〔戰國、楚策〕閭姝。〔荀子、賦〕閭娵。❻㚴（**3**－6110）に同じ。〔一切經音義、六〕姝、古文㚴同。❼袾（**10**－34254）に同じ。〔集韻〕袾、說文、好佳也、或作レ姝。

【姝豔】1（シユエン） 美しい。美麗。〔唐書、獨孤皇后傳〕后以二姝豔一進、居常專レ夜。

【姝好】2（シユカウ） 顏よく美しい。又、美しい女。〔說文〕姝、好也。〔唐書、呂向傳〕采二擇天下姝好一。

【姝姬】3（シユキ） うつくしい女。美女。姝女に同じ。

【姝子】4（シユシ） 初婚の女。一說、美しい女。又、おろかな者。〔詩、齊風、東方之日〕彼姝者子、在二我室一兮。〔傳〕姝者、初昏之貌。〔箋〕有二姝姝然美好之子一。〔疏〕王肅云、言二人君之明盛一、刺二今之昏闇一。

【姝秀】5（シユシウ） みめよくすぐれてゐること。〔唐書、諸帝公主、安樂公主傳〕安樂公主最幼、女帝遷二房陵一而主生、解レ衣以レ褓レ之。名曰二裹兒一、姝秀辨敏、后尤愛レ之、下二嫁武崇訓一。

【姝姝】6（シユシユ） ❶みめよい。〔太玄經、視〕次四、粉二其題頯一、雨二其渥須一、視レ無レ姝。〔注〕爲二小人之道一、不レ飾二其心一、而飾二其面一、猶二姝姝之好而遇二於雨一、故視レ無レ好也。❷すなほにつき從うさま。〔莊子、徐無鬼〕所謂暖姝者、學二一先生之言一、則暖暖姝姝、而私自說也。

【姝色】7 shu¹ sê⁴ 美しい。みめよい。

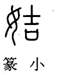
【姝女】8（シユヂヨ） 美しい女。姝姬。〔陸機、擬古詩、擬二青青河畔草一〕皎皎彼姝女。〔注〕向曰、姝、美也。

【姝貌】9（シユバウ） みめよい姿。美貌。〔梁簡文帝、孌童詩〕姝貌比二朝霞一、袖裁連二璧錦一。

【姝麗】10（シユレイ） うるはしい。美麗。〔後漢書、鄧皇后紀〕姿顏姝麗、絕二異於衆一。〔顏氏家訓、名實〕容色姝麗、則影必美焉。

【姝孌】11（シユレン） みめうつくしい女。美人。〔陳傅良、次下沈儉夫求二花木一韻上詩〕翁乎一觴詠、初不レ着二姝孌一。

【姞】
6207


小篆

キツ
ギチ
〔集韻〕極乙切 ㄐㄧˊ chi² 質

❶**姓**。〔說文〕姞、黃帝之後、伯鯈姓也、后稷妃家、从レ女吉聲。〔萬姓統譜〕南燕・密須、皆姞姓之國、姞氏、爲二后稷之妃一。❷**つつしむ**。〔集韻〕姞、一曰、謹也。❸吉（**2**－3289）に通ず。〔詩、小雅、都人士〕謂二之尹吉一、〔箋〕吉、讀爲レ姞。❹或は郅（**11**－39380）に作る。〔集韻〕姞、或作レ郅。

【姞甥】1（キツセイ キツサウ） 姞姓の甥。姞は南燕の姓。南燕の女が姬姓の鄭に嫁して公子蘭を生んだから、蘭を姞甥といふ。〔左氏、宣、三〕今公子蘭、姞甥也。

【姞栗陁羅矩吒】2（ギリダラクタ） Gṛdhrakūṭa の音譯。印度、摩竭陀（Magadha）國、王舍城の東北に在る山名。靈鷲・鷲頭ともいひ、佛陀說法の地であり、又、經典の結集地として知られる。耆闍崛山〔大唐西域記、九〕宮城東北行十四五里、至二姞栗陁羅矩吒山一、云云、如來御レ世垂二五十年一、多居二此山一、廣說二妙法一。

【故】6208 キツ 姞(3−6207)に同じ。〔字彙補〕故、疑與レ姞同。

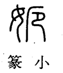
【姟】6209 カイ 〔集韻〕柯開切 灰

❶數の名。萬萬。百兆。〔集韻〕姟、數也、十兆曰レ經、十經曰レ姟。〔國語、鄭語〕行姟極。〔注〕姟、備也、數極二於姟一、萬萬曰レ姟。❷垓(3−5040)に通ず。〔一切經音義〕垓、今作レ姟。

【姠】6210 🈩シヤウ 〔集韻〕式亮切 漾 🈔キヤウ カウ 〔集韻〕許亮切 漾

🈩🈔女のあざな。〔集韻〕姠、女字。

【姽】6211 🈩グヮ 〔集韻〕五果切 哿 🈔ダ ナ 〔集韻〕努果切 哿

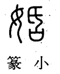


小篆

🈩🈔❶みめよい。うつくしい。〔說文〕姽、婐姽也、从レ女危聲。〔廣雅、釋詁一〕姽、好也。❷かよわい。〔說文〕姽、一曰、弱也。❸小さい。顆(12−43551)に通ず。〔說文通訓定聲〕姽、叚借爲レ顆。〔太玄經、瞢〕瞢瞢之離、不レ宜二熒姽一。〔注〕姽、小貌。❹或は婧(3−6525)に作る。〔集韻〕姽、或作レ婧。

【姽婐】1 グヮワ 美しいさま。〔戴良、對菊聯句〕秋榮姿姽婐、春粲失二嫈嫇一。

【姡】6212 🈩クヮツ グヮチ 〔集韻〕戶括切 曷 🈔クヮツ グヮチ 〔集韻〕乎刮切 黠



小篆

🈩🈔❶あつかましい。もと婚(3−6340)に作る。〔正字通〕婚、姡本字。〔說文〕婚、面靦也、从レ女昏聲。〔段注〕各本作二面醜一、今正。〔集韻〕姡、靦也。❷わるがしこい。〔方言、二〕剿・蹶、獪也、楚鄭曰レ蔿、或曰レ姡。〔注〕今建平郡人呼レ狡爲レ姡。❸いつはる。〔類篇〕姡、詐也。❹みにくい。〔集韻〕姡、說文、面醜也。

【姡獪】1 クヮツ クヮイ わるがしこい。ずるい。〔方言、十〕央亡、嚜杘、姡、獪也、江湘之間、或謂二之無賴一。

【娟】6213 ケン 娟(3−6321)の俗字。〔字彙〕娟、俗娟字。

【姣】6214 🈩カウ ケウ 〔集韻〕吉巧切 巧 ㄐㄧㄠˇ chiao³ 🈔カウ ゲウ 〔集韻〕後教切 效 🈪カウ ゲウ 〔集韻〕何交切 肴

小篆

🈩❶みめよい。うつくしい。〔說文〕姣、好也、从レ女交聲。〔方言、一〕娥・嬴、好也、云云、或謂二之姣一。〔列子、楊朱〕鄉有二處子之娥姣者一。〔釋文〕姣、好也。❷うつくしい。よい。〔漢書、東方朔傳〕左右言二其姣好一。〔注〕師古曰、姣、美麗也。〔楚辭、九歌、東皇太一〕靈偃蹇兮姣服。〔注〕姣、好也。❸なまめかしい。〔玉篇〕姣、媚也。❹いさぎよい。〔方言、一、注〕姣、謂二姣潔一也。❺あなどる。狡(7−20365)に通ず。〔說文通訓定聲〕姣、叚借爲レ狡。〔廣雅、釋言〕姣、侮也。❻古は妟(3−6049)に作る。〔集韻〕姣、古作レ妟。❼又、妖(3−6086)に作る。〔集韻〕姣、亦作レ妖。❽佼(1−570)・嬌(3−6739)に同じ。〔集韻〕姣、或从レ人。〔說文通訓定聲〕此字當レ爲二佼之別體一、字亦作レ嬌。❾姓。〔集韻〕姣、姓。

🈔🈪❶みだる。たはれる。又、其のこと。〔左氏、襄、九〕棄レ位而姣、不レ可レ謂レ貞。〔注〕姣、淫之別名。〔釋文〕姣、戶交反、又如レ字、嵇叔夜音效。❷みめよい。〔集韻〕姣、說文、好也。❸或は媝(3−6450)に作る。〔集韻〕姣、或作レ媝。

【姣好】1 カウ カウ 顏かたちが美しい。姣美。姣妙。〔韓詩外傳、四〕以爲二姣好一邪。〔墨子、尙賢中〕無レ故富貴、面目姣好則使レ之。〔漢書、東方朔傳〕董偃、年十三、隨レ母出二入主家一、左右言二其姣好一。〔注〕師古曰、姣、美麗也。〔說苑、修文〕貌者、男子之所二以恭敬一、婦人之所二以姣好一也。〔易林、小畜之レ兌〕兄弟六人、姣好悌孝。〔論衡、齊世〕上世之人、侗長姣好。

【姣姬】2 カウ キ 美しい姬。〔宋玉、高唐賦〕晰兮若二姣姬揚レ袂鄣レ日、而望レ所レ思。

【姣潔】3 カウ ケツ 美しくきよい。〔方言、一〕娥・嬴、好也、云云、或謂二之姣一。〔注〕姣、言二姣潔一也。

【姣妻】4 chiao³ chʻi¹ 美しい妻。美妻。〔紅樓夢、一回〕世人都說神仙好、只有姣妻忘不了。

【姣色】5 カウ シヨク 美しい顏色。〔列子、楊朱〕豐屋美服、厚味姣色。

【姣人】6 カウ ジン 美人。佼人。〔鹽鐵論、殊路〕和氏之璞、天下之美寶也、待二鑑識之工一而後明、毛嬙、天下之姣人也、待二香澤脂粉一而後容。

【姣生】7 カウ セイ 美しい女の兒。〔紅樓夢、一回〕慣養姣生笑二儞癡一、菱花空對二雪澌澌一。

【姣美】8 カウ ビ 容貌が美しい。姣好。〔荀子、非相〕桀紂長巨姣美、天下之傑也。

【姣服】9 カウ フク 美しい服飾。美服。〔楚辭、九歌、東皇太一〕靈偃蹇兮姣服、芳菲菲兮滿レ堂。〔注〕姣、好也、服、飾也。〔張衡、南都賦〕男女姣服。

【姣妙】10 カウ メウ 顏が美しい。姣好。〔嵇康、琴賦〕嗟姣妙以弘麗、何變態之無レ窮。〔注〕濟曰、姣、好。

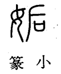
【姣冶】11 カウ ヤ うつくしくなまめかしい。艷冶。姸冶。〔史記、司馬相如傳〕姣冶嫺都。〔抱朴子、博喩〕南威青琴、姣冶之極、而必俟二盛飾一以增レ麗。

【姣麗】12 カウ レイ みめよくうつくしい。〔楚辭、大招〕滂心綽態、姣麗施只。〔注〕姣、好也。〔宋玉、神女賦〕夫何神女之姣麗兮。〔後漢書、張衡傳〕咸姣麗以蠱媚兮、增二嫮眼一而娥眉。

【姣僚】13 カウ レウ みめよい。美しい。〔詩、陳風、月出、佼人僚兮、傳〕方言云、自レ關而東、河濟之間、凡好謂二之姣僚一。

【姣弄】14 カウ ロウ 小曲をいふ。〔嵇康、聲無二哀樂一論〕專二姣弄之論一、挹二衆聲之美一。

【姤】6215 🈩コウ ク 〔集韻〕居候切 宥 ㄍㄡˋ kou⁴ 🈔コウ グ 〔集韻〕很口切 有



小篆

🈩🈔❶あふ。〔說文新附〕姤、偶也、从レ女后聲。〔廣雅、釋言〕姤、遇也。〔易、序卦〕姤者、遇也。❷みめよい。うつくしい。〔管子、地員〕其人夷姤。〔注〕姤、好也。❸みにくい。〔張衡、思玄賦〕咨二姤嫮之難レ竝兮。〔注〕善曰、姤、惡也。❹易の六十四卦の一。䷫（巽下乾上）。女の勢の盛な象。〔易、姤〕姤、女壯。❺遘(11−39031)に通ず。〔易、姤、釋文〕姤、薛注、古文作レ遘。❻后(2−3298)に通ず。〔後漢書、魯恭傳〕按レ易、五月姤用レ事。〔注〕姤、本多作レ后、古通用。邦ゆゑ。故。萬葉集に、人妻姤・人子姤などと用ひて、故の義とする。

【姤嫮】1 コウ コ 醜と美。美醜。〔張衡、思玄賦〕咨二姤嫮之難レ竝兮、想二依レ韓以流亡一。〔注〕善曰、姤、惡也、衡曰、嫮、猶レ好也。

【姤草】2 コウ サウ 苔をいふ。南人の方言。〔述異記、下〕苔、謂二之澤葵一、又名二重錢一、亦呼爲二宣蘚一、南人呼爲二姤草一。

【姥】6216 ㊀ボ モ 〔集韻〕滿補切 麌 ㄇㄨˇ mu³ ㊁ラウ ㄌㄠˇ lao³

㊀❶うば。介添の女。〔一切經音義、十三〕姥、媽母也。〔夢溪筆談、人事一〕因二乳姥一求レ爲二門客一。❷ばば。老婦。〔集韻〕姥、女老稱。〔一切經音義、十三〕今以二女老一爲レ姥也。〔淮南子、覽冥訓〕西姥折レ勝、黃神嘯吟。〔晉書、王羲之傳〕見下一老姥、持二六角扇一賣上レ之。〔劉宰、石翁姥詩〕爭似三石翁携二石姥一、年年對峙夾二崗道一。❸老いた母。老母。〔正字通〕姥、老母也。㋑夫の母。姑。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕勤レ心養二公姥一、好自相扶將。㋺妻方の母。〔晉書、杜皇后傳〕后母裴氏、名穆、立二第南掖門外一、世謂二杜姥宅一云。❹妻。〔世說新語、惑溺〕若使二周姥撰レ詩、當レ無二此言一。❺姓。〔集韻〕姥、亦姓。❻現產婆。邦うば。㋑老いたる女。老婆。㋺めのと。乳母。㊁現姥姥は、母方の祖母。外祖母。

【姥櫻】1 ウバザクラ ❶彼岸櫻（4－10066・・4）の異名。❷おほどしま。年が既に盛を過ぎて色香の尙殘つてゐる女。〔賀古教信、七墓巡、櫻祭文〕小町櫻も老いぬれば、身は百歲の姥櫻。

【姥鷸】2 ウバシギ 鷸（12－47359）の變種。全身淡灰紫色で、黑い斑點がある。

【姥鮫】3 ウバザメ 魚の名。鮫の一種。橫口類。ねずみざめ科に屬する。

【姥頰】4 ウバホホ 武具。鐵面の一種。半頰に鬚のないもの。

【姥口】5 ウバクチ 老女が口を結んだやうな形。茶道に於て、香爐・花生・釜などにいふ。

【姥山】6 ボサン 山名。❶安徽省合肥縣の東南、巢湖の中。〔太平寰宇記〕巢湖將レ陷、有二老嫗一預知二升此山一、故名。❷安徽省繁昌縣の東北。三峯秀出し、一に、老山ともいふ。宋の沈攸之が、賊を赭圻城外に破り、追つて此處迠至る。〔讀史方輿紀要、太平府、繁昌縣〕老山、縣東北三十里、有二三峯一並秀、亦作二姥山一、或曰、姥山、蓋縣西南江濱小山也、沈攸之破二孫沖之於赭圻一、追至二姥山一而還、又子勛將二陶亮一屯二鵲州一、於二姥古及諸岡一分立二營寨一、及二沖之敗一、亦各散還二沙洲一、移二徙姥山一、淪入二江中一矣、胡氏以爲、卽巢湖中之姥山、似レ誤。

【姥貝】7 ウバガヒ あかがひの一種。肉は食用に供す。

【姥苞】8 ウバヤチ 陸奧國の地名。

【姥目】9 ウバメ 姥目柏の略。

【姥目柏】10 ウバメガシハ 樹の名。殼斗科に屬し、葉は鋸齒を有し、夏の頃、黃色の花を開く。

【姥目樫】11 ウバメガシ 姥目柏に同じ。

【姥鱶】12 ウバフカ 姥鮫(3)に同じ。

【姥鷺】13 ウバサギ 鳥の名。涉禽類つる科に屬し、嘴は長く角質で、面部に羽毛を生じない。

【姥姥】14 lao³ lao ❶母方の祖母。❷產婆。

【姥秋沙】15 ウバアイサ 鳥の名。あきさがもの一種。眼上に黑い條のあるもの。

【姥百合】16 ウバユリ 草の名。かばゆり。ねずみゆり。ゆり科に屬する宿根草で、山地・藪澤の陰地に自生する。花期は夏で、花は淡黃綠白色を呈する。

【姦】6217 カン ケン 〔集韻〕居顏切 刪 ㄐㄧㄢ chien¹

小篆

古文

❶よこしま。〔說文〕姦、厶也、从二三女一。〔段注〕厶下曰、姦衺也、二篆爲二轉注一、引申爲二凡姦宄之稱一、俗作レ奸、其後竟用二奸字一。〔釋名、釋言語〕姦、奸也、奸二正法一也。〔漢書、五行志上〕及有二姦謀一。〔注〕臣讚曰、姦謀、謂二邪謀一也。❷わるい。〔楚辭、宋玉、招魂〕多二賊姦一些。〔注〕姦、惡也。❸わるもの。〔左氏、昭、九〕允姓之姦、居二於瓜州一。❹いつはる。〔廣雅、釋言〕姦、僞也。❺ぬすむ。わたくしする。〔廣雅、釋詁四〕姦、盜也。〔左氏、文、十八〕盜レ器爲レ姦。〔疏〕盜二人器用一、謂レ之爲レ姦。〔淮南子、氾論訓〕姦二符節一。〔注〕姦、私、亦盜也。❻みだす。をかす。干（4－9165）に通ず。〔說文通訓定聲〕姦、段借爲レ干。〔淮南子、主術訓〕各守二其職一、不レ得二相姦一。〔注〕姦、亂也。❼みだれ。內亂。一說に、外患。〔一切經音義、一〕在レ內曰レ姦、在レ外曰レ宄。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕盪二渨涹之姦咎一兮。〔注〕亂在レ內爲レ姦。〔書、舜典〕寇賊姦宄。〔傳〕在レ外曰レ姦。〔左氏、成、十七〕亂在レ外爲レ姦。❽みだら。婦人に通ずること。〔字彙〕姦、婬也。❾みめよい。〔正字通〕姦、高麗用二中國書一、獨以レ姦爲二好字一。〔說文通訓定聲〕按、姦、从レ女从レ奻、會意、奻亦聲、周語云、女三爲レ粲、豈粲・姦、古同字歟。❿奸（3－6045）に通ず。〔正字通〕姦、與レ奸通。⓫或は姧（3－6218）に作る。〔集韻〕姦、或作レ姧。⓬古は⿱旱心（4－10644）に作る。〔說文〕⿱旱心、古文姦、从二旱心一。邦かしましい。やかましい。

解字 會意。三女を合して私する義をあらはす。凡そ不正不義を姦といひ、奸と通ず。三は衆の義。假借して干となす。〔說文、姦、段注〕三女爲レ殀、亦三女爲レ姦、是以、君子遠レ色而貴レ德。

【姦穢】1 カンアイ わるくけがらはしい。奸穢。姦汙。〔後漢書、董卓傳〕請收二讓等一、以淸二姦穢一。〔陸雲、請防二不法一啓〕行實姦穢。

【姦惡】2 カンアク よこしま。又、わるもの。〔潛夫論、德化〕故凡立レ法者、非下以司二民短一、而誅中過誤上、乃以防二姦惡一、而救二禍敗一、檢二淫邪一、而內二正道一爾。〔續列女傳、梁夫人嫕傳〕憲兄弟、姦惡伏レ誅。

【姦意】3 カンイ ねぢけた心。姦心。〔列女傳、母儀、有虞二妃傳〕母憎レ舜而愛レ象、舜猶內治、靡レ有二姦意一。

【姦軌】5 カンキ わるもの。姦宄。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕以下培二養凋殘一、釐中剔姦軌上爲レ務。

【姦違】6 カンヰ ねぢけ違ふ。又、その者。〔後漢書、應奉傳〕糾二擧姦違一、不レ避二豪戚一、以二嚴厲一爲レ名。

【姦淫】7 カンイン 男女の不正のちぎり。道ならぬいろごと。姦婬。

【姦淫罪】8 カンインザイ ❶強姦・姦通・淫行勸誘に關する罪。❷キリスト教などの宗教で姦淫禁止の戒律を破る罪。

【姦婬】9 カンイン 姦淫(7)に同じ。

【姦隱】10 カンイン よこしまでかくれた惡事。〔隋書、乞伏慧傳〕高祖受レ禪、拜二曹州刺史一、曹土舊俗、民多二姦隱一、戶口簿帳、恒不レ以レ實、慧下レ車按察、得二戶數萬一。〔舊唐書、張亮傳〕發二擿姦隱一、動若レ有レ神。

【姦妖】11 カンエウ わざはひ。〔雲笈七籤〕神戈電掃、姦妖無レ生。

【姦汙】12 カンヲ ❶わるくけがらはしい。姦穢。〔王惲、汲冢懷古詩〕孔子修二六經一、亦已防二姦汙一。❷他人の婦女をけがすこと。〔六部成語、刑部、姦汙、注解〕汙二人婦女一也。

【姦牙】13 カンガ 惡い仲買人。奸牙。〔福惠全書、雜課部、牛驢雜稅〕陰晴之無レ定、姦牙得二以藉レ口隱匿一。

【姦拐】14 カンカイ ❶姦淫してかどはかす。奸拐。❷人さらひ。〔福惠全書、刑名部、監禁〕盜賊之妻、姦拐之婦。

【姦巧】15 カンカウ ❶惡がしこい。惡くたくみなこと。奸巧。〔墨子、尙同下〕小人見二姦巧一乃聞、不レ言也發、罪鈞。〔管子、治國〕姦巧不レ生。〔史記、三王世家〕侵犯寇盜、加以二姦巧邊萌一。❷いつはりごまかす。〔漢書、武五子、燕刺王旦傳〕嗚呼、薰鬻氏、虐レ老獸心、以姦二巧邊甿一。

【姦行】16 カンカウ 不正の行。〔韓非子、孤憤〕能法之士勁直、聽用且レ矯二重人之姦行一。

【姦狡】17 カンカウ わるがしこいこと。又そのもの。狡猾。姦譎。奸狡。〔福惠全書、刑名部、詞訟、審訟〕但棍徒姦狡、最善相レ機。

【姦倖】18 カンカウ 心のねぢけたお氣に入り。よこしまな寵臣。〔後漢書、李膺傳〕糾二罰姦倖一。〔韓愈、唐故相權公墓碑〕譏二排姦倖一。

【姦豪】19カンガウ わるくつよい者。姦桀。奸豪。〔唐書、王播傳〕遷二京兆尹一、京兆白二李諒後、政條隳斁、姦豪浸不レ戢、播修二擧廢政一、由レ是知レ名。〔白居易、薛中丞詩〕奸豪與二佞巧一、非レ不二憎且懼一。

【姦鑿】20カンガク 慾の深いこと。あこぎ。奸鑿。〔福惠全書、錢穀部、解給〕前者既飽二姦鑿一、而後來仍復補苴。

【姦黠】21カンカツ わるがしこい。又、そのもの。姦猾。〔漢書、尹翁歸傳〕曉告以二姦黠主名一。〔北史、裴蘊傳〕引二致姦黠一。

【姦姦】22カンカン わるいこと。よこしまなこと。〔法言、吾子〕其不二姦姦一、不二詐詐一也。

【姦宄】23カンキ わる者。外にあるを姦、内に在るを宄といふ。一説に、内に在るを姦、外に在るを宄といふ。奸宄。姦軌。姦非。〔書、舜典〕寇賊姦宄。〔傳〕在レ外曰レ姦、在レ内曰レ宄。〔韓詩外傳、六〕小人易レ心、百姓易レ俗、姦宄之屬、莫レ不レ反レ慤。〔史記、吳王濞傳〕進二任姦宄一、詿二亂天下一。〔漢書、王莽傳下〕寇賊姦宄、不レ能二殄滅一。〔淮南子、泰族訓〕政教平、姦宄息。〔張衡、西京賦〕姦宄是防。〔吳志、吳主孫權傳〕姦宄競逐、豺狼當レ道。〔一切經音義、一〕在レ内曰レ姦、在レ外曰レ宄。

【姦軌】24カンキ 姦宄に同じ。〔左氏、成、十七〕臣聞、亂在レ外爲レ姦、在レ内爲レ軌、御レ姦以レ德、御レ軌以レ刑、不レ施而殺、不レ可レ謂レ德、臣偪而不レ討、不レ可レ謂レ刑、德刑不レ立、姦軌並至。〔會箋〕軌、是宄之假借字、釋文云、本又作レ宄、音同。〔韓非子、詭使〕巧言利辭、行二姦軌一以倖二偸世一者、數御。〔史記、周紀〕姦二軌于商國一。〔漢書、元帝紀〕殷周法行、而姦軌服。〔注〕師古曰、軌、與レ宄同、亂在レ外曰レ姦、在レ内曰レ軌。〔後漢書、王符傳〕惠二姦軌一者、賊二良民一。

【姦詭】25カンキ よこしまでいつはり。奸詭。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、遴捕役〕此輩類、皆奸詭不法之徒。

【姦欺】26カンギ よこしまであざむく。〔韓愈、送レ窮文〕矯矯亢亢、惡レ圓喜レ方、羞レ爲二姦欺一、不レ忍二害傷一。

【姦僞】27カンギ よこしまでいつはりを行ふこと。姦詐。〔韓非子、六反〕姦僞無益之民六、而世譽レ之如レ彼、耕戰有益之民六、而世毀レ之如レ此。〔呂覽、義賞〕姦僞賊亂貪戾之道興。〔管子、君臣上〕此明二公道一而滅二姦僞一之術也。〔史記、酷吏傳序〕姦僞萌起、其極也、上下相遁。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕姦僞不レ萌、妖孼伏息。〔新書、過秦下〕姦僞並起、而上下相遁。〔後漢書、竇融傳〕背二眞舊之主一、事二姦僞之人一。

【姦彊】28カンキヤウ 心がねぢけて勢がつよい。又、其の人。〔蘇軾、送二劉道原歸二觀南康一詩〕揭二來東觀一弄二丹墨一、聊借二舊史一誅二姦彊一。

【姦虐】29カンギヤク よこしまでしひたげる。又、其の人。〔後漢書、陽球傳〕姦虐弄レ權、扇二動外內一。

【姦逆】30カンギヤク よこしまでさからふ。奸逆。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕式遏二姦逆一。

【姦渠】31カンキヨ わる者のかしら。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕不レ待二赭汗之權一、而姦渠必翦。〔注〕向曰、姦惡之長、必見二誅翦一。

【姦凶】32カンキヨウ わる者。惡漢。〔諸葛亮、出師表〕「攘二除姦凶一。

【姦曲】33カンキヨク よこしま。奸曲。姦邪。

【姦禽】34カンキン わるい鳥。鷙をいふ。〔輟畊錄、鵰傳〕太史公曰、鵰、姦禽也、暴惡受レ誅、固宜。

【姦釁】35カンキン 不正や罪惡。〔王粲、爲二劉荊州一與二袁尙一書〕通二內外之言一、造二交遘之隙一、使二士民不レ協、姦釁竝作、聞レ之愕然、爲增二忿怒一。

【姦訛】36カンクワ よこしまでまちがつてゐること。姦邪非違。姦譌。〔李嶠、論三巡二察風俗一疏〕督二察姦訛一。

【姦貨】37カンクワ 不正な手段によつて得た財貨。〔魏志、毛玠傳、注〕貴者無二穢欲之累一、賤者絕二姦貨之求一。

【姦譌】38カンクワ 姦訛(36)に同じ。〔漢書、江充傳〕充、逋逃小臣、苟爲二姦譌一、激二怒聖朝一、欲下取二必於萬乘一、以復中私怨上。〔注〕師古曰、譌、古訛字也。

【姦回】39カンクワイ よこしま。又、その人。回は邪。姦邪。〔書、泰誓下〕崇二信姦回一。〔傳〕回、邪也、姦邪之人、反尊二信之一。〔左氏、宣、三〕(王孫滿曰)德之休明、雖レ小重也、其姦回昏亂、雖レ大輕也。〔史記、楚世家〕姦回昏亂。〔後漢書、樂恢何敞傳論〕剿二姦回之偪一。〔魏志、程昱傳〕況姦回暴露而復不レ罷。

【姦回不軌】40カンクワイフキ よこしまで法度に從はない。〔左氏、襄、二十三〕若姦回不軌、禍倍二下民一、可也。

【姦怪】41カンクワイ よこしまで怪しい。〔荀子、君子〕無二姦怪之俗一。〔後漢書、荀悅傳〕俗無二姦怪一。

【姦獪】42カンクワイ 心がねぢけてわるがしこい。姦猾。〔唐書、盧從史傳〕姦獪得レ志、又善附迎。

【姦猾】43カンクワツ 心がねじけてわるがしこい。又、その人。姦黠。姦獪。〔史記、主父偃傳〕外銷二姦猾一。〔漢書、武帝紀〕姦猾爲レ害。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕賓客姦猾、多干二禁憲一。〔張衡、四愁詩〕姦猾行二巧劫一。〔蜀志、譙周傳〕姦猾起レ叛。

【姦猾吏民】44カンクワツノリミン わるがしこい役人や人民。〔漢書、武帝紀〕徙二天下姦猾吏民於邊一。

【姦官】45カンクワン よこしまな役人。〔國語、晉語八〕以正二於朝一、朝無二姦官一。

【姦頑】46カングワン よこしまでかたいぢなこと。〔福惠全書、典禮部、鄉飲酒禮〕止レ飲レ賢、而姦頑不レ與。

【姦計】47カンケイ よこしまなはかりごと。奸計。姦策。〔魏志、夏侯玄傳〕交二關閹豎一、授以二姦計一、畏二憚天威一、不二敢顯謀一。

【姦桀】48カンケツ よこしまでつよい者。凶桀。姦豪。〔後漢書、周紆傳〕外招二儒徒一、實會二姦桀一。〔李淸臣、勢原〕劉項之魁雄、曹馬之姦桀。

【姦譎】49カンケツ いつはり欺く。姦欺。

【姦俠】50カンケフ 心がよこしまなをとこだて。ならずもの。あそびにん。無賴漢。〔梁武帝、孝思賦序〕遠招二逋逃一、多聚二姦俠一。

【姦挾】51カンケフ よこしまで心に恃む所があること。〔宋史、徽宗紀二〕崇寧五年、詔二監司一按レ事、有下懷二姦挾一、情不レ盡レ實者上、流竄不レ敍。

【姦險】52カンケン 心が惡くねぢけてゐること。奸險。奸惡。姦憸。〔商子、愼法〕此其執正使三汚吏有レ資、而成二其姦險一。〔蜀志、董允傳〕皓姦險收閉、將レ殺レ之。

【姦言】53カンゲン よこしまな言葉。〔韓詩外傳、四〕飾二邪說一、文二姦言一。〔荀子、榮辱〕飾二邪說一、文二姦言一。〔漢書、王莽傳贊〕莽誦二六藝一、以文二姦言一。

【姦刻】54カンコク よこしまで且つ殘刻な。〔淮南子、泰族訓〕爲二姦刻僞書一、以解二有罪一、以殺二不辜一。

【姦昏】55カンコン よこしまで道理にくらいこと。邪惡。〔漢書、敍傳下〕衆怨神怒、惡復誅臻、百王之極、究二其姦昏一、迹二王莽傳第六十九一。

【姦根】56カンコン 姦の生ずる本。〔韓非子、制分〕循レ理不レ見二虛功一、度レ情詭二乎姦根一、則二者安得レ無二兩失一也。

【姦棍】57カンコン 惡者。奸棍。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕牧民之官、竟爲二姦棍害レ民之具一。

【姦差】58カンサ わるい役人。奸差。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕姦差從レ中作レ鬼、調停勸解。

【姦詐】59カンサ よこしまでいつはる。不正なこと。〔禮、經解〕君子審レ禮、不レ可レ誣以二姦詐一。〔荀子、成相〕長由二姦詐一、鮮レ無レ災。〔韓非子、難、一〕夫善賞罰者、百官不レ敢侵レ職、羣臣不レ敢失レ禮、上設二其法一、而下無二姦詐之心一、如レ此則可レ謂二善賞罰一矣。〔管子、明法解〕公平而無レ所レ偏、故姦詐之人不レ能レ誤。〔商子、愼法〕初假二吏民姦詐之本一、而求三端二慤其末一。〔史記、武帝紀〕無二姦詐一。〔漢書、食貨志下〕易レ作二姦詐一。

【姦才】60カンサイ わるぢゑ。奸才。姦智(111)に同じ。

【姦細】61カンサイ ❶いつはりよこしまな小人。狡猾な小人。奸細。〔晉書、王敦傳〕奬二羣賢忠義之心一、抑二姦細不逞之計一。❷軍事の機密、或は國內の動靜等を敵國に密報するもの。まはし者。間諜。邦諜。〔陔餘叢考、姦細〕舊唐書、王晙傳云、此輩降レ蕃翻作二細作一、宋史、紹興二年、翟汝文與二秦檜一對レ案相詬、目レ檜爲二金人姦細一。〔明律、兵律、關津、盤詰姦細〕凡緣邊關塞及腹裏地面、但有下境內奸細走二透消息於外人一、及境外姦細入二境內一、探二聽事情一者上、盤獲到レ官、須レ要下鞫二問接三引起レ謀之人一、得レ實皆斬上、經過去處、守把之人、知而故縱、及隱匿不レ首者、並與二犯人一同レ罪、失二於盤詰一者、杖一百、軍兵杖九十。〔纂注〕姦細、卽周官所謂邦諜、今俗云二姦人細作一、是也。〔六部成語、兵部、奸細、注解〕敵人處レ遣來探二聽軍情一的細作。

【姦皁】62カンサウ わるい下僕。奸皁。皁は皂と同字。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕孰知姦皂不レ樛レ指而樛レ節。

【姦贓】63カンザウ 官物をごまかし取る。公品を著服

する。姦贓。〔漢書、刑法志〕吏爲二姦臧一。〔後漢書、蘇章傳〕行レ部案二姦臧一。

【姦贓】64カンザウ 姦臧に同じ。〔史記、邴吉傳〕坐三官耗亂身及子男有二姦贓一。〔唐書、魏謨傳〕發二駙馬都尉杜中立姦贓一。

【姦策】65カンサク わるだくみ。奸策。姦計。

【姦讒】66カンザン よこしまにそしる。讒言。〔漢書、五行志上〕爲二姦讒於漢一、絶亡之道也。

【姦市】67カンシ 不正な物を賣る市場。〔韓非子、飭令〕國無二姦民一、則都無二姦市一。〔商子、飭令〕國無二姦民一、則都無二姦市一。

【姦死】68 chien^1 ssŭ^3 強姦致死。奸死。

【姦私】69カンシ よこしまで公明正大でないこと。〔顏氏家訓、省事〕或被レ發二姦私一、面相酬證。

【姦事】70カンジ 惡いこと。よこしまのこと。道ならぬこと。奸事。〔荀子、非十二子〕勞レ力而不レ當二民務一、謂二之姦事一。〔史記、貨殖傳〕掘レ冢姦事也。

【姦虱】71カンシツ わるいしらみ。惡人の喩。〔商子、壹言〕塞而不レ開、則民渾、渾而不レ用、則力多、力多而不レ攻、則有二姦虱一。

【姦邪】72カンジヤ よこしま。奸邪。奸衺。姦曲。姦回。〔荀子、王制〕姦邪不レ作。〔韓非子、有度〕忠臣危二死於非罪一、姦邪之臣、安二利於無功一。〔管子、八觀〕姦邪之人慤愿。〔史記、秦始皇紀〕姦邪不レ容。〔漢書、鼂錯傳〕姦邪之吏、乘二其亂法一。〔後漢書、仲長統傳〕糾二遊戲一、以杜二姦邪一。

【姦衺】73カンジヤ よこしま。不正。衺は邪。奸邪。〔韓非子、姦劫弑臣〕人主雖下不三口教二百官一、不丙目索乙姦衺甲、而國已治矣。〔墨子、辭過〕姦衺多則刑罰深、刑罰深則國亂。〔文子、上義〕分以示レ之、姦衺可レ止。〔宋史、董槐傳〕槐曰、臣與二大全一何怨、顧陛下拔レ臣至レ此、臣知二大全姦衺一而噤不レ言、是負二陛下一也。

【姦相】74カンシヤウ よこしまな大臣。奸相。

【姦商】75カンシヤウ 心の正しくない商人。奸商。

【姦猖】76カンシヤウ 狂つて亂れさわぐこと。〔韓愈、曹成王碑〕齦二其姦猖一、以報二于宗一。

【姦狀】77カンジヤウ よこしまな有樣。〔北史、許善心傳〕姦狀分明、此何可レ捨。

【姦情】78カンジヤウ ❶わるいこころ。〔曹冏、六代論〕姦情散二于胷懷一。❷姦通。〔福惠全書、刑名部、姦情、強姦〕姦情中、惟強擬レ辟而鞫レ強、尤宜レ愼。

【姦豎】79カンジユ よこしまな小人。〔息軒遺稿、錦山神詞改建記〕嗚呼、使二公不一レ死、姦豎斂レ跡、而又能折二衝於千里一。

【姦所】80カンシヨ 男女姦通の場所。〔明律、刑律、人命、殺二死姦夫一〕凡妻妾與レ人姦通、而於二姦所一親獲二姦夫姦婦一、登レ時殺死者、勿レ論、若止殺二死姦夫一者、姦婦依レ律斷レ罪、從二夫嫁賣一。

【姦胥】81カンシヨ 姦惡な小吏。奸胥。〔福惠全書、雜課部、雜徵餘論〕蓋非三苛刻居レ心、賈二怨于姦胥猾棍一也。

【姦胥猾吏】82カンシヨクワツリ 姦邪な役人。〔福惠全書、蒞任部、總論〕姦胥猾吏、與二地方豪惡之徒一、戢然改レ行回レ心。〔六部成語、吏部、奸胥猾吏、注解〕奸惡之衙役、賊猾之書吏。

【姦書】83カンシヨ 不正な書類。〔漢書、武五子、燕刺王旦傳〕卽與二劉澤一謀、爲二姦書一。

【姦勝】84カンシヨウ 惡者に打ちかつこと。〔後漢書、明帝紀贊〕危レ心恭レ德、政察姦勝。〔注〕姦勝、猶レ勝二奸佞一。

【姦色】85カンシヨク 不正な色。紅・紫等をいふ。〔禮、王制〕姦色亂二正色一、不レ粥二於市一。〔集解〕愚謂、姦色、不正之色、若二紅紫之屬一也。

【姦心】86カンシン よこしまな心。姦意。邪心。〔荀子、非十二子〕勞レ知而不レ律二先王一、謂二之姦心一。〔漢書、諸侯王表序〕生二其姦心一。〔淮南子、主術訓〕莫レ懷二姦心一。

【姦臣】87カンシン よこしまな家來。奸臣。〔戰國、秦策〕足下上畏二太后之嚴一、下惑二姦臣之態一、居二深宮之中一、不レ離二保傅之手一、終身闇惑、無二與照一レ姧。〔管子、七臣七主〕朝無二姦臣一、下無二侵爭一。〔韓非子、存韓〕雖三殺二戮姦臣一、不レ能レ使二韓復強一。〔後漢書、順帝紀〕姦臣交搆。〔顏氏家訓、後娶〕夫自レ古姦臣佞妾、以二一言一陷レ人者衆矣。〔白居易、采詩官詩〕奸臣蔽レ君無レ所レ畏。

【姦臣傳】88カンシンデン 姦臣について錄した傳記。二十四史中、唐書・宋史・遼史・元史・明史にある。

【姦人】89カンジン よこしまな人。奸人。〔國語、楚語下〕國家將レ敗、必用二姦人一。〔戰國、東周策〕使三人告二東周之候一曰、今夕有二姦人當レ入者一矣、候得而獻二東周一、東周立殺二昌他一。〔荀子、不苟〕是姦人將三以盜二名於晻世一者也。〔史記、蘇秦傳〕凡羣臣之言レ事レ秦者、皆姦人。〔新書、俗激〕姦人並起、萬民離畔。〔淮南子、時則訓〕蚤閉晏開、以索二姦人一。

【姦人之雄】90カンジンノユウ 惡人中の巨魁をいふ。姦雄。〔荀子、非相〕聽二其言一、則辭辯而無レ統、用二其身一、則多レ詐而無レ功、上不レ足三以順二明王一、下不レ足三以和二齊百姓一、然而口舌之均、噡唯則節、足三以爲二奇偉偃卻之屬一、夫是之謂二姦人之雄一、聖王起、所二以先誅一也。

【姦仁】91カンジン よこしまなさけ。〔國語、周語中〕畜義豐功、謂二之仁一、姦仁爲レ佻、姦禮爲レ羞。

【姦生】92カンセイ ❶姦惡が生ずる。〔董仲舒、賢良對策〕法出而姦生、令下而詐起。❷chien^1 shêng^1 姦通して生れた子供。私生子。

【姦聲】93カンセイ よこしまの音樂。不正な音樂。〔禮、樂記〕凡姦聲感レ人。〔疏〕姦聲、謂二姦邪之聲一。

【姦聲亂色】94カンセイランシヨク 不正な音樂と不正な色。〔禮、樂記〕君子反レ情以和二其志一、比レ類以成二其行一、姦聲亂色、不レ留二聰明一、淫樂慝禮、不レ接二心術一。

【姦說】95カンセツ 邪說。〔荀子、非十二子〕辯說譬諭、齊給便利、而不レ順二禮義一、謂二之姦說一。

【姦節】96カンセツ 惡い行。姦行。〔六韜、武韜、文伐〕彼將二不レ爭、姦節乃定一。

【姦占】97カンセン 富強有力の者が、他人の婦女を強奪して占有すること。〔明律、戶律、婚姻〕凡豪勢之人、強二奪良家妻女一、姦占爲レ妻者、絞。

【姦憸】98カンセン よこしまでねぢけてゐること。姦險。〔王安石、和三平甫舟中望二九華山一詩〕挺二身百辟上一、附麗無二姦憸一。

【姦擅】99カンセン よこしまで我儘なこと。奸擅。〔華陽國志〕絶二其姦擅一、盡二忠王室一。

【姦錢】100カンセン 勝手に鑄造した不良の貨幣。〔漢書、食貨志下〕今農事棄捐、而采レ銅者日蕃、釋二其耒耨一、冶レ鎔炊レ炭、姦錢日多、五穀不レ爲レ多。

【姦漸】101カンゼン よこしまが次第に生長すること。〔潘岳、西征賦〕張二舅氏之姦漸一、貽二漢宗一以二傾覆一。〔注〕向曰、舅氏簒弑之漸、自レ此開張。〔孔稚珪、上二新定律注一表〕遠防二邪萌一、深杜二姦漸一。

【姦愬】102カンソ よこしまなうつたへ。〔荀子、致士〕姦言姦說、姦事姦謀、姦譽姦愬、莫二之試一也。

【姦塞】103カンソク よこしまなことがふさがれ斷たれる。〔呂覽、先己〕督聽、則姦塞不レ皇。〔注〕正聽二萬法一、賞罰分明、故姦軌塞二斷於不皇一、皇、暇也。

【姦賊】104カンゾク わるもの。姦惡の賊。奸賊。〔後漢書、董宣傳〕朝廷以二太守一能禽二姦賊一。

【姦態】105カンタイ よこしまなやりかた。〔漢書、李尋傳〕賀良等反レ道惑レ衆、姦態當二窮竟一。

【姦盜】106カンタウ ぬすびと。兇賊。奸盜。〔漢書、地理志下〕山陽好爲二姦盜一。〔後漢書、循吏、王渙傳〕峻擢二用文武吏一、皆盡二其能一、糾二剔姦盜一、不レ得レ旋レ踵。〔晉書、武帝紀〕姦盜起、刑獄煩。〔論衡、幸偶〕或姦盜大辟而不レ知。

【姦黨】107カンタウ わるもののなかま。奸黨。惡黨。〔漢書、趙廣漢傳〕姦黨散落。〔後漢書、朱浮傳〕姦黨日增。

【姦道】108カンダウ 正しくない道。邪道。惡道。〔荀子、富國〕以レ遂レ功而忘レ民、亦不可、皆姦道也。〔說苑、臣術〕行不レ離二姦道一。〔法言、問道〕由二其小者一作二姦道一。

【姦膽】109カンタン よこしまな心。邪心。姦心。〔元稹、諭寶詩〕鏡懸姦膽露、劍拂妖蚳裂。

【姦治】110カンチ 不正な政治。〔荀子、富國〕事必不レ就、功必不レ立、是姦治者也。

【姦智】111カンチ わるぢゑ。よこしまなちゑ。姦才。〔管子、八觀〕民貧則姦智生、姦智生則邪巧作。

【姦鑄】112カンチウ ごまかして質のわるい錢を鑄造する。〔漢書、食貨志下〕郡國鑄レ錢、民多姦鑄、錢多輕。〔注〕師古曰、謂三巧鑄レ之雜二鉛錫一。

【姦通】113カンツウ 夫ある女と他の男とが淫事を行ふこと。密通。有夫姦。〔後漢書、獨行、李業傳〕公孫述連徵命、待以二高位一、皆託二青盲一、以避二世難一、永妻淫二於前一、匿レ情無レ言、見二子入一レ井、忍而不レ救、信侍婢亦對レ信姦通、及レ聞二述誅一、皆盥洗更視曰、世適平、目卽淸、淫者自殺。〔北史、薛琡傳〕魏東平王元匡妾張氏、淫逸放恣、琡初與姦通、後納以爲レ婦。

【姦通罪】114カンツウザイ 夫ある女と淫事を行ふこと

に依つて成り立つ罪。

【姦遞】115（カンテイ） わるいやくにん。奸遞。〔福惠全書、編審部、愼選戸長〕係二積年姦遞、土棍鑽充一。

【姦刁】116（カンテウ） 邪惡で且つ巧詐。刁は巧詐。奸刁。〔福惠全書、刑名部、人命中、圖賴〕種種姦刁、莫レ可二名狀一。

【姦兆】117（カンテウ） 姦人の區域内にある物。惡人の所有物。兆は域。〔左氏、文、十八〕其人則盜賊也、其器則姦兆也。〔注〕兆、域也。〔會箋〕姦人區域中之物也。

【姦諂】118（カンテン） よこしまでへつらふ。〔北史、庫士文傳〕士文至レ州、摘二發姦諂長吏一、尺布斗粟之贓、無レ所二寬貸一。

【姦徒】119（カント） ㊀わるもののなかま。㊁姦徒一年半を見よ。

〔姦徒一年半〕120（カントイチネンハン） 唐の刑律では、姦を禁ずるのに、人妻と處女と、強姦と和姦とを論ぜずして共に罰し、其のうち無妻無夫の和姦は、通じて徒罪一年半を以て罰する。〔唐律、雜律、姦徒一年半〕諸姦者、徒一年半、有レ夫者徒二年。

【姦涂】121（カント） 邪惡なみち。不正な道。〔管子、揆度〕姦涂不レ可二獨遵一、貨財不レ安二於拘一。

【姦蠹】122（カント） わるもの。蠹は、木や紙を犯す蟲で、わるものの義。〔後漢書、梁統傳〕小人姦蠹、比屋可レ誅。

【姦動】123（カンドウ） よこしまなうごき。不正な行動。〔韓非子、八經〕設レ諫以綱二獨爲一、擧レ錯以觀二姦動一。

【姦匿】124（カントク） 姦慝に同じ。

【姦慝】125（カントク） 邪惡。〔書、周官〕司寇掌二邦禁一、詰二姦慝一、刑二暴亂一。〔左氏、昭、十四〕赦二罪戾一、詰二姦慝一。〔國語、魯語下〕下無二姦慝一。〔漢書、王莽傳贊〕太后壽考、爲二之宗主一、故得下肆二其姦慝一、以成中簒盜之禍上。〔後漢書、陳寵傳〕斷獄嚴明、所三以威二懲姦慝一、姦慝既平、必宜レ濟レ之以レ寬。〔張衡、東京賦〕忿二姦慝之干一レ命。〔蘇洵、辨姦論〕凡事之不レ近二人情一者、鮮レ不レ爲二大姦慝一。

【姦毒】126（カンドク） 害毒。〔南史、齊廢帝東昏侯紀〕寶慶與二諸小一、共逞二姦毒一。

【姦遁】127（カントン） 惡人と逃亡者。〔管子、八觀〕姦遁踰越者作。〔纂詁〕姦人及遁逃之徒。

【姦貪】128（カンドン） よこしまでむさぼる。奸貪。〔曹伯啓、詩〕知音更有二驄馬客一、威稜坐了懲二姦貪一。

【姦佞】129（カンネイ） 心がねぢけてへつらふこと。又、其の人。〔管子、霸言〕以二姦佞之罪一、刑二天下之心一。〔漢書、翟方進傳〕姦佞傾覆、利口不軌。〔後漢書、黃瓊傳〕姦佞擅レ朝、外戚專恣。〔風俗通、過譽〕不三卽彈二黜姦佞一。〔晉書、王沈傳〕黜二姦佞於州國一。

【姦婆】130 chien^1 pʻo^2 婚姻媒介の婆。奸婆。

【姦賣】131（カンバイ） 不正な賣り方をする。不正販賣。〔鹽鐵論、本議〕行二姦賣一乎、農民重苦、女工再稅、未レ見二輸之均一也。

【姦妄】132（カンバウ） わるがしこくいつはる。奸妄。〔後漢書、章帝紀〕無レ使二貧弱遺脫、小吏豪右、得レ容二姦妄一。〔吳志、孫和傳〕和以爲二姦妄之人一。

【姦萌】133（カンバウ） よこしまのきざし。惡の徵候。〔韓非子、外儲說右上〕善持レ勢者、蚤絕二其姦萌一。〔後漢書、楊倫傳〕禁二絕姦萌一。

【姦暴】134（カンバウ） 心がねぢけて亂暴なこと。奸暴。〔後漢書、范滂傳〕叨穢姦暴。〔後漢書、桓帝紀〕梁冀姦暴、濁二亂王室一。

【姦薄】135（カンパク） よこしまで輕薄なこと。〔潛夫論、德化〕忠厚積則致二太平一、姦薄積則致二危亡一。

【姦非】136（カンピ） ㊀よこしま。姦をなし、非をなす意。姦宄。〔後漢書、度尙傳〕爲レ政嚴峻、明三於發二擿姦非一。㊁chien^1 fei^1 法律上、姦淫罪を犯した人をいふ。

【姦匪】137 chien^1 fei^3 山海島嶼等に潛伏して暴行をする山賊海賊の類。姦黨匪徒の略。

【姦媚】138（カンビ） よこしまでこびること。〔後漢書、陳蕃傳〕大滑張氾等、肆二行貪虐一、姦二媚左右一。

【姦逼】139（カンヒヨク） 姦通する。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕索レ飮、因而姦二逼其妻一。

【姦夫】140（カンプ） ㊀わるもの。〔漢書、貨殖傳序〕姦夫犯レ害而求レ利。㊁ひそかに他人の妻に通ずる男。まをとこ。みそかを。〔明律、刑律、犯姦〕凡縱二容妻妾與一レ人通姦、本夫姦夫姦婦、各杖九十。

〔殺二死姦夫一〕141（カンプヲサツシス） 妻妾が人と姦通したとき、姦所に於て本夫親ら之を捉へ、卽時に之を殺した場合、其の罪を論ぜず。若し姦夫だけ殺したときは、姦婦は律に依つて罪を斷じ、夫の嫁賣を許す。〔明律、刑律、人命、殺二死姦夫一〕凡妻妾與レ人姦通、而於二姦所一親獲二姦夫姦婦一、登レ時殺死者、勿レ論、若止殺二死姦夫一者、姦婦依レ律斷レ罪、從二夫嫁賣一。

【姦婦】142（カンプ） 姦夫の相手たる女。まをとこをもつ女。姦夫の㊁を見よ。

【姦富】143（カンプ・カンプウ） 不正な手段で得たとみ。不義の富貴。奸富。〔史記、貨殖傳〕本富爲レ上、末富次レ之、姦富最下。〔新書、時變〕俗靡而尊二姦富一。

【姦巫】144（カンプ） よこしまなみこ。〔後漢書、欒巴傳〕乃悉毀二壞房祀一、翦二現姦巫一。

【姦伏】145（カンプク） かくれたよこしま。〔後漢書、法雄傳〕好發二擿姦伏一、盜賊稀發、吏人畏二愛之一。〔後漢書、王渙傳〕爲二洛陽令一、能以レ譎數發二擿姦伏一、京師稱歎、以爲三渙有二神算一。

【姦物】146（カンブツ） よこしまな物。〔國語、周語下〕律呂不レ易、無二姦物一也。

【姦弊】147（カンペイ） よこしま。弊は惡。奸弊。〔燕翼貽謀錄〕銓曹吏人、姦弊最甚。

【姦騙】148 chien^1 pʻien^4 いつはりだます。奸騙。〔水滸傳、三十二回〕那婦人道、便是那廝們擄レ我去、不レ從二姦騙一、正要レ殺レ我、見三我說二是知寨的恭人二、不二敢下レ手。

【姦鋒】149（カンボウ） よこしまなほこさき。〔後漢書、桓帝紀論〕忠賢力爭、屢折二姦鋒一。〔注〕各上書極諫、以折二宦官等姦謀之鋒一也。

【姦謀】150（カンボウ） よこしまなはかりごと。わるがしこい策略。姦圖。〔荀子、致仕〕姦事姦謀。〔史記、李斯傳〕害除而姦謀塞。〔漢書、五行志上〕及有二姦謀一。〔注〕臣讚曰、姦謀、謂二邪謀一也。〔漢書、王商傳〕其姦謀未レ可二測度一。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕皆與レ爽通二姦謀一。

【姦本】151（カンポン） よこしまのもと。〔史記、蔡澤傳〕明二法令一、禁二姦本一。

【姦罔】152（カンマウ） よこしまでいつはる。〔漢書、揚雄傳下〕不レ可二姦罔一。〔法言、問道序〕不レ可二姦罔一。

【姦民】153（カンミン） よこしまな民。奸民。〔國語、晉語八〕國無二姦民一。〔荀子、富國〕得二姦民之譽一。〔韓非子、飭令〕國無二姦民一、則都無二姦市一。〔管子、立政〕姦民在二上位一。〔商子、去彊〕國以二善民一治二姦民一。〔孔子家語、相魯〕設レ法而不レ用、無二姦民一。

【姦務】154（カンム） よこしまなつとめ。不正な仕事。〔商子、徠民〕恃二姦務末作一以處。

【姦門】155（カンモン） 邪道に陷るいり口。〔管子、七臣七主〕法傷、則姦門闓。〔後漢書、郎顗傳〕充二塞道路一、開二長姦門一。

【姦約】156（カンヤク） よこしまな約束。〔公羊、襄、二十七〕昧レ雉彼視、〔注〕兄爲二彊臣所一レ逐、既不レ能レ救、又移レ心事二剽背一、爲二姦約一。

【姦由】157（カンユ） わるいことの原因。惡事のもと。奸由。〔新書、審微〕明者之感二姦由一也蚤、其除二亂謀一也遠。

【姦諛】158（カンユ） よこしまでへつらふ。〔韓愈、答二崔立之一書〕誅二姦諛於既死一、發二潛德之幽光一。

【姦勇】159（カンユウ） 心がねぢけてゐて勇氣があること。〔國語、周語中〕姦仁爲レ佻、姦禮爲レ羞、姦勇爲レ賊。

【姦雄】160（カンユウ） 姦智にたけた者。才智拔羣で、權詐によつて世を欺く者。奸雄。〔漢書、司馬遷傳贊〕退二處士一、而進二姦雄一。〔魏志、武帝紀、能安レ之者、其在レ君乎、注〕子將曰、治世之能臣、亂世之姦雄。〔孔子家語、始誅〕此乃人之姦雄者也。

【姦譽】161（カンヨ） よこしまなほまれ。〔荀子、致士〕姦言姦說、姦事姦謀、姦譽姦愬、莫二之試一也。

【姦亂】162（カンラン） よこしまで亂れる。又、異性にみだれかかること。〔淮南子、主術訓〕爲レ惠者生レ姦、而爲レ暴者生レ亂、姦亂之俗、亡國之風。〔漢書、江充傳〕與二同產姊及王後宮一姦亂。〔後漢書、董卓傳〕姦二亂公主一、妻二略宮人一。〔潛夫論、德化〕被二惡政一、則人有レ懷二姦亂之慮一。

【姦濫】163（カンラン） よこしまでみだれる。邪惡で道にたがふ。〔通典、食貨典、錢幣下〕錢者通寶、有レ國之權、是以歷代禁レ之、以絕二姦濫一。

【姦蘭】164（カンラン） 禁を犯して私に貨物を出すこと。漢書には、閒蘭に作る。奸蘭。〔史記、匈奴傳〕漢使下馬邑下人聶翁壹、姦蘭出レ物、與二匈奴一交上、詐

爲レ賣二馬邑城一以誘二單于一。〔注〕集解曰、姦、音干、干蘭、犯レ禁私出レ物也。

【姦吏】165 カンリ 法を枉げて私利をはかる官吏。奸吏。〔逸周書、柔武解〕姦吏濟貸。〔管子、七法〕姦吏傷二俗教一。〔史記、田敬仲完世家〕請謹修二法律一、以督二姦吏一。

【姦利】166 カンリ 正しくない利得。姦をなし法を犯して獲た利。不正利得。〔韓非子、姦劫弑臣〕爲二姦利一以弊二人主一、行二財貨一以事二貴重之臣一者、身尊家富、父子被二其澤一。〔史記、武帝紀〕使三人微得二趙綰等姦利事一。〔漢書、任敖傳〕大爲二姦利一。〔孔子家語、曲禮子夏問〕其示レ民以二姦利之端一。

【姦里】167 カンリ わるい村役人。奸里。〔福惠全書、刑名部、逆産變賣〕庶姦里等知レ儆、而官物易二于出鬻一矣。

【姦良】168 カンリヤウ よしあし。奸良。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕于二開報點僉時一、須レ驗二其人之相貌姦良、家道厚薄一。

【姦慮】169 カンリヨ よこしまな考。〔後漢書、隗囂傳〕如懷二姦慮一、明神殛レ之。

【姦隷】170 カンレイ よこしまなけらい。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕孼臣姦隷、蠹居棊處、搖レ毒自防。

【姦禮】171 カンレイ よこしまな禮。〔國語、周語中〕姦仁爲レ佻、姦禮爲レ羞。

【姦路】172 カンロ よこしまな路。邪路。〔呂覽、去宥〕姦路以除。〔後漢書、徐防傳〕私相容隱、開二生姦路一。

【姦枉】173 カンワウ よこしま。まがつてゐること。奸枉。〔後漢書、五行志二〕先レ是梁太后兄冀、挾二奸枉一、以二故太尉李固・杜喬正直一、恐レ害二其事一、令下人誣二奏固・喬一而誅中滅之上。

【作レ姦】174 カンヲナス わるいことをする。〔諸葛亮、出師表〕若有下作レ姦犯レ科、及爲二忠善一者上、宜下付二有司一、論中其刑賞上。

【發レ姦】175 カンヲハッス 惡事をあばき出す。〔漢書、趙廣漢傳〕其發レ姦摘レ伏如レ神。

【姦如レ山】176 カンヤマノゴトシ 姦惡な事が山のやうである。惡事の甚だ多いさま。〔漢書、酷吏、王溫舒傳〕溫舒多レ諂、善事二有レ勢者一、卽無レ勢、視レ之如レ奴、有レ勢家、雖レ有二姦如一レ山弗レ犯、無レ勢、雖二貴戚一必侵辱。

【姦久情密】177 カンヒサシクジヤウミツナリ 男女が姦通すること久しく、情好が日に密なこと。〔六部成語、刑部、姦久情密、注解〕男女久姦、情好日密也。

【姦劫弑臣】178 カンケフシイシン 韓非子の篇名。

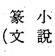
【知レ姦亦有二大羅一】179 カンヲシルモマタタイラアリ 姦邪な者を檢擧するにも、多くの人の力を必要とする。天下を治めるに、一人の力を以てしては、出來ないことの喩。大羅は、大きな網、衆人の力の譬。〔韓非子、難三〕宋人語曰、一雀過、羿必得レ之、則羿誣矣、以二天下一爲二之羅一、則雀不レ失矣、夫知レ姦亦有二大羅一、不レ失二其一一而已矣。

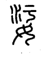
【姦同二鬼蜮一行若二狐鼠一】180 カンハキヨクニオナジクオコナヒハコソノゴトシ 姦惡なことは鬼蜮の如くで、又その行は狐鼠のやうにわるがしこい。蜮は、三足の怪獸で、水中に在り、よく人を害するといふ。〔六部成語、刑部〕奸同二鬼蜮一行若二狐鼠一。〔注解〕言下其奸如二鬼蜮之惡一、行若中狐鼠之狡上也。

【不三以レ無レ姦而蓄二不レ吠之狗一】181 カンナキヲモツテホエザルイヌヲタクハヘズ 惡人が居らないからとて、吠えない犬を畜ふ道理はない。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕畜レ狗、以防レ姦、不三以レ無レ姦、而蓄二不レ吠之狗一。

【姧】6218 カン 姦(**3－6217**)に同じ。〔集韻〕姦、或作レ姧。

【⿱污女】6219


小篆（說文）


小篆（段注本）

［一］ゴコ 〔集韻〕後五切 麌
［二］ウヲ 〔集韻〕烏故切 遇
［三］ゴコ 〔集韻〕胡故切 遇

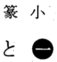
［一］［二］［三］**むさぼる**。⿱污女鹵。〔說文〕⿱污女、⿱污女鹵、貪也、从レ女污聲。

【⿱汙女】6220 コ ⿱污女(**3－6219**)に同じ。〔篇海類編〕⿱汙女、同レ⿱污女。

【㛃】6221 ケツ ケチ 〔集韻〕吉屑切 屑

きよい。艾㛃。〔集韻〕㛃、艾㛃、清也。

【姨】6222 イ 〔集韻〕延知切 i² 支


小篆

㊀**妻の同母姉妹**。一說に、妹だけをいふ。姒(**3－6177**)の字解㊀をも併せ見よ。〔說文〕姨、妻之女弟同出爲レ姨、从レ女夷聲。〔段注〕此獨言二女弟一者、以二弟姨疊韻一也。〔爾雅、釋親〕妻之姉妹同出爲レ姨。〔釋名、釋親屬〕妻之姉妹曰レ姨、姨、弟也、言下與二己妻一相長弟上也。〔詩、衞風、碩人〕邢侯之姨。〔傳〕妻之姉妹曰レ姨。〔左氏、莊、十〕蔡哀侯娶二于陳一、息侯亦娶焉、息嬀過レ蔡、蔡侯曰、吾姨。〔注〕妻之姉妹曰レ姨。㊁**母方のをば**。母の姉妹。伯母。叔母。〔釋名、釋親屬〕母之姉妹曰レ姨。〔左氏、襄、二十三、穆姜之姨子也、注〕與二穆姜一爲二姨昆弟一。〔疏〕據レ父言レ之、謂二之姨一、據レ子言レ之、當レ謂二之從母一、但子效二父語一、亦呼爲レ姨。㊂**父のめかけ**。庶母。庶子は己の母をもいふ。〔通俗編、稱謂〕其父之側庶、亦稱レ姨者、姨、本姉妹同事二一夫一之稱、後世無二從媵之禮一、而側庶實與レ媵比、故雖レ非二母姉妹一、而得二借レ此稱一レ之。〔稱謂錄、子稱レ母、姨〕南史齊宗室傳、衡陽王鈞五歲、時所レ生母區貴人病、便悲戚、左右以レ餅飴レ之、不レ肯レ食曰、須レ待二姨瘥一、案、今人多稱二本生之妾母一曰レ姨、蓋其由來已久矣。㊃**女が互に呼ぶ名**。姨媽(16)の㊀を見よ。

【姨兄】1 イケイ 母方の從兄。〔吳志、潘濬傳、注〕江表傳曰、時濬姨兄零陵蔣琬、爲二蜀大將軍一。〔北史、一方寧靜、序、李琰之傳〕又自誇二文章一、從姨兄常景笑而不レ許。〔釋親考〕從母之男子、爲二從母兄弟一、小學、姨兄屯田郎中辛玄馭、句讀、姨兄、姨之子長二於我一者、杜甫、寄二狄明府一詩、梁公曾孫我姨弟、不レ見十年官濟濟、邵寶曰、母之姉妹之子曰二姨弟一、胤按、姨兄姨弟、卽從母兄弟也、胡三省魏明帝紀注云、妻之兄弟也、蓋誤矣。

【姨兄弟】2 イケイテイ 母の姉妹の子。從母兄弟をいふ。姨昆弟。〔左氏、襄、二十三、穆姜之姨子也、注〕姪、穆姜姨母之子、與二穆姜一爲二姨昆弟一也。〔釋親考〕姉妹之子、曰二從母兄弟一、又曰二姨兄弟一。

【姨子】3 イシ 母方のをばの子。姨兄弟に同じ。〔左氏、襄、二十三〕繼レ室以二其姪一、穆姜之姨子也。〔注〕姪、穆姜姨母之子、與二穆姜一爲二姨昆弟一也。

【姨兒】4 i² êrh 母の姉妹。

【姨甥】5 i² hsêng¹ 母の姉妹の夫の自稱。

【姨丈】6 イヂヤウ 母の姉妹の夫。姨夫。〔小知錄〕。

【姨丈人】7 イヂヤウジン 母の姉妹の夫。又、兩壻をいふ。〔事物異名錄、倫屬、舅〕表異錄、袁聿脩爲二姨丈人崔休所一レ知、蓋今之姨夫也、按、姨夫、謂二兩壻一也、今皆指二姨母之夫一爲二姨夫一矣。

【姨娘】8 イヂヤウ ㊀母方のをば。姨母。〔釋親考〕珠璣藪注、母之姉妹曰二姨娘一。㊁父の妾。庶子は己の母をもいふ。〔陔餘叢考、姨娘〕姨、本妻之姉妹之稱、見二爾雅及釋名一、又左傳莊十年、蔡哀侯娶二于陳一、息侯亦娶焉、息嬀過レ蔡、蔡侯曰、吾姨也、止而見レ之、是也、然世俗又稱レ妾爲二姨娘一、亦有レ所レ本、南史、齊衡陽王鈞五歲、時所レ生母區貴人病、便悲戚、左右以レ餅飴レ之、不レ肯レ食曰、須レ待二姨瘥一、晉安王子懋、時其母阮淑媛病篤、七歲、有下獻二蓮花一供レ佛者上、子懋流涕禮レ佛曰、若使三阿姨因二此和勝一、願諸佛令二此花竟夕不一レ萎、二王皆呼レ母爲レ姨、蓋姨、本姬侍之稱、二王所レ生母、皆非二正嫡一、宮中久呼爲レ姨、故其子之呼レ母、亦同耳。

【姨弟】9 イテイ 母方の從弟。姨兄(1)を見よ。〔晉書、王廙傳〕廙丞相導從弟、而元常姨弟也。〔北史、魏收傳〕父子建、性存二重愼一、不レ雜二交遊一、唯與二尙書盧義僖・姨弟涇州刺史盧道裕一、雅相親

昵。〔杜甫、寄二狄明府一詩〕梁公曾孫我姨弟、不レ見十年官濟濟。

【姨婆】10 i^2 p‘o^2　夫の母の姊妹。

【姨夫】11 フイ　㊀母の姊妹の夫。姨丈。姨父。〔盧思道、北齊興亡論〕胡長粲以二從舅之親一、馮子琮以二姨夫之戚一、俱受二寄託一。〔顏氏家訓、勉學篇〕思魯等姨夫彭城劉靈、嘗與レ吾坐、諸子侍焉。〔合璧事類〕舊女壻爲二新女壻一、大姨夫作二小姨夫一。㊁女子が其の姊妹の夫をいふ。〔釋親考〕女子謂二姊妹之夫一爲レ私、丘氏曰、今稱二姨夫一。㊂二人の男子が一人の妓女と親しんだ時の互稱。〔稱謂錄、嫖客、姨夫〕癸辛雜志、北人以二兩男子一共狎二一妓一、則呼爲二姨夫一。

〖姨夫錢〗12 イフセン　自分には資財がなく、客の貨財を次々と運轉して商賣すること。夫が死すれば、妾は次々に人に嫁すに取る。〔通俗編、貨財、姨夫錢〕七修類稿、杭有二無賴子一、承二父業一延二商賈一、有二客至一、則入二其財一爲二己有一、客索時、又俟二後客之貨一轉賣償焉、年復年、客復客、名曰二姨夫錢一、蓋以下夫死、姨復可二以嫁一レ人之意上耳。

【姨父】13 フイ　母の姊妹の夫。姨夫。姨爹。〔魏書、元乂傳〕常直二禁中一、肅宗呼爲二姨父一。

【姨母】14 ボイ　㊀母の姊妹。をば。姨媽。姨娘。〔說文、姨、段注〕後世謂二母之姊妹一曰二姨母一。〔釋名、釋親屬〕母之姊妹曰レ姨。〔釋親考〕母之姊妹爲二從母一、丘氏曰、今稱爲二姨母一。㊁父の妾をいふ。姨娘(8)の㊁を見よ。

〖姨母帖〗15 イボテフ　晉の王羲之の草書帖。古拙を以て勝る。

【姨媽】16 ボイ　㊀婦女が互に呼ぶ稱。姨媽菜を見よ。㊁ i^2 ma^1　母の姊妹。母方のをば。姨母。

〖姨媽菜〗17 イボサイ　草の名。前胡(2−2011‥122)をいふ。〔李宗昉、黔記〕前胡、遍生二山谷間一、春初吐レ葉、土人採爲レ菜、味極香、俗名二羅鬼菜一、又名二姨媽菜一、黔中婦女好レ遊、相識卽通二往來一、呼爲二姨媽一、飯則必設レ此、故名。

〖姨媽姐妹〗18 i^2 ma^1 chieh^3 mei^4　母の姊妹。母方のをば。

【姨妹】19 マイ　妻の妹。〔世說新語、惑溺〕孫秀降、晉武帝厚存二寵之一、妻以二姨妹一。

【姨太太】20 i^2 t‘ai^4 t‘ai　㊀年老いた妾。㊁官吏の妾。

【姨奶奶】21 i^2 nai^3 nai　㊀年の若い妾。㊁普通人の妾。

【姨表兄】22 i^2 piao^3 hsiung^1　母方のをばの子。

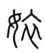
〖姨表兄弟〗23 i^2 piao^3 hsiung^1 ti^4　母の姊妹の男子。略して姨兄弟ともいふ。

【姨表甥】24 i^2 piao^3 shêng^1　母の姊妹の外孫。

【姨表姪】25 i^2 piao^3 chih^2　母の姊妹の孫。

【姨表姐妹】26 i^2 piao^2 chieh^3 mei^4　母の姊妹の娘。

【㛄】6223



小篆

イ エ　〔集韻〕於希切　微

女のあざな。〔說文〕㛄、女字也、从レ女衣聲、讀若レ依。

【㛈】6224

ジョ ニョ　〔字彙〕而兗切　語

魚肉が腐る。〔字彙〕㛈、魚敗也。

【姩】6225

㊀デン ネン　〔集韻〕乃見切　霰

㊁デン ネン　〔集韻〕寧顚切　先

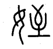
㊀**美しい女**。或は婞(3−6362)に作る。〔集韻〕姩、美女、或作レ婞。㊁**女のあざな**。〔集韻〕姩、女字。

【姪】6226

㊀テツ デチ　〔集韻〕徒結切　屑

㊁チツ ヂチ　〔集韻〕直質切　質

ㄓ chih^2



小篆

㊀㊁❶**めひ**。女子が其の兄弟の子をいふ。又、男子が其の姊妹の生んだ子を稱する。甥(7−21689)の❶に對す。〔說文〕姪、女子謂二兄弟之子一也、从レ女至聲。〔爾雅、釋親〕女子謂二晜弟之子一爲レ姪。〔儀禮、喪服傳〕謂二吾姑一者、吾謂二之姪一。〔左氏、襄、二十三〕繼レ室以二其姪一。〔注〕女子謂二兄弟之子一爲レ姪。㋑女子が其の兄弟の生んだ女子をいふ。後世は男子も此の稱呼を用ふ。〔陔餘叢考、姪〕俗稱二兄弟之子一曰レ姪、非也、凡男子稱二兄弟之子一、當レ曰二從子一、經書所レ載、未レ有二稱レ姪者一、姪乃兄弟之女也、故姪字從二女旁一也。㋺女子が其の兄弟の生んだ男子をいふ。後世は男子も此の稱呼を用ふ。をひ。〔左氏、僖、十五〕姪其從レ姑。〔國語、周語下〕我皇妣大姜之姪、伯陵之後、逢公所レ馮神也。〔六書故〕今人謂二兄弟之丈夫子一、亦曰レ姪。〔宋書、謝弘微傳〕謝混風格高峻、少レ所二交納一、唯與二族子靈運瞻曜弘微一、竝以二文義一賞會、共宴處、混五言詩所レ云、戚戚皆親姪者也。〔顏氏家訓、風操〕兄弟之子已孤、與二他人一言、對二孤者前一、呼爲二兄子・弟子一、頗爲レ不レ忍、北土多呼爲レ姪。〔陔餘叢考、姪〕按、顏氏家訓、兄弟之子、北人多呼爲レ姪、則以二從子一爲レ姪、起二於北朝一。❷**そばめ**。**つきそひ**。嫁する女に從ひゆくもの。姪娣(10)を見よ。〔釋名、釋親屬〕姑謂二兄弟之女一爲レ姪、姪、迭也、共行事レ夫、更迭進御也。〔詩、召南、鵲巢、維鳩盈レ之、箋〕言二媵姪娣之多一。❸或は嬺(3−6926)に作る。〔集韻〕姪、或作レ嬺。❹耋(9−28861)に通ず。〔字彙補〕姪、與レ耋同、漢郭究碑、耆姪士女。❺又、妷(3−6135)に作る。〔六書故〕姪、亦作レ妷。❻俗に侄(1−579)に作る。〔正字通〕姪、俗作レ侄。〔字彙、醒誤〕姪、陳入聲、兄弟之子、俗誤作レ侄、侄、音質、堅也、又癡也。❼現㋑親友の閒で相互の子を呼んでいふ。㋺子が父の友人に對して用ひる自稱。㊇姪又は甥が其の伯叔父母に對して用ひる自稱。邦**ひめ**。兄弟姊妹の娘。古くは甥の意にも用ひた。

【姪甥】1 テツサウ テツセイ　めひとをひ。〔白居易、歲日家宴戲示二弟姪等一云云詩〕弟妹妻孥小姪甥、嬌癡弄レ我助二歡情一。

【姪子】2 テツシ　めひ。をひ。〔公羊、成、二〕以二蕭同姪子一爲レ質、蕭同姪子者、齊君之母也。〔注〕蕭同者、齊君字、姪子、猶レ言二姪女一、頃公之母、是蕭同之姪女也、兄弟之子猶レ子、故左氏直云二蕭同叔子一矣。

【姪兒】3 chih^2 êrh　をひ。めひ。

【姪孫】4 テツソン　またをひ。まためひ。甥姪の子。己の兄弟の孫。〔明律、本宗九族五服正服之圖〕姪孫、謂二兄弟之孫一。

弟——我——兄

兄——子(姪)——孫(姪孫)

弟——子(姪)——孫(姪孫)

〖姪孫女〗5 テツソンヂヨ　まためひ。〔明律、本宗九族五服正服之圖〕姪孫女、謂二兄弟之孫女一。

〖姪孫婦〗6 テツソンプ　姪孫の妻。〔明律、本宗九族五服正服之圖〕姪孫婦。

【姪男】7 テツダン　をひ。〔通俗編、倫常、姪男〕顏眞卿序二顏元孫干祿字書一、第十三姪男眞卿書。

【姪女】8 テツヂヨ　めひ。兄弟の女の子。〔明律、本宗九族五服正服之圖〕姪女、謂二兄弟之女一。

〖姪女壻〗9 chih^2 nü^3 hsü^4　姪の夫。

【姪娣】10 テツテイ　周代、諸侯は三國から妻を迎へたが、それぞれの婦に又、姪娣といつて婦の血緣の者が一緒について來た。姪娣は、元來は婦の

めひと妹とであった。〔禮、曲禮下〕國君不ㇾ名二卿老世婦一、大夫不ㇾ名二世臣姪娣一。〔疏〕姪、是妻之兄女、娣、是妻之妹、從ㇾ妻來爲ㇾ妾也。〔公羊、莊、十九〕諸侯娶二一國一、則二國往媵ㇾ之、以二姪娣一從。姪者何、兄之子也、娣者何、弟也。〔注〕必以二姪娣一從ㇾ之者、欲ㇾ使二一人有ㇾ子、二人喜一也、所下以防二嫉妒一令上ㇾ重二繼嗣一也。〔管子、君臣下〕國君聘二妻於異姓一、設爲二姪娣一。

【姪婦】11 テップ　甥の妻。〔明律、本宗九族五服正服之圖〕姪婦。

【姪息婦】12 chih² hsi² fu　甥の妻。甥のよめ。

【姪曾孫】13 テツソウソン　またをひ。父方のまたをひ。曾姪孫(**5－14299**‥223)に同じ。

〔姪曾孫婦〕14 テツソウソンプ　姪曾孫の妻。〔明律、本宗九族五服正服之圖〕姪曾孫婦、謂二兄弟之曾孫婦一。

【娎】6227

セツ　媟(**3－6524**)に同じ。〔集韻〕媟、或作ㇾ娎。

【旅】6228

リョ　⿰女呂(**3－6281**)に同じ。〔集韻〕⿰女呂、或作ㇾ旅。

【姫】6229

シン　〔集韻〕止忍切　◦軫

つつしむ。〔集韻〕姫、愼也。

参考　もと姬(**3－6230**)は別字。今、姬の略字として用ひる。〔康熙字典、辨似、二字相似〕姫、音軫、愼也。姬、音基、姓也。

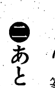
【姬】6230

㊀キ　〔集韻〕居之切　ㄐㄧ chi¹　◦支

㊁イ　〔集韻〕盈之切　◦支

㊂キョ　〔列子注〕音居

慣キ


小篆

㊀❶**もと。**本。〔廣雅、釋言〕姬、基也。〔史記、三代世表〕姬者、本也。❷**あと。**跡。〔論衡、奇怪〕后稷母、履二大人跡一、而生二后稷一、故周姓曰ㇾ姬。❸**助辭。**疑問の意を表はす。居(**4－7663**)に通ず。又、其(**2－1472**)に通ず。〔禮、郊特牲〕二日伐ㇾ鼓何居。〔注〕居、讀爲ㇾ姬、語之助也、何居、怪ㇾ之也。〔疏〕姬、是語助之辭也。〔說文通訓定聲〕姬、叚借爲二助語之詞一、禮記郊特牲、二日伐ㇾ鼓何居、疏、姬、是語助之辭、按、與ㇾ用ㇾ其同。❹**妾。**〔集韻〕姬、一曰、妾稱。❺**姓。**〔說文〕姬、黃帝居二姬水一、因ㇾ水爲ㇾ姓、从ㇾ女𦣞聲。〔張衡、東京賦〕周姬之末。〔注〕綜曰、姬、周姓也。㊁❶**ひめ。**婦人の美稱。〔漢書、文帝紀〕母曰二薄姬一。〔注〕師古曰、姬者、本周之姓、貴二於衆國之女一、所二以婦人美號、皆稱ㇾ姬焉。〔稱謂錄、妾、姬〕案、葉夢得石林燕語、婦人無ㇾ名、以ㇾ姓爲ㇾ名、故周人稱二王姬伯姬一、姬、周姓、後世不ㇾ思二其故一、遂以ㇾ姬爲二通稱一矣、以二虞美人一爲二虞姬一、戚夫人爲二戚姬一、政和閒、帝女下嫁曰二帝姬一、嘗白二蔡魯公一、欲三改二正之一不ㇾ果、郎仁寶七修類藁辨ㇾ之曰、姬、固周姓、亦爲二婦人美稱一、毛詩曰、彼美淑姬、師古曰、周貴二於衆國之女一、所二以婦人之美者稱ㇾ姬、若以二國姓一、而後世傳訛、則黃帝姓姬、炎帝姓姜、左傳雖ㇾ有二姬姜連稱之辭一、獨用二一姜字一稱二婦人一可乎、據ㇾ此則古人以ㇾ姬爲二婦人之通稱一、至二後世一乃專以ㇾ之稱ㇾ妾耳。❷**めかけ。**〔漢書、文帝紀、母曰二薄姬一、注〕如淳曰、姬、音怡、衆妾之總稱、漢官儀曰、姬妾數百、外戚傳亦曰、幸二姬戚夫人一。〔補注〕錢大昭曰、六朝人稱二妾母一爲ㇾ姨、即此意、但不ㇾ知三姬有二怡音一、因變ㇾ文爲ㇾ姨、此俗閒之謬耳、釋親、妻之姊妹同出爲ㇾ姨、豈可三以稱二衆妾一。〔漢官儀〕姬妾數百。❸**漢代の女官の一。**〔漢書、文帝紀、母曰二薄姬一、注〕臣瓚曰、漢秩祿令及茂陵書、姬竝內官也、秩比二二千石一、位次二婕妤下一、在二八子上一。❹**きさき。**王后。〔集韻〕姬、一曰、王妻之別名。❺古は㚤(**3－6065**)に作る。〔同文備考〕㚤、古姬字。❻或は妃(**3－6061**)・姖(**3－6160**)に作る。〔集韻〕姬、衆妾總稱、或作二妃・姖一。㊂**居る。**居(**4－7663**)に通ず。〔說文通訓定聲〕姬、假借爲ㇾ居。〔列子、黃帝〕姬、將ㇾ告ㇾ女。〔注〕姬、音居。

邦**ひめ。**㋑貴人のむすめ。㋺貴女の名に添へて呼ぶ敬稱。㋩小さく愛らしい物の名に冠していふ。㊁娼妓。

参考　姫(**3－6229**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕姫、音軫、愼也、姬、音基、姓也。

【姬罃】1 キアウ　戰國、魏の惠王。武侯の子。謚は惠。齊の宣王と馬陵に戰つて敗れ、太子申は捕虜となり、龐涓は殺さる。後、屢〻秦に敗れ、安邑から徙つて大梁に都し、梁の惠王と稱す。鄒衍・淳於髡・孟軻等の賢者を招聘した。在位三十六年。〔史記、四十四〕。

【姬夷】2 イキ　❶周の簡王。名は夷。春秋の中期。〔史記、四〕。❷晉昭公(**5－13898**‥136)を見よ。

【姬葦】3 ヒメアシ ヒメヨシ　よしの一種。

【姬延】4 キエン　周の赧王。顯王の孫。時に東西兩周に分れ、都を西周に徙す。秦が入寇するや、盡く三十六邑を獻じて秦に入り、周愈〻衰ふ。在位五十九年にして崩じ、崩後七年、國亡ぶ。常に東西兩周に寄住し、諸侯に逼られ、歸する所がなかつた。〔史記、四〕。

【姬瑕】5 キカ　周の昭王。謚は昭。康王の子。巡狩して漢水を濟る時、河畔の人が、いつはつて膠船を進めたので、中流に至つて船がとけ、溺れた。在位五十一年。〔史記、四〕。

【姬介】6 キカイ　周の貞王。元王の子。名は介。或は應に作る。謚は貞。在位二十八年。元王を貞王の子とするものがあり、又、貞王を定王或は貞定王と記すものもあり、孰れが是なるか詳かでない。〔史記、四〕。

【姬艾】7 ヒメヨモギ　草の名。よもぎの一種。野艾蒿。

【姬匄】8 キカツ　周の敬王。謚は敬。景王の子。猛の母弟。王の立つや、子朝の徒が復た亂をなしたので出でて狄泉に居つたが、晉の定公が之を成周に納れた。在位四十四年。〔史記、四〕。

【姬漢】9 キカン　周と漢。姬は周の姓。〔宋書、禮志三〕爰洎二姬漢一、風流尙存。〔劇談錄〕君臣和叶、四表靜謐、文物之盛、籠二冒姬漢一。〔本朝文粹、九、菅原道眞、早春內宴侍二仁壽殿一同賦三春娃無二氣力一應制〕夫早春內宴者、不ㇾ關二荊楚之歲時一、非ㇾ踵二姬漢之遊樂一。

【姬鑑】10 ヒメカガミ　❶女性の模範となるべきもの。姬鏡。❷こいはかがみの異名。❸すずさいこの異名。

【姬囏】11 キカン　周の懿王。穆王の孫。鎬から犬丘に都す。在位二十五年。〔史記、四〕。

【姬喜】12 キキ　周の烈王。威烈王の孫。安王の子。顯王の兄。名は喜。戰國の末期。烈王の二年、周の太史儋が秦の獻公に見えて、始め周は秦國と合して別れ、別れて五百載にて復た合し、合して十七歲にして霸王たる者が出るであらうといつたと傳へらる。王の元年に韓が鄭を滅し、五年（一說、其の前年）に孟子が生れ、六年に齊の威王が來朝した。〔史記、四〕。

【姬貴】13 キキ　周の景王。靈王の子。在位二十五年。北邙山に田獵し、榮錡氏に崩ず。〔史記、四〕。

【姬仇】14 キキウ　晉文公(**5－13898**‥152)を見よ。

【姬姞】15 キキツ　周の后稷の妃。〔左氏、宣、三〕石癸曰、吾聞、姬姞耦、其子孫蕃、姞、吉人也、后稷之元妃也。

【姬橘】16 ヒメタチバナ　木の名。きんかんの異名。

【姬姜】17 キキヤウ　❶大國のひめぎみ。又、宮中の婦人の稱。姬は周の姓、姜は齊の姓。共に大國であるからいふ。〔左氏、成、九〕雖ㇾ有二絲麻一、無ㇾ棄二菅蒯一、雖ㇾ有二姬姜一、無ㇾ棄二蕉萃一。〔注〕姬姜、大國之女、蕉萃、陋賤之人。〔班固、西都賦〕遊士

擬二於公侯一、列肆侈二於姬姜一。〔注〕向曰、遊士、遊人也、皆僭二於公侯車服一、肆、市也、市中婦人、服飾奢侈、過二於姬姜一。❷美女の稱。姬は黃帝の姓、姜は炎帝の姓。兩姓の後に女の美なる者が多いからいふ。〔張華、感レ婚詩〕窈窕出二閨女一、嬿婉姬與レ姜。〔任昉、王文憲集序〕室無二姬姜一、門多二長者一。〔注〕翰曰、室無二姬姜一、謂レ不二好色一也、門多二長者一、重二賢良一也、姬姜、姜女也。〔事物異名錄、形貌、人〕古今韻會毛疏、美女、謂二之姬姜一、黃帝姓姬、炎帝姓姜、其後子孫盛、其家之女、美者尤多、遂以二姬姜一爲二美稱一。

【姬鏡】18（ヒメカガミ） 淑女の模範となるべきもの。姬鑑。

【姬宮】19（ヒメミヤ） 內親王。皇女。〔源氏物語、桐壺〕后の宮のひめ宮。

【姬據】20（キキョ） 晉景公（5—13898‥117）を見よ。

【姬圉】21（キギョ） ❶戰國、魏の安釐王。昭王の子。齊・楚に攻められた時、唐雎を秦に遣はし、危急を免れるを得た。後、信陵君無忌をして、五國の兵を率ゐて秦を攻めしむ。在位三十四年。〔史記、四十四〕。❷晉懷公（5—13898‥111）を見よ。

【姬化】22（キクヮ） 周の德化。姬は周の姓。〔潘岳、西征賦〕耕讓レ畔以閑レ田、沾二姬化一而生レ棘。

【姬瓜】23（ヒメウリ） 瓜の一種。花も葉も小形で、長さ二寸程の實を結ぶ。〔雅筵醉狂集、夏〕姬瓜は人の契るをむつかしと、葉隱れけりな露の丸顏。

〖姬瓜雛〗24（ヒメウリビナ） 姬瓜に眉目鼻口を描き、竹筒などをつけて體とし、紙又は絹などの服を着せた雛人形。〔ひな人形の故實〕姬瓜雛、金鵞蛋といふ。

〖姬瓜節句〗25（ヒメウリノセック） 昔、伊勢國桑名地方で、八月朔日に行つた祭。姬瓜雛を作つて酒・赤飯等を供へる。〔ひな人形の故實〕八月一日ひめ瓜節句といふ。

【姬嵬】26（キクヮイ） 周の考王。定王の第三子。思王を弑して立ち、在位十五年にして崩ず。〔史記、四〕。

【姬光】27（キクヮウ） 晉哀侯（5—13898‥98）を見よ。

【姬歡】28（キクヮン） 晉襄公（5—13898‥127）を見よ。

【姬君】29（ヒメギミ） ❶貴人の令孃の敬稱。〔源氏物語、帚木〕わが妹のひめぎみ。❷昔、公卿の長女の敬稱。

【姬揭】30（キケイ） 周の桓公。考王の弟。河南に封ぜられ、周公の官職を續ぐ。〔史記、四〕。

【姬驕】31（キケウ） ❶周の安王。威烈王の子。王の世に田氏が齊を併合し、戰國七雄並び起る。〔史記、四〕。❷晉哀公（5—13898‥97）を見よ。

【姬擊】32（キゲキ） 戰國、魏の武侯。文侯の子。韓・趙と、晉の地を三分して其の後を滅ぼす。在位十六年。〔荀子、堯問〕・〔韓非子、內儲說上〕・〔史記、四十四〕。

【姬胡】33（キコ） 周の厲王。夷王の子。利を好み、暴虐侈傲であつたため、國が亂れ、彘に出奔したので、周召二公が政を行ふ。在位三十四年。彘に崩ず。〔史記、四〕。

【姬糊】34（ヒメノリ） 飯で製した糊。〔狂言記、姬糊〕紺屋に使ふは、賤がひめのりにてある。

【姬午】35（キゴ） ❶周の威烈王。考王の子。二十三年に晉の大夫魏斯・趙籍・韓虔に命じて諸侯と爲す。是の年、九鼎震ふ。明年崩ず。在位二十四年。〔史記、四〕。❷晉定公（5—13898‥143）を見よ。

【姬公】36（キコウ） 周公（2—3441‥181）の❶をいふ。

【姬國】37（キコク） 周の國。姬は周の姓。〔韓愈、奉三和杜相公太淸宮紀レ事陳レ誠上二李相公一十六韻詩〕耒耜興二姬國一、輴欙建二夏家一、在レ功誠可レ尙、於レ道詎爲レ華。

【姬靫】38（ヒメユギ） 檜で作り、表に錦、裏に帛をつけた靫。靫は矢を入れる器。錦靫。〔大神宮式〕姬靫二十四枚、長各二尺四寸、上廣四寸五分、矢刺口方二寸九分、以レ檜作レ之、以レ錦黏レ表、以二緋帛一著レ裏。

【姬鑿】39（キサク） 晉出公（5—13898‥129）を見よ。

【姬山】40（キザン） 淸、黃璕（12—47926‥183）の號。

【姬止】41（キシ） 晉烈公（5—13898‥162）を見よ。

【姬氏】42（キシ） 周の姓氏。〔史記、周紀〕封二棄於レ部一、號曰二后稷一、別姓姬氏。

〖姬氏國〗43（キシノクニ・キシコク） 日本の異稱。昔、中國には日本人は吳の泰伯の子孫であるといふ一說があり、泰伯は周の太王の子で姓は姬である故、日本をかう呼んだ。〔萬句合、安永五年〕姬氏國へ手を出す度に恥を搔き。

【姬矢】44（ヒメヤ） 木を割るとき、之をたすけるために割目に挾むもの。

【姬始】45（ヒメハジメ） ❶昔、正月、糅（ヒメ）を供し始めるによいといふ日。〔好色一代男、三〕曆の讀初め、姬はじめ。❷其の年の馬の乘始め。飛馬始。❸其の年の衣の縫始め。❹其の年の淫事の行ひ始め。❺新枕をかはすこと。〔戀八卦柱曆、道行乘合駒〕新枕せし姬始め。

【姬斯】46（キシ） 戰國、魏の文侯。駒の孫。史記は斯を都に作る。周の威烈王の時、諸侯となる。子夏の經藝を受け、段干木を客とす。又、樂羊に命じて中山を拔かしめ、西門豹を任じて鄴を守らしめ、善く河內を治む。在位三十八年。〔韓非子、說林上・說林下・內儲說上・外儲說左上〕・〔史記、四十四〕。

【姬嗣】47（キシ） 戰國、魏の襄王。惠王の子。諡は襄。父の惠王を追尊して王とし、張儀を相とす。屢屢秦に敗れて河西の地を與へ、又、上郡を盡く秦に與ふ。在位十六年。〔史記、四十四〕。

【姬侍】48（キジ） 妾をいふ。〔唐書、盧杞傳〕尙父郭子儀病甚、百官造レ省、不レ屛二姬侍一。〔龍川志〕王文正旦性儉約、初無二姬侍一。

【姬周】49（キシウ） ❶周をいふ。姬は其の姓。〔魏志、陳思王植傳〕姬周之樹レ國。❷晉悼公（5—13898‥141）を見よ。

【姬萩】50（ヒメハギ） 草の名。遠志科に屬し、高さ三四寸、淡紫色總狀花序をつける。遠志。

【姬日】51（キジツ） 周の時代をいふ。姬は周の姓。〔江總、陳宣帝哀策文〕詩頌二唐年一、樂舞二姬日一。

【姬昌】52（キシヤウ） 周の文王。名は昌。太王の孫。聖德あり、西伯となる。德化の及ぶところ、虞芮の爭息み、交讓の禮興り、諸侯の歸するもの四十餘國に及ぶ。〔史記、四〕。

【姬墻】53（ヒメガキ） 低いかき。女墻。〔方丈記〕あばらなるひめがきを圍ひて園とす。

【姬叔】54（キシユク） 周の思王。定王の子。諡は思。哀王を襲殺して自立したが、立つて五箇月にして少弟嵬（考王）に攻められて崩ず。〔史記、四〕。

【姬松】55（ヒメマツ） 小松をいふ。〔貫之集〕岸のひめ松。

【姬稱】56（キシヨウ） 晉武公（5—13898‥148）を見よ。

【姬誦】57（キシヨウ） 周の成王。名は誦。武王の子。管叔・蔡叔、及び紂の子武庚が亂を作すや、周公旦に命じて之を伐たしめ、武庚・管叔を誅す。制度を立て禮樂を興し、民、和睦す。在位三十七年。〔史記、四〕。

【姬人】58（キジン） 妾をいふ。〔燕丹子〕召二姬人一鼓レ琴。〔王僧孺、爲二姬人一自傷詩〕自知心裏恨、還向二影中一羞。〔王僧孺、何生姬人有レ怨詩〕逐臣與二棄妾一、零落心可レ知。

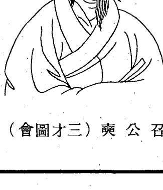
【姬仁】59（キジン） 周の元王。敬王の子。即位の三年に、越王句踐自ら霸王と稱す。時に春秋の末期で、周室次第に微弱となる。在位七年。〔史記、四〕。

【姬姓】60（キセイ） 周の姓。〔左氏、成、十六〕姬姓、日也。

【姬靜】61（キセイ） 周の宣王。厲王の子。厲王が彘に崩じたので、周・召二公が之を立てて王とす。文武成康の遺風に法り、諸侯復た周を宗とす。秦仲・尹吉甫・方叔・召虎に命じて西戎・玁狁・荊蠻・淮夷を討伐せしめ、周道を復興したので、中興の英主といはれる。在位四十六年。〔史記、四〕。

【姬釗】62（キセウ） 周の康王。成王の子。文武の業を繼ぎ海內よく治まり、刑罰を用ひざること四十餘年。唐虞の風あり。在位二十六年。〔史記、四〕。

【姬奭】63（キセキ） 周の召公。名は奭。諡は康。武王の時、北燕に封ぜられ、成王の時、三公となる。陝から以西は召公之を主り、陝から以東は周公之を主る。召公（2—3241‥19）を見よ。〔史記、四・三十四〕。



召公奭（三才圖會）

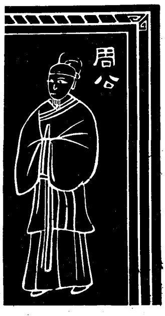
【姬妾】64（キセフ） めかけ。そばめ。姬媵。〔漢官儀〕姬妾數百。〔後漢書、仲長統傳〕盡后妃姬妾之家也。

【姬燮】65（キセフ） ❶周の夷王。穆王の曾孫。懿王の子。孝王が崩じて、諸侯之を立つ。虢公に命じて太原の戎を伐たしむ。在位十六年。〔史記、四〕。❷晉侯燮（5—13898‥123）を見よ。

【姫增】66（キソウ）戰國、魏の景愍王。安釐王の子。初、秦に人質となつたが、歸國して位に卽く。秦に二十三城を拔かる。在位十五年。〔史記、四十四〕。

【姫佗】67（キタ）周の莊王。諡は莊。桓王の子。時に周公黑肩は王を弑して王子克を立てんと欲す。辛伯が之を王に告げたので、王は周公を殺した。在位十五年。〔史記、四〕。

【姫旦】68（キタン）周公。武王の弟。名は旦。武王を輔けて紂を伐つ。魯公として曲阜に封ぜられたが就かず。武王を佐け、成王の攝政となる。武庚を誅し、管叔を殺し、蔡叔を放つて、周室の基を固くす。成王の長ずるや、政を還し、北面して臣位に就く。王は之に天子の禮樂を賜ひ、以て公の德を賞した。周公（2—3441・・181）の❶を見よ。〔史記、三十三〕。



周公（金石索）

【姫澹】69（キタン）後魏、代の人。字は世雅。晉の時、州の從事となる。後、魏に歸し、桓・穆二帝に事へて功あり、信義將軍に至る。爵は樓煩侯。六修の亂に、復た衆を挾んで晉に歸す。〔魏書、二十三〕。

【姫娘】70（キヂヤウ）妾をいふ。〔稱謂錄、妾、姫娘〕次妻・如君・細君・姨娘・姫娘・姑娘、兪正燮癸巳類稿、又載二此數稱一均未レ言三其出二於何書一、姑爲三附二錄於後一。〔新方言、釋親屬〕今人謂レ妾曰二姫娘一、音正如レ怡、世皆誤作レ姨、姨爲二妻之姉妹一、非二姫妾字一也。

【姫仲】71（キチユウ）宋、黃希旦（12—47926・・1025）の字。

【姫邀】72（キチヨク）戰國、魏の昭王。哀王の子。秦將白起の爲に、二十四萬の大軍を破られ、城大小六十一を拔かる。後、秦・趙・韓・燕と共に齊を伐つて之を濟西に破る。在位十九年。〔史記、四十四〕。

【姫椿】73（ヒメツバキ）ねずみもちの古名。

【姫定】74（キテイ）周の愼靚王。顯王の子。名は定。在位六年。其の治世は戰國の末期に當り、周室の權威全く衰へ、秦・齊に傚ひ已に魏・趙・韓・燕が相次いで王號を稱してゐたが、其の三年には宋も亦王を稱するに至つた。就中、秦は最も強盛で、惠文王は楚・韓・魏・趙・燕の五國合從軍を函谷關に大敗せしめ、張儀を用ひて合從の盟を破り、益〻列國を侵した。王の崩後、子の赧王が立つたが、遂に秦の爲に滅された。〔史記、四〕。

【姫鄭】75（キテイ）周の襄王。惠王の子。母弟の叔帶が王を伐たんとするや、鄭に奔り、氾に居たが、晉の文公が叔帶を誅して王を納れた。在位三十二年。〔史記、四〕。

【姫傳】76（キデン）清、姚鼐（3—6202・・87）の字。

【姫藤】77（ヒメフヂ）いはふぢの異名。

【姫伯】78（キハク）晉昭侯（5—13898・・137）を見よ。

【姫發】79（キハツ）周の武王。名は發。文王の子。紂を伐つて天子の位に卽く。鎬に都し、國號を周とし、建子の月を以て歲首とし、諸侯を天下に封じた。在位十九年。〔史記、四〕。

【姫班】80（キハン）❶周の匡王。頃王の子。名は班。在位六年にして崩ず。〔史記、四〕。❷東周の惠公。西周の惠公が少子班を東方の鞏に封じ、自分の號を襲がせて東周の惠公とした。〔史記、四〕。

【姫彪】81（キヒウ・キヒヨウ）晉平公（5—13898・・154）を見よ。

【姫敏】82（キビン）明、孟津の人。字は好學。官は西安知府。〔尙友錄、二〕

【姫緡】83（キビン）晉侯緡（5—13898・・122）を見よ。

【姫傅】84（キフ）つきそひの女官。おつき。〔後漢書、章德竇皇后紀〕肅宗先聞三后有二才色一、數以訊二諸姫傅一。

【姫平】85（キヘイ）晉孝侯（5—13898・・104）を見よ。

【姫扁】86（キヘン）周の顯王。威烈王の孫。秦が諸侯を周に會せしめたので、王は伯の號を秦に致し、又、文武の胙を秦の惠王に致した。在位四十八年。〔史記、四〕。

【姫猛】87（キマウ）周の悼王。景王の子。名は猛。〔史記、四〕。

【姫滿】88（キマン）周の穆王。昭王の子。五十歲にして卽位。西に巡狩して返るを忘る。諸侯みな徐に歸するや、王は恐れ、楚人をして徐を伐たしめ、呂刑を作つて四方に告げ、又、犬戎を征した。在位五十五年。〔史記、四〕。

【姫瑜】89（キユ）周の定王。襄王の曾孫。楚の莊王が陸渾の戎を伐つて雒に至るや、王は王孫滿をして之をねぎらはせた。時に、莊王が鼎の輕重を問ふや、對へて曰く、德に在つて鼎に在らず、周德衰ふといへども、天命未だ改まらず、鼎の輕重は未だ問ふべからずと。楚兵乃ち去る。在位二十一年。〔史記、四〕。

【姫媵】90（キヨウ）めかけ。姫妾（64）に同じ。〔北史、蕭譽傳〕一幸二姫媵一、病臥累レ旬。〔唐書、盧邁傳〕邁再娶無レ子、或勸レ畜二姫媵一。

【姫閬】91（キラウ）周の惠王。釐王の子。大臣の園を奪つて囿とした爲、大夫邊伯等五人が亂を作し、燕・衞の師を召して王を伐たんとしたので、王は溫に奔つた。爲に釐王の弟頽が立つて王となつたが、後、王頽が殺されるや、復た入つて王となる。在位二十五年。〔史記、四〕。

【姫柳】92（キリウ）晉幽公（5—13898・・103）を見よ。

【姫林】93（キリン）周の桓王。平王の孫。鄭を伐つて肩を射らる。在位二十三年。〔史記、四〕。

【姫伊扈】94（キイコ）周の共王。姫緊扈（97）を見よ。

【姫夷皋】95（キイカウ）晉靈公（5—13898・・161）を見よ。

【姫夷吾】96（キイゴ）晉惠公（5—13898・・114）を見よ。

【姫緊扈】97（キエイコ）周の共王。穆王の子。又、姫伊扈に作る。在位十二年。〔史記、四〕。

【姫詭諸】98（キキシヨ）晉獻公（5—13898・・119）を見よ。

【姫宜臼】99（キギキウ）周の平王。幽王の子。犬戎が幽王を殺すや、諸侯が謀つて宜臼を立つ。時に周室衰微し、齊・楚・秦・晉が漸く強大となつた。在位五十一年。〔史記、四〕。

【姫宮涅】100（キキユウデツ）周の幽王。宣王の子。褒姒を寵し、其の生んだ伯服を立てて太子宜臼を廢した。後、申侯に怒られて驪山の下に殺さる。在位十一年。其の子の平王が東遷して東周となる。〔史記、四〕。

【姫去疾】101（キキヨシツ）❶周の哀王。貞定王の長子。貞定王の後を受けて立ち、在位僅か三箇月にして弟叔（思王）の爲に襲ひ殺さる。〔史記、四〕。❷晉頃公（5—13898・・113）を見よ。

【姫御子】102（ヒメミコ）皇女。內親王。姫宮。

【姫御前】103（ヒメゴゼ）若い女の敬稱。姫君。〔丹波與作、上〕高いも低いも、姫御前は大事のもの。

【姫倶酒】104（キグシユ）晉靜公（5—13898・・135）を見よ。

【姫桔梗】105（ヒメギキヤウ）草の名。ききやう科に屬する一年生草本で、秋、碧色の花を開く。

【姫胡齊】106（キコセイ）周の釐王。莊王の子。立つて三年、齊の桓公が始めて霸となる。在位五年。一に僖王に作る。〔史記、四〕。

【姫黑臀】107（キコクテン）晉成公（5—13898・・132）を見よ。

【姫紫菀】108（ヒメシヲン）草の名。菊科に屬す。こじをん。ゑんのみね。女菀。

【姫沙參】109（ヒメシヤジン）草の名。ききやう科に屬する宿根草で、高山に自生し、夏から秋にかけて碧紫色の花を開く。

【姫壽曼】110（キジユマン）晉厲公（5—13898・・160）を見よ。

【姫汝作】111（キジヨサク）金、汝陽の人。字は欽之。正大の末、兵を避けて鄕里に歸り、衆に推されて長となり、北山招撫使を授けられ、汝州に守となる。後、同知汝州防禦使に遷り、州民を會して亂をなして害せらる。〔金史、一百二十三〕。

【姫壬臣】112（キジンシン）周の頃王。襄王の子。名は壬臣。在位六年。〔史記、四〕。

【姫小松】113（ヒメコマツ）❶姫松。小松をいふ。〔古今和歌集、墨滅〕ちはやぶる神の社の姫小松。❷五葉松の一種。葉が短くて細いもの。

【姫石南】114（ヒメシヤクナゲ）木の名。につくわうしやくなげ。しやくなげ科に屬する小灌木で、五月頃、淡紅色又は白色の花を開く。

【姫昔蓬】115（ヒメムカシヨモギ）草の名。きく科に屬する二年生草本で、原野・路傍等に自生し、夏から秋にかけて白色の花を開く。

【姫泄心】116（キセツシン）周の靈王。定王の孫。生れながらにして髭があつたといふ。在位二十七年。〔史記、四〕。

【姫刀禰】117（ヒメトネ）古、六位以上の宮女の稱。

【姫女菀】118（ヒメヂヨヲン）草の名。いぬよめな。やなぎばひめぎく。きく科に屬する二年生草本で、原野・

路傍等に自生し、夏、淡紫色の花を開く。

【姫重耳】119（キチョウジ） 晉文公（**5−13898**・・151）を見よ。

【姫芭蕉】120（ヒメバセウ） 草の名。美人蕉（**9−28435**・・156）の異名。

【姫百合】121（ヒメユリ） 百合の一種。夏の頃、六瓣の黃紅色の花を開く。紅百合。〔萬葉集、八〕夏の野の茂みに咲ける姫ゆり。

【姫弗生】122（キフツセイ） 晉穆公（**5−13898**・・155）を見よ。

【姫文允】123（キブンイン） 明、華州の人。字は士昌。謚は忠烈。天啓の擧人。官は滕縣の長官。〔明史、二百九十〕・〔萬斯同明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百七十一〕。

【姫辟方】124（キヘキハウ） 周の孝王。懿王の弟。卽位元年、申侯をして西戎を伐たしめ、十三年、非子を秦に封じて遠祖嬴氏の祀を嗣がしむ。〔史記、五〕。

【姫蘿藦】125（ヒメカガミ） 草の名。すずざいこの異名。

【姫狸藻】126（ヒメタヌキモ） 藻の名。たぬきも科に屬する食蟲植物で、淡黃色の花を開く。

【姫路革】127（ヒメヂガハ） 播摩國姫路地方から産する革。文庫などを張るに用ひる。

【姫貝細工】128（ヒメカヒザイク） 草の名。きく科に屬する外來の一年生草本で、六七月頃、淡紫色の花を開く。

【⿱劦女】6231

ケン 〔集韻〕虚欠切 豔

みめよいさま。〔集韻〕⿱劦女、好皃。

【姮】6232

コウ ゴウ 〔集韻〕胡登切 蒸

❶**女のあざな**。〔集韻〕姮、女字。❷**姓**。〔潛夫論、志氏姓〕姮姓白狄。❸俗に嫦（**3−6663**）に作る。〔正字通〕嫦、俗姮字。

【姮娥】1（コウガ） 月の異名。又、月世界に居る美人の名。もと羿の妻の名。羿が西王母に請うて得た不死の藥を盜んで飲み、仙人となつて月中に奔り、月の精となつたといふ。漢の文帝の名が恆であるにより、漢人は姮を改めて嫦とす。嫦娥。蟾蜍。〔淮南子、覽冥訓〕羿請二不死之藥於西王母一、姮娥竊以奔二月宮一。〔注〕姮娥、羿妻、羿請二不死之藥於西王母一、未レ及レ服レ之、姮娥盜食レ之、得レ仙、奔二入月中一、爲二月精一也。〔後漢書、天文志上、注〕羿請二無死之藥於西王母一、姮娥竊レ之以奔レ月、云云、姮娥遂託二身于月一、是爲二蟾蠩一。〔張衡、靈憲〕羿請二不死之藥於西王母一、姮娥竊レ之以奔レ月、將レ往、枚二筮之於有黃一、有黃占レ之曰、吉、翩翩歸妹、獨將二西行一、逢二天晦芒一、毋レ驚毋レ恐、後且二大昌一、姮娥遂託二身於月一、是爲二蟾蠩一。〔郭璞、遊仙詩〕姮娥揚二妙音一、洪厓頷二其頤一。〔白居易、鄰女詩〕白日姮娥旱地蓮。

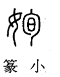
【姮宮】2（コウキュウ） 月の異名。又、月の世界にあるといふ宮殿の名。姮娥の住む月宮殿。廣寒府。姮娥を見よ。

【姚】6233

クヮウ 〔集韻〕姑黃切 陽

❶**女のあざな**。〔集韻〕姚、女字。❷**みめよい**。あでやか。うるはしい。〔正字通〕姚、女色妍麗。

【姰】6234


小篆

㊀キン 〔集韻〕規倫切 眞
㊁シュン ジュン 〔集韻〕松倫切 眞
㊂ケン 〔集韻〕熒絹切 霰

㊀**かなふ**。あふ。〔說文〕姰、均適也、男女併也、从レ女旬聲、讀若レ旬。㊁㊂**くるふ**。〔廣雅、釋詁四〕姰、狂也。

【姱】6235

㊀クヮ ケ 〔集韻〕枯瓜切 麻 ㄎㄨㄚ k'ua¹
㊁コ ゴ 〔集韻〕後五切 麌
㊂ク 〔集韻〕匈于切 虞

㊀❶**おごるさま**。〔集韻〕姱、奢皃。❷**みめよい。うつくしい**。〔集韻〕姱、一曰、好也。〔楚辭、離騷〕苟余情其信姱以練要兮。〔補注〕信姱、言二實好一也。〔楚辭、九歌、禮魂〕姱女倡兮容與。〔注〕姱、好貌。〔潘岳、射雉賦〕參二雄豔之姱姿一。〔注〕爰曰、姱、好也。❸**大きい**。〔張衡、思玄賦〕既姱麗而鮮レ雙兮。〔注〕衡曰、姱、大也。㊁❶**みめよい。うつくしい**。〔楚辭、九歌、東君〕思二靈保兮賢姱一。〔注〕姱、好貌。❷**氣だてがわるい**。婡姱。〔集韻〕姱、性不二端良一、謂二之婡姱一。❸嫮（**3−6680**）に通ず。〔謝惠連、雪賦〕玉顏掩レ嫮。〔注〕善曰、嫮、與レ姱同。㊂或は夸（**3−5854**）に作る。❶**みめよい**。〔集韻〕姱、美皃、或省。❷**おごる**。〔集韻〕夸、奢也、或从レ女。

【姱嬉】1（クヮキ） おごり樂しむ。〔韓愈、唐故河東節度觀察使滎陽鄭公神道碑〕削二四鄰之交賄一、省二姱嬉之大燕一。

【姱嫮】2（クヮコ） 美しい。美麗。嫮姱。〔陳造、出レ郭詩〕其餘紅白爭二姱嫮一。

【姱姿】3（クヮシ） 美しい容貌。美貌。姱容。〔潘岳、射雉賦〕厲二耿介之專心一兮、參二雄豔之姱姿一。〔注〕爰曰、姱、好也。

【姱辭】4（クヮジ） 美しい文章。美辭。〔柳宗元、弔二屈原一文〕耀二姱辭之曭朗一兮、世果以レ是之爲レ狂。〔注〕姱、音誇、好也、又、奢貌。

【姱節】5（クヮセツ） うるはしい節操。美行。〔楚辭、離騷〕紛獨有二此姱節一。〔注〕有二此姱異之節一、不レ與二衆同一、而見レ憎二惡於世一也。

【姱名】6（クヮメイ） 美しい名。よい評判。美名。〔洪咨夔、賦〕患二姱名之不一レ立、而不レ患二併日之食一レ粥。

【姱容】7（クヮヨウ） 美しいすがた。夸容。姱姿。〔楚辭、招魂〕姱容脩態、絙二洞房一些。〔注〕姱、好貌。

【姱麗】8（クヮレイ） 美しい。又、大きく美しい。〔張衡、思玄賦〕既姱麗而鮮レ雙兮。〔注〕衡曰、姱、大。〔江淹、悼二室人一詩〕神女色姱麗、乃出二巫山湄一。

【姲】6236

アン エン 〔集韻〕於諫切 諫

女のあざな。〔集韻〕姲、女字。

【姳】6237

メイ ミャウ 〔集韻〕母迥切 迥

みめよい。〔集韻〕姳、好也。

【⿰女色】6238

ケツ

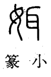
⿱⿸厂既女（**3−6727**）に同じ。〔字彙〕⿰女色、同レ⿱⿸厂既女。

【⿱列女】6239

レツ レチ 〔集韻〕力櫱切 屑

うつくしい。〔集韻〕⿱列女、美也。

【⿰女耳】6240


小篆

ジ ニ 〔集韻〕仍吏切 寘

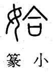
女のあざな。〔說文〕⿰女耳、女字也、从レ女耳聲。

【姵】6241

㊀ハイ バイ 〔集韻〕蒲蓋切 泰
㊁ハイ バイ 〔集韻〕蒲昧切 隊

㊀㊁**女の名**。〔集韻〕姵、女名。

【姶】6242


小篆

㊀アフ オフ 〔集韻〕遏合切 合
㊁アフ オフ 〔集韻〕乙洽切 洽

㊀❶**女のあざな**。〔說文〕姶、女字也、从レ女合聲、春秋傳曰、嬖人婤姶。〔段注〕昭公七年左氏傳曰、衞襄公夫人

姜氏、無レ子、嬖人婤姶生二孟縶一。㊁**みめよいさま。**〔廣韻〕姶、美好皃。㊂**しづか。**〔說文〕姶、一曰、無レ聲。㊃古は姫(3－6312)に作る。〔集韻〕姶、古从レ邑。㊄**姓。**〔通志、氏族略序〕於レ文女生爲レ姓、故姓之字多從レ女、如二姫・姜・嬴・姒・嫣・姞・妘・婤・姶・姃・嫪之類一、是也。🈔**女の身だしなみ。**〔集韻〕姶、女巧。

【姶罪】1 アヒノ　姓氏。〔姓林全書〕。

【姶良】2 アヒラ　㊀大隅國の郡名。㊁姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【姷】6243　イウ ウ　〔集韻〕尤救切　宥

小篆

或體

たぐふ。ならぶ。相したしむ。或は侑(1－594)に作る。〔說文〕姷、耦也、从レ女有聲、讀若レ祐、侑、姷或从レ人。〔段注〕今通二用此體一。〔說文、姷耦也、王注〕耦、非二妃耦之意一、蓋鄭君所レ云相人耦也、相人耦者、親昵之意。

【⿰女刑】6244　ケイ ギヤウ　〔集韻〕乎經切　青

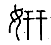
みめよい。女のすらりとしたさま。娙(3－6305)に同じ。〔集韻〕娙、好也、或从レ刑。〔字彙〕⿰女刑、女長貌。

【⿱业女】6245　サイ　妻(3－6140)の古字。〔集韻〕妻、古作レ⿱业女。

【⿰女朵】6246　🈩ゼン ネン　〔字彙〕而豔切　豔
🈔ゼン ネン　〔集韻〕而琰切　琰

🈩**はは。**〔字彙〕⿰女朵、淮南呼レ母曰レ⿰女朵。🈔媣(3－6528)に同じ。〔集韻〕⿰女朵、說文、諟也、一曰、媞也、或省。

【妍】6247　ゲン　〔集韻〕倪堅切　先　ㄧㄢˊ yen²　慣ケン



小篆

㊀**みめよい。**〔方言、一〕娥・嬿、好也、自レ關而西、秦晉之故都、曰レ妍。㊁**うつくしい。**きよく美しい。〔廣韻〕妍、淨也、美也、好也。〔江淹、雜體、張廷尉綽雜述詩〕浪迹無二妍蚩一。〔注〕善曰、妍蚩、猶二美惡一也。〔陸機、文賦序〕妍蚩好惡、可二得而言一。〔注〕善曰、妍蚩、亦好惡也。㊂**なれる。**閑習。習熟。〔釋名、釋姿容〕妍、妍也、研二精於事宜一、則無二蚩繆一也。㊃**さかしい。**たくみ。〔說文〕妍、技也、云云、从レ女幵聲、一曰、慧也。〔段注〕技者、巧也、釋名曰、妍、研也、研二精於事宜一、則無二蚩繆一也。〔說文通訓定聲〕妍、慧巧之意。㊄**事に精通しない。**〔說文〕妍、一曰、不三省二錄事一也。〔段注〕省錄、謂二檢點收錄一也、云云、此正謂二其不レ曉レ事也。㊅**やすらか。**閒(11－41248)に通ず。〔說文〕妍、一曰、安也。〔說文通訓定聲〕妍、段借爲レ閒。㊆**つよい。**かたい。訮(10－35463)に通ず。〔說文〕妍、一曰、難レ侵也、讀若レ研。〔說文通訓定聲〕妍、段借爲レ訮。㊇俗に妍(3－6075)に作る。〔正字通〕妍、同レ妍、俗省。

【妍影】1 ケンエイ　美しい映像。〔顏氏家訓、名實〕今不レ脩レ身、而求二令名於世一者、猶三貌甚惡、而責二妍影於鏡一也。

【妍艷】2 ケンエン　なまめいてうるはしい。〔楊巨源、胡姬詞〕妍艷照二江頭一、春風好客留。

【妍歌】3 ケンカ　美しい歌。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕妍歌妙舞之容、銜組樹羽之器。

【妍雅】4 ケンガ　美しくて俗氣がない。〔埤雅、釋木、梧〕今人以二其皮青一號曰二青桐一、華淨妍雅、極爲レ可レ愛、故多近二齋閣一種レ之。

【妍骸】5 ケンガイ　美しい身體。〔陸機、挽歌詩〕豐肌饗二螻蟻一、妍骸永夷泯。〔注〕向曰、豐肌・妍骸、平生之美好也。

【妍好】6 ケンカウ　㊀顏かたちが美しい。みめよい。娟好。〔李白、去婦詞〕物情惡二衰賤一、新寵方妍好。㊁景色が美しい。〔太平廣記〕湖州名郡、風物妍好。

【妍華】7 ケンクワ　美しく花やかなこと。見ごと。〔劉廷芝、江南曲〕自惜妍華三五歲、已歎關山千萬重。〔崔氏、靧面辭〕取二白雪一取二紅花一、與レ兒洗面作二妍華一。

【妍蚩】8 ケンシ　美醜。蚩はみにくい。妍媸。妍醜。〔抱朴子、崇教〕品藻妓妾之妍蚩。〔陸機、文賦序〕妍蚩好惡、可二得而言一。〔注〕良曰、妍、美、蚩、惡也。〔江淹、雜體、張廷尉綽雜述詩〕浪迹無二妍蚩一。〔劉峻、辨命論〕天命有二至極一、而謬生二妍蚩一。〔張蘊古、大寶箴〕物之鑒者、妍蚩自生。〔白居易、策林、三十三革二吏部之弊一〕妍蚩者、不レ能レ欺二於藻鏡一。

【妍媸】9 ケンシ　妍蚩に同じ。美醜。〔世說新語、巧藝〕四體妍媸、本無レ關二於妙處一、傳神寫照、正在二阿堵中一。〔抱朴子、文行〕屬辭比義之妍媸。

【妍醜】10 ケンシウ　美しいことと醜いこと。美醜。妍蚩。〔韓愈、寄二崔二十六立之一詩〕草木明二覆載一、妍醜齊二榮萎一。〔周曇、毛延壽詩〕能知三貨賄移二妍醜一、豈獨丹青畫二美人一。〔蘇軾、論二茶墨一〕奇茶妙墨皆香、是其德同也、皆堅、是其操同也、譬如三賢人君子妍醜黔晳之不レ同、其德操韞藏、實無二以異一。

【妍倡】11 ケンシヤウ　美しいやくしや。花形役者。〔曹植、娛嬪賦〕辨二中廚之豐膳一、作二齊鄭之妍倡一。

【妍唱】12 ケンシヤウ　美を慕つて唱和をなすこと。〔謝惠連、雪賦〕鄒陽聞レ之、懣然心服、有レ懷二妍唱一、敬接二末曲一。〔注〕銑曰、鄒陽聞二其辭一、悶然心服レ之、思二其妍美一以爲二唱和一。

【妍粧】13 ケンシヤウ　美しいよそほひ。華粧。〔鮑照、代北風涼行〕北風涼雨雪雱、京洛女兒多二妍粧一。

【妍詳】14 ケンシヤウ　美しくよい。〔曹植、靜思賦〕性通暢以聰惠、行孊密而妍詳。

【妍狀】15 ケンジヤウ　美しいすがた。妍容。又、すがたを美しくととのへる。〔後漢書、郭皇后紀〕及レ至下移二意愛一析中嬿私上、雖二惠心妍狀一、愈獻レ醜焉。

【妍笑】16 ケンセウ　美しいわらひ。又、あでやかに笑ふ。〔千字文〕工顰妍笑。

【妍迹】17 ケンセキ　美しい足あと。〔陸機、日出東南隅行〕丹脣含二九秋一、妍迹陵二七盤一。〔注〕銑曰、妍、美。

【妍捷】18 ケンセフ　きれいで早い。手際が善くてわざが速い。〔唐書、裴行儉傳〕不レ擇二筆墨一而妍捷者、余與二虞世南一耳。

【妍蒨】19 ケンセン　美しくあざやかなさま。〔何景明、織女賦序〕予嘗觀二謝朓王勃七夕賦一、皆組辭繪句、務極二妍蒨一、於二比風之義一、或缺也。

【妍煖】20 ケンダン　春日の暖く、景物の美しいこと。妍暖。〔黃庭堅、詩〕莫レ聽遊人待二妍煖一、十分傾レ酒對二春寒一。

【妍暖】20′ ケンダン　妍煖に同じ。〔韓愈、遊二青龍寺一贈二崔大補闕一詩〕須レ知節候卽風寒、幸及二亭午一猶妍暖。〔蘇軾、次二韻曹子方龍山眞覺院瑞香花一詩〕置レ酒要二妍暖一、養レ花須二晏陰一。

【妍談】21 ケンダン　美しい話。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、阮瑀詩〕妍談卽愉レ心、哀弄信睦レ耳。〔注〕翰曰、妍、美。

【妍芳】22 ケンパウ　美しくてにほひがよい。〔李綱、迷樓賦〕桃李妍芳、耀二新粧一也。

【妍皮】23 ケンピ　美しいかは。立派な風采の喩。妍皮不レ裹二癡骨一を見よ。

【妍皮不レ裹二癡骨一】24 ケンピハチコツヲツツマズ　美しい皮は愚かな骨をつつまない。美しい風采の人は立派な才能を有つて居る喩。妍は美、癡はおろか。〔晉書、慕容超載記〕超自以、諸父在レ東、恐爲二姚氏所レ錄、乃陽狂行乞、秦人賤レ之、惟姚紹見而異焉、勸レ興拘以二爵位一、召見與語、超深自晦匿、興大鄙レ之、謂レ紹曰、諺云、妍皮不レ裹二癡骨一、妄語耳、由レ是得二去來無レ禁。

【姸飛】25（ケンピ） 美しくとぶ。〔劉義慶、山雞賦〕臨㆓緑湍㆒而映㆑藻、傍㆓青崖㆒而姸飛。

【姸美】26 yen^2 mei^3 美麗。

【姸媚】27（ケンビ） 美しく愛らしい。〔列仙傳〕春景姸媚、花卉爛漫。〔謝靈運、江妃賦〕盡㆓古來之姸媚㆒。

【姸靡】28（ケンビ） 極めてうつくしいこと。靡は美。〔南史、王筠傳〕筠又能用㆓強韻㆒、每㆓公宴㆒並作㆑辭、必姸靡。

【姸變】29（ケンペン） 美しく變化あること。〔顏延之、赭白馬賦〕姸變之態既畢、淩遽之氣方屬。

【姸步】30（ケンポ） 美人のあゆみ。〔南齊書、樂志〕後無階步歌辭、姸步恂恂、雅曲芬馨。

【姸妙】31（ケンメウ） 美しくたへなること。〔世說新語、輕詆、注〕時有㆓姸妙㆒、皆加㆓誚責㆒。〔齊竟陵王子良、答㆓王僧虔㆒書〕子邑之紙、姸妙輝光、仲將之墨、一點如㆑漆。

【姸冶】32（ケンヤ） 美しくなまめかしい。〔沈炯、八音詩〕土地多㆓姸冶㆒、鄉里足㆓塵囂㆒。

【姸容】33（ケンヨウ） 美しいすがた。姸狀。〔鮑照、歲暮悲詩〕天寒多㆓顏苦㆒、姸容逐㆓丹壑㆒。

【姸麗】34（ケンレイ） 美しくてつややかなこと。〔洛陽花木記〕未㆑能㆔盡觀㆓其繁盛姸麗㆒。

【爭㆑姸】35（ケンヲアラソフ） 美をきそふ。〔韓愈、送㆔李愿歸㆓盤谷㆒序〕妬㆑寵而負恃、爭㆑姸而取㆑憐。〔蘇軾、涵虛亭詩〕水軒花榭兩爭㆑姸、秋月春風各自偏。

【鬭㆑姸】36（ケンヲタタカハス） 美をあらそふ。爭㆑姸。〔蘇軾、夜直㆓玉堂㆒攜㆓李之儀端叔詩百餘首㆒讀至㆓夜半㆒書㆓其後㆒詩〕愁侵㆓硯滴㆒初含㆑凍、喜入㆓燈花㆒欲㆑鬭㆑姸。

【姸姿豔質】37（ケンシエンシツ） 美しい姿とあでやかな肉體。〔白居易、李夫人〕姸姿豔質化爲㆑土。

【姹】6248

［一］タ 〔篇海〕丑亞切 ［禡］ ㄔㄚˋ ch'a^4

［二］タ テ 〔集韻〕丑下切 ［馬］

［三］ト ツ 〔辭海〕篤誤切 ［遇］

［一］ほこる。咤（2－3533）・詫（10－35431）に通ず。〔讀書通〕咤・詫、通作㆑姹。〔史記、韓長孺傳〕欲㆔以姹㆓鄙縣㆒。〔注〕集解曰、姹、誇也。［二］［三］❶をとめ。奼（3－6051）に同じ。❷美しい女。〔集韻〕奼、說文、少女也、或作㆑姹。〔正韻〕姹、美女也。

【姹女】1（タヂヨ） ❶をとめ。少女。又、美女。〔後漢書、五行志一〕河閒姹女工數錢。〔張九齡、人日剪㆑綵詩〕姹女矜㆓容色㆒、爲㆑花不㆑讓㆑春。❷水銀をいふ。道家の語。〔正韻〕河上姹女、水銀也。〔本草、水銀〕釋名、汞・澒・靈液・姹女。〔參同契、姹女黃芽〕河上姹女、靈而最神、得㆑火則飛、不㆑見㆓埃塵㆒。〔注〕河上姹女者、眞汞也、見㆑火則飛騰。〔抱朴子、黃白〕河上姹女、非㆓婦人㆒也。

【姹紫嫣紅】2（タシエンコウ） 紫紅の美しい花。轉じて、なまめかしくうるはしいこと。嬌豔。〔牡丹亭傳奇〕原來是姹紫嫣紅開徧、似㆓這般㆒都付㆓與斷井頹垣㆒。

【姺】6249

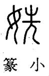
［一］シン 〔集韻〕疏臻切 ［眞］

［二］セイ サイ 〔集韻〕小禮切 ［薺］

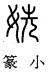
［三］ソン 〔集韻〕鎖本切 ［阮］

［四］セン 〔集韻〕蘇典切 ［銑］ ㄒㄧㄢˇ hsien^3

［五］セン 〔集韻〕蕭前切 ［先］



小篆（說文）



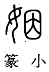
小篆（段注本）

［一］［二］［三］❶殷代の諸侯の姓。又、國名。〔說文〕姺、殷諸侯、爲㆑亂、疑姓也、从㆑女先聲、春秋傳曰、商有㆓姺邳㆒。〔段注〕嫌㆓姺是國名㆒、故曰㆑疑、疑、不定之詞也、姺从㆑女、蓋以㆑姓爲㆓國名㆒。〔左氏、昭、元〕王伯之令也、猶不㆑可㆑壹㆓於是㆒乎、虞有㆓三苗㆒、夏有㆓觀扈㆒、商有㆓姺邳㆒、周有㆓徐奄㆒。❷莘（9－31056）・⿱新女（3－6781）・侁（1－575）に通ず。〔說文通訓定聲〕姺、孟子、伊尹耕㆓于有莘之野㆒、字作㆑莘、古今人表作㆑⿱新女、呂覽作㆑侁。［四］❶國名。［一］の❶に同じ。❷或は郑（11－39375）に作る。〔集韻〕姺、或从㆑邑。［五］行くさま。又、衣のひるがへるさま。姍（3－6169）に同じ。〔集韻〕姍、姍姍、行皃、一曰、便姍、衣婆娑皃、或作㆑姺。

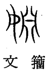
【姺邳】1（センピ） 姺と邳。共に殷代の諸侯の姓。又、その國。〔左氏、昭、元〕商有㆓姺邳㆒。〔注〕二國、商諸侯也、邳、今下邳縣也。

【姻】6250

イン 〔集韻〕伊眞切 ［眞］ ㄧㄣ yin^1



小篆



籀文

❶とつぎさき。壻の家。〔說文〕姻、壻家也、女之所㆑因、故曰㆑姻、从㆓女因㆒、因亦聲。❷壻の父。〔爾雅、釋親〕壻之父爲㆑姻。❸みうち。妻方、又は壻方の緣者。轉じて、遠い親戚。〔爾雅、釋親〕父之父母、壻之父母、相謂爲㆓婚姻㆒。〔左氏、隱、元〕外姻至。〔注〕姻、猶㆑親也。〔左氏、襄、二十三〕公有㆓姻喪㆒。〔疏〕姻、是外親之總名。❹えんぐみ。嫁娶。〔廣韻〕姻、婚姻、白虎通曰、婦人因㆑人而成、故曰㆑姻也。〔儀禮、士昏禮記〕某以得㆑爲㆓外昏姻㆒。〔注〕女氏稱㆑昏、壻氏稱㆑姻。〔禮、經解〕昏姻之禮。〔注〕昏姻、謂㆓嫁取㆒也、壻曰㆑昏、妻曰㆑姻。〔禮、昏義、疏〕壻曰㆑婚、妻曰㆑姻、壻以㆓昏時㆒來、女因㆑之而去。❺ゆかり。ちなみ。〔蘇軾、雨和㆓孫志擧㆒詩〕醉眠中山酒、結㆑夢南柯姻。❻外親に親しむ。〔周禮、地官、大司徒〕孝友睦婣任恤、〔注〕婣親㆓於外親㆒。❼籀文は婣（3－6429）・⿰囟生（7－21682）に作る。〔說文〕姻、婣、籀文、姻从㆑𣶒。〔集韻〕姻、籀作㆑⿰囟生。❽因（3－4693）に通ず。〔詩、小雅、我行其野〕不㆑惟㆓舊姻㆒。〔白虎通、嫁娶〕不㆑惟㆓舊因㆒。

［解字］ 會意形聲。本義は壻の家、女の因るべき所の意。故に女と因とを合す。因はまた聲。

【姻亞】1（インア） 姻は壻の父、亞はあひむこ。姻婭。轉じて、身うち、緣者。〔詩、小雅、節南山〕瑣瑣姻亞、則無㆓膴仕㆒。〔集傳〕壻之父曰㆑姻、兩壻相謂曰㆑亞。〔左氏、昭、二十五〕爲㆓父子兄弟姑姊甥舅昏媾姻亞㆒、以象㆓天明㆒。〔注〕壻父曰㆑姻、兩壻相謂曰㆑亞。

【姻婭】2（インア） 姻亞に同じ。〔孔叢子、獨治〕啓㆓於姻婭㆒。〔庾亮、讓㆓中書令㆒表〕姻婭之嫌。〔韓愈、爲㆑人求㆑薦書〕某在㆓公之宇下㆒非㆓一日㆒、而又辱居㆓姻婭之後㆒。

【姻懿】3（インイ） 姻戚。〔李蘩、李泌傳〕德宗意不㆑解云、卿以爲㆓寧王姻懿㆒。

【姻緣】4（インネン） 夫婦の緣。姻緣簿を見よ。

【姻緣簿】5 yin^1 yüan^2 pu^4 夫婦の姻緣を書きこんだ帳簿。冥府に在るといふ。〔桃花扇、入道〕那知道姻緣簿、久已勾銷。

【姻緣有分】6 yin^1 yüan^2 yu^3 fen^4 夫婦の緣には分際がある。身分相應であるべきこと。

【姻緣湊巧】7 yin^1 yüan^2 tsou^4 ch'iao^3 よいあんばいにめぐり合ふ。〔桃花扇、逃難〕姻緣湊巧、亦未㆑可㆑知。

【姻緣棒打不散】8 yin^1 yüan^2 pang^4 ta^3 pu^2 san^4 夫婦の姻緣は定つてゐるもので、棒で打つても切れるものでない。切つても切れない中。

【姻翁】9 yin^1 wêng^1 配偶者の父。しうと。

【姻家】10（インカ） 婚姻又は緣組の關係から成立つた閒柄の家。みより。えんじや。姻族。姻戚。姻類。〔後漢書、蔡邕傳〕上書云、與㆑陟姻家、豈敢申㆓助私黨㆒。〔宋史、王曾傳〕太后左右姻家、稍通㆓請謁㆒、曾多㆑所㆓裁抑㆒。

【姻嫁】11（インカ） 婚姻する。又、婚姻。〔後漢書、郎顗傳〕簡㆓出宮女㆒、恣㆓其姻嫁㆒。

【姻舊】12（インキウ） 親戚故舊。姻故。〔北史、郎基傳〕初除㆓鄭州長史㆒、帶㆓潁川郡守㆒、西界與㆑周接㆑境、

因二侯景背叛、東西分隔一、士人仍緣二姻舊一、私相交易。

【姻兄】13（インケイ） 姻戚で、自分と同列に在る者の中、自分より年長の男子をいふ。〔劉詵、飲二平谷李氏一詩〕尙餘八十病姻兄、羅差饌客空罍甁。

【姻兄弟】14（インケイテイ） 婚姻によつて生ずる關係で、妻家から夫家の近親を指していふ。後世は遠い親類を指していふ。〔爾雅、釋親〕壻之黨、爲二姻兄弟一。

【姻結】15（インケツ） 婚姻關係。〔沈約、奏二彈王源一文〕源頻叨二諸府戎禁一、預二班通徹一、而託二姻結一、唯利是求。

【姻故】16（インコ） 親戚と故舊。親故。姻舊。〔唐書、李絳傳〕崔祐甫爲二宰相一、不二半歲一、除二吏八百人一、德宗曰、多二公姻故一、何耶、祐甫曰、所レ問、當與レ不レ當耳、非二臣親舊一、孰知二其才一、其不レ知者、安敢與レ官、時以爲二名言一。

【姻媾】17（インコウ） ❶親類同志で結婚する。重婚。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕亦猶姻媾之義、恩情已深。〔注〕善曰、爾雅曰、壻之父曰レ姻、婦之父曰レ婚、毛詩箋曰、重婚曰レ媾、吳志曰、策幷二江東一、曹公力未レ能レ逞、且欲レ撫レ之、乃以二弟女一配二策小弟匡一、又爲二子彰一取二賁女一、皆禮、辟二策弟權翊一、又命二楊州刺史嚴象一、擧二茂才一。❷結婚する。〔江淹、雜體、盧郎中感交詩〕姻媾久不レ虛、契闊豈但一。〔注〕向曰、姻媾、謂三諶妹嫁二琨弟一、違異之情、中間尙淺也。❸親戚。〔呂覽、必己〕輿隸姻媾小童。〔南史、王峻傳〕不下籍二殿下姻媾一爲中門戶上耳。

【姻喪】18（インサウ） 母方の親族の喪。外戚の喪。〔左氏、昭、九〕王有二姻喪一。〔注〕外親之喪。

【姻私】19（インシ） 親戚の緣を結んで私利をはかる。〔後漢書、羊陟傳〕時太尉張顥・司徒樊陵・大鴻臚郭防・太僕曹陵・大司農馮方、竝與二宦豎一相姻私、公行二貨賂一。

【姻臣】20（インシン） 君主の外戚をいふ。〔稱謂錄、外戚、姻臣〕書敍指南、沈賢國戚曰二姻臣一。

【姻親】21（インシン） 婚姻關係で成立した親類。親族。〔左氏、襄、二十五〕棄二我姻親一。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕姻親坐離、厚援生レ隙。

【姻戚】22（インセキ） 婚姻によつて出來た親族。姻家。姻懿。姻族。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕宗門廣大、姻戚不レ少。〔晉書、外戚、褚裒傳〕裒以下中書銓二管詔命一、不上宜下以二姻戚一居上之、固讓。〔隋書、列女、鄭善果母傳〕閨內外姻戚、有二吉凶事一、但厚加二贈遺一。

【姻妾】23（インセフ） 親戚の下婢。〔左氏、哀、十五〕孔氏之老欒寧問レ之、稱二姻妾一以告。〔注〕自稱二昏姻家妾一。

【姻族】24（インゾク） 婚姻又は緣組の關係から成立つた閒柄の一族。みうち。親戚。姻家。姻屬。〔後漢書、張晧傳〕姻族滿レ朝。〔魏志、崔琰傳〕雖二姻族一、猶多輕レ之。〔劉禹錫、謝二裴相公一啓〕姻族相賀、壺觴盈レ門。

【姻屬】25（インゾク） 姻家。姻族に同じ。〔後漢書、竇武傳〕收二捕宗親賓客姻屬一、悉誅レ之。

【姻黨】26（インタウ） 姻戚なかま。〔晉書、庾亮傳〕西京七族、東京六姓、皆非二姻黨一。

【姻昵】27（インヂツ） 婚姻のちかづき。〔庾亮、讓二中書令一表〕今之盡敗、更由二姻昵一。

【姻丈】28（インヂヤウ） 姻戚の主人に對する尊稱。〔剪燈餘話、兩川都轄院志〕姻丈謝レ世以來、服已闋矣。

【姻通】29（インツウ） 婚姻して親戚となる。〔南史、戴顒傳〕長史張邵與レ顒姻通、迎來止二黃鵠山一。

【姻弟】30（インテイ） 姻戚の自分と同列に在る者の中で、自分より年少な男子。

【姻姪】31（インテツ） 姻伯・姻叔に對する自稱。

【姻伯】32（インパク） 父の姻兄。又、兄弟の岳父及び姊妹の翁舅等、姻戚中の父列に在る人々をいふ。

【姻母】33（インボ） 兄弟の妻の母、姊妹の夫の母、姻戚の伯母、遠緣の親戚の母、先輩の母をいふ。

【姻末】34（インマツ） 親戚の尊長者に對する謙稱。〔朱存理、鐵網珊瑚〕貞溪諸名勝詞翰、皆元時筆札、其紙尾署名、有下云二東郭姻末錢抱素稽首拜呈一者上。

【姻類】35（インルイ） 姻家に同じ。〔魏書、畢衆敬傳〕篤二於姻類一、深有二國士之風一。

【姻聯】36（インレン） 姻戚關係。又、その者。〔唐書、柳澤傳〕中宗時、長寧宜城安定諸公主及后女弟、及姻聯數十族。

【⿰因攵】6251

イン

姻（3―6250）に同じ。〔字彙補〕⿰因攵、卽姻字。〔秦詛楚文〕絆目啟⿰因攵。

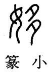
【⿰女缶】6252

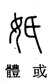
㊀フウ フ 〔集韻〕俯九切 有
㊁ハイ 〔集韻〕鋪來切 灰
㊂ハウ ヘウ 〔集韻〕班交切 肴

㊀みめよい。美しい。妚（3―6092）に同じ。〔集韻〕妚、好皃、或作レ⿰女缶。㊁㊂みめよい。〔集韻〕⿰女缶、好色。

【姼】6253

㊀シ 〔集韻〕敞尒切 紙
㊁シ 〔集韻〕侈支切 支
㊂タ 〔集韻〕典可切 哿
㊃テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊
㊄キ ギ 〔集韻〕巨綺切 紙


小篆

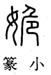

或體

㊀❶たをやめ。或は⿰女氏（3―6093）に作る。〔說文〕姼、美女也、从レ女多聲、⿰女氏、姼或从レ氏。❷かろがろしい。姑姼。〔集韻〕姼、一曰、姑姼、輕薄。❸妻の母の稱。〔集韻〕姼、一曰、南楚謂二妻母一曰レ姼。㊁美しいさま。姑姼。〔集韻〕姼、姑姼、美皃。㊂妻の父母の稱。〔廣雅、釋親〕妻之父、謂二之父姼一、妻之母、謂二之母姼一。㊃❶みめよい。うつくしい。〔漢書、敍傳下〕姼姼公主、廼女二烏孫一。〔注〕師古曰、姼姼、好貌。❷安らか。又、みめよい。媞（3―6522）に同じ。〔集韻〕媞、媞媞、安也、一曰、美好、或作レ姼。㊄婦人の身のまはりの小品。妓（3―6083）に同じ。〔集韻〕妓、說文、婦人小物也、或从レ多。

【姼姼】1（シシ テイテイ） 美しいさま。又、愛らしいさま。〔漢書、敍傳下〕姼姼公主、廼女二烏孫一。〔注〕孟康曰、姼、音題、姼姼、愓愓、愛也、師古曰、此說非也、姼、音上支反、姼姼、好貌、魏詩、葛屨之篇曰、好人提提、音義同耳。

【姽】6254

㊀キ 〔集韻〕古委切 紙 ㄍㄨㄟˇ kuei³
㊁ギ 〔集韻〕五委切 紙
㊂グワ ゲ 〔集韻〕吾瓜切 麻


小篆

㊀しとやかにすすむさま。〔說文〕姽、閒體、行姽姽也、从レ女危聲。㊁よい。美しい。〔集韻〕姽、博雅、好也。㊂❶はしため。〔集韻〕姽、婢也。❷よわよわしいさま。〔集韻〕姽、一曰、身弱皃。

【姽嫿】1（キクワク） たをやか。雅びやか。しとやか。〔宋玉、神女賦〕既姽二嫿於幽靜一兮、又婆二娑乎人閒一。〔注〕善曰、說文曰、姽、靖好貌、廣雅曰、嫿、好也、良曰、姽、閑、嫿、靜也、言レ習二閑靜於幽隱之處一。

【姾】6255

セン 〔集韻〕逡緣切 先

女のあざな。〔集韻〕姾、女字。

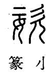
【⿰女巟】6256

㊀バウ マウ 〔集韻〕謨郎切 陽
㊁クワウ 〔集韻〕呼光切 陽

㊀㊁女のあざな。〔集韻〕⿰女巟、女字。

【姿】6257

㊀シ 〔集韻〕津私切 支 ㄗ tzŭ¹
㊁シ 〔集韻〕資四切 寘


小篆

㊀❶すがた。㋑なり。かたち。〔說文〕姿、態也、从レ女次聲。㋺や

うす。おもむき。〔陸龜蒙、咏二茶人一詩〕自然鍾二野姿一。❷もと。たち。素質。資(10―36750)に通ず。〔釋名、釋姿容〕姿、資也、資、取也、形貌之稟、取爲二資本一也。〔漢書、谷永傳〕上主之姿也。〔注〕師古曰、姿、材也。〔吳志、賀邵傳〕陛下以二聖哲茂姿一、龍飛應レ天。㊂かたちづくる。こびる。〔集韻〕姿、媚也。〔徐防、長安有二狹斜一行〕小婦多二姿媚一。

名乘　カタ。シナ。

【姿意】1 tzŭ^1 i^4 氣儘。

【姿宇】2 シウ 品格。人がら。〔晉書、劉曜載記〕劉生姿宇神調、命世之才也。

【姿格】3 シカク すがた。〔厚德錄〕有レ女、將二十歲一、美二姿格一、自寫二一券一繫二于帶一、願下賣二于宅一以償上焉。

【姿顏】4 シガン すがたやかほつき。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕后長七尺二寸、姿顏姝麗。

【姿婎】5 シキ ほしいまま。〔說文〕婎、姿婎、恣也。〔段注〕恣、各本作レ姿、今正、按、心部、恣者縱也、諸書多謂二暴厲一曰レ恣。

【姿儀】6 シギ 立派なすがたやうす。〔魏志、公孫瓚傳〕公孫瓚、字伯珪、遼西令支人也、爲二郡門下書佐一、有二姿儀・大音聲一、侯太守器レ之、以レ女妻レ焉。

【姿藝】7 シゲイ すがたとわざ。〔南史、到撝傳〕伎妾姿藝、皆窮二上品一。〔輟耕錄、妓出家〕李當、當者教坊名妓也、姿藝超二出輩流一。

【姿才】8 シサイ 才力。資才。〔吳志、陸凱傳〕或淸白忠勤、或姿才卓茂。皆社稷之楨幹、國家之良輔。〔吳志、魯肅傳〕吾子姿才、尤宜二今日一。

【姿采】9 シサイ すがた。風采。〔唐書、鄭畋傳〕畋爲レ人仁恕、姿采如レ峙レ玉。

【姿狀】10 シジャウ すがた。かたち。〔宋史、李重貴傳〕李重貴、孟州河陽人、姿狀雄偉、善二騎射一。

【姿首】11 シシュ すがたと髮。〔資治通鑑、魏紀〕(明帝、景初元年) 簡下選有二姿首一者上、內二之掖庭一。〔注〕姿、謂二有レ色者一、首、謂二鬒髮者一。

【姿色】12 シショク すがたときりやう。容色。〔後漢書、皇后紀序〕遣二中大夫與二掖庭丞一、及相工一、於二洛陽鄉中一、閱下視良家童女、年十三以上、二十已下、姿色端麗、合二法相一者上、載還二後宮一。

【姿制】13 シセイ すがたかたち。又、なりふりをつくらふこと。〔晉書、陸雲傳〕華爲レ人多二姿制一、又好二帛繩纏レ鬢、雲見而大笑。

【姿性】14 シセイ うまれつき。資性。〔漢書、傅喜傳〕姿性端愨、論議忠直。〔蜀志、彭承傳〕姿性驕傲。

【姿勢】15 シセイ からだのかまへ。からだつき。ふり。姿態。〔舞逾錄要〕舞態姿勢、有二斜正進退前後一。

【姿態】16 シタイ すがた。からだつき。〔廣韻〕嫂、作二姿態一也。〔拾遺記、九、晉時事〕石季倫愛婢、名二翔風一、年十五、無レ有レ比二其容貌一、特以二姿態一見レ美。

【姿態美】17 シタイビ すがたのうつくしさ。

【姿體】18 シタイ すがた。かたち。姿貌。〔唐書、李義琰傳〕義琰姿體魁秀、博學有二智識一。

【姿度】19 シド 性質度量。〔蔡邕、郭泰碑序〕夫其器量弘深、姿度廣大。

【姿望】20 シバウ すがた。風采。〔晉書、何劭傳〕劭雅有二姿望一、遠客朝見、必以レ劭侍直。

【姿貌】21 シバウ すがたかたち。かほかたち。姿容。容貌。姿體。〔後漢書、周擧傳〕擧姿貌短陋、而博學洽聞。〔魏志、袁紹傳〕姿貌威容。〔唐書、柳澤傳〕姿貌魁異、高祖奇レ之。

【姿美】22 シビ 姿の美しさ。〔阮籍、詠懷詩〕脩容耀二姿美一、順風振二微芳一。

【姿媚】23 シビ しなをつくってこびる。又、そのさま。〔徐防、長安有狹斜行〕小婦多二姿媚一、紅紗映二削成一。〔阮籍、詠懷詩〕流眄發二姿媚一、言笑吐二芬芳一。〔韓愈、石鼓歌〕羲之俗書逞二姿媚一。〔柳宗元、乞巧文〕付二與姿媚一、易二臣頑顏一。

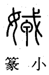
【姿表】24 シヘウ すがた。やうす。〔南史、王茂傳〕姿表瓌麗、須眉如レ畫。〔宋史、眞宗紀一〕眞宗幼英睿、姿表特異。

【姿容】25 シヨウ すがた。かたち。姿貌。〔後漢書、荀悅傳〕性沈靜、美姿容、尤好二著述一。〔吳志、劉基傳〕姿容美好。〔抱朴子、塞難〕姿容必妖麗。

【弄レ姿】26 スガタヲロウス やうすをつくろつて媚びを呈する。しなを作る。〔後漢書、李固傳〕胡粉飾レ貌、搔頭弄レ姿。

【娍】6258

シュウ　シュ　〔集韻〕思融切　ㄙㄨㄥ sung^1　東

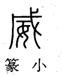

小篆

❶**女の字**。帝嚳の妃、契の母の字。〔說文〕娍、帝高辛之妃、偰母號也、从レ女戎聲、詩曰、有娍方將。〔廣韻〕娍、有娍氏女簡狄、帝嚳次妃、呑二乙卯一生レ契。〔詩、商頌、長發〕有娍方將。〔傳〕有娍、契母也。❷**國名**。〔詩、商頌、長發、箋〕有娍氏之國、亦始廣大。❸**姓**。〔詩、商頌、長發、疏〕有娍、契母之姓、婦人以レ姓爲レ字。

【娍陵】1 シュウリョウ 複姓。〔帝系譜〕。

【威】6259

ヰ　〔集韻〕於非切　ㄨㄟ wei^1　微


小篆

❶**おごそか**。畏敬すべきさま。〔廣雅、釋言〕威、德也。〔禮、祭義〕嚴威嚴恪。〔疏〕威、謂二威重一。〔左氏、襄、三十一〕有レ威而可レ畏、謂二之威一。❷**おそれる**。**おそれ**。**恐しいさま**。〔釋名、釋言語〕威、畏也、可二畏懼一也。〔詩、小雅、常棣〕死喪之威、兄弟孔懷。〔傳〕威、畏也。〔國語、晉語八〕內龢而外威。〔注〕威、畏也。❸**おどす**。〔易、繫辭上〕以威二天下一。❹**害する**。**しひたげる**。又、害。〔老子、七十二〕民不レ畏レ威。〔河上公注〕威、害也。〔後漢書、杜詩傳〕匈奴未レ譬二聖德一、威二侮二垂一。〔注〕威、虐也。❺**いきほひ**。ちから。權勢。威光。〔廣雅、釋詁二〕威、力也。〔呂覽、蕩兵〕威也者、力也。〔韓非子、詭使〕威者、所二以行一レ令也。〔晉書、劉弘傳〕威行二南服一。❻**禮貌**。**容儀**。すがた。さま。〔爾雅、釋言〕威、則也。〔禮、學記〕收二其威一也。〔注〕威、威儀也。❼**しうとめ**。〔說文〕威、姑也、从レ女戌聲、漢律曰、婦告二威姑一。〔廣雅、釋親〕姑、謂二之威一。❽**弓の中央**。弦と相對する部分。⿰韋畏(10―35130)・畏(7―21778)に通ず。〔說文通訓定聲〕威、叚借爲レ⿰韋畏。〔周禮、考工記、弓人〕恆當二弓之畏一。〔注〕故書、畏作レ威、杜子春曰、當レ爲レ威、威、謂二弓淵一、角之中央、與レ淵相當。❾古は⿱由巳(7―21784)・⿱由攴(7―21843)・畏(7―21778)に作る。〔集韻〕威、古作二⿱由巳・⿱由攴・畏一。❿葳(9―31456)に通ず。〔揚雄、甘泉賦〕昭二華覆之威威一。〔注〕善曰、威、猶二葳蕤一也。⓫隇(11―41747)に通ず。〔廣雅、釋邱〕隇陝、險也。〔潘岳、西征賦〕登二崤坂之威夷一。〔注〕善曰、薛君曰、威夷、險也。⓬蝛(10―33275)に通ず。〔詩、豳風、東山〕伊威在レ室。〔爾雅、釋蟲〕蛜蝛。⓭倭(1―796)・委(3―6181)・逶(11―38949)に通ず。〔說文通訓定聲〕威夷、與二倭遲・委蛇・逶迆一並同。⓮**諡**。〔逸周書、諡法解〕彊毅信正曰レ威、猛以剛果曰レ威。⓯**姓**。〔通志、氏族略、以レ諡爲レ氏〕威氏、嬀姓、風俗通云、齊威王之後、以レ爲二田氏始王一、故其後以爲レ氏。

名乘　タケ。ツヨ。

【威藹】1 ヰアイ 威嚴のある中に和氣のこもつてゐること。〔南齊書、樂志〕南郊歌辭、威藹四靈、洞曜三光。

【威夷】2 ヰイ ❶獸の名。〔爾雅、釋獸〕威夷、長脊而泥。〔疏〕泥、弱也、威夷之獸、長脊而劣弱。❷西方の陵の名。〔爾雅、釋地〕東陵阠、南陵息愼、西陵威夷、中陵朱滕、北陵西隃雁門。〔疏〕釋曰、此五方之陵名也、其義及所レ在未レ詳。❸けはしいさま。事の困難なこと。險阻。〔潘岳、西征賦〕登二崤坂之威夷一、仰二崇嶺之嵯峩一。〔注〕善曰、韓詩曰、周道威夷、薛君曰、威夷、險也。〔袁宏、三國名臣

序贊〕王略威夷、吳魏同レ寶。〔注〕濟曰、威夷、險阻也。❹長いさま。まがりくねつたさま。逶迤。威遲。威紆。〔嵇康、琴賦〕指二蒼梧之迢遞一、臨二迴江之威夷一。〔注〕向曰、威夷、長貌。〔潘岳、金谷集作詩〕迴谿縈二曲阻一、峻阪路威夷。〔注〕濟曰、威夷、長貌。〔孫綽、遊二天台山一賦〕既克隮二於九折一、路威夷而脩通。〔注〕濟曰、威夷、長貌。〔陶潛、扇上畫贊〕匪レ矯匪レ吝、前路威夷。〔謝靈運、歸途賦〕路威夷而詭狀、山側背而易レ形。❺旗のはためくさま。逶蛇。〔楚辭、王褒、九懷、陶壅〕建二虹旌一兮威夷。

【威衣】3 オドシギヌ　鎧のうらにつける布帛、または革。「縅衣。うけうら。

【威威】4 ヰヰ　❶草木の葉の垂れたさま。〔揚雄、甘泉賦〕建二光耀之長旓一兮、昭二華覆之威威一。〔注〕善曰、威、猶二葳蕤一也。❷おどすべきをおどす。刑すべきを刑する。〔書、康誥〕庸レ庸祗レ祗、威レ威顯レ民。〔傳〕用レ可レ用、敬レ可レ敬、刑レ可レ刑、有二此道一以示レ民。〔孔叢子、論書〕定公問曰、周書所謂、庸レ庸祗レ祗、威レ威顯レ民。

【威淫】5 ヰイン　威力の衰へ散ること。〔韓非子、愛臣〕赦レ死有レ刑、是謂二威淫一。〔注〕淫、散也。

【威紆】6 ヰウ　長くうねるさま。威夷。〔謝朓、郡內登望詩〕威紆距二遙甸一、巉嵒帶二遠天一。〔注〕向曰、威夷、長曲皃。

【威衞】7 ヰエイ　官署の名。禁衞をいふ。❶隋の領軍府。煬帝改めて左右屯衞と爲す。唐の龍朔二年に、左右屯衞を改めて左右威衞となし、大將軍等の官を置く。〔文獻通考、職官考、左右威衞〕隋初有二領軍府一、煬帝改爲二左右屯衞一、唐因レ之、貞觀十二年、左右屯衞、始置二飛騎一、出遊幸、卽衣二五色袍一、乘二六閑馬一、賜二猛獸衣一、韉而從焉、龍朔二年、改二左右屯衞一爲二左右威衞一、而別置二左右屯營一、亦有二大將軍等官一、光宅元年、改二威衞一爲二豹韜衞一、神龍元年、復レ舊、所レ掌如二左右衞一。❷我が國では、兵衞府の唐名。

【威焰】8 ヰエン　盛な威光。〔剪燈新話、翠翠傳〕李將軍、方貴重用レ事、威焰赫奕。〔日本政記、高倉天皇論〕威焰赫然、凌二壓人一者。

【威遠】9 ヰエン　❶遠國を恐れ服せしめること。〔宋史、王旦傳〕旦曰、陛下奄二有天下一、使二大臣坐忿爭一、無レ禮之罪、或聞二外國一、恐無二以威レ遠。❷縣名。㋑隋、置く。今の四川省資中縣の西南。沱江の支流、中溪河の西岸に位す。〔讀史方輿紀要、四川、嘉定州〕威遠縣、州東三百里、東南至二敍州府富順縣一百三十里、亦漢南安縣地、隋開皇初置、屬二資州一、唐初屬二榮州一、宋因レ之、元省、後復置、明洪武四年、省入二榮縣一、九年、復置改二今屬一、城周二里有奇、編戶四里、縣今省。〔清史稿、地理志〕四川、嘉定府、縣七、威遠。㋺威遠廳。❺を見よ。❸城の名。㋑山西省平魯縣の北。滄頭河の右岸、東は左雲縣の界、北は右玉縣治に至る。明の正統中、衞を置き城を築き、威遠堡といひ、清には威遠城となし、民國、改めて右玉縣を置く。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、附見〕威遠衞、府西百八十里、明初建、正統三年・萬曆三年增修、城周五里有奇、分邊十五里有奇、內大羊坡・雙山兒・小羊坡、爲二最衝邊一、外泥河兒卽屬二部駐牧處本城一、地勢平衍、寇入最易、宏治十三年・嘉靖四十三年・隆慶四年、皆由レ此突犯、邊防考、嘉靖三十九年、以二雲內多故一、分設二威遠路一、轄二城堡一、出二分邊三十九里有奇一、東抵二右衞一、西至二平魯一、雖レ稱二輔車一、然道路隔越、岡阜崎嶇、拒守不レ易。㋺浙江省鎭海縣北の招寶山上。明の胡宗憲が城を山巓に築き、兵を置き海口を扼す。縣城と脣齒の位置を爲す。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、定海縣〕威遠城、在二城東招寶山上一、山聳二峙海口一、最爲二衝要一、嘉靖三十九年、帥臣盧鏜議曰、招寶俯二瞰縣城一、相隔數十武、賊一登據、置二大礮其上一、縣城可二不レ攻而破一、卽夷船絡繹、銜尾入レ關、我軍亦無二以制一レ之、故守レ郡、非レ據レ險不可、據レ險、非レ成レ城不可、因請二於督臣胡宗憲一、築二城山巓一、周二百丈、置レ兵以扼二截海口一、與二縣城一相脣齒、名二威遠城一。㋩寧夏省額濟納土爾扈特旗の坤都倫河の西岸。額濟納扎薩克多羅貝勒、此處に駐す。❹堡の名。㋑滿洲遼寧省開原縣の東北。吉林省伊通縣と境を接す。もと吉林遼寧兩省の往來の大道。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、三萬衞、定遠堡〕威遠堡、在二衞東五十里一、近レ堡有二那木川・百峯山一、皆爲二賊衝一、又松山堡、在二靖安堡西南一、與二中固城柴河堡一接レ境。㋺山西省右玉縣の南。威遠城のこと。❸の㋑を見よ。㋩青海省大通縣の東。明の嘉靖の間、城を築く。清初、守備を設け、後、都司に改む。❺廳名。清、置く。雲南省普洱府に屬す。民國、縣に改め、尋いで又、改めて景谷縣とす。〔清史稿、地理志〕雲南、普洱府、廳三、威遠廳。❻明、王震（邢臺の人）（**7**－**20823**・・633）の字。

【威遠利字步隊】10 ヰヱンリジホタイ　清代、火器練營に屬した軍隊の名。火器練營は內外火器營の二つに分れ、內火器營より、洋槍步隊兵八百人、洋槍馬隊及び排槍馬隊、各〻四百二十人を選び、又、外火器營より、洋槍步隊兵一千人、排槍馬隊兵四百二十人を選んで神營機に派す。前者を威遠勝字步隊・威遠驃馬字馬隊・內火器馬隊と名づけ、後者を威遠利字步隊・外火器營馬隊と名づく。〔隣房兵備略卷〕。

【威恩】11 ヰオン　威光と恩惠。刑威と恩賞。恩威。〔後漢書、宋漢傳〕立二名節一、以二威恩一著稱、遷二太僕一。〔魏志、臧洪傳〕政教威恩。

【威恩並行】12 ヰオンナラビオコナハル　威光と恩惠との兩方がよく行き渡る。恩威並行。〔吳志、周魴傳〕魴在レ郡十三年卒、賞レ善罰レ惡、威恩並行。

【威械】13 ヰカイ　兵器。〔後漢書、崔駰傳〕威械藏而俎豆布、六典陳而九刑厝。〔注〕械謂二器械甲兵之屬一也。

【威行】14 ヰカウ　威光が行はれる。〔國語、晉語六〕威行爲二不仁一。〔史記、禮書〕威行之道也。

【威唬】15 wei^1 hu^3　おどす。威喝。

【威豪】16 ヰガウ　後漢、趙苞（**10**－**37171**・・307）の字。

【威恪】17 ヰカク　清、溫德勒克西（**7**－**17968**・・305）の諡。

【威嚇】18 ヰカク　おどしつける。嚇もおどす。威脅（47）に同じ。〔福惠全書、編審部、編審餘論〕夫人丁視二原額若干一、不レ宜二妄增一、徃徃簧二誘本官一、威二嚇戶長一、濫報。

【威氣】19 ヰキ　威力ある氣勢。〔運步色葉集〕威氣。

【威喜】20 ヰキ　鑛物の名。琥珀の年を經たもの。松脂が千年を經て伏苓となり、伏苓が千年を經て琥珀となり、琥珀が千年を經て石膽となり、石膽が千年を經て威喜となるといふ。〔本草、豎集解、時珍曰、豎、卽琥珀之黑色者、或因二土色一薰染、或是一種木瀋結成、未二必是千年琥珀復化一也、玉策經言、松脂千年作二茯苓一、茯苓千年作二琥珀一、琥珀千年作二石膽一、石膽千年作二威喜一、大抵皆是神異之說、未レ可二深憑一。

【威喜芝】21 ヰキシ　威喜の上に生じた小木。靈芝の一種。威喜を見よ。〔抱朴子、仙藥〕松柏脂淪入レ地千歲、化爲二茯苓一、茯苓萬歲、其上生二小木一、狀似二蓮花一、名曰二木威喜芝一、夜視有レ光、持レ之甚滑、燒レ之不レ然、帶レ之辟レ兵。〔酉陽雜俎、廣動植、草篇〕梁簡文帝延香園、大同十年、竹林吐二一芝一、長八寸、云云、與二威喜芝一相類。

【威毅】22 ヰキ　諡號。❶明、吳復（**2**－**3365**・・368）の諡。❷清、石清吉（**8**－**24024**・・966）の諡。❸清、武隆額（**6**－**16273**・・464）の諡。❹清、余際昌（**1**－**515**・・88）の諡。

【威毅伯】23 ヰキハク　清、曾國荃（**5**－**14299**・・190）の爵號。

【威儀】24 ヰギ　❶禮の細則。曲禮。〔中庸〕禮儀三百、威儀三千。〔章句〕威儀、曲禮也、蓋曲禮・少儀・內則・玉藻・弟子職之屬。〔漢書、藝文志〕禮經三百、威儀三千。〔注〕師古曰、威儀三千、乃謂二冠婚吉凶一、蓋儀禮、是也。❷容姿動作が嚴正で禮式に適つてゐること。〔書、顧命〕思三夫人自亂二于威儀一。〔傳〕有レ威可レ畏、有レ儀可レ象。〔詩、邶、柏舟〕威儀棣棣、不レ可レ選也。〔儀禮、士冠禮〕敬二爾威儀一、淑愼二爾德一。〔左氏、襄、三十一〕公曰、善哉、何謂二威儀一、對曰、有レ威而可レ畏、謂二之威一、有レ儀而可レ象、謂二之儀一。〔國語、周語中〕容貌有レ崇、威儀有レ則。〔墨子、節用中〕俛仰周旋、威儀之禮。❸行列の供まはり。騶從。〔通雅、禮儀〕梁制、令・僕・中丞、各給二威儀十人一。〔老學庵筆記、九〕天下神霄、皆賜二威儀一、設二於殿帳座外一。❹瑞草をいふ。〔野客叢書〕唐會要、德宗詔賜二衣文采一、宜レ有二定制一、觀察使小雁銜二威儀一、取二其行列有一レ序、牧人有二威儀一也、威儀、瑞草也。❺隋代に行はれた道官の名。❻〘佛〙坐作進退の、威德あり儀則あること。〔法華經序品〕又見二具戒威儀無一レ缺。❼五條袈裟・輪袈裟等につけた平絎（ヒラクケ）の紐。

【威儀師】25 ヰギシ　❶道士の三號の一。〔唐六典、尚

書禮部、祠部郎中員外郎〕道士修行有二三號一、其一曰二法師一、其二曰二威儀師一、其三曰二律師一。㊁佛坐作進退の儀式を指圖する僧。〔行事鈔、上三〕單白差二威儀師一。

【威儀孔時】26（ヰギハナハダトキアリ） 威儀容貌が其の時宜に適してゐること。〔詩、大雅、既醉〕威儀孔時、君子有二孝子一。〔箋〕孔、甚也、言三成王之臣、威儀甚得二其宜一。

【威儀不レ肅】27（ヰギツツシマズ） 容姿動作がつつましやかでない。〔蜀志、簡雍傳〕箕踞傾倚、威儀不レ肅。

【威儀不レ類】27'（ヰギヨカラズ） 容止を謹しまず、威儀がよろしくない。〔詩、大雅、瞻卬〕不レ弔不レ祥、威儀不レ類。〔傳〕類、善。〔箋〕威儀又不レ善二於朝廷一。

【威儀棣棣不レ可レ選】28（ヰギタイタイエラブベカラズ） 威儀によく習つて、取舍すべき一の不善もない。〔詩、邶風、柏舟〕我心匪レ石、不レ可レ轉也、我心匪レ席、不レ可レ卷也、威儀棣棣、不レ可レ選也。〔傳〕禮容俯仰、各有二威儀一耳、棣棣、富而閑習也。〔集傳〕威儀無二一不善一、又不レ可二得而簡擇取舍一。

【威強】29（ヰキヤウ） 威勢の強いこと。威彊。〔荀子、富國〕威強足三以捶二笞之一。〔晏子、問、下〕敢問、長保二威強一勿レ失之道、若何。

【威彊】30（ヰキヤウ） 勢威のつよいこと。威強。〔荀子、王制〕用二萬乘之國一者、威彊之所二以立一也。〔墨子、尚賢、中〕其說將三必挾二震威彊一。

【威卻】31（ヰキヤク） 威力を以てしりぞける。〔戰國、齊策〕夫救レ趙、高義也、卻二秦兵一、顯名也、義救二亡趙一、威卻二強秦一。

【威虐】32（ヰギヤク） おどし殘ふ。しひたげる。〔書、康誥〕惟威惟虐、大放二王命一。〔詩、大雅、召旻、疏〕急疾而行二此威虐之法一。〔論衡、譴告〕威虐皆惡。

【威勤】33（ヰキン） 清、張廷岳(**4**—**9812**・・1375)の謚。

【威禁】34（ヰキン） 威嚴と禁制。〔吳志、呂範傳〕還レ吳遷二都督一、〔注〕軍中肅睦、威禁大行。

【威擒】35（ヰキン） おどしてとりこにする。〔韓非子、存韓〕勁韓以レ威擒、強齊以レ義從矣。

【威化】36（ヰクワ） 縣名。㊀南朝宋、置く。今の廣東省舊肇慶府の境。㊁南朝宋、置く。今の廣西省の境。㊂唐、置き、宋、廢す。河北省良卿縣の西北。〔舊唐書、地理志二〕威州、云云、寄二治良鄉縣石窟堡一、爲二威化縣一。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見、大寧衞、愼州城〕威州城、在二營州東南境一、唐武德二年、置二遼州總管于燕支城一、尋徙二治營州城內一、貞觀初、改爲二威州一、又置二威化縣一、爲二州治一。

【威懷】37（ヰクワイ） 或は威力を以ておどし、或は恩德を以てなつけること。威服と懷撫。〔後漢書、荀彧傳〕威二懷醜虜一。〔潘岳、關中詩〕嶽牧慮殊、威懷理二一。〔注〕向曰、慮殊、謂下梁王欲二戰以威服一、解系欲中守以懷撫上、故云二理二一。

【威光】38（ヰクワウ） 人に畏敬の念を起させる德の力。〔曹植、魏德論〕威光佐二掃辰彗北鸞一。〔參同契〕金復二其故性一、威光鼎內熹。

【威勸】39（ヰクワン） 威力を示して善事を勸める。〔潛夫論、勸將〕次聖繼レ之、觀レ民設レ教、坐爲二誅賞一、以レ威勸レ之。

【威刑】40（ヰケイ） 威光と刑罰。又、威嚴ある刑罰。〔左氏、隱、十一〕既無二德政一、又無二威刑一。〔尉繚子、重刑〕重二威刑於後一。〔隋書、刑法志序〕國之所レ待、不レ在二威刑一。〔唐律、名例〕易曰、天垂レ象、聖人則レ之、觀二雷電一而制二威刑一。

【威形】41（ヰケイ） 威力のある樣子。又、威力。威光。〔魏志、王基傳〕今不下張二示威形一、以副中民望上、而停レ軍高レ壘、有レ似二畏懦一。

【威卿】42（ヰケイ） 字號。㊀後漢、沈戎(**6**—**17189**・・204)の字。㊁後漢、馬嚴(**12**—**44572**・・192)の字。㊂宋、嚴顥(**2**—**4589**・・30)の字。㊃金、程震(**8**—**25081**・・78)の字。㊄元、敬儼(**5**—**13303**・・81)の字。㊅元、徐世隆(**4**—**10110**・・518)の字。

【威惠】43（ヰケイ） 威光とめぐみ。恩威。〔魏志、王基傳〕爲レ政清嚴、有二威惠一。〔蜀志、馬忠傳〕甚有二威惠一。〔日本政記、後小松天皇〕今川貞世、鎭二筑紫一、威惠並行。

【威敬】44（ヰケイ） おそれつつしむ。畏敬。〔禮、表記〕大人之器威敬。〔注〕言二其用レ之尊嚴一。

【威劫】45（ヰケフ） おびやかしおどす。〔漢書、鼂錯傳〕秦以レ威劫而行レ之敝也。〔後漢書、袁紹傳〕便放志專行、威二劫省禁一。

【威怯】46（ヰケフ） 臆病者をおどしつける。〔漢書、吾丘壽王傳〕知者陷レ愚、勇者威レ怯、苟以レ得レ勝爲レ務、不レ顧二義理一。

【威脅】47（ヰケフ） おどす。おどかす。威力で人を壓迫する。脅喝。威嚇。〔史記、荊軻傳〕秦地徧二天下一、威二脅韓魏趙氏一。〔晉書、王敦傳〕將下以威二脅朝廷一、傾中危宗社上。

【威噞】48（ヰケン ヰゲン） 勢の烈しく強いこと。噞は猛。〔左思、魏都賦〕抗レ旍則威噞二秋霜一、摛レ翰則華縱二春葩一。〔注〕銑曰、噞、猛。

【威縣】49（ヰケン） 縣名。明、置く。今の河北省清河縣の西南。〔讀史方輿紀要、直隸、廣平府〕威縣、府東北百三十五里、東南至二山東臨清州一百里、西至二順德府平鄉縣一六十里、南至二大名府一百二十里、漢廣平國斥章縣地、後漢屬二鉅鹿郡一、晉屬二廣平郡一、後魏因レ之、東魏天平初、屬二魏郡一、後齊、省入二平恩縣一、隋開皇六年、置二洺水縣一、屬二洺州一、唐因レ之、會昌五年、省入二曲周縣一、宋初、亦置二洺水縣一、尋廢、金復置、仍屬二洺州一、元自二井陘縣一移二威州治一、此以レ縣屬焉、至正閒、廢二洺水縣一、以二威州一屬二廣平路一、明初、改爲二威縣一、編戶八里。〔清史稿、地理志〕直隸、廣平府、縣九、威。

【威權】50（ヰケン） 威勢と權力。人を畏れさせる勢と強制服從させる力。權威。威柄。〔管子、法法〕威權貴二於爵祿一。〔漢書、藝文志〕有二威權勢力一。〔後漢書、章德竇皇后紀〕顯貴擅二威權一。

【威權在レ君】51（ヰケンキミニアリ） 威力と權力とは君主の所有すべきもので、人臣に貸與すべきものではない。〔國語、晉語八〕圖在二明訓一、明訓在二威權一、威權在レ君。

【威彥】52（ヰゲン） 三國吳、士燮(**3**—**5638**・・127)の字。

【威嚴】53（ヰゲン） 威光があつておごそかなこと。〔禮、曲禮上〕班レ朝治レ軍、涖レ官行レ法、非レ禮威嚴不レ行。〔戰國、趙策〕威嚴不レ足三以易二於位一、重利不レ足三以變二其心一。〔荀子、王制〕凡聽、威嚴猛厲、而不レ好レ假二道人一、則下畏恐而不レ親。〔韓非子、姦劫弑臣〕世之學術者、說二人主一、不レ曰下乘二威嚴之勢一、以困中姦衺之臣上、而皆曰二仁義惠愛一而已矣。〔管子、八觀〕禁罰威嚴。

【威呼】54（ヰコ） 黑龍江の獨木船の名。長さ二丈餘、幅は至つて狹く、駛ること甚だ速く、河流の漲つた時には、二つ聯ねて一つとして車馬を濟す。ト魁風土記には葳瓠に作る。威弧。威忽。葳瓠(**9**—**31456**・・1)を見よ。

【威姑】55（ヰコ） 婦（ヨメ）が姑（シウトメ）を稱する辭。君姑(**2**—**3323**・・69)に同じ。〔說文〕姑、夫母也、威姑也、漢律曰、婦告二威姑一。〔廣雅、釋親〕姑謂二之威一。〔疏證〕威姑、卽爾雅所謂君姑也、君與レ威、古聲相近。

【威弧】56（ヰコ） ㊀星の名。〔張衡、思玄賦〕彎二威弧之拔刺一兮、射二嶓嵏之封狼一。〔注〕衡曰、威弧、星名也。㊁威呼(54)に同じ。

【威公】57（ヰコウ） ㊀三國蜀、楊儀(**6**—**15112**・・82)の字。㊁水戶藩主、德川賴房の謚號。

【威詬】58（ヰコウ） おどしののしる。〔唐書、張薦傳〕顏眞卿、奉二使淮西一、捐レ軀仗レ義、威二詬羣兇一。

【威獄】59（ヰゴク） 嚴重な裁判。又、嚴正な裁判。〔左氏、昭、二十五〕爲二刑罰威獄一、使二民畏忌一、以類二其震曜殺戮一。

【威忽】60（ヰコツ） 威呼(54)に同じ。

【威詐】61（ヰサ） おどしいつはる。〔漢書、王莽傳贊〕迺始恣睢、奮二其威詐一、滔レ天虐レ民、窮レ凶極レ惡、毒流二諸夏一、亂延二蠻貉一、猶未レ足レ逞二其欲一焉。

【威莊】62（ヰサウ） ㊀おごそかなこと。莊嚴。〔禮、表記〕威莊而安、孝慈而敬。〔疏〕今明君臨レ下、威嚴矜莊而民安也。㊁清、瞿騰龍(**8**—**23747**・・44)の謚。

【威殺】63（ヰサツ） 恐しい死刑。〔管子、正世〕民者、服二於威殺一、然後從。

【威州】65（ヰシウ） 州名。㊀唐、置く。今の河北省良鄉縣の西北。〔舊唐書、地理志二〕威州、云云、貞觀元年、改爲二威州一。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見、大寧衞、愼州城〕威州城、在二營州東南境一、唐武德二年、置二遼州總管于燕支城一、尋徙二治營州城內一、貞觀初、改爲二威州一、又置二威化縣一爲二州治一、後寄二治良鄉縣之石窟堡燕支城一。㊁唐、安樂州を置き、後、吐蕃に沒せられたが、大中年間、吐蕃歸附し、改めて威州を置く。今の甘肅省中衞縣の境。西夏も此處に威州を置く。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏中衞〕鳴沙城、云云、咸亨二年、又置二安樂州一、以處二吐谷渾部落一、云云、大歷四年、吐蕃寇二鳴沙一、尋爲二吐蕃所レ據、云云、大中三年、收復、改置二威州一。㊂五代晉、置き、周、環

州と改む。今の甘肅省環縣。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府〕環縣、府西北二百里、北至二寧夏衞靈州所一五百里、漢北地郡富平縣地、云云、五代晉天福四年、移二置威州於方渠縣一。❹宋、置く。故治は今の四川省理番縣の東。今、新保關といふ。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、威州〕古冉駹國地、漢武時、爲二汶山郡地一、後屬二蜀郡一、後漢因レ之、蜀漢亦屬二汶山郡一、晉因レ之、後沒二於羌一、隋初置レ戍、後又沒二於羌一、唐武德七年、白狗羌歸附、治置二維州一、貞觀元年、羌叛、州廢、明年、復來歸降、爲二羈縻州一、麟德二年、復爲二正州一、天寶初、曰二維川郡一、乾元元年、復爲二維州一、廣德初、陷二於吐蕃一、太和五年、收復、尋棄二其地一、大中三年、復內附、五代蜀時、亦曰二維州一、宋景德三年、改曰二威州一、元因レ之、以二州治保寧縣一省入、明仍曰二威州一、領二縣一一。❺遼、置く。故治は滿洲遼寧省遼陽縣の西南。❻金、置く。治は井陘。今の河北省井陘縣。元、治を洺水縣に移し、明、降して威縣とす。威縣(49)を見よ。〔讀史方輿紀要、直隷、眞定府〕井陘縣、府西南百五十里、東北至二平山縣一八十二里、西至二山西平定州一二百里、云云、金天會七年、改置二威州一、亦曰二陘山郡一、元徙二州治洺水一、以レ縣屬二廣平路一、明初、仍屬二眞定府一。❼元、置き、後、降して威楚縣とし、明、楚雄と改む。今の雲南省楚雄縣治。〔讀史方輿紀要、雲南、楚雄府〕楚雄縣、附郭、南詔時、屬二安州威楚縣一、後爲二爨蠻所一レ據、云云、元初、置二千戶所一、至元十五年、改置二威州一、二十一年、降爲二威楚縣一。

【威悉】66（ヴエーゼル） Weser ❶獨逸の河川。北海に注ぐ。❷獨逸ライン地方の都邑。

【威賞】67（ヰシヤウ） 刑威と恩賞。〔晉書、趙王倫傳〕司馬示以二威賞一、皆莫二敢違一。

【威襄】68（ヰジヤウ） 諡號。❶明、郭英(**11**－**39474**‥11)の諡。❷明、毛銳(**6**－**16772**‥7)の諡。

【威讓】69（ヰジヤウ） おどしせめる。讓は、責める意。〔國語、周語上〕有二威讓之令一。〔注〕讓二不貢一也。〔文心雕龍、檄移〕至二周穆王西征一、祭公謀父稱、古有二威讓之令一。

【威戎】70（ヰジユウ） 戎をおどす。戎は、野蠻人、轉じて、外敵。〔班固、西都賦〕因レ茲以レ威レ戎夸レ狄、耀二威靈一而講二武事一。

〖威戎軍〗71（ヰジユウグン） 行政區劃の名。❶唐、置き、宋、延寧と改め、後、砦とす。今の四川省汶川縣の北。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、茂州〕汶川縣、云云、熙寧九年、以レ縣置二威戎軍一。❷唐の文德の初、田令孜が假りに威戎軍節度を置く。治は彭州。今の四川省彭縣の治。文・龍・扶・茂の四州を兼ね領す。今の四川省の舊西川道東部及び甘肅省の舊渭川道南部の地。乾寧の初、王建に幷せらる。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕彭縣、云云、乾元初、復曰二彭州一、又置二威戎軍一。

【威從】72（ヰジユウ） 威儀師と從儀師との略稱。威儀師(25)の❷・從儀師(**4**－**10152**‥**228**′)を見よ。〔江家次第、三〕威從著二長橋上床子一。

【威肅】73（ヰシユク） 諡號。❶宋、劉仲武(**2**－**2224**‥1192)の諡。❷淸、陳大富(**11**－**41698**‥1099)の諡。

【威如】74（ヰジヨ） 威嚴あるさま。〔易、大有〕六五、厥孚交如、威如、吉、象曰、威如之吉、易而無レ備也。〔易、家人〕上九、有レ孚威如、終吉。

〖威如二破竹一〗76（ヰハチクノゴトシ） 威力に靡かせること竹をわるやうである。威力の大きな喩。〔晉書、杜預傳〕今兵威已振、譬如レ破レ竹、數節之後、皆迎レ刃而解。

【威勝】77（ヰシヨウ） ❶威嚴を示して敵に勝つこと。〔尉繚子、戰威〕凡兵有二以レ道勝一、有二以レ威勝一、有二以レ力勝一。❷刀の名。〔梁簡文帝、謝三敕二賚善勝威勝刀一啓〕冰鍔含レ采、雕琰表飾。

〖威勝軍〗78（ヰシヨウグン） 行政區劃の名。❶唐の建中四年、奉天に幸して、京畿渭北・京畿渭南等の節度使を增置す。興元の初、梁州に幸して、又、奉天行營節度使を置く。治は奉天。今の陝西省乾縣。尋いで廢す。中和の初、奉天鎭使を奉天等軍節度とし、諸鎭の兵を合して黃巢を討つたが、黃巢平いで復た罷む。又、乾寧の初、威勝軍を置く。治は乾州。今の陝西省乾縣。五代唐、罷む。〔讀史方輿紀要、州域形勢、六唐、下〕鎭國、威勝節度、治奉天、唐紀、建中四年、幸二奉天一、增二置京畿渭南等節度使一、興元初、幸二梁州一、又置二奉天行營節度使一、尋復廢、中和初、以二奉天鎭使一、爲二奉天等軍節度一、合二諸鎭兵一討二黃巢一、巢平、復罷、方鎭考、乾寧初、置二威勝軍一、治乾州、蓋李茂貞所レ置云。❷宋、置く。五代には亂柳といふ。唐の銅鞮縣の東北。今の山西省沁縣の南。金の時、沁州とす。〔資治通鑑、後梁紀〕(太祖、開平二年)晉王疽發二於首一、病篤、周德威等退屯二亂柳一。〔注〕亂柳、在二潞州屯留縣界一。〔讀史方輿紀要、山西〕沁州、禹貢冀州地、春秋屬レ晉、戰國屬レ韓、後屬レ趙、秦屬二上黨郡一、兩漢及魏晉因レ之、後魏置二鄉郡一、隋初郡廢、開皇十六年、置二沁州一、大業初、復廢、屬二上黨郡一、義寧元年、置二義寧郡一、唐初、復改爲二沁州一、天寶初、曰二陽城郡一、乾元初、復曰二沁州一、宋太平興國四年、改置二威勝軍一、以二沁州一省入、金復曰二沁州一。

【威職】79（ヰシヨク） 權力ある官職。〔漢書、何武傳〕內史位卑而權重、威職相踰。

【威信】80（ヰシン） ❶威光と信用。〔漢書、息夫躬傳〕常以二威信一。〔後漢書、馮異傳〕所レ至皆布二威信一。〔晉書、王渾傳〕渾與レ吳接レ境、宣二布威信一、前後降附甚多。❷威嚴があつて忠實なこと。〔後漢書、郭伋傳〕聞二伋威信一。❸縣名。民國、置く。淸の長官司の地。威信長官司を見よ。

〖威信可汗〗81（ヰシンカカン） 後唐、李嗣本(**6**－**14459**‥1344)の號。

〖威信長官司〗82（ヰシンチヤウクワンシ） 行政區劃の名。もと鎭雄州の地。明、置き、淸、威信州判駐防を置く。民國、改めて行政委員を置く。今の雲南省鎭雄縣の北。四川省に接し、雲南省北部の要地。〔讀史方輿紀要、四川、鎭雄軍民府〕威信長官司、在二府南一、本毋響寨、嘉靖三年、改置二是司一。

〖威信行政委員〗83（ヰシンギヤウセイヰヰン） 官名。民國、置く。威信長官司を見よ。

【威振】84（ヰシン） 威光が振ふ。〔史記、信陵君傳〕當二是時一、公子威振二天下一。

【威神】85（ヰシン） おもみが有つて奧ゆかしいこと。けだかさ。たふとさ。〔漢書、敍傳下〕孝哀彬彬、克攬二威神一。〔揚雄、甘泉賦〕配二帝居之縣圃一兮、象二泰壹之威神一。〔後漢書、竇憲傳〕勒以二八陣一、莅以二威神一。〔顏延之、赭白馬賦〕所下以崇二衞威神一、扶中護警蹕上。

【威震】86（ヰシン） おそれてふるひあがらせる。〔漢書、韓信傳〕威二震諸侯一。〔後漢書、皇甫嵩傳〕威二震天下一。〔蜀志、諸葛亮傳〕威二震四海一。

【威綏】87（ヰスイ） 瑞草の名。威蕤の❷に同じ。〔太平御覽、休徵部、草、威蕤〕孫氏瑞應圖曰、王者禮備、則威綏生。〔注〕一曰二威蕤一。

【威蕤】88（ヰスイ） ❶數の多いさま。盛んなさま。〔司馬相如、封禪傳〕紛綸威蕤、湮滅而不レ稱者、不レ可二勝數一也。〔注〕翰曰、紛綸威蕤、言二衆多一也。❷瑞草の名。葳蕤。威綏。〔宋書、符瑞志〕威蕤、王者禮備、則生二於殿前一。❸くさりの名。〔錄異記〕威蕤鎖、金鏤相連、屈伸在レ人。

【威制】89（ヰセイ） ❶權威と制裁。政治と刑罰。〔韓非子、有度〕威制共、則衆邪彰矣。❷おどしおさへる。〔漢書、趙廣漢傳〕威二制豪彊一、小民得レ職。

【威勢】90（ヰセイ） ❶威光と勢力。又、たけく勇ましい勢。〔韓非子、外儲說右下〕人主者不レ操レ術、則威勢輕而臣擅レ名。〔管子、明法解〕以レ畏二主之威勢一也。〔鬼谷子、本經陰符〕四邊威勢。〔說苑、臣術〕增二加威勢一。❷㋑いきほひ。㋺やうす。

【威靖】91（ヰセイ） 明、施聚(**5**－**13629**‥57)の諡。

【威聲】92（ヰセイ） 威名(155)に同じ。〔後漢書、耿弇傳〕威聲日盛。〔陸雲、答二兄平原一書〕紫庭既穆、威聲爰振。〔文心雕龍、檄移〕震雷始二於曜電一、出師先二乎威聲一。

【威碩】93（ヰセキ） 三國蜀、劉琰(**2**－**2224**‥61)の字。

【威績】94（ヰセキ） 威光と功績。〔魏志、牽招傳評〕牽招秉レ義壯烈、威績顯著。

【威折】95（ヰセツ） 威光でくじく。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕范蠡對曰、唐虞卜レ地、夏殷封レ國、古公營二城周雒一、威二折萬里一、德到二八極一、豈直欲下破二彊敵一收中鄰國上乎。

【威屑】96（ヰセツ） 霜をいふ。〔淸異錄、天文、迷空步障〕博學記、云云、威屑、霜。

【威節】97（ヰセツ） 節の名。新の王莽、作る。其の威を假りて衆兵を厭服するの意より名づく。節は、杖に似たもので、使臣の用ひるもの。〔漢書、王莽傳下〕後二玄武一、右杖二威節一、左負二威斗一。

【威慴】98（ヰセフ） おそれしめる。又、おそれる。威も慴も懼れる。〔曹植、七啓〕威二慴萬乘一、華夏稱レ雄。

【威懾】99 ヰセフ おそれしめる。又、おそれる。威も懾も、おそれる。

【威讋】100 ヰセフ 恐れしめる。又、恐れる。讋は恐れて氣を失ふ。〔梁書、武帝紀上〕若功業克建、威讋二四海一、號二令天下一、誰敢不レ從。

【威燀】101 ヰセン 威光のさかんなこと。〔史記、秦始皇紀〕義誅信行、威燀旁達、莫レ不二賓服一。

【威楚】102 ヰソ ❶路名。元、置き、明、楚雄府に改む。今の雲南省楚雄縣。〔讀史方輿紀要、雲南〕楚雄府、大理時、以二銀生一屬二姚州一、此爲二富筋瞼一、又改二白鹿部一、後改二威楚郡一、元初內附、置二威楚萬戶府一、至元八年、改爲二威楚路一、後又置二威楚開南等路宣撫司於此一、明初、改爲二楚雄府一。❷縣名。唐の時、南詔、置き、明、楚雄と改む。今の雲南省楚雄縣の治。〔讀史方輿紀要、雲南、楚雄府〕楚雄縣、附郭、南詔時、屬二安州威楚縣一、後爲二爨蠻所レ據、大理時、屬二於姚州一、元初、置二千戶所一、至元十五年、改置二威州一、二十一年、降爲二威楚縣一、明初、改二今名一。

【威尊】104 ヰソン 威光と尊嚴。又、尊嚴。〔孔叢子、抗志〕子思曰、臣羇二旅於此一、而辱二君之威尊一、亟臨二華門一。

【威蛇】105 ヰダ 草の名。をへびいちご。蛇含(**10**―**32964**··17)を見よ。〔本草、蛇含〕釋名、蛇銜・威蛇・小龍牙・紫背龍牙。

【威澤】106 ヰタク 威光と恩澤。威德。〔後漢書、皇甫規傳〕備二單車一介之使一、勞二來三輔一、宣二國威澤一。

【威丹】107 ヰタン 清、鄒容(**11**―**39562**··56)の字。

【威憚】108 ヰタン おそれはばからせる。又、威光。〔新書、解縣〕陛下威憚大信、德義廣遠。〔孔子家語、始誅〕而後以威二憚之一。

【威斷】109 ヰダン 威權を以て事を斷定する。又、敢爲なのをいふ。〔後漢書、梁商傳〕檢二御門族一、未下曾以二權勢一干上レ法、而性愼弱無二威斷一。

【威遲】110 ヰチ 路などの長いさま。又、遠くめぐり歩くさま。倭遲(**1**―**796**··26)・威夷(2)の❹に同じ。〔顏延之、秋胡詩〕驅レ車出二郊郭一、行路正威遲。〔注〕善曰、毛詩曰、四牡騑騑、周道倭遲、毛萇曰、倭遲、歷レ遠皃、韓詩曰、周道威夷、其義同。

【威中】111 ヰチュウ 清、呉振武(**2**―**3365**··678)の字。

【威黜】112 ヰチュツ おどししりぞける。〔傅咸、左傳詩〕威黜不レ端、勿レ使二能植一。

【威重】113 ヰチョウ おごそかでおもおもしい。威嚴があつて厚重なさま。〔論語、學而〕君子不レ重則不レ威。〔史記、鄒陽傳〕攝二於威重之權一、主二於位勢之貴一。〔魏志、崔琰傳〕琰聲姿高暢、眉目疏朗、鬚長四尺、甚有二威重一。〔傅玄、晉鼓水曲、宣受命〕養二威重一、運二神兵一。

【威寵】114 ヰチョウ 威勢と寵愛。〔左氏、昭、四、則願假レ寵以請二於諸侯一、注〕欲下借二君之威寵一、以致中諸侯上。

【威直】115 ヰチョク 梁、韋稜(**12**―**43108**··151)の字。

【威鎭】116 ヰチン 威力でしづめる。〔後漢書、南匈奴傳〕威二鎭四夷一。〔魏志、明帝紀〕何所二威鎭一乎。

【威帝】117 ヰテイ 西燕の王。慕容沖(**4**―**11088**··66)を見よ。

【威霆】118 ヰテイ はげしいかみなり。轉じて、非常な威力。恐しいけんまく。威烈。〔後漢書、章帝紀〕仁風翔二于海表一、威霆行二乎鬼區一。

【威斗】119 ヰト 器の名。新の王莽、作る。五色の藥石と銅とを以て作り、北斗星の形に象つたもので、其の威を假りて衆兵を厭服する意から名づく。一說に、熨斗と音通とする。〔漢書、王莽傳下〕莽親之二南郊一、鑄二作威斗一、威斗者、以二五石銅一爲レ之、若二北斗一、長二尺五寸、欲三以厭二衆兵一、既成、令二司命負一レ之、莽出在レ前、入在二御旁一。〔注〕李奇曰、以二五色藥石及銅一爲レ之、蘇林曰、以二五色銅一鑛二治之一、師古曰、李說、是也、若下今作二鍮石一之爲上。

【威怒】120 ヰド おどしいかる。又、そのこと。〔呂覽、審分〕因用二威怒一、有司必誹怨矣。〔後漢書、桓帝紀論〕及レ誅二梁冀一、奮二威怒一。〔唐書、魏徵傳〕至二於威怒一。

【威動】121 ヰドウ 威光で動かす。〔漢書、高帝紀下〕威動二海內一。〔淮南子、覽冥訓〕威動二天地一。

【威德】122 ヰトク おごそかで犯し難い德。又、武威と德化。威澤。〔管子、兵法〕可下以定二威德一、制二法儀一、出中號令上。〔史記、秦始皇紀〕自二上古一、不レ及二陛下威德一。〔漢書、王莽傳上〕威德日盛。

【威德王】123 ヰトクワウ 百濟の王。餘昌をいふ。

【威寧】124 ヰネイ 縣名。❶南朝宋、置く。今の廣東省舊高州府の境。❷金、置き、撫州に屬す。元、正黃旗察哈爾の牧地とす。清、興和廳を置き、民國、縣とし、察哈爾に屬す。其の地の威寧海子(威寧湖)は蒙古名を希爾池といひ、納林河七金河の注ぐところ。明の王越、韃靼を此處に破る。〔清一統志〕海子西南舊有二威寧城一。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全部指揮使司、保安右衞〕威寧城、衞東北百二十里、金承安二年、以二撫州新城鎭一置二威寧縣一、元改隸二宣德府一、尋屬二隆興路一、明初廢。❸民國、置く。古の巴凡兀姑の地。世〻烏蠻の居る所。漢代の蠻名は巴的甸。宋、烏撒部とし、明、烏撒府に改め、清、州とす。民國、改めて縣とす。今の貴州省水城縣の西。〔清史稿、地理志〕貴州、大定府、州三、威寧州。

【威方】125 ヰハウ 三國蜀、楊慮(**6**―**15112**··384)の字。

【威望】126 ヰバウ 威光と人望。おもみと人氣。〔宋史、宗澤傳〕威望素著。〔秦觀、賀二中書蘇舍人一啓〕張使君之威望、草木猶知。〔徐鉉、賀下殷游二舍人入二翰林一江給事拜中中丞上詩〕夕郎威望拜二霜臺一。

【威暴】127 ヰバウ 暴惡な者をおどしおさへる。〔劉孝綽、司空安成王碑〕剛毅足二以威一レ暴、清貞足二以勵一レ俗。

【威伯】128 ヰハク 宋、趙與虤(**10**―**37171**··914)の字。

【威迫】129 ヰハク 威逼(131)に同じ。

【威罰】130 ヰバツ おどしつみする。〔呉子、料敵〕勸賞威罰。〔鹽鐵論、錯幣〕大強則不レ可二以威罰一。

【威逼】131 ヰヒョク おどしせまる。おびやかす。威迫。〔司馬休之、上表自陳〕致二茲非偶一、實由二威逼一。

【威敏】132 ヰビン 諡號。❶金、完顏習室(**3**―**7079**··83)の諡。❷金、完顏宗雄(**3**―**7079**··118)の諡。❸元、韓政(**12**―**43159**··141)の諡。

【威愍】133 ヰビン 諡號。❶宋、曾孝序(**5**―**14299**··173)の諡。❷宋、鄭驤(玉山の人)(**11**―**39647**··164)の諡。❸清、鳳全(**12**―**46671**··118)の諡。

【威附】134 ヰフ 恐れ從ふ。〔常袞、代二杜相公一讓二河南等道副元帥一表〕齊擢二穰苴一、以二文武威附之名一。

【威武】135 ヰブ ❶威力と武力。又、たけくいさましい力。武威。武勇。〔爾雅、釋天〕出爲二治兵一、尙二威武一也。〔管子、幼官〕必得文威武官習、勝之務。〔漢書、眭弘傳〕仁誼厲二威武一。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕漢興七十有八載、德茂存二乎六世一、威武紛紜。〔後漢書、光武帝紀上〕驅二諸猛獸、虎豹犀象之屬一、以助二威武一。❷諡號。㋑唐、高崇文(**12**―**45313**··1237)の諡。㋺元、薛天定(**9**―**32123**··233)の諡。㋩明、孫巖(**3**―**6987**··50)の諡。

【威武軍】136 ヰブグン 行政區劃の名。唐、置く。治は福州。今の福建省閩侯縣の治。元和中、觀察使と爲し、寧乾中、升せて威武軍節度使とし、福・泉・汀・建・漳の五州を領す。景福の初、王潮之に據る。呉越、亦威武軍といひ、宋、亦威武軍節度を置き、後、升せて福安府とす。今の福建省の地。〔讀史方輿紀要、州域形勢六、唐下〕威武、治二福州一、元和中、置二福建觀察使一、領二福泉汀建漳五州一、乾寧三年、升爲二威勝軍節度使一、景福初、爲二王潮所一レ據。

【威武大將軍】137 ヰブタイシヤウグン 明の武宗(**6**―**16273**··259)をいふ。

【威武不レ能レ屈】138 ヰブモクツスルアタハズ 威力や武力を以てしても、其の人を屈服させることは出來ない。〔孟子、滕文公下〕富貴不レ能レ淫、貧賤不レ能レ移、威武不レ能レ屈、此之謂二大丈夫一。

【威侮】139 ヰブ おどしあなどる。又、威虐と侮慢。〔書、甘誓〕有扈氏威二侮五行一、怠二棄三正一。〔新書、大政上〕君以レ民爲二威侮一。〔後漢書、周擧傳〕威二侮良家一。

【威風】140 ヰフウ ❶威嚴ある樣子。威容。〔後漢書、章帝紀〕今自二三公一、並宜下明糾二非法一、宣中振威風上。〔呉志、張昭傳〕昭容貌矜嚴、有二威風一。〔殷芸小說〕李膺爲二侍御史一、青州凡六郡、惟陳仲擧、爲二樂安視事一、餘皆移レ病去、其威風如レ此。〔唐書、杜景佺傳〕吏歌レ之曰、錄事意、與レ天通、州司馬、折二威風一。❷さかんな氣勢。

【威服】141 ヰフク おそれ從はせる。又、怖れ從ふ。〔史記、秦始皇紀〕威二服海內一。〔漢書、武五子、燕刺王旦傳〕威二服四夷一。

【威福】142 ヰフク 威力で他をおどしたり、恩を著せて人を壓迫したりすること。〔書、洪範〕臣無レ有二作レ福作一レ威。〔漢書、刑法志〕朝無二威福之臣一。〔後漢書、安思閻皇后紀〕兄弟權要、威福自由。

〔風俗通、十反〕大作二威福一。〔吳質、在二元城一與二魏太子一牋〕下無二威福之吏一。〔通俗編、政治、作二威福一〕荀悅漢紀、作二威福一結二私交一以立二彊于世一者、謂二之遊俠一。

【威物】143 ヰブツ 人民を威服させる。〔詩、大雅、皇矣、克長克君、箋〕賞慶刑威曰レ君。〔疏〕賞慶刑威者、以レ賞慶レ人、以レ刑威レ物。

【威平】144 ヰヘイ 洞の名。浙江省淳安縣の西。一名、青溪洞・幇源洞。宋の方臘の反に、韓世忠が之を破り、窮追して青溪洞に至り、臘を擒としたので、威平と改む。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府、淳安縣〕威平洞、縣西七十里、一名青溪洞、一名幇源洞。宋宣和二年、賊方臘據レ此作レ亂、連陷二州郡一、三年、韓世忠、擊二敗之一、賊深據二巖屋一爲二三窟一、諸將莫レ知レ所レ入、世忠潛二行溪洞閒一、挺身擣二其穴一、擒レ臘以出、賊平、改二今名一。

【威柄】145 ヰヘイ 威光と權柄。いきほひと權力。威權。〔鶡冠子、學問〕處レ兵者、威柄所レ持、立二不敗之地一。〔漢書、辛慶忌傳〕莽方立二威柄一、用二甄豐甄邯一以自助。〔後漢書、丁鴻傳〕威柄不二以放一レ下。〔吳志、諸葛瑾傳〕威柄不レ專。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕被以二虎文一、獎蹴二威柄一。〔隋書、李穆傳〕願執二威柄一、以尉二安天下一也。

【威辟】146 ヰヘキ 威力ある法律。嚴重な刑罰。〔後漢書、酷吏傳論〕威辟既用、而苟免之行興。〔注〕辟、法也。

【威甫】147 ヰホ 明、鄭錡(11―39647‥62)の字。

【威鳳】148 ヰホウ ❶威儀ある鳳。〔關尹子、九藥〕威鳳以レ難レ見爲レ神、云云、走麝以レ遺レ香不レ捕。〔南史、劉遵傳〕弘二道下邑一、未レ申二善政一、而能使三人結二去思一、野多二馴翟一、此亦威鳳一羽、足三以驗二其五德一。〔宋書、符瑞志中〕元康四年、南郡獲二威鳳一。❷文章の名。唐の太宗作。威鳳を賢才に喩へて其の功を述べたもの。〔舊唐書、長孫無忌傳〕太宗追二思王業艱難、佐命之力一、又作二威鳳賦一、以賜二長孫無忌一。❸得がたい賢者の喩。

〖威鳳堂〗149 ヰホウダウ 明、陸培(11―41708‥210)の室名。

【威茂】150 ヰボウ 二州の名。威州(65)と茂州(9―30833‥68)。〔宋史、盧法原傳〕文龍至二威茂一、劉錡主レ之。

【威謀】151 ヰボウ 威力のあるはかりごと。〔揚雄、趙充國頌〕料レ敵制レ勝、威謀靡レ亢。

【威毛】152 ヰゲ ヲドシ 鎧の札を綴った絲、又は革。〔太平記、十七、山門攻事〕威毛こそ善くも候はねども。

【威猛】153 ヰマウ たけだけしい。たけだけしさ。又、威力がつよい。〔說苑、指武〕雖レ有二廣土衆民、堅甲利兵、威猛之將一。〔後漢書、王暢傳〕下車奮厲威猛。〔蜀志、張飛傳〕初、飛雄壯威猛、亞二於關羽一。

【威網】154 ヰマウ おきて。法律。法網。〔晉書、陶侃傳〕以二大難新除、威網寬簡一、欲下因二隙會一騁中其縱橫上耳。

【威名】155 ヰメイ 威光と名譽。又、威光があるといふ評判。威聲。聲威。〔漢書、趙廣漢傳〕威名流聞。〔後漢書、劉表傳〕聞二表威名一。〔魏志、張邈傳〕在二廣陵一有二威名一。〔魏志、王基傳〕威名折二於外一、財用窮二於內一。

【威命】156 ヰメイ 威嚴ある命令。威令。〔書、胤征〕欽承二天子威命一。〔左氏、昭、二十三〕帥賤而不レ能レ整、無二大威命一。〔逸周書、商誓解〕致二上帝之威命一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕專用二威命一。

【威明】157 ヰメイ ❶明かな威光。又、威光と聰明。〔漢書、翟方進傳〕天降二威明一。〔後漢書、齊武王縯傳〕憚二伯升威明一。❷字號。㋑後漢、皇甫規(8―22701‥222)の字。㋺前秦、薛強(9―32123‥33)の字。㋩梁、王規(7―20823‥192)の字。㋥唐、王君㚟(7―20823‥1368)の字。

【威揚】158 ヰヤウ 威光が揚がる。〔後漢書、劉陶傳〕及レ掌二戎馬一、威揚二朔北一、斯實中興之良佐也。

【威約】159 ヰヤク 威光が人の爲に制約せられること。〔司馬遷、報二任少卿一書〕搖レ尾而求レ食、積二威約一之漸也。

【威勇】160 ヰユウ ❶威光があつて勇武なこと。〔商子、飭令〕以二成智一謀、以二威勇一戰。❷明、劉聚(2―2224‥355)の諡。

【威裕】161 ヰユウ 威嚴と寬大。〔王僧孺、豫州墓誌銘〕治レ邊御レ衆、威裕兼行。

【威容】162 ヰヨウ おごそかなすがた。威光のある樣子。犯しがたい樣子。威風。〔後漢書、承宮傳〕宜レ選下有二威容一者上。〔魏志、劉表傳評〕威容器觀。〔顏延之、赭白馬賦序〕豈不下以國尙二威容一、軍駃中趫迅上而已。

【威利】163 ヰリ ❶威力と利益。〔管子、版法解〕其所二以能立レ威行レ令者、爲二其威利之操莫一レ不レ在レ君也、若使下威利之操不二專在一レ君、而有上所二分散一、則君日益輕、而威利日衰、侵暴之道也。❷誅罰と慶賞。〔司馬法、定爵〕人教厚靜乃治、威利章。

【威戮】164 ヰリク おどし罪する。〔晏子、諫、上〕威二戮無罪一、崇二尙勇力一、不レ顧二義理一。

【威立】165 ヰリツ 威勢が確立する。威光が行はれること。〔管子、幼官〕八擧而勝行威立。〔宋史、朱熹傳〕竄穴之所レ在、勢成威立、中外靡然向レ之。

【威栗】166 ヰリツ 威嚴を以て人を恐れしめること。〔柳宗元、貞符〕帝庸二威栗一、惟人之爲。

【威略】167 ヰリヤク 威力のあるはかりごと。〔後漢書、朱穆傳〕威略權宜。〔陸機、晉平西將軍孝侯周處碑〕振二茲威略一、宣二其惠和一。

【威虜】168 ヰリヨ 城の名。甘肅省金塔縣の東北。明初、威虜衞を置いたが、尋いで廢す。

【威陵】169 ヰリヨウ 威光が他をしのぐこと。〔穀梁、僖、四、其不レ言レ使、權在二屈完一也、注〕邵曰、齊桓威陵二江漢一。〔漢書、五行志下之下〕威陵二京師一。〔劉孝威、辟厭青牛畫贊〕名震二八區一、威陵二五都一。

【威稜】170 ヰリヨウ みいつ。神靈の威力。天子の御威光。威靈。稜威。〔漢書、李廣傳〕威稜憺二乎鄰國一。〔注〕李奇曰、神靈之威曰レ稜。〔王先謙補注〕稜、俗稜字、木四方爲レ稜、人有レ威如二有レ稜者一然、故曰二威稜一、後漢班固レ王允傳注、並訓レ稜爲レ威、非二獨神靈之威曰一レ稜也。〔顏延之、赭白馬賦〕王于興レ言、闡二肆威稜一。

【威力】171 ヰリヨク 他をしておそれ服せしめる力。人を畏服させる力。〔新語、至德〕皆輕用レ師、而尙二威力一。〔晉書、劉琨傳〕仰二憑威力一、庶雪二國家之恥一。

〖威力制縛〗172 ヰリヨクセイバク 威力を濫用して強制的に人の進退を拘束すること。〔唐律、鬭毆〕諸以二威力一制二縛人一者、各以二鬭毆一論。〔六部成語、刑部、威力制縛人、注解〕以二強力一壓二制人一、不レ能二自由一也。

〖威力偵察〗173 ヰリヨクテイサツ 敵の防禦を冒して強行する敵情視察。

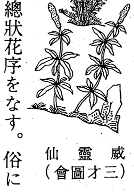
【威臨】174 ヰリン 威嚴を以て人に接する。〔後漢書、徐璆傳〕太后怒遽徵レ忠、爲二司隸校尉一以相威臨。

【威令】175 ヰレイ 威嚴のある命令。威明。〔管子、牧民〕不レ祇二山川一、則威令不レ聞。〔新書、威不信〕捫然數百里、而威令不レ信。

【威厲】176 ヰレイ 威力がはげしい。〔史記、禮書〕威厲而不レ試。〔孔子家語、始誅〕威厲而不レ試、刑錯而不レ用。

【威靈】177 ヰレイ いかめしく尊い力。不思議な威光。威力ある神靈。威神。威稜(170)に同じ。〔楚辭、九歌、國殤〕天時墜兮威靈怒。〔漢書、敍傳下〕燀二燿威靈一。〔王褒、四子講德論〕今聖德隆盛、威靈外覆。〔注〕向曰、靈、神也。〔後漢書、皇甫規傳〕幸蒙二威靈一、遂振二國命一。〔吳志、是義傳〕宣二揚德美一、廣二燿威靈一。〔何晏、景福殿賦〕不レ足三以一レ民而重二威靈一。〔文天祥、過二平原一作〕唐家再造李郭力、若論二牽制一公威靈。

〖威靈仙〗178 ヰレイセン 草の名。山地に自生する多年生草本。莖の高さ三四尺。葉は闊箭鏃形で輪生。夏、合瓣花を開き、紫碧色で長總狀花序をなす。俗に鐵腳威靈仙といふ。〔本草、威靈仙〕釋名、時珍曰、威、言二其性猛一也、靈仙、言二其功神一也、集解、時珍曰、其根每年旁引、年深轉茂、一根叢鬚數百條、長者二尺許、初時黃黑色、乾則深黑、俗稱二鐵腳威靈仙一。



威靈仙

（三才圖會）

〖威靈之號〗179 ヰレイノガウ 威光のある名。〔後漢書、班固傳上〕承二休明之策一、建二威靈之號一。

〖威靈千歲空〗180 ヰレイセンザイムナシ 久しく年を經て天子の威光も空しくなつた。〔宋之問、奉三和幸二長安故城未央宮一應制詩〕壯麗一朝盡、威靈千歲空。

【威烈】181 ヰレツ ❶盛な威光。非常な威力。威霆(118)に同じ。〔後漢書、度尙傳〕畏二尙威烈一、徙入二山谷一。❷諡號。㋑南唐、何敬洙(1―511‥252)の諡。㋺南唐、柴克宏(6―14664‥103)の諡。㋩清、占

泰(**2**−**2780**‥61)の諡。

【威烈王】182ヰレツワウ 周、第三十二代の王。姫午(**3**−**6230**‥35)を見よ。

【威廉】182′ウイリアム 人名。㊀イギリスの王。William ㊁ウイルヘルム プロシヤの王。Wilhelm

【威輦】183ヰレン 晉、董京(**9**−**31433**‥57)の字。

【威王】184ヰワウ ㊀複姓。〔廣韻〕王、風俗通云、漢有二中郎威王弼一、出レ自二楚威王後一。㊁戰國、田齊、第三代の王。田因齊(**7**−**21723**‥339)を見よ。

【嚴レ威】185ヰヲゲンニス 威光を嚴正にする。〔史記、齊悼惠王世家〕今諸呂又擅、自尊レ官、聚レ兵嚴レ威。

【飾レ威】186ヰヲカザル 動作や儀式によつて威嚴を外に飾り示す。〔荀子、禮論〕凡禮、事レ生飾レ歡也、送レ死飾レ哀也、祭祀飾レ敬也、師旅飾レ威也。

【霽レ威】187ヰヲハラス 怒を解く。霽は止。〔漢書、魏相傳〕相心善二其言一、爲霽二威嚴一。〔唐書、魏徵傳〕徵有二志膽一、每犯レ顏進諫、雖レ逢二帝甚怒一、神色不レ徙、而天子亦爲霽レ威。

【動レ威】188ヰヲウゴカス 威光を示す。〔書、金縢〕惟予沖人、弗レ及レ知、今天動レ威、以彰二周公之德一。〔傳〕發二雷風之威一。

【凌レ威】189ヰヲシノグ 威力におそれないこと。〔晉書、孫楚傳〕凌レ威奮伐、深入二其阻一。

【威汚蠖】190ヰヲクワク しやくとり蟲の化物の名。〔幽怪錄〕隋來君綽夜行、投二宿野人家一、主人曰二威汚蠖一、奴曰二蝸兒一、館レ之甚厚、翊眎二其處一、乃陂澤沮洳、有二蚓螺在一焉。

【威應洪】191ヰオウコウ 清の人。字は曉廷。諡は節愍。咸豐の間、田興恕に從ひ、功を以て參將を拜命す。同治の間、粵寇李復猷と洪州に戰つて難に死す。〔續碑傳集、六十八〕・〔中興將帥列傳、二十九上〕。

【威俄明】192ワイオミング 米國の州名。Wyoming

【威海衞】193ヰカイエイ 地名。山東省文登縣の北。漢の東牟縣城。唐以後の牟平縣。金元の寧海州の地。明の洪武中、威海衞を分置し、登州府に屬せしめたが、清、省いて文登に入る。三面に山を環らし、劉公島其の前を扼す。水道を分つて二とし、島の北を西水道といひ、口が東北に向ひ、水が深く廣く、吃水十八尺の汽船の通行も可能。島の南を東水道といひ、口は東に向ひ、水が淺く礁が多く、船舶は出入せず。港内は水深三十五尺、冬期も結氷せず、形勢が頗る險固なので、清の光緒八年、砲臺を築き、北洋海軍の根據地とす。日清戰爭の際、日本軍は、旅順・大連を占領し、進んで此の地を攻めて之に據る。光緒二十四年、露國が旅順・大連を租借した時、英國も亦威海衞を租借した。面積二百八十五英方里。民國十一年の太平洋會議後、英國は主權を中國に返還した。〔讀史方輿紀要、山東、登州府、寧海州附見〕威海衞、文登縣北九十里、洪武三十一年置、領二左右二千戶所一、衞城周六里有奇。

【威嬉拒】194ヰイキヨ 書名。孝經緯の一種。今、佚す。其の輯本は古微書にある。

【威士克】195ウヰスキー 洋酒の名。又、威士忌とも書く。whisky

【威子伯】196ヰシハク 上古の人。湯の師。〔新序、雜事五〕湯學二乎威子伯一。

【威斯馬】197ヴイスマル ドイツのメクレンブルクシユヴエリンの海港。Wismer

【威爾斯】198ウエルス 地名。大ブリテン三部の一。島の西部。Wales

【威爾滿】199ヴアーモント 地名。アメリカ合衆國東北部の一州名。Vermont

【威順后】200ヰジユンコウ 金の昭祖の后、徒單后(**4**−**10121**‥72)の諡號。

【威丈高】201ヰタケダカ 坐つた身丈を高くする意。人を威壓する態度の形容。居丈高。

【威丁儀】202ヴイツテンベルク 威丁堡に同じ。

【威丁堡】203ヴイツテンベルク 地名。ドイツのエルベ河に沿ふ都會の名。ベルリンの西南五十九哩。ルーテルの宗教改革の發祥地として知られてゐる。Wittenberg

【威尼斯】204ヴエニス 地名。イタリヤ北部の一省。又、同省の首邑。風光明媚を以て知らる。Venice

【威尼爾】205ウエーネル 湖の名。瑞典西南に在り、歐洲第三の大湖。Wener

【威馬爾】206ワイマル 地名。ドイツ中部の都會。古、サツクス-ワイマル公國の首都。Weimar

【威蕃柵】207ヰハンサク 地名。今の四川省北川縣の西。吐蕃入寇の要路に當る。宋の孫義叟、城を此處に築く。〔讀史方輿紀要、四川、龍安府、石泉縣〕威蕃城、縣西三十里、唐之威蕃柵也、亦曰二威蕃亭一、唐書王涯傳、吐蕃有二兩道一、一由二龍安青川一、一由二綿州威蕃柵一、抵二棲雞城一、皆番之險要、宋神宗時、靜州蠻攻二茂州一、窒二隴東道一以孤二石泉一、成都守孫義叟、經二畫事宜一、以、石泉爲二邑介一、綿茂之閒、道里闊遠、緩急不二相應一、非レ扼二其衝要一、不レ足レ捍二外患一、於レ是、請下改二石泉一爲上レ軍、德陽人張上行言二於義叟一曰、去二石泉二三十里、威蕃亭地、名二柵底一、卽唐之威蕃柵也、宜下先築二堡寨一、以禦二其來一、然後建レ軍調レ兵以圖上レ之、於レ是、城二其地一。

【威不信】208ヰフシン 新書の篇名。

【威龍州】209ヰリヨウシウ 元、置き、明、改めて長官司とす。故治は今の四川省西昌縣の東南。〔清史稿、地理志〕四川、寧遠府、土司十一、威龍州長官司。

【威林敦】210ウエリントン ㊀地名。ニユージーランド北島の都邑。Wellington ㊁人名。ウエリントン公爵。英國の將軍。ウオタールーでナポレオンを破つて勇名を馳せた。

【威士干遜】211ウイスコンシン 威斯康星(213)を見よ。

【威至威士】212ワーズワース 人名。十八世紀より十九世紀の中頃に於ける英國著名の詩人。Wordworth

【威斯康星】213ウイスコンシン 地名。アメリカ合衆國の一州。北境はスペリオル湖に、東境はミシガン湖に接す。Wisconsin

【威而不レ猛】214ヰアリテタケカラズ 威嚴はあるがあらあらしくない。〔論語、述而〕子溫而厲、威而不レ猛、恭而安。

【威尊命賤】215ヰタツトクイノチイヤシ 將軍の威令が嚴重で部下は身命を輕んじて危險に臨む意。〔李華、弔二古戰場一文〕法重心駭、威尊命賤。

【作レ威作レ福】216ヰヲナシフクヲナス 君が賞罰の實權を專らにすること。轉じて、臣下が權勢を恃んで人を凌ぐこと。〔書、洪範〕惟辟作レ福、惟辟作レ威、惟辟玉食。〔疏〕惟君作レ福、得レ專レ賞レ人也、惟君作レ威、得レ專レ罰レ人也、云云、爲レ臣無三得有二作レ福作レ威玉食一、言二政當レ一レ統、權不レ可レ分也。

【威錦堂主人】217ヰキンダウシユジン 金、王予可(**7**−**20823**‥2145)の號。〔金史、王予可傳〕王予可、字南雲、河東吉州人、父本軍校、予可亦嘗隸籍、年三十年許、大病後、忽發狂、久之能把レ筆作二詩文一、及說二世外恍惚事一、南渡後、居二上蔡・遂平・郾城之間一、遇二文士一則稱二大成將軍一、於二佛前一則稱二諦摩龍什一、於レ道則稱二翳天玄俊一、於二貴游一則稱二威錦堂主人一。

【威克二厥愛一允濟】218ヰソノアイニカツトキハマコトニナル 嚴威が其の恩愛の私情にかつ時は、士卒が將を畏れて敵を畏れず、勇戰奮鬪するから、眞に國の大事は成就する。軍事に就いていふ。〔書、胤征〕威克二厥愛一允濟、愛克二厥威一允罔レ功。

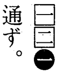
【威斯特發里亞】219ウエストフアリア 地名。ドイツの一省。三十年戰爭の媾和調印地として有名である。Westphalia

【有レ威而可レ畏謂二之威一】220ヰアリテオソルベキコレヲヰトイフ 威光があつて自然に畏るべきものを眞の威といふ。〔左氏、襄、三十一〕有レ威而可レ畏、謂二之威一、有レ儀而可レ象、謂二之儀一。

【娖】6260

[一]タ 〔集韻〕都果切 哿

[二]タ 〔集韻〕都唾切 箇



小篆

[一][二] ㊀**はかる**。挆(**5**−**12030**)に通ず。〔說文〕娖、量也、从レ女朶聲。〔說文通訓定聲〕娖、按、與レ揣略同、字亦作レ挆。〔廣雅、釋詁三〕挆、量也、又按、字从レ女、當レ有二本訓一、量之訓、借爲レ揣耳。㊁**あでやか**。女の容貌が花の垂れてゐるやうに美しいこと。〔正字通〕娖、一曰、女容如二花之垂一、言二美好一也。㊂**女のあざな**。〔集韻〕娖、一曰、女字。

【娂】6261

コウ 妅(**3**−**6064**)に同じ。〔集韻〕妅、或从レ共。

【娃】 6262

［一］アイ エ　〔集韻〕於佳切　ㄨㄚˊ　wa^2　佳

［二］ワ ヱ　〔正韻〕烏瓜切　麻

小篆

［一］［二］㊀**丸くて窪んだ目のさま**。かなつぼまなこ。どんぐりまなこ。〔說文〕娃、圜深目皃也、从ㇾ女圭聲。㊁**みめよい**。うつくしい。〔說文〕娃、或曰、吳楚之閒、謂ニ好娃一。〔廣雅、釋詁一〕娃、好也。〔方言、二〕娃、美也、吳楚淮衡之閒、曰ㇾ娃、吳有ニ館娃之宮一。㊂**美女**。たをやめ。〔正字通〕娃、美女也、揚雄、反騷、資ニ娵娃之美髢一。㊃眭（**8－23276**）に通ず。〔說文通訓定聲〕娃、字亦作ㇾ眭、說文新附、眭、深目也。㊄［現］㋑子供。㋺下男。

【娃娃】1 wa^2 wa　赤子。赤ん坊。娃子。

【娃娃臉】2 wa^2 wa lien^3　最上等の珊瑚。

【娃娃生】3 wa^2 wa shêng^1　幼童に扮する役者。子役。

【娃嬴】4 アイ エイ　趙の吳廣の女の名。〔史記、趙世家〕武靈王、遊ニ大陵一、他日、王夢見ニ處女一、鼓ㇾ琴而歌曰、美人熒熒兮、顏若ニ苕之榮一、命乎命乎、曾無ニ我嬴一、異日、王飮ㇾ酒樂、數言ㇾ所ㇾ夢、吳廣聞ㇾ之、因ニ夫人一而內ニ其女娃嬴・孟姚一也、孟姚甚有ㇾ寵ニ於王一、是爲ニ惠后一。〔注〕娃、美也。

【娃姣】5 アイ カウ　美しい女。美女。〔賈曾、上ニ東宮一啓〕娃姣動ㇾ心、蠱惑喪ㇾ志。

【娃鬟】6 アイ クワン　うつくしいまげ。轉じて、美人。娃は美女、鬟は總髻。〔李賀、神仙曲〕猶疑王母不ニ相許一、垂霧娃鬟更傳語。

【娃草】7 アイ サウ　草の名。葳蕤（**9－31456・・3**）の㊆を見よ。〔述異記、下〕葳蕤草、一名ニ麗草一、又呼爲ニ女草一、江浙中、呼ニ娃草一、美女曰ㇾ娃、故以爲ㇾ名。

【娃子】8 wa^2 tzŭ　娃娃（1）に同じ。

【娃媠】9 アイ ダ　みめよい。美しい。娃嫷に同じ。

【娃嫷】10 アイ ダ　みめよい。娃媠。〔方言、二〕娃、嫷、窕艷美也、吳楚衡淮之閒曰ㇾ娃、南楚之外曰ㇾ嫷。

【妻】 6263　サイ　妻（**3－6140**）の古字。〔玉篇〕妻、古文妻。

【⿰女自】 6264　シツ　嫉（**3－6611**）に同じ。〔集韻〕嫉、或从ㇾ自。

【⿰⿱夕女攵】 6265　ダツ　奪（**3－5994**）の古字。〔字彙補〕⿰⿱夕女攵、古文奪字。

【⿰女𠂤】 6266　タイ ツイ　〔集韻〕都回切　灰

女のあざな。或は、⿰女追（**3－6623**）に作る。〔集韻〕⿰女𠂤、女字、或从ㇾ追。

【妛】 6267　キ　〔篇海類編〕音諱

㊀**女の名**。〔篇海類編〕妛、女名。㊁**みめよい**。〔篇海類編〕妛、好也。

【⿰女囟】 6268　セイ サイ　〔集韻〕子計切　霽

女のあざな。〔集韻〕⿰女囟、女字。

【⿰女休】 6269　キウ ク　〔集韻〕虛尤切　尤

女のあざな。〔集韻〕⿰女休、女字。

【⿰女⿱巛山】 6270　ダウ ノウ　〔集韻〕乃老切　皓

なやむ。⿰女⿱巛⿱囟心（**3－6746**）・⿰女⿱巛囟（**3－6480**）・⿰女怱（**3－6454**）・⿰女出（**3－6142**）に同じ。〔篇海類編〕⿰女⿱巛山、懊⿰女⿱巛山也。〔龍龕手鑑〕⿰女⿱巛山、正作ㇾ⿰女⿱巛⿱囟心、或作ニ⿰女⿱巛囟・⿰女怱一、俗作ニ⿰女出・⿰女巛・⿰女⿱山山・娙一、今作ㇾ⿰女⿱巛山。

【娙】 6271　ダウ　⿰女⿱巛山（**3－6270**）に同じ。〔龍龕手鑑〕娙、同ㇾ⿰女⿱巛山。

【姌】 6272　ゼン　〔川篇〕音冉

みめよいさま。美しい。〔川篇〕姌、好貌。

【⿰女伊】 6273　イ　〔集韻〕於夷切　支

女のあざな。〔集韻〕⿰女伊、女字。

【⿰女而】 6274　ジ　而部三畫の耍（**9－28876**）を見よ。

【⿰女夆】 6275　ホウ　妦（**3－6108**）の譌字。

【⿰女卯】 6276　バウ・リウ　義未詳。〔川篇〕⿰女卯、音卯、又音柳。

【⿱⺈女】 6277　サイ　妻（**3－6140**）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱⺈女、同ㇾ妻。

【娄】 6278　ル　婁（**3－6383**）の俗字。〔中華大字典〕娄、婁俗字。

七畫

【⿰女卮】 6279　クワ　姽（**3－6211**）の俗字。〔字彙〕⿰女卮、俗姽字。

【⿰女夾】 6280

［一］ケフ　〔集韻〕呼帖切　葉

［二］セフ　〔集韻〕卽協切　葉

［三］ケン　〔集韻〕虛檢切　琰

小篆

［一］㊀**志を得る**。**こころよい**。愜（**4－10948**）に同じ。〔說文〕⿰女夾、得ㇾ志⿰女夾⿰女夾也、从ㇾ女夾聲。〔說文通訓定聲〕⿰女夾、與ㇾ愜略同。〔集韻〕愜、說文、快也、或作ㇾ⿰女夾。㊁**いきづく**。呼吸する。呷（**3－3461**）に通ず。〔說文通訓定聲〕⿰女夾、叚借爲ㇾ呷。〔說文〕⿰女夾、一曰、⿰女夾息也。㊂**せく**。せきこむ。媘（**3－6531**）に通ず。〔說文通訓定聲〕⿰女夾、叚借爲ㇾ媘。〔說文〕⿰女夾、一曰、少气也。［二］**せく**。［一］の㊂に同じ。〔集韻〕⿰女夾、一曰、少气。［三］⿰女夾姱は氣だてがよくない。〔集韻〕⿰女夾、性不ニ端良一、謂ニ之⿰女夾姱一。

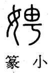
【⿰女呂】 6281　リヨ ロ　〔集韻〕兩擧切　語

みにくいさま。或は⿰女旅（**3－6228**）に作る。〔集韻〕⿰女呂、醜皃、或作ㇾ⿰女旅。

【娉】 6282

［一］ヘイ ヒヤウ　〔集韻〕匹正切　ㄆㄧㄥˋ　p'ing^4　敬

［二］ハウ ヒヤウ　〔正韻〕彼耕切　ㄆㄧㄥ　p'ing^1　庚


小篆

［一］㊀**とふ**。女の名をとふ。轉じて、**めとる**。〔說文〕娉、問也、从ㇾ女甹聲。〔段注〕凡娉女及聘問之禮、古皆用ニ此字一、娉者、專詞也、聘者、汎詞也。〔廣韻〕娉、娶也。㊁**そこなふ**。妨（**3－6111**）に通ず。〔說文通訓定聲〕娉、叚借爲ㇾ妨、娉・妨雙聲。〔廣雅、釋詁三〕娉、害也。〔疏證〕娉・妨一聲之轉、釋言云、妨、娉也、說文云、妨、害也。㊂**めす**。**よぶ**。聘（**9－29079**）に通ず。〔說文通訓定聲〕娉、叚借爲ㇾ聘。〔左氏、

成、十一〕聲伯之母不レ聘。〔釋文〕聘、本亦作レ娉。㊂**美しいさま**。娉婷(3)を見よ。

【娉會】1 ヘイクワイ 其の人と婚約を結んだだけで未だ婚禮を行はない女。妻と同一に見做す。〔漢故相小史夏堪碑〕娉會謝氏、幷レ靈合レ柩。

【娉財】2 ヘイザイ 婚約の正確を保障する爲に授受する物件。我が國の結納、六禮の納幣、或は納徵にあたる。〔唐律、戶婚〕雖レ無二許婚之書一、但受二娉財一亦是。

【娉婷】3 ヘイテイ 美しいさま。又、美人。〔正韻〕娉、娉婷、美貌。〔韓愈、和二崔舍人詠レ月二十韻詩一〕牖光窺二寂寞一、砧影伴二娉婷一。〔白居易、夜聞二歌者一詩〕獨倚二帆檣一立、娉婷十七八。〔李羣玉、泛二東湖一詩〕綵舟浮二滉蕩一、綉轂下二娉婷一。

【娉婷嬝娜】4 p'ing^1 t'ing^2 niao^3 nuo^2 美人をいふ。〔長生殿、冥追〕便是娉婷嬝娜、落來的好巢窩。

【娉內】5 ヘイナイ 妻をめとるに、名を問ひ禮物を贈ること。聘納。內は納。〔荀子、富國〕婚姻娉內、送逆無レ禮。〔注〕娉、問名也。內、讀爲レ納、納幣也。

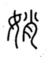
【娉命】6 ヘイメイ 婚姻の約束。婚約。〔北史、列女、涇州貞女兒氏傳〕與レ君娉命雖レ畢、二門多レ故、未レ及二相見一。

【娉問】7 ヘイモン 聘問(9—29079・・38)に同じ。

【娊】6283 ケン ゲン 〔集韻〕胡典切 ［銑］

❶**女のあざな**。〔集韻〕娊、女字。❷**女の細腰のさま**。〔字彙〕娊、女細腰皃。

【娋】6284 ㊀サウ セウ 〔集韻〕所教切 ［效］ ㊁シャク サク 〔集韻〕七約切 ［藥］ ㊂サウ セウ 〔集韻〕師交切 ［肴］


小篆

㊀㊁**徐々にをかす**。〔說文〕娋、小侵也、从レ女肖聲。〔段注〕侵者、漸進也、凡用二稍稍字一者、謂二出レ物有レ漸、凡用二娋娋字一者、謂二以レ漸侵レ物也。㊂❶**あね**。〔方言、十二〕娋・孟、姊也。〔集韻〕娋、博雅、娋・孟、姊也。❷或は⿱稍女(3—6702)に作る。〔集韻〕娋、或从レ稍。

【⿰女求】6285 キウ グ 〔集韻〕渠尤切 ［尤］

女のあざな。〔集韻〕⿰女求、女字。

【⿰女耴】6286 テフ 〔集韻〕陟涉切 ［葉］

女の善くないさま。⿰女耴⿰女臿。〔集韻〕⿰女耴、⿰女耴⿰女臿、女不レ善皃。

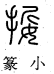
【娌】6287 リ 〔集韻〕兩耳切 ［紙］ ㄌㄧˇ li^3

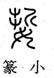
あひよめ。兄弟の妻が、互に呼びあふ稱。〔廣雅、釋親〕兄弟之妻、相呼曰二妯娌一。〔集韻〕娌、妯娌、娣姒婦也。

【娍】6288 ㊀セイ ジヤウ 〔集韻〕時征切 ［庚］ ㊁セイ ジヤウ 〔集韻〕時正切 ［敬］

㊀**女の名**。〔集韻〕娍、女名。㊁❶**すらりとしてみめよいさま**。〔集韻〕娍、長好皃。❷**うつくしい**。〔集韻〕娍、一曰、美也。

【娎】6289 ㊀ケツ ケチ 〔集韻〕許列切 ［屑］ ㊁ケウ 〔集韻〕馨叫切 ［嘯］


小篆（說文）


小篆（段注本）

㊀❶**こころよい**。〔說文〕娎、娎⿰女夾也、从レ女折聲。❷**よろこぶ**。〔廣雅、釋詁一〕娎、喜也。❸**よろこぶさま**。〔廣韻〕娎、娎⿰女夾、喜皃。㊁娎⿰女夾は、よろこぶさま。〔廣韻〕娎、娎⿰女夾、喜皃。

【⿰女折】6290 ㊀セツ セチ 〔集韻〕之列切 ［屑］ ㊁ケツ

㊀**女のあざな**。〔集韻〕⿰女折、女字。㊁娎(3—6289)に同じ。〔篇海類編〕⿰女折、同レ娎。

【娏】6291 バウ マウ 〔集韻〕莫江切 ［江］

女神の名。〔集韻〕娏、埤倉、女神名。

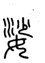
【娐】6292 ㊀フ フウ 〔集韻〕芳無切 ［虞］ ㊁ブ 〔集韻〕房尤切 ［尤］

㊀**女のあざな**。嬔(3—6866)に同じ。〔集韻〕嬔、女字、或作レ娐。㊁**女のあざな**。〔集韻〕娐、女字。

【⿰女更】6293 サウ

嫂(3—6463)に同じ。〔正字通〕⿰女更、同レ嫂。

【娑】6294 ㊀サ 〔集韻〕桑何切 ［歌］ ㄙㄨㄛ suo^1 ㊁サ 〔集韻〕想可切 ［哿］ ㊂サ 〔字彙〕蘇箇切 ［箇］ ［慣］シヤ


小篆

㊀❶**まふ**。**舞ふさま**。〔說文〕娑、舞也、从レ女沙聲、詩曰、市也媻娑。❷**物のさま**。婆娑(3—6390・・6)・娑娑(1)の❶を見よ。❸沙(6—17212)に通ず。〔詩、魯頌、閟宮、傳〕犧尊有二沙飾一也、〔疏〕沙、卽娑字也。❹逤(11—38903)・些(1—268)に通ず。〔正字通〕娑、或作レ逤、通作レ些。㊁❶駊娑は宮殿の名。〔集韻〕娑、駊娑、殿名。〔班固、西都賦〕經二駘盪一而出二駊娑一。〔注〕善曰、關中記曰、建章宮、有二駊娑・駘盪・枍詣・承光四殿一。❷［佛］Sa 悉曇五十字門の一。一切悉皆の意。〔金剛頂經〕娑字門、一切法一切諦、不レ可レ得故。㊂❶邏娑は唐代の吐蕃の地名。今の西藏の拉薩。〔字彙〕娑、邏娑、吐蕃都城名。〔唐書、薛仁貴傳〕爲二邏娑道行軍總督一。❷［佛］娑婆(3)の❷・娑羅(8)を見よ。

【娑娑】1 ササ ㋑衣のひらめきあがるさま。又、衣の盛で美しいさま。〔正字通〕娑、娑娑、衣揚貌。〔張衡、思玄賦〕脩二初服之娑娑一兮、長二余珮之參參一。〔注〕向曰、娑娑・參參、皆盛皃。〔後漢書、張衡傳、注〕娑娑、衣皃。㋺そよぐさま。〔皮日休、桃花賦〕微動輕風、娑娑暖紅、又若三飛燕舞二於堂中一。

【娑尊】2 サソン 酒器の名。犧尊(7—20209・・15)に同じ。

【娑婆】3 サバ ❶舞ふさま。婆娑(3—6390・・6)の❶に同じ。〔王禹偁、后土廟瓊花詩〕老松擎レ雪白婆娑。❷［佛］シャバ 梵語 sahā の音譯。又、索訶・娑訶に作る。三千大千國土の總稱。忍土・忍界・能忍等と譯す。卽ち、人間がよく諸〻の苦惱に堪へ忍んでゐる處。又、佛の說法する處。轉じて、人間界。此の世。現世。〔法華文句、二下〕娑婆、此翻レ忍、其土衆生、安二於十惡一、不レ肯二出離一、從レ人名レ土、故稱爲レ忍、悲華經云、云何名二娑婆一、是諸衆生忍二受三毒及諸煩惱一、故名二忍土一、亦名二雜會一、九道共居故。〔翻譯名義集、世界〕西域記云、索訶、世界三千大千國土、爲二一佛之化攝一也、舊曰二娑婆一、又曰二娑訶一、皆訛、楞迦翻二能忍一。❸俗に、牢獄を地獄に喩へて、牢獄以外の自由の地をいふ。

【娑婆訶】4 ソワカ ［佛］梵語 svāhā の音譯。咒文の末

に稱する語。咒文を至心に唱へた意。蘇婆訶・蘇波訶と同じ。〔祕藏記、本〕娑婆訶、究意義、圓滿義、驚覺義、成就義、散去義。〔通俗編、語辭、娑婆訶〕夢溪筆談、夔峽湖湘人、凡禁呪語、末云二娑婆訶一、三合而爲レ些、卽楚詞招魂所レ用些字、翻譯名義、娑婆、秦言二一切一、與二夢溪一說異。

【娑婆塞】5 シヤバフサゲ 無益に生存して此の世の邪魔となる者を罵る語。〔當流小栗判官、五〕娑婆塞げの似非者。

【娑婆婆】6 シヤババ [佛]梵語 vāsava の音譯。帝釋天をいふ。婆詵私 vāsava といふ衣を布施したからいふ。〔雜阿含經、四十〕比丘復白レ佛言、何因何緣、復名二娑婆婆一、佛告二比丘一、彼釋提桓因、本爲レ人時、數以二婆詵私衣一、布施供養、以二是因緣一故、釋提桓因、名二娑婆婆一。

【娑婆世界】7 シヤバセカイ [佛]三千大千國土の總稱。娑婆の❷を見よ。〔法華玄贊、二本〕乃是三千大千世界、號爲二娑婆世界一也。

【娑羅】8 サラ シヤラ 梵語 sāla, sāla の音譯。堅固と譯す。印度に產する龍腦香科の木の名。高さ百餘尺に達する落葉喬木。葉は長卵形。花は小形淡黃色。釋迦佛の涅槃に依つて殊に名高い木。沙羅。沙羅雙樹。〔涅槃經疏、一〕娑羅雙樹、此翻二堅固一、一方二株、四方八株、悉高五丈、四榮四枯、下根相連、上枝相合。〔大唐西域記、六〕至二娑羅林一、其樹類レ槲而皮青白、葉甚光潤。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕巴陵有二寺僧一、房牀下忽生二一本一、隨伐隨長、外國僧見曰、此娑羅也。

【娑羅花】9 シヤラクワ 樹木の名。峨眉山中に生ず。數葩、房を合して生じ、葉がその外に附く。枇杷に似てゐる。〔益部方略記〕娑羅花、聚レ葩共レ房、葉附二華外一、根不レ得レ徙、見レ偉二玆世一。〔注〕生二峨眉山中一、似二枇杷一、數葩合房、春開、葉在レ表、花在レ中。

【娑羅華】10 シヤラゲ [佛]白紙で造つた華。娑羅雙樹に模したもの。葬儀に用ひる。〔釋氏要覽、下〕用二白紙一作二娑羅華八樹一、以簇二繩床一、表二雙林之相一。

【娑羅樹】11 シヤラジユ 娑羅の木。娑羅を見よ。〔長阿含經、一〕毘舍婆佛、坐二娑羅樹下一、成二最正覺一。〔事物異名錄、樹木、菩提樹〕華夷花木攷、娑羅樹、出二西番海中一、潯州官圃一株、甚巨、每枝生レ葉七片、所謂七葉樹也、其樹詳二於佛書一、維摩詰經、有二菴羅樹一、唐會要云、菩提樹、一名波羅樹、卽思惟樹、一名成道樹、又名二婆羅樹一、蓋婆・娑音同、故互二言之一耳、今月中樹影、皆曰二閻浮山娑婆樹影一、卽此。

【娑羅緜】12 シヤラメン 樹木の名。先づ花を開いて後に葉を生じ、花蕊に緜がある。〔太平廣記〕黎州通望縣銷樟院池南、有二大娑羅緜樹一、三四人連レ手抱合、方匝、先花後葉、花蕊有レ緜、謂二之娑羅緜一。

【娑羅林】13 シヤラリン 娑羅樹の茂つた林。〔大唐西域記、六〕渡二阿恃多伐底河一、西岸、不レ遠至二娑羅林一、其樹類レ槲而皮青白、葉甚光潤、四樹特高、如來寂滅之所也。

【娑羅雙樹】14 シヤラサウジユ サラサウジユ 釋尊が其の下で入滅したといふ樹。雙樹は二本づつ並び生えてゐたからいふ。娑羅を見よ。〔遺教經〕於二娑羅雙樹間一、將レ入二涅槃一。

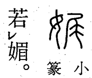
【娑勒】15 サロク 漢代、西域の國名。疏勒(7－22000・・207)の❷を見よ。

【〓】6295 ル 婁(3－6383)の古字。〔說文〕婁、〓、古文婁如レ此。〔玉篇〕〓、古文婁。

【娒】6296 ボ ❶姆(3－6159)に同じ。〔集韻〕姆、女師也、或省。❷侮(1－630)に同じ。〔集韻〕侮、說文、傷也、一曰、慢也、或作レ娒。

【娓】6297

[一] ビ ミ 〔集韻〕明祕切 寘
[二] ビ ミ 〔集韻〕武斐切 尾 ㄨㄟˇ wei³
[三] キ 〔集韻〕詡鬼切 未
[四] ビ ミ 〔集韻〕旻悲切 支


小篆

[一][二][三][四]❶すなほ。したがふ。〔說文〕娓、順也、从レ女尾聲、讀若レ媚。〔廣韻〕娓、從也。❷うつくしい。媄(3－6478)に通ず。〔說文通訓定聲〕娓、叚借爲レ媄。〔玉篇〕娓、美也。❸つとめる。亹(1－342)に通ず。〔正字通〕娓、本作レ亹。〔字彙〕娓、勉也。❹くどくどしいさま。娓娓(2)を見よ。

【娓瑣】1 ビサ ぐづぐづする。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕鴻特不レ厭二娓瑣一、表而出レ之。

【娓娓】2 ビビ くどくどしいさま。〔福惠全書、刑名部、姦情、強姦〕若言一入レ耳、娓娓可レ聽。

【娔】6298 コク 婌(3－6502)に同じ。〔字彙〕娔、同レ婌。

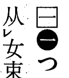
【〓】6299 サン 奻(3－6145)に同じ。〔集韻〕奻、或作レ〓。

【〓】6300 トウ ツ 〔集韻〕丁候切 宥

❶どもる。䛠(10－35815)に同じ。〔集韻〕䛠、埤倉、䛠譳、不レ能レ言也、亦作レ〓。❷姓。〔字彙〕〓、姓也。

【娕】6301

[一] サク 〔集韻〕測角切 覺
[二] シヨク ソク 〔集韻〕叉足切 沃
[三] ライ 〔集韻〕落蓋切 泰


小篆

[一]❶つつしむ。〔說文〕娕、謹也、从レ女束聲、讀若二謹敕數數一。❷よい。〔集韻〕娕、一曰、善也。❸或は嫩(3－6841)・趚(10－37759)・娖(3－6302)・嬬(3－6919)に作る。〔集韻〕娕、或作二嫩・趚・娖・嬬一。[二]ととのへる。娖(3－6302)に同じ。〔集韻〕娖、嫧也、或从レ束。[三]みめよいさま。〔集韻〕娕、好皃。

【娖】6302

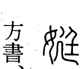
[一] サク 〔集韻〕測角切 覺
[二] シヨク ソク 〔集韻〕叉足切 沃

[一]❶つつしむ。又、よい。娕(3－6301)に同じ。〔集韻〕娕、說文、謹也、一曰、善也、或作レ娖。❷おさへる。捉(5－12136)に通ず。〔正字通〕娖、稱娖、捉也。❸ととのふ。〔後漢書、中山簡王焉傳〕今五國各官騎百人稱娖。〔注〕稱娖、猶二齊整一也。❹うながす。促(1－664)に通ず。〔後漢書、中山簡王焉傳、稱娖、集解〕惠棟曰、娖、一作レ促、古字通、稱促者、所三以促二行徒一也。❺わきまへる。〔玉篇〕娖、辯也。❻齺(12－48670)に通ず。〔史記、申屠嘉傳〕娖娖廉謹。〔漢書、申屠嘉傳〕齺齺廉謹。[二]❶ととのへる。〔集韻〕娖、嫧也。❷或は娕(3－6301)・嫩(3－6841)に作る。〔集韻〕娖、或从レ束、亦作レ嫩。

【娖娖】1 サクサク つつしむさま。齺齺。〔史記、申屠嘉傳〕自二嘉死一後、云云、高陵侯趙周等爲二丞相一、皆以二列侯一繼嗣、娖娖廉謹、爲二丞相一、備レ員而已。〔注〕索隱曰、小顏云、娖娖、持整之貌。

【娗】6303

[一] テイ チヤウ 〔集韻〕待鼎切 迥
[二] テン 〔集韻〕他典切 銑
[三] テイ チヤウ 〔集韻〕唐丁切 青



小篆 [一]❶女のしものやまひ。〔說文〕娗、女出病也、从レ女廷聲。〔長箋〕方書、女婦下疾、陰娗。❷すらりとしてみめよいさま。〔廣韻〕娗、長好皃。❸身づくろひのさま。娗娗。〔集韻〕娗、博雅、娗娗、容也。❹あなどる。〔方言、十二〕嫣・娗、僈也。[二]❶あざむきあなどる。〔集韻〕娗、欺慢也。〔列子、力命〕眠娗諈諉。〔注〕方言、眠娗、欺謾之語也、郭璞云、謂二以レ言相輕蚩弄一也。❷おとる。〔集韻〕娗、一曰、偄劣。[三]❶身づくろひのさま。娗娗。[一]の❸に同じ。〔廣雅、釋訓〕娗娗、容也。❷女のしものやまひ。[一]の❶に同じ。〔集韻〕娗、一曰、女出病也。❸或は婷（3－6457）に作る。〔集韻〕娗、或从レ亭。

【娘】 6304 チヤウ ニヤウ 〔集韻〕尼良切 ㄋㄧㄤˊ niang² [陽]

❶**むすめ**。〔廣韻〕娘、少女之號。❷**はは**。父を爺（7－19734）と稱するの對。〔韻會〕娘、又母稱曰レ娘。❸**女のあざな**。〔集韻〕娘、女字。❹孃（3－6891）に同じ。〔輟耕錄、婦女曰レ娘〕娘字、俗書也、古無レ之、當レ作レ孃。〔正字通〕娘、俗孃字。[邦]**むすめ**。俗に土藏の異稱。盜人の隱語。白く塗るからいふ。娘師（10）を見よ。

【娘姨】1 niang² i² ❶母の姉妹。❷傭婦をいふ。吳の方言。

【娘家】2 niang² chia¹ 母の家。母の里方。

【娘行】3 チヤウカウ 婦女をいふ。〔還魂記、尋夢〕以後勸二止娘行一、夫人還是不レ放。〔燕子箋、誤認〕見二娘行髮白一。

【娘氣】4 ムスメギ をとめのうぶな心。世馴れぬ少女の心。

【娘舅】5 niang² chiu⁴ 母の兄弟。

【娘磋】6 チヤウサ 土司の名。青海省の南境。もと尼雅木錯と稱す。牧地は巴顏哈喇山に跨がる。玉樹土司二十五族の一。

【娘子】7 チヤウシ ❶をんなのこ。むすめ。〔北齊書、祖珽傳〕一妻耳順、尙稱二娘子一。〔韓愈、祭二周氏姪女一文〕祭二于周氏二十娘子之靈一。〔通俗編、稱謂、娘子〕李昌符婢僕詩、推道那家娘子臥、此民閒通稱二娘子一之證也。〔恆言錄〕周必大茶山啟殯祝文、稱二皇妣安人王氏二十七娘子一、此稱殊不二莊重一、後世罕用。❷妻。又、大官の夫人。〔通俗編、稱謂、娘子〕楊國忠傳、帝欲下以二太子一監上レ國、國忠大懼、歸謂二姊妹一曰、今當下與二娘子等一併上レ命矣、此大官夫人稱二娘子一之證也。〔輟耕錄、婦女曰レ娘〕都下自二庶人妻一以及二大官之國夫人一、皆曰二娘子一。❸母。〔溫公書儀〕古稱レ父爲二阿耶一、母爲二娘子一。❹宮妃。宮嬪。〔唐書、后妃、玄宗貴妃楊氏傳〕宮中號二娘子一、儀禮與二皇后一等。〔花蕊夫人、宮詞〕諸院各分二娘子位一、羊車到處不レ教レ知。❺倡妓。妓女。〔北里志〕一曲高歌綾一匹、兩頭娘子謝二夫人一。〔雲溪友議〕或謂二李端一、端曰、李家娘子。❻一般に女子の通稱。娘子軍を見よ。❼關の名。山西省平定縣の北。河北省井陘縣の西の固關の北。葦澤關ともいふ。明の嘉靖中、城を築いて戍を置く。今、正太鐵道の隧道が通過す。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、井陘縣〕承天鎭、西接二山西平定州之葦澤關一、一名娘子關、關蓋以二妬女祠一名、舊經云、承天鎭有二妬女祠一、介山氏之廟也、唐武后幸二河東道一、出二祠下一、懼レ致二風雹一、欲二別開一レ道以避レ之、狄仁傑曰、一人行幸、風伯淸レ塵、雨師洒レ道、何妬女之避、遂止二其役一、駐二蹕祠下一、風停雨息、鎭有レ關、俗因謂二之娘子關一。

【娘子軍】8 チヤウシグン ❶婦人の率ゐる軍隊。又、婦人で組織した軍隊。もと、隋の柴紹の妻（唐の平陽公主）の率ゐた軍隊の名。〔舊唐書、平陽公主傳〕下二嫁柴紹一、高祖兵興、主招二南山亡命一、得二數百人一以應レ帝、帝渡レ河、公主引二精兵萬餘一與二太宗軍一會二於渭北一、紹及レ主對置二幕府一、分二定京師一、號曰二娘子軍一。〔輟耕錄、婦女曰レ娘〕隋柴紹妻李氏、起レ兵應二李淵一、與レ紹各置二幕府一、號二娘子軍一。❷㋑俗に婦女子の一團をいふ。㋺俗に賤業婦たちをいふ。❸niang² tzŭ chüen¹ 兇惡なる婦女の仲間をいふ。

【娘子布】9 チヤウシフ からむしで織った布の名。〔溪蠻叢笑〕今有三績二織細白苧麻一、以二旬月一而成、名二娘子布一。

【娘師】10 ムスメシ 土藏破りの盜賊をいふ隱語。

【娘兒】11 niang² êrh ❶母と子。母子。親子。❷父の姉妹。

【娘兒們】12 niang² êrh men 婦人。女子。娘達。

【娘兒倆】13 niang² êrh liang³ 母と娘。母と息子。

【娘心】14 ムスメゴコロ 娘氣（4）に同じ。

【娘胎】15 niang² t'ai¹ 母胎。母の腹。

【娘娘】16 チヤウチヤウ ❶母。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕政擬三報二知膝下一、而娘娘來矣。〔稱謂錄、子稱レ母、娘娘〕宋洪皓鄱陽集、使レ金上レ母書、皓遠違二膝下一、忽忽十二年、中閒兩大病、天憐二羈苦一、偶幸再生、日夜憂愁、娘娘年高。❷天子が母后を稱していふ。〔避暑漫抄〕神廟欲レ問二西北虜罪一、一日被二金甲一、見二太皇太后一、曰二娘娘一。〔稱謂錄、子稱レ母、娘娘〕鐵圍山叢談、宋太祖、稱二杜太后一爲二娘娘一。❸皇后。王妃。天下の母の義。〔還魂記、牝賊〕所喜妻子楊氏娘娘、能使二一條梨花槍一。❹niang² niang ㋑婦女に對する最高の敬語。〔漢宮秋、一折〕兀那彈琵琶的、是那位娘娘。㋺女神。娘娘廟を見よ。

【娘娘廟】17 niang² niang miao⁴ 子を授ける女神を祀つた祠廟。〔燕京歲時記、西頂〕西頂娘娘廟、在二萬壽寺西八九里一、每レ至二四月一、自二初一日一開レ廟半月、繁盛與二萬壽寺一同。

【娘娘碼兒】18 niang² niang ma¹ êrh 北京で小兒が生れて三日目に行ふ洗三の湯沐の時に飾る神紙。

【娘娘廟裡拴娃娃】19 niang² niang miao⁴ li³ shuan¹ wa² wa 娘娘廟で赤兒をしばる。子をほしがる婦人が娘娘廟に參詣して、多くの泥人形の中の一つを選び、紐に繫いで祈願するが、多くは徒勞に歸するので、轉じて、徒らに骨折ることに喩へる。

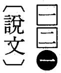
【娘媽會】20 niang² ma¹ huei⁴ 廣東地方で娘媽菩薩を祀る講社。每年三月十七日に、菓子などを供へて祭る。

【娘義太夫】21 ムスメギダイフ 年の若い女の語る義太夫節。又、其の女。

【娘媽菩薩】22 niang² ma¹ p'u² sa 廣東地方で三月十七日に祭る女神の名。

【娙】 6305

[一]ガウ ギヤウ 〔集韻〕魚莖切 [庚]
[二]カウ キヤウ 〔集韻〕丘耕切 [庚]
[三]ケイ ギヤウ 〔集韻〕乎經切 [靑]



小篆 [一][二]❶**すらりとしてみめよい**。〔說文〕娙、長好也、从レ女巠聲。〔段注〕體長之好也。❷**漢代の女官の稱**。娙何（1）・娙娥（2）の❷を見よ。❸**はしため**。〔廣雅、釋詁四〕娙、婢也。[三]❶**みめよい**。〔集韻〕娙、好也、或从レ刑。或は⿰女刑（3－6244）に作る。❷**女官の名**。[一]の❷に同じ。〔字彙〕娙、女官、武帝所レ幸邢夫人、號二娙娥一。

【娙何】1 ケイカ 漢代の女官の稱。〔史記、外戚世家〕邢夫人、號二娙娥一、衆人謂二之娙何一、娙何、秩比二中二千石一、容華、秩比二二千石一、婕妤、秩比二列侯一。

【娙娥】2 カウガ ❶みめよい。〔說文〕娥、秦晉謂レ好曰二娙娥一。❷ケイガ 漢代の女官の稱。〔漢書、外戚傳序〕至二武帝一制二倢伃・娙娥・傛華・充依一、各有二爵位一、云云、娙娥、視二中二千石一、比二關內侯一。〔注〕師古曰、娙娥、皆美貌也。❸漢の武帝の邢夫人をいふ。娙何を見よ。〔史記、四十九〕。

【娚】 6306 [一]ナン [二]ノウ

[一]諵（10－35738）・喃（2－3903）に同じ。〔集韻〕娚、詀娚、語聲、或作レ喃、束晳作レ諵。[二]嫐（3－6626）に同じ。〔正字通〕娚、嫐字之譌。

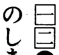
【娚杉】1 メヲトスギ 加賀國の地名。

【娛】6307

㈠グ 〔集韻〕元俱切 虞

㈡ゴ 〔集韻〕五故切 遇

ㄩ yü²


小篆

㈠㈡❶**たのしい。たのしむ。たのしませる。**〔說文〕娛、樂也、从レ女吳聲。〔詩、鄭風、出其東門〕聊可二與娛一。〔傳〕娛、樂也。〔楚辭、九章、惜誦〕設二張辟一以娛レ君兮。〔注〕娛、樂也。❷**やすんずる。**おちつく。〔莊子、讓王、許由虞二于潁濱一、釋文〕廣雅云、虞、安也、一本作レ娛、娛、樂也。❸**たはむれる。**〔漢書、司馬相如傳上〕娛游往來。〔注〕師古曰、娛、戲也。❹虞(9―32723)に通ず。〔一切經音義、三〕古文虞、今作レ娛、同。〔詩、鄭風、出其東門、釋文〕娛、本亦作レ虞。

【娛哀】1 ゴアイ 樂しいことで哀しみをやはらげる。〔楚辭、九章、懷沙〕舒レ憂娛レ哀兮、限レ之以二大故一。〔注〕娛、樂也。

【娛菴】2 ゴアン 菊池桐孫の號。菊池五山(9―31153··94)を見よ。

【娛意】3 ゴイ 心をたのしませる。娛情。〔楚辭、劉向、九歎、遠逝〕欲二酌レ醴以娛レ憂兮、騫騷騷而不レ釋。〔歐陽脩、有美堂記〕彼放二心於物外一、而此娛二意於繁華一。

【娛慰】4 ゴヰ たのしみなぐさめる。〔宋書、竟陵王誕傳〕庶希階老、永相娛慰。〔魏書、徐遵明傳〕彈レ箏吹レ笛、以自娛慰。

【娛游】5 ゴイウ たのしみあそぶ。娛遊。〔漢書、地理志〕高祖王兄子濞、於レ吳招二致天下之娛游子弟一。〔司馬相如、上林賦〕娛游往來、宮宿館舍。

【娛遊】6 ゴイウ たのしみあそぶ。娛游。娛優。〔班固、西都賦〕爾乃盛二娛遊之壯觀一、奮二太武乎上囿一。

【娛憂】7 ゴイウ 樂しいことを以て憂ひをやはらげる。〔楚辭、九章、思美人〕吾將二蕩レ志而愉樂一兮、遵二江夏一以娛レ憂。〔漢書、南粵王趙佗傳〕願王聽レ樂娛レ憂、存二問鄰國一。

【娛優】8 ゴイウ たのしみあそぶ。娛遊(6)に同じ。〔王褒、洞簫賦〕孤雌寡鶴、娛二優乎其下一兮、春禽羣嬉、翱二翔乎其顚一。

【娛懌】9 ゴエキ たのしみよろこぶ。〔唐書、呂尙傳〕帝聞咨歎、官二岌朝散大夫一、賜二錦綵一、給二內教坊樂工一、娛二懌其心一。

【娛嬉】10 ゴキ たのしみよろこぶ。〔李綱、梅花賦〕殆所謂未レ能レ忘レ情、如二草木聊託レ物以娛嬉者一乎。〔蘇軾、泛レ潁詩〕此豈水薄相、與レ我相娛嬉。

【娛戲】11 ゴギ たのしみたはむれる。〔楚辭、遠遊〕吾將下從二王喬一而娛戲上。〔漢書、五行志中之上〕游居娛戲。

【娛懷】12 ゴクワイ 宮殿の名。虞懷(9―32723··40)に同じ。〔枚乘、七發〕浮游覽觀乃下、置二酒於虞懷之宮一。〔注〕虞、五臣作レ娛、善曰、虞懷、宮名也。

【娛觀】13 ゴクワン たのしく遊覽する。〔張協、七命〕攜二公子一以雙游、時娛二觀於林麓一。

【娛玩】14 ゴグワン たのしみもてあそぶ。〔謝惠連、雪賦〕若乃申二娛玩之無一レ已、夜幽靜而多レ懷。

【娛娛】15 ゴゴ たのしむさま。〔柳宗元、弔二屈原一文〕棖折火烈兮、娛娛笑舞。

【娛志】16 ゴシ こころをたのしませる。〔曹植、七啓〕雍容暇豫、娛二志方外一。〔李嶠、爲二武攸宜一讓二揚州都督府長史一表〕豈欲二娛レ志養レ高、實レ願遺レ身體レ國。

【娛恣】17 ゴシ たのしんで、ほしいままなこと。娛放。〔後漢書、梁冀傳〕游二觀第內一、多從二倡妓一、鳴レ鐘吹レ管、酣謳竟レ路、或連二繼日夜一、以騁二娛恣一。

【娛侍】18 ゴジ たのしみはべる。〔李百藥、贊道賦〕異二洞簫之娛侍一、殊二飛蓋之緣情一。〔朱熹、夫人徐氏墓誌銘〕姑性嚴重、事有レ不レ可二其意一、終日不レ懌、左右莫二能近一、夫人獨從容娛侍。

【娛情】19 ゴジヤウ 心をよろこばせる。娛意。〔張衡、歸田賦〕於レ焉逍遙、聊以娛レ情。〔曹植、七啓〕馳騁足二用蕩レ思、游獵可二以娛レ情。

【娛酒】20 ゴシユ 酒をたのしむ。〔楚辭、招魂〕娛レ酒不レ廢、沈二日夜一些。

【娛心】21 ゴシン 心をたのしませる。娛意。娛神。〔枚乘、七發〕列坐縱レ酒、蕩樂娛レ心。〔魏志、王烈傳、注〕以二曲籍一娛レ心、育レ人爲レ務。〔顏氏家訓、勉學〕娛レ心悅レ耳。

【娛神】22 ゴシン 心をたのしませる。娛心。〔傅毅、舞賦〕天王燕胥、樂而不レ泆、娛レ神遺レ老、永年之術。

【娛親】23 ゴシン 父母をなぐさめたのしませる。〔曹植、靈芝篇〕伯瑜年七十、綵衣以娛レ親。

【娛人】24 ゴジン 人をたのしませる。〔謝靈運、石壁精舍還二湖中一作詩〕清暉能娛レ人、游子澹忘レ歸。

【娛精】25 ゴセイ 心をたのしませる。虞精。〔續列女傳、班婕妤傳〕勉二娛レ精兮極レ樂。

【娛笑】26 ゴセウ たのしみわらふ。〔南史、王筠傳〕袁公見レ人輒矜嚴、王郎見レ人必娛笑。

【娛昔】27 ゴセキ ゆふべをたのしむ。昔は夕と音通。〔楚辭、大招〕魂乎歸徠、以娛レ昔只。〔注〕昔、夜也。

【娛足】28 ゴソク たのしみが十分である。〔五代史、張筠傳〕筠居二洛陽一、擁二其貲一以二酒色聲妓一自娛足者十餘年、人謂二之地仙一。

【娛村】29 ゴソン 清、朱稻孫(6―14424··913)の號。

【娛談】30 ゴダン 話をたのしむ。〔陸倕、以レ詩代レ書別後寄二贈京邑僚友一詩〕娛レ談終二美景一、敷レ文永二清夜一。

【娛腸】31 ゴチヤウ こころをたのしませる。娛精。〔曹植、七啓〕可二以和レ神、可二以娛レ腸。

【娛適】32 ゴテキ たのしみ滿足する。歡娛。〔蔡襄、陪二諸君一會二史館園一詩〕佳人足二娛適一、遠思何夷猶。

【娛放】33 ゴハウ たのしみほしいままにする。娛恣。〔韓維、和下如晦遊二臨淄園一示中元明上詩〕不レ因二時節一自娛放、頗置二白黑一爲二愁悽一。

【娛悲】34 ゴヒ 悲しみを和げてたのしませる。〔韓愈、上二兵部李侍郎一書〕南行詩一卷、舒レ憂娛レ悲、雜以二瓌怪之言一。〔陸游、跋二吳夢予詩編一〕君子之學、蓋將三堯二舜其君民一、若二乃放逐顚頓、娛レ悲舒レ憂、爲レ風爲レ騷、亦文之不幸也。

【娛賓】35 ゴヒン 賓客をたのしませる。〔岑參、與二源少府一泛二渼陂一詩〕憐君公事後、陂上日娛レ賓。

【娛目】36 ゴモク 目をたのしませる。〔枚乘、七發〕練色娛レ目、流聲悅レ耳。〔曹植、辯道論〕玄黃所二以娛レ目、鏗鏘所二以聳レ耳。

【娛予】37 ゴヨ 自分をたのしませる。娛余。〔蘇軾、谷林堂詩〕我來適過雨、物至如レ娛レ予。

【娛余】38 ゴヨ 自分をたのしませる。娛予。〔張衡、思玄賦〕聞二此國之千歲一兮、曾焉足二以娛レ余。

【娛老】39 ゴラウ 自ら晚年を娛しむ。〔漢書、敍傳下〕疏克有レ終、散レ金娛レ老。

【娛老軒】40 ゴラウケン 清、朱彝尊(6―14424··631)の室名。

【娛樂】41 ゴラク たのしむ。又、たのしみ。なぐさみ。悅樂。〔史記、廉頗傳〕請奉二盆缻秦王一、以相娛樂。〔漢書、東方朔傳〕得三獻レ觴上レ壽娛二樂左右一。〔易林〕心志娛樂、得二其歡欲一。〔後漢書、明德馬皇后紀〕數往觀視、以爲二娛樂一。〔班固、西都賦〕既庶且富、娛樂無レ疆。

【娛樂室】42 ゴラクシツ 娛樂の設備をした部屋。

【娛靈】43 ゴレイ 漢の女官の名。〔漢書、外戚傳序〕無涓・共和・娛靈・保林・良使・夜者、皆視二百石一。〔注〕師古曰、娛靈、可三以娛二樂情靈一也。

【娛書堂】44 ゴシヨダウ 宋、趙與虤(10―37171··914)の室名。

【娛書堂詩話】45 ゴシヨダウシワ 書名。一卷。宋、趙與虤撰。宋の詩を論じたもの。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【娯】6307′

ゴ 娛(3―6307)の略字。

【娨】6308

㈠チ 〔集韻〕抽遲切 支

㈡キケ 〔集韻〕香依切 微

㈠㈡**女のあざな。**〔集韻〕娨、女字。

【𡝩】6309

キギ 〔集韻〕渠記切 寘

いかる。〔集韻〕𡝩、怒也。

【⿰女夆】6310 ㈠ホウ ブ 〔集韻〕蒲蒙切 東 ㈡ホウ

㈠女のあざな。〔集韻〕⿰女夆、女字。㈡姅(3-6108)に同じ。〔集韻〕姅、或作㆑⿰女夆。

【⿰女夆家】1（ケミヤ） 紀伊國の古地名。〔國邑志〕。

【娜】6311 ㈠ダ ナ 〔集韻〕乃可切 哿 ㄋㄨㄛˊ nuo² ㈡ダ ナ 〔集韻〕囊何切 歌

㈠❶しなやか。たをやか。美しいさま。〔集韻〕娜、婀娜、美兒。〔曹植、洛神賦〕華容婀娜、令㆓我忘㆑憂。〔白居易、別㆓柳枝㆒詩〕兩枝楊柳小樓中、嫋娜多年伴㆓醉翁㆒。❷おもむろなさま。那(11-39305)に通ず。〔正字通〕娜、婀娜、美貌、又、舒遲貌、亦作㆓阿那㆒。㈡女のあざな。〔集韻〕娜、女字。

【娜娜】1（ダダ） ❶ゆれ動くさま。〔蘇轍、次㆓韻王鞏元日㆒詩〕春風娜娜還吹㆑霰、歲事駸駸已發㆑機。❷しなやかなさま。〔梅堯臣、依㆑韻和㆓永叔子履冬夕小齋聯句見㆑寄〕萬柳枝娜娜。

【娜如山館】2（ダジヨサンクワン） 清、趙函(10-37171‥75)の室名。

【⿰女邑】6312 ㈠イフ 〔集韻〕乙及切 緝 ㈡アフ

㈠⿰女邑婚は、婦人のさま。〔集韻〕⿰女邑、⿰女邑婚、婦兒。㈡姶(3-6242)の古字。〔集韻〕姶、古作㆑⿰女邑。

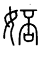
【⿰女夋】6313 サ 〔集韻〕蘇禾切 歌

女のあざな。〔集韻〕⿰女夋、女字。

【⿰女告】6314 カウ コウ 〔集韻〕居號切 號

女の名。〔集韻〕⿰女告、女名。

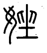
【娝】6315 ㈠ヒ 〔集韻〕補美切 紙 ㈡ハイ 〔字彙〕匹杯切 灰 ㈢フ 〔集韻〕芳無切 虞 ㈣ホウ フ 〔集韻〕普溝切 尤


小篆

㈠姓。〔玉篇〕娝、人姓也。〔集韻〕娝、姓也。㈡㈢㈣おろか。〔說文〕娝、不肖也、从㆑女否聲、讀若㆓竹皮筶㆒。

【⿰女坐】6316 ㈠サ 〔集韻〕蘇禾切 歌 ㈡ザ サ 〔集韻〕徂禾切 歌 ㈢サ 〔集韻〕祖臥切 箇

小篆


小篆（聲定訓通）

㈠㈡❶はやい。⿰女垔(3-6633)に同じ。〔集韻〕⿰女坐、說文、訬疾也。〔說文〕⿰女垔、訬疾也、从㆑女垔聲。❷若いさま。〔集韻〕⿰女坐、少兒。❸やすらか。〔字彙〕⿰女坐、安也。❹女のあざな。〔集韻〕⿰女坐、一曰、女字。㈢かるい。〔集韻〕⿰女坐、輕也。

【娞】6317 ㈠ダイ ナイ 〔集韻〕弩罪切 賄 ㈡スイ 〔集韻〕宣隹切 支

㈠❶あでやか。みめよい。⿰女畏娞。〔集韻〕娞、⿰女畏娞、妍也。❷或は婑(3-6405)に作る。〔集韻〕娞、或从㆑委。㈡❶やすらか。〔集韻〕娞、安也。❷通じて綏(8-27501)に作る。〔集韻〕娞、通作㆑綏。

【⿰女孛】6318 ホツ ホチ 〔集韻〕普沒切 月

❶乳母のあざな。〔集韻〕⿰女孛、乳母字。❷女の肥えたさま。⿰女乳⿰女孛。〔字彙〕⿰女孛、⿰女乳⿰女孛、女肥貌。

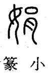
【⿰女辛】6319 シン 〔集韻〕斯人切 眞

女のあざな。〔集韻〕⿰女辛、女字。

【⿰女甬】6320 ㈠トウ ツ 〔集韻〕吐孔切 董 ㈡ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 腫

㈠㈡❶女のあざな。〔集韻〕⿰女甬、女字。❷女の名。〔集韻〕⿰女甬、女名。❸ひとしいさま。そろつてゐるさま。〔字彙〕⿰女甬、齊貌。

【娟】6321 ㈠エン 〔廣韻〕於緣切 先 ㄐㄩㄢ chüan¹ ㈡ケン ゲン 〔正韻〕規淵切 先


小篆

㈠❶あでやか。すがたの美しいさま。嬋娟。〔說文新附〕娟、嬋娟也、从㆑女肙聲。〔廣韻〕娟、嬋娟、好姿態兒。〔范仲淹、接花歌〕竊㆑藥嫦娥新換㆑骨、嬋娟不㆑似㆓人間者㆒。❷しなやか。〔廣韻〕娟、便娟、舞兒。〔邊讓、章華賦〕形便娟以嬋媛兮、若㆓流風之靡㆑草。❸まがりうねるさま。⿰女更娟。〔王延壽、魯靈光殿賦〕施室⿰女更娟以窈窕。〔注〕善曰、⿰女更娟、廻曲貌。❹眉の僅かにまがるさま。聯娟。〔宋玉、神女賦〕眉聯娟以蛾揚兮。〔注〕濟曰、聯娟、微曲貌。〔溫庭筠、江南曲〕聯娟眉繞㆑山、依約腰如㆑杵。❺女のあざな。〔集韻〕娟、女字。❻物のさま。娟娟(一)を見よ。㈡❶みめよいさま。〔正韻〕娟、美好貌。❷こびる。〔正韻〕娟、媚也。

名乘 ヨシ。

【娟娟】1（エンエン ケンケン） ❶かすかに遠いさま。〔蘇軾、書㆓王定國所藏煙江疊嶂圖㆒詩〕春風搖㆑江天漠漠、暮雲卷㆑雨山娟娟。❷月光の清くあかるいさま。〔杜甫、船下㆓夔州郭宿㆒雨濕不㆑得㆑上㆑岸別㆓王十二判官㆒詩〕依㆑沙宿㆓舸船㆒、石瀨月娟娟。〔蘇軾、與㆓述古㆒自㆓有美堂㆒乘㆑月夜歸詩〕娟娟雲月稍侵㆑軒。❸清いさま。〔杜甫、狂夫詩〕風含㆓翠篠㆒娟娟靜、雨裛㆓紅蕖㆒冉冉香。❹蝶の飛ぶさま。〔杜甫、小寒食舟中詩〕娟娟戲蝶過㆓閑幔㆒、片片輕鷗下㆓急湍㆒。❺うつくしいさま。〔鮑照、翫㆓月城西門廨中㆒詩〕末㆑映東北墀、娟娟似㆓蛾眉㆒。〔虞集、題㆓柯敬仲雜畫㆒詩〕幽懷春冉冉、稚子秀娟娟。

【娟好】2（ケンカウ エンカウ） 容貌が美しい。妍好。娟好靜秀を見よ。

【娟好靜秀】3（ケンカウセイシウ） 容貌が美しくてしとやかなこと。〔韓愈、殿中少監馬君墓誌銘〕幼子娟好靜秀、瑤環瑜珥、蘭茁㆓其芽㆒、稱㆓其家兒㆒也。

【娟嬛】4（エン ケン） 古の釣の名人。〔淮南子、原道訓〕夫臨㆑江而釣、曠㆑日而不㆑能㆑盈㆑羅、雖㆘有㆓鉤箴芒距、微綸芳餌㆒、加㆑之以㆗詹何・娟嬛之數㆖、猶不㆑能㆘與㆓網罟㆒爭㆖得也。〔注〕詹何・娟嬛、皆古善釣人。

【娟之】5（シケン） 戰國齊、虞姬(9-32723‥18)の名。

【娟秀】6（ケンシウ） きりやうがよい。〔唐書、叛臣下、高駢傳〕左右侍姬百餘、皆娟秀光麗、善歌舞、巾幘束帶以侍。

【娟魄】7（ケンパク） 月(5-14330)の異名。〔海錄碎事、天、月〕娟魄已三孕、言㆓三次月生㆒也、王昌齡詩。

【娟容】8（ケンヨウ） 美しいすがた。美容。妍容(3-6247‥33)に同じ。

【娠】6322　㊀シン　〔集韻〕升人切　ㄕㄣ shen¹　眞
㊁シン　〔集韻〕之刃切　ㄓㄣˋ chen⁴　震

小篆

㊀❶**はらむ**。みごもる。〔說文〕娠、女妊身動也、从㆑女辰聲、春秋傳曰、后緡方娠。〔廣雅、釋詁四〕娠、㑗也。〔左氏、哀、元〕后緡方娠。〔注〕娠、懷㆑身也。〔國語、晉語四〕大任娠㆓文王㆒。〔注〕娠、有㆑身也。❷**はしため**。しもづかひ・うまかひなど。〔說文〕娠、一曰、官婢女隷、謂㆓之娠㆒。〔方言、三〕燕齊之閒、養㆑馬者、謂㆓之娠㆒、官婢女廝、謂㆓之娠㆒。❸**うごく**。⿰𧾷辰(10－37562)に通ず。〔說文通訓定聲〕娠、叚借爲㆑⿰𧾷辰。〔爾雅、釋詁〕娠、動也。❹或は震(12－42300)に作る。〔集韻〕娠、或作㆑震。❺通じて㑗(1－631)に作る。〔集韻〕娠、通作㆑㑗。❻身(10－38034)に通ず。〔漢書、高帝紀上〕已而有㆑娠。〔注〕孟康曰、娠、音身、身、多作㆑娠、古今字也。㊁❶**はらむ**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕娠、妊也。❷或は⿱辰女(3－6359)に作る。〔集韻〕娠、或書作㆑⿱辰女。❸通じて震(12－42300)に作る。〔集韻〕娠、通作㆑震。

【娠母】1 シンボ　はらんだ母。〔漢書、敍傳下〕元后娠母、月精見表。

【⿰女身】6323　シン　娠(3－6322)に同じ。〔字彙〕⿰女身、同㆑娠。

【⿱攸女】6324　イウ　ユ　〔集韻〕夷周切　尤
女のあざな。〔集韻〕⿱攸女、女字。

【娡】6325　シ　〔集韻〕職吏切　寘
女の名。鮌の妻。〔集韻〕娡、有莘之女、鮌娶㆑之。

【⿰女酉】6326　イウ　ユ　〔集韻〕余救切　宥
みにくい。〔集韻〕⿰女酉、醜也。

【⿰女含】6327　カン　ゴン　〔集韻〕胡南切　覃
女のあざな。〔集韻〕⿰女含、女字。

【⿰女冏】6328　タフ　妠(3－6100)に同じ。〔集韻〕妠、或作㆑⿰女冏。

【娣】6329　㊀テイ　ダイ　〔集韻〕待禮切　ㄉㄧˋ ti⁴　薺
㊁テイ　ダイ　〔集韻〕大計切　霽

小篆

㊀❶**いもうと**。㋑女子が己と同じ母から生れた妹を呼ぶ稱。姒(3－6177)の❶の㋑に對す。爾雅の注に、同出、謂㆓倶嫁事㆓一夫㆒と言へるは誤。姨(3－6222)の❶をも併せ見よ。尙、妹は、同母・異母の子に通じて、男女共に之を用ひる。〔爾雅、釋親〕女子同出、先生爲㆑姒、後生爲㆑娣。㋺同一夫に事へる妻妾の中の、年長者が年少者を呼ぶ稱。姒(3－6177)の❶の㋺、及び姪娣(3－6226・10)をも併せ見よ。〔爾雅、釋親〕長婦謂㆓稚婦㆒爲㆓娣婦㆒。〔釋名、釋親屬〕長婦謂㆓少婦㆒曰㆑娣、娣、弟也。(甲)姊が、己と倶に同一夫に嫁した同母妹を呼ぶ稱。〔左氏、隱、元、注〕孟子之姪娣也。〔疏〕娣、母弟也。(乙)姊が己と倶に同一夫に嫁した同母妹・異母妹・族妹を呼ぶ稱。〔說文〕娣、同㆑夫之女弟也、从㆑女弟聲。〔公羊、莊、十九〕諸侯娶㆓一國㆒、則二國往媵㆑之、以㆓姪娣㆒從、姪者何、兄之子也、娣者何、弟也。〔漢書、杜欽傳〕娣姪雖㆑缺、不㆓復補㆒。〔注〕己之女弟、則謂㆓之娣㆒。(丙)衆妾中の年長者が年少者を呼ぶ稱。〔說文、娣、段注〕釋親又言、長婦謂㆓稚婦㆒爲㆑娣、此所謂名之可㆓以叚借通偁㆒者也、如㆓兄弟之偁、同姓異姓、皆得㆑偁㆑之也。㋩妾をいふ。正妻に對しては妹分に當るからいふ。〔詩、大雅、韓奕〕諸娣從㆑之、祁祁如㆑雲。〔傳〕諸娣、衆妾也。㋥兄の妻が弟の妻を呼ぶ稱。をとうとよめ。〔儀禮、喪服傳〕娣姒婦者、弟長也。〔注〕娣姒婦者、兄弟之妻相名也。㊁**をば**。母のいもうと。〔集韻〕娣、一曰、母之女弟。

【娣姒】1 テイジ　娣妹。娣の字解㊀、姒(3－6177)の字解❶を併せ見よ。〔爾雅、釋親〕女子同出、先生爲㆑姒、後生爲㆑娣。〔注〕同出、謂㆓倶嫁事㆓一夫㆒、公羊傳曰、諸侯娶㆓一國㆒、二國往媵㆑之、以㆓姪娣㆒從、娣者何、弟也、此卽其義也。〔郝懿行義疏〕娣姒、卽衆妾相謂之詞、不㆑關㆓嫡夫人在㆑內、其嫡夫人、則禮稱㆓女君㆒、易云、其君之袂、不㆑如㆓其娣之袂良㆒、是其義也。〔爾雅、釋親〕長婦謂㆓稚婦㆒爲㆓娣婦㆒、娣婦謂㆓長婦㆒爲㆓姒婦㆒。〔注〕今相㆓呼先後㆒、或云㆓妯娌㆒。〔邵晉涵正義〕古之稱㆓娣姒㆒者、猶㆔今人稱㆓妯娌㆒也、兄妻稱㆓弟妻㆒曰㆓妯娌㆒、弟妻亦稱㆓兄妻㆒曰㆓妯娌㆒、蓋析㆓言之㆒、則兄妻爲㆑姒、弟妻爲㆑娣、合㆓言之㆒、則昆弟之妻、統稱爲㆓娣姒㆒、娣姒・先後・妯娌、倶可㆓連稱㆒。〔廣雅、釋親〕娣姒、先後也。〔列女傳、賢明、秦穆公姬傳〕婢子娣姒、不㆑能㆓相教㆒。〔陔餘叢考、娣〕娣字有㆓二義㆒、正韻、長婦爲㆑姒、介婦爲㆑娣、爾雅釋親、長婦謂㆓稚婦㆒爲㆓娣婦㆒、娣婦謂㆓長婦㆒爲㆓姒婦㆒、此則妯娌之義也、釋親、又云、女子同出、先生爲㆑姒、後生爲㆑娣、左傳、衛莊公娶㆓于陳㆒、曰㆓厲嬀㆒、生㆓孝伯㆒、早死、其弟戴嬀、生㆓桓公㆒、又閔公、哀姜之娣叔姜之子也、晉獻公驪姬生㆓奚齊㆒、其娣生㆓卓子㆒、穆伯娶㆓戴己㆒生㆓文伯㆒、其娣聲己生㆓惠叔㆒、襄公薨、立㆓敬歸之子子野㆒、子野卒、立㆓敬歸之娣齊歸之子稠㆒、卽昭公也、穆伯不㆑欲曰、皆非㆓適嗣㆒、何必其娣之子、此則姊妹之義也、按㆓六書故㆒、古之嫁㆑女者、以㆓姪娣㆒從、自㆑嫡而下、皆謂㆓之娣㆒、則不㆔必親姊妹爲㆓娣姒㆒、凡族從㆑之隨嫁、皆稱㆑娣。

【娣姒者多㆓爭之地㆒】2 テイジハアラソフノチオホシ　兄の妻と弟の妻とは爭ふ機會が多い。〔顏氏家訓、兄弟〕娣姒者多㆓爭之地㆒也、使㆓骨肉居㆑之、亦不㆑若㆔各歸㆓四海㆒。

【娣姪】3 テイテツ　嫁に從つて來た女。側室。姪娣(3－6226・10)を見よ。〔漢書、杜欽傳〕娣姪雖㆑缺、不㆓復補㆒。

【娣妾】4 テイセフ　めかけ。〔漢書、元后傳〕諸娣妾良人、更祝詛殺㆑我。

【娣婦】5 テイフ　字解㊀の❶の㋺－㋥、及び娣姒(1)を見よ。〔爾雅、釋親〕長婦謂㆓稚婦㆒爲㆓娣婦㆒。

【娤】6330　サウ　妝(3－6096)に同じ。〔集韻〕妝、或作㆑娤。

【娥】6331　ガ　〔集韻〕牛何切　ㄜˊ é²　歌

小篆

❶**女のあざな**。娥皇は、堯の女で舜の妻となつた人。〔說文〕娥、帝堯之女、舜妻娥皇字也、从㆑女我聲。❷**みめよい**。あでやか。うつくしい。かほよい。〔說文〕娥、秦晉謂㆑好曰㆓娙娥㆒。〔方言、一〕娥、好也、秦曰㆑娥、秦晉之閒、凡好而輕者、謂㆓之娥㆒。〔方言、二〕秦晉之閒、美貌謂㆓之娥㆒。〔列子、周穆王〕娥媌靡曼。〔注〕娥媌、妖好也。❸**美人**。〔江淹、空青賦〕秦娥吳娃。❹**月**。娥月(8)を見よ。❺**姓**。〔萬姓統譜〕娥、見㆓姓苑㆒、又音皚、堯妻㆑舜以㆓

娥皇一、後有二此姓一。

【娥英】1（ガエイ） ❶舜の二妃の娥皇と女英との併稱。〔陶弘景、水仙賦〕障渠水府、包山洞臺、娥英之所二遊往一、琴馮是焉去來。❷女官の名。北齊の後主は、左右娥英を置いて左右丞相に比した。〔北史、后妃傳序〕後主既立、二后昭儀以下、皆倍二其數一、又置二左右娥英一、比二左右丞相一。

【娥影】2（ガエイ） ❶月のひかり。つきかげ。月光。〔鮑溶、上陽宮月詩〕學レ織機邊娥影靜。❷鏡にうつる美人の影を、月の中の嫦娥に比していふ。〔高啓、題二美人對レ鏡圖一詩〕起開二粧閣一笑窺レ奩、月裏分明見二娥影一。

【娥娥】3（ガガ） 女子の容貌の美しいこと。〔廣雅、釋訓〕娥娥、容也。〔古詩十九首、其二〕娥娥紅粉粧、纖纖出二素手一。〔注〕善曰、方言曰、秦晉之閒、美皃、謂二之娥一。〔劉廷芝、公子行〕的的珠簾白日映、娥娥玉顏紅粉妝。

【娥姣】4（ガカウ） 容貌の美しいこと。〔列子、楊朱〕鄉有二處子之娥姣者一、必賄而招レ之、媒而挑レ之、弗レ獲而後已。

【娥輝】5（ガキ） 美女をいふ。娥眉光輝の意。〔李乂、高安公主挽歌〕嬪則留二中饋一、娥輝沒二下春一。

【娥姁】6（ガク） 漢の高祖の后、呂后の字。〔史記、呂后紀〕呂太后、高祖微時妃也。〔注〕索隱曰、字、娥姁也。

【娥皇】7（ガクワウ） 堯の長女。一に倪皇に作り、又、后育といふ。堯は娥皇及び次女の女英を舜に妻はし、二女は舜に畎畝の中に事へて婦道を盡した。舜が既に天子となるに及び、娥皇は后となり、女英は妃となつたが、舜が蒼梧の野に崩ずるや、二女は之を悲しみ、遂に江湘の間に沒した。相傳へて娥皇を湘君、女英を湘夫人といふ。〔列女傳、一〕。

【娥月】8（ガゲツ） 月をいふ。羿の妻の姮娥が不死の藥を得て月中に奔つた故事から、月を娥といふ。娥輪。〔王僧達、祭二顏光祿一文〕娥月寢レ耀。〔注〕善曰、姮娥掩レ月、故曰二娥月一、周易歸藏曰、昔常娥以二西王母不死之藥一服レ之、遂奔レ月、爲二月精一。

【娥清】9（ガセイ） 後魏、代の人。給事黃門侍郎に擢んでらる。明元帝の時、平東將軍に遷り、馮文通を討つたが、太武の時、蠕蠕を征し、統萬を伐つ。戰はないといふ廉を以て急に黜けられて門卒となる。〔魏書、三十〕・〔北史、二十五〕。

【娥女】10（ガヂョ） 赤帝の女。名は瑤姬。嫁がないで死し、巫山の陽に葬る。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕巫娥女、楚襄王、楚襄王敢先在二陽臺上一。

【娥媌】11（ガバウ） あでやかで美しいこと。〔列子、周穆王〕簡二鄭衞之處子、娥媌靡曼者一、施二芳澤一、正二蛾眉一、設二笄珥一。〔注〕娥媌、妖好也。〔方言、一〕凡好而輕者、謂二之娥一、自レ關而東、河濟之閒、謂二之媌一。

【娥眉】12（ガビ） 美しいまゆ。轉じて、婦女のあでやかなさまにいふ。蛾眉（**10−33082‥10**）の❶❷に同じ。〔楚辭、離騷〕衆女嫉二余之娥眉一兮。〔注〕娥眉、好貌。〔枚乘、七發〕皓齒娥眉。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕宛轉娥眉能幾時、須臾鶴髮亂如レ絲。

【娥婺】13（ガボウ） 美しい女。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕蹴繩觀二娥婺一、鬬草擷二璣珵一。

【娥輪】14（ガリン） 月をいふ。娥月(8)を見よ。〔許敬宗、奉三和七夕宴二懸圃一應制詩〕婺闉期二今夕一、娥輪泛二淺潢一。

【娥鹿】15（ガロク） 獸の名。馬の屬。騀鹿（**12−44776**）字解❷に同じ。〔郤昂、八馬坊碑頌序〕其名則蒲梢・啓服・野麋・娥鹿。

【娥姜水】16（ガキヤウスイ） 川の名。濼水（**7−18563‥2**）の別名。泉源に娥皇女英の廟があるからいふ。〔水經、濟水注〕濼水、出二歷城縣故城西南一、泉源上、奮水涌若レ輪、春秋、桓公十八年、公會二齊侯于濼一、是也、俗謂レ之爲二娥姜水一、以三泉源有二舜妃娥英廟一故也。

【娥陵氏】17（ガリヨウシ） 上古の人。女媧の臣。樂を掌る。〔帝系譜〕女媧命二娥陵氏一、制二都良管一、以一二天下之音一。

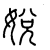
【娦】6332

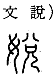
ヒン　嬪（**3−6819**）に同じ。〔字彙〕娦、同レ嬪。

【娧】6333

［一］タイ　〔集韻〕吐外切　泰

［二］エツ エチ　〔集韻〕欲雪切　屑


小篆（説文）


小篆（段注本）

［一］❶**みめよい**。うつくしい。〔説文〕娧、好也、从レ女兌聲。❷**舒く遲いさま**。おもむろでゆるやかなさま。娧娧。〔集韻〕娧、娧娧、舒遲皃。❸**よろこぶ**。〔集韻〕娧、一曰、喜也。❹或は脱（**9−29539**）に作る。〔集韻〕娧、或从レ肉。［二］**みめよいさま**。姚娧。〔集韻〕娧、姚娧、好皃。

【娨】6334

［一］バン マン　〔集韻〕母版切　潸

［二］カン ゲン　〔集韻〕下晏切　諫

［一］［二］**おごり侮る**。〔集韻〕娨、傲慢也。〔集韻〕娨、字林、嫯也。

【⿱旱女】6335

カン　奸（**3−6045**）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱旱女、同レ奸。

【⿰女甫】6336

ホ　〔集韻〕滂模切　虞

女のあざな。〔集韻〕⿰女甫、女字。

【娩】6337

［一］バン マン　〔集韻〕武遠切　ㄨㄢˇ　wan^3　阮

［二］ベン メン　〔集韻〕美辯切　ㄇㄧㄢˇ　mien^3　銑

［三］バン マン　〔集韻〕無販切　願

［四］ブン モン　〔集韻〕文運切　問

［一］［二］❶**うむ**。子を生む。挽（**3−6988**）に同じ。〔説文通訓定聲〕挽、生レ子免レ身也、字亦作レ娩。〔張衡、思玄賦〕偃蹇夭矯、娩以連卷兮。〔注〕衡曰、纂要曰、濟人謂レ生レ子曰レ娩。❷**こびる**。**みづくり**。媚（**3−6513**）に通ず。〔説文通訓定聲〕挽、叚借爲レ媚、云云、娩・媚一聲之轉。〔正字通〕娩、媚也。〔禮、內則〕姆教二婉娩聽從一。〔注〕婉、謂二言語一也、娩之言、媚也、媚、謂二容貌一也。〔荀子、禮論〕説豫娩澤。〔注〕娩、媚也。❸**しとやか**。すなほ。婉娩。〔集韻〕娩、婉娩、容順。❹**とぶ**。はねる。〔張衡、思玄賦、注〕善曰、娩、跳也。❺嬎（**3−6465**）に通ず。〔張衡、思玄賦〕娩以連卷兮。〔後漢書、張衡傳〕嬎以連卷兮。❻**姓**。〔字彙〕娩、姓也。［三］**こびる**。〔集韻〕娩、媚也。［四］**女のあざな**。妏（**3−6078**）に同じ。〔集韻〕妏、女字也、或作レ娩。

【娩順】1（ベンジュン） 柔順。すなほ。

【娩息】2（ベンソク） 生まれふえる。蕃殖。〔唐書、王毛仲傳〕於二牧事一尤力、娩息不レ訾。

【娩澤】3（ベンタク） あでやかで顏色のつやつやしてゐること。〔荀子、禮論〕悅豫娩澤、憂戚萃惡、是吉凶憂愉之情、發二於顏色一者也。〔注〕娩、媚也、澤、顏色潤澤也。

【娩痛】4（ベンツウ） 産の時の腹痛。陣痛。

【娪】6338

［一］ゴ　〔集韻〕訛胡切　虞

［二］ギョ ゴ　〔集韻〕牛居切　魚

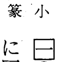
［三］ゴ　〔集韻〕五故切　遇

［一］**美しい女**。〔集韻〕娪、埤倉、美女也。［二］［三］**をんな**。〔集韻〕娪、吳人謂レ女爲レ娪。〔釋名、釋長幼〕女、青徐州曰レ娪、忤也、始生時、人意不レ喜、忤忤然也。

【娫】6339 エン 〔集韻〕夷然切 ［先］
❶**女のあざな。**〔集韻〕娫、女字。❷**みめよいさま。**〔正字通〕娫、美好貌。

【婚】6340 クワツ 婚（3－6212）の本字。〔正字通〕婚、婚本字。

【娭】6341 ㊀キ 〔集韻〕虛其切 ［支］ ㊁アイ 〔集韻〕於開切 ［灰］ ㊂アイ 〔集韻〕倚亥切 ［賄］


小篆

㊀❶**たはむれる。** 嬉（3－6736）に同じ。〔說文〕娭、戲也、从レ女矣聲。〔說文通訓定聲〕娭、字亦作レ嬉。〔漢書、禮樂志〕神來宴娭。〔注〕師古曰、娭、戲也。❷**婦人の賤稱。**〔說文〕娭、一曰、卑賤名也。❸或は嫼（3－6839）に作る。〔集韻〕娭、或从レ熙。㊁**はしため。**〔集韻〕娭、婦人賤稱。〔廣雅、釋詁四〕娭、婢也。〔疏證〕說文、娭、卑賤名也、廣韻引二蒼頡篇一云、婦人賤稱也。㊂❶**たはむれる。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕娭、戲也。❷**はしため。**㊁に同じ。〔集韻〕娭、婢也。

【娭娭】1 キキ 戲れるさま。〔元結、治風至慈詩〕至化之深兮、猗猗娭娭、如レ煦如レ吹、如レ負如レ持、而不レ知二其慈一、故莫レ周莫レ止、靜和而止。

【娭光】2 キクワウ 戲れてゐる美女の、まばゆいばかり美しいさま。〔楚辭、招魂〕娭光眇視、目曾レ波些。〔注〕娭、戲也、言三美女酣樂顧望娭戲、身有二光文一。

【娭娛】3 ゴキ たはむれ樂しむ。〔楊載、詩〕娭娛從二老穉一、燕賞逐二朋儔一。

【娮】6342 ゲン 〔集韻〕魚軒切 ［元］ **女のあざな。**〔集韻〕娮、女字。

【娊】6343 ハイ 〔集韻〕博蓋切 ［泰］ **女のあざな。**〔集韻〕娊、女字。

【娉】6344 ヒン 嬪（3－6819）の古字。〔玉篇〕娉、古文嬪。

【婁】6345 ル 屢（4－7787）の古字。〔集韻〕屢、古作レ婁。

【娱】6346 タ ダ 〔集韻〕直加切 ［麻］ **美しいさま。**〔集韻〕娱、美也。

【娄】6347 ロウ ル 〔集韻〕盧貢切 ［送］ **女のあざな。**〔集韻〕娄、女字。

【娗】6348 テイ チヤウ 〔集韻〕馳貞切 ［庚］ **女の名。**〔集韻〕娗、女名。

【媱】6349 エウ 〔奚韻〕余消切 ［蕭］ **美しいさま。**〔奚韻〕媱、美貌。

【姤】6350 ト ツ 〔川篇〕當故切 ［遇］ **ねたむ。**〔川篇〕姤、嫉妒也。

【婬】6351 ワウ 〔集韻〕烏光切 ［陽］ **女のあざな。**〔集韻〕婬、女字。

【妏】6352 デウ・チツ 義未詳。〔龍龕手鑑〕妏、奴了切、女悉切。

【㛑】6353 ケフ 〔字彙補〕音怯 **心が平かでない。**〔字彙補〕㛑、心不レ平也。

【娰】6354 ジ 姒（3－6177）に同じ。〔篇海類編〕娰、同レ姒。

【婺】6355 スイ 義未詳。〔篇海〕婺、音雖。

【𡜏】6356 ソ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𡜏、音麁。

【嫩】6357 ショク・ソ 義未詳。〔五音篇海〕嫩、音觸、又音麁。

【嫰】6358 デウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕嫰、寧了切。

【𡝈】6359 シン 娠（3－6322）に同じ。〔集韻〕娠、或書作レ𡝈。

八畫

【𡝠】6360 ヒ 妃（3－6061）に同じ。〔集韻〕妃、或作レ𡝠。

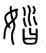
【娬】6361 ブ ム 〔集韻〕罔甫切 ［麌］ wǔ **こびる。**嫵（3－6701）に同じ。〔集韻〕嫵、說文、媚也、或从レ武。

【娬媚】1 ビブ なまめきこびる。嫵媚（3－6701・1）に同じ。〔史記、司馬相如傳〕娬媚姌嫋。〔蔡邕、青衣賦〕都冶娬媚、卓躒多姿。〔魏志、鍾繇傳、注〕魏略曰、孫權稱レ臣、斬二送關羽一、太子書報レ繇、繇答書曰、臣同郡故司空荀爽言、人當レ道レ情、愛レ我者一何可レ愛、憎レ我者一何可レ憎、顧念、孫權了更娬媚。

【娬媚娘】2 ブビヂヤウ 歌曲の名。〔資治通鑑、唐紀〕中宗、景龍二年、天下歌二娬媚娘一。〔注〕永徽後、民歌二娬媚娘曲一、蓋隋時已有二此曲一矣。

【𡝩】6362 デン 姩（3－6225）に同じ。〔集韻〕姩、或作レ𡝩。

【媘】6363 タフ トフ 〔集韻〕託合切 ［合］


小篆

❶**ふす。**うつぶす。〔說文〕媘、俛伏也、从レ女沓聲。❷**服從する。**〔說文〕媘、一曰、服意也。

【娵】6364

㊀シュ ス 〔集韻〕遵須切 虞
㊁シウ シユ 〔集韻〕留尤切 尤
㊂ソウ シユ 〔集韻〕此苟切 有
慣 シユウ

㊀❶**星宿の名**。娵訾(3)の❶を見よ。❷**帝嚳の妃の姓**。娵訾(3)の❷を見よ。❸**さかな**。娵隅(2)を見よ。嬃(**3－6723**)に通ず。❹閭娵は魏の國の美人。〔漢書、揚雄傳上、娵娃、王先謙補注〕官本注末、有下韋昭曰、娵、當レ作レ嬃、閭娵、梁王魏嬰之美人曰二閭嬃一十七字上。〔枚乘、七發〕呉娃閭娵。〔注〕善曰、漢書注曰、閭娵、梁王魏嬰之美人。㊁**女の名**。〔集韻〕娵、女名。㊂**美しい女**。**たをやめ**。〔集韻〕娵、美女。邦**よめ**。

【娵娃】1 シュアイ シュア 閭娵と呉娃。共に古の美人。〔漢書、揚雄傳上〕資二娵娃之珍髢一。〔注〕孟康曰、娵、閭娵也、娃、呉娃也、師古曰、娵娃、皆美女也。

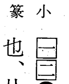
【娵隅】2 シュグウ シュグ 魚をいふ。西南蠻人の語。娵魚圖を見よ。〔世說新語、排調〕郝隆爲二桓公南蠻參軍一、三月三日、會レ作レ詩、不レ能者罰酒三升、隆初以レ不レ能受レ罰、既飮攬レ筆、便作二一句一云、娵隅躍二清池一、桓問、娵隅是何物、答曰、蠻名、魚爲二娵隅一、桓公曰、作レ詩何以作二蠻語一、隆曰、千里投レ公、始得二蠻府參軍一、那得レ不レ作二蠻語一也。

【娵訾】3 シュシ ❶星宿の名。衞の分野。幷州に屬す。黄道十二宮の雙魚宮と相當る。諏訾。〔左氏、襄、三十〕歳在二娵訾之口一。〔注〕娵訾、營室東壁、二十八年歳星淫在二玄枵一、今三十年在二娵訾一。〔漢書、律歴志下〕三十年、歳在二娵訾一。〔晉書、天文志上〕自二危十六度一至二奎四度一爲二娵訾一、於レ辰在レ亥、衞之分野、屬二幷州一。❷帝嚳の妃の姓。名は常儀。摯を生む。〔史記、五帝紀〕帝嚳云云、娶二娵訾氏女一、生レ摯。

【娵魚圖】4 シュギョ ノヅ 魚を畫いた圖。西南蠻人は魚を娵隅といふ。〔廣川畫跋〕成都府、官給二娵魚圖一、陳二于宴廳一、有下疑二其名一者上、余復而質二之於書一、郝隆有レ言、娵隅躍二清池一、蓋西南蠻、號レ魚爲二娵隅一、此圖大小爲二魚數十形一、不レ可下以二一魚一名上レ之、疑或傳二之夷人一也。

【娶】6365

㊀シュ ス 〔集韻〕逡遇切 遇 ㄑㄩˋ ch'ü4・3
㊁シュ ス 〔集韻〕此主切 麌
㊂シヨ 〔集韻〕新於切 魚
㊃シュ ス 〔集韻〕遵須切 虞
慣 シユウ


小篆

㊀㊁❶**めとる**。〔說文〕娶、取レ婦也、从レ女取聲。〔段注〕取二彼之女一、爲二我之婦一也。❷取(**2－3158**)に通ず。〔論語、述而〕君娶二于呉一。〔釋文〕娶、本今作レ取。㊂**なかだち**。商娶。〔集韻〕娶、商娶、媒也。㊃**人名**。〔集韻〕娶、闕、人名、烏孫王岑娶。

【娶嫁】1 シュカ めとりとよめいり。〔後漢書、逸民、向長傳〕建武中、男女娶嫁既畢、勅斷二家事一勿二相關一、當レ如二我死一也。

【娶妻】2 シュサイ つまをめとる。よめとり。〔左氏、昭、二十八〕昔賈大夫惡、娶レ妻而美。〔漢書、律歴志上〕律娶レ妻。〔白虎通、諫諍〕本娶レ妻非レ爲二諫正一也。〔金史、完顏仲德傳〕娶レ妻營レ業。

【娶親】3 ch'ü3 ch'in1 ❶妻をめとる。❷結婚の日、聟方から轎を用意して婦家に至り、婦を迎へて來ること。

【娶親過門】4 ch'ü3 ch'in1 kuo4 men2 嫁を「娶る。

【娶親太太】5 ch'ü3 ch'in1 t'ai4 t'ai 婚禮の時、壻方から新婦を迎へに行く婦人。

【娶親爺們】6 ch'ü3 ch'in1 yeh2 men 婚禮の時、新婦を聟の宅に迎へて來る男。

【娶妾】7 シュセフ 妾をめとる。〔後漢書、祭遵傳〕遵同産兄午、以二遵無一レ子、娶レ妾送レ之、遵乃使二人逆而不レ受。〔元稹、憶レ遠曲〕老姑爲レ郎求レ娶レ妾。

【娶女】8 シュヂヨ 嫁をとる。取女(**2－3158**・・98)を見よ。

【娶得】9 シュトク めとる。〔論衡、骨相〕富貴之男、娶二得富貴之妻一。

【娶婦】10 シュフ 嫁をとる。娶女。〔史記、管蔡世家〕景侯爲二太子般一娶二婦於楚一。〔白虎通、嫁娶〕娶レ婦之家、三日不レ擧レ樂。

【娶聘】11 ch'ü3 p'ing4 結婚する。めとる。

【娶媳婦】12 ch'ü3 hsi2 fu 妻を娶る。

【姘】6366

㊀ハウ ヒヤウ 〔集韻〕披耕切 庚 ㄆㄧㄣ p'in1
㊁ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕滂丁切 靑

小篆

㊀㊁❶**のぞく**。**はらふ**。屛(**4－7734**)に通ず。〔說文〕姘、除也、从レ女幷聲。〔段注〕經傳皆用レ屛、屛行而姘廢矣。❷**女と通ずること**。㋑庶人が下婢と私通すること。〔說文〕姘、漢律、齊民與二妻婢一姦曰レ姘。〔段注〕禮、士有レ妾、庶人不レ得レ有レ妾、故平等之民、與二妻婢一私合、名レ之曰レ姘、有レ罰。㋺齋戒中に女と通ずること。〔廣韻〕姘、齋與レ女交、罰金四兩、曰レ姘。㋩女と私通すること。女と密通すること。〔廣韻〕姘、蒼頡篇曰、男女私合曰レ姘。❸俗に姘(**3－6199**)に作る。〔字彙〕姘、俗姘字。

【姘識】1 ハウシキ 野合する。私通する。良い仲になる。情を通じあふ。〔北京指南、食宿遊覽、妓院、花界特別用語〕與二妓女一姘識之人、曰二杈桿一。

【娷】6367

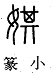
㊀ツイ 〔集韻〕竹恚切 寘
㊁スイ ズイ 〔集韻〕是爲切 支
㊂スイ ズイ 〔集韻〕樹僞切 寘

小篆

㊀❶**わづらはす**。諈(**10－35635**)に同じ。〔說文〕娷、諉也、从レ女垂聲。〔集韻〕諈、或从レ女。❷**飢ゑた聲**。〔廣韻〕娷、飢聲。❸**人名**。〔漢書、藝文志〕娷、一篇。〔注〕師古曰、娷、音女瑞反、蓋說二兵法一者人名也。㊁**女のあざな**。〔集韻〕娷、女字。㊂❶**女のあざな**。〔集韻〕娷、女字。❷**姓**。〔集韻〕娷、亦姓。

【娸】6368

キ 〔集韻〕丘其切 支


小篆

❶**みにくい**。䫏(**12－43544**)に通ず。〔說文通訓定聲〕娸、叚借爲レ䫏。〔說文〕娸、杜林說、娸、醜也。〔段注〕頁部曰、䫏、醜也、杜說蓋以レ娸爲二䫏頭字一也。〔漢書、枚皐傳〕其賦有三詆二娸東方朔一。〔注〕師古曰、娸、醜也。〔漢書、敍傳〕朱雲作レ娸。〔注〕晉灼曰、娸、醜也、師古曰、朱雲廷言、欲レ斬二張禹一、是爲二醜惡之娸一。❷或は媅(**3－6453**)に作る。〔集韻〕娸、或作レ媅。❸**姓**。〔說文〕娸、人姓也、从レ女其聲。

【婱】6369

ケン ゲン 〔集韻〕胡千切 先

小篆

❶**寡婦がみさをを立てること**。〔說文〕婱、有レ守也、从レ女弦聲。❷亦、妶(**3－6134**)に作る。〔集韻〕婱、亦省。❸或は書して[illegible](**3－6370**)に作る。〔集韻〕婱、或書作レ[illegible]。

【[illegible]】6370

ケン 婱(**3－6369**)に同じ。〔正字通〕[illegible]、本作レ婱。

【⿱弥女】 6371 ビ

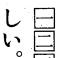
⿱彌女(3－6887)に同じ。〔字彙〕⿱弥女、同レ⿱彌女。

【⿱⿰弓尒女】 6372 ビ

⿱弥女(3－6371)に同じ。〔字彙〕⿱⿰弓尒女、同レ⿱弥女。

【娺】 6373

一 タツ タチ 〔集韻〕張滑切 黠
二 ツイ 〔集韻〕中葵切 支
三 セツ セチ 〔集韻〕姝悅切 屑
四 テイ テ 〔集韻〕株衞切 霽


小篆

一二三四❶**すばやくたけだけしい**。〔說文〕娺、疾悍也、从レ女叕聲、讀若レ唾。〔段注〕敏疾而勇也。❷**いかる**。〔集韻〕娺、怒也。❸**みめよいさま**。婠娺。〔廣韻〕娺、婠娺、好皃。

【⿰女戾】 6374 テツ テチ 〔字彙〕他結切 屑

むさぼり食ふ。〔字彙〕⿰女戾、貪食。

【娻】 6375

一 トウ ツ 〔集韻〕都籠切 東
二 トウ ツ 〔集韻〕多貢切 送

一**國名**。〔集韻〕娻、國名。二**女のあざな**。〔集韻〕娻、女字。

【娼】 6376 シヤウ 〔集韻〕蚩良切 陽 ㄔㄤ ch'ang^{1}

わざをぎ。うたひめ。遊女。倡(1－783)の俗字。〔正字通〕娼、俗倡字。〔集韻〕倡、樂也、或从レ女。

【娼衣】1 ch'ang^{1} i^{1} 娼妓の衣裳。

【娼優】2 シヤウイウ わざをぎ。倡優(1－783・・1)に同じ。

【娼家】3 シヤウカ 女郎屋。妓樓。貸座敷。娼館。娼樓。倡家。〔盧照鄰、長安古意〕娼家日暮紫羅裙、清歌一轉口氤氳。〔劉廷芝、公子行〕此日遨遊邀二美女一、此時歌舞入二娼家一。

【娼妓】4 シヤウギ 遊女。女郎。倡妓(1－783・・6)を見よ。〔白居易、與二元九一書〕欲レ娉二娼妓一。

【娼館】5 シヤウクワン 娼家(3)に同じ。

【娼根】6 シヤウコン 情夫をいふ。〔通俗編、婦女、娼根〕見二元李行道灰闌記曲一。

【娼女】7 シヤウヂヨ うたひめ。うかれめ。倡女(1－783・・22)に同じ。〔白居易、琵琶行序〕問二其人一、本長安娼女。

【娼夫】8 シヤウフ 妻や娘を賣って食を求めるものをいふ。〔稱謂錄、妓家、娼夫〕七修類稿、一說、春秋時、有下貨二妻女一求レ食者上、謂二之娼夫一、以二綠巾一裹レ頭、以別二貴賤一。

【娼婦】9 シヤウフ うたひめ。うかれめ。倡婦(1－783・・25)の❶を見よ。〔盧照鄰、長安古意〕妖童寶馬鐵連錢、娼婦盤龍金屈膝。

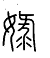
【娼樓】10 シヤウロウ 女郎屋。娼家。倡樓(1－783・・33)に同じ。

【⿰女岩】 6377 バン マン 〔集韻〕母敢切 感

鄉名。〔集韻〕⿰女岩、鄉名、在二河東一。

【娽】 6378

一 ロク 〔集韻〕盧谷切 屋
二 リヨク ロク 〔集龍〕龍玉切 沃


小篆

一❶**したがふ**。〔說文〕娽、隨從也、从レ女彔聲。❷**顓頊の妻の名**。〔集韻〕娽、顓頊之妻。❸錄(11－40519)・碌(8－24282)・鹿(12－47586)に通ず。〔正字通〕娽、毛遂傳、公等錄錄、廣韻引作二娽娽一、言レ無レ所二建明一也、錄錄・碌碌・鹿鹿、音義並通。

【⿱龸女】 6379 サイ

⿱龸女(3－6245)の譌字。〔正字通〕⿱龸女、⿱龸女字之譌。

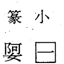
【娾】 6380

一 ガイ 〔集韻〕語駭切 蟹
二 ガイ ゲ 〔集韻〕宜佳切 佳
三 ガク ギヤク 〔集韻〕逆革切 陌

一**よろこぶ**。〔集韻〕娾、喜也。二**女のみにくいこと**。〔集韻〕娾、女媿也。三**みめよいさま**。〔集韻〕娾、好皃。

【娿】 6381

一 ア 〔集韻〕於何切 歌 ㄜ e^{1}
二 ア 〔集韻〕倚可切 哿


小篆

一❶**さだまらない**。〔說文〕娿、媕娿也、从レ女阿聲。〔廣韻〕娿、媕娿、不レ決。〔韓愈、石鼓歌〕詎肯感激徒媕娿。❷**女のあざな**。妸(3－6137)に同じ。〔集韻〕妸、說文、女字也、或不レ省。二❶**しなやかなさま**。たをやか。娿娜。〔集韻〕娿、娿娜、弱態。〔集韻〕娿、或省。❷或は妸(3－6137)に作る。❸亦、婀(3－6382)に作る。〔集韻〕娿、亦書作レ婀。❹**姓**。〔集韻〕娿、又姓。

【娿嬌】1 アケウ なまめかしい。あだつぽい。阿嬌(11－41599・・74)の❷に同じ。

【娿娜】2 アダ 美しくしなやかなさま。たをやか。阿那。〔曹植、洛神賦〕華容婀娜、令二我忘一レ餐。〔韓愈、元和聖德詩〕天兵四羅、旂常娿娜。〔蘇軾、次二韻子由論レ書詩〕端莊雜二流麗一、剛健含二娿娜一。

【娿娜國】3 アナノクニ 備後國安那郡邊の古稱。〔日本書紀〕。

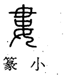
【婀】 6382 ア

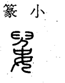
娿(3－6381)・妸(3－6137)に同じ。〔正字通〕婀・妸・娿同。

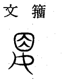
参考 熟語は娿(3－6381)を見よ。

【婁】 6383

一 ロウ ル 〔集韻〕郎侯切 尤 ㄌㄡˊ lou^{2}
二 ル 〔集韻〕隴主切 麌
三 ル 〔集韻〕龍珠切 虞
四 ル 〔集韻〕龍遇切 遇
五 ルイ 〔集韻〕倫爲切 支
六 ロウ ル 〔集韻〕朗口切 有


小篆


籀文


古文

一❶**むなしい**。〔說文〕婁、空也、从レ毋从二中女一、婁空之意也。〔段注〕凡中空曰レ婁、今俗語尙如レ是、云云、按、从レ毋、猶レ从レ無也、無者、空也、从二中女一、謂二離卦一、離、中虛也。❷**あらい**。まばら。〔管子、地員〕五穀之狀婁婁然。〔注〕婁婁、疏也。❸**をさめる**。收斂。〔詩、小雅、角弓〕莫二肯下遺一、式居婁驕。〔箋〕婁、斂也。❹**おろか**。〔說文〕婁、一曰、愚也。❺**獸の名**。〔韓詩外傳、五〕北方有レ獸、名曰レ婁、更食而更視。❻**星の名**。二十八宿の一。たたら星。たたみ。婁宿(2－6)を見よ。〔集韻〕婁、一曰、宿名。〔禮、月令〕季冬之月、日在二婺女一、昏、婁中。〔後漢書、郎顗傳、注〕婁、西方宿也。❼**地名**。春秋杞の邑。今の山東省諸城縣の西南。〔春秋、隱、四〕莒人伐レ杞取二牟婁一。〔杜注〕牟婁、杞邑、城陽諸縣東北有二婁鄉一。❽籀文は嬰(3－6744)に作る。〔集韻〕婁、籀作レ嬰。❾古

は〓(3－6295)・〓(3－6408)・〓(3－4757)に作る。〔集韻〕婁、古作㆓〓・〓㆒。〔六書統〕婁圂、古文婁字。❿姓。〔唐書、宰相世系表〕婁氏、出㆑自㆓姒姓㆒、夏少康裔孫東樓公封㆓於杞㆒、爲㆓楚所㆑滅、子孫食㆓邑於婁㆒、因以爲㆑氏、城陽諸縣有㆓婁鄕㆒是也。〔尙友錄〕婁譙國、商音、邾婁國之後因氏、又有㆓疋婁氏㆒、改爲㆑婁、魏姓也。[二]❶牛をつなぐ。〔公羊、昭、二十五〕夫牛馬維婁。〔注〕繫㆑馬曰㆑維、繫㆑牛曰㆑婁。❷かかはる。かかづらふ。つかれる。卷婁。〔集韻〕婁、卷婁、猶㆓拘攣㆒也。〔莊子、徐无鬼〕舜擧㆓乎童土之地㆒、年齒長矣、聰明衰矣、而不㆑得㆓休歸㆒、所謂卷婁者也。❸むなしい。〔集韻〕婁、一曰、空也。❹かがむ。僂(1－1045)に通ず。〔說文通訓定聲〕婁、叚借爲㆑僂。〔爾雅、釋木〕瘣木、苻婁。〔注〕謂㆔木病、尪傴癭腫、無㆓枝條㆒。〔疏〕苻婁、尪傴、內疾瘣落。[三]❶ひく。摟(5－12595)に通ず。〔說文通訓定聲〕婁、叚借爲㆑摟。〔集韻〕婁、牽也。〔詩、唐風、山有樞〕子有㆓衣裳㆒、弗㆑曳弗㆑婁。〔傳〕婁、亦曳也。〔釋文〕婁、牽也。❷ちりばめる。離婁は、ちりばめたものの明かなさま。〔何晏、景福殿賦〕丹綺離婁。〔注〕善曰、離婁、刻鏤之貌。❸おろか。くらい。〔集韻〕婁、一曰、愚也。〔蘇氏演義〕時人以㆘無㆓分別㆒者㆖、爲㆓邾婁不㆑辨、邾婁、小國微少之人、不㆑能㆓分別㆒也。❹語助の辭。邾婁は、春秋の時の國の名。〔禮、檀弓上〕邾婁復㆑之以㆑矢。〔釋文〕邾人呼㆑邾聲曰㆑婁、故曰㆓邾婁㆒。〔公羊、隱、元〕公及㆓邾婁儀父㆒盟㆓于昧㆒。〔釋文〕邾人語聲後曰㆑婁、故曰㆓邾婁㆒。❺古は婁(3－6385)に作る。〔集韻〕婁、古作㆑婁。❻姓。〔集韻〕婁、亦姓。[四]しばしば。數(5－13363)・屢(4－7787)に通ず。〔說文通訓定聲〕婁、叚借爲㆑數、字亦作㆑屢。〔爾雅、釋言〕婁、亟也。〔集韻〕屢、數也、或作㆑婁。〔漢書、宣帝紀〕婁蒙㆓嘉瑞㆒。〔注〕師古曰、婁、古屢字。[五]地名。埶婁。〔集韻〕埶婁、地名、在㆓西羌㆒。[六]をか。塿(3－5403)に通ず。〔集韻〕塿、培塿、小阜、或省。〔左氏、襄、二十四〕部婁無㆓松柏㆒。

【婁曳】1（ルエイ）ひく。〔詩、唐風、山有樞〕子有㆓衣裳㆒、弗㆑曳弗㆑婁。〔傳〕婁、亦曳也。

【婁叡】2（ロウエイ）北齊の人。昭の兄の子。字は佛仁。官は太尉。爵は東安王。〔北齊書、十五〕・〔北史、五十四〕。

【婁江】3（ロウカウ）川の名。一名、下江。又、劉家河・劉河といひ、俗に誤って瀏河に作る。江蘇省呉縣の東に在り、太湖の支流。崑山・太倉等の縣を經て長江に入る。江に入るところを劉河口、或は婁家口といふ。元代の海運は此處から海に入った。〔讀史方輿紀要、江南、大川〕三江、皆太湖之委流也、一曰松江、一曰婁江、一曰東江、云云、婁江亦名㆓下江㆒、自㆓太湖㆒分流、出㆓呉江縣西北鮎魚口㆒、北流入㆓運河㆒、經㆓城東㆒爲㆓婁門洪㆒、又東至㆓瀆野湖㆒、又東爲㆓陳湖㆒、又東、陽城湖巴城湖之水入焉、歷㆓崑山縣南㆒、至㆓太倉州城南㆒、州西南諸水悉入焉、又東爲㆓劉河口㆒、入㆓於江㆒、此婁江之大略也。

【婁郝】4（ロウカク）唐の婁師德と郝處俊。共に長者。轉じて、長者の稱。〔唐書、婁師德傳〕師德總㆓邊要㆒、爲㆓將相㆒者三十年、恭勤樸忠、心無㆓適莫㆒、方㆓酷吏殘鷙、人多不㆑免、獨能以㆓功名㆒始終、與㆓郝處俊㆒相亞、世之言㆓長者㆒、稱㆓婁郝㆒。

【婁季】5（ロウキ）婁幼瑜(42)を見よ。

【婁機】6（ロウキ）宋、嘉興の人。字は彥發。乾道の進士。官は資政殿學士。書を善くす。著に班馬字類がある。〔宋史、四百十〕・〔宋史新編、一百四十七〕・〔南宋書、四十一〕・〔宋大臣年表、二十八〕・〔南宋館閣續錄、七・八・九〕。

【婁胸】7（ルキョウ）かざりのある馬のむながい。〔詩、秦風、小戎、疏〕鏤膺、謂㆓膺上有㆑鏤、明是以㆑金飾㆑帶、故知㆔膺是馬帶、若㆓今之婁胸㆒也。

【婁金】8（ロウキン）漢の婁敬の作った藥金。〔夢溪筆談、異事〕小說麟趾裊蹏、乃婁敬所㆑爲藥金、方家謂㆓之婁金㆒、和㆑藥最良。

【婁觀】9（ロウクワン）明の人。洪武の末、鄢陵縣の長官と爲る。時に、民に豪猾な者が多くて治め難かったが、邑中の老成で人の信服する者を選び、德義を陳べて勸諭せしめ、遂に之を皆感化した。〔蘭臺法鑒錄、一〕。

【婁圭】10（ロウケイ）三國、魏の人。字は子伯。官は大將。太祖の寵を恃んで不遜であったので誅せらる。〔三國志、十二〕。

【婁敬】11（ロウケイ）漢、齊の人。高帝の時、都を關中に定める策を建て、姓を劉と賜ふ。劉敬(2－2224・・233)を見よ。〔班固、東都賦〕婁敬度㆑勢而獻㆓其說㆒。

【婁敬和親】12（ロウケイワシン）蒙求の標題。漢の婁敬が高祖に勸め、公主を嫁して匈奴と和親させた故事。〔漢書、婁敬傳〕當㆓是時㆒、冒頓單于兵彊、控弦四十萬騎、數苦㆓北邊㆒、上患㆑之、問㆑敬、云云、敬曰、陛下誠能以㆓適長公主㆒妻㆓單于㆒、厚奉㆓遺之㆒、彼知㆓漢女送厚㆒、蠻夷必慕以爲㆓閼氏㆒、生㆑子必爲㆓太子㆒代㆓單于㆒、何者、貪㆓漢重幣㆒、陛下以㆓歲時漢所㆑餘、彼所㆑鮮、數問遺、使㆔辯士風諭以㆓禮節㆒、冒頓在、固爲㆓子壻㆒、死、外孫爲㆓單于㆒、豈曾聞㆘外孫敢與㆓大父㆒亢禮㆖哉、可㆓毋㆑戰以㆑漸臣㆒也、若陛下不㆑能㆑遣㆓長公主㆒、而令㆓宗室及後宮、詐稱㆓公主㆒、彼亦不㆑肯㆓貴近㆒、無㆑益也、高帝曰、善、欲㆑遣㆓長公主㆒、呂后泣曰、妾唯以㆓一太子一女㆒、奈何棄㆓之匈奴㆒、上竟不㆑能㆑遣㆓長公主㆒、而取㆓家人子㆒、爲㆓公主㆒妻㆓單于㆒、使㆔敬往結㆓和親約㆒。

【婁驕】13（ルケウ）驕慢をさめる。驕慢を收めて敬順謙恭になること。〔詩、小雅、角弓〕莫㆓肯下遺㆒、式居婁㆑驕。〔箋〕婁、斂也、云云、用㆑此自居處、斂㆓其驕慢之過㆒者。

【婁堅】14（ロウケン）明、嘉定の人。字は子柔。經明行修を以て大師と稱せらる。書・詩を善くした。四明の謝賓山は、唐時升・程嘉燧・李流芳、及び堅の詩を合刻して嘉定四先生集といふ。著に學古緒言がある。〔明史、二百八十八〕・〔明史稿、二百六十七〕・〔明詩綜、六十五〕。

【婁縣】15（ロウケン）縣名。❶秦、置き、漢、之に因る。三國、呉の孫權が、初めに張昭を、後に陸遜を封じて婁侯とす。宋・齊、廢す。今の江蘇省崑山縣の東北、婁縣村。〔漢書、地理志上〕會稽郡、縣二十六、婁。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、崑山縣〕婁城、在㆓縣治東㆒、秦置㆑縣屬㆓會稽郡㆒、漢因㆑之、孫權封㆓張昭於此㆒、尋又封㆓陸遜㆒爲㆓婁侯㆒、晉亦爲㆓婁縣㆒屬㆓呉郡㆒、云云、宋齊亦爲㆓婁縣治㆒、後廢。❷清、置き、江蘇省に屬す。もと華亭縣の地。民國、松江縣を置く。〔清史稿、地理志〕江蘇、松江府、縣七、婁。

【婁謙】16（ロウケン）明、上饒の人。字は克讓。成化の進士。御史に任ぜられて學政を提督し、躬行實踐を以て教と爲す。四川布政使に至る。〔國朝獻徵錄、九十八〕。

【婁湖】17（ロウコ）湖の名。江蘇省南京市の東南。三國、呉の張昭の開いた湖。〔南史、沈慶之傳〕有㆓園舍㆒、在㆓婁湖㆒、慶之一夜攜㆓子孫㆒徙居㆑之、悉移㆓親戚中表於婁湖㆒、列㆑門同㆑閈焉。〔元和志〕湖溉㆓田數十頃㆒、呉張昭所㆑開、昭封㆓婁侯㆒、故名。

【婁后】18（ロウコウ）北齊、武帝の后。名は昭君。彊族の聘を盡く退けたが、高歡を見るに及び、眞に吾が夫なりと云って嫁す。神武明皇后といふ。天保の初、尊んで皇太后とす。〔北齊書、九〕。

【婁國】19（ロウコク）明の楊廉の夢に現れた蛙の國の名。〔楊廉、夢蛙賦〕須臾就㆑睡、夢㆓一綠衣、銳首皤腹、跳梁而趨㆒、問㆓其姓名㆒、答曰、世居㆓婁國㆒、僻㆓處滹淖㆒、在㆑晉有㆓官私之分㆒、在㆑齊有㆓鼓吹之號㆒、予實苗裔、非㆓敢濫冒㆒、聞㆓先生之督責㆒、特進謁以相告。

【婁山】20（ロウザン）山名。❶河北省永年縣の西。狗山をいふ。❷一名、大婁山。貴州省遵義縣の北。萬峯が天に聳え、中の一路は蜀から黔に通じ、上に婁山關、一名、太平關があり、石筍が高く聳えてゐる。李白が嘗て詩を此處に題した。

【婁矢】21（ロウシ）挹婁國(5－12105・・11)で用ひる

箭。〔魏志、挹婁傳〕其弓長四尺、力如㆑弩、矢用㆓楛長尺八寸㆒、青石爲㆑鏃、古之肅愼之國也、善㆑射、射㆑人皆入、因㆓矢施㆑毒、人中皆死。

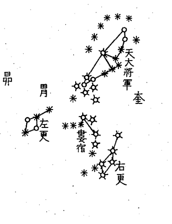
【婁琇】22 ロウシウ　明、湘陰の人。字は元夫。性剛直。崇禎の初、陝西涇州の長官となり、流賊の爲に死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【婁室】23 ロウシツ　❶金、完顏永成(**3－7079**··57)の本名。❷金、紇石烈良弼(**8－27246**··21)の本名。

【婁壽】24 ロウジユ　後漢、南陽の人。字は元考。幼より學を好みて厭かず、隱居して徵辟に應ぜず。門人、玄儒先生と私諡す。〔尚友錄、十三〕。

【婁壽碑】25 ロウジユノヒ　漢碑の名。後漢の玄儒先生婁壽の碑をいふ。碑は已に佚し、今僅かに拓本が傳はつてゐる。前に篆額があり、正文は凡そ二百九十一字。其の書法は肅括宏深であり、朱竹姹は嘗て之を漢隸第一と稱した。歐陽公が乾德縣敕書樓下に移置してから七百年來、拓本の世に傳はるものはただ吳中の顧氏のみといふ。〔歐陽脩、集古錄、後漢玄儒婁先生碑〕婁先生碑云、先生諱壽、字元考、南陽隆人也、云云、有㆑志、好㆑學不㆑厭。〔寰宇訪碑錄、漢〕玄儒先生婁壽碑、八分書、熹平三年正月、原石已佚、此宋拓本。

【婁宿】26 ロウシユク　星宿の名。二十八宿の一。たたら星。白虎七宿の第二宿。奎宿の西南、胃宿の東南にある。現在の牡羊座中の星。〔禮、月令〕季冬之月、日在㆓婺女㆒、昏婁中、旦氐中、其日壬癸。〔史記、天官書〕婁爲㆓聚衆㆒。〔晉書、天文志上〕婁三星爲㆓天獄㆒、主㆓苑牧・犧牲㆒、供㆓給郊祀㆒、亦爲㆓興㆑兵聚㆑衆。〔丹元子、步天歌〕婁、三星不㆑勻在㆓一頭㆒、右更左更烏夾㆑婁、天倉六箇婁下頭、天庾三星倉東腳、婁上十一將軍侯。〔宋史、天文志四〕漢永元銅儀以㆑婁爲㆓十二度㆒、唐開元游儀十二度、舊去㆑極八十度、景祐測驗婁宿十二度、距㆓中央大星㆒、去㆑極八十度、在㆓赤道內十一度㆒。



婁　宿（新法暦書）

【婁忱】27 ロウシン　明の人。諒の子。字は誠善。刻苦十年、父の學を傳へ、從つて游ぶ者甚だ衆し。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、三百八十三〕・〔明史稿、二百六十五〕。

【婁數】28 ロウスウ　毛羽の衣の貌。襹褷。〔釋名、釋牀帳〕裘溲、猶㆓婁數㆒毛相離之言也。

【婁樞】29 ロウスウ　明、河內の人。字は子敬。嘉靖の擧人。官は廣宗縣の長官。心を經世の學に留む。著に婁子敬文集がある。〔四庫提要、一百七十七〕。

【婁性】30 ロウセイ　明、上饒の人。成化の進士。官は南京兵部郎中。著に明政要がある。〔四庫提要、五十三〕。

【婁昭】31 ロウセウ　北齊の人。內干の子。諡は武。方雅正直。弓馬に秀づ。官は定州刺史。〔北齊書、十五〕・〔北史、五十四〕。

【婁豬】32 ロウチヨ　牝豚。又、さかりのついた豚。〔左氏、定、十四〕既定㆓爾婁豬㆒、盍㆑歸㆓我艾豭㆒。〔注〕婁豬、求㆑子豬也。〔會箋〕婁豬、牝豬也、集韻、⿱婁豕、求㆑子豕也、或省作㆑婁、婁、又與㆑摟通、趙岐孟子注、摟、牽也、凡六畜、通淫之時、好狂走群聚、故以爲㆓求㆑子豬㆒也。

【婁提】33 ロウテイ　後魏、代の人。封は眞定侯。〔魏書、八十七〕・〔北史、八十五〕。

【婁寶】34 ロウハウ　後魏の人。伏連の曾孫。字は道成。官は太子太傅。〔北史、二十〕。

【婁妃】35 ロウヒ　明、上饒の人。諒の女。賢德を以て知らる。寧王宸濠の妃となり、宸濠の謀逆を諫めたが、宸濠は之を聽かずして遂に敗る。〔明史、百十七〕。

【婁羅】36 ロウラ　❶夷狄をいふ。〔南史、顧歡傳〕蹲夷之儀、婁羅之辯、各出㆓彼俗㆒、自相聆解、猶㆓蟲嚾鳥聒㆒、何足㆑述效。❷聰明才敏の意。多くのことを取り裁いて處置すること。〔蘇氏演義〕婁羅者、幹㆓辦集事㆒之稱、世曰㆓婁敬甘羅㆒、非也。〔通俗編、武功、婁羅〕唐書、回紇傳、含具綠華、言㆓婁羅㆒也、蓋聰明才敏之意。云云、按、古人多取㆓雙聲字㆒爲㆓形容之辭㆒、其字初無㆓定體㆒、故或作㆓婁羅㆒、或作㆓僂儸㆒、或又以㆑婁作㆓樓・摟㆒。

【婁絡】37 ルラク　まとひからまる。〔韓愈、示㆑兒詩〕有㆑藤婁㆓絡之㆒、春華夏陰敷。

【婁良】38 ロウリヤウ　明、通許の人。正統の進士。刑部主事を授けらる。北狩に從つた時、也先が之を降さうとしたが屈せず、其の背に刃せられたが、辭色が益〻厲しかつたので、也先は其の節を重んじて之を釋した。還つて郞中に遷り、右副都御史に累官す。〔國朝獻徵錄、六十〕。

【婁諒】39 ロウリヤウ　明、上饒の人。字は克貞。號は一齋。吳與弼に學び、放心を收むるを主とす。王陽明が若い時、諒に學んだ。景泰中、鄕に擧げられ、成都訓導となる。著に日錄四十卷・三禮訂訛四十卷・春秋本意十二卷がある。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、三百八十三〕・〔明儒學案、二〕。

【婁林】40 ロウリン　地名。春秋、徐の邑。今の安徽省泗縣に古の婁亭があり、春秋婁林の地に當る。楚は徐を此に破る。〔春秋、僖、十五〕楚人敗㆓徐于婁林㆒。〔杜注〕婁林、徐地、不邳僮縣東南有㆓婁亭㆒也。

【婁寅亮】41 ロウインリヤウ　宋、永嘉の人。字は陟明。政和の進士。官は上虞丞・監察御史。〔宋史、三百九十九〕・〔宋史新編、一百四十〕・〔南宋書、二十三〕。

【婁幼瑜】42 ロウエウユ　南齊、東陽の人。字は季。官は給事中。著に禮捃遺三十卷がある。南齊書には樓幼瑜に作る。〔南齊書、五十四〕・〔南史、七十六〕。

【婁光堂】43 ロウクワウダウ　清、張際亮(**4－9812**··1063)の室名。

【婁繼英】44 ロウケイエイ　五代、晉の人。官は左監門衞上將軍。張從賓が反するや、之に投じて杜重威に殺さる。〔五代史、五十一〕。

【婁鈐轄】45 ロウケンカツ　宋の人。馬堅の部將。宋が亡んだ時、堅と共に死す。〔宋史、四百五十一〕・〔宋史新編、一百七十四〕・〔宋季忠義錄、六〕。

【婁志德】46 ロウシトク　明、項城の人。字は存仁。官は山東巡撫。惠政と清廉とを以て聞えた。著に兩浙賦役全書がある。〔明史、一百九十一〕・〔萬斯同明史、二百八十五〕。

【婁師德】47 ロウシトク　唐、原武の人。字は宗仁。諡は貞。進士。殿中侍御史、兼河源軍司馬となり、吐蕃と戰つて功があつた。武后の時、同平章事となつて邊要を總べ、將相たること三十年、恭勤樸忠を以て終る。〔唐書、一百八〕・〔舊唐書、九十三〕。

【婁守堅】48 ロウシユケン　宋、安東の人。承天寺の僧となり、新知軍が境に入るや、自焚して死す。〔尚友錄、十三〕。

【婁道者】49 ロウダウシヤ　宋、婁守堅(48)の號。　「號。

【婁東生】50 ロウトウセイ　元、姚文奐(**3－6202**··206)の號。

【婁內干】51 ロウナイカン　後魏の人。提の子。勇力を以て知られた。〔北齊書、十五〕。

【婁南良】52 ロウナンリヤウ　宋、臨川の人。字は德剛。咸淳の進士、官は吉州法曹。弟の文輔、子の淳と共に、德を以て有名である。〔尚友錄、十三〕。

【婁伏連】53 ロウフクレン　後魏、代の人。諡は恭。官は光祿勳。封は廣陵王。魏書には樓伏連に作る。〔魏書、三十〕・〔北史、二十〕。

【婁文煥】54 ロウブンクワン　明、象山の人。字は象明。諸生。明亡ぶと聞き、偏く親族に別れ、海邊沙土上に拱坐して死んだが、數日を越えて、屍が潮に隨ひて轉じ、顏色變ぜず、人其の神異に驚く。〔勝朝殉節諸臣錄、十〕。

【婁婁然】55 ロウロウゼン　まばらなさま。樓樓。〔管子、地員〕五穀之狀婁婁然。〔注〕婁婁、疏也。

【婁東畫派】56 ロウトウグワハ　清の王原祁を宗とする金永熙・唐岱・王敬銘等の畫の一派。清麗の筆を以て稱せらる。

【婁東散人】57 ロウトウサンジン　明、朱亮(**6－14424**··602′)「の號。

【婁】6384 ル　婁(**3－6383**)の俗字。〔字彙〕婁、俗婁字。

【婁】6385 ル　婁(**3－6383**)に同じ。〔五音篇海〕婁、同㆑婁。

【婂】6386 ベン　メン　〔集韻〕彌延切　先

女のあざな。媔(**3－6837**)に同じ。〔集韻〕

嫏、女字、或省。

【婃】6387 ソウ ズ 〔集韻〕徂宗切 冬

女のあざな。〔集韻〕婃、女字。

【婄】6388 ㊀ホウ フ 〔集韻〕普后切 有 ㊁ホウ フ 〔集韻〕普溝切 尤 ㊂ハイ 〔集韻〕鋪枚切 灰

㊀❶婄娝は、婦人の肥えたさま。〔集韻〕婄、婄娝、婦人肥皃。❷**おろか。**〔集韻〕婄、一曰、不才。㊁**婦人のさま。**〔集韻〕婄、女皃。㊂❶**みにくい。**〔集韻〕婄、博雅、娸婄、醜也。❷**婦人のさま。**〔集韻〕婄、一曰、婦人皃。

【婅】6389 キク 〔集韻〕居六切 屋

女の名。〔集韻〕婅、女名。

【婆】6390 ハ バ 〔集韻〕蒲波切 歌 ㄆㄛˊ p'o²

❶**ばば。**老女。〔廣韻〕婆、老母稱也。〔南宋市肆記〕有下老嫗以二小爐炷一爲レ供者上、謂二之立香婆一。❷**はは。**〔陸游、家世舊聞〕先世以來、庶母皆稱二支婆一。〔稱謂錄、方言稱レ母、婆〕案、北朝李育、呼レ母爲レ婆。❸**ちぢ。**老人。廣西地方の猺人の語。〔正字通〕婆、今廣西猺人之老者、一寨呼レ之曰レ婆、其老婦則呼レ之曰レ公。❹**ぐづ。**ためらふ。〔通俗編、性情、婆〕今以三性不二決捷一爲レ婆。❺**物のさま。**婆娑(6)を見よ。❻媻(**3−6583**)に同じ。〔集韻〕媻、說文、奢也、一曰、女老稱、或从レ波。❼現㋑しうとめ。㋺つま。❽佛㋑梵語 Ba の音譯字、悉曇五十字門の一。〔智度論〕若聞二婆字一、卽知二一切法無レ縛無レ解。㋺梵語 Bha の音譯字、悉曇五十字門の一。〔智度論〕若聞二婆字一、卽知二一切法不レ可レ得二破相一。

參考 說文には媻の字はあるが婆の字は無い。

【婆衍】1 ハエン 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕婆衍氏、見二複姓錄一。

【婆家】2 p'o² chia¹ 姑の家。

【婆脚】3 p'o² chiao³ 老婆に扮する役者。

【婆和】4 バクワ 複姓。〔南史、西南夷、呵羅單國傳〕呵羅單國遣二長史婆和沙彌一獻二方物一。

【婆官】5 バクワン 女神の名。〔元稹、和三樂天重題別二東樓一詩〕笛賽婆官徹夜吹。〔李夢符、漁文引〕婆官賽卻坐二江隈一。

【婆娑】6 バサ ❶舞ふさま。衣のひるがへるさま。〔爾雅、釋訓〕婆娑、舞也。〔注〕舞者之容。〔詩、陳風、東門之枌〕子仲之子、婆二娑其下一。〔傳〕婆娑、舞也。〔疏〕云二婆娑、舞也一、釋訓文、李巡曰、婆娑、盤辟舞也、孫炎曰、舞者之容、婆娑然。〔後漢書、王符傳〕詩刺乙不下績二其麻一市上也婆娑甲。〔黃庭堅、詠レ雪奉三呈廣平公一詩〕風回共作二婆娑舞一。❷歩きまはるさま。〔宋玉、神女賦〕又婆二娑乎人閒一。〔注〕善曰、婆娑、盤姍也。❸放逸のさま。〔宋玉、神女賦、注〕良曰、婆娑、放逸貌。❹ゆったりとしたさま。〔班昭、北征賦〕聊須臾以婆娑。〔注〕善曰、婆娑、容與之貌也。❺分れ散るさま。〔王褒、洞簫賦〕優嬈嬈以婆娑。〔注〕善曰、婆娑、分散貌。❻衰へくづれるさま。しをれて垂れ下るさま。〔晉書、殷仲文傳〕府中有二老槐樹一、顧レ之良久而嘆曰、此樹婆娑、無二復生意一。❼琴の音の細く抑揚あるさま。〔嵆康、琴賦〕怫憒煩冤、紆餘婆娑。〔注〕向曰、曲旋而亂繁或散之聲。❽安坐するさま。〔黃庭經〕金鈴朱帶、坐婆娑。❾影のゆれ動くさま。〔圖繪寶鑑〕竹影婆娑。❿ためらふ。未練を殘す。⓫いこふ。〔班固、答賓戲〕婆二娑乎術藝之場一、休二息乎篇籍之囿一。〔注〕善曰、婆娑、偃息也。⓬つまづく。〔杜甫、惡樹詩〕方知不材木、生長漫婆娑。⓭葉が茂るさま。〔爾雅、釋木、如二松柏一曰レ茂、注〕枝葉婆娑。〔義疏〕言二其密葉繁陰、望レ之鬱蔚一也。

【婆娑園】7 バサエン 宋、崔鷗(**4−8178・・18**)の園名。〔宋史、崔鷗傳〕始居二郟城一、治レ地數畝、爲二婆娑園一、屛處十餘年、人無二貴賤長少一、悉尊二師之一。

【婆娑兒】8 バサジ 鷗をいふ。〔淸異錄、禽、婆娑兒〕鄭遨隱居、有二高士一、問曰、何以閑レ日、對曰、不レ注二目於婆娑兒一、卽側二耳於鼓吹長一、謂二玩レ鷗而聽一レ蛙也。

【婆娑集】9 バサシフ 書名。三十卷。宋の崔鷗の詩文集。

【婆娑神】10 バサシン 神の名。〔後漢書、列女、曹娥傳〕父盱、絃歌爲二巫祝一、云云、泝レ濤迎二婆娑神一溺死。

【婆娑石】11 バサセキ 藥の名。南海に生じ、一切の毒藥瘴疫を解くといふ。胡人が尤も之を珍貴す。〔本草、婆娑石〕集解、志曰、婆娑石、生二南海一、胡人採二得之一、其石綠色、無二斑點一、有二金星一、磨成二乳汁一者爲レ上、又有二豆斑石一、雖二亦解一レ毒、而功力不レ及、復有二鄂綠一、有二文理一、磨レ鐵成二銅色一、人多以レ此爲レ之、非レ眞也、驗法、以レ水磨、點二雞冠熱血一、當二化成一レ水、是也。

【婆娑路】12 バサロ 地名。故城は滿洲遼寧省鳳城縣の東。又、婆速にも、博索にも作る。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、足遼中衞、興遼城〕婆速城、在二司東四百七十里一、金初置二統軍司於此一、天德二年、置二總管府一、貞元初、又置二府尹一爲二婆速府路一、元譌レ速爲レ娑曰二婆娑府一。

【婆娑先生】13 バサセンセイ 宋、崔鷗(**4−8178・・18**)の尊稱。

【婆娑羅樹】14 バサラジユ 樗(**6−15438**)の異名。〔事物異名錄、樹木、樗〕河洛記、洛陽北嶺上有二古樗一、婆娑在二伊闕正南一相當、越公等建レ都之日、據二此樹一以定二南北一、嫌二樗木名惡一、號曰二婆娑羅樹一。

【婆娑尼師今】15 バサニシキン 新羅の王。儒理尼師今の第二子。脫解尼師今に繼いで卽位し、兵革を練り、農桑を勵み、近山・居漆山・悉督・音汁伐・押督等、近傍の部落を略取す。百濟と好を通じ、月城に遷都し、在位三十二年にして薨去す。

【婆子】16 p'o² tzŭ 老婆。

【婆兒】16′ p'o² êrh 妻。

【婆閏】17 バジユン 唐の回紇の酋長。吐迷度の子。貞觀の末、左饒衞大將軍を授けられ、父の所領を襲ぐ。永徽中、衆を率ゐ、契苾何力・任雅相等を助けて阿史那賀魯を破り、北庭を收復し、功を以て右衞大將軍を授けらる。〔舊唐書、一百九十五〕・〔唐書、二百十七〕。

【婆心】18 バシン 老婆の心。老女は親切なもの故、親切氣・好意等の意に用ひる。又、しんせつ過ぎる心。老婆心。〔碧巖集、序〕雪竇・圜悟、老婆心切、大慧已一炬丙レ之矣。〔無門關、第二十三則〕無門曰、六祖可レ謂、是事出二急家一、老婆心切。

【婆焦】19 バセウ 蒙古人種の剃髮の俗をいふ。〔孟珙、蒙韃備錄〕上至二成吉思一、下極二國人一、皆剃婆焦、如二中國小兒一、留二三搭頭一、在二顖門一者、稍長則剪レ之、在二兩下一者、總小角垂二於肩上一。

【婆惜】20 バセキ 宋元時代、青樓中の女を呼ぶ語。〔黃雪蓑、青樓集序〕陳婆惜、善二聲唱一、聲遏二行雲一、然貌微陋、而談笑風生、應對如レ流、省憲大官、皆愛二重之一、在二絃索中一、能彈二唱曲一者、南北十人而已、女觀音奴、亦得二其彷彿一、不レ能レ造二其妙一也。

【婆媳】21 p'o² hsi² 姑と嫁。

【婆然】22 バゼン 舞ふさま。〔柳宗元、陪二永州崔使君一遊二讌南池一序〕羽觴飛翔、匏竹激越、熙然而歌、婆然而舞。

【婆丹】23 バタン 遼、蕭樂音奴(**9−32012・・538**)の字。

【婆娘】24 バヂヤウ 身分の低い女をいやしめていふ。はしため。下女。〔輟耕錄、婦女曰レ娘〕謂二婦人之卑賤者一曰二某娘一、曰二幾娘一、鄙レ之曰二婆娘一。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕我雖二是箇婆娘一有二氣志一。

【婆典】25 バテン 遼、蕭幹(**9−32012・・54**)の字。

【婆婆】26 ババ ❶祖母。婆婆姆姆を見よ。❷老年の婦人の稱。〔東坡志林〕溫成皇后乳母賈氏、宮中謂二之賈婆婆一、賈昌朝連二結之一、謂二之姑姑一。❸うば。乳母。〔嬉遊笑覽〕。❹p'o² p'o² 夫の母。しうとめ。

【婆婆家】27 p'o² p'o chia¹ 夫の家。

【婆婆車】28 p'o² p'o ch'ê¹ 乳母車。

【婆婆納】29 イヌノフグリ　草の名。いぬふぐり。へうたんぐさ。てんにんからくさ。はたけくはがた。ごまのはぐさ科に屬する一年生草本で、田野・路傍等に自生し、春から夏にかけて淡紅紫色の花を開く。

【婆婆娘】30 p'o² p'o² niang² niang²　女らしい。

【婆婆姆姆】31 ババボボ　祖母と叔母とをいふ。〔宣和遺事、後集〕呼二太后一爲二婆婆一、朱后爲二姆姆一。

【婆婆媽媽】32 p'o² p'o² ma¹ ma　男らしくない。女のやうな。てきぱきしない。氣の弱い。

【婆婆鍼線包】33 ババシンセンパウ　草の名。ががいも。蘿藦(9－32590‥28)の異名。〔本草、蘿藦〕釋名、藋、芄蘭・白環藤、實名二雀瓢一、斫合子、羊婆嬭・婆婆鍼線包、時珍曰、其中一子、有二一條白絨一、長二寸許、故俗呼二婆婆鍼線包一、又名二婆婆鍼袋兒一也。

【婆婆鍼袋兒】34 ババシンタイジ　草の名。ががいも。蘿藦(9－32590‥28)の異名。婆婆鍼線包を見よ。

【婆母】35 p'o² mu³　姑。夫の母。

【婆蘭】36 バラン　重量の單位。三百斤をいふ。〔文獻通考、市糴考〕凡舶舟之來、最大者爲二獨檣舶一、能載二一千婆蘭一、胡人謂二三百斤一爲二一婆蘭一也。

【婆利】37 バリ　❶古の國名。今の瓜哇の東にあるバリ(Bali)島。〔隋書、南蠻傳〕婆利國、自二交阯一浮レ海、南過二赤土・丹丹一、乃至二其國一。❷佛梵語 vāri の音譯。曲鉤をいふ。〔翻譯名義集〕婆利、此云二曲鉤一。

【婆利耶】38 バリヤ　佛梵語 bhāriya の音譯。婦人をいふ。〔佛爾雅〕夫主爲二波帝一、婦爲二婆利耶一。

【婆梨】39 バリ　佛梵語 vāri の音譯。水。又、乳。波耶(vāriya)。〔慧琳音義、二十六〕婆梨、此云二雜藥和一、水名也、或言二波耶一、亦云レ乳、此聲論中水名。

【婆留】40 バリウ　五胡十國、呉越王、錢鏐(11－40563‥222)の異名。其の誕生の時、紅光が部室に滿ちたので、父は怪んで井戸に捨てようとしたが、祖妣が非常の人なるを知つて固く留めた故にこの名あり。〔呉越備史〕武肅王錢鏐、初誕時、紅光滿レ室、皇考怪レ之、將レ棄二於井一、祖妣知二非常人一、固不レ許、曰二婆留一。〔西湖志餘〕開平元年、梁太祖卽レ位、封二錢鏐呉越王一、一鄰媼九十餘歲矣、攜二壺漿角黍一、迎レ鏐呼曰、錢婆留、寧馨長進、鏐下レ車拜レ之、蓋鏐生時、光怪滿レ室、其父欲レ不レ擧、是媼強留レ之、故名二婆留一也。

【婆律】41 バリツ　龍腦香樹から出る香の名。〔南史、西南夷、狼牙脩國傳〕狼牙修國、在二南海中一、多二棧・沉・婆律等香一。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕龍腦香樹、云云、其樹有レ肥有レ瘦、瘦者有二婆律膏香一、一曰、瘦者出二龍腦香一、肥者出二婆律膏一。

【婆角兒】42 p'o² chiao³ êrh　老婆に扮する俳優。

【婆歡喜】43 バクワンキ　大きな炭團。〔范成大、雪中送レ炭與二龔養正一詩〕煩レ君笑領婆歡喜、探借新年五日春。

【婆兮鄉】44 バケイキヤウ　地名。雲南省黎縣の東、婆兮江の西岸。北は瀲江縣に通じ、南は阿迷縣に通ず。もと把總駐守を置いたが、後、縣佐が之に駐す。滇越鐵道の沿線。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府、寧州〕婆兮江、州東六十里、源自二瀲江府撫僊湖一、流經二州境一、匯二於婆兮甸下一、流入二盤江一。

【婆固脂】45 バコシ　草の名。おらんだびゆ。補骨脂(10－34320‥170)の異名。〔本草、補骨脂〕釋名、破故紙・婆固脂・胡韭子、時珍曰、胡人呼爲二婆固脂一、而俗訛爲二破故紙一也。

【婆猴伎】46 バコウギ　早がはりの藝。婆猴は扶婁の音訛。扶婁國から傳はつた伎の意。〔拾遺記〕成王卽レ政七年、有二扶婁國一、其人善二機巧一、云云、於レ時、樂府皆傳二此伎一、俗謂二之婆猴伎一、卽扶婁之音訛也。

【婆嫂船】47 バサウセン　湖船の一種。〔夢粱錄、湖船〕有下賣二雜兒湖灘海蜇螺頭一、及點レ茶供二茶果一婆嫂船上。

【婆悉海】48 バシツカイ　湖の名。漢の蒲類海、今の巴爾庫勒泊。新疆省鎭西縣の西北。〔後漢書、竇固傳、追至二蒲類海一、注〕蒲類海、今名二婆悉海一、在二今庭州蒲昌縣之東南一。

【婆那娑】49 バナサ　樹木の名。波羅蜜(6－17308‥109)の❶に同じ。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕婆那娑樹、出二波斯國一、亦出二拂林一、呼爲二阿蔀嚲樹一、長五六丈、皮色青綠、葉極光淨、冬夏不レ凋、無レ花結レ實、其實從二樹莖一出、大如二冬瓜一、有二殼裹之殼一、上有二刺瓤一、至甘甜可レ食、核大如レ棗、一實有二數百枚一、核中仁如二栗黃一、炒食レ之甚美。

【婆婦草】50 バフサウ　草の名。ほどつら。百部。〔本草、百部〕釋名、婆婦草・野天門冬。

【婆餅焦】51 バヘイセウ　鳥の名。又、石の名。昔、出征軍人があつた。その婦が夫を慕つて山上から望んでゐる中に、化して石となつた。その母が餅を作つて辨當とし、子供を見にやつたが、餅が焦げてはと心配してゐる中に、もう間に合はなかつた。そこでその石を婆餅焦といつたといふのである。〔梅堯臣、禽言四首、山鳥〕婆餅焦、兒不レ食、爾父向レ何之、爾母山頭化爲レ石。〔韻府引、黃庭堅詩〕長笛一聲婆餅焦。〔事物紀原、蟲魚禽獸部、婆餅〕昔人有二遠戍一、其婦山頭望レ之、化爲レ石、其婆爲レ餅、將二以爲レ餉、使二其子偵レ之、恐二其焦不レ可レ食也、往已無レ及矣、因化二此物一、但呼二婆餅焦一也、今江淮所在有レ之。

【婆漫地】52 バマンチ　宰相をいふ。林邑國の語。〔唐書、南蠻下、環王傳〕環王、本林邑也、云云、呼二宰相一爲二婆漫地一。

【婆羅洲】53 ボルネオシウ　ボルネオ(Borneo)島。馬來諸島中部の島。

【婆羅得】54 バラトク　波斯に產する木名。婆羅勒(66)を見よ。

【婆羅門】55 バラモン　❶佛㋑梵語 Brāhman の音譯。呪・祈禱を意味する梵、及びその人格化した梵天。㋺梵語 Brāhmaṇa の音譯。印度の四姓の一。四階級の首位、婆羅門教の僧侶、又はその部族。祭典・教法・學問等のことを掌り、王侯以上の權力を有するもの。四姓の次級は、刹帝利(クシャトリヤ)卽ち王及び武士。三級は毗舍(バイシャ)卽ち平民。四級は首陀(スードラ)卽ち奴隸。〔玄應音義、十八〕婆羅門、此言訛略也、應レ云二婆羅賀摩拏一、此義云下承二習梵天法一者上、其人種類自云、從二梵天口一生、四姓中勝、故獨取二梵名一、唯五天竺有、諸國卽無、經中梵志亦此名也、正言二靜胤一、言二是梵天之苗胤一也。〔慧琳音義、二十六〕婆羅門、此俗人也、謂下淨行高貴捨二惡法一之人、博學多聞者上也。㋩梵天を最高神とする印度固有の宗教。婆羅門教を見よ。❷林邑國で師君をいふ。恐らくは婆羅門僧の類をいふのであらう。〔南齊書、林邑國傳〕謂二師君一爲二婆羅門一、羣從相姻、通レ婦、先遣レ聘求レ壻、女嫁者迦藍衣、橫幅合縫如二井闌一、首戴二花寶一、婆羅門、牽二壻與レ婦、握レ手相付、咒願二吉利一。❸隋、宇文皛(3－7067‥49)の字。

【婆羅門引】56 バラモンイン　詞牌の名。〔詞譜〕梅苑詞、名二望月婆羅門引一、按、唐教坊記有二婆羅門小曲一、宋史樂志有二婆羅門舞隊一、樂苑曰、婆羅門、商調曲也、開元中、西涼節度楊敬述進、理道要訣云、天寶十三載、改二婆羅門一爲二霓裳羽衣一、屬二黃鍾商一、宋詞調名、疑出二於此一。

【婆羅門曲】57 バラモンキヨク　唐の玄宗の時、楊敬述の奉つた樂曲の名。〔樂苑〕明皇至二月宮一、聞二仙樂一、及レ歸、但記二其半一、會西涼節度楊敬述、進二婆羅門曲一、聲調相符、遂以二月中所レ聞爲二散序一、敬述所レ進爲レ曲、而名二電裳羽衣一。

【婆羅門教】58 バラモンケウ　佛印度の古代に、婆羅門族を中心として行はれた宗教。梵天を宇宙創造神とし、修行によつて梵我一如を說く教。吠陀(ベーダ)・梵書(ボンショ)・優波尼沙土(ウパニシャッド)等を主要經典とす。婆羅門❶の㋑㋺を見よ。

【婆羅門國】59 バラモンコク　印度の別稱。〔西域記、二〕印度種姓、族類羣分、而婆羅門特爲二清貴一、從二其雅稱一、傳以成レ俗、無レ云二經界之別一、總謂二婆羅門國一焉。

【婆羅門參】60 バラモンサン　草の名。❶仙茅(1－374‥200)の異名。〔本草、仙茅〕釋名、獨茅・茅瓜子・婆羅門參、頌曰、其根獨生、始因二西域婆羅門僧獻二方於唐玄宗一、故今江南呼爲二婆羅門參一、言三其功補如二人參一也。❷ばらもんじん。菊科。二年生草本。花期は七月。むぎなでしこ、かきな等の別名がある。

【婆羅門城】61 バラモンジヤウ　釋迦が乞食して鉢を空しくして還つた處の名。佛の九惱の一。〔智度論、九〕入二婆羅門聚落一、乞レ食不レ得、空レ鉢而還。

【婆羅門呪】62 バラモンジユ　印度の神呪をいふ。〔資治通鑑、唐紀〕(中宗、景龍三年)左金吾將軍杜

元談誦二婆羅門呪一。〔注〕今所謂天竺神呪也。

【婆羅門書】63（バラモンシヨ） 後漢時代に西域から得た胡書。〔隋書、經籍志一〕得二西域胡書一、能以二十四字一貫二一切音一、文省義廣、謂二之婆羅門書一。

【婆羅門僧】64（バラモンソウ） 婆羅門の本形にて佛道を修行する僧。〔尊勝陀羅尼經、序〕婆羅門僧、佛陀波利。

【婆羅門皁莢】65（バラモンサウケフ） 草の名。なんばんさいかち。阿勃勒(11−41599‥430)の異名。〔本草、阿勃勒〕釋名、婆羅門皁莢・波斯皁莢、時珍曰、婆羅門、西域國名、波斯、西南夷國名也。

【婆羅勒】66（バラロク） 波斯に產する樹木の名。〔本草、婆羅得〕釋名、婆羅勒、集解、珣曰、婆羅得、生二西海波斯國一、樹似二中華柳樹一、子如二蓖麻子一、方家少レ用レ之、時珍曰、按、王燾外臺祕要、婆羅勒、似二蓖麻子一、但以二指甲一爪レ之、卽有レ汁出、卽此物也。

【婆羅痆斯】67（バラナシ） 古の國名。又、波羅奈・波羅捺・波羅捺斯・婆羅捺寫に作る。Vārnasi 鹿野園は此の國にある。今の印度のベナレス(Benares)市を中心とする地方。〔字彙補〕婆羅痆斯、國名。〔大唐西域記、婆羅痆斯國〕婆羅痆斯國、周四千餘里、國大都城西臨二殑伽河一、長十八九里、廣五六里、閭閻櫛比、居人殷盛、家積二巨萬一、室盈二奇貨一。

【婆羅捺寫】68（バラナシヤ） 婆羅痆斯に同じ。

【婆羅迦鄰提】69（バラカリンテイ） 鴛鴦(12−46795‥1)の異名。〔本草、鴛鴦〕釋名、黃鴨・匹鳥、時珍曰、涅槃經謂二之婆羅迦鄰提一。

【娕】6391 セツ 媟(3−6524)に同じ。〔正字通〕娕、同レ媟。

【婇】6392 ㊀サイ 〔集韻〕此宰切 賄 ㊁サイ 〔集韻〕倉代切 隊

㊀㊁**女のあざな。**〔集韻〕婇、女字。

字國 ウネメ・ウネベ 采女に同じ。❶姓氏。〔古事記、中〕宇麻志麻遲命、此者物部連・穗積臣・婇臣之祖也。❷天子の御膳を給仕する官女。〔古事記、下〕伊勢國之三重婇、指二擧大御盞一以獻。

【娆】6393 キヤウ カウ 〔字彙〕丘仰切 養

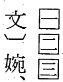
亂れるさま。〔字彙〕娆、亂貌。

【婧】6394 チク 妯(3−6125)に同じ。〔集韻〕妯、或从レ育。

【婈】6395 リヨウ 〔集韻〕閭承切 蒸

女のあざな。〔集韻〕婈、女字。

【婉】6396 ㊀エン ヲン 〔集韻〕委遠切 阮 ㊁エン ヲン 〔正韻〕迂絹切 霰 ㄨㄢˇ wan^3 ㊂ワン 〔集韻〕鄔管切 旱



小篆

㊀㊁㊂❶**したがふ。**すなほ。〔說文〕婉、順也、从レ女宛聲、春秋傳曰、太子痤婉。〔左氏、昭、二十六〕婦聽而婉。〔注〕婉、順也。❷**しなやか。**しとやか。〔鮑照、舞鶴賦〕引二圓吭之纖婉一、頋二修趾之洪姱一。❸**わかいさま。**〔詩、曹風、候人〕婉兮孌兮。〔傳〕婉、少貌。❹**みめよい。**うつくしい。〔詩、齊風、猗嗟〕淸揚婉兮。〔傳〕婉、好眉目也。〔後漢書、文苑下、邊讓傳〕展二中情之嫵婉一。〔注〕婉、美也。❺**したしむ。したしい。**〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕婉二彼二人一。〔注〕善曰、婉、猶二親愛一也。❻**つづまやか。**〔左氏、襄、二十九〕大而婉。〔注〕婉、約也。❼**まがる。めぐる。まとふ。**宛(3−5752)に通ず。〔說文通訓定聲〕婉、叚借爲レ宛。〔沈約、曲水宴應制詩〕光遲二蕙圃一、氣婉二椒臺一。❽**あらはでない。**遠まはし。婉曲。〔左氏、成、十四〕婉而成レ章。〔注〕婉、曲也。❾**動くさま。**婉僤(33)を見よ。❿倇(1−754)に通ず。〔陸機、於二承明一作與二士龍一詩〕倇孌居人思。〔注〕善曰、倇、與レ婉同、古字通。⓫畹(12−42665)に通ず。〔詩、鄭風、野有蔓草〕淸揚婉兮。〔玉篇〕畹、淸揚畹兮、今作レ婉。

【婉愛】1（エンアイ） やさしいいつくしみ。又、笛の音の形容。〔梁武帝、江南弄、龍笛曲〕婉愛寥亮繞二虹梁一、繞二虹梁一流二月臺一、駐二狂風一鬱徘徊。

【婉嫕】2（エンエイ） おとなしい。したがふ。柔順。〔集韻〕嫕、婉嫕、順從也。〔晉書、武悼楊后傳〕武悼楊后、婉嫕有二婦德一、美暎二椒房一。〔張華、女史箴〕婉嫕淑愼、正レ位居レ室。

【婉瘱】3（エンエイ） 靜かでおとなしいさま。〔漢書、外戚下、孝平王皇后傳〕爲レ人婉瘱、有二節操一。〔注〕師古曰、婉、順也、瘱、靜也。

【婉奕】4（エンエキ） うつくしい。婉麗。〔何頻瑜、査レ客至二斗牛一賦〕忽眄眙以相顧、雖二婉奕一而不レ親。

【婉豔】5（エンエン） たをやかで美しい。〔北史、魏文昭皇后傳〕后德色婉豔、文明太后、親二幸北部曹一、見レ后奇レ之入二掖庭一、時年十三。

【婉婉】6（エンエン） ❶曲りくねってゐるさま。〔楚辭、離騷〕駕二八龍之婉婉一兮、載二雲旗之委蛇一。〔注〕婉婉、龍貌。〔錢杲之集傳〕婉婉、曲折貌。❷しなやかなさま。〔庾信、遊レ山詩〕婉婉藤倒垂。❸和らぎ順ふさま。〔謝瞻、張子房詩〕婉婉幙中畫、輝輝天業昌。〔注〕善曰、婉婉、和順貌也。❹美しいさま。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕婉婉長離。〔注〕婉婉、美貌。

【婉戒】7（エンカイ） やさしくいましめる。〔福惠全書、庶政部、佐貳濫レ刑〕莫レ若二先レ事而婉戒、使レ知二自儆之優一。

【婉儀】8（エンギ） ❶女官の名。北齊、武成帝の時に置く。〔北史、后妃傳序〕婉儀、云云、爲二八十一御女一。❷宋代の宮嬪の名。婉容(51)の❷を見よ。

【婉御】9（エンギヨ） したがひ侍る。〔風俗通、怪神〕內中婉御者、益喜與爲レ之。

【婉曲】10（エンキヨク） 柔くてかど立たないこと。露骨でなくて趣があること。〔王守仁、教條示二龍場諸生一、責善〕忠告而善二道之一、悉二其忠愛一、致二其婉曲一。〔文章軌範、小心文、注〕文勢圓活而婉曲。

【婉衿】11（エンキン） 西王母(10−34763‥641)の一名。

【婉華】12（エンクワ） 女官の名。北齊、武成帝の時に置く。二十七世婦の一。〔北史、后妃傳序〕婉華、云云、爲二二十七世婦一、比二從三品一。

【婉勸】13（エンクワン） やはらかになだめる。〔福惠全書、刑名部、雜犯、債負〕須下婉二勸借人一、量爲中減免上。

【婉慧】14（エンケイ） しとやかで賢い。〔晉書、列女、慕容垂妻段氏傳〕少而婉慧、有二志操一、常謂二妹季妃一曰、我終不レ作二凡人妻一、季妃亦曰、妹亦不レ爲二庸夫妻一。

【婉愜】15（エンケフ） しとやかで心よい。〔鍾嶸詩品、宋徵士陶潛〕文體省靜、殆無二長語一、篤二意眞古一、辭興婉愜。

【婉言】16（エンゲン） 婉曲なことば。又、婉曲にいふ。〔福惠全書、蒞任部、待游客〕婉言答覆、請回二寓所一。

【婉詞】17（エンシ） 婉曲な言葉。婉言。〔福惠全書、筮仕部、延幕友〕凡以二情面一泛托、宜二婉詞謝一レ之。

【婉兒】18（エンジ） 人名。唐の上官昭容(1−13‥213)をいふ。〔唐詩紀事、上官昭容〕昭容名二婉兒一、西臺侍郎儀之孫、云云、母鄭方妊、夢巨人畀二大秤一曰、持二此稱一量二天下一、昭容生踰レ月、每戲曰、稱量者豈爾耶、輒啞然應。

【婉辭】19（エンジ） 婉曲な言葉。婉言。又、言葉を婉曲にする。〔淮南子、詮言訓〕今有二美酒嘉肴一以相饗、卑レ體婉レ辭以接レ之、欲二以合レ歡。

【婉秀】20（エンシウ） 美しくすぐれてゐる。〔葉顒、遊二三洞金盆諸峯一詩〕大山嚴而尊、小山婉而秀。

【婉謝】21 wan^3 hsieh^4 婉曲にことわる。

【婉從】22（エンジユウ） おとなしく從ふ。〔列子、湯問〕人性婉而從レ物、不レ競不レ爭、柔レ心而弱レ骨、不レ驕不レ忌。

【婉淑】23（エンシユク） たをやかでしとやか。〔續列女傳、

漢孝平王后傳〕爲㆑人婉淑、有㆓節行㆒。〔宋史、樂志九〕上帝錫㆑羨、實生㆓婉淑㆒。

【婉紃】24 エンジュン 清、張綸英(**4－9812**··1584)の字。

【婉順】25 エンジュン 柔和でおとなしい。婉娩。〔漢書、元后傳〕婉順得㆓婦人道㆒。〔後漢書、齊武王縯傳〕性婉順。

【婉如】26 エンジョ 容貌の美しいさま。しとやかなさま。〔詩、鄭風、野有蔓草〕有㆓美一人㆒、婉如清揚。

【婉媷】27 エンジョク 美しく飾りのあるさま。婉曲でゆたかなさま。文辭の美しいさま。〔唐書、虞世南傳〕虞世南、與㆓兄世基㆒、同受㆓學於呉顧野王㆒、餘㆓十年㆒、精思不㆑懈、至㆓累旬㆒不㆓盥櫛㆒、文章婉媷。

【婉靜】28 エンセイ おとなしくて靜か。〔後漢書、明德馬皇后紀〕皆孝順小心、婉靜有㆑禮。

【婉脊】29 エンセキ しなやかなせなか。〔梁書、張率傳〕河南國獻㆓舞馬㆒、詔㆑率賦㆑之曰、婉脊投㆑頌、俛膺合㆑雅。

【婉佺】30 エンセン 清、王圓照(**7－20823**··1210)の號。

【婉嬋】31 エンセン うつくしいさま。〔梁簡文帝、七勵〕載㆓金翠之婉嬋㆒、珥㆓瑤璫之陸離㆒。

【婉然】32 エンゼン しとやかなさま。美しいさま。〔詩、鄭風、野有蔓草、清揚婉兮、傳〕清揚眉目之間、婉然美也。〔白居易、霓裳羽衣歌〕婉然縱送游龍驚。〔法書要錄〕夫人隸書、猶善㆓規矩㆒、鐘公云、碎㆓玉壺之冰㆒、爛㆓瑤臺之月㆒、婉然芳樹、穆若㆓清風㆒。

【婉僤】33 エンセン 動くさま。婉蟬に同じ。〔漢書、司馬相如傳上〕象輿婉㆓僤於西清㆒。〔注〕師古曰、蚴蟉・婉僤、皆行動貌。

【婉態】34 エンタイ 上品な姿態。〔郭元震、冬歌〕婉態不㆓自得㆒、宛轉君王牀。

【婉倒】35 エンタウ 言葉を婉曲に顚倒していふこと。〔晉書、恭帝紀〕璞蓋以㆓百二之期促㆒、故婉而倒㆑之爲㆓二百㆒也。

【婉轉】36 エンテン まとひからまる。又、趣があつて種種に變化すること。宛轉。〔淮南子、精神訓〕抱㆑命而婉轉。〔注〕抱㆓天命㆒而婉轉不㆓離違㆒也。〔後漢書、馬援傳〕曉夕號泣、婉㆓轉塵中㆒。〔潘岳、射雉賦〕蕭森繁茂、婉轉輕利。〔注〕爰曰、婉轉、綢繆之稱。

【婉德】37 エントク 北齊、武成帝の時の女官の名。〔北史、后妃傳序〕婉德、云云、爲㆓八十一御女㆒、比㆓正四品㆒。

【婉軟】38 エンナン たをやかでやはらかい。〔白居易、小童薛陽陶吹㆓咸角栗㆒歌〕有㆑時婉軟無㆓筋肉㆒、有㆑時頓挫生㆓稜節㆒。

【婉佞】39 エンネイ たをやかにへつらふ。〔史記、佞幸傳〕此兩人非㆑有㆓材能㆒、徒以㆓婉佞㆒貴幸。

【婉白】40 エンパク やはらかに申したてる。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕先具㆓密稟㆒、婉㆓白其誣㆒。

【婉美】41 エンビ やさしくてうつくしい。婉麗(52)に同じ。

【婉媚】42 エンビ たをやかにこびる。〔漢書、佞幸傳序〕以㆓婉媚㆒貴幸。〔陸機、日出東南隅行〕婉媚巧㆓笑言㆒。

【婉禀】43 エンピン やさしく申上げる。〔福惠全書、庶政部、城門報單〕預飭㆓門軍㆒、小心婉禀。

【婉覆】44 エンプク やさしく返答する。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕當㆓婉覆登㆑簿。

【婉娩】45 エンベン おとなしくてすなほなこと。溫順。婉順。婉娩聽從を見よ。〔集韻〕娩、婉娩、容順。〔王逸、離騷章句後序〕婉娩以順㆑上、逡巡以避㆑患。〔張華、永懷賦〕揚㆓綽約之麗姿㆒、懷㆓婉娩之柔情㆒。

【婉娩聽從】46 エンベンチャウジュウ 溫順でよく長者の命にしたがふ。〔禮、內則〕女子十年不㆑出、姆教㆓婉娩聽從㆒。

【婉穆】47 エンボク しとやかでやはらぐ。〔張華、章懷皇后誄〕窈窕淑媚、柔順婉穆。

【婉曼】48 エンマン しとやかで美しい。〔左貴嬪、萬年公主誄〕盻倩其媚、婉曼其嬌。

【婉約】49 エンヤク 從順で謙遜。又、おくゆかしくつつまやか。〔國語、呉語〕婉㆓約其辭㆒、以從㆓逸王志㆒。〔注〕婉、順也、約、卑也。〔陸機、文賦〕或清虛以婉約。

【婉愉】50 エンユ したしみたのしむ。〔韓詩外傳、三〕居則婉愉、怒則勝㆑敵。〔令狐楚、賀㆓南郊㆒表〕陛下光膺㆓大寶㆒、茂對㆓上元㆒、盡㆓誠信㆒以奉㆑先、極㆓婉愉㆒而致㆑養。

【婉容】51 エンヨウ ❶柔和な姿。おとなしい態度。〔禮、祭義〕孝子之有㆓深愛㆒者、必有㆓和氣㆒、有㆓和氣㆒者、必有㆓愉色㆒、有㆓愉色㆒者、必有㆓婉容㆒。❷宋代の宮嬪の名。〔合璧事類〕宋眞宗置㆓淑容・順容・婉儀・婉容㆒、幷從一品、在㆓昭儀上㆒。

【婉麗】52 エンレイ たをやかで美しい。婉美。婉奕。婉豔。〔晉書、列女、段豐妻慕容氏傳〕慕容氏、姿態婉麗、服飾光華。〔宋史、朱敦儒傳〕素工㆓詩及樂府㆒、婉麗清暢。〔東坡詩話〕魯直作㆑詞、清新婉麗。

【婉孌】53 エンレン ❶年若く美しいさま。〔詩、齊風、甫田〕婉兮孌兮、總角丱兮。〔傳〕婉孌、少好貌。〔詩、曹風、候人〕婉兮孌兮、季女斯飢。〔後漢書、楊震傳〕絕㆓婉孌之私㆒。〔阮籍、詠懷詩〕婉孌有㆓芬芳㆒。〔晉書、左貴嬪傳〕昔伯瑜之婉孌兮、每綵衣以娛㆑親。〔抱朴子、君道〕放㆓舟姬㆒、以弭㆓婉孌之迷㆒。❷親しみ愛する。〔陶潛、雜詩〕婉孌柔童子。〔後漢書、朱祐傳贊〕婉孌龍姿、儷㆑景同㆑飜。〔注〕婉孌、猶㆓親愛㆒也。

【婉孌草堂】54 エンレンサウダウ 明、陳繼儒(**11－41698**··800)の室名。

【婉戀】55 エンレン 愛したふ。〔蔡邕、太傅安樂侯胡公夫人靈表〕契闊中饋、婉戀供養。〔江淹、待㆓罪江南㆒思㆓北歸㆒賦〕奇略獨出之君、尙婉㆓戀於樊陽㆒。

【婉⿰女戀】56 エンレン 戀情のこまやかなこと。〔剪燈餘話、秋夕訪琵琶亭記〕雖㆓比目並游之鱗、戢翼雙棲之羽㆒、未㆑足㆔以喩㆓其綢繆婉⿰女戀㆒也。

【婉凌華】57 エンリョウクヮ 西王母の侍女の名。〔漢武帝內傳〕婉凌華、拊㆓五靈之石㆒。

【婊】6397

ヘウ 〔集韻〕彼小切 ㄅㄧㄠˇ 篠 piao^{3}

❶**女のあざな。**〔集韻〕婊、女字。❷**倡妓。**婊子(一)の❶を見よ。

【婊子】1 ヘウシ ❶倡妓をいふ。又、表子・膘子に作る。〔名義考〕呼㆓娼家㆒爲㆓表子㆒、表、對㆑裏之稱、表子、猶㆑言㆓外婦㆒、亦作㆑婊。〔事物異名錄、品術、倡妓〕字典、俗呼㆓倡家㆒爲㆓婊子㆒。❷piao^{3} tzŭ 人の妻を罵つていふ語。

【婋】6398

カウ ケウ 〔集韻〕虛交切 肴

❶**女の心のさといこと。**〔玉篇〕婋、女心俊。❷**女のあざな。**〔集韻〕婋、女字。

【⿰女乳】6399

ドウ ヌ 〔集韻〕乃后切 有

⿰女乳⿰女孛は、女の肥えたさま。〔集韻〕⿰女乳、⿰女乳⿰女孛、女肥皃。

【婌】6400

シュク ジュク 〔集韻〕神六切 屋

❶**後宮女官の名。**〔集韻〕婌、後宮女官。❷通じて淑(**7－17634**)に作る。〔集韻〕婌、通作㆑淑。

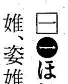
【婍】6401

キ 〔集韻〕去倚切 紙

❶**みめよい。**〔集韻〕婍、博雅、好也。❷通じて綺(**10－34384**)に作る。〔集韻〕婍、通作㆑綺。

【婎】6402

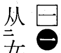
一 キ 〔集韻〕呼維切 支
二 キ 〔集韻〕香萃切 寘
三 ヒ 〔集韻〕必至切 寘
四 キ 〔集韻〕虎癸切 紙


小篆

一❶**ほしいまま。**姿婎。〔說文〕婎、姿婎、恣也、从㆑女隹聲。❷**みにくい。**倠(**1－782**)に通ず。〔說文〕婎、一曰、醜也。〔段注〕與㆓仳倠醜面之倠㆒通用。❸或は⿱隹女(**3－6630**)に作る。〔集韻〕婎、或

作レ⿱隹女。〘二〙〘三〙**みにくい**。〘一〙の❷に同じ。〔集韻〕婎、醜也。〘四〙**ほしい儘にふるまふさま**。姿婎。〔集韻〕婎、姿婎、自縱皃。

【婏】 6403

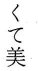

小篆

〘一〙フ 〔集韻〕芳遇切 遇

〘二〙ハン ホン 〔集韻〕孚萬切 願

〘一〙❶**兔の子**。〔說文〕婏、兔子也、从二女兔一。❷嬔(3－6768)に同じ。〔集韻〕嬔、兔子也、或省。❸**はやい**。⿱兔⿰兔兔(1－1413)に通ず。〔說文通訓定聲〕婏、叚借爲レ⿱兔⿰兔兔。〔說文〕婏、婏疾也。〔段注〕此上當レ有二一曰二字一。〘二〙❶**兔の子**。〘一〙の❶に同じ。❷**はやい**。〘一〙の❷に同じ。〔集韻〕婏、說文、兔子也。〔集韻〕婏、婏疾也。

【婐】 6404


小篆

〘一〙クヮ ワ 〔集韻〕鄔果切 哿

〘二〙クヮ ケ 〔集韻〕姑華切 麻

〘一〙❶**たをやか**。しなやか。弱々しくて美しいさま。〔說文〕婐、婐⿰女厄也、从レ女果聲。〔段注〕三字句、今本刪二婐字一、非也、婐⿰女厄、與二旖施一音義皆同、俗作二婀娜一。❷**思ひきりがよい**。〔說文〕婐、一曰、果敢也。❸**はべる**。腰元として附きそふ。〔說文〕婐、一曰、女侍曰レ婐、讀若レ騧、一曰、若レ委、孟軻曰、舜爲二天子一、二女婐。〔段注〕孟子盡心篇、二女果、趙曰、果、侍也、依二許說一則果當二女旁一。❹或は婑(3－6405)に作る。〔集韻〕婐、或作レ婑。❺通じて果(6－14556)に作る。〔六書故〕婐、通作レ果。〘二〙**はべる**。〔集韻〕婐、女侍也。

【婐⿰女厄】1 クヮ ワ 弱々しく美しいさま。〔說文〕婐、婐⿰女厄也。〔廣韻〕婐、婐⿰女厄、身弱好貌。〔梁武帝、遊女曲〕珠珮婐⿰女厄戲二金闕一。〔韓愈、元和聖德詩〕日君月妃、煥赫婐⿰女厄。〔注〕婐⿰女厄、身好弱貌、樂府、婐⿰女厄戲二金闕一、煥赫謂二日君一、婐⿰女厄謂二月妃一。

【婐娜】2 ダワ しなやかなこと。婦人にいふ。〔太平御覽、人事部、美婦人下〕服虔通俗文云、容麗曰レ媌、形美曰レ婧、容媚曰レ婠、南楚以レ好爲レ娃、肥骨柔弱曰二婐娜一。

【婐婧】3 ダワ たをやかでうつくしい。宛孌隈倚のさま。婑婧。〔六書故〕婐、婐婧宛孌隈倚之皃、婐、通作レ果。

【婑】 6405

〘一〙ズイ ニ 〔集韻〕儒隹切 支

〘二〙クヮ ワ 〔集韻〕鄔果切 哿

〘一〙**女のさま**。〔集韻〕婑、女皃。〘二〙**はべる**。婐(3－6404)に同じ。〔集韻〕婐、說文、⿰女厄也、一曰、女侍、孟軻曰、舜爲二天子一、二女婐、或作レ婑。

【婑婧】1 ダワ たをやかで美しい。婐婧。婐⿰女厄。婀娜。〔列子、楊朱〕穆之後庭、比レ房數十、皆擇二稚齒婑婧者一以盈レ之。

【婒】 6406

タン ダン 〔集韻〕徒甘切 覃

女のあざな。〔集韻〕婒、女字。

【⿱制女】 6407

ケイ 〔集韻〕許罽切 霽

手あらくほしいまま。〔集韻〕⿱制女、兇恣也。

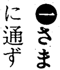
【⿱𦥑女】 6408

ロウ 婁(3－6383)に同じ。〔集韻〕婁、古作レ⿱𦥑女。

【⿰女芺】 6409

エウ 妖(3－6086)に同じ。〔正字通〕⿰女芺、妖同。

【婓】 6410


小篆

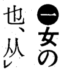
ヒ 〔集韻〕芳微切 微

❶**さまよふさま**。騑(12－44824)に通ず。〔說文〕婓、往來婓婓也、从レ女非聲。〔段注〕小雅毛傳曰、騑騑、行不レ止之貌、與レ婓、音義皆同。〔揚雄、反離騷〕昔仲尼之去レ魯兮、婓婓遲遲而周邁。❷**極めてみにくいさま**。〔說文〕婓、一曰、大醜皃。❸**神女**。江婓。〔集韻〕婓、列仙傳、江婓二女。〔左思、蜀都賦〕娉二江婓一與レ神遊。〔注〕向曰、江婓、神女也。❹或は婔(3－6411)に作る。〔集韻〕婓、或書作レ婔。

【婔】 6411

ヒ 婓(3－6410)に同じ。〔正字通〕婔、同レ婓。

【婕】 6412


小篆

セフ 〔集韻〕卽涉切 葉 ㄐㄧㄝˊ chieh²

❶**女のあざな**。〔說文〕婕、女字也、从レ女疌聲。❷**みめよい**。うつくしい。〔集韻〕婕、美也。❸婕妤は、女官。倢(1－784)に通ず。〔漢書、外戚傳序、倢伃、注〕師古曰、字或从レ女。

【婕妤】1 セフヨ 漢代の女官の稱。美好の意。又、承・接と音が通ずるところから、天子に承奉し、天子に接幸せられる意とも說く。倢伃。〔史記、外戚世家〕褚先生云、武帝時、幸二夫人尹婕妤一。〔注〕索隱曰、韋昭云、婕、承、好、助也、一云、美好也。〔漢書、外戚傳序〕至二武帝一制二倢伃・娙娥・傛華・充衣一、各有二爵位一、而元帝加二昭儀之號一、凡十四等云、昭儀、位視二丞相一、爵比二諸侯王一、倢伃、視二上卿一、比二列侯一。〔注〕師古曰、倢、言三接二幸於上一也、伃、美稱也、云云、伃音予、字或從レ女。

【婕妤怨】2 セフヨ エン 樂府、楚調曲の名。初、前漢の成帝は班婕妤を寵愛したが、後に趙飛燕姉妹を愛したので、婕妤は自ら輕んぜられたことを知り、空しく長信宮に退居し、賦及び紈扇詩を作つて自ら悼んだ。後人、之によつて婕妤怨を作る。唐人の作はまた長信怨といふ。〔樂府詩集、相和歌辭、楚調曲、班婕妤序〕樂府解題曰、婕妤怨者、爲二漢成帝班婕妤一作也、婕妤、徐令彪之姑、況之女、美而能文、初爲三帝所二寵愛一、後幸二趙飛鷰姉弟一、冠二於後宮一、婕妤自知レ見レ薄、乃退居二東宮一、作二賦及紈扇詩一、以自傷悼、後人傷レ之、而爲二婕妤怨一也。〔崔湜、婕妤怨〕不レ分二君恩斷一、新妝視二鏡中一、容華尙春日、嬌愛已秋風、枕席臨レ窗曉、帷屛向レ月空、年年後庭樹、榮落在二深宮一。

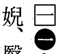
【婖】 6413

〘一〙テン 〔集韻〕他兼切 鹽

〘二〙テン 〔集韻〕他點切 琰

〘一〙〘二〙**女のあざな**。〔集韻〕婖、女字。

【婗】 6414


小篆

〘一〙ゲイ 〔集韻〕研奚切 齊

〘二〙ゲイ 〔集韻〕吾禮切 薺

〘一〙❶**みどりご**。あかご。〔說文〕婗、嫛婗也、从レ女兒聲。〔玉篇〕嫛、始生曰二嫛婗一。❷**あかごのなきごゑ**。〔釋名、釋長幼〕人始生曰二嫛婗一、婗、其啼聲。〔集韻〕婗、一曰、啼聲。❸**婦人のみにくいさま**。〔說文〕婗、一曰、婦人惡皃。❹或は彌(4－9877)に作る。〔集韻〕婗、或作レ彌。〘二〙**こびる**。**なまめく**。**又、疑つて決らない**。〔集韻〕媞、媞婗、嫵媚也、一曰、疑不レ

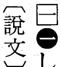
決也。

【娊子】1ゲイシ 山東地方で幼女をいふ。又、婢女に生ませた子。〔新方言、釋親屬〕山東謂二幼女一爲二娊子一、亦以稱二婢兒一。

【婘】6415 🈩ケン ゲン 〔集韻〕逵員切 先 🈔ケン 〔集韻〕古倦切 霰

🈩❶みめよい。〔廣雅、釋詁一〕婘、好也。❷或は孉(3－6902)・嬺(3－6907)に作る。🈔❶やから。親族。〔集韻〕婘、親也、史記、呂須婘屬。❷眷(8－23311)に同じ。〔正字通〕婘、與レ眷同。

【婩】6416 🈩エン 〔集韻〕於贍切 豔 🈔エン 〔集韻〕衣廉切 鹽


小篆

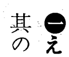
🈩❶しひる。かまへうつたへる。〔說文〕婩、誣挐也、从レ女奄聲。❷しもをんな。下女。〔玉篇〕婩、婢也。❸女のあざな。〔集韻〕婩、一曰、女字。🈔女のさま。〔集韻〕婩、女皃。

【婩譫】1エンエイ 女官。〔類篇〕譫、婩譫、女官也。

【婙】6417 セイ 婧(3－6433)に同じ。〔正字通〕婙、俗婧字。

【婚】6418 コン 〔集韻〕呼昆切 ㄏㄨㄣˉ huen^{1} 元

小篆


籀文

❶えんぐみ。よめとり。其の儀式を昏時に行ふから婚といふ。〔大戴禮、保傅〕禮之冠婚。〔注〕冠婚、人之始也。〔白虎通、嫁娶〕婚者、昏時行レ禮、故曰レ婚。❷さと。妻の實家。〔說文〕婚、婦家也、禮、娶レ婦㠯二昏時一、婦人、侌也、故曰レ婚、从二女昏一、昏亦聲。〔廣韻〕姻、婚姻、云云、字林云、婚、婦家、姻、壻家。❸さとおや。妻の實父。又、妻かたの親戚。〔爾雅、釋親〕婦之父爲レ婚、婦之黨爲二婚兄弟一。〔釋名、釋親屬〕婦之父曰レ婚、言二壻親迎用レ昏、又恒以二昏夜一成レ禮也。❹古は昏(5－13806)に作る。〔正字通〕婚、古作レ昏。❺籀文は㜴(3－5743)に作る。〔集韻〕婚、籀作レ㜴。

參考 熟語は昏(5－13806)を併せ見よ。

【婚婭】1コンア 縁組して身うちとなる。婭は妻の姉妹の夫。轉じて、親戚の義。〔唐書、柳沖傳〕山東之人質、故尙二婚婭一、其信可レ與也。

【婚友】2コンイウ 姻族と朋友。〔書、盤庚上〕施二實德于民一、至二于婚友一。〔傳〕至二于婚姻僚友一。

【婚姻】3コンイン ❶えんぐみ。結婚。昏姻(5－13806··7)の❶を見よ。〔左氏、成、十三〕重レ之以二婚姻一。〔荀子、富國〕婚姻娉內、送逆無レ禮。〔漢書、趙廣傳〕相與爲二婚姻一。〔新書、時變〕吾不二與婚姻一。〔後漢書、順帝紀、注〕妻父曰レ婚、壻曰レ姻。❷已に縁組をした相手の人・家・國をいふ。〔戰國、魏策〕燕齊、讎國也、秦、兄弟之交也、合二讎國一以伐二婚姻一、臣爲レ之苦矣。❸夫婦の父母の互稱。婚婣・姻(3－6250)及び婚の字解を見よ。❹我が國の現行法では、終生の共同生活を目的とする、法定の要件を具へた一男一女の正當な結合關係、又は此の法律關係を設定する當事者の合意の表示たる法律行爲をいふ。

【婚姻之禮人倫大者】4コンインノレイハジンリンノダイナルモノナリ 婚姻は、人間にとつて重大なるものである。〔漢書、宣帝紀〕夫婚姻之禮、人倫大者也。

【婚婣】5コンイン 婚姻(3)に同じ。婣は姻。〔爾雅、釋親〕婦之父母、壻之父母、相謂爲二婚婣一。〔商子、賞刑〕父兄・昆弟・知識・婚婣。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕便可レ作二婚婣一。

【婚家】6コンカ 結婚によつて婦又は入夫の入籍した家。〔梁書、沈約傳〕初高祖有レ憾二於張稷一、及二稷卒一、因與レ約言レ之、約曰、尙書左僕射、出作二邊州刺史一、已往之事、何足二復論一、帝以爲、婚家相爲、大怒曰、卿言如レ此、是忠臣耶。

【婚嫁】7コンカ ❶縁組をする。又、よめいりむこいり。〔顏氏家訓、後娶〕前妻之子、每居二己生之上一、宦學婚嫁、莫レ不レ爲レ防焉。〔隋書、倭國傳〕婚嫁不レ取二同姓一。〔白居易、金鑾子晬日詩〕若無二夭折患一、則有二婚嫁牽一。〔趙孟頫、題二耕織圖一云云詩〕冬前與二冬後一、婚嫁利二此時一。❷交合。同衾。〔源平盛衰記、十七、栖輕取レ雷事〕天皇と后と婚嫁し給へる時也。

【婚合】8コンガフ 交合。同衾。〔太平記、二十五、自二伊勢一進二寶劍一事〕男の形有りといへ共更に婚合の儀なし。

【婚期】9コンキ 結婚の時期。

【婚儀】10コンギ 結婚のときの儀式。婚禮。華燭の典。

【婚據】11 huen^{1} chü^{4} 結婚の契約書。婚書(19)に同じ。

【婚會】12コンクワイ 結婚の儀式。婚姻の爲の寄りあひ。〔文中子、魏相〕裴嘉有二婚會一、薛方士預焉、酒中而樂作、方士非レ之而出。〔唐書、車服志〕冊拜婚會、則車有レ幰。

【婚宦】13コンクワン 結婚と仕宦。〔列子、楊朱〕人不二婚宦一、情欲失レ半。〔顏氏家訓、教子〕年登二婚宦一。

【婚啓】14コンケイ 婚約書。婚書。〔輟耕錄、婚啓〕至元閒、平原郡公趙氏、宋福王也、其子娶二全竹齋少保之女一、婚啓內一聯云、休レ光薊北苟安二公位之居一、回レ首江南惟重二母家之念一、儘有レ味。

【婚媾】15コンコウ 夫婦の約束を結ぶ。又、その閒柄。婚は新しい縁組。媾は親族との縁組。結婚。昏媾。〔易、屯〕乘馬班如、匪レ寇婚媾。〔疏〕馬季長云、重婚曰レ媾、鄭玄云、媾、猶レ會也。〔左氏、隱、十一〕如二舊婚媾一、其能降以相從也。〔國語、晉語四〕今將二婚媾以從レ秦。〔後漢書、五行志一〕梁冀二世上將婚媾。

【婚媾不通】16コンコウツウゼズ 互に結婚しない。〔曹植、求レ通二親親一表〕近且婚媾不レ通。

【婚資】17コンシ 婚姻の支度金。

【婚娶】18コンシユ 夫婦となる。結婚。〔後漢書、周擧傳〕男女婚娶、不レ過二其時一。〔宋史、趙安仁傳〕躬自訓導、爲畢二婚娶一。

【婚書】19コンシヨ 結婚の契約書。紅色の地に金色の龍鳳の模樣ある折紙。龍鳳禮書ともいふ。婚啓。〔秦觀、婚書〕蚤年擁レ彗、嘗趨二大丞相之門一、末路紬レ書、實佐二先翰林之事一、重以三世母出二於伯姜一、旣事契之久敦、宣二婚姻之申結一、敬承二佳命一、增慰二夙心一。〔明律、戶律、婚姻〕若許レ嫁レ女、已報二婚書一。

【婚親】20コンシン えんつづき。婚戚に同じ。〔蜀志、劉備傳〕璋之婚親也。

【婚戚】21コンセキ 縁ぐみから成立つた身うち。えんつづき。縁家。婚親。〔南史、王藻傳〕淸官顯位、或由レ才升、一叨二婚戚一、咸成二恩假一。

【婚錢】22コンセン 結婚の費用。〔劉孝威、謝三晉安王賜二婚錢一啓〕問吉已通、請期有レ日。

【婚族】23コンゾク 結婚した一族。〔庾亮、讓二中書令一表〕抑二后黨一安、進二婚族一危。

【婚屬】24コンゾク 母、又は妻の身うち。〔後漢書、李固傳〕所二辟召一、靡レ非二先舊、或富室財賂、或子壻婚屬一。

【婚對】25コンタイ 結婚して夫婦となること。又、配偶者。つれあひ。婚配。〔晉書、衞瓘傳〕武帝敕二瓘第四子宣一、尙二繁昌公主一、瓘自以二諸生之胄一、婚對微素、抗表固辭。〔南史、劉瓛傳〕(劉瓛)年四十餘、未レ有二婚對一。

【婚弟】26コンテイ 妻のおとうと。〔爾雅、釋親〕婦之黨爲二婚兄弟一。

【婚田】27コンデン 結婚の費用に供する田地。〔舊唐書、職官志二〕戶曹司戶、掌二戶籍計帳、道路逆旅、婚田之事一。

【婚配】28コンパイ つれあひ。婚對。〔盧柟、天目山賦〕錫二羨餘一恤二不逮一、繕二橋梁一虞二婚配一。

【婚閥】29コンバツ 尊貴な家と縁組すること。又、其の縁組した家。〔唐書、王鍔傳〕鍔初附二太原王翃一爲二從子一、以二婚閥一自高。

【婚娉】30コンペイ 嫁とりすること。縁組すること。昏聘。〔北史、蠕蠕國傳〕延興五年、予成求レ通二婚娉一。

【婚幣】31（コンペイ） 婚姻の儀に贈る禮物。〔唐書、楊虞卿傳〕虞卿第㆓進士博學宏辭㆒、爲㆓校書郎㆒、抵㆓淮南㆒、委㆓婚幣㆒焉。

【婚約】32（コンヤク） 縁組のとりきめ。結婚の約束。

〔婚約解消〕33（コンヤクカイセウ） 婚約のとりけし。

【婚禮】34（コンレイ） 縁ぐみをする儀式。結婚式。婚儀。昏禮。〔孔子家語、本命解〕氷泮而農桑起、婚禮而殺㆓於此㆒。

〔婚禮衣裳〕35（コンレイイシヤウ） 婚禮用の衣裳。

【賣㆑婚】36（コンヲウル） 嫁娶するに相手方から貨財を求め取ること。賣婚(10―36825‥41)を見よ。

【婚兄弟】37（コンケイテイ） 妻の兄弟姉妹をいふ。〔爾雅、釋親〕婦之黨爲㆓婚兄弟㆒。

【婚爲㆓昆弟㆒】38（コンシテコンテイトナル） 結婚して兄弟分と爲る。〔孔叢子、獨治〕禮、以㆑婚爲㆓昆弟㆒。

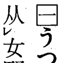
【⿰昏女】6419 コン

婚(3―6418)に同じ。〔字彙〕⿰昏女、同㆑婚。

【婛】6420 ケイ キヤウ 〔集韻〕居卿切 庚

女のあざな。〔集韻〕婛、女字。

【婜】6421 ㊀カン ケン 〔集韻〕丘閑切 删 ㊁キン 〔集韻〕頸忍切 軫

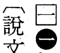

小篆

㊀うつくしい。〔説文〕婜、美也、从㆑女臤聲。㊁女のあざな。〔集韻〕婜、女字。

【婝】6422 テン デン 〔集韻〕堂練切 霰

女のあざな。〔集韻〕婝、女字。

【婞】6423 ㊀ケイ ギヤウ 〔集韻〕下頂切 迥 ㄒㄧㄥˋ hsing^{4} ㊁カウ ギヤウ 〔集韻〕下耿切 梗


小篆

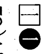
㊀❶親しまれる。寵愛せられる。〔説文〕婞、一曰、見㆑親。〔段注〕凡親幸・嬖幸、當㆑作㆓此婞㆒。❷もとる。從はぬ。〔説文〕婞、很也、从㆑女幸聲、楚詞曰、鯀婞直。❸まつすぐ。ただしい。〔王僧達、祭㆓顏光祿㆒文〕性婞剛潔。〔注〕善曰、婞、猶㆑直也。❹或は悻(4―10737)・倖(1―771)に作る。〔集韻〕婞、或作㆓悻・倖㆒。㊂さいはひをもとめる。又、したしむ。倖(1―771)に同じ。〔集韻〕倖、徼倖也、一曰、親也、或从㆑女。

【婞婞】1（ケイケイ） もとり怒る。悻悻。〔風俗通、愆禮〕以㆑此爲㆑高、斯亦婞婞。

【婞很】2（ケイコン） もとる。〔後漢書、張衡傳〕用㆓後勳㆒雪㆓前吝㆒、婞很不柔、以㆑意誰斬也。

【婞直】3（ケイチヨク） 自ら正しいとして他のいふことを聞かぬ。剛直でもとる。悻直。〔楚辭、離騷〕鮌婞直以亡㆑身兮。〔注〕婞、很也。〔洪興祖補注〕東坡曰、楚辭、鮌婞直以忘㆑身、則鮌蓋剛而犯㆑上者耳。〔楚辭、九章、惜誦〕行婞直而不㆑豫兮。〔注〕婞、很也。〔後漢書、黨錮傳序〕婞直之風、於㆑斯行矣。

【婟】6424 ㊀コ ゴ 〔集韻〕胡故切 遇 ㊁コ ゴ 〔集韻〕後五切 麌

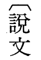

小篆

㊀❶こひしたふ。又、嫭(3―6679)に作る。〔説文〕婟、嫪也、从㆑女固聲。〔説文通訓定聲〕聲類、婟嫪、戀惜不㆑能㆑去也、按、今俗謂㆓女所㆑私之人㆒曰㆓孤老㆒、其遺語也、字亦作㆑嫭。❷をしむ。未練を殘す。〔集韻〕婟、嫪惜也。〔正字通〕婟、凡嗜好不㆑能㆓割棄㆒者曰㆑婟。❸女のあざな。〔集韻〕婟、一曰、女字。㊁よい。うつくしい。〔集韻〕婟、好也。

【婟澤】1（コタク） 鳥の名。水鴞に似て蒼黑色。常に澤を慕つて集まり、人が來ても去らないのでこの名を得た。澤虞。〔爾雅、釋鳥、虞注〕今婟澤鳥、似㆓水鴞㆒蒼黑色、常在㆓澤中㆒、見㆑人輒鳴喚不㆑去。〔疏〕婟嫪、戀惜也、此以㆘鳥戀㆓惜池澤㆒、見㆑人不㆖去、因名㆓婟澤鳥㆒也。

【婟嫪】2（コラウ） ❶戀ひ慕ふ。〔説文、嫪、段注〕聲類云、婟嫪、戀惜也。〔説文通訓定聲〕聲類、婟嫪、戀惜不㆑能㆑去也、按、今俗謂㆓女所㆑私之人㆒曰㆓孤老㆒、其遺語也。❷倡妓が遊郎をいふ。〔事物異名錄、品術、倡妓〕字典、倡妓呼㆓游壻㆒曰㆓婟嫪㆒。

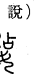
【婠】6425 ㊀ワン 〔集韻〕烏丸切 ㄨㄢ wan^{1} 寒 ㊁ワツ ヱチ 〔集韻〕烏八切 黠 ㊂クワン 〔集韻〕古玩切 翰 ㊃クワツ グワチ 〔集韻〕乎刮切 黠

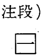

小篆

㊀㊁❶しなよい。品性が高い。〔説文〕婠、體德好也、从㆑女官聲、讀若㆓楚郤宛㆒。❷婠妠は、小兒の肥えたさま。婠妠を見よ。㊂㊃みめよいさま。〔集韻〕婠、好皃。

【婠妠】1（ワツダフ） 小兒の肥えたさま。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕邛文裁㆓斐亹㆒、巴豔收㆓婠妠㆒。〔注〕上、烏八切、下、女刮切、小兒肥貌。

【⿱沾女】6426 ㊀テン 〔集韻〕癡廉切 鹽 ㊁セン 〔集韻〕詩廉切 鹽


小篆（説文）

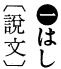

小篆（段注本）

㊀㊁よろこび笑ふさま。⿱沾女妗。妗⿱沾女。〔説文〕⿱沾女、⿱沾女妗也、从㆑女沾聲。〔集韻〕⿱沾女、妗⿱沾女、喜笑皃。

【婡】6427 ㊀ライ 〔集韻〕郎才切 灰 ㊁ライ 〔集韻〕落蓋切 泰

㊀女のあざな。〔集韻〕婡、女字。㊁みめよいさま。〔集韻〕婡、好皃。

【婢】6428 ヒ ビ 〔集韻〕部弭切 紙 ㄅㄟˋ pei^{4} ㄅㄧˋ pi^{4}


小篆

❶はしため。㋑身分の卑しい女。〔説文〕婢、女之卑者也、从㆓女卑㆒、卑亦聲。〔禮、内則〕父母有㆓婢子㆒。〔注〕婢子、所㆑通賤人之子。㋺しもをんな。下女。〔北史、后妃傳〕馮淑妃、名小憐、大穆后從婢也。〔袁昂、古今書評〕羊欣書、如㆔大家婢爲㆓夫人㆒。㋩罪に坐して官に沒入せられて賤役に從ふ女。女奴隸。〔周禮、秋官、司厲、女子入㆓于舂槀㆒、注〕今之奴婢、古之罪人也。〔漢書、刑法志〕緹縈上書、願㆘沒入爲㆓官婢㆒以贖㆗父罪㆖。㋥一般に、賣買せられた女奴隸。〔世説新語、德行〕奴價倍㆑婢。❷わらは。婦人が自ら謙遜して言ふ辭。婢子の❶を見よ。❸めかけ。婢子の❹を見よ。

【婢家】1（カヒ） 下女の家。〔菊池三溪、本朝虞初新志〕婢家父兄、大笑乃止矣。

【婢魚】2（ヒギヨ） 魚の名。鯽(12―46304)の異名。〔事物異名錄、水族、鯽〕爾雅翼、鱖鯞、名㆓旁皮㆒、鯽、又名㆓妾魚・婢魚㆒、以㆘其行以㆑三爲㆑率、一前二後、如㆓妾婢㆒然㆖、故云。

【婢子】3（ヒシ） ❶わらは。婦人が自ら謙遜していふ辭。〔禮、曲禮下〕自㆓世婦㆒以下、自稱曰㆓婢子㆒。〔注〕婢之言、卑也。〔左氏、僖、十五〕若晉侯朝以入、則婢子夕以死。〔左氏、僖、二十二〕寡君之使㆔婢子侍執㆓巾櫛㆒、以固㆑子也。〔注〕婢子、婦人

之卑稱也。〔列女傳、賢明、周宣姜后傳〕原二亂之興一、從二婢子一起。❷下女。女中。婢女。卑しい女。〔晏子、雜、上〕嬰豈其婢子也哉。❸婢の生んだ子。〔禮、內則〕父母有二婢子一、若二庶子庶孫一、甚愛レ之。〔注〕婢子、所レ通賤人之子。❹妾をいふ。〔禮、檀弓下〕使二吾二婢子夾一レ我。〔注〕婢子、妾也。

【婢屣】4 ヒシ 魚の名。かれひの一種。〔正字通〕鰈、婢屣魚、風土記云、奴屬魚、皆鰈之別名。〔太平御覽、鱗介部〕臨海異物志曰、婢屣魚、口近二腹下一、形似二婦人屣一。

【婢壻】5 ヒセイ 他所の人で、婢と通じたもの。〔漢書、何並傳〕殺二婢壻一埋二冢舍一。〔注〕師古曰、婢壻、外人與二其婢一姦者也。〔稱謂錄、婢之夫、婢壻〕書敍指南、王商婢所二私通一曰二婢壻一。

【婢妾】6 ヒセフ 女中とめかけ。めし抱への女ども。〔韓非子、亡徵〕婢妾之言聽、愛玩之智用、外內悲惋、而數行二不法一者、可レ亡也。〔史記、平原君傳〕君之後宮以レ百數、婢妾被二綺縠一餘二粱肉一。〔漢書、季布傳贊〕婢妾賤人。〔司馬遷、報二任少卿一書〕臧獲婢妾。

【婢妾魚】7 ヒセフギヨ 魚の名。鰟鮍鯽（12-46371··2）をいふ。爾雅の注は妾魚に作る。婢魚(2)を見よ。〔爾雅、釋魚、鱊鮬、鱖鯞、注〕小魚也、似二鮒子一黑、俗呼爲二婢魚一、江東呼爲二妾魚一。〔海錄碎事、鳥獸、水族〕綠珠傳曰、州大荒、山上有レ池、池中有二婢妾魚一。

【婢長】8 pei⁴ chang³ 炊事をする婆。めしたきばば。

【婢女】9 ヒヂヨ 下女。婢子。

【婢僮】10 ヒドウ 下女と、召しつかひの小童。〔中井履軒、鬻二蕎麵一者傳〕蓄二婢僮數十百人一。

【婢僕】11 ヒボク 下女と下男。〔顏氏家訓、後娶〕婢僕求レ容。〔白居易、續古詩〕豪家多二婢僕一、門內頗驕奢。〔五代史、王殷傳〕取レ杖授二婢僕一、自笞二于母前一。

【婢僕詩】12 ヒボクシ 李昌符の作つた詩の題。李昌符は、久しく科擧に及第しなかつたので、一策を案じ、婢僕詩五十首を作つて之を公卿の間に傳播させた所、數日にして都中に流行し、其の年及第したといふ。〔北夢瑣言〕李昌符、久不レ第、因出二一奇一、作二婢僕詩五十首一、於二公卿間一行レ之、浹辰、京城盛傳、是年登第。

【婢學二夫人一】13 ヒフジンヲマナブ 女中が奥様の眞似をする。自分に不似合ひなことを模倣すること。〔袁昂、古今書評〕羊欣書、如二大家婢作二夫人一、雖レ處二其位一、而擧止羞澀、終不レ似レ眞。

【婢膝奴顏】14 ヒシツドガン 下婢の膝つきと、奴僕の顏色。人に諂ふさま。奴顏婢膝。〔抱朴子、交際〕余惑、俗士、以二嶽峙獨立者一、爲二澀吝疏拙一、以二奴顏婢膝者一、爲三曉二解當世一。〔陸龜蒙、散人歌〕奴顏婢膝眞乞丐、反以二正直一爲二狂癡一。〔宋史、陳仲微傳〕俛レ首吐レ心、奴顏婢膝。

【婣】6429

イン

姻（3-6250）に同じ。〔説文〕姻、婣、籒文姻、从レ𣶒。

【婤】6430

小篆

㊀シウ シユ 〔集韻〕之由切 尤

㊁テウ 〔集韻〕丁聊切 蕭

㊂チウ ヂユ 〔集韻〕陳留切 尤

㊀❶女のあざな。〔説文〕婤、女字也、从レ女周聲。❷みめよいさま。〔廣韻〕婤、好皃。❸姓。〔字彙〕婤、姓也。㊁女の名。〔集韻〕婤、女名。㊂女のあざな。㊀の❶に同じ。〔集韻〕婤、女字、春秋傳、衞襄公嬖人婤姶。

【婥】6431

小篆

㊀ダウ ネウ 〔集韻〕女教切 效

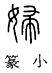
㊁テキ ヂヤク 〔集韻〕亭歷切 錫

㊂シヤク 〔集韻〕尺約切 藥

㊀㊁婦人のやまひ。〔説文〕婥、女病也、从レ女卓聲。㊂みめよい。うつくしい。又、みめよいさま。婥約。〔廣韻〕婥、婥約、美皃。〔集韻〕婥、婥約、好也。

〔史記、司馬相如傳〕靚莊刻飾、便嬛婥約。

【婦】6432



小篆

フウ ブ 慣フ 〔集韻〕扶缶切 ㄈㄨˋ fu⁴ 有

❶一家の主婦。〔説文〕婦、服也、从二女持一レ帚灑埽一也。〔易、蒙〕納レ婦吉。〔疏〕婦、謂レ配也。〔白虎通、嫁娶〕婦者、服也、服二于家事一、事レ人者也。❷よめ。子の妻。舅姑のある女。〔爾雅、釋親〕子之妻爲レ婦。〔詩、衞風、氓〕三歲爲レ婦。〔箋〕有二舅姑一曰レ婦。〔儀禮、喪服〕適婦。〔注〕適婦、適子之妻。〔顏氏家訓、書證〕婦、是對二舅姑一之稱。❸つま。夫ある女。女（ムスメ）に對して稱す。〔正字通〕婦、女子已嫁曰レ婦。〔公羊、隱、二〕女在二其國一稱レ女、在レ塗稱レ婦、入レ國稱二夫人一。〔大戴禮、保傅、注〕夫婦、化之始也。❹婦人は、身分あるものの妻。〔禮、曲禮下〕士曰二婦人一、庶人曰レ妻。❺女が弟の妻をいふ。〔爾雅、釋親〕女子謂二弟之妻一爲レ婦。❻をんな。〔廣雅、釋親〕女子、謂二之婦人一。❼世婦の簡稱。〔周禮、天官、典婦功〕以授二嬪婦一。〔注〕嬪婦、九嬪・世婦也。❽しなやか。しとやか。〔荀子、禮論〕其服組、其容婦。❾易では巽、又は離にあてる。〔易、小畜〕婦貞厲。〔虞注〕巽爲レ婦。〔易、既濟〕婦喪二其髴一。〔虞注〕離爲レ婦。❿通じて負（10-36660）に作る。〔史記、高祖紀〕常從二王媼武負一貰レ酒、注〕索隱曰、負、是婦人老宿之稱。

【婦妖】1 フエウ 婦人のばけもの。〔墨子、非攻下〕逮レ至二乎商王紂一、天不レ享二其德一、祀以失レ時、兼夜中十日雨二土于亳一、九鼎遷止、婦妖宵出。

【婦謁】2 フエツ 婦人が謁見する。婦人の言の用ひられること。女謁（3-6036··14）に同じ。〔荀子、大略〕湯旱而禱曰、宮室榮與、婦謁盛與。〔注〕謁、請也、婦謁盛、謂二婦言是用一也。

【婦翁】3 フヲウ 妻の父。外舅。婦公。撾二婦翁一、及び笞二婦翁一(5)を見よ。

【撾二婦翁一】4 フヲウヲムチウツ 妻の父をむちうつ。原因なくて謗られる喩。伯魚（一説、第五倫）が、孤女を娶つたにも拘らず、婦翁をむちうつたと誣ひられ、又、（一説、直不疑）兄がないのに、嫂を盜んだと誣ひられた故事。笞二婦翁一・搒二婦公一(19)を見よ。〔魏志、武帝紀〕伯魚三娶二孤女一、謂三之撾二婦翁一。〔唐書、柳宗元傳〕自レ古、賢人才士、被二謗議一不レ能二自明一、故有下無レ兄盜レ嫂、娶二孤女一撾二婦翁一者上。

【笞二婦翁一】5 フヲウヲムチウツ 理由なしで謗られる喩。撾二婦翁一に同じ。〔新論、傷讒〕昔直不疑未二嘗有一レ兄、而讒者謂二之盜一レ嫂、第五倫、三娶二孤女一、而世人謂レ笞二婦翁一。

【婦家】6 フカ つまの生家。よめのさと。〔後漢書、高句驪傳〕其昏姻皆就二婦家一。〔北史、蔡景王傳〕帝曰、我有二同生二弟一、並倚二婦家一、勢常憎二疾我一。

【婦好】7 フカウ しなやかなさま。〔荀子、樂論〕琴婦好、歌清盡。〔集解〕婦好、當下與二女好一同上、亦柔婉之意。

【婦學】8 フガク ❶婦人の學ぶ可き教。婦言(13)・婦德(58)・婦容(62)・婦功(20)をいふ。〔周禮、天官、九嬪〕掌二婦學之法一、以教二九御、婦德・婦言・婦容・婦功一。❷書名。一卷。清、章學誠撰。女子に關する教訓學術文藝等を簡約に述べ、又、女學の沿革をも略敍す。〔藝海珠塵、第十冊〕。

【婦官】9 フクワン 女官。〔周禮、考工記、治二絲麻一以成レ之謂二之婦功一、注〕布帛婦官之事。

【婦兄】10 フケイ 妻の兄。〔北齊書・崔昂傳〕婦兄妹夫、俱省二罪過一。〔倭名類聚抄、人倫部、夫妻類〕婦兄、辨色立成云、婦兄、婦之兄也。

【婦教】11 フケウ 女子のをしへ。〔呂覽、上農〕有二麻枲絲繭之功一、以力二婦教一也。〔梁書、高祖丁貴嬪傳〕方論二婦教一。

【婦業】12 フゲフ 女のしごと。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕晝修二婦業一、暮誦二經典一。

【婦言】13 フゲン ❶婦人の言葉。〔管子、君臣下〕婦言

不レ及二宮中之事一。〔列女傳、孼嬖、殷紂妲己傳〕不レ修二先王之典法一而用二婦言一。〔明史、孝義一、鄭濂傳〕太祖問二治レ家長久之道一、對曰、謹守二祖訓一、不レ聽二婦言一。㊁女の言葉づかひの心得。女の四行の一。〔周禮、天官、九嬪〕掌二婦學之法一、以教二九御、婦德・婦言・婦容・婦功一。〔注〕婦言、謂二辭令一。〔禮、昏義〕教以二婦德・婦言・婦容・婦功一。

〖婦言是行〗14 フゲンヲコレオコナフ　婦言是用に同じ。〔國語、鄭語〕周法不レ昭、而婦言是行、用二讒慝一也。

〖婦言是用〗14′ フゲンヲコレモチフ　女の言をただ聽用する。〔書、牧誓〕今商王受、惟婦言是用。〔傳〕妲己惑レ紂、紂信二用之一。

【婦姑】15 フコ　よめとしうとめ。〔新書、時變〕婦姑不二相說一、則反レ脣而睨。〔後漢書、董卓傳〕逆二婦姑之禮一、無二孝順之節一。

〖婦姑勃谿〗16 フコボツケイ　嫁と姑とが相爭ふ。勃谿は爭ふ意。〔莊子、外物〕心有二天遊一、室無二空虛一、則婦姑勃谿。〔釋文〕勃谿、反戾也。〔疏〕勃谿、爭鬭也。

【婦工】17 fu^4 kung^1　女子の仕事。妻の務。婦功(20)に同じ。

【婦公】18 フコウ　妻の父。外舅。婦翁。〔晉書、衞玠傳〕玠妻父樂廣、有二海內重名一、議者以爲二婦公氷清、女壻玉潤一。

〖篣二婦公一〗19 フコウヲムチウツ　理由なしで謗られる喩。撾二婦翁一(4)に同じ。〔後漢書、第五倫傳〕帝戲謂レ倫曰、聞、卿爲レ吏、篣二婦公一、不下過二從兄一飯上、寧有レ之耶、倫對曰、臣三娶レ妻、皆無レ父、少遭二飢亂一、實不二敢妄過レ人食一、帝大笑。

【婦功】20 フコウ　女子のしごと。妻となつてなすべき染織洗濯などの仕事。婦工。女功。女紅。〔周禮、天官、九嬪〕以教二九御婦德・婦言・婦容・婦功一。〔注〕婦功、謂二絲枲一。〔禮、昏義〕教以二婦德・婦言・婦容・婦功一。〔班昭、女誡〕專二心紡績一、不レ好二戲笑一、潔齊酒食、以奉二賓客一、是謂二婦功一。

【婦駔】21 フサウ　賣買の周旋をする婦人。仲買女。賣婆。〔米元章、書史〕每二歲荒及節迫一、往往使下老婦駔攜二書畫一出售上。〔稱謂錄、三姑六婆、婦駔〕米元章書史、每二歲荒及節迫一、往往使下婦駔攜二書畫一出售上、楊愼注、婦駔、今謂二之賣婆一、是又云二婦駔・牙婆一也。

【婦子】22 フシ　婦と子。又、をんな子ども。婦孺。〔易、家人〕婦子嘻嘻。〔書、召誥〕知四保二抱攜三持厥婦子一。〔傳〕保二抱其子一、攜二持其妻一。〔詩、小雅、甫田〕曾孫來止、以二其婦子一。

【婦師】23 フシ　東漢、張禮修をいふ。禮修が趙嵩の妻の姑を訓戒して善化したことから、世人が婦師とよんだ。〔漢中士女志〕。

【婦寺】24 フジ　婦人と宦官。又、そば仕への女。寺は侍。婦侍。〔詩、大雅、瞻卬〕匪レ教匪レ誨、時維婦寺。〔傳〕寺、近也。〔箋〕非レ有下人敎二王爲一レ亂、語レ王爲レ惡者上、是惟近二愛婦人一、用二其言一故也。〔疏〕寺、卽侍也、侍御者、必近二其傍一、故以レ寺爲レ近。〔柳宗元、桐葉封レ弟辯〕王以二桐葉一戲二婦寺一。

〖婦寺之忠〗25 フジノチュウ　婦人や宦官のつくすやうな姑息な忠義。忠實に竭すけれども、其の結果が必ずしも忠義にならないやうなし方をいふ。〔蘇軾、論語解〕忠而弗レ誨、婦寺之忠也。

【婦侍】26 フジ　婦人と宦者。婦寺に同じ。〔晏子、諫、上〕溺二于婦侍一、而謀因二豎刁一。

【婦孺】27 フジュ　婦人と子供。婦子。〔管同、抱膝軒記〕婦孺之呼啼、雞犬之鳴吠。

【婦順】28 フジュン　婦の從順なこと。〔禮、昏義〕舅姑入レ室、婦以二特豚一饋、明二婦順一也。

【婦飾】29 フショク　婦人のかざり。〔荀子、非相〕奇衣婦飾、血氣態度、擬二於女子一。〔琅琊代醉編、婦飾〕呂希哲曰、詩云、豈無二膏沐一、誰適爲レ容、則婦人塗レ面油レ髮、自レ古而然、莊子云、天子之侍御、不二爪揃一、不二穿耳一、則穿レ耳帶レ環、自レ古而然。

【婦織】30 フショク　女のはたおり。〔王績、田家詩〕倚レ牀看二婦織一、登レ壠課二兒鋤一。

【婦職】31 フショク　女のなすべきしごと。はたおり・裁縫など。〔周禮、天官、內宰〕以二婦職之法一教二九御一。〔注〕婦職、謂二職紝・組紃・縫線之事一。

【婦人】32 フジン　士の妻。轉じて、をんな。女子。婦女。〔易、恆〕六五、貞、婦人吉。〔書、泰誓下〕作二奇技淫巧一、以悅二婦人一。〔儀禮、喪服〕傳曰、婦人何以不レ杖、亦不レ能レ病也。〔禮、曲禮下〕士曰二婦人一、庶人曰レ妻。〔左氏、宣、十七〕齊頃公帷二婦人一使レ觀レ之。〔論語、泰伯〕唐虞之際、於レ斯爲レ盛、有二婦人一焉、九人而已。〔戰國、秦策〕今秦婦人嬰兒、皆言二商君之法一、莫レ言二大王之法一。〔莊子、天道〕嘉二孺子一而哀二婦人一。〔荀子、非相〕婦人莫レ不レ願レ得二以爲一レ夫。〔墨子、辭過〕作二誨婦人一。〔獨斷〕士曰二婦人一、婦之言、服也、庶人曰レ妻、妻之言、齊也。

〖婦人諡〗33 フジンノシ　婦人に對する諡號。周の穆王が、盛姬に哀淑人と諡したのに始まるといふ。〔能改齋漫錄〕王岐公作二呂公綽墓誌一云、公綽以、古者婦人無レ諡、自二晉漢一以來、皇后多因二帝諡一爲レ稱、國家順僖翼宣四帝、暨二太祖太宗皇后一、悉同二廟諡一、獨章聖皇帝王后節惠曰二宣莊一、與二諡典一不レ合、願易レ名爲レ章、追二正前失一、仁宗從レ之、余按、晉時婦人有レ諡、虞譚母卒、諡曰レ宣、桓溫母卒、諡曰レ敬、然則公綽以二古者婦人無一レ諡、蓋不レ知レ所レ本矣、漢書、尊二先媼一曰二照靈夫人一、後高后五年、又尊曰二照靈后一、然諡法曰、婦有レ諡、自二周景王穆后一始也、一、左傳云、聲子孫隱公、杜預注、聲、諡也。〔事物紀原、吉凶典制部、婦人諡〕穆天子傳曰、天子爲二盛姬諡一曰二哀淑人一、此疑、婦人諡之起也。

〖婦人手〗34 フジンノテ　女の手。女の世話。〔日本政記、文德天皇論〕自レ古、守文之君、生二深宮一、長二婦人手一。

〖婦人拜〗35 フジンノハイ　女子の拜禮。〔事物紀原、吉凶典制部、婦人拜〕禮曰、男拜則尙二左手一、女拜則尙二右手一、又居レ喪之禮、男拜稽顙、女子則否、是古者男女之拜一也、古詩曰、長跽故夫前、五言之作自二漢李陵一、推レ此則由レ漢而來、其拜猶同耳、孫甫唐書云、唐武后欲レ尊二婦人一、始易二今拜一、是則女屈レ膝而拜、始二於唐武后一也。〔陔餘叢考、婦人拜〕婦人之拜、跪與レ不レ跪、諸家之說紛紛。

〖婦人爲レ黿〗36 フジンゲントナル　女子が變化してうみがめと成る。〔燕石錄〕婦人浴而化爲レ黿者二事、一、江夏黃氏母、見二後五行志一、一、丹陽宣騫母、見二晉書五行志一、又淸河宋士宗母、化爲レ黿、亦見二晉志一、此餘如二人化爲一レ虎、或男女互化、其事相類者多、卽見二類書中一、余又有二化志一編一、故略レ之、凡言レ化者、虛誕不レ少、恐不レ可二悉信一焉。

〖婦人運動〗37 フジンウンドウ　婦人が、男子に對して其の地位を向上させ、男女同權たらしめんとするため、或は、婦人が社會に於て正當な待遇を受けんことを目標としてなされる運動。

〖婦人警官〗37′ フジンケイクヮン　婦人で警察官たるべきもの。略して婦警。

〖婦人獻履〗38 フジンケンリ　婦人が冬至の日に靴を舅姑に獻ずる故事。〔四民月令〕。

〖婦人三從〗39 フジンサンジュウノ　婦人の從ふべき三つの道。未だ嫁せざれば父に從ふ、既に嫁しては夫に從ふ、夫死すれば子に從ふ。婦人從レ人者をも見よ。〔儀禮、喪服傳〕婦人有二三從之義一、無二專用之道一、故未レ嫁從レ父、既嫁從レ夫、夫死從レ子。

〖婦人之仁〗40 フジンノジン　區々たるあはれみ。取るに足らぬなさけ。小仁。〔史記、淮陰侯傳〕韓信曰、項王見レ人、恭敬慈愛、言語嘔嘔、人有二疾病一、涕泣分二食飮一、至下使レ人有レ功、當二封爵一者上、印刓弊、忍不レ能レ予、此所謂婦人之仁也。

〖婦人高勳者〗41 フジンノカウクンシャ　婦人で高い勳等を授けられたもの。

〖婦人從レ人者〗42 フジンハヒトニシタガフモノナリ　女は人に從ふべきものである。婦人三從を見よ。〔禮、郊特牲〕婦人從レ人者也、幼從二父兄一、嫁從レ夫、夫死從レ子。

〖婦人辯護士〗43 フジンベンゴシ　婦人で辯護士の資格を得たもの。

〖婦人大全良方〗44 フジンタイゼンリヤウハウ　書名。二十四卷。宋、陳自明撰。調經・衆疾・求嗣・胎教・姙娠・坐月・產難・產後の八門に分れ、二百六十餘論を載せ、論後に各〻處方を附す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

〖不レ死二於婦人手一〗45 フジンノテニシセズ　男子が死ぬ時には、女子から介抱してもらふべきではない。死生の際は人の最も謹むべき處だから、男女の區別を明かにせんが爲である。〔禮、喪大記〕男子不レ死二於婦人之手一、婦人不レ死二男子之手一。〔注〕君子重レ終、爲二其相褻一。

〖婦人懷孕犯二死罪一〗46 フジンクヮイヨウシテシザイヲオカス　懷孕した婦人が死罪を犯した時は、產後一百日を經てから其の刑罰を執行する。〔唐律、斷獄〕諸婦人犯二死罪一、懷孕、當レ決者聽二產後一百日乃行一レ刑。

〖婦人生レ鬚男子誕レ子〗47 フジンヒゲヲシヤウジダンシコヲウム　婦女に鬚が生え、男子が子を生む。〔唐書、李光弼傳〕

母李、有㆓鬚數十㆒、長五寸許、封㆓韓國太夫人㆒。〔宋史、五行志一下〕宣和六年、都城有㆘賣㆓青果㆒男子㆖孕而生㆑子、蓐母不㆑能㆑收、易㆓七人㆒、始免而逃去、豐樂樓酒保朱氏子之妻、可㆓四十餘㆒、楚州人忽生㆑鬚、長僅六七寸、疏秀而美、宛然一男子、特詔度爲㆓女道士㆒。

【婦征】48フセイ 婦人から取る稅。布帛の類を用ひた。〔管子、入國〕有㆓三幼㆒者無㆓婦征㆒。〔纂詁〕婦征、布帛之屬。

【婦節】49フセツ 婦人の節操。妻の操。

【婦態】50フタイ 婦人の態度。〔駭聞錄〕李遵懿、仕㆓僞蜀㆒、有㆓婦人態㆒、蜀平、太祖曰、有㆓此態㆒邪、以㆓氈頭箭㆒射㆑之、正中㆓其腹㆒、李不㆑動、太祖曰、外柔內勁、授㆓供奉官㆒、後握㆓兵江淮㆒、號㆓鐵漢㆒。

【婦黨】51フタウ 妻のみうち。〔後漢書、仲長統傳〕今夫國家漏㆓神明於媟近㆒、輸㆓權重於婦黨㆒、算㆓十世㆒而爲㆑之者八九焉。

【婦道】52フダウ ㊀をんなの守るべきみち。〔詩、周南、葛覃序〕化㆓天下㆒以㆓婦道㆒也。〔史記、五帝紀〕堯二女、不㆓敢以㆑貴驕㆒、事㆓舜親戚㆒、甚有㆓婦道㆒。〔韓詩外傳、一〕君子以爲㆑得㆓婦道之宜㆒。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳〕稱㆓順婦道㆒。㊁婦の輩行をいふ。〔禮、大傳〕其夫屬㆓乎子道㆒者、妻皆婦道也。〔疏〕道、猶㆓行列㆒也、謂其夫隨㆓屬於己之子行㆒者、其妻皆婦行也、來嫁㆓於己之子姪之行㆒、卽謂㆑之爲㆑婦也。

【婦聽】53フチヤウ 嫁がすなほに從ふ。〔晏子、重而異者〕君令臣忠、父慈子孝、兄愛弟敬、夫和妻柔、姑慈婦聽、禮之經也。

【婦女】54フヂヨ をんな。女子。婦人。〔禮、曲禮下〕公庭不㆑言㆓婦女㆒。〔荀子、王霸〕婦女莫㆑衆㆑焉。〔管子、樞言〕亡主積㆓于婦女珠玉㆒。〔史記、項羽紀〕財物無㆑所㆑取、婦女無㆑所㆑幸。〔史記、武安侯傳〕後房婦女以㆑百數。〔後漢書、董卓傳〕淫㆓略婦女㆒。

〔婦女子〕55フヂヨシ ㊀婦女に同じ。㊁をんなこども。大丈夫に對して、柔弱な者・つまらない者等の意にも用ひる。

〔婦女節〕56フヂヨセツ 三月八日の國際婦女運動紀念日をいふ。

【婦弟】57フテイ 妻の弟。〔魏志、武宣卞皇后傳、注〕太祖答言、但得㆔與㆑我作㆓婦弟㆒、不㆑爲㆑多邪。〔北齊書、鄭元禮傳〕但知㆓妹夫㆒、疏㆓於婦弟㆒。

【婦德】58フトク 婦人の道に適ふ立派な德。婦道。〔周禮、天官、九嬪〕掌㆓婦學之法㆒、以敎㆓九御、婦德・婦言・婦容・婦功㆒。〔注〕婦德、謂㆓貞順㆒。〔禮、郊特牲〕信事㆑人也、信、婦德也、壹與㆑之齊、終身不㆑改。〔禮、昏義〕敎以㆓婦德・婦言・婦容・婦功㆒。〔張華、女史箴〕婦德尙㆑柔。

【婦父】59フフ 妻の父。岳父。〔爾雅、釋親〕壻之父爲㆑姻、婦之父爲㆑婚。〔海錄碎事、聖賢人事部、女婿門、是兒例〕突厥致㆑書曰、皇帝是婦父。〔世說規箴、王緒王國寶相爲㆓脣齒㆒注〕太傅謝安、王國寶婦父也。

【婦負】60ネヒ 越中國の郡の名。

【婦婦】61フハフタリ 人の妻たる者は妻たるの道を盡す。〔易、家人〕彖曰、夫夫婦婦、而家道正。〔疏〕婦不㆑失㆓婦道㆒。

【婦容】62フヨウ 女の身だしなみ。婦言(13)を見よ。〔周禮、天官、九嬪〕以敎㆓九御婦德・婦言・婦容・婦功㆒。〔注〕婦容、謂㆓婉娩㆒。〔禮、昏義〕敎以㆓婦德・婦言・婦容・婦功㆒。

【婦閭】63フリヨ 婦女を置く門閭。娼家。女閭(3－6036・・318)に同じ。〔韓非子、難、二〕昔者桓公宮中二市、婦閭二百、被㆑髮而御㆓婦人㆒。〔抱朴子、任能〕齊桓被髮彝酒、婦閭三百。

【婦禮】64フレイ 婦人の禮。人の妻たる者の守るべき禮。〔後漢書、皇后紀序〕后正㆓位宮闈㆒、同㆓體天王㆒、夫人坐論㆓婦禮㆒。

【索㆑婦】65フヲモトム よめを求める。つまをめとる。〔老學庵筆記、十〕今人謂㆑娶㆑婦爲㆑索㆑婦、蓋古語也、孫權欲㆔爲㆑子索㆓關羽女㆒、袁術欲㆔爲㆑子索㆓呂布女㆒、皆見㆓三國志㆒。

【婦有㆓七去㆒】66フニシチキヨアリ 人の妻には離縁されるべき條件が七つある。卽ち夫の父母に從順でない、子が出來ぬ、淫亂である、嫉妬心が強い、惡疾がある、多言である、竊盜を働くの七つ。七去。〔大戴禮、本命〕婦有㆓七去㆒、不㆑順㆓父母㆒去、無㆑子去、淫去、妬去、有㆓惡疾㆒去、多言去、竊盜去、不㆑順㆓父母㆒去、爲㆓其逆㆑德也、無㆑子、爲㆓其絕㆑世也、淫、爲㆓其亂㆑族也、妬、爲㆓其亂㆑家也、有㆓惡疾㆒、爲㆓其不㆑可㆔與共㆓粢盛㆒也、口多言、爲㆓其離㆑親、盜竊、爲㆓其反㆑義也。

【婦有㆓長舌㆒】67フニチヤウゼツアリ 婦女の多言なるは禍の端を起す。長舌は多言。〔詩、大雅、瞻卬〕婦有㆓長舌㆒、維厲之階。〔箋〕長舌、喩㆑多㆓言語㆒。〔疏〕以㆓舌動而爲㆑言、故謂㆓多言㆒爲㆓長舌㆒。

【婦怨無㆑終】68フエンハヲハリナシ 婦女子は疎遠にすれば何時までも執念ぶかくうらんで已まない。〔左氏、僖、二十四〕女德無㆑極、婦怨無㆑終。〔注〕婦女之志、近㆑之則不㆑知㆓止足㆒、遠㆑之則忿怨無㆑已、終猶㆑已也。〔會箋〕言㆘立而爲㆑后、則放恣而不㆑知㆓紀極㆒、寵衰則忿怒之心、無㆖有㆓終已㆒也。

【婦之五等】69フノゴトウ 妻たる者の五等の名稱。天子には后、諸侯には夫人、大夫には孺人、卿には內子、士には婦人、庶人には妻といふ。〔禮、曲禮下〕天子之妃曰㆑后、諸侯曰㆓夫人㆒、大夫曰㆓孺人㆒、卿曰㆓內子㆒、士曰㆓婦人㆒、庶人曰㆑妻。

【婦養㆑姑者】70フハコヲヤシナフモノ 婦人はしうとを養ふもの。〔左氏、襄、二〕禮無㆑所㆑逆、婦養㆑姑者也。

【爲㆑婦畫㆑眉】71フノタメニマユヲヱガク 漢の張敞が妻の爲に眉を畫いた故事。京兆眉。〔漢書、張敞傳〕敞爲㆓京兆尹㆒、爲㆑婦畫㆑眉、長安中傳㆓張京兆眉嫵㆒、有司以奏、上問㆑之、敞曰、臣聞、閨房之內、夫婦之私、有㆘過㆓於畫眉㆒者㆖。

【敎㆓婦初來㆒】72フノシヨライニヲシフ 婦人を敎へるには初めて我が家に嫁して來た時が大切であるとの意。〔顏氏家訓、敎子〕俗諺曰、敎㆓婦初來㆒、敎㆓兒嬰孩㆒、誠哉斯語。

【婦有㆓三不去㆒】73フニサンフキヨアリ 人の妻となつて夫から離縁せられない條件が三つある。卽ち、離縁せられて後、歸るべき所のない者、夫と共に父母の三年の喪に服した者、夫の貧賤の時に嫁して來て其の後夫が富貴になつた者、以上三つの場合は離縁されない。三不去。〔大戴禮、本命〕婦有㆓三不去㆒、有㆑所㆑取無㆑所㆑歸不㆑去、與更㆓三年喪㆒不㆑去、前貧賤後富貴不㆑去。

【婦與㆑夫一體】74フハフトイツタイ 妻は夫と一體である。〔白虎通、嫁娶〕婦人學㆑事㆓舅姑㆒、不㆑學㆑事㆑夫者、示㆓婦與㆑夫一體㆒也。〔疏證〕事夫、舊作㆓事己㆒。

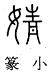
【可㆑使㆓婦無㆑褌乎】75フヲシテコンナカラシムベケンヤ 男として妻にしたおびさへ買つてやれぬでよからうか。餘り貧乏が過ぎる喩。〔世說新語、德行〕范宣潔㆑行廉約、韓豫章遺㆓絹百匹㆒、不㆑受、減㆓五十匹㆒、復不㆑受、如㆑是減㆑半、遂至㆓一匹㆒、既終不㆑受、韓後與㆑范同載就㆑車、中裂㆓二丈㆒與㆑范云、人寧可㆑使㆓婦無㆑褌邪、范笑而受㆑之。

【娶㆑婦不㆑著㆓一生貧㆒】76フヲメトリテイツシヤウノヒンチヤクセザレバ 妻を娶つてよい妻を得ねば、一生の貧乏である。惡妻は六十年の不作の意。不著は出來ない意。〔通俗編、倫常、娶㆑婦不㆑著㆓一生貧㆒〕楊誠齋江東集、和㆓王道父㆒山歌、種㆑田不㆑收一年事、娶㆑婦不㆑著一生貧。

【婦】6432′ フ 婦(3－6432)に同じ。

【婧】6433

一 セイ ジヤウ 〔集韻〕疾正切 敬
二 セイ シヤウ 〔集韻〕咨盈切 庚
三 セイ ジヤウ 〔集韻〕疾郢切 梗
四 セイ シヤウ 〔集韻〕績領切 迥


小篆

一二三四 ㊀**身をととのへる。謹んで立つ。**〔說文〕婧、竦立也、从㆑女靑聲。㊁**女のみさを正しいこと。**〔集韻〕婧、女貞也。㊂**女のさといこと。**〔說文〕婧、一曰、有㆑才也、讀若㆓韭菁㆒。〔集韻〕婧、女有㆑才也。㊃**あてやかなさま。**〔後漢書、張衡傳〕舒㆓訬婧之纖腰㆒兮。〔注〕婧、謂㆓妍婧㆒也。㊄**しなやか。**細腰のさま。〔正字通〕婧、纖弱貌。〔張衡、思玄賦〕舒㆓訬婧之纖腰㆒兮。〔注〕善曰、訬婧、細腰貌。㊅**すこやかなさま。**婧婧。〔集韻〕婧、一曰、婧婧、健皃。㊆姘(3－6074)に通ず。〔同文備考〕姘、別作㆑婧。

【婨】6434 ロン 〔集韻〕盧昆切 ［元］

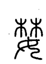
女の名。〔集韻〕婨、女名。

【婩】6435
㊀ゲン 〔集韻〕語蹇切 ［銑］
㊁ガン 〔集韻〕魚旰切 ［翰］
㊂ゲン 〔集韻〕魚戰切 ［霰］
㊃ギャク（ガク） 〔集韻〕逆約切 ［藥］

㊀❶**ととのふ。**〔廣雅、釋詁四〕婩、齊也。❷**みめよい。**〔方言、十〕婩・嫧、鮮好也、南楚之外通語也。❸或は妒(**3**－6184)に作る。〔集韻〕婩、或省。㊁㊂**みめよい。**㊀の❷に同じ。〔集韻〕婩、好也。㊃**むつつりする。**婩斫(1)を見よ。

【婩斫】1（ギャクシャク） 了解して悟ることのないさま。むつつりしてとりつくしまのないさま。〔集韻〕婩、婩斫、不㆓解悟㆒皃。〔列子、力命〕巧佞・愚直・婩斫・便辟四人、相與遊㆓於世㆒、胥如㆑志也、窮㆑年而不㆔相㆓語術㆒、自以㆓巧之微㆒也。〔注〕婩、魚略反、婩斫、不㆓解悟㆒貌。〔釋文〕婩斫、容止峭巇也。

【婪】6436 小篆



㊀ラン 〔集韻〕盧含切 ［覃］ ㄌㄢˊ lan^2
㊁ラン 〔集韻〕盧感切 ［感］

㊀❶**むさぼる。**惜しむ。〔說文〕婪、貪也、从㆑女林聲。〔段注〕此與㆓心部之惏㆒音義皆同。❷**うらなひの結果を詐つて告げること。**〔說文〕婪、杜林說、卜者攩相詐譺爲㆑婪、讀若㆑潭。❸或は惏(**4**－10785)に作る。〔集韻〕婪、或作㆑惏。❹亦、⿱林心(**4**－10786)に作る。〔集韻〕婪、亦書作㆑⿱林心。❺或は啉(**2**－3806)に作る。〔一切經音義、一〕惏、或作㆑啉、今亦作㆑婪、同。㊁❶**つつしまない。**〔集韻〕婪、不㆑謹也。❷**うらなひの結果を詐つて告げる。**㊀の❷に同じ。〔集韻〕婪、一曰、卜人詐告㆓吉凶㆒也。❸或は惏(**4**－10785)に作る。〔集韻〕婪、或作㆑惏。

【婪酣】1（ランカン） むさぼり食ふ。〔韓愈、月蝕效㆓玉川子㆒作詩〕婪酣大肚遭㆓一飽㆒、飢腸徹死無㆑由㆑鳴。

【婪官】2（ランクワン） 貪欲な役人。貪吏。〔福惠全書、刑名部、監禁〕婪官攫㆓取家貲㆒。

【婪詐】3（ランサ） むさぼりいつはる。〔福惠全書、刑名部、欵犯〕以㆔承㆓行詞訟㆒、生㆑端婪詐。

【婪索】4 lan^2 suo^3 貪り求める。強請する。

【婪沓】5（ランタフ） 慾深く物をむさぼる。〔唐書、李忠臣傳〕忠臣封㆓西平郡王㆒、忠臣貪婪沓嗜㆑色、所㆑至人苦㆑之。

【婪尾】6（ランビ） ❶坐客にあまねく酒をつぎわたること。又、藍尾に作る。〔仇池筆記〕蘇鶚云、以㆑酒巡匝爲㆓婪尾㆒、一作㆓藍尾㆒、侯白酒律謂、酒巡匝到㆓末坐者㆒連飲三杯、爲㆓婪尾酒㆒。❷酒を最後にいただく。お殘りを頂戴する。謙遜の語。貪杯ともいふ。〔唐音癸籤〕河東記載、申屠澄遇㆓老翁嫗㆒酣飲、澄讓曰、始自㆓主人翁㆒即巡、澄當㆓婪尾㆒則知婪爲㆓自謙之辭㆒、如㆔俗云㆓貪杯㆒然。❸最後。〔楊萬里、八月朔曉起趣㆓辨行李㆒詩〕破㆓除婪尾暑㆒、領㆓略打頭清㆒。〔蘇軾、次㆔韻劉景文・周次元寒食同游㆓西湖㆒詩〕婪尾忽驚新火後、遨頭要㆑及浣花前。

【婪尾酒】7（ランビシュ） 坐客にあまねく行きわたる酒。又、最後の杯。婪は一に藍に作る。婪尾春を見よ。〔白居易、歲日家宴戲示㆓弟姪等㆒云云詩〕歲盞後推藍尾酒、春盤先勸膠牙餳。

【婪尾春】8（ランビシュン） 芍藥(**9**－30674・・6)の異稱。春時多くの花に後れて開くからいふ。〔羣碎錄〕桑維翰云、唐末文人謂㆓芍藥㆒爲㆓婪尾春㆒、蓋婪尾酒、乃最後之杯、芍藥殿㆑春、故名。

【婪婪】9（ランラン） 盛に貪るさま。〔潘岳、馬汧督誄〕婪婪羣狄、豺虎競逐。〔注〕向曰、婪婪、貪盛貌、言㆘遭㆓此貪婪之狄㆒、如㆗豺虎之競奔逐㆖也。〔姚燧、南京路總管張公墓誌銘〕彼饞婪婪、横目虎貙。

【⿰女林】6437 ラン 〔集韻〕盧感切 ［感］

みめよいさま。〔集韻〕⿰女林、好皃。

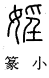
【婫】6438
㊀コン 〔集韻〕公渾切 ［元］
㊁コン（ゴン） 〔集韻〕戶衮切 ［阮］

㊀**女のあざな。**〔集韻〕婫、女字。㊁❶**女のあざな。**〔集韻〕婫、女字。❷**おほふ。**かぶせる。〔資治通鑑、梁紀〕霸先命炊㆑米煑㆑鴨、人人以㆓荷葉㆒裹㆑飯、婫以㆓鴨肉數臠㆒。〔注〕今江東人、猶謂㆓以㆑物蒙㆑頭曰㆑婫。

【婸】6439 セキ（シャク） 〔集韻〕先的切 ［錫］

女の名。〔集韻〕婸、女名。

【婬】6440 小篆



イン 〔集韻〕夷針切 ［侵］ ㄧㄣˊ yin^2

❶**みだら。たはける。**男女間の風儀が亂れる。〔說文〕婬、厶逸也、从㆑女㸒聲。〔段注〕厶、音私、姦衺也、逸、失也、失者、縱逸也。〔孔子家語、刑政〕作㆓婬聲㆒。〔注〕婬、逸也。❷**たはむれる。**たのしむ。〔方言、十〕婬・愓、遊也、江沅之間、謂㆑戲爲㆑婬。❸通じて淫(**7**－17678)に作る。〔說文、段注〕婬之字、今多以㆑淫代㆑之、淫行而婬廢矣。〔集韻〕婬、通作㆑淫。

［參考］ ❶嫋(**3**－6568)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕婬、音淫、姦婬、與㆑淫同、嫋、音姚、美好兒、俗誤作㆑嫋。❷熟語は淫(**7**－17678)を併せ見よ。

【婬佚】1（インイツ） みだらなこと。〔春秋繁露、五行逆順〕人君好㆓婬佚㆒、妻妾過㆑度。

【婬戒】2（インカイ） ［佛］淫欲を制する戒。不婬戒ともいふ。〔梵網經、無慈行慾戒第三〕若佛子、自婬、敎㆑人婬、乃至一切女人、不㆑得㆓故婬㆒、云云、行㆑婬無㆓慈悲心㆒者、是菩薩波羅夷罪。

【婬戲】3（インギ） みだらなたはむれ。淫戲(**7**－17678・・41)の❶に同じ。

【婬虐】4（インギャク） 淫亂で人をしへたげる。淫虐(**7**－17678・・42)に同じ。

【婬火】5（インクワ） 淫欲の熱情。淫亂な欲情。〔止觀、七上〕治㆓婬火㆒。〔智度論、十四〕婬火內發、自燒而死。

【婬荒】6（インクワウ） 女色にすさむ。淫荒。〔孔子家語、子路初見〕桓子既受㆓女樂㆒、君臣婬荒。

【婬昏】7（インコン） みだらで道理にくらいこと。淫昏。〔孔子家語、子路初見〕欲㆑正㆓一國之婬昏㆒。

【婬縱】8（インシヨウ・インジユウ） みだらで氣ままなこと。淫縱。〔韓詩外傳、九〕張㆑酒聽㆑樂、日夜不㆑休、終歲婬縱、卒馬多死。

【婬俗】9（インゾク） みだらな風俗。婬は淫。〔黃庭經〕捐㆓棄婬俗㆒。

【婬耽】10（インタン） 女ぐるひ。淫耽(**7**－17678・・116)に同じ。

【婬女】11（インヂヨ） 淫行ある女。淫奔な女。淫女。〔後漢書、襄楷傳〕今陛下婬女豔婦、極㆓天下之麗㆒。

【婬慝】12（イントク） みだらで非を飾ること。淫慝。〔說苑、政理〕上無㆓婬慝㆒、下不㆓陰害㆒。

【婬妃】13（インピ） みだらな皇妃。淫妃(**7**－17678・・128)に同じ。

【婬靡】14（インビ） みだら。風儀の正しくないこと。淫靡(**7**－17678・・131)に同じ。

【婬婦】15（インプ） 色慾の盛な女。淫奔な女。淫婦(**7**－17678・・134)に同じ。

【婬風】16（インプウ） みだらな風俗。淫風(**7**－17678・・135)に同じ。

【婬奔】17（インポン） みだら。色ごのみ。淫奔(**7**－17678・・143)に同じ。

【婬冶】18（インヤ） みだらでなまめかしい。又、其のこ

と。〔江淹、丹砂可レ學賦〕卻ニ文采之婬治一、去ニ利劍之鏗鏘一。

【婬愓】19 インヤウ たはむれる。あそぶ。〔方言、十〕婬愓、遊也、江沅之閒、謂レ戲爲レ婬、或謂ニ之愓一、或謂ニ之嬉一。

【婬欲】20 インヨク 佛婬を行はんとする欲。四欲の一。淫欲。色欲（9－30602‥87）に同じ。〔法華經、五百弟子受記品〕无レ有ニ婬欲一。〔智度論〕不下爲ニ婬欲戲樂一、故而以中相好上。

【婬亂】21 インラン 色ごとに荒ぶ。淫亂（7－17678‥160）に同じ。

【婬穢】22 インワイ みだらでけがらはしい。又、其のこと。淫穢。〔後漢書、劉盆子傳〕多行ニ婬穢一。〔隋書、黨項傳〕其俗淫穢。

【婭】6441 ㊀ア 〔集韻〕衣駕切 禡 ㄧㄚˋ ya^{4} ㊁ア 〔集韻〕於加切 麻

㊀❶あひむこ。己と同じく其の家の壻たる者。卽ち己の妻の姉妹の夫。〔爾雅、釋親〕兩壻相謂曰レ婭。〔正字通〕婭、言ニ一人取レ姉、一人取レ妹、相亞次一也。❷こびる。婭奼（3）を見よ。❸こしもと。婭嬛（1）を見よ。❹通じて亞（1－274）に作る。〔集韻〕婭、通作レ亞。㊁女のすがた。〔集韻〕婭、婭⿰女余、態也。

【婭嬛】1 ya^{4} $huan^{2}$ こしもと。〔水滸傳、四回〕分付那箇婭嬛、一面燒着火。

【婭婿】2 アセイ あひむこ。妻の姉妹の夫。亞壻。俗に連襟といふ。〔唐書、李傑傳〕長孫昕素惡レ傑、遇ニ于道一、內侍ニ玄宗婭婿一、與ニ所レ親楊仙玉一共毆ニ辱之一。

【婭奼】3 アタ なまめき媚びること。〔陳基白、芙蓉詩〕婭奼最憐無レ語處、風流全在ニ半開時一。

【⿰女坴】6442 リク ロク 〔集韻〕力竹切 屋

女のあざな。〔集韻〕⿰女坴、女字。

【婮】6443 キヨ コ 〔集韻〕斤於切 魚

女のあざな。〔集韻〕婮、女字。

【婯】6444 レイ 麗（12－47663）に同じ。〔正字通〕婯、同レ麗。

【婰】6445 テン 〔集韻〕多殄切 銑

女の名。〔集韻〕婰、女名。

【⿰女昔】6446 セキ シヤク 〔字彙補〕思積切 陌

女のあざな。〔字彙補〕⿰女昔、女字。

【⿰女妾】6447 セフ 〔集韻〕悉協切 葉

をさめる。〔集韻〕⿰女妾、治也。

【⿰女冐】6448 ベフ モフ 〔川篇〕亡業切 葉

神女。〔川篇〕⿰女冐、神女也。

【⿰女肯】6449 コウ 〔字彙補〕苦等切 迥

をさな子。こども。〔菽園雜記〕杭人謂ニ子幼者一曰レ⿰女肯。

【⿱交女】6450 カウ ゲウ 〔集韻〕何交切 肴

❶みめよい。姣（3－6214）に同じ。〔集韻〕姣、說文、好也、或作レ⿱交女。❷みだら。〔集韻〕⿱交女、姣婬也。

【⿰女卒】6451 コ ゴ 〔篇海類編〕胡故切 遇

みめよい。〔篇海類編〕⿰女卒、美好。

【⿰女告】6452 ヘイ 聘（9－29079）に同じ。〔字彙補〕⿰女告、同レ聘。

【⿰女畀】6453 キ 娸（3－6368）に同じ。〔篇海類編〕⿰女畀、同レ娸。

【⿰女怱】6454 ノウ 嫐（3－6270）に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰女怱、同レ嫐。

【⿱壯女】6455 シヤウ 妝（3－6330）に同じ。〔字彙補〕⿱壯女、同レ妝。

【婲】6456 國字 だて 美しくみづくろひするもの。〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕婲、好ニ艷美一整ニ容貌一者、謂爲レ婲。

九畫

【婷】6457 テイ チヤウ 〔集韻〕唐丁切 靑 ㄊㄧㄥˊ $t'ing^{2}$

❶娉婷は、みめよいさま。うつくしいさま。〔字彙〕婷、娉婷、美好貌。❷娗（3－6303）に同じ。〔集韻〕娗、博雅、娗娗、容也、一曰、女出病、或从レ亭。

【婷婷】1 テイテイ ❶美しいさま。〔陳師道、黃梅詩〕婷婷花下人。〔楊萬里、晚春卽事二絕〕不レ道婷婷芍藥來。❷花の動かないさま。花の靜かなさま。〔紅樓夢、三十七回〕欲レ償ニ白帝憑ニ情潔一、不レ語婷婷日又昏。

【婷婷嫋嫋】2 テイテイデウデウ みめうるはしくかよわいさま。〔剪燈新話、牡丹燈記〕約年十七八、紅裙翠袖、婷婷嫋嫋、迤邐投レ西而去。

【婸】6458 ㊀タウ ダウ 〔集韻〕待朗切 養 ㊁ヤウ 〔集韻〕余章切 陽

㊀❶みだら。たはむれるさま。〔廣韻〕婸、婬戲皃。〔經籍纂詁〕婸、婬也。❷われ。〔正字通〕婸、我也。❸ほしいまま。像（4－11238）に同じ。〔集韻〕像、說文、放也、或作レ婸。㊁女のあざな。〔集韻〕婸、女字。

【⿰酋女】6459 シユク スク 〔集韻〕七六切 屋

小篆

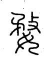
❶みにくい。〔說文〕⿰酋女、醜也、从レ女酋聲、讀若レ蹴。❷年老いた婦人。おうな。〔說文〕⿰酋女、一曰、老嫗也。

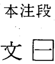
【⿰女要】6460 エウ 〔集韻〕伊鳥切 篠 ㄧㄠˇ yao^{3}

❶かよわい。⿰女要嬈。〔廣韻〕⿰女要、⿰女要嬈、弱細。❷美しいさま。偠（1－869）に同じ。〔集韻〕偠、偠僥、美皃、或从レ女。

【婺】6461

㊀ブ ム 〔集韻〕亡遇切 遇 ㄨˋ wu⁴
㊁ボウ ム 〔集韻〕迷浮切 尤
㊂ボク モク 〔集韻〕莫卜切 屋


（小說篆文）


（小段篆本注）

㊀❶**従はない。**〔說文〕婺、不㆑繇也、从㆑女敄聲。〔段注〕繇者、隨從也。❷**星の名。**婺女(8)を見よ。〔集韻〕婺、一曰、星名。❸**州の名。**婺州(4)を見よ。〔集韻〕婺、一曰、州名。㊁㊂**女の美しいさま。**〔集韻〕婺、女皃。〔集韻〕婺、美皃。

【婺港】1 ブカウ 川の名。蘭溪の上源の一。東陽江ともいふ。源は浙江省東陽縣の東。蘭溪縣城の西に至つて衢江と會す。〔讀史方輿紀要、浙江、大川〕浙江、云云、一曰㆓東陽江㆒、或謂㆓之婺港㆒、源出㆓金華府東南百三十里之大盆山㆒、經㆓縣南境㆒、而爲㆓畫溪㆒、西入㆓義烏縣界㆒、而爲㆓烏傷溪㆒。

【婺源】2 ブゲン 縣名。唐、置く。婺水が城の三面を遶つてゐるから名づける。故城は安徽省婺源縣の北、清化鎭。後、治を絃高に移す。今、江西省德興縣の東北に屬す。朱熹の生地。縣境に山が多いので、民、杉木を植ゑて賦稅に供し、又、綠茶を産す。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府〕婺源縣、本休寧縣地、唐開元二十八年、析㆓置婺源縣㆒、屬㆓徽州㆒、宋因㆑之、元元貞初、升爲㆓婺源州㆒、明洪武二年、復降爲㆑縣。〔清史稿、地理志〕安徽、徽州府、縣六、婺源。

【婺山】3 ブザン 深見玄岱の號。深見天漪(7－17687・111)を見よ。

【婺州】4 ブシウ 州の名。隋、東陽郡に置く。今の浙江省金華縣治。婺女星の分野に當るから名づける。〔讀史方輿紀要、浙江、金華府〕隋俱廢、以㆑地屬㆓吳州㆒、尋置㆓婺州㆒、大業初、改爲㆓東陽郡㆒、唐復爲㆓婺州㆒、天寶初、亦曰㆓東陽郡㆒、乾元初復㆑故、五代時、屬㆓於吳越㆒、宋仍爲㆓婺州㆒、元曰㆓婺州路㆒、明初改爲㆓寧越府㆒。

【婺州本】5 ブシウボン 婺州で出版した本。婺州を見よ。〔書林清話、宋私宅家塾刻書〕婺州市門巷唐宅刻、周禮鄭注十二卷、見㆓楊志楊譜㆒。

【婺水】6 ブスイ 川の名。源は安徽省婺源縣の西の大廣山。下流は祁門の大共水と合して鄱陽湖に入る。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、婺源縣〕婺水、在㆓縣西㆒、出㆓大廣山㆒、漑㆑田二十二頃有奇、南流入㆓樂平縣界㆒、中有㆓石門灘㆒、兩石夾㆑溪、湧起如㆑闕、一線通流、險比㆓灩澦㆒。

【婺川】7 ブセン 縣名。隋、置く。貴州省正安縣の東。東は烏江の支派の洪渡河に臨み、西北は華蓋山に倚る。〔讀史方輿紀要、貴州、思南府〕婺川縣、府北三百四十里、隋開皇末、置㆓婺川縣㆒、屬㆓庸州㆒、大業初、屬㆓巴東郡㆒、唐武德四年、置㆓婺州㆒、治㆑此、貞觀四年、爲㆓思州治㆒、後廢、宋政和八年、仍置㆓婺州縣㆒、爲㆓思州治㆒、宣和四年、廢爲㆓婺川堡㆒。〔清史稿、地理志〕貴州、思南府、縣三、婺川。

【婺女】8 ブヂヨ 星の名。女宿をいふ。四星がある。又、須女と名づける。布帛を司るといふ。〔禮、月令〕昏翼中、旦婺女中。〔左氏、昭、十〕有㆑星出㆓于婺女㆒。〔漢書、地理志下〕粵地、牽牛・婺女之分壄也。〔漢書、谷永傳〕日食㆓婺女之分㆒。〔星經〕須女四星、一名婺女。〔左思、吳都賦〕婺女寄㆓其曜㆒。

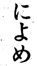
【婻】6462

ダン ナン 〔集韻〕奴紺切 勘

❶**美しいさま。**〔集韻〕婻、美皃。❷**少し肥える。**〔集韻〕婻、一曰、小肥。

【㛮】6463

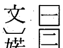
サウ ソウ 〔集韻〕蘇老切 皓 ㄙㄠˇ sao³


（小篆）

❶**あによめ。**〔說文〕㛮、兄妻也、从㆑女叜聲。❷或は嫂(3－6603)に作る。〔集韻〕㛮、或从㆑叟。〔爾雅、釋親〕女子謂㆓兄之妻㆒爲㆑嫂、〔釋文〕㛮、本今作㆑嫂。❸俗に㛹(3－6293)に作る。〔集韻〕㛮、俗从㆑更、非㆑是。

【婼】6464

㊀シヤク 〔集韻〕尺約切 藥 ㄔㄨㄛˋ ch'uo⁴
㊁チヤク 〔集韻〕勅畧切 藥
㊂ジ ニ 〔集韻〕如支切 支
㊃ジヤ ニヤ 〔集韻〕人奢切 麻


（小篆）

㊀㊁❶**順はない。**さからふ。〔說文〕婼、不㆑順也、从㆑女若聲、春秋傳有㆓叔孫婼㆒。❷**姓。**〔路史〕韓袁侯少子婼、後爲㆑氏。〔路史〕魯後有㆓婼氏㆒。㊂㊃**國の名。**婼羌(1)の❶を見よ。〔集韻〕婼、婼羌、國名。

【婼羌】1 ジキヤウ ❶國の名。漢の西域三十六國の一。諸羌の首帥。或は單に婼といふ。最も陽關に近く、今の新疆省婼羌縣の地。〔漢書、西域傳上〕出㆓陽關㆒自㆓近者㆒始、曰㆓婼羌㆒、婼羌國王號㆓去胡來王㆒、去㆓陽關㆒千八百里、云云、隨㆑畜逐㆓水草㆒不㆓田作㆒、云云、山有㆑鐵、自作㆑兵、兵有㆓弓矛服刀劍甲㆒。〔丁謙、西域傳地理考證〕蓋婼羌者、西域雜羌之總名也、部落散處甚多、今川滇邊直至㆓西藏所㆑稱草地黑帳房番子㆒皆是、此特近㆓陽關㆒之一部。〔西域圖考〕當㆑在㆓陽關之西、小宛之東㆒、今淪爲㆓戈壁㆒。❷縣名。清、置く。もと漢の婼羌の地。清初、喀喇庫勒・喀喇和卓二部落の在つた所。土名を哈克里克といふ。今の新疆省且末縣の東。東は安西に通じ、西は和闐に、南は焉耆に通ずる漢南交通の要地。〔清一統志〕。

【婏】6465

㊀テン 〔字彙〕音轉
㊁ベン 〔篇海〕音娩

㊀**つれあひ。**配偶。〔方言、二〕抱婏、耦也、荊吳江湖之閒曰㆓抱婏㆒、宋潁之閒、或曰㆑婏。㊁娩(3－6337)に同じ。〔篇海〕婏、音娩、義同㆑娩。

【㛰】6466

コン 婚(3－6418)に同じ。〔字彙〕㛰、同㆑婚。

【婽】6467

カ ケ 〔集韻〕擧下切 馬

みめよい。〔集韻〕婽、博雅、好也。

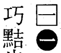
【婎】6468

㊀ワイ 〔集韻〕烏回切 灰
㊁ワイ 〔集韻〕鄔賄切 賄

㊀**女のあざな。**〔集韻〕婎、女字。㊁**あでやか。**婎娞。〔集韻〕婎、婎娞、姸也。

【媮】6469

㊀トウ ツ 〔集韻〕他侯切 尤 ㄊㄡ t'ou¹
㊁ユ 〔集韻〕容朱切 虞


（小篆）

㊀❶**わるがしこい。**〔說文〕媮、巧黠也、从㆑女兪聲。〔廣雅、釋詁三〕媮、巧也。❷**ぬすむ。**偸(1－901)に同じ。〔說文、段注〕按、偸盜字、當㆑作㆓此媮㆒。❸**ごまかす。**一時の安樂を願ふ。僥倖。〔漢書、食貨志下〕民媮㆓甘食好衣㆒。〔注〕師古曰、媮、苟且也。〔後漢書、張衡傳〕雖㆓遨遊以媮㆑樂兮。〔注〕媮、懷安也。〔張衡、東京賦〕今公子苟好㆓勦㆑民以媮樂㆒。〔注〕綜曰、媮、猶㆓僥倖㆒也。❹**かりに。かりそめに。**〔漢書、元帝紀〕媮合苟從。〔漢書、刑法志〕媮可㆑用也。〔注〕師古曰、媮、與㆑偸同、謂㆓苟且㆒。〔漢書、路溫舒傳〕媮爲㆓一切㆒。〔注〕如

淳曰、媮、苟且也。❺うすんずる。あなどる。〔左氏、襄、三十〕晉未レ可レ媮也。〔注〕媮、薄也。❻うすい。〔柳宗元、弔二屈原一文〕既媮風之不レ可レ去兮。㈢たのしむ。又、なごむ。愉(4-10905)に同じ。〔集韻〕愉、說文、薄也、引二論語私覿愉愉一、一曰、樂也、和也、或从レ女。

参考 熟語は偸(1-901)を併せ見よ。

【媮幸】1（トウカウ） 一時の幸福をぬすむ。かりに幸にして。萬一運よく。幸にして。偸幸。儌倖(1-1113‥1)に同じ。〔蜀志、郤正傳〕赫赫龍章、鑠鑠車服、媮幸苟得。

【媮合】2（トウガフ） 人の意を迎へる。氣に入らうとする。迎合。偸合。〔漢書、元帝紀〕媮合苟從、未二肯極言一。〔注〕師古曰、媮、與レ偸同。

【媮合苟容】3（トウガフコウヨウ） 人の意を迎へて氣に入るやうにする。偸合苟容。〔漢書、賈山傳〕道諛媮合苟容。〔注〕師古曰、媮、與レ偸同。〔蘇轍、乞レ罷二左右僕射蔡確韓縝一狀〕媮合苟容、出入唯唯。

【媮居】4（トウキヨ） 其の位地をぬすむ。無爲無能にして其の位に居る。〔國語、晉語三〕國斯無レ刑、媮レ居幸レ生。〔注〕媮二竊居位一、儌幸而生。

【媮快】5（トウクワイ） 一時の愉快を貪る。愉快。〔漢書、酷吏傳序〕非二武健嚴酷一、惡能勝二其任一而媮快乎。〔注〕師古曰、媮、苟且也。

【媮娯】6（ゴユ） たのしむ。愉娯。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕聊愉娯以忘レ憂。〔注〕愉、一作レ媮。

【媮恃】7（トウジ） かりそめにたのしむ。〔漢書、匈奴傳贊〕不レ圖二萬世之固一、而媮二恃一時之事一者、未レ可二以經レ遠也。

【媮食】8（トウシヨク） かりそめの僥倖を願ひ、口腹の欲を滿たす。一時の安樂を求めて生活する。偸安の意。偸食。〔漢書、韓信傳〕衆庶莫レ不二輟作怠惰、靡衣媮食一。〔注〕師古曰、媮、與レ偸字同、偸、苟且也、言、爲二靡麗之衣一、苟且而食、恐懼之甚、不レ爲二久計一也。

【媮生】9（トウセイ） ❶生をぬすむ。無益の生を保つ。偸生(1-901‥57)に同じ。❷（ユセイ）生をたのしむ。〔楚辭、卜居〕寧正言不レ諱以危レ身乎、將從レ俗富貴以媮レ生乎。〔注〕身安樂也。〔補注〕媮、樂也、音愈。

【媮惰】10（トウダ） 一時しのぎをする。偸惰。〔宋史、仁宗紀贊〕在位四十二年之間、吏治若二媮惰一、而任レ事蔑二殘刻之人一。〔朱熹、答二劉子澄一書〕前時猶得二敬夫・伯恭、時惠二規益一、得二以警省一、二友云亡、耳中絶不レ聞二此等語一、因循媮惰、安得レ不レ至二於此一。

【媮薄】11（トウハク） うすつぺら。輕薄。浮薄。偸薄。〔漢書、刑法志〕媮薄之政、自レ是滋矣。〔晉書、謝安傳論〕廢二禮於媮薄之俗一。

【媮靡】12（トウビ） 一時の口腹の欲を滿たし、衣腹をおごる。目前の安樂を求めて生活する。靡衣媮食の略。媮食(8)を見よ。

【媮風】13（トウフウ） 輕薄な風俗。〔柳宗元、弔二屈原一文〕既媮風之不レ可レ去兮、懷二先生一之可レ忘。

【媮樂】14（トウラク ユラク） たのしむ。一時の快樂を貪る。偸樂。〔楚辭、離騷〕聊假日以媮樂。〔補注〕媮、樂也、音愈。〔張衡、東京賦〕今公子苟好二勦レ民以媮樂一。〔注〕綜曰、媮、猶二僥倖一也。〔後漢書、張衡傳〕雖二遨游以媮樂一兮。

【婿】6470

セイ 壻(3-5664)に同じ。〔說文〕壻、婿、壻或从レ女。〔集韻〕壻、或从レ女。

【媀】6471

㈠グ 〔集韻〕元俱切 虞
㈡ゴウ グ 〔集韻〕語口切 有
㈢ギヨウ グ 〔集韻〕魚容切 冬
㈣グ 〔集韻〕元具切 遇

㈠㈡㈢**女のあざな。**〔集韻〕媀、女字。㈣**ねたむ。**女が男をやく。〔集韻〕媀、女妒レ男曰レ媀。

【媘】6472

ハツ 頾(12-43360)の譌字。〔正字通〕媘・頾、舊注並同レ髮、按、古文髮作レ頾、六書統、爻象二頭毛形一、恐下與二卦爻字一相犯上、故加レ頁以指レ之、說文、髮、或从レ首作レ𩑶、亦作レ頾、象形則从レ爻、諧聲則从レ犮、未レ有下从レ女作二媘頾一者上、舊本因レ爻譌从レ女、作二媘頾一、非。

【媁】6473

㈠ヰ 〔集韻〕于非切 微
㈡ヰ 〔集韻〕羽鬼切 尾

小篆

㈠❶**悅ばぬさま。**〔說文〕媁、不レ說皃、从レ女韋聲。〔段注〕說、今悅字。❷**ほしいまま。**〔說文〕媁、恣也。❸**うつくしい。**〔廣韻〕媁、美也。㈡❶**美しい姿。**〔集韻〕媁、美姿。❷**みにくい。**〔廣韻〕媁、醜也。

【媜】6474

ハツ 頾(12-43360)の譌字。媘(3-6472)を見よ。

【媂】6475

㈠テイ タイ 〔集韻〕丁計切 霽
㈡テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 齊

㈠❶**かはやの神の名。**〔集韻〕媂、圊室神名。❷點媂は、女らしいさま。〔集韻〕媂、一曰、點媂、女皃。㈡**女のあざな。**〔集韻〕媂、女字。

【㛳】6476

㈠エイ 〔集韻〕以制切 霽
㈡セイ 〔集韻〕征例切 霽

㈠㈡**つはり。**〔集韻〕㛳、婦人病レ娠。

【媃】6477

ジウ ニユ 〔集韻〕而由切 尤

❶**女の名。**〔集韻〕媃、女名。❷**女の媚びるさま。**〔正字通〕媃、女媚貌。

【媄】6478

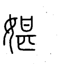
ビ ミ 〔集韻〕母鄙切 紙

小篆

みめよい。うつくしい。媺(3-6582)に通ず。〔說文〕媄、色好也、从レ女美聲。〔段注〕按、凡美惡字可レ作レ此、周禮作レ媺、蓋其古文。

【媅】6479

タン トン 〔集韻〕都含切 覃


小篆

❶**たのしむ。**〔說文〕媅、樂也、从レ女甚聲。〔廣韻〕媅、娙過。❷或は妉(3-6071)に作る。〔集韻〕媅、或从レ冘。❸亦は湛(7-17846)・愖(4-10940)に作る。〔集韻〕媅、亦作二湛愖一。❹耽(9-29024)・妉(3-6071)・酖(11-39792)・沈(6-17189)に通ず。〔一切經音義、二〕耽、古文媅・妉二形、諸書作二酖・沈二形一、同。

【㛴】6480

ダウ ノウ 〔集韻〕乃老切 晧

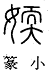
小篆

❶**なやむ。恨みいたむ。**〔說文〕㛴、有レ所二恨痛一也、从レ女𡿺省聲、今汝南人、有レ所レ恨言二大㛴一。❷或は惱(4-10856)・悩(4-10609)・𡝗(3-6270)・𡣍(3-6844)・憹(4-11304)に作る。〔集韻〕㛴、或作二惱・悩・𡝗・𡣍・憹一。

【⿰女爯】6481 シヨウ 〔集韻〕蚩承切 蒸

女のあざな。〔集韻〕⿰女爯、女字。

【媆】6482
[一]ゼン ネン 〔集韻〕乳兗切 銑
[二]ゼン ネン 〔集韻〕儒轉切 霰
[三]ドン ノン 〔集韻〕奴困切 願


小篆 [一][二]**みめよいさま。**やさしくかよわい。通じて輭(10−38412)に作る。〔説文〕媆、好皃、从レ女耎聲。〔段注〕此謂二柔耎之好一也、云云、俗作レ輭。[三]**わかい。又、みめよい。**嫩(3−6666)に同じ。〔集韻〕嫩、少弱也、一曰、好皃、或作レ媆。

參考 熟語は嫩(3−6666)を見よ。

【媇】6483 シン 親(10−34918)に同じ。〔集韻〕親、或作レ媇。

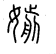
【媈】6484
[一]キ 〔集韻〕吁韋切 微
[二]コン ゴン 〔集韻〕胡昆切 元

[一][二]**女のあざな。**〔集韻〕媈、女字。

【媉】6485
[一]ヲク 〔集韻〕烏谷切 屋
[二]アク 〔集韻〕乙角切 覺

[一]**みめよい。**〔集韻〕媉、好也。[二]❶**みめよい。**[一]に同じ。〔集韻〕媉、博雅、好也。❷**かたち。さま。**姿態。媉媉。〔集韻〕媉、一曰、媉媉、容也。

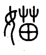
【媊】6486
[一]セン ゼン 〔集韻〕才先切 先
[二]セン 〔集韻〕子淺切 銑
[三]シ 〔集韻〕將支切 支
[四]セン 〔集韻〕子賤切 霰


小篆 [一][二][三][四]**星の名。**女媊。明星。〔説文〕媊、甘氏星經曰、大白號二上公一、妻曰二女媊一、尻二南斗一、食レ厲、天下祭レ之、曰二明星一、从レ女前聲。

【媋】6487 シユン 〔集韻〕樞倫切 眞

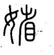
❶**女のあざな。**〔集韻〕媋、女字。❷**女の美しいこと。**〔字彙〕媋、女美也。

【媌】6488
[一]バウ メウ 〔集韻〕謨交切 肴
[二]バウ メウ 〔集韻〕莫飽切 巧
[三]バウ メウ 〔集韻〕眉教切 效
[四]ボク モク 〔集韻〕謨沐切 沃


小篆 [一]❶**目許が美しい。**〔説文〕媌、目裏好也、从レ女苗聲。〔段注〕目裏好者、謂三好在二匡之裏一也、凡方言言レ順、言レ矊、言レ鑠、言レ盱、言レ揚、皆謂二目之好外見一也、惟媌狀二目裏一、方言曰、媌、好也、自レ關而東、河濟之閒、謂二之媌一。❷**みめよい。**うつくしい。あてやか。〔方言、一〕秦晉之閒、凡好而輕者、謂二之娥一、自レ關而東、河濟之閒、謂二之媌一。〔注〕今關西人呼レ好爲レ媌。〔廣雅、釋詁一〕媌、好也。〔太平御覽、人事部、美婦人〕服虔通俗文云、容麗曰レ媌。❸**妓女。**〔正字通〕媌、今閩人謂レ妓爲レ媌。❹媌條は丈が高い。〔客座贅語〕南都言二人物之長一曰二媌條一。[二]**みめよい。**[一]の❷に同じ。或は⿰女卯(3−6180)に作る。〔集韻〕媌、博雅、好也、或作レ⿰女卯。[三]**みめよいさま。**或は⿰亻苗(1−825)に作る。〔集韻〕媌、博雅、好皃、或作レ⿰亻苗。[四]**みめよい。**[一]の❷に同じ。〔集韻〕媌、好也。

【媌條】1 メウデウ ❶丈が高い。〔客座贅語〕南都言二人物之長一曰二媌條一。❷俗に脊丈のすらりとして美しいこと。しなやかな。たをやかな。苗條。

【媘】6489 セイ シヤウ 〔集韻〕所景切 梗


小篆 ❶**へる。へらす。**〔説文〕媘、減也、从レ女省聲。❷**すくない。**〔廣雅、釋詁三〕媘、少也。

【媍】6490 フ 婦(3−6432)に同じ。〔正字通〕媍、同レ婦。

【媎】6491 ソ 姐(3−6172)に同じ。羌人が母を呼ぶ稱。〔字彙〕媎、同レ姐、羌人呼レ母爲レ媎。

【媏】6492 タン 〔集韻〕多官切 寒

女のあざな。〔集韻〕媏、女字。

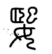
【⿰女炭】6493 タン 〔集韻〕他案切 翰

⿰女炭媻は、かたちづくらないさま。容姿をかざらぬさま。媻(3−6494)を見よ。〔集韻〕⿰女炭、⿰女炭媻、無二儀適一皃。

【媻】6494 ハン バン 〔集韻〕薄半切 翰

⿰女炭媻は、かたちづくらないさま。容姿をかざらぬさま。⿰女炭(3−6493)を見よ。〔集韻〕媻、⿰女炭媻、無二儀適一皃。

【媐】6495
[一]キ 〔集韻〕虛其切 支 ㄒㄧ hsi1
[二]イ 〔集韻〕盈之切 支


小篆 [一]❶**よろこび樂しむ。**〔説文〕媐、説樂也、从レ女巸聲。〔段注〕説者、今之悦字。❷**つま。**妃(3−6061)に通ず。〔太玄經、內〕謹二于媐執一、初貞後寧。〔注〕女謂二之媐一、媐、同レ妃。❸或は巸(4−8757)に作る。〔集韻〕媐、或省。❹熙(7−19192)に通ず。〔説文、段注〕按、老子・史記、天下熙熙、字皆當レ作二媐媐一、今熙行而媐廢矣、熙者、燥也、云云、其義別。[二]**たのしむ。**〔集韻〕媐、樂也。

【⿱活女】6496 コ ⿱汚女(3−6057)の譌字。〔正字通〕⿱活女、⿱汚女字之譌。

【媑】6497
[一]チヨウ ヂユ 〔集韻〕柱勇切 腫
[二]チヨウ ヂユ 〔集韻〕傳容切 冬

[一][二]**女のあざな。**〔集韻〕媑、女字。

【媒】 6498

一 バイ マイ 〔集韻〕謨杯切 ㄇㄟ mei^2 灰
二 バイ マイ 〔集韻〕莫貝切 泰
三 バイ マイ 〔集韻〕莫佩切 隊
四 ボウ モウ 〔集韻〕彌登切 蒸

小篆

一❶**なかうど**。男女の間に立つて嫁娶の約をとりもつもの。仲人。〔說文〕媒、謀也、謀㆓合二姓㆒者也、从㆑女某聲。〔周禮、地官、媒氏、注〕媒、謀㆓合異類㆒使㆓和成㆒者。〔禮、坊記〕男女無㆑媒不㆑交。❷**とりもち**。兩者の間をとりもつて關係を生ぜしめるもの。仲介。〔文中子、魏相〕聞㆑謗而怒者、讒之囮也、見㆑譽而喜者、佞之媒也。〔韓愈、送㆔溫處士赴㆓河陽軍㆒序〕以㆓石生㆒爲㆑媒。〔李白、上㆓崔相㆒百憂章〕金瑟玉壺盡爲㆓愁媒㆒。❸**たより**。〔杜荀鶴、投㆓崔尚書㆒詩〕閉戶十年事㆓筆硯㆒、仰㆑天無㆑處㆑認㆓梯媒㆒。❹**をとり**。〔潘岳、射雉賦序〕習㆓媒翳之事㆒。〔注〕爰曰、媒者、少養㆓雉子㆒、至㆑長狎㆑人、能招㆓引野雉㆒、因名曰㆑媒。❺**酒のもと**。〔漢書、李陵傳〕媒㆓糵其短㆒。〔注〕孟康曰、媒、酒酵、糵麴也、謂㆔釀㆓成其罪㆒也、師古曰、孟說是也。❻**姓**。〔萬姓統譜〕媒、見㆓直音㆒。二**むさぼる**。通じて昧(**5—13848**)に作る。〔集韻〕媒、貪也、通作㆑昧。三四**くらいさま**。霾(**12—42507**)に通ず。〔說文通訓定聲〕媒、叚借爲㆑霾。〔集韻〕媒、媒媒、晦兒。

【媒媼】1 バイアウ 男女の仲人をする老女。媒婆。媒嫗。媒婦。〔韻府引、抱朴子〕求㆓媒媼之美談㆒。

【媒誘】2 バイイウ なかだちしてさそふ。

【媒嫗】3 バイウ 男女の仲人をする老女。媒媼に同じ。〔韓愈、試大理評事王君墓誌銘〕其女賢不㆑可㆓以失㆒、卽謾謂㆓媒嫗㆒。

【媒翳】4 バイエイ 雉を狩すること。媒は、雉を雛の時から養つて人に狎れさせて野雉を招く爲の囮。翳は、隱して雉を射るもの。〔潘岳、射雉賦序〕聊以㆓講肄之餘暇㆒、而習㆓媒翳之事㆒、遂樂而賦㆑之。〔注〕爰曰、媒者、少養㆓雉子㆒、至㆑長狎㆑人、能招㆓引野雉㆒、因名曰㆑媒、翳者、所㆓隱以射㆒者也。

【媒怨】5 バイエン 怨を招く。〔韓愈、知名箴〕欺以買㆑憎、揜以媒㆑怨。〔宋史、呂嘉問傳〕安石曰、嘉問奉㆑法不㆑公、以㆑是媒㆑怨。

【媒介】6 バイカイ なかだちする。とりもつ。なかだち。はしわたし。仲介。媒助。介紹。〔晉書、索紞傳〕索紞曰、君在㆓冰上㆒、與㆓冰下人㆒語、爲㆓陽語㆑陰、媒介事也。〔舊唐書、張行成傳〕古今用㆑人、必因㆓媒介㆒。

【媒介者】7 バイカイシヤ 媒介する人。媒妁人。仲立人。

【媒介體】8 バイカイタイ 兩者の間に在つて傳達の仲介となる物體。媒質。

【媒蝎】9 バイカツ 禍害の根原をいふ。〔野客叢書〕或議、宋景文唐書用㆓媒蝎二字㆒、僕觀㆓曹氏藉田論㆒、曰、封人有㆘以㆓輕鑿修鉤㆒去㆓樹之蝎㆒者㆖、曰、不㆑識天下亦有㆑蝎乎、曰、三苗共工、非㆓堯之蝎㆒與、齊之諸田、晉之六卿、魯之三桓、非㆓諸侯之蝎㆒與、宋公之意本㆑此。

【媒合】10 バイガフ ❶とりもつて一緒にさせる。〔參同契、注〕黃婆媒合。❷營利の目的で淫行の常習者でない婦女を勸誘して密賣淫の媒介をすること。

【媒合容止】11 バイガフヨウシ 自己の家にとまらせて色ごとの媒介をする。〔明律、刑律、犯姦〕若㆓媒合容止、通㆑姦者㆒、各減㆓犯人罪一等㆒。

【媒柬】12 mei^2 chien^3 結婚媒介書。

【媒官】13 バイクワン 男女の結婚をとりもつことを掌る官。媒氏(17)に同じ。〔禮、月令、祠㆓于高禖㆒、注〕高辛氏之世、玄鳥遺㆑卵、娀簡呑㆑之而生㆑契、後王以爲㆓媒官㆒、嘉祥而立㆓其祠㆒焉。〔吳志、薛綜傳〕敎㆓其耕犁㆒、使㆓之冠履㆒、爲設㆓媒官㆒、始知㆓聘娶㆒。

【媒孼】14 バイゲツ 媒糵に同じ。〔漢書、司馬遷傳〕隨而媒㆓孼其短㆒。〔注〕臣瓚曰、媒、謂㆓遘合會㆑之、孼、謂㆔爲生㆓其罪釁㆒也、師古曰、媒、如㆓媒娉之媒㆒、孼、如㆓麴孼之孼㆒也、一曰、齊人謂㆓麴餅㆒爲㆑媒也。

【媒糵】15 バイゲツ 罪を釀成して陷れ害ふ。媒・糵は、共にかうぢ。〔漢書、李陵傳〕隨而媒㆓糵其短㆒。〔注〕服虔曰、媒、音欺、謂㆓詆欺㆒也、孟康曰、媒、酒酵、糵麴也、謂㆔釀㆓成其罪㆒也、師古曰、孟說是也、齊人名㆓麴餅㆒曰㆑媒。

【媒語】16 バイゴ 媒辭(19)に同じ。

【媒氏】17 バイシ 周官の名。地官の屬。男女の結婚をとりもつことを掌る。媒官。〔周禮、地官、媒氏〕媒氏、掌㆓萬民之判㆒、凡男女自㆓成名㆒以上、皆書㆓年月名㆒焉、令㆓男三十而娶、女二十而嫁㆒。

【媒詞】18 バイシ 媒辭に同じ。

【媒辭】19 バイジ 三段論法の大小兩前提に共通し、斷案の主賓兩語をひき出す名詞。媒語。媒詞。middle term の譯語。

【媒質】20 バイシツ 波動を傳播する物質。

【媒妁】21 バイシヤク 男女の緣を取りもつこと。又、其の人。なかうど。媒人。媒酌。〔孟子、滕文公下〕不㆑待㆓父母之命、媒妁之言㆒。〔淮南子、繆稱訓〕媒妁譽㆑人而莫㆓之德㆒也。〔白虎通、嫁娶〕男不㆓自專娶㆒、女不㆓自專嫁㆒、必由㆓父母㆒、須㆓媒妁㆒何。

【媒妁人】22 バイシヤクニン 媒妁をする人。なかうど。なかだち。媒介人。月下冰人。

【媒酌】23 バイシヤク なかうど。媒妁に同じ。

【媒助】24 バイジヨ とりもちしてたすける。媒介。

【媒譖】25 バイシン 事に託して讒言を進め人を罪に陷れる。〔唐書、郭子儀傳〕魚朝恩素疾㆓其功㆒、因㆑是媒㆓譖之㆒。

【媒人】26 バイジン なかうど。媒妁人。又、媒婆(32)に對して、特に男の媒妁人をいふ。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕阿母謝㆓媒人㆒、女子先有㆑誓。〔訓蒙字會〕媒妁、俗呼㆑男曰㆓媒人㆒、女曰㆓媒婆㆒。〔淸異錄、君道、彩局兒〕開元中、後宮繁衆、侍㆓御寢㆒者、難㆓于取捨㆒、爲㆓彩局兒㆒以定㆑之、集㆓宮嬪㆒用㆓骰子㆒擲、最勝一人、乃得㆑專㆑夜、宦璫私號㆓骰子㆒爲㆓挫角媒人㆒。

【媒體】27 バイタイ 波動を傳播する物體。媒質(20)に同じ。

【媒但】28 バイタン 詐欺を釀し成す。但は詐に同じ。〔淮南子、說山訓〕媒但者非㆑學㆑謾也、但成而生㆓不信㆒。〔注〕但、猶㆑詐也。

【媒竹】29 バイチク 廣東龍門縣の賭婦潭に生ずる竹。〔兩般秋雨菴隨筆〕賭婦潭在㆓廣東龍門縣蓼溪水口㆒、相傳、有㆓二童男女㆒戲賭、各持㆓竹一片㆒、從㆓上流㆒擲㆑下、云、兩竹相合、卽成㆓夫婦㆒、俄而果合、遂成㆓伉儷㆒、故名㆑潭曰㆓賭婦潭㆒、潭上竹曰㆓媒竹㆒、屈翁山有㆑詩云、兩邊生㆑竹合無㆑痕、生㆑竹能成㆓夫婦恩㆒、潭上至㆑今媒竹美、枝枝慈孝更多㆑孫。

【媒鳥】30 バイテウ 他の鳥を誘ひ寄せて捕へる爲に使ふ飼ひ鳥。をとり。囮。媒翳(4)を見よ。

【媒帖】31 mei^2 t'ieh^3 結納の時に兩家が取交す姓名年齡鄉貫等を書いた書。庚帖(**4—9278・・24**)を見よ。

【媒婆】32 バイバ なかうどをする女。媒人(26)に對していふ。媒媼。媒婦。〔訓蒙字會〕媒妁、俗呼㆑男曰㆓媒人㆒、女曰㆓媒婆㆒。

【媒婆兒】33 mei^2 p'o^2 erh 婚姻の媒介をする女。

【媒媒】34 バイバイ ボウボウ くらいさま。暗愚のさま。〔莊子、知北遊〕媒媒晦晦、無心而不㆑可㆓與謀㆒。〔釋文〕媒媒、晦貌。

【媒伯】35 バイハク なかうど。〔易林、无妄〕東家中女、嫫母最醜、三十無㆑室、媒伯勞苦。

【媒賓】36 mei^2 pin^1 仲人。媒酌人。

【媒婦】37 バイフ なかうどをする女。媒婆。媒媼。〔青箱雜記四〕夫人復欲㆑妻㆑之、使㆓媒婦通㆑意。

【媒娉】38 バイヘイ なかうど。〔後漢書、南蠻傳〕初設㆓媒娉㆒、始知㆓姻嫁㆒。〔北史、高允傳〕古之婚者、皆采㆓德義之門、妙簡貞閑之女㆒、先㆑之以㆓媒娉㆒、繼㆑之以㆓禮物㆒。

【媒保】39 バイホ なかうどのうけあひ。媒妁人の保證。〔福惠全書、庶政部、育㆓養嬰兒㆒〕須㆑憑㆘媒保照㆑例立㆓僱券㆒、以防㆗來歷不明之弊㆖。

【媒姥】40 バイボ 媒妁を業とする老婆。媒婆。〔文昌雜錄〕李冠卿堂前杏、花多而不㆑實、一媒姥笑曰、來春與嫁㆓了此杏㆒、冬深忽攜㆑酒、索㆓處女裙㆒繫㆑樹、辭祝而去、來春結㆑子無數。

【媒勞】41 バイラウ 媒介者が骨を折る。〔楚辭、九歌、湘君〕心不㆑同兮媒勞。〔注〕言、婚姻所㆑好、心意不㆑

同、則媒人疲勞而無ㇾ功也。

【媒理】42 mei^2 li^3 媒酌人。仲人。

【媒穩婆】43（バイヲンバ） なかうどばばと取りあげばば。〔福惠全書、刑名部、監禁〕着㆓老成媒穩婆㆒看守。

【媒互人】44（バイゴジン） 配偶者を擇ぶ時に其の局に當る官をいふ。官媒(3-7107・・281)を見よ。〔元史、呂思誠傳〕張復叔母、孀居且瞽、丐ㇾ食以活、思誠憐㆓其貧㆒、令㆘爲㆓媒互人㆒以養㆖ㇾ之。〔無事爲福齋隨草〕媒互人、疑官媒也。

【媒染劑】45（バイセンザイ） 色素を結晶させて布帛などの纖維中に定着させるくすり。いろどめ。明礬・五倍子など。

【媒染料】46（バイセンレウ） 染物をする際に、染料以外に加へる藥品。

【⿰女匧】 6499 ケフ

⿰女夾(3-6280)に同じ。〔正字通〕⿰女匧、與ㇾ⿰女夾同。

【媓】 6500 クヮウ ワウ 〔集韻〕胡光切 陽

❶**はは**。母。〔方言、六〕南楚瀑洭之閒、母謂㆓之媓㆒。❷女媓は、堯の妻。〔廣韻〕媓、女媓、堯妻。

【媔】 6501 🈩ベン メン 〔集韻〕彌延切 先 🈔ベン メン 〔集韻〕彌兗切 銑

🈩**目の美しいさま**。〔集韻〕媔、目美皃。〔楚辭、大招〕青色直眉、美目媔只。〔注〕媔、黠也、美目竊眄、媔然黠慧、知㆓人之意㆒也。

🈔**ねたむ**。〔集韻〕媔、妬也。

【娔】 6502 コク 〔集韻〕乞得切 職

❶**いやしい老女**。〔集韻〕娔、老女卑賤、謂㆓之娔㆒。❷或は娩(3-6298)に作る。〔集韻〕娔、或省。

【⿱⿰禾尤女】 6503 ケイ 〔集韻〕堅奚切 齊

女のあざな。〔集韻〕⿱⿰禾尤女、女字。

【⿰女豆】 6504 シヨ ジヨ 〔字彙〕殊遇切 遇

女のあざな。⿰女署(3-6818)に同じ。〔字彙〕⿰女豆、與ㇾ⿰女署同、女字。

【媕】 6505 🈩エン 〔集韻〕衣檢切 琰 🈔アン オン 〔集韻〕烏含切 覃 ㄢ- an^1 🈪アフ オフ 〔集韻〕遏合切 合

小篆

🈩❶**女の慕ふさま**。〔說文〕媕、女有ㇾ心媕媕也、从ㇾ女弇聲。❷**鳥が呼び交はして鳴く**。媕哢(3)を見よ。🈔❶**女の慕ふさま**。或は⿰女酓(3-6683)に作る。〔集韻〕媕、女有ㇾ心媕媕、或从ㇾ酓。❷媕娿は、きまらない。〔廣韻〕媕、媕娿、不ㇾ決。

🈪**婦の名**。〔集韻〕媕、婦名。

【媕娿】1（アンア） ぐづぐづして決しない。〔正字通〕婀、媕娿、不ㇾ決。〔子華子、晏子問黨〕媕娿脂韋者、日至㆓君之前㆒、公不ㇾ能ㇾ禁也。〔韓愈、石鼓歌〕詎肯感激徒媕娿。〔注〕不ㇾ決之皃。〔白居易、有木詩序〕見㆓佞順媕娿圖ㇾ身忘ㇾ國。

【媕媕】2（エンエン） ❶女が慕ひ思ふさま。字解🈩の❶を見よ。〔說文通訓定聲〕媕、女有ㇾ所ㇾ懷、媕媕然也。❷心の定まらぬさま。〔宋濂、誥㆓皓華㆒文〕媕媕娿娿。

【媕哢】3（エンロウ） 鳥が呼び交はして鳴くこと。〔柳宗元、乞巧文〕抽ㇾ黃對ㇾ白、媕哢飛走。

【媕雅堂】4（エンガダウ） 清、趙文哲(10-37171・・877)の室名。

【媖】 6506 エイ ヤウ 〔集韻〕於驚切 庚

女の美稱。〔集韻〕媖、女人美稱。

【媗】 6507 🈩ケン クヮン 〔集韻〕許元切 元 🈔ケン クヮン 〔集韻〕火遠切 阮 🈪セン 〔集韻〕荀緣切 先

🈩🈔🈪**女のあざな**。〔集韻〕媗、女字。

【⿱咸女】 6508 カン ゲン 〔集韻〕下斬切 豏

すこやか。〔集韻〕⿱咸女、博雅、健也。

【⿰女咸】 6509 カン ガン 〔篇海類編〕胡岩切 咸

女の汚れてゐること。〔篇海類篇〕⿰女咸、女不ㇾ淨。

【媘】 6510 カイ 〔集韻〕居諧切 佳

女のあざな。〔集韻〕媘、女字。

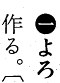
【媙】 6511 ヰ 〔字彙〕於非切 微

美しい女のさま。〔字彙〕媙、美女貌。

【⿰女叀】 6512 セン

嫥(3-6662)に同じ。〔正字通〕⿰女叀、同ㇾ嫥。

【媚】 6513 ビ ミ 〔集韻〕明祕切 寘 ㄇㄟˋ mei^4


小篆

❶**よろこぶ**。本、⿰女睂(3-6760)に作る。〔說文〕⿰女睂、說也、从ㇾ女睂聲。〔正字通〕媚、本作ㇾ⿰女睂。〔段注〕說、今悅字也。❷**いつくしむ**。〔詩、大雅、下武〕媚㆓茲一人㆒。〔傳〕媚、愛也。〔左氏、宣、三〕人服㆓媚之㆒如ㇾ是。〔注〕媚、愛也。❸**したがふ**。〔正字通〕媚、親順也。〔詩、大雅、卷阿〕維君子使、媚㆓于天子㆒。〔集傳〕媚、順愛也。❹**こびる。こび**。㋑へつらふ。〔論語、八佾〕與㆔其媚㆓於奧㆒、寧媚㆓於竈㆒。〔皇疏〕媚、趨向也。〔史記、佞幸傳〕非㆓獨女以ㇾ色媚㆒、士宦亦有ㇾ之。㋺あだめく。なまめく。〔吳志、虞翻傳〕自恨㆓骨體不ㇾ媚。❺**たぶらかす**。〔周禮、天官、內宰、禁㆓其奇衺㆒、注〕若㆓今媚道㆒。〔疏〕媚道、謂㆘道㆓妖衺巫蠱㆒以自衒媚㆖。❻**みめよい**。うつくしい。〔小爾雅、廣詁〕媚、美也。〔廣雅、釋詁一〕媚、好也。❼**ばけもの**。魅(12-45811)に通ず。〔列子、力命〕鬼媚不ㇾ能ㇾ欺。〔釋文〕媚、或作ㇾ魅。❽古、⿱頁女(3-6743)に作る。〔六書統〕⿱頁女、古文媚字。❾眉(8-23190)に通ず。〔中華大字典〕媚、通ㇾ眉。〔仲定碑〕不ㇾ眉㆓近戚㆒。❿**地名**。〔左氏、定、九〕齊侯致㆓禚・媚・杏於衞㆒。〔注〕三邑皆齊西界。

【媚奧】1（ビアウ） 君主にこびへつらふ。奧は室の西南隅で、君主・尊者の居る所。與㆔其媚㆓於奧㆒寧

媚㆓於竈㆒（**2**－**1472**‥167）を見よ。〔論語、八佾〕王孫賈問曰、與㆔其媚㆓於奥㆒、寧媚㆓於竈㆒、何謂也。〔集解〕孔安國曰、云云、奥、內也、以喩㆓近臣㆒、竈、以喩㆓執政㆒、賈執政者、欲㆑使㆓孔子求㆒㆑昵之、微以㆓世俗之言㆒感㆓動之㆒也。〔集注〕媚、親順也、室西南隅爲㆑奥、竈者、五祀之一、夏所㆑祭也。凡祭㆓五祀㆒、皆先設㆑主而祭㆓於其所㆒、然後迎㆑尸而祭㆓於奥㆒、略如㆘祭㆓宗廟㆒之儀㆖、如㆑祀㆑竈、則設㆓主於竈陘㆒、祭畢、而更設㆓饌於奥㆒、以迎㆑尸也、故時俗之語、因以㆘奥有㆓常尊㆒、而非㆓祭之主㆒、竈雖㆓卑賤㆒、而當㆑時用㆖㆑事、喩㆘自結㆓於君㆒、不㆖㆑如㆔阿㆓附權臣㆒也。〔劉寶楠正義〕奥、在㆓室西南隅㆒、故爲㆑內也、內喩㆓近臣㆒、當㆑謂㆓彌子瑕之類㆒、妄謂㆓孔子主㆑我、衞卿可㆑得、故意㆓孔子或媚㆑之也、奥居㆑內、則竈居㆑外、指㆓外臣㆒、故云㆔竈喩㆓執政㆒。

【媚好】2 ビカウ　みめよい。美しい。〔易林、困之㆑艮〕南山蘭茝、使㆓君媚好㆒。〔黃庭堅、跛奚移文〕漿胰粉白、無㆑不㆓媚好㆒。〔張耒、夏日雜感詩〕娟娟簷前月、雖㆑缺自媚好。

【媚行】3 ビカウ　徐行する。靜かに歩く。〔呂覽、不屈〕白圭告㆑人曰、人有㆓新取㆑婦者㆒、婦至宜㆓安矜煙視媚行㆒。〔注〕媚行、徐行。

【媚客】4 ビカク　薔薇（**9**－**32113**‥2）の異名。〔中吳紀聞〕張敏叔以㆓薔薇㆒爲㆓媚客㆒。

【媚眼】5 ビガン　こびへつらふ眼。色つぽい眼。〔杜陽雜編〕李可及善轉㆓喉舌㆒、對㆓至尊㆒弄㆓媚眼㆒、作㆓頭腦㆒、連㆑聲作㆑詞、唱㆓新聲曲㆒、須臾卽百數方休。〔盧思道、後園宴詩〕媚眼臨㆓歌扇㆒、嬌香出㆓舞衣㆒。

【媚外】6 mei^4 wai^4　外國又は外國人にこびへつらふ。

【媚黃】7 ビクワウ　媚びるやうな黃色。〔剪燈餘話、連理樹記〕薄翅凝㆓香粉㆒、新衣染㆓媚黃㆒。

【媚景】8 ビケイ　春の景色。春げしき。〔梁元帝纂要〕春景曰㆓媚景㆒。

【媚臉】9 ビケン　こびるやうな顏。あだめいた顏。〔曾觀、詞〕玉人小立㆓簾櫳㆒、輕勻媚臉粧㆑紅。

【媚語】10 ビゴ　こびることば。色つぽい言葉。蠻語。〔元稹、寄㆓吳士矩端公㆒五十韻詩〕媚語嬌不㆑聞、纖腰軟無㆑力。

【媚草】11 ビサウ　奇草の名。鶴子草ともいふ。媚蝶（28）を見よ。〔北戶錄〕一名、鶴子草、當㆑夏開、南人云、是媚草、甚神、可㆑比㆓懷子夢芝㆒、曝乾以代㆓面靨㆒、形如㆓鶴飛狀㆒、翅羽嘴距、無㆑不㆓畢備㆒、亦草之至奇者。〔嶺表異錄〕媚草、鶴子草也、蔓生、色淺紫、形如㆓飛鶴㆒、春月生㆓雙蟲㆒、食㆓其葉㆒、越女收養、蟲老蛻爲㆑蝶、帶㆑之、號爲㆓媚蝶㆒、能致㆓其夫憐愛㆒。

【媚竈】12 ビサウ　權臣に諂ふ喩。竈は五祀の一で、孟夏に祭る。先づ竈の神を祭り、次に尸を奥に請じて酒食を供す。竈は卑しくとも、時に當つて事を用ひるから權臣に喩へる。媚奥（1）を見よ。

【媚子】13 ビシ　㊀道を以て君臣を和合せしめる者。賢人をいふ。〔詩、秦風、駟驖〕公之媚子、從㆑公于狩。〔傳〕能以㆑道媚㆓於上下㆒者。〔箋〕媚㆓於上下㆒、謂㆑使㆓君臣和合㆒也。㊁親愛する人・愛する子。又、愛する女子。〔詩、秦風、駟驖〕公之媚子。〔集傳〕媚子、所㆓親愛㆒之人也。〔宋之問、岳州宴㆓姚紹之㆒詩〕難兄金作㆑友、媚子玉爲㆑人。〔元稹、答㆓姨兄胡靈之見㆑寄五十韻詩〕華奴歌淅淅、媚子舞卿卿。㊂頭髮の飾。〔庾信、鏡賦〕懸㆓媚子于搔頭㆒、拭㆓釵梁於粉絮㆒。

【媚事】14 ビジ　こびへつらつてつかへる。〔漢書、王莽傳〕又遣㆓王昭君女須卜居次㆒入侍、所㆕以誑㆓耀媚㆔事太后㆒。

【媚兒】15 ビジ　明、崔重文（**4**－**8178**‥309）の小字。

【媚辭】16 ビジ　こびへつらふことば。色つぽい言葉。〔司馬相如、美人賦〕相如美則美矣、然服色容冶、妖麗不㆑忠、將㆔欲媚辭取㆑說、遊㆓王後宮㆒。

【媚珠】17 ビシュ　㊀人名。五代、後蜀の安陽王の女。初、南越王は安陽王と戰つて神弩の力の爲に敗れ、太子始を遣して臣事せしめた。媚珠は、太子始の容止端正なのを見て之と通じ、始の請を容れて父の神弩を取つて之に示した。始は因つて神弩を毀つことを得、遂に安陽王の軍を擊ち破つた。〔水經、葉榆河注〕安陽王有㆓神人㆒、名皐通、下輔佐、爲㆓安陽王㆒治㆓神弩㆒、一張一發、殺㆓三百人㆒、南越王知㆑不㆑可㆑戰、卻㆑軍住㆓武寧縣㆒、按、晉太康記、縣屬㆓交阯㆒、越遣㆓太子名始㆒、降㆓服安陽王㆒、稱㆑臣事㆑之、安陽王不㆑知㆓通神人㆒、遇㆑之無㆑道、通便去、語㆑王曰、能持㆓此弩㆒、王㆓天下㆒、不㆑能㆑持㆓此弩㆒者、亡㆓天下㆒、通去、安陽王有㆑女、名曰㆓媚珠㆒、見㆓始端正㆒、珠與㆑始交通、始問㆑珠、令㆘取㆓父弩㆒視㆖㆑之、始見㆑弩便盜、以㆑鋸截㆑弩訖、便逃歸報㆓南越王㆒、南越進㆑兵攻㆑之、安陽王發㆑弩、弩折遂敗。〔紀昀等校〕案、媚、近刻訛作㆑眉。〔舊唐書、地理志四〕尉佗在㆓番禺㆒、遣㆑兵攻㆑之、王有㆓神弩㆒、一發殺㆓越軍萬人㆒、趙佗乃與㆑之和、仍以㆓其子始㆒爲㆑質、安陽王以㆓媚珠㆒妻㆑之、子始得㆑弩毀㆑之。㊁珠玉の名。〔埤雅〕舊說、狐有㆓媚珠㆒。

【媚趣】18 ビシュ　なまめかしいおもむき。婦女などのこびるやうな樣子。〔晉書、王獻之傳〕獻之骨力、遠不㆑及㆑父、而頗有㆓媚趣㆒。

【媚承】19 ビショウ　へつらつて意を迎へる。こびて迎合する。〔韓愈、太原王公神道碑銘〕同列有㆓恃㆑恩自得者㆒、衆皆媚承、公嫉㆔其爲㆑人不㆓直視㆒。

【媚寢】20 ビシン　三國、吳の孫亮の愛姬の居室の名。〔拾遺記、吳〕孫亮作㆓琉璃屛風㆒、甚薄而瑩澈、每於㆓月下清夜㆒舒㆑之、常與㆓愛姬四人㆒、皆振古絕色、一名㆓朝姝㆒、二名㆓麗居㆒、三名㆓洛珍㆒、四名㆓潔華㆒、使㆔四人坐㆓屛風內㆒、而外望㆑之如㆑無㆑隔、惟香氣不㆑通㆓於外㆒、爲㆔四人合㆓四氣香㆒、云云、或以㆑人名㆑香、故有㆓朝姝香・麗居香・洛珍香・潔華香㆒、亮每㆑遊、此四人皆同㆓輿席㆒、來侍皆以㆓香名前後㆒爲㆑次、不㆑得㆑亂㆑之、所㆑居室名爲㆓思香媚寢㆒。

【媚世】21 ビセイ　㊀世人にこびを求める。〔孟子、盡心下〕閹然媚㆓於世㆒也者、是鄉原也。〔集注〕媚、求㆓悅於人㆒也。㊁蘭（**9**－**32519**）の異名。〔事物異名錄、花卉、蘭〕退居錄、蘭、一名媚世。

【媚生】22 ビセイ　明、商景蘭（**2**－**3803**‥266）の字。

【媚笑】23 ビセウ　こびわらふ。

【媚態】24 ビタイ　こびへつらふ樣子。〔羅虬、比紅兒詩〕總似㆓紅兒媚態新㆒、莫㆑論千度笑爭㆑春。〔葛立方、賞㆑梅詞〕卻月幽姿含㆑章媚態、姮娥姑射下㆓仙鄉㆒。

【媚道】25 ビダウ　㊀呪詛などの方法により婦人が悅を男に取る術。〔周禮、天官、內宰〕禁㆓其奇衺㆒。〔注〕奇衺、若㆓今媚道㆒。〔疏〕案、漢書漢孝文時、婦人蠱惑媚道更相呪詛、作㆓木偶人㆒、埋㆓之於地㆒、漢法又有㆓官禁㆒云、敢行㆓婦道㆒者、若然、媚道、謂㆘道㆓妖衺巫蠱㆒、以自衒媚㆖。〔史記、外戚世家〕陳皇后挾㆓婦人媚道㆒。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕皇后寵亦益衰、而後宮多㆓新愛㆒、后姊平安剛侯夫人謁等爲㆓媚道㆒、祝㆓詛後宮有㆑身者王美人及鳳等㆒。㊁こびへつらふといふ方法。〔後漢書、桓譚傳〕士以㆓才智㆒要㆑君、女以㆓媚道㆒求㆑主。〔宋史、呂蒙正傳〕臣不㆑欲㆘用㆓媚道㆒妄隨㆓人主意㆒、以害㆗國事㆖。

【媚娘】26 ビヂヤウ　洞畬の妻をいふ。〔稱謂錄、方言〕稱㆑妻、媚娘。〔峝谿纖志〕洞畬妻皆名㆓媚娘㆒。

【媚豬】27 ビチヨ　五代南漢、劉鋹の妾の名。〔淸異錄、君道大體雙〕劉鋹昏縱角出、得㆓波斯女㆒、年破瓜、黑腯而慧豔、善淫曲㆓盡其妙㆒、鋹嬖㆑之、賜㆓號媚豬㆒。

【媚蝶】28 ビテフ　鶴子草に生ずる蟲が蛻して成つた蝶。女子が之を佩びれば、人に愛悅せられるといふ。媚草（11）を見よ。〔本草、媚蝶〕時珍曰、北戶錄云、嶺表有㆓鶴子草㆒、蔓花也、當㆑夏開、形如㆓飛鶴㆒、翅羽觜距皆全云、是媚草、采曝以代㆓面靨㆒、蔓上春生㆓雙蟲㆒、食㆑葉、收㆓入粉奩㆒、以㆑葉飼㆑之、老則蛻而爲㆑蝶、赤黃色、女子收而佩㆑之、如㆓細鳥皮㆒、令㆓人媚悅㆒、號爲㆓媚蝶㆒、洞冥記云、漢武時、勒畢國獻㆓細鳥㆒、大如㆑蠅、狀如㆓鸚鵡㆒、可㆑候㆓日晷㆒、後皆自死、宮人佩㆓其皮㆒者、輒蒙㆓愛幸㆒也。〔北戶錄〕鶴子草、蔓上春生㆓雙蟲㆒、老則蛻爲㆑蝶、黃赤色、女子收佩㆑之、令㆓人愛悅㆒。

【媚夫】29 ビフ　こびへつらふ人。〔逸周書、皇門解〕媚夫有㆑邇無㆑遠、乃食㆓蓋善夫㆒、俾㆑莫㆑通。

【媚附】30 ビフ　こびへつらつてつき從ふ。阿附。〔唐書、宋之問傳〕沈佺期・劉允濟、傾㆑心媚附。〔唐書、吉溫傳〕高力士居㆑中用㆑事、溫皆媚㆓附之㆒。

【媚嫵】31 ビブ　なまめかしい姿をして人にこびへつらふこと。嫵媚。〔元好問、梨花海棠詩〕姸花紅粉粧、意態工㆓媚嫵㆒。

【媚藥】32 ビヤク　色慾を催す藥。催淫藥。〔北戶錄〕紅蝙蝠出㆓瀧州㆒、雙㆓伏紅蕪花閒㆒、採者獲㆓其一㆒、則一不㆑去、南人收爲㆓媚藥㆒。

【媚賴】33 ビライ　人にこびたよる。〔唐詩紀事、施肩吾〕故肩吾詩云、顚狂楚客歌成㆑雪、媚賴吳娘笑是鹽。

【媚惑】34（ビワク）こびてまどはす。〔後漢書、梁冀傳〕作二愁眉啼粧墮馬髻折腰步齲齒笑一、以爲三媚二惑冀一。

【媚川都】35（ビセント）❶廣東省寶安縣の南に在る都。〔輿地紀勝〕東莞縣有二媚川都一、南漢置、凡隸二二千人一、入レ海採レ珠、及二開寶元年閒一、詔廢二棄之一。❷安徽省合浦縣の南に在る都。

【㜊】6514

コウ グ 〔集韻〕胡溝切 〘尤〙

女のあざな。〔集韻〕㜊、女字。

【婷】6515

〘一〙ケン 〔集韻〕火玄切 〘先〙

〘二〙ケイ ギヤウ 〔集韻〕葵營切 〘庚〙

〘一〙色を貪る。或は孚(3-6979)に作る。〔集韻〕婷、貪レ色、或省。〘二〙❶ひとり。嬛(3-6782)に同じ。〔集韻〕嬛、獨也、或作レ婷。❷たをやめ。また、たをやか。〔集韻〕嬛、婷、一曰、淑媛也。❸悙(4-10865)に同じ。〔字彙〕婷、同レ悙。

【媛】6516

〘一〙エン 〔集韻〕于眷切 ㄩㄢˋ yüan^{4} 〘霰〙

〘二〙エン ヲン 〔集韻〕于願切 〘願〙

〘三〙エン ヲン 〔集韻〕于元切 ㄩㄢˊ yüan^{2} 〘元〙

小篆

〘一〙〘二〙❶たをやめ。美人。〔說文〕媛、美女也、人所レ欲レ援也、从レ女爰聲、詩曰、邦之媛兮。〔段注〕援者、引也、謂下人所レ欲三引爲二己助一者上也。〔詩、鄘風、君子偕老〕邦之媛也。〔傳〕美女爲レ媛。❷たをやか。うつくしい。〔潘岳、皇女誄〕妙好弱媛。❸通じて援(5-12407)に作る。〔詩、鄘風、君子偕老、釋文〕媛、韓詩作レ援。❹女官の名。〔唐書、百官志〕太子內官、良媛六人。〘三〙❶嬋媛は、ひく。牽引のさま。〔集韻〕媛、嬋媛、牽引皃。〔楚辭、九章、哀郢〕心嬋媛而傷懷兮。〔注〕嬋媛、猶二牽引一也。〔張衡、南都賦〕垂條嬋媛。〔注〕善曰、嬋媛、枝相連引也。❷うつくしい。〔集韻〕媛、一曰、美也。〘邦〙ひめ。貴人の女の名に添へて呼ぶ語。

【媛女】1（エンヂヨ）美女。〔蔡邕、檢逸賦〕夫何姝妖之媛女、顏煒燁而含レ榮。〔梁元帝、採蓮賦〕妖童媛女。

【媥】6517

ヘン ベン 〔集韻〕毗連切 〘先〙

媥娟は、美麗のさま。〔集韻〕媥、媥娟、美麗皃。

【媥娟】1（ベンケン）❶美しいさま。〔拾遺記、少昊〕時有二神童一、容貌絕俗、稱爲二白帝之子一、卽太白之精、降二乎水際一、與二皇娥一讌戲、奏二媥娟之樂一、游漾忘レ歸。〔庾信、邛竹杖賦〕媥娟高節、寂歷無レ心。❷まがりくねつたさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕旋室媥娟以窈窕、洞房叫窱而幽邃。〔注〕善曰、媥娟、迴曲貌。

【嫂】6518

ソウ ス 〔集韻〕祖叢切 〘東〙

女のあざな。〔集韻〕嫂、女字。

【媜】6519

テイ チヤウ 〔集韻〕知盈切 〘庚〙

女のあざな。〔集韻〕媜、女字。

【婄】6520

アン オン 〔集韻〕烏含切 〘覃〙

❶心の汚れた女。〔集韻〕婄、女志不レ靜。〔字彙〕婄、女志不レ淨。❷きたない。いやしい。婄贜。〔正字通〕婄、焦竑俗用雜字、物不レ淨曰二婄贜一。

【媝】6521

シウ シユ 〔集韻〕雖由切 〘尤〙

女のあざな。〔集韻〕媝、女字。

【媞】6522

〘一〙シ ジ 〔集韻〕上紙切 〘紙〙

〘二〙テイ ダイ 〔集韻〕田黎切 〘齊〙

〘三〙シ 〔集韻〕章移切 〘支〙

〘四〙テイ ダイ 〔集韻〕待禮切 〘薺〙

〘五〙タイ 〔集韻〕得懈切 〘卦〙

〘六〙タ 〔集韻〕陟嫁切 〘禡〙

小篆

〘一〙❶つまびらか。〔說文〕媞、諦也、从レ女是聲。❷わるがしこい。〔說文〕媞、一曰、妍黠也。❸はは。〔說文〕媞、一曰、江淮之閒、謂レ母爲レ媞。〘二〙❶やすらか。〔集韻〕媞、媞媞、安也。❷みめよいさま。〔集韻〕媞、媞媞、一曰、美好。❸或は姼(3-6253)に作る。〔集韻〕媞、或作レ姼。❹禔(8-24773)に通ず。〔說文通訓定聲〕媞、段借爲レ禔。〘三〙さいはひ。禔(8-24773)に同じ。〔集韻〕禔、安福也、或从レ女。〘四〙❶こびる。媞娩。〔集韻〕媞、媞娩、嫵媚。❷つまびらか。〔集韻〕媞、一曰、諦也。❸安らかなさま。〔廣韻〕媞、好人安詳之容皃。❹草の實の名。はますげの實。〔爾雅、釋草〕蒿、侯莎、其實、媞。〔注〕夏小正曰、媞者其實。〘五〙〘六〙あざむきあなどる。茭媞。〔方言、十〕眠娗、云云、茭媞、皆欺嫚之語也。

〘名乘〙ヤス。

【媞媞】1（テイテイ）❶安らかなさま。安らかに步むさま。〔爾雅、釋訓〕媞媞、安也。〔疏〕孫炎曰、媞媞、行步之安也。❷みめよいさま。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕西施媞媞、而不レ得レ見兮。〔注〕媞媞、好貌。

【㛶】6523

クワイ ケ 〔集韻〕空媧切 〘佳〙

姱㛶は女のさま。〔集韻〕㛶、姱㛶、女皃。

【媟】6524

セツ セチ 〔集韻〕私列切 ㄒㄧㄝˋ hsieh^{4} 〘屑〙

小篆

❶けがす。けがれる。〔說文〕媟、嬻也、从レ女枼聲。〔荀子、榮辱、憍泄者人之殃也、注〕泄、與レ媟同、嫚也。❷なれる。あなどる。〔方言、十三〕媟、狎也。〔注〕相親狎也。〔漢書、賈山傳〕古者大臣不レ媟。〔注〕師古曰、媟、狎也。〔新書、愼容〕接遇愼容、謂二之恭一、反レ恭爲レ媟。〔漢書、敍傳上〕魚黿媟レ之。〔注〕師古曰、媟、謂三侮二狎之一也。❸みだれる。〔漢書、五行志下之上〕夫妻不レ嚴、茲謂レ媟、尊卑不レ別、茲謂レ媟。❹或は㛪(3-6227)に作る。〔集韻〕媟、或作レ㛪。❺褻(10-34536)・暬(5-14122)に通ず。〔正字通〕媟、正僞或作レ暬、云云、按、褻・暬・媟古通。

【媟狎】1（セツカフ）なれあつて侮る。〔宋書、少帝紀〕加復日夜媟狎、羣小慢戲。

【媟近】2（セツキン）なれちかづく。又、君になれちかづく者。〔詩、小雅、賓之初筵序〕幽王荒廢、媟二近小人一、飲酒無レ度。〔柳宗元、晉文公問レ守原議〕不レ宜下謀及二媟近一、以忝中王命上。

【媟笑】3（セツセウ）あなどつたわらひ。馬鹿にした笑。〔宋史、林靈素傳〕所レ言無二殊異一、時時雜二捷給嘲談一、以資二媟笑一。

【媟嬻】4 セツトク ❶なれけがす。〔一切經音義、十四〕通俗文曰、相狎習、謂㆓之媟嬻㆒。〔後漢書、爰延傳〕上下媟嬻、有㆑虧㆓尊嚴㆒。❷男女の別がみだれけがれること。〔曹昭、女誡〕房室周旋、遂生㆓媟嬻㆒。

【媟黷】5 セツトク なれけがす。媟嬻。〔漢書、枚乘傳〕好㆓嫚戲㆒、以㆑故得㆔媟㆓黷貴幸㆒。〔注〕師古曰、媟、狎也、黷、垢濁也。〔漢書、谷永傳〕無㆘復與㆓羣小㆒媟黷燕飲㆖。

【媟嫚】6 セツマン なれみだれる。〔漢書、谷永傳〕亂㆑服共㆑坐、流湎媟嫚。

【媟慢】7 セツマン なれあなどる。莊重でない。〔中論、法象〕禍敗之由也、則有㆓媟慢以爲㆑階。

【媠】6525

［一］タ 〔集韻〕吐火切 ［哿］
［二］タ 〔集韻〕吐臥切 ［箇］
［三］ナダ 〔集韻〕努果切 ［哿］
［四］ナダ 〔集韻〕奴臥切 ［箇］
［五］ラ 〔集韻〕盧臥切 ［箇］

［一］［二］❶**みめよい**。或は嫷(3－6706)に作る。〔集韻〕媠、好也、或作㆑嫷。❷**おこたる**。惰(4－11225)に同じ。〔集韻〕惰、說文、不㆑敬也、古作㆑媠。［三］**みめよいさま**。姽(3－6211)に同じ。〔集韻〕姽、婐姽、好皃、或作㆑媠。［四］**うるはしい**。豔美なこと。〔集韻〕媠、方言、娃媠、豔美也。［五］**おこたる**。惰(4－10855)に同じ。〔集韻〕惰、懈也、或作㆑媠。

参考 熟語は惰(4－10855)をも併せ見よ。

【媠出】1 ダシュツ おこたり遊ぶ。媠は惰。王先謙補注は、媠は姷の誤で、耦出(共に出かける)の意といふ。〔漢書、谷永傳〕悉罷㆓北宮私奴車馬媠出之具㆒。〔注〕師古曰、媠、亦惰字耳、媠出、惰游也。〔王先謙補注〕宋祁曰、姚本、媠作㆑姷、耦也、蕭該音義、媠作㆑姷、王念孫曰、案、媠出二字、義不㆓相屬㆒、師古強訓爲㆓惰游㆒、非也、當㆘依㆓蕭該本㆒作㆗姷出㆖、說文、姷、耦也、或從㆑人作㆑侑、然則姷出者、耦出也、車馬耦出、謂㆘與㆓北宮私奴㆒共乘㆓車馬㆒而出㆖也。

【媠服】2 ダフク 美しい服。好い服。嫷服。〔宋玉、神女賦序〕嫷㆓被服㆒、倪㆓薄裝㆒。〔注〕善曰、方言曰、嫷、美也。〔曹植、七啓〕形㆓媠服㆒兮揚㆓幽若㆒。〔注〕向曰、媠、好也。

【媠嫚】3 ダマン おこたりあなどる。惰慢(4－10855··29)に同じ。

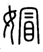
【媠謾】4 ダマン おこたりあなどる。惰慢(4－10855··29)に同じ。〔漢書、龔勝傳〕媠謾亡狀、皆不敬。〔注〕師古曰、媠、古惰字、謾、讀與㆑慢同。

【媡】6526 レン 〔集韻〕郎甸切 ［霰］

女のあざな。〔集韻〕媡、女字。

【媢】6527

［一］バウ モウ 〔集韻〕莫報切 ㄇㄠˋ mao^4 ［號］
［二］バウ モウ 〔集韻〕武道切 ［晧］
［三］ビ ミ 〔集韻〕蜜二切 ［寘］
［四］ボク モク 〔集韻〕謨沐切 ［沃］
［五］ボク モク 〔集韻〕密北切 ［職］
［六］バイ マイ 〔正韻〕莫佩切 ［隊］


小篆

［一］［二］［三］［四］［五］［六］❶**ねたむ**。夫が妻をやく。〔說文〕媢、夫妬㆑婦也、从㆑女冒聲。〔史記、黥布傳論贊〕妒媢生㆑患。〔注〕集解曰、媢、亦妒也。索隱曰、一云、男妒曰㆑媢。❷**にらむ**。**又、さげすみ見る**。〔說文〕媢、一曰、梅目相視也。〔段注〕梅、當㆑作㆑怒、云云、目部云、眏、涓目也、梅目、或眏目之誤、所謂裂眥、又按、梅、當㆑作㆑侮、謂㆓目相侮㆒也、史記曰、目㆓笑之㆒。❸冒(2－1538)に通ず。〔書、秦誓〕冒疾以惡㆑之。〔大學〕秦誓曰、云云、媢疾以惡㆑之。

【媢怨】1 バウエン ねたみうらむ。又、其のこと。媢恨。〔唐書、劉晏傳〕雖㆔封㆑山斷㆑道、以禁㆓前發㆒、晏厚㆑貲致㆑之、常冠㆓諸府㆒、由㆑是媢怨益多。

【媢忌】2 バウキ ねたみいむ。又、其のこと。〔唐書、房玄齡傳〕任公竭㆑節、不㆑欲㆓一物失㆑所、無㆓媢忌㆒。

【媢恨】3 バウコン ねたみうらむ。媢怨。〔唐書、吳通玄傳〕見㆓贄驟擢㆒、頗媢恨。

【媢妻】4 バウサイ 嫉妬深い妻。媢婦。〔論衡、論死〕妬夫媢妻、同室而處、淫亂失㆑行。

【媢疾】5 バウシツ 忌みきらふ。そねみ惡む。冒疾。媢嫉。〔禮、大學〕秦誓曰、云云、人之有㆑技、媢疾以惡㆑之。〔注〕媢、妬也。〔釋文〕媢、尙書作㆑冒、謂㆓覆蔽㆒也。〔逸周書、皇門解〕是人斯乃讒賊媢疾、以不㆑利㆓于厥家國㆒。〔柳宗元、與㆓蕭翰林俛㆒書〕欲㆑免㆓世之求㆑進者怪怒媢疾㆒。

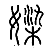
【媢嫉】6 バウシツ 媢疾に同じ。

【媢婦】7 バウフ 嫉妬深い妻。媢妻(4)に同じ。〔顏氏家訓、書證〕常山憲王后、妬㆓媢王充論衡㆒云、妬夫媢婦、生則忿怒鬭訟。

【媣】6528

［一］ゼン ネン 〔集韻〕而琰切 ［琰］
［二］カン 〔集韻〕沽三切 ［覃］

小篆（說文）

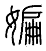

小篆（段注本）

［一］❶**ただしい**。道理に合ふ。〔說文〕媣、諟也、从㆑女染聲。〔段注〕諟者、理也。❷**うつくしい**。〔集韻〕媣、一曰、媞也。❸或は姌(3－6246)に作る。〔集韻〕媣、或省。［二］**うつくしい**。［一］の❷に同じ。〔集韻〕媣、媞也。

【媤】6529 シ 〔集韻〕新茲切 ［支］

女のあざな。或は姛(3－6175)に作る。〔集韻〕媤、女字、或从㆑司。

【媥】6530 ヘン 〔集韻〕紕延切 ［先］


小篆

❶**身輕なさま**。〔說文〕媥、輕皃、从㆑女扁聲。〔廣韻〕媥、身輕便皃。❷**ゆれ動くさま**。ひらひらするさま。〔史記、司馬相如傳〕媥姺徶循、與㆑世殊㆑服。〔注〕集解曰、郭璞曰、衣服婆娑貌。

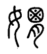
【媨】6531

［一］テフ 〔集韻〕丑聶切 ［葉］
［二］サフ セフ 〔集韻〕測洽切 ［洽］

小篆

［一］**はやくちで順序なくいふ**。〔說文〕媨、疾言失㆑次也、从㆑女臿聲、讀若㆑懾。〔段注〕所謂儳言。［二］❶**はやくちで順序なくいふ**。［一］に同じ。〔集韻〕媨、疾言失㆑次也。❷**おそれる**。氣おくれする。〔集韻〕媨、一曰、怯也。❸**女のさま**。〔集韻〕媨、女皃。❹媨眏は、戲れおどけるさま。〔集韻〕眏、媨眏、戲謔皃。

【媦】6532 ヰ 〔集韻〕于貴切 ㄨㄟˋ wei^4 ［未］

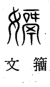

小篆

いもうと。〔說文〕媦、楚人謂㆓女弟㆒曰㆑媦、从㆑女胃聲、春秋公羊傳曰、楚王之妻媦。〔唐書、諸帝公主傳〕同安公主、高祖同母媦也。

【媦壻】1 ヰセイ 妹壻。〔唐書、李密傳〕往依㆓媦壻雍邱令邱君明㆒、轉㆓匿大俠王季才家㆒。

【媧】6533

［一］クワイ ケ 〔集韻〕公蛙切 ㄨㄚ wa^1 ［佳］
［二］クワ ケ 〔集韻〕姑華切 ［麻］



小篆　籀文

[一]❶**萬物を化したといふ古の神女。**〔說文〕媧、古之神聖女、化ニ萬物一者也、从レ女咼聲。〔史記、五帝紀〕女媧煉ニ五色石一補レ天。❷籀文は嫣（**3**－**6774**）に作る。〔集韻〕媧、籀作レ嫣。[二]❶**神女。**[一]の❶に同じ。〔集韻〕媧、古之神聖女。❷**姓。**〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕媧氏、女媧氏之後。

【媧皇】1 クワクワウ　女媧氏（**3**－**6036**・・63）をいふ。〔名義考〕淮南子、女媧鍊ニ五色石一補レ天、斷ニ鼇足一立ニ四極一、聚ニ蘆灰一止ニ滔水一、人多疑ニ其荒唐不經一、然此不レ過レ言ニ媧皇參贊之功一耳。〔湛賁、日五色賦〕光浮ニ石壁一、謂ニ媧皇之補レ天、影入ニ詞林一、疑ニ江淹之夢筆一。

【媧民】2 クワミン　宋、賈黃中（**10**－**36755**・・154）の字。

【娀】 6534　ジュウ　娀（**3**－**6258**）の本字。〔正字通〕娀、娀本字。

【娕】 6535　サン　姍（**3**－**6169**）の古字。〔正字通〕娕、古文姍。

【𢾾】 6536　ウン　妘（**3**－**6088**）に同じ。〔字彙補〕𢾾、同レ妘。

【𡟖】 6537　フク ブク　〔集韻〕房六切　屋　**女のあざな。**〔集韻〕𡟖、女字。

【𡟳】 6538　ダイ ナイ　〔集韻〕乃帶切　泰　**女のあざな。**〔集韻〕𡟳、女字。

【𡟒】 6539　テツ テチ　〔字彙補〕他結切　屑　**貪り食ふ。**〔字彙補〕𡟒、貪食也。

【媨】 6540
[一]シュク　〔集韻〕子六切　屋
[二]シウ ジュ　〔集韻〕在九切　有
[三]イウ ユ　〔集韻〕以九切　有
[四]シウ シュ　〔集韻〕卽就切　宥

[一][二]**みめよい。**〔集韻〕媨、博雅、好也。[三][四]**老女のみにくいさま。**〔廣韻〕媨、醜老嫗皃。

【婦】 6541　ゲイ　〔集韻〕研計切　霽　**年老いた女。**〔集韻〕婦、姥也。

【姑】 6542　コ ク　〔篇海類編〕孔五切　麌　乃姑は、かしこい。〔篇海類編〕乃姑、姈也。

【𡞱】 6543　スイ ズイ　〔集韻〕徐醉切　寘　❶**女のあざな。**嬘（**3**－**6772**）に同じ。〔集韻〕嬘、女字、或省。❷**女の名。**〔篇海類編〕𡞱、女名。

【嫎】 6544　シウ シュ　〔集韻〕思留切　尤　**女の名。又、女のあざな。**〔集韻〕嫎、女名。〔篇海類編〕嫎、女字。

【媩】 6545　コ ゴ　〔集韻〕洪孤切　虞　**女のあざな。**或は㚴（**3**－**6132**）に作る。〔集韻〕媩、女字、或从レ乎。

【𡡉】 6546　ソウ ス　〔集韻〕麤叢切　東　**女のあざな。又、女の名。**〔集韻〕𡡉、女字。〔篇海類編〕𡡉、女名。

【𡞫】 6547　ケウ　〔篇海類編〕堅堯切　蕭　**女のあざな。又、女の名。**〔集韻〕𡞫、女字。〔篇海類編〕𡞫、女名。

【㛮】 6548　シン ジン　〔字彙補〕徐心切　侵　**姓。**〔字彙補〕㛮、姓也。

【𡜃】 6549　ホウ フ　〔集韻〕方容切　冬　**女のあざな。又、女の名。**〔集韻〕𡜃、女字。〔篇海類編〕𡜃、女名。

【娯】 6550　キョ ゴ　〔篇海類編〕求於切　魚　❶**女のあざな。**㜘（**3**－**6748**）に同じ。〔集韻〕㜘、女字、或省。❷**女の名。**〔篇海類編〕娯、女名。

【㛰】 6551　レン　〔集韻〕龍眷切　霰　**したがふ。**〔篇海類編〕㛰、從也。

【婞】 6552　ケイ ギャウ　〔龍龕手鑑〕胡頂切　迥　**もとる。**〔龍龕手鑑〕婞、很也。

【㜳】 6553　サフ ゼフ　〔五音篇海〕士洽切　洽　睒㜳は、おどける。たはける。〔五音篇海〕睒㜳、戲謔也。

【𡜹】 6554　カウ ケウ　〔篇海類編〕火交切　肴　**年老いた女。**〔篇海類編〕𡜹、老女之稱。

【媢】 6555　レン　〔篇海類編〕音戀　**したがふ。**〔篇海類編〕媢、從也。

【𡞖】 6556　ク　〔字彙補〕丘矩切　麌　**せむし。**又、屈し從ふ。嫗𡞖。〔趙壹、刺ニ世疾邪一賦〕嫗ニ𡞖名埶一。〔注〕嫗𡞖、猶ニ傴僂一也。

【㛖】 6557　ダ　娜（**3**－**6311**）に同じ。〔篇海類編〕㛖、與レ娜同。

【𡜟】 6558　カン　義未詳。〔搜眞玉鏡〕𡜟、革閑切。

【㜢】 6559　ヨウ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕㜢、音孕。

【婆】6560 バ 婆(3－6390)に同じ。〔字彙補〕婆、與レ婆同。

【㛙】6561 ヨク 欲(6－16080)に同じ。〔龍龕手鑑〕㛙、舊藏作二欲字一。

【⿰女⿱𠂉疋】6562 セン 義未詳。〔川篇〕⿰女⿱𠂉疋、音全。

【⿰女敁】6563 ソ・カイ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰女敁、音麄、又音解。

【嫩】6564 デウ・ヂヨク 義未詳。〔篇海類編〕嫩、音裊、又音匿。

【媪】6565 アウ 媼(3－6588)に同じ。〔正字通〕媪、从レ昷當レ作レ媼、九畫、舊本作レ媪誤。

十畫

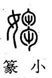
【媰】6566

［一］シウ シユ 〔集韻〕甾尤切 尤

［二］シウ ジユ 〔集韻〕鉏救切 宥

［三］ス シユ 〔集韻〕仄遇切 遇

［四］ス ジユ 〔集韻〕祟芻切 虞

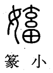

小篆

［一］❶はらむ。〔說文〕媰、婦人妊娠也、从レ女芻聲、周書曰、至二于媰婦一。❷みめよい。〔廣雅、釋詁一〕媰、好也。［二］はらむ。［一］の❶に同じ。或は㑳(1－930)に作る。〔集韻〕媰、娠也、或从レ人。［三］❶はらむ。［一］の❶に同じ。或は⿰子芻(3－7010)に作る。〔集韻〕媰、婦人妊身也、或从レ子。❷姓。〔集韻〕媰、姓也。［四］❶やもめ。後家。〔集韻〕媰、嬼婦、謂二之媰一、崔子玉曰、惠二於媰孀一。❷女のあざな。〔集韻〕媰、女字。

【⿰女畜】6567

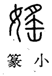
［一］チク 〔集韻〕敕六切 屋

［二］キク 〔集韻〕許六切 屋


小篆

［一］［二］❶こびる。〔說文〕⿰女畜、媚也、从レ女畜聲。❷ねたむ。〔廣雅、釋詁一〕⿰女畜、妬也。❸好む。畜(7－21814)に通ず。〔廣雅、釋詁一〕⿰女畜、好也。〔中華大字典〕⿰女畜、通レ畜。〔呂覽、適威〕民善レ之則畜也。〔注〕畜、好。

【媱】6568 エウ 〔集韻〕餘招切 蕭 ㄧㄠˊ yao^2


小篆

❶肩を曲げて歩くさま。〔說文〕媱、曲レ肩行皃、从レ女䍃聲。❷みめよい。〔廣韻〕媱、美好。❸要媱は、舞ふさま。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕音晏衍兮要媱。〔注〕要媱、舞容也。❹たはむれる。〔集韻〕媱、一曰、戲也。

［參考］ 婬(3－6440)は別字。俗に媱に作る。〔字彙、辨似、二字相似〕婬、音淫、姦淫、與レ淫同。媱、音姚、美好皃、俗誤作レ婬。

【⿰女迷】6569 ベイ マイ 〔集韻〕彌計切 霽

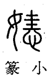
はは。母。〔集韻〕⿰女迷、吳俗呼レ母曰レ⿰女迷。

【⿰女恚】6570

［一］イ 〔集韻〕於避切 寘

［二］スイ ズイ 〔集韻〕時髓切 紙

［三］エフ 〔集韻〕益涉切 葉


小篆

［一］［二］❶よろこばない。〔說文〕⿰女恚、不レ說也、从レ女恚聲。❷いかる。〔集韻〕⿰女恚、怒也。［三］嬈⿰女恚は、女のさま。〔集韻〕⿰女恚、嬈⿰女恚、女態。

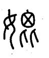
【媲】6571

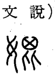
［一］ヘイ ハイ 〔集韻〕匹計切 霽 ㄆㄧˋ $\mathrm{p'i}^4$

［二］ヒ 〔集韻〕匹寐切 寘

［三］ヘイ ハイ 〔集韻〕邊迷切 齊

［四］ヒ ビ 〔集韻〕頻脂切 支


小篆（說文）


小篆（段注本）

［一］［二］つれあひ。つま。〔說文〕媲、妃也、从レ女𣬉聲。〔爾雅、釋詁〕妃、媲也。〔集韻〕媲、字林、配也。［三］嫛媲は、小さいさま。〔集韻〕媲、嫛媲、小皃。［四］女のあざな。〔集韻〕媲、女字。

【媲偶】1 ヘイグウ ならぶ。配偶(11－39771・・16)に同じ。〔禮、曲禮上、偶坐不レ辭、疏〕媲二偶於客一共食。〔梁簡文帝、與二劉孝儀一令、悼二劉遵一〕所レ賴古人、時相媲偶。

【婺】6572 ボク モク 〔集韻〕莫卜切 屋

美しいさま。〔集韻〕婺、美皃。

【媳】6573 セキ シヤク 〔字彙〕思積切 陌 ㄒㄧˊ hsi^2

よめ。子の妻。〔字彙〕媳、俗謂二子婦一曰レ媳。〔元史、裕宗徽仁裕聖皇后傳〕世祖每稱レ之、爲二賢德媳婦一。

【媳婦】1 セキフ よめ。子の妻。息婦(4－10601・・92)を見よ。〔元史、裕宗徽仁裕聖皇后傳〕后性孝謹、善事二中宮一、世祖每稱レ之、爲二賢德媳婦一。

【媳婦做レ婆】2 セキフバトナル 花嫁も皺だらけの老婆となる。〔傳家寶〕也有二媳婦做レ婆時一。

【⿰女袁】6574 エン ヲン 〔集韻〕于元切 元

女の名。〔集韻〕⿰女袁、女名。

【媵】6575

［一］ヨウ 〔集韻〕以證切 徑 ㄧㄥˋ ying^4

［二］シヨウ ジヨウ 〔集韻〕石證切 徑

［一］❶おくる。㋑送りやる。〔儀禮、士昏禮〕媵二布席于奧一。〔注〕媵、送也。㋺見おくる。〔楚辭、九歌、河伯〕魚鱗鱗來媵。〔注〕媵、送也。〔張衡、思玄賦〕迅猋潚其媵レ我兮。〔注〕濟曰、媵、送也。㋩渡しすすめる。〔儀禮、燕禮〕主人媵二觚于賓一。〔注〕媵、送也。㋥よせる。あづける。〔方言、三〕媵、寄也、寄レ物爲レ媵。〔方言、十三〕媵、託也。❷つきそひ。おくりめ。おくりびと。又、こしもと。そばめ。古、貴人に嫁する女が從へて行つた女。夫人たるべき女の姪娣がこれにあてられ、時としては更に同姓の國からも媵を出した。又、男のつきそつて行く場合もある。〔釋名、釋親屬〕姪娣曰レ媵、媵、承也、承二事嫡一也。〔詩、召南、江有汜序〕美レ媵也。〔疏〕媵、謂レ妾也、謂二之媵一者、以二其從レ適以送一爲レ名也。〔詩、小雅、我行其野、

成不二以富一、箋、女不三以レ禮爲二室家一、疏〕妾送レ嫡而行、故謂レ妾爲レ媵、媵之名不二專施一レ妾、凡送レ女適レ人者、男女皆謂二之媵一。〔儀禮、士昏禮〕媵御餕。〔注〕古者嫁レ女、必姪娣從レ之、謂二之媵一。〔左氏、僖、五〕以媵二秦穆姬一。〔注〕送女曰レ媵。〔公羊、莊、十九〕媵者何、諸侯娶二一國一、則二國往媵レ之、以二姪娣一從。〔公羊、隱、元、注〕禮、嫡夫人無レ子、立二右媵一、右媵無レ子、立二左媵一、左媵無レ子、立二嫡姪娣一、嫡姪娣無レ子、立二右媵姪娣一、右媵姪娣無レ子、立二左媵姪娣一。❸倂(1－693)に同じ。〔說文〕倂、送也。〔段注〕倂、今之媵字。〔集韻〕倂、字或作レ媵。

🈔❶**美女**。〔集韻〕媵、美女。❷🈩の❷に同じ。〔集韻〕媵、一曰、從嫁也。

【媵御】1（ヨウギョ） こしもと。そばめ。〔後漢書、袁術傳〕淫侈滋甚、媵御數百、無レ不下兼二羅紈一厭中粱肉上。

【媵句】2（ヨウク） 詩文で首の一句に從ふ二三句をいふ。〔文心雕龍、附會〕若首唱榮華、而媵句憔悴、則遺勢鬱湮、餘風不レ暢。

【媵觚】3（ヨウコ） さかづきを渡しすすめる。觚はさかづき。中國量で二升(我が一合七八勺に當る)いりの酒杯。〔儀禮、燕禮〕主人盥洗升、媵二觚于賓一。〔注〕媵、送也。

【媵觶】4（ヨウシ） 勸められたさかづき。觶はさかづき。中國量で、三升いりの酒杯。〔儀禮、大射儀〕公坐取二大夫所レ媵觶一。

【媵侍】5（ヨウジ） 古、貴人に嫁する女に附きそつて行つた姪娣をいふ。〔韓愈、扶風郡夫人墓誌銘〕天資仁恕、左右媵侍、常蒙三假二與顏色一、人人莫レ不二自在一。〔唐書、文德長孫皇后傳〕媵侍疾病、輟二所レ御飲藥一資レ之、下懷二其仁一。

【媵州】6（ヨウシウ） 州の名。遼、置く。今、不詳。

【媵嬙】7（ヨウシヤウ） 女官の名。皇后の次を妃、次を嬪、次を媵、次を嬙といふ。〔杜牧、阿房宮賦〕妃嬪媵嬙、王子皇孫、辭レ樓下レ殿、輦來二於秦一。〔注〕自二皇后一而下、次爲レ妃、次爲レ嬪、又其次爲レ媵爲レ嬙、皆宮女之在二阿房宮中一者。

【媵爵】8（ヨウシヤク） 盃をわたしすすめる。爵は雀の形をしたさかづき。〔儀禮、燕禮〕小臣自二阼階一下、請二媵レ爵者一、公命レ長。〔胡培翬正義〕李如圭云、媵爵者、獻酬禮成、更擧二酒於公一、以爲二旅酬之始一。〔表異錄〕儀禮有二媵爵一、謂下先欲二一爵一、二爵從上レ之也。

【媵從】9（ヨウジユウ） 古、貴女の嫁に附き從つて行く卑賤な者をいふ。〔列女傳、母儀、湯妃有㜪傳〕湯妃有㜪、賢行聰明、媵從伊尹、自レ夏適レ殷、勤懿治レ中、九嬪有レ行、化二訓內外一、亦無二愆殃一。

【媵臣】10（ヨウシン） 古、貴女の嫁につきそふ卑賤な男子。〔史記、殷紀〕乃爲二有莘氏媵臣一。〔史記、秦紀〕吾媵臣百里傒在焉、請以二五羖皮一贖レ之。〔說苑、尊賢〕伊尹、故有莘氏媵臣也。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕昔伊尹、有莘氏之媵臣耳。

【媵人】11（ヨウジン） つきそひの女。古、諸侯の婦人が嫁する時、侍女として隨つて行く女の稱。女中。侍婢。媵婢。〔宋濂、送二東陽馬生一序〕媵人持レ湯沃灌、以レ衾擁覆、久而乃和、寓二逆旅一。

【媵妾】12（ヨウセフ） 古、貴女の嫁に從行したつきそひの女。こしもと。〔漢書、平帝紀〕其出二媵妾一、皆歸レ家得レ嫁、如二孝文時故事一。〔注〕師古云、媵妾、謂下從二皇后一俱來者上。〔列女傳、節儀、周主忠妾傳〕周主忠妾者、周大夫妻之媵妾也。

【媵蛇】13（ヨウダ） 唐代、服裝の飾に用ひた錦の帶。〔玉几山房畫外錄〕百馬圖、南唐人畫、力士五人、鎖帶似レ帔而長、隨レ風飄揚、隋唐文武、皆有二裲襠媵蛇一、媵蛇、錦表裏、長八尺、實以二木棉一象レ蛇、此圖亦見二唐時服製一。

【媵女】14（ヨウヂヨ） 娘の嫁入に附き添ふ。又、附き添はせる。〔呂覽、本味〕湯於レ是請レ取レ婦爲レ婚、有侁氏喜、以二伊尹一媵レ女。

【媵僮】15（ヨウドウ） こしもと。〔急就篇〕妻婦聘嫁齎二媵僮一。

【媵婢】16（ヨウヒ） 嫁に附き添つて行くめしつかひの女。媵人。〔列女傳、節儀、周主忠妾傳〕使三人陰問二媵婢一。〔唐書、李迥秀傳〕母少賤、妻嘗詈二媵婢一、母聞不レ樂、迥秀卽出二其妻一。

【媵母】17（ヨウボ） 母の嫁ぐ時、つきそつて來た女。〔後漢書、朱浮傳〕匹夫媵母、尙能致レ命一餐。

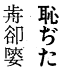
【媶】6576

ジヨウ ニユ 〔集韻〕如容切 冬

妦媶は、美しいさま。〔集韻〕媶、妦媶、美皃。

【⿰阝⿱夾女】6577

セン 〔集韻〕失冉切 琰


小篆

恥ぢためらふ。〔說文〕⿰阝⿱夾女、不レ媚歬卻⿰阝⿱夾女⿰阝⿱夾女也、从レ女陝聲。

【媷】6578

ジヨク ノク 〔集韻〕儒欲切 沃

おこたる。なまける。〔集韻〕媷、懈惰也。

【媸】6579

シ 〔集韻〕充之切 ㄔ ch'ih¹ 支

❶**あなどる**。又、**おろか**。妛(3－6094)に同じ。通じて蚩(10－32902)に作る。〔集韻〕妛、侮也、癡也、或作レ媸、通作レ蚩。❷**みにくい**。〔字彙〕媸、醜也。❸**みだら**。〔字彙〕媸、淫也。

【媸姸】1（シケン） みにくいことと美しいこと。姸媸。美醜。〔廣韻〕媸、媸姸。〔法書要錄〕題二勒美惡一、指二示媸姸一。

【媹】6580

リウ ル 〔集韻〕力求切 尤

女のあざな。〔集韻〕媹、女字。

【⿰女邕】6581

ヨウ ユ 〔集韻〕於容切 冬

女のさま。〔集韻〕⿰女邕、女皃。

【嬍】6582

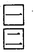
ビ ミ 〔集韻〕母鄙切 ㄇㄟˇ mêi³ 紙

❶**よい**。**うつくしい**。善美。〔周禮、地官、師氏〕掌二以レ嬍詔一レ王。〔疏〕嬍、美也。❷通じて美(9－28435)に作る。〔集韻〕嬍、通作レ美。❸媄(3－6478)に同じ。〔六書統〕媄重文作レ嬍。

【嬍惡】1（ビアク） 善と惡。〔周禮、地官、鄙師〕以レ時數二其庶一、而察二其嬍惡一而誅賞。

【媻】6583

🈩ハン バン 〔集韻〕蒲官切 ㄆㄢˊ p'an² 寒
🈔ハ バ 〔集韻〕蒲波切 歌
🈪ハン バン 〔集韻〕薄半切 翰


小篆

🈩🈔🈪❶**おごる**。〔說文〕媻、奢也、从レ女般聲。❷**めかけ**。〔說文〕媻、一曰、小妻也。〔義證〕奢也者、言二奢張一也、或作レ婆、徐鍇本有二一曰小妻也五字一、六書故・廣韻並同、馥案、北人謂レ妾曰二小婆子一。〔說文校議〕韻會引二一曰老女稱一、小妻卽老女之誤。❸**老女**。婆(3－6390)に通ず。❷を見よ。〔說文通訓定聲〕韻會引二說文一曰老女稱一、按、亦作レ婆、波・般雙聲。❹**往來のさま**。媻媻(4)を見よ。❺**よろめく**。媻珊(3)を見よ。

【媻娑】1（ハンサ） 舞ふさま。〔說文〕娑、舞也、从レ女沙聲、詩云、市也媻娑。

【媻姍】2（ハンサン） 媻珊に同じ。〔漢書、司馬相如傳上〕媻姍勃窣、上二金隄一。〔注〕師古曰、媻姍勃窣、謂レ行二於叢薄之閒一也。

【媻珊】3（ハンサン） よろめく。這つて歩くさま。媻姍。〔史記、司馬相如傳〕媻珊勃窣、上二金隄一。〔注〕索隱曰、韋昭曰、媻珊、匍匐上下也。

【媻媻】4 パンパン ゆききする。往來のさま。〔廣雅、釋訓〕媻媻、往來也。

【⿰女屑】6584 セツ セチ 〔集韻〕先結切 屑

小さいさま。〔集韻〕⿰女屑、小皃。

【⿰女師】6585 シ

⿱師女(3-6586)に同じ。〔集韻〕⿱師女、或書作㆑⿰女師。

【⿱師女】6586 シ 〔集韻〕霜夷切 支

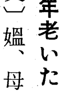
みこ。かんなぎ。或は⿰女師(3-6585)に作る。〔集韻〕⿱師女、女巫、或書作㆑⿰女師。

【⿰女貢】6587 コウ ク 〔集韻〕古送切 送

女のあざな。〔集韻〕⿰女貢、女字。

【媼】6588

㈠アウ オウ 〔集韻〕烏浩切 ㄠ ao^3 皓
㈡ウン 〔集韻〕委隕切 軫
㈢ウン 〔集韻〕紆問切 軫
㈣ウン 〔集韻〕於云切 文
㈤ヲン 〔集韻〕烏昆切 元
㈥ヲツ ヲチ 〔玉篇〕烏骨切 月


小篆

㈠❶年老いた母。年老いた女。〔說文〕媼、母老侮也、从㆑女𥁕聲、讀若㆑奧。〔史記、高祖紀〕母曰㆓劉媼㆒。〔注〕集解曰、幽州及漢中、皆謂㆓老嫗㆒爲㆑媼、索隱曰、韋昭云、媼、婦人長老之稱。〔史記、外戚世家〕魏媼。〔注〕索隱曰、媼、是婦人老者通號。❷母。〔廣雅、釋親〕媼、母也。〔漢書、高帝紀上〕高祖、姓劉氏、母媼。〔注〕孟康曰、媼、母別名。❸祖母。〔新方言、釋親屬〕山西平陽呼㆓祖母㆒曰㆑媼。❹をんな。〔史記、衞將軍驃騎傳〕與㆓侯妾衞媼㆒通。〔注〕索隱曰、媼、婦人老少通稱。❺地の神。媼神(4)を見よ。〔正字通〕媼、地神曰㆑媼。㈡㈢㈣㈤女のあざな。〔集韻〕媼、女字。㈥少し肥える。媼妠(5)を見よ。

【媼圍】1 アウヰ 縣名。漢、置く。甘肅皋蘭縣の東北。〔漢書、地理志下〕武威郡、縣十、媼圍。

【媼媼】2 アウアウ 年老いた女。ばば。老婆。〔北史、邢邵傳〕父老及媼媼、皆遠相攀追。

【媼相】3 アウサウ 宋の宰相童貫の稱。童貫は宦者から宰相となつたので、時人、媼相と呼ぶ。〔宋史、童貫傳〕人稱㆓蔡京㆒爲㆓公相㆒、因稱㆑貫爲㆓媼相㆒。

【媼神】4 アウシン 土地の神。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕惟泰元尊、媼神蕃釐。〔注〕李奇曰、元尊、天也、媼神、地也、師古曰、言㆓天神至尊、而地神多福㆒也。

【媼妠】5 ヲツダフ 少し肥える。〔玉篇〕媼、媼妠、小肥。

【媙】6589 ベツ メチ 〔莊子、釋文〕音滅 屑

❶ほろぼす。たつ。けす。滅(7-18008)に通ず。〔莊子、外物〕皆媙可㆓以休㆑老。〔疏〕剪㆓齊鬢髮㆒、滅㆓狀貌㆒也。❷もむ。こする。搣(5-12495)に通ず。〔莊子、外物〕皆媙可㆓以休㆑老。〔釋文〕媙、音滅、本亦作㆑搣。

【媽】6590 ボ モ 〔集韻〕滿補切 ㄇㄚ ma^1 麌

❶はは。ばば。俗に嫁・下婢の稱。〔集韻〕媽、博雅、母也。❷めうま。〔集韻〕媽、一曰、牝馬。❸現娼樓などで、女を親しんで呼ぶ語。

【媽港】1 マカウ 地名。廣東省の澳門の異稱。

【媽姑】2 ボゴ 鎭の名。貴州省威寧縣の東南。多く鐵甑を產す。雲南から成都に至る通路。

【媽媽】3 ボボ ❶母を呼ぶ稱。〔夷堅志〕鄰里素諳㆓我家事㆒、須㆓媽媽起來㆒。❷年老いた女。老婦。〔剪燈餘話、瓊奴傳〕適因㆑入㆑驛、見㆘媽媽狀貌、酷與㆓苕外母㆒相類㆖。

【媽媽子】4 ma^1 ma^1 tzŭ 乳母。

【媽媽虎虎】5 ma^1 ma hu^1 hu^1 考無しに。不注意な。曖昧な。麻麻糊糊。

【媽媽大全】6 ma^1 ma ta^4 ch'üan^2 お伽噺の「本。

【媽媽論兒】7 ma^1 ma luen^4 êrh 俗說。俗諺。

【⿰女屖】6591 タイ ダイ 〔集韻〕直皆切 佳

娃⿰女屖は、こびるさま。〔集韻〕⿰女屖、娃⿰女屖、媚皃。

【⿱⿰医巳女】6592 キ

嫛(3-6495)の俗字。〔正字通〕⿱⿰医巳女、俗嫛字。

【嫸】6593 テン 〔集韻〕知輦切 銑

嫸奵は、みめよいさま。〔集韻〕嫸、嫸奵、好皃。

【媑】6594 サフ

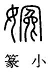
⿰女臿(3-6531)の俗字。〔字彙〕媑、俗⿰女臿字。

【⿰女恩】6595 オン 〔集韻〕烏痕切 元

女のあざな。〔集韻〕⿰女恩、女字。

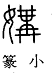
【⿰女冤】6596

㈠エン ヲン 〔集韻〕紆願切 願
㈡エン ヲン 〔集韻〕於袁切 元


小篆

㈠やすらか。すなほ。妴(3-6131)・婉(3-6396)に同じ。〔說文〕⿰女冤、宴⿰女冤也、从㆑女冤聲。〔正字通〕⿰女冤、妴・婉同。㈡やすらか。㈠に同じ。或は⿰女惌に作る。〔集韻〕⿰女冤、或作㆑⿰女惌。

【媾】6597 コウ ク 〔集韻〕居候切 ㄍㄡ kou^4 宥


小篆

❶かさなる縁ぐみ。親戚同志の結婚。重緣。重婚。血族結婚。〔說文〕媾、重婚也、从㆑女冓聲、易曰、匪㆑寇婚媾。〔段注〕重婚者、重疊交互爲㆓婚姻㆒也。〔國語、晉語四〕今將㆓婚媾以從㆑秦。〔注〕重婚曰㆑媾。❷みうち。姻戚。〔左氏、隱、十一〕如㆓舊昏媾㆒。❸なか直りする。和睦。講(10-35824)に通ず。〔說文通訓定聲〕媾、叚借爲㆑講。〔正字通〕媾、和好也。〔史記、樗里子甘茂傳〕與㆑魏講罷㆑兵、〔注〕索隱曰、鄒氏云、講、讀曰㆑媾、媾、猶㆑和。〔史記、虞卿傳〕不㆑如㆘發㆓重使㆒爲㆖媾。〔注〕索隱曰、按、媾亦講、講亦和也。❹あふ。遘(11-39031)に通ず。〔說文通訓定聲〕媾、叚借爲㆑遘、詩候人、不㆑遂㆓其媾㆒、按、猶㆓遭遇㆒也。❺つるむ。〔正字通〕媾、合也。〔李白、草創大還云云詩〕造化合㆓元符㆒、交媾騰㆓精魄㆒。❻したしむ。いつくしむ。てあつい。〔正字通〕媾、寵也。〔詩、曹風、候人〕彼其之子、不㆑

遂ニ其媾一。〔傳〕媾、厚也。〔集傳〕媾、寵也。㊆購(10−36885)に通ず。〔史記、刺客、荊軻傳、北購ニ於單于一、注〕索隱曰、戰國策、購作レ講、講、合也、今讀レ購、與ニ爲レ燕媾一同、媾、合也。㊇姤(3−6215)に同じ。〔說文通訓定聲〕媾、字亦作レ姤。

【媾解】1（コウカイ） 和解する。講解。

【媾合】2（コウガフ） 男と女がまじはる。くなぐ。交合。交接。交媾。

【媾婚】3（コウコン） 婚姻する。婚媾(3−6418‥15)に同じ。

【媾和】4（コウワ） 兩國が和を結ぶ。なかなほりする。講和。和好。

〖媾和條約〗5（コウワデウヤク） 戰爭を終了させる爲に交戰國の締結する條約。

【⿰女荀】6598

ジュン

姰(3−6234)の譌字。〔正字通〕⿰女荀、姰字之譌。

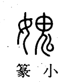
【⿰女益】6599

エキ ヤク 〔集韻〕伊昔切 陌

女のあざな。〔集韻〕⿰女益、女字。

【媿】6600

キ 〔集韻〕基位切 寘 ㄎㄨㄟˋ k‘uei^4


小篆

㊀はぢる。〔說文〕媿、慙也、从レ女鬼聲。㊁はづかしめる。とがめる。〔禮、聘義〕所ニ以媿ニ厲之一也。〔漢書、文帝紀贊〕更加ニ賞賜一、以媿ニ其心一。㊂或は愧(4−10982)・謉(10−35793)・聭(9−29146)に作る。〔集韻〕媿、或从レ心、从レ言、从ニ恥省一。〔禮、中庸〕尚不レ愧ニ于屋漏一、〔釋文〕愧、本又作レ媿。

参考 熟語は愧(4−10982)をも見よ。

【媿菴】1（キアン） 字號。㊀清、吳炎(2−3365‥36)の號。㊁清、李世熊(6−14459‥1553)の號。

【媿尹】2（キイン） 明、魯世任(12−46013‥172)の字。

【媿曾】3（キソウ） 清、黎士宏(12−47994‥102)の字。

【媿能】4（キノウ） 清、吳英(2−3365‥18)の號。

【媿齋先生】5（キサイセンセイ） 明、陳音(11−41698‥46)の稱。

【媿室主人】6（キシツシユジン） 清、高鳳岐(12−45313‥135)の號。

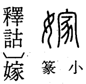
【嫀】6601

シン ジン 〔集韻〕疏臻切 眞

㊀女のあざな。〔類篇〕嫀、女字。㊁國の名。⿱秦女(3−6781)に同じ。〔集韻〕⿱秦女、有⿱秦女、國名、或作レ嫀。

【嫁】6602

カ ケ 〔集韻〕居迓切 禡 ㄐㄧㄚˋ chia^4


小篆

㊀とつぐ。よめいり。〔說文〕嫁、女適レ人也、从レ女家聲。〔爾雅、釋詁〕嫁、往也。〔方言、一〕嫁、往也、自レ家而出、謂ニ之嫁一、由レ女而出、爲レ嫁也。〔儀禮、喪服〕子嫁反。〔注〕凡女行ニ於大夫以上一曰レ嫁、行ニ士庶人一曰レ適レ人。〔禮、內則〕女子二十而嫁、有レ故、二十三年而嫁。㊁ゆく。出かける。〔列子、天瑞〕列子居ニ鄭圃一四十年、人無ニ識者一、將レ嫁ニ于衞一。〔注〕自レ家而出、謂ニ之嫁一。㊂うる。賈(10−36755)に通ず。〔說文通訓定聲〕嫁、段借爲レ賈。〔戰國、西周策〕以嫁ニ之齊一也。〔注〕嫁、賣也。㊃なすりつける。おしつける。〔正字通〕嫁、推ニ惡于人一曰レ嫁。〔史記、趙世家〕是欲レ嫁ニ禍於趙一也。邦よめ。新婦。

【嫁怨】1（カエン） 怨みを他人になすりつける。〔宋史、呂大防傳〕呂大防朴厚惷直、立レ朝挺挺、進ニ退百官一、不レ可ニ干以レ私、不下市レ恩嫁レ怨、以邀中聲譽上。

【嫁茄】2（カカ） 茄子の實を多くみのらせる。〔酉陽雜俎、廣動植、草篇〕茄子欲ニ其子繁一、待ニ其花時一、取レ葉布ニ於過路一、以レ灰規レ之、人踐レ之、子必繁也、俗謂ニ之嫁茄子一。

【嫁期】3（カキ） よめ入りの年ごろ。よめいりどき。嫁齡。

【嫁歸】4（カキ） とつぐ。嫁入りする。

【嫁橘】5（カキツ） 橘をみのらせる。〔文昌雜錄〕江淮多有ニ嫁橘法一、不レ知ニ是何術一也。

【嫁杏】6（カキヤウ） 杏をみのらせる。〔文昌雜錄〕李冠卿堂前杏、花多而不レ實、一媒姥笑曰、來春與レ嫁ニ了此杏一、冬深、忽攜レ酒、索ニ處女裙一繫レ樹、辭祝而去、來春結レ子無數。

【嫁御】7（ヨメゴ） 嫁の敬稱。およめさん。〔薩摩歌、道行〕好い嫁御。

【嫁禍】8（カクワ） 禍を人になすりつける。〔史記、趙世家〕欲レ嫁ニ禍於趙一也。〔史記、張儀傳〕內嫁レ禍安レ國、此善事也。

【嫁雞】9（カケイ） めんどり。牝雞。〔琵琶記、幾言諫文〕那些箇夫唱婦隨、嫁雞逐レ雞飛。

〖嫁雞隨レ雞〗10（カケイケイニシタガフ） 牝雞が牡雞に從ふ。女は夫に隨つて其の遇する所に安んずる喩。〔許有壬、詩〕嫁雞正爾隨レ雞飛。〔通俗編、禽魚〕嫁雞隨レ雞、嫁狗隨レ狗〕埤雅、引レ語曰、嫁雞與レ之飛、嫁狗與レ之走。〔歐陽脩、代鳩婦言詩〕人言嫁雞逐レ雞飛、安知嫁鳩被ニ鳩逐一。

【嫁棗】11（カサウ） 棗をみのらせる。實のなるやうに、毎年元旦の未明に、斧の背で木をうつことをいふ。〔羣芳譜〕修レ樹、毎元旦、日未レ出時、反レ斧斑駮椎レ之、謂ニ之嫁棗一、不レ椎則花而不レ實、斫レ之則子萎而落。

【嫁子】12（カシ） ㊀娘を嫁がせる。嫁女。〔周禮、地官、媒氏〕凡嫁レ子娶レ妻、入レ幣、純帛無レ過ニ五兩一。〔戰國、齊策〕今秦楚嫁レ子取レ婦、爲ニ昆弟之國一。㊁嫁いで往く子。〔詩、周南、桃夭、之子于歸、傳〕之子、嫁子也。㊂女のふた子。〔方言、三〕凡人嘼乳而雙產、自レ關而東、趙魏之閒、謂ニ之孿生一、女謂ニ之嫁子一。

【嫁資】13（カシ） 女子が婚姻の時、受ける財產。嫁入りの仕度。〔東軒筆錄〕爲ニ吾女一管ニ辨嫁資一。

【嫁時】14（カジ） よめいりの時。〔漢書、司馬相如傳上〕卓王孫不レ得レ已、分ニ與文君僮百人、錢百萬、及其嫁時衣被財物一。

【嫁妝】15（カシヤウ） 嫁入り道具。嫁裝に同じ。

【嫁粧】16（カシヤウ） 嫁入り道具。嫁裝に同じ。〔通俗編、婦女、陪嫁〕按、俗云、陪嫁、本陪門之陪也、今亦謂ニ之嫁粧一、律例、非レ理毆ニ子孫之婦一致ニ癈疾一者、追ニ還嫁粧一。

【嫁裝】17（カシヤウ） 嫁入りの仕度。嫁入り道具。嫁裝稅を見よ。

〖嫁裝稅〗18（カシヤウゼイ） 嫁入り道具にかける稅。〔宋史、太祖紀三〕開寶六年、罷ニ成都府僞蜀嫁裝稅一。

【嫁殤】19（カシヤウ） 未だ嫁がず死んだ女子を婚約の男子に婚嫁させること。〔周禮、地官、媒氏〕禁ニ遷葬者與ニ嫁殤者一。〔注〕殤、十九以下未レ嫁而死者、生不ニ以レ禮相接一、死而合レ之、是亦亂ニ人倫一者也、鄭司農云、嫁殤者、謂レ嫁ニ死人一也。〔疏〕嫁殤者、生年十九已下而死、死乃嫁レ之。

【嫁取】20（カシユ） 嫁娶の㊀に同じ。〔漢書、地理志下〕嫁取之夕、男女無レ別、反以爲レ榮。

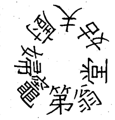
【嫁娶】21（カシユ） ㊀嫁入りすることとめとること。嫁入りと嫁取り。古、男は三十で娶り、女は二十で嫁いだ。〔周禮、地官、媒氏〕令ニ男三十而娶、女二十而嫁一。〔疏〕王肅曰、周官云、令ニ男三十而娶、女二十而嫁一、謂下男女之限ニ嫁娶一、不上レ得レ過レ此也、云云、男子二十而冠、有下爲ニ人父一之端上、女子十五許嫁、有ニ適レ人之道一。〔穀梁、文、十二〕男子二十而冠、冠而列ニ丈夫一、三十而娶、女子十五而許嫁、二十而嫁。〔注〕男自ニ二十一以及ニ三十一、女自ニ十五一以及ニ二十一、皆得ニ以嫁娶一、先レ是則速、後レ是則晚。〔韓詩外傳、二〕高子問ニ於孟子一曰、夫嫁娶者、非ニ己所ニ自親一也、衞女何以得レ編ニ於詩一也。〔漢書、宣帝紀〕禁ニ民嫁娶一、不レ得下具ニ酒食一相賀召上。〔漢書、王吉傳〕世俗嫁娶太早、未レ知下爲ニ人父母一之道上而有レ子。〔後漢書、烏桓傳〕其嫁娶、則先略レ女通レ情。〔胡安定家訓〕嫁レ女

須レ勝二吾家一、則女之事レ人必戒、娶レ婦須レ不レ若二吾家一、則事二舅姑一必謹。❷白虎通の篇名。

【嫁娶日】22カシュノヒ　よめいり壻とりの吉日。〔水經、淮水注〕江淮之俗、以二辛壬癸甲一爲二嫁娶日一。

【制二嫁娶一】23カシュヲセイス　婚姻の制を定める。〔史記、三皇紀〕於レ是始制二嫁娶一、以二儷皮一爲レ禮。

【嫁娶周堂】24カシュシウダウ　婚禮日を選擇する語。〔協紀辨方書、附錄、嫁娶周堂〕凡選二擇嫁娶日一、大月從二夫一順數、小月從二婦一逆數、遇二第堂廚竈日一用レ之、如遇二翁姑一而無二翁姑一者亦可レ用、按、周堂圖、乾爲レ翁、坎爲レ第、艮爲レ竈、震爲レ婦、巽爲レ廚、離爲レ夫、坤爲レ姑、兌爲レ堂、有レ合二於儀禮新婦饋盥舅姑饗レ婦之位次一、其所謂翁姑夫婦者、各人所レ立之方向也、第與レ堂者、第爲二坎宅一、堂爲二坐レ西向レ東之堂一、行レ禮之所、古人堂室如レ是也、有レ廚而又有レ竈者、廚爲二女氏之行一、廚所三以饋二舅姑一、竈爲二男氏之爨竈一、所三以饗二新婦一也、豈得レ有三吉凶生二於其間一耶、曹震圭以レ卦爲レ說、義亦類レ此、而要謂遇二翁姑夫婦一、則凶殊爲二非理一、因載在二時憲書一、故存二其舊一、第勿レ拘レ忌可耳。



嫁娶周堂（協紀辨方書附錄）

【嫁妾】25カセフ　嫁入りの女について行った女が嫁よりも愛せられること。妾は媵。〔韓非子、外儲說左上〕昔秦伯嫁二其女於晉公子一、令レ爲レ之飾裝、從二衣文之媵七十人一、至レ晉、晉人愛二其妾一而賤二公女一、此可レ謂二善嫁レ妾、而未レ可レ謂二善嫁レ女也。

【嫁鼠】26カソ　ねずみのよめ入り。〔梁玉繩、清白士集嫁鼠詞、自注〕俗傳、除夕鼠嫁レ女、竊レ履爲レ轎、戲作二此詞一。

【嫁女】27カヂョ　娘を嫁入りさせる。嫁子。〔漢書、張延壽傳〕號爲二天子取レ婦、皇后嫁レ女。〔晉書、衞玠傳〕昔叔鸞嫁レ女、惟賢是與、不レ問二貴賤一。

【嫁煩】28カハン　煩はしいことを人になすりつける。〔阪谷朗廬、記二褾工一文〕工蹙レ額曰、咄、復在乎、子奪誠好事、遂嫁二煩於子一。

【嫁非】29カヒ　非を轉嫁する。過失惡事を他人になすりつける。〔唐書、李嶠傳〕中宗以三李嶠身爲二宰相一、乃自陳二失政一、匄レ罷レ官、無レ所レ嫁レ非。

【嫁夫】30カフ　夫に嫁入りする。〔元稹、憶遠曲〕嫁レ夫恨レ不レ早、養レ兒將レ備レ老。

【嫁母】31カボ　父の死後、他に再嫁した母。他に再嫁した實母。〔居家必用〕嫁母、謂下親母因二父亡一改適者上。

【嫁奩】32カレン　よめいり道具を入れる箱。轉じて、よめいり仕度。嫁妝。嫁資。〔剪燈餘話、秋千會記〕輿回、悉傾二嫁奩及夫家聘物一殮レ之。

【嫁衣裳】33カイシヤウ　嫁入りの衣裳。〔秦韜玉、貧女詩〕苦恨年年壓二金線一、爲二他人一作二嫁衣裳一。

【嫁金蠶】34カキンサン　金蠶を金銀と共に路傍に捨て、他人に拾ってもらふこと。〔韻府引、續博物志〕南方人畜二金蠶一、飼以二蜀錦一、取二其遺失一、雜二飲食一、毒レ人、多以二金銀一置二蠶其中一、投二路隅一、人或收レ之、蠶隨往、俗謂二之嫁金蠶一。

【嫁狗隨レ狗】35カコウコウニシタガフ　牝狗が牡狗に從ふ。女は夫に從って安んずる喩。嫁雞隨レ雞(10)に同じ。〔陳造、詩〕蘭摧蕙枯崑玉碎、不レ如人家嫁狗隨レ狗雞隨レ雞。

【嫁出女兒潑去水】36 chia^4 ch'u^1 nü^3 êrh^2 p'o^1 ch'ü^4 shuei^3　嫁にやった女と撒いた水。本には歸らない。

【嫂】6603

サウ　ソウ　〔集韻〕蘇老切　ㄙㄠˇ　sao^3　皓

❶あによめ。嫂(3－6463)に同じ。〔爾雅、釋親〕女子謂二兄之妻一爲レ嫂。〔集韻〕嫂、說文、兄妻也、或从レ叟。〔左氏、昭、二十八〕子容之母、注〕子容母、叔向嫂。〔釋文〕嫂、兄妻也。〔孟子、離婁上〕嫂溺則援レ之以レ手乎。❷婦人の老稱。老人の稱。叟(2－3176)に通ず。〔釋名、釋親屬〕嫂、叟也、叟、老者稱也。〔儀禮、喪服〕嫂亦可レ謂二之母一乎。〔注〕嫂者、尊嚴之稱、云云、嫂、猶レ叟也、叟、老人之稱也。〔疏〕嫂、婦人之老稱、故云二老人之稱一。

【嫂子】1 sao^3 tzŭ^3　兄嫁。

【嫂叔】2サウシュク　兄嫁と弟。〔禮、曲禮上〕嫂叔不レ通レ問。〔禮、檀弓上〕嫂叔之無レ服、蓋推而遠レ之也。〔古樂府、相和歌辭、君子行〕嫂叔不二親授一、長幼不二比肩一。

【嫂妹】3サウマイ　あによめと妹。〔史記、蘇秦傳〕出游數歲、大困而歸、兄弟嫂妹妻妾、竊皆笑レ之。

【敬レ嫂】4サウヲケイス　あによめをうやまふ。〔後漢書、馬援傳〕援敬二事寡嫂一、不レ冠不レ入レ廬。

【盜レ嫂】5サウヲヌスム　あによめをぬすむ。〔史記、陳丞相世家〕平居レ家時、盜二其嫂一。〔漢書、直不疑傳〕人或毀二不疑一曰、不疑狀貌甚美、然特毋下奈二其善盜レ嫂何上也、不疑聞曰、我乃無レ兄、然終不二自明一也。

【嫂夫人】6 sao^3 fu^1 jen^2　他人の妻の敬稱。御令閨。奥さん。

【嫂不二爲炊一】7サウタメニカシガズ　おちぶれて故郷に歸れば、嫂も御飯を焚かず、禮遇しないで輕蔑する。〔戰國、秦策〕蘇秦、始將二連衡一說二秦王一、書十上而說不レ行、資用乏絕、去レ秦而歸、云云、妻不レ下レ紝、嫂不二爲炊一、父母不二與言一。

【嫂溺不レ援是豺狼也】8アニヨメオボルルニタスケザルハコレサイラウナリ　嫂が水に溺れて危急な場合、弟たるものが、平生男女は物品を直接手渡しせぬのが常禮であるとして見殺しにするのは、これ殘忍の甚しきもので、人に非ず豺狼である。常禮は重いものではあるが、非常の變に對しては自ら臨機の權道を行はなければ、却って人道にもとることをいふ。〔孟子、離婁上〕淳于髡曰、男女授受不レ親、禮與、孟子曰、禮也、曰、嫂溺則援レ之以レ手乎、曰、嫂溺不レ援、是豺狼也、男女授受不レ親、禮也、嫂溺援レ之以レ手者、權也、曰、今天下溺矣、夫子之不レ援何也、曰、天下溺、援レ之以レ道、嫂溺、援レ之以レ手、子欲三手援二天下一乎。

【嫃】6604

シン　〔集韻〕之人反　眞

女のあざな。〔集韻〕嫃、女字。

【嫎】6605

カイ

妎(3－6076)に同じ。〔集韻〕妎、或从レ害。

【嫄】6606

🈩ゲン　グヮン　〔集韻〕愚袁切　ㄩㄢˊ　yüan^2　元

🈔ギン　〔康熙字典〕魚倫切　眞

小篆

🈩🈔❶周の祖、棄の母のあざな。〔說文〕嫄、邰國之女、周棄母字也、从レ女原聲。❷原(2－2973)に通ず。〔詩、大雅、生民〕厥初生レ民、時維姜嫄。〔詩、小雅、斯干、似二續妣祖一、箋〕妣、先妣、姜嫄也。〔釋文〕嫄、本或作レ原、音同。

【嫅】6607

🈩シヤ　〔集韻〕咨邪切　麻

🈔サ　〔集韻〕想可切　哿

🈩女のあざな。〔集韻〕嫅、女字。🈔女のさま。〔集韻〕嫅、女兒。

【嫆】6608

ヨウ　ユ　〔集韻〕餘封切　冬

女のあざな。〔集韻〕嫆、女字。

【嫇】6609

🈩メイ　ミヤウ　〔集韻〕忙經切　青

🈔マウ　ミヤウ　〔集韻〕謨耕切　庚

🈪メイ　ミヤウ　〔集韻〕母迥切　迥

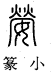
小篆

🈩❶おづおづとする。小心のさま。〔說文〕嫇、嬰嫇也、从レ女冥聲。〔王注〕嬰、小徐作レ鸎、皆嫈之聲譌也、

蓋嫈・嫇疊韻、當二是形容之詞一、嫈下當レ云二嫈、嫇也一、迨二傳寫離析遠隔一、嫈下但存二訓義一、嫇下但存二名目一。❷嫇玎は、面が平たい。〔集韻〕嫇、一曰、嫇玎、面平。❸嫈嫇は、きよくあかるいさま。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕蘅芷彫兮嫈嫇。〔注〕嫈嫇、明淨貌。❹**みめよいさま。**〔廣韻〕嫇、好皃。㊁❶嫈嫇は、新婦のさま。〔廣韻〕嫇、嫈嫇、新婦皃。❷嫈嫇は、若い婦人。〔集韻〕嫇、嫈嫇、幼婦。❸**小人のさま。**〔說文〕嫇、一曰、嫇嫇、小人皃。〔集韻〕嫇、一曰、小人皃。㊂❶嫇玎は、きりりとしたさま。〔集韻〕嫇、嫇玎、自持皃。❷**面の平かなさま。**〔集韻〕嫇、一曰、面平皃。

【嫈】6610

㊀アウ ヤウ〔集韻〕烏莖切 庚
㊁アウ〔集韻〕於郎切 陽
㊂アウ ヤウ〔集韻〕於迸切 敬
㊃ゲイ ギヤウ〔集韻〕玄扃切 青
㊄エイ ヤウ〔集韻〕於丁切 青
㊅ケイ キヤウ〔集韻〕火螢切 青
㊆エイ ヤウ〔集韻〕縈定切 徑
㊇エイ ヤウ〔集韻〕娟營切 庚


小篆

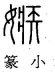
㊀❶**小心のさま。**〔說文〕嫈、小心態也、从レ女熒省聲。❷**みめよいさま。**嫈嫈を見よ。❸**みにくい。**嫈嫇の❶を見よ。❹**若い婦人。**嫈嫇の❷を見よ。㊁㊂**小心のさま。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕嫈、小心態。㊃❶**みめよい。**〔集韻〕嫈、好也。❷**すがた。ふり。**〔集韻〕嫈、一曰、態也。㊄**みめよい。**㊃の❶に同じ。〔集韻〕嫈、博雅、好也。㊅**婦人の清潔なさま。**〔集韻〕嫈、女人潔清皃。㊆**繚嫈は漢の侯國の名。**〔集韻〕嫈、繚嫈、漢侯國名。〔史記、東越傳〕封二横海校尉福一爲二繚嫈侯一。㊇❶**小心のさま。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕嫈、小心態。❷繚嫈は、漢の侯國の名。㊆に同じ。〔集韻〕嫈、一曰、繚嫈、漢侯國名。

【嫈嫈】1 アウアウ みめよいさま。美しいさま。〔集韻〕嫈、一曰、嫈嫈、好皃。

【嫈嫇】2 アウバウ ❶みにくい。いやしい。いやしい婦人のさま。類篇・字彙・正字通は嫈嫫に作る。〔集韻〕嫈、嫈嫇、下俚婦人皃。❷若い婦人。幼婦。〔集韻〕嫇、嫈嫇、幼婦。❸小心のさま。又、新婦のはにかむさま。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕彩伴颭嫈嫇。〔注〕廣韻、嫈嫇、新婦皃。

【嫉】6611

㊀シツ ジチ〔集韻〕昨悉切 ㄐㄧˊ chi² 質
㊁シ ジ〔集韻〕疾二切 寘


小篆

㊀❶**ねたむ。そねむ。**やく。〔廣雅、釋詁一〕嫉、妬也。〔集韻〕嫉、妬也。〔楚辭、離騷〕各興レ心而嫉妒。〔注〕害レ賢爲レ嫉、害レ色爲レ妒。❷**にくむ。**〔廣雅、釋詁三〕嫉、惡也。❸**そこなふ。**〔廣雅、釋詁三〕嫉、賊也。❹或は娟(3−6264)に作る。〔集韻〕嫉、或从レ娟。❺疾(7−22112)に通ず。〔易、旅、上九、注〕衆之所レ嫉也。〔釋文〕嫉、本亦作レ疾。㊁**ねたむ。毒する。**㑵(1−949)に同じ。〔說文〕㑵、妎也、从レ人疾聲、一曰、毒也、嫉、或从レ女。

【嫉惡】1 シツアク 惡事を憎みきらふ。〔潛夫論、考績〕無二進レ賢嫉レ惡、拾レ遺補レ闕之語一。〔孔融、薦二禰衡一表〕見レ善若レ驚、嫉レ惡若レ讐。〔宋史、吳育傳〕育請二便郡一、帝語二大臣一曰、吳育剛正可レ用、第嫉レ惡太過耳。

【嫉怨】2 シツヱン ねたみうらむ。疾怨(7−22112‥12)に同じ。

【嫉妎】3 シツカイ ねたむ。ねたみ怒る。〔爾雅、釋言、苛妎也、注〕煩苛者、多二嫉妎一。〔疏〕郭云三煩苛者、多二嫉妎一、言二煩苛之人、多二嫉妬一。

【嫉害】4 シツガイ ねたみそこなふ。〔史記、孟嘗君傳〕呂禮嫉二害於孟嘗君一。〔漢書、敍傳上〕嫉二害聖政一。

【嫉忌】5 シツキ ねたみいむ。疾忌(7−22112‥16)に同じ。

【嫉毀】6 シツキ ねたみそしる。〔漢書、轅固傳〕武帝初卽レ位、復以二賢良一徵、諸儒多嫉毀曰、固老、罷歸レ之。

【嫉視】7 シツシ にくみ視る。そねんで見る。疾視(7−22112‥39)に同じ。

【嫉心】8 シツシン ねたみ心。妒心。〔世說新語、言語〕張曰、桑椹甘香、鴟鴞革レ響、淳酪養レ性、人無二嫉心一。

【嫉妒】9 シツト ねたむ。そねむ。嫉妬。〔楚辭、離騷〕各興レ心而嫉妒。〔注〕害レ賢爲レ嫉、害レ色爲レ妒。〔史記、項羽紀〕今戰能勝、高必嫉二妒吾功一。〔漢書、五行志上〕嫉妒將レ爲三讒口以害二趙王一。

【嫉妬】10 シツト ねたむ。そねむ。嫉妒に同じ。〔詩、周南、樛木序〕樛木、后妃逮レ下也、言、能逮レ下而無二嫉妬之心一焉。〔管子、明法解〕嫉妬之人、不レ得レ用二其賊心一。〔漢書、揚雄傳上〕知二衆嫭之嫉妬一兮。〔漢書、杜欽傳〕嫉妬之心興矣。〔鄒陽、於レ獄上書自明書〕不レ能三自免二於嫉妬之人一也。

【嫉怒】11 シツド ねたみいかる。〔陸游、寄二黃龍升老一詩〕癡人不レ解公遊嬉、嫉怒欲レ碎門前碑。

【𡣍】6612

㊀ドウ ヌ〔集韻〕乃后切 有
㊁コウ ク〔集韻〕丘候切 宥

㊀❶**ちち。**乳。〔玉篇〕𡣍、嬭異名。〔正字通〕𡣍、乳之異名。❷**はぐくむ。**乳を飲ませる。㝅(3−7012)に同じ。〔集韻〕㝅、乳レ子也、或作レ𡣍。㊁❶**乳をしぼりとる。**〔玉篇〕𡣍、取レ乳也。❷**おろか。**瞉(8−23565)に同じ。〔集韻〕瞉、瞉霿、鄙吝心不レ明、或作レ𡣍。

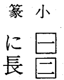
【嫊】6613

ソ〔集韻〕蘇故切 遇

女のあざな。〔集韻〕嫊、女字。

【嫋】6614

㊀デウ ネウ〔集韻〕乃了切 ㄋㄧㄠˇ niao³ 篠
㊁ジヤク ニヤク〔集韻〕日灼切 藥
㊂ダク ニヤク〔集韻〕昵格切 陌
㊃デキ ニヤク〔集韻〕乃歷切 錫


小篆

㊀㊁㊂㊃❶**しなやか。**しなやかに長いさま。弱々しい。〔說文〕嫋、姌也、从レ女弱聲。〔廣韻〕嫋、長弱皃。❷**そよぐさま。**ゆらぐさま。〔正字通〕嫋、風動貌。〔楚辭、九歌、湘夫人〕嫋嫋兮秋風。〔注〕嫋嫋、秋風搖レ木貌也。❸**聲音の細く長くつづくさま。**〔蘇軾、前赤壁賦〕餘韻嫋嫋、不レ絕如レ縷。❹**みめよい。**うつくしい。〔左思、吳都賦〕嫋嫋素女。〔注〕善曰、埤蒼曰、嫋嫋、美也。❺俗に嬝(3−6787)に作る。〔正字通〕嫋、俗作レ嬝。

【嫋娜】1 デウダ しなやか。やはらかで長い。うつくしい。裊娜。婀娜。嬝娜。〔梁簡文帝、贈二張纘一詩〕洞庭枝嬝娜、澧浦葉參差。〔白居易、別柳枝詩〕兩枝楊柳小樓中、嫋娜多年伴二醉翁一。〔白居

易、郡齋暇日以二十六韻一酬レ之詩〕春深物嫋娜。

〔嫋娜纖巧〕2 デウタ センカウ しとやか。〔紅樓夢、五回〕生得嫋娜纖巧、行事又溫柔和平。

【嫋嫋】3 デウデウ ❶弱い。〔廣雅、釋訓〕嫋嫋、弱也。❷風のそよぐさま。ゆれ動くさま。〔楚辭、九歌、湘夫人〕嫋嫋兮秋風、洞庭波兮木葉下。〔注〕嫋嫋、秋風搖レ木貌也。〔孟郊、和二錢侍郎甘露一詩〕春枝晨嫋嫋、香味曉翻翻。❸まとひめぐるさま。繚繞のさま。〔朱松、詩〕舞風竹影儆儆轉、縈夢鑪香嫋嫋清。❹聲が細く續いて絕えないさま。〔蘇軾、前赤壁賦〕餘音嫋嫋、不レ絕如レ縷。❺しなやかに長いさま。〔卓文君、白頭吟〕竹竿何嫋嫋、魚尾何簁簁。〔鮑照、在二江陵一歎レ年傷レ老詩〕翾翾燕弄レ風、嫋嫋柳垂レ道。❻美しいさま。柔美のさま。字解の❹を見よ。

〔嫋嫋婷婷〕4 niao² niao³ t'ing² t'ing² なよなよとしなやかなこと。〔紅樓夢、三十回〕只見這女孩子、眉蹙春山、眼顰秋水、面薄腰纖、嫋嫋婷婷、大有林黛玉之態。

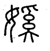
【⿰女豆】6615 トウ

⿰言豆（10－35511）に同じ。〔字彙〕⿰女豆、同レ⿰言豆。

【⿰女唐】6616 タウ ダウ 〔集韻〕徒郎切 陽

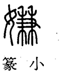
❶女のあざな。〔集韻〕⿰女唐、女字。❷或は⿰女堂（3－6685）に作る。〔集韻〕⿰女唐、或从レ堂。

【⿰女奚】6617 🈩ケイ ゲイ 〔集韻〕胡計切 霽 🈔ケイ ゲイ 〔集韻〕弦雞切 齊


小篆

🈩❶おそれる。〔集韻〕⿰女奚、怯也。❷ねたむ女。〔集韻〕⿰女奚、一曰、妬女。🈔❶下女。〔說文〕⿰女奚、女隸也、从レ女奚聲。〔段注〕周禮作レ奚、段借字也、酒人、女酒三十人、奚三百人、鄭注、古者從坐男女、沒二入縣官一爲レ奴、其少二才智一者、以爲レ奚、今之侍史官婢、或曰、奚、宦女、守祧、女祧每廟二人、奚四人、鄭曰、奚、女奴也。❷通じて奚（3－5930）に作る。❶を見よ。〔集韻〕⿰女奚、通作レ奚。

【嫌】6618 ケン ゲン 〔集韻〕賢兼切 鹽 ㄒㄧㄢˊ hsien²


小篆

❶あきたらぬ。こころよくない。〔說文〕嫌、不レ平二於心一也、从レ女兼聲。❷きらふ。いむ。にくむ。〔論衡、自紀〕獄當レ嫌レ辜。〔後漢書、孔融傳〕曹操既積二嫌忌一。❸うたがふ。うたがはしいこと。うたがひがある。〔說文〕嫌、一曰、疑也。〔禮、坊記〕使二民無一レ嫌。〔注〕嫌、嫌疑也。〔公羊、桓、十二〕戰不レ言レ伐、此其言レ伐何、辟レ嫌也、惡乎嫌、嫌下與二鄭人一戰上也。❹ちかい。まぎらはしい。〔禮、曲禮上〕禮不レ諱二嫌名一。〔注〕嫌名、謂二音聲相近一、若二禹與一レ雨、丘與レ區也。〔呂覽、貴直〕固嫌二於危一。〔注〕嫌、近也。〔魏志、賈詡傳〕懼レ見二猜嫌一、闔レ門自守。❺わるいこと。不運。險（11－41874）に通ず。〔說文通訓定聲〕嫌、段借爲レ險。〔荀子、正名〕其累二百年之欲一、易二一時之嫌一。〔注〕嫌、惡也。❻慊（4－11051）に通ず。〔說文通訓定聲〕嫌、段借爲レ慊。❼通じて謙（10－35821）に作る。〔荀子、仲尼〕信而不レ忘レ處レ謙。〔注〕謙、讀爲レ嫌、得二信於主一、不レ處二嫌疑之間一。❽溓（7－17929）・嗛（2－4088）に通ず。〔易、坤〕爲三其嫌二于无一レ陽也。〔釋文〕嫌、鄭、作レ謙、荀・虞・陸・董、作レ嗛。

【嫌畏】1 ケンヰ きらひおそれる。〔唐書、于志寧傳〕愛二賓客一、樂引二後進一、然多二嫌畏一、不レ能レ有レ所二薦達一也。

【嫌韻】2 ケンヰン 或る韻字を嫌つて其の字の通用韻の中から取ること。兼韻（2－1483・・10）・出韻（2－1811・・7）を見よ。〔圍鑪詩話〕唐人有二嫌韻之法一、嫌韻、卽出韻也、兼韻亦名二干韻一、謂三兼二取通用韻中一二字一也、嫌韻與二兼韻一可二通用一、不レ可二轉用一。

【嫌厭】3 ケンエン きらひいとふ。いやに思ふ。慊焉（4－11051・・1）に同じ。

【嫌怨】4 ケンヱン にくみうらむ。〔後漢書、朱浮傳〕兼負二其功一、嫌怨轉積。〔晉書、鄭默傳〕事レ上以レ禮、遇レ下以レ和、而猶有二嫌怨一。

【嫌惡】5 ケンヲ きらひにくむこと。

【嫌忌】6 ケンキ いみきらふ。又、そのこと。猜疑忌嫉。〔後漢書、孔融傳〕曹操既積二嫌忌一。〔吳志、吳主孫權傳評〕性多二嫌忌一。〔晉書、桓彝傳〕于レ時王敦擅レ權、嫌二忌士望一、彝以レ疾去レ職。

【嫌氣】7 hsien² ch'i⁴ いやけ。厭氣。

【嫌疑】8 ケンギ ❶うたがひ。まぎらはしいこと。〔禮、曲禮上〕夫禮者所下以定二親疏一、決二嫌疑一、別二同異一、明中是非上也。〔荀子、解蔽〕足下以定二是非一、決中嫌疑上矣。〔管子、君臣下〕昭二嫌疑之節一。〔墨子、小取〕處二利害一、決二嫌疑一。〔史記、太史公自序〕夫春秋、上明二三王之道一、下辨二人事之紀一、別二嫌疑一、明二是非一、定二猶豫一。〔春秋繁露、制度〕凡百亂之源、皆出二嫌疑纖微一、以二漸寖一稍長至二於大一。〔古詩、君子行〕君子防二未然一、不レ處二嫌疑間一、瓜田不レ納レ履、李下不レ整レ冠。❷刑事訴訟法の用語。犯罪の事實ありと推測せられること。

【嫌疑者】9 ケンギシヤ 犯罪の嫌疑を受けた人。

【嫌疑犯】10 ケンギハン 刑事上犯罪の嫌疑があつて、而も未だ證據を得るに至らないもの。

【嫌疑之地】11 ケンギノチ うたがはれやすい場所。〔齋藤拙堂、諸葛亮比二管仲・樂毅一論〕其處二嫌疑之地一而不レ見レ疑。

【嫌釁】12 ケンキン すきま。仲違ひすること。〔長生殿、獻髮〕自來寵多生二嫌釁一。

【嫌隙】13 ケンゲキ うたがつて仲がわるい。隔意。不和。〔魏志、胡質傳〕今以二睚眦之恨一、乃成二嫌隙一。〔蜀志、先主劉備傳〕嫌隙始構矣。〔吳志、陸遜傳〕久結二嫌隙一、勢不二兩存一。〔晉書、孫楚傳〕因レ此嫌隙遂構。〔華陽國志、劉先生志〕白璋發二其謀一、于レ是璋斬レ松、嫌隙始構矣。

【嫌辜】14 ケンコ 無實の罪に處することをきらふ。〔論衡、自紀〕獄當レ嫌レ辜、卿決二疑事一、渾沌難レ曉、與二彼分明可一レ知、孰爲二良吏一。

【嫌牾】15 ケンゴ にくみさからふ。〔後漢書、濟南安王康傳〕無レ所二嫌牾一、然不レ能レ改。

【嫌恨】16 ケンコン にくみうらむ。〔北齊書、路去病傳〕雖二斷養小人一、莫レ不レ憚二其風格一、亦不レ至二嫌恨一。〔南州八郡志〕若邂逅不二設用一、相嫌恨。〔馬存、浩浩歌〕直須レ爲レ弔二天下人一、何必嫌恨傷二丘軻一。

【嫌猜】17 ケンサイ いみ疑ふ。にくみうたがふこと。嫌忌猜疑。〔鮑照、放歌行〕明慮自天斷、不レ受二外嫌猜一。〔唐書、太宗文德皇后傳〕后內盡レ孝事二高祖一、謹承二諸妃一、消二釋嫌猜一。〔李白、行路難〕昔時燕家重二郭隗一、擁レ篲折レ節無二嫌猜一。

【嫌似】18 ケンジ うたがはしいこと。嫌貳。〔晉書、王坦之傳〕苟探二其根一、則玄指自顯、若尋二其末一、弊無レ不レ至、豈可下以二嫌似一而疑中至公上。

【嫌貳】19 ケンジ うたがふ。うたがひ。疑貳。嫌似。〔亢倉子、訓導〕是以彼此嫌貳、猜疊日積。〔吳志、顧承傳〕轉成二嫌貳一。

【嫌憚】20 ケンタン いみはばかる。〔北史、刁柔傳〕柔性專固、自レ是所レ聞收常嫌憚。

【嫌妬】21 ケント そねみ。きらひそねむこと。嫉妬。〔福惠全書、刑名部、問擬〕及下後忽生二嫌妬一、禁中隔往來上、而妻情熱不レ舍。

【嫌怒】22 ケンド きらひいかること。〔齊映、河南府論レ被レ謗表〕致二茲嫌怒一、實此根由。

【嫌難】23 ケンナン きらひはばむこと。〔吳志、吳主孫權傳〕人之擧措、何能悉中、獨當二己有一、以傷二拒衆意一、忽不二自覺一、故諸君有二嫌難一耳。

【嫌忿】24 ケンフン 惡み怨む。嫌つて立腹する。〔北

史、僭僞附庸、夏赫連氏傳〕置二弓劍於側一、有レ所二嫌忿一、手目殺レ之。

【嫌慢】25 ケンマン いみあなどる。〔禮記、曲禮上、憎而知二其善一、疏〕憎、謂三己所二嫌慢一。

【嫌味】26 イヤミ いやがらせ。

【嫌名】27 ケンメイ まぎらはしい發音の人名。禹と雨との類。又、君父などの名と音聲が相近くて紛らはしい名。もと嫌名は避諱しなかつたが、後世、諱の法が漸く嚴なるに從ひ嫌名も避けるに至つた。漢の宣帝の名は詢、因りて荀卿を孫卿となし、唐の武后の名は明空、因りて詔書を改めて制書といひ、鮑照を鮑昭とし、五代吳越王の名は鏐、因りて劉氏を改めて金氏とし、石榴を金櫻といつた類。〔禮、曲禮上〕卒哭乃諱、禮不レ諱二嫌名一、二名不二偏諱一。〔注〕爲二其難一レ辟也、嫌名、謂二音聲相近一、若二禹與一レ雨、丘與レ區也。〔疏〕禹與レ雨、音同而義異、丘與レ區、音異而義同、此二者各有二嫌疑一、禹與レ雨、有二同音嫌疑一、丘與レ區、有二同義嫌疑一、如レ此者不レ諱。〔唐書、李碤傳〕碤上言、禮、不レ諱二嫌名一、律、廟諱二嫌名一、不レ坐。〔陔餘叢考、嫌名〕嫌名不レ諱、韓昌黎諱辨、已詳二論之一、然隋文帝以二父名忠一、凡官名有二中字一、悉改爲レ內、已著爲レ令、至二唐時一、諱二嫌名一者更多、賈曾擢二中書舍人一、以二父名忠一、引レ嫌不レ拜、議者引レ禮折レ之、始受、蕭復爲二晉王行軍長史一、德宗以二其父名衡一、乃改爲二統軍長史一、則朝廷之上、且爲二臣子一避二嫌名一矣、毋レ怪乎、李賀應二進士擧一、當時流俗以二其父名晉一、遂同聲訾議也、然唐書、衞洙爲二鄭穎觀察使一、洙以下官號內有中一字與二臣家諱一同上、欲レ乞二改授一、詔曰、嫌名不レ諱、著在二禮文一、成命已行、固難二依允一、李碤傳、宦者摘レ碤疏中、語犯二順宗嫌名一、碤奏曰、禮不レ諱二嫌名一、律、廟諱二嫌名一、不レ坐、則唐律本有二嫌名不一レ諱之條一。

【嫌吝】28 ケンリン うたがひうらむ。〔陸機、豪士賦序〕成王不レ遣二嫌吝於懷一、宣帝若レ負二芒刺於背一。〔注〕向曰、嫌、疑、吝、恨也。

【除レ嫌】29 ケンヲノゾク 疑ひの心を除く。うらみにくむ心を去る。〔陳琳、爲二袁紹一與二公孫瓚一書〕宜三釋レ憾除レ嫌、敦二我舊好一。

【媴】6619 ウン 妘(**3－6088**)に同じ。〔正字通〕媴、籒文妘。

【⿰女豈】6620 シユ ジユ 〔集韻〕殊遇切 [遇]
女のあざな。〔集韻〕⿰女豈、女字。

【嫍】6621 [一]タウ トウ 〔集韻〕他刀切 [豪] [二]エウ 〔集韻〕以紹切 [篠]
[一][二]**女のあざな。**〔集韻〕嫍、女字。

【漊】6622 バ 婆(**3－6390**)に同じ。〔字彙補〕漊、同レ婆、楞嚴經、揵闥漊城。

【⿰女追】6623 タイ ツイ 〔集韻〕都回切 [灰]
女のあざな。⿰女𠂤(**3－6266**)に同じ。〔集韻〕⿰女𠂤、女字、或从レ追。

【嫎】6624 [一]ハウ バウ 〔集韻〕蒲光切 [陽] [二]ハウ 〔字彙補〕補曠切 [漾]
[一]**女のあざな。**〔集韻〕嫎、女字。[二]**さまたげる。**〔玉篇〕嫎、妨也。

【嫏】6625 ラウ 〔字彙補〕盧當切 ㄌㄤˊ lang^2 [陽]
嫏嬛は、ふみぐら。天帝藏書の處。〔字彙補〕玉京嫏嬛、天帝藏書處、張華夢遊レ之。

【嫏嬛女子】1 ラウクワンヂヨシ 明、梁小玉(**6－14825‥287**)の號。

【⿰女敖】6626 ダウ ノウ 〔玉篇〕奴好切 ㄋㄧㄠˇ niao^3 [皓]
たはむれる。なぶる。〔玉篇〕⿰女敖、嬈⿰女敖也。
[邦]❶**ひきしらふ。**❷**うはなり。**

【⿰女羿】6627 ゲイ 〔集韻〕研計切 [霽]
うば。はは。〔集韻〕⿰女羿、姥也。

【媡】6628 サク 〔篇海類編〕初角切 [覺]
謹むさま。〔篇海類編〕媡、恭謹貌。

【⿰女𢍰】6629 クワン 〔集韻〕姑還切 [删]
女のあざな。又、女の名。〔集韻〕⿰女𢍰、女字。〔篇海類編〕⿰女𢍰、女名。

【⿱隹女】6630 キ 〔集韻〕呼維切 [支]
ほしいまま。又、みにくい。婎(**3－6402**)に同じ。〔集韻〕婎、說文、婎、恣也、一曰、醜也、或作レ⿱隹女。

【⿱丽女】6631 リ 孋(**3－6911**)に同じ。〔字彙補〕⿱丽女、與レ孋同。

【⿰女荅】6632 タフ トフ 〔集韻〕德合切 [合]
女のみめよいさま。〔廣韻〕⿰女荅、面⿰女荅姶皃。〔集韻〕⿰女荅、⿰女荅姶、女皃。〔通俗編、狀貌、⿰女荅〕廣韻、⿰女荅、音答、面⿰女荅姶貌、按、今有二面光⿰女荅⿰女荅之諺一。

【娙】6633 サ ⿰女坐(**3－6316**)の本字。〔正字通〕⿰女坐、本作レ娙。

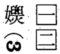
【⿰女単】6634 セン 嬋(**3－6738**)に同じ。〔楚辭、劉向、九歎〕惟楚懷之⿰女単連。〔注〕⿰女単、一作レ嬋。

十一畫

【⿰女皋】6635 カウ ゴウ 〔集韻〕後到切 [號]
女の名。〔集韻〕⿰女皋、女名。

【嫕】6636 エイ 〔集韻〕壹計切 [霽]
❶**しとやか。すなほ。**婉嫕。〔集韻〕嫕、婉嫕、順從也。〔宋玉、神女賦〕澹淸靜其愔嫕兮。〔注〕善曰、嫕、淑善也。❷或は嫛(**3－6647**)に作る。〔集韻〕嫕、或作レ嫛。

【嫖】6637 [一]ヘウ 〔集韻〕紕招切 ㄆㄧㄠˊ p'iao^2 [蕭] [二]ヘウ 〔集韻〕匹妙切 [嘯]



小篆

[一][二]❶**かるい。すばやい。**もと、⿰女㶾(**3－6904**)に作る。〔正字通〕嫖、本作レ⿰女㶾。〔說文〕⿰女㶾、輕也、从レ女票聲。❷**みだら。**〔正字通〕嫖、俗謂二邪淫一曰レ嫖。❸**女のあざな。**〔集韻〕嫖、女字。❹僄(**1－1047**)に同じ。〔說文、段注〕與二人部僄一、音義皆同。〔集韻〕嫖、或从レ人。❺[現]㋑娼妓。㋺娼妓を買ふ。㋩人の妻を罵る語。

【嫖姚】1ヘウエウ　つよくすばやいさま。もと漢代、將軍の名號に用ひたが、霍去病が嫖姚校尉となつてから、霍去病の專稱となつた。史記には剽姚、漢書には票姚、漢紀には票鷂に作る。〔杜甫、後出塞詩〕借問大將誰、恐是霍嫖姚。〔集注〕洙曰、霍去病爲㆓嫖姚校尉㆒、服虔曰、嫖姚、勁疾之皃、荀悅漢紀作㆓票字㆒、霍去病、後爲㆓票騎將軍㆒、尙取㆓嫖姚之字㆒耳。

〔嫖姚定遠不㆑可㆑期〕2ヘウエウテイヱンキスベカラズ　嫖姚校尉の霍去病や、定遠侯の班超の如き武將となつて、攘夷の功を立てることは期待出來ぬ。定遠は後漢の班超のことで、成帝の時、西域を服し、功を以て定遠侯に封ぜられた。〔藤田東湖、述懷詩〕嫖姚定遠不㆑可㆑期、丘明馬遷空自企。

【嫖界】3 p‘iao^2 chieh^4　花柳界。

【嫖客】4 p‘iao^2 k‘ê^4　女郎かひする人。うかれきやく。遊冶郎。

【嫖妓】5 p‘iao^2 chi^4　うかれめ。

【嫖館】6 p‘iao^2 kuan^3　女郎屋。嫖舍に同じ。

【嫖經】7ヘウケイ　遊蕩のことを記した書。〔燕子箋、試窘〕不㆑知㆑寫㆓了那一套嫖經、那一宗酒賬㆒。

【嫖子】8 p‘iao^2 tzŭ　うかれめ。あそびめ。遊女。女郎。淫賣婦。又、ぢごく。

【嫖舍】9 p‘iao^2 shê^4　女郎屋。貸座敷。青樓。妓「樓。嫖館。

【嫖娼】10 p‘iao^2 ch‘ang^1　娼妓。

【嫖蕩】11 p‘iao^2 tang^4　惡所狂ひする。

〔嫖蕩子〕12 p‘iao^2 tang^4 tzŭ　放蕩者。

【嫖緻】13 p‘iao^2 chih^4　美しい。別嬪。

【嫖賭】14ヘウト　娼婦にうかれ、博奕を打つ。〔燕子箋、偕征〕待㆓醒來㆒又去嫖賭。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕或准㆓折嫖賭㆒、皆爲㆓花費㆒。

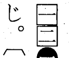
【嫖婊子】15 p‘iao^2 piao^3 tzŭ　娼妓遊びする。

【嫖來的病】16 p‘iao^2 lai^2 tê ping^4　花柳病。

【⿱埶女】6638

㈠シ　〔集韻〕脂利切　寘

㈡シフ　〔廣韻〕之入切　緝


小篆

㈠㈡❶いたる。⿱執女(3−6639)に同じ。〔說文〕⿱埶女、至也、从㆑女執聲、周書曰、大命不㆑⿱埶女、讀若㆑埶同。〔段注〕各本作㆓執聲㆒、篆作㆑⿱執女、非也、今正、从㆑執則非㆑聲矣、云云、周當㆑爲㆑商、字之誤也、此西伯戡黎文、陸氏釋文云、摯、本又作㆑⿱埶女、是陸氏所㆑見、尙有㆓作㆑⿱埶女者㆒。❷にえ。贄(10−36907)に通ず。〔說文〕⿱埶女、一曰、虞書、雉⿱埶女。〔段注〕此別一義、謂㆓⿱埶女卽今贄字㆒、引㆓堯典一死贄㆒以明㆑之、鄭康成曰、贄之言至、所㆓以自致㆒、是其義相近。❸或は質(10−36833)に作る。〔集韻〕⿱埶女、亦作㆑質。❹通じて摯(5−12633)に作る。〔集韻〕⿱埶女、通作㆑摯。

【⿱執女】6639

シ　⿱埶女(3−6638)の譌字。〔說文、⿱埶女、段注〕各本作㆓執聲㆒、篆作㆑⿱執女、非也。

【嫗】6640

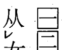
㈠ウ　〔集韻〕威遇切　遇　ㄩ yü^4

㈡ウ　〔集韻〕委羽切　麌

㈢ヨ ヲ　〔正韻〕於語切　語

㈣コウ ク　〔集韻〕墟侯切　尤

慣オウ


小篆

㈠㈡㈢❶はは。〔說文〕嫗、母也、从㆑女區聲。❷ばば。〔正字通〕嫗、今俗稱㆓老婦㆒曰㆑嫗。〔史記、高帝紀〕有㆓一老嫗㆒夜哭。❸をんな。〔南史、鄧郁傳〕魏夫人忽來臨降、乘㆑雲而至、從㆓少嫗三十㆒、並著㆓絳紫羅繡袿㆒、年皆可㆓十八許㆒。❹つま。〔廣雅、釋親〕嫗謂㆓之妻㆒。❺ふす。せぐくまる。身を屈する。傴(1−1020)に通ず。〔說文通訓定聲〕嫗、叚借爲㆑傴。〔後漢書、文苑、趙壹傳〕嫗㆓媀名勢㆒、撫㆓拍豪強㆒。〔注〕嫗媀、猶㆓傴僂㆒也。❻母が子をやしなふ。〔正字通〕嫗、母撫㆑兒也。❼抱いてあたためる。〔集韻〕嫗、以㆑氣曰㆑煦、以㆑體曰㆑嫗。〔禮、樂記〕煦㆓嫗覆㆔育萬物㆒。〔注〕氣曰㆑煦、體曰㆑嫗。〔淮南子、原道訓〕羽者嫗伏。〔注〕嫗伏、以㆑氣剖㆑卵也。❽いろ。美しい色。〔方言、十三〕嫗、色也。〔注〕嫗煦、好色貌。㈣❶山名。嫗山(5)を見よ。❷人名。通じて彄(4−9853)に作る。〔集韻〕嫗、闕、人名、陳有㆓夏嫗夫㆒、通作㆑彄。

【嫗育】1ウイク オウイク　あたため育てる。愛育する。〔禮、樂記、煦㆓嫗覆㆔育萬物㆒、疏〕天以㆑氣煦㆑之、地以㆑形嫗㆑之、是天煦覆而地嫗育。

【嫗媀】2ウク オウク　せむし。又、せぐくまる。身を屈して從ふさま。傴僂。〔後漢書、文苑下、趙壹傳〕嫗㆓媀名勢㆒、撫㆓拍豪強㆒。〔注〕嫗媀、猶㆓傴僂㆒也。

【嫗煦】3ウク オウク　❶あたため育てる。親が子を愛育するにいふ。體を以てあたためるのを嫗、息を以てあたためるのを煦といふ。字解の❼を見よ。煦嫗。〔魏志、高堂隆傳〕有㆑國有㆑家者、近取㆓諸身㆒、遠取㆓諸物㆒、嫗煦養育、故稱㆓愷悌君子、民之父母㆒。〔抱朴子、君道〕資㆓春景之嫗煦㆒、範㆓秋霜㆒以肅㆑物。〔王筠、答㆓釋法雲㆒書〕聖王迹同㆓萬機㆒、心遊㆓七淨㆒、哀㆓愍羣生㆒、嫗㆓煦庶物㆒。❷美しい色のさま。みめよいさま。字解の❽を見よ。

〔嫗煦姑息〕4ウク コソク　肌や息であたためるほどの僅かな一時しのぎのめぐみ。〔司馬光、作中丞初上殿劄子〕臣聞修心之要有㆑三、一曰仁、二曰明、三曰武、仁者非㆓嫗煦姑息之謂㆒也。

【嫗山】5コウザン　山名。〔山海經、中山經〕嫗山、其上多㆓美玉㆒、其下多㆑金。

【嫗然】6ウゼン オウゼン　得んと欲するさま。〔逸周書、官人解〕欲色嫗然以愉。〔集訓校釋〕嫗然、欲㆑得之貌、如㆓雞將㆑伏㆑卵然。

【嫗貌】7ウバウ オウバウ　老女の容貌。〔劉克莊、贈㆓馬相士㆒詩〕嫗貌何妨至㆓輔臣㆒。

【嫗伏】8ウフウ オウフウ　鳥が翼を以て卵を覆ひ暖めるのをいふ。嫗伏孕鬻を見よ。〔淮南子、原道訓〕羽者嫗伏。〔注〕嫗伏、以㆑氣剖㆑卵也。

〔嫗伏孕鬻〕9ウフウヨウイク　鳥獸が卵生又は胎生によつて子を生み育てること。孕鬻は獸類が出生して生育する意。〔禮、樂記〕羽者嫗伏、毛者孕鬻。〔疏〕羽者嫗伏者、謂㆔飛鳥之屬、皆得㆓體伏而生㆑子也、毛者孕鬻者、言㆓走獸之屬、以㆑氣孕鬻而繁息㆒也。

【嫘】6641

㈠ルイ　〔集韻〕倫追切　支　ㄌㄟ lei^2

㈡ルイ　〔集韻〕力僞切　寘

㈢ライ　〔字彙〕盧回切　灰

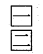
㈠㈡㈢❶姓。〔集韻〕嫘、姓也、黃帝娶㆓於西陵氏之女㆒、是爲㆓嫘祖㆒、嫘祖好㆓遠遊㆒、死㆓於道㆒、後人祀以爲㆓行神㆒。〔元和姓纂〕西陵氏女嫘祖、爲㆓黃帝之正妃㆒、後世以㆑嫘爲㆑氏。❷或は⿰女纍(3−6922)に作る。〔集韻〕嫘、或作㆑⿰女纍。❸通じて累(8−27343)に作る。〔集韻〕嫘、通作㆑累。

【嫘祖】1ルイソ　西陵氏の女、黃帝の正妃。始めて民に養蠶を教へたので、後世祀つて先蠶と爲す。又、遠遊を好み、旅路で死んだので、後世祀つて道路神となす。字解の❶を見よ。〔史記、五帝紀〕黃帝居㆓軒轅之丘㆒、而娶㆓於西陵之女㆒、是爲㆓嫘祖㆒、嫘祖爲㆓黃帝正妃㆒。〔大戴禮、帝繫〕黃帝居㆓軒轅之丘㆒、娶㆓于西陵氏之子㆒、謂㆓之嫘祖氏㆒。

【嫙】6642

㈠セン ゼン　〔集韻〕旬宣切　先

㈡セン ゼン　〔集韻〕隨戀切　霰

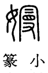

小篆

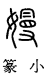
㈠㈡❶みめよい。〔說文〕嫙、好也、从㆑女旋聲。〔集韻〕嫙、美謂㆓之嫙㆒。❷或は⿰目旋(8−23616)に作る。〔集韻〕

嫙、或从レ目。

【嫙】
6643
セン
嫙(3-6642)の俗字。〔龍龕手鑑〕嫙、俗嫙字。

【嫚】
6644
㈠バン マン 〔集韻〕莫晏切 諫 ㄇㄢˋ man^4
㈡ベン メン 〔康熙字典〕彌箭切 霰
㈢エン 〔文選注〕於圓切 先


小篆（說文）


小篆（段注本）

㈠㈡ ㊀あなどる。〔說文〕嫚、侮傷也、从レ女曼聲。㊁けがす。〔漢書、高帝紀下〕上嫚罵曰。〔注〕師古曰、嫚者、渫汙也。〔漢書、枚乘傳〕唱二爲賦頌一好二嫚戲一。〔注〕師古曰、嫚、褻汙也。㊂おこたる。おごる。かろんずる。慢(4-11110)に通ず。〔說文通訓定聲〕嫚、叚借爲レ慢。〔漢書、高帝紀下〕陛下嫚而侮レ人。〔注〕師古曰、嫚、易也、嫚、讀與レ慢同。〔新書、道術〕接遇肅正、謂二之敬一、反レ敬爲レ嫚。〔淮南子、主術訓〕而職事不レ嫚。〔注〕嫚、讀二慢緩之慢一。〔淮南子、繆稱訓〕嫚生二乎小人一。〔注〕嫚、倨也。㊃ゆるやか。やはらかい。〔漢書、禮樂志〕闡諧嫚易之音作。〔注〕師古曰、嫚易、言レ不二急刻一也。㈢物のさま。嬛(3-6782)・嬽(3-6856)に通ず。嫚嫚(2)を見よ。

【嫚易】1 マンイ 慢易(4-11110・・1)に同じ。㊀あなどる。〔漢書、匈奴傳下〕今罷二乘塞一、則生二嫚易分爭之漸一、五也。〔注〕師古曰、嫚易、猶二相欺侮一也。㊁ゆるやかなさま。やはらかなさま。〔漢書、禮樂志〕闡諧嫚易之音作、而民康樂。〔注〕師古曰、嫚易、言レ不二急刻一也。

【嫚嫚】2 エンエン やはらかく長いさま。史記には嬛嬛、漢書には嬽嬽に作る。〔司馬相如、上林賦〕柔橈嬽嬽。嫵媚孅弱。〔注〕善曰、郭璞曰、柔橈嬽嬽、皆體耎弱長豔貌也。

【嫚戲】3 マンギ みだりがはしいたはむれ。〔漢書、枚乘傳〕爲二賦頌一好二嫚戲一。〔注〕師古曰、嫚、褻汙也。

【嫚言】4 マンゲン いやしめ侮ることば。輕蔑した言語。〔續資治通鑑綱目、二十三、謝枋得死レ節〕或嫚言無レ禮。

【嫚臧】5 マンザウ みだりに貯へる。慢藏。〔後漢書、崔駰傳〕睹二嫚臧一而乘レ釁兮、竊二神器之萬機一。

【嫚秦】6 マンシン ほしいままな秦。暴嫚な秦朝。〔漢書、韋賢傳〕阨二此嫚秦一、耒耜斯耕。〔注〕師古曰、言下遭二秦暴嫚一、無レ有二列位一、躬耕中於野上。

【嫚罵】7 マンバ あなどりののしる。辱罵する。〔史記、高祖紀〕於レ是高祖嫚二罵之一曰、吾以二布衣一提二三尺劍一取二天下一、是非二天命一乎。

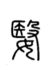
【嫚侮】8 マンブ あなどる。嫚侮。〔漢書、魏豹傳〕今漢王嫚二侮人一、罵二詈諸侯羣臣一如レ奴耳。

【嫚娒】9 マンブ あなどる。輕慢侮辱する。嫚侮。〔漢書、張良傳〕皆以三上嫚二娒士一、故逃二匿山中一。〔注〕師古曰、娒、古侮字。〔漢書、賈誼傳〕今匈奴嫚娒侵掠、至不敬也。

【㜲】
6645
ヤウ 〔集韻〕弋亮切 漾
女のあざな。〔集韻〕㜲、女字。

【㜢】
6646
トウ ツ 〔集韻〕他東切 東
女のあざな。〔集韻〕㜢、女字。

【嫛】
6647
㈠エイ 〔集韻〕煙奚切 齊
㈡イ 〔集韻〕於夷切 支
㈢エイ 〔集韻〕壹計切 霽


小篆

㈠㈡みどりご。あかご。〔說文〕嫛、嫛婗也、从レ女殹聲。〔釋名、釋長幼〕始生曰二嬰兒一、或曰二嫛婗一。嫛、是也、言二是人一也、婗、其嗁聲也、故因以名レ之也。㈢すなほ。嫕(3-6636)に同じ。〔集韻〕嫕、婉嫕、順從也、或作レ嫛。

【嫛婗】1 エイゲイ みどりご。嬰兒。緊倪。鷖彌。字解の㈠㈡を見よ。〔說文通訓定聲〕嫛婗、小兒言語不レ清、嫛倪然也。

【嫛彌】2 エイビ ㊀あかご。嬰兒。嫛婗。〔增韻〕嫛彌、嬰兒也。㊁樹木の名。〔玄覽〕大食西有二嫛彌樹一、見レ人善笑、摘レ之則槁。

【𡢽】
6648
サウ ゾウ 〔集韻〕財勞切 豪
みめよい。〔集韻〕𡢽、廣雅、好也。

【嫜】
6649
シヤウ 〔集韻〕諸良切 陽 ㄓㄤ chang^1
㊀しうと。しうとめ。〔玉篇〕嫜、夫之父母也。〔杜甫、新婚別詩〕何以拜二姑嫜一。㊁夫の兄。兄嫜。或は傽(1-1037)に作る。〔集韻〕嫜、夫之兄曰二兄嫜一、或从レ人。㊂通じて章(8-25761)に作る。〔正字通〕嫜、嫜通作レ章。

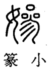
【嫝】
6650
カウ 〔集韻〕丘岡切 陽
女のあざな。〔集韻〕嫝、女字。

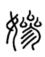
【嫞】
6651
㈠シヨウ ジユ 〔集韻〕常容切 冬
㈡チヨウ チユ 〔集韻〕癡凶切 冬
㈠㈡ ㊀女のあざな。〔集韻〕嫞、女字。㊁なまけ女。〔玉篇〕嫞、嬾女也。

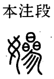
【嫟】
6652
ヂヨク ニヨク 〔集韻〕昵力切 職
㊀女のあざな。〔集韻〕嫟、女字。㊁みだら。〔字彙〕嫟、淫嫟。㊂なれ近づく。暱(5-14132)に通ず。〔正字通〕嫟、凡相狎近者、謂二之嫟一、與レ暱通。

【𡣽】
6653
ヂヨク
嫟(3-6652)に同じ。〔龍龕手鑑〕𡣽、同レ嫟。

【嫪】
6654
㈠サン 〔集韻〕七感切 感
㈡サン 〔集韻〕倉含切 覃
㈢サフ ソフ 〔集韻〕錯合切 合
㈣シン 〔集韻〕疏簪切 侵

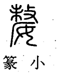

小篆（說文）


小篆（段注本）


小篆（通訓定聲）

㈠㊀むさぼる。〔說文〕嫪、婪也、从レ女參聲。㊁或は嬙(3-6729)に作る。〔集韻〕嫪、或作レ嬙。㈡㈢むさぼる。〔集韻〕嫪、婪也。〔集韻〕嫪、貪也。㈣みだら。〔集韻〕嫪、婬也。

【嫠】
6655
リ 〔集韻〕陵之切 支 ㄌㄧˊ li^2


小篆

㊀やもめ。〔說文新附〕嫠、無レ夫也、从レ女𠩺聲。〔玉篇〕嫠、寡婦也。㊁釐(11-40146)に通ず。〔左氏、襄、二十五〕嫠也何害。〔釋文〕嫠、本又作レ釐。

【嫠節】1 リセツ やもめの貞操。〔元史、列女、馬英傳〕馬英事レ母甚謹、又奉二寡嫂一與居、使レ得三

保二全嫠節一。

【嫠獨】2 やもめとやもを。〔後漢書、劉翊傳〕嫠獨則助營妻娶。〔注〕寡婦爲レ嫠、無レ夫曰レ獨。

【嫠婦】3 やもめ。夫の無い婦人。夫に別れた女。獨身の女。〔詩、小雅、巷伯、成二是南箕一傳〕昔者顏叔子、獨二處于室一、鄰之嫠婦、又獨二處于室一、夜暴風雨至而室壞、婦人趨而至、顏叔子納レ之、而使三執レ燭放二乎旦一、而蒸盡縮レ屋而繼レ之、自以爲二辟レ嫌之不レ審矣。〔左氏、昭、十九〕初莒有二婦人一、莒子殺二其夫一、已爲二嫠婦一。〔注〕寡婦爲レ嫠。〔蘇軾、前赤壁賦〕舞二幽壑之潛蛟一、泣二孤舟之嫠婦一。

【嫠不レ恤レ緯】4 周の寡婦が機を織るに、横絲の整理しにくいのを心配しないで、周の滅びるのを憂へた故事。大丈夫は宜しく身を忘れて國事を憂慮すべき喩。又、其の職とする所をつとめぬ喩。不恤緯(**1**－**19**・・527)の❶を見よ。〔左氏、昭、二十四〕抑人亦有レ言、曰、嫠不レ恤二其緯一、而憂二宗周之隕一。〔注〕嫠、寡婦也、織者常苦二緯少一、寡婦所レ宜レ憂。〔會箋〕說文、緯、織横絲也、凡織者經一定不レ易、而緯從レ之、緯極難二整理一、織者之所レ宜レ用レ心、不レ恤二其緯一、只言レ不レ職二其職一、不四必解云三常苦二緯少一。〔書言故事大全、古今喩類〕忘レ身憂レ國、嫠不レ恤レ緯。

【嫡】
6656

[一]テキ チャク　〔集韻〕丁歷切　[錫]　ㄉㄧˊ　ti²

[二]テキ チャク　〔集韻〕竹益切　[陌]

[三]タク チャク　〔集韻〕陟革切　[陌]

小篆

[一]❶**正夫人**。敵(**5**－**13354**)・適(**11**－**39076**)に通ず。〔說文通訓定聲〕嫡、段借爲レ敵、經傳皆以レ適爲レ之。〔釋名、釋親屬〕嫡、敵也、與レ匹相嫡也。〔一切經音義、四〕字書云、嫡、正也、嫡・適、字同。〔增韻〕正室曰レ嫡。〔詩、召南、江有汜、序〕嫡能悔レ過也。〔釋文〕嫡、都狄反、正夫人也。〔疏〕嫡、謂レ妻也。〔漢書、杜欽傳、適妾、注〕師古曰、適、讀曰レ嫡、嫡、謂二正后一也。❷**よつぎ**。世子。〔公羊、昭、五〕秦伯卒、何以不レ名、秦者夷也、匿二嫡之名一也、其名何、嫡得レ之也。〔注〕嫡子生、不三以レ名令二于四竟一。〔北史、李彪傳〕崇二儒術一以訓二世嫡一。❸**つつしむ**。嫡(**3**－**6761**)に同じ。〔正字通〕嫡、篆作レ嫡。〔說文〕嫡、孎也、从レ女啻聲。[二]**つまびらか**。**あきらか**。女の審諦なるさま。〔集韻〕嫡、嫡孎、女審諦皃。[三]**つつしむ**。[一]の❸に同じ。〔集韻〕嫡、孎也。

【嫡位】1 世子の位。〔說苑、建本〕嫡位無レ主、亂自レ是生矣。

【嫡舅】2 母の兄弟をいふ。〔後漢書、清河孝王傳〕帝以二寶嫡舅一、寵遇甚渥、位至二大將軍一。

【嫡兄】3 ti² hsiung¹ 嫡出の兄。

【嫡妻】4 ほんさい。正室。正妻。嫡室。〔釋名、釋親屬〕妾謂二夫之嫡妻一曰二女君一。

【嫡子】5 ❶本妻の生んだ子。本妻の生んだ諸子。嫡出子。庶子(**4**－**9373**・・36)の❶の對。適子(**11**－**39076**・・33)を見よ。〔徐灝、說文解字注箋〕元配謂二之嫡妻一、嫡妻所レ生之子、謂二之嫡子一。〔增韻〕正室曰レ嫡、正室所レ生之子、曰二嫡子一。❷本妻の生んだ子で家を繼ぐべき男子。よつぎ。あととり。總領。嫡嗣。嫡男。〔公羊、昭、五、匿二嫡之名一也、注〕嫡子生、不三以レ名令二于四竟一。〔孔子家語、曲禮公西赤問〕公儀仲子嫡子、死而立二其弟一。

【立二嫡子一違レ法】6 嫡子のある場合、庶子を立てれば、違法行爲として罰したこと。後世に於ては家財は衆子均分を法とするから、嫡長子には財產上の特權は無いが、古、官職世襲時代には、嫡出子が父祖の官職を繼承し、愛情其の他の私情に因つて種々の弊害を生じたので、この法を制定して嫡長子の權利を保障した。〔唐律、戶婚律、立嫡違法〕諸立二嫡子一違レ法者、徒二一年一、卽嫡妻年五十以上無レ子者、得レ立レ庶以レ長、不レ以レ長者亦如レ之。〔明律、戶律、戶役篇、立嫡子違法〕凡立二嫡子一違レ法者杖八十、其嫡妻年五十以上無レ子者、得レ立二庶長子一、不レ立二長子一者、罪亦同。

【嫡嗣】7 本妻の子で家を嗣ぐべきもの。〔左氏、文、七〕舍二嫡嗣一不レ立、而外求レ君。〔史記、刺客傳〕光眞嫡嗣當レ立。〔說苑、建本〕舍二嫡嗣一不レ立。〔後漢書、李固傳〕侵二奪主威一、改二亂嫡嗣一。

【嫡室】8 ❶正寢の室。適室(**11**－**39076**・・39)に同じ。〔後漢書、魯丕傳〕禮、諸侯薨二於路寢一、大夫卒二於嫡室一。〔注〕路寢・嫡室、皆正寢、禮喪大記之文。❷嫡妻。正妻。〔蜀志、先主甘后傳〕先主數喪二嫡室一。

【嫡出】9 本妻の腹から生れ出たこと。

【嫡出子】10 法律上正當に婚姻した男女間に生れた子。

【嫡庶】11 本妻の子と妾の子。嫡子と庶子。〔列子、力命〕齊公族多レ寵、嫡庶並行。〔後漢書、百官志三〕掌三序二錄王國嫡庶之次一。

【嫡親】12 ti² ch'in¹ 父の正妻の姻戚。

【嫡妾】13 正妻とめかけ。〔詩、邶風、綠衣、綠衣黃裳、箋〕今衣黑而裳黃、喩レ亂二嫡妾之禮一。

【嫡妾倒置】14 正妻と妾との位置をかへること。〔李滉、鄉立約條〕嫡妾倒置、以レ妾爲レ妻、以レ孼爲レ嫡。

【嫡宗】15 ❶總本家。❷正系。正統。

【嫡孫】16 嫡子の本妻の生んだ子。〔漢書、成帝紀〕元帝在二太子宮一、生二甲觀畫堂一、爲二世嫡皇孫一。

【嫡孫承レ重】17 嫡長子が死んだ時は、嫡孫が家を嗣ぐ。重とは、宗廟を祭ること、轉じて、相續の意。〔六部成語、刑部、嫡孫承レ重、注解〕子死應下以二嫡孫一承二嗣上也。

【嫡堂】18 祖を同じくするもの。同堂兄弟(**2**－**3294**・・280)を見よ。

【嫡男】19 本妻の生んだ男子。嫡子。〔國語、吳語〕一介嫡男、奉二槃匜一以隨二諸御一。

【嫡長】20 本妻の生んだ後とり。總領。〔漢書、匡衡傳〕聖王必愼二妃后之際一、別二嫡長之位一。

【嫡長子】21 本妻の生んだ長男。〔新書、立後〕於レ此疾死、置レ後以二嫡長子一。

【嫡女】22 本妻の生んだ長女。〔國語、吳語〕一介嫡女、執二箕箒一以晐二姓於王宮一。

【嫡弟】23 嫡出の弟。母弟。〔源平盛衰記、三十二、惟高惟仁位論事〕惠果和尚の瀉瓶嫡弟なり。

【嫡嫡】24 家系を嫡長子から嫡長子へ順序に相傳へる。正統の血脈。嫡流。

【嫡嫡相承】25 嫡長子の相續をいふ。適適相承に同じ。

【嫡傳】26 正しい血統を承けつぐ。〔戴復古、謝二東倅包宏父一文〕君家名父子、爲二晦翁嫡傳一。

【嫡派】27 正系。〔還魂記、訓女〕內有二夫人甄氏一、乃魏朝甄皇后嫡派。

【嫡派天潢】28 正統の皇統。天潢は皇族。〔桃花扇、設朝〕嫡派天潢、久著二仁賢一。

【嫡配】29 ❶嫡妻。正妻。❷嫡子の妻。〔福惠全書、典禮部、旌表節孝〕人之妾僕、有二嫡配早亡、而爲レ之撫レ孤成立一。

【嫡父】30 己を生んだ父。實父をいふ。〔稱謂錄、本生父、嫡父〕畫墁錄、臨潼驛有二俚婦兒三人一、皆售二諸過客一、二爲二正使一、一爲二郞官一、郞官者、縣人田升卿也、田登第、嫡父自陳、升卿大怒、案、嫡父乃其所レ生之父也。

【嫡婦】31 長子の妻をいふ。〔爾雅、釋親〕子之妻爲レ婦、長婦爲二嫡婦一、衆婦爲二庶婦一。

【嫡母】32 父の正妻。庶子が父の正妻を呼ぶ稱。〔南史、劉靈哲傳〕靈哲傾レ產贖二嫡母及景煥一。〔稱謂錄、本生父、親父〕塗說、妾生之子、稱二父之正妻一曰二嫡母一。

【嫡流】33 本家の血すぢ。正統。正系。〔太平記、三十、梶井宮事〕慈覺大師の嫡流。

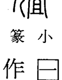
【嫡皇孫】34 王位を繼ぐべき正統の皇孫。〔後漢書、安帝紀〕朕惟侯孝章帝世嫡皇孫、謙恭慈順、在レ孺而勤。

【嫡堂姪】35（テキダウテツ） 大功の喪に服する關係にあるをひをいふ。〔六部成語、刑部、嫡堂姪、注解〕卽大功服之姪輩也。

【嫡夫人】36（テキフジン チヤクフジン） 諸侯の正室。適夫人。

【⿰女虘】6657

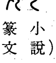
㊀シヨ 〔集韻〕將豫切 御
㊁シユ 〔集韻〕遵遇切 遇
㊂サ ジヤ 〔集韻〕鋤加切 麻

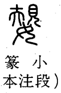

小篆

㊀❶**おごる**。或は姐（**3－6172**）に作る。〔說文〕⿰女虘、驕也、从㆑女虘聲。〔集韻〕⿰女虘、或作㆑姐。❷**ねたむ**。そねむ。〔集韻〕⿰女虘、博雅、妬也。㊁**おごる**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕⿰女虘、說文、嬌也。㊂❶**女の名**。〔集韻〕⿰女虘、女名。❷**おごる**。或は怚（**4－10457**）に作る。〔集韻〕⿰女虘、或作㆑怚。〔廣韻〕⿰女虘、憍也。

【嫢】6658

㊀キ 〔集韻〕均窺切 支
㊁イ 〔集韻〕匀規切 支
㊂ギ キ 〔集韻〕巨癸切 紙
㊃スイ 〔集韻〕津垂切 支
㊄ケン ゲン 〔集韻〕胡典切 銑
㊅キ 〔集韻〕規恚切 寘


小篆（說文）


小篆（段注本）

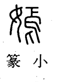
㊀❶**あきらか**。つまびらか。〔說文〕嫢、媞也、从㆑女規聲、讀若㆑癸。〔段注〕媞者、諦也、諦者、審也。〔集韻〕嫢、一曰、婦人審諦皃。❷**しなやか**。**たをやか**。〔說文〕嫢、秦晉謂㆓細嫢㆒。〔方言、二〕嫢、細也、自㆑關而西、秦晉之閒、凡細而有㆑容、謂㆓之嫢㆒。〔注〕嫢嫢、小成貌。❸**ほそごし**。〔集韻〕嫢、細胥也。㊁❶**ゆたかな姿のさま**。㊃に同じ。〔集韻〕嫢、盈姿。❷**ほそごし**。㊀の❸に同じ。〔集韻〕嫢、一曰、秦晉謂㆓細腰㆒爲㆑嫢。❸嫢盈は、いかる。嫢盈（1）を見よ。㊂❶**みめよい**。〔集韻〕嫢、好也。❷**こまかい**。〔集韻〕嫢、小也。❸**しなやか**。㊀の❷に同じ。〔集韻〕嫢、一曰、秦人謂㆓細而有㆑容曰㆑嫢。㊃❶**ゆたかな姿のさま**。〔廣韻〕嫢、盈姿皃。〔集韻〕嫢、盈姿。❷**ほそごし**。〔集韻〕嫢、細胥也。㊄**ほそごし**。㊀の❸に同じ。〔集韻〕嫢、細胥也。㊅**みめよい**。〔集韻〕嫢、博雅、好也。

【嫢盈】1（イエイ） 怒ること。〔方言、七〕怒也、燕之外郊、朝鮮洌水之閒、凡言㆓呵叱者㆒、謂㆓之嫢盈㆒。〔廣雅、釋詁二〕嫢盈、怒也。

【嫢嫢】2（キキ） しなやかなさま。小成のさま。〔方言、二、注〕嫢嫢、小成貌。

【嫣】6659

㊀エン 〔集韻〕於虔切 ㄧㄢ yen¹ 先
㊁エン オン 〔集韻〕於建切 願
㊂エン 〔集韻〕隱憾切 阮
㊃エン 〔集韻〕於蹇切 銑
㊄ケン 〔集韻〕虛延切 先


小篆

㊀㊁㊂㊃❶**すらりとして美しいさま**。〔說文〕嫣、長貌、从㆑女焉聲。❷**あでやかに笑ふさま**。〔正字通〕嫣、巧笑態也。〔宋玉、登徒子好色賦〕嫣然一笑。〔注〕善曰、王逸楚辭注曰、嫣、笑貌。❸**つらなる**。〔正字通〕嫣、連也。〔漢書、揚雄傳上〕有周氏之嬋嫣兮。〔注〕應劭曰、嬋嫣、連也、言㆘與㆓周氏㆒親連㆖也。㊄❶**すらりとして美しいさま**。㊀の❶に同じ。〔玉篇〕嫣、長美皃。❷**みめよいさま**。〔集韻〕嫣、好皃。❸**ながい**。〔集韻〕嫣、一曰、長也。

【嫣紅】1（エンコウ） あでやかな紅色。濃艷な紅色。〔李商隱、河陽詩〕百尺相風插㆓重屋㆒、側近嫣紅伴㆓柔綠㆒。

【嫣然】2（エンゼン） ほほゑむさま。にこにこ。莞爾。嫣嬋。〔宋玉、登徒子好色賦〕嫣然一笑、惑㆓陽城㆒、迷㆓下蔡㆒。〔注〕善曰、王逸楚辭注曰、嫣、笑貌。〔浩虛舟、射雉解顏賦〕飛鏃洞穿、遂嫣然而不㆑息。〔蘇軾、寓㆓居定惠院之東㆒雜花滿㆑山有㆓海棠一株㆒土人不㆑知㆑貴也詩〕江城地瘴蕃㆓草木㆒、只有㆓名花苦幽獨㆒、嫣然一笑竹籬閒、桃李漫㆑山總麄俗。

【嫣嬋】3（エンゼン） 嫣然に同じ。〔梁簡文帝、七啓〕綽約姸姿、嫣嬋宜㆑笑。

【嫤】6660

㊀キン ギン 〔集韻〕渠吝切 震
㊁キン コン 〔集韻〕几隱切 吻

㊀**女のあざな**。〔集韻〕嫤、女字。㊁**みめよいさま**。〔集韻〕嫤、好皃。

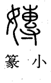
【⿰女畢】6661

ヒツ ヒチ 〔集韻〕壁吉切 質

はは。〔集韻〕⿰女畢、博雅、母也。

【嫥】6662

㊀セン 〔集韻〕朱遄切 ㄓㄨㄢ chuan¹ 先
㊁タン ダン 〔集韻〕徒官切 寒


小篆

㊀❶**もつぱら**。專（**4－7439**）に同じ。〔說文〕嫥、壹也、从㆑女專聲。〔段注〕凡嫥壹字、古如㆑此作、今則專行而嫥廢矣。❷**愛らしいさま**。嫥嫥（2）を見よ。〔說文〕嫥、一曰、女嫥嫥。〔段注〕篇韻皆云、可㆑愛之皃。❸**ととのへる**。摶（**5－12642**）に通ず。〔說文通訓定聲〕嫥、段借爲㆑摶。〔淮南子、淑眞訓〕嫥㆓捖剛柔㆒。〔注〕嫥捖、和㆓調族類㆒也。❹或は⿰女叀（**3－6512**）に作る。〔集韻〕嫥、或省。㊁**美しい**。〔集韻〕嫥、嬍也。

【嫥捖】1（センクワン） 族類を和らげ調へる。〔淮南子、俶眞訓〕提㆓挈陰陽㆒、嫥㆓捖剛柔㆒。〔注〕嫥捖、和㆓調族類㆒也。

【嫥嫥】2（センセン） 愛らしいさま。〔玉篇〕嫥、嫥嫥、可㆑愛皃。〔集韻〕嫥、一曰、女嫥嫥、一曰、可㆑愛皃。

【嫦】6663

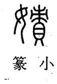
㊀コウ 〔正字通〕音恆 蒸
㊁シヤウ ジヤウ 〔字彙〕市羊切 ㄔㄤ ch'ang² 陽

㊀㊁姮（**3－6232**）の俗字。〔正字通〕嫦、俗姮字。〔字彙〕嫦、音常、嫦娥。

參考 熟語は姮（**3－6232**）を見よ。

【嫧】6664

㊀サク シヤク 〔集韻〕側革切 陌
㊁セキ シヤク 〔集韻〕七迹切 陌


小篆

㊀❶**ととのふ**。もと嫧（**3－6804**）に作る。〔正字通〕嫧、本作㆑嫧。〔說文〕嫧、齊也、从㆑女責聲。❷**みめよい**。〔方言、十〕嫧、鮮好也、南楚之外、通語也。❸**よい**。〔廣雅、釋詁一〕嫧、善也。㊁**ととのふ**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕嫧、齊也。

【嫨】6665

㊀カン 〔集韻〕虛干切 寒
㊁ゼン ネン 〔集韻〕忍善切 銑

㊀❶**老嫗のさま**。〔集韻〕嫨、老嫗皃。❷**い**

かる。〔集韻〕嫨、一曰、怒也。🈔つつしむ。うやまふ。通じて戁(4－11505)に作る。〔集韻〕嫨、敬也、通作㆑戁。

【嫩】6666　ドン　ノン　〔集韻〕奴困切　願　ㄋㄣˋ　nen^4

❶わかい。よわい。しなやか。やはらか。〔集韻〕嫩、少弱也。〔梁武帝、遊㆓大愛敬寺㆒詩〕葛嫩不㆑任㆑牽。〔李白、宮中行樂詞〕柳色黃金嫩、梨花白雪香。❷みめよいさま。〔集韻〕嫩、一曰、好皃。❸うすい。嫩寒(4)を見よ。❹或は媆(3－6482)に作る。〔集韻〕嫩、或作㆑媆。

【嫩葉】1（ドンエフ）　草木のわかば。〔江淹、雜詞〕愛㆓遠山㆒香枝兮嫩葉、翡累兮翠疊。〔陳章、風不㆑鳴㆑條賦〕嫩葉隨轉、柔荑共舒。

【嫩芽】2（ドンガ）　草木の若いめ。わかめ。しんめ。〔周必大、詩〕籜包句好逢㆓眞賞㆒、荷葉甌深稱㆓嫩芽㆒。

【嫩江】3（ドンカウ　ノンカウ）　❶川の名。滿洲黑龍江省の中部を縱貫す。蒙古語では諾尼木倫といふ。古名は妹江。北史の難河、唐書の那河、狃越河、元史の惱木連・猱河・納兀河・那江、祕史の納浯江、明統志の腦溫河のこと。源は嫩江縣北の伊勒呼里山の南麓に發し、下流は松花江に入る。富勒爾濟から下流は汽船を通じ、富勒爾濟から上、嫩江縣に至るまで、亦淺水の汽船を通ず。每年、十月から明年三月迄は結氷するので、航期は六ケ月に過ぎない。〔皇朝通志、地理略、水道、盛京諸水〕嫩泥江、一名那河、亦曰㆓嫩江・諾尼江㆒、古名難水、源出㆓黑龍江將軍境內衣克呼里山㆒、東南流有㆓哈羅里河中科河㆒來會。❷縣名。民國、置く。訥河縣の東北。唐代、黑水部長に所屬し、後、渤海に屬す。清の康熙中、黑龍江將軍を此處に移す。後、副都統の防城に改む。光緒三十四年、副都統を廢し、嫩江府を置き、黑龍江省に屬す。滿洲黑龍江省に屬す。縣治は土名墨爾根。嫩江の東岸に位し、淺水の汽船航路の終點に當り、龍江、瑷琿間の往來の要道である。〔清史稿、地理志〕黑龍江、嫩江府光緒三十四年、以㆓墨爾根城㆒改置㆑府、廣四百餘里、袤六百餘里、北極高四十九度十三分、京師偏東八度四十二分。

【嫩寒】4（ドンカン）　うすらさむい。輕寒。薄寒。〔高啓、梅花詩〕嫩寒江店杏花前。

【嫩語】5（ドンゴ）　やさしい言葉。嬌聲(3－6739・46)を見よ。

【嫩細】6　nen^4　hsi^4　美事な。立派な。

【嫩菜】7　nen^4　ts'ai^4　若菜。

【嫩草】8（ドンサウ）　わか草。〔王維、登㆓辨覺寺㆒詩〕嫩草承㆓趺坐㆒、長松響㆓梵聲㆒。〔皇甫冉、送㆓普門上人㆒詩〕日光依㆓嫩草㆒、泉響滴㆓春冰㆒。

【嫩枝】9（ドンシ）　わかいえだ。わかえ。〔福惠全書、刑名部、監禁〕俱要㆓柔條嫩枝㆒。

【嫩日】10（ドンジツ）　あさひ。旭日。〔剪燈餘話、秋千會記〕嫩日舒㆑情、韶光艷、碧天新霽。

【嫩手】11　nen^4　shou^3　やはらかい手。

【嫩筍】12（ドンシュン　ドンジュン）　わかい筍。やはらかい筍。〔蕭大圜、竹花賦〕拊㆓嫩筍㆒以含㆑啼、顧㆓貞筠㆒而命㆑醑。

【嫩色】13（ドンショク）　わかわかしい色。〔段成式、折楊柳詩〕枝枝交㆑影鎖㆓長門㆒、嫩色曾霑雨露恩。

【嫩蘂】14（ドンズイ）　やはらかな花のずゐ。〔杜甫、滕王亭子詩〕淸江錦石傷心麗、嫩蘂濃花滿目斑。〔徐鉉、依㆑韻和㆓令公大王薔薇㆒詩〕嫩蘂鶯偸采、柔條柳伴垂。

【嫩晴】15（ドンセイ）　雨が初めてはれる。霽れる。新晴。〔楊萬里、春暖郡圃散策詩〕細草欣欣賀㆓嫩晴㆒。

【嫩湯】16（ドンタウ）　ぬるま湯。微溫湯。〔楊萬里、芥齏詩〕蟹眼嫩湯微熟了、鶯兒新酒未㆑醒初。

【嫩竹】17（ドンチク）　若竹。今年竹。〔徐陵、侍宴詩〕嫩竹猶含㆑粉、初荷未㆑聚㆑塵。

【嫩條】18（ドンデウ）　柔かい枝。〔李商隱、柳詩〕江南江北雪初消、漠漠輕黃惹㆓嫩條㆒。〔張蠙、和㆔友人許裳題㆓宣平里古藤㆒詩〕嫩條懸㆓野鼠㆒、枯節叫㆓秋蛩㆒。〔韓琦、和㆓春卿學士㆒柳枝詞〕樓前輕雪未㆓全銷㆒、偸㆓得春光㆒入㆓嫩條㆒。

【嫩風】19（ドンプウ）　やはらかに吹く風。微風。〔劉憲、奉㆑和㆘聖製立春日侍㆓宴內殿㆒出剪㆗綵花㆖應制詩〕色濃輕雪點、香淺嫩風吹。

【嫩碧】20（ドンペキ）　わか葉のみどり。新綠。嫩綠。〔崔涯、黃蜀葵詩〕嫩碧淺輕態、幽香閑澹姿。

【嫩涼】21（ドンリヤウ）　うすら寒いこと。〔柳貫、中秋待㆑月不㆑見卻懷㆓魯子翬學士時留㆑城詩〕蓬鬢羞㆑明寒燼落、桂花養㆑魄嫩涼生。〔孫存吾、秋思詩〕雁落㆓西風㆒字字沈、嫩涼偸入藕花心。

【嫩綠】22（ドンリヨク）　新綠。嫩碧に同じ。〔白居易、日高臥詩〕小靑衣動桃根起、嫩綠醅浮竹葉新。〔王禹偁、秋居幽興詩〕掃㆑苔留㆓嫩綠㆒、寫㆑葉惜㆓殘紅㆒。

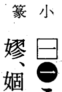
【嫩骨頭】23　nen^4　ku^2　t'ou　柔かな骨。

【嫩俏俏的】24　nen^4　ch'iao^3　ch'iao^1　tê　柔かい。若い。新鮮な。

【嫰】6667　ドン　嫩(3－6666)の俗字。〔中華大字典〕嫰、嫩俗字。

【⿰女鹿】6668　ロク　〔集韻〕盧谷切　屋　女のあざな。〔集韻〕⿰女鹿、女字。

【嫪】6669　🈩ラウ　ロウ　〔集韻〕郎到切　號　ㄌㄠˋ　lao^4　🈔ラウ　ロウ　〔集韻〕郎刀切　豪


小篆

🈩❶こひしたふ。をしむ。〔說文〕嫪、婟也、从㆑女翏聲。〔段注〕聲類云、婟嫪、戀惜也。〔一切經音義、七〕意若曰㆑嫪。〔一切經音義、十三〕嫪、惜也、謂㆓戀不㆒㆑能㆑去也。〔韓愈、薦㆑士詩〕感㆑物增㆓戀嫪㆒。〔陸龜蒙、漁庵詩〕晚有㆓溪禽嫪㆒。❷なやむ。〔玉篇〕嫪、難也。❸ものをしみをする。しはい。〔廣韻〕嫪、悋㆑物。❹かくしをとこ。又、嫖客。婟嫪。〔正字通〕嫪、倡伎謂㆓游壻㆒曰㆓婟嫪㆒。〔說文通訓定聲〕嫪、今諺謂㆓女所㆑私人㆒爲㆓婟嫪㆒、俗作㆓孤老㆒。❺姓。〔集韻〕嫪、亦姓。🈔ねたむ。嫪嫭。〔廣雅、釋詁一〕嫪、妬也。〔集韻〕嫪、嫪嫭、妬也。

【嫪毒】1（ラウアイ）　もと秦の人の名。秦の呂不韋が太后と淫し、禍の及ぶを恐れ、嫪毒といふ大陰の者を求めて舍人とし、太后に進めて通ぜしめたが、後發覺して嫪毒は誅せられたことから、轉じて、淫者を罵つていふ。〔說文〕毒、士之無㆑行者、从㆓士毋㆒、賈侍中說、秦始皇母與㆓嫪毒㆒姪、坐㆑誅、故世罵㆑姪曰㆓嫪毒㆒、讀若㆑娭。〔史記、呂不韋傳〕太后淫不㆑止、呂不韋恐㆓覺禍及㆒㆑己、乃私求㆓大陰人嫪毒㆒以爲㆓舍人㆒、時縱㆓倡樂㆒、使㆘毒以㆓其陰㆒關㆓桐輪㆒而行㆖、令㆓太后聞㆒㆑之、以啗㆓太后㆒、太后聞、果欲㆓私得㆒㆑之、呂不韋乃進㆓嫪毒㆒。〔漢書、五行志中之下〕太后淫㆓於呂不韋及嫪毒㆒。〔注〕師古曰、嫪、或音居虯反、嫪、姓也、毒、名也、許愼說以爲嫪毒、士之無㆑行者、嫪、音郎到反、毒、音烏改反、與㆓今史記・漢書本文㆒不㆑同、且摎樂之姓、又非㆑嫪也、故當㆘依㆓本字㆒以讀㆖。〔孔叢子、論勢論〕子順答曰、今秦四境之內、執政以下固曰、與㆓嫪氏㆒乎、與㆓呂氏㆒乎、蓋大陰人嫪姓無㆑行、故曰㆓嫪毒㆒。❷俗に誤用して大きいさまにいふ。〔通俗編、狀貌、嫪毒〕按、二字未㆑有㆓大義㆒、而世俗以㆓大陰之文㆒、遂沿以爲㆓大貌㆒、至㆓凡物之大者㆒、輒以㆓嫪毒言㆒言㆑之、殊牽悞可㆑笑。

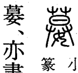
【嫪嫭】2（ラウコ）　ねたむ。〔集韻〕嫪、嫪嫭、妬也。

【⿰翏攵】6670　リク　戮(5－11655)の古字。〔字彙補〕⿰翏攵、古文戮字。

【⿰女宿】6671　シュク　〔字彙〕所六切　屋　うすをつく人。〔字彙〕⿰女宿、舂人。

【⿰女恵】 6672　ダン　妏（3−6050）に同じ。〔字彙〕⿰女恵、同レ妏。

【嫫】 6673　ボ モ　〔集韻〕莫胡切　虞　ㄇㄛˊ mo^2


小篆

❶**しこめ**。昔の醜女の名。嫫母。もと⿱莫女（3−6674）に作る。〔集韻〕⿱莫女、亦書作レ嫫。〔說文〕⿱莫女、⿱莫女母、古帝妃、都醜也、从レ女莫聲。〔段注〕都、猶レ取也、云云、荀卿詩・四子講德論皆作レ嫫。❷或は悔（4−8906）に作る。〔集韻〕⿱莫女、或作レ悔。

【嫫姑】 1 ボコ　蔴菇をいふ。からすうり。〔史遷、菌子詩〕桑鵝楮雉皆不レ及、嫫姑天花當二拱揖一。

【嫫母】 2 ボボ　黃帝の第四妃の名。甚しい醜婦であつたが賢德を以て知らる。轉じて、醜女をいふ。嫫姆。⿱莫女母。〔戰國、楚策〕閭姝子奢、莫レ知レ媒兮、嫫母求レ之、又甚喜レ之兮。〔荀子、賦〕閭娵子奢、莫二之媒一也、嫫母・力父、是之喜也。〔注〕嫫母、醜女、黃帝時人。〔楚辭、九章、惜往日〕妒二佳冶之芬芳一兮、⿱莫女母姣而自好。〔淮南子、說山訓〕嫫母有レ所レ美、西施有レ所レ醜。〔注〕嫫母、古之醜女、而行貞正、故曰有レ所レ美。〔論衡、逢遇〕或以二醜面惡色一、稱二媚於上一、嫫母・無鹽、是也、嫫母進二於黃帝一、無鹽納二於齊王一。〔吳質、答二東阿王一書〕嫫母侍レ側。〔路史〕嫫母貌惡而德充、帝嘗曰、屬二女德一而弗レ忘、與二女正一而弗レ衰、雖レ惡何傷。

【嫫姆】 3 ボボ　嫫母に同じ。〔王褒、四子講德論〕嫫姆倭傀、善譽者不レ能レ掩二其醜一。〔注〕善曰、孫卿子曰、嫫姆・力父、是之喜也、云云、濟曰、嫫姆・倭傀、皆醜婦人也。

【⿱莫女】 6674　㊀ボ モ　〔集韻〕莫胡切　虞　㊁バク ミャク　〔集韻〕莫白切　陌

㊀嫫（3−6673）の本字。〔集韻〕⿱莫女、亦書作レ嫫。㊁**しづか**。〔集韻〕⿱莫女、靜也。

【嫬】 6675　㊀シャ　〔集韻〕子奢切　麻　㊁ショ　〔集韻〕商署切　御

㊀㊁**女のあざな**。〔集韻〕嫬、女字。

【嫰】 6676　ナン　媆（3−6482）の俗字。〔正字通〕嫰、俗媆字。

【⿱現女】 6677　シ　嫢（3−6658）の譌字。〔正字通〕⿱現女、嫢字之譌。

【⿰女符】 6678　ブ フ　〔集韻〕馮無切　虞

女のあざな。〔集韻〕⿰女符、女字。

【嫭】 6679　ゴ コ　〔集韻〕胡故切　遇

❶**をとめ**。〔集韻〕嫭、妊也。❷**みめよいさま**。うつくしい。〔集韻〕嫭、一曰、好皃。〔漢書、禮樂志〕眾嫭竝、綽奇麗。〔注〕如淳曰、嫭、美目貌、孟康曰、嫭、美也。〔漢書、揚雄傳上〕知二眾嫭之嫉妒一兮。〔注〕師古曰、嫭、美貌也。❸**ねたむ**。〔廣雅、釋詁一〕嫭、妬也。❹或は嫮（3−6680）に作る。〔集韻〕嫭、或从レ雩。❺或は妒（3−6057）に作る。〔集韻〕嫭、亦作レ妒。

【嫭姱】 1 ココ　みめよいさま。うつくしいさま。〔楚辭、大招〕朱脣皓齒、嫭以姱只。〔注〕嫭姱、好貌也、嫭、一作レ嫮。

【嫭扒】 2 コハイ　顏よい。みめよい。〔楊愼、奇字韻〕滇僰謂レ好曰二嫭扒一。

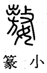
【嫮】 6680　ゴ コ　〔集韻〕胡故切　遇

❶**をとめ**。又、**みめよいさま**。嫭（3−6679）・姱（3−6235）に同じ。〔集韻〕嫭、妊也、一曰、好皃、或从レ雩。〔廣雅、釋詁一〕嫮、好也。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕美連娟以脩嫮兮。〔注〕師古曰、嫮、美也。〔謝莊、雪賦〕玉顏掩嫮。〔注〕善曰、嫮、與レ姱同、姱、好貌。❷**ほこる**。おごる。〔漢書、韓安國傳〕車騎皆帝所レ賜、即以嫮二鄙小縣一。〔注〕服虔曰、嫮、夸妊也。❸**ねたむ**。〔廣雅、釋言〕嫮、嫪也。

【嫮眼】 1 コガン　美しい眼。〔張衡、思玄賦〕增嫮眼而蛾眉。〔注〕銑曰、嫮、好也。

【嫮姱】 2 ココ　かほよい。美しい。嫭姱。〔黃庭堅、次二韻張仲謀過二酺池寺齋一詩〕非二復少年日一、聲名取二嫮姱一。

【嫯】 6681　㊀ガウ ゴウ　〔集韻〕魚到切　號　㊁ガウ ゴウ　〔集韻〕牛刀切　豪


小篆

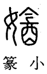
㊀㊁❶**おごる**。**あなどる**。〔說文〕嫯、侮傷也、从レ女敖聲。❷或は⿰女敖（3−6682）に作る。〔集韻〕嫯、或書作レ⿰女敖。

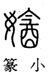
【嫯⿰女旱】 1 ガウカン　おごりたかぶる。傲悍（1−1015：5）に同じ。〔玉篇〕⿰女旱、嫯⿰女旱也。

【嫯慢】 2 ガウマン　おごりあなどる。傲慢（1−1015：45）に同じ。〔廣韻〕嫯、慢也。

【⿰女敖】 6682　ガウ　嫯（3−6681）に同じ。〔字彙〕⿰女敖、同レ嫯。

【⿰女酓】 6683　㊀ガン ゴン　〔集韻〕五感切　感　㊁アン オン　〔集韻〕鄔感切　感　㊂カン ゴン　〔集韻〕戶感切　感　㊃ゲン　〔集韻〕魚檢切　琰　㊄エン　〔集韻〕於鹽切　鹽　㊅エン　〔集韻〕衣檢切　琰　㊆アン オン　〔集韻〕烏含切　覃


小篆


小篆（聲定訓通）

㊀❶**いきどほる**。〔說文〕⿰女酓、含レ怒也、从レ女酓聲。❷**知りがたい**。〔說文〕⿰女酓、一曰、難レ知也。❸**おごそか**。〔說文〕⿰女酓、詩曰、碩大且⿰女酓。〔段注〕陳風澤陂文、今詩作レ儼、傳曰、矜莊皃。㊁㊂㊃**いきどほる**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕⿰女酓、含レ怒也。㊄❶**うつくしい**。〔廣雅、釋詁一〕⿰女酓、美也。❷**いきどほるさま**。〔集韻〕⿰女酓、一曰、含レ怒皃。㊅**うつくしい**。㊄の❶に同じ。〔集韻〕⿰女酓、美也。㊆**したふ**。媕（3−6505）に同じ。〔集韻〕媕、女有レ心媕媕、或从レ酓。

【⿰女属】 6684　ショク　⿰女屬（3−6919）の俗字。〔正字通〕⿰女属、俗⿰女屬字。

【⿰女堂】 6685　タウ　⿰女唐（3−6616）に同じ。〔集韻〕⿰女唐、或从レ堂。

【⿱斬女】 6686　㊀サン ザン　〔集韻〕財甘切　覃　㊁セン　〔集韻〕七鹽切　鹽

㊀**女の名**。〔集韻〕⿱斬女、女名。㊁**美しいさ**

ま。 嬮⿱斬女。〔集韻〕⿱斬女、嬮⿱斬女、美皃。

【媊】 6687 セン 媊（**3－6486**）の本字。〔正字通〕媊、本作レ媊。

【⿰女崩】 6688 ハウ ヒヤウ 〔集韻〕悲萠切 [庚]

つつしむ。〔集韻〕⿰女崩、謹也。

【嫬】 6689 サイ スイ 〔集韻〕蘇回切 [灰]

女のあざな。〔集韻〕嫬、女字。

【⿰女從】 6690 シヨウ シユ 〔集韻〕七恭切 [冬]

女のあざな。〔集韻〕⿰女從、女字。

【⿸麻女】 6691 バ マ 〔集韻〕眉波切 [歌]

❶**女の美稱。**〔集韻〕⿸麻女、女美稱。❷[佛]**佛の名。**〔篇海類編〕⿸麻女、⿸麻女尼。

【⿰女巢】 6692 サウ ゼウ 〔集韻〕鋤交切 [肴]

女のあざな。〔集韻〕⿰女巢、女字。

【⿰女悤】 6693 イ 〔篇海類編〕音意

すなほ。 嫂⿰女悤。〔篇海類編〕嫂⿰女悤、柔順也。

【⿰女婁】 6694 [一]リユ ル 〔集韻〕隴主切 [麌] [二]ロウ ル 〔集韻〕郎侯切 [尤]

[一]❶**欲深い女。**〔集韻〕⿰女婁、婦無レ廉也。❷**女の惡稱。**〔廣韻〕⿰女婁、女人惡稱。[二]**女のあざな。**〔集韻〕⿰女婁、女字。

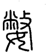
【⿰女悉】 6695 シツ 義未詳。〔篇海類編〕⿰女悉、音悉、俗用。

【⿰女咠】 6696 セイ 婿（**3－6470**）に同じ。〔奚韻〕⿰女咠、同レ婿。

【⿰女宨】 6697 テウ 窱（**8－25649**）に同じ。〔篇海類編〕⿰女宨、同レ窱。

十二畫

【嫳】 6698 ヘツ ヘチ 〔集韻〕匹蔑切 [屑]

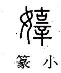

小篆

❶**怒らせ易い。**〔說文〕嫳、易レ使レ怒也、从レ女敝聲、讀若二嫳撆一。❷**いかる。**〔廣雅、釋詁二〕嫳、怒也。❸**かるいさま。**〔廣韻〕嫳、輕薄之皃。〔集韻〕嫳、輕也。

【嫳屑】1 ヘツセツ やすらかなさま。又、衣の裾のひらひらするさま。徶循。〔漢書、司馬相如傳上〕便姗嫳屑、與レ世殊レ服。〔注〕師古曰、言二其行步安詳、容服絕異一也。〔司馬相如、上林賦〕便姗嫳屑、與レ俗殊レ服。〔注〕善曰、郭璞曰、衣服婆娑貌。

【⿰女敝】 6699 ヘツ 嫳（**3－6698**）に同じ。〔篇海類編〕⿰女敝、同レ嫳。

【嫴】 6700 コ ク 〔集韻〕攻乎切 [虞]

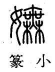

小篆

❶**まかせる。** あづける。〔說文〕嫴、保任也、从レ女辜聲。❷**しばらく。** かりそめ。姑（**3－6174**）に通ず。〔廣雅、釋詁三〕嫴、且也。〔疏證〕嫴、通レ姑。❸**はかる。すべる。**〔廣雅、釋言〕嫴、榷也。❹賈（**10－36755**）に通ず。〔說文通訓定聲〕嫴、叚借爲レ賈。

【嫴榷】1 コカク すべて。皆。合計。〔廣雅、釋訓〕嫴榷、都凡也。〔疏證〕嫴榷、猶二揚搉一也、云云、或作二辜較一。

【嫴媮】2 コトウ かりそめ。苟且。姑偸。〔廣雅、釋詁〕嫴媮、且也。〔疏證〕嫴、通作レ姑、媮、通作レ偸。

【嫵】 6701 ブ ム 〔集韻〕罔甫切 ㄨˇ wu³ [麌]


小篆

❶**こびる。** もと、⿰女橆に作る。〔說文〕⿰女橆、媚也、从レ女橆聲。❷**みめよい。**〔廣雅、釋詁一〕嫵、好也。❸或は娬（**3－6361**）に作る。〔集韻〕嫵、或从レ武。〔司馬相如、上林賦〕嫵媚孅弱。〔史記、司馬相如傳〕娬媚姌嫋。

【嫵媚】1 ブビ なまめきこびる。みめよい。愛らしい姿態。妍美なさま。娬媚。〔釋名、釋形體〕眉、媚也、有二嫵媚一也。〔玉篇〕媚、嫵媚也。〔史記、司馬相如傳、娬媚姌嫋、注〕索隱曰、通俗文曰、頰輔謂二之嫵媚一。〔漢書、司馬相如傳上〕嫵媚孅弱。〔王先謙補注〕埤蒼曰、嫵媚、悅也。〔陶潛、閑情賦〕神儀嫵媚。〔唐書、魏徵傳〕帝大笑曰、人言、徵擧動疏慢、我但見二其嫵媚一。〔宋璟、梅花賦〕或嫵媚如二人君一。

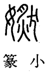
【嫵媚娘】2 ブビヂヤウ 歌曲の名。〔資治通鑑、唐紀〕中宗、景龍二年、天下歌二嫵媚娘一。〔注〕永徽後、民歌二嫵媚娘曲一、蓋隋時已有二此曲一矣。

【嫵媚風流】3 wu³ mei⁴ fêng¹ liu² なまめいてみづみづしい。〔紅樓夢、九回〕只因生得嫵媚風流、滿學中都送了他兩個外號。

【⿱稍女】 6702 サウ セウ 〔集韻〕師交切 [肴]

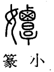
あね。 娋（**3－6284**）に同じ。〔廣韻〕⿱稍女、齊人呼レ姊。〔集韻〕娋、博雅、娋孟、姊也、或从レ稍。

【⿰女然】 6703 [一]ゼン ネン 〔集韻〕如延切 [先] [二]セン 〔集韻〕矢善切 [銑] [三]ゼン ネン 〔集韻〕忍善切 [銑] [四]デン ネン 〔集韻〕乃見切 [霰]


小篆

[一]**姓。**〔說文〕⿰女然、人姓也、从レ女然聲。〔桂注〕姓苑、蒼梧有二⿰女然氏一。[二][三][四]❶**女の姿態。**〔廣韻〕⿰女然、女姿態。〔集韻〕⿰女然、姿也。❷**姓。**[一]に同じ。〔集韻〕⿰女然、亦姓。

【⿰女覃】 6704 [一]デン ネン 〔集韻〕乃玷切 [琰] [二]シン 〔集韻〕式荏切 [寢] [三]シン 〔集韻〕式禁切 [沁] [四]タン ダン 〔集韻〕徒南切 [覃] [五]タン ダン 〔集韻〕徒感切 [感] [六]テン 〔集韻〕他點切 [琰]


小篆

[一][二][三]**いやしい。** もと、⿰女覃に作る。〔正字通〕⿰女覃、篆作レ⿰女覃。〔說文〕⿰女覃、下志貪頑也、从レ女覃聲、讀若レ深。[四]**女のあざな。**〔集韻〕⿰女覃、女字。[五]**女の名。**〔集

韻〕嫸、女名。[六]**婦人のすらりとしたさま。**〔集韻〕婦、婦人細長皃。

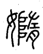
【嫶】6705 セウ ゼウ 〔集韻〕慈焦切 [蕭]

❶**やつれる。**うれへる。憔(**4－11213**)に同じ。〔集韻〕憔、憔悴、憂患也、或从レ女。❷**女のあざな。**〔集韻〕嫶、女字

【嫶妍】1 セウケン やつれる。嫶冥。〔漢書、外戚上、李夫人傳〕嫶妍太息、嘆二稚子一兮。〔注〕晉灼曰、三輔謂二憂愁面省瘦一曰二嫶冥一、嫶冥、猶二嫶妍一也。

【嫶冥】2 セウメイ やつれる。嫶妍を見よ。〔駢雅、釋訓下〕嫶冥、瘠也。

【嫷】6706 [一]タ 〔集韻〕吐火切 [哿] [二]タ 〔集韻〕吐臥切 [箇]


小篆

[一][二]❶**みめよい。うつくしい。**〔説文〕嫷、南楚之外、謂レ好曰レ嫷、从レ女憜省聲。〔説文通訓定聲〕按、媠當レ爲二此字之或體一、方言二、嫷、美也、南楚之外曰レ嫷、通俗文、形美曰レ嫷。〔方言、二〕嫷、美也。❷或は媠(**3－6525**)に作る。〔集韻〕嫷、或省。

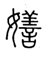
[參考] 熟語は媠(**3－6525**)を見よ。

【𡣍】6707 タ ダ 〔集韻〕徒臥切 [箇]

❶**おこたる。**憜(**4－11225**)に同じ。〔集韻〕憜、懈也、亦作レ𡣍。❷**鳥の名。**𡣍羿(1)を見よ。

【𡣍羿】1 ダケイ 鳥の名。こふのとり。〔爾雅、釋鳥〕鸛鷒鶝鶔、注〕一名𡣍羿。〔疏〕𡣍、案、字書云、古以爲二懈惰字一、羿、古之善レ射者、此言下鳥捷勁雖二羿之善射一、亦懈惰不中敢射上也、故以名云、郭圖讚云、鸛鷒之鳥、一名𡣍羿。

【𡢃】6708 セン 〔集韻〕旨善切 [銑]

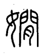

小篆

❶**いひ紛らす。**〔説文〕𡢃、好枝二格人語一也、从レ女善聲。〔段注〕謂、不レ欲二人語一而言レ他、以枝二格之一也。❷**はづかしめる。**〔説文〕𡢃、一曰、靳也。❸**かたくな。**〔廣韻〕𡢃、偏枝。

【嫹】6709 [一]バウ メウ 〔字彙〕莫交切 [肴] [二]バウ メウ 〔字彙〕莫巧切 [巧]

[一][二]**みめよいさま。**〔字彙〕嫹、美好貌。

【嫺】6710 カン ゲン 〔集韻〕何閒切 [刪] ㄒㄧㄢˊ hsien²


小篆

❶**みやびやか。**しとやか。〔説文〕嫺、嫺雅也、从レ女閒聲。❷**しづか。**おちつく。〔後漢書、馬援傳〕辭言嫺雅。〔注〕嫺雅、猶二沈靜一也。❸**ならふ。**摜(**5－12591**)に通ず。〔説文通訓定聲〕嫺、叚借爲レ摜、今用爲二嫺習字一。〔正字通〕嫺、習也。〔史記、屈原傳〕嫺二于辭令一。❹閑(**11－41247**)に通ず。〔史記、司馬相如傳〕妖冶嫺都。〔注〕索隱曰、嫺、漢書本作レ閑。〔漢書、司馬相如、上林賦〕妖冶嫺都。〔注〕善曰、嫺、雅也、或作レ閑。❺或は嫻(**3－6711**)に作る。〔集韻〕嫺、或从レ閑。

【嫺雅】1 カンガ みやびやか。しとやか。優雅。閒雅。〔史記、司馬相如傳上〕相如之二臨邛一、從二車騎一、雍容嫺雅甚都。〔後漢書、馬援傳〕能二矩步一、辭言嫺雅。〔注〕嫺雅、猶二沈靜一也。

【嫺雅山房】2 カンガサンバウ 清、詹肇堂(**10－35458・・59**)の室名。

【嫺卿】3 カンケイ 清、孫雲鵬(**3－6987・・329**)の號。

【嫺習】4 カンシフ ならふ。熟練する。〔資治通鑑、漢紀、光武帝建武二十五年〕辭言嫺雅、注〕賢曰、余謂、嫺、習也、屈原傳、嫺二於辭令一。

【嫺熟】5 カンジユク 熟達する。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕嫺熟者記レ簿、賞レ錢飲レ酒。

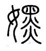
【嫺都】6 カント みやびやか。うつくしい。風流。嫺雅。〔司馬相如、上林賦〕妖冶嫺都。〔注〕善曰、說文曰、嫺、雅也、或作レ閑、小雅曰、都、盛也。

【嫺麗】7 カンレイ みやびやかでうるはしい。〔論衡、定賢〕骨體嫺麗、面色稱媚。

【嫻】6711 カン

嫺(**3－6710**)に同じ。〔集韻〕嫺、或从レ閑。

【嫼】6712 [一]ボク モク 〔集韻〕密北切 [職] [二]コク 〔集韻〕迄得切 [職] [三]アツ エチ 〔集韻〕乙黠切 [黠]


小篆

[一]❶**怒るさま。**〔説文〕嫼、怒皃、从レ女黑聲。❷或は嫼(**3－6855**)に作る。〔集韻〕嫼、或不レ省。[二]**いかるさま。**[一]の❶に同じ。〔集韻〕嫼、說文、怒也。〔字彙〕嫼、怒貌。[三]**ねたみ怒る。**〔集韻〕嫼、嫉而怒也。

【𡣂】6713 [一]ホク 〔集韻〕博木切 [屋] [二]フク 〔集韻〕方六切 [屋] [三]ボク ホク 〔集韻〕蒲沃切 [沃]

[一][二][三]**女のあざな。**〔集韻〕𡣂、女字、昌意娶二蜀山氏女一、曰二昌𡣂一。

【嬁】6714 ソウ 〔集韻〕咨騰切 [蒸]

女のあざな。〔集韻〕嬁、女字。

【𡣕】6715 [一]セイ サイ 〔集韻〕先齊切 [齊] [二]シ 〔集韻〕相支切 [支]

[一]**女のさま。**〔集韻〕𡣕、女皃。[二]**女のあざな。**〔集韻〕𡣕、女字。

【𡢻】6716 バイ メ 〔集韻〕莫佳切 [佳]

わるがしこい。小ざかしい。〔集韻〕𡢻、意黠也。

【嫽】6717 [一]レウ 〔集韻〕憐蕭切 [蕭] ㄌㄧㄠˊ liao² [二]レウ 〔集韻〕朗鳥切 [篠] [三]レウ 〔集韻〕力弔切 [嘯] [四]ラウ 〔正字通〕音老 [晧]

小篆

[一]❶**女のあざな。**もと嫽に作る。〔正字通〕嫽、篆作レ嫽。〔説文〕嫽、女字也、从レ女尞聲。❷**たはむれる。**〔廣韻〕嫽、相嫽戲也。〔集韻〕嫽、一曰、相戲。[二]❶**みめよい。又、たはむれる。**僚(**1－1100**)に同じ。〔集韻〕僚、說文、好皃、一曰、戲也、或作レ嫽。〔方言、二〕釥、嫽、好也、青徐海岱之閒曰レ釥、或謂二之嫽一。❷**みだれる。**〔廣雅、釋詁二〕嫽、嬈也。❸**さとい。**〔漢書、西域傳下〕楚主侍者馮嫽、能二史書一、習レ事。〔注〕師古曰、嫽者、慧也、故以爲レ名。[三]**みめよい。**[二]の❶に同じ。〔集韻〕嫽、好也、方言、青徐之閒曰レ嫽。[四]**母方の祖母。**嫽嫽(4)を見よ。

【嫽戲】1 レウギ たはむれる。〔廣韻〕嫽、相嫽戲也。

【嫽釥】2 レウセウ かほよい。みめよい。〔方言、二〕釥、嫽好也、青徐海岱之閒曰レ釥、或謂二之嫽一。〔注〕今通呼二小姣潔喜好者一爲二嫽釥一。〔戴震疏證〕按、釥、亦作レ俏。

【嫽妙】3 レウメウ 美しくたへなるさま。〔傅毅、舞賦〕貌嫽妙以妖蠱兮。〔注〕善曰、毛萇詩傳曰、嫽、好貌。

【嫽嫽】4 ラウラウ 母方の祖母。外祖母。〔正字通〕嫽、北人呼二外祖母一爲二嫽嫽一。

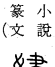
【嫾】6718

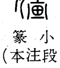
レン 〔集韻〕靈年切 先

女のあざな。〔集韻〕嫾、女字。

【嫿】6719

クヮク ワク 〔集韻〕胡麥切 陌 ㄏㄨㄚˋ hua^4


小篆（說文）


小篆（段注本）

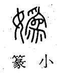
❶**しとやか。**〔說文〕嫿、靜好也、从レ女畫聲。❷**みめよい。**うつくしい。〔廣韻〕嫿、分明好皃。❸**勇む。おごる。ほこる。**〔左思、魏都賦〕風俗以二韰慓一爲レ嫿。〔注〕善曰、應劭曰、韰、狹也、方言曰、慓、勇也、良曰、言、風俗以二狹劣果勇一爲レ好。❹**走るさま。**〔後漢書、馬融傳〕徽嫿霍奕、別騖分奔。〔注〕嫿、奔馳貌。

【嬀】6720

[一]キ 〔集韻〕俱爲切 支 ㄍㄨㄟ kuei^1

[二]キ 〔集韻〕居僞切 寘

慣ギ


小篆

[一]❶**川の名。**嬀水(5)を見よ。❷**州の名。**〔集韻〕嬀、亦州名。❸**姓。**〔說文〕嬀、虞舜居二嬀汭一、因㠯爲レ氏、从レ女爲聲。〔史記、陳杞世家〕舜爲二庶人一、堯妻二之二女一、居二於嬀汭一、後因爲レ氏。[二]❶**わるがしこい。**〔方言、十二〕嬀、僈也。〔注〕爛僈、健狡也。❷或は僞(**1－1105**)に作る。〔集韻〕嬀、或从レ人。

【嬀皓】1 ギカウ ❶後漢の人。國典に明達してゐたので、桓帝の末、朝に薦められ尙書郎に至る。〔後漢書、九十九〕。❷晉、餘杭の人。字は完起。父の昆が南郡の太守であつたが、劾せられて獄に入つた時、皓は年十六、石を懷にして公卿に至り、石を出し地に置きて叩頭し、遂に父の罪を救ふことが出來た。

【嬀墟】2 ギキヨ 地名。❶陝西省安康縣の西北。〔水經、沔水注〕世本曰、舜居二嬀汭一、在二漢中西城縣一、或言、嬀墟在二西北一、舜所レ居也、或作二姚虛一。❷陝西省城固縣の西北。舜の居と傳へる。〔後漢書、郡國志五〕成固、嬀墟在二西北一。〔城固縣志〕在二縣西北二十里一、其地有二二井一、一苦一甘、名曰二雙井一、相傳爲二舜所一レ居。

【嬀州】3 ギシウ 州の名。唐、置く。漢の上谷郡の地、今の河北省懷來縣の境。〔讀史方輿紀要、直隸〕延慶州、禹貢冀州地、春秋戰國、皆爲二燕地一、秦屬二上谷郡一、二漢因レ之、云云、唐初爲二高開道所一レ據、武德七年平、亦置二北燕州一、貞觀八年、改置二嬀州一、天寶初、曰二嬀川郡一。

【嬀昌】4 ギシヤウ 漢の人。王莽の始建國の初、始睦侯に封ぜられ、虞帝の後を奉嗣した。〔前漢書、九十九中〕。

【嬀水】5 ギスイ 川の名。❶河北省涿鹿縣の西南。古の潘泉。〔水經、㶟水注〕潘泉故瀆、瀆舊上承二潘泉于潘城中一、或云、舜所レ都也、云云、其泉從廣十數步、東出レ城注二協陽關水一、雨盛則通注、陽旱則不レ流、惟洴泉而已。❷山西省永濟縣の南。嬀汭を見よ。❸中央亞細亞のアム河。故吐火羅國の北。〔讀史方輿紀要、陝西、附考、撒馬兒罕〕嬀水、在二吐火羅北一、源出二葱嶺一、西南流入二於西海一、其水深廣、長千餘里、遠近諸水匯入焉、亦名二烏野河一。

【嬀汭】6 ギゼイ 嬀水の汭。汭は水のくま。嬀水は山西省永濟縣の南、源を歷山に發し西流して黃河に入る。潙汭にも作る。書經、堯典に、二女を嬀汭に釐め降すといふ地。水經注は潙水・汭水の二川とし、孔安國は嬀水の內に居るといひ、王肅は虞の地名といふ。〔書、堯典〕釐二降二女于嬀汭一、嬪二于虞一。〔傳〕舜爲二匹夫一、能以二義理一下二帝女之心於所一レ居嬀水之汭、使レ行二婦道於虞氏一。〔釋文〕汭、水之內也、杜預注二左傳一云、水之隈曲曰レ汭。〔疏〕嬀水在二河東虞鄕縣歷山西一、西流至二蒲坂縣一、南入二於河一、舜居二其旁一。〔水經、河水注〕郡南有二歷山一、謂二之歷觀一、舜所レ耕處也、有二舜井一、嬀汭二水出焉、南曰二嬀水一、北曰二汭水一、西逕二歷山下一、上有二舜廟一、周處風土記曰、舊說舜葬二上虞一、又記云、耕二于歷山一、而始寧剡二縣界上、舜所レ耕二田于山下一、多二柞樹一、吳越之閒、名レ柞爲レ櫪、故曰二歷山一、余按、周處此志、爲レ不レ近レ情、傳レ疑則可、證レ實非矣、安可下假二木異名一附二山殊稱一、彊中引大舜上、卽比二甯壤一、更爲下失二誌記之本體一、差中實錄之常經上矣、歷山嬀汭、言レ是則安、于レ彼乖矣、尙書所謂釐二降二女于嬀汭一也、孔安國曰、居二嬀水之內一、王肅曰、嬀汭虞地名、皇甫謐曰、納二二女于嬀水之汭一、馬季長曰、水所レ出曰レ汭、然似レ非二水名一、而今見下有二二水異レ源同レ歸、渾流西注入中于河上。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、蒲州、涑水〕潙汭水、在二州南百里一、志云、歷山下有二二泉一、名二潙汭一、東西相距二里、南流爲レ潙、北流爲レ汭、異レ源同レ歸、西注二於河一、卽堯釐二降二女一處。

【嬀川】7 ギセン 川の名。河北省延慶縣の東北に源を發し、西流して桑乾河に入る。古の清夷水。〔讀史方輿紀要、直隸、延慶州〕嬀川、州東十五里、自二永甯縣一流入レ界、一名二東川一、宋淳化二年、契丹主隆緒至二儒州一、獵二於東川一、卽此、西流至二懷來城東南一、又西流至二保安州境一、入二於桑乾河一、俗名二清水河一、志云、嬀川卽古之阪泉、今名二韓家川一、與二天壽山一咫尺、其地可レ屯二十萬衆一、設レ險處也。

【嬀娗】8 ギテイ あなどる。〔方言、十二〕嬀娗、僈也。

【嬀蜼子】9 ギヰシ 明、王彝(**7－20823‥9**)の號。

【嬁】6721

トウ 〔集韻〕都騰切 蒸

美女のさま。〔集韻〕嬁、美女皃。

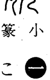
【嬂】6722

シヨク シキ 〔集韻〕質力切 職

女のあざな。〔集韻〕嬂、女字。

【嬃】6723

シユ ス 〔集韻〕詢趨切 虞 ㄒㄩ hsü^1


小篆

❶**女のあざな。**もと須(**3－6724**)に作る。〔正字通〕嬃、說文作レ須。〔說文〕須、女字也、从レ女須聲、楚詞曰、女須之嬋媛。❷**あね。**〔說文〕嬃、賈侍中說、楚人謂レ姊爲レ嬃。〔楚辭、離騷〕女嬃之嬋媛兮。〔注〕女嬃、屈原姊也。

【須】6724

シユ 嬃(**3－6723**)に同じ。〔字彙〕須、同レ嬃。

【嬠】6725

サイ 〔集韻〕祖外切 泰

女のあざな。〔集韻〕嬠、女字。

【嬄】6726

イツ イチ 〔集韻〕益悉切 質

婦人のさま。嬄嫛。〔集韻〕嬄、嬄嫛、婦人皃。

【嫛】 6727

㊀ヱツ ヲチ 〔集韻〕於月切 月

㊁ケツ クヮチ 〔集韻〕丘月切 月

㊀❶**肥えたさま。**〔玉篇〕嫛、嫛肥皃。❷**婦人のさま。**嬄嫛。〔集韻〕嬄、嬄嫛、女皃。❸或は⿰女厥(3―6728)に作る。〔集韻〕嫛、或書作㆑⿰女厥。㊁**女のさま。**㊀の❷に同じ。〔集韻〕嫛、嬄嫛、女皃。

【⿰女厥】 6728

ケツ

嫛(3―6727)に同じ。〔篇海類編〕⿰女厥、同㆑嫛。

【⿰女朁】 6729

㊀サン 〔集韻〕祖含切 覃

㊁サン 〔集韻〕七感切 感

㊀**女のあざな。**〔集韻〕⿰女朁、女字。㊁**むさぼる。**⿰女參(3―6654)に同じ。〔集韻〕⿰女參、說文、婪也、或从㆑朁。

【嬅】 6730

クヮ ゲ 〔集韻〕胡化切 禡

❶**女の名。**〔集韻〕嬅、女名。❷**女の容姿の美しいこと。**〔正字通〕嬅、女容麗也。

【⿰女尋】 6731

シン ジン 〔集韻〕徐心切 侵

女の名。〔集韻〕⿰女尋、女名。

【嬆】 6732

キフ コフ 〔集韻〕迄及切 緝

❶**おごそか。**〔廣韻〕嬆、莊嚴。❷**女の氣だての清いこと。**〔集韻〕嬆、女性淨。

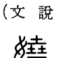
【嬇】 6733

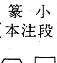
㊀クヮイ グヮイ 〔集韻〕胡對切 隊

㊁クヮイ ケ 〔集韻〕苦怪切 卦

㊀㊁**女のあざな。**〔集韻〕嬇、女字、一曰、女嬇、陸終氏妻。

【嬈】 6734


小篆(說文)


小篆(段注本)

㊀デウ ネウ 〔集韻〕乃了切 篠

㊁ゼウ ネウ 〔集韻〕爾紹切 篠

㊂デウ ネウ 〔集韻〕褭聊切 蕭 ㄖㄠˊ jao²

㊃ダウ ネウ 〔集韻〕女教切 效

㊄エウ 〔集韻〕伊鳥切 篠

㊅ケウ 〔集韻〕馨叫切 嘯

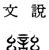
㊀❶**わづらはしい。**〔說文〕嬈、苛也、从㆑女堯聲。〔段注〕苛者、小艸也、引伸爲㆓瑣碎之偁㆒。〔一切經音義、八〕嬈、煩也。〔漢書、鼂錯傳〕除㆑苛解㆑嬈。〔注〕文穎曰、嬈、煩繞也。❷**なやむ。**〔一切經音義、八〕嬈、惱也。❸**たはむれる。なぶる。**嬲(3―6831)に同じ。〔說文〕嬈、戲弄也。〔段注〕按、嬲、乃嬈之俗字、故許不㆑錄。〔一切經音義、四〕嬈、弄也。〔廣雅、釋詁二〕嬈、戲也。〔嵆康、與㆓山巨源㆒絕㆑交書、足下若嬲㆑之不㆑置、注〕善曰、嬲、擿嬈也、音義與㆑嬈同。❹**みだす。みだれる。**〔說文〕嬈、一曰、擾也。❺**あでやか。**〔說文〕嬈、一曰、嬥也。㊁**みだす。**㊀の❹に同じ。〔集韻〕嬈、亂也。㊂❶**わづらはしい。**㊀の❶に同じ。〔集韻〕嬈、煩也。❷**願はない。**好まない。〔集韻〕嬈、一曰、心不㆑欲也。㊃**よわい。**なよなよとする。〔廣雅、釋詁一〕嬈、弱也。㊄**美しいさま。**偠(1―869)に同じ。〔集韻〕偠、偠⿰亻褭、美皃、或从㆑女、从㆑幼、从㆑堯。㊅**あはれみがない。**いつくしまぬ。〔集韻〕嬈、不仁也。

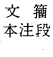
【嬈嬈】1 エウエウ 弱々しく美しいさま。〔王褒、洞簫賦〕優嬈嬈以婆娑。〔注〕善曰、嬈嬈、柔弱也、翰曰、嬈嬈、柔雅貌。

【嬈惱】2 ゼウナウ ネウナウ わづらひなやむ。煩惱。〔大法句經偈〕垂拱無爲、不㆑害㆓衆生㆒、無㆑所㆓嬈惱㆒、是爲㆓梵行㆒。

【⿰女𤔔】 6735

小篆


籀文(說文)


籀文(段注本)

㊀レン 〔集韻〕力轉切 銑

㊁ラ 〔集韻〕盧戈切 歌

㊂ラン 〔集韻〕盧玩切 翰

㊀㊁❶**すなほ。**したがふ。或は孌(3―6912)・⿱𤔔女(3―6790)に作る。〔說文〕⿰女𤔔、順也、从㆑女𤔔聲、詩曰、婉兮⿰女𤔔兮、孌、籒文⿰女𤔔。〔段注〕齊風甫田、曹風候人、今毛詩作㆑孌。〔廣韻〕⿰女𤔔、從也。〔集韻〕⿰女𤔔、或作㆓孌・⿱𤔔女㆒。❷或は⿰女䜌(3―6914)に作る。〔集韻〕⿰女𤔔、亦書作㆑⿰女䜌。㊂**わづらはしい。**⿰𤔔攴(5―13380)に同じ。〔集韻〕⿰𤔔攴、說文、煩也、或从㆑女。

【嬉】 6736

㊀キ 〔集韻〕虛其切 支 ㄒㄧ hsi¹

㊁キ 〔集韻〕許已切 紙

㊂キ 〔集韻〕許記切 寘

㊀❶**たはむれる。**〔方言、十〕江沅之間、謂㆑戲爲㆑婬、云云、或謂㆓之嬉㆒。〔廣雅、釋詁三〕嬉、戲也。❷**たのしむ。**うれしい。よろこぶ。〔張衡、歸田賦〕追㆓漁夫㆒同嬉。〔注〕善曰、嬉、樂也。❸**あそぶ。**〔華嚴經音義、下〕嬉、遊也。❹**おこす。**〔論語摘輔像〕隕邱受㆓延嬉㆒。〔注〕嬉、興也。❺**うつくしい。**〔廣韻〕嬉、美也。❻通じて娭(3―6341)に作る。〔集韻〕嬉、通作㆑娭。㊁**女のあざな。**〔集韻〕嬉、末嬉、夏桀妃字。㊂**うつくしい姿。**〔集韻〕嬉、美姿也。

〔參考〕 僖(1―1095)と同字といふ說がある。〔說文〕僖、樂也。〔段注〕此字之本義少㆑用、其隸變爲㆑嬉。

【嬉怡】1 キイ たのしみよろこぶ。〔唐書、李義府傳〕義府貌柔恭、與㆑人言、嬉怡微笑。

【嬉游】2 キイウ たのしみあそぶ。又、たはむれあそぶ。嬉遊。遊嬉。〔禰衡、鸚鵡賦〕才聰明以識㆑機、故其嬉㆓遊高峻㆒。〔曹植、七啓〕倚㆓峻崖㆒而嬉游。〔嵆康、琴賦〕不㆑能㆓與㆑之嬉游㆒。

【嬉游笑覽】3 キイウセウラン 書名。十二卷。喜多村信節（ノブヨ）編。我が國古今の文物風俗の資料を考證集輯してある。

【嬉遨】4 キガウ たのしみあそぶ。〔蘇軾、送㆓李公恕赴㆑闕詩㆒〕我頃分㆑符在㆓東武㆒、脫㆓略萬事㆒惟嬉遨。

【嬉嬉】5 キキ よろこび笑ふさま一說に、おごつて得意に笑ふさま。嘻嘻。喜喜。〔易、家人〕婦子嘻嘻、終吝。〔釋文〕馬云、笑聲、鄭云、騎佚喜笑之意、張作㆓嬉嬉㆒、陸作㆓喜喜㆒。〔疏〕嘻嘻、喜笑之貌也。

【嬉戲】6 キギ あそびたはむれる。游戲。〔史記、孔子世家〕孔子爲㆑兒、嬉戲常陳㆓俎豆㆒。〔史記、律書〕游敖嬉戲、如㆓小兒狀㆒。〔古詩、爲㆓焦仲卿妻㆒作〕初七及下九、嬉戲莫㆓相忘㆒。〔說苑、脩文〕棄㆓幼少嬉戲惰慢之心㆒。〔蜀志、許慈傳〕酒酣樂作、以爲㆓嬉戲㆒。

【嬉玩】7 hsi¹ wan² 遊び戲れる。

【嬉娛】8 キゴ たのしむ。たのしい。嬉戲娛樂。〔吳

志、孫和傳〕夫人情猶不能無嬉娛。〔潘岳、爲賈謐作贈陸機詩〕嬉娛絲竹、撫鞞舞韶。

【嬉要】9 hsi¹ shua³ あそびたはむれる。

【嬉翔】10 キシャウ たはむれとぶ。〔晉書、慕容皝載記〕二龍交首嬉翔、解角而去、皝大悅、還宮、赦其境內。

【嬉笑】11 キセウ たはむれ笑ふ。〔魏書、崔光傳〕因其所眄增發嬉笑。

【嬉笑怒罵皆爲文章】12 キセウドバミナブンシャウヲナス 平生たはむれ笑つたり怒りののしつたりするやうなかりそめの言動も皆美しい詩文となる。宋の黃庭堅が蘇軾を贊した語。〔宋史、蘇軾傳〕（蘇軾）嘗自謂、作文如行雲流水、初無定質、但常行於所當行、止於所不可不止、雖嬉笑怒罵之辭、皆可書而誦之。〔黃庭堅、東坡先生眞贊〕嬉笑怒罵皆爲文章、解羈而歸紫微玉堂。

【嬉樂】13 キラク よろこびたのしむ。〔星經〕輦道五星、屬織女四足、主天子游宮嬉樂之道。

【嬃】6737

エン 嬿(**3－6874**)に同じ。〔字彙〕嬃、同嬿。

【嬋】6738

セン ゼン 〔集韻〕時連切 ㄔㄢˊ ch'an² 先

小篆

❶**姿態のあでやかなさま。**しながある。嬋娟。〔說文新附〕嬋、嬋娟、態也、从女單聲。❷**ひきつながる。**嬋媛(6)の❶を見よ。❸**みうち。**やから。嬋連(8)を見よ。❹又、嬗(**3－6771**)に作る。〔集韻〕嬋、亦作嬗。

【嬋娟】1 センエン センケン ❶姿のあでやかに美しいさま。〔張衡、西京賦〕增嬋娟以此豸。〔注〕綜曰、嬋娟此豸、姿態妖蠱也。〔成公綏、嘯賦〕蔭脩竹之嬋娟。〔左思、吳都賦〕檀欒嬋娟、玉潤碧鮮。〔江淹、丹砂可學賦〕女嬋娟兮可觀。〔杜荀鶴、春宮怨詩〕早被嬋娟誤、欲妝臨鏡慵。〔孟郊、嬋娟篇〕花嬋娟泛春泉、竹嬋娟籠曉煙、妓嬋娟不長妍、月嬋娟眞可憐。❷ひきつながるさま。嬋媛(6)の❶に同じ。〔江淹、去故鄉賦〕情嬋娟而未罷、愁爛漫而方滋。

【嬋娟媚】2 センケンビ つつじ。躑躅。〔花曆百詠〕嬋娟媚、嬋娟榴也、俗謂川鵑。

【嬋娟榴】3 センケンリウ つつじ。嬋娟媚を見よ。

【嬋娟兩鬢秋蟬翼】4 センケンタルリヤウビンハシウゼンノヨク 美しい二つの鬢は秋蟬の翼のやうである。美人の髮の形容。〔白居易、新樂府、井底引銀瓶〕井底引銀瓶、銀瓶欲上絲繩絕、石上磨玉簪、玉簪欲成中央折、瓶沈簪折知奈何、似妾今朝與君別、憶昔在家爲女時、人言擧動有殊姿、嬋娟兩鬢秋蟬翼、宛轉雙蛾遠山色、笑隨戲伴後園中、此時與君未相識、妾弄青梅憑短牆、君騎白馬傍垂楊、牆頭馬上遙相顧、一見知君卽斷腸、知君斷腸共君語、君指南山松柏樹、感君松柏化爲心、暗合雙鬟逐君去、到君家舍五六年、君家大人頻有言、聘則爲妻奔是妾、不堪主祀奉蘋蘩、終知君家不可住、其奈出門無去處、豈無父母在高堂、亦有親情滿故鄉、潛來更不通消息、今日悲羞歸不得、爲君一日恩、誤妾百年身、寄言癡小人家女、愼勿將身輕許人。

【嬋嫣】5 センエン 連なるさま。嬋媛に同じ。

【嬋媛】6 センエン ❶ひきつながるさま。心をひかれること。〔楚辭、離騷〕女嬃之嬋媛兮、申申其詈予。〔注〕嬋媛、猶牽引也。〔補注〕一作撣援。〔楚辭、九歌、湘君〕女嬋媛兮爲余太息。〔注〕嬋媛、猶牽引也、云云、女嬃牽引而責數之、爲己太息悲毒、欲使屈原改性易行、隨風俗也。〔楚辭、九章、悲回風〕依風穴以自息兮、忽傾寤以嬋媛。〔注〕心覺自傷、又痛惻也。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕心嬋媛而無告兮。〔注〕言己愁思、心中牽引而痛、無所告語。〔江淹、橫吹賦〕美人戀而嬋媛。❷枝と枝とがひきつらなるさま。枝の互につながるさま。〔廣韻〕媛、嬋媛、枝相連引。〔張衡、南都賦〕結根竦本、垂條嬋媛。〔注〕善曰、嬋媛、枝相連引也。❸美しいさま。嬋娟(1)の❶に同じ。〔後漢書、文苑下、邊讓傳〕形便娟以嬋媛兮、若流風之靡草。

【嬋妍】7 センケン 容貌の美しくあでやかなさま。〔剪燈餘話、洞天花燭記〕休退宴玳瑁殿、歌舞嬋妍。

【嬋連】8 センレン 親族のつづきあひ。みうち。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕云余肇祖于高陽兮、惟楚懷之嬋連。〔注〕嬋連、族親也。

【嬋聯】9 センレン 續いて絕えぬさま。〔李仲璇、脩孔子廟碑〕仰聖儀之煥爛兮、嘉鴻業之嬋聯。

【嬌】6739

㊀ケウ 〔集韻〕居妖切 ㄐㄧㄠ chiao¹ 蕭
㊁ケウ 〔集韻〕擧夭切 篠
㊂ゲウ 〔集韻〕渠嬌切 蕭

小篆

㊀㊁㊂❶**みめよい。**あでやかなさま。姣(**3－6214**)に通ず。〔說文新附〕嬌、姿也、从女喬聲。〔說文新附考〕嬌、通亦作姣。〔一切經音義、九〕姣、古文嬌、同。〔玉篇〕嬌、姿也。〔廣韻〕嬌、態也。〔增韻〕嬌、妖嬈也。❷**なまめく。なまめかしい。**❸**かあいい。あいけう。**〔王筠、五日望採拾詩〕含嬌起斜盼、斂笑動微嚬。❹**愛する。可愛がる。**〔杜甫、北征詩〕平生所嬌兒、顏色白勝雪。❺**聲や色のよいさま。**〔陳旅、詩〕傳聲鸚鵡舌關嬌。〔盛時泰、詩〕春來渚水綠、愛此顏色嬌。❻**美女。又、むすめ。**又、或る女を指す語。〔漢武故事〕帝爲膠東王、數歲、長公主抱問曰、兒欲得婦否、曰、欲得、指女阿嬌、好否、笑曰、若得阿嬌、當作金屋貯之。〔費昶、長門怨〕金屋貯嬌時。❼**子供。**嬌娃(2)の❷を見よ。❽**女のあざな。**〔廣韻〕嬌、女字。〔集韻〕嬌、女字、禹娶塗山之女、謂之女嬌。❾**たかぶる。おごる。**驕(**12－45008**)に通ず。〔說文新附考〕嬌、通作驕。〔六書故〕嬌、女恃驕漫也。〔閻立本、巫山高〕綠樹春嬌明月峽、紅花朝覆白雲臺。

【嬌鴉】1 ケウア うつくしいからす。〔杜牧、街西長句〕碧池新漲浴嬌鴉、分鏁長安富貴家。

【嬌娃】2 ケウアイ ❶うつくしい女。あでやかな女。〔劉訦、詩〕爲言主家頗豪奢、繡羅作裙歌嬌娃。❷小兒。子供。〔桃花扇、撫兵〕那督師無老將、選士皆嬌娃。

【嬌愛】3 ケウアイ なまめいて愛らしい。あいけう。〔劉希夷、春女行〕嬌愛猶未終、悲涼從此始。

【嬌鶯】4 ケウアウ 愛らしい鶯。よい聲で鳴く鶯。〔杜甫、江畔獨步尋花詩〕留連戲蝶時時舞、自在嬌鶯恰恰啼。〔日柳燕石、春曉詩〕花氣備山濃似霧、嬌鶯幾囀不知處。

【嬌逸】5 ケウイツ すぐれて美しい。〔無名氏、焦仲卿妻詩〕嬌逸未有婚。〔王觳、玉樹曲〕玉樹新粧逞嬌逸、三閣霞明天下開。

【嬌韻】6 ケウヰン なまめかしいひびき。美しいねいろ。〔李百藥、笙賦〕飄餘香於霄漢、遏嬌韻于房櫳。

【嬌影】7 ケウエイ なまめかしい姿。媚態。〔徐鉉、題殷舍人宅木芙蓉詩〕曉吐芳心零宿露、晚搖嬌影媚清風。

【嬌嬰】8 ケウエイ 愛らしいみどりご。〔高啓、戲嬰圖詩〕嬌嬰爭晚戲、少婦鬭春粧。

【嬌靨】9 ケウエフ あいけうあるゑくぼ。愛嬌わらひ。〔梁簡文帝、詠內人晝眠詩〕夢笑開嬌靨、眠鬟壓落花。

【嬌艷】10 ケウエン なまめかしく美しい。〔王禕、詩〕窈窕青樓人、二八多嬌艷。

【嬌音】11 ケウオン 美しくやさしい音。美人の聲。嬌聲(46)に同じ。

【嬌歌】12 ケウカ なまめかしいうた。美しいうた。〔梁簡文帝、美女篇〕密態隨流臉、嬌歌逐軟聲。

【嬌娥】13 ケウガ 美しい婦女。〔長生殿、陷關〕燒家劫舍搶嬌娥。

【嬌艾】14 ケウガイ うらわかい美女。艾は美女。〔桃花扇、逃難〕積得些金帛、娶了些嬌艾。

【嬌香】15 ケウカウ なまめかしいかをり。〔梁武帝、團扇歌〕清風任動生、嬌香承意發。

【嬌客】16（ケウカク）❶はなむこ。にひむこ。新郞。愛壻。〔黃庭堅、次㆘韻子瞻和㆗王子立風雨敗㆓書屋㆒有㆖感詩〕婦翁不㆑可㆑撾、王郞非㆓嬌客㆒。〔老學庵筆記、三〕秦會之有㆓十客㆒、曹冠以㆑教㆓其孫㆒爲㆓門客㆒、王會以㆓婦弟㆒爲㆓親客㆒、郭知運以㆓離婚㆒爲㆓逐客㆒、吳益以㆓愛壻㆒爲㆓嬌客㆒。〔楊維楨、詩〕兄弟不㆑減骨肉親、喜作㆓喬家㆒兩嬌客。〔書言故事、翁壻類〕稱㆓女壻㆒曰㆓嬌客㆒。❷芍藥(9－30674··6)の異名。〔三柳軒雜識〕芍藥爲㆓嬌客㆒。❸chiao^{1} k'ê^{4} ひいきの人。愛する人。

【嬌憨】17 chiao^{1} han^{1} おぼこ。からだつきはおとなびてゐるが、まだ情事を解せぬものにいふ。嬌癡(59)に同じ。憨は癡。〔紅樓夢、三十五回〕寶玉見鶯兒嬌憨婉轉、語笑如癡、早不勝其情了。

【嬌顏】18（ケウガン）うつくしい顏。〔李康成、玉華仙子歌〕轉㆑態凝㆑情五雲裏、嬌顏千歲芙蓉花。

【嬌貴】19（ケウキ）身分の貴い女。〔崔顥、盧姬篇〕人生今日得㆓嬌貴㆒、誰道盧姬身細微。〔楊基、毬場曲〕一生嬌貴厭㆓朝天㆒、不㆑信人間有㆓倒懸㆒。

【嬌響】20（ケウキヤウ）なまめかしいひびき。〔梁武帝、鳳笙曲〕飛且停在㆓鳳樓㆒、弄㆓嬌響㆒間㆓淸謳㆒。〔丘巨源、聽㆓鄰妓㆒詩〕雲間嬌響徹。

【嬌極】20′（ケウキヨク）帝顓頊の子、老童の妃。〔漢書、古今人表〕嬌極。〔自注〕老童妃、生㆓重黎㆒。〔王先謙補注〕錢大昭曰、帝繫篇、老童取㆓高緺㆒產㆓重黎㆒、蓋嬌極卽高緺。

【嬌花】21（ケウクワ）なまめかしいはな。〔唐太宗、初春登㆑樓卽目觀作述㆑懷詩〕拂㆓浪堤㆒垂㆑柳、嬌花鳥續吟。

【嬌黃】22 chiao^{1} huang^{2} つやつやしい黃色。うぐひす色。〔紅樓夢、四十回〕盤內盛著數十個嬌黃玲瓏大佛手。

【嬌姸】23（ケウケン）あでやかに美しい。〔王僧孺、述夢詩〕雅步極㆓嬌姸㆒、含辭恣㆓委靡㆒。

【嬌絃】24（ケウゲン）なまめかしい絃樂器。絃は絲を張つた樂器で、琴瑟の類。〔王冷然、初月賦〕寫㆓邊城之羈目㆒、鑒㆓珠箔之嬌絃㆒。〔陸龜蒙、子夜警歌〕朱口發㆓艷歌㆒、玉指弄㆓嬌絃㆒。

【嬌語】25（ケウゴ）なまめかしい話。女の愛嬌ある言葉。〔溫庭筠、舞衣曲〕管含㆓蘭氣㆒嬌語悲、胡槽雪腕鴛鴦絲。

【嬌紅】26 chiao^{1} hung^{2} 紅色。

【嬌紅記】27（ケウコウキ）戲曲の名。明、劉東生作。申生と嬌娘との情事を記したもので、二本八折から成る。他に元の王實甫・湯式・沈受先にも嬌紅記があつたが、皆傳はらない。

【嬌喉】28（ケウコウ）なまめかしい聲を出すのど。美しいこゑ。美音。〔許有孚、柳歌聽㆑鶯詩〕陰陰烟翠足㆑潛㆑身、其奈嬌喉百轉新。

【嬌妻】29 chiao^{1} ch'i^{1} 美貌の妻。

【嬌子】30 chiao^{1} tzŭ^{3} 可愛らしい小兒。

【嬌姿】31（ケウシ）うつくしい姿。〔羅虬、比紅兒詩〕曉尙紗窻與㆓畫眉㆒、鏡中長欲㆑動㆓嬌姿㆒。

【嬌兒】32（ケウジ）❶愛らしい男子。〔韓愈、喜㆑雪獻㆓裴尙書㆒詩〕浪走信嬌兒。〔歐陽脩、奉㆘答原甫見㆓寵示㆒之作㆖詩〕嬌兒癡女繞㆓翁膝㆒。❷愛する子。愛兒。〔杜甫、羌村詩〕嬌兒不㆑離㆑膝、畏㆓我復卻去㆒。〔李商隱、楊本勝說㆘於㆓長安㆒見㆗小男阿袞㆖詩〕聞君來㆓日下㆒、見㆓我最嬌兒㆒。

【嬌兒乳】33（ケウジニユウ）愛兒に飮ませる乳。〔無名氏、前溪歌〕寧斷㆓嬌兒乳㆒、不㆑斷㆓郞慇懃㆒。

【嬌羞】34（ケウシウ）愛らしくはぢらふ。はにかむ。〔蕭詮、賦㆓得婀娜當㆑軒織㆒詩〕東南初日照㆓秦樓㆒、西北織婦正嬌羞。〔韓偓、想得詩〕嬌羞不㆑肯㆑上㆓鞦韆㆒。〔歐陽玄、和㆓李溉之舞姬脫㆑鞋吟㆒歌〕無限嬌羞不㆓自持㆒。

【嬌柔】35（ケウジウ）なまめかしくやはらか。〔元好問、楊柳詩〕楊柳青青溝水流、鶯兒調舌弄㆓嬌柔㆒。

【嬌奢】36（ケウシヤ）寵愛にまかせておごりたかぶり、贅澤なくらしをする。又、姿をなまめかしく作り、衣裳を花やかに著かざる。驕奢。〔曹鄴、侍㆑寵詩〕昭儀正嬌奢。

【嬌情】37（ケウジヤウ）なまめかしい心。〔梁簡文帝、詠舞詩〕嬌情因㆑曲動、弱步逐㆑風吹。

【嬌姝】38（ケウシユ）美人。〔長生殿、神訴〕這的是艷昌昌、霓裳曲裏嬌姝。

【嬌淑】39（ケウシユク）うつくしくしとやか。又、其の女。〔沈烱、幽庭賦〕顧留㆓情于君子㆒、豈含㆓姿于嬌淑㆒。

【嬌色】40（ケウシヨク）あでやかな顏色。〔崔寔、婕妤怨〕容華尙春日、嬌色已秋風。

【嬌飾】41（ケウシヨク）おごりかざる。〔後漢書、章帝紀〕詔曰、俗吏嬌㆓飾外貌㆒。

【嬌嗔】42（ケウシン）美人のいかり。佳人のなまめかしい怒。〔唐寅、妬花歌〕佳人聞㆑語發㆓嬌嗔㆒、不㆑信死花勝㆓活人㆒。

【嬌生】43 chiao^{1} shêng^{1} 優しい生れつき。

【嬌生慣養】44 chiao^{1} shêng^{1} kuan^{4} yang^{3} 我儘に育てる。甘やかす。甘く育てる。

【嬌性】45 chiao^{1} hsing^{4} やさしい性質。

【嬌聲】46（ケウセイ）こびるこゑ。なまめいた聲。嬌音。

【嬌脆】47（ケウゼイ）なまめかしくもろい。〔楊萬里、蕈子詩〕蠟面黃紫光欲㆑濕、酥莖嬌脆手輕拾。

【嬌小】48（ケウセウ）愛くるしく小さい。又、その女。〔李白、江夏行〕憶昔嬌小姿、春心亦自持。〔權德輿、玉臺體詩〕破顏君莫㆑怪、嬌小不㆑禁㆑羞。〔何中、詩〕東家嬌小乍迎㆑郞、沈水銀篝殘㆓曉妝㆒。

【嬌笑】49（ケウセウ）あでやかにわらふ。又、愛くるしくわらふ。あいけうわらひ。〔陳後主、三婦艷詞〕小婦獨嬌笑、新來華燭前。

【嬌嬈】50（ケウゼウ）あでやか。なまめかしい。又、その女。又、その姿。姸媚。〔杜甫、春日戲題惱㆓郝使君兄㆒詩〕細馬時鳴金騕褭、佳人屢出董嬌嬈。〔鄭畋、王子晉廟詩〕南嶽命㆓嬌嬈㆒。〔溫庭筠、張靜婉採蓮曲〕抱月飄烟一尺腰、麝臍龍髓憐㆓嬌嬈㆒。

【嬌饒】51（ケウゼウ）美しいさま。〔元稹、悼㆓女樊㆒詩〕爲占㆓嬌饒分㆒、良多㆓眷戀誠㆒。

【嬌喘】52（ケウゼン）なまめかしくあへぐ。多く女子の力が堪へないであへぐにいふ。〔李商隱、獨居有㆑懷詩〕怨魂迷恐斷、嬌喘細疑沉。

【嬌輭】53（ケウゼン）なまめいてやはらか。〔蘇軾、薄命佳人詩〕吳音嬌輭帶㆓兒癡㆒。〔趙師使、枕屛詞〕困來無㆓那玉㆒、肌小倚㆓嬌輭㆒。

【嬌姹】54（ケウタ）なまめかしく美しい。〔范成大、竹下詩〕秋鶯尙㆓嬌姹㆒、晚蝶成㆓飄泊㆒。

【嬌惰】55 chiao^{1} tuo^{4} だらしないこと。ふしだら。〔水滸傳、二十八回〕武松把㆓石墩㆒略搖、一搖大笑道、小人眞箇嬌惰了、那裏拔得動。

【嬌態】56（ケウタイ）なまめかしい樣子。媚を含んだ姿。艷容。〔梁簡文帝、詠㆑舞詩〕嬌態似㆑淩㆑虛。〔宋之問、傷㆓曹娘㆒詩〕河伯憐㆓嬌態㆒。

【嬌殢】57 chiao^{1} t'i^{4} 小兒のむづかること。小兒のすねること。〔長生殿、復召〕咱一剗兒粗疏、不解他十分的嬌殢。

【嬌稚】58（ケウチ）愛らしくいとけない。〔張率、相逢行〕小婦尙嬌稚、端坐吹㆓參差㆒。

【嬌癡】59（ケウチ）からだつきはおとなびてゐるが、まだ情事を解せぬ。又、其の人。おぼこ。嬌憨。〔白居易、念㆓金鑾子㆒詩〕衰病四十身、嬌癡三歲女。

【嬌娘】60（ケウヂヤウ）美しく愛らしいむすめ。美貌の少女。美少女。〔李賀、唐兒歌〕東家嬌娘求㆓對値㆒、濃笑畫㆑空作㆓唐字㆒。

【嬌女】61（ケウヂヨ）❶愛らしい女。なまめかしい女。〔左思、嬌女詩〕吾家有㆓嬌女㆒、皎皎頗白晳。〔崔顥、邯鄲宮人怨〕母兄憐愛無㆓儔侶㆒、五歲名爲㆓阿嬌女㆒。❷耳の神の名。〔眞誥〕嬌女、耳神名。〔太平御覽、神鬼部、神上〕龍魚河圖曰、髮神、名壽長、耳神、名嬌女。〔雲笈七籤〕嬌女窈窕翳㆓霄暉㆒、言㆔耳之聰朗徹明掩㆓霄暉㆒也。

【嬌鳥】62（ケウテウ）なまめかしい鳥。〔盧照鄰、長安古意〕百丈游絲爭繞㆑樹、一羣嬌鳥共啼㆑花。

【嬌囀】63（ケウテン）媚びるやうな聲でさへづり鳴く。〔李百藥、贊道賦〕花飄香兮動笑、鶯嬌囀兮相鳴。〔張說、淸明日宴㆓寧王山池㆒詩〕嬌囀鶯亂飛。

【嬌妒】64（ケウト）美しくてねたみぶかい。〔後漢書、陰興傳〕就子豐尙㆓酈邑公主㆒、公主嬌妒、豐亦狷急。

【嬌童】65（ケウドウ）顏かたちの美しいこども。美少年。〔儲光義、夜觀㆑妓詩〕嬌童攜㆓錦薦㆒、侍女整㆓羅衣㆒。

【嬌嫩】66 chiao^{1} nen^{4} よわい。美しくて優しい。〔紅樓夢、四十回〕劉姥姥道、那裡說的、我這麼嬌嫩了。

【嬌波】67（ケウハ）美人のすずしい眼もと。秋波。〔長生殿、哭像〕儞嬌波不㆑動、可㆑見㆓我愁模樣㆒。

【嬌妃】68（ケウヒ）あでやかな婦人。又、あでやかな女神。〔曹唐、小遊仙詩〕千歲紅桃香破㆑鼻、玉盤盛出與㆓嬌妃㆒。

【嬌美】69 chiao^{1} mei^{3} 艷美。愛嬌ある。

【嬌媚】70（ケウビ）あだめいてこびる。〔續列女傳、趙

飛燕姊娣傳〕嬌媚不遜、嫉㆓妬後宮㆒。

【嬌顰】71 ケウヒン なまめかしく眉をひそめる。憂はしい目つきをする。又、其のこと。〔梁簡文帝、長安有狹斜行〕小婦最容冶、映ㇾ鏡學㆓嬌顰㆒。〔李百藥、火鳳詞〕嬌顰眉際斂、逸韻口中香。

【嬌嫚】73 ケウマン おごりあなどる。〔漢書、西域傳上〕有ㇾ求則卑ㇾ辭、無ㇾ欲則嬌嫚。

【嬌面】74 ケウメン なまめかしい顔。愛らしい顔。〔劉廷芝、公子行〕願作㆓輕羅㆒著㆓細腰㆒、願爲㆓明鏡㆒分㆓嬌面㆒。

【嬌養】75 chiao^1 yang^3 甘やかす。甘く育てる。〔還魂記、訓女〕嬌養他掌上明珠、出落的人中美玉。

【嬌容】76 ケウヨウ なまめいたすがた。うつくしい容姿。〔朱純、詩〕歩窄倚㆓嬌容㆒。

【嬌憐】77 ケウレン なまめいたあはれみ。しなをつくつてあはれみを求める。〔白居易、談氏小外孫玉童詩〕才與㆓不才㆒爭料得、東牀空後且嬌憐。

【嬌弄】78 ケウロウ なまめかしく弄ぶ。〔崔灝、雜詩〕玉堂有㆓芙女㆒、嬌弄明月光。

【嬌怯怯】79 chiao^1 ch'üeh^4 ch'üeh なよなよとなまめきはぢらふ姿をいふ。〔長生殿、聞樂〕我嬌怯怯朦朧身欠。

【嬌滴滴】80 ケウテキテキ 小さくて愛らしい形容。愛嬌ある形容。〔通俗編、婦女、嬌滴滴〕薩都刺、題㆓四時宮人圖㆒、椅後二女執ㇾ纓立、案前二女嬌滴滴。

【嬌狗上竈】81 chiao^1 kou^3 shang^4 tsao^4 あまやかして飼つた犬は、竈に上つて食を取る。あまやかせばどこまでも増長する喩。

【嬔】6740

□一 ハン ホン 〔集韻〕孚萬切 願

□二 ヘン ホン 〔集韻〕孚袁切 元

小篆

小篆（段注本）

□一❶ふたごをうむ。〔說文〕嬔、生ㇾ子齊均也、从㆓女免生㆒、讀若ㇾ幡。❷ふえる。繁殖する。〔廣韻〕嬔、嬔息也。❸かえる。卵から忽ち雛にかえる。〔廣韻〕嬔、一曰、鳥伏乍出。❹或は嬎(3－6928)に作る。〔集韻〕嬔、或作ㇾ嬎。❺㝃(3－6988)・娩(3－6337)に通ず。〔說文通訓定聲〕㝃、字亦作ㇾ娩、云云、作㆓嬔字㆒亦同。□二子をうむ。□一の❶に同じ。〔集韻〕嬔、免ㇾ子。

解字 會意。女と免と生との合字。二子を生む、又子を生むこと多く、而も皆よくそろつて齊しいのをいふ。孿・蕃と同義。一說に、會意形聲で、女と生とに從ひ、免は音符であるとする。〔說文、嬔、生ㇾ子齊均也、段注〕謂㆓生ㇾ子多而如ㇾ一也、云云、今中國謂㆓蕃息㆒爲㆓嬔息㆒。〔說文通訓定聲〕嬔、生ㇾ子齊均也、从ㇾ女从ㇾ生會意、免聲、鍇本讀若ㇾ幡、周成難字云、嬔、息也、同時生爲ㇾ嬔、方言二、嬔、耦也、按、與ㇾ孿略同。

參考 嬔と嬎と混淆した書が多い。大徐本・玉篇・廣韻・集韻・韻會は免とし、小徐本・王筠本・桂馥本は兔に從ふ。今、段注本による。尚、此の異同については、正字通の嬔字の條に、同ㇾ娩、說文女部、嬔訓㆓生ㇾ子齊均㆒、子部、㝃訓㆓生ㇾ子免ㇾ身、㝃嬔義通、分ㇾ音分ㇾ部非、嬔爲㆓㝃重文㆒可也、又說文兔部、娩兔子也、切與ㇾ嬔同、从ㇾ兔、與ㇾ从ㇾ免異、爾雅兔子嬎从ㇾ兔、即說文娩字、與㆓嬔㝃㆒別、舊註引㆓說文㆒嬔訓㆓生ㇾ子齊均㆒、又云㆓兔子㆒引㆓爾雅兔子嬎㆒、溷㆓嬔嬎㆒爲ㇾ一、誤也、嬔嬎二文宜㆓分見㆒とある。但、正字通がこの註を嬔字に施したのは錯誤である。

【𡣞】6741 シ 𡢽(3－6638)の本字。〔康熙字典〕𡣞、說文、至也、引㆓書太命不ㇾ𡣞。

【嬍】6742 ビ 媺(3－6582)に同じ。〔韻寶〕嬍、同ㇾ美、或作ㇾ媺。

【㜷】6743 ビ 媚(3－6513)の古字。〔六書統〕㜷、古媚字。

【𡣫】6744 ル 婁(3－6383)の籀文。〔篇海類編〕𡣫、籀文婁字。

【𡤕】6745 キヤウ ガウ 〔集韻〕渠良切 陽 女のあざな。或は𡡛に作る。〔集韻〕𡤕、女字、或書作ㇾ𡡛。

【㜑】6746 ダウ ノウ 〔龍龕手鑑〕乃老切 皓 亂しあふ。〔龍龕手鑑〕㜑、相㜑亂也。

【𡤦】6747 エウ 〔龍龕手鑑〕烏皎切 篠 しなやか。𡤦嬝。〔龍龕手鑑〕𡤦嬝、細弱也。

【𡤖】6748 キヨ ゴ 〔集韻〕求於切 魚 女のあざな。或は𡞈(3－6550)に作る。〔集韻〕𡤖、女字、或省。

【𡣼】6749 タウ ダウ 〔集韻〕徒朗切 養 おごる。又、たはむれる。〔集韻〕𡣼、嫯也、戲也。

【𡢻】6750 ジュ 嬬(3－6821)に同じ。〔篇海類編〕𡢻、同ㇾ嬬。

【𡤑】6751 エン 〔龍龕手鑑〕於緣切 先 うつくしい眉。〔龍龕手鑑〕𡤑、蛾眉也。

【𡤓】6752 ノウ 㛴(3－6480)に同じ。〔篇海類編〕𡤓、同ㇾ㛴。

【𡣺】6753 レイ 麗(12－47663)に同じ。〔字彙補〕𡣺、與ㇾ麗同。

【嬏】6754 ハン 〔集韻〕鋪官切 寒 女のあざな。〔集韻〕嬏、女字。

【嬤】6755 バ マ 〔篇海類編〕莫可切 哿 はは。〔篇海類編〕嬤、母之異名。

【𡤗】6756 セイ 盛(8－23005)に同じ。〔龍龕手鑑〕𡤗、同ㇾ盛。

【𡣷】6757 ベウ メウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕𡣷、彌小切。

【𡤔】6758 カン 嬐(3－6826)に同じ。〔篇海類編〕𡤔、同ㇾ嬐。

【𡤐】6759 ル 婁(3－6383)の籀文。〔說文〕婁、𡤐、籀文婁、从㆓人中女㆒臼聲。

【𡟤】6760 ビ 媚(3－6513)の本字。〔正字通〕媚、本作ㇾ𡟤。

【𡤏】6761 テキ 嫡(3－6656)の篆文。〔正字通〕嫡、篆作ㇾ𡤏。

十三畫

【⿱罒婁】6762 タツ 寠(3－6805)に同じ。〔集韻〕寠、或从㆑网。

【⿰女奧】6763 アウ オウ 〔集韻〕於到切 號

ねたむ。〔集韻〕⿰女奧、妒也。

【嬐】6764 [一]セン 〔集韻〕思廉切 鹽 [二]ゲン 〔集韻〕魚檢切 琰 [三]ギン ゴン 〔集韻〕牛錦切 寢

小篆

[一][二]㊀すばやい。〔說文〕嬐、敏疾也、从㆑女僉聲。㊁つつしむさま。〔說文〕嬐、一曰、莊敬皃。㊂ととのふ。〔廣韻〕嬐、嬐然、齊也。[三]頭をあげる。傑(1－1161)に同じ。〔集韻〕傑、仰㆑頭也、或作㆑嬐。〔司馬相如、大人賦〕嬐侵潯而高縱兮、紛鴻涌而上厲。

【嬑】6765 イ 〔集韻〕於記切 寘

女のあざな。〔集韻〕嬑、女字。

【嬒】6766 [一]ワイ ヱ 〔集韻〕烏外切 泰 [二]ワツ ワチ 〔集韻〕烏括切 曷 [三]クワイ ケ 〔集韻〕古外切 泰

小篆

[一][二][三]㊀女の色の黑いこと。〔說文〕嬒、女黑色也、从㆑女會聲、詩曰、嬒兮蔚兮。〔段注〕曹風候人文。㊁女のみにくいさま。〔太平御覽、人事部、醜婦人〕可㆑惡曰㆑嬒。㊂ずるい。獪(7－20729)に通ず。〔說文通訓定聲〕嬒、段借爲㆑獪、通俗文、可㆑惡曰㆑嬒。㊃あつまり興る。薈(9－32093)に通ず。〔說文通訓定聲〕嬒、段借爲㆑薈、詩、候人、嬒兮蔚兮。〔說文〕嬒、詩曰、嬒兮蔚兮。〔段注〕今詩作㆑薈。㊄嬇嬒は獸の名。〔山海經、北山經〕又、北百一十里曰㆓邊春之山㆒、云云、有㆑獸焉、其狀如㆑禺、而文身善笑、見㆑人則臥、名曰㆓幽鴳㆒。〔注〕或作㆓嬇嬒㆒。㊅婦人の名。〔廣韻〕嬒、婦人名也。

【嬓】6767 ケウ 〔集韻〕吉弔切 嘯

人名。或は敫(5－13286)に作る。〔集韻〕嬓、闕、人名、史記、齊有㆓太史嬓㆒、或省。〔史記、田單傳論贊〕莒人求㆓湣王子法章㆒、得㆓之太史嬓之家㆒。

【嬔】6768 フ 〔集韻〕芳遇切 遇

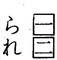
兔の子。娩(3－6403)に通ず。〔爾雅、釋獸〕兔子、嬔。〔義疏〕說文作㆑娩。

參考 嬔(3－6740)を見よ。

【嬕】6769 セキ シヤク 〔集韻〕施隻切 陌

女のあざな。〔集韻〕嬕、女字。

【嬖】6770 [一]ヘイ ハイ 〔集韻〕必計切 霽 ㄅㄧˋ pi^{4} [二]ヒ 〔集韻〕卑義切 寘


小篆

[一][二]㊀氣にいり。貴人に寵愛せられる卑賤の者。男女ともにいふ。〔說文〕嬖、便嬖、愛也、从㆑女辟聲。〔一切經音義、二十〕賤而得㆑愛曰㆑嬖。〔後漢書、皇甫規傳〕除㆓內嬖㆒。〔注〕無㆑德而寵曰㆑嬖。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕斥㆔讒夫與㆓便嬖㆒。〔注〕嬖、愛也。補曰、賤而得㆑幸曰㆑嬖。㊁いつくしむ。寵愛する。親幸する。〔廣雅、釋詁三〕嬖、親也。〔左氏、隱、三〕公子州吁、嬖人之子也。〔注〕嬖、親幸也。〔漢書、項籍傳〕瑕丘公申陽者、張耳嬖臣也。〔注〕師古曰、嬖、謂㆓愛幸㆒也。〔國語、鄭語〕而嬖㆓是女㆒也、使㆑至㆓於爲㆑后而生㆓伯服㆒。〔注〕以㆓邪僻㆒取㆑愛曰㆑嬖。㊂なれる。〔詩、邶風、綠衣序、妾上潛、鄭注〕母嬖而州吁驕。〔釋文〕嬖、媟也。㊃いやしい。〔詩、邶風、綠衣序、釋文〕嬖、卑也。㊄辟(10－38642)に通ず。〔正字通〕嬖、通作㆑辟。

【嬖愛】1（ヘイアイ） 氣に入りいつくしむ。寵愛する。嬖幸(3)に同じ。〔史記、周紀〕幽王嬖㆓愛褒姒㆒、褒姒生㆓子伯服㆒。

【嬖豔】2（ヘイエン） 君の寵愛する美人。氣に入りの美女。〔唐書、郭皇后傳〕後庭多㆓嬖豔㆒。

【嬖幸】3（ヘイカウ） 賤しい身で君王の寵を得る。又、そのもの。君主に褻近して寵を得るもの。きにいり。嬖人。嬖倖。〔列女傳、孽嬖、殷紂妲己傳〕妲己者、殷紂之妃也、嬖㆓幸於紂㆒。

【嬖倖】4（ヘイカウ） 嬖幸に同じ。〔孔叢子、對魏王〕嬖倖者言用。〔後漢書、皇甫規傳〕又因㆓緣嬖倖㆒、受㆑賂賣㆑爵。〔蘇轍、漢昭帝論〕使㆘昭帝居㆓深宮㆒、近㆗嬖倖㆖。

【嬖姫】5（ヘイキ） 寵愛を受ける女。氣に入りの女。〔史記、陳杞世家〕宣公後有㆓嬖姫㆒、生㆓子款㆒。

【嬖御】6（ヘイギヨ） 氣に入りのそばめ。又、氣に入りのもの。嬖倖。愛妾。〔禮、緇衣〕毋㆘以㆓嬖御人㆒疾㆗莊后㆖、毋㆘以㆓嬖御士㆒疾㆗莊士大夫卿士㆖。〔注〕嬖御人、愛妾也、嬖御士、愛臣也。〔宋史、吳泳傳〕毋㆘以㆓嬖御㆒嫉㆗莊士㆖。

【嬖近】7（ヘイキン） 氣に入りのそばづかへ。又、寵愛し近づける。〔列女傳、孽嬖、趙靈吳女傳〕既見㆓嬖近㆒。〔劉敞、論㆓溫成立忌㆒疏〕毋㆑篤㆓于嬖近㆒、毋㆑安㆓于邪佞之說㆒。

【嬖奚】8（ヘイケイ） 趙簡子の氣に入りの臣である奚。〔孟子、滕文公下〕昔者趙簡子使㆘王良與㆓嬖奚㆒乘㆖。〔注〕嬖奚、簡子幸臣。

【嬖士】9（ヘイシ） 氣に入りの臣。愛臣。〔禮、緇衣〕毋㆘以㆓嬖御士㆒疾㆗莊士大夫卿士㆖。〔注〕嬖御士、愛臣也。

【嬖習】10（ヘイシフ） 氣に入りの近習。〔後漢書、質帝紀贊〕終淪㆓嬖習㆒。〔注〕終溺㆓於私嬖近習㆒也。

【嬖豎】11（ヘイジユ） 氣に入りの內豎。豎は宮廷の小臣。〔晉書、王澄傳〕王穎嬖豎孟玖、譖㆓殺陸機兄弟㆒、天下切齒。

【嬖色】12（ヘイショク） 氣に入りの女。又、女色を近づけること。〔後漢書、張讓傳〕三世以㆓嬖色㆒取㆑禍、嬴氏以㆓奢虐㆒致㆑災。

【嬖臣】13（ヘイシン） 氣に入りの臣。〔史記、項羽紀〕張耳嬖臣也。〔孔叢子、居衞〕子思適㆑齊、齊君之嬖臣美鬚眉立㆓乎側㆒。

【嬖人】14（ヘイジン） 寵幸の者。㊀氣に入りの女。嬖妾。〔左氏、隱、三〕公子州吁、嬖人之子也。〔注〕嬖、親幸也。〔穆天子傳、六〕女主即位、嬖人羣女倍㆑之。〔注〕嬖女、王所㆓幸愛㆒者。㊁氣に入りの臣。嬖臣。嬖幸。〔孟子、梁惠王下〕嬖人臧倉者。〔注〕嬖人、愛幸小人也。

【嬖妾】15（ヘイセフ） 氣に入りの妾。愛妾。嬖媵。〔左氏、襄、十四〕初公有㆓嬖妾㆒、使㆔師曹誨㆓之琴㆒。〔史記、周紀〕已而至㆓紂之嬖妾二女㆒、二女皆經自殺。〔吳志、陸凱傳〕亂在㆓嬖妾㆒。

【嬖昵】16（ヘイヂツ） 氣に入り愛する。〔北史、宇文述傳〕化及、述長子也、煬帝爲㆓太子㆒時、嬖㆓昵之㆒。

【嬖女】17（ヘイヂヨ） 氣に入りの女。寵愛する女。〔戰國、楚策〕是以嬖女不㆑敝㆑席、寵臣不㆑避㆑軒。〔漢書、

外戚下、孝成班倢伃傳〕倢伃辭曰、云云、三代末主、廼有二嬖女一。

【嬖寵】18 ヘイ チヨウ 氣に入り。寵人。〔左氏、僖、二十四〕棄二嬖寵一而用二三良一。〔左氏、昭、三〕今嬖寵之喪、不三敢擇二位。〔管子、君臣上〕婦人嬖寵、假二於男之知一。〔逸周書、官人解〕觀三其有二德守嬖寵者一。〔魏志、文德郭皇后傳〕今後宮嬖寵、常亞二乘輿一。

【嬖僮】19 ヘイ ドウ 氣に入りの小姓。〔左氏、哀、十二〕公爲與三其嬖僮汪錡一乘、皆死、皆殯。

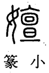
【嬖褒】20 ヘイ ハウ 周の幽王のお氣に入りの褒似。〔潘岳、西征賦〕淫二嬖褒一以縱レ慝。〔注〕善曰、幽王嬖二愛褒姒一。

【嬖媵】21 ヘイ ヨウ 氣に入りの妾。愛妾。嬖妾。〔劉蛻、復二崔尚書一書〕希二權門一以媚二嬖媵一、隨二衆口一以贊二私曲一。

【嬖大夫】22 ヘイ タイフ 官名。下大夫の別稱。下大夫（1－14‥644）を見よ。〔左氏、昭、元〕子皙上大夫、女嬖大夫、而弗レ下レ之。〔會箋〕晉鄭謂二下大夫一爲二嬖大夫一、見二七年一、吳語亦有二嬖大夫一、韋氏引二是傳一云二下大夫也一。〔左氏、昭、七〕使レ從二嬖大夫一。〔國語、吳語〕十行一嬖大夫、建レ旌提レ鼓。

【嬗】
6771

㊀セン ゼン 〔集韻〕時戰切 [霰] ㄕㄢˋ shan⁴
㊁タン 〔集韻〕黨旱切 [旱]
㊂タン 〔集韻〕他干切 [寒]
㊃セン ゼン 〔集韻〕上演切 [銑]
㊄セン ゼン 〔集韻〕時連切 [先]


小篆

㊀㊁㊂❶ゆるい。〔說文〕嬗、緩也、从レ女亶聲。〔王注〕緩之義、經典借二嬋字一。❷はしため。〔廣雅、釋詁四〕嬗、婢也。❸つたへる。ゆづる。禪（8－24835）に通ず。〔說文〕嬗、一曰、傳也。〔段注〕依二許說一、凡禪位字、當レ作レ嬗、禪、非二其義一也。〔漢書、律歷志下〕堯嬗以二天下一。〔注〕師古曰、嬗、古禪讓字也。〔漢書、王莽傳下〕受二嬗于唐一。〔注〕師古曰、嬗、古禪字。〔漢書、賈誼傳〕變化而嬗。〔注〕蘇林曰、相傳與也。❹つづく。〔史記、賈生傳〕化變而嬗。〔注〕集解曰、或曰、蟬蔓相連也。❺かはる。〔史記、賈生傳〕化變而嬗。〔注〕集解曰、服虔曰、嬗、變蛻也。❻うつる。〔史記、秦楚之際月表序〕五年之閒、號令三嬗。❼嬋（3－6738）に通ず。〔說文、嬗、段注〕今人用二嬋字一、亦作レ此。㊃よい。譱（10－36028）に同じ。〔集韻〕譱、說文、吉也、或作レ嬗。㊄**姿態のあでやかなさま。**嬋（3－6738）に同じ。〔集韻〕嬋、嬋娟、美容、亦作レ嬗。

【嬘】
6772

スイ ズイ 〔集韻〕徐醉切 [寘]

❶**女のあざな。**〔集韻〕嬘、女字。❷或は嫁（3－6543）に作る。〔集韻〕嬘、亦省。

【嬁】
6773

シヨ 〔字彙〕子呂切 [語]

姓。〔字彙〕嬁、姓也。

【𡡉】
6774

クワイ 媧（3－6533）の籀文。〔說文〕媧、𡡉、籀文媧从レ鬲。

【嬴】
6775

エイ 嬴（3－6776）に同じ。〔康熙字典〕嬴、按、字本作レ嬴。

【嬴】
6776

エイ 嬴（3－6834）に同じ。〔正字通〕嬴、本作レ嬴。

【嬙】
6777

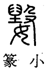
㊀シヤウ ザウ 〔集韻〕慈良切 [陽] ㄑㄧㄤˊ ch'iang²
㊁シヨク シキ 〔集韻〕殺測切 [職]

小篆

㊀㊁❶**そばめ。**女官の名。妃の次に位する者。〔說文新附〕嬙、婦官也、从レ女嗇聲。〔左氏、哀、元〕宿有二妃・嬙・嬪・御一焉。〔注〕妃・嬙、貴者。〔疏〕嬙、在二妃下一、次二於妃一也。〔後漢書、宦者傳論〕嬙媛侍兒、歌童舞女之玩。❷**女のあざな。**〔集韻〕嬙、女字。〔莊子、齊物論〕毛嬙・麗姬、人之所レ美也。❸廧（4－9509）・牆（7－19806）に通ず。〔左氏、哀、元、釋文〕嬙、本又作レ廧、或作レ牆。❹檣（6－15687）に通ず。〔正字通〕漢王昭君、名嬙。〔漢書、元帝紀〕賜二單于待詔掖庭王檣一爲二閼氏一。〔注〕應劭曰、王檣、王氏女、名檣、字昭君。〔漢書、匈奴傳〕以二後宮良家子王嬙一賜二單于一。

【嫛】
6778

キ 〔集韻〕虎委切 [紙]


小篆

❶**そしる。**〔說文〕嫛、惡也、从レ女毀聲。❷**人のさま。**〔說文〕嫛、一曰、人皃也。❸**女のあざな。**〔集韻〕嫛、一曰、女字。❹或は嬓（3－6779）に作る。〔集韻〕嫛、或書作レ嬓。

【嬓】
6779

キ 嫛（3－6778）に同じ。〔篇海類編〕嬓、同レ嫛。

【嬚】
6780

㊀レン 〔集韻〕離鹽切 [鹽]
㊁レン 〔集韻〕力冉切 [琰]

㊀㊁❶**女のあざな。**〔廣韻〕嬚、女字。❷**清く美しい。**〔字彙〕嬚、清美也。

【嬜】
6781

シン 嬜（3－6835）に同じ。〔正字通〕嬜、本从レ新。

【嬛】
6782

㊀ケン 〔集韻〕隳緣切 [先] ㄒㄩㄢ hsüan¹
㊁ケイ ギヤウ 〔集韻〕葵營切 [庚]
㊂ゼン 〔集韻〕旬宣切 [先]
㊃エン 〔集韻〕於緣切 [先]
㊄クワン ゲン 〔集韻〕胡關切 [刪]

小篆

㊀❶**かたい。**緻密。もと嬛（3－6864）に作る。〔正字通〕嬛、本作レ嬛。〔說文〕嬛、材緊也、从レ女睘聲。❷**たをやか。**しなやか。〔史記、司馬相如傳〕柔橈嬛嬛。〔注〕索隱曰、郭璞曰、柔橈嬛嬛、皆骨體耎弱、長豔皃也、廣雅云、嬛嬛、容也、張揖曰、嬛嬛、猶二婉婉一也。❸**身がかるい。すばやい。**〔司馬相如、上林賦〕便嬛綽約。〔注〕善曰、郭璞曰、便嬛、輕利也。❹嬛（3－6856）・嫚（3－6644）に通ず。嬛嬛（1）の❷を見よ。㊁❶**ひとり。又、ひとりのさま。**嬛嬛。或は嫭（3－6515）・儝（1－1184）・㒕（1－1136）・𡥈（3－7008）に作り、通じて煢（7－19217）に作り、焭（7－19097）・惸（4－10865）・睘（8－23432）に通ず。〔集韻〕嬛、或作二嫭・儝・㒕・𡥈一、通作レ煢。〔說文通訓定聲〕嬛、叚借爲二重言形況字一、詩閔予小子、嬛嬛在レ疚、韓詩作レ惸、今作レ焭、按、與二獨行睘睘一同、皆孤獨

之貌。❷みめよい。〔廣韻〕嬛、好也。［三］❶つづかない。〔方言、一〕嬛蟬繝撚、未㆑續也、楚曰、嬛蟬、出也。❷輕くあがる。〔集韻〕嬛、輕擧。［四］身の輕便なさま。〔廣韻〕嬛、身輕便皃。［五］女のあざな。〔集韻〕嬛、女字。

【嬛嬛】1 ケイケイ ❶ひとりのさま。たよるところのないさま。煢煢。惸惸。〔詩、周頌、閔予小子〕遭㆓家不㆒㆑造、嬛嬛在㆑疚。〔箋〕嬛嬛然、孤特貌。〔集傳〕嬛、與㆑煢同、無㆑所㆓依怙㆒之意。❷ケンケン たをやか。しなやか。漢書は嬛嬛、文選は嫚嫚に作る。嬛嬛(3－6856··1)の❶・嫚嫚(3－6644··2)を見よ。〔史記、司馬相如傳〕柔橈嬛嬛。〔注〕索隱曰、郭璞曰、柔橈嬛嬛、皆骨體耎弱、長豔皃也、廣雅云、嬛嬛、容也、張揖曰、嬛嬛、猶㆓婉婉㆒也。

【嬛孤】2 ケイコ みなしご。惸孤(4－10865··3)に同じ。

【嬛獨】3 ケイドク ひとりみ。惸獨(4－10865··4)に同じ。

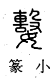
【嬛佞】4 ケンネイ センネイ かるはずみで巧にへつらふ。〔史記、武帝紀、上有㆓所㆑幸王夫人㆒、注〕駰案、桓譚新論云、武帝有㆘所㆓愛幸㆒姫王夫人㆖、窈窕好容、質性嬛佞。

【⿱毄女】6783

［一］カイ ケ 〔集韻〕口賣切 卦

［二］ケイ 〔集韻〕詰計切 霽

［三］カイ ケ 〔集韻〕口蟹切 蟹


小篆

［一］［二］［三］❶なやむ。〔説文〕⿱毄女、難也、从㆑女毄聲。❷或は⿱毄心(4－11331)に作る。〔集韻〕⿱毄女、或从㆑心、亦省。

【⿱⿴臼囟女】6784 エウ 要(10－34768)の古字。〔集韻〕要、古作㆑⿱⿴臼囟女。〔説文〕要、⿱⿴臼囟女、古文要。

【⿱歆女】6785

［一］キン コン 〔集韻〕虚金切 侵

［二］アン オン 〔集韻〕烏含切 覃

［三］カン 〔集韻〕呼甘切 覃

［四］タン ドン 〔集韻〕徒南切 覃

［一］［二］［三］［四］❶いつくしむ。〔集韻〕⿱歆女、愛也。❷むさぼる。〔集韻〕⿱歆女、貪也。

【⿰女黽】6786

［一］ヨウ 〔集韻〕以證切 徑

［二］ヨウ 〔集韻〕余陵切 蒸

［一］だく。つつむ。孕(3－6938)に同じ。〔集韻〕孕、説文、褢㆑子也、古作㆑⿰女黽。〔太玄經、沈〕沈㆓其腹㆒、好㆑⿰女黽惡㆑粥。〔注〕⿰女黽、懷也、粥、出也、貪利之人、好㆑懷㆑利而惡㆑出、⿰女黽、與㆓孕・⿰月黽㆒同。［二］はへ。蠅(10－33690)に同じ。〔集韻〕蠅、説文、營營青蠅蟲之大腹者、或从㆑女。

【嬝】6787 デウ 嫋(3－6614)の俗字。〔正字通〕嬝、俗嫋字。

参考 熟語は嫋(3－6614)を見よ。

【⿰女寿】6788 コ 嫭(3－6679)に同じ。〔字彙補〕⿰女寿、同㆑嫭。

【⿰女⿱日万】6789 バン マン 〔字彙補〕莫晏切 諫 姓。〔潛夫論、志氏姓〕⿰女⿱日万姓鄧優。

【⿱⿲糸言糸女】6790 レン 孌(3－6912)の古字。〔字彙補〕⿱⿲糸言糸女、古文孌字。

【⿰阝⿱夾女】6791 テツ 〔篇海類編〕音徹 ❶女のさま。〔篇海類編〕⿰阝⿱夾女、女態。❷こびる。〔篇海類編〕⿰阝⿱夾女、媚也。

【嫤】6792 トウ ツ 〔集韻〕都動切 董 女のあざな。〔集韻〕嫤、女字。

【嬆】6793 ヂフ ニフ 〔集韻〕昵立切 緝 婦人のさま。〔集韻〕嬆、妑嬆、婦皃。

【嬟】6794

［一］ギ 〔集韻〕宜寄切 寘

［二］イ 〔篇海類編〕音以

［一］女のあざな。〔集韻〕嬟、女字。［二］みめよいさま。婍嬟。〔篇海類編〕婍嬟、好貌。

【⿰女喿】6795 サン 〔龍龕手鑑〕青含切 覃 むさぼる。〔龍龕手鑑〕⿰女喿、婪也。

【⿱數女】6796 シウ 〔篇海類編〕音捜 女のあざな。〔篇海類編〕⿱數女、女字也。

【⿰女⿱冃月】6797 ヰ 媢(3－6532)の本字。〔正字通〕媢、本作㆑⿰女⿱冃月。

【⿰女⿱宀眞】6798 バウ ミヤウ 〔龍龕手鑑〕莫耕切 庚 みめよいさま。〔龍龕手鑑〕⿰女⿱宀眞、好貌。

【⿰女開】6799 ケン 嫺(3－6902)に同じ。〔篇海類編〕⿰女開、同㆑嫺。

【⿰女⿱穴幼】6800 エウ 窈(8－25453)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿰女⿱穴幼、同㆑窈。

【⿰女𢼸】6801 ビ 媄(3－6478)に同じ。〔五音篇海〕⿰女𢼸、與㆑媄同。

【⿰女蔑】6802 音義未詳 〔龍龕手鑑〕⿰女蔑、同㆑嫎。

【⿱⿱䒑刀女】6803 エウ 義未詳。〔五音篇海〕⿱⿱䒑刀女、音夭。

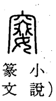
【⿰女⿱朿貝】6804 セキ 嫧(3－6664)の本字。〔正字通〕嫧、本作㆑⿰女⿱朿貝。

【⿱窡女】6805

［一］タツ タチ 〔集韻〕張滑切 黠

［二］クワツ ゲチ 〔集韻〕乎刮切 黠

［三］チユツ チユチ 〔集韻〕竹律切 質


(説文小篆)

［一］［二］［三］❶短い顏。〔説文〕⿱窡女、短面也、从㆑女窡聲。❷あでやかな姿。〔篇海〕⿱窡女、嬌姿也。❸或は頢(12－43485)に作る。〔集韻〕⿱窡女、或作㆑頢。❹或は

嬟に作る。〔集韻〕嬟、面短也、或書作レ嬟。❺或は嬰(3－6762)・嬰(3－6897)に作る。〔集韻〕嬰、或作二嬰・嬰一。

【嬴】6806 エイ 嬴(3－6776)に同じ。〔中華大字典〕嬴、同レ嬴。

【嬡】6807 アイ 〔中華大字典〕讀如レ愛。ㄞˋ ai^{4}

人の娘の敬稱。令嬡。〔中華大字典〕嬡、今俗稱二人女一曰二令嬡一。

【嬢】6807′ ヂヤウ 孃(3－6891)の略字。

十四畫

【嬣】6808 [一]ナウ ニヤウ 〔集韻〕尼耕切 [庚] [二]ネイ ニヤウ 〔集韻〕囊丁切 [靑]

[一]❶からだのさま。〔廣韻〕嬣、嬣體。❷妍嬣は、女の劣るさま。〔集韻〕嬣、妍嬣、女劣皃。❸しづか。女のさまのゆるやかなこと。〔正字通〕嬣、女態舒徐也。[二]女のあざな。〔集韻〕嬣、女字。

【嬷】6809 バ マ 〔字彙〕忙果切 [哿] ㄇㄚ ma^{1}

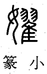
❶俗に母を呼ぶ稱。嬷嬷。〔字彙〕嬷、俗呼レ母爲二嬷嬷一。〔正字通〕嬷、卽媽孆之轉音、俗改从レ麽、省作レ嬤、非。❷老婦の通稱。〔紅樓夢、十九回〕偏他奶母李嬷嬷、拄拐進來請安。

【嫢】6810 シ 嫢(3－6658)の譌字。〔正字通〕嫢、嫢字之譌。

【嫵】6811 ブ 嫵(3－6701)の俗字。〔正字通〕嫵、俗嫵字。

【嫕】6812 エイ 瘱(7－22449)に同じ。〔集韻〕瘱、或从レ女。

【嬥】6813 [一]テウ デウ 〔集韻〕徒了切 [篠] [二]テウ デウ 〔集韻〕徒弔切 [嘯] [三]テウ 〔集韻〕他彫切 [蕭] [四]タク ダク 〔集韻〕直角切 [覺] [五]テキ チヤク 〔集韻〕他歷切 [錫]


小篆

[一]❶よい。すらりとしてみめよいさま。〔說文〕嬥、直好皃、从レ女翟聲。〔段注〕直好、直而好也。〔廣雅、釋詁一〕嬥、好也。❷あでやか。〔說文〕嬥、一曰、嬥嬈也。❸嬥嬥は、往來のさま。〔廣韻〕嬥、嬥嬥、往來皃。❹とりかへる。又、掉(5－12243)に作る。〔通俗編、雜字、嬥〕俗以二更易財物一曰二嬥換一、更易者必往來也、或用二掉一、有二轉義一、亦通。〔儼山外集〕京師婦女嫁二外方人一爲二妻妾一者、初看、以二美者一出拜、及レ臨レ娶、乃以二醜者一易レ之、名曰二嬥包兒一。❺をどる。趯(10－37334)に通ず。〔說文通訓定聲〕段借爲レ趯。〔左思、魏都賦〕或明發而嬥歌。〔注〕善曰、云云、何晏曰、巴人謳歌相引牽、連レ手而跳歌也。[二]❶よい。すらりとしてみめよいさま。[一]の❶に同じ。〔集韻〕嬥、直好皃。❷思ひやりがない。嬥嬈(3)を見よ。[三]❶往來のさま。[一]の❸に同じ。〔集韻〕嬥、嬥嬥、往來皃。❷細腰のさま。〔廣韻〕嬥、聲類云、細腰皃。❸佻(1－569)に通ず。〔詩、小雅、大東、佻佻公子、釋文〕佻佻、韓詩作二嬥嬥一。[四][五]みめよい。〔集韻〕嬥、嬥嬥、好也。

【嬥歌】1 テウカ ❶巴人の歌。多くの男女が手をひき合ひ、跳りつつうたふ歌。巴は四川省地方。巴歌。跳歌。〔左思、魏都賦〕或明發而嬥歌、或浮泳而卒レ歲。〔注〕善曰、嬥歌、巴土人歌也、何晏曰、巴子謳歌相引牽、連レ手而跳歌也。❷カガヒ 古、我が國で男女が一場に會して歌舞唱和したこと。うたがき。〔常陸風土記、香島郡〕嬥歌之會、俗曰二宇太我岐一、又曰二加我毘一。

【嬥換】2 テウクワン 見本の品と實物とを違へること。字解の[一]の❹を見よ。

【嬥嬈】3 テウゼウ いつくしみのないこと。思ひやりがない。不仁。〔廣韻〕嬈、嬥嬈、不仁。

【嬥嬥】4 テウテウ ❶獨り行くさま。又、輕薄なさま。佻佻(1－569・13)に同じ。〔詩、小雅、大東〕佻佻公子、〔釋文〕佻佻、韓詩作二嬥嬥一。❷往來するさま。〔集韻〕嬥、嬥嬥、往來皃。❸テキテキ みめよいさま。〔廣雅、釋訓〕嬥嬥、好也。

【嬥包兒】5 テウハウジ 人の妻妾とならうとする醜女のかへ玉となつて見合をする美女。轉じて、ひろく暗中で物を取りかへることをいふ。〔儼山外集〕京師婦女嫁二外方人一爲二妻妾一者、初看、以二美者一出拜、及レ臨レ娶、乃以二醜者一易レ之、名曰二嬥包兒一。

【嬦】6814 [一]チウ ヂユ 〔集韻〕陳留切 [尤] [二]シウ ジユ 〔集韻〕承呪切 [宥]

[一][二]女のあざな。〔集韻〕嬦、女字。

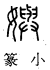
【嬧】6815 シン ジン 〔集韻〕在忍切 [軫]

女のあざな。〔集韻〕嬧、女字。

【嬨】6816 シ ジ 〔集韻〕牆之切 [支]

❶女のあざな。〔集韻〕嬨、女字。❷すなほ。しとやか。女の性質のゆるやかですなほなこと。〔正字通〕嬨、女性寬順也。

【嬩】6817 [一]ヨ 〔集韻〕羊諸切 [魚] [二]ヨ 〔集韻〕演女切 [語]

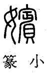

小篆

[一][二]女のあざな。〔說文〕嬩、女字也、从レ女與聲、讀若レ余。〔說文通訓定聲〕與二倢伃之伃一略同。

【嬬】6818 シヨ ジヨ 〔集韻〕常恕切 [御]

女のあざな。〔集韻〕嬬、女字。

【嬪】6819 ヒン ビン 〔集韻〕毗賓切 [眞] ㄆㄧㄣˊ $p'in^{2}$


小篆

❶そふ。妻として仕へる。〔說文〕嬪、服也、从レ女賓聲。〔爾雅、釋

親〕嬪、婦也。〔書、堯典〕嬪二于虞一。〔傳〕嬪、婦也。❷古の女官の名。〔禮、昏義〕古者天子后立二六宮、三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一御妻。〔左氏、昭、三〕君若不レ棄二敝邑一、而辱使下董振擇之、以備中嬪嬙上、寡人之望也。〔注〕嬪嬙、婦官也。❸そばめ。〔釋名、釋親屬〕天子妾有レ嬪、嬪、賓也、諸妾之中見二賓敬一也。〔華嚴經音義、下〕妾御曰レ嬪。❹婦人の美稱。〔周禮、天官、大宰〕七曰嬪婦、化二治絲枲一。〔注〕嬪、婦人之美稱也。〔疏〕此是國中婦人有二德行一、故稱レ嬪。❺亡き妻の呼稱。〔禮、曲禮下〕生曰レ父、曰レ母、曰レ妻、死曰レ考、曰レ妣、曰レ嬪。〔注〕嬪、美稱、妻死、其夫以二美號一名レ之、故稱レ嬪。❻婦人の汎稱。〔周禮、秋官、大行人〕其貢嬪物。〔注〕嬪物、婦人所レ爲物也。〔後漢書、荀爽傳〕嬪者、婦也。❼九嬪の略稱。〔周禮、天官、典婦功〕以授二嬪婦及內人女功之事齎一。〔注〕嬪婦、九嬪世婦也。❽多いさま。嬪然(11)を見よ。❾古は㚥(3−6344)・姘(3−6199)・嬪(3−6840)・嬪(3−6880)に作る。〔集韻〕嬪、古作二㚥姘嬪嬪一。❿賓(10−36788)に通ず。〔說文通訓定聲〕嬪、叚借爲レ賓、太玄從測曰、日嬪月隨、注、嬪、羈嬪也、又禮記曲禮、生曰レ妻、死曰レ嬪、疑賓敬之誼。

【嬪娥】1 ヒンガ 美人の宮女。〔元稹、驃國樂詩〕德宗深意在二柔遠一、笙鏞不レ御停二嬪娥一。

【嬪嬀】2 ヒンギ 舜に妻として仕へる。堯の二人の女が妻として舜に仕へたこと。嬀は舜の姓。〔魏志、后妃傳序〕故二妃嬪レ嬀、虞道克隆。

【嬪御】3 ヒンギョ 天子のそばめ。天子に近侍する宮女。嬪媵。〔列子、楊朱〕聲樂嬪御、擬二齊楚之君一焉。〔說苑、權謀〕今夫差次有二臺榭陂池一焉、宿有二妃嬙嬪御一焉。〔晉書、文明王皇后傳〕嬪御有レ序。

【嬪貢】4 ヒンコウ 婦人の作ったみつぎもの。生絲と麻とをいふ。絲枲。王引之は、嬪貢は賓貢の意味で、王の賓客の事に供する物といふ。〔周禮、天官、大宰〕以二九貢一致二邦國之用一、二曰嬪貢。〔注〕嬪、故書作レ賓、鄭司農云、賓貢、皮帛之屬、玄謂、嬪貢、絲枲。〔疏〕此九貢、皆是諸侯賓之所レ貢、不レ得下特以二一事一爲中賓貢上、賓貢者、非也、若言三嬪貢謂二絲枲一堪レ爲二婦人所一レ作、是也。〔孫詒讓正義〕王引之云、賓貢以供二王賓客之事一、非レ謂下諸侯來賓而貢レ之、因謂中之賓貢上也、賈疏不レ達二先鄭之意一、而臆爲二之解一、非レ是、又云、賓、本字、嬪、借字也、讀當レ如二其本字一、不レ當下依二借字一爲上レ解也。

【嬪侍】5 ヒンジ 天子の腰もと。そばめ。〔梁武帝、淨業賦序〕不下與二嬪侍一同レ屋而處上。

【嬪州】6 ヒンシウ 州の名。遼、嬪州柔遠軍を置く。故治は今、滿洲遼寧省遼中縣の境。

【嬪嬙】7 ヒンシヤウ 宮中の女官。〔左氏、昭、三〕君若不レ棄二敝邑一、而辱使下董振擇之、以備中嬪嬙上、寡人之望也。〔注〕嬪嬙、婦官也。〔吳志、陸凱傳〕今中宮萬數、不レ備二嬪嬙一。〔晉書、武元楊皇后傳〕正二位於內一、實在二嬪嬙一。

【嬪從】8 ヒンジユウ 宮女のともがら。嬪林。〔張說、安樂郡主花燭行〕藹藹綺庭嬪從列、蛾蛾紅粉扇中開。

【嬪人】9 ヒンジン 宮中の女官。〔漢書、王莽傳下〕備二和嬪美御一、和人三、位視レ公、嬪人九、視レ卿、美人二十七、視二大夫一、御人八十一、視二元士一。

【嬪妾】10 ヒンセフ 天子に近侍する宮女。そばめ。嬪媵。〔宋史、天文志三〕尾宿九星爲二天子後宮一、亦主二后妃之位一、上第一星后也、次星夫人、次星嬪妾也。

【嬪然】11 ヒンゼン 數の多いさま。〔漢書、王莽傳上〕嬪然成レ行。〔注〕師古曰、嬪然、多貌也。

【嬪則】12 ヒンソク 婦人の道。婦道。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕胎二我嬪則一。〔注〕銑曰、嬪則、爲レ婦之法則也。

【嬪德】13 ヒントク 婦人の德。婦德。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕俾三我王風始基二嬪德一。

【嬪妃】14 ヒンピ 宮中の女官。〔曹唐、小遊仙詩〕嬪妃久立帳門外、暗笑夫人推レ酒聲。

【嬪婦】15 ヒンプ ❶宮中の女官。九嬪世婦の略。〔周禮、天官、典婦功〕掌二婦式之灋一、以授二嬪婦及內人女功之事齎一。〔注〕嬪婦、九嬪世婦也。❷德行ある婦人の美稱。〔周禮、天官、大宰〕以二九職一任二萬民一、云云、七曰、嬪婦化二治絲枲一。〔注〕嬪、婦人之美稱也。〔疏〕嬪婦、謂下國中婦人有二德行一者上。

【嬪物】16 ヒンブツ 婦人の作った物。王引之は、嬪は賓で、賓客の事に用ひるものといふ。〔周禮、秋官、大行人〕又、其外、方五百里、謂二之甸服一、云云、其貢嬪物。〔注〕鄭司農云、嬪物、婦人所レ爲物也、爾雅曰、嬪、婦也、玄謂、嬪物、絲枲也。〔孫詒讓正義〕王引之云、嬪當二讀爲一レ賓、賓物、賓客之事所レ用之物也。

【嬪媵】17 ヒンヨウ 天子のこしもと。そばめ。嬪妾。嬪御。〔後漢書、李固傳〕令下中宮博簡二嬪媵一、兼采二微賤宜レ子之人一、進中御至尊上。

【嬪林】18 ヒンリン 數多の宮女。嬪從。〔李庾、西都賦〕繽紛宦闈、窈窕嬪林。

【嬪儷】19 ヒンレイ つれあひ。配偶。匹耦。伉儷。〔蔡邕、太尉楊秉碑〕夙喪二嬪儷一、妾不二嬖御一。

【嬫】6820

エイ ヤウ 〔集韻〕于平切 庚

女のあざな。〔集韻〕嬫、女字。

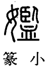
【嬬】6821

小篆

［一］シュ 〔集韻〕詢趨切 虞
［二］ジュ ニュ 〔集韻〕汝朱切 虞
［三］ドウ ヌ 〔集韻〕乃豆切 宥

［一］［二］❶よわい。〔說文〕嬬、弱也、从レ女需聲。❷そばめ。〔說文〕嬬、一曰、下妻也。〔段注〕下妻、猶二小妻一。〔新方言、釋親屬〕廣州謂レ妾曰レ嬬、音亦如レ乃。❸つま。〔廣雅、釋親〕妻、謂二之嬬一。❹須(12−43352)に通ず。〔易、歸妹、以レ須、釋文〕須、荀陸作レ嬬、陸云、妾也。［三］女のあざな。〔集韻〕嬬、女字。

【㜮】6822


小篆

［一］ラン 〔集韻〕盧瞰切 勘
［二］ラン 〔集韻〕盧甘切 覃

［一］❶過ちたがふ。〔說文〕㜮、過差也、从レ女監聲、論語曰、小人窮、斯㜮矣。❷むさぼる。〔廣韻〕㜮、貪也。❸禮を失ふ。〔廣韻〕㜮、失レ禮也。❹たのしむ。たはむれる。〔字彙〕㜮、婬也。❺或は𡤡(3−6923)に作る。〔集韻〕㜮、或从レ覽。❻適當でない。濫(7−18521)に通ず。〔說文、段注〕凡不レ得二其當一曰二過差一、亦曰レ㜮、今字多以レ濫爲レ之、商頌、不レ僭不レ濫、傳曰、賞不レ僭、刑不レ濫也、左氏曰、賞僭則懼レ及二淫人一、刑濫則懼レ及二善人一、其字皆可レ作レ㜮、濫行而㜮廢矣。［二］女の名。〔集韻〕㜮、女名。

【㛱】6823

ワイ 餧(12−43868)に同じ。〔集韻〕餧、或作レ㛱。

【嬭】6824

［一］ダイ ナイ 〔集韻〕女蟹切 蟹 ㄋㄞˇ nai^3
［二］デイ ナイ 〔集韻〕奴禮切 薺
［三］ジ ニ 〔集韻〕忍氏切 紙
［四］デイ ナイ 〔集韻〕乃計切 霽

［一］❶はは。〔廣雅、釋親〕嬭、母也。❷乳。はぐくむ。〔廣韻〕嬭、乳也。❸黃嬭は、ひるね。

〔風土歳時記〕唐人呼二晝睡一爲二黃嬭一。❹或は妳(3−6162)に作る。〔集韻〕嬭、或作レ妳。❺古は⿴囗乳(3−4791)に作る。〔集韻〕嬭、古作レ⿴囗乳。❻改めて奶(3−6043)に作る。〔正字通〕嬭、改作レ奶。㊁はは。㊀の❶に同じ。〔廣韻〕嬭、楚人呼レ母也。〔集韻〕嬭、廣雅、婢嬭、母也。㊂あね。〔集韻〕嬭、姊謂二之嬭一。㊃女のあざな。〔集韻〕嬭、女字。

【嬭媼】1 ダイアウ ❶うば。乳母。妳母。〔晉書、桓玄傳〕嬭媼每抱詣レ溫、輒易レ人而後至、云二其重一也。〔梁武帝、孝思賦序〕餘喘竛竮、嬭媼相長。❷はは。〔廣雅、釋親〕嬭媼、母也。

【嬭牛】2 nai³ niu² 牝牛。乳牛。

【嬭捲】3 nai² chüan³ バターを入れて作ったお菓子の一種。

【嬭公】4 nai³ kung¹ 奶公。乳母の夫。

【嬭子】5 nai³ tzŭ ❶乳。ちち。❷乳母。

【嬭酥】6 nai³ sŭ 乾酪。チーズ。

【嬭嬭】7 ダイダイ ❶婦人の尊稱。〔通俗編、稱謂、嬭嬭〕龔熙正續釋常談、引二焦仲卿妻詩、媒人下レ床去、諾諾復二嬭嬭一按、今本皆作二爾爾一、龔氏所レ見本、或自別耶。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕投至得レ見二你多情小嬭嬭一、憔悴形骸、瘦似二麻稭一。❷nai³ nai 祖母。

〘嬭嬭兒〙8 nai³ nai êrh ❶妻。❷母。

【嬭茶】9 nai³ ch'a² 牛乳入りの茶。

【嬭娘】10 nai³ niang² 乳母。

【嬭猪】11 nai³ chu¹ 乳豚。母豚。

【嬭頭】12 nai³ t'ou² ちくび。乳首。

【嬭婆】13 ダイバ うば。乳母。〔舊唐書、哀帝紀〕天祐二年、嬭婆楊氏、賜二號昭儀一。〔陔餘叢考、嬭婆〕俗稱二乳母一曰二阿嬭一、亦曰二嬭婆一。

【嬭皮】14 nai³ p'i² 乳酪。クリーム。

【嬭餠】15 nai² ping³ 乾酪。チーズ。

【嬭母】16 ダイボ うば。乳母。嬭媼。妳母。〔南史、何承天傳〕何承天年老、始除二將作佐郎一、諸佐郎並名家年少、潁川荀伯子嘲レ之、常呼爲二嬭母一。〔北史、崔季舒傳〕靜帝報二答霸朝一、恆與二季舒一論レ之、云二崔中書是我嬭母一。

【嬭名】17 nai³ ming² 誕生後すぐに命名する名。

【嬭油】18 nai³ yu² 牛酪。バター。

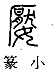
【嬭闌】19 nai³ lan² 乳あて。乳を高く見せない爲に胸を緊める具。

【嬭豆腐】20 nai³ tou⁴ fu 乾酪。チーズ。

【嬭媽兒】21 nai³ ma¹ êrh 乳母。

【㜸】6825

㊀エン 〔集韻〕於鹽切 鹽
㊁エフ 〔集韻〕益涉切 葉
㊂エン 〔集韻〕於豔切 豔


小篆

㊀㊁❶みめよい。〔說文〕㜸、好也、从レ女厭聲。❷和らいでしとやか。〔廣韻〕㜸、和靜。㊂❶女のあざな。〔集韻〕㜸、女字。❷㜸嫈は、美しいさま。〔集韻〕㜸、一曰、㜸嫈、美皃。

【⿰女盒】6826

カン ゴン 〔廣韻〕胡感切 感

⿰女盒害は、惡い性質。〔廣韻〕⿰女盒、⿰女盒害、惡性也。

【嬯】6827

タイ ダイ 〔集韻〕堂來切 灰

小篆

❶にぶい。おろか。懛(4−11371)に通ず。〔說文〕嬯、遲鈍也、从レ女臺聲、闒嬯亦如レ此。〔段注〕集韻、懛、當來切、卽此字也、今人謂レ癡如レ此。❷或は儓(1−1223)に作る。〔集韻〕嬯、或从レ人。

【嬰】6828

㊀エイ ヤウ 〔集韻〕伊盈切 庚 ying¹
㊁エイ ヤウ 〔集韻〕於慶切 敬

小篆

㊀❶みどりご。あかご。又、女の子。〔釋名、釋長幼〕人始生曰二嬰兒一、胷前曰レ嬰、抱二之嬰前一、乳二養之一也。〔玉篇〕嬰、女曰レ嬰、男曰レ兒。❷めぐる。めぐらす。〔說文〕嬰、繞也、从二女賏一、賏、貝連也、頸飾。〔揚雄、甘泉賦〕崝嶸隗乎其相嬰。〔注〕善曰、嬰、繞也。〔陸機、赴レ洛中道作詩〕世網嬰二我身一。〔注〕善曰、嬰、繞也。❸かける。〔荀子、富國〕是猶レ使三處女嬰二寶珠一。〔注〕嬰、繫二於頸一也。❹つらねる。〔山海經、西山經〕嬰以二百珪百璧一。〔注〕嬰、謂二陳レ之以環祭一也。❺おびる。〔漢書、陳湯傳〕單于長嬰二大罪一。〔注〕師古曰、嬰、猶レ帶也。❻加へる。〔山海經、中山經〕嬰用二吉玉一、彩レ之。〔注〕又加以二繒彩之飾一也。〔漢書、賈誼傳〕嬰以二廉恥一。〔注〕師古曰、嬰、加也。❼ふれる。〔韓非子、說難〕喉下有二逆鱗徑尺一、若人有二嬰レ之者一、則必殺レ人。❽抱きかかへる。〔淮南子、要略〕以與二天和一相嬰薄。〔注〕嬰、繞抱也。❾のどくび。〔釋名、釋車〕喉下稱レ嬰。❿くびかざり。賏(10−36779)に同じ。〔說文繫傳〕嬰、頸飾也。〔說文通訓定聲〕嬰、按、實與レ賏同字。⓫むながい。纓(8−28067)に通ず。〔說文通訓定聲〕嬰、叚借爲レ纓。〔國語、晉語二〕亡人之所二懷挾一嬰壤、以望二君之塵垢一者。〔注〕嬰、馬纓。⓬冠纓。冠のひも。纓(8−28067)に通ず。〔禮、內則〕衿嬰綦屨。〔釋文〕嬰、又作レ纓。⓭あうむ。鸚(12−47489)に通ず。〔禮、曲禮上〕嬰母能言。〔釋文〕嬰、本或作レ鸚。⓮美石。瑩(7−21155)に通ず。〔說文通訓定聲〕嬰、叚借爲レ瑩、北山經、燕山多二嬰石一、注所謂燕石者、言三石似レ玉有二符彩嬰帶一、按、嬰帶字又傳會。⓯姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕嬰姓・嬴姓、風俗通云、晉大夫趙嬰齊之後。㊁❶みどりご。㊀の❶に同じ。〔集韻〕嬰、關中謂二孩子一曰レ嬰。❷かよわい。嬰累。〔集韻〕嬰、嬰累、小弱。

解字 會意形聲。賏と女との合字。賏は貝(古の寶物)を連ねたもの、首飾をいふ。女の首飾が首をめぐることから、段注はただちに本義をめぐる意とする。一說に、賏と同字。女の首飾を本義とし、假借して營(めぐる)の意とし、又纓・瑩とし、又みどりごをいふ。嬰はまた音符。〔說文、嬰、繞也、段注〕各本作二頸飾也一、今正、貝部賏頸飾也、嬰與レ賏非二一字一、則解不レ應レ同。〔說文通訓定聲〕嬰、頸飾也、嬰从二女賏一、賏、貝連也、會意、賏亦聲、按、實與レ賏同字、荀子富國、是猶レ使三處女嬰二寶珠一、注、繫二于頸一也。

【嬰垣】1 エイエン 美玉の名。〔山海經、西山經〕又西七十里曰二羭次之山一、云云、其陰多二赤銅一、其陽多二嬰垣之玉一。〔注〕垣或作レ短、或作レ根、或作レ埋、傳寫謬錯、未レ可レ得レ詳。

【嬰孩】2 エイガイ みどりご。孩は嬰兒の初めて笑ふこと。嬰兒。〔老子、二十〕我獨泊兮、其未レ兆、如二嬰兒之未一レ孩。〔翼〕孩、小兒笑也。〔列子、天瑞〕大化有レ四、嬰孩也、少壯也、老耄也、死亡也。〔魏志、三少帝、齊王芳紀評〕撫二養嬰孩一。〔郭璞、遊仙詩〕千歲方嬰孩。〔顏氏家訓、教子〕教二婦初來一、教二兒嬰孩一。

【嬰鬼】3 エイキ 朝に生れ夕に死する者の靈魂。嬰兒の亡靈。〔易林、小畜之第九、升〕朝生夕死、名曰二嬰鬼一、不レ可レ得レ祀。

【嬰媿】4 エイキ 小蟲の名。〔神異經、南荒經〕南方蚊、翼下有二小蜚蟲一焉、云云、此蟲既細且小、因曰二細蠛一、陳章對二齊桓公一小蟲、是也、此蟲常春生、以二季夏一藏二于鹿耳中一、名二嬰媿一。

【嬰禦】5 エイギョ めぐりふせぐ。〔後漢書、馬融傳〕負レ隅依レ阻、莫二敢嬰禦一。

【嬰繫】6 エイケイ まとひつなぐ。つなぎとどめる。〔郭璞、山海經圖贊、幽頞〕幽頞似レ猴、俾二愚作一レ智、觸レ物則笑、見レ人佯睡、好用二小慧一、終是嬰

繫。

【嬰遘】8 エイコウ 觸れ遇ふ。かかりあふ。〔鮑照、請㆑假啓〕嬰㆓遘慘悼㆒終鮮㆓兄弟㆒、仲由所㆑哀、臣實百罹。

【嬰罪】9 エイザイ 罪にふれる。〔後漢書、范滂傳〕叔向嬰㆑罪、祁奚救㆑之。

【嬰兒】10 エイジ 生れたばかりの小兒。みどりご。ちのみご。女に嬰、男に兒といふ。一說に、胸の前を嬰といひ、生れたばかりのあかごを胸の前に抱いて、乳を飲ませ育てるからあかごをいふと。嬰孩。嬰兒子。〔玉篇〕嬰、女曰㆑嬰、男曰㆑兒。〔釋名、釋長幼〕人始生曰㆓嬰兒㆒、胸前曰㆑嬰、抱㆓之嬰前㆒、乳㆓養之㆒也。〔王先謙疏證補〕嬰無㆓胸前義㆒、此借㆑嬰爲㆑膺、說文膺、胸也。〔禮、雜記下〕中路嬰兒、失㆓其母㆒焉。〔戰國、秦策〕今秦婦人嬰兒、皆言㆓商君之法㆒。〔老子、二十八〕復㆓歸於嬰兒㆒。〔莊子、天地〕怊乎若㆔嬰兒之失㆓其母㆒也。〔荀子、正論〕脯㆓巨人㆒而炙㆓嬰兒㆒矣。〔呂覽、重己〕是聾者之養㆓嬰兒㆒也。〔史記、秦始皇紀〕有㆓新生嬰兒㆒。

【嬰兒子】11 エイジシ ちのみご。嬰兒に同じ。〔戰國、齊策〕趙威后問㆓齊使㆒曰、北宮之女嬰兒子無㆑恙耶、徹㆓其環瑱㆒、至㆑老不㆑嫁、以養㆓父母㆒。〔墨子、公孟〕夫嬰兒子之知、獨慕㆓父母㆒而已。

【嬰兒風】12 エイジフウ 東から吹く風。こち。〔表異錄、引兵書〕風從㆑震來、名㆓嬰兒風㆒。

【嬰兒在㆓股掌㆒】13 エイジコシヤウニアリ 活殺の權を掌中に握ること。〔魏志、袁紹傳〕譬如㆘嬰兒在㆓股掌之上㆒、絕㆗其哺乳㆖。

【嬰兒常病傷㆑飽】14 エイジノジヤウビヤウハアクニキズツク あかごにありがちの病氣は、飽きるまで乳を飲ませるから起る。〔潛夫論、忠貴〕歷㆓觀前世㆒、貴人之用㆑心也、與㆓嬰兒㆒等、嬰兒有㆓常病㆒、貴人有㆓常禍㆒、父母有㆓常失㆒、人君有㆓常過㆒、嬰兒常病傷㆑飽也、貴人常禍傷㆑寵也、父母常失、在㆑不㆑能㆑已㆓於媚㆑子、人君常過、在㆑不㆑能㆑已㆓於驕㆑臣、哺乳太多、必掣縱而生㆑癇、貴富太盛、則必驕佚而生㆑過、是故媚㆑子以賊㆓其福㆒者、非㆓一門㆒也、驕㆑臣滅㆓其家㆒者、非㆓一世㆒也。

【嬰兒生無㆓石師㆒而能言】15 エイジウマレテセキシナクシテヨクイフ 幼兒は生れてから立派な師がなくとも自然に言語を知る。石師は師匠の名。石師は又、碩師に作る。〔莊子、外物〕嬰兒生無㆓石師㆒而能言、與㆓能言者㆒處也。〔釋文〕石者、匠名也、謂㆑無㆘人爲㆓師匠㆒教㆑之者㆖也、一本作㆑所㆑師、又作㆓碩師㆒。

【嬰疾】16 エイシツ 病にかかる。嬰病。〔後漢書、李膺傳〕無㆑狀嬰㆑疾、闕㆓於所㆑仰。〔晉書、慕容雲載記〕雲懼曰、吾嬰㆑疾歷㆑年、卿等所㆑知。〔謝靈運、曇隆法師誄序〕同學嬰㆑疾、振㆓錫萬里㆒相救。

【嬰城】17 エイジヤウ 城をめぐらす。城をめぐらして守る。籠城する。嬰壁。〔戰國、秦策〕小黃濟陽嬰㆑城、而魏氏服矣。〔漢書、蒯通傳〕必將㆓嬰㆑城固守㆒、皆爲㆓金城湯池㆒、不㆑可㆑攻也。〔注〕孟康曰、嬰、以㆑城自繞也。〔王先謙補注〕嬰城固守、謂㆓繞㆑城守禦㆒耳。

【嬰勺】18 エイシヤク 鳥の名。〔山海經、中山經〕又東四十里曰㆓支離之山㆒、云云、有㆑鳥焉、其名曰㆓嬰勺㆒、其狀如㆑鵲、赤目赤喙白身、其尾若㆑勺。〔注〕似㆓酒勺形㆒。〔郭璞、山海經圖贊、嬰勺〕支離之山、有㆑鳥似㆑鵲、白身赤眼、厥尾如㆑勺。

【嬰弱】19 エイジヤク 幼兒と少年。〔北史、長孫慮傳〕使㆓嬰弱衆孤、得㆑蒙㆓存立㆒。

【嬰守】20 エイシユ めぐらしまもる。城壁をめぐらして守る。城にたてこもつて固く守る。嬰城(17)を見よ。

【嬰孺】21 エイジユ をさなご。幼者。〔盧肇、漢隄詩〕滔滔襄郊、捽㆓我嬰孺㆒。

【嬰觸】22 エイシヨク ふれる。法律等にふれることをいふ。〔戴表元、南山下行〕不㆑知㆓嬰觸㆒爲㆓何罪㆒。

【嬰齊】23 エイセイ 複姓。楚の穆王の子の嬰齊の子孫。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕嬰齊氏、芈姓、楚穆王之子、公子嬰齊之後也、嬰齊字子重、爲㆓令尹㆒。

【嬰石】24 エイセキ 燕山から出る玉に似た美石。燕石(**7－19429**・・159)を見よ。〔山海經、北山經〕北百二十里曰㆓燕山㆒、多㆓嬰石㆒。〔注〕言、石似㆑玉有㆓符彩嬰帶㆒、所謂燕石者。〔郝懿行箋疏〕嬰、疑燕聲之轉、未㆘必取㆓嬰帶㆒爲㆖義、水經注云、玉石山多㆓珉玉燕石㆒、故以㆓玉石㆒名㆑之、是燕石出㆓玉石山㆒、將玉石山卽燕山之異名與、而與㆓水經鮑丘水注無終之燕山㆒似㆑異、此蓋別一山也。

【嬰舌】25 エイゼツ 野葡萄(**11－40133**・・381)の異名。〔本草、蘡薁〕釋名、燕薁・嬰舌・山葡萄・野葡萄。

【嬰前】26 エイゼン 胸の前をいふ。むなさき。〔釋名、釋長幼〕人始生曰㆓嬰兒㆒、胸前曰㆑嬰、抱㆓之嬰前㆒、乳㆓養之㆒也。

【嬰帶】27 エイタイ 帶のやうにまく。

【嬰男】29 ying¹ nan² 男のちのみご。

【嬰稚】30 エイチ 幼少の者。をさなご。〔顏氏家訓、教子〕當㆛及㆘嬰稚識㆓人顏色㆒、知㆗人喜怒㆖、便加㆚教誨㆙。

【嬰中】31 エイチユウ 明毛元淳(**6－16772**・・272)の字。

【嬰女】32 ying¹ nü³ 女のちのみご。

【嬰丁】33 エイテイ 年若い壯丁。若い者。〔蜀志、郤正傳〕悠悠四海、嬰丁禍敗。

【嬰提】34 エイテイ みどりご。赤子。孩提。〔韓栩、經㆓月巖山㆒詩〕羣峯若㆓侍從㆒、衆阜如㆓嬰提㆒。

【嬰犢】35 エイトク ちのみごと小牛。〔法言、問道〕嬰兒慕、駒犢從、焉以㆑禮、曰、嬰犢乎、嬰犢母懷不㆓父懷㆒、母懷愛也、父懷敬也、獨母而不㆑父、未㆑若㆓父母之懿㆒也。

【嬰抱】36 ying¹ pao⁴ ❶ちのみご。❷嬰兒を抱く。

【嬰薄】37 エイハク 抱きかかへせまる。〔淮南子、要略〕澄㆓澈神明之精㆒、以與㆓天和㆒相嬰薄。〔注〕嬰、繞抱也。

【嬰病】38 ying¹ ping⁴ 病にかかる。嬰疾。

【嬰敷】39 エイフ 春秋時代の人。姓は益壽氏。李乾に嫁して老子を生む。〔唐書、宗室世系表上〕李氏出㆑自㆓嬴姓㆒、云云、五世孫乾、字元果、爲㆓周上御史大夫㆒、娶㆓益壽氏女嬰敷㆒、生㆑耳、字伯陽、一字耼。

【嬰茀】40 エイフツ 雲氣のたなびきかかるさま。〔楚辭、天問〕白蜺嬰茀、胡爲㆓此堂㆒。〔注〕茀、白雲逶移若㆑蛇者也。〔補注〕茀、音拂、說文云、霈、雲貌、疑卽此茀字。

【嬰慕】41 エイボ 嬰兒が母を慕ふやうに慕ふこと。〔新序、雜事一〕舜孝益篤、出㆑田則號泣、年五十、猶㆓嬰兒慕㆒、可㆑謂㆓至孝㆒矣。

【嬰蘭】42 エイラン 湖州に在る堂の名。蠶婦の名に取つて名づく。〔吹景集〕吳越備史、載㆘錢鏐題㆓湖州嬰蘭堂㆒詩之古樂府作蠶絲㆖云、柔桑感㆓陽風㆒、阿那嬰蘭婦、蓋江蠶務獨盛、南吳興人或採㆑此名㆑堂耳。

【嬰蘭堂】43 エイランダウ 五代錢鏐(**11－40563**・・222)の室名。

【嬰罹】44 エイリ かかる。蒙る。〔後漢書、班超傳〕先帝深愍㆔邊萌嬰㆓罹寇害㆒。

【嬰戮】45 エイリク 誅戮にふれる。死刑にあふ。〔陸機、豪士賦序〕伊生抱㆓明允㆒以嬰㆑戮、文子懷㆓忠敬㆒而齒㆑劍、固其所也。

【嬰鱗】46 エイリン 龍の喉の下にある逆鱗にふれる。人臣が直諫して君主の怒にふれること。〔韓非子、說難〕夫龍之爲㆑蟲也柔、可㆓狎而騎㆒也、然其喉下有㆓逆鱗徑尺㆒、若人有㆓嬰㆑之者㆒、則必殺㆑人、人主亦有㆓逆鱗㆒、說者能無㆑嬰㆓人主之逆鱗㆒、則幾矣。〔注〕嬰、觸也。〔蘇軾、謝㆓中書舍人㆒啓〕出而從㆑仕、有㆓狂狷嬰鱗之愚㆒。

【嬰累】47 エイルイ ❶わざはひに遇ふ。又、身にまつはりつくわざはひ。〔嵆康、幽憤詩〕咨予不㆑淑、嬰累多㆑虞。〔注〕翰曰、言、我不㆑善、繞㆓此罪累之多㆒。❷かよわい。〔集韻〕嬰、嬰累、小弱也。

【嬰童心】48 ヤウドウシン 佛子供のやうな心をいふ。世間の三寶を聞いて、歡喜し、歸依し、隨順し、修行して無畏を得た心。世間の八心中の第八。〔大日經、十八〕

【嬰山小園】49 エイザンセウヱン 清、張誠(**4－9812**・・149)の室名。

【⿰女尌】6829

ヘウ ベウ 〔集韻〕紕招切 蕭

女のあざな。〔集韻〕⿰女尌、女字。

【嬱】6830

セン 〔廣韻〕七豔切 豔

❶美女のさま。〔廣韻〕嬱、嬮嬱、美女兒。❷嶄(**3－6686**)に同じ。〔字彙〕嬱、同㆑嶄。

【嬲】6831

㊀デウ ネウ 〔集韻〕乃了切 ㄋㄧㄠˇ niao³ 篠

㊁ダウ ノウ 〔集韻〕乃老切 晧

〘二〙❶**なぶる**。〔一切經音義、一〕三蒼曰、嬲、弄也、惱也。〔集韻〕嬲、戲相擾也。〔嵆康、與山巨源絶交書〕足下若嬲之不置。〔注〕善曰、嬲、擿嬈也。❷**みだす**。**みだれる**。〔韓駒、送子飛弟歸荊南詩〕堂中走相嬲。❸或は嫐(**7−21915**)に作る。〔集韻〕嬲、或省。❹嬈(**3−6734**)に通ず。〔嵆康、與山巨源絶交書、注〕善曰、嬲、音義與嬈同。〘三〙**なぶる**。〘二〙の❶に同じ。〔集韻〕嬲、嬈也。

【嬲惱】1 デウナウ なぶりなやます。〔隋書、經籍志四〕釋迦之苦行也、是諸邪道、並來嬲惱、以亂其心。

【嬳】6832 〘一〙ワク 〔集韻〕鬱縛切 藥 〘二〙コ ゴ 〔集韻〕胡故切 遇

〘一〙❶**しなを作る**。〔集韻〕嬳、作姿態也、江南謂之咿、山東謂之嬳。❷**をしむ**。〔集韻〕嬳、一曰、惜也。❸或は⿰女矍(**3−6918**)に作る。〔集韻〕嬳、或作⿰女矍。〘二〙**をしむ**。〘一〙の❷に同じ。〔集韻〕嬳、惜也。

【⿰女善】6833 セン 嬗(**3−6708**)に同じ。〔康熙字典〕⿰女善、同嬗。

【嬴】6834 小篆 エイ ヤウ 〔集韻〕怡成切 庚 一ㄥ ying²

❶**みちる**。贏(**10−36950**)に通ず。〔說文通訓定聲〕嬴、段借爲贏。〔太玄經、玄數〕推三爲贊嬴、贊嬴入表、表嬴入家、家嬴入部。〔注〕嬴、滿也。〔爾雅、釋天〕夏爲長嬴。〔釋文〕嬴、本或作贏。〔史記、趙世家〕曾無我嬴。〔注〕集解曰、綦毋邃曰、人莫知己貴盛盈滿也。❷**あまる**。〔荀子、非相〕緩急嬴絀。〔注〕嬴、餘也。❸**のびる**。〔荀子、非相、注〕嬴絀、猶言伸屈也。❹**あらはれる**。すすみでる。〔管子、勢〕成功之道、嬴縮爲寶。〔注〕嬴縮、猶行藏也。❺**ます**。〔逸周書、大武解〕一勝人必嬴。〔注〕嬴、謂益之。❻**ゆたかな**。肥えた。〔山海經、大荒東經〕是維嬴土之國。〔注〕嬴、猶沃衍也。❼**勝つ**。〔史記、蘇秦傳〕嬴則兼欺舅與母。〔注〕索隱曰、嬴、猶勝也。❽**みめよい**。〔正字通〕嬴、女好也。❾**めぐる**。**めぐらす**。營(**7−19457**)に通ず。〔說文通訓定聲〕嬴、段借爲營。〔淮南子、要略〕嬴坪有無之精。〔注〕嬴、繞匝也。❿**かご**。籯(**8−26744**)に通ず。〔說文通訓定聲〕籯、段借爲嬴。〔淮南子、氾論訓〕靻蹻嬴蓋。〔注〕嬴、籯囊也。⓫**みがく**。鎣(**11−40730**)に通ず。〔說文通訓定聲〕嬴、段借爲鎣。⓬**はし**。ふち。邊。〔方言、九〕凡箭鏃、胡合嬴者四鎌。〔注〕嬴、邊也。⓭盈(**8−22961**)に通ず。〔說文、嬴、帝少皞之姓也、段注〕嬴、地理志作盈。〔左氏、宣、四〕圍伯嬴於轑陽而殺之。〔呂覽、知分〕孫叔敖三爲令尹而不喜、注〕叔敖、薳賈伯盈之子。⓮**地名**。山東省萊蕪縣の西北。〔左氏、哀、十五〕公孫宿以其兵甲入于嬴。〔注〕嬴、齊邑。⓯嬴(**3−6776**)に同じ。〔正字通〕嬴、本作嬴。⓰**秦の王室**。秦は嬴姓。⓱を見よ。⓲**姓**。〔說文〕嬴、帝少皞之姓也、从女嬴省聲。〔段注〕按、秦・徐・江・黃・郯・莒、皆嬴姓也。〔史記、秦紀〕秦之先帝顓頊之苗裔孫曰女脩、女脩織、玄鳥隕卵、女脩呑之生子大業、大業取少典之子曰女華、女華生大費、與禹平水土、已成、帝錫玄圭、禹受曰、非予能成、亦大費爲輔、帝舜曰、咨爾費、贊禹功、其賜爾皁游、爾後嗣將大出、乃妻之姚姓之玉女、大費拜受、佐舜調馴鳥獸、鳥獸多馴服、是爲柏翳、舜賜姓嬴氏。〔史記、趙世家〕曾無我嬴。〔注〕正義曰、嬴、姓嬴也。〔通志、氏族略、以姓爲氏〕嬴氏、伯益之後、伯益作朕虞、有功賜姓嬴氏、漢有嬴公、治公羊、望出河東太原。

【嬴罃】1 エイアウ 秦の康公。穆公の子。母は晉の獻公の女。諡は康。在位十二年にして卒す。〔史記、五〕。

【嬴育】2 エイイク のばしそだてる。〔管子、四時〕春嬴育、夏養長。

【嬴嬴】3 エイエイ ❶顔かたちの美しいさま。〔廣雅、釋訓〕嬴嬴、容也。❷進み伸びるさま。〔管子、勢〕修陰陽之從、而道天地之常、嬴嬴縮縮、因而爲當。

【嬴越】4 エイエツ 秦と越。嬴は秦の姓。〔韓愈、曹成王碑〕王親教之搏力句卒嬴越之法。

【嬴蓋】5 エイガイ かごとかさ。貧賤な者の旅行するさま。〔淮南子、氾論訓〕蘇秦匹夫徒步之人也、靻蹻嬴蓋、經營萬乘之主、服諾諸侯。〔注〕嬴、籯囊也、蓋、步蓋也。

【嬴虛】6 エイキョ みちることとむなしいこと。餘と不足。〔蘇軾、決壅蔽文〕三司之吏、推析嬴虛、至于毫毛、以繩郡縣、則是不任轉運使也。

【嬴縣】7 エイケン 縣名。漢、置く。春秋の齊の嬴邑。古城は山東省萊蕪縣の西北。俗稱は城子縣。卽ち古の嬴城。吳の延陵の季子、其の長子をこの附近に葬る。嬴博(23)を見よ。〔禮、檀弓下〕延陵季子適齊、於其反也、其長子死、葬於嬴博之閒。〔春秋、桓、三〕公會齊侯于嬴。〔左氏、哀、十一〕公會吳子伐齊、五月克博、壬申至于嬴。〔漢書、地理志上〕泰山郡、縣二十四、嬴。

【嬴坪】8 エイコ めぐりまとふ。〔淮南子、要略訓〕嬴坪有無之精。〔注〕嬴、繞匝也、坪、靡煩也。

【嬴公】9 エイコウ 漢、東平の人。昭帝の諫大夫。董仲舒を師とし、公羊春秋を治めて、東海の孟卿・魯國の眭孟に授けた。〔前漢書、八十八〕。

【嬴泗】10 エイシ 秦の惠文君。孝公の子。諡は惠文。商鞅を車裂し、張儀を相とし、司馬錯をして蜀を滅ぼさしめ、魏の上郡十五縣を納れ、又、楚の漢中の地、六百里を取り、治めて王と稱す。在位二十七年。〔史記、五〕。

【嬴咨】11 エイシ 後漢の人。黨錮八及の一。〔後漢書、九十七〕。

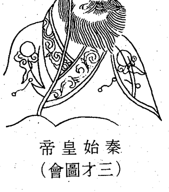
【嬴疾】12 エイシツ 秦の惠王の弟。滑稽多智、智囊と稱せらる。〔史記、七十一〕。

【嬴縮】13 エイシュク ❶滿ちることと減ること。又、早いとおそい。盈虛。〔史記、天官書〕歲星嬴縮、以其舍命國。〔注〕索隱曰、案天文志曰、凡五星早出爲嬴、嬴爲客、晚出爲縮、縮爲主人。〔資治通鑑、秦紀〕(昭襄王五十二年)進退嬴縮、與時變化。〔注〕五星早出爲嬴、晚出爲縮。❷進み出て道を行ふことと、退いて隱れ居ること。行藏。嬴縮。〔管子、勢〕成功之道、嬴縮爲寶。〔注〕嬴縮、猶行藏也、所謂時行則行、時止則止。

【嬴稷】14 エイショク 秦の昭襄王。武王の異母弟。諡は昭襄。魏冉を相とし、白起を將として、諸侯の師を破る。東周君を來朝せしめ、西周君をして盡く其の邑を獻ぜしめた。在位五十六年。〔史記、五〕。

【嬴秦】15 エイシン 秦をいふ。嬴は秦の姓。〔廼賢、孔林瑞槐歌〕嬴秦書焚士坑僇、幾歎遺經藏壁屋。〔陳高、感興詩〕商君佐嬴秦、變法開田疇。

【嬴政】16 エイセイ 秦の始皇帝。莊襄王の子。嬴は其の姓。盡く六國を滅し、天下を統一して自ら始皇帝と稱し、以て萬世に傳へんとした。建亥の月を以て正月とし、服色は黑を尙ぶ。天下の兵器を國都咸陽に聚め、銷して鐘鐻を爲り、從來の封建を廢し三十六郡を置いて中央集



秦始皇帝
（三才圖會）

權の實を固め、又、蒙恬をして長城を築かしめるなど、其の威は匈奴にまで振つたが、而も刑を持すること嚴に過ぎ、書を焚き、儒を坑にするなどの暴政を行ひ、天下の人心漸く離れた。在位三十七年。沙丘に崩ず。〔史記、六〕。

【嬴蕩】17（エイタウ） 秦の武王。惠文君の子。諡は武。初めて丞相を置き、樗里疾・甘茂を左右の丞相とす。甘茂をして宜陽を伐たしめ、遂に三川に通ず。性、多力で、力士孟說と鼎を擧げ、脛骨斷切して死す。在位四年。〔史記、五〕。

【嬴柱】18（エイチユウ） 秦の孝文王。昭襄王の子。諡は孝文。即位三日にして死す。〔史記、五〕。

【嬴絀】19（エイチユツ） のびることとかがむこと。〔荀子、非相〕緩急嬴絀。〔注〕嬴絀、猶レ言二伸屈一也。

【嬴儲】20（エイチヨ） あまりの貯。〔西京雜記、五〕導レ水鑿レ川自種、供養毎有二嬴儲一。

【嬴女】21（エイヂヨ） 秦の穆公の女。名は弄玉。〔列仙傳〕。

【嬴土】22（エイド） 地味の豐かに肥えた土地。〔山海經、大荒東經〕是維嬴土之國。〔注〕嬴、猶二沃衍一也。

【嬴博】23（エイハク） 春秋、齊の二邑の名。呉の延陵の季子が其の長子をこの附近に葬つた。嬴は山東省萊蕪縣の西北、博は山東省泰安縣の東南。嬴縣(7)を見よ。〔禮、檀弓下〕延陵季子適レ齊、於二其反一也、其長子死、葬二於嬴博之閒一。

【嬴博有二不レ歸之魂一】23′（エイハクニカヘラザルノタマシヒアリ） 嬴博の閒に天に歸り得ぬ游魂がある。呉の延陵の季子が齊に適き、長子を嬴博の閒に葬つた故事。嬴博を見よ。〔魏志、陳羣傳〕羣上疏曰、長短有レ命、存亡有レ分、故聖人制レ禮、或抑或致、以求二厥中一、防墓有二不レ脩之儉一、嬴博有二不レ歸之魂一。

【嬴餘】24（エイヨ） あまり。よぶん。剩餘。

【嬴媵】25（エイヨウ） 嫁入る女子のつきそひの女。〔列女傳、節義、楚成鄭瞀傳〕鄭瞀者、鄭女之嬴媵。

【嬴梁】26（エイリヤウ） 秦の孝公。獻公の子。諡は孝。商鞅を用ひて、法を變じ、制を改む。都を咸陽に遷し、六國を併呑せんとした。在位二十四年。〔史記、五〕。

【嬴鏤】27（エイル） 美しい模樣をほりつける。〔淮南子、本經訓〕嬴鏤雕琢、詭文回波。

【嬴胡亥】28（エイコガイ） 秦の二世皇帝。始皇帝の次子。始皇崩ずるや、李斯・趙高は詔といつはり、長子の扶蘇を廢して胡亥を立てた。後、趙高に殺さる。在位三年。〔史記、六〕。

【嬴子楚】29（エイシソ） 秦の莊襄王。孝文王の中子。諡は莊襄。趙の質となる。呂不韋の姬を見て悅び、娶つて子、政を生む。即位して惠を民に施す。東周の君の秦を謀るや、呂不韋をして之を誅せしめ、盡く其の國を納る。在位四年。〔史記、五〕。

【嬴師隰】30（エイシシフ） 秦の獻公。哀公七世の孫。諡は獻。出子の二年、庶長、出子及び其の母を弑し、公を河西に迎へ立てた。櫟陽に都し、晉を石門に破り、魏・晉と少梁に戰つて其の將を虜にした。在位二十四年。〔史記、五〕。

【嬴任好】31（エイジンカウ） 秦の穆公。德公の第三子。諡は穆。由余・百里奚・蹇叔・公孫支を得、晉の惠公を破り、又、屢〻戎を伐つ。國を益すこと二十、地を開くこと千里。在位三十九年。其の死するや、殉死するもの百七十七人に及んだ。〔史記、五〕。

【嬴顚劉蹶】32（エイテンリウケツ） 秦も漢も共にくつがへり滅びたこと。嬴は秦の姓、劉は漢の姓。〔韓愈、桃源圖詩〕嬴顚劉蹶了不レ聞、地拆天分非レ所レ恤。

【嬴劉之閒】33（エイリウノカン） 秦・漢の際。嬴は秦の姓、劉は漢の姓。〔韓愈、唐故相權公墓碑〕滅レ楚徙レ秦、嬴劉之閒。

【嬜】 6835 シン 〔集韻〕疏臻切 眞

❶**國の名**。有嬜。〔集韻〕嬜、有嬜、國名。〔漢書、古今人表、女志、注〕鮌妃、有嬜氏女、生レ禹。❷或は嫀(**3**－**6601**)に作る。〔集韻〕嬜、或作レ嫀。❸姺(**3**－**6249**)に同じ。〔正字通〕嬜、同レ姺。

【嬠】 6836 サン 〔字彙補〕七含切 覃

むさぼる。〔字彙補〕嬠、貪也。

【嬵】 6837 ベン メン 〔集韻〕彌延切 先

女のあざな。或は婂(**3**－**6386**)に作る。〔集韻〕嬵、女字、或省。

【鞖】 6838 タウ 靴(**12**－**42807**)に同じ。〔篇海類編〕鞖、同レ靴。

【𡣚】 6839 キ 〔集韻〕虛其切 支

❶**婦人の呼稱**。〔玉篇〕𡣚、婦人之稱也。❷**婦人を賤しんで呼ぶ呼稱**。娭(**3**－**6341**)に同じ。〔集韻〕娭、婦人賤稱、或从レ熙。

【嬪】 6840 ヒン 嬪(**3**－**6819**)の古字。〔集韻〕嬪、古作レ嬪。

【𡢻】 6841 ソク 娖(**3**－**6302**)に同じ。〔集韻〕娖、或作レ𡢻。

【蔢】 6842 バ 婆(**3**－**6390**)に同じ。〔字彙補〕蔢、佛經婆字。

【𡣖】 6843 音義未詳 〔字彙補〕𡣖、音義未詳、見二釋藏中峯語錄一。

【𡢗】 6844 ノウ 惱(**4**－**10856**)に同じ。〔篇海類編〕𡢗、同レ惱。

【𡝩】 6845 エウ 義未詳。〔篇海類編〕𡝩、伊堯切、音妖。

【𡚁】 6846 エウ 𡝩(**3**－**6845**)に同じ。〔篇海類編〕𡚁、同レ𡝩。

【𪚮】 6847 カン 𡤒(**3**－**6826**)に同じ。〔龍龕手鑑〕𪚮、同レ𡤒。

【嬺】 6848 音未詳 はは。〔稱謂錄、方言稱レ母、嬺〕呉俗呼レ母曰レ嬭、又曰レ嬺、見二集韻一。

【嬶】 6849 字國 **かか**。かかあ。妻を賤しんでいふ俗語。又、嚊(**2**－**4467**)に作る。

十五畫

【𡤐】 6850 セキ シヤク 〔集韻〕施隻切 陌

とつぐ。〔集韻〕𡤐、婦人謂レ嫁曰レ𡤐。〔元包經〕隨女有レ𡤐。〔注〕出而從レ夫也。

【嬸】 6851 シン 〔集韻〕式荏切 寢 ㄕㄣˇ shen^3

❶**叔母**。〔集韻〕嬸、俗謂二叔母一曰レ嬸。❷現㋑兄の妻が夫の弟の妻を呼ぶ稱。㋺滿洲で年少者の妻を呼ぶ稱。

【嬸子】1 shen^3 tzŭ 叔母。

【嬸兒】2 shen^3 erh 叔母。

【嬸嬸】3（シンシン） ❶兄の妻が夫の弟の妻を呼ぶ稱。〔事物異名錄、倫屬、夫姊妹〕紫微雜記、呂氏母母

受㆓嬸房婢拜㆒、嬸卽母母房婢拜卽答、按、俗兄婦呼㆓弟婦㆒爲㆓嬸嬸㆒、弟妻呼㆓兄嫂㆒爲㆓姆姆㆒、卽母母也。㊁shen^{3} shen 叔母。〔紅樓夢、十六回〕正要和嬸嬸討兩個人呢、這可巧了。

【嬸娘】4 shen^{3} niang^{2} 叔母。

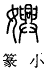
【嬸婆】5 shen^{3} p'o^{2} 叔母。

【嬸母】6 shen^{2} mu^{3} 叔母。

【嬸丈母娘】7 shen^{3} chang^{4} mu^{3} niang^{2} 妻の叔母。

【嬹】 6852

🈩キヨウ コウ 〔集韻〕許應切 徑
🈔キヨウ コウ 〔集韻〕虛陵切 蒸


小篆

🈩**よろこぶ**。〔說文〕嬹、說也、从ㇾ女興聲。〔廣雅、釋詁一〕嬹、喜也。〔廣韻〕嬹、悅也、喜也。🈔㊀**よろこぶ**。🈩に同じ。〔集韻〕嬹、悅也。㊁**女の名**。〔集韻〕嬹、一曰、女名。

【⿰女悳】 6853

チヨク ⿰女直(3－6652)に同じ。〔字彙〕⿰女悳、同ㇾ⿰女直。

【⿰女樂】 6854

🈩ヤク 〔集韻〕弋灼切 藥
🈔シヤク 〔集韻〕式灼切 藥

🈩🈔**美しいさま**。〔廣韻〕⿰女樂、⿰女樂美之皃。〔廣韻〕⿰女樂、美好也。〔集韻〕⿰女樂、美皃。

【⿰女墨】 6855

ボク ㊀嫼(3－6712)の俗字。〔集韻〕嫼、怒也、或不ㇾ省。〔正字通〕⿰女墨、俗嫼字。㊁姓。〔姓氏尋源〕⿰女墨氏、卽墨氏、因ㇾ事加ㇾ女。

【嬽】 6856

🈩エン 〔集韻〕縈玄切 先
🈔エン ヲン 〔集韻〕於袁切 元
🈪ワン 〔集韻〕逶鰥切 刪

小篆

🈩🈔🈪㊀**みめよい**。〔說文〕嬽、好也、从ㇾ女⿱䀠大聲、讀若㆓蜀郡布名㆒。〔鍇注〕此今人所ㇾ書娟字也。〔段注〕按、糸部、縛、蜀白細布也、其字彗聲、以㆓合韻㆒得ㇾ音。㊁**眉の美しいさま**。〔廣韻〕嬽、蛾眉。㊂**媚びて斜に見る**。ながしめで見る。〔正字通〕鐘鼎文、⿱䀠大卽願字、加ㇾ女爲ㇾ嬽、以㆓一目㆒斜視也。㊃**容姿がなまめかしい**。〔集韻〕嬽、容媚也。㊄**やはらぐ**。嬛(3－6782)に通ず。〔史記、司馬相如傳〕柔橈嬛嬛。〔漢書、司馬相如傳上〕柔橈嬽嬽。

【嬽嬽】1 エン エン ㊀やはらぎかがまるさま。又、からだつきのしなやかなさま。史記には嬛嬛、文選には嫚嫚に作る。〔漢書、司馬相如傳上〕柔橈嬽嬽。〔注〕師古曰、嬽嬽、柔屈貌也。〔王先謙集解〕嫚嫚・嬛嬛、皆借字之誤、本書作㆓嬽嬽㆒、是也、說文、嬽、好也、廣韻、嬽、媚容也。〔司馬相如、上林賦、注〕善曰、郭璞曰、柔橈嫚嫚、皆體耎弱長豔貌也。㊁容貌の美しいさま。〔廣雅、釋訓〕嬽嬽、容也。

【⿰女慮】 6857

リヨ ロ 〔集韻〕兩擧切 語

氣が進まぬ。儢(1－1251)に同じ。〔集韻〕儢、儢儢、不ㇾ欲ㇾ爲也、或从ㇾ女。

【⿰女祭】 6858

サイ 〔集韻〕七蓋切 泰

女のあざな。〔集韻〕⿰女祭、女字。

【⿰女截】 6859

セツ セチ 〔集韻〕子列切 屑

みめよい。〔集韻〕⿰女截、好也。

【嬻】 6860

トク ドク 〔集韻〕徒谷切 屋

小篆

㊀**なれる**。**けがす**。〔說文〕嬻、媟嬻也、从ㇾ女賣聲。㊁瀆(7－18591)に通ず。〔說文、段注〕今人以㆓溝瀆字㆒爲ㇾ之、瀆行而嬻廢矣。〔國語、周語〕陳侯棄㆓其伉儷妃嬪㆒、云云、淫㆓于夏氏㆒、不㆓亦嬻ㇾ姓矣乎。

【嬻嬒】1 トク ワツ 獸の名。幽鴳。〔山海經、北山經〕邊春之山有ㇾ獸焉、其狀如ㇾ禺而文身善笑見ㇾ人則臥、名曰㆓幽鴳㆒、〔注〕或作㆓嬻嬒㆒、鴳音遏。

【⿰女質】 6861

シツ シチ 〔集韻〕職日切 質

女のあざな。〔集韻〕⿰女質、女字。

【⿰女劉】 6862

🈩リウ ル 〔集韻〕力久切 有
🈔リウ ル 〔集韻〕力救切 宥
🈪リウ ル 〔集韻〕力求切 尤

🈩**やもめ**。〔集韻〕⿰女劉、嫠婦。🈔**なまめかしい**。〔集韻〕⿰女劉、埤倉、妖也。🈪**うつくしい**。〔集韻〕⿰女劉、美也。

【⿰女啚】 6863

シヤウ 嬙(3－6777)に同じ。〔集韻〕嬙、或作ㇾ⿰女啚。

【⿰女瞏】 6864

ケン 嬛(3－6782)の本字。〔正字通〕嬛、本作ㇾ⿰女瞏。

【⿱埶女】 6865

シ ⿰女埶(3－6639)の本字。〔康熙字典〕⿱埶女、說文、⿰女埶本字。

【⿰女敷】 6866

フ 娐(3－6292)に同じ。〔篇海類編〕⿰女敷、同ㇾ娐。

【⿰女嶲】 6867

イ 孈(3－6900)に同じ。〔字彙補〕⿰女嶲、同ㇾ孈。

【⿰火婁】 6868

セツ 義未詳。〔篇海類編〕⿰火婁、音屑。

十六畫

【⿰女𣎆】 6869

エイ ヤウ 〔集韻〕怡成切 庚

㊀**みめよい**。〔方言、一〕娥、⿰女𣎆、好也、秦曰ㇾ娥、宋魏之閒謂㆓之⿰女𣎆㆒。㊁嬴(3－6776)の俗字。〔正字通〕⿰女𣎆、俗嬴字。

【⿰女閻】 6870

エン 〔集韻〕余廉切 鹽

女のあざな。〔集韻〕⿰女閻、女字。

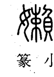
【⿰女褱】 6871

クワイ ヱ 〔集韻〕乎乖切 佳

おちつき和らぐ。〔集韻〕⿰女褱、安和也。

【嬾】6872

ラン　〔集韻〕魯旱切　旱　ㄌㄢˇ　lan³


小篆

❶おこたる。〔說文〕嬾、懈也、从レ女賴聲、一曰、餐也。〔蘇軾、安國寺浴詩〕老來百事嬾、身垢猶念レ浴。❷ふす。〔集韻〕嬾、一曰、臥。❸或は懶（4−11455）・悚（4−10929）・㦨（4−11475）・孄（3−6892）・孏（3−6920）に作る。〔集韻〕嬾、或作二懶・悚・㦨・孄・孏一。

參考　熟語は懶（4−11455）を併せ見よ。

【嬾菴】1（ランアン）　字號。淸、吳成佐（2−3365··704）の號。

〔嬾菴居士〕2（ランアンコジ）　元、吳方（2−3365··346）の號。

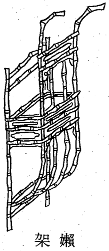
【嬾逸】3（ランイツ）　淸、張孝思（4−9812··869）の號。

【嬾雲】4（ランウン）　字號。❶明、計禮（10−35220··91）の號。❷淸、殷樹柏（6−16627··163）の號。❸淸、徐雲路（4−10110··335）の號。

〔嬾雲居士〕5（ランウンコジ）　明、裴應章（10−34362··107）の號。

【嬾腰】6（ランエウ）　だらりとした腰つき。疲れた腰。〔崔護、五月水邊柳詩〕睡臉寒未レ開、嬾腰晴更軟。

【嬾煙】7（ランエン）　ものういようにただよふ煙霧。春の初、湖水の上に浮ぶもやをいふ。〔海錄碎事、天、煙〕湖上初春、文禽相並映二短草一、翠瀲欲レ生浮二嬾煙一。


嬾架（三才圖會）

【嬾架】8（ランカ）　書物を載せて臥したままで讀む臺。見臺。懶架。嬾几。〔三才圖會、器用、嬾架〕嬾架、陸法言切韻曰、曹公作二敧架一、臥視レ書、今嬾架、卽其制也、則是此器起レ自二魏武帝一也。〔林逋、春日懷二歷陽一詩〕一榻竹風橫二嬾架一、半軒花月倒二頑盆一。

〔嬾架兒〕9（ランカジ）　脇息の類。〔宣和遺事、前集下〕天子倚二著嬾架兒一、暫歇。

【嬾看】10（ランカン）　みるにものうい。懶看。〔黃庚、春雨詞〕檐聲滴碎玉闌干、開盡梨花亦嬾レ看。

【嬾几】11（ランキ）　嬾架（8）に同じ。〔黃庭堅、題二校書圖後一〕唐右相閻君粉本北齊校書圖、士大夫十二員、執事者十三人、坐榻・胡牀四、書卷・筆硯二十二、投壺一、琴二、嬾几三、酒榼・果檑十五。

【嬾漁】12（ランギヨ）　淸、周綵（2−3441··205）の號。

【嬾窠】13（ランクワ）　宋、林外（6−14551··74）の號。

【嬾堠】14（ランコウ）　おこたること。堠は里程標を守る役人。堠官は暇の多い官であるからいふ。〔辛棄疾、詞〕心如二溪上釣レ磯閑、身似二道旁官レ堠嬾。〔玉梅詞話〕宋諺、饞如二鷂子一、嬾如二堠子一。

【嬾今】15（ランコン）　淸、王韜（7−20823··749）の號。

【嬾困】16（ランコン）　おこたり疲れる。たいくつする。〔杜甫、江畔獨步尋レ花詩〕黃師塔前江水東、春光嬾困倚二微風一。

【嬾齋】17（ランサイ）　淸、通門（11−38892··412）の號。

【嬾裝】18（ランサウ）　ざつとした裝束。

【嬾散】19（ランサン）　取り散らしてしまりがない。懶散。〔桃花扇、歸山〕襯二著嬾散衰貌一。

【嬾瓚】20（ランサン）　元、倪瓚（1−792··12）の號。〔雲林遺事〕倪瓚、或曰二嬾瓚一。

【嬾殘】21（ランザン）　❶衰へそこなはれたさま。なえそこなふ。〔楊萬里、詩〕黃菊霜枝既嬾殘、瑞香紫笋已團欒。❷唐、明瓚禪師（5−13805··693）の號。〔高僧傳〕衡岳寺僧明瓚禪師、性懶而食レ殘、號二懶殘一、李泌異レ之、往見、正撥レ火煨レ芋啖レ之、取二其半一授レ泌曰、勿二多言一、領二取十年宰相一。〔蘇軾、次二韻毛滂法曹感レ雨詩〕他年記二此味一、芋火對二嬾殘一。〔禪林口實混名集、上〕懶殘、神僧明瓚、初遊方詣二嵩山一、從二普寂一聽二禪法一、默證心契、聞二居衡岳一、性懶而食レ殘、故號二懶殘一。

【嬾情】22（ランジヤウ）　おこたる心。懶情。〔馮子振、十八公賦〕凡工二篝火之豔握一、或拙二背釭之嬾情一。

【嬾儒】23（ランジユ）　淸、方薰（5−13620··132）の號。

【嬾織】24（ランシヨク）　おこたり織る。〔段成式、嘲二飛卿一詩〕愁機嬾織同心苣、悶繡先描連理枝。

【嬾眞】25（ランシン）　字號。❶淸、張用天（4−9812··1563）の號。❷淸、李杕（6−14459··463）の號。

〔嬾眞子〕26（ランシンシ）　❶書名。五卷。宋、馬永卿撰。其の隨筆劄記は多く其の師、劉安世の語を述べ、考證の文が多い。〔四庫提要、子、雜家類〕。❷宋、馬永卿（12−44572··696）の號。

【嬾拙】27（ランセツ）　ものうくつたない。〔杜甫、發二秦州一詩〕我衰更嬾拙、生事不二自謀一。〔范成大、晚集南樓詩〕嬾拙已成三昧解、此生還證一圓通。

〔嬾拙老人〕28（ランセツラウジン）　宋、米友仁（8−26832··102）の號。

【嬾惰】29（ランダ）　なまけおこたる。ものうく怠る。懶惰。〔陶潛、責レ子詩〕阿舒已二八、嬾惰故無レ匹。〔高適、苦雪詩〕余故非二斯人一、爲性兼二嬾惰一。〔張詠、縣齋秋夕詩〕才薄難レ勝レ任、空銷嬾惰情。

【嬾堂】30（ランダウ）　宋、舒亶（9−30300··60）の號。

【嬾讀】31（ランドク）　讀書をおこたる。懶讀（4−11455··13）に同じ。

【嬾版】32（ランバン）　床榻に置く蒲團。クツシヨン。〔梁谿漫志〕邑大夫陸元光、侍レ疾臥レ內、輟二所レ御嬾版一以獻、縱橫二尺、偃植以受レ背、公殊以爲レ便、竟據二是版一而終、後蒼梧胡德輝爲二之銘一。

【嬾婦】33（ランプ）　❶なまけ女。不精な女。〔庾信、小園賦〕聚二空倉一而雀噪、驚二嬾婦一而蟬嘶。〔老學庵筆記、七〕詩正義曰、絡緯鳴嬾婦驚、宋子京秋夜詩云、西風已飄上林葉、北斗直掛建章城、人閒底事最堪レ恨、絡緯啼時無二婦驚一、其妙二于用レ事如レ此。❷こほろぎの異名。懶婦（4−11455··15）の❷を見よ。〔爾雅翼、釋蟲、蟋蟀〕里語曰、趣レ織鳴、嬾婦驚、而崔豹云、濟南人謂二蟋蟀一爲二懶婦一、非也。

〔嬾婦魚〕34（ランプギヨ）　江豚の異名。嬾婦獸・懶婦魚（4−11455··16）に同じ。

〔嬾婦獸〕35（ランプジウ）　江豚の異名。嬾婦魚・懶婦魚（4−11455··16）に同じ。〔海錄碎事、鳥獸、走獸〕嬾婦獸、出二象州一、異物志云、昔有レ婦嬾レ織、姑撾レ之、死爲二此獸一、其膏以照二讀書績紡一則暗、若宴會歌舞則明。

〔嬾婦箴〕36（ランプシン）　睡草（8−23448··27）の異名。醉草。〔述異記、下〕桂林有二睡草一、見レ之則令二人睡一、一名二醉草一、亦呼爲二嬾婦箴一、出二海南地記一。

〔嬾婦豬〕37（ランプチヨ）　豬の一種。機軸紡織の具を田に置けば決して近よらぬから怠け女に比していふ。〔范至能、虞衡志〕嶺南一種嬾婦豬、比二似山豬一而小、嘗二噉田禾一、惟以二機軸紡織之具一置二田所一、則不二敢近一。

【嬾癖】38（ランペキ）　なまけぐせ。〔李咸用、謝三友人遺二端溪硯瓦一詩〕草顚終近レ旭、嬾癖必無レ稽。〔茅坤、與二査太常一書〕林臥既久、遂成二嬾癖一。

【嬾慢】39（ランマン）　なまけて氣まま。懶慢。嬾慢相成を見よ。

〔嬾慢相成〕40（ランマンアヒナル）　嬾惰であれば傲慢に、傲慢であれば更に嬾惰にと、二者相互に增長し合ふ。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕簡與レ禮相背、嬾與レ慢相成。

【嬾眠】41（ランミン）　なまけねむる。〔嚴武、寄二題錦江野亭一詩〕漫向二江頭一把二釣竿一、嬾二眠沙草一落二風湍一。

【嬾面】42（ランメン）　獸の名。懶面（4−11455··22）に同じ。

【嬾和尙】43（ランヲシヤウ）　明、吳孺子（2−3365··651）の號。

【嬾閣翁】44（ランカクオウ）　明、姚廣孝（3−6202··152）の號。

【嬾愚室】45（ラングシツ）　宋、何師韞（1−511··285）の室名。

【嬾窟詞】46（ランクツシ）　書名。一卷。宋、侯寘撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【嬾人菜】47（ランジンサイ）　韮（12−43237）の異名。にら。韮は每年植ゑずともよいので、怠け者の作る野菜といふ意。〔事物異名錄、蔬穀、韮〕爾雅翼、韮者、嬾人菜、以二其不レ須二歲種一也。

【嬚】6873

セウ　〔集韻〕先彫切　蕭

女の名。〔集韻〕嬚、女名。

【嬿】6874

㊀エン　〔集韻〕伊甸切　霰
㊁エン　〔集韻〕因蓮切　先
㊂エン　〔集韻〕於殄切　銑

小篆

［一］［二］❶**女のあざな。**〔説文〕嬿、女字也、从レ女燕聲。❷⿱燕女(3-6875)に同じ。〔集韻〕⿱燕女、亦書作レ嬿。［三］❶**しとやか。**すなほ。やすらか。嬿婉。燕(7-19429)に通ず。〔説文、段注〕毛詩、燕婉之求、傳曰、燕安、婉順也、韓詩作ニ嬿婉一。〔後漢書、文苑下、邊讓傳〕展ニ中情之嬿婉一。〔注〕嬿、安也。❷**うつくしい。**〔枚乘、七發〕嬿服而御。〔注〕銑曰、嬿、好。

【嬿嬿】1 エンエン 美しいさま。〔白居易、別レ子詩〕夫婦新嬿嬿。

【嬿婉】2 エンエン すなほなさま。しとやかで美しいさま。燕婉(7-19429・・21)に同じ。〔集韻〕嬿、嬿婉、安順皃。〔後漢書、邊讓傳〕展ニ中情之嬿婉一。〔注〕嬿、安也、婉、美也。〔張衡、西京賦〕損ニ衰色一從ニ嬿婉一。〔注〕綜曰、嬿婉、美好之貌。〔劉琨、答ニ盧諶一詩〕嬿婉新婚。〔注〕濟曰、郁穆嬿婉、和美貌。

【嬿私】3 エンシ 美しいとして私かに愛する。又、其の者。〔後漢書、光武郭皇后紀論〕及レ至下移ニ意愛一析中嬿私上、雖ニ惠心妍状一、愈獻レ醜焉。

【嬿服】4 エンブク 美しい服。〔枚乘、七發〕揄ニ流波一、雜ニ杜若一、蒙ニ清塵一、被ニ蘭澤一、嬿服而御、此亦天下之靡麗皓侈廣博之樂也。〔注〕善曰、尚書大傳曰、古者后夫人至ニ於房中一、釋ニ朝服一、襲ニ嬿服一、入御ニ於君一也、銑曰、嬿、好。

【⿱燕女】6875 エン

嬿(3-6874)に同じ。〔集韻〕⿱燕女、亦書作レ嬿。

【嫸】6876 ボウ モウ 〔字彙〕毛鄧切 ［徑］

みめよいさま。〔字彙〕嫸、好貌。

【𡣪】6877 ジヤウ

襄(10-34556)の古字。〔説文〕襄、𡣪、古文襄。〔字彙補〕𡣪、古文襄字。

【⿰女鼎】6878 ウン

妘(3-6088)の籀文。〔集韻〕妘、古从レ鼎。

【⿰鼎攵】6879 ウン

妘(3-6088)の籀文。〔説文〕妘、⿰鼎攵、籀文妘、从レ員。

【⿰女賔】6880 ヒン

嬪(3-6819)の古字。〔集韻〕嬪、古作レ⿰女賔。

【⿰女逢】6881 カイ ガイ 〔集韻〕下介切 ［卦］

女のあざな。〔集韻〕⿰女逢、女字。

【嬝】6882 デウ ネウ 〔集韻〕乃了切 ［篠］

❶**みめよい。**⿰亻褭(1-1271)に同じ。〔集韻〕⿰亻褭、美也、或从レ女。❷**しなやか。**〔篇海類編〕嬝、腰嬝。

【⿰女歷】6883 レキ リヤク 〔集韻〕狼狄切 ［錫］

女のあざな。〔集韻〕⿰女歷、女字。

十七畫

【⿰女毚】6884 ハン 〔字彙〕音販

つれあひ。〔字彙〕⿰女毚、匹耦也。

【孀】6885 ［一］サウ シヤウ 〔集韻〕師莊切 ［陽］ ㄕㄨㄤ shuang¹ ［二］サウ シヤウ 〔集韻〕色壯切 ［漾］

［一］［二］**やもめ。**夫に死に別れた女。〔集韻〕孀、嫠婦。〔淮南子、脩務訓〕弔レ死問レ疾、以養ニ孤孀一。〔注〕孀、寡婦也、雒家謂ニ寡婦一曰ニ孀婦一。〔王瑗、清河王誄〕惠ニ于嫋孀一。〔白居易、江岸梨詩〕最似孀閨少年婦。

【孀娥】1 サウガ やもめ。寡婦。〔高啓、中秋翫ニ月張校理宅一得ニ南字一詩〕初來空中光尚濕、孀娥寒髩風鬟鬖。

【孀居】2 サウキヨ やもめぐらし。寡居。〔剪燈餘話、田洙遇ニ薛濤一聯句記〕不幸早卒、妾獨孀居。

【孀閨】3 サウケイ やもめの居るへや。〔白居易、江岸梨詩〕最似孀閨少年婦、白粧素袖碧紗裙。

【孀孤】4 サウコ やもめとみなしご。孤は幼くて親に死に分れた子。〔唐書、宋務光傳〕丁壯盡ニ於邊塞一、孀孤轉ニ於溝壑一。

【孀妻】5 サウサイ やもめ。孀婦。〔列子、湯問〕鄰人京城氏之孀妻、有ニ遺男一始齔、跳往助レ之。

【孀雌】6 サウシ やもめ。やもめぐらし。〔李白、雙燕離詩〕憔悴一身在、孀雌憶ニ故雄一。

【孀單】7 サウタン やもめ。やもめぐらし。〔唐書、蕭復傳〕鬻ニ先人之墅一、以濟ニ孀單一。

【孀婦】8 サウフ やもめ。寡婦。〔淮南子、原道訓〕童子不レ孤、婦人不レ孀。〔鮑照、和ニ王義興七夕一詩〕寒機思ニ孀婦一、秋堂泣ニ征客一。〔白居易、和ニ晨興一因報問ニ龜兒一詩〕西院病孀婦、後牀孤姪兒。

【孀老】9 サウラウ やもめの老女。年老いたやもめ。〔張協、七命〕煢嫠爲レ之擗摽、孀老爲レ之嗚咽。

【孁】6886 レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 ［青］

小篆（説文）

小篆（段注本）

女のあざな。〔説文〕孁、女字也、从レ女霝聲。〔段注〕漢婦官十四等中有ニ娛靈一、靈、蓋可レ作レ孁。［邦］**め。**靈の意に用いる。〔日本書紀、上〕生ニ日神一、號ニ大日孁尊一。

【⿱彌女】6887 ［一］ビ ミ 〔集韻〕民卑切 ［支］ ［二］ベイ マイ 〔集韻〕緜批切 ［齊］ ［三］セン 〔集韻〕息淺切 ［銑］

［一］［二］❶**母を呼ぶ語。**齊人の語。〔集韻〕⿱彌女、齊人呼レ母曰レ⿱彌女。❷或は嫛(3-6371)に作る。〔集韻〕⿱彌女、或作レ嫛。［三］**女のあざな。**〔集韻〕⿱彌女、女字。

【孂】6888 ［一］ケウ 〔集韻〕擧夭切 ［篠］ ［二］キ 〔集韻〕矩鮪切 ［紙］ ［三］キウ ク 〔集韻〕苦糺切 ［有］ ［四］ケン 〔集韻〕兼忝切 ［琰］ ［五］コク 〔集韻〕訖得切 ［職］

小篆

［一］［二］［三］［四］［五］❶**身をすくめるさま。**謹む。をののく。おそれる。〔説文〕孂、竦レ身也、从レ女𥂕聲、讀若ニ詩糾糾葛屨一。❷**たけくつよい。**赳(10-37038)に通ず。〔説文通訓定聲〕孂、叚借爲レ赳。❸**はたらきあるさま。**〔廣雅、釋詁四〕孂、材也。

【⿰女辥】6889 セツ

媟(3-6524)の俗字。〔正字通〕⿰女辥、俗媟字。

【⿱辥女】6890 ［一］セツ ［二］ゲツ

［一］蠥(10-33815)に同じ。〔集韻〕蠥、或作レ⿱辥女。［二］俗に

孽（3－7047）の字とする。〔正字通〕孼、俗孽字、凡孽子婢妾、皆謂㆓之孽㆒。

［参考］熟語は蠥（10－33815）を見よ。

【孃】6891
［一］ヂヤウ ニヤウ 〔集韻〕尼良切 ［陽］ ㄋㄧㄤˊ niang²
［二］ジヤウ ニヤウ 〔集韻〕如陽切 ［陽］
［三］ダウ ナウ 〔集韻〕奴當切 ［陽］
［四］ジヤウ ニヤウ 〔集韻〕汝兩切 ［養］

小篆

［一］❶わづらはしい。〔説文〕孃、煩擾也、从㆑女襄聲。〔段注〕今人用㆓擾攘字㆒、古用㆑孃、賈誼傳、作㆓槍攘㆒、莊子在宥、作㆓傖囊㆒、楚詞、作㆓恇攘㆒、云云、皆用㆓段借字㆒耳、今攘行而孃廢矣。❷肥える。⿰月襄（9－30033）に通ず。〔説文〕孃、一曰、肥大也。〔説文通訓定聲〕孃、段借爲㆑⿰月襄。❸はは。〔廣韻〕孃、母稱。〔南史、齊竟陵大宣王傳〕帝謂㆓子良㆒曰、汝何不㆑讀㆑書、曰、孃今何處、何用㆑讀㆑書、帝卽召㆑后還。❹むすめ。娘（3－6304）に通ず。〔説文、孃、段注〕按、廣韻、孃、女良切、母稱、娘、亦女良切、少女之號、唐人此二字分用畫然、故耶孃字、斷無㆑有㆓作㆑娘者㆒、今人乃罕㆑知㆑之矣。［二］❶わづらはしい。［一］の❶に同じ。〔集韻〕孃、煩擾也、❷こえる。［一］の❷に同じ。〔集韻〕孃、一曰、肥大。［三］［四］わづらはしい。［一］の❶に同じ。〔集韻〕孃、煩擾也。

［参考］熟語は娘（3－6304）を見よ。

【孃孃】1 ヂヤウヂヤウ ❶天子が母后を稱していふ。〔蘇軾、龍川雜志〕仁宗謂㆓劉氏㆒爲㆓大孃孃㆒、楊氏爲㆓小孃孃㆒。❷婦が姑を稱していふ。〔碧血錄〕婦稱㆑姑亦曰㆓孃孃㆒、如㆘明魏廓園之妻、稱㆓廓園之母㆒曰㆗孃孃㆖。

【孄】6892 ラン 嬾（3－6872）に同じ。〔集韻〕嬾、或作㆑孄。

【孅】6893 セン 〔集韻〕思廉切 ［鹽］ ㄒㄧㄢ hsien¹

小篆

❶こまかい。ちひさい。〔説文〕孅、兌細也、从㆑女韱聲。〔漢書、食貨志上〕古之治㆓天下㆒、至孅至悉也。〔注〕師古曰、孅、細也。❷ほそい。かよわい。〔漢書、司馬相如傳上〕嫵媚孅弱。〔注〕師古曰、孅、細也。❸攕（5－12979）・纖（8－28072）に通ず。〔説文、孅、段注〕孅與㆑纖、音義皆同、古通用。〔一切經音義、九〕孅、古文攕、字書作㆑纖、同。

【孅阿】1 センアセン 古の御に巧な者の名。又、女の顔のよいさま。又、山名。纖阿（8－28072・・1）に同じ。〔史記、司馬相如傳〕陽子驂乘、孅阿爲㆑御。〔注〕索隱曰、或曰、孅阿、美女姣好貌、又樂彦曰、孅阿、山名、有㆓女子㆒、處㆓其巖㆒、月歷㆓數度㆒、躍入㆓月中㆒、因爲㆓月御㆒也、郭璞云、孅阿、古之善㆑御者。

【孅介】2 センカイ ちひさい。こまかい。細小。細微。纖介（8－28072・・18）に同じ。〔漢書、宣元六王、楚孝王囂傳〕詔曰、楚王囂、素行孝順仁慈、之㆑國以來二十餘年、孅介之過、未㆓嘗聞㆒、朕甚嘉㆑之。〔漢書、王吉傳〕恩愛行義、孅介有㆓不㆑具者㆒。

【孅妍】3 センケン 小づくりでうるはしい。ほそくて美しい。纖妍（8－28072・・41）に同じ。〔周必大、跋㆓山谷發願文㆒〕濃淡孅妍、體備㆓衆妙㆒。

【孅悉】4 センシツ 極めて微細なこと。こまかい所まで行き届く。纖悉。〔漢書、食貨志上〕古之治㆓天下㆒、至孅至悉也。〔注〕師古曰、孅、細也、悉㆓盡其事㆒也。〔唐書、元獻楊皇后傳〕時太平公主忌㆑帝、而宮中左右持㆓兩端㆒、孅悉必聞。

【孅弱】5 センジャク ❶身體のかよわいこと。たをやか。〔司馬相如、上林賦〕嫵媚孅弱。〔注〕善曰、孅弱、謂㆓容體孅細柔弱㆒也。❷筆致の細かで弱いこと。〔歷代名畫記〕謝赫筆路孅弱、不㆑副㆓雅壯之懷㆒。

【孅嗇】6 センショク わづかのものを惜しむ。やぶさか。慳吝。〔史記、貨殖傳〕孅㆓嗇筋力㆒。〔漢書、貨殖傳〕宛孔氏用㆓鐵冶㆒爲㆑業、通㆓商賈之利㆒、然其贏得過㆑當、瘉㆓於孅嗇㆒、家致㆓數千金㆒。〔注〕師古曰、孅、細也、嗇、愛吝也、言、其於㆑利雖㆑不㆔汲㆓汲苟得㆒、然所㆑獲贏餘、多㆓於細吝者㆒也、孅與㆑纖同。

【孅趨】7 センスウ あまりにもうやうやしい態度で進み出る。諂ひ阿つて進み出る。〔史記、日者傳〕卑疵而前、孅趨而言。〔注〕索隱曰、孅音纖、纖趨、猶㆓足恭㆒也。

【孅撓】8 センダウ 小さくたわむ。纖撓（8－28072・・81）に同じ。

【孅犂】9 センリ 北狄の一。新犂。纖離。〔逸周書、王會解〕正北孅犂。〔集訓校釋〕漢匈奴傳、有㆓昆龍新犂國㆒、云云、昆龍新犂、在㆓匈奴北㆒、云云、孅犂、亦作㆓纖離㆒、李斯文、乘㆓纖離之馬㆒、卽此。

【嬺】6894 イ 〔篇海類編〕音醫

みどりご。〔篇海類編〕人始生曰㆑嬺。

【⿱罒⿺𠘨女】6895 シユク 〔川篇〕之六切 ［屋］

美しい女。〔川篇〕⿱罒⿺𠘨女、美女也。

【孆】6896 エイ 嬰（3－6828）に同じ。〔篇海類編〕孆、與㆑嬰同。

【⿱覀⿱叀女】6897 チユツ ⿱穴⿱叀女（3－6805）に同じ。〔集韻〕⿱穴⿱叀女、或作㆑⿱覀⿱叀女。

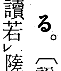
十八畫

【⿰女⿱爾心】6898 ダイ 嬭（3－6824）の俗字。〔正字通〕⿰女⿱爾心、俗嬭字。

【孇】6899 サウ 〔集韻〕疎江切 ［江］

女のあざな。〔集韻〕孇、女字。

【孈】6900
［一］スイ 〔集韻〕山垂切 ［支］
［二］イ 〔集韻〕演爾切 ［紙］
［三］ヰ ユイ 〔集韻〕愈水切 ［紙］
［四］クワイ ゲ 〔集韻〕胡卦切 ［卦］
［五］キ 〔集韻〕翾規切 ［支］
［六］キ 〔集韻〕呼恚切 ［寘］
［七］ケイ 〔楚辭注〕音攜


小篆

［一］［二］［三］［四］［五］**おろかでしなをつくる。**〔説文〕孈、愚戇多㆑態也、从㆑女巂聲、讀若㆑陸。［六］❶**おろかでしなをつくる。**［一］に同じ。〔集韻〕孈、愚戇多㆑態。❷**みめよいさま。**〔集韻〕孈、一曰、好皃。❸**あやまち。**〔集韻〕孈、一曰、過也。［七］**神の名。**〔楚辭、王逸、九思、傷時〕遇㆓神孈㆒兮宴娭。〔注〕孈、北方之神名也。

【⿰女聶】6901 ダフ ネフ 〔集韻〕昵洽切 ［洽］

うつくしい。〔集韻〕⿰女聶、美也。

【孉】6902 ケン 婘（3－6415）に同じ。〔正字通〕孉、同㆑婘。

【⿰女瞿】6903
［一］ク グ 〔集韻〕權倶切 ［虞］
［二］オウ ウ 〔集韻〕烏侯切 ［尤］

［一］㊀**えびすの歌**。〔集韻〕⿰女瞿、蠻夷歌。㊁**女のあざな**。〔集韻〕⿰女瞿、一曰、女字。［二］**巴人の歌**。〔集韻〕⿰女瞿、巴人歌。

【⿰女㶾】6904 ヘウ 嫖(**3－6637**)の本字。〔正字通〕⿰女㶾、嫖本字。

【嫥】6905 テン 〔篇海類編〕音囀

女の名。〔篇海類編〕嫥、女名。

【⿰女儵】6906 シユク 儵(**1－1299**)に同じ。〔篇海類編〕⿰女儵、同レ儵。

十九畫

【⿰女關】6907 ケン 婘(**3－6415**)に同じ。〔集韻〕婘、或作レ⿰女關。

【嬧】6908
［一］サン 〔集韻〕則旰切 ［翰］
［二］サン ザン 〔集韻〕才贊切 ［翰］

小篆

［一］［二］㊀**色白くみめよい**。〔說文〕嬧、白好也、从レ女贊聲。〔段注〕色白之好也。〔廣雅、釋詁一〕嬧、好也。㊁**きらびやか**。〔一切經音義、七〕嬧、綺也。㊂**愼まない**。〔集韻〕嬧、一曰、不恭。㊃**したがふ**。〔廣韻〕嬧、女從。

【⿰女羅】6909 ラ 〔集韻〕良何切 ［歌］

女のあざな。〔集韻〕⿰女羅、女字。

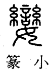
【孊】6910 ミ ビ 〔集韻〕母被切 ［紙］

女のあざな。〔集韻〕孊、女字、漢許皇后姊孊。

【孋】6911
［一］リ 〔集韻〕鄰知切 ［支］ ㄌㄧ li^2
［二］レイ ライ 〔集韻〕郎計切 ［霽］

［一］㊀**國の名**。**又、女の名**。通じて麗(**12－47663**)・驪(**12－45090**)に作る。〔集韻〕孋、孋姬、晉獻公伐二孋戎一所レ獲女、通作レ麗。〔左氏、昭、二十八、共子之廢、注〕共子晉申生以二孋姬一廢、〔釋文〕孋姬、本又作レ驪、同力知反、獻公伐二驪戎一所三得而以爲二夫人一。〔淮南子、說林訓〕獻公之賢、欺二於孋姬一。㊁**姓**。〔萬姓統譜〕孋、國名、見二通志一。〔奇姓通〕漢有二孋仲仁一。［二］**うつくしい**。〔集韻〕孋、美也。

【孌】6912
［一］レン 〔集韻〕力轉切 ［銑］ ㄌㄩㄢˇ lüan^3
［二］レン 〔集韻〕龍眷切 ［霰］
［三］ラン 〔集韻〕盧丸切 ［寒］
［四］バン マン 〔集韻〕謨還切 ［刪］
［五］レン 〔集韻〕閭員切 ［先］


小篆

［一］［二］㊀**したふ**。〔說文〕孌、慕也、从レ女䜌聲。㊁**すなほ**。**したがふ**。㜻(**3－6735**)に同じ。〔說文〕㜻、孌、籀文㜻。〔廣韻〕孌、順也。〔正字通〕孌、順從也。㊂**みめよい**。うつくしい。〔廣雅、釋詁一〕孌、好也。〔詩、邶風、泉水〕孌彼諸姬。〔傳〕孌、好貌。〔詩、小雅、車舝〕思二孌季女一逝兮。〔傳〕孌、美貌。㊃**若くてみめよい**。〔詩、齊風、猗嗟〕猗嗟孌兮。〔傳〕孌、壯好貌。〔詩、齊風、甫田〕婉兮孌兮。〔傳〕婉孌、少好貌。㊄⿰女戀(**3－6925**)に同じ。〔集韻〕⿰女戀、從也、或作レ孌。㊅戀(**4－11504**)に同じ。〔說文、孌、段注〕孌・戀、爲二古今字一。［三］［四］**女のあざな**。〔集韻〕孌、女字。［五］**ひく**。奱(**3－6031**)に同じ。〔廣雅、釋言〕孌、樊也。〔集韻〕奱、說文、樊也、或作レ孌。［邦］**かげま**。男色を賣る少年。

【孌兮】1（レンタリ） 若くてみめよいさま。字解の㊃を見よ。

【孌童】2（レンドウ） 美しい童子。美少年。〔水經、滱水注〕至レ若三孌婉丱童、及二弱年崽子一、或單舟採レ菱、或疊舸折レ芰。〔紀昀等校〕案、近刻作二孌童丱角、弱年女子一。〔稱謂錄、孌童〕北齊、許散愁、自レ少不レ登二孌童之牀一。

【⿰女䜌】6913 レン 孌(**3－6912**)に同じ。〔五音集韻〕⿰女䜌、同レ孌。

【⿰䜌攵】6914 レン 孌(**3－6912**)に同じ。〔集韻〕孌、亦書作レ⿰䜌攵。

【⿰女樂】6915 シヤク 鑠(**11－41019**)に同じ。〔字彙補〕⿰女樂、與レ鑠同。

二十畫

【孍】6916
［一］ゲン ゴン 〔集韻〕魚杴切 ［鹽］
［二］ゲン ゴン 〔集韻〕魚檢切 ［琰］

［一］**女のあざな**。〔集韻〕孍、女字。［二］**美女のさま**。〔玉篇〕孍、好女皃。〔集韻〕孍、好皃。

【⿱⿰齒可女】6917 カ ケ 〔集韻〕丘加切 ［麻］

女がしなをつくる。⿱宀亞⿱⿰齒可女。〔廣韻〕⿱⿰齒可女、⿱宀亞⿱⿰齒可女、女作二姿態一。〔集韻〕⿱⿰齒可女、⿱宀亞⿱⿰齒可女、女媧也。

【⿰女矍】6918 ワク 嬳(**3－6832**)に同じ。〔集韻〕嬳、或作レ⿰女矍。

二十一畫

【孎】6919
［一］シヨク ソク 〔集韻〕朱欲切 ［沃］
［二］シヨク ゾク 〔集韻〕珠玉切 ［沃］
［三］タク 〔集韻〕竹角切 ［覺］
［四］サク 〔集韻〕測角切 ［覺］

小篆

［一］**つつしむ**。〔說文〕孎、謹也、从レ女屬聲、讀若二人不孫爲レ孎。［二］㊀**女のあざな**。〔集韻〕孎、女字。㊁**女の謹むさま**。嫡孎。〔集韻〕孎、嫡孎、女謹順皃。［三］**つつしむ**。〔集韻〕孎、謹也。［四］娕(**3－6301**)に同じ。〔集韻〕娕、說文、謹也、一曰、善也、或作レ孎。

【孏】6920 ラン 嬾(**3－6872**)に同じ。〔集韻〕嬾、或作レ孏。

［參考］ 熟語は嬾(**3－6872**)を併せ見よ。

【孏窠】1 ランクワ　宋、林外(6-14551‥74)の號。

【孏窟詞】2 ランクツシ　書名。一卷。宋、侯寘撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【⿰女譱】6921　セン　嬗(3-6708)の本字。〔正字通〕⿰女譱、嬗本字。

【⿰女纍】6922　ルイ　嫘(3-6641)に同じ。〔集韻〕嫘、或作レ⿰女纍。

【⿰女覽】6923　ラン　⿰女監(3-6822)に同じ。〔集韻〕⿰女監、或从レ覽。

二十二畫

【⿰女彎】6924　ワン　エン　〔集韻〕烏關切　刪

女のあざな。〔集韻〕⿰女彎、女字。

二十三畫

【⿰女戀】6925　レン　孌(3-6912)に同じ。〔康熙字典〕⿰女戀、集韻同レ孌。

【⿰女疊】6926　テツ　姪(3-6226)に同じ。〔集韻〕姪、或作レ⿰女疊。

二十四畫

【⿱⿰兔兔⿰女兔】6927　一フ　〔龍龕手鑑〕芳遇切　遇
二ハン　ホン　〔龍龕手鑑〕芳萬切　願

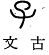
一兔の子。〔龍龕手鑑〕⿱⿰兔兔⿰女兔、兔子。二かへす。鳥が卵を抱きあたためる。〔龍龕手鑑〕⿱⿰兔兔⿰女兔、鳥伏レ卵也。

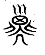
【⿰女⿱兔⿰兔兔】6928　ハン　嬔(3-6740)に同じ。〔篇海類編〕⿰女⿱兔⿰兔兔、同レ嬔。

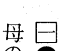
【⿰女豔】6929　エン　豔(9-30637)に同じ。〔字彙補〕⿰女豔、與レ豔同。

子　部

【子】6930　一シ　〔集韻〕祖似切　紙　ㄗˇ tzŭ^3
二シ　〔集韻〕將吏切　寘
三シ　ジ　〔字彙〕才資切　支
慣ス


小篆


古文


籀文

一❶こ。㋑父母の間に生れたもの。男女に通じて言ふ。〔釋名、釋親屬〕子、孳也、相生蕃孳也。〔小爾雅、廣詁〕子、餘也。〔廣雅、釋言〕子、似也。〔儀禮、喪服〕傳曰、故子生三月。〔注〕凡言レ子者、可三以兼二男女一。〔禮、哀公問〕子也者、親之後也。㋺あととり。家を嗣ぐもの。太子。古は諸侯の、親に死別して一年たたないものを子と呼んだ。〔禮、雜記上〕子拜稽顙。〔注〕子、孤子也。〔禮、曾子問〕不レ俟レ子。〔注〕子、嗣君也。〔左氏、僖、九〕凡在レ喪公侯、曰レ子。〔注〕子者、繼レ親之辭。〔呂覽、愼行〕已爲二吾子一矣。〔注〕子、太子也。〔春秋繁露、精華〕春秋之法、未レ踰レ年之君稱レ子。〔注〕子。㋩むこ。〔儀禮、士昏禮〕父醮レ子。〔注〕子、壻也。㋥庶子。衆子。〔儀禮、喪服〕叔父母子昆弟。〔注〕子、謂二庶子一。〔國語、楚語下〕帥二其子姓一。〔注〕子、衆子、姓、同姓也。㋭子孫。〔荀子、正論〕聖王之子也。〔注〕子、子孫也。㋬生物の雌雄牝牡の間に生れたもの。〔廣雅、釋鳥〕子、雛也。〔詩、小雅、小宛〕螟蛉有レ子。㋣易で艮・震にあてる。〔易、家人〕子子。〔虞注〕艮爲レ子。〔易、隨、官有レ渝、九家注〕震爲レ子。❷**男子の通稱**。〔論語、學而、子曰、疏〕子、男子之通稱。〔莊子、應帝王〕陽子居見二老聃一。〔釋文〕子、男子通稱。〔白虎通、號〕子者、丈夫之通稱也。❸**男子の美稱、又、尊稱**。〔左氏、閔、元〕齊高子來盟。〔注〕子、男子之美稱。〔穀梁、宣、十〕其曰レ子、尊レ之也。〔注〕子者、人之貴稱。〔漢書、武帝紀〕子者、人之嘉稱。❹**師の稱**。姓氏の上に冠する場合もある。〔論語、學而、子曰、皇疏〕子、是有德之稱、古者稱レ師爲レ子也。〔疏〕子者、古人稱レ師曰レ子。〔孝經、開宗明義章、子曰、釋文〕孔子也、古者稱レ師曰レ子。〔荀子、非相〕子弓短。〔注〕言レ子、著二其爲レ師也。〔公羊、隱、十一〕子沈子。〔注〕沈子稱レ子冠二氏上一者、著二其爲レ師也、不三但言二子曰一者、辟二孔子一也、其不レ冠レ子者、他師也。❺**德あるものの稱**。〔禮、曲禮下〕於レ外曰レ子。〔注〕子、有德之稱。❻**士大夫の通稱**。〔詩、陳風、宛丘〕子之湯兮。〔傳〕子、大夫也。〔公羊、宣、六〕子、大夫也。〔注〕古者士大夫通曰レ子。❼**女子の稱**。〔詩、大雅、大明〕長子維行。〔傳〕長子、長女也。〔左氏、莊、二十八〕小戎子。〔注〕子、女也。〔孟子、告子下〕摟二其處子一。〔注〕處子、處女也。❽**對者の呼稱。あなた。きみ。おみ**。㋑尊者。主君。親。〔廣雅、釋詁一〕子、君也。〔詩、陳風、宛丘〕子之湯兮。〔箋〕子者、斥二幽公一也。〔疏〕諸侯之臣亦呼レ君曰レ子。〔論語、公冶長〕願聞二子之志一。㋺對等者。友人。吾子。〔論語、學而、子曰、疏〕經傳凡敵者相謂、皆言二吾子一、或直言レ子。〔論語、季氏〕子亦有二異聞一乎。㋩卑者。弟子。〔論語、述而〕二三子以レ我爲レ隱乎。〔集解〕包咸曰、二三子、謂二諸弟子一。㋥女が男を呼ぶ。〔詩、衞風、氓〕送レ子涉レ淇。㋭男が女に向つていふ。〔禮、檀弓下〕孔子過二泰山側一、有下婦人哭二於墓一者上而哀、云云、子之哭也、壹似二重有レ憂者一。❾**わかもの**。〔北史、暴顯傳〕此郎子好相表、大必爲二良將一。❿**人。人々**。〔荀子、王霸〕誰子之與也。〔注〕誰子、猶二誰人一也。〔高啓、待レ渡詩〕渡子未レ回レ舟、立傍二沙頭樹一。⓫**たみ**。百姓。〔太玄經、將〕小子在レ淵。〔注〕小子、謂二百姓一也。⓬**萬物**。天地間の生物。〔老子、五十二〕既得二其母一、以知二其子一。〔河上公注〕子、萬物也。〔漢書、戾太子傳〕子猶二萬物一也。⓭**み**。果實。種。〔後趙錄〕浴室中種二二長坐樹一、八九月生レ華、花色白、子赤、大如二橡子一。〔白居易、江南喜レ逢二蕭九徹一因話二長安舊遊一贈二五十韻一詩〕幾看花結レ子、頻見レ露爲レ露。⓮**たまご**。〔禮、內則〕濡二魚卵一。〔疏〕卵、謂二魚子一。⓯**利息**。〔史記、貨殖傳〕子貸金錢千貫。〔注〕索隱曰、子、謂二利息一也。⓰**小さい。細かい**。微小なものに添へて用ひる。〔釋名、釋形體〕瞳子、子、小稱也。〔後漢書、

王符傳〕葛子升越。〔注〕子、細稱也。〔北史、周文帝紀〕黑子宛轉、若二龍盤之形一。⓱いし。こま。圍棋・博弈等に使用する細小な具。〔南史、何承天傳〕賜以二局子一。〔南史、卞彬傳〕豈復是擲レ子之拙。〔唐書、李泌傳〕方若二棋局一、圓若二碁子一。⓲物の名に添へる接尾語。〔通俗編、語辭〕子、俗呼二服器之屬一、多以二子字一爲レ助、其來已久、舊唐書、裴冕自創二巾子一、其狀新奇、中華古今注、始皇元年、詔二近侍宮人一、皆服二衫子一、三妃九嬪、當レ暑戴二芙蓉冠子一、手把二雲母扇子一、云云、又有二釵子・帽子・鞋子等稱一、云云、多未下嘗辨二其其物之大小一、而概中呼之上也、湘山野錄、吳越王歌云、別是一般滋味子、永在二我儂心子裏一、雖レ非レ呼レ物、而亦以二子字一爲レ助。⓳男子の陰物。〔後漢書、宦者傳論〕腐レ身熏レ子。⓴ね。十二支の第一位。㋑方位は北。〔淮南子、時則訓〕仲冬之月、招搖指レ子、云云、其位北方。㋺ねの年。〔爾雅、釋天〕太歲在レ子、曰二困敦一。㋩ねの月。陰曆の十一月。北斗七星の柄が初昏に子の方向を指す月。〔淮南子、時則訓〕仲冬之月、招搖指レ子。〔說文〕子、十一月昜气動、萬物滋、人㠯爲レ偁、象形。㋥ねの日。〔儀禮、士喪禮〕不レ辟二子卯一。〔注〕子卯、桀紂亡日。㋭ねの時。今の、夜十一時から一時まで。〔隋書、天文志〕春秋分、日出二卯正一、日入二酉正一、晝、五十刻、夜、五十刻、子四刻、丑亥七刻。㋬五行では水。〔論衡、物勢〕子、水也。㋣獸にあてて鼠。〔論衡、物勢〕子、水也、其禽鼠也。㉑周代、五等の爵の第四位。〔書、堯典〕允子朱啓明。〔傳〕子、爵也。〔禮、王制〕王者之制二祿爵一、公侯伯子男、凡五等。㉒諸侯の伯・子の稱。一說、伯・子・男の稱。〔禮、王制、注〕合二伯子男一以爲レ一。〔疏〕春秋之時、伯亦得レ稱レ子、子亦得レ稱レ伯、云云、何休之意、合二伯子男一爲レ一、皆從稱レ子也、鄭康成此注之意、合二伯子男一以爲レ一、皆稱レ伯也、與二何休一不レ同。〔公羊、桓、十一、春秋伯子男一也、注〕春秋改二周之文一、從二殷之質一、合二伯子男一爲レ一、一辭無レ所レ貶、皆從レ子、夷狄進爵稱レ子、是也。㉓蠻夷の君。牧に對する名。〔禮、曲禮下〕其在二東夷北狄西戎南蠻一、雖レ大曰レ子。〔注〕謂二九州之外長一也、天子亦選二其諸侯之賢者一、以爲二之子一、子、猶レ牧也、入二天子之國一曰レ子、天子亦謂二之子一、雖レ有二侯伯之地一、本爵亦無レ過レ子、是以同名曰レ子。㉔一家の言說を以て立てる學者。又、其の著書。諸子（10－35743・・124）の❹を見よ。〔漢書、藝文志〕諸子十家、其可レ觀者、九家而已。〔陳後主、與レ人書〕博二綜子史一。〔事物紀原、經籍藝文部、子〕文心雕龍曰、鬻熊作レ書、題曰二鬻子一、蓋周初人、此名レ子之始也。㉕書籍分類の一目。經・史・子・集の子。〔四庫提要、子部總敍〕自二六經一以外、立レ說者皆子書也。㉖まつり。祀（8－24633）に通ず。〔說文通訓定聲〕子、叚借爲レ祀。〔周禮、秋官、閩隸〕掌子則取レ隸焉。〔注〕杜子春云、子、當レ爲レ祀。㉗ふえる。しげる。茲（9－30911）に通ず。〔說文通訓定聲〕子、叚借爲レ茲、易明夷、蜀才本、其子之明夷、孟喜弟子趙賓曰、其子明夷、陰陽氣亡、其子者、萬物方荄茲也。㉘古は孚（3－6940）・𠒎（2－1799）・𡿺（4－8707）・堖（3－5492）・𣏟（6－15198）に作る。〔集韻〕子、古作二孚・𠒎一。〔五音集韻〕𡿺、古文子字。〔字彙補〕堖、古文子字。〔字彙補〕𣏟、古文子字。㉙姓。〔通志、氏族略、以レ姓爲レ氏〕子氏、帝嚳之子契、受二封於商一、賜二姓子一、湯有二天下一、微子基レ宋、世爲二子姓一、或以爲レ氏、又楚有二屈建一、字子木、公子申、字子西、皆爲二子氏一。[二]

[三]いつくしむ。慈（4－11048）に通ず。〔說文通訓定聲〕子、叚借爲レ慈。〔集韻〕子、愛也。〔禮、樂記〕易直子諒之心、油然生矣。〔注〕子、讀如二不レ子之子一。〔禮、中庸〕子二庶民一也。〔注〕子、猶レ愛也。〔釋文〕子如レ字、徐、將吏反。[邦]こ。女子の名の下に添へて呼ぶ稱。

[名乘]　サネ。タダ。タネ。チカ。ネ。ミ。ミル。

[解字]　象形。人の首（あたま）と手足の形とに象る。小兒の襁褓の中にある故に足を併せた形に象る。故に本義は父母の間に生れたもの、小兒をいふ。古文孚に作る。巛は頭髮にかたどる。一說、萬物のしげり生ずる形にかたどる。萬物の下に滋生するより、人の子をいふ。人の子をいふは假借であると。假借して慈・茲・祀とす。轉じて、男子の美稱、又、有德者の稱とし、周代五等の爵位の第四等位に用ひ、微小の義にも用ふ。〔說文、子、段注〕律書、子者、滋也、言三萬物滋二於下一也、律厤志曰、孳二萌於子一、云云、子、本陽气動、萬物滋之偁、萬物莫レ靈二於人一、故因叚借以爲二人之稱一、象二物滋生之形一、亦象下人首與二手足一之形上也。〔說文通訓定聲〕子、按、象下兒在二襁褓中一足倂上也。

【子阿】1 アシ　後漢、鍾離意（11－40672・・114）の字。

【子愛】2 アシアイ　❶子のやうに愛する。〔漢書、匡衡傳〕聖德天覆、子二愛海內一。〔魏志、高堂隆傳〕此乃皇天子二愛陛下一、是以發二敎戒之象一。❷いつくしみ。慈愛。子は慈（4－11048）に通ず。〔禮、文王世子〕敎レ之以二孝弟睦友子愛一、明二父子之義、長幼之序一。〔集解〕子、當レ作レ慈、與二樂記子諒之子一同、敎レ之以二孝慈愛一。〔晉書、范甯傳〕流二子愛於百姓一。

【子鞅】3 アシアウ　複姓。〔萬姓統譜〕子鞅、嫣姓、陳僖公生二簡子齒一、爲二子鞅氏一。

【子惡】4 アシアク　春秋楚、郤宛（11－39440・・2）の字。

【子安】5 アシアン　❶仙人の名。黃子安。〔名勝志〕漢陽渡上有二黃鶴樓一、晉仙人黃子安、騎二黃鶴一遊二憩于此一。〔李白、登二敬亭山一南望懷レ古贈二竇主簿一詩〕白龍降二陵陽一、黃鶴呼二子安一。❷字號。㋑晉、范平（9－30834・・114）の字。㋺晉、成公綏（5－11544・・102）の字。㋩北周、楊紹（6－15112・・247）の字。㋥後魏、畢聞慰（7－21829・・116）の字。㋭唐、王勃（7－20823・・986）の字。㋬宋、趙林（10－37171・・374）の字。㋣宋、狄遵禮（7－20290・・35）の字。㋠宋、楊畏（6－15112・・6）の字。㋷宋、李熙靖（6－14459・・998）の字。㋦金、師安石（4－8916・・224）の字。㋸元、范康（9－30834・・15）の字。㋾明、皇甫涍（8－22701・・221）の字。㋻明、顧磐（12－43689・・166）の字。㋕明、李遷（6－14459・・527）の字。㋵清、吳應和（2－3365・・451）の字。㋟清、周遠（2－3441・・41）の字。㋹清、楊鸞（6－15112・・372）の字。❸元、施耐庵（5－13629・・166）の名。❹コヤス ㋑安產すること。㋺幼兒の安泰を護ること。

【子安講】6 コヤスカウ　婦人が佛に安產を祈るために催す集會。

【子安貝】7 コヤスガヒ　美しい斑紋のある貝。產婦が所持すれば安產の效があるといふ。〔竹取物語〕つばくらめのもたる子やす貝。

【子夷】8 イシ　字號。❶宋、范正平（9－30834・・217）の字。❷明、宋懌（3－7078・・16）の字。

【子衣】9 イシ　えな。胞衣。胎胞。〔隋書、東夷、流求國傳〕流求國婦人、產乳、必食二子衣一。

【子辰】10 イシ　宋、韓公裔（12－43159・・284）の字。

【子異】11 イシ　清、楊頤（6－15112・・4）の字。

【子頤】12 イシ　清、百齡（8－22679・・621）の字。

【子彝】13 イシ　字號。❶晉、司馬倫（2－3257・・324）の字。❷清、沈維鐈（6－17189・・415）の字。

【子位】14 ヰシ　字號。❶明、程相（8－25081・・61′）の字。❷清、許自俊（10－35298・・306）の字。

【子威】15 ヰシ　字號。❶漢、翟方進（9－28727・・59）

の字。㊁漢、王商（螽吾の人）(7-20823‥526)の字。㊂後漢、車成(10-38172‥132)の字。㊃三國吳、孫霸(3-6987‥238)の字。㊄宋、史季溫(2-3249‥185)の字。㊅金、鄧儼(11-39630‥46)の字。㊆元、李黼(6-14459‥734)の字。㊇明、張鈇(4-9812‥646)の字。㊈明、劉鳳(2-2224‥604)の字。㊉清、胡元儀(9-29400‥461)の字。

【子畏】16 シヰ　字號。㊀明、劉臺(2-2224‥474)の字。㊁明、唐寅(2-3709‥7)の字。

【子韋】17 シヰ　春秋、宋の人。天文に通じ、景公の司星の官となる。〔淮南子、道應訓〕召㆓子韋㆒而問焉。〔史記、宋世家〕熒惑守㆑心、心、宋之分野也、宋景公患㆑之、司星子韋、請㆑移㆓於相㆒。〔漢書、藝文志〕宋有㆓子韋㆒。〔拾遺記、周靈王〕宋景公之世、云云、忽有㆓野人㆒、被㆑草負㆑笈、扣㆑門而進、云云、乃景公延㆓之崇堂㆒、語則及㆓未來之兆㆒、次及㆓已往之事㆒、萬不㆑失㆑一、夜則觀㆑星望㆑氣、晝則執㆑算披㆑圖、不㆑服㆓寶衣㆒、不㆑甘㆓奇食㆒、云云、遂賜㆑姓曰㆓子氏㆒、名㆑之曰㆑韋、卽子韋也。

【子偉】18 シヰ　明、尤烈(4-7543‥42)の字。

【子唯】19 シヰ　清、邵曾可(11-39343‥130)の字。

【子瑋】20 シヰ　字號。㊀後漢、崔琦(4-8178‥42)の字。㊁晉、龔壯(12-48837‥24)の字。

【子維】21 シヰ　明、張四維(4-9812‥1107)の字。

【子友】22 シイウ　字號。㊀春秋魯、漆雕徒父(7-18108‥66)の字。㊁晉、司馬睦(2-3257‥314)の字。㊂後魏、盧懷仁(8-23050‥201)の字。㊃金、李偲(6-14459‥389)の字。

【子由】23 シイウ　字號。㊀宋、黄由(12-47926‥27)の字。㊁宋、史嵩之(2-3249‥231)の字。㊂宋、蘇轍(9-32427‥152)の字。㊃宋、王宗巳(7-20823‥1842)の字。㊄元、朱祖義(6-14424‥893)の字。㊅明、沈啓(6-17189‥133)の字。

【子有】24 シイウ　㊀複姓。〔萬姓統譜〕子有恭叔、宋人。㊁春秋、魯の人。姓は有。名は若。字は子有。孔子の弟子。有若(5-14332‥183)を見よ。㊂字號。㋑春秋魯、漆雕徒父(7-18108‥66)の字。㋺春秋魯、冉求(2-1514‥6)の字。㋩南齊、何求(1-511‥44)の字。㋥元、張九思(4-9812‥915)の字。㋭明、陳所蘊(11-41698‥993)の字。

【子攸】25 シイウ　後魏、孝莊帝(3-6952‥257)の名。

【子游】26 シイウ　㊀複姓。〔萬姓統譜〕子游、姬姓、鄭公子偃字子游之後。㊁春秋、吳の人。姓は言。名は偃。子游は其の字。魯に仕へて、武城の宰となる。孔子の弟子となり、特に禮を習ひ、文學の科に列し、吳中文學の鼻祖。其の墓は常熟縣西北虞山の東麓にある。言偃(10-35205‥7)を見よ。㊂字號。㋑春秋鄭、駟偃(12-44683‥1)の字。㋺漢、鄭崇(11-39647‥183)の字。㋩南朝宋、王偃(7-20823‥81)の字。

【子猶】27 シイウ　明、高弘圖(12-45313‥1173)の字。

【子猷】28 シイウ　字號。㊀晉、王徽之(7-20823‥1295)の字。㊁宋、張致遠(4-9812‥1348)の字。㊂清、邊勳(11-39216‥54)の字。

〖子猷尋戴〗29 シイウジンタイ　蒙求の標題。晉の王徽之（字は子猷）が雪後の月夜、獨り酒を酌んで左思の招隱詩を詠じてゐるうち、ふと隱者の戴逵（字は安道）に逢ひたくなり、早速小船に乘つて逵の門前まで行つたが、遂に其の家に入らずして歸つた。人が其の故を問ふと、興に乘じて行き、興が盡きたので歸つただけの話で、別に是非戴逵に逢はねばならぬ理由はないといつた故事。〔晉書、王徽之傳〕嘗居㆓山陰㆒、夜雪初霽、月色清朗、四望浩然、獨酌㆑酒、詠㆓左思招隱詩㆒、忽憶㆓戴逵㆒、逵時在㆑剡、便夜乘㆓小舟㆒詣㆑之、經㆑宿方至、造㆑門不㆑前而反、人問㆓其故㆒、徽之曰、本乘㆑興而來、興盡而反、何必見㆓安道㆒邪。

【子遊】30 シイウ　子游(26)を見よ。

【子優】31 シイウ　後漢、牟融(7-19928‥35)の字。

【子育】32 シイク　宋、高遵惠(12-45313‥1222)の字。

【子昱】33 シイク　後魏、韋榮亮(12-43108‥161)の字。

【子一】34 シイツ　字號。㊀明、曹守貞(5-14297‥256)の字。㊁明、丁湛(1-2‥138)の字。

【子佚】35 シイツ　漢、陳欽(11-41698‥163)の字。

【子逸】36 シイツ　字號。㊀五代閩、王延翰(7-20823‥1196)の字。㊁清、趙棻(10-37171‥330)の字。

【子邑】37 シイフ　後漢、左伯(4-8720‥357)の字。

〖子邑紙〗38 シイフシ　後漢の左伯、字は子邑の作つた紙。左伯は蔡倫の後で、其の紙はつやがあつて美しいといふ。〔潛確類書〕蔡倫後有㆓左伯㆒、善造㆑紙、子邑之紙、研究輝光、仲將之墨、一點如㆑漆。

【子允】39 シイン　字號。㊀宋、張擴（歙の人）(4-9812‥237)の字。㊁明、劉允(2-2224‥19)の字。

【子尹】40 シイン　字號。㊀宋、史岩之(2-3249‥183)の字。㊁清、鄭珍(11-39647‥223)の字。

【子胤】41 シイン　子。むすこ。〔儀禮、喪服傳〕夫妻牉合也、疏〕是夫婦半合、子胤生焉、是半合爲㆓一體㆒也。

【子音】42 シイン　シオン　父音・母音の配合から出る音。五十音から母音を除いた他の四十五箇の音。

【子殷】43 シイン　明、彭輅(4-10003‥127)の字。

【子寅】44 シイン　明、嚴賓(2-4589‥219)の字。

【子飲】45 シイン　春秋魯、邽巽(11-39361‥2)の字。

【子隱】46 シイン　晉、周處(2-3441‥276)の字。

【子院】47 シヰン　禪宗・淨土宗等で本寺に依附する諸院をいふ。又、塔頭・寺中ともいふ。〔三緣山志、五、第八子院權輿〕。

【子韻】48 シヰン　㊀子音(42)に同じ。㊁清、薛傳均(9-32123‥234)の字。

【子羽】49 シウ　㊀複姓。〔萬姓統譜〕子羽、姬姓、晉公族子羽之後、爲㆓楚隋邑大夫㆒。㊁古の人名。視力の明かなるを以て聞ゆ。〔列子、湯問〕離朱、子羽。㊂字號。㋑春秋魯、澹臺滅明(7-18421‥59)の字。㋺春秋鄭、公孫揮(2-1452‥476)の字。㋩三國吳、是儀(5-13859‥9)の字。㋥陳、韋翽(12-43108‥32)の字。㋭唐、王翰(7-20823‥172)の字。㋬元、黄翔鳳(12-47926‥1134)の字。㋣宋、李闢(6-14459‥268)の字。㋠明、黄翼聖(12-47926‥1340)の字。㋷明、張翀（江都の人）(4-9812‥558)の號。㋦明、林鴻(6-14551‥103)の字。㋸明、盧翰(8-23050‥24)の字。㋾清、劉翼明(2-2224‥1343)の字。

【子雨】50 シウ　字號。㊀後燕、慕容雲(4-11088‥51)の字。㊁明、錢騰蛟(11-40563‥407)の字。

【子禹】51 シウ　明、來汝賢(1-581‥292)の字。

【子紆】52 シウ　明、杜大綬(6-14477‥364)の字。

【子雲】53 シウン　㊀山名。四川省犍爲縣の南。漢の揚雄（字は子雲）がここに隱居した。頂に池があり、又、子雲洞がある。宣和中、邵伯溫が此處に寓し、又、淳祐中、余玠が城を其の上に築いて子雲城といひ、戍を置き、又、子雲亭とも名づけた。王叔倫の書がある。〔讀史方輿紀要、四川、嘉定府、犍爲縣〕紫雲城、在㆓縣東南十五里㆒、亦曰㆓子雲城㆒、相傳、揚子雲嘗居㆑此。㊁字號。㋑漢、谷永(10-36182‥6)の字。㋺漢、終軍(8-27372‥15)の字。㋩漢、揚雄(5-12355‥109)の字。㋥晉、盧浮(8-23050‥155)の字。㋭梁、陳慶之(11-41698‥796)の字。㋬宋、高暨(12-45313‥155)の字。㋣宋、韓元龍(12-43159‥281)の字。㋠宋、吳士龍（江潭の人）(2-3365‥596)の字。㋷宋、吳從龍（奉化の人）(2-3365‥653)の字。㋦宋、徐履(4-10110‥309)の字。㋸宋、張昷(4-9812‥479)の字。㋾宋、王縉(7-20823‥635)の字。㋻元、錢霖(11-40563‥230)の字。㋕元、李升(6-14459‥456)の字。㋵明、蔣山卿(9-31820‥156)の字。㋟明、王一翥(7-20823‥1158)の字。㋹清、葉世倬(9-31387‥212)の字。

〖子雲投閣〗54 シウントウカク　蒙求の標題。漢の揚雄、字は子雲が、王莽の朝に仕へ、天祿閣に於て書を校した時、王莽の獄吏の近づくのを見、己も亦罪せられんことを恐れ、閣下に身を投じて瀕死の重傷を負つた故事。〔漢書、揚雄傳贊〕莽誅㆓豐父子㆒、投㆓棻四裔㆒、辭所㆓連及㆒、便收不㆑請、時雄校㆓書天祿閣上㆒、獄事使者來欲㆑收㆑雄、雄恐㆑不㆑能㆓自免㆒、廼從㆓閣上㆒自投下幾死。

【子蘊】55 シウン　字號。㊀明、畦曅(8-23276‥1)の字。㊁清、蔣煃(9-31820‥39)の字。

【子永】56 シエイ　字號。㊀宋、趙偕(10-37171‥57)の字。㊁明、王延陵(7-20823‥1206)の字。㊂清、方恆(5-13620‥178)の字。

【子英】57 シエイ　字號。㊀後周、趙延義(10-37171‥426)の字。㊁元、趙弘偉(10-37171‥549)の字。㊂元、王元杰(7-20823‥1426)の字。㊃元、王士毅(7-20823‥1503)の字。㊄明、原傑(2-2973‥57)の字。㊅明、岑俊(4-7937‥21)の字。㊆明、費聚(10-36717‥47)の字。㊇明、李俊(6-14459‥438)の字。

【子郢】58 シエイ　複姓。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕

子郢氏、姫姓、衞公子郢之後。〔萬姓統譜〕子郢氏、姫姓、衞公子郢之後。

【子榮】59 シエイ　❶字號。㋑後魏、刁踶(2－1846‥3)の字。㋺明、鄧應仁(11－39630‥121)の字。❷明、楊榮(6－15112‥22)の初の名。

【子穎】60 シエイ　清、朱孝純(6－14424‥691)の字。

【子嬰】61 シエイ　秦の始皇の孫。太子扶蘇の子。趙高、二世を殺して子嬰を立て、帝號を去つて王と稱す。在位四十六日。沛公に降り、後、項籍に殺さる。〔史記、五〕。

【子衞】62 シエイ　字號。❶後漢、傅俊(1－939‥70)の字。❷後漢、劉茂(晉陽の人)(2－2224‥607)の❶の字。

【子幼】63 シエウ　字號。❶春秋陳、公良孺(2－1452‥766)の字。❷漢、楊惲(6－15112‥20)の字。

【子繇】64 シエウ　清、盧之頤(8－23050‥225)の字。

【子亦】65 シエキ　宋、王顯世(7－20823‥1418)の字。

【子益】66 シエキ　字號。❶宋、夏德(3－5720‥224)の字。❷明、丁汝謙(1－2‥276)の字。❸清、田霢(7－21723‥254)の字。❹清、白允謙(8－22678‥1244)の字。

【子曰】67 シイハク　論語其の他の經書に孔子曰を子曰と書く。論語は孔子の弟子の編輯したもので、孔子の聖德が世に著明で、其の氏を言ふを要せぬ故に單に子といふ。〔論語、學而〕子曰、學而時習レ之。〔疏〕書傳直言二子曰一者、皆指二孔子一、以下其聖德著聞、師二範來世一、不レ須レ言二其氏一、人盡知上之故也。〔陔餘叢考、夫子〕惟專稱曰レ子、則自三孔門弟子之稱二孔子一始、如二論語所レ記、及孟子禮記所レ引孔子之言一、皆稱二子曰一、中庸雖レ有二仲尼曰一、然係三首引二孔子之言一、以後卽皆稱二子曰一、明二乎子卽仲尼一也、此則孔門創例、孔子以前、未レ有二專稱レ子者一也、然則專稱レ子、乃孔門所レ創。

【子曰詩曰】68 tzŭ³ yüeh¹ shih¹ yüeh¹　學者ぶること。高慢ちきに小むづかしいことを言ふ人。

【子越】69 シエツ　春秋楚、鬭椒(12－45657‥76)の字。

【子葉】70 シエフ　植物が種子から發生するとき、最初に出る葉。

【子囦】71 シエン　明、顧囦(12－43689‥25)の字。

【子延】72 シエン　字號。❶唐、羅藝(9－28397‥85)の字。❷清、蔣寶齡(9－31820‥206)の字。

【子炎】73 シエン　宋、狄燠(7－20290‥1)の字。

【子剡】74 シエン　複姓。〔路史〕齊大夫後、有二子剡氏一。

【子掞】75 シエン　清、楊紹文(6－15112‥650)の字。

【子淵】76 シエン　❶複姓。唐代、淵を諱んで泉に作る。〔世本、氏姓〕子泉氏、齊頃公之子、公子湫、字子泉之後。〔校輯〕淇案、公子湫不レ見二經傳一、子泉卽子淵、唐人諱レ淵爲レ泉也。❷字號。㋑春秋魯、顏回(12－43591‥31)の字。㋺漢、王褒(7－20823‥885)の字。㋩後漢、鄧通(11－39630‥86)の字。㋥北周、王褒(7－20823‥885)の字。㋭宋、朱晞(6－14424‥102)の字。㋬宋、任淵(1－416‥17)の字。㋣宋、傅夢泉(1－939‥206)の字。㋠宋、楊巨源(6－15112‥471)の字。㋷宋、李若谷(6－14459‥1406)の字。㋦元、回回(3－4690‥49)の字。㋸明、陸深(11－41708‥154)の字。

【子淵詩集】77 シエンシシフ　書名。六卷。元、張仲深撰。古詩は陶韋の餘響を傳ふ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【子琰】78 シエン　後漢、黃琬(12－47926‥68)の字。

【子遠】79 シヱン　字號。❶三國魏、許攸(10－35298‥9)の字。❷三國吳、孫峻(3－6987‥164)の字。❸晉、高韜(12－45313‥619)の字。❹宋、何薳(1－511‥17)の字。❺宋、江萬里(6－17140‥505)の字。❻宋、胡晉臣(9－29400‥512)の字。❼宋、羅椅(9－28397‥5)の字。❽明、張復(休寧の人)(4－9812‥652)の字。❾清、顧復初(12－43689‥354)の字。❿清、吳期遠(2－3365‥493)の字。⓫清、席煜(4－8926‥1)の字。⓬清、梁鉉(6－14825‥61)の字。

【子翁】80 シヲウ　❶他人の父を呼ぶ稱。君の家の御老人。翁は老人の敬稱。〔板倉節山、新井白石文〕子翁今欲レ妻レ某、是傷二小蛇一。❷シヲウ　字號。㋑宋、蘇舜元(9－32427‥251)の字。㋺宋、朱洪範(6－14424‥778)の字。

【子應】81 シオウ　字號。❶宋、葉邽(9－31387‥34)の字。❷宋、陸塤(11－41708‥98)の字。

【子溫】82 シヲン　❶宋の僧。華亭の人。字は仲言。號は日觀、又、知非子・知歸子といふ。草書を善くし、葡萄の畫を喜んだので、時人、溫葡萄と號した。宋末、杭の瑪瑙寺に止まる。❷字號。㋑北齊、刁柔(2－1846‥29)の字。㋺宋、何琬(1－511‥15)の字。㋩宋、韓彥直(12－43159‥283)の字。㋥宋、惠直(4－10822‥99)の字。㋭宋、傅光(1－939‥39)の字。

【子可】83 カシ　字號。❶宋、鄭曾子(11－39647‥492)の字。❷清、方楷(5－13620‥41)の字。

【子河】84 カシ　後漢、茨充(9－30896‥12)の字。

【子夏】85 カシ　❶山名。謁泉山・隱泉山・卜山ともいふ。山西省汾陽縣の北、上に石室があり、孔子の弟子子夏の居所といふ。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、文水縣〕隱泉山、縣西南二十五里、在二平陶故城南一、亦名二陶山一、石崖絕險、壁立險固、中有二石室一、去レ地可二五十餘丈一、惟西側一處、得二歷級升陟一、頂上平地十餘頃、有レ泉東流、注二於山下一、亦名二東津渠一、隱沒而不二恆流一、故有二隱泉之名一、雨澤豐注、則通入二文水一、志曰、隱泉一名謁泉、其石窟曰二隱堂洞一、亦曰二子夏室一、昔子夏退二居西河南上一、卽此地也、故山亦兼二子夏之稱一、宋靖康元年、金人圍二太原一、使下孝綱督二諸道兵一赴救、折中可求之師上、潰二於子夏山一、時可求自二汾州一而進、取二道山下一也。❷複姓。〔萬姓統譜〕子夏、嬀姓、陳公子少西、字子夏、因氏。❸字號。㋑春秋、衞の人。姓は卜、名は商。孔子の弟子。文學に長じ、詩を習ふ。孔門の詩學は、子夏より六傳して孫卿に至り、孫卿は浮丘伯に授けて魯詩の祖となり、また毛亨に授けて毛詩の祖となる。又、春秋の公羊・穀梁二傳は、みな子夏より傳はるといふ。孔子の歿後、西河に講學し、魏の文侯に師事せられた。孔門の傳經派の祖。卜商(2－2774‥39)を見よ。㋺漢、禽慶(8－24893‥12)の字。㋩漢、孔光(3－6933‥46)の字。㋥漢、杜欽(6－14477‥72)の字。㋭漢、杜鄴(6－14477‥95)の字。㋬漢、鄧彭祖(11－39630‥189)の字。㋣漢、王商(7－20823‥526)の❶の字。㋠唐、劉商(2－2224‥337)の字。

【子夏易傳】86 シカエキデン　書名。十一卷。子夏撰。實は後人の附託である。周易(2－3441‥29)の參考書を見よ。〔四庫提要、經、易類〕。

【子家】87 シカ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子家、姫姓、魯莊公之孫公孫歸父子家、其後爲二子家氏一。❷字號。㋑春秋齊、慶封(4－11145‥117)の字。㋺春秋鄭、公子歸生(2－1452‥268)の字。㋩春秋魯、東門歸父(6－14499‥675)の字。㋥春秋、鄖單(11－39612‥2)の字。㋭戰國燕、周醜(2－3441‥238)の字。㋬三國魏、盧毓(8－23050‥8)の字。

【子家羈】88 シカキ　魯の大夫。諡は懿伯。〔中論、亡國〕。

【子瑕】89 シカ　春秋、衞の人。彌子瑕(4－9877‥69)を見よ。〔左氏、定、六〕衞侯怒、使二彌子瑕追一レ之。〔陸厥、中山王孺子妾歌〕子瑕矯二後駕一。

【子嘉】90 シカ　字號。❶宋、劉元亨(2－2224‥879)の字。❷明、曾亭應(5－14299‥169)の字。❸清、龍汝言(12－48818‥681)の字。❹清、王紫稼(7－20823‥1593)の字。

【子霞】91 シカ　清、毛會建(6－16772‥268)の字。

【子牙】92 シガ　❶鎭の名。河北省靜海縣の西南。南、子牙河に濱し、大城縣の界に接す。沿海の要地。宋の乾寧軍の釣臺寨。清の管河主簿は之に駐した。❷川の名。河北省大城縣の東、卽ち滹沱河及び滏陽諸水の下流。子牙鎭を經るのでこの名がある。東北に流れて海に注ぐ。又、鹽河・沿河ともいふ。❸字號。㋑周、呂尙(2－3386‥85)の字。㋺三國魏、隗禧(11－41788‥2)の字。

【子我】93 シガ　❶複姓。〔奇姓通〕子我、姫姓、魯叔孫成子生二申字子我一、因氏焉。❷字號。㋑春秋魯、宰予(3－7160‥56)の字。㋺春秋齊、闞止(11－41484‥4)の字。㋩宋、江端友(6－17140‥485)の字。

【子峨】94 シガ　清、何如璋(1－511‥299)の字。

【子莪】95 シガ　清、何如璋(1－511‥299)の字。

【子雅】96 シガ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子雅、姜姓、齊惠公之孫、公孫竈、字子雅之後。❷晉、劉頌(2－2224‥387)の字。

【子丐】97 シカイ　周の人。景王が子朝を愛して、王位に立てようとした時、之と爭つた。〔史記、周紀〕

景王愛二子朝一、欲レ立レ之、會崩、子丐之黨與爭レ立、國人立二長子猛一爲レ王。

【子介】98シカイ　梁、庾於陵（4−9398··50）の字。

【子玠】99シカイ　清、王紫稼（7−20823··1593）の字。

【子界】100シカイ　春秋衞、句井疆（2−3234··108）の字。

【子開】101シカイ　字號。❶春秋衞、琴牢（7−21079··120）の字。❷明、甘雨（7−21643··2）の字。❸宋、曾肇（5−14299··124）の字。

【子階】102シカイ　清、謝應芝（10−35827··247）の字。

【子楷】103シカイ　春秋魯、伯虔（1−466··163）の字。

【子諧】104シカイ　後唐、盧汝弼（8−23050··247）の字。

【子乂】105シガイ　唐、崔從（4−8178··96）の字。

【子亥】106シガイ　殷侯の名。〔竹書紀年、上〕帝泄十二年、殷侯子亥、賓二于有易一、有易殺而放レ之、十六年、殷侯微、以二河伯之師一伐二有易一、殺二其君綿臣一。〔注〕殷侯子亥、賓二于有易一而淫焉、有易之君綿臣、殺而放レ之、故殷上甲微假二師于河伯一、以伐二有易一滅、遂殺二其君綿臣一。

【子艾】107シガイ　後漢、黃允（12−47926··31）の字。

【子亢】108シカウ　春秋陳、陳亢（11−41698··68）の字。

【子交】109シカウ　清、李道泰（6−14459··1685）の字。

【子江】110シカウ　清、羅思擧（9−28397··345）の字。

【子行】111シカウ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子行敬子、衞大夫。❷字號。㋑春秋魯、左人郢（4−8720··273）の字。㋺後漢、楊政（6−15112··238）の字。㋩隋、盧思道（8−23050··228）の字。㋥元、吾衍（2−3379··3）の字。㋭清、耿邁（9−29026··47）の字。

【子亨】112シカウ　字號。❶宋、王旼（7−20823··233）の字。❷明、董樾（9−31433··21）の字。

【子孝】113シカウ　❶子が親に對して孝をつくすこと。〔左氏、隱、三〕君義、臣行、父慈、子孝、兄愛、弟敬、所謂六順也。〔禮、禮運〕何謂二人義一、父慈子孝、兄良弟弟。❷字號。㋑周、匡俗（2−2606··61）の字。㋺漢、史岑（2−3249··94）の字。㋩後漢、張湛（4−9812··539）の字。㋥三國魏、曹仁（5−14297··125）の字。㋭三國吳、孫和（3−6987··79）の字。㋬明、王諍（7−20823··426）の字。

【子更】114シカウ　清、陳增新（11−41698··1089）の字。

【子庚】115シカウ　複姓。〔萬姓統譜〕子庚芈姓、楚公子午、字子庚、其後以二王父字一爲レ氏。

【子昂】116シカウ　字號。❶三國魏、邢顒（11−39301··15）の字。❷唐、宋務光（3−7078··413）の字。❸宋、葉顒（9−31387··28）の字。❹元、趙孟頫（10−37171··904）の字。

【子矼】117シカウ　宋、趙德文（10−37171··822）の字。

【子香】118シカウ　字號。❶清、丁益琳（1−2··226）の號。❷清、丁桂（1−2··52）の號。

【子浩】119シカウ　字號。❶後唐、盧汝弼（8−23050··247）の字。❷宋、魏琰（12−45872··6）の字。❸宋、劉洵直（2−2224··1055）の字。

【子珩】120シカウ　北齊、王琳（7−20823··1080）の字。

【子皋】121シカウ　春秋衞、高柴（12−45313··343）の字。子羔を見よ。〔禮、檀弓上〕高子皋之執二親之喪一也、泣血三年、未二嘗見一レ齒、君子以爲レ難。

【子羔】122シカウ　春秋、齊の人。或は衞の人ともいふ。姓は高。名は柴。字は子羔、或は子皋に作る。又、季皋・季羔といふ。孔子の弟子。性、仁孝にして、禽蟲を殺さず、草木を折らず。親の喪に泣血すること三年、齒を露はさず。嘗て衞の士師となり。又、費・郈二邑の宰となる。高柴（12−45313··343）及び子皋を見よ。〔史記、仲尼弟子傳〕高柴、字子羔、少二孔子一三十歲。〔注〕鄭玄曰、衞人、正義曰、家語云、齊人。

【子耕】123シカウ　宋、黃畱（12−47926··483）の字。

【子高】124シカウ　❶複姓。〔元和姓纂〕子高、衞大夫子高魴之後。❷上古の仙人、羨門（9−28503··23）の名。❸字號。㋑春秋楚、沈諸梁（6−17189··553）の字。㋺戰國、孔穿（3−6933··165）の字。㋩漢、戴遵（5−11685··78）の字。㋥漢、唐林（2−3709··346）の字。㋭漢、張敞（4−9812··377）の字。㋬漢、馮商（12−44579··90）の字。㋣後漢、劉宣（2−2224··447）の字。㋠三國吳、孫登（3−6987··233）の字。㋷晉、蘇峻（9−32427··96）の字。㋦北周、王操（7−20823··427）の字。㋸宋、郟僑（11−39433··3）の字。㋾宋、錢彥遠（11−40563··304）の字。㋻宋、陳克（11−41698··253）の字。㋕宋、陸埈（11−41708··147）の字。㋵宋、盧士宏（8−23050··222）の字。㋟元、龍從雲（12−48818··680）の字。㋹明、馬京（12−44572··164）の字。㋞明、劉崧（2−2224··416）の字。㋡清、吳唐林（2−3365··757）の字。㋤清、戴望（5−11685··113）の字。

【子康】125シカウ　字號。❶漢、陳咸（相の人）（11−41698··105）の字。❷後漢、卓茂（2−2741··69）の字。

【子綱】126シカウ　字號。❶三國吳、張紘（4−9812··234）の字。❷明、陳立（11−41698··592）の字。

【子衡】127シカウ　字號。❶三國吳、呂範（2−3386··133）の字。❷後魏、張始均（4−9812··1115）の字。❸後魏、陽詮之（11−41725··297）の字。❹明、關銓（11−41470··124）の字。❺明、王廷相（7−20823··1941）の字。❻明、汪宗伊（6−17154··277）の字。❼清、張岳齡（4−9812··883）の字。

【子剛】128シガウ　字號。❶北周、盧柔（8−23050··81）の字。❷宋、鄭至果（11−39647··411）の字。❸宋、羅烈（9−28397··283）の字。❹元、衞仁近（10−34074··151）の字。　「字。

【子敖】129シガウ　戰國齊、王驩（7−20823··313）の字。

【子珏】130シカク　明、薄珏（9−32083··25）の字。

【子客】131シカク　子の賓客をいふ。〔漢書、外戚上、孝昭上官皇后傳〕蓋主私近二子客河閒丁外人一。〔注〕師古曰、子客、子之賓客也。

【子恪】132シカク　字號。❶三國魏、呂虔（2−3386··56）の字。❷唐、楊復恭（6−15112··767）の字。

【子革】133シカク　複姓。〔萬姓統譜〕子革、世本、宋司城子革之後。

【子核】134　tzŭ³ hê²　たね。さね。

【子鶴】135シカク　字號。❶清、陳孚恩（11−41698··122）の字。❷清、楊晉（6−15112··228）の字。

【子合】136シガフ　❶漢代、西域の國名。烏秅國の北。今の新疆省葉城縣地。西夜（10−34763··563）を見よ。〔漢書、西域傳上〕西夜國王、號二子合王一、治二呼犍谷一、去二長安一萬二百五十里、云云、子合土地、出二玉石一。〔後漢書、西域傳〕漢書中誤云、西夜・子合、是一國、今各自有レ王、子合國、居二呼犍谷一、去二疏勒一千里。❷宋、王遇（7−20823··273）の字。

【子盒】137　tzŭ³ hê²　たまいれ。彈藥盒。

【子干】138シカン　❶複姓。〔潛夫論、志氏姓〕魯之公族有二蟜氏、云云、子干氏一。❷字號。㋑漢、伶玄（1−478··6）の字。㋺清、華謙（9−31214··126）の字。

【子罕】139シカン　❶複姓。〔萬姓統譜〕子罕、姬姓、鄭公子之子、喜、字子罕之後。❷人名。㋑春秋、宋の賢大夫。姓は樂。名は喜。廉潔を以て名あり。樂喜（6−15399··48）・子罕以レ不レ貪爲レ寶（141）を見よ。〔左氏、襄、六〕司城子罕曰、同罪異罰、非レ刑也。〔淮南子、說山訓〕子罕之辭二其所レ不レ欲、而得二其所レ欲。㋺戰國、宋の人。子冉の訛、宋君を劫かす。樂喜の子罕とは別人。〔韓非子、二柄〕子罕謂二宋君一曰、夫慶賞賜予者、民之所レ喜也、君自行レ之、殺戮刑罰者、民之所レ惡也、臣請當レ之、於レ是宋君失レ刑而子罕用レ之、故宋君見レ劫。〔韓非子、人主〕宋君失二其爪牙於子罕一。〔史記、鄒陽傳〕宋信二子罕之計一、而囚二墨翟一。〔史記、李斯傳〕司城子罕相レ宋、身行二刑罰一、以レ威行レ之、朞年、遂劫二其君一。❸論語の篇名。

【子罕辭寶】140シカンジハウ　蒙求の標題。春秋、宋の司城子罕が、或人の玉を獻じたのを辭退した故事。子罕以レ不レ貪爲レ寶を見よ。

【子罕以レ不レ貪爲レ寶】141シカンムサボラザルヲモツテタカラトス　春秋、宋の子罕が、民が玉を獻じた時、我は貪らざるを以て寶とし、汝は玉を以て寶とす、若し我、玉を得れば、共に寶を失ふ、と言つて之を却けた故事。〔左氏、襄、十五〕宋人或得レ玉、獻二諸子罕一、子罕弗レ受、獻レ玉者曰、以示二玉人一、玉人以爲レ寶也、故敢獻レ之、子罕曰、我以レ不レ貪爲レ寶、爾以レ玉爲レ寶、若以與レ我、皆喪レ寶也、不レ若三人有二其寶一。〔韓非子、喩老〕子罕曰、爾以レ玉爲レ寶、我以レ不レ受二子玉一爲レ寶。

【子函】142シカン　明、趙崡（10−37171··76）の字。

【子涵】143シカン　清、王檢心（7−20823··1415）の字。

【子閑】144シカン　清、曹爾坊（5−14297··251）の字。

【子幹】145シカン　字號。❶後漢、盧植（8−23050··97）の字。❷三國吳、鍾離牧（11−40672··124）の字。❸清、黃秩林（12−47926··1241）の字。

【子翰】146シカン　字號。❶明、陸奎章（11−41708··304）の字。❷清、湯傳楹（7−17874··201）の字。

【子諫】147シカン　明、龔鐩（12―48837・・39）の字。

【子癇】148シカン　姙娠中毒症の一種。姙娠・分娩・産褥に於て、突然全身の痙攣を起す病。殊に分娩經過中に最も多い。殆ど常に腎臟障害を伴ふので母兒共に甚だ危險である。〔婦人祕科、胎前賦〕子懸急痛而勿レ疑、子癇卒倒而可レ愕。

【子韓】149シカン　複姓。〔左氏、昭、十四〕子韓晳曰、家臣而欲レ張二公室一、罪莫レ大焉。〔注〕齊大夫。

【子簡】150シカン　戰國、楚の懷王の幼子。頃襄王の弟。史記屈原傳には子蘭に作る。〔風俗通、六國〕懷王佞臣、上官子簡、斥二遠忠臣一、屈原作二離騷之賦一、自投二汨羅水一、因爲二張儀所一レ欺、客二死於秦一。

【子顏】151シガン　字號。❶春秋魯、榮旂（6―15273・・23）の字。❷後漢、吳漢（2―3365・・80）の字。

【子奇】152シキ　❶春秋、齊の賢人。阿縣を治めた時、兵器を熔して耕器を作り、倉廩を出して貧民を賑はし、教化が大いに行はれた。〔後漢書、順帝紀〕其有二茂材異行一、若二顏淵・子奇一、不レ拘二年齒一。〔注〕新序曰、子奇年十八、齊君使二之化一レ阿、至レ阿、鑄二其庫兵一以爲二耕器一、出二倉廩一以賑二貧窮一、阿縣大化。〔十二國史〕齊子奇年十八、齊君任爲二東阿一、既行而悔、使者曰、臣見下子奇所二與同載一者上白首矣、老者智、少者決、必能理二東阿一。〔潘尼、贈二河陽一詩〕虙生化二單父一、子奇莅二東阿一。〔注〕善曰、說苑曰、子奇年十八、齊君使レ治レ阿、既行、齊君悔レ之、遣レ使追、使者返曰、子奇必能矣、共載者皆白首者也、子奇至レ阿、鑄二庫兵一以爲二耕器一、魏聞二童子爲一レ君、庫無レ兵、倉無レ粟、乃起レ兵擊レ之、阿人父率レ子、兄率レ弟、以二私兵一戰、遂敗二魏師一。❷字號。㋑漢、文齊（5―13450・・188）の字。㋺後漢、劉陶（2―2224・・41）の字。㋩唐、皇甫松（8―22701・・226）の字。㋥五代吳越、高彥（12―45313・・302）の字。㋭宋、高頔（12―45313・・700）の字。㋬宋、郭磊卿（11―39474・・421）の字。㋣宋、楊偉（6―15112・・7）の字。㋠宋、凌策（2―1669・・53）の字。

【子季】153シキ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子季、羋姓、楚公族也。❷字號。㋑春秋魯、商澤（2―3803・・166）の字。㋺梁、何胤（1―511・・12）の字。㋩清、歐陽泳（6―16185・・50）の字。

【子氣】154シキ　姙娠に因つて起る浮腫。〔品字箋〕婦人姙娠浮腫者、謂二之子氣一。

【子規】155シキ　鳥の名。ほととぎす。又、子鳺・子雉・子鴂・子巂に作る。杜鵑。杜宇。子鵑。子鶗。〔埤雅、釋鳥〕杜鵑、一名子規。〔禽經〕江左曰二子規一、蜀右曰二杜宇一、甌越曰二怨鳥一、一名二杜鵑一。〔李白、聞三王昌齡左二遷龍標尉一遙有二此寄一詩〕楊花落盡子規啼、聞道龍標過二五溪一。〔王維、送三楊長史赴二果州一詩〕別後同二明月一、君應レ聽二子規一。

【子棄】156シキ　三國魏、劉放（2―2224・・543）の字。

【子期】157シキ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子期、羋姓、楚公子活、字子期之後。❷字號。一に子旗に作る。㋑春秋、陳の人。巫馬施（4―8728・・56）の字。〔孔子家語、七十二弟子解〕巫馬施、陳人、字子期、少二孔子一三十歲。㋺春秋魯、叔仲會（2―3154・・205）の字。㋩春秋魯、漆雕徒父（7―18108・・66）の字。㋥春秋楚、鬬成然（12―45657・・109）の字。㋭漢、曹竟（5―14297・・47）の字。㋬晉、向秀（2―3301・・30）の字。

【子雉】158シキ　ほととぎす。子規（155）に同じ。〔玉篇〕規、居彌切、子鳺子鳺鳥。

【子暉】159シキ　北周、杜杲（6―14477・・37）の字。

【子熙】160シキ　字號。❶宋、史炤（2―3249・・101）の字。❷清、蘇元春（9―32427・・232）の字。

【子祺】161シキ　字號。❶春秋魯、榮旂（6―15273・・23）の字。❷春秋魯、縣成（8―27784・・75）の字。❸明、張介福（4―9812・・856）の字。

【子旗】162シキ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子旗、姜姓、齊惠公曾孫欒施、字子旗之後。❷字號。㋑春秋陳、巫馬施の字。子期の❷㋑に同じ。〔史記、仲尼弟子傳〕巫馬施、字子旗、少二孔子一三十歲。㋺春秋鄭、豐施（10―36304・・89）の字。㋩春秋齊、欒施（6―15947・・10）の字。㋥三國吳、衞旌（10―34074・・77）の字。

【子毅】163シキ　清、何紹業（1―511・・320）の字。

【子翬】164シキ　❶複姓。〔路史〕魯有二子翬氏一。❷字號。㋑元、曾振宗（5―14299・・203）の字。㋺元、孛朮魯翀（3―6949・・20）の字。

【子輝】165シキ　❶宋、林光（6―14551・・76）の字。❷明、尤光被（4―7543・・46）の字。

【子鳺】166シキ　ほととぎす。子規（155）に同じ。〔廣雅、釋鳥〕鷤鳺・鷶鴂、子鳺也。〔疏證〕鳺、與レ憲同、或作レ規。

【子冀】167シキ　三國魏、龐淯（12―48824・・4）の字。

【子器】168シキ　明、鄭以偉（11―39647・・292）の字。

【子龜】169シキ　漢、王莽の寶龜の名。〔漢書、食貨志下〕子龜、五寸以上、直百爲二小貝十朋一。

【子徽】170シキ　晉、司馬肜（2―3257・・208）の字。

【子鴂】171シキ　ほととぎす。子規（155）に同じ。〔太平御覽、羽族部、巂〕蜀王本紀曰、望帝使二臣鼈靈治一レ水、去後、望帝與二其妻一通、慙愧、且以二德薄不一レ及二鼈靈一、乃委レ國授レ之去、望帝去時、子鴂鳴、故蜀人悲二子鴂鳴一、而思二望帝一、望帝、杜宇也、後天墮。

【子巂】172シキ　鳥の名。子規の異名。ほととぎす。〔爾雅、釋鳥、巂周、注〕子巂鳥出二蜀中一。〔說文〕巂、巂周、燕也、蜀王望帝婬二其相妻一、慙、亡去、爲二子巂鳥一、故蜀人聞二子巂鳴一、皆起云、是望帝也。〔事物異名錄、禽鳥、子規〕楊愼外集、子規、史作二姊歸一、說文作二子巂一、華陽國志、作二秭歸一。

【子驥】173シキ　晉、劉驎之（2―2224・・1358）の字。

【子宜】174シギ　字號。❶宋、徐誼（4―10110・・79）の字。❷元、錢義方（11―40563・・273）の字。❸明、曹義（句容の人）（5―14297・・40）の字。❹明、朱衣（6―14424・・6）の字。❺明、張適（4―9812・・581）の字。❻清、汪惟憲（6―17154・・156）の字。

【子義】175シギ　字號。❶三國吳、太史慈（3―5834・・223）の字。❷梁、裴之禮（10―34362・・133）の字。❸元、呂權（2―3386・・64）の字。❹明、濮陽成（7―18526・・20）の字。

【子儀】176シギ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子儀克、宋桓司馬之臣。❷字號。㋑宋、徐鳳（4―10110・・287）の字。㋺宋、邊光範（11―39216・・188）の字。㋩宋、柳平（6―14662・・215）の字。㋥宋、劉筠（2―2224・・28）の字。㋭宋、陸九敍（11―41708・・287）の字。㋬明、唐文鳳（2―3709・・516）の字。㋣明、張翀（柳州の人）（4―9812・・558）の字。㋠明、張鳳（4―9812・・675）の字。㋷明、陳六齡（11―41698・・1298）の字。

【子九】177シキウ　明、周鼎（湖州の人）（2―3441・・386）の字。

【子久】178シキウ　字號。❶元、黃公望（12―47926・・1089）の字。❷清、承齡（5―11852・・226）の字。❸清、盛遠（8―23005・・18）の字。❹清、祖望之（8―24664・・173′）の字。❺清、鄧爾恒（11―39630・・155）の字。「字。

【子丘】179シキウ　春秋魯、林放（6―14551・・203）の字。

【子休】180シキウ　三國吳、曁豔（5―14165・・1）の字。

【子求】181シキウ　❶春秋の人。子來（827）の❷に同じ。〔淮南子、精神訓〕子求行年五十有四、而病二傴僂一、背管高二於頂一、腸下迫レ頤、兩脾在レ上、燭營指レ天、匍匐自闚二於井一曰、偉哉造化乎、其以レ我爲二此拘拘一邪。❷明、尤求（4―7543・・16）の字。

【子糾】182シキウ　春秋、齊の桓公の兄。兄襄公が無道の爲、魯に逃げ、後、弟の小白（桓公）と戰つて殺された。公子糾（2―1452・・255）を見よ。「字。

【子牛】183シギウ　春秋宋、司馬耕（2―3257・・229）の字。

【子吉】184シキツ　字號。❶明、辛自修（10―38630・・106）の字。❷清、葉方藹（9―31387・・250）の字。❸清、張謙（武昌の人）（4―9812・・282）の字。

【子及】185シキフ　宋、芮及言（9―30731・・19）の字。

【子伋】186シキフ　後漢、堅鐔（3―5210・・71）の字。

【子況】187シキヤウ　漢、尹翁歸（4―7631・・95）の字。

【子強】188シキヤウ　字號。❶宋、蔡槦（9―31818・・64）の字。❷明、朱健（6―14424・・269）の字。❸清、徐之凱（4―10110・・445）の字。

【子彊】189シキヤウ　❶複姓。〔元和姓纂〕衞公族昭子郢之後。❷字號。㋑唐、盧弘止（8―23050・・216）の字。㋺宋、董必（9―31433・・145）の字。㋩宋、陸九思（11―41708・・286）の字。

【子薑】190シキヤウ　生姜の初生のもの。新しやうが。〔本草、生薑〕集解、時珍曰、謂二薑之初生者一、秋社前後、新芽頓長、如二列指狀一、采食無レ筋、謂二之子薑一。〔劉邦沖、子薑詩〕恰似二勻粧指一、柔光尙帶レ紅。「字。

【子疆】191シキヤウ　春秋衞、句井疆（2―3234・・108）の字。

【子弓】192シキユウ　字號。❶周末の人の字。荀子の先輩であることは荀子の非相・非十二子・儒效の諸篇に見て明かだが、荀子以外の古い典籍には此の人の名は絶えて見えない。そこで此の子弓

は、(イ)孔子の門人仲弓であらう。(ロ)子夏の門人馯臂子弓であらう。(ハ)朱張子弓であらうとの三說が出てゐる。(イ)は荀子、楊倞註の說、(ロ)は史記の顏註の說、(ハ)は論語釋文引の王弼註の說である。冉雍(2－1514··20)・馯臂(12－44584··2)の❶・周、朱張(6－14424··453)を見よ。〔荀子、非十二子〕下則法㆓仲尼・子弓之義㆒。❷清、盧錫晉(8－23050··234)の字。

【子宮】193 シキュウ　胎兒の宿るところ。こぶくろ。〔醫學入門、陰蝕〕陰蝕瘡、因㆘婦人子宮有㆓敗精滯濁㆒、或月水未ㇾ淨、與ㇾ之交㆓合房室㆒後未㆗洗浴㆖、遂令㆘陰莖連㆓睾丸㆒、腫痛、小便如ㇱ淋。〔格致餘論、受胎論〕陰陽交姤、胎孕乃凝、胎之所ㇾ居、名曰㆓子宮㆒。

〔子宮病〕194 シキュウビャウ　子宮に發する病氣。

【子居】195 シキョ　字號。❶戰國魯、孟軻の字。子輿(817)の❷㋺を見よ。〔廣韻〕軻、轗軻不遇也、孟子居ㇾ貧轗軻、故名軻、字子居。❷戰國、楊朱(6－15112··200)の字。❸後漢、周乘(2－3441··283)の字。❹前秦、姜宇(3－6205··4)の字。❺陳、蔡凝(9－31818··36)の字。❻宋、宋南強(3－7078··385)の字。❼宋、苗時中(9－30781··56)の字。❽宋、呂義山(2－3386··184)の字。❾明、沈士充(6－17189··513)の字。❿明、陳仁(11－41698··385)の字。⓫清、惲敬(4－10857··4)の字。

【子許】196 シキョ　後漢、衞茲(10－34074··53)の字。

【子琚】197 シキョ　晉、庾珉(4－9398··42)の字。

【子虛】198 シキョ　❶うそ。虛言。子虛賦・子虛烏有を見よ。❷ただとり。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕雖ㇾ云ㇾ給ㇾ價、究屬㆓子虛㆒。❸字號。㋑五代吳越、概齊物(6－15364··25)の字。㋺宋、黃策(12－47926··405)の字。㋩宋、鍾宏(11－40672··29)の字。㋥宋、宋無(3－7078··201)の字。㋭明、孫樓(3－6987··306)の字。㋬清、史孝咸(2－3249··180)の字。

〔子虛賦〕199 シキョフ　文章の名。漢の司馬相如が梁に客遊して作る。公子子虛・烏有先生・亡是公の三人物を假設して、其の問答する體に述ぶ。子虛は虛言、烏有は烏んぞ此の事有らんや、亡是公は此の人無しの義。大意は、諸侯の遊獵の事を述べて、楚の美を稱へ、最後に節儉の旨を述べて諷諫したもの。他日、武帝が之を見て痛く稱歎した。因つて相如は、更に上林賦を作り、天子の遊獵の事を述べた。史記司馬相如傳・漢書司馬相如傳上・文選卷七賦類等に載す。〔史記、司馬相如傳〕客㆓游梁㆒、得㆘與㆓諸生游士㆒居㆖數歲、乃著㆓子虛之賦㆒、云云、蜀人楊得意爲㆓狗監㆒、侍ㇾ上、上讀㆓子虛賦㆒而善ㇾ之、曰、朕獨不ㇾ得㆘與㆓此人㆒同ジ時哉、得意曰、臣邑人司馬相如、自言爲㆓此賦㆒、上驚、乃召問㆓相如㆒、相如曰、有ㇾ是、然此乃諸侯之事、未ㇾ足ㇾ觀、請爲㆓天子遊獵之賦㆒、賦成奏ㇾ之、上許、令㆔尙書給㆓筆札㆒、相如以、子虛、虛言也、爲ㇾ楚稱、烏有先生者、烏有㆓此事㆒也、爲ㇾ齊難、無是公者、無㆓此人㆒也、明㆓天子之義㆒、故空藉㆓此三人㆒爲ㇾ辭、以推㆓天子諸侯之苑囿㆒、其卒章歸㆓之於節儉㆒、因以風諫。

〔子虛烏有〕200 シキョウイウ　無いこと。うそのこと。子虛賦を見よ。

【子擧】201 シキョ　字號。❶前涼、童巽(8－25775··76)の字。❷明、趙釴(10－37171··366)の字。

【子蘧】202 シキョ　清、韓純玉(12－43159··318)の字。

【子魚】203 シギョ　❶魚の名。ぼら。〔本草、鯔魚〕釋名、子魚、時珍曰、鯔、色鯔黑、故名、粵人訛爲㆓子魚㆒。❷字號。㋑春秋魯、冉孺(2－1514··11)の字。㋺春秋衞、史鰌(2－3249··79)の字。㋩春秋衞、祝佗(8－24672··83)の字。㋥春秋衞、庾公差(4－9398··61)の字。㋭春秋齊、梁鱣(6－14825··134)の字。㋬春秋宋、目夷(8－23105··7)の字。㋣秦、孔鮒(3－6933··204)の字。㋠三國魏、華歆(9－31214··89)の字。㋷三國吳、周魴(2－3441··415)の字。㋦明、朱謀瑋(6－14424··995)の字。㋸明、王邦直(卽墨の人)(7－20823··2021)の字。

【子供】204 コドモ　❶己の生んだ子等。こたち。〔萬葉集、二十〕妻もこどもも、をちこちに、さはに圍み居。❷幼い者。童子。〔枕草子、二〕子ども、わらはべ。❸歌舞伎役者の若衆。かげま。〔江戶眞砂、六十帖〕子供大勢呼集めて。

【子恭】205 シキョウ　字號。❶南朝宋、顧愿(12－43689··74)の字。❷陳、袁敬(10－34152··49)の字。❸陳、沈恪(6－17189··80)の字。❹陳、陳叔獻(11－41698··978)の字。❺宋、何基(1－511··32)の字。❻清、陳鴻壽(11－41698··866)の字。

【子龔】206 シキョウ　唐、盧從愿(8－23050··240)の字。

【子凝】207 シギョウ　清、王宸(7－20823··623)の字。

【子極】208 シキョク　明、何棟如(1－511··351)の字。

【子玉】209 シギョク　❶複姓。〔通志、氏族略〕以ㇾ字爲ㇾ氏、子玉氏、姬姓、衞大夫子玉霄之後、秦穆公時、大夫有㆓子玉房㆒。❷字號。㋑春秋楚、觀從(10－34993··116)の字。㋺春秋楚、成得臣(5－11544··355)の字。㋩後漢、洼丹(6－17425··3)の字。㋥後漢、崔瑗(4－8178··20)の字。㋭前趙、卜珝(2－2774··13)の字。㋬宋、崔璆(4－8178··48)の字。㋣宋、李瓊(6－14459··291)の字。㋠元、闞玉(11－41470··31)の字。㋷元、狄琮(7－20290··18)の字。㋦清、康崐(4－9376··65)の字。㋸清、謝階樹(10－35827··252)の字。㋾清、書誠(5－14294··153)の字。㋻民國、吳佩孚(2－3365··816)の字。

【子均】210 シキン　隋、盧昌衡(8－23050··230)の字。

【子昕】211 シキン　宋、杜杲(6－14477··37)の字。

【子芩】212 シキン　藥草の名。黃芩の根の中空でないもの。黃芩はこがねやなぎ。〔本草、黃芩〕釋名、腐腸・空腸・內虛・妒婦・經芩・黃文・印頭・苦督郵、內實者、名㆓子芩・條芩・㹠尾芩・鼠尾芩㆒、弘景曰、圓者名㆓子芩㆒、破者名㆓宿芩㆒。

【子金】213 シキン　❶清、李之鉉(6－14459··1295)の字。❷tzŭ^3 chin^1 利息をいふ。子錢。元金は母錢・母財といふ。

〔子金簿〕214 tzŭ^3 chin^1 pu^4　利息などを記載する帳簿。收益帳。

【子衿】215 シキン　❶汝のえり。衿はえり。青衿は青色の衣服で、古、學生の服。故に轉じて、書生の意。〔詩、鄭風、子衿〕青青子衿、悠悠我心。〔集傳〕子、男子也、衿、領也。❷詩經鄭風の篇名。學校の頹廢するを刺る詩。〔詩、鄭風、子衿序〕子衿、刺㆓學校廢㆒也、亂世則學校不ㇾ脩焉。〔劉鑠、擬古二首、擬㆓行行重行行㆒〕憂委㆓子衿詩㆒。

【子琴】216 シキン　字號。❶後漢、劉賜(2－2224··323)の字。❷清、侯度(1－633··67)の❶の字。

【子欽】217 シキン　字號。❶宋、譚惟寅(10－35978··39)の字。❷宋、趙彥肅(10－37171··534)の字。

【子禽】218 シキン　❶複姓。〔萬姓統譜〕子禽、嬀姓、陳僖公生㆓惠子子得㆒、爲㆓子禽氏㆒。❷春秋陳、陳亢(11－41698··68)の字。

【子勤】219 シキン　字號。❶宋、滕膺(7－18036··35)の字。❷明、莊賢(9－31035··49)の字。❸清、侯楨(1－633··64)の字。❹清、鍾文蒸(11－40672··166)の字。

【子謹】220 シキン　字號。❶宋、周密(2－3441··482)の字。❷清、方恮(5－13620··315)の字。

【子駒】221 クシ　宋、劉芮(2－2224··433)の字。

【子愚】222 グシ　字號。❶明、靳學顏(12－42728··25)の字。❷明、張學顏(4－9812··884)の字。❸清、何紹京(1－511··319)の字。❹清、史致謌(2－3249··246)の號。

【子虞】223 グシ　三國魏、梁習(6－14825··108)の字。

【子禾】224 クヮシ　清、祁世長(8－24634··35)の字。

【子和】225 クヮシ　字號。❶三國魏、曹純(5－14297··114)の字。❷三國吳、徵崇(4－10239··56)の字。❸後秦、姚邕(3－6202··117)の字。❹後魏、元順(1－1340··315)の字。❺梁、顏協(12－43591··38)の字。❻隋、包愷(2－2506··11)の字。❼唐、盧鈞(8－23050··39)の字。❽宋、郭雍(11－39474··213)の字。❾宋、吳禮之(2－3365··900)の字。❿宋、唐韶(2－3709··217)の字。⓫宋、張鈞(4－9812··216)の字。⓬金、張從正(4－9812··1187)の字。⓭元、曹一介(5－14297··195)の字。⓮明、黃衷(12－47926··650)の字。⓯明、周大禮(2－3441··765)の字。⓰明、費寀(10－36717··29)の字。⓱明、馮世雍(12－44579··250)の字。⓲明、劉應節(2－2224··722)の字。⓳清、孫義鈞(3－6987··364)の字。⓴清、張燮(4－9812··485)の字。㉑清、方燮(5－13620··314)の字。

【子花】226 クヮシ　實棉。採取したままを棉花、繰棉したのを皮花といふ。

【子華】227 クヮシ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子華、韓有㆓子華子㆒、因以爲ㇾ氏焉。❷字號。㋑春秋魯、公西赤(2－1452··404)の字。㋺三國魏、司馬芝(2－3257··263)の字。㋩陳、文帝(5－13450··701)の字。㋥唐、吳融(2－3365··391)の字。㋭宋、韓絳(12

−43159‥39)の字。㋬宋、陳韡(11−41698‥13)の字。㋣宋、王德(7−20823‥859)の字。㋠元、韓昭曄(12−43159‥330)の字。㋷元、線榮(8−27641‥2)の字。㋦元、唐棣(2−3709‥275)の字。㋸明、余本(1−515‥56)の字。

〖子華子〗228シクワ ㊀春秋晉、程本(8−25081‥134)の號。㊁書名。二卷。春秋晉、程本撰。程本の名は家語に、子華子の名は莊子・呂氏春秋に見えてゐる。孔子と同時代の人で、諸國をめぐつて用ひられず、子華子を著はすといふ。直齋書錄解題や宋濂の諸子辨は、何れも僞書としてゐる。四庫總目も宋の熙寧・紹聖閒の人の作とす。然し僞書中の最も理致あるもので、文は從橫博辯、黃老の言に本づき、術數をいひ、墨家を斥く。書錄解題、諸子辨は、何れも十卷とす。今二卷を存し、陽城胥渠問・孔子贈・北宮子仕・虎會問・晏子・晏子問黨・執中・大道・北宮意問・神氣の十篇に分つ。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【子回】229シクワイ 唐、呂向(2−3386‥37)の字。

【子晦】230シクワイ 字號。㊀宋、蔣元(9−31820‥45)の字。㊁宋、廖德明(4−9464‥64)の字。㊂元、張明卿(4−9812‥1540)の字。㊃明、趙炳然(10−37171‥888)の字。㊄明、王英明(7−20823‥1182)の字。

【子匯】231シクワイ 明、董汝澣(9−31433‥222)の字。

【子槐】232シクワイ 宋、董永(9−31433‥13)の字。

【子噲】233シクワイ 戰國、燕の易王の子。燕王噲(7−19429‥254)を見よ。

【子懷】234シクワイ 字號。㊀南唐、李德柔(6−14459‥1823)の字。㊁清、王茂蔭(7−20823‥2130)の字。

【子翽】235シクワイ 清、陳儀(11−41698‥143)の字。

【子瓌】236シクワイ 後晉、范延光(9−30834‥146)の字。

【子光】237シクワウ 字號。㊀晉、胡母謙之(9−29400‥339)の字。㊁金、趙攄(10−37171‥285)の字。㊂明、杜惟熙(6−14477‥281)の字。

【子宏】238シクワウ 字號。㊀宋、鄧肅(11−39630‥66)の字。㊁清、華孳亨(9−31214‥492)の字。

【子璜】239シクワウ 三國吳、全琮(1−1424‥126)の字。

【子擴】240シクワク 明、徐充(4−10110‥158)の字。

【子廓】241シクワク 明、王象乾(7−20823‥1636)の字。

【子完】242シクワン 字號。㊀明、何宇新(1−511‥219)の字。㊁明、龔有成(12−48837‥57)の字。

【子卷】243シクワン 一卷の書冊を更に何卷にも分けたもの。〔文獻通考、經籍考〕續通鑑長編、一百六十八卷、蓋逐卷又自分㆓子卷㆒、或至㆓十餘㆒。「字。

【子桓】244シクワン 三國魏、文帝(5−13450‥701)の字。

【子煥】245シクワン 宋、唐元章(2−3709‥403)の字。

【子寛】246シクワン ㊀複姓。〔路史〕鄭公族有㆓子寛氏㆒。㊁明、盛以弘(8−23005‥205)の字。

【子寰】247シクワン 宋、劉圻父(2−2224‥764)の字。

【子君】248シクン 後漢、施延(5−13629‥6)の字。

【子訓】249シクン 唐、李訓(6−14459‥271)の字。

【子兄】250シケイ 漢、翟牧(9−28727‥42)の字。

【子系】251 tzŭ^3 hsi^4 子供達。

【子京】252シケイ 字號。㊀後漢、魏諷(12−45872‥131)の字。㊁宋、章綡(8−25761‥170)の字。㊂宋、宋祁(3−7078‥46)の字。㊃宋、滕宗諒(7−18036‥54)の字。㊄宋、劉昌祚(2−2224‥1031)の字。㊅明、項元汴(12−43343‥65)の字。㊆明、秦鎬(8−24995‥22)の字。

【子涇】253シケイ 宋、祝泌(8−24672‥100)の字。

【子珪】254シケイ 字號。㊀南齊、劉瓛(2−2224‥258)の字。㊁陳、王瑜(7−20823‥1025)の字。

【子荊】255シケイ 字號。㊀晉、孫楚(3−6987‥201)の字。㊁宋、蕭楚(9−32012‥205)の字。

【子啓】256シケイ 明、曾棨(5−14299‥43)の字。

【子卿】257シケイ 字號。㊀漢、蘇武(9−32427‥167)の字。㊁三國吳、嚴武(2−4589‥222)の字。㊂宋、丁權(1−2‥56)の字。㊃宋、劉荀(2−2224‥371)の字。㊄金、馬定國(12−44572‥890)の字。㊅元、馬紹(12−44572‥357)の字。㊆清、邵泰卿(11−39343‥134)の字。㊇清、王澤(7−20823‥761)の字。

【子惠】258シケイ ㊀子のやうに民を愛する。子愛。〔書、太甲中〕先王子㆓惠困窮㆒、民服㆓厥命㆒、罔㆑有㆑不㆑悅。〔蔡傳〕困窮之民、若㆓己子㆒而惠㆓愛之㆒。㊁字號。㋑北齊、高澄(12−45313‥670)の字。㋺清、趙昭(10−37171‥250)の號。

【子敬】259シケイ 字號。㊀三國吳、魯肅(12−46013‥81)の字。㊁晉、王獻之(7−20823‥1416)の字。㊂陳、陳叔愼(11−41698‥979)の字。㊃宋、顧臨(12−43689‥204)の字。㊄宋、黃師雍(12−47926‥1121)の字。㊅宋、陳惟中(11−41698‥634)の字。㊆宋、鄭寅(11−39647‥11)の字。㊇金、和速嘉安禮(2−3490‥441′)の字。㊈金、唐括安禮(2−3709‥86)の字。㊉元、龔璛(12−48837‥32)の字。⑪元、宮欽(3−7156‥53)の字。⑫元、趙世延(10−37171‥720)の字。⑬明、魏學洢(12−45872‥171)の字。⑭明、徐瑄(4−10110‥194)の字。⑮明、鄭欽(11−39647‥81)の字。⑯明、柳希玭(6−14662‥241)の字。⑰明、婁樞(3−6383‥29)の字。⑱明、王銘(7−20823‥1005)の字。⑲清、何紹祺(1−511‥318)の字。⑳清、嚴延(2−4589‥13)の字。㉑清、葉承(9−31387‥79)の字。

【子溪】260シケイ 清、蘇元春(9−32427‥232)の字。

【子經】261シケイ 字號。㊀三國魏、牽招(7−20025‥41)の字。㊁宋、吳孝宗(2−3365‥472)の字。㊂宋、張文之(4−9812‥1485)の字。㊃元、鄭杓(11−39647‥178)の字。㊄明、陳樫(11−41698‥206)の字。

【子慶】262シケイ 字號。㊀後漢、逢萌(11−38901‥47)の字。㊁清、陳維邦(11−41698‥641)の字。

【子璥】263シケイ 南齊、劉璡(2−2224‥404)の字。

【子繼】264シケイ 清、胡培系(9−29400‥596)の字。

【子警】265シケイ 明、查鐸(6−14643‥51)の字。

【子攜】266シケイ 清、吳觀禮(2−3365‥515)の字。

【子藝】267シゲイ 明、田藝蘅(7−21723‥367)の字。

【子喬】268シケウ ㊀春秋時代の仙人。赤誦子喬。又、時喬に作る。王子喬(7−20823‥440)を見よ。〔古微書、孝經援神契〕魯哀公十四年、孔子夜夢、三槐之閒、沛豐之邦、有㆓赤烟氣起㆒、乃呼㆓顏淵子夏㆒往視㆑之、驅㆑車到㆓楚西北范氏街㆒、見㆓芻兒捕㆑麟、傷㆓其左前足㆒、薪而覆㆑之、孔子曰、兒來、汝姓爲㆑誰、兒曰、吾姓爲㆓赤誦㆒、名子喬、字受紀。㊁字號。㋑前燕、李產(6−14459‥366)の字。㋺南唐、陳喬(11−41698‥213)の字。㋩宋、夏竦(3−5720‥165)の字。㋥明、李公柱(6−14459‥1211)の字。㋭清、李憲喬(6−14459‥1142)の字。㋬清、王松(7−20823‥604)の字。

【子僑】269シケウ 清、汪行恭(6−17154‥186)の號。

【子橋】270シケウ 清、方椿(5−13620‥351)の字。

【子驕】271シケウ 字號。㊀春秋魯、顏高(12−43591‥17)の字。㊁漢、假倉(1−835‥55)の字。㊂漢、蕭由(9−32012‥6)の字。

【子月】272シゲツ 陰曆十一月の異名。ねのつき。北斗七星の柄が初昏に子の方向をさす月。〔爾雅、釋天〕十一月爲㆑辜。〔義疏〕辜者、故也、十一月陽生、欲㆓革㆑故取㆑新也、十月建亥、亥者、根荄也、至㆓建子之月㆒、而孶孶然生矣。〔庾信、寒園卽目詩〕子月泉心動、陽爻地氣舒。〔杜審言、和㆔李大夫嗣眞奉㆑使存㆓撫河東㆒詩〕子月開㆓階統㆒、房星受㆓命年㆒。

【子業】273シゲフ ㊀南朝宋の前廢帝、劉子業(2−2224‥963)の名。㊁字號。㋑三國魏、衞繼(10−34074‥28)の字。㋺後魏、晁崇(5−13889‥7)の字。㋩明、高叔嗣(12−45313‥1220)の字。㋥近藤篤の號。近藤西涯(11−38752‥197)を見よ。

【子見】274シケン 字號。㊀宋、楊齊賢(6−15112‥644)の字。㊁元、程復心(8−25081‥282)の字。

【子建】275シケン ㊀複姓。〔萬姓統譜〕子建、羋姓、楚太子建之後。㊁字號。㋑魏、曹植(5−14297‥118)の字。㋺梁、蕭昌(9−32012‥158)の字。㋩明、宋存標(3−7078‥351)の字。㋥明、馮廷章(12−44579‥273)の字。

〖子建八斗〗276シケンハツト 蒙求の標題。南朝、宋の謝靈運が魏の曹植の詩才を歎稱した語。天下の才すべてで一石ありとすれば、其の中、子建獨りで八斗を有する意。〔蒙求、中、子建八斗〕魏志、陳思王曹植、字子建、年十歲餘、誦㆓讀詩論及辭賦數十萬言㆒、善屬㆑文、云云、舊注引㆓謝靈運㆒曰、天下才共有㆓一石㆒、子建獨得㆓八斗㆒、我得㆓一斗㆒、自㆑古及㆑今、同用㆓一斗㆒、奇才博敏、安有㆑繼㆑之。

【子兼】277シケン 字號。㊀明、陳鎏(11−41698‥591)の字。㊁清、王鎏(7−20823‥1062)の字。

【子軒】278シケン 複姓。〔路史〕鄭公族、有㆓子軒氏㆒。

【子乾】279シケン ㊀複姓。〔萬姓統譜〕子乾、姜姓、齊公子都、字子乾之後。㊁明、孟陽(3−6960‥265)の字。

【子健】280シケン　字號。❶明、耿定力(9－29026‥73)の字。❷明、蔣乾(9－31820‥41)の字。❸清、李修易(6－14459‥1366)の號。

【子堅】281シケン　字號。❶後漢、李固(6－14459‥327)の字。❷北周、席固(4－8926‥22)の字。❸陳、陰鏗(11－41691‥42)の字。❹陳、王固(7－20823‥379)の字。❺宋、陳安石(11－41698‥623)の字。❻金、李石(6－14459‥513)の字。❼明、陳柏(11－41698‥509)の字。❽清、徐本立(4－10110‥632)の字。

【子牽】282シケン　複姓。〔路史〕齊大夫後有二子牽氏一。

【子憲】283シケン　字號。❶三國魏、李孚(6－14459‥698)の字。❷金、盧庸(8－23050‥172)の字。

【子賢】284シケン　❶元の僧。天台の人。字は一愚。天台山寺に住す。禪定の外、志を詩に肆ままにす。著に一愚集がある。❷字號。㋑後漢、李進(6－14459‥480)の字。㋺宋、李東(劭武の人)(6－14459‥630)の字。㋩金、李英(6－14459‥52)の字。㋥明、周廷用(2－3441‥788)の字。㋭明、劉閔(2－2224‥572)の字。

【子謙】285シケン　字號。❶宋、沈木(6－17189‥352)の字。❷宋、莫若沖(9－31078‥113)の字。❸明、伍讓(1－435‥22)の字。❹明、崔大德(4－8178‥297)の字。❺明、徐盈(4－10110‥12)の字。❻明、曾益(5－14299‥13)の字。❼明、方日升(5－13620‥540)の字。

【子鵑】286シケン　鳥名。ほととぎす。子規。〔華陽國志、蜀志〕後有レ王曰二杜宇一、云云、稱二帝號一曰二望帝一、云云、遂禪二位于開明帝一、升二西山一隱焉、時適二月、子鵑鳥鳴、故蜀人悲二子鵑鳴一也。

【子懸】287シケン　病名。姙娠四五箇月以後になつて、心下部が膨滿して痛む病。〔本事方、紫蘇飲〕子懸、云云、胎近レ上。

【子獻】288シケン　複姓。〔奇姓通〕子獻、嫣姓、陳桓公孫、子獻後。

【子騫】289シケン　字號。❶春秋魯、閔損(11－41251‥22)の字。❷晉、周閔(2－3441‥437)の字。❸南朝宋、劉損(2－2224‥468)の字。

【子權】290シケン　字號。❶宋、夏執中(3－5720‥320)の字。❷宋、吳執中(2－3365‥639)の字。❸宋、朱巽(6－14424‥437)の字。❹宋、楊與立(6－15112‥796)の字。❺明、范常(9－30834‥49)の字。

〔子權レ母〕291シボヲハカル　母權レ子(6－16723‥85)の對。輕重二種の錢を作り、重きを母とし輕きを子とし、幣が輕く、物價の高い時は重錢を主とし輕錢を從とし、之に反する場合には輕錢を主とし重錢を從とす。前者を母權子といひ、後者を子權母といふ。子母相權(767)を見よ。

【子元】292シゲン　字號。❶春秋陳、陳亢(11－41698‥68)の字。❷漢、朱博(6－14424‥501)の字。❸漢、蘇仙(9－32427‥125)の字。❹漢、房鳳(5－11714‥125)の字。❺漢、王譚(7－20823‥772)の字。❻後漢、王扶(7－20823‥923)の字。❼三國魏、司馬師(2－3257‥264)の字。❽三國吳、濮陽興(7－18526‥19)の字。❾北周、王延(7－20823‥75)の字。❿宋、戴亨(5－11685‥13)の字。⓫宋、馬知節(12－44572‥882)の字。⓬宋、方會(5－13620‥116)の字。⓭宋、盧億(8－23050‥14)の字。⓮金、王元節(7－20823‥1430)の字。⓯元、顧長卿(12－43689‥324)の字。⓰元、楊浚(6－15112‥211)の字。⓱明、何孟春(1－511‥371)の字。⓲明、徐泰(4－10110‥203)の字。⓳明、秦鰲(8－24995‥24)の字。⓴明、董宜陽(9－31433‥189)の字。㉑明、莫如士(9－31078‥117)の字。㉒明、劉體乾(2－2224‥1153)の字。㉓明、陸采(11－41708‥112)の字。

【子幻】293シゲン　明、王叔承(7－20823‥1670)の字。

【子玄】294シゲン　字號。❶晉、郭象(11－39474‥113)の字。❷南齊、王寂(7－20823‥680)の字。❸梁、范述曾(9－30834‥198)の字。❹唐、李郃(6－14459‥147)の字。❺唐、劉知幾(2－2224‥1174)の字。❻唐、盧邁(8－23050‥167)の字。

【子言】295シゲン　❶複姓。〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕子言氏、姬姓、魯季平子生二昭伯、字子言一、其後也、本季氏。〔萬姓統譜〕子言、姬姓、魯季平子生二昭伯字子言一、其後爲レ氏。❷字號。㋑後魏、邢遜(11－39301‥40)の字。㋺唐、沈傳師(6－17189‥614)の字。㋩唐、傅師(1－939‥60)の字。㋥後唐、安元信(3－7072‥538)の字。㋭宋、錢聞詩(11－40563‥428)の字。㋬明、唐詩(2－3709‥147)の字。㋣清、王蔭昌(7－20823‥1171)の字。

【子源】296シゲン　字號。❶後漢、臧洪(9－30083‥25)の字。❷明、葉洪(9－31387‥48)の字。

【子愿】297シゲン　字號。❶宋、陳彥恭(11－41698‥839)の字。❷明、邢侗(11－39301‥46)の字。

【子嚴】298シゲン　字號。❶漢、孫寶(3－6987‥244)の字。❷後漢、頴容(7－18188‥18)の字。❸清、方濬師(5－13620‥551)の字。

【子戶】299コシ　❶分家。〔宋史、食貨志上三〕詭名隱寄、多分二子戶一。❷子宮をいふ。〔素問、氣府論〕俠臍下旁各五分、至二橫骨寸一一、腹脈法也。〔注〕上以二蔽骨鳩尾一、中以二臍中一、下以二橫骨一、爲二準繩一也、中注在二肓兪下一寸、四滿下二中注一一寸、氣穴一名胞門、又名二子戶一、下二四滿一一寸、大赫一名陰關、又名二陰維一、在二氣穴下一寸、橫骨下二大赫一一寸、在二陰上一、橫骨中宛如二偃月一、去二腹中一行一寸五分、按、圖經內橫骨・大赫・氣穴、皆去レ中行一寸半。

【子固】300コシ　字號。❶唐、劉潼(2－2224‥530)の字。❷宋、曾鞏(5－14299‥31)の字。❸宋、張確(4－9812‥129)の字。❹宋、張守(4－9812‥384)の字。❺宋、趙鞏(10－37171‥108)の字。❻宋、趙孟堅(10－37171‥899)の字。❼元、楊維翰(6－15112‥416)の字。❽明、周鴻圖(2－3441‥663)の字。❾清、成克鞏(5－11544‥337)の字。

【子虎】301コシ　春秋晉、解揚(10－35067‥259)の字。

【子庫】302コシ　經史子集の中の子類、卽ち諸子百家の書物を藏する庫。四庫(3－4682‥267)を見よ。〔小學紺珠、藝文類、四庫〕經庫、馬懷素、史庫、沈佺期、子庫、武平一、集庫、薛稷、景龍文館記。

【子壺】303コツボ　子宮の異稱。

【子顧】304コシ　清、曹爾堪(5－14297‥249)の字。

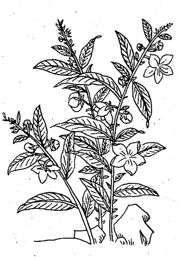
【子午】305ゴシ　❶十二支のねとうま。方向では子は正北、午は正南。時刻では、子は夜の十二時、午は正午。〔蜀志、魏延傳、注〕循二秦嶺一而東、當二子午一而北。〔宋史、天文志二〕規正レ矩、子午以象レ天。❷山名。陝西省中部縣の西北。一名、橋山。邠縣・耀縣及び甘肅省正寧縣の界に亙る。秦の蒙恬が、山を塹り、谷を堙めたのは此の嶺で、又、宋人が橫山の險と稱したのもこれである。〔讀史方輿紀要、陝西、名山〕橋山、卽子午山、亦曰二子午嶺一、在二慶陽府合水縣東五十里一、山綿亙深遠、其在二延安府保合縣東六十里一者、亦曰二艾蒿嶺一、以三嶺多二艾蒿一也、其在二鄜州中部縣治北一者、則曰二橋山一、以二沮水穿レ山而過、山若レ橋然一也、相傳、黃帝葬二橋山一、漢元封初、北巡二朔方一還、祭二黃帝冢於橋山一、釋二兵須如一、卽此、其在二今楡林衞西南境一者、則曰二橋門一、後漢靈帝初、段熲討二東羌先零等一、破二之於高平逢義山一、追レ羌出二橋門一、水經注、橋山有二長城門一、故謂二之橋門一、一名二青嶺門一、後唐長興四年、李彝超以二夏州一拒レ命、遣レ軍討レ之、彝超使下其兄阿羅出守二青嶺門一、以拒中官軍上、薛居正曰、自二慶州一而東北、過二奢延澤一至二夏州青嶺門一、卽古長城門也、寰宇記、橋山南連二耀州一、北抵二鹽州一、東接二延州一、綿亙八百餘里、蓋邠寧環慶延綏鄜坊諸郡邑、皆在二橋山之麓一、宋人所レ稱二橫山之險一、亦卽橋山北垂矣、又沮水出二橋山一、合二於洛水一、東西羣川、皆會二流於山下一、俗亦謂二其地一爲二川東川西一。❸谷の名。陝西省長安縣の南の秦嶺山中。谷の口に子午鎭がある。〔漢書、王莽傳上〕(元始五年)秋、莽以三皇后有二子孫瑞一、通二子午道一、子午道從二杜陵一直絕二南山一、徑二漢中一。〔注〕師古曰、子、北方也、午、南方也、言、通二南北道一相當、故謂二之子午一耳、今京城直二南山一有レ谷、通二梁漢道一、名二子午谷一。〔三秦記〕長安正南、山名二秦嶺一、谷名二子午一。〔長安志〕子午谷、長六百六十里、北口曰レ子、在二西安府南百里一、南口曰レ午、在二漢中府洋縣東一百六十里一。❹川の名。上流は焦溪、又、椒溪といふ。源は陝西省佛坪縣の東。東南に流れて蒲河・文水河に會し、三河口といひ、折れて南し、白河鋪に至つて子午河と名づけ、西鄉縣の東北界に至り、漢水に入る。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、西鄉縣〕子午水、縣東百二十里、出二子午谷一、南流入二漢水一、今有二子午鎭巡司一、在二縣東北百八十里一。❺複姓。〔萬姓統譜〕子午、芈姓、楚公子午之後。

【子午鶴】306シゴカク　天雷壇にあつた木製の鶴。其の首が子の刻には外に向ひ、午の刻には內に向ふから名づく。〔揚州畫舫錄〕天雷壇、在二小金山後一、祀二呂祖一、有二木鶴一、首能運動、子時首向レ外、

午時首向レ内、因名曰二子午鶴一。

【子午儀】307シゴギ　天體が子午線を經過するのを觀測するに用ひる器械。

【子午花】308シゴクワ　午時花。梧桐科の一年草。高さ二三尺。夏秋の頃、紅花をつける。花が晝咲いて夜半に落ちるから名づく。〔羣芳譜〕金錢花、一名子午花、以二其午開子落一也。



子午花
（三才圖會）

【子午痧】309 tzŭ² wu³ sha¹　コレラ。虎列拉病。子の刻に罹れば午の刻に死ぬといふのでこの名がある。

【子午針】310シゴシン　磁石の針。南北を指す。〔和漢三才圖會、藝器、磁針〕土圭針、子午針、指南針。

【子午線】311シゴセン　地球の南北兩極に亙つて引いた想像上の圜線。經線。〔新法曆書、渾天儀說〕凡旋轉之圈、俱貫二入子午南北二處一、而承二子午圈一者、地平也。

【子午道】312シゴダウ　❶南北の道。北山は子、南山は午に當る。南は陝西省（漢中道）洋縣の東より、北は（關中道）長安縣の南に至る南北交通路。〔漢書、王莽傳上〕其秋莽以三皇后有二子孫瑞一、通二子午道一、從二杜陵一直絕二南山一、徑二漢中一。〔注〕師古曰、子、北方也、午、南方也、言、通二南北道一相當、故謂二之子午一耳、今京城直二南山一有レ谷、通二梁漢道一者、名二子午谷一、又宜州西界、慶州東界、有レ山、名二子午嶺一、計南北直相當、此則北山者是子、南山者是午、共爲二子午道一。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府〕子午道、今新開、南口曰レ午、在二洋縣東百六十里一、北口曰レ子、在二西安府南百里一、谷長六百六十里、或曰、卽古蝕中也、項羽封二沛公一爲二漢王一、都二南鄭一、漢王之レ國、從二杜南一入二蝕中一去、輒燒二絕棧道一、蓋卽此、漢元始五年、王莽通二子午道一、從二杜陵一直絕二南山一、逕二漢中一、後順帝初詔罷二子午道一、通二褒斜路一、蜀漢建興六年、魏延願假二奇兵五千一、當二子午一而北、八年魏曹眞請下繇二斜谷一伐中漢諸將上、或繇二子午谷一、或繇二武都一入、皆不レ能レ達、景曜六年、魏鍾會分レ兵繇二子午谷一入二漢中一、晉永和十年、桓溫伐レ秦、遣二梁州刺史司馬勳一出二子午谷一、向二長安一、齊永明十一年、後魏主宏南寇、遣二其將拓跋幹一、分レ道出二子午谷一、顏師古曰、舊子午道、在二金州安康縣界一、子、北方也、午、南方也、道通二南北一、因名二子午一、安康與二長安一、地界二南北一相對、故顏氏謂三舊道出二於此一也。❷婦人の經水の通ずる道。〔漢書、王莽傳上〕其秋莽以三皇后有二子孫瑞一、通二子午道一、子午道、從二杜陵一直絕二南山一、徑二漢中一。〔注〕張晏曰、時年十四、始有二婦人之道一也、子、水、午、火也、水以二天一一爲レ牡、火以二地二一爲レ牝、故火爲二水妃一、今通二子午一以協レ之。

【子午卯酉】313 tzŭ² wu² mao² yu³　始めから終りまで。一伍一什。

【子午八法】314シゴハツパフ　任脈督脈の奇經八穴。卽ち、天地の子（陽）・午（陰）を人身の任督兩脈に當てたもので、八法は十二經の大會である公孫・內關・臨泣・外關・後谿・申脈・列缺・照海をいふ。〔醫學入門〕子者陽也、午者陰也、云云、八法者、奇經八穴爲レ要、乃十二經之大會也。

【子午山柴翁】315シゴサンサイヲウ　清、鄭珍（**11**－**39647**‥223）の晚號。

【子仵】316シゴ　北周、王盟（**7**－**20823**‥1004）の字。

【子瘖】317シゴ　複姓。〔萬姓統譜〕子瘖、嬀姓、陳僖公生二宣子一、其後爲二子瘖氏一。

【子口】318シコウ　中國內地の通過稅徵收の釐金局。〔清國行政法汎論、財務行政、釐金、釐金免抽〕凡洋貨進口、一經二納稅一、准下華商販運赴中內地上、沿途關口、按二照貨價一、每二百兩一徵レ稅五兩、是時止有二常關一、未レ有二釐卡一、自二釐卡已設後一、洋商貨物、在二子口一一律抽收。

【子口稅】319シコウゼイ　子口半稅の略稱。〔清國行政法汎論、財務行政、釐金、釐金免抽〕凡洋商願下將二子口稅一一時納完、免中逐口徵納之煩上者、准下其每二價銀百兩一納中稅二兩五錢上、給以二半稅單一。

【子口單】320 tzŭ² k'ou³ tan¹　子口半稅の納稅證書。

【子口蓋兒】321 tzŭ² k'ou³ kai⁴ êrh　落し蓋。

【子口半稅】322シコウハンゼイ　輸出入する貨物に對し、內地關稅及び釐金稅免除の便法として海關で徵收した抵代稅。稅率は、有稅品は輸出入稅の二分の一、無稅品は從價の二分半。この手續をした貨物は內地通過稅を要しない。〔清國行政法汎論、財務行政、釐金、釐金免抽〕凡釐金不レ論二土貨洋貨之別一、一律徵收、以爲二通法一、惟外洋運進之貨、於二進口一正稅外、納二完子口半稅一者、嗣後內地關卡、概不三復抽二稅釐一。

【子工】323シコウ　複姓。〔萬姓統譜〕子工、姜姓、齊頃公之子、字子工之後。

【子公】324シコウ　❶複姓。〔姓纂〕世本曰、子公氏、齊頃公之子、公子子公之後。❷字號。㋑漢、吳霸（**2**－**3365**‥344）の字。㋺漢、陳湯（**11**－**41698**‥449）の字。㋩漢、田廣明（**7**－**21723**‥358）の字。㋥後漢、薛漢（**9**－**32123**‥25）の字。㋭宋、張燾（**4**－**9812**‥527）の字。㋬宋、陳均（**11**－**41698**‥157）の字。

【子孔】325シコウ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子孔、姬姓、鄭公子嘉子孔之後。❷春秋楚、成嘉（**5**－**11544**‥21）の字。

【子功】326シコウ　❶複姓。一に子工に作る。〔路史〕齊後有二子功氏一。❷字號。㋑唐、王助（**7**－**20823**‥598）の字。㋺宋、翁蒙之（**9**－**28635**‥95）の字。㋩宋、范百祿（**9**－**30834**‥257）の字。

【子弘】327シコウ　子夏の門人、馯臂の字。一に子弓に作る。〔史記、仲尼弟子傳〕商瞿、魯人、孔子傳二易於瞿一、瞿傳二楚人馯臂子弘一。〔注〕正義曰、漢書及荀卿子、皆云、字子弓、此作レ弘、蓋誤也。

【子侯】328シコウ　字號。❶漢の霍去病の子、霍嬗（**12**－**42321**‥33）の字。〔史記、武帝紀〕天子獨與二侍中奉車子侯一上二泰山一、天子既已封二禪泰山一、乃復東至二海上一望、云云、奉車子侯暴病、一日死。〔注〕韋昭曰、子侯、霍去病之子也。❷漢、金安上（**11**－**40152**‥1181）の字。

【子厚】329シコウ　❶春秋、魯の卿。子柳（835）の❶に同じ。〔鹽鐵論、相刺〕昔魯穆公之時、公儀爲レ相、子思子厚爲二之卿一、然北削二於齊一、以レ泗爲レ境。❷字號。㋑後漢、賈淑（**10**－**36755**‥78）の字。㋺後燕、餘嵩（**12**－**44185**‥156）の字。㋩北周、沈重（**6**－**17189**‥294）の字。㋥唐、柳宗元（**6**－**14662**‥277）の字。㋭宋、張載（**4**－**9812**‥320）の字。㋬宋、黃銖（**12**－**47926**‥472）の字。㋣宋、章惇（**8**－**25761**‥140）の字。㋠宋、張擧（常州の人）（**4**－**9812**‥200）の字。㋷元、黃元承（**12**－**47926**‥1078）の字。㋦明、周敍（**2**－**3441**‥279）の字。㋸清、虎坤元（**9**－**32675**‥242）の字。㋾清、左國材（**4**－**8720**‥456）の字。㋻清、翟大坤（**9**－**28727**‥57）の字。

【子屋】330シコウ　清、翟大坤（**9**－**28727**‥57）の字。

【子恆】331シコウ　春秋魯、施之常（**5**－**13629**‥149）の字。

【子洪】332シコウ　宋、黃士毅（**12**－**47926**‥1111）の字。

【子貢】333シコウ　春秋、衞の人。姓は端木。名は賜。字は子貢。又、子贛に作る。孔子の弟子。口才あり、能く事を料り、又、貨殖を善くし、家に千金を累ね、魯・衞の相となる。諸侯に聘せられ、至る所の君に尊敬せられ、齊に卒す。端木賜（**8**－**25806**‥179）を見よ。〔論語、學而〕子貢問曰、貧而無レ諂、富而無レ驕、何如。〔史記、仲尼弟子傳〕端木賜、衞人、字子貢。〔漢書、淮陽憲王欽傳〕子貢之辯。〔論衡、龍虛〕子貢滅レ鬚爲二婦人一、人不レ知二其狀一。

【子貢詩傳】334シコウシデン　書名。子貢撰ともいふが、明の豐坊の僞撰にかかる。〔明史、豐坊傳〕或謂、世所レ傳子貢詩傳、亦坊僞纂也。

【子構】335シコウ　元、李材（**6**－**14459**‥359）の字。

【子興】336シコウ　字號。❶孟子の字。子輿（817）の❶㋺を見よ。❷後漢、陳宜（**11**－**41698**‥140）の字。❸明、郭興（**11**－**39474**‥93）の一名。❹明、桂天祥（**6**－**14755**‥147）の字。❺明、南師仲（**2**－**2750**‥829）の字。

【子鴻】337シコウ　字號。❶清、黃儀（**12**－**47926**‥189）の字。❷清、茅鴻儒（**9**－**30836**‥108）の字。❸清、黎騫（**12**－**47994**‥23）の初字。

【子贛】338シコウ　字號。❶子貢に同じ。〔禮、樂記〕子贛見二師乙一而問焉。〔注〕子贛、孔子弟子、端木賜也。〔漢書、張禹傳〕性與二天道一、自二子贛之屬一不レ得レ聞。❷漢、吾丘壽王（**2**－**3379**‥18）の字。❸

漢、王尊(7-20823‥731)の字。

【子克】339 シコク 宋、吳泳(崇仁の人)(2-3365‥16)の字。

【子國】340 シコク ❶複姓。〔萬姓統譜〕子國、姬姓、鄭公子發、字子國之後。❷漢、孔安國(3-6933‥253)の字。

【子穀】341 シコク ❶もみ。〔漢書、律歷志上〕以二子穀秬黍中者千有二百一實二其龠一、以二井水一準二其槩一。❷字號。㋑明、吳兆璧(2-3365‥805)の字。㋺清、劉元稷(2-2224‥884)の字。　「字。

【子坤】342 シコン 明、金大輿(11-40152‥1326)の字。

【子昆】343 シコン 清、邵嗣堯(11-39343‥113)の字。

【子佐】344 シサ 唐、鄭亞(11-39647‥1)の字。

【子齹】345 シサ 春秋、鄭の人。〔左氏、昭、十六〕子齹賦二野有蔓草一。

【子才】346 シサイ 字號。❶北齊、邢邵(11-39301‥37)の字。❷唐、崔能(4-8178‥144)の字。❸宋、馬存(12-44572‥398)の字。❹宋、喩樗(2-3979‥13)の字。❺宋、陸維之(11-41708‥254)の字。❻宋、王彥(7-20823‥374)の字。❼明、魏校(12-45872‥15)の字。❽明、鄧偉奇(11-39630‥116)の字。❾明、劉才(2-2224‥289)の字。❿清、袁枚(10-34152‥126)の字。⓫清、高塏(12-45313‥92)の字。

【子柴】347 シサイ 清、詮修(10-35435‥8)の俗名。

【子祭】348 ネマツリ 陰曆十月の甲子の日に行ふ大黑天の祭。きのえねまち。ねまち。〔禁中行事〕十月子祭は大黑天を祭り。

【子細】349 シサイ 事のこまごましたわけ。こまかい事柄。精細。仔細。〔杜甫、觀下李固請二司馬弟一山水圖上詩〕野橋分二子細一、沙岸繞二微茫一。

【子裁】350 シサイ 明、盛王贊(8-23005‥239)の字。

【子載】351 シサイ 清、屈培基(4-7669‥160)の字。

【子際】352 シサイ 明、馮時雍(12-44579‥231)の字。

【子濟】353 シサイ 字號。❶宋、田宗源(7-21723‥397)の字。❷宋、滕康(7-18036‥9)の字。❸清、孫原湘(3-6987‥395)の字。

【子材】354 シザイ 字號。❶後漢、李休(6-14459‥202)の字。❷陳、陳叔文(11-41698‥984)の字。❸宋、李杞(眉山の人)(6-14459‥172)の字。❹元、陳君用(11-41698‥778)の字。❺明、應櫝(4-11330‥19)の字。❻清、葛士達(9-31420‥123)の號。

【子桑】355 シサウ ❶複姓。〔萬姓統譜〕子桑、魯大夫子桑伯子之後、秦公孫枝、字子桑、其後氏焉。❷春秋秦、公孫枝(2-1452‥487)の字。

【子桑戶】356 シサウコ 春秋時代の人。孟子反・子琴張の交友。〔莊子、大宗師〕子桑戶・孟子反・子琴張、三人相與友、曰、孰能相三與於无二相與一、相三爲於无二相爲一、孰能登レ天遊レ霧、撓挑无レ極、相忘以レ生、无レ所二終窮一、三人相視而笑、莫レ逆二於心一、遂相與友。

【子爽】357 シサウ 宋、陳塏(11-41698‥66)の字。

【子曹】358 シサウ 春秋衞、廉潔(4-9436‥30)の字。

【子莊】359 シサウ 字號。❶漢、田何(7-21723‥23)の字。❷晉、傅祇(1-939‥59)の字。❸宋、蕭顗(9-32012‥40)の字。❹明、郭民敬(11-39474‥413)の字。❺明、朱容重(6-14424‥1011)の字。❻清、陳其元(11-41698‥724)の字。

【子蒼】360 シサウ 字號。❶宋、韓駒(12-43159‥70)の字。❷宋、羅璧(9-28397‥245)の字。

【子操】360′ シサウ 春秋衞、廉潔(4-9436‥30)の字。

【子雙】361 シサウ 清、孫穀(3-6987‥121)の字。

【子臧】362 シザウ ❶複姓。〔萬姓統譜〕子臧、姬姓、惠公子欣、字子臧之後。❷字號。㋑春秋魯、臧彄(9-30083‥26)の字。㋺春秋曹、公子欣時(2-1452‥269)の字。㋩晉、司馬駿(2-3257‥267)の字。㋥唐、盧閈求(8-23050‥193)の字。㋭宋、呂文仲(2-3386‥261)の字。　「字。

【子索】363 シサク 春秋魯、罕父黑(9-28217‥19)の字。

【子策】364 シサク 唐、盧簡辭(8-23050‥194)の字。

【子產】365 シサン 字號。❶春秋鄭、公孫僑(2-1452‥484)の字。❷春秋魯、冉季(2-1514‥4)の字。❸漢、馮逡(12-44579‥94)の字。❹後漢、唐檀(2-3709‥263)の字。

【子粲】366 シサン 元、李瓚(6-14459‥370)の字。

【子餐】366′ シサン 清、嚴沆(2-4589‥29)の字。

【子山】367 シザン ❶山名。浙江省長興縣の北。雉堞相接し、錢林の故宅と傳ふ。明の萬曆中、浮屠と金蓮寺箬溪書院とを建つ。臺榭參差として邑郭の名勝である。〔湖州府志〕子山、在二縣西二里一、與二雉堞一相接、相傳錢林故宅。❷字號。㋑後漢、楊終(6-15112‥207)の字。㋺三國吳、步騭(6-16264‥62)の字。㋩後魏、刁雙(2-1846‥25)の字。㋥北周、庾信(4-9398‥26)の字。㋭宋、姚瀛(3-6202‥7)の字。㋬宋、沈邈(6-17189‥327)の字。㋣宋、馬仲甫(12-44572‥887)の字。㋠元、巎巎(4-8653‥1)の字。㋷元、陳祖仁(11-41698‥1077)の字。㋦元、林靜(6-14551‥148)の字。㋸清、華坡(9-31214‥340)の字。㋾清、顧文彬(12-43689‥358)の字。㋻清、施山(5-13629‥40)の字。

【子士】368 シシ ❶複姓。〔萬姓統譜〕子士、姬姓、魯桓公之後、妹孫氏之裔也。❷明、劉儁(2-2224‥366)の字。

【子子】369 コハコタリ 子は子の道を盡すべきである。〔易、家人〕父父、子子。〔論語、顏淵〕君君、臣臣、父父、子子。〔荀子、王制〕君君臣臣、父父子子、兄兄弟、一也。

【子子子】370 ネコシ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【子子孫孫】371 シシソンソン 長い後世までの子孫。子孫末裔。〔書、梓材〕惟曰欲下至二于萬年一、惟王、子子孫孫、永保上民。〔詩、小雅、楚茨〕子子孫孫、勿レ替引レ之。〔爾雅、釋訓〕子子孫孫、引無レ極也。〔後漢書、趙壹傳〕且公且侯、子子孫孫。

【子子子子子】372 シシノコノコジシ ネコノコノコネコ ❶一種の戲讀。獅子の子の子獅子。猫の子の子猫とよむ。〔宇治拾遺物語〕。❷ネコノコノコネコ 脚本。中村清三郎作。元祿九年初演。

【子之】373 シシ ❶複姓。衞の公孫彌牟、字は子之に基づく。〔左氏、哀、十二〕子之尙幼。〔注〕子之、公孫彌牟也。❷戰國、燕の人。噲の相。噲、暗愚にして國を子之に讓り、國大いに亂る。太子平、子之を攻めて克たず。齊の閔王、燕を伐ち、噲、死し、子之を醢にす。燕人、よりて太子平を立つ。〔史記、三十四〕。❸字號。㋑春秋魯、公祖句茲(2-1452‥448)の字。㋺春秋魯、秦非(8-24995‥145)の字。

【子止】374 シシ 宋、晁公武(5-13889‥16)の字。

【子史】375 シシ 諸子の書と歷史の書。子は老子・荀子など子類の書、史は史記・漢書など史類の書。〔隋書、牛弘傳〕五經子史、纔四千卷。〔陳後主、與レ人書〕博二綜子史一。

【子史精華】376 シシセイクワ 書名。一百六十卷。清の康熙六十年、張廷玉等奉敕撰。四庫全書中の子史二部の書から名言秀句を採錄し、その精要を大書し、首尾を細注す。天・地・帝王・皇親・歲時・禮儀・設官・政術・文學・武功・邊塞・倫常・品行・人事・樂・釋道・靈異・方術・巧藝・形色・言語・婦女・動植・儀飾・服飾・居處・產業・食饌・珍寶・器物の三十類、子目二百八十類に分つ。〔四庫提要、子、類書類〕。

【子司】377 シシ 唐宋の頃、六部の省に屬した官廳の總稱。頭司の對。吏部等の本行を頭司といひ、之に屬する司勳・司封・考功等を子司といふ。〔十駕齋養新錄〕唐宋制、六部有二前行・中行・後行三等一、而二十四司有二頭司子司之稱一、每行各管二四司一、而以二本行一名爲二頭司一、餘爲二子司一、如下吏部爲二頭司一、司勳司封考功爲中子司上、五部皆倣レ此。〔事物紀原、三省綱轄部、子司〕唐會要曰、故事以二兵吏及左右司一爲二前行一、刑戶爲二中行一、工禮爲二後行一、每行各管二四司一、以二本行一爲二頭司一、餘爲二子司一、自二唐制一始也。

【子至】378 シシ 唐、李適(6-14459‥616)の字。

【子志】379 シシ 清、瞿應紹(8-23747‥31)の號。

【子芝】380 シシ 春秋、齊、公治長(2-1452‥727)の字。

【子思】381 シシ 字號。❶孔子の孫。名は伋。子思は其の字。業を孔子の弟子曾參に受け、嘗て魯繆公の師となる。孔子の傳を繼ぎ子思子二十三篇を作る。中庸も子思の作といふ。後世、述聖と稱す。孔伋(3-6933‥35)を見よ。❷春秋魯、原憲(2-2973‥61)の字。❸春秋秦、燕伋(7-19429‥56)の字。❹漢、平當(4-9167‥424)の字。❺南齊、何憲(1-511‥67)の字。❻宋、黃孝先(12-47926‥1013)の字。❼宋、蔡齊(9-31818‥76)の字。❽宋、譚必(10-35978‥31)の字。❾宋、范正思(9-30834‥214)の字。❿宋、雷孝先(12-42245‥175)の字。⓫宋、王當(7-20823‥745)の字。⓬宋、汪齊(6-17154‥87)の字。⓭明、

李舜臣(6－14459・・1455)の字。

【子思子】382 シシシ　㊀子思の㊀に同じ。最後の子は、孔子・孟子などの子に同じく尊稱。〔小學、立教第一序〕子思子曰、天命之謂レ性。㊁書名。㋑孔子の孫、孔伋撰。漢書藝文志に子思二十三篇を錄し、隋書經籍志・唐書藝文志は七卷を載せ、唐の馬總の意林にも七卷本の精句を收めてゐるのを見れば、六朝から宋までに行はれた子思子は七卷本なることが明かであるが、今は傳はらない。漢志著錄の二十三篇は、後、上下篇に分れて四十六篇となり、序錄を加へて四十七篇となる。卽ち孔叢子の所謂中庸四十七篇で、中庸は恐らく子思子の首篇を稱したものであらうといふ。㋺一卷。宋、汪晫編。孔叢子及び其の他の古書中から子思の言行を輯めたもの。內篇は天命・鳶魚・誠明、外篇は無憂・胡母豹・喪服・魯繆公・任賢・過齊の九篇に分つ。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【子師】383 シシ　㊀子の師。子供の師匠。子室(399)を見よ。㊁複姓。〔萬姓統譜〕子師、姬姓、鄭大夫子師僕之後。㊂字號。㋑後漢、王允(7－20823・・37)の字。㋺宋、李從善(6－14459・・1436)の字。㋩清、陶元淳(11－41705・・188)の字。

【子偲】384 シシ　清、莫友芝(9－31078・・94)の字。

【子嗣】385 シシ　㊀息子。又、子種。〔朱震亨心法、子嗣〕。㊁宋、吳紹古(2－3365・・712)の字。

【子飼】386 コガヒ　㊀子を養ふこと。育兒。〔枕草子、二〕心ときめきするもの、雀の子がひ。㊁兒童の時から育て教へること。〔心中重井筒、中〕十の年から子がひにて。

【子駟】387 シシ　㊀複姓。〔萬姓統譜〕子駟、姬姓、鄭公子騑、字子駟之後。㊁春秋鄭、公子騑(2－1452・・265)の字。

【子姒】389 ジシ　夏と商。商は子姓、夏は姒姓。〔梁昭明太子、七契〕固以下德苞二子姒一、道邁中唐虞上、六合寧泰、四宇咸康。

【子時】390 ジシ　宋、劉欽(2－2224・・186)の字。

【子州】391 シシウ　㊀複姓。〔呂覽、貴生〕堯以二天下一讓二子州友父一、子州友父對曰、以レ我爲二天子一、猶可也。㊁宋、陳吉老(11－41698・・745)の字。

【子州支父】392 シシウシホ　堯の時の人。堯に天下を讓られたが、幽憂の病があると言って受けなかった。〔莊子、讓王〕堯以二天下一讓二許由一、許由不レ受、又讓二於子州支父一、子州支父曰、以レ我爲二天子一、猶之可也、雖レ然我適有二幽憂之病一、方且レ治レ之、未レ暇レ治二天下一也。〔高士傳、上〕。

【子舟】393 シシウ　宋、黃彝(12－47926・・20)の字。

【子秀】394 シシウ　字號。㊀春秋魯、商澤(2－3803・・166)の字。㊁金、閻詠(11－41379・・1)の字。㊂金、陀滿胡土門(11－41600・・4)の字。

【子周】395 シシウ　字號。㊀春秋魯、公伯僚(2－1452・・627)の字。㊁春秋、申棖(7－21726・・99)の字。㊂宋、薛洽(9－32123・・23)の字。㊃明、孫枎(3－6987・・224)の字。

【子修】396 シシウ　字號。㊀三國魏、曹昂(5－14297・・28)の字。㊁宋、莊枏(9－31035・・101)の字。㊂宋、李惇頤(6－14459・・1832)の字。㊃明、蔣欽(9－31820・・29)の字。㊄明、秦世顯(8－24995・・238)の字。㊅明、薛宗鎧(9－32123・・215)の字。㊆明、劉爵(2－2224・・348)の字。㊇明、厲汝進(2－3041・・75)の字。㊈清、吳修(2－3365・・207)の字。

【子柔】397 ジシウ　㊀宋、徐經孫(4－10110・・398)の初名。㊁字號。㋑後漢、蒯良(9－31601・・14)の字。㋺後漢、趙溫(10－37171・・41)の字。㋩宋、周必彊(2－3441・・827)の字。㋥明、婁堅(3－6383・・14)の字。

【子式】398 シシキ　字號。㊀宋、范楷(9－30834・・11)の字。㊁明、徐準(4－10110・・163)の字。

【子室】399 シシツ　子供のへや。〔禮、內則〕異爲二孺子室於宮中一、擇三於諸母與二可者一、必求二其寬裕慈惠溫良恭敬、愼而寡レ言者一、使レ爲二子師一、其次爲二慈母一、其次爲二保母一、皆居二子室一。

【子日】400 ネノヒ　㊀十二支の子に當る日。大黑天の縁日。㊁正月の初の子の日。〔散木奇歌集、春〕正月の初子の日。

【子日衣】401 ネノヒノコロモ　昔、正月の子の日の遊びに着た衣服。

【子日遊】402 ネノヒノアソビ　昔、正月の初めての子の日に、人々が野に出て小松を引き、若菜を摘んで、千代を祝つた遊び。朝廷では子の日の宴を催し、若菜を供し、羹として供御とせられた。士庶人も之に倣つて七種の祝ひといつた。〔菅家文草、六〕上陽子日野遊、云云、倚二松樹一以摩レ腰、習二風霜之難レ犯也、和二菜羹一而啜レ口、期二氣味之克調一也。

【子實】403 ジシツ　字號。㊀宋、魏掞之(12－45872・・166)の字。㊁宋、葉棻(9－31387・・127)の字。㊂宋、曾原一(5－14299・・186)の字。㊃明、桂蕚(6－14755・・18)の字。㊄明、吳桂芳(2－3365・・517)の字。㊅明、暢華(5－14095・・11)の字。㊆明、陳誠(11－41698・・392)の字。㊇明、李春芳(6－14459・・1452)の字。㊈明、李騰芳(6－14459・・1812)の字。㊉清、黃培芳(12－47926・・1279)の字。⑪清、陳孚(11－41698・・524)の字。

【子集】404 シシフ　㊀諸子と詩文集。經史子集(8－27508・・116)を見よ。㊁字號。後魏、高祐(12－45313・・19)の字。

【子車】405 シシャ　㊀複姓。〔詩、秦風、黃鳥〕誰從二穆公一、子車奄息、維此奄息、百夫之特。〔傳〕子車、氏、奄息、名、云云、百夫之特、百夫之中最雄俊也。㊁字號。㋑戰國魯、孟軻(3－6960・・20)の字。〔漢書、藝文志〕孟子十一篇。〔注〕名、軻、鄒人、子思弟子、有二列傳一、師古曰、聖證論云、軻字子車、而此志無レ字、未レ詳二其所レ得。〔孔叢子、雜訓〕孟子車尙幼、請レ見二子思一、子思見レ之、甚悅二其志一、命二子上一侍坐焉、禮二敬子車一甚崇、子上不レ願也、客退、子思曰、孟子車、孺子也、言稱二堯舜一、性樂二仁義一、世所二希有一也、事レ之猶可、況加レ敬乎、非二爾所レ及也。㋺春秋齊、步叔乘(6－16264・・68)の字。㋩春秋齊、北郭佐(2－2574・・151)の字。㋥唐、費冠卿(10－36717・・89)の字。

【子車奄息】406 シシャエンソク　春秋、秦の人。仲行・鉗虎と與に三良と稱せらる。穆公が卒するや、他の二良と共に葬に殉じた。國人は黃鳥の詩を賦して之を哀しんだ。〔詩、秦風、黃鳥〕誰從二穆公一、子車奄息、維此奄息、百夫之特、臨二其穴一、惴惴其慄。〔傳〕子車、氏、奄息、名。〔箋〕秦人哀二傷此奄息之死一。

【子舍】407 シシャ　正室以外のへや。又、諸子の居る部屋。諸房。小房。〔史記、萬石君傳〕建爲二郎中令一、每二五日洗沐一、歸謁レ親、入二子舍一。〔注〕索隱曰、劉氏謂、小房內非二正堂一也、小顏以爲二諸子之舍一、若二今諸房一也。

【子奢】408 シシャ　㊀複姓。〔路史〕宋微子後、有二子奢氏一。㊁古の美男子の名。子都(668)の㊀を見よ。〔戰國、楚策〕閭姝・子奢、莫レ知レ媒兮、嫫母求レ之、又甚喜レ之兮。〔荀子、賦〕閭娵・子奢、莫二之媒一也、嫫母力父、是之喜也。〔注〕子奢當レ爲二子都一、鄭之美人、詩曰、不レ見二子都一、蓋都字誤爲レ奢耳、後語作三子都莫二之媒一、言レ無三人爲二之媒一也。

【子尙】409 シシヤウ　㊀複姓。〔萬姓統譜〕子尙、嬀姓、陳僖公生二廩丘子尙意一、因氏焉。㊁元、解觀(10－35067・・62)の初名。㊂字號。㋑春秋魯、公西蒧(2－1452・・405)の字。㋺宋、薛志(9－32123・・64)の字。㋩宋、王庶(7－20823・・591)の字。㋥元、王禮(7－20823・・1088)の字。㋭明、聞大成(9－29104・・96)の字。

【子昌】410 シシヤウ　後漢、王奐(7－20823・・305)の字。

【子相】411 シシヤウ　字號。㊀後漢、劉翊(2－2224・・636)の字。㊁晉、崔遊(4－8178・・4)の字。㊂隋、王韶(7－20823・・675)の字。㊃明、歐陽旦(6－16185・・84)の字。㊄明、宋邦輔(3－7078・・390)の字。㊅明、宗臣(3－7106・・163)の字。

【子將】412 シシヤウ　㊀唐代、武官の名。大將の下に在つて、行陣を分ち、金鼓を辯じ、及び部署に資することを掌る。〔舊唐書、樂彥禎傳〕子從訓又召二亡命之徒五百餘輩一、出二入臥內一、號爲二子將一、委以二心腹一。〔資治通鑑、唐紀〕(玄宗、開元四年)時大武軍子將郝靈荃、奉レ使在二突厥一。〔注〕子將、小將也、唐制令、每軍大將一人、別奏八人、傔十六人、副二人、分二掌軍務一、奏傔減二大將半一、判官二人、典四人、總管四人、二主左右虞候、二主左右押衙、傔各五人、子將八人、資下其分二行陣一、辯二金鼓一、及部署上、傔各三人。㊁字號。㋑後漢、許劭(10－35298・・144)の字。㋺晉、司馬伷(2－3257・・293)の字。㋩後梁、高劭(12－45313・・529)の字。㋥明、陳灌(11－41698・・193)の字。㋭明、聞啓祥(9－29104・・89)の字。

【子祥】413 シシヤウ　字號。㊀明、林祺(6－14551・・61)の字。㊁清、周福高(2－3441・・838)の字。㊂清、張熊(4－9812・・702)の字。

【子章】414 シシャウ　字號。❶後漢、邊鳳(11−39216‥158)の字。❷後秦、姚顯(3−6202‥49)の字。❸後魏、燕鳳(7−19429‥227)の字。❹北齊、盧斐(8−23050‥147)の字。❺唐、韋綬(12−43108‥81)の字。❻唐、盧弘宣(8−23050‥217)の字。❼元、姚文奐(3−6202‥206)の字。❽明、郭奎(11−39474‥74)の字。❾清、陸烜(11−41708‥95)の字。

【子湘】415 シシャウ　字號。❶清、邵長蘅(11−39343‥137)の字。❷清、張藻(4−9812‥326)の字。❸清、李星沅(6−14459‥1563′)の字。

【子翔】416 シシャウ　字號。❶明、潘集(7−18236‥43)の字。❷清、梅枝鳳(6−14830‥257)の字。

【子象】417 シシャウ　字號。❶宋、陳巖肖(11−41698‥712)の字。❷明、高儀(12−45313‥163)の字。

【子裳】418 シシャウ　宋、王衣(7−20823‥5)の字。

【子璋】419 シシャウ　字號。❶三國吳、陸瑁(11−41708‥214)の字。❷晉、司馬珪(2−3257‥254)の字。

【子璋髑髏】420 シシャウドクロ　唐の杜甫の花卿歌中の句。子璋髑髏血模糊、手提擲還二崔大夫一の二句を瘧を病む者に誦せしめて之を癒したといふ。花卿歌は叛臣段子章のことを詠んだもの。〔杜甫、戲作花卿歌〕子璋髑髏血模糊、手提擲還二崔大夫一。〔集注〕洙曰、子璋、即段子璋也、崔大夫、崔光遠也、蘇曰、少陵時有二病レ瘧者一、少陵謂レ之曰、吾詩可レ療レ之、病者曰、云何、少陵曰、夜闌更執レ燭、相對如二夢寐一、其人誦レ之、瘧猶レ是也、少陵曰、更誦四吾詩云三子璋髑髏血模糊、手提擲還二崔大夫一、其人誦レ之、果愈、然則可三以感二鬼神一、信不レ妄矣。

【子上】421 シジャウ　字號。❶春秋魯、公西蔵(2−1452‥405)の字。❷春秋魯、公西輿如(2−1452‥406)の字。❸戰國、魯の人。孔子の曾孫。子思の子。孔白(3−6933‥197)の字。〔禮、檀弓上〕子上之母死而不レ喪。〔注〕子上、孔子曾孫、子思伋之子、名白。❹宋、鄭可學(11−39647‥311)の字。❺元、陳高(11−41698‥78)の字。❻清、高延第(12−45313‥1058)の字。

【子城】422 シジャウ　❶大城に附屬した小城。出城（デジロ）。出丸（デマル）。〔資治通鑑、唐紀〕(憲宗、元和十四年)子城已洞開、惟牙城拒守。〔注〕凡大城謂二之羅城一、小城謂二之子城一、又有二第三重城一、以衞二節度使居宅一、謂二之牙城一。〔元和郡國志〕李吉甫請下修二天德舊城一、以安中軍鎭上、曰、西城是開元十年張說所レ築、今河水毀二其半一、不レ堪二重修一、其子城猶堅、量留二千人一、足レ得二居住一。❷清、曾國藩(5−14299‥192)の號。

【子常】423 シジャウ　字號。❶春秋魯、施之常(5−13629‥149)の一名。❷春秋楚、囊瓦(2−4633‥8)の字。❸晉、范堅(9−30834‥31)の字。❹宋、吳倫(2−3365‥404)の字。❺宋、鄧洵武(11−39630‥161)の字。❻明、趙汸(10−37171‥306)の字。❼清、徐斑(4−10110‥229)の字。

【子襄】424 シジャウ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子襄、姜姓、齊惠公之子、公子子襄之後。❷字號。㋑春秋魯、顏祖(12−43591‥76)の字。㋺漢、孔騰(3−6933‥188)の字。㋩梁、丁寬(1−2‥50)の字。㋥清、朱次琦(6−14424‥821)の字。

【子讓】425 シジャウ　字號。❶元、張紹祖(4−9812‥1260)の字。❷元、王禮(7−20823‥1088)の字。

【子驤】426 シジャウ　明、何應龍(1−511‥226)の字。

【子爵】427 シシャク　五等爵の第四位。〔書、武成〕列レ爵惟五、分レ土惟三。〔傳〕爵五等、公侯伯子男、列レ地封レ國、公侯方百里、伯七十里、子男五十里、爲二三品一。〔禮、王制〕王者之制二祿爵一、公侯伯子男、凡五等。

【子若】428 シジャク　字號。❶春秋魯、有若(5−14332‥183)の字。❷春秋蔡、漆雕開(7−18108‥64)の字。❸晉、盧欽(8−23050‥38)の字。❹明、孟稱舜(3−6960‥319)の字。❺清、陸學欽(11−41708‥276)の號。

【子受】429 シジュ　字號。❶明、張謙(4−9812‥282)の字。❷清、譚光祜(10−35978‥52)の字。

【子授】430 シジュ　清、孫詒經(3−6987‥310)の字。

【子壽】431 シジュ　字號。❶唐、張九齡(4−9812‥919)の字。❷宋、章鑄(8−25761‥124)の字。❸宋、沈瀛(6−17189‥38)の字。❹宋、彭龜年(4−10003‥138)の字。❺宋、陸九齡(11−41708‥289)の字。❻清、姚椿(3−6202‥97)の字。❼清、黃彭年(12−47926‥1286)の字。❽清、莊慶椿(9−31035‥161)の字。❾清、錢寶甫(11−40563‥419)の字。❿清、鄭崇敬(11−39647‥463)の字。⓫清、王柏心(7−20823‥2041′)の字。

【子綬】432 シジュ　清、孫詒經(3−6987‥310)の字。

【子儒】433 シジュ　漢、張無故(4−9812‥1534)の字。

【子樹】434 シジュ　清、張維屛(4−9812‥777)の字。

【子孺】435 シジュ　字號。❶漢、淳于長(7−17690‥14)の字。❷漢、張安世(4−9812‥764)の字。❸清、祁宿藻(8−24634‥32)の字。

【子聚】436 シシュウ　清、項奎(12−43343‥12)の字。

【子充】437 シジュウ　❶忠良な君子。立派な人。子都。〔詩、鄭風、山有扶蘇〕不レ見二子充一、乃見二狡童一。〔傳〕子充、良人也。〔箋〕人之好二忠良之人一、不三往觀二子充一、乃反往觀二狡童一。❷字號。㋑宋、周必大(2−3441‥828)の字。㋺宋、張煇(4−9812‥174)の字。㋩明、吳擴(2−3365‥131)の字。㋥明、沈繼美(6−17189‥496)の字。㋭明、唐愈賢(2−3709‥528)の字。㋬明、彭汝實(4−10003‥166)の字。㋣明、費宏(10−36717‥16)の字。㋠明、王禕(7−20823‥16)の字。

【子從】438 シジュウ　字號。❶春秋魯、鄭國(11−39647‥142)の字。❷春秋秦、壤駟赤(3−5608‥7)の字。❸宋、郭叔雲(11−39474‥328)の字。

【子叔】439 シシュク　❶複姓。〔萬姓統譜〕子叔、姬姓、魯文公之子、公子叔肸之子、爲二子叔氏一。❷字號。㋑春秋魯、顏之僕(12−43591‥154)の字。㋺春秋衞、殤公(10−34074‥147)の字。㋩漢、公孫賀(2−1452‥470)の字。㋥三國魏、邯鄲淳(11−39330‥10)の字。

【子叔齊子】440 シシュクセイシ　春秋魯、叔老(2−3154‥288)の一名。

【子叔聲伯】441 シシュクセイハク　春秋魯、公孫嬰齊(2−1452‥508)をいふ。

【子俶】442 シシュク　清、周肇(2−3441‥389)の字。

【子宿】443 シシュク　明、汪應軫(6−17154‥177)の字。

【子肅】444 シシュク　字號。❶陳、陳叔齊(11−41698‥980)の字。❷唐、龐嚴(12−48824‥18)の字。❸宋、謝深甫(10−35827‥305)の字。

【子述】445 シジュツ　字號。❶北齊、李崇祖(6−14459‥1538″)の字。❷明、陶承學(11−41705‥201)の字。❸清、吳承勳(2−3365‥670)の字。

【子俊】446 シシュン　字號。❶宋、田敏(7−21723‥257)の字。❷金、馮延登(12−44579‥171)の字。❸元、趙孟籲(10−37171‥906)の字。

【子春】447 シシュン　❶曾子の弟子。樂正子春をいふ。樂正子春(6−15399‥162)を見よ。❷字號。㋑後漢、陸閎(11−41708‥73)の字。㋺後漢、王遵(7−20823‥590)の字。㋩宋、許元(10−35298‥76)の字。㋥宋、柳植(6−14662‥143)の字。㋭明、許應元(10−35298‥245)の字。㋬清、黃淳熙(12−47926‥1154)の字。㋣清、顧太清(12−43689‥321)の字。㋠清、方垧(5−13620‥136)の號。

【子春之疾】448 シシュンノシツ　樂正子春が足を傷つけた時、其れが孝道に戻るので、癒えて後も憂色があつた故事。轉じて、後世、足の病をいふ。〔大戴禮、曾子大孝〕樂正子春下レ堂而傷二其足一、傷瘳數月不レ出、猶有二憂色一、門弟子問曰、夫子傷レ足瘳矣、數月不レ出、猶有二憂色一、何也、樂正子春曰、善如二爾之問一也、吾聞二之曾子一、曾子聞二諸夫子一、曰、天之所レ生、地之所レ養、人爲レ大矣、父母全而生レ之、子全而歸レ之、可レ謂レ孝矣、不レ虧二其體一、可レ謂レ全矣、故君子頃步之不二敢忘一也、今予忘二夫孝之道一矣、予是以有二憂色一。

【子浚】449 シシュン　明、皇甫沖(8−22701‥235)の字。

【子雋】450 シシュン　字號。❶後漢、張馴(4−9812‥413)の字。❷清、吳觀禮(2−3365‥515)の字。

【子濬】451 シシュン　宋、劉滬(2−2224‥273)の字。

【子駿】452 シシュン　字號。❶漢、劉歆(2−2224‥188)の字。❷唐、崔日知(4−8178‥272)の字。❸宋、韋驤(12−43108‥79)の字。❹宋、鮮于侁(12−46133‥9′)の字。❺宋、傅崧卿(1−939‥183)の字。❻清、俞岳(1−1437‥15)の字。

【子純】453 シシュン　字號。❶宋、王韶(7−20823‥675)の字。❷元、王科(7−20823‥280)の字。❸明、朱紈(6−14424‥249)の字。

【子惇】454 シシュン　字號。❶明、寇天敍(3−7209‥62)の字。❷清、沈垚(6−17189‥142)の字。

【子淳】455 シシュン　宋、潘殖(7−18236‥57)の字。

【子循】456 シシュン　字號。❶明、皇甫汸(8−22701‥2

37)の字。❷明、杜環(6－14477··83)の字。❸清、王遵訓(7－20823··1680)の字。

【子順】457 ジシユン　字號。❶宋、陳德豫(11－41698··1171)の字。❷宋、楊履正(6－15112··803)の字。❸明、易直(5－13814··135)の字。❹清、方怡(5－13620··5)の字。

【子準】458 ジシユン　清、陳揆(11－41698··121)の字。

【子潤】459 ジシユン　字號。❶宋、王璧(7－20823··951)の字。❷明、杜澤(6－14477··194)の字。

【子醇】460 ジシユン　明、王德完(7－20823··1988)の字。

【子初】461 シシヨ　字號。❶三國蜀、劉巴(2－2224··537)の字。❷晉、司馬望(2－3257··302)の字。❸宋、余季芳(1－515··75)の字。❹元、迭里彌實(11－38800··28)の字。❺清、紀大復(8－27234··107)の字。

【子所】462 シシヨ　明、蕭執(9－32012··155)の字。

【子沮】463 シシヨ　複姓。〔萬姓統譜〕子沮、嬀姓、陳桓公生㆓子輿㆒、爲㆓子沮氏㆒。

【子胥】464 シシヨ　春秋楚、伍員(1－435··2)の字。〔戰國、秦策〕子胥忠㆓於君㆒、天下顧以爲㆑臣。〔史記、伍子胥傳〕伍子胥者楚人、名員。〔韓非子、說林下〕比干子胥、知㆓其君之必亡㆒也。而不㆑知㆓身之死㆒也。

〔子胥投吳〕465 シシヨトウゴ　西皮劇の一、浣紗記の別名。又、魚腸劍の別名。

【子書】466 シシヨ　❶老子・莊子・韓非子など、諸子類の書。〔漢書、東平思王宇傳〕諸子書或反㆓經術㆒、非㆓聖人㆒、或明㆓鬼神㆒信㆓物怪㆒。〔眞宗實錄〕景德二年四月戊戌、幸㆓龍閣觀㆒諸閣書畫子書、總八千四百八十九卷。〔注〕儒家・道書・子書・數書・小說・算法・醫術。〔四庫提要、子部總敍〕自㆓六經㆒以外、立㆑說者皆子書也。❷宋、吳聿(2－3365··10)の字。

【子鉏】467 シシヨ　複姓。〔漢書、古今人表〕子鉏商。

〔子鉏商〕468 シシヨシヤウ　魯の人。魯の哀公が西方の大野に狩した時、子鉏商が、麟を獲た。春秋に哀公十四年春西狩獲㆑麟とは、此の事をいふ。〔漢書、古今人表〕。

【子緒】469 シシヨ　字號。❶三國蜀、姚伷(3－6202··93)の字。❷三國魏、杜襲(6－14477··139)の字。

【子助】470 ジシヨ　後漢、韓卓(12－43159··165)の字。

【子序】471 ジシヨ　清、吳嘉賓(2－3365··467)の字。

【子敍】472 ジシヨ　明、吳正倫(2－3365··702)の字。

【子舒】473 ジシヨ　晉、司馬泰(2－3257··286)の字。

【子升】474 シシヨウ　字號。❶後漢、胡騰(9－29400··289)の字。❷北齊、顏之儀(12－43591··153)の字。❸唐、盧攜(8－23050··54)の字。❹明、徐階(4－10110··37)の字。

【子松】475 シシヨウ　字號。❶漢、段會宗(6－16619··77)の字。❷後漢、孔喬(3－6933··60)の字。❸清、夏同善(3－5720··353)の號。❹清、陳壽熊(11－41698··966)の字。

【子承】476 シシヨウ　明、顧問(12－43689··189)の字。

【子昇】477 シシヨウ　字號。❶後魏、劉騭(2－2224··331)の字。❷北周、柳霞(6－14662··41)の字。

【子鍾】478 シシヨウ　明、崔銑(4－8178··117)の字。

【子乘】479 ジシヨウ　❶複姓。〔元和姓纂〕楚屈蕩生㆓子乘㆒、因氏焉。❷字號。㋑周、孫虞(3－6987··77)の字。㋺春秋魯、公夏首(2－1452··55)の字。㋩元、鄭犧(11－39647··67)の字。

【子毷】480 ジジヨウ　毛毷の細く軟いもの。〔席上腐談〕北方毛段細軟者、曰㆓子毷㆒、謂㆓毛之細者㆒毷、溫柔貌、今訛爲㆓紫茸㆒。

【子植】481 ジシヨク　明、王時槐(7－20823··1609)の字。

【子職】482 ジシヨク　❶子として父母に盡すつとめ。〔孟子、萬章上〕我竭㆑力耕㆑田、共㆓爲㆑子職㆒而已矣。❷明、王省(7－20823··660)の字。

【子申】483 シシン　元、屈殷(4－7669··4)の字。

【子信】484 シシン　字號。❶宋、邵恂(11－39343··34)の字。❷明、賈諒(10－36755··136)の字。❸清、羅永符(9－28397··299)の字。

【子振】485 シシン　字號。❶後梁、敬翔(5－13303··115)の字。❷明、劉麟(2－2224··656)の字。❸清、玉麟(7－20821··876)の字。❹清、周中鉉(2－3441··784)の字。❺清、鄧顯鵠(11－39630··142)の字。

【子晉】486 シシン　❶周の仙人。靈王の太子晉。王子喬(7－20823··440)を見よ。〔天台縣志〕王喬字子晉、靈王太子。❷字號。㋑宋、李德昭(6－14459··1826)の字。㋺明、毛晉(6－16772··117)の字。㋩清、張湉(華亭の人)(4－9812··449)の字。㋥清、程泰京(8－25081··251)の字。㋭清、文昭(5－13450··592)の字。

【子眞】487 シシン　字號。❶漢、辛慶忌(10－38630··96)の字。❷漢、塗惲(3－5338··3)の字。❸漢、梅福(6－14830··210)の字。❹後漢、崔寔(4－8178··104)の字。❺後魏、盧玄(8－23050··59)の字。❻梁、范縝(9－30834··63)の字。❼五代閩、劉乙(2－2224··17)の字。❽宋、周沆(2－3441··54)の字。❾宋、趙孟淳(10－37171··901)の字。❿宋、楊方(6－15112··316)の字。⓫宋、李燾(6－14459··560)の字。⓬宋、林同(6－14551··201)の字。⓭元、王廷珍(7－20823··1945)の字。

【子神】488 シシン　ねずみ。〔柳宗元、三戒、永某氏之鼠〕永有㆓某氏者㆒、以爲、己生歲直㆑子、鼠、子神也、因愛㆑鼠不㆑畜㆑猫。〔李俊民、貓不㆑捕㆑鼠詩〕某氏終貽㆓子神禍㆒。

【子深】489 シシン　字號。❶晉、桑虞(6－14772··34)の字。❷西涼、辛淵(10－38630··7)の字。❸北齊、高湫(12－45313··18)の字。❹宋、史通(2－3249··126)の字。❺宋、沈初(6－17189··211)の字。❻宋、趙滋(10－37171··187)の字。❼明、劉淵甫(2－2224··717)の字。

【子莘】490 シシン　明、尹耕(4－7631··8)の字。

【子進】491 シシン　字號。❶北齊の文宣帝、高洋(12－45313··883)の字。❷宋、呂希純(2－3386··180)の字。❸清、嚴觀(2－4589··69)の字。

【子愼】492 シシン　字號。❶戰國、孔順(3－6933··147)の字。❷後漢、服虔(5－14345··46)の字。❸梁、庾肩吾(4－9398··59)の字。❹唐、鮑防(12－46074··67)の字。❺明、徐九思(4－10110··373)の字。❻清、余鉉の字。

【子新】493 シシン　字號。❶明、儀銘(1－1172··107)の字。❷明、張溁(4－9812··324)の字。❸清、倪會鼎(1－792··42)の字。❹清、錢元章(11－40563··299)の字。

【子箴】494 シシン　清、方濬頤(5－13620··548)の字。

【子震】495 シシン　字號。❶南齊、丘仲起(1－33··155)の字。❷梁、曹景宗(5－14297··220)の字。

【子縝】496 シシン　清、陶方琦(11－41705··221)の字。

【子諶】497 シシン　隋、榮毗(6－15273··135)の字。

【子人】498 ジジン　複姓。〔萬姓統譜〕子人、鄭子人久之後。

【子仁】499 ジジン　字號。❶三國吳、劉惇(2－2224··372)の字。❷南齊、房叔安(5－11714··162)の字。❸成漢、李勢(6－14459··500)の字。❹宋、安實(3－7072··196)の字。❺宋、史守之(2－3249··223)の字。❻宋、毛洵(6－16772··107)の字。❼宋、楊鎭(6－15112··282)の字。❽宋、龍德厚(12－48818··690)の字。❾宋、林敏功(6－14551··419)の字。❿金、任熊祥(1－416··252)の字。⓫元、全普菴撒里(1－1424··242)の字。⓬明、許有穀(10－35298··234)の字。⓭清、吳麒(2－3365··98)の字。⓮明、車大任(10－38172··282)の字。⓯明、蔣雷卿(9－31820··221)の字。⓰明、徐霖(4－10110··313)の字。⓱明、董旻(9－31433··149)の字。⓲明、潘恩(7－18236··9)の字。⓳明、馮恩(12－44579··24)の字。⓴明、欒惠(6－15947··6)の字。㉑明、林春(6－14551··127)の字。㉒清、高山(12－45313··377)の字。㉓清、錢民(11－40563··217)の字。

【子壬】500 ジジン　明、董淞(9－31433··100)の字。

【子藎】502 ジジン　明、張元汴(4－9812··1012)の字。

【子垂】503 スシイ　字號。❶唐、李訓(6－14459··271)の字。❷明、陸嘉穎(11－41708··270)の字。

【子推】504 スシイ　❶春秋、晉の介子推をいふ。又、之推に作る。子・之は助辭、推は名。介子推(1－359··140)の❶を見よ。❷明、王準(7－20823··586)の字。

〔子推股〕505 シスイノコ　春秋、晉の介子推が其の君、重耳の流寓に從ひ、股の肉を割いて食はせた故事。〔韓詩外傳、十〕重耳亡、重耳無㆑糧、餒不㆑能㆑行、子推割㆓股肉㆒以食㆓重耳㆒。〔莊子、盜跖〕介子推至忠也、自割㆓其股㆒以食㆓文公㆒、文公後背㆑之、子推怒而去、抱㆑木而燔死。

【子萃】506 スシイ　明、馬明衡(12－44572··947)の字。

【子粹】507 スシイ　隋、蘇沙羅(9－32427··237)の字。

【子雖】508 スシイ　ほととぎす。子規(155)に同じ。〔玉篇〕雖、子雖、巂也。

【子遂】509 スシイ　北齊、高淹(12－45313··51)の字。

【子瑞】510 シズイ　字號。❶清、胡元玉(9−29400··4611)の字。❷清、吳麟(2−3365··407)の字。❸清、楊芝茂(6−15112··570)の字。

【子崇】511 シスウ　明、王積(7−20823··683)の字。

【子嵩】512 シスウ　字號。❶晉、庾敳(4−9398··8)の字。❷陳、陳叔陵(11−41698··986)の字。❸南唐、宋齊丘(3−7078··341)の字。

【子樞】514 シスウ　字號。❶元、雷機(12−42245··24)の字。❷清、姚楗(3−6202··48)の字。

【子是】515 シゼ　字號。❶宋、葉湜(9−31387··82)の字。❷宋、錢時(11−40563··112)の字。

【子正】516 シセイ　字號。❶春秋陳、公良孺(2−1452··766)の字。❷三國吳、沈友(6−17189··8)の字。❸三國吳、唐固(2−3709··112)の字。❹唐、司馬貞(2−3257··297)の字。❺宋、游仲鴻(7−17792··354)の字。❻宋、樂史(6−15399··111)の字。❼宋、胡則(9−29400··237)の字。❽宋、常同(4−8955··271)の字。❾宋、舒雅(9−30300··9)の字。❿宋、种諤(8−24942··2)の字。⓫宋、趙德鈞(10−37171··812)の字。⓬宋、楊大雅(6−15112··665)の字。⓭宋、劉湜(2−2224··393)の字。⓮宋、陸景端(11−41708··309)の字。⓯宋、王隨(7−20823··648)の字。⓰宋、王端(7−20823··769)の字。⓱金、烏古孫仲端(7−18998··412)の字。⓲金、蔡闢(9−31818··114)の字。⓳金、大懷眞(3−5831··2444)の字。⓴明、黄文政(12−47926··1309)の字。㉑明、徐咸(4−10110··57)の字。㉒明、陳括(11−41698··184)の字。㉓明、王廷(7−20823··817)の字。

【子生】516′ ビコ　地名。❶若狹國の地名。❷コナシ　常陸國の地名。〔松屋筆記〕。

【子西】517 シセイ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子西、芈姓、楚公子申、字子西之後。❷字號。㋑春秋楚、公子申(2−1452··259)の字。㋺春秋楚、鬭宜申(12−45657··104)の字。㋩宋、華岳(9−31214··61)の字。㋥宋、崔白(4−8178··146)の字。㋭宋、唐庚(2−3709··31)の字。㋬宋、晁公遡(5−13889··15)の字。㋣宋、李長庚(新昌の人)(6−14459··1713)の字。

【子成】518 シセイ　❶複姓。〔姓氏書辨證〕世本曰、子成氏、魯季平子生㆓子成㆒、叔彭侯之後。❷字號。㋑漢、孔武(3−6933··205)の字。㋺陳、陳叔堅(11−41698··975)の字。㋩宋、黄文晟(12−47926··1310)の字。㋥明、韓邦憲(12−43159··371)の字。㋭明、丘集(1−33··46)の字。㋬明、秦梁(8−24995··168)の字。㋣明、孟秋(3−6960··120)の字。㋠明、李世達(6−14459··1544)の字。㋷明、劉景昭(2−2224··855)の字。㋦清、朱研(6−14424··270)の字。㋸清、曹續祖(5−14297··278)の字。

【子姓】519 シセイ　❶子から次々に生れたもの。姓は生。孫、或は衆子孫をいふ。〔儀禮、特牲饋食禮〕子姓兄弟、如㆓主人之服㆒。〔注〕言㆓子姓㆒者、子之所㆑生。〔疏〕釋曰、云㆓子姓者子之所㆑生者㆒、案、鄭注㆓喪大記㆒云、姓之言、生也、云㆓子之所㆑生、則孫是也。〔禮、玉藻〕縞冠玄武、子姓之冠也。〔疏〕正義曰、姓、生也、孫、是子之所㆑生、故謂㆓子姓㆒。〔禮、喪大記〕卿大夫父兄子姓、立㆓于東方㆒。〔注〕子姓、謂㆓衆子孫㆒也、姓之言、生也。〔國語、楚語下〕帥㆓其子姓㆒、從㆓其時㆒享。〔注〕子、衆子、姓、同姓也。〔墨子、非儒下〕子姓皆從、得㆑厭㆓飲食㆒。〔史記、外戚世家序〕既驩合矣、或不㆑能㆑成㆓子姓㆒。〔注〕索隱曰、按、鄭玄注㆓禮記㆒云、姓者、生也、子姓、謂㆓衆孫㆒也。〔淮南子、道應訓〕秦穆公請㆓伯樂㆒曰、子之年長矣、子姓有㆓可㆑使㆑求㆑馬者㆒乎。❷子といふ姓。殷や宋の姓。〔史記、殷紀〕帝舜乃命㆑契曰、云云、封㆓於商㆒、賜㆓姓子氏㆒。〔十八史略、殷〕殷王成湯、子姓、名履。〔十八史略、春秋戰國〕宋子姓、商紂庶兄微子啓之所㆑封也。

【子性】520 シセイ　清、陳廣選(11−41698··680)の字。

【子政】521 シセイ　字號。❶漢、劉向(2−2224··174)の字。❷宋、蔡挺(9−31818··97)の字。❸宋、晁仲熙(5−13889··28)の字。❹清、邵昂霄(11−39343··96)の字。

【子青】522 シセイ　字號。❶清、金學蓮(11−40152··1216)の字。❷清、朱緗(6−14424··366)の字。❸清、張之萬(4−9812··1103)の字。

【子星】523 シセイ　❶星の名。〔晉書、天文志上〕丈人東二星曰㆑子、子東二星曰㆑孫。〔沈佺期、歲夜安樂公主滿月待㆑宴詩〕除夜子星迴、天孫滿月杯。〔宋史、禮志二〕星經舊載㆓孫星㆒、而壇圖止有㆓子星㆒、辨㆓其尊卑㆒、不㆑可㆑同㆑仕。❷ネノホシ　北極星。子の方角にあるからいふ。

【子清】524 シセイ　字號。❶宋、俞澂(1−1437··55)の字。❷元、閻閭(11−41429··11)の字。❸明、謝廉(10−35827··235)の字。❹清、曹寅(5−14297··8)の字。❺明、李如梅(6−14459··1481)の字。❻清、汪鼿(6−17154··6)の字。

【子壻】525 シセイ　むこ。女婿。〔史記、劉敬傳〕冒頓在、固爲㆓子壻㆒、死則外孫爲㆓單于㆒。〔後漢書、吳漢傳〕述遣㆓子壻史興㆒。

【子盛】526 シセイ　後魏、馮元興(12−44579··207)の字。

【子靖】527 シセイ　元、閻復(11−41379··38)の字。

【子誠】528 シセイ　❶明、蔣子成(9−31820··162)の一名。❷字號。㋑宋、李莆(6−14459··732)の字。㋺元、朱良實(6−14424··1023)の字。㋩明、曹忭(5−14297··174)の字。㋥明、譚希思(10−35978··48)の字。

【子齊】529 シセイ　複姓。〔萬姓統譜〕子齊、姫姓、魏公「族。

【子靜】530 シセイ　字號。❶宋、翁谷(9−28635··21)の字。❷宋、周端朝(2−3441··776)の字。❸宋、萬鎮(9−31339··357)の字。❹宋、陸九淵(11−41708··284)の字。❺金、許安仁(10−35298··229)の字。❻明、安如山(3−7072··549)の字。❼明、吳定(2−3365··315)の字。❽明、車寧(10−38172··186)の字。❾明、鄒泉(11−39562··30)の字。❿明、張淵(4−9812··70)の字。⓫明、鄧定(11−39630··88)の字。⓬明、房安(5−11714··3)の字。⓭明、范大澈(9−30834··228)の字。⓮明、劉澄甫(2−2224··1198)の字。⓯清、喬萊(2−3990··56)の字。⓰清、徐致靖(4−10110··575)の字。

【子聲】531 シセイ　❶半律。正聲を母といひ、其の半を子聲といふ。例へば黄鐘正聲は九寸の管で、四寸五分のを子聲とする。又、清聲ともいふ。〔通典、樂典、五聲十二律旋相爲㆑宮〕夾鐘之均。〔注〕以㆓夾鐘㆒爲㆑宮、夾鐘下生㆓無射㆒爲㆑徵、無射上生㆓中呂㆒爲㆑商、中呂上生㆓黄鐘㆒爲㆑羽、黄鐘正律聲長、非㆓商三分去㆑一之次㆒、此用㆓其子聲㆒爲㆑羽也、黄鐘下生㆓林鐘㆒爲㆑角、林鐘子聲短、非㆓中呂爲㆑商之次㆒、故還用㆓林鐘正管之聲㆒爲㆑角、夾鐘之調有㆓四正聲一子聲㆒。〔韓苑、洛樂志〕正聲倍㆑子而爲㆑母、子聲半㆑正而爲㆑子、若㆓黄鐘之管正聲九寸爲㆑均、子聲則四寸半㆒。❷字號。㋑春秋魯、樂欬(6−15399··32)の字。㋺春秋魯、顏噲(12−43591··32)の字。㋩元、鄭鏗(11−39647··42)の字。㋥元、竇默(8−25695··54)の字。㋭明、尹鏜(4−7631··66)の字。

【子抄】532 シセウ　諸子の書のぬきがき。〔唐書、藝文志三〕沈約子抄三十卷、庾仲容子抄三十卷。

【子邵】533 シセウ　唐、柳奭(6−14662··156)の字。

【子昭】534 シセウ　字號。❶後漢、陳俊(11−41698··344)の字。❷三國蜀、楊顒(6−15112··93)の字。❸梁、蕭景(9−32012··98)の字。❹陳、陳叔明(11−41698··985)の字。❺宋、沈錫(6−17189··256)の字。❻宋、陸九皐(11−41708··285)の字。❼元、盛懋(8−23005··179)の字。❽元、張雯(4−9812··657)の字。❾清、朱之宣(6−14424··808)の字。

【子韶】535 シセウ　字號。❶宋、虞剛簡(9−32723··160)の字。❷宋、張九成(4−9812··917)の字。❸明、歐陽韶(6−16185··80)の字。❹明、許儀(10−35298··44)の字。

【子瀟】536 シセウ　字號。❶清、蔣湘南(9−31820··172)の字。❷清、孫原湘(3−6987··395)の字。

【子饒】537 シゼウ　宋、張行成(4−9812··866)の字。

【子石】538 シセキ　❶最も質のよい硯石の名。〔李之彥、硯譜〕歐陽永叔云、端石以㆓子石㆒爲㆑上、在㆓大石中㆒生、蓋精石也、以㆓貯㆑水不㆑耗爲㆑佳、有㆑眼爲㆑貴、歲以爲㆑貢、在㆓他石之上㆒、然十無㆓一二發㆑墨者㆒。❷複姓。〔姓氏書辨證〕世本曰、陳威子生㆓石難㆒、自別爲㆓子石氏㆒。❸字號。㋑春秋衞、公孫龍(2−1452··507)の字。㋺春秋鄭、印段(2−2848··117)の字。㋩後漢、張磐(4−1912··616)の字。㋥後漢、王磐(7−20823··900)の字。㋭清、金德輝(11−40152··1350)の字。

【子析】539 シセキ　春秋魯、伯虔(1−466··163)の字。

【子戚】540 シセキ　宋、宋棐(3−7078··185)の字。

【子晳】541 シセキ　❶複姓。〔萬姓統譜〕子晳、姫姓、鄭

公孫黑、字子皙之後。❷字號。㋑春秋魯、奚容箴(3-5930··47)の字。㋺春秋魯、伯虔(1-466··163)の字。㋩春秋衛、狄黑(7-20290··10)の字。㋥梁、何點(1-511··166)の字。

【子積】542シセキ　明、余祐(1-515··1)の字。

【子籍】543シセキ　春秋魯、原亢(2-2973··19)の字。

【子拙】544シセツ　唐、盧簡能(8-23050··195)の字。

【子節】545シセツ　字號。❶三國吳、張儼(4-9812··292)の字。❷前趙、韋忠(12-43108··114)の字。❸宋、楊驤(6-15112··198)の字。

【子燮】546シセフ　清、薛鎔(9-32123··130)の字。

【子千】547シセン　字號。❶清、華謙(9-31214··126)の字。❷清、華鯤(9-31214··147)の字。

【子仙】548シセン　清、李福(6-14459··708)の號。

【子占】549シセン　❶粉白の神の名。〔瑯嬛記〕粉神曰㆓子占㆒。〔事物異名錄、神鬼、首飾神〕採蘭雜志、粉神曰㆓子占㆒、黛神曰㆓天軼㆒、脂神曰㆓與贅㆒、膏神曰㆓雁孃㆒。❷複姓。〔通志、氏族略、以㆑字爲㆑氏〕子占氏、陳桓子生㆓書、字子占㆒之後。❸字號。㋑明、盧觀象(8-23050··206)の字。㋺清、王恆(紹興の人)(7-20823··397)の字。

【子先】550シセン　❶仙人の名。〔列仙傳〕子先百餘歲、騎㆑龍上㆓華陰山㆒、常大㆓呼子先在㆑此。❷字號。㋑宋、艾晟(9-30648··43)の字。㋺宋、李春叟(6-14459··1451)の字。㋩明、相禮(8-23151··341)の字。㋥明、徐光啓(4-10110··383)の字。

【子宣】551シセン　字號。❶後魏、李苗(6-14459··725)の字。❷宋、曾布(5-14299··139)の字。❸宋、劉炎(括蒼の人)(2-2224··54)の字。❹明、范大澈(9-30834··228)の字。❺清、揭暄(5-12389··19)の字。

【子泉】552シセン　❶複姓。〔萬姓統譜〕子泉、姜姓、齊頃公之子、公子湫、字子泉之後。❷字號。㋑漢、孔休(3-6933··34)の字。㋺唐、倪若水(1-792··53)の字。㋩宋、林以辨(6-14551··256)の字。㋥明、洪源(6-17402··76)の字。

【子專】553シセン　字號。❶前燕、封奕(4-7426··8)の字。❷宋、石恪(8-24024··96)の字。

【子旋】554シセン　明、沈芳(6-17189··324)の字。

【子詵】555シセン　清、董基誠(9-31433··188)の字。

【子詹】556シセン　後漢、衞颯(10-34074··46)の字。

【子潛】557シセン　字號。❶唐、盧藏用(8-23050··220)の字。❷宋、金文剛(11-40152··1377)の字。❸宋、汪文振(6-17154··334)の字。❹明、華察(9-31214··170)の字。

【子賤】558シセン　字號。❶孔子の弟子。春秋魯、宓不齊(3-7098··10)の字。❷漢、伏勝(1-438··84)の字。❸三國吳、丁固(1-2··61)の字。❹宋、潘良貴(7-18236··224)の字。

【子遷】559シセン　字號。❶後魏、盧度世(8-23050··275)の字。❷唐、項斯(12-43343··20)の字。❸宋、崔仁冀(4-8178··284)の字。❹宋、汪汲(6-17154··41)の字。❺金、移剌益(8-25045··103)の字。

【子選】560シセン　字號。❶春秋楚、任不齊(1-416··247)の字。❷明、官賢(將樂の人)(3-7107··98)の字。

【子錢】561シセン　利息。利子。子金。又、資金より生ずる利益をいふ。子息。〔史記、任氏傳〕吳楚七國兵起、時長安中列侯封君、行從㆓軍旅㆒、齎㆓貸子錢㆒、子錢家以爲、侯邑國在㆓關東㆒、關東成敗未㆑決、莫㆓肯與㆒、唯無鹽氏出㆓捐千金㆒貸、其息什㆑之。

【子錢家】562シセンカ　利息を取つて金を貸す者。金貸。子錢を見よ。

【子薦】563シセン　清、李法(6-14459··668)の字。

【子鮮】564シセン　春秋衛、公子鱄(2-1452··260)の字。

【子璿】565シセン　宋の華嚴宗の學僧。杭州錢塘の人。秀州長水に住む。大中祥符六年、長水疏主楞嚴大師の勅號を受く。著に首楞嚴義疏註經・起信論疏筆削記がある。〔五燈會元〕。

【子瞻】566シセン　字號。❶宋、蘇軾(9-32427··103)の字。❷明、項元淇(12-43343··64)の字。❸明、向淇(2-3301··9)の字。❹明、徐棉(4-10110··46)の字。❺清、陳運淇(11-41698··665)の字。

【子瞻樣】567シセンヤウ　宋の蘇東坡(字は子瞻)の好んだ帽子に眞似て作つた帽子。當時の流行となる。〔山樵暇語〕李方叔、師友談記云、東坡令㆘門人作㆗人不易物賦㆖、或戲㆓作一聯㆒曰、伏㆓其几㆒而襲㆓其裳㆒、豈爲㆓孔子㆒、學㆓其書㆒而戴㆓其帽㆒、未㆓是蘇公㆒、蓋爲㆔士夫近年倣㆓東坡高簷短帽㆒、名曰㆓子瞻樣㆒。

【子冉】568シゼン　戰國、宋の大夫。宋君を脅かす。子罕。〔漢書、鄒陽傳〕宋任㆓子冉之計㆒囚㆓墨翟㆒。

【子全】569シゼン　字號。❶唐、竇蒙(8-25695··53)の字。❷唐、韋堅(12-43108··43)の字。❸唐、劉瑑(2-2224··523)の字。

【子前】570シゼン　前燕、高瞻(12-45313··553)の字。

【子善】571シゼン　字號。❶前蜀、盧延讓(8-23050··187)の字。❷宋、吳思齊(2-3365··617)の字。❸宋、張慶之(4-9812··981)の字。❹宋、潘時擧(7-18236··166)の字。❺元、游應祥(7-17792··336)の字。❻元、吳福孫(2-3365··849)の字。❼元、王善(7-20823··707)の字。❽明、曹本(5-14297··180)の字。❾明、馬良(12-44572··620)の字。

【子然】572シゼン　❶複姓。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕子然氏、姬姓、鄭公子然之後也、又爲㆓然氏㆒。❷字號。㋑後漢、陳臨(11-41698··603)の字。㋺後漢、丁恭(1-2··41)の字。㋩後漢、餅巽(9-28153··6)の字。㋥後漢、李昺(6-14459··721)の字。㋭後魏、張湛(4-9812··539)の字。

【子漸】573シゼン　字號。❶宋、尹源(4-7631··25)の字。❷宋、趙隆(10-37171··372)の字。

【子素】574シソ　字號。❶元、潘純(7-18236··52)の字。❷明、劉繪(2-2224··207)の字。

【子楚】575シソ　戰國秦、莊襄王(9-31035··170)の「名。

【子宋】576シソウ　複姓。〔萬姓統譜〕子宋、嬀姓、陳宣公生㆓子楚㆒、其後爲㆓子宋氏㆒。

【子宗】577シソウ　明、鄭良弼(11-39647··574)の字。

【子嗽】578シソウ　病名。つはり。〔婦人祕科、胎前賦〕子嗽子痢兮、病轉劇而胎損。

【子聰】579シソウ　❶字號。㋑唐、陳叔達(11-41698··982)の字。㋺明、趙敏(10-37171··319)の字。❷元、劉秉忠(2-2224··1310)の名。

【子驄】580シソウ　清、朱綱(6-14424··80)の字。

【子息】581シソク　❶むすこ。子供。〔東觀漢紀〕此蓋我子息也。〔北史、魏世祖紀〕詔自㆓三公㆒已下至㆓於卿士㆒、其子息皆詣㆓大學㆒、其百工、伎巧、騶卒子息、當㆑習㆓其父兄所㆑業。〔柳宗元、寄㆓許京兆孟容㆒書〕煢煢孤立、未㆑有㆓子息㆒。❷元金より生ずる利益。利息。〔管子、輕重丁〕受㆓子息㆒民參萬家。〔纂詁〕子、亦息也。〔齊民要術、序〕猗頓、魯窮士、聞㆓陶朱公富㆒、問㆑術焉、告㆑之曰、欲㆓速富㆒、畜㆓五牸㆒、乃畜㆓牛羊㆒、子息萬計。

【子測】582シソク　清、王士祜(7-20823··1509)の字。

【子存】583シソン　清、魏學渠(12-45872··172)の字。

【子孫】584シソン　❶子と孫。又、後裔。血筋。〔書、五子之歌〕有㆑典有㆑則、貽㆓厥子孫㆒。〔書、秦誓〕不㆑能㆑保㆓我子孫㆒。〔詩、周南、螽斯〕宜㆓爾子孫、振振兮。〔大學〕以能保㆓我子孫黎民㆒。〔左氏、成、十六〕子孫將㆑弱。〔論語、季氏〕冉有曰、今夫顓臾、固而近㆓於費㆒、今不㆑取、後世必爲㆓子孫憂㆒。〔荀子、儒效〕周之子孫。〔史記、趙世家〕此其近者、禍及㆓其身㆒、遠者及㆓其子孫㆒。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕子孫驕逸、忘㆓其先祖之艱難㆒、多陷㆓法禁㆒、隕㆑命亡㆑國。❷星の名。〔晉書、天文志上〕丈人東二星曰㆑子、子東二星曰㆑孫。❸字號。㋑漢、丁姓(1-2··118)の字。㋺漢、楊榮(6-15112··22)の字。

【子孫爻】585シソンカウ　筮法で六爻干支と八卦五行の生尅とで六親の位を定め、我が生ずるものを子孫爻といふ。父母爻(7-19721··67)を見よ。〔卜筮全書、啓蒙節要、六親相生相尅〕生㆑我者爲㆓父母㆒、我生者爲㆓子孫㆒、尅㆑我者爲㆓官鬼㆒、我尅者爲㆓妻財㆒、比和者爲㆓兄弟㆒。

【子孫果】586シソンクワ　果物の模造品。〔猥談〕江西俗儉、果榼作㆓數格㆒、惟中一味可㆑食、餘悉充以㆓雕木㆒、謂㆓之子孫果㆒。

【子孫計】587シソンケイ　子孫のためのはかりごと。子孫業。〔五代史、張承業傳〕承業怒曰、臣老、勅使㆛、非㆘爲㆓子孫計㆒、惜㆗此庫錢㆖、佐㆑王成㆚霸業㆙爾。

【子孫業】588シソンノゲフ　子孫計に同じ。〔史記、王翦傳〕臣亦及㆑時以請㆓園池㆒、爲㆓子孫業㆒耳。

【子孫瑞】589シソンノズイ　始めて月經の通ずること。〔漢書、王莽傳上〕莽以㆔皇后有㆓子孫瑞㆒、通㆓子午道㆒。〔注〕張晏曰、時年十四、始有㆓婦人之道㆒也。

【子孫桶】590　trzŭ^3 suen^1 tʻung^3　胎兒を生み落す盥。

【子孫柏】591 tzŭ^{3} suen^{1} pai^{3} 檜柏（6－15676‥14）の俗稱。

【子孫娘娘】592 tzŭ^{3} suen^{1} niang^{2} niang 人に子女を與へる女神の名。

【子孫餑餑】593 tzŭ^{3} suen^{1} po^{1} po 婚禮の夜、新郎新婦が床に入つて食べる食物。

【遺二子孫一以レ安】594 シソンニノコスニヤスキヲモツテス 貨財を子孫に遺さないこと。これ即ち遊佚から免れしめて安きを得る道である。後漢の龐公の故事。〔後漢書、龐公傳〕表指而問曰、先生苦居二畎畝一、而不レ肯二官祿一、後世何以遺二子孫一乎、龐公曰、世人皆遺レ之以レ危、今獨遺レ之以レ安、雖二所レ遺不レ同、未レ爲レ無レ所レ遺也。

【子遜】595 シソン 字號。❶明、許獬（10－35298‥26）の字。❷清、許廷鏼（10－35298‥361）の字。

【子墮】596 コオロシ 姙婦が藥劑、又は手術により、期に先だちて胎內の子をおろすこと。墮胎。〔簾中抄、下〕子おろしの穢れ。

【子泰】597 シタイ 字號。❶三國魏、田疇（7－21723‥212）の字。❷明、樊世寧（6－15414‥99）の字。

【子袋】598 コブクロ 子宮。

【子大】599 シダイ 字號。❶後漢、虞延（9－32723‥5）の字。❷陳、杜之偉（6－14477‥325）の字。❸宋、許份（10－35298‥199）の字。❹宋、李洪（6－14459‥335）の字。❺清、沈起元（6－17189‥459）の字。❻清、張榕端（4－9812‥1565）の字。❼清、彭泰來（4－10003‥184）の字。

【子大夫】600 シタイフ 官位ある賢者。子は男子の美稱、大夫は官位ある人。〔漢書、董仲舒傳〕子大夫、褎然爲二擧首一。〔注〕服虔曰、子、男子之美號也。〔越絕書、越絕荊平王內傳〕今子大夫報二寡人一也。〔後漢書、章帝紀〕略聞二子大夫之志一矣。

【子代】601 コシロ 古、天皇・皇后・皇子等に御子のないとき、其の御名を負はせて某部といふ民を立てて置き、後世への記念としたこと。みこしろ。御名代。〔古事記、下〕此天皇无二太子一、故爲二御子代一、定二小長谷部一也。

【子代民】602 コシロノタミ 子代の人民。〔日本書紀、孝德紀〕天皇等所レ立子代之民。

【子蕩】603 シタウ ❶複姓。〔通志、氏族略〕以レ名爲レ氏。子蕩氏、亦作二蕩氏一。子姓、宋桓公之子公子蕩之後也。❷春秋楚、薳罷（9－32195‥2）の字。

【子韜】604 シタウ 陳、錢道戢（11－40563‥380）の字。

【子道】605 シダウ ❶子が父母につかへる道。〔史記、五帝紀〕舜順適、不レ失二子道一。❷子の排行をいふ。〔禮、大傳〕其夫屬二乎子道一者、妻皆婦道也。〔疏〕道、猶二行列一也、云云、其夫隨二屬於己之子行一者、其妻皆婦行也、故婦人來嫁二於己之子姪之行一、卽謂レ之爲レ婦也。❸荀子の篇名。❹字號。㋑晉、盧志（8－23050‥76）の字。㋺明、吳中行（2－3365‥775）の字。㋩明、林大猷（6－14551‥383）の字。

【子澤】606 シタク 北齊、高潤（12－45313‥466）の字。

【子達】607 シタツ 金、溫迪罕達（7－17968‥287）の字。

【子丹】608 シタン 字號。❶三國魏、曹眞（5－14297‥122）の字。❷宋、黃彝（12－47926‥20）の字。❸元、童金（8－25775‥24）の字。

【子旦】609 シタン 明、吳宗周（2－3365‥732）の字。

【子端】610 シタン 字號。❶金、王庭筠（7－20823‥1956）の字。❷明、何錞（1－511‥104）の字。❸明、馬繼（12－44572‥611）の字。❹清、陳廷敬（11－41698‥1142）の字。

【子儋】611 シタン 明、朱承爵（6－14424‥860）の字。

【子歎】612 シタン 三國吳、顧徽（12－43689‥46）の字。

【子男】613 シダン ❶男子。〔史記、倉公傳〕時者未レ往、會二慶子男殷來獻レ馬。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕子厚有二子男二人一。❷子爵と男爵の諸侯。〔禮、王制〕王者之制二祿爵一、公侯伯子男、凡五等、云云、公侯田、方百里、伯七十里、子男五十里。

【子彈】614 シダン 彈丸。銃彈・砲彈の總稱。又、銃彈を鎗子、砲彈を礮子といふ。

【子地】615 tzŭ^{3} ti^{4} 水流の關係で河川沼澤沿岸に附着した土地。附着せられた方を母地といふ。

【子地上】616 コチヘ 姓氏。〔姓林全書〕。

【子治】617 シチ 字號。❶後漢、夏馥（3－5720‥235）の字。❷字、顏戣（12－43591‥26）の字。

【子智】618 シチ 字號。❶三國吳、孫慮（3－6987‥298）の字。❷宋、張貴謨（4－9812‥900）の字。

【子穉】619 シチ 後漢、孫堪（3－6987‥48）の字。

【子遲】620 シチ 春秋魯、樊須（6－15414‥38）の字。

【子尼】621 シヂ 字號。❶三國魏、國淵（3－4798‥26）の字。❷晉、蔡克（9－31818‥49）の字。

【子持】622 シヂ ❶字號。㋑前蜀、張扶（4－9812‥640）の字。㋺後周、盧文紀（8－23050‥287）の字。❷コモチ ㋑子をもつこと。〔宇津保物語、藏開上〕こもちの官。㋺懷姙した女。「物。

【子持縞】623 コモチジマ 太い筋と細い筋と並行した織

【子持石】624 コモチイシ 石の中にちがつた質の小石があること。〔倭訓栞〕。

【子持甘藍】625 コモチタマナ 草の名。はぼたんの變種で、十字花科に屬し、初夏、淡黃色の花を開く。芽は食用となる。

【子疇】626 シチウ 字號。❶明、余紹祉（1－515‥102）の字。❷清、端木埰（8－25806‥178）の字。

【子籌】627 シチウ 明、李希孔（6－14459‥983）の字。

【子長】628 シチヤウ 字號。❶春秋齊、公治長（2－1452‥727）の字。❷漢、司馬遷（2－3257‥283）の字。❸漢、李尋（6－14459‥488）の字。❹北齊、劉逖（2－2224‥519）の字。❺唐、劉崇龜（2－2224‥1099）の字。❻宋、麋溧（12－47625‥37）の字。❼宋、李庚（6－14459‥114）の字。❽宋、劉越（2－2224‥50）の字。❾宋、林桷（6－14551‥45）の字。❿元、張樞（金華の人）（4－9812‥454）の字。⓫明、項篤壽（12－43343‥82）の字。⓬明、文元善（5－13450‥984）の字。⓭明、李孔修（6－14459‥1214）の字。⓮清、孫永祚（3－6987‥331）の字。

【子張】629 シチヤウ ❶字號。㋑春秋、陳の人。孔子の弟子。顓孫師（12－43600‥18）の字。㋺春秋衞、琴牢（7－21079‥120）の字。㋩漢、闇敞（11－41379‥16）の字。㋥後漢、謝躬（10－35827‥46）の字。㋭後漢、馬武（12－44572‥527）の字。㋬宋、姚闢（3－6202‥109）の字。㋣明、嚴栻（2－4589‥192）の字。❷論語の篇名。〔何晏、論語集解序〕齊論有二問王知道一、多二於魯論二一篇、古論亦無二此二篇一、分二堯曰下章子張問一、以爲二一篇一、有二兩子張一。

【子邕】630 シチヤウ 元、李瓚（6－14459‥370）の字。

【子聽】631 シチヤウ 清、方濬益（5－13620‥549）の字。

【子中】632 シチユウ 字號。❶春秋魯、公肩定（2－1452‥183）の字。❷漢、王同（7－20823‥858）の字。❸宋、莊壬（9－31035‥85）の字。❹宋、徐知常（4－10110‥571）の字。❺宋、薛半千（9－32123‥237）の字。❻宋、陳敬（11－41698‥209）の字。❼宋、楊訓（湘潭の人）（6－15112‥112）の字。❽宋、林希（6－14551‥57）の字。❾元、吳復（2－3365‥368）の字。❿元、兪庸（1－1437‥70）の字。⓫元、熊忠（7－19294‥90）の字。⓬明、兪和（1－1437‥76）の字。⓭明、郎理（11－39431‥62）の字。⓮明、淩立（2－1669‥122）の字。⓯明、王度（7－20823‥852）の字。⓰清、李光暎（6－14459‥1052）の字。⓱清、王懋竑（7－20823‥2111）の字。

【子仲】633 シチユウ ❶複姓。〔萬姓統譜〕子仲、姬姓、風俗通、魯宣公子仲之後、見二毛詩一。❷字號。㋑春秋魯、公肩定（2－1452‥183）の字。㋺春秋宋、皇野（8－22701‥271）の字。㋩後漢、虞放（9－32723‥124）の字。㋥三國蜀、麋竺（12－47625‥22）の字。㋭梁、庾仲容（4－9398‥71）の字。

【子沖】634 シチユウ 字號。❶宋、侯翼（1－633‥91）の字。❷宋、牟谷（7－19928‥12）の字。❸明、蘇濬（9－32427‥143）の字。❹明、滕霄（7－18036‥27）の字。

【子忠】635 シチユウ 字號。❶唐、盧光啓（8－23050‥203）の字。❷金、劉仲誨（2－2224‥1189）の字。❸明、郭諫臣（11－39474‥259）の字。❹明、曹邦輔（5－14297‥298）の字。❺明、宋臣（3－7078‥139）の字。

【子注】636 シチユウ 書物中の小字の分注。わりちゅう。〔史通、補注〕除レ煩則意有レ所レ恡、畢載則言有レ所レ妨、遂乃定二彼榛楛一、列爲二子注一、若二楊衒之洛陽伽藍記之類一是也。〔日知錄、史法、漢書二志小字〕漢書地理藝文二志、小字皆孟堅本文、其師古曰、應劭曰、服虔曰之類、乃顏氏注也、近本漢書不二刻注一者、誤以レ此爲二顏氏注一而幷刪レ之。

【子女】637 シヂヨ ❶むすことむすめ。〔穀梁、僖、三十三〕亂二人子女之教一、無二男女之別一。❷むすめ。

美女。〔左氏、僖、二十三〕子女玉帛、則君有㆑之。〔會箋〕韋注、子女、美女也。〔國語、晉語四〕子女玉帛。〔注〕子女、美女也。〔國語、越語上〕願以㆓金玉子女㆒賂㆓君之辱㆒、請句踐女女㆓於王㆒、大夫女女㆓於大夫㆒、士女女㆓於士㆒。〔韓非子、八姦〕重㆓賦斂㆒、以飾㆓子女狗馬㆒。

【子重】638 シチョウ ❶複姓。〔萬姓統譜〕子重、芈姓、楚公子嬰齊、字子重之後。❷字號。㋑唐、侯固（1—633‥30）の字。㋺後唐、霍彥威（12—42321‥53）の字。㋩後晉、韓惲（12—43159‥11）の字。㋥宋、石墩（8—24024‥617）の字。㋭明、歐陽重（6—16185‥85）の字。㋬明、從任（4—10152‥164）の字。㋣明、宋諾（3—7078‥166）の字。㋠明、曾銑（5—14299‥102）の字。㋷明、湯珍（7—17874‥94）の字。㋦明、趙遂（10—37171‥373）の字。㋸清、吳儁（2—3365‥229）の字。

【子徵】639 シチョウ 字號。❶隋、盧賁（8—23050‥148）の字。❷後晉、盧質（8—23050‥82）の字。❸元、富恕（3—7230‥105）の字。❹明、鹿久徵（12—47586‥158）の字。❺清、金建（11—40152‥356）の字。❻清、敬信（5—13303‥140）の字。

【子澂】640 シチョウ 清、金建（11—40152‥356）の字。

【子澄】641 シチョウ 字號。❶後魏、高湛（12—45313‥638）の字。❷後唐、蕭頃（9—32012‥96）の字。❸宋、張傚（4—9812‥630）の字。❹宋、劉清之（2—2224‥1123）の字。❺明、姜濬（3—6205‥51）の字。❻清、党湛（1—1381‥4）の字。

【子直】642 シチョク 字號。❶北周、鄭偉（11—39647‥8）の字。❷唐、令狐綯（1—387‥61）の字。❸宋、蔡抗（宋城の人）（9—31818‥23）の字。❹宋、曾植（5—14299‥88）の字。❺宋、趙汝愚（10—37171‥681）の字。❻宋、王向（7—20823‥229）の字。❼明、徐樾（4—10110‥19）の字。　「字。

【子勅】643 シチョク 三國蜀、秦宓（8—24995‥149）の

【子珍】644 シチン 字號。❶明、石英中（8—24024‥886）の字。❷清、倪國璉（1—792‥47）の字。❸清、吳懷珍（2—3365‥509）の字。❹清、陶方琦（11—41705‥221）の字。

【子通】645 シツウ 字號。❶三國魏、蔣濟（9—31820‥71）の字。❷三國吳、顧悌（12—43689‥152）の字。❸三國吳、孫綝（3—6987‥222）の字。❹梁、庾承先（4—9398‥68）の字。❺後魏、荀濟（9—30929‥46）の字。❻北齊、高季式（12—45313‥1085）の字。❼隋、韓擒虎（12—43159‥265）の字。❽宋、顏徵（12—43591‥90）の字。❾宋、方惟深（5—13620‥474）の字。

【子廷】646 シテイ 宋、蘇元老（9—32427‥233）の字。

【子弟】647 シテイ ❶子と弟。父兄（7—19721‥15）の❶の對。〔周禮、地官、師氏〕凡國之貴遊子弟學焉。〔左氏、襄、三十〕我有㆓子弟㆒、子產誨㆑之。〔晉書、謝玄傳〕子弟亦何豫㆓人事㆒、而正欲㆑使㆓其佳㆒。❷若者。目下のもの。卑幼の者をいふ。父老（7—19721‥85）の❷の對。〔荀子、非十二子〕遇㆑長則脩㆓子弟之義㆒。〔史記、項羽紀〕籍與㆓江東子弟八千人㆒、渡㆑江而西。❸嫖客（女郎買ひ）をいふ。〔元曲、玉壺春〕你那裏知㆔道做㆓子弟㆒、聲傳㆓四海㆒、名上㆔青樓㆒、比㆑爲㆑官還有㆓好處㆒、做㆓子弟㆒有㆓十個母兒㆒、一家門、二生像、三吐談、四串仗、五溫和、六省傍、七博覽、八歌唱、九枕席、十伴當、做㆓子弟㆒的須㆑要㆓九流三教皆通、八萬四千旁門盡曉㆒、纔做㆓得子弟㆒、非㆓同容易㆒也呵。〔元曲、百花亭〕我也曾向㆓煙月所㆒、上㆓花臺㆒、做㆓子弟㆒倈。

【子弟書】648 シテイショ ❶鼓詞の名。八旗の子弟に始まる。其の詞は雅馴、其の聲は和緩である。東城調と西城調とに分れ、西調は尤も緩かで低く、一韻が長くつづきめぐるといふ。子弟排演。〔天咫偶聞〕京師舊日鼓詞、有㆓所謂子弟書者㆒、始創㆓於八旗子弟㆒、其詞雅馴、其聲和緩、有㆓東城調西城調之分㆒、西調尤緩而低、一韻縈紆良久、此等藝、內城士大夫多擅㆑場、而瞽人其次也。❷tzŭ^3 ti^4 shu^1 富豪又は良家の子弟で、八角鼓・什不閑・大鼓書などの詞曲を習ひ、之を演じて人に聽かせるのを云ふ。

【子弟排演】650 tzŭ^3 ti^4 p'ai^2 yen^3 子弟書に同じ。

【子底】651 シテイ 清、王士祿（7—20823‥1530）の字。

【子亭】652 シテイ はなれ。小亭。〔正字通〕亭、子亭、謂㆓別立小亭㆒也。〔唐書、柳公權傳〕文宗復召㆓侍書㆒、遷㆓中書舍人㆒、充㆓翰林書詔學士㆒、嘗夜召對㆓子亭㆒。〔李庾、西都賦〕建㆓子亭於屛外㆒、設㆓蘭錡於廡下㆒。

【子貞】653 シテイ 字號。❶漢、孔忠（3—6933‥179）の字。❷梁、蕭昱（9—32012‥10）の字。❸梁、庾黔婁（4—9398‥60）の字。❹陳、王質（7—20823‥488）の字。❺金、張玄素（4—9812‥1015）の字。❻元、宇文公諒（3—7067‥76）の字。❼元、曹元用（5—14297‥223）の字。❽元、陳方（11—41698‥502）の字。❾明、施昱（5—13629‥4）の字。❿明、黨還醇（12—48132‥78）の字。⓫明、李如柏（6—14459‥1483）の字。⓬清、何紹基（1—511‥317）の字。⓭清、鄒坤（11—39562‥21）の字。⓮清、齊學裘（12—48560‥282）の字。⓯清、張鏐（4—9812‥722）の字。

【子庭】654 シテイ ❶複姓。〔元和姓纂〕魯大夫子庭、以㆑字爲㆑氏。❷元、祖柏（8—24664‥120）の字。

【子悌】655 シテイ 晉、司馬遜（2—3257‥285）の字。

【子禎】656 シテイ 字號。❶明、龔元祥（12—48837‥67）の字。❷明、張朝瑞（4—9812‥1399）の字。❸清、宋振麟（3—7078‥327）の字。

【子苕】657 シテウ 清、費丹旭（10—36717‥100）の號。

【子朝】658 シテウ 商、墨胎初（3—5469‥144）の字。

【子超】659 シテウ 漢、翟酺（9—28727‥40）の字。

【子滴】660 シテキ 明、孟稱舜（3—6960‥319）の字。

【子姪】661 シテツ ❶子とをひ。子とめひ。〔晉書、譙王休之傳〕休之力戰不㆑捷、乃還㆑城攜㆓子姪㆒、奔㆓於慕容超㆒。〔范甯、穀梁傳序〕帥㆓門生故吏我兄弟子姪㆒、研㆓講六籍㆒、次及㆓三傳㆒。〔疏〕兄弟子姪、卽邵・凱・雍・泰之等、是也。❷後輩をいふ。

【子展】663 シテン 字號。❶春秋鄭、公孫舍之（2—1452‥514）の字。❷清、姚諶（3—6202‥72）の字。❸清、薛所蘊（9—32123‥204）の字。

【子轉】664 コガヘリ ❶胎兒が出產の際位置を轉倒して、頭を下方に向けること。〔六書精蘊〕㐬、產甚易、母腹痛甚、子大轉㆑身、首乃向㆑下。❷美貌であつた子が、生長するにつれて醜くなること。

【子田】665 シデン 清、任大椿（1—416‥233）の字。

【子傳】666 シデン 字號。❶三國魏、張晏（4—9812‥4）の字。❷明、陸師道（11—41708‥341）の字。

【子徒】667 シト 字號。❶春秋魯、鄭國（11—39647‥142）の字。❷春秋秦、壤駟赤（3—5608‥7）の字。

【子都】668 シト ❶古の美男子の名。轉じて、美男子、又、禮法になれた有德の士。子充。〔詩、鄭風、山有扶蘇〕不㆑見㆓子都㆒、乃見㆓狂且㆒。〔傳〕子都、世之美好者也。〔疏〕正義曰、都、謂㆔美好而閑㆓習於禮法㆒、故云、子都、世之美好者也。〔孟子、告子上〕至㆓於子都㆒、天下莫㆑不㆑知㆓其姣㆒也。〔注〕子都、古之姣好者也。〔焦循正義〕閻若璩釋地續云、子都、古之美人也、亦未㆑詳㆓爲㆑男爲㆑女。〔韓詩外傳、四〕閭娵・子都、莫㆓之媒㆒。〔左思、魏都賦〕亦猶㆘韡麋之與㆓子都㆒、培塿之與㆗方壺㆖也。〔注〕善曰、韡麋、古之醜人也、云云、子都、美丈夫也。〔吳均、詠㆓少年㆒詩〕董生唯巧笑、子都信美目、百萬市一言、千金買相逐。❷字號。㋑春秋鄭、公孫閼（2—1452‥466）の字。〔左氏、隱、十一〕公孫閼與㆓潁考叔㆒爭㆑車、潁考叔挾㆑輈以走、子都拔㆑棘以逐㆑之。〔注〕子都、公孫閼字。㋺漢、胡母生（9—29400‥337）の字。㋩漢、趙廣漢（10—37171‥487）の字。㋥漢、鮑宣（12—46074‥57）の字。㋭晉、虞望（9—32723‥125）の字。㋬唐、司馬郊（2—3257‥228）の字。❸道教の經名。〔抱朴子、遐覽〕道經有㆓元陽子經・玄女經・素女經・彭祖經・陳赦經・子都經・張虛經・天門子經・容成經㆒。

【子度】669 シド 字號。❶三國魏、孟達（3—6960‥193）の字。❷南朝宋、蔡廓（9—31818‥39）の字。❸元、齊秉節（12—48560‥325）の字。❹清、孫爽（3—6987‥124）の字。

【子東】670 シトウ 字號。❶宋、關注（11—41470‥147）の字。❷宋、卞圜（2—2778‥2）の字。❸清、張淮（4—9812‥757）の字。

【子登】671 シトウ 字號。❶明、沈仕（6—17189‥174）の字。❷清、任觀瀛（1—416‥208）の字。

【子等】672 コラ ❶男女を親しみ呼ぶ語。こら。〔日本書紀、神武紀〕倶梅能故邏餓。❷物忌みしてゐる少女。子良。〔大神宮儀式帳〕御開田稻乎、物忌乃子等仁令㆓舂炊奉㆒弖。

【子同】673 シドウ 字號。❶唐、張志和（4—9812‥1111）の字。❷宋、余謙一（1—515‥80）の字。

【子德】674 シトク 字號。❶明、龔天申（12—48837‥89）の字。❷清、李因篤（6—14459‥862）の字。

【子訥】675シトツ　後魏、元劭（1－1340‥370）の字。

【子囊】676シナウ　❶隱花植物の胞子を包む小さいふくろ。破裂して胞子を散ずる。❷複姓。〔萬姓統譜〕子囊、芈姓、楚公子貞、字子囊之後。❸春秋楚、公子貞（2－1452‥264）の字。

〖子囊城郢〗677シナウジヤウエイ　蒙求の標題。春秋時代、楚の子囊が死ぬまで社稷を忘れず、子の庚に郢の築城を完全にするやう遺言した故事。〔左氏、襄、十四〕楚子囊還レ自レ伐レ吳、卒、將レ死、遺言謂二子庚一、必城レ郢、君子謂、子囊忠、君薨不レ忘レ增二其名一、將レ死不レ忘レ衞二社稷一、可レ不レ謂レ忠乎。〔注〕楚徙二都郢一、未レ有二城郭一、公子燮・公子儀、因レ築レ城爲レ亂、事未レ得レ訖、子囊欲レ訖而未レ暇、故遺言見レ意也。〔蒙求、下〕子囊城郢。

【子曇】677′シドン　禪僧。宋の台州黃氏の子。石帆衍行の法嗣。西澗と號す。文永八年、我が國に渡來、東福寺の聖一、建長寺の大覺に從學す。弘安元年、元に歸り、正安元年、一山寧と共に再來し、北條貞時に崇敬せられ、圓覺・建長寺等に歷住した。畫に巧。德治元年遷化。年五十八。勅して大通國師と謚す。〔本朝高僧傳〕。

【子南】678シナン　❶地名。漢の武帝は周の後を封じて周子南君とした。今の河南省臨汝縣治の東。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、汝州〕承休廢縣、漢武帝元封三年、封二姬嘉一爲二周子南君一、以奉二周祀一、邑二於此一。❷複姓。〔萬姓統譜〕子南、衞靈公之子、公子郢之後、爲二子南氏一。❸字號。㋑春秋鄭、游楚（7－17792‥223）の字。㋺春秋秦、秦祖（8－24995‥114）の字。㋩宋、詹阜民（10－35458‥66）の字。㋥元、牟若畯（7－19928‥44）の字。㋭明、項元淶（12－43343‥63）の字。

【子難】679シナン　宋、王克臣（7－20823‥1473）の字。

【子寧】680シネイ　字號。❶元、鄭安（11－39647‥2）の字。❷明、吳邦楨（2－3365‥824）の字。

【子年】681シネン　字號。❶前秦、王嘉（7－20823‥112）の字。❷清、朱荃（6－14424‥426）の字。❸清、鮑康（12－46074‥9）の字。❹清、費椿（10－36717‥61）の字。

【子能】682シノウ　字號。❶宋、張邦昌（4－9812‥1438）の字。❷清、徐增（4－10110‥199）の字。

【子佩】683シハイ　字號。❶漢、彭宣（4－10003‥81）の字。❷後漢、韓珩（12－43159‥34）の字。❸明、周茂蘭（2－3441‥871）の字。❹明、謝廷蒞（10－35827‥328）の字。❺清、桂芳（6－14755‥105）の字。❻清、蔡佩（9－31818‥105）の字。

【子裴】684シハイ　字號。❶唐、韋澳（12－43108‥2）の字。❷宋、洪簡（6－17402‥42）の字。

【子方】685シハウ　字號。❶漢、聞人通漢（9－29104‥42）の字。❷宋、金若洙（11－40152‥1291）の字。❸宋、黃琮（12－47926‥592）の字。❹宋、唐介（2－3709‥28）の字。❺宋、唐諫（2－3709‥41）の字。❻宋、林枏（6－14551‥88）の字。❼元、徐琬（4－10110‥27）の字。❽元、文矩（5－13450‥214）の字。❾元、陸文圭（11－41708‥419）の字。❿明、顧杲（12－43689‥31）の字。⓫明、朱隱老（6－14424‥671）の字。⓬清、姚堃（3－6202‥55）の字。⓭清、喬世埴（2－3990‥78）の字。⓮清、唐樹義（2－3709‥435）の字。⓯清、陶模（11－41705‥148）の字。⓰清、龐大堃（12－48824‥61）の字。⓱清、王端（7－20823‥769）の字。

【子枋】686シハウ　複姓。〔萬姓統譜〕子枋、見二姓苑一。

【子芳】687シハウ　字號。❶宋、黃國鎭（12－47926‥1102）の字。❷明、汪灝（6－17154‥144）の字。

【子彭】688シハウ　隋、崔彭（4－8178‥145）の字。

【子寶】689コタカラ　子といふ寶。子供の大切なのを寶に比していふ。〔柳樽、一百四十四〕。

【子卯】690シバウ　不吉の日。殷の紂王は甲子の日に、夏の桀王は乙卯の日に亡んだので、國君は子卯の日を忌む。一說に、子は卯を刑し、卯は子を刑す、相刑する日であるから忌むといふ。又、一說に、子は貪狼、卯は陰賊であるといふ。子卯不レ樂・不レ辟二子卯一を見よ。〔左氏、昭、九〕辰在二子卯一、謂二之疾日一。〔注〕紂以二甲子一喪、桀以二乙卯一亡、故國君以爲二忌日一。

〖子卯不レ樂〗691シバウニハガクセズ　子卯の日は凶日であるから音樂を奏しない。〔禮、檀弓下〕知悼子卒、未レ葬、平公飲レ酒、師曠・李調侍、鼓レ鐘、杜蕢自レ外來、聞二鐘聲一曰、云云、子卯不レ樂、知悼子之喪在レ堂、斯其爲二子卯一也大矣。〔注〕紂以二甲子一死、桀以二乙卯一亡、王者謂二之疾日一、不三以擧レ樂爲二吉事一、所二以自戒懼一。〔釋文〕漢書翼奉說則不レ然、張晏云、子刑レ卯、卯刑レ子、相刑之日、故以爲レ忌。

〖不レ辟二子卯一〗692シバウヲサケズ　凶事には子卯の凶日も避けぬ。〔儀禮、士喪禮〕朝夕哭、不レ辟二子卯一。〔胡培翬正義〕顧氏炎武云、翼奉謂、子、爲二貪狼一、卯、爲二陰賊一、是以王者忌二子卯一、禮經避レ之、春秋諱レ焉、此術家之說、非二經義一也。

【子芒】693シバウ　複姓。〔萬姓統譜〕子芒、嬀姓、陳僖公生二盈字子芒一之後。

【子房】694シバウ　❶雌蕊の下部のふくれた部。中に胚種を含む。❷字號。㋑漢、張良（4－9812‥724）の字。㋺晉、劉智（2－2224‥487）の字。㋩明、王漢（7－20823‥169）の字。

〖子房取履〗695シバウシユリ　蒙求の標題。漢の張良、字は子房が、下邳の橋上で一老人に逢ひ、怒を忍んで老人が故意に落した草履を其の命のままに拾ひ取つて捧げ、老人より太公望の兵法と稱する書を授かつたといふ故事。〔漢書、張良傳〕良嘗閒、從容步游二下邳圯上一、有二一老父一、衣レ褐、至二良所一、直墮二其履圯下一、顧謂レ良曰、孺子下取レ履、良愕然欲レ歐レ之、爲二其老一、廼彊忍下取レ履、因跪進、父以レ足受レ之、笑去。　「名。

【子岷】696シバウ　宋、范子珉（9－30834‥179）の一名。

【子望】697シバウ　字號。❶唐、盧元輔（8－23050‥211）の字。❷宋、劉顏（2－2224‥136）の字。

【子白】698シハク　字號。❶春秋秦、秦祖（8－24995‥114）の字。❷明、曾堅（5－14299‥48）の字。❸清、桂文燦（6－14755‥152）の字。❹清、馬眉（12－44572‥523）の字。

【子伯】699シハク　❶複姓。〔尙友錄〕子伯、姬姓、衞大夫子伯季之後。❷字號。㋑三國魏、婁圭（3－6383‥10）の字。㋺前秦、高泰（12－45313‥601）の字。

【子博】700シハク　字號。❶宋、汪紹（6－17154‥88）の字。❷清、施溥（5－13629‥104）の字。

【子蘗】701シハク　木の名。めぎ。小蘗（4－7473‥1071）の異名。〔本草、小蘗〕釋名、子蘗、山石榴。

【子發】702シハツ　字號。❶唐、盧肇（8－23050‥135）の字。❷宋、葛密（9－31420‥94）の字。❸宋、姜愚（3－6205‥20）の字。❹宋、吳如愚（2－3365‥664）の字。❺宋、向宗回（2－3301‥109）の字。❻宋、楊震（6－15112‥230）の字。❼宋、路振（10－37524‥51）の字。❽宋、王震（7－20823‥633）の字。❾明、敖英（5－13226‥3）の字。❿清、宗元豫（3－7106‥298）の字。

〖子發母〗703シハツノハハ　春秋、楚の將軍、子發の母。子發が秦を攻めた時、糧を絕たれ、士卒は菽粒を分けて食べたにも拘らず、子發は朝夕に芻豢黍粱を供せしめたと聞いて、之を怒り、凱旋するも門を閉ぢて入れなかつた。〔列女傳、母儀傳〕。

【子法】704シハフ　一國が他國の法律を手本として制定した法律。母法（6－16723‥74）の對。

【子反】705シハン　春秋楚、公子側（2－1452‥262）の字。

【子犯】706シハン　春秋晉、狐偃（7－20333‥2）の字。

【子判】707シハン　後魏、徐遵明（4－10110‥489）の字。

【子煩】708シハン　姙婦の病名。〔婦人良方、子煩〕姙娠苦煩悶者、以二四月一受二少陰一、君火以養レ精、六月受二少陽一、相火以養レ氣、若母心驚膽寒、多有二是證一、產寶云、是心肺虛熱、或痰積二於胸一、若二三月而煩一者、但熱而已、若二痰飲而煩一者、吐涎惡食、大凡停痰積飲、寒熱搏吐甚、則胎動不レ安。

〖子煩惱〗709コボンナウ　子の愛に溺れる性質。又、其の人をいふ。〔柳樽、十二〕。

【子範】710シハン　字號。❶三國吳、朱據（6－14424‥119）の字。❷宋、李憲（6－14459‥315）の字。❸清、柳應墀（6－14662‥238）の字。

【子萬】711シバン　字號。❶宋、丁大全（1－2‥283）の字。❷清、吳世杰（2－3365‥696）の字。

【子丕】712シヒ　春秋魯、秦商（8－24995‥91）の字。

【子皮】713シヒ　字號。❶春秋鄭、罕虎（9－28217‥6）の字。❷後魏、屈遵（4－7669‥70）の字。

【子飛】714シヒ　字號。❶宋、柯宋英（6－14658‥51）の字。❷宋、蔡曾（9－31818‥81）の字。❸宋、錢明逸（11－40563‥435）の字。❹宋、宋翔（3－7078‥126）の字。❺宋、王雲（7－20823‥50）の字。

【子未】715シビ　清、孫勳（3－6987‥150）の字。

【子尾】716シビ　複姓。〔萬姓統譜〕子尾、姜姓、齊惠公之孫、公孫蠆、字子尾之後。

【子美】717 シビ　字號。❶春秋鄭、公孫僑(2—1452··484)の字。〔左氏、襄、二十五〕子美入、數レ俘而出。〔注〕子美、子產也。❷唐、杜甫(6—14477··232)の字。❸唐、賈餗(10—36755··94)の字。❹宋、夏守贇(3—5720··324)の字。❺宋、周天駿(2—3441··801)の字。❻宋、章琰(8—25761··13)の字。❼宋、朱蹕(6—14424··514)の字。❽宋、蘇舜欽(9—32427··250)の字。❾宋、陸九韶(11—41708··288)の字。❿宋、楊王休(6—15112··811)の字。⓫金、石琚(8—24024··160)の字。⓬元、鄭玉(11—39647··78)の字。⓭清、郭松林(11—39474··334)の字。⓮清、張玉(呉縣の人)(4—9812··207)の字。

【子微】718 シビ　字號。❶漢、息夫躬(4—10601··91)の字。❷後漢、謝甄(10—35827··67)の字。❸唐、司馬承禎(2—3257··338)の字。❹後晉、盧質(8—23050··82)の字。❺宋、張擴(德興の人)(4—9812··237)の字。❻宋、陳著(11—41698··469)の字。❼元、陳深(11—41698··376)の字。❽元、富恕(3—7230··105)の字。

【子苾】719 シヒツ　清、呉式芬(2—3365··637)の字。

【子弼】720 シヒツ　字號。❶北周、杜叔毗(6—14477··336)の字。❷陳、陳叔卿(11—41698··974)の字。❸明、郭弘化(11—39474··294)の字。❹明、周天佐(2—3441··798)の字。❺明、徐良傅(4—10110··653)の字。

【子彬】721 シヒン　字號。❶宋、林文之(6—14551··423)の字。❷明、呉文華(2—3365··852)の字。

【子賓】722 シヒン　漢、田延年(7—21723··342)の字。

【子岷】723 シビン　明、朱儉(6—14424··273)の字。

【子珉】724 シビン　宋、范子珉(9—30834··179)の名。

【子敏】725 シビン　字號。❶明、嚴震直(2—4589··294)の字。❷清、張純修(4—9812··1194)の字。

【子父】726 シフ　子と父。おやこ。〔孟子、離婁下〕夫章子、子父責レ善、而不二相遇一也。

【子布】727 シフ　三國呉、張昭(4—9812··468)の字。

【子孚】728 シフ　字號。❶明、劉維論(2—2224··676)の字。❷清、李如璋(6—14459··1476)の字。

【子婦】729 シフ　❶子と其のよめ。〔禮、內則〕子婦孝者敬者、父母舅姑之命、勿レ逆勿レ怠。〔疏〕子孝二於父母一、婦敬二於舅姑一。❷息子の妻。〔字彙〕媳、昔俗謂二子婦一爲レ媳。

【子符】730 シフ　清、沈衍慶(6—17189··432)の字。

【子傅】731 シフ　明、呉與弼(2—3365··881)の字。

【子溥】732 シフ　唐、鄭薰(11—39647··101)の字。

【子武】733 シブ　字號。❶宋、倪祖常(1—792··59)の字。❷宋、段昌武(6—16619··90)の字。❸宋、林夔孫(6—14551··292)の字。❹明、顧祖辰(12—43689··310)の字。❺清、王九齡(7—20823··1304)の字。

【子部】734 シブ　❶漢籍分類の名。一家言をなす諸子百家の書。又、丙部ともいふ。歷代の書目に於て、子を分けるのに各〻異同があるが、清の乾隆帝の四庫提要には、儒家・兵家・法家・農家・醫家・天文算法・術數・藝術・譜錄・雜家・類書・小說家・釋家・道家の十四類に分けてゐる。四庫(3—4682··267)を見よ。〔四庫提要、子部總敍〕自二六經一以外、立レ說者皆子書也、其初亦相淆、自二七略區而列レ之、名品乃定、其初亦相軋、自二董仲舒別而白レ之、醇駁乃分、其中或佚不レ傳、或傳而後莫レ爲レ繼、或古無二其目一而今增、古各爲レ類而今合、大都、篇帙繁富、可三以自爲二部分一者、儒家之外有二兵家一、有二法家一、有二農家一、有二醫家一、有二天文算法一、有二術數一、有二藝術一、有二譜錄一、有二雜家一、有二類書一、有二小說家一、其別教則有二釋家一、有二道家一、敍而次レ之、凡十四類。❷tzŭ^3 pu^4　支局。

【子宓】735 シフク　宋、張虙(4—9812··651)の字。

【子服】736 シフク　複姓。〔萬姓統譜〕子服、姬姓、魯桓公之子姓、子慶父玄孫孟懿伯、字子服、其後以爲レ氏。

【子服何】737 シフクカ　魯の大夫。諡は景伯。魯の哀公が呉と鄫に會し、呉が百牢を徵せんとした時、景伯が之を却けた。〔左氏、哀、七〕。

【子服回】738 シフククワイ　春秋、魯の大夫。椒の子。諡は昭伯。昭公が晉から來た時、昭伯は晉の君が幼弱で、六卿の強く且つ奢傲なるを見、季平子と晉の公室の必ず衰へんことを論じた。〔左氏、昭、十六・二十三〕。

【子服椒】739 シフクセウ　魯の大夫。孟獻子の孫。諡は惠伯。又の名は湫。〔左氏、昭、七〕。

【子副】740 シフク　宋、呉則禮(2—3365··737)の字。

【子復】741 シフク　字號。❶宋、彭仲剛(4—10003··189)の字。❷宋、熊克(7—19294··43)の字。❸明、饒之初(12—44400··68)の字。❹明、檀郁(6—15632··1)の字。❺明、李己(6—14459··171)の字。❻清、奚疑(3—5930··4)の字。

【子福】742 シフク　多くの子供をもつこと。子澤山。

【子福者】743 シフクシヤ　子供の多い人。

【子分】744 シブン　假に子として取扱ふもの。親方に從屬して身內となつた部下。てした。〔浮世床、初編、中〕子分子方を、兩方から引連れて。

【子文】745 シブン　❶複姓。〔路史〕衞後有二子文氏一。❷字號。㋑春秋魯、漆雕徒父(7—18108··66)の字。㋺春秋楚、鬬穀於菟(12—45657··116)の字。㋩漢、張禹(軹の人)(4—9812··43)の字。㋥後漢、王儁(7—20823··575)の字。㋭晉、虞昺(9—32723··140)の字。㋬後魏、李彧(6—14459··31)の字。㋣後晉、崔梲(4—8178··115)の字。㋠南唐、沈彬(6—17189··332)の字。㋷宋、安丙(3—7072··442)の字。㋦宋、朱牧(6—14424··551)の字。㋸宋、岑宗旦(4—7937··45)の字。㋾宋、邵持正(11—39343··136)の字。㋻宋、邵伯溫(11—39343··140)の字。㋕宋、宗必經(3—7106··307)の字。㋵宋、張巽(4—9812··517)の字。㋟宋、都郁(11—39509··5)の字。㋹宋、潘閔(7—18236··85)の字。㋞宋、劉仲武(2—2224··1192)の字。㋡宋、樓郁(6—15430··2)の字。㋧宋、王埜(7—20823··1018)の字。㋤金、高士談(12—45313··1179)の字。㋶元、嚴煥(2—4589··67)の字。㋰元、黎獻(12—47994··22)の字。㋒明、朱豹(6—14424··538)の字。㋼明、張瀚(4—9812··151)の字。㋨明、羅鳳(9—28397··248)の字。㋔清、鞏建豐(12—42819··19)の字。㋗清、徐文駒(4—10110··617)の字。㋳清、陳奕禧(11—41698··674)の字。㋮清、陳景(11—41698··207)の字。㋘清、王祖昌(7—20823··1828)の字。

【子平】746 シヘイ　❶星命の學。宋の徐子平に珞祿子賦注二卷があり、其の術を子平といふ。〔通俗編、藝術、子平〕劉玉已瘧編、談二星命一者、惟子平多中、傳宋有二徐子平一、精二于星學一、故後世術士宗レ之、予聞二之隱者一云、子平、名居易、五季人、嘗與二麻衣道者陳圖南一同隱二華山一、蓋異人也、今之推二子平一者、祖二宋末徐彥升一、其實非二子平一也。❷字號。㋑漢、戴崇(5—11685··93)の字。㋺後漢、姜岐(3—6205··16)の字。㋩後漢、向長(2—3301··66)の字。㋥唐、翁洮(9—28635··47)の字。㋭唐、沈李詮(6—17189··457)の字。㋬宋、賈昌衡(10—36755··179)の字。㋣宋、蔡洸(9—31818··38)の字。㋠宋、章衡(8—25761··23)の字。㋷宋、沈銖(揚子の人)(6—17189··200)の字。㋦宋、宋準(3—7078··133)の字。㋸宋、薛居正(9—32123··160)の字。㋾宋、楊璿(6—15112··262)の字。㋻元、陳謙(11—41698··230)の字。❸林子平(6—14551··335)を見よ。

【子平術】747 シヘイジユツ　子平の❶を見よ。

【子平畢娶】748 シヘイヒツシユ　蒙求の標題。後漢の向長、字は子平、隱逸を以て知らる。光武帝の建武中、子女の嫁娶が濟むや家事を捨てて省みず、意を肆にして五岳名山に遊び、遂に終はる所を知らずといふ故事。〔後漢書、逸民傳〕向長、字子平、河內朝歌人也、隱居不レ仕、讀レ易至二損益卦一、喟然歎曰、吾已知、富不レ如レ貧、貴不レ如レ賤、但未レ知三死何二如生一耳、建武中、男女嫁娶既畢、敕斷二家事一勿二相關一、當レ如二我死一也、於レ是遂肆レ意與二同好北海禽慶一、俱遊二五嶽名山一、竟不レ知レ所レ終。

【了二子平之願一】749 シヘイノネガヒヲハル　子女が皆婚嫁すること。子平畢娶を見よ。〔書言故事大全、婚姻類〕畢二婚嫁一、謂レ了二子平之願一。

【子並】750 シヘイ　後漢、張超(4—9812··576)の字。

【子秉】751 シヘイ　戰國、公孫龍(2—1452··507)の字。

【子柄】752 コガラ　❶子供の樣子。又は顏だち。❷容貌。

【子屛】753 シヘイ　字號。❶清、江藩(6—17140··381)の字。❷清、柳以蕃(6—14662··235)の號。

【子蔑】754 シベツ　春秋魯、孔忠(3—6933··179)の字。

【子扁】755 シヘン　複姓。一說に、扁は氏で、子は美稱ともいふ。〔元和姓纂〕莊子有二子扁慶子一。〔姓氏辯證〕莊子有二子扁子一、曰二子扁子一、正如二子列子之例一、非下以二子扁一爲上姓。

【子邊】756 シヘン　春秋楚、屈禦寇(4—7669··151)の「字。

【子弁】757 シベン　字號。㊀宋、王俅（**7**－**20823**・・223）の字。㊁清、左冕（**4**－**8720**・・395）の字。

【子勉】758 シベン　字號。㊀宋、高荷（**12**－**45313**・・77）の字。㊁明、黃懋（**12**－**47926**・・845）の字。

【子母】759 シボ　㊀子と母。母子。〔呂覽、諭大〕季子曰、燕雀爭㆓善處於一屋之下㆒、子母相哺也。〔史記、高祖紀〕高祖適從㆓旁舍㆒來、呂后具言、客有㆑過、相㆓我子母㆒皆大貴。㊁元金と利息。元利。子本。〔柳宗元、文〕權㆓其子母㆒、贏且不㆑竭。㊂大小あるもの。子母牛・子母竹を見よ。㊃說文解字の部首を母といひ、部首に屬するものを子といふ。〔通志、六書略〕以㆓說文㆒定㆓五百四十類㆒、爲㆓字之母㆒、其九千三百五十三文爲㆓字之子㆒、母可㆔以爲㆓音主㆒名爲㆓主類㆒、子止可㆓以從㆑母、名爲㆓從類㆒、如㆓所謂凡某之屬、皆從㆑某、是也。㊄印章が中空で、其の中に別に一小印を藏するもの。〔立雪齋印譜〕子母印銹不㆑出。

【子母牛】760 シボギウ　物の相生ずる時、前を母、後を子といふ。牛の繁殖順育するのを子母牛といふ。〔易、說卦〕坤、爲㆑地爲㆑母、云云、爲㆓子母牛㆒。〔疏〕爲㆓子母牛㆒、取㆓其多蕃育而順㆒之也。

【子母環】761 シボクワン　一つの小さなわを貫いて造つた大きなわ。〔詩、齊風、盧令、盧重環、傳〕重環、子母環也。〔疏〕謂㆓子母環㆒、謂㆔大環貫㆓一小環㆒也。

【子母箋】762 シボセン　詩の酬和に、青蚨錢が去つて復た來るやうに、紙を互にやり取りすること。子母箋は孝文正公の詩から始まる。子母錢を見よ。〔山樵暇語〕西涯孝文正公與㆑客索㆓箋紙㆒、數日酬和過半、因名爲㆓子母箋㆒、其詩有㆑云、朝來東館暮西涯、子母箋成豈浪誇。

【子母錢】763 シボセン　㊀青蚨錢。青蚨の母子の血を塗つた錢。母子の血を各〻別の錢に塗り、物を買ふに、其の一方の錢を用ひれば、他方が必ず歸來するといふ。神仙の談である。〔搜神記、十三〕南方有㆑蟲、名㆓青蚨㆒、形似㆑蟬而稍大、生㆑子必依㆓草葉㆒、大如㆓蠶子㆒、取㆓其子㆒母卽飛來、以㆓母血㆒塗㆑錢八十一文、以㆓子血㆒塗㆑錢八十一文、每㆑市㆑物、或先用㆓母錢㆒、或先用㆓子錢㆒、皆復飛歸、輪轉無㆑已。㊁大錢と小錢。貨幣の輕重をいふ。子母相權を見よ。

【子母彈】764 tzŭ^2 mu^3 tan^4　砲彈。榴霰彈。

【子母竹】765 シボチク　竹の一種。一本の母竹をとりまいて子竹がむらがり生ずるもの。慈竹。孝竹。〔太平御覽、竹部、竹上〕任昉述異記曰、南中生㆓子母竹㆒、今慈竹、是也、漢章帝三年、子母竹笋生㆓白虎殿前㆒、謂㆓之孝竹㆒、羣臣作㆓孝竹頌㆒。

【子母法】766 シボハフ　百分法（**8**－**22679**・・526）をいふ。

【子母相權】767 シボサウケン　大小二種の貨幣を互に相助けて共に通行させること。子は輕い錢、母は重い錢。物貨が騰貴して、貨幣價値の下落した時は、重い貨幣を作つて、大小二種を共に通行せしめ、大なるものを小なるものよりも多くして、大を本位貨的に、小を補助貨的に扱ふ。之を母、子を權して行はるといふ。又、貨幣價値が高過ぎて、物價が下落する時は、上述と反對の法を行ひ、之を子、母を權して行はるといふ。この法は戰國時代に特に發達し、秦漢には概ね一品の貨幣を用ひたが、王莽の時には周の子母相權法に則ると稱して大小種々の錢貨を造つた。〔國語、周語下〕景王二十一年、將㆑鑄㆓大錢㆒、單穆公曰、不可、古者天災降戾、於㆑是乎、量㆓資幣㆒、權㆓輕重㆒、以振㆓救民㆒、民患㆑輕、則爲㆑之作㆓重幣㆒以行㆑之、於㆑是乎有㆓母權㆑子而行㆒、民皆得焉、若不㆑堪㆑重、則多作㆑輕而行㆑之、亦不㆑廢㆑重、於㆑是乎、有㆓子權㆑母而行㆒、小大利㆑之。〔注〕民患㆓幣輕而物貴㆒、則作㆓重幣㆒以行㆓其輕㆒也、重曰㆑母、輕曰㆑子、以㆑子貿㆑物、物輕則子獨行、物重則以㆑母權而行㆑之、子母相通、民皆得㆓其欲㆒、堪、任也、不㆑任㆑之者、幣重物輕、妨㆓其用㆒也、故作㆓輕幣㆒雜而用㆑之、以㆓重者㆒貿㆓其貴㆒、以㆓輕者㆒貿㆓其賤㆒、子權㆑母者、母不㆑足則以㆑子平而行㆑之、故錢小大、民皆以爲㆑利也。〔漢書、食貨志下〕古者天降㆓災戾㆒、於㆑是乎、量㆓資幣㆒、權㆓輕重㆒、以救㆑民、民患㆑輕、則爲㆑之作㆓重幣㆒以行㆑之、於㆑是有㆓母權㆑子而行㆒、民皆得焉、若不㆑堪㆑重、則多作㆑輕而行㆑之、亦不㆑廢㆑重、於㆑是乎、有㆓子權㆑母而行㆒、小大利㆑之。〔注〕應劭曰、母、重也、其大倍、故爲㆑母也、子、輕也、其輕少半、故爲㆑子也、民患㆓幣之輕而物貴㆒、爲㆓重幣㆒以平㆑之、權㆑時而行、以廢㆓其輕㆒、故曰㆓母權㆑子、猶㆑言㆓重權㆑輕也、民皆得者、本末有無、皆得㆓其利㆒也、孟康曰、重爲㆑母、輕爲㆑子、若市㆓八十錢物㆒、以㆑母當㆓五十㆒、以㆓子三十㆒續㆑之、應劭曰、民患㆓幣重㆒、則多作㆓輕錢㆒而行㆑之、亦不㆔廢㆓去重者㆒、言㆘重者行㆓其貴㆒、輕者行㆗其賤㆖也。

【子謨】768 シボ　明、車泰（**10**－**38172**・・150）の字。

【子謩】769 シボ　唐、盧知猷（**8**－**23050**・・276）の字。

【子逢】770 シホウ　清、徐豐玉（**4**－**10110**・・629）の字。

【子豐】771 シホウ　㊀複姓。〔萬姓統譜〕子豐、姬姓、鄭公子去疾、字子豐之後。㊁字號。㋑宋、王仁瞻（**7**－**20823**・・1744）の字。㋺宋、智源（**5**－**14010**・・53）の字。

【子鵬】772 シホウ　梁、羊鵾（**9**－**28425**・・67）の字。

【子茂】773 シボウ　字號。㊀北齊、段榮（**6**－**16619**・・2）の字。㊁明、諸茂卿（**10**－**35743**・・257）の字。㊂明、李如松（**6**－**14459**・・1477）の字。

【子懋】774 シボウ　字號。㊀明、俞茂（**1**－**1437**・・68）の字。㊁清、高承爵（**12**－**45313**・・1228）の字。

【子木】775 シボク　㊀複姓。〔左氏、襄、二十五〕楚令尹子木、伐㆑之及㆓離城㆒。㊁字號。㋑春秋魯、商瞿（**2**－**3803**・・47）の字。㋺春秋楚、屈建（**4**－**7669**・・32）の字。㋩宋、丘漸（**1**－**33**・・64）の字。㋥明、蔡汝楠（**9**－**31818**・・194）の字。㋭明、桑喬（**6**－**14772**・・43）の字。㋬明、盧枏（**8**－**23050**・・127）の字。

【子墨】776 シボク　墨を擬人視していふ。子は男子の通稱。〔揚雄、長楊賦序〕藉㆓翰林㆒以爲㆓主人㆒、子墨爲㆓客卿㆒以諷。〔注〕翰曰、子者、男子之通稱、借以爲㆓主客㆒而諷焉。〔書言故事大全、書翰類〕敍貢書云、謹呼㆓子墨客卿㆒。

【子墨子】777 シボクシ　墨子の尊稱。氏上の子は、門人が師を尊ぶ語。〔墨子、所染〕子墨子言見㆓染㆑絲者㆒而歎曰、染㆓於蒼㆒則蒼、染㆓於黃㆒則黃。〔閒詁〕言字疑衍。

【子穆】778 シボク　㊀複姓。〔姓氏書辨證〕世本曰、陳僖子生㆓子穆安㆒、因爲㆓子穆氏㆒。㊁清、彭昱堯（**4**－**10003**・・131）の字。

【子本】779 シホン　利息と元金。元利。子母錢。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕其俗以㆓男女㆒質㆑錢、約不㆓時贖㆒、子本相侔、則沒爲㆓奴婢㆒。〔元稹、估客樂〕子本頻蕃息、貨販日兼幷。〔黃庭堅、再答㆓冕仲㆒詩〕更當㆓力貧㆒開㆓酒椀㆒、走謁㆓鄰翁㆒稱㆓子本㆒。

【子麻】780 シマ　實のなる麻。雌麻。〔儀禮、喪服傳〕苴絰者麻之有㆑蕡者也、疏〕枲、是雄麻、蕡、是子麻。

【子邁】781 シマイ　清、王星誠（**7**－**20823**・・1779）の字。

【子毛】782 シマウ　清、王士（**7**－**20823**・・437）の字。

【子孟】783 シマウ　㊀複姓。〔萬姓統譜〕子孟、姬姓、魯公子子孟之後。㊁字號。㋑春秋衞、句井疆（**2**－**3234**・・108）の字。㋺漢、霍光（**12**－**42321**・・13）の字。㋩漢、胡建（**9**－**29400**・・118）の字。

【子密】784 シミツ　清、錢應溥（**11**－**40563**・・258）の字。

【子民】785 シミン　㊀民を子の如く愛する。國に君となつて民をいつくしみ治める。〔禮、表記〕子㆑民如㆓父母㆒。〔疏〕子㆑民如㆓父母㆒者、子謂㆘子㆓愛於民㆒如㆗父母愛㆖㆑子也。〔漢書、景十三王、趙敬肅王彭祖傳〕上召問、淖子何如、對曰、爲㆑人多欲、上曰、多欲不㆑宜㆓君㆑國子㆑民。㊁宋、劉卞功（**2**－**2224**・・1316）の字。

【子務】786 シム　明、畢本（**7**－**21829**・・69）の字。

【子明】787 シメイ　㊀桑の木。〔異苑〕永康縣人、入㆑山遇㆓一大龜㆒、卽束㆑之、纜㆓舟於大桑樹㆒、宵中、樹忽呼㆑龜曰、勞㆓乎元緒㆒、龜曰、子明無㆓多辭㆒、禍將㆑及㆑爾。㊁字號。㋑春秋鄭、游眅（**7**－**17792**・・275）の字。㋺春秋秦、石作蜀（**8**－**24024**・・337）の字。㋩漢、倪萌（**1**－**792**・・26）の字。㋥漢、馮奉世（**12**－**44579**・・285）の字。㋭三國魏、張[illegible]（**4**－**9812**・・489）の字。㋬三國吳、徐詳（**4**－**10110**・・151）の字。㋣三國吳、孫亮（**3**－**6987**・・296）の字。㋠三國吳、呂蒙（**2**－**3386**・・145）の字。㋷晉、司馬晃（**2**－**3257**・・249）の字。㋦後魏、關朗（**11**－**41470**・・214）の字。㋸後魏、邢昕（**11**－**39301**・・17）の字。㋾後魏、元顥（**1**－**1340**・・87）の字。㋻後魏、呂顯（**2**－**3386**・・65）の字。㋕梁、蕭昂（**9**－**32012**・・41）の字。㋵唐、韋表微（**12**－**43108**・・221）の字。㋟唐、哥舒曜（**2**－**3641**・・9）の字。㋹唐、謝瞳（**10**－**35827**・・185）の字。㋞後梁、王彥章（**7**－**20823**・・1444）の字。㋡宋、游次公（**7**－**17792**・・349）の字。㋧宋、賈昌朝（**10**－**36755**・・180）の字。㋤宋、季逢昌（**3**－**6965**・・295）の字。㋶宋、朱鑑（**6**－**14424**・・96）の字。㋰宋、石晉老（**8**－**24024**・・964）の字。㋒宋、莫若晦（**9**－**31078**・・112）の字。㋼宋、范純誠

(9－30834··202)の字。㋨宋、劉蒙(2－2224··618)の字。㋔宋、呂由誠(2－3386··160)の字。㋗宋、魯澣(12－46013··11′)の字。㋳宋、王元徹(7－20823··1431)の字。㋮金、蔡開(9－31818··21)の字。㋘金、張煒(4－9812··15)の字。㋫金、王晦(7－20823··284)の字。㋙元、史樞(2－3249··98)の字。㋓元、任仁發(1－416··226)の字。㋢明、陳熙(11－41698··126)の字。㋐明、劉東星(2－2224··1232)の字。㋚清、馬德昭(12－44572··907)の字。㋖清、林文察(6－14551··422)の字。

【子鳴】788 シメイ　字號。㊀明、朱鶴(6－14424··85)の字。㊁明、童佩(8－25775··91)の字。

【子蒙】789 シモウ　宋、劉昺(2－2224··591)の字。

【子濛】790 シモウ　宋、莫濛(9－31078··76)の字。

【子目】791 シモク　㊀總目の下の細目。分目。㊁科目。

【子沐】792 シモク　字號。㊀明、葉永盛(9－31387··160)の字。㊁明、包梧(2－2506··46)の字。

【子默】793 シモク　字號。㊀三國呉、顧譚(12－43689··145)の字。㊁北齊、鄭頤(11－39647··5)の字。㊂唐、楊損(6－15112··267)の字。㊃宋、方阜鳴(5－13620··608)の字。㊄宋、范正思(9－30834··214)の字。㊅清、劉長佑(2－2224··1180)の字。

【子門】794 シモン　くぐり門。〔投轄錄〕不㆔復鎖㆓子門㆒。

【子治】795 シヤ　清、瞿應紹(8－23747··31)の號。

【子夜】796 シヤ　㊀ねの刻。午後十二時。まよなか。三更。丙夜。〔呂溫、奉㆔和張舍人閣中直夜思聞㆓雅琴㆒云云詩〕涼生子夜後、月照禁垣深。㊁晉代の女子。よく歌ひ、其の作つた曲は極めて哀しい。後、其の名を歌の名とした。子夜歌を見よ。

【子夜歌】797 シヤカ　㊀樂府清商曲辭、呉聲歌曲の名。一に子夜呉歌といふのは、東晉の地はもと呉の領域であるからいふ。子夜は東晉の女子。音曲に通じ、當時流行の俚謠の調によつて五言四句の短章を情人に送つた。子夜歌は、晉宋以來の詩人が之に倣つて作つたもの。樂府詩集所載の子夜歌四十二首・子夜四時歌七十五首は皆晉・宋・齊の詩人の手に成つたもので、或は男女邂逅の歡樂、或は夫婦別離の憂愁等を寫す。梁の武帝・唐の王翰・崔國輔・郭元振・李白・陸龜蒙等にも歌辭がある。又、大子夜歌・子夜警歌・子夜變歌等は此の曲の變じたものである。〔樂府詩集、清商曲辭、呉聲歌曲、子夜歌〕唐書樂志曰、子夜歌者、晉曲也、晉有㆓女子㆒、名㆓子夜㆒、造㆓此聲㆒、聲過㆓哀苦㆒、宋書樂志曰、晉孝武太元中、琅琊王軻之家、有㆑鬼歌㆓子夜㆒、殷允爲㆓豫章㆒、豫章僑人庾僧虔家、亦有㆑鬼歌㆓子夜㆒、殷允爲㆓豫章㆒、亦是太元中、則子夜是詩以前人也、古今樂錄曰、凡歌曲終皆有㆓送聲㆒、子夜以㆓持子送曲㆒、鳳將㆑雛以㆓澤雉送曲㆒、樂府解題曰、後人更爲㆓四時行樂之詞㆒、謂㆓之子夜四時歌㆒、又有㆓大子夜歌・子夜警歌・子夜變歌㆒、皆曲之變也。〔晉子夜歌〕落日出㆓前門㆒、瞻矚見㆓子度㆒、冶容多㆓姿鬢㆒、芳香已盈㆑路。㊁詞牌の名。㋑菩薩蠻調の別名。菩薩蠻(9－31205··11)を見よ。㋺元の彭元遜に子夜歌詞がある。

【子夜呉歌】797′ シヤゴカ　子夜歌の㊀に同じ。〔李白、子夜呉歌〕長安一片月、萬戸擣㆑衣聲、秋風吹不㆑盡、總是玉關情、何日平㆓胡虜㆒、良人罷㆓遠征㆒。

【子野】798 シヤ　字號。㊀春秋晉、師曠(4－8916··43)の字。㊁春秋衞、句井疆(2－3234··108)の字。㊂宋、呉復古(2－3365··848)の字。㊃宋、秦鉅(8－24995··48)の字。㊄宋、張先(烏程の人)(4－9812··487)の字。㊅宋、張先(博州の人)(4－9812··487)の字。㊆宋、竇苹(8－25695··48)の字。㊇宋、馬從先(12－44572··823)の字。㊈宋、王質(7－20823··488)の字。㊉明、施紹莘(5－13629··164)の字。(十一)明、陳芹(11－41698··161)の字。(十二)明、林垐(6－14551··118)の字。(十三)清、呉之麟(2－3365··613)の字。

【子揚】799 シヤウ　三國呉、孫奮(3－6987··262)の字。

【子陽】800 シヤウ　㊀複姓。〔萬姓統譜〕子陽、姬姓、魯公族有㆓子陽者㆒、其後以㆓王父字㆒爲㆑氏。㊁字號。㋑漢、王吉(7－20823··226)の字。㋺後漢、公孫述(2－1452··491)の字。㋩後漢、彭脩(4－10003··56)の字。㋥三國魏、劉曄(2－2224··51)の字。㋭晉、公孫永(2－1452··467)の字。㋬齊、虞羲(9－32723··25)の字。㋣明、李旻(6－14459··693)の字。

【子陽井底蛙耳】801 シヤウハセイテイノアノミ　後漢の馬援が、公孫述(字は子陽)の見聞が狹く、自ら尊大に構へて全く取るに足らない人物であることを評した語。井底の蛙は、見聞狹く世間を知らない意。〔後漢書、馬援傳〕是時公孫述稱㆓帝於蜀㆒、囂使㆓援往觀㆑之、援素與㆑述同㆓里閈㆒相善、云云、此子何足㆔久稽㆓天下士㆒乎、因辭歸、謂㆑囂曰、子陽井底蛙耳、而妄自尊大、不㆑如㆑專㆓意東方㆒。

【子楊】802 シヤウ　複姓。〔元和姓纂〕世本曰、季桓子生㆓穆叔㆒、其後爲㆓子楊氏㆒。

【子養】803 シヤウ　㊀子のやうに民をいつくしみ養ふ。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕與㆓官吏百姓等㆒相見具言、朝廷治平、天子神聖、威武慈仁、子㆓養億兆人庶㆒、無㆑有㆓親疎遠邇㆒。㊁宋、顏槦(12－43591··107)の字。

【子颺】804 シヤウ　元、陳賡(11－41698··84)の字。

【子役】805 コヤク　芝居で子供に扮する役。

【子約】806 シヤク　字號。㊀隋、李士謙(6－14459··1272)の字。㊁宋、馬純(12－44572··315)の字。㊂宋、李撰(6－14459··525)の字。㊃宋、呂祖儉(2－3386··225)の字。㊄金、高霖(12－45313··954)の字。㊅明、皇甫濂(8－22701··244)の字。㊆明、趙文博(10－37171··879)の字。

【子藥】807 tzŭ^{3} yao^{4}　彈藥。

【子兪】808 シユ　宋、周堯卿(2－3441··638)の字。

【子愉】809 シユ　清、陸麟書(11－41708··436)の號。

【子瑜】810 シユ　字號。㊀後漢、侯瑾(1－633··25)の字。㊁三國呉、諸葛瑾(10－35743··28)の字。㊂晉、鄭球(11－39647··68)の字。㊃金、完顏璹(3－7079··30)の字。㊄清、曹毓英(5－14297··194)の字。㊅清、張海鵬(4－9812··858)の號。

【子籲】811 シユ　明、周復俊(2－3441··837)の字。

【子裕】812 シユウ　明、王問(7－20823··1017)の字。

【子予】813 シヨ　明、錢宰(11－40563··95)の字。

【子與】814 シヨ　字號。㊀孟軻(3－6960··20)の字。子輿(817)の㊁㋺を見よ。㊁宋、蔡希點(9－31818··149)の字。㊂宋、徐幾(4－10110··69)の字。㊃元、宋沂(3－7078··51)の字。㊄明、閻禹錫(11－41379··54)の字。㊅明、徐中行(4－10110··577)の字。㊆明、趙中行(10－37171··782)の字。㊇明、魯點(12－46013··102)の字。㊈清、許希沖(10－35298··253)の字。㊉清、邵點(11－39343··51)の字。(十一)明、鄧祥麟(11－39630··156)の字。(十二)清、楊沂孫(6－15112··461)の字。(十三)清、凌霞(2－1669··19)の字。

【子豫】815 シヨ　字號。㊀明、秦鳴雷(8－24995··270)の字。㊁明、羊可立(9－28425··187)の字。

【子餘】816 シヨ　字號。㊀春秋晉、趙衰(10－37171··185)の字。㊁唐、盧承慶(8－23050··251)の字。㊂宋、石洪慶(8－24024··936)の字。㊃明、陸粲(11－41708··120)の字。㊄清、孫鼎臣(3－6987··506)の字。㊅清、鄭元慶(11－39647··366)の字。

【子輿】817 シヨ　㊀複姓。〔萬姓統譜〕子輿、嬀姓、陳桓公生㆓子石難㆒、爲㆓子輿氏㆒。㊁字號。㋑春秋魯、曾參(5－14299··91)の字。孔子家語に子與に作る。〔史記、仲尼弟子傳〕曾參、南武城人、字子輿、少㆓孔子㆒四十六歲。㋺戰國魯、孟軻(3－6960··20)の字。子車(405)の㊁㋑を見よ。〔史記、孟軻荀卿傳〕孟軻騶人也。〔注〕正義曰、軻、字子輿、爲㆓齊卿㆒。〔荀子、非十二子〕子思唱㆑之、孟軻和㆑之、〔注〕孟軻、鄒人、字子輿、著㆓書七篇㆒。〔愼子、外篇〕孟子輿說㆓齊宣王㆒而不㆑說、謂㆓愼子㆒曰、今日說㆓公之君㆒、善之君不㆑說、意者其未㆑知㆓善之爲㆑善乎。〔孔叢子、雜訓、孟子車、注〕子車、一作㆓子居㆒、居㆑貧坎軻、故名軻、字子居、亦稱㆓字子輿㆒。〔聖證論〕學者不㆑知㆓孟軻字㆒、按、子思書、及孔叢子、有㆓孟子居㆒、卽是軻也、軻少居㆓坎軻㆒、故名軻、字子居。〔困學紀聞、孟子〕孟子字未㆑聞、孔叢子云、子車、注一作㆓子居㆒、居㆑貧坎軻、故名軻、字子居、亦稱㆓字子輿㆒、疑皆傅會。〔注〕聖證論云、子思書孔叢子、有㆓孟子居㆒、卽是軻也、傅子云、孟子輿。〔集證〕闕里志、孟子名軻、字子輿、一字子車、陳士元、孟子雜記、按、孔叢子・聖證記等書、子車、一作㆓子輿㆒、一作㆓子與㆒、一作㆓子居㆒、而楊倞荀子注、又作㆓子輿㆒、蓋車・居音同、輿作㆓與・輿㆒、字譌也、廣韻軻字注云、孟子居㆑貧轗軻、故名軻、字子居。〔史記志疑〕史不㆑書㆓孟子之字㆒、趙岐題辭曰、字則未㆑聞、攷㆓漢藝文志師古注㆒、引㆓聖證論㆒云、字子車、王氏藝文志考證・困學紀聞八、引㆓傅子㆒云、字子輿、文選劉峻辨命論、子輿困㆓臧倉之

訴㆒、注亦引㆓傳子㆒云、鄒之君子孟子輿、唐虞世南北堂書鈔、引㆔孟軻傳・荀子非十二子篇楊注、竝云㆓字子輿㆒、孔叢子雜訓云、孟子車、注一作㆓子居㆒、據㆑此則魏晉以來、始傳㆓孟子之字㆒、故正義著㆑之、雖㆑未㆑詳㆓其所㆑得、要非㆑無㆑據、可㆑補㆓史遺㆒。㋩清、許希沖（10－35298‥253）の字。

【子旟】818シヨ　後漢、任旟（1－416‥150）の字。

【子用】819シヨウ　明、邢珣（11－39301‥33）の字。

【子容】820シヨウ　字號。㊀春秋魯、南宮适（2－2750‥164）の字。㊁漢、薛方（9－32123‥113）の字。㊂宋、蘇頌（9－32427‥102）の字。㊃明、周廣中（2－3441‥619）の字。㊄明、俞弁（1－1437‥66）の字。㊅清、葉大椿（9－31387‥232）の字。㊆清、張載（4－9812‥320）の字。

【子邕】821シヨウ　後魏、源子雍（7－17926‥65）の一名。

【子庸】822シヨウ　字號。㊀春秋衞、廉潔（4－9436‥30）の字。㊁戰國魯、橋庇（6－15526‥62）の字。㊂明、耿定理（9－29026‥72）の字。㊃明、李中（6－14459‥586）の字。

【子雍】823シヨウ　字號。㊀三國魏、王肅（7－20823‥563）の字。㊁清、瞿鏞（8－23747‥29）の字。㊂清、王熙（7－20823‥198）の字。

【子雝】824シヨウ　明、蕭鳴鳳（9－32012‥527）の字。

【子翊】825シヨク　宋、曾宰（5－14299‥58）の字。

【子翼】826シヨク　字號。㊀後漢、寇恂（3－7209‥22）の字。㊁晉、司馬亮（2－3257‥320）の字。㊂宋、鍾棐（11－40672‥99）の字。㊃清、賀貽孫（10－36725‥119）の字。

【子來】827シライ　㊀子の如く來る。子が父母を慕つて來て其の仕事をするやうに、庶民が有德の君のもとに集り來るをいふ。〔詩、大雅、靈臺〕經始勿㆑亟、庶民子來。〔孟子、梁惠王上〕經始勿㆑亟、庶民子來。〔集注〕子來、如㆔子來趨㆓父事㆒也。〔宋書、武帝紀中〕子來之衆、其會如㆑林。㊁莊子に登場する假託の人。〔莊子、大宗師〕子祀・子輿・子犂・子來、云云、相與爲㆑友、俄而子輿有㆑病、子祀往問㆑之、曰、偉哉、夫造物者、將㆔以㆑予爲㆓此拘拘㆒也、曲僂發㆑背、上有㆓五管㆒、頤隱㆓於齊㆒、肩高㆓於頂㆒、句贅指㆑天、云云、俄而子來有㆑病、喘喘然將㆑死、其妻子環而泣㆑之、子犂往問㆑之曰、叱、避、無㆑怛㆑化、云云、子來曰、父母於㆑子、東西南北、唯命之從、陰陽於㆑人、不㆔翅於㆓父母㆒、云云、故善㆓吾生㆒者、乃所㆔以善㆓吾死㆒也。

〖子來之民〗828シライノタミ　君に心服せる民。詩經、靈臺の庶民子來に本づく。子來の㊀を見よ。

【子朗】829シラウ　明、朱朗（6－14424‥586）の字。

【子瀾】830シラン　宋、時瀾（5－13890‥427）の字。

【子蘭】831シラン　㊀戰國、楚の懷王の幼子。頃襄王の弟。〔史記、屈原傳〕時秦昭王與㆑楚婚、欲㆘與㆓懷王㆒會㆖、懷王欲㆑行、屈平曰、秦虎狼之國、不㆑可㆑信、不㆑如㆑無㆑行、懷王稚子子蘭、勸㆓王行㆒、奈何絕㆓秦歡㆒、懷王卒行、入㆓武關㆒、秦伏㆑兵絕㆓其後㆒、因留㆓懷王㆒以求㆑割㆑地、懷王怒不㆑聽、亡走㆑趙、趙不㆑內、復之㆑秦、竟死㆓於秦㆒而歸葬、長子頃襄王立、以㆓其弟子蘭㆒爲㆓令尹㆒。㊁字號。㋑唐、李皋（6－14459‥121）の字。㋺元、謝應芳（10－35827‥249）の字。㋩清、江沅（6－17140‥109）の字。

【子里】832シリ　春秋齊、后處（2－3298‥17）の字。

【子理】833シリ　字號。㊀明、譚綸（10－35978‥35）の字。㊁明、羅性（9－28397‥157）の字。

【子履】834シリ　㊀複姓。〔路史〕蔡仲後有㆓子履氏㆒。㊁字號。㋑宋、陸經（11－41708‥89）の字。㋺清、盛大士（8－23005‥223）の字。

【子柳】835シリウ　㊀春秋、魯の卿、泄柳をいふ。〔孟子、告子下〕魯繆公之時、公儀子爲㆑政、子柳・子思爲㆑臣、魯之削也滋甚、若㆑是乎、賢者之無㆑益㆓於國㆒也。㊁春秋魯、顏幸（12－43591‥15）の字。

【子六】836シリク　清、游藝（7－17792‥108）の字。

〖子六月〗837コソダテ　地名。〔燕石襍志〕。

【子栗】838シリツ　宋、周必剛（2－3441‥826）の字。

【子立】839シリフ　㊀唐、惠立（4－10822‥140）の本名。㊁字號。㋑春秋魯、林放（6－14551‥203）の字。㋺宋、謝季成（10－35827‥258）の字。㋩宋、譚知禮（10－35978‥79）の字。㋥宋、范正夫（9－30834‥216）の字。㋭元、王賓（7－20823‥916）の字。㋬明、吳植（2－3365‥243）の字。㋣明、上官倬（1－13‥204）の字。㋠清、卓爾堪（2－2741‥81）の字。㋷清、鄧顯鶴（11－39630‥140）の字。

【子粒】840シリフ　粒。種。粒子。〔杜甫、還㆓東屯㆒詩〕落杵光輝白、除芒子粒紅。

【子良】841シリヤウ　㊀字號。㋑後漢、韓順（12－43159‥129）の字。㋺後漢、包咸（2－2506‥19）の字。㋩晉、權翼（6－15926‥135）の字。㋥晉、司馬幹（2－3257‥236）の字。㋭後魏、邢臧（11－39301‥25）の字。㋬唐、盧杞（8－23050‥26）の字。㋣後晉、李從璋（6－14459‥1435）の字。㋠明、顧闕（12－43689‥60）の字。㋷明、戴德孺（5－11685‥201）の字。㋦明、莫如忠（9－31078‥118）の字。㋸清、剛毅（2－2042‥26）の字。㋾清、蔣彬蔚（9－31820‥208）の號。㋻清、王開沃（7－20823‥1245）の字。㊁ラコ　昔、伊勢神宮の供物を奉る殿に仕へまつつた物忌みした少女。おこらご。子良子。〔神道名目類聚抄、五〕子良子、伊勢神宮に仕ふる女官なり。

【子梁】842シリヤウ　字號。㊀春秋宋、樂祁（6－15399‥42）の字。㊁明、華白滋（9－31214‥507）の字。

【子量】843シリヤウ　宋、吳瀠（2－3365‥25）の字。

【子諒】844シリヤウ　㊀いつくしみ深い心とまことの心。子愛誠信の心。〔禮、樂記〕致㆑樂以治㆑心、則易直子諒之心、油然生矣。〔疏〕子、謂㆓子愛㆒、諒、謂㆓誠信㆒、言、能深遠詳㆓審此樂㆒以治㆓正其心㆒、則和易正直子愛誠信之心、油油然從㆑內而生矣。〔朱子全書、禮、小戴禮〕易直子諒之心一句、從來說得無㆓理會㆒、卻因見㆓韓詩外傳㆒子諒、作㆓慈良字㆒、則無㆑可㆑疑。㊁字號。㋑晉、盧諶（8－23050‥101）の字。㋺宋、任諒（1－416‥196）の字。㋩明、馬諒（12－44572‥624）の字。

【子略】845シリヤク　㊀書名。四卷。目錄一卷。宋、高似孫撰。子部の書を記載す。漢志・隋志・唐志、及び庾仲容の子抄、馬總の意林・鄭樵の通志・藝文略等に載する者を列記し、只書名を存して、門目を削り、撰人・卷數・註家等の略注を附す。品題は盡く妥當とはいへないが、皆其の書を實際に覩て論じたものである。馬端臨の通考に多く之を引いて考證してゐる。〔四庫提要、史、目錄類〕。㊁字號。㋑後秦、姚興（3－6202‥54）の字。㋺清、吳英樾（2－3365‥439）の字。

【子隆】846シリユウ　唐、裴炎（10－34362‥6）の字。

【子旅】847シリヨ　複姓。〔左氏、昭、二十二〕敬王卽位、館㆓于子旅氏㆒。

【子淩】848シリヨウ　明、沈雲祚（6－17189‥426）の字。

【子陵】849シリヨウ　字號。㊀後漢、嚴光（2－4589‥65）の字。㊁後漢、第五頡（8－25943‥47）の字。㊂南朝宋、王華（7－20823‥281）の字。

【子楞】850シリヨウ　清、徐廷華（4－10110‥582）の字。

【子龍】851シリヨウ　㊀宋、陳文龍（11－41698‥1241）の初名。㊁字號。㋑後漢、申屠蟠（7－21726‥123）の字。㋺三國蜀、趙雲（10－37171‥24）の字。㋩梁、陸雲公（11－41708‥262）の字。

【子林】852シリン　後漢、陶丘洪（11－41705‥42）の字。

【子倫】853シリン　後魏、元彝（1－1340‥10）の字。

【子淋】854シリン　病名。妊娠中に起る小便の通じの惡い病氣。〔醫學入門、子淋〕妊孕飮食、積㆓熱膀胱㆒、以致㆓小便閉澀㆒、又謂㆓之子漏㆒。

【子璘】855シリン　明、吳子陵（2－3365‥601）の一名。

【子霖】856シリン　清、陶澍（11－41705‥93）の字。

【子麟】857シリン　㊀明、吳子陵（2－3365‥601）の一名。㊁字號。㋑春秋魯、榮旂（6－15273‥23）の字。㋺後漢、陳翊（11－41698‥321）の字。㋩清、孫鍾瑞（3－6987‥454）の字。

【子禮】858シレイ　字號。㊀後漢、蔡茂（9－31818‥118）の字。㊁宋、許忻（10－35298‥52）の字。㊂宋、韓紃（12－43159‥127）の字。㊃宋、嚴用和（2－4589‥311）の字。㊄宋、吳待問（2－3365‥742）の字。㊅宋、莊夏（9－31035‥9）の字。㊆宋、蔣芾（9－31820‥94）の字。㊇宋、陶節夫（11－41705‥208）の字。㊈宋、趙惟和（10－37171‥397）の字。㊉宋、趙時鉞（10－37171‥644）の字。⑪宋、林藏（6－14551‥111）の字。⑫明、朱廷立（6－14424‥932）の字。

【子藜】859シレイ　清、翟文怡（9－28727‥63）の字。

【子齡】860シレイ　清、洪齡孫（6－17402‥231）の字。

【子靈】861シレイ　春秋楚、屈巫（4－7669‥130）の字。

【子歷】862シレキ　宋、蔡樞（9－31818‥73）の字。

【子烈】863シレツ　字號。㊀三國吳の景帝、孫休（3－6987‥63）の字。㊁三國吳、陳武（11－41698‥528）の字。㊂北齊、陽休之（11－41725‥287）の字。㊃陳、陳叔英（11－41698‥972）の字。㊄宋、袁

灼(10－34152‥77)の字。

【子廉】864 シレン　字號。❶漢、何並(1－511‥190)の字。❷三國魏、曹洪(5－14297‥84)の字。

【子蓮】865 シレン　小さい蓮の一種。〔徐園秋花譜〕。

【子濂】866 シレン　淸、杜淶(6－14477‥118)の字。

【子斂】867 シレン　字號。❶春秋魯、邽巽(11－39361‥2)の字。❷春秋魯、漆雕哆(7－18108‥65)の字。

【子路】868 シロ　❶熊(7－19294)の別稱。子貑。〔異苑、三〕熊無レ穴有下居二大樹孔中一者上、東土呼レ熊爲二子路一、以レ物撃レ樹、云二子路可一レ起、於レ是便下、不レ呼則不レ動也。❷字號。㋑春秋魯、仲由(1－403‥13)の字。㋺後漢、爰曾(7－19672‥13)の字。❸論語の篇名。

【子路初見】869 シロショケン　孔子家語の篇名。

【子路負米】870 シロコメヲオフ　蒙求の標題。子路は家が貧しかつたので、毎日百里の遠くに米を負ひ、其の賃金で親を養つた故事。〔孔子家語、致思〕子路、見二於孔子一曰、負レ重涉レ遠、不レ擇レ地而休、家貧親老、不レ擇レ祿而仕、昔者由也事二二親一之時、常食二藜藿之實一、爲レ親負二米百里之外一、親殁之後、南遊二於楚一、從車百乘、積粟萬鍾、累レ絪而坐、列レ鼎而食、願レ欲下食二藜藿一爲レ親負上レ米、不レ可二復得一也、云云、孔子曰、由也事レ親、可レ謂二生事盡レ力、死事盡レ思者一也。

【子魯】871 シロ　字號。❶春秋魯、冉孺(2－1514‥11)の字。❷宋、黃師參(12－47926‥1120)の字。

【子貑】872 シロ　熊。〔廣雅、釋獸〕子貑、熊也。

【子盧】873 シロ　後漢、范遷(9－30834‥75)の字。

【子漏】874 シロウ　病名。小便の通じの惡くなる病。子淋(854)を見よ。

【子汪】875 シワウ　唐、劉沔(2－2224‥598)の字。

【子橫】876 シワウ　字號。❶春秋魯、縣成(8－27784‥75)の字。❷後漢、郭憲(11－39474‥79)の字。

【子谷子】877 シコクシ　明、林兆恩(6－14551‥406)の號。

【子紺錢】878 シコンセン　周圍に赤銅などで郭を施した錢。〔漢書、食貨志下〕公卿請レ令二京師鑄官赤仄一、一當レ五、賦官用、非二赤仄一不レ得レ行。〔注〕應劭曰、所謂子紺錢也。

【子箱兒】879 tzŭ³ hsiang¹ êrh　かけご。

【子總管】880 シソウクワン　副將をいふ。〔陔餘叢考、子總管〕十年江南亂、以二楊素一爲二行軍總管一討二平之一、分注有二子總管來護レ兒、集覽引二正義一云、子者人之嘉稱、正誤云、子總管、猶レ言二小總管一、裨將也。

【子太叔】881 シタイシユク　春秋、鄭の人。游吉(7－17792‥67)をいふ。

【子程子】882 シテイシ　宋の程顥・程頤兄弟をいふ。氏上に冠する子の字は、師を尊ぶ語。〔朱熹、大學章句〕子程子曰、大學、孔氏之遺書、而初學入レ德之門也。〔陔餘叢考、夫子〕有下以レ子爲二師之專稱一者上、公羊傳序、有二子公羊子・子司馬子一、何休釋曰、加二子于姓上一、名二其爲レ師也、若非レ師而但有レ德者、不三以レ子冠二レ氏也、梁溪漫志云、列子書、亦其門人所レ集、故曰二子列子一、冠二氏上一、明二其爲レ師也、不二但言レ子者、所三以避二孔子一也、又陳后山以二南豐瓣香一稱二爲子曾子一、朱晦菴稱二周程一曰二子周子・子程子一、亦自托二於弟子之列一也、此又皆因二孔門之稱一、而援以爲レ例者也。

【子不語】883 シフゴ　❶小說をいふ。論語、述而篇に「子不レ語二怪力亂神一」とあるに本づく。❷小說の名。二十四卷。續十卷。（今本は正五卷、續三卷）淸、袁枚撰。元人に同名の書があつたので、後に新齊諧と改め、今、又舊名を用ふ。怪異譚を收め、別に修飾を加へることなく、專ら簡明を旨とした。隨園三十種本、四十九―五十九に收む。

【子滿果】884 シマンクワ　佛果實の名。石榴をいふ。〔金剛智譯、准提陀羅尼經、第五手把微惹邏迦果、注〕漢言子滿果、此閒無、西國有。

【子明辟】885 シメイヘキ　周公旦が成王を呼んだ稱。子は親しんだ語。明辟は明君の義。以上は王安石等の說であるが、古來の說では、尙書の文を「子に明辟を復す」と讀んで、周公が成王に人君の位をかへしたと解してゐる。〔書、洛誥〕周公拜手稽首曰、朕復二子明辟一。〔傳〕周公盡レ禮致レ敬言、我復二還明君之政於子一、子成王。〔蔡傳〕謂二成王一爲レ子者、親レ之也、謂二成王一爲二明辟一者、尊レ之也、周公相二成王一、尊則君、親則兄之子也、明辟者、明君之謂。〔經義考引、王安石新經尙書義〕周公復レト、復二命於成王一。

【子郎子】886 コラゴ　子良(841)の❷を見よ。

【子了祕】887 シレウヒ　朝鮮、高麗の方言にて父をいふ。〔稱謂錄、方言稱レ父、子了祕〕花箋錄、高麗國方言、父曰二子了祕一。

【責レ子詩】888 コヲセムルシ　詩篇の名。晉、陶潛作。此の詩は表面上は其の五人の子。（舒儼・宣俟・雍份・端佚・通佟）を勵ましたものであるが、事實は戲れに作つたものである。〔陶潛、責レ子詩〕白髮被二兩鬢一、肌膚不二復實一、雖レ有二五男兒一、總不レ好二紙筆一、阿舒已二八、懶惰故無レ匹、阿宣行志學、而不レ愛二文術一、雍端年十三、不レ識二六與一レ七、通子垂二九齡一、但覓二梨與一レ栗、天運苟如レ此、且進二杯中物一。

【子爲レ父隱】889 コハチチノタメニカクス　父の惡事は、子として之を隱す。惡事は父子相隱すのが人の至情である。〔論語、子路〕葉公語二孔子一曰、吾黨有二直躬者一、其父攘レ羊、而子證レ之、孔子曰、吾黨之直者、異二於是一、父爲レ子隱、子爲レ父隱、直在二其中一矣。

【子濯孺子】890 シタクジユシ　春秋、鄭の大夫。射を善くす。〔孟子、離婁下〕鄭人使二子濯孺子侵一レ衞、衞使二庾公之斯追一レ之、子濯孺子曰、今日我疾作、不レ可二以執一レ弓、吾死矣夫。〔注〕孺子、鄭大夫。

【易レ子而食】891 コヲカヘテクラフ　易レ子析レ骸を見よ。

【易レ子析レ骸】892 コヲカヘガイヲサク　己の子は食ふに忍びないから、互に子を取り易へて食ひ、骸を析いて炊ぐ。籠城の困厄を極めること。〔左氏、宣、十五〕宋人懼、使三華元夜入二楚師一、登二子反之牀一、起レ之曰、寡君使二元以レ病告一、曰、敝邑易レ子而食、析レ骸以爨、雖レ然、城下之盟、有二以レ國斃一、不レ能レ從也。〔左氏、哀、八〕景伯曰、楚人圍レ宋、易レ子而食、析レ骸而爨、猶無二城下之盟一。〔公羊、宣、十五〕莊王圍二宋軍一、云云、易レ子而食レ之、析レ骸而炊レ之。〔列子、說符〕其後楚攻レ宋、圍二其城一、民易レ子而食レ之、析レ骸而炊レ之。〔淮南子、人閒訓〕其後楚攻レ宋、圍二其城一、當二此之時一、易レ子而食、析レ骸而炊。

【食レ子徇レ君】893 コヲクラハシメテキミニシタガフ　己が子の肉を煮て君に食はしめて、珍味を嗜む君の心に媚びる。齊の桓公の臣、易牙の類。〔蘇轍、乞三誅二竄呂惠卿一狀〕食レ子徇レ君也、而推二其忍一、則可二以弑一レ君。

【贈二子不拜一】894 シニフハイヲオクル　後漢の陳遵が匈奴に使するに當つて、親友の王丹は何も贈るものがなかつたので、君に、君は私を拜しなくともよいといふことを贈るといつて、長揖して別れた故事。〔後漢書、王丹傳、欲レ結二交於丹一、丹拒而不レ許、注〕東觀記曰、更始時、遵爲二大司馬一、出使二匈奴一、過辭二於丹一、丹曰、倶遭二反覆一、唯我二人、爲二天所一レ遺、今子當レ之二絕域一、無二以相贈一、贈レ子以レ不レ拜、遂揖而別、遵甚悅レ之。

【與レ子同レ袍】895 シトハウヲオナジクス　明友相親しむ辭。君と一つ衣服を共に着る。袍はわたいれ。〔詩、秦風、無衣〕豈曰レ無レ衣、與レ子同レ袍、王于興レ師、修二我戈矛一、與レ子同レ仇。

【子債父不管】896 tzŭ³ chai⁴ fu⁴ pu⁴ kuan³　子の負債には父は何等責任なしとする中國社會の習慣を表現した詞。父債子還(7－19721‥96)の對。

【子身之貳也】897 コハミノジナリ　己が子は己が身のかけがへである。子は己の分身である。〔左氏、文、十六〕子身之貳也、姑紓レ死焉。

【有レ子萬事足】898 コアレババンジタル　子供が有ること以上の滿足はない。子あるを喜ぶ語。〔蘇軾、借二前韻一賀三子由生二第四孫斗老一詩〕無レ官一身輕、有レ子萬事足。〔書言故事大全、子孫類〕稱二人有レ子、曰二有レ子萬事足一。

【易レ子而敎レ之】899 コヲカヘテコレヲヲシフ　己の子は敎へにくいから、他人と子を取り易へて敎へる。〔孟子、離婁上〕古者易レ子而敎レ之、父子之閒不レ責レ善、責レ善則離、離則不祥莫レ大焉。

【敎レ子以二義方一】900 コヲヲシフルニギハウヲモツテス　子には正しい道を敎へる。義方は義の在るところ。〔左氏、隱、三〕石碏諫曰、臣聞、愛レ子、敎以二義方一、弗レ納二于邪一。〔憑道、贈二竇禹鈞一詩〕燕山竇十郞、敎レ子以二義方一、靈椿一株老、丹桂五枝芳。〔三字經〕竇燕山、有二義方一、敎二五子一、名倶揚。

【見レ子不レ如レ父】901 コヲミルコトオヤニシカズ　親ほどよく其の子の性質を知つてゐるものはない。知レ子莫レ若レ父(904)に同じ。

【哭レ子而喪レ明】902（コヲコクシテメイヲウシナフ）　孔子の弟子の子夏が子の死亡を悲しんで目を泣きつぶした故事。〔禮、檀弓上〕子夏喪二其子一、而喪二其明一、曾子弔レ之、子夏曰、天乎、予之無レ罪也。

【擇レ子莫レ如レ父】903（コヲエラブハオヤニシクハナシ）　親ほど能く其の子の賢愚を擇び分つものはない。〔左氏、昭、十一〕王問二於申無宇一曰、弃疾在レ蔡何如、對曰、擇レ子莫レ如レ父、擇レ臣莫レ如レ君。〔國語、晉語七〕祁奚辭二於軍尉一、公問レ焉曰、孰可、對曰、臣之子午可、人有レ言曰、擇レ臣莫レ若レ君、擇レ子莫レ若レ父。

【知レ子莫レ若レ父】904（コヲシルハオヤニシクハナシ）　親ほどよく其の子の性質を知つてゐるものはない。見レ子不レ如レ父(901)に同じ。〔管子、大匡〕鮑叔曰、先人有レ言、曰、知レ子莫レ若レ父、知レ臣莫レ若レ君。〔貞觀政要、三〕知レ子莫レ如レ父。

【子者父之陰也】905（コハオヤノインナリ）　子は親のおかげで生存するものである。〔漢書、杜欽傳〕臣者君之陰也、子者父之陰也。

【養レ子方知二父母恩一】906（コヲヤシナヒテハジメテフボノオンヲシル）　己の子を養育してみて、始めて親の慈愛の深さを知る。子をもつて知る親の恩。〔明心寶鑑〕養レ子方知二父母恩一、立レ身方知二人辛苦一。

【子欲レ養而親不レ待】907（コヤシナハントホッスレドモオヤマタズ）　子が親の恩を知つて、孝養を盡したいと思ふ時には、もう親は死んでしまつてこの世にゐない。孝行のつくしがたいことをいつた語。〔韓詩外傳、九〕樹欲レ靜而風不レ止、子欲レ養而親不レ待也。〔説苑、敬愼〕樹欲レ靜乎風不レ定、子欲レ養乎親不レ待、往不レ來者年也。〔孔子家語、致思〕夫樹欲レ靜而風不レ止、子欲レ養而親不レ待也。

【生レ子當レ如二孫仲謀一】908（コヲウマバマサニソンチユウボウノゴトクナルベシ）　魏の曹操が孫權の才をほめた語。子を生むならば孫仲謀のやうな賢い子を生みたいものである。仲謀は孫權の字。〔呉志、呉主孫權傳、注〕呉歷曰、權乘二輕船一、從二濡須口一入二公軍一、廻還作二鼓吹一、公見二舟船器仗、軍伍整肅一、喟然歎曰、生レ子當レ如二孫仲謀一、劉景升兒子、若二豚犬一耳。

【生レ子當レ如二李亞子一】909（コヲウマバマサニリアシノゴトクナルベシ）　後梁の朱溫が後唐の李存勗の才をほめた語。亞子は存勗の幼字。〔資治通鑑綱目〕晉王李存勗、攻二梁夾寨一破レ之、朱溫聞レ之、驚歎曰、生レ子當レ如二李亞子一、克用爲レ不レ亡矣、至レ如二吾兒一豚犬耳。

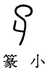
【遺二子黄金滿籯一不レ如二一經一】910（コニワウゴンマンエイヲノコスハイツケイニシカズ）　籠に一ぱいの黄金を子に遺すよりも、一篇の經書を遺す方がよい。財産を遺すよりは子を教育しておいたがよい。籯は竹器、三四斗を受く。〔漢書、韋賢傳〕賢四子、長子方山爲二高寢令一、早終、次子弘至二東海大守一、次子舜留レ魯守二墳墓一、少子玄成、復以二明經一歷レ位至二丞相一、故鄒魯諺曰、遺二子黄金滿籯一、不レ如二一經一。

【孑】6931

一　ケツ　ケチ　〔集韻〕吉列切　ㄐㄧㄝˊ　chieh²　屑。

二　キツ　キチ　〔集韻〕激質切　質。

慣　ゲツ



小篆

一二　❶**右の臂が無い**。〔説文〕孑、無二又臂一也、从二了乚一、象形。〔詩、大雅、雲漢、孑遺、集傳〕孑、無二右臂一貌。❷**あまる**。**あます**。〔方言、二〕孑・蓋、餘也、周鄭之間曰レ蓋、或曰レ孑、青徐楚之間曰レ孑。❸**のこる**。**のこす**。〔玉篇〕孑、遺也。〔詩、大雅、雲漢〕靡レ有二孑遺一。〔傳〕孑然無二遺失一也。❹**おくれる**。〔玉篇〕孑、後也。❺**みじかい**。孑孒(3)の❷を見よ。〔廣雅、釋詁二〕孑、短也。❻**ちひさい**。〔釋名、釋兵〕盾、狹而短者曰二孑盾一、車上所レ持者也、孑、小稱也。❼**ひとり**。**ひとつ**。〔廣韻〕孑、單也。❽**ほこ**。〔方言、九〕戟、楚謂二之孑一、凡戟而無レ刃、秦晉之間謂二之釨一。〔廣雅、釋器〕孑、戟也。〔周禮、考工記、冶氏、是故倨句外博、疏〕凡戟而無レ刃、秦晉之間、謂二之孑一。〔左氏、莊、四〕授二師孑一焉、以伐レ隨。❾**すこやか**。〔集韻〕孑、健也。❿**すぐれる**。傑(1－955)に通ず。〔説文通訓定聲〕孑、叚借爲レ傑。〔方言、二〕孑、俊也。⓫**首をのべるさま**。孑蜺(4)を見よ。⓬**ぼうふり**。**ぼうふら**。孑孒(3)の❶を見よ。⓭**姓**。〔萬姓統譜〕孑金、東昌人、宣德中、任二分宜縣知縣一。

解字　象形。子の字の右臂がない形に象る。本義は右臂のないこと。轉じて、のこす・のこる義、ひとりたつさまに用ひ、假借して俊・傑の義に用ひる。一説に、指事で、子の右一を缺いた形を示すといふ。其の義は同じ。〔説文通訓定聲〕孑、無二右臂一也、从レ了象形、按、从レ子缺レ右、指事。

參考　字形、正しくは孑。

【孑遺】1（ケツヰ）　わづかの殘り。ただ一つ殘つてゐるもの。遺種。〔詩、大雅、雲漢〕周餘黎民、靡レ有二孑遺一。〔傳〕孑然無二遺失一也。〔陳奐傳疏〕靡レ有二孑遺一、是無二遺民一之義、民困二饑饉一、餓死無レ存、此是極盡之詞耳。〔漢書、地理志序〕盪二滅前聖之苗裔一、靡下有二孑遺一者上矣。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕破亡斬截無二孑遺一。〔陳琳、檄二呉將校部曲一文〕罔レ有二孑遺一。

【孑義】2（ケツギ）　小さい義。小善。〔宋史、尹焞傳〕勿下以二小智孑義一而圖中大功上。

【孑孒】3（ケツキヨウ・ケツクツ）　❶蚊の幼蟲。ぼうふり。又、倒跂蟲・釘到蟲・打拳蛆といふ。俗に誤つて孑孑に作る。〔廣雅、釋蟲〕孑孒、蜎也。〔疏證〕爾雅、蜎、蠉、郭璞注云、井中小蛣蟩赤蟲、廣雅云、一名孑孒、各本孒、譌作レ孑、今訂正、云云、淮南子説林訓、孑孑爲レ蟁、高誘注云、孑孑、結蟩、水上到跂蟲、衆經音義卷三引通俗文云、蜎化爲レ蚊、案、到跂蟲、今止水中多生レ之、其形、首大而尾鋭、行則掉レ尾至レ首、左右回環、止則尾浮二水面一、首反在レ下、故謂二之到跂蟲一、爾雅翼云、俗名二釘到蟲一、卽到跂之義、釘到之言、顚到也、今揚州人謂二之翻跟頭蟲一、將レ爲レ蚊、則尾端生二四足一、蛻二於水面一、而蚊出焉。〔淮南子、説林訓〕孑孒爲レ蟁。〔注〕孑孒、結蟨、水上倒跂蟲。❷（ケツケツ）短い。〔廣雅、釋詁二〕孑孒、短也。〔疏證〕説文、孑無二右臂一也、孒無二左臂一也、皆短之義也、短與レ小同義、故井中小蟲、亦謂二之孑孒一。

【孑蜺】4（ケツゲイ）　首を長くのばすさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕白鹿孑二蜺於欂櫨一、蟠螭宛轉而承レ楣。〔注〕善曰、孑蜺、延首之貌。

【孑孑】5（ケツケツ）　❶ひとりぼつち。特出のさま。孤立のさま。〔詩、鄘風、干旄〕孑孑干旄、在二浚之郊一。〔傳〕孑孑、干旄之貌。〔集傳〕孑孑、特出之貌。〔唐順之、竹溪記〕孑孑然有レ似二乎偃蹇孤特之士一。❷小さいさま。〔韓愈、原道〕彼以二煦煦一爲レ仁、孑孑爲レ義、其小レ之也則宜。❸俗にぼうふりをいふ。孑孒の誤。孑孒の❶を見よ。

【孑絃】6（ケツゲン）　一本の弦。〔抱朴子、微旨〕比二之琴瑟一、不レ可下以二孑絃一求中五音上也。

【孑盾】7（ケツジユン）　車上で持つ小さい盾。〔釋名、釋兵〕盾、狹而短者曰二孑盾一、車上所レ持者也、孑、小稱也。

【孑然】8（ケツゼン）　❶孤獨のさま。ただ一つのさま。〔呉志、陸瑁傳〕孑然無レ所レ憑賴一。〔詩、大雅、雲漢、靡レ有二孑遺一、疏〕釋訓云、孑然、孤獨之貌也。❷體解せぬそのままの貌。ばらばらにならないで一つに固つてゐるさま。〔國語、周語中〕胡有二孑然、其效二戎翟一也。〔注〕孑然、全體之貌也。

【孑短】9（ケツタン）　みじかい。孑孒(3)の❷を見よ。

【孑餘】10（ケツヨ）　あまり。のこり。字解の❷を見よ。

【孑立】11（ケツリツ）　ひとりぼつちで立つ。孤立。〔後漢書、蘇不韋傳〕蘇子單特孑立。〔李密、陳情表〕煢煢孑立、形影相弔。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕每常春秋時饗、孑立捧レ奠、顧眄無二後繼者一。

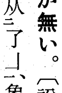
【孑輪】12（ケツリン）　くるまのわ一つ。片方の車輪。隻輪。〔陸機、辨亡論上〕蓬龍之戰、孑輪不レ反。

【孒】6932

一　ケツ　クワチ　〔集韻〕居月切　ㄐㄩㄝˊ　chüeh²　月。

二　キヨウ　ク　〔集韻〕古勇切　腫。

三　クツ　クチ　〔集韻〕九勿切　物。



小篆

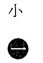
一　❶**左の臂が無い**。〔説文〕孒、無二左臂一也、从二了亅一、象形。❷**み**

じかい。孑孓(3−6931‥3)を見よ。〔廣雅、釋詁二〕孑孓、短也。［二］ぼうふり。孑孓(3−6931‥3)を見よ。〔廣韻〕孓、孑孓、井中小蟲。［三］㊀みじかい。［一］の㊁に同じ。〔集韻〕孓、博雅、孑孓、短也。㊁左の臂が無い。［一］の㊀に同じ。〔集韻〕孓、一曰、無㆓左臂㆒。㊂或は孒(1−37)に作る。〔集韻〕孓、或作㆑孒。

解字　象形。人の左臂のない形に象る。本義は左臂のない義。轉じて、みじかい義。一説に、指事で、子の左臂のないことを示すといふ。其の義は同じ。〔說文通訓定聲〕孓、無㆓左臂㆒、从㆑了、象形、按、从㆑子缺㆑左、指事。

一畫

【孔】 6933　コウ　ク　〔集韻〕苦動切　ㄎㄨㄥˇ　董　k'ung^{3}


小篆

㊀**とほる**。達する。〔說文〕孔、通也、嘉㆓美之㆒也、从㆓乙子㆒、乙、請㆑子之候鳥也、乙至而得㆑子、嘉㆓美之㆒也、古人名嘉、字子孔。〔段注〕通者、達也、云云、凡言㆑孔者、皆所㆔以嘉㆓美之㆒。㊁**おほきい**。〔老子、二十一〕孔德之容。〔河上公注〕孔、大也。㊂**むなしい**。〔老子、二十一〕孔德之容。〔注〕孔、空也。㊃**ふかい**。〔淮南子、精神訓〕孔乎莫㆑知㆔其所㆓終極㆒。〔注〕孔、深貌。㊄**あな**。空(8−25415)に通ず。〔說文通訓定聲〕孔、叚借爲㆑空。〔爾雅、釋詁〕孔、閒也。〔注〕孔、穴也。〔淮南子、精神訓〕夫孔竅者、精神之戶牖也。㊅**はなはだ**。甚(7−21648)に通ず。〔說文通訓定聲〕孔、叚借爲㆑甚、古讀㆑甚與㆓堪戡㆒同、孔・戡一聲之轉。〔爾雅、釋言〕孔、甚也。〔詩、周南、汝墳〕父母孔邇。〔傳〕孔、甚也。㊆**鳥の名**。**孔雀**。〔逸周書、王會解〕方人以㆓孔鳥㆒。〔注〕孔、與㆑鸞相配者。〔漢書、司馬相如傳上〕其上則有㆓宛雛孔鸞㆒。〔注〕張揖曰、孔、孔雀也。㊇**孔子の略稱**。〔韓非子、顯學〕孔墨之後、儒分爲㆑八。〔晉書、阮籍傳贊〕孔教提衡。〔文天祥、衣帶中贊〕孔曰、成㆑仁、孟曰、取㆑義。㊈古は孔(3−6936)に作る。〔集韻〕孔、古作㆑孔。㊉**姓**。〔史記、孔子世家、注〕索隱曰、家語、孔子、宋微子之後、宋襄公生㆓弗父何㆒、以讓㆓弟厲公㆒、弗父何生㆓宋父周㆒、周生㆓世子勝㆒、勝生㆓正考父㆒、正考父生㆓孔父嘉㆒、五世親盡、別爲㆓公族㆒、姓孔氏、孔父生㆓子木金父㆒、金父生㆓睪夷㆒、睪夷生㆓防叔㆒、畏㆓華氏之逼㆒而奔㆑魯、故孔氏爲㆓魯氏㆒。〔通志、氏族略、以㆑字爲㆑氏〕衞有㆓孔氏㆒、不㆑知㆑所㆑出、爲㆓衞世卿㆒、魯文公元年、孔達始見、傳昭七年、衞襄公夫人無㆑子、嬖人婤始生㆓孟縶㆒、孔成子夢、康叔謂㆑己立㆑元、余使㆘羈之孫圉與㆓史狗㆒相㆖之、故孔氏之孫、世爲㆓衞大夫㆒、又鄭有㆓孔氏㆒、穆公蘭之後也、穆公之子十三人、其㆓一皆爲㆓孔氏㆒、宋子生㆑子曰㆓公子喜㆒、字子孔、遂爲㆓孔氏㆒、圭嬀生㆑子曰㆓公子志㆒、字士子孔、亦爲㆓孔氏㆒、後無㆑聞。〔姓考〕衞有㆓孔悝㆒、出㆓於姫姓㆒、陳有㆓孔寧㆒、出㆓於嬀姓㆒、與㆓孔子子姓之系㆒不㆑同。

名乘　ウシ。ヨシ。

解字　會意。子と乙との合字。乙は玄鳥（つばくろ）で、高辛氏の代には、娀が乙の卵を呑んで契を生んだ故事があり、禮には、其の至る日、太牢を以て高禖に祠るとあつて、子を請ふ候鳥とする。故に孔の本義は子を請ふ願が達して安産するの義。轉じて、空・衜・甚等の義とする。〔說文通訓定聲〕孔、通也、从㆑乙从㆑子、會意、乙、請㆑子之候鳥也、乙至而得㆑子、嘉美也、古人名嘉字子孔、按、通者、空字衜字之訓、古多借㆑孔爲㆑空爲㆑衜、非㆓此字本義㆒、曰㆓乙至得㆑子者、禮月令、元鳥至之日、以㆓太牢㆒祠㆓于郊禖㆒、昔有㆘娀呑㆓乙卵㆒生㆖契、後王因祀爲㆑禖也。

【孔安】 1 コウアン　明、袁貞吉(10−34139‥25)の字。

【孔偉】 2 コウキ　晉、司馬楙(2−3257‥312)の字。

【孔維】 3 コウキ　宋、雍丘の人。字は爲則。官は國子祭酒。經術を以て知らる。〔宋史、四百三十一〕・〔宋史新編、一百六十三〕・〔東都事略、一百十三〕。

【孔緯】 4 コウキ　唐の人。戣の孫。字は化文。進士。官は昭宗の時、司空門下侍郎。〔唐書、一百六十三〕・〔舊唐書、一百七十九〕。

【孔祐】 5 コウイウ　南齊、會稽の人。四明山に隱れ、太守王僧虔に主簿に召されたが就かなかつた。〔南史、七十五〕。

【孔憂】 6 コウイウ　大なる憂。〔易林〕作㆓此哀詩㆒、以告㆓孔憂㆒。

【孔繇】 7 コウイウ　孔子の道。繇は道。〔班固、典引〕孔繇先命聖孚也。〔注〕濟曰、孔、謂㆓孔子㆒也、繇、道。

【孔昱】 8 コウイク　後漢、魯の人。字は元世。幼少から家學を習ふ。官は靈帝の時、議郎・洛陽令。〔後漢書、九十七〕。

【孔殷】 9 コウイン　字號。㊀明、金江(11−40152‥99)の字。㊁明、方漢(5−13620‥65)の字。

【孔英】 10 コウエイ　宋、林略(6−14551‥243)の字。

【孔奕】 11 コウエキ　晉の人。官は全椒令。明察人に過ぎ、惠政を行ひ、卒するに及んで市人に悲しまれた。〔晉書、七十八〕。

【孔衍】 12 コウエン　晉、魯國の人。字は舒元。孔子の後。詩書に通じ、明帝が東宮の時、太子中庶子となつたが、王敦に惡まれ、出でて廣陵郡守となる。〔晉書、九十一〕。

【孔家】 13 コウカ　㊀孔氏の家。孔家金(14)を見よ。㊁鎭の名。㋑山東省德平縣の北、馬頰河の西岸。聖裔の居所で、孔鎭ともいふ。樂陵縣及び河北省寧津縣の界に接す。〔金史、地理志〕德平鎭二㆒、懷仁・孔家鎭。㋺江蘇省溧水縣の南。西、石臼湖に瀕し、道、高淳縣に通ず。孔鎭にも作る。〔建康志〕孔家鎭、在㆓縣南四十五里㆒。

【孔家金】 14 コウカノキン　晉の孫綽が孔沈の才をほめた語。孔氏の家に於て黃金に比すべきものの意。〔世說新語、賞譽〕會稽孔沈・魏顗、云云、于㆑時之桀、孫興公目㆑之曰、沈爲㆓孔家金㆒、顗爲㆓魏家玉㆒。

【孔賈】 15 コウカ　漢の孔安國と賈逵。〔國朝漢學師承記、一〕探㆓孔賈之精微㆒、綜㆓羣儒之同異㆒。

【孔嘉】 16 コウカ　㊀甚だめでたい。〔詩、小雅、賓之初筵〕飲㆑酒孔嘉、維其令儀。〔儀禮、士冠禮〕字辭曰、禮儀既備、令月吉日、昭告㆓爾字㆒、爰字孔嘉、髦士攸㆑宜。㊁人名。後漢の人。奮の子。官は城門校尉。左氏說を作る。〔後漢書、六十一〕。㊂字號。㋑明、申佳胤(7−21726‥165)の字。㋺明、彭紹賢(4−10003‥177)の字。㋩明、彭年(4−10003‥95)の字。

【孔罅】 17 コウカ　すきま。ひま。あな。閒隙。〔戴復古、玉華洞詩〕神功巧㆓穿鑿㆒、石壁生㆓孔罅㆒。

【孔蓋】 18 コウガイ　㊀孔雀の翅で作つた蓋。〔楚辭、九歌、少司命〕孔蓋兮翠旍。〔注〕言㆘司命以㆓孔雀之翅㆒爲㆗車蓋㆖。㊁胸襟を開いて話しあふこと。孔子が郯に行く途中で齊の程木子に遭ひ、車を駐め、車蓋を傾けて終日語つた故事。〔韓詩外傳、二〕孔子遭㆓齊程木子於郯之閒㆒、傾㆑蓋而語終日。〔說苑、尊賢〕孔子之㆑郯、遭㆓程子於塗㆒、傾㆑蓋而語終日。〔孔子家語、致思〕孔子之㆑郯、遭㆓程子於塗㆒、傾㆑蓋而語終日、甚相親。

【孔昊】 19 コウカウ　孔子と太昊伏犧氏。〔班固、幽通賦〕登㆓孔昊㆒而上下兮、緯㆓羣龍之所㆑經。〔注〕善曰、應劭曰、昊、太昊也、孔、孔子也、羣龍、喩㆓羣聖㆒也、自㆓伏羲㆒下訖㆓孔子㆒、經㆓緯天道㆒備矣。

【孔甲】 20 コウカフ　㊀書名。二十六篇。漢書藝文志雜家に孔甲盤盂二十六篇とある。尉繚・尸佼・淮南の類。陰陽を明かにし、道德に通じ、儒墨を集め、名法を合し、縱橫・農植の事に至る迄雜說したもの。盤盂(8−23036‥15)の㊁を見よ。〔新論、九流〕雜者、孔甲・尉繚・尸佼・淮南之類也、明㆓陰陽㆒、通㆓道德㆒、兼㆓儒墨㆒、合㆓名法㆒、苞㆓縱橫㆒、納㆓農植㆒、觸㆑物取與、不㆑拘㆓一緒㆒。㊁人名。㋑夏の王。不降の子。少康六世の孫。鬼神を好み、淫

亂を事としたので、夏后氏の德衰へ、諸侯畔く。在位三十一年。〔史記、二〕。㋺漢の孔鮒をいふ。甲は字。孔鮒(204)を見よ。〔漢書、儒林傳序〕陳涉之王也、魯諸儒持二孔氏禮器一而歸レ之、於レ是孔甲爲二涉博士一、卒與倶死。〔注〕師古曰、孔光傳云、鮒、爲二陳涉博士一、死二陳下一、今此云二孔甲一、將三名レ鮒而字レ甲也。

【孔函】21コウカン　谷の名。甘肅省西固縣の南。三國、蜀の時、姜維が北海に入らんとして由つた處。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、階州、文縣〕孔函谷、在二縣西北一、蜀漢末、魏人來侵、姜維自二沓中一東還、聞二諸葛緒已塞レ道屯二橋頭一、乃從二孔函谷一入二北道一、欲レ出二緒後一、緒聞レ之、卻還三十里、維還從二橋頭一過至二陰平一、是也。

【孔戡】22コウカン　唐の人。戣の弟。字は勝始。進士。李吉甫の幕府に入つたが、從史に誣ひられ、衞尉丞を以て東都を分司した。〔唐書、一百六十三〕・〔舊唐書、一百五十四〕。

【孔鴈】23コウガン　孔雀と雁。威儀ある喩。雁も孔雀も飛ぶに列をなし威儀があるからいふ。一說に、孔雀には文章があり、雁には行序があつて、皆威儀の象であるからともいふ。〔太玄經、禮〕孔鴈之儀、利三用登二于階一。〔注〕四爲二毛類一、故稱二孔鴈一、孔鳥之知レ禮也、正取二二鳥一爲レ諭者、言、其行則有レ儀、飛則有レ次、動不レ失レ法、故利レ登二于階一也。

【孔顏】24コウガン　孔子と顏子。〔陸機、君子行〕拾レ塵惑二孔顏一。〔魏書、肅宗紀〕釋二奠孔顏一。

【孔巖】25コウガン　淸、李嶧(6−14459··68)の字。

【孔奇】26コウキ　後漢の人。奮の弟。經典に通じ、春秋左氏刪を作る。〔後漢書、六十一〕。

【孔姬】27コウキ　孔子と周公。孔周(121)の❶に同じ。周公は姬姓であるからいふ。〔王禹偁、謫居感レ事詩〕步驟依二班馬一、根源法二孔姬一。〔蘇軾、渚宮詩〕何用白首談二孔姬一、沙泉半涸草堂在。

【孔戣】28コウキ　唐の人。巢父の從子。字は君嚴。諡は貞。進士。官は禮部尙書。〔唐書、一百六十三〕・〔舊唐書、一百五十四〕。

【孔僖】29コウキ　後漢の人。子建の曾孫。字は仲和。孔安國から以下、世〻古文尙書・毛詩を傳ふ。官は臨晉令。〔後漢書、一百九上〕。

【孔覬】30コウキ　南朝宋、山陰の人。字は思遠。性、權貴に媚びず。官は明帝の時、太子詹事。後、反して誅せられた。〔宋書、八十四〕・〔南史、二十七〕。

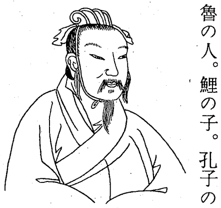
【孔宜】31コウギ　宋の人。仁玉の子。字は不疑。官は太宗の時、太子右贊善大夫。太宗の北征に軍を督して拒馬河を涉り、溺死した。〔宋史、四百三十一〕・〔宋史新編、一百六十三〕・〔東都事略、一百十三〕。

【孔儀】32コウギ　明、王表(7−20823··948)の字。

【孔丘】33コウキウ　孔子。春秋、魯の人。字は仲尼。丘は其の名。儒家の祖。孔子(78)の❶・及び孔子以下の各條を見よ。

【孔休】34コウキウ　❶漢、宛の人。字は子泉。新都の令であつたが、王莽が權を秉るや、去つて家に歸る。莽は使を遣し、玄纁束帛を齎して、國師たらんことを請うたが、病に託し、門を杜ぢて出なかつた。〔前漢書、九十九上〕・〔後漢書、五十五〕。❷三國吳、吾粲(2−3379··33)の字。

【孔伋】35コウキフ　春秋、魯の人。鯉の子。孔子の孫。字は子思。學を曾子に受く。中庸を作つて父師の意を述べた。後世、稱して述聖といふ。子思(3−6930··381)の❶を見よ。〔前漢書、八十一〕。


子思孔伋（三才圖會）

【孔伋縕袍】36コウキフヲンパウ　蒙求の標題。孔子の孫、名は伋、字は子思は、衞に居て貧を極め、縕袍に表も無い有樣であつたので、田子方が之を憐んで狐白裘を贈つたが、辭して受けなかつた故事。〔蒙求、中、孔伋縕袍〕說苑曰、子思居二於衞一、縕袍無レ表、二旬九食、田子方聞レ之、使三人遺二狐白裘一、恐二其不一レ受、因謂レ之曰、吾假レ人遂忘レ之、吾與レ人如レ弃レ之、子思辭而不レ受、子方曰、我有、子無、何故不レ受、子思曰、伋聞レ之、妄與不レ如三遺二弃物於溝壑一、伋雖レ貧、不レ忍三以レ身爲二溝壑一、是以不二敢當一。

【孔渠】37コウキヨ　三國魏、楊沛(6−15112··308)の字。

【孔圉】38コウギヨ　春秋、衞の人。達の四世の孫。卽ち文子。又、仲叔圉といふ。嘗て大叔疾を攻めんとして、孔子に問うたが、孔子は、胡簋の事は則ち嘗て之を學べり、甲兵の事は未だ之を聞かずと答へ、退いて駕を命じて去らんとした。文子は遽かにして之を止めて、圉豈敢へて其の私を度らんや、衞國の難を訪へるなりと言つた。其の後、孔門の冉有をして三たび訪はしめたが、遂に答へられなかつた。〔左氏、哀、十一〕。

【孔勖】39コウキヨク　宋の人。宜の子。進士。官は工部侍郞。〔宋史、二百九十七〕。

【孔棘】40コウキヨク　甚だ急なこと。外患の急なるに用ひる。〔詩、小雅、采薇〕豈不二日戒一、玁狁孔棘。〔箋〕棘、急也。

【孔金】41コウキン　明、淮安山陽の人。父卒して後七ケ月にして生まる。母は謝氏、大賈の杜言に嫁娶を逼られて、河に投じて死んだ。金は長じて、訟へたが勝たず、墓所に號泣したところ、里人が其の事を府の長官に陳じ、遂に言を獄死させた。〔明史、二百九十七〕。

【孔僅】42コウキン　前漢、南陽の人。官は武帝の時、大農丞。東郭咸陽と鹽鐵の事を領し、三年にして大司農に至り、九卿に列した。〔全上古三代秦漢三國六朝文、前漢文、二十八〕。

【孔和】43コウクワ　三國魏、周宣(2−3441··331)の❶「の字。

【孔悝】44コウクワイ　春秋、衞の正卿。輒を逐ひて蒯聵(莊公)を立つ。莊公、之を德として鼎に銘す。〔左氏、哀、十五・哀、十六〕。

【孔懷】45コウクワイ　甚しく思ふ。又、轉じて、兄弟同士の親身の情愛をいふ。孔は甚、懷は思。〔詩、小雅、常棣〕死喪之威、兄弟孔懷。〔傳〕威、畏、懷、思也。〔箋〕死喪可二畏怖一之事、維兄弟之親、甚相思念。〔魏志、管輅傳、注〕辰不レ以二闇淺一、得レ因二孔懷之親一、數與レ輅有レ所二諮論一。〔顏氏家訓、文章〕陸機與二長沙顧母一書、述二從祖弟士璜死一、乃言痛心拔レ腦、有レ如二孔懷一、心既痛矣、卽爲二甚思一、何故言有レ如也、觀二其此意一、當下謂レ親二兄弟一爲中孔懷上。

【孔光】46コウクワウ　前漢の人。霸の子。字は子夏。諡は簡烈。經學に通じてゐたので、成帝の時、博士に擧げられ、尙書となる。平帝の初、王莽の專權を憂へて骸骨を乞うた。御史大夫・丞相となること再度、又、大司徒・太傅・太師となり、三世を歷て、公輔の位に居ること前後十七年に及ぶ。博山侯に封ぜられ、元始中、卒す。〔前漢書、八十一〕。

【孔光溫樹】47コウクワウヲンジユ　蒙求の標題。前漢の孔光が、家に在るや、決して朝政に關することに觸れず、或時、宮中の溫室や役所にある樹について問はれたが、默して答へずに話頭を轉じたといふ故事。〔漢書、孔光傳〕沐日歸休、兄弟妻子燕語、終不レ及二朝省政事一、或問二光溫室省中樹皆何木一也、光嘿不レ應、更答以二它語一、其不レ泄如レ是。

【孔廣】48コウクワウ　南齊、會稽の人。字は淹源。官は揚州從事。〔南齊書、三十四〕・〔南史、七十二〕。

【孔奐】49コウクワン　陳の人。琇之の曾孫。字は休文。梁・陳に仕へ、宣帝の時、吏部尙書、後主の時、弘範宮衞尉となる。〔陳書、二十一〕・〔南史、二十七〕。

【孔逭】50コウクワン　南齊、會稽の人。才藻があり、東都賦を作る。〔南史、七十二〕。

【孔環】51コウクワン　明、南宮の人。字は伯循。正德中、來安縣の長官であつたが、劉瑾の黨に忤らつて西華敎諭に遷され、後、盜起り、城陷つて死す。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、三百七十六〕・〔明史稿、二百七十〕。

【孔羣】52コウグン　❶はなはだやはらぐ。〔詩、秦風、小戎〕俴駟孔羣。〔傳〕孔、甚也。〔箋〕甚羣者、言二和調一也。❷晉の人。愉の從弟。字は敬林。官は中丞。〔晉書、七十八〕。

【孔勍】53コウケイ　後唐、兗州の人。字は鼎文。貞明中、王球を平げた。官は太子太師。〔舊五代史、六十四〕。

【孔珪】54コウケイ　南齊、孔稚珪(349)の一名。

【孔啓】55コウケイ　明、陶一貫(11−41705··169)の字。

【孔惠】56コウケイ　前漢の人。魯の恭王の時、壁書の古文を藏した。孔壁古文(212)を見よ。〔隋書、經籍

志一〕初漢武帝時、魯恭王壞㆓孔子舊宅㆒、得㆓其末孫惠所㆑藏之書㆒。

【孔景】57 コウケイ　五代後蜀、孔嵩（153）の㊁の一名。

【孔敬】58 コウケイ　明、孟雷（**3－6960**・・274）の字。

【孔教】59 コウケウ　孔子のをしへ。孔子教。儒教（**1－1220**・・31）を見よ。〔晉書、阮籍傳贊〕老篇爰植、孔教提衡。

【孔喬】60 コウケウ　後漢、宛の人。字は子松。古文尚書・春秋左氏傳を學ぶ。幽居して志を修め、意を典籍に專らにした。〔後漢書、一百十二上〕。

【孔竅】61 コウケウ　あな。人體の耳・鼻・眼・口等のあな。〔韓非子、解老〕知㆑事㆑天者、其孔竅虛。〔淮南子、天文訓〕跂行喙息、莫㆑貴㆓於人㆒、孔竅肢體、皆通㆓於天㆒。〔春秋繁露、天地之行〕外有㆓百官㆒、若㆔心之有㆓形體孔竅㆒也。〔論衡、實知〕孔竅未㆑普、未㆑足㆓以論㆒也。

【孔隙】62 コウゲキ　あな。すきま。〔姚合、買㆓太湖石㆒詩〕背面淙注痕、孔隙若㆓琢磨㆒。

【孔穴】63 コウケツ　㊀あな。すき。〔白虎通、情性〕山亦有㆓金石累積㆒、亦有㆓孔穴㆒、出㆑雲布㆑雨、以潤㆓天下㆒。㊁人身の穴道。〔舊唐書、太宗紀〕貞觀四年戊寅、制決㆓罪人㆒、不㆑得㆑鞭㆑背、以㆓明堂孔穴針灸之所㆒。

【孔業】64 コウゲフ　孔子の業績。又、大なる事業。〔陶潛、示㆓周續之・祖企・謝景夷三郎㆒詩〕周生述㆓孔業㆒、祖謝響然臻。〔朱熹、齋居感興詩〕馬公述㆓孔業㆒、託始有㆓餘悲㆒。〔陸游、詩〕詩書修㆓孔業㆒。

【孔肩】65 コウケン　明、鄭圭（**11－39647**・・102）の字。

【孔謙】66 コウケン　後唐、魏州の人。經濟の學に通じたので、莊宗の時、金錢・穀物聚斂のことを掌る。後晉が後梁と河上に相拒ぐこと十餘年に及んだ時、その閒、食糧を徵發供給して缺乏せしめず、莊宗をして業を成さしむ。後、租庸使となり、聚斂を以て天下の怨府となり、明宗の時、誅せらる。〔五代史、二十六〕・〔舊五代史、七十三〕。

【孔元】67 コウゲン　元、眞定の人。字は彥亨。驍勇智略あり、屢〻征戰に從つた。官は宣武將軍右衞親軍總管。〔元史、一百六十五〕。

【孔嚴】68 コウゲン　㊀晉の人。奕の孫。字は彭祖。少にして州郡に仕へ、官は吳興太守に至る。〔晉書、七十八〕。㊁清、李嶧（**6－14459**・・68）の字。

【孔壺】69 コウコ　水時計のつぼ。其の穴から水が漏れるのでつぼの中に立てた箭が浮き上り、この箭に刻んだ目盛を讀んで時刻を測る。〔後漢書、律曆志下〕孔壺爲㆑漏、浮箭爲㆑刻。

【孔公】70 コウコウ　孔子をいふ。〔曹植、磐石篇〕乘㆑桴何所㆑志、吁嗟我孔公。

〔孔公孼〕71 コウコウゲツ　石の名。鍾乳石の類。〔本草、孔公孼〕釋名、孔公石、通石、時珍曰、孔竅空通、附㆓垂于石㆒、如㆓木之芽孼㆒、故曰㆓孔公孼㆒。

【孔佐】72 コウサ　孔子をいふ。〔班固、典引〕蓄㆓炎上之烈精㆒、蘊㆓孔佐之弘陳㆒。〔注〕善曰、孔佐、卽孔子也、能表㆓相祖宗㆒、故曰㆑佐。

【孔才】73 コウサイ　三國魏、劉劭（**2－2224**・・435）の字。

【孔璪】74 コウサウ　南朝宋の人。官は廢帝の時、都水使者。孔覬に勸めて反せしめたが、事敗れて、門生の陸林夫に殺された。〔宋書、八十四〕。

【孔臧】75 コウザウ　漢の人。孔安國の從兄。武帝の時、太常となり勸學勵賢の法を興したので、公卿士大夫、彬々として文學に進んだ。〔前漢書、八十八〕。

【孔冊】76 コウサク　湖の名。安徽省懷遠縣の南、郭陂塘の西。淮水と通ずる。清の康熙五十六年、知縣の劉鑑が、隄を築き斗門を建てて埋立地を作つたが、今は斗門が傾廢して水を湛へてゐる。

【孔山】77 コウザン　㊀山名。㋑河南省濟源縣の東北。〔白居易、遊㆓坊口懸泉㆒偶題㆓石上㆒詩〕孔山刀劍立、沁水龍蛇走。㋺山西省大寧縣の西北。〔水經、河水注〕孔溪口水出㆓孔山㆒。㋩湖北省應山縣の東。一名、洞山。洞があり、頗る深くて、大風が起らうとする每に、先づ聲ありといふ。下の孔山陂は明の正德の閒に、都御史の彭澤が賊の趙燧を殺した處。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州、應山縣、吉山〕孔山、在㆓縣東三十里㆒、上有㆓風洞㆒、一名洞山、下有㆓孔山陂㆒、正德中、賊趙燧走死㆓於此㆒。㊁三國蜀、鄧方（**11－39630**・・94）の字。

【孔子】78 コウシ　㊀春秋、魯の人。名は丘。字は仲尼。儒家の祖。生れながらにして聖德あり、學に常師なく、嘗て禮を老聃に問ひ、樂を萇弘に學び、琴を師襄に學ぶといふ。魯に仕へて司空となり、後、大司寇となり、相の事を攝行し、少正卯を誅し、魯爲に大いに治まる。後、用ひられずして魯を去り、七十餘國を周流すること十三年、六十八にして魯に歸り、詩書を刪定し、禮樂を定め、易を贊し、春秋を修めて先王の道を傳へた。弟子三千人、身、六藝に通ずるもの七十二人を數へた。周の靈王の二十年冬十月庚子に生れ（二十一年生るとする說あり）、敬王の四十一年夏四月乙丑の日に卒した。年七十四。唐の開元二十七年、文宣王と追謚し、弟子に各〻公侯伯を贈つた。宋の大中祥符元年に至聖文宣王、元の大德十年に大成至聖文宣王と追謚し、明の嘉靖九年に至聖先師と改稱した。清の順治二年、文廟を定め、謚號を大成至聖文宣先師孔子といひ、十四年、改めて至聖先師孔子と稱す。孔子以下の各條を見よ。〔史記、四十七〕。㊁山名。湖北省黃岡縣の北。〔明一統志〕相傳、孔子自㆑衞適㆑楚、登㆑此、山有㆓顏子港㆒、北有㆓廻車坡㆒、元龍仁夫、嘗作㆓書屋於其麓㆒。

【孔子年譜】

西曆	周王	魯公	年齡	記事
前五五二	靈王二〇	襄公二一	一	十月庚子（二十一日）魯の昌平鄉陬邑闕里に生る。〔穀梁傳〕。但、公羊傳には十有一月庚子孔子生とし、史記孔子世家・十二諸侯年表等には魯襄公二十二年孔子生とする。
五五〇	同二二	同二三	三	父卒し、魯の城外、五父の衢に殯す。〔孔子家語、本姓解〕。
五四七	同二五	同二六	六	嬉戲の閒にも俎豆を陳ね禮容を正す。〔史記、孔子世家〕。
五四三	景王二	同三〇	一〇	鄭人の鄉校に於て執政の善惡を論ずるを聞く。〔左氏、襄、三十一〕。
五三八	同七	昭公四	一五	學に志す。〔論語、學而〕。
五三四	同一一	同八	一九	夫人を宋の幵官氏に娶る。〔孔子家語、本姓解〕。
五三三	同一二	同九	二〇	魯の委吏となる。〔孟子、萬章下〕・〔史記、孔子世家〕・〔孔子履歷考〕・〔通鑑前編〕・〔孔子通紀〕。子、鯉、生る。〔孔子家語、本姓解〕。
五三二	同一三	同一〇	二一	司職の吏となる。〔孟子、萬章下〕・〔史記、孔子世家〕。
五二九	同一六	同一三	二四	母、顏氏卒し、防に合葬す。〔禮、檀弓上〕・〔孔子家語、曲禮公西赤問〕。
五二七	同一八	同一五	二六	母の大祥の儀を行ふ。〔禮、檀弓上〕・〔孔子家語、曲禮公西赤問〕。
五二五	同二〇	同一七	二八	郯子に見え故事典禮を學ぶ。〔左氏、昭、十七〕。
五二二	同二三	同二〇	三一	琴張が宗魯の死を弔問せんとするを止む。〔左氏、昭、二十〕。齊侯に虞人を招くには皮冠を以てすべきを忠言す。〔左氏、昭、二十〕。
五一八	敬王二	同二四	三五	魯に行く。孟懿子・南宮敬叔、弟子となる。〔左氏、昭、七〕。周に往き、禮を老子に問ふ。〔史記、孔子世家・老子傳〕・〔孔子家語、觀周〕・〔鄉黨圖考〕。樂を萇弘に訪ふ。〔禮、樂記〕・〔孔叢子、嘉言〕・〔孔子家語、觀周〕。郊社の所を經、明堂・廟堂を見、周公の聖と周の王たる所以とを歎美す。〔孔子家語、觀周〕。后稷廟前の金人の背銘を見て口過を說く。〔說苑、敬愼〕・〔孔子家語、觀周〕。萇弘、孔子の聖貌あるを讚美す。〔孔叢子、嘉言〕。周から魯に歸る。弟子三千に及ぶ。〔孔子家語、觀周〕。但、禮を老子に問ひ、樂を萇弘に聞く條は孔子世家は昭公二

	五一七	五一六	五一五	五一四	五一三	五〇七	五〇五
	同三	同四	同五	同六	同七	同一三	同一五
	同二五	同二六	同二七	同二八	同二九	定公三	同五
	三六	三七	三八	三九	四〇	四六	四八
十年、三十一歳の時とし、莊子は定公九年、五十一歳の時とし、水經注は昭公六年、十七歳の時とし、或は十八歳の時とする。	齊に行く。〔史記、孔子世家〕。途次、丘吾子の三失の歎を聞く。〔孔子家語、致思〕。泰山の側に婦人の哭するを聞き、苛政は虎よりも猛しと歎ず。〔禮、檀弓下〕・〔孔子家語、正論解〕。齊の景公に政を問はる。〔論語、顏淵〕。晏子の宴に招かれ、齊君の失政久しきを言ふ。〔孔叢子、嘉言〕。	齊から魯に歸る。齊の景公に政を問はれ、財を節するをすすむ。〔史記、孔子世家〕・〔孔子家語、曲禮子貢問〕。景公の稟邱の邑を以て養となさんとするを卻く。〔孔子家語、六本〕。	延陵の季子が其の長子を葬るを見、其の禮に合ふを言ふ。〔禮、檀弓下〕。	晉の魏獻子の政を爲すに賢を擧ぐるを聞いて之を賞す。〔孔子家語、正論解〕。	冬、晉の趙鞅、汝濱に城き、刑鼎を鑄て范宣子の爲る所の刑書を著すを見、晉の滅びることを豫言す。〔左氏、昭、二十九〕。	邾の隱公に禮を問はる。〔孔子家語、冠頌〕。	季桓子、魯を亂すにより、退いて詩書禮樂を修む。〔史記、孔子世家〕。

五〇二	五〇一	五〇〇	四九九	四九八	四九七	四九六
同一八	同一九	同二〇	同二一	同二二	同二三	同二四
同八	同九	同一〇	同一一	同一二	同一三	同一四
五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七
公山不狃の召に應じて往かんとし、子路が悅ばぬによつて中止す。〔左氏、定、八〕・〔論語、陽貨〕・〔史記、孔子世家〕。但、此の條は定公五年說、定公九年說がある。	陽虎晉に奔り、趙氏に據るを見て、趙氏に亂あらんことを言ふ。〔左氏、定、九〕。魯の中都の宰となる。〔孔子家語、相魯〕。	魯の相の事を攝行し、定公を相けて齊侯に夾谷に會す。〔左氏、定、十〕。	小司空となる。〔史記、孔子世家〕。	魯の司寇となる。〔史記、孔子世家〕。相の事を攝行し、少正卯を誅す。〔孔子家語、始誅〕。獄訟を斷ずるに衆議にはかり、公平を持す。〔孔子家語、好生〕。	桓子、齊の女樂を受けて政を聞かざるを以て、衞に行き、子路の妻の兄、顏讎由の家に居る。〔孟子、萬章上〕・〔史記、孔子世家〕。靈公から粟六萬を賜はる。〔史記、孔子世家〕。	衞を去つて陳に行かんとし、蒲人に止められて、また衞に歸り、蘧伯玉の家に居る。〔史記、孔子世家〕。衞を去つて鄭に行き、遂に陳に行き、また衞に行く。衞より又趙簡子の聘に應じて晉に行かんとし、河を渡らずして魯に歸る。〔論語、雍也〕・〔史記、孔子世家〕。

四九五	四九四	四九三	四九二	四九一	四九〇	
同二五	同二六	同二七	同二八	同二九	同三〇	
同一五	哀公元	同二	同三	同四	同五	
五八	五九	六〇	六一	六二	六三	
魯に在り。	呉子に聘せらる。〔國語、魯語〕・〔孔子家語、辨物〕。	魯を去つて衞に行く。靈公に軍陣のことを問はれ、俎豆のことは嘗て聞くも軍旅のことは未だ學ばずと辭して衞を去る。〔論語、衞靈公〕・〔史記、孔子世家〕。	曹を過ぎて容れられず、宋に行く。〔史記、孔子世家〕。宋の司馬桓魋が、途に要して殺さんとするに遭ひ、微服して去る。〔史記、孔子世家、宋世家〕。宋に在る時、宋君に長く國を保ち、官府を治める法を問はる。〔孔子家語、賢君〕。陳に行き、陳公周の臣となる。〔孟子、萬章上〕。陳に在つて魯の司鐸に災あり、宗廟に及ぶを聞き、其の桓・僖の廟なるを言ふ。〔左氏、哀、三〕・〔孔子家語、辨物〕。	陳より蔡に行く。〔史記、孔子世家〕。季桓子の喪に、康子に練して衰無き故を問はる。〔孔子家語、曲禮子貢問〕。	蔡より葉に行く。葉公に政を問はる。〔論語、子路〕・〔史記、孔子世家〕。葉より蔡に歸る。〔史記、孔子世家〕。子路をして長沮桀溺に津を問はしむ。〔論語、微子〕・〔史記、孔子世家〕。	陳蔡の間に在り、楚に聘せられしも、呉陳の亂に遭ひ、糧を絶たるること七日、從者病み

四八九	四八八	四八七	四八六	四八五	四八四	四八三
同三一	同三二	同三三	同三四	同三五	同三六	同三七
同六	同七	同八	同九	同一〇	同一一	同一二
六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇
疲れ、行くを果さず。〔論語、衞靈公〕・〔史記、孔子世家〕。子貢をして楚に至らしむ。〔史記、孔子世家〕・〔孔子家語、在厄困誓〕。楚の昭王、書社の地七百里を以て孔子を封ぜんとしたが令尹公子申に聞かれずして止む。孔子魯にかへる。〔史記、孔子世家〕。	魯に在り。	魯に在り。	魯に在り。	衞に行く。夫人幵官氏卒す。〔素王事紀〕。	魯に歸る。衞の孔文子に大叔を攻める策を問はれ、鳥よく木を擇ぶも、木豈に鳥を擇ばんやと稱して辭し、魯の季康子に幣を以て迎へられて魯に歸る。〔左氏、哀、十一〕。季康子に政を問はれ、政は正なりと答ふ。〔論語、顏淵〕。哀公・季康子共に孔子の聖德を尊び、之に侍するに國老を以てし、其の位、大夫に次ぐ。〔論語、集說〕。哀公に民を服する所以を問はれ、直を擧げることを進む。〔論語、爲政〕。季孫、田を以て賦課せんとし、冉有をして孔子に問はしむ。〔左氏、哀、十一〕・〔國語、魯語下〕。	季氏の聚斂を嚴責して、鼓を鳴らして責むべしといふ。〔論語、先進〕・〔孟子、離婁上〕。昭公の夫人卒し、其の弔

				に與かる。〔左氏、哀、十二〕。季孫子に螽ある所以を問はれ、司歴の官の過なるをいふ。〔左氏、哀、十二〕。
四八二	同三八	同一三	七一	子、鯉、卒す。〔史記、孔子世家〕。
四八一	同三九	同一四	七二	西方大野に狩し、叔孫氏の車の子鉏商、麟を獲。〔左氏、哀、十四〕。史記によつて春秋を作る。〔孟子、滕文公下〕・〔史記、孔子世家〕。齊の陳恆が其の君壬を弑した時、三たび之を伐たんことを請ふ。〔左氏、哀、十四〕。
四八〇	同四〇	同一五	七三	子路の死を惜しんで中庭に哭す。〔禮、檀弓上〕。
四七九	同四一	同一六	七四	夏四月己丑卒す。夏正即ち陰曆二月十一日に當る。〔先聖年月日考〕。但、四月には己丑無く、十八日の乙丑か、五月十二日の己丑ならんとする說あり。〔杜預、左氏傳注〕・〔春秋長曆〕。

〔孔子戒〕80 コウシノカイ　儒教で忠孝の道をいふ。佛教の戒にならつていふ。〔元史、廉希憲傳〕世祖爲㆓皇弟㆒、希憲年十九、見㆓其容止議論㆒、恩寵殊絕、希憲篤好㆓經史㆒、手不㆑釋㆑卷、一日方讀㆓孟子㆒、聞㆑召急懷以進、世祖問㆓其說㆒、遂以㆓性善義利仁暴之旨㆒爲㆑對、世祖嘉㆑之、目曰㆓廉孟子㆒、云云、時方尊㆓禮國師㆒、帝命㆓希憲㆒受㆑戒、對曰、臣受㆓孔子戒㆒矣、帝曰、孔子亦有㆑戒耶、對曰、爲㆑臣當㆑忠、爲㆑子當㆑孝、孔子之戒、如㆑是而已。

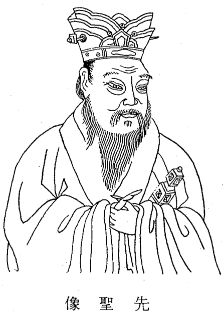
〔孔子顏〕81 コウシガホ　謹嚴其のものといつた顏付。〔浮世親仁形氣、二〕孔子顏して、分別臭い顏。いやながら不斷行儀固く。

〔孔子教〕82 コウシケウ　孔教(59)に同じ。

〔孔子祭〕83 コウシサイ　孔子の祭。民國三年、徐世昌が大總統の時、政治會議の決議により國家の祀禮を定めた時、大祀として大總統が親祭することとした。其の後、國民黨の唯物思想に驅られ、南京大學院から廢止令が出たが、民國十八年、一般の要望により、記念式の形式を以て復活した。孔子祭の興廢は、亂世排孔、治世尊孔として民國の治亂を物語るものである。釋采(**11**―**40129**‥31)・釋奠(**11**―**40129**‥64)を見よ。

〔孔子贊〕84 コウシノサン　孔子の德を贊した文。司馬遷の史記孔子世家贊を始め、晉の陸機・摯虞、宋の太祖・米芾等に此の作がある。〔史記、孔子世家贊〕太史公曰、詩有㆑之、高山仰止、景行行止、雖㆑不㆑能㆑至、然心鄕㆓往之㆒、余讀㆓孔氏書㆒、想㆓見其爲㆒㆑人、適㆑魯、觀㆓仲尼廟堂車服禮器㆒、諸生以㆑時習㆓禮其家㆒、余低回留㆑之、不㆑能㆑去云、天下君王至㆓于賢人㆒衆矣、當時則榮、沒則已焉、孔子布衣、傳㆓十餘世㆒、學者宗㆑之、自㆓天子王侯㆒、中國言㆓六藝㆒者、折㆓中於夫子㆒、可㆑謂㆓至聖㆒矣。〔米芾、孔子贊〕孔子孔子、大哉孔子、孔子以前、既無㆓孔子㆒、孔子以後、更無㆓孔子㆒、孔子孔子、大哉孔子。

〔孔子廟〕85 コウシベウ　孔廟・聖廟・文廟・聖堂ともいふ。孔子は魯の哀公十六年に歿したが、翌十七年、哀公は廟を曲阜闕里の舊宅に建て、孔子の衣冠琴車書を藏し、卒を置いて守らしめた。これを孔子廟の始とする。北魏の時、漢代に孔子を封じて宣尼公としたことから宣尼廟といふ。北朝齊の時、郡學の坊內に孔顏廟をたて、唐の太宗の貞觀四年、州縣に詔して孔子廟を建てしめた。明・清はこれを文廟といふ。文廟(**5**―**13450**‥848)を見よ。〔史記、孔子世家〕孔子葬㆓魯城北泗上㆒、弟子皆服㆓三年㆒、三年心喪畢、相訣而去、則哭、各復盡㆑哀、或復留、唯子貢廬㆓於冢上㆒、凡



先聖像
（三才圖會）

【孔子世系】

〔殷〕微子啓弟仲衍―宋公稽―丁公申―閔公恭―弗父何―宋文周―世父勝―正考父―孔文嘉
木金父（遷㆑魯）―孔祈父―防叔―伯夏―叔梁紇
(1)孔子―(2)鯉（伯魚）―〔以上周、春秋代〕―(3)伋（子思）―(4)白（子上）―(5)求（子家）
(6)箕（子高）―(7)穿（子高）―(8)謙（子順）―〔以上周、戰國代〕―鮒
　(9)遷（子襄）―(10)忠（子貞）
(11)武（子威）―(12)延年―(13)霸（次孺）―(14)福―(15)房
(16)均（長平）―〔以上前漢〕―(17)志―(18)損―(19)曜―〔以上後漢〕―(20)完
　讚
(21)羨（子餘）―〔以上魏〕―(22)震（伯起）―(23)嶷（成功）―(24)撫―(25)懿―〔以上晉〕
(26)鮮（鮮之）―(27)乘（敬山）―(28)靈珍―(29)文泰―(30)渠
(31)長孫―〔以上南北朝〕―(32)嗣悊―〔以上隋〕―(33)德倫―(34)崇基―(35)璲之
(36)萱―(37)齊卿―(38)惟晊―(39)策―(40)振
(41)昭儉―(42)光嗣―〔以上唐〕―(43)仁玉―〔以上五代〕―(44)宣（不疑）―(45)延世（茂先）―(46)聖佑
　延澤―宗愿
(47)若蒙
若虛―(48)端友
　端操―〔南宗〕―(49)玠―(50)搢―(51)文遠―(52)萬春―(53)洙
　　〔北宗〕―①璠―②拯
　　　③摠―④元措
　　　　元紘―之固―⑤湞―〔以上宋・金〕
端立―琥―拂―元用―之全―⑥治―⑦思誠〔北宗終〕
　元孝―之厚―浣―(54)思晦―(55)克堅―〔以上元〕―(56)希學（士行）
(57)訥（言伯）―(58)公鑑（昭文）―(59)彥縉（朝縉）―(60)承慶（永祚）―(61)宏緒（以敬）
(62)聞韶（知德）―(63)貞幹（用濟）―(64)尚賢（象之）―〔以上明〕
　貞寧―尚坦―(65)衍植（懋甲）―(66)興燮（起呂）―(67)毓（鍾在）
(68)傳鐸（振路）―(69)繼濩（體和）―(70)廣棨（京玄）―(71)昭煥（曝明）―(72)憲培（養元）
　憲增―(73)慶鎔（冶山）
(74)繁灝（文淵）―(75)祥珂（觀堂）―(76)令貽（燕庭）―(77)德成（達生）

六年、然後去、弟子及魯人、往從㆑冢而家者、百有餘室、因命曰㆓孔里㆒、魯世世相傳、以㆓歲時㆒奉㆓祠孔子冢㆒、而諸儒亦講㆑禮、鄕㆓飮大㆔射於孔子冢㆒、孔子冢大一頃、故所㆑居堂、弟子內、後世因廟、藏㆓孔子衣冠琴車書㆒、至㆓于漢㆒二百餘年不㆑絕、高皇帝過㆑魯、以㆓太牢㆒祠焉、諸侯卿相至、常先謁、然後從㆑政。〔孔叢子、獨治〕哭㆓孔氏之別姓㆒、於㆓弗父之廟㆒、哭㆓孔氏㆒則於㆓夫子之廟㆒。〔隋書、禮儀志四〕後齊制新立㆑學必釋奠、禮㆓先聖先師㆒、每歲春秋二仲、常行㆓其禮㆒、每月旦祭酒領㆓博士已下及國子諸學生已上㆒、太學四門博士升㆑堂、助教已下太學諸生階下拜㆑孔揖㆑顏、日出行㆑事、而不㆑至者記㆑之、爲㆓一負㆒雨霑㆑服則止、學生每㆓十日㆒給㆑假、皆以㆓景日㆒放㆑之、郡學則於㆓坊內㆒立㆓孔顏廟㆒、博士已下、亦每月朝云。〔唐書、禮樂志五〕貞觀四年、詔㆓州縣學㆒皆作㆓孔子廟㆒。〔遼史、義宗倍傳〕太祖問㆓侍臣㆒曰、受命之君、當㆓事㆑天敬㆑神、有㆓大功德㆒者、朕欲㆑祀㆑之、何先、皆以㆑佛對、太祖曰、佛非㆓中國教㆒、倍對曰、孔子大聖、萬世所㆑尊、宜㆑先、太祖太悅、卽建㆓孔子廟㆒、詔㆓皇太子㆒春秋釋奠。〔春明夢餘錄〕京師文廟、在㆓城北國學之左㆒、元太祖置㆓宣聖廟於燕京㆒、以㆓舊樞密院㆒爲㆑之、成宗大德十年、京師廟成、明太祖改爲㆓北平府學廟㆒如㆑故。

【孔子履】86 コウシノリ　孔子の履いた靴。〔晉書、張華傳〕武庫火、華懼、列㆑兵固守、然後救㆑之、故累代之寶、及㆓漢高斬蛇劍・王莽頭・孔子履等㆒、盡焚焉。

【孔子逸語】87 コウシイツゴ　書名。十卷。清、曹廷棟撰。隋唐以前の諸經以外の書の中から孔子の言行を採錄したもの。論語の例に倣つて二十篇に分ち、每章の末に出典書を附記す。孫星衍の孔子集語は之に本づいて作る。

【孔子閒居】88 コウシカンキョ　禮記の篇名。〔禮、孔子閒居、疏〕鄭目錄云、名曰㆓孔子閒居㆒者、善㆓其無㆑倦而不㆑褻、猶使㆓一弟子侍㆒、爲㆑之說㆑詩著㆓其氏㆒言可㆑法也、退燕避㆑人曰㆓閒居㆒、此於㆓別錄㆒屬㆓通論㆒。

【孔子家語】89 コウシケゴ　書名。十卷。孔子の言語行事、及び門人との問對論義の語を集錄す。漢書藝文志に孔子家語二十七卷を載せ、著者を示さず、今は已に亡佚す。而して左傳序疏によると、嚴氏春秋の中に觀周篇なるものからの引用があつたやうであるが、この篇名が家語の篇名と一致する以外、兩漢を通じて家語に言及する者なく、鄭玄の如きすら家語を見たことはないといふ。今、傳へるものは、唐志に王肅注家語十卷とあるもので、魏の王肅が、名を孔安國に託し、左傳・國語・孟子・荀子・大戴禮・禮記・史記・說苑等の類を始とし、更に晏子・列子・韓非子、呂覽・新序・韓詩外傳・賈誼新書などから、孔子に關する記事を割裂織成して僞作したものである。王肅の僞作は後漢の鄭玄に對する勝心から起つたものであるとされてゐる。卽ち、鄭玄が出で今文・古文の學爭は定まり、學問の集大成者たる最高の位地は鄭玄に歸した。これに對して、王肅は鄭玄の六藝論を駁さうとして聖證論を著し、聖證論に於ける自說の根據の確實なことを證する旁證として孔子家語を作つたといふのである。只この書は流傳久しく、遺文佚事が散見してゐるので、唐以來其の僞書なるを知られながらも廢するに至らず、我が國では日本現在書目に既に收められ、又、德川家康は慶長四年に之を刊行した。その目凡て四十四篇。相魯・始誅・王言解・大婚解・儒行解・問禮・五儀解・致思・三恕・好生・觀周・弟子行・賢君・辯政・六本・辯物・哀公問政・顏回・子路初見・在厄・入官・困誓・五帝德・五帝・執轡・本命解・論禮・觀鄕射・郊問・五刑解・刑政・禮運・冠頌解・廟制解・辯樂解・問玉・行節解・七十二弟子解・姓解・記解・正論解・曲禮子貢問・曲禮子夏問・曲禮公西赤問。〔四庫提要、子、儒家類〕。

〘參考書〙【孔子家語】十卷 魏、王肅注。〔四庫提要、子、儒家類〕。【標題句解孔子家語】六卷 元、王廣謀撰。【孔子家語注】八卷 明、何孟春撰。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。【家語疏證】六卷 清、孫志祖撰。〔古今僞書考〕一卷 清、姚際恆。【增注孔子家語】十卷 太宰純撰。【補注孔子家語】十卷 岡白駒撰。【標箋孔子家語】十卷 千葉玄之撰。

【孔子之時】90 コウシノトキ　孔子の行が、みな時の宜しきにかなつて過不及のないこと。速かにすべき時は速かにし、仕ふべき時には仕へる類。〔孟子、萬章下〕孟子曰、伯夷聖之清者也、伊尹聖之任者也、柳下惠聖之和者也、孔子聖之時者也。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕伯夷之清、伊尹之任、孔子之時。

【孔子集語】91 コウシシフゴ　書名。㊀三卷。宋、薛據撰。孔子の語を編す。尚、秦漢の殘句も錄す。〔四庫提要、子、儒家類〕。〔百子全書、第二冊〕。㊁十七卷。清、孫星衍撰。孔子の言行を輯錄す。禮記・左氏傳・易十翼・論語・孝經・孟子・家語・孔叢子・史記孔子世家、弟子列傳等を除き、他の羣經傳注祕緯諸子又は唐宋人の書中から、孔子に關することを細大遺さず輯錄し、且つ其の出處を明記す。勸學・孝本・五牲・六藝上下・主德・臣術・交道・論人・論政・博物・事譜上下・雜事・遺讖・寓言上下の十四篇。〔平津館叢書、丁集、第二十―二十三冊〕。

【孔子準字】92 コウシジユンジ　池の名。山東省汶上縣治の堂上に在る。〔汶上縣志〕自㆓漢唐㆒以來、中有㆑池、以㆑石爲㆑之、外方內圓、刻㆓鯉魚四㆒、環注以㆑水、上不㆑在㆓水面㆒、下不㆑在㆑底、以示㆓爲政者中行之意㆒。

【孔子世家】93 コウシセイカ　史記の篇名。三十世家の一。孔子の事蹟を錄す。杜撰の嫌があるので、清の林春溥は孔子世家補訂一卷を撰して、史記の原文を改修してゐる。〔史記、太史公自序〕周室既衰、諸侯恣㆑行、仲尼悼㆓禮廢樂崩㆒、追㆓修經術㆒、以達㆓王道㆒、匡㆓亂世㆒反㆓之於正㆒、見㆓其文辭㆒、爲㆓天下㆒制㆓儀法㆒、垂㆓六藝之統紀於後世㆒、作㆓孔子世家㆒第十七。〔史記、一百三十〕。

【孔子生日】94 コウシセイジツ　孔子は周の靈王の二十年十月庚子の日に生れた。（これには異說もある。孔子の條參照）。夏正を以て之を推せば八月二十七日に當り、國民政府は、陽曆八月二十七日を定めて孔子の誕辰となし、祀典を擧行した。

【孔子穿㆑珠】95 コウシタマヲウガツ　孔子が九曲の珠の穴に絲を貫かうとして能はず、桑閒の女子に敎へられ、蟻に絲をつけて蜜を以て導き貫通させたといふ傳說。〔祖庭事苑〕世傳、孔子厄㆓於陳㆒、穿㆓九曲珠㆒、遇㆓桑閒女子㆒、授㆑之以㆑訣云、密爾思㆑之、思㆑之密爾、孔子遂曉、乃以㆑絲繫㆑螘、引㆑之以㆑蜜而穿㆑之。

【孔子百觚】96 コウシヒヤクコ　孔子が酒を嗜み、百の酒壺を傾けたといふこと。恐らく論語、鄕黨篇の、唯酒無㆑量不㆑及㆑亂などの語による揑造であらう。〔孔叢子、儒服〕平原君與㆓子高㆒飮、強㆓子高酒㆒曰、昔有㆓遺諺㆒、堯舜千鍾、孔子百觚、子路嗑嗑、尙飮㆓十榼㆒、古之聖賢、無㆑不㆑能㆑飮也、吾子何辭焉。

【孔子編年】98 コウシヘンネン　書名。五卷。宋、胡仔撰。世に胡舜陟の撰といふが、舜陟の序に依れば、官を罷めて靜江に歸る日、子の仔に命じて撰ばしめたもの。論語を主とし、春秋三傳・禮記・家語・史記世家等の孔子の言行を、歲を按じて編したもので、強ひて編年體とした所に多少の無理がある。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【孔子封號】99 コウシノホウガウ　魯の哀公十六年四月己丑、孔子の卒するや、哀公が諡して尼父と稱したのに始まり、以後、歷代改稱して一ならず。今、左表に列擧する。

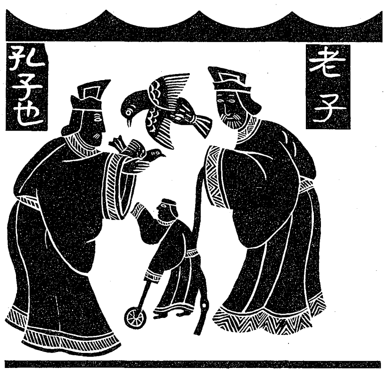
封號	朝代	帝	年月
尼父	春秋、魯	哀公	十六年四月
褒成宣尼公	漢	平帝	元始元年夏五月
文聖尼父	北魏	文帝	太和十六年二月丁未
鄒國公	北周	宣帝	大象二年三月丁亥
先師尼父	隋	文帝	開皇
宣父	唐	太宗	貞觀十一年
太師	唐	高宗	乾封元年正月辛卯
隆道公	唐	中宗	嗣聖七年十月
文宣王	唐	玄宗	開元二十七年
元聖文宣王	宋	眞宗	大中祥符元年十一月戊午
至聖文宣王	宋	眞宗	大中祥符五年十二月壬申

大成至聖文宣王	元	武宗	大德十一年七月辛巳
至聖先師孔子	明	世宗	嘉靖九年
大成至聖文宣先師孔子	清	世祖	順治二年

〔左氏、哀、十六〕夏四月己丑、孔丘卒、公誄レ之、云云、嗚呼哀哉尼父、無レ所二自律一。〔會箋〕鄭玄云、尼父因二且字一以爲二之諡一、謂下諡二孔子一爲中尼父上、據二隱八年以レ字爲レ諡爲二此解一也。〔漢書、平帝紀〕元始元年夏五月、封二孔子後孔均一爲二褒成侯一、奉二其祀一、追二諡孔子一曰二褒成宣尼公一。〔魏書、高祖紀〕太和十六年二月丁未、改二諡宣尼一曰二文聖尼父一。〔周書、宣帝紀〕(大象)二年二月丁巳、帝幸二露門學一、行二釋奠之禮一、三月丁亥詔曰、云云、且褒成啓號、雖下彰二故實一、旌中崇聖績上、猶有二闕如一、可三追封爲二鄒國公一。〔琅邪代醉編、孔子稱號〕隋文帝贈爲二先師尼父一。〔唐書、禮樂志五〕貞觀十一年、尊二孔子一爲二宣父一。〔唐書、高宗紀〕乾封元年正月辛卯、幸二曲阜一、祠二孔子一、贈二太師一。〔唐書、武后紀〕天授元年十月、封二周公一爲二褒德王一、孔子爲二隆道公一。〔唐書、禮樂志五〕開元二十七年詔、夫子既稱二先聖一、可三諡曰二文宣王一。〔宋史、眞宗紀一〕大中祥符元年十一月戊午、幸二曲阜縣一、謁二文宣王廟一、云云、加二諡孔子一曰二玄聖文宣王一。〔宋史、眞宗紀三〕大中祥符五年十二月壬申、改二諡玄聖文宣王一曰二至聖文宣王一。〔元史、武宗紀一〕大德十一年七月辛巳、加二封至聖文宣王一爲二大成至聖文宣王一。〔明會典〕嘉靖九年、釐二正祀典一、始爲二木主一、題曰二至聖先師孔子神位一。〔皇朝通考、學校考、祠祭褒贈錄後〕順治二年、祭酒李若琳請、易二至聖先師孔子神位一、爲二大成至聖文宣先師孔子一。

〖孔子改制考〗100 コウシカイセイカウ 書名。二十一卷。清、康有爲撰。孔子を以て改制の素王とし、千古に進退し、法律を制定し、以て來者に貽した事實を證す。其の目は上古茫昧無稽考・周末諸子並起創教考・諸子創教改制考・諸子改制托古考・諸子爭教互攻考・墨老弟子後學考・儒教爲孔子所創考・孔子爲制法之王考・孔子創儒教改制考・六經皆孔子改制所作考・孔子改制托古考・孔子改制法堯舜文王考・孔子改制弟子時人据舊制問難考・諸子攻儒考・墨老攻儒尤盛考・儒墨交攻考・儒攻諸子考・儒墨最盛並稱考・魯國全從儒教考・儒教偏傳天下戰國秦漢閒尤盛考・武帝後儒教一統考。清朝改革失敗後、勅命に依つて康有爲が絶版したので、傳本は極めて少い。

〖孔子見二老子一〗101 コウシラウシニマミユ 孔子が周に行つて老子に會見し禮を問うたといふ故事。〔史記、孔子世家〕魯南宮敬叔言二魯君一曰、請與二孔子一適レ周。魯君與二之一乘車、兩馬、一豎子一、俱適レ周問レ禮、蓋見二老子一云。



孔子見老子畫像（金石索）

〖孔子三朝記〗102 コウシサンテウキ 書名。七篇。孔子が魯の哀公に對へた語を集めたもの。孔子は三度、哀公に朝見したから三朝といふ。其の語は、今、大戴禮に錄す。〔漢書、藝文志〕孔子三朝七篇。〔注〕師古曰、今大戴禮有二其一篇一、蓋孔子對二魯哀公一語也、三朝二見公一、故曰二三朝一。〔蜀志、秦宓傳、注〕劉向七略曰、孔子三見二哀公一、作二三朝記七篇一、今在二大戴禮一、臣松之案、中經部有二孔子三朝八卷一、一卷目錄、餘者所謂七篇。

〖孔子生卒考〗103 コウシセイソツカウ 書名。一卷。大井守靜撰。天和元年刊。孔子の生卒を考證したもの。

〖孔子聖說考〗104 コウシセイセツカウ 書名。二卷。平田篤胤撰。論語等から孔子の言を摘出して、其の眞聖を明かにしたもの。

〖孔子鑄二顏淵一〗105 コウシガンエンヲイル 孔子が顏淵の德を養成したことを、金を鑄るに喩へた語。〔法言、學行〕或問、世言鑄レ金、金可レ鑄歟、曰、吾聞、覿二君子一者、問レ鑄レ人、不レ問レ鑄レ金、或曰、人可レ鑄歟、曰、孔子鑄二顏淵一矣、或人踧爾曰、旨哉、問レ鑄レ金得レ鑄レ人。

〖孔子不レ見レ母〗106 コウシハハヲミズ 孔子が四方に遊學して母の臨終に間にあはなかつたといふこと。〔莊子、盜跖〕孔子不レ見レ母、匡子不レ見レ父、義之失也。

〖孔子閉房記〗107 コウシヘイバウキ 書名。魏の高祖の時、道士の桓法嗣が獻じたもの。三國魏の太和九年に、讖緯の書と共に燒き棄てるべきことを命ぜられた。〔魏書、高祖紀上〕自レ今圖讖祕緯、及名爲二孔子閉房記一者、一皆焚レ之。

〖孔子無二黔突一〗108 コウシケントツナシ 孔子は道を弘めるため、天下を周遊して家に落ちつく閒がなかつたから、竈の煙突が黑まない。黔突は黑ずんだ煙突。孔席不レ暖(162)を見よ。〔淮南子、脩務訓〕孔子無二黔突一、墨子無二煖席一。〔注〕黔、言下其突竈不レ至二於黑一、坐席不レ至二於溫一、歷二行諸國一、汲中汲於行上レ道也。

〖孔子履歷考〗109 コウシリレキカウ 書名。角田簡撰。文化十一年稿。孔子の一生涯の事蹟を考證論說したもの。

〖孔子正學義略抄〗110 コウシセイガクギリヤクセウ 書名。一卷。座光寺爲祥撰。論語中の語句を抄出して、孔子の學問の正義を論述したもの。

〖孔子正學入神編〗111 コウシセイガクニフシンヘン 書名。一卷。座光寺爲祥撰。寬政十二年成る。孝經・大學・中庸・論語・詩經・書經・禮記・易經・春秋・家語・淮南子等によつて、孔子の至誠神に入るを論述したもの。

〖孔子門前賣文章〗112 k‘ung^2 tzŭ^3 men^2 ch‘ien^2 mai^4 wen^2 chang 孔子の家の前で本をうる。釋迦に說法の意。

〖孔子不レ飮二盜泉之流一〗113 コウシタウセンノナガレヲノマズ 孔子は、盜泉といふ名すら惡んで其の水を飮まぬ。盜泉は山東省泗川縣にある泉。〔鹽鐵論、晁錯〕文學曰、孔子不レ飮二盜泉之流一、曾子不レ入二勝母之閭一、名且惡レ之、而況爲二不臣不子一乎。

〖孔子之勁拓二國門之關一〗114 コウシノケイコクモンノクワンヲアグ 孔子は力が強くて、國門の門關を持ち擧げる程であつた。拓は擧。〔列子、說符〕孔子之勁拓二國門之關一、而不二肯以レ力聞一。〔注〕勁、力也、拓、擧也、孔力能擧二門關一、而力名不レ聞者、不レ用二其力一也。

〖孔子正學龍園正名錄〗115 コウシセイガクリヨウエンセイメイロク 書名。四卷。附錄、一卷。座光寺爲祥撰。天明五年成る。道德・仁義・智・聖・孝弟・忠信・君子・小人等凡そ四十二義につき、其の字義を正し、原義を說明したもの。附錄は名辨・博辨・和漢高義・東韻二則等を說明す。

【孔至】116 コウシ 唐の人。若思の子。字は惟微。官は著作郞。氏族の學に精しく、韋述・蕭穎士・柳冲と名を齊しくし、著に百家類例がある。〔唐書、一百九十九〕。

【孔思】117 コウシ 明の陶成(欝林の人)(**11**－41705··108)の字。

【孔祇】118 コウシ 晉の人。愉の弟。字は承祖。官は功曹史。〔晉書、七十八〕。

【孔時】119 コウジ 字號。㊀明、魏大中(**12**－45872··247)の字。㊁明、宋端儀(**3**－7078··363)の字。

【孔邇】120 コウジ 甚だ近い。〔詩、周南、汝墳〕雖二則如レ燬、父母孔邇。〔傳〕孔、甚、邇、近也。

【孔周】121 コウシウ ㊀孔子と周公。孔姬。〔韓愈、赴二江陵一途中寄二贈王二十補闕・李十一拾遺・李二十六員外翰林三學士一詩〕生平企二仁義一、所レ學皆孔周。㊁春秋、衞の人。〔列子、湯問〕來丹垂レ涕曰、願子爲レ我謀、申他曰、吾聞、衞孔周、其祖得二殷帝之寶劍一、一童子服レ之、卻二三軍之衆一、奚不レ請焉、來丹遂適レ衞見二孔周一、執二僕御之禮一。㊂明、錢同愛(**11**－40563··408)の字。

【孔修】122 コウシウ 明、潘府(**7**－18236··86)の字。

【孔繡】123 コウシウ 清、張紱(**4**－9812··654)の字。

【孔戢】124 コウシフ 唐の人。戡の弟。字は方擧。官は殿中侍御史・京兆尹。〔唐書、一百六十三〕・〔舊唐書、一百五十四〕。

【孔車】125 コウシヤ 前漢の人。主父偃が貴幸せられた時は、賓客數千人で其の盛を極めたが、族死せ

られるに及んで一人も視る者が無かつたのに、孔車のみ獨り之を收め葬つたので、武帝に長者と稱せられた。〔前漢書、六十四〕。

【孔章】126（コウシヤウ） ❶甚だはつきりと顯かなこと。〔副島蒼海、謁二岳武穆之廟一詩〕帝鑑孔章靈在レ天。❷晉の雷孔章をいふ。孔章望斗(127)を見よ。❸字號。㋑陳、陸山才(**11－41708**・・326)の字。㋺明、易翼之(**5－13814**・・224)の字。㋩淸、項聖謨(**12－43343**・・75)の字。㊁淸、葉天賜(**9－31387**・・245)の字。

【孔章望斗】127（コウシヤウバウト） 晉の雷孔章が、斗・牛の間に紫氣のあるのを見て寶物が埋藏せられてゐるのを知り、豫章豐城縣を掘つて名劍を得たといふ故事。〔豫章記〕吳末亡、恆有二紫氣一、見二斗牛之間一、張華聞二雷孔章妙二達緯象一、乃要レ宿問二天文一、孔章曰、惟斗牛之間有二異氣一、是寶物也、精在二豫章豐城一、張華遂以二孔章一爲二豐城令一、至レ縣、掘深二丈、得二玉匣長八尺一、開レ之、得二二劍一、其夕斗牛氣不二復見一、孔章乃留二其一匣一而進レ之、劍至光耀煒曄、煥若二氣發一、後張華遇レ害、此劍飛入二襄城水中一、孔章臨レ亡、戒二其子一、恆以レ劍自隨、後其子爲二建安從事一、經二淵瀨一、劍忽於二腰間一躍出、遂視二見二龍相隨一焉。〔小野篁、令義解序〕孔章望斗之郊、無二微冤牢之氣一。

【孔彰】128（コウシヤウ） ❶甚だあきらか。〔書、伊訓〕聖謨洋洋、嘉言孔彰。❷明、陳嘉言(**11－41698**・・687)の字。

【孔璋】129（コウシヤウ） ❶字號。㋑三國魏、陳琳(**11－41698**・・600)の字。㋺南齊、李珪之(**6－14459**・・1079)の字。㋩淸、項聖謨(**12－43343**・・75)の字。❷明、袁孔彰(**10－34152**・・194)の一名。

【孔釋】130（コウシヤク） 孔子と釋迦。又其の教。孔佛。儒佛。〔南史、徐勉傳〕孔釋二教、殊レ途同レ歸。

【孔雀】131（クジヤク） ❶鳥の名。熱帶地方に產する。雄は形が大きく、美麗で長い尾を有し、雌は小さくて尾も短い。孔爵。孔鳥。〔周禮、地官、囿人、注〕今掖庭有二鳥獸一、自二熊虎孔雀一、至二於狐狸鳧鶴一備焉。〔漢書、南粤王趙佗傳〕孔雀二雙。〔揚雄、羽獵賦〕玄鸞孔雀翡翠垂レ榮。〔說苑、雜言〕君子愛レ口、孔雀愛レ羽、虎豹愛レ爪。〔後漢書、西南夷、哀牢傳〕孔雀・翡翠。❷川の名。新疆省焉耆縣の南。博斯騰泊から溢れ出て琦河となり、東南、尉犂縣の境に至つて孔雀河となり、それより東南、婼羌縣の西北に至り、塔里木河を合し、羅布泊に注ぐ。❸地名。新疆省尉犂縣治。❹南極の星の名。恒星(**4－10527**・・84)を見よ。〔淸會典圖、七十三、天文、恒星〕孔雀之右、異雀九星。❺後魏の元鷙(**1－1340**・・262)の字。❻洋裝した婦人のなまめくさまの喩。

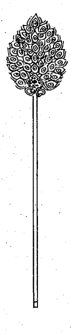
【孔雀裘】132（クジヤクキウ） 孔雀の毛で作つた衣。〔南齊書、文惠太子傳〕善製二珍玩之物一、織二孔雀毛一爲レ裘、光彩金翠過二於雉頭一矣。

【孔雀經】133（クジヤクキヤウ） 佛書名。三卷。唐、不空譯。佛母大孔雀明王經。孔雀明王の神呪を說く。〔大藏經、開帙、六〕。

【孔雀花】134（クジヤククワ） 草の名。濕地に生える。〔南越筆記〕瓊州有二孔雀花一、苦熱詩、葛衣半解方流汗、凍殺牆陰孔雀花、花性宜二陰溼一、對レ之生レ寒、故云。

【孔雀石】135（クジヤクセキ） 鑛石の名。銅の酸化物から成る鑛物。

【孔雀扇】136（クジヤクセン） 孔雀の尾で作つた扇。〔淸會典圖、輿衞圖、孔雀扇〕孔雀扇、用二綠緞一、上斂下擴、徑三尺、上闊三寸、中闊二尺七寸、下闊二尺、通繡二孔雀尾一、下約以二金花翠葉一、銜二寶石四一、柄如二壽扇之制一、通高一丈一尺八寸。



孔雀扇
（靑會典圖）

【孔雀屛】137（クジヤクヘイ） 孔雀を描いた屛風。唐の竇皇后の父、毅常が、屛風に二羽の孔雀を畫き、其の女に婚を請ふものに射させたが、高祖が遂に其の目を射て后を得た故事。〔唐書、竇皇后傳〕后父毅常曰、此女有二奇相一、且識不レ凡、何可二妄與レ人、因畫二二孔雀屛間一、請レ昏者使レ射二二矢一、陰約、中レ目則許レ之、射者閱二數十一、皆不レ合、高祖最後射、中二各一目一、遂歸二於帝一。〔張昱、醉題詩〕淸霄酒壓楊花夢、細雨鐙深孔雀屛。

【孔雀翎】138（クジヤクレイ） 孔雀の羽。淸代、官吏の帽子に附して品級を表はした飾。〔淸會典事例、禮部、冠服、冠服通例〕崇德元年定、戴翎之制、貝子戴二三眼孔雀翎、根綴藍翎一、鎭國公戴二雙眼孔雀翎、根綴藍翎一。

【孔雀明王】139（クジヤクミヤウワウ） 佛菩薩の名。佛母大孔雀明王。一頭四臂で、左手に開いた蓮花を持ち、右手に孔雀の尾羽を持つて金色の孔雀に乘る。密教にて除災、祈雨の修法に本尊とす。〔祕藏記〕孔雀王母菩薩、左手持二開蓮一、右手持二孔雀尾一。

【孔雀東南飛】140（クジヤクトウナンヒ） 樂府の名。漢末の有名な長篇。凡そ一千七百四十五字。作者未詳。焦仲卿夫妻のことを述ぶ。今、古詩爲二焦仲卿妻一作と題す。白樂天の樂府は、これ等に本づくといふ。今、古詩賞析卷七・玉臺新詠卷一・古詩源卷四に收錄す。〔玉臺新詠、一、無名氏、古詩爲二焦仲卿妻一作序〕漢末建安中、廬江府焦仲卿妻劉氏、爲二仲卿母所レ遣、自誓不レ嫁、其家逼レ之、乃沒レ水而死、仲卿聞レ之、亦自縊二于庭樹一、時傷レ之爲レ詩云爾。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕孔雀東南飛、五里一徘徊、十三能織レ素、十四學二裁衣一、十五彈二箜篌一、十六誦二詩書一、十七爲二君婦一、心中常苦悲。

【孔雀樓主人】141（クジヤクロウシユジン） 淸田絢の號。淸田儋叟(**7－17695**・・927)を見よ。

【孔爵】142（クジヤク） 孔雀(131)に同じ。〔漢書、罽賓國傳〕沐猴孔爵。〔吳志、孫休傳〕孔爵大豬。

【孔洙】143（コウシユ） 元の人。孔子の後。宋の南渡の初から衢州に寓した。世祖が衍聖公に封ぜんとしたが、洙は曲阜に居る者に遜つた。世祖之を嘉し、命じて國子祭酒・提擧浙東學校とした。〔明史、二百八十四〕。

【孔樹】144（コウジユ） 大きな樹木。大木。巨木。〔任昉、劉先生夫人墓誌〕參差孔樹、毫末成レ拱。

【孔肅】145（コウシユク） 明、甘惟寅(**7－21643**・・235)の字。

【孔循】146（コウジユン） 後唐の人。初、朱姓、或は趙姓を冒す。名は殷衡。梁の太祖の副使となる。蔣玄暉等と昭宗を弑せんとす。梁になつて姓名を改めた。官は明宗の時、橫海節度使。〔五代史、四十三〕。

【孔順】147（コウジユン） 戰國の人。穿の子。字は子愼。嘗て魏の相となる。〔前漢書、八十一〕。

【孔乘】148（コウジヨウ） 後魏の人。字は敬山。孔子の後、延興中、博學を以て孝廉に擧げらる。封は崇聖大夫。〔宋史、四百三十二〕。

【孔振】149（コウシン） 明、顧鐸(**12－43689**・・141)の字。

【孔壬】150（コウジン） 甚しくねぢけてゐること。甚しく姦惡を藏すること。又、其の人。壬は任に同じく、惡を包藏する義。孔任。〔書、皐陶謨〕何畏二乎巧言令色孔壬一。〔傳〕孔、甚也。〔蔡傳〕孔、大也、云云、大包二藏凶惡一之人也。

【孔任】151（コウジン） ❶孔壬に同じ。〔後漢書、鄧惲傳〕讒言弗レ庸、孔任不レ行。〔注〕孔、甚也、任、佞也。❷明、馬鉉(**12－44572**・・191)の字。

【孔翠】152（コウスイ） 孔雀と翡翠。〔左思、蜀都賦〕孔翠羣翔、犀象競馳。〔注〕劉曰、孔、孔雀、翠、翠鳥也。〔資治通鑑、齊紀〕(和帝、中興元年)以二金銀一爲二鎧冑一、具裝飾以二孔翠一。〔注〕孔翠、孔雀・翡翠也。

【孔嵩】153（コウスウ） ❶後漢、南陽の人。字は仲山。家貧しく、姓名を變じて新野縣阿里街の卒となり、街中の子弟、皆其の訓化に服したので、遂に公府に召され、南海太守にのぼつた。〔後漢書、一百十一〕。❷後蜀、蜀の人。一名は景。畫に巧。〔益州名畫錄〕。

【孔性】154（コウセイ） ❶孔子の性情。〔范曄、樂游應レ詔詩〕山梁協二孔性一。〔注〕向曰、山梁雌雉、飮啄自得、是合二孔丘之性一。❷物體の分子と分子との間に空隙のあること。

【孔聖】155（コウセイ） ❶はなはだすぐれた聖人。大聖。〔詩、小雅、十月之交〕皇父孔聖、作二都于向一。〔集傳〕孔、甚也、聖、通明也。❷孔子の尊稱。〔司馬彪、贈二山濤一詩〕感二彼孔聖歎一、哀二此年命促一。〔阮籍、詠懷詩〕孔聖臨二長川一、惜レ逝忽若レ浮。

【孔靖】156（コウセイ） 南朝宋の人。愉の孫。字は季恭。官は侍中。武帝の卽位に、開府儀同三司を加へられようとしたが受けなかつた。〔晉書、七十八〕・〔南史、二十七〕・〔宋書、五十四〕。

【孔齊】157（コウセイ） 元、曲阜の人。字は行素。號は靜齋。元末に兵を避けて四明に居る。著に至正直記がある。〔四庫提要、一百四十三〕。

【孔靜】158（コウセイ） はなはだ靜か。〔楚辭、九章、懷沙〕

眗兮杳杳、孔靜幽默。

【孔肖】159（コウセウ） はなはだよく似ること。〔韓愈、處州孔子廟碑〕像圖孔肖、咸在二斯堂一。

【孔昭】160（コウセウ） ❶はなはだあきらか。〔詩、小雅、鹿鳴〕我有二嘉賓一、德音孔昭。❷後魏、鄴の人。官は始光中、幽州刺史。爵は魯郡公。〔魏書、五十一〕。❸字號。㋑北齊、劉晝（2－2224‥489）の字。㋺唐、張又新（4－9812‥778）の字。㋩明、尹嘉賓（4－7631‥97）の字。㋥明、黃克晦（12－47926‥1099）の字。㋭明、顧潛（12－43689‥129）の字。㋬明、謝縉（10－35827‥135）の字。㋣明、鄭照（11－39647‥191）の字。㋠清、呂潛（2－3386‥105）の字。

【孔席】161（コウセキ） 孔子の坐席。孔席不レ暝を見よ。

〔孔席不レ暝〕162（コウセキアタタマラズ） 孔子の坐席は暖まる暇がなかつた。孔子が世を救ふに汲々として天下を周遊したことをいふ。〔班固、答賓戲〕聖哲之治、棲棲遑遑、孔席不レ暝、墨突不レ黔。〔書言故事、古今喩類〕駐不レ久者、孔席不レ暖、墨突不レ黔。

〔孔席不レ暇レ暖〕163（コウセキアタタマルニイトマアラズ） 孔席不レ暝に同じ。〔韓愈、爭臣論〕禹過二家門一不レ入、孔席不レ暇レ暖、而墨突不レ得レ黔。

【孔碩】164（コウセキ） ❶甚だ大きい。〔詩、小雅、楚茨〕執レ爨踖踖、爲レ俎孔碩。〔集傳〕碩、大也。❷明、林之蕃（6－14551‥339）の字。

【孔穿】165（コウセン） 戰國の人。字は子高。孔子の後。楚・魏・趙の三國が交〻聘したが就かず、儒家の語十二篇を著し讕言といふ。〔前漢書、八十二〕。

【孔僉】166（コウセン） 梁、山陰の人。五經に通じ、尤も三禮・孝經・論語を善くした。官は海鹽・山陰二縣の令。〔梁書、四十八〕・〔南史、七十一〕。

【孔鮮】167（コウセン） 南朝宋の人。字は宣之。孔子の後。性、恢廓大度。元嘉中、崇聖侯に封ぜらる。〔宋史、四百三十二〕。

【孔全】168（コウゼン） 元、鹿邑の人。孝を以て稱せらる。〔元史、一百九十七〕。

【孔曾】169（コウソウ） 孔子（78）と曾子（5－14299‥63）。〔國朝漢學師承記、序〕心契二孔曾一、權衡醇駁也。

【孔總】170（コウソウ） 金の人。字は元會。孔子の後。左氏春秋に通じ、衍聖公を襲ぎ、曲阜令を授けられ、奉直大夫に終る。〔金史、一百五〕。

【孔孫】171（コウソン） 清、魯得之（12－46013‥189）の字。

【孔堂】172（コウダウ） ❶孔子の學堂。孔門。又、孔子を祀る堂。〔晉書、石崇傳〕崇嘗入二太學一、見二顏回原憲之象一、顧而歎曰、若與レ之同升二孔堂一、去、人何必有レ閒。〔陸雲、與二陸典一書〕言偃昭二烈於孔堂一、員武邁二助於諸侯一。〔梁昭明太子、與二晉安王一令〕立レ身行レ道、終始如レ一、儻値二夫子一、必升二孔堂一。❷清、王豫（長興の人）（7－20823‥1032）の號。

【孔道】173（コウダウ） ❶大きな道路。大道。大通り。〔太玄經、羨〕孔道夷如、蹊路微如。〔注〕大道平易。❷山を穿ちぬいた道。トンネル。隧道。穴徑。〔漢書、西域傳上〕婼羌國、云云、去二長安一六千三百里、辟二在西南一、不レ當二孔道一。〔注〕師古曰、孔道者、穿二山險一而爲レ道、猶三今言二穴徑一耳。〔王先謙補注〕王念孫曰、顏說甚迂、孔道、猶レ言二大道一、老子道經、孔德之容、河上公注、孔、大也、太玄羨次五曰、孔道夷如、蹊路微如、孔字亦作レ空、張騫傳、樓蘭姑師小國當二空道一、是也、說文、孔、通也、故大道亦謂二之通道一、今俗語猶レ云二通衢大道一矣。❸孔子の道。〔韓愈、進學解〕孟軻好レ辯、孔道以明。

【孔達】174（コウタツ） 春秋、衞の大夫。卽ち莊叔。晉が諸侯を合して衞を伐つや、達は師を帥ゐて晉を伐つたが、陳侯は達を執へて衞の爲に媾和を晉に請うた。後二年、晉は達を衞に歸す。穆公の三年、晉宋曹に從つて清丘に同盟す。宋師が陳を伐つや、達は之を救ひ、遂に縊死して衞を晉の難より救つた。〔左氏、文、元・二・四・九・十七・宣、十二・十三・十四〕。

【孔坦】175（コウタン） 晉の人。愉の從子。字は君平。謚は簡。春秋傳に通ず。王導を佐け蘇峻を平げて侍中となつたが、後、導に忤らひ、廷尉となる。〔晉書、七十八〕。

【孔聃】176（コウタン） 孔子と老聃（9－28842‥289）。孔老。〔陳基、詩〕脫二身黨籍一走二吳楚一、託二跡丘園一求二孔聃一。

【孔宙】177（コウチウ） 後漢の人。字は季將。孔子十九世の孫で、孔融の父。官は泰山都尉。延熹六年卒す。其の碑は、今、曲阜孔廟にあり、書法精妙、隸書を習ふ者の範となる。〔後漢書、一百〕。

〔孔宙碑〕178（コウチウヒ） 曲阜の文廟にある漢碑の一。魯の孔宙の碑。書法精妙なので、尹宙碑と共に二宙と稱せらる。〔董逌、泰山都尉孔宙碑〕漢泰山都尉孔宙碑、延熹四年書、其序、擧二孝廉一、歷二元城令一、泰山都尉、此其所レ居官也、曰、躬忠恕以及レ人、兼二禹湯之辠レ己。〔鍾惺、闕里碑略記〕有二蔡邕孔君碑一、孔君者宙也、孔子十九世孫、卽融父。

【孔忠】179（コウチユウ） ❶春秋、魯の人。孔子の兄の子。字は子蔑。〔史記、六十七、孔忠、注、集解〕。❷漢の人。騰の子。字は子貞。官は博士。封は褒成侯。〔漢書、八十一〕。

【孔徵】180（コウチヨウ） 清、沈寶麟（6－17189‥622）の字。

【孔沈】181（コウチン） 晉の人。羣の子。字は德度。丞相司徒掾・琅邪王文學に召されたが並に就かず。魏顗・虞球・虞存・謝奉と倶に四族の儁と稱せられた。〔晉書、七十八〕。

【孔鼎】182（コウテイ） 孔廟のかなへ。〔李商隱、韓碑詩〕湯盤孔鼎有二述作一、今無二其器一存二其辭一。

【孔禎】183（コウテイ） 唐、山陰の人。進士。官は絳州刺史。〔唐書、一百九十九〕・〔舊唐書、一百九十上〕。

【孔鄭】184（コウテイ） 漢の孔安國（253）と後漢の鄭玄（11－39647‥120）。〔唐書、崔仁師傳〕時校書郞王元度、注二尚書毛詩一、抵二孔鄭舊學一、請二遂廢一、詔二諸儒一大議、博士以下不レ能レ詰、河閒王孝恭、請下與二孔鄭一並行上、仁師以下元度不二經條一、不レ合二大義一者上奏レ之。

【孔鳥】185（コウテウ） 孔雀。〔山海經、海內經〕有二翠鳥一、有二孔鳥一。〔注〕孔雀也。〔逸周書、王會解〕方人以二孔鳥一。〔注〕方人、戎別名、孔、與レ鸞相配也。〔枚乘、七發〕孔鳥鶤鵠。

【孔逷】186（コウテキ） 南齊、山陰の人。字は世遠。典故の學を好む。宋の昇明中、齊臺尙書儀曹郞となり、永明中、太子家令となる。〔南齊書、三十四〕・〔南史、四十九〕。

【孔登】187（コウトウ） 梁、休源の宗人。官は少府卿。〔梁書、三十六〕。

【孔騰】188（コウトウ） 漢の人。鮒の弟。字は子襄。高祖が魯を過ぎるや、太牢を以て孔子を祀り、騰を封じて奉祀君とした。惠帝の時、長沙太守となる。〔史記、四十七〕。

【孔德】189（コウトク） ❶老子の唱へた、虛無の大きい德。孔は大の意。一說に、孔は空、空虛でよく包容する德といふ。〔老子、二十一〕孔德之容、唯道是從。〔河上注〕孔、大也、有二大德一之人、無レ所レ不レ容、能受二垢濁一處二謙卑一也。〔注〕孔、空也、惟以レ空爲レ德、然後乃能動作從レ道。〔後漢書、馮衍傳下〕履二孔德之窈冥一。〔注〕老子曰、大道氾兮、又曰、孔德之容、窈兮冥兮、云云、孔之爲レ言、空也、窈冥、謂二幽玄一也、道以レ空爲レ主。❷（コント） 人名。フランス實證主義の哲學者。社會學の祖。Comte

【孔訥】190（コウトツ） 明の人。希學の子。字は言伯。洪武中、封を襲ぎ、建文の初、卒す。〔明史、二百八十四〕・〔明史稿、一百二十五〕。

【孔霸】191（コウハ） 漢の人。延年の子。字は次儒。謚は烈。昭帝の時の博士。宣帝の時、皇太子に經を授く。元帝の時、太師に拜せられ、關內侯を賜はり、褒成君と號す。〔前漢書、八十一〕。

【孔馬】192（コウバ） 漢の孔安國と後漢の馬融。〔經學歷史、經學中衰時代〕何晏論語集解、合二包周之魯論、孔馬之古論一、雜糅莫レ辨。

【孔方】193（コウハウ） 錢の異名。孔は穴、方は四角形。錢は外圓く、中心に方形の穴があるからいふ。〔顏氏家訓、勉學〕道レ錢則孔方。

〔孔方兄〕194（コウハウケイ） 錢を親しみ呼ぶ語。孔方は錢の異名。四角な穴があるからいふ。兄は親愛する意。〔晉書、魯褒傳〕褒著二錢神論一曰、親レ之如レ兄、字曰二孔方一、失レ之則貧弱、得レ之則富昌、無レ翼而飛、無レ足而走。〔黃庭堅、戲呈二孔毅父一詩〕管城子無二食肉相一、孔方兄有二絕交書一。

【孔褒】195（コウハウ） 後漢の人。融の兄。融が張儉を匿まひ、泄れて捕へられるや、請うて之に代り、罪に坐す。〔後漢書、一百〕。

【孔望】196（コウバウ） 山名。江蘇省東海縣の西。明一統志には北望山に作る。孔子が郯に往き禮を問うた時に、此の山に登つたから孔望と名づくともいふ。〔太平寰宇記〕在二朐山縣西南一百六十里一、郯城相近。〔輿地要覽〕孔子之レ郯問レ禮之時、嘗

登㆓此山㆒、故名。〔清一統志〕北望山當㆑在㆓海州西一百五十里馬嶺山左右㆒、與㆓郯城縣㆒接㆑界、而今州東南五里有㆓故城山㆒、俗亦呼爲㆓孔望㆒、輿圖因㆑之、其誤始㆓於明一統志㆒、以㆓古城㆒爲㆓孔望㆒、更以㆓孔望㆒爲㆓北望㆒也。

【孔白】197 コウハク　戰國、魯の人。伋の子。字は子上。群書に通ず。齊の威王の相國に召されたが就かず。〔史記、四十七〕。

【孔伯】198 コウハク　清、湯斌（**7**－**17874**‥112）の字。

【孔博】199 コウハク　清、馮溥（**12**－**44579**‥133）の字。

【孔範】200 コウハン　陳、會稽の人。字は法言。後主の狎客となつて愛幸せられ、孔貴人と結んで兄妹となる。陳の亡ぶや、隋の文帝は、其の姦諂を惡んで流罪に處した。〔南史、七十七〕。

【孔播】201 コウハン　元、唐山の人。字は誠甫。官は至元中、陝西河渠副使。後、徽州總管府判官。

【孔賓】202 コウヒン　晉、祈嘉（**8**－**24640**‥3）の字。

【孔旼】203 コウビン　宋の人。字は寧極。孔子の後。讀書を好み、動止、禮法に依る。行義を以て州にきこえ、粟帛を賜はる。官は祕書省校書郞。〔宋史、四百五十七〕・〔宋史新編、一百七十七〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、三十五〕。

【孔鮒】204 コウフ　秦の人。穿の孫。子愼の子。或は子鮒といふ。字は子魚、又、甲。孔子九世の孫。博く六藝に通じ、魏に居りて名士となる。始皇、召して魯國文通君とす。焚書の時、論語・尙書・孝經等の書を壁中に藏し、嵩山に隱居した。陳涉が楚王となるに及び、聘せられて太傅となる。著に孔叢子二十篇がある。〔史記、四十七〕・〔前漢書、八十一〕。

【孔武】205 コウブ　❶はなはだたけくつよい。〔詩、鄭風、羔裘〕羔裘豹飾、孔武有㆑力。〔傳〕孔、甚也。❷漢の人。忠の子。字は子成。文帝の博士となる。官は臨淮太守。〔前漢書、八十一〕。

【孔佛】206 コウブツ　孔子と釋迦。孔釋。〔劉銑、詩〕孔佛將㆑無㆑同。

【孔奮】207 コウフン　後漢、茂陵の人。字は君魚。劉歆に學ぶ。隴西の賊、隗茂を滅して武都太守となる。〔後漢書、六十一〕。

【孔文】208 コウブン　後漢、高岱（**12**－**45313**‥600）の字。

【孔廟】209 コウベウ　孔子のおたまや。孔子廟（85）を見よ。〔魏書、高祖紀〕太和十六年二月丁未、改㆓諡宣尼㆒曰㆓文聖尼父㆒、告㆓諡孔廟㆒。

〖孔廟碑〗210 コウベウヒ　曲阜の文廟には漢以後、多くの碑を立てたが、今、其等は十三棟の碑亭に保存せられてゐる。百石卒史碑（**8**－**22679**‥333）・禮器碑（**8**－**24844**‥33）・史晨碑（**2**－**3249**‥96）・孔羨碑（338）・廟堂碑（**4**－**9489**‥66）を見よ。

【孔壁】211 コウヘキ　❶孔子舊宅の壁。古文尙書等が出た處。今、曲阜の文廟に魯壁がある。孔壁古文を見よ。〔法書苑〕陽冰李大夫書云、其志在㆓古篆㆒、常痛㆓孔壁遺文、汲冢舊簡、年代浸遠、謬誤滋多㆒。〔柳貫、尊經堂詩〕濟南耄言出、孔壁發㆓神祕㆒。❷明、魯論（**12**－**46013**‥139）の字。

〖孔壁古文〗212 コウヘキノコブン　漢の武帝の末年（論衡正說篇には景帝の時といふ）、魯の共王により孔子の舊宅の壁中から發見せられた古文の經傳。其の數は古文尙書・禮記（儀禮）・論語・孝經の四書であつたといふが說文敍は此の外に春秋を加へる。その壁藏者には定說無く、書序はただ先人とし、漢紀尹敏傳には孔子八世の孫、孔鮒とし、家語後序には、漢の景帝の博士、孔襄とし、隋書經籍志には末孫の孔惠としてゐる。古文（**2**－**3233**‥438）の❶の㋺・古文尙書（**2**－**3221**‥451）を見よ。〔漢書、魯恭王餘傳〕恭王初好治㆓宮室㆒、壞㆓孔子舊宅㆒以廣㆓其宮㆒、聞㆓鐘磬琴瑟之聲㆒、遂不㆓敢復壞㆒、於㆓其壁中㆒得㆓古文經傳㆒。〔漢書、藝文志〕古文尙書者、出㆓孔子壁中㆒、武帝末、魯共王壞㆓孔子宅㆒、欲㆔以廣㆓其宮㆒、而得㆓古文尙書、及禮記・論語・孝經、凡數十篇㆒、皆古字也、共王往入㆓其宅㆒、聞㆘鼓㆓琴瑟鐘磬㆒之音㆖、於㆑是懼乃止不㆑壞。〔注〕師古曰、家語云、孔騰、字子襄、畏㆓秦法峻急㆒、藏㆓尙書・孝經・論語於夫子舊堂壁中㆒、而漢紀尹敏傳云、孔鮒所㆑藏、二說不㆑同、未㆑知㆓孰是㆒。〔論衡、正說〕至㆓孝景帝時㆒、魯共王壞㆓孔子教授堂㆒以爲㆑殿、得㆓百篇尙書於墻壁中㆒、武帝使㆓使者取視㆒、莫㆓能讀者㆒、遂祕㆓於中㆒、外不㆑得㆑見。

【孔父】213 コウホ　❶孔子をいふ。尼父。〔後漢書、申屠剛傳〕損益之際、孔父攸㆑歎。〔注〕說苑曰、孔子讀㆑易、至㆓損益㆒、則喟然而歎。❷複姓。〔元和姓纂〕微子之後、宋大司馬孔父嘉後、有㆓孔父氏㆒、亦爲㆓孔氏㆒。

〖孔父嘉〗214 コウホカ　春秋の人。孔子六世の祖。宋の司馬となつたが、華父督に殺され、其の子孫、魯に奔る。〔史記、孔子世家、孔子生㆓魯昌平鄕陬邑㆒、注〕索隱曰、家語、孔子、宋微子之後、宋襄公生㆓弗父何㆒、以讓㆓弟厲公㆒、弗父何生㆓宋父周㆒、周生㆓世子勝㆒、勝生㆓正考父㆒、考父生㆓孔父嘉㆒、五世親盡、別爲㆓公族㆒、姓孔氏、孔父生㆓子木金父㆒、金父生㆓睾夷㆒、睾夷生㆓防叔㆒、防叔畏㆓華氏之逼㆒而奔㆑魯、故孔氏爲㆓魯人㆒也。〔孔子家語、本姓解〕孔子、宋微子之後也、襄公生㆓弗父何㆒、弗父何生㆓宋父周㆒、周生㆓世子勝㆒、勝生㆓正考甫㆒、考甫生㆓孔父嘉㆒、五世親盡、別爲㆓公族㆒。

【孔墨】215 コウボク　孔子と墨翟。〔韓非子、顯學〕孔墨之後、儒分爲㆑八、墨離爲㆑三。〔韓非子、八說〕博習辯智如㆓孔墨㆒、孔墨不㆓耕耨㆒、則國何有焉。〔呂覽、當染〕孔墨之後學、顯㆓榮于天下㆒者衆矣。〔梁書、帝紀總論〕抑㆓揚孔墨㆒、流㆓連釋老㆒。

【孔孟】216 コウマウ　孔子と孟子。〔張協、洛禊賦〕主㆓希孔孟㆒、賓㆓慕顏柳㆒。〔性理大全、道統〕嗣㆓往聖㆒、開㆓來哲㆒、發㆓天理㆒、正㆓人心㆒、使㆘孔孟絕學獨盛㆓於宋朝㆒、而超㆗出乎百代㆖。〔蘇軾、次㆓韻周開祖長官見㆑寄詩〕仕道固應㆑慙㆓孔孟㆒、扶顚未㆑可㆑責㆓由求㆒。

〖孔孟學〗217 コウマウノガク　孔子及び孟子の說いた仁義道德の學問。儒學。〔性理大全、朱子〕近代諸儒有㆑志㆓乎孔孟周程之學㆒者、亦豈能以造㆓其閫域㆒哉。

〖孔孟之道〗218 コウマウノミチ　孔子及び孟子の說いた道。〔性理大全、道統〕堯舜禹湯文武周公生而道始行、孔子孟子生而道始明、孔孟之道、周程張子繼㆑之、周程張子之道、文公朱先生又繼㆑之、此道統之傳、歷㆓萬世㆒而可㆑考也。

〖孔孟編年〗219 コウマウヘンネン　書名。四卷。清、狄子奇撰。胡仔の孔子編年の體例に倣つて增補刪定し、春秋に依つて年を編し、綱目の體によつて、孔子の出處、弟子、遊歷の地の時事に至る迄を揭ぐ。〔清史稿、藝文志〕。

【孔猛】220 コウマウ　甚しく強い。〔枚乘、七發〕毅武孔猛、袒裼身薄。〔注〕善曰、毛萇詩傳曰、孔、甚也。

【孔明】221 コウメイ　❶甚だ明か。〔詩、小雅、信南山〕祀事孔明。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕神監孔明。❷山名。雲南省瀾滄縣の西。南に尖峯山があり、東南は車里に達す。〔滇程記〕自㆓光山㆒行二日、至㆓大川原㆒、廣可㆓千里㆒、蠻人叅㆓象於此㆒、旁有㆑山、曰㆓孔明寄箭處㆒、有㆓古碑㆒、夷人亦謂㆓之孔明碑㆒。❸字號。㋑三國蜀、諸葛亮（**10**－**35743**‥45）の字。㋺三國魏、胡昭（**9**－**29400**‥210）の字。㋩後魏、裴景融（**10**－**34362**‥117）の字。㋥明、高鑑（**12**－**45313**‥132）の字。㋭明、鄭伉（**11**－**39647**‥38）の字。

〖孔明車〗222 k‘ung^{3} ming^{2} ch‘ê^{1}　水車。

〖孔明燈〗223 k‘ung^{3} ming^{2} têng^{1}　前に圓い硝子を嵌めた手提洋燈。

〖孔明求壽〗224 コウメイキウジュ　二簧劇の一。一名、七星燈。孔明が魏を伐つ故事を仕組んだもの。

〖孔明臥龍〗225 コウメイグワリョウ　蒙求の標題。蜀漢の諸葛孔明が未だ志を得ず、田野に隱遁してゐた時、徐庶が劉備に、諸葛孔明は臥龍なり、將軍豈にこれを見るを願ふかといった故事。〔蜀志、諸葛亮傳〕時先主屯㆓新野㆒、徐庶見㆓先主㆒、先主器㆑之、謂㆓先主㆒曰、諸葛孔明者臥龍也、將軍豈願㆑見㆑之乎。〔蒙求、上、孔明臥龍〕蜀志、諸葛亮、字孔明、琅邪陽都人、躬耕㆓隴畝㆒、好爲㆓梁父吟㆒、每自比㆓管仲樂毅㆒、時人莫㆓之許㆒、惟崔州刺史徐庶與㆑亮友善、謂爲㆓信然㆒、時先主屯㆓新野㆒、徐庶見㆑之謂曰、諸葛孔明臥龍也、將軍豈願㆑見㆑之乎、此人可㆓就見㆒、不㆑可㆓屈致㆒、宜㆓枉㆑駕顧㆑之。

〖孔明銅鼓〗227 コウメイドウコ　蜀漢の諸葛孔明が南征の時作つたといふ銅鼓。實は南方人の製作で、後人が名を孔明に託したもの。〔顧圖河、諸葛銅鼓詩〕武侯未㆑築㆓祁山壘㆒、先出㆓偏師㆒渡㆓瀘水㆒、人言孟獲不㆑足㆑擒、股掌玩㆑之徒戲耳、豈知北伐用㆓南夷㆒、正欲㆔中原掃㆓讎恥㆒、棘人笮馬供㆓鞭驅㆒、羅鬼烏蠻皆效㆑死、至㆑今銅鼓散㆓山谷㆒、峒戶流傳尙㆓誇侈㆒、精㆓銅其質㆒革㆓其音㆒、想見傳㆑枹兵四起、鳥蛇龍虎倏離合、戎機萬變人難㆑擬、曾傳八陣有㆓遺磧㆒、更聞旗臺餘㆓故址㆒、此鼓千年尙宛存、血戰消磨土花紫、君不㆑聞定軍山下陰雨中、山鳴

雷動聲隆隆、埋レ鼓鎮レ蠻功未レ畢、反レ旗走レ敵恨無レ窮。

【孔目】228（コウモク） ㊀官名。文書を査證することを掌る。唐に集賢殿孔目あり、宋代、內外の役所に多くこれを置く。元代は都目といつて諸司に置き、明・清には翰林院にのみ置いた。〔唐書、百官志二〕校書四人、正九品下、正字二人、從九品上、有二中使一人、孔目官一人一。〔明會典〕翰林院正官學士一員、侍讀侍講學士各二員、首領官孔目一員。㊁條目。〔隋煬帝、答二智顗一書〕本敕二所司一、具條二孔目一、無レ慮二零漏一。

【孔門】229（コウモン） 孔子の門人。孔子の學を受ける者。〔論衡、問孔〕論者皆云、孔門之徒、七十子之才、勝二今之儒一。〔朱子全書、道統、顏曾思孟〕孔門只一箇顏子、合下天資純精。

〔孔門四科〕230（コウモンシクワ） 孔子が陳蔡の厄に從つた弟子の長所を評した時に擧げた四つの學科目。即ち德行（顏淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓）・言語（宰我・子貢）・政事（冉有・季路）・文學（子游・子夏）。四科については伊藤仁齋の論など見るべきである。〔論語、先進〕子曰、從二我於陳蔡一者、皆不レ及レ門也、德行、顏淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓、言語、宰我・子貢、政事、冉有・季路、文學、子游・子夏。〔集注〕程子曰、四科、乃從二夫子於陳蔡一者爾、門人之賢者固不レ止レ此、曾子傳レ道而不レ與焉、故知二十哲世俗論一也。〔伊藤仁齋、論語古義〕論曰、德行者聖學之全體、兼二言語・政事・文學三者一、豈可下作二一科一言上之哉、而三者亦不レ本二於德行一、則言語雖レ可レ聞、徒辨而已矣、政事雖レ可レ見、徒法而已矣、文學雖レ可レ取、徒博而已矣、不レ足二以爲レ學也、孟子稱、冉牛・閔子・顏淵、則具レ體而微、而三子皆在二德行科一、則聖人之學者可レ知矣、後世之論レ學、或異二乎此一、不レ知所レ謂學者、果何事哉。

〔孔門十哲〕231（コウモンノジッテツ） 孔子の門人中、學德のすぐれた者十人を特に稱した語。唐の開元中、十哲の目を立てた。唐會要に「開元二十七年詔す、十哲竝に宜しく褒贈すべし。」と。程顥が十哲を世俗の論とするのは、曾子が與からぬからである。孔子の賢者には十哲の外に曾子・有子其の他に多し。人材の盛なることは、固より十哲に止まらないが、恐らくは、十哲の右には出まい。ただ曾子は年最も少く、十哲に後れて老死したから與らぬのである。曾子を遺したとて、世俗の論とすることは出來まい。德行には顏淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓、言語には宰我・子貢、政事には冉有・季路、文學には子游・子夏。孔門四科を見よ。

〔孔門弟子〕232（コウモンテイシ） 孔子の門人。史記、孔子世家には弟子三千人、六藝に通ずるもの七十二人といひ、仲尼弟子傳には六藝に通ずるもの七十七人といふ。孔子家語は七十二人、弟子解には七十六人を列記してゐる。尙、孔門弟子に就いて記したものには、清の朱彝尊の孔子門人考・孔子弟子考、袁鈞の孔子弟子目錄、林春溥の孔門師弟年表、崔述の洙泗考信餘錄等がある。

【孔暘】233（コウヤウ） 字號。㊀明、莊昶（**9**―**31035**‥104）の字。㊁明、文皓（**5**―**13450**‥106）の字。

【孔養】234（コウヤウ） 明、馬森（**12**―**44572**‥332）の字。

【孔約】235（コウヤク） 甚だ要點を得ること。〔班固、幽通賦〕守二孔約一而不レ貳兮。〔注〕善曰、曹大家曰、孔、甚也、云云、言、聖人所レ守甚約、而無二二端一。

【孔愉】236（コウユ） 晉、山陰の人。字は敬康。諡は貞。惠帝の末、亂を避けて新安山中に居り、孫氏と改姓す。官は建興の初、丞相掾となり、成帝の時、會稽內史。封は餘不亭侯。〔晉書、七十八〕。

〔孔愉放龜〕237（コウユハウキ） 蒙求の標題。晉の孔愉が龜を救つてやつたお蔭で出世した故事。〔蒙求、下、孔愉放龜〕愉嘗行經二餘不亭一、見下籠二龜於路一者上、愉買而放二之溪中一、龜中流左顧者數四、及レ是鑄二侯印一、而印龜左顧、三鑄如レ初、印工以告、愉乃悟、遂佩焉。

【孔融】238（コウユウ） 後漢、魯の人。孔子の後裔。字は文擧。幼にして俊才あり、獻帝の時、北海相となり學校を興し儒生を重じ、後、太中大夫となる。晩年、曹操に忌まれて誅せらる。著に孔北海集がある。〔後漢書、一百三〕・〔三國志、十二〕・〔英雄記鈔〕。

〔孔融坐滿〕239（コウユウザマン） 蒙求の標題。後漢の孔融は好んで後進を誘益したので、閑職に退いても常に賓客の絶間がなかつた故事。〔蒙求、下、孔融坐滿〕後漢孔融、好レ學博涉多二該覽一、云云、性寬容少レ忌、好レ士喜誘二益後進一、及レ退二閑職一、賓客日盈レ門、常歎曰、坐上客恆滿、樽中酒不レ空、吾無レ憂矣。

〔孔融讓果〕240（コウユウジヤウクワ） 蒙求の標題。後漢の孔融が四歲の時、諸兄と梨棗を食ふに當り、自身が最も年少なるを以て、最小のものを取つた故事。〔蒙求、下、孔融讓果〕融家傳曰、兄弟七人、融第六、四歲時、每與二諸兄一共食二梨棗一、輒引二小者一、大人問二其故一、答曰、我小兒、法當レ取二小者一、由レ是宗族奇レ之。〔三字經〕融四歲、能讓レ梨。

【孔鏞】241（コウヨウ） 明、長洲の人。字は昭文。景泰の進士。官は工部右侍郎。〔明史、一百七十二〕・〔明史稿、一百五十六〕・〔萬斯同明史、二百二十一〕。

【孔老】242（コウラウ） 孔子と老子。孔聃。〔後漢書、馮衍傳下〕觀二覽乎孔老之論一。〔枚乘、七發〕孔老覽觀、孟子籌レ之、萬不レ失レ一。〔注〕翰曰、孔老、孔子・老子。

【孔樂】243（コウラク） 甚だたのしい。〔詩、大雅、韓奕〕孔樂韓土、川澤訏訏。〔箋〕甚樂矣、韓之國土也。

【孔鸞】244（コウラン） 孔雀と鸞。孔鳥（185）を見よ。〔司馬相如、子虛賦〕其上則有二鵷鶵孔鸞、騰遠射干一。〔注〕善曰、張揖曰、孔、孔雀也、鸞、鸞鳥也。

【孔里】245（コウリ） 孔子を葬つた所。孔子の弟子及び魯の人々で、孔子を慕つて其の墓の附近に家するものが一百餘家あつたので、當時之を孔里と呼んだ。孔林（249）を見よ。〔史記、孔子世家〕孔子葬二魯城北泗上一、云云、弟子及魯人、往從レ冢而家者百有餘室、因命曰二孔里一。

【孔鯉】246（コウリ） 春秋、魯の人。孔子の子。字は伯魚。孔子に先だつて死す。〔史記、四十七〕。

【孔陸】247（コウリク） 唐の孔穎達と陸德明。〔阮元、經解入門敍言〕可下以躋二許鄭之堂一、抗中孔陸之席上。

【孔良】248（コウリヤウ） ㊀甚だ良い。〔李覯、袁州州學記〕厥位面レ陽、厥材孔良。㊁明の人。金の子。孝を以て聞ゆ。〔明史、二百九十七〕。

【孔林】249（コウリン） 至聖林とも、孔里ともいふ。孔子の墓所。山東省曲阜縣の北。泗水を背にし、洙水に面し、周圍に垣をめぐらし、其の廣さ約三十頃と稱せられる。〔史記、孔子世家〕孔子葬二魯城北泗上一。〔太平御覽、禮儀、冢墓〕皇覽冢墓記曰、孔子冢、在二魯城北便門外一、南去レ城十里、冢塋方百畝、冢南北廣十步、東西十步、高丈二尺、冢爲二祠壇一、方六尺、與地方平、無二祠堂一、冢塋中樹以レ百數、皆異レ種、魯人世世皆無下能名二其樹一者上、民云、孔子弟子異國人、各持二其國樹一來種レ之、孔子塋中不レ生二荊棘及刺人草一、伯魚墓在二孔子冢東一、與二孔子一並、大小相望、子思冢在二孔子冢南一、大小相望。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、曲阜縣、闕里〕孔林在二城北二里一、史記、孔子葬二魯城北泗水上一、弟子及魯人從レ冢而家者百有餘室、因曰二孔里一、今曰二孔林一、林廣十餘里、中有二亭一所一、相傳、宋眞宗駐蹕處。

【孔嶺】250（コウレイ） 關所の名。山西省廣靈縣。〔唐書、地理志三〕有二直谷關一、其北有二孔嶺關一。〔五代史、高行周傳〕李匡威爲二其弟匡儔所レ簒、晉王將レ討二其亂一、謀曰、高思繼兄弟、在二孔嶺關一、有二兵三千一、此後患也。

【孔竉】251（コウロウ） あな。〔玉篇〕竉、孔竉也。〔廣韻〕竉、孔竉、穴也。

【孔汪】252（コウワウ） 晉の人。愉の子。字は德澤。官は廣州刺史。〔晉書、七十八〕。

【孔安國】253（コウアンコク グアンコク） ㊀漢、曲阜の人。武の子。字は子國。孔子十二世の孫。武帝の時、諫議大夫、臨淮太守となる。詩を申公に、尙書を伏生に受く。魯の共王が孔子の舊宅を壞ち、壁中から尙書・論語・孝經を得た時、皆科斗文字で、當時知るものがなかつたが、安國は今文にて尙書を讀み、其の家を起した。之を古文尙書といひ、安國は書傳を作つたといはれる。今日、孔傳と稱せられるものは、實は後人の僞撰である。又、古文孝經傳・論語訓解をも作つたといはれる。〔前漢書、八十八〕・〔神仙傳、九〕。㊁晉の人。愉の子。儒を以て顯はる。官は尙書左右僕射。〔晉書、七十八〕。

【孔夷吾】254（コウイゴ） 晉の人。衍の宗人。學問は衍に及ばなかつたが、聲譽は之に過ぎた。官は太子左衞率。〔晉書、九十一〕。

【孔友諒】255（コウイウリヤウ） 明、長洲の人。永樂の進士。庶吉士。未だ官を授けられないうちに卒す。〔明

史、一百六十四〕・〔萬斯同明史、二百十〕・〔明史稿、一百五十〕。

【孔有德】256（コウイウトク） 清、遼東の人。謚は武壯。漢軍正紅旗人。登州に據つて叛き、自ら都元帥と稱したが、明兵に攻められ、清に降る。官は順治中、平南大將軍。封は定南王。明の桂王の將、李定國と戰つて敗死す。〔清史稿、二百四十〕・〔清史列傳、七十八〕・〔碑傳集、六〕。

【孔毓圻】257（コウイクキ） 清、曲阜の人。字は鍾在。又、翊宸。號は蘭堂。謚は恭愨。康熙の間、衍聖公を襲ぐ。書畫に巧。〔清史稿、儒、四〕。

【孔毓瓊】258（コウイクケイ） 清、江西新城の人。字は鍾英。魏禮の弟子。著に孔鍾英集がある。〔四庫提要、一百八十二〕。

【孔毓功】259（コウイクコウ） 清、江西新城の人。字は惟敍。魏禮の弟子。著に孔惟敍集がある。〔四庫提要、一百八十二〕。

【孔毓珣】260（コウイクジユン） 清、曲阜の人。字は東美。謚は溫僖。康熙の恩貢。官は兩廣總督、江南河道總督。〔清史稿、二百九十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百六十三〕。

【孔云亭】261（コウウンテイ） 清の孔尚任をいふ。云亭は其の號。孔尚任(319)を見よ。

【孔雲章】262（コウウンシヤウ） 梁の人。休源の子。父の風をうけ、厚く佛理を信ず。官は岳陽王府諮議・東揚州別駕。〔南史、六十〕。

孔穎達（三才圖會）

【孔穎達】263（クエイダツ クヤウダツ） 唐、衡水の人。字は仲達。謚は憲。孔子三十二世の孫。少くして聰敏、八歲にして學に就き、長じて尤も左氏傳・鄭氏尙書・王氏易・毛詩・禮記に通じ、兼ねて算曆を善くし、文章に長ず。隋末、明經に擧げられ、煬帝の時、天下の儒官と論議し、年少にして其の冠となる。老師宿儒、其の下に立つのを恥ぢ、陰に刺客を放つたが、楊玄感の家に匿れて免れた。官は唐の國子司業・祭酒。魏徵と共に隋史の編纂に與かり、又、太宗の命を受けて五經正義を撰す。〔唐書、一百九十八〕・〔舊唐書、七十三〕。

【孔延之】264（コウエンシ） 宋、新喩の人。字は長源。孔子の後。慶曆の進士。官は司封郎中。周敦頤・曾鞏と交はる。著に會稽掇英總集がある。〔宋元學案、十一・十二〕・〔宋史翼、二〕・〔北宋經撫年表、八十七〕。

【孔延年】265（コウエンネン） 漢の人。武の子。武帝の時の博士。〔前漢書、八十一〕。

【孔延魯】266（コウエンロ） 宋の人。孔道輔(346)を見よ。

【孔衍栻】267（コウエンシヨク） 清、曲阜の人。字は石村。號は懋法。著に石村畫訣がある。〔國朝耆獻類徵、二百五十〕。

【孔翁歸】268（コウヲウキ） 梁、會稽の人。詩に巧。著に南平王記室がある。〔梁書、四十九〕。

【孔溫業】269（コウヲンゲフ） 唐の人。戣の子。字は遜志。進士。官は吏部侍郎・太子賓客。〔唐書、一百六十三〕・〔舊唐書、一百五十四〕。

【孔希學】270（コウキガク） 明の人。克堅の子。洪武中、衍聖公を襲ぐ。好んで讀書し、隸法を善くす。大亂の後を承け、廟貌服物の修擧に力を竭した。〔明史、二百八十四〕・〔明史稿、一百二十五〕。

【孔季彥】271（コウキゲン） 後漢の人。僖の子。其の家業を守り、弟子數百人。孝廉に擧げられたが就かなかつた。〔後漢書、一百九上〕。

【孔熙先】272（コウキセン） 南朝宋の人。默之の子。文史星算を善くす。文帝の時、員外散騎侍郎となり、彭城王義康が黜けられた時、君側を清めんとして范曄と交はり、事敗れて誅せらる。〔宋書、九十三〕。

【孔丘明】273（コウキウメイ） 秦の人。駱法通等と亂を避けて玉笥山中に修鍊し、終る所を知らず。〔臨江府志〕。

【孔休源】274（コウキウゲン） 梁、山陰の人。字は慶緒。謚は貞。秀才に擧げらる。尙書儀曹郎に任ぜられ、前事を訪ふ每に、機に隨つて決斷し、曾て疑滯しなかつたので、任昉に孔獨誦といはる。後、官は宣惠將軍。著に奏議彈文がある。孔獨誦(358)を見よ。〔梁書、三十六〕・〔南史、六十〕。

【孔皇后】275（コウクワウゴウ） 後唐の愍帝の后。謚は哀。未だ冊命せられぬ中に、難が起きて帝が出奔し、后は殺さる。〔舊五代史、四十九〕。

【孔廣居】276（コウクワウキヨ） 清、江陰の人。號は瑤山(堯山)。刻石に巧で、詩文を能くす。許氏說文解字の學に通ず。著に說文疑疑がある。〔國朝書畫家筆錄、三〕。

【孔廣源】277（コウクワウゲン） 清、正定の人。官は鎭遠鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百十八〕。

【孔廣森】278（コウクワウシン） 清、曲阜の人。繼涑の從子。字は眾仲・撝約。號は顨軒。孔子六十八世の孫。乾隆の進士。官は檢討。少にして經を戴震に受け、〔公羊春秋に通ず。年三十五にして大母と父の喪に居り、哀を以て卒す。書室を儀鄭堂といふ。著に公羊通義・大戴禮記注・詩聲類・禮卮言・少廣正負術內外篇・經學卮言・儀鄭堂駢儷文がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十九〕・〔碑傳集、一百三十四〕・〔國朝先正事略、三十五〕・〔國朝漢學師承記、六〕・〔清儒學案小識、十四〕。

【孔廣牧】279（コウクワウボク） 清、曲阜の人。字は力堂。號は勿二三齋。著に禮記天算釋・先聖生卒年月日考がある。

【孔廣銘】280（コウクワウメイ） 清、曲阜の人。字は文箴。亂を漢中に避け、黃鼎の幕賓となる。官は通判。著に〔公羊釋例・孟子義疏・五經異義疏證・莊子義訓・前漢書考證がある。

【孔廣翼】281（コウクワウヨク） 清の人。字は乙之。布衣にして學をさめ、聞達を求めず。文集百卷あつたが、遺言して刊行せしめなかつた。

【孔惠元】282（コウケイゲン） 唐の人。穎達の孫。學に力め、寡言であつた。官は司業・太子諭德。〔唐書、一百九十八〕。

【孔敬宗】283（コウケイソウ） 金、遼陽の人。字は仲先。遼末、劉宏の幕官となり、天輔の初、劉宏と懿州の民を率ゐて內徙した。官は寧昌軍節度使。〔金史、七十五〕。

【孔繼涵】284（コウケイカン） 清、曲阜の人。字は體生。號は葒谷(洪谷)・青檽齋・斲冰詞客。孔子六十七世の孫。乾隆の進士。官は戶部郎中。三禮に深く、尤も天文・算術に通じ、微波榭叢書七種・算經十書を校刻した。書室を紅櫚書屋・微波榭といふ。著に紅櫚書屋集考・工車度記・釋數同度記等がある。〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百四十七〕・〔國朝先正事略、三十五〕・〔國朝漢學師承記、六〕。

【孔繼榦】285（コウケイカン） 清、曲阜の人。號は蔭泗・鐵骨道人。乾隆の擧人。官は松江府知。梅の畫に巧。〔清畫家詩史、丁、下〕。

【孔繼鑅】286（コウケイクワウ） 清、直隸清河の人。字は宥函。號は心嚮往齋。道光の進士。官は刑部主事。山陽の潘德輿に師事し、文章を能くす。知府を以て江浦に從軍し、洪楊の難に死す。著に心嚮往齋和陶詩・壬癸詩錄がある。〔續碑傳集、七十九〕。

【孔繼堯】287（コウケイゲウ） 清、崑山の人。字は硯香。號は蓮鄉。畫に巧。

【孔繼涑】288（コウケイサク） 清の人。繼涵の弟。字は信夫・體實。號は谷園・葭谷・雲廬子。乾隆の擧人。書に巧で、刑部尙書張照の女夫となり、其の筆法を得て小司寇の名がある。其の書を刻して瀛海仙班帖を作る。碑版に玉虹樓帖・鑒眞帖・摹古帖・清朝名人法書があり、世に行はる。書室を玉虹樓といふ。〔國朝耆獻類徵、四百三十九〕。

【孔繼泰】289（コウケイタイ） 清、崑山の人。字は鶴瞻。號は鶚莊(鄂莊)。拔貢生。畫を善くす。〔墨香居畫識、二〕。

【孔元素】290（コウゲンソ） 梁の人。僉の兄の子。三禮を善くし、盛名があつたが、早く卒した。〔梁書、四十八〕。

【孔元忠】291（コウゲンチユウ） 宋の人。道の子。字は復君。進士。官は太常寺主簿。著に論語鈔・編年通考がある。〔宋元學案、五十四・五十五〕。

【孔元方】292（コウゲンパウ） 仙人。許昌の人。平生、松脂・茯苓を服し、年老いて容顏益〻若く、郄元節・左元方等と酒を飲んで樂しむ。著に素書二卷がある。〔神仙傳、六〕。

【孔元龍】293（コウゲンリヨウ） 宋、衢州の人。字は季凱。孔子の後裔。眞德秀に從つて游ぶ。官は宣教郎。年九十餘に至るも卷を釋てなかつた。著に柯山講義・論語集說・魯樵斐稿・奏議叢璧がある。〔宋

元學案、八十一〕。

【孔彦舟】294 金、林慮の人。字は巨濟。金に歸し、宋を伐つて功を建てた。官は工部尚書・河南尹。封は廣平郡王。〔金史、七十九〕。

【孔彦繩】295 明、衢州西安の人。字は朝武。孔子第五十九代の孫。正德の初、翰林院五經博士となる。〔明史、二百八十四〕。

【孔彦縉】296 明の人。訥の孫。字は朝紳。衍聖公を嗣ぐ。景泰の初、帝が學に幸し、坐を彝倫堂に賜うて進講せしめた。これが學に幸して衍聖公を召した始である。書室を詩禮庭といふ。〔明史、二百八十四〕・〔明史稿、一百二十五〕。

【孔公恂】297 明の人。彦縉の族父。字は宗文。景泰の進士。官は少詹。成化の初、上章して兵事を言ひ、漢陽知府に謫せられたが、後、故秩に復す。〔明史、一百五十二・二百八十四〕・〔萬斯同明史、二百三十三〕・〔明史稿、一百四十三〕。

【孔公朝】298 明の永樂時代の循吏。寧陽の長官となり、部民に敬せらる。〔明史、二百八十一〕。

【孔弘緒】299 明の人。彦縉の孫。字は以敬。八歳にして封を襲いだが、成化中、爵を奪はれ、庶人となる。〔明史、二百八十四〕・〔明史稿、一百二十五〕。

【孔弘泰】300 明の人。弘緒の弟。字は以和。生れて七月にして孤となり、母に事へて至孝であつた。〔明史、二百八十四〕・〔明史稿、一百二十五〕。

【孔興泰】301 清、睢州の人。字は林宗。算學に精通す。著に大測精義がある。〔國朝耆獻類徵、四百十七〕・〔碑傳集、一百三十二〕。

【孔克堅】302 明の人。思晦の子。字は璟夫。衍聖公を襲ぐ。官は中台治書侍御史。國子祭酒・集賢學士・山東廉訪使を授けられたが、皆就かず。洪武中、賓禮を以て遇せらる。〔元史、一百八十〕・〔明史、二百八十四〕。

【孔克仁】303 明、句容の人。洪武中、郎中となり、宋濂と同じく太祖に侍す。官は參議。〔明史、一百三十五〕・〔萬斯同明史、一百七十六〕・〔明史稿、一百二十七〕。

【孔克表】304 明、平陽の人。孔子の後裔。博學篤行、尤も史學に精通す。官は洪武中、翰林修撰。詔を奉じて羣經に注釋し、名を羣經類要と賜はる。〔本朝分省人物攷、五十六〕。

【孔巢父】305 唐の人。字は弱翁。謚は忠。孔子の後裔。學を好み、徂徠山に隱れた。德宗の時、魏博宣慰使となり、田悦が叛いた時に、大義を曉らしめて降す。御史大夫に遷る。後、李懷光の叛に亂軍に殺された。〔唐書、一百六十三〕・〔舊唐書、一百五十四〕。

【孔子雲】306 梁、會稽の人。沈峻の學を傳へた。官は尚書祠部郎。〔梁書、四十八〕。

【孔子祛】307 梁、山陰の人。古文尚書に通ず。官は中書通事舍人。著に尚書義・集注尚書・續朱異集注周易・續何承天集禮論がある。〔梁書、四十八〕・〔南史、七十一〕。

【孔子建】308 後漢、魯の人。其の友、崔篆が王莽に仕へることを勸めたが就かなかつた。〔後漢書、一百九上〕。

【孔子程】309 明、昆明の人。勇武を以て聞え、李定國の亂に、晉寧呈貢の諸州縣を糾合して賊を拒ぎ、戰死す。〔明史、二百九十五〕。

【孔司寇】310 孔子をいふ。孔子は嘗て大司寇となつたからいふ。〔史記、孔子世家〕孔子由㆓中都宰㆒爲㆓司空㆒、由㆓司空㆒爲㆓大司寇㆒。〔紀齊名、陳㆓德行㆒文〕孔司寇之微言、滿㆓篇簡㆒、今稱㆑善。

【孔四可】311 明、高淳の人。字は願之。官は五城兵馬、司兵馬。書法文章を以て當時に名あり。書室を玉蘭堂といふ。著に四游集・金蘭翰墨・易解・玉蘭堂集等がある。

【孔四貞】312 清の人。有德の女。一に思貞に作り、又、似貞に作る。父、有德が、桂林に死するや、單騎圍みを突いて京師に奔り、其の父が難に死する狀を遂一上奏した。世祖は之を憐んで宮に入らしめ、太后の養女とし、冊立して妃となさんとしたが、先に孫延齡に許嫁してゐたので止めた。康熙元年、延齡に配せられ、和碩格格に封ぜらる。後、延齡に從つて廣西を鎭め、延齡が吳三桂に應じ、尋いで三桂に殺さるるや、四貞は捕へられて滇に入つたが、三桂が敗れてから、京師に歸つて卒した。

【孔思晦】313 元の人。字は明道。謚は文肅。孔子の後裔。資質端重で讀書義理を求め、仁宗の時、衍聖公を襲ぐ。〔元史、一百八十〕。

【孔思貞】314 孔四貞(312)を見よ。

【孔嗣之】315 南齊、魯の人。字は敬伯。宋の時、齊の高帝と共に中書舍人となつたが、尋いで廬江郡守となつて官を去り、鍾山に隱居す。〔南齊書、五十四〕・〔南史、七十六〕。

【孔似貞】316 孔四貞(312)を見よ。

【孔琇之】317 南齊の人。靈符の從子。吳興郡太守に至り、吏能あり。〔南齊書、五十三〕・〔南史、二十七〕。

【孔尚質】318 清、武陵の人。字は元長。著に十六國年表がある。〔四庫提要、六十六〕。

【孔尚任】319 清、曲阜の人。字は聘之。號は雲亭山人(云亭山人)・岸塘(東塘)・岸堂主人。博學にして文名があり、音律に通ず。康熙の間、國子監博士となり累遷して戶部員外郎に至る。著に闕里新志・岸塘文集・湖海詩集・會心錄・節序同風錄がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十二〕。

【孔尚典】320 清、江西新城の人。字は天徵。號は汶林。順治の歳貢。著に孔天徵文集がある。〔四庫提要、一百八十二〕。

【孔昌寓】321 唐、山陰の人。字は廣成。官は膳部郎中。〔唐書、一百九十六〕。

【孔祥熙】322 民國、山西省太谷縣の人。字は庸之。米國のオベリン及びエール大學を卒業す。夫人宋靄齡は、宋慶齡及び宋美齡の姉である。孫文の革命運動を輔けて活躍し、直隸派打倒運動に從事す。後、南京國民政府委員となつて工商部長等を兼ね、實業部長に轉じ、汪兆銘が行政院長となるや、其の下に副院長兼財政部長に就任した。又鄕里山西の開發に與つて力がある。孔子七十五世の後裔といふ。〔現代中華國滿洲帝國人名鑑〕。

【孔若思】323 唐の人。禎の子。謚は惠。古今の學に通じ、明經に擢んでられ、庫部郎中となる。中宗の初、敬暉・桓彥範等が國政に當るや、常に彼に咨質した。三遷して禮部侍郎に至り、惠州の刺史となる。〔唐書、一百九十九〕・〔舊唐書、一百九十上〕。

【孔守正】324 宋、浚儀の人。周の世宗が、淮南を征伐した時、東班承旨となる。宋初、驍雄副指揮使に遷り、太祖に從つて遼兵及び晉軍を破る。〔宋史、二百七十五〕・〔宋史新編、七十八〕。

【孔俶言】325 梁の人。僉の子。文學に涉る。官は太學博士。〔梁書、四十八〕。

【孔述睿】326 唐の人。祖舜の孫。始め孤となり、兄の充符、弟の克讓と共に嵩山に隱る。官は諫議大夫・史館修撰。〔唐書、一百九十六〕・〔舊唐書、一百九十二〕。

【孔淳之】327 南朝宋、魯の人。字は彥深。孔子の後裔。元嘉の初、散騎常侍に徵されるや、上虞縣の界に逃れ、家人も其の所在を知らなかつた。〔宋書、九十三〕・〔南史、七十五〕。

【孔承恭】328 宋、萬年の人。字は光祖。戩の五世の孫。官は大理寺丞に至つたが、宮詞を獻じ求進の意を託したので、太祖の怒に觸れて免ぜらる。太宗の時、官に復し、將作監となる。〔宋史、二百七十六〕・〔宋史新編、七十九〕。

【孔承倜】329 明、曲阜の人。字は永冠。孔子の後裔。官は保定令・荊王府長史。其の學は王守仁に出づ。著に日言がある。〔四庫提要、九十六〕。

【孔昇翁】330 蜂の異名。孔昇兄を見よ。

【孔昇兄】331 蜂の異名。孔昇翁。〔事物異名錄、昆蟲、蜂〕山堂肆考、龍門寺有㆓異蜂㆒、大如㆑鵲、僧網置㆓籠中㆒、明日又一大蜂至㆓籠前㆒、呼㆓孔昇兄㆒、僧異而放㆑之、酉陽雜俎作㆓孔昇翁㆒。

【孔仁玉】332 後周、曲阜の人。九歳、春秋に通じ、龔丘令となり、文宣公を襲ぐ。晉の天福中、曲阜令に徙り、太祖の時、本縣令となる。〔宋史、四百三十二〕。

【孔崇弼】333 後晉の人。官は後唐の時、左常侍となり、天福中、左散騎常侍となる。〔舊唐書、一百六十三〕・〔舊五代史、九十六〕。

【孔生駒】334 河內の人。日下氏。日下は又、孔坂に作るので孔といふ。名は文雄。日下生駒(5－13733・・60)を見よ。

【孔昭孔】335 コウセウコウ　清の人。廣居の子。字は微明、又、味茗。刻石を善くす。著に説文疑疑續・夏小正考正がある。〔續碑傳集、八十四〕。

【孔紹安】336 コウセウアン　唐の人。奐の子。陳の滅亡後、隋に入り、京兆に徙り、門を閉ぢて讀書し、外兄、虞世南に歎稱せらる。孫萬壽と共に文辭を以て稱せられ、時人之を孫孔といふ。官は大業の末、監察御史となり、高祖の時、內史舍人となる。詔を奉じて梁史を撰したが、未だ成らないうちに卒す。文集がある。〔南史、二十七〕・〔唐書、一百九十〕。

【孔宣父】337 コウセンポ　孔子をいふ。宣父は唐代の追謚。〔闕里志〕唐太宗貞觀二年、尊二孔子一爲二先聖一、十一年、尊二孔子一爲二宣父一。〔學令〕凡大學國學、每年春秋二仲之月上丁、釋二奠於先聖孔宣父一。

【孔羨碑】338 コウセンピ　曲阜の孔廟にある碑。黃初孔廟碑ともいふ。魏の孔羨が黃初元年に廟を修めた時に立てたもので、魏の梁鵠の書と傳へる。梁の武帝が其の書を評して、龍威虎震、劍拔弩張といふ。〔魏志、文帝紀〕黃初二年詔曰、昔仲尼、資二大聖之才一、懷二帝王之器一、當二衰周之末一、無二受命之運一、在二魯衞之朝一、教二化乎洙泗之上一、悽悽焉、遑遑焉、欲二屈レ己以存レ道、貶レ身以救レ世、于レ時王公終莫二能用一レ之、乃退考二五代之禮一、修二素王之事一、因二魯史一而制二春秋一、就二太師一而正二雅頌一、俾二千載之後莫レ不下宗二其文一以述作、仰二其聖一以成中謀咨上、可レ謂二命世之大聖、億載之師表一者也、遭二天下大亂一、百祀墮壞、舊居之廟毀而不レ修、褒成之後絕而莫レ繼、闕里不レ聞二講頌之聲一、四時不レ覩二烝嘗之位一、斯豈所謂崇レ禮報レ功、盛德百世、必祀者哉、其以二議郎孔羨一爲二宗聖侯一、邑百戶奉二孔子祀一、令下魯郡修二起舊廟一、置二百戶吏卒一以守中衞之上。〔寰宇訪碑錄、魏〕魏封宗聖侯孔羨碑、八分書、黃初元年。

【孔祖舜】339 コウソシユン　唐の人。昌寓の子。字は奉先。官は監察御史。〔唐書、一百九十六〕。

【孔素瑛】340 コウソエイ　清、桐鄉の人。金尙東の妻。號は玉田。小楷を善くし、衞夫人の筆意を得、又、山水畫に巧で、畫けば自ら詩を題し、自ら書したので、時に三絕と稱せらる。〔清畫家詩史、癸、上〕。

【孔宗翰】341 コウソウカン　宋の人。道輔の子。字は周翰。進士。官は刑部侍郎。〔宋史、二百九十七〕・〔宋史新編、九十二〕・〔東都事略、六十〕・〔北宋經撫年表、九十五〕。

【孔宗軌】342 コウソウキ　梁の人。雲章の弟。官は左西掾中書郎。〔梁書、三十六〕。

【孔宗旦】343 コウソウタン　宋、魯の人。官は邕州司戶參軍。儂知高の友に執へられて殺さる。〔宋史、四百四十六〕・〔東都事略、一百十〕・〔隆平集、十五〕。

【孔叢子】344 クゾウシ　書名。三卷。漢、孔鮒撰。始、鮒は仲尼以下子思・子上・子高・子順の言行を蒐輯して二十一篇とした。後、孝武の朝に、太常の孔臧が其の著す所の賦と書とを連叢上下篇と名づけ、此に附して孔叢子といつた。これが今傳つてゐる書であるとされる。嘉言・論書・記義・刑論・記問・雜訓・居衞・巡狩・公義・抗志・小爾雅・公孫龍・儒服・對魏王・陳士義・論勢・執節・詰墨・獨治・問軍禮・答問の二十一篇の外、連叢上下篇がある。ところが後世になつて、著者に就いての議論が生じ、宋の朱熹は、其の文氣輭弱にして西漢の文字に似ずといふ。宋の洪邁は、齊梁以來の好事家の作といひ、明の宋濂、清の姚際恆は、宋の宋咸の作とし、明の胡應麟は、孔子二十世の孫孔季彥の輩が先世の遺言佚事を集成したものといふ。〔四庫提要、子、儒家類〕。

〖參考書〗**【孔叢子注】**七卷　宋、宋咸注。卷首に自序及び進書表を載す。〔四庫未收書目提要、二〕。**【孔叢子正義】**五卷　清、姜兆錫撰。〔四庫提要、子、儒家類〕。**【冢注孔叢子】**十卷　冢田虎撰。

【孔道徽】345 コウダウキ　南齊の人。祐の子。徵されたが就かず、南山に隱居し、高行を以て鄉里に慕はる。〔南史、七十五〕。

【孔道輔】346 コウダウホ　宋の人。勗の子。字は原魯。初名は延魯。進士。官は鄆州知。〔宋史、二百九十七〕・〔宋史新編、九十二〕・〔東都事略、六十〕・〔隆平集、十四〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、十四〕。

【孔端甫】347 コウタンポ　金の人。總の孫。古學に通ず。官は主簿奉祠。〔金史、一百五〕。

【孔知濬】348 コウチシユン　後周の人。勍の從子。字は秀川。鳳州の刺史となり、後、漢に入つて、密州防禦使となる。〔舊五代史、一百二十五〕。

【孔稚珪】349 コウチケイ　南齊、山陰の人。靈產の子。南史には孔珪に作る。字は德璋。記室參軍に召され、太子詹事・散騎常侍・都官尙書に累遷した。文詠に巧。〔南齊書、四十八〕・〔南史、四十九〕。

【孔仲尼】350 コウチユウヂ　孔子をいふ。仲尼は字。〔後漢書、酈炎傳〕安得二孔仲尼一、爲レ世陳二四科一。

【孔貞運】351 コウテイウン　明、句容の人。字は開仲。孔子の後裔。萬曆の進士。官は經筵展書官。兩朝實錄を纂修し、崇禎の初、入閣す。〔明史、二百五十三〕・〔萬斯同明史、三百五十七〕・〔明史稿、二百三十八〕。

【孔貞元】352 コウテイゲン　明、蕭の人。字は百原。風骨を以て著はる。寇難に遇ひ、刀を引いて自ら其の心を刺して死す。〔蕭縣志〕。

【孔貞時】353 コウテイジ　明、池州の人。字は太華。號は魯齋。官は檢討、起居注を歷、六曹章奏誥敕撰文を編纂す。著に魯齋文集がある。〔池州府志〕。

【孔貞瑄】354 コウテイセン　清、曲阜の人。字は璧六。號は歷洲・聊叟（聊園）。順治の舉人。官は大姚縣知。著に大成樂律・聊園全集・泰山紀勝がある。〔國朝耆獻類徵、二百十九〕。

【孔天允】355 コウテンイン　明、汾州の人。字は汝錫。號は文谷・管涔山人。嘉靖の進士。官は浙江布政司參政。著に孔文谷詩文集・霞海編がある。〔明詩綜、四十二〕。

【孔德成】356 コウトクセイ　民國、山東省曲阜縣の人。字は達成。西紀一九一九年に生る。孔子七十七代の直裔。官は大成至聖孔子奉祀官。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【孔德紹】357 コウトクセウ　隋、會稽の人。官は景城縣丞。竇建德が王を稱するに及んで、その中書令となり、專ら書檄を掌つたが、建德敗れて誅せらる。〔隋書、七十六〕・〔北史、八十三〕。

【孔獨誦】358 コウドクシヨウ　梁の任昉が、孔休源のよく舊事を獨誦し、決斷に早かつたことを稱した故事。孔休源（274）を見よ。〔南史、孔休源傳〕除二兼尙書儀曹郎一、時多レ所二改作一、每逮レ訪二前事一、休源卽以レ所二誦記一、隨レ機斷決、曾無二疑滯一、吏部郎任昉、常謂レ之爲二孔獨誦一。

【孔防叔】359 コウバウシユク　周、宋の人。微子の後裔。孔子の曾祖父。〔史記、四十七〕。

【孔伯恭】360 コウハクキヨウ　後魏の人。昭の子。謚は桓。獻文の初、彭城を救援して宋將張永等を破る。官は散騎常侍・都督徐南兗州諸軍事。〔魏書、五十一〕・〔北史、三十七〕。

【孔敏行】361 コウビンカウ　唐の人。述睿の子。字は至之。元和の進士。官は諫議大夫。〔唐書、一百九十六〕・〔舊唐書、一百九十二〕。

【孔武仲】362 コウブチユウ　宋の人。文仲の弟。字は常父。進士。元祐中、禮部侍郎となり、尋いで寶文閣待制を以て洪州の長官となつたが、元祐の黨に坐して職を奪はる。著に詩書論語說・金華講義・內外制（雜文共に百餘卷）がある。〔宋史、三百四十四〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔東都事略、九十四〕・〔元祐黨人傳、二〕・〔宋詩鈔〕。

【孔夫子】363 コウフウシ　孔子。夫子は先生・長者の尊稱。〔蔡文淵、贈中議大夫襲封衍聖公孔治神道碑記〕元貞改二元公一見二成宗皇帝於上都一、時大臣奏、至聖文宣王孔夫子之嫡孫、其祖元用以二軍功一沒二於王事一、實開國立功之臣、治レ權奉二祀事一三十餘年、有レ德有レ文、可レ襲二封爵一、上可二其奏一、仍賜レ坐、慰勞甚厚。〔陔餘叢考、夫子〕是夫子、本春秋時先生長者之稱、故孔門弟子稱二孔子一皆曰二夫子一、顏淵曰、夫子循循善誘、曾子曰、夫子之道忠恕、子貢曰、夫子之文章、蓋皆沿二當時之稱一、非二特創一也。

〔孔夫子水道〕364 コウフウシスイダウ　水路の名。江蘇省、狼山・福山の中流。初、西洋人が長江を上下する汽船を名づけて孔夫子といつたので、此の船の通つた水路を孔夫子水道といふ。

【孔文英】365 コウブンエイ　明、安化の人。字は世傑。永樂の進士。宣德の初、廬陵縣知となり、尋いで御史に擢んでられ、刑部侍郎に終る。〔國朝獻徵錄、四十六〕。

【孔文子】366（コウブンシ） 孔圉(38)を見よ。

【孔文仲】367（コウブンチュウ） 宋の人。延之の子。字は經父。進士。官は餘杭の尉。熙寧の初、王安石の理財訓兵の法を論じて罷めらる。哲宗の時、中書舍人・知貢擧となる。文集五十卷がある。〔宋史、三百四十四〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔東都事略、九十四〕・〔宋史翼、一〕・〔元祐黨人傳、二〕。

【孔文雄】368（コウブンユウ） 日下生駒(**5－13733**・・60)を見よ。

【孔平仲】369（コウヘイチュウ） 宋の人。武仲の弟。字は義甫。進士。官は知衡州。史學に長じ、文辭を善くした。著に續世說・良吏事證がある。〔宋史、三百四十四〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔東都事略、九十四〕・〔元祐黨人傳、四〕・〔宋詩鈔〕。

【孔北海】370（コウホクカイ） 後漢の孔融(238)をいふ。

【孔密兄】371 k'ung^3 mi^4 hsiung^1 賄賂。コンミツシヨン。

【孔默之】372（コウモクシ） 南朝宋の人。淳之の弟。官は廣州の刺史。穀梁春秋に注す。〔宋書、九十三〕。

【孔琳之】373（コウリンシ） 南朝宋の人。沈の孫。字は彥琳。琴を彈じ、草隸を善くす。官は祠部尙書。〔宋書、五十六〕・〔南史、二十七〕。

【孔靈產】374（コウレイサン） 南齊、山陰の人。禹井山に隱遁す。星文を解し、數術を好む。官は光祿大夫。〔南齊書、四十八〕。

【孔靈符】375（コウレイフ） 南朝宋の人。靖の子。官は右軍長史。景和中、近臣に忤らひ、鞭殺された。〔宋書、五十四〕。

【孔王部】376（アナホベ アマニベ） 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、二十一〕・〔姓名錄抄〕。

【孔曰成レ仁】377（コウハイハクジンヲナスト） 孔子の教は生命を抛つて仁德を全うするにある。宋の文天祥の衣帶中の贊の語。論語、衞靈公篇の志士仁人、無二求レ生以害レ仁、有二殺レ身以成レ仁による。〔文天祥、自贊〕孔曰成レ仁、孟云取レ義、惟其義盡、所二以仁至一、讀二聖賢書一、所レ學何事、而今而後、庶幾無レ愧。

【孔溫窟哇】378（コウヲンクツアイ） 元の人。札剌兒氏。太祖の麾下に在り、鑾が反した時、太祖の馬が斃れるや、己の馬を以て太祖を救ひ、追騎に殺された。〔新元史、一百十九〕。

【孔氏談苑】379（コウシダンエン） 書名。四卷。宋、孔平仲撰。諸書の雜事を輯集す。後人の依託ともいふ。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【孔戴遺書】380（コウタイイシヨ） 叢書の名。三十六冊。清、孔廣森編。其の目は、第一・二冊、文集十卷（清、戴震）。第三冊、毛鄭詩攷正四卷（清、戴震）・杲溪詩經補注二卷（清、戴震）。第四冊、考工記圖二卷（清、戴震）。第五冊、孟子字義疏證三卷（清、戴震）。第六冊、原象一卷（清、戴震）・原善三卷（清、戴震）・聲韻攷四卷（清、戴震）。第七冊、聲類表九卷（清、戴震）。第八冊、續天文略三卷（清、戴震）・水地記一卷（清、戴震）。第九・十冊、方言疏證十三卷（清、戴震）。第十一―二十冊、水經注不分卷（清、戴震）。第二十一冊、水經釋地八卷（清、戴震）。第二十二―二十九冊、算經十書三十一卷（清、戴震）・鉤股割圜記三卷（清、戴震）。第三十冊、國語補音三卷（宋、宋庠）。第三十一―三十三冊、孟子趙注十四卷音二卷（漢、趙岐）。第三十四冊、五經文字一卷（唐、張參）・九經字樣一卷（唐、玄度）・五經文字疑一卷・九經字樣疑一卷。第三十五冊、紅櫚書屋詩集四卷（清、孔繼涵）・斲冰詞二卷（清、孔繼涵）。第三十六冊、雜體文藁七卷行一卷（清、孔繼涵）。

【孔北海集】381（コウホクカイシフ） 書名。一卷。漢、孔融撰。魏の文帝が其の遺文を求めて二十五篇を得た。今、漢魏百三名家集には四十三篇を載す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【孔翊絕書】382（コウヨクゼツシヨ） 蒙求の標題。晉の孔翊が、洛陽令となつた時、其の地位を利用しようとする種々の依賴狀を開封せず、皆水中に投げ入れた故事。〔蒙求、下、孔翊絕書〕晉先賢傳、孔翊字元性、爲二洛陽令一、置二水於庭一、得二求囑書一、皆投二水中一、一無レ所レ發。

【鑿レ孔樹レ鬚】383（アナヲウガチテヒゲヲウウ） 穴を掘つて鬚を植ゑる。生れつき鬚のない人をからかふ語。〔陔餘叢考、成語、鑿レ孔樹レ鬚〕魏書、李庶生而天閹、崔諶調レ之曰、教二弟種レ鬚、以レ錐編刺作レ孔、插以二馬尾一。

【孔氏三世出レ妻】384（コウシサンセイツマヲイダス） 叔梁紇（孔子の父）と伯魚（孔子の子）と子思（伯魚の子）とが夫々妻を離緣した事をいふ。〔孔子家語、後序〕自二叔梁紇始出レ妻、及二伯魚一亦出レ妻、至二子思一又出レ妻、故稱二孔氏三世出レ妻。

【孔氏祖庭廣記】385（コウシソテイクワウキ） 書名。十二卷。金、孔子五十一世の孫、孔元措撰。宋の元豐八年に四十六世の孫、孔宗翰が撰した家譜と、宣和六年に四十七世の孫、孔傳が著はした祖庭雜記とを合したもの。首に孔子の像以下十二圖、聖廟、闕里の圖を置き、先聖・追崇聖號・世次・崇奉詔文・崇奉雜事・林廟親祠・學廟親祠・祭祀雜事・族孫・世系別錄・澤及子孫・姓譜・先聖誕辰諱日・母顏氏・娶幷官氏・先聖小影・給灑掃戶・卿官・廟中古跡・廟外古跡・林中古跡・廟宅・廟中古碑・林中古碑・族孫碑銘の二十五門に分つ。〔琳瑯祕室叢書、第一・二冊〕。

【⿱子一】6934 シヨ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱子一、音署。

二畫

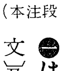
【⿰子彡】6935 ソン 孫(**3－6987**)の古字。〔字彙〕⿰子彡、古孫字。

【⿰子人】6936 コウ 孔(**3－6933**)の古字。〔集韻〕孔、古作レ⿰子人。

【⿻子八】6937 ［一］ハウ ［二］マウ

［一］保(**1－702**)の古字。〔說文〕保、⿻子八古文。〔玉篇〕⿻子八、古文保。〔六書故〕⿻子八、爲二保之正文一、嬰兒衣也、象三子在二裙襦中一。〔六書總要〕⿻子八、从下子旁指二左右一扶持狀上、今作レ保、別作二褓緥一。［二］孟(**3－6960**)の古字。〔說文〕⿻子八、古文孟如レ此。

【孕】6938 ヨウ 〔集韻〕以證切 ㄩㄣˋ yün^4 徑


小篆（段注本）

㊀**はらむ**。身もちになる。〔說文〕孕、褢レ子也、从レ子乃聲。〔段注〕乃聲二字、各本作レ从レ几、誤、今正、艸部艿字・人部仍字、皆乃聲、管子孕作レ⿰月黽、从二繩省聲一、可レ證也。〔廣雅、釋詁四〕孕、⿰亻身也。〔易、漸〕婦孕不レ育。〔鄭注〕孕、猶レ娠也。〔禮、郊特牲〕故天子、牲孕弗レ食也。〔注〕孕、任レ子也、易曰、婦孕不レ育。〔疏〕引レ易者、證二經孕、是懷任之意一也。〔呂覽、本味〕其母居二伴水之上一孕。〔注〕任身爲レ孕。㊁**ふくむ**。〔玉篇〕孕、含實也。〔沈亞之、閩城開二新池一詩〕輔二佑理隍一、吐二孕百福一。㊂古は⿱乃子(**3－6973**)・⿰月黽(**5－14403**)・⿰女黽(**3－6786**)・⿺鬼黽に作る。〔集韻〕古作二⿱乃子・⿰月黽・⿰女黽一。〔一切經音義、八〕孕、古文⿺鬼黽。

【孕育】1（ヨウイク） はらみ生む。養ひそだてる。孕毓。孕鬻。〔後漢書、梁皇后紀〕宮人孕育。〔蜀志、後主劉禪傳〕孕二育羣生一者、君レ人之道也。〔潘岳、西征賦〕怵二淫嬖之匈忍一、勦二皇統之孕育一。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕孕二育伊顏一。

【孕毓】2（ヨウイク） 孕育に同じ。毓は育。〔漢書、五行志中之上〕雷以二八月一入二其卦一曰二歸妹一、言、雷復歸入レ地、則孕二毓根核一、保二藏蟄蟲一。〔注〕師古曰、毓字、與レ育同。

【孕鬻】3（ヨウイク） 孕育に同じ。鬻は育。〔禮、樂記〕羽者嫗伏、毛者孕鬻。〔注〕孕、任也、鬻、生也。〔疏〕毛者孕鬻者、言二走獸之屬、以レ氣孕鬻而繁息一也。

【孕月】4（ヨウゲツ） ㊀月をはらむ。〔皮日休、霍山賦〕其曉而東有レ如レ冠レ日、其暮而西有レ如レ孕レ月。㊁うみづき。臨月。

【孕厚】5 ヨウコウ 明、李喬崑(6－14459・・1124)の字。

【孕昌】6 ヨウシヤウ 明、林允昌(6－14551・・267)の一名。

【孕珠】7 ヨウシユ 珠をはらむ。子をはらむをいふ。〔王十朋、會稽風俗賦〕輸芒之蟹、孕珠之蠃、文身合氏之子。

【孕石】8 ハラミイシ ❶遠江國の地名。❷姓氏。〔字林拾葉〕。

【孕胎】9 yün^4 t'ai^1 はらむ。懷胎する。

【孕重】10 ヨウチユウ 子をはらんだもの。〔漢書、匈奴傳上〕漢兵深入、窮追二十餘年、匈奴孕重墮殰、罷極苦レ之。〔注〕師古曰、孕重、懷任者也、墮、落也、殰、敗也。〔說苑、脩文〕春蒐者不レ殺二小麛及孕重者一、冬狩皆取レ之。

【孕乳】11 ヨウニユウ 子をはらみ、生むこと。乳は子を生むこと。〔後漢書、烏桓傳〕見二鳥獸孕乳一以別二四節一。

【孕婦】12 ヨウフ はらみ女。〔書、泰誓上〕刳二剔孕婦一。〔莊子、天運〕民孕婦十月生レ子。〔墨子、明鬼下〕刳二剔孕婦一。〔閒詁〕帝王世紀云、紂剖二比干妻一、以視二其胎一。〔史記、鄒陽傳〕修二孕婦之墓一。〔淮南子、本經訓〕紂刳二諫者一、剔二孕婦一。〔李商隱雜纂、遲滯〕孕婦行步。

【孕婦緩レ刑】13 ヨウフケイヲユルクス 孕婦が罪を犯した時、刑に當てることを產後まで延期すること。〔陔餘叢考、孕婦緩レ刑〕北史崔浩傳、定二律令一、婦人當レ刑而有レ孕者、許二產後百日乃決一、後世孕婦緩レ刑始レ此。

【拷二決孕婦一】14 ヨウフヲカウケツス 唐代、懷孕中の婦人が罪を犯して、拷又は笞杖の刑に當るときは、產後百日を待つて決行するを法とした。〔唐律、斷獄、拷二決孕婦一〕諸婦人懷孕、犯レ罪應三拷及決二杖笞一、若未レ產而拷決者、杖一百、傷重者依下前人不レ合二捶拷一法上、產後未レ滿二百日一而拷決者、減二一等一、失者各減二二等一。

【孕別】15 ヨウベツ 子をうむ。別は胎兒が母とわかれる意。分娩。又、雄に別れて子を懷にすること。〔荀子、王制〕黿鼉魚鼈鰌鱣孕別之時。〔注〕別、謂二生育與レ母分別一也、國語、里革諫二魯宣公一曰、魚方別孕、韋昭曰、自別二於雄一而懷レ子也。

【孔】6939 ギ 義未詳。〔五音篇海〕孔、音義。

三畫

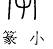
【孚】6940 シ 子(3－6930)の古字。〔說文〕子、孚、古文从レ巛、象レ髮也。

【孖】4941 ［一］シ 〔集韻〕津之切 ［支］ ［二］ジシ 〔集韻〕疾置切 ［寘］

［一］［二］❶ふたご。通じて孳(3－7011)に作る。〔集韻〕孖、一產二二子一、通作レ孳。❷しげる。滋(7－18021)に通ず。〔玉篇〕孖、通レ滋、蕃長也。

［名乘］シゲ

【字】6942



小篆

［一］ジシ 〔集韻〕疾置切 ［寘］ ㄗˋ tzŭ^4 ［二］シ 〔集韻〕津之切 ［支］

［一］❶うむ。〔說文〕字、乳也、从三子在二宀下一、子亦聲。〔段注〕人及鳥生レ子曰レ乳。〔廣雅、釋詁一〕字、生也。❷はらむ。〔易、屯〕女子貞不レ字。〔虞注〕字、妊娠也。❸やしなふ。はぐくむ。〔正字通〕字、育レ子也。〔左氏、昭、十一〕使レ字二敬叔一。〔注〕字、養也。❹めす。〔正字通〕字、畜之牝者能孕字、故謂二牝字一。〔史記、平準書〕乘二字牝一者、儐而不レ得二聚會一。❺いつくしむ。愛する。慈(4－11048)に通ず。〔說文通訓定聲〕字、叚借爲レ慈。〔正字通〕字、撫也、愛也。〔左氏、昭、元〕樂王鮒字而敬。〔注〕字、愛也。❻もじ。ふみ。〔許愼、說文解字敍〕倉頡之初作レ書、蓋依レ類象レ形、故謂二之文一、其後形聲相益、卽謂二之字一、字者、言二孳乳而浸多一也。〔周禮、春官、外史〕掌レ達二書名于四方一、〔注〕古曰レ名、今曰レ字。〔疏〕古者之文字少、直曰レ名、後代文字多、則曰レ字、字者、滋也、滋益而名、故更稱曰レ字。❼あざな。實名の外のよび名。元服の時、名を尊んで字をつける。名と字とは表裏してゐる。孔子の名は丘、字は仲尼の類。〔儀禮、士冠禮〕冠而字レ之、敬二其名一也。〔疏〕君父之前稱レ名、至二於他人一稱レ字也、是敬二其名一也。〔禮、曲禮上〕男子二十、冠而字。〔注〕成人矣、敬二其名一。〔禮、郊特牲〕冠而字レ之、敬二其名一也。〔禮、冠義〕已冠而字レ之。〔注〕字、所二以相尊一也。〔史記、孔子世家〕禱二於尼丘一得二孔子一、云云、故因名曰レ丘云、字仲尼。〔白虎通、姓名〕人所二以有レ字何、所三以冠レ德明レ功敬二成人一也。〔顏氏家訓、風操〕字以表レ德。❽かざる。〔廣雅、釋詁二〕字、飾也。❾古は孶(3－6978)に作る。〔集韻〕字、古作レ孶。❿牸(7－20012)に通ず。〔正字通〕字、別作レ牸。⓫姓。〔萬姓統譜〕字、宋廉州判官字諤。〔奇姓通〕漢字長孺、見二印藪一。⓬［現］㋑書類。書附。㋺眼鏡の度。

［二］やしなふ。〔集韻〕字、養也。［邦］あざ。町村内の一區。

［名乘］ナ。

［解字］會意形聲。宀(家)と子との合字。子が宀の下にあること。故に本義は、乳人が家の中にあつて子を生み乳をのますこと。子は又音符。轉じて、養ふ、文字等の義とす。

【字愛】1 ジアイ いつくしむ。慈愛。子愛。〔釋名、釋言語〕慈、字也、字二愛物一也。〔孝經、孝治章、而況於二公侯伯子男一乎、疏〕子者、字也、言三字二愛於小人一也。

【字彙】2 ジヰ ❶字引。辭書。淸の石梁に草字彙十二卷の編がある。〔石梁、草字彙後序〕草字彙、彙下草字之所二經見一者上、如二字彙一編二次之一、以便二稽考一也。❷書名。十二集。首末二卷を添ふ。明、梅膺祚撰。各集は十二支を以て題し、一畫から十七畫まで三萬三千七十九字を二百十四部とし、正韻を宗とし、說文韻會を參考し、音切・訓詁を施し、說文制字の旨を錄し、集の首には一圖を作つて檢閱に便ならしめてゐる。字書の畫引は此の書に始まる。淸の張自烈が訂正增補し、注文を補足し、地名・氏姓等の誤を正し、又部屬を變更し、吳任臣も補字・補音義・較譌の三項に分けて之が增補を試み、且、原書には怪奇の字を避けてゐるが、此には務めて收錄した。明史藝文志に著錄す。

『參考書』【續字彙補】十二集附、正韻字體辨微一卷 淸、吳任臣撰。【字彙數求聲】十二卷 虞德升撰。【增注校正頭書字彙】十二集附、首末二卷・補遺一卷 簡室增注。

【字育】3 ジイク はぐくみそだてる。字養。〔列子、黃帝〕風雨常均、字育常時、年穀常豐。

【字引】4 ジビキ 漢字を集め、部首によつて分類し、點畫に從つて排列し、其の字音意義を說明した書。又、現在は廣く辭書の義にも用ひる。字書(45)・辭書(10－38671・・56)を見よ。

【字印】5 ジイン 活字をいふ。〔夢溪筆談、技藝〕欲レ印、則以二一鐵範一置二鐵板上一、乃密二布字印一、滿二鐵範一爲二一板一。

【字韻】6 ジヰン 文字の韻。〔四庫提要、經部、小學類存目、一〕字韻合璧、二十卷。

【字苑】7 ジヱン 字書の一種。唐書藝文志に、馮幹括字苑十三卷、葛洪要用字苑一卷があるが、今、傳はらない。但し後世の字書は多く葛氏訓詁を用ひる。〔唐書、藝文志一〕馮幹括字宛十三卷・葛洪要用字苑一卷。

【字音】8 ジオン ❶文字の音。〔顏氏家訓、勉學〕吾初讀二莊子螅一二首一、韓非子曰、虫有二螅者一、一身兩口、爭レ食相齕、遂相殺也、茫然不レ識二此字何音一、

逢レ人輒問、了無二解者一。㊁三國、魏の孫炎の作つた字書の名。〔小學紺珠、律曆類、五音十四聲〕孫炎始作二字音一。

【字解】9（ジカイ）　字義の說明。じとき。

【字江】10（ジカウ）　巴江の異名。其の形が巴字に似てゐるからいふ。〔事物異名錄、坤輿、瀆〕山堂肆考、四川保寧府有二巴江一、勢若二巴字一、又名二字江一。

【字號】11（ジガウ）　㊀字を符號とする。文字を以て記した名號。〔遼史、儀衞志三〕符契、金魚符七枚、黃金鑄、長六寸、各有二字號一。㊁商店の招牌。商號。屋號。商標。又、商店をいふ。〔東軒筆錄〕京師置二雜物務一、置二內所レ須之物一、而內東門、復有二字號一、徑下二諸行市物一、以供二禁中一。〔東軒筆錄〕京師置二雜物務一、云云、復有二字號一、徑下二諸行市物一、以供二禁中一。㊂字（アザナ）と號（トナ）へ。㊃tzŭ^{4} hao^{4}　一寸ばかりの方形の紙に文字を一字づつ書き、小兒に文字を敎へるに便にしたもの。

【字號棧房】12 tzŭ^{4} hao^{4} chan^{4} fang^{2}　一種の仲買問屋。後世は轉じて、商人の委託により、自ら貨物を賣買し、代金を取立て、貨物を運送し、或は倉庫を設けて貨物を保管し、客室を備へて商人を宿泊せしめる等、多種多樣の業務を兼ねるに至つた。

【字格】13（ジカク）　㊀文字を書く法則。〔竇蒙、題二述書賦語例字格後一〕學者致レ疑、仍施二朱點一、發二此則一、語之理例、別有二字格存一焉。㊁tzŭ^{4} kê^{2}　文字を書くに、紙の下に敷く罫入りの下敷。

【字學】14（ジガク）　文字の學。字體又は字義を研究する學問。〔封氏聞見記、文字〕安帝時、許愼特加二搜采一、九千之文始備、著爲二說文一、凡五百四十部、云云、故說文至レ今爲二字學之宗一。〔硏北雜志〕晉宋人、書法絕妙、未三必盡曉二字學一。

【字學擧隅】15（ジガクキヨグウ）　書名。一卷。淸、龍啓瑞撰。干祿字書の例にならひ、說文六書及び功令通用字體によつて、字體の訛俗を訂正し、辨似正譌等の目に分つ。科擧時代、書法の標準として尊重せられた。〔翰苑分書、第三冊〕。

【字學七種】16（ジガクシチシユ）　書名。淸、季祕園撰。字學の書で、點畫の訛り、音義の異同を辨じ、區分類聚して漢字の正體と通俗體とを解說す。

【字鑑】17（ジカン）　書名。五卷。元、李文仲撰。文仲の從父世英が、經傳子史百家の書から、四聲に涉る文字を彙集し、類韻二十卷を著す。文仲はそれに因つて點畫を辨正し、俗謬を刊除し、以て此の書を著す。凡て千二百五十餘字、二百六部の韻に依つて排列し、反切をあげて意義を示し、省字、俗字に及んでゐる。〔四庫提要、經、小學類〕。

【字眼】18（ジガン）　詩文の中の一字の巧拙が一篇の死活に關する重要な文字をいふ。文章では別に警策・關鍵・精神などいふ。詩では七言の第五字、五言の第三字は勿論、一句中の縫目となる箇所は皆字眼である。〔滄浪詩話、詩辯〕其用レ工有レ三、曰起結、曰句法、曰字眼。〔福惠全書、刑名部、問擬餘論〕但不レ得レ混二刪要緊承招問レ罪字眼一。

【字寄】19 tzŭ^{4} chi^{4}　移牒する。

【字義】20（ジギ）　㊀文字の意味。〔魏書、孫惠蔚傳〕專精校考、參二定字義一。〔輶軒語、語學、通經〕大率字類定二於形一、字義生二於聲一。㊁書名。六卷。田中大壯撰。漢字の意義を和譯訓解す。其の數一萬三千餘字、上下平凡そ三十韻に分屬す。周易開物の法を以て字を譯することを傳へ、音が同じければ義同じく、音が近ければ義近く、此を知れば、彼を喩ることが出來るといふ。往々牽強附會の說がある。

【字義詳解】21（ジギシヤウカイ）　書名。五卷。前田葉庵撰。天文・地理・節序から人事・花木・鳥獸又は神・儒・佛の大略に及ぶ。享保十七年の序がある。自筆本と稱せられるものが、國會圖書館に藏せられてゐる。

【字腳】22（ジキヤク）　字體の下部。〔徐集孫、詩〕碑斷二亂雲一封二字腳一。

【字據】23 tzŭ^{4} chü^{4}　證書。憑單・憑據ともいふ。

【字句】24（ジク）　文字語句の略。〔文心雕龍、聲律〕滋味流二於字句一、氣力窮二於和韻一。

【字畫】25（ジクワク）　㊀文字の點畫。漢字は基の組織が極めて複雜で、康熙字典には五十二畫に上るものを錄してゐるが、之を大別すれば本畫と部首とから成る。本畫は其の基本となるもので、一・｜・丶・乙の類、其の數二十三。部首は字形によつて類別して、一部の首畫で一は丁・上・下の部首、丶は丹・主・丼の部首、乙は乞・也・乳の部首などの類。康熙字典は之を二百十四に分つ。近時刊行の字書には、此の部首を變更したものが多い。〔書苑〕字畫交錯者、欲二其疎密長短大小勻停一。㊁（ジグワ）　文字と繪畫。書畫。〔志林〕唐末五代文章藻麗、字畫隨レ之。〔紅樓夢、三十七回〕字畫冊頁。

【字貫】26（ジクワン）　書名。六十卷。淸、王錫侯撰。總目一卷・提要十卷・本編四十二卷・附錄七卷に分る。康熙字典の誤謬を駁正し、怨家の王瀧南に首告せられて罪を得、板を燬かれ、發賣を禁じ大逆罪を以て論ぜらる。內容は爾雅の體に倣ひ、四類四十部に分ち、字の音義同じき者を一所に萃め、其の音と義とを下に注し、每部、千字文に配して、天字より霜字に至る。內容は天文類（天文・時令數目）・地理類（地理上中下）・人事類（身體上下・性情・德器上下・悖戾・言語・手持・行止・君統・臣道・倫紀・事理上下・疾病・神鬼）・物類（穀蔬・飮食・宮室・財貨・服飾・器用上下・舟車・文具・武具・音樂・木竹・草花・藥物・飛禽・走獸・畜產・鱗介・蟲豸）。別に索引には畫引・辨似の外、康熙字典によつて檢出する法を附す。今、違礙書目・禁書總目に著錄せらる。我が國には夙に傳來し、現に內閣文庫に藏せられてゐる。中津藩では字貫提要十卷を刻したことがある。

【字訓】27（ジクン）　漢字の日本よみ。我が國に於ける漢字のよみ方の一。漢字の意味を示す日本語が、其の字のよみ方として固定したもの。

【字形】28（ジケイ）　文字の形。〔文心雕龍、練字〕若二夫義訓一、古今興廢殊レ用、字形單複、姸蚩異レ體。〔法書要錄〕欲レ書者先乾二研墨一、凝レ神靜レ思、預想二字形大小一、偃仰平直振動、令三筋脈相連、意在二筆前一、然後作レ字。〔盧綸、送三李校書赴二東川幕一詩〕字形知二國號一、眉勢識二山名一。

【字溪】29（ジケイ）　宋、陽枋（**11－41725**・・213）の號。

【字溪集】30（ジケイシフ）　書名。十一卷・附錄一卷。宋、楊枋撰。集中の書簡は講學の語が多く、易象の解釋は朱子と異なるものがある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【字縣】31（ジケン）　縣名。漢、置く。故治は山海關西北邊外の子谷口。〔漢書、地理志下〕右北平郡、縣十六、字。

【字源】32（ジゲン）　書名。㊀宋、魏王廷美の子、克繼撰。他に宋の婁機の漢隸字源・淸の汪立名の鐘鼎字源がある。〔宋史、魏王廷美傳〕子六人、克繼善二楷書一、尤工二篆隸一、嘗進二所レ集廣韻字源一、帝稱レ善、藏二之祕閣一。㊁七卷。法護惟淨撰。華語と梵語と對照したもの。〔楓窗小牘〕法護惟淨、以二華梵一對參、爲二天竺字源七卷一。

【字孤】33（ジコ）　親の無い子を育てる。〔左氏、成、十一〕又不レ能レ字二人之孤一而殺レ之。〔注〕字、愛也。〔會箋〕字、育也。〔任昉、奏二彈劉整一文〕汜毓字レ孤、家無二常子一。

【字詁】34（ジコ）　書名。一卷。淸、黃生撰。この書の名は、魏の張揖の字詁に取つて名づく。文字の訓詁について考證したもの。六書に於て、每字皆新義を發明し、根據が深く博い。〔四庫提要、經、小學類〕。

【字攣】35（ジサン）　書名。四卷。明、葉秉敬撰。字形が似て、義の異なるものを分類して解す。每字、四言の歌訣を載せて、記誦に便ならしめてゐる。〔四庫提要、經、小學類〕。

【字指】36（ジシ）　㊀文字の意味。〔魏志、劉劭傳、散騎常侍陳留蘇林、注〕魏略曰、林字孝友、博學多通二古今字指一。㊁（ジサシ）　讀書する時、書中の字を指す棒。字つき。〔油粕〕わらはべは字指と袖を目にあてて。

【字紙】37（ジシ）　㊀字を書いた紙。〔歸元直指〕大明勸善書云、士之隸二吾籍一者、皆須三敬二重字紙一。㊁tzŭ^{4} chih^{3}　紙屑。反故。

【字紙簍兒】38 tzŭ^{4} chih^{2} lou^{3} êrr　反古籠。

【字字】39（ジジ）　雁の列を字に喩へていふ。〔孫存吾、秋思詩〕雁落二西風一字字沈、嫩涼偸入藕花心。

【字字雙】40（ジジサウ）　詞牌の名。七言四句四平韻。每句に疊字がある故に、字字雙といふ。

【字兒】41 tzŭ^{4} êrh　書附。控書。

【字辭】42（ジジ）　加禮、卽ち元服する本人に、あざなをつける時告げることば。〔儀禮、士冠禮〕字辭曰、禮儀既備、令月吉日、昭告二爾字一、爰字孔嘉、

髦士攸㆑宣、宜㆑之于㆑假、永受保㆑之、曰、伯某甫仲叔季、唯其所㆑當。

【字習】43ジフ　文字の書きぶり。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕字習生疎稿案之抄謄亦錯。

【字性】44ジシヤウ ジセイ　文字に對するすぐれた性質。字を書く才能。〔宣和書譜、一、唐太宗〕置㆓洪文館㆒、選㆘貴遊子弟有㆓字性㆒者㆖、出㆓禁中所㆑藏書㆒、令㆓斆學㆒焉。

【字書】45ジシヨ　漢字を集めて其の字音を指示し、意味を説明した書。字引。歷代史志に於ては、訓詁韻學とともに小學と統稱し、字書の名目をたてない。清の紀昀は四庫書目小學中に於て、訓詁・字書・韻書の三類とした。訓詁の字書は文字の意義を主とするもので、之に屬するものに爾雅・漢の孔鮒の小爾雅・史游の急就篇・揚雄の方言・劉熙の釋名・魏の張揖の廣雅・宋の陸佃の埤雅・明の朱謀㙔の駢雅等がある。音韻の字書は音韻を主としたもので、之に屬するものに、隋の李登の聲類・呂靜の韻集・陸方言の切韻・梁の沈約の四聲譜・唐の孫愐の唐韻・句中正の廣韻（以上亡佚）・宋の陳彭年等の大宋重修廣韻・丁度等の集韻及び禮部韻略・毛晃父子の增韻・劉淵の壬子新刻禮部韻略・呉棫の韻補・金の韓道昭の五音集韻・元の黃公紹の古今韻會・熊忠の古今韻會擧要・明の洪武中、樂韶鳳等の洪武正韻・凌稚隆の五車韻瑞・清の邵長蘅の古今韻略・聖祖勅撰の佩文韻府・顧炎武の唐韻正・阮元の經籍纂詁等がある。字形の字書は文字の形制を主とするもので、之に屬するものに、周の宣王の太史の史籀篇・秦の李斯の倉頡篇・趙高の爰歷篇・漢の胡母敬の博學篇・司馬相如の凡將篇・揚雄の訓纂・後漢の賈魴の滂喜篇（以上亡佚、玉函山房輯佚書に收む）・許愼の説文解字・梁の顧野王の玉篇・唐の顏元孫の干祿字書・張參の五經文字・元度の九經文字・宋の郭忠恕の汗簡及び佩觿・洪适の隸釋及び隸續・婁機の漢隸字源及び班馬字類・遼の行均の龍龕手鑑・明の魏校の六書精蘊・梅膺祚の字彙・呉任臣の字彙補・張自烈の正字通・清の聖祖敕撰の康熙字典等がある。右の中、字彙は畫順に配列した始で、康熙字典は之を大成したものであるが、猶誤が多く、王引之は之が爲に字典考證を著してゐる。我が國の字書の沿革は平安朝の初、空海が篆隸萬象名義を作つたのを始とし、昌泰年間、僧昌住は新撰字鏡を作つた。是等は何れも字形によつて分類したものであるが、源順の和名類聚抄は分類體で各部門の下に事物の漢名を出し、之に注と和訓とを加へてゐる。類聚名義抄は玉篇式の體裁で、片假名で訓を附し、且つ二字以上の熟語を多く收めてゐる。橘忠兼の色葉字類抄に至つて、始めて漢字を訓から引く體裁を用ひ、伊呂波四十七部に分けた。次いで鎌倉時代に入り、字鏡集・倭玉篇等が出て、皆音訓共に假名を用ひ、最も通俗的である。又、平仄字書としては平他字類抄、室町時代に入つて新韻集がある。尚、室町時代の分類體字書には下學集・撮壤集・類集文字抄・節用集・温故知新書等があり、就中、温故知新書は五十音を用ひて引くもので、五十音引として最も古いものである。又、運歩色葉集は單に伊呂波に分けただけである。江戸時代に入り、倭玉篇が度々改版せられ、又、宋代に改修せられた大廣益玉篇が、其のまま音訓を加へて覆刻せられた。梅膺祚の字彙も間もなく傳はり、頭書を施し、假名で音を加へて覆刻せられ、次いで康熙字典が音訓を附して印行せられた。韻書としては聚分韻略が前代から行はれ、洪武聚分韻・伊呂波韻等が作られた。漢語を集めて分類し、解釋を加へたものには、林道春の多識篇・貝原好古の倭爾雅・伊藤東涯の名物六帖等がある。明治に至り、康熙字典を基として、之に國字を加へ、音訓意義を注し、且つ熟語を列擧したものが多く出た。是等は何れも畫引であるが、後には字音によつて五十音順に排列するものが多くなつた。辭書（**10**―38671··56）・類書（**12**―43636··41）を見よ。〔魏書、江式傳〕式撰㆓集字書㆒、號曰㆓古今文字㆒。〔四庫提要、經、小學類二〕右小學類、字書之屬三十六部、四百八十卷、皆文淵閣著錄。〔康熙字典、凡例〕正字通所㆑載諸字、多有㆑未㆑盡、今備采㆓字書韻書經史子集來歷典確者㆒、並行㆓編入㆒。

【字人】46 tzŭ^{4} jen^{2}　許嫁すること。

【字數】47ジスウ　文字のかず。字かず。〔李白、贈㆓漢陽輔錄事㆒詩〕漢口雙魚白錦鱗、今傳尺素報㆓情人㆒、其中字數何多少、秖是相思秋復春。

【字勢】48ジセイ　文字の書きぶり。筆勢。筆法。書法。〔梁武帝、評㆓王羲之書㆒文〕字勢雄踞、如㆘龍躍㆓天門㆒、虎臥㆗鳳闕㆖。

【字小】49ジセウ　㊀小國をいたはる。小さいものの面倒を見る。〔左氏、哀、七〕禹合㆓諸侯于塗山㆒、執㆓玉帛㆒者萬國、今其存者無㆓數十㆒焉、唯大不㆑字㆑小、小不㆑事㆑大也。㊁文字が小さい。〔歐陽脩、秦嶧山刻石跋〕嶧山字差小、又不㆑類㆓泰山存者、刻畫完好㆒。〔蘇軾、答㆓李康年㆒書〕篆書心經、字小而神完、尤爲㆓奇妙㆒。

【字消】50ジセウ　㊀文字が消える。〔酉陽雜俎、廣動植、鱗介〕烏賊、云云、遇㆓大魚㆒輒放㆑墨方數尺、以混㆓其身㆒、江東人或取㆑墨書㆑契、以脫㆓人財物㆒、書跡如㆓淡墨㆒、逾㆑年字消、唯空紙耳。〔顧況、經㆓廢寺㆒詩〕數卷殘經在、多年字欲㆑消。〔許渾、題㆓靈山寺行堅師院㆒詩〕經函露濕文多暗、香印風吹字半消。㊁ジケシ　㋑誤字を消す。㋺字を消すに用ひるゴム、又は白墨の類。

【字跡】51ジセキ　文字。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕母㆑得㆘錯㆓落原供㆒、潦㆗草字跡㆖。

【字説】52ジセツ　書名。㊀二十卷。宋、王安石撰。後、增補して二十四卷とす。安石獨自の考を以て文字を解釋し、極力説文を排斥し、悉く會意の一途を以て解釋し、牽強附會の弊に陷る。神宗の朝、經義論策を以て進士を進める制を定めるや、この書は三經新義と共に、應試の必讀書として用ひられた。〔宋史、王安石傳〕晚居㆓金陵㆒、又作㆓字説㆒、多㆓穿鑿傅會㆒、其流入㆓於佛老㆒、一時學者無㆔敢不㆓傳習㆒。㊁清、呉大澂撰。大澂は金文の學に精しく、此の書、每字經史・説文及び鐘鼎彝器の文字を引證し、詮釋極めて精密である。〘參考書〙【字説辨】宋、楊時撰。【字説解】庸秬撰。【字説解數】韓兼撰。【字説音訓】太學生某撰。【字説偏旁音釋】劉全美撰。

【字體】53ジタイ　㊀文字のかたち。文字の形體。文字の格式。漢字の字體には大要、古文（**2**―3233··438）の㊀・籀文（**8**―26702··6）・小篆（**4**―7473··955）・隸書（**11**―41932··13）・八分（**2**―1450··481）・章草（**8**―25761··80）・行書（**10**―34029··260）・楷書（**6**―15185··4）・草書（**9**―30945··137）の九種がある。各條を見よ。〔南史、江淹傳〕時襄陽人開㆓古冢㆒、得㆓玉鏡及竹簡古書㆒、字不㆑可㆑識、王僧虔善識㆓字體㆒、亦不㆑能㆑諳、直云㆑似㆓是科斗書㆒。〔北史、江式傳〕秦有㆓八體㆒、一曰大篆、二曰小篆、三曰符書、四曰蟲書、五曰摹印、六曰署書、七曰殳書、八曰隸書。〔韓愈、石鼓歌〕字體不㆑類㆓隸與科㆒。㊁書法の流派別の稱。文字の書きかた。鍾王體・歐虞體の類。〔蔡邕、篆勢〕思㆓字體之俯仰㆒、擧㆓大略㆒而論㆑旃。〔王羲之、題㆓衞夫人筆陣圖後㆒〕若欲㆑學㆓草書㆒、又有㆓別法㆒、須㆓緩㆑前急㆑後、字體形勢狀等、龍蛇相鉤連不㆑斷。〔南史、蕭子雲傳〕自云、善效㆓鍾元常・王逸少㆒、而微變㆓字體㆒。

【字紐】54ジチウ　唐宋の頃、反切で音を出すために用ひた雙聲疊韻の字。此の字を以て彼の字に組み合せて音を取るからいふ。助紐。〔王圻續文獻通考、雙聲疊韻譜訣〕韓道昭曰、切韻者本㆓乎四聲㆒、紐以㆓雙音疊韻㆒、欲㆑使㆔文章麗則、韻調精㆓明於古人㆒耳。

【字通】55ジツウ　書名。一卷。宋、李從周撰。九十八部。説文を以て隸書の扁旁を校した書。字數六百一。末に附せる糾正俗書八十二字は後人の竄入である。〔四庫提要、經、小學類〕。

【字條】56 tzŭ^{4} tʻiao^{2}　㊀書附。かきつけ。㊁簡單な通信。

【字帖】57 tzŭ^{4} tʻieh^{4}　㊀かきつけ。㊁前人の墨蹟を摹刻して、習字の手本としたもの。法帖。

〖字帖兒〗58 tzŭ^{4} tʻieh^{4} êrh　書附。文書。

【字典】59ジテン　㊀康熙字典をいふ。〔御製康熙字典序〕至㆓諸書引證未㆑備者㆒、則自㆓經史百子㆒、以及㆓漢晉唐宋元明以來、詩人文士所㆑述、莫㆑不㆓旁羅博證、使㆑有㆓依據㆒、然後古今形體之辨、方言聲氣之殊、部分班列、開㆑卷了然無㆓一義之不㆑詳、一音之不㆑備矣、凡五閱㆑歲而其書始成、命曰㆓字典㆒。㊁字書（45）に同じ。

【字頭】60 tzŭ^{4} tʻou^{2}　頭文字。初の字。

【字突】61ジツキ　書中の文字を指す棒。字指(36)の㊁に同じ。

【字乳】62ジニュウ　乳を與へて養ふ。乳養する。生育する。〔論衡、氣壽〕所レ産子死、所レ懷子凶者、字乳亟數、氣薄不レ能レ成也。

【字馬】63ジバ　㊀めうま。牝母。〔漢書、食貨志下〕天下亭亭、有レ畜二字馬一。㊁〡〢〣〤〥〦〧〨〩等の字をいふ。商家で之を用ひて一二三四五六七八九等の數字に代へる記號文字。

【字牌】64 tzŭ^4 pʻai^2　商標。

【字輩】65ジハイ　同族間では、同輩行の名は一樣の頭字を用ひる。清の光緒帝の同輩は載字輩、宣統帝の同輩は溥字輩の類。〔清會典、宗人府〕凡宗室之名、非二欽賜一則令レ報二名於府一、近支得レ依二字輩一、如二載字輩以下溥・毓・恆・啓・燾・闓・增・祺八字一、近支宗室之名上一字、皆得下按二其行輩一取用上。

【字牝】66ジヒン　畜類の牝。牸牝。〔史記、平準書〕衆庶街巷有レ馬、阡陌之間成レ羣、而乘二字牝一者、儐而不レ得二聚會一。〔注〕集解曰、孟康曰、皆乘二父馬一、有二牝馬一間二其間一、則相踶齧、故斥不レ得レ出二會同一。

【字舞】67ジブ　舞の名。舞人が文字の形にならんで舞ふもの。〔唐書、南蠻下、驃傳〕韋皐作二南詔奉聖樂一、字舞人十六、人執二羽翟一、以レ四爲レ列。〔樂史、柘枝譜〕舞有二字舞花舞一、字舞者、以レ身亞レ地、有レ成レ字、如レ作二天下太平字一、是也。〔通俗編、俳優、字舞〕樂錄、舞人亞二身于地一、而成レ字、謂二之字舞一。

【字腹】68ジバラ　活字の鑄型を造る模型。字模。

【字母】69ジボ　㊀音を綴る基礎となる文字。隋唐以前には、晉の竺曇摩羅刹の四十一字母と、別に十四字母との二說がある。唐末に至り、僧徒守溫が西域から三十六字母說を傳へてから、神珙・宋の司馬光・沈括・鄭樵等は盛に之を主張し、以後永く音韻家の遵由する所となつた。明には七十二字母說、清には二十一字母說、又は五十字母說が出たが、遂に三十六字母說を覆すことは出來なかつた。近時、注音字母・國語字母が作られ、盛に用ひられてゐる。三十六字母(**1－12**・・787)・注音字母(**6－17316**・・76)を見よ。〔智度論、四十八〕四十二字母、並一切字根本、因レ字有レ語、因レ語有レ名、因レ名有レ義、若聞レ字則了二其義一。〔通志七音略、七音序〕漢儒知下以二說文一解上字、而不レ知三文有二子母一、生レ字爲レ母、從レ母爲レ子、子母不レ分、所三以失二制字之旨一、云云、七音之韻起レ自二西域一、流二入諸夏一、梵僧欲下以二其教一傳中之天下上、故爲二此書一、雖下重二百譯之遠一、一字不レ通之處上、而音義可レ傳、華僧從而定レ之、以二三十六一爲二之母一、重輕清濁不レ失二其倫一、天地萬物之音、備二於此一矣。〔書史會要〕帝師巴思八采二梵文一、創爲二國定字母四十三一、而有三五字連續、通二阿伊宇衣乎文一。〔玉海、藝文、小學〕司馬光切韻指掌圖、以二三十六字母一、總二三百八十四聲一、別爲二二十四圖一。㊁活字のもととなるべき字型。

【字模】70 tzŭ^4 mo^2　字母。活字の母型。字腹に同じ。

【字本】71 tzŭ^4 pen^3　習字本。習字帖。「記帳。

【字本兒】72 tzŭ^4 pen^3 êrh　ノートブック。筆

【字幕】73ジマク　映畫の題名・作者・監督者・配役・會話・說明等を文字で現はしたフイルムの一部。タイトル。英語 title の譯語。

【字民】74ジミン　民をいつくしむ。〔逸周書、本典解〕字民之道、禮樂所レ生。〔隋書、音樂志中〕肇應二靈序一、奄字二黎民一。〔宋史、理宗紀四〕寶祐四年、帝製二字民訓一。〔宋史、度宗紀〕咸淳六年、上製二字民・牧民二訓一、以戒二百官一。

【字謎】75ジメイ　文字を材料とする謎。卽ち、隱語によつて某字を示すもの。例へば引用例の鮑照の字謎詩は井の字をいひ、二形一體は二つの二の字、四支は四つの一の字、八頭は八つの角あるをいひ、四八一八は四八三十二と一八が八とを加へて四十とし、井の字を四分して四個の十字と見做すに當て、飛泉仰流とは、井は綱を垂れて水を汲み、これを汲み上げるところより仰流といふ。一本、五八一八に作るが、五八とは四十の數を表はすといふ。隱語(**11－41891**・・6)の㊁を見よ。〔鮑照、字謎詩其一〕二形一體、四支八頭、四八一八、飛泉仰流。〔自注〕井字。〔鮑照、字謎詩其二〕頭如レ刀、尾如レ鉤、中央橫廣、四角六抽、右面負二兩刃一、左邊雙屬牛。〔自注〕龜字。〔鮑照、字謎詩其三〕乾之一九、雙立無レ偶、坤之二六、宛然雙宿。〔自注〕土字。

【字面】76ジメン　㊀字眼(18)に同じ。〔詞旨〕周清眞之典麗、姜白石之騷雅、史梅溪之句法、吳夢牕之字面、取二四家之所一レ長、去二四家之所一レ短。〔張鳳翔、宮詞〕墨汁啼痕字面稠。㊁ジヅラ　㋑文字の表面的な意味。㋺文字の字くばりなどから受ける視覺的な感じ。

【字樣】77ジヤウ　㊀文字の書き方。字の範式。唐の顏眞卿・戴行方・顏師古等に字樣各一卷、又、東臺字樣・干祿字樣各一卷・五經字樣三卷、又、唐の唐玄度の九經字樣等があり、皆、諸經の文字を正す爲に作る。〔歐陽脩、集古錄、跋尾、七〕唐干祿字樣模本。〔陳夷行、九經字樣奏狀牒文〕其舊字樣、歲月將レ久、畫點參差、傳寫相承、漸致二乖誤一。㊁文面。〔福惠全書、保甲部、簡驗壯丁〕書二某縣某鄉第幾保字樣一。㊂模樣。〔福惠全書、錢穀部、催徵、遴二收役一〕封袋上刊二一定字樣一。㊃ tzŭ^4 yang^4　文字。

【字養】78ジヤウ　はぐくみそだてる。字育。〔錢珝、韋師貞光祿卿制〕師貞強仕之歲、繼爲二字養一、糾率之官、三善之名、四書二於籍一。

【字餘】79ジアマリ　和歌の句の、一定の字數より多いこと。又、其の歌。

【字孕】80ジヨウ　はらむ。みもち。懷胎。〔元史、世祖紀十一〕敕、禽獸字孕時、無二畋獵一。「88)の字。

【字綠】81ジリヨク　清、朱書(宿松の人)(**6－14424**・・3)

【字林】82ジリン　書名。七卷。南朝宋、呂忱撰。文字の訓詁を記す。〔隋書、經籍志一〕字林七卷、晉、弦令呂忱撰、字林音義五卷、宋、揚州督護吳恭撰。〔唐書、百官志三〕書學博士掌レ教二八品以下及庶人子爲レ生者一、以二石經說文字林一爲二顓業一。『參考書』【字林音義】五卷　南朝宋、吳恭撰。【字林考逸】八卷　清、任大椿撰。【字林異同通攷】四卷　湯容煟撰。

【字類】84ジルイ　文字の種類。〔經解入門、說レ經必先識二文字一〕大率字類定二於形一、字義生二於聲一。

【字例】85ジレイ　㊀文字の形成を說明する例。指事・象形・形聲・會意・轉注・段借の六書をいふ。〔許愼、說文解字敍〕不レ見レ通學、未三嘗覩二字例之條一。〔段注〕字例之條、謂二指事・象形・形聲・會意・轉注・段借六書一也。㊁文字の用例。〔經解入門、體例不レ可レ不レ熟〕凡一書必有二本書之大例一、有二句例一、有二字例一、學者讀時、必先知二其例之所一レ存、斯解時不レ失二其書之文體一。

【字簍】86 tzŭ^4 lou^3　紙屑籠。

【如レ字】87ジノゴトシ　㊀一字で二音ある場合、本來の音に讀み、本義に從つて解釋すべきを示す。〔易、乾、利レ見、釋文〕如レ字。〔嬾眞子〕二十八宿、韻略、宿音秀、亢音剛、氐音低、觜音訾、皆非、當下如二其字一呼上也。〔貢父詩話〕詞人以二也字一作二夜音一、杜云、青抱也自レ公、白公云、也向二慈恩寺裏一游、不レ可三如二字學一也。㊁或る字の音を某字の音の如く讀むをいふ。〔東齋記事〕古者字未レ有二反切一、故訓釋者、但曰三讀如二某字一而已。

【字角兒】88 tzŭ^4 chiao^3 êrh　文字。

【字鏡集】89ジキヤウシフ　書名。七卷。菅原爲長撰と傳ふ。之を寬元本といふ。別に二十卷本があり、應永本といふ。字形によつて排列した漢字典。其の目は寬元本によれば天象・地儀・植物・動物・人倫・人體・人事・飮食(附雜物)・光彩・方角・員數・辭字・雜字の十三部。(應永本は人倫・光彩・方角・員數の四部を獨立せしめないで、他の部に編入し、雜物を一項として獨立せしめてゐる)。此の書は始めて扁旁を其の意義によつて分類して、檢索に便にし、音訓の注にはすべて片假名を用ひてゐる。

【字不レ滅】91ジメッセズ　文字が磨滅しない。〔古詩十九首〕置二書懷袖中一、三歲字不レ滅。

【以レ字行】92アザナヲモッテオコナハル　其の名を使はず、字で世に呼ばれること。〔南史、謝裕傳〕謝裕、字景仁、云云、名與二宋武帝諱一同、故以レ字行。「の尊稱。

【字雲先生】93ジウンセンセイ　清、盛謨(**8－23005**・・178)

【字挾二風霜一】94ジハフウサウヲワキバサム　字句が凜烈森嚴で、恰も風霜を帶びてゐるやうである。〔西京雜記、三〕淮南王安、著二鴻烈二十一篇一、鴻、大也、烈、明也、言二大明禮教一、號爲二淮南子一、一曰二劉安子一、自云、字中皆挾二風霜一。

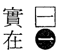
【識レ字憂患始】95ジヲシルハイウクワンノハジメ　文字を學び學問をすると苦勞が生ずる。何事も知らぬが安樂で

ある。〔蘇軾、石蒼舒醉墨堂詩〕人生識㆑字憂患始、姓名粗記可㆓以休㆒、何用㆓草書㆒誇㆓神速㆒、開㆑卷惝怳令㆓人愁㆒。

【存】 6943

㊀ソン ゾン 〔集韻〕徂昆切 ㄘㄨㄣˊ ts'uen² 元

㊁セン ゼン 〔集韻〕才甸切 霰


小篆

㊀❶**ある**。存在する。現存する。實在する。〔說文通訓定聲〕存、按、从㆓在省㆒、孨省聲、本訓當㆓與㆑在同㆒、與㆑亡爲㆓對文㆒。〔爾雅、釋訓〕存存・萌萌、在也。〔注〕存、卽在。〔公羊、隱、三〕有㆓天子存㆒。〔注〕存、在也。〔孟子、告子上〕操則存、舍則亡。❷**生きながらへる**。生存する。〔史記、五帝紀〕存亡之難。〔注〕正義曰、存亡、猶㆓死生㆒也。❸**たもつ**。存在させる。保存する。〔易、繫辭上〕成㆑性存㆑存。〔疏〕存㆓其萬物之存㆒、使㆔物得㆓其存成㆒也、云云、存、謂㆑保㆓其終㆒也。❹**やすらか**。〔史記、五帝紀〕存亡之難。〔注〕索隱曰、存亡、猶㆓安危㆒也。❺**とどまる**。やむ。〔後漢書、崔駰傳〕遠求存而良馬縶、〔注〕存、猶㆓止息㆒也、言、所㆑求之物既止、不㆑資㆓良馬之力㆒也。❻**とふ**。㋑あはれむ。〔說文〕存、恤問也、从㆓子在省㆒。〔段注〕大徐本作㆓才聲㆒、今小徐本作㆓在聲㆒、依㆓韵會所㆑引正。〔禮、月令〕養㆓幼少㆒、存㆓諸孤㆒。㋺ねぎらふ。又、安否をとふ。〔周禮、秋官、大行人〕歲、徧存、三歲、徧頫、五歲、徧省。〔注〕存・頫・省者、王使㆓臣於諸侯㆒之禮、所謂閒問也。〔戰國、秦策〕無㆓一介之使以存㆒㆑之。〔漢書、文帝紀〕使㆔人存㆓問長老㆒。〔注〕師古曰、存、省視也。❼**いたる**。〔荀子、議兵〕所㆑存者神。〔注〕存、至也。❽**すすむ**。〔楚辭、大招〕遽爽存只。〔注〕存、前也。❾**みる**。あきらかにする。〔爾雅、釋詁〕存、察也。〔周禮、春官、司尊彝〕存㆓尊彝㆒。〔注〕存、省也。〔禮、禮運〕處㆓其所㆑存。〔注〕存、察也。❿**おもふ**。**おぼえる**。〔禮、祭義〕致㆑愛則存、致㆑愨則著。〔注〕存・著、則謂㆓其思念㆒也。⓫**つかさどる**。**やく**。役人。役所。司（**2**—**3257**）に通ず。〔說文通訓定聲〕存、叚借爲㆑在、實爲㆑司、論語、則有㆓司存㆒、後漢崔琦傳、文選頭陀寺碑、皆言㆔各有㆓司存㆒、晉書職官志、敍㆓咸樹司存㆒、桓沖傳、司㆓存閫外㆒、北齊儒林傳、敍㆓齊氏司存㆒、按、司・存雙聲連語、存、亦司也。⓬**すすめる**。そなへる。荐（**9**—**30951**）・巽（**4**—**9774**）に通ず。〔說文通訓定聲〕存、叚借爲㆑荐、實爲㆑巽、禮記祭義、存㆓諸長老㆒、按、猶㆑進也、具也。⓭古は厊（**2**—**2975**）に作る。〔字彙補〕厊、古文存字。⓮**姓**。〔萬姓統譜〕存、見㆓姓苑㆒、存光孫、富順人、寶祐進士。⓯現㋑たくはへる。㋺あづける。㊁**ある**。〔集韻〕存、在也。

名乘　アリ

解字　會意。子と在の省畫との合字。子は弱いもの、故に弱いものを恤み問ふ意。一說に、形聲。在を音符とする。義同じ。一說に、會意形聲。在の省畫と孨の省畫との合字、孨は又聲。孨も弱い意、故に本義同じ。轉じて、いきながらへる、存在するの意とし、在（察）・荐等に假借する。〔說文通訓定聲〕存、恤問也、从㆑子才聲、按、从㆓在省㆒、孨省聲、本訓當㆓與㆑在同㆒、與㆑亡爲㆓對文㆒。

【存愛】1（ソンアイ）仁愛の心を以て民を愛すること。存は察。又、民を愛することを心に存して忘れぬこと。聖人が天下を治める道の一。〔禮、大傳〕一曰治親、二曰報功、三曰擧賢、四曰使能、五曰存愛。〔注〕存、察也、察㆓有仁愛㆒也。〔孫希旦集解〕存愛、以㆓愛㆑人之事㆒、存㆓於心㆒而不㆑忘也。

【存安】2（ソンアン）安きにおく。安處させる。〔管子、牧民〕民惡㆓危墜㆒、我存㆓安之㆒。

【存案】3（ゾンアン）記錄する。記錄に留める。存査。存照。〔淸會典事例、內閣、職掌、進本〕各省耕耤日期、咨㆑部存㆑案、毋㆑庸㆓具題㆒。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕候㆑出㆓審語㆒、發㆑房存㆑案。

【存菴】4（ソンアン）字號。❶淸、干特（**4**—**9165**‥77）の號。❷淸、嚴我斯（**2**—**4589**‥272）の字。

【存意】5（ソンイ）おもはく。みこみ。意見。

【存肄】6（ソンイ）保存してならふこと。〔漢書、禮樂志〕河閒獻王、因獻㆓所㆑集雅樂㆒、天子下㆓大樂官㆒、常存㆓肄之㆒。

【存慰】7（ソンヰ）たづねなぐさめる。ねぎらひなぐさめる。〔應瑒、侍㆓五官中郎將建章臺集㆒詩〕贈㆑詩見㆓存慰㆒。〔注〕善曰、鄭玄周禮注曰、存、省也、毛萇詩傳曰、慰、猶㆔安㆓存之㆒也。〔宋書、王微傳〕微既爲㆓始興王濬府吏㆒、濬數相存慰。

【存園】8（ソンヱン）淸、蔡啓僔（**9**—**31818**‥159）の號。

【存價】9（ソンカ）價格を維持する。〔淸會典、戶部〕豐歲每石減㆓市價銀五分㆒、歉歲減㆓銀一錢㆒、秋收後、以㆓糴存價銀㆒採捕、裕㆓備倉㆒。

【存我】10（ソンガ）明、李待問（華亭の人）（**6**—**14459**‥1670）の字。

【存該】11 ts'uen² kai¹ 貸借。

【存項】11′ ts'uen² hsiang⁴ 預金。存款（29）に同じ。

【存稿】12（ソンカウ）❶保存して散佚に備へる草稿。書名に用ひる。〔皇淸經解續編、第一百九十二冊〕癸巳存稿、四卷、淸、兪正燮撰。❷ ts'uen² kao³ 保存する議案。

【存韓】13（ソンカン）韓非子の篇名。

【存記】14（ソンキ）名を記錄に留め、任用に備へるをいふ。〔淸會典事例、內閣、職掌、票擬〕朕已增㆓又一案三字㆒、嗣後彙題本如㆑有㆓一人兩案㆒者、俱照㆓此擬票㆒、內閣存記。

【存期】15 ts'uen² ch'i² 銀行、其の他に於ける預金の期限。

【存義】16（ソンギ）進退宜しきに適って義を失はないこと。〔易、乾〕知㆑終終㆑之、可㆓與存㆑義也。〔疏〕義者、宜也、保㆓全其位㆒、不㆑有㆓失喪㆒、於㆑事得㆑宜。〔資治通鑑、魏紀〕存㆑義之國、喪㆓於儒退㆒。

【存救】17（ソンキウ）たすけ救ふ。拯救。振救。〔潘岳、藉田賦〕展㆔三時之弘務㆒、致㆓倉廩於盈溢㆒、固堯湯之用㆑心、而存救之要術也。

【存據】18（ソンキヨ）證據のために保存する。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕花押存㆑據、以免㆓後日之患㆒。

【存勗】19（ソンキヨク）五代後唐の莊宗、李存勗（**6**—**14459**‥1645）の名。

【存銀】20（ソンギン）貯金。預金。〔淸會典事例、戶部、積儲、分儲〕乾隆二十七年覆准、直隸道府庫、分存銀十五萬三千六百七十三兩有奇。

【存貨】21 ts'uen² huo⁴ 保留した商品。在庫品。手持品。又、商品を保留する。

〖存貨簿〗22 ts'uen² huo³ pu⁴ 貨物の買入れ、賣上げ、現在高等を明瞭にする帳簿。貨存簿。貨總簿。

〖存貨底帳〗23 ts'uen² huo⁴ ti³ chang⁴ 在庫品元帳。

【存悔】24（ソンクワイ）淸、范鵬（**9**—**30834**‥116）の號。

〖存悔齋〗25（ソンクワイサイ）字號。❶元、龔璛（**12**—**48837**‥32）の號。❷淸、何嗣焜（**1**—**511**‥286）の號。❸淸、劉鳳誥（**2**—**2224**‥1322）の號。

〖存悔齋稿〗26（ソンクワイサイカウ）書名。一卷。補遺一卷。元、龔璛撰。補遺は明、朱存理輯。〔四庫提要、集、別集類〕。

【存外】27（ゾングワイ）思ひの外。案外。〔曾我會稽山、一〕存外至極の無禮。

【存活】28（ソンクワツ）くらす。生存する。いきのびる。〔後漢書、蓋勳傳〕先出㆓家糧㆒以率㆑衆、存活者千餘人。〔杜甫、同㆓元使君舂陵行㆒詩〕奈何重驅逐、不㆑使㆓存活爲㆒。

【存款】29 ts'uen² k'uan² 預金。貯金。存項。

〖存款課〗30 ts'uen k'uan³ k'ê⁴ 預金係。預金課。

〖存款簿〗31 ts'uen² k'uan³ pu⁴ 預金帳。

〖存款證書〗32 ts'uen² k'uan³ chêng⁴ shu¹ 預金證書。

〖存款生息〗33 ts'uen² k'uan³ shêng¹ hsi² 預金して利息を生ませること。利殖。

〖存款長期〗34 ts'uen² k'uan³ ch'ang² ch'i²

上海の錢莊（銀行）に行はれる預金の一種。平年六ケ月、閏年七ケ月を期限とし、三九兩月を仕切目とする。

〔存款票據〕35 ts'uen^2 k'uan^3 p'iao^4 chü^4 銀行、或は錢莊の手形預金。

【存荊】36（ソンケイ） 楚國を存する。荊は楚。存楚（103）に同じ。〔班固、幽通賦〕木偃息以蕃レ魏兮、申重繭以存レ荊。

【存乾】37（ソンケン） 明、阮謙（11－41569・・12）の字。

【存眷】38（ソンケン） 意を注ぐ。あはれみかへりみる。〔王筠、與二東陽盛法師一書〕仰述二存眷一、曲垂二訪憶一。

【存戶】39 ts'uen^2 hu^4 預け主。預金者。存主。

【存古】40（ソンコ） 字號。❶明、夏完淳（3－5720・・299）の字。❷明、眞憲時（8－23235・・329）の號。

〔存古堂〕41（ソンコダウ） 清、王立階（7－20823・・2167）の室名。

【存孤】42（ソンコ） 孤兒を慰めあはれむ。〔禮、月令〕養二幼少一、存二諸孤一。〔北齊書、文襄紀〕分レ財養レ幼、事歸二令終一、舍レ宅存レ孤、誰云二隙末一。

【存吾】43（ソンゴ） 字號。❶明、黃溥（12－47926・・806）の字。❷元、劉畊孫（2－2224・・746）の字。❸清、余廷燦（1－515・・111）の號。

〔存吾春軒〕44（ソンゴシユンケン） 清、周大樞（2－3441・・764）の室名。

【存候】45（ソンコウ） ❶見舞ふ。たづねる。安否を問ふ。〔唐書、裴度傳〕分二衞兵一護レ第、存候踵レ路。❷（ゾンジサフラフ）存じます。考へます。手紙に用ひる語。

【存根】46 ts'uen^2 ken^1 ❶手形又は領收證などの控へ。留根。❷上海其の他の紡績工場で職工の給料支拂ひに、其の內十日分位を殘し置くことをいふ。

〔存根簿〕47 ts'uen^2 ken^1 pu^4 原簿。

【存査】48（ソンサ） 記錄にとめる。存案（3－6943・・3）に同じ。〔清會典事例、戶部、積儲、社倉積儲〕其簿籍之登記、每レ社設立用二印官簿一、一樣二本、一本社長收執、一本繳二州縣一存査、登記數目、毋レ得二互異一。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕或交レ宅、以便二存査一。

【存濟】49（ソンサイ） たすけすくふ。〔歐陽脩、論二澧州瑞木乞レ不三宣二示外廷一劄子〕州縣皇皇、何以存濟。

【存齋】50（ソンサイ） ❶字號。㋑宋、鄭師孟（11－39647・・419）の號。㋺宋、牟子才（7－19928・・43）の字。㋩宋、羅願（9－28397・・77）の號。㋥元、唐懷德（2－3709・・383）の號。㋭明、賀榮（10－36725・・1）の號。㋬明、瞿佑（8－23747・・2）の號。㋣清、何永紹（1－511・・221）の號。㋠清、夏煕澤（3－5720・・292）の號。㋷清、金肇鑾（11－40152・・1346）の號。㋦清、和素（2－3490・・258）の字。㋸清、涂天相（6－17518・・25）の號。㋾清、兪森（1－1437・・40）の號。㋻清、陸心源（11－41708・・366）の號。㋕貝原同道の號。貝原存齋（10－36656・・58）を見よ。❷室名。元、烏沖（7－18998・・235）の室名。

〔存齋詩話〕51（ソンサイシワ） 書名。三卷。明、瞿佑撰。歸田詩話（6－16349・・217）に同じ。

【存在】52（ソンザイ） ❶ある。現にある。〔禮記、仲尼燕居〕如レ此而后君子知レ仁焉。〔疏〕君子見二上大饗四焉一、知三禮樂所二存在一也。❷ts'uen^2 tsai^4 預けてある。貯へてある。

【存財】53 ts'uen^2 ts'ai^2 財產を貯へる。又、貯金。

【存倉】54（ソンサウ） くらにある米穀。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕存倉若干。

【存莊】55（ソンサウ） 清、戴鈞衡（5－11685・・162）の字。

【存想】56（ソンサウ） 深く考へる。熟慮。〔論衡、訂鬼〕思念存想、自見二異物一也。〔天隱子、存想〕存、謂レ存二我之神一、想、謂レ想二我之身一、閉レ目卽見二自己之目一、收レ心卽見二自己之心一、心與レ目皆不レ離二我身一、不レ傷二我神一、則存想之漸也。

【存藏】57 ts'uen^2 tsang^4 倉庫にをさめおく。

【存棧】58 ts'uen^2 chan^4 倉庫に預ける。倉入。

〔存棧貨物〕59 ts'uen^2 chan^4 huo^4 wu^4 倉庫に貯藏した商品貨物。

【存算】60（ソンサン） 勘定のために殘しおく。〔福惠全書、錢穀部、比較〕一截票存レ算、一歸農免レ比。

【存之】61（ソンシ） 字號。❶唐、馬植（12－44572・・325）の字。❷唐、畢誠（7－21829・・7）の字。❸明、高攀龍（12－45313・・1306）の字。❹清、方宗誠（5－13620・・570）の字。

【存祀】62（ソンシ） 祀を存する。祖先の祀をたやさない。血統の絕えないこと。

【存賜】63（ゾンシ） 恤み問うて物を賜はること。〔漢書、五行志中之下〕持レ節巡二行天下一、存二賜鰥寡一、假二與乏困一。

【存收】64 ts'uen^2 shou^1 保存する。

【存修】65（ソンシウ） 明、鄭須德（11－39647・・438）の字。

【存執】66（ソンシフ） 保存して證據とする。〔福惠全書、保甲部、調集符信〕保長將二存執左半籤一比對。

【存謝】67（ソンシヤ） 物の存否・去來・生滅をいふ。謝は去る。〔吳筠、巖棲賦〕知下道無二廢興一、而物有中存謝上。

【存餉】68 ts'uen^2 hsiang^3 積立金。

【存生】69（ゾンシヤウ） 生き長らへる。存命。〔地藏本願經〕菩薩之母存生、習二何行業一。

【存主】70 ts'uen^2 chu^3 銀行其の他の一般預金者。存戶（39）に同じ。

【存取】71 ts'uen^2 ch'ü^3 預金と其の引出との併稱。

【存恤】72（ソンジユツ） ❶なぐさめめぐむ。ねぎらひあはれむ。慰問救濟する。存卹。〔史記、楚世家〕存二恤國中一、修二政教一。〔漢書、淮陽憲王欽傳〕左顧存恤、發レ心惻隱。〔蜀志、諸葛亮傳〕民殷國富、而不レ知二存恤一。❷清代、兵卒の死後、三個月間、其の舊俸を家族に給すること。〔六部成語、兵部、存恤三個月、注解〕兵丁新死、仍舊以二應レ領之餉一、給二彼家中一三個月始止、名曰二存恤一。

【存卹】73（ソンジユツ） 存恤の❶に同じ。〔漢書、谷永傳〕宣二布聖德一、存二卹孤寡一。〔魏志、武帝紀〕存卹撫循。

【存潤】74（ソンジユン） 安否をたづねあはれむ。たづねめぐむ。〔北史、抱嶷傳〕嶷天性酷薄、雖二弟姪甥壻一、略無二存潤一。

【存初】75（ソンシヨ） 字號。❶元、阿榮（11－41599・・19）の字。❷明、汪善（6－17154・・93）の字。

【存拯】76（ソンジヨウ） 生かしすくふ。〔北史、祖瑩傳〕士有二窮戹以レ命歸レ之、必見二存拯一。

【存剩】77（ソンジヨウ） あまり。剩餘。〔福惠全書、蒞任部、定買辦〕將二用過價銀若干、存剩若干一、具二一結狀一、開寫明白。

〔存剩銀〕78（ソンジヨウギン） 清代、豫算剩餘金を金庫に貯へたものをいふ。〔六部成語、戶部、存剩銀、注解〕用剩之銀、存二貯於庫一。

【存心】79（ソンシン） ❶本心を放失することなく、存し養ふ。放心せぬこと。存神。〔孟子、盡心上〕存二其心一、養二其性一、所二以事レ天也。〔蘇軾、次二韻張甥棠美述志一詩〕讀書要在二存レ心久一。❷ts'uen^2 hsin^1 こころね。了見。心中。

〔存心堂〕80（ソンシンダウ） 清、藺挺達（9－32399・・14）の室名。

〔存心錄〕81（ソンシンロク） 書名。十卷。明、吳沈撰。

【存身】82（ソンシン） 身を全うする。〔易、繫辭下〕龍蛇之蟄、以存レ身也。

【存神】83（ソンシン） 精神を全うし、よく養ふ。存心。〔法言、問神〕聖人存レ神、索至、成二天下之大順一、致二天下之大利一、和二同天人之際一、使二之無レ間也。〔馮衍、顯志賦〕陂二山谷一而間處兮、守二寂寞一而存レ神。

【存賬】84 ts'uen chang^4 預金。

【存仁】85（ソンジン） 字號。❶明、郭資（11－39474・・102）の字。❷明、婁志德（3－6383・・46）の字。❸清、胡獻徵（9－29400・・460）の字。

〔存仁堂〕86（ソンジンダウ） 清、何日愈（1－511・・224）の室名。

【存水】87 ts'uen^2 shuei^3 ❶水を貯へる。❷溜り水。

【存數】88 ts'uen^2 shu^4 存款數額、卽ち預金。

【存性】89（ソンセイ） 明、郭資（11－39474・・102）の字。

〔存性篇〕90（ソンセイヘン） 書名。一卷。清、顏元撰。孟子の性善說に立脚し、人の氣質には清濁厚薄の別はあるが、要は一善に歸すべきを說く。〔顏李叢書、三十二〕・〔畿輔叢書、二百二〕。

【存政】91（ソンセイ） 國を長らへ盛にする政治。〔淮南子、兵略訓〕爲二存政一者、雖レ小必存、爲二亡政一者、雖レ大必亡。

【存省】92（ソンセイ） ❶天子の使臣が間歲に邦國を安撫する禮。巡狩の明年に行ふを存といひ、五年目に行ふのを省といふ。存頫（123）を見よ。〔周禮、秋官、大行人、間問、注〕間問者、間歲一問二諸侯一、謂二存省之屬一。❷樣子をたづねかへりみる。ねぎらふ。〔周禮、春官、司尊彝、大喪存二尊彝一、疏〕言レ此者、欲レ見下所レ奠彝尊、朝夕須二存省一之意上也。

【存誠】93（ソンセイ）　明、鄔修(11－39570‥4)の字。

〔存誠堂〕94（ソンセイダウ）　清、何曰愈(1－511‥224)の室名。

【存照】95　ts'uen^2 chao^4　保存して證據とする。存案(3)に同じ。

【存積】96　ts'uen^2 chi^1　倉庫に藏する。在庫。

【存拙】97（ソンセツ）　明、王彥(7－20823‥374)の字。

【存摺】98　ts'uen^2 chê^2　預金通帳。存款摺子の略。

【存錢】99　ts'uen^2 ch'ien^2　錢を貯へる。

【存全】100（ソンゼン）　無事に生きながらへる。〔韓愈、祭㆓十二郎㆒文〕少者彊者而夭歿、長者衰者而存全乎。

【存素】101（ソンソ）　清、王愫(7－20823‥710)の字。

〔存素堂〕102（ソンソダウ）　室名。㊀清、錢寶琛(11－40563‥418)の室名。㊁清、法式善(6－17290‥374)の室名。

【存楚】103（ソンソ）　楚國を救ふ。國を救ふ意。春秋、楚の申包胥の故事。存荊。〔左氏、定、四〕初伍員與㆓申包胥㆒友、其亡也、謂㆓申包胥㆒曰、我必復㆓楚國㆒、申包胥曰、勉㆑之、子能復㆑之、我必能興㆑之、及㆓昭王在㆑隨、申包胥如㆑秦乞㆑師曰、吳爲㆓封豕長蛇㆒、以荐㆓食上國㆒、虐始㆓於楚㆒、寡君失㆑守㆓社稷㆒、越㆓在草莽㆒、使㆓下臣告㆑急、曰、夷德無㆑厭、若鄰㆓於君㆒、疆埸之患也、逮㆓吳之未㆑定、君其取㆑分焉、若楚之遂亡、君之土也、若以㆓君靈㆒撫㆑之、世以事㆑君、秦伯使㆑辭焉、曰、寡人聞㆑命矣、子姑就㆑館、將㆓圖而告㆒、對曰、寡君越㆓在草莽㆒、未㆑獲㆑所㆑伏、下臣何敢卽㆑安、立依㆓於庭牆㆒而哭、日夜不㆑絕㆑聲、勺飲不㆑入㆑口七日、秦哀公爲㆑之賦㆓無衣㆒、九頓首而坐、秦師乃出。〔後漢書、馮衍傳上〕墨翟累㆑繭救㆑宋、申包胥重㆑胝存㆑楚。〔駱賓王、詠懷詩〕寶劍思㆓存楚㆒、金鎚許㆑報㆑韓。

【存宗】104（ソンソウ）　清、劉城(2－2224‥344)の字。

【存息】105　ts'uen^2 hsi^2　預金の利子。存款利息の略。

【存速】106（ソンソク）　銃砲彈が發射せられた後の或る位置に於ける速度。

【存續】107（ソンゾク）　無くならないでつづく。繼續する。

【存存】108（ソンソン）　㊀ある。存在する。〔爾雅、釋訓〕存存・萌萌、在也。㊁保存する。萬物を保存し成育させる。〔易、繫辭上〕成㆑性存㆑存。〔疏〕存㆓其萬物之存㆒、使㆔物得㆓其存成㆒也。

〔存存子〕109（ソンソンシ）　元、黃鎭成(12－47926‥1256)の號。

〔存存居士〕110（ソンソンコジ）　清、項聖謨(12－43343‥75)の號。

【存道】111（ソンダウ）　宋、趙仲僩(10－37171‥784)の字。

〔存道先生〕112（ソンダウセンセイ）　宋、賈同(10－36755‥109)の私諡。

【存單】113　ts'uen^2 tan^1　存簿。預金帳。

【存知】114（ゾンチ）　知る。承知する。〔東鑑、七〕文治三年十月三日、爲㆓御存知㆒所㆓申候㆒也。

【存蓄】115（ソンチク）　貯へる。貯蓄する。〔福惠全書、荒政、積貯〕當㆘合㆓計本州縣戶口一年備㆑荒之數㆒、以爲㆗存蓄㆖。

【存中】116（ソンチユウ）　字號。㊀宋、賈祥(10－36755‥71)の字。㊁宋、沈括(6－17189‥125)の字。㊂元、張庸(4－9812‥707)の字。

【存注】117（ソンチユウ）　注意する。氣にとめる。心配。〔雲笈七籤〕今按㆓上清七部之經㆒、存㆓注修行之事㆒。

【存貯】118（ソンチヨ）　貯へる。貯蓄する。存儲。〔清會典事例、戶部、積儲、常平穀本〕在㆓各屬豫買常平二項糧內㆒、暫爲㆓撥用㆒、所㆑有八成糧價銀兩、著存㆓貯司庫㆒、來年糧集價平、卽照㆑數買補還㆑倉。

【存儲】119（ソンチヨ）　貯へる。保管する。存貯。〔清會典事例、戶部、庫藏〕戶部奏部庫空虛、應㆑行㆓存儲款項㆒。

【存定】120（ソンテイ）　安んじ定める。〔史記、秦始皇紀〕皇帝之德、存㆓定四極㆒、誅㆑亂除㆑害、興㆑利致㆑福。

【存底】121　ts'uen^2 ti^3　㊀在庫品。㊁草稿を保存する。㊂殘留せるもの。殘物。

〔存底貨〕122　ts'uen^2 ti^3 huo^4　在庫品。殘品。

【存頫】123（ソンテウ）　天子の使臣が閒歲に邦國を安撫する禮。巡狩の明年に行ふを存といひ、三年目に行ふを頫といふ。〔周禮、秋官、大行人〕王之所㆔以撫㆓邦國諸侯㆒者、歲徧存、三歲徧頫、五歲徧省。〔注〕存・頫・省者、王使㆓臣於諸侯㆒之禮、所㆑謂閒問也、歲者、巡守之明歲、以爲㆑始也。〔疏〕存・頫・省者、王使㆓臣於諸侯㆒之禮者、亦對㆓諸侯朝㆑王之禮㆒也、云云、云㆓閒問㆒、以諭㆓諸侯之志㆒者也。〔周禮、秋官、小行人〕朝・覲・宗・遇・會・同、君之禮也、存・頫・省・聘・問、臣之禮也。〔疏〕存・頫・省三者、天子使臣撫㆓邦國㆒之禮、聘・問二者、是諸侯使臣行㆑聘。

【存條】124　ts'uen^2 t'iao^2　㊀天津の銀行、其の他、錢業者が發行する預金證書。地方によっては、存款・摺子ともいふ。㊁戾稅證書。

【存納】125（ソンナフ）　明、王爌(7－20823‥300)の字。

【存楠】126（ソンナン）　明、宋徵璧(3－7078‥369)の原名。

【存念】127（ゾンネン）　常に思うて忘れぬこと。又、かんがへ。意思。思慮。存慮。〔梵網經〕存㆓念三寶㆒。

【存䣅】128（ソンバ）　縣名。㊀漢、置く。今、四川省宜賓縣東南の蠻界。唐代、義賓と改め、宋代、宜賓と改む。今本漢書地理志は䣅𨛜に作る。王念孫は、𨛜字はもと存に作つたが、此は䣅字に因り、誤つて阝を加へたものといふ。〔說文〕䣅、存䣅、犍爲縣。㊁南朝宋、置き、南齊、之に因る。今、缺く。雲南省の境。

【存廢】129（ソンパイ）　保存することと無くすること。

【存煤】130　ts'uen^2 mei^2　石炭の在高。煤は石炭。

【存放】131　ts'uen^2 fang^4　㊀預金と貸付。㊁保存してある。預けておく。

〔存放他行〕132　ts'uen^2 fang^4 t'a^1 hang^2　銀行資產表の他行貸付。

【存亡】136（ソンバウ）　㊀生きることと死ぬこと。存立と滅亡。成敗。興廢。〔左氏、昭、十三〕存亡之道。〔孟子、離婁上〕三代之得㆓天下㆒也以㆑仁、其失㆓天下㆒也以㆓不仁㆒、國之所㆓以廢興存亡㆒者、亦然。〔列子、說符〕不㆑察㆓存亡㆒。〔管子、幼官〕存亡之數九。〔史記、淮南王安傳〕國家之存亡。〔諸葛亮、出師表〕此誠危急存亡之秋也。㊁滅びようとするものを助け存する。〔穀梁、僖、十七〕桓公嘗有㆓存㆑亡繼㆑絕之功㆒。〔漢書、高帝紀下〕存㆑亡定㆑危、救㆑敗繼㆑絕、以安㆓萬民㆒、功盛德厚。

〔存亡有㆑分〕137（ソンバウブンアリ）　物の存亡は各〻定まつた運命がある。〔魏志、陳羣傳〕長短有㆑命、存亡有㆑分。

〔存亡之機〕138（ソンバウノキ）　存するか亡びるかの重大な時機。〔戰國、秦策〕計聽知㆓覆逆㆒者、唯王可也、計者、事之本也、聽者、存亡之機。〔淮南子、兵略訓〕存亡之機、固已形矣。

〔存亡之制〕139（ソンバウノセイ）　存亡いづれになるかの定め。〔左氏、昭、十三〕存亡之制、將㆑在㆑今矣。

〔存亡之迹〕140（ソンバウノアト）　人や國の存亡盛衰の歷史。興廢の事實。〔淮南子、主術訓〕觀㆓存亡之迹㆒、見㆓成敗之變㆒。

〔存亡自在〕141（ソンバウジザイ）　生死を自由にする。〔列子、周穆王〕深思三月、遂能存亡自在。

〔存亡樞機〕142（ソンバウノスウキ）　存亡のわかれる大事なはずみ、又は原因。〔鬼谷子、本經陰符〕計謀者、存亡樞機。〔淮南子、人閒訓〕存亡之樞機、禍福之門戶。

〔存亡禍福皆在㆑己〕143（ソンバウクワフクミナオノレニアリ）　存と亡と禍と福とは、皆人自ら之を招くのである。〔說苑、敬愼〕孔子曰、存亡禍福、皆在㆑己而已、天災地妖、亦不㆑能㆑殺也。〔孔子家語、五儀解〕孔子對曰、存亡禍福、皆己而已、天災地妖、不㆑能㆑加也。

【存伯】144（ソンパク）　清、周閑(2－3441‥76)の字。

【存否】145（ソンピ）　存するか存しないか。健在であるかどうか。安否。〔後漢書、劉虞傳〕遠隔㆓關塞㆒、不㆑知㆓存否㆒。

【存美】146（ソンビ）　明、馬士彰(12－44572‥786)の字。

【存備】147　ts'uen^2 pei^4　倉庫に收めおく。

【存撫】148（ソンブ）　㊀なぐさめ安んずる。〔禮、文王世子、疏〕武王曰西方有㆓九國㆒焉君王其終撫㆑諸、撫、爲㆓存撫㆒。〔史記、司馬相如傳〕存㆓撫天下㆒。〔漢書、張敞傳〕存㆓撫其孤弱㆒。〔新序、節士〕存㆓撫楚國㆒。〔後漢書、馮衍傳上〕統㆓三軍之政㆒、存㆓撫幷州之人㆒。㊁官名。唐、置く。後に巡撫といふ。〔稱謂錄、巡撫、存撫〕歷代職官志、唐初遣㆓大使十三人㆒、巡㆓省天下諸州㆒、水旱則遣㆑使、有㆓巡察・安撫・存撫之名㆒、攷㆓唐之巡察使㆒、察㆓擧州縣㆒、再周而代、乃後世巡按之比、其安撫・存撫・宣撫諸使、則今巡撫之官所㆓由昉㆒也。

【存分】149（ゾンブン）　こころ一ぱい。考へどほり。思ひのまま。十分に。〔甲陽軍鑑、十下〕存分の如くに成り申し候。

【存票】150　ts'uen^2 p'iao^4　㊀錢莊(銀行)で定期預金者に發行する預金證書。㊁在庫品目錄、又

は沿岸貿易税の戻税證書。

【存票房】151 ts'uen^2 p'iao^4 fang^2 海關用語。輸出貨物を受理し、預り證を發行する事務室。

【存簿】152 ts'uen^2 pu^4 貯金通帳。存單。

【存沒】153 生きながらへることと死ぬこと。存歿。生死。〔李華、弔古戰場文〕其存其沒、家莫聞知。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕穎問鸞姓名存沒。

【存歿】154 存沒に同じ。〔杜甫、遣懷詩〕吾衰將焉託、存歿再嗚呼。〔白居易、令狐相公與夢得交情素深、云云、詩成示予、感而繼和詩〕存歿交親自此分。

【存命】155 生きてゐる。いきながらへる。存生。〔魏書、田益宗傳〕私將甲士打息魯生、僅得存命。

【存目】156 名目のみを存する。四庫全書總目では、歴代著錄の書でも、信を置くに足らない疑はしい書籍は名目だけを存して存目といふ。〔四庫全書總目、凡例〕至於其書雖歴代著錄、而實一無可取、如燕丹子陶潛聖賢羣輔錄之類、經聖鑒洞燭其妄者、則亦斥而存目、不使濫登。

【存問】157 安否を問ふこと。たづねなぐさめる。慰問。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君已使使存問獻遺其親戚。〔漢書、文帝紀〕今歳首、不時使人存問長老。〔注〕師古曰、存、省視也。〔漢書、王莽傳中〕州牧數存問、勿令有侵冤。〔後漢書、郎顗傳〕存問孤寡。〔魏志、明帝紀〕所過存問高年鰥寡孤獨。

【存洋】158 ts'uen^2 yang^2 預金。存は預ける、洋は銀元。

【存養】159 ㊀本心を失はず生れながらの善性を養ふ。一說、己の心を省察して善性を養ふ。精神を修養する。〔孟子、盡心上〕存其心、養其性、所以事天也。〔集注〕存謂操而不舍、養謂順而不害。〔陸游、存養堂爲汪叔潛作詩〕致一工夫在存養。㊁なぐさめ養ふ。めぐみやしなふ。〔六韜、文韜、盈虛〕存養天下鰥寡孤獨。

【存雄】160 雄心を抱く。勝たうとする氣象がある。〔莊子、天下〕天地其壯乎、施存雄而無術。〔釋文〕司馬云、意在勝人、而無道理之術。〔列子、仲尼〕專直而存雄。

【存老】161 老人をなぐさめ安んずる。〔唐玄宗、賜諸州刺史以題座右詩〕恤惸且存老、撫弱復綏強。

【存勞】162 たづねねぎらふ。訪ひなぐさめる。〔宋史、孫覺傳〕哲宗遣使存勞、賜白金五百兩。

【存留】163 中央政府へ送る稅金中から其の省の必要とする部分を留め置くこと。〔清會典事例、戶部、田賦〕凡州縣經徵錢糧、扣留本地支給經費、曰存留。〔六部成語、戶部、存留、注解〕留備本省需用之款也。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕徵收起解存留、俱有定數。

【存留備支銀】164 他日有事の際の支出に備へるため、金庫中に留め置く銀。〔六部成語、戶部、存留備支銀、注解〕存留庫中、豫備有事支用之銀也。

【存立】165 存在して立ちゆく。又、たすけたたす。〔北史、長孫慮傳〕乞以身代老父命、使嬰弱衆孤得蒙存立。

【存良】166 明、韓世能(12−43159・・328)の字。

【存慮】167 かんがへ。みこみ。存念。

【存禮】168 字號。㊀明、許亨(10−35298・・29)の字。㊁明、盛敬(8−23005・・63)の字。㊂明、豐坊(10−36304・・176)の字。

【存錄】169 ㊀忘れぬやうに記錄して、あはれむ。〔後漢書、李燮傳〕災眚屢見、明年史官上言宜有赦令、又當存錄大臣冤死者子孫。㊁登錄して記念とする。注念。〔禮、檀弓下、愛之斯錄之矣、疏〕謂孝子思念其親、故於此爲重以存錄其神也。〔蜀志、諸葛亮傳〕亮毗佐危國、負阻不賓、然猶存錄其言、恥善有遺誡。

【存雅堂】170 室名。㊀元、方鳳(5−13620・・420)の室名。㊁清、黃秩林(12−47926・・1241)の室名。

【存雅堂遺稿】171 書名。五卷。元、方鳳撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【存耕堂】172 清、陳啓源(11−41698・・780)の室名。

【存核表】173 ts'uen^2 hê^2 piao^3 中國特有の簿記。複式簿記の貸借對照表に該當するもの。

【存學篇】174 書名。四卷。清、顏元撰。堯舜の道は六府三事にあり、周公の教は三物にあり、孔子の教は四教にあることを論ず。〔顏李叢書、三十二〕・〔畿輔叢書、二百〕。

【存硯樓】175 清、儲大文(1−1284・・87)の室名。

【存硯樓集】176 書名。十六卷。清、儲大文撰。其の中、形勝を論ずるもの七卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【存庫銀】177 在庫の金。清代、徵收した租稅の中、京師に送る分を除き、徵收地の金庫に留め置く殘餘の錢をいふ。〔清會典事例、戶部、田賦〕雍正三年、奏准、每年直省於春秋二季、將實在存庫帑銀、造冊報部。〔六部成語、戶部、存庫銀、注解〕所徵官項、除解京外、在留本地庫內之款。

【存志堂】178 清、施彥士(5−13629・・142)の室名。

【存是樓】179 清、蔡上翔(9−31818・・189)の室名。

【存人篇】180 書名。四卷。清、顏元撰。佛道二教を信ずる者に對し、聖賢の正しい門に入るべきことを示す。〔顏李叢書、三十二〕・〔畿輔叢書、二百一〕。

【存正齋】181 明、陳繼(11−41698・・212)の號。

【存治篇】182 書名。清、顏元撰。政治・經濟・兵制・貢擧について說く。〔顏李叢書、三十二〕・〔畿輔叢書、二百一〕。

【存住食】183 ts'uen^2 chu^4 shih^2 食物が消化しない。

【存復齋】184 元、朱德潤(6−14424・・952)の號。

【存餘堂】185 明、朱承爵(6−14424・・860)の室名。

【存餘堂詩話】186 書名。一卷。明、朱承爵撰。〔說郛、三十〕・〔學海類篇、一百十四〕・〔常州先哲遺書、五十〕。

【存家詩稿】187 書名。八卷。明、楊巍撰。其の詩は高適と相類して俗流を脫すといはれる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【存耕愚叟】188 宋、趙與懽(10−37171・・916)の號。

【存局候領】189 ts'uen^2 chü^2 hou^4 ling^3 留置郵便。局に保存し、受取人が出頭して受領するもの。

【存欠細賬】190 ts'uen^2 ch'ien^2 hsi^4 chang^4 交互計算書。存欠は貸越と借越、細賬は精算。

【存欠賬目】191 ts'uen^2 ch'ien^2 chang^4 mu^4 債權・債務。貸借金額。

【存欠抵軋】192 ts'uen^2 ch'ien^2 ti^4 ya^1 顧客と銀行との間の貸借を相殺整理すること。

【存劍之緯】193 劍を吊り下げる紐。〔新書、容經〕詘存劍之緯、欲無顧。

【存而不論】194 ある事實の存在は認めるが、存在する所以は論じない。自然に順つて、是非の論議をしない。〔莊子、齊物論〕六合之外、聖人存而不論、六合之內、聖人論而不議。

【存入款項】195 ts'uen^2 ju^4 k'uan^3 hsiang^4 銀行、其の他の貯蓄機關に預け入れた金。預金者を存戶・存主などといふ。

【若存若亡】196 半ば理解し半ば理解しない。半ば信じ半ば信じない。〔老子、四十一〕中士聞道、若存若亡。

【存而不忘亡】197 安泰の時にも衰亡のことを忘れぬ。治に居て亂を忘れず。〔易、繫辭下〕存而不忘亡、治而不忘亂。

【⿰子女】6944 カウ 好(3−6053)に同じ。〔字彙補〕⿰子女、與好同。

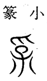
【⿰土子】6945 シ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿰土子、音子。

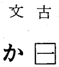
【⿰扌子】6946 ソン 存(3−6943)に同じ。〔說文句讀〕⿰扌子、从子才聲。

四畫

【孖】6947 カウ 好(3－6053)の古字。〔玉篇〕孖、古文好。

【孚】6948
一フ 〔集韻〕芳無切 虞 ㄈㄨ fu²
二フウ ブ 〔集韻〕房尤切 尤
三フ 〔集韻〕芳遇切 遇


小篆


古文

一❶卵をかへす。卵がかへる。〔說文〕孚、卵卽孚也、从㆓爪子㆒。〔段注〕卽字依㆓元應書㆒補、通俗文、卵化曰㆑孚、云云、卵因㆑伏而孚、學者因卽呼㆑伏爲㆑孚、凡伏㆑卵曰㆑抱。〔徐灝、說文解字注箋〕孚・伏・抱、一聲之轉、今俗猶謂㆓雞伏㆑卵爲㆑步、卽孚之重脣音稍轉耳。〔一切經音義、二〕卵化曰㆑孚。〔一切經音義、七〕孚、生也。❷まこと。〔說文〕孚、一曰、信也。〔段注〕雞卵之必爲㆑雞、鼂卵之必爲㆑鼂、人言之信、如㆑是矣。〔爾雅、釋詁〕允・孚・亶・展・諶・誠・亮・詢、信也。〔易、需〕有㆑孚、光亨貞吉。〔釋文〕孚、信也。〔詩、大雅、文王〕萬邦作㆑孚。〔傳〕孚、信也。〔左氏、莊、十〕小信未㆑孚。〔注〕孚、大信也。〔後漢書、魯恭傳〕易曰、有㆑孚盈㆑缶。〔注〕孚、誠信也。❸から。もみがら。稃(8－25068)に通ず。〔說文通訓定聲〕孚、叚借爲㆑稃、詩大田箋、孚甲始生。❹つつむ。おほふ。包(2－2506)に通ず。〔說文通訓定聲〕孚、叚借爲㆑包。〔說文字通〕古孚與㆑包通、从㆑包之字與㆑从㆑孚同、如㆓脬爲㆑胞、桴爲㆑枹、莩爲㆑苞、捊爲㆑抱之類㆒可㆑證、說見㆓通雅㆒。〔國語、周語下〕信、文之孚也。〔注〕孚、覆也。❺つける。附(11－41606)・付(1－373)に通ず。〔書、高宗肜日〕天既孚㆑命正㆓厥德㆒。〔史記、殷紀〕天既附㆑命正㆓厥德㆒。〔漢書、孔光傳〕天既付㆑命正㆓厥德㆒。❻はしる。鶩(12－44845)に通ず。〔說文通訓定聲〕孚、叚借爲㆑鶩。〔易、姤〕羸豕孚蹢躅。〔注〕孚、猶㆓務躁㆒也。❼古は采(7－19667)・附(11－41606)に作る。〔集韻〕孚、古作㆓采・附㆒。❽姓。〔萬姓統譜〕孚、見㆓纂文㆒。❾現つなぐ。二❶玉のあやあるさま。あでやか。薄(9－31891)に通ず。〔說文通訓定聲〕孚、叚借爲㆑薄。〔禮、聘義〕孚尹旁達、信也。〔注〕孚、讀爲㆑浮、尹、讀如㆓竹箭之筠㆒、浮筠、謂㆓玉采色㆒也。〔疏〕孚、浮也、浮者、在㆑外之名。〔孔子家語、問玉〕孚尹旁達。〔注〕孚尹、玉貌。❷或は娐(3－6161)に作る。❸通じて琈(7－21016)に作る。〔集韻〕孚、通作㆑琈。三そだつ。〔集韻〕孚、育也、方言、雞伏㆑卵而未㆑孚、或从㆑卵。

名乘 サネ。タカ。

解字 會意。爪と子との合字。本義は卵を孵化すること。爪をかくのは鳥が卵を孵化するとき、爪で卵を轉じて一樣にあたためるからである。後、更に卵を加へて、孵の字を作る。孚の字は轉じて、まことの意となる。鳥の卵を孵化するとき、必ず其の期日を誤らないからいふ。〔說文〕孚、从㆓爪子㆒、〔段注〕鍇曰、鳥裒恆以㆑爪反㆓覆其卵㆒也、按、反㆓覆其卵㆒者、恐㆓煦嫗之不㆑均、鼂卵之必爲㆑鼂、人言之信、如㆑是矣。〔說文通訓定聲〕孚、說文、一曰、信也、爾雅釋詁、孚、信也、易襍卦傳、中孚、信也、徐鍇曰、鳥之孚㆑卵、皆如㆓其期㆒不㆑失信也。

【孚威】1 フヰ 民國、吳佩孚(2－3365・・816)の字。

【孚佑】2 フイウ まことに助ける。〔書、湯誥〕上天孚佑㆓下民㆒、罪人黜伏。〔傳〕孚、信也、天信佑㆓助下民㆒。

【孚育】3 フイク はぐくみやしなふ。孚養。〔韓詩外傳、五〕覆伏孚育、積日累久。

【孚尹】4 フイン ❶玉の光るさま。玉のあやあるさま。〔禮、聘義〕君子比㆓德於玉㆒焉、瑕不㆑揜㆑瑜、瑜不㆑揜㆑瑕、忠也、孚尹旁達、信也。〔注〕孚、讀爲㆑浮、尹、讀如㆓竹箭之筠㆒、浮筠、謂㆓玉采色㆒也、采色旁達、不㆑有㆓隱翳㆒、似㆑信也。〔說文通訓定聲〕尹、孚尹、謂㆑如㆓華葉筍芽之敷布㆒也、讀爲㆓敷芛㆒。〔孔子家語、問玉〕孚尹旁達。〔注〕孚尹、玉貌。❷清、伍光瑜(1－435・・43)の字。

【孚英】5 フエイ 明、夏積(3－5720・・181)の字。

【孚遠】6 フヱン 縣名。清、置く。新疆省迪化縣の東北。土名は濟木薩。又、愷安城ともいふ。唐の金滿城。蒙古と回部との往來の要道。

【孚交】7 フカウ 清、宋有元(3－7078・・221)の字。

【孚甲】8 フカフ 種子の外皮。孚は稃に通ず、字解一の❸を見よ。〔釋名、釋天〕甲、孚甲也、萬物解㆓孚甲㆒而生也。〔詩、小雅、大田〕既方既皁。〔箋〕方、房也、謂㆓孚甲始生、而未㆑合時㆒也。〔疏〕孚者、米外之粟皮。〔禮、月令、其日甲乙、注〕萬物皆解㆓孚甲㆒。

【孚洽】9 フカフ あまねく行きわたる。〔朴趾源、農說〕聲氣溫諄、恩義孚洽。

【孚休】10 フキウ よい道を信じて行ふ。轉じて、まことによいこと。〔書、君奭〕厥基永孚㆓于休㆒。〔傳〕長信㆓於美道㆒。

【孚吉】11 フキツ 明、孫需(3－6987・・159)の字。

【孚化】12 フクワ 卵がかへる。孚卵(30)を見よ。

【孚敬】13 フケイ 明、張璁(4－9812・・512)の名。

【孚齋】14 フサイ 大塚久成の號。大塚孚齋(3－5831・・2589)を見よ。

【孚舟】15 フシウ 清、王之楫(7－20823・・1554)の字。

【孚若】16 フジヤク 字號。❶宋、方信孺(5－13620・・556)の字。❷清、瞿頡(8－23747・・9′)の字。

【孚孺】17 フジユ 明、顏容暄(12－43591・・195)の字。

【孚如】18 フジヨ 明、鄒觀光(11－39562・・82)の字。

【孚信】19 フシン まこと。信實。信孚(1－707・・216)に同じ。〔易、中孚、九五有㆑孚攣如无㆑咎、疏〕九五在㆓信時㆒、處㆓於尊位㆒、爲㆓群物之主㆒、恆須㆘以㆓中誠㆒交㆖㆑物、孚信何可㆓暫舍㆒。

【孚千】20 フセン 明、錢嘉徵(11－40563・・262)の字。

【孚先】21 フセン ❶まことを以て君に事へ後人の先達となること。〔書、洛誥〕作㆓周孚先㆒。〔蔡傳〕孚、信也、作㆓周孚先㆒者、人臣信以事㆑上、以㆑信而倡㆓後人㆒也。❷清、沈功宗(6－17189・・503)の字。

【孚存】22 フソン 清、董邦達(9－31433・・250)の字。

【孚兌】23 フタイ まことがあってよろこぶ。〔易、兌〕九二、孚兌、吉、悔亡。

【孚中】24 フチユウ 清、沈信(6－17189・・220)の字。

【孚乳】25 フニユウ 鳥が卵を抱いてかへす。〔禮、月令、是月也玄鳥至、注〕燕以㆓施㆑生時㆒來、巢㆓人堂宇㆒而孚乳。

【孚孟】26 フマウ 清、申涵光(7－21726・・167)の字。

【孚養】27 フヤウ はぐくみやしなふ。孚育。

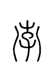
【孚瑜】28 フユ 玉の美しい色。〔一切經音義、十三〕纂文曰、孚瑜、言㆓美色㆒也。

【孚來】29 フライ 清、周熊(2－3441・・491)の字。

【孚卵】30 フラン 卵をかへす。〔埤雅〕徐鍇曰、鳥之孚㆑卵、皆如㆓其期㆒、今雞鶩孚㆑卵、雞二十日而化、鶩三十日而化、皆如㆓其期㆒也。

【孚號有㆑厲】31 マコトアリテサケブ アヤフキコトアリ 君子が小人の惡を鳴らすには、誠心誠意、衆に呼號して之と力を合せるが、それでも尚危險があるから、警戒危懼、油斷してはならぬ。〔易、夬〕夬、揚㆓于王庭㆒、孚號有㆑厲、告自㆑邑、不㆑利㆑卽㆑戎、利㆑有㆑攸㆑往。〔本義〕盡㆑誠以呼㆓號其衆㆒、相與合㆑力、然亦尚有㆓危厲㆒、不㆑可㆓安肆㆒。

【孛】6949
一ヒ 〔集韻〕方未切 ㄅㄟ pei⁴ 未
二ハイ バイ 〔集韻〕蒲昧切 隊
三ホツ ボチ 〔集韻〕蒲沒切 ㄅㄛ po² 月
四フツ フチ 〔集韻〕敷勿切 物
慣ボツ


小篆

一二三四❶**顏色がかはる**。本、𡥉(3－6950)に作る。〔正字通〕𡥉、孛本字。〔說文〕𡥉、㞋孛也、从レ𣎵从レ子、人色也、故从レ子、論語曰、色孛如也。❷**草木の茂るさま**。〔說文通訓定聲〕按、㞋孛、艸木盛出之皃、字當三从レ𣎵从二孶省一。〔集韻〕孛、艸木盛皃。❸**光りかがやくさま**。〔說文通訓定聲〕按、孛之狀、光芒四射、如二草木枝葉旁出一。❹**くらい**。明かでない。〔漢書、五行志〕孛者、惡氣之所レ生也、謂二之孛一者、言下其孛孛有レ所二妨蔽一闇亂不明之皃上也。❺**はうきぼし**。彗星。〔春秋、昭、十七〕冬有レ星、孛二於大辰一。〔公羊、昭、十七〕孛者何、彗星也。〔漢書、文帝紀、有二長星一出二于東方一、注〕文穎曰、孛・彗・長三星、其占略同、然其形象小異、孛星、光芒短、其光四出、蓬蓬孛孛也、彗星、光芒長、參參如二埽彗一、長星、光芒有二一直指或竟レ天、或十丈、或三丈、或二丈一、無レ常也。❻**もとる**。悖(4－10663)に通ず。〔六書正譌〕孛、借爲二違悖字一。❼茀(9－30831)に通ず。〔漢書、李尋傳、則伏不レ見而爲二彗茀一、注〕茀、與レ孛同。❽勃(2－2351)に通ず。〔說文通訓定聲〕古論語、色孛如也、魯論以レ勃爲レ之。❾𣎵(6－14418)に同じ。〔集韻〕𣎵、艸木盛𣎵𣎵然、或作レ孛。❿**姓**。〔萬姓統譜〕孛、見二姓苑一、孛敏、隴西人、宣德中擧人。

解字 會意。𣎵（草木の繁り榮えるかたち）と子（人）との合字。𣎵と子とを合せて人が顏色をかへる意とする。一說に、𣎵と孶の省畫との合字。孶も亦草木の益〻繁る意。故に本義は草木の盛に繁ること。轉じて、ムツとして顏色をかへる意とする。〔說文通訓定聲〕孛、㞋也、从レ𣎵、从レ子、人色也、論語曰、色孛如也、按、㞋孛、艸木盛出之皃、字當三从レ𣎵从二孶省一、會意、市亦聲、孛之言、茀也、故古亦以レ茀爲レ孛。

【孛吉】1（ボツキツ） 金、完顏宗義(3－7079・・106)の本名。

【孛堇】2（ボツギン） 金の建國前後に於ける女眞族酋長の稱號。一に勃堇に作る。〔金史、兵志〕有レ警、則下二令部內一、及遣レ使詣二諸孛堇一徵レ兵。

【孛相】3（ハイシヤウ） あそびごと。嬉遊。白相。薄相。〔吳江志〕俗謂二嬉遊一曰二孛相一、亦作二白相一。

【孛如】4（ボツジヨ） 顏色をかへるさま。顏色のさかんにかがやくさま。勃如(2－2351・・22)に同じ。〔說文通訓定聲〕古論語、色孛如也、魯論以レ勃爲レ之。

【孛彗】5（ハイスイ） はうきぼし。此の星があらはれるは亂の兆といふ。彗星。孛星。〔唐書、孫思邈傳〕五緯縮贏、孛彗飛流。

【孛星】6（ハイセイ） 孛彗に同じ。〔釋名、釋天〕孛星、星旁氣孛孛然也。〔漢書、成帝紀〕元延元年、秋七月、孛星見二于東井一。〔晉書、天文志中〕孛星、彗之屬也。

【孛然】7（ボツゼン） ❶くらいさま。又、光りかがやくさま。孛孛を見よ。❷顏色をかへて怒るさま。孛如(4)に同じ。勃然。

【孛迭】8（ボツテツ） 金、耶律懷義(9－29008・・67)の本名。

【孛禿】9（ポト） 元の人。亦乞列思氏。謚は忠武。騎射を善くし、太祖の信任を得、皇妹、帖木倫を妻とし、其の卒後、更に皇女火臣別吉を娶る。蠻の叛を平げ、西夏を征す。〔元史、一百十八〕

【孛孛】10（ハイハイボツボツ） 明かでないさま。一說に、光の四出するさま。〔釋名、釋天〕孛星、星旁氣孛孛然也。〔疏證補〕蘇輿曰、開元占經引、齊穎云、孛芒短、其光四出、蓬蓬孛孛也、彗見其光芒長、寒如二埽彗一。〔春秋、昭、十七、有レ星孛二于大辰一、疏〕言二其狀似レ篲、光芒孛孛然一。〔漢書、文帝紀、有二長星一出二于東方一、注〕文穎曰、孛星光芒短、其光四出、蓬蓬孛孛也。〔漢書、五行志下之下〕董仲舒以爲、孛者、惡氣之所レ生也、謂二之孛一者、言下其孛孛有レ所二妨蔽一、闇亂不明之皃上也。

【孛孛丁菜】11（ハイハイテイサイ） 草の名。たんぽぽ。蒲公英。〔農政全書、孛孛丁菜考〕又名二黃花一、苗生二田野中一、苗初塌レ地生、葉似二苦苣葉一微短、小葉叢、中閒攛葶、稍頭開二黃花一、莖葉折レ之、皆有二白汁一、味微苦。

【孛羅】12（ハイラ） ❶吳の俗、每歲正月十四日に糯米を煎つてはぜらせ、その模樣に依つて一年間の吉凶・運勢等を卜する行事。卜穀。孛婁。〔武陵舊事〕吳俗、每歲正月十四日、以二糯米穀一爆二於釜中一、名曰二孛羅花占一、又名二卜穀一、以二番白多者一爲レ勝。❷（ポーロ） 人名。マルコ・ポーロ。イタリーの旅行家。一時、蒙古の忽必烈に仕ふ。歸國後、東方見聞錄を著し、歐洲に始めて日本をジパングとして紹介す。Marco Polo〔宋史紀事本末〕既而丞相孛羅等、召見二於樞密院一。

【孛老】13（ハイラウ） 役者の一種。老翁に扮するもの。〔焦循、劇說〕末・旦・淨・丑之外、又有二孤・倈兒・孛老・邦老・卜兒等目一、貨郎旦淨扮二孛老一、瀟湘雨外扮二孛老一、薛仁貴榮歸故里正末扮二孛老一、硃砂擔沖末扮二孛老一、是扮二孛老一者無二一定一也、孛老者、男子之老者也。

【孛魯】14（ポル） 元の人。木華黎の子。謚は忠定。諸國の語に通じ、騎射を善くす。太祖の時、功臣の首となり、宋の降將李全を助けて山東淮南楚州行省とした。卒年三十二。封は魯國王。〔元史、一百十八〕

【孛婁】15（ハイロウ） 孛羅の❶に同じ。〔田家五行〕雨水節、燒二乾鑊一、以二糯稻一爆レ之、謂二之孛婁花一、占二稻色一。〔范成大、上元紀二吳中節物一詩〕熬レ稃腷膊聲。〔自注〕炒二糯穀一、俗名二孛婁一、北人號二糯米花一。〔中華全國風俗志、吳中歲時雜記〕爆孛婁、鄉農以二糯穀一入二焦釜一、老幼各拈二一粒一、曰二爆孛婁一、謂レ卜二流年之休咎一。

【孛轆】16（ハイロク） 雷の聲。〔范成大、秋雷歎詩〕汰哉豐隆無二藉在一、正用二此時一鳴二孛轆一。

【孛兒速】17（ポールス） 元の人。脫脫忒氏。世祖の時、宿衞となり、駕に扈して哈剌章を征す。〔元史、一百三十五〕。

【孛朮魯】18（ポシユル） 複姓。〔金史、國語解〕孛朮魯、曰レ魯。〔元史、孛朮魯翀傳〕孛朮魯、金泰和閒女直姓氏、望屬二廣平一。

【孛朮魯遠】19（ポシユルユワン） 元の人。翀の子。字は明道。官は襄陽縣尹。賊起り之に死し、妻の雷氏も亦殺さる。〔元史、一百八十三〕。

【孛朮魯翀】20（ポシユルチユン） 元の人。字は子翬。謚は文靖。其の先は隆安の人。後、順陽に家す。官は江浙行省參知政事。學は性命道德を本とし、文章は簡要典雅である。文集六十卷がある。〔元史、一百八十三〕。

【孛朮魯海裕】21（ポシユルハイユ） 金、隆安路猛安の人。本名は蒲剌都。官は參知政事、樞密院の事を兼ねた。〔金史、一百一〕。

【孛朮魯定方】22（ポシユルテンフアン） 金の人。內吉河人。本名は阿海。官は武義將軍。宋の李世輔と戰つて殺さる。〔金史、八十六〕。

【孛朮魯阿魯罕】23（ポシユルアルハン） 金、隆州琶离葛山の人。官は參知政事、北京留守に終はる。〔金史、九十一〕。

【孛蘭奚】24（ポランシ） 元、應昌の人。雍吉烈氏。官は信州路達魯花赤。〔元史、一百三十三〕。

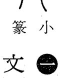
【孛羅帖木兒】25（ポロチムール） 元、高昌の人。字は國賓。官は襄陽路達魯花赤。至正中、賊を伐ち、後、執へられて殺さる。〔元史、一百九十五〕。

【𡥉】6950

ボツ

孛(3－6949)の本字。〔正字通〕𡥉、孛本字。

【孜】6951


小篆

シ 〔集韻〕津之切 ㄗ tzŭ¹ 支

❶**つとめる。つとめるさま**。〔說文〕孜、孜孜、汲汲也、从レ攴子聲、周書曰、孜孜無レ怠。〔段注〕汲汲、與二彶彶一同、急行也。〔書、益稷〕予思二日孜孜一。❷**厚く愛する**。〔廣韻〕孜、力篤愛也。❸孶(3－7011)に通ず。〔書、益稷〕予思二日孜孜一。〔史記、夏紀〕予思二日孶孶一。

名乘 アツ。

【孜肩】1（シケン） 明、袁子讓(10－34152・・203)の字。

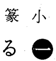
【孜孜】2（シシ） つとめて倦まぬさま。汲汲。孶孶に同じ。〔書、益稷〕予思二日孜孜一。〔蔡傳〕孜孜者、勉力不レ怠之謂。〔書、泰誓下〕爾其孜孜、奉二

予一人一。〔傳〕孜孜、勸勉不レ怠。〔書、君陳〕惟日孜孜、無ニ敢逸豫一。〔漢書、成帝紀〕羣公孜孜。〔魏志、向朗傳〕孜孜不レ倦。〔何晏、景福殿賦〕聖上猶孜孜靡レ忒。〔注〕善曰、孟子曰、鷄鳴而起、孳孳爲レ善者、舜之徒也、孳、與レ孜同。〔新論、愼獨〕孔徒晨起、爲レ善孜孜。〔韓愈、上ニ宰相一書〕鷄鳴而起、孜孜焉、亦不レ爲レ利。

〖孜孜齋〗3（シシサイ） 西嶋長孫の號。西島蘭溪（**10**－**34763**··712）を見よ。

【孝】6952

カウ ケウ 〔集韻〕許教切 ㄒㄧㄠˋ hsiao⁴ 效


小篆

㊀**かうかう**。㋑よく父母に事へる。おやおもひ。〔說文〕孝、善事ニ父母一者、从ニ老省一、从レ子、子承レ老也。〔釋名、釋言語〕孝、好也、愛ニ好父母一、如レ所ニ說好一也。〔禮、祭統〕孝者、畜也。〔孝經、天子章、疏〕孝經援神契云、天子孝曰レ就。〔孝經、諸侯章、疏〕援神契云、諸侯孝曰レ度。〔孝經、卿大夫章、疏〕援神契云、卿大夫孝曰レ譽。〔孝經、士章、疏〕援神契云、士孝曰レ究。〔孝經、庶人章、疏〕援神契云、庶人孝曰レ畜。〔墨子、經上〕孝、利レ親也。㋺よく先祖に仕へる。先祖の志を繼ぐ。〔書、文侯之命〕追ニ孝于前文人一。〔傳〕繼ニ先祖之志一爲レ孝。〔中庸〕夫孝者、善繼ニ人之志一、善述ニ人之事一者也。㊁**父母の喪に服する**。**又、俗に喪服をいふ**。〔北史、崔儦傳〕崔子豹、居レ喪哀毀、人云、崔九作レ孝、風吹即倒。〔李商隱雜纂、差不出〕重孝醉レ酒。㊂**保母**。〔大戴禮、保傅〕孝者繈レ之。〔注〕孝者、謂ニ保母一也。㊃**諡**。〔逸周書、諡法解〕慈惠愛親曰レ孝、協時肇享曰レ孝、五宗安レ之曰レ孝、秉レ德不レ回曰レ孝。㊄**姓**。〔通志、氏族略、以レ諡爲レ氏〕孝氏、姜姓、齊孝公支孫之後也。

名乘 アツ。タカ。ナリ。ノリ。モト。ユキ。

解字 會意。老の省畫と子との合字。子が老者を奉承する意。故によく父母に事へる意とする。

【孝愛】1（カウアイ） よく父母に事へること。孝行。〔禮、文王世子〕戰則守ニ於公禰一、孝愛之深也。

【孝安】2（カウアン） 第六代の帝諡。〔諡號雜誌〕。

〖孝安帝〗3（カウアンテイ） 後漢の安帝。劉祜（**2**－**2224**··14）の㊀を見よ。

〖孝安敬正帝〗4（カウアンケイセイテイ） 遼、穆宗（**8**－**25251**··42）の諡。

【孝衣】5 hsiao⁴ i¹ 喪服。

【孝異】6（カウイ） 漢、頓琦（**12**－**43381**··11）の字。

【孝懿】7（カウイ） 後魏、李延實（**6**－**14459**··892）の諡。

〖孝懿后〗8（カウイコウ） 金、徒單后（**4**－**10121**··72）の「諡。

〖孝懿蕭皇后〗9（カウイセウクワウゴウ） 宋、蕭后（**9**－**32012**··117）の㊀の諡。

【孝威】10（カウヰ） ㊀字號。㋑後漢、臺佟（**9**－**30161**··92）の字。㋺三國魏、薛悌（**9**－**32123**··104）の字。㋩清、鄧漢儀（**11**－**39630**··127）の字。㊁北齊、盧文偉（**8**－**23050**··286）の諡。

【孝友】11（カウイウ） ㊀善く父母に事へ、兄弟に親しむ。〔書、君陳〕惟孝、友ニ于兄弟一、克施ニ有政一。〔詩、小雅、六月〕侯誰在矣、張仲孝友。〔傳〕善ニ父母一爲レ孝、善ニ兄弟一爲レ友。〔周禮、春官、大司樂〕掌ニ成均之法一、以ニ樂德一教ニ國子一、中和祇庸孝友。〔新書、道術〕子愛ニ利親一謂ニ之孝一、兄敬ニ愛弟一謂ニ之友一。〔孔子家語、五帝德〕孝友聞ニ於四方一。〔晉書、孝友傳序〕晉氏始自ニ中朝一逮ニ江左一、雖ニ百六之災遄及一、而君之道未レ消、孝悌名流、猶爲ニ繼踵一、故著ニ孝友傳一、以續ニ前史一云。㊁字號。㋑三國魏、蘇林（**9**－**32427**··201）の字。㋺梁、韋愛（**12**－**43108**··1）の字。㋩宋、祝次仲（**8**－**24672**··136′）の字。

〖孝友堂〗12（カウイウダウ） 室名。㊀宋、許儉（**10**－**35298**··73）の室名。㊁明、李濂（**6**－**14459**··811）の室名。

〖孝友傳〗13（カウイウデン） 孝友を以て著名な者の列傳。晉書・舊唐書・唐書・金史・元史に此の目がある。

〖孝友謙和〗14（カウイウケンワ） 親兄弟によく事へ、人にはへりくだり、萬事におだやかなこと。〔王守仁、客座私祝〕孝友謙和之行。

〖孝友先生〗15（カウイウセンセイ） 唐、朱仁軌（**6**－**14424**··869）の私諡。

【孝逸】16（カウイツ） 字號。㊀隋、王貞（**7**－**20823**··822）の字。㊁清、管繩萊（**8**－**26162**··191）の字。

【孝羽】17（カウウ） 南朝宋、劉子鸞（**2**－**2224**··979）の字。

【孝烏】18（カウウ） からす。烏には反哺の孝があるから孝烏・孝鳥といふ。〔成公綏、烏賦序〕有ニ孝烏一集ニ余之廬一、乃喟然而歎曰、余無ニ仁惠之禎祥一、禽曷爲而至哉。

【孝英】19（カウエイ） 北齊、敬顯儁（**5**－**13303**··252）の「字。

【孝嬰】20（カウエイ） 清、汪萊（**6**－**17154**··142）の字。

【孝衍】21（カウエン） 清、呂潤蕃（**2**－**3386**··216）の字。

【孝遠】22（カウエン） 後漢、駱俊（**12**－**44734**··8）の字。

【孝轅】23（カウエン） 明、胡震亨（**9**－**29400**··511′）の字。

【孝億】24（カウオク） 外夷の國名。〔酉陽雜俎、境異〕孝億國、界周ニ三千餘里一、在ニ平川中一、以レ木爲レ柵。

【孝夏】25（カウカ） 後魏、裴莊伯（**10**－**34362**··125）の字。

【孝家】26 hsiao⁴ chia¹ 死者の遺族。

【孝假】27（カウカ） 父母の喪に遇つた者が征行・賦役を免ぜられること。孝暇。〔舊唐書、食貨志上〕天寶元年正月一日赦文、云云、其一家之中、有ニ十丁已上一者、放ニ兩丁征行賦役一、五丁已上放ニ一丁一、即令ニ同籍共居以敦ニ風教一、其侍丁孝假免ニ差科一。〔唐會要、休暇〕天寶四載六月十四日、敕頃以ニ鄕閭侍ニ丁憂一給ニ孝暇一。

【孝介】28（カウカイ） 諡號。㊀明、樊玉衝（**6**－**15414**··84）の諡。㊁清、彭孫貽（**4**－**10003**··182）の諡。

【孝諧】29（カウカイ） 隋、李禮成（**6**－**14459**··2009）の字。

【孝行】30（カウカウ） 親に善く事へること。又、其の行。おやおもひ。〔周禮、地官、師氏〕教ニ三行一、一曰孝行、以親ニ父母一。〔說苑、建本〕孝行成ニ于內一、而嘉號布ニ于外一。〔忠經、保孝行〕此之謂レ保ニ孝行一也。〔南史、王文殊傳〕父沒、魏文殊思慕泣レ血、終身蔬食不レ衣レ帛、詔ニ榜門一、改レ居爲ニ孝行里一。

〖孝行傳〗31（カウカウデン） 孝行を以て名を知られた者の列傳。梁書・陳書・北史に此の目がある。

〖孝行覽〗32（カウカウラン） 呂氏春秋の篇名。八覽の一。孝行・本味・首時・義賞・長攻・愼人・遇合・必己の八篇に分かる。

〖孝行先生〗33（カウカウセンセイ） 明、容悌與（**3**－**7172**··148）の尊稱。

【孝高】34（カウカウ） 梁、袁峻（**10**－**34152**··84）の字。

【孝康】35（カウカウ） 陳、蕭濟（**9**－**32012**··191）の字。

〖孝康后〗36（カウカウコウ） 明、孝宗の后、張后（**4**－**9812**··306）の諡。

〖孝康皇帝〗37（カウカウクワウテイ） 明、朱標（**6**－**14424**··539）の追尊號。

【孝羹】38（カウカウ） 清、楊調元（**6**－**15112**··724）の字。

【孝感】39（カウカン） ㊀孝行の德が神人を感動させる。〔晉書、王祥傳〕祥性至孝、母嘗欲ニ生魚一、時天寒冰凍、祥解レ衣剖レ冰求レ之、冰忽自解、雙鯉躍出、母又思ニ黃雀炙一、復有ニ黃雀數十一、飛入ニ其幙一、鄕里驚歎、以爲ニ孝感所一レ致焉。㊁泉の名。山東省臨沂縣の北。〔齊乘〕孝感水、出ニ王祥墓西戚溝湖一、即剖レ冰躍レ鯉之地也。㊂縣名。五代唐、置く。湖北省漢口市の西北。漢の安陸縣の地。南朝宋の時、孝昌縣を置き、後唐の時、諱を避けて孝昌を孝感と改め、宋の時、治を縣北の紫資寨に移し、元の時、復、舊治に還る。清代には、湖北省漢陽府に屬す。京漢鐵路の沿線。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府〕孝感縣、府南百二十里、東至ニ黃州府黃陂縣一百里、南至ニ漢陽府漢川縣一百里、漢安陸縣地、劉宋置ニ孝昌縣一、以ニ孝子董永一名也、屬ニ江夏郡一、齊置ニ南義陽一郡治孝昌、梁初以ニ南義陽一置ニ司州一、尋徙ニ安陸一、西魏於レ縣置ニ岳州及岳山郡一、後周州郡俱廢、縣屬ニ郢州一、隋大業初、屬ニ安陸郡一、唐武德四年、置ニ澴州一、七年、州廢、縣屬ニ安州一、五代唐、改レ縣曰ニ孝感一、宋仍屬ニ安州一、明洪武九年、省入ニ德安州一、尋復置、今編戶二十九里。〔清史稿、地理志〕湖北、漢陽府、縣四、孝感。

〖孝感傳〗40（カウカンデン） 親に孝行をつくして神人を

感動させた者の列傳。魏書に此の目がある。

【孝簡】41 カウカン 謚號。❶後魏、盧義僖（**8**－**23050**‥198）の謚。❷宋、趙宗漢（**10**－**37171**‥756）の謚。

【孝己】42 カウキ 殷の高宗武丁の太子。賢孝の行があつた。其の母が早く死し、高宗、後妻の言に惑ひ、之を放つて死せしめたので、天下之を哀しむ。〔荀子、性惡〕曾・騫・孝己。〔注〕孝己、殷高宗之太子、皆有㆓至孝之行㆒也。〔管子、樞言〕文武孝己。〔纂詁〕孝己、殷高宗之子。〔史記、陳丞相世家〕有㆓尾生・孝己之行㆒。

【孝起】43 カウキ 字號。❶後漢、封觀（**4**－**7426**‥53）の字。❷三國蜀、陳震（**11**－**41698**‥381）の字。

【孝基】44 カウキ ❶後魏、孝莊帝の時、北海王顥の僭年號。（529）❷字號。㋑隋、高構（**12**－**45313**‥323）の字。㋺隋、辛德源（**10**－**38630**‥116）の字。㋩清、謝希曾（**10**－**35827**‥256）の字。

【孝熙】45 カウキ よく先祖を祭つたために受ける幸福。〔漢書、禮樂志、安世房中歌〕大矣孝熙、四極爰轃。〔注〕師古曰、熙、亦福也。

【孝義】46 カウギ ❶孝行節義。又其の行あるもの。〔北史、魏孝文帝紀〕孝義廉貞、文武應㆑求者、具以㆑名聞。〔唐書、太宗紀〕貞觀三年、賜㆘孝義之家粟五斛、八十以上二斛、九十以上三斛、百歲加㆓絹二匹㆒、婦人正月以來產㆑子者粟一斗㆖。❷縣名。㋑唐、置く。山西省汾陽縣の南。汾水支流の北岸。三國、魏の中陽縣、後魏の永安縣の地。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府〕孝義縣、在㆓府南三十五里㆒、東至㆓霍州靈石縣㆒三十里、漢茲氏縣地、魏置㆓中陽縣㆒、屬㆓西河郡㆒、晉初因㆑之、永嘉後、省入㆓隰城縣㆒、後魏太和十七年、又分置㆓永安縣㆒、仍屬㆓西河郡㆒、北齊省入㆓介休縣㆒、後周復置、隋屬㆓介州㆒、唐屬㆓汾州㆒、貞觀初、改㆑縣曰㆓孝義㆒、以㆓旌縣人鄭興㆒也、五代周顯德五年、晉州將李謙溥擊㆓北漢㆒破㆓孝義㆒、卽此、宋太平興國初、改㆑縣曰㆓中陽㆒、尋復㆑舊、熙寧五年省、元祐初、復置、今編戶三十里。〔淸史稿、地理志〕山西、汾州府、縣七、孝義。㋺民國、置く。陝西省に屬す。淸の孝義廳の地。民國又改めて柞水縣とす。❸村名。河南省鞏縣の西南。隴秦豫海鐵路の黑石關驛に近い。田眞兄弟三人が各〻財寶を分ち取り、遂に荆樹までも三分しようとしたところ、翌日荆樹が枯死したので、兄弟が感じて財を合し、遂に孝門を爲したといふ。孝義の名は之から起る。孝門（226）を見よ。

【孝義傳】47 カウギデン 孝義を以て著名な者の列傳。宋書・南齊書・周書・隋書・南史・宋史・明史に此の目がある。

【孝義保】48 カウギホ 魯の孝公の保姆。孝公の難に己の子を身代りとして孝公を助けた。〔列女傳、節義、魯孝義保傳〕孝義保者、魯孝公稱之保母、臧氏之寡也、初孝公父武公、與㆓其二子長子括・中子戲㆒朝㆓周宣王㆒、宣王立㆑戲爲㆓魯太子㆒、武公薨、戲立、是爲㆓懿公㆒、孝公時號㆓公子稱㆒、最少、義保與㆓其子㆒俱入㆑官、養㆓公子稱㆒、括之子伯御、與㆓魯人㆒作㆑亂、攻殺㆓懿公㆒而自立、求㆓公子稱于宮㆒將㆑殺㆑之、義保聞㆓伯御將㆑殺㆑稱、乃衣㆓其子㆒以㆓稱之衣㆒、臥㆓于稱之處㆒、伯御殺㆑之、義保遂抱㆑稱以出、遇㆓稱舅魯大夫于外㆒、舅問、稱死乎、義保曰、不㆑死在㆑此、舅曰、何以得㆑免、義保曰、以㆓吾子㆒代㆑之、義保遂以逃、十一年、魯大夫皆知㆓稱之在㆑保、于㆑是請㆓周天子㆒、殺㆓伯御㆒立㆑稱、是爲㆓孝公㆒、魯人高㆑之、論語曰、可㆔以託㆓六尺之孤㆒、其義保之謂也。

【孝義錄】49 カウギロク 書名。五十卷。林信徹等撰。寬政年間、德川幕府の版本。忠孝節義の士の列傳。復讐傳を附錄とす。

【孝儀】50 カウギ 字號。❶梁、劉潛（**2**－**2224**‥453）の字。❷淸、歸允肅（**6**－**16349**‥294）の字。❸淸、侯承恩（**1**－**633**‥121）の❷の字。

【孝享】51 カウキヤウ よく先祖の祭をする。〔易、萃〕王假㆓有廟㆒致㆓孝享㆒也。〔詩、小雅、天保〕吉蠲爲㆑饎、是用孝享。〔傳〕享、獻也。

【孝經】52 カウキヤウ 書名。一卷。十三經の一つ。主として孝道を論じたものであるから、仍て其の名を得た。中に論ずる所は、今文孝經によれば開宗明義章・天子章・諸侯章・卿大夫章・士章・庶人章・三才章・孝治章・聖治章・紀孝行章・五刑章・廣要道章・廣至德章・廣揚名章・諫諍章・感應章・事君章・喪親章の十八章であり、古文孝經によれば、右の庶人章を庶人・孝平の二章に分ち、聖治章を聖治・父母生績・孝優劣の三章に分ち、別に廣揚名の次に、閨門の一章を加へて、計二十二章となつてゐる。十三經中、最初から書名に經と云ふ字を附してゐるのは、此の書に限る。此の書の作者が何人であるかに就ては、古來數說あつて、今尙一定する所がない。孝經緯鉤命決や、史記の仲尼弟子列傳や白虎通の五行篇等は何れも孔子の作なりと言つてゐるが、孔安國の孝經序と稱するものは、曾子の集錄であると言ひ、宋の司馬光・胡寅・晁公武等は、何れも曾子の門人の作だと言ひ、其の他或は子思の作であると言ふ人もあり、或は孟子に出てゐる樂正子春の作だと言つてゐる者もある。併し、是等の諸說は、いづれも適確な論據を持つて居る譯では無い。書中論ずる所に、孔子・曾子の話の多い點から考へて、或は又學統の上から考へて、曾子の門流の作と見るのが先づ正しからう。孝經には前述の如く今文と古文との別がある。此の中、今文は秦の焚書の時顏芝の藏したもので漢の時代に長孫子・江翁・后蒼・翼奉・張禹等が傳へた。其の今文孝經には鄭注本が一卷あつたといふことである。但、その鄭注が果して鄭玄の注であるか、或は鄭玄の孫、鄭小同の作であるかに就ては、古來議論の別るる所である。古文孝經は漢の景帝の時、魯の共王が孔子の宅を破つて、尙書・論語等と一緒に孔壁中から得たものである。今文孝經に比較すると四章多い形ではあるが、實は今文の庶人章を二つに別け、聖治章を三つに別けたものであるから、今文に比して多いのは、實は閨門一章だけである。古文孝經には孔安國の傳と稱するものが傳つてをつたが、其の孔傳は梁末の亂に既に亡びてゐる。且、この孔傳に就ては實は議論が多いので、劉炫の僞作だと言ふものもあり、王肅の僞作だと言ふ人もある。兎に角、古文孔傳、今文鄭注、この二つが孝經の二つの大なる系統として傳つてをつた。然るに唐の玄宗の開元七年、帝は群儒を集めて、兩者の長短を論ぜしめた時、今文の說が勝利を得る事となり、從つて鄭注が獨り學界に行はれて、孔傳は之を傳へるものさへ少くなつた。其後開元十年に、玄宗の御注孝經が出來上つた。是は本文は今文十八章のものに依つたものではあるが、解釋は全く鄭注にも依らず、獨自の見解に立つたものである。これ以來、古文孔傳・今文鄭注共に廢して、御注のみが獨り行はれる姿となつた。因にこの御注孝經は石に刻して、唐の都長安に建てたが、これが所謂石臺孝經と稱するものである。古文孔傳・今文鄭注の外、また別に朱子の「刊誤本」がある。「刊誤本」は大體古文に依つたものであるが、ただ朱子は嘗て大學を經一章傳十章と別けたと同樣、孝經をも此の刊誤本に於て、經一章傳十章となした。古文孔傳や今文鄭注は、中國に於て夙に亡びたが、兩書とも幸に吾が國に存して、其の湮滅を免れたことは、洵に學界の慶事である。卽ち圓融帝の永觀年間、東大寺の僧奝然は、宋に使して、今文鄭注を宋の太宗に獻じた。彼の國としては世界に絶滅したものを改めて得た譯である。併し折角奝然の中國に獻じたものも、金・元の亂に逢つて、再び彼の地に亡びた。恰も吾が國でも矢張この鄭注が亡びたので、危く此の書は世界から絶滅する所であつたが、幸にも前に唐の魏徵が此の書を群書治要の中に載せて居つたので、寬政年間、岡田挺之は之を群書治要中から鈔出して刊行し、ほぼ同時代に北總の窪木正淵も補訂鄭注孝經を刊行して、共に此の書を再び世に紹介した。中國の知不足齋叢書中に收められてゐる鄭注孝經は、實に吾が國の岡田挺之のものを再錄したものである。古文孔傳も亦夙に中國に亡びたが、享保年間に太宰春臺は、足利學校本を本とし、之に諸本を參考して、刊行した。此も今は知不足齋叢書中に載つてゐる。孝經が我が國に傳はつたのは、論語の如く古いのではないが、その流行の盛な事は必ずしも論語に劣らない。文武天皇の大寶令の學制に依れば、當年の試驗科目には、大經・中經・小經の中の若干が科せられてゐたが、論語と孝經とは、あらゆる學生に課せられてゐた。以てその重要視せられてゐたことを

知るべきである。孝謙天皇の天平寶字元年の詔には、「宜しく天下に令して、家ごとに孝經一本を藏せしむべし」と出てゐる。清和天皇の御世に、藤原佐世は「古今集注孝經」九卷を著してゐる。これは今日亡びて傳らないから、その內容を知る事は出來ないが、兎に角我が國に於て、中國の經書に注を加へた最初のものである。清和天皇は孝經を愛讀せられ、御註孝經に關する制を貞觀二年に御發布になつてゐる。爾來歷代の天子皆此の書を重要視し給ひ、我が國の孝道が此の書に待つた點も少くない。古文孝經（**2**－3233··447）を見よ。〔四庫提要、經、孝經類〕。

《參考書》【御注孝經】一卷唐、玄宗明皇帝御撰。【孝經正義】三卷唐、玄宗御注、宋、邢昺疏、今文を用ふ。〔孝經音義〕二卷唐、陸元朗撰。【孝經刊誤】一卷宋、朱熹撰。古文孝經を取り、經一章傳十四章に分ち、又經文二百二十三字を削る。【孝經大義】一卷元、董鼎撰。初學のために方言を參へ、語錄の體をなす。【孝經定本】一卷元、吳澄撰。今文孝經を改定して經一章傳十二章とし、其の次序を改む。【孝經集傳】四卷明、黃道周撰。鄭氏今文を用ひ、每章、經典を雜引して之を證し、これを大傳とし、道周の自說を小傳とす。【御注孝經】一卷清、順治帝御注。【御定孝經衍義】一百卷清、世祖章皇帝敕修。【御纂孝經集注】一卷清、雍正帝撰。【孝經問】一卷清、毛奇齡撰。朱子孝經刊誤、吳澄孝經定本二書を駁したもの。〔以上何れも四庫提要、經、孝經類〕【孝經章句】一卷清、任啓運撰。【孝經本義】一卷清、姜兆錫撰。〔以上四庫提要、經、孝經類存目〕。【孝經鄭氏解輯】一卷清、臧庸輯。【孝經鄭氏注】一卷清、嚴可均輯。【孝經義疏補注】九卷阮福撰。【孝經見聞抄】三卷林道春撰。【孝經啓蒙】中江藤樹撰。【孝經外傳】一卷山崎嘉撰。【孝經刊誤附考】一卷山崎嘉撰。【孝經外傳或問】四卷熊澤蕃山撰。【孝經刊誤集解】一卷中村欽撰。【孝經織】一卷荻生徂徠撰。【孝經識】荻生徂徠撰。【孝經小解】三輪執齋撰。【孝經彙注】三卷大鹽後素撰。【今文孝經鄭氏解補證】一卷東條弘撰。【古文孝經辨僞】一卷東條弘撰。【孝經兩造簡孚】一卷東條弘撰。【古文孝經私記】二卷朝川鼎撰。【孝經證注】二卷朝川鼎撰。【孝經疏證】八卷附、解題考異、鈴木順亭撰。

〔孝經緯〕52′　孝經の緯書。孝經雜緯・孝經讖圖・孝經句命決・孝經援神契・孝經威嬉拒・孝經元命苞・孝經內事・孝經古祕援神・孝經古祕圖・孝經左右握・孝經左右契圖・孝經中契・孝經雌雄圖・皇靈孝經・孝經分野圖・孝經內事圖・孝經口授圖・孝經應瑞圖・孝經河圖・孝經皇義・孝經內記星圖・孝經元辰・孝經中黃讖・孝經章句等があつたが、今、散佚し、玉函山房輯佚書、及び古微書に其の一部分が輯められてゐる。緯書（**8**－27682··14）を見よ。〔經義考、毖緯五〕孝經雜緯、七錄・宋均注十卷、佚・孝經讖圖十二卷、佚・孝經句命決、隋志、宋均注六卷、佚・孝經援神契、隋志、宋均注七卷、佚・援神句命解詁、十二篇、佚孝經威嬉拒、佚・孝經元命苞、七錄一卷、佚・孝經內事、隋志一卷、佚・孝經古祕援神、七錄二卷、佚・孝經古祕圖、七錄一卷、佚・孝經左右握、七錄二卷、佚・孝經左右契圖・中契、七錄一卷、佚・孝經雌雄圖、七錄三卷、佚・孝經異本雌雄圖、七錄二卷、佚・皇靈孝經一卷、佚・孝經分野圖、七錄一卷、佚・孝經內事圖、七錄二卷、佚・孝經內事星宿講堂七十二弟子圖、七錄一卷、佚・孝經口授圖、七錄一卷、佚・孝經應瑞圖、舊唐志一卷、佚・孝經河圖、佚・孝經皇義一卷、佚・孝經內記星圖、唐志一卷、佚・孝經元辰、唐志二卷、佚・孝經中黃讖、佚・孝經錯緯、佚・書易詩孝經春秋河洛緯祕要、七錄一卷、佚。

〔孝經樓〕53　山本信有の號。山本北山（**4**－7869··991）を見よ。

〔孝經樓詩話〕54　書名。二卷。山本北山撰。詩に關する熟語典故一百條を錄す。專ら唐詩選の僞撰、滄浪詩話の謬妄、聯珠詩格の正書なるを論ず。〔日本詩話叢書、第二卷〕。

〔孝經百行之本〕55　孝經の教は諸善行の根本である。孝百行之本（281）に同じ。〔玉海、聖文、御書、淳化祕閣碑陰書孝經〕教之言、孝經百行之本、朕當三躬書二勒之碑陰一。

〔誦二孝經一擬二觀音經一〕56　孝經を誦讀して觀音經を讀むになぞらへる。〔南史、皇侃傳〕侃性至孝、常日限誦二孝經二十篇一、以擬二觀世音經一。

【孝擧】57　唐、張薦（**4**－9812··500）の字。

【孝魚】58　泉の名。北周の陸通の父、政が其の母のために苦心して魚を求めたところ、宅の側に忽然として泉が湧き、魚を得ることが出來た。因つて名づけて孝魚泉といふ。〔周書、陸通傳〕通父政、性至孝、其母吳人、好レ食レ魚、北土魚少、政求レ之常苦難、後宅側忽有二泉出一而有レ魚、遂得以供レ膳、時人以爲二孝感所レ致、因謂二其泉一爲二孝魚泉一。

【孝拱】59　清、龔橙（**12**－48837··48）の號。

【孝恭】60　父母に事へて孝行、上に仕へて恭謹であること。〔書、君陳〕惟爾令德孝恭。〔蔡傳〕事レ親孝、事レ上恭。〔孔子家語、弟子行〕孝恭慈仁。

〔孝恭后〕61　明、宣宗の后、孫后（**3**－6987··117）の諡。

〔孝恭王〕62　新羅の王、金嶢をいふ。

【孝謹】63　父母に事へてつつしみ深い。〔史記、萬石君傳〕以二馴行孝謹一、官皆至二二千石一。〔梁書、昭明太子傳〕太子孝謹天至。〔韓愈、司徒兼侍中中書令贈太尉許國公神道碑銘〕事レ親孝謹。

【孝虞】64　後魏、裴敬憲（**10**－34362··120）の字。

【孝和】65　㊀陳、沈不害（**6**－17189··630）の字。㊁北漢、劉鈞（**2**－2224··187）の諡。

〔孝和帝〕66　後漢の和帝。劉肇（**2**－2224··518）を見よ。

〔孝和莊憲帝〕67　遼世宗（**11**－39137··52）の諡號。「の一名。

【孝瓘】68　北齊、高長恭（**12**－45313··1274）

【孝裙】69　喪中に服する上衣。喪事に關する物には孝の字を附する。〔水滸傳、二十六回〕脫二去了紅裙繡襖一、旋穿二上孝裙孝衫一、便從二樓上一硬硬咽咽假哭下來。

【孝羣】70　唐、阮詵（**11**－41569··22）の字。

【孝卿】71　字號。㊀漢、王鳳（**7**－20823··977）の字。㊁梁、張綰（**4**－9812··761）の字。㊂梁、庾子輿（**4**－9398··63）の字。

【孝惠】72　諡號。㊀後魏、成軌（**5**－11544··38）の諡。㊁後魏、封津（**4**－7426··112）の諡。

〔孝惠帝〕73　㊀漢の惠帝。劉盈（**2**－2224··34）を見よ。㊁西晉、二代の王。司馬衷（**2**－3257··295）を見よ。㊂明の惠帝。朱允炆（**6**－14424··667）を見よ。

〔孝惠賀皇后〕74　宋、賀后（**10**－36725··30）の諡。

【孝敬】75　㊀よく親に事へ尊長に仕へる。〔詩、大序〕先王以レ是經二夫婦一、成二孝敬一。〔左氏、文、十八〕孝敬忠信爲二吉德一。〔管子、輕重己〕所三以爲二孝敬一也。〔風俗通、十反〕嘉二其孝敬一。㊁孝弟の人をいふ。〔漢書、武帝紀〕復二孝敬一。〔注〕師古曰、復二孝敬一者、謂三優二復孝弟之人一也。㊂尊者に物を呈する。又、尊者から物をもらふ。〔紅樓夢、七回〕有二什麼好東西孝敬一、我就快獻上來。㊃村の名。河北省趙縣の境。〔隋書、李德饒傳〕德饒、性至孝、及レ丁レ憂、哀慟歐レ血數升、後甘露降二於庭一、有レ鳩巢二其廬一、納言楊達巡二省河北一、詣二其廬一弔二慰之一、因改二所レ居村一名二孝敬村一、里爲二和順里一。㊄三國吳、范愼（**9**－30834··62）の字。㊅南朝宋、劉子鸞（**2**－2224··979）の諡。

〔孝敬皇帝〕76　唐、李弘（**6**－14459··330）の追諡。

【孝決】77　孝心から出た決斷。親に孝行をするためには何物も恐れない果斷な行爲。〔魏書、孫益德傳〕高祖文明太后、以二其幼而孝決一、又不レ逃レ罪、特免レ之。

【孝建】78　南朝宋、孝武帝、劉駿の年號。（454－456）

【孝絹】79　hsiao⁴ chüan⁴　喪の時に著るうすぎぬ。〔水滸傳、一百十四回〕宋江掛了白袍、金盔上蓋著一層孝絹。

【孝憲】80　宋、趙宗悌（**10**－37171··763）の諡。

【孝謙】81　㊀第四十六代の帝諡。〔續日本紀、孝謙紀〕天平寶字二年八月庚子、百官表曰、謹據二典策一、敢上二尊號一、伏乞奉二稱上臺寶字稱德孝謙皇帝一、僧綱表曰、謹上二尊號一、陛下稱曰二寶字稱德孝謙皇帝一、詔報曰、俯從二衆願一、敬膺二典禮一、號

曰二寶字稱德孝謙皇帝一。❷北齊、樊遜(6－15414・・51)の字。

【孝獻】82（カウケン）　諡號。❶晉、司馬越(2－3257・・222)の諡。❷南朝宋、劉義眞(2－2224・・795)の諡。❸五代吳越、錢弘僔(11－40563・・316)の諡。

〖孝獻帝〗83（カウケンテイ）　後漢の獻帝。劉協(2－2224・・243)を見よ。

【孝元】84（カウゲン）　❶第八代の帝諡。〔帝諡考、孝元〕周書諡法、五宗安レ之曰レ孝、協時肇享曰レ孝、云云、又能思二辯衆一曰レ元、行レ義說レ民曰レ元。❷後魏、叔孫俊(2－3154・・181)の諡。❸明、巫子肖(4－8728・・69)の字。

〖孝元帝〗85（カウゲンテイ）　❶漢の元帝。劉奭(2－2224・・443)を見よ。❷梁の元帝。蕭繹(9－32012・・19)を見よ。「字。

【孝彥】86（カウゲン）　北周、李遷哲(6－14459・・1607)の

【孝源】87（カウゲン）　字號。❶南朝宋、徐湛之(4－10110・・563)の字。❷梁、嚴植之(2－4589・・292)の字。

【孝公】88（カウコウ）　❶戰國、秦の二十五代の君。秦孝公(8－24995・・199)を見よ。❷字號。㋑漢、慶普(4－11145・・116)の字。㋺後漢、丁鴻(1－2・・73)の字。

【孝侯】89（カウコウ）　清、吳思忠(2－3365・・619)の字。

【孝興】90（カウコウ）　晉、馬隆(12－44572・・626)の字。

【孝才】91（カウサイ）　❶隋、元亨(1－1340・・75)の一名。❷隋、趙才(10－37171・・172)の字。

【孝妻】92（カウサイ）　未亡人の自稱。〔稱謂錄、守寡妻、孝妻〕養新錄、俚俗之稱、有二可レ笑者一、自レ古有レ之、蘇州府元妙觀前塼塔、近年傾圮、土人拾二得一塼一、有二崇奉三寶女弟子孝妻傳氏妙喜等一、蓋宋時所レ刻、又盤門內西泮環巷石井闌上、有下孝夫某爲二亡妻何氏四一娘一字上、嘉泰元年刻、又府前西米巷石井闌、有下孝夫某爲二亡前妻黃氏十四娘一字上、嘉定十七年十二月刻、則更可レ笑矣、案、文苑英華、唐張說王奐碑、孫逖王敬從碑、皆有二孝妻之稱一、據下兩引二孝夫一皆爲二亡妻一稱上レ之、則孝妻、亦爲二亡夫一稱レ之矣、蘇人方言、有二喪服一、謂二之戴孝一、夫婦之喪皆有レ服、故亡レ妻自稱二孝夫一、而亡レ夫者自稱二孝妻一耳。

【孝山】93（カウザン）　字號。❶漢、史岑(2－3249・・94)の字。❷後漢、蘇順(9－32427・・100)の字。❸後漢、李南(6－14459・・648)の字。❹宋、周堯敏(2－3441・・639)の號。

【孝子】94（カウシ）　❶よく父母に事へる子。〔莊子、天地〕孝子操レ藥、以修二慈父一。〔墨子、兼愛下〕以二天下之孝子一爲レ遇。〔史記、石奮傳〕不レ私二其父一、非二孝子一也。〔漢書、黃霸傳〕孝子弟弟、貞婦順孫、日以衆多。❷父母の祭祀に子が自ら稱する語。又、父母の喪中にある人。〔釋名、釋喪制〕祭曰二卒哭一、止孝子無二時之哭一、朝夕而已也。〔儀禮、士虞禮記〕孝子某、孝顯相。〔儀禮、喪服〕傳曰、孝子不二敢殊一也。〔禮、雜記上〕祭稱二孝子孝孫一、喪稱二哀子哀孫一。〔疏〕虞以前凶祭稱レ哀、卒哭以後吉祭稱レ孝。❸峯の名。陝西省華陰縣の華山落雁峯の西北。上に八卦池があり、一孝子が親の病を悲しんで身を此に捨てたと傳へる。峯上の廟中に老君の煉丹爐がある。

〖孝子粥〗95（カウシシユク）　十二月八日、僧尼の作る臘八粥の別名。目蓮が母を救つた故事に本づく。〔閩雜記〕吾鄕十二月初八、僧尼所レ送之臘八粥、僧謂二目蓮救レ母之遺一、故稱二孝子粥一。

〖孝子傳〗96（カウシデン）　書名。歷代孝子の事跡を雜記す。隋書經籍志に孝子傳讚三卷・王昭之撰、孝子傳十五卷・晉輔國將軍蕭廣濟撰、孝子傳十卷・宋員外郞鄭緝之撰、孝子傳八卷・師覺授撰、孝子傳二十卷・宋躬撰、孝子傳略二卷あり、皆亡ぶ。清の茆泮林、遺佚をあつめ、數種を得、十種古佚書中に入る。〔隋書、經籍志二〕孝子傳讚三卷・王昭之撰、孝子傳十五卷・晉輔國將軍蕭廣濟撰、孝子傳十卷・宋員外郞鄭緝之撰、孝子傳八卷・師覺授撰、孝子傳二十卷・宋躬撰、孝子傳略二卷。〔十種古逸書、第二册〕劉向孝子傳一卷。

〖孝子帽〗97 hsiao^4 tzŭ^3 mao^4　親の喪に用ひる帽子。

〖孝子愛レ日〗98（カウシハヒヲヲシム）　孝子が親に事へるには、日もこれ足らぬやうに一心につとめること。〔法言、孝至〕事二父母一自不レ足者、其舜乎、不レ可二得而久一者、事レ親之謂也、孝子愛レ日。

〖孝子孝孫〗99（カウシカウソン）　祖先の祭祀に子・孫が自ら稱する語。孝子の❷を見よ。〔禮、雜記上〕祭稱二孝子孝孫一、喪稱二哀子哀孫一。

〖孝子慈孫〗100（カウシジソン）　よく父祖に孝養するもの。孝子順孫。〔孟子、離婁上〕雖二孝子慈孫一、百世不レ能レ改也。〔集注〕雖レ有下孝子慈孫愛二其祖考一之甚者上、亦不レ得下廢二公義一而改上レ之。

〖孝子順孫〗101（カウシジユンソン）　孝子慈孫に同じ。〔漢書、武帝紀〕元年詔曰、今天下孝子順孫、願自竭盡以承二其親一。〔漢書、黃霸傳〕百姓鄕化、孝子弟弟・貞婦順孫、日以衆多。〔後漢書、百官志五〕三老、掌二教化一、凡有下孝子・順孫・貞女・義婦、讓レ財救レ患、及學士爲二民法式一者上、皆扁二表其門一、以興二善行一。〔六部成語、禮部、孝子順孫、注解〕子曰レ孝、孫曰レ順。

〖孝子不レ匱〗102（カウシトボシカラズ）　孝子の行は竭き極まるときがない。一人が孝を盡せば、之に感化せられて次々と孝子が出るをいふ。〔詩、大雅、既醉〕孝子不レ匱、永錫二爾類一。〔箋〕孝子之行、非レ有二竭極之時一、長以錫二與女之族類一。〔集傳〕東萊呂氏曰、君子既孝、而嗣子又孝、其孝可レ謂二源源不一レ竭矣。〔左氏、隱、元〕詩曰、孝子不レ匱、永錫二爾類一、其是之謂乎。

〖孝子不レ諛二其親一〗103（カウシソノオヤニヘツラハズ）　孝子は親を喜ばしめるが、道に外れた事によつて親にへつらひ事へはしない。〔莊子、天地〕孝子不レ諛二其親一、忠臣不レ諂二其君一。

〖孝子安レ家而忘レ國〗104（カウシハイヘヲヤスンジテクニヲワスル）　孝子は家を第一とするから、往々國のことを忘れる。〔顏氏家訓、歸心〕誠臣狥レ主而棄レ親、孝子安レ家而忘レ國。

〖孝子揚二父之美一不レ揚二父之惡一〗105（カウシハチチノビヲアゲテチチノアクヲアゲズ）　孝子は父のよいところを稱し、其の惡いところを言ひふらさない。〔穀梁、隱、元〕春秋貴レ義而不レ貴レ惠、信レ道而不レ信レ邪、孝子揚二父之美一、不レ揚二父之惡一。

【孝至】106（カウシ）　揚子法言の篇名。

【孝始】107（カウシ）　北周、張元(4－9812・・284)の字。

【孝祀】108（カウシ）　よく祖先に事へてまつる。〔詩、小雅、楚茨〕苾芬孝祀、神嗜二飲食一。〔箋〕女之以二孝敬亨祀一也、神乃歆二嗜女之飲食一。

【孝思】109（カウシ）　明、車以遵(10－38172・・264)の字。

〖孝思堂〗110（カウシダウ）　清、侯七乘(1－633・・118)の室名。

【孝師】111（カウシ）　南朝宋、劉子尙(2－2224・・966)の字。

【孝詩】112（カウシ）　書名。一卷。宋、林同撰。五言絶句で、古來の孝子を分類題詠す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【孝慈】113（カウジ）　❶よく親に事へ、子孫をいつくしむ。又、親に孝をつくしいつくしむ。〔禮、表記〕威莊而安、孝慈而敬。〔論語、爲政〕臨レ之以レ莊則敬、孝慈則忠。〔集解〕包咸曰、君能上孝二於親一下慈二於民一則民忠矣。〔集注〕孝二於親一、慈二於衆一則民忠二於己一。〔老子、十九〕絶レ仁棄レ義、民復二孝慈一。〔管子、度地〕人乃終身無二患害一而孝慈焉。〔史記、五帝紀〕舜父瞽叟頑、母嚚、弟象傲、皆欲レ殺レ舜、舜順適不レ失二子道一、兄弟孝慈。❷村名。〔唐書、劉禕之傳〕父子翼、在レ隋爲二著作郎一、貞觀初、召レ之、辭以二母老一、詔許レ終レ養、江南道監察使李襲譽、嘉二其孝一、表レ所レ居爲二孝慈里一。

〖孝慈高皇后〗115（カウジカウクワウゴウ）　明、太祖の后、馬后(12－44572・・207)の諡。

【孝昌】116（カウシヤウ）　後魏、孝明帝、拓跋詡の年號。(525－526)

〖孝昌石窟碑〗117（カウシヤウセキクツヒ）　後魏の碑。洛陽、龍門の老君洞にある。文字は立派だが、斷缺してゐるのと、今までに著錄せられなかつたので、清朝まで顧みられなかつた。

【孝章】118（カウシヤウ）　字號。❶三國吳、盛憲(8－23005・・66)の字。❷南齊、盧度(8－23050・・122)の字。❸宋、李知孝(6－14459・・1702)の字。❹明、殷奎(6－16627・・46)の字。❺明、金俊明(11－40152・・1298)の字。

〖孝章帝〗119（カウシヤウテイ）　後漢の章帝。劉炟(2－2224・・480)を見よ。

〖孝章宋皇后〗120（カウシヤウソウクワウゴウ）　宋、宋后(3－7078・・96)の諡號。

【孝嘗】121（カウシヤウ）　梁、劉苞(2－2224・・547)の字。

【孝璋】122（カウシヤウ）　唐、楊琮(6－15112・・265)の字。

【孝常】123（カウジヤウ）　字號。❶唐、皇甫曾(8－22701・・2

32)の字。㊂明、馬治(12－44572‥419)の字。㊃清、葉榮梓(9－31387‥162)の字。

【孝情】124 孝行な心。〔戰國、齊策下〕至レ老不レ嫁、以養二父母一、是其率レ民而出二於孝情一者也。

【孝若】125 字號。㊀晉、夏侯湛(3－5720‥111)の字。㊁梁、胡山賓(9－29400‥472)の字。㊂梁、明山賓(5－13805‥643)の字。㊃明、茅維(9－30836‥4)の字。

【孝筍】127 三國、呉の孝子孟宗が寒中に掘り出した筍。〔呉志、孫皓傳、注〕楚國先賢傳曰、宗母嗜レ筍、冬節將レ至、時筍尚未レ生、宗入二竹林一哀歎、而筍爲レ之出、得二以供一レ母、皆以爲二至孝之所一レ致レ感。〔庾信、周上柱國齊王憲神道碑銘〕忠泉出レ井、孝筍生レ庭。

【孝順】128 善く父母の氣に入るやうに仕へる。〔國語、楚語上〕孝順以納レ之、忠信以發レ之。〔漢書、郊祀志下〕今皇帝寬仁孝順。〔後漢書、董卓傳〕孝順之節。

〖孝順狗〗129 よく主人につかへる犬。唐の魏元忠の愛狗。〔廣異記〕唐魏元忠、未レ達時、家貧、常呼二蒼頭一未レ應、狗代、呼レ之曰、此孝順狗也、乃能代レ我勞。

〖孝順帝〗130 後漢の順帝。劉保(2－2224‥546)を見よ。

【孝詢】131 隋、李詢(6－14459‥450)の字。

【孝初】132 字號。㊀後漢、宗慈(3－7106‥121)の字。㊁明、鄭爾忠(11－39647‥426)の字。

【孝緒】133 字號。㊀梁、李慶緒(6－14459‥1104)の字。㊁清、胡統虞(9－29400‥586)の字。㊂清、彭開祐(4－10003‥135)の字。

【孝如】134 清、曹學閔(5－14297‥209)の字。

【孝升】135 清、龔鼎孳(12－48837‥86)の字。

【孝稱】136 孝行のほまれ。孝行の評判。〔後漢書、朱穆傳〕穆、年五歲、便有二孝稱一、父母有レ病、輒不二飲食一、差乃復レ常。

【孝心】137 孝行の心。孝情。〔禮、檀弓下〕喪之朝也、順二死者之孝心一也。

【孝臣】138 清、李惇(6－14459‥642)の字。

【孝仁】139 字號。㊀三國魏、倉慈(1－755‥47)の字。㊁南朝宋、柳元景(6－14662‥251)の字。㊂明、鄭士原(11－39647‥397)の字。

〖孝仁匽皇后〗140 後漢、匽后(2－2684‥2)の尊稱。

〖孝仁董皇后〗141 後漢、董后(9－31433‥70)の尊號。

【孝水】142 川の名。河南省洛陽縣の西。谷水ともいふ。東流して穀に入る。後周、此處に孝水戍を築く。もと王祥河といふ。〔水經、穀水注〕兪隨之水、出二于其陰一、北流注二于穀一、世謂二之孝水一也。〔潘岳、西征賦〕澡二孝水一以濯レ纓、嘉二美名之在一レ茲。

【孝瑞】143 孝行した爲に、天から賜はるめでたいしるし。〔宋史、樂志十〕孝瑞紀レ封、英聲載レ路。

【孝正】144 北周、王子直(7－20823‥1539)の字。

【孝性】145 善く父母に事へる性質。〔南史、臧嚴傳〕嚴幼有二孝性一。〔北史、甄琛傳〕母鉅鹿曹氏、有二孝性一。〔北史、列女、河東姚氏女〕年六七歲、便有二孝性一。

【孝政】146 北周、紐回(8－27268‥3)の字。

【孝整】147 隋、元褒(1－1340‥495)の字。

【孝昭】148 ㊀第五代の帝諡。〔帝諡考、孝昭〕詩、大雅、文王、下武、永言孝思、昭哉嗣服、箋、服、事也、周書、諡法、五宗安レ之曰レ孝、協時肇享曰レ孝、秉レ德不レ回曰レ孝、大慮行レ節曰レ孝、又昭レ德有レ勞曰レ昭、聖文周達曰レ昭。㊁後魏、楊玄(6－15112‥140)の私諡。

〖孝昭帝〗149 ㊀漢の昭帝。劉弗陵(2－2224‥1287)を見よ。㊁北齊、三代の肅宗をいふ。高演(12－45313‥53)を見よ。

【孝錫】151 宋、杜純(6－14477‥150)の字。

【孝節】152 ㊀立派な孝行。孝行の節義。〔魏書、王肅傳〕誠季世之高風、末代之孝節也。〔元史、李德輝傳〕崇二學校一、表二孝節一、勸二耕桑一。㊁陳、徐度(4－10110‥238)の字。㊂諡號。㋑明、顔伯瑋(12－43591‥183)の諡。㋺清、呉蕃昌(2－3365‥838)の諡。

〖孝節先生〗153 明、張世偉(4－9812‥1234)の尊稱。

【孝先】154 ㊀字號。㋑後漢、邊韶(11－39216‥121)の字。㋺三國魏、毛玠(6－16772‥14)の字。㋩三國呉、葛玄(9－31420‥30)の字。㋥北齊、段韶(6－16619‥34)の字。㋭宋、韓大寧(12－43159‥348)の字。㋬宋、胡順之(9－29400‥502)の字。㋣宋、劉興祖(2－2224‥919)の字。㋠宋、王曾(7－20823‥712)の字。㋷明、區大倫(2－2691‥67)の字。㋦明、顔應祐(12－43591‥134)の字。㋸清、徐堅(4－10110‥117)の字。㋾清、張伯行(4－9812‥1445)の字。㊁宋、宋晉之(3－7078‥328)の舊名。

【孝宣】155 後魏、封回(4－7426‥47)の諡。

〖孝宣帝〗156 ㊀漢の宣帝。劉詢(2－2224‥376)を見よ。㊁陳の宣帝。陳頊(11－41698‥156)を見よ。

【孝泉】157 泉の名。四川省德陽縣の西北。もとの名は姜詩泉。後漢の姜詩の母が江水を好んだが、一朝にして家の側に泉が湧いたので、宋の治平中、詔して孝泉といふ。今、孝泉場があり、場の東に姜詩祠がある。〔元和志〕詩母好二江水一、一旦泉湧二舍側一、味如二江水一。

【孝然】158 三國魏、焦先(7－19119‥72)の字。

【孝宗】159 ㊀廟號。㋑東晉、第五代の穆帝をいふ。司馬聃(2－3257‥289)を見よ。㋺宋、十一代の王。趙昚(10－37171‥232)を見よ。㋩明、十代の王。朱祐樘(6－14424‥658)を見よ。㋥朝鮮、李朝十七代の王。字は靜淵。諱は淏。仁祖の子。在位十年。㊁字號。㋑三國呉、謝慈(10－35827‥96)の字。㋺晉、續咸(8－28037‥7)の字。㋩後魏、崔巨倫(4－8178‥219)の字。

【孝則】160 字號。㊀三國呉、顧邵(12－43689‥123)の字。㊁北魏の孝武帝、元修(1－1340‥271)の字。㊂後魏、柳楷(6－14662‥45)の字。㊃明、車以遵(10－38172‥264)の字。㊄清、孫宗彝(3－6987‥473)の字。㊅清、毛成肅(6－16772‥300)の字。

【孝存】161 清、趙允懷(10－37171‥408)の字。

【孝孫】162 ㊀孫が祖先の祭に自ら稱する語。孝子(94)の㊁を見よ。〔詩、小雅、楚茨〕孝孫有レ慶、報以二介福一、萬壽無レ疆。〔集傳〕孝孫、主レ祭之人也。〔禮、郊特牲〕祭稱二孝孫孝子一、以二其義一稱也。㊁字號。㋑後漢、馮魴(12－44579‥132)の字。㋺後漢、劉嘉(2－2224‥78)の字。㋩北周、柳帶韋(6－14662‥281)の字。㋥宋、謝允昌(10－35827‥244)の字。

【孝堂】163 ㊀喪中の家の堂。又、堂には白い幕を用ひるから、其の幕をいふ。〔直語補證〕。㊁巫山(4－8728‥28)の異名。山頂に石室があり、漢の郭巨が母を葬つた所といふ。〔太平御覽、地部、巫山〕齊地記曰、巫山、一名孝堂山、左傳曰、齊侯登二巫山一、以望二晉師一、卽此山也、山上有二石室一、俗傳云、郭巨葬レ母之所、因名二孝堂山一焉、在二平陰縣一。

【孝道】164 父母に事へる道。孝行の道。〔史記、仲尼弟子傳〕曾參、南武城人、孔子以爲三能通二孝道一。〔呂覽、孝行〕余忘二孝道一、是以憂。〔漢書、文帝紀〕永思二孝道一。〔後漢書、劉愷傳〕蓋崇レ化厲レ俗、以弘二孝道一也。

【孝達】165 清、張之洞(4－9812‥1102)の字。

【孝男】166 hsiao^4 nan^2 喪中に在る男子。

【孝治】167 五代、南詔の肅文帝、鄭旻嗣の時の私年號。(910－926)

【孝智】168 梁、劉覽(2－2224‥642)の字。

【孝稚】169 梁、劉孺(2－2224‥354)の字。

【孝尼】170 晉、袁準(10－34152‥85)の字。

【孝峙】171 明、王屋(7－20823‥92)の字。

【孝持】172 清、顧衡(12－43689‥34)の字。

【孝竹】173 漢の章帝の時生えたといふめでたい竹。子母竹。慈竹。〔述異記、下〕一名子母竹、亦稱二慈竹一、漢章帝三年、子母筍生二白虎殿前一、時謂爲二孝竹一、羣臣獻二孝竹頌一。

【孝長】174 清、劉醇(2－2224‥377)の字。

【孝帳】175 hsiao^4 chang^4 忌中に種々のことを記す帳簿。

【孝張】176 里の名。南朝、宋の孝武帝が孝子張敷の里に名づけた名。〔南史、張敷傳〕父在二呉興一亡、成服凡十餘日、始進二水漿一、葬畢、不レ進二鹽菜一、遂毀瘠成レ疾、云云、未レ期而卒、孝武卽位、詔旌二其孝道一、追二贈侍中一、改二其所一レ居稱二孝張里一。

【孝仲】177 清、張鏡心(4－9812‥920)の字。

【孝沖】178 カウチユウ 字號。❶晉、夏侯淳(3－5720‥107)の字。❷隋、房彥謙(5－11714‥156)の字。

〖孝沖帝〗179 カウチユウテイ 後漢の沖帝。劉炳(2－2224‥592)を見よ。

【孝著】180 カウチヨ 孝行を以て有名になる。〔漢書、馮唐傳〕馮唐以ㇾ孝著、爲㆓郎中署長㆒。

【孝女】181 カウヂヨ 孝行なむすめ。〔後漢書、列女傳〕孝女曹娥者、會稽上虞人也、父盱爲㆓巫祝㆒、漢安二年五月五日、於㆓縣江㆒泝ㇾ濤、迎㆓婆娑神㆒溺死、不ㇾ得㆓死骸㆒、娥年十四、沿ㇾ江號哭、晝夜不ㇾ絕ㇾ聲、旬有七日、遂投ㇾ江而死。〔張籍、江陵孝女詩〕孝女獨垂ㇾ髮、少年唯一身。

〖孝女江〗182 カウヂヨカウ 川の名。曹娥江の別名。曹娥(5－14297‥19)を見よ。〔王穉登、詩〕急雨潮平孝女江。〔韻府注〕卽曹娥江也。

【孝徵】183 カウチヨウ 字號。❶北齊、祖珽(8－24664‥105)の字。❷明、尤錫類(4－7543‥54)の字。

【孝直】184 カウチヨク 字號。❶三國蜀、法正(6－17290‥206)の字。❷明、錢敬忠(11－40563‥284)の字。

【孝通】185 カウツウ 字號。❶北周、褚該(10－34457‥8)の字。❷唐、綦母潛(8－27555‥18)の字。

【孝弟】186 カウテイ ❶善く父母につかへて孝行をつくし、兄長につかへて從順なこと。孝悌。〔論語、學而〕孝弟也者、其爲ㇾ仁之本與。〔淮南子、說山訓〕不㆓孝弟㆒者、或詈㆓父母㆒。〔孔子家語、王言解〕誘㆓孝弟㆒、選㆓才能㆒。❷兄の後を繼いだ弟をいふ。〔稱謂錄、承㆓兄後㆒之弟、孝弟〕養新錄、古人惟子孫稱ㇾ孝、詩、綏予孝子、孝孫徂ㇾ位、皆於㆓廟中㆒稱ㇾ之、後代以ㇾ弟承ㇾ兄、則有㆘稱㆓孝弟㆒者㆖、續通鑑長編載、嘉祐八年、孫抃等議云、太祖之廟、太宗稱㆓孝弟㆒、是也。

〖孝弟力田〗187 カウテイリヨクデン 漢の惠帝四年に設けた科擧の目。孝・弟は淑行なる者、力田は勤勞なる者。之に擧げられたものは力役を免ぜられたが、三者少しく差があつた。文帝の時には孝には帛五匹、弟・力田には帛三匹を賜はつた。〔漢書、惠帝紀〕擧㆓民孝弟力田㆒者復㆓其身㆒。〔漢書、高后紀〕初置㆓孝弟力田二千石者一人㆒。〔漢書、文帝紀〕孝弟、天下之大順也、力田、爲㆓生之本㆒也。

【孝定】188 カウテイ ❶北周、王盟(7－20823‥1004)の諡。❷清、謝爲憲(10－35827‥240)の字。

〖孝定先生〗189 カウテイセンセイ 清、朱用純(6－14424‥1010)の私諡。

【孝悌】190 カウテイ 孝弟の❶に同じ。悌は弟に通ず。〔孟子、梁惠王上〕申ㇾ之以㆓孝悌之義㆒。〔呂覽、貴當〕觀㆓布衣㆒也、其友皆孝悌純謹畏ㇾ令、如ㇾ此者其家必日益、身必日榮矣。〔管子、牧民〕不ㇾ恭㆓祖舊㆒、則孝悌不ㇾ備。〔漢書、文帝紀〕孝悌、天下之大順也。

〖孝悌王〗191 カウテイワウ 斗星の中に居るといふ仙人。〔太平廣記〕斗中眞人、下㆓降蘭公之舍㆒、自稱㆓孝悌王㆒、云、居㆓日中㆒爲㆓僊王㆒、月中爲㆓明王㆒、斗中爲㆓孝悌王㆒。

〖孝悌之性〗192 カウテイノセイ 孝悌の性質。〔世說新語、文學〕夏侯湛、作㆓周詩㆒成、示㆓潘安仁㆒、安仁曰、此非㆓徒溫雅㆒、乃別見㆓孝悌之性㆒、潘因ㇾ此遂作㆓家風詩㆒。

【孝烏】193 カウテウ からす。反哺の孝があるからいふ。孝烏。〔古今注、鳥獸〕烏、一名孝烏、一名玄烏。

【孝侗】194 カウドウ 明、孫念祖(3－6987‥517)の字。

【孝童】195 カウドウ 父母によく事へる子供。孝子。〔唐書、段秀實傳〕秀實六歲、母疾病、不㆓勺飮㆒至㆓七日㆒、病閒乃肯食、時號爲㆓孝童㆒。〔唐書、王方翼傳〕方翼早孤、哀毀如㆓成人㆒、時號㆓孝童㆒。

【孝德】196 カウトク ❶孝道を行ふ德。〔周禮、地官、師氏〕師氏以㆓三德㆒敎㆓國子㆒、一曰至德、以爲㆓道本㆒、二曰敏德、以爲㆓行本㆒、三曰孝德、以知㆓逆惡㆒。〔注〕孝德、尊ㇾ祖愛ㇾ親、守㆘其所㆓以生㆒者㆖也。❷第三十六代の帝諡。〔帝諡考、孝德〕詩、大雅、卷阿、有ㇾ馬有ㇾ翼、有ㇾ孝有ㇾ德、以引以翼、豈弟君子、四方爲ㇾ則、注、有ㇾ孝、斥㆓成王㆒也、有ㇾ德、謂㆓羣臣㆒也。❸南朝宋、劉子勛(2－2224‥962)の字。

【孝敦】197 カウトン 唐、法沖(6－17290‥244)の字。

【孝內】198 hsiao^4 nei^4 忌中。喪中。

【孝伯】199 カウハク ❶後魏、崔光(4－8178‥56)の本名。❷字號。㋑晉、王恭(7－20823‥246)の字。㋺南齊、蕭道生(9－32012‥467)の字。㋩後梁、盧曾(8－23050‥117)の字。

〖孝伯痛飮〗200 カウハクツウイン 蒙求の標題。晉の王恭、字は孝伯が、名士は必ずしも奇才を必要とせず、但常に事無からしめ、酒を痛飮し、離騷を熟讀すれば、便ち名士と稱すべしといつた故事。〔世說新語、任誕〕王孝伯言、名士不㆔必須㆓奇才㆒、但使㆓常得ㇾ無ㇾ事、痛㆓飮酒㆒、熟㆓讀離騷㆒、便可ㇾ稱㆓名士㆒。

【孝博】201 カウハク 北齊、茹瞻(9－30921‥30)の字。

【孝丕】202 カウヒ 清、林建猷(6－14551‥307)の字。

【孝敏】203 カウビン 元、呉鼎(燕の人)(2－3365‥322)の諡。

【孝夫】204 カウフ ❶妻に死に別れた夫の自稱。孝妻(92)を見よ。❷明、楊思忠(6－15112‥576)の字。

【孝婦】205 カウフ ❶孝行なよめ。〔漢書、于定國傳〕東海有㆓孝婦㆒、少寡、亡ㇾ子、養ㇾ姑甚謹。〔說苑、貴德〕東海有㆓孝婦㆒。❷河の名。古の瀧水。源は山東省博山縣の西南の鳳凰山。北流して麻大湖に注ぐ。❸hsiao^4 fu^4 喪中の婦人。

【孝服】206 カウフク ❶父母の喪に服すること。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕孝服不ㇾ可ㇾ打。❷hsiao^4 fu^2 喪服。

【孝文】207 カウブン 晉、熊遠(7－19294‥7)の字。

〖孝文韭〗208 カウブンキウ 草の名。山韭の異名。胡葱。〔本草、山韭〕附錄、孝文韭、藏器曰、辛溫無ㇾ毒、主㆓腹內冷・脹滿・洩痢・腸澼、溫ㇾ中補ㇾ虛、令㆓人能食㆒、生㆓塞北山谷㆒、狀如ㇾ韭、人多食ㇾ之、云、是後魏孝文帝所ㇾ種、又有㆓諸葛韭㆒、孔明所ㇾ種、此韭更長、彼人食ㇾ之、時珍曰、此亦山韭也、但因ㇾ人命ㇾ名耳。

〖孝文帝〗209 カウブンテイ ❶漢の文帝。劉恆(2－2224‥278)を見よ。❷後魏、六代の高祖をいふ。拓跋宏(5－11958‥31)を見よ。❸遼道宗(11－39137‥60)の諡號。

〖孝文幽皇后〗210 カウブンイウクワウゴウ 後魏、馮后(12－44579‥71)の尊號。

〖孝文之本〗211 カウハブンノモト 孝は百行の本の意。文は內容の外面にあらはれたもの、卽ち百行。〔國語、周語下〕孝、文之本也、惠、文之慈也。

〖孝文昭皇后〗212 カウブンセウクワウゴウ 後魏、高后(12－45313‥318)の尊號。

【孝標】213 カウヘウ 字號。❶梁、劉峻(2－2224‥363)の字。❷清、牛樞暐(7－19922‥335)の字。❸清、徐善建(4－10110‥531)の字。

【孝甫】214 カウホ 字號。❶後漢、高愼(12－45313‥495)の字。❷明、呉治(2－3365‥294)の字。❸明、樊繼(6－15414‥27)の字。

【孝慕】215 カウボ 孝心深く親をこひしたふこと。〔北史、刁沖傳〕沖、字文朗、十三而孤、孝慕過ㇾ人。

【孝豐】216 カウホウ 縣名。明、置く。浙江省武康縣の西。後漢の原鄕縣、隋の綏安縣の地。境內に天目山脈環繞し、頗る高地多し。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州府、安吉州〕孝豐縣、州南六十五里、東至㆓武康縣㆒百二十里、東南至㆓杭州府餘杭縣㆒百十里、西北至㆓江南廣德州㆒七十里、西至㆓江南寧國縣㆒百二十里、本漢故鄣縣地、後漢中平二年、分㆓置原鄕縣㆒、屬㆓丹陽郡㆒、晉屬㆓吳興郡㆒、宋以後因ㇾ之、隋廢、唐武德四年、復置、屬㆓雉州㆒、七年州廢、縣省入㆓長城縣㆒、明成化二十三年、郡寺王瑺言、安吉地險遠、而孝豐・太平等九鄕爲ㇾ里五十餘、中有㆓漢縣廢城存㆒焉、請析置㆓一縣㆒、以閒㆓民之不逞者㆒、從ㇾ之、因㆓鄕名㆒以名ㇾ縣曰㆓孝豐㆒、正德二年、安吉升爲ㇾ州、遂以ㇾ縣屬焉、縣舊有㆓土城㆒、萬曆四年改築㆓石城㆒、周不ㇾ及㆓四里㆒、編戶五十四里。〔清史稿、地理志〕浙江、湖州府、縣七、孝豐。

【孝睦】217 カウボク 親孝行で親屬と仲のよいこと。〔唐書、裴向傳〕內外親屬百餘口、祿俸必均、世稱㆓其孝睦㆒。

【孝穆】218 カウボク ❶諡號。㋑後魏、高幹(12－45313‥129)の諡。㋺後魏、甄琛(7－21557‥32)の諡。㋩後魏、楊津(6－15112‥226)の諡。㋥後魏、盧同(8－23050‥139)の諡。㋭唐、楊嗣復(6－15112‥583)の諡。❷字號。㋑梁、羊鴉仁(9－28425‥184)の字。㋺陳、徐陵(4－10110‥311)の字。㋩清、薛熙(9－32123‥30′)の字。

〖孝穆皇太后〗219 カウボククワウタイゴウ 明、紀太后(8－27234‥105)の諡。

〖孝穆趙皇后〗220 カウボクテウクワウゴウ 南朝宋、趙后(10－37171‥162)の尊號。

【孝滿】221 hsiao^4 man^3 喪があける。

【孝明】222 カウメイ ㊀第一百二十一代の帝諡。〔言成卿記〕慶應三年正月六日、大行天皇御諡號、現任一同江勅問之旨、右大將被㆑示了、孝明、孝經曰、明王事㆑父孝、故事㆑天明、隆祐上、二月十六日、今日大行天皇御諡號、辰刻使㆑定㆓陣儀㆒云云、御諡號孝明天皇、云云、攝政於㆓鬼間㆒內覽。㊁晉、侯史光（**1**－**633**‥115）の字。

〖孝明后〗223 カウメイコウ 唐、憲宗の后、鄭后（**11**－**39647**‥135）の諡。

〖孝明帝〗224 カウメイテイ ㊀後漢、明帝。劉莊（**2**－**2224**‥295）を見よ。㊁北周、二代の世宗をいふ。蕭歸（**9**－**32012**‥68）を見よ。㊂後魏、八代の肅宗をいふ。元詡（**1**－**1340**‥149）を見よ。

〖孝明王皇后〗225 カウメイワウクワウゴウ 宋、王后（**7**－**20823**‥390）の（二十）の尊號。

【孝門】226 カウモン 孝行の譽れの高い家。孝行の一家。〔續齊諧記〕京兆田眞兄弟三人、共議㆑分㆑財、生貲皆平均、惟堂前一株紫荊樹、共議欲㆑破㆓三片㆒、明日就截㆑之、其樹既枯死、狀如㆓火然㆒、眞往見㆑之大驚、謂㆓諸弟㆒曰、樹本同㆑株、聞㆑將㆓分斫㆒、所㆓以顦顇㆒、是人不㆑如㆑木也、因悲不㆓自勝㆒、不㆓復解㆑樹、樹應㆑聲榮茂、兄弟相感、合㆓財寶㆒、遂爲㆓孝門㆒、眞仕至㆓大中大夫㆒。

【孝養】227 カウヤウ ㊀心をつくしてよく父母を養ふ。〔書、酒誥〕孝㆓養厥父母㆒。〔禮、文王世子〕慮㆑之以㆑大、愛㆑之以㆑敬、行㆑之以㆑禮、脩㆑之以㆓孝養㆒。〔漢書、文帝紀〕將何以佐㆓天下子孫㆒、孝㆓養其親㆒。〔後漢書、虞詡傳〕早孤、孝㆓養祖母㆒、縣擧㆓順孫㆒。㊁鹽鐵論の篇名。

【孝勇】228 カウユウ 明、陳文（合肥の人）（**11**－**41698**‥535）の諡。

【孝裕】229 カウユウ 三國蜀、孟光（**3**－**6960**‥64）の字。

【孝與】230 カウヨ 明、公鼐（**2**－**1452**‥535）の字。

【孝理】231 カウリ 孝行の道。孝道。理は道。〔日下勻水、皇子澄宮讀㆓孝經㆒文〕古者治㆑國安㆑民、必以㆓孝理㆒。

【孝履】232 hsiao^4 li^3 喪中の人に送る手紙に用ひる結尾の語。

【孝良】233 カウリヤウ 南朝宋、劉子房（**2**－**2224**‥975）の字。

【孝陵】235 カウリヤウ ㊀陵の名。今地、不明。㋑北周、武帝の陵。〔周書、武帝紀下〕己未、葬㆓於孝陵㆒。〔文獻通考、王禮考、山陵〕武帝崩、葬㆓孝陵㆒。〔注〕六月丁酉崩、七月己未葬。㋺明、太祖の陵。江蘇省南京市の東北。鍾山の南麓。明の時、孝陵衞を置いて之を守護す。〔明會典〕太祖高皇帝陵曰㆓孝陵㆒、在㆓南京鍾山之陽㆒、高皇后馬氏合葬。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、附見〕孝陵衞、在㆓京城東北鍾山南麓㆒、又濟川衞、亦在㆓京城外㆒、舊志云、國初於㆓京城內㆒設㆓錦衣等三十七衞㆒、於㆓江北㆒設㆓江淮等十衞㆒、而城外則設㆓孝陵・濟川二衞㆒、共四十九衞、環㆓衞京師㆒、總㆓領官軍三萬餘員名㆒。㋩清、世祖の陵。河北省遵化縣の昌瑞山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制一〕昭西陵・孝陵・孝東陵・景陵・裕陵・定陵・普祥峪定東陵・惠陵爲㆓東陵㆒、在㆓遵化州昌瑞山㆒、云云、世祖章皇帝陵爲㆓孝陵㆒。㊁梁、劉遵（**2**－**2224**‥378）の字。

【孝隆】234 カウリユウ 北齊、胡長仁（**9**－**29400**‥553）の字。

【孝戾】236 カウレイ 孝行と不孝。戾は、人情にもとること。〔韓非子、顯學〕孝戾侈儉、俱在㆓儒墨㆒。

【孝禮】237 カウレイ 字號。㊀後魏、高子儒（**12**－**45313**‥1184）の字。㊁宋、高子孺（**12**－**45313**‥1185）の字。

【孝靈】238 カウレイ 第七代の帝諡。〔帝謚考、孝靈〕周書、謚法、五宗安㆑之曰㆑孝、協時肇享曰㆑孝、秉㆑德不㆑回曰㆑孝、大慮行㆑節曰㆑孝、又死而志成曰㆑靈、亂而不㆑損曰㆑靈、極知㆓鬼事㆒曰㆑靈、不㆑勤成㆑名曰㆑靈、死見㆓鬼能㆒曰㆑靈、好祭㆓鬼神㆒曰㆑靈。

〖孝靈帝〗239 カウレイテイ 後漢の靈帝。劉宏（**2**－**2224**‥208）を見よ。

【孝列】240 カウレツ 南朝宋、劉子項（**2**－**2224**‥960）の字。

【孝烈】241 カウレツ ㊀孝行でみさをの高いこと。孝行の極めて厚いこと。孝節。〔後漢書、宋弘傳〕以㆓剛強孝烈㆒著㆑名。㊁晉、虞潭（**9**－**32723**‥116）の諡。

〖孝烈后〗242 カウレツコウ 明、世宗の后、方后（**5**－**13620**‥176）の諡。

【孝連】243 カウレン 三國吳、丁覽（**1**－**2**‥202）の字。

【孝廉】244 カウレン 漢の武帝の元光元年に始めた選擧科目の名。孝は親孝行、廉は正直潔白。郡守から管轄內の孝廉の者を中央政府に推擧させて官吏に採用した。以後、之に仍り、州からは秀才を擧げ、郡からは孝廉を擧げるを例とした。後漢の順帝の時、限年を設け、四十歲以上の者を以て選擧に應ずるを得させ、且、儒者は經學を、文吏は章奏を試みられることとした。隋・唐には廢せられ、宋の太祖の開寶四年に再び之を設け、明、之に仍り、清には孝廉方正といふ。孝廉方正（246）を見よ。〔漢書、武帝紀〕昭㆓先帝聖緒㆒、令㆔二千石擧㆓孝廉㆒、所㆘以化㆓元元㆒移㆑風易㆖㆑俗也。〔漢書、武帝紀〕元光元年冬十一月、初令㆓郡國㆒擧㆓孝廉各一人㆒。〔注〕師古曰、孝、謂㆘善事㆓父母㆒者㆖、廉、謂㆘清潔有㆓廉隅㆒者㆖。〔後漢書、百官志五〕擧㆓孝廉㆒。〔風俗通、十反〕每㆑擧㆓孝廉㆒、請㆓之上堂㆒。〔揚雄、解嘲〕行非㆓孝廉㆒、擧非㆓方正㆒。〔李密、陳情表〕前太守臣逵、察㆓臣孝廉㆒、後刺史臣榮、擧㆓臣秀才㆒。〔文獻通考、選擧考、考廉〕孝武元光元年冬、初令㆓郡國㆒擧㆓孝廉各一人㆒、云云、順帝卽位、令㆓郡國守㆒、相㆓視事㆒未㆑滿㆑歲者、一切得㆑擧㆓孝廉吏㆒、閏月丁亥、令㆓諸以㆑詔除爲㆑郎、年四十以上課試如㆓孝廉科㆒者、得㆑參㆓廉選㆒、歲擧㆓一人㆒。

〖孝廉方正〗246 カウレンハウセイ 清代、特別任用科目の一。擧薦の一。世宗の雍正元年、各省の總督巡撫に諭し、漢代の賢良方正及び孝廉の科に準據して孝廉方正の者を薦擧せしめることとし、各府・州縣の行誼篤實の者の名を具奏せしめて六品頂戴を給し、尋いで引見して五十五歲以上の者には知州、他の者には知縣の官を與へた。光緒初年まで行はれた。孝廉を見よ。〔清會典、禮部、貢擧〕孝廉方正考試、以㆓知縣㆒用者、在㆑部投㆓供候選㆒、照㆓候補候選人員例㆒、由㆓吏部㆒咨㆓送國子監㆒錄㆑科應㆑試。〔孫星衍、擧㆓孝廉方正㆒議〕嘉慶元年詔、擧㆓孝廉方正㆒、中外臺或視㆓孝廉方正㆒、爲㆔奇行非㆓今世所㆒㆑有。

【孝王】247 カウワウ ㊀先祖の祭をする時、王者自ら稱する語。〔禮、曲禮下〕踐阼臨㆓祭祀㆒、內事曰㆓孝王某㆒、外事曰㆓嗣王某㆒。〔疏〕內事、宗廟、是事㆑親、事㆑親宜㆑言㆑孝、故升㆓阼階㆒祭㆑廟、則祝辭云㆓孝王某㆒。㊁周、第八代の王。姬辟方（**3**－**6230**‥124）を見よ。

【作㆑孝】248 カウニオコル ㊀感じて皆孝行するやうになる。〔禮、坊記〕善則稱㆑親、過則稱㆑己、則民作㆑孝。㊁カウヲナス 喪に服する。〔北史、崔約傳〕子約、居㆑喪哀毀骨立、人云、崔九作㆑孝、風吹則倒。

【孝哀帝】249 カウアイテイ 漢の哀帝。劉欣（**2**－**2224**‥185）を見よ。

【孝隱士】250 カウインシ 梁の何點をいふ。親の喪に居て孝を盡したからいふ。〔海錄碎事、政事、憂制〕何點、字子哲、居㆓父母憂㆒、幾至㆑滅㆑性、世以爲㆓孝隱士㆒、謂㆓其弟徹㆒爲㆓小隱士㆒。

【孝燕堂】251 カウエンダウ 清、王聞遠（**7**－**20823**‥2086）の室名。

【孝鵝冢】252 カウガチヨウ 唐の沈朝宗が、母鵝の死を悲しんで死んだ雛鵝を葬つた墓。〔太平寰宇記〕唐天寶末、德清縣沈朝宗家、母鵝育㆑卵而腸出以死、其雛仰㆑天號切、銜㆓芻草母前㆒若㆓祭奠㆒、長呼數聲而死、沈埋㆑之、名曰㆓孝鵝冢㆒。

【孝懷帝】253 カウクワイテイ 晉の懷帝。司馬熾（**2**－**3257**‥265）を見よ。

【孝桓帝】254 カウクワンテイ 後漢の桓帝。劉志（**2**－**2224**‥319）を見よ。

【孝景帝】255 カウケイテイ ㊀漢の景帝。劉啓（**2**－**2224**‥229）を見よ。㊁明の景帝。朱祁鈺（**6**－**14424**‥707）を見よ。

【孝莊后】256 カウサウコウ 明の英宗の后、錢后（**11**－**40563**‥84）の諡。

【孝莊帝】257 カウサウテイ 後魏、九代の敬宗をいふ。元子攸（**1**－**1340**‥668）を見よ。

【孝質帝】258 カウシツテイ 後漢の質帝。劉纘（**2**－**2224**‥308）を見よ。

【孝殤帝】259 カウシヤウテイ 後漢の殤帝。劉隆（**2**－**2224**‥652）を見よ。

【孝成帝】260 カウセイテイ 漢の成帝。劉驁（**2**－**2224**‥115）を見よ。

【孝靜后】262 カウセイコウ 明、武宗の后。

【孝靜帝】263 カウセイテイ 東魏の王。元善見（**1**－**1340**‥697）を見よ。

【孝端后】264 カウタンコウ 明、神宗の后。王后（**7**－**20823**‥390）の（廿二）の諡。

【孝東陵】265 カウトウリヨウ　清の惠章皇后の陵の名。河北省遵化縣西北の昌瑞山にある。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制一〕昭西陵・孝陵・孝東陵・景陵・裕陵・定陵・普祥峪定東陵・惠陵爲二東陵一、在二遵化州昌瑞山一、云云、孝惠章皇后陵爲二孝東陵一。

【孝馮家】266 カウヒヨウカ　孝なる馮肅といふ意。馮肅は、人の名。〔鄴中記〕馮肅、字拱之、婺州人、盧二親墓一、有二靈芝白兎之瑞一、一時號曰二孝馮家一。

【孝閔帝】267 カウビンテイ　北周、第一代の王。又、孝愍に作る。宇文覺（3－7067··43）を見よ。

【孝愍帝】268 カウビンテイ　晉の愍帝。司馬鄴（2－3257··257）の諡。

【孝武帝】269 カウブテイ　❶漢の武帝。劉徹（2－2224··521）を見よ。❷東晉、九代の烈宗をいふ。司馬曜（2－3257··220）を見よ。❸南朝宋、四代の世祖をいふ。劉駿（2－2224··368）を見よ。❹後魏、十一代の王。拓跋修（5－11958··42）を見よ。

【孝平帝】270 カウヘイテイ　漢の平帝。劉衎（2－2224··127）を見よ。

【孝隱先生】271 カウインセンセイ　明、沈壽康（6－17189··538）の諡。

【孝慤先生】272 カウカクセンセイ　清、李明性（6－14459··1960）の私諡。

【孝莊先生】273 カウサウセンセイ　明、王稌（7－20823··847）の私諡。

【孝靖先生】274 カウセイセンセイ　諡號。❶清、高均儒（12－45313··1095）の私諡。❷清、倪會鼎（1－792··42）の諡。

【孝端先生】275 カウタンセンセイ　諡號。❶明、桑愈高（6－14772··171）の私諡。❷清、鍾錂（11－40672··131）の私諡。

【孝庾皇后】276 カウユクワウゴウ　晉、庾后（4－9398··17）の尊號。

【移レ孝作レ忠】277 カウヲウツシテチユウヲナス　親に對する孝情を君にうつして忠をつくす。〔孝經、廣揚名章〕君子之事レ親孝、故忠可レ移二於君一。

【孝者德之本】278 カウハトクノモト　孝行はあらゆる道德の根本である。〔孝經、開宗明義章〕夫孝者、德之本也、教之所二由生一也。

【孝衰二於妻子一】279 カウハサイシニオトロフ　人は妻子をもてば親に事へる孝心が弛む。戒めた語。〔說苑、敬愼〕官怠二於宦成一、病加二於小愈一、禍生二於懈惰一、孝衰二於妻子一、察二此四者一、愼レ終如レ始。

【孝成康靖帝】280 カウセイカウセイテイ　遼景宗（11－39137··46）の諡。

【孝百行之本】281 カウハヒヤクカウノモト　孝行は諸善行の根本である。孝文之本・孝者德之本に同じ。〔孝經、三才章、子曰夫孝天之經也地之義也民之行也、注〕孝、爲二百行之首、人之常德一。〔疏〕云三孝爲二百行之首、人之常德一者、鄭注論語云、孝爲二百行之本一、言二人之爲レ行莫レ先二於孝一。

【孝閔元皇后】282 カウビンゲンクワウゴウ　北周、元后（1－1340··205）の尊號。

【孝武衞皇后】283 カウブエイクワウゴウ　漢の衞子夫（10－34074··138）をいふ。

【孝武惠文帝】284 カウブケイブンテイ　遼太宗（11－39137··58）の諡。

【孝立則忠遂】285 カウタテバスナハチチユウトグ　孝と忠とは一致するから、孝道が立てば忠道も亦行はれる。忠孝一本の意。〔文中子、周公〕楊元感問レ孝、子曰、始二於事レ親、終二於立レ身、問レ忠、子曰、孝立則忠遂矣。

【孝武定王皇后】286 カウブテイワウクワウゴウ　晉、王后（7－20823··390）の❽の尊號。

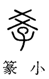
【孝武文李太后】287 カウブブンリタイコウ　晉、李后（6－14459··332）の尊號。

【孝武文穆王皇后】288 カウブブンボクワウクワウゴウ　南朝宋、王后（7－20823··390）の⓫の尊號。

【𡥈】6953

［一］カウ ケウ　〔集韻〕居肴切　肴

［二］カウ ケウ　〔集韻〕居效切　效


小篆

［一］［二］**ならふ**。一說に、學の古字といふ。〔說文〕𡥈、放也、从レ子爻聲。〔段注〕放、各本譌作レ效、今依二宋刻及集韻一正、放・仿、古通用。〔說文通訓定聲〕𡥈、效也、宋本、放也、从レ子爻聲、此字疑卽學之古文、戴氏侗六書故、謂二卽孝字一、非。

【孙】6954 ガイ　孩（3－6977）に同じ。〔集韻〕孩、或作レ孙。

【孝】6955 カウ ケウ　〔字彙補〕加孝切　效　❶**みちびく**。〔佩觿〕孝、導也。❷孝（3－6952）の譌字。〔韻學集成〕孝、韻會作レ孝。

【孖】6956 シヨ ジヨ　〔集韻〕象呂切　語　❶堪孖は、魚の名。〔山海經、東山經〕豺山、云云、其中多二堪孖之魚一。❷**はらご**。魚の子。〔集韻〕孖、一曰、魚子。❸孖（1－240）の譌字。〔正字通〕孖、俗譌作レ孖。

【孝】6957 カウ ケウ　〔川篇〕火挍切　效　**やしなふ**。〔川篇〕孝、養也。

【序】6958 クワイ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕序、音會。

【孞】6959 シン　義未詳。〔搜眞玉鏡〕孞、音信。

五畫

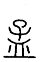
【孟】6960

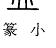
［一］マウ ミヤウ　〔集韻〕莫更切　敬　ㄇㄥˋ　mêng^4

［二］バウ マウ　〔集韻〕莫浪切　漾

［三］バウ マウ　〔集韻〕母朗切　養

［四］バン マン　〔莊子釋文〕音漫


小篆


古文

［一］❶**をさ。としかさ**。長男。長女。庶出の長子。〔說文〕孟、長也、从レ子皿聲。〔爾雅、釋詁〕孟、長也。〔方言、十二〕孟、姊也。〔廣雅、釋親〕孟、姊也。〔書、康誥〕孟侯。〔傳〕孟、長也。〔左氏、隱、元、惠公元妃孟子、疏〕孟・仲・叔・季、兄弟姊妹長幼之別字也、孟・伯、俱長也、禮緯云、庶長稱レ孟、然則適妻之子長者稱レ伯、妾子長二於妻子一、則稱爲レ孟、所三以別二適庶一也。〔白虎通、姓名〕嫡長稱レ伯、庶長稱レ孟。❷**子**。〔玉篇〕孟、子也。❸**はじめ**。〔廣雅、釋詁一〕孟、始也。〔禮、月令〕孟春之月。〔注〕孟、長也。〔楚辭、離騷〕攝提貞二于孟陬一兮。〔注〕孟、始也。❹**おほきい。たけだけしい**。猛（7－20498）に通ず。〔說文通訓定聲〕孟、叚借爲レ猛。〔管子、任法〕奇術技藝之人、莫三敢高言孟行以過二其情一。〔注〕孟、大也。❺**つとめる**。黽（12－48257）に通ず。〔說文通訓定聲〕孟、叚借爲レ黽。〔爾雅、釋詁〕孟、勉也。〔班固、幽通賦〕盍二孟晉以迨レ羣兮。〔注〕善曰、曹大家曰、孟、勉也。❻**草の名**。ちからぐさ。〔爾雅、釋草〕孟、狼尾。〔疏〕草似レ茅者、一名孟、一名狼尾。❼**孟軻**（20）**の略稱**。〔張衡、洛禊賦〕主希二孔孟一、賓慕二顏柳一。〔文天祥、衣帶中贊〕孔曰成レ仁、孟曰取レ義。❽**孟軻の著の孟子**

の略稱。〔朱熹、大學章句〕於レ今可レ見二古人爲一レ學次第一者、獨賴二此篇之存一、而論・孟次レ之。❾古は孑(3-6937)に作る。〔集韻〕孟、古作レ孑。❿姓。〔通志、氏族略、以レ次爲レ氏〕孟氏、姬姓、魯桓公子慶父之後也、又、衞有二公孟縶之後一、亦曰二孟氏一。[二]❶おろそか。孟浪(276)の❶を見よ。〔集韻〕孟、孟浪、不二精要一皃。❷或は盂(8-22947)に作る。〔集韻〕孟、或作レ盂。[三][四]とりとめがない。孟浪(276)の❶を見よ。〔集韻〕孟、孟浪、無二趣舍一之謂、向秀說。

[名乘] タケ。

[參考] 盂(8-22949)は別字。

【孟安】1 マウアン 唐、王景崇(7-20823‥1378)の字。

【孟闇】2 マウアン 明、李邦華(6-14459‥1845)の字。

【孟頤】3 マウイ 宋、謝夢生(10-35827‥368)の字。

【孟威】4 マウヰ ❶後魏、洛陽の人。字は能重。東宮齊帥羽林監を拜し、前後、遠蕃に使し、皆、旨に稱ふ。官は普泰中、大鴻臚卿・驃騎將軍・左光祿大夫。〔魏書、四十四〕・〔北史、五十〕。❷字號。㋑晉、周虓(2-3441‥58)の字。㋺清、董劍鍔(9-31433‥199)の字。

【孟偉】5 マウヰ 明、黃偉(12-47926‥22)の字。

【孟猷】6 マウイウ 宋の人。忠厚の孫。字は良甫。吳に居つて葉適に師事す。官は都官郎・刑部侍郎・婺州の知事。人と爲り己に嚴にして他に寬、時に學禁興るも、獨り禍患の外に超然。好んで詩を爲る。著に孟侍郎集がある。〔宋元學案、五十五〕。

【孟郁】7 マウイク 明、韓上桂(12-43159‥308)の字。

【孟逸】8 マウイツ 明、袁景休(10-34152‥185′)の字。

【孟英】9 マウエイ 清、王士雍(7-20823‥1527)の字。

【孟姚】10 マウエウ 戰國、趙の吳廣の女。舜の後。故に孟姚といふ。趙の武靈王に寵せられて惠后となる。〔史記、趙世家〕武靈王夢見二處女一、鼓レ琴而歌、詩曰、美人熒熒兮、顏若二苕之榮一、命乎命乎、曾無二我嬴一、異日王飲レ酒樂、數言レ所レ夢、想二見其狀一、吳廣聞レ之、因二夫人一而內二其女娃嬴一、孟姚也、孟姚甚有レ寵二于王一、是爲二惠后一。〔列女傳、孼嬖、趙靈吳女傳〕趙靈吳女者、號二孟姚一、吳廣之女、趙武靈王之后也。

【孟易】11 マウエキ 漢、孟喜の易學。孟氏易(112)を見よ。

【孟說】12 マウエツ 古の勇力の士。孟賁(258)に同じ。〔史記、秦紀〕武王有レ力好レ戲、力士任鄙・烏獲・孟說、皆至二太官一、王與二孟說一擧レ鼎、絕レ臏、八月、武王死、族二孟說一。

【孟淵】13 マウエン 字號。❶明、沈澄(6-17189‥295)の字。❷明、柳濟(6-14662‥106)の字。

【孟畹】14 マウエン 明、項蘭貞(12-43343‥89)の字。

【孟河】15 マウカ 河の名。江蘇省武進縣の西北。奔牛鎭の東南。西は運河に接し、北流して長江に入る。又、孟瀆ともいふ。唐の元和中、刺史孟簡が故瀆によつて開いたので、名づく。明の嘉靖の間、倭寇を防がんとて堡を築き、又、孟河堡・孟河營といふ。清時、都司を駐す。堡中、醫を業とするもの多く、清時の名醫費伯雄・馬文植は皆この出身である。孟瀆(225)を見よ。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、武進縣、孟瀆〕嘉靖三十二年、倭亂二孟瀆口一、僉爲二濱江津要一、因增二置孟河營一、設二官兵一戍守。

【孟夏】16 マウカ 夏のはじめ。陰曆四月の異名。〔禮、月令〕孟夏之月、日在レ畢。〔楚辭、九章、懷沙〕滔滔孟夏兮、草木莽莽。〔淮南子、時則訓〕孟夏之月、招搖指レ巳、昏翼中、旦婺女中。〔陶潛、飮酒詩〕孟夏草木長、遶レ屋樹扶疎。

【孟夏宴】17 マウカノエン 我が國の王朝時代、陰曆四月朔日に行はれた賜宴。孟夏旬。〔三代實錄、三十九〕元慶五年四月戊寅朔、停二孟夏之宴一、諒闇也。

【孟夏紀】18 マウカキ 呂氏春秋の篇名。孟夏・勸學・尊師・誣徒・用衆の五篇がある。

【孟夏旬】19 マウカノジユン 孟夏宴に同じ。〔公事根源、四月一日〕孟夏の旬。

【孟軻】20 マウカ 孟子の(106)の❷を見よ。

【孟軻養素】21 マウカヤウソ 蒙求の標題。孟子が其の質を養ひ、眞性を全くするといふ、卽ち浩然の氣を養ふことを說いた故事。〔蒙求、上、孟軻養素〕史記、孟軻、鄒人、受二業子思之門人一、道既通、游二事齊宣王・梁惠王一、皆不レ能レ用、以爲三迂遠而闊二於事情一、是時天下方務二合從連衡一、以二攻伐一爲レ賢、而孟軻乃述二唐虞三代之德一、是以所レ如者不レ合、退而與二萬章之徒一、序二詩書一、述二仲尼之意一、作二書七篇一、嘗曰、我善養二吾浩然之氣一。〔注〕養二其質一以全二眞性一、謂二之養一レ素。

【孟嘉】22 マウカ 晉、江夏の人。宗曾の孫。字は萬年。少くして才名があり、太尉庾亮が江州を領するや、招いて從事とす。後、桓溫の參軍となり、從事中郎に轉じ、長史に遷つて卒す。〔晉書、九十八〕。

【孟嘉落帽】23 マウカラクバウ 蒙求の標題。晉の孟嘉が宴席で、風に帽子を吹き落されたが、狼狽せず、却つて風流を發揮した故事。〔晉書、孟嘉傳〕嘉、字萬年、江夏鄳人、云云、後爲二征西桓溫參軍一、溫甚重レ之、九月九日、溫燕二龍山一、僚佐畢集、時佐吏並著二戎服一、有レ風、至吹二嘉帽一墮落、嘉不二之覺一、溫使二左右勿一レ言、欲レ觀二其擧止一、嘉良久如レ廁、溫令二取還一レ之、命二孫盛作一レ文嘲レ嘉、著二嘉坐處一、嘉還見、卽答レ之、其文甚美、四坐嗟嘆。

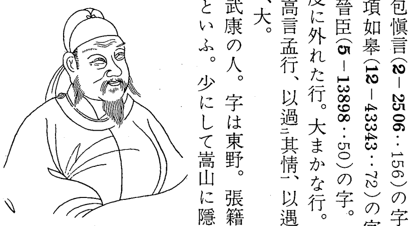
【孟開】24 マウカイ 清、包愼言(2-2506‥156)の字。

【孟凱】25 マウガイ 明、項如皋(12-43343‥72)の字。

【孟蓋】26 マウガイ 明、晉臣(5-13898‥50)の字。

【孟行】27 マウカウ 法度に外れた行。大まかな行。〔管子、任法〕莫下敢高言孟行、以過二其情一、以遇中其主上矣。〔纂詁〕孟、大。

【孟郊】28 マウカウ 唐、武康の人。字は東野。張籍、追諡して貞曜先生といふ。少にして嵩山に隱れ、年五十、貞元の進士に登り、韓愈と忘年の交をなす。東都留守鄭餘慶の參謀となる。其の詩、託興深微、結體古奧、唐人皆之を推賞す。著に孟東野集がある。〔唐書、一百七十六〕・〔舊唐書、一百六十〕。



孟東野（三才圖會）

【孟浩】29 マウカウ ❶宋、宜春の人。字は養直。乾道の進士。武寧縣の知事と爲つて名聲あり、湖州の知事に累遷したが、權に忤ひて罷めらる。後、復た起官して直祕閣に至る。人と爲り廉介、取與を妄りにせず、文章を爲るに法度あり。著に鼉技集がある。〔宋元學案、九十七〕。❷金、灤州の人。字は浩然。遼末の進士。天會中、左司員外郎に累遷し、黨に坐して海上に徙されたが、赦されて還る。大定中、侍御史となり、後、御史中丞・參知政事・尙書右丞を拜し、罷めて眞定尹に終る。〔金史、八十九〕。

【孟高】30 マウカウ 字號。❶宋、曾升(5-14299‥85)の字。❷清、張天柱(4-9812‥1410)の字。

【孟康】31 マウカウ 魏、安平廣宗の人。字は公休。官は散騎侍郎・弘農太守・典農校尉・勃海太守、後、中書監に轉ず。封は廣陵亭侯。著に漢書注がある。〔漢書、敍例〕。

【孟學】32 マウガク 明、陶成(11-41705‥108)の字。

【孟學齋】33 マウガクサイ 明、李慈銘(6-14459‥1361)の號。

【孟諤】34 マウガク 明、陳于廷(11-41698‥661)の字。

【孟欿】35 マウカン 明、陸卿榮(11-41708‥305)の字。

【孟嫺】36 マウカン 清、熊好(7-19294‥123)の字。

【孟韓】37 マウカン 孟子と韓愈。共に文章に長じてゐるから倂稱する。〔蘇洵、上二田樞密一書〕孟・韓之溫醇、遷・固之雄剛。

【孟簡】38 マウカン 唐の人。詵の曾孫。平昌の人。字は幾道。詩を善くす。進士宏詞に擧げられ、諫官となり、更に常州の刺吏に遷り、孟瀆河を浚つて田四千頃に漑ぐ。後、山南東道節度使となつたが、贓に坐して太子賓客に左遷せらる。〔唐書、一百六十〕・〔舊唐書、一百六十三〕。

【孟鑑】39 マウカン 明、博野の人。宣德の進士。官は戶部左侍郎。黃蕭養の亂に、精銳を出して奮擊し、蕭養を擒にして首を京師に傳ふ。景泰中、政を謝すること年餘、南京工部左侍郎に召さる。〔國朝列卿記、三十六〕。

【孟巖】40 マウガン 清、盛惇崇(8-23005‥227)の號。

【孟奇】41 マウキ 明、張萱(4-9812‥276)の字。

【孟起】42 マウキ 字號。❶三國蜀、馬超(12-44572‥449)の字。❷元、董搏霄(9-31433‥251)の字。❸明、陳道亨(11-41698‥1114)の字。

【孟規】43 マウキ 明、涂幾(6-17518‥3)の字。

【孟喜】44 マウキ 漢、蘭陵の人。孟卿の子。字は長卿。田王孫から易を受け、施・孟・梁丘の學を傳ふ。又、學を同郡の白光・翟牧に授け、此から翟孟白の學起る。孝廉に擧げられ、郎となり、曲臺署長を歷、又、丞相掾となる。〔前漢書、八十八〕。

【孟熙】45 マウキ 字號。㊀淸、李錫齡（6－14459‥1600）の字。㊁明、鐳績（11－40866‥4）の字。

【孟祺】46 マウキ 元、符離の人。字は德卿。諡は文襄。宋子貞等に薦められ、國史院編修官から從仕郎・應奉翰林文字に遷り、當時の典冊は多く其の手に出づ。伯顏に從つて南伐す。官は太中大夫・淛東海右道提刑按察使に終る。〔元史、一百六十〕。

【孟機】47 マウキ 明、陳智（11－41698‥464）の字。

【孟驥】48 マウキ 明、蕭縣の人。字は尙德。洪武の初、才能を以て擧げられ、官は禮部郎中から河南左參政に陞進し、四川左布政使に遷る。〔本朝分省人物攷、四十二〕。

【孟顗】49 マウギ 南朝宋の人。昶の弟。字は彥重。昶と共に風姿が美麗であつたので雙珠と稱せらる。東陽太守・侍中僕射・太子詹事となり、會稽太守に終る。〔晉書、九十六〕。

【孟曦】50 マウギ 南漢、倪曙（1－792‥17）の字。

【孟求】51 マウキウ 淸、金世德（11－40152‥1309）の字。

【孟姜】52 マウキヤウ 姜姓の長女。姜は春秋、齊の姓。後世、貴女の稱。〔詩、鄘風、桑中〕云誰之思、美孟姜矣。〔箋〕孟姜、列國之長女。〔集傳〕孟、長也、姜、齊女、言貴族也。〔陳奐傳疏〕孟姜・孟弋・孟庸、皆世族之妻。〔詩、鄭風、有女同車〕彼美孟姜、洵美且都。〔傳〕孟姜、齊之長女。

〘孟姜女〙53 マウキヤウヂヨ 民間傳承上の貞婦の名。戲曲・歌曲等に屢〻歌はれてゐる。齊の杞梁の妻であるといふ。秦の始皇の時、范杞梁といふ者、長城の構築に役せられ、その妻孟姜女、寒衣を作つて夫の許に至るや、杞梁は已に死し、孟姜女城下に哭するに、城崩れて杞梁の遺骸が現はれたといふ。殆んど春秋時代の杞梁妻の故事に附會させたものの如し。杞梁妻（6－14479‥22）の㊀を參看。すでに敦煌曲子詞中にその物語あれば、早くも唐・宋の間において、俗間に傳へられてゐたものと見られる。孟姜女に托した四季、ないし十二月の數へ歌も、中國各地に傳へられている。〔敦煌曲子詞集、擣練子〕孟姜女、杞梁妻、一去燕山更不歸、造得寒衣無人送、不免自家送征衣。〔納書楹曲譜、孟姜女〕秦因依、奴是齊國東人氏、祖貫居民姜氏、名姜女、我夫婿范杞梁、到此築城池、誰想他喪在邊城、念奴家迢迢千里送寒衣、送寒衣、實指望夫婦一同還鄉里、云云、我兒夫、我兒夫、築死在長城底、要尋屍首無蹤跡、嘆命低、小婦人到處尋屍、哭得我流紅淚、忽然間城倒地、驀見屍骸跡、這便是骨肉重逢、這便是骨肉重逢。〔北轅錄〕八月至雍丘縣、次過范郎廟、其地名孟莊、廟塑姜女、偶坐配享者、蒙恬將軍也。

【孟琚】54 マウキヨ 晉、江瓊（6－17140‥99）の字。

【孟舉】55 マウキヨ 字號。㊀明、詹希原（10－35458‥42）の字。㊁淸、吳之振（2－3365‥607）の字。

【孟極】56 マウキヨク 獸の名。豹に似てゐる。〔山海經、北山經〕石者之山有獸焉、其狀如豹、而文題白身、名曰孟極、是善伏、其鳴自呼。

【孟玉】57 マウギヨク 字號。㊀後漢、周璆（2－3441‥100）の字。㊁後漢、徐璆（4－10110‥81）の字。㊂明、褚鏞（10－34457‥35）の字。

【孟欽】58 マウキン 十六國前秦、洛陽の人。幻化の術をよくす。苻堅、其の衆を惑はすを惡み、長安に召し、苻融をして之を誅せしむ。〔晉書、九十五〕。

【孟勤】59 マウキン 明、蕭鎡（9－32012‥152）の字。

【孟瑾】60 マウキン 明、王質（泰和の人）（7－20823‥488）の字。

【孟化】61 マウクワ 明、左景（4－8720‥152）の字。

【孟華】62 マウクワ 唐の人。初、李寶臣に事ふ。王武俊、李維岳を斬るや、京師に至つて事を陳べ、擢んでられて、德宗の時、檢校兵部郎中に至る。王武俊が王を稱するに及んで、之に禮部侍郎を授けんとしたが就かず、血を嘔いて死す。〔唐書、一百九十三〕。

【孟槐】63 マウクワイ 獸の名。猪に似たもの。〔山海經、北山經〕譙明之山有獸焉、其狀如貆而赤豪、其音如榴榴、名曰孟槐、可以禦凶。

【孟光】64 マウクワウ ㊀後漢の人。梁鴻の妻。字は德耀（德曜）。肥えて醜く色が黑く、且、多力。年三十にして梁鴻に嫁し、裝飾甚だ盛であつたが、七日に至るも鴻は見向きもしない。光、乃ち髮を束ねて椎の如くし、布衣をまとひ、炊汲の具を執つてすすむ。鴻喜んで、これ眞に梁鴻の妻なりといふ。鴻と霸陵山中に耕耘織作して衣食に供す。後、會稽に至つて賃舂を事とす。孟光荊釵を見よ。〔後漢書、一百十三〕・〔蒙求、中、孟光荊釵〕㊁三國蜀、洛陽の人。字は孝裕。靈帝の末、講部吏となり、後、蜀に入る。博學にして、古に通じ、三史に精し。官は先主の時、議郎。後主の時、大司農。〔三國志、四十二〕。

〘孟光擧案〙65 マウクワウキヨアン 後漢の梁鴻の妻孟光が、夫に食事をすすめるときに、案を眉の高さに擧げて之を敬した故事。〔後漢書、逸民、梁鴻傳〕遂至吳、依大家皐伯通、居廡下、爲人賃舂、每歸、妻爲具食、不敢於鴻前仰見、擧案齊眉、伯通察而異之曰、彼傭能使其妻敬之如此、非凡人也、乃方舍之於家。

〘孟光荊釵〙66 マウクワウケイサイ 蒙求の標題。後漢の梁鴻の妻。孟光が、初、梁鴻に嫁いだ時、美服盛飾を喜ばれず、布衣を著、荊棘の釵をつけて、始めて喜ばれたといふ故事。〔蒙求、中、孟光荊釵〕後漢、梁鴻、字伯鸞、扶風平陵人、同縣孟氏有女、狀肥醜而黑、力擧石臼、擇對至年三十、父母問其故、曰、得賢如梁伯鸞者、鴻聞而聘之、及嫁以裝飾入門、七日而鴻不答、妻請罪、鴻曰、吾欲裘褐之人可與俱隱深山者、今乃衣綺縞傅粉墨、豈所願哉、妻曰、妾自有隱居之服、乃更爲椎髻、著布衣、操作而前、鴻大喜曰、眞梁鴻妻也、字之曰德曜、名孟光、乃共入霸陵山中。「字。

【孟宏】67 マウクワウ 明、許元傳（10－35298‥280）の字。

【孟皇】68 マウクワウ 後漢、梁鵠（6－14825‥88）の字。

【孟擴】69 マウクワク 字號。㊀明、鄧棨（11－39630‥42）の字。㊁明、黎弘業（12－47994‥101）の字。

【孟獲】70 マウクワク ㊀複姓。〔萬姓統譜〕孟獲、呂氏春秋、齊力人孟獲之後。〔元和姓纂〕魯桓公之子慶父之後。㊁三國蜀、南中の酋長。諸葛亮と戰ひ、七擒七縱せられて、遂に亮に服す。〔三國志、三十五〕。

【孟貫】71 マウクワン 五代周、建安の人。字は一之。少くして學を好み、廬山に遊ぶ。禮義文章節儉を以て當時の師範となる。〔全唐詩、二十八〕。

【孟渙】72 マウクワン 宋、澶淵の人。徙つて臨川に家す。字は濟父。性、孝友、陸九淵に師事す。淳熙の進士。徽州教授を授けられ、華容縣の知事に遷り、陽州の通判となり、荊門軍を知し、再び饒州の知事となり、廣州提擧に改められ、至る所、公淸方正を以て稱せらる。〔宋元學案、七十七〕。

【孟觀】73 マウクワン 晉、東光の人。字は叔時。天文を解す。惠帝の時、氐齊萬年を生擒して右將軍に拜せらる。趙王倫、簒位するや、其の安南將軍となり、義軍のために斬らる。〔晉書、六十〕。

【孟奎】74 マウケイ 金、遼陽の人。字は元秀。諡は莊肅。大定の進士。官は北京臨潢等路按察轉運使。貞祐の初、卒す。〔金史、一百四〕。

【孟啓】75 マウケイ 明、周啓（貴溪の人）（2－3441‥142）の㊁の字。

【孟卿】76 マウケイ ㊀漢、東海蘭陵の人。孟喜の父。禮・春秋に精しく、之を后蒼・疏廣に授く。世に傳ふる后氏禮・疏氏春秋は皆孟卿に出づ。〔前漢書、八十八〕。㊁字號。㋑明、商挺（2－3803‥180）の字。㋺明、徐柱（4－10110‥223）の字。

【孟棨】77 マウケイ 唐の人。字は初中。嘗て梧州に官す。著に本事詩がある。〔四庫提要、一百九十五〕。

【孟敬】78 マウケイ 字號。㊀明、馮貴（12－44579‥39）の字。㊁明、李栻（6－14459‥463）の字。㊂明、梁寅（6－14825‥12）の字。

〘孟敬子〙79 マウケイシ 春秋魯の仲孫捷（1－403‥304）をいふ。

【孟月】80 マウゲツ 四時の始の月。正月・四月・七月・十月をいふ。〔周禮、地官、黨正〕各掌其黨之政令教治、及四時之孟月吉日、則屬民而讀邦法以糾戒之。〔潘尼、皇太子社詩〕孟月涉初旬、吉日唯上酉。

〘孟月宴〙81 マウゲツノエン 孟夏の宴、或は孟冬の宴の

稱。孟夏宴(17)を見よ。〔三代實錄、四十〕元慶五年十月朔日、停二孟月之宴一、諒闇也。

【孟俠】82 マウケフ 清、吳樾(2－3365‥35)の字。

【孟業】83 マウゲフ 北齊、安國の人。字は敬業。官は魏の彭城王韶の典籤。齊に入つて東郡太守となる。〔北齊書、四十六〕・〔北史、八十六〕。

【孟建】84 マウケン 三國魏、汝南の人。字は公威。少くして諸葛亮と倶に游學し、涼州の刺史となり治績をあぐ。後、征東將軍。〔三國志、十五〕。

【孟堅】85 マウケン 字號。❶後漢、賈琮(10－36755‥92)の字。❷後漢、班固(7－20976‥18)の字。❸明、商大節(2－3803‥272)の字。

【孟賢】86 マウケン 明、陳寬(11－41698‥191)の字。

【孟縣】87 マウケン 縣名。明、置く。今、河南省沁陽縣の西南。黃河の北岸。周の武王が諸侯を會した孟津の地。春秋晉の河陽邑、唐の孟州の地。〔讀史方輿紀要、河南、懷慶府〕孟縣、周武王會二諸侯于孟津一、是也、亦曰二盟津一、左傳隱十一年、王以盟レ與レ鄭、後屬レ晉爲二河陽一、戰國屬レ魏爲二垣雍地一、漢爲二河陽縣一屬二河內郡一、高祖封二陳滑一爲二侯國一、云云、唐武德四年、置二盟州于此一、八年州廢、顯慶二年、改屬二河南府一、建中三年、河陽三城節度使治レ焉、會昌三年、置二孟州一、治二河陽縣一、云云、明朝改レ州爲レ縣。〔清史稿、地理志〕河南、懷慶府、縣八、孟。

【孟顯】88 マウケン 宋、安化華池の人。字は坦之、號は關東小孟(關中小孟)。畫に巧。

【孟元】89 マウゲン ❶宋、洺州の人。字は善長。王則を攻めて功があり、官は鄜延路副都總管。〔宋史、三百二十三〕。❷明、歐陽復(桂陽の人)(6－16185‥100)の字。

【孟公】90 マウコウ ❶船神の名。孟公孟姥を見よ。〔駢雅、釋天〕孟公、船神也。〔北戶錄、雞骨卜〕按、梁簡文帝船神記云、船神、名馮耳、五行書云、下レ船三拜、三呼二其名一、除二百忌一、又呼爲二孟公・孟姥一、云云、或云二冥父・冥姥一、因二玄冥一也。❷漢、陳遵(11－41698‥350)の字。

［孟公孟姥］91 マウコウマウバ 船の神。孟公は男神、孟姥は女神。一に冥公冥姥といふ。玄冥の冥は孟に通ずるからいふ。孟公を見よ。

【孟后】92 マウコウ 宋の人。元祐中、哲宗の皇后となり、後、廢せらる。天下之を寃とす。欽宗の時、汴京陷り、諸后が多く北に遷されたが、后獨り留まる。張邦昌、僭位して元祐皇后とし、高宗卽位して、隆祐太后と稱す。諡は昭慈。〔宋史、二百四十三〕。

【孟侯】93 マウコウ ❶諸侯のはたがしら。後漢の鄭玄は、天子の太子は十八歲で孟侯となるといふ。〔書、康誥〕王若曰、孟侯、朕其弟小子封。〔傳〕周公稱二成王命一、順二康叔之德一、命爲二孟侯一、孟、長也、五侯之長、謂二方伯一。〔疏〕鄭以、總告二諸侯一、依二略說一、以二太子十八一爲二孟侯一。〔孫星衍、今古文注疏〕依二史記一言、成王在二襁褓一、周公攝レ政、則非二年十八一、不レ得下稱二孟侯一、且迎中諸侯於郊上、故古文以爲レ稱二康叔一也。〔尙書大傳、略說〕天子太子年十八曰二孟侯一、孟侯者、於二四方諸侯來朝一、迎二於郊一者。❷字號。㋑後漢、張酺(4－9812‥673)の字。㋺明、畢懋康(7－21829‥117)の字。㋩清、周拱辰(2－3441‥605)の字。

【孟厚】94 マウコウ 宋、洛陽の人。字は敦夫。程頤に從學し、又王氏の學を爲す。刻苦勉勵、一室に獨處し、糞穢治めず。頤の葬に、門人、黨禍を畏れて敢て至るものが無かつたが、獨り、厚は尹焞・張繹・范棫・邵溥と倶に之を送つたので、時人、高義孟公といふ。〔宋元學案、三十〕。

【孟珙】95 マウコウ 宋の人。宗政の子。字は璞玉。諡は忠襄。自號は無菴居士(無塵居士)。端平中、元將と金を攻めて之を滅す。寧武軍節度使、漢東公に封ぜられ、致仕して江陵府治に終り、太師を贈らる。易・佛學に通じ、著に警心易贊がある。〔宋史、四百十二〕。

【孟鵠】96 マウコク 後唐、魏州の人。莊宗の初、度支孔目官となり、明宗の時、客省副使樞密承旨に擢んでられ、後、三司の判となり、許州節度使に終る。〔舊五代史、六十九〕。

【孟穀】97 マウコク 清、王戩(7－20823‥698)の字。

【孟轂】98 マウコク 清、王戩(7－20823‥698)の字。

【孟艮】99 マウコン 府名。明、置く。古の蠻地。孟揹といひ、又、怕詔といひ、又、景東・康東ともいふ。古から中國に通ぜず、明の永樂の時、始めて歸附す。清、雲南省を平げて羈縻の地とし、後、緬甸に滅さる。今、雲南省の南邊外、孟連土司の南に當る。〔清一統志〕孟艮土府、東界二車里一、西界二木邦一、南界二八百大甸一、北界二孟璉一、舊名二孟揹一、又號二怕詔一、明初置レ府、土官刁氏世襲、後爲二木邦所一レ併、嘉靖閒附二於緬一、乾隆時、設二土司指揮使一駐レ此。

【孟載】100 マウサイ 明、楊基(6－15112‥72)の字。

【孟莊】101 マウサウ 清、陸恭(11－41708‥63)の號。

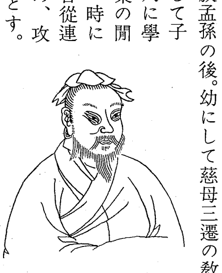
［孟莊子］102 マウサウシ 春秋魯、仲孫速(1－403‥305)をいふ。

【孟藻】103 マウサウ 明、劉璉(2－2224‥661)の字。

【孟山】104 マウサン 南齊、杜栖(6－14477‥169)の字。

［孟山人］105 マウサンジン 唐、孟浩然(294)をいふ。

【孟子】106 マウシ ❶子姓の長女。㋑魯の惠公の妃をいふ。〔左氏、隱、元〕惠公元妃孟子。〔注〕子、宋姓。〔疏〕契姓子、宋是殷後、故子爲二宋姓一、婦人以レ字配レ姓、故稱二孟子一。㋺齊の靈公の夫人、聲姬。又、聲孟子といふ。〔左氏、成、十七〕齊慶克通二于聲孟子一、與二婦人一蒙レ衣、乘レ輦而入二于閎一、云云、孟子訴レ之、曰、高鮑將三不レ納レ君而立二公子角一、國子知レ之。㋩魯の昭公の妃。吳の女。又、吳孟子といふ。〔左氏、哀、十二〕夏五月、昭夫人孟子卒、昭公娶二于吳一、故不レ書レ姓。〔疏〕論語謂二之吳孟子一。〔論語、述而〕君娶二於吳一、爲二同姓一、謂二之吳孟子一。❷長子。總領。孟仲叔季(347)を見よ。〔稱謂錄、長子、孟子〕白虎通姓名、庶長稱レ孟、魯大夫孟氏、是也、郞中鄭固碑、君大男孟子、有二揚烏之才一、又銘詞嗟嗟、孟子苗而不レ毓。❸戰國、鄒の人。名は軻。字は子輿、又、子居、又は子車。魯の公族孟孫の後。幼にして慈母三遷の教を受け、長じて子思の門人に學び、齊梁の閒に遊ぶ。時に天下、合從連衡に務め、攻伐を事とす。軻、乃ち、唐虞三代の德を述べて楊墨縱橫の言を防ぎ、仁義を以て其の君に說くも用ひられず。因つて仕宦の念を絕ち、退いて弟子公孫丑・萬章の徒と難論し詩書を序し、仲尼の意を述べて孟子七篇を作る。宋の元豐中、鄒國公に封ぜられて孔子の廟庭に配享せられ、元の至順中、更に鄒國亞聖公に加封せらる。孟子生卒(108)を見よ。〔趙岐、孟子題辭〕孟、姓也、子者、男子之通稱也。〔史記、七十四〕。❹マウシ 書名。㋑十四卷。戰國魯、孟軻撰。史記に據れば孟軻は業を子思の門人に受け、後、梁・齊・宋・滕の諸國に遊說したが、皆其の志を得ず、退いて萬章の徒と詩書を序し、仲尼の意を述べて孟子七篇を作るといひ、後漢の趙岐、宋の朱子等も皆孟軻の自著とした。然るに唐の林愼思が續孟子二卷を作つて、孟子七篇は軻の自著でなく、弟子達が共に其の言を記したものとし、唐の韓愈も亦、軻の歿後、其の徒萬章・公孫丑等が師言を輯錄したものといひ、晁說之及び文獻通考等にも同樣の說があり、終に定說とせらるるに至つた。孟子の書が凡て七篇であることは史記のいふ通りであるが、漢書藝文志及び風俗通には孟子十一篇とあり、趙岐の孟子題辭には、七篇の外に外書四篇、性善辯・文說・孝經・爲政(或は性善・辯文・說孝經・爲政)があるが、恐らくは後世の假託なるべしといふ。漢書の十一篇とは、恐らく七篇と外書四篇とを合せたものであらう。趙岐が獨り七篇だけに注をして外書を取らなかつた爲に、遂に佚して傳はらず。現存の外書なるものは、もとより後人の僞作に過ぎない。孟子の說の主なるものは、王道の說・仁義の說・性善の說・四端の說等であつて、楊墨異端を闢いたことも大なる功績である。中には一夫の紂を誅すといひ、君を輕しと爲すといひ、言の過激に亘るところもあつて非難せられたが、浩然の氣を說き大丈夫を說くなど世道人心に裨補する所は頗る多い。孟子は初、諸子の中に列してゐた爲、秦火の厄を免れた。漢の文帝の時、學官に立てて博士を置かれたが、武帝の時廢せられ、爾來、尊崇を受けず、時に盛衰があつた。卽ち、司馬遷が之を尊んで孟荀列傳を作り、揚雄・韓愈が推稱し、或は趙岐が注解を著す等、二三尊



孟軻（孟子❸）
（三才圖會）

崇したものもなくはなかつたが、孟子を非議するものも頗る多く、戰國の末、荀子の非十二子篇を初として、王充の論衡の刺孟篇、司馬光の疑孟、李覯の非孟、晁說之の詆孟、黃次伋の評孟、馮休の刪孟、鄭公常の藝圃折衷、蘇軾の論語說等は、何れも孟子を駁難した。宋に及んで、眞宗の世、孫奭に命じて孟子を校せしめ、新たに孟子音義を刊行して朝廷の大臣に各〻一部を賜はつた。茲に至つて陳振孫の直齋書錄解題は從來子部に列した孟子を始めて經部に列した。かくて余允文には尊孟辨の著があり、更に二程子が、大學・中庸・論語に配して四書といひ、朱子が之に集注を加へて以來、永く經書として尊重せられ、明の王陽明の如きは最も之を尊敬した。我が國には夙に傳來し、日本國見在書目錄に、趙岐及び陸善經の注本を載錄してゐる。但、其の湯武の放伐を是認するが如き論が、我が國體と相容れぬ嫌がある爲に、孟子の書を舶載する船は必ず海上で遭難するといふ傳說が我が國の隨筆類・雨月物語、又は明人の五雜組等に散見してゐる。北條氏の末年、朱子學の傳來後、漸く推重せられ、釋虎關は孔道を尊ぶ者、孟軻に若くはなしといひ、義堂は將軍義滿の爲に之を進講した。畢竟朱子學の普及と共に孟子も次第に其の流布を弘めるに至つたのである。其の目は、梁惠王・公孫丑・滕文公・離婁・萬章・告子・盡心の七篇から成り、篇名は皆各篇首の文字を取つて名づく。趙岐が注を作るに及んで各篇を分つて上下とし、定めて十四卷とした。〔四庫提要、經、四書類〕。㋺漢書藝文志、兵書略に孟子一篇があり、儒家の孟子と異なる。清の沈欽韓は五行家に猛子閭昭があるから、これは猛子であらうといふ。〔漢書藝文志〕兵書略、孟子一篇。〔講疏〕亡、儒家孟子十一篇、蓋非二同書一、或說、孟・猛古字通、沈欽韓曰、下五行家有二猛子閭昭一、疑此是猛子。

〘孟子㋑の參考書〙【孟子注】十四卷後漢、趙岐撰。漢儒の注解は多く訓詁名物を明かにしたが、此の注は文句を箋釋して後世の口義に似る。もと終に章指を附したが、汲古閣本は皆之を脫した。〔四庫提要、經、四書類〕。【孟子章指】二卷・篇敍一卷後漢、趙岐撰。もと孟子注に附したものであるが、汲古閣本は皆之を脫した。清の焦循の孟子正義には章指を附す。〔玉函山房輯佚書、第六十一冊〕。【孟子正義】十四卷後漢、趙岐注、疏は孫奭であるといふが、朱子は之を否定す。疏文は淺陋で、善本ではない。〔四庫提要、經、四書類〕。【孟子音義】二卷宋、孫奭撰といふ。陸德明に孟子釋文がないので、敕を奉じて補ふ。經文の語字を摘出し、音と義とを解說す。〔四庫提要、經、四書類〕。【孟子年譜】一卷宋、蘇轍撰。〔四庫提要、經、四書類〕。【尊孟辨】三卷・續辨二卷・別錄一卷宋、余允文撰。〔四庫提要、經、四書類〕。【孟子集注】七卷宋、朱熹撰。體例、論語集注に同じく、濂洛諸家の說を采つて注す。最も廣く行はる。〔四庫提要、經、四書類〕。【孟子精義】十四卷宋、朱熹撰。孟子集注の原本。【孟子要略】五卷宋、朱熹撰。孟子集注完成の後、其の重要章を拔出して配列を改め、孟子の全精神を把握し易からしむ。當時の學者激賞措かず、孟子の要領を說き盡して餘蘊なしといふ。其の後散佚して傳はらなかつたのを、清の劉傳瑩が宋の金履祥の孟子集注考證中から復元出來ることを發見したが、其の歿後、友人曾國藩が遺志を繼いで之を排定した。〔曾文正公全集、第六十七・六十八冊〕。【孟子說解】十四卷明、郝敬撰。〔四庫提要、經、四書類存目〕。【孟子編年】四卷清、狄子奇撰。孟子の世系を研究したもの。周史を以て年を編し、七國諸侯の年を其の下に繫け、七國の史實に散見する孟子の事蹟を集む。【孟子正義】三十卷清、焦循撰。考證學上から字句を考證し、更に理論に及んだ善本。〔皇清經解、第二百七十六―二百八十四冊〕。【孟子校勘記】十六卷清、阮元撰。孟子注疏の文字の異同を校勘したもの。〔皇清經解、第二百二十一―二百二十四冊〕。【孟子字義疏證】三卷清、戴震撰。陳北溪の性理字義の體裁に從ひ、孟子の文に就いて所見を述べて、宋儒の解釋の誤を辨ず。孟子の字義を說明し、理を說き、天道をいひ、性を說き、才・道・仁義・禮智・誠・權の諸項に就いて確信を以て之を說き、孟子の性善に歸結を求めた。〔孔戴遺書、第五冊〕。【孟子時事略】一卷清、任兆麟撰。孟子の年譜で、每年時事を擧げ對照に便す。〔經學叢書、第六冊〕。【孟子生卒年月日考】一卷清、閻若璩撰。孟子の生卒の年月日、齊梁諸國に往來した年月、及び七篇の作者等について精細に考據す。皇清經解に收められ、又、檀几叢書に孟子考として收められてゐる。〔四庫提要、史、傳記類存目〕。【孟子四考】四卷清、周廣業撰。孟子逸文考・孟子異本考・孟子古注考・孟子出處時地考の四章に分つ。〔皇清經解續編、第四十九・五十冊〕。【孟子古義】七卷伊藤維禎撰。仁齋は儒典中、論孟二書を最上至極の書とし、論語は教をいひて道其の中に在り、孟子は道をいひて教其の中に在り、前者は本經、後者は其の注疏といふ。〔四書注釋全書、第九冊〕。【孟子識】一卷荻生雙松撰。〔甘雨亭叢書、第二十五冊〕。【孟子欄外書】二卷佐藤坦撰。〔四書注釋全書、第九冊〕。【孟子精蘊】七卷大田元貞撰。【孟子考文】一卷猪飼彥博撰。〔四書注釋全書、第九冊〕。【孟子定本】十四卷安井衡撰。趙注本を底本とし、朱熹集注、焦循正義・伊藤仁齋の孟子古義等を取り、參するに自家の見を以てす。【孟子論文】五冊竹添光鴻撰。本文は朱子集注本により、孟子の文章を評論し、併せて語句の考證をなす。

〔孟子外書〕107 マウシグワイショ　現在孟子七篇の外に存したといふ書。漢書藝文志に孟子十一卷とあり、七篇の外に四篇あり、宋の劉攽、注す。四篇の目は卽ち、性善辯・文說・孝經・爲政、一說に性善・辯文・說孝經・爲政といふ。趙岐は之を僞託として刪つた。〔趙岐、孟子題辭〕又有二外書四篇一、性善・辯文・說孝經・爲政、其文不レ能二弘深一、不下與二內篇一相似上、似レ非二孟子本眞一、後世依放而託レ之者也。〔日知錄、經義、孟子外篇〕史記五被對二淮南王安一引二孟子一曰、紂貴爲二天子一、死曾不レ若二匹夫一、揚子法言終身篇、引二孟子一曰、夫有レ意而不レ至者有矣、夫有二無レ意而至者一也、桓寬鹽鐵論引二孟子一曰、吾於二河廣一知二德之至一也、又引二孟子一曰、堯舜之道、非レ遠レ人也、人不レ思レ之爾、周禮大行人注引二孟子一曰、諸侯有レ王、宋鮑照河清頌引二孟子一曰、千載一聖、猶二旦暮一也、顏氏家訓引二孟子一曰、圖レ影失レ形、梁書處士傳序引二孟子一曰、今人之於二爵祿一、得レ之若二其生一、失レ之若二其死一、廣韻圭字下注曰、孟子六十四黍爲二一圭一、十圭爲二一合一、以下集注中程子所レ引荀子孟子三見二齊王一而不上言レ事、門人疑レ之、孟子曰、我先攻二其邪心一、今孟子書、皆無二其文一、豈所謂外篇者邪、詩維天之命傳引二孟仲子一曰、大哉天命之無レ極、而美二周之禮一也、閟宮傳引二孟仲子一曰、是禖宮也、正義引趙岐云、孟仲子、孟子從昆弟、習二于孟子一者也、譜云、孟仲子者、子思弟子、蓋與二孟軻一共事二子思一、後學二於孟軻一、著二書論一、詩毛氏取以爲レ說、則又有二孟仲之書一矣。〔注〕漢書藝文志、孟子十一篇、風俗通曰、孟子作二書中外十一篇一、陸璣詩草木疏云、子夏傳二魯人申公一、申公傳二魏人李克一、李克傳二魯人孟仲子一、孟仲子傳二趙人孫卿一、孫卿傳二魯人大毛公一、大毛公傳二小毛公一、孫氏曰、近刻二孟子外書四書一、曰性善辨、曰文說、曰孝經、曰爲正、掇二拾子書中所レ引孟子逸篇一、以成二文詞一、旨淺陋、卽其篇題之謬、可二直斷爲レ僞也、王充論文云、孟作二性善之篇一、以爲二人性一皆善二是名一、性善非二性善辨一也、且孟子道二性善惡當レ辨、性善又何辨乎、孝經一書、孔子以授二曾子一、豈有下孟子著レ書、亦以二孝經一名中篇之理上、蓋孟子外書、趙邠卿已幾二其不レ能二閎深一、以三後人所二依託一、今因二其僞一而爲レ之、則益淺陋矣。〔經義考、孟子〕劉昌詩曰、孟子題辭外、又有二書四篇一、性善辨文說孝經爲正、予鄉新喩謝氏、多藏二古書一、有二性善辨一帙一、則知下與二文說孝經爲正一是謂中四篇上。〔焦循、孟子正義〕正義曰、漢書藝文志、孟子十一篇、風俗通窮通篇云、作二書中外十一篇一、是七篇爲レ中、餘四篇爲レ外、王應麟困學紀聞云、漢七略所レ錄、若二齊論之問王知道、孟子之外書四篇一、今皆無レ傳、孫奕履齋示兒篇云、昔嘗聞二前輩有一レ云、親見三館閣中有二孟子外書四篇一、曰性善辯、曰文說、曰孝經、曰爲政、劉昌詩蘆浦筆記云、予鄉新喩謝氏多藏二古書一、有二性善辯一帙一、翟氏灝考異云、趙氏不レ爲二外書章句一、嗣後

傳二孟子一者、悉以二章句一爲レ本、外書悉以二廢閣一致レ亡、南宋云二趙氏時一千有餘歲、不レ應二館閣中能完然如レ故也、孫氏僅得二耳聞一當日在二館閣一諸公、未レ有下以目二擊詳三言之一者上、道聽塗說、必不レ足レ爲二按據一、新喩謝氏所レ藏一帙、劉氏似レ及レ見レ之、隋書經籍志錄有二梁綦毋邃孟子注九卷一、他家注倶七卷、獨綦毋氏多出二二卷一、豈所謂四篇者、在二梁時一嘗得二其二一、至レ宋乃僅存二劉氏所レ見之一篇一邪、但綦毋氏書、李善注文選猶引二用之一、似三流二行於唐世一、而其有二無外書一、唐人絕無二片言論及一、則又難三以質二言一、且外書之篇目、自宜下以二性善一爲レ一、辯文爲レ一、說孝經爲上レ一、劉氏以二所レ見之性善辯一、遂以二辯字一上屬、而謂二文說一篇、孝經一篇一、據二論衡本性篇一、但云三孟子作二性善之篇一、不レ綴二辯字一、疑新喩謝氏所レ藏性善辯、又屬二後人依放而作一、非二外書本眞一也、周氏廣業孟子逸文考云、史記十二諸侯表云、荀卿孟子韓非之徒、各往往捃二摭春秋之文一、以著レ書不レ可レ勝レ記也、今考二孟子內書一、言二春秋一者、止下迹熄詩亡、及知レ我罪レ我、無二義戰一三章上、亦未三嘗捃二摭其文一、至レ若下列女傳擁楹之歎、韓詩外傳輟レ織赧レ豚、及不三敢去レ婦二條中所レ載孟子之言上、皆瑣屑不レ足レ述、明季姚士粦等所レ傳孟子外書四篇云、是熙時子注、友人吳騫板行、丁杰爲二之條駁一、甚詳顯、屬二僞托一、概無レ取焉、按、熙時子相傳以爲二劉貢父一、此書前有二馬廷鸞敍一、夫外書四篇、趙氏斥爲二依托一、其亡已久、孫奕所レ聞、新喩所レ藏、已難二信據一、況此又贋之尤者乎、顧氏炎武日知錄云、史記・法言・鹽鐵論等所レ引孟子、今孟子書無二其文一、豈倶所謂外篇者乎、是則然矣。

【孟子生卒】108（マウシノセイソツ） 孟子の生卒及び其の遊歷順序に就いては古來異說多く、陳士元・魏源・何秋濤等は周安王丙申十七年(前三八五)生、赧王壬申二十六年(前二八九)卒、年九十七といひ、任兆麟・曹之升・林春溥・狄子奇・孟昭銓・張承燮等は周烈王己酉四年(前三七二)生、赧王壬申二十六年(前二八九)卒といひ、二說、十三年の差があるが、卒年は皆同じ。其の遊歷の順序は多少の異說はあるが、宋・鄒・滕・梁・鄒・任・齊・魯・齊・宋・薛であり、鄒から出て鄒に歸老した。孟子が始めて梁の惠王に見えたのは其の後元十四年(前三二一)五十一歲の時で、始めて齊の宣王に見えたのは宣王三年(前三一八)五十五歲の時、臣たるを辭して齊を去つたのは宣王九年(前三一四)六十一歲の時と思はれる。

【孟子生卒表】

年代	孟子 所在	孟子 年齡	事實
前三七二	鄒		生二於鄒一
前三二七頃	宋	四六	滕文公世子之時會見
前三二四	鄒	四九	滕文公薨、文公卽位
前三二三	滕	五〇	文公時代、齊城レ薛
前三二二	梁	五一	見二梁惠王一、後元十四年
前三一九		五四	見二梁襄王一、後元十七年
前三一九	鄒	五四	季任以レ幣交
	任		
	平陸		儲子以レ幣交
前三一八	齊	五五	見二齊宣王一、三年
前三一六	魯	五八	欲レ會二於魯平公一而不レ果
	齊		爲二齊卿一出而弔二於滕一
前三一五		五九	齊人伐レ燕、宣王七年
前三一二		六一	燕人畔、宣王九年
	宋		於レ宋餽二七十鎰一而受
	薛		於レ薛餽二五十鎰一而受
	鄒		歸老
前二八九		八四	赧王二十六年卒

《參考書》 孟子(106)の參考書を見よ。

【孟子題辭】109（マウシダイジ） 後漢の趙岐が孟子に就いて略說した文。卽ち趙岐の孟子注の序文。〔趙岐、孟子題辭、音義〕張鎰云、卽序也、趙注尙レ異、故不レ謂二之序一、而謂二之題辭一也。

【孟子遊歷異說表】

	孟子遊歷順序
閻若璩	梁・齊・鄒・宋・魯・滕・鄒
崔述	梁・齊・宋・鄒・滕・魯
張宗泰	宋・鄒・齊・滕・梁・齊・魯・齊・宋・薛
周廣業	鄒。任・齊・鄒・宋・薛・滕・梁・魯
曹之升	齊・宋・薛・鄒・滕・梁・魯・齊・宋・魯
臧庸	梁・齊・鄒・滕・魯
潘眉	梁・鄒・任・平陸・齊・魯・齊・宋・薛・鄒・滕・鄒
林春溥	梁・鄒・任・平陸・齊・魯・齊・休・宋・薛・鄒
狄子奇	鄒(穆)・任・平陸・齊・宋・鄒・滕・鄒・梁・齊・魯・齊・宋・薛・魯・鄒
新城新藏	鄒・宋・鄒・滕・梁・任・齊・魯・齊・宋・薛・鄒

【孟子十七弟子】110（マウシジフシチテイシ） 孟子の十七人の弟子。公孫丑・孟仲子・公都子・陳臻・高子・徐辟・樂正子・咸丘蒙・孟季子・陳代・彭更・萬章・屋廬子・告子・桃應・充虞・周霄。〔羣書拾唾〕孟子十七弟子、曰、公孫丑・孟仲子・公都子・陳臻・高子・徐辟・樂正子・咸丘蒙・孟季子・陳代・彭更・萬章・屋廬子・告子・桃應・充虞・周霄。

【孟氏】111（マウシ） 十六國北涼、武陵の人。沮渠蒙遜が玄始中、初めて立てて王后とす。勇力があり、蒙遜が新臺に寢てゐた時、閹人王懷祖が之を擊ち、其の左足を傷つけたが、孟氏は擒へて之を斬り、其の三族を夷す。子、茂虔が魏のために捕へられた時、平城に入り、幾もなくして卒す。〔晉書、一百二十九〕。

【孟氏易】112（マウシエキ） 漢の孟喜の傳へた易學。孟易。〔漢書、藝文志〕孟氏京房十一篇、災異孟氏京房六十六篇。〔後漢書、袁京傳〕安子京、習二孟氏易一、作二難記三十萬言一。

【孟思】113（マウシ） ㊀明、濬の人。字は叔正。嘉靖の擧人。南陽通判に遷り、未だ赴かずして卒す。著に龍川集がある。〔明詩綜、四十八〕。㊁元、吳叡(2-3365‥22)の字。

【孟詞】114（マウシ） 淸、張騰蛟(4-9812‥1414)の字。

【孟時】115（マウジ） 明、柯潛(6-14658‥15)の字。

【孟慈】116（マウジ） 字號。㊀淸、洪飴孫(6-17402‥218)の字。㊁淸、汪喜孫(6-17154‥196)の字。

【孟州】117（マウシウ） 州名。㊀唐、盟州を置き、河陽三城節度を置いて治とす。古の孟津の地。宋、孟州河陽軍を置き、濟源郡と改む。治は河陽、今の河南省孟縣の南。金、大定中、河水に害せられたので、北方に今の城を築いて治を徙し、故城を下孟州、新城を上孟州といふ、今の孟縣の治。孟縣(87)を見よ。㊁唐、置く。今の朝鮮京城の西。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮、豐德城〕孟州城、在二王京一、西志去、唐置二孟州一、領二三登一縣、椒島・椴島・寧德三鎭一、今州廢、縣存。

【孟秀】118（マウシウ） 明、孫瑜(3-6987‥284)の字。

【孟周】119（マウシウ） 明、方直(5-13620‥356)の字。

【孟秋】120（マウシウ） ㊀秋のはじめ。陰曆七月の異名。〔淮南子、時則訓〕孟秋之月、日在レ翼。〔禮、月令〕孟秋之月、招搖指レ申、昏斗中、旦畢中。㊁明、茌平の人。字は子成。號は我疆。邑人張後覺に從つて學ぶ。隆慶の進士。山海關を督視し、流言の罪を以て貶せらる。後、官は尙寶少卿。天啓中、淸憲と追諡す。著に道脈說・大道吟・氣志吟がある。〔明史、二百八十三〕。

【孟秋紀】121（マウシウキ） 呂氏春秋の篇名。孟秋・蕩兵・振亂・禁塞・懷寵の五篇がある。

【孟質】122（マウシツ） 明、鄺埜(11-39711‥3)の字。

【孟尙】123（マウシヤウ） 淸、丁泰運(1-2‥284)の字。

【孟庠】124（マウシヤウ） 明、臧性(9-30083‥38)の字。

【孟將】125（マウシヤウ） 唐、張東之(4-9812‥887)の字。

【孟章】126（マウシヤウ） 字號。㊀宋、狄栗(7-20290‥27)の字。㊁元、朱倬(6-14424‥444)の字。

【孟嘗】127（マウシヤウ） ㊀後漢、上虞の人。字は伯周。茂才に擧げられ、合浦太守となり、政績擧がる。後、窮澤に隱居して自ら耕傭す。〔後漢書、一百六〕。㊁後漢、薛包(9-32123‥116)の字。

【孟嘗鑊】128（マウシヤウノクワク） 孟嘗君の宅にあつたといふ鑊。〔封氏見聞記、孟嘗鑊〕靑州南城佛寺中、有二

古鐵鑊㆓口㆒、大者四十石、小者三十石、制作精巧、又有㆓一釜㆒、可㆑受㆓七八石㆒、似㆑瓮而有㆑耳、相傳云、是孟嘗君家宅、鑊・釜、皆是孟嘗君之器也。

【孟嘗君】129マウシヤウクン　戰國齊、田文の號。田文(7－21723‥275)を見よ。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君、名文、姓田氏。

〔孟嘗尊〕130マウシヤウノソン　孟嘗君のやうに尊貴なこと。又、その人。〔陸厥、奉㆓答內兄希叔㆒詩〕出㆓入平津邸㆒、一見㆓孟嘗尊㆒。

〔孟嘗還珠〕131マウシヤウクワンシユ　蒙求の標題。後漢の孟嘗が合浦の太守となつたが、合浦は穀實を產せず、海に珠寶を出す。前任の宰守が多く貪穢で人を詭り採求甚だしかつたので、珠は次第に交阯の郡界に徙つた。嘗は官に到つて、前弊を革易したので、歲を踰えざるに珠が復た還り、百姓皆其の本業に復したといふ故事。〔後漢書、孟嘗傳〕遷㆓合浦太守㆒、郡不㆑產㆓穀實㆒、而海出㆓珠寶㆒、與㆓交阯㆒比㆑境、常通㆓商販㆒、貿㆓糴糧食㆒、先時宰守並多㆓貪穢㆒、詭㆑人採求、不㆑知㆓紀極㆒、珠遂漸徙㆓於交阯郡界㆒、於㆑是行旅不㆑至、人物無㆑資、貧者餓㆓死於道㆒、嘗到㆑官、革㆓易前敝㆒、求㆓民病利㆒、曾未㆑踰㆑歲、去珠復還、百姓皆反㆓其業㆒、商貨流通、稱爲㆓神明㆒。

【孟常】132マウジヤウ　明、戴經(5－11685‥54)の字。

【孟珠】133マウシユ　樂府清商曲、西曲歌の名。一名、丹陽孟珠歌。十曲あり、二曲は倚歌、八曲は舊舞。〔樂府詩集、清商曲辭、西曲歌、孟珠〕一曰、丹陽孟珠歌、古今樂錄曰、孟珠十曲、二曲倚歌、八曲舊舞、十六人梁八人。〔無名氏、孟珠〕人言㆓孟珠富㆒、信實金滿㆑堂、龍頭銜㆓九花㆒、玉釵明月璫。

【孟娵】134マウシユ　古の美人の名。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕璋珪雜㆓於甑窐㆒兮、隴廉與㆓孟娵㆒同㆑宮。〔注〕孟娵、好女也。

【孟鑄】135マウシユ　金の人。大定の末、尙書省令史に補せられ、後、御史中丞に至り、剛正敢言を以て聞ゆ。〔金史、一百〕。

【孟充】136マウジユウ　明、高安の人。字は實夫。官は福安縣の知事。著に山樓集がある。

【孟俊】137マウシユン　明、陝西咸寧の人。天順の擧人。南畿の巡按となり、後、布政司參政を以て致仕す。〔明史、一百四十六〕・〔明名人傳、二十八〕。

【孟春】138マウシユン　㊀春の始。陰曆正月の異名。〔書、胤征〕每歲孟春、遒人以㆓木鐸㆒徇㆓于路㆒。〔禮、月令〕孟春之月、日在㆓營室㆒。〔呂覽、孟春〕孟春之月、日在㆓營室㆒、昏參中、旦尾中。〔淮南子、時則訓〕孟春之月、招搖指㆑寅。㊁明、澤州の人。字は時元。弘治の進士。官は吏部侍郎・巡撫宣府。中官張永に忤らひ罷め歸る。〔明史、一百八十九〕。

〔孟春紀〕139マウシユンキ　呂氏春秋の篇名。孟春・本生・重己・貴公・去私の五篇がある。

【孟恂】140マウジユン　明、劉髦(2－2224‥551)の字。

【孟荀】141マウジユン　孟軻と荀況。〔文心雕龍、諸子〕孟荀所㆑述、理懿而辭雅。

【孟循】142マウジユン　字號。㊀明、何遵(1－511‥106)の字。㊁明、張率(4－9812‥514)の字。

【孟準】143マウジユン　明、連標(11－38902‥278)の字。

【孟初】144マウシヨ　明、徐晞(4－10110‥67)の字。

【孟書】145マウシヨ　明、錢紳(11－40563‥131)の字。

【孟諸】146マウシヨ　㊀澤の名。九藪の一。河南省商丘縣の東北、虞城縣の界。古の宋の地にあたる。書經の禹貢には孟豬、周禮の職方氏には望諸、漢書地理志には盟諸に作る。〔爾雅、釋地〕宋有㆓孟諸㆒。〔書、禹貢〕導㆓荷澤㆒、被㆓孟豬㆒。〔周禮、夏官、職方氏〕其澤藪曰㆓望諸㆒。〔注〕望諸、明都也。〔疏〕明都、卽宋孟諸也。〔墨子、兼愛中〕防㆓孟諸之澤㆒。〔漢書、地理志〕睢陽、盟諸澤在㆓東北㆒。〔淮南子、墜形訓〕孟諸在㆑沛。〔新序、雜事一〕暮宿㆓於孟諸㆒。〔謝朓、和㆓王著作八公山詩㆒詩〕西距㆓孟諸陸㆒。㊁臺の名。孟諸澤の中にある。〔禹貢錐指〕虞城縣西北十里、有㆓孟諸臺㆒、卽涓臺也。〔太平寰宇記〕云㆔孟諸澤俗呼爲㆓涓臺㆒、蓋澤中有㆑臺也。

〔孟諸之麋〕147マウシヨノビ　孟諸澤のみぎは。麋は湄と通ず。孟諸の㊀を見よ。〔左氏、僖、二十八〕余賜㆓女孟諸之麋㆒。〔注〕孟諸、宋藪澤、水草之交曰㆑麋。

〔孟諸野人〕148マウシヨヤジン　明、高啓(12－45313‥243)の號。

【孟如】149マウジヨ　清、董沛(9－31433‥140)の字。

【孟舒】150マウジヨ　漢の人。初、趙王張敖に事ふ。趙王の相、貫高、亂を謀るや、趙王の從者と共に捕へられて長安に至る。高祖召見し、有爲の器とし、雲中守とす。文帝立つや、天下の長者として再び雲中守を拜す。〔史記、一百四〕。

【孟升】151マウシヨウ　字號。㊀明、高德暘(12－45313‥1296)の字。㊁清、潘高(7－18236‥12)の字。

【孟植】152マウシヨク　宋の人。字は元立。官は浙東倉廉憲事、後、岳州の知事。

【孟蜀】153マウシヨク　五代十國の一、後蜀の別稱。孟知祥が蜀に據つて帝と稱した國。王建が建てた蜀と區別していふ。後蜀(4－10098‥381)の㊁を見よ。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、五代〕孟蜀之地、埒㆓於前蜀㆒。

【孟信】154マウシン　後魏、廣川索盧の人。字は修仁。趙平太守を拜す。周の文帝、其の人と爲りを聞き、太子太傅とし、特に散騎常侍を加ふ。〔北史、七十〕。

【孟津】155マウシン　㊀津の名。河南省孟縣の南。一に盟津といふ。周の武王が紂を伐つとき、諸侯と此處に盟つたので名づける。又、富平津といふ。晉の杜預が舟を造つて梁としたのは此處。今亦、河陽渡といふ。〔書、禹貢〕導㆓河洛㆒、又東至㆓于孟津㆒。〔水經、河水注〕論衡曰、武王伐㆑紂升㆑舟、陽侯波起、疾風逆流、武王操㆓黃鉞㆒而麾㆑之、風波畢除、中流白魚入㆓于舟㆒、燔以告㆑天、與㆓八百諸侯㆒咸同㆓此盟㆒、尙書所謂不㆑謀同㆑辭也、故曰㆓孟津㆒、亦曰㆓盟津㆒、尙書所謂東至㆓于孟津㆒者也。㊁縣名。金、置く。春秋、周の平陰邑。秦の平陰縣。今、河南省洛陽・偃師・鐵門の三縣に分屬す。〔讀史方輿紀要、河南、河南府〕孟津縣、漢平陰縣地、屬㆓河南郡㆒、魏晉時爲㆓河陰縣地㆒、唐爲㆓河清縣地㆒、仍屬㆓河南府㆒、宋移㆓河清縣治白坂鎭㆒、金徙㆓治孟津渡㆒、改㆓孟津縣㆒、又升爲㆓淘州㆒、州旋廢、元仍曰㆓孟津縣㆒、明朝嘉靖十七年、圮㆓于水㆒、二十五年、始遷㆓今治㆒。〔清史稿、地理志〕河南、河南府、縣、孟津。㊂桃井世明の號。桃井西河(6－14757‥183)を見よ。

【孟晉】156マウシン　勉め進む。進取。〔班固、幽通賦〕盍㆓孟晉以迨㆑羣兮、辰倏忽其不㆑再。〔注〕善曰、曹大家曰、孟、勉也、晉、進也。

〔孟晉齋〕157マウシンサイ　字號。㊀清、顧壽楨(12－43689‥287)の號。㊁清、陳章(11－41698‥319)の號。

【孟眞】158マウシン　明、劉一儒(2－2224‥684)の字。

【孟深】159マウシン　宋、李惲(6－14459‥46)の字。

【孟新】160マウシン　清、白夢鼐(8－22678‥1407)の號。

【孟仁】161マウジン　字號。㊀三國吳、孟宗(182)の㊁の改名。㊁明、吳惠(2－3365‥143)の字。㊂明、趙榮(10－37171‥26)の字。㊃明、方德初(5－13620‥602)の字。

【孟瑞】162マウズイ　明、章珪(8－25761‥60)の字。

【孟陬】163マウスウ　陰曆正月の別稱。陬は隅。〔爾雅、釋天〕正月爲㆑陬。〔楚辭、離騷〕攝提貞㆓于孟陬㆒兮。〔注〕孟、始也、貞、正也、于、於也、正月爲㆓孟陬㆒。〔史記、曆書、注〕正月爲㆓孟陬㆒。

【孟成】164マウセイ　字號。㊀唐、甄濟(7－21557‥26)の字。㊁元、黃玠(12－47926‥108)の字。

【孟青】165マウセイ　囚人を笞つ大棒をいふ。孟青棒を見よ。〔朝野僉載〕周侍御史侯思止、醴泉賣㆓餠食㆒人也、羅告准㆑例、酧㆓五品㆒、於㆓上前㆒索㆓御史㆒、上曰、卿不㆑識㆑字、對曰、獬豸豈識㆑字、但爲㆑國觸㆓罪人㆒而已、遂授㆑之、凡推勘殺戮甚衆、更無㆓餘語㆒、但謂㆓囚徒㆒曰、不㆑用㆓你書言筆語㆒、但還㆓我白司馬㆒、若不㆑肯㆓來俊㆒、卽與㆓你孟青㆒、橫遭㆓苦楚㆒、非㆑命者不㆑可㆓勝數㆒、白司馬者、北邙山司馬坂也、來俊者、中丞來俊臣也、孟青者、將軍孟青棒也、後坐㆓私蓄㆑錦、朝堂決㆓殺之㆒。

〔孟青棒〕166マウセイボウ　囚人を笞つ大棒。孟青棒は琅邪王沖を殺した將軍の名。唐の酷吏、侯思止は、人奴から身を起した人で、文字を識らず、囚人を讓めるに鄙俚の語を用ひて、棒を孟青と稱したのに始まる。孟青を見よ。〔唐書、酷吏、侯思止傳〕思止、本人奴、言語俚下、嘗按㆓魏元忠㆒、讓曰、亟承㆓白司馬㆒、不㆑爾受㆓孟青㆒、洛陽有㆓白司馬坂㆒、將軍有㆓孟青棒㆒、卽殺㆓琅邪王沖㆒者。「字。

【孟清】167マウセイ　明、黃潤玉(12－47926‥1155)の字。

【孟誠】168マウセイ　字號。㊀明、李材(6－14459‥359)の字。㊁明、李實(6－14459‥408)の字。

【孟聲】169マウセイ　字號。㊀明、姚銑(3－6202‥81)の字。㊁明、董鏞(9－31433‥162)の字。

【孟靜】170マウセイ　明、趙貞吉(10－37171‥797)の字。

【孟昭】171 マウセウ 字號。㊀明、徐旭(4－10110・・85)の字。㊁清、屠倬(4－7761・・53)の字。

【孟碩】172 マウセキ 字號。㊀明、徐開晉(4－10110・・353)の字。㊁清、卜舜年(2－2774・・82)の字。

【孟節】173 マウセツ 字號。㊀後漢、李郃(6－14459・・147)の字。㊁梁、蕭見理(9－32012・・346)の字。㊂宋、張秉(4－9812・・659)の字。

【孟宣】174 マウセン 明、鄭定(11－39647・・225)の字。

【孟泉】175 マウセン 明、章時鸞(8－25761・・203)の字。

【孟詵】176 マウセン 唐、梁の人。進士。武后の時、台州の司馬となり、尋いで相王の侍讀となり、同州刺史を拜す。神龍の初、致仕して伊陽山に居る。著に食料本草がある。〔唐書、一百九十六〕・〔舊唐書、百九十一〕。

【孟潛】177 マウセン 明、周淵明(2－3441・・551)の字。

【孟遷】178 マウセン 蠻夷の名。〔漢書、王莽傳下〕若豆・孟遷、不㆑用㆓此書㆒。〔注〕師古曰、若豆・孟遷、蠻僰之名也。

【孟瞻】179 マウセン 清、劉文淇(2－2224・・1292)の字。

【孟善】180 マウゼン 明、海豐の人。諡は忠勇。元に仕へて山東樞密院同僉となり、後、明に歸して保定侯に封ぜられ、永樂の初、遼東の鎭となる。〔明史、一百四十六〕・〔萬斯同明史、一百八十九〕・〔明史稿、一百三十四〕。

【孟祖】181 マウソ 晉、光逸(1－1350・・7)の字。

【孟宗】182 マウソウ ㊀三國吳、江夏の人。字は恭武。後、孫皓の字を避けて仁と改名す。少時、南陽の李肅に學ぶ。性、至孝、嘗て冬、母が筍を求めたので、宗は竹林に入つて哀歎したところ、筍が生じた。孟宗竹の稱はここに始まるといふ。吳に仕へて司空に進み、孫皓の時、卒す。孟宗竹を見よ。〔三國志、四十八〕・〔晉書、九十四〕。㊁後漢、杜眞(6－14477・・161)の字。

〖孟宗竹〗183 マウソウチク 竹の一種。太くて徑が尺餘に至る。其の筍は食用に供す。江南竹。孟宗の㊀を見よ。〔吳志、孫皓傳、注〕楚國先賢傳曰、宗母嗜㆑筍、冬節將㆑至、時筍尙未㆑生、宗入㆓竹林㆒哀嘆、而筍爲㆑之出、得㆓以供㆑母、皆以爲㆓至孝之所㆑致㆑感、累㆓遷光祿勳㆒、遂至㆑公矣。

〖孟宗寄鮓〗184 マウソウキサ 蒙求の標題。三國吳の孟宗が監池司馬となり、自ら網を編み、手づから魚を捕へ、鮓を作つて母に贈つたら、母が之を還して、汝は魚官である、それが鮓を作つて我に贈るは嫌疑を招く所以であるといつた故事。〔吳志、孫皓傳、注〕吳錄曰、仁、字恭武、江夏人也、本名宗、避㆓皓字㆒易㆑焉、少從㆓南陽李肅㆒學、云云、爲㆓監池司馬㆒、自能結㆑網、手以捕㆑魚、作㆑鮓寄㆑母、母因以還㆑之曰、汝爲㆓魚官㆒、而以㆑鮓寄㆑我、非㆑避㆑嫌也。

【孟叟】185 マウソウ 孟子をいふ。叟は、老父の稱。〔抱朴子、守塉〕收㆓微言於將㆑墜者、周・孔之遐武也、情孳孳以爲㆑利者、孟叟之罪人也。

【孟則】186 マウソク 後魏、李象(6－14459・・417)の字。

【孟側】187 マウソク 春秋、魯の大夫。孟之反(309)を見よ。

【孟孫】188 マウソン ㊀複姓。〔元和姓纂〕孟孫、魯桓公之子、慶父之後。㊁魯の公族の名。三桓の一。仲孫。〔論語、季氏、故夫三桓之子孫微矣、集解〕孔安國曰、三桓、謂㆓仲孫・叔孫・季孫㆒、三卿皆出㆓桓公㆒、故曰㆓三桓㆒也、仲孫氏改㆓其氏㆒稱㆓孟氏㆒。〔趙岐、孟子題辭〕或曰、孟子、魯公族孟孫之後。㊂字號。㋑後漢、鮭陽鴻(10－35060・・5)の字。㋺後漢、何熙(1－511・・36)の字。㋩後漢、淳于恭(7－17690・・9)の字。㋥後漢、竇固(8－25695・・23)の字。㋭後趙、張賓(4－9812・・636)の字。㋬梁、蕭歡(9－32012・・94)の字。

【孟他】189 マウタ 後漢、扶風の人。字は伯郎。靈帝の時、中常侍張讓が政を專らにし、讓の下男頭が家事を掌つてゐたので、任官を志して得なかつた他は、家財を盡して下男頭に賂し、之に媚び親しむ。他が讓の所へ詣つた時、衆奴が皆車を迎へて拜したので、衆人は悉く驚き、他と讓と善しと思ひ、爭つて珍物を以て他に遺つたので、他は盡く之を讓に賂した。讓は大いに喜び、他を涼州刺史に拜す。〔後漢書、一百八〕。

【孟道】190 マウダウ 南朝宋、龔祈(12－48837・・7)の字。

【孟導】191 マウダウ 宋の人。猷の弟。字は達甫。兄と倶に葉適に學ぶ。簡默寡言。大理正に累官し、嚴州の知事となり、廉介明敏、至る所皆治聲があり、再び臨江軍の知事となつたが、忌者の爲に論ぜられて罷む。〔宋元學案、五十五〕。

【孟卓】192 マウタク 後漢、張邈(4－9812・・609)の字。

【孟達】193 マウタツ ㊀三國、魏の人。他の子。字は子度、又、子敬。初、劉璋に事へ、後、魏に降り、官は散騎常侍、新城太守。㊁字號。㋑後漢、韋彪(12－43108・・134)の字。㋺明、華善繼(9－31214・・500)の字。

【孟但】194 マウタン 漢、廣川の人。易を東武王同に受け、官は太子門大夫。〔前漢書、八十八〕。

【孟端】195 マウタン 字號。㊀明、朱紳(6－14424・・399)の字。㊁明、王紱(7－20823・・938)の字。

【孟遲】196 マウチ 唐、平昌の人。字は升之。會昌の進士。著に詩一卷がある。〔全唐詩、二十一〕・〔唐詩紀事、五十四〕。

【孟長】197 マウチヤウ 明、姚希孟(3－6202・・144)の字。

【孟昶】198 マウチヤウ ㊀晉、安丘の人。桓弘が廣陵の鎭となり、昶を主簿とす。桓玄、帝と稱するや、劉裕と謀つて桓玄を討たんとす。裕、兵を擧げて後、昶を長史となし、丹陽尹に拜し、吏部尙書・尙書右僕射を加へたが、昶、罪を懼れて自殺す。〔晉書、九十六〕。㊁五代、後蜀の人。知祥の子。字は保元。諡は恭孝。初名は仁贊。後唐の清泰中、帝位を嗣ぎ、在位三十年、宋の乾德中、王全彬に敗られ、京に至つて秦國公に封ぜられ、七日にして卒す。〔宋史、四百七十九〕・〔五十代史、六十四〕。

〖孟昶夫人〗199 マウチヤウフジン 後蜀の人。花蘂夫人(9－30734・・291)を見よ。

【孟娘】200 マウヂヤウ 草の名。どくだみ。〔本草、醍醐菜〕附錄、茅膏菜・雞侯菜・孟娘菜、藏器曰、味苦小溫無㆑毒、云云、生㆓四明諸山㆒、冬夏常有㆑葉、似㆓升麻㆒方莖、山人采茹㆑之。

【孟中】201 マウチユウ 明、許孚遠(10－35298・・384)の字。

【孟忠】202 マウチユウ 明、崑山の人。字は廷臣。洪武の初、賢才を以て薦められ、武寧縣の知事を授けらる。靖難の後、成祖は高帝の舊臣を思ひ、召用せんと欲したが、堅く辭して赴かず、勅を賜うて之を嘉す。壽を以て家に終る。〔列朝詩集小傳、甲〕。

【孟著】203 マウチヨ 晉、顧顯(12－43689・・70)の字。

【孟豬】204 マウチヨ 澤の名。九藪の一。孟諸(146)の㊀に同じ。〔書、禹貢〕導㆓荷澤㆒、被㆓孟豬㆒。〔傳〕孟豬、澤名。〔蔡傳〕孟豬、爾雅作㆓孟諸㆒。

【孟女】205 マウヂヨ 長女。〔史記、魯周公世家〕莊公築㆑臺、臨㆓黨氏㆒、見㆓孟女㆒。〔注〕索隱曰、杜預曰、孟、長也。

【孟直】206 マウチヨク 字號。㊀元、邢溫(11－39301・・5)の字。㊁清、丘庭澍(1－33・・157)の字。

【孟珍】207 マウチン 元の人。字は玉潤・季生。字を以て行はる。號は天澤。畫に巧。

【孟定】208 マウテイ 府の名。雲南省鎭康縣の南。南丁河が其の境を流る。古の蠻地、景麻甸。元の孟定路の地。〔讀史方輿紀要、雲南〕孟定禦夷府、東至㆓威遠州界㆒、南至㆓孟璉長官司界㆒、西至㆓隴川宣撫司界㆒、北至㆓鎭康州界㆒、自㆓府治東北㆒至㆓布政司㆒、一十八程、轉達㆓於京師㆒。〔清史稿、地理志〕雲南、永昌府、土府一、孟定土府。

【孟亭】209 マウテイ ㊀亭の名。湖北省鍾祥縣の城內。唐の皮日休に記がある。〔唐書、孟浩然傳〕王維過㆓郢州㆒、畫㆓孟浩然像於刺史亭㆒、因曰㆓浩然亭㆒、咸通中、刺史鄭誠更署曰㆓孟亭㆒。㊁字號。㋑清、馮浩(12－44579・・31)の號。㋺清、王箴輿(7－20823・・1734)の號。

〖孟亭居士〗210 マウテイコジ 清、馮浩(12－44579・・31)の號。

【孟貞】211 マウテイ 清、邢昉(11－39301・・48)の字。

〖孟貞女〗212 マウテイヂヨ 明の人。蔣文旭妻(9－31820・・212)を見よ。

【孟媞】213 マウテイ 清、張縉英(4－9812・・1270)の字。

【孟程】214 マウテイ 宋、豐城の人。號は冰雪林主人。少時、詩を善くし、筆力豪俊であつたが、謝諤が之に語つて詩辭はただ游士の雄のみといつたので、程は早速經術を事とし、卒に儒者となる。〔宋元學案、二十八〕。

【孟鳥】215 マウテウ 鳥の名。〔山海經、海內西經〕孟鳥、在㆓貊國東北㆒、其鳥文赤黃青、東鄉。

【孟調】216 マウテウ 字號。㊀清、鄭恭燮(11－39647・・340)の字。㊁清、王星誠(7－20823・・1779)の字。

【孟傳】217 マウデン 宋、史守道(2－3249・・224)の字。

【孟涂】218 マウト 上古の人。夏后啓の臣。巴の地方の訟を掌る。〔山海經、海內南經〕夏后啓之臣曰㆓孟

涂一、是司二神于巴一、巴人請二訟于孟涂之所一、其衣有レ血者、乃執レ之、是請レ生、居二山上一。〔注〕今建平郡丹陽城、秭歸縣東七里、卽孟涂所レ居也。〔竹書紀年、上〕帝啓八年、帝使二孟涂如一レ巴涖レ訟。

【孟塗】219 マウト 清、劉開(2－2224‥85)の㊁の號。

【孟圖】220 マウト 南唐、常夢錫(4－8955‥411)の字。

【孟冬】221 マウトウ 冬の始。陰曆十月の異名。〔禮、月令〕孟冬之月、日在レ尾。〔淮南子、時則訓〕孟冬之月、招搖指レ亥。

〔孟冬宴〕221′ マウトウノエン 孟夏宴(17)・孟月宴(81)を見よ。

〔孟冬紀〕222 マウトウキ 呂氏春秋の篇名。孟冬・節喪・安死・異寶・異用の五篇がある。

【孟同】223 マウドウ 戰國趙、張孟談(4－9812‥1528)の一名。

【孟德】224 マウトク ㊀元、濟南の人。世祖に從つて征伐の功を建て、沂郯萬戶に遷り、昭勇大將軍招討使を授けらる。〔元史、一百六十六〕。㊁三國、魏、曹操(5－14297‥91)の字。

【孟瀆】225 マウトク 川の名。又、孟河ともいふ。江蘇省武進縣の西。犇牛鎭の東南。運河に接し、北流して江に入る。唐の元和中、刺史孟簡、故渠によつて開き、此の名を附す。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、武進縣〕孟瀆、府西三十里、犇牛鎭東南、枕二運河一、北流六十里、入二揚子江一、唐會要、元和八年、常州刺史孟簡因二故渠一開、此瀆袤四十一里、引二江水一、南注通レ漕、溉レ田四千頃、因名。

【孟敦】226 マウトン 清、趙彝(10－37171‥4)の字。

【孟婆】227 マウバ 江南で、風の神をいふ。〔詞品〕俗謂レ風曰二孟婆一、蔣捷詞云、春雨如二絲繡一、出二花枝紅裊一、怎禁二他孟婆合皁一、江南七八月閒有二大風一、甚二於舶䑺一、野人相傳、以爲二孟婆發一レ怒、按、北齊李騊駼、聘レ陳、問二陸士秀一、江南有二孟婆一、是何神也、士秀曰、山海經云、帝之二女、遊二於江中一、出入必以二風雨一自隨、以二帝女一、故曰二孟婆一、猶下郊祀志以二地神一爲中泰媼上、此言雖二鄙俚一、亦有二自來一矣。〔宋徽宗、詞〕孟婆好做些方便、吹箇船兒倒轉。

【孟婆神】228 マウバシン 漢代の仙女。儒佛二道に通じ、世人を勸めて佛戒を守らせ、又、邪宗を退け、八十一歲でも處女のやうであつたといふ。一說に、孟婆は幽冥の神であるともいひ、酒に似た一種の湯を造り、之を飮んで前生を忘れしめる術を知るともいひ、或は佛書に出たといひ據る所を知り得ない。孟婆阿奶。

【孟買】229 ボンベイ 西部印度、孟買州の首府。土番名は叭史。Bombayの音譯。

【孟方】230 マウハウ 元、劉黑馬(2－2224‥930)の字。

【孟昉】231 マウハウ 元の人。もと西域の產。北平に寓す。字は天偉。詞に巧。官は至正中、翰林待制、後、江南行臺監察御史。

【孟卯】232 マウバウ ㊀齊の人。辯舌を以て魏に仕へた。一に芒卯に作る。〔韓非子、顯學〕魏任二孟卯之辯一、而有二華下之患一、趙任二馬服之辯一、而有二長平之禍一。〔淮南子、氾論訓〕孟卯妻二其嫂一、有二五子一焉、然而相レ魏、寧二其危一、解二其患一。〔注〕孟卯、齊人、爲二魏臣一。㊁地名。本の名は蠻莫。明、宣撫司を置き、清、猛卯と改む。雲南省騰衝縣に屬す。

【孟伯】233 マウハク ㊀共に長子をいふ。伯は適妻の長子。孟は妾の子で、嫡妻の子より年上の者。〔左氏、隱、元、惠公元妃孟子、疏〕孟・伯、倶長也、禮緯云、庶長稱レ孟、然則適妻之子長者稱レ伯、妾子長二於妻子一則稱爲レ孟、所三以別二適庶一也。㊁清、周悅讓(2－3441‥549)の字。

【孟博】234 マウハク 字號。㊀後漢、范滂(9－30834‥105)の字。㊁宋、曾滂(5－14299‥133)の字。㊂明、孫適(3－6987‥230)の字。

【孟八】235 mêng^4 pa^2 女郎屋の異稱。

〔孟八郎〕236 マウハチラウ マンパチラウ 孟は孟浪(276)、八郎は第八子。亂暴な男兒の義。亂暴者。腕白者。橫紙破り。不良兒。〔碧巖錄、二十八〕孟八郎作二什麼一。〔夾山抄〕孟八郎、晉時勇士、不レ依二道理一作レ事者云。

【孟班】237 マウハン 清、楊超曾(6－15112‥721)の字。

【孟微】238 マウビ 明、施顯(5－13629‥32)の字。

【孟彪】239 マウヒウ 清、張文虎(4－9812‥1484)の字。

【孟弼】240 マウヒツ 金、張巖叟(4－9812‥891)の字。

【孟賓】241 マウヒン 明、涂禎(6－17518‥16)の字。

【孟豳】242 マウヒン 元、李稷(6－14459‥466)の字。

【孟敏】243 マウビン 漢、鉅鹿の人。字は叔達。嘗て太原に遊び、郭泰之に勸められて游學し、十年にして名を知らる。徵辟皆辭す。〔後漢書、九十八〕。

【孟符】244 マウフ 字號。㊀元、喬吉(2－3990‥14)の字。㊁明、廖國遴(4－9464‥51)の字。㊂清、卞同(2－2778‥22)の字。

【孟傅】245 マウフ 明、凌悅(2－1669‥12)の字。

【孟敷】246 マウフ 元、程榮秀(8－25081‥158)の字。

【孟武】247 マウブ 唐、郭英傑(11－39474‥244)の字。

〔孟武伯〕248 マウブハク 春秋魯、仲孫彘(1－403‥306)を見よ。

【孟文】249 マウブン 字號。㊀後漢、楊厥(6－15112‥127)の字。㊁宋、孫光憲(3－6987‥373)の字。

【孟平】250 マウヘイ 字號。㊀明、桂衡(6－14755‥17)の字。㊁清、張泰靑(4－9812‥1315)の字。

【孟表】251 マウヘウ 後魏、蛇丘の人。字は武達。謚は恭。初、齊の明帝に仕へ、魏に歸して南兗州刺史に除せられ、齊の裴叔業の來攻を防ぎ、汝陽縣伯・平西將軍に進められ、齊州刺史に終る。〔魏書、六十一〕・〔北史、三十七〕。

【孟辨】252 マウベン 明、朱芾(6－14424‥525)の字。

【孟母】253 マウボ 戰國魯、鄒の人。孟軻の母。姓は仉氏。三遷及び斷機の教によつて孟子を訓育した賢母。孟母三遷・孟母斷機を見よ。〔列女傳、一〕。

〔孟母三遷〕254 マウボサンセン 孟子の母が、三たび居を遷して孟軻を教育した故事。孟子の幼時、其の家が墓所の側に在つたところ、常に葬喪の遊をした。孟母は之を憂へて、市場の傍に遷つたところ、常に賣買の遊をした。又、之を憂へて學校の傍に遷つたところ、常に禮儀作法の遊をした。是に於て大いに喜び、遂に居を此の地に定めたといふ。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕鄒孟軻之母也、號二孟母一、其舍近レ墓、孟子之少也、嬉遊爲二墓閒之事一、踴躍築埋、孟母曰、此非四吾所三以居二處子一、乃去舍二市傍一、其嬉戲爲二賈人衒賣之事一、孟母又曰、此非四吾所三以居二處子一也、復徙舍二學宮之傍一、其嬉遊乃設二俎豆一、揖讓進退、孟母曰、眞可三以居二吾子一矣、遂居レ之、及二孟子長一、學二六藝一、卒成二大儒之名一、君子謂、孟母善以レ漸化、詩云、彼姝者子、何以予レ之、此之謂也。

〔孟母斷機〕255 マウボダンキ 孟子の母、孟軻が中途で學を廢して歸宅した時、織りかけの機を斷つて、汝の學を廢するは吾が斯の機を斷つが如しと誡めた故事。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕自二孟子之少一也、既學而歸、孟母方績、問曰、學所レ至矣、孟子曰、自若也、孟母以レ刀斷二其織一、孟子懼而問二其故一、孟母曰、子之廢レ學、若三吾斷二斯織一也、夫君子學以立レ名、問則廣レ知、是以居則安寧、動則遠レ害、今而廢レ之、是不レ免二于廝役一、而無三以離二于禍患一也、何以異二于織績而食、中道廢而不レ爲、寧能衣二其夫子一、而長不レ乏二糧食一哉、女則廢二其所レ食、男則墮二于修レ德、不レ爲二竊盜一、則爲二虜役一矣、孟子懼、旦夕勤レ學不レ息、師二事子思一、遂成二天下之名儒一、君子謂、孟母知下爲二人母一之道上矣、詩云、彼姝者子、何以告レ之、此之謂也。

【孟姥】255′ マウボ 船の神。孟公孟姥(91)を見よ。

【孟鳳】256 マウホウ 明の人。麟の弟。字は瑞周。謚は文簡。弘治の進士。監察御史を授けられ、懷慶知府に陞進し、民に渠を深くし田を灌漑することを教ふ。後、都御史に累官し、北邊を總制し、轉じて漕事を督す。徐淮の大水に値ひ、區畫方あり、民を勞費せず。刑部尙書に累遷す。〔國朝獻徵錄、四十八〕。

【孟賁】258 マウホン 戰國の勇士。一に孟說に作る。水を行けば蛟龍を避けず、陸を行けば虎兕を避けず、怒を發すれば、聲、天を響動すといふ。〔孟子、公孫丑上〕若レ是則夫子過二孟賁一遠矣。〔疏〕帝王世紀云、秦武王好二多力之人一、齊孟賁之徒並歸レ焉、孟賁生二拔牛角一。〔程大中、四書逸箋〕許愼淮南子注、孟賁、衞人也、通考云、齊之力士、當下以二許注一爲上レ正。〔史記、袁盎傳、索隱〕尸子云、孟賁水行不レ避二蛟龍一、陸行不レ避二兕虎一。〔帝王世紀〕秦武王好二勇士一、齊孟賁之徒往歸焉、孟賁能生二拔牛角一。

【孟密】259 マウミツ 地名。雲南の西、緬甸の東。イラワヂ河畔。明の成化中、孟密安撫司を設く。又、猛密に作り、或は摩媒とも譯す。〔明史、雲南土司、木邦傳〕地有二寶井一、木邦所レ擾、二十年、遂設二孟密安撫司一。〔清一統志〕猛密宣慰使司、東界二木邦一、西界二緬甸一、南界二猛卯一、北界二蠻莫一、明初爲二木邦部落一、成化中始置レ司、屬二灣甸州一、土官思氏

世襲。

【孟明】260 マウメイ ❶春秋、秦の人。名は視。百里奚の子。穆公の時、鄭を伐つて晉人に殽函に破られ、三敗したが穆公は猶之を用ひ、遂に河を濟つて舟を焚き、王官及び郊を取る。晉、懼れて出でず。乃ち殽の尸を封じて返る。此の後、秦、遂に西戎の霸となる。〔左氏、文、二・三〕。❷字號。㋑明、賈三光(10－36755‥168)の字。㋺明、方熙(5－13620‥74)の字。

【孟盟】261 マウメイ 堡の名。山西省永濟縣の東。明の嘉靖中、置く。孟盟橋があり、涑水に架す。秦將孟明が晉を伐ち、河を濟つて舟を焚き、河に盟つた處。因つて橋に名づく。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、蒲州〕涑水、在㆓州東十里㆒、有㆓孟盟橋㆒、其上流卽絳水也。

【孟鳴】262 マウメイ 明、林兆珂(6－14551‥407)の字。

【孟門】263 マウモン ❶山名。山西省吉縣の西、陝西省宜川縣の東北、龍門の北、黃河の兩岸に跨がる。漢の賈讓は、「大禹、水を治め、山陵の路に當る者は之を毀つ。故に龍門を鑿ち、伊闕を辟く。孟門は卽ち龍門の上口なり」といふ。〔山海經、北山經〕孟門之山、其上多㆓蒼玉㆒、其下多㆓黃堊㆒。〔水經、河水注〕淮南子曰、龍門未㆑闢、呂梁未㆑鑿、河出㆓孟門之上㆒、大溢逆流、名曰㆓洪水㆒、大禹疏㆓通之㆒、謂㆓之孟門㆒、故穆天子傳曰、北登㆓孟門九河之隥㆒、孟門、卽龍門之上口也。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、吉州〕孟門山、在㆓州西七十里㆒、山海經、孟門之山、上多㆓金玉㆒、淮南子、龍門未㆑闢、呂梁未㆑鑿、河出㆓孟門之上㆒、大禹疏通、謂㆓之孟門㆒、故穆天子傳曰、北登㆓孟門九河之隥㆒、孟門、卽龍門之上口也、此爲㆓黃河巨阨㆒、夾㆑岸崇深、犇浪懸流、傾㆑崖觸㆑石、誠天設之險。❷隘道の名。太行山の東。晉の杜預は、孟門は晉の隘道といふ。今の河南省輝縣の白陘、太行山の第三陘。〔左氏、襄、二十三〕齊侯遂伐㆑晉、取㆓朝歌㆒、爲㆓二隊㆒、入㆓孟門㆒、登㆓太行㆒。〔注〕孟門、晉隘道也。〔史記、吳起傳〕殷紂之國、左㆓孟門㆒、右㆓太行㆒。❸縣名。唐、置く。北周の定胡縣。故城は山西省離石縣の西。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、永寧州〕孟門關、州西四十里、隋置、其地險固、今有㆓巡司㆒戍守、通典、後周定固郡。蓋置㆓於此㆒、州志、關在㆓州西百二十里㆒、故孟門縣也、元廢、置㆓離石巡司於此㆒、城垣廬舍、不㆑滅㆓於舊㆒、今爲㆓孟門巡司㆒。

【孟洋】264 マウヤウ 明、信陽の人。字は望之、又、有涯。弘治の進士。監察御史を授けられたが、張璁・桂萼を論ずる事に坐して教授に謫せられ、都察院僉都御史に累遷して、糧儲を督理す。母の病を聞き、報を待たずして歸る。後、大理寺卿に至る。詩に巧。著に孟有涯集がある。〔萬斯同明史、二百五十七〕・〔明詩綜、二十八〕。

【孟陽】265 マウヤウ ❶正月の異稱。〔梁元帝纂要〕正月爲㆓孟陽㆒。〔事物異名錄、歲時、正月〕山堂肆考、正月曰㆓孟陽・孟陬㆒、又曰㆓陬月㆒。❷明の人。春の子。字は子乾。謚は忠介。正德の進士。官は行人。後、武宗の南巡を諫め、杖せられて死す。〔明史、一百八十九〕。❸字號。㋑晉、張載(4－9812‥320)の字。㋺宋、倪公晦(1－792‥46)の字。㋩宋、單煦(2－3993‥75)の字。㋥明、危貞昉(2－2849‥164)の字。㋭明、程嘉燧(8－25081‥165)の字。㋬明、呂希煜(2－3386‥178)の字。

〔孟陽擲瓦〕266 マウヤウテキグワ 蒙求の標題。晉の張載、字は孟陽、中書侍郎となる。容貌甚だ醜惡なので、道を行く毎に小兒に瓦石を擲たれたといふ故事。〔蒙求、下、孟陽擲瓦〕晉書、張載、字孟陽、安平人、云云、仕至㆓中書侍郎㆒、載甚醜、每㆑行、小兒以㆓瓦石㆒擲㆑之、委頓而反。

【孟敭】267 マウヤウ 明、王偁(7－20823‥606)の字。

【孟暘】268 マウヤウ 字號。❶明、夏昺(3－5720‥239)の字。❷清、吳敬羲(2－3365‥524)の字。

【孟養】269 マウヤウ ❶土司の名。漢の永昌郡の西徼の地。俗に迤西といふ。香柏城がある。元、雲遠路軍民總管府を置く。明、雲遠府と改め、孟養府を分置し、永樂の初、孟養軍民宣慰使司とす。土官刁氏の世襲。清、雲南省を平げて羈縻の地とす。後、緬甸に沒せらる。今の雲南省の邊外、干崖土司の南に當る。〔清一統志〕孟養軍民宣慰使司、東至㆓金沙江㆒、西界㆓大古喇宣慰司㆒、南界㆓緬甸㆒、北界㆓干崖㆒、俗名㆓迤西㆒、有㆓香柏城㆒、元置㆓雲遠路㆒、明初改㆓雲遠府㆒、又分置㆓孟養府㆒、旋改爲㆑司、土官刁氏世襲。❷清、王學浩(7－20823‥1265)の字。

【孟容】270 マウヨウ 字號。❶金、梁肅(6－14825‥120)の字。❷清、賴鏡(10－36861‥5)の字。❸清、劉蓉(2－2224‥634)の字。

【孟庸】271 マウヨウ 明、吳中(浙江の人)(2－3365‥300)の字。

【孟雍】272 マウヨウ 宋、李穆(6－14459‥751)の字。

【孟蓉】273 マウヨウ 清、劉蓉(2－2224‥634)の字。

【孟雷】274 マウライ 明、達州の人。字は孔敬。官は按察僉事。〔尙友錄、二十〕。

【孟賴】275 マウライ 寨の名。雲南省鎭康縣の孟定土府の東南。明の正統二年、麓川の思任發が叛いて此の寨を破る。〔讀史方輿紀要、雲南、孟定禦夷府〕孟賴寨、在㆓府東南㆒、正統二年、麓川思任發叛、犯㆓景東孟定㆒、破㆓孟賴寨㆒、降㆓孟璉等長官司寨㆒、蓋孟定之別部也。

【孟浪】276 マウラウ マンラン ❶とりとめが無い。おろそか。〔莊子、齊物論〕夫子以爲㆓孟浪之言㆒、而我以爲㆓妙道之行㆒也。〔釋文〕向云、孟浪、音漫瀾、無㆑所㆓趣舍㆒之謂、李云、猶㆓較略㆒也、崔云、不㆓精要㆒之貌、司馬云、鄙野之語。〔水經、濡水注〕殊爲㆓孟浪㆒、遠失㆓事實㆒。〔魏書、張普惠傳〕臣學不㆑經㆑遠、言多孟浪。〔左思、吳都賦〕孟浪之遺言。〔注〕劉曰、孟浪、猶㆓莫絡㆒也、不㆓委細㆒之意。〔書言故事、惡性類〕作㆑事輕率、曰㆓孟浪㆒。❷放浪する。〔迺賢、巢湖述懷詩〕孟㆓浪江湖㆒意何益。

【孟勞】277 マウラウ 魯國の寶刀の名。〔穀梁、僖、元〕孟勞者、魯之寶刀也。〔權德輿、劉濟墓誌〕被㆓縵胡㆒而揮㆓孟勞㆒。

【孟鸞】278 マウラン 後魏の人。字は龍兒。事に坐して閹人に充てらる。官は靈太后の時、左中郎將給事。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。

【孟隆】279 マウリユウ 宋、鄭起(11－39647‥60)の字。

【孟龍】280 マウリヨウ 字號。❶明、劉鱗長(2－2224‥1359)の字。❷清、李杭(6－14459‥117)の字。

【孟林】281 マウリン 孟子の墓。山東省鄒縣の東北。四基山の西麓。墓前の廟は宋の孔道輔の建立で、泰山の孫復が記を作つた。〔太平寰宇記〕孟軻墓、在㆓曲阜縣南四十里㆒、原屬㆓鄒縣㆒、唐貞觀八年、改屬㆓曲阜㆒。

【孟綸】282 マウリン 清、胡會恩(9－29400‥444)の字。

【孟麟】283 マウリン ❶明、曲阜の人。字は瑞魯。成化の進士。官は工部主事を授けられ、郎中に陞り、陝西左布政使に至る。〔國朝獻徵錄、九十四〕。❷明、徐卿伯(4－10110‥393)の字。

【孟璉】284 マウレン 土司の名。一に孟連に作る。雲南省瀾滄縣の東南。古の蠻地で、哈瓦といふ。土官は刁氏。〔讀史方輿紀要、雲南、孟密宣撫司〕孟璉長官司、東至㆓車里宣慰司界㆒、南至㆓孟艮府界㆒、西至㆓木邦宣慰司界㆒、北至㆓威遠州界㆒、自㆓司治㆒東北至㆓布政司㆒二十三程、轉達㆓於京師㆒。〔清史稿、地理志〕雲南、永昌府、長官司二、孟連長官司。

【孟陋】285 マウロウ 晉の人。嘉の弟。字は少孤。布衣蔬食、文籍を以て自ら娛しむ。嘗て參軍に召されたが起たず。三禮に長じ、論語に注す。〔晉書、九十四〕。

【孟淮】286 マウワイ 明、祥符の人。字は豫川。嘉靖の進士。官は都御史・山西巡撫・應天府尹を歷任したが、嚴嵩黨に坐して罷め歸る。著に入蜀稿がある。〔明史、三百八〕・〔明史稿、二百八十六〕。

【孟懿子】287 マウイシ 春秋、魯の大夫。仲孫何忌(1－403‥308)を見よ。

【孟由義】288 マウイウギ 葡萄人メンデスの漢名。字は居仁。清の聖宗の二十三年中國に來り、上海に於て耶蘇教の布教に從事し、爾來六十年にわたつて中國宣教のために身を捧げた。高宗の乾隆八年、澳門にて卒す、年八十八。Mendez Manoel

【孟一脈】289 マウイチミヤク 明、東阿の人。字は淑孔。隆慶の進士。張居正に忤つて御史を奪はる。切直に過ぎて建昌推官に謫せられたが、後、右僉都御史・巡撫南贛に累遷す。〔明史、二百三十五〕・〔萬斯同明史、三百二十四〕・〔明史稿、二百十一〕。

【孟雲卿】290 マウウンケイ 唐、平昌の人。進士に登第し、校書郎に擢んでらる。杜甫・元結と交はる。〔全唐詩、五〕。

【孟永光】291 マウエイクワウ 清、會稽の人。字は月心。時人、狂士といふ。畫に巧。內庭に祇候し、世祖最も之を愛重す。〔四百六十五〕。

【孟恩遠】292（マウオンエン）　民國、河北省天津縣の人。字は曙村。吉林將軍・鎭安左將軍・吉林督軍等を歷任し、張勳の復辟に加擔し、後、北京政府から將軍府に列せられ、田中玉が其の後任となるや、命を奉ぜず獨立を宣した。其の後、寛城子事件を惹起し、爾來、天津に閑居した。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【孟加拉】293（ベンガル）　Bengal の音譯。㊀州名。印度東部の州。㊁灣の名。印度洋中の灣。印度半島と印度支那半島との閒。

【孟浩然】294（マウカウゼン マウカウネン）　唐、襄陽の人。世に孟襄陽と稱せらる。少くして節義を好み、鹿門山に隱れ、四十にして京師に游び、諸名士に交はる。張九齡に召されて荊州從事となる。疽を背に病み、開元二十八年卒す。最も五言古詩に巧で、其の詩は、晉の陶潛の流派に從ひ、自然を以て宗とす。盛唐に在つて王維と名を等しくし、韋應物・柳宗元の先路を開く。著に孟浩然集がある。〔唐書、二百三〕・〔舊唐書、一百九十下〕。

【孟浩然集】295（マウカウゼンシフ）　書名。四卷。唐、孟浩然撰。一名、襄陽集。明の毛晉は宋刻に依り、劉須溪本・關中本を參し、二百六十六首を三卷として、遊覽・贈答・旅行・送別・宴樂・懷思・田園・美人・時令・拾遺に別つ。又、光緒十年刊行の同文書局本は卷一、五古、卷二、七古・五排、卷三、五律、卷四、五律・七律・五絕・七絕に分つ。清の胡鳳丹に孟襄陽集辨譌考異一卷がある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【孟浩然體】296（マウカウゼンタイ）　詩體の名。唐の孟浩然の詩體。〔滄浪詩話、詩體〕孟浩然體。

【孟漢瓊】297（マウカンケイ）　㊀五代、唐の人。初、小豎を以て明宗に侍し、明宗卽位の後、宣徽南院使となる。閔帝の時、迎立の功によつて開府儀同三司・驃騎大將軍を加へられたが、恩寵を恃み、後、潞王從珂に殺さる。〔舊五代史、七十二〕。㊁元、亳州の人。戲曲をよくし、著に張孔目智勘魔合羅がある。

【孟僖子】298（マウキシ）　春秋、魯の大夫。仲孫貜（1－403・・301）を見よ。

【孟化鯉】299（マウクワリ）　明、河南新安の人。字は叔龍。號は雲浦。萬曆の進士。官は戶部主事・文選郎中。其の學は無欲愼獨を以て主とす。著に孟雲浦集がある。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、三百二十八〕・〔明史稿、三百二十八〕・〔明儒學案、二十九〕。

【孟懷玉】300（マウクワイギョク）　南朝宋、安丘の人。徙つて京口に居る。武帝以て建武司馬とす。京口を平げて鄱陽侯に封ぜられ、輔國將軍となる。又、盧循を伐つて陽豐縣男に封ぜられ、江州刺史に遷る。〔宋書、四十七〕・〔南史、十七〕。

【孟溪場】301（マウケイチヤウ）　地名。貴州省松桃縣の西。孟溪河の濱。河は木耳溪ともいひ、下流に九十九折があるので九十九渡水ともいふ。

【孟慶恩】302（マウケイオン）　滿洲遼寧省瀋陽縣の人。字は則友。奉天法政專門學校を卒業し、安東地方審判廳推事・錦縣檢察廳檢察官・吉林高等審判廳推事・吉林省長官公署司法科長・吉林高等法院庭長を經て吉林高等法院第二分院々長となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【孟喬芳】303（マウケウハウ）　清、永平の人。字は心亭。諡は忠毅。明の副將であつたが、職を罷めて家居す。太宗の兵が關に入るや、迎へ降る。世祖が關に入つて李自成の亂を定めたのは、喬芳の籌策に負ふところが多い。李自成が敗れて竄れ歸るや、喬芳は師を率ゐて之を追ひ、直ちに長安に抵る。兵部右侍郎に拜せられ、陝西三邊西川の軍務を總督し、甘肅を平げ、山西を定め、兵部尙書に進み、少保を累加せらる。〔清史稿、二百四十三〕・〔清史列傳、七十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百四十九〕・〔碑傳集、五〕。

【孟獻子】304（マウケンシ）　春秋、魯の大夫。仲孫蔑（1－403・・307）を見よ。

【孟元陽】305（マウゲンヤウ）　唐の人。陳許の軍中に身を起し、吳少誠の來寇を防いで陳州刺史に拜せられ、憲宗の朝、右羽林統軍となり、趙國公に封ぜらる。〔唐書、一百七十〕・〔舊唐書、一百五十一〕。

【孟元老】306（マウゲンラウ）　宋の人。號は幽蘭居士。傳記は詳でない。其の著、東京夢華錄は南渡の後、汴京の盛況を追憶して作つたもので、都城・坊市・節序・風俗から當時の典禮・儀衞に至るまで皆載せざるなく、宋志と頗る異同があり、史志の譌舛を訂すに足る。〔四庫提要、七十〕。

【孟彥卿】307（マウゲンケイ）　宋、洺州の人。潭州の通判となり、叛卒を追討して殺さる。事、上聞し、直龍圖閣を贈らる。〔宋史、四百五十三〕・〔宋史新編、一百八十三〕・〔南宋書、六十七〕。

【孟子反】208（マウシハン）　孟之反を見よ。

【孟之反】309（マウシハン）　春秋、魯の大夫。名は側。哀公の時、齊と戰ひ、敗れて、困難なる殿軍となり、而も誇らなかつた。左傳哀公十一年には孟之側に作り、字は反といふと注す。又、一に孟子反に作る。〔論語、雍也〕子曰、孟之反不レ伐、奔而殿、將レ入レ門、策二其馬一曰、非二敢後一也、馬不レ進也。

【孟四元】310（マウシゲン）　金、孟宗獻（320）の尊稱。

【孟施舍】311（マウシシヤ）　古の勇者。孟は姓。舍は名。施は發語の辭。〔孟子、公孫丑上〕孟施舍之所レ養レ勇也、曰、視レ不レ勝、猶レ勝也、量レ敵而後進、慮レ勝而後會、是畏二三軍一者也。〔集注〕孟姓、施發語聲、舍名也。

【孟侍郎】312（マウジラウ）　宋、孟猷（6）をいふ。

【孟習孔】313（マウシフコウ）　明、武昌の人。字は魯難。萬曆の進士。官は太僕卿。

【孟襄陽】314（マウジヤウヤウ）　孟浩然（294）を見よ。

【孟叔子】315（マウシユクシ）　明、孟稱舜（319）をいふ。

【孟淑卿】316（マウシユクケイ）　明、姑蘇の人。孟澄の女。才辨があり、詩に巧で、荊山居士と號す。その言論は人の宗とする所と爲る。〔明詩綜、四十六〕。

【孟承誨】317（マウショウクワイ）　五代晉、大名の人。高祖の時、檢校司空太府卿・右武衞大將軍に累官したが、後、張彥澤に殺さる。〔舊五代史、九十六〕。

【孟承光】318（マウショウクワウ）　明、鄒縣の人。孟子の後。字は永觀。五經博士を襲ぐ。天啓二年、妖賊徐鴻儒に殺され、尙寶少卿を贈らる。〔明史、二百八十四〕・〔明史稿、二百七十一〕。

【孟稱舜】319（マウショウシユン）　明、會稽の人。字は子若。又、子適に作る。崇禎の諸生。詞曲に巧。著に孟叔子史發・桃花人面等の雜劇がある。〔明詞綜、八〕。

【孟宗獻】320（マウソウケン）　金、開封の人。字は友之。大定中、鄕府省廷の四試に皆第一であつたので、時人、孟四元と號す。官は供奉翰林。後、曹王府文學、兼記室。詞に巧。自ら虛靜居士と號す。後、同知單州軍事を授けらる。〔金史、一百二十五〕。

【孟宗儒】321（マウソウジユ）　宋の人。初、道士となつたが、後、石介に從つて春秋を受け、遂に巾服を棄てて儒と爲る。介、名を宗儒と改めしむ。〔宋元學案、二〕。

【孟宗政】322（マウソウセイ）　宋、絳州の人。隨州に徙る。字は德夫。開禧の閒、金人を拒いで京西鈐轄となり、棗陽軍を知す。金人恐れて孟爺爺といふ。〔宋史、四百三〕・〔宋史新編、一百五十〕・〔南宋書、五十一〕。

【孟速思】323（マウソクシ）　元、畏兀の人。諡は智敏。世〻別失八里に居る。年十五にして國書に通ず。太祖に召され、南征の時、斷事官となり、後、武都王に封ぜらる。〔元史、一百二十四〕。

【孟知祥】324（マウチシヤウ）　五代、後蜀、龍岡の人。字は保胤。李克用が其の弟の女を妻はす。東川の董璋と共に反し、兩川の地を幷有す。明宗が招撫して蜀主に封じたが、明宗の崩後、帝位に卽き、國號を蜀といひ、明德と改元し、一年ならずして卒し、子、昶に傳ふ。〔五代史、六十四〕・〔舊五代史、百三十六〕。

【孟忠厚】325（マウチユウコウ）　宋の人。元の孫。哲宗の孟后の兄。字は仁仲。高宗の時、信安郡王に封ぜられ、樞密使に除せられたが、秦檜に忌まれ、罷めて醴泉觀使となる。檜の死後、保寧軍節度使を授けられ、提擧祕書省に卒す。〔宋史、四百六十五〕・〔宋史新編、一百八十三〕・〔南宋書、六十七〕・〔宋大臣年表、二十二〕・〔南宋館閣錄、七〕。

【孟廷珂】326（マウテイカ）　明、武昌の人。字は培之。正德の進士。大理寺副を授けらる。武宗の南巡に上疏極諫して旨に忤ひ、戶部照磨に謫せられたが、嘉靖中、雲南參政に累官す。〔本朝分省人物攷、七十六〕。

【孟兆祥】327（マウテウシヤウ）　明、澤州の人。字は允吉。諡は忠貞。天啓の進士。官は大理左評事・吏部郎中。權門に忤つて行人司副に貶せられ、尋いで光祿丞刑部右侍郎となる。流賊、都城を陷れる

や、正陽門下に自經す。〔明史、二百六十五〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百五十二〕。

【孟超然】328（マウテウゼン）　清、閩縣の人。字は朝擧。號は瓶菴。乾隆の進士。官は吏部郎中。四川の督學となり、廉正を以て稱せらる。歸つて鼇峯書院の主と爲る。其の學、懲忿窒慾遷善改過を以て修身立命の門と爲す。著に喪禮輯略・誠是錄・楚香錄・求復錄・晚聞錄・廣愛錄・象識錄・避暑錄・使粵使蜀日記がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、一百四十五〕・〔國朝先正事略、三十一〕。

【孟東野】329（マウトウヤ）　唐の孟郊をいふ。東野は字。孟郊(28)を見よ。

【孟東野集】330（マウトウヤシフ）　書名。十卷。唐、孟郊撰。樂府・感興上下・詠懷上下・游適上下・居處・行役・紀贈・懷寄・酬答・送別上下・詠物雜題・哀傷・聯句・讃書の十四類に分つ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【孟東野體】331（マウトウヤタイ）　詩體の名。唐の孟郊の詩體。〔滄浪詩話、詩體〕孟東野體。

【孟董溝】332（マウトウコウ）　川の名。四川省理番縣の西から出で、雅谷河に會し、又、東南、廢保縣の北に至つて江に入る。

【孟方立】333（マウハウリツ）　後唐、邢州の人。廣明中、亂に乘じて潞州に據り、自ら昭義軍留後と稱す。後、李克用と戰ひ、敗れて酖死す。〔唐書、一百八十七〕・〔五代史、四十二〕・〔舊五代史、六十二〕。

【孟伯常】334（マウハクジヤウ）　春秋、魯の人。〔墨子、耕柱〕季孫紹與㆓孟伯常㆒治㆓魯國之政㆒。

【孟攀鱗】335（マウハンリン）　元、雲内の人。字は駕之。謚は文定。金の正大の進士。官は朝散大夫招討使。元に入つて翰林待制を授けられ、國史の編纂に與かる。〔元史、一百六十四〕。

【孟斐斯】336（メンフイス）　地名。Memphis の音譯。❶古代埃及の國都。❷アメリカ、テネッシー洲の都邑。

【孟賓于】337（マウヒンウ）　後晉、連州の人。字は國儀。天福の進士。楚王馬希範に召されて零陵從事となる。南唐に歸するに及び、校豐城簿、塗陽令に遷つたが、金錢の不正事件に坐して死罪に論ぜられた。唐主、其の詩名を重んじ、宥して故官に復せしむ。致仕して玉笥山に隱れ、羣玉峯叟と號す。後、水部員外郎に起用せらる。著に金鰲集がある。〔尙友錄、二十〕。

【孟夢恂】338（マウボウジユン）　元、黃巖の人。字は長文。號は森碧。賜謚は康靖。楊玨・陳天瑞に師事し、その推薦によつて本郡學錄を主り、至正中、寇を禦いで宜興判官を授けられたが、赴かずして卒す。著に性理本旨・四書辨疑・漢唐會要・七政疑解・筆海雜錄がある。〔元史、一百九十〕・〔宋元學案、八十二〕。

【孟穆伯】339（マウボクハク）　春秋魯、公孫敖(**2－1452・・472**)をいふ。

【孟養浩】340（マウヤウカウ）　明、湖廣咸寧の人。字は義甫。萬曆の進士。官は左給事。事を以て籍を削られて民となつたが、光宗の時、太常少卿に起用せられ、刑部右侍郎に遷る。〔明史、二百三十三〕・〔萬斯同明史、三百三十七〕・〔明史稿、二百十五〕。

【孟利貞】341（マウリテイ）　唐、華陰の人。詔を受けて許敬宗・郭瑜等と瑤山玉彩五百卷を撰す。著作郎に累遷し、弘文館學士を加へられ、垂拱の初、卒す。著に續文選がある。〔舊唐書、一百九十上〕。

【孟良梯】342（マウリヤウテイ）　五代周の孟良が、信州の蠻を伐つ時に用ひた梯。四川省奉節縣の東、大江中の石壁。孟良は或は王亮の誤。〔洪良品、東歸錄〕後周天和元年、信州蠻冉令賢等據㆓巴峽㆒反、自帥㆓精銳㆒固守㆓水邏城㆒、周將陸騰進討、乃遣㆓別將王亮㆒帥㆑衆渡㆑江、因分㆑道攻㆓水邏㆒、路經㆓石壁城㆒、其城險峻、四面壁立、惟有㆓一小路㆒、緣㆑梯而上、蠻蛋以爲㆔險絕非㆓兵衆所㆑行、陸被㆑甲、先登克㆑之、今此地峭壁斗立、疑卽其處、孟良・或卽王亮之訛歟。

【孟龍符】343（マウリヨウフ）　南朝宋の人。懷玉の弟。武帝の時軍功を以て平昌縣子に封ぜられ、龍驤將軍・廣川太守を加へらる。帝、廣固を伐つや前鋒となり、臨朐に戰つて敗死す。〔宋書、四十七〕・〔南史、十七〕。

【孟鄰堂】344（マウリンダウ）　清、楊椿(**6－15112・・281**)の室「名。

【孟曰取㆑義】345（マウイハクギヲトル）　孟は孟子、取㆑義は舍㆑生取㆑義の略。孟子は生命を抛つて義を行ふべきことを述べて居る。宋の文天祥の衣帶中の贊の語。〔宋史、文天祥傳〕其衣帶中有㆑贊曰、孔曰成㆑仁、孟曰取㆑義、惟其義盡、所㆓以仁至㆒、讀㆓聖賢書㆒、所㆑學何事、而今而後、庶㆓幾無㆑媿。

【孟詩韓筆】346（マウシカンピツ）　唐の孟郊の詩と韓愈の文。共に當時の大家。〔因話錄〕韓文公與㆓孟東野㆒友善、韓公文至高、孟長㆓於五言㆒、時號㆓孟詩韓筆㆒。

【孟仲叔季】347（マウチユウシユクキ）　兄弟の順序。長子・次子・三子・四子の稱。〔左氏、隱、元、惠公元妃孟子、疏〕孟・仲・叔・季、兄弟姊妹長幼之別字也、孟・伯、俱長也、禮緯云、庶長稱㆑孟、然則適妻之子長者稱㆑伯、妾子長㆓於妻子㆒則稱爲㆑孟、所㆔以別㆓適庶㆒也。

【孠】6961

シ

嗣(**2－4109**)の古字。〔說文〕嗣、孠、古文嗣从㆑子。

【孡】6962

タイ　〔集韻〕湯來切　［灰］

はらむ。又、はじめ。胎(**9－29369**)に同じ。〔集韻〕胎、說文、婦孕三月也、一曰、始也、或作㆑孡。

【𡦂】6963

㈠シ　〔集韻〕七支切　［支］
㈡シ　〔集韻〕祖似切　［紙］

㈠**はらわた。**胔(**9－29413**)に同じ。〔集韻〕胔、人子腸也、或作㆑𡦂。㈡❶**はらわた。**〔集韻〕𡦂、一曰、胔、腸。❷**縣名。**四川省の南境。〔集韻〕𡦂、縣名、在㆓犍爲㆒。

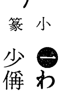
【孢】6964

ハウ
ヘウ　〔玉篇〕平巧切　［巧］

はらむ。〔字彙〕孢、孕也。

【季】6965

キ　〔集韻〕居悸切　［寘］　ㄐㄧˋ　chi^{4}



小篆

❶**わかい。**をさない。〔說文〕季、少偁也、从㆑子从㆓稚省㆒、稚亦聲。〔玉篇〕季、稚也。〔詩、召南、采蘋〕有㆓齊季女㆒。〔傳〕季、少也。❷**すゑこ。**末子。〔釋名、釋親屬〕叔父之弟曰㆓季父㆒、季、癸也、甲乙之次、癸最在㆑下、季亦然也。〔左氏、隱、元、惠公元妃孟子、疏〕孟仲叔季、兄弟姊妹長幼之別字也。〔國語、晉語七〕武子之季。〔注〕季、少子也。❸**すゑ。**をはり。〔穀梁、昭、二十五〕上辛大雩、季辛又雩、季者、有㆑中之辭也。〔注〕不㆑言㆓中辛㆒、中辛無㆑事。〔國語、晉語一〕雖㆑當㆓三季之王㆒。〔注〕季、末也。❹**末年。**衰世。〔任昉、天監三年策㆓秀才㆒文〕齊季斯甚。〔注〕善曰、季、謂㆓末年㆒。❺**成熟しない。**〔周禮、地官、山虞〕凡服㆑耜斬㆓季材㆒。〔注〕季、猶㆑穉也。❻**小さい。**〔儀禮、特牲饋食禮〕挂㆓于季指㆒。〔注〕季、小也。❼**こまかい。**〔管子、乘馬〕季絹三十三、制當㆓一鎰㆒。〔注〕季絹、細絹也。❽**いやしい。**ひくい。〔管子、乘馬、季絹、注〕三等、其下者曰㆑季。❾**三月を一季といふ。轉じて、時の一くぎり。又、とき。をり。**時節。〔白居易、上陽宮人詩〕四季徒支㆓妝粉錢㆒。〔資治通鑑、唐紀、德宗貞元九年、注〕三月爲㆓一季㆒。❿**姓。**〔通志、氏族略、以㆑次爲㆑氏〕季姓、魯桓公季子友之後也、亦曰㆓季孫氏㆒、一曰、陸終氏之子季連之後。［邦］俳句に詠みいれる四斯折り折りの景物。

［名乘］　スヱ。トシ。ヒデ。

解字 會意形聲。稚の省畫と子との合字。稚も幼い意。幼少の者の稱。稚は又、音符。轉じて、末子の意とし、又、時節の意に用ひる。〔說文通訓定聲〕季、少稱也、从㆑子从㆓稚省㆒、會意、稚亦聲。

【季夷】1イキ 字號。❶宋、王嵎（7－20823··271）の字。❷元、汪灝（6－17154··24）の字。

【季偉】2キヰ 後漢、茅容（9－30836··94）の字。

【季友】3キイウ ❶春秋、魯の桓公の子。莊公の弟。一に成季と稱す。莊公卒し、季友、其の子班を立つ。班、慶父に殺されて季友、陳に奔る。後、班の子申を立てて僖公とす。軍を率ゐて莒の軍を鄗に破り、費に封ぜられ、相となる。其の子孫、季孫氏となる。三桓の一。〔左氏、莊、二十七・三十二・閔、元・僖、元〕・〔史記、三十三〕。❷字號。㋑後漢、胡母班（9－29400··338）の字。㋺南朝宋、傅亮（1－939··132）の字。㋩梁、劉子孺（2－2224··968）の字。㋥宋、鄒近仁（11－39562··79）の字。㋭元、顧諒（12－43689··200）の字。㋬清、王鴻緒（7－20823··1469）の字。

〔季友伯兄〕4キイウハクケイ 交はりの深い友をいふ。〔宋之問、餞㆓湖州薛司馬㆒詩〕交深季作㆑友、義重伯爲㆑兄。

【季祐】6キイウ 後魏、郭祚（11－39474··151）の字。

【季牖】7キイウ 宋、李如篪（6－14459··1479）の字。

【季一】8キイツ 宋、晁貫之（5－13889··13）の字。

【季允】9キイン 宋、李亶（6－14459··464）の字。

【季尹】10キイン 複姓。〔萬姓統譜〕季尹然、楚人。

【季隱】11キイン 宋、單鍔（2－3993··45）の字。

【季蔚】12キウツ 清、顧豹文（12－43689··363）の字。

【季雲】13キウン 後魏、柳遠（6－14662··29）の字。

【季永】14キエイ 字號。❶宋、胡泳（9－29400··16）の字。❷宋、吳昌裔（2－3365··643）の字。

【季英】15キエイ 字號。❶後漢、吳祐（2－3365··7）の字。❷梁、蕭乂理（9－32012··314）の字。❸宋、鄭彥（11－39647··122）の字。

【季瑩】16キエイ 清、李聯琇（6－14459··2012）の字。

【季嬰】17キエイ 複姓。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕季嬰氏、世本、晉樓季嬰之後。

【季姚】18キエウ 宋、李元崇（6－14459··1170）の字。

【季葉】19キエフ 澆季の世。衰世。末世。〔張載、七哀詩〕季世喪亂起。〔注〕季世、五臣作㆑葉。〔王融、永明九年策㆓秀才㆒文〕百鍰輕科、反行㆓季葉㆒、四支重罰、奚創㆓前古㆒。

【季淵】20キエン ❶元の人。逢昌の子。字は宗源。官は蘄州路總管。❷宋、兪浙（1－1437··46）の字。

【季琰】21キエン 晉、王珉（7－20823··920）の字。

【季遠】22キヱン 宋、皮龍榮（8－22823··156）の字。

【季溫】23キヲン 元、王友直（7－20823··1141）の字。

【季可】24キカ 宋、徐大受（4－10110··551）の字。

【季夏】25キカ ❶夏の末。陰曆六月の異稱。晚夏。〔禮、月令〕季夏之月、日在㆑柳、昏火中、旦奎中。〔淮南子、時則訓〕季夏之月、招搖指㆑未。〔揚雄、反離騷〕遭㆓季夏之凝霜㆒。❷晉、武茂（6－16273··360）の字。

〔季夏紀〕26キカキ 呂氏春秋の篇名。季夏・音律・音初・制樂・明理の五篇がある。

【季遐】27キカ 魚の名。鰕（12－46346）の異名。〔事物異名錄、水族、鰕〕水族加恩簿、玉德公季遐、純潔內含、爽妙外濟、可㆓青綃內相、頡羹郡王㆒、按、謂㆑鰕也。

【季嘉】28カキ 宋、王時會（7－20823··1608）の字。

【季霞】29カキ 明、龍孔蒸（12－48818··670）の字。

【季雅】30ガキ ❶五升を容れる杯の名。〔魏文帝、典論、酒誨〕荊州牧劉表、跨㆓有南土㆒、子弟驕貴、並好㆑酒、爲㆓三爵㆒、大曰㆓伯雅㆒、次曰㆓仲雅㆒、小曰㆓季雅㆒、伯雅受㆓七升㆒、仲雅受㆓六升㆒、季雅受㆓五升㆒。❷字號。㋑後漢、杜篤（6－14477··207）の字。㋺晉、褚陶（10－34457··28）の字。㋩清、劉元化（2－2224··882）の字。

【季海】31キカイ 字號。❶唐、徐浩（4－10110··44）の字。❷宋、王淮（7－20823··1105）の字。

【季凱】32キガイ 宋、孔元龍（3－6933··293）の字。

【季亨】33キカウ 宋、董鼎（9－31433··133）の字。

【季皐】34キカウ 宋、胡襄（9－29400··176）の字。

【季高】35キカウ 字號。❶後漢、吳雄（2－3365··390）の字。❷南朝宋、孫處（3－6987··168）の字。❸北齊、王皓（7－20823··143）の字。❹陳、沈君高（6－17189··484）の字。❺宋、蔣允升（9－31820··116）の字。❻宋、杜燧（6－14477··165）の字。❼清、左宗棠（4－8720··469）の字。

【季衡】36キカウ 明、陸行直（11－41708··273）の字。

【季蘅】37キカウ 元、允若（1－1338··53）の字。

【季角】38キカク 清、汪懋麟（6－17154··341）の字。

【季咸】39キカン 鄭の神巫の名。よく人の死生禍福壽夭を知るといふ。〔列子、黃帝〕有㆓神巫㆒、自㆑齊來處㆓於鄭㆒、命曰㆓季咸㆒、知㆓人死生存亡、禍福壽夭㆒。〔莊子、應帝王〕鄭有㆓神巫㆒曰㆓季咸㆒、知㆓人死生存亡、禍福壽夭㆒、期以㆓歲月旬日㆒若㆑神。〔釋文〕李云、女曰㆑巫、男曰㆑覡、季咸、名。〔書言故事大全、巫者類〕奬㆓巫者㆒曰㆑得㆓季咸之祕術㆒。

【季漢】40キカン 劉備の建てた蜀漢をいふ。蜀の楊戲は、嘗て季漢輔臣贊を著はした。〔蜀志、諸葛亮傳〕將㆘建㆓殊功㆒平㆓季漢㆒、參㆗伊周之巨勳㆖。

【季嫻】41キカン ❶清、興化の女子。字は靜婉。李氏に嫁す。前明の閨閣諸詩を選して閨秀集初編を編す。〔蘭臺法鑑錄、二〕。❷清、方蔭華（5－13620··482）の字。

【季寄】43キヨセ 俳諧に詠む事物を、季節によつて分類したもの。

【季暉】44キキ 南齊、蕭遙昌（9－32012··302）の字。

【季義】45キギ 晉、許孜（10－35298··103）の字。

【季仇】46キキウ 清、楊峴（6－15112··130）の字。

【季休】47キキウ 三國蜀、楊洪（6－15112··154）の字。

【季逑】48キキウ 清、孫星衍（3－6987··459）の字。

【季況】49キキヤウ 春秋齊、公晳哀（2－1452··423）の字。

【季睍】50キキヤウ 清、周星詒（2－3441··738）の字。

【季卬】51キギヤウ 宋、廖顒（4－9464··11）の字。

【季恭】52キキヨウ 字號。❶南朝宋、孔靖（3－6933··156）の字。❷後魏、盧道約（8－23050··272）の字。

【季玉】53キギヨク 字號。❶三國蜀、劉璋（2－2224··343）の字。❷清、蔡琬（9－31818··16）の字。❸清、潘曾瑋（7－18236··192）の字。

【季欽】54キキン 宋、魯訔（12－46013··26）の字。

【季禺】55キグ 大荒中にある國の名。〔山海經、大荒南經〕大荒之中、有㆓季禺之國㆒、顓頊之子食㆑黍。

【季遇】56キグウ 後漢、耿曄（9－29026··6）の字。

【季瓜】57キクワ 複姓。〔萬姓統譜〕季瓜忠、漢人。

【季和】58キクワ 字號。❶後漢、荀淑（9－30929··40）の字。❷晉、李憙（6－14459··189）の字。❸後魏、辛少雍（10－38630··109）の字。❹梁、殷鈞（6－16627··40）の字。❺陳、司馬申（2－3257··274）の字。❻宋、孫應時（3－6987··339）の字。❼宋、趙安易（10－37171··389）の字。❽宋、龐崇穆（12－48824··60）の字。❾元、李孝光（6－14459··943）の字。❿明、柯昶（6－14658··19）の字。⓫明、洪鍾（崇仁の人）（6－17402··110）の字。⓬清、書誠（5－13928··153）の字。⓭清、沈淑（6－17189··206）の字。⓮清、趙爾豐（10－37171··650）の字。

【季華】59キクワ 字號。❶北周、柳檜（6－14662··75）の字。❷宋、賈琰（10－36755··14）の字。

【季騧】60キクワ 複姓。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕季騧、周八士季騧之後。

【季晦】61キクワイ 明、劉一燝（2－2224··681）の字。

【季懷】62キクワイ 清、薛福保（9－32123··244）の字。

【季宏】63キクワウ 元、陸廣（11－41708··74）の字。

【季君】64キクン 字號。❶漢、賈護（10－36755··52）の字。❷漢、韓增（12－43159··158）の字。

【季珪】65キケイ 字號。❶三國魏、崔琰（4－8178··16）の字。❷南齊、傅琰（1－939··13）の字。

〔季珪士首〕66キケイシシユ 蒙求の標題。三國、魏の崔琰、字は季珪は、甚だ威重があり、朝野之を瞻望したが、崔林嘗て陳羣と冀州の人士を論じ、季珪を以て首とした故事。〔魏志、崔琰傳、注〕魏略曰、明帝時、崔林嘗與㆓司空陳羣㆒、共論㆓冀州人士㆒、稱㆑琰爲㆑首。

【季卿】67キケイ 字號。❶漢、橋仁（6－15526··38）の字。❷陳、殷不佞（6－16627··205）の字。❸明、趙秉忠（10－37171··885）の字。

【季馨】68キケイ 明、蕭如薰（9－32012··413）の字。

【季月】69キゲツ 四時の終の月。陰曆の三月・六月・九月・十二月の稱。〔北史、魏孝文帝紀〕自㆑今選舉、每以㆓季月㆒、本曹與㆓吏部㆒銓簡。〔江淹、雜體詩、袁太尉淑從駕〕詔㆑徒登㆓季月㆒、戒㆑鳳藻㆓行川㆒。〔宋晳、貧家賦〕涉㆓孟夏之季月㆒、迄㆓仲冬之堅冰㆒。

【季業】70キゲフ 後魏、元子孝（1－1340··669）の字。

【季堅】71キケン 字號。❶晉、庾冰（4－9398··40）の

字。❷後魏、崔道固(4－8178‥298)の字。

【季絹】72キケン 織目の細緻な上等のきぬ。細絹。〔管子、乘馬〕季絹三十三制、當二一鎰一。〔纂詁〕季、小也、猶レ言二細一、謂二絹質細緻者一。

【季賢】73キケン 元、劉君擧(2－2224‥849)の字。

【季權】74キケン 唐、張鎰(4－9812‥26)の字。

【季顯】75キケン 後魏、李曄(6－14459‥74)の字。

【季玄】76キゲン 晉、何澄(1－511‥160)の字。

【季彥】77キゲン 晉、裴秀(10－34362‥44)の字。

〖季彥領袖〗78キゲンリヤウシウ 蒙求の標題。晉の裴秀、字は季彥が、幼にして俊秀、夙に盛望があり、人の領袖たるべき器量を具へてゐた故事。〔晉書、裴秀傳〕裴秀、字季彥、時人爲レ之語曰、後進領袖、有二裴秀一。

【季源】79キゲン 字號。❶元、袁洪(10－34152‥59)の字。❷清、蓋方泌(9－31652‥95)の字。

【季庫】80キコ 三箇月を一季とし、其の季の終る每に物を納める庫。〔資治通鑑、唐紀〕德宗貞元九年、請別置二欠負耗賸季庫一以掌レ之。〔注〕三月爲二一季一、凡三月終、則入二物于庫一、故謂二之季庫一。

【季公】81キコウ 字號。❶後漢、李玆(6－14459‥399)の字。❷宋、朱輔(6－14424‥546)の字。❸明、秦四鱗(8－24995‥226)の字。

【季弘】82キコウ 元、陸廣(11－41708‥74)の字。

【季侯】83キコウ 字號。❶明、周宗建(2－3441‥760)の字。❷清、黃鳴傑(12－47926‥1331)の字。

【季厚】84キコウ 宋、鄭覃(11－39647‥213)の字。

【季恆】85キコウ 明、屈昉(4－7669‥123)の字。

【季洪】86キコウ 字號。❶明、衞浩(10－34074‥12)の字。❷清、曾國葆(5－14299‥191)の字。

【季候】87キコウ 氣候(6－17059‥68)に同じ。

〖季候風〗88キコウフウ 季節の變化に伴ひ方向の變ずる氣流。一定の時季每に相反する方向に吹く風。殊に印度洋で、五月中旬頃から九月中旬頃まで吹く南西風、又、十月中旬頃から十二月中旬頃まで吹く北東風の稱。季節風。Monsoon

【季興】89キコウ ❶末の代に盛に興ること。〔魏志、武帝紀、注〕三輔決錄注曰、覩二漢祚將レ移、謂レ可二季興一。〔蜀志、呂凱傳〕今諸葛丞相、英才挺出、深覯レ未レ萠、受三遺二託孤一、翊二贊季興一。❷字號。㋑後漢、曹騰(5－14297‥153)の字。㋺宋、董熠(9－31433‥5)の字。

【季鴻】90キコウ 清、許乃普(10－35298‥353)の字。

【季克】91キコク 宋、呂勝己(2－3386‥217)の字。

【季才】92キサイ 字號。❶三國魏、徐奕(4－10110‥16)の字。❷三國魏、楊俊(6－15112‥209)の字。❸宋、范蓀(9－30834‥84)の字。

〖季才拜〗93キサイノハイ 梁の范雲の子、范孝才は年十四歲でよく同年の劉孝綽を兄として拜した故事。よく人を見て其の下につくこと。〔梁書、劉孝綽傳〕范雲、年長レ綰十餘歲、其子孝才與二孝綽一年竝十四五、及三雲遇二孝綽一、便申二伯季一、乃命二孝才一拜レ之。

【季材】94キザイ わか木。若く柔らかい木材。〔周禮、地官、山虞〕凡服レ耜斬二季材一、以レ時入レ之。〔注〕季、猶レ穉也。

【季莊】95キサウ 字號。❶宋、蔣璯(9－31820‥33)の字。❷明、劉端(2－2224‥485)の字。

【季札】96キサツ 春秋、吳の人。吳王壽夢の第四子。壽夢は季札の賢なるを見て、之に位を傳へんとしたが受けず。延陵に封ぜられたので、延陵の季子といふ。上國に歷聘せられて偏く當世の賢士大夫に交はる。魯に使して周の樂を見、列國の治亂興亡を知り、周の王たる所以をいひ、又、上國に使して徐に過り、其の君が札の劍を欲するを知つて、歸途、之を贈らんとしたが、徐君は既に死んでゐたので、劍を其の冢の樹に繫けて初志を遂げた。延州來季子。〔左氏、襄、十四・襄、三十一・昭、二十七〕・〔史記、三十一〕。

吳季子墓碑
（金石索）

延陵季子
（三才圖會）

〖季札挂レ劍〗97キサツケンヲカク 蒙求の標題。春秋、吳の季札が徐國の君の冢の樹に其の寶劍を挂けて自己の心の約束を果した故事。信を重んずる喩。季札を見よ。〔史記、吳太伯世家〕季札之初使、北過二徐君一、徐君好二季札劍一、口弗二敢言一、季札心知レ之、爲レ使二上國一未レ獻、還至レ徐、徐君已死、於レ是乃解二其寶劍一、繫二之徐君冢樹一而去、從者曰、徐君已死、尙誰予乎、季子曰、不レ然、始吾心已許レ之、豈以レ死倍二吾心一哉。

【季山】98キサン 字號。❶後漢、許峻(10－35298‥120)の字。❷宋、邵景之(11－39343‥104)の字。

【季產】99キサン 後漢、鄭眾(11－39647‥167)の字。

【季子】100キシ ❶吳の季札をいふ。季札(96)を見よ。〔左氏、襄、三十一〕趙文子問レ焉曰、延州來季子、其果立乎。❷次子をいふ。〔類書纂要、人道部〕次息・季子・亞子、以上竝次子之稱。❸末の子。末子。一說に、戰國の時の蘇秦の字。〔史記、蘇秦傳〕出游數歲、大困而歸、兄弟嫂妹妻妾、竊皆笑レ之、云云、蘇秦爲二從約長一、幷二相六國一、北報二趙王一、乃行過二雒陽一、車騎輜重、諸侯各發レ使送レ之甚衆、擬二於王者一、周顯王聞レ之恐懼、除レ道使二人郊勞一、蘇秦之昆弟妻嫂、側レ目不二敢仰視一、俯伏侍取レ食、蘇秦笑謂二其嫂一曰、何前倨而後恭也、嫂委蛇蒲服、以レ面掩レ地、而謝曰、見二季子位高金多一也。〔注〕集解曰、譙周曰、蘇秦、字季子、索隱曰、按、其嫂呼二小叔一爲二季子一耳、未二必卽其字一、允南卽以爲レ字、未二之得一也。❹字號。㋑春秋、晉、臼季(9－30173‥1)の字。㋺戰國、蘇秦(9－32427‥107)の字。㋩後漢、李歷(6－14459‥808)の字。㋥晉、杜友(6－14477‥6)の字。㋭隋、楊杲(6－15112‥50)の字。㋬清、魏禮(12－45872‥149)の號。㋣清、阮濬(11－41569‥19)の字。

〖季子不レ禮二於其嫂一〗101キシノサウニレイセラレズ 戰國時代の蘇秦が初、出遊し、困窮して歸つた時、妻は機から下らうとせず、嫂(兄よめ)は食事の用意をしようともせず、甚だ冷淡な取扱ひを受けたこと。嫂はあによめ。季子の❸を見よ。〔戰國、秦策〕蘇秦始將二連衡一說二秦王一、云云、書十上而說不レ行、黑貂之裘敝、黃金百斤盡、資用乏絕、去レ秦而歸、羸レ縢履レ蹻、負レ書擔レ橐、形容枯槁、面目黧黑、狀有二愧色一、歸至レ家、妻不レ降レ紝、嫂不二爲炊一、父母不二與言一、蘇秦喟然歎曰、妻不二以レ我爲レ夫、嫂不二以レ我爲レ叔、父母不二以レ我爲レ子、是皆秦之罪也。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕若下季子不レ禮二於其嫂一、買臣見上レ棄二於其妻一。

【季氏】102キシ ❶魯の季孫氏。莊公の弟の季友の後。友より以下、其の子孫の季孫行父・季孫宿等、世々大夫となり、魯の政を執つたので、季氏の權勢は日に盛にして公族は日に衰へた。昭公の時、季孫意如、政を秉り、公は忿に勝へず、兵を興して伐つたが克たず、反つて逐はれて齊に出奔す。後、季孫斯に至り、家臣の陽虎が權を擅にし、季氏は漸く衰へた。〔左氏、閔、二〕季氏亡則魯不レ昌。〔論語、八佾〕孔子謂二季氏一。〔集注〕季氏、魯大夫季孫氏也。❷論語の篇名。

〖季氏宰〗103キシノサイ 季氏の代官。季氏は魯の卿、宰は其の家臣で一家の政をとるもの。〔論語、子路〕仲弓爲二季氏宰一。

【季思】104キシ 字號。❶晉、甘卓(7－21643‥143)の字。❷宋、洪夢炎(6－17402‥271)の字。❸宋、章康(8－25761‥21)の字。❹明、歸子慕(6－16349‥311)の字。

【季指】105キシ こゆび。小指。〔儀禮、特牲饋食禮〕挂二于季指一。〔注〕季、小也、實二于左袂一、挂レ祛以二小指一。

【季疵】106キシ 唐、陸羽(11－41708‥11)の字。

【季次】107キジ 春秋齊、公晳哀(2－1452‥423)の字。

【季似】108キジ 複姓。〔萬姓統譜〕季似忠、漢人。

【季兒】109キジ ❶季子。すゑつこ。❷漢、友娣(2－3119‥79)の字。

【季時】110キジ 明、顧允成(12－43689‥218)の字。

【季慈】111キジ 宋、陳烈(11－41698‥609)の字。

【季秋】112キシウ 秋の末。陰曆九月の異稱。晚秋。〔禮、月令〕季秋之月、日在レ房、昏虛中、旦柳中。〔淮南子、時則訓〕季秋之月、招搖指レ戌。〔謝靈運、九日從二宋公戲馬台集一送二孔令一詩〕季秋邊朔苦。

〖季秋紀〗113キシウキ 呂氏春秋の篇名。季秋・順民・知士・審己・精通の五篇がある。

【季修】114キシウ 明、張振德(4－9812‥1216)の字。

【季尙】115キシヤウ 南齊の海陵王、蕭昭文(9－32012‥434)の字。

【季商】116キシヤウ 九月の異稱。〔梁元帝纂要〕九月曰二季秋一、亦曰二暮秋・末秋・暮商・季商・杪商一、亦曰二元月一。

【季將】117キシヤウ 後漢、孔宙(3－6933‥177)の字。

【季祥】118キシヤウ 明、嚴鳳(2－4589‥230)の字。

【季章】119キシヤウ 字號。㊀宋、李璧(6－14459‥727)の字。㊁元、吳大素(2－3365‥750)の字。

【季翔】120キシヤウ 明、貝翱(10－36656‥6)の字。

【季常】121キジヤウ 字號。㊀三國蜀、馬良(12－44572‥620)の字。㊁宋、薛疑之(9－32123‥157)の字。㊂宋、陳慥(11－41698‥262)の字。㊃宋、陳最(11－41698‥272)の字。㊄元、郝庸(11－39430‥28)の字。㊅明、吳繼序(2－3365‥533)の字。㊆明、柴經(6－14664‥28)の字。㊇明、彭愼(4－10003‥72)の字。

〖季常癖〗122キジヤウヘキ 細君を懼れること。宋の陳慥、字は季常が常に嫉妬深い妻を懼れた故事。〔容齋三筆、陳季常〕陳慥、字季常、公弼之子、居二於黃州之岐亭一、自稱二龍丘先生一、又曰二方山子一、好二賓客一、喜畜二聲妓一、然其妻柳氏絕兇妬、故東坡有レ詩云、龍丘居士亦可レ憐、談二空說一有二夜不レ眠、忽聞二河東師子吼一、拄レ杖落レ手心茫然、河東師子、指二柳氏一也、坡又嘗醉中與二季常一書云、一絕乞二秀英君一、想是其妾小字、黃魯直、元祐中、有下與二季常一簡上、曰、審柳夫人時須二醫藥一、今已安平否、公暮年來想三漸求二清淨之樂一、姬媵無二新進一矣、柳夫人比何所レ念以致レ疾邪、又一帖云、承レ諭老境情味、法當レ如レ此、所レ苦既不レ妨、游二觀山川一、自可下損二藥石一、調中護起居飲食上而已、河東夫人亦能哀二憐老大一、一任放不レ解レ事邪、則柳氏之妬名、固彰二著于外一、是以二公皆言レ之云。

【季讓】123キジヤウ 後魏、崔孝政(4－8178‥209)の字。

【季爵】124キシヤク 明、夏時正(3－5720‥319)の字。

【季弱】125キジヤク 唐、尹思貞(4－7631‥120)の字。

【季主】126キシユ ㊀卜者の名。楚の人。漢の賈誼等と同時の人。司馬季主。〔史記、日者傳〕司馬季主者、楚人也、卜二於長安東市一。〔注〕索隱曰、按、云二楚人一、而太史公不レ序二其系一、蓋楚相司馬子期・子反後、芈姓也。〔張協、雜詩〕歲暮懷二百憂一、將下從二季主一卜上。〔注〕善曰、史記曰、司馬季主者、楚人也、卜二於長安東市一。㊁後漢、馬員(12－44572‥35)の字。

【季夙】127キシユク 複姓。〔潛夫論、志氏姓〕凡郄氏之班、有二冀氏・呂氏苦成一也、云云、羊舌氏・季夙氏、云云、及襄公之孫孫黶、皆晉姬姓也。

【季叔】128キシユク 年長けぬもの。若い者。〔耶律楚材、冬夜彈レ琴云云遺二猶子蘭一詩〕能繼二箕裘業一、待レ予爲二季叔一。

【季述】129キジユツ 明、鄭述(11－39647‥170)の字。

【季春】130キシユン ㊀春の末。陰曆三月の異稱。晚春。〔禮、月令〕季春之月、日在レ胃、昏七星中、旦牽牛中。〔淮南子、時則訓〕季春之月、招搖指レ辰。〔後漢書、梁鴻傳〕惟季春兮華阜、麥含含兮方秀。㊁漢、丘訢(1－33‥25)の字。

〖季春紀〗131キシユンキ 呂氏春秋の篇名。季春・盡數・先己・論人・圜道の五篇がある。

【季儁】132キシユン 後魏、路思令(10－37524‥122)の字。

【季純】133キジユン 宋、李弁(6－14459‥78)の字。

【季順】134キジユン 後魏、陸恭之(11－41708‥292)の字。

【季初】135キシヨ 字號。㊀晉、楊肇(6－15112‥289)の字。㊁北齊、李渾(6－14459‥346)の字。

【季緒】136キシヨ 北齊、吳遵世(2－3365‥661)の字。

【季舒】137キジヨ 晉、裴綽(10－34362‥49)の字。

【季升】138キシヨウ 明、許進(10－35298‥132)の字。

【季心】139キシン 漢の人。布の弟。氣は關中を蓋ひ、勇を以て聞ゆ。任俠、且、人を遇するに恭謹。方數千里の士、爭うて爲に死せんとす。嘗て中尉の司馬と爲る。〔前漢書、三十七〕。

【季申】140キシン 字號。㊀宋、方崧卿(5－13620‥560)の字。㊁宋、富直柔(3－7230‥188)の字。

【季岑】141キシン 宋、黃彥平(12－47926‥1084)の字。

【季眞】142キシン 字號。㊀後魏、李璞(6－14459‥66)の字。㊁唐、賀知章(10－36725‥143)の字。㊂宋、鄭若沖(11－39647‥435)の字。㊃宋、董眞卿(9－31433‥223)の字。

【季深】143キシン 字號。㊀明、潘濬(7－18236‥51)の字。㊁清、陶季(11－41705‥38)の字。

【季仁】144キジン 字號。㊀宋、趙師恕(10－37171‥629)の字。㊁元、吳方(2－3365‥346)の字。

【季壬】145キジン 宋、陳桷(11－41698‥96)の字。

【季隨】146キズイ ㊀複姓。〔論語、微子〕周有二八士一、伯達・伯适・仲突・仲忽・叔夜・叔夏・季隨・季騧。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕季隨氏、世本、周八士季隨之後。㊁宋、胡大時(9－29400‥541)の字。

【季世】147キセイ 末の世。風俗道義などの衰へた時代。澆季の世。叔世。〔左氏、昭、三〕叔向問二晏子一曰、齊其如何、晏子曰、此季世也、叔向曰、然、雖二吾公室一、亦季世也。〔晏子、問、下〕此季世也。〔史記、儒林傳論贊〕及レ至二秦之季世一、焚二詩書一、坑二術士一。〔漢書、儒林傳序〕以二聖德一遭二季世一。〔鹽鐵論、授時〕夏商之季世、無二順民一、俗也。〔張載、七哀詩〕季世喪亂起、賊盜如二豺虎一。

【季正】148キセイ 字號。㊀宋、彭方(4－10003‥98)の字。㊁明、郭端(11－39474‥164)の字。㊂清、鄂爾奇(11－39520‥40)の字。

【季生】149キセイ 元、孟珍(3－6960‥207)の字。

【季成】150キセイ 明、程可久(8－25081‥162)の字。

【季政】151キセイ 後魏、辛匡(10－38630‥17)の字。

【季青】152キセイ 清、汪文柏(6－17154‥336)の字。

【季晟】153キセイ 隋、長孫晟(11－41100‥599)の字。

【季齊】154キセイ 後漢、樊英(6－15414‥3)の字。

【季昭】155キセウ 字號。㊀宋、胡夢昱(9－29400‥618)の字。㊁明、陳暹(11－41698‥416)の字。

【季寂】156キセキ 南齊、周山圖(2－3441‥669)の字。

【季節】157キセツ ㊀時節。をり。一年の季節は春夏秋冬の四季に分けられ、この四つは更に孟仲季の三長節に分たれる。この十二の季節は十二箇月に相當する。三長節はなほ二短節に分たれ、一年二十四節氣とせられる。〔夏侯湛、雷賦〕伊朱明之季節兮、暑熾赫以盛興。㊁字號。㋑後漢、韋義(12－43108‥27)の字。㋺後漢、劉瑜(2－2224‥623)の字。

〖季節風〗158キセツフウ 冬季は大陸より大洋へ、夏季は大洋より大陸へ向つて定期的に吹く風。海陸の氣溫の差違によつて生ずる。就中、日本近海・印度・南支那等の季節風は著名である。信風。季候風。Monsoon

【季先】159キセン 唐、強循(4－9815‥102)の字。

【季宣】160キセン 後魏、賈粲(10－36755‥60)の字。

【季泉】161キセン 清、景廉(5－13983‥330)の字。

【季荃】162キセン 清、李鶴章(6－14459‥959)の字。

【季瞻】163キセン 明、石天柱(8－24024‥1003)の字。

【季全】164キゼン 宋、黃補(12－47926‥836)の字。

【季然】165キゼン 字號。㊀三國蜀、程畿(8－25081‥31)の字。㊁後魏、鄭儼(11－39647‥123)の字。

【季祖】166キソ 後魏、袁式(10－34152‥72)の字。

〖季祖母〗167キソボ ㊀父の從兄弟の母をいふ。〔稱謂錄、父之世母叔母、季祖母〕漢曹全碑、收二養季祖母一、按、古稱二叔父一爲二季父一、叔母爲二季母一、知三此爲二叔祖母一矣。㊁祖父の妾をいふ。〔稱謂錄、祖之妾、季祖母〕潛研堂金石文跋尾、季祖母、猶レ言二庶祖母一也。

【季宗】168キソウ 後漢、田鳳(7－21723‥286)の字。

【季聰】169キソウ 明、林聰(6－14554‥170)の字。

【季則】169′キソク 後漢、馬續(12－44572‥329)の字。

【季萴】170キソク ㊀上古の人。虞夏の時の諸侯。〔左氏、昭、二十〕昔爽鳩氏、始居二此地一、季萴因レ之。〔注〕季萴、虞夏諸侯代二爽鳩氏一者也。〔晏子、重而異者〕昔爽鳩氏、始居二此地一、季萴因レ之。㊁後魏、崔楷(4－8178‥23)の字。

【季孫】171キソン ㊀末の孫。末孫。㊁複姓。季孫氏を見よ。〔通志、氏族略、以二族系一爲レ氏〕季孫氏、魯公子季友之後也、亦曰二季氏一。

〖季孫氏〗172キソンシ 春秋、魯の三桓の一。文公以後、世〻國政を執り、其の權勢が漸く強大となつたが、昭公の時、遂に伐たれて齊に奔り、其の臣陽虎が權を擅にするに及んで、始めて衰へた。季氏(102)の㊀を見よ。〔論語、季氏、故夫三桓之子孫微矣、集解〕孔安國曰、三桓、謂二仲孫・叔孫・季孫一、三卿皆出二桓公一、故曰二三桓一也。

〖季孫斯〗173キソンシ 春秋、魯の大夫。諡は桓。意如の子。卽ち季桓子。〔左氏、定、六・八・十二〕。

〖季孫宿〗174キソンシユク 春秋、魯の大夫。諡は武。行父の子。卽ち季武子。〔春秋、襄、六・七・八・九〕・〔左氏、襄、八〕。

〖季孫紹〗175キソンセウ 春秋、魯の人。魯の政を治む。〔墨子、耕柱〕季孫紹與二孟伯常一、治二魯國之政一。

〖季孫肥〗176キソンヒ 春秋、魯の大夫。諡は康。斯の子。卽ち季康子。哀公の末年に卒す。〔左氏、哀、

三〕。

〖季孫意如〗177キソンイジョ 春秋、魯の大夫。謚は平。宿の孫。卽ち季平子。莒を伐つて郠を取る。後、和公に伐たれた。〔春秋、昭、十・十一・十二〕。

〖季孫行父〗178キソンカウホ 春秋、魯の大夫。謚は文。季友の孫。卽ち季文子。文公の初、卿となり、宣・成・襄三君の相となる。事は必ず三思して之を行ひ、儉約を以て自ら守り、其の妾には帛を著せず、馬には粟を食はせなかつた。〔春秋、文、六・十二〕・〔左氏、成、十六〕・〔論語、公冶長第五〕。

【季題】179キダイ 發句によみ込む、季節を表はす語をいふ。

【季道】180キダウ 字號。❶漢、周義山(2－3441・・598)の字。❷後漢、王澤(7－20823・・761)の字。

【季澤】181キタク 宋、兪汝霖(1－1437・・111)の字。

【季諾】182キダク 確に請けあふこと。金諾。漢の季布が然諾を重んじた故事。季布(220)を見よ。〔史記、季布傳〕曹丘至、卽揖二季布一曰、楚人諺曰、得二黃金百斤一、不レ如レ得二季布一諾一。

【季達】183キタツ 宋、王寘(7－20823・・467)の字。

【季智】184キチ 後漢、仇覽(1－355・・60)の字。

【季篪】185キチ 明、常熟の人。字は仲怡。永樂中、經明行修を以て薦められて崑山訓導を授けらる。文學が有り、纂述に勤め、著に友梅集がある。〔續吳先賢讚、十二〕。

【季長】186キチャウ 字號。❶後漢、許武(10－35298・・203)の字。❷後漢、馬融(12－44572・・586)の字。❸唐、翁郜(9－28635・・9)の字。❹宋、程賁(8－25081・・124)の字。❺宋、彭思永(4－10003・・157)の字。❻宋、王貽永(7－20823・・1125)の字。❼明、吳序(2－3365・・233)の字。

【季中】187キチュウ 宋、孫時(3－6987・・140)の字。

【季仲】188キチュウ 上古の人。高辛氏の才子。八元の一人。舜に擧げられて五教を布く。〔左氏、文、十八〕。

【季女】189キヂョ ❶若いむすめ。未婚の女。少女。〔詩、召南、采蘋〕誰其尸レ之、有二齊季女一。〔傳〕季、少也。❷年少い子と、女卽ち民の弱い者と。〔詩、曹風、候人〕婉兮孌兮、季女斯飢。〔傳〕季、人之少子也、女、民之弱者。❸末の娘。すゑむすめ。〔釋親考〕長女・元女・中女・少女・季女。❹花の名。玉簪花(7－20821・・461)の異名。〔事物異名錄、花卉、玉簪〕羣芳譜、玉簪、一名、白鶴仙、一名、季女。

【季重】190キチョウ 字號。❶三國魏、吳質(2－3365・・208)の字。❷明、王思任(7－20823・・1583)の字。

【季徵】191キチョウ 明、王崇獻(7－20823・・1747′)の字。

【季直】192キチョク 字號。❶後漢、摯恂(5－12632・・8)の字。❷三國魏、董遇(9－31433・・49)の字。❸唐、張南史(4－9812・・1431)の字。

【季沈】193キチン 春秋齊、公皙哀(2－1452・・423)の字。

【季通】194キツウ 字號。❶宋、蔡元定(9－31818・・167)の字。❷明、袁繼咸(10－34152・・189)の字。

【季弟】195キテイ 末の弟。〔書、呂刑〕伯父・伯兄・仲叔・季弟・幼子・童孫、皆聽二朕言一。〔傳〕伯仲叔季、順二少長一也。〔唐書、李勣傳〕季弟感、年十五。

【季亭】196キテイ 清、仇廷模(1－355・・68)の字。

【季貞】197キテイ 清、丘象隨(1－33・・146)の字。

【季超】198キテウ 字號。❶清、賈履上(10－36755・・213)の字。❷清、汪越(6－17154・・12)の字。

【季迪】199キテキ 字號。❶明、高啓(12－45313・・243)の字。❷清、姚延啓(3－6202・・131)の字。

【季度】200キド 宋、滕宬(7－18036・・25)の字。

【季冬】201キトウ 冬の末。陰曆十二月の異稱。晩冬。〔禮、月令〕季冬之月。〔淮南子、時則訓〕季冬之月、招搖指レ丑。〔司馬遷、報二任少卿一書〕迫二季冬一。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕季冬風且涼。

〖季冬紀〗202キトウキ 呂氏春秋の篇名。季冬・士節・介立・誠廉・不侵・序意の六篇がある。

【季登】203キトウ 後漢、徐胤(4－10110・・8)の字。

【季騰】204キトウ 清、甯浤(7－21717・・8)の字。

【季德】205キトク ❶少しの德。末德。〔楚辭、天問〕該秉二季德一、厥父是臧。〔注〕季、末也。❷後漢、來豔(1－581・・23)の字。

【季寧】206キネイ 字號。❶後漢、陸康(11－41708・・45)の字。❷明、朱吉(6－14424・・114)の字。

【季年】207キネン 末年。晩年。〔左氏、隱、元〕惠公之季年、敗二宋師于黃一。〔任昉、宣德皇后敦勸二梁王一令〕隆昌季年、勤レ王始著。

【季能】208キノウ 宋、郭游卿(11－39474・・236)の字。

【季方】209キハウ ❶字號。㋑後漢、陳諶(11－41698・・386)の字。㋺明、岳正(4－8001・・20)の字。㋩清、姚念曾(3－6202・・195)の字。㋥清、裘毬(10－34312・・13′)の字。㋭清、徐岳(4－10110・・54)の字。㋬清、李樹穀(6－14459・・1422)の字。❷chi⁴ fang¹ 他人の弟をいふ。

【季寶】210キハウ 三國魏、羊茂(9－28425・・177)の字。

【季望】211キバウ 梁、鍾嶼(11－40672・・69)の字。

【季萬】212キバン 宋、張鎰(4－9812・・26)の字。

【季蕃】213キバン 宋、孫惟信(3－6987・・314)の字。

【季芈】214キビ 春秋、楚の昭王の妹。王が郢に奔るとき、其の臣鍾建が季芈を負うて從つたが、後に王が季芈を嫁せしめんとするや、乞うて鍾建に嫁し、鍾建は樂尹となつた。〔左氏、定、四・五〕。

【季美】215キビ 字號。❶明、尤時熙(4－7543・・49)の字。❷明、朱完(6－14424・・245)の字。❸明、余士瑢(1－515・・89)の字。

【季弼】216キヒツ 三國魏、陳矯(11－41698・・215)の字。

【季賓】217キヒン 明、紹興の人。字は汝和。官は主事。畫に巧。〔畫史會要〕。

【季珉】218キビン 北周、高琳(12－45313・・951)の字。

【季父】219キフ 末のをぢ。父母の末弟。おとをぢ。〔釋名、釋親屬〕叔之弟曰二季父一、季、癸也、甲乙之次、癸、最在レ下、季、亦然也。〔戰國、韓策〕臣之仇、韓相韓傀、傀又韓君之季父也、宗族盛、多二居處一、兵衞甚設、臣使二人刺レ之、終莫二能就一。〔史記、項羽紀〕其季父項梁。〔漢書、楚元王傳〕王曰、季父不二吾與一、我起先取二季父一矣。

【季布】220キフ 漢、楚の人。任俠の名あり。項籍の將となつて數〻漢王を窘しめ、籍が滅んで後、高祖が千金を以て布を求めたので、漢陽の周氏に匿る。後、赦されて、郞中を拜し、尋いで河東守となる。季布は殊に然諾を以て關中に聞え、楚人の諺に、黃金百斤を得るは、季布の一諾を得るに如かずといふ。〔史記、一百〕・〔前漢書、三十七〕。

〖季布一諾〗221キフノイチダク 蒙求の標題。漢の季布が一度承諾すれば必ずそれを守つてかへなかつたといふ故事。季布無二二諾一。〔史記、季布傳〕曹丘至、卽揖二季布一曰、楚人諺曰、得二黃金百斤一、不レ如レ得二季布一諾一、足下何以得二此聲於梁楚閒一哉。

〖季布無二二諾一〗222キフニダクナシ 漢の季布は、一度承知すれば必ず果して、二枚舌をつかふやうな事がなかつた。季布一諾。〔魏徵、述懷詩〕季布無二二諾一、侯嬴重二一言一。

【季孚】223キフ 明、韓一光(12－43159・・245)の字。

【季物】224キモノ 其の季節季節のもの。

【季文】225キブン 字號。❶三國吳、朱異(6－14424・・14)の字。❷後魏、成淹(5－11544・・17)の字。❸宋、沈炳(6－17189・・344)の字。❹宋、淩景夏(2－1669・・135)の字。❺元、盛彧(8－23005・・5)の字。❻明、趙渙(10－37171・・130)の字。

〖季文子〗226キブンシ 春秋、魯の季孫行父をいふ。季孫行父(178)を見よ。〔左氏、文、六〕季文子將レ聘二於晉一。〔注〕季文子、季孫行父也。

〖季文子妾不レ衣レ帛魯人以爲二美談一公孫弘身服二布被一汲黯譏二其多一レ詐〗227キブンシガセフハクヲキズロヒトモツテビダントスコウソンコウミフヒヲフクセルキフアンソノイツハリオホキヲソシレリ 季文子は魯の宰相、公孫弘は漢の丞相、共に節儉であつたが、前者は國人其の廉潔を稱し、後者は同僚の汲黯さへ虛詐の行として之を譏つた。これ其の態度心情に公私あるためである。〔後漢書、王良傳論〕論曰、夫利レ仁者、或借レ仁以從レ利、體レ義者、不レ期レ體以合レ義、季文子妾不レ衣レ帛、魯人以爲二美談一、公孫弘身服二布被一、汲黯譏二其多一レ詐、事實未レ殊、而譽毀別レ義何也、將體レ之與レ利レ之異乎。〔注〕文子、魯卿、季孫行父之謚也、無二衣レ帛之妾一、無二食レ粟之馬一、君子是以知三季文子忠二於公室一、相二三君一矣、而無二私積一、可レ不レ謂レ忠乎、公孫弘、淄川人也、武帝時爲二丞相一、事見二左傳一、公孫弘、汲黯曰、弘以二三公一而身服二布被一、詐也、事見二前書一。

【季平】228キヘイ 字號。❶後漢、爰延(7－19672・・2)の字。❷三國蜀、呂凱(2－3386・・19)の字。❸宋、石待旦(8－24024・・977)の字。❹宋、王偁(7－20823・・606)の字。❺明、司馬隆(2－3257・・322)の字。❻明、陸士隆(11－41708・・330)の字。❼清、廖平(4－9464・・28)の字。

【季平子】229キヘイシ 春秋、魯の大夫。季孫意如(177)を見よ。

【季秉】230キヘイ 宋、李持正(**6―14459**‥1711)の字。

【季豹】231キヘウ ㊀末子。末の男の子。〔事物異名錄、倫屬、子〕山堂肆考、季豹、小男也。㊁清、李夢箕(**6―14459**‥1938)の字。

【季辨】232キベン 宋、李過(**6―14459**‥234)の字。

【季母】233ボキ 末のをば。父母の末妹。おとをば。〔後漢書、順帝紀〕掩二擊匈奴一、大破レ之、獲二其季母一。〔後漢書、西域、車師傳〕獲二單于母季母一。〔注〕季母 叔母也。

【季木】234ボクキ 明、王象春(**7―20823**‥1638)の字。

【季本】235ホンキ 明、會稽の人。字は明德。號は彭山。王陽明に師事す。正德の進士。建寧推官に除せられ、御史となる。著に易學四同・詩說解頤・讀禮疑圖・廟制考儀・樂律纂要等がある。〔明史、二百八十八〕・〔萬斯同明史、三百八十四〕・〔明史稿、一百八十五〕。

【季妹】236キマイ 末の妹。〔稱謂錄、妹、季妹〕北魏司馬景和妻誌銘、陳郡府君之季妹、見二碑版廣例一。

【季孟】237キマウ ㊀魯の大夫、季孫氏と孟孫氏。季孟閒を見よ。〔論語、微子〕齊景公待二孔子一曰、若二季氏一則吾不レ能、以二季・孟之閒一待レ之。〔集解〕孔安國曰、魯三卿、季氏爲二上卿一、孟氏爲二下卿一。〔漢書、劉向傳〕孔子與二季・孟一偕仕二於魯一。㊁後漢、隗囂(**11―41788**‥1)の字。

〔季孟閒〕238キマウノカン ㊀季孫氏と孟孫氏との中閒。其の中閒程度の禮遇。季孟の㊀を見よ。㊁似てゐる。伯仲する。上と下との閒。〔晉書、王湛傳〕兄子濟稱二其美一、帝曰、誰比、濟曰、山濤以下、魏舒以上、湛閒曰、欲レ處二我於季孟之閒一乎。〔羅隱、途中逢二劉知遠一詩〕吳楚烟波裏、巢由季孟閒。〔姑溪題跋〕張文潛評二米元章作字一、在二鍾王季孟之閒一。

【季末】239キマツ 末の世。後世。季世。〔漢書、敍傳下〕永世豐年、季末淫祀。〔魏志、齊王傳〕季末闇主、不レ知二損益一、斥二遠君子一、引二近小人一。

【季明】240キメイ 字號。㊀後漢、韋豹(**12―43108**‥142)の字。㊁後漢、鍾皓(**11―40672**‥13)の字。㊂後漢、成翊世(**5―11544**‥364)の字。㊃三國魏、程曉(**8―25081**‥42)の字。㊄三國吳、孫奐(**3―6987**‥87)の字。㊅晉、王爽(**7―20823**‥424)の字。㊆北周、黎景熙(**12―47994**‥92)の字。㊇北周、陸逞(**11―41708**‥202)の字。㊈唐、馬存亮(**12―44572**‥868)の字。㊉宋、吳熙(**2―3365**‥90)の字。⑪宋、蘇昞(**9―32427**‥172)の字。⑫宋、張杲(**4―9812**‥108)の字。⑬宋、鮑昱(**12―46074**‥3)の字。⑭宋、劉炯(**2―2224**‥225)の字。⑮元、鄭東(**11―39647**‥230)の字。⑯明、沈廷揚(**6―17189**‥607)の字。

【季鳴】241キメイ 明、徐如珂(**4―10110**‥492)の字。

【季默】242キモク 字號。㊀金、高士談(**12―45313**‥1179)の字。㊁金、雷淵(**12―42245**‥3)の字。㊂明、凌約言(**2―1669**‥153)の字。

【季冶】243キヤ 宋、劉鑄(**2―2224**‥491)の字。

【季野】244キヤ 字號。㊀晉、褚裒(**10―34457**‥32)の字。㊁宋、黃芻(**12―47926**‥537)の字。㊂清、吳坰(**2―3365**‥140)の字。

〔季野陽秋〕245キヤヤウシウ 蒙求の標題。晉の褚裒、字は季野。簡貴の風ありて盛名あり。桓彝、目して季野は皮裏に陽秋ありといつた故事。口に出しては人の善惡を言はぬが、心の內には人を褒貶するところあるといふ意。〔晉書、外戚、褚裒傳〕褚裒、字季野、康獻皇后父也。云云、裒少有二簡貴之風一、與二京兆杜乂一俱有二盛名一、冠二于中興一、譙國桓彝目レ之曰、季野有二皮裏陽秋一、言下其外無二臧否一、而內有上レ所二褒貶一也。

【季揚】246キヤウ 字號。㊀宋、洪揚祖(**6―17402**‥276)の字。㊁宋、杜綰(**6―14477**‥276)の字。

【季陽】247キヤウ 字號。㊀三國蜀、呂乂(**2―3386**‥18)の字。㊁晉、張亢(**4―9812**‥103)の字。

【季熊】248キユウ 宋、郭游卿(**11―39474**‥236)の字。

【季融】249キユウ 複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕季融氏、芈姓、世本、楚鬭廉生二季融一、子孫氏焉。

【季與】250キヨ 宋、程公許(**8―25081**‥199)の字。

【季豫】251キヨ 字號。㊀後魏、元詳(**1―1340**‥289)の字。㊁後魏、司馬休之(**2―3257**‥329)の字。

【季庸】252キヨウ 宋、湯中(**7―17874**‥92)の字。

【季雍】253キヨウ 宋、李肅(**6―14459**‥437)の字。

【季鏞】254キヨウ 宋、處州の人。字は伯韶。金の華何基に學ぶ。淳祐中、睦州の長官となり、廩を發いて饑を救ひ、民生を安んず。後、兩浙轉運使に至る。〔宋史、八十二〕・〔宋元學案、八十二〕・〔南宋制撫年表七・十二〕。

【季鷹】255キヨウ 字號。㊀晉、張翰(**4―9812**‥147)の字。㊁唐、嚴武(**2―4589**‥222)の字。㊂明、施翰(**5―13629**‥14)の字。

【季翼】256キヨク 後魏、李佐(**6―14459**‥351)の字。

【季老】257キラウ 複姓。〔萬姓統譜〕季老、子姓、世本、宋華氏有二華季老一、子孫氏焉。

〔季老男〕258キラウダン 複姓。〔路史〕宋後有二季老男「氏一。

【季郞】259キラウ 清、祁班孫(**8―24634**‥43)の小字。

【季朗】260キラウ 明、魏學禮(**12―45872**‥175)の字。

【季蘭】261キラン ㊀蘭草を身につけた少女。〔左氏、襄、二十八〕濟澤之阿、行潦之蘋藻、寘二諸宗室一、季蘭尸レ之、敬也。〔疏〕此意取二采蘋之詩一也、詩云、誰其尸レ之、有二齊季女一、而此言二季蘭一、謂三季女服二蘭草一也。㊁字號。㋑晉、楊后(**6―15112**‥151)の字。㋺唐、李冶(**6―14459**‥759)の字。

【季貍】262リキ 上古の人。高辛氏の才子。八元の一人。舜に擧げられ、五敎を布く。〔左氏、文、十八〕。

【季釐】263リキ 舜の子、季釐の生れた國。〔山海經、大荒南經〕重陰之山、有レ人食レ獸曰二季釐一、帝俊生二季釐一、故曰二季釐之國一。

【季栗】264リツキ 明、顧琇(**12―43689**‥90)の字

【季立】265リフキ 明、陳第(**11―41698**‥444)の字。

【季良】266リヤウキ 字號。㊀北齊、許惇(**10―35298**‥188)の字。㊁唐、盧祖尙(**8―23050**‥262)の字。㊂明、徐良彥(**4―10110**‥652)の字。㊃清、錢梓林(**11―40563**‥331)の字。㊄清、楊能格(**6―15112**‥737)の號。

【季梁】267リヤウキ ㊀上古の人。楊朱の友。〔列子、力命〕楊朱之友曰二季梁一。㊁明、錢士鰲(**11―40563**‥321)の字。

【季陵】268リヨウキ ㊀宋、處州龍泉の人。字は延仲。太學博士となり、再び謫せられ、紹興の初、官に復し、右文殿啓修撰・徽猷閣待制となる。〔宋史、三百七十七〕・〔南宋書、二十五〕・〔南宋制撫年表、五十六〕。㊁宋、陳天麟(**11―41698**‥1162)の字。

【季龍】269キリヨウ 字號。㊀後趙、石虎(**8―24024**‥283)の字。㊁梁、夏侯夔(**3―5720**‥97)の字。

【季林】270キリン 清、郭履躚(**11―39474**‥423)の字。

【季倫】271キリン 字號。㊀晉、山簡(**4―7869**‥172)の字。㊁晉、石崇(**8―24024**‥444)の字。㊂北齊、崔暹(**4―8178**‥118)の字。

〔季倫錦障〕272キリンキンシヤウ 蒙求の標題。晉の石崇、字は季倫は、財產豐積し、室宇宏麗で、貴戚の王愷羊琇と奢靡を競うたが、愷が紫絲布の步障四十里を作れば、崇は錦の步障五十里を作つてこれに對抗した故事。〔晉書、石崇傳〕崇、字季倫、生二於青州一、故小名齊奴、少敏惠、勇而有レ謀、苞臨レ終分二財物一與二諸子一、獨不レ及レ崇、其母以爲レ言、苞曰、此兒雖レ小、後自能得、云云、財產豐積、室宇宏麗、後房百數、此曳二紈繡一珥二金翠一、絲竹盡二當時之選一、庖膳窮二水陸之珍一、與二貴戚王愷羊琇之徒一以二奢靡一相尙、愷以レ粭澳レ釜、崇以レ蠟代レ薪、愷作二紫絲布步障四十里一、崇作二錦步障五十里一以敵レ之。

【季臨】273リンキ 清、胡肇智(**9―29400**‥571)の字。

【季鄰】274リンキ 明、王世相(**7―20823**‥1757)の字。

【季霖】275リンキ 清、翁澍(**9―28635**‥31)の字。

【季麟】276リンキ 明、簡仁瑞(**8―26520**‥213)の字。

【季禮】277レイキ 北齊、盧勇(**8―23050**‥169)の字。

【季歷】278レキキ 周の祖。古公亶父の少子。文王の父。長子太伯・次子虞仲は父古公が季歷を立てようと思つてゐるのを知つて、それに位を讓る爲に荊蠻に走つたので、季歷が立つた。王位に卽き、公季、又は王季といはれる。〔史記、四〕。

【季烈】279レツキ 後魏、元猛(**1―1340**‥559)の字。

【季連】280レンキ 複姓。〔萬姓統譜〕季連、芈姓、鬼方氏陸終第六子季連、因氏焉。

【季蓮】281レンキ 清、毛遠公(**6―16772**‥258)の號。

【季路】282ロキ 字號。㊀孔子の弟子、仲由の字。仲由(**1―403**‥13)を見よ。㊁春秋魯、顏無繇(**12―43591**‥192)の字。㊂宋、汪逵(**6―17154**‥35)の字。

〔季路一言〕283キロノイチゲン 孔子の弟子、季路の誠信ある一言。違背することのない約束をいふ。〔左

氏、哀、十四〕使二季路要一レ我、吾無レ盟矣、使二子路一、子路辭、季康子使二冉有謂一レ之曰、千乘之國、不レ信二其盟一、而信二子之言一、子何辱焉、對曰、魯有レ事二于小邾一、不二敢問一レ故、死二其城下一可也、彼不臣、而濟二其言一、是義レ之也、由弗レ能。〔庾信、擬連珠〕盟二千乘之國一、須二季路之一言一。

【季魯】284 キロ 宋、傅子雲(**1—939**・・167)の字。

【季肋】285 キロク あばら。〔後漢書、馬援傳、備二此數家骨相一爲レ法、注〕援銅馬相法曰、云云、目欲二滿而澤一、腹欲レ充、膁欲レ小、季肋欲レ長、縣薄欲二厚而緩一。〔齊民要術、養二牛馬驢騾一〕龍翅欲二廣而長一、升肉欲二大而明一、輔肉欲二大而明一、膓欲レ充、腔欲レ小、季肋欲レ張、懸薄欲二厚而緩一、腹口欲レ開、腹下欲二平滿一、善走名曰二下渠一。

【季應祈】286 キオウキ 明、瑞安の人。少くして穎悟。春秋を高則誠に受け、既にして關閩諸儒の全書を得て之を讀み、益〻天道性命の學を好む。常に經を窮めて其の用を致し、躬に反して其の實を踐む、是の如くならざれば書を讀むも奚ぞ益せんといふ。洪武中、明經を以て薦められたが、老年の故を以て歸る。〔明詩紀事、甲〕。

【季開生】287 キカイセイ 清、泰興の人。字は天中。號は冠月。畫に巧で、よく宋元の名畫を模す。順治の進士。官は給事中。時に內監を遣して江南に至つて器物を采辦せしめたが、開生は之を上疏して諫め、尙陽堡に流さる。著に出關草がある。〔清史稿、二百五十〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十三〕。

【季康子】288 キカウシ 春秋、魯の大夫。季孫肥(176)を見よ。

【季桓子】289 キクワンシ 春秋、魯の大夫。季孫斯(173)を見よ。

【季芝昌】290 キシシヤウ 清、江陰の人。字は雲書。號は仙九。道光の進士。編修を授けられ、倉場侍郎に累擢せらる。嘗て命を奉じ、浙に赴いて鹽務を釐剔し、倉庫を淸査して、盡く要領を得た。性、人にさからはず。官は閩浙總督に至つたが、病を以て歸る。書室を丹魁堂といふ。〔清史稿、三百八十二〕・〔清史列傳、四十二〕・〔續碑傳集、二十五〕。

【季錫疇】291 キシヤクチウ 清、太倉の人。字は菘耘。文詞を善くす。震川・堯峯の間に出入し、晩年虞山の瞿氏に館し、館中の善本に悉く跋尾を爲り、藏書志を編纂す。又、菘耘文鈔を著す。〔續碑傳集、七十九〕。

【季振宜】292 キシンギ 清、泰興の人。字は詵兮。號は滄葦。順治の進士。官は御史。其の家豪富で藏書に富み、精本甚だ多い。書室を靜思堂といふ。著に季滄葦書目・靜思堂詩集がある。〔清史稿、二百五十〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十三〕。

【季貞一】293 キテイイツ 明、常熟の人。夙に才女の稱あり。嘗て其の父は膝上に抱いて燭詩を詠ぜしめたが、聲に應じて淚滴非レ因レ痛、花開豈爲レ春といふ。其の父、推して地に墮し、良女子に非ざるなりといつた。後、果して放誕を以て死を致す。〔列朝詩集小傳、閏〕。

【季武子】294 キブシ 春秋、魯の大夫。季孫宿(174)を見よ。

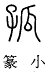
【季逢昌】295 キホウシヤウ 宋、吳縣の人。字は子明。官は相城令。〔尙友錄、十七〕。

【季御讀經】296 キノミドキヤウ 佛古、春秋の二季に、禁中で大般若經を講ぜられたこと。〔江次第裏書〕季御讀經、春秋二季、請二百僧於南殿一、讀二大般若經一。

【季甫先生】297 キホセンセイ 宋、陳烈(**11—41698**・・609)の號。

【孤】6966

コ 〔集韻〕攻乎切 虞 ク ㄍㄨ kū



小篆

㊀**みなしご。**㋑父の死んだ子。〔說文〕孤、無レ父也、从レ子瓜聲。〔釋名、釋親屬〕無レ父曰レ孤、孤、顧也、顧望無レ所二瞻見一也。〔禮、深衣〕如二孤子一。〔注〕三十以下無レ父稱レ孤。〔孟子、梁惠王下〕幼而無レ父曰レ孤。〔淮南子、原道訓〕童子不レ孤。〔注〕無レ父曰レ孤。㋺親の死んだ子。〔南史、梁武帝紀〕置二孤獨園一、以恤二孤幼一。㋩國事に勤めて死亡したものの子。〔周禮、天官、外饔〕邦饗二耆老孤子一。〔注〕孤子者、死二王事一者之子也。〔管子、中匡〕起二諸孤一。〔注〕孤、謂下死二王事一者子孫上。㊁**みなしごにする。**〔晏子、諫、下〕吾君欲下以二樹木之故一、殺二妾父一、孤中妾身上。㊂**ひとりもの。**緣りのないもの。〔說文、段注〕引二申之一凡單獨、皆曰レ孤。〔禮、月令〕養二幼少一、存二諸孤一。㊃**ひとつ。ひとり。**ひとりだち。助けがない。〔廣雅、釋詁三〕孤、獨也。〔正字通〕孤、凡子處曰レ孤。〔書、禹貢〕孤相。〔傳〕孤、特也。〔逸周書、周祝解〕國孤國屠。〔注〕孤、謂レ無レ人。〔陶潛、歸去來辭〕撫二孤松一而盤桓。㊄**王侯の謙稱。**〔正字通〕孤、寡德曰レ孤、王侯謙稱。〔禮、玉藻〕凡自稱、小國之君曰レ孤。〔左氏、成、十八〕孤始願不レ及レ此。〔史記、魏豹彭越傳論贊〕席二捲千里一、南面稱レ孤。〔呂覽、君守〕君名二孤寡一、而不レ可二壅塞一。〔注〕孤寡、人君之謙稱也。㊅**官の三公に次ぐ者。**孤卿。〔書、周官〕少師・少傅・少保、曰二三孤一。〔周禮、天官、掌次〕孤卿有二邦事一。〔注〕孤、王之孤三人、副二三公一論レ道者。〔大戴禮、保傅〕於レ是置二三少一、注〕三少、卿也、謂二之孤一。〔後漢書、城陽恭王祉傳〕食二孤卿祿一。〔注〕孤者、特也、卑二於公一、尊二於卿一、特置レ之、故曰レ孤。㊆**さかる。**とほざける。〔漢書、終軍傳〕臣年少材下、孤二於外官一。〔注〕師古曰、孤、遠也。㊇**いやしい。**おろか。〔禮、學記〕孤陋而寡聞。㊈**そむく。**〔說文、段注〕孤、則不二相酬應一、故背レ恩者曰二孤負一。〔集韻〕孤、一曰、負也。〔李陵、答二蘇武一書〕陵雖レ孤レ恩、漢亦負レ德。㊉**すてる。罪する。**辜(**10—38636**)に通ず。〔說文通訓定聲〕孤、叚借爲レ辜。〔國語、吳語〕以レ心孤二句踐一。〔注〕孤、棄也。⑪**かへりみる。**顧(**12—43689**)に通ず。〔說文通訓定聲〕孤、借叚爲レ顧。〔易、睽〕孤遇二元夫一。〔虞注〕孤、顧也。⑫**戲曲の用語。**官吏に扮することをいふ。孤裝。〔太和正音譜〕孤、當場裝レ官者。⑬或は[illegible](**9—30084**)に作る。〔集韻〕孤、或作レ[illegible]。⑭**姓。**〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕季氏、姬姓、魯桓公季子友之後也、亦曰、季孫氏、一曰、陸終氏之子季連之後、漢功臣表、戚圉侯季必、傳レ封四代、望出二壽昌魯國一。

名乘 カズ。トモ。

【孤鶯】1 コアウ 連れのない一羽の鶯。〔劉長卿、過二鄭山人所居一詩〕寂寂孤鶯啼二杏園一、寥寥一犬吠二桃源一。

【孤鞍】2 コアン 一つの鞍。轉じて、ただ一騎。〔大槻磐溪、題二道灌借レ簑圖一詩〕孤鞍衝レ雨叩二茅茨一、少女爲遺花一枝、少女不レ言花不レ語、英雄心緒亂如レ絲。

【孤夷】3 コイ 遠い蠻夷。〔墨子、天志下〕自レ古及レ今、無レ有二遠靈孤夷之國一、犓二豢其牛羊犬彘一、潔爲二粢盛酒醴一、以敬祭二祀上帝山川鬼神一。

【孤幃】4 コヰ 獨居の室の垂れぎぬ。獨室。〔曹植、慰レ子賦〕入二空室一而獨倚、對二孤幃一而切嘆。

【孤遺】5 コヰ 親に棄てられた子。寄るべない子。〔任昉、王文憲集序〕親加二弔祭一、表薦二孤遺一。〔顏氏家訓、後娶〕慘二虐孤遺一、離二間骨肉一。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十三年)劉荊州臨レ亡、託レ我以二孤遺一。〔注〕無レ父曰レ孤、遺、棄也、言二父母棄レ之而去一、故曰二孤遺一、今人謂下孤獨無レ所二依仰一者上爲二孤遺一。

【孤游】6 コイウ ひとりあそぶ。〔木華、海賦〕魚則橫レ海之鯨、突杌孤游。〔謝靈運、於二南山一往二北山一經二湖中一瞻眺詩〕孤游非二情歎一、賞廢理誰通。

【孤音】7 コイン 一つの音。〔後漢書、荀彧傳贊〕北

海天逸、音情頓挫、越俗易驚、孤音小和。

【孤院】8（コヰン）一軒家。〔福惠全書、刑名部、姦情、強姦〕夫遠出、孤院獨處。

【孤筠】9（コヰン）一本の竹。ひともとだけ。〔江淹、雜體詩、謝法曹惠連贈別〕靈芝望三秀、孤筠情所託。

【孤韻】10（コヰン）㊀世俗を離れた風流なことば。詩賦。〔李商隱、安平公詩〕清詞孤韻有歌響、擊觸鐘磬鳴環珂。㊁俗を離れてひとりけだかいやうす。ひとりすぐれたおもむき。〔江淹、知己賦〕聳孤韻以風邁、騫逸氣以烟翔。

【孤雲】11（コウン）㊀はなれぐも。〔李白、獨坐敬亭山詩〕孤雲獨去閑。〔李頎、題璿公山池詩〕片石孤峯窺色相、清池皓月照禪心。〔蘇軾、虔州八境圖詩〕倦客登臨無限思、孤雲落日是長安。㊁貧士、又は賢士に喩へる。〔陶潛、詠貧士詩〕萬族各有託、孤雲獨無依。〔注〕善曰、孤雲、喩貧士也、翰曰、孤雲迥出獨無所依、蓋以喩賢士也。㊂山名。陝西省南鄭縣の西南。四川省南江縣の界に接す。其の地に石刻があり、漢の相國蕭何が韓信を追つて至る所といふ。〔輿地紀勝〕相連者、名曰兩角山、山頂高峻、有兩峯、古語云、孤雲・兩角、去天一握。〔漢中府志〕孤雲山、亦名兩角山、通巴州、其路險峻、三日而達於山頂、絕高處、謂之孤雲。

【孤雲館】12（コウンクワン）片山猷の號。片山北海（7−19813··130）を見よ。

【孤雲亭】13（コウンテイ）清、向文煥（2−3301··118）の室名。

【孤雲處士】14（コウンシヨシ）元、王振鵬（7−20823··1719）の賜號。

【孤雲石叟】15（コウンセキソウ）清、丁敬（1−2··53）の號。

【孤雲野鶴】16（コウンヤカク）はなれぐもと群を離れた一羽の鶴。轉じて、名利を離れ世と交渉を絕つた隱者をいふ。〔劉長卿、送方外上人詩〕孤雲將野鶴、豈向人間住。

【孤雲出岫去留一無所係】17（コウンシウヲイヅルキヨリウイツモカカハルトコロナシ）一片の雲が悠然と谷間を出づるや、去るも止まるも、皆、自然のなすがままであつて、何等こだはるところがない。〔菜根譚、後、三十三〕孤雲出岫、去留一無所係。

【孤詠】18（コエイ）獨りうたふ。孤吟。〔楊萬里、臨賀別駕李子西同年寄五字詩以杜句君隨丞相後爲韻和以謝焉詩〕小醉即孤詠、自遣不要奇。

【孤塋】19（コエイ）無緣塚。供養する人のない墓。〔黃滔、經安州感故鄭郎中詩〕野猨相聚叫孤塋。

【孤裔】20（コエイ）おちぶれた子孫。〔任昉、爲卞彬謝卞忠貞墓啓〕年世貿遷、孤裔淪塞。

【孤景】21（コエイ）ひとり身の影。獨住。孤景。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕煢煢對孤景。〔謝靈運、石門新營所住詩〕結念屬霄漢、孤景莫與諼。

【孤景蕭然】22（コエイセウゼン）ただひとり淋しげなさま。

【孤銳】23（コエイ）孤立してするどく尖つてゐること。〔楊萬里、過摩舍那灘石峯下詩〕石峯矜孤銳。

【孤驛】24（コエキ）淋しい宿場。〔嚴仁、賀新郎詞〕一江紅葉、水程孤驛。

【孤煙】25（コエン）ひとすぢの煙。〔王維、使至塞上詩〕大漠孤煙直、長河落日圓。

【孤豔】26（コエン）物さみしい中にもなまめかしさのあること。〔宣和書譜〕陳叔懷、字雖嫵媚、而中藏勁氣、如幽香孤豔、凌轢水霜者。

【孤猨】27（コエン）群を離れた猿。孤猿。〔謝朓、郡內高齋閑望答呂法曹詩〕日出衆鳥散、山瞑孤猨吟。

【孤猿】28（コエン）群を離れた猿。孤猨に同じ。〔戴叔倫、夜發袁江寄李潁川劉侍御詩〕孤猿更叫秋風裏、不是愁人亦斷腸。

【孤遠】29（コエン）ぽつんと一つだけ遠く離れてゐること。〔張九齡、晨出郡舍林下詩〕片雲自孤遠、叢篠亦清深。

【孤翁】30（コヲウ）ひとり身のよるべない老人。孤獨の老人。〔易林〕孤翁寡婦。

【孤恩】31（コオン）恩にそむく。背恩。〔李陵、答蘇武書〕陵雖孤恩、漢亦負德。〔注〕濟曰、力屈而降、則孤恩也。

【孤家】32 ku¹ chia¹ 小說や脚本の中で、王侯の自稱に用ひる。

【孤歌】33（コカ）ひとりうたふ。對手なくしてうたふこと。〔杜牧、題池州弄水亭詩〕撑舟入幽處、孤歌倚桂巖。

【孤介】34（コカイ）心せまく世と相容れぬさま。介は獸のつれのないもの。孤立狷介。〔顏延之、拜陵廟作詩〕幼壯困孤介、末暮謝幽貞。〔宋史、王琪傳〕性孤介、不與時合。

【孤介見其眞】35（コカイソノシンヲミル）世俗の人と離れ、ひとり其の節操を固く守ることによつて其の眞情が判る。〔大田錦城、梅花詩〕清寒徹其骨、孤介見其眞。

【孤孩】36（コガイ）幼いみなし子。〔潘岳、寡婦賦〕愁煩冤其誰告兮、提孤孩於坐側。

【孤行】37（コカウ）㊀只一つだけ世におこなはれること。〔晉書、杜預傳〕丘明本爲春秋作傳、而左傳遂自孤行。㊁唯ひとりで行く。獨行。〔張衡、思玄賦〕何孤行之煢煢兮、孑不羣而介立。

【孤高】38（コカウ）ひとり群を拔いて高い。他に並ぶもののない高さ。〔高適、同諸公登慈恩寺浮圖詩〕登臨駭孤高、披拂欣大壯。〔岑參、與高適・薛據同登慈恩寺浮圖詩〕塔勢如湧出、孤高聳天宮。

【孤高自許】39（コカウミヅカラユルス）自分だけ偉いと自負する。高く止まること。

【孤客】40（コカク）つれのない旅行者。ひとりたび。〔劉禹錫、秋風引〕朝來入庭樹、孤客最先聞。

【孤鶴】41（コカク）一羽のつる。〔隋煬帝、捨舟登陸示慧日道場玉清玄壇德衆詩〕孤鶴近追羣、啼鶯遠相喚。〔杜牧、早行詩〕霜凝孤鶴迥、月曉遠山橫。〔蘇軾、後赤壁賦〕適有孤鶴、橫江東來、翅如車輪、玄裳縞衣。

【孤學】42（コガク）學統のまさに絕えんとしてゐる學問。〔漢書、禮樂志〕守習孤學、大指歸於興助教化。〔後漢書、陳元傳〕左氏孤學少與。

【孤寒】43（コカン）身寄りがなく貧しい。よるべない貧乏生活。〔晉書、陶侃傳〕臣少長孤寒、始願有限、過蒙聖朝歷世殊恩、寵靈彌泰。

【孤幹】44（コカン）ただ一本の幹。〔劉琨、答盧諶詩〕亭亭孤幹、獨生無伴。〔楊萬里、蕙花初開詩〕幼枝孤幹八九花。

【孤岸】45（コガン）孤島の海岸。〔嶺南異物志〕嘗有人游南海、泊于孤岸。

【孤雁】46（コガン）群を離れた一羽の雁。孤鴈に同じ。〔曹植、雜詩〕孤雁飛南遊。

【孤鴈】47（コガン）群を離れた一羽の雁。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕胡笳動兮邊馬鳴、孤鴈歸兮聲嚶嚶。〔魏文帝、雜詩〕孤鴈獨南翔。

【孤危】48（コキ）獨り身で助けの無いこと。〔戰國、秦策〕大者宗廟滅覆、小者身以孤危、此臣之所恐耳。〔史記、范雎傳〕小者身以孤危。〔後漢書、皇甫規傳〕窮居孤危之中。〔孔融、論成孝章書〕孤危愁苦。

【孤危之禍】49（コキノクワ）ひとりぼつちで淋しくたよる所のない不幸。〔李滉、啓蒙篇〕教子無成、竟致孤危之禍。

【孤危迫切】50（コキハクセツ）孤立して危く、心情がゆきつまつて苦しんでゐること。〔蘇轍、爲兄軾下獄上書〕臣不勝孤危迫切、無所告訴、歸誠陛下、惟寬其狂妄、特許所乞。

【孤寄】51（コキ）孤兒の寄託。みなしごを世話する依賴。〔漢書、元后傳〕既無以報、受人孤寄、乘便利時、奪取其國。

【孤羇】52（コキ）ひとりたび。孤旅。〔韓愈、寄崔二十六立之詩〕昨來漢水頭、始得完孤羇。

【孤技】53（コギ）ひとりで爲すわざ。〔後漢書、張衡傳〕曾何貪於支離、而習其孤技邪。

【孤窮】54（コキユウ）よるべなく窮迫してゐる者。〔吳志、周魴傳〕豈能上感、然事急、孤窮惟天是訴耳。

【孤居】55（コキヨ）ひとりぼつちで住む。獨居。〔戰國、趙策〕夫斷右臂而求與人鬬、失其黨而孤居、求欲無危、豈可得哉。〔南史、林邑國傳〕其寡婦孤居、散髮至老。

【孤虛】56（コキヨ）昔、兵法家が、軍を行るに、方位・日時等を卜ふ法。喩へば、甲子から癸酉に至る十日間に於て、十二支の戌亥を孤、辰巳を虛といふ類で、日にも方位にも凶とする。漢書藝文志に風后孤虛二十卷がある。〔孟子、公孫丑下〕孟子曰、天時不如地利、地利不如人和。〔注〕天時、謂時日・支干・孤虛・王相之屬也。〔史記、龜策傳〕日辰不全、故有孤虛。〔注〕集解曰、甲乙謂之日、子丑謂之辰、六甲孤虛法、甲子旬中無戌亥、戌亥卽爲孤、辰巳卽爲虛、甲戌旬中無申

酉一申酉爲レ孤、寅卯卽爲レ虛、甲申旬中無二午未一、午未爲レ孤、子丑卽爲レ虛、甲午旬中無二辰巳一、辰巳爲レ孤、戌亥卽爲レ虛、甲辰旬中無二寅卯一、寅卯爲レ孤、申酉卽爲レ虛、甲寅旬中無二子丑一、子丑爲レ孤、午未卽爲レ虛、劉歆七略、有二風后孤虛二十卷一。〔尉繚子、武議〕考二孤虛一、占二咸池一、合二龜兆一、視二吉凶一。〔後漢書、趙彥傳〕將レ兵督二州郡一、合討二無忌一、彥爲陳二孤虛之法一。〔後漢書、方術傳序〕其流又有二風角・遁甲・七政・元氣・六日・七分・逢占・日者・挺專・須臾・孤虛之術一。

【孤衾】57 コキン　さびしいふすま。ひとりね。〔柳惲、擣レ衣詩〕孤衾引二思緒一。〔蘇軾、次二韻前篇一詩〕未レ免孤衾眠二客舍一。

【孤琴】58 コキン　ただ一人彈ずる琴。一つの琴。〔李羣玉、失レ鶴詩〕墮翮留二片雲一、雅操入二孤琴一。〔古琴疏〕敬伯復撫レ絃歌曰、低露下二深幕一、垂月照二孤琴一、空絃咽二宵淚一、誰憐二此夜心一。

【孤禽】59 コキン　群をはなれた一羽のとり。〔張載、七哀詩〕肅肅高二桐枝一、翩翩栖二孤禽一。

【孤吟】59′ コギン　獨りうたふ。孤歌。〔杜牧、郡齋獨酌詩〕壽域富二農桑一、孤吟志在レ此。〔鄭巢、泊二靈溪館一詩〕孤吟疎雨絕。

【孤苦】60 コク　一人ぼつちで貧苦なこと。〔李密、陳情表〕況臣孤苦、特爲二尤甚一。

【孤苦伶仃】61 コクレイテイ　落ちぶれて助けなく苦しむこと。孤苦零丁に同じ。〔還魂記、詰病〕今生怎生偏則是紅顏薄命、眼見的孤苦伶仃。

【孤苦零丁】62 コクレイテイ　落ちぶれて助けなく苦しむこと。孤苦伶丁。〔李密、陳情表〕零丁孤苦、至二于成立一。〔韓愈、祭二十二郎一文〕既又與レ汝就二食江南一、零丁孤苦、未二嘗一日相離一也。

【孤寠】63 コク　ひとり身でまづしい。孤貧。〔唐書、王義方傳〕義方、泗州漣水人、客二於魏一、孤且寠、事レ母謹甚。

【孤花】64 コクワ　ひとりぼつちで咲く花。〔韋應物、遊二開元精舍一詩〕綠陰生二晝靜一、孤花表二春餘一。

【孤花裛レ露啼二殘粉一】65 コクワツユヲツツンテザンプンニナク　散り殘つた一房の花が露にうるほふさまは、昔を慕つてうらぶれた今の姿を悲しみ泣くが如くである。殘粉は美人の顏色の衰へはてたものにいふ。啼は往時の榮華を追慕する情を寫す。〔倭漢朗詠集、故宮、良岑春道、題二一條舊院一〕孤花裛レ露啼二殘粉一、暮鳥栖レ風守二廢籬一。

【孤寡】66 コクワ　❶みなしごとやもめ。孤孀。〔左氏、文、十八〕不レ分二孤寡一、不レ恤二窮匱一、天下之民、以比二三凶一、謂二之饕餮一。〔莊子、天下〕老弱孤寡爲レ意。〔荀子、王制〕收二孤寡一。❷王侯の自稱。孤寡不穀を見よ。〔呂覽、士容〕南面稱レ寡。〔注〕孤寡、謙稱也。

〔孤寡不穀〕67 コクワフコク　王侯の自稱。〔老子、三十九〕是以侯王自謂二孤寡不穀一。〔老子、四十二〕人之所レ惡、惟孤寡不穀、而王公以爲レ稱。〔戰國、齊策上〕是以侯王稱二孤寡不穀一、是其賤之本與。〔顏氏家訓、風操〕昔者王侯自稱二孤寡不穀一。

【孤懷】68 コクワイ　たよりないこころ。〔孟郊、連州吟〕孤懷吐二明月一、衆毀鑠二黃金一。

【孤光】69 コクワウ　遠く見える一つの光。〔沈約、詠二湖中鴈一詩〕羣浮動二輕浪一、單汎逐二孤光一。〔注〕銑曰、孤、猶レ遠也。〔楊萬里、五月十六夜病中無聊起來步レ月詩〕今宵斗柄也不レ見、一鏡孤光天四垂。

【孤館】70 コクワン　一軒家。〔許渾、瓜州留二別李詡一詩〕孤館宿時風帶レ雨、遠帆歸處水連レ雲。

【孤軍】71 コグン　援けのない軍勢。〔後漢書、呂布傳〕欲下委二全城一、損二妻子一、孤軍遠出上乎。

【孤迥】72 コケイ　さびしく遠くの人を思ふ。〔杜牧、南陵道中詩〕正是客心孤迥處、誰家紅袖凭二江樓一。

【孤卿】73 コケイ　官の、三公に次ぐもの。少師・少傅・少保の三孤をいふ。〔周禮、天官、掌次〕孤卿有二邦事一、則張レ幕設レ案。〔注〕孤、王之孤三人、副二三公一論レ道者。〔周禮、春官、司常〕孤卿建レ旜。〔周禮、夏官、太僕〕辭二於三公及孤卿一。〔周禮、秋官、朝士〕左九棘、孤卿大夫位焉。〔漢書、百官公卿表上〕太師太傅太保、是爲二三公一、又立二三少之副一、少師少傅少保、是爲二孤卿一、與二六卿一爲レ九焉。〔漢書、王莽傳中〕位皆孤卿。〔後漢書、城陽恭王祉傳〕皆降稱レ子、食二孤卿祿一。

【孤經】74 コケイ　經書の文が途切れてゐて、義例も十分でないもの。〔杜預、春秋左氏傳序、相與爲レ部、疏〕事同則爲レ部、小異則附出、孤經不レ及レ例者、聚二于終篇一、故言二相與爲レ部也。〔唐書、楊瑒傳〕瑒奏、有司帖試明經、不レ質二大義一、乃取二年頭月尾、孤經絕句一、且今習二春秋三家儀禮一者纔十二。

【孤睽】75 コケイ　人に離れそむいて孤立する。〔法言、重黎〕守失二其微一、天下孤睽。〔注〕睽、猶二乖離一也。

【孤閨】76 コケイ　ひとりねのねや。寡婦をいふ。

【孤螢】77 コケイ　一匹のほたる。〔雍陶、秋居病中詩〕荒簷數蝶懸二蛛網一、空屋孤螢入二燕巢一。

【孤叫】78 コケウ　ひとりでさけぶ。〔吳邁遠、雙白鵠詩〕哀聲流二海曲一、孤叫出二江濆一。

【孤嶠】79 コケウ　一つだけ高くぬけでてゐる山。〔蘇軾、將レ至二廣州一用二過韻一寄二邁迨二子一詩〕大兒牧二衆稺一、四歲守二孤嶠一、次子病學レ醫、三折乃粗曉。

【孤月】80 コゲツ　ひとつの月。一輪の月。〔王昌齡、盧溪別レ人詩〕行到二荊門一上二三峽一、莫下將二孤月一對中猿愁上。〔蘇軾、送三小本禪師赴二法雲一詩〕孤月掛二空碧一、是身如二浮雲一。

〔孤月輪〕81 コゲツリン　一輪の明月。〔張若虛、春江花月夜詩〕江天一色無二纖塵一、皎皎空中孤月輪。

【孤孽】82 コゲツ　君に見棄てられた臣と身分賤しい庶子。孤臣と孽子。〔孟子、盡心上〕獨孤臣孽子、其操レ心也危、其慮レ患也深、故達。〔談藝錄〕孤孽怨思。

【孤劍】83 コケン　一ふりの劍。一劍。簡單な武裝。又、助けのない武士。〔陳子昂、東征答二朝臣相送一詩〕孤劍將二何託一、長謠塞上風。〔呂溫、凌烟閣勳臣頌序〕匹馬孤劍、爲レ王前驅。

【孤興】84 コウ　孤立をいふ。〔陸機、文賦〕或託二言於短韻一、對二窮迹一而孤興。〔注〕善曰、迹窮而無レ偶、故曰二孤興一。

【孤鴻】85 コウ　つれのない一羽の鴻。〔阮籍、詠懷詩〕孤鴻號二外野一、翔鳥鳴二北林一。〔張九齡、感遇詩〕孤鴻海上來、池潢不二敢顧一。

〔孤鴻影〕86 ココウエイ　戲曲の名。清、周如璧撰。溫都監のことを演ずる。

【孤國】87 ココク　助けのない國・孤立無援の國。〔戰國、秦策〕齊魏有三何重二於孤國一也。〔史記、楚世家〕秦又何重二孤國一哉。

【孤根】88 ココン　ただ一本の根。孤立してたすけのないことにいふ。〔張九齡、敍懷詩〕孤根亦何賴、感激此爲レ鄰。〔蘇軾、甘菊詩〕孤根蔭二長松一、獨秀無二衆草一。

【孤魂】89 ココン　弔ふ人のない魂。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕孤魂翔二故域一。〔潘岳、悼亡詩〕孤魂獨煢煢。〔柳宗元、祭二外甥崔駢一文〕孤魂冥冥、何託何逝、嗚呼哀哉。

〔孤魂紙〕90 ココンシ　亡者の供養に燒く紙。〔水滸傳、六十九回〕今日是月盡夜、晚些買二帖孤魂紙一來燒。

〔孤魂鬼兒〕91 ku¹ huen² kuei³ êrh　一人ぼつち。單獨な。

【孤坐】92 コザ　ひとりぼつちで坐る。〔馬戴、霽後寄二白閣僧一詩〕久披山衲壞、孤坐石牀寒。

【孤窗】93 コサウ　人家を離れた一軒家。〔廣瀨淡窓、桂林莊雜詠示二諸生一詩〕孤窗欹レ枕客心驚。

【孤裝】94 コサウ　古、戲劇の脚色の一種。一名、裝孤。老人役、又は官人役に當る。孤とは國君自ら稱して孤といふことから起り、帝王又は官人長者に扮するものをいふ。又、五花爨弄といふ。今、平京劇の丑に相當する。〔輟耕錄、院本名目〕國朝院本雜劇、始釐而二レ之、院本則五人、一曰二副淨一、古謂二之參軍一、一曰二副末一、古謂二之蒼鶻一、鶻能擊二禽鳥一、末可レ打二副淨一、故云、一曰二引戲一、一曰二末泥一、一曰二孤裝一、又謂二之五花爨弄一。

【孤霜】95 コサウ　孤兒と寡婦。孤孀に同じ。〔太平御覽、皇王部、殷帝成湯〕淮南子曰、湯夙、云云、死問レ疾、以養二孤霜一。

【孤孀】96 コサウ　❶みなしごとごけ。孤兒と寡婦。孤寡。孤霜。〔淮南子、脩務訓〕湯弔レ死問レ疾、以養二孤孀一。〔注〕幼無レ父曰レ孤、孀、寡婦也。〔郝經、儀眞館中暑詩〕只今全二父子一、無三復痛二孤孀一。❷やもめ。〔通俗編、婦女、孤孀〕按、孤與レ孀、是兩類人、俗統呼二嫠婦一曰二孤孀一、非。

【孤藏】97 コザウ　脾臟をいふ。〔素問、玉機眞藏論〕岐伯曰、脾脈者、土也、孤藏以灌二四傍一者也。〔注〕不レ主二四時一、故云二孤藏一、脾位二中央一。

【孤刹】98 コセツ 一つだけかけ離れて立つてゐる寺。孤立して聳える佛塔。〔韓維、雙塔院詩〕歸鞅一回レ首、孤刹屹當レ午。

【孤杉】99 コサン ただ一本の杉。一本杉。〔陸龜蒙、和二襲美古杉一詩〕衆木盡相遺、孤杉獨任レ奇。

【孤山】100 コザン ❶獨立する山。❷山名。㋑河北省房山縣の南。今、孤山口といふ。上方山に入る入口。宋の太宗の時、宋琪、大軍をして孤山から涿水を涉り燕城を瞰はしめた。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、涿州、房山縣、黃山店口〕孤山口、在二縣南五十里一、有二上方寺一、在二兩崖閒一、鑿レ石爲レ磴、攀緪而上、絕頂有レ泉如レ斗、汩汩不レ窮、其寺曰二斗泉寺一、又有二亂塔寺山一、曰二紅羅嶮一、俱稱二陟絕一。㋺山東省昌樂縣の東。濰縣の界。〔青州府志〕有二跪河出一焉、一名鳳山。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、昌樂縣〕孤山、縣東十里、峯巒峭拔、高二出雲霄一、志云、伯夷避レ紂、居二東海之濱一、蓋在二此山之側一、今山接二濰縣界一。㋩山西省萬泉縣の西南。一名、介山。孤峙して他山に接しないから名づける。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、蒲州、萬泉縣〕孤山、縣西南十里、一名、介山、以二亭然孤峙、不レ接二他山一也、山之南麓接二猗氏縣界一、唐十道志、河東道名山曰二介山一、其山高三十里、周七十里。㋥江蘇省銅山縣の西北。〔魏書、地形志中〕彭城有二孤山一。〔明一統志〕旁無二峯巒一、故名。㋭安徽省合肥縣の東南巢湖の中。魏の邢巒、梁將の桓和を此處に破る。〔讀史方輿紀要、江南、廬州府、合肥縣、四頂山〕孤山、在二巢湖中一、一峯孤立、因名。㋬江西省德安縣の北。〔讀史方輿紀要、江西、九江府、德安縣、博陽山〕又有二孤山一、以二山勢孤突一而名。㋣江西省九江縣南の大姑塘を俗に孤山と稱し、鄱陽湖中の大孤山に對す。〔顧況、小孤山詩〕大孤山遠小孤出、月照二洞庭一歸二客船一。㋠江西省鄱陽湖中の大孤山をいふ。大孤（3－5831··734）の❶の㋭を見よ。㋷福建省浦城縣の西。福建通志に夢筆山といふ。梁の江淹が吳興の令となり、夢に神人から筆を授けられたと傳へる處。〔建安記〕山在二環嶂之閒一、其地垣平、以二此山挺然孤立一、因名。〔讀史方輿紀要、福建、建寧府、浦城縣、越王山〕夢筆山、在二縣西五里一、本名二孤山一、梁江淹遊レ此、因名。㋦浙江省杭縣の西湖の中、後湖と外湖との閒。勝景で、孤嶼・瀛嶼ともいふ。宋の處士、林逋の隱棲したところ。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府、仁和縣、寶石山〕孤山、在二城西重湖之閒一、以獨二立波心一而名、山坦夷、與二寶石諸山一、隔レ湖相望。㋸湖北省宜昌縣の南。一名、葛道山。又、郭道山といふ。〔太平寰宇記〕陸抗故城之南有二孤山一。〔輿地紀勝〕晉郭景純結二廬於此一。㋾河北省內丘縣の西北。思親山ともいふ。虢の太子が親を思うた山。〔太平寰宇記〕在二內丘縣西北十七里一、其山孤峙、唐天寶六年、敕改二內丘山一。❸字號。藪慤の號。藪孤山（9－32348··16）を見よ。

【孤山子】101 コザンシ ❶遼寧省柳河縣の東南、三通河の北岸。南は通化縣、北は金川縣に通ず。❷奉天海龍縣下、同縣城の西南二十支里。銀を產す。

【孤山人】102 コサンジン 宋、范晞文（9－30834··156）の號。

【孤山葱】103 コザンソウ 孤山に產する葱。〔海錄碎事、飮食、蔬菜〕洗山記、有二孤山一、岩石崔嵬、上有レ葱、如二人所一レ種、人如往取、援輒斷絕、請レ神而求、不レ挽自出。

【孤山處士】104 コザンショシ 宋の處士、林和靖をいふ。林逋（6－14551··222）を見よ。〔宋史、林逋傳〕林逋、字君復、杭州錢塘人、放二遊江淮閒一、久レ之歸二杭州一、結二廬西湖之孤山一。〔萬歷杭州府志〕孤山、巋二介湖中一、不下與二諸山一聯屬上、故名、亦名二孤嶼一、又名二瀛嶼一、山故多レ梅、爲二林處士放鶴之地一。〔王冕、梅詩〕孤山處士詩夢寒、羅浮仙人酒興闌。

【孤子】105 コシ ❶みなしご。孤兒。〔管子、輕重己〕民生而無二父母一、謂二之孤子一。〔宋玉、高唐賦〕孤子寡婦、寒心酸鼻。❷年三十未滿で父の喪に居る子。〔禮、曲禮上〕孤子當レ室、冠衣不レ純レ采。❸父の喪中に居る嗣子をいふ。〔禮記、雜記上〕相者入告、出曰、孤某須矣。〔疏〕孤、謂二嗣子一也。〔稱謂錄、孤子〕雜記上、孤子須矣、疏、孤、謂二嗣子一也。❹王事に死んだ者の子。〔周禮、天官、外饔〕饔二耆老孤子一。〔注〕孤子者、死二王事一者之子也。〔左氏、哀、二十七〕陳成子屬二孤子一。〔注〕屬二會死レ事者之子一、使レ朝。

【孤子鉤】106 コシノコウ みなし子の帶がね。これを隱とすれば琴の音が悲しいといふ。隱は、琴のかざり。〔枚乘、七發〕孤子之鉤、以爲レ隱、九寡之珥、以爲レ約。〔注〕善曰、古樂府有二孤子生行一、賈逵國語注曰、鉤、帶鉤也、桓子新論曰、琴隱長四十五分、隱以前長八分。

【孤子歸宗】107 コシキソウ 寡婦が再嫁するとき、先父の孤兒は先父の家にのこること。

【孤子遠二墳墓一、何以謝二先親一】108 コシフンボニトホザカル、ナニヲモツテカセンシンニシャセン 孤子である我は今他郷に幽閉せられ墳墓の地に遠ざかつてゐるので、亡き父上の佛前に行つてお詫をしたいと思つてもそれはできない。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕一朝天步艱、邦君身先淪、頑鈍不レ知レ機、罪戾及二孤臣一、孤臣困二葛藟一、君冤向レ誰陳、孤子遠二墳墓一、何以謝二先親一。

【孤志】109 コシ 誰の助けもない志。輔佐するもののないこころざし。〔道德指歸論〕折二其強輔一、以孤二其志一。

【孤嗣】110 コシ みなしご。遺孤。〔曹植、王仲宣誄〕翩翩孤嗣、號慟崩摧。

【孤雌】111 コシ 雄を失つた雌。寡婦の喩。〔司馬相如、長門賦〕白鶴嗷以哀號兮、孤雌跱二於枯楊一。

【孤雌寡鶴】112 コシクワカク 配偶を失つた鳥。夫、又は妻を失つた人をいふ。孤雌寡鵠。〔王褒、洞簫賦〕孤雌寡鶴、娛二優乎其下一兮。〔注〕五臣作レ鵠。

【孤寺】113 コジ ただ一つの寺。人里を離れてただ一つある寺。〔蘇軾、過レ淮三首贈二景山一兼寄二子由一詩〕藹藹藏二孤寺一、冷冷出二細泉一。

【孤兒】114 コジ みなしご。孤子。〔史記、孝文紀〕孤兒九歲已下。〔史記、趙世家〕昔下宮之難不レ能レ死、與レ我謀レ匿二趙孤兒一、今又賣レ我、縱不レ能レ立、而忍レ賣レ之乎。〔後漢書、李善傳〕孤兒續、始生數日、而貲財千萬。〔劉長卿、哭二員外郎繼一詩〕獨聞山吏部、流涕訪二孤兒一。

【孤兒院】115 コジヰン 孤兒を收容して養育し、又、それに業務を授けるところ。

【孤兒行】116 コジカウ 樂府、相和歌辭瑟調曲の名。一名、放歌行。兄嫂に苦しめられて久しく與に居り難い意を述ぶ。〔樂府詩集、相和歌辭、瑟調曲、孤兒行〕孤子生行、一曰二孤兒行一、古辭言、孤兒爲二兄嫂所一レ苦、難二與久居一也、歌錄曰、孤子生行、亦曰二放歌行一、樂府解題曰、鮑照放歌行云、蓼蟲避二葵菫一、言朝廷方盛、君上好レ才、何爲臨レ岐相將去也。〔古樂府、孤兒行〕孤兒生、孤子遇、生命獨當レ苦、父母在時、乘二堅車一、駕二駟馬一、父母已去、兄嫂令二我行賈一、南到二九江一、東到二齊與一レ魯、臘月來歸、不二敢自言一レ苦、頭多二蟣虱一、面目多レ塵、大兄言レ辦レ飯、大嫂言レ視レ馬、上二高堂一、行取レ殿下レ堂、孤兒淚下如レ雨、使二我朝行汲一、暮得レ水來歸、手爲錯足下無レ菲、愴愴履レ霜、中多二蒺藜一、拔二斷蒺藜一腸肉中愴欲レ悲、淚下渫渫、清涕纍纍、冬無二複襦一、夏無二單衣一、居生不レ樂、不レ如三早去下從二地下黃泉一、春氣動、草萌芽、三月蠶桑、六月收レ瓜、將二是瓜車一、來到還レ家、瓜車反覆、助レ我者少、啗レ瓜者多、願還二我蔕一、獨且急歸、兄與レ嫂嚴、當興二校計一、亂曰、里中一何譊譊、願欲レ寄二尺書一、將與二地下父母一、兄嫂難二與久居一。

【孤兒寡婦】118 コジクワフ みなしごとごけ。より所のない者。〔晉書、石勒載記下〕大丈夫行レ事、當二礌礌落落、如二日月皎然一、終不レ能下如二曹孟德・司馬仲達父子欺二他孤兒寡婦一、孤媚以取中天下上也。〔淵鑑類函、人部、寡婦、寡婦船〕范文正公鎭レ越、民曹孫居中卒、子孫家貧、公助二俸錢百緡一、治二巨舟一差二老衙校一送歸、作二詩一絕一、戒二其吏一曰、過二關津一、但以二吾詩一示レ之、詩云、十口相持泛二巨川一、來時煥熱去淒然、關津若要レ知二名姓一、便是孤兒寡婦船。

【孤囚】119 コシウ 一人はなれて捕へられた者。〔柳宗元、放二鷓鴣一詞〕二子得レ意猶念レ此、況我萬里爲二孤囚一。

【孤舟】120 コシウ ただ一つの舟。つれのない舟。孤帆。〔陶潛、始作二鎭軍參軍一經二曲阿一作詩〕眇眇孤舟逝。〔杜甫、登二岳陽樓一詩〕親朋無二一字一、老病有二孤舟一。〔許渾、七里灘詩〕天晚日沉沉、孤舟繫二柳陰一。〔張謂、杜侍御送二貢物一戲贈詩〕疲馬

山中愁二日晩一、孤舟江上畏二春寒一。

【孤秀】121 コシウ　ひとりだけづぬけてすぐれる。〔梁昭明太子、錦帶書、十二月啓、中呂四月〕涵蚌胎二于學海一、卓爾超レ羣、蘊鵲抵二於文山一、儼然孤秀。〔張克、與二徐勉一書〕獨師懷抱、不レ見レ許二於俗人一、孤秀神崖、每邅二廻于在世一。

【孤愁】122 コシウ　ただひとりで物思ひをすること。〔陸游、九月二十五日雞鳴前起待レ旦詩〕孤愁還似レ客二天涯一。〔楊萬里、明發二五峯寺一詩〕夜雨醒二醉眼一、孤愁念二群騶一。

【孤獸】123 コジウ　群にはなれた一匹の獸。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕孤獸走索レ羣、銜レ草不レ遑レ食。

【孤疾】124 コシツ　孤子と病人。〔左氏、襄、二十六〕歸二老幼一、反二孤疾一。〔左氏、昭、二十〕所二以天昏孤疾一者、爲二暴君一使也。〔國語、魯語下〕於レ是乎有二鰥寡孤疾一。

【孤質】125 コシツ　孤獨な性質。〔韓愈、翫レ月喜下張十八員外以二王六祕書一至上詩〕孤質不二自憚一、中天爲レ君施。

【孤掌】126 コシヤウ　一つの手のひら。孤掌難レ鳴を見よ。

〖孤掌難レ鳴〗127 コシヤウナラシガタシ　手を拍つに、片手では鳴らない。ひとりでは何事も成就しない喩。韓非子、功名篇の一手獨拍、雖レ疾無レ聲に本づく。〔傳燈錄〕僧請三道匡示二箇入路一、匡側レ掌示レ之曰、獨掌不二浪鳴一。〔戴善夫、風光好曲〕孤掌難レ鳴。

【孤傷】128 コシヤウ　❶獨り悲しみ傷む。〔史記、春申君傳〕鬼神孤傷、無レ所二血食一。❷幼くて父母を失ふこと。〔易林、豐之レ旅〕天命絶レ後、孤傷無レ主、彷二徨兩社一、獨不レ得レ酒。

【孤嶂】129 コシヤウ　ひとつ離れた高い山。〔杜甫、登二兗州城樓一詩〕孤嶂秦碑在、荒城魯殿餘。

【孤障】130 コシヤウ　ひとつ離れたとりで。〔尹廷高、錢塘懷古詩〕江上怒濤空拍レ岸、海門孤障自横レ秋。〔高啓、贈二馬冠軍一詩〕壯志忽蹉跎、秋風臥二孤障一。

【孤城】131 コジヤウ　孤立してゐる城。助けのない城。又、ただ一つ離れた城。孤壘。〔唐書、張巡傳〕巡西向拜曰、孤城備竭、弗レ能レ全。〔杜甫、送レ遠詩〕親朋盡一哭、鞍馬去二孤城一。〔李嘉祐、仲夏江陰官舍寄二裴明府一詩〕萬室邊江次、孤城對レ海安。〔王昌齡、從軍行〕青海長雲暗二雪山一、孤城遙望玉門關。

〖孤城嫗〗132 コジヤウウ　三國、吳の老婆の名。よく人相を見たといふ。〔吳志、吾粲傳、注〕吳錄曰、粲生數歲、孤城嫗見レ之、謂二其母一曰、是兒有二卿相之骨一。〔吳志、趙達傳、注〕孤城鄭嫗能相レ人。

〖孤城落日〗133 コジヤウラクジツ　孤立無援の城に力ない夕日がさしてゐること。賴りなく心細いありさまの喩。〔王維、送二韋評事一詩〕欲下逐二將軍一取中右肩上、沙場走レ馬向二居延一、遙知漢使蕭關外、愁見孤城落日邊。

【孤彴】134 コシヤク　一本の丸木橋。獨木橋。〔韋莊、和二薛先輩見レ寄初秋寓懷卽事之作一詩〕澗柳横二孤彴一、巖藤架二密陰一。

【孤弱】135 コジヤク　❶助けがなく弱い。又、其の人。孤羸。〔晏子、諫、下〕勇士不下以二衆強一凌中孤弱上。〔史記、主父傳〕天子孤弱、號令不レ行。〔吳志、陸凱傳〕矜二哀孤弱一、以鎭二撫百姓之心一。❷幼くて親のない者。〔李密、陳情表〕祖母劉愍二臣孤弱一。

【孤主】136 コシユ　❶君主を孤立させる。〔孔子家語、屈節解〕是子上無二彊臣之敵一、下無二民人之過一、孤レ主制レ齊者唯子也。❷助けのない主君。

【孤戍】137 コジユ　援けのないまもり。孤立無援の守備。〔杜甫、發二秦州一詩〕日色隱二孤戍一、烏啼滿二城頭一。〔許棠、秋江霽望詩〕山高孤戍斷、野極暮天平。

【孤樹】138 コジユ　ただ一本の立ち樹。一株の樹木。孤木。〔杜甫、臨邑舍弟書至云云詩〕白屋留二孤樹一、青天失二萬艘一。〔高啓、山中別三寧公歸二西塢一詩〕沙村孤樹晚依微。〔吳偉業、初冬月夜過二子俶一詩〕門開孤樹直、影逼兩人寒。

【孤孺】139 コジユ　ひとり子。みなしご。〔唐書、徐岱傳〕宗族孤孺者、皆爲二婚嫁一。

【孤終】140 コシユウ　父の無い者と死亡したもの。〔國語、周語上〕司民協二孤終一。〔注〕無レ父曰レ孤、終、死也。

【孤嶼】141 コシヨ　❶はなれ島。〔謝靈運、登二江中孤嶼一詩〕亂レ流趨二正絶一、孤嶼媚二中川一。〔注〕善曰、劉淵林吳都賦注曰、嶼、海中洲上有二山石一。〔孟浩然、陪二張丞相一自二松滋江一東泊二渚宮一詩〕雲物凝二孤嶼一、江山辨二四維一。❷山名。浙江省永嘉縣の北江の中に在つて、東西兩峯に分れ、上に各ゝ塔がある。宋の益・廣の二王が、溫州に走り、陸秀夫・張世傑等と共に會した處。後世、土砂の爲に兩峯相連なる。〔讀史方輿紀要、浙江、溫州府、永嘉縣、華蓋山〕孤嶼山、在二城北江中一、與レ城相對、東西有二二峯一、上各有レ塔、山麓有二江心寺一、云云、德祐二年、益王・廣王走二溫州一、陸秀夫・陳宜中・張世傑等、共會二於此一、奉二益王一爲二天下兵馬都元帥一、是也。

【孤松】142 コシヨウ　一本の松の樹。ひとつまつ。〔陶潛、四時詩〕秋月揚二明暉一、冬嶺秀二孤松一。〔陶潛、歸去來辭〕撫二孤松一而盤桓。〔張說、遙同二蔡起居偃松篇一詩〕清都衆木總榮芬、傳道孤松最出レ羣。

【孤勝】143 コシヨウ　ひとりがちする。〔楊萬里、詩〕頗欲レ問二故老一、雙爭誰孤勝。

【孤竦】144 コシヨウ　ひとり高く聳え立つ。孤聳に同じ。〔水經、澧水注〕武陵郡、嵩梁山、高峯孤竦、素壁千尋、望二之若亭一、有レ似二香爐一。

【孤聳】145 コシヨウ　ひとり高く聳え立つ。たぐひなくひとり高い。孤竦。〔西征記〕古木蒼瘦、怪石孤聳。

【孤燭】146 コシヨク　一つのともしび。孤燈。〔江淹、銅爵妓詩〕清夜何湛湛、孤燭映二蘭幕一。

【孤心】147 コシン　ひとり淋しい心。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕先帝早棄二天下一、孤心煢煢、靡レ所二瞻仰一。

【孤臣】148 コシン　君に見捨てられた臣。又、君に遠くはなれてゐる臣。〔柳宗元、入二黃溪一聞レ猿詩〕孤臣淚已盡、虛作二斷腸聲一。〔蘇軾、八月七日初入レ贛過二惶恐灘一詩〕山憶二喜懽一勞二遠夢一、地名二惶恐一泣二孤臣一。

〖孤臣孽子〗149 コシンゲツシ　君や親に得られないで災患に逢つた者。孽子は、妾腹の子。〔孟子、盡心上〕獨孤臣孽子、其操レ心也危、其慮レ患也深、故達。〔集注〕孤臣、遠臣、孽子、庶子、皆不レ得二於君親一。〔江淹、恨賦〕或有二孤臣危レ涕、孽子墜レ心。

【孤身】150 コシン　ひとりみ。單身。同伴者又は知己交友のないこと。又、配偶者のないこと。獨身。

〖孤身無靠〗151 ku^1 shen^1 wu^2 k‘ao^4 獨身でよるべない者。

【孤辰】152 コシン　不吉の星。九星で大惡日とする日。三月は戊申・庚申・壬申の日、四月は己未・辛未・癸未の日、九月は甲寅・丙寅・戊寅の日、十月は乙丑・丁丑・己丑の日。〔後漢書、方術傳序、孤虛之術、注〕孤虛者、孤、謂二六甲之孤辰一、若二甲子旬中戌亥無レ干、是爲レ孤也。〔還魂記、鬧殤〕夫人不下是你坐二孤辰一、把二子宿一囂上。

【孤進】153 コシン　仲間を作らず、自分ひとりですすむ。〔唐書、王涯傳〕帝以二其孤進自樹立一、數訪逮。

〖孤進還丹〗154 コシンクワンタン　科擧に及第することを仙藥に喩へていふ語。步行さへ大儀であつた唐の許棠が、晚年科擧に及第するに及んで、果然、體力元氣を恢復したことからいふ。〔金華子、雜編下〕許棠常言二于人一曰、往者年漸衰暮、行倦レ達二官門下一、身疲且重、上レ馬極難、自喜、一第以來、筋骨輕健、攬レ轡升降、猶愈二于少年時一、則知、一名能療二身心之疾一、其人世孤進之還丹也。

【孤斟】155 コシン　ひとり酒を飲む。獨酌。〔韓愈、縣齋讀レ書詩〕詩成有二共賦一、酒熟無二孤斟一。〔蘇軾、次二韻劉貢父所レ和韓康公憶二持國一詩〕已託二西風一傳二絶唱一、且邀二明月一伴二孤斟一。

【孤寢】156 コシン　ひとりね。〔李白、擣衣篇〕瓊筵寶幄連二枝錦一、燈燭熒熒照二孤寢一。

【孤刃】157 コジン　ひとつの刃。獨力の喩。〔宋孝武帝、詠史詩〕孤刃駭二韓庭一、獨步震二秦宮一。

【孤翠】158 コスイ　❶ただ一本のみどりの竹。〔陳子昂、修竹篇〕龍種生二南嶽一、孤翠鬱亭亭。❷離れて孤立してゐるみどりの山。〔蘇軾、七月五日詩〕雲間聳二孤翠一、林表浮二遠漲一。❸ただ一つのみどり色。〔劉太眞、宣州東峯亭各賦二一物一得二古壁苔一詩〕光含二孤翠一動、色與二暮雲一寂。

【孤雛】159 コスウ　親鳥の無い雛。たよるところの無いあはれな雛。〔晉書、張駿傳〕鴻從レ南來雀不レ驚、誰謂孤雛尾翅生。

〖孤雛腐鼠〗160 コスウフソ　一羽のひなどりと腐つた鼠。つまらぬものの喩。これまで重用した者を簡單に捨て去る喩。〔後漢書、竇憲傳〕國家棄レ憲、如二孤雛腐鼠一耳。〔故事成語考、鳥獸〕棄レ人甚易、曰二孤雛腐鼠一。

【孤生】161コセイ よるべない身。〔後漢書、張霸傳〕爲二會稽太守一、視レ事三年、謂二掾史一曰、太守起レ自二孤生一、致二位郡守一。〔柳宗元、南澗中題詩〕孤生易レ爲レ感、失レ路少レ所レ宜。

【孤征】162コセイ 連れもなくただひとり遠くに往く。〔郭璞、江賦〕霧如二晨霞孤征一。〔陶潛、辛丑歲七月赴レ假還二江陵一夜行塗中詩〕懷レ役不レ遑レ寐、中宵尙孤征。〔陳子昂、晚次二樂鄉縣一詩〕故鄉杳無レ際、日暮且孤征。

【孤星】163コセイ 消え殘つた星。一つぼし。身よりのない女子の喩。唐の崔曙が明堂火珠詩を作り、詩中に曙後一星孤の句があつたところ、其の詩が讖を爲し、後、一女を殘して死んだ故事。〔王損之、曙觀二秋河一賦〕孤星迴泛、狀二淸淺之沈珠一。〔本事詩〕崔曙進士、作二明堂火珠詩一、續帖曰、夜來雙月滿、曙後一星孤、當時以爲二警句一、及二來年曙卒一、唯一女名星星、始悟二其自讖一也。

【孤棲】164コセイ ひとりですむ。又、ひとりずまひ。孤栖。〔李白、把レ酒問レ月詩〕白兔擣レ藥秋復春、嫦娥孤棲與レ誰鄰。

【孤聖】166コセイ 孤獨な聖人。世に容れられない聖人。〔楚辭、東方朔、七諫、沈江〕衆竝諧以妬レ賢兮、孤聖特而易レ傷。

【孤峭】167コセウ 巖がけはしく突出してゐること。轉じて、心がきびしく、世俗と合はないこと。卓立のさま。〔隋書、蕭吉傳〕吉性孤峭、不下與二公卿一相沈浮上。〔東觀奏記〕李德裕性孤峭、嫉二朋黨一如二仇讎一。

【孤照】168コセウ ひとり明かに照らす。又、其のこと。〔魏書、張彝傳〕元天高明、尙假二列星一以助レ明、洞底淵湛、猶藉二衆流一以增レ大、莫レ不下以二孤照一不上レ詣二其幽獨一。

【孤寂】169コセキ・コジヤク ひとりさびしい。人無くしづかなこと。〔于濆、旅館秋思詩〕旅館坐孤寂、出レ門成二苦吟一。〔楊萬里、梅花下遇二小雨一詩〕遶レ花百匝不レ忍レ歸、生二怕幽芳一怨二孤寂一。

【孤績】170コセキ 人に知られない功績。埋れたてがら。〔鮑照、代東武吟〕時事一朝異、孤績誰復論。

【孤妾】171コセフ たよりのないめかけ。ひとり殘されためかけ。〔曹植、七哀詩〕君行踰二十年一、孤妾常獨棲。

【孤賤】172コセン ひとりぼつちで賤しい。〔後漢書、黃香傳〕臣江淮孤賤、愚矇小生。〔任昉、爲二范始興一作求レ立二太宰碑一表〕臣里閭孤賤。

【孤蟾】173コセン 一輪の月。〔宋史、樂志十五〕殘霞弄レ影孤蟾浮。

【孤僧】174コソウ ただ一人の僧侶。〔李商隱、北青蘿詩〕殘陽西入レ崦、茅屋訪二孤僧一。〔蘇軾、成都進士杜暹伯升出家名二法通一往二來吳中一詩〕欲レ識當年杜伯升、飄然雲水一孤僧。

【孤仄】175コソク 詩の平仄が○●○のやうに、平字と平字との間に仄字を挾むものをいふ。一名、挾仄。平仄（**4－9167**・・400）の㊀を見よ。〔詩轍〕。

【孤塞】176コソク 自分の意見のみを善とし、人の意見を容れない人。〔後漢書、申屠剛傳〕專レ己者孤、拒レ諫者塞、孤塞之政、亡國之風也。

【孤村】177コソン ぽつつり離れた村里。〔皇甫松、大隱賦〕樵歸而水遶二孤村一。〔韋應物、自二鞏洛一舟行入二黃河一、卽事寄二府縣寮友一詩〕孤村幾歲臨二伊岸一、一鴈初晴下二朔風一。〔盧綸、與二從第瑾一同下第後出レ關言レ別詩〕孤村樹色昏二殘雨一、遠寺鐘聲帶二夕陽一。〔晁沖之、曉行詩〕孤村到レ曉猶燈火、知レ有二人家夜讀一レ書。

【孤尊】178コソン ただ一つの酒樽。孤樽。〔戴叔倫、泛舟詩〕孤尊秋露滑、短櫂晚煙迷。

【孤懦】179コダ ひとりだちで弱いもの。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕窺二其鄉愚孤懦一、故將二銀確一傾翻、急難二淘淨一、反賴二他人一。

【孤島】180コタウ 海中などに一つ遠くはなれてゐる島。〔王維、送三祕書晁監還二日本國一詩〕鄉樹扶桑外、主人孤島中。

【孤撐】181コタウ 助けなく獨りしてささへること。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕浮虛有二新斸一、摧抗饒二孤撐一。

【孤單】182コタン みなしご。單獨。一人。〔南齊書、孝義傳、韓靈敏〕倪翼之母丁氏、少喪レ夫、性仁愛、云云、同里陳穰、父母死、孤單無二親戚一、丁氏收二養之一。

【孤襌】183コタン 一枚の單衣。〔林逋、懷二長吉上人北遊一詩〕孤襌安二逆旅一、警句語二誰人一。

【孤稚】184コチ 幼少なみなし子。〔梁武帝、祠二南郊一恩詔〕凡民有下單老孤稚不レ能二自存一主者上、郡縣或加二收養一。〔張籍、祭二退之一詩〕親朋有二孤稚一。

【孤竹】185コチク ㊀獨生の竹。〔周禮、春官、大司樂〕孤竹之管、雲和之琴瑟。〔注〕孤竹、竹特生者。㊁竹の一種。〔彙苑詳注〕孤竹、生二穀城之薤山一、三年一筍、筍成竹死、代謝不レ已。〔筍譜〕襄陽薤山下有二孤竹一、三年方生二一筍一、及二筍成一竹、竹母已死矣、代謝如二春秋一焉。㊂竹笛をいふ。〔張協、七命〕吹二孤竹一、拊二雲和一。〔注〕翰曰、孤竹、管也。㊃樂曲の名。〔庾信、爲二晉陽公一進二玉律秤尺斗升一表〕奏二黃鐘一而歌二大呂一、變二孤竹一而舞二雲門一。㊄商（殷）の時の國名。一に觚竹に作る。神農の後。周の武王を諫めて首陽山に餓死した伯夷・叔齊は孤竹君の二子。漢の遼西郡に屬す。今の河北省盧龍縣から熱河省朝陽縣に至る一帶の地。〔管子、大匡〕桓公北伐二令支一、下二鳧之山一、斬二孤竹一。〔史記、周紀〕伯夷叔齊在二孤竹一。〔注〕正義曰、括地志云、孤竹故城、在二平州盧龍縣南十二里一、殷時諸侯竹國也。〔史記、伯夷傳〕伯夷叔齊、孤竹君之二子也。〔注〕索隱曰、其傳云、孤竹君、是商湯三月丙寅日所レ封、云云、地理志云、孤竹城、在二遼西令支縣一、應劭曰、蓋伯夷之國也、其君、姓墨胎氏。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、盧龍縣〕孤竹城、府西十五里、世紀、湯十有八祀、封二墨胎氏孤竹國一、後九葉、孤竹君二子伯夷叔齊、以レ讓レ國逃去、管子、齊桓公北征二孤竹一、至二卑耳之溪一、史記、齊桓公北伐二山戎一、至二於孤竹一、是也、漢志注、令支縣有二孤竹城一、括地志、孤竹古城、在二盧龍城南十二里一、今故蹟已不レ可レ考、城或後人所レ築、而冠以二故名一云。㊅北方荒遠の地にある國名。觚竹。〔爾雅、釋地〕觚竹・北戶・西王母・日下、謂二之四荒一。〔注〕觚竹在レ北、北戶在レ南、西王母在レ西、日下在レ東、皆四方昏荒之國。㊆城名。河北省盧龍縣の南。〔水經、濡水注〕玄水又西南逕二孤竹城北一、西入二濡水一。㊇複姓。〔元和姓纂〕夷齊讓レ國、餓二死首陽一、子孫以レ國爲レ氏、亦單稱二竹氏一。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕孤竹氏、商之諸侯也、夷齊讓レ國、其後遂以レ國爲レ氏。

【孤竹君】186コチククン 商、墨胎初（**3－5469**・・144）の封號。

【孤竹齋】187コチクサイ 淸、陳延（**11－41698**・・35）の號。

【孤帳】188コチヤウ ひとつのとばり。又、ひとりゐのとばり。〔沈約、悼亡詩〕游塵掩二虛坐一、孤帳覆二空牀一。〔王僧孺、夜愁示二諸賓一詩〕孤帳閉不レ開、寒膏盡復益。

【孤忠】189コチユウ 他人の助けなく、己一人で盡す忠義。〔胡炳文、拜二岳鄂王墓一詩〕大義君臣重、孤忠天地知。

【孤注】190コチユウ 孤は一つ、注は投出して賭ける。賭博に財を盡く賭けて一度に勝敗を決すること。のるかそるかの大冒險。やま。乾坤一擲。孤注一擲を見よ。〔宋史、寇準傳〕欽若曰、城下之盟、春秋恥レ之、澶淵之擧、是城下之盟也、以二萬乘之貴一、而爲二城下之盟一、其何恥如レ之、帝愀然爲レ之不レ悅、欽若曰、陛下聞レ博乎、博者輸レ錢欲レ盡、乃罄レ所レ有出レ之、謂二之孤注一、陛下寇準之孤注也、斯亦危矣。〔宋史長編〕澶淵之役、王欽若譖曰、寇準以二陛下一爲二孤注一。〔通俗編、貨財、孤注〕賓朋宴語、博者以二勝彩一累レ注、敗者惟有二畸零一、不レ累二注數一、謂二之孤注一。

【孤注一擲】191コチユウイツテキ 賭博に負け續けたとき、最後に其の所有の金を全部一度にかけて勝負を決すること。一ちかばちかやつてみること。孤注を見よ。〔元史、伯顏傳〕其將士皆曰、我輩受二宋厚恩一、云云、備二吾甲兵一、決二之今日一、我宋天下、猶二賭博孤注一、輸贏在二此一擲一爾。

【孤女】192コヂヨ 父のない女。〔魏志、武帝紀〕伯魚三娶二孤女一、謂三之撾二婦翁一。

【孤枕】193コチン ひとりねの枕。又、獨り寢ること。〔李白、月下獨酌詩〕醉後失二天地一、兀然就二孤枕一。〔李商隱、戲贈二張書記一詩〕別館君孤枕、空庭我閉レ關。

【孤亭】194コテイ ㊀ぽつんと高いさま。〔木華、海賦〕崪嵲孤亭。〔注〕翰曰、崪嵲孤亭、高皃。㊁ただ一つのあづまや。離れ座敷。〔梅堯臣、會二勝院沃洲亭一詩〕孤亭一入野氣深。〔元好問、橫波亭爲二青口師一賦〕孤亭突兀插二飛流一、氣壓元龍百尺樓。

【孤艇】195コテイ 一艘の小舟。〔劉長卿、送下方外上人之二常州一依中蕭使君上詩〕夕陽孤艇去、秋水兩溪

分。

【孤鳥】196（コテウ）　群をはなれた一羽の鳥。〔阮籍、詠懷詩〕孤鳥西北飛。〔潘岳、寡婦賦〕孤鳥嚶嚶兮悲鳴。〔杜牧、登樂遊原詩〕長空澹澹孤鳥沒、萬古銷沈向此中。〔蘇軾、登州海市詩〕斜陽萬里孤鳥沒、但見碧海磨青銅。

【孤超】197（コテウ）　他とかけはなれ高く抜け出てゐること。〔蘇軾、巫山詩〕孤超兀不讓、直拔勇無畏。

【孤笛】198（コテキ）　一本の笛。〔曾鞏、遊麻姑山詩〕玲瓏當窓急雨洒、窈窕隔溪孤笛吟。

【孤姪】199（コテツ）　兄弟の子で親に死なれた者。〔陳書、王元規傳〕倉卒引其母妹幷孤姪入船。〔稱謂錄、亡兄弟之子、孤姪〕北史、李郁傳、兄陽卒、撫育孤姪、歸於鄉里。

【孤蝶】200（コテフ）　一疋の蝶。友なき蝶。〔李商隱、蝶詩〕孤蝶小徘徊、翩翾蝶翅開。

【孤店】201（コテン）　近鄰に家のない旅店。一軒家。〔元稹、雪後宿同軌店上法護寺鐘樓望月詩〕烟火漸稀孤店靜、月明深夜古樓中。

【孤囀】202（コテン）　ひとりさへづること。〔李百藥、笙賦〕或萬殊而競響、乍孤囀而飛聲。

【孤屠】203（コト）　孤塗に同じ。〔後漢書、南匈奴傳、單于姓虛連題、注〕謂子爲孤屠。

【孤塗】204（コト）　匈奴の語。子をいふ。孤屠。天を撑犂といひ、天子を撑犂孤塗といふ。〔漢書、匈奴傳上〕單于、姓攣鞮氏、其國稱之曰撑犂孤塗單于、匈奴謂天爲撑犂、謂子爲孤塗。

【孤棟】205（コトウ）　一本のむなぎ。轉じて、一軒の家。孤屋。〔謝靈運、山居賦〕葺駢梁於巖麓、棲孤棟於江源。

【孤燈】206（コトウ）　ひとつのともしび。孤燭。〔謝惠連、秋懷詩〕寒商動清閨、孤燈曖幽幔。〔司空曙、雲陽館與韓紳宿別詩〕孤燈寒照雨、濕竹暗浮煙。〔岑參、宿關西客舍寄嚴許二山人云云詩〕孤燈然客夢、寒杵搗鄉愁。

【孤桐】207（コトウ）　一本だけ生えた桐。〔書、禹貢〕羽畎夏翟、嶧陽孤桐。〔傳〕孤、特也、嶧山之陽特生、桐中琴瑟。〔蔡傳〕孤桐、特生之桐、其材中琴瑟。

【孤童】208（コドウ）　みなしご。〔墨子、兼愛下〕幼弱孤童之無父母者、有所放依、以長其身。

【孤特】209（コトク）　ひとり立ちで助けがない。ひとりぼっち。單子。〔管子、明法解〕人主孤特而獨立。〔韓非子、孤憤〕處世卑賤、無黨孤特。〔史記、項羽紀〕孤特獨立而欲常存、豈不哀哉。〔漢書、劉向傳〕以不能阿尊事貴、孤特寡助、抑厭遂退。〔唐書、崔元翰〕孤特自恃。

【孤薵】210（コトク）　蕾をいふ。北方人の語。〔居易錄〕通雅、蓓蕾謂之葧、又爲葰、北人謂之孤薵、音如孤都、即宋景文所云胍肫、今山東方言尚云孤都也。

【孤犢】211（コトク）　親にはなれた小牛。〔列子、仲尼〕孤犢未嘗有母。〔莊子、列禦寇〕雖欲爲孤犢、其可得乎。

【孤犢觸乳】212（コトクショクニュウ）　親のない小牛は乳をさがし親を求める。たよりない者が救を求める喩。〔謝承後漢書〕仇覽爲縣陽遂亭長、好行教化、人陳元凶惡、不孝、其母詣覽言元、覽呼元、誚責元以子道、與一卷孝經、使誦讀之、元深改悔、到母牀下謝罪曰、元少孤、爲母所驕、諺曰、孤犢觸乳、驕子罵母、乞今自改、母子更相向泣、於是元遂修孝道、後成佳士也。

【孤獨】213（コドク）　ひとりぼっち。又、その人。孤は親のない幼者、獨は子のない老者。〔禮、王制〕恤孤獨、以逮不足。〔禮、樂記〕老幼孤獨、不得其所。〔孟子、梁惠王下〕老而無妻曰鰥、老而無夫曰寡、老而無子曰獨、幼而無父曰孤、此四者、天下之窮民而無告者。〔管子、四時〕論孤獨、恤長老。〔荀子、君道〕孤獨而晻、謂之危。〔史記、司馬相如傳〕恤鰥寡、存孤獨。

【孤獨園】214（コドクエン）　❶孤兒院・養老院の類。〔南史、梁武帝紀下〕普通二年春、詔置孤獨園、以恤孤幼。❷給孤獨園（**8**－**27432**··81）を見よ。

【孤獨矜寡】215（コドククワンクワ）　四種の窮民。幼にして父のない者を孤といひ、老いて子のない者を獨といひ、老いて妻のない者を矜といひ、老いて夫のない者を寡といふ。〔禮、王制〕少而無父者謂之孤、老而無子者謂之獨、老而無妻者謂之矜、老而無夫者謂之寡、此四者天民之窮而無告者、有常餼。〔孟子、梁惠王下〕老而無妻曰鰥、老而無夫曰寡、老而無子曰獨、幼而無父曰孤、此四者天下之窮民而無告者、文王發政施仁、必先斯四者。

【孤豚】216（コトン）　親にはなれた子ぶた。一匹の豚。轉じて、いやしい物に喩へる。〔史記、莊周傳〕雖欲爲孤豚、豈可得乎。〔後漢書、翟酺傳〕及其破壞、頭顙墮地、願爲孤豚、豈可得乎。〔韓愈、寄崔立之詩〕孤豚眠糞壤、不慕太廟犧。

【孤念】217（コネン）　獨り抱いてゐる念願。〔陶潛、戊申歲六月中遇火詩〕總髮抱孤念、奄出四十年。

【孤芳】218（コハウ）　❶ひとりすぐれてかんばしい。又、その花。〔楊萬里、彥通以詩送石菖蒲和謝之詩〕笑拂孤芳旋汲泉。〔朱熹、賦水仙花詩〕隆冬凋百卉、江梅厲孤芳。❷人品の高潔なさま。孤高絶俗。〔沈約、謝齊竟陵王教撰高士傳啓〕貞操與日月俱懸、孤芳隨山壑共遠。〔韓愈、孟生詩〕異質忌處羣、孤芳難寄林。

【孤拔】219（コバツ）　群をぬけでる。〔呂溫、送薛大信序〕天光朗映、秀氣孤拔。

【孤帆】220（コハン）　一つの帆。ただ一隻の帆かけ舟。孤舟。〔梁簡文帝、與劉孝綽書〕夕鳥歸林、懸孤帆而未息。〔李白、黃鶴樓送孟浩然之廣陵詩〕孤帆遠影碧空盡、惟見長江天際流。〔李白、望天門山詩〕兩岸青山相對出、孤帆一片日邊來。〔張說、江上愁心賦〕伴衆鳥兮寒渚、望孤帆兮日邊。

【孤飛】221（コヒ）　群を離れてひとり飛ぶ。〔謝惠連、雪賦〕對庭鵾之雙舞、瞻雲鴈之孤飛。〔楊萬里、濠原路中詩〕病鴈孤飛失老鴻。

【孤微】222（コビ）　よるべなく、且、身分のいやしいこと。又、その人。〔後漢書、張奐傳〕孤微之人。〔魏志、管寧傳〕臣海濱孤微。〔益都耆舊傳〕張嶷出自孤微、而少有通壯之節。

【孤平】223（コヒヤウ）　近體詩で、一個の平字が二個の仄字に挾まれた場合をいひ、俗に之を挾平といふ。近體で尤も忌むもので、特に五言では第二字、七言では第四字の孤平を忌む。

【孤貧】224（コヒン）　孤獨で貧乏。〔漢書、王莽傳上〕莽獨孤貧。〔後漢書、劉梁傳〕少孤貧。

【孤貧糧】225（コヒンリヤウ）　孤獨で貧乏の者に官から給與する米。〔六部成語、戶部、孤貧口糧、注解〕孤貧無依之人、收入養濟院者、每月按口給糧。

【孤貧顚連】226（コヒンテンレン）　孤獨の人と、貧窮の人と、事に挫折した人と、家もなくてさまよふ者。〔六部成語、戶部、孤貧顚連、注解〕孤寡貧窮顚沛流連之人也。

【孤負】227（コフ）　そむく。背負。背違。辜負。〔李陵、答蘇武書〕孤負陵心區區之意。〔後漢書、東海恭王彊傳〕孤負重恩、銜恨黃泉。〔蜀志、先主劉備傳〕常恐殞沒孤負國恩。〔杜甫、奉贈盧五丈參謀琚詩〕孤負滄洲願。〔韓愈、感春詩〕孤負平生心、已矣知何奈。〔緗素雜記〕世之學者、多以罪辜之辜爲孤負字、非也、蓋公正、衆所附、私反而孤焉、則有相背之意、孤負云者、言其背負而已、故李陵書云、陵雖孤恩、漢亦負德、又云、孤負陵心。〔通俗編、交際、孤負〕毛晃增韻、凡孤負字、當作孤、俗作辜、非。

【孤僨】228（コフン）　孤立して勢が自ら衰へる。〔漢書、匈奴傳上〕孝惠高后時、冒頓寖驕、迺爲書使使遺高后曰、孤僨之君、生於沮澤之中、長於平野牛馬之域、數至邊境、願遊中國、陛下獨立、孤僨獨居、兩主不樂、無以自虞、願以所有易其所無。〔注〕如淳曰、僨、仆也、猶言不能自立也。〔王先謙補注〕顧炎武云、僨、如左傳張脈僨興之僨、倉公傳所謂病得之欲男子而不可得也、如說非。

【孤墳】229（コフン）　一つの墓。無緣の墳。〔潘岳、西征賦〕瞰康園之孤墳、悲平后之專絜。

【孤憤】230（コフン）　❶獨り忠をつくして世に容れられないいきどほり。〔韓非子、孤憤、注〕舊說言、法術之士、既無黨與、孤獨而已、故其材用終不見明、卞生既抱玉而長號、韓公由之寢謀而內憤。〔史記、韓非傳〕觀往者得失之變、故作孤憤・五蠹・內外儲・說林・說難十餘萬言。〔注〕索隱曰、孤憤、憤孤直不容於時也。〔陸機、辨亡論上〕忠臣孤憤、烈士死節。〔淮南子、泰族訓〕今商鞅之啓塞、申子之三符、韓非之孤憤、張儀・蘇秦之從衡。❷韓非子の篇名。

【孤兵】231（コヘイ）　他の救援のない孤立の軍勢。〔靖

獻遺言、衣帶中贊〕發二郡中豪傑一、提二孤兵一獨赴。

【孤蔽】232コヘイ　孤立して事情にくらい。〔潛夫論、明忠〕公卿不レ思レ忠、百僚不レ盡レ力、君王孤二蔽於上一、兆黎冤二亂於下一。

【孤標】233コヘウ　獨り拔け出てゐるさま。又、特にすぐれてゐる品格。〔舊唐書、杜審權傳〕塵外孤標、雲間獨步。〔戴叔倫、遊二清溪蘭若一詩〕西看疊嶂幾千重、秀色孤標此一峯。〔李山甫、松詩〕孤標百尺雪中見。

【孤飄】234コヘウ　援助する者もなくおちぶれる。飄は飄零。〔北史、胡叟傳〕孤飄坎壈、未レ有二仕路一。

【孤廟】235コベウ　ただ一つある廟。廟は、靈を祠る處。〔王惲、禹廟詩〕大地河山繡錯明、野煙孤廟枕二荒城一。

【孤藐】236コベウ　幼いみなしご。藐は、眇で、小弱の意。〔左氏、僖、九〕以二是藐諸孤一、辱在二大夫一。〔注〕言下其幼賤、與二諸子一懸藐上也。〔會箋〕方言、眇、小也、眇・藐、古字通、太玄曰、藐德靈黴失、范望注、藐、小貌、毛晃增韻引二此傳文一、亦云、藐、小也、弱也、是藐、眇小貌、杜以二藐遠一爲レ義、非レ是。〔宋史、宋白傳〕贍二濟親族一、撫二卹孤藐一。

【孤僻】237コヘキ　㊀調和しない性質。性格がひがむ。〔鄭谷、喜二秀上人相訪一詩〕孤僻謝二朝衣一。㊁かたゐなか。荒遠の地。〔蘇軾、述レ古以レ詩見レ責二屢不レ赴一會復次二前韻一詩〕我生二孤僻一本無レ鄰。

【孤窆】238コヘン　弔ふもののない墓。無緣塚。窆は、葬下の棺。〔陸龜蒙、和二幽獨君一詩〕如何孤窆裏、猶自讀二三墳一。

【孤保】239コホ　三孤の一。少保をいふ。〔稱謂錄、師傅保、孤保〕宋除郭海武制、眷二于孤保一。

【孤畝】240コホ　一つのあぜ。一つの田。孤隴。〔宋玉、高唐賦〕長風至而波起兮、若二麗山之孤畝一。

【孤峯】241コホウ　ひとつのみね。孤立した山。〔張說、送二梁六一詩〕巴陵一望洞庭秋、日見孤峯水上浮。

【孤峯絕岸】242コホウゼツガン　山峯の高く聳え立つたさま。〔大唐新語〕徐堅謂二張說一曰、諸公昔年皆擅二一時之美一、敢問孰爲二先後一、說曰、李嶠・崔融・薛稷・宋之問、皆如二良金美玉一、無二施不一レ可、富嘉謩之文、如二孤峯絕岸、壁立萬仞、叢雲鬱興、震雷俱發一、誠可レ畏乎。

【孤蓬】243コホウ　ちぎれて風に飛ぶよもぎ。〔李白、送二友人一詩〕此地一爲レ別、孤蓬萬里行。

【孤蓬賦】244コホウフ　後魏の邢產の作つた賦の名。〔海錄碎事、文學、賦〕邢產、字神寶、少時爲二孤蓬賦一、爲二時所一レ稱。

【孤篷】245コホウ　一つの舟のとま。一艘の船。〔皮日休、魯望以二輪鉤一相二示緬懷高致一因作二三篇一詩〕孤篷半夜無二餘事一、應レ被嚴灘聒酒醒。〔范成大、過二松江一詩〕今此孤篷窘二秋熱一。〔朱熹、水口行レ舟詩〕今朝試捲二孤篷一看、依レ舊青山綠樹多。

【孤篷倦客】246コホウケンカク　元、陳方(**11－41698**・・502)の號。

【孤木】247コボク　一株の樹。孤樹。〔賈島、題二隱者君一詩〕雖レ有二柴門一長不レ關、片雲孤木伴二身閑一。

【孤鶩】248コボク　一羽のあひる。〔王勃、滕王閣序〕落霞與二孤鶩一齊飛、秋水共二長天一一色。〔文同、漢中城樓詩〕斷烟橫二沔水一、孤鶩入二洋州一。

【孤本】249コホン　他に存在しない祕籍。又、碑帖の拓本。一つとない祕籍珍本。

【孤蒙】250コモウ　㊀ひとりぼつちで、且、おろか。又、其の人。孤矇。〔班固、幽通賦〕咨孤蒙之眇眇兮、將二圯絕而罔一レ階。〔注〕銑曰、蒙、闇也。㊁自己の謙稱。世に融和しない愚者の意。〔稱謂錄、謙稱孤蒙〕孤而自謙曰二孤蒙一、又曰二單人一、見二選十六一、並見二書敍指南一。

【孤矇】251コモウ　孤蒙に同じ。〔漢書、敍傳上〕咨孤矇之眇眇兮、將二圯絕而罔一レ階。

【孤門】252コモン　たよりにする親族もない貧賤な家。同族がなくして孤立してゐる家。〔論衡、自紀〕充細族孤門。〔北史、郭祚傳〕每以二孤門一往經二崔氏之禍一、常慮二危亡一。

【孤悶】253コモン　ひとりでもだえる。〔開元天寶遺事、戲擲二金錢一〕內庭嬪妃、每レ至二春時一、各於二禁中一、結三伴三人至二五人一、擲二金錢一爲レ戲、蓋孤悶無レ所レ遣也。〔楊萬里、歲之二日欲レ游二翟園一以二寒風一而止詩〕老夫孤悶搔二白頭一。

【孤陽】254 ku^1 yang^2　雌蕊のない花。

【孤老】255コラウ　㊀よるべのない老人。孤獨の老人。妻も子も無く、よるべない年寄。〔管子、幼官〕養二孤老一、食二常疾一、收二孤寡一。〔晉書、劉敏元傳〕此公孤老、餘年無レ幾。㊁旦那。娼婦の所に宿つた客。孤は顧で、目をかけて面倒をみてくれること。顧老。又、夃老・姻嫪に作る。〔說文通訓定聲〕姻、按、今俗謂二女所レ私之人一曰二孤老一。〔名義考〕俗謂二宿レ娼者一曰二孤老一、亦作二夃老一、猶レ言二客人一也。〔水滸傳、四回〕我女兒常常對二他孤老一說二提轄大恩一。

【孤老院】256コラウヰン　孤獨の者や老病者を養ふ所。〔夷堅志〕金國劉廂使下竭二家貲一、建中孤老院上。

【孤老表子】257 ku^1 lao^3 piao^3 tzŭ　孤老と妓。孤老の㊁を見よ。〔桃花扇、卻奩〕那些二孤老表子、還不知摟到幾時哩。

【孤嵐】258コラン　ものさびしい山氣。〔皮日休、縹緲峯詩〕片白作二越分一、孤嵐爲二吳宮一。

【孤鸞】259コラン　㊀つれあひを失つた鸞。配偶を失つた人の喩。鸞は、鳳凰の一種。〔江淹、贈二鍊丹法一和二殷長史一詩〕一待黃冶就、青芬遲二孤鸞一。〔盧照鄰、長安古意〕生憎帳額繡二孤鸞一、好取門簾帖二雙燕一。〔白孔六帖〕孤鸞見レ鏡、覩二其影一謂爲レ雌、必悲鳴而舞。㊁曲名。雙鳳離鸞の曲。〔陶潛、擬古詩〕上絃驚二別鶴一、下絃操二孤鸞一。

【孤嫠】260コリ　みなし兒とやもめ。〔韓愈、復志賦〕擕二孤嫠一而北旋。〔福惠全書、涖任部、攷代書〕其鄉愚孤嫠、不レ能二自寫一。

【孤立】261コリツ　ひとりぼつちで助けがない。又、其のこと。〔史記、秦始皇紀〕子嬰孤立無レ親。〔史記、張湯傳〕孤立行二一意一而已。〔新書、過秦下〕孤立無レ親。〔漢書、張湯傳〕禹志在二奉レ公孤立一、而湯舞レ知以御レ人。〔後漢書、竇融傳〕孤立無レ黨。〔陸機、文賦〕孤立而特峙。

【孤立語】262コリツゴ　言語の形態的分類の一。獨立語。或る言語において、各單語が文法上の變化を示さないで連絡せられた時、其の言語をいふ。例へば中國語・ビルマ語・チベット語の類。Isolating language の譯。

【孤立義務】263コリツギム　法律上、權利と對立しない義務。卽ち教育・納稅等の義務をいふ。

【孤立無援】264コリツムエン　ひとりぼつちでたすけが無い。〔日本政記、後三條天皇〕中外爲二帝孤立無レ援危レ之。

【孤旅】265コリヨ　ひとりたび。又、一人ぼつちで旅する人。孤羇。〔李衞公問對、下〕聚不レ聚爲二孤旅一。

【孤林】266コリン　かけはなれた一かたまりの林。〔謝偃、高松賦〕何茲松之挺茂、擢二修幹於孤林一。

【孤輪】267コリン　ひとつのわ。一つの車。〔皮日休、魯望以二輪鉤一相二示緬懷高致一因作二三篇一詩〕角柄孤輪細膩輕、翠篷十載伴二君行一。

【孤壘】268コルイ　孤立したとりで。孤城。

【孤羸】269コルイ　助けなく弱い。又、か弱くて親のない者。孤弱。〔後漢書、周澤傳〕遷二黽池令一、奉レ公剋レ己、矜二恤孤羸一。

【孤令】270コレイ　ひとりぼつち。孤另に同じ。

【孤另】271コレイ　ひとりぼつち。孤令。單獨。〔宋翔鳳、過庭錄〕黃山谷詩品令茶詞、鳳舞團團餅、恨分破教二孤令一、俗語孤另、卽孤令之訛。

【孤唳】272コレイ　ひとり鳴く鶴の聲。〔畫史〕仰レ霄孤唳留二清耳一。

【孤露】273コロ　孤獨で庇護のないこと。孤は孤獨、父母の無いことをいひ、露は露出、我を覆ふもののないこと。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕少加孤露、母兄見レ驕、不レ涉二經學一。〔顏氏家訓、風操〕雖二已孤露一、其日皆爲二供頓酣暢聲樂一。

【孤陋】274コロウ　世間からかけはなれて見聞が狹い。〔禮、學記〕獨學而無レ友、則孤陋而寡聞。〔疏〕學識孤偏鄙陋、寡レ有レ所レ聞也。〔說苑、建本〕獨學而無レ友、則孤陋而寡レ聞、索恐二孤陋一。〔千字文〕孤陋寡聞。

【孤論】275コロン　㊀一篇の論文。〔魏書、崔光傳〕元始孤論、充二漢帝之坐一、孟皇片字、懸二魏王之帳一。㊁贊同する人のない議論。〔陸游、賀二陳右相一啓〕方孤論折二羣邪之銳一、蓋一身爲二衆正之宗一。

【孤論難レ持】276コロンヂシガタシ　唯一人主張する議論は通らない。〔杜恕、請レ令下刺史專二民事一勿上レ典レ兵疏〕孤論難レ持、獨欲難レ成、衆怨難レ積、疑似難レ分。

【孤往】277コワウ　一人で往く。連れがなくてゆく。〔陶潛、歸去來辭〕懷二良辰一以孤往、或植レ杖而耘耔。〔注〕翰曰、孤、獨也。

【稱レ孤】278コトシヨウス　諸侯が自らを孤といふこと。もと孤は孤獨の意で、小諸侯の謙稱であつたが、

大諸侯が喪に逢ひ、また危難に逢つた時に稱し、秦・漢の際に至つては、却つて侯王の美稱となつた。〔禮、王藻〕凡自稱、小國之君曰レ孤。〔禮、曲禮下〕諸侯與レ民言、自稱曰二寡人一、其在二凶服一曰二適子孤一。〔陔餘叢考、稱孤〕老子道化章、人之所レ惡、惟孤寡不穀、而王公以爲レ稱、戰國策、顔觸亦曰二孤寡一者、人之困賤下位也、而侯王以レ之自謂、蓋古人自稱、皆從二謙詞一、按二禮記一、庶方小侯自稱曰レ孤、諸侯自稱曰二寡人一、其在二凶服一、曰二適子孤一、是孤、本小侯之稱、諸侯遭レ喪、則亦稱レ之、此定制也、晉悼公將レ立、謂二諸大夫一曰、孤始願不レ及レ此、此未レ爲二君之詞一、猶沿二遭レ喪稱レ孤之禮一也、諸侯或遇二危難一、則亦有二稱レ孤者一、臧文仲曰、列國有レ凶稱レ孤、禮也、云云、及二秦漢之閒一、而孤已爲二南面之雄稱一、田橫曰、吾始與二漢王一、皆南面稱レ孤、韓王信對二使者一曰、陛下擢二僕閭巷一、南面稱レ孤、可レ見、是時爲二侯王美稱一、非二復古制適子孤及庶方小侯之詞一矣。

【稱レ孤道レ寡】279 コトシヨウシクワトイフ　君主となること。孤・寡は侯王の自稱。〔單刀會傳奇〕俺哥哥稱レ孤道レ寡世無レ雙。

【不レ孤】280 コナラズ　孤立しない。贊成する人や鄰が出來る意。〔論語、里仁〕德不レ孤、必有レ鄰。

【孤哀子】281 コアイシ　喪禮で、子が父母の喪中にある時の稱。哀子(**2－3580**··80)の❶を見よ。〔開元禮〕虞祝文、父喪稱二孤子一、母喪稱二哀子一。〔陔餘叢考、孤哀子〕禮、父母俱亡、卽稱二孤哀子一、今人父亡稱二孤子一、母亡稱二哀子一。

【孤鴛鴦】282 コエンアウ　匹偶を失つたをしどり。〔曹植、贈二王粲一詩〕中有二孤鴛鴦一、哀鳴求二匹儔一。

【孤鬼子】283 ku¹ kuei³ tsu　一人ぼつち。〔江樓夢、三十九回〕只剩下我一個孤鬼子。

【孤逐女】284 コチクヂヨ　齊の卽墨の女。齊の相の妻。醜貌の爲に三度鄕を逐はれたが、後、齊王に見えて國政を談じたところ、王は其の明を稱して遂に相君に配した。〔列女傳、辯通傳〕。

【孤孤單單】285 ku¹ ku¹ tan¹ tan¹　獨りぼつち。孤獨。

【孤石山房】286 コセキサンバウ　清、沈心(**6－17189**··219)「の室名。

【孤石大夫】287 コセキタイフ　東陵山下の石が化して生じたといふ人。自ら石大夫と稱し、醫を邑中に行つた。

【託レ孤寄レ命】288 コヲタクシメイヲヨス　幼君の後見をまかせ、國政の奉行を委任する。大事を委ね任せること。託寄。〔論語、泰伯〕可三以託二六尺之孤一、可三以寄二百里之命一、臨二大節一而不レ可レ奪也、君子人與、君子人也。〔魏志、徐宣傳〕公亮正色有二託レ孤寄レ命之節一。

【孥】 6967

㊀ ド ヌ　〔集韻〕農都切　ㄋㄨˊ nu²　虞
㊁ ド ヌ　〔集韻〕暖五切　麌
㊂ ド ヌ　〔集韻〕奴故切　遇

㊀㊁❶**子**。〔小爾雅、廣言〕孥、子也。〔書、甘誓〕予則孥二戮汝一。〔傳〕孥、子也。❷通じて帑(**4－8838**)に作る。〔禮、中庸、樂二爾妻帑一、釋文〕帑、本作レ孥。〔漢書、武帝紀、赦二吳楚七國帑輸在レ官者一、注〕師古曰、帑、讀與レ孥同。❷**しもべ**。**やつこ**。奴(**3－6039**)に通ず。〔匡謬正俗、二〕孥戮者、或以爲レ奴、或加二刑戮一耳。〔後漢書、仲長統傳〕妻孥無二苦身之勞一。〔注〕孥、讀曰レ奴。㊂**妻子**。〔集韻〕孥、妻子也。〔孟子、梁惠王下〕罪レ人不レ孥。〔國語、鄭語〕寄二孥與レ賄焉。〔注〕妻子曰レ孥。

【孥兒】1 ドジ　蘇州地方で女子を呼ぶ稱。〔姑蘇志〕俗呼二女兒一曰二孥兒一。

【孥稚】2 ドチ　幼い者。〔蘇軾、書二謝瞻詩一文〕暴秦無道、戮及二孥稚一也。

【孥輩】3 ドハイ　召使のものども。〔廣瀨旭莊、茶山寬厚〕孥輩不二敢遲レ之。

【孥戮】4 ドリク　罪ある者の妻子を併せて罪すること。一說に、戮辱して奴とすること。〔書、甘誓〕弗レ用レ命戮二于社一、予則孥二戮汝一。〔傳〕孥、子也、非三但止二汝身一、辱及二汝子一、言二恥累一也。〔蔡傳〕言、若不レ用レ命、不三但戮二及汝身一、將下併二汝妻子一而戮上レ之、云云、或曰、戮、辱也、孥戮、猶下秋官司厲、孥二男子一以爲中罪隸之孥上、古人以レ辱爲レ戮、謂下戮二辱之一以爲上レ孥耳。〔書、湯誓〕爾不レ從二誓言一、予則孥二戮汝一、罔レ有レ攸レ赦。〔後漢書、張綱傳〕不レ免二孥戮一。〔范曄、宦者傳論〕旋見二孥戮一。

【孛】 6968　ボツ　悖(**4－10663**)に同じ。〔字彙〕孛、同レ悖。
參考　𡥀(**3－6969**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕孛、同レ悖。𡥀、古使字。

【𡥀】 6969　シ　使(**1－573**)の古字。〔集韻〕使、古作レ𡥀。
參考　孛(**3－6968**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕孛、同レ悖。𡥀、古使字。

【𡥅】 6970　シユン　㪟(**5－11614**)に同じ。〔五音集韻〕𡥅、同レ㪟。

【𡥟】 6971　ボツ　勃(**2－2351**)の譌字。〔字彙補〕𡥟、勃字之譌。

【𡥧】 6972　カウ　好(**3－6053**)に同じ。〔六書精蘊〕𡥧、與二喜好之好一同。

【𡥂】 6973　ヨウ　孕(**3－6938**)に同じ。〔龍龕手鑑〕𡥂、同レ孕。

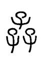
【学】 6974　ガク　學(**3－7033**)の略字。

六畫

【𡦂】 6975　シユ　殊(**6－16451**)に同じ。〔海篇〕𡦂、與レ殊同。

【孨】 6976

㊀ セン　〔集韻〕主兗切　銑
㊁ セン　〔集韻〕之囀切　霰
㊂ セン　〔集韻〕雛戀切　霰
㊃ ヂフ ニフ　〔集韻〕昵立切　緝

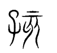

小篆

㊀㊁㊂❶**つつしむ**。通じて孱(**3－7000**)に作る。〔說文〕孨、謹也、从二三子一、云云、讀若レ翦。〔段注〕大戴禮曰、博學而孱守レ之、正謂レ謹也、云云、其字則多段レ孱爲レ孨。❷**よわい**。〔六書本義〕孨、孱弱也。❸**みなしご**。〔玉篇〕孨、孤兒也。❹**みなしごのさま**。〔廣韻〕孨、孤露可レ憐。㊃❶**あつまるさま**。〔廣韻〕孨、聚兒。❷或は孴(**3－7013**)に作る。〔集韻〕孨、或作レ孴。

解字　會意。子(弱い)を三つ合せて、多くて益〻弱いことから、愼しむの意とし、又、弱小の意とする。多く孱の字を假借する。

【孩】 6977

カイ ガイ　〔集韻〕何開切　ㄏㄞˊ hai²　灰


古文

❶**赤兒が笑ふ**。咳(**2－3555**)の古字。〔說文〕咳、小兒笑也、从レ口亥聲、孩、古文咳、从レ子。❷**あかご**。**みどりご**。小兒。〔孟子、盡心上〕孩提之童。〔注〕孩提、二三歲之閒在二襁褓一、知二孩笑一、可二提抱一者也。〔漢書、賈誼傳〕故廼孩提有レ識。〔注〕師古曰、孩、小兒也。❸**をさない**。いとけない。〔廣雅、釋詁三〕孩、小也。〔國語、吳語〕近二孩童一焉。〔注〕孩、幼也。〔陸游、春晚詩〕老客天涯心尚孩。❹**あやす**。

〔禮、內則〕孩而名レ之。〔孝經、聖治章、親生二之膝下一、疏〕內則云、子生三月、妻以レ子見二於父一、父執二子之右手一、孩而名レ之、案、說文云、孩、小兒笑也、謂下指二其頤下一、令二之笑一、而爲中之名上。㊄**あかごにする**。明察を捨てて用ひないこと。〔老子、四十九〕聖人在二天下一、歙歙爲二天下一渾二其心一、百姓皆注二其耳目一、聖人皆孩レ之。㊅**姓**。〔遼史、孩里傳〕孩里、字胡輦、回鶻人、其先在二太祖時一來貢。

【孩娃】1 hai^2 wa^2 小兒。嬰兒。

【孩嬰】2（ガイエイ） みどりご。幼子。嬰孩。〔鮑照、松柏篇〕資儲無二擔石一、兒女皆孩嬰。

【孩幼】3（ガイエウ） をさなご。ちご。幼孩。〔陸龜蒙、讀二襄陽耆舊傳一詩〕却視五霸圖、股掌弄二孩幼一。

【孩氣】4 hai^2 ch'i^4 稚氣。子供氣な。

【孩孤】5（ガイコ） みなしご。幼くて父母を失つた子。〔易林〕襁褓孩孤、冠帶成レ家、出レ門如レ賓。

【孩虎】6（ガイコ） 虎の子。〔杜甫、王兵馬使二角鷹詩〕杉雞竹兔不二自惜一、孩虎野羊俱辟易。

【孩子】7（ガイシ） ㊀二三歲の小兒。ちのみご。みどりご。嬰兒。孩童。孩兒。孩嬰。〔墨子、明鬼〕賊二誅孩子一。〔論衡、本性〕微子曰、我舊云二孩子一、王子不レ出、紂爲二孩子一之時、微子睹二其不善之性一、性惡不レ出二衆庶一、長大爲レ亂不レ變、故云也。㊁hai^2 tsŭ 一般に、子供をいふ。小孩子。

【孩兒】8（ガイジ） をさなご。笑ふことを知つた頃の幼兒をいふ。後世、己の子をいふ。〔書、康誥、若レ保二赤子一、傳〕愛二養人一、如レ安二孩兒赤子一、不レ失二其欲一。〔後漢書、公孫述傳〕孩兒老母、口以レ萬數。〔宣和遺事、前集上〕郤抱二養祿山一做二孩兒一。〔晁氏客語〕范純夫引レ疾乞レ歸、太母宣諭曰、昨日孩兒再三留レ他、可下諭且爲二孩兒一留上、未レ可レ求レ去、所レ云孩兒、謂二哲宗一也。

〖孩兒菊〗9（ガイジキク） ㊀菊の一種。〔范成大、菊譜〕孩兒菊、粉紅青萼、以レ形得レ名。㊁蘭の一種。〔方回、訂蘭說〕古之蘭、卽今之千金草、俗名二孩兒菊一者。

〖孩兒參〗10（ガイジシン） 人の形に似た人參。特效があるといふ。〔羣芳譜〕人參有下手足面目似二人形一者上、更神效、謂二之孩兒參一、而假僞者尤多。

〖孩兒茶〗11（ガイジチヤ） 藥の名。烏爹泥（**7－18998**・・444）の異名。〔本草、烏爹泥〕釋名、烏壘泥・孩兒茶、時珍曰、烏爹、或作二烏丁一、皆番語、無二正字一。

〖孩兒把〗12（ガイジハ） 車上に機を設け、下に伏して繩を引き石を發するもの。李公車。〔事物異名錄、舟車、車〕事物紺珠、杷車上設レ機、伏レ下引レ繩發レ之、石飛遠擊、又名二李公車・孩兒把一。

〖孩兒班〗13（ガイジハン） 遼・金時代、宗族の子弟のみで作つた一つの班をいふ。〔金史、蕭仲恭傳〕遼故事、宗戚子弟別爲二一班一、號二孩兒班一、仲恭嘗爲二班使一。

〖孩兒面〗14 hai^2 êrh mien^4 淡紅色の珊瑚や玉石をいふ。

〖孩兒似的〗15 hai^2 êrh ssŭ^4 tê 小兒らしい。

【孩孺】18（ガイジユ） 小兒。こども。〔沈約、齊禪林寺尼淨秀行狀〕性調和綽、不下與二凡孩孺一同上類。〔北史、高熲傳〕孩孺時、家有二柳樹一、高百許尺。

【孩如】17（ガイジヨ） 明、艾毓初（**9－30648**・・70）の字。

【孩笑】18（ガイセウ） 幼兒のわらひ。〔孟子、盡心上、孩提之童、注〕二三歲之閒、在二襁褓一、知二孩笑一、可二提抱一者也。

【孩赤】19（ガイセキ） あかご。孩兒。〔福惠全書、庶政部、禁レ溺二子女一〕沓二孩赤一以沈レ踪、永無二再生之路一。

【孩稚】20（ガイチ） 幼兒。〔顏氏家訓、音辭〕吾家兒女、雖レ在二孩稚一、便漸督二正之一、一言訛替、以爲二己罪一矣。〔梁武帝、移二京邑一檄〕一朝齏粉、孩稚無レ遺、人神怨結、行路嗟憤。

【孩蟲】21（ガイチユウ） 生れたばかりの蟲。幼蟲。〔禮、月令〕毋レ覆レ巢、毋レ殺二孩蟲・胎夭・飛鳥一。〔集說〕孩蟲、蟲之稚者。〔呂覽、孟春〕無レ殺二孩蟲・胎夭・飛鳥一。

【孩提】22（ガイテイ） 二三歲の幼兒。孩は幼兒の笑、提は人に抱かれる。提孩。提抱。〔孟子、盡心上〕孩提之童、無下不レ知レ愛二其親一者上。〔注〕孩提、二三歲之閒、在二襁褓一、知二孩笑一、可二提抱一者也。〔漢書、賈誼傳〕故迺孩提有レ識。〔注〕師古曰、孩、小兒也、提、謂三提二撕之一。〔漢書、王莽傳上〕百歲之母、孩提之子、同時斷斬、懸二頭竿杪一。〔注〕師古曰、嬰兒始孩、人所二提挈一、故曰二孩提一也。

〖孩提者〗23（ガイテイシヤ） 二三歲の幼兒。〔韓愈、祭二十二郎一文〕孩提者、又可レ冀二其成立一耶。

【孩童】24（ガイドウ） 幼兒。孩子。〔詩、小雅、角弓、老馬反爲レ駒、傳〕已老矣、而孩童慢レ之。〔國語、吳語〕在二孩抱一、奉レ之不レ異二長君一。〔魏志、楊阜傳〕何至二孩抱之赤子一、而可二送葬一也哉。

【孩乳】25（ガイニユウ） ちのみご。〔後漢書、虞延傳〕延從女弟、年在二孩乳一、其母不レ能レ活レ之、棄二於溝中一。

【孩抱】26（ガイハウ） 幼兒。又、あやされて笑つたり抱かれたりするくらゐの幼さ。〔後漢書、李善傳〕雖レ近二孩童一焉。〔後漢書、皇后紀序〕貪二孩童一、以久二其政一。〔小學、嘉言〕我爲二孩童一、豈敢學二顏・孟一哉。

〖孩抱中物〗27（ガイハウチユウノモノ） 抱かれるほどの幼い兒をいふ。〔世說新語、傷逝〕王戎喪二兒萬子一、山簡往省レ之、王悲不二自勝一、簡曰、孩抱中物、何至二於此一、王曰、聖人忘レ情、最下不レ及レ情、情之所レ鍾、正在二我輩一、簡服二其言一、更爲レ之慟。

【孩末】28（ガイビ） 明、方震孺（**5－13620**・・559）の字。

【孩里】29（ガイリ） 遼、回鶻の人。字は胡輦。重元の亂を伐つて功があり、官は品達魯虢部節度使。〔遼史、九十七〕。

【孩鄰】30（ガイリン） 遼、耶律拔里得（**9－29008**・・170）の字。

【孩道人】31（ガイダウジン） 清、鐵保（**11－40945**・・292）の號。

【孩中顏】32（ガイチユウガン） 幼兒のやうな顏色。赤兒の顏。〔雲笈七籤〕豈若下易二翁質一、反中此孩中顏上。

【⿱⿱宀巛子】6978 ジ

字（**3－6942**）の古字。〔集韻〕字、古作レ⿱⿱宀巛子。

【⿱冃子】6979 ケン 〔集韻〕火玄切 [先]

㊀**ひとり**。⿰女⿱冃子（**3－6515**）・⿰忄⿱冃子（**4－10865**）・嬛（**3－6782**）に通ず。〔正字通〕⿱冃子・⿰女⿱冃子・⿰忄⿱冃子・嬛竝通。㊁**色を貪る**。⿰女⿱冃子（**3－6515**）に同じ。〔集韻〕⿰女⿱冃子、貪レ色、或省。

【⿱丝子】6980 ジ

孳（**3－7011**）の古字。〔韻會小補〕⿱丝子、古孳字。

【⿱丷孛】6981 ボツ

孛（**3－6949**）に同じ。〔字彙補〕⿱丷孛、與レ孛同。

【⿰子冄】6982 ギ

孴（**3－7013**）に同じ。〔集韻〕孴、或作レ⿰子冄。

【⿰子冬】6983 音未詳

草をさく。〔字彙補〕⿰子冬、音未詳、謂三割二釟草一也。

七畫

【⿱孖日】6984 ギ

孴（**3－7013**）の籀文。一說に、晉（**5－14164**）の奇字。〔說文〕⿱孖日、籀文孴、从二二子一、一曰、⿱孖日、卽奇字晉。

【⿰子弟】6985 テイ タイ 〔集韻〕土禮切 [薺]

こども。〔玉篇〕⿰子弟、小兒也。〔集韻〕⿰子弟、孩也。

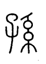
【⿰子析】6986 🈩セツ セチ 〔集韻〕之列切 [屑] 🈔セイ 〔集韻〕征例切 [霽]

🈩㊀**いなご**。〔玉篇〕⿰子析、蝗也。㊁**ずゐむしの子**。〔集韻〕⿰子析、蟲螟之子。🈔**いなごの子**。或は⿰虫析（**10－33443**）に作る。〔集韻〕⿰子析、蟲名、蝗子也、或从レ虫。

【孫】6987

㊀ソン〔集韻〕蘇昆切 元 ㄙㄨㄣ suen¹

㊁ソン〔集韻〕蘇困切 願


小篆

㊀❶まご。子の子。〔說文〕孫、子之子曰ㇾ孫、从㆓系子㆒、系、續也。〔爾雅、釋親〕子之子爲ㇾ孫。〔注〕孫、猶ㇾ後也。〔禮、雜記下〕子孫曰ㇾ哀。〔注〕孫、謂㆘爲㆓祖後㆒者㆖。❷血すぢのもの。同姓の孫より以下を皆孫といひ、又、後裔が遠祖に對して、幾世の孫といふ。子孫。〔廣韻〕孫、爾雅釋親曰、凡子之子爲ㇾ孫、孫之子爲㆓曾孫㆒、曾孫之子爲㆓玄孫㆒、玄孫之子爲㆓來孫㆒、來孫之子爲㆓晜孫㆒、晜孫之子爲㆓仍孫㆒、仍孫之子爲㆓雲孫㆒。〔幽明錄〕訊問得㆓七世孫㆒。❸ひこばえ。〔周禮、春官、大司樂〕孫竹之管。〔注〕孫竹、竹枝根之末生者。〔番禺志〕稻再生曰㆓稻孫㆒。❹小さい。〔素問、氣穴論〕孫絡谿谷。〔注〕孫絡、小絡也。❺姓。〔漢書、夏侯嬰傳〕初嬰爲㆓滕令奉車㆒、故號㆓滕公㆒、及㆓曾孫頗尚ㇾ主、主隨㆓外家姓㆒號㆓孫公主㆒、故滕公子孫又爲㆓孫氏㆒。〔通志、氏族略、以ㇾ字爲ㇾ氏〕孫氏、姬姓、衞武公之後也、武公和生㆓公子惠孫㆒、惠孫生ㇾ耳、爲㆓衞上卿㆒、食㆓邑於戚㆒、生㆓武仲㆒、亦曰㆓孫仲㆒、以㆓王父字㆒爲ㇾ氏、云云、又有㆓孫氏芈姓㆒、楚令尹孫叔敖之後也、又有㆓孫氏嬀姓㆒、齊陳敬仲四世孫、孫桓子無宇後也。❻現海關金の單位。〔辭海〕孫、爲㆓我國海關金之單位㆒、含㆓純金六〇、一八六公釐㆒。㊂❶したがふ。〔周禮、考工記、輈人〕凡揉ㇾ輈、欲㆔其孫而無㆓弧深㆒。〔注〕孫、順ㇾ理也。〔禮、學記〕孫㆓其業㆒也。〔注〕孫、猶㆓恭順㆒也。〔禮、緇衣〕民有㆓孫心㆒。〔注〕孫、順也。〔史記、晉世家〕鄭不ㇾ孫。〔注〕集解曰、孫、順也。❷のがれる。〔春秋、莊、元〕夫人孫㆓於齊㆒。〔杜注〕內諱ㇾ奔、謂㆓之孫㆒。〔公羊、莊、元、注〕孫、猶ㇾ遁也。〔穀梁、莊、元、注〕孫、孫遁而去。〔春秋、昭、二十五〕公孫㆓于齊㆒。〔杜注〕諱ㇾ奔、故曰ㇾ孫、若㆓自孫讓而去ㇾ位者㆒。❸遜(11－39038)・愻(4－11023)に通ず。〔說文、段注〕子卑㆓於父㆒、孫更甚焉、故引申之義爲㆓孫順㆒、爲㆓孫遁㆒、字本皆作ㇾ孫、經傳中作ㇾ遜者、皆非ㇾ古也、至部臺下解曰、从ㇾ至、至而復孫、孫、遁也、字作ㇾ孫、不ㇾ作ㇾ遜、云云、孫順字、唐書作ㇾ愻、見㆓心部㆒、而俗亦以ㇾ遜爲ㇾ之。

名乘 サネ。タダ。ヒコ。ヒロ。

解字 會意。子と系との合字。本義は子の子、即ちまごをいふ。系は繼ぐの意。子は父よりも卑しく、孫は子よりも卑しい。故に轉じて、遜・愻の意とする。

【孫偓】1（ソンアク） 唐、武遂の人。字は龍光。進士。官は昭宗の時、戶部侍郎・同中書門下平章事。樂安縣侯に封ぜらる。後、衡州司馬に貶せられて卒す。〔唐書、一百八十三〕。

【孫位】2（ソンヰ） 唐の人。會稽山に居り、會稽山人と號す。書畫、殊に水を畫くに巧。曾て異人に遇ひ、名を遇と改む。

【孫威】3（ソンヰ） 元、渾源の人。諡は忠惠。金の貞祐中、兵となり、元に入つて義軍千戶を授けられ、順天諸路工匠都總管となる。甲を爲るに巧。〔元史、二百三〕。

【孫威敏征南錄】3′（ソンヰビンセイナンロク） 書名。一卷。宋、滕元發撰。皇祐年閒孫沔等の寇亂を平定したことを記す。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【孫偉】4（ソンヰ） ❶宋、江陵の人。字は奇甫。劉安世の再び夷陵に謫せらるるや、偉、就いて學ぶこと五日、終身之を履踐す。和議を爭つて勝たず、遂に用ひられんことを求めず、判監に終る。〔宋元學案、二十〕。❷明、清江の人。字は朝望。號は鷺沙。弘治の進士。官は鶴慶府の長官。詩に巧。著に鷺沙集がある。〔明詩綜、二十八〕。

【孫瑋】5（ソンヰ） 明、渭南の人。字は純玉。號は松溪翁。諡は莊毅。萬曆の進士。官は吏部尙書・左都御史事。〔明史、二百四十一〕・〔萬斯同明史、三百三十六〕・〔明史稿、二百二十六〕。

【孫緯】6（ソンヰ） 宋、長洲の人。字は彥文。官は尙書郎。著に集謚總錄、本朝人物志がある。〔尙友錄、五〕。

【孫友】7（ソンイウ） 友にしたがふ。〔禮、內則〕三十而有ㇾ室、始理㆓男事㆒、博學無ㇾ方、孫ㇾ友視ㇾ志。〔疏〕言㆘孫㆓順朋友㆒、視㆗其志意所㆖ㇾ尙。

【孫柚】8（ソンイウ） 明、江蘇常熟の人。字は梅錫。戲曲家。琴心記を作る。〔徐復祚、曲論〕。

【孫毓】9（ソンイク） 明、商河の人。宣德の進士。監察御史となり、權貴を彈劾して避けず、陝西右參政に遷り、廉能を以て著る。又、左布政に遷り、執政と抗疏して致仕す。〔蘭臺法鑒錄、七〕。

【孫逸】10（ソンイツ） 清、山東海陽の人。字は無逸。號は疏林。清初、蕪湖に流寓す。山水畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、一〕。

【孫引】11（マゴビキ） 文章を引用する際に、原書によらず、他書に引用したものを採ること。

【孫瑀】12（ソンウ） 明の人。孫原貞(397)を見よ。

【孫永】13（ソンエイ） 宋の人。仲の孫。字は曼叔。諡は康簡。世〻趙の人、徙つて長社に家す。進士。官は元豐中、端明殿學士。哲宗の時、工部尙書から吏部に遷つて卒す。〔宋史、三百四十二〕・〔宋史新編、一百十五〕・〔東都事略、八十五〕・〔北宋經撫年表、二十九・四十・五十三・七十五〕。

【孫英】14（ソンエイ） 明、武進の人。成穆貴妃の兄。洪武帝、訪うて之を得。中書省參知政治に拜し、第を京師に賜はり、改めて戶部尙書に任ぜらる。〔明名人傳、八〕。

【孫銳】15（ソンエイ） 宋、吳江の人。字は穎叔。號は耕閒先生。咸淳中、鄉に擧げらる。宋、亡び、平望の桑磐村に隱居す。著に耕閒先生集がある。

【孫衞】16（ソンヱイ） 清、青浦の人。字は虹橋。篆隸に精通し、摹印に巧。〔墨香居畫識、四〕。

【孫弈】17（ソンエキ） 宋、閩縣の人。字は景山。皇祐の進士。南陵・海陵の二縣の長官に歷任し、監察御史に遷る。新法の不便を論じて鄧綰に劾せられ、出でて陳州の酒稅を監す。其の事行鄉閭に著はれ、節義朋友に信あり。元祐の初、福建轉運使に除せらる。著に示兒編がある。〔四庫提要、一百二十一〕。

【孫益】18（ソンエキ） ❶宋の人。宣和の末、福州觀察使を以て朔寧府の長官となり、命を受けて太原を救つて戰死す。〔宋史、四百四十六〕。❷宋、泰興の人。紹定中、李全の揚州を犯して泰興城下に迫るや、縣令王爚の募に應じ、力戰して死す。〔宋史、四百五十二〕・〔宋史新編、一百七十二〕・〔南宋書、五十九〕。

【孫延】19（ソンエン） 清、吳縣の人。原名は衡。字は壽之。號は蔚堂・宋井齋。家に古梅九枝ありしを以て自ら九梅居士と稱す。諸生。寫生に巧。詩書を善くし、書室を南郭草堂といふ。〔國朝書人輯錄、七〕。

【孫炎】20（ソンエン） ❶三國、魏の樂安の人。字は叔然。學を鄭玄の門に受け、東州の大儒と稱せらる。祕書監に徵せられたが、就かず、爾雅音義を作り、盛に反切を用ひて古人の譬況の說を變じた。又著に周易春秋例・毛詩・禮記・春秋三傳・國語の諸注がある。〔三國志、十三〕。❷明、句容の人。字は伯融。明初、浙東を征し、又、處州に克つて總制を授けらる。後、苗兵に執へられて死す。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、三百七十六〕・〔明史稿、二百七十〕。

【孫琰】21（ソンエン） 五代吳越、臨海の人。驍勇多智を以て孫百計と稱せらる。牙將となつて蘇州を守り、淮南の周本・呂師造と戰つて功を建つ。〔晉書、六十〕。

【孫億】22（ソンオク） 宋、分宜の人。字は延齡。進士。官は吉州の長官。〔尙友錄、五〕。

【孫恩】23（ソンオン） 晉、琅邪の人。秀の族。字は靈秀。叔父泰が亂を謀つて誅せらるるや、海に逃れて亡命の徒を聚合し、入寇して會稽を陷れ、自ら征東將軍と號し、其の黨を長生人といふ。尋いで謝琰・劉牢に破られ、海に逃る。元興の初、臨海に寇して、劉裕・辛景に破られて死す。〔晉書、

一百〕。

【孫何】24（ソンカ） 宋の人。庸の子。字は漢公。十歳にして音韻を識り、十五歳、文を作る。淳化の進士。丁謂と名を齊うし、右司諫となる。眞宗の初、五議を獻じて嘉納せらる。官は兩浙轉運使・知制誥。著に駁史通十餘篇がある。〔宋史、三百六〕・〔宋史新篇、八十四〕・〔東都事略、四十七〕・〔隆平集、十三〕・〔名臣碑傳琬琰集、下、七〕。

【孫河】25（ソンカ） ❶川の名。源は河北省宛平縣の玉泉山。東流して通縣に至り北運河に會す。わづかに舟楫を通ずる。一名、孫侯河。❷鎭の名。河北省大興縣の東北。孫侯屯鎭・孫家屯・孫家村ともいふ。孫侯河が流れて居り、もと遼の望京館があつたから望京村とも呼ぶ。❸三國、呉の呉郡の人。字は伯海。本姓は兪。孫策に愛せられて孫姓を賜はる。孫堅の征討に從ひ、又、孫權に從つて李術を破り、威寇中郎將・廬江太守・將軍となる。嬀覽等、丹陽尹孫翊を殺すに及んで之を怒責し、却つて懼れられて殺さる。〔三國志、五十一〕。

【孫介】26（ソンカイ） 宋の人。璹の弟。字は不朋。號は雪齋。兄に隨つて郡庠に入り、胡宗伋の門に學ぶ。〔宋元學案、三十五〕・〔宋史翼、二十九〕。

【孫艾】27（ソンガイ） 明、常熟の人。字は世節。號は西川翁。學につとめ、又、虞山の陽崖を鑿つて美泉を爲り、廬を結んで遊者を待ち故舊に篤かつた。著に西川集がある。〔列朝詩集小傳、丁、上〕。

【孫該】28（ソンガイ） 三國、魏の任城の人。字は公達。博士司徒右長史となり、後、著作の官となる。魏書を著はす。〔三國志、二十一〕。

【孫交】29（ソンカウ） 明、安陸の人。字は志同。諡は榮僖。成化の進士。嘉靖中、尙戸部書を歷て太子太保を以て致仕す。〔明史、一百九十四〕・〔萬斯同明史、二百六十七〕・〔明史稿、一百七十八〕。

【孫江】30（ソンカウ） 明の人。樓の玄孫。字は岷自。著に緣情集及び牢山・花源・問唐の諸集がある。

【孫抗】31（ソンカウ） 宋、黟の人。字は和叔。浮屠山中に寄食し、博く羣書を究め、進士甲科に登る。官は廣西轉運使、後、尙書司封員外郎。〔宋史翼、一〕。

【孫庚】32（ソンカウ） 元、慈谿の人。字は居仁。號は雪磯。著に雪磯集がある。

【孫浩】33（ソンカウ） 明の人。永樂中、知邵陽となり、循良を以て稱せらる。喪に遭うて官を去つたが、後、辰州府の長官に至る。〔明史、二百八十一〕。

【孫康】34（ソンカウ） 晉、京兆の人。性敏にして學を好んだが、家が貧しくて油を買ふ能はず、冬夜、雪明りで讀書した。少くして淸介、交游苟しくもせず、官、御史大夫に至つた。孫康映レ雪を見よ。

〖孫康映レ雪〗35（ソンカウユキニエイズ） 蒙求の標題。晉の孫康が貧乏の爲に、冬夜に雪明りで讀書した故事。〔藝文類聚〕孫康家貧、常映レ雪讀レ書、淸介交游不レ雜。〔蒙求、中〕孫康映レ雪、車胤聚レ螢。〔注〕孫氏世錄曰、康家貧無レ油、常映レ雪讀レ書、少小淸介、交遊不レ雜、後至二御史大夫一。

【孫皎】36（ソンカウ） 三國、呉の人。瑜の弟。字は叔朗。官は護軍校尉、後、都護征虜將軍に遷り、夏口を督し、財を輕んじて能く施し、交結を善くす。嘗て令を下して、魏境の老弱を傷害するを得ざらしめたから、江淮の間、歸附する者が多かつた。〔三國志、五十一〕。

【孫皓】37（ソンカウ） 三國、呉の孫權の孫。和の子。字は元宗。一名は彭祖。一字は皓宗。烏程侯から入り孫休に繼いで位に卽く。性、麤暴驕盈、酒色を好む。晉兵南下して建業を陷れるや、出で降り、廢せられて歸命侯となり、呉は亡ぶ。在位十六年。改元八、元興・甘露・寶鼎・建衡・鳳凰・天冊・天璽・天紀。〔三國志、四十八〕。

【孫衡】38（ソンカウ） ❶明、京山の人。字は平伯。成化の擧人。官は萬安縣の長官。〔京山縣志〕。❷淸、孫延(19)を見よ。

【孫鼛】39（ソンカウ） 宋、錢塘の人。江都に徙る。字は叔靜。諡は通靖。官は徽宗の時、顯謨閣待制・知鄆州。蔡京に誣告せられて致仕す。〔宋史、三百四十七〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔北宋經撫年表、二十六〕。

【孫灝】40（ソンカウ） 淸、錢塘の人。字は載黃。號は虛船・道盥齋。雍正の進士。官は左副都御史。著に道盥齋集がある。〔國朝耆獻類徵、七十九〕。

【孫鏊】41（ソンガウ） 明の人。燧の孫。字は端峯。官は上林苑丞。晚年、燭湖に歸り、漆園を構へて之に居り、漆園供事と號した。書室を松菊堂といふ。著に松菊堂集がある。〔四庫提要、一百七十八〕。

【孫珏】42（ソンカク） 明、侯官の人。號は白峯老人。寧德中、鉛山令となり、任に在ること二十年、民、其の德を思ふ。〔福州府志〕。

【孫恪】43（ソンカク） 明の人。興祖の子。藍玉に從ひ北征して全寧侯となり、楚蜀を征して太子太保を兼ねたが、後、藍玉の黨に坐して死す。〔明史、一百三十三〕・〔萬斯同明史、一百六十九〕・〔明史稿、一百二十一〕。

【孫慤】44（ソンカク） 明、華容の人。字は士先。著に唐紀がある。〔四庫提要、五十〕。

【孫覺】45（ソンカク） 宋、高郵の人。字は莘老。胡瑗に師事し、進士となり、右正言に擢んでらる。王安石と善く、而も議を異にしたため、出でて廣德軍の長官となる。哲宗の時、御史中丞に遷り、龍圖閣學士に除せられ、奉祠して歸り、卒す。著に奏議・春秋傳・易傳、及び文集がある。〔宋史、三百四十四〕・〔宋元學案、一・五〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔東都事略、九十二〕・〔元祐黨人傳、二〕。

【孫岳】46（ソンガク） 五代、唐、冀州の人。官は三司使に至る。秦王從榮の恣横を言つて、康義誠に悅ばれず、後、殺さる。〔舊五代史、六十九〕。

【孫諤】47（ソンガク） 宋、睢陽の人。字は元忠。元祐中、左正言に累進し、紹聖中、元祐の黨を治す。徽宗の時、左司諫となつたが、俄かに卒す。〔宋史、三百四十六〕・〔宋元學案、九十六〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔元祐黨人傳、六〕。

【孫堪】48（ソンカン） ❶後漢、緱氏の人。字は子稺。經術に明かで志操があつたので侍御史となり、永平中、光祿勳に拜せられたが、外任を乞うて侍中騎都尉となる。時に周澤、字は稺都と並稱して二稺といふ。〔後漢書、一百九上〕。❷明の人。燧の長子。字は志健。諸生。文と畫とを能くし、武會試第一に中り、都督僉事となる。父、宸濠に殺されるや徒步千里、骸を負うて歸り葬る。母に事へて至孝。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、二百六十〕・〔明史稿、二百七十〕。

【孫簡】49（ソンカン） 孫汝敬(447)を見よ。

【孫巖】50（ソンガン） ❶宋の人。嵩の弟。字は次皋。號は爽山。詩に巧。著に爽山集がある。〔宋史翼、三十五〕。❷明、鳳陽の人。諡は威武。江を渡つて征伐し、燕山中護衞千戸となる。燕師を拒いで都指揮僉事に擢んでられ、應城伯に封ぜらる。〔明史、一百四十六〕・〔萬斯同明史、一百八十九〕・〔明史稿、一百三十四〕。

【孫忌】51（ソンキ） 孫晟(183)を見よ。

【孫沂】52（ソンキ） 宋、丹徒の人。字は彥溫。進士。官は常熟丞。〔尙友錄、五〕。

【孫玘】53（ソンキ） 明の人。一に圯に作る。字は廷瑞、一に廷玉に作る。畫に巧。〔明畫錄、一〕。

【孫旂】54（ソンキ） 晉、樂安の人。字は伯旗。兗州刺史・平南將軍に累遷す。趙王倫の事を起すに及んで其の開國郡侯となり、倫敗れて夷族せらる。〔晉書、六十〕。

【孫揆】55（ソンキ） 唐の人。逖の五世の從孫。字は聖圭。進士。京兆尹となる。昭宗、李克用を討つや、昭義軍節度使となり、伏に陷りて死す。〔唐書、一百九十三〕。

【孫晷】56（ソンキ） 晉、富春の人。字は文度。性、恭孝淸約。父母の側を離れず、又、兄の篤疾に侍して召されたが就かなかつた。〔晉書、八十八〕。

【孫期】57（ソンキ） 後漢、成武の人。字は仲彧。少くして京氏易・古文尙書を習ふ。母に至孝、鄕黨其の風に化し、黃巾の賊も相約して其の舍を犯さなかつた。〔後漢書、一百九上〕。

【孫琪】58（ソンキ） 淸、華容の人。字は少白。號は瑤圃。乾隆の監生。詩に巧。性、遠遊を好む。書は米南宮を法とし、世に重んぜられ、揚州に流寓して終る。〔國朝耆獻類徵、四百四十〕。

【孫暉】59（ソンキ） 宋、霍邱の人。靖康の亂に、淮民を率ゐて團結保護し、泗州昭信尉に擢んでらる。建炎中、淮を渡らんとする金人を拒禦したが、後、城陷りて敕書樓に死す。〔宋史、四百五十三〕。

【孫撝】60（ソンキ） 元、曹州の人。字は自謙。諡は忠烈。至正の進士。官は濟寧路錄事。張士誠、高郵に據つて叛するや命を受けて、之を招諭せんとし、却つて執へられて殺さる。〔元史、一百九十四〕。

【孫錤】61ソンキ 清、郫の人。字は野史。自ら獨學生と號し、又、岷陽大布衣・瘦石と稱す。嘉慶中の國學生。擧業を事とせず、其の弟澍と古棠書屋を構へ、門を閉ぢ榻を聯ねて古今を揚搉し、文を爲つて奇崛を求む。著に瘦石文鈔・瘦石詩集・蜀破鏡等がある。〔國朝耆獻類徵、四百四十二〕。

【孫宜】62ソンギ 明、華容の人。字は仲可。號は洞庭漁人。著に遯言がある。〔國朝獻徵錄、一百十五〕。

【孫休】63ソンキウ 三國、吳の景帝。大帝の第六子。字は子烈。琅邪王に封ぜられ、弟の亮が統を承けるに及び、出でて丹陽・會稽に徙つたが、孫綝が亮を廢し、休を迎へて位に卽かせた。在位七年。年號は永安。〔三國志、四十八〕。

【孫汲】64ソンキフ 宋、分宜の人。字は公善。官は朝散郎より吉州の權となつて治績があつた。〔尙友錄、五〕。

【孫況】65ソンキヤウ 荀卿（**9－30929**・・25）を見よ。

【孫強】66ソンキヤウ 唐、富春の人。一に彊に作る。上元末の處士。梁の顧野王が玉篇を著し、唐に至つて之に孫強の增加字あり、之を上元本といふ。〔四庫提要、四十一〕。

【孫彊】67ソンキヤウ 孫強を見よ。

【孫拱】68ソンキヨウ 元の人。威の子。諡は文莊。初、監察御史となり、疊盾を製したので世祖は嘉して幣帛を賜つた。大德中、益都路總管に至り、府尹を兼ねた。〔元史、二百三〕。

【孫恭】69ソンキヨウ へりくだつて愍懃なこと。孫は遜の意。遜恭（**11－39038**・・8）に同じ。

【孫棘】70ソンキヨク 南朝宋、彭城の人。弟の薩が役に應じて期に違ひ、刑せられんとした時、棘・薩の兩人、互に死を爭つた事を、太守張岱が上表以聞したら、詔して特に罪をゆるされ、帛二十疋を賜はつた。〔宋書、九十一〕・〔南史、七十三〕。

【孫近】71ソンキン 宋、無錫の人。字は叔諸。崇寧の進士。高宗の駕に從つて征し、翰林學士承旨參知政事となり、樞密院を兼ねたが、後、祕書監に謫せられ、贛州に卒す。〔無錫縣志〕。

【孫欽】72ソンキン 宋、武岡の人。洞獠を諭し、徽宗の聞に達す。武功大夫德州刺史となり、鄕邦を守る。靖康の末、金人の難に死す。〔尙友錄、五〕。

【孫僅】73ソンキン 宋の人。何の弟。字は鄰幾。咸平の進士。官は大中祥符中、給事中に進む。儒學に篤く、文集がある。〔宋史、三百六〕・〔宋史新編、八十四〕・〔東都事略、四十七〕・〔隆平集、十三〕・〔北宋經撫年表、五十六〕。

【孫瑾】74ソンキン 元、丹徒の人。字は無咎。父の喪に哀毀し、嚴冬跣步し、柩を停めること四年、衣帶を解かずして事ふ。又、繼母唐氏、癰を病むや之を吮ひ、又、失明するや、之を舐つて明を復す。〔元史、一百九十七〕。

【孫錦】75ソンキン 明の人。玘の曾孫。字は大紳。山水人物畫に巧。〔國朝列卿記、一百二十四〕。

【孫愚】76ソング 孫忠（219）を見よ。

【孫虞】77ソング 周、東武の人。字は子乘。易を燕人周醜に受く。〔前漢書、八十八〕。

【孫遇】78ソングウ ㊀明、福山の人。字は際時。正統の進士。徽州府の長官に擢んでられ、徽に守たる十八年、吏民に畏愛せらる。後、河南左布政となつたが、彈劾せられて歸る。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百九十〕・〔本朝分省人物攷、九十八〕。㊁孫位（2）を見よ。

【孫和】79ソンクワ 三國、吳の人。慮の弟。字は子孝。兄登、卒して太子となつたが、讒に遭うて幽閉せられ、權、卒して新都に徙され、死を賜はる。子、皓立ちて文皇帝と追諡す。〔三國志、五十九〕。

【孫科】80ソンクワ 中華民國、廣東省中山縣の人。字は哲生。孫文の長子。米國カリフォルニヤ及びコロンビヤ兩大學を卒業。歸國後、父孫文に從つて奔走し、孫文死後は所謂太子派の領袖として國民黨一方の旗頭となる。一時共產派の爲に黨を追はれたが再び復歸し、國民政府委員、交通部長、外交部長、財政部長等を歷任し、次いで外遊歸國するや蔣一派と合はず、反蔣派と新たに國民政府を樹立し、蔣の下野を要求して南京と妥協し、自ら行政院長となつたが、蔣・汪合作成るに及んで辭し、立法院長に任ぜらる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【孫華】81ソンクワ 明、永嘉の人。字は元實。幼くして詩に長じ、尤も醫に巧なるを以て薦められて醫學教授となり、旨有りて詔を尙方に待つ。〔列朝詩集、小傳、甲前〕。

【孫檜】82ソンクワイ 清、無錫の人。字は志伊。廩貢生。著に禹貢錐指要删がある。

【孫宏】83ソンクワウ 孫克宏（400）を見よ。

【孫紘】84ソンクワウ 明、鄞の人。字は文晃。成化の進士。官は弘治の初、南給事中に至つたが、蔣琮に忤らつて膠州判官に謫せられ、廣德州の長官に遷る。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十六〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【孫鋐】85ソンクワウ 清、江蘇華亭の人。字は思九。諸生。詩餘に秀づ。著に繪影詞・鏤冰詞がある。又、清詩選を輯む。〔四庫提要、一百九十四〕。

【孫鑛】86ソンクワウ 明の人。陞幼の子。字は文融。號は月峯。萬曆會試に第一位。顧養謙に代つて朝鮮を經略し、南兵部尙書に遷る。著に孫月峯評經・今文選・書畫跋跋がある。〔明史、二百二十四〕・〔萬斯同明史、三百三十二〕・〔明史稿、二百十二〕。

【孫奐】87ソンクワン 三國、吳の人。皎の弟。字は季明。揚武中郎將を以て江夏太守を領す。〔三國志、五十一〕。

【孫桓】88ソンクワン 三國、吳の人。河の子。字は叔武。博文強記、談論を善くしたので、孫權に宗室の顏淵と稱せらる。陸遜と蜀師を拒いだ功を以て建武將軍に拜せられ、丹徒侯に封ぜらる。〔三國志、五十一〕。

【孫觀】89ソンクワン 三國、魏の泰山の人。一名、嬰子。字は仲臺。黃巾の賊を討ち、呂都亭侯に封ぜられ、偏將軍靑州刺史となる。孫權を濡須口に征して流矢に中り、振威將軍に轉じて卒す。〔三國志、十八〕。

【孫奎】90ソンケイ 明、南城の人。字は啓文。講學を以て事とす。著に曲澗遺稿がある。〔四庫提要、一百八十〕。

【孫炯】91ソンケイ 清の人。承澤の孫。字は挈菴。著に研山齋珍玩集覽がある。〔四庫提要、一百二十三〕。

【孫卿】92ソンケイ ㊀荀子をいふ。司馬貞・顏師古は漢の宣帝の諱の詢を避けて荀を孫と改めたといひ、清の謝墉は荀・孫同音なるを以て易へ用ひたといふ。荀況（**9－30929**・・17）を見よ。〔荀子、儒效〕秦昭王問二孫卿子一曰。〔注〕漢宣帝名詢、劉向編錄、故以二荀卿一爲二孫卿一。〔史記、荀卿傳、索隱〕後亦謂二之孫卿子一者、避二漢宣帝之諱一也。〔漢書、藝文志〕孫卿子三十二篇。〔注〕師古曰、本曰二荀卿一、避二宣帝諱一、故曰レ孫。〔謝墉、荀子序〕荀卿又稱二孫卿一、自二司馬貞・顏師古一以來、相承以爲下避二漢宣帝諱一、故改レ荀爲上孫、考、漢宣名詢、漢時尙不レ諱二嫌名一、且如二後漢李恂一、與二荀淑・荀爽・荀悅・荀彧一、俱書二本字一、詎反於下周時人名、見二諸載籍一者上、而改稱レ之、若然則左傳自二荀息一至二荀瑤一多矣、何不レ改耶、且卽二前漢書一、任敖・公孫敖、俱不レ避二元帝之名驁一也、蓋荀音同レ孫、語遂移易、如下荊軻在レ衞、衞人謂二之慶卿一、而之レ燕、燕人謂中之荊卿上、又如三張良爲二韓信都一、潛夫論云、信都者、司徒也、俗音不レ正、曰二信都一、或曰二申徒一、或勝屠、然其本一司徒耳、然則荀之爲レ孫、正如二此比一、以爲レ避二宣帝諱一、當レ不二其然一。㊁後漢、景丹（**5－13983**・・227）の字。

【孫卿新書】93ソンケイシンショ 書名。荀子の舊稱。十二卷三十二篇ある。唐の揚倞が改めて荀卿子といひ、後、單に荀子といひ二十卷とし、且つ其の篇題を改む。荀子（**9－30929**・・33）を見よ。〔荀子集解、卷首、考證〕唐仲友序、荀子二十卷、三十二篇、唐揚倞注、初漢劉向校讎中、孫卿書凡三百二十二篇、除二復重一、定著二三十二篇一、爲二孫卿新書十二卷一、至レ倞分易二卷第一、更名二荀子一。

【孫惠】94ソンケイ 晉の人。賁の曾孫。字は德施。齊王冏の大司馬戶曹掾となり、晉興縣侯に封ぜられたが、冏が驕矜なので之を去る。成都王穎に薦められて參軍となり、又去る。東海王越兵をあげるや記室參軍・軍諮祭酒となり、廣武將軍安豐內史に遷る。〔晉書、七十一〕。

【孫敬】95ソンケイ 漢、信都の人。字は文寶。戶を閉ぢて讀書し、睡くなれば繩を頸に繫け、之を梁上に懸く。嘗て市に入るや、市人は之を見て皆閉戶先生と呼んだ。〔尙友錄、五〕。

〔孫敬閉戶〕96 ソンケイヘイコ　蒙求の標題。漢の孫敬は常に戶を閉ぢて讀書したので、當時の人が閉戶先生と呼んだ故事。〔蒙求、上、孫敬閉戶〕楚國先賢傳、孫敬、字文寶、常閉レ戶讀レ書、睡則以レ繩繫レ頸、懸二之梁上一、嘗入レ市、市人見レ之皆曰、閉戶先生來也。

【孫蕙】97 ソンケイ　清、淄川の人。字は樹百。號は泰巖、又は笠山。順治の進士。給事中に至る。著に笠山詩選がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十四〕・〔碑傳集、五十二〕。

【孫瓊】98 ソンケイ　明、崑山の人。字は蘊章。正統の進士。刑部郎中となつたが、綿衣指揮の門達に誣告せられ、遼陽の戍に謫せらる。〔國朝獻徵錄、四十七〕・〔本朝分省人物攷、十九〕。

【孫激】99 ソンゲキ　元、嘉祥の人。字は叔達。官は廣州宣慰都事、後に漳州路知事。〔嘉祥縣志〕。

【孫杰】100 ソンケツ　明、錢塘の人。萬曆の進士。刑科給事中となり、魏忠賢に附して工部尙書に進む。忠賢誅せらるるや、彈劾せられて罷む。〔明史、三百六〕・〔萬斯同明史、三百五十五〕・〔明史稿、二百八十七〕。

【孫勰】101 ソンケフ　宋の人。立節の子。字は志康。弱年、業を蘇軾に受け、勁直を以て聞ゆ。元祐の進士。官は岳州の長官。文集がある。〔宋元學案、九十九〕。

【孫業】102 ソンゲフ　己の業によく順ふ。〔禮、學記〕入レ學鼓篋、孫二其業一也。〔注〕孫、猶二恭順一也。

【孫犬】103 ソンケン　猿の名。〔事物異名錄、獸畜、猴〕夷堅志、長老知策住二持山陰能仁寺一、畜二一猴一甚馴、名レ之曰二孫犬一。

【孫虔】104 ソンケン　孫侔(276)を見よ。

【孫乾】105 ソンケン　三國、蜀の北海の人。字は公祐。先主、徐州の牧を領するや辟されて從事となり、益州を定めるに及び秉忠將軍となる。〔三國志、三十八〕。

【孫堅】106 ソンケン　後漢末、富春の人。字は文臺。權の父。勇毅にして權略あり。獻帝の時、朱儁に從つて黃巾を破り、又、長沙の亂賊區星を平げて烏程侯に封ぜらる。袁術、堅を行破虜將軍・豫州刺史となす。董卓が堅の猛壯を憚つて和親を求むるも聽かず、入洛して諸陵を修め、還つて魯陽に軍す。後、劉表を征し、黃祖と戰つて峴山に射殺せらる。次子權、尊號を稱するに及んで武烈皇帝と追尊す。〔三國志、四十六〕。

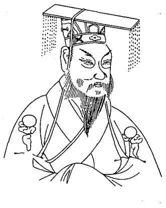
【孫搴】107 ソンケン　北齊、樂安の人。字は彥擧。西征の事起るや、命ぜられて檄文を作り、爲に相府主簿に進められ、文筆を典る。〔北齊書、二十四〕・〔北史、五十五〕。

【孫賢】108 ソンケン　明、杞縣の人。字は舜卿。諡は襄敏。景泰中、進士第一。修撰を授けられ、經筵に侍し、英宗實錄の編修に預り、太常卿に進み、翰林學士を兼ぬ。後、侍讀學士に遷り院事を掌る。疾によりて休を乞ふ。〔國朝獻徵錄、二十〕。

【孫謙】109 ソンケン　梁、東莞莒の人。字は長遜。初め宋に仕へ、淸愼強記、神明と號せらる。官は齊の江夏太守となり、又、梁の天監中、零陵太守となり、光祿大夫に進む。卒年九十二。〔梁書、五十三〕・〔南史、七十〕。

【孫獻】110 ソンケン　清、雄縣の人。字は都林(郁林)。畫に巧。〔國朝畫識、五〕。

【孫權】111 ソンケン　三國、吳の大皇帝。吳郡富春の人。字は仲謀。俠を好み、士を養ふ。兄策卒して事を繼ぎ、江東の地を擁し、黃祖を破り、劉備を助けて曹操を赤壁に破り、卒に江表に據つて鼎峙の業を成し、建業に都し、國を吳と號す。改元四、黃龍・嘉禾・赤烏・太元。〔三國志、四十七〕。



吳大帝（三才圖會）

【孫顯】112 ソンケン　明、信陽の人。父の喪に墓に廬すること三年、鄉里之を重んず。洪武中、鄉擧を領し太學に入り、給事中を授けられ、工部尙書に累進す。後、廷爭して旨に忤ひ、雲南に謫戍せられたが、其の家はただ牛一頭、茅屋數間のみであつたことを、使者が還り報ずるに及んで、帝嘉歎し、召して原職に復さんとしたが道に卒す。〔國朝列卿記、六十二〕。

【孫固】113 ソンコ　宋、管城の人。字は和父。諡は溫靖。進士。元豐中、知院事に進む。哲宗の時、門下侍郎・右光祿大夫となつて卒す。元符中、元祐の黨を以て奪官せられたが、徽宗の時、復せらる。〔宋史、三百四十一〕・〔宋元學案、七・八〕・〔宋史新編、一百十五〕・〔東都事略、八十二〕・〔元祐黨人傳、二〕。

【孫吳】114 ソンゴ　㊀孫武と吳起。幷びに古の兵法家。其の著に孫子・吳子がある。孫武(259)及び吳起(2-3365‥85)を見よ。〔史記、貨殖傳〕吾治二生產一、猶二伊尹呂尙之媒、孫吳用レ兵、商鞅行レ法。〔諸葛亮、後出師表〕曹操智計、殊二絕于人一、其用レ兵也、髣二髴孫吳一。㊁兵法の書、孫子と吳子。轉じて、兵法或は用兵の術。〔晉書、山濤傳〕不レ學二孫吳一、而闇與レ之合。㊂三國の吳をいふ。吳(2-3365)を見よ。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府〕寧國縣、云云、孫吳分二置寧國縣一。

〔孫吳生〕115 ソンゴセイ　宋、孫夢卿(542)の稱。

〔孫吳兵法〕116 ソンゴヘイハフ　孫武・吳起の兵法。〔史記、衞將軍驃騎傳〕天子嘗欲レ敎二之孫吳兵法一。

【孫后】117 ソンコウ　明、鄒平の人。諡は孝恭。幼くして美色あり、宣宗卽位して貴妃に封ぜらる。子が無かつたので陰かに宮人の子を取つて己の子とした。之が英宗である。胡后廢せられてから、冊立せられて皇后となる。英宗卽位し、尊んで皇太后とし、景帝卽位し、尊んで上聖皇太后とした。これより先、英宗北狩して還り、南宮に幽せらるるや、石亨等、門を奪はんと謀つて、先づ密かに太后にいつて許され、英宗遂に復辟す。天順中、崩ず。〔明史、一百十三〕・〔萬斯同明史、一百五十〕。

【孫洪】118 ソンコウ　明、昌邑の人。字は伯大。景泰の進士。兵部主事を授けられ、山西參政に累遷して汴河を疏濬し、尋いで副都御史に遷る。〔國朝獻徵錄、六十〕。

【孫構】119 ソンコウ　宋、博平の人。字は紹先。進士。西南夷を平げて南平軍を建て、湖北轉運使・右諫議大夫・知桂州となり、太中大夫に拜せられて卒す。〔宋史、三百三十一〕・〔宋史新編、一百九〕。

【孫谷】120 ソンコク　宋、朔寧の人。郡守孫益、奏して掾屬とし、後事を屬して師を出す。孫益死して敵騎來り攻め、衆、降らんとせし時、谷、之を爭つて遂に殺さる。〔宋史、四百四十六〕。

【孫穀】121 ソンコク　清、容華の人。字は子雙。明末に生る。嘗て五經の佚文を取り輯めて古微書を爲る、採摭頗る富む。詩文には盤譜藜牀諸集がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十三〕。

【孫坤】122 ソンコン　清、崑山の人。字は晉夫(愼夫)。號は漱生(漱菴)。畫に巧に、又、善く硯を製す。〔國朝耆獻類徵、四百八十三〕。

【孫載】123 ソンサイ　宋、崑山の人。字は積中。治平の進士。官は河中府戶曹。後、德淸の長官となつて循吏の稱あり、大觀中、朝議大夫に至る。著に易釋解がある。〔宋史翼、十九〕。

【孫爽】124 ソンサウ　清、錢塘の人。字は子度。號は容菴。著に容菴集・辛卯集がある。〔四庫提要、一百八十二〕。

【孫作】125 ソンサク　明、江陰の人。字は大雅。字を以て行はる。一の字は次知。號は東家子。文を善くす。洪武中、日曆を修む。官は國子司業に進み、後、廢せられて民となり、又、長樂教諭となる。著に滄螺集・東家子十二篇がある。〔明史、二百八十五〕。

【孫策】126 ソンサク　三國、吳の人。堅の長子。孫權の兄。字は伯符。堅が卒してからは袁術に從ふ。袁術は之を奇とし、堅の部曲を領せしめた。術に說き、江を渡つて劉繇を破り、浙江を渡つて會稽に據り、自ら會稽太守を領す。袁術、王號を僭するや、之と絕つて曹操により、討逆將軍・吳侯となり、遂に江東の地を定む。曹・袁相攻めるに會し、許を襲ひ漢帝を迎へんとして刺客に殺さる。孫權、尊號を稱するに及んで長沙桓王と追諡す。〔三國志、四十六〕。

【孫山】127 ソンザン　宋、吳の人。滑稽の才あり、末席に試驗に及第した。孫山外を見よ。

〔孫山外〕128 ソンザングワイ　試驗に落第することをいふ。宋の孫山が末位に及第し、朋儕が山に其の得失を問うた時、餘人は更に孫山の外に在りと答へた語に起る。〔合璧事類〕孫山應レ擧、綴二名榜末一、朋儕以レ書問二山得失一、答曰、解名盡處是孫山、餘人更在二孫山外一。〔過庭錄〕孫山、滑稽才子也、

赴レ擧時、鄕人託以レ子偕往、榜發、鄕人子失レ意、山綴二榜末一先歸、鄕人問二其子得失一、山曰、解名盡處是孫山、賢郎更在二孫山外一。〔書言故事、不捷類〕試不レ中、曰レ在二孫山外一。

【孫子】129 ソンシ ㊀まご。子孫。〔詩、大雅、皇矣〕既受二帝祉一、施二于孫子一。〔集傳〕既受二上帝之福一、而延及二于子孫一也。〔左氏、昭、二十八〕既受二帝祉一、施二于孫子一。〔潘岳、閑居賦〕席二長筵一、列二孫子一。〔注〕濟曰、孫子、子孫也。㊁孫武(259)をいふ。㊂書名。一卷。周、孫武撰。兵書中、最古のもの。史記孫武傳に武の書十三篇を載せ、漢書藝文志に孫子兵法八十二篇、圖九卷を載す。杜牧曰く、武の書もと數十萬言、皆、曹操、其の繁剩を削り、精粹を筆して此の書を成すと。十三篇は始計・作戰・謀攻・軍形・兵勢・虛實・軍爭・九變・行軍・地形・九地・火攻・用閒。〔四庫提要、子、兵家類〕。

〘參考書〙【魏武注孫子】三卷魏、武帝撰。【孫子十家注】十三卷宋、吉天保撰。魏武・梁孟子・唐、李筌・杜牧・陳皡・賈林、宋、梅堯臣・王哲・何延錫・張預の十家の注である。清の孫星衍が校定して定本に近いものとした。〔四庫未收書目提要、二〕。【孫子薈解】四卷明、郭良翰撰。【孫子明解】八卷明、鄭二陽撰。【孫子參同】五卷清、撰者未詳。〔四庫提要、子、兵家類存目〕。【孫子彙徵】四卷清、鄭端撰。〔四庫提要、子、兵家類存目〕。【孫子國字解】十三卷荻生雙松撰。【孫子副詮】一卷佐藤坦撰。【孫子折衷】十三卷附錄一卷平山潛撰。

㊃suen¹ tzŭ まご。孫。

〘孫子算經〙130 ソンシサンケイ 書名。三卷。撰者未詳。算書。初めに度量の起る所は兵法に合するをいひ、次に乘除の法をいふ。孫武の作といふのは誤で、漢魏人の著であらう。もと甄鸞李淳風の注があり、今、佚す。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

〘孫子數物題〙131 ソンシスウブツダイ 古の算法の一で孫子算經に載せてある。宋の周密の書中に、鬼谷算・隔牆算と名づけ、楊輝が稱して剪管術となし、俗に秦王暗點兵と名づけ、明の程大位の算法統宗に韓信點兵と名づけてゐるもので、卽ち一次不定方程式の問題である。

〘孫子媳婦兒〙132 suen¹ tzŭ hsi² fu êrh 孫の「妻。

〘孫子千變之謀〙133 ソンシセンペンノハカリゴト 孫子の奇正出沒千變萬化の兵法をいふ。

【孫枝】134 ソンシ ㊀ひこえ。老枝から新たに生じた枝。主に桐の若枝をいふ。桐孫。〔嵆康、琴賦〕乃斲二孫枝一、准二量所一レ任。〔注〕銑曰、孫枝、側生枝也。〔白居易、談氏外孫生三日喜二是男一偶吟成レ篇兼戲呈二夢得一詩〕芣苢春來盈二女手一、梧桐老去長二孫枝一。〔太平御覽、木部、桐〕風俗通曰、梧桐生二於嶧山陽巖石之上一、採二東南孫枝一爲レ琴、聲甚清雅。〔楊萬里、賀二皇太子九月四日生辰一詩〕子幹孫枝葉葉新。㊁宋、鄞の人。字は吉甫。父の允、朱熹に學びて嘉定の進士となり、迪功郎となりて、潭州南嶽廟を監す。枝、知略に富み、險要阨塞邊事軍謀に精通す。〔宋元學案、六十九〕。㊂明、錢塘の人。字は敬身。嘉靖の進士。官は山西右參政。〔浙江通志〕。㊃明の人。字は叔達。號は華林居士。畫に巧。

【孫芝】135 ソンシ 明、連江の人。字は廷秀。宣德中、國子生を以て慶都縣の長官を授けられ、沔陽州の長官に陞進す。時に建議して孟子の書を刪削せんと欲するものあり、芝、上疏して其の不可を極論し、議遂に寢む。官は參議に終る。〔明名人傳、八〕。

【孫昰】136 ソンシ 清、浙江山陰の人。字は懼聞。明末の諸生。清に入りて後、遯迹して仕へず、嘗て大學を讀み、朱熹改本の顚越紛更を憂へ、別に古本解疏を作つて之を匡救す。著には又、虘堂詩鈔がある。〔鶴徵錄、七〕。

【孫嗣】137 ソンシ 元、鄧州の人。諡は武康。官は蘄黃道宣慰使。〔河南通志〕。

【孫資】138 ソンシ 三國魏、太原の人。字は彥龍。諡は貞。丞相の軍事に參し、黃初の初、中書令となる。遼東平ぎて、中都侯に進み、驃騎將軍に拜せらる。〔三國志、十四〕。

【孫兒】139 ソンジ 自分の孫。兒孫。〔牛僧孺、樂天夢得有二歲夜詩一聊以奉和詩〕歡喜見二孫兒一。〔朱熹、詩〕老翁無三物與二孫兒一。

【孫時】140 ソンジ ㊀宋、晉陵の人。字は季中。官は宣教郎。㊁明、邯鄲城の人。字は習之。洪武の擧人。壺關教諭を授けられ、大理丞に累進し、讞獄平反するところ多し。嘗て報を論じて旨に忤らひ、獄に繫がれたが、成祖は其の忠を察して之を釋した。正統の初、南太常寺卿を以て休致を請うた。〔國朝列卿記、五十二〕。

【孫璽】141 ソンジ ㊀明、平湖の人。字は朝信。號は峯溪。成化の進士。揚州府同知となりて饑を賑給し、山西按察僉事に終る。著に峯溪集がある。〔明史、一百八十八〕・〔國朝獻徵錄、九十七〕・〔本朝分省人物攷、四十四〕。㊁明、代州の人。字は廷信。擧人から扶風縣の長官となる。藍廷瑞の反に戰死した。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、三百七十六〕・〔明史稿、二百七十〕。

【孫辭】142 ソンジ ㊀にげことば。遁辭。〔左氏、隱、五〕吾將レ略レ地焉、〔注〕孫辭以レ略レ地。㊁謙遜したことばづかひ。遜辭。〔漢書、韓王信傳〕乃復封二興弟增一爲二龍頟侯一、云云、爲レ人寬和自守、以二溫顏孫辭一、承レ上接レ下、無レ所二失意一。

【孫秀】143 ソンシウ ㊀晉の人。吳の宗室。吳の前將軍夏口都督となつたが、吳の皓に惡まれて晉に奔る。皓怒り、姓を厲として厲秀と呼ぶ。晉以て驃騎將軍儀同三司となし、會稽公に封ず。吳平ぎ、降されて伏波將軍となる。〔晉書、五十八〕。㊁晉の人。諂媚を以て趙王倫の寵を得、賈后を廢せんとし、惠帝に禪位を逼つた。倫の僭立すると共に侍中中書監となり、多く忠良を殺し、齊王冏等に誅せられた。〔晉書、五十九〕。

【孫修】144 ソンシウ 明、邯鄲の人。字は用吉。弘治の進士。戶部主事を授けられ、御史に改めらる。陝西僉事に擢んでられ、浙江左布政に累遷したが、母の憂を以て歸る。右副都御史に起拜せられ、湖湘を巡撫するや、貪吏は皆、風を聞いて畏憚した。南京操江に改められたが、災異に因つて罷めんことを乞うた。〔國朝獻徵錄、六十四〕。

【孫鷟】145 ソンシツ 五代、梁の滑臺の人。官は唐の光啓中、兵部尙書となり、梁の開平中、左散騎常侍となる。梁の太祖が百官を召して、食に就かしめた時、鷟は遲參したため誅せられた。〔舊五代史、二十四〕。

【孫祥】146 ソンシヤウ 明、大同右衞の人。正統の進士。右副都御史に擢んでられ、紫荊關を守備し、也先の入寇に戰死した。〔明史、一百六十七〕・〔萬斯同明史、二百十二〕・〔明史稿、一百五十二〕。

【孫廂】147 マゴビサシ 廂の外に、更に添へた廂。〔榮華物語、初花〕まご廂の簾。

【孫翔】148 ソンシヤウ 清、江蘇通州の人。字は呂溪。著に崇川詩集がある。〔四庫提要、一百九十四〕。

【孫璋】149 ソンシヤウ 五代、唐、歷城の人。行伍から裨校に累擢せられ、鄴兵の變に、明宗に從つて京師の難に赴く。官は長興の初、鄜州節度使。〔舊五代史、六十一〕。

【孫勷】150 ソンジヤウ 清、德州の人。字は子未、又、予未。號は莪山、又、誠齋・鶴侶齋。性、簡傲にして俗に諧はず、康熙の進士。官は大理寺少卿・通政司參議。書室を延綠吟館といふ。著には鶴侶齋集がある。〔四庫提要、一百八十三〕。

【孫讓】151 ソンジヤウ へりくだりゆづる。遜讓(**11－39038**‥27)に同じ。

【孫綽】152 ソンシヤク 晉、太原中都の人。統の弟。字は興公。少くして高尙の志あり、博學詩文を善くし、遂初賦・天台山賦を作る。官は景安令、後、廷尉卿。〔晉書、五十六〕。

〘孫綽才冠〙153 ソンシヤクサイクワン 蒙求の標題。晉の孫綽が文才を以て當時に冠絕してゐた故事。〔晉書、孫綽傳〕綽少以二文才一垂レ稱、于レ時文士、綽爲二其冠一。

【孫鑠】154 ソンシヤク 晉、懷の人。字は巨鄴。大司馬石苞に召されて尙書郎となり、十餘事を駁議して時人に稱せらる。〔晉書、三十三〕。

【孫手】155 マゴノテ 背の手のとどかない所を搔く棒。先端に小さい爪形を附く。麻姑手。

【孫洙】156 ソンシユ 宋の人。錫の子。字は巨源。冠せずして進士に擧げらる。元豐中、翰林學士にて卒す。韓琦歎じて今の賈誼とす。〔宋史、三百二十一〕・〔宋史新編、一百三〕・〔東都事略、八十五〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、二十五〕・〔琬琰集刪存、二〕。

【孫壽】157 ソンジユ 後漢、梁冀の妻。色美しく妖態をな

し、愁眉・啼粧・墮馬髻・折腰步・齲齒笑をなして冀を媚惑した。冀の敗後、自殺した。〔後漢書、六十四〕。

〔孫壽折腰〕158（ソンジュセツエウ）　蒙求の標題。後漢の梁冀の妻、孫壽が折腰步等の媚態をなした故事。〔後漢書、梁冀傳〕壽色美而善爲二妖態一、作二愁眉・嗁粧・墮馬髻・折腰步・齲齒笑一、以爲三媚二惑冀一。

【孫需】159（ソンジュ）　明、饒州の人。字は孚吉。號は冰蘗翁。諡は清簡。成化の進士。汴河の堤を築いて饑民を濟ひ、南禮部尙書に拜せらる。劉瑾に惡まれて致仕し、瑾の死後、南吏部尙書となる。著に清簡公集がある。〔明史、一百七十二〕・〔萬斯同明史、二百五十二〕・〔明史稿、一百五十六〕・〔國朝獻徵錄、二十七〕。

【孫儒】160（ソンジュ）　唐、河南の人。黃巢の亂に、秦宗權の弟、宗衡の副として淮南を爭ひ、却つて宗衡を斬り、其の衆を幷せて土團白條軍と號し、揚州を破り江南を定めんとし、朱全忠と結ぶ。全忠以て淮南節度使としたが楊行密に殺された。〔唐書、一百八十八〕。

【孫璹】161（ソンジュ）　㊀宋の人。願質の子。字は壽朋。官は臨海縣の長官。母を奉じて官に在り、元兵至るや母子倶に難を蹈みて死す。丞相葉夢鼎・尙書王應麟、嘗て文章を以て之を薦む。〔宋元學案、七十〕・〔宋史翼、三十二〕・〔宋季忠義錄、八〕。㊁宋、滎經の人。號は竹菴居士。孝友篤實を以て鄕曲に著はる。官は迪功郎。〔尙友錄、五〕。

【孫叔】162（ソンシュク）　㊀複姓。〔古今圖書集成、氏族典〕孫叔姓部列傳。㊁孫叔敖をいふ。〔墨子、所染〕楚莊染二於孫叔沈尹一。

〔孫叔敖〕163（ソンシュクガウ）　春秋、楚の人。蔿賈の子。蔿敖ともいふ。一名、艾獵。一說に孫叔を複姓とす。又、孫星衍の問字堂集には蔿敖、字は叔孫といふ。嘗て兩頭の蛇を殺して之を埋め、陰德ある者と稱せらる。後、楚の莊王の相となり、三月にして楚大いに治まり、莊王の霸業を成す。〔左氏、宣、十二〕・〔史記、一百十九〕。

〔孫叔謹〕163′（ソンシュクキン）　宋の人。昭先の孫。字は信之。官は大理正、後、潮州の長官となる。〔尙友錄、五〕。

【孫峻】164（ソンシュン）　三國、吳の人。靜の曾孫。字は子遠。官は武衞都尉・侍中となる。孫權の薨後、諸葛恪と共に遺詔により政を輔けたが、後、恪を殺し、丞相大將軍督中外諸軍事に遷り、富春侯に封ぜらる。後、恪に擊たれるを夢み、恐懼して病死す。〔三國志、六十四〕。

【孫濬】165（ソンシュン）　明、宣城の人。字は宗禹。嘉靖の進士。官は給事中、後、平陽府の長官。

【孫旬】166（ソンジュン）　明、萊陽の人。字は若穆。號は滸西。萬曆の進士。浙江を巡り、兵變、撫軍を劫かすに値ひ、行人を授けられ御史に擢んでらる。單身賊壘に詣り利害を諭して、亂、遂に定まる。大理少卿に累遷したが、母の憂を以て歸鄕して卒す。〔蘭臺法鑒錄、十九〕。

【孫書】167（ソンショ）　清、湯大紳(**7**−**17874**‥194)の字。

【孫處】168（ソンショ）　南朝宋、永興の人。字は季高。武帝に從つて孫恩を征し、盧循の難に之を討つて走らす。卒して南海太守・侯官縣侯を贈らる。〔宋書、四十九〕・〔南史、十七〕。

【孫緒】169（ソンショ）　明、故城の人。字は誠甫。號は沙溪。火篩、入犯するや、參謀となつて畫策するところ多く、吏部郎中に轉ず。中官張雄に中傷せられて職を逐はれたが、嘉靖の初、太僕卿に起用せらる。著に沙溪集がある。〔明詩綜、二十七下〕。

【孫曙】170（ソンショ）　清、孫承恩(450)の㊁を見よ。

【孫升】171（ソンショウ）　宋、高郵の人。字は君孚。進士。元祐の初、監察御史となり、天章閣待制・集賢院學士に累官す。紹聖中、劾せられて果州團練副使となつて卒す。〔宋史、三百四十七〕・〔宋元學案、九十六〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔元祐黨人傳、二〕。

【孫昇】172（ソンショウ）　㊀明、建平の人。永樂の進士。官は御史、後、建昌府の長官。㊁明、濟寧の人。字は允吉。官は南京工部主事、後、郎中となつて、龍江關を督す。〔濟寧州志〕。

【孫陞】173（ソンショウ）　明の人。燧季の子。字は志高。諡は文恪。嘉靖の進士。官は編修を授けられ、禮部侍郎に拜せらる。時人、篤行の君子と稱す。〔明史、二百二十四〕・〔萬斯同明史、二百七十二〕・〔明史稿、二百八〕・〔國朝獻徵錄、三十六〕。

【孫鍾】174（ソンショウ）　後漢、富春の人。堅の祖。孫鍾設瓜を見よ。

〔孫鍾設瓜〕175（ソンショウセツクワ）　蒙求の標題。後漢の孫鍾は少い頃家が貧しく、瓜を種ゑるを業とした。三人あり、來て瓜を乞ふ。鍾、厚く之をもてなす。三人は葬地を示して曰く、當に天子を出すべし、君、山を下ること百步、我の去るを反顧するなかれと。鍾が六十步ばかり山を下つて、回看すると皆白鶴となつて飛び去つた。鍾は此處に母を葬る。後、堅を生み、堅、權を生む。〔蒙求、中、孫鍾設瓜〕幽冥錄、孫鍾少時家貧、種レ瓜、瓜熟、有二三人一來乞レ瓜、鍾引入二菴中一、設二瓜及飯一、飯訖謂レ鍾曰、蒙二君厚惠一、今示二子葬地一、欲レ得二世世封侯一、欲レ得二數代天子一、又曰、我司命也、君下レ山百步、勿二反顧一、鍾下六十來步、回看並爲二白鶴一飛去、鍾遂於レ此葬レ母、冢上有レ氣屬レ天、鍾後生レ堅、堅生レ權、權生二亮及和休一、和生レ皓、爲二晉所レ滅、降爲二歸命侯一。

【孫丞】176（ソンジョウ）　晉の人。桓の孫。字は顯世。好學にして文章あり、螢火賦を作り、世に行はる。官は黃門侍郎。顧榮と倶に侍臣となる。永安中、陸機、成都王大都督となるや、丞を請ひて司馬となす。機と倶に害せらる。〔文士傳〕。

【孫心】177（ソンシン）　謙遜な心。すなほな心。遜心。〔禮、緇衣〕恭以涖レ之、則民有二孫心一。〔注〕孫、順也。

【孫仁】178（ソンジン）　明、貴池の人。字は世榮。景泰の進士。官は陝西右參政より右副都御史に進み、四川に巡撫し、戶部左侍郎を以て致仕す。著に東山奏議・東山稿がある。〔國朝獻徵錄、三十〕。

【孫水】179（ソンスイ）　川の名。今の安寧河をいふ。源は今の四川省冕寧縣。一名、沙江。明一統志に、孫水は卽ち古の瀘水といふは誤。〔水經、若水注〕又有二孫水一焉、水出二臺高縣一、卽臺登縣也、孫水、一名曰二沙江一、南流逕二邛都縣一、司馬相如定二西南夷一、橋二孫水一、卽是水也、又南至二會無一、入二若水一。

【孫燧】180（ソンスイ）　明、餘姚の人。字は德成。諡は忠烈。弘治の進士。右副都御史・巡撫江西に擢んでられたが、宸濠の反に殺され、禮部尙書を追贈せらる。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、一百六十〕・〔明史稿、二百七十〕。

【孫嵩】181（ソンスウ）　㊀後漢、安丘の人。字は賓石。桓帝の時、趙岐が仇家を避け、姓名を匿して餠を市中に賣つたが、嵩はその常人でないことを察し、車を停めて呼び共に載せて歸り、歡を極め、岐を複壁中に藏したが、後、赦に逢つて出された。獻帝の時、嵩、劉表の許に寄寓したが、表は之を禮遇しなかつた。時に岐、荊州に使し、嵩の素行が篤烈であるを稱したので、青州刺史となした。〔漢後書、六十五〕。㊁宋、休寧の人。字は元京。號は艮山。宋亡び、海寧山中に隱れ、誓つて復び仕へず、自ら艮山と號す。著に艮山集がある。〔宋史翼、三十五〕・〔宋季忠義錄、十二〕。

【孫成】182（ソンセイ）　唐の人。逖の子。字は思退。官は信州刺史。倉穀を發して民を救ひ、桂管觀察使に終る。〔唐書、二百二〕・〔舊唐書、一百九十中〕。

【孫晟】183（ソンセイ）　五代、南唐、密州の人。一名は鳳、又は忌。少時、盧山に入つて道士となつたが、後、儒服に改む。朱守殷の判官となり、守殷の敗死するや吳に奔つて李昇に附し、後、周の世宗に殺さる。南唐、魯國公を贈る。〔舊五代史、一百三十一〕・〔五代史、三十三〕・〔陸游南唐書〕・〔琅琊代醉編、三十〕。

【孫清】184（ソンセイ）　明、睢陽の人。諸生。孝を以て聞ゆ。〔明史、二百九十七〕・〔明史稿、二百七十八〕・〔本朝分省人物攷、三十二〕。

【孫壻】185（ソンセイ）　孫娘のむこ。〔韓愈、故太學博士李君墓誌銘〕太學博士頓丘李于、余兄孫女壻也。〔注〕或無二女字一。

【孫盛】186（ソンセイ）　晉の人。楚の孫。字は安國。著作郎に起り、祕書監に卒す。篤學。著に魏氏春秋・晉陽秋がある。〔晉書、八十二〕。

【孫靜】187（ソンセイ）　三國、吳の人。堅の季弟。字は幼臺。孫策に說いて會稽の太守王朗を破る。孫權、事を統ぶるに及んで昭義中郎將に遷る。〔三國志、五十一〕。

【孫小】188（ソンセウ）　後魏、石安の人。字は茂翹。每に征伐に從つて中都侯に封ぜられ、冀州刺史に至り、世人、其の政化を頌す。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。

【孫邵】189 ソンセウ　三國、呉、北海の人。字は長緒。孔融の功曹となる。孫權、事を統ぶるや、數〻便宜を陳べ、黃武の初、丞相となる。封は陽羨侯。〔三國志、四十七〕。

【孫紹】190 ソンセウ　後魏、昌黎の人。字は世慶。陰陽・術數・書史に通ず。正光の初、中書侍郎に進み、右光祿大夫に終る。〔魏書、七十八〕・〔北史、四十六〕。

【孫韶】191 ソンセウ　三國、呉の人。河の從子。字は公禮。年十七にして河內の餘衆を收め、能く敵を禦ぐ。孫權之を器とし、廣陵太守となす。後、幽州の牧となる。〔三國志、五十一〕。

【孫樵】192 ソンセウ　唐、關東の人。字は可之、又、隱之。韓愈に從學し、大中の進士に擧げられ、中書舍人を授けらる。僖宗、岐隴に幸せし時、行在に赴き、職方郎中・上桂國に遷る。著に孫可之集がある。〔四庫提要、一百五十一〕。

【孫奭】193 ソンセキ　宋、博平の人。字は宗古。諡は宣。須城に家す。經術を以て進む。官は仁宗の時、翰林侍講學士・兵部侍郎・龍圖閣學士に至り、太子少傅を以て致仕す。著に崇祀錄・樂記圖・五經節解・五服制度の諸篇がある。〔宋史、四百三十一〕・〔宋史新編、一百六十三〕・〔東都事略、四十六〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、四十六〕・〔五朝名臣言行錄、九〕。

【孫錫】194 ソンセキ　宋、眞州の人。字は昌齡。天聖の進士。文學を以て稱せらる。提點淮南刑獄となり、考課天下第一に居る。後、司封郎中となる。〔尙友錄、五〕。

【孫接】195 ソンセツ　謙遜な心で人に接する。〔禮、儒行〕孫接者、仁之能也。〔疏〕言二孫辭接物、是仁儒之技能一。

【孫節】196 ソンセツ　宋、開封の人。狄青の前鋒となつて儂智高と歸仁鋪に戰ひ、槍に中つて死し、忠武軍節度留後を贈らる。〔宋史、二百九十〕・〔宋史新編、八十九〕。

【孫爕】197 ソンセフ　清、烏程の人。字は呂揚。號は愈愚。貢生。書室を補讀書齋といふ。著に愈愚集・補讀書齋集がある。

【孫洤】198 ソンセン　清、輝の人。字は靜紫。號は擔峯。康熙の進士。官は中翰。理學に精通し、名教を扶持することを以て己の任とす。著に擔峯詩及び諸游記訂・徽言祕旨・擔峯文集・醒書選・唐詩通・擔峯眞面目・擔峯友聲がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十二〕。

【孫栓】199 マゴセン　栓にさした小さい栓。

【孫銓】200 ソンセン　清、崑山の人。字は鑑堂。號は小迂（少迂）・壽石齋。乾隆の擧人。官は山東縣の長官。少くして書畫に巧であつたから成親王に賞せられた。諸名家の法書の、石に摹勒せられたものを聚集して壽石齋帖と名づけた。〔清畫家詩史、戊、上〕。

【孫楚】201 ソンソ　晉、中都の人。字は子荊。才藻卓絕。少くして隱居の志あり、年四十餘にして始めて石苞の軍事に參し、惠帝の初、馮翊太守となる。嘗て王濟に對して漱レ石枕レ流の負け惜しみの遁辭をなす。〔晉書、五十六〕。

〖孫楚樓〗202 ソンソロウ　金陵城西にある樓。〔李白、玩二月金陵城西孫楚酒樓一詩〕朝沽金陵酒、歌吹孫楚樓。〔王庭珪、和三胡觀光登二酒樓一詩〕李白夜登二孫楚樓一、樓中玩レ月苦二淹留一。

〖孫楚漱石〗203 ソンソソウセキ　蒙求の標題。晉の孫楚、隱居せんとして、石を枕とし流に漱ぐといふべきを、誤つて石に漱ぎ流に枕すといひ、流に枕するは其の耳を洗はんと欲し、石に漱ぐは其の齒を礪かんと欲するなりといつた故事。〔晉書、孫楚傳〕楚少時欲二隱居一、謂レ濟曰、當レ云レ欲二枕レ石漱一レ流、誤云二漱レ石枕一レ流、濟曰、流非レ可レ枕、石非レ可レ漱、楚曰、所二以枕一レ流、欲レ洗二其耳一、所二以漱一レ石、欲レ厲二其齒一。

【孫曾】204 ソンソウ　まごとひまご。孫と曾孫。〔黃庭堅、故與二六姨一書〕白頭受レ福、以庇二孫曾一。〔黃庭堅、樊道廖君畫像贊〕耋二老于鄉一以福二孫曾一。〔陸游、湖村詩〕老人不レ用誇二頑健一、時看孫曾浴二晝盆一。

【孫琮】205 ソンソウ　清、嘉善の人。字は執升。書室を山曉閣といふ。著には山曉閣集がある。〔四庫提要、一百八十三〕。

【孫息】206 ソンソク　孫をいふ。〔黃庭堅、寄二老菴一賦〕寄二吾老於孫息一。〔元好問、挽二趙參謀一詩〕高門有二孫息一。

【孫存】207 ソンソン　明、滁州の人。字は性甫。正德の進士。官は禮部主事・河南布政使。吏治に精通し、嘗て一代の典制と疏例と互に相發するものを輯めて律令に附し、名づけて讀法といふ。〔萬斯同明史、二百十八〕・〔明史稿、一百五十七〕・〔明詩綜、三十五〕。

【孫孫】208 ソンソン　久しい後までの子孫。子孫。子子孫孫。〔書、梓材〕欲下至二于萬年一、惟王子子孫孫、永保上民。〔詩、小雅、楚茨〕子子孫孫、勿レ替引レ之。

【孫泰】209 ソンタイ　明、醴陵の人。弘治の擧人。銅梁縣の長官となつて惠政を行ふ。身を持すること清苦、在任すること十年、監察御史となる。〔明史、一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十四〕・〔明史稿、一百三十三〕。

【孫瑒】210 ソンタウ　陳、呉郡の人。字は德璉。諡は桓。博く經史に涉る。梁に仕へ、陳に入つて侍中・五兵尙書・右軍將軍となり、禎明の初卒す。〔陳書、二十五〕・〔南史、六十七〕。

【孫鏜】211 ソンタウ　❶明、東勝州の人。字は振遠。諡は武敏。右都督となり、總兵官に充てらる。也先を禦いで功をたて、英宗の時、懷寧伯となる。天順の初、曹吉祥等の謀叛を定めて世侯に進む。〔明史、一百七十三〕。❷明、莒州の人。倭寇を防いで死す。〔明史、二百九十〕・〔萬斯同明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百七十一〕。

【孫鐸】212 ソンタク　金、歷亭の人。字は振之。大定の進士。章宗の時、舊律を刊定し、戶部尙書・尙書左丞に歷任し、國史を修む。旨に忤らつて貶せられたが、宣宗卽位して太子太師となる。〔金史、九十九〕。

【孫淡】213 ソンタン　南齊、太原の人。長沙に居る。母に事へて孝なるを以て、建元中、租稅を免除して旌表せられた。〔南齊書、五十五〕・〔南史、七十三〕。

【孫亶】214 ソンタン　明、江陰の人。字は叔誠。洪武中、貢生を以て戶部主事を授けられ、兵部に改められ、永樂中、出でて肇昌府の長官となり、肇昌を治めること三十年に及ぶ。〔萬斯同明史、三百八十九〕。

【孫治】215 ソンチ　清、錢塘の人。字は宇台（宇吉）。號は鑑菴。諸生。詩は古を摸するに長じ、丁彭等と西泠の十子と稱せらる。著に鑑菴集がある。〔國朝先正事略、三十七〕・〔碑傳集、一百二十四〕。

【孫墀】216 ソンチ　明の人。燧の次子。字は仲泉。選貢生から尙寶丞に至り、尙寶卿に進む。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、二百六十〕・〔明史稿、二百七十〕。

【孫竹】217 ソンチク　めばえの竹。えだ根の末に生える竹。〔周禮、春官、大司樂〕孫竹之管。〔注〕孫竹、竹枝根之末生者。〔孫詒讓正義〕段玉裁云、枝根、謂二根之橫生者一、韓非解老所謂蔓根、今俗所謂竹鞭是也、鞭所レ行之末生竹、曰二孫竹一。

【孫沖】218 ソンチユウ　宋、平棘の人。字は升伯。眞宗の時、河中府の長官から潞州に徙り、至る處强幹の稱があつた。〔宋史、二百九十九〕・〔宋史新編、九十三〕。

【孫忠】219 ソンチユウ　明、鄒平の人。宣宗の章皇后の父。初名は愚。字は主敬。諡は恭憲。宣宗の時、中軍都督僉事・會昌伯となり、卒して安國公に封ぜられた。〔明史、三百〕・〔萬斯同明史、三百九十九〕・〔明史稿、二百八十二〕。

【孫女】220 ソンヂヨ　まごむすめ。〔容齋四筆、待制知制誥〕陳恭公獨爲レ相、其弟婦王氏冀公孫女、曾出也當二月旦一。

〖孫女兒〗221 suen^1 nü^3 êrh^2　まごむすめ。孫女に同じ。

【孫綝】222 ソンチン　三國、呉の人。字は子通。峻と同祖。峻の死後、代りて朝政を執り、永寧侯となる。倨傲のため王孫亮の怒に觸れ、誅せられんとしたが、却つて王を廢して孫休を立て、大將軍・丞相となり、專權橫暴を極む。會〻反意ありと告げる者があつたので、孫休は臘會に乘じて綝を召致し、席間に之を殺し、三族を夷滅した。〔三國志、六十四〕。

【孫鎭】223 ソンチン　明、合肥の人。字は希武。靖難の役に、堅守して下らず、永樂の初、山海に謫戍せられたが、宣德の時、赦さる。〔萬斯同明史、一百八十九〕・〔明史稿、九十三〕・〔碑傳集、一百二

十六〕。

【孫杕】224ソンテイ　清、錢塘の人。字は子周。號は竹癡・漫士。人と爲り清癖にして風雅。行草八分に巧に、花卉竹石を善くし、筆墨遒勁、古人の正派を得、運筆の妙、尤も佳。〔淸畫家詩史、甲、下〕。

【孫程】225ソンテイ　後漢、涿郡新城の人。字は稚卿。諡は剛。順帝を迎立した功で淳陽侯に封ぜられ、騎都尉に拜せられた。後、奉車都尉となつて卒す。〔後漢書、一百八〕。

【孫楨】226ソンテイ　明、丹陽の人。字は仲牆。號は石雲。書畫古物を多く收藏し、考據甚だ精密。

【孫鼎】227ソンテイ　明、廬陵の人。字は宜鉉。正統中、御史に擢んでらる。吉水の劉觀・李中と名を齊しくし、吉水三先生といふ。〔明史、一百六十一・二百八十二〕・〔萬斯同明史、二百九〕・〔明史稿、一百五十一〕。

【孫調】228ソンテウ　宋、長溪の人。字は和卿。龍坡先生と稱す。經術を闡揚し、佛老を排斥した。著に易書詩解・中庸發題・浩齋稿等がある。〔宋元學案、六十九・七十〕。

【孫逖】229ソンテキ　唐、武水の人。警敏、文思に富む。開元中、賢良方正に擧げられ、中書舍人となり詔誥を典り、太子少詹事に終る。〔唐書、二百二〕・〔舊唐書、一百九十〕。

【孫適】230ソンテキ　明、錢塘の人。字は孟博。號は東巖老人。詩を以て名あり、行草書を善くし、尤も鍼灸術に長ず。甘泉里に隱居す。著に東巖老人集がある。〔尙友錄、五〕。

【孫覿】231ソンテキ　宋、晉陵の人。字は仲益。別號は鴻慶居士。大觀の進士。後、詞學兼茂科に擧げられ、翰林學士・吏戶二部尙書に歷官す。朝に立つて正直。秀州・溫州・臨安諸郡の長官となつたが、執政に忤ひ、太湖の濱、西徐里に歸隱す。嘗て命ぜられて蔡京・王黼等の事實を編類して史官に上る。著に鴻慶集がある。〔四庫提要、一百五十七〕・〔宋詩鈔〕・〔宋中興學士院題名錄〕・〔宋人軼事彙編、七百八十二〕。

【孫轍】232ソンテツ　元、臨川の人。字は履常。母に仕へて至孝。家居して教授し、忠信孝弟を本とす。徵辟せられたが就かず、行省特に遺逸を以て擧ぐ。〔元史、一百九十九〕。

【孫登】233ソントウ　❶後漢の人。法を用ひて技方多く建武二年、銅馬・靑犢・尤來の餘賊、共に登を立てて、上郡に天子としたが、後、其の將、樂玄に殺さる。〔後漢書、翟酺傳〕圖書有㆓漢賊孫登㆒將㆘以㆓才智㆒爲㆗中官所㆖害。〔注〕春秋保乾圖曰、漢賊臣、名孫登、大形小口、長七尺九寸、巧用㆑法、多㆓技方㆒、詩書不㆑用、賢人杜㆑口也。〔後漢書、光武紀上〕建武二年、云云、銅馬・靑犢・尤來餘賊、共立㆓孫登㆒爲㆓天子於上郡㆒、登將樂玄殺㆑登、以㆓其衆五萬餘人㆒降。❷三國、吳の人。權の長子。字は子高。諡は宣太子。嘗て張昭に從つて漢書を讀む。東中郞將に拜せらる。權、王號を稱するに及んで、皇太子となつたが早く卒した。〔三國志、五十九〕。❸晉、共の人。字は公和。蘇門山に隱れて易を讀み、一絃琴を鼓す。阮籍・嵆康等と來往したが、終る所を知らず。〔晉書、九十四〕・〔神仙傳、六〕。❹晉の人。統の子。少くして名理を善くし、嘗て老子に注す。仕へて尙書郞に至つたが、早く卒す。〔晉書、五十六〕。

【孫登嘯】234ソントウセウ　うそぶく聲のすぐれたこと。世俗をはなれて心をすます喩。晉の隱士、孫登の嘯いた聲が、鸞鳳の聲の谷に響くに似て居たといふ故事。〔晉書、阮籍傳〕籍嘗於㆓蘇門山㆒遇㆓孫登㆒、與商㆓略終古㆒、及㆓栖神道氣之術㆒、登皆不㆑應、籍因長嘯而退、至㆓半嶺㆒、聞㆕有㆑聲若㆔鸞鳳之音響㆓乎巖谷㆒、乃登之嘯也。

【孫統】235ソントウ　晉の人。楚の孫。字は承公。文を善くす。會稽に家す。後、求めて鄞令となつたが、意を游覽に縱にす。尋いで餘姚の令となつて卒した。〔晉書、五十六〕。

【孫騰】236ソントウ　北齊、石安の人。字は龍雀。諡は文。侍中・尙書僕射となつて機密を司つたが、小人を親しんで聚斂を事とし、朝野に非笑せられた。〔北齊書、十八〕・〔北史、五十四〕。

【孫同】237ソンドウ　清、王祖庚（**7**－**20823**‥1827）の字。

【孫霸】238ソンパ　三國、吳の人。和の弟。字は子威。魯王に封ぜられたが、和を中傷して死を賜はる。〔三國志、五十九〕。

【孫梅】239ソンバイ　清、烏程の人。字は松友。號は春浦。乾隆の進士。官は太平府同知。書室を舊言堂といふ。著に四六叢話・舊言堂集がある。

【孫放】240ソンパウ　晉の人。盛の次子。字は齊莊。幼にして慧悟。官、長沙相にて終る。〔晉書、八十二〕。

【孫昉】241ソンパウ　宋の人。字は景初。號は四休居士。太醫となる。黃庭堅に安樂法を說く。〔尙友錄、五〕。

【孫魴】242ソンパウ　南唐、南昌の人。字は伯魚。鄭谷に從學す。沈彬・李建勳と詩社を造り、金山寺に題詠する一詩は、時に絕唱と稱せらる。官は宗正郞。〔尙友錄、五〕。

【孫龐】243ソンパウ　孫臏と龐涓。共に戰國時代の名將。孫臏（253）・龐涓（**12**－**48824**‥14）を見よ。〔西廂記、張君瑞慶㆓團圞㆒雜劇〕他曾笑㆓孫龐眞下愚㆒、若是論㆓賈馬㆒非㆓英物㆒。

【孫寶】244ソンパウ　漢、鄢陵の人。字は子嚴。官は京兆尹。哀帝の時、司隸に進んだが、上書して鄭崇の寃を訴へたため、免ぜられて庶人となる。平帝の時、大司農となる。〔前漢書、七十七〕。

【孫寶自劾】245ソンパウジガイ　蒙求の標題。漢の孫寶、郡吏となるや、御史大夫張忠が召して屬となし、其の子に經を授けしめんとしたが、自ら己れの過を彈劾して去つた故事。〔漢書、孫寶傳〕孫寶、字子嚴、潁川鄢陵人也、以㆑明㆑經爲㆓郡吏㆒、御史大夫張忠、辟㆑寶爲㆑屬、欲㆑令㆑授㆓子經㆒、更爲除㆑舍、設㆓儲偫㆒、寶自劾去、忠固還㆑之、心內不㆑平、後署㆓寶主簿㆒、寶徙入㆑舍、祭㆑竈請㆓比鄰㆒、忠陰察怪㆑之、使㆓所親問㆑寶、前大夫爲㆑君設㆓除大舍㆒、子自劾去者、欲㆑爲㆓高節㆒也、今兩府高士俗不㆑爲㆓主簿㆒、子既爲㆑之、徙㆑舍甚說、何前後不㆓相副㆒也、寶曰、高士不㆑爲㆓主簿㆒、而大夫君以㆑寶爲㆑可、一府莫㆑言㆑非、士安得㆓獨自高㆒、前日君男欲㆑學㆑文、而移㆑寶自近、禮有㆓來學㆒、義無㆓往敎㆒、道不㆑可㆑詘、身詘何傷、且不㆑遭者、可㆑無㆑不㆑爲、況主簿乎、忠聞㆑之、甚慙。

【孫伯】246ソンパク　❶複姓。〔路史〕逝敖後有㆓孫伯氏㆒。❷春秋、楚、成大心（**5**－**11544**‥351）の字。

【孫博】247ソンパク　❶漢、河東の人。淸才あり、文を能くし、著書が百餘篇ある。晚年道術を好み、林慮山に入つて仙去したと傳へらる。〔神仙傳、八〕。❷明、景州の人。字は約之。成化の進士。官は禮部給事中。事を論じて權貴を避けず。汪直が事を用ひて西廠を立てるや、上疏して、直、擅まに威福を作すと論ず。疏、入りて、立ちどころに西廠を毀つたため、直、大いに之を恨む。會〻雲中、警を告げるや、命を受けて北伐し、功によつて山西按察僉事に至る。〔萬斯同明史、二百三十五〕。

【孫磐】248ソンバン　明、遼陽の人。弘治の進士。吏部主事に擢んでられたが、劉瑾に忌まれて歸る。瑾、誅せられて河南僉事に復す。〔明史、一百八十九〕・〔萬斯同明史、二百四十七〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【孫圮】249ソンピ　孫玘（53）の一名。

【孫庇】250マゴビサシ　母屋の庇の外に更に出しそへた庇。孫廂（147）に同じ。〔江家次第、十一、內侍所御神樂〕淸涼殿孫庇。

【孫斌】251ソンピン　後漢の人。衞相第五種の門下掾となつて賢稱あり、種、善く之を遇す。種、袞州刺史に遷り、中常侍單超に陷られ、朔方に徙されるや、超の外孫董援、時に朔方の太守となり、怒りを畜へて種を待つ。斌、難の種に及ぶを慮り、俠客を將ゐて晨夜種を追ひ、太原に及び、送吏を格殺し、馬を以て種に與へ、自ら步して從ひ、一日夜行すること四百餘里、遂に脫れることを得て歸る。〔後漢書、七十一〕。

【孫賓】252ソンピン　漢の人。卜を善くす。〔搜神記、四〕有㆓孫賓者㆒、極明㆓易筮㆒。

【孫臏】253ソンピン　戰國、齊の人。武の後。龐涓と兵法を鬼谷に學ぶ。涓、魏の將となるや、臏の能の己より賢るを嫉んで其の足を斷ち、其の面に黥す。齊の淳于髡、之を載せて歸り、威王の師とす。齊、魏を伐つや、輜車中に坐して計謀の功を立て、又、魏が韓を攻め、韓、急を齊に告げるや、臏、齊軍をして魏地に入らしめ、減竈の奇策を以て魏軍を誘ひ、馬陵に戰つて龐涓を敗る。周祈の名儀考に孫臏の名は逸し、臏は名に非ず、足を臏せられたので孫臏といふと。〔史記、六十

五〕。

【孫臏貴レ勢】254（ソンピンイキホヒヲタットブ） 齊の孫臏の兵學は勢を貴ぶ。〔呂覽、不二〕陽生貴レ己、孫臏貴レ勢。〔注〕孫臏楚人、爲二齊臣一、作二謀八十九篇一、權之勢也、梁伯子云、史漢皆以二孫臏一爲二齊人一、此獨以爲二楚人一、當二別有一レ據。

【孫臏減レ竈策】255（ソンピンカマドヲゲンズルノサク） 齊の孫臏が、日毎に竈の數を減じ、兵卒の次第に散じ去るの狀を爲して、弱を示し敵を誘つた奇策。〔史記、孫武吳起傳〕臏使下齊軍入二魏地一、爲二十萬竈一、明日爲二五萬竈一、又明日爲中三萬竈上、龐涓行三日、大喜曰、我固知二齊軍怯一、入二吾地一三日、士卒亡者過レ半矣、乃棄二其步軍一、與二其輕銳一倍レ日幷レ行逐レ之、孫子度二其行一、暮當レ至二馬陵一、馬陵道狹而旁多二阻隘一、可レ伏レ兵、乃斫二大樹一、白而書レ之曰、龐涓死二于此樹之下一、於レ是令二齊軍善射者、萬弩夾レ道而伏一、期曰、暮見二火擧一而倶發、涓果夜至二斫木下一、見二白書一、鑽レ火燭レ之、讀二其書一未レ畢、齊軍萬弩倶發、魏軍大亂相失、龐涓自知二智窮兵敗一、乃自剄曰、遂成二豎子之名一。

【如二孫臏之用レ兵】256（ソンピンノヘイヲモチフルガゴトシ） 恰も齊の孫臏が兵を用ふるが如く巧妙である。文章の妙を形容する辭。〔宋史、仲游傳〕天下論二君之文一、如二孫臏之用レ兵、扁鵲之醫レ疾、固所二指名一者矣。

【孫婦】257（ソンプ） まごよめ。〔儀禮、喪服傳〕何以期也、不三敢降二其嫡一也、孫婦亦如レ之。

【孫傅】258（ソンプ） 宋、海州の人。字は伯野。謚は忠定。進士。官は尙書右丞。金人入寇し、欽宗北に去るや、太子を輔けて留守す。金人又、來つて太子を召し去るや、傅、之に從つて朔北に死す。〔宋史、三百五十三〕・〔宋史新編、一百二十二〕・〔東都事略、一百八〕・〔皇朝名臣言行續錄、二〕・〔宋大臣年表、十九〕。

【孫武】259（ソンブ） 春秋、齊の人。兵法を以て吳王闔廬に仕へた。西、楚を破り、北、齊晉を威し、吳は遂に諸侯の霸となり、名大いに顯る。兵法十三篇を著はす。〔史記、六十五〕。

【孫復】260（ソンプク） 宋、平陽の人。字は明復。號は睢陽子。泰山に居り、春秋を以て弟子に教ふ。召されて國子監直講となり、殿中丞に遷る。胡瑗と合はず、太學に在るや常に相避くといふ。其の學を泰山學派といひ、安定學派と共に宋學の先驅をなす。嘉祐二年卒す、年六十六。復、病みし時、韓琦、仁宗に言つて書史を選び紙筆を給し、復の家に就いて書十五萬言を得、祕閣に藏すといふ。著に易說六十四篇・春秋尊王發微十二篇・春秋總論三篇・睢陽子集十卷・孫明復小集一卷がある。〔宋史、四百三十二〕・〔宋史新編、一百六四〕・〔東都事略、一百十三〕・〔隆平集、十五〕・〔五朝名臣言行錄、十〕・〔宋元學案、二〕。

【孫賁】261（ソンプン） 三國、吳の人。堅の兄の子。字は伯陽。幼にして孤。堅の卒後、袁術に依つて豫州刺史・丹陽都尉となる。袁術、僭號するや、賁を九江太守に除したが就かず、江南に遷る。孫策、賁を豫章太守とし、尋いで都亭侯に封ず。〔三國志、五十一〕。

【孫奮】262（ソンプン） 三國、吳の人。霸の弟。字は子揚。齊王に封ぜられ、武昌に居り、豫章に徙る。事に坐して庶人となつたが、又、章安侯に封ぜらる。皓の時、流言によつて誅殺せらる。〔三國志、五十九〕。

【孫蕡】263（ソンプン） 明、廣東須德の人。字は仲衍。號は西菴。博學、詩文を善くし、翰林典籍となつて洪武正韻を纂修す。出でて平原簿となる。著には西菴集がある。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕。

【孫文】264（ソンブン） ㊀明、餘姚の人。號は水月老人。幼時、父が族人に殺されるや、復仇せんとし、僞つて和好し、遂に田器で擊殺し、戍に遣られたが、幾もなくして赦に遇つて釋された。〔明史、二百九十七〕。㊁民國の人。字は逸仙、又、載之。同治五年廣東香山縣の農家に生れ、兄に依つて語學に通じ、後、醫を學ぶ。國事、日に非なるを見て革命を鼓吹し、二十九歲、日清の役にあたつて興中會を起し、廣東を取つて根據地としようとして失敗し、外國に亡命し、西曆一九〇五年、東京で中國革命同盟會を興し、三民主義を唱へ、黃克強・胡漢民・汪精衞等と事を謀つて成らず。宣統三年、清朝の滅亡以後、大いに奔走して、翌、民國元年、臨時大總統となり、其の辭職後、袁世凱・張勳等を退け、一意革命につとめ、十三年、中國國民黨を興し、國民會議召集のため北京に至り、翌十四年三月、病んで北京に死す。年六十。十八年六月、南京の紫金山に葬り、之を中山陵といふ。日本亡命中、中山樵と名乘つたことから中山と號した。〔王樞之、孫文傳〕。

【孫文蔚】265（ソンブンウツ） 猿の異名。四人の老叟（實は猿）が、嵩山に讀書してゐた王縉を訪ね、自ら勝手な名を稱し、高談劇飲、醉うて倶に化して猿となり、木に升つて去つたといふ說話に出る。〔事物異名錄、獸畜、猿〕樹萱錄、王縉嘗讀二書嵩山一、有二四叟一、攜レ榼來訪、自稱二木巢南・林大節・孫文蔚・石媚虬一、高談劇飲、既醉倶化爲レ猿、升レ木而去。

【孫丙】266（ソンペイ） 明の人。字は文煥。謚は恭襄。成化の進士。正德中、右副都御史を以て湖廣の巡撫となり、工部右侍郎に遷る。〔明史稿、一百五十一〕。

【孫抃】267（ソンベン） 宋、眉山の人。字は夢得。謚は文懿。進士。皇祐中、權御史中丞となり、剛直を以て聞え、宰相梁適と陳執中を劾して之を罷めさせた。參知政事に至つて卒す。〔宋史、二百九十二〕・〔宋史新編、九十〕・〔東都事略、七十一〕・〔隆平集、八〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、四十五〕。

【孫沔】268（ソンベン） 宋、會稽の人。字は元規。天禧の進士。直言を以て知られ、上書して宰相呂夷簡をそしる。宴遊を好んだ爲、事に坐して廢せられ、後、觀文殿學士より、延州の長官となる。〔宋史、二百八十八〕・〔宋史新編、八十八〕・〔東都事略、七十〕・〔隆平集、十一〕・〔名臣碑傳琬琰集、上、二十三〕。

【孫冕】269（ソンベン） ㊀宋、新淦の人。字は伯純。雍熙の進士。官は蘇州の守。後、九華山に歸隱す。〔北宋經撫年表、一百七・一百八〕㊁明、德化の人。字は文中。正德中、貢生より通州學訓導を授けらる。少くして李夢陽に重んぜらる。著に北通備遺稿がある。〔列朝詩集、小傳、丙〕。

【孫甫】270（ソンポ） 宋、陽翟の人。字は之翰。進士。官は河北都轉運使・侍讀。著に唐史記があるが、今傳はらず、唐史論斷のみ傳はる。〔宋史、二百九十五〕・〔宋史新編、九十一〕・〔東都事略、六十四〕・〔隆平集、十四〕・〔五朝名臣言行錄、九〕。

【孫浦】271（ソンポ） 宋、保定軍の人。十世同居したので、眞宗の時、旌表せられ課調を免ぜらる。〔宋史、四百五十六〕・〔宋史新編、一百七十六〕。

【孫輔】272（ソンポ） 三國、吳の人。賁の弟。字は國儀。孫策を助けて袁術を拒ぎ、又、從つて劉勳を襲つて功をたて、廬陵太守・平南將軍となり、幽州の牧を領す。孫權の江東を保ち得ないのを恐れ、曹操に通じて權に幽殺せらる。〔三國志、五十一〕。

【孫逢】273（ソンポウ） 宋、眉山の人。大觀の進士。太學博士となつたが、張邦昌が僭立するに及び、臥して起たず。〔宋史、四百五十三〕・〔宋史新編、一百二十四〕。

【孫鳳】274（ソンポウ） 明、長州の人。字は鳴岐。表裝を業とし、頗る讀書を喜み、古書畫の表裝を賴む者があると、其の詩文頌語を錄し、久しくして帙を成したので、之に名づけて孫氏法書名畫鈔といつた。〔明史、一百八十九〕・〔明史稿、一百七十四〕。

【孫鵬】275（ソンポウ） 清、昆明の人。字は圖南。號は南村。康熙の擧人。官は泗水知縣。著に圖南文集がある。

【孫侔】276（ソンポウ） 宋、吳興の人。字は少述。初名は處。字は正之。王安石・曾鞏と游ぶ。母に至孝、終身仕へず、江淮の閒に終る。〔宋史、四百五十八〕・〔宋史新篇、一百七十七〕・〔宋元學案、九十八〕。

【孫楙】277（ソンポウ） 宋、太平の人。字は德操。紹興の進士。官は池眞潁三州に歷判し、至る所學校を興す。後、溫州の長官に遷る。朱熹は之を稱して古の良吏といふ。〔尙友錄、五〕。

【孫謀】278（ソンボウ） 子孫のためのはかりごと。〔詩、大雅、文王有聲〕詒二厥孫謀一、以燕二翼子一。〔集傳〕謀及二其孫一、則子可二以無一レ事矣。〔李康、運命論〕貽二厥孫謀一、以燕二翼子一者。

【孫懋】279（ソンボウ） 明、慈谿の人。字は德夫。號は毅菴。正德の進士。官は應天府尹。著に孫毅菴奏

議がある。〔明史、二百二〕・〔萬斯同明史、二百八十六〕・〔明史稿、一百八十七〕。

【孫愐】280 ソンメン　唐の人。天寶中、官は陳州司法。音韻の學に精通し、隋の陸法言の切韻を重刊し、字數を增加して唐韻を作る。今、その書已に佚し、唯、廣韻中に愐の作つた唐韻序一篇を存して居る。徐鉉本說文解字注に附した反語は、愐の書の音切を用ひたものである。唐韻（**2－3709**··9）を見よ。〔全唐文、三百六十五〕。

【孫默】281 ソンモク　清、休寧の人。字は無言。號は桴菴（浮菴子）。廣陵に客寓し、貧しかつたが客を好んだので、其の黃山に歸るや、詩文を以て行を贈るもの海內に多かつたといふ。書室を笛松閣といふ。著に笛松閣集がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十二〕。

【孫陽】282 ソンヤウ　❶春秋、秦の穆公の時の人。一名、伯樂。善く馬を相す。伯樂（**1－466**··448）の❷を見よ。〔楚辭、七諫、怨世〕遇二孫陽一而得レ代。〔注〕孫陽、伯樂姓名也、言、衆人不レ識二騏驥一、以レ駕敗レ車、則不二肯進一、遇二伯樂一知二其才力一、以レ車代レ之、則至二千里一、流二名德一也。〔新論、命相〕善觀察者、猶二風胡之別一レ劍、孫陽之相一レ馬。❷複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕孫陽氏、嬴姓、英賢傳曰、秦穆公子有二孫陽伯樂一、善相レ馬、漢有二侍御史孫陽放一。

【孫暘】283 ソンヤウ　清の人。承恩の弟。字は赤崖。號は薦菴。名聲、兄と等し。順治丁酉、順天鄕試に擧げられたが、科場の事發し、人に牽連せられて尙陽堡に謫戍せらる。聖祖東巡の時、頌萬餘言を獻じ、召されて幕前に至り、東巡の詩を賦す。帝、其の才を歎惜した。宋德宜が上書して推薦したが用ひるを果さず、久しくして里に還る。著に薦菴集がある。〔清代學者象傳、二〕。

【孫瑜】284 ソンユ　❶三國、吳の人。靜の子。字は仲異。丹陽太守となり、郡に在つて學宮を立て、將吏の子弟を學ばす。墳典を好み、軍旅に在つて誦聲絕えず。〔三國志、五十一〕。❷宋の人。奭の子。字は叔禮。契丹に使し、兩浙轉運使となり、工部侍郎に至る。〔宋史、三百三十〕・〔宋史新編、一百八〕・〔東都事略、四十六〕。❸明、邢臺の人。字は孟秀。進士より邢部主事を授けられ、開封府の長官に累遷す。〔國朝列卿記、三十五〕。

【孫雄】285 ソンユウ　❶明、鄒平の人。兄の本、明に歸して戰死し、弟の智、代つて又戰死したので、靖難の役に、雄は其の衆を統べて燕王の前鋒となり、齊泰の軍を白溝河に破り、金川門に勝つ。羽林衛指揮使となり、潼關を守る。〔明史、二百九十六〕。❷明、通州左衛總旗の人。孝子として知られる。

【孫庸】286 ソンヨウ　宋、汝陽の人。字は鼎臣。後周の顯德中、贊聖策九篇を獻ず。宋初、河南簿となり、太平興國中、左贊善大夫に擢んでられ、殿中丞・知龍州となる。〔宋史、三百六〕・〔宋史新編、八十四〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、四十二〕。

【孫抑】287 ソンヨク　元、洪洞の人。字は希武。進士。官は刑部郎中。關保の變に、父母を奉じて兵を平陽に避け、死を冒して父母と共に免れて歸る。〔元史、一百九十八〕。

【孫翌】288 ソンヨク　唐の人。孫季良（361）を見よ。

【孫翊】289 ソンヨク　三國、吳の人。權の弟。字は叔弼。驍悍果烈、兄の孫策に似ていたといふ。孝廉に擧げられ、後、偏將軍を以て丹陽太守を領したが、左右の邊鴻に殺さる。〔三國志、五十一〕。

【孫郎】290 ソンラウ　三國、吳の孫策をいふ。將軍となつた時、年少であつたからいふ。孫策（126）を見よ。〔吳志、孫策傳、注〕江表傳曰、策時年少、雖レ有二位號一、而士民皆呼爲二孫郎一、百姓聞二孫郎至一、皆失二魂魄一。

【孫蘭】291 ソンラン　清、江都の人。字は滋九。一名、禦寇。號は柳庭（柳亭）。明末の諸生。清に入り、布衣を以て終る。六書九章の學に精通し、嘗て湯若望に從つて曆を治め、盡く泰西の推步の術に通ず。書を善くし、詩及び畫に巧。著に柳庭人紀・字學等有るが多く傳はらず、惟だ輿地陽說を存するのみ。〔國朝耆獻類徵、四百十四〕。

【孫覽】292 ソンラン　宋の人。覺の弟。字は傳師。進士。蔡京と議論したが合はず。夏人を擊つて之を破り、樞密直學士となる。人となり剛直。河南府永興軍となる。〔宋史、三百四十四〕・〔宋史新編、一百十七〕・〔東都事略、九十二〕・〔宋元學案、一〕。

【孫劉】293 ソンリウ　❶三國の孫權と劉備。〔梁元帝、與二武陵王一書〕地擬二孫劉一、各安二境界一。❷三國魏、孫資と劉放。〔南史、顧覬之傳〕覬之曰、辛毗有レ云、孫劉不レ過レ使二吾不レ爲二三公一耳。❸晉、孫綽と劉惔。〔陸龜蒙、幽居賦〕清言不レ屈、孫劉詎減二於中軍一。

【孫㮚】294 ソンリツ　宋、吉州龍泉の人。抃の後。字は實甫。文天祥の女壻。宣教郎・知龍泉縣となり、拒守して下らず、叛者に陷れられて殺さる。〔宋史、四百五十四〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、五〕・〔文丞相督府忠義傳〕。

【孫良】295 ソンリヤウ　明、宜都の人。字は德輝。永樂の擧人。官は工科給事中より進賢教諭に至る。〔明史、二百九十六〕。

【孫亮】296 ソンリヤウ　三國、吳の人。權の少子。字は子明。赤烏中、立つて太子となり、權が死んで位を繼ぐ。大將軍孫綝の專恣を惡み、之を誅せんとしたが事が洩れ、廢せられて會稽王となる。永安三年、亮の宮人で、亮が巫に禱祠せしめたところ惡言があつたと告ぐるものがあり、黜けられて候官侯となり、道にて自殺す。在位七年、改元三、建興・五鳳・太平。〔三國志、四十八〕。

【孫隆】297 ソンリユウ　明、武進の人。字は從吉。號は都癡（都痴）。天順中、新安府の長官。善く梅花禽魚草蟲を得、徐熙の逸趣を得て自ら一家を成し、沒骨圖と號す。〔明畫錄、六〕。

【孫慮】298 ソンリヨ　三國、吳の人。登の弟。字は子智。建昌侯に封ぜられ、嘉禾の初に卒す。〔三國志、五十九〕。

【孫勴】299 ソンリヨ　宋の人。立節の季子。字は勵志。經史を涉獵し、蘇軾に學んで詩を善くす。居を延春谷にトして竹林隱居といふ。年七十、疾無くして逝く。〔宋元學案、九十九〕。

【孫綠】300 ソンリヨク　清、常熟の人。字は亘清。諸生。畫に巧。〔國朝畫識、十〕。

【孫鄰】301 ソンリン　三國、吳の人。賁の子。字は公達。都鄕侯に封ぜられ、叛賊を平げ、夏口沔中督・威遠將軍に遷る。〔三國志、五十一〕。

【孫禮】302 ソンレイ　三國、魏、容城の人。字は德達。諡は景。武帝の司空となり、大將軍曹爽、政を輔けるに至り、其の長史に擢んでらる。後、七郡五州を歷任して司空に遷り、大利亭侯に封ぜらる。〔三國志、二十四〕。

【孫廉】303 ソンレン　梁の人。謙の從子。字は思約。齊に仕ふ。天監の初め、沈約・范雲等に阿附して御史中丞となり、時人に恥とせられた。〔梁書、五十三〕・〔南史、七十〕。

【孫璉】304 ソンレン　宋、大庾の人。字は器之。家貧しくして書を嗜み、吟咏を善くす。擧に應ぜず、躬耕績屨して生活す。壽百歲。〔宋季忠義錄、十六〕。

【孫路】305 ソンロ　宋、開封の人。字は正甫。進士。夏人の入寇を禦いで功あり、元祐中、兵部尙書・龍圖閣學士に至り、徽宗の朝に、太原・河南・永興軍に歷知す。〔宋史、三百三十二〕・〔宋史新編、一百十〕。

【孫樓】306 ソンロウ　明、常熟の人。字は子虛。嘉靖の擧人。官は湖州府推官より漢中に改められ、致仕して歸る。性、書を好み、門を閉ぢて校讎し、晝夜やめず、藏する所萬卷を逾え、略〻脫誤なし。書室を博雅堂・拱宸堂といふ。著に麗詞百韻・百川集がある。〔明詩綜、四十八〕。

【孫鑨】307 ソンロウ　明の人。陞の子。字は文中。諡は清簡。嘉靖の進士。萬曆中、吏部尙書となり、力めて請謁をふさぎ、政府の私人を貶黜したので、執政皆悅ばず、遂に休を乞うて歸る。〔明史、二百二十四〕・〔萬斯同明史、三百三十〕・〔明史稿、二百八〕。

【孫祿】308 ソンロク　明、棲霞の人。字は天錫。弘治の進士。劉瑾に忤つて禁錮せられたが、瑾が誅せられて揚州の長官となり、應天府尹に遷る。〔明史、一百八十七〕・〔萬斯同明史、二百五十一〕・〔明史稿、一百七十一〕。

【孫衣言】309 ソンイゲン　清、瑞安の人。字は琴西。號は遜學齋。道光の進士。端雅、學を好み、好んで經濟を談ず。其の鄕の文獻を搜輯すること甚だ勤む。書室を玉海樓といふ。官は太僕寺卿。著に遜學齋文鈔がある。〔碑傳集補、七〕。

【孫詒經】310 ソンイケイ　清、錢塘の人。字は子授（子綬）。咸豐の進士。光緒中、戶部左侍郎となる。銀行

を設け、鐵路を開く等の事について、多く異議を持し、時論に違ふ。〔清史稿、四百四十七〕・〔清史列傳、五十八〕・〔續碑傳集、十三〕。

【孫詒讓】311（ソンイジヤウ）　清、瑞安の人。衣言の子。字は仲容。號は籀廎（籀高）。同治の擧人。刑部主事に至つたが、疾を以て歸る。張百熙・張之洞が交〻薦むるも仕へず、經を窮め、著書を樂しむ。其の學は金榜・錢大昕・段玉裁・王念孫の四家を包含して其の上に出で、歸然として清三百年樸學の大斗である。書室を經㪍室といふ。著に周禮正義・墨子閒詁・古籀拾遺・名原・古籀餘論・契文擧例・九旂古通義・周書斠補・尙書駢枝・大戴禮記斠補・六曆甄微・廣韻姓氏刊誤・經迻・札迻・述林・周禮政要・永嘉郡記等がある。〔清史稿、四百八十八〕・〔碑傳集補、四十一〕。

【孫威直】312（ソンヰチヨク）　後漢、鉅鹿の人。性、剛介。郭泰の母卒するや往きて弔せんとしたが、惡人賈淑の弔を受けたことを怪しんで去る。〔後漢書、九十八〕。

【孫惟最】313（ソンヰサイ）　唐、五原の人。一に惟晸に作る。黃巢を破り、官は右金吾衞大將軍。朱玫の亂に、僖宗が興元に幸するや、鄜州節度使となり、京に留つて宿衞し、神策軍を分判し、扈駕都と號す。〔舊五代史、十五〕。

【孫惟信】314（ソンヰシン）　宋、開封の人。字は季蕃。號は花翁。長短詞に巧。文集がある。〔宋史翼、三十六〕。

【孫惟晸】315（ソンヰセイ）　唐の人。孫惟最(313)を見よ。

【孫惟中】316（ソンヰチユウ）　明、昌邑の人。世〻農を業とし、壯年に及んで寧海州史となり、益都府に貢せらる。偶〻父の死に遭つて生色なく、墓に廬して慟哭し、久しくして形容甚だ憔悴す。人、其の還るを勸めたが、哭して對へず、縣尹の戴友諒が夜訪うて其の實を得て以聞し、其の門に旌表せらる。〔本朝分省人物攷、九十八〕。

【孫維城】317（ソンヰジヤウ）　明、丘縣の人。字は宗甫。隆慶の進士。知縣から御史に擢んでられ、正直の名聲あり、官は赤城兵備副使・右僉都御史・巡撫延綏。〔明史、二百二十七〕・〔萬斯同明史、三百三十四〕・〔明史稿、二百十一〕。

【孫維明】318（ソンヰメイ）　明、江寧の人。字は克晟。著に易學統比集あり、其の子越、之を續成す。〔四庫提要、八〕。

【孫毓汶】319（ソンイクブン）　清、濟寧の人。字は萊山。諡は文恪。咸豐の進士。官は軍機大臣兵部尙書。〔清史稿、四百四十二〕・〔清史列傳、六十二〕。

【孫一奎】320（ソンイツケイ）　明、休寧の人。字は文垣。號は東宿、又、生生子。醫術を以て公卿の間に游ぶ。著す所の赤水元珠は、古今の病證名稱の相混ずる處を辨じて極めて明晰。又、醫旨緒餘を著す。〔四庫提要、一百四〕。

【孫一元】321（ソンイツゲン）　明の人。字は太初。自ら秦人と稱す。或は安化王の宗人ともいふ。太白山に居り、太白山人とも號す。又、號は關中人。詩を善くし、鐵笛鶴瓢を携へて名勝を遍游し、足跡天下に半す。正德中、劉麟・龍霓等と倡和し、苕溪の五隱と稱せらる。著に太白山人漫稿がある。〔明史、二百九十八〕・〔萬斯同明史、三百九十八〕・〔明史稿、二百七十九〕。

【孫逸仙】322（ソンイツセン）　孫文(264)の㊁を見よ。

【孫允賢】323（ソンインケン）　元、文江の人。著に類編南北經驗醫方大成がある。〔四庫提要、一百五〕。

【孫允中】324（ソンインチユウ）　㊀明、魯府儀衞司の人。嘉靖の進士。山西按察司僉事に至り、大同の兵變を撫定す。著に雲中紀變がある。〔明史、二百九〕。㊁清、錢塘の人。字は敬修。號は春生。官は山東海陽典史。〔墨香居畫識、五〕。

【孫胤伽】325（ソンインカ）　明の人。樓の孫。字は唐卿、又、伏生。號は豔雪齋。藏書、異本多く、著に玉臺外史・談觚・豔雪齋集がある。

【孫雲鶴】326（ソンウンカク）　清の人。雲鳳の妹。字は蘭友。縣丞金瑋の妻。塡詞に巧に、兼ねて駢體文に長じ、雲鳳と名を齊しくす。〔清畫家詩史、癸、上〕。

【孫雲桂】3 7（ソンウンケイ）　清、長洲の人。號は香泉。官は候選布政司理問。書室を妙香閣といふ。著に妙香閣文稿がある。

【孫雲鳳】328（ソンウンポウ）　清、仁和の人。字は碧梧。程懋庭の妻。隨園の女弟子。倚聲に巧で、佳なるものは北宋人の語に似る。書室を湘雲館（湘筠館）といふ。音律に通ず。著に湘雲館詩がある。〔清畫家詩史、癸、上〕。

【孫雲鵬】329（ソンウンポウ）　清、青浦の人。字は扶雲。號は嫺卿。諸生。詩に巧。著に東皐詩鈔がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十三〕。

【孫永清】330（ソンエイセイ）　清、無錫の人。字は宏度、又は春臺。號は絜齋・寶嚴齋。乾隆の擧人。臺灣に林爽文の反を定む。安南の事起るや、兵粮を監督し、瘴地に來往すること兩年、疾を以て卒す。詩文を善くし、著に寶嚴齋詩集がある。〔清史稿、三百三十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百八十七〕・〔碑傳集、七十三〕。

【孫永祚】331（ソンエイソ）　清、常熟の人。字は子長。號は雪屋。明の貢生。清に入り、隱居して仕へなかつた。著に雪屋文集がある。

【孫瑤華】332（ソンエウクワ）　明、金陵の名妓。字は靈光。江左の大俠、汪景純に歸し、樓を大朝古松下に築き、書を讀み詩を賦した。王百穀、屢〻之を稱して今の李清照といふ。景純の歿後、遂に詩を作らず、著す所の遠山樓稿も亦存しない。〔明詩綜、九十八〕。

【孫益德】333（ソンエキトク）　後魏、樂安の人。母が人に殺されると、童幼であつたが其の仇を報じ、家に還り、殯に哭して罪を待つたが、詔して赦さる。〔魏書、八十六〕・〔北史、八十四〕。

【孫曰秉】334（ソンエツペイ）　清、奉天承德の人。字は德元、一の字は葆年。乾隆の進士。雲南巡撫となり、清節自ら厲む。山西江南に在つて、寒素有名の士を擧げ、人を待つに誠實であつた。〔國朝耆獻類徵、一百八十六〕・〔碑傳集、七十四〕。

【孫延齡】335（ソンエンレイ）　清、遼東の人。父龍は孔有德に隨つて清に降り、二等男を授けらる。延齡襲爵し、康熙中、鎭守廣州將軍となる。吳三桂が反するや、桂林に據つて之に應じ、後、傅宏烈の勸告に從つて將に歸順せんとしたが、三桂、從孫世琮を遣して之を誘殺す。〔清史稿、四百八十〕・〔清史列傳、八十〕。

【孫應鼇】336（ソンオウガウ）　明、清平の人。如皐に居る。字は山甫。諡は文恭。嘉靖の進士。萬曆中、入つて大理卿となり、禮部右侍郞・南工部尙書に遷る。書室を學孔精舍といふ。著に淮海易譚・律呂分解・學孔精言舍彙稿がある。〔萬斯同明史、三百十八〕・〔明名臣言行錄、六十六〕・〔明詩綜、四十四〕・〔四庫提要、七〕。

【孫應奎】337（ソンオウケイ）　㊀明、餘姚の人。字は文卿。號は蒙泉。王守仁に學ぶ。嘉靖の進士。汪鋐の奸を劾して旨に逆ひ、華亭丞に謫せらる。尋いで右副都御史となつたが、山東布政に左遷せらる。著に燕詒錄がある。〔明史、二百二〕。㊁明、洛陽の人。字は文宿。餘姚の應奎と時を同じうし、正德の進士。風節自ら厲む。屢〻權貴を犯して謫せられ、後、右副都御史・順天巡撫・戶部尙書に累遷したが、又、劾せられて南工部に遷り、更に戶部に移る。〔明史、二百二〕・〔萬斯同明史、二百七十〕・〔明史稿、一百八十四〕。

【孫應元】338（ソンオウゲン）　明の人。河南の賊を破つて都督僉事・左都督に累進し、張獻忠を征して、功第一に居る。後、羅山に戰死。〔明史、二百六十九〕・〔明史稿、二百五十〕。

【孫應時】339（ソンオウジ）　宋の人。介の子。字は季和。燭湖先生と稱す。陸九淵に師事し、進士となる。常熟縣の長官となつたが、私恨にて郡主に退けられ、後、武軍の判となる。著に燭湖集がある。〔宋元學案、四十八・四十九〕・〔宋史翼、二十九〕。

【孫應奉】340（ソンオウホウ）　清、永順の人。乾隆中、行伍より出で、湖南の苗を滅亡させて千總に擢んでられ、嘉慶中、教匪を滅亡させて、功によつて湖州鎭總兵に至つたが、事に坐して職を奪はれ、伊犂を戍る。〔國朝耆獻類徵、三百十六〕。

【孫可望】341（ソンカバウ）　清、延長の人。諡は恪順。張獻忠の養子。獻忠敗れて雲南に入り、桂王に降る。李定國と清軍を拒いだが、定國と絶ち、桂王に叛いて自立す。尋いで定國に破られ、窮困して清に降り、義王を賜はる。〔清史稿、二百五十四〕・〔清史列傳、七十九〕。

【孫家棪】342（ソンカエン）　清の人。孫家穀を見よ。

【孫家穀】343（ソンカコク）　清、鄞の人。原名は家棪。字は曙舟。號は幼蓮。道光の進士。官は襄陵縣の長官。著に種玉詞がある。

【孫家鼐】344（ソンカダイ）　清、壽州の人。字は燮臣。諡は文正。咸豐の進士。光緒中、工禮吏戶各部の尙書に歷任す。德宗、新政を厲行するや、家鼐は官

書局を管理し、京師の大學を開辦した。廢立を爭つた爲、旨に忤つて辭職したが、和議が成つて、學務大臣に起任せられ、官は大學士に至る。宣統の初卒し、太傅を贈らる。〔清史稿、四百四十九〕・〔清史列傳、六十四〕・〔碑傳集補、一〕。

【孫嘉淦】345 ソンカカン　清、太原の人。字は錫公。諡は文定。號は懿齋。康熙の進士。官は乾隆中、吏部尚書・協辦大學士。理學を研精し、躬行を本とした。著に春秋義・詩經補注がある。〔清史稿、三百九〕・〔清史列傳、十五〕・〔國朝先正事略、十五〕・〔碑傳集、二十六〕。

【孫嘉駒】346 ソンカク　清、本徽の人。鹺業によつて錢塘諸生と爲る。字は幼魯、又、薌谷。畫を善くし、詩に巧。〔清畫家詩史、丁、上〕。

【孫嘉績】347 ソンカセキ　明の人。如游の孫。字は碩膚。諡は忠襄。崇禎の進士。官は兵部郎中に至つたが、或人、其の納賄の事を發いたので獄に下さる。已にして黃道周も亦獄に下されるや、嘉績、飲食湯藥を躬らし、力めて之を調護し、因つて易を受く。後、釋され、福王の時、九江兵備僉事に起用せられたが、未だ赴任しないうちに、魯王、國を監するや、東閣大學士に累擢す。舟山に至り、疾に遘つて卒す。〔明史、二百四十〕・〔明詩綜、六十九〕・〔小腆紀年、十〕。

【孫開華】348 ソンカイクワ　清、長沙の人。字は賡堂。咸同中、鮑超に從つて湖北・江南・江西に轉戰して功があり、總兵に累官した。光緒中、臺灣に轉任し、淡水を守り、佛蘭西人と戰つて三戰三捷した。官は副建提督に至り、淡水に卒す。〔清史稿、四百六十五〕・〔清史列傳、六十〕。

【孫好古】349 ソンカウコ　明、湯陰の人。字は汝愚。萬曆の進士。川東參政に陞進す。時に藺州・水西の兩宣撫交搆するや、馳せ往いて利害を說くに及んで、土司、敢へて復た訌爭せず。廣西右布政に遷り、未だ行かないうちに土司奢崇明亂を爲したので、好古時に客として在つたが、大いに叛賊を罵り、遂に害に遇ふ。〔萬斯同明史、三百七十七〕。

【孫行友】350 ソンカウイウ　宋の人。方諫の弟。妖尼深意の術を奉ず。漢に歸し、周初、定州留後となり、宋初、同平章事を加へられ、後、左龍武軍將軍となる。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕。

【孫康周】351 ソンカウシウ　明、安丘の人。字は晉侯。擧人。太原府の長官となり、清惠を以て顯る。後、李自成と戰ひ、執へられ、屈せずして死んだ。〔明史、二百六十三〕・〔明史稿、二百四十六〕・〔萬期同明史、三百六十九〕・〔小腆紀年、三〕。

【孫岳頒】352 ソンガクハン　清、吳縣の人。字は雲韶。號は樹峯。康熙の進士。官は禮部侍郎。書を善くした。聖祖に知られ、御製の碑版が有るたびに必ず命ぜられて之を書した。〔國朝書畫家筆錄、一〕。

【孫學稼】353 ソンガクカ　清、侯官の人。字は君實。明の諸生。詩を善くす。明が亡びるに及んで亡命す。杭州西湖の勝を好み、自ら聖湖漁者と號す。康熙中卒す。書室を蘭雪軒といふ。著に蘭雪軒集がある。〔碑傳集、一百三十七〕。

【孫寒華】354 ソンカンクワ　仙女の名。吳の孫奚の娘。〔墉城集仙錄〕孫寒華者、吳人孫奚之女也、師二杜契一受二元白之要一、顏容日少、周二旋吳越諸山一十餘年、乃得二仙道一而去。

【孫漢英】355 ソンカンエイ　五代、漢の人。漢韶の弟。官は乾祐中、絳州刺史・檢校司徒となる。〔舊五代史、一百二十九〕。

【孫漢韶】356 ソンカンセウ　五代、前蜀の振武の人。唐の明宗に仕へて武定軍節度使となり、後、蜀に降つて捧聖控鶴都指揮使兼中書令となり、樂安郡王に封ぜらる。〔十國春秋〕。

【孫希賢】357 ソンキケン　元、高唐の人。母に事へて至孝。母、痢を病むや、希賢、身を以て代らんことを天に告げ、遂に快愈せしめた。〔元史、一百九十七〕。

【孫希朱】358 ソンキシユ　清、無錫の人。字は仰晦。性理の學に潛心した。著に仰晦先生集がある。

【孫其昌】359 ソンキシヤウ　滿洲遼寧省遼陽縣の人。字は鍾舞。我東京高等師範學校を卒業し、歸國して師範並びに商業學校長、及び各省の教育、財政廳長等を歷任した。滿洲國建國の後、諸役を經て、財政部大臣となり、次いで民政部大臣に至る。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【孫奇逢】360 ソンキホウ　清、容城の人。字は啓泰、又は鍾元。明の萬曆の擧人。左光斗・魏大中等と氣節を以て名あり、鹿正・孫承宗と共に、范陽の三烈士と稱せらる。明末に亂を易州五公山に避け、晚年に蘇門の夏峰に移居した。明より清に至るまで前後十一度徵されたが起たず。學は愼獨を以て宗とし、初、陸王を主とし、後、朱子の說を和す。康熙中、卒す、年九十二。學者、夏峰先生と稱す。書室を歲寒居・兼山堂といふ。著に四書近指・讀易大旨・經書近旨・聖學錄・兩大案錄・甲申大難錄・歲寒居自養・乙丙記事・理學宗傳等がある。道光中、孔子廟に從祀せらる。〔明儒學案、五十七〕・〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝先正事略、二十七〕・〔碑傳集、一百二十七〕。

【孫季良】361 ソンキリヤウ　唐、偃師の人。一名は翌。經を尹知章に受く。官は左拾遺・集賢院直學士。〔唐書、一百九十九〕・〔舊唐書、一百八十九下〕。

【孫起蛟】362 ソンキカウ　清、武城の人。乾隆中、行伍より外委に補せられ、庫車金川に從征し、功を積んで官は廣東提督に至る。〔國朝耆獻類徵、二百九十三〕。

【孫起予】363 ソンキヨ　宋の人。枝の子。父と同じく嘉定の進士に擧げられた時、其の祖允、尚ほ恙無かつたから、郡守程覃、其の里に表して重桂といひ、鄉人之を榮譽とした。官は昭武參軍・監察御史・太常少卿。〔南宋館閣續錄、八〕・〔宋元學案、六十九〕。

【孫義鈞】364 ソンギキン　清の人。延の子。字は子和。號は月庭修蕭館主人。諸生。羣籍を博覽し、資を入れて縣尉となる。書畫を善くし、詩に巧。書室を好深湛思室といふ。〔清畫家詩史、己、下〕。

【孫九鼎】365 ソンキウテイ　金、定襄の人。字は國讓。天會中、進士第一となる。詩名あり、弟の九疇・九億と同榜で登第した。忻州の文派は九鼎の指授による所が多い。〔尚友錄、五〕。

【孫裘仁】366 ソンキウジン　清、無錫の人。字は立三。同邑の顧培・顧鼇に從學し、高攀龍靜坐の學を講求す。春秋毎に共學山居に於て復七會を擧行するに、會者が百人に近かつた。

【孫劼妻】367 ソンキツノツマ　清の人。張綸英（**4**−**9812**··1584）を見よ。

【孫居相】368 ソンキヨサウ　明、沁水の人。字は伯輔。萬曆の進士。魏忠賢が國柄を盜むや辭し去る。官は崇禎中、戶部右侍郎・尚書に進む。後、邊戍に謫せられて卒す。〔明史、二百五十四〕・〔萬斯同明史、三百五十八〕・〔明史稿、二百三十九〕。

【孫玉庭】369 ソンギヨクテイ　清、濟寧の人。字は寄圃。乾隆の進士。體仁閣大學士・兩江總督に至り、三朝に歷事し、清操碩德を以て稱せらる。〔清史稿、三百七十二〕・〔清史列傳、三十四〕・〔國朝先正事略、二十一〕・〔續碑傳集、二十二〕。

【孫供奉】370 ソングブ　唐の昭宗の臣の愛猿。常に供奉に隨ひ、昭宗は緋袍を賜ひ、孫供奉と號した。〔幕府燕閒錄〕唐昭宗播遷、隨レ駕有二弄レ猴者一、猴頗馴、能隨二班起居一、昭宗賜以二緋袍一、號二孫供奉一。〔羅隱、感三弄レ猴人賜二朱紱一詩〕何如學二取孫供奉一、一笑君王便著レ緋。

【孫過庭】371 ソンクワテイ　唐、富陽の人。字は虔禮。官は率府錄參軍に至る。草書を善くし、宋より以來能品に推さる。書論六篇を著し、書譜といふ。張懷瓘書斷には孫虔禮、字は過庭、陳留の人に作る。〔四庫提要、一百十二〕・〔竇臮、述書賦注〕。

【孫會宗】372 ソンクワイソウ　漢、西河の人。知略あり、官は安定太守。楊惲と厚く交はる。惲、爵位を失ひ家居して產業を治め、財を以て自ら娛しむや、會宗、書を作りて之を誡む。惲、心に服せず、書を作つて報ず。後、惲、事に坐して腰斬せられるや、會宗も亦官を免ぜらる。〔前漢書、六十六〕。

【孫光憲】373 ソンクワウケン　宋、貴平の人。字は孟文。太祖に歸して、檢校祕書監となる。學に勉め、書を聚め、自ら葆光子と號す。著書多くは佚し、只、北夢瑣言のみを存する。〔宋史、四百八十三〕・〔宋史新編、一百九十一〕。

【孫光祀】374 ソンクワウシ　清、歷城の人。字は怍庭。號は溯玉。順治の進士。官は兵部侍郎。書室を澹餘軒（膽餘軒）といふ。著に澹餘軒集がある。〔四庫提要、一百八十二〕。

【孫光炅】375 ソンクワウヤウ　清、餘姚の人。字は丹扶。順治の副貢生。官は藁城縣の長官。著に畫筴圖・攄龍

經がある。〔四庫提要、一百十一〕。

【孫宏軾】376（ソンクワウシヨク）　明、資の人。字は以瞻。嘉靖の進士。官は浙江海道副使。〔尙友錄、五〕。

【孫嶸叟】377（ソンクワウソウ）　宋、餘姚の人。字は仁則。諡は忠敏。進士に及第し、復、弘博科に中る。官は禮部侍郎兼太子賓客。著に讀易管見がある。〔宋元學案、五十五〕・〔宋史翼、二十二〕。

【孫願質】378（ソングワンシツ）　宋の人、枝の次子。紹定の進士。後、教官科に中り、工部侍郎に終る。〔宋元學案、七十〕。

【孫惠蔚】379（ソンケイウツ）　後魏、武邃の人。字は伯華、又は叔炳。博く經史に通じた。太和の初、孝廉に擧げられ、雅樂を參定し、皇宗博士となる。宣武の時、祕書丞・濟州刺史光祿大夫に遷り、棗強縣男に封ぜらる。〔魏書、八十四〕・〔北史、八十一〕。

【孫惠素】380（ソンケイソ）　南齊の人。性、至孝。少府卿となり、讒にあつて殺さる。後、武帝其の寃なるを知り、甚だ悔恨した。〔南史、十六〕。

【孫景烈】381（ソンケイレツ）　清、武功の人。字は酉峯。乾隆の進士。檢討となつたが旨に逆らひ、歸つて關中書院を主り、子弟を薫陶した。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十六〕・〔國朝先正事略、二十七〕・〔碑傳集、四十八〕。

【孫慧郎】382（ソンケイラウ）　よく藝を行つた猿の名。〔事物異名錄、獸畜、猴〕已瘧篇、吳惟庸畜二胡孫十數一、衣冠如レ人、客至則令二供レ茶行一レ酒、能吹二竹笛一執二朱戚一舞蹈、人稱爲二孫慧郎一。

【孫蕙蘭】383（ソンケイラン）　元の新喩の傅、汝礪の妻。詩を能くしたけれども多く作らず、又常に其の稿を毀る。卒後、汝礪、遺詩を編集して綠窗遺稿と題す。〔元詩紀事、三十六〕。

【孫繼皐】384（ソンケイカウ）　明、無錫の人。字は以德。萬曆の進士。官は少詹事・禮部侍郎。上疏極諫して神宗の旨に逆らひ、致仕して去る。卒して禮部尙書を贈らる。著に宗伯集がある。〔明史、二百三十四〕・〔萬斯同明史、三百十七〕・〔明史稿、二百十四〕。

【孫繼鄴】385（ソンケイゲフ）　宋の人。承睿の子。字は元嗣。曹利用に從つて陳進を破る。後、閤門祇候・步軍都虞侯となり、眞定路に徙る。〔宋史、二百九十〕・〔宋史新編、八十九〕。

【孫繼先】386（ソンケイセン）　明、盂の人。字は引甫。隆慶の進士。張學顏の奸を發いて臨清判官に謫せられ、南吏部主事に終る。〔明史、二百二十九〕・〔萬斯同明史、三百二十七〕・〔明史稿、二百十三〕。

【孫繼宗】387（ソンケイソウ）　明の人。忠の子。字は光輔。諡は榮襄。父の爵を襲ぎ、天順中、侯に進み、又、太保に進む。憲宗の時、十二團營を督した。卒して郯國公を贈らる。〔明史、三百〕・〔明史稿、二百八十二〕。

【孫繼芳】388（ソンケイハウ）　明、華容の人。字は世其。正德の進士。刑部主事を授けらる。東廠、數人を捕へ誣ひて盜となすや、繼芳、其の寃を知つて、卒に之を出す。御史張璞・劉天龢・王延相、宦官に逆らつて詔獄に繋がれるや、繼芳、抗疏力救したが報ぜられず、病と稱して歸る。後、起用せられて兵部に改められ、員外郎に陞り、南巡を諫めて杖罰を受く。官は雲南提學副使に至る。〔明詩綜、三十四〕。

【孫繼魯】389（ソンケイロ）　明、雲南右衞の人。字は道甫。諡は清愍。嘉靖の進士。山西巡撫となつたが、事を以て旨に逆らひ、詔獄に下されて死す。〔明史、二百四〕・〔萬斯同明史、二百九十四〕・〔明史稿、一百八十八〕。

【孫見龍】390（ソンケンリヨウ）　清、歸安の人。字は叶飛。號は潛村。晚年、春齋と號す。康熙の進士。乾隆の時、鴻博に擧げらる。洪洞縣の長官となつて政聲があつたが、上官に逆らつて任を去り、滇南の五華書院の主となる。學問該洽、詩も亦清超拔俗。著に五華纂訂・四書大全・潛村詩稿がある。〔鶴徵後錄、五〕。

【孫虔禮】391（ソンケンレイ）　孫過庭(371)を見よ。

【孫元衡】392（ソンゲンカウ）　清、桐城の人。字は湘南。官は康熙中、東昌府の長官。其の詩集を赤嵌集といひ、多く海外の土風物產を記す。才氣が頗る逞しいので、王士禎に稱揚せらる。〔四庫提要、一百八十四〕。

【孫元化】393（ソンゲンクワ）　明、嘉定の人。字は初陽。號は水一方人。天啓の擧人。徐光啓に從學し、西洋火器の法に通ず。官は崇禎中、兵部員外郎・郎中・右僉都御史・登萊巡撫。孔有德の變に棄市せらる。〔明史、二百四十八〕・〔萬斯同明史、三百六十六〕・〔明史稿、二百四十五〕。

【孫彥韜】394（ソンゲンタウ）　五代晉、浚儀の人。字は德光。少くして驍勇。後、唐に歸し、晉初、密州刺史に終る。〔舊五代史、九十四〕。

【孫原湘】395（ソンゲンシヤウ）　清、昭文の人。字は子瀟(子濟)。號は心青。又、眞長(長眞)・射姑仙人侍者。嘉慶の進士。官は武英殿協修。詩文書畫を善くし、舒位・王曇と名を齊しくした。書室を天眞閣といふ。著に天眞閣集がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十二〕・〔國朝先正事略、四十三〕・〔續碑傳集、七十六〕。

〔孫原湘妻〕396（ソンゲンシヤウノツマ）　清人。席佩蘭(**4**－**892**6‥83)を見よ。

【孫原貞】397（ソンゲンテイ）　明、德興の人。名は瑀。字を以て行はる。永樂の進士。官は景帝の時、兵部左侍郎。閩浙の大盜を平げて尙書に進む。英宗が位に復するや罷め歸る。著に歲寒集がある。〔明史、一百七十二〕・〔萬斯同明史、二百十三〕・〔明史稿、一百五十六〕。

【孫岵瞻】398（ソンコセン）　清、吳縣の人。字は愼旃。書室を聞籟閣といふ。著に豔雪詞・聞籟閣集がある。

【孫興祖】399（ソンコウソ）　明、濠の人。諡は忠愍。太祖に從つて戰功を立て、大將軍徐達に從つて燕都に勝ち、大都督分府事を領す。後、達に從つて塞を出で、戰死して燕山侯に追封せらる。〔明史、一百三十三〕・〔萬斯同明史、一百六十九〕・〔明史稿、一百二十一〕。

【孫克宏】400（ソンコククワウ）　清の人。承恩の子。一に克弘に作る。字は允執。號は雪居。廕を以て應天治中を授けられ、溪陽府の長官に擢でらる。書を善くし、兼ねて隸篆に巧。書室を東郭草堂といふ。著に碑目がある。〔四庫提要、八十七〕。

【孫克弘】401（ソンコクコウ）　孫克宏を見よ。

【孫克恕】402（ソンコクジヨ）　明、馬平の人。字は推之。萬曆の擧人。安邦彥の亂に戰死し、太僕卿を贈らる。〔明史、二百九十〕・〔萬斯同明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百七十一〕。

【孫國璽】403（ソンコクジ）　清、漢軍正白旗人。康熙の進士。雍正中、知縣より安徽巡撫に累官し、鳳陽關の米稅を寬くせんことを請ふた。〔國朝耆獻類徵、一百七十〕。

【孫在豐】404（ソンザイホウ）　清、德清の人。字は屺瞻。康熙の進士。編修を授けられて明史を總裁した。後、官は內閣學士兼禮部右侍郎に至る。〔清史稿、二百八十五〕・〔國朝耆獻類徵、五十六〕・〔碑傳集、四十〕。

【孫三傑】405（ソンサンケツ）　明、樂安の人。字は景濂。號は松石。天啓の進士。官は太僕寺丞。〔樂安縣志〕。

【孫士毅】406（ソンシキ）　清、仁和の人。字は智治。號は補山。諡は文靖。乾隆の進士。緬甸を征し、安南を定め、湖南の叛苗・湖北の白蓮教を平ぐ。文淵閣大學士に至り、三等男に封ぜらる。書室を百一山房といふ。著に百一山房集・奏議がある。〔清史稿、三百三十六〕・〔清史列傳、二十六〕・〔國朝耆獻類徵、三十二〕・〔國朝先正事略、二十〕。

【孫士美】407（ソンシビ）　明、上海の人。字は公燦。官は舒城教諭。後、深州の長官となつたが、清兵至り、城破れて自殺す。〔明史、二百九十一〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十三〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十二〕。

【孫子秀】408（ソンシシウ）　宋、餘姚の人。字は元實。紹定の進士。官は度宗の朝に臨安府の長官。〔宋史、四百二十四〕・〔宋史新編、一百六十〕・〔南宋書、五十五〕。

【孫子祀】409（ソンシチヤウ）　清、聞喜の人。號は主一。康熙の進士。官は垣曲縣の長官。著に太極集注がある。〔四庫提要、九十五〕。

【孫子良】410（ソンシリヤウ）　明、海寧の人。永樂の進士。庶吉士に選ばれ、永樂大典の纂修に與かる。官は山東參政。著に螺城集がある。〔本朝分省人物攷、四十二〕。

【孫之獬】411（ソンシカイ）　清、淄川の人。明の天啓の進士。官は侍講に至つたが、魏忠賢の逆案を以て籍を

削られて歸る。順治の初、清に投じ、禮部右侍郎に擢んでられ、兵部尙書銜を以て江西を招撫したが、金聲桓に彈劾せられ、職を奪はれて家居した。土賊の亂に値ひ、賊を罵り、屈せずして害せらる。〔清史稿、二百五十一〕・〔清史列傳、七十九〕。

【孫之翰】412（ソンシカン） 宋、慈谿の人。字は文擧。母に事へて至孝。〔尙友錄、五〕。

【孫之宏】413（ソンシクワウ） 宋、餘姚の人。字は偉夫。葉適の弟子。進士。嘗て水心の習學記言に序し、大旨を發明し盡す。〔宋元學案、五十五〕。

【孫之騄】414（ソンシリヨク） 清、仁和の人。字は晴川。號は南漳子。博く群書を極め、年六十を過ぎて尙ほ諸生と講學した。著に晴川八識・別本尙書大傳・攷定竹書・松源經說・二申野集・南漳子・枝語・樊紹述集注・玉川子詩集注・松源集がある。〔清史列傳、六十八〕。

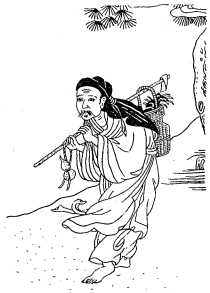
【孫志祖】415（ソンシソ） 清、仁和の人。字は詒穀。號は約齋。朝隆の進士。官は御史。著に讀書脞錄・家語疏證・文選考異・文選李注補正・文選理學權輿補がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳・六十八〕・〔國朝先正事略、三十五〕・〔碑傳集、五十七〕。

【孫枝蔚】416（ソンシキ） 清、三原の人。字は豹人。號は漑堂・五山酒人。世〻の大商人。李自成の關に入るや、家財を散じて壯士を求め、義兵を起したが、利あらずして江都に奔り、節を折つて讀書し、詩を以て鴻博に擧げらる。著に漑堂集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十六〕・〔國朝先正事略、三十八〕・〔碑傳集、一百三十九〕。

【孫思恭】417（ソンシキヨウ） 宋、登州の人。字は彥先。進士。官は天章閣待制・江寧府鄧州の長官。曆數の學に精通す。〔宋史、三百二十二〕・〔宋史新編、一百三〕。

【孫思克】418（ソンシコク） 清、漢軍正白旗人。字は藎臣。諡は襄武。貴州雲南を征し、康熙中、甘肅總兵を授けらる。蒙古を防いで右都督となり、王輔臣を征して蘭州を恢復す。又、噶爾丹を伐つて甘肅提督となり、太子少保を加へらる。〔清史稿、二百六十二〕・〔清史列傳、十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十七〕・〔國朝先正事略、十二〕。

【孫思誠】419（ソンシセイ） 明の人。字は次卿。萬曆の進士。編修を授けられ、禮部尙書に累官し、太子太保を加へられたが、魏忠賢に逆らつて職を奪はる。中外之を寃とした。〔明史、一百九十三〕。


孫思邈（三才圖會）

【孫思邈】420（ソンシバク） 唐、華原の人。百家の說に通じ、長じて太白山に居る。隋の文帝の時、國子博士に召されたけれども拜せず。唐の太宗の顯慶中、諫議大夫に拜せられたが固辭した。永淳の初、卒す。年百餘歲。陰陽推步醫藥に通ず。著に千金要方・福祿論・攝生眞籙・銀海精微等がある。〔唐書、一百九十六〕・〔舊唐書、一百九十一〕。

【孫自一】421（ソンジイツ） 明、光山の人。字は淡如。少くして孤貧。母に事へて至孝。崇禎の進士。黃岡縣の長官となり、流賊に戰死す。〔明史、二百三十三〕・〔明史稿、二百十五〕。

【孫自修】422（ソンジシウ） ㊀宋、宣城の人。字は敬甫。從弟自新・自任と共に朱子に學ぶ。〔宋元學案、六十九・七十〕。㊁清、江寧の人。字は無修。明末の擧人。官は陽江縣の長官。時亂に感じて薙髮して僧と爲り、自ら與然と號す。懸溪菴に居つたので、時人は懸溪和尙といふ。繪事に精通す。〔國朝耆獻類徵、四百六十三〕。

【孫自務】423（ソンジム） 清、安邱の人。字は樹本。號は立菴。諸生。書室を花石山房といふ。著に花石山房集がある。〔四庫提要、二十五〕。

【孫時燦】424（ソンジサン） 清、湖南の人。讀書を嗜み、生產を治めず、遂に改めて醫を業とす。著に醫方集解補注がある。〔國朝耆獻類徵、四百八十三〕。

【孫爾準】425（ソンジジユン） 清の人。永清の子。字は平叔。號は萊甫。諡は文靖。官は閩浙總督。學問淹貫、尤も詞に長じた。書室を泰雲堂といふ。著に泰雲堂集がある。〔清史稿、三百八十六〕・〔清史列傳、三十五〕・〔國朝耆獻類徵、一百八十七〕・〔碑傳集、未下〕。

【孫秀姑】426（ソンシウコ） 清、杭州の女子。幼にして楊文龍に適き、年を待つて未だ婚せず。鄰に無賴あり、秀姑の艷色を見て屢〻之に挑む。秀姑號泣して姑に訴へ、毒を飮んで卒す。〔國朝耆獻類徵、媛、八〕・〔碑傳集、一百五十三〕。

【孫秀實】427（ソンシウジツ） 元、大寧の人。性、剛毅、人の急を救ふを喜ぶ。里人の王仲和、秀實に託して富人の紙幣を借りたが、貧のために償はれず、逃げ去ること數年、秀實乃ち悉く代償を爲す。聞く者、嘆美す。〔元史、一百四十一〕・〔新元史、二百三十九〕。

【孫七政】428（ソンシチセイ） 明、常熟の人。字は齊之。詩を能くし、王世貞諸人と交游す。書室を清輝館・西爽樓・松韻堂といふ。著に松韻堂集がある。〔四庫提要、一百七十八〕。

【孫尙子】429（ソンシヤウシ） 隋の人。一名、尙孜。官は睦州建德尉。家學を傳へ、尤も鬼神を畫くに巧に、善く顚筆をなす。〔歷代名畫記〕。

【孫尙孜】430（ソンシヤウシ） 隋の人。孫尙子を見よ。

【孫昌齡】431（ソンシヤウレイ） 清、寧晉の人。字は念劬。諡は恭憲。明の天啓の進士。官は左副都御史。

【孫將軍】432（ソンシヤウグン） 三國、呉の孫權をいふ。〔資治通鑑、漢紀〕（獻帝、建安十三年）諸葛亮謂ニ劉備一曰、事急矣、請奉レ命、求ニ救於孫將軍一。

【孫鏘鳴】433（ソンシヤウメイ） 清の人。衣言の兄。字は蕖田（渠田）。號は止菴（止園）。道光の進士。翰林に入り、抗疏して權貴を劾し、剛直の聲、天下に震ひ、侍讀學士に累遷す。事を言つて當局に逆らひ、罷め歸り、上海の龍門書院の主講となる。書を善くす。卒年八十四。書室を盤阿草堂といふ。著に止菴遺書がある。〔碑傳集補、九〕。

【孫若羣】434（ソンジヤクグン） 清、淄川の人。少くして德行に勵み、言動皆法あり、郷里、小聖人と稱す。早歲にして進士となる。康熙中、交城の知となつて異政多く、四川州の長官に遷りて官に卒す。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十〕・〔國朝先正事略、二十七〕。

【孫守榮】435（ソンシユエイ） 宋、富陽の人。七歲、明を失ふ。異人に遇ひて風角鳥占の術を受け、自ら富春子と號す。呉興の間に游び、言屢〻驗ありて、名大いに顯る。丞相史嵩に忌まれ、遠郡に貶死す。〔宋史、四百六十二〕・〔宋史新編、一百八十一〕・〔南宋書、六十五〕・〔琅琊代醉編、三十九〕。

【孫守信】436（ソンシユシン） 清、長沙の人。字は小石。道光の末、李沅發を平げ、咸豐中、江忠源・羅澤南に從つて戰功をたて、後、李續賓と共に三河鎭の戰に敗死す。〔續碑傳集、五十九〕。

【孫從讜】437（ソンジユウタウ） 清、平湖の人。字は質生。諸生。經世の志あり、書畫共に絕妙にして、又文名あり。

【孫從添】438（ソンジユウテン） 清、常熟の人。號は石芝。過臨汾と共に春秋經傳類求を編す。〔四庫提要、三十一〕。

【孫從龍】439（ソンジユウリヨウ） 明、呉江の人。字は汝化。隆慶の進士。官は刑部員外、後、廣信副使となる。〔呉江縣志〕。

【孫處玄】441（ソンシヨゲン） 唐、江寧の人。一に處立に作る。長安中、徵されて左拾遺となり、文辭を善くす。神龍の初、書を桓彥範に遺つて時事の得失を論じたが用ひられず、官を棄てて郷里に歸る。開元の初、官に薦められたが起たず。〔舊唐書、一百九十二〕。

【孫處約】442（ソンシヨヤク） 唐、郟城の人。初名は道茂。官は貞觀中、齊王祐の記室。麟德の初、少司成。〔唐書、一百六〕・〔舊唐書、八十一〕。

【孫處立】443（ソンシヨリフ） 孫處玄を見よ。

【孫如游】444（ソンジヨイウ） 明の人。如法の弟。字は景文。諡は文恭。萬曆の進士。熹宗の時、東閣大學士を以て機務に參與す。〔明史、二百四十〕・〔明史稿、二百二十四〕。

【孫如法】445（ソンジヨハフ） 明の人。鑨の子。字は世行。號は俟居。萬曆の進士。光宗の時、鄭貴妃の冊封を論じて潮陽尉に謫せらる。柳城の別墅に隱居して遂に出でず。〔明史、二百二十四〕・〔明史稿、二百八〕・〔本朝分省人物攷、五十二〕。

【孫汝琦】446（ソンジヨキ） 清、歸安の人。字は少甫。官は州の長官。

【孫汝敬】447 ソンジョケイ　明、吉水の人。名は簡。字を以て行はる。永樂の進士。庶吉士に選ばる。學に刻勵し、侍講に累進す。仁宗の時、時政十五事を上言し、旨に逆らつて下獄せられたが、御史に改められて正直の名聲あり、工部右侍郎に擢んでらる。後、餽を受くるに坐して下獄せられ、死を免ぜられて爲事官に充てられ、陝西の屯田を督す。〔明史、一百三十七〕。

【孫承祐】448 ソンショウイウ　宋、錢塘の人。官は光祿大夫・檢校太保を授けられ、泰寧軍節度使となり、雍熙中、靖州の長官となる。〔宋史、四百八十〕・〔宋史新編、一百九十〕。

【孫承睿】449 ソンショウエイ　宋、金陵の人。父の謙、南閩を伐ち援兵至らずして戰死す。承睿其の死を悲しみ、援兵の將を殺して淮楚の間に逃る。後、京に入り、左班殿直となり、左藏庫使に終る。〔宋史、二百九十〕。

【孫承恩】450 ソンショウオン　㊀明、松江華亭の人。字は貞父（貞甫）。號は毅齋。謚は文簡。正德の進士。官は禮部尙書。書室を讓溪草堂といふ。著に讓溪草堂稿がある。〔國朝獻徵錄、十八〕・〔明詩綜、三十四〕。㊁清、常熟の人。初の名は曙。字は扶桑。順治中の進士第一。官は修撰を授けらる。文は六朝風を巧にし、詩は溫李を學ぶ。數〻顧問を被る。〔國朝耆獻類徵、一百十五〕・〔國朝先正事略、三十八〕。

【孫承宗】451 ソンショウソウ　明、高陽の人。字は稚繩。萬曆の進士。天啓の初、兵部尙書・東閣大學士に至り、軍務を督し、軍備大いに張り、清を禦ぎて功あり、太傅に進む。魏忠賢等の讒にあつて歸る。清兵が高陽を攻めるや、家人を率ゐて拒守し、敗死す。清の乾隆中、忠定と追謚せらる。〔明史、二百五十〕・〔萬斯同明史、三百六十四〕・〔明史稿、二百三十六〕。

【孫承澤】452 ソンショウタク　清、益都の人。字は耳北。號は北海、一の號は退谷（退谷道人・退道人）。明の崇禎の進士。李自成が僭位した時、四川防禦使となり、清に入つて吏部左侍郎となる。書室を研山齋・閒者軒といふ。著に庚子銷夏記・尙書集解がある。〔小腆紀年、四〕・〔清史列傳、七十九〕・〔碑傳集、十〕。

【孫松壽】453 ソンショウジュ　宋、郫の人。字は巖老。紹興の進士。范成大・趙雄交〻其の賢を稱す。直祕閣に除せられたが就かず。〔宋史翼、二十八〕・〔宋元學案、五十〕。

【孫鍾瑞】454 ソンショウズイ　清、嘉興の人。字は子麟。著に聖學大成がある。〔四庫提要、一百二十五〕。

【孫振基】455 ソンシンキ　明、潼關衞の人。字は肖岡。萬曆の進士。諫官たること半歲、建白する所多し。臺諫議と合はず、出でて山東僉事となる。〔明史、二百三十六〕・〔萬斯同明史、二百四十一〕・〔明史稿、二百十九〕。

【孫愼行】456 ソンシンカウ　明、武進の人。字は聞斯。號は淇澳。謚は文介。萬曆の進士。官は熹宗の時、禮部尙書。紅丸の案に廷臣と合はずして罷め歸る。〔明史、二百四十三〕・〔萬斯同明史、三百四十四〕・〔明史稿、二百二十七〕・〔明儒學案、五十九〕。

【孫人和】457 ソンジンワ　中華民國、江蘇省鹽城縣の人。字は蜀丞。國立北京大學國文系を卒業し、國立北平師範大學及び國立北平大學女子師範學院國文講師、中國大學國文教授、國立北京大學國文系講師に歷任す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【孫世恪】458 ソンセイカク　明、漢陽の人。字は貞伯。理學を究め、天文・星象・兵律の書にも通ず。國子監學正となり、魏忠賢を彈劾す。崇禎の初、工部主事に擢んでられ、後、南戶部郎中となる。〔漢陽府志〕。

【孫星衍】459 ソンセイエン　清、陽湖の人。字は淵如（伯淵）。號は芳茂山人。乾隆の進士。官は刑部主事・山東督糧道に累遷す。疾病で歸り、鍾山書院を司る。經史・文字・音訓・金石の學に精しく、旁ら諸子百家に及び、篆隸を善くす。嘉慶中、阮元に聘せられて詁經精舍の講席を司る。校勘に精しく、平津館叢書、岱南閣叢書を輯刊し、同里の洪亮吉と名を齊しくした。書室を平津館・廉石居・岱南閣・一樹園・嘉穀堂・五松園・問字堂といふ。著に尙書今古文注疏・周易集解・夏小正傳校正・魏三體石經殘字考・倉頡篇・孔子集語・史記天官書考證・寰宇訪碑錄・平津館金石萃編・孫氏家藏書目內外編・續古文苑・問字堂・岱南閣・五松園・平津館文稿・芳茂山人詩錄等がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十九〕・〔國朝耆獻類徵、一百十三〕・〔國朝先正事略、三十五〕・〔碑傳集、八十七〕。

〔孫星衍妻〕460 ソンセイエンノツマ　清の人。王采薇（**7－20823··1490**）を見よ。

【孫清元】461 ソンセイゲン　清、晉州の人。乾隆の武進士。嘉慶中、川楚の教匪の征伐に從ひ、屢〻奇功を立て、官は四川提督に至る。〔國朝耆獻類徵、三百六〕。

【孫齊鍫】462 ソンセイサウ　清、常熟の人。字は鳳洲。號は芬齋（棻齋）。諸生。詩畫を善くす。

【孫昭遠】463 ソンセウヱン　宋、眉山の人。元祐の進士。官は建炎の初、河南尹西京留守・西道都總管。殘兵を招集し、金人と戰ひ利あらずして殺さる。徽猷閣待制を追贈せらる。〔宋史、四百五十三〕・〔宋史新編、一百三十四〕・〔皇朝名臣言行續錄、七〕。

【孫昭先】464 ソンセウセン　宋、龍溪の人。字は延父。淳熙の進士。官は太府少卿。〔尙友錄、五〕。

【孫紹祖】465 ソンセウソ　明の人。璽の兄の子。字は我山。正德の進士。編輯を授けらる。性、孝友にして、兄の紹、家に卒するや、上疏して歸葬を請ひ、己の妻病み子死するも顧みず、孤姪を教養すること己の子の如し。母の誕生日に、堂下に瑞草一本を生ず。人、孝感の致す所といひ、圖に畫き、詩に賦して之を詠ず。官は右中允に至る。〔國朝獻徵錄、十九〕。

【孫紹武】466 ソンセウブ　清、遼東の人。字は緯文。號は蓮渚。雍正中、貴州印江縣の長官より貴州巡撫に累官し、黔（古の黔中の地）に在ること二十餘年、苗疆を偏歷す。凡そ山川の險隘、苗性の淳悍等、悉く通曉し、前後兵を用ひること數次、向ふ所克く捷ち、官に卒す。〔國朝耆獻類徵、一百七十二〕。

【孫媳婦】467 suen^1 hsi^2 fu　孫の妻。

【孫占鼇】468 ソンセンガウ　清、零陵の人。字は玉山。乾隆の歲貢生。嘗て府署に使役せられた時、書を懷にして往く、郡守之を奇とし、因りて改めて儒を業とせしむ。數年ならずして文名蔚然として起る。晚年、理學に潛心し、終日默坐す。卒年九十六。著に周易疑參・四書質疑がある。〔國朝耆獻類徵、四百十一〕。

【孫全照】469 ソンゼンセウ　宋の人。行友の子。字は繼明。契丹を拒ぎ、檢校工部尙書となる。人となり精悍にして兵を知る。車駕西に幸するや、留つて新城都巡檢となる。〔宋史、二百五十三〕・〔宋史新編、六十七〕。

【孫全謀】470 ソンゼンボウ　清、龍溪の人。乾隆中、臺灣に從征し、嘉慶中、湖北の教匪を征伐して共に功あり。官は廣東水師提督。〔清史列傳、二十七〕・〔國朝耆獻類徵、三百八〕。

【孫祖壽】471 ソンソジュ　明、昌平の人。字は必之。萬曆中、武鄕試に擧げられ、固關把總都督僉事・蘇鎭總兵官となる。後、戰死す。〔明史、二百七十一〕・〔萬斯同明史、三百七十三〕・〔明史稿、二百三十四〕。

【孫祖德】472 ソンソトク　宋、北海の人。字は延仲。進士。清廉儉約を以て稱せらる。官は天章閣待制。時に三司判官、閻文應の計を用ひ、藥を以て鐵を化して銅とし鑄錢せんとす、祖德固く爭ふ。後、吏部侍郎となる。〔宋史、二百九十九〕・〔宋史新編、九十三〕。

【孫宗彝】473 ソンソウイ　清、高郵の人。字は孝則。號は虞橋。順治の進士。官は吏部郎中。讐人に誣ひられて獄中に卒す。書室を愛日堂といふ。著に易宗・圖說・曆數・愛日堂詩文集がある。〔國朝耆獻類徵、一百三十九〕・〔碑傳集、五十八〕。

【孫宗之】474 ソンソウシ　南朝宋の人。孫法宗（525）を見よ。

【孫宗濂】475 ソンソウレン　清、仁和の人。字は栗忱。號は隱谷。乾隆の擧人。堂を築いて壽松といふ。藏書數萬卷。書物を蒐集するを以て樂しみと爲す。〔國朝耆獻類徵、四百五十四〕。

【孫僧化】476 ソンソウクワ　後魏、東莞の人。官は通直散騎常侍。天文を案じて災異を言ひ、爾朱世隆に惡まれて免官せらる。〔魏書、九十一〕。

【孫總理】477 ソンソウリ　民國の孫文（264）をいふ。

【孫總理委囑】478（ソンソウリヰシヨク）　國民黨總理孫文が、民國十四年二月二十四日、北京に於て逝去の際、黨の將來を顧念し、其の著、建國方略・建國大綱・三民主義・第一次全國代表大會宣言等によつて同志の努力すべきことを委囑したもの。

【孫卽康】479（ソンソクカウ）　金、大興の人。字は安伯。大定の進士。官は章宗の時、吏部左司郎中。衞紹王卽位して、平章政事となり、崇國公に封ぜらる。〔金史、九十九〕。

【孫大雅】480（ソンタイガ）　明の孫作(125)を見よ。

【孫大剛】481（ソンタイガウ）　清、鎭海の人。嘉慶の間、屢〻海盜を伐つて海壇鎭總兵に擢んでられ、李長庚に從つて蔡牽を追捕す。〔國朝耆獻類徵、三百十一〕・〔續碑傳集、四十八〕。

【孫大聖】482（ソンタイセイ）　西遊記の孫悟空をいふ。

【孫泰山】483（ソンタイザン）　宋の孫復(260)をいふ。

【孫體元】484（ソンタイゲン）　明、濱州の人。字は復一。萬曆の進士。官は陝西參政。

【孫唐卿】485（ソンタウケイ）　宋、青州の人。字は希元。景祐の進士。陝州の判となる。父母に事へて至孝。〔宋史、四百四十三〕・〔宋史新編、一百七十〕。

【孫討虜】486（ソンタウリヨ）　三國、吳の孫權をいふ。嘗て曹操が討虜將軍の名稱を贈つたからいふ。〔資治通鑑、漢紀〕（獻帝、建安十三年）魯肅曰、孫討虜、聰明仁惠、敬レ賢禮レ士、江表英豪、咸歸二附之一。〔注〕曹操、表レ權爲二討虜將軍一、故稱レ之。

【孫道橒】487（ソンダウウン）　清、順天の人。字は茂叔。山水畫に巧。

【孫道易】488（ソンダウエキ）　明、松江華亭の人。字は景周。號は映雪老人。著に東園客談がある。〔四庫提要、一百四十三〕。

【孫道嗢】489（ソンダウヲン）　後魏の人。其の妻趙氏は安平の人。万俟醜奴が、妓州を圍み、州城が陷らんとした時、趙氏は道嗢を助けて、城中の婦女をして、相率ゐて土を負ひて城を治めしめ、遂に免れることを得た。功を以て安平縣君を贈らる。〔北史、九十一〕。

【孫道登】490（ソンダウトウ）　後魏、呂の人。永安の初、梁將韋休に捕はれたが、屈せずして死す。〔魏書、八十七〕・〔北史、八十八〕。

【孫道夫】491（ソンダウフ）　宋、丹稜の人。字は太沖。官は禮部侍郎。性、剛直、宰相沈該に忌まれたので、外任を請うて綿州の長官に敍せらる。〔宋史、三百八十二〕・〔宋史新編、一百三十七〕・〔南宋書、二十三〕・〔南宋館閣錄、八〕。

【孫道明】492（ソンダウメイ）　元、松江華亭の人。字は明叔。號は停雲子、又、清隱處士・映雪齋・在家道人・沖虛居士と號す。泗涇に居り、博學にして古を好み、藏書萬卷、祕本に遇へば自ら手鈔す。其の齋に名づけて映雪といふ。〔松江府志〕。

【孫道茂】493（ソンダウモ）　唐の孫處約(442)を見よ。

【孫達哩】494（ソンタツリ）　清、滿洲正黃旗人。一に遜達哩に作る。姓は魯布哩氏。謚は果壯。太祖に從つて征伐に出で、勇奮して必ず先登となり、功第一となる。官は順治中、護軍統領。康熙中、茅麓山の賊を征伐し、太子太傅を加へらる。〔清史稿、二百三十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十〕。

【孫脫壁】495（ソンダツペキ）　宋の孫夢卿(542)をいふ。

【孫男玉】496（ソンダンギヨク）　後魏、郤縣の女子。夫が人に殺されるや、男玉、仇人を執へ、杖を以て之を毆殺す。〔魏書、九十二〕。

【孫知微】497（ソンチビ）　宋、彭山の人。字は太古。號は華陽眞人。畫を善くす。孟蜀の時、青城山に隱居す。〔宋史、四百五十三〕・〔聖朝名畫評、五〕。

【孫致彌】498（ソンチビ）　清、嘉定の人。字は愷似。號は松坪。書及び詩に巧。康熙中、召試聖旨に稱ひ、大學生を以て二品服を賜り、朝鮮採詩使に充てられ、歸つて進士となり、侍讀學士に至る。書室を杕左堂といふ。著に杕左堂正續集及び詞がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十一〕・〔清代學者象傳、二〕。

【孫長卿】499（ソンチヤウケイ）　宋、揚州の人。字は次公。官は龍圖閣學士・知定州・兵部侍郎に至る。性、廉介、政事に長ず。〔宋子、三百三十一〕・〔宋史新編、一百九〕。

【孫中山】500（ソンチユウザン）　孫文(264)を見よ。

【孫中山夫人】501（ソンチユウザンフジン）　宋慶齡(**3－7078‥264**)を見よ。

【孫仲章】502（ソンチユウシヤウ）　元、大都の人。或は姓を李といふ。樂府に巧。勸頭巾等の雜劇、世に行はる。〔嘯餘譜〕。

【孫仲謀】503（ソンチユウボウ）　三國吳の孫權(111)を見よ。

【孫廷銓】504（ソンテイセン）　清、益都の人。字は道相、一に沚亭。謚は文定。明の崇禎の進士。官は康熙の初、內祕書院大學士。著に顏山雜記・漢史億・歸厚錄・琴譜指南・南征紀略がある。〔清史稿、二百五十八〕・〔清史列傳、七〕・〔碑傳集、七〕。

【孫定遼】505（ソンテイレウ）　清、遼陽の人。明の副將として大淩河を守つたが、天聰中、祖大壽に隨つて清に降り、副都統を授けられ、鑲紅旗漢軍に隸屬す。順治中、山西江南に從征して屢〻戰功があつた。官は湖廣提督。會〻王光泰が鄖陽に叛したので救援に赴いて戰死す。左都督を贈らる。〔清史列傳、七十八〕。

【孫鼎臣】506（ソンテイシン）　清、善化の人。字は子餘。號は芝房。道光の進士。官は翰林院侍讀。詩や古文に巧。著は畚塘芻論・河防紀略、及び詩文等、併せて蒼筤集といふ。〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、十八〕。

【孫兆奎】507（ソンテウケイ）　明、吳江の人。福王の時、吳江が亂れたので、吳易と共に兵を擧げ、長白蕩に屯したが、事敗れ臣節を完うして死す。〔明史、二百七十七〕・〔小腆紀年、十〕。

【孫天佑】508（ソンテンイウ）　孫天祐を見よ。

【孫天祐】509（ソンテンイウ）　明の人。一に天佑に作る。畫を善くす。〔明史、二百〕・〔明畫錄、六〕。

【孫傳庭】510（ソンデンテイ）　明、振武衞の人。字は伯雅、又は白谷。萬曆の進士。魏忠賢、政を亂すや、乞うて歸る。崇禎九年、流賊を斬つて功あり、兵部侍郎となり、尙書を加へらる。師を督して關を出で、節を完うして死す。著に鑒勞錄・白谷集がある。〔明史、二百六十二〕・〔萬斯同明史、三百六十六〕・〔明史稿、二百四十四〕。

【孫傳芳】511（ソンデンパウ）　中華民國、山東省歷城縣の人。字は馨遠。我が國陸軍士官學校步兵科を卒業す。久しく不遇の中に在つたが、王占元に認められてから次第に其の手腕を現はし、江浙戰に乘じ一九二四年浙江に侵入し、上海を其の手に收め、次いで江蘇督辨揚宇霆を追つて南京に入り、奉天軍を擊退し、自ら五省聯合軍を組織し、總司令となり、大勢力を形成したが、間もなく蔣介石の北伐軍に追はれて後退し、部下四散の後、張學良の最高顧問となつたが一九三五年暗殺せらる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【孫潼發】512（ソンドウハツ）　宋、桐廬の人。字は帝錫、又、君文。別號は盤峯。咸淳の進士。衢州軍事判官を授けられ、廉能の名聲あり。史繩祖に從つて先儒の性理の學を研究し、御府軍器幹・辦公事に召さる。幾くもなくして宋亡び、家も亦毀たれたので、萬山中に避く。元の侍御史程鉅夫、在野の名士を求め、潼發を詔を以て召したが、固辭して受けなかつた。〔宋元學案、八十二〕・〔南宋書、六十五〕・〔宋史翼、三十四〕・〔宋季忠義錄、十三〕。

【孫得功】513（ソントクコウ）　清、遼東の人。初、明の廣寧巡撫。王化貞の中軍遊擊となり、天明中、清軍、西平堡を圍むや、迎へ降り、游擊を以て降卒を統轄す。天聰中、二等男を予へられ、老を以て休を乞ふ。〔清史稿、二百三十七〕・〔清史列傳、七十九〕。

【孫德淵】514（ソントクエン）　金、興中州の人。字は資深。大定の進士。貞祐中、工部尙書に累遷し、御史中丞を攝し、致仕す。御史許古、德淵の忠亮を論ず。寧宗は嘉納したが、未だ用ひられない內に卒す。〔金史、一百二十八〕。

【孫德昭】515（ソントクセウ）　五代、梁の人。惟最の子。唐の昭宗位に復するや、靜海軍節度使となし、姓李を賜ふ。後、梁祖に屬し、末帝の時、左金吾大將軍に拜せらる。〔五代史、四十三〕・〔舊五代史、十五〕。

【孫德祖】516（ソントクソ）　清、會稽の人。字は彥清。號は寄龕。同治の擧人。官は訓導。著に寄龕詩質・寄龕文存・學齋庸訓・題楹福墨がある。

【孫念祖】517（ソンネンソ）　明、滕の人。字は孝伺。號は紫濤。崇禎の擧人。孝友に厚く大節あり。〔滕縣志〕。

【孫能傳】518（ソンノウフ）　明、寧波の人。字は一之。萬曆の進士。官は工部員外郎。嘗て張萱と共に內閣書目を編す。著に謚法纂・益智編がある。〔四庫提要、八十三〕。

【孫方諫】519（ソンハウカン）　五代、周の清苑の人。初の名は方簡。契丹に通じたが、後、更に漢に歸し、義武軍節度使となり、周の太祖の時、徙つて華州に鎭となる。世宗に從つて洛に至り、疾を得て卒す。〔五代史、四十九〕・〔舊五代史、一百二十五〕。

【孫方簡】520（ソンハウカン）　五代、周の人。孫方諫を見よ。

【孫彭祖】521（ソンハウソ）　三國、吳の人。孫晧（37）を見よ。

【孫寶侗】522（ソンハウトウ ソンハウドウ）　清、博山の人。字は仲愚。諸生。六品京官に蔭補せられたが就かず。書室を惇裕堂といふ。著に惇裕堂集がある。〔國朝詩人徵錄、十三〕。

【孫伯樂】523（ソンハクラク）　春秋、秦の孫陽（282）の一名。

【孫博雅】524（ソンハクガ）　清の人。奇逢の子。字は君僑。父を奉じて蘇門に居る。康熙中、山林隱逸を以て薦められたが辭す。弟、韻雅、事に坐して邊に徙されるや、博雅從つて行き、道に病みて卒す。學者、文孝先生と稱す。著に日約集がある。〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、二十七〕・〔國朝先正事略、二十七〕。

【孫法宗】525（ソンハフソウ）　南朝宋、吳興の人。一名は宗之。父は孫恩に隨つて殺され、母兄並に餓死す。法宗、母兄の屍を得て葬つたが、父の屍を得ず、終身、常に墓所に居りて娶らず。孝武の初、文學從事に召されたが就かず。〔宋書　九十一〕・〔南史、七十三〕。

【孫丕揚】526（ソンヒヤウ）　明、富平の人。字は叔孝。追謚は恭介。嘉靖の進士。官は吏部尙書。上疏して張位を詆り、帝に忌まれて去つたが、後、帝、其の廉直を思ひ、故官に起用し、篤く待遇せらる。〔明史、二百二十四〕・〔萬斯同明史、三百三十〕・〔明史稿、二百八〕。

【孫必顯】527（ソンヒツケン）　明の人。振基の子。字は克孝。萬曆の進士。官は崇禎の初、驗封郎中に任ぜられたが、再び彈劾せられて謫せらる。後、兵部右侍郎となる。〔明史、二百三十六〕・〔明史稿、二百十九〕。

【孫馮翼】528（ソンヒヨウヨク）　清、承德の人。字は鳳埔。書室を問經堂といひ、乾隆中、問經堂叢書を刊す。

【孫不二】529（ソンフジ）　金の人。馬鈺の婦。號は清淨散人。鈺と同じく、王嚞に師事し、金蓮堂に詣つて出家す。大定中、洛陽の風仙姑洞に居り、八年を越えて坐死す。時に鈺、萊陽の遊仙宮に居り、忽ち衣を拂つて起ち、門徒に、孫姑、已に仙去すといふ、後、音信至るに及び、時日違はずといふ。〔新元史、二百四十三〕。

【孫夫人】530（ソンフジン）　三國、吳の孫權の妹。蜀の劉備の夫人。劉備が荊州の牧となるや、孫權、之を畏れ、妹を進めて好みを結ぶ。夫人、驕豪にして、多く吳の吏兵を將ゐて縱橫不法をなす。後、權は劉備が西征するを聞き、大いに舟船を遣して妹を迎ふ。夫人、劉禪を將ゐて吳に還らんとするや、趙雲と張飛とが、兵を率ゐて江を遮つたので、劉禪は乃ち還るを得た。相傳へて蟂磯に葬り、靈澤に夫人の祠を建てたといふ。〔三國史、三十四〕。

〖孫夫人碑〗531（ソンフジンノヒ）　晉の碑。新泰縣新甫山の麓にあつて、剝落してゐるが、書家の推稱するもの。題額には晉任城太守夫人孫氏之碑とあるが、其の事實は史傳上に明證がない。〔寰宇訪碑錄、晉〕任城太守羊國夫人孫氏碑、八分書、秦始六年十二月。

【孫伏伽】532（ソンフクカ）　唐、武城の人。隋に仕へたが、唐の武德の初、治書侍御史となる。太宗の朝に大理寺卿に遷り、出でて陝州に刺史となる。〔唐書、一百三〕・〔舊唐書、七十五〕。

【孫福清】533（ソンフクセイ）　清、嘉善の人。字は稼亭。咸豐の擧人。官は廣東知縣。著に檇李遺書二十種がある。

【孫文義】534（ソンブンギ）　明、館陶の人。舊名は文進。洪武の進士。官は監察御史。楡林版籍を監修して功あり、詔して名を改めらる。官に卒す。〔蘭臺法鑒錄、二〕。

【孫文原】535（ソンブンゲン）　明、慈谿の人。字は宗道。父母に事へて至孝であつた。〔尙友錄、五〕。

【孫文進】536（ソンブンシン）　明の人。孫文義（534）を見よ。

【孫秉元】537（ソンヘイゲン）　清、富陽の人。字は性甫。號は芋香。道光中の拔貢生。官は直州判。洪陽軍の難に死す。

【孫逢吉】538（ソンホウキツ）　❶宋、吉州龍泉の人。字は從之。謚は獻簡。隆興の進士。官は吏部侍郎。韓侂冑に逆らひ、出でて太平州の長官となる。弟の逢年・逢辰、皆文學行義あり、逢吉と共に孫氏の三龍と稱せらる。〔宋史、四百四〕・〔宋史新編、一百四十八〕・〔南宋書、四十二〕・〔慶元黨禁〕・〔宋元學案、九十七〕。❷明、渾源の人。字は餘慶。正統の擧人。延長縣の長官となり、御史に擢んでらる。官は陝西布政使。〔本朝分省人物攷、一百一〕。

【孫鳳臺】539（ソンホウダイ）　清の人。崑山の孫大登の女。字は儀九。大登、篆隸に巧であつたが、鳳臺、能く其の家法を傳へ、尤も鐵筆に長じ、深く漢人の神趣を得た。〔清代閨閣詩人徵錄、四〕。

【孫夢逵】540（ソンボウキ）　清、昭文の人。字は中伯。乾隆の進士。官は宗人府主事。易理を研究し、十翼に精通す。著に讀翼揆方がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十五〕。

【孫夢觀】541（ソンボウクワン）　宋、慈谿の人。字は守叔。號は雪牕。寶慶の進士。廉直を以て司農少卿に推され、集英殿修撰を以て建寧府の長官となる。著に雪牕集がある。〔宋史、四百二十四〕・〔宋史新編、一百五十七〕・〔南宋書、五十五〕。

【孫夢卿】542（ソンボウケイ）　宋、須昌の人。字は輔之。圖繪に志して、吳道玄の風を學ぶ。里中、目して孫脫壁となし、又、孫吳生といふ。〔聖朝名畫評、五〕。

【孫孟和】543（ソンマウクワ）　明、商河の人。正德の進士。御史に擢んでられ、山西を巡按した時、流賊の掠奪を討つて屢〻戰功をたてた。武宗崩じて後、內監張永及び安邊伯朱泰等を上疏して彈劾し、中外之を憚かつた。官は眞定府の長官に終る。〔蘭臺法鑒錄、十四〕。

【孫萬壽】544（ソンマンジユ）　隋の人。靈暉の子。字は仙期。熊安生に五經を受く。隋初に滕王文學となり、仁壽の初、豫章王長史に拜せられ、大理司直に終る。〔隋書、七十六〕・〔北史、八十一〕。

【孫明仲】545（ソンメイチユウ）　宋、富陽の人。楊簡に從つて學ぶ。〔宋元學案、七十四〕。

【孫明復】546（ソンメイフク）　宋の孫復（260）を見よ。

〖孫明復小集〗547（ソンメイフクセウシフ）　書名。一卷。宋、孫復撰。もと睢陽子集といふ。文十九篇、詩三首。〔四庫提要、集、別集類〕。

【孫銘恩】548（ソンメイオン）　清、江蘇通州の人。字は書常、又は蘭檢。謚は文節。道光の進士。咸豐中、安徽に督學となる。洪楊の軍、太平を陷れるや、執へられて殺さる。〔清史稿、四百九〕・〔續碑傳集、五十四〕。

【孫蒙正】549（ソンモウセイ）　宋の人。偉の子。字は正孺。家學を受け、又、胡宏兄弟に從つて學ぶ。〔宋元學案、四十二〕。

【孫翼鳳】550（ソンヨクホウ）　宋、福寧の人。字は昭瑞。紹定の進士。官は御史大夫・簽書樞密院事。〔福寧州志〕。

【孫立綱】551（ソンリフカウ）　清、吳江の人。字は立三。號は太瘦生。諸生。畫は倪瓚を師とし、古文辭に巧。著に太瘦生稿がある。

【孫立節】552（ソンリフセツ）　宋、寧都の人。字は介夫。李覯に師事し、曾鞏と交游す。學問淹貫、嘗て春秋傳を作る。皇祐の進士。後、鎭江軍書記となる。〔宋元學案、三〕。

【孫良夫】553（ソンリヤウフ）　春秋、衞の大夫。卽ち桓子。穆公の時、石稷等と齊を侵し、新築に戰つて敗れた。新築の人、仲叔于奚に助けられて逃れ、遂に晉に行いて師を乞ひ、齊の軍を鞌に破る。〔左氏、成、二・三・六〕。

【孫林父】554（ソンリンポ）　春秋、衞の大夫。良夫の子。卽ち文子。戚に邑す。定公に惡まれて晉に出奔す。後、定公晉に行きて歸るや、晉侯、郤犨をして林父を送らしむ。定公、薨じ、獻公立つや、文子及び寧惠子を禮せず、二子怒り、共に謀りて獻公を出だす。公、齊に出奔す。衞人、殤公を立て、二子之が相となりて、命を諸侯に聽く。惠子の子喜、獻公を納れて孫氏を伐つ。孫氏敗れ、遂に殤公を弑し、林父、戚を以て晉に如く。春秋に戚に入りて叛くと書したのは、之を罪したのである。〔左氏、成、七・十四・十五。襄、二・五・七・十一・十四・十九・二十・二十六〕。

【孫靈暉】555（ソンレイキ）　北齊、武強の人。惠蔚の族曾孫。三禮三傳に通ず。秀才に擧げられ、國子博士となる。南陽王綽、定州の刺史に任じて王の師となす。綽、誅せられるや、廢せられ、齊の滅亡後、數年にて卒す。〔北齊書、四十四〕。

【孫連仲】556 ソンレンチュウ　中華民國の人。字は仿魯。馮玉祥軍の卒伍より身を起し、累進して國民政府軍事委員會委員、第三十一師長となる。一時、閻錫山・馮玉祥等の反蔣介石戰に從事したが、間もなく中央に歸順し、江西省内共產軍討伐の爲、江西清郷督辦に任ぜられ、江西に入る。一九三五年第五期中央監察委員となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【孫可之集】557 ソンカシシフ　書名。十卷。唐、孫樵撰。文三十五篇。文は韓愈の傳統をうけてよく追隨す。目錄は賦一卷・書二卷・雜著七卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【孫公談圃】558 ソンコウダンポ　書名。三卷。宋、劉延世撰。孫升にきくところを記したもので、洛蜀二黨に偏しない。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【孫晨藁席】559 ソンシンカウセキ　蒙求の標題。孫晨は家が貧しかつたが詩書を修め、冬月に藁一束を夜具とした故事。〔蒙求、下、孫晨藁席〕三輔決錄、孫晨、字元公、家貧織レ席爲レ業、明二詩書一、爲二京兆功曹一、冬月無レ被、有二藁一束一、暮臥朝收。

【孫白谷集】560 ソンハクコクシフ　書名。六卷。明、孫傳庭撰。奏疏三卷・詩一卷・雜著一卷・附錄一卷を收む。〔四庫提要、集、別集類〕。

【孫毅菴奏議】561 ソンキアンソウギ　書名。二卷。明、孫懋撰。武宗の時、權倖の臣を彈劾したものを集む。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

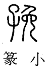
【孫白谷詩鈔】562 ソンハクコクシセウ　書名。二卷。明、孫傳庭撰。文集以外の詩を門人馮應京編す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【有二孫孟之風一】563 ソンマウノフウアリ　學者の態度に荀子・孟子の風あるをいふ。孫は荀子。荀卿は漢代宣帝の諱を避けて孫卿といふ。〔晉書、李重傳〕受レ業者千里而應、有二孫孟之風、嚴鄭之操一。

【孫氏祠堂書目内篇】564 ソンシシダウショモクナイヘン　書名。三卷。清、孫星衍の藏書目。書名・卷數・撰人の氏名・刊本・寫本の別を記し、四類四十一子目に分つ。經學—易・書・詩・禮・樂・春秋・孝經・論語・爾雅・孟子・經義。小學—字書・音樂。諸子—儒家・道家・法家・名家・墨家・縱橫家・雜家・農家・兵家。天文—天部・算法・五行術數。地理—總論・分編。醫律—醫學・律學。史學—正史・編年・紀事・雜史・傳記・故事・史論・史鈔。金石。類書—事類・姓類・書目。詞賦—總集。〔木犀軒叢書、十六冊・十七冊〕。

【挽】6988

㈠ バン マン　〔集韻〕武遠切　阮
㈡ ベン メン　〔集韻〕美辨切　銑
㈢ ハン ホン　〔六書正譌〕孚萬切　願
㈣ ブン モン　〔正韻〕文運切　問


小篆

㈠㈡㈢㈣ **子を生む**。娩(3−6337)に同じ。〔說文〕挽、生レ子免レ身也、从レ子从レ免。〔說文通訓定聲〕挽、字亦作レ娩、纂要云、齊人謂レ生レ子曰レ娩。

解字　會意形聲。子と免との合字。免は脫の義で、母體を脫する意。故に子と免とを合して子を生む義とする。

【挽身】1 ベンシン　子をうむ。〔續列女傳、霍夫人顯傳〕今皇后當二挽身一、可二因投レ藥去一レ之。

【挽乳】2 ベンニュウ　子をうむこと。乳も子を產む意。〔續列女傳、霍夫人顯傳〕婦人挽乳大故、十死一生。〔資治通鑑、梁紀〕(武帝、中大通二年)會榮請二入朝一、欲レ視二皇后挽乳一。〔注〕挽、與レ免同、又音晚、師古曰、免乳、爲レ產レ子也、唐韻曰、子母相解曰レ免。

【孬】6989

クワイ ケ　〔正字通〕呼怪切　卦

みにくい。〔字彙〕孬、不レ好也。

【⿰子言】6990

シン　信(1−707)に同じ。〔字彙補〕⿰子言、與レ信同。

【⿸厂享】6991

ホク ボク　〔字彙補〕蒲木切　屋

行くさま。〔字彙補〕⿸厂享、行貌。

【⿰卩孚】6992

フ　〔集韻〕芳無切　虞

卵がかへる。孵(3−7021)に同じ。〔集韻〕孵、卵化也、陸績曰、自レ孵而殼、从レ卵、或从レ卩。

八畫

【孮】6993

ソウ ズ　〔集韻〕徂宗切　冬

子孫が榮える。〔集韻〕孮、子孫隆盛曰レ孮。

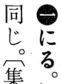
【孯】6994

カン ケン　〔字彙〕苦閑切　删

かたい。〔字彙〕孯、固也。

【孰】6995

シュク ジュク　〔集韻〕神六切　屋　ㄕㄨˊ shu^2


小篆

㊀**にる。にえる**。䰞(9−28596)に同じ。〔集韻〕䰞、說文、食飪也、引二易孰飪一、隸作レ孰。〔說文〕䰞、食飪也、从二丮𦎫一、易曰、孰飪。〔禮、禮運〕脩二火之利一、注、孰二治萬物一、〔疏〕孰、謂二亨煑一。㊁**みのる**。成る。できる。熟(7−19332)に通ず。〔正字通〕生孰之孰、古作レ孰、今作レ熟。〔正字通〕孰、稔也。〔禮、樂記〕五穀時孰。㊂**つまびらか**。くはしい。〔荀子、議兵〕凡慮レ事欲レ孰。〔注〕孰、謂二精審一。㊃**ねんごろ**。手あつい。〔禮、內則〕寧孰諫。〔疏〕孰諫、謂下純孰殷勤而諫、若二物之成熟一然上。㊄**たれ。たれか。たれぞ**。誰(10−35586)に通ず。〔說文、孰、段注〕孰、與レ誰雙聲、故一曰、誰也。〔論語、公冶長〕孰謂二微生高直一。〔疏〕孰、誰也。㊅**なに。なにか。なにぞ。いづれ。いづれか**。何(1−511)に通ず。〔經傳釋詞、九〕孰、猶レ何也、家大人曰、孰、誰、一聲之轉、誰、訓爲レ何、故孰亦訓爲レ何。〔論語、八佾〕是可レ忍也、其孰不レ可レ忍也。〔集注〕孔子言、其此事尚忍爲レ之、則何事不レ可レ忍爲。㊆**いづれぞ。いづれぞや**。比較對照に用ひる助辭。孰若(8)・孰與(15)を見よ。㊇**あね**。妯(3−6125)に通ず。〔說文通訓定聲〕孰、叚借爲レ妯、實發聲之詞、釋名、荊豫之人、謂二長婦一曰レ孰、孰、祝也。

解字　會意。丮と𦎫との合字。本義は、よくにえる義。故に丮(もつ)と𦎫(にえる)とを合する。物がよくにえれば、とりもちて食し得るからいふ。轉じて、詳らか、又よく知る義とし、假借して誰・妯・熟の意に用ひる。〔說文通訓定聲〕孰、食飪也、从レ丮𦎫聲、易曰䰞飪、按、从二丮𦎫一、會意、物𦎫可二丮而食一レ之、字亦作レ熟加レ火。

參考　㊀敦(5−13276)は別字。㊁熟語は熟(7−19332)をも併せ見よ。

【孰諫】1 ジュクカン　ねんごろにいさめる。熟諫。〔禮、內則〕父母有レ過、下レ氣怡レ色柔レ聲以諫、與三其得二罪於鄕黨州閭一、寧孰諫。〔疏〕孰諫、謂下純孰殷勤而諫、若二物之成孰一然上。

【孰計】2 ジュクケイ　よく考へる。つまびらかに計る。熟計。〔史記、項羽紀〕願將軍孰二計之一。〔說苑、奉使〕子大夫試孰二計之一。〔漢書、主父偃傳〕願陛下孰二計之一而加レ察焉。

【孰賢】3 イヅレカマサル　どちらがまさりすぐれてゐる

か。〔孟子、公孫丑上〕夫二子之勇、未レ知二其孰賢一。

【孰湖】4 ジュクコ 獸の名。馬身鳥翼、人面蛇尾といふ。〔山海經、西山經〕崦嵫之山有レ獸焉、其狀馬身而鳥翼、人面蛇尾、是好擧レ人、名曰二孰湖一。〔郭璞、山海經圖、孰湖獸贊〕孰湖之獸、見レ人則抱。

【孰哉】5 ジュクサイ 吳太伯の弟、仲雍(1－403・・437)の字。〔史記、吳太伯世家、太伯弟仲雍、注〕索隱曰、系本曰、吳孰哉居二藩籬一、宋忠曰、孰哉、仲雍字、藩籬、今吳之餘曁也、解者云、雍是孰食、故曰二雍字孰哉一也。

【孰察】6 ジュクサツ つまびらかに察する。熟察。〔荀子、性惡〕思索孰察。〔史記、蘇秦傳〕願大王孰二察之一。〔漢書、鄒陽傳〕願大王孰二察之一。

【孰視】7 ジュクシ よく見る。つまびらかに視る。熟視。〔莊子、知北遊〕光曜不レ得レ問、而孰二視其狀貌一。〔史記、蔡澤傳〕唐擧孰視。〔漢書、齊哀王襄傳〕灌將軍孰視。〔新書、權重〕孰視而不レ定。

【孰若】8 イヅレゾ どちらか。兩者をくらべて疑ひ問ふ辭。下の語が主となるのを常とする。孰與。〔後漢書、龐公傳〕夫保二全一身一、孰三若保二全天下一乎。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕與二其有レ譽二於前一、孰二若無レ毀二於其後一、與二其有レ樂二於身一、孰二若無レ憂二於其心一。

【孰食】9 ジュクショク よく煮た食品。熟食。〔禮、曲禮上〕獻二孰食一者、操二醬齊一。

【孰誰】10 ジュクスイ タレゾ 誰か。何人か。〔戰國、楚策〕秦王身問レ之、子孰誰也。

【孰田】11 ジュクデン よく耕した田。熟田。〔後漢書、張禹傳〕傍多二良田一、而堙廢莫レ修、禹爲開二水門一、通引灌漑、遂成二孰田數百頃一。

【孰亨】12 ジュクハウ よく煮る。〔禮、樂記〕孰亨而祀、非二達禮一也。

【孰皮】13 ヲシカハ 熟皮。なめしがはの古語。をしかは。にひり。又、なめしがは製造者。〔日本書紀、仁賢紀〕六年九月、今大倭國山邊郡額田邑孰皮高麗、是其後也。〔日本書紀通證、仁賢〕孰皮高麗、仁德紀、韋、訓二乎之加波一、此訓二爾比利一、蓋韓語也、孰、熟本字、會典有二熟皮匠一。

【孰復】14 ジュクフク くはしく繰返して言ふ。〔漢書、董仲舒傳〕其悉レ之究レ之、孰レ之復レ之。〔注〕師古曰、復、反復重二言之一也。〔唐書、韋述傳〕試與語二前世事一、孰復詳諦、如レ指レ掌然。

【孰與】15 イヅレゾイカン どちらか。孰若(8)に同じ。〔戰國、秦策〕秦昭王謂二左右一曰、今日韓魏孰二與始強一、對曰、弗レ如也、王曰、今之如耳・魏齊、孰二與孟嘗・芒卯之賢一、對曰、弗レ如也。〔史記、田敬仲完世家〕兩帝立レ約伐レ趙、孰下與伐二桀宋一之利上。〔史記、淮陰侯傳〕大王自料、勇悍仁彊、孰二與項王一。〔後漢書、列女、王霸妻傳〕君少脩二清節一、不レ顧二榮祿一、今子伯之貴、孰二與君之高一、奈何忘二宿志一而慚二兒女子一乎。

【孰慮】16 ジュクリョ よくかんがへる。熟慮。〔禮、表記〕君使二其臣得レ志、則愼慮而從レ之、否則孰慮而從レ之。〔疏〕否、謂三君所レ使之事、非二己本才一也、雖レ非二己本才一、而君命無レ擇、則彌孰思慮而從二行之一。〔後漢書、袁術傳〕不レ顧二成敗之計一、古今所レ愼、可レ不二孰慮一。

【孰輦】17 ジュクレン 蓮をいふ。金國の語。〔金史、國語解〕孰輦、蓮也。

【孰論】18 ジュクロン つまびらかに論ずる。熟論。〔莊子、盜跖〕此六子者、世之所レ高也、孰二論之一、皆以レ利惑二其眞一、而強反二其情性一。

【孰是孰非】19 イヅレカゼニシテイヅレカヒナル どれが正しくしてどれが間違つてゐるか。

【孰能一レ之】20 タレカヨクコレヲイツニセン 何人が之を統一するであらうか。〔孟子、梁惠王上〕孰能一レ之、對曰、不レ嗜レ殺レ人者、能一レ之。

【孰能禦レ之】21 タレカヨクコレヲトドメン 何人が其の勢を拒ぎ止めるであらうか、止める者はあるまい。〔孟子、梁惠王上〕天油然作レ雲、沛然下レ雨、則苗浡然興レ之矣、其如レ是、孰能禦レ之。

【孰能與レ之】22 タレカヨクコレニクミセン 何人が之に加勢するであらうか。〔孟子、梁惠王上〕孰能與レ之、對曰、天下莫レ不レ與也。

【孰不レ爲レ守守レ身守之本也】23 イヅレカマモルトナサザランミヲマモルハマモルノモトナリ 官を守り國を守るも皆守ることであるが、身を正しく守ることは諸事を守ることの本である。〔孟子、離婁上〕孰不レ爲レ事、事レ親、事之本也、孰不レ爲レ守、守レ身、守之本也。

【孰惡孰美成者爲レ首不レ成者爲レ尾】24 イヅレカアクイヅレカビナルモノヲシユトナシナラザルモノヲビトナス 何れを惡とし何れを美としよう。美惡は元來一定してゐるものではない。功の成つた者を首として貴び、失敗した者を尾として賤しむ。貴賤は行爲の美德によつて決するものではなく、成功不成功によるといふ意。首尾は上下と同じ。〔莊子、盜跖〕故書曰、孰惡孰美、成者爲レ首、不レ成者爲レ尾。〔疏〕成者爲レ首、君而事レ之、不レ成者爲レ尾、非而毀レ之。

【孰無レ施而有レ報兮孰不レ實而有レ穫】25 タレカホドコスナクシテムクイアランタレカミノラズシテウルアラン 自ら德を施さずによいむくいのある道理なく、五穀も實らなければ收穫することはない。何事を爲すにも自分自身を充實させて置かねばならぬ喩。〔楚辭、九章、抽思〕善不二由レ外來一兮、名不レ可二以虛作一、孰無レ施而有レ報兮、孰不レ實而有レ穫。

【孲】6996

ア 〔集韻〕於加切 麻

あかご。嬰兒。孲犽。孲孲。〔集韻〕孲、孲犽、赤子。〔楊維楨、題二六宮戲嬰圖一詩〕百子圖開翠屛底、戲弄孲孲未レ生レ齒。

【⿱與子】6997

キョ コ 義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱與子、居語切。

九畫

【⿰子禹】6998

キョ ゴ 〔集韻〕臼許切 語

みなしご。〔集韻〕⿰子禹、孤也。

【⿸尸孖】6999

セイ 屖(7－20045)の古字。〔字彙〕⿸尸孖、古屖字、與レ摟同。

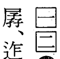
【孱】7000

［一］セン ゼン 〔集韻〕鋤連切 ㄔㄢˊ ch'an^2 先

［二］サン ゼン 〔集韻〕昨閑切 ㄘㄢˋ ts'an^4 刪

［三］サン ゼン 〔集韻〕仕限切 潸

［四］セン ゼン 〔集韻〕士免切 銑


小篆

［一］［二］❶せまい。せまる。〔說文〕孱、迮也、从三孨在二尸下一。〔段注〕按、此迮、當レ作レ笮、今之窄字也。〔集韻〕孱、窘也、今俗有二孱㬥語一。❷よわい。〔集韻〕孱、冀州人謂二懦弱一曰レ孱。〔史記、張耳陳餘傳〕吾王孱王也。〔注〕集解曰、孟康曰、冀州人謂二懦弱一爲レ孱。❸劣るさま。〔廣韻〕孱、劣兒。❹小さいさま。〔大戴禮、曾子立事〕君子博學而孱守レ之。〔注〕孱、小貌。❺つつしむ。孨(3－6976)に通ず。〔說文、孨、謹也、段注〕大戴禮曰、博學而孱守レ之、正謂レ謹也、云云、其字多假レ孱爲レ之。〔史記、張耳陳餘傳〕吾王孱王也。〔注〕集解曰、韋昭曰、仁謹貌。❻けはしいさま。たかいさま。巉(4－8618)に通ず。〔正字通〕孱、與レ巉通、相如大人賦、放散畔岸、驤以孱顏、註、高貌、顏・巖通。❼うめく。〔說文〕孱、一曰、呻吟也。［三］❶わるい。〔廣雅、釋詁三〕孱、惡也。❷地名。［四］に同じ。〔集韻〕孱、一曰、孱陵、縣名、在二武陵一。［四］地名。孱陵(15)を見よ。〔集韻〕孱、孱陵、縣名、在二武陵一。

解字 會意形聲。尸と孨との合字。孨は弱小の義。尸は屋。故に弱小のものが屋下にある意、卽ち、偪仄の義を本義とする。一說に、弱小のものが屋下にあつて薄迮され呻吟する義とする。孨はまた音符。假借して孨の意に用ひる。〔說文通訓定聲〕孱、迮也、从三孨在二尸下一、鍇本一曰、孨聲、

按、偪仄之意、从㆑尸猶㆑从㆑屋也、孨聲。

【孱顔】1（センガン）山の高く峻しいさま。孱は巉、顔は山額。字解㈠㈡の㊅を見よ。〔司馬相如、大人賦〕放散畔岸、驤以孱顔。〔李華、含元殿賦〕崢嶸孱顔、下視㆓南山㆒。〔蘇軾、峽山寺詩〕我行無㆓遲速㆒、攝㆑衣歩㆓孱顔㆒。〔注〕山額曰㆑顔。

【孱肌】2（センキ）かよわいからだ。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕括㆓孱肌㆒而餧㆓餓虎㆒。

【孱愚】3（セングﾞ）おろかで劣る。〔賈島、酬㆓姚少府㆒詩〕枯槁彰㆓清鏡㆒、孱愚友㆓道書㆒。

【孱困】4（センコン）弱りくるしむ。〔李朝威、柳毅傳〕誠不㆑知㆓錢塘君孱困如㆑是。

【孱瑣】5（センサ）取るに足らぬもの。〔歐陽脩、謝㆓進士及第㆒啓〕致㆓茲孱瑣㆒、及㆓此抽揚㆒。

【孱弱】6（センジャク）よわい。かよわい。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕閨門孱弱兮被㆓虜驅㆒。

【孱蹙】7（センシュク）よわり苦しむ。窘迫する。〔集韻〕孱、窘也、今俗有㆓孱蹙語㆒。

【孱孱】8（センセン）怯懦のさま。〔舊唐書、杜讓能傳〕朕不㆑能㆔孱孱度㆑日、坐觀㆓淩弱㆒。

【孱亭】9（センテイ）廟の名。四川省德陽縣。〔漢書、地理志上、廣漢郡、涪、注〕有㆓孱亭㆒。〔太平寰宇記〕今羅江縣北三里有㆓孱亭廟㆒、有㆑碑磨滅、孱亭之字猶存。

【孱頭】10 ts'an^4 t'ou 人を罵る語。〔新方言、釋言〕今謂㆓下劣怯弱㆒爲㆓孱頭㆒。

【孱僮】11（センドウ）かよわい召使。〔唐書、張薦傳〕孱僮單騎、卽日載馳。

【孱鈍】12（センドン）劣ってにぶいこと。〔韋應物、郡內閑居詩〕棲息絕㆓塵侶㆒、孱鈍得㆓自貽㆒。

【孱微】13（センビ）いやしい身分。〔李商隱、爲㆓濮陽公陳許㆒謝㆑上表〕豈虞㆓拔擢㆒、乃出㆓孱微㆒。

【孱夫】14（センプ）よわい者。怯懦な人。〔晉書、張載傳〕孱夫與㆓烏獲㆒訟㆑力、非㆓龍文赤鼎㆒、無㆓以明㆑之。

【孱陵】15（センリョウ）縣名。㊀漢、置く。故城は湖北省公安縣の南。〔漢書、地理志上〕武陵郡、縣十三、孱陵。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、公安縣〕孱陵城、縣西二十五里、漢縣、吳大帝封㆓呂蒙㆒爲㆓侯邑㆒、晉屬㆓南平郡㆒、宋齊因㆑之、隋開皇九年省入㆓公安縣㆒、亦謂㆓之孫夫人城㆒。㊁隋、置く。後漢の作唐縣。故城は湖南省南安鄉縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府、澧州、安鄉縣〕漢孱陵縣地、屬㆓武陵郡㆒、後漢分㆓置作唐縣㆒。

【孱羸】16（センルイ）かよわい。瘦弱。〔方孝孺、栽㆑柏詩〕我生素多病、中歲早孱羸。

【孱王】17（センワウ）懦弱な王。又、仁謹な王。〔史記、張耳陳餘傳〕吾王孱王也。〔注〕集解曰、孟康曰、音如㆓潺湲之潺㆒、冀州人謂㆓懦弱㆒爲㆑孱、韋昭曰、仁謹貌。

【孱守齋】18（センシュサイ）清、姚世鈺（**3**－**6202**··173）の號。

【孱守居士】19（センシュコジ）清、馮舒（**12**－**44579**··95）の號。

【〓】 7001 ベイ ミャウ 〔字彙〕眉病切 敬

初めてはらむ。〔字彙〕〓、初孕也。

【〓】 7002 ジュン 純（**8**－**27277**）の古字。〔集韻〕純、古作㆑〓。

【〓】 7003 ケツ 〔篇海〕音決

かく。〔篇海〕〓、缺也。

【〓】 7004 テツ 姪（**3**－**6226**）に同じ。〔字彙補〕〓、與㆑姪同。

【〓】 7005 ラウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、音朗。

【〓】 7006 チュウ 義未詳。〔海篇〕〓、音仲。

十畫

【〓】 7007 ショ 義未詳。〔五音篇海〕〓、辭呂切。

【〓】 7008 ケイ ギャウ 〔集韻〕葵營切 庚

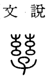
ひとり。嬛（**3**－**6782**）に同じ。〔集韻〕嬛、獨也、或作㆑〓。

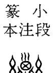
【孵】 7009 フウ ブ 〔集韻〕房尤切 尤

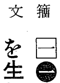
おほい。〔玉篇〕孵、多也。

【〓】 7010 ス 〓（**3**－**6566**）に同じ。〔集韻〕〓、或从㆑子。

【孳】 7011 ㈠シ 〔集韻〕子之切 支 ㄗ tzŭ^1 ㈡シジ 〔集韻〕疾置切 寘 ㄗ tzŭ^4


（說文小篆）


（段注本小篆）


籀文

㈠㊀**多く子を生む。**多產。〔說文〕孳、孳孳、彶彶生也、从㆑子茲聲。〔段注〕孳孳二字、各本無、今依㆓玄應書㆒補。〔玉篇〕孳、產也。㊁**つとめる。**孜（**3**－**6951**）に通ず。〔說文通訓定聲〕孳、叚借爲㆑孜。〔孟子、盡心上〕雞鳴而起、孳孳爲㆑善者、舜之徒也。〔集注〕孳孳、勤勉之意。〔漢書、谷永傳〕夙夜孳孳。〔注〕師古曰、孳孳、不㆑怠也、孳、與㆑孜同。〔漢書、東方朔傳〕此士所㆔以日夜孳孳敏行而不㆓敢怠㆒也。〔注〕師古曰、孳、與㆑孜同。㊂**しげる。**ふえる。ふやす。ます。茲（**9**－**30911**）に通ず。〔說文通訓定聲〕孳、叚借爲㆑茲。〔正字通〕孳、生息也。〔列子、湯問〕其民孳阜亡㆑數。〔注〕孳、息也。〔鮑照、蕪城賦〕孳㆓貨鹽田㆒。〔注〕善曰、孳、蕃也。㊃**ふたご。**〔廣雅、釋詁三〕孳、孿也。㊄滋（**7**－**18021**）に通ず。〔漢書、律歷志上〕孳㆓萌萬物㆒。〔注〕師古曰、孳、讀與㆑滋同、滋、益也。㊅籀文は〓（**4**－**8713**）に作る。〔集韻〕孳、籀作㆑〓。㈡㊀**子をもつ。**子をうむ。〔集韻〕孳、乳化曰㆑孳。〔書、堯典〕鳥獸孳尾。〔傳〕乳化曰㆑孳、交接曰㆑尾。㊁**さかる。**〔列子、黃帝〕孳尾成㆑羣。〔釋文〕孳尾、牝牡相生也。㊂古は斈（**3**－**6980**）に作る。〔集韻〕孳、古作㆑斈。㊃籀文は〓（**4**－**9220**）に作る。〔集韻〕孳、籀作㆑〓。

【孳育】1（ジイク）子を生みそだてる。〔晉書、樂志上〕羽之爲㆑言、舒也、言㆓陽氣將㆑復、萬物孳育而舒生㆒也。〔遼史、道宗紀一〕鳥獸孳育之時、不㆑得㆑縱㆓火於郊㆒。

【孳衍】2（ジエン）しげりあふれる。ふえる。蕃衍。〔唐書、南蠻下、環王傳〕有㆓西屠夷㆒、蓋馬援還留不㆑去者、才十戶、隋末孳衍至㆓三百㆒。

【孳孳】3（シシ ジジ）つとめはげむさま。孜孜。字解㈠の㊁を見よ。〔禮、表記〕俛焉日有㆓孳孳㆒、斃而后已。〔孟子、盡心上〕雞鳴而起、孳孳爲㆑善者、舜之徒也。〔集注〕孳孳、勤勉之意。〔漢書、貢禹傳〕守㆑經據㆑古、不㆑阿㆓當世㆒、孳㆓孳於民㆒、俗之所㆑寡。〔淮南子、謬稱訓〕君子日孳孳以成㆑煇。〔白虎通、爵〕子者、孳也、孳孳無㆑已也。

【孳孳彶彶】4（シシキフキフ）せつせとつとめ勵むさま。孜孜汲汲。〔說文〕孳、孳孳彶彶生也。

【孳生】5（ジセイ）生長蕃殖する。〔晉書、樂志上〕子者、孳也、謂㆓陽氣至㆑此更孳生㆒也。〔福惠全書、典禮部、敬禮城隍〕昨歲遺蝗、孳生在㆑地。

【孳生監】6（ジセイカン）宋代の官名。太僕寺に屬して、

牧馬のことを掌る。〔宋史、職官志四〕紹聖元年依二元豐法一、置二孳生監一。

【孳息】7ジソク　ふえる。うまれふえる。〔白居易、唐故虢州刺史贈二禮部尚書崔公一墓誌銘序〕孳息貨易、一無レ所レ問。〔劉子翬、諭レ俗詩〕絕二其孳息源一、難レ銷二愛欲心一。

【孳多】8ジタ　畜類などの盛に蕃殖すること。〔舊唐書、職官志二〕牧養能碩、蕃息孳多、爲二牧官之最一。

【孳乳】9ジニュウ　うまれふえる。〔許愼、說文解字敍〕字者、言二孳乳而寖多一也。〔段注〕孳者、汲汲生也、人及鳥生レ子曰レ乳、寖、猶レ漸也、字者、乳也。

【孳萌】10ジバウ　草木の芽が出る。又、芽を出させる。〔禮、月令、孟春之月、疏〕律歷志云、孳二萌於子一、則子孳也。〔漢書、律歷志上〕故陽氣施二種於黃泉一、孳二萌萬物一、爲二六氣元一也。〔注〕師古曰、孳、讀與レ滋同、滋、益也、萌、始生也。

【孳蕃】11ジハン　まし茂ること。ふえること。又、數多いこと。蕃殖。滋繁。〔道德指歸論〕萬物孳蕃。

【孳尾】12ジビ　つるんで子を生む。〔書、堯典〕鳥獸孳尾。〔傳〕乳化曰レ孳、交接曰レ尾。〔王先謙、孔傳參正〕孳尾、古文也、今文作二鳥獸字微一、孳·字、尾·微、古通用、說文孳下云、汲汲生也、字下云、言二孳乳而寖多一也、尾下云、微也、春時鳥獸方字乳而尙微也。〔列子、黃帝〕孳尾成レ羣。〔注〕孳尾、牝牡相生也。

【孳阜】13ジフ　盛にふえる。繁息。〔列子、湯問〕不レ夭不レ病、其民孳阜亡レ數。〔注〕孳、息也、阜盛也。

【孳母】14ジボ　蟲の名。短命の蟲。朝菌（**5－14374**‥94）の異名。〔淮南子、道應訓〕朝菌不レ知二晦朔一。〔注〕朝菌、朝生暮死之蟲也、生二水上一、狀如二蠶蛾一、一名孳母、海南謂二之蟲邪一。

【孳蔓】15ジマン　うまれひろがる。繁殖する。滋蔓。〔後漢書、桓帝紀〕川靈涌水、蝗蟲孳蔓、殘二我百穀一。

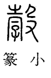
【孳茂】16ジモ　そだちしげる。〔晉書、樂志上〕二月之辰名爲レ卯、卯者茂也、言二陽氣生而孳茂一也。

【孳孕】17ジヨウ　はらんで子を生む。〔喬琳、鶺鴒賦序〕不レ知二棲息孳孕之所一。

【㝅】7012

□一 コウ ク　〔集韻〕居候切　宥

□二 ドウ ヌ　〔集韻〕乃后切　有

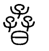

小篆

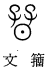
□一□二❶**はぐくむ。やしなふ。**乳を飲ませる。〔說文〕㝅、乳也、从レ子㱿聲。〔段注〕此乳者、謂三既生而乳二哺之一也、左傳曰、楚人謂二乳㝅一。❷**子**。〔廣雅、釋親〕㝅、子也。❸**おろか**。〔說文〕㝅、一曰、㝅瞀也。〔段注〕謂二愚蒙一也。❹或は㲉（**6－16692**）·穀（**8－25221**）·⿰⿱𡉉女殳（**3－6612**）·⿱壳乳（**3－5670**）·⿱八乳（**4－7510**）·⿰口乳（**2－3793**）に作る。〔集韻〕㝅、乳レ子也、或作二㲉·穀·⿰⿱𡉉女殳·⿱壳乳·⿱八乳·⿰口乳一。

【孴】7013

□一 ギ　〔集韻〕偶起切　紙

□二 イフ　〔集韻〕弋入切　緝


小篆


籀文

□一❶**盛なさま**。〔說文〕孴、盛皃、从レ孨从レ日、讀若二薿薿一、一曰、若レ存。❷**多いさま**。〔王延壽、魯靈光殿賦〕芝栭攢羅以戢孴。〔注〕善曰、戢孴、衆皃。〔杜甫、朝二享太淸宮一賦〕羅二詭異一以戢孴。❸籀文は⿱孖日（**3－6984**）に作る。〔說文〕⿱孖日、籀文孴、从二二子一。❹或は孖（**3－6982**）に作る。〔集韻〕孴、或作レ孖。□二❶**あつまるさま**。〔集韻〕孴、聚皃。❷**おほい**。〔集韻〕孴、一曰、多也。

【孴孴子】1ギギシ　淸、楊深秀（**6－15112**‥630）の號。

【⿰身孕】7014　ヒン　〔字彙補〕音儐

身。〔字彙補〕⿰身孕、此梵音切、身字也。

【⿰子氣】7015　キ　〔龍龕手鑑〕許意切　寘

いき。〔龍龕手鑑〕⿰子氣、息也。

【⿱孖日】7016　ギ　孴（**3－7013**）に同じ。〔篇海類編〕⿱孖日、牛起切、盛貌。

【孯】7017　カン　孯（**3－6994**）に同じ。〔篇海類編〕孯、同レ孯。

【⿰子齊】7018　セイ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰子齊、音齊。

【⿰子晉】7019　ダイ　孻（**3－7043**）に同じ。〔字彙補〕⿰子晉、同レ孻。

十一畫

【⿰子既】7020　キ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿰子既、音既。

【孵】7021

□一 フ　〔集韻〕芳無切　ㄈㄨ fū　虞

□二 フ　〔集韻〕芳遇切　遇

□一❶**卵がかへる。卵をかへす。**〔集韻〕孵、卵化也、陸績曰、自レ孵而㝅。❷或は⿰卩孚（**3－6992**）に作る。〔集韻〕孵、或从レ卩。□二**そだつ**。孚（**3－6948**）に同じ。〔集韻〕孚、育也、方言、雞伏レ卵而未レ孚、或从レ卵。

【孵化】1フクワ　卵がかへる。又、卵をかへす。孚化（**3－6948**‥12）に同じ。

【孵卵】2フラン　たまごをかへす。孵化。

【孵卵器】3フランキ　適當な溫度を與へて、人工的に卵をかへす器械。

【孷】7022

□一 リ　〔集韻〕陵之切　支

□二 リ　〔集韻〕良志切　寘

□一□二**ふたご**。或は孷に作る。孷孳（2）を見よ。〔集韻〕孷、方言、陳楚之間、凡人嘼乳而雙產、謂二之孷孳一、或省。

【孷孖】1シリ　ふたご。〔玉篇〕孷、孷孖、雙生也。

【孷孳】2ジリ　ふたご。〔廣韻〕孷、孷孳、雙生子也。

【⿱規子】7023　キ　槻（**6－15390**）に同じ。〔字彙補〕⿱規子、與レ槻同。

【⿰子尃】7024　ニ ジ　〔搜眞玉鏡〕人之切　支

注ぐ。〔搜眞玉鏡〕⿰子尃、注也。

十二畫

【⿰谷孚】7025　トウ　義未詳。〔字彙補〕⿰谷孚、帝孕切、出二釋典神呪中一。

【⿰子馬】7026　ジュ　孺（**3－7042**）の俗字。〔玉篇〕⿰子馬、俗孺字。

【⿰子⿱一而】7027　ジュ　孺（**3－7042**）の俗字。〔龍龕手鑑〕⿰子⿱一而、俗孺字。

【學】7028　音未詳　東岳の姓。〔字彙補〕學、音未詳。〔談薈〕東岳、姓學。

【𦞂】7029 カウ ケウ 〔篇海類編〕呼交切 肴。ほえる。〔篇海類編〕𦞂、哮喊也。

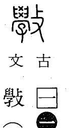
【𡦹】7030 トウ 義未詳。〔篇海類編〕𡦹、音童。

【𡦻】7031 シュク 義未詳。〔字彙補〕𡦻、音孰。

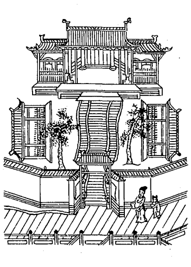
十三畫

【𡧁】7032 サン 孨(3―6299)の譌字。〔正字通〕孨、俗譌作ㇾ粲、改作ㇾ𡧁。

【學】7033 [一] カク ガク 〔集韻〕轄覺切 覺。 ㄒㄧㄠˊ hsiao² ㄒㄩㄝˊ hsüeh² [二] カウ ケウ 〔集韻〕居效切 效。



斆(5―13431)に同じ。[一]❶まなぶ。㋑さとる。〔說文〕斆、覺悟也、从ニ教冂一、冂、尙矇也、臼聲、學、篆文斆省。〔段注〕此爲ニ篆文一、則斆古文也。〔白虎通、辟雍〕學之爲ㇾ言、覺也、以覺ニ悟所ㇾ不ㇾ知也。㋺ならふ。〔廣雅、釋詁三〕學、效也。〔字彙〕學、受ㇾ教傳ㇾ業曰ㇾ學。〔論語、學而〕學而時習ㇾ之。〔集注〕學之爲ㇾ言、效也。〔莊子、庚桑楚〕學者、學ニ其不ㇾ能也。㋩知る。〔廣雅、釋詁二〕學、識也。㋥初めて習ふ。〔禮、大學、自脩也、疏〕初習謂ニ之學一、重習謂ニ之脩一。❷まなぶことがら。學問。〔老子、四十八〕爲ㇾ學日益。〔河上公注〕學、謂ニ政教禮樂之學一也。〔史記、老子傳〕老子脩ニ道德一、其學以ニ自隱無名一爲ㇾ務。❸まなぶ者。學生。學者。〔朱熹、大學章句〕初學入ㇾ德之門也。❹まなびや。學校。學舍。〔廣雅、釋宮〕學、官也。〔疏證〕謂ニ官舍一也。〔禮、王制〕天子命ニ之教一、然後爲ㇾ學。〔注〕學、所ニ以學ㇾ士之宮。〔禮、王制〕七十養ニ於學一。〔注〕學、大學也。〔禮、學記〕古之教者、家有ㇾ塾、黨有ㇾ庠、術有ㇾ序、國有ㇾ學。〔孟子、滕文公上〕學則三代共ㇾ之。〔注〕學則三代同ㇾ名、皆謂ニ之學一。〔大戴禮、保傅〕學者、所ㇾ學之官也。〔後漢書、班固傳下〕學校如ㇾ林。〔注〕郡國曰ㇾ學、縣道邑及侯國曰ㇾ校。❺方法。術。〔周邦彥、汴都賦〕算學以窮ニ九九一。❻學派。學統。〔漢書、儒林傳〕易有ニ京氏之學一。❼をしへる。をしへ。教(5―13212)に通ず。〔廣雅、釋詁四〕學、教也。〔儀禮、燕禮〕亦教ニ國子一以ㇾ學。〔釋文〕學、教也。〔禮、文王世子〕凡學ニ世子一。〔釋文〕學、教也。❽注する。或る書物を學び治めて、注述する意。〔公羊、隱公第一、何休學、釋文〕學者、言ㇾ爲ニ此經之學一、卽注述之意。❾鷽(12―47379)に通ず。〔說文通訓定聲〕學、叚借爲ㇾ鷽。〔莊子、逍遙游〕蜩與ニ學鳩一笑ㇾ之。〔釋文〕學、本又作ㇾ鷽。❿姓。〔通氏、氏族略、入聲〕學、見ニ姓苑一。[二]をしへる。斆(5―13431)・教(5―13212)に通ず。〔集韻〕斆、教也、或省。〔集韻〕教、或作ㇾ學。



學 [一] ❹ (三才圖會)

名乘 サト。サネ。タカ。ノリ。ヒサ。ミチ。

解字 會意形聲。教と臼との合字。古文は斆に作る。冂は童蒙、故に本義は童蒙が教をうけて無智をひらく義、故に教と冂とを合する。臼は音符。又、臼には奉持の義があり、童蒙が教をうけて奉持する意。秦以後、攴を省いて學とする。〔說文、斆、段注〕冂下曰、覆也、尙童矇、故教而覺ㇾ之、此說ニ從ㇾ冂之意一、云云、秦以來去ㇾ攴作ㇾ學。▽ （甲骨文）會意形聲。臼と冂と爻とを合はせ、爻は亦、聲。冂は建物、爻はその上の千木の形。兩手(臼)で子供を引き上げる建物の意。

【學安】1 hsüeh² an¹ 學問に從事する人に送る書簡文の結尾に附する常套句。

【學案】2 ガクアン 學派の源流及び學說を記述し、論斷を加へた書。明の黃宗羲の宋元學案・明儒學案、清の唐鑑の國朝學案小識等の類。〔黃宗羲、明儒學案原序〕羲爲ニ明儒學案上下一、諸先生深淺各得ニ醕疵互見一、要皆功力所ㇾ至、竭ニ其心之萬殊一者、而後成ㇾ家、未下嘗以ニ懵懂精神一冒中人糟粕上、於ㇾ是爲ニ之分源別派一、使ニ其宗旨歷然由ㇾ是而之一焉、固聖人之耳目也。〔何淩漢、宋元學案原敍〕昔讀ニ結埼亭集一知、黃梨洲先生於ニ明儒學案外一、尙有ニ宋元儒學案一、未ㇾ及ㇾ成ㇾ編、其子耒史先生、暨全謝山先生、後先修補、而世無ニ傳本一。

【學意】3 ガクイ 學ぶものごとの意味。〔管子、乘馬〕士聞見博、學意察。〔纂詁〕學意察、學而明知ニ其意一也。

【學位】4 ガクヰ 一定の學術を修め、學術上價値ある獨創的研究をなした者に對し、大學などが授與する稱號。我が國の舊學位令では博士、現行の學位規則では修士・博士の二種がある。

【學友】5 ガクイウ 學校又は師を同じくする友。同學の友。學侶。

〔學友會〕6 ガクイウクワイ 一學校の在學生や、卒業生などの組織する團體。

【學院】7 ガクヰン ❶清代、一省の教育學務を掌る官。學政(147)の❷を見よ。〔皇朝通典、職官典、學政〕凡由ニ翰林科道一出身者、卽爲ニ學院一、由ニ部屬等官一者、則爲ニ學道一、雍正四年定ㇾ制、各省督學皆改爲ニ學院一、其以ニ部屬簡任一者、依ニ出身甲第一、各加ニ翰林院編修檢討銜一。〔清會典事例、禮部、學校、學校設官〕雍正四年定、各省學道、一體改爲ニ學院一、如ニ部郎等官奉差提督學政一者、均加以ニ翰林院編修檢討職銜一。❷學校をいふ。❸大學の學部。❹私塾。

【學易】8 ガクエキ ❶易を學ぶ。〔論語、述而〕子曰、加ニ我數年一、五十以學ㇾ易、可ニ以無ニ大過一矣。❷宋、劉跂(2―2224‥148)の號。

〔學易記〕9 ガクエキキ 書名。九卷。元、李簡撰。〔四庫提要、經、易類〕。

〔學易齋〕10 ガクエキサイ 清、吳應賓(2―3365‥454)の「號。

〔學易集〕11 ガクエキシフ 書名。八卷。宋、劉跂撰。學易は其の堂名。詩文をあつむ。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔學易堂〕12 ガクエキダウ 明、項皐謨(12―43343‥60)の室名。

〔學易老人〕13 ガクエキラウジン 宋、劉跂(2―2224‥148)「の號。

【學淵】14 ガクエン 字號。❶明、顏宗(12―43591‥78)の字。❷明、熊鍊(7―19294‥128)の字。❸清、錢塘(11―40563‥146)の字。❹清、鄭濤(11―39647‥207)の別名。

【學苑】15 ガクエン 學びのその。學校。〔蘇軾、劉醜廝詩〕筆硯耕ニ學苑一、弓矢戰ニ天驕一。

【學園】16 ガクエン ❶學びのその。學苑に同じ。❷清、沈起(6―17189‥93)の號。

【學可】17 ガクカ 字號。❶宋、范師孔(9―30834‥183)の字。❷宋、林亦之(6―14551‥271)の字。

【學稼】18 ガクカ ❶五穀を植ゑることを學ぶ。〔論語、子路〕樊遲請ㇾ學ㇾ稼、子曰、吾不ㇾ如ニ老農一。〔集解〕馬融曰、樹ニ五穀一曰ㇾ稼。〔盧綸、酬ニ李端長安寓居偶詠見ㇾ寄詩〕學稼功還棄、論邊事亦沈。❷清、褚人穫(10―34457‥46)の字。

〔學稼堂〕19 ガクカダウ 明、李濂(6―14459‥811)の室名。

【學界】20 ガクカイ 學問の世界。學者の社會。〔名。

【學海】21 ガクカイ ❶川の水は海を學んで流れて止まず、終に海に至る。學者も絕えず勉むべしといふ喩。〔法言、學行〕百川學ㇾ海而至ニ于海一、丘陵學ㇾ山不ㇾ至ニ于山一、是故惡ニ夫畫一也。❷學問の

廣大で窮りない喩。學問界。學界。〔崔珏、哭二李商隱一詩〕詞林枝葉三春盡、學海波瀾一夜乾。㊂後漢の公羊學者、何休(1－511‥42)をいふ。學殖の深い人の意。〔拾遺記、後漢〕何休木訥多智、作二左氏膏肓・公羊癈疾・穀梁墨守一、謂二之三闕一、鄭康成蜂起而攻レ之、求レ學者不レ遠二千里一、贏レ糧而至、京師謂二康成一爲二經神一、何休爲二學海一。㊃字號。㋑宋、廖應淮(4－9464‥41)の字。㋺明、吳毅(2－3365‥94)の號。㋩依田朝宗の號。依田學海(1－607‥98)を見よ。

【學海堂】22 ガクカイダウ 學舍の名。廣東省番禺縣粵秀山上に在り、清の嘉慶中、兩廣總督の阮元、これを建つ。拾遺記にいふ何休の學海の意にとると。學海堂經解百八十餘種を刻す。今、傳はる所の皇清經解がこれである。〔劉毓崧、阮文達公傳〕所レ至必以二興レ學教レ士爲レ急、在二浙江一則立二詁經精舍一、在二廣東一則立二學海堂一、選下諸生知レ務二實學一者上肄二業其中一、士習蒸蒸日上、至レ今官二兩省一者、皆奉爲二矩矱一。

【學海類編】23 ガクカイルイヘン 類書の名。二百四十冊。清、曹溶撰。門人陶越增刪す。經翼・史參・子類・集餘の四類に分け、學問に必要な書籍四百四十種を編輯したもの。多くは節錄で、全書は收めず。經翼には經注を集め、史參には正史の論斷、稗史の記載を收め、子類は宋以後の理學書類を、集餘は文集の餘なる雜著を收む。其の目は、【經翼】第一冊、序目。第二・三冊、易說二卷(宋、呂祖謙)。第四冊、讀易私言一卷(元、許衡)、周易議卦一卷(明、王崇慶)。第五・六冊、讀書叢說六卷(元、許謙)。第七冊、尚書蔡注考誤一卷(明、袁仁)。第八冊、禹貢圖注一卷(明、艾南英)。第九冊、古文尚書考一卷(清、陸隴其)、尚書古文辨一卷(清、朱彝尊)、詩經協韻考異一卷(宋、輔廣)、詩論一卷(宋、程大昌)。第十冊、毛詩或問二卷(明、袁仁)。第十一・十二冊、詩問略一卷(明、陳子龍)、春秋集傳微旨三卷(唐、陸淳)。第十三冊、春秋金鎖匙三卷(元、趙汸)。第十四冊、春秋胡傳考誤一卷(明、袁仁)、讀左漫筆一卷(明、陳懿典)、春秋日食質疑一卷(清、吳守一)。第十五冊、禮經奧旨一卷(宋、鄭樵)、三禮考一卷(宋、眞德秀)、月令七十二候集解一卷(元、吳澄)、周禮五官考一卷(明、陳仁錫)、三禮指要一卷(清、陳廷敬)、檀弓訂誤一卷(清、毛奇齡)。第十六－十八冊、讀禮志疑十二卷(清、陸隴其)。第十九冊、大學發微一卷・大學本旨一卷(宋、黎立武)、中庸指歸一卷・圖一卷(宋、黎立武)。第二十冊、中庸分章一卷(宋、黎立武)。第二十一冊、孔子論語年譜一卷(元、程復心)。第二十二冊、孟子年譜一卷(元、程復心)、孝經集靈一卷(明、虞淳熙)。【史參】第二十三冊、訂正史記眞本一卷(宋、洪遵)、讀史漫筆一卷(明、陳懿典)、兩漢解疑二卷(明、唐順之)。第二十四冊、三國雜事一卷(宋、唐庚)、兩晉解疑一卷(明、唐順之)、五胡十六國考鏡一卷(宋、石延年)、南北朝襍記一卷(宋、劉敞)。第二十五－二十七冊、隋史斷一卷(宋、南宮靖一)、新舊唐書雜論一卷(明、李東陽)、唐史論斷三卷(宋、孫甫)。第二十八冊、安祿山事蹟三卷(唐、姚汝能)。第二十九－三十一冊、平巢事蹟考一卷・鑑誡錄十卷(五代、何光遠)、五國故事二卷。第三十二冊、江表志三卷(宋、鄭文寶)、南唐拾遺記一卷(明、毛先舒)、三楚新錄三卷(宋、周羽翀)。第三十三－三十七冊、涑水記聞十六卷・補一卷(宋、司馬光)。第三十八冊、蜀檮杌二卷(宋、張唐英)。第三十九冊、西夏事略一卷(宋、王稱)、五代春秋二卷(宋、尹洙)、江南別錄一卷(宋、陳彭年)。第四十・四十一冊、靖康紀聞一卷・拾遺一卷(宋、丁特起)。第四十二冊、張邦昌事略一卷(宋、王稱)、劉豫事迹一卷・北狩見聞錄一卷(宋、曹勳)。第四十三冊、北狩行錄一卷(宋、蔡絛)、南燼紀聞錄一卷(宋、辛棄疾)。第四十四・四十五冊、竊憤錄一卷(宋、辛棄疾)、竊憤續錄一卷(宋、辛棄疾)、阿計替傳一卷(宋、辛棄疾)、春明退朝錄三卷(宋、宋敏求)。第四十六冊、南遷錄一卷(宋、張師顏)。第四十七・四十八冊、朝野遺記一卷・三朝野史一卷・庚申外史二卷(明、權衡)。第四十九冊、陳張事略一卷(明、吳國倫)、元史備忘錄一卷(明、王光魯)。第五十冊、明氏實錄一卷(明、楊學可)、天啓宮詞一卷(明、蔣之翹)。【子類】第五十一冊、宋景文雜說一卷(宋、宋祁)、晁氏儒言一卷(宋、晁說之)。第五十二冊、晁氏客語一卷(宋、晁說之)。第五十三冊、省心錄一卷(宋、林逋)、樵談一卷(宋、許棐)、讀書錄存遺一卷(宋、潘音)、勤有堂隨錄一卷(元、陳櫟)、郁離子一卷(明、劉基)、潛溪邃言一卷(明、宋濂)。第五十四冊、華川巵辭一卷(明、王禕)、青巖叢錄一卷(明、王禕)、侯城雜誡一卷(明、方孝孺)、薛子道論三卷(明、薛瑄)、錢子測語二卷(明、錢琦)。第五十五冊、白沙語要一卷(明、陳獻章)、類博雜言一卷(明、岳正)、空同子纂一卷(明、李夢陽)、甘泉新論一卷(明、湛若水)、傳習則言一卷(明、王守仁)、心齋約言一卷(明、王艮)、近峯記略一卷(明、皇甫庸)、桑子庸言一卷(明、桑悅)。第五十六冊、后渠庸書一卷(明、崔銑)、蜩笑偶言一卷(明、鄭瑗)、經世要談一卷(明、鄭善夫)、陰陽管見一卷(明、何瑭)、方山記述四卷(明、薛應旂)。第五十七冊、讀書筆記一卷(明、祝允明)、學古瑣言二卷(明、鄭曉)、儼山外纂一卷(明、陸深)、海涵萬象一卷(明、黃潤玉)、二谷讀書記三卷(明、侯一元)。第五十八冊、澹齋內言一卷(明、楊繼益)、澹齋外言一卷(明、楊繼益)、海樵子一卷(明、王崇慶)、黎子雜釋一卷(明、黎久之)、客問一卷(明、黃省曾)。第五十九冊、擬詩外傳一卷(明、黃省曾)、海沂子五卷(明、王文祿)。第六十冊、凝齋筆語一卷(明、王鴻儒)、日錄裏言一卷(清、魏禧)、常語筆存一卷(清、湯斌)、學術辨一卷(清、陸隴其)、業儒臆說一卷(清、陶圻)。【集餘一、行詣】第六十一冊、孝詩一卷(宋、林同)。第六十二冊、白鹿書院教規一卷(宋、朱熹)、程董二先生學則一卷(宋、饒魯)、桐陰舊話一卷(宋、韓元吉)、錢氏私誌一卷(宋、錢世昭)、萬柳溪邊舊話一卷(宋、尤玘)。第六十三冊、諭僚屬文一卷(宋、眞德秀)、諭俗文一卷(宋、眞德秀)、東谷隨筆一卷(宋、李之彥)、集慶路江東書院講議一卷(元、程端禮)。第六十四冊、鄭氏規範一卷(元、鄭太和)、建文忠節錄一卷(明、張芹)。第六十五冊、楊忠愍公遺筆一卷(明、楊繼盛)、廉矩一卷(明、王文祿)、元祐黨籍碑考一卷・附僞學逆黨籍一卷(明、海瑞)、致身錄一卷(明、史仲彬)。第六十六冊、人譜三卷(明、劉宗周)、庭幃雜錄二卷(明、錢曉)。第六十七冊、家誡要言一卷(明、吳麟徵)、證人社約言一卷(明、劉宗周)、初學備忘二卷(明、張履祥)。第六十八冊、東林始末一卷(明、蔣平階)、溫氏母訓一卷(明、溫以介)、教習堂條約一卷(清、徐乾學)。【集餘二、事功】第六十九－七十二冊、愧郯錄十五卷(宋、岳珂)。第七十三冊、翰苑遺事一卷(宋、洪遵)、歷代銓政要略一卷(宋、楊億)、官爵志三卷(明、徐石麒)。第七十四冊、歷代銓選志一卷(清、袁定遠)、捕蝗考一卷(清、陳芳生)、旗軍志一卷(清、金德純)。第七十五冊、楊公政績紀一卷(清、黃家遴)、邦計彙編一卷(宋、李維)、極荒事略一卷(元、歐陽元)、救荒事宜一卷(明、張陛)。第七十六冊、煮粥條議一卷(明、陳繼儒)、元海運志一卷(元、危素)、鹽法考略一卷(明、邱濬)、錢法纂要一卷(明、邱濬)、國賦紀略一卷(明、倪元璐)、明漕運志一卷(清、曹溶)、御試備官日記一卷(宋、趙抃)。第七十七冊、東宮備覽六卷・首一卷(宋、陳模)。第七十八冊、歷代關市征稅記一卷(清、彭甯求)。貢擧敍略一卷(宋、陳彭年)、歷代貢擧志一卷(明、馮夢禎)、樂律擧要一卷(明、韓邦奇)、學科考略一卷(明、董其昌)、文廟從祀先賢先儒考一卷(清、郎廷極)。第七十九冊、臚傳紀事一卷(清、繆彤)、歷代郊祀志一卷・紀琉球入太學始末一卷(清、王士正)、陽明先生鄉約法一卷(明、陳龍正)、陽明先生保甲法一卷(明、陳龍正)。第八十・八十一冊、莅戎要路一卷(明、戚繼光)、歷代車戰敍略一卷(清、張泰交)、歷代武擧考一卷(清、譚吉璁)、東南防守利便三卷・首一卷(宋、陳克)。第八十二冊、青溪寇軌一卷(宋、方勺)、保越錄一卷・平濠記一卷(明、錢德洪)。第八十三冊、歷代馬政志一卷(清、蔡方炳)、備倭記二卷(明、卜大同)。第八十四冊、明倭寇始末一卷(清、谷應泰)、江防總論一卷(清、姜宸英)、海防總論一卷(清、姜宸英)。第八十五冊、江防集要一卷(清、趙甯)、海防集要一卷(清、韓奕)、江防述略一卷(清、張鵬翮)、海防述略一卷(清、杜臻)。第八十六冊、棠陰比事原編一卷(宋、桂萬榮)、續編一卷・補編一卷(明、吳訥)。第八十七冊、刑法敍

略一卷（宋、劉筠）、續刑法敍略一卷（清、譚瑄）、折獄巵言一卷（清、陳士鑛）、河源記一卷（元、潘昂霄）、河防記一卷（元、歐陽元）、常熟水論一卷（明、薛尚質）。第八十八冊、兩宮鼎建記三卷（明、賀仲軾）、西北水利議一卷（清、許承宣）、明江南治水記一卷（清、陳士鑛）、浮梁陶政志一卷（清、吳允嘉）。【集餘三、文辭】第八十九冊、文章緣起注一卷（明、陳懋仁）、續文章緣起一卷（明、陳懋仁）。第九十冊、樂府雜錄一卷（唐、段安節）、二南密旨一卷（唐、賈島）、詩式一卷（唐、釋皎然）。第九十一・九十二冊、碧溪詩話十卷（宋、黃徹）、樂府指迷一卷（宋、張玉田）。第九十三—九十九冊、四六談塵一卷（宋、謝伋）、韻語陽秋二十卷（宋、葛立方）、文錄一卷（宋、唐庚）、環溪詩話三卷（宋、吳沆）、玉壺詩話一卷（宋、釋文瑩）、庚溪詩話一卷（宋、西郊野叟）。第百—百二冊、臨漢隱居詩話一卷（宋、魏泰）、客齋詩話六卷（宋、洪邁）。第百三冊、客齋四六叢談一卷（宋、洪邁）。第百四冊、詩讞一卷（宋、周紫芝）、歲寒堂詩話一卷（宋、張戒）、姜氏詩說一卷（宋、姜夔）、吳氏詩話二卷（宋、吳名字未詳）。第百五冊、深雪偶談一卷（宋、方岳）、碧鷄漫志一卷（宋、王灼）。第百六・百七冊、對牀夜話五卷（宋、范希文）、東坡文談錄一卷（元、陳秀明）。第百八・百九冊、東坡詩話錄三卷（元、陳秀明）、木天禁語一卷（元、范梈）。第百十冊、詞品一卷（元、涵虛子）、製曲十六觀一卷（元、顧瑛）、詞旨一卷（元、陸輔之）、文原一卷（明、宋濂）、談藝錄一卷（明、徐禎卿）。第百十一・百十二冊、夢蕉詩話一卷（明、游潛）、餘冬詩話二卷（明、何孟春）、詩談一卷（明、徐泰）、全唐詩說一卷（明、王世貞）。第百十三冊、詩評一卷（明、王世貞）、文評一卷（明、王世貞）、文脈三卷（明、王文祿）、藝圃擷餘一卷（明、王世懋）。第百十四冊、存餘堂詩話一卷（明、朱承爵）、夷白齋詩話一卷（明、顧元慶）、顧曲雜言一卷（明、沈德符）。第百十五冊、余山詩話三卷（明、陳繼儒）。第百十六冊、玉笥詩談二卷（明、朱孟震）。第百十七冊、續玉笥詩談一卷（明、朱孟震）、棗林藝簣一卷（明、談遷）。第百十八—百二十冊、聲韻叢說一卷（清、毛先舒）、唐詩談叢五卷（明、胡震亨）、恬致堂詩話四卷（明、李日華）。第百二十一冊、師友詩傳錄一卷 （清、郎廷槐等）、詞統源流一卷（清、彭孫遹）。第百二十二—百二十四冊、詞藻四卷（清、彭孫遹）、漫堂說詩一卷（清、宋犖）、詞壇紀事三卷（清、李良年）。第百二十五冊、詞家辨證一卷（清、李良年）、論學三說一卷（清、黃與堅）、四六金針一卷（清、陳維崧）。第百二十六冊、南州草堂詞話三卷（清、徐釚）、集唐要法一卷（清、郎廷極）。【集餘四、記述】第百二十七・百二十八冊、封氏聞見記十卷（唐、封演）、劉賓客嘉話錄一卷（唐、韋絢）。第百二十九冊、幽閒鼓吹一卷（唐、張固）、灌畦暇語一卷。第百三十冊、北窗炙輠錄二卷（宋、施彥執）。第百三十一・百三十二冊、宋景文筆記二卷（宋、宋祁）、珩璜新論四卷（宋、孔平仲）。第百三十三冊、明道雜志一卷（宋、張耒）、續明道雜志一卷（宋、張耒）、西畬瑣錄一卷（宋、孫鑑宗）。第百三十四—百三十六冊、鐵山叢談六卷（宋、蔡絛）。第百三十七・百三十八冊、蒙齋筆談一卷（宋、鄭景璧）、碧湖雜記一卷・昨夢錄一卷（宋、康與之）、高齋漫錄一卷（宋、曾慥）、蘆浦筆記十卷（宋、劉昌詩）。第百三十九冊、南窗紀談一卷・袖中錦一卷（宋、太平老人）、甲申雜錄一卷（宋、王定國）。第百四十冊、聞見近錄一卷（宋、王定國）、隨手雜錄一卷（宋、王定國）。第百四十一冊、楊公筆錄一卷（宋、楊彥齡）、木筆雜鈔二卷。第百四十二—百四十四冊、梁谿漫志十卷（宋、費袞）。第百四十五・百四十六冊、醴泉筆錄二卷（宋、江休復）、湘山野錄三卷（宋、釋文瑩）。第百四十七冊、談藪一卷（宋、龐元英）、養痾漫筆一卷（宋、趙溍）、鶴山筆錄一卷（宋、魏了翁）。第百四十八・百四十九冊、志雅堂雜鈔十卷（宋、周密）。第百五十冊、話腴一卷（宋、陳郁）、默記三卷（宋、王銍）。第百五十一冊、誠齋揮塵錄二卷（宋、楊萬里）、後山叢談四卷（宋、陳師道）。第百五十二冊、二老堂雜志五卷（宋、周必大）。第百五十三—百五十五冊、賓退錄十卷（宋、趙與時）。第百五十六—百五十九冊、羅氏識遺十卷（宋、羅璧）。第百六十・百六十一冊、歸潛志八卷（金、劉祁）。第百六十二冊、佩韋齋輯聞四卷（元、俞德鄰）。第百六十三冊、北軒筆記一卷（元、陳世隆）、學易居筆錄一卷（元、俞鎭）、東園友聞一卷。第百六十四冊、漱石軒筆記一卷（宋、李隱）、遂昌山樵雜錄一卷（元、鄭元祐）、震澤紀聞一卷（明、王鏊）。第百六十五冊、蔗山筆塵一卷（明、商輅）、井觀瑣言三卷（明、鄭瑗）。第百六十六—百六十八冊、方洲雜言一卷（明、張甯）、琅琊漫鈔一卷（明、文林）、敝帚軒剩語三卷・補一卷（明、沈德符）、瓶花齋雜錄一卷（明、袁宏道）、秋涇筆乘一卷（明、宋鳳翔）、萃野纂聞一卷（明、伍餘福）。第百六十九冊、餘菴雜錄三卷（明、陳恂）、石田雜記一卷（明、沈周）、簣齋雜著一卷（明、陸挪）。第百七十冊、寒夜錄三卷（明、陳宏緒）。【集餘五、考據】第百七十一冊、資暇集三卷（唐、李匡義）。第百七十二—百七十五冊、北戶錄一卷（唐、段公璐）、格物麤談二卷（宋、蘇軾）、猗覺寮雜記六卷（宋、朱翌）。第百七十六・百七十七冊、就日錄一卷・緗素雜記十卷（宋、黃朝英）。第百七十八—百八十冊、文昌雜錄一卷・月下偶談一卷（宋、俞炎）、辨誤錄三卷（宋、吳曾）。第百八十一・百八十二冊、文苑英華辨證十卷（宋、彭叔夏）。第百八十三冊、歲時廣記四卷（宋、陳元靚）。第百八十四・百八十五冊、野服攷一卷（宋、方鳳）、肯綮錄一卷（宋、趙叔向）、霏雪錄一卷（元、鎦績）、文待詔題跋二卷（明、文徵明）、損齋備忘錄一卷（明、梅純）、辨物小志一卷（明、陳絳）。第百八十六冊、羣碎錄一卷（明、陳繼儒）、枕譚一卷（明、陳繼儒）、男子雙名記一卷（明、陶涵中）、婦女雙名記一卷（明、李肇亨）。第百八十七冊、方言據二卷・續一卷（明、岳元聲）、秦璽始末一卷（明、沈德符）。第百八十八・百八十九冊、與古人書二卷（明、張自烈）。第百九十冊、歷代甲子考一卷（清、黃宗羲）、改元考同一卷（清、吳肅公）、握蘭軒隨筆二卷（清、卜陳彝）、謚法考一卷（清、沈蕙纕）。第百九十一冊、孔子弟子考一卷（清、朱彝尊）、孔子門人考一卷（清、朱彝尊）、孟子弟子考一卷（清、朱彝尊）。第百九十二冊、姓氏考略一卷（清、陳廷煒）、課業餘談三卷（清、陶煒）、廣事同纂一卷（清、沈廷文）。【集餘六、藝能】第百九十三・百九十四冊、文房四譜五卷（宋、蘇易簡）。第百九十五冊、星象考一卷（宋、鄒淮）、學醫隨筆一卷（宋、魏了翁）、墨記一卷 （宋、何薳）、文湖州竹派一卷（元、吳鎭）、古今畫鑑一卷（元、湯厚）。第百九十六冊、寓意編一卷（明、都穆）、印章集說一卷（明、文彭）。第百九十七・百九十八冊、蕉窗九錄九卷（明、項元汴）。第百九十九冊、文具雅編一卷（明、屠隆）、青烏緒言一卷（明、李豫亨）、奕史一卷（明、王穉登）、琴言十則一卷（元、吳澄）、篆學指南一卷（明、趙宧光）。第二百・二百一冊、上池雜說一卷（明、馮時可）、飛鳧語略一卷（明、沈德符）、筠軒清閟錄三卷（明、董其昌）。第二百二冊、沈氏農書一卷（清、錢爾復）、老圃良言一卷（明、巢鳴盛）、裝潢志一卷（清、周嘉胄）。第二百三冊、書法粹言一卷（明、汪挺）、硯錄一卷（清、曹溶）、說硯一卷（清、朱彝尊）。第二百四冊、北墅抱瓮錄一卷 （清、高士奇）。【集餘七、保攝】第二百五冊、延壽第一紳言一卷（宋、愚谷老人）、賞心樂事一卷（宋、張鑑）、林泉結契五卷（宋、王質）、諧史一卷（宋、沈俶）。第二百六冊、爐火監戒錄一卷（宋、俞炎）、攝生消息論一卷（元、邱處機）。第二百七・二百八冊、飲食須知八卷（元、賈銘）。第二百九冊、四時宜忌一卷（元、瞿祐）。第二百十冊、饌史一卷・拊掌錄一卷・修齡要指一卷（明、冷謙）、二六功課一卷（明、石室道人）、攝生要語一卷（明、息齋居士）。第二百十一・二百十二冊、養生膚語一卷（明、陳繼儒）、攝生三要一卷（明、袁黃）、花裏活三卷（明、陳詩教）。第二百十三・二百十四冊、養小錄三卷（清、顧中）、怡情小錄一卷（清、馬大年）。第二百十五冊、鹿門隱書一卷（唐、皮日休）、馬氏日抄一卷（明、馬愈）、明皇十七事一卷（唐、李德裕）。第二百十六冊、事原一卷（宋、劉孝孫）、新書一卷（漢、諸葛亮）、刑書釋名一卷（宋、王鍵）。【集餘八、遊覽】第二百十七・二百十八冊、居易錄談三卷・續談一卷（清、王士正）、燕臺筆錄一卷（清、項維貞）、京東考古錄一卷（清、顧炎武）。第二百十九・二百二十冊、封長白山記一卷（清、方象瑛）、先聖廟林記一卷（清、屈大均）、山左筆談一卷（明、黃淳耀）、山東

考古錄二卷（清、顧炎武）、遊勞山記一卷（清、張道浚）、古杭雜記一卷（宋、李有）、金華游錄一卷（宋、方鳳）。第二百二十一―二百二十七冊、嘉禾百咏一卷（宋、張堯同）、夢粱錄二十卷（宋、吳自牧）、樂郊私語一卷（元、姚桐壽）。第二百二十八冊、吳地記一卷（唐、陸廣微）、吳風錄一卷（明、黃省曾）、蘇談一卷（明、楊循吉）。第二百二十九―二百三十一冊、遊城南記一卷（宋、張禮）、中吳紀聞六卷（宋、龔明之）。第二百三十二冊、華陽宮記事一卷（宋、釋祖秀）、豫志一卷（明、王士性）、秦錄一卷（明、沈思孝）、晉錄一卷（明、沈思孝）、楚書一卷（明、陶晉英）。第二百三十三冊、益部談資三卷（明、何宇度）。第二百三十四冊、泉南雜志二卷（明、陳懋仁）。第二百三十五冊、臺灣隨筆一卷（清、徐懷祖）、廣州遊覽小志一卷（清、王士正）、遊羅浮記一卷（清、潘耒）、桂林風土記一卷（唐、莫休符）。第二百三十六冊、桂海虞衡志一卷宋、范成大）、成都遊宴記一卷（宋、費著）。第二百三十七冊、滇記一卷（明、楊愼）、滇遊記一卷（清、陳鼎）、黔志一卷（明、王士性）。第二百三十八・二百三十九冊、黔遊記一卷（清、陳鼎）、溪蠻叢笑一卷（宋、朱輔）、星槎勝覽四卷（明、費信）、西使記一卷（元、劉郁）、使西域記一卷（明、陳誠）、西南夷風土記一卷（明、朱孟震）、興復哈密國王記一卷（明、馬文升）。第二百四十冊、朝鮮國紀一卷（明、黃洪憲）、西方要紀一卷（西洋、南懷仁）、西陲聞見錄一卷（清、黎士宏）、安南雜記一卷（清、李仙根）、遊具雅編一卷（明、屠隆）。

【學海堂經解】24 ガクカイダウケイカイ　皇清經解（**8－22701**・・128）に同じ。

【學行】25 ガクカウ　❶學問と品行。〔論語、學而〕行有二餘力一則以學レ文。〔魏志、高柔傳〕學行優劣。〔南史、姚察傳〕（隋文帝）指二謂朝臣一曰、聞姚察學行、當今無レ比。〔北史、柳崇傳〕崇方雅有二器量一、兼有二學行一。❷歩くことをまねる。〔莊子、秋水〕且子獨不レ聞三夫壽陵餘子之學二行于邯鄲一與、未レ得二國能一、又失二其故行一矣。❸揚子法言の篇名。

【學校】26 ガクカウ　學藝道德を學び修める處。❶上代、虞・夏・商・周の學校は其の名を異にし、從つて意義・目的に多少の差がある。虞舜の代には上庠・下庠、夏には東序・西序、商（殷）には右學・左學、周には東膠・虞庠といひ、又、辟廱・成均・瞽宗等の名がある。庠は祥で、詳に通じ、ここに於て禮を考へ、事を詳かにする意、序は射を以て王事を次序する意、學は校で、其の藏する所をくらべ考へる教の義、右・左はその位置を示し、膠は德を糾察する意、辟は明、廱は和で、法を明かにし道を和らげる意、成均は其の缺點を補成し、其の過不及を均しくする意、瞽は瞽者で樂師をいひ、宗は樂人が尊ぶ意で、音樂の祖を祭る所をいふ。各〻其の主とするところによつて名づけたもので、上庠・東序・右學・東膠は大學であり、下庠・西序・左學・虞庠は小學である。周は以上の學校を皆建て、大學は國都の內にあつて、中央に成均、東に東序、西に瞽宗を置き、この三學を環らせて膠といひ、水を周圍に廻らして辟廱といふ。諸侯は學校の南半に水を廻らして泮宮といふ。地方の郷には虞庠、州には夏序、黨には商校を建てて、四代の學は天下に普及した。教官には樂正・司馬・師氏・保氏・大司樂・大胥等があつて、それぞれ詩書禮樂を始め德行を修め、士の養成に從事した。秦代は焚書坑儒の暴政を行ひ、學は全く廢れた。漢に至つて、武帝は董仲舒の對策によつて大學を興し、五經博士・弟子員を置いて學問を奬勵し、文運漸く起り、昭・宣・元・成の四帝を經て益〻盛となり、弟子員を三千人に增し、州にも博士があり、郡にも文學があるに至つた。後漢の光武帝は大學に幸して博士・弟子に各〻金品を賜はつた。明・安・順・質の四帝を經て衰運に向ひ、桓・靈の二帝に至つて文德亡び、教化廢れ、加ふるに黨錮の禍が起り、靈帝は石經を大學の門前に建てたが、鴻都門學の私學を興して其の卒業生を高官に任じ、不次の位を與へて偏頗に陷つた爲、世人は却つて之を恥とするやうになつた。前漢の宣帝は石渠閣に諸儒を會して經書の異同を定め、後漢の章帝は白虎觀に學士を集めて五經の異同を正し白虎通義を作つた。魏・晉・六朝は太學に興廢があり、博士は概ね粗略にして弟子を教へず、弟子も亦、徭役を逃避する爲に學に入つたので學業を修めず、試驗の如きも小節に拘つて大義を忘れ、採點も過酷で及第者少く、文運頓に衰微した。後魏の世は名門の子弟を入學させて束脩を取り、釋典を行はず。隋の煬帝に至つて庠序・國子・郡縣の諸學を興して、稍〻面目を一新し、唐に至つて益〻隆盛に赴き、國子學・大學・四門學・律學・書學・算學の六學を置いて、みな國子監に隸屬させた。唐の高祖の武德元年には別に小學を建て、太宗は弘文館・崇文館を興し、玄宗は廣文館を置き、宋代には仁宗は武學を立て、又、胡瑗に命じて大學を專管させ、經義齋・治事齋の名が天下に高く、神宗は外舍・內舍・上舍に區別して學生を收容し、徽宗は學校三舍の制に從つて科學の法をも廢した。尙、其の他に律學・算學・書學・畫學・醫學・小學等があり、高宗は宗室の爲に教授を定め、寧宗は宗學を立てた。遼・金にも大學があり、金の世宗は女直學、元の世祖は蒙古國士學・回回國士學・禮顏孟三氏學・蒙古宗學を興し、明の太祖は社學、淸の世祖は八旗官學、聖祖は八旗義學、世宗は八旗學堂を設けて、國學の外に八旗の子弟教育に盡した。民國の學制は我が國の現制と大差ない。〔禮、王制〕有虞氏養二國老於上庠一、養二庶老於下庠一、夏后氏養二國老於東序一、養二庶老於西序一、殷人養二國老於右學一、養二庶老於左學一、周人養二國老於東膠一、養二庶老於虞庠一。〔孟子、滕文公上〕設爲二庠序學校一以教レ之、庠者養也、校者教也、序者射也、夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠、學則三代共レ之、皆所三以明二人倫一也。〔後漢書、孔融傳〕置二城邑一、立二學校一。〔魏志、田疇傳〕制二爲婚姻娶之禮一、興二擧學校講授之業一、班二行其衆一、衆皆便レ之、至二道不レ拾レ遺。〔事物紀原、學校貢擧部、學〕禮、有虞氏養二國老於上庠一、又曰、古之教者、家有レ塾、黨有レ庠、遂有レ序、國有レ學、孟子曰、夏曰レ校、商曰レ序、周曰レ庠、學則三代共レ之、沿革曰、有虞氏太學爲二上庠一、然則學自二有虞氏一始也、通典曰、漢文翁爲二蜀郡一脩二起學宮一、天下皆立レ學自二文翁一始也。❷我が國の學校の起原は、天智天皇の二年といふことに推定せられてゐるが、其の內容・年代共に詳かでない。併し、文武天皇の大寶元年に撰上せられた大寶律令の中には、明瞭に學令といふものがあり、大學及び國學の規定を設けてゐるから、尠くとも持統・文武頃には我が國に於ける學校制度が稍〻整頓した形で存在してゐたものと思はれる。大學及び國學の制度は、いふまでもなく唐の模倣であり、官吏登用のための大學教育であつて、大體に於て門閥を主とした貴族學校であつた。當時としては極めて組織的な學校であつたが、官學であり、上流社會の子弟はこれを平等に入學させた爲に、當時の氏族制度と一致せず、よつて氏族本位の私學が勃興するに至つた。和氣氏の弘文院、藤原氏の勸學院、橘氏の學館院等は、何れも當時の有力な氏族が、それぞれ一門子弟の爲に設けた教育機關であつた。當時は勿論一般庶民に對する普通教育の如きは顧慮せられなかつたのであるが、ただ僧空海が佛教主義の立場から、淳和天皇の天長五年に設けた綜藝種智院が一つある、これは恐らく庶民一般に對する初等教育機關の嚆矢をなすものであらう。かくて我が國の學校は次第に範圍を廣めたが、鎌倉・室町時代に至つて此等の學校はすべて打續く爭亂のために、或は衰微し、或は消滅して、殆ど見るべきものがなくなつてゐる。ただこの時代の學校として稍〻見るべきものとしては、足利學校と金澤文庫とがあり、更に其の末期に吉利支丹學校が多少設けられた程度に過ぎない。江戸時代に至つて教育機關が再び勃興し、學校も各地に設けられるに至つた。まづ幕府直轄の官學としては昌平黌・徽典館・明新館等があり、諸藩の學校としては金澤の明倫堂・水戸の弘道館・熊本の時習館・鹿兒島の造士館・會津の日新館・米澤の興讓館・萩の明倫館等がある。尙、私塾としては京都の堀川塾・豐後の淡窓塾・大阪の懷德書院・福山の菅茶山塾等が最も有名であつた。更に江戸時代には庶民教育の施設が始めて一般的となり、其の教育機關として寺小屋が廣く設けられた。併し庶民教育機關が、制度として普く實施されるに至つたのは

明治時代に入つてからであつて、維新以後、我が國の學校制度は諸外國の影響を受けて面目を全く一新した。

【學校醫】27 ガクカウイ 學校に囑託せられて、醫療竝びに衞生方面を擔當する醫師。校醫。

【學校園】28 ガクカウエン 學校中に直觀教育、自然研究、實習等に資するため設けられた植物園、動物園等をいふ。

【學校市】29 ガクカウシ 學校が學生訓育の目的を以て市の組織を採用し、學生に公民教育、自治教育を與へる組織。

【學校衞生】30 ガクカウエイセイ 學校生活に關する衞生。學校の設備、學童及び教師、竝に教授に關する衞生的考察や施設。

【學校管理】31 ガクカウクワンリ 學校の一般管理活動をいふ。例へば學級編制、課程時間表、校舍校具の設備等、各種の事務管理をいふ。

【學校教育】32 ガクカウケウイク 學校で行はれる教育。家庭教育・社會教育等に對す。

【學校教練】33 ガクカウケウレン 終戰前、男子中等學校以上の學校に現役將校を配屬して行つた軍事教練。

【學校朝堂】34 ガクカウテウダウ 讀書人の階級をいふ。〔桃花扇、卻奩〕平康巷、他能將二名節一講、偏是咱學校朝堂、混二賢奸一不レ問二青黃一。

【學校料田】35 ガクカウレウデン 中古、九州諸國に置かれ、學生・醫生等の獎勵の爲に賜はつた田。不輸租田とす。

【學校衞生學】36 ガクカウエイセイガク 公衆衞生學の一種。教員及び學生の健康を增進し、諸般の衞生設備、其の他について研究する學。

【學額】37 ガクガク 學校で收容する生徒、及び科擧の試驗に取錄する生徒の定員。〔淸會典、禮部、學校〕學額通例、順治四年定、各省儒學、視二人文多寡一、分二大中小學一、取二進童生一、大學四十名、中學三十名、小學二十名。

【學割】38 ガクカツ ❶學術の未熟な者をいふ。〔北史、薛琡傳〕琡上レ書曰、臣聞、錦縠雖レ輕、不三委レ之以二學割一、瑚璉任重、豈寄レ之以二弱力一。❷ガクワリ 乘車券などの學生割引をいふ。

【學監】39 ガクカン 學校長の下に在つて校務を監督するもの。

【學韓】40 ガクカン 淸、錢東塾(11－40563・・404)の字。

【學記】41 ガクキ 禮記の篇名。〔禮、學記、疏〕按、鄭目錄云、名曰二學記一者、以三其記二人學教之義一、此於二別錄一屬二通論一。

【學規】42 ガクキ 學校の規則。〔宋史、朱熹傳〕詣二郡學一引二進士子一、與レ之講論、訪二白鹿洞書院遺址一、奏復二其舊一、爲二學規一俾レ守レ之。

【學期】43 ガクキ 學校で一學年の修業年限を幾つかに分けた其の一區分。普通は二學期制・三學期制が多い。

【學宜】44 ガクギ 淸、施山(5－13629・・40)の初名。

【學究】45 ガクキウ ❶まなびきはめる。研究。〔洛陽伽藍記、四〕烏陽國沙門曇摩羅、聰慧利根、學二究釋氏一。❷唐代、士を取る科目に、秀才・明經の二科があり、其の明經科には又、五經・三經・二經及び一經の科があつて、其の一經だけを專攻したものを特に學究といふ。後、轉じて書生の通用語となる。〔唐書、選擧志上〕明經之別、有二五經一、有二三經一、有二二經一、有二學究一經一。〔朱子語類〕問二學究一科沿革之故一、曰、此科、卽唐之明經、是也、進士科則試二文字一、學究科但試二墨義一、有二才思一者、多去習二進士科一、有二記性一者、則應二學究科一、凡試二一大經一者、兼二一小經一、每段擧二一句一、令レ寫二上下文一、以二通不通一爲二去取一、但未三必曉二文義一、止如二和尙轉レ經相似、荊公所二以惡而罷レ之。〔稱謂錄、秀才、學究〕朱子名臣言行錄、王荊公改二科擧一、暮年乃覺二其失一、曰、本欲下變二學究一爲中秀才上、不レ謂下變二秀才一爲中學究上。〔紅樓夢、三十七回〕就請二菱州藕榭二位學究一、一位出題限韵、一位謄錄監場。❸役に立たない學者。腐儒。〔自警編〕普、山東學究、惟能讀二論語一耳。❹童子の師をいふ。〔稱謂錄、蒙師、學究〕郎仁寶七修類藁曰、近世嘲二學究一云、我若有二道路一、不レ做二猢猻王一、據レ此則蒙師、亦得レ稱二學究一。

【學鳩】46 ガクキウ 鳩の一種。小さい鳩。又、鷽鳩に作る。郭慶藩の集釋は鷽と鳩であるといふ。〔莊子、逍遙遊〕蜩與二鷽鳩一笑レ之曰、我決起而飛、搶二楡枋一。〔釋文〕學鳩、本又作レ鷽、本或作レ鸒、司馬云、學鳩、小鳩也、李云、鶻鵰也、毛詩草木疏云、鶻鳩、班鳩也。〔集釋〕爾雅釋鳥、鷽、山鵲、作レ學者、蓋鷽、假借字、鳩、爲二五鳩之總名一、鷽鳩、當二是兩物一。

【學級】47 ガクキフ 同一の學科に就いて同時に教授を受ける生徒の一團。級。クラス。〔舊小學校令施行規則、第二十九條〕學級。

【學宮】48 ガクキユウ 學藝・道德を教へる場所。學校。〔公羊、隱、五、僭二天子一不レ可レ言也、注〕立二之學宮一、足三以協二萬民一。〔漢書、何武傳〕行レ部、先卽二學宮一見二諸生一、試二其誦論一、問以二得失一。〔注〕師古曰、學宮、學舍也。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕復徙二舍學宮之傍一。

【學窮】49 ガクキユウ 學問だけを研究して、役に立たない學者。學問に苦しめられる者の意。〔韓愈、送レ窮文〕其次名曰二學窮一、傲二數與一レ名、摘二抉杳微一、高挹二羣言一、執二神之機一。

【學科】50 ガククワ ❶官吏登用の際の學術試驗。〔唐書、儒學傳序〕自二楊綰・鄭餘慶・鄭覃等一、以二大儒一輔レ政、議下優二學科一先二經誼一、黜二進士一後中文辭上。❷學藝の種類。學術の科目。學問の條目。〔元史、不忽木傳〕小學科、則令三讀二誦經書一。

【學會】51 hsiao^2 huei^4 ❶學び覺える。習得する。❷ガククワイ 或る學術・文藝等を研究する爲に團結した會。

【學壞】52 hsiao^2 huai^4 學び損ねる。

【學官】53 ガククワン ❶學校の官舍。學校の建物。學舍。〔漢書、文翁傳〕景帝末爲二蜀郡守一、云云、修二起學官於成都市中一、招二下縣子弟一以爲二學官弟子一、云云、至二武帝時一乃令三天下郡國、皆立二學校官一、自二文翁一爲二之始一云。〔注〕師古曰、學官、學之官舍也。〔後漢書、李通傳〕修二宮室一、起二學官一。❷學校の教職員。教官。〔史記、儒林傳序〕公孫弘爲二學官一、悼二道之鬱滯一。❸漢以後に於ける大學の講座をいふ。前漢の文帝の時、始めて一經博士を置き、更に傳記博士を置いてより、武帝の五經博士、宣帝の十二博士、後漢の光武帝の十四博士等、兩漢時代には諸學派の中から博士を選び、此等の博士はやがて其の傳承の經典を以て教科書とし、大學に於ける講座を擔當することとなつた。之を學官に立つといふ。文帝の一經博士は詩の博士で、齊・魯・韓の三詩は既に之に與かつた。尙、文帝は一經博士の外に傳記博士を置き、論語・孝經・孟子・爾雅等を司らせたが、武帝が五經博士を立てるに及んで廢止せられた。武帝の五經博士とは書の歐陽和伯、禮の后蒼、易の田何、春秋の公羊、これに詩の齊・魯・韓で、其の後、易は田何に易へるに施・孟を以てし、又、宣帝の時の石渠閣議の結果は、穀梁春秋・梁丘易・大小夏侯尙書の四博士を增して十二博士とした。以上は皆今文學派である。然るに劉歆の古文學の主張は、哀帝の時、遂に左氏春秋・毛詩・逸禮・古文尙書を以て學官に立てんとしたが、當時は今文諸學派の勢力が大で、其の反對に會つて果されず、平帝の時、一時王莽の力によつて立學したが、王莽の誅死と共に廢せられた。後漢に入つて光武帝の十四博士には、易は施・孟・梁丘・京氏、尙書は歐陽・大・小夏侯、詩は齊・魯・韓、禮は大・小戴、春秋は嚴・顏であつたが、なほ皆今文學派で、古文學派は後漢の世を終るまで、遂に學官に立つ事が出來なかつた。然し古文家の勢は漸次盛となり、劉歆以來の左氏春秋は、光武以後、時に廢立の運命を繰返してはゐたが、章帝の時、賈逵が出るに及んで、此處に今文家に附することになり、更に馬融・鄭玄を經て、魏の時代には王肅の勢力によつて、古文尙書・毛詩・論語・三禮・左氏春秋等の古文も完全に學官に立つやうになつた。〔漢書、儒林傳贊〕自三武帝立二五經博士一、開二弟子員一、設レ科射策、云云、初書唯有二歐陽一、禮后、易楊、春秋公羊而已、至二孝宣世一、復立二大小夏侯尙書・大小戴禮・施孟梁丘易・穀梁春秋一、至二元帝世一、復立二京氏易一、平帝時、又立二左氏春秋・毛詩・逸禮・古文尙書一。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一書〕歆親近欲下建二立左氏春秋、及毛詩・逸禮・古文尙書一、皆列中於學官上。〔經學歷史、經學昌明時代〕困學紀聞、後漢翟酺曰、文帝始置二一經博士一、考二之漢史一、文帝時、申公韓嬰以レ詩爲二博士一、五經列二於學官一者、唯詩而已、景帝以二轅固生一爲二博士一、而餘經未レ立、武帝建元五年春、初置二五經博士一、儒林傳贊曰、武帝立二五經博士一、唯有二書歐陽・禮

后・易楊・春秋公羊㆒而已、立㆓五經㆒而獨擧㆓其四㆒、蓋詩已立㆓於文帝時㆒、今併㆑詩爲㆑五也、云云、劉歆稱、先師皆出㆓建元之閒㆒、自㆔建元立㆓五經博士㆒、各以㆓家法㆒教授、據㆓儒林傳贊㆒書・禮・易・春秋四經、各止㆓一家㆒、惟詩之魯・齊・韓、則漢初已分、申公・轅固・韓嬰、漢初已皆爲㆓博士㆒、此三人者、生非㆓一地㆒、學非㆓一師㆒、詩分立㆓魯・齊・韓三家㆒、此固不㆑得㆑不㆑分者也、其後五經博士分爲㆓十四㆒、易立㆓施・孟・梁邱・京四博士㆒、書立㆓歐陽・大小夏侯三博士㆒、詩立㆓魯・齊・韓三博士㆒、禮立㆓大小戴二博士㆒、春秋立㆓嚴・顏二博士㆒、共爲㆓十四㆒。〔經學歷史、經學中衰時代〕兩漢經學極盛、而前漢末出㆓一劉歆㆒、後漢末生㆓一王肅㆒、爲㆓經學之大蠹㆒、云云、歆之學行㆓於王莽㆒、肅以㆔晉武帝爲㆓其外孫㆒、其學行㆓於晉初㆒、尚書・詩・論語・三禮・左氏解、及撰㆓定父朗所㆑作易傳㆒、皆立㆓學官㆒。

【學官闕狀】54 ガククワンノケツジヤウ　學校の建物の廢壞してゐる有樣。〔李覯、袁州州學記〕進㆓諸生㆒、知㆓學官闕狀㆒。

【學宦】55 ガククワン　㊀官吏の事務を學ぶこと。〔論衡、程材〕儒生之徒、云云、竝好㆑仕學㆑宦、用㆑吏爲㆓繩表㆒也。㊁學問と仕宦。〔漢書、孔光傳、不㆑結㆓黨友㆒、注〕師古曰、光以㆓名父之子㆒、學宦早成、不㆑須㆓黨援㆒也。

【學款】56 hsüeh^{2} k'uan^{3}　教育費。教育資金。

【學館】57 ガククワン　㊀學校。學舍。學官の㊀をいふ。〔楊載、送㆓梅鹽教授丘子正㆒詩〕海邦終寂寞、學館尚穹崇。㊁私人の學問所、私塾。〔北史、陽平王欽傳〕置㆓學館於私第㆒、集㆓羣從子弟㆒、晝夜講讀、幷給㆓衣食㆒、與㆓諸子㆒同。㊂人相家が耳に近いところを指していふ。學堂(163)の㊂に同じ。〔玉管照神局〕學館清高者、凌㆑雲折㆑桂。

【學館院】58 ガククワンヰン　平安朝に京都に起つた私學の一。橘氏の學問所。嘉祥三年五月嵯峨天皇の皇后橘嘉智子が橘氏公と謀つて設け、橘氏が別當となつた。

【學館院別當】59 ガククワンヰンノベツタウ　橘氏の學問所たる學館院の長者。橘氏の公卿を以て任じ、橘氏の長者といふ。後、學館院が荒廢して田畑となるや、之を知行した。〔職原抄〕學館院別當、橘氏之中補㆑之、此號㆓長者㆒、凡稱㆓氏長者㆒、王氏・源氏・藤氏・橘氏有㆓此號㆒。

【學兄】60 ガクケイ　㊀學問上の先輩。㊁學友に對する尊稱。

【學系】61 hsüeh^{2} hsi^{4}　學科。

【學絅】62 ガクケイ　明、游日章(**7**—**17792**・・350)の字。

【學卿】63 ガクケイ　明、費元祿(**10**—**36717**・・92)の字。

【學蓺】64 ガクゲイ　學藝に同じ。〔後漢書、馬融傳〕臣少習㆓學蓺㆒、不㆑更㆓武職㆒。

【學藝】65 ガクゲイ　㊀道藝を學ぶ。德行及び六藝を學ぶ。〔周禮、地官、大司徒〕大司徒頒㆓職事㆒十有二、云云、十曰、學藝。〔注〕學藝、謂㆑學㆓道藝㆒。㊁學術と技藝。〔風俗通、十反〕則㆓其學藝㆒、則家法洽覽、誨㆑人不㆑倦矣。〔顏氏家訓、勉學〕有㆓學藝㆒者、觸㆑地而安。〔唐書、順宗紀〕帝爲㆑人寬仁、喜㆓學藝㆒、善㆓隸書㆒。

【學藝會】66 ガクゲイクワイ　小學校等で兒童が學藝を發表する會。唱歌・談話・朗讀・演劇等で、合せて圖畫・手工品・習字等の展覽會をすることもある。

【學業】67 ガクゲフ　學びのわざ。學問。〔墨子、非儒下〕夫一道術學業仁義也。〔呂覽、誣徒〕學業之敗。〔後漢書、譙玄傳〕兵戈累年、莫㆔能脩㆓尚學業㆒。〔中論、貴言〕君子與㆑之言、必以㆓其方㆒、云云、儒生則以㆓學業㆒。〔晉書、張華傳〕華學業優博、辭藻溫麗。〔南史、任昉傳〕少敦㆓學業㆒、家行甚謹。

【學憲】68 ガクケン　地方の學事をすべ司る官。提學使。〔續文獻通考、職官考、諸學校官〕明、凡學政遵㆓臥碑㆒、咸聽㆓於提學憲臣㆒、提調府聽㆓於府㆒、州聽㆓於州㆒、縣聽㆓於縣㆒。

【學鰹】69 マナガツヲ　海產の魚の一。〔饅頭屋本節用集〕。

【學言】70 ガクゲン　書名。三卷。明、劉宗周撰。宗周講學の語錄で、門人の姜希轍が刻す。其の學は王陽明に出で、愼獨と誠敬とを主としてゐる。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【學言詩稿】71 ガクゲンシカウ　書名。六卷。元、吳當撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【學源】72 ガクゲン　明、顧宗(**12**—**43689**・・132)の字。

【學古】73 ガクコ　㊀古の法を學ぶ。古いことを學ぶ。〔書、周官〕學㆑古入㆑官。〔傳〕言㆑當㆘先學㆓古訓㆒、然後入㆑官治㆖政。〔蔡傳〕學㆑古、學㆓前代之法㆒也。〔黃庭堅、次㆓韻張詢齋中晚春㆒詩〕學㆑古編簡殘、懷㆑人江湖永。㊁字號。㋑明、瞿俊(**8**—**23747**・・14)の號。㋺明、羅通(**9**—**28397**・・186)の字。㋩元、文質(**5**—**13450**・・421)の字。

【學古齋】74 ガクコサイ　明、瞿俊(**8**—**23747**・・14)の號。

【學古塾】75 ガクコジユク　朝川鼎の號。朝川善菴(**5**—**14374**・・520)を見よ。

【學古堂】76 ガクコダウ　室名。㊀清、韓詩(**12**—**43159**・・106)の室名。㊁清、常大湘(**4**—**8955**・・401)の室名。㊂清、沈季友(**6**—**17189**・・456)の室名。

【學古編】77 ガクコヘン　書名。一卷。元、吾丘衍撰。專ら篆刻印章を論ず。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【學古緒言】78 ガクコシヨゲン　書名。二十五卷。明、婁堅撰。婁堅は古文にすぐれ、歸有光の跡をつぐ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【學語】79 ガクゴ　㊀言語を學ぶ。〔鹽鐵論、遵道〕文學結髮學㆑語。〔陶潛、和㆓郭主薄㆒詩〕弱子戲㆓我側㆒、學㆑語未㆑成㆑音。〔杜甫、戲作㆓花卿歌㆒詩〕成都猛將有㆓花卿㆒、學㆑語小兒知㆓姓名㆒。㊁hsüeh^{2} yü^{3}　術語。

【學差】80 hsüeh^{2} ch'ai^{1}　學政使をいふ。清朝で一省の教育事業の管理を司つたもの。

【學才】81 ガクサイ　學問上の才能。學問によつて得た心のはたらき。

【學齋】82 ガクサイ　㊀宋、方覞(**5**—**13620**・・142)の室名。㊁字號。㋑清、喬崇烈(**2**—**3990**・・77)の號。㋺清、趙大鯨(**10**—**37171**・・772)の字。㋩清、廖平(**4**—**9464**・・28)の號。㋥林昇の號。林學齋(**6**—**14551**・・282)を見よ。

【學齋佔畢】83 ガクサイテンピツ　書名。四卷。宋、史繩祖撰。經史の疑義を考訂し、三十八則より成る。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【學在】84 ガクザイ　清、姜實節(**3**—**6205**・・96)の字。

【學窓】85 ガクサウ　學問を修める處。學びのまど。學校。〔保元物語、一〕信西を師として、靜かに學窓に籠りて。

【學山】86 ガクザン　㊀丘陵は山の如く高くならうとしても出來ないこと。學問の成就せぬ喩。〔法言、學行〕百川學㆑海而至㆓于海㆒、丘陵學㆑山不㆑至㆓于山㆒。㊁字號。㋑宋、周堯敏(**2**—**3441**・・639)の號。㋺清、胡光北(**9**—**29400**・・448)の號。㋩高瀨忠敦の號。高瀨學山(**12**—**45313**・・918)を見よ。㋥松浦則武の號。松浦篤所(**6**—**14516**・・389)を見よ。

【學山錄】87 ガクザンロク　書名。六卷。中村明遠撰。明遠、本姓は藤原、號は蘭林、又、盈進齋。江戶の人、寶曆十一年卒す。年六十五。此の書は一名、盈進齋隨筆ともいふ。其の目は卷一、天地部、卷二、事物部、卷三、言論部・行事部、卷四、藝文部・靈異部、卷五、文辭部、卷六、稱謂部・字義部。

【學山海居】88 ガクザンカイキヨ　清、黃丕烈(**12**—**47926**・・1296)の室名。

【學山先生】89 ガクザンセンセイ　清、顏光敩(**12**—**43591**・・145)の尊稱。

【學山老樵】91 ガクザンラウセウ　清、胡光北(**9**—**29400**・・448)の號。

【學士】92 ガクシ　㊀學校の士。學問に從事する者。學者。〔儀禮、喪服傳〕大夫及學士、則知㆑尊㆑祖矣。〔疏〕此學士、謂㆓鄉庠序及國之大學小學之學士㆒。〔胡培翬正義〕學士、謂㆘升㆓於學校㆒之士、通㆓三物六行㆒者㆖也。〔莊子、盜跖〕使㆓天下學士不㆑反㆓基本㆒。〔呂覽、用衆〕故學士曰、辯議不㆑可㆑不㆑爲。〔史記、儒林傳序〕天下之學士、靡然鄉㆑風矣。〔漢書、于定國傳〕恩敬甚備、學士咸稱焉。㊁官名。魏・晉・六朝の頃、國家に典禮及び編纂撰述の事ある場合に徵した文學の士をいふ。諸王及び節帥も亦、學士を置くことを得。師友を以て待遇し、定員無く、亦、品秩も無かつた。唐代、始めて學士院を置き、專ら制誥を掌り、遂に請要の職となり、一に內相の號があるに至る。別に門下省に弘文館學士、中書省に集賢院學士、東宮に崇文館學士があり、承旨・侍讀・直學士・待制等の品秩の區別がある。但し、單に學士といふ時は翰林院學士をいふ。以後、宋・遼・金・元・明・清も、亦翰林院を設け、皆學士の官があつた。〔南史、張貴妃傳〕以㆘宮人有㆓文學㆒者袁大捨等㆖爲㆓學士㆒。

〔唐書、百官志一〕學士之職、本以二文學言語一被二顧問一出入侍從。〔文獻通考、職官考、學士院〕學士之職、本以二文學言語一被二顧問一出入侍從、因得下參二謀議一納中諫諍上、其禮尤寵、而翰林院者待詔之所也、唐制、乘輿所レ在、必有二文辭經學之士一、下至二卜醫技術之流一、皆直二於別院一、以備二宴見一、而文書詔令、則中書舍人掌レ之、自二太宗時一、名儒學士、時召以草レ制、然猶未レ有二名號一、乾封以後、始召二文士元萬頃・范履冰等一、草二諸文辭一、常於二北門一候二進止一、時人謂二之北門學士一、中宗之世、上官昭容專二其事一、玄宗初置二翰林待詔一、以二張說・陸堅・張九齡等一爲レ之、掌二四方表疏批答應和文章一、既而又以二中書務劇、文書多壅滯一、乃選二文學之士一、號二翰林供奉一、與二集賢院學士一分二掌制詔書敕一、開元二十六年、又改二翰林供奉一爲二學士一、別置二學士院一、專掌二內命一、凡拜二免將相一、號令征伐、皆用二白麻一、其後選用益重、而禮遇益親、至三號爲二內相一、又以爲二天子私人一、元充二其職一者無二定員一、自二諸曹尙書一下至二校書郎一、皆得レ與レ選、入院一歲、則遷二知制誥一、未二知制誥一者、不レ作二文書一、班次各以二其官一、內宴則居二宰相之下一品之上一、憲宗時又置二學士承旨一、唐之學士、弘文集賢分二隸中書門下省一、而翰林學士獨無レ所レ屬。〔陔餘叢考、學士〕學士之名、其來最久、裴松之三國志注、正始中詔二議圜丘一、普延二學士一、是曹魏時已有二學士之稱一也。㊂高官碩儒を寵遇して授與した稱號。普通は殿名をつけて某殿學士、或は某殿大學士といふ。宋は弘文館及び集賢院學士（大學士・學士・直學士）を置き、又、殿學士（觀文殿・資政殿大學士・學士・端明殿學士）閣學士（龍圖閣・天章閣・寶文閣・顯謨閣・徽猷閣・敷方閣・煥章閣・華文閣・寶謨閣・寶章閣・顯文閣學士・直學士・待制）を設けた。遼は昭文館直學士・崇文館大學士・宣政殿學士・觀書殿學士・乾文閣學士を置き、又、國史院に史館學士があつた。金は弘文院・集賢院・益政院を置いたが、其の官は學士を稱せず。元は集賢院學士（大學士・學士・侍讀學士・侍講學士・直學士）奎章閣學士（大學士・侍書學士・承制學士・供奉學士）を置く。明は弘文館學士・殿學士（中極殿・建極殿・文華殿・武英殿大學士）・閣學士（文淵閣・東閣大學士）を置いた。淸に至り內閣學士（殿閣大學士・協辨大學士・學士・侍讀學士）を置く。大學士は殿閣（中和殿・保和殿・文華殿・武英殿・文淵閣・東閣）及び各部尙書の名を兼ね、庶政を贊理し、特に重職とせられた。此等は翰林學士院の他に置かれ、すべて學士と稱せられた。〔文獻通考、職官考、觀文殿大學士〕宋朝觀文殿、卽舊日延恩殿也、慶曆七年、以三文明殿學士稱呼同二眞宗諡號一、乃改二名紫宸殿一、後又以三紫宸殿非二人臣所レ可二稱呼一、乃以二延恩殿一更二名觀文殿一、皇祐元年、詔置二觀文殿大學士一、寵二待舊相一、今後須下曾任二宰相一乃得中除授上、時賈昌朝由二使相右僕射觀文殿大學士一判二尙書都省一、觀文殿置二大學士一自二昌朝一始、三年、詔班在二觀文殿學士之前六尙書之上一、自レ是曾任二宰相一者、出必爲二大學士一、熙寧中、韓絳宣二撫陝西河東一、得レ罪罷守二本官一、四年、用二明堂赦一授二觀文殿學士一、宰相不レ爲二大學士一自レ絳始、中興後、非二宰相一而除者、自二紹興二十年秦熺一始、熺知二樞密院郊祀大禮使一、禮成、以二學士一遷、且視儀揆路、非二典故一也、乾道四年、汪徹舊以二樞密使一爲二學士一遷、九年、王炎以二樞密使一爲二西川安撫使一除、至二慶元間一、趙彥逾自二工部尙書一爲二端明殿學士一、直以レ序遷至焉、曾爲二宰相一、而不レ爲二大學士一者、自二紹興元年范宗尹一始。㊃泉の名。廣東省治の北、番禺縣の地。今の雞爬井。明の天順中、學士黃練が廣州に謫せられ、其の水を品評して嶺南第一としたことによる。水を白磁の碗中に貯へ、墨滴を酌んで入れれば、墨沈んで散せずといふ。〔廣東通志〕學士泉在二郡城東北七里一、俗呼爲二鷄爬井一、泉自レ石出、黃練廣州記、品二此泉一爲二第一一、遂鑿名曰二學士泉一。㊄㋑春宮坊の職員。文武天皇大寶元年、制定して定員二人を置く。〔東宮職員令〕學士二人、掌レ執レ經奉說一。㋺帝國大學各學部、及び大學令に據る官私立大學各學部本科卒業生の稱號。㋩新制大學、本科卒業者の稱號。

【學士院】93 ガクシヰン ㊀官署の名。唐代、文學の士を待詔させた所。其の人を翰林學士といふ。學士の㊁を見よ。〔事物紀原、京邑館閣部、學士院〕唐武德正觀時、溫大雅等以二文詞一召待レ詔、常於二北門一候二進止一、玄宗開元二十六年、始置二學士院一、始改二待詔一爲二翰林學士一故也。〔稱謂錄、翰林院、學士院〕葉石林曰、唐自三張垍爲二學士一、始則建二學士院於翰林院之南一、則與二翰林院一分而爲レ二、然猶冒二翰林之名一、蓋唐有二宏文館學士・麗正殿學士一、故此特以二翰林一別レ之、其後遂以名レ官、訖不レ可レ改。㊁帝國學士院（4－8865・・75）の略。

【學士鹽】94 ガクシエン 學士の賣る鹽。㊀惡くいふ場合。宋の石延年が商人と結託して公然と鹽を賣り捌いた故事。〔談苑〕石曼卿以二館職一通二判海州一、滿二載私鹽兩船一、託二王子野一貨レ之、於レ是市中公然賣二學士鹽一。㊁善くいふ場合。宋の劉摯が、役人と軍隊とが共謀して粗鹽を賣るのを取り締つて、善鹽を賣らしめた故事。〔宋史、劉摯傳〕謫監二衡州鹽倉一、先レ是倉吏與二綱兵一姦利相市、鹽中雜以二僞惡一、遠人未三嘗食二善鹽一、摯悉レ意核視、且儲二其羨一以爲レ賞、弊減什七、父老目爲二學士鹽一。

【學士羹】95 ガクシカウ 羊の眼のあつもの。宋の竇儼が眼を病んで羊眼のあつものを食べた故事。〔淸異錄、饌羞、學士羹〕竇儼嘗病レ目、幾喪レ明、得二良醫一愈レ之、勸命三頻食二羊眼一、儼遂終身食レ之、其家名二雙暈羹一、世人有下呼二學士羹一者上。

【學士試驗】96 ガクシシケン 學士の稱號を得るための試驗。もと學科試驗は卒業資格を得るためのものであり、學士號を得るには更に論文或は口頭試驗の合格を必要としたが、後者は現在一部に殘存するのみで、多くは前者の試驗に合格すれば、卒業資格と學士號とが同時に得られる制度となつた。

【學士受レ恩】97 ガクシオンヲウク 唐の學士が、冬至の日に受ける賜物。時果・新茗瓜・新曆の類。〔翰林志〕唐學士重陽冬至、及其餘時各有二賞賜一、又時果新茗瓜新曆是爲二經制一。

【學士院議員】98 ガクシヰンギヰン もと帝國學士院會員の互選によつて勅任せられた貴族院議員。

【學士亦稱二五斗一】99 ガクシマタゴトヲシヨウス 學者には飲酒家の多いこと。〔唐書、王績傳〕其飲至二五斗一不レ亂、人有二以レ酒邀者一、無二貴賤一輒往、著二五斗先生傳一。〔杜甫、飲中八仙歌〕焦遂五斗方卓然、高談雄辯驚二四筵一。

【吐二學士之心肝一】100 ガクシノシンカンヲハク 唐の李賀、每旦童僕を從へ、古錦囊を背負はせて出で、得る所あれば卽ち書して囊中に投じ、暮に歸つて之を補成す。其の母之を見て、兒、當に心肝を嘔出しなければやめないであらうといつた故事。學問の修得に熱心な喩。〔唐書、李賀傳〕每旦、出騎二弱馬一、從二小奚奴一、背二古錦囊一、遇レ所レ得、書投二囊中一、暮歸足二成之一、母令三婢探二囊中一、見二所レ書多一、卽怒曰、是兒嘔二出心肝一乃已。

【學子】101 ガクシ ㊀學生をいふ。生徒。〔詩、鄭風、子衿、靑靑子衿、傳〕靑衿、靑領也、學子之所レ服。㊁弟子をいふ。從學の者。〔稱謂錄、弟子、學子〕墨客揮犀、有二先生一爲二學子一、不レ欲二束脩一、自往詣レ之、學子閉レ門不レ接。〔林景熙、酬二謝皋父詩〕風雅一手提、學子履常滿。

【學之】102 ガクシ 字號。㊀元、趙次誠（10－37171・・639）の字。㊁淸、錢宗韓（11－40563・・373）の字。

【學之方】103 ガクノハウ 學問の仕方。〔柴野栗山、進學喩〕我於レ是曉二學之方一焉。

【學史】104 ガクシ 書名。十三卷。明、邵寶撰。周から元に至る史事・隨筆・論斷・詞義を取る。十二卷は十二月に、餘は閏月に象り、每卷月の大小に象つて、三十條或は二十九條を載す。〔四庫提要、史、史評類〕

【學志】105 ガクシ 明、唐敏（2－3709・・305）の字。

【學阯】106 ガクシ 淸、邵基（11－39343・・15）の字。

【學師】107 ガクシ 教師。先生。〔魏志、武帝紀〕官給二耕牛一、置二學師一以教レ之。

【學資】108 ガクシ 學問の修業に要する費用。〔六部成語、戶部、學租注解〕官學校之田、收レ租以充二學資一。

【學而】109 ガクジ 論語の篇名。

【學而時習】110 マナンデトキニナラフ 先輩に就いて道を學び、而して常に反覆して練習する。習は幾度も反覆練習する義。時は常にの意。〔論語、學而〕學而時習レ之、不二亦說一乎。〔集注〕既學、而又時時習レ之、則所レ學者熟、而中心喜說、其進自不レ

能レ已矣。

【學而不レ思則罔】111 マナビテオモハザレバスナハチクラシ　教をうけても自分で深く思はなければ、心昏くして得る所がない。〔論語、爲政〕子曰、學而不レ思則罔、思而不レ學則殆。〔集注〕不レ求二諸心一、故昏而無レ得。

【學事】112 ガクジ　❶從ひ學ぶ。學びつかへる。〔漢書、賈誼傳〕聞三河南守呉公、治平爲二天下第一一、故與二李斯一同レ邑、而嘗學事焉。〔注〕師古曰、事レ之而從二其學一也。❷學問に關する事柄。

【學修】113 ガクシウ　學問を修める。

【學識】114 ガクシキ　學問と智識。又、學問と見識。〔南史、韋叡傳〕學識當レ過レ之、然幹二國家一成二功業一、皆莫二汝逮一也。

【學室】115 ガクシツ　書齋をいふ。〔唐書、劉禹錫傳〕計可下以營二學室一具中器用上。

【學習】116 ガクシフ　まなびならふ。稽古する。〔論語、學而〕學而時習レ之、不二亦說一乎。〔禮、月令〕溫風始至、蟋蟀居レ壁、鷹乃學習。〔史記、秦始皇紀〕士則學二習法令一辟レ禁。〔後漢書、楊仁傳〕詣レ師學二習韓詩一。

【學習院】117 ガクシフヰン　❶朝廷の學校。初、天保十三年十月、仁孝天皇が光格天皇の遺旨に因り、公卿等を教育せんがため、京都開明門院の舊地に學問所を建て、同十一月より開場す。出所する者は大體四十歳以下十五歳以上、非職人二百人許りで、諸司の官人子弟の外でも願ひによつて許された。講釋は日に三度、讀書は連日、四書・五經の類を講讀す。弘化二年名を學習院と改む。❷明治天皇の優旨に本づき、主として華族の子女教育のため創設された學校。宮内大臣の管轄に屬した。現在は私立大學。

【學舍】118 ガクシヤ　まなびのや。學校。〔後漢書、儒林傳序〕學舍穨敝、鞠爲二園蔬一。〔歐陽脩、吉州學記〕謀下與二州人一遷而大レ之、以爲中學舍上。

【學者】119 ガクシヤ　❶學問する人。學生。學士。〔禮、學記〕學者有二四失一、教者必知レ之。〔孟子、滕文公上〕北方之學者、未レ能二或之先一也。〔論語、憲問〕古之學者爲レ己。〔孔子家語、致思〕豈非二學者之效一也。〔朱熹、大學章句〕子程子曰、云云、學者必由レ是而學焉、則庶二乎其不一レ差矣。❷學問を積んだ人。學問のすぐれた人。碩學通儒。〔戰國、趙策〕今王釋レ此、而襲二遠方之服一、變二古之教一、易二古之道一、逆二人之心一、畔二學者一、離二中國一、臣願大王圖レ之。〔莊子、刻意〕遊居、學者之所レ好也。〔五代史、史匡翰傳〕史氏世爲レ將、而匡翰好レ讀レ書、尤喜二春秋三傳一、與二學者一講論、終日無レ倦。

【學者三多】120 ガクシヤサンタ　學者となるには、讀書の多きと、持論の多きと、著述の多きとを必要とすること。〔小學紺珠、藝文類、三多〕看讀多、持論多、著述多、楊文莊公言、學者當レ取二三多一、三多之中、持論尤難。

【學者如レ登レ山】121 ガクハヤマニノボルガゴトシ　學問は山に登るやうに、登れば登る程高きを覺える喩。〔中論、治學〕夫聽二黃鍾之聲一、然後知二擊缶之細一、視二袞龍之文一、然後知二被褐之陋一、涉二庠序之教一、然後知二不學之困一、故學者如レ登レ山焉、動而益高、如二寤寐一焉、久而愈足。

【學者先要レ會レ疑】122 ガクシヤマヅウタガヒヲクワイセンコトヲエウス　學問して疑が起るのは、學問が進むのであるから、先づ其の疑を會得することが必要である。〔近思錄、致知〕學者先要レ會レ疑。〔集注〕朱子曰、書始讀、未レ知レ有レ疑、其次漸有レ疑、又其次節節有レ疑、過二了此一一番後、疑漸漸釋、以至二融會貫通一、都無レ可レ疑、方始是學。

【學者以二多方一喪レ生】123 ガクシヤハタハウヲモツテセイヲウシナフ　すべての物の根本は道理は一つであるのに、物を學ぶ者が其の根本の理を求めずに、末の末たる多岐多方の部分にのみ執著拘泥して行くから、一も得る所なく終るのである。〔列子、說符〕心都子曰、大道以二多岐一亡レ羊、學者以二多方一喪レ生。

【學者博誦云乎】124 ガクハヒロクシヨウスルヲイハンヤ　學問は書を多く讀み誦するだけをいふのではなく、必ず人の行ふべき道を知つて行ふことをいふのである。〔文中子、天地〕子曰、學者博誦云乎哉、必也貫二乎道一、文者苟作云乎哉、必也濟二乎義一。

【學者如二牛毛一成者如二麟角一】125 マナブモノハギウマウノゴトクナルモノハリンカクノゴトシ　學問に志す者は牛の毛のやうに多いが、成業する者は麒麟の角のやうに稀である。〔抱朴子、極言〕或問曰、古之仙人者、皆由レ學以得レ之、將特稟二其氣一耶、抱朴子答曰、彼莫レ不三負レ笈隨レ師積二其功勤一、乃得三升レ堂以入二於室一、或朝爲而夕欲二其成一、或坐修而立望二其效一、故爲者如二牛毛一、獲者如二麟角一也。〔北史、文苑傳序〕及二明皇御レ曆、文雅大盛、學者如二牛毛一、成者如二麟角一、孔子曰、才難、不二其然一也。

【學匠】127 ガクシヤウ　❶佛佛道を學習して、師匠たる資格あるもの。學侶。〔源平盛衰記、二一、山僧燒二清水寺一事〕東塔南谷教光坊大阿闍梨仙性とて、學匠の、しかも大惡僧なりけるが。❷ものしり學者。

【學尙】128 ガクシヤウ　學才があつて人物の高尙なこと。〔南史、張種傳〕清虛學尙、種有二其風一。

【學主】129 ガクシユ　學校の長。書院の長。〔北史、劉蘭傳〕瀛州刺史裴植、徵レ蘭講二書於州南館一、植爲二學主一、故生徒甚盛。

【學叔】130 ガクシユク　明、賈待問（10−36755··190）の字。

【學術】131 ガクジユツ　一定の學問を指していふ。〔後漢書、蓋勳傳〕涼州寡二於學術一、故屢致二反暴一。〔唐書、杜暹傳〕其爲レ人少二學術一、故當レ朝議論、時時失二淺薄一。〔白居易、除二盧士致劉從周等官一制〕學術詞藻。〔宋史、吳潛傳〕詔求二直言一、潛陳二九事一、云云、四曰、正二學術一。

【學術語】132 ガクジユツゴ　學問の研究上、特に使用する語。術語。學語。

【學書】133 ガクシヨ　❶書籍をまなぶ。〔史記、項羽紀〕學レ書不レ成、去學レ劍、又不レ成。〔漢書、東方朔傳〕年十三學レ書、三冬文史足レ用。❷書道をまなぶ。手習ひする。〔南史、徐伯珍傳〕伯珍少孤貧、學レ書無レ紙、常以二竹箭箬葉甘蕉及地上一學レ書。〔曾鞏、墨池記〕羲之嘗慕二張芝一、臨レ池學レ書、池水盡黑。

【學舒】134 ガクジヨ　明、董漢儒（9−31433··186）の字。

【學乘】135 ガクジヨウ　民國、章炳麟（8−25761··233）の初名。

【學植】136 ガクシヨク　學問の素養。學殖に同じ。〔晉書、王舒傳〕恆處二私門一、潛二心學植一。

【學殖】137 ガクシヨク　學問を積み蓄へる。學問の素養。學植。學力。〔左氏、昭、十八〕夫學、殖也、不レ殖將レ落。〔注〕殖、生長也 言、學之進レ德、如二農之殖一レ苗、日新日益。

【學心】138 ガクシン　學ばうとする心。向學心。〔荀子、正名〕以二仁心一說、以二學心一聽、以二公心一辨。〔注〕以二學心一聽、謂下悚敬而聽二他人之說一、不中爭辯上也。

【學賑】139 ガクシン　清代、極貧と次貧の學生を給與すること。〔清會典、戶部、田賦〕乾隆五十六年議准、各省額徵學租、應レ給二廩生及貧生一者、由二教官一確查、將二極貧次貧一、造二具清冊一、俟二學政案臨日一、投遞覈奪、卽於二三日內一、逐名面賑、如有二混冒等弊一、卽行二查參一。

【學箴】140 ガクシン　學問する者のいましめ。學生の心得。〔晉書、李充傳〕幼好二刑名之學一、深抑二虛浮之士一、嘗著二學箴一。

【學人】141 ガクジン　❶學藝を學ぶ人。〔左氏、昭公九〕學人舍レ業。❷清、徐永宣（4−10110··337）の字。

【學邃】142 ガクスイ　學問の奧深いこと。〔范成大、詩〕淹中學邃方成レ傳、谷口名高豈待レ卿。〔依田學海、西國喩言〕德高學邃。

【學正】143 ガクセイ　官名。宋代、國子監に學錄・學正を置き、學規を行ふことを掌らしめた。明・清、之に因る。又、州の儒學教官をも亦學正といふ。〔宋史、職官志五〕國子監、云云、正錄各五人、云云、季終考二于學諭一、次學錄、次學正、次博士、然後考二于長貳一。〔元史、選擧志一〕凡師儒之命二於朝廷一者、曰二教授一、路府上中州置レ之、命二於禮部及行省及宣慰司一者、曰二學正・山長・學錄・教諭一、路州縣及書院置レ之、路設二教授・學正・學錄各一員一、散府上中州設二教授一員一、下州設二學正一員一、縣設二教諭一員一、書院設二山長一員一。〔明史、職官志四〕儒學府、教授一人、訓導四人、州、學正一人、訓導三人、縣、教諭一人、訓導二人、教授・學正・教諭、掌三教二誨所屬生員一、訓導佐レ之。〔清會典、吏部、官制〕凡府廳儒學、設二教授訓導一、州儒學、設二學正訓導一、縣儒學、設二教諭訓導一、皆因レ地置レ員。〔清會典、禮部〕凡學皆設二學官一以課レ士、府曰二教授一、州曰二學正一、縣曰二教諭一。

【學生】144 ガクセイ　❶學問を修める者。學校の生徒。學徒。學者。〔後漢書、靈帝紀〕光和元年、始置二鴻都門學生一。〔顏氏家訓、勉學〕召二置學生一、親爲二教授一。〔唐書、選擧志上〕律學生五十人、書學生三十

人、算學生三十人。❷俗に弟子をいふ。〔通俗編、文學・學生〕按、此皆學校之生、今概呼二弟子一爲二學生一、非也。❸後輩が先輩に對する自稱。尊長に對する謙稱。〔留青日札〕宋陳省華對レ客、子堯叟等列侍、客不レ安、省華曰、學生列侍、常也。❹同官の自稱。〔稱謂錄、同官謙稱、學生〕詞林典故、故事翰林前輩稱二後輩一爲二老先生一、自稱二學生一、又翰林初見二前輩一、於二名柬一應レ稱二侍生一者、相見自稱曰二學生一、終身無レ改。❺［佛］（ガクシヤウ）寺院に寓して佛典以外の學問をするもの。〔寄歸傳、三〕凡諸・白衣、詣二苾芻所一、若專誦二佛典一、情希二落髮一、畢願二緇衣一、號爲二童子一、或求二外典一、無レ心二出離一、名曰二學生一。❻（ガクシヤウ）我が國でもと大學寮及び國學に籍を有した生徒。❼hsüeh^2 shêng ㋑商家の小僧。㋺男の子供。

【學制】146（ガクセイ）學校に關する事を定めた法則。學校の制度。〔宋史、汪澥傳〕爲二大司成一議二學制一。〔卻掃編〕宋城富人曹誠捐二私錢一建二書院一、邀二楚丘戚先生一主レ之、制爲二學規一、皆曲盡二人情一、及レ建二太學一、詔取以參二定學制一。

【學政】147（ガクセイ）❶教育上の行政。教育行政。〔周禮、春官、大司樂〕掌二成均之灋一、以治二建國之學政一、而合二國之子弟一焉。〔疏〕周人以二成均學之舊灋式一、以立二國之學內政教一也。❷清代、提督學政の簡稱。或は學政院ともいひ、俗に學臺ともいふ。清朝の教育制度で一省の學務を掌る官。十八省の各〻に一人を置く。京堂翰詹科道部曹の內より選派し、三年を以て任期とし、府州縣學の分教官を督率し、一省の教育を行はしむ。〔清會典事例、禮部、學校〕順治初、各省以レ次載定、設二提督順天學政一員一。〔歷代職官表、學政〕國朝官政、提督學政、云云、掌二直省學校生徒攷課黜陟之事一、以レ歲科二二試一、巡二歷所レ屬府州一、進二諸生一而掄二文藝一、程二品行一、升二其賢者能者一、斥二其不レ率レ教者一、凡興二革事宜一、皆會二督撫一以行レ之、三年而代。

【學政使】148（ガクセイシ）清代、一省の學事を總管する者。府州縣の學校教官を督理し、科擧の豫備試驗を行ふ職權を有す。中央政府の派遣に係り、任期を三年とす。學政ともいひ、又俗に學臺といふ。學差。〔清會典、吏部、官制〕學政、順天・山東・山西・河南・江蘇・安徽・江西・福建・浙江・湖北・湖南・陝西・甘肅・四川・廣東・廣西・雲南・貴州・各一人。

【學政全書】149（ガクセイゼンシヨ）書名。八十六卷。首一卷。清、王杰等奉敕撰。清朝の學制を研究するによき參考書。首に禮部奏摺、職名、及び目錄がある。其の目は臨雍事宜・召試事宜・學官事宜・學校條規・崇尚實學・釐正文體・整飭士習・鄉飲酒禮・講約事例・名宦鄉賢・承襲奉祀・頒發書籍・採訪遺書・書坊禁例・學政事宜・學政關防・學政按臨・考試事例・考試場規・生童試卷・考試題目・閱卷關防・臨文恭避・取錄經解・默寫經書・發案發落・解卷解刪・磨勘事例・提調事例・考覈教官・約束生監・優恤士子・擧報優劣・季考月課・幫補廩增・錄送科擧・罰贖對讀・學習序班・充補贊禮・挑選佾舞・寄籍入學・清釐籍貫・區別流品・丁憂告假・復姓改名・告給衣頂・開復事例・原名應試・捐復事例・貢監事例（上下）・貢監應試・童試事例・官學事例（上下）・旗學事例・駐防事例・順天事例・各省事例・商學事例・衞學場例・土苗事例・書院事例・義學事例・學額總例・八旗學額・十八省各學額・商籍學額・增廣學額。〔清史稿、藝文志〕。

【學省】150（ガクセイ／ガクシヤウ）大學をいふ。辟雍。〔唐書、歸崇敬傳〕古天子學、曰二辟雍一、亦曰二學省一。〔張耒、晚歸詩〕學省歸來門巷秋、伴レ眠書史滿二牀頭一。〔書言故事、學官類〕大學亦曰二學省一。

【學誠】151（ガクセイ）清の人。覺羅雅爾哈善の妹。字は丹奉。兄弟の輩次が第八であつたから、世に覺羅八姑といふ。讀書を好む。著に素言がある。

【學誠齋】152（ガクセイサイ）清、金張(**11**－40152‥844)の號。

【學籍】153（ガクセキ）在學中の學生生徒の氏名。生年月日・族籍・住所・保證人・保護者等を登錄したもの。

【學籍簿】154（ガクセキボ）在學中の學生・生徒・兒童の學籍を登錄する帳簿。

【學說】155（ガクセツ）❶學問上の論說。〔章炳麟、文學總略〕學說以啓二人思一、文辭以增二人感一。❷hsiao^2 shuo 言つてきかせる。

【學舌】156 hsiao^2 shê^2 口數が多い。多言。

【學川】157（ガクセン）曾谷之唯の號。曾谷學川(**5**－14299‥250)を見よ。

【學禪】158（ガクゼン）清、兪榕(**1**－1437‥72)の號。

【學租】159（ガクソ）學校に所屬する田地、卽ち、學田から上る金。學田(171)を見よ。〔六部成語、戶部、學租、注解〕官學校之田、收レ租以充二學資一。〔六部成語訂正、戶部、學租、注解〕官學校之田、歸二學官一收レ租以供レ用也。

【學僧】160（ガクソウ）❶佛教を研究する僧侶。〔高啓、贈二朱山人一詩〕學僧持二淨律一、避客錄二奇方一。❷學問のある僧侶。

【學則】161（ガクソク）❶學問をする者の規則。〔管子、弟子職〕先生施レ教、弟子是則、溫恭自虛、所レ受是極、見レ善從レ之、聞レ義則服、溫柔孝弟、毋二驕恃レ力、志毋二虛邪一、行必正直、游居有レ常、必就二有德一、顏色整齊、中心必式、夙興夜寐、衣帶必飭、朝益暮習、小心翼翼、一レ此不レ解、是謂二學則一。❷學校の規則。校規。

【學臺】162 hsüeh^2 tʻai^2 學政使(148)の俗稱。

【學堂】163（ガクダウ）❶學術を教授する所。學校。〔北史、辛昂傳〕昂到レ縣、便與二諸生一祭二文翁學堂一。〔通俗編、文學、學堂〕傳燈錄、洪諲有下自レ小不三曾入二學堂一語上。❷男の兒を合葬したところ。女の子を合葬したところを繡堂といふに對する語。〔章學誠、信撫〕小兒死者共葬二一處一、謂二之學堂一、小女共葬二一處一、謂二之繡堂一。❸人相家が耳に近い所を指していふ。學館。〔太清神鑑〕學堂爲二聰明之館一、故近二於耳門之前一。〔唐書、袁天綱傳〕天綱視二岑文本一曰、學堂瑩夷、眉過レ目、故文章振二天下一。

【學道】164（ガクダウ）❶道をまなぶ。道藝をまなぶ。〔禮、燕義〕凡國之政事、國子存二游卒一、使二之脩レ德學レ道。〔疏〕使下之脩二行其德一、學中習道藝上也。〔論語、陽貨〕君子學レ道、則愛レ人、小人學レ道、則易レ使也。〔史記、孔子弟子傳〕原憲曰、無レ財者、謂二之貧一、學レ道而不レ能レ行者、謂二之病一。❷清代、一省の教育學務を掌る官。學政(147)の❷・學院(7)の❶を見よ。

【學彈】165 hsiao^2 tʻan^2 彈奏をまなぶ。音樂を習ふ。

【學長】166（ガクチヤウ）❶學生の長。同學者中の長。〔能改齋漫錄〕眞宗謂二張耆等一曰、知二汝等好學一、吾當二親爲二教授一、耆等拜曰、實臣等之幸也、乃命二張耆一爲二學長一、張宗爲二副學長一、安守中而下爲二學生一。❷大學の學事を統率する者。

【學仲】167（ガクチユウ）清、錢東塾(**11**－40563‥404)の字。

【學直】168（ガクチヨク）王府の官吏が、交替に府中に宿直して顧問の任に當つたことをいふ。〔唐書、裴耀卿傳〕遷二祕書省正字一、相二王府典籤一、與二掾丘悅、文學韋利器一、更直備二顧問一、府中號二學直一。〔海錄碎事、臣職、東宮官〕裴耀卿輔二相王府典籤一、與二掾丘悅、文學韋利器一、更直二府中一、以備二顧問一、稱爲二學直一。

【學亭】169（ガクテイ）清、葉方恆(**9**－31387‥252)の號。

【學庭】170（ガクテイ）❶まなびのには。學校。〔晉書、虞溥傳〕年盛志美、始涉二學庭一。❷清、伊都立(**1**－432‥168)の字。

【學田】171（ガクデン）學校維持のため官から給する田地。宋の仁宗が初めて各郡に學田を賜はり、明の太宗に至つて其の制を定めた。府學・州學・縣學の三等に分け、學租の官に入るものは悉く學校に歸し、祭祀及び師生の扶持米に供した。清初には直省に令して各〻學田を置き、專ら修學及び貧士に賑給した。〔文獻通考、田賦考、屯田〕宣和三年十月、尙書省言、諸路學田幷西南外宗室財用司田產、元所レ給佃租課太輕、不レ足二於用一。〔續文獻通考、田賦考、官田〕洪武十五年四月、定二天下學田之制一、時天下郡縣竝建二廟學一、帝喩二禮部尙書劉仲質一曰、凡府州縣學田租入レ官者、悉歸二於學一、以供二祭祀及師生俸廩一、仲質奏、前代學田多寡不レ同、宜レ一二其制一、乃詔定爲二三等一、府學一千石、州學八百石、縣學六百石、應天府學一千六百石、各設二吏一人一、以司二出納一、師生月給二廩膳米一石一。〔清會典、戶部〕凡田地之別有二學田一。〔注〕各省皆設有二學田一、以爲二學中公費一、直隸・山東・江蘇・安徽・江西・福建・浙江・湖北・湖南・四川・雲南、所レ設學田、卽在二民田數內一、其山西・河南・陝西・甘肅・廣東・廣西・貴州、則於二民田之外一、另設二學田一、免二其民田科則一。

【學徒】172（ガクト）❶學問修業の生徒。學生。〔後漢書、鄭玄傳〕玄自二游學一、十餘年、乃歸二鄉里一、家貧客二

耕東萊一、學徒相隨、已數百千人。〔晉書、袁瓌傳〕給二其宅地一備二其學徒一。㊁㋑hsiao² t'u² 商店の小僧。徒弟。丁稚。㋺hsüeh² t'u² 藝人の自稱。

【學等】173ガクトウ 其の才の等級によつて學ばせること。〔禮、樂記〕然後立二之學等一、廣二其節奏一、省二其文采一、以繩二德行一。〔注〕等、差也、各用二其才之差一學レ之。〔疏〕立二之學等一、使下依二其才藝等級一而教中學之上。〔史記、樂書〕立二之學等一。

【學統】174ガクトウ ㊀學問の系統。㊁書名。五十六卷。清、熊賜履撰。學の系統を論じて、孔子・顏子・曾子・子思・孟子・周子・二程子・朱子の九人を正統とし、閔子以下、明の羅欽順に至る二十三人を翼統とし、冉伯牛以下、明の高攀龍に至る百七十八人を附統、荀子以下、明の王陽明に至る七人を雜統、老・莊・楊・墨・告子及び二代の流を異統として、其の傳記を收む。〔四庫提要、史、傳記類存目〕。

【學董】175 hsüeh² tung³ 學務委員。

【學燈】176ガクトウ 學問の燈臺。學界の光明。

【學頭】177ガクトウ ㊀勸學院の職員で、別當の次に位す。學生の中から才學のすぐれたものを選拔して補す。〔中右記、長治元年二月二日〕以二學生藤宗行一、可レ補二學頭一之由被レ仰。㊁社僧の職名。〔鶴岡八幡宮學頭職次第〕建仁元、八、十八、尊曉別當、始置二學頭一被レ補レ之。㊂學校長、又は主席の教師などをいふ。

【學童】178ガクドウ 幼い學生。小學生徒。學僮。〔漢書、藝文志〕漢興、蕭何草レ律、亦著二其法一曰、太史試二學童一、能諷二書九千字以上一、乃得レ爲レ史。

【學僮】179ガクドウ 幼い學生。學童に同じ。〔許愼、說文解字敍〕尉律、學僮十七已上、始試二諷籒書九千字一、乃得レ爲レ史。

【學得】180ガクトク 學んで會得すること。〔嵇康、養生論〕神仙可二以學得一。

〔學得來〕181 hsiao² tê lai² 學ぶことが出來る。

【學德】182ガクトク 學問と德行。

【學年】183ガクネン 學校で便宜上一年每に區分した各修業期間。

【學派】184ガクハ 學問上の流派。其の本づく精神、又は研究法を異にするに從つて、各一流をなした系統。學流。〔書林淸話、版本之名稱〕近人言二藏書一者、分二目錄・板本一爲二兩種學派一。

【學廢】185ガクハイ 學問がすたれる。〔陸游、新闢二小園一詩〕學廢僅能書二姓字一、客來嬾三復倒二衣裳一。

〔學廢行壞〕186ガクスタレオコナヒヤブル 學問がすたれ品行がみだれる。〔三島中洲、書二一松學舍生徒寫眞圖背一〕余與二諸子一、學廢行壞。

【學房】187 hsüeh² fang² 學問するへや。研究室。學校。塾。

【學博】188ガクハク 官學の教授。州縣學の教官。唐代、經學博士が五經を學生に教授したことから轉じたもの。〔稱謂錄、教職、學博〕文獻通考、唐府郡置二經學博士各一人一、掌下以二五經一教中授學生上、多寒門鄙儒爲レ之、案、今稱二教官一爲二學博一、由レ此。

【學閥】189ガクバツ 學校又は學派の閥。同じ學校の出身者が其の學校又は學派の有力なのを恃んで黨派を設けて他を排斥すること。

【學法】190ガクハフ 法をまなぶ。〔漢書、于定國傳〕定國少學二法于父一、父死後、定國亦爲二獄史郡決曹一。

〔學法女〕191ガクホフニヨ 佛有髮の尼をいふ。〔稱謂錄、尼、學法女〕釋氏要覽、梵語式叉摩耶、此言二學法女一、卽今之有髮尼也。

【學班】192 hsüeh² pan¹ 學級。學生の組。

【學費】193ガクヒ ㊀學校の經費。學校の經營費。〔宋史、食貨志下七〕崇寧二年十月、諸路官鹽酒直、上者、升增二錢一二、中下增レ一、以充二學費一。〔廣治平略〕宋朝郡縣田租・屋課・息錢之類、以爲二學費一。㊁學問の修業に要する費用。學資。

【學顰】194ガクヒン 徒らに他人の物まねをすること。美人が顏をしかめたから、自分も顏をしかめればよいと合點すること。顰は矉と同じ。效顰。〔莊子、天運〕西施病レ心而矉二其里一、其里之醜人見而美レ之、歸亦捧レ心而矉二其里一、其里之富人見レ之、堅閉レ門而不レ出、貧人見レ之、挈二妻子一而去レ之走、彼知レ美レ矉、而不レ知三矉之所二以美一。〔晉書、戴逵傳〕美二西施一而學二其顰一。

【學敏】195ガクビン 明、林時(6−14551··121)の字。

【學府】196ガクフ ㊀學問の大家。學問の蘊蓄の深い人。府は、府庫の意。〔南史、傅昭傳〕傅昭博二極古今一、尤善二人物一、魏晉以來、官宦簿伐姻通、內外學而論レ之、無レ所二遺失一、世稱爲二學府一。〔陳後主、授二江總尙書令一冊文〕勝範淸規、風流以爲二準的一、辭宗學府、衣冠以爲二領袖一。㊁學術の中心となる場所。〔晉書、儒林傳論〕范平等學府儒宗、譽隆望重。

【學部】197ガクブ ㊀淸末、科擧を廢し、光緖三十一年九月、學堂教育を主とする目的を以て舊來の總理學務處を改造し、全國の教育事務を統轄せしめた役所。總務・普通・專門・實業・會計の各司があつた。〔淸國行政法汎論、新設部、民政學部及郵傳部〕去年改二定官制一之時、新設二置此三部一、然今無レ由レ知二其組織權限一。㊁もと豫科のある大學で、本科をいふ。新制では、大學で專攻學科の領域によつて大別した部。文學部・理學部の類。

【學風】198ガクフウ ㊀學問上の好尙・態度・傾向。㊁學校の氣風。校風。

【學文】199ガクブン ㊀書物を學ぶ。〔論語、學而〕行有二餘力一、則以學レ文。㊁學問と作文。〔論衡、超奇〕著書之人、博覽多聞、學問習熟、則能推レ類興レ文、文由レ外而興、未二必實才學文相副一也。

【學文齋】200ガクブンサイ 元、段天祐(6−16619··99)の「號。

【學文堂】201ガクブンダウ 淸、陳玉璂(11−41698··754)の室名。

〔學文路〕202カムロ 紀伊國の地名。

【學廟】203ガクベウ 學校に在る孔子廟。歷代の學宮には皆孔子を祀る。〔楊炯、遂州長江縣孔子廟堂碑〕咸亨元年、又詔二州縣官司一、營二葺學廟一。

【學步】204ガクホ 步き方を學ぶ。自己の本分を棄てて他人の眞似をし、兩つながら失ふ喩。學二步於邯鄲一(6−16264··147)を見よ。〔鮑照、侍郎報滿辭閣表〕畫レ虎既敗、學レ步無レ成。〔李郵、答二徐陵書一〕嚬レ眉雖レ巧、學レ步非レ工。

【學甫】205ガクホ 明、王崇古(7−20823··1747″)の「字。

【學圃】206ガクホ ㊀野菜を作ることを學ぶ。〔論語、子路〕樊遲請レ學レ稼、子曰、吾不レ如二老農一、請レ學レ爲レ圃、曰、吾不レ如二老圃一。〔集注〕種二五穀一曰レ稼、種二蔬菜一曰レ圃。〔唐庚、詩〕著レ書防二惡客一、學レ圃問二隣翁一。〔朱熹、次二秀野種レ粟韻一詩〕舊喜二樊遲知レ學レ圃、今看二許子快レ論レ功。㊁明、余翹(1−514··3)の室名。㊂字號。㋑淸、張浩(4−9812··109)の字。㋺淸、來保(1−581··226)の字。㋩淸、王學浩(7−20823··1265)の號。

〔學圃堂〕207ガクホダウ 明、唐寅(2−3709··7)の室名。

【學俸】208ガクホウ 學問を修めるために與へられる給料。〔朱潤、德政碑詩〕城中書生無二學俸一、但得レ錢多作二好頌一。

【學僕】209ガクボク 師家の僕となつて、傍ら修學する「者。

【學民】210ガクミン 學問を修めた民。智識階級。〔商子、農戰〕國有レ事則學民惡レ法、商民善化、技藝之民不レ用、故其國易レ破也。

【學務】211ガクム 學問・教育に關する事務。

〔學務委員〕212ガクムヰヰン 市町村などで、其の小學校教育事務のために設けていた常務委員。

【學名】213ガクメイ ㊀漢代、一家を立てた學の名をいふ。〔春秋經傳集解、隱第一、杜氏、疏〕劉炫云、不レ言レ名而云レ氏者、漢承二焚書之後一、諸儒各載二學名一、不三敢布二於天下一。㊁動植物・醫學などで、便宜上つけた萬國共通の名。㊂兒童が入學する時つける名。〔通俗編、文學、學名〕按、今人多於二初就レ傅時一定レ名、故謂レ名曰二學名一。

【學門】214ガクモン 學舍の門。〔歐陽脩、吉州學記〕幸予他日因レ得三歸二榮故鄕一、而謁二於學門一。

【學問】215ガクモン ㊀知らないことを學び、疑はしいことを問ふ。學び習ふ。又、その事。〔易、乾〕（文言曰）君子學以聚レ之、問以辨レ之。〔中庸〕博學レ之、審問レ之、愼思レ之、明辨レ之、篤行レ之、有レ弗レ學、學レ之弗レ能弗レ措也、有レ弗レ問、問レ之弗レ知弗レ措也。〔孟子、滕文公上〕吾他日未二嘗學問一、好馳レ馬試レ劍。〔孟子、告子上〕學問之道無レ他、求二其放心一而已矣。〔荀子、勸學〕不レ聞二先王之遺言一、不レ知二學問之大一也。〔漢書、淮南厲王長傳〕貴二布衣一劍之任一、賤二王侯之位一、不レ知、不レ好三學二問大道一、觸レ情妄行。〔淮南子、脩務訓〕不レ待二學問一而合二於道一者、堯舜文王也。㊁鶡冠子の篇名。

〔學問所〕216ガクモンジヨ 學問する室。書院。書齋。〔東鑑、二十一〕建曆三年二月二日、昵近祗候人中、撰二藝能之輩一被二結番一、各當番日者、不レ去二御學問所一令二參候一。

〔學問思辨之功〕217ガクモンシベンノコウ 博學(廣く學ぶ)・

審問（つまびらかに問ふ）・愼思（愼重に思考する）・明辨（明かに判別する）の功。學問の❶を見よ。〔愼思錄、一〕學問思辨之功、所㆓以不㆑可㆑闕也。

【學庸】218 ガクヨウ　大學と中庸。〔明外史、黃潤玉傳〕黃潤玉、字孟清、鄞人、以㆓大學中庸詞旨淵奧㆒、乃撰㆓學庸通旨㆒。

〔學庸正說〕219 ガクヨウセイセツ　書名。三卷。明、趙南星撰。大學中庸を解いたもの。〔四庫提要、經、四書類〕。

【學佬】220 ガクラウ　漢族の一派と稱せられる福佬をいふ。廣東の東北部、潮州、汕頭一帶の地に住居する民。

【學瀾】221 ガクラン　清、程德洽（**8−25081**‥270）の字。

【學覽】222 ガクラン　ものしり。博學廣覽。〔郭璞、爾雅序〕誠九流之津涉、六藝之鈐鍵、學覽者之潭奧、摛翰者之華苑也。〔疏〕雖㆓博學廣覽之士㆒、莫㆔能究㆓淵深隱奧㆒。

【學理】223 ガクリ　學問上の理論。

〔學理的〕224 ガクリテキ　事を論じ或は行ふに當り、學理を基礎とする態度。

【學裏】225 ガクリ　學校のうち。〔福惠全書、刑名部、問疑〕陳國相到㆓學裏㆒。

【學流】226 ガクリウ　學問上の意見の相違によつて生ずる派別。學派（184）に同じ。〔北史、魏收傳〕收所㆑引史官、恐㆓其陵逼㆒、唯取㆓學流先相依附者㆒。

【學侶】227 ガクリヨ　❶學問上の友達。學友。〔梁昭明太子、謝㆓敕參解講㆒啓〕仰承㆓皇威㆒、訓㆓茲學侶㆒。〔梁簡文帝、徵君何先生墓誌〕學侶成㆑羣。❷學問する僧侶。學僧。〔梁簡文帝、大法頌〕法徒學侶、塵沙堵牆。

【學力】228 ガクリヨク　❶學問の力量。又、學問を活用する力。〔范成大、詩〕學力根深方帶固、功名水到自渠成。〔朱熹、二詩奉㆑酬㆓敬夫贈㆒言㆓幷以爲㆑別詩〕云何學力微、未㆑勝㆓物欲昏㆒。❷學び力めること。〔王令、詩〕貧知㆓身責重㆒、病覺㆓學力怠㆒。❸學問の効力。〔韓愈、符讀㆓書城南㆒詩〕欲㆑知㆓學之力㆒、賢愚同一初、由㆓其不㆑能㆑學、所㆑入遂異㆑閭。

【學林】229 ガクリン　❶學問の盛なところ。文學の林藪。又、學界の中心。〔漢書、敍傳下〕函㆓雅故㆒、通㆓古今㆒、正㆓文字㆒、惟㆓學林㆒。〔注〕師古曰、信惟㆓文學之林藪㆒也。〔南史、王僧孺傳〕僧孺與㆓高平徐夤㆒、俱爲㆓學林㆒。❷學校に附屬してゐる林。❸書名。十卷。宋、王觀國撰。學林新編の略稱。字體・字義・字音を辨別し、經史諸書の箋釋注疏の文の異同を列記し、得失を考究す。前人未發の所が多い。〔四庫提要、子、雜家類〕。❹佛僧侶の學校。

【學林堂】230 ガクリンダウ　清、勞權（**2−2410**‥43）の室名。

【學禮】231 ガクレイ　❶禮をまなぶ。〔禮、禮器〕忠信之人、可㆓以學㆑禮。〔論語、季氏〕鯉趨而過㆑庭、曰、學㆑禮乎、對曰、未也、不㆑學㆑禮、無㆓以立㆒、鯉退而學㆑禮。〔左氏、昭、七〕使㆓事㆑之而學㆑禮焉。〔史記、留侯世家〕良嘗學㆓禮淮陽㆒。❷學校の規則。〔新書、保傅〕學禮曰、帝入㆓東學㆒、上㆑親而貴㆑仁。❸清、王禮（**7−20823**‥1088）の初名。

〔學禮質疑〕232 ガクレイシツギ　書名。二卷。清、萬斯大撰。古禮を考辨し、新說が精確である。〔四庫提要、經、禮類〕。

【學齡】233 ガクレイ　義務教育を受くべき年齡。小學校就學の義務を生ずる年齡。滿六歲。

【學寮】234 ガクレウ　❶學校內で生徒の寄宿する所。又、寺院で徒弟の修學する所。〔孚常磐、一〕諸堂・學寮一宇も殘らず回祿に及び候。❷江戶時代、聖堂に屬する生徒の寮室。

【學曆】235 ガクレキ　學校で其の學年度中の行事を豫め記した表。學年曆。

【學歷】236 ガクレキ　學事上の經歷。

【學廬】237 ガクロ　學問を授ける屋舍。學舍。學校（26）に同じ。〔後漢書、邊讓傳〕及㆑就㆓學廬㆒、便受㆓大典㆒。

【學錄】238 ガクロク　官名。宋代、國子監に學正・學錄各各五人を置き、明・清、皆之を設けた。〔宋史、職官志五〕國子監、云云、正錄各五人、云云、季終考㆓于學諭㆒、次學錄、次學正、次博士、然後考㆓于長貳㆒。〔宋史、陸九齡傳〕入㆓太學㆒、司業汪應辰擧爲㆓學錄㆒。〔明史、職官志二〕國士監、云云、學正十人、學錄七人。〔歷代職官表、國子監、國朝官制〕六堂助教、掌㆑教㆓八旗直省俊選之士㆒、學正・學錄爲㆓之貳㆒。

【學話】239 hsiao^2 hua^4　語學をまなぶ。

【好㆑學】240 ガクヲコノム　學問を好む。〔論語、學而〕君子食無㆑求㆑飽、居無㆑求㆑安、敏㆓於事㆒而愼㆓於言㆒、就㆓有道㆒而正焉、可㆑謂㆑好㆑學也已。〔論語、公冶長〕敏而好㆑學、不㆑恥㆓下問㆒。

〔好㆑學不㆑倦〕241 ガクヲコノンデウマズ　學問に熱心なこと。〔史記、楚世家〕有㆑寵㆓於獻公㆒、好㆑學不㆑倦。

〔好㆑學近㆓乎知㆒〕242 ガクヲコノムハチニチカシ　學を好むものは、完全な知とは言へないが、知に近いものである。學問すれば愚を破るに足るからいふ。〔中庸〕子曰、好㆑學近㆓乎知㆒、力行近㆓乎仁㆒、知㆑恥近㆓乎勇㆒。〔章句〕故好㆑學非㆑知、然足㆓以破㆑愚。

【學耕堂】243 ガクカウダウ　清、黃丕烈（**12−47926**‥1296）の室名。

【學學半】244 ヲシフルハマナブノナカバナリ　人に教へることは、己の學ぶ半ばをなすものである。教へることに依つて學問の上達するをいふ。斅學半（**5−13431**‥2）を見よ。〔禮、學記〕兌命曰、學學半、其此之謂乎。〔注〕言、學㆑人、乃益㆓己之學半㆒。〔疏〕學學半者、上學爲㆑教、音教、下學者、謂㆑習也。〔釋文〕學學、上胡孝反、又音教、下如㆑字。

【學課錢】245 ガククワセン　學問の入用金。〔通俗編、文學、學課錢〕元曲選金錢記、見㆓此三字㆒。

【學詁齋】246 ガクコサイ　清、薛壽（**9−32123**‥73）の號。

【學孔堂】247 ガクコウダウ　龜田長保の號。龜田鶯谷（**12−48847**‥168）を見よ。

【學祭田】248 ガクサイデン　清代、學校及び祠宇廟社に所屬する田をいふ。〔清會典、戶部、田賦〕在京壇壝及直省社・稷・山・川・學校・祠・墓・厲壇・寺觀・祭田等項、直隸十有九頃二十四畝零。〔六部成語、戶部、學祭田、注解〕各學校祠廟所㆑屬之田也。

【學時髦】249 hsiao^2 shih^2 mao^2　流行を眞似る。

【學須㆑靜】250 ガクハスベカラクシヅカナルベシ　學業を修めるには、心氣を靜め、一意專心其の業を成すべきである。〔諸葛亮、誡㆑子書〕君子之行、靜以脩㆑身、儉以養㆑德、非㆓澹泊㆒無㆓以明㆑志、非㆓寧靜㆒無㆓以致㆑遠、夫學須㆑靜也、才須㆑學也。

【學壽齋】251 ガクジユサイ　清、張廷濟（**4−9812**‥1379）の號。

【學膳費】252 ガクゼンヒ　學費と食費とをいふ。學資。

【學耨齋】253 ガクドウサイ　清、王崇炳（**7−20823**‥1749）の號。

【學半齋】254 ガクハンサイ　細合方明の號。細合斗南（**8−27344**‥330）を見よ。

【學半堂】255 ガクハンダウ　山本信有の號。山本北山（**4−7869**‥991）を見よ。

【學伴兒】256 hsüeh^2 pan^4 êrh　學友。

【學不來】256′ hsiao^2 pu^4 lai^2　むつかしくて學ばれない。

【學福齋】257 ガクフクサイ　清、沈大成（**6−17189**‥591）の號。

【學無學】258 ガクムガク　佛眞理を研究して妄惑を斷ずるを學といひ、眞理究り妄惑が盡きて、更に修學すべきもののなきを無學といふ。〔法華經、序品〕學無學二千人。

〔學無學人〕259 ガクムガクジン　清、吳雯（**2−3365**‥373）の室名。

【學餘堂】260 ガクヨダウ　清、施閏章（**5−13629**‥156）の號。

〔學餘堂文集〕261 ガクヨダウブンシフ　書名。文集二十八卷。詩集五十卷、外集二卷。清、施閏章撰。詩文を收む。〔四庫提要、集、別集類〕。

【不㆑暇㆑學】262 マナブニイトマアラズ　仕事がいそがしくて、勉強する時間がない。〔淮南子、說山訓〕謂㆓學不㆑暇者、雖㆑暇亦不㆑能㆑學矣。〔注〕言㆘有㆓事務㆒不㆖暇㆑學、如㆓此曹㆒之人、雖㆓閑暇無㆑務、亦不㆑能㆑學也。

【學該識明】263 ガクカネシキアキラカナリ　學問はひろく、知識は明晰である。學識が古今東西に涉つて明かであること。〔重野成齋、佐久間象山碑〕蓋二子學該識明、通㆓達內外㆒。

【學鏡㆓千古㆒】264 ガクセンコニアキラカナリ　古今の學問に精通してゐる。〔李白、秋日於㆓太原南柵㆒餞㆔陽曲王贊公・賈少公・石艾尹少公應㆑擧赴㆓上都㆒序〕學鏡㆓千古㆒、智周㆓萬殊㆒。

【學虛才淺】265 hsüeh^2 hsü^1 tsʻai^2 chʻien^3　淺學短才な。無學不才な。

【學貫㆓天人㆒】266 ガクテンジンヲツラヌク　學問して天理と人道とをきはめ盡くすこと。〔朴趾源、農說〕紫陽夫子、學貫㆓天人㆒。

【學原㆓於思㆒】267 ガクハオモフニモトヅク　學問は思ふといふことが根本である。學問は思索することから始まる。〔近思錄、致知〕學原㆓於思㆒。〔集注〕朱子曰、

學原二於思一、思所三以起二發其總明一。

【學孔精舍】268 ガクコウセイシヤ　明、孫應鼇（3－6987‥336）の室名。

【學如レ穿レ井】269 ガクハセイヲウガツガゴトシ　學問は井戸を穿つやうなものだ。すればする程むつかしくなる喩。〔雲笈七籤〕學レ道當レ如レ穿レ井、井愈深、土愈難レ出、不下堅二其心一正中其行上、豈得レ見二泉源一也。

【學如レ不レ及】270 ガクハオヨバザルガゴトクス　學問をするには、逃げる者を追つて及ばざるが如くすべきである。一寸も怠つてはならぬ喩。〔論語、泰伯〕子曰、學如レ不レ及、猶恐レ失レ之。〔集說〕案、學當レ如下追二逃者一而不上能レ及、然猶恐レ失レ之。

【學津討原】271 ガクシンタウゲン　叢書の名。二十集、百九十餘種。清、張海鵬撰。四庫に著錄したものを集め、提要に僞撰と斷じたものは之を去る。學津の名は劉勰新論の道象之妙、非レ言不レ津、津言之妙、非レ學不レ傳の語に本づく。其の目は、【第一集】子夏易傳十一卷（周、卜商）、周易集解十七卷（唐、李鼎祚）、蘇氏易傳九卷（宋、蘇軾）、京氏易傳三卷（漢、京房）、關氏易傳一卷（北魏、關朗）、周易略例一卷（晉、王弼）、周易擧正三卷（唐、郭京）、正易心法一卷（宋、麻衣道者）。【第二集】尙書鄭注十卷（漢、鄭玄）、尙書中候鄭注五卷（漢、鄭玄）、東坡書傳二十卷（宋、蘇軾）、詩序一卷・詩考一卷（宋、王應麟）、詩地理攷六卷（宋、王應麟）、草木鳥獸蟲魚毛詩陸疏廣要四卷（明、毛晉）、韓詩外傳十卷（漢、韓嬰）。【第三集】太平經國之書十一卷（宋、鄭伯謙）、儀禮逸經傳二卷（元、吳澄）、春秋微旨三卷（唐、陸淳）、春秋金鎖匙一卷（元、趙汸）、春秋胡傳考誤一卷（明、袁仁）、癸巳論語解十卷（宋、張栻）、溫公書儀十卷（宋、司馬光）、皇祐新樂圖記三卷（宋、阮逸等）。【第四集】爾雅鄭注三卷（宋、鄭樵）、爾雅翼三十二卷（宋、羅願）、急就篇四卷（漢、史游）、九經補韻一卷（宋、楊伯嵒）、毛詩古音考六卷・附讀詩拙疑一卷・附一卷（明、陳第）、屈宋古音義三卷（明、陳第）。【第五集】稽古錄二十卷（宋、司馬光）、通鑑地理通釋十四卷（宋、王應麟）、續宋編年資治通鑑十五卷（宋、劉時擧）、宋季三朝政要六卷。【第六集】西京雜記六卷（梁、吳均）、大唐創業起居注三卷（唐、溫大雅）、吳越備史四卷・補遺一卷（宋、錢儼）、靖康紀聞一卷・拾遺一卷（宋、丁特起）、北狩見聞錄一卷（宋、曹勛）、建炎維揚遺錄一卷・建炎復辟記一卷・松漠紀聞一卷・續一卷（宋、洪皓）、西使記一卷（元、劉郁）、燕翼貽謀錄五卷（宋、王栐）、庚申外史一卷（明、權衡）、復辟錄一卷（明、楊暄）、綏寇紀略十二卷・補遺三卷（清、吳偉業）。【第七集】洛陽伽藍記五卷（後魏、楊衒之）、洛陽名園記一卷（宋、李格非）、東京夢華錄十卷（宋、孟元老）、夢粱錄二十卷（宋、吳自牧）、吳地記一卷・後集一卷（唐、陸廣微）、吳郡圖經續記三卷（宋、朱長文）、佛國記一卷（宋、釋法顯）、諸蕃志二卷（宋、趙汝适）、益部方物略記一卷（宋、宋祁）、閩中海錯疏三卷（明、屠本畯）、海語三卷（明、黃衷）。【第八集】漢制考四卷（宋、王應麟）、唐國史補三卷（唐、李肇）、玉堂雜記三卷（宋、周必大）、明宮史五卷（明、劉若愚）、州縣提綱四卷（宋、陳襄）、官箴一卷（宋、呂本中）、晝簾緒論一卷（宋、胡太初）、唐史論斷三卷（宋、孫甫）、通鑑問疑一卷（宋、劉羲仲）、泉志十五卷（宋、洪遵）、子略四卷・目一卷（宋、高似孫）。【第九集】周髀算經二卷（宋、李籍）、數術記遺一卷（漢、徐岳）、焦氏易林四卷（漢、焦延壽）、元包五卷・元包數總義二卷（後周、衞元嵩等）、六經天文編二卷（宋、王應麟）、宅經二卷・葬經一卷（秦、青烏先生）、葬書一卷（晉、郭璞）、葬經翼一卷（明、繆希雍）。【第十集】齊民要術十卷（後魏、賈思勰）、耒耜經一卷（唐、陸龜蒙）、紀效新書十八卷（明、戚繼光）、八陣圖合變說一卷（明、龍正）、增廣太平惠民和劑局方十卷・用藥總論三卷。【第十一集】法書要錄十卷（唐、張彥遠）、歷代名畫記十卷（唐、張彥遠）、圖畫見聞志六卷（宋、郭若虛）、宣和書譜二十卷・宣和畫譜二十卷・畫繼十卷（宋、鄧椿）。【第十二集】忠經一卷（漢、馬融）、鶡冠子二卷・郁離子二卷（明、劉基）、意林五卷（唐、馬總）、李氏刊誤二卷（唐、李涪）、攷古編十卷（宋、程大昌）、演繁露十六卷・演繁露續集六卷（宋、程大昌）、西溪叢語二卷（宋、姚寬）、學齋佔畢四卷（宋、史繩祖）。【第十三集】封氏見聞記十卷（唐、封演）、東觀餘論二卷（宋、黃伯思）、夢溪筆談二十六卷・補筆談一卷・續筆談一卷（宋、沈括）、宋景文筆記三卷（宋、宋祁）、芥隱筆記一卷（宋、龔頤正）、文昌雜錄七卷（宋、龐元英）、鼠璞二卷（宋、戴埴）、祛疑說一卷（宋、儲泳）。【第十四集】春明退朝錄三卷（宋、宋敏求）、避暑錄話二卷（宋、葉夢得）、曲洧舊聞十卷（宋、朱弁）、卻掃編三卷（宋、徐度）、齊東野語二十卷（宋、周密）。【第十五集】冷齋夜話十卷（宋、釋惠洪）、春渚紀聞十卷（宋、何薳）、師友談記一卷（宋、李廌）、東坡志林五卷（宋、蘇軾）、老學庵筆記十卷（宋、陸游）、貴耳集三卷（宋、張端義）、閒居錄一卷（元、吾衍）、瑯嬛記三卷（元、伊世珍）、學古編一卷（元、吾衍）、丸經二卷・歙州硯譜一卷（宋、唐積）、歙硯說一卷・辨歙硯說一卷・硯史一卷（宋、米芾）、端溪硯譜一卷・墨經一卷（宋、晁季一）、雲林石譜三卷（宋、杜綰）、香譜二卷・茶經三卷（唐、陸羽）、糖霜譜一卷（宋、王灼）。【第十六集】搜神記二十卷（晉、干寶）、搜神後記十卷（晉、陶潛）、異苑十卷（宋、劉敬叔）、酉陽雜俎二十卷・續十卷（唐、段成式）、開天傳信記一卷（唐、鄭綮）、杜陽雜編三卷（唐、蘇鶚）、甘澤謠一卷（唐、袁郊）、劇談錄一卷（唐、康駢）、前定錄一卷・續一卷（唐、鍾輅）、稽神錄六卷・遺一卷（宋、徐鉉）。【第十七集】唐摭言十五卷（五代、王定保）、鑒誡錄十卷（五代、何光遠）、南部新書十卷（宋、錢易）、涑水紀聞十六卷（宋、司馬光）、王文正筆錄一卷（宋、王曾）、歸田錄二卷（宋、歐陽脩）、國老談苑二卷（宋、王君玉）、茆亭客話十卷（宋、黃休復）、道山清話一卷・孫公談圃三卷（宋、劉延世）、湘山野錄三卷・續一卷（宋、釋文瑩）。【第十八集】邵氏聞見前錄二十卷（宋、邵伯溫）、邵氏聞見後錄三十卷（宋、邵博）、揮麈前錄四卷・後錄十一卷・三錄三卷・餘話二卷（宋、王明清）、玉照新志五卷（宋、王明清）。【第十九集】桯史十五卷・附一卷（宋、岳珂）、癸辛雜志一卷・後集一卷・續集二卷・別集二卷（宋、周密）、錦帶一卷（梁、蕭統）、歲華紀麗四卷（唐、韓鄂）、龍筋鳳髓判二卷（唐、張鷟）、蒙求集注二卷（後、晉李瀚）。【第二十集】道德指歸論六卷（漢、嚴遵）、古文參同契集解三卷（明、蔣一彪）、胎息經一卷・眞誥二十卷（梁、陶宏景）、象教皮編六卷（明、陳第元）、樂府古題要解二卷（唐、吳兢）、詩品三卷（梁、鍾嶸）、誌品二十四則一卷（唐、司空圖）、風騷旨格一卷（唐、釋齊己）、四六話二卷（宋、王銍）、四六談麈一卷（宋、謝伋）。

【學靜草廬】272 ガクセイサウロ　清、王寧煒（7－20823‥2004）の室名。

【學積成レ聖】273 ガクツミテセイトナル　學問の修養を積み重ねて後、知德圓滿な聖人となる。〔謝靈運、辨宗論、答二法勖問一〕是故傍二漸悟一者、所三以密造二頓解一、倚二孫教一者、所三以潛成二學聖一。

【學膳室費】274 hsüeh^2 shan^4 shih^4 fei^4　學費中の月謝・食料・室代等をいふ。

【學足二三餘一】275 ガクハサンヨニタル　學問するには、冬・夜・陰雨の三餘の時間を以てすれば十分である。三餘（1－12‥1713）の➊を見よ。〔魏略〕董遇善治二老子・左氏傳一、人有二從學者一云、苦二渴無一レ日、遇言、當レ以二三餘一、或問二三餘之意一、遇言、冬者、歲之餘、夜、日之餘、陰雨、時之餘也。

【學治臆說】276 ガクチオクセツ　書名。一卷。續編一卷。清、汪輝祖撰。輝祖は乾隆の時の循吏。牧令職務を論じ、實用に適する。〔讀畫齋叢書、庚集〕。

【學買賣的】277 hsiao^2 mai^3 mai tê　商家の小僧。

【學富二五車一】278 ガクハゴシヤニトム　通儒をほめていふ語。大學者。五車（1－257‥536）の➍を見よ。〔故事成語考、文事〕多才之士、方儲二八斗一、博學之儒、學富二五車一。

【學蔀通辨】279 ガクホウツウベン　書名。十二卷。明、陳建撰。學蔀の意は、易の豐卦の豐二其蔀一の注に、蔀覆、曖二郭光明一之物也に本づき、正學を覆曖する意に取る。佛と陸象山とを學の蔀とし、前編・後編・續編・終編に分つ。又、毎編、上・中・下に分ち、朱子文集・語類・年譜の諸書から其の關係ある語を採つて之を辨ず。〔四庫提要、子、儒家類存目〕。

【學老二於年一】280 ガクハトシヨリオユ　學問が、年の割合に上達老成してゐること。〔宋史、熊克傳〕子學老二於年一、也日當下以二文章一顯上。

【學老學菴】281 ガクラウガクアン　清、張廷濟（4－9812‥137

9)の號。

【學鹿不レ白】282（ガクロクシロカラズ） 未だ登庸の運に遭はないことをいふ。後漢の淮陰太守鄭弘の車に白鹿が從つたところ、主簿の黃國が宰相となる兆であると賀した故事に本づく。〔後漢書、鄭弘傳〕遷二淮陰大守一。〔注〕謝承書曰、弘消二息繇賦一、政不二煩苛一、行レ春大旱、隨レ車致レ雨、白鹿方レ道挾レ轂而行、弘怪問二主薄黃國一曰、鹿爲レ吉爲レ凶、國拜賀曰、聞三三公車轓畫二作鹿一、明府必爲二宰相一。〔本朝文粹、大江匡衡、初冬於二都督大王書齋一同賦二唯以レ詩爲レ友應レ教〕遊二詩境一四十年、學鹿未レ白矣。

【以レ學愈レ愚】283（ガクヲモツテグヲイヤス） 學問によつて智識を開く。〔說苑、建本〕人皆知二以レ食愈レ饑、莫レ知二以レ學愈レ愚。

【修レ學務レ早】284（ガクヲヲサムルニハハヤキヲツトム） 學問を修めるには記憶力に富んだ若い間にすべきである。〔抱朴子、勗學〕蓋少則志一而難レ忘、長則神放而易レ失、故修レ學務レ早。

【絕レ學無レ憂】285（ガクヲタテバウレヘナシ） 學問をやめれば心配がなくなる。〔老子、二十〕絕レ學無レ憂、唯之與レ阿、相去幾何。

【入レ學忌レ偶】286（ガクニイルニグウヲイム） 學舍に入るに偶數の年を忌む。〔通俗編、儀節、入レ學忌レ偶〕北史、李渾弟繪、六歲求レ入レ學、家人以二偶年一拘レ忌不レ許、按、白虎通、七歲之陽也、八歲之陰也、偶年忌當レ因二于此一、今俚俗尙有二七上八落之說一。

【學不レ可二以已一】287（ガクハモツテヤムベカラズ） 學問は寸時も廢してはならない。〔荀子、勸學〕君子曰、學不レ可二以已一、青取二之於藍一、而青二於藍一、冰水爲レ之、而寒二於水一。

【學不盡的乖】288 hsüeh^2 pu^2 chin^4 tê kuai^1 學問智識は該博の上にも該博でなくてはならぬ。

【廢レ學如レ斷レ機】289（ガクヲハイスルハキヲタツガゴトシ） 學問を半途で廢するのは、織りかけた機を斷つやうなもので、何の功益もない。斷機之誡（**5**−**13611**··38）を見よ。〔後漢書、列女、樂羊子之妻傳〕羊子嘗行レ路、得二遺金一餠一、還以與レ妻、妻曰、妾聞、志士不レ飮二盜泉之水一云云、羊子大慙、乃捐二金於野一、而遠尋レ師、學一年來歸、妻跪問二其故一、羊子曰、久行懷思無二它異一也、妻乃引レ刀趨レ機而言曰、此織生レ自二蠶繭一、成二於機杼一、一絲而累以至二於寸一、累レ寸不レ已、遂成二丈匹一、今若斷二斯織一也、則捐二失成功一、稽二廢時月一、夫子積レ學、當下日知二其所レ亡以就中懿德上、若中道而歸、何異レ斷二斯織一乎、羊子感二其言一、復還終レ業。

【聞二學而後入一レ政】290（マナンデノチセイニイルヲキク） 學問をしてから政治を執るべきであるといふことを聞いてゐる。〔左氏、襄、三十一〕僑聞二學而後入一レ政、未レ聞二以レ政學者一也。

【學至二乎沒一而後止】291（ガクハボツスルニイタツテノチヤム） 學問は死に至つて止むべきで、終生やむべきものではない。〔荀子、勸學〕眞積レ力久則入、學至二乎沒一而後止也。

【學莫レ便三乎近二其人一】292（ガクハソノヒトニチカヅクヨリベンナルハナシ） 學問するのには、賢師に目のあたり接して、其の教を受けるのが一番手近である。〔荀子、勸學〕學莫レ便三乎近二其人一、學之經、莫レ速三乎好二其人一。

【學不レ厭而教不レ倦】293（マナンデイトハズヲシヘテウマズ） 孔子が學ぶにも教へるにも熱心であつたこと。〔論語、述而〕學而不レ厭、誨レ人不レ倦。〔孟子、公孫丑上〕昔者子貢問二於孔子一曰、夫子聖矣乎、孔子曰、聖則吾不レ能、我學不レ厭、而教不レ倦也、子貢曰、學不レ厭、智也、教不レ倦、仁也、仁且智、夫子既聖矣。

【學也祿在二其中一矣】294（マナブヤロクソノウチニアリ） 君子が道を學ぶのは祿を求める爲ではないが、道が明かになり德が立つと、自ら人君の知遇を蒙つて祿を賜はるに至る。〔論語、衞靈公〕耕也餒在二其中一矣、學也祿在二其中一矣、君子憂レ道不レ憂レ貧。〔集注〕耕、所二以謀一レ食、而未二必得一レ食、學、所二以謀一レ道、而祿在二其中一、然其學也、憂レ不レ得二乎道一而已、非三爲レ憂レ貧之故、而欲二爲レ是以得レ祿也。

【學以至二聖人一之道也】295（ガクハモツテセイジンニイタルノミチナリ） 學問は聖人となる道である。〔近思錄、爲學〕伊川先生曰、學以至二聖人一之道也、聖人可二學而至一歟、曰然。

【爲レ學日益爲レ道日損】296（ガクヲナセバヒニマシミチヲナセバヒニソンス） 政教禮樂の學を學べば、情欲文飾日々に多きを加へる。これと反對に自然の道を學べば、情欲文飾日々に消損して無爲に至る。〔老子、四十八〕爲レ學日益、爲レ道日損、損レ之又損、以至二於無爲一。〔河上公注〕學、謂二政教禮樂之學一也、日益者、情欲文飾日以益多、道、謂二自然之道一也、日損者、情欲文飾日以消損。

【學至二於不一レ尤レ人學之至也】297（ガクハヒトヲトガメザルニイタレバガクノイタリナリ） 學問修養して既に人を咎めぬ境涯に至れば、學問の至極に達したといへる。〔近思錄、克己〕責レ己者、當レ知下無二天下國家皆非一之理上、故學至二於不一レ尤レ人、學之至也。

【〓】7034 ヒ

髀（**12**−**45347**）に同じ。〔正字通〕〓、本作レ髀、省作レ〓。

【〓】7035 キ

季（**3**−**6965**）の古字。〔玉篇〕〓、古文季。

【〓】7036 ト

堵（**3**−**5279**）に同じ。〔集韻〕堵、或作レ〓。

【〓】7037 チヨウ チユ 〔集韻〕竹用切 宋

ちちしる。乳汁。湩（**7**−**17864**）に同じ。〔集韻〕湩、乳汁也、或从レ乳、亦省。

【〓】7038 タン

義未詳。〔字彙補〕〓、都敢切、音膽、義未レ詳、出二釋典一。

【〓】7039 ジユン

鶉（**12**−**47057**）に同じ。〔字彙補〕〓、同レ鶉。

【〓】7040 ゲツ

孽（**3**−**7046**）に同じ。〔對韻音訓〕〓、同レ孽。

【〓】7041 ハク

擘（**5**−**12835**）に同じ。〔篇海類編〕〓、同レ擘。

十四畫

【孺】7042

小篆

一 ジユ ニユ 〔集韻〕儒遇切 ㄖㄨˋ ju^4 遇

二 ジユ ニユ 〔集韻〕汝朱切 ㄖㄨˊ ju^2 虞

一二 ❶**ちのみご**。〔說文〕孺、乳子也、从レ子需聲。❷**をさなご**。こども。年少者。〔說文〕孺、一曰、輸孺也、輸孺尙小也。〔釋名、釋長幼〕孺、濡也、兒始能行、曰二孺子一、孺、濡也、言二濡弱一也。〔書、金縢〕公將レ不レ利二於孺子一。〔傳〕孺、稚也。〔禮、內則〕孺子蚤寢晏起。〔注〕孺子、小子也。〔孟子、離婁上〕有二孺子一、歌曰。〔注〕孺子、童子也。〔國語、晉語一〕孺子何懼。〔注〕孺、少也。❸**うむ**。乳（**1**−**190**）に通ず。〔說文通訓定聲〕孺、叚借爲レ乳。〔廣雅、釋詁一〕孺、生也。〔莊子、天運〕烏鵲孺。〔釋文〕孺、李云、孚乳而生也。❹**したふ**。**したしむ**。〔詩、小雅、常棣〕和樂且孺。〔集傳〕孺、小兒之慕二父母一也。❺**つく**。**したがふ**。**つながる者**。妻子。〔爾雅、釋言〕孺、屬也。〔注〕謂二親屬一。〔禮、曲禮下〕天子之妃曰レ后、諸侯曰二夫人一、大夫曰二孺人一。〔注〕孺之言、屬。❻**たのしむ**。愉（**4**−**10905**）に通ず。〔說文通訓定聲〕孺、叚借爲レ愉、按、詩常棣、和樂且孺。❼或は孺（**3**−**7026**）に作る。❽**姓**。〔正字通〕孺、姓也。〔通志、氏族略、以レ次爲レ氏〕孺氏、魯有二孺悲一、欲レ見二孔子一。

【孺嬰】1ジュエイ ちのみご。あかご。〔陶潛、祭二程氏妹一文〕慈妣早世、時尚孺嬰。

【孺孩】2ジュガイ をさなご。こども。〔沈約、齊禪林寺尼淨秀行狀〕性調和綽、不下與二凡孩孺一同上數。

【孺孝】3ジュカウ 明、鄧伯羔(**11**−39630··190)の字。

【孺懷】4ジュクワイ 清、唐綏祖(**2**−3709··456)の字。

【孺參】5ジュサン 明、姚翼(**3**−6202··119)の號。

【孺子】6ジュシ ❶をさなご。童稚。豎子。孺兒。字解の❶を見よ。〔書、洛誥〕孺子其朋。〔蔡傳〕孺子、稚子也。〔禮、內則〕孺子蚤寢晏起。〔注〕孺子、小子也。〔孟子、公孫丑上〕今人乍見二孺子將一レ入二於井一、皆有二怵惕惻隱之心一。〔注〕孺子、未レ有レ知小子也。❷人をいやしめていふ。孺子可レ教を見よ。〔陳恭尹、讀二秦紀一詩〕夜半橋邊呼二孺子一、人間猶有二未レ燒書一。❸嫡長の嗣となる者。〔十駕齋養親錄〕孺子、貴二於庶子一。❹幼艾の美女。妾をいふ。〔左氏、哀、三〕季孫有レ疾、命二正常一曰、無レ死、南孺子之子男也、則以告而立レ之。〔注〕南孺子、季桓子之妻也。〔箋〕孺子者、蓋因二其幼艾一寵二號之一。〔戰國、齊策〕齊王夫人死、有二七孺子者一、皆近。〔注〕高誘曰、孺子、幼艾美女也。〔稱謂錄、妾、孺子〕凡王公至二士民一、妾通得レ稱二孺子一。❺字號。㋑後漢、徐穉(**4**−10110··217)の字。㋺南朝宋、謝穉(**10**−35827··168)の字。

【孺子嬰】7ジュシエイ 漢の宣帝の玄孫。王莽は平帝を弑し、嬰を立てて嗣とした。帝は時に二歲、號して孺子といふ。後、王莽自ら政を攝す。立ちて二年、王莽は位を簒ひ、嬰を廢して定安公とす。後漢の建武元年、平陵の方望、嬰を擁立して天子とす。更始年間、兵を遣はし、擊ちて之を斬る。〔漢書、九十九〕

【孺子牛】8ジュシノウシ 子供のために牛の眞似をする。〔左氏、哀、六〕鮑子曰、女忘下君之爲二孺子牛一、而折中其齒上乎、而背レ之也。〔注〕孺子、荼也、景公嘗銜レ繩爲レ牛、使二荼牽一レ之、荼頓レ地、故折二其齒一也。

【孺子亭】9ジュシテイ 徐孺子の祠。一は南昌縣治、南東湖の南に在り、一は南昌縣學の左に在る。南唐に建て、明の洪武の初に移し、清の康熙の時、再建す。〔江西通志、南昌府〕徐孺子亭、在二府城東湖高橋南一、唐時有レ之、云云、吏隱亭、在二府城東湖內新建縣學西南一、祀二梅子眞一、與二南昌縣學東南徐孺子亭一對峙、明萬曆年閒、知府盧廷選建、有二題句一曰、疏草孤忠、扶二赤漢一也。

【孺子可レ教】10ジュシヲシフベシ 此の小兒は見所があり、教へるねうちがある。圯上の老父と張良との故事。〔史記、留侯世家〕良乃更二名姓一、亡二匿下邳一。良嘗閒從容步、游二下邳圯上一、有二一老父一、衣レ褐、至二良所一、直墮二其履圯下一、顧謂レ良曰、孺子下取レ履、良愕然欲レ毆レ之、爲二其老一、彊忍下取レ履、父曰、履レ我、良業爲取レ履、因長跪履レ之、父以レ足受、笑而去、良殊大驚、隨目レ之、父去里所、復還曰、孺子可レ教矣。

【孺齒】11ジュシ をさなご。こども。〔晉書、食貨志〕百畝之田、十一而稅、九年躬稼、而有二三年之蓄一、可三以長二孺齒一、可三以養二耆年一。

【孺兒】12ジュジ をさなご。孺子(6)に同じ。

【孺弱】13ジュジャク 幼くかよわい。〔唐書、杜甫傳〕甫家寓レ鄜彌レ年、艱窶孺弱、至二餓死一。

【孺句】14ジュジュン 明、黎崇宣(**12**−47994··110)の字。

【孺承】15ジュジョウ 明、張堯恩(**4**−9812··988)の字。

【孺人】16ジュジン ❶大夫の妻をいふ。孺は屬で、夫に附屬して自らは事を專らにしないといふこと。〔禮、曲禮下〕天子之妃曰レ后、諸侯曰二夫人一、大夫曰二孺人一。〔注〕孺之言、屬。〔疏〕孺、屬也、言三其爲二親屬一。❷妻の通稱。〔江淹、恨賦〕左對二孺人一、右顧二稚子一。〔儲光羲、田家雜興詩〕孺人善二逢迎一、稚子解二趨走一。

【孺臺】17ジュダイ 明、徐伯徵(**4**−10110··605)の字。

【孺帝】18ジュテイ 顓頊の子。〔路史〕顓頊取二鄒屠氏一、入レ夢而生二八子一、一曰二蒼舒一、卽孺帝也、後襲二高陽氏一。

【孺東】19ジュトウ 明、徐貞明(**4**−10110··586)の字。

【孺童】20ジュドウ ❶をさなご。小兒。〔曹毗、對儒〕今子少睎二冥風一、弱挺二秀容一、奇發二幼齡一、翰披二孺童一。❷佛教徒が孔子をさしていふ。〔辨正論〕大昊、本應聲大士、仲尼、卽孺童菩薩、先遊二此土一、權行漸化、愍二濟五濁一、宣二布五常一。

【孺褓】21ジュハウ をさなご。こども。〔唐書、諸帝公主、太宗二十一女臨川公主傳〕初道務孺褓時、以二功臣子一、養二宮中一。

【孺悲】22ジュヒ 春秋、魯の人。哀公の臣。〔禮、雜記下〕恤由之喪、哀公使下儒悲之二孔子一學中士喪禮上。〔論語、陽貨〕孺悲欲レ見二孔子一、孔子辭以レ疾、將レ命者出レ戶、取レ瑟而歌、使二之聞一レ之。〔集解〕孺悲、魯人也。

【孺文】23ジュブン 後漢、蘇章(**9**−32427··86)の字。

【孺慕】24ジュボ 小兒が親を慕ふやうに深く慕ふこと。〔禮、檀弓下〕有子與二子游一立、見二孺子慕者一。〔後漢書、伏侯宋蔡馮趙牟韋傳贊〕淮人孺慕。〔白居易、淮南節度使檢校尚書右僕射趙郡李公家廟碑銘〕孺慕號踴、如二成人禮一。

【孺木】25ジュボク 清、談遷(**10**−35633··52)の字。

【孺廬】26ジュロ 清、萬承蒼(**9**−31339··599)の號。

【孺宜堂】27ジュギダウ 明、金俊明(**11**−40152··1298)の室名。

【孻】7043 ダイ ナイ 〔字彙補〕泥台切 灰

老女のうんだ幼兒。末子。〔菽園雜記〕廣東謂二老人所レ生幼子一曰レ孻。〔觚賸人觚〕閩粵之俗、謂二末子一爲レ孻。

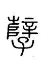
十五畫

【𡦹】7044 コウ 厚(**2**−3000)の古字。〔集韻〕厚、古作レ𡦹。

【𡦼】7045 キフ 義未詳。〔餘文〕𡦼、音笈。

十六畫

【孽】7046 ゲツ ゲチ 〔集韻〕魚列切 屑 ㄋㄧㄝˋ nieh^{4}


小篆

❶**わきばら。**妾腹。庶子。〔說文〕孽、庶子也、从レ子辥聲。〔公羊、襄、二十七〕是臣僕庶孽之事也。〔注〕庶孽、衆賤子、猶三樹之有二孽生一。〔史記、呂不韋傳〕子楚、秦諸庶孽孫。〔注〕索隱曰、非二嫡正之子一曰レ孽。❷**ひこばえ。**櫱(**6**−15863)に通ず。〔說文通訓定聲〕孽、按、庶子旁出之義、本當レ爲二櫱之轉注一。❸**わざはひ。なんぎをかける。**蠥(**10**−33815)に通ず。〔說文通訓定聲〕孽、假借爲レ蠥。〔書、太甲中〕天作孽、猶可レ違、自作孽、不レ可レ逭。〔疏〕是孽、爲二災初生之名一、故爲レ災也。〔呂覽、遇合〕聖賢之後、反以孽レ民。〔注〕孽、病也。〔楚辭、天問〕革二孽夏民一。〔注〕孽、憂也。〔漢書、董仲舒傳〕陰陽繆盭、而妖孽生矣。〔注〕師古曰、孽、災也。❹**惡逆な。不吉な。**孽臣(13)・孽星(14)を見よ。❺**不孝をいふ。**〔新書、道術〕子愛二利親一、謂二之孝一、反レ孝爲レ孽。❻**かもす。**糱(**8**−27188)に通ず。〔說文通訓定聲〕孽、段借爲レ糱。〔漢書、司馬遷傳〕隨而媒二孽其短一。〔注〕臣瓚曰、孽、謂三爲生二其罪釁一也。❼**かざる。又、くづれる。**孽孽を見よ。❽**姓。**〔萬姓統譜〕孽、見二直音一。❾現㋑つみ。㋺因緣。

【孽牙】1ゲツガ 芽生え。端緒。〔韓愈、平二淮西一碑〕物衆地大、孽二牙其閒一。

【孽海】2ゲツカイ 罪惡の多い人生。業海。〔桃花扇、棲眞〕人閒消二孽海一、天上禮二仙壇一。

【孽鬼】3 nieh^{4} kuei^{3} 妖怪。怪物。

【孽卿】4ゲツケイ 不吉なしるし。妖孽。〔史記、天官書〕土爲レ憂、主二孽卿一。〔注〕索隱曰、無二子輔一レ父、則益二妖孽一、故子憂也。

【孽孽】5ゲツゲツ ❶頭を立派に飾るさま。〔爾雅、釋訓〕孽孽、戴也。〔注〕頭戴レ物。〔疏〕婦人盛飾貌。〔詩、衞風、碩人〕庶姜孽孽、庶士有レ朅。〔傳〕孽

孼、盛飾。〔李尤、東觀賦〕東觀之莪、孼孼洋洋。❷將に壞れんとするさま。〔詩、大雅、皇矣、崇墉言言、箋〕言言、猶二孼孼一、將レ壞貌。

【孼根】6（ゲツコン） 禍のもと。卽ち罪惡の根本。〔依田學海、西國喩言〕固持二孼根一、猶レ抱二此石一。

〔孼根禍胎〕7（ゲツコンクワタイ） 禍災の根源。〔紅樓夢、三回〕我有二一個孼根禍胎一。

【孼子】8（ゲツシ） 妾腹の子。庶子。孼庶。字解の❶を見よ。〔孟子、盡心上〕獨孤臣孼子、其操レ心也危、其慮レ患也深、故達。〔注〕孼子、庶子。〔墨子、節葬下〕然後伯父叔父兄弟孼子、其。〔閒詁〕孽、庶子也、孼子卽衆子。〔漢書、吳王濞傳〕故孼子、悼惠王、王二齊七十二城一。〔注〕師古曰、孼、亦庶也。

〔孼子龍〕9 nieh⁴ tzŭ³ lung² 古代の爬蟲類。化石となつて獨逸から出た。蛩龍。

【孼障】10 nieh⁴ chang⁴ ❶罪となるべき行爲。罪業。❷人を罵る語。

【孼種】11 nieh⁴ chung³ 罪惡のたね。禍の種。〔燕子箋、入闈〕風流孼種。

【孼庶】12（ゲツシヨ） 妾腹の子。孼子に同じ。

【孼臣】13（ゲツシン） わるい家來。姦臣。〔後漢書、梁統傳論〕況乃傾二側孼臣一、傳二寵凶嗣一。〔陸機、五等諸侯論〕孼臣朝入。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕孼臣姦隸。

【孼星】14（ゲツセイ） あやしい星。不吉な星。妖星。〔晏子、諫、上〕是以列舍無レ次、變星有レ芒、熒惑回逆、孼星在レ旁、有レ賢不レ用、安得レ不レ亡。

【孼妾】15（ゲツセフ） 賤しい妾。孼妾。〔新書、孼產子〕后之所三以廟而不二以燕一也、而衆庶得三以衣二孼妾一。

【孼孫】16（ゲツソン） 妾腹の孫。庶出の孫。〔史記、韓王傳〕韓王信、故韓襄王孼孫也。

【孼黨】17（ゲツタウ） 惡逆の者ども。姦黨。〔王勃、常州刺史平原郡開國公行狀〕扶桑落日之濱、妖朋蟻結、孤竹尋雲之際、孼黨蜂騰。

【孼嫡】18（ゲツチヤク） 妾の子と正妻の子。嫡庶。〔李滉、鄕立約條〕嫡妾倒置、以レ妾爲レ妻、以レ孼爲レ嫡。

【孼嬖】19（ゲツペイ） 氣に入りの妾。寵妾。〔漢書、劉向傳〕採下取詩書所レ載、賢妃貞婦、興レ國顯レ家、可二法則一、及孼嬖亂亡者上。〔注〕師古曰、孼、庶也、嬖、愛也。

〔孼嬖傳〕20（ゲツペイデン） 列女傳の篇名。

【孼類】21（ゲツルイ） わる者ども。〔吳志、孫權傳〕天下未レ定、孼類猶存。

【孼產子】22（ゲツサンシ） 新書の篇名。

十七畫

【孽】7047 ゲツ 孼（3−7046）の俗字。〔正字通〕孽、俗孼字。

【孾】7048 エイ 〔玉篇〕音纓

みどりご。〔玉篇〕孾、孩也。〔白居易、哭二李三一詩〕妻病女孾孩。

十九畫

【𪊨】7049 カウ ケウ 〔集韻〕許教切 效

小篆

獸の名。〔說文〕𪊨、解廌屬也、从レ廌孝聲。〔段注〕蓋亦神獸、云云、按、廣韻作レ𪊨、玉篇作レ𪊨。〔正字通〕𪊨、獸名、天𪊨、形似レ狐、赤白色、尾大、曉則鳴二號高峯之上一。

參考 字形もと𪊨に作る。〔集韻〕𪊨、或書作レ𪊨。

【孿】7051 ㈠サン セン 〔集韻〕數患切 諫 ㈡セン 〔集韻〕數眷切 霰 ㈢レン 〔玉篇〕力員切 先 ㄌㄩㄢˊ lüan²

小篆

㈠㈡㈢❶**ふたご**。𡦽（3−7053）に同じ。〔說文〕孿、一乳兩子也、从レ子䜌聲。〔段注〕此謂レ人也、孿之言、連也。〔方言、三〕陳楚閒、凡人獸乳而雙產、謂二之釐孳一、秦晉之閒、謂二之僆子一、自レ關而東、趙魏之閒、謂二之孿生一。〔廣韻〕𡦽、雙生子、又作レ孿。〔玉篇〕孿、雙產也。❷**つなぐ**。**つながる**。〔易、中孚〕有レ孚孿如。〔注〕孿如者、繫二其信一之辭也。〔疏〕孿如者、相牽繫不レ絕之名也。❸**かはる**。〔玉篇〕孿、變也。❹或は𡦽（3−7053）に作る。〔集韻〕孿、或从二兩子一。

【孿山】1（レンザン） 三浦晉の號。三浦梅園（1−12··1991）を見よ。

【孿子】2（レンシ） ふたご。双生兒。〔戰國、韓策〕夫孿子之相似者、惟其母知レ之而已、利害之相似者、唯智者知レ之而已。〔淮南子、脩務訓〕夫孿子之相似者、唯其母能知レ之。

【孿如】3（レンジヨ） つなぐ。つながる。如は助辭。字解の❷を見よ。

【孿生】4（レンセイ） ふたご。字解の❶を見よ。

二十二畫

【𡦹】7052 シヨウ・キウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕𡦹、音從、又音糺。

【𡦽】7053 サン・セン ふたご。雙生兒。孿（3−7051）に同じ。〔廣韻〕𡦽、雙生子、又作レ孿。

宀部

【宀】7054 ベン メン 〔集韻〕彌延切 先 ㄇㄧㄢˊ mien²

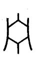
小篆

❶**屋根を四方に垂れた深い家**。〔說文〕宀、交覆突屋也、象形。〔段注〕古者屋四注、東西與二南北一、皆交覆也、有レ堂有レ室、是爲二深屋一、云云、象二兩下之形一、亦象二四注之形一。❷**うかんむり**。漢字の構造を分類する上の稱呼。

解字 象形。屋根を四方に垂れ覆うてゐる形に象る。堂・室のある奥深い家をいふ。广（がけの上に高くかまへた家）に對す。

二畫

【宁】7055 ㈠チヨ 〔集韻〕展呂切 語 ㄓㄨˋ chu⁴ ㈡チヨ 〔集韻〕陳如切 魚


小篆

㈠❶**つむ**。**たくはへる**。貯（10−36698）に同じ。〔說文〕宁、辨二積物一也、象形。〔段注〕宁與レ貯、蓋古今字。〔孫綽、遊二天台山一賦〕惠風宁二芳於陽林一、醴泉涌二溜於陰渠一。〔注〕善曰、宁、猶レ積也。❷**たたずむ**。佇（1−496）・竚（8−25744）に同じ。〔說文、宁、辨二積物一也、段注〕毛詩傳云、宁立、久立也、然則凡云二宁立一者、正積レ物之義之引申、俗字作レ佇、作レ竚、皆非レ是、以三其可二宁立一也、故謂二之宁一。❸**天子諸侯の大門と正門との間に設けられ、君主が**

政を聽くためにたつ位。又、正門の內の兩塾の中間に設けられた位。〔爾雅、釋宮〕門屛之閒、謂二之宁一。〔注〕人君視レ朝、所二宁立一處。〔疏〕謂二路門之外、屛樹之內、人君視レ朝宁立之處一、因名爲レ宁、李巡云、正門內兩塾閒曰レ宁、曲禮曰、天子當レ宁而立、諸公東面、諸侯西面而朝、是也。〔江永、鄉黨圖考、宁考〕按、宁有レ二、齊風、俟二我於著一、著卽宁、此是有レ堂之屋、以二門內兩塾閒一爲レ宁、一是門屛之閒爲レ宁、此路門外視二正朝一、人君所レ立處、近二路門一、屛設二於正門一、天子以二應門一爲二正門一、屛在二應門外一、諸侯以二雉門一爲二正門一、屛在二雉門內一、路門之外、屛之內、宁位在二其閒一、其實宁近レ門而遠レ屛、不三正當二門屛之中閒一也、若二李巡云一、此是齊風之著、不レ可三以レ此解二爾雅之宁一也。❹著(9－31410)に通ず。〔詩、齊風、著、疏〕著、與レ宁音義同。❺箸(8－26224)に通ず。〔說文通訓定聲〕箸、段借爲レ宁。［二］［一］の❸に同じ。

［解字］ 象形。物をつみたくはへる形に象り、物をたくはへる意。段注によれば、八は兩側の禁、人は顚、丫は阯(基)に象るといふ。假借して貯とする。〔說文、宁、象形、段注〕其旁有レ禁、其下有レ阯、其上有レ顚、辨レ積之形也。 ▽ (甲骨文)

【宁人】1 チョジン 門番。門衞。〔事物異名錄、品術、閽人〕丹鉛錄、宁人、守レ門之人。

【宁立】2 チョリツ たたずむ。佇立。〔禮、曲禮下、天子當レ宁而立、疏〕於二門外一而宁立、以待二諸侯之入一、故云二當レ宁而立一也。

【宂】
7056

［一］ジョウ ニュ 〔集韻〕乳勇切 ［腫］ ㄖㄨㄥˇ jung³

［二］ジョウ ニュ 〔集韻〕戎用切 ［宋］

小篆

［一］❶ひま。〔說文〕宂、㪚也、从二宀儿一、人在二屋下一、無二田事一也、周書曰、宮中之宂食。〔段注〕書、當レ作レ禮。❷**あまる。むだ。**〔增韻〕宂、剩也。〔魏書、高陽王雍傳〕閒宂之官、本非二虛置一。〔杜牧、上二裴侍郞一書〕除レ煩去レ宂。❸**まじる。**〔增韻〕宂、雜也。〔王安石、進レ修二南郊式一表〕刪二除其紛宂一。❹**みだれる。**〔宋史、職官志〕員旣濫宂、名益紊雜。〔蘇軾、園中所レ有詩〕得レ時能幾時、狼藉成二荒宂一。❺**わづらはしい。**〔金史、胥鼎傳〕天下之大、萬幾之衆、錢穀之宂、非三九重所二能兼一、則付二之有司一。〔師友談記〕國朝前輩、多循二唐格一、文宂事迂。❻**くどい。おろか。いやしい。**〔後漢書、蔡邕傳〕臣之愚宂、職當二咎患一。〔宋書、周朗傳〕吾雖二疲宂一、亦嘗聽二君子之餘論一、豈敢忘レ之。〔宋書、劉穆之傳〕人品宂末。❼**いそがしい。**せはしい。〔增韻〕宂、忙也。❽**さまよふ。**流浪する。〔正字通〕宂、民無二定居一也。〔後漢書、安帝紀〕詔稟二三輔及幷涼六郡流宂貧人一。❾俗に冗(2－1566)に作る。〔正字通〕宂、俗或作レ冗、非。

［二］［一］の❶❷に同じ。〔集韻〕宂、餘也、散也。

［解字］ 會意。宀と儿との合字。宀は家、儿は人、家の下に人の居ること。人々農事に閑散にして家に居る、故に本義をひま、閑散の意とする。〔說文通訓定聲〕宂、散也、从二宀人一、會意、人在二屋下一無二田事一也。

［參考］ 穴(8－25406)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕宂、繁宂之宂。穴、巢穴之穴。

【宂溢】1 ジョウイツ 餘分なもののあり餘ること。〔唐書、崔縱傳〕自下兵興二內外一官宂溢上、時議併省。

【宂員】2 ジョウヰン むだな人數。餘計な人員。清代の候補官の類。〔正字通〕宂、古設レ官分レ職、人有二常守一、轉移執レ事、不レ可レ無レ人、故有二宂員一備二使令一。〔白孔六帖〕損二不急一、罷二宂員一。〔白居易、送二春歸一詩〕莫二惆悵一送レ春人、宂員無レ替五年罷。

【宂員淘汰】3 ジョウヰンタウタ 官廳などで、餘計な人員を整理罷免すること。

【宂役】4 ジョウエキ むだなはたらき。むだな力役。〔宋史、食貨志上五〕議下蠲二宂役一、以寬中民力上。

【宂厭】5 ジョウエン 無駄。〔福惠全書、刑名部、人命上、審鞫〕未三敢煩引、以滋二宂厭一。

【宂句】6 ジョウク むだな文句。無用な句。

【宂官】7 ジョウクワン 職の無い官位。又、ひまな官位。散官。〔品字箋〕無事備レ員、曰二宂官一。〔漢書、申屠嘉傳〕錯所レ穿非二眞廟垣一、乃外堧垣、故宂官居二其中一。〔注〕師古曰、宂、謂二散輩一也、如二今之散官一。〔後漢書、虞詡傳〕皆除爲二宂官一。〔注〕宂、散也。

【宂言】8 ジョウゲン 無用なことば。贅言。〔新書、諭誠〕士爲二知レ己者一死、女爲二悅レ己者一容、非二宂言一也。

【宂作】9 ジョウサク 浮游の民で自作の出來ぬものが、縣官の所で耕作すること。〔漢書、食貨志下〕民浮游無レ事、出二夫布一匹一、其不レ能レ出レ布者、宂二作縣官一衣二食之一。〔注〕師古曰、宂、散也。

【宂齪】10 ジョウサク むだごと。〔唐書、劉蕡傳〕被レ選者二十有三人、所レ言皆宂齪。

【宂雜】11 ジョウザツ ❶こみ合ふ。混雜。〔圖繪寶鑑〕僧慧舟作二小藂竹一、或二三竿、或百十成レ林、不レ見二其重複宂雜一。〔紅樓夢、四回〕因見二王夫人事情宂雜、姊妹們遂出來、至二寡嫂李氏房中一來了。❷忙しい。宂繁。

【宂散】12 ジョウサン ひま。無用で閒暇がある。〔晉書、傅玄傳〕王人賜レ官、宂散無レ事者、不二督使レ學、則當レ使レ耕。〔南史、劉峻傳〕峻時貧悴宂散、忽請二紙筆一、疏二十餘事一。

【宂將】13 ジョウシヤウ 無能な統率者。不用の大將。〔唐書、田布傳〕布所レ至必省二宂將一、募二戰卒一。

【宂從】14 ジョウジユウ ❶官名。漢の武帝の時、期門郞を置き、僕射が執兵送從の事を掌つた。宦者が此の職にゐる時は宂從といふ。內にゐては門戶を守り、外に出ては輦轂に騎從する。後漢及び魏では宂從僕射といふ。〔後漢書、百官志三〕中黃門宂從僕射一人、六百石。〔本注〕宦者主二中黃門宂從一、居則宿衞、直守二門戶一、出則騎從、夾二乘輿車一。❷散官にあつて王族に從ふ者。かざりとも。散從。〔漢書、枚乘傳〕爲二王使一、與二宂從一爭、見二讒惡一遇レ罪、家室沒入。〔注〕師古曰、宂從、散職之從レ王者也。

【宂宂】15 ジョウジョウ まよつてゐる愚かなもの。又、入り亂れるさま。亂雜。散漫。〔王僧孺、懺悔禮佛文〕度二元元於苦海一、拔二宂宂於畏途一。〔五色線〕選人宂宂、甚二於羊羣一。

【宂食】16 ジョウショク ❶むだぐひ。徒食。又、徒らに祿を貪る。〔後漢書、劉瑜傳〕皆當下盛二其玩飾一、宂二食空宮一、勞二散精神一、生中長六疾上。〔資治通鑑、漢紀〕桓帝、延熹八年、又嬖女充積、宂二食空宮一。〔注〕無レ事而食、謂二之宂食一。❷外朝・內朝に當直する散吏が、家に歸らずに、稟人の供する食を食ふこと。〔周禮、地官、稟人〕稟人、掌レ共二外內朝宂食者之食一。〔注〕宂食者、謂下留二治文書一、若中今尙書之屬諸直上者上。〔疏〕宂食者、謂下留二治文書一、若中今尙書之屬諸直上者上、亦引二漢法一說レ之、謂、以下次當二直留一在二朝宿一不上レ還、須二以レ食供一レ之、宂食者、宂、散也、外內朝上直諸吏、謂二之宂吏一、亦曰二散吏一、以三上直不二歸レ家食一、稟人供レ之、因名二宂食者一。❸倉庫の食物を放出して人民を生活せしめること。〔漢書、成帝紀〕避二水它郡國一、在所宂二食之一。〔注〕文穎曰、宂、散也、散二稟食一使二生活一也。

【宂職】17 ジョウショク 職のない官。散官。〔後漢書、申屠剛傳〕又召二馮衞二族一、裁與二宂職一。

【宂政】18 ジョウセイ むだなまつりごと。〔後漢書、五行志二〕大將軍何進、以二內寵外嬖積惡日久一、欲三悉糾黜以隆更二始宂政一。

【宂僭】19 ジョウセン むだなおごり。〔宋史、范仲淹傳〕「斥二游惰一、去二宂僭一。」

【宂賤】20 ジョウセン むだな賤しい奴。人を罵る語。〔宣和遺事、後集〕汝本一宂賤、吾兄待レ汝、以至レ此。

【宂闒】21 ジョウタフ ふさがる。〔福惠全書、筮仕部、延幕友〕擘畫裕如、無二宂闒之患一。

【宂談】22 ジョウダン むだばなし。ふざけばなし。

【宂長】23 ジョウチヤウ くだくだしくながいこと。むだなあまり。宂漫。〔陸機、文賦〕要二辭達而理擧一、故無レ取二乎宂長一。〔注〕良曰、宂長、謂二煩多一也。

〔白居易、得ニ微之到レ官後書一云云詩〕通州海內恓惶地、司馬人閒宂長官。

【宂蠹】24（ジョウト） 有害無益のものをいふ。〔宋史、職官志七〕惟兩浙宂蠹可レ罷。

【宂費】25（ジョウヒ） むだな費用。無益の經費。〔唐書、康承訓傳〕軍中馬乏、承訓罷ニ宂費一、市レ馬益レ軍。〔蘇軾、上ニ神宗皇帝一書〕爲レ政在レ去ニ三宂一、曰宂官、曰宂兵、曰宂費。

【宂筆】26（ジョウヒツ） むだな筆づかひ。〔畫史〕山水、李成只見ニ二本一、松勁挺、枝葉鬱然有レ陰、荆楚小木無ニ宂筆一、不レ作ニ龍蛇鬼神之狀一。

【宂賦】27（ジョウフ） 雜税。〔宋史、呂公弼傳〕移ニ近邊屯兵一、就ニ食京東一、增ニ城卒一、給ニ板築一、蠲ニ宂賦及民逋數百萬一。

【宂文】28（ジョウブン） くだくだしく長い文句。無用な文章。

【宂兵】29（ジョウヘイ） むだな兵。不必要な軍兵。〔蘇軾、上ニ神宗皇帝一書〕爲レ政在レ去ニ三宂一、曰宂官、曰宂兵、曰宂費。

【宂末】30（ジョウマツ） いやしく小さい。いやしく劣る。凡猥。〔宋書、劉穆之傳〕廕ニ籍高華一、人品宂末。

【宂漫】31（ジョウマン） くだくだしくしまりがない。無駄が多くとりとめない。宂長。

【宂濫】32（ジョウラン） むだなこと。〔資治通鑑、唐紀注〕省者、節ニ其宂濫之費一。

【宂吏】33（ジョウリ） 外朝・內朝に當直する吏。散吏。〔周禮、地官、槀人、掌レ共ニ外內朝宂食者之食一、疏〕外內朝上直諸吏、謂ニ之宂吏一、亦曰ニ散吏一。

【宂話】34（ジョウワ） むだばなし。宂談。

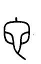
【宂猥】35（ジョウワイ） くだくだしくみだれる。數の多すぎること。〔晉書、虞預傳〕博擧ニ于衆一、旁料ニ宂猥一。

【宂不レ見レ治】36（ジョウニシテチヲアラハサズ） 職務が閑散無事で、政治上の手腕を見はすことが出來ない。〔韓愈、進學解〕三年博士、宂不レ見レ治。

【它】7057

一 タ 〔集韻〕湯何切 ㄊㄨㄛ t'uo¹ 歌

二 シャ ジャ 〔集韻〕時遮切 ㄊㄚ t'a¹ 麻



小篆

一二 ❶へび。まむし。蛇(10−32964)に同じ。〔說文〕它、虫也、从レ虫而長、象ニ冤曲垂尾形一、上古艸尻患レ它、故相問、無レ它乎、云云、蛇、它或从レ虫。❷ほか。よそ。佗(1−513)・他(1−370)に同じ。〔玉篇〕它、非也、異也、今作レ佗。〔說文、它、段注〕其字或叚レ佗爲レ之、又俗作レ他、經典多作レ它、猶レ言レ彼也。〔詩、小雅、鶴鳴〕它山之石。〔釋文〕它、古他字。〔漢書、高帝紀下、它居ニ南方一、長ニ治之一、注〕師古曰、它、古佗字。❸すそ。袉(10−34107)に通ず。〔說文通訓定聲〕它、叚借爲レ袉。❹或は虵(10−32820)に作る。〔集韻〕它、虵屬、或作レ虵。❺駝(12−44681)に通ず。〔漢書、揚雄傳下〕敺ニ槖它一。〔揚雄、長楊賦〕驅ニ槖駝一。❻姓。〔雷學淇校輯世本、氏姓〕它氏、楚平王孫有ニ田公它成一。

解字 象形。蛇がかがみ曲つて尾をたれた形に象る。本義はへび、又、虫を加へて蛇とす。上代の人々は草居し、蛇を患へることが甚だしかつた。故に互に它無きかと問ふ。恙なきかと同様である。假借して他・袉とする。

參考 熟語は他(1−370)・佗(1−513)を併せ見よ。

【它意】1（タイ） ちがつた考。ふたごころ。他意。〔後漢書、劉表傳〕表猶怒乃考ニ殺從レ行者一、知レ無ニ它意一、但囚レ嵩而已。〔資治通鑑、唐紀〕〔高祖、武德七年〕止ニ世民一曰、王不レ須レ渡、我無ニ它意一。

【它贏】2（タエイ） 他のあまり。他の貯へ。〔漢書、張湯傳〕湯死、家產直不レ過ニ五百金一、皆所レ得ニ奉賜一、無ニ它贏一。

【它界】3（タカイ） 他の場所。〔後漢書、章帝紀〕其令ニ郡國一、募乙人無レ田、欲下徙ニ它界一、就中肥饒上者甲、恣レ聽レ之。

【它巧】4（タカウ） 他のやりかた。〔漢書、食貨志下〕鑄ニ銅錫一爲レ錢、敢雜以ニ鉛鐵一爲ニ它巧一者、其罪黥。

【它囂】5（タガウ） 戰國の人。荀子は彼が性情をほしいままにするのを譏つた。〔荀子、非十二子〕縱ニ情性一、安ニ恣睢一、禽獸行、不レ足ニ以合レ文通レ治、然而其持レ之有レ故、其言レ之成レ理、足ニ以欺ニ惑愚衆一、是它囂魏牟也。〔注〕它囂、未レ詳ニ何代人一、世本、楚平王孫、有ニ田公它成一、豈同族乎。

【它故】6（タコ） ほかの事情。他故。〔荀子、王制〕桓公劫ニ於魯莊一、無ニ它故一焉。〔漢書、賈誼傳〕此亡ニ它故一矣。

【它穀】7（タコク） 他の穀物。〔漢書、食貨志上〕董仲舒說レ上曰、春秋它穀不レ書、至ニ於麥禾不レ成、則書レ之、以レ此見下聖人於ニ五穀一最重中麥與上レ禾也。

【它罪】8（タザイ） 他の罪。〔漢書、酷吏傳、王溫舒傳〕各自坐ニ它罪一而族。

【它山】9（タザン） 塘公愷の號。塘它山(3−5340・・23)を見よ。

【它志】10（タシ） ふたごころ。他志。〔漢書、五行志中之上〕將レ有ニ它志一、雖レ獲ニ其志一、弗レ能レ終也。

【它事】11（タジ） ほかのことがら。他事。〔荀子、不苟〕君子養レ心、莫レ善ニ於誠一、致レ誠、則無ニ它事一矣。

【它所】12（タショ） よそ。他所。〔漢書、食貨志下〕各自用爲ニ其市平一、毋レ拘ニ它所一。

【它書】13（タショ） ほかの書物。他書。〔漢書、劉歆傳〕天下唯有ニ易卜一、未レ有ニ它書一。

【它仁】14（タジン） 晉、羅友(9−28397・・10)の字。

【它腸】15（タチャウ） 他の考。二心。惡意。他腸。〔漢書、衞綰傳〕忠實無ニ它腸一、乃拜レ綰爲ニ河閒王太傅一。

【它法】16（タハフ） 他の法律。他法。〔漢書、燕王劉澤傳〕定國使下謁者以ニ它法一、劾捕格中殺郢人上、滅レ口。

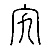
【它比】17（タヒ） 裁判に於て、他の例を引いて證據とし、正律を主としないこと。〔漢書、刑法志〕奇請它比、日以益滋。〔大學衍義補、愼ニ刑憲一、定ニ律令之制一、下〕漢之律百有餘萬言、可レ謂ニ煩多一矣、而大辟之刑、至ニ千有餘條一、視ニ成周時一、蓋數倍焉、元成之世、奇請它比、又日益滋多、成帝下レ詔、令下中二千石、二千石博士、及明ニ習律令一者、議中減ニ死刑一、及可ニ蠲除省約一者上、可レ謂レ知レ所ニ先務一矣、所謂奇請它比者、奇請、謂ニ常文之外、別有レ所レ謂以定レ罪也、它比、謂下引ニ它類一以比ニ附之一、不上主ニ正律一也。

【它名】18（タメイ） 他名。外の名。別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以ニ它名一標ニ牓官稱一。

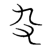
【它牛豹】19（タギウヘウ） 駱駝(12−44734・・11)の異名。〔唐書、南蠻下、室利佛逝傳〕國多ニ男子一、有ニ槖它一、豹文而犀角、以ニ乘且耕一、名曰ニ它牛豹一。

【宄】7058

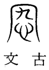
キ 〔集韻〕矩鮪切 ㄍㄨㄟ kuei³ 紙



小篆



古文



古文

❶みだれ。わざはひ。㋑內部から起るものをいふ。內亂。〔說文〕宄、姦也、外爲レ盜、內爲レ宄、从レ宀九聲、讀若レ軌。〔段注〕惟亂在レ內、故字从レ宀。〔書、舜典〕姦宄。〔傳〕在レ外曰レ姦、在レ內曰レ宄。㋺外部から起るものをいふ。外患。〔一切經音義、一〕在レ內曰レ姦、在レ外曰レ宄。❷わるもの。ぬすびと。〔廣雅、釋詁四〕宄、盜也。〔張衡、西京賦〕姦宄是防。〔注〕綜曰、竊レ寶曰レ宄。❸軌(10−38176)に通ず。〔說文、段注〕宄、經史亦假レ軌爲レ之。〔詩、大雅、民勞序、召穆公刺ニ厲王一也、鄭注〕輕レ爲ニ姦宄一。〔釋文〕宄、本亦作レ軌。❹古は殳(2−3121)・窓(3−7129)に作る。〔說文〕殳、古文宄、窓、亦古文宄。〔一切經音義、十七〕宄、古文窓・殳二形。

【宊】7059

シュ 守(3−7071)に同じ。〔正字通〕宊、同レ守、六書故、守从レ又。

【宆】7060

ジョウ ニュ 〔川篇〕而勇切 腫

長い毛。〔川篇〕宆、長毛也。

【穷】7061 音義未詳 〔字彙補〕穷、唐武宗製二乃穷二字一、以試二王起一、音義倶闕。

【宁】7062 レウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕宁、音了。

【宄】7063 ヒン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕宄、音賓。

三畫

【宅】7064

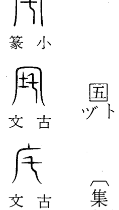
[一]タク ヂャク 〔集韻〕直格切 ㄓㄜˋ chê4 ㄓㄞˊ chai2 [陌]

[二]タク チャク 〔集韻〕恥格切 [陌]

[三]タク 〔集韻〕闥各切 [藥]

[四]タ 〔集韻〕陟嫁切 [禡]

[五]ツト 〔集韻〕徒故切 [遇]



[一]❶**すまひ**。古文は厇(4-9225)・𡧜(3-7127)に作る。〔說文〕宅、人所二託尻一也、从レ宀乇聲、𡧜、古文宅、厇、亦古文宅。〔釋名、釋宮室〕宅、擇也、擇二吉處一而營レ之也。〔左氏、昭、三〕初景公欲レ更二晏子之宅一、曰、子之宅近レ市、湫隘囂塵、不レ可二以居一。❷**しき地**。**やしき**。〔荀子、大略〕故家五畝宅。〔注〕宅、居處也。〔陶潛、歸二田園居一詩〕方宅十餘畝、草屋八九閒。❸**はか**。〔儀禮、士喪禮〕筮レ宅、冢人營レ之。〔注〕宅、葬居也。〔禮、喪服小記〕祔葬者不レ筮レ宅。〔注〕宅、葬地也。❹**すむ**。**をる**。〔書、堯典〕命二羲仲一、宅二嵎夷一。〔傳〕宅、居也。❺**やすらか**。**やすんずる**。〔禮、郊特牲〕土反二其宅一。〔疏〕宅、安也、土歸二其宅一、則得レ不レ崩。❻**はかる**。度(4-9313)に通ず。〔說文通訓定聲〕宅、假借爲レ度。〔詩、大雅、文王有聲〕宅二是鎬京一。〔禮、坊記〕度二是鎬京一。❼古は侘に作る。〔集韻〕宅、古作レ侘。❽坼(3-5006)に通ず。〔易、解〕百果草木皆甲宅。〔釋文〕宅、馬陸本作レ坼、云レ根也。❾咤(2-3533)に通ず。〔書、舜典〕五宅三居。〔鄭注〕宅、讀曰レ咤。[二]**さける**。坼(3-5246)に同じ。〔集韻〕坼、說文、裂也、亦作レ宅。[三]❶**さかづきをおく**。咤(2-3533)に同じ。〔集韻〕咤、奠レ爵也、或省。❷**こらしめの刑具**。〔書、舜典〕五流有レ宅、五宅三居。〔鄭注〕宅、讀曰レ咤、懲艾之器。[四]❶[三]に同じ。託(2-1593)に同じ。〔集韻〕託、說文、奠レ爵也、或作レ宅。❷**こりる**。〔集韻〕託、宅、一曰、懲也。[五]**のり**。度(4-9313)に同じ。〔集韻〕度、說文、法制也、或作レ宅。[邦]❶**やか**。**やけ**。家。我が家。❷**たく**。をつと。妻が夫をさしていふ語。

[名乘] イへ。タクラ(姓)。

【宅幽】1 タクイウ 閑靜なところに居る。又、家が靜かなこと。〔張衡、思玄賦〕怨二高陽之相一レ寓兮、佃二顓頊之宅一レ幽。〔注〕銑曰、怨三顓頊居二此小陋之地一。〔曹植、大暑賦〕於レ是大人遷レ居宅レ幽、綏神育靈、雲屋重搆、閒房肅淸。

【宅幽而勢阻】2 タクイウニシテセイソナリ 場所が奥深くて地勢がけはしいこと。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕宅幽而勢阻、隱者之所二盤旋一。

【宅憂】3 タクイウ 喪に居ること。〔書、說命上〕王宅二憂亮陰一三祀。

【宅引】4 タクイン 宰相が暇日遲く出仕する時、屬官が私邸より前導すること。〔文昌雜錄〕舊儀、宰相五鼓早朝、朱衣吏不レ引、午後歸レ第方引、假日、遲明始赴二中書一、朱衣吏自二私第一前導、謂二之宅引一。

【宅院】5 chai2 yüan4 庭。空地。

【宅宇】6 タクウ いへ。邸宅。又、のき。〔晉書、王祥傳〕家無二宅宇一。〔晉書、王述傳〕宅宇舊物、不レ革二於昔一。〔南史、顏延之傳〕器服不レ改、宅宇如レ舊。

【宅園】7 chai2 yüan2 庭。庭園。

【宅屋】8 タクヲク いへ。すまひ。〔論衡、率性〕貧劣宅屋、不レ具二牆壁宇一。

【宅家】9 タクカ 天子。又、帝室。天子を直ちに指さないで、陛下といふと同義。〔表異錄〕唐時、宮中呼二天子一爲二宅家一。〔資暇錄〕官家亦稱二宅家一、言下以二天下一爲レ宅、四海爲上レ家、不二敢斥呼一、故曰二宅家一、亦猶二陛下之義一。〔困學紀聞、評詩〕唐子西內前行云、宅家喜得調元手、唐時宮中謂二天子一爲二宅家一、通鑑、韓建發レ兵圍二十六宅一、諸王呼曰、宅家救兒、劉季述等至二思政殿一、皇后趨至、拜曰、軍容勿レ驚二宅家一。

【宅家子】10 タクカシ 天子。帝子。〔資暇錄〕公郡縣主、宮禁呼爲二宅家子一。

【宅基】11 タクキ 家屋の土臺。〔吳融、過二丹陽一詩〕山帶二梁朝一陵路斷、水連二劉尹一宅基平。〔福惠全書、保甲部、建二築柵濠一〕水流聚之處、卽其宅基正向。

【宅居】12 タクキョ すまひ。いへ。〔漢書、淮南厲王長傳〕夫大王以二千里一爲二宅居一、以二萬民一爲二臣妾一、此高皇帝之厚德也。

【宅經】13 タクケイ 書名。二卷。黃帝撰といふ。家宅を相する書。〔四庫提要、子、術數類〕。

【宅券】14 タクケン 宅地の所有證。宅地券。房契。〔宋史、陶穀傳〕崧自レ北還、因以二宅券一獻二逢吉一。

【宅眷】15 タクケン 家族。妻子。眷族。〔東京夢華錄〕宅眷坐二車子一、與二平頭車一大抵相似。〔朱德潤、外宅婦詩〕貧人偸レ眼不二敢看一、問是誰家好宅眷。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕其他人家宅眷、皆汙二辱于寇一。

【宅相】16 タクサウ 外甥をいふ。晉の魏舒が孤兒となり、外戚の寧氏の家に養はれて居たところ、寧氏が家を建てんとした時、家相を觀る人が魏舒を外に出した方がよいと言つたので、外氏の爲に宅相を成さんと言つて身を退けた故事。〔晉書、魏舒傳〕舒、字陽元、少孤、爲二外家寧氏所一レ養、寧氏起レ宅、相レ宅者云、當レ出二貴甥一、外祖母以二魏氏甥小而慧一、意謂レ應レ之、舒曰、當下爲二外氏一成中此宅相上、年四十餘爲二尙書郎一。〔書言故事、親戚類〕稱二外甥一曰二宅相一。

【宅三】17 タクサン 淸、吳俊升(2-3365・・659)の字。

【宅子】18 タクシ 屋敷。官吏の住む屋敷。官邸。〔王銍、默記〕先公與二閻二丈詢仁一同赴二省試一、遇二王元澤一、云云、詢仁問二荆公出處一、云云、答曰、大人先遣來レ京、尋二宅子一爾。

【宅之】19 タクシ 字號。❶宋、曾祖道(5-14299・・207)の字。❷宋、豐有俊(10-36304・・224)の字。❸元、陸友(11-41708・・5)の字。❹元、陸居仁(11-41708・・291)の字。

【宅舍】20 タクシャ いへ。すみか。家屋。〔蜀志、姜維傳〕宅舍弊薄、資財無レ餘。

【宅者】21 タクシャ 官を退いて家に居る者。〔儀禮、士相見禮〕凡自稱二於君一、士大夫則曰二下臣一、宅者在レ邦、則曰二市井之臣一。〔注〕宅者、謂二致仕者一也、致仕者、去レ官而居レ宅、或在二國中一、或在レ野。〔疏〕自稱二於君一、以二其致仕不一レ在、故指レ宅而言、故云二宅者一、謂二致仕者一也。

【宅上】22 タクジャウ ❶やしきのほとり。〔福惠全書、刑名部、問擬〕戮二傷于莊四宅上一。❷chai2 shang2 貴下のお宅。

【宅心】23 タクシン 心を置く。心に存する。心に忘れない。又、心を安んずべき所に止めること。〔書、康誥〕汝丕遠惟二商耇成人一、宅レ心知レ訓。〔蔡傳〕宅レ心、處レ心也、安二汝止一之意。〔陸機、漢高祖功臣頌〕萬邦宅レ心。〔注〕翰曰、宅、居也、言下天下之人、懷二高祖寬仁之德一、常居中於心上。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕淥二身玄淵一、宅二心道祕一。

【宅心齋】24 タクシンサイ 淸、周嘉緗(2-3441・・565)の號。

【宅神】25 タクシン ❶居りて神となる。〔郭璞、江賦〕奇相得レ道而宅神。〔注〕良曰、宅、居、云云、奇相者、人也、得二道於江一、故居レ江爲レ神。❷家の神。竈の神。やかつかみ。〔庾信、小園賦〕鎭二宅神一以薶レ石、厭二山精一而照レ鏡。

【宅人】26 タクジン 住人。其の家にもと住んでゐた人。〔左氏、昭、三〕乃毀レ之而爲二里室一、皆如二其舊一、則使二宅人反一レ之。〔會箋〕宅人、里室之本主也。

【宅第】27 タクダイ タクテイ やしき。住宅。邸宅。〔唐書、楊貴妃傳〕費二緡千萬一見二宅第一。

【宅道】28 タクダウ ❶天子の居る所。國土。〔顏延之、

車駕幸㆓京口㆒侍㆓遊蒜山㆒作詩〕宅道炳㆓星緯㆒、誕曜應㆓辰明㆒。〔注〕翰曰、宅、居、道、界、言、帝所㆑居之界㆒、實光㆓星紀之緯㆒。㊁宋、龐安仁（12—48824··44）の字。

【宅地】29（タクチ） やしき。家屋の敷地。住居に用ひる土地。〔枕中書〕宅地四面、並方三萬里。

【宅兆】30（タクテウ） はかば。墓所。墓地。宅垗。〔孝經、喪親章〕卜㆓其宅兆㆒而安㆓措之㆒。〔孔傳〕宅、墓穴也、兆、塋域也。〔釋文〕兆、封也、字書皆作㆑垗。〔說苑、脩文〕作㆓穿窆宅兆㆒。〔漢書、王莽傳中〕營㆓相宅兆㆒。〔後漢書、靈思何皇后紀〕未㆑卜㆓宅兆㆒。

【宅垗】31（タクテウ） 墓地。宅兆に同じ。〔廣雅、釋丘〕宅垗、塋域、葬地也。

【宅田】32（タクデン） 周代、官を退いた者の受ける俸祿。〔周禮、地官、載師〕以㆓宅田・士田・賈田㆒、任㆓近郊之地㆒。〔注〕宅田、致仕者之家所㆑受田也。

【宅土】33（タクド） 居るべき土地。國土。〔陸機、皇太子宴㆓玄圃宣猷堂㆒有㆑令賦詩〕乃眷斯顧、祚㆓之宅土㆒。〔注〕濟曰、天顧㆓我晉㆒、降㆑之以㆑福、所㆑使㆑居㆓此土㆒也。

【宅房】34（タクバウ） 住宅。家。〔杜牧、悲㆓吳王城㆒詩〕吳王宮殿柳含㆑翠、蘇小宅房花正開。

【宅圃】35（タクホ） やしき。〔韓非子、外儲說左上〕中牟之人、棄㆓其田耘㆒、賣㆓其宅圃㆒而隨㆓文學㆒者、邑之半矣。

【宅牧】36（タクボク） 民を治める官に任命するをいふ。牧は牧民官。〔書言故事、監司類〕賀㆑受㆓親民職㆒、自㆑天宅㆑牧、堯舜置㆓州牧㆒、周公作㆓立政㆒、故曰、宅㆓乃牧㆒。

【宅里】37（タクリ） むらざと。住處。〔書、畢命〕旌㆓別淑慝㆒、表㆓厥宅里㆒。

【宅裏】38（タクリ） やしきのうち。邸内。〔杜甫、江南逢㆓李龜年㆒詩〕妓王宅裏尋常見、崔九堂前幾度聞。〔白居易、望驛臺詩〕靖安宅裏當㆑窓柳、望驛臺前撲㆑地花。〔李商隱、菊詩〕陶令籬邊色、羅含宅裏香。

【安㆑宅】39（タクヲヤスンズ） 居る所を安んずる。處を得る。〔易、剝〕上以厚㆑下安㆑宅。〔注〕安㆑宅者、物不㆑失㆑處也。〔疏〕安㆓物之居㆒。

【相㆑宅】40（タクヲミル） 居るべき地を占ふ。〔書、召誥〕惟太保、先㆓周公㆒相㆑宅。

【宅一區】41（タクイック） 一區劃の宅地。〔漢書、揚雄傳上〕有㆓田一壥㆒、有㆓宅一區㆒、世世以㆓農桑㆒爲㆑業。

【宅皋狼】42（タクカウラウ） 古の地名。一名、蔡皋狼。故城は山西省離石縣の境。〔史記、趙世家〕孟增幸㆓于周成王㆒、是爲㆓宅皋狼㆒。〔注〕集解曰、徐廣曰、皋狼、地名。

【宅門子】43 chai² men² tzŭ 官吏。大なる屋敷「に住む人。

【宅近㆓青山㆒】44（タクセイザンニチカシ） 家が青山に近い。青山は姑熟溪の東南に在る山で、南齊の謝朓が住んだ處といふ。〔李白、題㆓東溪公幽居㆒詩〕宅近㆓青山㆒同㆓謝朓㆒、門垂㆓碧柳㆒似㆓陶潛㆒。〔注〕太白傳曰、晚好㆓黃老渡牛渚磯㆒至㆓姑熟㆒、悅㆓謝家青山㆒、欲㆑居焉、故云㆔宅近㆓青山㆒。

【宅夾㆓清漳㆒】45（タクセイシヤウヲサシハサム） 清い漳水をさしはさんで住む。南齊の劉繪と張融と周顒の三人が共に清漳を夾んで住居し、三人ともに當時の善良であつた故事。〔南史、劉繪傳〕時張融以㆓言辭辯捷㆒、周顒彌爲㆓清綺㆒、而繪音采贍麗、雅有㆓風則㆒、時人爲㆑之語曰、三人共宅夾㆓清漳㆒、張南周北、劉中央、言㆔其處㆓二人間㆒也。

【非㆓宅是卜㆒】46（タクヲコレボクスルニアラズ） 住宅の善惡を卜するのではない。近隣の善惡を卜することが必要なことをいふ。〔左氏、昭、三〕諺曰、非㆓宅是卜㆒、唯鄰是卜。〔注〕卜㆓良鄰㆒也。

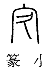
【無㆔宅起㆓樓臺㆒】47（タクノロウダイヲオコスナシ） 樓臺を建築する宅地がない。官に居て清廉潔白な喩。宋の處士魏野が寇準を評した詩。〔宋名臣言行錄、寇準〕寇萊公、名準、處士魏野贈㆑公詩曰、有㆑官居㆓鼎鼐㆒、無㆔宅起㆓樓臺㆒、及㆓北使至㆒、賜㆑宴、北使歷㆓視坐中㆒、問㆓譯者㆒曰、誰是無㆔宅起㆓樓臺㆒相公。

【徙㆑宅而忘㆓其妻㆒】48（タクヲウツシテソノツマヲワスル） 轉居して妻を忘れる。甚だしい健忘者、義理を辨へぬ愚者の喩。〔說苑、敬愼〕魯哀公問㆓孔子㆒曰、予聞、忘之甚者、徙而忘㆓其妻㆒、有㆑諸。〔孔子家語、賢君〕寡人聞、忘之甚者、徙而忘㆓其妻㆒、有㆑諸。〔資治通鑑、唐紀〕（太宗、貞觀元年十二月）魏徵曰、昔魯哀公、謂㆓孔子㆒曰、人有㆓好忘者㆒、徙㆑宅而忘㆓其妻㆒、孔子曰、又有㆓甚者㆒、桀紂乃忘㆓其身㆒、亦猶㆑是也。

【宍】
7065

🈩（キウ・ク） 〔集韻〕居又切　宥

🈔（イウ・ユ） 〔集韻〕以九切　有


小篆

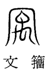
🈩㊀**貧のなやみ**。貧苦。〔說文〕宍、貧病也、从㆑宀久聲、詩曰、煢煢在㆑宍。㊁**やむ**。**なやむ**。疚（7—22033）に通ず。〔段注〕今詩作㆓嬛嬛在㆑疚、毛曰、疚、病也、按、毛詩蓋本作㆑宍、毛釋以㆑病者、謂㆔宍爲㆓疚之叚借㆒也。〔玉篇〕疚、宍也。🈔㊀**貧のなやみ**。🈩の㊀に同じ。〔集韻〕宍、貧病也。㊁**久しく居る**。〔正字通〕宍、久居也。

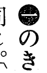
【宆】
7066

（キユウ） 穹（8—25414）に同じ。〔正字通〕宆、同㆑穹。

【宇】
7067

（ウ） 〔集韻〕王矩切　麌　ㄩˇ yü³


小篆


籒文

㊀**のき**。宇（3—7069）に同じ。〔正字通〕宇、篆作㆑宇。〔說文〕宇、屋邊也、从㆑宀亏聲、易曰、上棟下宇。〔釋名、釋宮室〕宇、羽也、如㆓鳥羽自覆蔽㆒也。〔易、繫辭下〕上棟下宇。〔虞注〕宇、謂㆓屋邊㆒也。〔詩、豳風、七月〕八月在㆑宇。〔釋文〕屋四垂爲㆑宇、韓詩、宇、屋霤也。㊁**やね**。〔漢書、郊祀志上〕五帝廟同㆑宇。〔注〕師古曰、宇、謂㆓屋之覆㆒也。㊂**いへ**。〔楚辭、離騷〕高堂邃宇。〔注〕宇、屋也。㊃**居處**。〔廣雅、釋詁二〕宇、凥也。〔詩、大雅、緜〕聿來胥㆑宇。〔傳〕宇、居也。〔國語、周語中〕使㆔各有㆓寧宇㆒。〔注〕宇、居也。㊄**かぎり**。**さかひ**。〔荀子、儒效〕君子言有㆓壇宇㆒。〔集解〕言有㆓壇宇㆒、猶㆑曰㆔言有㆓界域㆒。㊅**國の四境**。〔左氏、昭、四〕失㆓其守宇㆒。〔注〕於㆑國則四垂爲㆑宇。㊆**野**。〔楚辭、宋玉、招魂〕其外曠宇些。〔注〕宇、野也。㊇**國土**。**地域**。〔晉書、樂志〕功冠㆓帝宇㆒。㊈**ひろがり**。上下四方。天地四方。空間。〔莊子、齊物論〕旁㆓日月㆒挾㆓宇宙㆒。〔釋文〕尸子云、天地四方曰㆑宇、往古來今曰㆑宙。〔莊子、庚桑楚〕有㆑實而无㆓乎處㆒者宇也。〔釋文〕三蒼云、四方上下曰㆑宇。㊉**ところ**。**あたり**。區域。〔唐書、三宗諸子、李璡傳〕眉宇秀整。(十一)**かまへ**。**つくり**。〔晉書、劉曜載記〕姿宇神調、命世子才也。〔沈約、沈文季加㆓侍中㆒詔〕業宇流正、鑑識超凡。(十二)**こころぐみ**。器量。〔莊子、庚桑楚〕宇泰定者、發㆓乎天光㆒。〔釋文〕宇、器宇也。(十三)**大きい**。〔爾雅、釋詁〕宇、大也。〔荀子、非十二子〕矞宇嵬瑣。〔注〕宇、大也。(十四)**おほふ**。〔國語、晉語四〕今君子之德宇。〔注〕宇、覆也。(十五)籒文は寓（3—7242）に作る。〔說文〕寓、籒文宇从㆑禹。(十六)或は⿸广于（4—9229）・庽（4—9401）に作る。〔集韻〕宇、籒从㆑禹、或並从㆑广。(十七)**姓**。〔萬姓統譜〕宇、見㆓姓苑㆒、宇燦、江寧人、正統擧人。

名乘 ウ。タカ。ノキ。

參考 字（3—6942）は別字。

【宇域】1（ウヰキ） 天地。〔墨子、經、下〕宇域徙、說在㆓長宇久㆒。

【宇廕】2（ウイン） のきした。〔福惠全書、筮仕部、四六小啓式〕某甫依㆓宇廕㆒、已戴㆓帡幪㆒。

【宇下】3（ウカ） ㊀のきした。簷下。近くの意。〔左氏、昭、十三〕況衞在㆓君之宇下㆒、而敢有㆓異志㆒。〔注〕屋宇之下、喩㆑近也。〔左氏、哀、二十七〕大國在㆓敝邑之宇下㆒。㊁配下。部下。

【庇㆓宇下㆒】4（ウカニヒス） 軒下に庇をつける。〔海錄碎事、人事、薦擧〕庾太尉言㆓王眉子㆒曰、庇㆓其宇

下、使㆔人忘㆓寒暑㆒。

【宇衡】5 ウカウ　明、張銓（沁水の人）（4－9812‥495）の字。

【宇吉】6 ウキツ　清、孫治（3－6987‥215）の字。

【宇和】7 ウクワ　明、周鳳岐（2－3441‥858）の字。

【宇光】8 ウクワウ　清、萬承蒼（9－31339‥599）の字。

【宇寰】9 ウクワン　居るべき場所。世の中をいふ。〔潘音、訪㆓蔡上人㆒詩〕爲㆑尋㆓支遁㆒扣㆓禪關㆒、趺坐觀㆔空出㆓宇寰㆒。

【宇縣】10 ウケン　宇は宇宙。縣は赤縣神州。天下。漢土をいふ。寓縣。〔史記、秦始皇記〕宇縣之中、承㆓順聖意㆒。〔注〕集解曰、宇、宇宙、縣、赤縣。

【宇根】11 ウヒ　琉球の地名。

【宇春】12 ウシユン　字號。㊀明、楊治卿（6－15112‥686）の字。㊁明、王化振（7－20823‥1335）の字。

【宇昭】13 ウセウ　清、唐禹昭（2－3709‥364）の一名。

【宇千】14 ウセン　清、劉南英（2－2224‥1250）の字。

【宇多】15 ウダ　人皇第五十九代の帝諡。〔雍州府志、葛野郡〕宇多天皇陵、在㆓仁和寺北宇多野㆒、故奉㆑號㆓宇多院㆒。

【宇泰】16 ウタイ　明、王肯堂（7－20823‥1461）の字。

【宇内】17 ウダイ　天地の間。あめがした。四海。海内。天下。〔韓非子、解老〕宇内之物、恃㆑之以成。〔史記、秦始皇記〕皇帝明㆑德、經㆓理宇内㆒。〔漢書、翟方進傳〕綏㆓撫宇内㆒。〔漢書、吾丘壽王傳〕宇内日化、方外鄉㆑風。〔淮南子、俶眞訓〕馳㆓於方外㆒、休㆓乎宇内㆒。〔賈誼、過秦論〕振㆓長策㆒而御㆓宇内㆒。〔後漢書、馬融傳〕逍㆓遙乎宇内㆒。〔陶潛、歸去來辭〕寓㆓形宇内㆒、復幾時。

〖冠㆓絕宇内㆒〗18 ウダイニクワンゼツス　天下に於て最もすぐれてゐる。天下第一。〔元田東野、幼學綱要序〕聲教之懿、將㆑有㆘度㆓越上世㆒、而冠㆓絕宇内㆒者㆖矣。

【宇台】19 ウダイ　清、孫治（3－6987‥215）の字。

【宇宙】20 ウチウ　㊀天地四方上下と古往今來。天地古今。宇は空間をいひ、宙は時間をいふ。轉じて、世界、又はありとあらゆる存在物の一切を包括する空間。〔莊子、知北遊〕外不㆑觀㆓乎宇宙㆒、内不㆑知㆓乎大初㆒。〔疏〕天地四方曰㆑宇、往古來今曰㆑宙。〔莊子、庚桑楚〕有㆑實而无㆓乎處㆒者宇也、有㆑長而无㆓本剽㆒者宙也、釋文〕三蒼云、四方上下爲㆑宇、往古來今曰㆑宙。〔荀子、解蔽〕制㆓割大理㆒、而宇宙裏矣。〔淮南子、原道訓〕紘㆓宇宙㆒而章㆓三光㆒。〔注〕四方上下曰㆑宇、古往今來曰㆑宙、以喩㆓天地㆒。〔淮南子、齊俗訓〕往古來今謂㆓之宙㆒、四方上下謂㆓之宇㆒。〔班固、答賓戲〕獨攄㆓意乎宇宙之外㆒。〔注〕銑曰、宇宙、天地也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕荷㆓天衢㆒以元亨、廓㆓宇宙㆒而作㆑京。〔注〕載曰、天所㆑覆爲㆑宇、中所㆑由爲㆑宙也。㊁やねの軒とむなぎとの間。〔淮南子、覽冥訓〕鳳凰之翔㆓至德㆒也、雷霆不㆑作、云云、而燕雀佼㆑之、以爲㆓不能㆒與㆑之爭㆓於宇宙之間㆒。〔注〕宇、屋簷也、宙、棟梁也。㊂渦狀星雲、楕圓狀星雲等は銀河系外の他の宇宙系と考へられ、狹義の宇宙では、この星雲箇々を指すが、廣義の宇宙では全部を包含したものを指す。理論による原始宇宙の半徑は八億光年、現在の半徑は十六億光年で、更に膨脹を續けてゐるといふ。觀測にて到達し得る最遠距離は一億五千萬光年。

〖宇宙外〗21 ウチウノソト　天地のそと。廣い世界を遠く出で離れた處の意。天地外。〔班固、答賓戲〕上無㆑所㆑蔕、下無㆑所㆑根、獨攄㆓意乎宇宙之外㆒、銳㆓思於毫芒之内㆒。

〖宇宙觀〗22 ウチウクワン　㊀世界觀。㊁宇宙に對する觀察。原始的な地球偏平說より天動說・地動說を經て銀河系に發展し、更に遠距離の銀河系外星雲をも含めた大宇宙說にまで進展した。

〖宇宙線〗23 ウチウセン　地球外より來る透過力の非常に強大な電離線で、r線に似てゐるが、其の本體は光子、粒子の何れなるか、また本源は星・宇宙の空間・大氣上層の何れなるか不明である。コスミツクーレー。

〖宇宙峯〗24 ウチウホウ　支那劇題の一種。秦の第二世胡亥が、趙高の娘を見染めて宮中に招いたが、娘は胡を嫌つて遂に嫁せず、父の趙高を怒らしめたといふ筋。

〖宇宙論〗25 ウチウロン　英語 Cosmology の譯。㊀自然哲學の一分科で、其の一般的部門。ヴントは生物學・人類學と共に自然哲學の一分科に屬せしめた。卽ち全體としての宇宙を組織的に研究するもので、これは更に宇宙の法則を研究する宇宙法則學と、宇宙の起原・變遷・形態・構造を研究する記述的宇宙論とに分れる。㊁形而上學の一部で、空間に於ける現象の總體、卽ち自然を取扱ふものをいふ。形而上學をヴオルフは宇宙論・心理學・神學の三分科とし、パウルゼンは本體論と宇宙論との二分科とした。

〖宇宙引力〗26 ウチウインリヨク　萬有引力。

〖宇宙神教〗27 ウチウシンケウ　キリスト教の一派。宇宙（1－633‥28）の生靈は悉く救濟せられるといふ教。

〖宇宙大將軍〗28 ウチウダイシヤウグン　梁、侯景（1－633‥28）の稱。

〖宇宙可㆑臻㆓其極㆒〗29 ウチウソノキヨクニイタルベシ　形のあるものは、廣大な宇宙でもこれを知りつくすことが出來る。〔顏氏家訓、止足〕宇宙可㆑臻㆓其極㆒、情性不㆑知㆓其窮㆒。

【宇中】30 ウチユウ　天地四方。〔荀子、儒效〕宇中六指、謂㆓之極㆒。〔淮南子、兵略訓〕宇中六合、振毫之末。

【宇庇】32 ウヒ　のきした。又、おほひかばふ。〔福惠全書、蒞任部、投到任稟〕冀弘㆓宇庇之恩㆒。

【宇文】33 ウブン　㊀複姓。鮮卑の俗で、天子を宇文といふことによる。一說、北方の俗で、草を俟汾といひ、それが訛して宇文となつたものといふ。〔周書、文帝紀上〕其先爲㆓鮮卑君長㆒、云云、其後曰㆓普回㆒、因㆑狩得㆓玉璽三紐㆒、有㆑文曰㆓皇帝璽㆒、普回心異㆑之、以爲㆓天授㆒、其俗謂㆓天子㆒曰㆑宇、謂㆑君曰㆑文、因號㆓宇文國㆒、幷以爲㆑氏焉。〔通志、氏族略、代北複姓〕宇文氏、本出㆓遼東㆒南單于之後、有㆓葛烏兔㆒、爲㆓鮮卑君長㆒、世襲㆓大人㆒、至㆓普回㆒、因㆑獵得㆓玉璽㆒、自以爲㆓天所㆑授、鮮卑謂㆓天子㆒爲㆓宇文㆒、因號㆓宇文氏㆒、或云、神農氏爲㆓黃帝所㆑滅、子孫遁㆓居北方㆒、以㆔神農有㆓嘗㆑草之功㆒、北俗呼㆑草爲㆓俟汾㆒、音訛爲㆓宇文㆒。㊁清、陳景（11－41698‥207）の字。

〖宇文意〗34 ウブンイ　隋の李和（6－14459‥230）を見よ。

〖宇文迪〗35 ウブンイウ　北周の人。泰の第十三子。字は爾固突。諡は聞。爵は滕國公。官は河陽總管。隋の文帝に害せらる。〔周書、十三〕・〔北史、五十八〕。

〖宇文毓〗36 ウブンイク　北周の明帝。泰の長子。小名は統萬突。宇文護に擁立せられたが、又、其のために弑せられた。廟號は世宗。在位三年。年號は武成。〔北史、九〕。

〖宇文贇〗37 ウブンイン　北周の宣帝。武帝の長子。字は乾伯。在位一年で位を太子に傳へ、自ら天元皇帝と稱す。年號は大成。〔北史、十〕。

〖宇文延〗38 ウブンエン　後魏の人。福の子。字は慶壽。官は員外散騎侍郎。〔魏書、四十四〕。

〖宇文衍〗39 ウブンエン　宇文闡（62）を見よ。

〖宇文愷〗40 ウブンカイ　隋の人。忻の弟。字は安樂。諡は康。官は金紫光祿大夫。著に東都圖記・明堂圖議・釋疑がある。〔隋書、六十八〕・〔北史、六十〕。

〖宇文康〗41 ウブンカウ　北周の人。孝閔帝の子。字は乾定。諡は厲。紀王に封ぜられたが、反を謀つて死を賜はる。〔周書、十三〕・〔北史、五十八〕。

〖宇文顥〗42 ウブンカウ　北周の人。泰の長兄。諡は惠。性、至孝。邵國公を追贈せらる。〔周書、十〕・〔北史、五十七〕。

〖宇文覺〗43 ウブンカク　北周の閔帝。泰の第三子。字は陀羅尼。諡は孝閔。初、西魏に仕へて周公に封ぜられ、後、簒位して自立し、國を周と號した。史家これを北周といふ。時に宇文護、大冢宰となり、權を專らにして驕恣であつたから、覺は之を去らんと謀つたが、事洩れ、却つて護に弑せられた。在位二年。〔北史、九〕。

〖宇文貴〗44 ウブンキ　㊀北周の人。字は永貴。諡は穆。魏に仕へて大將軍となり、戰功があつた。位は柱國に進み、許國公に封ぜられた。官は太保に至る。〔周書、十九〕・〔北史、六十〕。㊁北周の人。憲の子。字は乾福。官は豳州刺史。〔周書、十二〕。

〖宇文虬〗45 ウブンキウ　北周、武川の人。字は樂仁。官は全州刺史・大將軍。〔周書、二十九〕・〔北史、六十六〕。

〖宇文忻〗46 ウブンキン　隋の人。貴の子。字は仲樂。封は英國公。文帝の時、叛をはかつて殺さる。〔隋書、四十〕・〔北史、六十〕。

〖宇文光〗47 ウブンクワウ　宋、黎城の人。字は仲明。左氏

春秋を好む。靖康中、金兵が南下するや、執へられたが、屈せずして死す。〔山西通志〕。

【宇文慶】48（ウブンケイ）　隋、洛陽の人。字は神慶。封は汝南郡公。官は左武衞將軍・涼州總管。〔隋書、五十〕・〔北史、五十七〕。

【宇文皛】49（ウブンケウ）　隋の人。慶の孫。字は婆羅門。俗稱は宇文三郎。煬帝に親愛せらる。〔隋書、五十〕。

【宇文賢】50（ウブンケン）　北周の人。明帝の子。字は乾陽。封は畢王。諡は剌。官は上柱國・雍州牧・太師。後、文帝に殺さる。〔周書、十三〕・〔北史、五十八〕。

【宇文憲】51（ウブンケン）　北周の人。泰の第五子。字は毗賀突。諡は煬。封は齊王。宣帝に殺さる。〔周書、十二〕。

【宇文護】52（ウブンゴ）　北周の人。顥の子。字は薩保。諡は蕩。毓の從兄で、宇文泰の死後、其の遺命を受けて世子の覺を輔く。覺が西魏を簒つて帝となるや、護を大冢宰として晉國公に封じたが、專横驕恣に流れたので、帝が己を除かんと謀るのをさとり、遂に帝を弑して明帝毓を立てた。後、久しからずして又明帝を弑し、武帝邕を立てたが、遂に武帝に殺された。〔周書、十一〕・〔北史、五十七〕。

【宇文興】53（ウブンコウ）　北周の人。諡は靖。恭帝の時、大寧郡公に封ぜられ、宗師に拜せらる。〔周書、十〕。

【宇文常】54（ウブンシヤウ）　宋の人。昌齡の子。字は權可。官は祕書閣修撰・中大夫。〔宋史、三百五十三〕。〔宋史新編、一百十九〕。

【宇文述】55（ウブンジユツ）　隋、武川の人。字は伯通。諡は恭。本姓は破野頭。官は周の上柱國。開皇の初、安州總管となり、煬帝の時、許國公に封ぜらる。〔隋書、六十一〕・〔北史、七十九〕。

【宇文深】56（ウブンシン）　北周の人。測の弟。字は奴千。官は司會中大夫。〔周書、二十七〕・〔北史、五十七〕。

【宇文震】57（ウブンシン）　北周の人。泰の第二子。字は彌俄突。諡は獻。幼くして敏達、十歳にして孝經・論語・毛詩を誦す。後、禮記・尙書を盧誕に受く。魏の文帝の女に尙す。早く卒し、宋國公に追封せらる。〔周書、十三〕・〔北史、五十八〕。

【宇文盛】58（ウブンセイ）　❶北周、代の人。字は保興。泰に從つて軍功あり。封は忠城郡公。官は上柱國。〔周書、二十九〕。❷北周の人。泰の第十子。字は立久突。封は越國公。諡は野。官は相州總管。後、隋の文帝に害せらる。〔周書、十三〕・〔北史、五十八〕。

【宇文招】59（ウブンセウ）　北周の人。泰の第七子。字は豆盧突。封は趙王。諡は僭。文辭に巧。官は太師。隋の文帝の時、叛逆をはかつて殺さる。文集がある。〔周書、十三〕・〔北史、五十八〕。

【宇文籍】60（ウブンセキ）　唐の人。字は夏龜。進士。官は史館修撰。韓愈と共に順宗實錄を修む。〔舊唐書、一百六十〕。

【宇文說】61（ウブンセツ）　北周の崔說（**4**－**8178**··116）を見よ。

【宇文闡】62（ウブンセン）　北周の靜帝。宣帝の長子。本名は衍。隋の文帝に弑せらる。在位二年。年號は大象・大定。〔北史、十〕。

【宇文測】63（ウブンソク）　北周の人。泰の族子。字は澄鏡。封は廣川公。諡は靖。性、沈密。官は行綏州事。〔周書、二十七〕・〔北史、五十七〕。

【宇文泰】64（ウブンタイ）　後魏、武川の人。小名は黑獺。後、魏に仕へて關西大都督となる。孝武帝が高歡に逼られて長安に奔るや泰に依る。これを西魏とす。久しからずして孝武帝を毒殺して文帝を立て、自ら太師となり、政を專らにす。其の子覺、魏を簒つて北周を創め、泰を太祖文皇帝に追尊す。〔北史、九〕。

【宇文導】65（ウブンダウ）　北周の人。顥の子。字は菩薩。諡は孝。齊の神武の軍を破り、章武郡公に進む。〔周書、十〕・〔北史、五十七〕。

【宇文達】66（ウブンタツ）　北周の人。泰の第十一子。字は度斤突。諡は㚖。政績あり、爵を王に進められたが、後、隋の文帝に害せらる。〔周書、十三〕・〔北史、五十八〕。

【宇文胄】67（ウブンチウ）　北周の人。什肥の子。官は滎州の刺史。楊素と戰つて敗る。〔周書、十〕。

【宇文直】68（ウブンチヨク）　北周の人。泰の第六子。字は豆羅突。諡は剌。封は衞王。反を謀つて誅せらる。〔周書、十三〕・〔北史、五十八〕。

【宇文弼】69（ウブンヒツ）　隋、洛陽の人。字は公輔。官は禮部尙書。聲望を忌まれて煬帝に誅せらる。著に尙書・孝經注及び辭賦二十餘萬言がある。〔隋書、五十六〕・〔北史、七十五〕。

【宇文福】70（ウブンフク）　後魏、洛陽の人。諡は貞惠。官は瀛州刺史。〔魏書、四十四〕・〔北史、二十五〕。

【宇文融】71（ウブンユウ）　唐、萬年の人。弼の遠孫。官は同平章事。〔唐書、一百三十四〕・〔舊唐書、一百五〕。

【宇文邕】72（ウブンヨウ）　北周の武帝。泰の第四子。字は禰羅突。初、魯國公に封ぜられたが、明帝、遺詔して邕を立つ。時に宇文護、政を專らにす。邕、深沈にして露さず、遂に護を誅して政を自らし、又、齊の衰微に乘じて之を滅ぼし、北方を統一して國勢大いに振ふ。在位十八年。廟號は高祖。紀元は四、保定・天和・建德・宣政。〔北史、十〕。

【宇文孝伯】73（ウブンカウハク）　北周の人。深の子。字は胡三。宣帝に直言して死を賜はる。〔周書、四十〕・〔北史、五十七〕。

【宇文虛中】74（ウブンキヨチユウ）　宋、華陽の人。字は叔通。肅愍と贈諡す。大觀の進士。南渡の後、金に使し、留められて翰林學士知制誥となる。金人稱して國師といふ。尋いで又禮部尙書に遷る。金人が南侵せんとする每に、常に詞を飾りて諫阻す。其の金に在るや、才を恃みて輕肆、常に金人を譏訕したので、遂に反を謀ると誣ひられ、全家焚死す。文集がある。〔宋史、三百七十一〕・〔宋史新編、一百三十五〕・〔南宋書、二十九〕・〔皇朝名臣言行續錄、四〕・〔金史、七十九〕。

【宇文化及】75（ウブンクワキフ）　隋、武川の人。述の長子。性、險狠、煬帝の時、許公となる。帝に隨つて江都に在り、煬帝を弑して秦王浩を立て、自ら大丞相となり、後、浩を殺して自立し、許帝と稱す。唐の武德の初、竇建德に殺さる。〔隋書、八十五〕・〔北史、七十九〕。

【宇文公諒】76（ウブンコウリヤウ）　元、吳興の人。字は子貞。純節先生と私諡す。至順の進士。官は嶺南廉訪使僉事。著に折桂集・觀光集がある。〔元史、一百九十〕。

【宇文三郎】77（ウブンサンラウ）　隋、宇文皛（49）をいふ。

【宇文士及】78（ウブンシキフ）　唐の人。述の第三子。字は仁人。諡は縱。隋の煬帝の女に尙した。唐に仕へて殿中監となる。封は郢國公。〔唐書、一百〕・〔舊唐書、六十三〕。

【宇文之邵】79（ウブンシセウ）　宋、綿竹の人。字は公南。進士。學者、止止先生と稱し、司馬光に推重せらる。〔宋史、四百五十八〕・〔宋史新編、一百七十八〕・〔宋元學案、六〕。

【宇文什肥】80（ウブンジフヒ）　北周の人。顥の子。孝子。景と追諡せらる。〔周書、十〕・〔北史、五十七〕。

【宇文昌齡】81（ウブンシヤウレイ）　宋、雙流の人。字は伯修。進士。官は戶部侍郎。〔宋史、三百五十三〕・〔宋史新編、一百十九〕。

【宇文神擧】82（ウブンシンキヨ）　北周の人。泰の族子。政績あり。官は司武上大夫。宣帝に殺さる。〔周書、四十〕・〔北史、五十七〕。

【宇文紹奕】83（ウブンセウエキ）　宋、廣都の人。字は袞臣、又、袞臣とも稱す。博學にして古を好む。官は劍州通判。後、臨邛・廣漢の守となる。著に原隸・臨邛志がある。

【宇文紹節】84（ウブンセウセツ）　宋、廣都の人。字は挺臣。諡は忠惠。進士。官は端明殿學士。〔宋史、三百九十八〕・〔宋史新編、一百四十七〕・〔南宋書、二十九〕・〔宋元學案、七十二〕。

【宇文智及】85（ウブンチキフ）　隋の人。化及の弟。濮陽郡公となつたが、弑逆を謀つて竇建德に殺さる。〔隋書、八十五〕・〔北史、七十九〕。

【宇文忠之】86（ウブンチユウシ）　後魏、洛陽の人。官は安南將軍・尙書右丞。國史を修めた。綽號は黑宇。〔魏書、八十一〕・〔北史、五十〕。

【宇文洛生】87（ウブンラクセイ）　北周の人。泰の兄。諡は莊。漁陽王となり、呂國公に追封せらる。〔周書、十〕。

【宇溜】88（ウリウ）　あまだれ。〔晏子、重而異者〕寄㆓之於國門外、宇溜之下㆒。

【宇量】89（ウリヤウ）　人物。性質。器宇度量。器量。〔晉書、武帝紀〕帝宇量弘厚、容㆓納讜正㆒。〔袁宏、三

國名臣序贊〕宇量高雅。〔潘岳、司空密陵侯鄭袤碑〕於鑠元侯、則レ天垂レ象、弘操嶽峻、宇量深廣。

【宇梠】90ウリヨ のき。ひさし。〔爾雅、釋宮、檐謂二之樀一、疏〕屋簷、一名樀、一名屋梠、又名レ宇、皆屋之四垂也、故士喪禮曰、爲レ銘置二于宇西階上一、鄭注云、宇梠、是也。

【宇霖】91ウリン 明、蘇觀生（9-32427··227）の字。

【峻レ宇】92ウヲタカクス 棟宇を高大にする。高樓をつくる。〔書、五子之歌〕峻レ宇雕レ牆。〔蔡傳〕峻、高大也、宇、棟宇也。

【宇榮原】93ウイバル 琉球の地名。

【宇江城】94ウエグスク 琉球の地名。

【宇自可】95ウジカ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【宇出津】96ウセツ 能登國の地名。

【宇茂佐】97ウサン 琉球の地名。

【宇井默齋】98ウヰモクサイ 肥前の人。名は弘篤。字は信篤。通稱は小一郎。號は默齋。久米訂齋・服部南郭に師事す。官は唐津藩儒。致仕後、京師に赴き、教授を以て業とす。初、理學を修め、後、李王の學を修めたが、更に其の非を悟つて、理學に復歸す。天明元年十一月二十日歿す、年五十七。著に警戒錄・呫嗶小錄・讀書錄・默齋筆記がある。〔先哲叢談續、十〕。

【宇野士朗】99ウノシラウ 京都の人。名は鑒。字は士朗・士茹。通稱は兵介・龜千代。略稱は宇士朗。荻生徂徠の說を奉ず。兄の明霞と共に平安二宇先生と稱せらる。享保十六年十月歿す、年三十一。著に遺稿・平安志がある。〔先哲叢談、正、七〕。

【宇野東山】100ウノトウザン 江戸の人。名は成之、字は子成。號は東山逸民・耕齋。清水江東に師事し、古學を修め、最も訓詁の說に精通し、漢魏の傳疏を發明する所が多い。著に醫宗金鑑傷寒部・吳子國字解・古文尙書標注・左傳纂疏・左傳魯曆考・算法闕疑拾遺・詩經國字解・詩經古注標注・朱注詩經標解・四書國字解・新刻蒙求國字解・書經諺解・字林玉篇大全・唐詩選解・唐詩選便蒙・標注淮南子・蒙求啓・列子國字解・論語集解國字辨がある。〔近代名家著述目錄〕。

【宇野明霞】101ウノメイカ 京都の人。名は鼎。字は士新。通稱は三平。號は明霞軒。向井滄洲・僧大潮に師事し、講說を業とす。初、徂徠學を敬慕したが、後、折衷を主とし、漢魏以來の諸說を統一して別に一家の說を立つ。兼ねて文章に巧。延享二年四月十七日歿す、年四十八。著に蘐園名公四序評・語字解・左傳考・七才子近體詩考・七絕聲律・姓氏解・滄溟近體集解・唐詩集解・唐詩正律・名字解・明霞遺稿・論語考がある。〔近代名家著述目錄〕・〔先哲叢談、正、七〕。

【宇佐美灊水】102ウサミシンスイ 上總の人。名は惠。字は子迪。通稱は惠助。號は灊水。荻生徂徠に師事す。江戸芝三島街に塾を開いて教授す。晚年松江藩に仕ふ。篤く徂徠の說を信じ、多く其の遺著を校刻す。安永五年八月九日歿す、年六十七。著に訓點千字文・蘐園錄稿・古文矩文變考・四家雋・酒色論・絕句解・絕句解考證・絕句解拾遺・絕句解拾遺考證・南留別志・辨名考・辨道考・輔儲編・論語徵考・王注老子がある。〔近代名家著述目錄〕・〔先哲叢談、正、八〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【宇佐美樸仙】103ウサミボクセン 江戸の人。名は常善。字は克。號は樸仙・樸々老人。天保年間の人。醫を以て業とす。著に好蘇癖言・水滸傳解說・蘇家事類分記・蘇文忠公墨帖・蘇文忠公墨帖古史・對此君漫錄がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【宇津木昆岳】104ウツギコンガク 近江の人。名は久純。字は德卿。通稱は雄三郎・兵庫・圖書。號は昆岳。官は彥根藩儒、藩の中老・稽古館頭取。詩に巧。文化九年八月四日歿す、年六十六。著に六松園集がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【宇津木昆臺】105ウツギコンダイ 名古屋の人。名は謙。字は益夫。通稱は太一郎。號は昆臺・五足齋。京都に出て醫を業とし、古醫方を以て名あり。博聞強記にして、神・儒・佛・老・醫に精通す。又、詩文和歌に巧。嘉永元年五月八日歿す、年七十。著に解莊・古訓醫傳・天放子經緯編・日本醫史・風寒熱病方がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【宇田川槐園】106ウダガハクワイエン 江戸の人。名は晉。字は明卿。通稱は玄隨。號は槐園・東海。官は津山藩儒醫。蘭學を修めた。正四位を贈らる。寬政九年十二月十八日歿す、年四十三。著に遠西名物考・涅蘭度草木略・槐塾文府・槐園遺草・槐園漫筆・西文矩・西洋醫言・東西病考・讀晏子・讀管子・西說內科撰要・發音錄正誤・蘭畝俶載・蘭譯弁髦がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【宇都宮三的】107ウツノミヤサンテキ 遯庵の子。名は三的。字は文甫。號は圭齋。〔先哲叢談、正、四〕。

【宇都宮遯庵】108ウツノミヤトンアン 周防の人。名は的。字は由的。通稱は三近。號は遯庵・頑拙齋・三近子。松永尺五を師とす。官は周防岩國藩儒。致仕の後、塾を江戸に開いて教授す。晚年、又、岩國の文學職となる。正五位を贈らる。寶永六年五月二日歿す、年七十七。著に鼇頭四書集注・錦繡段首書・錦繡段首書抄・錦繡段詳注・近思錄首書・古文前集首書增益校正・古文後集首書增補・三體詩詳解・三五韻・職原抄首書・授幼爵位考・詩林廣記前集・小學詳解・千家詩首書・千家詩俚諺抄・忠經首書・杜律集解首書・杜律集解增益首書・杜律詳解・遯庵詩集・日本古今人物史・花見記・文家小筌文選音注・蒙求詳說・蒙求爵位考がある。〔先哲叢談、正、四〕・〔近代名家著述目錄〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【結レ宇南林側】109イヘヲムスブナンリンノカタハラ 南林の側に小屋を構へて住む人が、魚鳥にも貪る心があるのを見て獨り空しく嗟歎した詩。〔懷風藻、紀末茂、臨レ水觀レ魚〕結レ宇南林側、垂レ釣北池潯、人來戲鳥沒、船渡綠萍沈、苔搖識二魚在一、緡盡覺二潭深一、空嗟芳餌下、獨見有二貪心一。

【同レ宇而異レ體】110ウヲオナジクシテタイヲコトニス 萬物、同じく生を宇內に受け、然も其の形體は異なる。〔荀子、富國〕萬物同レ宇而異レ體。〔注〕同生二宇內一、形體有レ異。

【宇】7068

ウ

宇（3－7067）に同じ。〔篇海類編〕宇、與レ宇同。

【宇】7069

ウ

宇（3－7067）の篆文。〔正字通〕宇、篆作レ宇。

【宆】7070

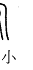
バウ

罔（9－28211）の古字。〔玉篇〕宆、古文罔。

【守】7071

㊀シウ シユ 〔集韻〕始九切 ㄕㄡˇ shou^3 有

㊁シウ シユ 〔集韻〕舒救切 宥

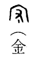


小篆

㊀❶まもり。㋑やく。つとめ。〔說文〕守、守官也、从レ宀从レ寸、从レ宀、寺府之事也、从レ寸、法度也。〔孟子、公孫丑下〕有二官守一者、不レ得二其職一則去。〔注〕官守、居レ官守レ職者。㋺みさを。操守。〔呂覽、論人〕喜レ之以驗二其守一。〔注〕守、清守也。㋩そなへ。〔梁簡文帝、賀二洛陽平一啓〕勞二守障之民一。❷まもる。㋑はげむ。つかさどる。〔左氏、昭、二十〕守レ道、不レ如レ守レ官。〔荀子、王霸〕有以守レ多、能無レ狂乎。〔注〕守レ多、謂下自任二主百事一者上也。㋺たもつ。保持して失はない。〔玉篇〕守、護也。〔易、坎〕王公設レ險、以守二其國一。㋩ふせぐ。〔增韻〕守、攻守也。〔太玄經、玄衝〕守不レ可レ攻。㋥みはる。〔玉篇〕守、視也。〔韓非子、五蠹〕因釋二其耒一而守レ株。㋭居る。〔史記、天官書〕其人守二犯太微一。〔注〕集解曰、居二其宿一曰レ守。㋬待つ。〔史記、樂書〕弦匏笙簧、合守レ拊レ鼓。〔注〕正義曰、守、待也。集解曰、合、皆也、言、衆皆待レ擊レ鼓乃作也。㋣もちこたへる。とりまもる。操守する。〔易、繫辭下〕何以守レ位曰レ仁。〔鄭注〕持不レ惑曰レ守。〔書、洪範〕凡厥庶民、有レ猷有レ爲有レ守。〔傳〕民戢有レ道、有レ所レ爲、有レ所二執守一。〔詩、大雅、鳧鷖序〕能持レ盈守レ成。〔疏〕守、亦持也、主而不レ失、謂二之守一。❸ひさしい。〔廣雅、釋詁三〕守、久

也。㊃をさめる。〔玉篇〕守、收也。〔北史、于栗磾傳〕拘二守別室一。㊄もとめる。〔漢書、外戚傳上〕數守二大將軍光一。〔注〕師古曰、守、求二請之一。〔後漢書、竇融傳〕融於レ是日往守レ萌。〔注〕守、猶レ求也。㊅かり。〔戰國、趙策〕趙以爲二守相一。〔正解〕守、假官也。㊆位が卑く官の高いことを表はす語。〔韓愈、與二于襄陽一書〕將士郎守國子四門博士。㊇清制、京察が人物を擧用する時の標準、四格の一。官吏の清謹公平なもの。〔清會典、吏部〕凡京察、堂官察二其屬之職一、而註考焉、云云、乃定以二四格一、一曰、守。〔注〕有レ清、有レ謹、有レ平。㊈或は寽(4－7441)に作る。〔集韻〕守、或作レ寽。㊉姓。〔尚友錄〕守、見二姓苑一。〔奇姓通〕守恭、惠州人、蘇東坡在二惠州一、薦二詩酒一友。［二］㊀まもる。ふせぐ。防禦する。〔禮、少儀〕守犬田犬。〔疏〕守犬、守二禦宅舍一者也。〔後漢書、董卓傳〕徼二守塞下一。㊁地方を守る諸侯。又、諸侯が天子の爲に土地を守ること。狩(7－20390)に通ず。〔正字通〕守、諸侯爲二天子一守レ土曰レ守、別作レ狩。〔書、舜典〕東巡レ守。〔疏〕東行巡二省守レ土之諸侯一。㊂とのもり。宿衞。〔周禮、天官、內宰〕糾二其守一。〔注〕守、宿衞者。㊃防備兵。〔晉書、宣帝紀〕大興二屯守一、廣開二淮陽一。㊄地方長官。〔獨斷、上〕守者、秦置也、秦兼二天下一、置二三川守一、伊・河・洛也。〔史記、南越尉佗傳、南越王尉佗者眞定人也、注〕索隱曰、大郡曰レ守。〔漢書、百官公卿表〕郡守、秦官、掌レ治二其郡一、秩二千石、景帝更名二太守一。〔魏志、傳嘏傳〕秦始罷レ侯置レ守。［邦］㊀まもる。見つめる。凝視する。㊁まもり。まもりふだ。護衞とする神佛の札。㊂もり。小兒の世話をする人。㊃かみ。古の官名。一國の長。國守。

［名乘］サネ。モリ。

［解字］會意。宀と寸との合字。宀は寺府、官府。寸は法度。本義は、法度を以て官府に法度あらしめる義。〔說文、守、从レ宀从レ寸、从レ宀、寺府之事也、从レ寸、法度也、段注〕寸部曰、寺、廷也、广部曰、府、文書藏也、守从二二者一、會意。▽（金文）形聲。宀に從ひ、手の聲。宮殿などを守る意。手が後に寸に變じた。

【守意】1 シュイ 心を堅くまもる。〔晉書、任城景王陵傳〕雖二受レ罪流放一、守レ意不レ移而卒。

【守意龕】3 シュイガン 清、百齡(8－22679・・621)の號。

【守位】4 シュヰ 位を守る。職につとめる。〔易、繫辭下〕何以守レ位、曰、人。〔忠經、百工〕守レ位謹レ常。

【守尉】5 シュヰ 郡守と都尉。秦漢の頃、各郡に在つた役人。守は郡を治めることを掌り、尉は守を佐けて軍人兵士を掌つた。〔史記、秦始皇紀〕非二博士官所レ職、天下敢有下藏二詩書百家語一者上、悉詣二守尉一雜燒レ之。〔漢書、高帝紀下〕代相國陳豨反、云云、趙相周昌奏、常山二十五城、亡二其二十城一、請誅二守尉一、上曰、守尉反乎、對曰、不、上曰、是力不レ足、亡レ罪。〔注〕師古曰、守者、郡守、尉者、都尉也。

【守尉監】6 シュヰカン 守と尉と監。ともに秦の官名。秦の郡守は其の郡を治めることを掌り、丞尉は守を佐けて武職甲卒を掌り、監御史は郡を監することを掌る。〔史記、秦始皇紀〕分二天下一以爲二三十六郡一、郡置二守・尉・監一。〔注〕漢書百官表曰、秦郡守、掌レ治二其郡一、有二丞尉一、掌レ佐レ守、典二武職甲卒一、監御史、掌レ監レ郡。

【守一】7 シュイツ ㊀心を專らにする。一事に專心する。〔後漢書、襄楷傳〕其守一如レ此、乃能成レ道。〔五代史、張薦明傳〕夫一、萬事之本也、能守レ一者、可三以治二天下一。㊁道家の術。事物を精思し、神通力を得る法。〔抱朴子、地眞〕人能守レ一、一亦守レ人、所下以白刃無レ所レ措二其鋭一、百害無レ所レ容二其凶一、居レ敗能成、在レ危獨安上也。㊂字號。㋑宋、蕭定基(9－32012・・479)の字。㋺明、樊敬(6－15414・・26)の字。㋩明、毛存誠(6－16772・・305)の字。

【守邑】8 シュイフ 墓を守る爲に置く部落。〔史記、南越王尉佗傳〕乃爲三佗親冢在二眞定一、置二守邑一、歲時奉祀。

【守宇】9 シュウ 國土。領國。〔左氏、昭、四〕或無レ難以喪二其國一、失二其守宇一。〔疏〕於レ國則四垂爲レ宇也、四垂、謂二四竟邊垂一。

【守衞】10 シュヱイ ㊀守備する。まもる。〔列子、楊朱〕人者、爪牙不レ足三以供二守衞一。〔呂覽、恃君〕爪牙不レ足二以自守衞一。㊁門番。又は警衞の人。〔漢書、吾丘壽王傳〕安居則以制二猛獸一而備二非常一、有レ事則以設二守衞一而施二行陣一。〔晉書、懷帝紀〕宮省無二復守衞一。〔六部成語、兵部、守衞、注解〕看守護衞之兵。㊂官衙・學校・工場等の警備を掌る者。

【守要】11 シュエウ 守るに要を得ること。肝腎な所をおさへて失はぬこと。守約。〔韓非子、有度〕先王之所レ守要、故法省而不レ侵。〔羣書治要、尸子〕明王之治レ民也、云云、事少而功多、守要也。

【守溫】12 シュヲン ㊀明、戴瑱(5－11685・・107)の字。㊁唐末の僧。三十六字母を作る。又、著に清濁韻鈐がある。〔崇文總目〕・〔宋史、藝文志〕。

【守介】13 シュカイ 古、國々の守（カミ）介（スケ）。

【守械】14 シュカイ 防備のしかけ。〔公羊、僖、二十一〕於レ是歸、設二守械一而守レ國。

【守行】15 シュカウ 宋、葉筠(9－31387・・4)の字。

【守孝】16 shou^3 hsiao^4 父母の喪に服する。

【守更】17 shou^3 ching^1 夜警。夜番。

【守干】18 シュカン 宋の僧。藁城の人。龍興寺に居る。元祐の間、廻照大師と賜號す。〔畿輔通志〕。

【守捍】19 シュカン まもりふせぐ。〔蘇軾、乞二常州居住一表〕臣日夜守捍、偶獲二安全一。

【守監】20 シュカン 郡守と郡監。守尉監(6)を見よ。〔史記、張丞相傳〕及二高祖起レ沛、擊二破泗水守監一。

【守危】21 シュキ わざはひにあはぬやうに注意すること。〔禮、禮運〕故明二于順一、然後能守レ危也。

【守氣】22 シュキ 一身の氣力を守る。氣力を持すること。〔左氏、昭、十一〕不レ道不レ共、不レ昭不レ從、無二守氣一矣。〔孟子、公孫丑上〕孟施舍之守レ氣、又不レ如二曾子之守約一也。〔集注〕言、孟施舍雖レ似二曾子一、然其所レ守、乃一身之氣。

【守器】23 シュキ ㊀藏してゐる器物。所藏品。〔左氏、昭、十六〕非二官府之守器一也。㊁車服等の器物を保持する。〔左氏、成、二〕名以出レ信、信以守レ器。〔注〕器、車服、名、爵號。〔疏〕此名號車服、是君之所レ主也、云云、動不レ失レ信、然後車服可レ保、此信所三以守二車服之器一也。㊂宗廟の祭器をつかさどりまもる。太子をいふ。〔王褒、皇太子箴〕文昌著二于前星一、秬鬯由二于守器一。〔沈約、立二太子一詔〕自二昔哲后一、降及二近代一、莫レ不二立レ儲樹レ嫡、守レ器承レ祧。

【守龜】24 シュキ うらなひに用ひる龜。〔左氏、哀、二十三〕君告二于天子一、而卜レ之以二守龜於宗祧一、吉矣。〔管子、小匡〕守龜不レ兆。〔孔子家語、好生〕臧氏家有二守龜一焉、名曰レ蔡。

【守義】25 シュギ ㊀臣下としての道を守る。〔史記、三王世家〕天子恭讓、羣臣守レ義。㊁操を守る。〔詩、鄘風、柏舟序〕衞世子共伯蚤死、其妻守レ義、父母欲二奪而嫁一レ之、誓而弗レ許。〔疏〕故夫死不レ嫁、是夫妻之義也。

【守舊】26 シュキウ ふるいならはしをまもる。前例によりしたがふ。保守。守古。〔宋史、歐陽脩傳〕宋興且百年、文章體裁、猶仍二五季餘習一、鎪二刻駢偶一、淟認弗レ振、士因レ陋守レ舊、論卑氣弱。

【守境】27 シュキヤウ 國境を守る。〔後漢書、仲長統傳〕疲駑守レ境、貪殘牧レ民。

【守宮】28 シュキユウ ㊀やもり。又とかげの異名。丹砂を餌として之を飼ひ、或る大きさになつた後、之を擣いて女人の體に塗れば、房事を犯さない限り、赤痣の如くなつて終身消滅しないといふ。淫逸を防ぎ得るから守宮といふ。一說に、常に屋壁に居るから守宮といふ。一名、壁虎、蝘蜓。壁宮。蝎虎。蝘蝎。〔漢書、東方朔傳〕置二守宮盂下一、射レ之、皆不レ能レ中。〔注〕師古曰、守宮、蟲名也、術家云、以レ器養レ之、食以二丹砂一、滿二七斤一、擣二治萬杵一、以點二女人體一、終身不レ滅、若有二房室之事一則滅矣、言、可三以防二閑淫逸一、故謂二之守

宮一也。〔本草、守宮〕釋名、壁宮・壁虎・蠍虎・蝘蜓、弘景曰、蝘蜓、喜緣二籬壁間一、以レ朱飼レ之、滿二三斤一殺、乾末以塗二女人身一、有二交接事一便脫、不レ爾如二赤痣一、故名二守宮一、而蜥蜴亦名二守宮一、殊難二分別一、按、東方朔云、若非二守宮一則蜥蜴、是矣、恭曰、蝘蜓又名二蠍虎一、以三其常在二屋壁一、故名二守宮一、亦名二壁宮一、飼レ朱點二婦人一、謬說也。〔博物志、戲術〕蜥蜴或名二蝘蜓一、以レ器養レ之、以二朱砂一、體盡赤、所レ食滿二七斤一、治二擣萬杵一、點二女人支體一、終年不レ滅、惟房室事則滅、故號二守宮一。〔傳云、東方朔漢武帝識レ之有レ驗。〔事文類聚〕漢武帝時、以二端午日一取二蜥蜴一、置二之器一、飼以二丹砂一、至二明年端午一、搗レ之以塗二宮人臂一、有レ所レ犯消沒、不レ爾則如二赤痣一、故得二守宮之名一。㊁宮を守る。〔墨子、號令〕守レ宮三匝、外環隅爲二之樓一。

〖守宮槐〗29 シュキュウクワイ 槐樹の一種。其の葉は、晝は合し夜に開くといふ。〔爾雅、釋木〕守宮槐、葉晝聶、宵炕。〔注〕槐葉、晝日聶合、而夜炕布者、名爲二守宮槐一。〔疏〕聶、合也、炕、張也、言二其葉晝合夜開者一、別名二守宮槐一。

【守圉】30 シュギョ 外境をまもること。又、守禦に同じ。〔管子、小匡〕有二守圉之備一矣。〔戰國、趙策〕非二戰鬭守圉之具一、其將二何以當一レ之。〔漢書、敍傳下〕建二設藩屛一、以強二守圉一。

【守御】31 シュギョ ふせぎまもる。守禦に同じ。〔漢書、郊祀志上〕匈奴數入レ邊、興レ兵守御。

【守禦】32 シュギョ 城をまもり、敵をふせぐ。防禦する。守御。〔六韜、龍韜、農器〕守禦之備、可レ無レ設乎。〔墨子、備城門〕乃足二以守禦一。〔史記、騶奭傳〕善守禦爲レ節レ用。〔漢書、蒯通傳〕罷二備レ漢守禦一。

【守狗】33 シュク 家を守る犬。番犬。守犬。〔呂覽、聽言〕今人曰二其氏多レ貨、其室培濕、守狗死、其勢可レ穴也、則必非レ之矣。〔孔子家語、曲禮子夏問〕孔子之守狗死。

【守具】34 シュグ ふせぎまもるに用ひる具。防衛のための兵器。〔呂覽、聽言〕曰三某國饑、其城郭庳、其守具寡、可二襲而篡一レ之、則不レ非レ之。

【守愚】35 シュグ ㊀かしこぶらないこと。〔論衡、別通〕有二守愚不覽之闇一。〔韓偓、守愚詩〕守レ愚不レ學二世途險一、無レ事始知二春日長一。㊁字號。㋑唐、鄭谷(**11－39647**・・141)の字。㋺清、潘奕雋(**7－18236**・・125)の字。

〖守愚子〗36 シュグシ 明、余本(**1－515**・・56)の號。

【守空】37 シュクウ ㊀空闈を守る。〔薛道衡、昔昔鹽詩〕關山別二蕩子一、風月守二空闈一。㊁shou³ k'ung¹ 妓女が病氣などで客を取らないこと。

【守瓜】38 シュクワ 蟲の一種。うりばへ。一名、蠸、又、輿父。或は瓜螢ともいふ。瓜蠅。〔爾雅、釋蟲〕蠸・輿父、守瓜。〔注〕今瓜中黃甲小蟲、喜食二瓜葉一、故曰二守瓜一。〔疏〕蠸・輿父、一名守瓜。

【守寡】39 shou² kua³ 後家の操を立て通す。

【守官】40 シュクワン 官をまもる。職に赴くこと。〔左氏、昭、二十〕守レ道不レ如レ守レ官。〔謝瞻、王撫軍庾西陽集別作詩〕祇レ召旋二北京一、守レ官反二南服一。〔蘇洵、送二石昌言使一レ北引〕昌言及二第第四人一、守二官四方一、不二相聞一。

【守訓】41 シュクン ㊀をしへをまもる。守教。〔何景明、述歸賦序〕宋之大儒、知二乎道一而嗇二乎文一、長二循レ轍守レ訓、而不レ能三比レ事聯レ類、開二其未發一。㊁後周、薛仁謙(**9－32123**・・210)の字。

【守形】42 シュケイ かたちをまもる。外形をまもる。〔莊子、山木〕莊周曰、吾守レ形而忘レ身。

【守卿】43 シュケイ 字號。㊀明、徐柏(**4－10110**・・256)の字。㊁明、馬應魁(**12－44572**・・702)の字。

【守惠】44 シュケイ 南唐、劉仁贍(**2－2224**・・1092)の字。

【守經】45 シュケイ 常道を堅く守ること。〔漢書、貢禹傳〕守レ經據レ古、不レ阿二當世一。〔曾鞏、雪詠詩〕願彼守經士、幸可レ繼二糗糧一。

〖守經堂〗46 シュケイダウ 清、吳蘭修(**2－3365**・・890)の室名。

〖守經達權〗47 シュケイタツケン 平常は正道を守り、變に臨んでは適宜の處置をとること。常道を守り、權道に達してゐること。

【守教】48 シュケウ ㊀教を從ひまもる。守訓。〔明治中興先覺志〕晉作任レ才不レ羈、元瑞守レ教攻苦。㊁明、談愷(**10－35633**・・7)の字。

【守缺】49 シュケツ 殘缺したものを保持する。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一書〕若立二辟廱・封禪・巡狩之儀一、則幽明而莫レ知二其原一、猶欲二保レ殘守レ缺。

【守闕】50 シュケツ ㊀宮門を守る。〔漢書、王莽傳中〕守レ闕告訴者多。〔潘岳、西征賦〕忝屬號而守レ闕。㊁官吏になる資格を得て、闕員あるを待つこと。〔王安石、上二仁宗皇帝一言レ事書〕以二守レ選待レ除守レ闕、通レ之、蓋六七年、而後得二三年之祿一。

【守業】51 シュゲフ 先祖傳來の業を守る。本業を守る。〔左氏、昭、二十八〕餘子之不レ失レ職、能守レ業者也。〔國語、周語中〕守レ業不レ懈。〔韓非子、二柄〕越レ官則死、不レ當則罪、守二業其官一、所レ言者貞也。〔漢書、五行志中之上〕篤在レ守レ業。

【守犬】52 シュケン 番犬。守狗。〔禮、少儀〕犬則執レ緤、守犬、田犬、則授二擯者一。〔疏〕守犬、守二禦宅舍一者也。〔穆天子傳、三〕守犬七十。

【守兼】53 シュケン 本官でなくてかりに兼務する。兼任。〔漢書、王莽傳中〕縣宰缺者、數年守兼。

【守謙】54 シュケン ㊀へりくだつてゐること。〔晉書、張祚傳〕持レ盈守レ謙、五十餘載。㊁字號。㋑金、賈益謙(**10－36755**・・145)の本名。㋺明、鄭滿(**11－39647**・・264)の字。㋩明、李益(**6－14459**・・66)の字。

【守權】55 シュケン 尉繚子の篇名。

【守元】56 シュゲン 字號。㊀元、尤玘(**4－7543**・・11)の字。㊁明、黃中色(**12－47926**・・1244)の號。

【守戶】57 シュコ 山陵の洒掃を掌る職。〔國史略、聖武天皇〕詔改二名弱濱一、曰二明光浦一、置二守戶一。

【守古】58 シュコ 古を守る。古きに遵ふ。守舊。守故。〔論衡、程材〕守レ古循レ志、案レ札修レ義。

【守固】59 シュコ 守り固める。〔韓非子、存韓〕有二畜積一、築二城池一、以守固。

【守故】60 シュコ 古を守る。守古に同じ。〔曹植、上疏陳二審擧之義一〕齷齪近步、遵レ常守レ故。

【守護】61 シュゴ ㊀まもる。まもつて禍などをふせぐ。保護。〔晉書、孫綽傳〕所レ居齋前、種二一株松一、恆自守護。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一歌〕鬼神守護兮。〔宋史、地理志〕築二城壘一、置二官兵一、守二護之一。㊁源賴朝が警備のため、諸國に置いた官。守護職。〔太平記、三十三、公家武家榮枯易レ地事〕大小の事共に、只、守護の計ひにて、一國の成敗、雅意に任す。

〖守護職〗62 シュゴショク 守護の職。守護の㊁を見よ。〔東鑑、十六〕建久十年十二月二十九日、以二小山左衞門尉朝政一、補二播磨國守護職一畢。

〖守護神〗63 シュゴジン 守護する神。〔續狂言記、蛭子大黑天〕此の山に、守護神なくてはかなはじ。

〖守護石〗64 シュゴイシ 庭園の主眼となる石。

〖守護代〗65 シュゴダイ 武家時代の職名。守護に代つて其の事務を攝行する役。守護代官。代官。〔東鑑、十八〕建永二年六月二十二日、紀伊國土民等、亂二入高野山一、企二狩獵一、押二妨寺領一、和泉、紀伊國守護代、爲二其張本一。

〖守護買〗66 シュゴガヒ 室町時代、押買ひの一種の稱。〔大內家壁書〕號二公方買一號二守護買前一之儀、堅可二停止一事。

〖守護役〗67 シュゴヤク 守護の役。守護の職掌。守護。〔貞永式目〕諸國守護人奉行事、云云、如レ然之輩、可レ勤二守護役一之由、縱雖二望申一、一切不レ可二加催一。

〖守護沙汰〗68 シュゴサタ 鎌倉時代、守護職で訴訟を聽斷すること。又、其の訴訟。〔東鑑、十八〕元久二年七月二十九日、河野四郎通信、依二勳功異レ他、伊豫國御家人三十二人、止二守護沙汰一爲二通信沙汰一、可レ令三勤二仕御家人役一。

〖守護不入地〗69 シュゴフニフノチ 守護不入(守護職と雖も勝手にふみ込めない)の許可を得た土地。罪人が逃込んだ時でも、守護は直ちに其の地に入つて逮捕するを得ず、領主の代官を經て守護に渡される。〔大乘院寺社雜事記〕春日社領、越前國河口庄之內、兵庫鄉公文職事、爲二守護不入地一、可二全領知一之由。

【守口】70 シュコウ ㊀祕密を守る。言語をつつしむ。〔癸辛雜識〕富鄭公有下守レ口如レ瓶、防レ意如レ城之語上。〔朱熹、敬齋箴〕守レ口如レ瓶、防レ意如レ城。〔書言故事、身體說類〕謹レ言曰二守口一。㊁關所や渡し場を看守すること。〔淸會典、兵部〕凡官兵出レ邊者、皆達以レ票、守口官驗而出二納之一、以報レ部而覈焉、頒二其關禁一。

【守恆】71 シュコウ 明、繆鍾理(**8－27855**・・65)の字。

【守候】72 シュコウ 待つ。看守して待つ。〔淮南王安、諫レ伐二閩越一書〕守候誠謹。〔福惠全書、淸丈部、總論〕業戶有二差催守候之擾一。

【守國】73 シュコク ㊀國をまもる。〔易、坎〕王公設險以守其國。〔六韜、文韜、守國〕文王問太公曰、守國奈何。㊁六韜、文韜の篇名。

【守黑】74 シュコク 默々として昏愚の態度を守ること。〔老子、二十八〕知其白、守其黑、爲天下式。〔注〕白以喩昭昭、黑以喩默默。人雖自知昭昭明白、當復守之以默默如闇昧無所見、如是則可爲天下法式、則得常在。〔吳澄注〕白、謂光明、黑、謂塵暗。

【守根】75 シュコン 清、王謹培(7－20823··1331)の字。

【守倅】76 シュサイ 郡守と其の補佐官。〔宋史、食貨志下七〕守倅部內歲比祖額增金一萬兩。〔稱謂錄、通判、守倅〕宋史、御史臺總帥閫監司、監司總守倅、守倅總州縣屬官。

【守宰】77 シュサイ 役人のかしら。地方長官。〔後漢書、朱浮傳〕浮因上疏曰、臣聞、云云、守宰數見換易。〔忠經、守宰〕蓋守宰之忠也。〔梁武帝、令所在條陳民患詔〕新舊守宰、遊軍戍邏。〔蘇軾、上神宗皇帝書〕守宰狼藉。

【守塞】78 シュサイ とりでを守ること。〔後漢書、馬援傳〕守塞諸羌八千餘人、詣援降。

【守歲】79 シュサイ ㊀歲星の座を犯すこと。〔唐書、李晟傳〕晟屯渭橋也、熒惑守歲、久乃退。㊁おほみそかに終夜眠らないで團坐すること。〔東京夢華錄〕除夕、禁中爆竹山呼、聲聞於外、士庶之家、圍爐團坐、達旦不寐、謂之守歲。

【守齋】80 シュサイ 字號。㊀宋、楊瓚(6－15112··165)の號。㊁清、呂師濂(2－3386··210)の號。

【守藏】82 シュザウ ㊀倉庫の番をする。〔左氏、僖、二十四〕初晉侯之豎頭須、守藏者也。㊁守り藏する。〔周禮、夏官、司弓矢〕辨其名物、而掌其守藏與其出入。

〔守藏史〕83 シュザウシ 藏書室の番人。圖書をつかさどる役人。〔史記、老莊申韓傳〕老子者、楚苦縣厲鄉曲仁里人也、姓李氏、名耳、字聃、周守藏室之史也。〔注〕索隱曰、按、藏室史、周藏書室之史也。

【守札】84 マモリフダ 神佛の靈がこもり、人を加護するといふふだ。神符。護符。〔季連宿禰記〕元祿十四年一月二十四日、詣清荒神、云云、副御守札被渡之。

【守卡】85 シュサフ 要害の地に塘をつくり、兵を置いて、姦徒の番をする所。卡は關所。〔字彙補〕楚屬關隘地方、設兵立塘、謂之守卡。

【守之】86 シュシ 字號。㊀明、高松(12－45313··474)の字。㊁清、鄧傳密(11－39630··186)の字。

【守司】87 シュシ ㊀役所。〔韓非子、三守〕至於守司囹圄・禁制・刑罰、人臣擅之、此謂刑劫。㊁守りつかさどる。〔鬼谷子、捭闔〕守司其門戶。

【守死】88 シュシ ㊀死ぬまでまもる。一命を捨てて守る。死守。〔韓詩外傳、一〕守死不往。〔魏志、桓階傳〕處重圍之中、而守死無貳者。〔任昉、奏彈曹景宗文〕全城守死。㊁ぜひ。必ず。〔水滸傳、七十二回〕宋江道、你如何去得、李逵守死要去。

【守志】89 シュシ 自己の志を固く守る。〔左氏、昭、十三〕守志彌篤。〔會箋〕堅志成事。〔國語、晉語八〕心以守志、辭以行之、所以事君也。

【守刺】90 シュシ 太守と刺史。〔宋史、胡寅傳〕遴選守刺、久于其官。

【守視】91 シュシ 守護し監視する。〔後漢書、城陽恭王祉傳〕以皇祖皇考墓爲昌陵、置陵令守視。

【守雌】92 シュシ 柔弱な態度をとること。常に卑賤の態度を守ること。〔老子、二十八〕知其雄、守其雌、爲天下谿。〔注〕雄、以喩尊、雌、以喩卑、人雖知自尊顯、當復守之以卑微、去之強梁、就雌之柔和、如是則天下歸之、如水流入深谿也。〔吳澄注〕雄、謂剛強、雌、謂柔弱。

【守事】93 シュジ 官の仕事。公務。〔墨子、號令〕釋守事、而治私家事。

〔守事人〕94 シュジニン 村長をいふ。〔清國行政法汎論、地方自治、鄉老及鄉約〕擔當一村事務者之役名及職務、各地不同、概括言之、各村有一人之長、曰鄉老、或曰鄉長、或又曰守事人。

〔守事山房〕95 シュジサンバウ 清、余世本(1－515··98)の室名。

【守時】96 シュジ ときにしたがつて行ふ。〔國語、越語下〕夫聖人隨時以行、是謂守時。

【守貳】97 シュジ 守任者と補佐者。各地の守令及び丞倅。〔宋史、高宗紀七〕癸酉詔、諸州守貳、提擧學事。〔朱熹、少師魏國公張公行狀〕自臺閣而爲守貳者、十嘗七八。

【守柔】98 シュジウ 柔弱な態度をとりまもる。〔老子、五十二〕守柔曰強。〔注〕守柔弱、日以強大也。

【守日】99 シュジツ 選擇家で、王相・官民・守日を吉辰となす。守日とは宜しく固守すべき意で、春の辰日・夏の未日・秋の戌日・冬の丑日を之に當てる。王相日(7－20823··525)を見よ。〔協紀辨方書、宜忌、守日〕守日、又宜安撫邊境。

【守習】100 シュシフ ならひ守ること。〔漢書、禮樂志〕今畢等守習孤學、大指歸於興助教化。

【守車】101 シュシャ ㊀兵車の一、輜重を守護する車。〔李衞公問對、上〕守車一隊、炊子十人、守裝五人、廐養五人、樵汲五人、共二十五人。㊁監守車。乘務員用車。

【守舍】102 シュシャ ㊀第宅を看守する。〔史記、酷吏、張湯傳〕張湯者杜人也、其父爲長安丞、出、湯爲兒守舍、還而鼠盜肉、其父怒笞湯、湯掘窟、得盜鼠及餘肉、劾鼠掠治。〔晉書、劉卞傳〕君才簡略、堪大不堪小、不知作守舍人。㊁城を守る屋舍。〔墨子、襍守〕閣通守舍相錯。㊂靈魂が其の身體に在ること。

〔守舍兒〕103 シュシャジ ㊀召しつかひをいふ。〔稱謂錄、僕、守舍兒〕楊修看家人、曰守舍兒。㊁shou^3 shê^4 êrh 留守番。

【守者】104 シュシャ ㊀番人。監守の人。〔周禮、夏官、掌固〕凡守者受灋焉、以通守政。〔史記、魯世家〕周公藏其策金縢匱中、誡守者勿敢言。〔韓愈、故幽州節度判官贈給事中清河張君墓誌銘〕守者以告其魁。㊁土地。領土。〔荀子、王制〕雖守者益、所以守者損。〔注〕守者、謂地也、守國、以地爲本、故曰守者。

【守相】105 シュシャウ ㊀郡國の政事をつかさどる役。守は郡守、相は諸侯の相。〔戰國、趙策〕文信侯出走、與司空馬之趙、趙以爲守相。〔史記、貨殖傳〕或連車騎交守相。〔漢書、食貨志下〕擧幷兼之徒、守相爲利者。〔注〕師古曰、守、郡守、相、諸侯相。㊁留守居の大臣。〔漢書、酈商傳〕丞相程縱、守相郭同。〔注〕師古曰、守相、謂爲相而居守者。

【守將】106 シュシャウ 城を守る將軍。守備の大將。〔唐書、韓游瓌傳〕潼關有李朝臣、渭北有竇覦、皆守將也。

【守障】107 シュシャウ 城寨をまもる。〔梁簡文帝、慶洛陽平啓〕每興燔燧之驚、常勞守障之民。

【守城】108 シュジャウ 城を守る。又、守つてゐる城。〔商子、來民〕自魏襄以來、野戰不勝、守城必拔。

〔守城錄〕109 シュジャウロク 書名。四卷。宋、陳規撰。靖康の末、金兵の南下を防いだ時の記錄。〔四庫提要、子、兵家類〕。

【守常】110 シュジャウ つねをまもる。常法を固くまもる。常態をまもる。平生を變へない。〔易、革、鞏用黃牛不可以有爲也、疏〕既堅忍自固、可以守常、不可以有爲也。

〔守常不變〕111 シュジャウフヘン 常法を守つて變らず、不當のことをしないことをいふ。〔嵇康、養生論〕謂商無十倍之價、農無百斛之望、此守常而不變者也。

【守株】112 シュシュ 一度、兎がぶつかつて死んだ木の株の番をして、復び其の事のあるのを待つた故事。舊風になづんで變通の見識のない喩。守株待兎。〔韓非子、五蠹〕宋人有耕田者、田中有株、兎走觸株、折頸而死、因釋其耒而守株、冀復得兎、兎不可復得、而身爲宋國笑、今欲以先王之政、治當世之民、皆守株之類也。〔梁書、蕭子雲傳〕此是主者守株、宜急改也。

〔守株子〕112′ シュシュシ 明、沈愷(6－17189··64)の號。

【守戍】113 シュジュ 邊境をまもる。〔宋史、兵志四〕咸平初、秦州極邊、止置千人、分番守戍。

【守終】114 シュシュウ 終を全うする。最後を立派に果す。〔蔡邕、陳寔碑〕資始既正、守終又令。

【守叔】115 シュシュク 宋、孫夢觀(3－6987··541)の字。

【守宿】116 シュシュク 宿直。〔長生殿、刺逆〕俺看守宿的宮女、都是睡著。

【守緒】117 シュショ 金、哀宗(2－3580··120)の名。

【守助】118 シュジョ 留守と手つだひ。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕若夫地方守助出入巡行、自有保甲良法壯捕諸人在、又奚籍二三無賴哉。

【守序】119 シュジョ 秩序を守る。〔逸周書、祭公解〕嗚

呼、天子三公、監二于夏商之既敗一、丕則無レ遺二後難一、至二于萬億年一、守序終レ之。

【守勝】120シュショウ　守つて勝つこと。〔吳子、圖國〕夫人有レ恥、在レ大足二以戰一、在レ小足二以守一矣、然戰勝易、守勝難。

【守丞】121シュジョウ　郡邸を守る官の屬官。郡の屬官。一說、獄を守る屬官。〔漢書、丙吉傳〕既遭二大赦一、吉謂二守丞誰如一、皇孫不レ當レ在レ官。〔注〕孟康曰、郡守丞也、師古曰、守丞者、守レ獄官之丞耳、非二郡丞一也、誰如者、其人名。〔補注〕劉奉世曰、守丞諸說皆非、蓋郡邸守邸之丞也、與二朱買臣傳守丞一同。〔漢書、朱買臣傳〕坐中驚駭白二守丞一。〔注〕服虔曰、守邸丞也。

【守職】122シュショク　職分を守る。〔晏子、雜、下〕臨レ事守レ職、不レ勝二其任一則過レ之。〔史記、太史公自序〕下得レ守レ職。〔漢書、董仲舒傳〕守職之人、皆奔走逃亡、入二於河海一。

【守辱】123シュジョク　賤しい地位にある者の態度を執り守ること。〔老子、二十八〕知二其榮一、守二其辱一、爲二天下谷一。〔注〕榮以喩二尊貴一、辱以喩二汙濁一、知三己之有二榮貴一、當三守レ之以二汙濁一、如レ是則天下歸レ之、如三水流入二深谷一也。

【守心】124シュシン　㊀操正しい心。〔左氏、昭、二十八〕居レ利思レ義、在レ約思レ純、有二守心一矣、而無二淫行一。㊁防備しようとする心。〔新書、修政語下〕凡有二守心一者、必固レ之以レ和。

【守臣】125シュシン　一定の土地をまもる臣。守土。諸侯。天子の爲に土地を守る臣。〔禮、玉藻〕諸侯之於二天子一、曰二某土之守臣某一。〔左氏、襄、二十一〕天子陪臣盈、得二罪於王之守臣一。〔注〕范宣子爲二王所レ命、故曰二守臣一。

【守身】126シュシン　己の身を守つて、不義に陷らぬやうにする。〔孟子、離婁上〕守孰爲レ大、守レ身爲レ大、云云、守レ身、守之本也。〔集注〕守レ身、持二守其身一、使レ不レ陷二於不義一也。〔焦循正義〕禮記哀公問、孔子云、君子無レ不レ敬也、敬レ身爲レ大、身也者、親之枝也、敢不レ敬與、不レ能レ敬二其身一、是傷二其親一、傷二其親一、是傷二其本一、傷二其本一、枝從而亡、又云、君子、言不レ過レ辭、動不レ過レ則、百姓不レ命而敬恭、如レ是則能敬二其身一、能敬二其身一、則能成二其親一矣、孟子此義、蓋本二於此一、言不レ過レ辭、行不レ過レ則、則能守レ身不レ陷二於不義一矣。

【守辰】127シュシン　㊀王朝時代、太宰府の職員。時刻を報ずる小吏。㊁明治初年の行政官の職員。八等官。〔太政官日誌、二十一〕守辰、淺井伊豫介、同垣內尾張介。

【守眞】128シュシン　㊀本眞を守る。道家で自然の本性を全うすることをいふ。〔莊子、漁父〕愼守二其眞一、還以レ物與レ人、則無レ所レ累矣。〔後漢書、申屠蟠傳〕味レ道守レ眞。㊁字號。㋑宋、楊承信(6－15112‥625)の字。㋺金、劉完素(2－2224‥845)の字。「號。

〖守眞子〗129シュシンシ　金、訾亘(10－35344‥9)の號。

【守神】130シュシン　㊀災厄を防ぎ守る神。守護神。まもりがみ。〔鬼谷子、抵巇〕能因能循、爲二天地守神一。㊁鼈をいふ。〔本草、鼈〕釋名、團魚、神守、時珍曰、鼈行蹩躠、故謂二之鼈一、淮南子曰、鼈無レ耳而守レ神、神守之名以レ此、陸佃云、魚滿二三千六百一、則蛟龍引レ之而飛、納二鼈守一レ之、則免、故鼈名二守神一。〔酉陽雜俎、廣動植序〕鼈無レ耳、爲二守神一。

【守箴】131シュシン　清、鍾令嘉(11－40672‥167)の字。

【守仁】132シュジン　㊀明、林富(6－14551‥216)の字。㊁明の僧。高陽の人。字は一初。號は夢觀、又、天信夢叟。靈隱の住持。位階は僧錄司右講經。書室を寄傲軒といふ。著に夢觀集がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、九十〕。

【守寸】133シュスン　道家で兩眉の閒をいふ。〔雲笈七籤〕存二思太極一之時、皆當下從二兩眉閒一入上焉、兩眉閒爲二泥丸之玉門一、名曰二守寸一。

【守正】134シュセイ　㊀正道を守る。〔易、萃、萃二有位一无レ咎匪レ孚元永貞悔亡、注〕修レ仁守レ正、久必悔消。〔史記、禮書〕周衰、禮廢樂壞、云云、循レ法守レ正者、見レ侮二於世一。㊁字號。㋑明、于大節(1－252‥129)の字。㋺明、朱懷幹(6－14424‥722)の字。㋩明、童眞(8－25775‥68)の字。

【守成】135シュセイ　成立した事業を守つて失はない。先君の成法を守る。〔詩、大雅、鳧鷖序〕鳧鷖、守レ成也。〔疏〕言、保二守成功一、不レ使二失墜一也。〔吳子、圖國〕要者所二以保レ業守レ成。〔史記、叔孫通傳〕夫儒者難二與進取一、可二與守成一。〔漢書、公孫弘傳〕守成上レ文。〔貞觀政要、論二君道一〕貞觀十年、太宗謂二侍臣一曰、帝王之業、草創與二守成一孰難。

【守制】136シュセイ　祖父母・父母の喪に當つて、其の子孫の官途に在る者は任を解き、士は科擧に應ずることをやめ、庶人は嫁娶せず、謹愼して喪に服すること。二十七月を滿期とする。〔日知錄、禮制、奔喪守制〕三代聖王教化之事、其僅存二於今日一者、惟服制而已、喪亂以來、浸已廢墜、竊謂、父母之喪、自レ非二金革一、不レ得二起復一、著二之國典一、人人所レ知、其祖父母・伯叔父母・兄弟之喪、並使三洪武初平之制一、許レ令レ改レ官奔赴、服滿補闕、其他雖下持二重服一而不レ去レ官者、及大功以下喪者、京官許下以二素服一朝參上、不レ預二慶賀一、在レ外諸司、素服治レ事、祭祀宴會、俾二佐貳攝一レ之、未レ任之官、無レ得二謁選一、生員但歲考、不レ赴二科擧一、庶人之家、不レ許二嫁娶一、十五月禫後復レ故、其有二期功喪一、宴會作レ樂者、官員罷レ職、士子黜退、仍書二之申明亭一、以示二清議一、庶二幾民德歸一レ厚、若二寅緣干請之風一、亦不レ待レ禁而衰止矣。〔六部成語、吏部、守制、注解〕亦與二丁憂一同。

【守政】137シュセイ　守備の制度。〔周禮、夏官、掌固〕凡守者受レ灋焉、以通二守政一。〔注〕凡守者、士庶子、及他要害之守吏、通二守政一者、兵甲役財、難易多少、轉移相給也。

【守清】138シュセイ　明、韓廉(餘姚の人)(12－43159‥234)の字。

【守精】139シュセイ　ひとみ。睛。〔魏志、管輅傳〕輅曰、吾額上無二生骨一、眼中無二守精一、鼻無二梁柱一、脚無二天根一、背無二三甲一、腹無二三壬一、皆不壽之驗。

【守誠】140シュセイ　明、桂伯諒(6－14755‥150)の字。

【守靜】141シュセイ　氣を靜かに保つこと。〔老子、十六〕致レ虛極、守レ靜篤。〔注〕守レ靜、物之眞正也。

【守筮】142シュゼイ　國を守るに用ひる筮。事があれば筮を用ひて吉凶を占ひ、國を保ち守ること。〔禮、表記〕諸侯有二守筮一。〔注〕守筮、守レ國之筮、國有レ事則用レ之。

【守鼜】143シュセキ シュサウ　物見の打つ鼓。鼓をうつて夜を守る。〔周禮、春官、鎛師〕凡軍之夜、三鼜皆鼓レ之、守鼜亦如レ之。〔注〕守鼜、備二守鼓一也、鼓レ之以二鼖鼓一、杜子春曰、一夜三擊、備二守鼜一也。〔疏〕是夜戒守也。

【守折】144シュセツ　値段のかけ引きをする。〔孔子家語、好生〕好レ肆不二守折一、而長者不レ爲レ市。

【守拙】145シュセツ　㊀自ら拙劣な態度に安んずる。時世に適應するにつたない態度を守つて自ら安んずる。利巧に立廻らないこと。〔陶潛、歸二田園居一詩〕開レ荒南野際、守レ拙歸二園田一。〔韋應物、答二僴奴重陽二甥一詩〕棄レ職曾守レ拙、翫レ幽遂忘レ喧。〔歐陽脩、謝レ知二蔡州一表〕時多喜二新奇一、而臣惟守レ拙。㊁字號。㋑宋、張繼能(4－9812‥986)の字。㋺宋、王拙(7－20823‥688)の字。㋩明、謝輔(10－35827‥209)の號。

〖守拙齋〗146シュセツサイ　清、陸日愛(11－41708‥352)の號。

【守節】147シュセツ　㊀節義を守つてかへない。操を守る。守貞。〔左氏、成、十五〕聖達レ節、次守レ節、下失レ節。〔史記、吳太伯世家〕君子曰、能守レ節矣、君義嗣、誰敢干レ君、有レ國、非二吾節一也。㊁寡婦が再嫁しないことをいふ。〔漢書、五行志上〕伯姬如レ宋、五年、宋恭公卒、伯姬幽居、守レ節三十餘年。㊂字號。㋑五代漢、郭謹(11－39474‥59)の字。㋺宋、王克貞(7－20823‥1474)の字。㋩明、王崇之(7－20823‥1748)の字。

【守戰】149シュセン　敵をふせぎ戰ふ。〔商子、農戰〕上無レ使二守戰一。〔戰國、趙策〕國無二守戰之備一。〔韓非子、亡徵〕無二地固一、城郭惡、無二畜積一、財物寡、無二守戰之備一、而輕二攻伐一者、可レ亡也。〔呂覽、孝行〕守戰固不二罷北一。〔史記、田儋傳〕漢使至、廼罷二守戰備一、縱レ酒且二遣レ使與レ漢平一。〔賈誼、過秦論〕脩二守戰之具一。

【守選】150シュセン　官吏になる資格をえて、任命を待つ。〔王安石、上二仁宗皇帝一言レ事書〕以二守選・待除・守闕一通レ之、蓋六七年而後、得二三年之祿一。

【守罾】151シュソウ　あみをまもる。漁をすること。〔張耒、詩〕河邊守罾茅作レ屋、罾頭月明人夜宿。

【守則】152シュソク　宋、李崇矩(6－14459‥1538)の字。

【守捉】153シュソク　唐初、國境を守る軍の名。大を軍といひ、小を守捉といふ。〔唐書、兵志〕唐初、兵

之戍レ邊者、大曰レ軍、小曰二守捉一。〔王惲、羽林萬騎歌〕羽林萬騎驍且雄、守捉內外生二陰風一。

【守退】154 シュタイ 身をまもり世を隱退する。〔魏志、賈詡傳〕懼レ見二猜疑一、闔レ門自守退、無二私交一。

【守道】155 シュダウ ❶人倫の常道を守る。〔左氏、昭、二十〕仲尼曰、守レ道不レ如レ守レ官。〔晏子、問、上〕潔レ身守レ道。〔忠經、證應〕君子守レ道。❷守備の方法。〔後漢書、馮衍傳〕守道之臣、何患二死亡一。〔墨子、備梯〕敢問二守道一、云云、古有二其術一者、內不レ親レ民、外不レ約レ治。❸官名。地方行政官。明時は參政參議の官の者が各道を分守し、州縣を督察し、布政使の輔となつた。淸は參政參議を廢して守道とした。分守道(**2―1853**‥179)を見よ。〔淸會典、吏部〕凡漕運總督一人、督糧道七人、糧儲道以二巡道守道一兼者五人、鹽糧兼管者一人。〔歷代職官表、司道、國朝官制〕國初設二布政司左右參政參議一曰二守道一、設二按察使副使僉事一曰二巡道一。❹韓非子の篇名。❺字號。㋑宋、石介(**8―24024**‥62)の字。㋺宋、李端愨(**6―14459**‥1698)の字。㋩宋、梁師成(**6―14825**‥261)の字。㋥明、撤大經(**5―12709**‥2)の字。

【守卓】156 シュタク とり守る所が高い。操守が高い。〔王安石、答二曾子固南豐道中所レ寄詩一〕愛二子所レ守卓一、憂二予不レ能レ攀。

【守端】157 シュタン 淸、宋綿初(**3―7078**‥417)の字。

【守持】158 シュヂ まもりたもつ。固く守る。〔漢書、杜延年傳〕又丞相素無レ所二守持一、而爲三好言二於下一。〔魏志、公孫瓚傳〕其所二以能相守持一者、顧二戀其居處一。

【守長】159 シュチヤウ 番人のかしら。〔後漢書、循吏傳序〕以二謠言單辭一、轉二易守長一。

【守中】160 シュチユウ ❶中庸をまもる。又、虛を守る。〔老子、五〕多言數窮、不レ如レ守レ中。❷字號。㋑明、章惟一(**8―25761**‥175)の字。㋺明、臧惟一(**9―30083**‥66)の字。㋩明、舒靖(**9―30300**‥49)の字。

【守忠】161 シュチユウ 字號。㋑唐、尹忬(**4―7631**‥77)の字。㋺宋、徐唐(**4―10110**‥205)の字。

【守冢】162 シュチヨウ 墓をまもる者。はかもり。〔史記、淮南厲王長傳〕守冢三十戶。〔漢書、高帝紀下〕守冢二十家。

【守定】163 シュテイ 番をして固める。

【守貞】164 シュテイ ❶操を守る。守節。〔易、屯、女子貞不レ字、疏〕貞、正也、女子以レ守二貞正一、不レ受二初九之愛一。〔張浚注〕抱レ節守レ志、不レ失二其貞一。〔謝惠連、雪賦〕白玉雖レ白、空守貞兮。〔張之象、叩頭蟲賦〕孰二若如弦之守貞一。❷女子が志を守つて婚嫁しないことをいふ。❸字號。㋑明、馬湘蘭(**12―44572**‥813)の名。㋺明、李介(**6―14459**‥102)の字。

【守祧】165 シュテウ 官名。周禮春官の屬官。先王先公の廟祧を守ることを掌る。〔周禮、春官、守祧〕掌レ守二先王先公之廟祧一。

【守田】166 シュデン ❶燕麥に似た一種の草。みのごめ。〔爾雅、釋草〕皇、守田。〔疏〕釋曰、皇、一名守田、郭云、似二燕麥一、子如二彫胡米一、可レ食、生二廢田中一、一名、守氣。❷藥草の名。半夏。からすびしやく。〔本草、半夏〕釋名、守田・水玉・地文・和姑、時珍曰、禮記月令、五月半夏生、蓋當二夏之半一也、故名二守田一。❸淸、田錫田(**7―21723**‥394)の字。

【守杜】167 シュト ふさぎ守る。〔漢書、趙充國傳〕使下虜發二數千人一、守中杜四望陿中上。

【守土】168 シュド ❶天子の土地を預つて之を保ち守ること。諸侯をいふ。守臣。〔書、舜典、歲二月東巡守、傳〕諸侯爲二天子守土一、故稱レ守、巡二行之一。❷地方官をいふ。〔蘇轍、歙州賀二登極一表〕守土南服、親被二鴻恩一。〔淸國行政法汎論、道員〕一則所謂無二守土之責一者、一則所謂有二守土之責一者、守土、卽管二轄土地一之謂也。❸地方を戍る兵士。〔晉書、職官志〕其未レ之レ國者、大國置二守土百人一、次國八十人、小國六十人。❹六韜、文韜の篇名。

〖守土不離〗169 shou^{2} t'u^{3} pu^{4} li^{2} 土着して離れない。

【守納】170 シュナフ 唐、妙空(**3―6090**‥61)の名。

【守把】171 シュハ 關所・津渡・倉庫などの番をする。又、其の人。〔明律、戶律、倉庫、倉庫不レ覺レ被レ盜〕守把之人、不二搜檢一者、笞二十。

【守吠】172 シュハイ 狗が家を守ることから、守護する意にいふ。〔唐書、突厥上、思摩傳〕世世爲レ國一犬、守二吠天子北門一。

【守望】173 シュバウ 相互に警戒して寇盜を見張り防ぐ。〔孟子、滕文公上〕出入相友、守望相助、疾病相扶持。〔注〕守望相助、助レ察レ姦也。〔集注〕守望、防二寇盜一也。

〖守望所〗174 shou^{3} wang^{4} suo^{3} 巡査の交番所。

【守白】175 シュハク 白馬非馬論(**8―22678**‥939)をいふ。〔公孫龍子、跡府〕疾二名實之散亂一、爲二守白之論一、假レ物取レ譬、以二守白一辯。

【守法】176 シュハフ ❶法令を守る。〔周禮、夏官、掌固〕若造二都邑一、則治二其固與二其守法一。〔史記、商君傳〕居レ官守レ法。❷守備の方法。〔尉繚子、守權〕守法、城一丈、十人守レ之、工食不レ與焉。

【守藩】177 シュハン まもり。守護。守蕃。藩屛。〔漢書、嚴助傳〕臣安幸得レ爲二陛下守藩一、以レ身爲二障蔽一。

【守蕃】178 シュバン 守護。守藩に同じ。〔白虎通、崩薨〕又爲二天子守蕃一、不レ可二頓空一也。

【守避】179 シュヒ まもることとさけのがれること。〔日本政記、後龜山天皇〕義滿會二諸將一議レ戰、守避孰可。

【守備】180 シュビ ❶城又は陣地を守り、敵を防ぐ準備をする。かため。まもり。防備。〔左氏、昭、十五〕使下鼓人殺二叛人一、而繕中守備上。〔國語、楚語上〕木不レ妨二守備一。〔莊子、胠篋〕將下爲二胠レ篋探レ囊發レ匱之盜一、而爲中守備上。〔墨子、七患〕自以爲二安彊一、而無二守備一。〔戰國、秦策〕旣無二良臣一、又無二守備一。❷官名。明の初、南京守備等の職を置き、職位は甚だ高かつたが、中葉以後、軍事が日に繁くなつて、各城堡に皆之を置き、其の秩祿は漸く卑くなつた。淸代に至つては、都司の次に守備を置き、僅かに五品の武職とした。〔明史、職官志五〕南京守備一人、協同守備一人、南京以三守備及參二贊機務一爲二要職一、守備以二公侯伯一充レ之、兼領二中軍都督府事一、協同守備以二侯伯都督一充レ之、領二五府事一、參二贊機務一、以二南京兵部尙書一領レ之、其治所在二中府一、掌二南都一切留守防護之事一、永樂十九年、遷二都北京一、命二中府一掌二府事官守備南京節制南京諸衞所一、洪熙元年、始以二內臣一同二守備一、景泰二年、增二設協同守備一人一。〔淸會典事例、兵部、職制、單月衞守備選法〕雍正二年議准、裁缺之衞守備、及現任衞所千總、應レ升二衞守備一者、於二單月營守備各班之末一、添二設裁班一、相間輪用。〔稱謂錄、守備、守備〕通雅、古有二準備一、今稱二守備一、皆偏裨也。

〖守備隊〗181 シュビタイ 一地域を守備するために置く軍隊をいふ。

〖守備占領〗182 シュビセンリヤウ 戰地で軍隊が守備の必要上から、敵國若しくは第三國の土地を占領すること。

【守旻】183 シュビン 宋、元達(**1―1340**‥411)の初名。

【守府】184 シュフ 先王の府藏を守ること。轉じて、能く父祖の業を守ること。〔國語、周語中〕今天降二禍災於周室一、余一人僅亦守レ府。〔注〕府、先王之府藏。

【守附】185 マモリヅケ 古、戰爭で決死の武士が、自分の名を記して髻につけておいた木札。

【守風】186 シュフウ 風波に出遭つて順風を待つこと。〔戶部則例〕如有二守風等情一、隨時報二明經過地方官一。

【守分】187 シュブン 己の分限を守る。安んじて本分を守ること。〔文子、自然〕廉者可レ令レ守レ分、不レ可レ令二進取一。〔王粲、公讌詩〕守レ分豈能違。

【守文】188 シュブン ❶文をまもる。先朝の法則に遵ふ。〔漢書、外戚傳序〕自レ古受命帝王、及繼體守文之君、非二獨內德茂一也、蓋亦有二外戚之助一焉。〔注〕師古曰、守文、言下遵二成法一不上レ用二武功一也。〔後漢書、和帝紀〕守文之際、必有二內輔一、以參二聽斷一。〔白虎通、號〕已復襲二先王之號一、與二繼體守文之君一、無二以異一也。〔唐書、房玄齡傳〕帝嘗問、創業守文、孰難、云云、守文之難、方與二公等一愼レ之。〔唐書、姚崇傳贊〕崇善應レ變以成二天下之務一、璟善守レ文、以持二天下之正一。❷古の藝文をまもるもの。〔後漢書、鄭玄傳論〕守文之徒、滯二固所レ稟。

〖守文君〗189 シュブンノキミ 受命創制の君でなく、ただよく先君の後をついで其の法度を守る君。〔史記、外戚世家〕自レ古受命帝王、及繼體守文之君、非二獨內德茂一也。〔注〕索隱曰、守文者、猶レ法也、謂下非二受レ命創レ制之君一、但守二先帝法度一爲中之主上耳。〔漢書、董仲舒傳〕守文之君、當塗之士。

【守兵】190（シユヘイ） 守備の兵。〔國史略、皇極天皇〕環二木柵一置二守兵一。

【守病】190′ shou^3 ping^4 妓女が病氣又は月經にて客を取らぬこと。守空(37)の❷に同じ。

【守屛】191（シユヘイ） 地方官をいふ。〔稱謂錄、知州、守屛〕山堂肆考、守屛、謂二州牧一也。

【守邊】192（シユヘン） 邊境を守る。〔漢書、盧綰傳〕及レ將レ守レ邊、招二致賓客一。

【守保】193（シユホ） ❶まもりたもつ。〔韋孟、諷諫詩〕如何我王、不レ思二守保一、不レ惟三履レ氷以繼二祖考一。❷（ホス） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【守母】194（シユボ） 萬物の母たる道を守る。母とは、天下の萬物を生み出す源の道をいふ。〔老子、五十二〕既知二其子一、復守二其母一、沒レ身不レ殆。〔注〕母、本也、子、末也。

【守奉】195（シユホウ） 守り奉ずる。〔墨子、非儒下〕喪二妻子一三年、必非レ以三守二奉宗廟祭祀一也。

【守朴】196（シユボク） 宋、張質(4－9812‥370)の字。

【守牧】197（シユボク） 州の長官。牧民官。〔易林〕伯蹇叔育、莫レ與二守牧一。

【守樸】198（シユボク） ありのままの天眞を守る。〔嵆康、幽憤詩〕志在レ守レ樸、養レ素全レ眞。〔注〕銑曰、守レ樸、守二其實樸一、養レ素全レ眞、謂下養二其質一以全中眞性上。

【守名】199（シユメイ） 名を守る。名目をたてる。〔列子、楊朱〕守レ名而累レ實、將レ恤二危亡之不レ救。

【守盟】200（シユメイ） ちかひを守る。〔程俱、元夕塊坐因用二葉翰林去年見レ寄元夕詩韻一寫レ懷詩〕惟有二窮巷士一、守レ窮如レ守レ盟。

【守默】201（シユモク） 道家養心の術で、靜默の狀態にをることをいふ。靜止の狀態に處るをいふ。〔參同契、注〕當二日中冬至之時一、必先閉二塞其兌一、澄心守默、使三金汞同歸二于爐中一。〔雲笈七籤〕守默不レ移、故能廣載。

【守門】202（シユモン） ❶門を守る。〔周禮、地官、司市〕凡市入、則胥執二鞭度一守レ門。〔禮、祭統〕閽者守門之賤者也。❷もんばん。かどもり。閽人。〔荀子、正名〕故雖レ爲二守門一、欲不レ可レ去。

〖守門使〗203（シユモンシ） 狗(7－20345)の異名。〔清異錄、獸、靈壽子〕武宗爲二潁王一時、邸園蕃二禽獸之可レ人者一、以備二十玩繪一、十玩圖于レ今傳播、守門使、犬。

〖守門的〗204 shou^3 men^2 tê 門番。

【守夜】205（シユヤ） 夜番をする。〔後漢書、楊秉傳〕宦豎之官、本在下給二使省闥一、司レ昏守上レ夜。〔芝田錄〕門鑰必以レ魚、取下其不二瞑目一守上レ夜也。

【守役】206（モリヤク） かしづき守る役。保傅。

【守約】207（シユヤク） ❶守ることが要を得てゐる。守要。〔孟子、公孫丑上〕孟施舍似二曾子一、北宮黝似二子夏一、夫二子之勇、未レ知二其孰賢一、然而孟施舍守約也。〔集注〕約、要也、言、論二二子之勇一、則未レ知二誰勝一、論二其所一レ守、則舍比二於黝一、爲レ得二其要一也。❷字號。㋑唐、裴行儉(10－34362‥108)の字。㋺宋、李閎祖(6－14459‥1065)の字。㋩明、韋善道(12－43108‥206)の字。㋥明、涂幾(6－17518‥3)の字。

〖守約齋〗208（シユヤクサイ） 字號。❶元、吳簡(2－3365‥82)の號。❷清、賈敦臨(10－36755‥201)の號。

〖守約堂〗209（シユヤクダウ） 清、謝階樹(10－35827‥252)の室名。

〖守約居士〗210（シユヤクコジ） 明、兪弁(1－1437‥66)の號。

〖守約施博〗211（シユヤクシハク） 守る所は簡約であるが、これを行へば博く何事にも通用する。〔孟子、盡心下〕言近而指遠者、善言也、守約而施博者、善道也。

【守庸】212（シユヨウ） 明、劉隆(武平の人)(2－2224‥652)の字。

【守鏞】213（シユヨウ） 宋、戴仔(5－11685‥68)の字。

【守邏】214（シユラ） 見まはつて警備すること。〔元史、郝經傳〕鑰レ戶、晝夜守邏。

【守吏】215（シユリ） 守衞の役人。關所を守る役人。〔元結、欸乃曲〕唱橈欲レ過二平陽戍一、守吏相呼問二姓名一。

【守令】216（シユレイ） 郡守と縣令。直接民事を處理し、よく民間の疾苦を周知するもの。郡縣の長官。〔漢書、陳勝傳〕陳守令皆不レ在。〔注〕師古曰、守、郡守也、令、縣令也。〔晉書、武帝紀〕詔二內外羣官一、擧二守令之才一。〔唐書、張九齡傳〕臣愚謂、欲レ治之本、莫レ若レ重二守令一、凡不レ歷二都督刺史一、雖レ有二高第一、不レ得レ任二侍郎列卿一、不レ歷二縣令一、不レ得レ任二臺郎給舍一。

【守隸】217（シユレイ） 護衞の人夫。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕守隸防夫、觝レ頂交レ跖。

【守禮】218（シユレイ） ❶禮儀を守る。〔左氏、僖、二十八〕禮以行レ義、信以守レ禮。〔國語、周語上〕守レ禮不レ淫、信也、行レ禮不レ疚、義也。〔管子、內業〕守レ禮莫レ若レ敬。❷操を守る。守節。〔雜事祕辛〕此守禮謹嚴處女也。❸明、馬謹(12－44572‥134)の字。

【守靈】219（シユレイ） 心の神、丹元の字。心の神をいふ。〔黃庭經〕心神、丹元、字守靈。

【守列】220（シユレツ） 定めの場所。〔管子、輕重丁〕賈人蓄レ物、而賣爲レ讎、買爲レ取、市未二央畢一、而委二舍其守列一。〔纂詁〕列、市次也、委二棄其所レ守之市次一。

【守レ失】221（シユヲウシナフ） 官職をうしなふ。〔史記、律書〕大至二君辱失レ守、小乃侵犯削弱。

【守塋戶】222（シユエイコ） 墓の看守をする者。はかもり。漢代、韓信が母の墓に萬家を置いたのに始まる。〔通禮〕品官營レ葬、公侯伯置二守塋四戶一、二品以上二戶、五品以上一戶、六品以下二人。

【守雅堂】223（シユガダウ） 清、邢澍(11－39301‥32)の室名。

【守庚申】224（シユカウシン） 道家で每庚申の日、靜坐して眠らず、諸事を愼むをいふ。人身に三尸神あり、庚申の日に天帝に衆人の罪惡を告げる。この日、精進潔齋して、寢なければ免れるといはる。守三尸。〔眞誥〕凡庚申之日、是尸鬼競亂、精神躁穢之日也、不レ可下與二夫妻一同レ席、及言語面會上、當下清齋不レ寢、警二備其日一、遣中諸可上レ欲。〔酉陽雜俎、玉格〕七守庚申三尸滅、三守庚申三尸伏。

【守閒堂】225（シユカンダウ） 清、呂潛(2－3386‥105)の室名。

【守研齋】226（シユケンサイ） 清、伊念曾(1－432‥170)の號。

【守硯齋】227（シユケンサイ） 清、伊念曾(1－432‥170)の號。

【守財奴】228 shou^3 ts'ai^2 nu^2 けちん坊。守錢奴。

【守三尸】229（シユザンシ） 守庚申に同じ。

【守山閣】230（シユザンカク） 清の錢熙祚の書庫の名。守山閣叢書を見よ。

〖守山閣叢書〗231（シユザンカクソウシヨ） 叢書の名。百十五册。清、錢熙祚輯。虞山の張海鵬の編輯校刻した墨海金壺が火災に罹つたので、其の殘りの版を補足して、道光年間に校刻したもの。善本と稱せらる。其の目は、【經部】第一册、易說四卷(宋、趙善譽)。第二册、易象鉤解四卷(明、陳士元)。第三・四册、易圖明辨十卷(清、胡渭)。第五・六册、禹貢說斷四卷(宋、傅寅)。第七册、三家詩拾遺十卷(清、范家相)。第八册、周禮疑義擧要七卷(清、江永)。第九・十册、儀禮釋宮一卷(宋、李如圭)、儀禮釋例一卷(清、江永)、禮記訓義擇言八卷(清、江永)。第十一・十二册、春秋正旨一卷(明、高拱)、左傳補注六卷(清、惠棟)。第十三―十五册、古微書三十六卷(明、孫瑴)。第十六册、尊孟辨六卷・續一卷・別錄一卷(宋、余允文)。第十七・十八册、四書箋義纂要十三卷(宋、趙悳)。第十九册、律呂新論二卷(清、江永)。第二十・二十一册、經傳釋詞十卷(清、王引之)。第二十二・二十三册、唐韻考五卷(清、紀容舒)。第二十四册、古韻標準四卷(清、江永)。【史部】第二十五册、三國志辨誤一卷・宋季三朝政要六卷。第二十六・二十七册、蜀鑑十卷(宋、郭允蹈)。第二十八・二十九册、春秋別典十五卷(明、薛虞畿)。第三十册、咸淳遺事二卷。第三十一册、大金弔伐錄四卷。第三十二册、平宋錄三卷(元、劉敏中)、至元征緬錄一卷・招捕總錄一卷。第三十三册、京口耆舊傳九卷。第三十四・三十五册、昭忠錄一卷・九國志十二卷・拾遺一卷(宋、路振)。第三十六册、越史略三卷。第三十七―四十册、吳郡志五十卷・附校勘記(宋、范成大)。第四十一册、嶺海輿圖一卷(明、姚虞)、吳中水利書一卷(宋、單鍔)、四明它山水利備覽二卷(宋、魏峴)、河防通議二卷(元、沙克什)。第四十二册、廬山記三卷・紀略一卷(宋、陳舜兪)、北道刊誤志一卷(宋、王瓘)、河朔訪古記三卷(元、納新)。第四十三・四十四册、大唐西域記十二卷(唐、玄奘)。第四十五册、職方外紀五卷(明、艾儒略)。第四十六―四十八册、七國考十四卷(明、董說)。第四十九・五十册、歷代建元考十卷(清、鍾淵映)。第五十一―

五十三冊、荒政叢書十卷（清、俞森）。第五十四冊、歷代兵制八卷（宋、陳傅良）、籀史一卷（宋、翟耆年）。【子部】第五十五冊、少儀外傳二卷（宋、呂祖謙）。第五十六冊、辨惑編四卷（元、謝應芳）。第五十七・五十八冊、太白陰經十卷（唐、李筌）、守城錄四卷（宋、陳規）。第五十九・六十冊、練兵實記十五卷（明、戚繼光）。第六十一冊、折獄龜鑑八卷（宋、鄭克）。第六十二・六十三冊、脈經十卷（晉、王叔和）。第六十四・六十五冊、難經集注五卷（明、王九思等）。第六十六冊、新儀象法要三卷（宋、蘇頌）、簡平儀說一卷（明、熊三拔）。第六十七冊、渾蓋通憲圖說二卷（明、李之藻）、圜容較義一卷（明、李之藻）。第六十八冊、曉庵新法六卷（清、王錫闡）。第六十九—七十一冊、五星行度解一卷（清、王錫闡）、數學九卷（清、江永）。第七十二冊、推步法解五卷（清、江永）。第七十三・七十四冊、李虛中命書三卷・珞琭子三命消息賦注二卷（宋、徐子平）、珞琭子賦注二卷（宋、釋曇瑩）。第七十五冊、天步眞原人命部三卷（清、穆尼閣）。第七十六冊、太清神鑑六卷。第七十七冊、羯鼓錄一卷（唐、南卓）、樂府雜錄一卷（唐、段安節）、棋經一卷（宋、張擬）。第七十八冊、遠西奇器圖說錄最三卷・新製諸器圖說一卷（明、鄧玉函等）。第七十九冊、鬻子一卷・附校勘記逸文・尹文子一卷・校勘記逸文（周、尹文）、愼子一卷・附逸文（周、愼到）、公孫龍子三卷（周、公孫龍）。第八十冊、人物志三卷（魏、劉邵）、近事會元五卷・附校勘記（宋、李上交）。第八十一冊、靖康緗素雜記十卷（宋、黃朝英）。第八十二—八十六冊、能改齋漫錄十八卷（宋、吳曾）。第八十七・八十八冊、緯略十二卷（宋、高似孫）。第八十九冊、坦齋通編一卷（宋、邢凱）、潁川語小二卷（宋、陳昉）。第九十冊、愛日齋叢鈔五卷。第九十一冊、日損齋筆記一卷（元、黃溍）、樵香小記二卷（清、何琇）、日聞錄一卷（元、李翀）。第九十二冊、玉堂嘉話八卷（元、王惲）。第九十三—九十八冊、古今姓氏書辨證四十卷・附校勘記（宋、鄧名世）。第九十九冊、明皇雜錄三卷・附校勘記（唐、鄭處誨）、大唐傳載一卷・賈氏談錄一卷（宋、張洎）、東齋記事六卷（宋、范鎭）。第百・百一冊、續世說十二卷（宋、孔平仲）。第百二冊、玉壺野史十卷（宋、釋文瑩）。第百三・百四冊、唐語林八卷・附校勘記（宋、王讜）。第百五冊、萍洲可談三卷・附校勘記（宋、朱彧）、高齋漫錄一卷（宋、曾慥）、張氏可書一卷（宋、張知甫）、步里客談二卷（宋、陳長方）。第百六・百七冊、東南紀聞三卷・菽園雜記十五卷（明、陸容）。第百八冊、漢武帝內傳一卷・附外傳逸文校勘記・大方廣佛華嚴經音義四卷（唐、釋慧苑）。第百九冊、文子二卷・附校勘記。第百十冊、文始眞經言外經旨三卷（宋、陳顯微）、周易參同契考異一卷（宋、朱子）。【集部】第百十一—百十三冊、古文苑二十一卷・附校勘記。第百十四・百十五冊、觀林詩話一卷（宋、吳聿）、餘師錄四卷（宋、王正德）、詞源二卷（宋、張炎）。

【守巡道】232 シュジュンダウ 清代の地方官。道臺の一種。〔清會典事例、吏部、官制、各省道員〕康熙六年裁㆓各省守巡道、百有八人㆒。

【守先閣】233 シュセンカク 清、陸心源（**11**—**41708**・・366）の室名。

【守錢奴】234 シュセンド 吝嗇な人を罵つていふ。守錢虜。〔黃庭堅、四休居士詩〕富貴何時潤㆓髑髏㆒、守錢奴與㆓抱官囚㆒。

【守錢虜】235 シュセンリョ 吝嗇な人。守錢奴に同じ。〔後漢書、馬援傳〕至㆑有㆓牛馬羊數千頭、穀數萬斛㆒、既而歎曰、殖㆓貨財產㆒、貴㆓其能施賑㆒也、否則守錢虜耳。〔王先謙集解〕惠棟曰、虜、袁宏紀作㆑奴。〔陸游、詩〕富貴空成守錢虜、吾今何止百宜休。〔書言故事大全、富厚類〕守錢虜、譏㆘蓄㆑財不㆓散施㆒者㆖。

【守素堂】236 シュソダウ 清、蔡珽（**9**—**31818**・・98）の室名。

【守得住】237 shou^{3} tê chu^{4} 守ることが出來る。

【守本尊】239 マモリホンゾン 諸佛・諸菩薩、其の他諸天中の一尊を選んで、不時災難等の場合に自分を救助してくれる佛として常時祈願供養を捧げるものをいふ。〔好色一代男、四〕一寸八分の十一面守本尊、云云、身を離さず信心し給ふ。

【守屋峨眉】240 モリヤガビ 江戶の人。名は煥明。字は秀緯・伯亨。通稱は小十郎・元恭。號は峨眉山人。安藤東野・荻生徂徠の說を奉じ、詩文に巧。官は大垣藩醫。寶曆四年歿す、年六十二。著に峨眉詩稿・牛門會雜稿・東陽文集初稿・東陽文集二稿・東陽文集三稿がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【守在㆓四夷㆒】241 マモリシイニアリ 四方の夷をなづけて我が守りとする。德化の四夷に及ぶこと。〔左氏、昭、二十三〕古者、天子守在㆓四夷㆒、天子卑、守在㆓諸侯㆒、諸侯守在㆓四鄰㆒、諸侯卑、守在㆓四竟㆒。〔會箋〕守在㆓四竟㆒、言、其守備在㆓己封界㆒、則守在㆓四夷㆒、亦言㆘其和㆓柔四夷㆒以爲㆗諸夏之衞㆖也。〔淮南子、泰族訓〕天子得㆑道、守在㆓四夷㆒。〔李華、弔㆓古戰場㆒文〕爲㆑之奈何、守在㆓四夷㆒。

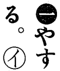
【守殘老人】242 シュザンラウジン 民國、羅振玉（**9**—**28397**・・366）の號。

【守寺比丘】243 シュジビク ［佛］寺の番を司る比丘。〔釋氏要覽、下〕善見律云、佛使㆓一比丘食時守㆑寺、卽今一寺有㆓直日看堂者㆒是也。

【守素先生】244 シュソセンセイ 唐、王駕（**7**—**20823**・・115）の自稱。

【守素道人】245 シュソダウジン 明、姚福（**3**—**6202**・・105）の號。

【安】 7072 アン 〔集韻〕於寒切 ㄢˉ an^{1} ［寒］



小篆

㊀**やすい。やすらか。やすんずる。**㋑しづか。〔說文〕安、竫也、从㆓女在㆒宀中㆒。〔廣雅、釋詁四〕安、靜也。㋺おちつく。〔釋名、釋言語〕安、晏也、晏晏然和喜、無㆓動懼㆒也。〔大學〕靜而后能安。〔荀子、王霸〕百姓莫㆓敢不㆑安㆑制。〔注〕安㆑制、謂㆘安㆓於國之制度㆒、不㆗敢踰㆖㆑分。㋩さだまる。〔爾雅、釋詁〕安、定也。㋥とまる。〔爾雅、釋詁〕安、止也。㋭おもむろ。ゆるやか。〔左氏、襄、七〕寡君未㆑知㆑所㆑過、吾子其少安。〔注〕安、徐也。〔史記、文帝紀〕謂㆓天下何㆒其安㆑之。〔注〕索隱曰、安者、徐也、言㆓徐徐且待㆒也。㋬たひらか。〔儀禮、少牢饋食禮〕心皆安㆑下切㆑上。〔注〕安、平也。㋣たのしむ。このむ。〔國語、晉語一〕君父之所㆑安也。〔注〕安、善也。〔淮南子、氾論訓〕百姓安㆑之。〔注〕安、樂也。㋠たのしみにふける。佚樂。〔左氏、僖、二十三〕懷與㆑安、實敗㆑名。㋷むく。したふ。〔論語、爲政〕察㆓其所㆒㆑安。〔皇疏〕安、謂㆓意氣歸㆓向之㆒。㋦なれる。〔呂覽、樂成〕三世然後安㆑之。〔注〕安、習也。㋸をる。〔左氏、文、十一〕自安㆓于夫鍾㆒。〔注〕安、處也。㋾置く。〔陸游、東陽道中詩〕先安㆓筆硯㆒對㆓溪山㆒。㋻いつくしむ。やすらかにする。〔書、皐陶謨〕在㆑知㆑人、在㆑安㆑民。㊁**うち。**〔荀子、仲尼〕安忘㆓其志㆒。〔注〕安、內也。㊂**いづくんぞ。なんぞ。いづくんか。**何（**1**—**511**）・焉（**7**—**19076**）に通ず。〔左氏、宣、十二〕暴而不㆑戢、安能保㆑大。猶有㆓晉在㆒、焉得㆑定㆑功。〔經傳釋詞、二〕安、易同人正義曰、安、猶㆑何也、顏師古注㆓漢書吳王濞傳㆒曰、安、焉也。宣十二年左傳曰、暴而不㆑戢、安能保㆑大、猶有㆓晉在㆒、焉得㆑定㆑功、所㆑違㆓民欲㆒猶多、民何安焉、安・焉、亦何也、互文耳。〔漢書、吳王濞傳〕安得㆑不㆑事。〔注〕師古曰、安、焉也。〔張衡、東京賦〕安處先生。〔注〕善曰、安、烏也。〔素問、脈要精微論〕此皆安生。〔注〕安、何也。㊃**に。おいて。**句中の助辭。於（**5**—**13628**）に通ず。〔經傳釋詞、二〕安、猶㆑於也、大戴禮用兵篇曰、古之戎兵、何世安起、安、猶㆑於也、何世於起、言㆑起㆓於何世㆒也、魏策曰、君其自爲㆑計、且安死乎、安生乎、安窮乎、安貴乎、言㆓於㆑死

於レ生於レ窮於レ貴也。❺そこで。すなはち。〔經傳釋詞、二〕安、猶レ於レ是也、乃也、則也、管子山國軌篇曰、民衣食而繇、下安無二怨咎一、言三下乃無二怨咎一也、又地員篇曰、其陰則生二之楂梨一、其陽安樹二之五麻一、言三其陽則樹二之五麻一也、又曰、羣木安逐、言二羣木於レ是彊盛一也、荀子仲尼篇曰、委然成レ文、以示二之天下一、而暴國安自化矣、言二暴國於レ是自化一也。❻そもそも。抑(5－11883)に通ず。〔說文通訓定聲〕安、荀子勸學注、安、語助、猶レ言レ抑也。❼助辭。然の意。〔荀子、榮辱〕俄則屈安窮矣。〔注〕安、語助、猶レ言二屈然窮矣一。❽謚。〔逸周書、謚法解〕好レ和不レ爭、曰レ安。❾州名。安州。〔集韻〕安、又州名。❿案(6－14762)に通ず。〔史記、秦始皇紀〕安レ土息レ民。〔注〕索隱曰、賈誼書、安、作レ案。⓫鞌(12－42814)に通ず。〔左氏、定、十〕會二于安一。〔公羊、定、十〕會二于鞌一。⓬晏(5－13914)に通ず。〔左氏、哀、六〕安二孺子一。〔史記、侯王年表〕晏二孺子一。⓭隝(11－41810)に通ず。〔大戴禮、保傅〕安陵任二周瞻一。〔注〕安、或爲レ隝。⓮閼(11－41380)に通ず。〔左氏、定、十三〕董安于。〔淮南子、道應訓〕董閼于。⓯姓。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕安氏、安息王子入侍、遂爲二漢人一、故其族出二涼州一、風俗通、漢有二安成、廬山記、吳有二安高唐一、賜二抱玉一爲二李氏一、其餘卽安氏也、望出二姑藏河內一。現❶安培(ampere)の簡稱。❷公畝(are)の異譯。邦やす。やすい。㋑廉價。㋺たやすい。

名乘　ア。サダ。ヤス。

解字　會意。宀と女との合字。家中に女あり、女は內を守るべきもの、女が家を守り家事につとめれば其の一家の寧らかなるを本義とす。故に安寧の義とす。

【安乢】1 ヤスガタワ　美作國の地名。

【安安】2 アンアン　❶安んずべきものを安んずる。又、天性のまま勉めないで、德性がうるはしいこと。〔書、堯典〕欽明文思安安。〔傳〕言、堯放二上世之功化一、以二敬明文思之四德一、安二天下之當レ安者一。〔蔡傳〕安安、無レ所二勉強一也、言、其德性之美、皆出二於自然一、而非二勉強一、所レ謂性レ之者也。〔王先謙、孔傳參正〕此古文也、今文作二欽明文塞晏晏一、安安晏晏、並疊字爲レ訓、僞傳二一字串說謬、爾雅、晏晏、溫和也、古安晏通用、安安與二晏晏一義同、考靈耀鄭注、寬容覆載謂二之晏一、狀二其寬和之德一、故曰二安安一。❷輕暴でないさま。〔詩、大雅、皇矣〕執レ訊連連、攸レ馘安安。〔集傳〕安安、不二輕暴一也。❸安んずべき所に安んず。安レ安而能遷を見よ。❹清、金祖靜(11－40152・・1322)の號。

【安安田】3 アアタ　姓氏。〔姓氏家系大辭典〕。

【安レ安而能遷】4 ヤスキニヤスンジテヨクウツル　己の安んずべき所に安んじ、而も能く義を見ては遷る。〔禮、曲禮上〕積而能散、安レ安而能遷。〔注〕謂下己今安二此之安一、圖二後有レ害、則當中能遷上。〔孫希旦集解〕安安謂三心安二於所レ安、凡身之所レ習、事之所レ便者、皆是也、心安二於所レ安、而能遷以從レ善、則不レ至二於懷レ安而溺レ志。

【安夷】6 アンイ　縣名。❶漢、置く。故城は甘肅省西寧縣の東。南涼の禿髮烏孤、其の弟利鹿孤を以て安夷を鎭む。〔漢書、地理志下〕金城郡、縣十三、安夷。❷宋、置く。故治は今の貴州省婺川縣の南。或は唐の夷州の領した寧夷縣といふ。〔讀史方輿紀要、貴州、思南府、婺川縣〕安夷、廢縣、在二縣南一、本婺川縣地、宋政和八年、析二置安夷縣一屬二思州一、宣和四年、廢爲レ砦、屬二黔州一、紹興初復レ故、元幷入二婺川縣一、通志、今鎭遠縣、卽宋之安夷縣、恐誤。

【安怡】7 アンイ　やはらぐこと。〔鮑照、送二從弟道秀一別詩〕歲時多二阻折一、光景乏二安怡一。

【安易】8 アンイ　安んじて事を簡略にする。〔國語、晉語八〕鞅也居處恭、不二敢安易一。

【安意】9 アンイ　心がやすらかになる。安心。

【安懿】10 アンイ　宋、趙允讓(10－37171・・409)の謚。

【安偉】11 アンヰ　苦痛の時に叫ぶ語。〔北史、熊安世傳〕宗道暉、好着二高翅帽大屐一、州將初臨、輒服以謁、後齊任城王湝鞭レ之、道暉徐呼二安偉安偉一。

【安慰】12 アンヰ　❶なぐさめる。慰安する。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕時時爲二安慰一、久久莫二相忘一。〔後漢書、劉表傳〕安慰賑贍。〔唐書、宗室、河間王孝恭傳〕分二遣使者一、綏二輯安三慰其款附者四十有九州一。❷おちつきやすんずる。〔杜甫、承三沈八丈東美除二膳部員外一阻レ雨未レ遂二馳賀一奉レ寄二此詩一詩〕未レ暇レ申二安慰一、含レ情空激揚。

【安祐】13 アンイウ　元、磁州の人。謚は文康。弱冠にして上書す。世祖、之を奇とし、近侍を授く。官は集賢大學士。卒して平章を贈られ、興國公に追封せらる。〔新元史、二百四十九〕。

【安育】14 アンイク　安んじ育てること。〔呂覽、勿躬〕黔首畢樂二其志一、安二育其性一、而莫二爲不レ成。

【安燠】15 アンイク　安らかで暖いことをいふ。〔詩、唐風、無衣〕豈曰レ無二衣六一兮、不レ如二子之衣、安且燠一兮。

【安佚】16 アンイツ　安んじたのしむ。身體を勞せずして遊び居ること。安逸。安肆。〔孟子、盡心下〕四肢之於二安佚一也、性也。〔漢書、司馬相如傳下〕事レ行甚忠敬、居レ位甚安佚。〔注〕師古曰、佚、樂也、讀與レ逸同。

【安逸】17 アンイツ　安んじたのしむ。安佚に同じ。〔莊子、至樂〕身不レ得二安逸一。〔後漢書、輿服志上〕民物安逸、若二道自然一。〔潘岳、射雉賦〕何斯藝之安逸。

【安逸處士】18 アンイツショシ　字號。❶宋、何羣(1－511・・59)の號。❷宋、韓退(12－43159・・162)の號。

【安邑】19 アンイフ　縣名。漢、置く。禹の都。又、戰國、魏の都。後魏、分つて南安邑・北安邑二縣とし、後、北安邑を改めて夏縣とす。隋、南安邑を改めて安邑縣とす。卽ち今の治。山西省解縣の東北。北は涑水に濱し、南は黃河に近し。解縣との界に鹽池あり。山西省の鹽產地。〔漢書、地理志上〕河東郡、縣二十四、安邑。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、解州、安邑縣〕安邑故城、縣西二里、皇甫謐云、舜禹皆都二於此一、春秋時、魏絳徙二安邑一、又魏武侯二年、城二安邑一。〔淸史稿、地理志〕山西、解州直隸州、縣四、安邑。

【安邑棗】20 アンイフサウ　安邑から出る甘い棗。〔史記、貨殖傳〕安邑千樹棗。〔魏文帝、詔二羣臣一〕南方有二龍眼荔枝一、寧比二西國蒲萄石蜜一乎、酢且不レ如二中國一、云云、凡棗味莫レ若二安邑御棗一也。

【安隱】21 アンイン　遼、耶律沙(9－29008・・24)の字。

【安永】22 アンエイ　第百十八代後桃園天皇・第百十九代光格天皇の年號。(1772－1781)〔菅原在熙勘文〕文選曰、壽安永寧。

【安榮】23 アンエイ　身が安らかでさかえる。〔荀子、儒效〕爲二君子一則常安榮矣、爲二小人一則常危辱矣。

【安營】24 アンエイ　軍隊を駐めて宿營する。紮營。〔隋書、禮儀志三〕其安營之制、以レ車外布、間設爲レ槍、次施二兵幕一、內安二雜畜一。

【安焉】25 アンエン　安らかなさま。〔國語、齊語〕其心安焉、不下見二異物一而遷上焉。

【安燕】26 アンエン　❶やすんじ樂しむ。燕は安。〔荀子、脩身〕安燕而血氣不レ惰。❷宴樂に安んずる。〔禮、鄕飮酒義〕飮酒之節、云云、知二其能安燕而不レ亂也。

【安遠】27 アンヱン　❶縣名。㋑南朝宋、置く。廣西省の境。㋺南齊、置く。故治は江西省寧都縣の境。㋩梁、置く。隋、廢し、唐、復た置く。今の江西省定南縣の東北。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府〕安遠縣、本雩都縣地、蕭齊建元初、常析二置安遠縣一屬二南康郡一、永平八年、幷入二虔化縣一、梁時大同十一年、復置二安遠縣一、仍屬二南康郡一、隋廢入二雩都縣一。〔淸史稿、地理志〕江西、贛州府、縣八、安遠。㋥宋、置く。故治は今の廣東省欽縣。〔讀史方輿紀要、廣東、廉州府、欽州〕安遠廢縣、今州治、漢合浦縣地、蕭梁置二安京縣一、爲二安京郡治一、云云、宋開寶五年、改名二安京一、景德中、改曰二安遠縣一、元移二欽州治一焉、明初省。㋭遼、置く。滿洲遼寧省開原縣の地。❷砦の名。㋑宋、置く。甘肅省天水縣の境。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、秦州〕安遠寨、在二州西一、宋嘉定十三年、四川帥安丙遣レ將會二夏人一攻二鞏州一不レ克、夏人自二安遠一退レ師、宋將程信邀レ之、共攻二秦州一不レ從、信亦自伏レ羌引還、宋志、州境有二安陽保安諸砦一。㋺宋、置く。甘肅省通渭縣の東南。㋩宋、置く。四川省瀘縣の

境。❸鎮の名。㋑福建省寧化縣の北。舊名、下土寨。〔讀史方輿紀要、福建、汀州府、寧化縣〕安遠砦、縣北百里、北至㆓邵武府建甯縣㆒八十里、舊名下土寨、宋慶元中置、元因㆑之、有㆓巡司戍守㆒、明朝洪武初、改㆓今名㆒。㋺甘肅省通渭縣の東南。伏羌縣の界。〔九域志〕天禧二年、置㆓安遠鎭㆒在㆓秦州西北一百二十五里㆒。

〖安遠侯〗28 アンエンコウ　漢、鄭吉(**11－39647**‥70)の封號。

【安屋】29 アンヲク　州名。唐、羈縻州に置く。今、闕く。新疆省の境。〔唐書、地理志七下〕西域大汗都督府、領㆓州十五㆒、有㆓安屋州㆒。

【安隱】30 アンオン アンノン　安らかでおだやか。安穩に同じ。〔宋書、夷蠻、呵羅單國傳〕人民熾盛、安隱快樂。

【安穩】31 アンヲン アンノン　安らかでおだやか。安泰。安隱。〔宋琑語〕按、安隱、卽安穩、穩、俗字也。〔魏志、董卓傳、注〕海內安穩、無㆑故移㆑都、恐百姓驚動。〔晉書、顧愷之傳〕行人安穩、布帆無㆑恙。

【安下】32 an^1 hsia^4　備へ付ける。準備する。

【安家】33 アンカ　❶安らかな家。安穩無事な家。〔呂覽、諭大〕無㆑有㆓安家㆒。❷家を安んずる。〔漢書、路溫舒傳〕父子夫妻、戮㆑力安㆑家。

〖安家費〗34 an^1 chia^1 fei^4　出張者の留守中の手當。又は國に居る家族を養ふ爲に送る金。家庭生活費。

〖安家樂業〗35 アンカラクゲフ　安らかに生活して、其の生業を樂しむ。安居樂業(99)に同じ。〔漢書、谷永傳〕毋㆑殫㆓民財㆒、使㆓天下黎元、咸安㆑家樂㆑業。

【安暇】36 アンカ　安らかでひまなこと。〔潘岳、笙賦〕初雍容以安暇、中佛鬱以怫愲。

【安歌】37 アンカ　しづかにたのしんで歌ふ。〔楚辭、九歌、東皇太一〕揚㆑枹兮拊㆑鼓、疏㆓緩節㆒兮安歌。〔注〕徐歌相和、以樂㆓神意㆒也。〔任昉、出㆓郡傳舍㆒哭㆓范僕射㆒詩〕寧知安歌日、非㆓君撤㆑瑟晨㆒。〔注〕良曰、安然歌樂之日。

【安價】38 アンカ　値がやすい。やすね。廉價。

【安河】39 アンガ　川の名。もと源泉水。源は河北省易縣の西北白楊嶺。安徽省泗縣內を流れ、南、易水に入る。清の乾隆中、浚渫して安河の名を賜ふ。

【安雅】40 アンガ　正しくて德のあるところに安んじ居ること。一說に、中夏に安んずる意。〔荀子、榮辱〕譬㆑之、越人安㆑越、楚人安㆑楚、君子安㆑雅。〔注〕雅、正也、正而有㆓美德㆒者、謂㆓之雅㆒。〔集解〕雅、讀爲㆑夏、夏、謂㆓國㆒也、故與㆓楚越㆒對文。

〖安雅堂〗41 アンガダウ　室名。❶元、陳旅(**11－41698**‥597)の室名。❷明、陳子龍(**11－41698**‥900)の室名。❸清、謝墉(**10－35827**‥226)の室名。❹清、宋琬(**3－7078**‥19)の室名。

〖安雅堂集〗42 アンガダウシフ　書名。❶十三卷。元、陳旅撰。元史儒學傳に其の文の典雅峻潔なのを稱してゐる。〔四庫提要、集、別集類〕❷十九卷。清、宋琬撰。琬の詩名は施愚山と齊しく、世に南施北宋と稱す。安雅堂詩・安雅堂拾遺詩があつたが皆卷數なく、外に安雅堂拾遺文二卷・附、二鄉亭詞四卷がある。〔四庫提要、集、別集類存目〕

【安駕】43 アンガ　車をとどめること。〔隋書、庾質傳〕陛下若行、慮㆑損㆓軍威㆒、臣猶願㆓安㆑駕住㆑此、命㆓驍將勇士㆒、指㆓授規模㆒、倍㆑道兼㆑行、出㆓其不意㆒、事宜㆑在㆑速、緩必無㆑功。

【安海】44 アンカイ　鎭の名。福建省晉江縣の西南。古名は灣海。宋の安海市。明の安平鎭。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、晉江縣〕安海鎭、府南二十里、古名灣海、宋初、始改爲㆑安、曰㆓安海市㆒、西曰㆓新市㆒、東曰㆓舊市㆒、海舶至、州遣㆑吏權㆓稅於此㆒、號㆓石井津㆒、建炎四年、置㆓石井鎭㆒、紹興二十六年、海寇奪至、鎭官自鎭、西偏循㆓東北㆒築㆓土城㆒、疊㆑石爲㆑門備㆑之、後圮、元置㆓石井鎭巡司於此㆒、明初洪武二十年、徙㆓巡司於同安縣之東坑鎭㆒、仍爲㆓商民輳集處㆒、嘉靖三十七年、以㆓倭亂㆒甃㆓石拓城㆒、周五里有奇、爲㆓門四水關㆒、大小凡八設、官軍戍守、亦曰㆓安平鎭㆒。

【安諧】45 アンカイ　やすんじやはらぐ。夫婦の情愛がこまやかなこと。〔元典章〕夫婦不㆓相安諧㆒者、遂有㆓賣休買休體例㆒。

【安乂】46 アンガイ　安定する。安らかにをさまる。乂安。〔北史、齊文宣帝紀論〕存㆓心政事㆒、風化肅然、數年之間、朝野安乂。

【安行】47 アンカウ　❶心にやすんじておこなふ。〔中庸〕或安而行㆑之。❷ゆるゆると行く。徐行。安步。〔詩、小雅、何人斯〕爾之安行、亦不㆑遑㆑舍。〔集傳〕言、爾平時徐行、猶不㆑暇㆑息。❸宋、陳居仁(**11－41698**‥750)の字。

〖安行疾鬭〗48 アンカウシツトウ　しづかに行き、急激にたたかふ。〔吳子、應變〕安行疾鬭、一結㆓其前㆒、一絕㆓其後㆒。

【安好】49 an^1 hao^3　平安なこと。

【安康】50 アンカウ　❶やすらか。やすらかにをさまる。太平無事。安泰。安靖。安妥。〔易林〕天福吉祥、永得㆓安康㆒。〔吳志、孫綝傳〕扶㆑危定㆑傾、安㆓康社稷㆒、功勳赫然。❷縣名。㋑晉、置く。陝西省漢陰縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、興安州、漢陰縣〕安康廢縣、舊治在㆓今縣北二十里㆒、志云、縣西二十里、有㆓安陽故城㆒、漢縣治也、晉移㆓治於此㆒、後魏爲㆓東梁州治㆒、西魏主欽初、宇文泰遣㆑軍入㆓南鄭㆒、命㆓王雄㆒分㆑軍取㆓上津魏興㆒、東梁州刺史李遷哲、以㆑州降、未㆑幾安康人黃衆寶叛、魏攻㆓魏興勢㆒、太守柳檜、進圍㆓東梁州㆒、王雄擊平㆑之、東梁州治、安康也、南安始移㆓縣於今治㆒。〔清史稿、地理志〕陝西、興安府、縣六、安康。㋺民國、置く。陝西省漢陰縣の東。❸第二十代の帝諡。(454－456)

【安恪】51 アンカク　宋、盧守懃(**8－23050**‥236)の諡。

【安岳】52 アンガク　縣名。❶北周、置く。今の四川省潼南縣の西。鹿頭山脈、其の西南を繞る。安岳山があるので名づく。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州〕安岳縣、漢爲㆓資中・牛鞞・墊江三縣地㆒、後周置㆓安岳縣㆒、幷置㆓普州治㆒焉、隋初因㆑之、大業初、州廢、縣屬㆓資陽郡㆒、唐武德二年、復置㆓普州治安岳縣㆒、天寶初曰㆓安岳郡㆒。〔清史稿、地理志〕四川、潼川府、縣八、安岳。❷遼、置く。朝鮮黃海道海州郡の東北の安岳。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮、海州城〕在㆓黃州西南二百餘里㆒、以㆑濱㆑海而名、又東北卽安岳縣也、志云、境內有㆓安岳・三和・龍岡㆒、咸從㆓江西五縣長命一鎭㆒、今俱屬㆓黃州㆒、皆唐置、元因而不㆑改。

【安學】53 アンガク　學問に安んずること。〔禮、學記〕君子之於㆑學也、藏焉修焉、息焉遊焉、夫然故安㆓其學㆒而親㆓其師㆒、樂㆓其友㆒而信㆓其道㆒、是以雖㆑離㆓師輔㆒而不㆑反也。

【安函】54 an^1 han^2　起居伺ひの手紙。安信。

【安閑】55 アンカン　❶心がおちついて、ゆつたりとしたさま。心身がやすらかでしづかなさま。安閒。安舒。〔荀子、彊國〕恬然如㆑無㆑治者古之朝也、注〕恬然、安閑貌。〔易林、益之乾〕下㆑堂出㆑門、東西九山、逢㆑福値㆑喜、得㆓其安閑㆒。〔歐陽脩、豐樂亭記〕樂㆓其地僻而事簡㆒、又愛㆓其俗之安閑㆒。〔蘇軾、太白山下早行至㆓橫渠鎭㆒書㆓崇壽院壁㆒詩〕奔走煩㆓郵吏㆒、安閑愧㆓老僧㆒。❷第二十七代の帝諡。(532－536)

【安閒】56 アンカン　やすらかさ。心が落附いてゆつたりしたさま。安閑の❶に同じ。〔蕭穎士、白鷴賦〕情莽眇以耿潔、貌軒昂以安閒。　「名。

〖安閒堂〗57 アンカンダウ　宋、張鎡(**4－9812**‥361)の室名。

【安漢】58 アンカン　縣名。❶漢、置く。故城は四川省南充縣の北。〔漢書、地理志〕巴郡、縣十一、安漢。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、南充縣〕安漢城、府南三十五里、漢縣屬㆓巴郡㆒、後漢因㆑之。❷南朝宋、置く。四川省閬中縣の境。

〖安漢公〗59 アンカンコウ　漢、王莽(**7－20823**‥993)の封號。〔漢書、王莽傳上〕元始元年正月丙辰、拜爲㆓太傅㆒、賜㆓號安漢公㆒。

【安簡】60 アンカン　❶諡號。㋑唐、杜佑(**6－14477**‥7)の諡。㋺宋、邵亢(**11－39343**‥10)の諡。㋩宋、趙德彝(**10－37171**‥810)の諡。㊁宋、王擧正(**7－20823**‥1317)の諡。❷字號。明、陳文(廬陵の人)(**11－41698**‥535)の字。

【安危】61 アンキ　❶安らかなこととあやふいこと。〔書、畢命〕邦之安危。〔墨子、公孟〕治亂安危。〔莊子、秋水〕察㆓乎安危㆒、寧㆓於禍福㆒。〔列子、力命〕信㆑性者亡㆓安危㆒。〔荀子、榮辱〕安危利害之常體。〔韓非子、姦劫弑臣〕安危之道、若㆑此其明也。〔戰國、韓策〕對曰、此安危之要、國家之大事也、臣請深惟而苦㆓思之㆒。〔史記、李斯傳〕高曰、安可㆑危也、危可㆑安也、安危不㆑定、何以貴㆑聖。❷韓非子の篇名。

〖安危相易〗62 アンキアヒカハル　やすらかなことと、あやふいことが、互にかはり合ふ。安は危を生じ、危は安を生ず。〔莊子、則陽〕安危相易、禍福相生、緩急相摩、聚散以成、此名實之可㆑紀、精微之可㆑志也。

【安危之機】63（アンキノキ）　やすらかになるか、あやふくなるかのわかれ目。〔史記、孝景紀〕安危之機、豈不レ以レ謀哉。〔魏志、陳羣傳〕今中國勞レ力、亦吳蜀之所レ願、此安危之機也。

【安危之本】64（アンキノモト）　やすらかになるか、あやふくなるかの基。安危のわかれ目。〔史記、秦始皇紀〕安危之本、在二於此一矣。

【安危在二此一擧一】65（アンキハコノイツキヨニアリ）　國の安危は此の一戰によつて定まる。〔史記、項羽紀〕國家安危、在二此一擧一。

【安危在レ出レ令存亡在レ所レ用】66（アンキハレイヲイダスニアリソンバウハモチフルトコロニアリ）　國家の安危は出す所の政令の善惡により、存亡は用ひる所の家來の善惡による。〔史記、主父偃傳〕夫秦政之所二以不一レ行者、權分二乎二子一、此得失之效也、故周書曰、安危在レ出レ令、存亡在レ所レ用。

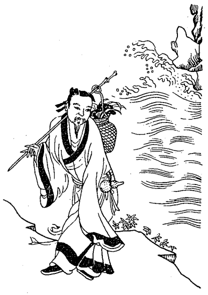
【安危在二是非一不レ在二於強弱一】67（アンキハゼヒニアリテキヤウジヤクニアラズ）　一國の安危は是非の名分を正すと否とに在るもので、國の強弱によつて決定せられるものではない。是非の名分が正しければ弱國と雖も必ず安く、之に反すれば強國と雖も必ず危い。〔韓非子、安危〕安危在二是非一、不レ在二於強弱一、存亡在二虛實一、不レ在二於衆寡一。

【安岐】68（アンキ）　清、天津の人。字は儀周。號は麓村、又、松泉老人。居室を沽水草堂といふ。鹽を淮南に鬻ぎ、聲勢赫奕。士を好んだので、江淮閒の貧にして不遇な文士は、多く彼によつて生活をした。鑑賞に精しく、收藏の財、天下に並ぶものなしと稱せられた。著に墨緣彙觀がある。百宋一廛賦には、麓村を骨董を賣るものとし、內自訟齋文集には、儀周は朝鮮の人といふ。

【安喜】69（アンキ）　縣名。㊀漢の安險縣。後、安喜と誤る。河北省定縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、定州〕安險城、縣東三十里、漢置レ縣屬二中山國一、武帝封二中山靖王子應一爲二侯邑一、中山記、縣在二唐水文西一、山高岸嶮、故曰二安險一、後漢章帝、更レ名曰二安憙一、後譌爲二安喜一、昭烈嘗爲二安喜尉一、卽此、晉亦曰二安喜縣一、屬二中山國一。㊁遼、置く。金、遷安と改む。今の河北省遷安縣。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、盧龍縣、遼西城〕安喜廢縣、在二府東北六十里一、遼志云、本令支地、五代梁末、契丹、以二定州安喜縣俘戶一、置二縣於此一、金大定七年、改二置遷安縣一。

【安期】70（アンキ）　㊀山名。山東省蕪萊縣の南。秦の安期生が修煉した所といはれる。〔舊志〕相傳、安期生修二煉於此一、上有二安期眞人觀一、有二唐宋元三碑一。㊁複姓。〔萬姓統譜〕安期氏、見二英賢傳一。㊂安期生に同じ。〔魏志、華佗傳、注〕佗別傳曰、云云、觀二神仙於瀛洲一、求二安期於海島一。〔謝靈運、登二江中孤嶼一詩〕始信安期術。㊃字號。㋑晉、徐寧（4−10110・・244）の字。㋺梁、王承（7−20823・・602）の字。㋩唐、路泌（10−37524・・94）の字。㋥明、周永年（2−3441・・546）の字。

【安期生】71（アンキセイ）　秦、琅邪阜縣の人。藥を海邊に賣り、學を河上丈人に受け、長壽を得て千歲翁と呼ばれた。秦の始皇が東游した時、共に語ること三晝夜、金璧を賜つたが受けず、やがて書・赤玉舃を留め、數十年後我を蓬萊山下に求めよといつて去つた。後、始皇は人を遣はし海に入つて求めさせたが得ず、祠を阜鄉亭邊十數處に立てた。漢書蒯通傳には齊人安其生なるものが見えてゐるが、皇甫謐の高士傳には同一人としてある。〔史記、封禪書〕・〔列仙傳〕・〔高士傳、中〕・〔陔餘叢考、三十四〕。



安期生（三才圖會）

【安貴】72（アンキ）　㊀香木の名。女貞。〔史記、孔子世家、孔子葬二魯城北泗上一、注〕集解曰、皇覽曰、塚塋中樹、以レ百數、云云、其樹柞枌・雒離・女貞・五味・毚檀之樹、索隱曰、女貞、一作二安貴一、香名、出二西域一。㊁縣名。西魏、置く。故治は湖北省隨縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州、順義城〕安貴廢縣、在二州西三十里一、梁置二定陽縣及北郢州於此一、西魏改レ縣曰二安貴一。

【安熙】73（アンキ）　元、藁城の人。字は敬仲。號は默菴。劉因の門人烏沖に從學す。著に默菴集がある。〔元史、一百八十九〕・〔宋元學案、一百八十九〕。

【安僖】74（アンキ）　諡號。㊀宋、錢惟濬（11−40563・・245）の諡。㊁宋、趙子偁（10−37171・・597）の諡。

【安僖皇后】75（アンキクワウゴウ）　晉、王后（7−20823・・390）の㊈の諡號。

【安僖秀王】76（アンキシウワウ）　宋、趙子偁（10−37171・・597）の封諡號。

【安箕】77（アンキ）　清の人。致遠の次子。字は青士。書室を綺樹閣（倚樹閣）といふ。著に綺樹閣稿がある。〔四庫提要、一百八十三〕。

【安徽】78（アンキ）　省名。中國中部の東方に位し、東は江蘇・浙江、西は河南、南は江西省に界す。禹貢の揚・徐・豫州の域、春秋の皖國。故に別稱を皖國といふ。後、吳・楚に分屬す。戰國の楚、秦の九江・泗水・潁川郡の地。漢初、淮南國、後、揚・徐・豫州に分屬す。隋は同安・宣城・新安・鍾離・淮南・廬江・歷陽・譙郡・汝陰等の諸郡とし、唐は江南及び淮南・河南の三道に分け、宋は江南・淮南二路、及び京西北路に分つ。明初には南京に屬す。清に至つて安徽省としたのは、安慶・徽州二府の稱を合したのである。民國では三道、六十縣とした。地勢は北嶺山脈と黟山山脈とが屛列し、北は淮河の流域、南は長江の流域である。氣候溫和、茶・米等を產し、工藝は徽墨・宣紙で有名である。〔清史稿、地理志〕安徽、禹貢揚及徐豫三州之域、明屬二南京一、云云、廣七百三十五里、袤六百六十六里、宣統三年、編戶三百一十四萬二千一百八十四口、一千六百二十二萬九百五十二、共領二府八、直隸州五、屬州四、縣五十一一。

【安徽派】79（アンキハ）　北洋軍閥の一派。段祺瑞を中心としてゐるので段派とも呼ばれる。

【安徽墨】80（アンキボク）　安徽省から產する良質の墨。

【安徽桐城派】81（アンキトウジヤウハ）　安徽省桐城縣出身者の學團。清代、考證學の中堅漢學派に對立して、宋學を奉じ文章を練ることを主とした。漢學商兌の著者の方東樹はこの學派に屬す。桐城派（6−14770・・54）を見よ。

【安義】82（アンギ）　縣名。明、置く。漢の海昏縣、宋齊以後の建昌縣の地。江西省南昌縣の西北。〔讀史方輿紀要、江西、南康府〕安義縣、本建昌縣地。〔清史稿、地理志〕江西、南康府、縣四、安義。

【安久】83（アンキウ）　心が安らかであれば長く生を保つこと。又、安樂で長く續くこと。〔禮、樂記〕致レ樂以治レ心、則易直子諒之心、油然生矣、易直子諒之心生則樂、樂則安、安則久。〔疏〕安則久者、既身不レ躁、故生命長久也。

【安丘】84（アンキウ）　㊀縣名。㋑漢、置く。山東省濰縣の南。濰河の支流、波河の左岸に位す。〔漢書、地理志〕琅邪郡、縣五十一、安丘。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、安丘縣〕漢置二安丘縣一、屬二北海郡一、後漢曰二安平縣一、屬二北海國一、三國魏屬二平昌郡一、晉仍曰二安丘縣一屬二東莞郡一。〔清史稿、地理志〕山東、青州府、縣十一、安丘。㋺南朝宋、置く。今の江蘇省の境。㊁複姓。〔尙友錄〕安丘望之、字仲都、京兆人、少治二老子一。㊂晉、戴逯（5−11685・・111）の字。

【安丘丈人】85（アンキウヂヤウジン）　漢、安丘望之の號。

【安丘望之】86（アンキウバウシ）　漢、長陵の人。字は仲都。少くして老子經を治め、性情恬靜にして仕へず、號して安丘丈人といふ。成帝聞いて之を見んと欲するも、辭して肯ぜず。老子章句を著す。扶風の耿況・王汲等、皆從つて老子を受け、道家之を宗とす。〔後漢書、四十九〕・〔高士傳、中〕。

【安裘】87（アンキウ）　安らかな皮ごろも。〔韓詩外傳、九〕君子之居也、綏如二安裘一、晏如二覆杅一。

【安吉】88（アンキツ）　㊀安らかでさいはひあること。〔論衡、刺孟〕夫利有レ二、有二貨財之利一、有二安吉之利一。〔白虎通、爵〕緣二孝子之心未一レ忍二安吉一。㊁縣名。㋑後漢、置く。浙江省武康縣の西北、安徽省の西界、縣城は苕溪の西岸。〔讀史方輿紀要、浙江、湖州府、安吉州〕安吉廢縣、今州治、漢故鄣縣地、屬二丹陽郡一、後漢中平二年、析置二安吉縣一、晉屬二吳興郡一、宋以後因レ之、隋平レ陳、縣省入二綏安縣一。〔清史稿、地理志〕浙江、湖州府、縣七、安吉。㋺南齊、置く。湖北省の境。㊂清、無錫の人。字は彙占。乾隆の擧人。音韻の學に深く、著に夏時考・韻準がある。

【安給】89アンキフ　安んじ足る。〔白居易、蘇州南禪院千佛堂轉輪經藏石記〕遊者學者、得二以安給一。

【安享】90 an^{1} hsiang^{3}　安んじ樂しむ。

【安珦】91アンキヤウ　高麗、興州の人。初名は裕。號は晦軒。諡は文成。官は僉議中贊。學校を興す。〔高麗史〕。

【安鄉】92アンキヤウ　㊀縣名。㋑漢、置く。河北省晉縣の東。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、安鄉。㋺魏、置く。湖北省竹山縣の境。㋩隋、置く。湖南省常德縣の東北、澧水の下流の東岸。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府、澧州〕安鄉縣、漢孱陵縣地、屬二武陵郡一、後漢分置作二唐縣一、東晉僑二置南義陽郡一、梁又置二安鄉縣一爲二義陽郡治一、隋平レ陳、郡廢、縣屬二澧州一、唐宋因レ之、縣無レ城、今編戶十里。〔清史稿、地理志〕湖南、澧州直隸州、縣五、安鄉。㋥宋、置く。甘肅省導河縣の東北。㊁城の名。河北省無極縣の東南。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、無極縣〕新城、又有二安鄉城一、在二縣南六里一、元和志、魏明帝封二甄逸一爲二安鄉侯一、蓋邑二於此一。

【安彊】93アンキヤウ　安らかでつよい。〔荀子、彊國〕道德之威、成二乎安彊一。

【安疆】94アンキヤウ　國境を安んずる。〔左氏、成、十八〕韓獻子爲レ政、曰、欲レ求レ得レ人、必先勤レ之、成レ霸安レ疆、自レ宋始矣。

【安弓】96アンキユウ　弱い弓。〔周禮、冬官、弓人〕骨直以立、忿埶以奔、若レ是者爲二之安弓一、安弓爲二之危矢一。〔疏〕骨直忿埶是贏、則安弓損レ之、安弓是不レ足、則以二危矢一濟レ之。

【安居】97アンキヨ　㊀やすらかにして居る。じつとして居る。又、自分の生活してゐる場所に滿足すること。又、安らかな住居。〔孟子、滕文公下〕一怒而諸侯恐、安居而天下熄。〔老子、八十〕安二其居一、樂二其俗一、鄰國相望。〔墨子、親士〕非レ無二安居一也、我無二安心一也。〔戰國、趙策〕其移二兵寡人一必矣、今吾安居而可。〔漢書、燕剌王傳〕君子獨安居。〔後漢書、皇甫嵩傳〕賴得二皇甫一兮復安居。㊁川の名。大安溪ともいふ。涪江の支流。源は四川省樂至縣。〔輿地紀勝〕大安溪、在二安居衆水之關一、東至二合州一入レ江、孟蜀時、嘗取二魚於此一、當時號曰二禁溪一。㊂縣名。㋑隋、置く。四川省銅梁縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川重慶府〕安居縣、漢資中縣地、後周置二柔剛縣一、幷置二安居郡治一焉、隋開皇初、郡廢、縣屬二普州一、十三年改曰二安居縣一。㋺隋、置く。四川省遂寧縣の西南。㋩梁、置く。湖北省當陽縣の東。㋥元、置く。四川省理番縣の境。㊃鎭の名。㋑山東省濟寧縣の西南、馬場湖の南濱。交通至便。㋺四川省銅陵縣の西北、隋の安居縣。㊄［佛］アンゴ　僧侶が、雨期三箇月の間、外出を禁じて坐禪修學を勵むこと。雨安居。坐夏。坐臘。夏安居。〔業疏、四〕形心攝靜曰レ安、要期在住曰レ居。㊅アヲ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

〖安居里〗98アヲダイ　陸中國の地名。

〖安居樂業〗99アンキヨラクゲフ　安らかに生活して、各〻其の生業を樂しむ。安家樂業。〔漢書、貨殖傳序〕其父兄之教、不レ肅而成、子弟之學、不レ勞而能、各安二其居一而樂二其業一、甘二其食一而美二其服一。〔後漢書、仲長統傳〕安居樂レ業、長二養子孫一、天下晏然皆歸二心於我一矣。〔諸葛亮、心書、不陣〕昔者聖人之致レ理也、安二其居一、樂二其業一。

【安矜】100アンキヨウ　安んじ、つつしむ。〔呂覽、不屈〕人有二新取レ婦者一、婦至、宜二安矜煙視媚行一。

【安近】101アンキン　心をやすんじて近づくこと。〔漢書、霍光傳〕宣帝始立、謁二見高廟一、大將軍光從驂乘、上內嚴二憚之一、若レ有二芒刺在一レ背、後車騎將軍張安世、代レ光驂乘、天子從容肆レ體、甚安近焉。

【安金】102アンキン　複姓。〔元和姓纂〕。

【安煦】103アンク　元の人。熙の弟。號は素菴。兄弟自ら師友となり、濂洛性理の學を宗とす。門人、材に隨つて悉く得るところあり。憲府交〻招いたが、皆起たなかつた。〔宋元學案、九十二〕。

【安驅】104アンク　ゆるやかに馬を驅ること。〔楚辭、九歌、東君〕撫二余馬一兮安驅、夜皎皎兮卽明。

【安愚】105アング　明、柳僉(**6－14662**‥160)の號。

【安寓】106 an^{1} yü^{4}　寓居を定める。

【安化】107アンクワ　㊀州名。㋑宋、置く。廣西省宜北縣。㋺唐、置く。陝西省舊楡林府の境。㋩唐、置く。甘肅省慶陽府の境。㊁縣名。㋑宋、置く。湖南省漢壽縣の南。縣城は資江の支流、敷溪の上流に濱す。安化茶の産地。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府〕安化縣、秦益陽縣地、自レ漢以後、皆爲二梅山蠻地一、宋初立二五寨一、熙寧六年、始置二安化縣一、屬二潭州一、元因レ之、今編戶十二里。〔清史稿、地理志〕湖南、長沙府、縣十一、安化。㋺南齊、置く。湖北省隨縣の東南。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州、順義城〕安化廢縣、在二順義縣西北一、西魏置、屬二淮南郡一。㋩南齊、置く。廣西省の境。㋥南齊、置く。湖北省の境。㋭隋、置く。綏遠省鄂爾多斯の境。㋬唐、置く。甘肅省慶陽縣。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府〕安化縣、附郭、漢北地郡郁郅縣地、後漢廢、隋爲二合水縣一、唐武德六年、移二宏化縣一與二合水一並爲二州治一、是年改二合水一爲二合川一、貞觀元年、省二合川一入二宏化一、神龍元年、改曰二安化一、宋因レ之、元省、明初復置、今編戶三十二里。〔清史稿、地理志〕甘肅、慶陽府、縣四、安化。㋣明、置く。貴州德江縣。〔讀史方輿紀要、貴州、思南府〕明初改爲二宣慰司一、治二鎭遠州一、二十二年、還治二水德江一、永樂十一年、始爲二府治一。〔清史稿、地理志〕貴州、思南府、縣三、安化。㋠民國、置く。廣西省宜北縣。

〖安化王〗108アンクワワウ　明、朱寘鐇(**6－14424**‥820)の號。

【安臥】109アングワ　落ちついて寢る。やすらかにねる。〔史記、太倉公傳〕年四十、當二安坐一、年五十、當二安臥一。〔梁書、賀琛傳〕惡人日滋、善人日蔽、欲レ求二安臥一、其可レ得乎。

【安魁】110アンクワイ　清、陳階平(**11－41698**‥693)の「名。

【安懷】111アンクワイ　安んじなつく。〔陸機、歎逝賦〕弭節安懷、妙思天造。

【安廣】112アンクワウ　縣名。㊀漢、置く。廣西省橫縣。〔漢書、地理志下〕鬱林郡、縣十二、安廣。㊁南齊、置く。廣西省舊南寧府の境。㊂清、置く。滿洲遼寧省洮南縣の東。〔清史稿、地理志〕奉天、洮南府、縣五、安廣。

【安郭】113アンクワク　亭の名。河北省安國縣の東南。〔水經、滱水注〕又東南逕二任丘城南一、又東南逕二安郭亭南一、漢武帝元朔五年、封二中山靖王子劉傳富一爲二侯國一。

【安勸】114アンクワン　國を安らかに治めて善に赴かせる。〔書、顧命〕柔レ遠能レ邇、安二勸小大庶邦一。〔傳〕當下和レ遠又能和レ近、安二小大衆國一、勸使上爲レ善。〔疏〕於二彼小大衆國一、皆安レ之勸レ之、安レ之、使二國得二安存一、勸レ之、使二相勸爲レ善。

【安君】115アンクン　㊀安らかな君。〔呂覽、壹行〕無二安君一、無二樂親一矣。㊁君を安んずる。〔禮、禮運〕禮者、云云、所二以治レ政安一レ君也。〔國語、晉語八〕安レ君利レ國。

【安計】116アンケイ　㊀安全なるはかりごと。萬全の計。〔張建、封二打毬一詩〕韓生訝三我爲二斯藝一、勸レ我徐驅作二安計一。㊁an^{1} chi^{4}　アンペアメーター。安培表。

【安卿】117アンケイ　字號。㊀宋、史彌寧(**2－3249**‥269)の字。㊁宋、陳淳(**11－41698**‥348)の字。㊂宋、趙彥倓(**10－37171**‥540)の字。㊃宋、王定國(**7－20823**‥1948)の字。㊄明、屠僑(**4－7761**‥22)の字。㊅明、滕克恭(**7－18036**‥49)の字。㊆明、范欽(**9－30834**‥25)の字。㊇明、閔宜邵(**11－41251**‥45)の字。㊈清、李鼎徵(**6－14459**‥1782)の字。

【安惠】118アンケイ　諡號。㊀宋、周起(**2－3441**‥82)の諡。㊁宋、鄧潤甫(**11－39630**‥162)の諡。

〖安惠王〗119アンケイワウ　明、朱楹(**6－14424**‥46)の封諡號。

【安敬】120アンケイ　心がのびやかで愼みぶかいこと。〔禮、表記〕子レ民如二父母一、有二憯怛之愛一、有二忠利之教一、親而尊、安而敬、威而愛、富而有レ禮、惠而能散。

【安溪】121アンケイ　㊀溪の名。藍溪(**9－32258**‥25)の異稱。㊁縣名。宋、置く。福建省南安縣の西。縣城は藍溪の北岸。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、安溪縣〕唐南安縣地、宋宣和三年、改爲二安溪縣一。〔清史稿、地理志〕福建、泉州府、縣五、安溪。

【安慶】122アンケイ　㊀道の名。民國、置く。安徽省に屬す。治は懷寧縣。懷寧・桐城・宿松・太湖・潛山・望山・合肥・廬江・舒城・巢・無爲・和・含山・六安・英山・霍山の十六縣を管轄す。㊁府の名。宋、置く。安徽省懷寧縣の治。清代には懷寧・桐城・潛山・太湖・宿松・望江の六縣を領す。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府〕禹貢揚州之域、春秋時爲二皖

國㆒、戰國屬㆑楚、秦屬㆓九江郡㆒、漢屬㆓廬江郡㆒、漢末、吳克㆓皖城㆒、遂爲㆓重鎭㆒、晉安帝、置㆓晉熙郡㆒、宋齊因㆑之、梁末、嘗置㆓豫州㆒、尋改爲㆓晉州㆒、北齊曰㆓江州㆒、陳復曰㆓晉州㆒、隋初改㆓熙州㆒、大業初、改㆓同安郡㆒、唐武德四年、改爲㆓舒州㆒、天寶初曰㆓同安郡㆒、至德初曰㆓盛唐郡㆒、乾熙元初復㆑故、五代時仍曰㆓舒州㆒、初屬㆑吳、復屬㆓南唐㆒、宋仍曰㆓舒州㆒、政和五年、賜㆑額曰㆓德慶軍㆒、紹興十七年、改㆓安慶軍㆒、慶元初、升爲㆑府、元曰㆓安慶路㆒、明初改㆓寧江府㆒、尋復爲㆓安慶府㆒、直㆓隸京師㆒、領㆓縣六㆒、今仍曰㆓安慶府㆒。〔淸史稿、地理志〕安徽、安慶府、領㆓縣六㆒、懷寧・桐城・潛山・太湖・宿松・望江。

【安慶王】123 アンケイワウ 明、朱恬爣(**6**−**14424**・・945)の封號。

【安慶道友】124 アンケイダウイウ 哥老會の一派で、秘密結社を組織し、私塩を販賣し、轉漕等を業とす。轉じて、安慶道友會の改組せられた青幇をもいふ。

【安稽】125 アンケイ 漢の人。衞青の部將。〔史記、衞將軍驃騎傳〕昌武侯安稽、從㆓驃騎㆒有㆑功。

【安髻】126 アンケイ もとどりをとめて固くすること。〔禮、內則、櫛縰笄總、疏〕此笄謂㆓安㆑髻之笄㆒、以㆑縰韜㆑髮作㆑髻、既訖、橫施㆓此笄於髻中㆒、以固㆑髻也。

【安歇】127 an^1 hsieh^1 休息する。就寢する。安息。〔紅樓夢、三回〕笑問、姑娘怎還不安歇。

【安頡】128 アンケツ 後魏の人。謚は襄。同の子。武人。爵は西平公。官は冠軍將軍。〔魏書、三十〕。

【安業】129 アンゲフ 其の職業に安んじて從事する。〔魏志、杜恕傳〕夫人臣得㆓人主之心㆒、安㆑業也。〔魏志、郭淮傳〕關中始定、民得㆑安㆑業。

【安縣】130 アンケン 縣名。㊀漢、置く。故城は河北省吳橋縣の西北。〔漢書、地理志上〕平原郡、縣十九、安。㊁後漢、置き、今、闕く。浙江省の境。㊂明、置く。四川省緜陽縣の西北。縣城は涪江の支流に濱す。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕安縣、漢涪縣地、明初改㆑州爲㆑縣。〔淸史稿、地理志〕四川、緜州直隸州、縣五、安。

【安險】131 アンケン 縣名。漢、置く。後の安喜縣。故城は河北省定縣の東。〔漢書、地理志下〕中山國、縣十四、安險。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、定州〕安險城、縣東二十里、漢置㆑縣、屬㆓中山國㆒、武帝封㆓中山靖王子應㆒爲㆓侯邑㆒、中山記、縣在㆓唐水之西㆒、山高岸險、故曰㆓安險㆒。

【安元】132 アンゲン 第八十代高倉天皇の年號。(1175−1177)〔藤原俊經勘文〕漢書云、除㆓民害㆒、安㆓元元㆒。

【安言】133 アンゲン ゆるやかにものをいふ。〔後漢書、劉陶傳〕事之急者、不㆑能㆓安言㆒、心之痛者、不㆑能㆓緩聲㆒。

【安弦】134 アンゲン 淸、許縵(**10**−**35298**・・211)の號。

【安原】135 アンゲン ㊀後魏の人。官は侍中征南大將軍。後、反を謀つて誅せらる。〔魏書、三十〕。㊁ヤスハラ 姓氏。

【安原方齋】136 ヤスハラハウサイ 嘉永年間の人。名は寬。字は得衆。通稱は三吾。號は方齋・知言。官は久居藩儒。著に煙草錄・刪定紀效新書撮解・同兒訓・四書臆言・新雜纂・淸嘉錄・兵學須知がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【安源】137 アンゲン 山名。江西省萍鄉縣の東南。萍鄉炭鑛の一部。

【安乎】138 アエガ 淡路國の地名。

【安固】139 アンコ ㊀やすらかでかたい。安全堅固なこと。〔管子、版法解〕無㆑親安固。〔荀子、彊國〕豈自㆓數百里㆒而往者安固。〔後漢書、皇甫規傳〕豈量㆑力審㆑功、安固之道哉。㊁縣名。㋑晉、置く。浙江省瑞安縣。〔讀史方輿紀要、浙江、溫州府〕瑞安縣、晉太康初、改曰㆓安固㆒、屬㆓臨海郡㆒、宋齊以後因㆑之、隋省入㆓永嘉縣㆒。㋺梁、置く。四川省營山縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、蓬州〕安固廢縣、本漢宕渠縣地、梁始置㆓安固縣㆒、屬㆓伏虞郡㆒。

【安故】140 アンコ 縣名。漢、置く。安故氏道。故城は甘肅省臨洮縣の南。〔讀史方輿紀要、陝西、臨洮府、狄道縣〕安故城、漢縣、屬㆓隴西郡㆒、元鼎五年、西羌反攻㆓安故㆒圍㆓枹罕城㆒、蓋與㆓河川㆒接㆑境也。

【安故氏道】141 アンコテイダウ 縣名。漢、置く。卽ち安故縣。氏夷の居る所なので氏道といふ。〔漢書、地理志下〕隴西郡、縣十一、安故氏道。〔注〕師古曰、氏、夷種名、氏之所㆑居、故曰㆓氏道㆒。

【安胡】142 アンコ 菰の實。菰米。饑饉の時などの食料。彫胡(**4**−**9995**・・19)に同じ。〔枚乘、七發〕楚苗之食、安胡之飯。〔注〕善曰、安胡、未㆑詳、一曰、安胡、彫胡也、向曰、又用㆓彫胡草實㆒以爲㆑飯。

【安吳】143 アンゴ ㊀縣名。三國吳、置く。安徽省涇縣の西南。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府、旌德縣〕安吳廢縣、在㆓縣西北十五里㆒、或曰、三國吳置㆓安吳縣㆒、在㆓今涇縣境內㆒、此蓋唐初所㆓改置㆒也、俗謂㆓之沙城㆒。㊁渡津の名。安徽省涇縣の西南、賞溪の濱。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府、涇縣、猷州城〕今有㆓安吳市及安吳渡㆒。

【安吳四種】144 アンゴシシュ 叢書の名。淸、包世臣撰。其の目は第一—三冊、中衢一勺七卷。第四—八冊、藝舟雙楫十六卷。第九・十冊、管情三義二十四卷。第十一—十六冊、齊民四術三十六卷。

【安口】145 ハタカス ㊀丹波國の地名。㊁ハタヤス 姓氏。〔日用重寶記〕。

【安公】146 アンコウ 仙人の名。はじめ鍛冶屋であつたが、後、赤龍に乘つて上仙したといふ。陶安公。〔列仙傳〕陶安公者、六安鑄冶師也、數行㆑火、火一旦散、上行紫色衝㆑天、安公伏㆓治下㆒求㆑哀、須臾朱雀止㆓治上㆒曰、安公安公、治與㆑天通、七月七日、迎㆑汝以㆓赤龍㆒、至㆑期赤龍到、大雨、而安公騎㆑之。

【安公子】147 アンコウシ 隋の曲名。煬帝の崩御を兆したといふ。〔樂府雜錄、安公子〕隋煬帝遊㆓江都㆒時、有㆓樂工㆒、笛中吹㆑之、其父老廢、於㆓臥內㆒聞㆑之、曰、何得㆓此曲㆒、子對曰、宮中新翻也、父乃謂㆓其子㆒、宮曰㆑君、商曰㆑臣、此曲宮聲往而不㆑返、大駕東巡、必不㆑回矣。

【安侯】148 アンコウ 明、劉之勃(**2**−**2224**・・986)の字。

【安恆】149 アンコウ やすらかでかはらない。〔潘岳、爲㆓賈謐㆒作贈㆓陸機㆒詩〕立㆑德之柄、莫㆑匪㆓安恆㆒。

【安國】150 アンコク ㊀國家を安んずる。〔墨子、號令〕安㆑國之道、道㆓任地㆒始。〔漢書、淮南厲王長傳〕大王不㆑察㆔古今之所㆓以安㆑國便㆑事、而欲㆘以㆓親戚之意㆒望㆗于太上㆖、不㆑可㆑得也。㊁安らかな國。〔呂覽、諭大〕無㆑有㆓安國㆒。㊂隋唐の歷史に見える西域の國名。粟特國の一。唐の昭武九姓の一。今の中亞細亞、ブハラ(Bukhara)市附近を指す。東・西・中に分かる。〔唐書、西域下、康傳〕貞觀初、獻㆓方物㆒、太宗厚慰㆓其使㆒曰、西突厥已降、商旅可㆑行矣、諸胡大悅、其王訶陵迦又獻㆓名馬㆒、自言、一姓相承二十二世云、是歲東安國亦入獻。㊃唐末、南詔の德恒帝鄭買嗣の年號。(902−909)㊄縣名。㋑漢、置く。河北省定縣の東、豬龍河の北。〔漢書、地理志下〕中山國、縣十四、安國。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、祁州〕安國城、州東南六里、漢縣治㆑此焉、高帝封㆓王陵㆒爲㆓侯邑㆒。㋺晉、置く。漢の安樂縣。故城は河北省順義縣の西南。㋩北齊、置く。河北省東鹿縣。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、祁州〕東鹿縣、漢鄡縣地屬㆓鉅鹿郡㆒云云、北齊改曰㆓安國縣㆒。㊅鎭の名。甘肅省平涼縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、平涼縣〕安國鎭、在㆓府西四十里㆒、宋置、今爲㆓遞運所㆒。㊆複姓。〔通志、氏族略、名字未㆑辨〕安國氏、漢武帝使㆓安國少季使㆓南越㆒、見㆓姓氏英賢傳㆒。㊇人名。㋑明、綏德の衞の人。字は良臣。謚は武敏。春秋子史に通ず。官は都督同知。〔明史、一百七十四〕・〔萬斯同明史、二百六十三〕・〔明史稿、一百七十五〕。㋺明、無錫の人。字は民泰。膠山に居り、叢桂を後岡に植ゑ、桂坡と號す。古書畫彝鼎を好み、異書を購ふこと甚だ多し。㊈字號。㋑三國蜀、關興(**11**−**41470**・・61)の字。㋺晉、孫盛(**3**−**6987**・・186)の字。㋩宋、胡鎭孫(**9**−**29400**・・562)の字。㋥宋、上官謚(**1**−**13**・・207)の字。㋭宋、張孝祥(**4**−**9812**・・872)の字。㋬宋、文勛(**5**−**13450**・・262)の字。㋣宋、邊肅(**11**−**39216**・・102)の字。㋠元、陳友定(**11**−**41698**・・644)の字。㋷明、石邦柱(**8**−**24024**・・1016)の字。

【安國軍】151 アンコクグン 民國十五年、張作霖の組織した軍隊の名。

【安國侯】152 アンコクコウ 漢、王陵(**7**−**20823**・・1076)の「封號。

【安國寺】153 アンコクジ 寺の名。景雲元年、建つ。陝西咸寧縣の東。唐の睿宗の舊宅。〔寺塔記〕長樂坊安國寺佛殿、開元初、拆㆓寢殿㆒施㆑之、當陽彌勒像、禪師法空自㆓光明寺㆒移來、未㆑建㆑都時、此像在㆓村蘭若中㆒、往往放㆑光、因號㆓光明寺㆒。

【安國少季】154 アンコクセウキ 漢の人。元鼎中、命を奉じて南越に往き、王・王太后に諭して入朝せしめ、

內諸侯に比す。太后はもと中國の人で、嘗て少季と通ず。少季が使を奉じて往くに及んで、復た私かに通ず。呂嘉等反し、王太后及び漢の使者を攻殺す。〔史記、一百十三〕・〔前漢書、九十五〕。

【安國單于】155（アンコクゼンウ） 後漢の人。南匈奴單于宣の弟。永元中、王位に卽く。初、左賢王となつたが稱譽なく、事によつて左谷蠡王師子を疾む。既に立つや、兵を擧げて師子を誅せんとし、克たずして殺さる。在位一年。〔後漢書、一百十九〕。

【安國忠臣】156（アンコクノチユウシン） 國家を安泰にする忠臣。〔朝川善庵、范蠡載㆓西施㆒圖詩〕安國忠臣傾國色、片帆共趁五湖風、人閒倚伏君知否、吳越存亡一舸中。

【安穀】157（アンコク） 病んでゐてよく食ふ。〔史記、倉公傳〕其人嗜㆑粥、故中藏㆑實、中藏㆑實、故過㆑期、師言曰、安穀者過㆑期、不㆓安穀㆒者不㆑及㆑期。〔表異錄〕病而能食曰㆓安穀㆒。

【安骨】158（アンコツ） 火葬後、白骨を拾つて寺に安置すること。〔禪林象器箋、十四〕。

【安沙】159（アンサ） 鎭の名。福建省永安縣の西北、燕水溪の左岸。貿易繁盛の地。〔讀史方輿紀要、福建、延平府、永安縣〕安沙鎭、縣西九十里、舊爲㆓浮流鎭巡司㆒、宋元祐五年、建爲㆓浮流寨㆒、明朝改㆓巡司㆒、景泰三年、以㆓浮流鎭㆒爲㆓縣治㆒、徙㆓巡司於此㆒、改㆓今名㆒。

【安坐】160（アンザ） ❶安らかにすわる。何事もしないでゐる。〔戰國、秦策〕安坐而廣㆑地。〔莊子、說劍〕安坐定㆑氣。〔史記、太倉公傳〕又久安坐。〔後漢書、王霸傳〕安坐不㆑動。〔魏志、涼茂傳〕將軍擁㆓十萬之衆㆒、安坐而觀㆓成敗㆒。❷［佛］㋑佛像を本堂に奉安する。〔禪林象器箋、十一〕。㋺禪定の時、兩脚を組んですわる。

【安坐居】161（アグラヰ） 足を組んですわる。あぐら。胡坐。〔古事記、下〕あぐらゐの神。

【安哉】162（アンサイ） ぼん。盆。盇盤の訛。安哉銘を見よ。〔駢雅、釋器〕安哉、食器也。〔通雅、器用類〕安哉之器、蓋言㆑[illegible]也、御覽、李尤安哉銘、云云、則爲㆓飮食之器㆒明矣。

【安哉銘】163（アンサイメイ） 漢、李尤の文。〔太平御覽、器物部、安哉〕李尤安哉銘曰、安哉令名、甘旨是盛、埏埴之巧、甄陶所㆑成、食㆓彼美珍㆒、思㆓此鹿鳴㆒。

【安塞】164（アンサイ） 縣名。元、置く。陝西省膚施縣の西北。縣城は延水の北岸。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕安塞縣、本漢高奴縣地、宋置㆓安塞堡㆒、元升爲㆑縣、屬㆓延安府㆒、明因㆑之。〔清史稿、地理志〕陝西、延安府、縣十、安塞。

【安塞王】165（アンサイワウ） 明、朱秩炅(6－14424・・921)の封號。

【安齋】166（アンサイ） 岡島順の號。岡島安齋(4－7962・・48)を見よ。

【安在】167（アンザイ） ❶健在。無事でゐる。❷（イヅクニカアル） 何處に居るか。又どうしてゐるか。〔詩、小雅、小弁〕天之生㆑我、我辰安在。〔禮、檀弓下〕聞㆓鐘聲㆒曰、安在、曰、在㆑寢。〔史記、項羽紀〕項王曰、沛公安在。

【安葬】168 an¹ tsang⁴ 葬る。埋葬する。

【安揷】169 an¹ ch'a¹ ❶落ち付かせる。安堵させる。又、適當な所に按配して置くこと。❷蠻民・邊民を普通の民籍に編入する。

【安山】170（アンザン） ❶山名。山東省東平縣の西南。安民山ともいふ。山下の湖の旁の亭子店は、古の安民亭の遺趾で、汶水濟水の合流する處。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州、蠶尾山〕安山、在㆓州西南三十里㆒、亦曰㆓安民山㆒。❷縣名。西魏、置く。河南省淅川縣の東南。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、南陽縣〕南鄉城、府西南百里、漢安衆縣地、西魏、改㆑郡爲㆓秀山㆒、縣爲㆓安山㆒。❸鎭の名。㋑河北省昌黎縣の西南。附近に多く果類を產す。㋺山東省東平縣の西、運河に臨む。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州〕安民亭、云云、今爲㆓安山鎭㆒、明初、兵下㆓東阿㆒至㆓安山鎭㆒、守者以㆑州迎降、是也。❹清、謝希曾(10－35827・・256)の號。

【安山岩】171（アンザンガン） 火山岩の一種。熔岩が凝結して出來る。富士岩。

【安產】172（アンザン） やすらかに子を生む。平產。正產。

【安產樹】173（アンザンジユ） 十字花科に屬する熱帶植物の一種。含生草。

【安殘】174（アンザン） 盇盤(8－22995・・1)を見よ。

【安子】175（アンシ） 地名。河北省房山縣の西。西を西安子、東を東安子、北を北安子、合して三安子と稱す。ともに石炭の產地。

【安之】176（アンシ） 字號。❶金、完顏撒合輦(3－7079・・154)の字。❷明、王仁美(7－20823・・1745)の字。

【安止】177（アンシ） ❶心に安んじ滿足する。〔韓詩外傳、三〕安止平正、除㆑疾之道。〔易林〕出入休居、安止無㆑憂。❷明、廖莊(4－9464・・19)の字。

【安史】178（アンシ） 唐の安祿山と史思明。安史亂を見よ。

【安史亂】179（アンシノラン） 唐代、安祿山・史思明の叛亂。玄宗の天寶十四年、安祿山は楊國忠を討つを名として范陽に擧兵し、玄宗を成都に逐ひ、至德元年正月、洛陽に於て皇帝と稱し、國を大燕と號し、聖武と建元した。次いで至德二年正月、少子慶恩を愛して嗣となさんとした所から、第二子の慶緒に殺された。此の時、祿山の部將史思明は范陽に據り、乾元二年三月、慶緒を殺して大燕皇帝と稱したが、洛陽より長安に向ふ途上に於て、長子朝義に殺された。〔唐書、柳晃傳〕自㆓安史亂㆒常始有㆓專地㆒。

【安市】180（アンシ） 縣名。❶漢、置く。故城は滿洲遼寧省蓋平縣の東北。〔漢書、地理志下〕遼東郡、縣十八、安市。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、蓋州衞〕安市城、衞東北七十里、漢安市縣屬㆓遼東郡㆒、後漢及晉因㆑之、高麗亦曰㆓安市城㆒。❷後魏、置く。河北省密雲縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州、密雲縣〕安市廢縣、縣東北五十里、漢遼東屬縣、後魏僑㆓置於此㆒、太武燾、延和初置㆓交州治㆒焉。

【安矢】181（アンシ） 弱い矢。〔周禮、冬官、弓人〕豐肉而短、寬緩以荼、若㆑是者、爲㆓之危弓㆒、危弓爲㆓之安矢㆒。〔疏〕豐肉寬緩、是不㆑足、則危弓濟㆑之、危弓爲㆑贏、則以㆓安矢㆒損㆑之。

【安死】182（アンシ） 呂氏春秋、孟冬紀の篇名。

【安思】183（アンシ） 明、長安の人。字は曰睿。詩文に巧。官は岳陽知縣。書室を肅麓山房といふ。著に肅麓山房集・掇古一咉・四書宗朱・詩經宗朱等がある。〔長安縣志〕。

【安思皇后】184（アンシクワウゴウ） 後漢、閻后(11－41379・・1)の尊號。

【安是】185（アンシ） 複姓。〔通志、氏族略、複姓〕安是氏、英賢傳、晉厲公大夫是叔施。

【安肆】186（アンシ） あそび樂しんでほしいままにする。心を安んじ樂しましめて禮法を顧みぬこと。安佚。〔禮、表記〕君子莊敬日強、安肆日偸。〔注〕肆、猶㆓放恣㆒也。〔史記、吳王濞傳〕恐不㆑得㆓安肆㆒矣。

【安次】187（アンジ） 縣名。❶漢、置く。治は屢〻變遷があり、今の河北省北京市の南。俗に古縣ともいふ。〔漢書、地理志上〕勃海郡、縣二十六、安次。〔魏書、地形志上〕安城縣、有㆓安次城㆒。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、東安縣〕安次廢縣、在㆓今縣西北㆒、漢舊縣也、光武初、追㆓破尤來・大槍諸賊於安次㆒、卽此城。❷宋、置く。山東省舊濟南府。❸後魏、置く。山東省臨淄縣。

【安次嶺】188（アスミス） 琉球の地名。

【安時】189（アンジ） 字號。❶唐、樊澤(6－15414・・52)の字。❷後晉、沈斌(6－17189・・333)の字。

【安璽】190（アンジ） 明、宛平の人。正德の進士。官は刑部主事。〔明史、一百九十二〕。

【安辭】191（アンジ） 言葉を和らげる。〔顏氏家訓、序致〕曉夕溫凊、規行矩步、安㆑辭定㆑色。

【安州】192（アンシウ） 州名。金、置く。河北省安新縣。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕安州、宋淳化三年、置㆓順安郡㆒、金改爲㆓安州㆒、天會七年、又改曰㆓高陽郡㆒、元初因㆑之、至元二年廢、未㆑幾復置㆓安州㆒、屬㆓保定路㆒。〔清史稿、地理志〕直隸、保定府、州二、安州。

【安柔】193（アンジウ） 安んじやはらげる。〔新書、道術〕安柔不㆑苛、謂㆓之良㆒、反㆑良爲㆑齧。

【安室】194（アンジチ） 越中國の地名。

【安室利處】195（アンシツリシヨ） 安全で便利な居場所。〔莊子、徐無鬼〕奎蹏曲隈、乳閒股脚、自以爲㆓安室利處㆒。

【安實】196（アンジツ） 宋、崇安の人。字は子仁。本姓は哀。熊禾に師事し、刻苦して學に務む。嘗て三たび計偕に預り、抑鬱して卒す。〔宋史翼、三十四〕・〔宋元學案、六十四〕。

【安習】197（アンシフ） 安んじて習ふ。〔周禮、夏官、司右、比㆓其乘㆒屬㆓其右㆒〔注〕合・比・屬、謂㆓次第相安

習㆒也。〔疏〕皆謂㆔教習使㆓安隱㆒也。〔荀子、儒效〕都國之民、安㆓習其服㆒。〔歐陽脩、禮樂志論〕天下安習而行㆑之。

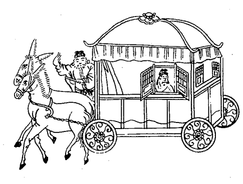
【安集】198（アンシフ） 安んじやはらげる。集も安の意。安輯。〔詩、小雅、鴻雁序〕萬民離散、不㆑安㆓其居㆒、而能勞㆓來還㆔定安㆕集之㆒。〔吳子、圖國〕安㆓集吏民㆒、順㆑俗而教、簡㆓募良材㆒、以備㆓不虞㆒。〔漢書、曹參傳〕相㆑齊九年、齊國安集。〔後漢書、馮衍傳上〕安㆓集北方㆒。〔魏志、涼茂傳〕民始安集。

〔安集延〕199（アンチジヤン） 地名。Andidjan 中亞細亞ウズベツク共和國シルーダリヤ河近くの都邑。もと中國の地。後、露國の地となる。

〔安集海〕200（アンシフカイ） 驛の名。新疆省綏來縣の西。烏蘇縣大路に通ず。

【安輯】201（アンシフ） 安んじやはらげる。安集に同じ。〔漢書、高帝紀下〕與㆓天下之豪士賢大夫㆒、共定㆓天下㆒、同安㆓輯之㆒。〔注〕師古曰、輯、與㆑集同。〔後漢書、安帝紀〕安㆓輯黎元㆒。〔魏志、管寧傳〕天下安輯。

【安車】202（アンシヤ） 坐乘する車。一頭の馬に駕する蓋の低い小車で、老人や婦女の使用に供する。安輿。〔周禮、春官、巾車〕安車彫面鷖總。〔注〕安車、坐乘車、凡婦人車皆坐乘。〔禮、曲禮上〕大夫七十而致仕、云云、適㆓四方㆒乘㆓安車㆒。〔注〕安車、坐乘、若㆓今小車㆒。〔疏〕古者乘㆓四馬之車㆒、立乘、此臣既老、故乘㆓一馬小車㆒、坐乘也、庾蔚云、漢世駕㆓一馬㆒而坐乘也。〔三禮義宗〕安車者、后朝夕見㆓於王㆒所㆑乘也。〔晉書、輿服志〕車、坐乘者謂㆓之安車㆒、倚乘者謂㆓之立車㆒、亦謂㆓之高車㆒、案、周禮惟王后有㆓安車㆒也、王亦無㆑之、自㆑漢以來制、乘輿乃有㆑之。〔唐書、禮樂志九〕三老五更出㆑門、禮畢、皇帝降、還㆓大次㆒、老更升㆓安車㆒、導從而還。


安　車　（三才圖會）

【安車骨】203（アンシヤコツ） 部落の名。勿吉七部の一。滿洲吉林省賓縣五常縣の境。〔吉林通志〕安車骨、卽按出虎也、地在㆓伯咄之東北㆒。

〔安車召〕204（アンシヤノセウ） 安車を以て招聘する意。君主よりの鄭重なるお召しにいふ語。〔魏志、華歆傳〕歆擧㆓管寧㆒、帝以㆓安車㆒徵㆑之。〔李商隱、靈仙閣晚眺寄㆓鄆州韋評事㆒詩〕想㆑就安車召、寧期負笑還。〔書言故事、聘召類〕榮赴㆓安車之迎㆒。

〔安車蒲輪〕205（アンシヤホリン） 安車の輪を蒲で包み、其の動搖を滑らかにした車。老人を優遇するなどに用ひる喩。〔漢書、儒林、申公傳〕於㆑是上使㆑使、束帛加㆑璧、安車以㆑蒲裹㆑輪、駕㆑駟迎㆓申公㆒。

【安昌】206（アンシヤウ） 縣名。❶漢、置く。河南省確山縣の西。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、安昌。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、信陽州〕安昌城、在㆓州西北七十里㆒、漢置㆑縣屬㆓汝南郡㆒、成帝封㆓張禹㆒爲㆓侯邑㆒。❷魏、置く。湖北省棗陽縣の東。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、棗陽縣〕舂陵城、云云、魏黃初二年、更㆓章陵㆒爲㆓安昌縣㆒、晉仍曰㆓安昌縣㆒屬㆓義陽郡㆒。❸南齊、置く。湖北省舊鄖陽府の境。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、興國州〕下雉城、又有㆓安昌廢縣㆒、梁置、隋平㆑陳俱廢、今史不㆑載。❹梁、置く。湖北省陽新縣の西北。❺隋、置く。河南省沁陽縣の東南。〔讀史方輿紀要、河南、懷慶府、河內縣〕武德城、大周之州邑、隱十一年屬㆑鄭、後又屬㆑晉、隋廢㆑郡改㆑縣曰㆓邢邱㆒、屬㆓懷州㆒、大業初、又改曰㆓安昌㆒。❻遼、置く。滿洲遼寧省錦西縣。

〔安昌侯〕207（アンシヤウコウ） 漢、張禹(**4－9812**‥43)の封「號。

【安牀】208（アンシヤウ） 身をやすらかにすることの出來る牀。〔易林〕安牀厚褥、不㆑得㆓久宿㆒。

【安清】209（アンシヤウ） 後漢の人。字は世高。安息王の太子。幼にして孝行を以て稱せらる。好んで外國の典籍を學び、七曜五行、醫方異術及び鳥獸の聲に至るまで通達した。王が薨じて位を嗣いだが、服喪が終るに及んで遂に出家修道し、博く經藏に通曉す。漢の桓帝の時、洛陽に到り、漢語に通じ、諸經文一百餘部を飜譯した。鳩摩羅什・玄奘と共に三大飜譯家と稱せらる。〔高僧傳、一〕。

【安翔】210（アンシヤウ） やすらかに飛びまはる。しづかに飛ぶ。〔楚辭、九歌、大司命〕高飛兮安翔。〔司馬相如、上林賦〕安翔徐回。〔馬融、長笛賦〕安翔駘蕩。

【安詳】211（アンシヤウ・アンジヤウ） ❶[佛]安穩微妙なさま。安祥。〔法華經、方便品〕爾時世尊、從㆓三昧㆒安詳而起。〔嘉祥、義疏〕安詳者、示㆓大人之相㆒、又安詳者、動寂無礙也。〔長生殿、舞盤〕安詳、徐開㆓扇影㆒露㆓明妝㆒。❷an¹ hsiang² みやびやか。しとやか。

〔安詳恭敬〕211′（アンシヤウキヨウケイ） 小年を教育する時に、先づ教へこむ四つの心の持ち方。〔小學、嘉言〕橫渠張先生曰、教㆓小兒㆒、先要㆓安詳恭敬㆒。〔注〕安靜・詳審・恭莊・敬畏、四者小學涵㆓養本源㆒之事也。〔疏〕海虞吳氏曰、安謂㆔安定而不㆓輕躁㆒、詳謂㆔詳審而不㆓踈率㆒、恭則恭謙而見㆓乎外㆒、敬則敬畏而存㆓乎中㆒、此四者教㆓童幼㆒之所㆑當㆑先也。

【安上】212（アンジヤウ） ❶上位に安んじ居ること。又、上を安んずること。〔易、萃〕象曰、齎咨涕洟、未㆑安㆑上也。〔通解〕蓋陰柔人、宜㆘處㆓下位㆒、以自甘㆗其分㆖、而致㆓身高明㆒、居㆓于衆人之上㆒、宜其不㆑安㆑位、而至㆓憂傷㆒也。〔禮記、經解〕安㆑上治㆑民、莫㆑善㆓於禮㆒。❷唐、崔敦禮(**4－8178**‥318)の字。

【安城】213（アンジヤウ） ❶城の名。河南省原武縣の東南。〔史記、魏世家〕昭王十三年、秦拔㆓我安城㆒。〔讀史方輿紀要、河南開封府、原武縣〕安城、在㆓縣東南二十里㆒、志云、周所㆑置城、史記魏世家、昭王十三年、秦拔㆓我安城㆒、兵至㆓大梁㆒而去、括地志、原武有㆓安城㆒、史記信陵君謂㆓魏安釐王㆒、通㆓韓上黨于共寧㆒、使㆑道㆓安城㆒、出入賦㆑之、謂㆑此、明初、置㆓安城驛㆒、正德中、廢。❷縣名。㋑後漢、置く。漢の安成縣。故城は河南省汝南縣の東南。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、汝陽縣〕安成城、在㆓府東南十七里、汝水北㆒、漢爲㆓安城縣㆒、武帝封㆓長沙定王子蒼㆒爲㆓侯邑㆒、屬㆓汝南郡㆒、晉以後因㆑之。㋺南朝宋、置く。安徽省の境。㋩南朝宋、置く。湖北省の境。㋥南齊、置く。湖北省の境。㋭梁、置く。湖北省竹山縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府、竹山縣〕本周之庸國、秦爲㆓上庸縣地㆒、漢因㆑之、屬㆓漢中郡㆒、云云、梁析置㆓安城縣㆒、西魏改曰㆓竹山㆒。㋬後魏、置く。河北省安次縣の境。㋣後魏、置く。安徽省阜陽縣。㋠後魏、置く。河南省の境。

【安常】214（アンジヤウ） 字號。❶宋、龐安寺(**12－48824**‥43)の字。❷明、董倫(**9－31433**‥167)の字。

【安受】215（アンシユウ） an¹ shou⁴ 納得する。

【安衆】216 ❶縣名。漢、置く。河南鎭平縣の東南。漢の安衆侯劉崇が王莽を討ち、克たずに死んだ地。〔漢書、地理志上〕南陽郡、縣三十六、安衆。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、南陽縣〕安衆城、漢縣屬㆓南陽郡㆒、武帝封㆓長沙定王子丹㆒爲㆓侯邑㆒、王莽居㆑攝、初、安衆侯劉崇、擧㆑兵討㆑莽、攻㆑宛不㆑克敗死。❷民衆を安んずる。

〔安衆九法〕217（アンシユウキウハフ） 民衆を安んずる九章の法律。漢の蕭何が秦の法に照して時宜に適するやうに作つた九章律。卽ち、盜法・賊法・囚法・捕法・雜法・具法・戶律・興律・廐律の九法。〔漢書、刑法志〕高祖初入㆑關、約㆓法三章㆒、曰、殺㆑人者死、傷㆑人及盜抵㆑罪、蠲㆓削煩苛㆒、兆民大說、其後四夷未㆑附、兵革未㆑息、三章之法、不㆑足㆓以禦㆒㆑姦、於㆑是相國蕭何、攈㆓摭秦法㆒、取㆘其宜㆓於時㆒者㆖、作㆓律九章㆒。〔長孫無忌、進㆓律疏㆒表〕安衆之陳㆓九法㆒、玉牒播㆓其弘規㆒。〔注〕魏文侯師㆓於李悝㆒、集㆓諸國刑典㆒、造㆓法經六篇㆒、一盜法、二賊法、三囚法、四捕法、五雜法、六具法、又漢相蕭何、更加㆓悝所㆑造戶・興・廐三篇㆒、謂㆓九章之律㆒、是爲㆓九法㆒。

【安戎】218（アンジユウ） ❶縣名。㋑後魏、置く。甘肅省秦安縣の東。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、秦州、奉安縣〕臨渭城、本隴縣地、後魏置㆓安戎縣㆒屬㆓略陽郡㆒、後周廢。㋺西魏、置く。山西省芮城縣の東。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、解州〕芮城縣、古芮國、春秋時魏國也、西魏置㆓安戎縣㆒、後周改曰㆓芮城㆒。❷城の名。唐、築く。四川省茂縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、茂州〕安戎城、在㆓州西南徼外㆒、其地險阻、唐儀鳳二年、益州長史李孝逸築、絕㆓吐蕃通㆑蠻之道㆒、永隆元年、吐蕃陷㆓其城㆒、以㆑兵據㆑之、由㆑是西洱河諸蕃、皆降㆓吐蕃㆒。

【安叔】219（アンシユク） 宋、石定子(**8－24024**‥997)の字。

【安宿】220（アスカベ） ❶河內國の古郡名。❷（アスカ） ㋑姓氏。〔姓氏家系大辭典〕。㋺安藝國の地名。

〔安宿部〕221（アスカベ） ❶河內國の郡名。

【安肅】222（アンシユク） ❶縣名。宋、置く。漢の北新城縣

の地。河北省徐水縣。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕安肅縣、本易州遂城縣地、景德初、又改爲㆓安肅軍縣㆒、亦曰㆓安肅縣㆒。〔淸史稿、地理志〕直隸、保定府、縣十四、安肅。❸道の名。民國、置く。甘肅省に屬す。治は酒泉・金塔・高臺・毛目・安西・敦煌・玉門の七縣を管轄す。

【安率】223（アンシュツ）　やすらかに相率ゐてしたがふ。〔北史、王劭傳〕河圖皇參持曰、皇辟出承㆓元訖㆒、道無爲安率。

【安術】224（アンジュツ）　安らかにする方法。〔韓非子、安危〕安術有㆑七、危道有㆑六。

【安俊】225（アンシュン）　宋、太原の人。字は智周。官は侍衞步軍都虞侯・陵州防禦使。〔宋史、三百二十三〕・〔宋史新編、一百四〕・〔隆平集、十九〕。

【安惇】226（アンジュン）　宋、廣安の人。字は處厚。上舍及第。紹聖の初、官は諫議大夫。蔡京と共に事に當り、司馬光・劉摯等を大逆不道として誣ふ。御史中丞に遷り、又、鄒浩の事を鞫し、禍を被る者七八百人、天下之を怨む。徽宗の時、放たれて田里に歸る。蔡京が相となるや、兵部尙書を經て同知樞密院となつた。〔宋史、四百七十一〕・〔宋史新編、一百八十六〕・〔東都事略、九十七〕・〔宋元學案、九十六〕。

【安順】227（アンジュン）　❶縣名。㋑隋、置く。安南の北境。㋺民國、置く。貴州省平壩縣の西南。縣城は渚魚河の南岸。滇・桂交通の要衝。❷府の名。明、置く。貴州省安順縣。淸には郎岱・歸化の二廳、鎭寧・永寧の二州、及び普定・淸鎭・安平の三縣を領す。〔讀史方輿紀要、貴州〕安順軍民府、古荒服地、明朝洪武十六年、改㆓安順州㆒屬㆓普定府㆒、十八年府廢屬㆓普定衞㆒、正統三年、改隸㆓貴州布政司㆒、萬曆三十年、升爲㆓安順軍民府㆒。〔淸史稿、地理志〕貴州、安順府、領㆓廳二・州二・縣三㆒、普定、鎭寧州、永寧州、淸鎭、安平、郎岱廳、歸化廳。

【安處】228（アンショ）　❶安んじ居る。おちつく。又、安らかな處。〔詩、小雅、小明〕嗟爾君子、無㆓恆安處㆒。〔管子、心術下〕豈無㆓安處㆒哉。〔漢書、藝文志〕諸家說不㆓安處㆒。〔班固、西都賦〕后妃之室、合歡・增城、安處常寧。〔白居易、四十五詩〕老來、尤委㆑命、安處卽爲㆑鄕。❷假設の人。いづくんぞ處らんやの意。その人は實在せぬ意を含む。〔張衡、西京賦〕言㆓于安處先生㆒。〔注〕綜曰、安處、猶㆓烏處㆒、若㆑言㆓何處㆒、謂㆑無㆓此先生㆒也。

〖安處居士〗229（アンショコジ）　宋、陳驥（**11**－**41698**‥138）の號。

【安徐】230（アンジョ）　おだやか。しづか。〔爾雅、釋訓、祁祁遲遲徐也、注〕皆安徐也。〔國語、越語下〕安徐而重固。〔管子、勢〕賢者安徐正靜、柔節先定。

【安恕】231（アンジョ）　おだやかで思ひやりがある。〔人物志、體別〕材在㆓矯正㆒、失在㆓激訐㆒、柔順安恕、每在㆓寬容㆒。

【安舒】232（アンジョ）　おちついてしづか。安閒。安紓。〔漢書、匡衡傳〕湛靜安舒者、戒㆓於後㆑時。〔說苑、談叢〕或好㆓浮遊㆒、或好㆓誠必㆒、或行㆓安舒㆒、或爲㆓飄疾㆒。

【安勝】234（アンショウ）　牡丹の一種。〔牡丹記〕安勝、紫花也、開頭經尺餘、本出㆓於城中千葉安勝院㆒。

【安食】235（アンショク）　❶安んじ食ふ。〔史記、殷紀〕天弃㆑我、不㆑有㆓安食㆒。❷（アジキ）　㋑下總國の地名。㋺常陸國の地名。㋩美濃國の地名。㋥姓氏。〔和爾雅〕。❸（アグヒ）　姓氏。〔姓林全書〕。

【安蜀】236（アンショク）　城の名。湖北省宜昌縣の西北。〔周書、趙熙傳〕時於㆓江南岸㆒置㆓安蜀城㆒、以禦㆑陳。〔唐書、許紹傳〕江之南有㆓安蜀城㆒、地値㆓夷陵㆒、荆門城峙㆓其東㆒、皆峭險處、蕭銑以㆑兵戍守。

【安心】237（アンシン）　❶安らかな心。心配がないこと。安意。安念。安堵。氣丈夫。〔管子、心術下〕我無㆓安心㆒、心之中又有㆑心。〔墨子、親士〕非㆑無㆓安居㆒也。我無㆓安心㆒也。〔易林〕屛藩自衞、安心無㆑患。❷［佛］（アンジン）　神佛を信仰して心を落ち付ける。〔傳燈錄、三〕二祖良久曰、覓㆑心了不㆑可㆑得、達摩曰、與㆑汝安心竟。〔止觀輔行〕善以㆓法性㆒自安㆓其心㆒、故云㆓安心㆒。

〖安心院〗238（アジム）　姓氏。〔姓名錄抄〕。

〖安心竟齋〗239（アンシンキヤウサイ）　淸、黃玉衡（**12**－**47926**‥1044）の號。

〖安心不善〗240　an^1 hsin^1 pu^4 shan^4　故意に惡事をする。

〖安心立命〗241（アンジンリフメイ・アンシンリツメイ）　心を安らかにし、天命を完うする。安心は佛語。立命は儒經語。安心の❷・立命（**8**－**25721**‥239）の❶を見よ。〔天目、高峯禪師、示㆑衆語〕主人公、畢意在㆓甚麼處㆒、安心立命。〔投子語錄〕汝等諸人到㆓這裏㆒如何安心立命。

【安伸】242（アンシン）　明の人。傳の弟。號は葵盟。萬曆の進士。崇禎の初、太僕少卿となる。著に杜史草・釁麓漫吟がある。

【安身】243（アンシン）　❶身を立てる。立身。〔晉書、潘尼傳〕性靜退不㆑競、唯以㆓勤學著述㆒爲㆑事、著㆓安身論㆒、以明㆑所㆑守。〔潘尼、安身論〕蓋崇德莫㆑大㆓乎安身㆒、安身莫㆑尙㆓乎存正㆒、存正莫㆑重㆓乎無私㆒、無私莫㆑深㆓乎寡欲㆒。❷身を安んずる。身心を安らかにする。〔易、繫辭下〕君子安㆓其身㆒而後動。〔左氏、昭、元〕君子有㆓四時㆒、朝以聽㆑政、晝以訪問、夕以修㆑令、夜以安㆑身。〔後漢書、禮儀志中〕君子安㆑身靜㆑體。〔孔子家語、致思〕孔子曰、參之言、此可㆑謂㆓善安㆑身矣。❸安らかな身。〔呂覽、諭大〕一家皆亂、無㆑有㆓安身㆒。

〖安身爲㆑樂〗244（アンシンタノシミトナス）　身の安らかなことを以て樂しみとする。〔蜀志、秦宓傳〕安身爲㆑樂、無憂爲㆑福。

〖安身立命〗245（アンシンリツメイ）　天命の歸するところを知つて身を立て、心に憂へ惱む所がないこと。〔傳燈錄、十〕安身立命。〔水滸傳、二回〕那里是用㆑人去處、足㆑可㆓安身立命㆒。

【安信】246（アンシン）　❶縣名。唐、置く。故治は四川省汶川縣の西北。❷an^1 hsin^4　安否を問ひ合せる書面。安函（54）に同じ。

【安神】247（アンシン）　心を安らかにし落ちつける。神は心。〔後漢書、仲長統傳〕安㆓神閨房㆒、思㆓老氏之玄虛㆒、呼㆓吸精和㆒、求㆓至人之彷彿㆒。

〖安神隊仗〗248（アンシンタイチヤウ）　藥草の名。麥門冬（**12**－**47717**‥113）の異名。〔淸異錄、藥、藥譜〕安神隊仗、麥門冬。

【安新】249（アンシン）　縣名。民國、置く。戰國、燕の葛邑の地。河北省淸苑縣の東、白洋淀の西南。

【安寢】250（アンシン）　やすいする。安らかに寢る。安眠する。〔詩、小雅、斯干〕下㆑莞上㆑簟、乃安㆓斯寢㆒。

【安人】251（アンジン）　❶他人を安んずる。又、人民を安んずる。〔論語、憲問〕脩㆑己以安㆑人。〔後漢書、左雄傳〕安㆑人則惠、黎民懷㆑之。〔北史、常山王暉傳〕安㆑人寧㆑邊、觀㆑時而動。❷婦人封贈の號。〔燕子箋、誥圓〕這狀元的安人封誥、應㆑與㆓行雲㆒。

【安仁】252（アンジン）　❶仁を行ふことを本分として之に安んずる。〔論語、里仁〕仁者安㆑仁、知者利㆑仁。❷江の名。信江（**1**－**707**‥22）の一名。❸縣名。㋑陳、置く。江西省餘江縣の東南。信江に臨む。信江の一名安仁江より名を取る。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府〕安仁縣、漢餘汗縣地、陳置㆓安仁縣㆒。㋺唐、置く。四川省大邑縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、邛州、大邑縣〕安仁廢縣、唐武德三年、析㆓臨邛縣㆒置、屬㆓邛州㆒、貞觀十七年廢、咸亨初、復置。㋩宋、置く。湖南省衡陽縣の東南。永樂江の東北岸。〔讀史方輿紀要、湖廣、衡州府〕安仁縣、唐衡山縣之安仁鎭屬㆓潭州㆒、五代唐、淸泰二年、馬氏升爲㆓安仁場㆒、屬㆓衡州㆒、宋乾德二年、升爲㆑縣。〔淸史稿、地理志〕湖南、衡州府、縣七、安仁。㋥宋、置く。江西省餘江縣。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府〕安仁縣、漢餘汗縣地、宋開寶八年、置㆓安仁場於此㆒、端拱升爲㆑縣、仍屬㆓饒州縣㆒。〔淸史稿、地理志〕江西、饒州府、縣七、安仁。❹字號。㋑晉、潘岳（**7**－**18236**‥14）の字。㋺北齊、尉瑾（**4**－**7440**‥6）の字。㋩梁、蕭靜（**9**－**32012**‥189）の字。㋥後梁、朱友寧（**6**－**14424**‥640）の字。㋭宋、華鎭（**9**－**31214**‥309）の字。㋬明、郭恕（**11**－**39474**‥129）の字。

〖安仁之敗〗253（アンジンノハイ）　宋の恭宗の二年、謝枋得が元兵と安仁の地に戰つて利あらず、遂に建寧に走り、妻子等も皆とらへられた時のこと。〔續通鑑綱目、二十三〕安仁之敗、何不㆑死。

【安針】254（アンジン）　英國人。本名は William Adams 我が國に歸化し、三浦安針と改名し、德川家康に仕へた。墓は神奈川縣橫須賀十三峠にある。

【安綏】255（アンスイ）　やすらか。〔范鎭、詩〕朝廷愼㆓東注㆒、方面要㆓安綏㆒。

【安世】256（アンセイ）　字號。❶晉、司馬炎（**2**－**3257**‥223）の字。❷宋、任獻夫（**1**－**416**‥211）の字。❸宋、詹度（**10**－**35458**‥31）の字。❹明、賀勛（**10**－**3672**

5‥21)の字。㊄明、謝寧(**10－35827**‥187)の字。

【安世樂】257 アンセイガク　漢の房中樂の名。漢の高祖は楚歌を好み、之を房中の樂とした。安世房中歌。〔漢書、禮樂志〕孝惠二年、使三樂府令夏侯寛備二其簫管一、更レ名曰二安世樂一。〔宋書、樂志一〕侍中繆襲又奏、安世哥、本漢時哥名、今詩哥非二往時之文一、則宜二變改一、案、周禮注云、安世樂、猶二周房中樂一也、是以往昔議者以、房中哥二后妃之德一、所下以風二天下一、正中夫婦上、宜下改二安世之名一曰中正始之樂上。

〖安世三篋〗258 アンセイノサンケフ　蒙求の標題。前漢の張安世は少くして郎となり、書を善くするを以て尙書中に給事したが、職に精勵して、未だ嘗て外出したことがなかつた。或時武帝が河東に幸し、書三篋を亡つて詔問したが能く知る者なく、ただ安世だけが獨り之を記し、具さに其の事を作つた。後、書を購求して相校するに、遺失する所がなかつたので武帝は其の材を奇とし、擢んでて尙書令となし、光祿大夫に遷したといふ故事。〔漢書、張安世傳〕安世、字子孺、少以二父任一爲レ郎、用レ善レ書、給二事尙書一、精二力於職一、休沐未二嘗出一、上行二幸河東一、嘗亡二書三篋一、詔問莫二能知一、唯安世識レ之、具作二其事一、後購求得レ書、以相校無レ所二遺失一、上奇二其材一、擢爲二尙書令一、遷二光祿大夫一。

〖安世房中歌〗259 アンセイバウチユウカ　漢代の詩。凡そ十七章、高祖の寵姬、唐山夫人の作。宮中祀廟の樂歌として作られ、栽韻高嚴・規模簡古、商周の遺響がある。其の體は四言を主とし、又、三言・七言のものもあり、漢代樂府の始をなす。孝惠二年、改めて安世樂といひ、魏の黃初中、房中天下を風化するを以て改めて正始樂をいふ。安世樂。〔樂府詩集、郊廟歌辭、漢安世房中歌〕通典曰、周有二房中之樂一、歌二后妃之德一、秦始皇二十六年、改曰二壽人一、漢書禮樂志曰、漢房中祠樂、高祖唐山夫人所レ作、凡樂樂二其所生一、禮不レ忘二其本一、高祖樂二楚聲一、故房中樂楚聲也、孝惠二年、使三樂府令夏侯寛備二其蕭管一、更名二安世樂一、宋書樂志曰、魏文帝黃初二年、議者以、房中歌二后妃之德一、所下以風二天下一、正中夫婦甲、乃改爲二正始之樂一、明帝太和初、繆襲奏、王粲所レ作登歌安世詩、專以思下詠二神靈一、及說中神靈鑒享之意上、後省二讀漢安世詩一、無レ有下一南風二化天下一之言上、又改曰二享神歌一。

【安正】260 アンセイ　字號。㊀宋、蕭雅(**9－32012**‥32)の字。㊁宋、邊歸讜(**11－39216**‥186)の字。

【安生】261 アンセイ　㊀前秦、王墮(**7－20823**‥735)の字。㊁an^1 shêng^1 安らかに生活する。

【安西】262 アンセイ　㊀府名。清、置く。甘肅省安西縣。敦煌・玉門の二縣を管轄す。㊁路名。元、置く。陝西省中部東境の地。元の世祖は、嘗て其の子の莽噶拉を安西王に封じた。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府〕禹貢雍州地、元曰二安西路一、皇慶初、又改爲二奉元路一。㊂縣名。㋑金、置く。甘肅省定西縣。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、安定縣〕安西城、金貞祐中、升爲二安西縣一、屬二定西州一。㋺民國、安西縣。古の西戎の地。春秋の時、瓜州といふ。秦の時、大月氏之に居り、漢初匈奴渾邪王の地となり、武帝の時、敦煌郡の地となる。唐代には瓜州といふ。甘肅省敦煌縣の東北。布隆吉河の南岸。新疆天山南北路の要道に當る。㊃鎭の名。唐、置く。新疆省吐魯番縣の西。

〖安西節度使〗263 アンセイセツドシ　唐代の節度使の一。唐の玄宗の時、西域に設置せられ、安西都護府を管す。龜茲を治とし、四鎭の軍馬を督し、外族の侵寇に備ふ。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、唐〕安西節度使、治二安西都護府一、開元六年、置二四鎭節度使一、十二年、改曰二磧西一、二十九年、又改曰二安西一、至德初、改曰二鎭西一、大歷三年、仍曰二安西一、亦曰二安西四鎭節度使一。

〖安西都護府〗264 アンセイトゴフ　唐代、六都護府の一。唐の貞觀中、高昌を平げて交河城に安西都護府を置く。(今、新疆省吐魯番縣の西)。顯慶の初、楊冑が龜茲を平げた時、龜茲都督府を置き、安西都護を移して之を治とす。咸亨の初、龜茲は吐番に併合せられたが、長壽の初に唐休璟が復た之を取り、仍つて府を龜茲に置き、龜茲・焉耆・于闐・疏勒の四鎭、及び月支等の府州九十六を統轄した。至德以後、改めて鎭西都護府といふ。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、唐〕於二沿邊諸道一、設二六都護一分二統之一、云云、曰、安西都護府、屬二隴右道一、貞觀中、平二高昌一、卽置二安西都護府於交河城一、顯慶二年、龜茲國亂、楊冑討二平之一、置二龜茲都督府一、移二安西都護治一焉、咸亨初、龜茲沒二於吐蕃一、長壽初、唐休璟復取レ之、仍置二府於龜茲一、統二龜茲・焉耆・于闐・疏勒四鎭、及西域月氏等府州九十有六一、至德以後、亦曰二鎭西一。

【安成】265 アンセイ　㊀縣名。㋑漢、置く。後漢には安城といふ。河南省汝南縣の東南。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、安成。㋺漢、置く。江西省安福縣の西。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、安成。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府、安福縣〕安成故城、縣西五十里、漢縣屬二長沙國一、安成舊記、張普封二安成侯國於此一、築レ城居レ之、相傳、漢縣理二西鄉一、卽普侯國也。㋩後魏、置く。安徽省霍山縣。㊁隋、置く。廣西省賓陽縣の東。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府〕安福縣、漢安平・安西二縣地、隋平レ陳、郡廢、改二平都一曰二安成縣一、屬二吉州一。㊂字號。㋑唐、崔融(**4－8178**‥166)の字。㋺五代吳越、曹仲達(**5－14297**‥287)の諡。

〖安成食〗266 アンセイノショク　南朝宋の安成公何勖の衣食が甚だ豪奢なことを時人が稱した語。〔南史、徐湛之傳〕時安成公何勖無忌之子、臨汝公孟靈休、與二湛之一以二肴膳器服車馬一相尙、都下爲二之語一曰、安成食、臨汝飾、湛之美兼二何孟一。

〖安成康王〗267 アンセイカウワウ　梁、蕭秀(**9－32012**‥153)の封號。

〖安成郡孝侯〗268 アンセイグンカウコウ　後漢、劉賜(**2－2224**‥323)の封諡號。

【安制】269 アンセイ　制度に安んじ從ふ。分を踰えぬことをいふ。〔荀子、王制〕百姓莫四敢不三敬レ分安レ制、以化二其上一。〔注〕安制、謂下安二於國之制度一、不中敢踰上分。〔漢書、刑法志〕未レ有二安制矜節之理一也。

【安政】270 アンセイ　㊀まつりごとにやすんじて從ふ。治下に安んじてゐること。〔荀子、王制〕如レ是則庶人安レ政矣、庶人安レ政、然後君子安レ位。〔羣書治要、三十八〕選二賢良一、擧二篤敬一、興二孝悌一、收二孤寡一、庶人安レ政、然後君子安レ位。㊁第百二十一代孝明天皇の年號。(1854－1860)

【安靖】271 アンセイ　㊀安んずる。安らかにをさめる。〔左氏、襄、二十七〕畏而後上下慈和、慈和而後能安二靖其國家一、以事二大國一、所二以存一也。〔漢書、王莽傳上〕此其所下以保二佑聖漢一、安中靖元元上之效也。㊁元、靳祥(**12－42728**‥11)の諡。

【安靜】272 アンセイ　安らかでしづかなこと。おだやか。〔易、繫辭下〕利レ用安レ身以崇レ德也、〔疏〕言丁欲レ利二己之用一、先須丙安二靜其身甲。〔管子、內業〕地主レ平、人主二安靜一。〔尉繚子、丘令上〕安靜則治。〔新語、懷慮〕安靜者祥。〔後漢書、章帝紀〕安靜之吏、悃愊無レ華、日計不レ足、月計有レ餘。

〖安靜子〗273 アンセイシ　清、安致遠(568)を見よ。

【安稅】274 アンゼイ　やすらかに止めておくこと。稅は舍、とどめる意。〔杜甫、贈二祕書監江夏李公邕一詩〕榮枯走不レ暇、星駕無二安稅一。

【安擾】275 アンゼウ　安んずる。〔周禮、地官、序官、司徒〕佐レ王安二擾邦國一。〔注〕擾、亦安也。

【安石】276 アンセキ　字號。㊀晉、謝安(**10－35827**‥1)の字。㊁西秦、乞伏暮末(**1－170**‥67)の字。

〖安石榴〗277 アンセキリウ　石榴の一種。漢の張騫が西域に使して持ち歸つたといふ。〔本草、安石榴〕釋名、若榴・丹若・金罌、時珍曰、榴者瘤也、丹實垂垂如二贅瘤一也、博物志云、漢張騫、出使二西域一、得二塗林安石國榴種一以歸、故名二安石榴一。〔事物紀原、草木花菓部、安石榴〕其生自二西域一、漢武時、博望侯窮二河源一、回得二其種一、遂傳二中國一也、陸機與レ弟書曰、張騫爲レ漢使二外國一十八年、得二塗林一、蓋安石榴也、博物志曰、張騫使二西域一回所レ得。

〖安石不レ出如二蒼生一何〗278 アンセキイデズンバサウセイヲイカンセン　安石は晉の謝安の字。謝安が世に出なければ、民の苦痛を救ふ者はないと當時の人々が大いに期待したこと。〔晉書、謝安傳〕征西大將軍桓溫、請爲二司馬一、將レ發二新亭一、朝士咸送、中丞高崧戲レ之曰、卿累違二朝旨一、高二臥東山一、諸人每相與言、安石不二肯出一、將下如二蒼生一何上、蒼生今亦將二如レ卿何一、安甚有二愧色一。

【安席】279 アンセキ　席に安んずる。安らかに居る。〔史記、蘇秦傳〕說二楚威王一、楚王曰、寡人臥不レ安レ席、食不レ甘レ味。〔李白、出自薊北門行詩〕明主不レ安レ席、按レ劍心飛揚。

【安積】280アサカ　㊀㋑岩代國の郡名。㋺姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。㊁アヅミ　姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

〖安積山〗281アサカヤマ　岩代國の地名。

〖安積艮齋〗282アサカゴンサイ　岩代の人。名は信。字は思順。通稱は祐助、號は艮齋・見山樓。初、江戶に塾を開いて教授す。後、二本松藩教授を經て、昌平黌教官となる。學は佐藤一齋に本づき、其の文は艷麗富瞻にして、自ら一家の機軸を出した。萬延元年十一月二十七日歿す、年七十一。從四位を贈らる。著に遊豆紀勝・學庸略說・加藤淸正傳・熙朝名賢言行錄・禦戎策・見山樓詩集・見山樓文集・艮齋閒話・續艮齋閒話・艮齋雜著・續艮齋雜著・艮齋詩略・艮齋文集・艮齋文略・續艮齋文略・車輿圖考・史略・史論・朱學管窺・大學說・東省日錄・東省續錄・讀史偶論・南遊雜記・南柯餘編・防學贅論・洋外紀略・樂其樂園記・烈婦傳・論孟衍旨・論語簡端錄・論語埤注がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

〖安積澹泊〗283アサカタンパク　水戶の人。名は覺。字は子先。通稱は覺兵衞。號は澹泊・老圃・常山・老牛居士。朱舜水に師事し、水戶藩儒・彰考館總裁となる。博學能文、最も史學に長じ、經學は程朱を主とするも、敢へて之に拘泥せず、又、中國語を善くす。元文二年十二月十日歿す、年八十二。著に義公行實・湖亭涉筆・朱氏談綺・朱文恭遺事・神祖遺事・西山遺事・大日本史贊藪・澹泊齋筆記・澹泊齋文集・澹泊史論・碧於亭殘簡・文恭先生行實・列祖成績・列祖成績旁考・同姓名老・老圃詩膎がある。〔先哲叢談、正、五〕・〔近代名家著述目錄〕・〔水戶文籍考〕。

【安設】284アンセツ　㊀安らかに置く。〔張耒、暑雨賦〕叢㆓百指於環堵㆒、顧㆓杖屨之安設㆒。㊁an¹ shê⁴ 据付ける。

【安節】285アンセツ　㊀志を堅くし、それに安んじてゐること。〔易、節〕安節之亨、承㆓上道㆒也。㊁諡號。㋑明、袁洪愈(10－34152‥195)の諡。㋺淸、李孔昭(6－14459‥1215)の諡。㊂字號。㋑明、吳達可(2－3365‥765)の字。㋺淸、王檠(7－20823‥126)の字。

〖安節先生〗286アンセツセンセイ　諡號。㊀宋、徐浚(4－10110‥162)の私諡。㊁宋、劉士英(2－2224‥945)の私諡。㊂明、龔詡(12－48837‥13)の私諡。㊃明、文士弘(5－13450‥992)の私諡。㊄淸、滕綱(7－18036‥10)の私諡。

【安痊】287　an¹ ch'üan² 病氣が癒える。全快する。

【安全】288アンゼン　あぶなげが無い。恙ない。無事息災。平穩。〔後漢書、夏恭傳〕恭以㆓恩信㆒爲㆓衆所㆑附、擁㆑兵固守、獨安全。〔顏氏家訓、風操〕兵凶戰危、非㆓安全之道㆒。

〖安全燈〗289アンゼントウ　鑛山の坑內などで使用する手提げランプ。ガスの引火爆發を防ぐ裝置を施したもの。

〖安全瓣〗290アンゼンベン　㊀汽罐の破裂を調節する爲に排出口に設けた蓋。㊁不平不滿の訴へどころ。

〖安全裝置〗291アンゼンサウチ　㊀不時の事故を防止する裝置。㊁裝彈した火器の引金に觸れても發火せぬやうにした裝置。

〖安全地帶〗292アンゼンチタイ　英語 safety zone の譯語。㊀電車停留場の一地域を區劃して、他の諸車の通行を禁じた地帶。㊁危險に近づき得ぬ、または誘惑設備のない都市の地域にいふ。

【安善】293アンゼン　㊀やすらかでよい。〔漢書、王莽傳下〕天文安善、羣賊且滅。㊁淸、李喬基(6－14459‥1123)の字。

【安然】294アンゼン　㊀安心したさま。〔後漢書、馮衍傳上〕邑安然不㆑顧者、豈非㆑重㆓其節㆒乎。〔晉書、簡文帝紀〕帝安然無㆓懼色㆒。㊁ゆつくり遊ぶさま。〔琵琶記、兩賢相遘〕我安然、儞受㆑禍。㊂明、祥符の人。官は左中丞。〔明史、一百三十七〕・〔萬斯同明史、一百七十二〕・〔明史稿、一百二十五〕。㊃明、淩晏如(2－1669‥127)の名。

【安禪】295アンゼン　心身を安らかにして禪定に入る。〔江總、明慶寺詩〕金河知㆓證果㆒、石室乃安禪。〔王維、過㆓香積寺㆒詩〕薄暮空潭曲、安禪制㆓毒龍㆒。

【安厝】296アンソ　葬る。〔白虎通、崩薨〕安厝之義、貴賤同。〔蜀志、先主甘皇后傳〕安厝有㆑期。〔魏書、后妃傳〕背㆓三光㆒以潛翳、就㆓黃壚㆒而安厝。

【安祖】297アンソ　寨の名。河北省宛平縣の西。宋史、安禮に作る。〔春明夢餘錄〕宋琪請㆑復㆓幽燕㆒、略曰、出㆓安祖寨㆒、東瞰㆓燕城㆒、裁及㆓一舍㆒、此周德威取㆑燕之路。

【安素】298アンソ　㊀明、王韶(湖州の人)(7－20823‥675)の字。㊁an¹ su⁴ 分に安んずる。

〖安素處士〗299アンソシヨシ　宋、高懌(12－45313‥46)の賜號。〔宋史、高懌傳〕命爲㆓大理評事㆒、懌固辭、仁宗嘉㆓其守㆒、號㆓安素處士㆒。

【安措】300アンソ　安らかにおく。〔孝經、喪親章〕卜㆓其宅兆㆒而安㆓措之㆒。〔疏〕卜㆓選宅兆之地㆒、而安㆓置之㆒。〔潘岳、寡婦賦〕痛㆓存亡之殊㆑制兮、將㆓遷㆑神而安措㆒。〔注〕善曰、措、置也。

【安宗】301アンソウ　明の第十七世。福王。朱由崧(6－14424‥649)を見よ。

【安息】302アンソク　㊀やすらかにいこふ。休息。安處。安歇。〔詩、小雅、小明〕嗟爾君子、無㆓恆安息㆒。〔傳〕息、猶㆑處也。〔孟子、滕文公下〕民無㆑所㆓安息㆒。〔漢書、翟方進傳〕戰戰兢兢、不㆓敢安息㆒。〔魏志、鐘會傳〕使㆓民不㆑得㆓安息㆒。㊁西域の國名。安息國の名は漢の張騫が西域に使して初めて之を傳へた。後漢の頃には安息の僧の來朝するものがあつた。波斯地方の王國パルチヤを指したもので、安息とは、其の王家の名アルサスより出たものである。漢代には、西はチグリス、ユーフラテス兩河より、東はオクサス河に亙つた地方に勢力を振つた。〔史記、大宛傳〕安息在㆔大月氏西可㆓數千里㆒、其俗、土著耕㆑田、田㆓稻麥・蒲陶酒㆒、城邑如㆓大宛㆒、其屬小大數百城、地方數千里、最爲㆓大國㆒、臨㆓嬀水㆒、有㆓市民商賈㆒、用㆓車及船㆒行㆓旁國㆒、或數千里、以㆑銀爲㆑錢、錢如㆓其王面㆒、王死輒更㆑錢效㆓王面㆒焉、畫㆑革旁行以爲㆓書記㆒、其西則條枝、北有㆓奄蔡黎軒㆒。〔讀史方輿紀要、陝西、附考、撒馬兒罕〕安息國、在㆓罽賓東北㆒、漢西域傳、安息治番兜城、臨㆓嬀水㆒、去㆓長安㆒萬一千六百里、北與㆓康居㆒、東與㆓烏弋山離㆒、西與㆓條支㆒接、武帝始遣㆑使至㆓其國㆒、其屬小大數百城、地方數千里、最大國也、後漢永元九年、班超遣㆓掾甘英㆒、窮㆓西海及安息西界㆒、范曄曰、自㆓條支㆒轉㆑北、而東馬行六十四日、至㆓安息㆒、是也、唐曰㆓安國㆒、貞觀二十一年、討平㆓龜茲㆒、安國來獻、卽此。

〖安息油〗303　an¹ hsi² yu² ベンジン。Benzol 機械油。

〖安息香〗304アンソクカウ　香の名。藥にも用ひる。Benzoin。安息香樹を見よ。〔晉書、佛圖澄傳〕燒㆓安息香㆒、呪願數百言。〔香錄〕安息香此乃樹脂、不㆑宜㆓於燒㆒、而能發㆓衆香㆒。

〖安息雀〗305アンソクジヤク　孔雀。〔後漢書、西域、條支傳〕十三年、安息王滿屈復獻㆓師子及條支大鳥㆒、時謂㆓之安息雀㆒。

〖安息日〗306アンソクニチ・アンソクビ　㊀ユダヤ人の最も大切にした土曜日。神が六日間に此の世界を造り、七日目に休んだとして此の日を聖日とする。㊁キリスト教徒が、聖日卽ちキリスト復活の日として仕事を休み、宗教的儀式を行ふ日。日曜日。

〖安息香樹〗307アンソクカウジユ　落葉の亞喬木。熱帶產で、高さ二三丈。樹皮から飴のやうな液が流れ出て、夏になるとそれが堅く赭色に凝る、これを安息香といふ。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕安息香樹、出㆓波斯國㆒、波斯呼爲㆓辟邪樹㆒、長三丈、皮色黃黑、葉有㆓四角㆒、經㆑寒不㆑凋、二月開花、黃色花心微碧、不㆑結㆑實、刻㆓其樹皮㆒、其膠如㆑飴、名㆓安息香㆒、六七月堅凝、乃取㆑之燒㆑之、通㆓神明㆒辟㆓衆惡㆒。

〖安息五案〗308アンソクゴアン　百戲の一。〔駢雅、釋器〕安息五案、騰㆓臥盤盞㆒也。〔文獻通考、樂考、散樂百戲〕散樂非㆓部伍之正聲㆒、其來尚矣、其雜戲、蓋起㆓於秦漢㆒、魚龍蔓延、高絙鳳皇、安息五桉。〔注〕並石季龍所㆑作、見㆓鄴中記㆒。

【安存】309アンソン　やすらかにながらへ續く。〔韓非子、孤憤〕今襲㆓跡於齊晉㆒、欲㆓國安存㆒、不㆑可㆑得也。〔漢書、董仲舒傳〕夫人君莫㆑不㆑欲㆘安存而惡㆗危亡㆖。〔新書、胎教〕不㆑務㆑襲㆔迹於其所㆓以安存㆒。〔吳志、華覈傳〕是時盛夏興㆑工、農守竝廢、覈上疏諫曰、亡㆓安存之本㆒、邀㆓一時之利㆒、兵勞民困、無㆓時獲㆑安。

【安尊】310アンソン　安んじ尊ぶ。又、安穩にして尊い地位にあること。〔說苑、指武〕幸逢㆓齊桓公㆒、以得㆓安尊㆒。

【安打】311アンダ　野球用語。規定に從つて一壘以上に進み得るやうに打つた球。卽ち一・二・三・本

壘打の總稱。フェアーヒット。安全打。

【安妥】312 アンダ 安らか。安康。〔白居易、郡齋暇日云云詩〕敢辭官遠慢、且貴身安妥。〔宋史、岳飛傳〕湖廣江浙、亦獲㆓安妥㆒。

【安泰】313 アンタイ 安らか。無事。安妥。安穩。〔易林〕解㆓釋倒懸㆒、歷國安泰。〔南齊書、蠻東南夷傳〕竝蒙㆓陛下光化㆒、所㆑被咸荷㆓安泰㆒。

【安體】314 アンタイ 體を安んずる。身體を安樂にする。〔莊子、盜跖〕所㆓以長生安體樂意㆒之道也。〔班固、竹扇賦〕來風辟暑到㆓清涼㆒、安體定神達㆓消息㆒。

【安陶】315 アンタウ 縣名。漢、置く。一に定陶に作る。山西省の境。〔漢書、地理志下〕定襄郡、縣十二、安陶。

【安塘】316 アンタウ 人足の住居。〔福惠全書、郵政部、腰站〕再兼㆓安塘偵報㆒。

【安瑭】317 アンタウ 朝鮮李朝、順興の人。字は彥寶、號は永慕堂、諡は貞愍、官は左贊成。後、右議政となつたが、士禍に坐して免ぜらる。〔人物考〕。

【安燾】318 アンタウ 宋の開封の人。字は厚卿。門下侍郎となり、章惇と相容れずして屢〻左遷せられたが、徽宗の時、知樞密に復す。〔宋史、三百二十八〕・〔宋史新編、一百七〕・〔東都事略、九十六〕・〔元祐黨人傳、二〕・〔宋元學案、一〕。

【安道】319 アンダウ 字號。❶晉、戴逵(**5**−**11685**··27)の字。❷唐、田弘正(**7**−**21723**··369)の字。❸唐、傅良弼(**1**−**939**··209)の字。❹宋、姚宏中(**3**−**6202**··150)の字。❺宋、吳遵路(**2**−**3365**··662)の字。❻宋、胥偃(**9**−**29406**··4)の字。❼宋、錢顗(**11**−**40563**··29)の字。❽宋、張方平(**4**−**9812**··1436)の字。❾宋、傅自得(**1**−**939**··171)の字。❿宋、楊適(**6**−**15112**··292)の字。⓫宋、余靖(**1**−**515**··39)の字。⓬宋、李勉(**6**−**14459**··729)の字。⓭金、楊伯仁(**6**−**15112**··754)の字。⓮元、郭貫(**11**−**39474**··68)の字。⓯明、王履(**7**−**20823**··1058)の字。

【安道先生】320 アンダウセンセイ 晉の張忠(**4**−**9812**··557)の諡。

【安宅】321 アンタク ❶安らかな住所。身をおくに安全で、心配のない場所。〔詩、小雅、鴻鴈〕雖㆓則劬勞㆒、其究安宅。〔陳奐傳疏〕宅、居也、言、上之人雖㆓是病苦㆒、而其下窮困之人、皆能安㆓集康㆔居之㆒。❷仁をいふ。安宅正路を見よ。〔孟子、公孫丑上〕夫仁、天之尊爵也、人之安宅也。❸安らかに住む。其の處を失はぬ。〔易、剝〕上以厚㆑下安㆑宅。〔注〕安宅者、物不㆑失㆑處也。〔魏志、陳思王植傳〕安㆓宅京室㆒、執㆑鞭珥㆑筆。❹元の鄒平の人。字は仁甫。經史に通ず。仕進を樂しまず、黃山の下に家し、耕讀を業とす。❹アタカ ㋑加賀國の地名。㋺豐前國の地名。㋩アタケ 阿波國の地名。㊁アタキ 紀伊國の地名。㋭アダキ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【安宅關】322 アタカノセキ 文治年中、源賴朝が弟義經の北國に遁れるのを防ぐために、富樫氏に命じて設けさせた關所。加賀國能美郡粟津鄕。

【安宅新】323 アタカシン 加賀國の地名。

【安宅川】324 アタカガハ 加賀國梯川の別稱。

【安宅正路】325 アンタクセイロ 人の居るべく、又よるべきところ。仁と義とをいふ。仁は人の身をおくべき地、義は人の履むべき道であるからいふ。〔孟子、離婁上〕仁、人之安宅也、義、人之正路也、曠㆓安宅㆒而弗㆑居、舍㆓正路㆒而不㆑由、哀哉。

【安澤】326 アンタク 縣名。後魏、置く。山西省臨汾縣の東。太岳山の南。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府〕岳陽縣、漢上黨郡穀遠縣地、後魏末、置㆓安澤縣㆒、屬㆓義寧郡㆒。

【安達】327 アンタツ ❶無事に到達する。〔陳後主、發㆓遣北邊質任㆒詔〕便發㆓遣船杖㆒衞送、必令㆓安達㆒。❷縣名。民國、置く。明の科爾沁。清の安達直隸廳の地。黑龍江省龍江縣の東南。〔清史稿、地理志〕黑龍江、安達直隸廳。

【安達曼】328 アンダマン 群島の名。ベンガル灣の東側に位する諸島。英領。Andaman の音譯。

【安達清河】329 アダチセイカ 下野の人。名は修。初の名は于慶。字は文仲・吉甫、號は清河・市隱詩社。服部南郭・松崎觀海に師事し、塾を江戶に開く。最も詩文に巧。寬政四年二月六日歿す、年六十七。著に向風草初編・向風草後編・詩準・詩典・市隱草堂集初編・市隱草堂集二編・市隱草堂集三編・市隱草堂集遺編・相中紀行・大東地名考・東毛紀行・東海遊囊・忘談錄・孟浪之言がある。〔先哲叢談、後、八〕・〔近代名家著述目錄〕。

【安達盧稷亞】330 アンダルシヤ 地名。西班牙南部にあり、グアダルギビル河に沿ふ。Andalusia の音譯。

【安地】331 アンチ やすらかなところ。安らかな地位。〔晉書、宣帝紀〕凡物致㆓之安地㆒則安、危地則危。〔杜甫、征夫詩〕漂㆑梗無㆓安地㆒、銜㆑枚有㆓荷戈㆒。

【安坻】332 アンチ 舟を岸につなぐ。坻はみぎは、岸。〔王粲、從軍詩〕方㆑舟順㆓廣川㆒、薄暮未㆓安坻㆒。〔注〕銑曰、安坻、謂㆑繫㆓舟於岸㆒。

【安治】333 アンチ ❶安らかに治まる。又、泰平の政治。〔管子、七法〕是必立、非必廢、有㆑功必賞、有㆑罪必誅、若㆑是安治矣。❷アハヂ 近江國の地名。

【安置】334 アンチ ❶安らかにおく。すゑつける。〔搜神記、三〕安㆓置几前㆒。〔韓愈、石鼓歌〕安置妥帖平不㆑頗。〔白居易、郡齋暇日憶㆓廬山草堂㆒詩〕安㆓置坐禪牀㆒。❷寢る。寢につく。〔鶴林玉露、人、陸氏義門〕每晨興、家長率㆓衆子弟㆒、云云、聚㆓揖于廳㆒、婦女道㆓萬福于堂㆒、暮安置、亦如㆑之。❸宋の時、大臣を貶謫することをいふ。〔貴耳集、張端義〕張端義、字正夫、端平三年、應㆑詔上書、得㆑旨韶州安置、考㆓之典故㆒、安置待㆓宰執侍從㆒、居住待㆓庶官㆒、小臣用㆓大臣之法㆒誤矣。❹徒刑の罪人に工作させること。〔六部成語、刑部、安置、注解〕安㆓放流徒之犯㆒、令㆓其工作㆒也。❺an¹ chih⁴ あてがふ。與へる。

【安遲】335 アンチ 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕安遲氏、改爲㆓遲氏㆒。

【安軸】336 アンヂク 高麗、福州興寧縣の人。字は當之、號は謹齋、諡は文貞。官は僉議贊成事監春秋館事。編年綱目を增修す。〔高麗史〕・〔東史綱目〕。

【安著】337 アンチャク ❶おちつく。〔宋齊丘、陪㆓遊鳳皇臺㆒獻詩〕松孤不㆑易㆑立、石醜難㆓安著㆒。❷無事に目的の場所に到る。

【安中】338 アンチユウ 字號。❶宋、黃履(**12**−**47926**··909)の字。❷明、王恭(**7**−**20823**··246)の字。

【安仲】339 アンチユウ 字號。❶宋、吳師禮(**2**−**3365**··625)の字。❷清、張燕翼(**4**−**9812**··833)の字。

【安沖】340 アンチユウ 土司の名。青海省の南境。玉樹土司二十五族の一。

【安住】341 アンヂユウ 安らかにすまふ。〔吳志、諸葛瑾傳〕故彊屈曲、以求㆓民心㆒、欲㆓以自安住㆒耳。

【安重】342 アンヂユウ おちついて、おもおもしい。〔荀子、王霸〕安重閒靜莫㆑愉焉。〔後漢書、祭肜傳論〕動用安重。

【安直】343 アンチヨク やすね。廉價。費用が少くて手輕なこと。

【安直戰爭】344 アンチヨクセンサウ 西曆一九二〇年、北支の安徽派と直隸派との間に起つた戰爭。一九一九年の五・四運動以來、安徽派政權打倒の鬪爭が全國的となり、一九二〇年には直隸派の吳佩孚が南方派と和解して、安徽派討伐に向つたが、更に東北軍閥の張作霖が直隸派と結ぶに及んで、遂に安徽派の首領段祺瑞は官を去るに至つた。

【安敕】345 アトギ ❶姓名。〔拾芥抄〕。❷アヂキ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十九〕。

【安敕城】346 アトギ 姓氏。〔姓名錄〕。

【安枕】347 アンチン 安んじて眠る。枕を高くして眠る。安眠。〔漢書、英布傳〕使㆔布出㆓於上計㆒、山東非㆓漢之有㆒也、出㆓於中計㆒、勝負之數、未㆑可㆑知也、出㆓於下計㆒、陛下安㆑枕而臥矣。

【安琛】348 アンチン 朝鮮李朝、順興の人。字は子珍。號は竹窓・竹溪。諡は恭平。官は大司憲・知中樞府事に至る。〔人物考〕。

【安定】349 アンテイ ❶安んじさだめる。又、無事に落着いてゐること。〔書、盤庚中〕安㆓定厥邦㆒。〔禮、曲禮上〕安㆓定辭㆒。〔左氏、襄、二十八〕安㆓定其社稷㆒。〔漢書、張良傳〕天下屬㆓安定㆒、何故而反。❷郡名。㋑漢、置く。秦の北地郡の地。甘肅省舊平涼府、及び固原州涇州の地。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一。〔讀史方輿紀要、陝西〕平涼府、禹貢雍州地、春秋時屬㆑秦、秦幷㆓天下㆒、屬㆓北地郡㆒、漢置㆓安定郡㆒、後漢因㆑之、晉亦曰㆓安定郡㆒。㋺南朝宋、置く。陝西省南鄭縣の地。㋩南齊、置く。湖北省南漳縣の西北。㊁後魏、置く。河南省の境。㋭後魏、置く。安徽省の境。❸縣名。㋑漢、置く。河北省東鹿縣の西北。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、安定。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、祁州、東鹿縣〕安定城、縣西七里、漢縣屬㆓鉅鹿

郡一、宣帝封二燕刺王子賢一爲二侯邑一、後漢省。㋺漢、置く。甘肅直涇川縣の北。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一、安定。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府〕涇州、春秋時秦地、始皇時屬二北地郡一、漢屬二安定郡一、後漢因レ之、魏晉亦曰二安定郡一。㋩漢、置く。安南の北境。〔漢書、地理志下〕交趾郡、縣十、安定。㋥南朝宋、置く。四川省緜竹縣の西北。㋭南齊、置く。四川省の境。㋬後魏、置く。河南省の境。㋣後魏、置く。河南省潢川縣の境。㋠後魏、置く。河南省光山縣の西。㋷後魏、置く。山西省解縣。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府〕解州、今州治、漢解縣地、後魏太和初、析二置安定縣一屬二河東郡一。㋦元、置く。秦の陽周縣の地。陝西省膚施縣の北。縣城は秀延河の南岸。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕安定縣、本唐延川縣地、宋康定五年、于二延州城馬蹄川一築二安定堡一、金因レ之、元改置レ縣。〔清史稿、地理志〕陝西、延安府、縣十、安定。㋸遼、置く。遼寧省の境。㋾金、置く。甘肅省寧縣。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府、寧州〕定安廢縣、金大定七年、更爲二安定縣一、元初因レ之、至元七年廢。㋻金、置く。甘肅省定西縣。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府〕安定縣、金大定中、改爲二定西縣一屬二鞏州一、貞祐中、升爲二定西州一、元因レ之、後改爲二安定州一、明初改爲レ縣。〔清史稿、地理志〕甘肅、鞏昌府、縣七、安定。㊃土司の名。明、置く。廣西省都安縣。〔清史稿、地理志〕廣西、思恩府、土司七、安定土司。㊄年號。㋑南宋の孝宗の時、後理（南詔）の宣宗段智興が稱したもの。（大凡1172－1200）　㋺元世祖の代、臺州の楊鎭龍の僭年號。（1289）㊅㋑物理學上、重心が物體の底邊の中心にあること。㋺化學上、化合物が容易に分解しないこと。

【安定門】350 アンテイモン　北京內城の城門の名。德勝門の東にある。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕北之東曰二安定門一。

【安定王】351 アンテイワウ　後魏、廢帝（4－9492‥113）の封號。

【安定學派】252 アンテイガクハ　北宋の胡瑗の學派。同時代の孫復と共に宋學の淵源をなす。〔宋元學案、安定學案〕宋世學術之盛、安定・泰山爲二之先河一、程朱二先生、皆以爲レ然、安定沈潛、泰山高明、安定篤實、泰山剛健、各得二其性稟之所一レ近、要三其力二肩斯道之傳一則一也、安定似下較二泰山一爲中更醇上、小程子入二太學一、安定方居二師席一、一見異レ之、講堂之所レ得、不二已盛一哉、述二安定學案一。

【安定郡王】353 アンテイグンワウ　北周、宇文貴（3－7067‥44）の封號。

【安定先生】354 アンテイセンセイ　北宋、胡瑗（9－29400‥33）の尊稱。〔宋元學案、安定學案、文昭胡安定先生瑗〕學者稱爲二安定先生一。

【安定平衡】355 アンテイヘイカウ　穩定平衡（8－25344‥23）を見よ。

【安抵】356 an¹ ti³　安着する。無事に到着する。

【安亭】357 アンテイ　鎭の名。江蘇省嘉定縣の西南。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、嘉定縣、黃渡鎭〕安亭鎭、在二縣西南二十四里一、與二崑山縣一接レ界、以二安亭涇一而名。

【安帝】358 アンテイ　㊀後漢の第六世。恭宗と諡す。劉祜（2－2224‥14）を見よ。㊁東晉の第十世。司馬德宗（2－3257‥350）を見よ。

【安貞】359 アンテイ　㊀安らかで變らない。〔易、坤〕安貞之吉、應二地无疆一。〔楊炯、盂蘭盆賦〕上寥廓兮法レ天、下安貞兮象レ地。㊁第八十六代、後堀河天皇の年號。（1227－1229）

【安挺】360 アンテイ　安らんじくつろがせること。〔國語、吳語〕王安二挺志一。〔注〕挺、寬也。

【安停】361 アンテイ　しづかにとどまる。〔禰衡、鸚鵡賦〕容止閑暇、守レ植安停。

【安諦】362 アンテイ　㊀ゆつたりとして靜かなこと。〔詩、魏風、葛屨、好人提提、傳〕提提、安諦也。〔疏〕言二安諦一、謂二行步安舒而審諦一也。㊁㋑アタ 紀伊國の舊地名。〔碩鼠漫筆〕。㋺アテイ 紀伊國の地名。

【安調】363 アンテウ　星の名。辰星（10－38682‥32）の別名。北極星。〔太平御覽、天部、星、下〕辰星、北之位、黑帝之子、宰相之祥也、一名安調、一名熊星、一名鉤星、一名伺晨。

【安適】364 an¹ shih⁴　安樂な。身體の工合の良いこと。

【安帖】365 アンテフ　安らか。穩かにおちついたさま。安妥帖服。安貼。〔金史、古里甲石倫傳〕表裏相應、遂獲二安帖一。

【安貼】366 アンテフ　やすらかにしたがふ。安帖に同じ。〔顏氏家訓、風操〕吾見二名士一、亦有下呼二其亡兄弟一、爲二兄子弟子門中一者上、亦未レ爲二安貼一也。

【安奠】367 アンテン　安らかにさだまること。〔高啓、贈二楊榮陽一詩〕吾皇奮二神武一、四海始安奠。

【安傳】368 アンデン　明、淄川の人。字は執中。號は芹盟。萬曆の擧人。官は刑部郞中。後、衞輝府知。著に蛩音集がある。〔淄川縣志〕。

【安殿】369 ヤスミドノ　天皇が天の下を安見し給ふ御殿の義。安らけく天下をしろしめし給ふ御殿。卽ち天皇の政事を執り給ふところ。其の正殿を大安殿オホヤスミドノ（大極殿）といふ。〔日本書紀、天武紀下〕十四年九月甲辰朔壬子、天皇宴二于舊宮安殿之庭一。

【安都】370 アント　㊀大秦國の都。安提阿をいふ。シリアの古都。南北朝の時、東羅馬に屬す。〔北史、西域傳〕大秦國、一名黎軒、都二安都城一。㊁地名。齊の悼惠王の封地。河北省高陽縣。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、安州、高陽縣〕高都城、漢文帝十六年、立二齊悼惠王子安都侯志一爲二濟北王一、此卽安都廢邑。㊂複姓。〔史記、惠景閒侯者年表〕安都侯、齊悼惠王子。

【安圖】371 アント　縣名。清、置く。もと滿洲吉林省圖們江源の地。今、白頭山の北、紅旗河の西海岸。〔清史稿、地理志〕奉天、長白府、縣二、安圖。

【安土】372 アンド　㊀國土を安んずる。〔史記、秦始皇紀〕安レ土息レ民。㊁其の土地に安居する。〔易、繫辭上〕安レ土敦二乎仁一、故能愛。〔疏〕萬物之性、皆欲下安二靜於土一、敦中厚於仁上、聖人能行二此安土敦仁之化一、故能愛二養萬物一也。〔禮、哀公問〕不レ能レ安レ土、不レ能レ樂レ天。〔漢書、食貨志上〕百姓安レ土、歲數豐穰。〔漢書、龔遂傳〕民安レ土樂レ業。〔蜀志、張嶷傳〕種落三十餘戶、皆安レ土供レ職。〔孔子家語、大婚解〕不レ能レ成二其身一、則不レ能レ安二其土一。㊂アヅチ 近江にある地名。織田信長の城を築いた地。

【安土重遷】373 アンドヂユウセン　土に安んじ遷るをはばかる。人民が土著して移らないこと。重は、はばかる意。〔漢書、元帝紀〕詔曰、安レ土重レ遷、黎民之性、骨肉相附、人情所レ願也。

【安堵】374 アンド　㊀安らかにおちつく。人が垣の內にやすんずること。堵は垣。安心。案堵。〔史記、田單傳〕願無三虜二掠吾族家妻妾一、令二安堵一、燕將大喜。〔史記、高祖紀〕諸吏民皆安堵如レ故。〔蜀志、諸葛亮傳〕百姓安堵、軍無レ私焉。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕百姓安堵、四民反レ業。〔注〕濟曰、堵、牆也、安二於牆堵一、不レ失二家業一也。㊁鎌倉・室町時代、舊知行の地を其のまま賜はること。又、其の文書。〔太平記、六、赤坂合戰事〕本領安堵の御教書。

【安堵狀】375 アンドジヤウ　知行安堵を承認する爲に出す諸種の文書。

【安豆】376 アントウ　豌豆（10－36273‥1）の俗稱。〔事物異名錄、蔬穀、安豆〕字典、楊愼引唐六典、有二豋豆一、音彎、卽豌豆、俗譌呼爲二安豆一。

【安東】377 アントウ　㊀州名。宋、置く。江蘇省漣水縣。㊁縣名。㋑清、置く。唐の時、安東都護府に屬す。清の光緒二年、大東溝以東鑀河までを安東縣とし、沙河鎭を治とす。滿洲遼寧省鳳城縣の東南。鴨緑江を隔てて朝鮮の新義州と對す。〔清史稿、地理志〕奉天、鳳凰直隸州、縣二、安東。㋺明、置く。江蘇省漣水縣。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府〕安東縣、漢淮蒲縣地、云云、景定初、改二安東州一、治二漣水縣一、元省レ縣以レ州屬二淮安路一、明初、改レ州爲レ縣。〔清史稿、地理志〕江蘇、淮安府、縣六、安東。㊂屯衞の名。㋑山東省日照縣の南、南海に臨む。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、莒州附見〕安東衞、在二日照縣南九十里一、宏治三年、置二初領五千戶所一。㋺山西省應縣の西、代縣の界。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、應州附見〕安東中屯衞、在二州治東北一、洪熙初、自二朔州一調置二於此一、轄二左右前後五千戶所一。

【安東平】378 アントウヘイ　樂府西曲歌の名。作者の名は詳かでない。婦人が征夫に貽つたものといふ。その一にいふ、吳中細布、闊幅長度、我有二一端一、與レ郞作レ袴。

【安東省菴】379 アンドウセイアン　筑後の人。名は守約・守正。字は魯默・子牧。通稱は市之進。號は省菴・恥齋。經學は程朱を宗とし、松永尺五・朱舜水

に師事す。官は柳川藩儒。元祿十四年十月二十日歿す、年八十。從四位を贈らる。著に學蔀通辨・求是錄・愚得集・經翼羣書錄・經翼羣書續錄・經翼羣書別錄・經翼羣書餘錄・困知記・三忠傳・周易傳義異同考・詩書集傳朱蔡異同考・四書道德總圖・初學故事・初學心法・初學須知・初學問答・初學類編・心喪集語・省菴手簡・省菴文集・增補歷代帝王圖・立花家戰功錄・耻齋漫錄・日本史略・筆疇樵談・理學抄要・理學要抄がある。〔先哲叢談、正、三〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【安東節菴】380（アンドウセツアン） 筑後の人。名は守禮。字は子和。通稱は助四郎。號は節菴。高木敬藏に師事す。官は柳川藩儒。經學は程朱を固守す。又、詩に巧。天保六年三月歿す、年五十一。著に瞰蔗堂詩鈔がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【安東侗庵】381（アンドウトウアン） 筑後の人。名は守直。字は元簡。通稱は正之進。號は侗庵。省庵の子で、其の家學を承く。官は柳川藩儒。元祿十五年十二月二十五日歿す、年三十六。著に古文眞寶前集抄・孤燈隨筆・四書私抄・侗庵先生遺集・鈍鬪錄がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【安東仕學齋】382（アンドウシガクサイ） 筑後の人。名は守經。字は士勤・斯文。通稱は助之進。號は仕學齋。明和頃の人。官は柳川藩儒。著に經語楓冷・經傳倒用字考・五經一得解・五經一得對類・袖珍字府・仕學齋文集・稱呼說・初學捷徑・宗服圖纂・文法私考・遊洛稿・驪珠魚目がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【安東都護府】383（アントウトゴフ） 唐代の六都護府の一。唐の總章の初、高麗を平げて安東都護府を置き、平壤城を治とし、海東の諸國を統ぶ。儀鳳の初、高麗の餘黨が復た叛いたので、治を遼東故城に移し、明年、又、新城に移す。（今、遼寧省瀋陽縣の西北、故遼儐城）聖曆の初、罷めて安東都督府とし、神龍の初、故に復す。開元の初、治を平州に移す。（今、河北省盧龍縣の治）天寶の初、又、治を遼西故郡に移し、（今、熱河省朝陽縣の東）平盧節度使に屬す。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、唐〕於二沿邊諸道一設二六都護一分二統之一、安東都護府、屬二河北道一、總章初、平二高麗一置二安東都護府於平壤一、高麗諸府州以及二百濟新羅一皆屬焉、儀鳳初、高麗餘黨復叛、徙二安東都護於遼東故城一、明年、又移二於新城一、聖曆初、罷爲二安東都督府一、神龍初、復レ故、開元二年、徙二平州一、天寶二載、又移二於遼西故郡城一、屬二平盧節度一、至德後遂廢、新城、今瀋陽衞西北一百八十里、故遼濱城是、遼西故郡城、在二營州東二百七十里一。

【安同】384（アンドウ） 後魏、遼東の胡人。謚は恭惠。爵は高陽公。官は征東大將軍・冀青二州刺史。〔魏書、三十〕・〔北史、二十〕。

【安童】385（アンドウ） ㊀俳優の稱。書生をいふ。〔夢粱錄、顧覔人力〕有二私身・轎番・安童等人一。㊁（アントン） 元の人。木華黎四世の孫。世祖に仕へて中書右丞相・上柱國に至り、東平忠憲王を贈らる。〔元史、一百二十六〕・〔新元史、一百十九〕。

【安悳】386（アントク） 縣名。安德の㊁の㋑に同じ。〔漢書、地理志上〕平原郡、縣十九、安悳。

【安德】387（アントク） ㊀德に安んずる。道を守つて心の動かないこと。〔左氏、襄、十一〕夫樂以安レ德、義以處レ之。〔吳志、陸遜傳〕今觀レ君、氣陵二其上一、意蔑二乎下一、非二安德之基一也。㊁縣名。㋑漢、置く。山東省陵縣。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、陵縣〕漢置二安德縣一屬二平原縣一、晉宋因レ之。㋺南齊、置く。湖北省の境。㋩後魏、置く。滿洲遼寧省錦縣の西北。一說に、熱河省朝陽縣の東北。㊂人皇第八十一代の帝謚。

【安德悅】388（アントクエツ） 地名。新疆省且末縣の西南。于闐縣の界。一名、安多羅。古の覩貨羅國。新唐書西域傳には故都羅に作る。〔大唐西域記、十二〕至二尼壤城一云云、行四百餘里、至二覩貨羅故國一。

【安德太后】389（アントクタイコウ） 晉の陳后（11－41698‥243）をいふ。

【安敦】390（アントン） 古、羅馬皇帝マルクス・アウレリウス・アントニヌス（Marcus Aurelius Antoninus）の漢名。漢に使を通ず。後漢書に大秦王安敦といふのはこれである。奧理略。〔後漢書、大秦國傳〕至二桓帝延熹九年一、大秦王安敦遣レ使、自二日南徼外一獻二象牙犀角瑇瑁一、始乃一通焉。

【安頓】391（アントン） ㊀配置する。程よく處置する。〔乾淳起居注〕貼レ簽云、臣某謹進令三幕士安二頓寢殿前一。㊁おちつく。所を得る。〔楊萬里、詩〕客心未レ便無二安頓一、試數油窓雨點痕。

【安曇】392（アヅミ） ㊀姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十二〕。㊁信濃國の郡名。㊂（アツモ アクモ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【安南】393（アンナン） ㊀南方を安んずる。安南定北之策を見よ。㊁縣名。㋑晉、置く。湖南省華容縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府〕華容縣、漢武陵郡孱陵縣地、晉初、分二置安南郡一、屬二南平郡一、劉昫曰、安南縣、劉表所レ置也、宋齊因レ之。㋺南齊、置く。河南省舊南陽府。㋩清、置く。貴州省普定縣の東、三岔河の南。〔清史稿、地理志〕貴州、興義府、縣三、安南。㊂土司の名。雲南省文山縣の西。〔讀史方輿紀要、南雲、臨安府〕安南長官司、本阿棼蠻所レ居、舊名袁古。㊃國の名。又、地方の名。今は印度支那半島の東海岸地方、卽ち所謂安南脊梁山脈と南支那海とに挾まれた帶狀地帶をいふが、此の名を以て呼ばれた地方の位置・疆域は、時代によつて必ずしも同一ではない。安南の上代史は現在のところ不明といふより道はなく、安南地方が中國の歷史に稍〻確實に登場したものは、秦の始皇帝の時であり、秦時に設置された象郡が現在の東京（トンキン）から安南にかけての地帶であるとするのが普通の說である。但、象郡は現在の貴州省から廣西省にかけての地方であるとの有力な說もある。從つて、前漢初頭、南越王趙佗が從へた西甌駱（裸體生活をしてゐた蠻族）も、秦の象郡の位置如何によつては、必ずしも今の安南地方の住民とは決定し難い。漢の武帝の元鼎五年（西紀前一一二）の南征の結果設置された交趾・九眞・日南三郡が大體今の東京・安南地方だとされる。併し中國の勢力が南土に徹底し、安南地方の事が略〻確實に知られたのは、後漢時代に、徵姉妹の叛亂を契機とした馬援の南方遠征（光武帝の建武十七年、西紀四一年）以後と考へてよからう。馬援の遠征後、東京・安南地方は大體平靜の狀態に在り、靈帝の時、高德の土豪士燮が交州太守を以て王と稱したが獨立國として漢に對したのではない。而して此の間、漢文化を徐々に輸入消化し、中國文化圈の基礎が形成せられたと思はれる。然るに、三國時代から晉代にかけて版圖爭奪の對象地と化し、更に晉の中央集權力が微弱になるにつれて南土は內亂を續け、加ふるに林邑（チャンパ）・扶南（カンボジャ）が北上の兵を構へんとするに至つた。此の狀勢は南朝時代も略〻同樣であるが、梁の時、土豪李賁が立つて龍編に都し、國を萬春と號し、自ら南越帝と稱して、一時王國を建てたことがある。此の國はやがて隋に亡ぼされ、唐代に至り、安南都護府が置かれた。都護府の所在地は今の河內（ハノイ）とされてゐる。やがて唐が衰亡に傾くと安南人の間には過去十世紀に亙る中國の支配から脫しようとする氣風を生じ、終に李朝の建設となるのであるが、李朝の出現に至るまでには、幾度か土豪の替立が行はれた。其の主なるものを擧げれば、五代晉の時、吳權が王となり、其の子昌文は帝位に卽いて國を南晉と號し、丁部領が之に代るや國を大瞿越といひ、誼みを宋に通じて交趾郡王に封ぜられ、二代にして黎桓が代り立つたの等がそれである。而して黎桓の後三代にして宋の眞宗の大中祥符三年に李公蘊が立ち、並に宋の封爵を受けて交趾郡王となり、熙寧中、占城を征して布政・地哩・麻令の三州を收め、孝宗に及んで交趾を改めて安南とした。是に至つて安南が初めて國號となる。之を李朝といふ。仁宗の皇祐四年、儂智高が反して國を大南と號したが、久しからずして降り、李氏九代で、理宗の寶慶二年、陳煚が禪りを受けて帝と爲り、之を陳朝といふ。元になつて世宗は兵を加へて安南を服屬せしめた。陳氏十二代にして明の惠帝の建文二年、胡李犛が簒立して國號を大虞と稱したが、二世にして明に內屬せしめられた。宣宗の宣德三年、黎利は明に捷つて大越國と稱し、東京に都した。之を黎朝といふ。世宗の嘉靖六年、莫登瀛が自立して黎氏と對立すること五代六十五年、黎氏は遂に之を併せ、更に位を傳へること二十七代に及んだが、清の乾隆四十四年、阮福暎が代つて國を越南と稱し、順化に都して清の封爵を受けた。第四世嗣德帝の時、國號を大南

と改む。之を阮朝といふ。道光二十七年、天主教禁の事から佛蘭西と戰ふに至り、漸次佛國の勢力に蠶食せられ、光緒九年、再び佛國と戰つて東京は佛國の領土となり、光緒十二年、安南を擧げて佛國の保護國となる。阮氏相傳へること十代、延いて今に至る。〔讀史方輿紀要、廣西、外國附考〕安南、古南交趾、虞書、宅二南交一是也、周曰二交趾一云云、秦爲二象郡地一、秦末屬二於南越一云云、漢元鼎五年、平二南越一置二交趾・九眞・日南等郡一、兼置二交州刺史一云云、唐武德三年、仍置二交州總管府一、調露元年、曰二安南都護府一、云云、宋亡、日昭子光昺歸二附之一、封爲二安南國王一、云云、日燇死、子日烇嗣、明朝洪武二年、率先入貢、遣レ使冊爲二安南國王一。〔大越史記〕・〔大越史記全書〕・〔欽定越史通鑑綱目〕。

〖安南象〗394（アンナンザウ） 安南に產する象。能く曲直を辨じ、鬪訟するものを裁くといふ。〔海錄碎事、政治、獄訟〕僉載、安南有レ象、能辨二曲直一、有二鬪訟者一、象顛レ之、有レ理者卽過、無レ理以レ鼻卷レ之、擲二空中一數丈、以レ牙接レ之。

〖安南銀元〗395 an^1 nan^2 yin^1 yüan^2 南支地方で流通する佛領印度支那の銀貨。從前、貴州地方で頗る信用があつた。

〖安南志略〗396（アンナンシリヤク） 書名。十九卷。元、黎崱撰。崱は安南の人。元の至元中、陳鍵に隨つて內附す。安南の事迹を述べたもので、元史列傳と異同多し。〔四庫提要、史、載記類〕。

〖安南都護府〗397（アンナントゴフ） 唐の初期に設置せられた六都護府の一。高宗の調露元年に交州都護府が改められたもので、今の東京河內に治を置いた。其の管轄區域は南海諸國。後、肅宗の初、鎭南都護府と改められたが、代宗の時、再び故に復した。〔讀史方輿紀要、州域形勢、唐〕安南都護府、屬二嶺南道一、調露初、改二交州都督府一曰二安南都護府一、境內羈縻諸州、及海南諸國皆屬焉、至德二載、改曰二鎭南一、大歷三年、復レ故、又安西・安北・單于曰二大都護府一、北庭・安東・安南曰二中都護府一。

〖安南定北之策〗398（アンナンテイホクノサク） 南方を安んじ、北方を定めようとする策略。南北安定の方策。〔後漢書、袁安傳〕光武皇帝、本所三以立二南單于一者、欲二安南定北一之策也。

【安難】399（アンナン） ❶困難に處して逃れようとしない。〔戰國、楚策〕法令既明、士卒安レ難樂レ死。〔荀子、富國〕其耕者樂レ田、其戰士安レ難、其百吏好レ法。〔注〕安レ難、不レ逃レ難也。❷後魏の人。同の從子。官は給事中。爵は淸河子。〔魏書、三十〕。

【安㬮】400（アンナン） あたたかいこと。〔說文〕㬮、安㬮、昷也。〔段注〕昷、各本作レ溫、今正。

【安忍】401（アンニン） ❶平氣で殘忍なことをする。〔左氏、隱、四〕夫州吁阻レ兵而安レ忍、阻レ兵無レ衆、安レ忍無レ親、衆叛親離、難二以濟一矣。〔注〕安レ忍、則刑過、刑過則親離。〔資治通鑑、陳紀〕(宣帝、太建十三年) 不レ益二懲肅之理一、徒表二安忍之懷一。❷佛安心して物に忍耐すること。〔止觀、七之下〕第九安忍者、能忍成二道事一。

〖安忍子〗402（アンニンシ） 宋、元照(**1－1340**··376)の「號。

〖安忍殘賊〗403（アンニンザンゾク） 無慈悲で殘酷なこと。〔唐律、名例、十惡釋文〕安忍殘賊〕皆如レ字、謂二酷毒事一、人皆不レ忍レ爲、今有レ人、能行二此酷毒之心一、是名爲二安忍殘賊一。

【安寧】404（アンネイ） ❶安らかなこと。安謐。安悆。〔詩、小雅、常棣〕喪亂既平、既安且寧。〔六韜、龍韜、立將〕社稷安寧。〔管子、四稱〕國家安寧、不レ用二兵革一。〔呂覽、大樂〕天下太平、萬物安寧。〔史記、周紀〕成康之際、天下安寧、刑錯四十餘年不レ用。〔漢書、韋玄成傳〕無二安寧之時一。〔越絕書、越絕外傳紀策考〕種善圖レ始、蠡能慮レ終、越承二二賢一、邦以安寧。〔淮南子、氾論訓〕天下安寧、政教和平。〔後漢書、楊震傳〕社稷安寧之時。❷冬の別名。〔爾雅、釋天〕冬、爲二安寧一。❸川の名。古の孫水。源は四川省冕寧縣。南流して鴉礱江に入る。一名、白沙江。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府、富民縣〕安寧河、在二縣西南一、云云、河出二安寧州一入二縣界一、又經二羅次縣一爲二沙摩溪一、至二祿豐縣一爲二大溪一、至二易門縣一爲二九渡河一、流入二元江府界一。❹縣名。㋑三國吳、置く。廣東省陽江縣の西。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、陽江縣〕高涼廢縣、縣西三十里、漢置レ縣屬二合浦郡一、其舊治在二今高州高涼山下一、三國吳爲二高涼郡治一、又析置二安寧縣一屬焉。㋺南朝宋、置く。湖北省舊襄陽府の境。㋩南齊、置く。雲南省の境。㋥後魏、置く。河南省固始縣の西北。㋭唐、置く。漢の連然縣の地。雲南省昆明縣の西南、滇池の西北。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府〕安寧州、古滇國螳螂川地、云云、唐武德初、改置二安寧縣一、仍屬二昆州一、天寶初、陷二於蠻一、後爲二蒙氏所一レ據。㋬宋、置く。四川省長寧縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、長寧縣〕安寧廢縣、本蠻地、唐置二婆員縣一屬二長寧州一、宋初、蠻名二婆娑寨一、熙寧七年、改置二安彝寨一、大觀四年、廢、政和六年、復置、嘉定四年、升爲二安寧縣一屬二長寧軍一。❺人皇第三代の帝諡。

〖安寧井〗405（アンネイセイ） 鹽井の名。雲南省安寧縣。〔淸會典事例、戶部、鹽法、雲南〕安寧井、屬二安寧州一。

〖安寧秩序〗406（アンネイチツジヨ） 世の中が安らかで秩序が正しいこと。秩序とは、事物の順序が整つて亂れないこと。〔重野成齋、明治政體〕非下妨二安寧秩序一、背中臣民義務上。

【安念】407（アンネン） 安らかにおもふ。又、心を安らかにする。心配がない。安心(237)に同じ。〔陸機、赴レ洛詩〕慷慨遺二安念一、永歎廢二餐金一。

【安拜】408（アヘ） 姓氏。〔姓氏家系大辭典〕。

【安排】409（アンパイ・アンバイ） ❶物のあるがままに安んずる。〔莊子、大宗師〕造適不レ及レ笑、獻レ笑不レ及レ排、安レ排而去化、乃入二於寥天一一。〔注〕排者、推移之謂、云云、安二於推移一、而與レ化俱去、故乃入二于寂寥一、而與レ天爲レ一也。❷ほどよくすゑ并べる。よい工合に處置する。程よく加減する。〔謝靈運、晚出二西射堂一詩〕安排徒空言、幽獨賴二鳴琴一。〔孟郊、石淙詩〕弱力謝二剛健一、蹇策貴二安排一。〔白居易、諭レ友詩〕推レ此自豁豁、不三必待二安排一。

〖安排法〗410（アンバイハフ） 文章を構成する前句と後句との排列の方式。對偶法・層疊法・承遞法・回文法・照略法等の類がある。

【安培】410′（アンペア） 電力の單位。ampere の譯語。

〖安培表〗410″ an^1 p'ei^2 piao^3 アンペア計。安計。

【安放】411（アンパウ） 置く。据付ける。据置く。〔桃花扇、沈江〕留二著俺史可法一何處安放。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕安二放重三壓紙一枚一。

【安伯】412（アンパク） 金、孫卽康(**3－6987**··479)の字。

【安幕】413（アンマク・アマカ） 姓氏。〔姓名錄〕・〔新撰姓氏錄考證〕。

【安八】414（アンパチ） 美濃國の郡名。

【安板】415 an^1 pan^3 裁板。たちいた。

【安晚】416（アンバン） 宋、鄭淸之(**11－39647**··473)の號。

〖安晚堂詩集〗417（アンバンダウシシフ） 書名。七卷。宋、鄭淸之の撰。原本は六十卷、佚して七卷を存す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【安磐】418（アンバン） 明、嘉定の人。字は公石。號は頤山。弘治の進士。官は兵科都給事中。著には頤山詩話がある。〔明史、一百九十二〕・〔萬斯同明史、二百九十九〕・〔明史稿、一百八十九〕。

【安否】419（アンピ） 安らかなことと安らかでないこと。又、無事かどうか。人の起居容子にいふ。起居。消息。〔禮、文王世子〕問二內豎之御者一曰、今日安否何如。

【安俾】420（アンピ） 縣名。漢、置き、今、闕く。甘肅省舊平涼府の境。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一、安俾。

【安寐】421（アンビ） 安らかにねむる。安眠。〔陸機、於二承明一作與二士龍一詩〕明發遺二安寐一、寤言涕交レ纓。

【安謐】422（アンヒツ） 安らかでしづかなこと。安寧。〔後漢書、桓帝紀〕四方盜竊、頗有レ未レ靜、故假延臨レ政、以須二安謐一。

【安貧】423（アンピン） ❶まづしい生活にやすんずる。〔蔡邕、釋誨〕安レ貧樂レ賤、與レ世無レ營。〔陶潛、詠二貧士一詩〕安レ貧守レ賤者、自レ古有二黔婁一。❷梁、伍安貧(**1－435**··39)の一名。

〖安貧子〗424（アンピンシ） 明、朱裳(**6－14424**··364)の「號。

【安敏】426（アンビン） 金、劉瑋(**2－2224**··10)の諡。

【安扶】427 an^1 fu^2 扶ける。保護する。

【安富】428（アンプウ・アンプ） ❶一身のくらしが安らかで國が富む。〔孟子、盡心上〕君子居二是國一也、其君用レ之、則安富尊榮。〔注〕君子能使下人化二其道德一、移二其習俗一、身安國富、而保中其尊榮上。❷富者を安らかにする。〔周禮、地官、大司徒〕以二保息六一養二萬民一、云云、五曰、寬疾、六曰安富。〔注〕安富、平二其繇役一不二專取一。〔疏〕言、繇役均平、又不二專取一、則富者安、故云二安富一也。❸（アンフ） 姓氏。〔姓名

錄抄」。

〔安富恤窮〕429 アンプウジユツキユウ　富者の心を安んじ、貧者を救ひ賑はす。〔資治通鑑、唐紀〕（德宗、貞元十年）此乃安富恤窮之善經、不レ可レ捨也。

【安武】430 アンブ　縣名。㊀漢、置く。故治は甘肅省鎭原縣の南。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一、安武。〔魏書、地理志下〕陰槃、有二安武城一。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、平涼縣、安邱城〕安武城、在二府東北一、本漢縣、屬二安定郡一、後漢廢、云云、後魏亦爲二安武縣一、屬二西北地郡一、西魏又置二安武郡一、治レ此、隋開皇三年、倶廢入二朝那一。㊁晉、置く。今、安南の境。

〔安武雁連舍〕431 ヤスタケガンレンシヤ　筑後の人。名は嚴丸。通稱は彌十郎。號は雁連舍・傲霜窟。官は柳川藩儒。明治十一年歿す、年六十一。從五位を贈らる。著に割愛集・退隱集・和漢百家咏史がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【安撫】432 アンブ　㊀民を安らかに治める。民を安んじ落ちつかせる。〔隋書、衞玄傳〕除二遂州總管一、仍令二劍南安撫一。〔李洞、送二安撫從兄夷偶中丞一詩〕六州安撫後、萬戶解レ衣眠。㊁安撫使の略。

〔安撫使〕433 アンブシ　官名。隋の文帝の時、楊素を河北道安撫使とした。唐には貞觀の初、大使十三人を遣はして諸州の水旱を巡省させたが、之を巡察・安撫・撫存といひ、節度使が之を兼ね、副使が有つた。宋に至つて遂に帥司の職となり、始はただ沿邊に置いたが、後、各路に皆置き、一方を鎭撫する官で、或は安撫使といひ、或は經略安撫使といふ。往々、知府・知州が兼ねて之を帶び、諸將を總護し軍旅を統治し、姦宄を察治し、一道を肅清するなど、凡そ兵民の政は皆之を掌つた。元は其の制に因つて遠邊の處に安撫司を設け、宣慰・宣撫の次に位す。明・清には土官となし、專ら西南諸夷に授け、其の世襲を許した。卽ち、隋唐ではただ使節の名であつたが、宋に至つて監司となり、明清では土司と三變した。〔事文類聚〕隋文帝開皇九年、詔遣三柱國韋洸安二撫嶺外一、又仁壽四年、以二楊素一爲二幷州道行軍總管・河北道安撫大使一、唐貞觀初、遣二大使十三人一、巡二省天下諸州水旱一、則有二巡察・安撫・存撫之名一、節度使兼レ之、則有二副使一、云云、遼北面邊防官、控二制西夏一者、有二西南面安撫使一、云云、金初、名二宣撫一、後改二宣撫一爲二安撫一、以二按察司官一兼領、云云、元松潘容疊威茂州等處、有二軍民安撫使司一、隸二宣政院一、云云、明初、設二安撫司一、正官有二安撫同知・副使・僉事各一員一、首領官有二知事一員一、皆係二土官襲替一。〔宋史、職官志、七〕經略安撫使、一人、以二直祕閣以上一充。

【安風】434 アンプウ　縣名。漢、置く。故治は安徽省霍丘縣の西南。〔漢書、地理志下〕六安國、縣五、安風。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、壽州、霍丘縣〕安風城、縣西南二十里、漢縣屬二六安國一、後漢初、以二安豐・陽泉・蓼・安風四縣一封二竇融一、爲二安豐侯一。

【安服】435 アンプク　安んじて事に從ふ。〔漢書、谷永傳〕起居有レ常、循レ禮而動、躬二親政事一、致レ行無レ倦、安服若レ性。〔注〕師古曰、安心而服二行之一、如二天性一自然也。〔荀勖、爲二晉文王一與二孫皓一書〕是故大必事レ小、小必事レ大、然後上下安服、羣生獲レ所。

【安復】436 アンプク　㊀もとのやうに安らかにする。〔魏志、管寧傳〕招二集遺民一、安二復社稷一。㊁縣名。晉、置く。江西省安福縣。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府、安福縣〕安成故城、漢縣屬二長沙國一、晉太康元年、更名二安復一、劉宋仍屬二安成郡一。

【安腹】437 アンプク　腹を安んずる。程よくたべる。〔說苑、談叢〕聖人之衣也、便レ體以安レ身、其食也安二于腹一。

【安福】438 アンプク　㊀安んじ幸ひにする。又、安平と幸福。㊁宮殿の名。〔張衡、東京賦〕於レ南則前殿・靈臺・龢驩・安福。㊂縣名。㋑隋、置く。湖北省均縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、均州〕安福城、梁析二武當一置二廣福縣一、又置二廣福郡一、西魏因レ之、隋初、郡廢、縣屬二均州一、仁壽初、改爲二安福縣一。㋺唐、置く。江西省吉安縣の西北。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府〕安福縣、漢安平・安成二縣地、唐武德五年、置二潁州一治レ此、七年、州廢仍屬二吉州一、尋改レ縣曰二安福一。〔清史稿、地理志〕江西、吉安府、縣九、安福。㋩清、置く。湖南省臨澧縣。〔清史稿、地理志〕湖南、澧州直隸州、縣五、安福。㊃鎭の名。湖南省永興縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、郴州、永興縣〕安福鎭、縣西北八十里、與二縣西南高亭鎭一並爲二戍守處一、倶有二巡司一。㊄後魏、張祐（4－9812‥21）の字。㊅ヤスカベ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【安分】439 アンブン　己の本分に安んずる。〔蘇軾、林子中以レ詩寄二文與可及余一與可既沒追二和其韻一詩〕胡不レ安二其分一、但聽二物所レ誘。〔韻府引、山堂肆考〕宋汪澈遷二校書郎一、安レ分無レ求、視二同舍郎數遷一、不レ介レ意。

〔安分先生〕441 アンブンセンセイ　明、鄭本忠（11－39647‥560）の稱號。

【安丙】442 アンペイ　宋、廣安の人。字は子文。諡は忠定。淳熙の進士。官は少保。著に晶然集がある。〔宋史、四百二〕・〔宋史新編、一百五十〕・〔南宋書、四十八〕。

【安平】443 アンペイ　㊀安らかで無事なさま。〔周禮、秋官、小行人〕其康樂和親、安平爲二一書一。〔國語、吳語〕君今非下王室不二安平一是憂上。〔新序、刺奢〕使二吾邦家安平、百姓和協一。〔後漢書、梁統傳〕百姓安平。㊁齊の將軍、田單（7－21723‥205）の稱號。〔史記、田單傳〕田單走二安平一、襄王封二田單一、號曰二安平君一。㊂春秋、齊の邑。山東省臨淄縣の東。南朝宋、安平縣を置く。〔史記、田敬仲世家〕田常割下齊自二安平一以東至中琅邪上、自爲二封邑一。㊃縣名。㋑漢、置く。河北省饒陽縣の西、滹沱河の南。漢の高祖が鄂千秋を侯に封じた地。〔漢書、地理志上〕涿郡、縣二十九、安平。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、晉州〕安平縣、漢縣、屬二涿郡郡都尉治一焉、又高帝封二鄂千秋一爲二侯邑一、後漢屬二安平國一、桓帝置二博陵郡治此一、晉爲二博陵國治一。〔清史稿、地理志〕直隸、深州直隸州、縣三、安平。㋺漢、置く。江西省安福縣の東南。〔漢書、地理志上〕豫章郡、縣十八、安平。〔讀史方輿紀要、江西、吉安府〕安福縣、漢安平・安成二縣地、分二屬豫章・長沙二郡一。㋩南朝宋、置く。齊の安平邑。田單が安平君に封ぜられたところ。漢の東安平縣の地。山東省臨淄縣の東。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、臨淄縣〕安平城、縣東十九里、本齊邑、史記齊世家、平公割二齊安平以東一、爲二田氏封邑一、湣王末、燕師入レ齊、齊田單走二安平一、既而齊襄王封二田單一爲二安平君一、是也、漢置二東安平縣一、屬二淄川國一、應劭曰、博陵有二安平一、故此加レ東、後漢改屬二北海國一、宣帝封二三舜一爲二侯邑一、又世祖封二淄川王子茂一爲二安平侯一、晉改屬二齊國一、後魏曰二安平縣一、仍屬二齊郡一、北齊廢入二臨淄一、唐武德四年、復置二安平縣一、屬二青州一、八年、廢。㋥後魏、置く。甘肅省の境。㋭後魏、置く。山西省代縣の境。㋬清、置く。貴州省平壩縣。〔清史稿、地理志〕貴州、安順府、縣三、安平。㋣清、置く。臺灣臺南府。〔清史稿、地理志〕臺灣、臺南府、縣四、安平。㋠民國、置く。清の安平廳の地。雲南省馬關縣。〔清史稿、地理志〕雲南、開化府、廳一、安平廳。㊄鎭の名。㋑河北省武清縣の北。清代、把總駐防があつた。㋺山東省東阿縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州、東阿縣〕安平鎭、縣西南六十里、運河所レ經、與二壽張・陽穀二縣一接レ界、本名二張秋一。㋩福建省晉江縣の西南。安海鎭（44）を見よ。㊅土司の名。宋に安平州といふ。民國の初、廣西省鎭南道に屬す。〔讀史方輿紀要、廣西、太平府〕安平州、本西原洞蠻地、唐波州置二於此一、宋皇祐初、改置二安平州一隸二太平寨一、元隸二太平路一、明初因レ之、今仍屬二太平府一。〔清史稿、地理志〕廣西、太平府、土州十六、安平土州。㊆複姓。〔萬姓統譜〕安平、齊將田單封二安平君一、因氏焉。㊇字號。㋑後魏、高諡（12－45313‥796）の字。㋺唐、韓泰（12－43159‥161）の字。

〔安平君〕444 アンペイクン　戰國齊、田單（7－21723‥205）の封號。

〔安平侯〕445 アンペイコウ　封號。㊀漢、楊敞（6－15112‥196）の封號。㊁後漢、蓋延（9－31652‥6）の封號。

〔安平泰〕446 アンペイタイ　この上もなくやすらかなこと。泰平。〔老子、三十五〕執二大象一天下往、往而不レ害、安平泰。〔呂注〕安平泰、平者、安之至、泰者、平之至。

〔安平陵〕447 アンペイリヨウ　晉の哀帝の陵。江蘇省江寧縣の雞籠山。〔晉書、廢帝紀〕興寧三年三月壬申、葬二哀皇帝於安平陵一。〔江寧府志〕安平陵、在二鷄籠山一、不レ起レ墳。

【安平獻王】448 アンペイケンワウ 晉、司馬孚（**2－3257**・・30）の封諡號。

〖安平之強健〗449 アンペイノキヤウケン 晉の司馬孚（安平王に封ぜらる）が九十で太宰となつた強健さ。老いて益〻壯なるをいふ。〔本朝文粹、四、大江匡衡、爲二入道前太政大臣一辭二職竝封戶准三宮一第三表〕昔兼二鈞柄一而過二九十一、寧非二安平之強健一哉。

〖安平則盡二其力一〗450 アンペイナラバスナハチソノチカラヲツクス 世の中が泰平無事であれば、人民をして體力の續く限り働かせる。〔韓非子、六反〕君上之於レ民也、有レ難則用二其死一、安平則盡二其力一。

【安閉】451 アヘ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【安邊】452 アンペン ❶邊境を安らかにする。〔漢書、趙充國傳〕此全レ師保レ勝安レ邊之冊。〔南史、何承天傳〕承天上二安邊論一、凡陳二四事一。❷鎭の名。山西省應縣の東。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、應州〕安邊鎭、在二州東一。舊志云、州有二三岡四鎭一、三岡者、城東爲二趙霸岡一、城西爲二黃花岡一、城南爲二護駕岡一、四鎭者、城東爲二安邊鎭一、城南爲二大羅鎭一、城西爲二司馬鎭一、城北爲二神武鎭一、元人所レ稱三岡四鎭、護二金城一者也。❸堡の名。㋑陝西省定邊縣の東、舊安邊營。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭〕安邊營、鎭西五百七十里、有二舊營一、地名二深井一、成化中、移二治迤南中山坡一、曰二新安邊營一、五邊考、西路參將駐二新安邊營一、分守二一十二營堡一。㋺四川省高縣の北。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、高縣〕安邊堡、在二縣城北一、志云、其地當二興・珙・筠三縣之要道一、永樂中、置二堡於此一、以爲二控禦一。

【安便】453 アンベン 輕快を覺えること。〔白居易、新秋喜涼云云詩〕老夫納二秋候一、心體殊安便。

【安步】454 アンポ しづかにあるく。ゆつくりとあるく。安行。轉じて、貧に安んずる喩。〔國語、吳語〕一日惕、一日留、以安步。〔戰國、齊策〕晚食以當レ肉、安步以當レ車、無レ罪以當レ貴。〔史記、淮陰侯傳〕騏驥之跼躅、不レ如二駑馬之安步一。〔漢書、東方朔傳贊〕飽食安步、以レ仕易レ農。

【安甫】456 アンポ 明、趙邦柱（**10－37171**・・830）の字。

【安圃】457 アンポ 清、姚培炎（**3－6202**・・197）の字。

【安篷】458 アンポウ 篷をふく。篷は苫に同じく、菅茅などで編んだもの。〔白居易、小舫詩〕小舫一艘新造了、輕裝二梁柱一麗安レ篷。

【安豐】459 アンポウ ❶郡名。㋑三國魏、置く。安徽省霍丘縣の西南。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、壽州〕霍丘縣、志云、周成王時、霍叔遷二於此縣一、因以名、春秋時、爲二蓼國地一、晉復置二松滋縣一、屬二安豐郡一、宋齊因レ之、梁爲二安豐郡治一、後魏仍屬二安豐郡一。㋺梁、置く。安徽省壽縣の南。❷路名。元、置く。今、安徽省壽縣の治。❸縣名。㋑漢、置く。故城は河南省固始縣の東。〔漢書、地理志下〕六安國、縣五、安豐。㋺東晉、僑置す。故城は安徽省壽縣の西南。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、壽州〕安豐城、晉安豐縣、屬二安豐郡一。㋩南朝宋、置く。江西省九江縣。〔讀史方輿紀要、江西、九江府〕松滋廢縣、又有二安豐僑縣一、亦晉置、宋屬二尋陽郡一、齊廢。㋥南朝宋、置く。故城は安徽省霍丘縣の西南。㋭金、置く。滿州遼寧省の界。

〖安豐頂〗460 アンポウチヤウ 五代、南漢國に流行した帽子。一種の平頂帽。〔淸異錄、衣服、安豐頂〕南漢僭創二小國一、乃作二平頂帽一、自冠レ之、由レ是風俗一變、皆以二安豐頂一爲レ尙。

【安穆】461 アンボク ❶安らかでしづかなこと。〔蜀志、張嶷傳〕在レ郡十五年、邦域安穆。❷元、曷剌（**5－14290**・・10）の諡。

【安毛】462 アタケ 美濃國の地名。

【安名】463 アンミヤウ ［佛］新しく受戒した者に初めて法名を附けること。〔禪林象器箋、六〕安名、爲二新戒者一、初命二法名一也。

【安民】464 アンミン ❶民を安んずる。〔書、皐陶謨〕都、在レ知レ人、在レ安レ民。云云、安レ民則惠、黎民懷レ之。〔禮、曲禮上〕安二定辭一、安レ民哉。〔國語、楚語上〕安レ民以爲レ樂。〔漢書、食貨志上〕治レ國安レ民。〔蜀志、蔣琬傳〕其爲レ政、以二安民一爲レ本、不下以二修飾一爲上レ先。❷城の名。山西省襄垣縣の北。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府、襄垣縣〕安民城、縣北十二里、晉永嘉三年、劉淵寇二陷上黨一、幷レ州、刺史劉琨、遣下將張倚領二上黨太守一據中襄垣上、因築レ此以安二上黨之民一、故名。❸人名。㋑宋の長安の石工。熙寧の間、蔡京が書いた元祐黨碑を刻する役を命ぜられ、其の姓名を碑末に鐫るを免ぜられんことを乞ふ。時人、之を義とす。〔宋史、三百三十六〕。㋺明、山西大寧の人。字は熙寰。貢士より褒城縣知となる。母に事へて至孝、人、古君子と稱す。崇禎の末、難に殉じた。〔勝朝殉節諸臣錄、七〕。❹陳、周寶安（**2－3441**・・818）の字。

〖安民布告〗465 an^1 min^2 pu^4 kao^4 人民を安堵させるために一般に觸れ知らすこと。又、其の文書。

【安眠】466 アンミン やすらかに眠る。安寢。安枕。安寐。〔北史、韓麒麟傳〕顯宗曰、臣仰遭二明時一、直筆一無レ懼、又不レ受レ金、安眠美食、此優二於遷固一也。〔元結、石宮詩〕晨光靜二水霧一、逸者猶安眠。

〖安眠妨害〗467 アンミンバウガイ 他人の安らかな眠を妨げること。深夜に騷がしい音などを立てるのに抗議していふ語。

【安命】468 アンメイ ❶天命に安んずる。己の分を守つて妄りに求めぬこと。〔韓詩外傳、一〕安レ命養レ性者、不レ待二積委一而富。〔鮑照、園葵賦〕樂レ道安レ命。〔杜甫、贈二韋左丞丈濟一詩〕有レ客雖レ安レ命、衰容豈壯夫。❷生れた時と生れた月によつて其の人の運命の安きを占ふ法。〔輟耕錄、日家安命法〕日家者流、以二日月五星及計羅炁孛四餘氣躔度過宮遲留伏一逆推二人之生年日月時一、可下以知二休咎一定中壽夭上、其書曰二百中經一、經首有二安命法一、曰、周天宿度十二宮安命例、凡十葉、有二術士一、以二其例一節爲二一葉一、簡明易レ見、其法但看二本生日太陽所レ躔何度一、便以二本生時一加在レ上向レ下、逐二宮虛數一、如二下面已盡一、則又於レ此行、自上而下、見レ卯住、卽是此度二安命一眞捷徑也。〔和漢三才圖會、曆占類、安命・安身〕子平命鑑云、不レ論二男女一、每從二子上一起二正月一、逆數至二本生月上一、卽從二生月上一起二生時一、順數遇レ卯卽安命、遇レ酉卽安身也。

【安問】469 an^1 wen^4 無事のたより。

【安洋】470 アンヤウ 水がしづかに流れるさま。〔論衡、書虛〕溪谷之深流者安洋、淺多二沙石一、激揚爲レ瀨。

【安陽】471 アンヤウ ❶地名。河南省北部の地。戰國、魏の寧新中の邑。後、安陽といふ。漢は湯陰といひ、河內郡に屬す。北魏は鄴に入れ、北周は鄴より相州治を此處に移してまた鄴縣といひ、隋は再び安陽に復して魏郡の治とす。唐は河北道相州治、宋は河北西路相州治、金は河北西路彰德府治、元は中書省彰德路、明は河南省彰德府治、淸は元に因る。民國は河南省政府に直屬す。明治三十二年、此の附近から多數の龜甲・獸骨が發見せられたが、此は殷代のもので、其の發見地は殷の國都の址にあたり、漢代に既に殷墟と稱せられた地と認められる。殷墟（**6－16627**・・32）の❶を見よ。❷山名。江蘇省無錫縣の西南。樹木を生ぜず、俗に鬀鬀頭陽山といひ、又、陽山ともいふ。其の石を陽山石と稱し、器物を製す。〔讀史方輿紀要、江南、常州府、無錫縣〕安陽山、縣西北五十里、山周十八里、高百二十仞、風土記、周武王封二周章少子贇於安陽一、卒葬二山下一、山因以名。❸橋の名。河南省安陽縣の北、安陽河に架す。〔讀史方輿紀要、河南、彰德府、安陽縣〕安陽橋、在二府北四里安陽河上一、石晉開運二年、契丹犯二相州一、晉軍陳二於安陽河南一、旣而諸軍東趣二黎陽一、留二步卒五百人一守二安陽橋一、知相州符彥倫、以四橋非三五百人所二能守一、召入二乘城一爲レ備、至レ曙、契丹果數萬騎陳二于安陽水北一、是也、一統志云、安陽橋、舊名二鯨背橋一。❹縣名。㋑秦、置く。戰國、魏の邑。河南省湯陰縣の南、漳河の南。京漢鐵道の沿線。〔史記、秦紀〕昭襄王五十年、攻二汾城一、卽從レ唐、拔二寧新中一、寧新中更名二安陽一。〔讀史方輿紀要、河南、彰德府〕安陽縣、附郭、本紂之朝歌地、七國時、爲二魏寧新中邑一、徐廣曰、寧、一作レ曼、秦昭襄王五十年、王齕從二張唐一拔レ之、更名二安陽一、漢省入二蕩陰縣一、昭帝封二上官桀一爲二侯邑一、晉始置二安陽縣一屬二魏郡一、後魏又幷入レ蕩、後復置、屬二汲郡一、後周末、自二故鄴城一移二相州治此一、亦曰二鄴縣一、隋開皇十年、復曰二安陽一。〔淸史稿、地理志〕河南、彰德府、縣七、安陽。㋺漢、置く。河南省正陽縣の西南。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、安陽。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、眞陽縣〕安陽城、杜預曰、安陽、本春秋時江國、漢置二安陽縣一屬二汝南郡一。㋩漢、置く。陝西省城固縣の東。〔漢書、地理志上〕漢中郡、縣十二、安陽。㋥三國吳、置く。浙江省瑞安縣の治。〔讀史

方輿紀要、浙江、溫州府〕瑞安縣、本章安縣地、三國吳、析置㆓羅陽縣㆒、寶鼎三年、改曰㆓安陽㆒。㋭南朝宋、置く。安徽省舊廬州府の境。㋬南朝宋、置く。河南省の境。㋣後魏、置く。河南省泌陽縣の西。㋠後魏、置く。山東省舊濟南府の境。㋷後魏、置く。江蘇省碭山縣の東北。廡城集。左傳に見える棘櫟廡。漢の廡鄕。〔左氏、昭、四〕吳伐㆑楚、入㆓棘櫟廡㆒。〔讀史方輿紀要、江南、徐州、碭山縣〕廡城、縣東北二十五里、漢之廡鄕也、後漢初、蓋延嘗駐㆓兵于此㆒、魏收志、魏孝昌二年、置㆓安陽縣㆒、屬㆓碭郡㆒、縣治㆓廡城㆒、卽此、隋廢入㆓碭山縣㆒、今爲㆓廡城集㆒。㋦後魏、置く。戰國、趙の邑で、漢の東安陽縣の地。山西省大同縣の東南。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、大同縣、定襄城〕東安陽城、在㆓府東南㆒、漢縣屬㆓代郡㆒、或曰、趙主父封㆓其長子章於代㆒、號曰㆓安陽縣㆒、卽此也、東漢末、縣廢、晉義熙五年、魏主珪爲㆓子淸河王紹所㆑弑、肥如侯賀護擧㆓烽於安陽城北㆒、賀蘭部人皆赴㆑之、卽此、魏收志、永熙中、置㆓高柳郡㆒治㆓安陽㆒、蓋後魏時改置。㋸後魏、置く。河南省舊南陽府の境。㋾後魏、置く。甘肅省秦安縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、秦州、秦安縣〕長川城、後魏置㆓安陽縣㆒爲㆓安陽郡治㆒。㊄城の名。㋑山東省曹縣の東。〔史記、項羽紀〕宋義救㆑趙、行至㆓安陽㆒不㆑進。〔史記、傅寬傳〕從攻㆓安陽㆒。〔注〕正義曰、今宋州楚丘縣西十里、安陽故城也。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府曹州、曹縣、安陽城〕安陽城、在㆓縣東㆒、宋衷曰、楚邱縣西北四十里、有㆓安陽故城㆒、秦二世二年、楚宋義救㆑趙、行至㆓安陽㆒、留四十六日、不㆑進、又沛公將㆓傅寬㆒、從攻㆓安陽㆒、卽此城也、魏收志、己氏縣有㆓安陽城㆒。㋺河南省陝縣の東南。〔潘岳、西征賦〕我徂㆓安陽㆒。〔太平寰宇記〕安陽、在㆓硤石縣西㆒、唐嘗移㆓硤石縣治此㆒。

【安陽好】472（アンヤウカウ） 詞牌の名。一に憶江南と名づく。〔能改齋漫錄〕皇祐初、魏公鎭㆓揚州㆒、撰㆓維陽好四章㆒、所謂二十四橋千步柳、春風十里上珠簾、是也、後罷㆑相、出鎭㆓安陽㆒、復作㆓安陽好詞十章㆒。

【安陽侯】473（アンヤウコウ） 漢、上官桀（**1**－13‥193）の封號。

【安陽集】474（アンヤウシフ） 書名。五十卷。宋、韓琦撰。韓琦の文集。琦は宋代、文章極盛の時に歐陽脩とならび稱せられた文章家である。〔四庫提要、集、別集類〕。

【安陽李】475（アンヤウリ） 李の一種。もと魏の文帝の安陽殿前に在つたといふ。〔述異記、下〕魏文帝、安陽殿前、天降㆓朱李八枚㆒、啖㆓一枚㆒、數日不㆑食、今李種有㆓安陽李㆒、大而甘者、卽其種也。

【安陽惷叟】476（アンヤウシユンソウ） 宋、韓琦（**12**－43159‥51）の號。

【安陽鐵路】477（アンヤウテツロ） 鐵道の名。河南省安陽縣から豐樂鎭驛に至る。

【安養】478（アンヤウ・アンニヤウ） ［佛］極樂淨土。淨土に住めば、心を安んじ身を養うて速かに佛に等しい智德を得るからいふ。安養界。安養國。安養淨土。安養世界。〔謝靈運、廬山慧遠法師誄〕安養有㆑寄、閻浮無㆑希。〔無量壽經、下〕諸佛告㆓菩薩㆒、令㆑覲㆓安養佛㆒。〔疏〕安㆑心養㆑身、故曰㆓安養㆒。

【安喩】479（アンユ） やすんじさとす。〔左傳、僖、二十八、衞侯先㆑期入甯子先、注〕甯子患㆓公之欲㆑速、故先入欲㆔安㆓喩國人㆒。

【安愈】480（アンユ） たのしみよろこぶ。一に、安念に作る。〔陸機、赴㆑洛詩〕慷慨遺㆓安愈㆒、永歎廢㆓寢食㆒。

【安裕】481（アンユウ） 明、朱誠泳（**6**－14424‥879）の謚。

【安悆】482（アンヨ） 安らか。安寧。悆は寧。〔張衡、東京賦〕且歸來以釋㆑勞、膺㆓多福㆒以安悆。〔注〕綜曰、悆、寧也。

【安豫】483（アンヨ） 安んじたのしむ。〔陸機、贈㆓從兄車騎㆒詩〕寤寐靡㆓安豫㆒。

【安輿】484（アンヨ） 安らかに坐乘の出來る車。老人や婦人に用ひるもの。轉じて、老人を敬ひ迎へることにいふ。安車（202）に同じ。〔唐書、趙隱傳〕懿宗誕日宴㆓慈恩寺㆒、隱侍㆑母以㆓安輿㆒臨觀。〔張耒、題㆓畫馬㆒詩〕背如㆓安輿㆒鳧臆方。

【安用】485（アンヨウ） 金、國用安（**3**－4798‥598）の原名。

【安用㆓毛錐㆒】486（イヅクンゾマウスイヲモチヒン） 軍事には筆や硯はいらぬ。毛錐は筆。〔五代史、漢臣、史弘肇傳〕弘肇曰、安㆓朝廷㆒、定㆓禍亂㆒、直須㆓長槍大劍㆒、若㆓毛錐子㆒、安足㆑用哉、三司使王章曰、無㆓毛錐子㆒、軍賦何從集乎、毛錐子、蓋言㆑筆也、弘肇默然。

【安來】487（アンギヤス） 出雲國の地名。

【安賴】488（アンライ） 心をやすんじてたのみとする。〔唐書、王紹傳〕紹以㆑計取㆑之、擧軍安賴。

【安老】489（アンラウ） ㊀としよりを安んずる。〔陸倕、石闕銘〕安㆑老懷㆑少、伐㆑罪弔㆑民、農不㆑遷㆑業、市無㆑易㆑賈。㊁宋、呂祉（**2**－3386‥122）の字。

【安樂】490（アンラク） ㊀安んじたのしむ、又、そのこと。〔禮、郊特牲〕所㆔以交㆓於神明㆒者、不㆑可㆕以同㆓於所㆓安樂㆒之義也。〔孟子、告子下〕然後知㆘生㆓於憂患㆒而死㆗於安樂㆖。〔國語、晉語四〕民生安樂、誰知㆓其它㆒。〔墨子、魯問〕安樂在㆑上、而憂慼在㆑臣。〔荀子、王制〕四海之內若㆓一家㆒云云、莫㆑不㆔趨使而安㆓樂之㆒。〔呂覽、貴信〕身必安樂。〔史記、秦始皇紀〕讙然各自安㆓樂其處㆒。〔漢書、鼂錯傳〕使㆓先至者安樂而不㆑思㆓故鄕㆒。〔後漢書、莋都夷傳〕大漢安樂。㊁隋末、涼の李軌の僭年號。（618－619）㊂舞の名。通常、城舞（**3**－5120‥149）といふ。㊃山名。㋑浙江省餘杭縣の東。吳越王の子が疾を養つた地。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府、餘杭縣〕安樂山、縣東南二里、上有㆓舊倉城㆒、相傳、亦舊縣城也。㋺四川省合江縣の西。唐、合江山と改名す。俗稱、筆架山。〔太平寰宇記〕羣峯峭拔、有㆓瀑布㆒、千尺飛流、唐改爲㆓合江山㆒。〔黃庭堅、遊㆓安樂山㆒記〕安樂山、眞人飛昇之宅也。〔讀史方輿紀要、四川、瀘州、合江縣、榕山〕安樂山、在㆓縣西五里㆒、三峯奇秀、中有㆓八洞及泉石諸勝㆒、亦宋嘉熙中築㆑城處、志云、唐天寶中、改㆓山名㆒曰㆓合江山㆒、俗亦謂㆓之筆架山㆒。㋩雲南省保山縣の東。訛つて哀牢といふ。山下の一石から二泉を出し、一は溫、一は涼、號して玉泉といひ、因つて玉泉山とも名づく。〔讀史方輿紀要、雲南、永昌軍民府、保山縣〕哀牢山、府東二十里、本名㆓安樂㆒、夷語訛爲㆓哀牢㆒、孤峯秀聳、高三百餘丈、雄㆓峙西鄙㆒、延袤三十里許、山下有㆑石如㆑鼻、二孔出㆑泉、一溫一涼、號爲㆓玉泉㆒、因又名㆓玉泉山㆒。㊄郡名。隋、置く。河北省密雲縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州〕密雲縣、漢白檀縣地、屬㆓漁陽郡㆒、隋開皇十六年、改置㆓檀州㆒、大業初、又爲㆓安樂郡㆒、密雲縣屬焉。㊅縣名。㋑漢、置く。河北省通縣の西北。〔漢書、地理志下〕漁陽郡、縣十二、安樂。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、通州、平谷城〕安樂城、在㆓州西北㆒、亦漢漁陽郡屬縣、更始初、吳漢爲㆓安樂令㆒、卽此、後漢仍屬㆓漁陽郡㆒、曹魏景元四年、滅㆑蜀、封㆓後主禪㆒爲㆓安樂公㆒、晉亦曰㆓安樂縣㆒。㋺晉、置く。四川省合江縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、瀘州〕合江縣、晉仍曰㆓符縣㆒屬㆓江陽郡㆒、縣尋廢、永和中、改置㆓安樂縣㆒。㋩南朝宋、置く。廣東省四會縣の地。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、四會縣〕樂昌廢縣、在㆓縣北㆒、劉宋置㆑縣爲㆓樂昌郡治㆒、兼領㆓始昌・宋元・樂山・義山・安樂等縣㆒。㋥南齊、置く。陝西省の境。㋭後魏、置く。江蘇省東海縣の境。㋬隋、置く。山東省陵縣の治。㋣隋、置く。安南の境。㋠唐、置く。安徽省潛山縣の南。㊆鎭の名。㋑山東省恩縣の西北。四女樹鎭をいふ。㋺河南省郟縣の北。安樂砦ともいふ。㋩福建省寧化縣の東南。㊇壘の名。河北省蒿城縣の西北。〔魏書、地形志上〕九門、有㆓安樂壘・燕趙神・受陽壘・明臺神㆒。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、藁城縣〕安樂壘、在㆓縣西北㆒、魏收志、九門、有㆓安樂壘㆒、蓋慕容雋攻㆓冉閔㆒時、築㆓壘於此㆒、後燕亦爲㆓戍守處㆒。㊈寨の名。四川省雲陽縣の北。㊉［佛］極樂淨土の異稱。安樂國を見よ。⓫字號。㋑後魏、元衍（**1**－1340‥54）の字。㋺隋、宇文愷（**3**－7067‥40）の字。

【安樂鹽】491（アンラクエン） 堀河天皇の御代に明宗といふ笛の名手が居つたが、天子の前では怯れて吹奏し得なかつた。そこで帝が內密に命じたら、明宗の親昵する侍女の前では果して音調美妙に奏することが出來た。それを時人が嘲笑していつた語。〔國史略、堀河天皇〕上嘗聞㆓勘解由次官明宗者工㆑笛、特召令㆑奏、明宗鄙怯、其日在㆓上前㆒、畏縮殊甚、遂不㆑能㆑吹而止、上更密命㆘其所㆓親昵㆒女侍㆖迎㆑令㆑吹㆑之、而上乃匿聽焉、音調果妙、於㆑是使㆓人傳㆑詔曰、殊勝㆑所㆑聞、明宗便驚、鄙怯復發、撲然墜㆑地、世遂目㆓安樂鹽㆒、傳以爲㆑笑。

【安樂窩】492（アンラククワ・アンラクワ） ㊀居室の名。河南省洛陽縣天津橋の南にあり。五代、周の安審琦の故宅。宋の嘉祐中、王洪辰が洛の尹となり、邵康節に請うて之に居らしめて安樂窩といひ、康節は自ら

安樂先生と號した。〔宋史、邵雍傳〕富弼・司馬光・呂公著諸賢、退居洛中、雅敬雍、恆相從遊、爲市園宅。雍歲時耕稼、僅給衣食、名其居曰安樂窩、因自號安樂先生。好事者別作屋、如雍所居、以候其至、名曰行窩。〔邵雍、安樂窩中吟〕安樂窩中春欲歸、春歸忍賦送春詩。〔河南通志、河南府〕邵雍宅在天津橋南、王拱辰尹洛中、置此宅、對宅有園。㊁博徒の住居。ばくちやど。〔俚言集覽〕安樂窩（バクチヤド）、小說語。

【安樂花】493（アンラクゲ）　正しくは安樂花神事。花鎭祭で、落花を惜しみ風雨なきを祈る義といふ。元祿時代、京都上賀茂附近に行はれた三月十日の神事舞踊。〔日次紀事〕辰刻計、上賀茂南上野村土民、著烏帽子素袍、或又著異體之粧、而各先聚一村之總堂、云云、自是先詣光念寺北上御前社、各異口同音、唱安樂花、太鼓幷橫笛助其節、然後往大源菴社下御前社、各作踊躍、而後歸上野村總堂。

【安樂國】494（アンラクコク）　［佛］極樂淨土の異稱。〔無量壽經、上〕無有三途苦難之名、但有自然快樂之音、是故其國名曰安樂。〔文天祥、正氣歌〕嗟哉沮洳場、爲我安樂國。

【安樂堂】495（アンラクダウ）　淸、允祥(**1－1338**・・50)の室名。

【安樂茶】496（アンラクチヤ）　宋代の團茶の名。身體を安らかにして樂しませる茶の意。〔朱熹、與志南上人書〕偶得安樂茶、分上二十餅。

【安樂椅子】497（アンラクイス）　休息用の椅子の一。よりかかつて前後に動搖できる裝置の椅子。

【安樂公主】498（アンラクコウシユ）　唐の中宗の女。韋后の生む所。武三思の子の崇訓に嫁ぐ。三思が韋后と通じ、朝政を專らにするに及んで公主は勢を恃み、驕橫を極めた。三思父子の誅せられた後も猶悛めず、韋后が朝に臨むや、己を皇太女とせんことを欲し、韋后と毒を進めて帝を弑した。後、睿宗の子隆基のために韋后もろとも誅せられた。〔舊唐書、七〕・〔唐書、八十三〕。

【安樂淨土】499（アンラクジヤウド）　［佛］極樂淨土。安樂國(494)に同じ。

【安樂書屋】500（アンラクシヨヲク）　淸、邵志純(**11－39343**・・112)の室名。

【安樂世界】501（アンラクセカイ）　［佛］安樂淨土。〔法華經、藥王菩薩本事品〕卽往安樂世界、阿彌陀佛、大菩薩衆圍遶住處、生蓮華中寶座之上。

【安樂先生】502（アンラクセンセイ）　宋、邵雍(**11－39343**・・83)の號。

【安瀾】503（アンラン）　㊀波をしづめる。又、しづかな波。天下太平の喩。〔王褒、四子講德論〕天下安瀾、比屋可封。〔注〕善曰、瀾、水波、安瀾、以喩太平也、云云、良曰、瀾、波也、安瀾、言靜也。㊁字號。㋑淸、倪起蛟(**1－792**・・41)の字。㋺淸、陳澧(松江の人)(**11－41698**・・605)の字。

【安利】504（アンリ）　やすらかで利がある。又、安樂と利益。安らかで危害の虞れが無い。〔列子、黃帝〕天下丈夫女子、莫不延頸擧踵而願安利之。〔荀子、儒效〕煩勞以求安利。〔呂覽、觀表〕凡居於天地之間、六合之內者、其務爲相安利也。〔韓非子、有度〕姦邪之臣、安利於無功。〔史記、匈奴傳〕莫不就安利而辟危殆。

【安利者就之危害者去之】505（アンリハコレニツキキガイハコレヲサル）　安樂利益に赴き、危險有害を避ける。人情の常をいふ。〔韓非子、姦劫弑臣〕夫安利者就之、危害者去之、此人之情也。

【安理】506（アンリ）　やすらかにをさめること。〔晉書、裴頠傳〕然漢二十四帝、惟孝文光武明帝、不重外戚、皆保其宗、豈將獨賢、實以安理故也。

【安流】507（アンリウ）　しづかに流れる。又、しづかな流れ。〔陸機、文賦〕浮天淵以安流。〔陸機、演連珠〕衝波安流、則龍舟不能以漂。〔白居易、太行路詩〕巫峽之水能覆舟、若比君心是安流。

【安榴】508（アンリウ）　石榴の一種。安石國から來たので此の名がある。安石榴(277)に同じ。〔梁簡文帝、大同八年秋九月詩〕長樂含初紫、安榴折晚紅。〔事物異名錄、花卉、石榴〕格物叢話、榴花來自安石國、故曰石榴、亦曰安榴、有來從新羅國者、以海榴名之。

【安劉】509（アンリウ）　㊀國家の重臣。劉氏卽ち漢の皇室を安泰にする意。周勃の故事。〔史記、高祖紀〕周勃厚重少文、然安劉氏者必勃也。〔白居易、題四皓廟詩〕臥逃秦亂、起安劉、舒卷如雲得自由。〔丁鶴年、多景樓詩〕階前遺恨石、誰傷話安劉。㊁宋、汴の人。鄞の小溪に居り、詩義を以て起ち、淸言を善くし、三たび丞郎に歷官した。嘗て賈似道の客となり、科名を以て自ら持し、卒に用ひられなかつた。〔宋元學案、七十六〕。

【安陸】510（アンリク）　㊀郡名。南朝宋、置く。湖北省安陸縣。〔讀史方輿紀要、湖廣〕德安府、禹貢荊州之城、春秋時䢵子國、後屬楚、秦屬南郡、漢屬江夏郡、後漢因之、晉亦屬江夏郡、宋置安陸郡。㊁府名。元、置く。淸の湖北省に屬し、鍾祥・京山・潛江・天門の四縣を領す。故治は鍾祥縣。〔淸史稿、地理志〕湖北、安陸府、領縣四、鍾祥、京山、潛江、天門。㊂縣名。漢、置く。春秋の鄖國。湖北省應山縣の南。〔漢書、地理志上〕江夏郡、縣十四、安陸。〔淸一統志〕今縣北有安陸故城、晉陶侃所築、何時徙今治、舊志均不詳。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府〕安陸縣、附郭、漢縣屬江夏郡、王莽地皇二年、綠林帥王匡等拔竟陵、轉擊雲杜安陸、是也。〔淸史稿、地理志〕湖北、德安府、縣四、安陸。

【安陸集】511（アンリクシフ）　書名。一卷。附錄一卷。宋、張先撰。詩八首・詞六十八首を收む。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【安陸昭王】512（アンリクセウワウ）　南齊、蕭緬(**9－32012**・・249)の封謚號。

【安立】513（アンリフ・アンリツ）　㊀安心立命(241)の畧。㊁［佛］安置建立の意。〔無量壽經、上〕敎化安立、無數衆生。〔唯識述記〕安立者、施設義。

【安良】514（アンリヤウ）　縣名。民國、置く。西康省康定縣の西。壩垃河の東南。もと安良壩といふ。

【安梁】515（アンリヤウ）　製鹽場の名。江蘇省東臺縣の東南。海鹽を產す。淸代の富安・梁垛・安豐の三場で、民國の初、富安・梁垛を安豐に倂せて安梁場と改め、場知事を設く。

【安慮】516（アンリヨ）　安らかなこころ。安心。

【安陵】517（アンリヨウ）　㊀地名。㋑河南省鄢陵縣の西北。春秋の時、田莊子が魯・葛及び安陵を伐つた地。戰國、魏の襄王が其の弟を封じて安陵君とした。說苑には鄢陵君に作る。〔史記、田敬仲完世家〕齊宣公四十三年、田莊子伐魯葛及安陵。〔後漢書、郡國志二、鄢陵春秋時曰鄢、注〕李奇曰、六國曰安陵。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、鄢陵縣〕安陵城、括地志、在縣西北十五里、本鄭地、史記齊宣公四十三年、田莊子伐魯葛及安陵、戰國時、魏襄王弟安陵君封于此、公子無忌所云、王之使者出過、而惡安陵氏于秦者也、秦始皇二十二年、滅魏欲以五百里地易安陵、水經注、安陵、一名富平、陳留風俗傳、尉氏安陵鄉、故富平也。㋺戰國の時、楚王が嬖臣を安陵君に封じた地。河南省郾城縣。安陵君を見よ。〔阮籍、詠懷詩〕昔日繁華子、安陵與龍陽。㊁陵の名。㋑漢の惠帝の陵。陝西省咸陽縣の東北。〔史記、呂后紀〕七年秋九月辛丑葬、〔注〕集解曰、漢書云、葬安陵、皇甫謐曰、去長陵十里、去長安北三十五里。〔陝西通志〕安陵、在咸陽縣東三十五里、去長陵東十里、周之程邑也。〔文獻通考、王禮考、山陵〕惠帝、七年八月戊寅、崩、九月辛丑、葬安陵。㋺唐の昭宗の母王太后の陵。陝西省長安縣。〔唐書、恭憲王后傳〕追號皇太后、上謚祔主懿宗室、卽故葬號安陵。㊂縣名。㋑漢、置く。陝西省咸陽縣の東。周の程邑の地で、漢の惠帝の陵がある。〔漢書、地理志上〕右扶風、縣二十一、安陵。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、咸陽縣〕安陵城、在縣東二十一里、本秦之舊邑、漢惠帝葬此、置安陵縣。㋺晉の東安陵縣。後魏の時に東の字を去る。もと漢の安縣の地。河北省吳橋縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、河間府、景州、吳橋縣〕重合城、後魏正平初、幷入安陵縣。㋩唐、置く。湖南省永興縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、郴州、永興縣〕安陵城、縣西南五十里、今縣治卽漢便縣城也、唐析郴縣以安陵縣、尋曰高亭、皆治此。㊃鎭の名。㋑河北省景縣の東、運河の濱。附近に高齊十八陵があり、俗に十八亂塚といふ。〔畿輔通志〕鎭在運河渡口、通吳橋縣及山東德州、爲山東直隸閒之要路。㋺山東省曹縣の西北。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、曹州、曹縣〕桂陵城、在縣西北五十里、本齊邑、史記、齊威王二十六年、以田忌爲將、大破梁軍於桂陵、其後秦穰侯葬此、世謂之安平陵、亦曰安陵鎭、明初、移曹州治焉。㊄複姓。〔萬姓統譜〕安陵、小國也、其後氏焉、楚王妃安陵氏。

【安陵纏】518（アンリヨウテン） 戰國、楚の人。共王の嬖臣。共王に殉ぜんといつて三百戸に封ぜられた。〔説苑、權謀〕安陵纏以二顔色美壯一得レ幸二於楚共王一云云、其年共王、獵二江渚之野一、野火之起若二雲蜺一、虎狼之嘷若二雷霆一、有二狂兕一從二南方一來、正觸二王左驂一、王擧二旌旄一而使二善射者射一レ之、一發、兕死二車下一、王大喜、拊レ手而笑、顧謂二安陵纏一曰、吾萬歲之後、子將二誰與斯樂一乎、安陵纏乃逡巡而卻、泣下沾レ衿、抱レ王曰、萬歲之後、臣將二從爲一レ殉、安知二樂レ此者誰一、於レ是共王乃封二安陵纏於車下三百戸一。

【安龍】519（アンリヨウ） ❶府の名。明の永曆帝の居地。貴州省南籠縣。〔讀史方輿紀要、貴州、普安衞〕安龍守護千戸所、州東南三百里。❷縣名。貴州省興義縣の東、盤江の北岸。

【安祿】520（アンロク） 清、滿洲鑲黃旗人。姓は多拉爾氏。海蘭察の子。諡は壯毅。乾隆中、一等超勇公を襲爵す。嘉慶中、頭等侍衞に擢んでられ、四川の教匪の勦蕩に從つて陣歿した。〔清史稿、三百三十七〕・〔國朝耆獻類徵、三百六十四〕。

【安和】521（アンワ） ❶安らかにやはらぐ。おだやかなこと。〔晏子、問、上〕欲レ伐二安和之國一。〔漢書、杜延年傳〕爲レ人安和、備二於諸事一。〔韓詩外傳、五〕百姓皆懷二安和之心一。〔宋書、樂志一〕文帝又自造二四時舞一、以明二天下之安和一。❷年號。㋑五代、南詔の肅文帝鄭旻の時。(約910－926) ㋺（アンナ） 第六十三代冷泉天皇の御代。(968－970)

【安王】522（アンワウ） ❶周の第三十三世。周安王(**2－3441**··530)を見よ。❷明、朱友寧(**6－14424**··640)の封號。

【安王陂】523（アンワウヒ） 澤の名。江蘇省銅山縣の東。〔水經、獲水注〕與二安陂水一合、水上承二安陂餘波一云云、水北流注二于獲一。〔讀史方輿紀要、江南、徐州〕安王陂、在二州西一、宋元嘉二十八年、魏主燾南侵北還、驅二南口萬餘一、夜宿二安王陂一、去レ城數十里、江夏王義恭不二敢擊一、卽此。

【偸レ安】524（ヤスキヲヌスム） 眼前の安樂をむさぼる。一時の安穩をはかる。〔賈誼、治安策〕夫抱レ火措二之積薪下一、而寢二其上一、火未レ及レ然、因謂二之安一、偸レ安者也。

【安惟學】525（アンヰガク） 明、臨汾の人。字は行之。成化の進士。工部侍郎から出でて平涼府知となり、左布政に遷り、尋いで右副都御史を以て寧夏を巡撫し、安化王寘鐇の謀逆に値つて殺害せられた。〔國朝獻徵錄、六十一〕。

【安毓慤】526（アンイクカク） 明、長山の人。字は習菫。明末擧子の學を棄て、門を杜ぢて讀書す。〔長山縣志〕。

【安加拉】527（アンカラ） ❶地名。トルコの國都。舊名アンゴラ。Ankara の音譯。❷アンゴラ。ポルトガル領。アフリカ洲の西岸にある。Angola の音譯。

【安希范】528（アンキハン） 明、無錫の人。字は小范。號は我素。萬曆の進士。官は禮部主事。書室を天全堂といふ。著に天全堂集がある。〔明史、二百三十一〕・〔萬斯同明史、二百三十八〕・〔明史稿、二百十六〕。

【安其生】529（アンキセイ） 齊の人。蒯通と友好があり、嘗て項羽に獻策したが、羽は其の策を用ひなかつた。後、羽は安其生を封ぜんとしたが、彼も卒に其の封を受けなかつた。安期生(71)を見よ。〔漢書、四十五〕。

【安釐王】530（アンキワウ） 戰國、魏の第七世。魏安釐王(**12－45872**··310)を見よ。

【安金藏】531（アンキンザウ） 唐、長安の人。諡は忠。忠烈の人。官は右驍衞將軍。代國公に封ぜらる。〔唐書、一百九十一〕・〔舊唐書、一百八十七〕。

【安金全】532（アンキンゼン） 五代唐、代北の人。官は振武軍節度。〔五代史、二十五〕・〔舊五代史、六十一〕。

【安科吶】533（アンコナ） 地名。イタリヤ東部の港。アドリヤ海西岸に沿ふ。Ancona の音譯。

【安玩堂】534（アングワンダウ） 清、程昌期(**8－25081**··227)の室名。

【安慶緒】535（アンケイシヨ） 唐の人。祿山の子。安祿山が僭位した時、晉王に封ぜられたが、祿山が段夫人の子の慶恩を立てんことを懼れて祿山を殺し、自立して載初と改元す。後、史思明に殺さる。〔唐書、二百二十五〕・〔舊唐書、二百上〕。

【安藝桁】536（アキゲタ） 安藝國より産する木材で作つた桁。江戸時代に廣く用ひられた。〔雍州府志、六、土産門、上〕或號レ桁、古多出レ自二安藝國一、故庭訓稱二安藝桁一、然京師所二專用一、信濃國木曾山之産佐和羅木爲レ良。

【安堯臣】537（アンゲウシン） 宋の人。惇の族子。徽宗が契丹を伐つのを諫めた。〔宋史、三百五十一〕・〔宋史新編、一百二十一〕。

【安元信】538（アンゲンシン） ❶五代唐、代北の人。字は子言、一に子嚴に作る。追諡は忠懿。戰功あり、官は歸德軍節度使。〔舊五代史、六十一〕。❷五代晉、馬邑の人、初、唐の明宗に從ふ。晉になつて復州防禦使となつた。〔舊五代史、九十一〕。

【安彥威】539（アンゲンヰ） 五代晉、崞縣の人。字は國俊。射を善くし、兵法を修め、北面行營副都統となる。〔五代史、四十七〕・〔舊五代史、九十一〕。

【安濟坊】540（アンサイバウ） 宋の崇寧元年、諸路に詔して設置させた窮民の救濟所。〔大學衍義補、固二邦本一、重二民之事一〕宋、崇寧元年、詔二諸路一置二安濟坊一。

【安藏王】541（アンザウワウ） 高勾麗第二十二代の王。諱は興安。文咨明王の長子。梁の武帝の天監十八年に立ち、中大通三年に在位十三年で歿した。〔三國史記〕。

【安思承】542（アンシシヨウ） 元、磁州の人。號は竹齋。諡は貞肅。監察御史となり、後、山東肅政廉訪使となる。官に歷任して清儉。著に竹齋詩集がある。〔河南通志〕。

【安師建】543（アンシケン） 唐の人。官は彭州馬步軍使。王建彰に殺さる。〔唐書、一百八十六〕。

【安守忠】544（アンシユチユウ） 宋の人。審琦の子。字は信臣。官は威德軍節度觀察留後。〔宋史、二百七十五〕・〔宋史新編、七十八〕・〔隆平集、十八〕。

【安珠湖】545（アンシユコ） 清、滿洲正黃旗人。姓は爪爾佳氏。順治中、參領に任ぜられ、湖南に從征す。康熙中、盛京將軍となる。尋いで職を奪はれ、改めて索倫總督を授けらる。〔清史稿、二百四十九〕。

【安從進】546（アンジユウシン） 五代晉、振武索葛部の人。官は同平章事。後、襄陽に反す。李建崇等に破られ、自ら焚死した。〔五代史、五十一〕・〔舊五代史、九十八〕。

【安叔千】547（アンシユクセン） 五代晉、沙陀三部落の人。字は胤宗。唐の明宗の昭武軍節度使。風貌は堂々たるも文字に通ぜず、時人稱して沒字碑といふ。官は鎭國軍節度。〔五代史、四十八〕・〔舊五代史、一百二十三〕。

【安且吉】548（アンカツキツ） 安らかで、其の上よい。〔詩、唐風、無衣〕豈曰レ無二衣七一兮、不レ如二子之衣、安且吉一兮。

【安如山】549（アンジヨザン） ❶宋、廣漢の人。字は汝止。擊劍を善くす。端平中、安撫曹友聞に召されて書記となる。❷明、無錫の人。字は子靜。嘉靖の進士。官は四川僉事。〔無錫縣志〕。

【安如盤】550（アンジヨバン） 清、安致遠(568)を見よ。

【安序堂】551（アンジヨダウ） 清、毛際可(**6－16772**··275)の室名。

【安審琦】552（アンシンキ） 五代、周の人。金全の子。字は國瑞。周の平盧軍節度使。〔舊五代史、一百二十三〕。

【安審暉】553（アンシンキ） 五代、周の人。審琦の兄。字は明遠。諡は靜。唐の莊宗の河東行軍司馬。晉の河陽節度使。魯國公に封ぜらる。〔舊五代史、一百二十三〕。

【安審信】554（アンシンシン） 五代、周の人。審琦の從兄。字は行光。諡は成穆。周の右金吾上將軍。〔舊五代史、一百二十三〕。

【安審通】555（アンシンツウ） 五代、唐の人。金全の猶子。官は滄州節度使。〔舊五代史、六十一〕。

【安世通】556（アンセイツウ） 宋、本西の人。青城山に隱居して道人となる。吳曦が反するや、江陵の吳獵に之を討たんことを請うた。後、獵は士を官に薦めた時、世通を第一とした。〔宋史、四百五十九〕・〔宋史新編、一百七十八〕・〔南宋書、四十八〕。

【安世鼎】557（アンセイテイ） 清、漢軍鑲紅旗人。字は鑄九。號は章江。官は江西巡撫。著に章江集がある。〔四庫提要、一百八十三〕。

【安世鳳】558（アンセイホウ） 明、商丘の人。字は鳳引。萬曆の進士。官は定海知縣。著に燕居功課・墨林快事がある。〔四庫提要、一百二十六〕。

【安聖君】559（アンセイクン） 唐の哀帝の乳母の楊氏に賜はつた號。〔舊唐書、哀帝紀〕內出二宣旨一、嬭婆楊氏

可レ賜二號昭儀一、嬭婆王氏可レ封二郡夫人一、中書奏議、乳母古無下封二夫人一賜二內職一之例上、楊氏賜二號安聖君一、王氏曰二福聖君一。

【安紹芳】560 アンセウハウ 明、無錫の人。字は懋卿（茂卿）。號は研亭居士（硯亭居士）。後、名を泰來、字は未央と改む。詞翰に巧。〔明詩綜、六十三〕。

【安孫子】561 アビコ 近江國の地名。

【安多拉】562 アンドラ 國名。フランスとスペインとの間に介在する半獨立國。首府アンドラ。安道耳。Andorra の音譯。

【安陀會】563 アンダヱ 佛五條の袈裟。三衣（**1**－**12**··16）を見よ。〔薩婆多論〕沙彌受戒、已應レ持二上下二衣一、一當二鬱多羅僧一、一當二安陀會一。

【安太妃】564 アンタイヒ 五代晉、代北の人。出帝の母。老いて失明す。出帝に從つて北遷し、遼陽より建州に徙り、道に卒す。卒するに臨み、出帝に我を焚いて灰とすべし、南向して之を飛ばせば、遺魂は中國に反るを得んと言つたといふ。〔五代史、十七〕・〔舊五代史、八十六〕。

【安胎藥】565 アンタイヤク 流產を防ぐ藥。〔晉書、苻生載記〕令三程延合二安胎藥一。

【安大峗】566 アンダイキ 明、雲夢の人。號は曲湖逸人。仕進を樂しまず。博學で、緯候の學に精通す。〔雲夢縣志〕。

【安達立】567 アンタツリフ 清、滿洲正紅旗人。姓は納喇氏。太宗の時、永平を攻めて各地に轉戰し、順治中、從つて關に入り、李自成を擊つ。官は護軍統領。〔清史稿、二百三十六〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕。

【安致遠】568 アンチヱン 清、壽光の人。字は靜子。一の名は如盤、字は拙石。室名は蘭雪堂。貢生で、順治・康熙の間、屢〻擧げられたが用ひられなかつた。著に安靜子集がある。〔國朝詩人徵略初編、三〕。

【安重榮】569 アンヂユウヱイ 五代晉、朔州の人。小字は鐵胡。騎射を善くした。官は成德軍節度使。〔五代史、五十一〕・〔舊五代史、九十八〕。

【安重晦】570 アンヂユウクワイ 五代唐、應州の人。官は侍中兼中書令。讒により死す。〔五代史、二十四〕・〔舊五代史、六十六〕。

【安重阮】571 アンヂユウゲン 五代晉、上黨の人。字は晉臣。官は晉州節度使。〔舊五代史、九十一〕。

【安重霸】572 アンヂユウハ 五代唐、雲州の人。官は京兆尹西京留守。〔五代史、四十六〕・〔舊五代史、六十一〕。

【安第斯】573 アンデス 山脈の名。南アメリカ洲西岸にあり、世界最長の山脈。Andes の音譯。

【安第占】574 アンヂジヤン 地名。ソヴエート・ロシヤの中亞細亞にあり、裏海橫貫鐵道の終點にあたる。Andijan の音譯。

【安天王】575 アンテンワウ 唐の玄宗が北嶽を封じた號。〔事物異名錄、坤輿、嶽〕山堂肆考、唐玄宗、封二東嶽一爲二天齊王一、南嶽爲二司天王一、西嶽爲二金天王一、北嶽爲二安天王一、中嶽爲二中天王一。

【安徒生】576 アンデルセン 人名。デンマークの童話作家。Andersen の音譯。

【安德裕】577 アントクユウ 宋の人。重榮の子。字は益之、又は師皐。開寶の進士。官は金部郎中。集四十卷がある。〔宋史、四百四十〕・〔宋史新編、一百六十九〕。

【安邦彥】578 アンハウゲン 明の人。疆臣の弟。天啓中、兄の子の位が宣慰使となつたが幼かつたので、邦彥は之を弼けて永寧の奢崇明と結び、宋萬化と倶に畢節を陷れ、安順を破り、貴陽を圍んだが巡撫王三善に破られて遁走した。尋いで復た振ひ、自ら四裔大長老と號した。崇禎の初、總督朱燮元のために永寧に敗れ、邦彥と崇明と皆死し、位も亦降つた。〔萬斯同明史、四百九〕。

【安邦俊】579 アンハウシユン 朝鮮李朝、竹山の人。字は士彥。號は隱峰、氷壺、牛山先生。官は工曹參議。著に抗義新編・李大源傳・湖南義兵錄・三寃記事・師友鑑戒錄・混定偏錄・買還問答等がある。〔人物考〕。

【安般簃】580 アンハンイ 清、袁昶（**10**－**34152**··112）の號。

【安不上】581 an^1 pu shang^4 据ゑられない。取り付けられない。

【安文璧】582 アンブンペキ 明、安陽の人。字は仲書。萬曆の進士。官は御史。都尉の不法を彈劾し、貴戚の人も手つけなかつた。出でて淮揚・順天を按巡し、大理丞となつて在職中陞り官に卒した。性、孝友で困乏に周給すること、終身、一日の如し。〔蘭臺法鑒錄、二十〕。

【安名尊】583 アナタフト 催馬樂の曲名。〔催馬樂〕。

【安祿山】584 アンロクサン 唐、營州柳城の胡人。本姓は康。初名は阿犖山、又、軋犖山に作る。少くして父を失ひ、母の再嫁に從つて安姓となる。長じて忮忍多智、善く人情を憶測し、六蕃の語に通ず。張守珪の偏將となり、平盧節度となつて入朝し、奏對、旨に稱つたので玄宗に寵せられ、范陽節度兼河北採訪使となり、平盧軍を領した。楊貴妃の養兒たることを許されてから、逆謀日に長じ、遂に雲中太守河東節度使となつて三道を兼制し、意益〻侈り、遂に兵を擧げて反し、京師を陷れ、自ら雄武皇帝と號した。國號は燕、建元して聖武といふ。翌年、長子の慶緒及び李豬兒の爲に弑せられた。〔舊唐書、二百上〕・〔唐書、二百二十五〕。

【安引配鹽】585 an^1 yin^3 p'ei^4 yen^2 鑑札に照しあはせて鹽を分配すること。鹽制上の用語。引は鹽の鑑札。

【安孝先生】586 アンカウセンセイ 清、張嘉玲（**4**－**9812**··851）の號。

【安桂坡館】587 アンケイハクワン 明、安國の室名。

【安見晚山】588 ヤスミバンサン 江戸の人。名は元道。字は太中。通稱は文平。號は晚山。林鳳岡に師事し、程朱を宗とす。官は幕府儒官。享保十六年五月三十一日歿す、年五十。著に講經筆記・晚山摘稿がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【安憲先生】589 アンケンセンセイ 後魏、刁冲（**2**－**1846**··40）の謚。

【安古太瓜】590 アコダウリ 瓜の名。あこだ。あかだうり。夏、黃色の花を開き、果實は正圓又は長楕圓形で、果皮が赤く、味はよくない。

【安士全書】591 アンシゼンシヨ 書名。周思仁撰。勸善の書で、萬善先資・欲海回狂・陰隲出文廣義・西歸直指の四種がある。安士は思仁の字。

【安質母尼】592 アンチモニイ もろくて白色の光澤ある金屬。鉛と合金にして、活字や種々の器物の鑄造に用ひる。Antimony の音譯。

【安如二泰山一】593 ヤスキコトタイザンノゴトシ 泰山が動かぬ程に安定してゐる。安固として動かない喩。泰山は山東省に在る名山。〔漢書、嚴助傳〕天下之安、猶三泰山而四二維之一也。

【安井滄洲】594 ヤスヰサウシウ 日向の人。名は朝完。字は子全。通稱は平右衞門。號は滄洲。古屋昔陽・皆川淇園の說を奉ず。官は日向飫肥藩儒。天保六年歿す、年六十九。著に遊記・古今體・滄洲隨筆がある。〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【安井息軒】595 ヤスヰソクケン 日向、飫肥の人。名は衡。字は仲平。號は息軒。滄洲の第二子。松崎慊堂に師事し、日向飫肥藩儒・昌平黌教官となる。篤く古を好み、經史を鑽研し、尤も力を漢唐の注疏に用ひ、參するに衆說を以てした。考據精確、能く先儒未發の所を發明した。旁ら算數に精通し、又、文章に巧。明治九年九月二十三日歿す、年七十八。著に海防私議・急救或問・外寇問答・管子纂詁・觀風抄・軍政或問・左傳輯釋・忍艸・周禮補疏・書說摘要・睡餘漫筆・靖海問答・戰國策補正・息軒遺稿・息軒文鈔・讀書餘適・辨妄・毛詩輯疏・孟子定本・料夷問答・論語集說がある。

【安退處士】596 アンタイシヨシ 宋、劉師正（**2**－**2224**··1005）の號。

【安咀羅縛】597 アンタラバ 唐代、西域の國名。突厥の屬國。覩貨邏の故地。今のアフガニスタンの東境、巴克達山地方。Antarava の音譯。〔大唐西域記〕。

【安的列斯】598 アンチルス 群島の名。所謂アンチル群島。カリブ海にあり、北アメリカから南アメリカに及ぶ大小の二群島。Antilles の音譯。

【安剔鼈阿】599 オンタリオ 地名。カナダの州名。ハドソン灣に沿ふ。Ontario の音譯。

【安藤東野】600 アンドウトウヤ 下野の人。本姓は瀧田、名は煥圖、字は東壁。通稱は仁右衞門、略稱は藤東野、號は東野。中野撝謙・荻生徂徠の說を奉ず。官は柳澤侯儒。詩文に巧で、又、音律に精通す。享保四年四月十三日歿す、年三十七。著に東野遺稿がある。〔先哲叢談、正、七〕。

【安費揚古】601 アンピヤウコ 清、滿洲鑲藍旗人。姓は覺爾察氏。開國功臣の第一位。官は一等大臣。〔清史稿、二百三十一〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十一〕・〔碑傳集、三〕。

【安部將翁】602 アベシヤウヲウ 陸奥の人。名は輝任。字は丹山。號は將翁軒。通稱は友之進。寶曆三年歿す。著に本草綱目類考・本草徵義・採藥筆記・採藥使記・將翁軒隨筆・同續筆各・眞僞諸藥考・三百種考・藥性要覽・藥性表擇記各・人參耕作記・七十二候辨・人參辨正・大雅之論・硫黃盃考・柳岡雜記・精神考各がある。〔先哲叢談、續、四〕。

【安部鳳樓】603 アベホウロウ 武藏の人。名は正識。字は子遠。號は鳳樓。通稱は兵庫。武藏忍藩士。美作守となり、後、豐後守となる。享和三年二月歿す、年四十。著に遊藝館詩集・鳳樓詩稿・鳳樓詩二稿がある。〔諸藩藏版書目筆記〕・〔國書解題〕。

【安奉鐵路】604 アンポウテツロ 鐵道の名。奉天から安東に至る迄の舊南滿洲鐵道の支線。

【安籠箐山】605 アンロウセイサン 山名。貴州省關嶺縣の慕役司の北。〔讀史方輿紀要、貴州、安順軍民府、永寧州、慕役長官司〕安籠箐山、司北五十里、山巒相接、林木蓊密、周四十里。

【居レ安思レ危】606 ヤスキニキテアヤフキヲオモフ 安寧の日に在つても、常に危難の來らんことを思うて忘れることがない。〔左氏、襄、十一〕書曰、居レ安思レ危、思則有レ備、有レ備無レ患。

【問レ安視レ膳】607 アンヲトヒゼンヲミル 起居をたづね、食物の鹽梅をみる。尊長に事へるさま。〔資治通鑑、唐紀〕文宗、開成二年、太子當二雞鳴一而起、問レ安視レ膳。〔注〕記、文王之爲二世子一、雞初鳴而衣服、至二於寢門外一、問二內豎之御者一曰、今日安否何如、內豎曰、安、文王乃喜、其有レ不レ安レ節、則內豎以告二文王一、文王色憂、行不レ能レ正レ履、至二於復レ初、然後亦復レ初、食上必在レ視二寒暖之節一、史炤曰、熟食曰レ饔、具食曰レ膳、膳之爲レ言善也。

【安而不レ忘レ危】608 ヤスクシテアヤフキヲワスレズ 安きに居て危難を忘れないこと。油斷しないこと。〔易、繫辭下〕君子安而不レ忘レ危、存而不レ忘レ亡、治而不レ忘レ亂。

【安知二曠士懷一】609 イヅクンゾクワウシノクワイヲシラン こせこせした小人には、曠達の士の胸中を知ることが出來ない。〔鮑照、代二放歌行一〕小人自齷齪、安知二曠士懷一。

【安知歇貌林】610 アンチヘブリン 藥の名。無色無味で小板様の解熱藥。Antifebrine の音譯。

【安知二彼所レ觀】611 イヅクンゾカノミルトコロヲシラン 世に彼の心中を知る者がない。〔曹植、美女篇〕衆人徒嗷嗷、安知二彼所レ觀。

【安盤守意經】612 アンハンシユイキヤウ 佛經名。大安般守意經の略。三卷。後漢、安世高譯。〔癸辛雜識〕佛藏中有二安盤守意經一、云三其法始二於調身簡息一、以謂、凡出二入鼻中一而有レ聲者、風也、雖レ無レ聲結滯而不レ通者、喘也、雖レ無レ聲亦不二結滯一、而猶粗悍不レ細者、氣也、去二是三者一、乃謂二之息一。

【安部井帽山】613 アベヰバウザン 會津の人。名は褧。字は章卿。通稱は辨之助。號は帽山。經學は程朱を宗とし、林述齋・古賀精里に師事す。官は會津藩儒。弘化の頃歿す。著に近思錄訓蒙輯疏・四書訓蒙輯疏・四書剳記がある。〔國書解題〕・〔會津藩著述目錄〕。

【安北設治局】614 アンポクセツチキヨク 地方官署の一。民國、置く。綏遠省に屬し、今の包頭縣の西北にある。

【安北都護府】615 アンポクトゴフ 唐代の六都護府の一。永徽の初に置き、關內道に屬す。時に薛延陀が既に滅び、鐵勒諸部回紇等十一姓が皆內附し、北荒の地は悉く封內と爲つたので、燕然都護府を置いて狼山等の羈縻府州二十七を領し、關內道に屬せしめた。治所は北河の北。（今の內蒙古烏喇特旗の西境）。龍朔の初、燕然都護府を回紇に遷し、瀚海都護府と改稱し、今の戈壁以北の諸府州を統轄せしめた。總章の初、又、安北都護府と改名し、玄宗の開元二年に治所を中受降城に徙す。（今の綏遠省烏拉特旗の西、黃河の北岸）。至德以後、鎭北都護府と改稱し、更に治所を天德軍に徙す。（今の綏遠省烏拉特旗の西北）。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、唐〕於二沿邊諸道一、設二六都護一、分二統之一、安北都護府、屬二關內道一、永徽初、薛延陀既滅、鐵勒諸部回紇等皆內附、復討二擒突厥遺種車鼻可汗於金山一、於レ是北荒悉爲二封內一、因置二燕然都護府一、領二狼山等羈縻府州共二十有七一、龍朔二年、徙二燕然都護府於回紇一、更名二瀚海一、盡統二磧以北州府一、總章二年、又改爲二安北都護府一、開元二年、移二治中受降城一、至德以後、謂二之鎭北一、大歷八年、徙二治天德軍一、金山在二漠北一、突厥建牙處也、狼山府在二鬱督軍山南一、以二車鼻部落一置、明年、廢二狼山一爲レ州、中受降城、南去二廢夏州一八百里、西去二天德軍一二百里、並在二今楡林塞外一。

【問レ安惟點頷】616 アンヲトフニタダテンガンス 唐の郭子儀は其の數十人の孫が挨拶に出る毎に、盡くは見分けがつかなかつたので、惟うなづくのみであつたといふ故事。〔唐書、郭子儀傳〕諸孫數十、不レ能二盡識一、至レ問レ安、但頷レ之而已。〔精註雅俗故事讀本、上、祖孫父子〕問レ安惟點頷、郭子儀厥孫最多。

【安得二力士一翻二日車一】617 イヅクニカリキシヲエテニツシヤヲヒルガヘサン 何處かで勇力の士を求め得て、日輪を翻させて長く西に傾かぬやうにしたい。〔李尤、九曲歌〕年歲晚暮時已斜、安得二力士一翻二日車一。

【安得二廣廈千萬間一大庇二天下寒士一倶歡顏】618 イヅクニカクワウカセンマンゲンヲエテオホイニテンカノカンシヲオホヒトモニクワンガンセン 何處かで千萬間の大家を作つて、之で天下の貧しい人を大いに蔽うてやり、此等の人と倶に喜び合ひたいものだ。天下大衆の貧苦を救ひたいといふ仁人の心を詠じた句。〔杜甫、茅屋爲二秋風所レ破歌〕自レ經二喪亂一少二睡眠一、長夜沾濕何由徹、安得二廣廈千萬間一、大庇二天下寒士一倶歡顏。

【論レ安言レ計動引二聖人一羣疑滿レ腹衆難塞レ胸】619 アンヲロンジケイヲイヒヤヤモスレバセイジンヲヒキグンギハラニミチシユウナンムネニフサガル 安からんことを論じ、又、永々と計を談じて速かに戰ふことをせず、ややもすれば聖人の事を引いて時宜に合はぬ議論をする。故に群臣は之に迷つて、種々の疑が一杯におこり、色々の苦難が胸懷に塞がる。〔諸葛亮、後出師表〕劉繇王朗各據二州郡一、論レ安言レ計、動引二聖人一、羣疑滿レ腹、衆難塞レ胸。

【宂】7073 トツ 突(8—25439)の古字。〔字彙補〕宂、古文突字。

【宍】7074 シユウ 終(8—27372)の古字。〔海篇〕宍、古文終字。

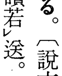
四畫

【宆】7075 メン ⿱宀丏(3—7088)の譌字。〔康熙字典〕宆、按、卽⿱宀丏字譌。

【写】7076 シヤ 寫(3—7320)の略字。

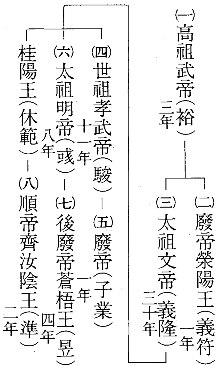
【宊】7077 ㊀トツ ㊀突(8—25439)に同じ。〔集韻〕突、或省。㊁カ ㊁家(3—7169)に同じ。〔六書統〕家、或作レ宊、从レ宀從レ犬。〔正字通〕宊、俗家字。

【宋】7078 ソウ ス 〔集韻〕蘇綜切 ㄙㄨㄥˋ 宋 sung^4


小篆

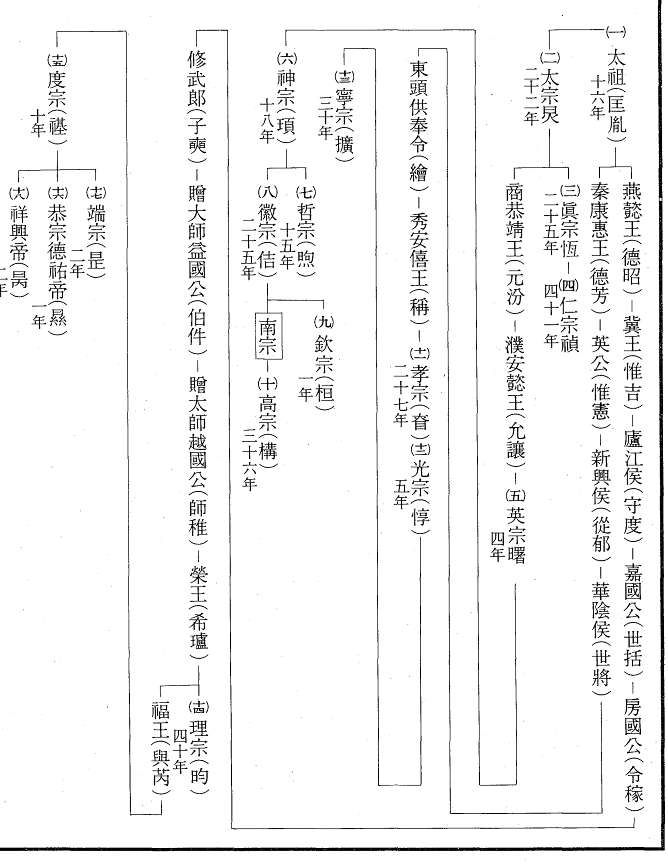
❶すまひ。をる。〔說文〕宋、凥也、从二宀木一、讀若レ送。〔段注〕此義未レ見二經傳一、名レ子者不レ以レ國、而魯定公名宋、則必取二其本義一也。❷國名。㋑子姓、公爵。周の武王が殷の紂王を誅して後、殷の帝乙の庶長子で紂王の庶兄の微子啓を封じて湯の祀を奉ぜしめた國。商丘に都す。卽ち今の河南省商丘縣の南。春秋の時、襄公は諸侯に覇たらんと欲し、楚と戰ふ。其の後、景公より數代を經て、康王偃に至り、王と稱して覇たらんことを圖り、齊・楚・魏を破つて遂に敵國となる。周の愼靚王の時、齊の湣王が楚・魏と共に宋を伐ち、之を滅ぼして、其の地を分割した。帝王世紀に、微子啓より玆に至るまで二十二世といふ。今の河南省商丘縣以東、江蘇省銅山縣以西の地にあたる。〔釋名、釋州國〕宋、送也、地接二淮泗一而東

南傾、以爲㆓殷後㆒、若㆑云㆔汙穢所㆑在、送使㆓隨㆑流東入㆒㆑海也。〔文獻通考、封建考〕宋、微子、殷帝乙元子、紂庶兄、武王崩、武庚叛、周公討㆓誅之㆒、乃封㆓微子於宋㆒、奉㆓殷祀㆒、微子卒、弟微仲立、傳㆓宋公・丁公・湣公・煬公・厲公・釐公・惠公・哀公・戴公・武公・宣公・穆公・殤公・莊公・湣公・桓公・襄公・成公・昭公・文公・共公・平公・元公・景公・昭公・悼公・休公・辟公・剔成・偃㆒、凡三十二傳、而宋爲㆓齊所㆑滅。㋺隋末に輔公祏が湖北・江蘇・安徽の地に位を僭して建てた國。〔唐書、輔公祏傳〕公祏、齊州臨濟人、隋季、與㆓鄉人杜伏威㆒爲㆑盜、轉㆓掠淮南㆒、云云、武德二年詔、授㆓公祏淮南道行臺尙書左僕射㆒、封㆓舒國公㆒、云云、八月、遂僭㆑位、國稱㆑宋、云云、孝恭率㆓諸將㆒破㆑之、云云、公祏棄㆓妻子㆒、與㆓服心士數十㆒抵㆓武康㆒、野人執送、丹孝恭斬㆑之、云云、凡十三年。㋩元末に韓林兒が亳に建てた國。〔名山藏、天因記〕小明王韓林兒者徐人、云云、元順帝十五年、號㆓小明王㆒都㆑亳、國號㆑宋。**㊂朝代の名**。㋑南朝の一。劉氏。漢の楚の元王の後と稱せられる。東晉の安帝の時、彭城に劉裕なるものがあり、安帝の爲に屢〻亂を平げて功を樹て、大いに勢力を得て相國宋公となり、遂に安帝を弑す。次いで其の弟瑯琊王德文(恭皇帝)が立つたが、裕は更に宋王に進み、遂に晉の讓を受けて國を宋と號す。之を高祖武皇帝といふ。是に至つて、後魏と共に南北朝を形成した。武帝の後、諸帝相嗣いで立つたが、多くは暗愚にして、政令宜しきを得ず、加ふるに後魏が連年兵を動かして江北を侵したので、常に之に苦しんだ。明帝の時に至り、遂に淮北の地を魏に奪はる。時に蕭道成が出て朝政を左右し、太子昱を弑して順帝を立て、爵を進めて王となり、遂に帝を廢して自立し、國を齊と號した。之を齊の太祖高皇帝といふ。かくて宋は建康(今の江蘇省江寧縣治)に都し、今の長江・珠江兩流域の各省を領有し、四世、八帝、六十年にして滅亡す。趙宋と區別して劉宋といふ。〔文獻通考、帝系考〕宋高祖武高帝、彭城綏輿里人、姓劉、名裕、以㆓庚申㆒受㆓晉禪㆒卽㆓皇帝位㆒、云云、順帝以㆓丁巳㆒嗣㆑位、在位三年、以㆓己未㆒禪㆓於齊㆒、宋八帝共六十年、首㆓庚申㆒盡㆓己未㆒。



㈠高祖武帝(裕)三年
㈡廢帝榮陽王(義符)一年
㈢太祖文帝(義隆)三十年
㈣世祖孝武帝(駿)十一年－㈤廢帝(子業)一年
㈥太祖明帝(彧)八年－㈦後廢帝蒼梧王(昱)四年
桂陽王(休範)－㈧順帝齊汝陰王(準)二年

㋺趙氏。始祖を趙匡胤といふ。漢の京兆の尹で廣漢の後と稱す。後周に仕へて屢〻戰功があり、歸德の節度使に累進す。契丹と北漢との入寇を防がんとして、兵を率ゐて陳橋驛(河南省開封府祥符縣)に至り、將士に推されて汴に入り、後周の恭帝宗訓の禪を受けて國を宋と號し、汴(今、河南省開封縣治)に都す。之を太祖といふ。弟の太宗に至つて中國統一の業をあげ、十八行省の地(北は河北山西の北部無く、南は雲南貴州の南部無し)を領有し、十五路に分つ。其の後、西夏・遼との交



㈠太祖(匡胤)十六年
燕懿王(德昭)－冀王(惟吉)－盧江侯(守度)－嘉國公(世括)－房國公(令稼)
秦康惠王(德芳)－英公(惟憲)－新興侯(從郁)－華陰侯(世將)
㈡太宗炅二十二年
㈢眞宗恆二十五年－㈣仁宗禎四十一年
商恭靖王(元汾)－濮安懿王(允讓)－㈤英宗曙四年
東頭供奉令(繪)－秀安僖王(稱)－(十一)孝宗(昚)二十七年(十二)光宗(惇)五年
(十三)寧宗(擴)三十年
㈥神宗(頊)十八年
㈦哲宗(煦)十五年
㈧徽宗(佶)二十五年
㈨欽宗(桓)一年
南宗－㈩高宗(構)三十六年
修武郎(子奭)－贈大師益國公(伯件)－贈太師越國公(師稚)－榮王(希瓐)
(十四)理宗(昀)四十年
福王(與芮)
(十五)度宗(禥)十年
(十七)端宗(昰)二年
(十六)恭宗德祐帝(㬎)一年
(十八)祥興帝(昺)二年

渉がはじまつたが國步困難となり、更に、金が滿洲に起るや、切りに宋の北邊を掠めて燕京を取り、遂に南下して汴京を陷れ、徽宗・欽宗等を捕へ去つた。これ迄を北宋といふ。是に於て高宗は南渡し、臨安(今、浙江省杭縣治)に都し、淮漢以南の地を保有し、分つて十六路とした。之を南宋といふ。爾來、金との交戰に忙しく、國步日に非となり、都を各地に轉じ、孝宗に至つて、金と叔姪の關係を結ぶ。後、蒙古が起り、四方を平略するに及んで、宋は之と連盟して金を滅ぼしたが、宋も亦、次いで蒙古(元)に滅ぼされた。かくて宋は九世、百六十八年にして金の太宗に降り、南渡の後、九世、百五十二年にして滅んだ。前後通じて凡そ十八帝、三百二十年。劉宋と區別して趙宋といふ。〔文獻通考、帝系考〕宋太祖英武聖文神德皇帝、其先涿郡人、皇考始遷㆓洛陽㆒、姓趙氏、名匡允、庚申、以㆓殿前都點檢㆒受㆓周禪㆒卽㆓皇帝位㆒、云云、高宗以㆓丁未㆒嗣㆓立於南京㆒、云云、度宗甲子嗣立、在位十一年、甲戌崩。〔續文獻通考、帝系考〕宋孝恭懿聖皇帝、度宗嫡子、甲戌嗣立、云云、端宗皇帝昰・帝昺、皆度宗庶子、昰初封㆓建國公㆒、昺初封㆓永國公㆒、恭帝嗣㆑位、封㆓昰吉王㆒、尋徙㆓益王㆒、昺信王、尋徙㆓

廣王一、恭帝降レ元、陳宜中・陸秀夫・張世傑等、立二昰於福州一、以爲二宋主一、封二昺衞王一、戊寅、昰殂、在位三年、號曰二端宗一、又立レ昺爲レ主、己卯、厓山兵潰、陸秀夫負レ之投レ海死、在位二年、宋亡、宋東都九帝、起二太祖建隆元年庚申一、止二欽宗靖康二年丁未一、共一百六十八年、南渡九帝、起二高宗建炎二年戊申一、止二帝昺祥興二年乙卯一、共一百五十二年、前後共三百二十年。❹**姓**。〔唐書、宰相世系表〕宋氏、出レ自二子姓一、殷王帝乙長子啓、周武王封二之于宋一、三十六世至二君偃一、爲二楚所レ滅、子孫以レ國爲レ氏。❺**一百六韻の一**。去聲第二。

名乘 クニ。ヲキ。

解字 會意。宀と木との合字。宀は家、故に本義を住居、又、をるの義とす。一說に、會意形聲。宀と松の省畫との合字。松は音をあらはす。故に鄭の公子宋の字を子公といふ。又、國名。字解を見よ。〔說文通訓定聲〕宋、居也、从レ宀从レ木、讀若レ送、按、松省聲、今附二于此一、左宣四傳、鄭公子宋、字子公。

【宋偓】1ソウアク 宋、河南洛陽の人。本名は延渥。五代、唐の莊宗の外孫。官は檢校太師、封は邢國公。太祖、偓の長女を后とす。〔宋史、二百五十五〕・〔宋史新編、六十八〕・〔東都事略、二十一〕。

【宋安】2ソウアン ❶郡名。㋑南朝宋、置く。湖北省應山縣。㋺南齊、置く。四川省の境。㋩後魏、置く。河南省光山縣の西。❷縣名。㋑南朝宋、置く。湖北省應山縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨川、應山縣〕宋安城、在二縣東北一、劉宋分二義陽郡一、立二東隨左郡一、大明八年、省爲二宋安縣一、齊亦置二宋安左郡一、屬二司州一。㋺南朝宋、置く。四川省蒼溪縣の東北。㋩南朝宋、置く。故治は廣東省新會縣の界。㋥梁、置く。河南省光山縣の西。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、光山縣〕宋安城、在二縣西南一、本樂寧縣地、隋廢入二羅山縣一、唐初、復析置二宋安縣一、以二樂寧故宋安郡治一也。㋭後魏、置く。河南省の境。

【宋扆】3ソウイ 金、宛平の人。正隆の進士。官は沁南軍節度使。〔金史、一百二十一〕。

【宋意】4ソウイ ❶戰國の人。志士。荊軻の友、燕の太子丹の客。宋如意。〔淮南子、泰族訓〕荊軻西刺二秦王一、高漸離・宋意、爲擊レ筑而歌二於易水之上一、聞者莫レ不二瞋レ目裂レ眦、髮植穿一レ冠。〔注〕高漸離・宋意、皆太子丹之客。❷後漢の人。均の族子。字は伯志。孝廉に擧げられ、司隸校尉となる。尚書に通ず。〔後漢書、七十一〕。

【宋維】5ソウヰ 後魏の人。弁の子。字は伯緒。官は洛州刺史。靈太后に用ひられたが、後、死を賜はる。〔魏書、六十三〕。

【宋祐】6ソウイウ 宋、兪靖(**1**－**1437**‥45)の字。

【宋煜】7ソウイク 宋の人、棐の子。字は伯華。循州の長官となり、後、賓州の長官に移る。〔宋史翼、二十一〕。

【宋軼】8ソウイツ 朝鮮李朝、礪山の人。字は可中。諡は肅靖。官は領議政。封は礪山府院君。

【宋隱】9ソウイン 後魏、列人の人。字は處默。孝子。官は行臺右丞。〔魏書、三十三〕・〔北史、二十六〕。

【宋筠】10ソウヰン 清の人。犖の子。字は蘭揮。號は晉齊。康熙の進士。官は奉天府尹。書室を綠波園・青綸館といふ。著に綠波園詩集・使滇錄がある。〔碑傳集、六十九〕。

【宋于】11ソウウ 明、吳亮(**2**－**3365**‥402)の字。

【宋瑛】12ソウエイ 明、沅陵の人。官は平樂通判。苗を討つて害せらる。〔明史、一百五十五〕・〔國朝獻徵錄、四十三〕。

【宋穎】13ソウエイ 宋、葉薦(**9**－**31387**‥96)の字。

【宋璟】14ソウエイ 唐、南和の人。進士。諡は文貞。武后の時、御史中丞となり、張昌宗・張易之を誅せんことを奏す。睿宗の時、太平公主を外に出さん事を奏して楚州刺史に貶せられた。開元の初、刑部尙書を拜し、廣平郡公に封ぜられ、後、姚崇の薦めによつて相となり、能く人を用ひ、刑賞私無く、常に顏色を犯して直諫した。姚崇と共に玄宗を助けて遂に開元の治を致す。故に唐代の賢相と言へば、前に房杜を稱し、後に姚宋を稱す。〔舊唐書、九十六〕・〔唐書、一百二十四〕。

【宋繇】15ソウエウ 後魏、燉煌の人。字は處業。呂光の時、秀才に擧げられ、郎中となる。後、段業に奔つたが、其の遠略のないのを知つて、復た西方の李暠の許に奔つた。沮渠蒙遜が酒泉を平げて繇を配下とした時、孤、李歆に剋つを喜ばず、宋繇を得たるを欣ぶと言つたといふ。かくて尙書吏部郎中に拜せられた。蒙遜が死せんとするや、其の子を繇に託して右丞に進めた。魏の太武帝の時、河西王・左丞相となる。〔魏書、五十二〕・〔北史、三十四〕。

【宋懌】16ソウエキ 明の人。廉の孫。字は子夷。官は侍書。〔明史、一百二十八〕・〔國朝獻徵錄、二十二〕。

【宋炎】17ソウエン 宋、陝縣の人。官は秉義朗。金と戰つて死す。〔宋史、四百四十八〕・〔宋史新編、一百七十三〕。

【宋琰】18ソウエン 明、奉化の人。字は廷書。性、溫雅にして、家に居るや、孝友を以て聞ゆ。永樂中の進士。庶吉士に選ばれ、永樂大典の纂修に預かり、中書舍人を授けられ、河南右參に遷り、兵部侍郎に終はる。〔國朝獻徵錄、四十三〕。

【宋琬】19ソウヱン 清、萊陽の人。字は玉叔。號は荔裳、又、漫人。順治の進士。官は四川按察使。詩に長じ、施閏章と名を齊しくし、世に南施北宋といふ。書室を安雅堂といふ。著に安雅堂集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝先正事略、三十七〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十二〕・〔碑傳集、七十八〕。

【宋音】20ソウオン ❶春秋の宋、即ち殷の子孫の國の音樂。〔禮、樂記〕鄭音好レ濫淫レ志、宋音燕レ女溺レ志。〔元稹、五品女樂判〕罔レ循二唐令一、空溺二宋音一。❷宋代に行はれた字音。行在のアン、普請のシンの類。

【宋可】21ソウカ 金、武陟の人。字は予之。節義に厚く、元兵が可の子を質として招いたが終に應じなかつた。〔金史、一百二十七〕。

【宋家】22ソウカ 兵營の名。もと送甲營といふ。河北省豐潤縣の南。〔豐潤縣志〕相傳、唐太宗征レ遼、建二營於此一、於レ南設二煆爐一製二造兵甲一、皆送二於此營一收貯、故名二送甲營一、今誤爲二宋家營一。

〔宋家香〕23ソウカカウ 荔枝(**9**－**30865**‥9)の名。〔閩小記〕荔枝以二莆中宋家香一爲二第一一、肉肥核小、實作二栴檀香一、尤足レ異也。

〔宋家集〕24ソウカシフ 地名。❶山東省利津縣の東北黃河の北岸。❷安徽省亳縣の西北。❸湖北省棗陽縣の南。昆水の南濱。

【宋澥】25ソウカイ 宋の人。沆の弟。山水を畫くに巧。清節の人。〔宋史、二百八十七〕。

【宋江】26ソウカウ ❶川の名。㋑四川省閬中縣の東河。東河(**6**－**14499**‥57)を見よ。㋺揚子江の支流。源は雲南省鎭雄縣の北。北流して四川省定川溪に會す。其の下流は南廣水となりて江に入る。㋩永寧河の支流。源は雲南省威信縣。東北流して四川省古宋縣を流る。❷宋、鄆城の人。徽宗の時、盜となつて河朔諸郡を剽掠したが後、海州知州となり、張叔夜に降る。

【宋沆】27ソウカウ 宋の人。湜の從弟。太平興國の進士。官は文思副使・京西提點刑獄。〔宋史、二百八十七〕。

【宋郊】28ソウカウ 宋、宋庠(124)を見よ。

【宋香】29ソウカウ 荔枝(**9**－**30865**‥9)の名。〔容齋四筆、莆田荔枝〕莆田荔枝、名品皆出二天成一、雖レ以下其核種上レ之、終與二其本一不中相類上、宋香之後無二宋香一。

【宋耕】30ソウカウ 宋、蜀州の人。號は雪溪先生。紹興中、閬中令となつたが、官を棄てて去り、終はるところを知らず。〔尙友錄、十七〕。

【宋康】31ソウカウ 戰國、宋の康王をいふ。〔墨子、所染〕宋康染二於唐鞅・佃不禮一。

〔宋康王〕32ソウカウワウ 戰國、宋の君。名は偃。兄の剔成を逐つて自立す。齊、魏と敵國となる。血を革の囊に盛り、之を懸して射、天を射るといつた。酒色に溺れ、羣臣の諫める者は射殺したので、諸侯は皆之を稱して桀宋といふ。立つて四十七年、齊の湣王が魏・楚と兵を合せて宋を伐ち、偃を殺して宋を滅ぼし、其の地を三分した。〔史記、三十八〕・〔戰國宋策〕。

【宋鼇】33ソウガウ 明、光化の人。貢生を以て建平縣丞となつたが、倭の入寇するや、城陷りて死す。〔昭代明良錄、十九〕。

【宋玨】34 ソウカク　明、莆田の人。又、瑴に作る。金陵に流寓す。字は比玉。自ら荔枝仙と號す。國子生。山水畫に長じ、兼ねて八分書を善くし、小詩も亦巧。〔明詩綜、六十五〕。

【宋瑴】35 ソウカク　宋玨(34)を見よ。

【宋學】36 ソウガク　宋代の學。漢唐の學などに對する稱。主として義理を主とする儒學の一派の學を指す。濂溪の周敦頤に起り、洛陽の程顥・程頤の二程、關中の張載に盛となり、閩中の朱熹によつて大成せられた。一に訓詁詞章の學に對して義理學といひ、又、道學・性命學・性理學・理學ともいひ、又、其の生地に取つて濂洛關閩の學といひ、約して程朱學ともいふ。周敦頤には太極圖說・通書があり、二程は其の門人で、程顥の定性書は太極圖說と表裏をなし、程頤は易傳・春秋傳・孟子解を著す。二程の門では、謝良佐・楊時・游酢・尹焞の四人が尤も著明で、程門四先生と稱せられる。又、張載は正蒙・東銘・西銘を著す。其の他、范仲淹・歐陽脩・呂公著・王安石・蘇軾等は純然たる儒者ではないが、皆經術に精通してゐた。南宋に至つて、孝宗・憲宗の世に大儒朱熹が出て、宋學を大成した。其の學は、居敬窮理を主とし、其の門に蔡沈・黃幹・李燔・張洽・陳淳等の俊才が輩出した。朱熹と同時に江南に陸九淵があり、程子の言は孔孟に類せずと說き、學者苟も道を知らば、六經皆心の注脚なりといふ。兄の九齡と共に學を講じ、悟入をたふとんで禪の頓悟に近く、朱子の窮理說に對抗して江西の二陸と稱せられた。九淵の門に楊簡・袁燮等がある。二陸は嘗て朱熹と鵞湖に會したが、論辯多く違ひ、理學は遂に分れて二派と爲つた。以上の諸家の外、張栻・胡安國・楊萬里・呂祖謙・陳傅良・眞德秀等の學者も輩出した。宋代儒學(447)・朱子學(**6**－**14424**・・313)を見よ。〔經解入門、漢宋門戶異同〕何謂㆓漢學㆒、許鄭諸儒之學也、何謂㆓宋學㆒、程朱諸儒之學也、二學何以異、漢儒釋㆑經、皆有㆓師法㆒、如㆓鄭之箋㆑詩、則宗㆑毛爲㆑主、許氏著㆓說文解字㆒、則博采通人、至㆓於小大㆒、信而有㆑證、卽其中今人所㆑視、爲㆓極迂且曲之義㆒、亦必碻有㆑所㆑受、不㆑同㆓臆造㆒、宋儒不㆑然、凡事皆決㆓於理㆒、理有㆑不㆑合、卽舍㆓古訓㆒、而妄出以㆓己意㆒、如㆓論語正名注㆒、則易㆓名字也之訓㆒、而指㆓衞父子之名㆒、子路問㆓聞斯行㆑諸、則易㆓包咸振㆑窮救㆑乏之說㆒、而以言㆓學問㆒、其說㆓禮制㆒、且有㆑据㆓後世之說㆒、釋㆓三代之書之弊㆒、此漢宋二家之所㆓以異㆒、而經家之所㆔以不㆑取㆓宋儒㆒也、至㆑辨㆓尚書古文之僞㆒、發㆓於宋儒㆒、實爲㆓鉅功㆒、學者治㆑經宗㆓漢儒㆒、立㆑身宗㆓宋儒㆒、則兩得矣。〔江藩、宋學淵源記〕春秋戰國之際、楊墨之說起、短長之策行、薄㆓湯武㆒非㆓周孔㆒、聖人之道幾㆓乎息㆒矣、暴秦燔㆑書、棄㆓仁義㆒、峻㆓刑法㆒、七十子之大義乖矣、漢興、儒生攟㆓摭羣籍於火燼之餘㆒、傳㆓遺經於既絕之後㆒、厥功偉哉、東京高密鄭君、集㆓其大成㆒、肆㆓故順㆒、究㆓禮樂㆒、以㆓故訓㆒通㆓聖人之言㆒、而正心誠意之學自明矣、以㆓禮樂㆒爲㆓敎化之本㆒、而脩齊平治之道自成矣、爰及㆓趙宋㆒、周程張朱所㆑讀之書、先儒之義疏也、讀㆓義疏之書㆒、始能闡㆓性命之理㆒、苟非㆓漢儒傳㆑經、則聖經賢傳、久墜㆓於地㆒、宋儒何能高㆓談性命㆒耶、後人攻㆓擊康成㆒、不㆑遺㆓餘力㆒、豈非㆔數㆑典而忘㆓其祖㆒歟、惟朱子則不㆑然、其言曰、鄭康成是好人、又曰、康成是大儒、再則曰、康成畢竟是大儒、朱子服㆓膺鄭君㆒如㆑此、而小生豎儒、妄肆㆓詆訶㆒、果何謂哉、然而爲㆓宋學㆒者、不㆘第攻㆓漢儒㆒而已㆖也、抑且同室操㆑戈矣、爲㆓朱子之學㆒者、攻㆓陸子㆒、爲㆓陸子之學㆒者、攻㆓朱子㆒、至㆓明姚江之學興㆒、尊㆑陸卑㆑朱、天下士翕然從㆑風、姚江又著㆓朱子晚年定論一篇㆒、爲㆓調人之說㆒、亦自悔㆓其黨同伐異㆒矣、竊謂、朱子主㆑敬、大易敬以直㆑內也、陸子主㆑靜、大學定而後能靜也、姚江良知、孟子良知良能也、其末節雖㆑異、其本則同、要皆聖人之徒也、陸子一傳爲㆓慈湖楊氏㆒、其言頗雜㆓禪理㆒、於㆑是學者乘㆑隙攻㆑之、遂集㆓失於象山㆒、詎知㆓朱子之言又何嘗不㆑近㆓於禪㆒耶、蓋析㆑理至㆑微、其言必至、涉㆔於虛而無㆓涯涘㆒、斯乃賢者過㆑之之病、中庸之所㆓以爲㆑難㆑能也、儒生讀㆓聖人書㆒、期㆓於明道㆒、明道在㆓於脩身㆒、無㆑他身體力行而已、豈徒以㆓口舌㆒爭哉、有明儒生、斷斷辯㆓論朱陸王三家異同㆒、甚無㆑謂也、我朝聖人首出、庶物㆒以㆓文道㆒化㆓成天下㆒、斥㆓浮僞㆒勉㆓實行㆒、於㆑是樸棫之士、彬彬有㆓洙泗之遺風㆒焉、藩少長㆓吳門㆒、習㆓聞碩德耆彥談論㆒、壯游㆓四方㆒、好搜㆓輯遺聞逸事㆒、詞章家往往笑以爲㆑迂、近今漢學昌明、徧㆓於寰宇㆒、有㆓一知半解者㆒、無㆑不㆔痛㆓詆宋學㆒、然本朝爲㆓漢學㆒者、始㆓於元和惠氏㆒、紅豆山房半農人手書楹帖云、六經尊㆓服鄭㆒、百行法㆓程朱㆒、不㆓以爲㆑非、且以爲㆑法、爲㆓漢學㆒者、背㆓其師承㆒何哉、藩爲㆓是記㆒、實本㆓師說㆒、嗟乎耆英彫謝、文獻無㆑徵、甚懼㆓斯道之將㆑墜、恥㆓躬行之不㆑逮也、惟願學者求㆓其放心㆒、反㆑躬律㆑己、庶幾可㆓與爲㆑善矣、至㆓於孰異孰同㆒、槩置㆑之弗㆑議弗㆑論焉。〔九經談、總論〕經學、古今之閒有㆓三大變㆒焉、而小變不㆑預也、有㆓漢學㆒焉、有㆓宋學㆒焉、有㆓清學㆒焉、漢學長㆓于訓詁㆒、宋學長㆓于義理㆒、清學長㆓于考證㆒。

〔宋學淵源記〕37 ソウガクエンゲンキ　書名。二卷。附錄一卷。清、江藩撰。清代に於ける宋學者三十一人の傳記で、孫奇逢に始まり、鄧元昌に終る。附記は沈國模以下九人を收む。江藩の漢學師承記と幷せ觀るべきもの。〔粵雅堂叢書、第二百十冊〕。

〔宋學士全集〕38 ソウガクシゼンシフ　書名。三十六卷。明、宋濂撰。其の學は經訓に根柢をおき、發して文章となつたもので、一代の泰斗である。宋文憲全集。〔四庫提要、集、別集類〕。

【宋葛】39 ソウカツ　金、完顏永功(**3**－**7079**・・56)の本名。

【宋咸】40 ソウカン　宋、建陽の人。字は貫之。天聖の進士。初め邵武軍の知、後に韶州の守。狄青が廣西を經制するや、咸を移して漕とす。功を以て職方員外郞に轉ず。奏して瓊管に學を立て、經史を賜ひて夷風を變ぜんと乞ふ。官は都官郞中に至る。著に易訓・毛詩正紀外義・論語增注・法言注・孔叢子注・朝制要覽等がある。〔四庫未收書目提要、二〕・〔宋史翼、二十三〕。

【宋涵】41 ソウカン　清、溧陽の人。字は叔邃。諸生。康熙中、鴻博に召試せられたが罷め歸り、泉石に逍遙して終る。詩・古文・詞に巧。書室を蘭楚堂といふ。著に蘭楚堂集がある。〔鶴徵錄、七〕。

【宋漢】42 ソウカン　後漢の人。弘の從孫。字は仲和。茂才に擧げらる。官は太中大夫。〔後漢書、五十六〕。

【宋簡】43 ソウカン　清、元和の人。字は粹心、又、長文。號は西樵。乾隆の進士。雲貴・山東の知縣に歷任す。著に說文諧聲がある。

【宋鑑】44 ソウカン　❶明、陽城の人。字は克明。成化の進士。官は知廬州府。〔蘭臺法鑒錄、十二〕。❷清、安邑の人。字は元衡。號は半塘。乾隆の進士。官は南雄通判。閻若璩の學を傳ふ。古文尚書疏證を重輯して尚書考辨を爲り、又、經史・方言・釋名・廣韻・水經注の諸書を采つて說文解字疏を爲る。〔國朝先正事略、三十二〕。

【宋杞】45 ソウキ　元、錢塘の人。字は授之。鄉貢の進士。經史に深く、詩と畫とに巧。〔宋史、二百八十四〕。

【宋祁】46 ソウキ　宋、安陸の人。字は子京。諡は景文。兄の庠と同じく進士に擧げられ、二宋と呼ばれた。龍圖閣學士、史館修撰となり、歐陽脩と共に唐書を修む。後、工部尚書、翰林學士承旨に至る。著に宋景文集・益部方物略・筆記がある。〔宋史、二百八十四〕・〔宋史新編、八十六〕・〔東都事略、六十五〕・〔隆平集、五〕・〔名臣碑傳琬琰集・上、七〕。

【宋紀】47 ソウキ　後魏の人。維の弟。字は仲烈。官は北道行臺。〔魏書、六十三〕。

【宋琪】48 ソウキ　宋、薊の人。字は俶寶。五代、晉の進士。史術に通ず。官は右僕射。〔宋史、二百六十四〕・〔宋史新編、七十三〕・〔東都事略、三十一〕・〔隆平集、四〕。

【宋僖】49 ソウキ　明、餘姚の人。初名は元僖。字は無逸。號は庸菴。元の至正の擧人で元史を修む。著に庸菴詩文集がある。四庫提要には宋禧に作る。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕。

【宋禧】50 ソウキ　明、宋僖を見よ。

【宋沂】51 ソウギ　元、清江の人。字は子與。官は常山縣尹。書室を春詠亭といふ。著に春詠亭稿がある。

【宋義】52 ソウギ　漢の人。もと楚の令尹。項梁に從つて秦を伐つ。梁が秦軍を破つて驕る色があつたので義は、戰勝ちて將驕り卒惰るものは敗ると諫めたが、梁は聽かず、卒に秦の將、章邯に破ら

れた。後、楚の懷王は義を召して上將軍とし、諸將皆之に屬し、卿子冠軍と號す。然るに、北方、趙を救つて安陽に至り、留まつて進まなかつたので、項羽、其の帳中に卽いて之を斬る。〔史記、七〕・〔前漢書、三十一〕。

【宋球】53（ソウキウ）　宋の人。守約の子。官は樞密副都承旨。〔宋史、三百四十九〕・〔宋史新編、一百二十〕

【宋鏡】54（ソウキャウ）　支那の宋時代の古鏡。製作は、唐鏡に比して劣り、紋樣もまた趣味に乏しい。雙龍・雙魚・童子・神仙・蓮華等のものが多く、銘文は大抵隸書または楷書で書かれてゐる。

【宋旭】55（ソウキョク）　明、嘉興の人。一に湖州の人。字は石門。號は天池髮僧・石門山人。畫に巧。萬曆中、名聲海內に重く、祖玄といはる。〔小腆紀傳、四〕。

【宋玉】56（ソウギョク）　❶戰國楚、鄢の人。屈原の弟子。官は楚の大夫。屈原が放逐せられたことを憫み、九辯を作つて之を悲しみ、又、招魂を作る。又、風賦・高唐賦・神女賦・登徒子好色賦の作があり、詞態巧麗にして、漢魏六朝の風氣を開く。〔楚辭、九辯、注〕九辯者、楚大夫宋玉之所レ作也。〔漢書、藝文志〕宋玉賦十六篇、楚人、與二唐勒一並レ時、在二屈原後一也。❷明、高陵の人。字は廷珍。幼より書を好み、道を行くにも廢しなかつたので、時人は宋五經と稱す。正德の經魁に擧げられ、訓導に任ぜられ、瀋府教授に終る。鄉に歸るや、從ひ學ぶ者甚だ衆し。〔明名人傳、二十七〕。

【宋均】57（ソウキン）　後漢、安衆の人。字は叔庠。河內太守として治績あり。〔後漢書、七十一〕。

〖宋均去獸〗58（ソウキンキョジウ）　蒙求の標題。後漢の宋均が九江の太守となつた時、郡に虎多く、民の害をなしたが、均が殘吏を除くや、虎は東に去つたといふ故事。〔蒙求、上、宋均去獸〕後漢宋均、字叔庠、南陽安衆人、光武時、遷二九江太守一、郡多二虎暴一、數爲二民患一、常募設二檻穽一、而猶多二傷害一、均到下二記屬縣一曰、夫虎豹在レ山、黿鼉在レ水、各有レ所レ託、且江淮之有二猛獸一、猶三北土之有二雞豚一也、今爲二民害一、咎在二殘吏一、而勞勤張捕、非二憂恤之本一、可三一去二檻穽一其後傳言、虎相與東游度レ江。

【宋欽】59（ソウキン）　明、蒼梧の人。湖廣參議より湖廣布政に歷官して致仕す。天順中、寇が梧州を陷れるや、屈せずして死す。〔明名人傳、二十七〕。

【宋錦】60（ソウキン）　宋の時織り出された錦。博物要覽に宋錦の名目四十二種類が載せてある。其の織り方の精美な爲、書畫碑帖の表裝に用ひる。

【宋矩】61（ソウク）　晉、敦煌の人。字は處規。官は宛戍都尉。石季龍の亂に自刎して死す。〔晉書、八十九〕。

【宋詡】62（ソウク）　明、松江華亭の人。字は久夫。書室を竹嶼山房といふ。著に竹嶼山房雜部がある。〔四庫提要、一百二十三〕。

【宋駒】63（ソウク）　宋の人。綬の後裔。字は廏父。進士。葉適に從つて心學を究む。壽春縣の長官となる。〔宋元學案、五十五〕。

【宋和】64（ソウクワ）　清、歙の人。字は介山。號は岸圃。書室を橋西草堂といふ。著に橋西草堂文集がある。

【宋果】65（ソウクワ）　漢、扶風の人。字は仲乙。德行家。官は公府侍御史・幷州刺史。〔後漢書、九十八〕。

【宋璜】66（ソウクワウ）　明、威縣の人。庠生。正德中、流賊が城を陷れて、璜の家に入り、害意はなかつたが、邑人の馬生が賊の銀を竊んだので、賊は璜の父昇を縛す。璜、哀告し、父の死に代らんと乞ひ、竟に璜は害せられ、父は子に因つて免れた。〔前明忠義別傳、二十八〕。

【宋官】67（ソウクワン）　宋の人で元に降つて仕官した者。〔宋史紀事本末、二十八〕積翁欲レ令四宋官謝昌言等十人、請三釋爲二道士一。

【宋纁】68（ソウクン）　明、商丘の人。字は伯敬。號は栗菴。諡は莊敬。嘉靖の進士。官は吏部尚書。著に四禮初稿がある。〔明史、二百二十四〕・〔萬斯同明史、三百三十〕・〔明史稿、二百八〕

【宋珪】69（ソウケイ）　金、燕の人。本名は乞奴。官は內侍殿頭。哀帝に殉死す。〔金史、一百三十一〕。

【宋牼】70（ソウケイ・ソウカウ）　戰國、宋の人。荀子・墨子には宋鈃、孟子には宋牼、莊子には宋榮子に作るが、皆同一人である。嘗て利を以て秦楚に說いて、戰爭を罷めしめんとす、孟子之にあひ、利を舍てて仁義を言ふべきことを勸む。其の說は墨子と相合し、交利を主張す。荀子は其の言、愚衆を欺惑するに足るといふ。玉函山房輯佚書中に宋子一卷を收む。〔孟子、告子下〕・〔莊子、天下〕・〔荀子、非十二子・天論・正論・解蔽〕・〔史記、七十四〕・〔漢書、三十〕。

【宋卿】71（ソウケイ）　字號。❶宋、趙希普（**10**－**37171**‥458）の字。❷明、趙希抃（**10**－**37171**‥460）の字。❸民國、黎元洪（**12**－**47994**‥95）の字。

【宋景】72（ソウケイ）　明、奉新の人。字は以賢。諡は莊靖。弘治の進士。官は左都御史。〔明史、二百二〕・〔萬斯同明史、二百八十九〕・〔明史稿、一百八十四〕。

〖宋景濂未刻集〗73（ソウケイレンミコクシフ）　書名。二卷。明、宋濂撰。文徵明の家に藏してゐた原稿を、康熙中、濂の裔孫實穎が版にしたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【宋慶】74（ソウケイ）　清、蓬萊の人。字は祝三。諡は忠勤。日清戰爭に兵を督し、拳匪の亂に北洋の軍務を補佐す。卒して三等男に封ぜらる。〔清史稿、四百六十七〕・〔清史列傳、六十二〕・〔續碑傳集、五十三〕。

【宋褧】75（ソウケイ）　元の人。本の弟。字は顯夫。諡は文清。泰定の進士。官は翰林直學士。兄の本と共に令名高く、二宋と稱せられる。著に燕石集がある。〔新元史、二百八〕。

【宋瓊】76（ソウケイ）　後魏、列人の人。字は普賢。孝子。〔魏書、三十三〕。

【宋俠】77（ソウケフ）　唐、清漳の人。醫者。官は朝散大夫藥藏監。〔舊唐書、一百九十一〕。

【宋鈃】78（ソウケン）　戰國、宋の人。宋牼（70）に同じ。〔荀子、非十二子〕不レ知下壹二天下一、建二國家一之權稱上、上二功用一、大二儉約一、而優二差等一、曾不レ足下以容二辨異一、懸中君臣上、然而其持レ之有レ故、其言レ之成レ理、足三以欺二惑愚衆一、是墨翟・宋鈃也。

【宋賢】79（ソウケン）　❶明、松江華亭の人。字は及甫。號は定宇。嘉靖の進士。新昌の令となり、後、御史となる。❷清、王元啓（**7**－**20823**‥1425）の字。

【宋權】80（ソウケン）　清の人。纁の族孫。字は平公。號は雨恭、後、歸德老農。諡は文康。明の天啓の進士。官は內翰林國史院大學士。〔清史稿、二百四十四〕・〔清史列傳、七十八〕・〔碑傳集、七〕。

【宋顯】81（ソウケン）　❶漢の人。宣帝の時、侍郎となる。公羊學家。〔前漢書、八十八〕。❷北齊、敦煌の人。武人。官は西兗州刺史。〔北齊書、二十〕・〔北史、五十三〕。

【宋元】82（ソウゲン）　❶宋と元との二代をいふ。〔宋元學案、總目〕宋元儒之有二學案一也、姚江黃黎洲先生、既輯二明儒學案一、因溯二宋元諸儒一、而爲レ之述二其學派一也。❷縣名。㋑南朝宋、置く。廣東省新會縣の界。〔讀史方輿紀要〕宋元廢縣、在二縣東北一、沈約志云、元嘉九年、割二南海・新會・新寧三郡界上新民一、立二宋安・新熙・永昌・始成・招集五縣一、二十七年、改二宋安一爲二宋元一、皆屬二新會郡一。㋺南朝宋、置く。廣東省四會縣の地。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、四會縣〕樂昌廢縣、在二縣北一、劉宋置レ縣、爲二樂昌郡治一、兼領二始昌・宋元・樂山・義立・安樂等縣一云云、隋郡廢、又幷二始昌等縣一入二四會縣一。

〖宋元學案〗83（ソウゲンガクアン）　書名。一百卷。清、黃宗羲撰、全祖望修し、王梓材增補す。補遺百卷があつたが、亡佚す。胡安定を始め以下、宋元の諸儒、八十七人の略傳及び其の學說著書等と學派別に編輯したもの。卷首に宋元學案序錄があり、各學案の初に學系表をのせ、其の學派の系統と他派との關係を明示す。清史稿、藝文志に著錄せらる。

〘參考書〙【宋元學案人名索引】一冊 東京帝大支那哲文學研究室編。

〖宋元憲集〗84（ソウゲンケンシフ）　書名。四十卷。宋、宋庠撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖宋元詩會〗85（ソウゲンシクワイ）　書名。一百卷。清、陳焯撰。吳之振の宋詩鈔、顧嗣立の元詩選は皆專集したものであるが、此の書は殘りの九百餘家を掇拾したもの。每家、名氏の後に里居出處を詳記す。〔四庫提要、集、總集類〕。

〖宋元通鑑〗86（ソウゲンツガン）　書名。一百五十七卷。明、薛應旂撰。宋の太祖から元の順帝まで、四百八十年間の事蹟を記し、體例は資治通鑑に倣ふ。〔四庫提要、史、編年類存目〕。

〖宋元通寶〗87（ソウゲンツウハウ）　宋の太祖の鑄た貨幣。〔董

迫、錢譜〕宋朝錢、聖宋元寶、宋太祖鑄、宋元通寶、同㆑上。

【宋元本行格表】88（ソウゲンホンカウカクヘウ） 書名。二卷。清、江標撰。

【宋元人說部叢刊】89（ソウゲンジンセツブソウカン） 叢書の名。凡て三十九冊。商務印書館編。宋元人の隨筆凡て二十六種を收む。其の目は石林避書錄話 四卷（宋、葉夢得）、捫蝨新語 十五卷・補遺（宋、陳善）、鶴林玉露 十八卷・補遺（宋、羅大經）、梁溪漫志 十卷（宋、費袞）、青箱雜記 十卷（宋、呉處厚）、雞肋編 三卷（宋、莊綽）、歸田錄 二卷・補遺（宋、歐陽脩）、默記 三卷（宋、王銍）、腳氣集 一卷（宋、車若水）、稽神錄 六卷・拾遺 一卷・補遺 一卷（宋、徐鉉）、燈下閑談 二卷（撰者未詳）、仇池筆記 二卷（宋、蘇軾）、嬾眞子錄 五卷（宋、馬永卿）、東原錄 一卷（宋、龔鼎臣）、隨隱漫錄 五卷（宋、陳世崇）、投轄錄 一卷（宋、王明清）、澠水燕談錄 十卷・補遺（宋、王闢之）、珩璜新論 一卷（宋、孔平仲）、玉照新志 五卷（宋、王明清）、春渚紀聞 十卷（宋、何薳）、塵史 三卷（宋、王得臣）、齊東野語 二十卷（宋、周密）、邵氏聞見錄 二十卷（宋、邵伯溫）、邵氏聞見後錄 三十卷（宋、邵博）、涑水紀聞 十六卷（宋、司馬光）、老學庵筆記 十卷（宋、陸游）。

【宋元明清儒學年表】90（ソウゲンミンシンジュガクネンペウ） 書名。一冊。今關天彭撰。宋の仁宗の明道元年に程顥が生れてから、宣統四年、中華民國と稱する迄の儒學者を年代順に排列し、字號・鄕貫・事蹟を併記したもの。年紀の下に干支と日本年號、西洋紀元を併記す。大正八年刊。

【宋愿】91（ソウゲン） 元、蒲圻の人。字は文齋。官は濂溪書院山長。後、澧州學正。

【宋五】92（ソウゴ） 唐の人、宋濟のこと。排行が五番目であるから五といふ。よく落第した人。〔國史補〕宋濟老㆓于文場㆒、嘗試賦誤失㆓官韻㆒、乃撫㆑膺曰、宋五又坦率矣、後禮部上㆓甲乙名㆒、德宗問曰、宋五免㆓坦率㆒否。〔摭言〕明皇呼㆓宋濟㆒爲㆓宋五㆒。

【宋口】93（ソウコウ） 地名。江蘇省淮安縣の北。神堰北閘ともいふ。

【宋弘】94（ソウコウ） 後漢、長安の人。字は仲子。哀平中、侍中となる。光武帝が卽位するや、太中大夫に拜せられ、大司空となり、宣平侯に封ぜらる。嘗て沛國に桓譚を薦めたが、後、帝が每に譚に琴を鼓せしめるを知り、薦擧を悔い、大いに譚を責めたので、帝聞いて容を改めて謝す。帝の姉の湖陽公主が新たに寡婦となつた時、帝は之を弘に妻さんとしたが、あらはには言ひ難いので、主を屛後に坐らせ、弘に謂つて、諺に貴くしては交を易へ、富みては妻を易ふといふが人情かと尋ねた。すると弘は、貧賤の交りは忘るべからず、糟糠の妻は堂を下さずと答へたので、帝は主を顧みて、事諧はずといつた。弘は官に在るや、入る所の租俸は悉く九族に分贍し、清行を以て稱せらる。〔後漢書、五十六〕。

【宋弘不諧】95（ソウコウフカイ） ㊀蒙求の標題。後漢の宋弘は名節の士であつた。光武帝の姉の湖陽公主が寡婦となつたので、帝が之を弘に妻さんとした時、弘は、糟糠の妻は堂を下さずと對へたので、帝は事諧はずといつたといふ故事。宋弘を見よ。〔蒙求、中、宋弘不諧〕後漢宋弘、字仲子、京兆長安人、光武卽位、爲㆓大司空㆒、時帝姊湖陽公主新寡、帝與共論㆓朝臣㆒、微觀㆓其意㆒、主曰、宋公威容德器、羣臣莫㆑及、帝曰、方且㆑圖㆑之、後引見、帝令㆔主坐㆓屛風後㆒、因謂㆑弘曰、諺言、貴易㆑交、富易㆑妻、人情乎、弘曰、臣聞、貧賤之交不㆑可㆑忘、糟糠之妻不㆑下㆑堂、帝顧謂㆑主曰、事不㆑諧矣。㊁戲曲の名。元、鮑吉甫撰。

【宋后】96（ソウコウ） 宋、太祖の后。宋偓の長女。諡は孝章。〔宋史、二百四十二〕。

【宋克】97（ソウコク） 明、長洲の人。字は仲溫。號は南宮生。官は鳳翔同知。書を善くす。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕。

【宋刻】98（ソウコク） 宋代に刻版した書籍。宋版本。〔書林清話、宋刻本一人手書〕宋時刻書、多㆓歐柳顏體字㆒、故流傳至㆑今、人爭寶藏。

【宋渾】99（ソウコン） 唐の人。璟の子。李林甫と善し。東京採訪使となつたが、收賄を以て流さる。〔唐書、一百二十四〕。

【宋才】100（ソウサイ） 宋、別之傑（**2**－**1924**・・221）の字。

【宋際】101（ソウサイ） 清、松江の人。字は峨修。著に闕里廣志がある。〔四庫提要、五十九〕。

【宋曹】102（ソウサウ） 清、鹽城の人。字は彬臣、又、邠臣。號は射陵（射陵逸史）・耕海潛夫。明の崇禎中、中書となる。清になつて隱居して仕へず。詩に巧で、書をも善くす。〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕。

【宋藻】103（ソウサウ） 宋の人。棐の從子。字は去華。紹興中、布衣を以て十君論を上る。官は浙東提擧。後、學を里舍に講ず。著に詳經滯穗百篇がある。〔尙友錄、十七〕。

【宋士】104（ソウシ） 宋、許月卿（**10**－**35298**・・277）の字。

【宋子】105（ソウシ） ㊀書名。一卷。周の宋鈃の說を諸書より蒐集したもの。〔玉函山房輯佚書、第九十二冊〕。㊁縣名。漢、置く。戰國、趙の邑。河北省趙縣の北。〔史記、燕召公世家〕燕軍至㆓宋子㆒。〔注〕徐廣曰、屬㆓鉅鹿㆒。〔史記、荊軻傳〕秦卒滅㆑燕、高漸離匿㆓作於宋子㆒。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、宋子。

【宋史】106（ソウシ） 書名。四百九十六卷。元、托克托等奉敕撰。宋の三百十七年間の事を紀す。本紀四十七卷、志一百六十二卷、表三十二卷、列傳二百五十五卷。其の志の目は、天文・五行・律曆・地理・河渠・禮樂・儀衞・輿服・選擧・職官・食貨・兵・刑法・藝文、表は宰輔・宗室の二表。其の文は繁猥甚しく、敍事、誤謬疏略の病を免れず。〔四庫提要・史、正史類〕。

『參考書』【宋史藝文志補】一卷 清、盧文弨撰。

【宋史質】107（ソウシシツ） 書名。一百卷。明、王洙撰。宋史に因つて重修す。明を以て宋に繼ぎ、遼・金の兩朝を外國に列す。

【宋史新編】108（ソウシシンペン） 書名。二百卷。明、柯維騏撰。舊宋・遼・金の三史を合せたもの。本紀十四卷・志四十卷・表四卷・列傳一百四十二卷。遼金の二朝を外國に置く。宋史を考訂せる處多し。〔四庫提要、史、別史類存目〕。

【宋史記事本末】109（ソウシキジホンマツ） 書名。二十六卷。明、陳邦瞻撰。通鑑紀事本末の後に續けんとした馮奇の遺稿を補修大成し、よく宋史の本末を記す。〔四庫提要、史、紀事本末類〕。

【宋至】110（ソウシ） 清の人。犖の子。字は山言。號は方菴。康熙の進士。官は編修。詩に巧。書室を緯蕭草堂といふ。著に緯蕭草堂詩・牂牁集がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十二〕・〔國朝先正事略、九〕。

【宋是】111（ソウシ） 清、浙江山陰の人。字は懼聞。號は庖堂。明末の諸生。清になつて後、仕へず。嘗て大學を讀み、朱熹の章句が顚越紛更なのを病み、別に古本解疏を作つて匡救す。著に庖堂詩鈔がある。〔鶴徵錄、七〕。

【宋瓷】112（ソウシ） 宋代に燒いた磁器。宋磁。〔陶說、宋器〕瓷枕、考槃餘事、舊窯枕長二尺五寸、闊八寸者可㆑用、長一尺者、謂㆓之尸枕㆒、乃古墓中物、雖㆓宋瓷白定㆒、亦不㆑可㆑用。

【宋詞】113（ソウシ） 宋代の詩餘。歷代の文學中、漢文・唐詩・宋詞・元曲と併稱せられる。二派あり。婉約派は花間の遺を受け、豪放派は蘇軾より創まる。〔輟耕錄、雜劇曲名〕金季國初樂府、猶㆓宋詞之流㆒。

【宋詩】114（ソウシ） 宋代の詩。〔文體明辯、近體律句〕宋詩尙㆑理、主㆓於議論㆒、而病㆓於意㆒、與㆓於三百篇之義㆒爲㆓甚遠㆒。

【宋詩鈔】115（ソウシセウ） 書名。一百六卷。清、呉之振撰。一百家と稱するも實は八十四家について、人每に小傳・品評がある。〔四庫提要、集、總集類〕。

【宋詩紀事】116（ソウシキジ） 書名。一百卷。清、厲鶚撰。自序に閱書三千八百一十二家と稱し、宋一代の詩話の淵海である。作者の小傳を附す。清の陸心源に補遺一百卷の撰がある。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【宋詩百一鈔】117（ソウシヒャクイッセウ） 書名。九卷。清、張景星・姚培謙・王永祺撰。一百二十七人の作六百四十三首を收む。題を命じた理由は、傅王露の序によれば、鈔名㆓百一㆒、蓋謂嘗㆓鼎一臠㆒、窺㆓豹一斑㆒、亦可㆑見㆓宋詩宗派㆒云爾、とある。一名、宋詩別裁集。

【宋詩別裁集】118（ソウシベッサイシフ） 宋詩百一鈔に同じ。

【宋慈】119（ソウジ） 宋、建陽の人。字は惠父。湖襄提刑を歷て、朝請大夫を以て煥章閣に直し、廣東の帥となる。官に居るや所在に名聲あり、嘗て洗

寃錄を著す。卒して朝散大夫を贈られ、理宗は墓門に親書して之を旌す。〔四庫提要、一百一〕・〔宋史翼、二十二〕。

【宋磁】120（ソウジ） 宋代に燒いた磁器。宋瓷(112)に同「じ。

【宋就】121（ソウシウ） 戰國、梁の大夫。嘗て邊縣の令となる。時に梁・楚は界を接し、其の地方では皆瓜を種ゑた。梁人の瓜は美であつたが、楚人の瓜は水不足の爲に出來が惡かつたので、楚人は之を惡み、夜竊かに梁亭の瓜をもぎ取つた。梁亭の人が之を覺り、報復しようとして宋就に告げたが、就は不可とし、毎暮、人をして竊かに楚亭に往き、善く瓜に水を灌がしめたところ、瓜が日増しに立派になつた。楚王は聞いて之を賢とし、謝するに重幣を以てし、梁王と交らんと請ふ。〔新書、退讓〕・〔新序、雜事四〕。

【宋社】122（ソウシヤ） 宋の國家。社は社稷。㊀南朝劉宋をいふ。〔庾信、周大將軍義興公蕭太墓誌銘〕東封ニ宋社一、西斂ニ秦圖一。㊁趙宋をいふ。〔藤田東湖、正氣歌序〕天祥値ニ宋社之傾覆一。

【宋昌】123（ソウシヤウ） 漢の人。高祖に從つて功あり、壯武侯に封ぜらる。〔後漢書、八十五〕。

【宋庠】124（ソウシヤウ） 宋、安陸の人。後、雍丘に徙る。字は公序。初名は郊。諡は元獻。弟の祁と倶に文學を以つて名あり、二宋と稱せられ、大小を以て之を別つ。天聖の進士第一。官は兵部侍郎・同平章事・樞密使。英宗の時、鄭國公に封ぜらる。著に國語補音・紀年通譜・掖垣叢志・尊號錄・宋元獻集がある。〔宋史、二百八十四〕・〔宋史新編、八十六〕・〔東都事略、六十五〕・〔隆平集、五〕・〔五朝名臣言行錄、六〕。

【宋湘】125（ソウシヤウ） 清、嘉應の人。字は煥襄。號は芷灣・不易居齋。嘉慶の進士。官は雲南永昌知府。性、豪邁。筆を下せば倜儻雄偉の概を具へ、詩は磊磊落落として自ら一家を成す。書室を紅杏山房といふ。著に不易居齋集・豐湖漫草・燕臺滇蹄諸集がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百十三〕・〔國朝先正事略、四十四〕。

【宋翔】126（ソウシヤウ） 宋、崇安の人。字は子飛。號は梅谷。紹興の進士。官は國子監簿。張浚に知られ、浚の十客の一となる。後、朝散大夫に至る。著に梅谷集がある。〔尙友錄、十七〕。

【宋城】127（ソウジヤウ） 縣名。㊀南朝宋、置く。安徽省舊潁州府の境。㊁隋、置く。秦の睢陽縣。河南省商丘縣の南。〔讀史方輿紀要、河南、歸德府〕商邱縣、附郭、古商邱爲ニ閼伯之墟一、春秋宋國都也、云云、隋改レ縣曰ニ宋城一、後因レ之。

【宋鵲】128（ソウジヤク） 戰國、宋の名犬の名。〔禮、少儀、守犬田犬則授ニ擯者一既受乃問ニ犬名一、注〕守犬田犬問レ名、畜養者當レ呼ニ之名一、名謂レ若ニ韓盧宋鵲之屬一。〔疏〕桓譚新論云、夫畜生賤也、然其尤善者、皆見ニ記識一、故犬道ニ韓盧宋猑一、又魏文帝說諸方物亦云、狗於レ古則韓盧宋鵲、則猑・鵲、音同字異耳。〔博物志、物名攷〕宋有ニ駿犬一、曰レ鵲。〔韓愈、毛穎傳〕與ニ宋鵲一謀而殺レ之。

【宋壽】129（ソウジユ） 北魏の高祐が得た玉印に刻せられた文。〔魏書、高祐傳〕有レ人、於ニ零丘一得ニ玉印一一以獻、詔以示レ祐、祐曰、印上有ニ籀書二字一、文曰ニ宋壽一、壽者、命也、我獲ニ其命一、亦是歸レ我之徵。

【宋綬】130（ソウジユ） 宋、平棘の人。字は公垂。諡は宣獻。經史百家に通ず。家に藏書萬餘卷あり、自ら校讐す。官は參知政事。書室を賜書堂といふ。〔宋史、二百九十一〕・〔宋史新編、九十〕・〔東都事略、五十七〕・〔隆平集、七〕・〔名臣碑傳琬琰集、下、八〕。

【宋儒】131（ソウジユ） ㊀宋代の性理學者。宋學(36)を見よ。〔經解入門、漢宋門戶異同〕宋儒不レ然、凡事皆決ニ於理一。〔宋學淵源記序〕不ニ唯有明講學者所レ弗レ能及一、卽宋儒極力推崇、連篇累牘、亦未レ有ニ若レ是之精確者一也。〔袁枚、宋儒論〕夫宋儒之講レ學、而談ニ心性一者、際ニ其時一也、氣運爲レ之也、今之尊ニ宋儒一者、亦際ニ其時一也、氣運爲レ之也、是何也、漢後、儒者有ニ兩家一、一箋注、一文章、爲ニ箋注一者、非レ無ニ考據之功一、而附會不レ已、爲ニ文章一者、非レ無ニ潤色之功一、而靡曼不レ已、于レ是宋之儒、舍ニ其器一而求ニ諸道一、以異ニ乎漢儒一、舍ニ其華一而求ニ諸實一、以異ニ乎魏晉隋唐之儒一、又目ニ擊夫佛老家譸張幽渺一、而聖人之精旨微言、反有レ所レ閟而未レ宣、於レ是入ニ虎穴一探ニ虎子一、闖ニ二氏之室一、儀神易レ貌、而心性之學出焉、夫創ニ天下之所レ無者、未レ有下不レ爲ニ天下之所一レ尊者上也、古無ニ箋注一、故鄭馬尊、古無ニ詞賦策論一、故鄒枚鼂董尊、古無下圖ニ太極一而談ニ心性一者上、則宋儒安得レ不レ尊、然而箋注帖括、明經之科變矣、詞賦策論、進士之科變矣。㊁明、望江の人。字は文卿。初、弟子員となつて尙書を治めたが、長ずるに及び、錦衣衞千戶となつて告密を典り、獄を治めて寬を尙ぶ。時人、錦衣官の廉惠なる者は獨り宋文卿なりと稱す。〔明詩紀事、庚、十〕。

【宋俊】132（ソウシユン） 清、宋長白(368)の原名。

【宋準】133（ソウジユン） 宋、雍丘の人。字は子平。開寶の進士。官は金部郎中。〔宋史、四百四十〕・〔宋史新編、一百六十九〕・〔東都事略、三十八〕。

【宋書】134（ソウシヨ） 書名。一百卷。梁、沈約奉敕撰。南北朝の宋、六十年間の事を紀す。帝紀十卷、志三十卷、列傳六十卷。志の目は、律曆・禮・樂・天文・符瑞・五行・州郡・百官。沈約が此の書を上進した表には七十卷とあるが、今本は一百卷で、表がない。〔四庫提要、史、正史類〕。〘參考書〙【晉宋書故】一卷清、郝懿行撰。〔清史稿、藝文志〕。【補宋書藝文志】一卷清、郝懿行撰。〔清史稿、藝文志〕。【補宋書食貨志】一卷清、郝懿行撰。〔清史稿、藝文志〕。【宋書音義】四卷清、洪亮吉撰。【宋書夷貊傳地理攷證】一卷清、丁謙撰。〔浙江圖書館叢書、第四冊〕。

【宋緒】135（ソウシヨ） 明、餘姚の人。字は公傳。字を以て行はる。成祖の時、永樂大典の纂修に預かる。時に同邑から徵されたもの五人、書なりて皆官を授けられたが、緒は獨り辭して歸る。著に元詩體要がある。〔四庫提要、一百八十九〕。

【宋恕】136（ソウジヨ） 唐の人。璟の子。官は劍南採訪判官。汚職を以つて流さる。〔唐書、一百二十四〕。

【宋昇】137（ソウシヨウ） 宋の人。喬年の子。字は景裕。諡は恭敏。譙縣尉より殿中少監に累進す。時に喬年が京尹となり、父子皆蔡氏に依る。喬年が貶せられるに及んで、昇は南京を分司し、後、縣謨閣學士に擢んでらる。〔宋史、三百五十六〕・〔宋史新編、一百二十三〕。

【宋湜】138（ソウシヨク） 宋の人。泌の弟。字は持正。太平興國の進士。官は給事中・樞密副使。〔宋史、二百八十七〕・〔宋史新編、八十三〕・〔東都事略、三十七〕・〔隆平集、九〕。

【宋臣】139（ソウシン） 明、秣陵の人。字は子忠。號は二水。畫に巧。〔明名人傳〕。

【宋晉】140（ソウシン） 清、溧陽の人。字は錫蕃。號は雪帆。道光の進士。官は戶部左侍郎。書室を水流雲在館といふ。著に水流雲在館奏議詩集がある。〔清史稿、四百二十二〕・〔續碑傳集、十二〕。

【宋甡】141（ソウシン） 宋、金華の人。字は茂叔。紹興の進士。官は廣西鹽事司主管官。經史に通じ、詩に巧。〔宋元學案、七十一〕。

【宋人】142（ソウヒト） 殷の子孫が封ぜられた宋の國の人。古來多く愚人の代表として引かれる。愚昧な者の喩。孟子の中には、苗を早く生長させようとして、苗を引いたものの話があり、韓非子・呂氏春秋には、兎が走つて來て木の株に觸れて死んだのを見て、耕作をやめて株を守つたもののことがあり、鬫子には、燕石を寶として周客に笑はれたものが見えてゐるが、此等は皆宋人である。〔三餘偶筆〕閻百詩以三孟子言ニ宋人揠レ苗助長一、引ニ莊列之言數條一、以證ニ宋人之愚一、余謂、宋人事、有下見ニ於韓非子・呂氏春秋、及鬫子一者上、如下田中有レ株、兎走觸、折レ頸而死、因釋レ耒守レ株、冀ニ復得レ兎者上、宋之耕者也、亡ニ緇衣一、而求ニ之塗一、見ニ婦人衣ニ緇衣一、援而弗レ舍、欲レ取ニ其衣一者、宋之澄子也、馬不レ進、倒而投ニ之灘水一、馬復不レ進、又倒而投ニ之灘水一、如レ此者三者、宋之取レ道者也、得ニ燕石一以爲ニ大寶一、周客聞而觀レ之、掩レ口盧胡而笑曰、此燕石也、主人大怒者、宋之得ニ燕石一者也、是宋多ニ愚人一、不ニ僅如ニ莊列所一レ云矣、況莊列又率多ニ寓言一也哉。〔九經談、孟子〕僞則曰ニ齊人一、愚則曰ニ宋人一、齊東野人之語也、（孟子）齊諧志レ怪者也、（莊子）是僞也、宋人抽レ苗、（孟子）宋人資ニ章甫一適ニ諸越一、（莊子）及宋人寶ニ燕石一之類、是愚也、當時之語如レ此。〔孟子、公孫丑上〕宋人有下閔ニ其苗之不一レ長而揠レ之者上、芒芒然歸、謂ニ其人一曰、今日病矣、予助レ苗長矣、其子趨而往視レ之、苗則槁矣。

【宋燧】143（ソウスイ） 明、宋璲を見よ。

【宋璲】144（ソウスイ） 明の人。濂の仲子。字は仲珩。明史

には宋燧、字は伯珩に作る。洪武中、官は中書舍人となる。詩、書を善くす。〔明史、一百二十八〕・〔宋元學案、八十二〕・〔明史稿、一百二十三〕。

【宋瑞】145（ソウズイ） 宋、文天祥(**5－13450**··1027)の字。

【宋性】146（ソウセイ） 明、德州の人。洪武中、貢生を以て國學に入る。嘗て知人に代つて疏を草したところ、帝、其の文を奇とし、召見して刑部主事に除す。永樂の初、北京刑部右侍郎となる。讒を被つて其の家を籍沒せられたが、餘資なし。帝、其の廉を知り、地十頃を賜ひ、其の租を免ず。〔國朝列卿記、五十八〕。

【宋晟】147（ソウセイ） 明、鳳陽定遠の人。字は景陽。太祖に從つて功あり、西寧侯となり、左都督に至る。〔明史、一百五十五〕・〔萬斯同明史、一百九十一〕・〔明史稿、一百三十五〕。

【宋清】148（ソウセイ） 唐、長安の人。義俠心のある賣藥者。柳宗元に宋清傳がある。〔國史補〕宋清賣二藥於長安西市一、朝官出入移貶、清輒賣レ藥迎二送之一、貧士請レ藥、常多二折劵一、長安言、人有二義聲一、賣藥宋清。〔琅琊代醉編、十七〕。

【宋鈔】149（ソウセウ） 宋代の寫本。

【宋照】150（ソウセウ） 清、長州の人。字は謹涵。號は喜墨・息軒。康熙の進士。庶吉士に選ばれたが、其の撰文が旨に逆らふを以て放還せられた。著に禮經彙解・史閒・息軒雜文等がある。〔鶴徵後錄、三〕。

【宋瑄】151（ソウセン） 明の人。晟の子。武人。官は中軍右衞指揮使。〔明史、一百五十五〕・〔明史稿、一百三十五〕。

【宋纖】152（ソウセン） 晉、敦煌の人。字は令艾、一に令文に作る。謚は玄虛先生。酒泉の南山に隱居す。〔晉書、九十四〕。

【宋宗】153（ソウソウ） 晉、宋處宗(320)を見よ。

〖宋宗雞窻〗154（ソウソウケイサウ） 蒙求の標題。晉の宋宗、字は處宗。雞を買つて籠に入れて窻閒に置いたが、後、雞が人語を解したといふ。〔蒙求、下、宋宗雞窻〕幽冥錄、晉兗州刺史、沛國宋處宗、嘗買二一長鳴雞一、愛養甚至、常籠著二窻閒一、後雞作二人語一、與二處宗一談論、極有二玄致一、終日不レ輟、處宗因レ此功業大進。

【宋琮】155（ソウソウ） 明、泰和の人。官は檢討。〔明史、一百三十七〕・〔國朝獻徵錄、二十二〕。

【宋則】156（ソウソク） 後漢の人。漢の子。字は元矩。官は鄢陵令。〔後漢書、五十六〕。

【宋浞】157（ソウソク） 戰國、宋の名犬の名。宋鵲(128)を見よ。〔廣雅、釋獸〕韓盧、宋浞、犬屬。

【宋濤】158（ソウタウ） 宋の人。澥の弟。端拱の進士。官は監察御史。〔宋史、二百八十七〕。

【宋璫】159（ソウタウ） 宋、渭南の人。字は寶臣、一に寶城。乾德の進士。官は知蘇州。〔宋史、二百七十六〕・〔宋史新編、七十九〕。

【宋燾】160（ソウタウ） 明、泰安の人。字は繹田。萬曆の進士。官は御史。〔明史、二百三十〕・〔萬斯同明史、三百四十〕・〔明史稿、二百十七〕。

【宋道】161（ソウダウ） 宋、洛陽の人。字は公達(弘道)。進士より郎となる。畫に巧。〔圖畫見聞志〕。

〖宋道學五先生〗162（ソウダウガクゴセンセイ） 宋の周濂溪・程明道・程伊川・張橫渠・朱晦菴をいふ。濂洛關閩(**7－18441**··10)を見よ。

【宋衜】163（ソウダウ） 元、長子の人。字は弘道、一に宏道。官は侍講。著に柜山集がある。〔元史、一百七十八〕。

【宋度】164（ソウタク） 後漢、豫章の人。字は叔平。官は謁者。嘗て大鴻臚を罷めんことを奏す。京師稱して宋叔平一史奏レ罷二九卿一といふ。後、定陵令となる。

【宋澤】165（ソウタク） 清、西陽の人。字は理卿。墓相の術・許氏の學・兵法水利家の言に精し。著に勞人集・湘上吟がある。〔續碑傳集、八十三〕。

【宋諾】166（ソウダク） 明、故城の人。字は子重。號は金齋。嘉靖の進士。官は袞州知府。著に金齋集がある。〔國朝獻徵錄、九十六〕。

【宋摶】167（ソウタン） 宋、掖の人。字は鵬擧。毛詩を治む。眞宗の時、司封員外郎・河東轉運使となる。任に在ること十一年、時に邊事未だ息まず、摶、漕運を經營し、幹治を以て稱せらる。景德中、入りて戶部副使となり、刑部郎中に終る。〔宋史、三百七〕・〔宋史新編、八十五〕。

【宋儋】168（ソウタン） 唐、廣平の人。字は藏諸。高尚にして仕へなかつたが、宇文融に薦められて祕書省校書郎となる。〔全唐文、三九六〕。

【宋忠】169（ソウチユウ） 明の人。武人。官は錦衣衞指揮使。燕兵に死す。〔明史、一百四十二〕・〔明史稿、一百二十三〕・〔萬斯同明史、一百八十四〕。

【宋衷】170（ソウチユウ） 後漢、南陽章陵の人。字は仲子。官は荊州五業從事。劉表と五經章句を定む。著に世本注がある。〔全上古三代秦漢三國六朝文、全後漢文、八十六〕。

【宋徵】171（ソウチヨウ） 明の人。建文の時、宗人府經歷となる。嘗て親藩の順はないものは其屬籍を削るべしと建議す。燕軍が攻め入るや、誅せられた。〔明史、一百四十一〕・〔萬斯同明史、一百八十六〕・〔明史稿、一百二十二〕。

【宋朝】172（ソウテウ） ❶春秋、宋の公子、名は朝。容姿の美を以て稱せられた。〔論語、雍也〕子曰、不下有二祝鮀之佞一、而有中宋朝之美上、難乎免二於今之世一矣。〔集注〕朝、宋公子、有二美色一。〔四書逸箋〕宋兩公子朝、皆曰二宋朝一、一爲二司寇一、乃桓公弟、一出二奔衞一、論語宋朝之美、是也。❷宋の王室。〔日知錄、禮制、宋朝家法〕宋世典常不レ立、政事叢脞、一代之制、殊不レ足レ言。

〖宋朝活字〗173（ソウテウクワツジ） 活字の一種。宋體の文字に摸して造つたもの。

〖宋朝事實〗174（ソウテウジジツ） 書名。二十卷。宋、李攸撰。原本缺佚して、十卷を缺く。北宋一代の典制を輯めたもの。會要の類。〔四庫提要、史、政書類〕。

〖宋朝名畫評〗175（ソウテウメイグワヒヤウ） 書名。三卷。宋、劉道醇撰。人物・山水・林木・畜獸・花柳翎毛・鬼神・屋木の六門に分け、毎門又、神・妙・能の三品に分つ。古畫の分類は此の書に始まる。〔四庫提要、子、藝術類〕。

〖宋朝四篇文字〗176（ソウテウシヘンモンジ） 宋代の立派な四つの文章。周敦頤の太極圖說・張載の西銘・程頤の易傳序及び春秋傳序の總稱。〔朱子語錄〕劉子澄言、本朝只在二四篇文字好一、太極圖・西銘・易傳序・春秋傳序。

【宋迪】177（ソウテキ） ❶宋の人。道の弟。字は復古。官は司封郎。畫に巧。〔夢溪筆談〕。❷明、賓州の人。字は吉之。官は順寧府判。廉吏と稱せらる。

【宋登】178（ソウトウ） 後漢の人。漢の弟。字は叔陽。歐陽尚書を傳ふ。官は尚書僕射。〔後漢書、一百九〕。

【宋訥】179（ソウトツ） 明、滑縣の人。字は仲敏。號は西隱。謚は文恪。元の至正の進士。官は翰林學士・文淵閣大學士。書室を白雲茅屋といふ。著に西隱集がある。〔明史、一百三十七〕・〔萬斯同明史、一百七十八〕・〔明史稿、一百二十五〕。

【宋玫】180（ソウバイ） 明、萊陽の人。字は文玉。天啓の進士。官は工部侍郎。清兵が登州を攻めるや、城を守つて死す。〔明史、二百六十七〕・〔明史稿、二百五十一〕。

【宋白】181（ソウハク） 宋、大名の人。字は太素。謚は文安。建隆の進士。官は吏部尚書。文苑英華一千卷を撰す。藏書數萬卷。故書千餘門を分類して建章集といふ。又、集百卷あり。〔宋史、四百三十九〕・〔宋史新編、一百六十九〕・〔東都事略、三十八〕・〔隆平集、十三〕・〔名臣碑傳琬琰集、下、七〕。

〖宋白磁〗182（ソウハクジ） 宋代に燒いた著名な磁器。

【宋板】183（ソウハン） 宋時代に刊行した書。中國に於ける刻板は隋に始まつたと想像せられるが、唐及び五代之を承け、宋に至つて尤も精しくなつた。而して、宋板は書體も彫刻もよく、現存の板書の中では、最も古く、且、最もよいものとせられてゐる。宋本(196)の❶を見よ。〔雜商叢話〕嘗見二骨董肆古銅方二三寸、刻二選或杜詩韓文二三句一、不レ知二何用一、識者曰、此名二書範一、宋太宗初年、頒二行天下刻書之式一、當時官私刊本、多記二繕寫人及刻工姓字於書板中心一、至二元時一尚然。〔陸心源、皕宋樓藏書志〕宋時官本書籍、紙堅字輭、筆畫如レ寫、皆有二歐虞法度一、開卷一種書香、自生二異味一、欽定天祿琳瑯書籍、刊行大備、要自レ宋始、板雕鐫鏤、講究日精、故今之言二雕本一者、極重二宋板一、而監本尤可レ貴。

【宋泌】184（ソウヒ） 宋、長安の人。太平興國の進士。官は起居郎直史館・越王府記室參軍。〔宋史、二百八十七〕。

【宋棐】185（ソウヒ） 宋、莆田の人。字は子戚。政和の

進士。官は權禮部侍郎兼侍講、後、敷文閣待制奉祠。卒して宣奉大夫を贈らる。〔尙友錄、十七〕

【宋宓】186 ソウヒツ 清、長洲の人。初名は德寬、後、德宸と改め、又、今の名に改む。字は御之。別字は儉齋。康熙の擧人。文章風義を以て名を江左に知らる。書室を玉壺堂といふ。著に存笥稿・玉壺堂詩集がある。〔國朝耆獻類徵、四百四十八〕。

【宋斌】187 ソウヒン 宋、袁州の人。朱熹の門人。〔宋元學案、六十九〕。

【宋敏】188 ソウビン 元、魏郡の人。字は好古。官は天曆中、藝文監照磨に至る。

【宋文】189 ソウブン ❶宋代の文章。歷代の文學の特徵として漢史・唐詩・宋文・元曲と併稱せられる。宋初の文章は唐末の餘風を受けて駢儷・四六の體を喜び、一般に低調であつたが、仁宗の慶曆年間に至り、其の文運最も榮え、古文復興が盛に唱へられ、歐陽脩を始め、洵・軾・轍の三蘇、王安石・曾鞏等の諸名家が輩出した。南渡後は、李綱・胡銓・呂祖謙等が出たが、其の勢漸く衰へた。〔李笠翁、閒情偶寄〕歷朝文學之盛、其名有レ所レ歸、漢史・唐詩・宋文・元曲、此世人口頭語也、漢書・史記、千古不レ磨尙矣、唐則詩人濟濟、宋有二文士蹌蹌一宜下其鼎二足文壇一爲中三代後之三代上也、元有二天下一、非三時政刑禮樂一無レ可レ宗、卽語言文字之末、圖畫翰墨之微、亦少二槩見一、使レ非下崇二尙詞曲一、得二琵琶・西廂以及元人百種諸書一、傳中于後代上、則當日之元、亦與二五代・金・遼一同二其泯滅一、焉能附二三朝驥尾一、而掛二學士文人之齒頰一哉、此帝王國事、以二塡詞一而得レ名者也、由レ是觀レ之、塡詞非二末技一、乃與二史傳詩文一、同レ源而異レ派者也。❷明、祥符の人。字は彥周。官は山西按察司副使。

〔宋文鑑〕190 ソウブンカン 書名。一百五十卷。宋、呂祖謙奉敕撰。初の名は聖宋文海。周必大が旨を奉じて序を作るに及び皇朝文鑑といひ、商輅の序に至つて又、宋文鑑といふ。宋一代の大文集で詩賦も有韻の文として收めてある。其の目は賦・律賦・四言古詩・樂府歌行・五言古詩・七言古詩・五言律詩・七言律詩・五言絕句・七言絕句・雜體（星名・人名・郡名・藥名・建除・八音・四聲・藏頭・離合・回紋・一字至十字・兩頭纖纖・五雜組・了語不了語・難易言・聯句・集句）・騷・詔・敕・赦文・冊・御札・批答・制・誥・奏疏・表・牋・箴・銘・頌・贊・碑文・記・序・論・論義・策・議・說・說戒・制策・說書・經義・書・啓・策問・雜著・對問・移文・連珠・琴操・上梁文・書判・題跋・樂語・哀辭・祭文・諡議・行狀・墓誌・墓表・神道碑・神道碑銘・傳・露布の七十七門に分つ。〔四庫提要、集、總集類〕。

〔宋文紀〕191 ソウブンキ 書名。十八卷。明、梅鼎祚撰。六朝宋の文は上は魏晉清俊の體を承け、下は齊梁雕鏤の風を開いたものであるが、此の書に依れば其の文體の變遷を察することが出來る。〔四庫提要、集、總集類〕。

〔宋文選〕192 ソウブンセン 書名。三十二卷。撰者未詳。張邦基の墨莊漫錄には、北宋人の撰とある。歐陽脩以下十四家を列し、經術政治の文のみを收む。〔四庫提要、集、總集類〕。

〔宋文憲全集〕193 ソウブンケンゼンシフ 宋學士全集(38)に同じ。

【宋弁】194 ソウベン 後魏、廣平列人の人。字は義和。官は尙書殿中郎中。〔魏書、六十三〕・〔北史、二十六〕。

【宋甫】195 ソウホ 明、澤州の人。成化の擧人。孝子。官は知忠州。〔明史、二百九十六〕。

【宋本】196 ソウホン ❶宋代の刊本をいふ。官刊・家刻・坊刻の三種に分たれる。宋本の特色としては、大體裝釘は胡蝶裝、紙質は白靭、墨色は松煙墨を用ひて漆黑、書體は顏眞卿（肉太の字體）、又は歐陽詢（稍〻細い字體）の系統、版心は白口、乃至線黑口が多く、上に大小字數があり、下に刻者姓名が記され、闕筆がやかましく行はれてゐる。〔書林清話、宋刻書著名之寶〕甲子御題云、雕鐫紙墨並極清妙、寶爲二宋本之冠一。〔阮元、重刻宋版注疏總目錄〕後人習二讀明本一、而反臆二疑宋本之誤一。❷元、大都の人。字は誠夫。諡は正獻。至治の進士。官は集賢學士兼國子祭酒。書室を垂綸亭といふ。著に至治集がある。〔元史、一百八十二〕。

〔宋本書影〕197 ソウホンシヨエイ 書名。一卷。附、兩宋年號表・宋本避諱字表。長澤規矩也編。

【宋翻】198 ソウホン 後魏、宋飜を見よ。

【宋飜】199 ソウホン 後魏の人。弁の族弟。字は飛烏。諡は貞烈。官は河南尹。北史に宋翻に作る。〔魏書、七十七〕・〔北史、二十六〕。

【宋无】200 ソウム 元、蘇州の人。又、宋無にも作る。字は子虛。號は蘇臺吟人。茂才に擧げられたが親老いたるを以て就かず。詩に巧。著に寒齋冷語・翠寒・啽囈・靄迺等の諸集がある。〔新元史、二百三十七〕。

【宋無】201 ソウム 宋无に同じ。

【宋明】202 ソウミン ❶宋と明。〔書林清話、宋元明官書許二士子借讀一〕宋明國子監、及各州軍郡學、皆有二官書一以供二眾讀一。❷ソウメイ 明、濬縣の人。字は惟遠。官は西浙鹽運使。〔尙友錄、十七〕。

〔宋明通俗小說傳流表〕203 ソウミンツウゾクセウセツデンリウヘウ 書名。鹽谷溫編。京本通俗小說・古今小說・今古奇觀・三言・二拍の內容項目を列擧し、其の傳流關係を記す。

【宋雄】204 ソウユウ 宋、幽州の人。官は光祿少卿。談論を善くす。宋祺と共に二宋と稱せらる。〔宋史、二百六十四〕・〔宋史新編、七十三〕。

【宋鎔】205 ソウヨウ 清、長洲の人。字は亦陶、又、奕巖。號は悅研。乾隆の進士。官は兵部左侍郎。〔國朝耆獻類徵、一百十〕。

【宋翼】206 ソウヨク ❶三國、魏の人。鍾繇の弟子。常に書を作るに算子の如くで、繇は之を叱した。翼は三年繇に見えず、後、繇の筆勢論を讀み、書法大いに進む。〔後漢書、九十六〕。❷元、高平の人。字は雲擧。明經茂才に擧げらる。永寧簿歷御史より僉太常禮儀院事に至る。博く經傳を治め、旁ら百家に通ず。官に居て直言を能くし、善政あり。〔新元史、二百四十九〕。

【宋雷】207 ソウライ 明、湖州の人。自ら市隱居士と號す。好んで史傳稗官小說を博覽す。著に西吳里語がある。〔四庫提要、一百四十三〕。

【宋犖】208 ソウラク 清、商丘の人。權の子。字は牧仲。號は漫堂、又、西陂・西坡放鴨翁・緜津山人・滄浪寓公。官は吏部尙書。太子少師を加へらる。詩は王士禛と名を齊しくす。書室を魚麥堂・賜果亭・古竹圃・樂春園といふ。著に西陂類稿・筠廊偶筆・滄浪小志・漫堂墨品・怪石贊・緜津山人詩集がある。〔清史稿、二百八十〕・〔清史列傳、九〕・〔國朝耆獻類徵、四十六〕・〔碑傳集、六十七〕・〔國朝先正事略、九〕。

【宋臈】209 ソウラフ 三國、魏の人。歌に巧。〔魏文帝、答二繁欽一書〕今之妙舞莫レ巧二于絳樹一、清歌莫レ善二于宋臈一。

【宋亮】210 ソウリヤウ 明、魚臺の人。字は均禮。初の名は克剛。字は毅夫。諸葛武侯傳を讀んで其の人と爲りを慕ひ、名を亮と改む。經史に博通し、洪武中、召されて本縣の儒學訓導となり、福建右參政に進む。〔本朝分省人物攷、九十五〕。

【宋旅】211 ソウリヨ 宋、莆田の人。字は庭實。進士。官は剡縣の長官。賊に死す。〔宋史、四百五十三〕・〔宋史新編、一百七十二〕。

【宋霖】212 ソウリン 清、江蘇通州の人。字は六雨。號は紫華。廩貢生。官は淮南訓導。山水畫に巧。〔清畫家詩史、戊、下〕。

【宋禮】213 ソウレイ 明、河南永寧の人。字は大本。官は工部尙書。〔明史、一百五十三〕・〔萬斯同明史、一百九十八〕・〔明史稿、一百四十二〕。

【宋烈】214 ソウレツ 唐、宋務光(413)を見よ。

【宋練】215 ソウレン 唐、高安の人。官は長沙掾。孝子。〔唐書、一百九十五〕。

【宋濂】216 ソウレン 明、浦江の人。字は景濂。號は潛溪・無相居・龍門子・仙華生・白牛生・南宮散吏・南山樵者・玄貞遯叟・禁林散吏。追諡は文憲。東明山に隱れ、著書十餘年、明初、江南儒學提擧に除せられ、太子に經を授け、元史を修む。官は翰林學士承旨・知制誥。群書を究め、聖學に深く、明一代の禮樂につき制作裁定する所が多い。著に宋學士全集・龍門子・浦陽人物記・篇海類編・潛溪集等がある。〔宋元學案、八十二〕・〔明史、一百二十八〕・〔萬斯同明史、一百七十一〕・〔明史稿、一百二十三〕・〔明名臣言行錄、二〕。

【宋籙】217 ソウロク 宋室の運命。籙は天の與へる冊命、卽ち未來記。〔剪燈餘話、月夜彈琴記〕宋籙既訖、元運方興。

【宋以方】218 ソウイハウ 明、靖州の人。字は義卿。弘治の進士。官は瑞州知府。無實の罪で獄中に死す。

〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同盟史、二百八十九〕・〔明史稿、二百七十〕。

【宋維藩】219（ソウヰハン）　清、浙江建德の人。字は价人。貢生。康熙中、鴻博に召試せらる。書室を白雲閣といふ。著に白雲閣詩集がある。〔鶴徵錄、六〕。

【宋尤菴】220（ソウイウアン）　朝鮮李朝の人。宋時烈(300)を見よ。

【宋有元】221（ソウイウゲン）　清、元和の人。字は孚交。號は寄軒・鶴巢。官は太平府通判。畫に巧で、詩は三唐を宗とす。著に鶴巢吟草がある。

【宋游道】222（ソウイウダウ）　北齊、廣平の人。繇の曾孫。魏に仕へて御史中尉に至る。〔北齊書、四十七〕・〔北史、三十四〕。

【宋一鶴】223（ソウイツカク）　明、宛平の人。崇禎の擧人。官は右僉都御史。李自成の亂に死す。〔明史、二百六十三〕・〔明史稿、二百四十五〕。

【宋尹文】224（ソウインブン）　元、太倉の人。字は文璧。官は翰林簡閱官。琴に長じ、又、六壬遁甲の術に精通す。

【宋永譽】225（ソウエイヨ）　清、永年の人。字は葆祉。順治中、擧人より郿縣知縣を授けらる。賀珍の亂に城が陷つて死す。〔國朝耆獻類徵、三百三十三〕。

【宋英宗】226（ソウノエイソウ）　趙曙 (10－37171‥223) を見よ。

〔宋英宗陵〕227（ソウノエイソウノリヨウ）　永厚陵(6－17088‥275)を見よ。

【宋應昌】228（ソウオウシヤウ）　明、仁和の人。字は桐岡。嘉靖の進士。官は山西副史。山東を巡撫し、上海の防事として、預め倭寇に備ふべきをいひ、選將・練兵・積粟の三策を進めたが、已にして語驗あり、廷議其の先見に服し、兵部右侍郎に拜せられ、朝鮮を經略し、李如松と平壤を取り、進んで開城・黃城・黃梅・平畿・江源を收め、四道悉く下る。功によつて右都御史を加へらる。〔萬期同明史、三百三十二〕・〔明史稿、二百十二〕。

【宋孝先】229（ソウカウセン）　宋の人。宋晉之(328)を見よ。

【宋孝宗】230（ソウノカウソウ）　趙昚 (10－37171‥232) を見よ。

〔宋孝宗陵〕231（ソウノカウソウノリヨウ）　永阜陵(6－17088‥216)を見よ。

【宋高宗】233（ソウノカウソウ）　趙構 (10－37171‥165) を見よ。

〔宋高宗陵〕234（ソウノカウソウノリヨウ）　永思陵(6－17088‥103)を見よ。

【宋剛仲】235（ソウガウチユウ）　宋の人。字は仲潛。張栻の門人として、兄、文仲と名を齊しくす。〔宋元學案、七十一〕。

【宋學朱】236（ソウガクシユ）　明、長洲の人。字は用晦。崇禎の進士。山東の巡按となり、清兵に死す。〔明史、二百九十一〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十三〕。

【宋漢章】237（ソウカンシヤウ）　民國、浙江省餘姚縣の人。上海銀行界に活躍し、多年上海銀行公會會長であつた。西曆一九二五年、上海總商會長、一九三五年、中國銀行改組後任中國銀行董事となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【宋圻安】238（ソウキアン）　清、浙江建德の人。字は臣稅(臣悅)。號は吉山、又、雙甫。自ら春山樵と稱す。拔貢生。行楷の書を善くし、詩文に能筆。〔清畫家詩史、戊上〕。

【宋基厚】239（ソウキコウ）　朝鮮李朝、恩津の人。字は誠伯。宋時烈・宋浚吉に師事す。官に就かず。門弟其の墓表に聞道齋と題す。〔人物考〕。

【宋徽宗】240（ソウノキソウ）　趙佶(10－37171‥102)を見よ。

〔宋徽宗陵〕241（ソウノキソウノリヨウ）　永祐陵(6－17088‥16)を見よ。

【宋儀望】242（ソウギバウ）　明、永豐の人。字は望之。嘉靖の進士。官は大理卿。陽明學者。書室を華陽館といふ。著に華陽館文集がある。〔明史、二百二十七〕・〔萬斯同明史、三百十六〕・〔明史稿、二百十一〕・〔明儒學案、二十四〕。

【宋九嘉】243（ソウキウカ）　金、夏津の人。字は飛卿。至寧の進士。官は翰林應奉。〔金史、一百二十六〕・〔宋元學案、一百〕。

【宋乙奴】244（ソウキツド）　金、宋珪(69)を見よ。

【宋恭帝】245（ソウノキヨウテイ）　趙㬎 (10－37171‥194)を見よ。

【宋欽宗】246（ソウノキンソウ）　趙桓 (10－37171‥129) を見よ。

〔宋欽宗陵〕247（ソウノキンソウノリヨウ）　永獻陵(6－17088‥274)を見よ。

【宋會要】248（ソウクワイエウ）　書名。四百六十卷。宋代の會要。會要とは分類を立てて、一代の文物故實を記載した者である。清、徐松輯。劉承幹增補。

【宋光宗】249（ソウノクワウソウ）　趙惇 (10－37171‥219)を見よ。

〔宋光宗陵〕250（ソウノクワウソウノリヨウ）　永崇陵(6－17088‥276)を見よ。

【宋廣業】251（ソウクワウゲフ）　清、長洲の人。字は澄溪。官は康熙中、濟東道に至る。著に羅浮山志會編がある。〔四庫提要、七十六〕。

【宋廣之】252（ソウクワウシ）　南齊、錢唐の人。字は處深。清言を善くす。〔尚友錄、十七〕。

【宋桓公】253（ソウノクワンコウ）　春秋、宋の君。閔公の弟。名は禦說。諡は桓。南宮萬の陳に奔るや、陳に賂し請うて醢にす。公の病むや、太子慈父は其の庶兄目夷を嗣となさうとしたが、公は太子の意を義として、竟に聽かず。在位三十一年。〔左氏、閔、二。僖、八・九〕・〔史記、三十八〕。

【宋煥箕】254（ソウクワンキ）　朝鮮李朝、恩津の人。字は子東。號は心齋。諡は文敬。官は贊成。〔朝鮮輯要〕。

【宋奎光】255（ソウケイクワウ）　明の人。字は培巖。萬曆の擧人。官は餘杭教諭。著に徑山志がある。〔小腆紀年、十五〕。

【宋景雲】256（ソウケイウン）　明、博興の人。字は祥禎。萬曆の進士。官は監寧御史。著に毛詩發微がある。〔四庫提要、十七〕。

【宋景業】257（ソウケイゲフ）　北齊、廣宗の人。陰陽緯候の學を爲し、魏末に北平太守に任ぜられ、易稽覽圖の說を引いて高澄に魏に代るべきを勸む。官は天保の初、散騎侍郎。〔北齊書、四十九〕・〔北史、八十九〕。

【宋景公】258（ソウノケイコウ）　春秋、宋の君。文公四代の孫。名は頭曼。諡は景。最初子が無かつたので、公孫周の子の得と啓とを養つていたが、大尹が權をほしいままにし、遂に景公を弒し、啓を王位に卽けた。在位六十四年。〔左氏、哀、二十六〕。

【宋景文】259（ソウケイブン）　宋、宋祁(46)をいふ。景文は諡。

〔宋景文集〕260（ソウケイブンシフ）　書名。六十二卷、拾遺二十二卷、附錄一卷。宋、宋祁撰。文は謹嚴、詩はやや劣る。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔宋景文公筆記〕261（ソウケイブンコウヒツキ）　書名。三卷。宋、宋祁撰。隨筆集で、釋俗・考古・雜說の三門に分かつ。〔百川學海、第十一冊〕・〔唐宋叢書、第十二冊〕。

【宋慶之】262（ソウケイシ）　宋の人。字は元積。號は飲冰。咸淳の進士。慶元府鹽倉を監し、浙東の幕に召さる。著に飲冰集がある。〔尚友錄、十七〕。

【宋慶禮】263（ソウケイレイ）　唐、永平の人。諡は敬。官は營州都督。〔唐書、一百三十〕・〔舊唐書、一百八十五〕。

【宋慶齡】264（ソウケイレイ）　民國、江蘇省上海縣の人。孫文の未亡人。宋美齡の姉。米國ワイルズレイ大學を卒業す。孫文の死後、國民黨第二次中央執行委員會委員となり、孫文の思想宣揚に努め、國民黨極左派を率ゐて活躍す。共產派の武漢を追はれるに及んで外遊し、歸國後、蔣介石及び國民政府當局と合はなかつた。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【宋教仁】265（ソウケウジン）　民國、湖南省桃源縣の人。字は遯初。我が國鐵道學校・早稻田大學等に學ぶ。夙に革命運動に投じ、或は文筆により或は馬賊と結んで、清朝倒壞を策す。南京臨時政府成るや法制院總裁となる。爾來、國民黨の組織、統制に盡力してゐたが、遂に袁の刺客に殺害せられた。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【宋喬年】266（ソウケウネン）　宋の人。庠の孫。字は仙民。諡は忠文。官は龍圖閣學士。〔宋史、三百五十六〕・〔宋史新編、一百二十三〕。

【宋獻策】267（ソウケンサク）　明の人。卜者。李自成に讖記を上る。〔明史、三百九〕・〔萬斯同明史、四百八〕。

【宋顯章】268（ソウケンシヤウ）　明、濮州の人。字は文光。至孝の人。〔明史、二百九十七〕・〔明史稿、二百七十八〕。

【宋元僖】269（ソウゲンキ）　明、宋僖(49)を見よ。

【宋元之】270（ソウゲンシ）　宋、餘姚の人。字は伯允。進士。光宗の立つや、詔に應じて陳言し、行在に赴いて拜謁し、困難な邑を得て自ら治めんと請ひ、弋陽の長官となる。輔臣其の臺諫に任ずべきを

いひ、盧州判より御史に擢んでられ、蘇師旦の不法を言ひ、旨に中つて罷む。〔宋元學案、二十五〕。

【宋元俊】271ソウゲンシュン　清、安徽懷遠の人。字は甸方。乾隆の武進士。兩金川を攻めて功あり。〔清史稿、三百三十五〕・〔碑傳集、一百十六〕。

【宋元徵】272ソウゲンチヨウ　清、盧江の人。字は式虞。號は鶴岑。康熙の進士。官は刑部郎中。文集がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十二〕。

【宋彥筠】273ソウゲンキン　五代、周の雍丘の人。官は太子太師。〔舊五代史、一百二十三〕。

【宋句踐】274ソウコウセン　戰國の人。孟子と同時。游説を事とす。〔孟子、盡心上〕。

【宋克剛】275ソウコクガウ　明、宋亮(210)を見よ。

【宋國永】276ソウコクエイ　清、衡陽の人。字は長慶。武人。官は提督。〔清史稿、四百十五〕・〔續碑傳集、五十二〕。

【宋國公】277ソウコクコウ　北周、宇文震(**3**－**7067**‥57)の追封號。

【宋國興】278ソウコクコウ　明、合肥の人。年十八で、總管を以て陳埜先と南臺に戰つた時、太祖は白龍の袍を解いて之に着せたので敵誤つて太祖と爲し、槊にて刺したが死に至らず。〔皇明開國功臣錄、十八〕。

【宋采侯】279ソウサイコウ　宋、宋祁(46)をいふ。〔六一詩話〕自二科場用レ賦取レ人、進士不三復留二意於詩一、故絶無二可レ稱者一、惟天聖二年省試、采侯詩宋尙書祁、最擅レ場　其句有二色映堋雲爛、聲迎羽月遲一、尤爲二京師傳誦一、當時擧子、目レ公爲二宋采侯一。

【宋莊公】280ソウノサウコウ　春秋、宋の君。穆公の子、名は馮。諡は莊。在位十九年。〔春秋、莊、三〕。

【宋士宗】281ソウシソウ　清、星子の人。字は司秩。號は崑圃。雍正の擧人。官は南豐教諭。著に史學正藏・學統存がある。〔清史列傳、六十六〕。

【宋子環】282ソウシクワン　明、吉水の人。字は文瑩。號は瑩菴。永樂の進士。永樂大典を修む。官は梁王府長史。〔明史、一百三十七〕・〔萬斯同明史、二百一〕・〔明史稿、一百二十五〕。

【宋子貞】283ソウシテイ　元、長子の人。字は周臣。官は中書平章政事。〔元史、一百五十九〕。

【宋子房】284ソウシバウ　宋、滎陽の人。迪の猶子。字は漢傑。官は正郎。著に六法六論がある。

【宋子文】285ソウシブン　民國、江蘇省上海縣の人。上海聖約翰大學卒業後米國に赴き、ハーヴァード大學・コロンビヤ大學に學ぶ。宋美齡の兄で、浙江財閥と密接な關係を有し、支那有數の理財家と稱せらる。國民政府財政部長として政府の財政を一手に引受け屢次の內戰北伐等に後顧の憂なからしめた。後、財政部長を辭し、中國銀行董事、國民政府委員となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【宋之源】286ソウシゲン　宋、雙流の人。字は積之、一に深之。朱熹の門人。官は嘉定府の長官。〔宋元學案、五十九〕。

【宋之才】287ソウシサイ　宋、瑞安の人。字は廷佐。號は雲海居士。諡は文簡。進士より敷文閣待制奉祀となり、衢州の長官となる。著に雲海敝帚集がある。〔南宋館閣錄、八〕・〔宋元學案、二十五〕。

【宋之儁】288ソウシシュン　明、靈石の人。天啓の進士。官は登萊監軍副使。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百七十六〕。

【宋之盛】289ソウシセイ　清、星子の人。字は未有。明の崇禎の擧人。學を髻山に講じたので、學者、髻山先生と稱す。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百〕・〔國朝先正事略、二十八〕。

【宋之珍】290ソウシチン　宋、永嘉の人。字は國寶。紹聖の進士。官は吉州司理・常熟縣丞。元符の黨籍に入り、大觀の末、籍を除かれ、文林郞に終る。〔尙友錄、十七〕。

【宋之問】291ソウシモン　唐、汾州の人。令文の子。字は延清。一名は少連。武后の時、尙方監丞左奉宸內供奉に累轉す。詩名、沈佺期に齊しくて、沈宋と併稱せらる。罪を以て越州長吏に遷さる。睿宗の時、嶺南に流されて死を賜はる。〔舊唐書、一百九十中〕・〔唐書、二百二〕。

【宋四賢】292ソウノシケン　宋代の四賢人。❶富弼・呂公著・司馬光・程顥。〔小學紺珠、名臣類、四賢〕彥國之言鋪陳、晦叔之言簡當、君實之言優游、伯淳之言條暢、熙寧閒、康節邵先生雍、四賢吟。❷范仲淹・余靖・尹洙・歐陽脩。〔宋史、蔡襄傳〕擧二進士一爲二西京留守推官館閣校勘一、范仲淹以二言事一去レ國、余靖論救レ之、尹洙請與同貶、歐陽脩移レ書責二司諫高若訥一、由レ是三人者皆坐レ譴、襄作二四賢一不肖詩一。❸朱晦菴・呂祖謙・陸九淵兄弟。鵝湖山の四賢堂に祀らる。〔明一統志〕四賢堂、在二廣信府鵝湖山一、祀二宋朱子・呂祖謙・陸九淵兄弟一。❹楊龜山・羅豫章・李延平・朱晦菴。延平府學に祀らる。〔明一統志、四賢祠〕在二延平府學一、宋紹興中建、祀二楊龜山・羅豫章・李延平・朱晦菴四先生一。

【宋思顏】293ソウシガン　萼人。太祖に仕へ河南道按察僉事に至る。太祖に節儉を進めて幣を賜ふ。〔明史、一百三十五〕・〔明史稿、一百三十七〕。

【宋思玉】294ソウシギヨク　清、松江華亭の人。字は楚鴻。著に棣萼倡和詞がある。

【宋思仁】295ソウシジン　清、長洲の人。字は藹若。號は汝和。官は山東糧道となつたが疾によつて歸る。性孝友、居處儉約で、奕を善くし、吟を嗜み、畫に巧で、篆刻に精しく、多く古印章を蓄ふ。古蹟有れば必ず訪求して之を表章す。粵西に在つて太平便覽を撰し、山東に在つて泰山記を撰し、兼ねて星卜堪輿に通じ、能く人の窮通禍福を決す。卒年七十八。著に稾餘存稿・廣輿吟がある。〔清畫家詩史、戊下〕。

【宋思禮】296ソウシレイ　唐の人。字は過庭。孝子。官は蕭縣主簿。〔唐書、一百九十五〕。

【宋師襄】297ソウシジヤウ　明、耀州の人。字は一衷。萬曆の進士。官は太常卿。流賊に死す。〔明史、二百六十四〕・〔明史稿、二百五十一〕。

【宋自遜】298ソウジソン　宋、南昌の人。字は謙父。號は壺山。詞に巧。著に漁樵笛譜がある。〔尙友錄、十七〕。

【宋時榮】299ソウジエイ　朝鮮李朝、恩津の人。字は公先、又、茂先。號は野隱。諡は忠顯。官は司僕寺。〔人物考〕。

【宋時烈】300ソウジレツ　朝鮮李朝、恩津の人。甲祚の子。小字は聖賚。字は英甫。號は尤菴。諡は文正。金沙溪の門人。仁祖・孝宗・顯宗に歷仕し、官は右議政。後、左相。清朝に服從するを反對して反對派に謫せられ、肅宗の時、遂に死を賜はる。李退溪と共に朱子學の二大家と稱せらる。著に朱子大全箚疑・二程全書分類・語類小分・問義通考・心經釋義・退溪講錄、及文集百餘卷がある。〔朝鮮史、五〕・〔誌狀〕。

【宋實穎】301ソウジツエイ　清、長洲の人。字は既庭。號は湘尹。順治の擧人。官は興化縣教諭。經史に精通し、博綜旁搜、當時推して老宿となす。書室を老易軒・讀書堂・玉磬山房といふ。著に讀書堂・老易軒・玉磬山房等の集がある。〔清史列傳、七十〕。

【宋昌言】302ソウシヤウゲン　宋の人。敏求の從弟。字は仲謨。治水に功あり。官は少府監。〔宋史、二百九十一〕・〔宋史新編、九十〕。

【宋昌祚】303ソウシヤウソ　宋の人。和州鈐轄となり、金人に圍まれ、城破れて死す。〔宋史、四百五十三〕。

【宋相琦】304ソウシヤウキ　朝鮮李朝、恩津の人。字は玉汝。號は玉吾齋。官は大提學大司憲。〔人物考〕。

【宋翔鳳】305ソウシヤウホウ　清、長洲の人。字は于庭、又、虞庭。莊述祖の女婿。嘉慶の擧人。官は湖南新寧縣の長官。經學に精通し、段玉裁に師事し、常州學派に屬す。書室を浮溪精舍といふ。著に浮溪精舍叢書がある。〔清史稿、四百八十八〕・〔清史列傳、六十九〕。

【宋殤公】306ソウノシヤウコウ　春秋、宋の君。宣公の子。名は與夷。諡は殤。時に鄭及び諸侯數〻宋を伐ち、公卽位十年にして十一戰す。太宰華督の孔父嘉を殺して其の妻を取るや、公之を怒つたが、却て督の爲に殺さる。〔左氏、隱、四。桓、二。文、十五〕。

【宋襄公】307ソウノジヤウコウ　春秋、宋の君。桓公の子。名は茲父。仁義を好む。公子の目夷を相とし、齊の桓公に繼いで諸侯の盟主となり、楚と霸を爭ひ、泓に戰つて傷を被り卒す。在位十四年。宋襄之仁(443)を見よ。〔左氏、僖、九・十六・十七・十八・二十・二十三〕。

【宋若華】308ソウジヤククワ　唐の人。宋若莘を見よ。

【宋若憲】309ソウジヤクケン　唐の人。廷芬の四女。貞元中、召されて宮に入る。文宗の時、屬辭を善くし、論議に粹なるを以て、尤も禮せらる。太和中、李訓・鄭注、事を用ひて宰相李宗閔を惡み、駙

馬都尉沈生に因つて厚く若憲に賂ひ、執政を求むと譖言したので、帝怒り、若憲を外第に幽して死を賜ふ。後、訓・注敗れてより、帝、其の譏を悟つて之を追恨す。〔舊唐書、五十二〕。

【宋若莘】310 ソウジャクシン　唐、貝州の人。廷芬の長女。妹の若昭・若倫・若憲・若荀と並んで五宋と號せらる。諸妹を教うること嚴師の如く、女論語十篇を著し、妹の若昭、又傳を爲つて之を申釋す。貞元中、召されて宮に入り、學士と呼ばる。宮中の圖籍を總領し、卒して河内郡君を贈らる。舊唐書に若華に作る。〔舊唐書、五十二〕。

【宋若昭】311 ソウジャクセウ　唐の人。廷芬の次女。李抱眞、其の才を表す。德宗召して禁中に入れ、其の風操を高しとし、妾侍を以て之に命ぜず。穆宗の時、尙宮に拜せられ、憲・穆・敬の三朝を歷、皆師禮を以て遇せらる。寶曆の初、卒す。梁國夫人を贈らる。〔舊唐書、五十二〕。

【宋守約】312 ソウシユヤク　宋、酸棗の人。諡は勤毅。官は步軍副都指揮使・威武軍留後。〔宋史、三百四十九〕・〔宋史新篇、一百二十〕。

【宋聚業】313 ソウシユウゲフ　清、長洲の人。字は嘉升。號は南園。康熙の進士。官は吏部郎中。性、剛直。年羹堯に逆らふを以て死す。著に南園詩稿がある。〔國朝耆獻類徵、一百四十二〕。

【宋充國】314 ソウジユウコク　宋の人。庠の子。進士。官は大中大夫。〔宋史、三百五十六〕。

【宋浚吉】315 ソウシユンキツ　朝鮮李朝。恩津の人。字は明甫。號は同春堂。諡は文正。官は司憲府大司憲兼成均館祭酒。著に同春堂集・語錄解がある。〔江漢集〕。

【宋駿業】316 ソウシユンゲフ　清、吳縣の人。字は聲求。號は堅齋。初、副貢に登り、兵部侍郎に至る。山水畫に巧。〔清史稿、二百五十六〕・〔清史列傳、七〕。

【宋順帝】318 ソウノジユンテイ　劉準(2-2224‥375)を見よ。

〖宋順帝陵〗319 ソウノジユンテイノリヨウ　遂寧陵(11-38985‥53)を見よ。

【宋處宗】320 ソウシヨソウ　晉、沛國の人。名は宗。官は兗州刺史。一羽の長鳴雞を得、窗閒に愛養したが、後、人語を作したので、之と論談妙を極め、由つて功業大いに進んだ。〔尙友錄、十七〕。

【宋汝爲】321 ソウジヨヰ　宋、豐の人。字は師禹。官は修武郎。秦檜が金人を械送せんとするや、趙復と變名し、蜀に入つて死す。著に忠嘉集がある。〔宋史、三百九十九〕・〔宋史新編、一百四十〕・〔南宋書、三十〕。

【宋承演】322 ソウシヨウエン　高麗の人。官は、成宗の時、太學助教、後、國士博士。〔高麗史〕。

【宋承庠】323 ソウシヨウシヤウ　清、江蘇華亭の人。字は養初。光緒の擧人。官は湖廣道監察御史。庚子の拳匪の亂に殉難し、四品卿の銜を贈らる。〔清史稿、四百七十四〕。

【宋松年】324 ソウシヨウネン　宋の人。字は德操。紹興の進士。史學に耽り、唐代の事に通ず。官は信州錄參。閣を作つて紬書といひ、羣籍を網羅して校讐す。〔尙友錄、十七〕。

【宋勝之】325 ソウシヨウシ　漢、安衆の人。字は郎子。篤行あり、信義を以て聞ゆ。太原に遊び、郇越に從つて羊を牧し、琴書自ら娛しむ。丞相孔光に召されたが至らず。〔高士傳、中〕。

【宋申錫】326 ソウシンセキ　唐の人。字は慶臣。進士。官は同中書門下平章事。〔舊唐書、一百六十七〕・〔唐書、一百五十二〕。

【宋振麟】327 ソウシンリン　清、淳化の人。字は子禎。號は中巖。順治の恩貢生。母の盲を病むや日夕之を舐め、三載にして全治せしめた。學を爲して博雅、同邑の姚開先・羅萬藻と性命の學を討論す。康熙中、鴻博に擧げられたが起たず。著に中巖集がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十〕。

【宋晉之】328 ソウシンシ　宋、樂清の人。舊名は孝先。字は舜卿。幼くして穎悟、日に數千言を誦す。弱冠にして王十朋に從學し、同學者及ぶ者無し。臨海・光化・奉化等諸縣の長官に歷任し、信州の通判となり、朝散郎を以て致仕す。自ら樟坡居士と號す。著に樟坡集がある。〔宋元學案、四十四〕。

【宋眞宗】329 ソウノシンソウ　趙恒(10-37171‥163)を見よ。

〖宋眞宗陵〗330 ソウノシンソウノリヨウ　永定陵(6-17088‥191)を見よ。

【宋神宗】331 ソウノシンソウ　趙頊(10-37171‥109)を見よ。

〖宋神宗陵〗332 ソウノシンソウノリヨウ　永裕陵(6-17088‥290)を見よ。

【宋仁宗】333 ソウノジンソウ　趙禎(10-37171‥238)を見よ。

〖宋仁宗陵〗334 ソウノジンソウノリヨウ　永昭陵(6-17088‥280)を見よ。

【宋井齋】335 ソウセイサイ　清の人。孫延(3-6987‥19)の號。

【宋世軌】336 ソウセイキ　北齊の人。世良の弟。官は大理少卿。〔北齊書、四十六〕。

【宋世景】337 ソウセイケイ　後魏の人。繇の弟。秀才に擧げらる。官は滎陽太守。〔魏書、八十八〕・〔北史、二十六〕。

【宋世犖】338 ソウセイラク　清、臨海の人。字は卣勛。號は确山・紅杏軒。乾隆の擧人。官は扶風縣知。書室を古銅爵書屋といふ。著に周禮故書疏證・儀禮古今文疏證・台州叢書・确山樓駢體文・紅杏軒詩鈔がある。〔清史稿、四百八十八〕・〔清史列傳、六十八〕。

【宋世良】339 ソウセイリヤウ　後魏、廣平の人。字は元友。官は東郡大守。〔北齊書、四十六〕。

【宋成公】340 ソウノセイコウ　春秋、宋の君。襄公の子。名は王臣。諡は成。楚の盟に倍いて晉と親しむ。楚が宋を伐つや急を晉に告げたので、晉の文公、之を救ひ、楚兵遂に去る。在位十七年。〔左氏、僖、二十四。文、七〕。

【宋齊丘】341 ソウセイキウ　五代、唐の廬陵の人。洪州に家す。字は子嵩。諡は醜繆。學を好み、文に巧で、尤も縱橫長短の說を喜び、遊客を以て李昇に求め、右僕射平章事に累遷す。昇が禪を受けるに及び、右丞相より司徒に進んだが、心に不平を懷き、出でて鎭南節度使となる。李璟が立つや、召されて太保中書令に拜されたが、植黨に坐して罷められ、九華山に隱れ、九華先生の號を賜はる。後、中書令となり、楚國公に封ぜられたが、權利を好み、朋黨を結び、功を矜つて能を忌んだ爲、簒を謀るといふものあり、放たれて九華山に歸り、自刎して卒す。著に文集・玉管照神經がある。〔四庫提要、一百九〕。

【宋少帝】342 ソウノセウテイ　劉義符(2-2224‥798)を見よ。

【宋少連】343 ソウセウレン　唐の人。宋之問(291)を見よ。

【宋昭公】344 ソウノセウコウ　春秋、宋の君。成公の少子。名は杵臼。諡は昭。無道にして國人附かず、公の弟鮑、賢にして士に下る。公の出獵に當つて、襄公夫人、衞伯をして公を殺さしめ鮑を立つ。在位九年。〔左氏、文、十六〕。

【宋宣公】345 ソウノセンコウ　春秋、宋の君。厲公六代の孫。名は力。諡は宣。在位十九年。〔左氏、隱、三〕。

【宋宣祖】346 ソウノセンソ　趙弘殷(10-37171‥550)を見よ。

〖宋宣祖陵〗347 ソウノセンソノリヨウ　永安陵(6-17088‥9)を見よ。

【宋潛溪】348 ソウセンケイ　明、宋濂(216)を見よ。

【宋存室】349 ソウソンシツ　清、楊以增(6-15112‥407)の室名。

【宋存楠】350 ソウソンナン　明の人。宋徵璧(369)を見よ。

【宋存標】351 ソウソンペウ　明、松江華亭の人。字は子建。崇禎中の貢生。翰林院孔目の候補となる。著に史疑・國策本論がある。〔明詞綜、六〕。

【宋太初】352 ソウタイシヨ　宋、晉城の人。字は永初。太平興國の進士。官は四路都轉運使、兼御史中丞。〔宋史、二百七十七〕・〔宋史新編、七十九〕。

【宋太祖】353 ソウノタイソ　趙匡胤(10-37171‥467)を見よ。

〖宋太祖陵〗354 ソウノタイソノリヨウ　永昌陵(6-17088‥112)を見よ。

【宋太宗】355 ソウノタイソウ　趙匡儀(10-37171‥468)を見よ。

〖宋太宗陵〗356 ソウノタイソウノリヨウ　永熙陵(6-17088‥56)を見よ。

【宋體字】357 ソウタイジ　流俗通用の刻書の字體。北宋の刊本は顏眞卿・柳公權の書體を旨とし、皆能書家が各〻の字體に隨つて書いたが、元人の刊書は盛に趙松雪の字體に倣つて之を書した。而して、明の隆慶・萬曆の頃、始めて書工が宋版にならつて一體を出したのを、元體の字に對して宋體の字といふ。〔書林清話、刻書分二宋元體字一之始〕今世刻書字體、有二一種橫輕直重者一、謂レ之爲二宋字一、一種楷書圓美者、謂レ之爲二元字一、世皆不レ得二其緣起一、吾謂、北宋蜀刻經史及官刻監本諸書、其字皆顏柳體、其人皆能書之人、其時家塾書坊、雖レ不レ能二一致一、大都筆法整齊、氣味古樸、云云、有元一代官私刻本、皆尙二趙松雪字一、此則

元體字之所濫觴也、前明中葉以後、於是專有寫匡廓宋字之人、相沿至今、云云、錢吉曝書雜記、論刻書用宋體字、亦引杭說謂、宋字濫觴於明季汪琬・薛熙刻云云。

【宋大鐏】358　清、仁和の人。字は左彝、又、茗香。乾隆の擧人。官は國子監助教。書室を牧牛村舍といふ。著に學古集・牧牛村舍詩鈔がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百四十七〕。

【宋湯齊】359　明、肥鄕の人。崇禎の諸生。李自成を討つて死す。〔明史、二百九十五〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百七十六〕。

【宋度宗】360　趙禥（**10－37171**‥94）を見よ。

〖宋度宗陵〗361　永紹陵（**6－17088**‥281）を見よ。

【宋單父】362　唐、洛の人。字は仲儒。吟詩を善くし、又、牡丹千種を植う。驪山に召され、花卉萬本を植ゑたが、其の色樣同じからず、內人、皆花師と呼ぶ。〔異人錄〕。

【宋端儀】363　明、莆田の人。字は孔時。成化の進士。官は廣東提學僉事。著に考亭淵源錄・立齋閒錄がある。〔明史、一百六十一〕・〔萬斯同明史、二百四十五〕・〔明史稿、一百六十二〕。

【宋端宗】364　趙昰（**10－37171**‥183）を見よ。

〖宋端宗陵〗365　永福陵（**6－17088**‥219）を見よ。

【宋稺圭】366　朝鮮李朝、恩津の人。字は奇玉。號は剛齋。諡は文簡。官は刑曹判書。〔梅山集〕。

【宋長春】367　清、蒲圻の人。字は柏山。官は雲南副總兵。

【宋長白】368　清、浙江山陰の人。原名は俊。字を以て行はる。號は柳亭。著に柳亭詩話・增補嶺南風物紀がある。〔四庫提要、一百九十七〕。

【宋徵璧】369　明、松江華亭の人。原名は存楠。字は尙木。書室を抱眞堂といふ。著に左氏兵法測要がある。〔四庫提要、一百〕。

【宋徵輿】370　清、松江華亭の人。字は直方、又、轅文。號は林屋。順治の進士。官は副都御史。諸生たりし時、陳子龍・李雯等と幾社を倡へ、古學を以て相切瑳す。其の詩は博贍に長じ、聲譽、子龍に次ぐ。著に林屋詩文稿がある。〔清史稿、四十六〕。

【宋直方】371　宋、晉江の人。字は順中。熙寧の進士。官は鞏縣の長官。〔尙友錄、十七〕。

【宋廷芬】372　唐、貝州清陽の人。世〻儒を以て聞ゆ。五女を生むに、皆警慧にして善く文を屬し、人に嫁するを願はず、學を以て名をあらはさんと欲す。貞元中、李抱眞、五女の才德を表す。德宗召試し、悉く宮中に留め、廷芬を擢んでて饒州司馬となす。廷芬の男、獨り愚にして教ふ可からず、民となりて身を終ふ。〔舊唐書、五十二〕。

【宋帝昺】373　趙昺（**10－37171**‥332）を見よ。

【宋兆鶴】374　清、長洲の人。字は開士。號は雲岑。康熙の進士。嘗て禮經注疏を采り、集めて一編となして其の失を證す。乾隆中、詔して三禮を修めしめられたが、勞瘁を以て卒す。

【宋哲元】375　民國、山東省樂陵縣の人。字は明軒。馮玉祥の腹心の部下で、國民軍の中堅。國民軍全盛時代、熱河都統となり、馮軍の北伐戰に參加するや、第四方面軍總指揮に任ぜられ、國民政府軍事委員・山東政府委員を兼ねた。後、反蔣介石軍に投じて活躍したが、破れて退く。滿洲事變後、冀察政務整理委員會委員長に就任した。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【宋哲宗】376　趙煦（**10－37171**‥116）を見よ。

〖宋哲宗陵〗377　永泰陵（**6－17088**‥170）を見よ。

【宋天顯】378　明の人。賢の孫。字は敬夫。官は內閣中書舍人。賊に執へられ、僞詔を書く事を逼られ、賊を罵り階に觸れて死す。〔明史、二百六十六〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百五十三〕。

【宋登春】379　明、新河の人。字は應元。號は海翁。少くして詩を能くし、畫を善くす。年、二十餘、家を棄てて遠游し、晩年、其の兄の子に依る。江陵の天鵝池に居り、自ら鵝池生と號す。徐學謨の徐州に守となるや、深く之を敬禮す。後、學謨の致仕して歸るや、之を吳中に訪ひ、舟を買つて錢塘江に浮び、直ちに江に躍り入つて死す。著に宋布衣集がある。〔國朝獻徵錄、一百十五〕・〔明詩綜、六十三〕。

【宋德宜】380　清、長洲の人。字は右之。諡は文恪。順治の進士。官は吏部尙書・文華殿大學士。〔清史稿、二百五十六〕・〔清史列傳、七〕・〔國朝耆獻類徵、六〕・〔碑傳集、十二〕・〔國朝先正事略、五〕。

【宋德寬】381　清の人。宋宓（186）を見よ。

【宋德之】382　宋、江源の人。字は正仲。官は兵部郎官であつたが、安丙の事に因り罷めらる。〔宋史、四百〕・〔宋史新編、一百四十九〕・〔南宋書、四十二〕・〔宋元學案、七十二〕。

【宋德宸】383　清の人。宋宓（186）を見よ。

【宋德方】384　元の人。號は披雲子（披雲眞人）。太原の昊天觀に隱居す。至元中、玄通披雲眞人を贈らる。

【宋南強】385　宋、山東の人。紹興に寓す。字は子居。沙縣の長官となり、善政あり。〔尙友錄、十七〕。

【宋如意】386　戰國の壯士。荊軻の友。〔水經、易水注〕闞駰稱、太子丹遣荊軻刺秦王、與賓客知謀者、祖道于易水上、燕丹子稱、荊軻入秦、太子與知謀者、皆素衣冠送之于易水之上、荊軻起爲壽歌曰、風蕭蕭兮易水寒、壯士一去兮不復還、高漸離擊筑、宋如意和之、爲壯聲、士髮皆衝冠、爲哀聲、士皆流涕。

【宋寧宗】387　趙擴（**10－37171**‥126）を見よ。

〖宋寧宗陵〗388　永茂陵（**6－17088**‥289）を見よ。

【宋邦綏】389　清、長洲の人。字は逸才。號は況梅。乾隆の進士。編修より湖北巡撫に擢んでられ、廣西巡撫より戶部侍郎に至る。〔國朝耆獻類徵、八十三〕。

【宋邦輔】390　明、東流の人。字は子相。孝子。官は南京御史。〔明史、二百九〕・〔萬斯同明史、二百八十一〕・〔明史稿、一百九十三〕。

【宋葆淳】391　清、安邑の人。字は帥初。號は芝山、又、隆阪。乾隆の擧人。官は解州學正。金石考據に長じ、鑑別を善くす。山水畫に巧で、北宋人の法を得た。〔國朝漢學師承記、一〕。

【宋伯義】392　明、西華の人。洪武中、太學に入り、才行を以て山東右參政に擢んでられ、永樂の初、陝西布政使に轉ず。〔本朝分省人物攷、八十四〕。

【宋伯仁】393　宋、廣平の人、一に湖州の人に作る。字は器之。號は雪巖・煙波漁隱。畫梅を善くし、梅花喜神譜上下卷を作る。官は嘉熙中、鹽運司屬官。著に西塍集・煙波漁隱詞がある。〔四庫提要、一百六十四〕・〔宋詩鈔補〕。

【宋必達】394　清、黃州の人。字は其在。順治の進士。官は寧都の長官。〔清史稿、四百八十二〕・〔清史列傳、七十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百十九〕・〔國朝先正事略、五十九〕。

【宋賓王】395　清、婁縣の人。字は蔚如。市井より家を起し、藏書極めて多く、苦心して讎勘し、精確無比と稱せらる。

【宋敏求】396　宋の人。綬の子。字は次道。唐書を修め、唐の武宗以下の實錄を私撰す。官は龍圖閣直學士。著に春明退朝錄・唐大詔令集・長安志がある。〔宋史、二百九十一〕・〔宋史新編、九十〕・〔東都事略、五十七〕・〔名臣碑傳琬琰集、中、十六〕。

【宋湣公】397　宋、閔公を見よ。

【宋閔公】398　春秋、宋の君。莊公の子。名は捷。諡は閔。史記に湣に作る。蒙澤にて南宮萬に弑せらる。〔左氏、莊、十二〕。

【宋布衣】399　明、宋登春（379）をいふ。

〖宋布衣集〗400　書名。三卷。明、宋登春撰。詩は鵝池集、文は燕石集と名づけてあつたのを、王培益が合して一編としたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【宋毋忌】401　火の精。〔史記、封禪書〕宋毋忌・正伯僑・充尙・羨門子高・最後皆燕人、爲方僊道、形解銷化、依於鬼神之事。〔注〕集解曰、韋昭曰、皆慕古人名效神仙者、索隱曰、樂彥引老子道經云、月中仙人宋毋忌、白澤圖云、火之

精曰㆓宋毋忌㆒、蓋其人火仙也。〔博物志、雜說上〕水之怪爲㆓龍罔象㆒、木石之怪爲㆓夔罔兩㆒、土之怪爲㆓羵羊㆒、火之怪爲㆓宋毋忌㆒。〔搜神記、三〕管輅善㆓易卜㆒、安平太守東萊王基字伯輿、家有㆓賤婦人㆒、生㆓一男㆒、墮㆑地便走入㆓竈中㆒、輅曰、兒生便走、非㆓能自走㆒、直宋無忌之妖將㆓其入㆒㆑竈也。

【宋武帝】402 劉裕(**2**−**2224**‥624)を見よ。

〖宋武帝陵〗403 初寧陵(**2**−**1911**‥248)を見よ。

【宋文運】404 清、南宮の人。字は開之。諡は端慤。順治の進士。滋陽縣の長官より順天府尹に累遷し、宿弊を改革す。刑部侍郎に進み、太子少保を加へらる。〔清史稿、二百八十五〕・〔國朝耆獻類徵、四十七〕。

【宋文公】405 春秋、宋の君。昭公の弟。名は鮑。諡は文。昭公の子、因公の母弟須が、武繆戴莊桓の族と亂を爲したのを盡く誅し、武穆の族を出し、華元を右師とす。在位二十二年。〔左氏、宣、元・三。成、二〕。

【宋文仲】406 宋、安陸の人。字は伯華。張栻の門人。官は萍鄉丞・桂陽錄事。陳傅良に本軍會稽錄一卷を獻ず。〔宋元學案、七十二〕。

【宋文帝】407 劉義隆(**2**−**2224**‥799)を見よ。

〖宋文帝陵〗408 長寧陵(**11**−**41100**‥698)を見よ。

【宋逋臣】409 宋の人、柴望(**6**−**14664**‥75)をいふ。

【宋鳳翔】410 明、秀水の人。字は羽皇。萬曆の擧人。著に秋涇筆乘がある。〔煙艇永懷、二〕。

【宋夢鼎】411 元、淳安の人。字は翔仲。楊簡・錢時の學に私淑す。至順の進士。官は奉化州の長官。〔宋元學案、七十四〕。

【宋穆公】412 春秋、宋の君。宣公の弟。名は和。諡は穆。卽位の後九年にして病む。大司馬孔父を召して、先君、太子與夷を舍いて我を立つ、我敢へて忘れず、我死せば必ず與夷を立てよといひ、其の子馮をして出でて鄭に居らしむ。公、卒し、與夷、立つ。〔左氏、隱、三〕。

【宋務光】413 唐、汾州西河の人。字は子昂。一名は烈。進士。官は殿中侍御史。〔唐書、一百十八〕。

【宋明欽】414 朝鮮李朝、恩津の人。字は晦可。號は櫟泉。諡は文元。官は贊善、兼經筵官。〔櫟泉年譜〕。

【宋明帝】415 劉彧(**2**−**2224**‥16)を見よ。

〖宋明帝陵〗416 高寧(**12**−**45313**‥754)を見よ。

【宋綿初】417 清、高郵の人。字は守端。乾隆の拔貢。官は訓導。經學に精通す。著に韓詩內傳徵・困知錄がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔國朝先正事略、三十五〕。

【宋用臣】418 宋、開封の人。字は正卿。官は永泰陵修奉鈐轄。〔宋史、四百六十七〕・〔宋史新編、一百八十四〕・〔東都事略、一百二十〕。

【宋翼弼】420 朝鮮李朝、礪山の人。字は雲長。號は龜峰先生。著に文繩集及び文集がある。〔人物考〕。

【宋來熙】421 朝鮮李朝、恩津の人。字は子七。官は經筵官、後、贊善。〔人物志〕。

【宋老生】422 隋の將校の名。〔李衞公問對、上〕朕破㆓宋老生㆒。

【宋理宗】423 趙昀(**10**−**37171**‥19′)を見よ。

〖宋理宗陵〗424 永穆陵(**6**−**17088**‥288)を見よ。

【宋綸邦】425 清、元和の人。字は殿傳。號は釣川。官は乾隆中、監生。畫に巧。

【宋麟壽】426 朝鮮李朝、恩津の人。字は眉叟。號は圭菴。諡は文忠。官は成均館大司成。〔人物考〕。

【宋令詢】427 五代、唐の人。官は磁州刺史。閔帝に殉ず。〔舊五代史、六十六〕。

【宋令文】428 唐、汾州の人。之問の父。文辭に富み、書に巧で、膂力があつたから三絕といはれる。官は東臺詳正學士。〔舊唐書、一百九十〕・〔唐書、二百二〕・〔琅琊代醉編、十八〕。

【宋荔裳】429 清の人。宋琬(19)を見よ。

【宋厲公】430 春秋、宋の君。湣公の子。名は鮒祀。諡は厲。湣公卒し、公の弟煬公立つや、煬公を弑して自立す。〔左氏、昭、七〕。

【宋遺民錄】431 書名。十五卷。明、程敏政撰。宋の遺民の記錄。卷一から卷七までを正編とし、王鼎翁・謝皐羽・唐玉潛の三人、卷八以下を附錄とし、張毅父・方韶卿・吳子善・龔聖與・汪六有・梁隆吉・鄭所南・林景曦の八人の傳記及び詩文を收む。〔四庫提要、史、傳記類存目〕。

【宋孝武帝】432 劉駿(**2**−**2224**‥368)を見よ。

〖宋孝武帝陵〗433 景寧(**5**−**13983**‥265)の㊁を見よ。

【宋高僧傳】434 書名。三十卷。宋、釋贊寧撰。唐の釋道宣の高僧傳を續修したもので、唐の高宗から始め、五百三十二人を載せ、一百三十人を附す。〔四庫提要、子、釋家類〕。

【宋斤魯削】435 宋から出る斧、魯から出る刀。其の地の特產の喩。〔周禮、考工記〕鄭之刀、宋之斤、魯之削、吳越之劍、遷㆓乎其地㆒、而弗㆑能㆑爲㆑良、地氣然也。

【宋畫吳冶】436 宋人の畫、吳人の鍛冶。極めて精妙な喩。〔淮南子、脩務訓〕宋畫吳冶、刻㆑刑鏤㆑法、亂修曲出、其爲㆓微妙㆒、堯舜之聖不㆑能㆑及。〔注〕宋人之畫、吳人之冶、刻㆓鏤刑法㆒、亂理之文、修飾之巧、曲出㆓於不意㆒也。

【宋藝圃集】437 書名。二十二卷。明、李蓑撰。宋人二百三十七人の詩を錄し、末に釋衲・宮閨・靈怪・妓流、及び姓名不明の者一卷を附す。〔四庫提要、集、總集類〕。

【宋後廢帝】438 劉昱(**2**−**2224**‥15)を見よ。

【宋三大書】439 太平御覽(**3**−**5834**‥434)・冊府元龜(**2**−**1515**‥36)・文苑英華(**5**−**13450**‥64)を併稱す。各條を見よ。

【宋之文謝】440 宋末の忠臣、文天祥・謝枋得をいふ。〔三島中洲、乃木將軍論序〕唐之顏張、宋之文謝。

【宋四六話】441 書名。十二卷。清、彭元瑞撰。古人の著述中から趙宋諸家の四六文に關する話を彙輯す。其の目は制詔・表・啓・賦・檄・露布・判・說論・祝文・青詞・道場疏・開堂疏・樂語・上梁文・雜文・散語・摘句・諧談。〔清史稿、藝文志〕。

【宋十行本】442 十三經注疏の合刻本。十行に印行せられたからいふ。完全な十三經注疏(儀禮を省く)として現存する最古のものである。版は南宋に刻したが、明の正德中に多く完成したので、一に正德本ともいふ。〔阮元、十三經注疏總目錄〕有㆓宋十行本注疏者㆒、卽南宋岳珂九經三傳沿革例所㆑載、建本附釋音注疏也、其書刻㆓于宋南渡之後㆒、由㆑元入㆑明、遞有㆓修補㆒、至㆓明正德中㆒、其板猶存、是以㆓十行本㆒爲㆓諸本最古之冊㆒。

【宋襄之仁】443 つまらないなさけの喩。春秋、宋の襄公が楚と泓に戰ひ、渡河未だ陣をなさざるに伐つべしとの司馬の言を用ひず、古の仁者を氣取つて却つて楚に破れ、世の物笑ひとなつた故事。〔左氏、僖、二十二〕冬十一月己巳朔、宋公及㆓楚人㆒戰㆓于泓㆒、宋人既成㆑列、楚人未㆓既濟㆒、司馬曰、彼衆我寡、及㆓其未㆓既濟㆒也、請擊㆑之、公曰、不可、既濟而未㆑成㆑列、又以告、公曰、未㆑可、既陳而後擊㆑之、宋師敗績、公傷㆑股、門官殲焉、國人皆咎㆑公、公曰、君子不㆑重㆑傷、不㆑禽㆓二毛㆒、古之爲㆑軍也、不㆑以㆓阻隘㆒也、寡人雖㆓亡國之餘㆒、不㆑鼓㆑不㆑成㆑列、子魚曰、君未㆑知㆑戰。〔十八史略、春秋戰國〕(宋襄公)欲㆑霸㆓諸侯㆒、與㆑楚戰、公子目夷、請㆘及㆓其未㆑陳擊㆖㆑之、公曰、君子不㆑困㆓人於阨㆒、遂爲㆓楚所㆑敗、世笑以爲㆓宋襄之仁㆒。

【宋受㆓天命㆒】444 宋の始祖趙匡胤が、天命を受けて天子となつたことをいふ。〔歐陽脩、豐樂亭記〕及㆓宋受㆓天命㆒、聖人出、而四海一。

【宋前廢帝】445 劉子業(**2**−**2224**‥963)を見よ。

【宋代謝安】446 宋の寇準の沈著を晉の謝安(**10**−**35827**‥1)に比してほめた語。〔夢溪筆談、人事〕景德中、車駕欲㆑幸㆓澶淵㆒云云、獨寇忠愍準贊㆓成上意㆒、乘㆑輿方渡㆑河、虜騎充斥、至㆓于城下㆒、人情恟恟、上使㆔人微覘㆓準所㆑爲、準方酣㆓寢於中書㆒、鼻息如㆑雷、人以㆓其一時鎭㆑物、比㆓之謝安㆒。

【宋代儒學】447 宋の儒學を宋史では道學といひ、一般には漢學又は漢唐の學に對して宋

學といひ、或は性理の研究を主とする點から性理の學又は理學ともいふ。四つの特色あり、一は儒學の經典に對して懷疑的であり、二は儒學の目的に直面して極めて眞劍であり、三は儒學の造詣に深みを加へたことであり、四は儒學の目的が各方面に發展したことである。卽ち、唐の統一政策に飽き、五代の亂離を經て自由思想の勃興を見、儒學界に入つて經典に對する懷疑性となり、疑經疑傳となつて現はれ、又、宋代は國難の頻發に苦しめられ、學問を單なる智識欲と解する餘裕なく、直ちに取つて現下の社會を救ふ具に供せざるを得ないので茲に儒學の實際化となり、一方、佛教及び佛教の傳播を導入した老莊の學と相對して、思想上の論難を餘義なくせられ、其の對應策として儒學の得たものは思想の深さであり、其れが經解の上に現れて內面化となつた。國難に處して活動した儒學の分野は、主として儒學目的分內の正名及び經綸であつたが、佛老の侵入に對する活動は修養が之に當つた。宋學(36)を見よ。

【宋代小說】448（ソウダイセウセツ） 宋代は口語文學が勃興し、小說にも口語體のもの、所謂諢詞小說が續出した。

【宋代文學】449（ソウダイブンガク） 宋代文學の特色は一、歐・蘇・曾・王による古文復興、二、時文の端緒を開く、三、詞(詩餘)の勃興、四、諢詞小說及び語錄文等の白話體起る、五、批評文學の盛行に在る。宋初は詩文共に晚唐・五代の遺習を奉じ、楊億・劉筠・錢惟演等の西崑體には浮華侈靡の風があつた。此の時に當り、上は韓愈・柳宗元の餘烈を踵ぎ、下は歐・蘇の先唱を開いて、古文を唱道したものに柳開・穆修・尹洙・蘇舜欽の四人があり、其の他に張景・梁景・梁周翰・高錫・范杲・孫何・丁謂・王禹偁等があつたが、未だ復興の效果を收めるには至らなかつた。仁宗の慶曆中に至つて文運勃然として興り、歐陽脩尤も傑出し、蘇洵・蘇軾・蘇轍の三蘇、曾鞏・王安石等が相次いで起り、唐の韓・柳に配して八大家といふ。其の外に韓琦・范仲淹・司馬光・文彥博・宋祁等がある。詩に於ては蘇軾が出て唐詩の格律を復興し、其の門下の黃庭堅・張耒・晁補之・秦觀・陳師道・李廌は蘇門六君子といはれ、又、陳師道・李廌を除いて蘇門四學士ともいふ。就中、黃庭堅が尤も秀で、其の一派を江西詩派といふ。南渡の後は、國事多端の爲、文學も亦振はなかつたが、猶、文には李綱・胡銓・呂祖謙・陳亮・朱熹・葉適・謝枋得があり、詩には陳與義・曾幾・尤袤・楊萬里・范成大・陸游・文天祥の諸家があつた。尤・楊・范・陸を南宋の四大詩家といひ、就中、陸游は南宋第一の詩人である。

【宋通元寶】450（ソウツウゲンパウ） 宋の太祖が、唐の開元通寶を標準として鑄造した銅錢。〔宋史、食貨志下二〕錢幣、錢有㆓銅鐵二等㆒、而折二折三當五折十、則隨㆑時立㆑制、行㆑之久者、唯小平錢、夾錫錢最後出、宋之錢法、至㆑是而壞、蓋自㆓五代㆒以來、相㆓承用唐舊錢㆒、其別鑄者殊鮮、太祖初鑄㆑錢、文曰㆓宋通元寶㆒。

【宋廛一翁】451（ソウテンイチヲウ） 清、黃丕烈(**12－47926**··1296)の號。

【宋稗類鈔】452（ソウヒルイセウ） 書名。三十六卷。搜遺一卷。清、潘永因撰。宋人の詩話を分類纂輯したもの。凡そ五十九門。〔四庫提要、子、類書類〕。

【宋名家詞】453（ソウメイカシ） 叢書の名。明、毛晉編。宋代に於ける有名な詞家、六十一人の詞を集めたもので、其の目は、【第一集】珠玉詞一卷(宋、晏殊)。六一詞一卷(宋、歐陽脩)。樂章集一卷(宋、柳永)。東坡詞一卷(宋、蘇軾)。山谷詞一卷(宋、黃庭堅)。淮海詞一卷(宋、秦觀)。小山詞一卷(宋、晏幾道)。東堂詞一卷(宋、毛滂)。放翁詞一卷(宋、陸游)。稼軒詞四卷(宋、辛棄疾)。【第二集】片玉詞二卷補一卷(宋、周邦彥)。梅溪詞一卷(宋、史達祖)。白石詞一卷(宋、姜夔)。石林詞一卷(宋、葉夢得)。酒邊詞一卷(宋、向子諲)。溪堂詞一卷(宋、謝逸)。樵隱詞一卷(宋、毛幵)。竹山詞一卷(宋、蔣捷)。書舟詞一卷(宋、程垓)。坦菴詩一卷(宋、趙師使)。【第三集】惜香樂府十一卷(宋、趙長卿)。西樵語業一卷(宋、楊炎正)。竹屋凝語一卷(宋、高觀國)。夢窗藁四卷補一卷(宋、吳文英)。近體樂府一卷(宋、周必大)。竹坣詩餘一卷(宋、黃機)。金谷遺音一卷(宋、石孝友)。散花菴詞一卷(宋、黃昇)。和清眞詞一卷(宋、方千里)。後村別調一卷(宋、劉克莊)。【第四集】盧川詞一卷(宋、張元幹)。于湖詞一卷(宋、張孝祥)。無住詞一卷(宋、陳與義)。後山詞一卷(宋、陳師道)。洛水詞一卷(宋、程珌)。歸愚詞一卷(宋、葛立方)。龍洲詞一卷(宋、劉過)。初寮詞一卷(宋、王安中)。龍川詞一卷(宋、陳亮)。姑溪詞一卷(宋、李之儀)。友古詞一卷(宋、蔡伸)。石屛詞一卷(宋、戴復古)。海野詞一卷(宋、曾覿)。【第五集】逃禪詞一卷(宋、楊无咎)。空同詞一卷(宋、洪瑹)。介菴詞一卷(宋、趙彥端)。平齋詞一卷(宋、洪咨夔)。文溪詞一卷(宋、李昴英)。丹陽詞一卷(宋、葛勝仲)。孏窟詞一卷(宋、侯寘)。克齋詞一卷(宋、沈端節)。芸窗詞一卷(宋、張榘)。【第六集】竹坡詞一卷(宋、周紫芝)。聖求詞一卷(宋、呂濱老)。壽域詞一卷(宋、杜安世)。審齋詞一卷(宋、王千秋)。東浦詞一卷(宋、韓玉)。知稼翁詞一卷(宋、黃公度)。蒲江詩一卷(宋、盧祖皐)。琴趣外篇六卷(宋、晁補之)。烘堂詞一卷(宋、盧炳)。

【宋刊元印本】454（ソウカンゲンインボン） 宋の版木によつて元代に印刷せられた本をいふ。

【宋四家詞選】455（ソウシカシセン） 書名。一卷。清、周濟撰。宋の周邦彥・辛棄疾・王沂孫・吳文英の四家の詞を集めたもの。〔滂喜齋叢書本〕。

【宋爵十一等】456（ソウシヤクジフイツトウ） 宋代の爵の十一等をいふ。〔羣書拾唾〕宋爵十一等、王・嗣王・郡王・郡公・開國公・開國郡公・開國縣公・開國侯・開國伯・開國子・開國男。

【宋百家詩存】457（ソウヒヤクカシソン） 書名。二十八卷。清、曹廷棟撰。吳之振の宋詩鈔の遺を補つたもの。一百家を集む。〔四庫提要、集、總集類〕。

【宋季三朝政要】458（ソウキサンテウセイエウ） 書名。六卷。撰者未詳。理宗・度宗・瀛國公三朝の事を記す。〔四庫提要、史、編年類〕。

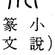
【宋宰輔編年錄】459（ソウサイホヘンネンロク） 書名。二十卷。宋、徐自明撰。中書・樞密二府の官の名位始末を詳述したもの。〔四庫提要、史、職官類〕。

【宋名臣言行錄】460（ソウメイシンゲンカウロク） 書名。名臣言行錄(**2－3297**··185)に同じ。

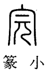
【宋六十一名家詞】461（ソウロクジフイチメイカシ） 書名。宋名家詞(453)を見よ。

【完】

7079



小篆（說文）



小篆（段注本）

㊀クワン グワン 〔集韻〕胡官切 寒 ㄨㄢˊ wan²

㊁ゴツ ゴチ 〔集韻〕五忽切 月

〔說文〕完、全也、从㆑宀元聲。〔王粲、從軍詩〕許歷爲㆓完士㆒。〔注〕善曰、完、謂㆓全具㆒也。

㊀❶**まつたい**。そなはる。缺けがない。❷**まつたうする**。㋑たもつ。まもる。そこなはぬ。〔左氏、昭、十五〕不㆑如㆑完㆑舊。〔注〕完、猶㆓保守㆒。〔莊子、天地〕不㆓以㆑物挫㆑志、之謂㆑完。〔史記、蔡澤傳〕子胥智而不㆑能㆑完㆑吳。㋺つくろふ。をさめる。〔孟子、萬章上〕父母使㆓舜完㆑廩。〔注〕完、治也。㋩はたす。十分に仕遂げる。完工(195)を見よ。❸**まるいさま**。完完(182)を見よ。❹**かたい**。院(**11－41665**)に通ず。〔說文通訓定聲〕完、段借爲㆑院。〔周禮、考工記、輪人〕輪敝、三材不㆑失㆑職、謂㆓之完㆒。〔荀子、王制〕尙㆓完利㆒。〔注〕完、堅也。❺**體をきずつけない刑**。今の禁錮刑。〔漢書、刑法志〕完者使㆑守㆑積。〔注〕師古曰、完、謂㆑不㆑虧㆓其體㆒、但居作也。❻寬(**3－7276**)に通ず。〔說文〕完、古文㠯爲㆓寬字㆒。❼**自得のさま**。完然(234)の❶を見よ。❽羦(**9－28500**)に通ず。〔後漢書、馬援傳〕鏦㆓特肩㆒脰㆓完羝㆒。〔注〕完羝、野羊也、完、字書作㆑羦。❾豋(**10－36256**)に通ず。〔說文通訓定聲〕完、段借爲㆑豋、通俗文、豆曰㆑完。❿**姓**。〔萬姓統譜〕完、見㆓姓苑㆒、河南寶豐縣有㆓完氏㆒。⓫

現㋑すむ。㋺租税を完納する。［二］**髮を剃りおとす刑**。髡(**12**−**45361**)に通ず。〔集韻〕髡、去レ髮刑、或作レ完。〔漢書、惠帝紀〕皆完レ之。〔注〕孟康曰、完、不レ加二肉刑一髡鬄也。

［名乘］サダ。マタ。

【完安】1（クワンアン）　安らか。やすい。完全で安全。〔管子、法法〕父母妻子完二安於內一。〔漢書、溝洫志〕今據二堅地一作二石隄一、勢必完安。

【完案】2 wan^{2} an^{4}　一事件が終決する。

【完菴】3（クワンアン）　明、劉玨(**2**−**2224**··116)の號。

【完一】4（クワンイツ）　清、朱宏仁(**6**−**14424**··726)の字。

【完姻】5 wan^{2} yin^{1}　婚姻をすます。完婚。完娶。

【完裔】6（クワンエイ）　後裔(**4**−**10098**··21)に同じ。〔江總、梁故度支尚書陸君誄〕嫣苗碩茂、完裔繁昌。

【完銳】7（クワンエイ）　堅固で銳い。完は堅い義。〔唐書、馬燧傳〕器用完銳。

【完罅】8（クワンカ）　缺けたところを完全にする。缺點を改良する。〔周邦彥、汴都賦〕黜二隋之陋一、更二唐之故一、補レ弊完レ罅、剔レ朽焚レ蠹。

【完解】9 wan^{2} chieh^{3}　完全に納付輸送する。

【完好】10（クワンカウ）　十分に備はつて立派なこと。〔葉適、北齋詩〕幸今修整畢、楹桷正完好。

【完行】11（クワンカウ）　行をまつたうする。又、まつたき行。〔後漢書、杜林傳〕國無二廉士一、家無二完行一。〔論衡、佚文〕治レ身完レ行。

【完顏】12（クワンガン）　❶部落の名。女眞族。世〻松花江の東に居り、宋の時、強盛となつて金國を建てた。後、蒙古に滅ぼさる。❷を見よ。❷（クワンガン ワンヤン）　複姓。金國の姓。王の意。部落の名から出た。後、功臣に賜はつた。〔金史、國語解〕完顏、漢姓曰レ王。〔金史、完顏阿鄰傳〕阿鄰、本姓郭氏、以二功勞一賜二姓完顏一、云云、近制賜二本朝姓一者、凡以二千人一、敗二敵三千一者、賜及二緦麻以上一者、敗二二千以上一者、賜及二大功以上一、敗二千人以上一者、賜止二其家一、阿鄰既賜レ姓、以二兄守楫及從父兄弟一爲レ請、宰臣奏二阿鄰功止賜二一家一、宣宗特詔許レ之。〔金史、完顏仲元・完顏阿鄰・完顏霆・烏古論長壽・完顏佐傳贊〕古者、天子胙レ土命レ氏、漢以來乃有レ賜レ姓、宣宗假以賞二一時之功一、郭仲元・郭阿鄰、以レ功皆賜二國姓一、女奚烈資祿・烏古論長壽、皆封疆之臣、而賜以二他姓一、貞祐以後、賜レ姓有レ格、夫以レ名使レ人、用レ之貴則貴、用レ之賤則賤、使三人計レ功而得二國姓一、則以二其貴一者反賤矣、完顏霆・完顏佐、皆賜二國姓一者、併附二於此一。

【完顏晏】13（ワンヤンアン）　金の人。阿离合懣の子。本名は斡論。契丹文字に通ず。封は廣平郡王。官は太尉。〔金史、七十三〕。

【完顏唵】14（ワンヤンアン）　完顏襄(29)の❷を見よ。

【完顏彝】15（ワンヤンイ）　完顏陳和尚(161)を見よ。

【完顏昱】16（ワンヤンイク）　完顏蒲家奴(166)を見よ。

【完顏玠】17（ワンヤンカイ）　金の人。顯宗の子。謚は悼敏。本名は謀良虎。官は開府儀同三司。溫王に封ぜらる。〔金史、九十三〕。

【完顏昂】18（ワンヤンカウ）　❶金の人。世祖の幼子。本名は吾都補。官は平章政事。封は鄆王。〔金史、六十五〕。❷金の人。景祖の弟。本名は奔睹。官は元帥太保。漢國公に封ぜらる。〔金史、八十四〕。

【完顏杲】19（ワンヤンカウ）　❶金の人。世祖の第五子。本名は斜也。謚は智烈。官は諳班勃極烈、後、都元帥。封は遼王。〔金史、七十六〕。❷金の人。安帝六代の孫。本名は撒离喝。謚は莊襄。官は河中尹。金源郡王に追封せらる。〔金史、八十四〕。

【完顏綱】20（ワンヤンカウ）　金の人。本名は元奴。字は正甫。官は尚書左丞。〔金史、九十八〕。

【完顏匡】21（ワンヤンキヤウ）　金の人。始祖九世の孫。本名は撒速。進士。官は尚書令。甲王に封ぜらる。〔金史、九十八〕。

【完顏勗】22（ワンヤンキヨク）　金の人。穆宗の第五子。本名は烏野。字は勉道。官は太師。封は金源郡王。契丹の字を以て詩文を爲り、女直郡望姓氏譜を撰定す。〔金史、六十六〕。

【完顏寓】23（ワンヤングウ）　金、西南路猛安の人。本名は訛出。大定の進士。官は安化軍節度使、兼、元帥左都監。反亂軍に殺さる。〔金史、一百四〕。

【完顏瓌】24（ワンヤンクワイ）　金の人。顯宗の子。本名は桓篤。謚は文敬。詩・騎射・書藝に精し。瀛王に封ぜらる。〔金史、九十三〕。

【完顏璟】25（ワンヤンケイ）　金の章宗。顯宗の嫡子。小字は麻達葛。官制を定め、刑法を修め、又、弘文院を置いて經書文學を講じ、其の在位年間は治世と稱せられた。ただ婢寵擅横の端を開き、金は此から衰へた。在位十九年。廟號は章宗。年號は明昌・承安・太和。〔金史、九〕。

【完顏元】26（ワンヤンゲン）　金の人。熙宗の弟。本名は常勝。官は北京留守。海陵の讒言によつて死す。〔金史、六十九〕。

【完顏佐】27（ワンヤンサ）　金の人。本姓は梁氏。官は德州防御使。完顏氏を賜はる。〔金史、一百三〕。

【完顏昌】28（ワンヤンシヤウ）　金の穆宗の子。本名は撻懶。官は行臺尚書左丞相。反を謀つて誅せらる。〔金史、七十七〕。

【完顏襄】29（ワンヤンジヤウ）　❶金の人。海陵の母弟。本名は永慶。官は輔國上將軍。〔金史、七十四〕。❷金の人。昭祖五世の孫。本名は唵。謚は武昭。戰功あり。官は平章政事。南陽郡王に封ぜらる。〔金史、九十七〕。

【完顏璹】30（ワンヤンジユ）　金の人。永功の子。本名は壽孫。字は仲實(仲寶)、一に子瑜。號は如菴・樗軒居士。博學で、密國公に封ぜらる。著に如菴小稿がある。〔金史、八十五〕。

【完顏珣】31（ワンヤンジユン）　金の宣宗。顯宗の長子。本名は吾睹補。中都から汴に遷都す。蒙古・南宋・西夏とも戰端を開き、國力殫く。在位十年。廟號は宣宗。年號三、貞祐・興定・元光。〔金史、十四〕。

【完顏晟】32（ワンヤンセイ）　金の太宗。世祖の第四子。本名は吳乞買。遼を滅ぼし、宋を討ち、徽宗・欽宗の二帝を捕ふ。又、人民が中華の風にそむのを恐れ、漢服を禁じて髡髮せしめた。在位十二年。年號は天會。〔金史、三〕。

【完顏齊】33（ワンヤンセイ）　金の人。穆宗の曾孫。本名は素赫。官は利涉軍節度使・上京留守。治績あり。〔金史、六十六〕。

【完顏瞻】34（ワンヤンセン）　❶金の人。字は景仁。官は元帥左監軍・權參知政事。〔尚友錄、二十四〕。❷完顏合達(65)を見よ。

【完顏琮】35（ワンヤンソウ）　金の人。顯宗の子。本名は承慶。謚は莊惠。寬厚にして好學。官は開府儀同三司。鄆王に封ぜらる。〔金史、九十三〕。

【完顏亶】36（ワンヤンダン）　金の熙宗。景宣帝の子。本名は合剌。河南陝西の地を宋に與へて臣と稱せしめた。末年、亂行あり、完顏亮に弑さる。在位十四年。廟號は熙宗。年號は、天會・天眷・皇統。〔金史、四〕。

【完顏仲】37（ワンヤンチユウ）　金の人。金源郡王婁室の子。本名は石古乃。女眞・契丹・漢の文字に通ず。官は天德軍節度使・北京留守。〔金史、七十二〕。

【完顏忠】38（ワンヤンチユウ）　金の人。石土門の弟。本名は迪古乃。字は阿思魁。官は中書門下平章事。金源郡王に追封せらる。〔金史、七十〕。

【完顏衷】39（ワンヤンチユウ）　金の人。世祖の曾孫。本名は醜漢。治績あり。官は順義軍節度使。〔金史、六十五〕。

【完顏霆】40（ワンヤンテイ）　金、寶坻の人。本姓は李氏。官は棣州防禦使。完顏氏を賜ふ。〔金史、一百三〕。

【完顏弼】41（ワンヤンヒツ）　金、蓋州猛安の人。邊境を治めて功あり。常に讀書を好み、暇あれば儒士を召見し、古の良將の風があつた。官は山東西路宣撫副使。〔金史、一百二〕。

【完顏旻】42（ワンヤンビン）　金の太祖。世祖の第二子。初名は阿骨打。屢〻遼に勝ち、遂に皇帝と稱し、國を金と號して會寧に都す。廟號は太祖。在位九年。年號は收國・天輔。〔金史、二〕。

【完顏雍】43（ワンヤンヨウ）　金の世宗。睿宗の子。本名は烏祿。遼陽より興つて帝と稱し、燕に入り、宋と叔姪の國となる。國人が漢姓を稱し南人の衣飾を學ぶことを禁じた。天下泰平にして小堯舜といふ。在位二十九年。廟號は世宗。年號は大定。〔金史、六〕。

【完顏翼】44（ワンヤンヨク）　完顏素蘭(100)を見よ。

【完顏老】45（ワンヤンラウ）　完顏宗浩(102)を見よ。

【完顏亮】46（ワンヤンリヤウ）　金の廢帝。遼王宗幹の第二子。字は元功。本名は迪古乃。熙宗を弑して自立す。宋に敗れて殺さる。在位十二年。年號は天德・貞元・正隆。〔金史、五〕。

【完顏阿鄰】47（ワンヤンアリン）　❶金の人。宗雄の子。女眞文字・契丹文字及び漢字に通ず。官は兵部尚書。〔金史、七十三〕。❷金の人。本姓は郭氏。完顏姓

を賜ふ。官は橫海軍節度使。宋を伐つて戰死す。〔金史、一百三〕。

【完顏斡帶】48（ワンヤンアツクタイ）　金の人。世祖の子。謚は定肅。武功多く、魏王に追封せらる。〔金史、六十五〕。

【完顏斡魯】49（ワンヤンアツロ）　❶金の人。始祖の子。〔金史、六十五〕。❷金の景祖の曾孫。官は西南路都統。遼・宋を伐つて功あり、鄭王に追封せらる。〔金史、七十一〕。

【完顏安國】50（ワンヤンアンコク）　金、上京の人。字は正臣。本名は闍母。軍功あり。官は樞密副使。道國公に封ぜらる。〔金史、九十七〕。

【完顏允恭】51（ワンヤンインキヨウ）　金の顯宗。世宗の第二子。本名は胡土瓦。謚は宣孝。皇太子のまま崩ず。章宗が卽位するや、光孝皇帝と追謚す。〔金史、九〕。

【完顏允濟】52（ワンヤンインサイ）　金の衞王。世宗の第七子。本名は永濟、小字は興勝。內政が亂れて蒙古に侵され、胡沙虎に弑せらる。在位五年。年號は大安・崇慶・至寧。宣宗が立つて、紹と追謚し、衞紹王と稱す。〔金史、十三〕。

【完顏烏帶】53（ワンヤンウタイ）　金の人。阿魯補の子。熙宗を弑し、海陵に仕へ、官は平章政事。許國王となる。〔金史、一百三十二〕。

【完顏烏魯】54（ワンヤンウロ）　金の德帝。始祖の長子。德皇帝と追謚す。〔金史、一〕。

【完顏永元】55（ワンヤンエイゲン）　金の人。神土懣の子。本名は元奴。字は惇禮。左氏春秋を善くす。官は興中尹・彭德軍節度使。〔金史、七十六〕。

【完顏永功】56（ワンヤンエイコウ）　金の人。世宗の子。本名は宋葛、又は廣孫。謚は忠簡。官は大興尹。越王に封ぜらる。〔金史、八十五〕。

【完顏永成】57（ワンヤンエイセイ）　金の人。世宗の子。本名は野鶴。一名、婁室。號は樂善居士。謚は忠獻。官は沁南軍節度使。豫王に封ぜらる。文集がある。〔金史、八十五〕。

【完顏永蹈】58（ワンヤンエイタウ）　金の人。世宗の子。初名は石狗兒。本名は銀朮可。謚は刺。讖記災祥を信じて不軌を謀り、誅せらる。〔金史、八十五〕。

【完顏永中】59（ワンヤンエイチユウ）　金の人。世宗の子。名は實魯刺。一名、萬僧。謚は厲。官は判大宗正。〔金史、八十五〕。

【完顏盈歌】60（ワンヤンエイカ）　金の穆宗。景祖の第五子。字は烏魯完。節度使として功あり、遼主に嘉賞せられ、所轄の疆土は日に廣く、金はこれより盛となつた。追尊して帝とす。〔金史、一〕。

【完顏可喜】61（ワンヤンカキ）　金の人。宗室の子。官は兵部尙書。反を謀つて誅せらる。〔金史、六十九〕。

【完顏海里】62（ワンヤンカイリ）　金の人。金源郡王婁室の族子。軍功あり、遼主を捕ふ。官は廣寧尹。〔金史、七十二〕。

【完顏絳山】63（ワンヤンカウザン）　金の人。官は奉御。哀帝が自ら縊るや、其の骨を埋む。〔金史、一百二十四〕。

【完顏鶴壽】64（ワンヤンカクジユ）　金の人。鄆王昂の子。本名は吾都。官は耶魯瓦羣牧使。賊に殺さる。〔金史、一百二十一〕。

【完顏合達】65（ワンヤンガフタツ）　金の人。名は瞻。字は景山。官は平章政事。芮國公に封ぜらる。後、元兵に殺さる。〔金史、一百十二〕。

【完顏合住】66（ワンヤンガフヂユウ）　金、葛速館芯里海水の人。官は眞定府路安撫使。〔金史、六十五〕。

【完顏函普】67（ワンヤンカンプ）　金の始祖。其の先は靺鞨氏。年六十餘にして高麗から完顏部僕幹水の涯に徙り、其の部の老婦を納れて完顏部の人となり、完顏姓を冒す。始祖と追尊す。〔金史、一〕。

【完顏希尹】68（ワンヤンキイン）　金の人。歡都の子。本名は谷神。謚は貞憲。太祖の命によつて漢の楷書・契丹字の制度・本國の言語を考へ、所謂女眞文字を製した。官は左丞相・儀同三司。後、事に坐して死を賜はる。金源郡王に追封せらる。〔金史、七十三〕。

【完顏九住】69（ワンヤンキウヂユウ）　金の人。宗室の子。官は武州刺史。元兵に殺さる。〔金史、一百二十一〕。

【完顏訛可】70（ワンヤンクワカ）　❶金の內族で、護衞の出身。草火訛可と號す。元に擒へらる。〔金史、一百十一〕。❷金の內族で、板子訛可といふ。草火訛可と共に河中を守り、城が陷るや、三千の兵を提げ、船を奪つて逃げたが、詔によつて殺さる。〔金史、一百十一〕。

【完顏懷德】71（ワンヤンクワイトク）　金の宗室の子。字は輔之。至寧中、臨淄令となる。〔臨淄縣志〕。

【完顏光英】72（ワンヤンクワウエイ）　金の人。海陵王の子。本名は阿魯補。皇太子。完顏元宜の軍變に殺さる。〔金史、八十二〕。

【完顏摑保】73（ワンヤンクワクハウ）　金の人。昭祖の族人。軍功あり。〔金史、六十六〕。

【完顏活女】74（ワンヤンクワツヂヨ）　金の人。金源郡王婁室の子。謚は貞濟。戰功あり。官は元帥左監軍。隋國公に封ぜらる。〔金史、七十二〕。

【完顏歡都】75（ワンヤンクワント）　金、完顏部の人。謚は忠敏。世祖以後三君に仕へて德望があつた。代國公を贈らる。〔金史、六十八〕。

【完顏元宜】76（ワンヤンゲンギ）　金の人。名は阿列。一名、移特輦。本姓は耶律氏。父の愼思が金に降り、姓を完顏と賜はる。海陵を殺して世宗に歸す。官は平章政事。冀國公に封ぜらる。〔金史、一百三十二〕。

【完顏彀英】77（ワンヤンコウエイ）　金の人。銀朮可の子。軍功あり。官は平章事。〔金史、七十二〕。

【完顏骨赧】78（ワンヤンコツタン）　金の人。治訶の子。遼・宋を伐つて功あり。官は開府儀同三司。〔金史、六十八〕。

【完顏賽不】79（ワンヤンサイフ）　金の始祖の弟。活保里の子孫。官は右丞相・樞密使。徐州に圍まれて縊死す。〔金史、一百十三〕。

【完顏撒改】80（ワンヤンサツカイ）　❶金の人。景祖の孫。謚は忠毅。官は國相。封は金源郡王。〔金史、七十〕。❷金、上京納魯渾河の人。官は安武軍節度使。〔金史、九十一〕。

【完顏思敬】81（ワンヤンシケイ）　金の人。神土懣の子。名は撒改。初名は思恭。戰功あり。官は平章政事。〔金史、七十〕。

【完顏思烈】82（ワンヤンシレツ）　金の人。南陽郡王襄の子。官は參知政事。〔金史、一百十一〕。

【完顏習室】83（ワンヤンシフシツ）　金の人。石土門の子。謚は威敏。太祖に從つて屢〻戰功あり。〔金史、七十〕。

【完顏守純】84（ワンヤンシユジユン）　金の人。宣宗の子。本名は盤都。官は平章政事。濮王に封ぜらる。崔立の亂に死す。〔金史、九十三〕。

【完顏守緒】85（ワンヤンシユシヨ）　金の哀宗。宣宗の第三子。元に圍まれて縊死す。在位十一年。年號は正大・天興。〔金史、十七〕。

【完顏守道】86（ワンヤンシユダウ）　金の人。本名は習尼列。謚は簡靖。官は左丞相・太子太師。〔金史、八十八〕。

【完顏守貞】87（ワンヤンシユテイ）　金の人。希尹の孫。本名は左靨。官は平章政事。蕭國公に封ぜらる。金の禮樂刑政を裁訂す。〔金史、七十三〕。

【完顏從憲】88（ワンヤンジユウケン）　金の人。顯宗の子。本名は吾里不。謚は敦懿。官は開府儀同三司。瀛王に封ぜらる。〔金史、九十三〕。

【完顏從坦】89（ワンヤンジユウタン）　金の人。宗室の子。官は權元帥左監軍。元兵に圍まれて自殺す。〔金史、一百二十二〕。

【完顏朮魯】90（ワンヤンジユツロ）　金の人。宗室の子。武人。〔金史、六十五〕。

【完顏承暉】91（ワンヤンシヨウキ）　金の人。本名は福興。字は維明。謚は忠肅。官は右丞相。時に容れられずして自殺す。〔金史、一百一〕。

【完顏承裕】92（ワンヤンシヨウユウ）　金の人。宗室の子。本名は胡沙。官は臨海軍節度使。〔金史、九十三〕。

【完顏承立】93（ワンヤンシヨウリツ）　金の人。白撒の從弟。一名、慶山奴。字は獻甫。官は西京留守。元兵に殺さる。〔金史、一百十六〕。

【完顏承麟】94（ワンヤンシヨウリン）　金の末帝。金の宗室の子。哀宗の禪を受け、亂兵の爲に弑せられ、金はこゝに亡んだ。年號は盛昌。〔金史、十八〕。

【完顏綏可】95（ワンヤンスイカ）　金の獻祖。安帝の子。水草を逐うて穴居する舊俗を改め、耕墾樹藝、家居の制を始めた。追尊して帝とす。〔金史、一〕。

【完顏崇秀】96（ワンヤンスウシウ）　金の人。完顏宗秀(110)を見よ。

【完顏石柱】97（ワンヤンセキチユウ）　元の人。宋と戰つて功あり。官は四川行省參知政事。〔元史、一百六十五〕。

【完顏石魯】98（ワンヤンセキロ）　金の昭祖。獻祖の子。治績があり、部落が漸次に強くなつた。追尊して帝とす。〔金史、一〕。

【完顏鄯陽】99（ワンヤンゼンヤウ）　金の人。宗室の子。官は符

寶祇候。紇石烈執中の亂に死す。〔金史、一百二十二〕。

【完顔素蘭】100（ワンヤンソラン）　金の人。一名は翼。字は伯揚。至寧の進士。官は金安軍節度使。〔金史、一百九〕。

【完顔宗尹】101（ワンヤンソウヰン）　金の人。阿离合懣の孫。本名は阿里罕。官は平章政事。代國公に封ぜらる。〔金史、七十三〕。

【完顔宗浩】102（ワンヤンソウカウ）　金の人。漢國公昂の子。字は師孟。本名は老。諡は通敏。官は樞密使。榮國公に封ぜらる。〔金史、九十三〕。

【完顔宗幹】103（ワンヤンソウカン）　金の人。太祖の庶長子。本名は斡本。諡は忠烈。太祖を輔け、儀禮制度、官名服色を定む。官は太師。封は遼王。〔金史、七十六〕。

【完顔宗翰】104（ワンヤンソウカン）　金の人。景祖の曾孫。撒改の子。本名は粘沒喝。漢語では訛つて粘罕といふ。諡は桓忠。遼・宋を伐つて功あり。官は太保・尙書令。秦王に追封せらる。〔金史、七十四〕。

【完顔宗亨】105（ワンヤンソウカウ）　金の人。宗室の子。本名は撻不也。官は西北路兵馬都統。〔金史、七十〕。

【完顔宗義】106（ワンヤンソウギ）　金の人。遼王杲の第九子。本名は孛吉。官は平章政事。〔金史、七十六〕。

【完顔宗堯】107（ワンヤンソウゲウ）　金の睿宗。太祖の子。初名は宗輔。本名は訛里朶・窩里溫。諡は襄穆。官は右副元帥。河北・陝西を定め、潞王に追封せらる。世宗が卽位するや、追尊して帝とす。〔金史、十九〕。

【完顔宗賢】108（ワンヤンソウケン）　❶金の人。宗室の子。本名は阿魯。官は婆速路兵馬都總管。景國公に封ぜらる。〔金史、七十〕。❷金の人。習不失の孫。本名は賽里。戰功によつて豳國公に封ぜらる。官は右丞相、兼都元帥。悼后及び海陵に阿附せず、海陵が熙宗を弑した時、弁せて殺さる。〔金史、六十六〕。

【完顔宗憲】109（ワンヤンソウケン）　金の人。撒改の次子。本名は阿懶。年十六にして學に入り、契丹字及び漢字に通ず。宗翰に從つて宋を伐ち、汴京を破り、圖書を載せて歸り、昭武大將軍を授けらる。國史を修む。官は右丞相に至る。〔金史、七十〕。

【完顔宗秀】110（ワンヤンソウシウ）　金の人。勖の子。一に崇秀に作る。本名は斷里忽。字は實甫。定遠大將軍となり、後、平陽尹昭義軍節度使となる。封は廣平郡王。〔金史、六十六〕。

【完顔宗峻】111（ワンヤンソウシユン）　金の景宣帝。太祖の子。本名は繩果。廟號は徽宗。遼を伐つて功あり。追尊して帝となす。〔金史、十九〕。

【完顔宗敍】112（ワンヤンソウジヨ）　金の人。闍母の第四子。本名は德壽。宋を禦いで功あり。官は參知政事。〔金史、七十一〕。

【完顔宗道】113（ワンヤンソウダウ）　金の人。本名は八十。周易・孟子に通ず。官は閤門祇候。〔金史、七十三〕。

【完顔宗寧】114（ワンヤンソウネイ）　金の人。阿离合懣の孫。本名は阿土古。官は平章政事。〔金史、七十三〕。

【完顔宗望】115（ワンヤンソウバウ）　金の人。太祖の第二子。本名は斡魯補。又、斡离不に作る。江南の人は之を二太子と呼ぶ。諡は桓肅。道敎・佛敎を好み、時人・菩薩太子といふ。〔金史、七十四〕。

【完顔宗弼】116（ワンヤンソウヒツ）　金の人。太祖の第四子。本名は斡啜。一に兀朮、又、斡出・晃斡出とも書く。諡は忠烈。岳飛と相拒ぎ、秦檜が飛を殺すに及んで、遂に宋と和す。官は太師都元帥。〔金史、七十七〕。

【完顔宗敏】117（ワンヤンソウビン）　金の人。太祖の子。本名は阿魯補。行臺尙書省の事を領し、曹國王に封ぜられたが、海陵に殺さる。〔金史、六十九〕。

【完顔宗雄】118（ワンヤンソウユウ）　金の人。康宗の長子。本名は謀良虎。諡は威敏。渤海・遼を破る。〔金史、七十三〕。

【完顔撻懶】119（ワンヤンタツラン）　金の人。宗室の子。宋・遼を攻めて功あり。官は銀靑光祿大夫。〔金史、六十五〕。

【完顔仲元】120（ワンヤンチユウゲン）　金、中都の人。本姓は郭氏。戰功あり。官は永定軍節度使。完顔の姓を賜はる。將となり、兵最も強く、花帽軍と號す。時人、郭大相公と呼ぶ。〔金史、一百三〕。

【完顔仲德】121（ワンヤンチユウトク）　金、合懶路の人。本名は忽斜虎。泰和中の進士。官は參知政事。金が亡んだ時、水に投じて死す。〔金史、一百十九〕。

【完顔定奴】122（ワンヤンテイド）　金の人。綱の弟。宋を伐つ。官は刑部尙書參知政事。〔金史、九十八〕。

【完顔鄭家】123（ワンヤンテイカ）　金の人。鄆王昂の子。官は鄭家浙東道副統制。〔金史、六十五〕。

【完顔鐵哥】124（ワンヤンテツカ）　金の人。諡は勇毅。官は東北路招討使、兼德昌軍節度使。獄に死す。〔金史、一百三〕。

【完顔闍母】125（ワンヤントボ）　金の人。世宗の第十一子。諡は莊襄。遼・宋を伐つて功あり。官は元帥左都監。魯王を追贈せらる。〔金史、七十一〕。

【完顔奴申】126（ワンヤンドシン）　金の人。素蘭の弟。字は正甫。進士。官は參知政事兼樞密副使。崔立の變に殺さる。〔金史、一百十五〕。

【完顔白撒】127（ワンヤンハクサツ）　金の人。末帝承麟の兄。名は承裔。官は平章政事。元に敗れて獄に死す。〔金史、一百十三〕。

【完顔伯嘉】128（ワンヤンハクカ）　金、北京路訛魯古刺猛安の人。字は輔之。明昌の進士。官は御史中丞、兼參知政事。〔金史、一百〕。

【完顔跋海】129（ワンヤンバツカイ）　金の安帝。德帝の子。追尊して帝とす。〔金史、一〕。

【完顔福壽】130（ワンヤンフクジユ）　金、曷速館の人。官は興平軍節度使。〔金史、八十六〕。

【完顔秉德】131（ワンヤンヘイトク）　金の人。宗翰の孫。本名は乙辛。官は平章政事。海陵に誅せらる。〔金史、一百三十二〕。

【完顔蒲査】132（ワンヤンホサ）　金、天德の人。官は婆速路兵馬都總管・南北路招討使。〔金史、六十八〕。

【完顔謀衍】133（ワンヤンボウエン）　金の人。金源郡王婁室の子。官は北京留守。榮國公に封ぜらる。〔金史、七十二〕。

【完顔盆納】134（ワンヤンボンナフ）　金の人。安帝の孫。開府儀同三司を贈らる。〔金史、六十五〕。

【完顔庥吉】135（ワンヤンマキツ）　金の人。銀朮可母の弟。諡は毅敏。高麗・遼・女眞と戰つて功あり。官は克謀。〔金史、七十二〕。

【完顔冶訶】136（ワンヤンヤカ）　金、神隱水完顔部の人。諡は忠濟。部族を率ゐて金に歸し、金は益〻大となつた。〔金史、六十八〕。

【完顔閭山】137（ワンヤンリヨサン）　金、蓋州明安の人。明昌の進士。宋を伐つて功あり。官は吏部尙書。〔金史、一百〕。

【完顔婁室】138（ワンヤンロウシツ）　❶金、完顔部の人。字は斡里衍。諡は莊義。太祖に從つて遼主を捕へ、宋軍を破る。官は都統。金源郡王を追贈せらる。〔金史、七十二〕。❷金の內族。大婁室といふ。官は鷹揚都尉。元と戰つて死す。〔金史、一百十九〕。❸金の內族。中婁室といふ。同知を以て簽樞密院事を簽す。元と戰ひ、宋に降つて殺さる。〔金史、一百十九〕。❹金の內族。小婁室といふ。副點檢を以て元帥となる。元と戰ひ、宋に降つて殺さる。〔金史、一百十九〕。

【完顔六斤】139（ワンヤンロクキン）　金、中都の人。官は保大軍節度使。〔金史、一百二十二〕。

【完顔阿骨打】140（ワンヤンアクダ）　金の太祖。完顔旻(42)を見よ。

【完顔阿魯補】141（ワンヤンアロホ）　金の人。冶訶の子。遼・宋を伐つ。官は歸德軍節度使。〔金史、六十八〕。

【完顔斡魯古】142（ワンヤンアツロコ）　金の人。宗室の子。諡は莊翼。遼を伐つて功あり。官は咸州軍帥。〔金史、七十一〕。

【完顔按答海】143（ワンヤンアンタフカイ）　金の人。宗雄の子。一名、阿魯綰。官は勸農使。金源郡王に封ぜらる。〔金史、七十三〕。

【完顔烏雅束】144（ワンヤンウガソク）　金の康宗。世祖の長子。字は毛路完。乾統中、節度使となつて高麗を防ぐ。追尊して帝とす。〔金史、一〕。

【完顔烏古迺】145（ワンヤンウコダイ）　金の景祖。昭祖の子。官は生女眞部族節度使。追尊して帝とす。〔金史、一〕。

【完顔劾里鉢】146（ワンヤンガイリハツ）　金の世祖。景祖の第二子。節度使となつて治績あり。追尊して帝とす。〔金史、一〕。

【完顔銀朮可】147（ワンヤンギンジユツカ）　金の人。宗室の子。諡は武襄。太祖に勸めて遼を伐つ。官は中書令。蜀王に封ぜらる。〔金史、七十二〕。

【完顔訛古乃】148（ワンヤンクワコダイ）　金の人。冶訶の子。官は臨洮尹。〔金史、六十八〕。

【完顔胡十門】149（ワンヤンコジフモン）　金、葛蘇館の人。武人。漢語及び契丹の大小字に通ず。官は葛蘇館七部勃菫。〔金史、六十六〕。

〖完顏胡沙補〗150（ワンヤンコシヤホ）　金、完顏部の人。戰功あり。斡魯の命を受けて、高永昌に使したが、斡魯が急に永昌をうつたので、怒つた永昌に支解せらる。遙鎭節度使を贈らる。〔金史、一百二十一〕。

〖完顏胡石改〗151（ワンヤンコセキカイ）　金の人。宗室の子。遼を破る。官は汴京留守。〔金史、六十五〕。

〖完顏吾札忽〗152（ワンヤンゴサツコツ）　金の人。婆盧火の曾孫。善く兵を用ひた。官は胡里改節度使。〔金史、七十二〕。

〖完顏兀不喝〗153（ワンヤンゴツフカツ）　金、會寧府海寧府海姑寨の人。女眞字學生。官は横海軍節度使。〔金史、九十〕。

〖完顏撒合輦〗154（ワンヤンサツゴフレン）　金の內族。字は安之。官は中京留守、兼行樞密院事。元兵が砲を立てて城を攻めた時、疽が背に發して戰ふことが出來ず、濠に投じて死す。〔金史、一百十一〕。

〖完顏習不失〗155（ワンヤンシフフシツ）　金の人。昭祖の孫。謚は忠毅。遼を伐ち、金源郡王に追封せらる。〔金史、七十〕。

〖完顏習不主〗156（ワンヤンシフフシュ）　金の人。宋を伐つて功が最も多かつた。官は河南尹。〔金史、八十二〕。

〖完顏謝里忽〗157（ワンヤンシヤリコツ）　金の人。安帝の子。昭宗の忠臣。〔金史、六十五〕。

〖完顏神土懣〗158（ワンヤンシンドボン）　金の人。宗室の子。契丹を破る。官は婆速路兵馬都總管。〔金史、九十一〕。

〖完顏石古乃〗159（ワンヤンセキコダイ）　金の人。官は護衞。至寧の初、紇石烈執中の亂に死す。〔金史、一百二十二〕。

〖完顏石土門〗160（ワンヤンセキドモン）　金、耶懶路完顏部の人。一に神土門に作る。高麗・遼を伐つて功が尤も多かつた。金源郡王に追封せらる。〔金史、七十〕。

〖完顏陳和尚〗161（ワンヤンチンクワシヤウ）　金、豐州の人。名は彝。字は良佐。元を破る。官は定遠大將軍。〔金史、一百二十三〕。

〖完顏廷璐妻〗162（ワンヤンテイロノツマ）　清の人。惲珠(**4－0857**‥5)を見よ。

〖完顏突合速〗163（ワンヤントツガフソク）　金の人。宗室の子。宋を伐つて功あり。官は彰德節度使。定國公に封ぜらる。〔金史、八十〕。

〖完顏頗刺淑〗164（ワンヤンハラツシュク）　金の肅宗。景祖の四子。最も善く遼の事に處す。帝號を贈らる。〔金史、一〕。

〖完顏婆盧火〗165（ワンヤンバロクワ）　金の人。安帝五世の孫。謚は剛毅。遼を伐つて居庸關を取る。官は平章事。〔金史、七十一〕。

〖完顏蒲家奴〗166（ワンヤンホカド）　金の人。景祖の孫。一名昱。官は司空。豫國王に追封せらる。〔金史、六十五〕。

〖完顏蒲刺都〗167（ワンヤンホラツト）　金、西南路按出灰必刺罕猛安の人。官は兵部尚書。〔金史、一百三〕。

〖完顏僕忽得〗168（ワンヤンボクコツトク）　金の人。宗室の子。軍功あり。〔金史、一百二十一〕。

〖完顏謾都本〗169（ワンヤンマントホン）　金の人。景祖の孫。謚は英毅。武人。〔金史、六十五〕。

〖完顏阿离合懣〗170（ワンヤンアチガフボン）　金の人。景祖の八子。謚は剛憲。戰を善くす。官は國論乙室勃極烈。隋國王を追贈せらる。〔金史、七十三〕。

〖完顏阿里不孫〗171（ワンヤンアリフソン）　金、曷懶路泰申必刺猛安の人。明昌の進士。官は參知政事、兼副元帥。〔金史、一百三〕。

【完起】172（クワンキ）　晉、嫣皓(**3－6720**‥1)の字。

【完久】173（クワンキウ）　何時までも丈夫であること。長い間堅固であること。〔周禮、考工記、總目〕不㆓樸屬㆒無㆔以爲㆓完久㆒也。

【完柩】174（クワンキウ）　完全なひつぎ。平常な死に方をしたものの柩。横死者でないものをいふ。〔班固、東都賦〕于㆓時之亂㆒、生民幾亡、鬼神泯絕、壑無㆓完柩㆒、郛罔㆓遺室㆒、原野厭㆓人之肉㆒、川谷流㆓人之血㆒。〔注〕翰曰、完、全、無㆓全柩㆒者、皆遇㆑害死也。

【完舊】175（クワンキウ）　以前の通りにする。舊を守る。〔左氏、昭、十五〕獲㆓一邑㆒而敎㆓民怠㆒、將焉用㆑邑、邑以賈㆑怠、不㆑如㆑完㆑舊。〔注〕完、猶㆓保守㆒。

【完訖】176　wan^{2} ch'i^{4}　終る。完結。

【完給】177（クワンキフ）　十分に足りそなはる。十分に生活が出來る。〔韓非子、顯學〕以完給者、非㆑力則儉也。〔風俗通、正失〕苟溫飽完給、所謂治安之國也。

【完彊】178（クワンキヤウ）　健全なこと。〔論衡、治期〕夫賢人有㆓被㆑病而早死㆒、惡人有㆓完彊而老壽㆒。

【完具】179（クワング）　完全に備はる。缺けた所がない。〔周禮、地官、牧人〕以共㆓祭祀之牲牷㆒、〔注〕玄謂、牷、體完具。〔漢書、王莽傳下〕府藏完具。〔宋史、五行志四〕體勢完具。〔後漢書、袁紹傳〕身體完具。

【完會】180　wan^{2} huei^{4}　無盡賴母子講の滿會。無盡を俗に會といふ。

【完活】181（クワンクワツ）　生活を完うする。十分な生活をする。〔管子、禁藏〕於㆔以養㆑老長㆑幼、完㆓活萬民㆒、莫㆑明㆑焉。

【完完】182（クワンクワン）　缺けた所がない。完全無缺なさま。〔韓愈、月蝕詩、效㆓玉川子作㆒〕月形如㆓白盤㆒、完完上㆓天東㆒。

【完裙】182′（クワンクン）　滿足な着物。裙はもすそ。〔杜甫、石壕吏詩〕孫有㆓母未㆑去、出入無㆓完裙㆒。

【完勳】183（クワンクン）　明、王翊(**7－20823**‥1040)の字。

【完刑】184（クワンケイ）　輕罪の一種。頰の毛を剃る刑。耏ともいふ。〔晉書、刑法志〕改㆓漢舊律㆒、不㆑行㆑魏者皆除㆑之、更依㆓古義㆒、制爲㆓五刑㆒、其死刑有㆑三、髡刑有㆑四、完刑・作刑各三、贖刑十一、罰金六、雜抵罪七、凡三十七名、以爲㆓律首㆒。

【完計】185（クワンケイ）　手おちのないはかりごと。完全な計略。完事。〔漢書、主父偃傳〕靡㆓敝中國㆒、甘㆓心匈奴㆒、非㆓完計㆒也。

【完罄】186　wan^{2} ch'ing^{4}　つくす。をはる。

【完繳】187　wan^{2} chiao^{3}　税金其の他納むべきものを完納する。

【完欠】188（クワンケツ）　すむこととすまぬこと。納付がすんだか、すまぬか。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕徵收之完欠可㆑定。〔福惠全書、錢穀部、比較〕完欠比較、必有㆓定期㆒。

【完結】189（クワンケツ）　まつたく終はる。完全に終了する。〔福惠全書、蒞任部、淸號件〕須㆘嚴立㆓限期㆒完結㆖。〔福惠全書、蒞任部、設內外號簿〕事已完結者、該承粘㆓浮簽㆒書㆓完訖㆒。

【完潔】190（クワンケツ）　❶かけたところが無く、きよらかなこと。行が正しく、淸らかなこと。完絜。〔唐書、鄭餘慶傳〕餘慶少砥礪、行㆑己完絜。❷ゆきとどいてきれいなこと。〔張耒、雙槐堂記〕作㆓燕居之堂㆒、灑掃完潔。

【完堅】191（クワンケン）　かけた所がなく丈夫なこと。又、缺點がなく手がたいこと。完全堅固。〔新書、瑰瑋〕民棄㆓完堅㆒、而務㆓雕鏤織巧㆒。〔後漢書、華佗傳〕年九十餘、耳目聰明、齒牙完堅。

【完縣】192（クワンケン）　縣名。明、置く。戰國、燕の曲逆邑。漢の曲逆縣の地。今の河北省淸苑縣の西、金線河の北岸。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕完縣、秦曲逆縣地、漢爲㆓北平縣地㆒、屬㆓中山國㆒、云云、元仍改爲㆓永平縣㆒、尋復曰㆓完州㆒、明洪武二年、改㆑州爲㆑縣。〔淸史稿、地理志〕直隸、保定府、縣十四、完。

【完固】193（クワンコ）　完全で堅固なこと。完堅に同じ。〔墨子、辭過〕其爲㆓舟車㆒也、完固輕利、可㆓以任㆑重致㆑遠。

【完護】194（クワンゴ）　完全に護る。〔宋史、陳堯佐傳〕欲㆑傳㆓之千載㆒、迺一旦與㆓瓦礫㆒等、誠可㆑惜也、其未㆑毀者、願敕㆓州縣㆒完㆓護之㆒。

【完工】195　wan^{2} kung^{1}　仕事を終る。工事を終る。竣工。

【完婚】196　wan^{2} huen^{1}　婚姻を終る。完姻。

【完采】197（クワンサイ）　立派な模樣。美しい色どり。〔史記、魯朱家傳〕家無㆓餘財㆒、衣不㆓完采㆒、食不㆑重㆑味、乘不㆑過㆓軥車㆒。

【完濟】198（クワンサイ）　借財などを殘らず返濟する。

【完材】199（クワンザイ）　完全な材木。〔孔子家語、入官〕女子必自擇㆓絲麻㆒、良工必自擇㆓完材㆒。

【完山】200（クワンザン）　山名。孔子家語には桓山に作る。〔說苑、辨物〕似㆓完山之鳥㆒。

【完士】201（クワンシ）　特別に異つた所のない人、普通の人。〔王粲、從軍詩〕許歷爲㆓完士㆒、一言猶敗㆑秦。〔注〕善曰、完、謂㆓全具㆒也、言㆑非㆑有㆑奇也、銑曰、完士、猶㆓凡士㆒也。

【完事】202（クワンジ）　❶完全な計策。完計(185)に同じ。〔史記、主父偃傳〕下敝㆓百姓㆒、甘㆓心於外國㆒、非㆓完事㆒也。❷wan^{2} shih^{4}　終る。完了する。

【完實】203（クワンジツ）　そなはりととのふ。又、たくはへ積む。〔後漢書、寇恂傳〕今上谷完實、控弦萬騎、擧㆓大郡之資㆒、可㆔以詳㆓擇去就㆒。

【完葺】204（クワンシフ）　つくろひふく。破損した所を修理

すること。〔鮑照、請假啓〕臣居家之治、上漏下濕、比欲二完葺一、私寡二功力一。〔唐庚、憶昔行〕亭傳已完葺。〔金史、高汝礪傳〕正完二葺關隘一。

【完輯】205 クワンシフ　殘らずあつめる。〔後漢書、蘇竟傳〕王莽時、與二劉歆等一共典二校書一、拜二代郡中尉一、云云、竟終完二輯一郡一。

【完車】206 クワンシヤ　完全な車。〔蘇洵、名二二子一說〕輪輻蓋軫、皆有レ職二乎車一、而軾獨若レ無レ所レ爲者一、然去レ軾吾未レ見二其爲二完車一也。

【完餉】207 wan^{2} hsiang^{3}　稅金を完納する。完稅(223)に同じ。

【完守】208 クワンシユ　守備を全うする。〔左氏、襄、十八〕二子知二子孔之謀一、完守入保。〔注〕箋曰、完守、全二其守備一也。

【完娶】209 wan^{2} chʻü^{3}　婚姻を終る。完姻。

【完聚】210 クワンシユウ クワンシユ　❶城郭をつくろひ、人民をあつめる。又、聚は軍糧を備へること。〔左氏、隱、元〕大叔完聚、繕二甲兵一、具二卒乘一。〔注〕完二城郭一、聚二人民一。〔會箋〕聚者、聚二禾粟一以備二軍糧一也。❷離れてゐた家族一同がそろふ。〔元史、世祖紀三〕三年、敕、軍士所レ俘宋人九十三口、官贖爲レ民、其私越二禁界一掠獲者四十五人、令二親屬完聚一、並種二田內地一。❸親しみを全うする。夫婦仲の圓滿なこと。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕謝當今盛明唐聖主、敕賜爲二夫婦一、永老無二別離一、萬古常完聚。

【完充】211 クワンジユウ　缺けることなくととのふ。〔唐書、任迪簡傳〕以二檢校工部尚書一爲二節度使一、三年、上下完充。

【完竣】212 wan^{2} chün^{4}　まつたく終る。完結。

【完飾】213 クワンシヨク　りつぱに備はる。〔鹽鐵論、非鞅〕昔、商君相レ秦也、云云、設二百倍之利一、收二山澤之稅一、國富兵強、器械完飾、蓄積有レ餘。

【完身】214 クワンシン　身を完うする。壽命まで生きる。〔莊子、讓王〕非三所二以完レ身養レ生也。〔呂覽、執一〕凡能全レ國完レ身者、其唯知二長短贏絀之化一耶。

【完人】215 wan^{2} jen^{2}　りつぱな人。完全な人格者。全人。

【完粹】216 クワンスイ　雜駁でないこと。完全純粹。〔湘山野錄〕永叔奮然別作二一記一、更滅二師魯文二十字一、尤完粹有レ法。

【完數】217 wan^{2} shu^{3}　算へ終る。勘定濟みにする。

【完成】218 クワンセイ　完全に出來あがる。完了。

〖完成期〗219 クワンセイキ　完成する時期。

【完清】220 wan^{2} chʻing^{1}　支拂ひ濟み。

【完盛】221 クワンセイ　十分にととのひ揃ふ。〔五代史、雜、張全義傳〕畎畝之間、築二南北二城一以居レ之、數年、人物完盛、民甚賴レ之。

【完整】222 クワンセイ　十分にととのふ。〔盧思道、後周興亡論〕器械完整、貨財充實。

【完稅】223 wan^{2} shuei^{4}　稅金を完納する。完餉。租稅上納濟み。

〖完稅憑證〗224 wan^{2} shuei^{4} pʻing^{2} chêng^{4}　稅金納入濟みの證書。

【完節】225 クワンセツ　貞節を全うする。〔唐書、列女、李德武妻裴淑英傳〕中道聞二其完節一、乃遣二後妻一爲二夫婦一如レ初。

【完全】226 クワンゼン　❶まつたいこと。缺けた所がないこと。十分。〔荀子、議兵〕完全富足而趨レ趙。〔後漢書、李固傳〕夫妃后之家、所三以少二完全者一、豈天性當然。❷無事なこと。〔漢紀、景帝紀〕會救兵至、故淮南王得二以完全一。

〖完全葉〗227 クワンゼンエフ　植物學用語。櫻・薔薇などの葉のやうに、葉身・葉柄・托葉共に揃つた葉。

〖完全花〗228 クワンゼンクワ　植物學用語。桃・梅などの花のやうに、萼・花冠・雄蕊・雌蕊の備はつてゐる花。兩性花。

〖完全燃燒〗229 クワンゼンネンセウ　化學用語。酸素の供給が多く、可燃物が十分の燃燒を遂げ、炭素粒を生ぜぬやうな燃燒をいふ。

〖完全變態〗230 クワンゼンヘンタイ　動物學用語。昆蟲が卵・幼蟲・蛹・成蟲と順次に形態を變へること。此の中の一つの形態でも經ないのは不完全變態である。

〖完全無缺〗231 クワンゼンムケツ　十分整つてゐて少しも缺點のないこと。

〖完全融和〗232 クワンゼンユウワ　完全に融和する。

【完善】233 クワンゼン　まつたくてよい。十分足り整つてゐて缺點がない。完良。〔史記、匈奴傳〕其得二漢繒絮一、以馳二草棘中一、衣袴皆裂敝、以示レ不レ如二旃裘之完善一也。

【完然】234 クワンゼン　❶自得するさま。〔後漢書、袁術傳〕舍レ是弗レ恤、完然有二自取之志一、懼レ非二海內企望之意一也。❷缺陷のないさま。〔唐書、文藝傳序〕排二逐百家一、法度森嚴、云云、唐之文完然爲二一王之法一。

【完繕】235 クワンゼン　をさめつくろふ。〔新序、善謀下〕宛完二繕弊甲一、砥二礪凋兵一、而隨二足下之後一。

【完素】236 クワンソ　明の人、江日彩(**6－17140**··480)の號。

【完足】237 クワンソク　滿足する。〔新書、益壤〕代北邊與二強匈奴一爲レ隣、僅自完足矣。

【完澤】238 クワンタク　元の人。土別燕氏。謚は忠憲。中書丞相となつて治績あり。〔元史、一百三十〕。

【完達】239 クワンタツ　山脈の名。吉林省の東北部にあり、長白山の支脈。西南、長白山の正脈から、東北、瑚爾哈河と凱湖の間を走り、混同・烏蘇兩江の會する處に達し、黑龍江省の東、興安嶺山脈に接す。完達は滿洲語の梯で、察庫蘭嶺・那丹哈達嶺・蜂密山等の諸山は皆、完達山から出てゐる。森林に富み、傾斜の度が緩い。

【完賬】240 wan^{2} chang^{4}　決算する。清賬。

【完重】241 クワンチユウ　數量が十分で價が高い。〔管子、山至數〕以二鄕完重一而籍レ國、數也。〔纂詁〕其數完、其價重。

【完陣】242 クワンヂン　備の完全な陣立。〔邢邵、文宣帝哀策文〕野無二完陣一、邑少二堅城一、經二營四海一、劬二勞百姓一。

【完羝】243 クワンテイ　野羊(**11－40133**··321)の異名。〔後漢書、馬融傳〕脰二完羝一、撝二介鮮一。〔注〕完羝、野羊也。臣賢案、字書作レ羦。〔王先謙集解〕惠棟曰、羦、山羊細角者。

【完納】244 クワンナフ　租稅などを殘らず納める。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕完納衆而歸農免レ比。

【完白】245 クワンパク　字號。❶明、饒若蒙(**12－44400**··69)の字。❷明、郎兆玉(**11－39431**··74)の字。

〖完白山民〗246 クワンパクサンミン　清、鄧石如(**11－39630**··173)の號。

【完半】247 クワンパン　清代、租稅の半額を前納すること。〔福惠全書、錢穀、比較、完糧奬勵〕有下能急レ公將二本年錢糧一完半者上、本縣給二與印票一、免二今年雜差之半一、全完者、今年雜差全免。

〖完半銀〗248 クワンパンギン　清代、人民が稅銀兩の一半を前納すること。〔六部成語、戶部、完半銀、注解〕應レ交款項、業經交二過一半一也。

【完飯】249 wan^{2} fan^{4}　嫁いで三日目。小說などに用ひる語。

【完備】250 クワンビ　十分にそなはる。完全に備はる。整ひ足る。充備。〔唐書、李懷光傳〕賊得二從容完備一、卒難レ圖也。〔宋史、兵志十一〕悉令二完備一。

【完畢】251 wan^{2} pi^{4}　終る。完成。

【完夫】252 クワンプ　字號。❶宋、胡宗愈(**9－29400**··537)の字。❷明、朱祖文(**6－14424**··894)の字。

【完郛】253 クワンプ　完全な城廓。〔潘岳、關中詩〕守有二完郛一、戰無二全兵一。〔注〕翰曰、完、全、郛、城也。

【完膚】254 クワンプ　きずのない完全な肌。轉じて、むきずの箇所。他人の言動を、殘る所なく非難攻擊してやりこめることを完膚なからしむといふ。〔唐書、劉廼傳〕廼佯瘖不レ答、炙無二完膚一。

【完富】255 クワンプウ クワンプ　缺けたところがなく富む。十分に富み足ること。〔後漢書、寇恂傳〕河內完富、吾將二因レ是而起一。

【完璧】256 クワンペキ　❶戰國、趙の藺相如が璧を奉じて秦に使し、其の璧を無事に守つて持ち歸つた故事。轉じて、借りたものを鄭重にして返却すること。〔史記、廉頗藺相如傳〕相如曰、願奉レ璧往、使二城入レ趙、而璧留レ秦、城不レ入、臣請完レ璧歸レ趙。❷むきずの玉。轉じて、物が完全で、指摘すべき些少の缺點もないこと。

〖完璧記〗257 クワンペキキ　戲曲の名。作者の姓名は明かでない。戰國、趙の藺相如が璧を完くして歸つたことを筋とする。

【完補】258 クワンポ　十分におぎなふ。〔元好問、存歿詩〕汲冢遺編要二完補一、可三能虛負二百年身一。

【完本】259 クワンポン　卷數が全部そろつてゐる書物。缺本・端本等に對する語。

【完免】260 クワンメン　無事にまぬがれる。〔後漢書、任文公傳〕惟文公大小負レ糧捷レ步、悉得二完免一、遂奔二子公山一。

【完牢】261 クワンラウ　きずがなくて堅固なこと。完堅。

〔後漢書、馬援傳〕破羌以西、城多完牢、易レ可レ依レ固。〔魏書、源懷傳〕基壁完牢、風雨不二入足一矣。

【完卵】262（クワンラン）　きずのない卵。後漢の孔融の故事。後漢の孔融が捕へられて、二兒の命は完うしたいと望んだ時、兒は、覆巣の下に、どうして完卵があらうやといつて、死を辭さなかつた。〔世說新語、言語〕孔融被レ收、中外惶怖、時融兒、大者九歲、小者八歲、云云、融謂二使者一曰、冀罪止二於身一、二兒可レ得レ全不、兒徐進曰、大人豈見三覆巣之下、復有二完卵一乎。

【完利】263（クワンリ）　㊀完全で便利。又、堅固で便利。〔管子、立政〕辨二功苦一上二完利一。〔荀子、王制〕辨二功苦一尚二完利一。㊁劍などが堅くてよく切れること。銳利な刃物。〔漢書、鼂錯傳〕兵不二完利一、與二空手一同、甲不二堅密一、與二袒裼一同。

【完理】264（クワンリ）　修繕する。〔歐陽脩、王彥章畫像記〕歲久磨滅、隱隱可レ見、亟命レ工完二理之一、而不二敢有レ加焉。

【完良】265（クワンリヤウ）　完全でよい。完善。〔管子、問〕造レ器定レ冬、完良、備用必足。

【完糧】266　wan^2　liang^2　稅金を完納する。完稅。完半(247)を見よ。

【完廩】267（クワンリン）　米倉を繕ふ。〔孟子、萬章上〕父母使二舜完一レ廩。〔注〕完、治也、廩、倉。〔論衡、吉驗〕使三之完レ廩、火二燔其下一。

【完了】268（クワンレウ）　全くをはる。すつかり出來あがる。完成。完結。

【完玉堂】269（クワンギヨクダウ）　淸、元璟(1－1340··45)の室名。

〔完玉堂詩集〕270（クワンギヨクダウシシフ）　書名。十卷。淸、釋元璟撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【完者都】271（クワンシヤト）　元の人。欽寧氏。謚は武宣。戰功あり。官は江浙行省平章政事。元史には、完者拔都の條にも重出す。〔元史、一百三十一〕。

【完者拔都】272（クワンシヤバツト）　完者都を見よ。

【穷】7080　ヒン　貧(10－36677)の古字。〔說文〕貧、穷、古文从二宀分一。〔集韻〕貧、古作レ穷。

【宊】7081　カイ　〔集韻〕古拜切　卦

ひとり。〔集韻〕宊、博雅、獨也。〔五音集韻〕畜無レ偶曰レ宊、郭璞曰、逢澤有二宊糜一也。

【㝐】7082　ヨウ　容(3－7172)の古字。〔說文〕容、㝐、古文容从レ公。

【宆】7083　キ　宄(3－7058)の古字。〔玉篇〕宆、古文宄。

【宍】7084　ニク　肉(9－29236)の譌字。〔正字通〕宍、古樂苑載二吳越春秋古孝子彈歌一曰、斷レ竹續レ竹、飛レ土逐レ宍、从レ宀从レ六、或古籀之譌、諸書不レ收、惟孫愐收レ之、爲二俗作一レ宍、顏元孫亦曰、宍、俗肉字、推二論寅从一レ穴、當三是有二肉字譌爲一レ宍。

【宍甘】1（シシカイ）　㊀備前國の地名。㊁（シシカウ・シシカイ）姓氏。〔姓林全書〕。

【宍戸】2（シシド）　㊀姓氏。〔日用重寶記〕。㊁（カント）姓氏。〔姓林全書〕。

【宍草】3（シシクサ）　姓氏。〔和爾雅〕。

【宍人】4（シシフト）　㊀丹波國の地名。㊁（シシド）姓氏。〔和爾雅〕。㊂（シシヒト・シシンド）姓氏。〔新撰姓氏錄考證二〕・〔姓名錄抄〕。

【宍粟】5（シザハ・シサウ）　㊀播磨國の郡名。㊁（シザハ）姓氏。〔日用重寶記〕。

【宍道】6（シシジ）　出雲國の地名。

〔宍道湖〕7（シンジコ）　出雲國に在る湖。

【宍利】8（シトリ）　姓氏。〔姓林全書〕。

【宎】7085
㈠エウ　〔集韻〕伊鳥切　篠
㈡エウ　〔集韻〕伊堯切　蕭
㈢エウ　〔集韻〕一叫切　嘯

㈠㈡㈢㊀**へやの東南隅**。一說に、室の東北隅。〔莊子、徐无鬼〕鴳生二於宎一。〔釋文〕司馬云、東北隅也、一云、東南隅也。㊁**穴などから發する聲**。〔集韻〕宎、竅聲、莊子、宎者、咬者。〔莊子、齊物論〕宎者、咬者。〔疏〕宎者、深也、若二深谷一然。〔釋文〕司馬云、深者也、若二深宎宎然一。㊂或は穾(8－25435)・窔(8－25495)・宎(3－7134)に作る。〔正字通〕宎、同レ穾、莊子、鴳生二于宎一、別作レ窔。〔莊子、徐无鬼、釋文〕於宎、字又作レ宎。

【宏】7086　クワウ　ワウ　〔集韻〕乎萌切　庚　ㄏㄨㄥ　hung^2

小篆

㊀**家が奧ぶかい**。〔說文〕宏、屋突也、从レ宀厷聲。㊁**ひろい**。〔增韻〕宏、廣也。㊂**おほきい**。〔爾雅、釋詁〕宏、大也。〔書、盤庚下〕用宏二茲賁一。〔傳〕宏・賁、皆大也。〔孔安國、尙書序〕擧二其宏綱一。〔注〕向曰、宏、大也。〔後漢書、馬融傳〕臨二乎宏池一。〔注〕宏、大也。㊃**あまねし**。〔陸機、弔二魏武帝一文〕丕二大德一以宏覆。〔注〕向曰、宏、普也。㊄**ふくむ**。〔易、坤〕含宏光大。〔崔注〕含二有萬物一爲レ宏。㊅紘(10－36191)・閎(11－41241)・洪(6－17402)に通ず。〔正字通〕宏、與二紘・閎・洪一同。㊆弘(4－9709)に通ず。淸の高宗の諱が弘歷なので、淸代には廟諱として之を避け、宏の字をあてた。〔輶軒語、敬避字〕高宗純高皇帝廟諱、論語、人能口レ道、用二宏字一恭代。㊇或は宖(8－25437)に作る。〔集韻〕宏、或从レ穴。㊈**姓**。〔嘉祥縣志〕宏承、洪武二年任二主簿一。

名乘　アツ。ヒロ。ヒロシ。

【宏猷】1（クワウイウ）　㊀大きなはかりごと。宏謨。宏圖。宏規。〔晉書、樂志下〕宏猷允塞、高羅雲布。㊁淸、陳鋐(11－41698··182)の字。

【宏域】2（クワウヰキ）　世間をいふ。〔江淹、雜體、嵆中散康言志詩〕遠想出二宏域一、高步超二常倫一。

【宏逸】3（クワウイツ）　大きくてすぐれてゐること。〔宣和畫譜、一、梁、張僧繇〕骨氣奇偉、規模宏逸、六法精備。

【宏音】4（クワウイン）　淸、黃鐘(如皋の人)(12－47926··497)の字。

【宏遠】5（クワウヱン）　ひろくとほい。弘遠。〔北史、齊文宣帝紀〕規謀宏遠、有二人君大略一。

【宏高】6（クワウカウ）　宏大で崇高なこと。高大。〔國姓爺後日合戰、二〕內裏、云云、宏高は秦の阿房を象り。

【宏綱】7（クワウカウ）　おほづな。大綱。〔孔安國、尙書序〕擧二其宏綱一、撮二其機要一。

【宏軌】8（クワウキ）　宏大なみち。大きな法則。〔范甯、穀梁傳序〕信不易之宏軌、百王之通典也。

【宏基】9（クワウキ）　後蜀、趙崇祚(10－37171··713)の字。

【宏規】10（クワウキ）　㊀大きなはかりごと。宏猷。弘規。〔郤正、釋譏〕丕三顯祖之宏規一。〔王儉、褚淵碑文〕仰二贊宏規一、參二聞神算一。㊁立派な模範。又、模範となるべき人。規は法則。〔後漢書、黃瓊傳論〕吳祐蘇章种暠欒巴、牧民之良幹、龐參虞詡、將師之宏規。

【宏熙】11（クワウキ）　南漢、劉晟(2－2224··423)の初名。

【宏器】12（クワウキ）　大きな器。大なる器量。大器。〔任昉、王文憲集序〕豈二希世之儁民、瑚璉之宏器一。

【宏徽】13（クワウキ）　大なる善。大いにうるはしいこと。〔謝靈運、山居賦〕指二歲暮一而歸休、詠二宏徽於刊勒一。

【宏議】14（クワウギ）　大きく正しい意見。〔後漢書、馬融傳〕俾二之昌言而宏議一、軼二越三家一、馳二騁五帝一。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕是屬二宏議一。

【宏蘧】15（クワウキヨ）　淸、張尙瑗(4－9812··1157)の字。

【宏魁】16（クワウクワイ）　淸、邵瓚(11－39343··65)の初名。

【宏宏】17（クワウクワウ）　廣く大きいさま。又、奧深いさま。〔集異記、蔡少霞〕新宮宏宏。

【宏曠】18クヮウクヮウ　ひろく大きい。〔晉書、裴楷傳〕楷弟綽、字季舒、器宇宏曠。

【宏廓】19クヮウクヮク　ひろく大きい。〔符載、劍南西川幕府諸公寫眞讚、禮部裴員外說字公諒文〕體岸恢峻、神機宏廓。

【宏豁】20クヮウクヮツ　ひろびろしてゐること。

【宏願】21　hung² yüan⁴　大願。大望。

【宏傑】22クヮウケツ　大きくてすぐれてゐる。〔蘇軾、凌虛臺記〕宏傑詭麗、堅固而不レ可レ動者、豈特百二倍於臺一而已哉。

【宏業】23クヮウゲフ　大なる事業。洪業。弘業。

【宏軒】24クヮウケン　清、張錫懌（4―9812・・1263）の號。

【宏肱】25クヮウコウ　唐、王翃（7―20823・・295）の字。

【宏構】26クヮウコウ　㊀大きいかまへ。大きな建築物。〔殷文圭、題二胡州太學丘光庭博士幽居一詩〕舜軌堯文混二九垓一、明堂宏構集二良材一。㊁大なる著作。〔宋史、樂志八〕有レ煒彌文、克隆二宏構一。

【宏才】27クヮウサイ　大きな才能。大きく廣い才智。大才。宏材。〔顏氏家訓、文章〕須臾之翫、非二宏才一也。〔蘇軾、哭二刁景純一詩〕宏才乏二近用一。

【宏才卓識】28クヮウサイタクシキ　大いなる才能と優れた見識。〔那珂通世、支那通史〕韓愈以二宏才卓識一、用二力古文一。

【宏宰】29クヮウサイ　清、羅坤（9―28397・・107）の字。

【宏載】30クヮウサイ　清、羅坤（9―28397・・107）の字。

【宏濟】31クヮウサイ　明、蘇茂杓（9―32427・・295）の字。

【宏材】32クヮウザイ　大きく廣い才智。宏才に同じ。〔晉書、郭璞傳贊〕景純通秀、夙振二宏材一。〔夏侯湛、東方朔畫贊序〕瞻智宏材。〔蘇軾、次韻答二章傳道見一レ贈詩〕宏材乏二近用一。

【宏壯】33クヮウサウ　ひろく大きい。立派で大きい。〔水經、獲水注〕登更築レ之悉以二塼壘一、宏壯堅峻。〔潘岳、西征賦〕豁二爽塏一以宏壯。

【宏侈】34クヮウシ　大きくうつくしい。〔皇甫謐、三都賦序〕初極二宏侈之辭一、終以二約簡之制一。〔注〕銑曰、宏、大、侈、麗也。

【宏詞】35クヮウシ　宏辭に同じ。

【宏辭】36クヮウジ　唐代、官吏を選ぶ科目の名。文章三篇を試みた。博學宏辭（2―2761・・24）を見よ。

【宏敞】37クヮウシャウ　廣く平かなこと。敞は開で、見はらしのできる地。弘敞。〔森田節齋、楠左衞門尉髻塚碑〕規模宏敞、殿宇壯麗。

【宏敞之觀】38クヮウシャウノクヮン　ひろびろとした光景。〔齋藤竹堂、嚴島遊記〕東至二三備一、洲渚歷落、縹渺無レ際、頗爲二宏敞之觀一。

【宏儒】39クヮウジュ　すぐれた儒者。大學者。大儒。〔後漢書、黃瓊傳論〕宏儒遠智、高心絜行。〔何晏、景福殿賦〕宏儒碩生。

【宏浚】40クヮウシュン　水がひろく深い。〔顧凱之、觀濤賦〕濤之爲レ體、崇廣而宏浚、形無レ常而參レ神。

【宏閏】41クヮウジュン　明末、僧省悟の號。

【宏稱】42クヮウショウ　梁、蕭洽（9―32012・・48）の字。

【宏深】43クヮウシン　ひろくふかい。弘深。〔魏志、傅嘏傳〕帝制宏深、聖道奧遠、苟非二其才一、則道不二虛行一、神而明レ之、存二乎其人一。

【宏人】44クヮウジン　清、吳兆寬（2―3365・・803）の字。

【宏聖】45クヮウセイ　寺の名。雲南省大理縣、蒼山七峯の麓。弘聖寺（4―9709・・155）を見よ。〔楊眞、遊記〕考二之史傳一、爲二隋文帝時建一、俗名二阿育王塔一。

【宏邵】46クヮウセウ　ひろく高いこと。弘劭。〔許敬宗、唐并州都督鄂國公尉遲恭碑〕襟宇宏邵、機神祕遠。

【宏碩】47クヮウセキ　大學者。宏儒。〔舊唐書、玄宗紀論〕旁求二宏碩一、講二道藝文一。

【宏贍】48クヮウセン　ひろく豐かなこと。外形が大きくて、內容が充實したこと。〔世說新語、文學〕殷仲文天才宏贍。〔舊唐書、昭宗紀〕李磎文章宏贍、迥出二輩流一。

【宏大】49クヮウダイ　ひろく大きい。又、廣く大きくする。廣大。鴻大。弘大。〔書、盤庚下〕用宏二茲賁一。〔蔡傳〕惟欲三宏二大此大業一爾。〔白虎通、號〕黃帝有二天下一、號曰二自然一者、獨宏二大道德一也。

【宏道】50クヮウダウ　㊀鎭の名。山西省崞縣の東南。五臺縣に行く道にある。㊁字號。㋑宋、劉宋（2―2224・・291）の字。㋺明、鄒奕（11―39562・・5）の字。

【宏達】51クヮウタツ　廣く事理に通ずる。闊達。〔班固、西都賦〕大雅宏達、於レ茲爲レ羣。〔陸機、漢高祖功臣頌〕曲逆宏達、好レ謀能深。

【宏誕】52クヮウタン　みだりに大言して實がない。閎誕（11―41241・・21）に同じ。

【宏池】53クヮウチ　大きな池。ひろい池。〔馬融、廣成頌〕休二息乎高光之榭一、以臨二乎宏池一。

【宏長】54クヮウチャウ　ひろく大きい。大きくてすぐれてゐる。弘長。〔柳宗元、劍門銘〕曲公忠勇憤悱、授任堅明、謀猷宏長、用能啓二闢險阨一、夷爲二大途一。

【宏中】55クヮウチュウ　宋、歐陽元量（6―16185・・118）の字。

【宏圖】56クヮウト　遠大なはかりごと。宏猷。〔魏志、傅嘏傳〕建二宏圖大擧之策一。〔韓愈、爲二裴相公一讓レ官表〕啓二中興之宏圖一。

【宏度】57クヮウド　㊀大きな度量。宏量。大度。弘度。〔陸機、弔二魏武帝一文〕咨二宏度之峻邈一、壯二大業之允昌一。㊁清、孫永清（3―6987・・330）の字。

【宏棟】58クヮウトウ　大きな棟木。〔李德祐、重題詩〕亭古思二宏棟一、川長憶二夜舟一。

【宏任】59クヮウニン　明、賀應保（10―36725・・123）の字。

【宏忍】60クヮウニン　明、沈泓（6―17189・・410）の本名。

【宏放】61クヮウハウ　心が廣くて小さい事にかかはらぬこと。〔晉書、阮籍傳〕容貌瓌傑、志氣宏放。〔北史、薛孝通傳〕裴宏放過甚、云云、裴笑而不レ答、宏放自若。

【宏伯】62クヮウハク　心のひろい人。〔晉書、羊曼傳〕時州里稱二陳留阮放一爲二宏伯一。

【宏博】63クヮウハク　大きくひろい。〔韓愈、與二大顚師一書〕大顚師論甚宏博。〔蘇轍、上二樞密韓太尉一書〕寬厚宏博、充二乎天地之閒一。

【宏邈】64クヮウバク　大きくて廣い。度量や見識にいふ。〔晉書、安平獻王傳論〕安平、風度宏邈、器宇高雅。〔袁宏、三國名臣序贊〕堂堂孔明、基宇宏邈。

【宏拔】65クヮウバツ　心がひろくて學才が人にぬきんでてゐること。〔晉書、禿髮傉檀載記〕君神爽宏拔、逸氣陵レ雲、命世之傑也。〔徐鉉、酬二郭先輩一詩〕古詩尤精奧、史論皆宏拔。

【宏微】66クヮウビ　清、謝模（10―35827・・211）の字。

【宏夫】67クヮウフ　前蜀、王宗弼（7―20823・・1852）の名。

【宏父】68クヮウフ　㊀古の官名。司空をいふ。〔書、酒誥〕宏父定レ辟。〔傳〕宏父、司空。㊁クヮウホ　宋、包恢（2―2506・・34）の字。

【宏富】69クヮウフウ　立派で內容が豐富なこと。〔晉書、夏侯湛傳〕文章宏富、善構二新詞一。

【宏溥】70クヮウフ　あまねく行きわたる。廣大普遍。〔韓愈、元和聖德詩〕贈レ官封レ墓、周帀宏溥。

【宏覆】71クヮウフク　あまねくおほふ。弘覆。〔陸機、弔二魏武帝一文〕丕二大德一以宏覆、援二日月一而齊レ暉。〔注〕善曰、宏、普也。

【宏文】72クヮウブン　立派な文章。

【宏文院】73クヮウブンヰン　官署の名。清代、內三院の一。皇帝・皇子に進講することを掌る。〔稱謂錄、內閣、宏文院〕池北偶談、國朝官制、設二內三院一、曰國史、曰秘書、曰宏文院、各有二學士一員一。〔稱謂錄、翰林院、宏文〕會典、天聰十年、改二文館一爲二內三院一、一曰、內宏文院、掌下注二釋歷代行事善惡一、勸二講御前一、侍二講皇子一、並教中諸王之屬上、各設二大學士一掌レ之。

【宏辯】74クヮウベン　立派な辯論。雄辯。弘辯。〔蘇轍、上二韓太尉一書〕聽二其議論之宏辯一、觀二其容貌之秀偉一。

【宏甫】75クヮウホ　字號。㊀宋、范鏜（9―30834・・87）の字。㊁明、蔡毅中（9―31818・・150）の字。

【宏謨】76クヮウボ　大きなはかりごと。宏猷。〔袁宏、三國名臣序贊〕遂獻二宏謨一、匡二此霸道一。

【宏謀】77クヮウボウ　㊀大きなはかりごと。宏謨に同じ。弘謀。〔南齊書、高帝紀〕宏謀霜照、祕算雲回、旍旆所レ臨、一麾必捷。㊁清、陳弘謀（11―41698・・857）の一名。

【宏瑜】78クヮウユ　清の高僧。會稽の王氏の子。名は作霖。字は月章。明の中書舍人となる。書畫に巧。〔國朝耆獻類徵、四百六十五〕。

【宏羅】79クヮウラ　大きなあみ。羅は鳥を捕へる網をいふ。〔陶潛、感二士不遇一賦〕密網裁而魚駭、宏羅制而鳥驚。

【宏覽】80クヮウラン　ひろくみる。閎覽。博覽。〔任昉、王文憲集序〕宏覽二載籍一、博游二才義一。

【宏亮】81クヮウリャウ　㊀大いに擧げ行ふ。〔班固、典引〕宏二亮洪業一。〔注〕向云、宏、大、亮、擧。㊁大きくて明瞭なこと。〔福惠全書、教養部、總論〕句讀分明、聲音宏亮。

【宏量】82（クヮウリャウ） 度量が大きい。弘量(**4**－9709・・148)の❶に同じ。

【宏略】83（クヮウリャク） 大きくて立派なはかりごと。〔魏志、劉劭傳〕陛下以㆓上聖之宏略㆒、愍㆓王綱之弛頽㆒。〔任昉、王文憲集序〕寔寄㆓宏略㆒。

【宏麗】84（クヮウレイ） 大きく美しい。弘麗。〔王延壽、魯靈光殿賦〕何宏麗之靡靡、咨用㆑力之妙勤。〔顏氏家訓、文章〕自㆑古執㆑筆爲㆑文者、何可㆑勝㆑言、然至㆓於宏麗精華㆒、不㆑過㆓數十篇㆒耳。

【宏璉】85（クヮウレン） 大いに衆木をつらねる。〔何晏、景福殿賦〕又宏璉以豐敞。〔注〕善曰、一曰、宏連、大連㆓衆木㆒也、王逸楚辭注曰、横㆑木關㆑柱爲㆑連、璉、與㆑連古字通。

【宏光帝】86（クヮウクヮウテイ） 明の朱由崧(**6**－14424・・649)をいふ。

【宏藝錄】87（クヮウゲイロク） 書名。三十二卷。明、邵經撰。弘藝錄(**4**－9709・・154)に同じ。

【宏世祿】88（クヮウセイロク） 清、滿洲鑲紅旗人。姓は瓜爾佳氏。順治中、護軍參領となり、雲南に出征し、明の桂王を緬甸に獲ふ。康熙中、察哈爾を滅ぼし、吳世璠を征し、皆功あり。官は副都統。〔清史稿、二百六十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十四〕。

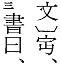
【宏明集】89（クヮウミャウシフ） 書名。弘明集に同じ。清の乾隆帝の諱を避けて宏の字に改めた。弘明集(**4**－9709・・140)を見よ。

【宏毅先生】90（クヮウキセンセイ） 清の張煥綸(**4**－9812・・95)の尊號。

【宏齋先生】91（クヮウサイセンセイ） 宋の包恢(**2**－2506・・34)の號。

【宊】7087 バウ　旁(**5**－13637)の古字。〔玉篇〕宊、古文旁。

【宆】7088 ベン メン　〔集韻〕暋見切　霰


小篆

かなふ。冥合する。〔說文〕宆、冥合也、从㆑宀丏聲、讀若㆔書曰、藥不㆓瞑眩㆒。

參考 宆(**3**－7090)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕宆、音面、冥合也。宆、古賓字。

【宐】7089 ギ　宜(**3**－7111)の本字。〔集韻〕宐、隸作㆑宜。〔正字通〕宐、宜本字。

【宆】7090 ヒン　賓(**10**－36788)の古字。〔五音集韻〕宆、古文賓。

參考 宆(**3**－7088)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕宆、音面、冥合也。宆、古賓字。

【宒】7091 マウ　罔(**9**－28211)の古字。〔字彙補〕宒、古文罔字。

【宑】7092 セイ シャウ　〔玉篇〕積省切　梗

うちゐど。〔玉篇〕宑、舍井也。

【宅】7093 チュン　〔川篇〕株倫切　眞

棺のさま。〔川篇〕宅、棺貌。

【宎】7094 カウ　義未詳。〔篇海類編〕宎、胡交切。

【㝅】7095 シュ　義未詳。〔五音篇海〕㝅、音殳。

【㝉】7096 キウ・ベン　義未詳。〔龍龕手鑑〕㝉、音久、又音麵。

【宔】7097 テイ　定(**3**－7109)の俗字。〔辭海〕宔、定俗字。

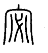
五畫

【宓】7098

〖一〗ビツ ミチ　〔集韻〕覓畢切　ㄇㄧˋ　mi^{4}　質

〖二〗フク ブク　〔篇海〕房六切　ㄈㄨˊ　fu^{2}　屋

慣 ヒツ


小篆

〖一〗❶やすらか。密(**3**－7205)に同じ。〔說文〕宓、安也、从㆑宀必聲。〔段注〕此字經典作㆑密、密行而宓廢矣。〔廣雅、釋詁一〕宓、安也。〔疏證〕玉篇云、今作㆑密。〔淮南子、覽冥訓〕宓穆休㆓于太祖之下㆒。〔注〕宓、寧也。❷とまる。〔玉篇〕宓、止也。❸しづか。〔玉篇〕宓、靜也。❹ひそか。〔玉篇〕宓、默也。〔廣韻〕宓、埤蒼云、祕宓。❺或は賓(**10**－36835)に作る。〔集韻〕宓、或作㆑賓。〖二〗❶虙(**9**－32702)・伏(**1**－438)に通ず。〔篇海〕宓、音伏、同㆑虙、又人名。〔顏氏家訓、書證〕張揖云、宓、今伏羲氏也、孟康漢書古文注亦云、宓、今伏、而皇甫謐云、伏羲、或謂㆓之宓羲㆒、按、諸經史緯候、遂無㆓宓羲之號㆒、虙字從㆑虍、宓字从㆑宀、下俱爲㆑必、末世傳寫、遂誤以㆑虙爲㆑宓、而帝王世紀、因更立㆑名耳。❷姓。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕宓氏、卽伏羲氏之後也、伏、亦作㆑宓、仲尼弟子宓不齊、字子賤、魯人、後轉爲㆑密。

名乘 アツ。ヤス。

【宓汨】1（ヒツイツ） 急流のさま。滵汨。〔漢書、司馬相如傳上〕滭弗宓汨。〔注〕師古曰、宓汨、去疾也。

【宓羲】2（フクキ） 宓犧・伏羲(**1**－438・・26)に同じ。〔後漢書、張衡傳〕常耽㆓玄經㆒。〔注〕桓譚新論曰、宓羲氏謂㆓之易㆒、老子謂㆓之道㆒、孔子謂㆓之元㆒、揚雄謂㆓之玄㆒。

【宓戲】3（フクキ） 宓犧・伏羲(**1**－438・・26)に同じ。〔漢書、藝文志〕宓戲氏仰觀㆓象於天㆒、俯觀㆓法於地㆒、云云、始作㆓八卦㆒、以通㆓神明之德㆒、以類㆓萬物之情㆒。〔論衡、自紀〕撥㆓流失之風㆒、反㆓宓戲之俗㆒。

【宓犧】4（フクキ） 三皇の一。伏羲(**1**－438・・26)に同じ。〔漢書、古今人表〕太昊帝宓犧氏。〔注〕宓、音伏、字本作㆑虙。

【宓草】5（フクサウ） 清、王蓍(**7**－20823・・468)の字。

【宓子】6（フクシ） 孔子の弟子。宓不齊(10)・宓賤彈琴(11)を見よ。〔論語、公冶長〕子謂㆓子賤㆒、君子哉若人。〔集注〕子賤、孔子弟子、姓宓、名不齊。

【宓妃】7（フクヒ） 伏羲の女。洛水に溺死して水神となる。一に虙妃に作る。〔司馬相如、上林賦〕青琴宓妃之徒、絕殊離俗。〔揚雄、甘泉賦〕屛㆓玉女㆒而却㆓宓妃㆒。〔曹植、洛神賦〕余朝㆓京師㆒、還濟㆓洛川㆒、古人有㆑言、斯水之神、名曰㆓宓妃㆒。

【宓穆】8（ヒツボク） 靜かで平和なさま。〔淮南子、覽冥訓〕宓穆休㆓于太祖之下㆒。〔注〕宓、寧也、穆、和也。

【宓機絹】9（フクキケン） 宋代、嘉興府魏塘の宓家で作つた畫絹の名。〔曹昭、古畫論〕宋絹有㆓宓機絹㆒、極勻淨厚密、出㆓嘉興府魏塘宓家㆒、故名、趙松雪・盛子昭・王若水、多用㆓此絹㆒作㆑畫。

【宓不齊】10（フクフセイ） 春秋、魯の人。字は子賤。孔子の弟子。性、仁愛にして才智あり。嘗て單父の宰となり、琴を鳴らし、堂を下らずして治まる。孔子稱して君子といふ。後世、單父侯に追封す。〔史記、六十七〕。

【宓賤彈琴】11（フクセンダンキン） 蒙求の標題。魯の宓不齊(字は子賤)が單父の宰となつた時、琴を鳴らし、身は堂を下らずして治まつた故事。〔呂覽、察賢〕宓子賤治㆓單父㆒、彈㆓鳴琴㆒、身不㆑下㆑堂、而單父治、巫馬期以㆑星出、以㆑星入、日夜不㆑居、以㆑身親㆑之、而單父亦治、巫馬期問㆓其故於宓子㆒、宓子曰、我之謂㆑任㆑人、子之謂㆑任㆑力、任㆑力者故勞、任㆑人者故逸。

【宊】7099 ハウ ホウ 〔集韻〕補抱切 皓

❶**をさめる**。しまひこむ。宲(**3**−**7164**)に同じ。〔正字通〕宊、篆作㆑宲。〔説文〕宲、藏也、从㆑宀呆聲、呆、古文保、周書曰、陳㆓宲赤刀㆒。〔段注〕顧命文、蓋壁中古文如㆑此、今作㆑寶。❷或は㡾(**4**−**9405**)に作る。〔集韻〕宲、或作㆑㡾。

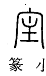
【㝊】7100 グワ ゲ 〔玉篇〕五化切 禡

瓦葺きの家。〔正字通〕㝊、泥㝊屋也。

【㝋】7101 セキ 寂(**3**−**7200**)に同じ。〔玉篇〕㝋、同㆑寂。

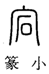
参考 熟語は寂(**3**−**7200**)を見よ。

【宔】7102 シュ 〔集韻〕腫庾切 麌


小篆

❶**位牌**。神主。主(**1**−**100**)に通ず。〔説文〕宔、宗廟宔祏也、从㆑宀主聲。〔段注〕經典作㆑主、小篆作㆑宔、主者、古文也、祏、猶㆑主也、左傳、使㆓祝史徙㆒主祏於周廟㆒、是也、鄭説、卿大夫無㆑宔、許説、大夫以㆑石爲㆑宔。❷或は砫(**8**−**24107**)・𥙊(**8**−**24660**)に作る。〔集韻〕宔、或从㆑石、从㆑示。

【宕】7103 タウ ダウ 〔集韻〕大浪切 漾 ㄉㄤˋ tang^4


小篆

❶**あけひろげた家**。〔説文〕宕、一曰、洞屋。〔段注〕洞屋、謂㆓通迵之屋㆒、四圍無㆓障蔽㆒也。❷**ひろい**。**おほきい**。〔説文通訓定聲〕按、字从㆑宀、洞屋當㆑爲㆓本訓㆒、洞屋者、四圍無㆓障蔽㆒之謂、故轉注爲㆓寛廣之義㆒。❸**すぎる**。〔説文〕宕、過也、从㆑宀碭省聲、汝南項、有㆓宕鄉㆒。❹**ほしいまま**。蕩(**9**−**32002**)・愓(**4**−**10936**)・盪(**8**−**23062**)に通ず。〔正字通〕宕、説文、過也、今言㆓放宕㆒也、與㆓蕩・愓㆒通。〔説文通訓定聲〕宕、叚借爲㆑盪。〔一切經音義、七〕迵過曰㆑宕。〔穀梁、文、十一〕長狄兄弟三人、佚㆓宕中國㆒。〔釋文〕害、本又作㆑宕。〔後漢書、孔融傳〕發㆑辭偏宕、多致㆓乖忤㆒。❺**あらい**。おほまか。〔北史、薛憕傳〕疏宕不㆑拘。〔金史、姫汝作傳〕性豪宕、不㆑拘㆓細行㆒。❻**石を採る人**。〔正字通〕宕、采㆑石工、謂㆓之宕戶㆒。❼**郷の名**。宕郷。今河南省項城縣の地。〔説文〕宕、汝南項、有㆓宕鄉㆒。〔段注〕汝南郡項縣、地理志・郡國志、同㆓春秋經之項國㆒也、今河南陳州府項城縣、是其地。❽現ながびく。遷延する。

【宕陰】1 タウイン 鹽谷世弘の號。鹽谷宕陰(**12**−**47579**‥208)を見よ。

【宕陰存稿】2 タウインソンカウ 書名。十三卷。鹽谷宕陰撰。漢文集。禮・樂・射・御・書・數の六目から成る。明治三年刊。

【宕叡】3 タウエイ 愛宕山と比叡山との雅稱。〔賴山陽、南紀往反數望㆓金剛山㆒想㆓楠河州公之事㆒慨然有㆑作詩〕宕叡連㆓武庫㆒、隔㆑江對㆓正北㆒。

【宕渠】4 タウキョ ❶山名。四川省渠縣の東。一名、大青山。〔太平寰宇記〕宕渠山、一名大青山。〔輿地紀勝〕圖經云、其山東西兩門、延連相接、山間長狹、有㆑似㆓溝渠㆒。❷河の名。今の渠江。四川省合川縣の附近に在る。渠江(**7**−**17764**‥3)の❶を見よ。〔水經、江水注〕宕渠水、卽潛水・渝水矣。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府、合州〕宕渠江、亦曰㆓渠江㆒、自㆓順慶府廣安州西南㆒、流經㆓州界㆒、至㆓州治東北㆒而合㆓於嘉陵江㆒、曰㆓渠口㆒。❸郡名。㋑後漢、置く。故城は今の四川省渠縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、廣安州、渠縣〕宕渠城、縣東北七十里、漢置㆑縣屬㆓巴郡㆒、後漢因㆑之、應劭曰、石過水爲㆓宕水所㆒㆑蓄爲㆑渠、故縣以㆑是名、劉先主嘗分㆓巴郡之宕渠・宣漢・漢昌三縣㆒置㆓宕渠郡㆒、晉省入㆓巴西郡㆒、惠帝復分㆓巴西㆒置㆓宕渠縣㆒、永嘉三年、巴西陷㆓於李雄㆒、譙登擧㆑兵攻㆓宕渠㆒、殺㆓其巴西太守馬脫㆒、宋白曰、宕渠城、漢車騎將軍馮緄增修、俗亦名㆓車騎城㆒、晉義熙二年、劉裕遣㆓毛修之等㆒討㆑譙、縱至㆓宕渠軍中㆒作㆑亂、修之奔還㆓白帝㆒、宋爲㆓南宕渠郡治㆒、蕭齊因㆑之、梁於㆓安漢縣㆒置㆓宕渠郡㆒、流江置㆓北宕渠郡㆒而改㆓故宕渠縣㆒置㆓竟陽郡㆒、隋開皇初、郡廢、縣屬㆓渠州㆒、唐武德初、縣改屬㆓蓬州㆒、劉昫曰、縣舊治長樂山、長安三年、移㆓治羅穫水㆒、是也、寶曆初、省入㆓蓬山縣㆒、大中初復置、仍屬㆓蓬州㆒、五代因㆑之、宋初復廢入㆓蓬山縣㆒。㋺南朝の時、東・西・南・北の四宕渠郡があり、東南西は宋末、置き、北は梁、置く。東宕渠は今の四川省合川縣の境、南宕渠は南充縣の北、西宕渠は鹽亭縣の西北、北宕渠は後漢の故郡である。❹縣名。㋑漢、置く。故城は今の四川省渠縣の東北。〔漢書、地理志上〕巴郡、縣十一、宕渠。〔讀史方輿紀要、四川、順慶府、廣安州〕渠縣、州北百二十里、西北至㆓蓬州㆒百二十里、東南至㆓忠州墊江縣㆒百二十里、漢巴郡宕渠縣地、後漢建安中、先主嘗分置㆓宕渠郡㆒、尋省入㆓巴西郡㆒、晉仍屬㆓巴西郡㆒、後復置㆓宕渠郡㆒、宋曰㆓南宕渠郡㆒、齊因㆑之、梁兼置㆓渠州㆒、並治㆓宕渠縣㆒、西魏析置㆓流江郡㆒、隋開皇初、郡廢爲㆓渠川治㆒、大業初、爲㆓宕渠郡治㆒、唐初復曰㆓渠州㆒、天寶初、曰㆓潾山郡㆒、乾元初、復爲㆓渠州㆒、宋因㆑之、亦曰㆓潾山郡㆒、元仍曰㆓渠州㆒、明初以㆓州治流江縣㆒省入、又改㆑州爲㆑縣。㋺南朝宋、置く。今の四川省舊保寧府の境。㋩南朝宋、置く。今の四川の境。㊁南齊、置く。故城は今の四川省鹽亭縣の西北。㋭南朝梁、置く。故城は今の四川省營山縣の東北。❺關の名。四川省渠縣の東。

【宕戶】5 タウコ 石屋。石工。又、石工の戶籍。〔正字通〕宕、又采㆑石工、謂㆓之宕戶㆒。

【宕子】6 タウシ 放蕩者。蕩子。〔曹植、七哀詩〕借問歎者誰、言是宕子妻。

【宕州】7 タウシウ 州名。❶北周、置く。甘肅省岷縣の南、宕昌鎭。古の宕昌國の地、唐の交河戍、明の宕州城。〔讀史方輿紀要、陝西、岷州衞〕宕州城、衞南百二十里、古西羌地、晉末、西羌別種、保㆓聚於此㆒、曰㆓宕昌國㆒、宋元嘉初、宕昌王梁彌忽、遣㆓子彌黃㆒入㆓貢於魏㆒、尋爲㆓仇池所㆒㆑幷、九年、楊難當、以㆓兄子保宗㆒爲㆓鎭南將軍㆒鎭㆓宕昌㆒、是也、既而羌復有㆓其地㆒、昇明二年、宕昌王梁彌機初立、魏主宏遣㆑使拜爲㆓征南大將軍・梁益二州牧河南王㆒、齊永明初、亦拜㆓彌機㆒爲㆓河梁二州刺史㆒、三年、彌機死國亂、魏拜㆓彌機兄子彌承㆒爲㆓宕昌王㆒、六年、齊以㆓彌承㆒爲㆓河涼二州刺史㆒、梁天監四年、魏以㆓宕昌世子梁彌博㆒爲㆓宕昌王㆒、既而梁亦以㆓彌博㆒爲㆓河涼二州刺史・宕昌王㆒、大同七年、宕昌王梁仚定、爲㆓下所㆒㆑殺、弟彌定立、天寶初、國亂、西魏遣㆓將宇文貴史寧㆒討定㆑之、後周保定四年、梁彌定屢寇㆓周邊㆒、周將田宏擊滅㆓彌定㆒、天和初、置㆓宕州㆒、兼置㆓宕昌郡㆒、隋初郡廢、大業初、復改㆑州爲㆓宕昌郡㆒、唐復曰㆓宕州㆒、天寶初、曰㆓懷道郡㆒、郡治懷道縣、舊志云、懷道縣亦後周置、兼置㆓甘松郡於此㆒、隋初廢㆑郡、以㆑縣屬㆓宕州㆒、唐始移㆓宕州治此㆒、乾元以後、沒㆓於吐蕃㆒、宋熙寧六年、王韶拔㆓宕州㆒、通㆓洮山路㆒、吐蕃木令征以㆓岷州㆒降、因置㆓宕昌堡㆒屬㆓岷州㆒、時運㆓蜀茶市馬於岷㆒、及㆔金人據㆓洮州㆒、遂幷㆓番市於此㆒、歲市㆓馬數千㆒、今衞南百二十里有㆓宕昌驛㆒、一統志云、宋綱馬憩息之所也。❷唐、置く。羈縻州今の四川省茂縣の地。

【宕昌】8 タウシャウ ❶國の名。晉末に西羌の別種が建てた國。其の地は今の甘肅省岷縣の南。盛時には岷縣・臨潭縣の南部から天水の西界に至る地、及び武都北界の地を領した。北周は其の地を郡とし、唐には宕州といった。今の宕昌鎭。宕州の❶を見よ。〔魏書、宕昌傳〕有㆓梁懃者㆒、世爲㆓酋帥㆒、得㆓羌豪心㆒、乃自稱㆑王焉、懃孫彌忽、世祖初、遣㆓子彌黃㆒奉㆑表求㆓內附㆒、世祖嘉㆑之、遣㆑使拜㆓彌忽㆒爲㆓宕昌王㆒、彌忽死、孫虎子立、其地自㆓仇池㆒以西、東西千里、席水以南、南北八百里、地多㆓山阜㆒、人二萬餘落。〔周書、宕昌傳〕保定四年

後、屢反、田弘討㆓滅之㆒、以㆓其地㆒爲㆓宕州㆒。❷郡名。甘肅省岷縣の東南。宕州の❶を見よ。❸縣名。唐、置く。故治は今の廣西省容縣の西。〔讀史方輿紀要、廣西、梧州府、容縣〕宕昌廢縣、在㆓縣西㆒、唐武德四年置。❹鎭の名。宕州の❶を見よ。

【宕若】9 タウジャク　音のひびく形容。〔曹植、吁嗟篇〕宕若當㆓何依㆒、忽亡而復存。

【宕冥】10 タウメイ　❶くらくて際限がわからぬ。天の高いさまにいふ。〔張衡、思玄賦〕踰㆓痝鴻於宕冥㆒兮、貫㆓倒景㆒而高厲。〔注〕衡曰、痝鴻・宕冥、皆天之高氣也、良曰、宕冥、猶㆓窈冥㆒也。❷愚人。又、盲人。〔王褒、洞簫賦〕夫性昧之宕冥、生不ㇾ覩㆓天地之體勢㆒。〔注〕善曰、性昧宕冥、謂㆔天性闇昧過㆓於幽冥㆒也、銑曰、性昧之宕冥、謂㆓盲人㆒也。

【宖】7104

㈠クワウ ワウ〔集韻〕乎萌切 庚　㈡ワウ〔集韻〕于萌切 庚

㈠❶屋のひびき。風などで家屋がなること。〔說文〕宖、屋響也、从ㇾ宀弘聲。❷やすらか。〔玉篇〕宖、安也。㈡㈠の❶に同じ。或は⿱穴弘(8−25457)に作る。〔集韻〕宖、屋響也、或从ㇾ穴。

【⿱宀卯】7105

ハウ ヘウ〔字彙〕披教切 效

よろめき起つ。〔字彙〕⿱宀卯、醉起也。

【宗】7106

ソウ ス〔集韻〕祖賨切 冬 ㄗㄨㄥ tsung¹　慣シユウ

❶たまや。祖先の廟屋。〔說文〕宗、尊祖廟也、从㆓宀示㆒。〔孔子家語、哀公問政〕設爲㆓宗祧㆒。〔注〕宗、宗廟也。❷位牌。神主。〔周禮、春官、肆師〕凡師甸用㆓牲於社宗㆒。〔注〕宗、遷主也。〔禮、喪服小記〕尊ㇾ祖、故敬ㇾ宗。〔注〕宗者、祖廟之正體。❸社。〔詩、大雅、鳧鷖〕既燕㆓于宗㆒。〔箋〕宗、社宗也。〔王儉、褚淵碑文〕鳴㆓控弦於宗稷㆒。〔注〕宗、宗社也。❹まつりの主體。〔書、舜典〕禋㆓于六宗㆒。〔傳〕宗、尊也、所㆓尊祭㆒者、其禮有ㇾ六、謂、四時也、寒暑也、日也、月也、星也、水旱也。❺まつり。まつる。〔禮、中庸〕陳㆓其宗器㆒。〔注〕宗器、祭器也。❻祭祀・禮儀を司る官。〔周禮、春官、序官〕宗伯。〔注〕宗伯、主ㇾ禮之官。〔荀子、正論〕出ㇾ門而宗祝有ㇾ事。〔注〕宗者、主㆓祭祀㆒之官。❼たつとい。〔一切經音義、九〕宗、尊也。〔班固、典引〕恭㆓輯羣后㆒、正ㇾ位度ㇾ宗。〔注〕蔡邕曰、宗、尊也。❽むね。㋑もと。おもなこと。〔廣雅、釋詁三〕宗、本也。〔國語、晉語四〕禮之宗也。〔注〕宗、本也。〔呂覽、下賢〕以ㇾ道爲ㇾ宗。〔注〕宗、本也。㋺をさ。かしら。〔一切經音義、九〕宗、主也。〔風俗通、正失〕宗者、長也。〔漢書、劉向傳〕爲㆓世儒宗㆒。❾むねとする。あがめる。〔儀禮、士昏禮〕宗㆓爾父母之言㆒。〔禮、檀弓上〕天下其孰能宗ㇾ予。〔注〕宗、尊也。〔史記、孔子世家〕孔子以㆓布衣㆒傳㆓十餘世㆒、學者宗ㇾ之。❿むねとし崇める人物。〔後漢書、當錮傳序〕及者、言㆓其能導ㇾ人追ㇾ宗者㆒也。〔注〕宗、謂㆘所㆓宗仰㆒者㆖。⓫始祖の適長子。大宗。〔禮、大傳〕別子爲ㇾ祖、繼ㇾ別爲ㇾ宗、繼ㇾ禰爲㆓小宗㆒。〔注〕別子之世適、族人尊ㇾ之、謂㆓之大宗㆒、是宗子也、父之適、兄弟尊ㇾ之、謂㆓之小宗㆒。〔禮、大傳〕敬ㇾ宗故收ㇾ族。〔疏〕宗、是祖之正胤。〔管子、輕重戊〕宗者、族之始也。⓬正適。長子。〔詩、小雅、白華序〕以ㇾ孼代ㇾ宗。〔箋〕孼、支庶也、宗、適子也。〔儀禮、士昏禮記〕宗子無ㇾ父、母命ㇾ之。〔注〕宗子者、適長子也。⓭祖先中の有德者。又、その廟號。〔書、無逸〕殷王中宗。〔孔子家語、廟制解〕古者、祖有ㇾ功而宗有ㇾ德。〔注〕祖宗者、不毀之名、有德者、謂㆓之宗㆒。⓮一族。同姓。大宗によつて統繫せられる親族。〔左氏、昭、三〕肸之宗十一族。〔注〕同ㇾ祖曰ㇾ宗。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕宗㆓鬼神之無㆒ㇾ次。〔注〕同ㇾ姓爲ㇾ宗。⓯まみえる。周制にて、諸侯の夏の朝見をいふ。〔周禮、春官、大宗伯〕春見曰ㇾ朝、夏見曰ㇾ宗。〔書、禹貢〕江漢朝㆓宗於海㆒。⓰おほい。衆(10−33981)に通ず。〔說文通訓定聲〕宗、段借爲ㇾ衆。〔廣雅、釋詁三〕宗、衆也。〔逸周書、程典解〕商王用㆓宗讒㆒。〔注〕宗、衆也。⓱あつまる。叢(2−3220)に通ず。〔說文通訓定聲〕宗、段借爲ㇾ叢。〔廣雅、釋詁三〕宗、聚也。⓲布。布の緵。稯(8−25177)・總(8−27844)に通ず。〔說文通訓定聲〕宗、段借爲ㇾ稯、實爲ㇾ總、儀禮、喪服傳疏、八十一縷、謂㆓之宗㆒、宗、卽古之升也。⓳禜(8−24790)と讀む。〔禮、祭法、幽宗雩宗、注〕宗、皆當ㇾ爲ㇾ禜、字之誤也、禜之言、營也。〔釋文〕宗、依ㇾ注、並讀爲ㇾ禜。⓴佛教義の流派。〔正字通〕宗、釋氏五宗、達摩立㆓六宗㆒、又教律禪分爲㆓三宗㆒。㉑春秋の國名。今の安徽省廬江縣の西境。〔左氏、文、十二〕子孔執㆓舒子平及宗子㆒、遂圍ㇾ巢。〔注〕箋曰、宗國在㆓舒巢之閒㆒。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、周〕宗、或曰、在㆓今廬州府廬江縣西境㆒、文十二年、楚執㆓宗子㆒。㉒姓。〔通志、氏族略、以ㇾ官爲ㇾ氏〕宗氏、又爲㆓宗伯氏㆒、周大夫宗伯之後、以ㇾ官命ㇾ氏、云云、唐表云、宗氏、子姓、宋襄公母弟敖仕ㇾ晉、孫伯宗爲㆓三郤所㆒ㇾ殺、子州犂奔ㇾ楚、少子連家㆓於南陽㆒、以㆓王父字㆒爲ㇾ氏。㉓現㋑西藏地方の行政區域の名。全藏を五十三宗に分け、各〻宗琫一人を置いて統治す。㋺種類。同種。㋩一件を一宗といふ。

名乘　カズ。トキ。トシ。ノリ。ヒロ。ムネ。

解字　會意。宀と示との合字。示は神、宀は屋、故に本義を祖廟、卽ちみたまやの義とす。又、段注によれば、宗と尊とは雙聲、故にたつとい義に用ふ。又、叢・眾・稯に假借す。〔說文、宗、段注〕宗・尊雙聲、按、當ㇾ云㆓尊也祖廟也㆒、今本奪㆓上也字㆒。

參考　宋(3−7078)は別字。

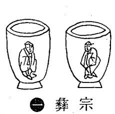
【宗婭】1 ソウア　一族。身うちの者。〔唐書、裴度傳〕宗婭賓客、悉收逮、訊報苛慘。

【宗愛】2 ソウアイ　後魏の宦官。天性險惡。太武に事へて非法を行ふ。官は太師・都督中外諸軍事。爵は馮翊王。文成が立つて五刑を具へ、三族を夷滅す。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。

【宗安】3 ソウアン　明、沈束(6−17189‥270)の字。

【宗異】4 ソウイ　明、馮勝(12−44579‥97)の名。

【宗彝】5 ソウイ　❶宗廟の祭に用ひる祭器。鬱鬯の酒を盛る彝樽。又、天子の祭服の模樣に用ひる。〔書、益稷〕予欲㆘觀㆓古人之象㆒、云云、宗彝藻火粉米、黼黻絺繡、以㆓五采㆒彰㆓施于五色㆒、作㆖服、汝明。〔傳〕宗廟彝樽、亦以㆓山龍華蟲㆒爲ㇾ飾。〔疏〕宗彝、謂㆓宗廟之鬱鬯樽㆒也、故虞夏以上、蓋取㆓虎彝蜼彝㆒而已、天子以飾㆓祭服㆒、周禮宗廟彝器、有㆓虎彝蜼彝㆒、故以㆓宗彝㆒爲㆓虎蜼㆒也。〔周禮、春官、司服、孫詒讓正義〕宗彝、是宗廟彝尊、非㆓蟲獸之號㆒、而言㆓宗彝㆒者、以㆓虎蜼㆒畫㆓宗彝㆒、則因號㆓虎蜼㆒爲㆓宗彝㆒、其實是虎蜼也、但虎蜼同在㆓於彝㆒、故亦幷爲㆓一章㆒也。〔周禮、秋官、司約〕大約劑書㆓於宗彝㆒。〔孫詒讓正義〕說文糸部云、宗彝、宗廟常器也、書益稷孔疏引㆓鄭書注㆒云、宗彝、



宗彝 ❶
（四書引蒙略圖解）

謂㆓宗廟之鬱鬯樽㆒也、祭統、衞孔悝鼎銘云、勤㆓大命㆒、施㆓于烝彝鼎㆒、注云、刻㆓著於烝祭之彝鼎㆒、彝、尊也、亦引㆓此文㆒爲㆑證、賈疏云、六彝之名、若㆕司尊彝云㆔雞鳥斝黃虎蜼之等、以畫㆓於宗廟彝尊㆒、故知㆘使㆓神監㆒焉、使㆓人畏敬㆒、不㆗敢違㆖之也、惠士奇云、宗彝者、宗廟之常器、所謂銘勳彝器、歷㆑世彌光、韓非子大體篇曰、至安之世、不㆑著㆓名於圖書㆒、不㆑錄㆓功於盤盂㆒、記年之牒空虛、盤盂、宗彝之屬、圖書、卽丹圖、江永云、宗彝、謂㆓宗廟之常器㆒、鍾鼎皆是、書㆓於宗彝㆒、如㆓博古圖鍾銘鼎銘㆒、是也、注謂㆓宗廟之六彝㆒、誤、案、惠江說、是也。㊁猿の一種。孝行な獸。〔復齋日記〕貴州思南有㆓瓻峯㆒、居㆓大山中㆒、有㆑獸、曰㆓宗彝㆒、狀獮猻、巢㆓於樹㆒、老者直居㆑上、子孫以㆑次居㆑下、老者不㆓多出㆒、子孫居㆑下者出得㆑果、卽傳遞至㆑上、上者食、然後傳遞至㆑下、下者始食、上者未㆑食、其下者不㆓敢食㆒也、先儒謂、先王用以繪㆓於衰㆒者、取㆓其孝㆒也、蓋以㆑此。㊂明、隨州の人。成化の進士。官は御史。權貴を彈劾し、風紀を振肅す。〔蘭臺法鑑錄、十三〕。㊃明、楊彝(**6**－**15112**‥5)の字。

【宗有】6（ソウイウ）　明、伊恆(**1**－**432**‥45)の字。

【宗祐】7（ソウイウ）　後魏、邢祐(**11**－**39301**‥3)の字。

【宗一】8（ソウイツ）　唐、淩準(**2**－**1669**‥66)の字。

〔宗一先生〕9（ソウイツセンセイ）　明、吳應賓(**2**－**3365**‥454)の私諡。

【宗邑】10（ソウイフ）　宗廟の在る地。先祖の地。〔左氏、襄、二十七〕崔、宗邑也。〔注〕宗邑、宗廟所㆑在也。〔左氏、哀、十四〕公曰、不可、薄、宗邑也。

【宗尹】11（ソウイン）　金、蘇保衡(**9**－**32427**‥293)の字。

【宗禋】12（ソウイン）　祖先の祭。禋は禋祀(**8**－**24761**‥4)。〔後漢書、宦者傳論〕喪㆓大業㆒絕㆓宗禋㆒。〔謝超宗、昭遠樂〕陳㆓馨示策㆒、肅㆓志宗禋㆒。

【宗隱】13（ソウイン）　後燕、西河の人。字は處道。性至孝。年十三にして成人の志あり。官は太子中舍人。〔後燕錄〕。

【宗禹】14（ソウウ）　字號。㊀宋、夏元鼎(**3**－**5720**‥306)の字。㊁明、孫濬(**3**－**6987**‥165)の字。㊂明、陳洪謨(**11**－**41698**‥864)の字。

【宗英】15（ソウエイ）　一族中の傑物。宗傑。〔漢書、敘傳下〕河閒賢明、禮樂是修、爲㆓漢宗英㆒。

【宗穎】16（ソウエイ）　宋の人。澤の子。澤に隨つて軍中に在り、士心を得。官は兵部郎中。〔宋史、三百六十〕・〔南宋書、十二〕。

【宗易】17（ソウエキ）　明、李時(**6**－**14459**‥397)の字。

【宗越】18（ソウエツ）　南朝宋、葉の人。官は冠軍將軍・南濟陰太守。爵は始安縣侯。難を謀つて殺さる。〔宋書、八十三〕・〔南史、四十〕。

【宗衍】19（シュウエン）　元の高僧。吳中の人。字は道原。詩・書に巧。書室を碧山堂といふ。著に碧山堂集がある。〔列朝詩集小傳、閏〕。

【宗琰】20（ソウエン）　明、張琬(**4**－**9812**‥75)の字。

【宗偃】21（ソウエン）　唐、徐表仁(**4**－**10110**‥625)の號。

【宗淵】22（シュウエン）　宋の僧。性、孤潔耿介。吟詩を好む。著に洛西集がある。〔宋高僧傳、三十〕。

【宗遠】23（ソウエン）　字號。㊀元、陳堯道(**11**－**41698**‥810)の字。㊁明、芮釗(**9**－**30731**‥11)の字。

【宗於】24（ソウオ）　明、黃學海(**12**－**47926**‥1016)の字。

【宗可】25（ソウカ）　宋、王大受(**7**－**20823**‥1875)の字。

【宗哥】26（ソウカ）　城の名。甘肅省西寧縣の東。一に宗噶爾城に作る。又、川の名。湟河の支流。流は青海。甘肅省西寧縣の西。又、南川河・宗噶爾川・宗水・牛心川ともいふ。〔宋史、地理志三〕龍支城、舊宗哥城、元符二年改㆓今名㆒、尋棄㆑之。〔讀史方輿紀要、陝西、西甯鎭〕宗哥城、在㆓衞西南九十里㆒、源出㆓塞外㆒、經㆓故龍支城㆒東、又東北入㆓於湟河㆒、宋景祐二年、趙元昊攻㆓吐蕃唃厮囉宗哥城、及席星嶺諸城㆒、渡㆓宗哥河㆒、部兵溺死者甚衆。

【宗家】27（ソウカ）　㊀一族。一門。〔史記、晉世家〕令㆓軍毋㆑入㆓僖負羈宗家㆒、以報㆑德。〔漢書、韋玄成傳〕賢門下生博士義倩等、與㆓宗家㆒計議。〔注〕宗家、賢之同族也。㊁（ソウケ）本家。

【宗海】28（ソウカイ）　字號。㊀元、薛漢(**9**－**32123**‥25)の字。㊁明、沈漢(**6**－**17189**‥89)の字。㊂明、張洪(**4**－**9812**‥311)の字。

【宗楷】29（ソウカイ）　明、李棠(**6**－**14459**‥555)の字。

【宗行】30（ソウカウ）　明、葉宗人(**9**－**31387**‥228)の字。

【宗孝】31（ソウカウ）　明、汪景純(**6**－**17154**‥209)の字。

【宗杲】32（シュウカウ）　宋の僧。字は曇晦。雄辯家。諡は普覺。孝宗より大慧の號を賜ふ。書室を妙喜菴といふ。著に臨濟正宗記・正法眼藏がある。〔大明高僧傳、五〕・〔新續高僧傳、十二〕。

【宗慤】33（ソウカク）　南朝宋、南陽の人。炳の兄の子。字は元幹。諡は肅。元嘉中、振武將軍となり、林邑を伐つて功あり。官は豫州刺史。爵は洮陽侯。〔宋書、七十六〕・〔南史、三十七〕。

【宗岳】34（ソウガク）　㊀梁の人。夬の從弟。德行あり。〔梁書、十九〕。㊁清、張若震(**4**－**9812**‥1174)の字。㊂（ソガ　ムナヲカ）姓氏。

【宗學】35（ソウガク）　㊀王室の子弟を教へる學校。唐の高祖が小學を祕書省外に立てて皇族の子弟及び功臣の子弟を教授したのに始まり、宋の高宗に至つて始めて宗學の名を立て、太學・小學の兩級に分けた。明の武宗以後も亦宗學を置き、教習の制を定め、清代は每旗に皆之を置いた。但し、明と淸とは、太學を置かなかつた。〔文獻通考、學校考、太學〕宗學、紹興十四年、建㆓於臨安㆒、學生以㆓百員㆒爲㆑額、太學生五十八、小學生四十八、職事各五人、置㆓諸王宮大小學教授一員㆒、在學者、皆南宮北宅子孫、若㆓親賢宅近屬㆒、則別選㆓館職㆒以教授焉。〔皇朝文獻通考、學校考、宗學〕臣等謹按、虞書、放勳克明㆓峻德㆒、以親㆓九族㆒、重華命㆑夔典㆑學、以教㆓胄子㆒、三代學校、元子衆子以至㆓公卿大夫元士之適子㆒、皆造焉、唐宋以來、國學以教㆓國子㆒、宗學以教㆓宗人㆒、古帝王之立㆑教也、自㆓親者㆒始、自㆓貴者㆒始、馬端臨考、歷代學校、首㆓太學㆒、終㆓直省鄉黨㆒、而於㆓宗學之設㆒、附㆓見太學一門㆒、良以、自㆑昔無㆓宗學之名㆒、後世有㆓其名㆒而無㆓其制㆒、故統以㆓太宗例㆒、亦宜㆑然也、云云、順治二年、卽建㆓立宗學㆒、設㆓教習等官㆒、司㆓其董戒㆒、厚㆓其廩餼㆒、嚴㆓其懲勸㆒、使㆘宗室子弟、咸涵㆓泳於禮義道德之途㆒、講㆓明於倫紀綱常之大㆒、服㆓習於書射繙譯之業㆒、練㆗習乎文事武功之備㆖。〔續文獻通考、學校考、太學〕武宗正德十四年、定㆓宗學教習之制㆒。㊁明、黃敏(**12**－**47926**‥800)の字。㊂佛（シュウガク）各宗自家の學問。

【宗漢】36（ソウカン）　㊀漢をいふ。南朝の宋は漢の後であるから、漢を尊んで宗といふ。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕隆周之卜既永、宗漢之兆在焉。〔注〕良曰、宋爲㆓漢後㆒、故云㆓宗漢㆒、言㆘宋祚將㆗與㆓周漢㆒同㆖也。㊁字號。㋑清、顧企(**12**－**43689**‥43)の字。㋺明、佘翔(**1**－**514**‥6)の字。

【宗翰】37（ソウカン）　明、金濂(**11**－**40152**‥1159)の字。

【宗杞】38（ソウキ）　元、大都の人。孝子。父の喪に哀痛して死す。〔元史、一百九十七〕。

【宗季】39（シュウキ）　五代、漢の僧。杭州に道を說くこと四十餘年。著に永新鈔・暉理鈔・彌勒成佛經疏鈔がある。〔宋高僧傳、七〕。

【宗姬】40（ソウキ）　㊀周の同姓の國をいふ。宗周(124)に同じ。〔曹冏、六代論〕雖㆔心希㆓九鼎㆒、而畏㆓迫宗姬㆒。〔注〕翰曰、宗姬、同姓國也。㊁宋代、諸王の女、卽ち郡主をいふ。〔宋會要〕宋政和閒、詔改㆓郡主㆒爲㆓宗姬㆒。

【宗祈】41（ソウキ）　尊び祈る。〔揚雄、甘泉賦〕欽柴宗祈、燎㆓薰皇天㆒。

【宗軌】42（ソウキ）　祖宗の事業。〔班固、典引〕俯蹈㆓宗軌㆒。〔注〕銑曰、世宗武帝封禪之軌則也。

【宗起】43（ソウキ）　元、林興祖(**6**－**14551**‥320)の字。

【宗規】44（シュウキ）　佛教各宗管長が所管大臣の認可を得た、當該宗派統治の要項を定めた規則。宗則。宗憲。〔明治十一年二月二日宮內省達〕。

【宗器】45（ソウキ）　㊀宗廟の器具。祭器と樂器とを併せていふ。〔左氏、襄、二十二〕重㆑之以㆓宗器㆒。〔注〕宗廟禮樂之器、鍾磬之屬。〔國語、晉語八〕其宮不㆑備㆓其宗器㆒。〔漢書、韋玄成傳〕殺㆓幽王㆒取㆓宗器㆒。㊁宗廟の祭器。〔左氏、襄、二十五〕賂㆓晉侯㆒以㆓宗器樂器㆒。〔注〕宗器、祭祀之器、樂器、鍾磬之屬。〔中庸〕陳㆓其宗器㆒。〔注〕宗器、祭器也。㊂字號。㋑明、郭琥(**11**－**39474**‥85)の字。㋺明、張瓚(**4**－**9812**‥337)の字。㋩明、鄧廷瓚(**11**－**39630**‥181)の字。㋥明、貝琳(**10**－**36656**‥46)の字。㋭明、楊鼎(**6**－**15112**‥286)の字。㋬明、劉鉉(**2**－**2224**‥268)の字。

【宗驥】46（ソウキ）　宋、陽枋(**11**－**41725**‥213)の字。

【宗義】47（シュウギ）　佛 各宗派の教義。

【宗儀】48（ソウギ）　明、戴璜(**5**－**11685**‥46)の字。

【宗誼】49（ソウギ）　清、鄞の人。字は在公。號は正菴。詩を好み、陸宇燝・董劍鍔・葉謙・范兆芝等と湖上七子社を結び、日々相倡和す。著に愚囊稿が

ある。〔國朝耆獻類徵、四百七十九〕。

【宗魏】50ソウギ　宋、韓億(12−43159‥24)の字。

【宗丘】51ソウキウ　春秋、楚の地名。今の湖北省秭歸縣。〔左氏、昭、十四〕楚子使下然丹簡二上國之兵於宗丘一、且撫中其民上。

【宗吉】52ソウキツ　明、瞿佑(8−23747‥2)の字。

【宗仰】53ソウギヤウ　尊び仰ぐ。〔晉書、范宣傳〕常以二講誦一爲レ業、譙國戴逵等、皆聞レ風宗仰。〔北史、儒林上、徐遵明傳〕講二學於外一二十餘年、海內莫レ不二宗仰一。〔唐書、蓋文懿傳〕遠近宗仰。

【宗擧】54ソウキヨ　宋、邵整(11−39343‥40)の字。

【宗極】55ソウキヨク　㊀至高最上のもの。又、大本。〔北史、許善心傳〕參二三才一而育レ德、肖二二統一而降レ靈、有二黎人一焉、爲二之君長一、有二貴賤一矣、爲二之宗極一。〔沈約、神不滅論〕窮二其原本一、盡二其宗極一。㊁元、葛拱辰(9−31420‥117)の字。

【宗玉】56ソウギヨク　字號。㊀明、白圭(8−22678‥333)の㊂㋩の字。㊁清、羅日琮(9−28397‥302)の字。㊂清、羅人琮(9−28397‥369)の字。

【宗項】57ソウギヨク　清、徐基(4−10110‥66)の字。

【宗欽】58ソウキン　後魏、金城の人。字は景若。好學の人。官は著作郞。爵は臥樹男。〔魏書、五十二〕・〔北史、三十四〕。

【宗覲】59ソウキン　清、陳若霖(11−41698‥961)の字。

【宗化】61ソウクワ　明、秦民悅(8−24995‥268)の字。

【宗華】62ソウクワ　清、呂耀曾(2−3386‥165)の字。

【宗晦】63ソウクワイ　明、司馬晰(2−3257‥282)の字。

【宗會】64 tsung¹ huei⁴　親族會議。

【宗膾】65ソウクワイ　莊子に見える二國の名。〔莊子、齊物論〕堯問二於舜一曰、我欲レ伐二宗膾胥敖一、南面而不二釋然一、其故何也。〔釋文〕司馬云、宗膾胥敖三國名也、崔云、宗一也、膾二也、胥敖三也。

【宗官】66ソウクワン　古の官名。宗伯をいふ。禮義・祭祀・音樂等を掌る。〔周禮、春官、序官、宗伯、鄭注〕唐虞歷二三代一、以二宗官一典三國之禮與二其祭祀一、漢之太常、是也。〔國語、周語下〕妨レ正匱レ財、聲不二龢平一、非二宗官之所一レ司也。〔注〕宗官、宗伯、樂官屬焉。

【宗貫】67ソウクワン　明、王恕(7−20823‥599)の字。

【宗訓】68ソウクン　㊀後周の恭帝、郭宗訓(11−39474‥368ヽ)の名。㊁後蜀、蒲思訓(9−31611‥174)の名。

【宗兄】69ソウケイ　㊀庶子が、宗子の他國に在るものをさしていふ。〔禮、曾子問〕若宗子有レ罪居二于他國一、庶子爲二大夫一、云云、其辭二於賓一曰、宗兄・宗弟・宗子在二他國一、使二某辭一。〔疏〕宗兄・宗弟・宗子在二他國一、不レ得二親祭一。㊁一番上の兄。長兄。〔王維、留二別山中溫古上人兄一幷示二舍弟縉一詩〕舍弟官崇高、宗兄此削レ髮。㊂同族の遠兄弟。同宗の兄。〔韓愈、考功員外盧君墓銘〕愈之宗兄故起居舍人君。〔白居易、畫レ鵰贊序〕壽安令白昊、予宗兄也。

【宗形】70ムナカタ　姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十二〕。

【宗系】71ソウケイ　本家。根本。〔顏氏家訓、勉學〕不レ知二書音是其枝葉、小學乃其宗系一。

【宗畦】72ソウケイ　明、陳述(11−41698‥342)の字。

【宗卿】73ソウケイ　㊀一門の家老。重臣。〔左氏、襄、二十九〕吾子爲二魯宗卿一。㊁太常寺の官をいふ。〔陸倕、爲二王光祿一轉二太常一讓表〕宗卿淸重、歷選所レ難。㊂禮部尙書をいふ。〔稱謂錄、禮部、宗卿〕蘇軾、謝二禮部尙書一表云、遂領二宗卿之任一。㊃宗人府の官をいふ。〔杜甫、別二李義一詩〕丈人領二宗卿一。〔注〕洙曰、宗正卿也。㊄宋、石範(8−24024‥668ヽ)の字。

〖宗卿師〗74ソウケイシ　宗師を尊んでいふ。〔後漢書、李通傳〕初事二劉歆一、好二星歷讖記一、爲二王莽宗卿師一。

【宗景】75ソウケイ　南朝宋、南陽の人。隱者。景は唐諱を避けて炳を改めたものといふ。〔梁書、十九〕。

【宗敬】76ソウケイ　後魏、邢穎(11−39301‥4)の字。

【宗慶】77ソウケイ　㊀製陶法を傳へた人。もと朝鮮の人。又、飴也・阿米夜といふ。永正年間に歸化し、佐々木を氏とし、京都長者町に居り、製陶に從ふ。㊁茶道家。後、宗啓と改む。南坊派の祖。利休に學ぶ。また和泉南宗寺中に集雲院を開き、世に慶首座と稱す。㊂遠州流茶道家、小堀正之の號。

【宗教】78シユウケウ　人生に超越した崇高・偉大なる絕對、卽ち神や佛を畏敬する感じから、これを崇拜信仰して祭祀を行ひ、それによつて慰藉・安心・幸福を得て以て人生の缺陷を補はんとする機能。古來、その教義・行事等の相違によつて種種の宗教が有る。今日に於ては、佛教・キリスト教・マホメツト教が世界の三大宗教として最も勢力を有する。

〖宗教家〗79シユウケウカ　宗教を信仰する人。又、宗教を宣傳する人。

〖宗教史〗80シユウケウシ　宗教の歷史。

〖宗教意識〗81シユウケウイシキ　宗教信仰並びに宗教行爲に伴ふ心理狀態の總稱。

〖宗教改革〗82シユウケウカイカク　十六世紀、北歐に起つた宗教運動。一五一七年、ドイツ人マルチン・ルーテルが、九十五箇條の意見書を提出して、法王の免罪符販賣を攻擊したことが導火線となる。カトリツク教的傳統から脫却して、聖書主義・福音主義を主張したもの。

【宗堯】83ソウゲウ　㊀金、睿宗(8−23536‥25)の㊁㋑の廟號。㊁字號。㋑明、夏良心(3−5720‥367)の字。㋺明、甯欽(7−21717‥7)の字。

【宗夬】84ソウケツ　梁の人。景の子。字は明揚。官は太子右衞率・五兵尙書。〔梁書、十九〕・〔南史、三十七〕。

【宗傑】85ソウケツ　宗族中のすぐれたものをいふ。宗英。〔魏書、景穆十二王傳論〕文宣貞固俊遠、鬱爲二宗傑一。

【宗孽】86ソウゲツ　嫡子と庶子。〔晏子、諫、上〕長少行二其道一、宗孽得二其倫一、云云、長少無レ等、宗孽無レ別、是設レ賊樹レ姦之本也。

【宗賢】87ソウケン　明、黃綰(12−47926‥976)の字。

【宗顯】88ソウケン　㊀明、鄞の人。字は必彰。正統の擧人。官は宜興・大興縣の知事。性、極めて潔白なので、人呼んで宗青天といふ。〔鄞縣志〕。㊁シユウケン　宋の僧。號は正覺。五祖に從ひ學ぶ。〔新續高僧傳、四十三・五十九〕。

【宗元】89ソウゲン　㊀はじめ。根本。〔易略例〕統レ之有レ宗、會レ之有レ元。㊁字號。㋑宋、曾會(5−14299‥37)の字。㋺明、曹凱(5−14297‥23)の字。㋩明、譚太初(10−35978‥76)の字。

〖宗元集〗90ソウゲンシフ　書名。三卷。附、元綱論・內丹九章經各一卷。唐、吳筠撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖宗元先生〗91ソウゲンセンセイ　唐、吳筠(2−3365‥13)の私諡。

【宗玄】92ソウゲン　唐、竇易直(8−25695‥58)の字。

【宗彥】93ソウゲン　明、袁宗(10−34152‥99ヽ)の字。

【宗原】94ソウゲン　もと。根元。本源。〔荀子、非十二子〕宗原應レ變、曲得二其宜一。〔注〕宗原、根本也。

【宗源】95ソウゲン　字號。㊀宋、謝泌(10−35827‥190)の字。㊁元、季淵(3−6965‥20)の字。㊂明、方淵(5−13620‥20)の字。

【宗古】96ソウコ　宋、孫奭(3−6987‥193)の字。

【宗五】97ソウゴ　清、陳長鎭(11−41698‥1131)の字。

【宗後】98ソウゴ　宗子をいふ。〔禮、曲禮下〕若兄弟宗族猶存、則反告二於宗後一。〔注〕宗後、宗子也。

【宗工】99ソウコウ　㊀尊官をいふ。〔書、酒誥〕惟亞、惟服二宗工一。〔傳〕次大夫、服二事尊官一。㊁宗人の官にあるものをいふ。〔書、酒誥〕宗工越百姓里居、罔三敢湎二于酒一。〔今古文注疏〕宗工、謂二宋人一。㊂司空の職をいふ。〔稱謂錄、工部、宗工〕路史、垂爲二宗工一、注、宗工、司空之職。㊃師宗をいふ。〔金史、元好問傳〕兵後故老皆盡、好問蔚爲二一代宗工一。

【宗公】100ソウコウ　先祖。祖公。廟主。一說に、大臣をいふ。〔詩、大雅、思齊〕惠二于宗公一、神罔二時怨一。〔傳〕宗公、宗神也。〔箋〕宗公、大臣也。〔疏〕宗公是宗廟先公、故傳云二宗神一、云云、於レ時宗廟有二太王王季一、若論二宗廟一、當二以レ王統一レ之、不レ當レ言レ公、且經傳未レ有下以二宗廟之神一爲二宗公一者上也。

【宗孔】101ソウコウ　明、李仕魯(6−14459‥1305)の字。

【宗厚】102ソウコウ　字號。㊀明、張淳(合肥の人)(4−9812‥408)の字。㊁明、劉純(2−2224‥370)の字。

【宗國】103ソウコク　宗主として仰ぐ國。本國或は兄分の國。例へば魯と滕とは共に周の文王の廟を奉ずる兄弟國であるが、魯は周公を、滕は周公の弟、叔繡を始祖とするから、滕からは魯を宗國と呼ぶ。〔左氏、哀、八〕今子以二小惡一而欲レ覆二宗國一。〔孟子、滕文公上〕吾宗國、魯先君莫二之行一。〔注〕滕・魯同姓、俱出二文王一、魯、周公之後、滕、叔繡之後、敬二聖人一、故宗レ魯。〔集注〕滕與レ魯

倶文王之後、而魯祖周公爲レ長、兄弟宗レ之、故滕謂レ魯爲二宗國一也。〔國語、晉語二〕宗國既卑。

【宗袞】104 ソウコン 三公の位にある同族。〔謝朓、和二王著作融八公山一詩〕阽危賴二宗袞一、微管寄二明牧一。

【宗蒼】105 ソウサウ 清、錢維城(11―40563・・250)の字。

【宗山】106 ソウザン ❶清、鐵嶺の人。內務府鑲黃旗漢軍に隸屬す。字は歗梧。號は窺生鐵齋。姓は魯氏。官は浙江候補同知・權乍浦同知。意を北方文獻に留め、瓶水齋集を覆刻す。書室を希晦堂といふ。著に窺生鐵齋詩存・希晦堂遺文雜著がある。〔清史稿、四百九十一〕。❷字號。㋑宋、曹宧(5―14297・・137)の字。㋺宋、陶崇(11―41705・・105)の字。㋩明、沈壽崇(6―17189・・539)の字。㋥清、殷岳(6―16627・・20)の字。㋭清、鄒世任(11―39562・・100)の號。

【宗子】107 ソウシ ❶本家を嗣ぐ子。嫡長子。〔詩、大雅、板〕懷德維寧、宗子維城。〔箋〕宗子、謂二王之適子一。〔儀禮、喪服〕宗子孤爲レ殤、大功衰、小功衰、皆三月、親則月算如二邦人一。〔禮、曲禮下〕支子不レ祭、祭必告二于宗子一。〔禮、內則〕適子庶子祇事二宗子宗婦一。〔疏〕宗子謂二大宗子一。〔禮、大傳〕繼レ別爲レ宗。〔注〕別子之世適、族人尊レ之謂二之大宗一、是宗子也。〔稱謂錄、長子、宗子〕案、據レ此則宗子爲二大宗長嫡一、非三通言二小宗一也、與二尋常之長嫡一不レ同。❷同族の子。〔漢書、敍傳下〕侯王之祉、祚及二宗子一。〔袁宏、三國名臣序贊〕宗子思レ寧、薄言解レ控。〔注〕翰曰、先主漢之孫、故稱二宗子一。❸晉、李歆(6―14459・・223)の字。

〖宗子相集〗108 ソウシサウシフ 書名。十五卷。明、宗臣撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【宗之】109 ソウシ ❶盛唐の詩人。崔宗之(4―8178・・293)を見よ。〔杜甫、飮中八仙歌〕宗之瀟灑美少年、擧レ觴白眼望二青天一。❷南朝宋、孫法宗(3―6987・・525)の一名。❸字號。㋑宋、陳起(11―41698・・118)の字。㋺金、楊伯淵(6―15112・・749)の字。

【宗支】110 ソウシ 分家。一族。宗枝。〔後漢書、桓帝紀贊〕桓自二宗支一越二躋天祿一。〔皇朝文獻通考、學校考、宗學〕皇上篤念二宗支一。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕稱二本縣親友宗支一、潛二藏境內一、招搖誆騙。

【宗司】111 ソウシ 禮を掌る官。宗人。〔左氏、哀、二十四〕女爲二宗司一、立二夫人一、國之大禮也、何故無レ之。

【宗旨】112 ソウシ ❶主要なむね。主旨。宗致。主意(1―100・・4)の❷に同じ。〔傳習錄、語錄〕若不レ知二立言宗旨一、只管說二一箇兩箇一。❷佛 シユウシ ㋑其の宗教の主意。宗門の趣旨。本旨。〔神僧傳〕佛圖澄妙解二深經一、旁通二世論一、講說之日、正標二宗旨一、使二始末文言、昭然可レ了。〔宋書、夷蠻、天竺迦黎國傳〕宗旨緬謝、微言淪隔。㋺宗派。

【宗枝】113 ソウシ 同宗の枝屬。一族。宗支。〔舊唐書、滕王元嬰傳〕高宗與レ書誡レ之曰、王地在二宗枝一、寄深二盤石一。〔杜甫、奉レ贈二八丈判官李曛一詩〕宗枝神堯後。〔白居易、與二金陵立レ功將士等一敕書〕朕念二以宗枝一、務二於容貸一。

【宗祀】114 ソウシ ❶宗としてまつる。五祀(1―257・・444)の❻を見よ。〔孝經、聖治章〕昔者、周公郊二祀后稷一以配レ天、宗二祀文王於明堂一以配二上帝一。〔皮錫瑞疏〕文王、周受命祖、祭二之宗廟一、以二鬼享一之不レ足三以昭二嚴敬一、故周公擧下行宗二祀明堂一之禮上、以配二上帝一。〔後漢書、章帝紀〕宗二祀明堂一。〔魏志、明帝紀〕宗二祀文皇帝於明堂一、以配二上帝一。❷たつとびまつる。〔漢書、兒寬傳〕宗二祀天地一、薦二禮百神一。

【宗祉】115 ソウシ 明、金華の人。字は濟才。孝子。官は廬州の知事。〔明史、二百九十六〕。

【宗師】116 ソウシ ❶もととしのつとる。たつとび手本とする。〔漢書、藝文志〕宗二師仲尼一。❷尊崇する師匠。人の師となつて衆に仰ぎ尊ばれるもの。莊子に大宗師篇がある。〔後漢書、朱浮傳〕博士之官爲二天下宗師一、使二孔聖之言傳而不レ絕。❸宗族の子弟を取締まる官名。漢の平帝が始めて置き、後世之に依る。〔漢書、平帝紀〕漢元至レ今十有餘萬人、雖レ有二侯王之屬一、莫二能相糾一、其自二太上皇一以來族親、各以レ世氏、郡國置二宗師一以糾レ之、致二教訓一焉。〔後漢書、李通傳、爲二王莽宗卿師一〔注〕平帝五年、王莽攝レ政、郡國置二宗師一、以主二宗室一、蓋特尊レ之、故曰二宗卿師一也。〔晉書、汝南王亮傳〕時宗室殷盛、無二相統攝一、乃以二汝南王亮一爲二宗師一、本官如レ故、使二訓導觀察一。〔通典、職官、諸卿上、宗正卿〕平帝元始四年、更二名宗伯一、五年、又於二郡國一置二宗師一、以糾二皇室親族世氏一、致二教訓一焉、選下有二德義一者上爲レ之、云云、咸寧三年又置二宗師一。❹各府の學政を司る官。〔還魂記、腐歎〕不幸前任宗師、考居二劣等一停レ廩。❺佛 シユウシ 正法を傳へて衆に尊崇せられるもの。又、各宗の祖。〔釋氏要覽、上〕宗師傳二佛心宗一之師、又云、宗者尊也、謂、此人開二空法道一爲レ衆所レ尊故。

【宗祠】117 ソウシ 古は士大夫には皆廟があつたが、庶人は寢に祭つたことは禮記の王制篇に見えてゐる。其の後同族を聚合し、祠宇を建てて其の祖先を祭る、之を宗祠といひ、又、家廟ともいふ。家廟(3―7169・・282)の❶參照。〔陔餘叢考、宗祠塐像〕古者祭必有レ尸、孟子弟爲レ尸、是戰國時尚有二此制一、然宋玉招魂、已有下像設二君室一之文上、則塐像實自二戰國一始、顧寧人謂、尸禮廢而像事興、亦風會使レ然也、近世祠堂、皆設二神主一、無下復有二塐像一者上、其祖先眞容、則有二畫像一、歲時展敬、唐宋則尚多二塐像一、陸魯望建レ祠、塐二己像於其中一、咸淳中有レ人、醉仆二其像一、腹中皆生平詩文稿也、前明士大夫家祠亦有レ之、陸深谿山餘話云、予謫二延平一時、路過二蘭溪一、謁二章楓山祠堂一、祠中塐像乃公服不二甚肖一。

【宗資】118 ソウシ 後漢、安衆の人。字は叔都。孝廉に擧げらる。延熹中、汝南太守となり、范滂を召して功曹となし、專ら政を之に委ねた。〔後漢書、九十七〕。

〖宗資主諾〗119 ソウシシユダク 蒙求の標題。後漢の宗資は汝南の太守となり、范滂を召して功曹とし、專ら政を之に委ね、自らは悠々閑境に在つたので、時人が、汝南の太守は范孟博で、南陽の宗資は僅かに畫諾を主ると謠つた故事。畫諾は、花押カキハン、文書に記して約束のしるしとするもの。〔後漢書、黨錮傳序〕後汝南太守宗資、任二功曹范滂一、南陽太守成瑨亦委二功曹岑晊一、二郡又爲レ謠曰、汝南太守范孟博、南陽宗資主二畫諾一、南陽太守岑公孝、弘農成瑨但坐嘯。

【宗事】120 ソウジ ❶宗廟に關する事柄。〔荀子、大略〕親迎之禮、父南鄉而立、子北面而跪、醮而命レ之、往迎二爾相一、成二我宗事一。〔注〕宗事、宗廟之事也。❷たつとびつかへる。〔魏書、李崇傳〕宗事之典、有レ聲無レ實。〔漢書、五行志上〕望二秩山川一、懷二柔百神一、亡レ不二宗事一。

【宗慈】121 ソウジ 後漢、安衆の人。字は孝初。孝廉に擧げらる。官は議郞。〔後漢書、九十七〕。

【宗璽】122 ソウジ 明、建平の人。字は朝用。弘治の進士。官は雲南布政。〔萬姓統譜〕。

【宗州】123 ソウシウ 州名。❶唐、置く。故治は雲南省河西縣の東北。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安府、寧州〕河西縣、府西北百八十里、東至二澂江府江川縣一百九十里、北至二澂江府新興州一百二十里、唐武德中、於二姚州南一置二西宗州一、貞觀中、改曰二宗州一、河西縣隸焉、天寶後、役二於蠻地一、名二休臘一、本屬二步雄部一、後阿僰蠻易渠奪而居レ之、元初內附、屬二阿僰萬戶一、至元十三年、始爲二河西州一、隸二臨安路一、二十六年改爲レ縣、明朝因レ之。❷金、置き、今、闕く。朝鮮の境。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、廣寧前屯衞〕秦漢遼西郡地、晉及後魏因レ之、唐初爲二營州地一、咸亨中、置二瑞州於此一、契丹置二來州歸德軍一、金天德三年、改爲二宗州一、泰和六年、復爲二瑞州一、元亦曰二瑞州一、屬二大寧路一、明洪武二十五年、改置二今衞一。

【宗周】124 ソウシウ ❶周代の王都。王畿の地で、天下の宗とする所。豐・鎬・洛邑、皆宗周といふ。書の周官の歸二于宗周一は豐をいひ、多方の至二于宗周一は鎬をいひ、禮の祭統の宮二于宗周一は洛邑をいふ。〔書、多方〕王來レ自レ奄、至二于宗周一。〔傳〕王親征レ奄滅二其國一、五月、還至二鎬京一。〔疏〕傳言三五月還至二鎬京一、明此宗周卽鎬京也、禮記祭統、衞孔悝之鼎銘云、卽宮二於宗周一、彼宗周謂二洛邑一也、是洛邑亦名二宗周一、知二此是鎬京一者、成王以二周公歸レ政之時、暫至二洛邑一、還歸處二西都鎬京一、是王常居、知下至二于宗周一、至中鎬京上也、且此與二周官一同時事也、周官序云、還歸在レ豐、經云、歸二于宗周一、豐鎬相近、卽此宗周是鎬京也。〔禮、祭統〕衞孔悝之鼎銘曰、六月丁亥、公假二于大廟一、公曰、叔舅乃祖、莊叔左二右成公一、成公乃命二莊叔一、隨二難于漢陽一、卽二宮于宗周一、奔二走無射一。〔注〕周既去二鎬京一、猶名二王城一爲二宗周一也。〔博物志、地理攷〕

周自二后稷一至二于文武一、皆都二關中一、號曰二宗周一。㊁周の宗社。周の國をいふ。〔左氏、昭、二十四〕嫠不レ恤二其緯一、憂二宗周之隕一。〔韋孟、諷諫詩〕宗周以墜。〔注〕濟曰、周之宗社從レ此而墜。㊂人名。㋑明、閩縣の人。字は思兼。號は魯山子。官は餘姚主簿。畫に巧。〔閩畫記〕。㋺明、興化の人。字は維翰。嘉靖の擧人。官は馬湖府の長官。著に就正錄・禮記會要がある。〔四庫提要、二十四〕。㊃字號。㋑元、陳煥章(**11**－**41698**··773)の字。㋺明、鄧庠(**11**－**39630**··62)の字。㋩明、余濂(**1**－**515**··60)の字。

【宗室】125 ソウシツ ㊀太宗の廟。先祖の廟。〔詩、召南、采蘋〕于以奠レ之、宗室牖下。〔傳〕宗室、太宗之廟也。㊁王族。〔史記、吳起傳〕宗室大臣、作レ亂而攻二吳起一。〔漢書、薛宣傳〕王氏擅レ朝、排二擠宗室一。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕錄二功臣一復二宗室一。〔吳志、宗室、孫桓傳、注〕孫桓儀容端正、器懷聰朗、博學彊記、能二論議應對一、權嘗稱爲二宗室顏淵一。〔日知錄、政事、宗室〕漢唐之制、皆以三宗親與二庶姓一、參用入爲二宰輔一、出居二牧伯一者、無二代不一レ有。㊂晉代、士大夫の一族をいふ。〔晉書、張昌傳〕惟江夏舊姓江安令王傴、秀才呂蕤不レ從、昌以二三公位一徵レ之、傴蕤密將二宗室一、北奔二汝南一。㊃大宗の家。本家。〔儀禮、士昏禮〕若祖廟已毀、則教二于宗室一。〔注〕宗室、大宗之家。〔禮、文王世子〕正室守二大廟一尊二宗室一、而君臣之義著矣。〔左氏、昭、六〕於レ人何有、人亦於レ女何有。女喪二而宗室一。㊄大もと。よりどころ。〔荀子、彊國〕執籍之所レ存、天下之宗室也。〔戰國、秦策〕周天下之宗室也。㊅清代、顯祖宣皇帝の直系子孫をいひ、有爵・無爵の別があり、皆、黃色の帶を束ねたので黃帶子ともいふ。宗室の旁系子孫を覺羅といふ。宗室封爵を見よ。〔清會典、宗人府〕皇族分以二近遠一、曰二宗室一、曰二覺羅一、云云、凡宗室覺羅、皆別以レ帶。〔注〕宗室繫二金黃帶一、覺羅繫二紅帶一。〔清國行政法汎論、皇族、皇族類別〕宗室者、謂二顯祖之直系子孫一、覺羅者、謂二其傍系子孫一。

【宗室缺】126 ソウシツケツ 清代、宗族に專屬する官職。宗人府の監察御史、及び理事官以下筆帖式以上の官など。〔清會典、吏部〕凡內外官之缺、有二宗室缺一。〔注〕宗人府監察御史、及宗人府理事官以下、筆帖式以上、皆由二宗人府一、於二宗室內一保題揀選、其部院司官、則於二滿洲缺一、分二吏部員外郎一缺・主事一缺・戶部郎中一缺・員外郎二缺・主事一缺・禮部員外郎一缺・主事一缺・兵部郎中一缺・員外郎一缺・刑部郎中一缺・員外郎二缺・主事一缺・工部郎中一缺・員外郎一缺・主事一缺、理藩院郎中一缺・員外郎一缺・陵寢衙門郎中一缺・員外郎二缺・主事二缺、定爲二宗室缺一。〔清國行政法汎論、文官缺、宗室缺〕宗室缺、謂下專以二宗室人員一補用者上。

【宗室女】127 tsung^1 shih^4 nü^3 親王の姬君。女王。

【宗室傳】128 ソウシツデン 王族の列傳。晉書・宋書・南齊書・陳書・南史・北史・舊唐書・唐書・舊五代史・宋史・遼史・明史に此の目がある。

【宗室老】129 ソウシツラウ 宗室をいふ。〔稱謂錄、宗室、宗室老〕書敍指南、杜牧稱二宗室一曰二宗室老一。

【宗室遺老】130 ソウシツノキラウ 宗室中の長老。遺老は、先君の時からの舊臣。〔漢書、劉向傳〕時上無二繼嗣一、政由二王氏一出、災異浸甚、向雅奇二陳湯智謀一、與相親友、獨謂レ湯曰、災異如レ此、而外家日盛、其漸必危二劉氏一、吾幸得二同姓末屬一、累世蒙二漢厚恩一、身爲二宗室遺老一、歷二事三主一、上以二我先帝舊臣一、每二進見一常加二優禮一、吾而不レ言、孰當レ言者、向遂上二封事一。

【宗室封爵】131 ソウシツホウシャク 清代、宗室の封爵。凡そ十二等。和碩親王・多羅郡王・多羅貝勒・固山貝子・奉恩鎭國公・奉恩輔國公・不入八分鎭國公・不入八分輔國公・鎭國將軍・輔國將軍・奉國將軍・奉恩將軍。〔清會典、宗人府〕凡宗室封爵之等十有二、曰和碩親王、曰多羅郡王、曰多羅貝勒、曰固山貝子、曰奉恩鎭國公、曰奉恩輔國公、曰不入八分鎭國公、曰不入八分輔國公、曰鎭國將軍、曰輔國將軍、曰奉國將軍、曰奉恩將軍、無レ爵則給以レ品。

【宗室王公功績表傳】132 ソウシツワウコウコウセキヘウデン 書名。欽定宗室王公功績表傳(**6**－**16104**··109)を見よ。

【宗實】133 ソウジツ 明、金華(**11**－**40152**··288)の字。

【宗社】134 ソウシャ ㊀宗廟社稷の略。〔周禮、春官、小宗伯〕小宗伯職、掌レ建二國之神位一、右二社稷一、左二宗廟一。㊁王室と國土。國家。〔孔融、論二盛孝章一書〕宗社將レ絕。〔五代史、晉家人傳〕樞密使郭威、志レ安二宗社一。

【宗社黨】135 ソウシャタウ 清末、朝廷內の黨派の一。宣統帝の末年から民國元年にかけて、皇族の載濤・載洵・載澤・溥偉、禁衛軍協統良弼等が組織したもの。共和の大勢に反對し、天日を既墜に回さんとしたが、時の野心家、袁世凱と正面から衝突し、其の指導的人物の良弼が爆彈を受けて死んだので、勢力は大いに衰へた。

【宗匠】136 ソウシャウ ㊀工人の長。棟梁。工師。〔袁宏、三國名臣序贊〕揖讓之與二干戈一、文德之與二武功一、莫レ不二宗匠陶鈞而羣才緝熙一。㊁師宗たる者。〔晉書、范甯傳〕斯蓋軒冕之龍門、濠梁之宗匠。〔隋書、儒林、包愷傳〕以二蕭包二人一爲二宗匠一。㊂俳諧、茶道などの師匠。〔杜甫、八哀詩〕射二君東堂策一、宗匠集二精選一。㊃佛 シユウシャウ 宗師(116)の㊄に同じ。〔貞元錄、十八〕宗匠成レ敎、軌二範賢明一。

【宗匠體】137 ソウシャウタイ 明の寧王權が定めた樂府十五體の一。〔太和正音譜〕宗匠體、詞林老作之詞。

【宗尙】138 ソウシャウ たつとぶ。崇尙(**4**－**8152**··99)に同じ。〔南史、齊武陵昭王曄傳〕安仁士衡、深可二宗尙一。

【宗商】139 ソウシャウ 明、黃尙質(江寧の人)(**12**－**47926**··1130)の字。

【宗像】140 ムナカタ 筑前國の郡名。

【宗淨】141 シユウジャウ 明の僧。杭州に住む。著に徑山集がある。〔繼燈錄〕。

【宗讓】142 ソウジャウ 人を尊び自らへりくだる。〔漢書、翟方進傳〕常知三方進之宗二讓己一、內不二自得一。

【宗主】143 ソウシュ ㊀嫡長子。本家のあとり。〔左氏、襄、二十七〕崔、宗邑也、必在二宗主一。〔注〕宗邑、宗廟所レ在、宗主、謂二崔明一。㊁宗廟の位牌。〔左氏、昭、十九〕懼レ隊二宗主一。〔疏〕服虔云、祏主藏二於宗廟一、故曰二宗主一。㊂尊び歸向する所。〔晉書、羊祜傳〕故太傅鉅平侯羊祜、明德通賢、國之宗主。

【宗主權】144 ソウシユケン 一國が他國を支配する權利。

【宗主國】145 ソウシユコク 保護せられる國から、保護する國をさしていふ。

【宗守】146 ソウシユ 宗廟のまもり。國家の主權。〔王粲、贈二士孫文始一詩〕宗守盪失。〔注〕濟曰、宗守、謂二國家宗廟所一レ守。

【宗首】147 ソウシユ 新書の篇名。

【宗種】148 ソウシユ 嫡子の系統のもの。本家の血統。〔史記、匈奴傳〕匈奴雖レ亂、必立二宗種一。

【宗儒】149 ソウジユ 字號。㊀明、但存學(**1**－**495**··18)の字。㊁明、田景賢(**7**－**21723**··364)の字。㊂明、文林(**5**－**13450**··922)の字。

【宗從】150 ソウジユウ 一族。〔鄭谷、隱巖別墅詩〕宗從今何在、依二棲素一有レ因。〔馬戴、送三從叔重赴二海南從事一詩〕念二此別離苦一、其如二宗從情一。

【宗叔】151 ソウシュク 父の再從兄弟で、父より若い人。族叔。轉じて、父と同輩の族人。〔因話錄〕司徒鄭眞公與二其宗叔太子太傅絪一、俱住二招國一。

【宗祝】152 ソウシュク 祭祀を司る官。〔周禮、考工記、玉人〕宗祝以前レ馬。〔禮、樂記〕宗祝辨二乎宗廟之禮一。〔國語、楚語下〕虔二其宗祝一。

【宗峻】153 ソウシュン 金、景宣帝(**5**－**13983**··206)の名。

【宗純】154 シユウジユン ソウジユン 禪僧。字は一休。諱は宗純。幼名は周建。號は狂雲・夢閨・瞎驢・國景・天下老和尙。六歲の時、安國寺像外の侍童となり、十三歲で慕喆攀に作詩法を學ぶ。後、近江國堅田の宗曇に師事し、一休の號を與へられ、後、大德寺如意庵に住す。文明十三年歿す、年八十八。著に狂雲集・自戒集がある。〔本朝高僧傳〕。

【宗書】155 シユウショ 明の高僧。號は小山。

【宗庶】156 ソウショ 宗子と庶子。〔陸機、五等諸侯論〕宗庶雜居、而定二維城之業一。

【宗緒】157 ソウショ 祖先の業。〔楚辭、天問〕尊二食宗緒一。〔後漢書、齊武王縯傳〕控二于法理一、以墮二宗緒一。

【宗舒】158 ソウジョ 晉、成公簡(**5**－**11544**··100)の字。

【宗升】159 ソウショウ 清、張斐(**4**－**9812**··625)の初名。

【宗承】160 ソウショウ 南朝宋、南陽の人。性、至孝。官は宜都太守。〔宋書、九十三〕・〔南史、七十五〕。

【宗稷】161 ソウショク 明、周洪謨(山陰の人)(**2**－**3441**··661)の字。

【宗職】162 ソウショク 世襲の職。世職。〔左氏、成、三〕若不レ獲レ命而使レ嗣二宗職一。〔注〕嗣二其祖宗之位職一也。〔會箋〕宗職、父職也。

【宗臣】163ソウシン ❶重い役について世間から仰がれてゐる家來。重臣。〔漢書、蕭何曹參傳贊〕聲施㆓後世㆒、爲㆓一代宗臣㆒。〔注〕言㆑爲㆔後世之所㆓宗仰㆒、故曰㆓宗臣㆒也。〔陸機、漢高祖功臣頌〕是謂㆓宗臣㆒。〔杜甫、詠㆓懷古跡㆒詩〕諸葛大名垂㆓宇宙㆒、宗臣遺像肅清高。❷君と同族の臣。宗族の臣。〔國語、魯語下〕男女之饗、不㆑及㆓宗臣㆒。❸明、揚州の人。字は子相。嘉靖の進士。文章家で、嘉靖七子の一人。官は福建布政參議。著に宗子相集がある。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明史稿、二百六十八〕・〔明詩綜、四十六〕。❹宋、曹冠（5―14297‥63）の字。

【宗眞】164ソウシン 遼、興宗（9―30226‥100）の名。

【宗神】165ソウシン 祖先。宗公（100）を見よ。〔詩、大雅、思齊〕惠㆓于宗公㆒、〔傳〕宗公、宗神也。

【宗親】166ソウシン ❶親屬。一族。〔後漢書、光武紀上〕各率㆓宗親子弟㆒。〔後漢書、呂強傳〕收㆓捕宗親㆒、沒㆓入財產㆒。❷同母兄弟。〔史記、五宗世家〕孝景皇帝子凡十三人爲㆑王、而母五人、同㆑母者爲㆓宗親㆒。

【宗人】167ソウジン ❶同族の人。一族。〔史記、田單傳〕令㆘其宗人盡斷㆓其車軸末㆒而傅㆗鐵籠㆖。〔後漢書、齊武王縯傳〕部將宗人劉稷數陷㆑陣潰㆑圍、勇冠㆓三軍㆒。❷王族。宗人府を見よ。〔後漢書、光武紀上〕光武斂㆓宗人所㆑得物㆒、悉以與㆑之、衆乃悅。❸古、禮儀・祭祀を掌る官。宗伯の類。〔書、顧命〕授㆓宗人同㆒、拜。〔傳〕宗人、小宗伯佐㆓太宗㆒者。〔儀禮、士冠禮〕宗人告㆓事畢㆒。〔周禮、春官、都宗人〕掌㆓都宗祀之禮㆒。〔周禮、春官、家宗人〕掌㆓家祭祀之禮㆒。〔禮、文王世子〕宗人授㆑事、以㆑爵以㆑官。〔注〕宗人、掌㆓禮及宗廟㆒也。〔國語、魯語上〕宗人夏父展曰、非㆑故也。❹官名。明・清、置く。宗人府の屬。宗人府を見よ。❺星の名。〔星經〕宗人四星在㆓宗正東㆒、主㆔司享㆓先人㆒。

【宗人府】168ソウジンフ 官署の名。皇族を監督し、其の系圖・封爵・賞䘏・訴訟等を掌る。明の初、大宗正院を改めたもの。宗人令・左右宗正・左右宗人を置き、親王・勳戚大臣を以て之に任じた。清は其の制に因り、皇族を以て之に任じた。〔明史、職官志一〕宗人府、宗人令一人、左右宗正各一人、左右宗人各一人、掌㆓皇九族之屬籍㆒、以㆑時修㆓其玉牒㆒、書㆓宗室子之適庶・名封・嗣襲・生卒・婚嫁・謚葬之事㆒、凡宗室陳請爲聞㆓于上㆒、選㆓材能㆒、錄㆓罪過㆒、初洪武三年、置㆓大宗正院㆒、二十二年、改爲㆓宗人府㆒、並以㆓親王㆒領㆑之、其後以㆓勳戚大臣㆒攝㆓府事㆒。〔清會典、宗人府〕宗令一人、左宗正一人、右宗正一人、左宗人一人、右宗人一人、掌㆓皇族之政令㆒。

【宗人令】169ソウジンレイ 官名。宗人府の長官。〔稱謂錄、宗人府職官古稱、宗人令〕續文獻通攷、正統三年、宗人令掌㆓皇九族六親之屬籍㆒。

【宗仁】170ソウジン 唐、婁師德（3―6383‥47）の字。

【宗瑞】171ソウズイ 宋、張輯（4―9812‥373）の字。

【宗正】172ソウセイ ❶官名。秦、置く。周官小宗伯の職。漢には宗伯といひ、後漢以後は宗正卿といふ。皇族の事を掌り、皆皇族を以て之に任じた。但、晉には庶姓に兼ねしめた。北魏以後は其の官署を宗正寺といふ。金・元に至り大宗正府といひ、明・清には宗人府と改めた。宗伯（224）の❷・宗人府（168）を見よ。〔史記、淮南王安傳〕天子使㆘宗正以㆓符節㆒治㆖王。〔漢書、楚元王傳〕以㆓元王子郢客㆒爲㆓宗正㆒。〔洛陽伽藍記、一、永寧寺〕國子南有㆓宗正寺㆒。〔隋書、百官志中〕有㆓大宗正寺㆒、掌㆓宗室屬籍㆒。〔文獻通考、職官考、諸卿、宗正卿〕周官小宗伯、掌㆔三族之別㆒、以辨㆓其親疏㆒、秦置㆓宗正㆒掌㆓親屬㆒、漢因㆑之、更以敍㆓九族㆒、平帝元始四年、更㆓名宗正㆒、五年、又於㆓郡國㆒置㆓宗師㆒、以糾㆓皇室親族世氏㆒、致㆓教訓㆒焉、選㆘有㆓德義㆒者㆖爲㆑之、有㆑冤失㆑職者、宗師得㆘因㆓郵亭㆒上書㆖、宗伯請以聞、常以㆓正月㆒賜㆓宗伯帛十匹㆒、王莽併㆓宗伯於秩宗㆒、後漢曰㆓宗正㆒、卿一人、掌㆔序㆓錄王國嫡庶之次、及諸皇室親屬遠近㆒、郡國歲因㆔計㆓上皇族名籍㆒、若有㆑犯㆑法、當㆑髡以上、先上㆓諸宗正㆒、宗正以聞乃報決、兩漢皆以㆓皇族㆒爲㆑之、不㆑以㆓他族㆒、魏亦然、晉兼以㆓庶姓㆒、咸寧三年、又置㆓宗師㆒、以㆓扶風王亮㆒爲㆑之、使㆔皇室戚屬、奉㆓率德義㆒、所㆑有㆓施行㆒、必令㆑諮㆑之、東晉省㆑之屬㆓太常㆒、宋齊不㆑置㆓宗正㆒、梁天監七年、復置㆑之、視㆓列曹尚書㆒、主㆓皇室外戚之籍㆒、以㆓皇族㆒爲㆑之、陳因㆑之、後魏有㆓宗正卿少卿㆒、北齊亦然、後周有㆓宗師中大夫㆒、屬㆓大冢宰㆒、隋如㆓北齊之制㆒、唐龍朔二年、改爲㆓司宗㆒、咸亨元年、復㆑舊、光宅元年、改爲㆓司屬㆒、神龍初、復㆑舊、卿一人、少卿二人、掌㆓皇族外戚簿籍、及邑司名帳㆒、領㆓崇元署及諸陵太廟㆒、開元二十五年制、宗正等寺官屬、皆以㆓皇族㆒爲㆑之、宋宗正寺、判寺事二人、以㆓宗姓兩制以上㆒充、闕則以㆓宗姓朝官以上㆒知㆓丞事㆒、掌㆑奉㆓宗廟諸陵薦享之事㆒、司㆓皇族之籍㆒。〔事物紀原、九寺卿少部、宗正〕周官也、在㆓周禮㆒實小宗伯之職、宋百官春秋曰、周封㆓兄弟之國㆒十有五、同姓之官三十有五、選㆓其宗中之長㆒而董㆓正之㆒、謂㆓之宗正㆒、秦因㆓其說㆒置㆓宗正㆒、兩漢皆授㆓皇族㆒不㆑雜㆑姓、晉始兼㆓庶姓㆒也、舊唐志曰、星經有㆓宗正㆒、在㆓帝座東南㆒、漢高紀七年二月、置㆓宗正官㆒、以序㆓九族㆒。❷星の名。宗政。〔晉書、天文志上〕宗正二星、在㆓帝座東南㆒、宗大夫也。〔星經〕宗正二星、在㆓帝座東南㆒。❸複姓。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕宗正氏、狀稱㆓本劉氏㆒、楚元王交之孫劉德爲㆓宗正㆒、支孫氏焉、裔孫宗正珍孫、唐有㆓殿中少監宗正辯㆒、濟陰人。

【宗正寺】173ソウセイジ 官署の名。宗正の役所。北魏以後の稱。宗正の❶を見よ。〔唐書、百官志三〕宗正寺、卿一人、從三品、少卿二人、掌㆓天子族親屬籍㆒。

【宗生】174ソウセイ むらがり生える。叢生。〔揚雄、蜀都賦〕其竹則鍾龍笭篁、野篠紛鬯、宗生族攢、俊茂豐美。〔左思、呉都賦〕宗㆓生高岡㆒、族㆓茂幽阜㆒。

【宗姓】175ソウセイ 王族。一族。〔宋史、趙湘傳〕帝製㆓宗室座右銘㆒、賜㆓寧王元偓以下㆒、并及㆑湘、且諭㆑之曰、卿宗姓也、故賜㆑卿。

【宗星】176ソウセイ 星の名。〔晉書、天文志上〕宗星二、在㆓候星東㆒、宗室之象、帝輔血脈之臣也。〔星經〕宗二星、在㆓候東㆒、主㆓宗室㆒、爲㆓帝血脈之臣㆒。

【宗盛】177ソウセイ 字號。❶宋、梁百揆（6―14825‥316）の字。❷明、鄒榦（11―39562‥11）の字。

【宗聖】178ソウセイ 曾子の封號。元の文宗が曾子を封じて郕國宗聖公とし、明の嘉靖年間、封爵を罷めてただ宗聖と稱した。〔元史、文宗紀三〕至順元年秋七月戊申、加㆓封孔子父齊國公叔梁紇㆒爲㆓啓聖王㆒、云云、曾子郕國宗聖公。〔大學衍義補、秩㆓祭祀㆒、釋㆓典先師㆒之禮〕文宗至順元年、加㆓封顏回㆒、爲㆓充國復聖公㆒、曾參郕國宗聖公、孔伋沂國述聖公、孟軻鄒國亞聖公。

【宗召】179ソウセウ 宋、饒虎臣（12―44400‥66）の字。

【宗石】180ソウセキ 晉、李賜（6―14459‥393）の字。

【宗祏】181ソウセキ 宗廟に在つて、位牌を藏する石室。〔左氏、莊、十四〕先君桓公命㆓我先人㆒、典㆓司宗祏㆒。〔注〕宗祏、宗廟中藏㆑主石室。〔疏〕宗祏者、慮㆑有㆓非常火災㆒、於㆓廟之北壁內㆒、爲㆓石室㆒以藏㆓木主㆒、有㆑事則出而祭㆑之、既祭納㆓於石室㆒。

【宗戚】182ソウセキ 一門。宗族。〔沈約、恩倖傳論〕權倖之徒、慴㆓憚宗戚㆒。

【宗錫】183ソウセキ 明、溫禧（7―17968‥29）の字。

【宗籍】184ソウセキ 皇族の戶籍。皇族。〔國史略、圓融天皇〕以㆓源雅信㆒爲㆓右大臣㆒、雅信寬平皇孫、云云、雅信曰、我以㆓不才㆒、尸㆓素宗籍㆒、世事人情、未㆓嘗歷試㆒。

【宗節】185ソウセツ 字號。❶明、錢概（11―40563‥28）の字。❷明、潘鐙（7―18236‥66）の字

【宗先】186ソウセン 元、閔本（11―41251‥36）の字。

【宗選】187ソウセン 明、高銓（12―45313‥550）の字。

【宗祖】188ソウソ ❶先祖。〔韓詩外傳、六〕孔子曰、可㆓與言㆒終日而不㆑倦者、其惟學乎、其身體不㆑足㆑觀也、勇力不㆑足㆑憚也、族姓不㆑足㆑稱也、宗祖不㆑足㆑道也、而可㆔以聞㆓於四方㆒、而昭㆓於諸侯㆒者、其惟學乎。❷［佛］シュウソ 一宗の開祖。その宗門を開いた人。祖師。教祖。

【宗素】189ソウソ 字號。❶唐、王季文（7―20823‥1287）の字。❷明、黃采（12―47926‥396）の字。

【宗楚】190ソウソ 明、董荆（9―31433‥59）の字。

【宗叟】191ソウソウ 宋、胡崇（9―29400‥203）の字。

【宗測】192ソウソク 南齊の人。炳の孫。字は敬微・茂深。孝子。終身仕へず。易・老子に詳しい。著に續高士傳・衡山廬山記がある。〔南齊書、五十四〕・〔南史、七十五〕。

【宗族】193ソウゾク ❶父の一族。〔爾雅、釋親〕父之黨爲㆓宗族㆒。〔禮、內則〕不㆘敢以㆓貴富㆒加㆗於父兄宗族㆖。❷一族。宗戚。宗類。〔周禮、春官、大宗伯〕親㆓宗族兄弟㆒。〔禮、曲禮下〕兄弟宗族猶存、則反㆓告於宗後㆒。〔論語、子路〕宗族稱㆑孝焉、鄉黨稱㆑弟焉。〔列子、楊朱〕澤及㆓宗族㆒。〔墨子、明

鬼下〕內者宗族、外者鄉里。〔漢書、趙廣漢傳〕郡大姓原褚、宗族横恣。〔後漢書、天文志上〕夷二滅逃妻宗族萬餘人以上一。㊂白虎通の篇名。

〔宗族鄉黨〕194（ソウゾクキヤウタウ） 一族鄉黨。鄉黨は一部落。鄉は一萬二千五百家、黨は五百家。〔王守仁、教條示二龍場諸生一、立志〕宗族鄉黨賤二惡之一。

【宗屬】195（ソウゾク） 一族。〔史記、太史公自序〕宗屬爵邑。

【宗戴】196（ソウタイ） 宗主として戴く。〔北史、崔宏傳〕及二聖德既隆一、萬國宗戴。

【宗大】197（ソウダイ） 字號。㊀宋、兪德鄰(1－1437‥131)の字。㊁明、黃鏶(12－47926‥184)の字。㊂明、馬昊(12－44572‥62)の字。

〔宗大夫〕198（ソウタイフ） 宗は星の名。帝坐の東南にあるので、大夫に象る。〔星經〕宗正二星、在二帝坐東南一、大夫也。

【宗台】199（ソウダイ） 宋、黃以翼(12－47926‥981)の字。

【宗黨】200（ソウタウ） 一族。〔鮑照、擬古詩〕宗黨生二光輝一、賓僕遠傾慕。

【宗道】201（ソウダウ） ㊀公子が宗子に代つて宗となる法。〔禮、大傳〕公子有二宗道一、公子之公、爲二其士大夫之庶者一、宗二其士大夫之適者一、公子之宗道也。〔集解〕愚謂、公子卽別子也、繼レ別爲レ宗、則當二公子之身未レ有二宗道一、而有二宗道一者、則以レ有二公命一爲レ宗之法也。㊁字號。㋑宋、陳顯微(11－41698‥821)の字。㋺元、伯顏(1－466‥79)の字。㋩明、魏庸(12－45872‥142)の字。㋥明、許宏(10－35298‥57)の字。㋭明、許寧(10－35298‥191)の字。㋬明、孫文原(3－6987‥535)の字。㋣明、戴時宗(5－11685‥183)の字。㋠明、楊洪(6－15112‥154)の字。㋷明、劉校(2－2224‥102)の字。㋦清、帥仍祖(4－8886‥37)の字。㊂宋、武宗元(6－16273‥449)の初名。

【宗澤】202（ソウタク） 宋、義烏の人。字は汝霖。諡は忠簡。元祐の進士。二帝北狩の後、東京留守となつて威望あり、北人、宗爺爺と呼び、敢へて東京を犯さず。著に宗忠簡集がある。〔宋史、三百六十〕・〔宋史新編、一百二十九〕・〔南宋書、十一〕・〔四朝名臣言行錄、上、五〕。

【宗致】203（ソウチ） ㊀主要のおもむき。宗旨。〔江總、攝山棲霞寺碑〕闡二方等之指揮一、弘二中道之宗致一。㊁佛（シユウチ） 宗義の極致。〔法華文句記、四〕此是法華之宗致、實教之源由。

【宗長】204（ソウチヤウ） 一族のかしら。一族中の長。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、王粲詩〕侯伯咸宗長。〔隋書、經籍志二〕諸姓子孫有レ功者、竝令レ爲二其宗長一。〔相鶴經〕鶴者羽族之宗長。

【宗女】205（ソウヂヨ） 同宗の女。王女。〔史記、晉世家〕以二宗女一妻レ之。〔列女傳、賢明傳〕齊姜、齊桓公之宗女。〔舊唐書、音樂志二〕及三漢武帝嫁二宗女於烏孫一、乃載二箏笆一、爲二馬上樂一。〔清會典、宗人府〕格格之等五、云云、不レ入二五等一曰二宗女一。〔清國行政法汎論、皇族品類〕皇女稱曰二公主一、云云、宗室王公女稱曰二格格一、云云、宗室之女、不レ入二於五等格格一者、稱曰二宗女一。

〔宗女愈謹〕206（ソウヂヨユキン） 蒙求の標題。宋の鮑蘇の妻の女宗は、蘇が外妻を娶つたにも拘はらず妬嫉せず、夫を請問し外妻に賂遺し、姑に事へて愈〻謹んだ故事。〔列女傳、賢明、宋鮑女宗傳〕女宗者宋鮑蘇妻也、養レ姑甚謹、鮑蘇仕レ衞三年而娶二外妻一、女宗養レ姑愈敬、因二往來者一請二問其夫一、賂二遺外妻一甚厚、女宗姒謂曰、可二以去一矣、云云、遂不レ聽、事レ姑愈謹、宋公聞レ之、表二其閭一、號曰二女宗一、君子謂、女宗謙而知レ禮。

【宗圖】207 tsung^1 t'u^2 系圖。

【宗弟】208（ソウテイ） 庶子が宗子の他國に在るものをさしていふ。〔禮、曾子問〕其辭二於賓一曰、宗兄・宗弟・宗子在二他國一、使二某辭一。〔疏〕宗兄・宗弟・宗子在二他國一、不レ得二親祭一。

【宗禰】209（ソウデイ） 父祖の廟。宗は中興の祖、禰は父の廟。〔漢書、郊祀志上〕鼎宜レ視二宗禰廟一。〔注〕師古曰、宗、謂二先帝有レ德可レ尊者一也、禰、父廟也。

【宗佻】210（ソウテウ） 後漢の人。官は驃騎大將軍。王莽が王尋・王邑等をして兵に將として潁川に到らしめるや、佻は光武に隨つて昆陽城南門外に出て兵を收む。〔後漢書、一上〕。

【宗祧】211（ソウテウ） ㊀宗廟。祧は遷主の廟。〔禮、祭義〕築二爲宮室一、設二爲宗祧一。〔左氏、襄、二十三〕失レ守二宗祧一。〔注〕遠祖廟爲レ祧。〔左氏、昭、四〕屬レ有二宗祧之事於武城一。〔潘岳、秋興賦〕龜祀二骨于宗祧一兮。㊁國家。〔左氏、襄、二十六〕寡君敢拜三齊君之安二我先君之宗祧一也。㊂臺灣で、血統・家筋をいふ。〔臺灣私法〕。

〔宗祧承繼〕212（ソウテウシヨウケイ） 臺灣で、嫡長子孫が一定の順序によつて父祖の祭祀を繼承する制度。〔臺灣私法〕。

【宗哲】213（ソウテツ） ㊀親戚の賢者。〔劉琨、勸進表〕社稷時難、則戚藩定二其傾一、郊廟或替、則宗哲纂二其祀一。㊁明、嚴永濬(2－4589‥267)の字。㊂（シユウテツ） 唐の僧。玄奘三藏に從ふ。〔宋高僧傳、四〕。

【宗傳】214（ソウデン） ㊀明、如皐の人。字は習夫。學を嗜み、夏の夜、嘗て足を兩甕中に納れて蚊を避け、讀書したといふ。官は邛州の長官。〔如皐縣志〕。㊁字號。㋑明、趙參魯(10－37171‥573)の字。㋺清、盛敬(8－23005‥63)の字。

【宗徒】215（シユウト） ㊀その宗門を信仰するもの。宗教の信仰者。信徒。㊁（ムネト） 宗を賴むものども。主として賴みになる臣。〔東鑑、四〕元曆二年四月二十一日、平氏宗人人。

【宗度】216（ソウド） 明、侯于趙(1－633‥100)の字。

【宗統】217（ソウトウ） 本家の系統。嫡統。〔後漢書、光武紀下〕陛下德橫二天地一、興二復宗統一、褒レ德賞レ勳、親二睦九族一。

【宗德】218（ソウトク） 清、帥念祖(4－8886‥38)の字。

【宗派】219（ソウハ） ㊀一族のわかれ。血族。〔北夢瑣言〕杜公正倫與二京兆一宗派不レ同、常蒙二輕遠一、洎二公宦達後一、因レ事塹三斷杜陵山脈一。㊁學藝などの流派。〔王十朋、讀二東坡詩一詩〕誰分二宗派一故謗傷、蚍蜉撼レ樹不二自量一。㊂佛（シユウハ） 佛教の流派。

【宗霸】220（ソウハ） 諸侯の旗がしら。〔謝朓、奉二和隨王殿下一詩〕炎光缺二風雅一、宗霸振二時淪一。

【宗祊】221（ソウバウ） 宗廟。祊は宗廟の門。〔左氏、襄、二十四〕若下夫保レ姓受レ祀、以守二宗祊一、世不上絕レ祀、無二國無一レ之。〔注〕祊、廟門也。〔國語、周語中〕今將下大泯二其宗祊一、而蔑中殺其民人上。〔陸機、辨亡論上〕遂掃二清宗祊一。

【宗望】222（ソウバウ） 宋、鄒非熊(11－39562‥114)の字。

【宗白】223（ソウハク） ㊀宋、大名の人。字は太素。開寶中、渭南令となる。後、太宗に召されて諫院を知す。〔尚友錄、一〕。㊁宋、趙時賞(10－37171‥646)の字。

【宗伯】224（ソウハク） ㊀周官の六卿の一。禮儀・祭祀を掌る。後周も亦大宗伯の官を置き、隋以後は禮部と稱した。清代、俗に禮部尚書を大宗伯、侍郎を宗伯、或は小宗伯といふ。宗官。〔書、周官〕宗伯掌二邦禮一、治二神人一、和二上下一。〔周禮、春官、序官〕乃立二春官宗伯一、使下帥二其屬一而掌二邦禮一、以佐レ王和中邦國上。〔左氏、文、二〕夏父弗忌爲二宗伯一。㊁漢の官名。王族の事を掌る。宗正(172)の㊀を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕宗正、秦官、掌二親屬一、有レ丞、平帝元始四年、更二名宗伯一。㊂複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕宗氏、又爲二宗伯氏一、周大夫宗伯之後、云云、又宗伯氏、漢平帝時有二少府宗伯鳳一。〔元和姓纂〕周卿宗伯之後、以レ官爲レ氏。㊃族父の、人より年長のもの。族伯。㊄晉、羅企生(9－28397‥312)の字。

〔宗伯集〕225（ソウハクシフ） 書名。十卷。明、孫繼皐撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔宗伯鳳〕226（ソウハクホウ） 漢の人。官は少府だつたが、王莽の簒位に及んで、太子傅丞となり、四師の列に加はる。〔前漢書、六十八〕。

【宗博】227（ソウハク） 清、李德林(6－14459‥1830)の字。

【宗法】228（ソウハフ） ㊀大宗・小宗の系統を明かにする規則。禮記の喪服小記にある法。宗法とは、もと諸侯の別子が大宗となり、大夫として一家を立て、其の一家から多くの小宗の出來た場合、其の大宗が其の小宗を統べる爲に出來た法則であつた。本來は凡ての家族制下の本家分家間にあつたといふ譯ではないが、諸侯から出た大夫のみならず、天子から分れた諸侯にも存したから、或は後代には各層の社會にも存したやうである。清の程瑤田に宗法小記、萬斯大に宗法論がある。〔玉海、藝文、譜牒、熙寧姓纂〕呂大臨有二宗子一、祖謙有二宗法一。〔宗法論〕宗法何昉乎、古之時、諸侯之適長爲二世子一、嗣爲二諸侯一、其支庶之後族繁多、懼二其散而無一レ統也、因制爲二大宗小宗之法一、經曰、別子爲レ祖、繼レ別爲レ宗、此百世不レ遷之大宗也、繼レ禰者爲二小宗一、此五世則遷者也、夫諸侯世子之兄弟、不レ分二適庶一、皆稱二別子一、特以二

其爲レ祖爲レ禰不レ同、故大宗小宗遂因レ之以異、何以知レ之、王制云、大夫三廟、一昭一穆、與二太祖之祖一而三、士一廟、祭法言、適士二廟、無二太祖一、鄭註、王制云、大夫太祖、別子始爵者、大傳、別子爲レ祖、謂レ此也、據レ此則諸侯之別子、亦必爲二大夫一而後得レ爲二後世之太祖一、然先王之世、使二以レ德以レ爵以レ功、未レ有下無二功德一而爲二大夫一者上、諸侯之別子、豈必皆賢、其爲二大夫一者、則爲二後世之太祖一、故其子孫適長繼二此祖一、而爲二大宗一、其爲レ士者、止得下爲レ禰二于其子一而爲中小宗上、太祖廟百世不レ遷、故大宗亦百世不レ遷、禰廟五世遞遷、故小宗亦五世而遷也、雖レ然大宗小宗之別、漸別二于其後一、非三遽別二于其初一、蓋別子之及四身爲三大二夫士于公朝一、有二宗道一也。❷佛シユウホフ 宗門のおきて。宗門の法規。

【宗範】229ソウハン 字號。❶宋、林文昭(6－14551‥425)の字。❷清、錢楷(11－40563‥27)の字。

【宗藩】230ソウハン 一族子弟の封國。〔虞集、句容郡王世績碑〕父子百戰、從二于宗藩一、或拔或援、我國永完。〔陸游、送二大宗丞一詩〕宗藩雖二舊識一、莫レ遣レ得二親疏一。〔閻復、貞憲王碑〕宗藩帥鉞、一切稟二命於公一。

【宗磐】231ソウバン 清、錢維城(11－40563‥250)の字。

【宗斐】232ソウヒ 南齊、鍾宗之(11－40672‥162)の一名。　「字。

【宗微】233ソウビ 五代吳、聶師道(9－29179‥29)の

【宗弼】234ソウヒツ 明、劉丞直(2－2224‥1076)の字。

【宗敏】235ソウビン 明、儀銳(1－1172‥2)の字。

【宗布】236ソウフ 星として祭られること。一說に、宗は禜、布は酺に通じ、災害に祓除する神をいふ。〔淮南子、氾論訓〕羿除二天下之害一、死而爲二宗布一。〔注〕羿、云云、有レ功二於天下一、故死、託二祀於宗布一、祭星爲レ布、宗布謂レ此也。〔集證〕孫氏曰、此注譌脫不レ可レ通、以レ義求レ之、祭田爲二宗布一謂レ出也、當レ作二祭星爲レ布、宗布謂レ此也一、爾雅釋天云、祭星曰レ布、卽高所レ本、云云、竊疑、卽周禮黨正之祭禜、族師之祭酺、鄭注云、禜、謂二雩禜一、水旱之神、酺者爲二人物裁害一之神也、禜酺並禳二除裁害一之祭、云云、又按、禜宗酺布、聲近字通、禮記祭法雩禜、禜、亦作レ宗。

【宗婦】237ソウフ ❶大宗の長婦。本家の主婦。〔禮、內則〕適子庶子、祇事二宗子宗婦一。〔疏〕宗婦、謂二大宗子之婦一。❷同姓の大夫の妻。〔儀禮、特牲饋食禮〕宗婦執二兩籩一。〔春秋、莊、二十四〕大夫宗婦覿用レ幣。〔杜注〕宗婦、同姓大夫之婦。〔疏〕襄二年、葬二齊姜一、傳稱三齊侯使二諸姜宗婦來送レ葬、諸姜是同姓之女、知二宗婦是同姓大夫之婦一也。

【宗譜】238 tsung^{1} pʻu^{3} 系譜。

【宗武】239ソウブ 宋、晏防(5－13914‥54)の字。

【宗風】240シユウフウ 佛一宗獨特の風儀。〔碧巖錄、三十八則評〕雪竇知三風穴有二這般宗風一。

【宗福】241ソウフク 明、沈儒通(6－17189‥543)の字。

【宗文】242ソウブン 字號。❶南朝宋、徐羨之(4－10110‥529)の字。❷宋、鄭綺(11－39647‥61)の字。❸明、孔公恂(3－6933‥297)の字。❹明、趙文(10－37171‥331)の字。❺清、帥光祖(4－8886‥36)の字。

【宗兵】243ソウヘイ 一族の兵。むねとして賴みになる兵士。むねとの兵。

【宗炳】244ソウヘイ 南朝宋、南陽の人。字は少文。琴・書・畫を善くし、老莊の學に深く、衡山に隱れて徵辟に應ぜず。〔宋書、九十三〕・〔南史、九十五〕・〔蓮社高賢傳〕。

【宗屛】245ソウヘイ 清、方昌翰(5－13620‥542)の字。

【宗表】246ソウヘウ 明、李昱(6－14459‥29)の字。

【宗廟】247ソウベウ ❶祖宗の廟。廟は貌で、祖先の容貌を彷彿する意。天子七廟の說では、天子は七廟、諸侯は五、大夫は三、士は一で、太祖の廟は北にあつて南向し、二・四・六世を昭、三・五・七世を穆といひ、昭は東に、穆は西に列ぶ。昭は卽ち陽明の義で名づけ、穆は卽ち陰幽の義で名づける。太祖の廟と次の二祧とは不遷廟とし、次の四親廟は親盡きれば遷す。現帝王が崩ずれば、先帝が昭である場合には大行天皇は穆であり、先帝が穆であれば大行天皇は昭である。今、考廟を昭とすれば、大行天皇は穆であるから、穆廟が一つ增加するので、二親穆廟を順次遷す。卽ち穆の顯考廟主を遷して祧の穆に入れる。昭穆(5－13855‥165)・七廟(1－6‥433)を見よ。宗祊。〔易、震〕以守二宗廟社稷一。〔書、太甲上〕社稷宗廟、罔レ不二祇肅一。〔禮、王制〕天子七廟、三昭三穆、與二大祖之廟一而七、諸侯五廟、二昭二穆、與二大祖之廟一而五、大夫三廟、一昭一穆、與二大祖之廟一而三、士一廟、庶人祭二於寢一。〔左氏、桓、二〕凡公行告二于宗廟一。〔中庸〕宗廟饗レ之、子孫保レ之。〔孝經、喪親章〕爲二之宗廟一、以レ鬼享レ之。〔疏〕禮記祭法、天子至レ士、皆有二宗廟一、云云、舊解云、宗、尊也、廟、貌也、言、祭二宗廟一見二先祖之尊貌一也。〔列子、仲尼〕有下善治二宗廟一者上。〔史記、張釋之傳〕釋之案下律盜二宗廟服御物一者上爲レ奏。❷國家。社稷。天下。〔北齊書、神武紀下〕必爲二社稷宗廟一出二萬死之策一。〔歐陽脩、論レ選二皇子一疏〕荷二祖宗之業一、承二宗廟社稷之重一。

【宗廟樂】248ソウベウノガク 宗廟で奏する音樂。〔漢書、禮樂志〕高祖時、叔孫通因二秦樂人一、制二宗廟樂一。

【左二宗廟一】249ソウベウヲヒダリニス 小宗伯が神位を建てるのに、王城を背にして社稷を右とし、宗廟を左にすること。左は陽で人道の向ふ所。〔周禮、春官、小宗伯〕掌レ建二國之神位一、右二社稷一、左二宗廟一。〔注〕庫門內、雉門外之左右。

【宗廟爲レ先】250ソウベウヲサキトナス 諸侯が宮室を營むには、先づ宗廟を建てる。〔禮、曲禮下〕君子將レ營二宮室一、宗廟爲レ先、廏庫爲レ次、居室爲レ後。〔魏志、高堂隆傳〕將レ營二宮室一、則宗廟爲レ先、廏庫爲レ次、居室爲レ後。

【宗廟丘墟】251ソウベウキウキヨ 宗廟がそこなひ敗られて舊跡のみが存すること。國家が衰亡したこと。〔資治通鑑、漢紀〕乘輿播越、宗廟丘墟。

【宗廟之禮】252ソウベウノレイ 宗廟を祭る禮。昭穆(5－13855‥165)を見よ。〔中庸〕宗廟之禮、所三以序二昭穆一也。

【宗廟尙レ親】253ソウベウニハシンヲタツトブ 宗廟では親近の靈をたつとぶ。〔莊子、天道〕宗廟尙レ親、朝廷尙レ尊。

【宗廟之犧爲二畎畝之勤一】254ソウベウノギケンポノツトメヲナス 宗廟の祭主・朝廷の重臣ともなるべき人が、用ひられないで農夫に伍する喩。犧は犧牲、純色のものを用ひる。〔國語、晉語九〕宗廟之犧爲二畎畝之勤一、人之化也、何日之有。

【宗勉】255ソウベン 清、徐退(4－10110‥204)の初名。

【宗甫】256ソウホ 明、孫維城(3－6987‥317)の字。

【宗輔】257ソウホ ❶金、睿宗の初名。完顏宗堯(3－7079‥107)を見よ。❷明、董匡(9－31433‥41)の字。

【宗本】258ソウホン ❶もと。はじめ。〔孝經、開宗明義章、開宗明義章第一、疏〕此章開二張一經之宗本一、顯二明五孝之義理一。❷明、王源(7－20823‥376)の字。

【宗孟】259ソウマウ 明、陰子淑(11－41691‥351)の字。

【宗密】260シユウミツ 唐の高僧。華嚴宗の第五祖。姓は何氏。果州の人。世に圭峯禪師といふ。宣帝の時、定慧と追謚す。著に圓覺華嚴涅槃金剛起信唯識法界勸行願經等の疏鈔・及び四分律疏鈔・懸談がある。〔宋高僧傳、六〕。

【宗明】261ソウメイ 明、崔亮(4－8178‥172)の字。

【宗盟】262ソウメイ ❶天子と諸侯との盟。天子を尊んで宗の字を加ふ。一說に、宗は主る意で、宗盟には王官を以て主らしめるからいふ。又一說に、同宗の盟をいふ。〔左氏、隱、十一〕周之宗盟、異姓爲レ後。〔疏〕賈逵以レ宗爲レ尊、服虔以二宗盟一爲二同宗之盟一、孫毓以爲、宗伯屬官掌レ作二盟詛之載辭一、故曰二宗盟一、杜無二明解一、盟之尊卑、自有二定法一、不レ得レ言二尊盟一也、周禮司盟之官、乃是司寇之屬、非二宗伯一也、唯服之言、得二其旨一也、而孫毓難レ服云、同宗之盟、則無レ與二異姓一、何論二先後一、若通二共同盟一、則何稱二於宗一、斯不レ然矣、天子之盟、諸侯令三其獎二王室一、未レ聞下離二逖異姓一、獨篤二於宗族一、是故謂二之宗盟一、魯人之爲二此言一、見二與二同宗一者上也、但周人貴レ親、先敍二同姓一、以三其其重宗之義一、執二其宗盟之文一、卽云、無レ與二異姓一、然則公與レ侯燕、則異姓爲レ賓、復言二族燕不レ得レ有二異姓一也、孟軻所レ云、說レ詩者不三以レ辭害レ意、此之謂也。〔曹冏、六代論〕外無二磐石宗盟之助一。〔注〕濟曰、宗盟、謂二同姓諸侯盟會者一也。❷清、錢維城(11－40563‥250)の字。

【宗銘】263ソウメイ 明、施槃(5－13629‥98)の字。

【宗茂】264ソウモ 明、李汶(6－14459‥715)の字。

【宗門】265ソウモン ❶一族。宗族。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕車騎將軍騭等雖レ懷二敬順之志一、而宗門廣大、姻戚不レ少。〔後漢書、鄧禹傳〕宗門盛滿、數上二書長樂宮一諫爭。❷佛シユウモン 同じ宗旨を奉じて居る一派。〔祖庭事苑、八〕宗門、謂、三學者

莫レ不レ宗二此門一、故謂二之宗門一。

【宗門改】266 江戸時代、耶蘇教の信者なりや否やを識別する爲に、毎戸又は往來で其の歸依する宗門を取調べたこと。〔享保集成絲綸錄、二十一〕寛永十二年九月、伴天連幷切支丹宗旨之儀、從二此已前一雖レ爲二御制禁一至二于今一無二繼絕一樣被二聞召一之間、彌、領內幷面家中、急度二相改一自然、右之宗門於レ有レ之者、捕置、可レ致二言上一。

【宗門調】267 宗門改に同じ。

【宗野】268 宋、蔡用之(9－31818‥246)の字。

【宗揚】269 淸、李鱓(6－14459‥531)の號。

【宗樣】270 tsung^1 yang^4 種類。

【宗預】271 蜀漢、安衆の人。字は德豔。官は鎭軍大將軍。爵は關內侯。〔三國志、四十五〕。

【宗豫】272 明、黃淮(12－47926‥974)の字。

【宗翼】273 宋、虞城の人。書を善くす。隱居して仕へず。〔宋史、四百五十七〕。

【宗老】274 ㊀家臣の禮樂を掌るもの。〔國語、魯語下〕公父文伯之母、欲レ室二文伯一、饗二其宗老一。〔注〕家臣稱レ老、宗、宗人、主二禮樂一者也。〔國語、楚語上〕召二其宗老一。㊁同族中の尊長者。〔梁書、蕭琛傳〕高祖在二西邸一、早與レ琛狎、每二朝讌一、接以二舊恩一、呼爲二宗老一。

【宗立】275 明、俞綱(1－1437‥13)の字。

【宗良】276 字號。㊀後魏、游祥(7－17792‥175)の字。㊁明、朱多熿(6－14424‥901)の字。

【宗亮】277 唐の僧。月僧ともいふ。著に嶽林寺碑、及び詩集がある。〔宋高僧傳、二十七〕。

【宗略】278 北周、扶猛(5－11840‥122)の字。

【宗林】279 明の僧。字は大章。號は朽菴。著に浮生夢幻篇・香山夢寐集がある。〔列朝詩集小傳、閏〕。

【宗懍】280 北周、涅陽の人。字は元懍。官は車騎大將軍。爵は信安縣侯。王褒等と共に群書を勘定した。著に荊楚歲時記、及び集がある。〔梁書、四十一〕・〔北史、七十〕。

【宗類】281 ㊀むらがり集る。〔左思、吳都賦〕宗二生高岡一、〔注〕宗生、宗類而生二於高山之脊一、故名二宗生一。㊁一族のもの。宗族。〔張說、楊令一神道碑〕敦錫二宗類一、汲二揚徽否一。

【宗令】282 官名。宗人府の長官。宗人令。〔稱謂錄、宗人府職官、宗令〕會典、順治九年、置二宗人府一、設二宗令一人一、以二親王郡王一、統二理府事一。

【宗禮】283 ㊀功の顯著な者を尊ぶ禮。〔書、洛誥〕四方迪亂、未レ定二于宗禮一。〔蔡傳〕宗禮、卽功宗之禮也。㊁明、常熟の人。謚は忠壯。官は都督僉事。倭寇に戰歿す。〔明史、二百五〕・〔萬斯同明史、二百九十五〕。㊂字號。㋑宋、羅博文(9－28397‥396)の字。㋺宋、劉立之(2－2224‥1351)の字。㋩元、祝淵(8－24672‥11)の字。㋥元、汪士遜(6－17154‥235)の字。

【宗魯】284 ㊀春秋、衞の人。齊豹によつて公孟の驂乘となる。豹が將に亂を爲して公孟を殺さんとするや、魯に告げて驂乘しないやうにしようとしたが、難を聞いて逃れるは不可なりとし、公孟と共に死す。〔左氏、昭、二十〕。㊁字號。㋑宋、韓洙(12－43159‥117)の字。㋺宋、楊昭述(6－15112‥647)の字。㋩元、呂洙(2－3386‥91)の字。㋥明、陳沂(11－41698‥139)の字。㋭明、陳文學(11－41698‥1230)の字。㋬明、貝泰(10－36656‥34)の字。㋣明、潘銳(7－18236‥6)の字。

【宗婁】285 淸、沈栻(6－17189‥218)の號。

【宗泐】286 明の僧。著に心經・金剛・楞伽三經の箋釋、及び全室集がある。〔新續高僧傳、二〕・〔明詩綜、九十〕。

【宗論】287 佛宗派の優劣是非の辯論。宗教上の論爭。〔淨土源流章〕就二一類經一、總二攝宗旨一、建二立法義一、名爲二宗論一。

【宗王】288 王族。〔沈約、恩倖傳論〕構二造同異一、興二樹禍隙一、帝弟宗王、相繼屠勦。

【敬レ宗】289 宗を貴ぶ。宗は始祖の嫡長子。〔禮、大傳〕尊レ祖故敬レ宗。〔疏〕宗、是祖之正胤。

【宗右馬】290 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【宗彧之】291 南朝宋の人。炳の從弟。字は叔粲。學を好む。徵辟せられたが皆就かず。〔宋書、九十三〕・〔南史、七十五〕。

【宗喀巴】292 明代、喇嘛黃教の祖。一名は羅卜藏札克巴。蒙古族。幼名は阿劫。西藏に赴き、三十四歲で黃教を開いた。〔皇朝文獻通考、輿地考、西藏〕自二宗喀巴一肇二興黃教一、數傳之後、爲二諸番所一尊信。

【宗希華】293 北周の人。如周の子。荊楚の儒宗といはれた。〔周書、四十八〕。

【宗鏡錄】294 書名。一百卷。宋の僧、延壽の撰。諸經の要旨を總括したもの。禪宗第一の宏博の書。〔禪林僧寶傳、九〕・〔東域傳燈目錄〕。

【宗元卿】295 南齊、南陽の人。字は希蔣。祖母に孝養を盡して宗曾子といはれた。〔南史、七十三〕。

【宗元饒】296 陳、江陵の人。官は御史中丞。〔陳書、二十九〕・〔南史、六十八〕。

【宗元鼎】297 淸、江都の人。字は定九。號は梅岑・小香居士・芙蓉齋・賣花老人。梅花を嗜み、堂に古梅一株有り、時人之を宗郎梅といふ。詩・畫に巧。書室を新柳堂といふ。著に芙蓉齋新柳堂集がある。〔淸史稿、四百八十九〕・〔淸史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十三〕。

【宗元豫】298 淸、上元の人。字は子發。明の諸生。昭陽の土室中に隱居し、經史を窮め訂し、史論數十篇を著す。著に識小錄・記二十一史瑣事がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十八〕。

【宗源瀚】299 淸、上元の人。字は湘文。官は溫處道。地理に精通す。書室を頤情館といふ。著に頤情館集・金石書畫題跋・名賢碑傳錄・聞過集・右文掌錄がある。〔淸史稿、四百五十八〕・〔續碑傳集、三十九〕。

【宗尙之】300 南齊、南陽の人。字は敬文・敬之。山澤を好んで仕へず。〔南齊書、五十四〕・〔南史、七十五〕。

【宗如周】301 北周、南陽の人。官は度支尙書。〔周書、四十八〕。

【宗稷辰】302 淸、會稽の人。字は迪甫。號は滌樓・躬恥齋。道光の擧人。官は山東運河道。著に躬恥齋集がある。〔淸史稿、四百二十九〕・〔淸史列傳、六十七〕・〔碑傳集補、十七〕。

【宗聖垣】303 淸、會稽の人。字は芥颿〔芥帆〕。乾隆の擧人。官は雷州知府。詩文を以て名あり。毛鄭詩を治む。書室を九曲山房といふ。著に九曲山房詩文集がある。

【宗楚客】304 唐の人。岌の子。字は叔敖。武后は其の從姑。進士。官は宰相。韋后に黨して誅せらる。〔唐書、一百九〕・〔舊唐書、九十二〕。

【宗端脩】305 金、汝州の人。字は平叔。睿宗の諱を避けて姬氏と改姓した。大定の進士。官は節度副使。〔金史、一百〕。

【宗秩寮】306 舊宮內省の一寮。宮內大臣の監督の下に皇族・王族・公族・華族・朝鮮貴族・爵位・有位者に關する事務を掌る。

【宗必經】307 宋、南昌の人。字は子文。號は玉溪。景定の進士。瑞州通判となつたが、宋が亡び元となるに及んで仕へず。著に玉溪集がある。〔宋季忠義錄、十六〕。

【宗裕昆】308 淸、常熟の人。字は昭仲。畫に巧。

【宗慧大師】309 後唐、行修(10－34029‥220)の賜號。

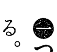
【宗宗件件】310 tsung^1 tsung^1 chien^4 chien^4 各種各類。

【宗忠簡集】311 書名。八卷。宋、宗澤の撰。樓昉編。忠簡は宗澤の謚。文は散佚したものもあるが、宗澤の孤忠耿々として千歲に傳ふべきものがある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【糾レ宗綏レ族】312 宗族を糾合し安んずる。〔張衡、南都賦〕糾レ宗綏レ族。〔注〕善曰、糾、合二宗族于成周一、爾雅曰、綏、安也。

【宗中千里駒】313 一族中の俊秀な者。〔宋書、自序、沈正傳〕正、字元直、淹詳有二器度一、美二風姿一、善二容止一、好二老莊之學一、弱冠州辟二從事一、宗人光祿大夫演之稱レ之曰、此宗中千里駒也。

【官】7107 クワン 〔集韻〕古丸切 ㄍㄨㄢ kuan^1 寒


小篆

㊀つかさびと。官(3－7150)に作る。〔正字通〕官、說文作レ官。〔說文〕官、吏事レ君者也、从二宀𠂤一、𠂤、猶レ衆也、此與レ師同意。〔禮、王制〕論定、然後官レ

之、〔疏〕其諸侯以下三公至ㇾ士、總而言ㇾ之、皆謂二之官一。〔呂覽、孟秋〕無三以封ㇾ侯立二大官一。〔注〕大官、謂二上公九命之官一。〔管子、戒〕進二二子於里官一。〔注〕里官、里尉也。㊁きみ。天子。諸侯。官家。〔廣雅、釋詁一〕官、君也。〔稱謂錄、天子古稱、官〕魏晉六朝稱ㇾ官。㊂ちち。㋑子が父をいふ。〔南史、袁君正傳〕年數歲、父疾、晝夜不ㇾ眠、專侍二左右一、家人勸令二暫臥一、答曰、官既未ㇾ差、眠亦不ㇾ安。㋺夫の父をいふ。〔稱謂錄、夫之父、官〕馬令南唐書、翁嫗怒曰、自家官自家家、何用二多拜一耶、注云、浙、謂ㇾ舅爲ㇾ官、謂ㇾ姑爲ㇾ家、野客叢書、吳人稱ㇾ翁曰ㇾ官、姑曰ㇾ家。㊃つかさ。つとめ。やく。〔書、皋陶謨〕俊乂在ㇾ官。〔周禮、天官、序官〕設ㇾ官分ㇾ職。〔疏〕官者、亦是管攝爲ㇾ號。〔禮、樂記〕樂之官也。〔注〕官、猶ㇾ事也。〔禮、明堂位〕有虞氏、官五十、夏后氏、官百、殷二百、周三百。〔國語、晉語八〕固醫官也。〔注〕官、猶ㇾ職也。㊄まつりごと。〔呂覽、本政〕此官之所二自立一也。〔注〕官、正也。〔呂覽、務本〕治ㇾ官可也。〔注〕官、小政也。㊅おほやけにする。私するの對。〔史記、文帝紀、夏啓以光、注〕索隱曰、漢書、蓋寬饒云、五帝官二天下一、三王家二天下一、官以傳二賢人一、家以傳二子孫一、官、猶ㇾ公也、謂ㇾ不ㇾ私也。㊆つかさどる。〔管子、宙合〕不ㇾ官二於物一、而旁通二於道一。〔注〕官、主也。㊇つかさどころ。やくしよ。〔禮、曲禮下〕在ㇾ官言ㇾ官。〔注〕官、謂二版圖文書之處一。〔禮、玉藻〕在ㇾ官不ㇾ俟ㇾ屨。〔注〕官、謂二朝廷治ㇾ事處一。㊈つかへる。〔禮、雜記下〕官二於大夫一者之爲ㇾ之服也。〔注〕官、猶ㇾ仕也。〔禮、學記〕大德不ㇾ官。〔注〕官、謂二分ㇾ職在ㇾ位。㊉任ずる。〔禮、樂記〕天地官矣。〔注〕官、猶ㇾ事也、謂三各得二其事一也。〔荀子、解蔽〕則萬物官矣。〔注〕官、謂下各當二其任一無中差錯上也。⑪のつとる。〔禮、禮運〕其官二於天一也。〔注〕官、猶ㇾ法也。⑫人の知覺する器官。官能。〔易、隨〕官有ㇾ渝。〔疏〕人心所ㇾ主、謂二之官一。〔孟子、告子上〕耳目之官。〔注〕官、精神所ㇾ在也。謂三人有二五官五府一。〔呂覽、貴生〕在二四官一者。〔注〕四官、耳目鼻口也。⑬やかた。館(**12**－**44237**)に通ず。〔說文通訓定聲〕官、段借爲ㇾ館、易隨、官有ㇾ渝、蜀才本正作ㇾ館、按、隨者從也、故曰ㇾ館、曰、出ㇾ門、曰、在ㇾ道、曰、西山、皆於二行路一取ㇾ義。⑭古は[illegible]に作る。〔集韻〕官、古作ㇾ[illegible]。⑮姓。〔通志、氏族略、平聲〕官氏、見二姓苑一。

名乘 キミ。コレ。ノリ。ヒロ。ヲサ。

解字 會意。宀と𠂤との合字。𠂤は堆(うづたかく積る意)の字。故に衆の意に用ひる。この字は衆人を宀を以て覆ふ、卽ち衆を治するの意を本義とする。〔說文、官、段注〕𠂤不ㇾ訓ㇾ衆、而可ㇾ聯ㇾ之訓ㇾ衆、以ㇾ宀覆ㇾ之、則治ㇾ衆之意也。

【官蛙】1 クヮンア 官地の蛙。官蝦蟇(389)を見よ。〔王令、詩〕如何農畝三時望、只得官蛙一餉鳴。〔方岳、詩〕閣閣官蛙鳴、齁齁老牛喘。

【官娃】2 クヮンアイ 官妓。〔白居易、洛橋寒食日作十韻詩〕官娃喜要迎、舞腰那及ㇾ柳。〔韓維、海棠詩〕如今太守尤珍愛、只許官娃戴二一枝一。

【官押】3 クヮンアフ 役所の書きはん。〔福惠全書、保甲部、調集符信〕書二某字號合同信籤官押一。

【官衣】4 kuan^1 i^1 禮服。制服。

【官醫】5 クヮンイ 官署專屬の醫生。漢代に始まり、百官府に皆置く。明の制は、外府州縣に惠民藥局を置き、府に提領を設け、州縣に官醫を設けて、軍民の貧病者に醫藥を給す。淸代には、內外監獄に醫生二名を置き、監獄の病者を癒さしめ、年末に其の優劣を考へ、治療の多い者には、內に在つては吏目、外に在つては典科・訓科を授けた。〔歷代職官表、太醫院、漢〕謹案、又據二劉昭補志注引漢官所ㇾ載、當時百官府、皆有二官醫員額一、疑其人雖下分二隸諸司一、而考選補用上、當下亦由二太醫一主上ㇾ之、自ㇾ唐以後其法久廢、惟今刑部設二醫士二人一、由ㇾ院簡送、六歲一更、更之日稽二其醫事之優劣一、優者升二吏目一、劣者斥ㇾ之、似下與二漢制一頗爲中相近上云。〔淸會典、刑部〕凡監獄、有二內監一、有二女監一、別二其罪囚一而繫ㇾ之、以ㇾ時給二其衣糧一、治二其疾病一。〔注〕內外監獄、醫治二罪囚疾病一、官給以ㇾ藥、選二用醫生二名一、年底稽二考優劣一、如醫治痊愈者多、照ㇾ例俟二六年已滿一、在ㇾ內咨二授吏目一、在ㇾ外咨二授典科訓科一、不ㇾ能二醫治一、病死多者、卽責革更換。

【官醫局】6 kuan^1 i^1 chü^2 施療院。

【官位】7 クヮンヰ 官職と位。位官。〔管子、禁藏〕遷二官位一。〔史記、日者傳〕才不ㇾ賢、而託二官位一。

【官有】8 クヮンイウ 國家の所有。國有。

【官有林】9 クヮンイウリン 國家の所有する森林。國有林。官林。

【官遊】10 クヮンイウ 仕官するために鄕里を出る。官吏となつて遠方に勤める。宦遊(**3**－**7138**‥1)に同じ。

【官邑】11 クヮンイフ 上から與へられた祿邑。〔左氏、昭、十六〕子產曰、有ㇾ事二於山一、藝二山林一也、而斬二其木一、其罪大矣、奪二之官邑一。

【官印】12 クヮンイン ㊀政府の印章。官府で用ひる印。公印。〔漢書、惠帝紀〕佩二二千石官印一者。〔印文考略〕九疊篆文、猶二漢之繆篆一、又名二上方大篆一、惟官印則可。〔桂馥、續三十五擧〕漢書云、方寸之印、丈二之組、古者官印、不ㇾ過二寸許一、私印更小、六朝以降、始漸大。㊁kuan^1 yin^4 戶籍に登錄してある本名。

【官寅】13 クヮンイン 明、順昌の人。字は思敬。官は嘉興教授。著に枝言缶聲がある。〔順昌縣志〕。

【官蔭】14 クヮンイン 父祖の功によつて其の子孫に官職を世襲させること。恩蔭・難蔭・特蔭の別あり。蔭生(**4**－**9463**‥5)・官員襲蔭を見よ。〔通典、刑典、刑制下〕有ㇾ官犯ㇾ罪、無ㇾ官事發、有ㇾ蔭犯ㇾ罪、無ㇾ蔭事發、無ㇾ蔭犯ㇾ罪、有ㇾ蔭事發、竝從二官蔭之法一。〔皇朝文獻通考、選擧考、任子〕康熙三年題准、各官蔭監生、其父緣ㇾ事革職、其蔭子未ㇾ任者、革蔭已任者免、止於二降調者一仍留蔭。〔淸會典、吏部、驗封淸吏司〕凡官死ㇾ事者、皆贈以ㇾ銜、而蔭二其子一焉。

【官員】15 クヮンヰン 官吏。役人。官職にある人。〔周書、盧辯傳〕事不ㇾ師ㇾ古、官員班品、隨ㇾ意變革。

【官員襲蔭】16 クヮンヰンシフイン 父祖の餘澤に因つて、子孫に官職を世襲させること。特恩を以て職を襲がせるのを恩蔭といひ、父祖が國事に歿したので其の後を優卹するのを難蔭といふ。〔明律、吏律、職制、官員襲蔭〕凡文武官員應三合襲二蔭職事一、並令二嫡長子孫襲蔭一、如嫡長子孫有ㇾ故、嫡次子孫襲蔭、若無二嫡次子孫一、方許二庶長子孫襲蔭一、如無二庶出子孫一、許ㇾ令下弟姪應二合承繼一者襲蔭上、若庶出子孫及弟姪、不ㇾ依二次序一、攙越襲蔭者、杖一百、徒三年。

【官韻】17 クヮンヰン ㊀官で定めた韻書。科擧の時に作る詩賦は、此の韻によるのを程式とした。宋の禮部韻略、明の洪武正韻、淸の佩文詩韻の類。淸の吳省欽に官韻考異がある。〔唐詩紀事、溫庭筠〕庭筠才思豔麗、工二於小賦一、每下入試押二官韻一作上ㇾ賦、凡八叉ㇾ手而八韻成、時號二溫八吟一。㊁詩賦を作るに、韻字を限つて押韻させること。中唐以後に行はれたもので、應制に多い。〔江家次第、十九、弓場殿試〕次給二御題一、或宸筆、或殿上儒士進ㇾ之、七言十韻、或八韻、或五言十韻、有二官韻一者、無二入物一、長久共有ㇾ之。

【官運】18 クヮンウン ㊀官で運搬する。〔晉書、陶侃傳〕以二舟師一斷二官運一、徑向二武昌一。〔元史、商挺傳〕對曰、不ㇾ煩二官運一、僕家有二積粟一。㊁政府の專賣品を官で運搬すること。官運官銷を見よ。

【官運官銷】19 クヮンウンクヮンセウ 國家專賣。民間の生產物を政府で買收し、運搬して發賣すること。淸代には、政府が鹽の買上げを爲し、各地の鹽公堂に運搬し、商人をして發賣させた。〔淸會典事例、戶部、鹽法、廣西〕雍正元年定、廣西鹽務、令二官運官銷一、先動二庫銀六萬兩一、令二廣西鹽道委官赴領一、按ㇾ引買ㇾ鹽、運至二廣西一、分給二名州縣一、照ㇾ部定二價値一行銷。

〖官運商銷〗20 クワンウンシヤウセウ 外國又は民間の生產品を政府で買收し、民間に拂下げて販賣させること。清代には、政府が一先づ鹽を買上げ、中央倉庫若しくは目的地に運搬し、原價・運賃・鹽稅等の公課を標準として價格を定め、鹽商に拂下げて賣らせた。〔淸會典事例、戶部、鹽法、四川〕光緖三十年奏准、川省官運商銷法、於㆓瀘州居中㆒置㆓官運總局㆒、於㆓井竈所㆒分㆓置廠局㆒、於㆓各岸㆒分㆓置岸局㆒。

【官榮】21 クワンエイ 明、沙縣の人。字は邦顯。天順の進士。官は兵科給事中。冊封琉球正使となり、還つて都給事中に進む。〔沙縣志〕

【官營】22 クワンエイ 政府が直接事業をいとなむこと。國營。

【官窯】23 クワンエウ 宋の政和の頃、政府が都の開封で瓷器を造つた所。南渡後も修內司に窯をおいた。內窯。〔輟耕錄、窯器〕政和間、京師自置㆑窯燒造、名曰㆓官窯㆒。〔格古要論〕官窯器土脈細潤。〔文房淸玩〕官窯者、燒㆓于宋修內司中㆒、爲㆓官家㆒造也。

【官燕】24 kuan^1 yen^4 上等の燕窩を用ひた料理。

【官鹽】25 クワンエン 鹽の制度は書經の禹貢、周禮の鹽人にも見え、秦では商鞅の法により、漢には、武帝の時、鹽鐵の官を置き、民を募り、官器に因つて鹽を作らせた。其の後、歷代、鹽法に變遷があつたが、要するに、官許を得て販賣する食鹽を官鹽、官許を經ぬものを私鹽といふ。〔本草、食鹽〕集解、弘景曰、以㆓河東者㆒爲㆑勝、東海鹽官鹽、白草粒細、北海鹽、黃草粒粗。〔杜甫、鹽井詩〕鹵中草木白、青者官鹽煙。〔文獻通考、征榷考、鹽鐵〕自㆓禁榷㆒之後、鹽價旣增、民不㆑肯㆑買、乃課㆑民買㆓官鹽㆒。

〖官鹽別當私鹽賣〗26 kuan^1 yen^2 pieh^2 tang^1 ssŭ^1 yen^2 mai^4 よい物が惡い物とまちがはれること。

【官屋】27 クワンヲク 官の家屋。官舍。〔宋史、蘇軾傳〕初僦㆓官屋㆒以居、有司猶謂㆑不㆑可、軾遂買㆑地築㆑室。

【官河】28 クワンカ ㊀官有の運河。〔舊唐書、敬宗紀〕向㆑東屈曲取㆓禪智寺橋東㆒、通㆓舊官河㆒。〔韋莊、過㆓揚州㆒詩〕二十四橋空寂寂、綠楊摧折舊官河。〔宋史、河渠志七〕舊有㆓官河㆒、自㆓縣前㆒至㆓溫嶺㆒。㊁川の名。㋑江蘇省鹽城縣の西南。源は大蹤湖。㋺江蘇省漣水縣の北。源は西運鹽河の支流。東海の諸鹽場に通ず。

【官家】29 クワンカ ㊀天子。官裏。〔說苑、至公〕鮑白令對曰、天下官則讓㆑賢、天下家則世繼、故五帝以㆓天下㆒爲㆑官、三王以㆓天下㆒爲㆑家。〔晉書、五行志中〕童謠曰、官家養㆑蘆化作㆑荻。〔書言故事大全、人君類、官家〕俗稱㆓天子㆒曰㆓官家㆒、宋眞宗嘗以問㆓侍讀李仲容㆒、對曰、蔣濟萬機論云、五帝官㆓天下㆒、三王家㆓天下㆒、兼㆓五三之德㆒、故曰㆓官家㆒。〔湘山野錄〕三王官㆓天下㆒、五帝家㆓天下㆒、故曰㆓官家㆒。〔容齋四筆、五帝官㆓天下㆒〕漢蓋寬饒奏㆓封事㆒、引㆓韓氏易傳㆒言、五帝官㆓天下㆒、三王家㆓天下㆒、家以傳㆑子、官以傳㆑賢、若㆓四時之運、成㆑功者去㆒、自後稱㆓天子㆒爲㆓官家㆒、蓋出㆓於此㆒。〔名義考〕廣記云、五帝官㆓天下㆒、三王家㆓天下㆒、稱㆓官家㆒、猶㆑言㆓帝王㆒也。㊁政府。公家。〔白居易、喜㆑罷㆑郡詩〕自㆑此光陰爲㆓己有㆒、從前日月屬㆓官家㆒。〔蘇軾、初到㆓黃州㆒詩〕只慚無㆘補㆓絲毫㆒事㆖、尙費官家壓酒囊。㊂クワンコ 吳の方言で、舅を官といひ、姑を家といふ。〔事物異名錄、倫屬、舅姑〕野客叢書、吳人稱㆑翁爲㆑官、稱㆑姑曰㆑家。

【官暇】30 クワンカ 官から賜はる休暇。公暇。〔孔武仲、與㆓陳董二君㆒相㆓會于眞州㆒經㆑月甚樂詩〕官暇更將㆓碁子學㆒。

【官價】31 クワンカ ㊀官で定めた物價。〔宋史、食貨志下四〕鈔法罷而綱運興、官價高私價賤。㊁官署で物品を購入する際、市價に拘らず隨意に定めた價。〔續文獻通考、市糴考、均輸市易和買〕官司以㆓官價㆒買㆑物、行鋪以㆓時值㆒計㆑之、什不㆑得㆓二三㆒。

【官牙】32 クワンガ 官の仲買人。〔福惠全書、雜課部、田房稅〕本縣官牙若干名。

【官衙】33 クワンガ 役所。官廳。〔劉詵、詩〕州符昨夜急如㆑火、馬蹄踏㆑月趨㆓官衙㆒。

【官駕】34 クワンガ 役人の車。〔新書、大政下〕官駕百乘、而食食㆓千人㆒、政有㆑命、國無㆑人也。

【官戒】35 クワンカイ 官吏の戒め。〔儀禮、少牢饋食禮〕乃官戒。〔注〕官戒、戒㆓諸官㆒也。

【官界】36 クワンカイ 役人の社會。

【官海】37 クワンカイ 役人の社會。宦海(**3**−**7138**‥6)・官界に同じ。

【官階】38 クワンカイ 品官の階級。官吏の等級。〔白居易、妻初授㆓邑號告身㆒詩〕我轉㆓官階㆒常自愧、君加㆓邑號㆒有㆓何功㆒。

【官廨】39 クワンカイ 役所。官舍。〔南史、呂僧珍傳〕舊宅近在㆓市北㆒、前有㆓督郵廨㆒、鄉人咸勸㆑徙㆑廨以益㆓其宅㆒、僧珍怒曰、豈可㆘徙㆓官廨㆒以益㆗吾私宅㆖乎。〔天中記〕以㆓官廨喧擾㆒、及㆓於城西池小洲上㆒、立㆓茅茨之屋㆒。

【官街】40 クワンガイ 官府の街路。〔晉書、苻堅載記上〕苻堅、字永固、一名文玉、雄之子也、云云、年七歲、聰敏好㆑施、擧止不㆑踰㆓規矩㆒、每侍㆓洪側㆒、輒量㆓洪擧措取與㆒、不㆑失㆓機候㆒、洪每曰、此兒姿貌瓌偉、質性過㆑人、非㆓常相㆒也、高平徐統、有㆓知人之鑒㆒、遇㆓堅於路㆒異㆑之、執㆓其手㆒曰、苻郎、此官之御街、小兒敢戲㆓于此㆒、不㆑畏㆓司隸縛㆒邪。

【官告】41 クワンカウ 官吏任命の辭令。官誥。告身。官告院を見よ。〔舊唐書、憲宗紀下〕新授㆓桂管觀察使房啓㆒、降爲㆓太僕少卿㆒、啓初拜㆓桂管㆒、啓吏賂㆓吏部主者㆒、私得㆓官告㆒以授㆑啓。

〖官告院〗42 クワンカウヰン 官署の名。宋、置く。文武官の辭令及び封贈を掌る。凡そ官告には各〻本司の告身印を捺し、文臣は吏部、武臣は兵部、王公命婦は司封、加勳には司勳の印を用ひた。官誥院。〔宋史、職官志三〕官告院、主管官一員、以㆓京朝官㆒充、掌㆓吏兵勳封官告㆒、以給㆓妃嬪・王公・文武・品官・內外命婦及封贈者㆒、各以㆓本司告身印㆒印㆑之、文臣用㆓吏部㆒、武臣用㆓兵部㆒、王公及命婦用㆓司封㆒、加勳用㆓司勳㆒、官制行四選、皆用㆓吏部印㆒。

【官項】43 kuan^1 hsiang^4 官金。政府に上納する金。

【官誥】44 クワンカウ 官吏任命の辭令。官告に同じ。〔杜荀鶴、賀㆘顧雲侍御府主與㆓子弟㆒奏㆖官詩〕孝經始向㆓堂前㆒徹、官誥當㆘從㆓幕下㆒迎㆖。〔春明退朝錄〕凡官誥之制、郡夫人使㆓金花羅紙七張、法錦褾袋㆒。

〖官誥院〗45 クワンカウヰン 官告院(42)に同じ。

【官號】46 クワンガウ 官職。〔史記、匈奴傳〕其世傳國官號、乃可㆓得而記㆒云。〔漢書、韋玄成傳〕殊㆓官號㆒、存㆓周後㆒。

【官角】47 クワンカク 清代、福州で鑄造した小銀貨。福角。

【官榷】48 クワンカク 政府で專賣すること。〔龔璛、次㆓黃仲堅江灣行㆒詩〕珠璣金碧視㆓性命㆒、贖貨聊堪㆑付㆓官榷㆒。〔程史〕爲㆓官榷坊酤㆒。

【官學】49 クワンガク 政府で建てた學校。淸朝では、國子監・府州縣學、及び宗室・覺羅・旗人の爲に設けた學校などがあつた。國學。國子監(**3**−**4798**‥252)を見よ。〔淸會典、銓政〕由㆓官學義學生㆒考取者九品。〔皇朝文獻通考、學校考、宗學〕雍正二年、復定㆓宗室官學之制㆒。

〖官學生〗50 クワンガクセイ 官學の學生。〔晉書、慕容皝載記〕賜㆘其大臣子弟爲㆓官學生㆒者㆖、號㆓高門生㆒、立㆓東庠於舊宮㆒、以行㆓講射之禮㆒。〔淸會典、國子監〕八旗官學生、每月赴㆑監講㆑書。

【官閑】51 クワンカン 役所の事務の閑なこと。〔元稹、天壇上境詩〕野人性僻窮㆓深僻㆒、芸署官閑不㆑似㆑官。

【官監】52 クワンカン 政府の監督官。〔傅若金、長蘆詩〕轉輸分使㆑出、征榷置㆓官監㆒。

【官銜】53 クワンガン 官職。官職を奏聞する時、新舊の官を並記するから銜といふ。銜はふくむ、食物を連屬して口にふくむ意。又、馬のくつわで、馬が前後相續く意。又、治の義で、事を正し治める意。〔孔子家語、執轡〕善御㆑馬者、正㆓銜勒㆒、齊㆓轡策㆒、均㆓馬力㆒、云云、善御㆑民者、壹㆓其德法㆒、正㆓其百官㆒、以均㆓齊民力㆒、和㆓安民心㆒。〔封氏聞見記、官銜〕官銜之名、蓋興㆓近代㆒、當㆓是選曹補授㆒、須㆑存㆓資歷㆒、聞奏之時、先具㆓舊官名品于前㆒、次書㆓擬官于後㆒、使㆓新舊相銜不㆑斷、故曰㆓官銜㆒、亦曰㆓頭銜㆒、所㆓以名爲㆑銜、以言㆘如㆓人口銜㆑物、取㆗其連屬之意㆖、又如㆘馬之有㆑銜以制㆓其首㆒、前馬已進、後馬續來、相次不㆑絕者㆖。〔白居易、張十八詩〕獨有㆓詠㆑詩張太祝㆒、十年不㆑改㆓舊官銜㆒。

〖官銜扇〗54 クワンガンセン 官吏の官職を書いた大きい扇。儀仗に舁ぐもの。〔淸會典、禮部、儀制司〕凡扇上各書㆓職銜㆒、滿字一行、漢字一行。

〖官銜牌〗55 クワンガンハイ ㊀官吏の官職を書いた紅い

札。儀仗に之を昇ぐ。❷kuan^1 hsien^2 p'ai^2 官吏住宅の門內、照壁に掛ける細長い紅色の札。各一枚に一條づつ自己の履歴を書す。

【官紀】56 クヮンキ 役所の規則。官吏の規律。官方。〔唐書、杜佑傳〕神龍中、官紀蕩然。

【官規】57 クヮンキ 官吏の規律。官箴。〔清國行政法汎論、地方自治、鄉村〕官規頽廢、未レ見二肅正一。

【官器】58 クヮンキ 政府の器具。〔史記、平準書〕願募レ民自給レ費、因二官器一作二煑鹽一、官與二牢盆一。

【官騎】59 クヮンキ 鹵簿の前驅と從騎。騶騎。〔資治通鑑、漢紀〕（和帝、永元五年）其餘所レ受虎賁・官騎及諸工技、鼓吹・倉頭・奴婢・兵弩・廏馬、皆上二還本署一。〔注〕官騎、騶騎也、漢官儀曰、騶騎、王家名二官騎一、與二廏馬一、皆屬二太僕一。

【官妓】60 クヮンギ 官に仕へて歌舞する女。公家で蓄へる娼妓。漢代に始まる。官娃。〔羣談採餘〕宋淳和間、瑞州高安鄭氏女、棄レ俗修レ道、預三言某日當二飛昇一、至レ期不二忽見一、止遺二雙履於欄砌一、洪損齋來宰二高安一、疑レ之遺レ人物色、乃與二道士一淫奔、得二於龍興新建之境一、籍爲二官妓一、道士就二樂戶一。〔宋史、太宗紀一〕繼元獻二官妓百餘一以賜二將校一。〔南宋市肆記〕官妓數十人。

【官儀】61 クヮンギ ❶官の典儀。〔蘇軾、神宗皇帝挽詞〕典禮從二周舊一、官儀與二漢隆一。❷清、陳度（**11－41698**‥491）の字。

【官休】62 クヮンキウ ❶役をやめる。官を退く。〔白居易、履道西門詩〕履道西門獨掩レ扉、官休病退客來稀。❷kuan^1 hsiu^1 公の力で解決する。訴訟して解決する。私休は示談。

【官牛】63 クヮンギウ 官廳の所有にかかる牛。〔晉書、慕容皝載記〕且魏晉雖二道消之世一、猶削二百姓一不レ至二於七八一、特官牛田者、官得二六分一、百姓得二四分一、私牛而官田者、與レ官中分。〔白居易、新樂府、官牛〕官牛官牛駕二官車一、滻水岸邊般載レ沙。

【官麴】64 クヮンキク 官府に藏する麴。〔宋史、呂溱傳〕參劾下其借二官麴一作レ酒、以二私貨一往二河東一貿易、及違レ式受二餽贐一事上。

【官級】65 クヮンキフ 官吏の等級。〔漢書、武帝紀、受二爵賞一而欲二移二賣爵一者、注〕師古曰、欲レ移二賣爵一者、無レ有二差次一、不レ得二流行一、故爲置二官級一。

【官給】66 クヮンキフ 政府から與へる。〔宋史、孝宗紀二〕辛丑、詔二福建路貧民生子一、官二給錢米一。

【官況】67 クヮンキヤウ 官廳の樣子。官吏の氣持ち。〔李中、吉水縣依レ韻酬二華秀才見レ寄詩〕官況蕭條在二水村一、吏歸無事好二論文一。

【官客】68 クヮンキヤク ❶捕虜の女。〔宋史、交阯國傳〕乾順初、約歸二三州官吏千人一、久レ之、才送二民二百二十一口一、男子年十五以上、皆刺レ額曰二天子兵一、二十以上曰二投南朝一、婦人刺二左手一曰二官客一。❷kuan^1 k'ê^4 男子をいふ。〔紅樓夢、七十一回〕寧國府中單請官客、榮國府中單請堂客。

【官許】69 クヮンキヨ 官のゆるし。政府の免許。

【官擧】70 クヮンキヨ 官名を呼んで實名を擧げぬこと。〔公羊、文、八〕宋司城來奔、司馬者何、司城者何、皆官擧也。

【官局】71 クヮンキヨク 役所。〔宋史、李繼和傳〕思二不廉一則官局不レ治、思二退迹一則庶事無レ心。

【官金】72 クヮンキン ❶朝廷から發行した貨幣。〔西陽雜俎、物異〕開元中、有二大唐金一、卽官金也。❷政府・官廳の金。公金。〔清國行政法汎論、官吏權利、俸給〕且會計檢查之制未レ設、得三恣意費二消官金一。

【官禁】73 クヮンキン 政府の禁令。〔周禮、秋官、士師〕掌二國之五禁之法一、云云、一曰宮禁、二曰官禁。〔注〕官、官府也。

【官銀】74 kuan^1 yin^2 官吏の俸給。

【官銀號】75 kuan^1 yin^2 hao^4 官許を經て銀の賣買、銀票發行等を行ふ銀行の一種。

【官銀匠】76 クヮンギンシヤウ 銀座役人。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕革二官銀匠一。

【官靴】77 kuan^1 hsüeh^1 禮服用の長靴。

【官課】78 クヮンクヮ 稅金。〔宋史、食貨志下八〕致二物價騰踊、官課愈負一。

【官會】79 クヮンクヮイ 金銀札・紙幣の類。〔夢粱錄、嫁娶〕送二官會銀鋌一、謂二之下財禮一。

【官荒】80 クヮンクヮウ 官有の未開墾地。荒蕪した官有地。民荒（**6－17028**‥43）に對す。〔清會典事例、戶部、田賦、田賦科則〕光緒十二年咨准、山西豐鎭廳、開二墾官荒牧廠一、額徵麥胡圖正銀一千六百一兩五錢七分六釐二毫。

【官黃】81 クヮンクヮウ 牡丹の名。〔蘇軾、遊二太平寺淨土院一觀二牡丹一云云詩〕一朶官黃微拂掠、鞓紅魏紫不レ須レ看。

【官串】82 kuan^1 ch'uan^4 役所の受取り。

【官卷】83 クヮンクヮン 官吏の子弟の答案。清代、京官の文官は四品、外官の文官は三品、武官は二品以上、及び翰詹科道の各官等の役人の子・孫・曾孫、同胞兄弟、及び同胞兄弟の子が試驗に應ずる時には、別に表を編み、或る一定額の員數を其の內から採用した。〔清會典、禮部〕貢擧、文武大臣子弟、一體同二編官卷一、憑レ文取レ中。

【官宦】84 クヮンクヮン 役人。〔宣和遺事、前集下〕這佳人非レ爲二官宦一、亦是富豪之家。

【官款】85 kuan^1 k'uan^3 官金。公金。官項。

【官勳】86 クヮンクン 官位と勳功。〔韓愈、圬者王承福傳〕持二弓矢一十三年、有二官勳一。

【官軍】87 クヮングン 天子の軍。國軍。官兵。〔晉書、桓溫傳〕溫進至二霸上一、居人皆安レ堵復レ業、耆老感泣曰、不レ圖今日復見二官軍一。〔杜甫、喜レ聞三官軍已臨二賊境一詩〕官軍擁二賊壕一。〔白居易、放二旅鴈一詩〕官軍賊軍相守老。

【官刑】88 クヮンケイ 古、官吏に加へた輕い刑罰。五刑の外に設く。❶鞭刑をいふ。官吏の事を治めぬ者に加へる。〔書、舜典〕鞭作二官刑一。〔傳〕以レ鞭爲下治二官事一之刑上。❷百官の府の黜陟・廢置・誅賞を爲す刑。〔周禮、天官、大宰〕以二八灋一治二官府一、云云、七曰、官刑、以糾二邦治一。〔孫詒讓正義〕云下玄謂、官刑、司寇之職、五刑、其四曰二官刑一、上能糾レ職者、據二大司寇文一、宰夫官刑注義同、凡百官府黜陟・廢置・誅賞、並以レ此爲レ斷、與二司刑五刑一異也、書舜典云、鞭作二官刑一、史記五帝本紀集解引馬融云、官刑爲レ辨二治官事一者上爲レ刑、案鞭亦官府輕刑之一也、賈疏云、是專施二於官府之中一、於レ義爲レ當也。〔周禮、秋官、大司寇〕以二五刑一糾二萬民一、云云、四曰、官刑、上能糾レ職。

【官契】89 クヮンケイ ❶官府のてがた。符信。〔周禮、天官、宰夫〕五曰、府、掌二官契一以治レ藏。〔孫詒讓正義〕官契、卽小宰八成之書契也。〔王建、贈二胡泟將軍一詩〕朱牌面上分二官契一、黃紙頭邊押二敕符一。❷kuan^1 ch'i^4 官で登記した地券。

【官契錢】90 クヮンケイセン 官契の手數料。明代の契稅、卽ち賣買契約書の押印料の一種。〔清國行政法、財務行政、收入、賦稅、契稅〕洪武二年定、買二賣田宅馬牛等物一者、於二正稅外一、徵二官契錢四十文一。

【官計】91 クヮンケイ 官吏の功罪をしらべること。〔周禮、天官、大宰〕以二八灋一治二官府一、云云、八曰、官計、以弊二邦治一。〔注〕官計、謂二小宰之六計一、所三以斷二羣吏之治一。

【官桂】92 クヮンケイ 肉桂（**9－29236**‥29）の異名。牡桂の一種にして、良質のもの。〔爾雅翼〕牡桂生二南海一、葉似二枇杷一、皮薄色黃、少二脂肉一、氣如二木蘭一、削二去皮一名二桂心一、所謂官桂也。〔本草、桂〕牡桂、時珍曰、曰二官桂一者、乃上等供官之桂也。

【官繫】93 クヮンケイ 仕官に身を束縛せられる。官拘。〔白居易、答三客問二杭州一詩〕所レ嗟水路無二三百一、官繫何因得二再遊一。

【官業】94 クヮンゲフ ❶官職。又、役所の仕事。〔國語、楚語上〕其事不レ煩二官業一。〔白居易、祭二中書韋相公一文〕世祿官業、家行士風、茂學清詞、沖襟弘度。❷政府の經營する事業。

【官欠】95 クヮンケン 滯つてゐる稅金。政府から借りた金。〔桯史〕今日山僧無二飯喫一、卻催二官欠一意何如。

【官健】96 クヮンケン 州兵の中、政府から衣食を給せられる者。〔唐書、代宗紀〕州兵給二衣糧一者、謂二之官健一。〔唐書、德宗紀〕官健虛二費衣糧一、無レ所レ事。〔李隲、徐襄州碑文〕少壯官健三百人。

【官絹】97 クヮンケン 役所の絹。〔晉書、庾冰傳〕庾冰夫性清愼、常以二儉約一自居、中子襲、常貸二官絹十匹一、冰怒捶レ之、市レ絹還レ官。〔北齊書、循吏、孟業傳〕同寮諸人、侵二盜官絹三十疋一與レ之、拒而不レ受。

【官賢】98 クヮンケン ❶明の人。廉の弟。字は汝俊。官は刑部主事。後、浙江按察僉事となる。劉瑾に忤ひて罷めらる。〔平度州志〕。❷明、將樂の人。字は子選。博學にして多才。官は溫州司理。〔延平府志〕。

【官憲】99 クヮンケン ❶國家の規則。命令。❷役人。官吏。❸kuan^1 hsien^4 上官。

【官權】100 クヮンケン 政府の權力。

【官戶】101 クヮンコ ❶官職のある家。〔宋史、高宗紀八〕

官戶勢家。㊁犯罪により官奴となつて其の使役にあてられ、州縣に籍のないもの。〔唐律、名例、同戶相爲㆑隱、疏義〕官戶、隸㆓屬司農㆒、州縣元無㆓戶貫㆒。

【官股】102 kuan^1 ku^3　政府引受株。

【官庫】103 kuan^1 k‘u^4　政府の府庫。

【官雇】104 クヮンコ　官で傭ふこと。又、官の傭人。〔唐書、食貨志〕官雇舟以㆑分入㆓河洛㆒。〔宋史、食貨志上五〕蘇轍言、云云、今遂欲㆔兩稅之外別立㆓一科㆒、謂㆓之庸錢㆒、以備㆓官雇㆒。

【官賈】105 クヮンコ　役所のためにする商賣。〔管子、乘馬〕不㆑爲㆓官賈㆒者、與㆑功而不㆑與㆑分焉。

【官工】106 クヮンコウ　役所のためにする細工。〔管子、乘馬〕不㆑爲㆓官工㆒者、與㆑功而不㆑與㆑分焉。

【官拘】107 クヮンコウ　官職に束縛せられる。官繫。〔王安石、寄㆓王逢原㆒詩〕我方官拘不㆑得㆑往、子有㆓閒暇㆒宜㆓能來㆒。

【官堠】108 クヮンコウ　官で立てた一里塚。〔白居易、社日關路作詩〕愁立驛樓上、厭㆑行官堠前。

【官斛】109 クヮンコク　政府で造り、官で使用する枡。〔續文獻通考、市糴考〕凡官斛籌、非㆓官印烙㆒者不㆑用。

【官穀】110 クヮンコク　官の所有にかかる穀物。〔蜀志、常播傳、注〕沒㆓官穀㆒、當㆑論㆓重罪㆒。

【官獄】111 クヮンゴク　官の牢獄。〔漢書、刑法志〕自㆑今以來、縣道官獄疑者、各讞㆓所㆑屬二千石官㆒、二千石官以㆓其罪名㆒當㆑報㆑之。

【官佐】112 kuan^1 tsuo^3　將校。

〖官佐弁兵〗113 kuan^1 tsuo^3 pien^4 ping^1　將校・下士・兵卒を總稱する語。

【官差】114 クヮンサ　㊀官命による使。〔王建、射虎行〕自去射㆑虎得㆑虎歸、官差射㆑虎得㆑虎遲。〔范成大、老陳道人云云戲贈㆓小頌㆒詩〕野人何苦赴㆓官差㆒、符使追呼撓㆓道懷㆒。㊁kuan^1 ch‘ai^1　官職。

【官紗】115 kuan^1 sha^1　浙江省に產する紗の名。清代、內廷に貢奉したのでこの名がある。

【官才】116 クヮンサイ　才能のある者を役につけること。官材。〔潘勗、冊㆓魏公九錫㆒文〕官㆑才任㆑賢、羣善必擧。

【官材】117 クヮンサイ　才能によつて適當の官に擬する。〔禮、王制〕司馬辨㆑論官㆑材、論㆓進士之賢者㆒、以告㆓于王㆒、而定㆓其論㆒、論定、然後官㆑之。

【官宰】118 クヮンサイ　家臣。又、官吏の長。〔國語、晉語四〕官宰食㆑加。〔注〕官宰、家臣也。

【官罪】119 クヮンザイ　官吏の犯罪。公罪・私罪の二つがある。〔清國行政法汎論、官吏責任、懲戒方式〕嘉慶會典卷六云、凡官罪有㆑二、曰公罪、有㆔處分以勵㆓官職㆒、曰私罪、有㆔處分以儆㆓官邪㆒。

【官倉】120 クヮンサウ　㊀官の米倉。〔隋書、食貨志〕官倉貯積、以擬㆓遭運㆒。〔桃花扇、投轅〕當㆑差領㆓官倉㆒。㊁あがりや。揚屋。身分ある者を監禁した牢獄。〔未信編〕速建㆓官倉㆒、以愼㆓大獄㆒。

【官曹】121 クヮンサウ　役所。又、官吏の總稱。〔後漢書、韋彪傳〕官曹無㆑事。〔論衡、定賢〕且筆用何爲㆑敏、以敏㆓於官曹事㆒。〔白居易、司馬廳獨宿詩〕官曹冷似㆑冰。〔劉禹錫、和㆓僕射牛相公春日閒坐見㆑懷詩〕官曹崇重難㆓頻入㆒、第宅清閒且獨行。

【官莊】122 クヮンサウ　㊀官家帝室に屬する莊田。清代には、宗室莊田・八旗莊田・駐防莊田、乃至、糧莊・鹽莊・棉花莊等の別があつた。〔宋史、職官志三〕屯田郎中員外郎、掌㆓屯田・營田・職田・學田・官莊之政令㆒。〔皇朝通典、食貨典、田制、官莊〕凡盛京古北口外、新闢之壤咸隸焉、其官莊有㆑三、一、宗室莊田、一、八旗官兵莊田、一、駐防官兵莊田。〔清國行政法汎論、盛京五部、戶部〕官莊者、屬㆓於帝室㆒之莊園、有㆓糧莊・鹽莊・棉花莊等別㆒。㊁㋑河北省內丘縣の東南。任縣の界。㋺河北省撫寧縣の南。昌黎縣の界。㋩山東省平度縣の西北、雙山河の南。昌邑縣に通ず。㋥山東省安丘縣の南。莒縣に通ず。㋭河南省汝南縣の西南、北、溱河に臨む。㋬湖南省保靖縣の南。もと把總を駐す。

【官艙】123 kuan^1 ts‘ang^1　船の二等室。

【官殺】124 クヮンサツ　星命家の語。五行の相生相剋に依つて相剋せられる干支をいふ。卽ち筮法上の官鬼である。官鬼爻(391)を見よ。〔三命通會、論庚辛〕庚辛春月正逢㆑財、最忌㆓于頭比刦來㆒、官殺要㆑分嫌㆓混雜㆒、身強用㆑吉乃康哉。

【官產】125 クヮンサン　官有財產。屯田・沙田・旗地・宮地等、私有財產に屬せぬ土地。

【官攢】126 クヮンサン　諸役人。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕所屬官攢若干名。

【官山】127 クヮンザン　官有の山地。〔清會典事例、戶部、田賦、開墾〕乾隆五年題准、直隸官山官地、以具㆓呈先後承墾㆒、民地先儘㆓業主㆒、如業主力不㆑能㆑墾、始許㆓他人承墾㆒、墾成之日、業主不㆑得㆓追奪㆒。

〖官山墟〗128 クヮンザンキョ　地名。㊀廣東省番禺縣の東南。㊁廣東省南海縣の西南、西樵山の北。

【官子】129 クヮンシ　圍碁で、最後に碁石をならべ場を作り、勝負を決すること。明の過百齡に官子符の著がある。

【官仕】130 クヮンシ　官に仕へる。〔史記、南越王尉佗傳〕宗族官仕、爲㆓長吏㆒者七十餘人。

【官司】131 クヮンシ　㊀官職。役人。又、官衙の總名。〔左氏、隱、五〕皁隸之事、官司之守、非㆓君所㆑及也。〔左氏、定、四〕備物典策、官司彝器。〔注〕官司、百官也。〔魏志、夏侯尙傳〕其後轉更爲㆓官司㆒耳。㊁kuan^1 suŭ　訴訟。裁判事件。打㆓官司㆒を見よ。

〖打㆓官司㆒〗132 クヮンシヲダス　訴訟を起すこと。元代の慣習。〔通俗編、政治、打官司〕元人抱粧盒曲有㆓此三字㆒。

〖官司遣補〗133 クヮンシケンポ　官から派遣せられた追捕人。官捕(329)に同じ。〔唐律、詐僞、疏議〕詐㆓稱官司遣捕㆒、或詐㆓稱官司遣追攝㆒者、並徒一年。

【官私】134 クヮンシ　公事と私事。官吏と人民。公私。

【官使】135 クヮンシ　官職を授けて使用する。〔漢書、董仲舒傳〕夫如㆑是諸侯吏二千石、皆盡㆓心於求㆑賢、天下之士、可㆓得而官使㆒也。〔注〕師古曰、授㆑之以㆑官、以使㆓其材㆒也。

【官施】136 クヮンシ　官から給する。〔荀子、王制〕官施而衣㆓食之㆒。

【官師】137 クヮンシ　㊀古、中士・下士・庶士・府史等の官をいふ。〔禮、祭法〕適士二廟、云云、官師一廟。〔注〕適士、上士也、官師、中士・下士・庶士・府史之屬。〔疏〕官師一廟者、謂㆓諸侯中士下士㆒也、謂㆑爲㆓官師㆒者、言㆑爲㆓一官之長㆒也。㊁大夫をいふ。〔左氏、襄、十五〕官師從㆓單靖公㆒、逆㆓王后于齊㆒。〔會箋〕此官師、不㆑當㆘以㆓祭法中士・下士㆒說㆖之、從㆓祭法㆒、則劉夏不㆑得㆑爲㆓上士㆒、夫王季子之胤、而食㆓采於劉㆒、出使㆓於齊宋㆒、不㆑宜㆔下爲㆓中士㆒也、此當㆘以㆓官之師旅㆒徵㆖之、言㆓諸有司之長㆒也、其爲㆓大夫㆒必矣。〔國語、吳語〕行頭皆官師。〔注〕二君皆云、官師、大夫也。㊂百官。〔書、胤征〕官師相規。〔傳〕官師、衆官、更相㆓規闕㆒。㊃官吏の長。役人。〔國語、楚語上〕位宁有㆓官師之典㆒。〔注〕師、長也。〔莊子、外物〕以㆓善毀㆒爵爲㆓官師㆒。〔韓非子、內儲說上〕宋崇門之巷人、服㆑喪而毀、甚瘠、上以爲㆔慈㆓愛於親㆒、擧以爲㆓官師㆒。〔漢書、鼂錯傳〕並建㆓豪英㆒、以爲㆓官師㆒。㊄複姓。〔路史〕鏐公之後、有㆓官師氏㆒。

【官紙】138 クヮンシ　㊀役所の紙。〔南史、阮孝緒傳〕爲㆓湘州行事㆒、不㆑書㆓官紙㆒。㊁kuan^1 chih^3　願書・訴訟狀等の用紙。

【官試】139 クヮンシ　官吏に採用する。〔漢書、杜延年傳〕可㆓官試㆒者、至㆑爲㆓縣令㆒。

【官資】140 クヮンシ　官吏となる資格。〔李中、獻㆓張拾遺㆒詩〕官資清貴近㆓丹墀㆒、性格孤高世所㆑稀。

【官寺】141 クヮンジ　㊀役所。〔漢書、翼奉傳〕城郭官寺。〔梁簡文帝、與㆓劉孝綽㆒書〕官寺務煩、簿領殷湊。〔薩都刺、勅賜恩榮宴詩〕銀甕春分官寺酒、玉杯香賜御廚羹。㊁宦官の役所。又、宦官。〔漢書、孔光傳〕或攻㆓官寺㆒、殺㆓長吏㆒。㊂朝廷で建てた寺。〔白居易、閒吟詩〕官寺行㆑香少、僧房寄宿多。

【官次】142 クヮンジ　㊀官舍。又、役所。〔左氏、襄、二十三〕敬㆓共朝夕㆒、恪居㆓官次㆒。〔注〕次、舍也。㊁官の階級。官階。〔後漢書、郎顗傳〕夫有㆓出倫之才㆒、不㆑應㆔限以㆓官次㆒。〔後漢書、張綱傳〕唯綱年少、官次最微。

【官事】143 クヮンジ　役所の事務。役人の仕事。〔論語、八佾〕官事不㆑攝。〔莊子、外物〕官事果㆓乎衆宜㆒。〔史記、汲鄭傳〕官事不㆑廢。

【官收】144 クヮンシウ　役人が受取る。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕今幸官收官兌。〔六部成語、戶部、官收官兌、注解〕由㆑官徵收、親兌入㆑舟也。

【官日】145 クヮンジツ　選擇家の語。官事を處理するに善い日。諸侯の象。春は卯、夏は午、秋は酉、冬は子の日を當てる。王相日(**7**－**20823**‥525)を見よ。〔協紀辨方書、宜忌、官日〕宜㆓襲爵・受封・上官・赴任・臨政・親民㆒。

【官實】146 クヮンジツ 官長。〔呂覽、行論〕左右官實、御者甚衆。〔注〕官實、官長也。

【官習】147 クヮンシフ 官職になれる。〔管子、幼官圖〕必得文威武官習、勝之務。

【官車】148 クヮンシヤ 官有の車。〔周禮、春官、巾車、訂義〕杜氏曰、乘二官車一毀折者、入レ財以償。

【官社】149 クヮンシヤ 諸侯の立てる地神。〔漢書、郊祀志下〕聖漢興、禮義稍定、已有二官社一、未レ立二官稷一。

【官舍】150 クヮンシヤ ㊀役所。〔漢書、何並傳〕性清廉、妻子不レ至二官舍一。〔後漢書、王良傳〕妻子不レ入二官舍一。㊁官で建てて、官吏に與へる住宅。〔金史、選擧志一〕給二錢粟官舍一。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕以レ疾終二於官舍一。㊂館舍。旅館。〔漢書、盧綰傳〕賓客隨レ之者千餘乘、邯鄲官舍皆滿、豨所二以待レ客、如二布衣交一。

【官邪】151 クヮンジヤ 官吏の行の惡いこと。〔左氏、桓、二〕國家之敗、由二官邪一也、官之失レ德、寵賂章也。

【官省】152 クヮンシヤウ 役所。

【官商】153 クヮンシヤウ ㊀官營事業に從事する商人。鹽商人など。〔六部成語、戸部、官商、注解〕奉二官准一作二之商一、如二鹽商之類一也。㊁官吏と商人。官民。〔清國行政法汎論、工部〕河川舟筏、實爲二清國唯一之交通機關一、官商賴二其慶一不レ少。

【官商合辦】154 kuan¹ shang¹ hê² pan⁴ 政府と人民との合辦事業。官民共に同額に出資し、政府は監督員を出し、經營は商人がする。

【官賞】155 クヮンシヤウ お上から授けられる賞與。恩典。恩賞。〔通典、職官典、吏部尙書、司勳郎中〕掌下校二定勳績一、論二官賞・勳官・告身一等事上。

【官上】156 クヮンジヤウ 百官を統御する地位。上官。〔管子、君臣上〕爲二人君一者、修二官上之道一。

【官上加レ官】157 クヮンジヤウニクヮンヲクハフ 官位が陞る。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕至レ如二你官上加レ官。

【官常】158 クヮンジヤウ 官吏が其の職を守ること。〔周禮、天官、大宰〕以二八灋一治二官府一、云云、四曰、官常、以聽二官治一。〔注〕官常、謂三各領二其官之常職一。〔後漢書、馬融傳〕發二天府之官常一。〔崔瑕、授二崔璹等給事中等一制〕無レ忝二官常一、自貽二公讓一。

【官情】159 クヮンジヤウ 仕官を望む心。宦情。

【官掌】160 クヮンジヤウ 古、太政官の辨官の下にあつて、訴人を通傳し、又は使部を檢校し、官府に守當して廳並びに禁中の鋪設を掌つた官。左官掌・右官掌の別がある。習慣上、クヮンシヤウと讀まない。〔四時祭式、下〕辨官命二官掌一、喚二宮內省一、令レ賜二酒食一。

【官尺】161 クヮンシヤク 政府で制定した尺度。〔三器圖義〕隋開皇官尺、謂二之鐵尺一。

【官爵】162 クヮンシヤク 官職と爵位。〔管子、七法〕官爵不レ審、則姦吏勝。〔商子、農戰〕凡人主之所二以勸レ民者、官爵也。〔史記、衞青傳〕輙得二官爵一。

【貪二戀官爵一】163 クヮンシヤクヲタンレンス 官職をむさぼる。〔謝枋得、却レ聘書〕貪二戀官爵一、昧二于一行一。

【官守】164 クヮンシユ 役目。官職。職務上の責任。〔左氏、昭、二十三〕信二其鄰國一、愼二其官守一。〔孟子、公孫丑下〕有二官守一者、不レ得二其職一則去。〔國語、楚語下〕當二宣王時一、失二其官守一。

【官首】165 クヮンシユ ㊀官署の長。〔書、酒誥、百僚庶尹、疏〕士亦有二官首一。㊁武功爵の第五の名。〔史記、平準書〕諸買二武功爵官首一者、試補レ吏先除。〔注〕索隱曰、官首、武功爵第五也、位稍高、故得二試爲レ吏先除用一也。

【官壽】166 クヮンジユ 天壽を全うして、然も現職のままで死ぬこと。〔漢書、龔遂傳〕以二官壽一卒。〔注〕師古曰、以レ壽終而卒二於官一也。

【官樹】167 クヮンジユ 官道の旁に植ゑる樹。〔日知錄、政事、官樹〕釋名曰、古者列レ樹以表レ道、道有二夾溝一、以通二水潦一、古人於二官道之旁一、必皆種レ樹以記レ里、至三以蔭二行旅一。

【官衆】168 kuan¹ chung⁴ 共同。官民共同。

【官准】170 kuan¹ chuen³ 官許。

【官所】171 クヮンシヨ 官衙。役所。〔韓愈、八月十五夜贈二張功曹一詩〕十生九死到二官所一、幽居默默如二藏逃一。

【官書】172 クヮンシヨ ㊀公務上の書類。公文。公文書。官文書。〔周禮、天官、宰夫〕掌二百官府之徵令一、辨二其八職一、云云、六曰、史、掌二官書一以贊レ治。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕汝父爲レ吏、嘗夜燭治二官書一、屢廢而歎。㊁公家で刊行、或は所藏する書籍。〔呂祖謙、白鹿洞書院記〕祖宗尊二右儒術一、分二之官書一、命二之祿秩一、陽二之一遍榜一。㊂官の間に頒行する政治法律等の書。

【官煑】173 クヮンシヨ 政府で鹽を製すること。〔北史、崔昂傳〕亦既官煑、須レ斷二人竈一。

【官署】174 クヮンシヨ 役所。官廳。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳〕所レ發二諸官署一。〔宋史、食貨志下八〕請置二官置一掌二其事一。

【官秤】175 クヮンシヨウ 官で用ひる衡。庫平。〔清會典事例、戸部、權量、尺秤〕道光三十年奏准、奉天省添二設官秤二十四杆一。

【官稷】176 クヮンシヨク 諸侯が立てた五穀の神の社。〔漢書、郊祀志下〕已有二官社一、未レ立二官稷一。

【官燭】177 クヮンシヨク 役所の燭火。〔謝承後漢書〕巴祇爲二揚州刺史一、與レ客暗飮、不レ然二官燭一。〔竹坡詩話〕李京兆諸父中有二一人一、極廉介、一日有二家問一、卽令レ滅二官燭一、取二私燭一閱レ書、閱畢、命レ秉二官燭一如レ初。

【官職】178 クヮンシヨク ㊀公の職務。官事。公職。〔周禮、天官、大宰〕以二八灋一治二官府一、云云、二曰、官職、以辨二邦治一。〔注〕官職、謂二六官之職一。〔孫詒讓正義〕職者主領之言、卽敍官注云、各有レ所レ職、而百事擧也、凡三百六十職、通謂二之官職一。〔左氏、襄、三十一〕故能守二其官職一。〔孟子、萬章下〕孔子當レ仕有二官職一、而以二其官一召レ之也。〔史記、周紀〕以續二周公之官職一。〔荀子、富國〕少二人徒一省二官職一。〔呂覽、審分〕官職煩亂悖逆矣。〔管子、法法〕官職法制政教失二於國一也。〔漢書、杜周傳〕官職多レ姦。〔後漢書、章帝紀〕官職耗亂。㊁官位。官秩。〔漢書、孔光傳〕以レ光爲二左將軍一、居二右將軍官職一。〔白居易、聞三楊十二新拜二省郞一遙以レ詩賀詩〕官職聲名俱入レ手、近來詩客似レ君稀。

【官臣】179 クヮンシン 役に就いてゐる官。〔墨子、明鬼下〕觀辜曰、鮑幼弱在二荷繈之中一、鮑何與識焉、官臣觀辜特爲レ之。

【官參】180 クヮンシン 清代、人參採取者から稅として取つた人參。〔清會典、工部〕順治六年題准、王貝勒貝子公等採二取官參一。

【官紳】181 クヮンシン 官吏と紳士。〔清會典事例、戸部、釐稅、禁例〕是贍レ軍之擧、轉爲二病レ民之事一、亟應下嚴二定章程一、以淸中弊竇上、著二各省督撫帶兵大員一、將二委辦勸捐抽釐各官紳職名一、造レ冊報レ部、以憑查覈。〔福惠全書、雜課部、學租〕皆官紳捐二俸貲一所レ購。

【官紳學商】182 kuan¹ shen¹ hsüeh² shang¹ 官吏・紳士・學徒・商人を總稱する語。

【官紳兼委】183 クヮンシンケンヰ 清代、賦稅を徵集するとき、官廳から委員を派して其の地方の紳士に委囑し、相協力して徵收すること。〔清國行政法、財務行政、收入、賦稅、釐金〕一局釐務兼二委官紳一協同辦理者、是爲二兼委一云云、然歷二考別例一、乃見二官紳兼委一、乃似レ不レ在二禁限一。

【官箴】184 クヮンシン ㊀百官が王を戒める爲に作つた辭。〔左氏、襄、四〕昔周辛甲之爲二大史一也、命二百官一、官二箴王闕一。〔注〕使下百官各爲二箴辭一戒中王過上。〔疏〕大史號二令百官一、每官各爲二箴辭一、虞人掌レ獵、故以レ獵爲レ箴也、漢成帝時、揚雄愛二虞箴一、遂依放レ之、作二十二州二十五官箴一、後亡二失九篇一、後漢崔駰、駰子瑗、瑗子寔、世補二其缺一、及二臨邑侯劉騊駼大傅胡廣一、各有レ所レ增、凡四十八篇、廣乃次而題レ之、置曰二百官箴一、皆倣二此虞箴一爲レ之。㊁官吏の戒め。官規。〔四庫提要、史、職官類〕今所二採錄一、大抵唐宋以來一曹一司之舊事、與二儆戒訓誥之詞一、今釐爲二官制官箴二子目一、亦足下以稽中考掌故激二勸官一方上。〔福惠全書、編審部、編審餘論〕穢跡彰聞、官箴大玷。㊂書名。㋑宋、呂本中撰。一卷。官吏の戒めを書いたもの。〔四庫提要、史、職官類〕。㋺一卷。明、宣宗章皇帝撰。〔四庫提要、史、職官類存目〕。

【官親】185 kuan¹ ch'in¹ 官吏の親戚。

【官人】186 クヮンジン ㊀官吏。〔左氏、哀、三〕官人肅給。〔荀子、榮辱〕官人百吏之所三以取二祿秩一也。〔後漢書、和帝紀〕惟官人不レ得二於上一。〔韓愈、試大理評事王君墓誌銘〕一女怜レ之、必嫁二官人一、不三以與二凡子一。㊁喉舌の官能を掌るもの。又、其の役目にある人。〔荀子、君子〕足能行、待二相者一然後進、口能言、待二官人一然後詔。〔注〕官人、掌二喉舌之官一者。㊂人を呼ぶに副へる敬語。〔通俗編、稱謂、官人〕按、唐時惟有レ官者、方得レ稱二官人一、宋乃不レ然、若二周密武林舊事所レ載、金四官人以レ

棋著、李大官人以㆓書會㆒著、陳三官人以㆓演史㆒著、喬七官人以㆓說藥㆒著、鄧四官人以㆓唱賺㆒著、戴官人以㆓捕蛇㆒著、吳自牧夢梁錄、又有㆓徐官人幞頭鋪・崔官人扇面鋪・張官人文籍鋪・傅官人刷牙鋪㆒、當時殆無㆘不㆓官人㆒者㆖矣。〔日知錄、雜論、官人〕南人稱㆓士人㆒爲㆓官人㆒、云云、明制、郡王府自㆓鎭國將軍㆒而下、稱呼止曰㆓官人㆒。〔陔餘叢考、官人〕奴僕稱㆓主及尊長㆒、呼㆓卑幼㆒、皆曰㆓某官人㆒。❹妻が夫をいふ語。〔琵琶記、南浦囑別〕官人雲情雨意。❺人を官吏に任ずる。〔書、皐陶謨〕知㆑人則哲、能官㆑人。〔詩、大雅、棫樸序〕棫樸、文王能官㆑人也。〔宋書、顏延之傳〕古者官㆑人以㆑才。❻山名。江西省寧都縣。麓に泉有湖がある。景色奇絶、小桃源といふ。❼新書の篇名。

〔官人解〕187（クワンジンカイ） 逸周書の篇名。

【官帥】188（クワンスイ） 將帥。〔左思、吳都賦〕坐㆓組甲㆒、建㆓祀姑㆒、命㆓官帥㆒而擁㆑鐸、將㆔校㆓獵乎具區㆒。

【官正】189（クワンセイ） 長官。〔國語、楚語上〕唯其以㆓公侯㆒爲㆓官正㆒。〔注〕正、長也。〔國語、周語中〕官正莅㆑事、上卿監㆑之。

【官生】190（クワンセイ） 高級官員の子弟の鄕試に應ずるもの。官學の學生。〔明史、選擧志一〕明初因㆓前代任子之制㆒、文官一品至㆓七品㆒、皆得㆘廕㆓一子㆒、以世㆗其祿㆖、後乃漸爲㆓限制㆒、在京三品以上、方得㆑請㆑廕、謂㆓之官生㆒、出㆑自㆓特恩㆒者、不㆑限㆓官品㆒、謂㆓之恩生㆒、或卽與㆓職事㆒、或送㆑監讀書、官生必三品京官。

〔官生子〕191 kuan¹ shêng¹ tzŭ³ 正當の夫婦の閒に生れた子。私生子(**8**－**24913**··321)の對。

【官成】192（クワンセイ） ❶役所の事務取扱ひの規則。先例。一說に、官府の仕事の終に、其の品數法式と簿書とを照らし合はせること。〔周禮、天官、大宰〕以㆓八灋㆒治㆓官府㆒、云云、五曰、官成、以經㆓邦治㆒。〔注〕官成、謂㆓官府之成事品式㆒也。小宰職曰、以㆓官府之八成㆒經㆓邦治㆒。〔孫詒讓正義〕云㆘官成謂㆓官府之成事品式㆒也㆖者、謂㆘各官府所㆑掌之事已成、則案㆓其簿書文字㆒、考㆗其品數法式㆖、卽治會之事、云云、賈疏乃謂、官自有㆓成事品式㆒、依㆑舊行㆑之、則是有司循㆓行故事㆒、與㆓官常㆒殆無㆓區別㆒、經注之義、皆不㆑如㆑是矣。❷官吏となつて年久しいもの。宦成(**3**－**7138**··24)に同じ。〔鄧析子、轉辭〕患生㆓於官成㆒、病始㆓於少瘳㆒、禍生㆓於懈慢㆒、孝衰㆓於妻子㆒、此四者、愼㆑終如㆑始也。

【官制】193（クワンセイ） 官府の制度。官廳の組織・權限及び官吏の配置・權限等を規定した法則。〔管子、乘馬〕四鄕、命㆑之曰㆑方、官制也。〔晉書、文帝紀〕帝奏司空荀顗定㆓禮儀㆒、中護軍賈充正㆓法律㆒、尙書僕射裴秀議㆓官制㆒。〔文獻通考、職官考、官制總序〕按、陶唐氏以前之官所㆑治者天事也、云云、三代官制至㆑周而尤詳。

【官政】194（クワンセイ） ❶政治をいふ。〔禮、曲禮上〕五十曰㆑艾、服㆓官政㆒。❷夢溪筆談の篇名。

【官聲】195 kuan¹ shêng¹ 官吏の勤め向きに對する評判。

【官稅】196（クワンゼイ） 官の收める租稅。〔穀梁、哀、十二、古者公田什一、用㆓田賦㆒非㆑正也、注〕古者五口之家受㆓田百畝㆒爲㆑官、田十畝是爲㆑私、得㆓其什㆒、而官稅㆓其一㆒、故曰㆓什一㆒。

【官責】197（クワンセキ） 官吏としての責任。〔蜀志、郤正傳〕釋㆓彼官責㆒、慰㆓此素飧㆒。

【官籍】198（クワンセキ） 官府の帳簿。又、それに登記すること。〔元史、廉希憲傳〕發㆘沙市倉粟之不㆑入㆓官籍㆒者二十萬斛㆖、以賑㆓公安之饑㆒。

【官設】199（クワンセツ） 政府が設立すること。又、其のもの。

【官占】200（クワンセン） 官府で行ふト占。〔書、大禹謨〕官占惟先蔽㆑志、昆命㆓于元龜㆒。〔傳〕帝王立㆓卜占之官㆒、故曰㆓官占㆒。

【官船】201（クワンセン） 政府の船。御用船。〔夢溪筆談、官政二〕官船至㆓七百石㆒、私船受㆓米八百餘囊㆒、囊二石。〔清國行政法汎論、外務部、榷算司〕專掌㆓關稅・官船・國債・貨幣郵便㆒。

【官撰】202（クワンセン） 政府で撰述した文書。〔四庫提要、史、政書類存目〕至正條格二十三卷、元順帝時官撰。

【官線】203（クワンセン） 官有、國有の電線、又は鐵道。

【官選】204（クワンセン） 政府で選り拔く。

〔官選辯護人〕205（クワンセンベンゴニン） 裁判長の選任する辯護人。

【官錢】206（クワンセン） 官府の錢。官布。〔漢書、韓延壽傳〕官錢放散百餘萬。〔後漢書、樊儵傳〕先㆑是、河南縣亡㆓失官錢㆒。

〔官錢局〕207 kuan¹ ch'ien² chü² 政府の錢を取扱ふ特殊の役所。官銀號。

【官租】208（クワンソ） 租稅。〔韓愈、縣齋有㆑懷詩〕官租日輸納、村酒時邀迓。〔元史、武宗紀一〕官租于㆓九月㆒先輸㆓三分之一㆒。

〔官租地〕209 kuan¹ tsu¹ ti⁴ 所有權を爭つて訴訟問題となつた土地を、裁判所で其の何れにも屬せぬものと認め、沒收して第三者に貸與したもの。

〔官租私券之委積〕210（クワンソシケンノヰシ） 官に納める租稅や私の借金證文が多くたまること。委積（シキ）はつみたくはへる意。〔柳宗元、鈷鉧潭記〕不㆑勝㆓官租私券之委積㆒。

【官息】211 kuan¹ hsi² 優先配當。

【官族】212（クワンゾク） ❶世襲の職に因つて賜はつた族。族は姓氏。春秋、晉の士氏・中行氏の類。〔左氏、隱、八〕官有㆓世功㆒、則有㆓官族㆒。〔注〕謂㆘取㆓其舊官舊邑之稱㆒以爲㆖族、皆稟㆓之時君㆒也。〔會箋〕取㆓舊官㆒爲㆑族、如㆓晉士氏・中行氏之類㆒。❷官吏としての家柄。〔晉書、索靖傳〕累世官族。❸多くの官吏。〔逸周書、程典解〕工不㆓族居㆒、不㆑足㆔以給㆓官族㆒。

【官粟】213（クワンゾク） ❶政府の穀類。官府の米。〔詩、小雅、甫田、我取㆓其陳㆒、疏〕紓㆓出官粟之蓄積久滯㆒。〔宋史、韓億傳〕益州歲出㆓官粟六萬石㆒。❷扶持。祿米。〔蘇軾、和㆓叔盎畫馬㆒次韻詩〕駑駘飽㆓官粟㆒、未㆑受㆓一洗空㆒。

【官賊】214（クワンゾク） 上府に反抗する賊。〔晉書、陶侃傳〕用㆓官物㆒討㆓官賊㆒、但須㆔列上有㆓本末㆒耳。

【官屬】215（クワンゾク） 正官の屬吏。屬官。又、官吏のともがら。官徒。〔周禮、天官、大宰〕以㆓八灋㆒治㆓官府㆒、一曰官屬、以擧㆓邦治㆒。〔注〕官屬、謂㆓六官其屬各六十㆒。〔左氏、襄、十三〕率㆓其卒乘官屬㆒。〔商子、墾令〕官屬少則民不㆑勞。〔史記、張叔傳〕官屬以爲㆓長者㆒。〔漢書、鄭當時傳〕每㆑朝候㆓上閒㆒說、未㆓嘗不㆑言㆓天下長者㆒、其推㆓轂士及官屬丞史㆒、誠有㆑味㆓其言㆒也。

【官村】216（クワンソン） 鎭の名。❶江蘇省宜興縣の西北。滆湖に近く、商業地。❷江西省贛縣の東北。

【官馱】217（クワンダ） 官用の馱馬。〔東鑑、五十二〕弘長三年六月二十三日、御教書云、御上洛間百姓等所㆑役事、段別百文、五町別官馱一疋、夫二人可㆓充行㆒。

【官體】218 kuan¹ t'i³ 官吏としての體面。

【官臺】219（クワンダイ） 製鹽場の名。山東省壽光縣の東北。清代、鹽課大使を置く。〔齊乘〕官臺、在㆓壽光北七十里㆒、有㆓鹽官㆒。〔壽光縣志〕官臺場、在㆓縣北八十里㆒、產㆑鹽。

【官塘】220（クワンタウ） 橋の名。湖北省京山縣、余家河の上にある。

〔官塘大道〕221 kuan¹ t'ang² ta⁴ tao⁴ 國道。

【官當】222（クワンタウ） ❶官吏が罪を犯した場合、其の官と罪とを相殺して官等を下げること。官當減贖法を見よ。〔唐律、名例、以官當徒〕諸犯㆓私罪㆒、以㆑官當㆑徒。❷官許を得て開業する質店。〔福惠全書、雜課部、當稅〕現在納㆑稅者、卽爲㆓官當㆒。

〔官當契〕223 kuan¹ tang¹ ch'i⁴ 官署で印刷發賣する契約書を用ひて契約し、所定の稅を納めて當該官署の官印を押捺した抵當權設定證書。

〔官當減贖法〕224（クワンタウゲンショクハフ） 官吏の罪を、其の官と相殺しても猶餘罪ある時、或は減等し或は收贖させる法。〔唐律、名例、姦盜略人受財、疏議〕若會㆑降有㆓餘罪㆒者、聽㆑從㆓官當減贖法㆒。

【官道】225（クワンダウ） ❶政府で開鑿し、又は修繕する道路。國道。官路。〔白居易、得㆓微子到㆑官後書㆒備知㆓通州之事㆒詩〕蟲蛇白晝攔㆓官道㆒。〔文天祥、徐州道中詩〕彭城古官道、日中十馬馳。❷偏裨校列等の將士の分職と、營陳開闔等の行軍陳營の地利。〔孫子、始計〕法者曲制・官道・主用也。〔集注〕杜牧曰、官者、偏裨校列各有㆓官司㆒也、道者、營陳開闔各有㆓道徑㆒也。

【官宅】226（クワンタク） 官吏のために、官費で建てた家。官舍。

【官達】227（クワンタツ） 宦達(**3**－**7138**··27)に同じ。

【官搨】228（クワンタフ） 官で寫し取つた拓本。〔歷代名畫記〕古時好㆓搨畫㆒、十得㆓七八㆒、不㆑失㆓神采筆蹤㆒、亦有㆓御府搨本㆒、謂㆓之官搨㆒。

【官炭】229（クワンタン） 宋代、貧民を救濟する爲に、官で安く賣る炭。〔事物紀原、利源調度部、官炭〕宋朝

會要曰、大中祥符五年十二月六日、帝謂二王旦一曰、民間乏レ炭、秤二百文、令三三司出二炭四十萬一、減レ價鬻二與貧民一、非三惟抑二高價一、且濟二人民一、六年、遂置以備レ濟レ民。

【官單】230 kuan^1 tan^1 官衙の紙札。

【官斷】231 クヮンダン 官府の決斷。〔韓非子、飾邪〕當下燕之方明二奉法一、審二官斷一之時上、東縣二齊國一、南盡二中山之地一。〔翼毳〕言、奉レ法者審二官都之常斷一之時。

【官地】232 クヮンチ 官有地。〔後漢書、劉盆子傳〕賜二滎陽均輸官地一、以爲二列肆一。

〔官地紅利〕233 kuan^1 ti^4 hung^2 li^4 官民合資組織で官有地の礦物を採掘する時、官に納むべき利益配當金。

【官治】234 クヮンチ ㊀官府のまつりごと。政治。〔周禮、天官、大宰〕以二八灋一治二官府一、云云、三曰、官聯、以會二官治一。〔韓非子、解老〕國家必有二文武一、官治必有二賞罰一。㊁國家が、官廳をして直接に行政をなさしめること。

〔官治行政〕235 クヮンチギャウセイ 地方行政の一。自治の反對で、法令に從つて國政の統一を保ち、又、自治行政を監督する。

【官鑄】236 クヮンチウ 中央政府で錢を鑄造すること。又、其の錢。〔唐書、食貨志四〕官鑄所レ入無レ幾而工費多、宜レ縱二民鑄一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕須レ要二官鑄制錢一。

【官竹】237 クヮンチク 園の名。安徽省亳縣の東北。〔水經、睢水注〕睢水又東南流、歷二于竹圃一、水次二綠竹蔭渚一、菁菁實望、世人言二梁王竹園一。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、亳州〕官竹園、在二州東北一、梁中大通四年、元樹鎭二譙城一、爲二魏將樊子鵠等所レ攻、梁將二羊侃一赴救、至二官竹一而樹已敗、遂還、水經注、睢水自二睢陽一東南流、歷二竹圃一、水次二綠竹蔭渚一、菁菁彌望、世謂二之梁王竹園一、官收二其利一、因曰二官竹一。

【官秩】238 クヮンチツ 官吏の俸給。官祿。官位をいふ。〔荀子、王霸〕重二其官秩一。〔史記、秦紀〕遂復二三人官秩一如レ故。〔論衡、問孔〕積二聚貨財一、擅相二官秩一。

【官茶】239 クヮンチャ 政府で賣る茶。〔歐陽脩、論二茶法一奏狀〕往時官茶容二民入雜一、故茶多而賤、徧二行天下一、今民自買賣、須レ要二眞茶一。

【官長】240 クヮンチャウ 官職を主宰するもの。又、官吏の長たるもの。長官。〔老子、二十八〕聖人用レ之則爲二官長一。〔管子、五輔〕官長任レ事守レ職。〔墨子、尚賢中〕賢者擧而上レ之、富而貴レ之、以爲二官長一。〔漢書、武帝紀〕二千石官長、紀二綱人倫一。〔通俗編、仕進、官長〕愼子、威德篇、立二國君一以爲レ國、非三立レ國以爲二國君一也、立二官長一以爲レ官、非三立レ官以爲二官長一也。

〔爲二官長一拂レ鬚〕241 クヮンチャウノタメニヒゲヲハラフ 長官の爲にその鬚についたあつものつゆを拂つてやる。長官に媚びへつらふ喩。丁謂は寇準の門から出て、參政の官にまでなつたが、準に事へては甚だ謹み、或る會食の際、羹が準の鬚を汙すと、謂は起つて之を拂つてやつた。準は笑つて、君は參政で國の大臣だのに官長の爲に鬚を拂ふか、と言つたので、謂は大いに愧ぢ入つたといふ故事。〔宋史、寇準傳〕初丁謂出二準門一、至二參政一、事レ準甚謹、嘗會二食中書一、羹汙二準鬚一、謂起徐拂レ之、準笑曰、參政、國之大臣、乃爲二官長一拂レ鬚耶、謂甚愧レ之。

【官廳】242 クヮンチャウ ㊀役所。官衙。官署。〔孔平仲、冬曉詩〕城上猶吹レ角、官廳已罷レ更。㊁清制、步軍統領衙門に屬する駐在所。北京內城に八十一箇所を置いて治安の維持に任じた。〔清會典事例、步軍統領、巡夜〕其各官廳辦事人等、如査有下把二持地面一、徇レ情受レ賄、容二留盜匪一、暗通二信息一、藉端訛詐等弊上、刻卽解二交刑部一治レ罪。㊂屬吏が長官に會見する時の休息所をいふ。

【官場】243 クヮンヂャウ ㊀役所。又、役人の社會。官界。〔杜甫、寄二張十二山人彪一詩〕官場羅二鎭磧一。〔杜牧、冬至日寄二小姪阿宣一詩〕朝廷用二文治一、大開二官職場一。㊁二人で毬を蹴る遊戲。一人でするのを白打といふ。〔琵琶記、蔡公逼試〕官場自レ小馳レ名。〔稱謂錄、雜戲、官場〕表異錄、白打、蹴踘戲也、二人對踢爲二白打一、三人角踢爲二官場一。㊂官立の市場。〔宋史、食貨志上三〕嶺外唯產二苧麻一、許下令二折數一、仍聽二織布一、赴二官場一博市上。

〔官場現形記〕244 クヮンヂャウゲンケイキ 清、李寶嘉撰。其の書の體例は儒林外史に仿ひ、官吏の生活を描寫したもの。臆說が多くて、實錄とはいひがたい。

〔官場維新記〕244′ クヮンヂャウヰシンキ 晚淸の小說。十六回あり。撰者不明。官吏の腐敗を追及したもの。一に新黨升官發財記、或は新黨發財記といふ。

【官中】245 kuan^1 chung^1 在官中。在任中。

〔官中厠〕246 kuan^1 chung^1 ssŭ^4 共同便所。

【官儲】247 クヮンチョ 官府のたくはへ。〔史記、平準書〕縣治二官儲一、設二供具一。

【官女】248 クヮンヂョ クヮンニョ 宮中に奉仕する女。女官。宮女。宦女（3－7138‥30）の㊀に同じ。

【官徵】249 クヮンチョウ 政府の召出し。政府の取立。〔舊唐書、狄仁傑傳〕立二精舍一、化誘倍急、切二於官徵一。

【官廷】250 クヮンテイ ㊀朝廷。役所。官廳。〔後漢書、李通傳〕爲レ人嚴毅、居レ家如二官廷一。㊁太政官の事務所。

【官邸】251 クヮンテイ 官で建てて官吏に與へるやしき。官舍。官第。〔後漢書、南匈奴傳〕所在郡縣、爲設二官邸一、賞賜待二遇之一。〔宋史、宋琪傳〕願易二官邸一。

【官亭】252 クヮンテイ ㊀官の宿所。〔後漢書、章帝紀〕聽三過二止官亭一、無レ雇二舍宿一。㊁鎭の名。㋑河北省鉅鹿縣の北。㋺河南省長葛縣の西北。一に官停に作る。㋩江蘇省淮陰縣の西北。舊名、崇河集。㋥安徽省合肥縣の西。

【官第】253 クヮンテイ 官邸に同じ。〔宋史、李用和傳〕初未レ有二居第一、詔寓二館芳林園一、用和固辭、又假以二惠寧坊之官第一。

【官程】254 クヮンテイ 官吏が赴任する日程。宦程。〔高叔嗣、詩〕宦味同二雞肋一、官程任二馬蹄一。

【官帖】255 クヮンテフ ㊀官刻の法帖。〔齊東野語〕晉人評レ書、以二索靖一比二逸少一、近世惟淳化官帖中有二靖書一。㊁清代、戶部から商人に發給した營業許可證。〔六部成語、戶部、官帖、注解〕戶部發二給各行一、准二其營業一之票也。㊂kuan^1 t'ieh^3 吉林・黑龍二省の機關銀行から發行した兌換紙幣。

【官牒】256 クヮンテフ 官吏の姓名を記した札。職員錄。〔後漢書、李固傳〕列在二官牒一者凡四十九人。〔鮑照、謝二秣陵令一表〕遘レ命逢レ天、得レ汙二官牒一。

【官典】257 クヮンテン 朝廷の典制。〔元史、禮樂志一〕（世祖至元七年）冬十有一月戊寅、劉秉忠等奏請レ建二官典朝儀一。

【官田】258 クヮンデン ㊀公家の耕す田。官に屬する田。公田。〔周禮、地官、載師〕以二宅田・士田・賈田一、任二近郊之地一、以二官田・牛田・賞田・牧田一、任二遠郊之地一。〔注〕鄭司農云、官田者、公家之所レ耕田。〔晉書、慕容皝載記〕且魏晉雖二道消之世一、猶削二百姓一不レ至二於七八一、特官牛田者、官得二六分一、百姓得二四分一、私牛而官田者、與レ官中分。〔六部成語、戶部、官田、注解〕屬二於官一之田也。㊁役人の受ける田地。〔周禮、地官、載師、官田、注〕玄謂、官田、庶人在レ官者、其家所レ受田也。

【官斗】259 クヮント 政府で用ひる枡。大抵民間使用の枡より一斗に付七八合乃至一升位大きい。〔明會典、斛斗秤尺〕洪武元年、令レ鑄二造鐵斛斗升一、付二戶部一收糧。〔淸會典事例、戶部、權量、升斗斛〕道光三十年奏准、奉天省添二設官斗七百八十七面一。

〔官斗經紀〕260 クヮントケイキ 淸代、官斗並に戶部帖を下附せられて、其の地方に於て穀物類を計量する特權を附與せられた仲買商。

【官度】261 クヮント 官の設けた渡し場。又、城の名。官渡の㊂に同じ。〔後漢書、鄭玄傳、注〕官度、津名也、袁紹與二曹操一相二拒於官度一。〔謝靈運、擬二太子鄴中集一、應瑒詩〕官度厠二一卒一、烏林預艱阻。

【官徒】262 クヮント 官屬。下級の役人。〔管子、七法〕貨上流則官徒毀。〔新書、階級〕人主遇二其大臣一、如レ遇二犬馬一、彼將二犬馬自爲一也、如レ遇二官徒一、彼將二官徒自爲一也。

【官途】263 クヮント 仕官のみち。又、官吏の勤務・地位など。官界。公邊。〔白居易、香爐峯下新卜二山居一草堂初成偶題二東壁一詩〕官途自レ此心長別、世事從レ今口不レ言。

【官渡】264 クヮント ㊀官で船を置いて行人を渡すところ。㊁川の名。河南省境の汴水。滎陽縣より東を官渡水といふ。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、中牟縣〕官渡水、在二縣北中牟臺下一、鴻溝自二滎陽一下分二二渠一、一爲二官渡水一、是也。㊂城の名。河南省中牟縣の東北。漢末、曹操が袁紹を敗つたところ。中牟臺ともいふ。〔魏志、劉表傳〕（曹操）與二袁紹一方相二持於官渡一。〔水經、渠水注〕曹太祖

壘北有二高臺一、謂二之官渡臺一、渡在二中牟一、故世又謂二之中牟臺一、建安五年、袁紹進臨二官渡一、起二土山地道一以逼レ壘、公亦起二高臺一以捍レ之、卽中牟臺也。㊃堡の名。湖北省竹山縣の南、官渡河の西岸。〔隕陽府志〕堡在二縣南百二十里一、明成化閒、設二千戸所一戍守、今廢。

【官渡場】265 クワントチヤウ 地名。㊀四川省巫山縣の南。㊁貴州省鰼水縣。

〔官渡柳〕266 クワントノヤナギ 曹操と袁紹とが戰つた官渡城のほとりに魏の文帝が植ゑた柳。官渡の㊂を見よ。〔魏文帝、柳賦序〕昔建安五年、上與二袁紹一戰二於官渡一、時余始植二斯柳一、自レ彼迄レ今十有五載矣、左右僕御已多レ亡、感レ物傷懷、乃作二斯賦一。〔庾信、奉三報二寄洛州一詩〕黎陽水稍淥、官渡柳應レ春。

【官都】267 クワント 都を治める役人。〔管子、問〕問、五官有二度制一、官都其有二常斷一。〔纂詁〕五官、五屬大夫也、官都、其屬官二都邑一者。

【官奴】268 クワンド ㊀官の奴隸。官奴婢を見よ。〔漢書、淮南王安傳〕於レ是王鋭欲レ發、乃令下官奴入二宮中一、作中皇帝璽・丞相御史大夫將軍吏中二千石都官令丞印、及旁近郡太守都尉印・漢使節法冠上。㊁明代の官婢。〔輟耕錄、官奴〕今以レ奴爲二官奴一、卽官婢也、周禮、天官、酒人、奚三百人、注、今之侍史、官婢。

【官奴帖】269 クワンドテフ 晉の王羲之の書いた法帖。一名、玉潤帖。〔畫禪室隨筆〕吾書倣二黃庭經及鍾元常一、比游二嘉興一、又見二右軍官奴帖于金陵一、自レ此漸有二小得一。〔書畫舫〕官奴帖乃逸少名筆、歷二歲千祀一、紙墨完好、得而藏レ之、不レ假二南面百城一矣。

〔官奴婢〕270 クワンノドヒ 罪により捕はれて官の奴隸となつた男女。〔漢書、文帝紀〕五月赦二天下一、免二官奴婢一爲二庶人一、行二幸雍一。

【官帑】271 クワンド 政府の金。〔盧琦、惠安道中詩〕官帑需二新賦一、公田索二舊租一。

【官等】272 クワントウ ㊀官職の等級。〔六韜、文韜、文師〕太公曰、釣有二三權一、祿等以權、死等以權、官等以權。〔淸國行政法汎論、吏部、考功淸吏司〕專掌三審二定文官功過・官等昇降・罰俸免官等事一。㊁役所の秤。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕自將二官等一稱準。

【官統】273 クワントウ 仕官の筋道。官職の性質上の系統。〔魏志、夏侯尚傳〕夫官統不レ一、則職業不レ脩。

【官童】274 クワンドウ 官僮に同じ。

【官僮】275 クワンドウ 官廳の給仕。官童。〔馬汝驥、詩〕陰闔擊二官僮一。

【官年】276 クワンネン ㊀科擧に應ずる者が實際より增減して屆ける年齡。〔容齋四筆、實年官年〕士大夫敍二官閥一、有二所謂實年官年兩說一、前レ此未三嘗見二於官文書一、大抵布衣應レ擧、必減二歲數一、蓋少壯者欲レ藉レ此爲レ求二昏地一、不幸潦二倒場屋一、勉從二特恩一、則年未二六十一始許二入仕一、不レ得レ不三豫爲二之圖一、至二公卿任子一、欲三其早列二仕籍一、或正在二童孺一、故率增二擡庚甲一、有下至二數歲一者上。㊁kuan^1 nien^2 年末の三十日に官吏が相互に廻禮すること。

【官能】277 クワンノウ ㊀官吏の才能。〔禮、禮器〕人官有レ能也、物曲有レ利也。〔疏〕人官有レ能也者、人居二其官一、各有レ所レ能、若三司徒奉レ牛、司馬奉レ羊、及庖人治レ庖、祝治二尊俎一、是也。〔韓詩外傳、六〕考二其事業一、較二其官能一。㊁才能ある者を官に任ずる。〔孔子家語、王言解〕賢政者、莫レ大二乎官一レ能。㊂生物が具有する生理上の能力。五官の作用の類。今、生物の感覺機能、視覺・聽覺・嗅覺・味覺・觸覺等を官能といふ。

【官馬】278 クワンバ 官より給する馬。〔六部成語、兵部、官馬、注解〕由レ官發給之馬。

〔官馬大路〕279 kuan^1 ma^3 ta^4 lu^4 國道。

【官梅】280 クワンバイ 官廳に植ゑた梅。〔杜甫、和下裴迪登二蜀州東亭一送レ客逢二早梅一相憶見上レ寄詩〕東閣官梅動二詩興一、還如二何遜在二揚州一。〔圖繪寶鑑〕丁野堂住二廬山清虛觀一、善畫二梅竹一、理宗召見問曰、卿所レ畫者、恐非二官梅一、對曰、臣所レ見者、江路野梅耳。

【官媒】281 クワンバイ 地方官に仕へる女役をいふ。娼妓の廢業して正常の生活に入らうとする者を、地方官がこれを慈善堂に送り、適當な配偶者を擇んで嫁せしめる制度があつたが、その世話を官の女役にさせたので、地方官のもとにある女役を官媒といふやうになつた。娼妓の世話のほか、輕罪の女犯の取締りや、女犯審問の際の護送などを掌る。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、婦人犯罪〕斬絞監候婦女、秋審解勘經過地方、倶派二撥官媒一伴送。

〔官媒婆〕282 クワンバイバ 官媒を掌る老婆。〔琵琶記、奉レ旨招レ壻〕喚二箇官媒婆一來。

【官方】283 クワンパウ 官吏としてその職務を掌る方法。又、官吏の守る可き規律・禮法。官紀。〔左氏、昭、二十九〕夫物物有二其官一、官修二其方一。〔疏〕每物各有二其官一、主二掌之一也、其人居二此官一者、修二其爲レ官方術一。〔晉書、張華傳〕善政者必審二官方控帶之宜一。〔任昉、爲二范尚書一讓二吏部封侯一表〕齊季陵遲、官方淆亂。

【官舫】284 クワンパウ 政府所有のふね。〔高啓、魏使君見レ示二呂忠肅公舊贈詩一因賦〕知非二山澤儒一、期是廊廟客、磯石繫二官舫一、猿叫月初夕。

【官袍】285 クワンパウ 官給の衣服。官吏の用ひる上衣。

【官報】286 クワンパウ ㊀衙門の通報者。〔燕子箋、轟報〕是官報上一黨的、串二儞這狗頭一。㊁㋑政府から發行する日刊の公報。㋺役所又は官吏が公務のために發する電報。

〔官報局〕287 クワンパウキヨク 內閣に屬し、官報の㊁㋑に關する事務を司る役所。

【官硼】288 クワンパウ 硼砂(**8－24254‥4**)の異名。

【官房】289 クワンバウ ㊀公務をとり行ふへや。〔湧幢小品〕自以二物力一窴二官房一。㊁役所で、長官に直屬し、機密の事務を取扱ふ所。㊂kuan^1 fang^2 ㋑役所で、小吏の住む所。㋺官府に沒收せられた家屋。

【官帽】290 クワンバウ 官吏の制帽。〔楊基、詩〕烏紗官帽半籠頭、紫竹漁竿長在レ手。

【官謗】291 クワンバウ 官職を怠るといふそしり。〔左氏、莊、二十二〕敢辱二高位一、以速二官謗一。〔風俗通、皇霸〕敢辱二高位一、以速二官謗一。〔王安石、辭二免使相一判二江寧府一表〕聖慈雖二或優容一、官謗何由解免。〔秦觀、辭二史官一表〕以二蕞爾不レ勝レ任之才一、處二灼然非レ所レ居之地一、必招二官謗一、上累二恩私一。

【官伯】292 クワンパク 官吏と諸侯。〔書、呂刑〕官伯族姓。〔蔡傳〕官、典獄之官也、伯、諸侯也。

【官閥】293 クワンバツ 官位の等級と閥閱。〔後漢書、鄭玄傳〕仲尼之門考以二四科一、回賜之徒不レ稱二官閥一。〔唐書、張說傳〕儒以レ道相高、不下以二官閥一爲中先後上。

【官法】294 クワンパフ 官職上の法律。官吏として主る職務上に存する法度。官灋。〔管子、七法〕百匿傷二上威一、姦吏傷二官法一。〔商子、農戰〕善爲レ國者官法明。〔魏志、袁渙傳〕以二太倉穀一者官法也、以二垣下穀一者親舊也。

【官灋】295 クワンパフ 官法に同じ。〔周禮、天官、大宰〕以二八灋一治二官府一、云云、六曰官灋、以正二邦治一。〔注〕官灋、謂二職所レ主之法度一。

【官板】296 クワンパン ㊀政府刊行の書籍。又、官本といふ。官版。宋代から盛に行はれ、中央官本には國子監本・崇文院本・祕書監本・德壽殿本・左廊司局本などが有る外に、地方司庫軍郡府縣書院刻本三十餘種がある。金は平水局、元は興文署・廣成局等を設けて印行を掌り、明には南京・北京兩國子監刊行の監本がある。淸代には、武英殿の殿本の外、曾國藩が江寧に創立した官書局の局本がある。我が國では昌平坂學問所で刊行した書籍を官板といふ。〔淸會典、禮部、貢擧〕出題書籍、令三該地方官預二備正文官板一。㊁官板錢に同じ。

〔官板兒〕297 kuan^1 pan^3 êrh 官板錢に同じ。

〔官板錢〕298 kuan^1 pan^3 ch‘ien^2 私錢に對し、官で鑄造した銅錢。官板兒。

【官版】299 クワンパン 官板の㊀に同じ。

【官班】300 クワンパン 官職の位次。〔白居易、代書詩一百韻寄二微之一〕官班分二內外一、遊處遂參差。

【官般】301 クワンパン 宋代の鹽の般轉の法。般は運。官立の轉般倉を適當の地に建てて鹽を運般し販賣することで、淮・浙・京東・閩上及び兩廣地方に行はれた。〔文獻通考、征榷考、鹽鐵〕閩廣之鹽、自二祖宗一以來、漕司官般官賣、云云、二廣之鹽皆屬二於漕司一、云云、官般官鈔亦屢有二更革一。

【官飯】302 クワンパン 官給の食事。官から給する賄。〔文天祥、中秋詩〕舊奪二宮袍一空獨步、新食二官飯一飽二孤眠一。〔文天祥、自歎詩〕官飯身如レ寄。

【官婢】303 クワンピ 罪のために捕はれて官の奴隸となつた女。〔史記、太倉公傳〕妾願入レ身爲二官婢一、

以贖二父刑罪一。〔漢書、刑法志〕太倉令淳于公有レ罪當レ刑、其小女緹縈上書、妾願下沒入爲二官婢一以贖上レ父。

【官費】304 クワンピ 政府の費用。官から出す入費。〔戰國、魏策〕羣臣多下諫二太子一者上曰、雪甚、如レ此而喪行、民必甚病レ之、官費又恐レ不レ給、請弛レ期更レ日。〔呂覽、開春〕官費又恐レ不レ給。

〖官費生〗305 クワンピセイ 官費で修學する學生。

【官品】306 クワンピン 官職の分類、及び官位の階級。〔沈約、奏二彈王源一文〕源官品應二黄紙一、臣輒奉二白簡一以聞。

〖官品邑號〗307 クワンピンイフガウ 官位の階級と封爵の稱號。〔唐律、名律、婦人官品邑號〕諸婦人有二官品及邑號一、犯レ罪者各依二其品一、從二議請減贖當免之律一、不レ得レ蔭二親屬一。〔疏議〕婦人有二官品一者、依レ令妃及夫人郡縣鄉君等是也、邑號者、國郡縣鄉等名號、是也。

【官布】308 クワンプ ❶官錢。布は泉布、ぜに。〔史記、平準書〕初大農筦二鹽鐵官布一多。〔注〕索隱曰、布、謂二泉布一。❷kuan¹ pu⁴ 染色した布。土布に對していふ。

【官府】309 クワンプ ❶朝廷。政府。役所。〔周禮、天官、大宰〕一曰治典、以經二邦國一、以治二官府一、以紀二萬民一。〔左氏、昭、十六〕子產弗レ與曰、非二官府之守器一也。〔荀子、彊國〕及二都邑官府一、其百吏肅然。〔韓非子、定法〕憲令著二於官府一、刑罰必二於民心一。〔管子、五輔〕朝廷閒而官府治。〔墨子、號令〕舍二之官府一。〔淮南子、泰族訓〕官府若レ無レ事、朝廷若レ無レ人。〔漢書、王莽傳下〕會二日暮一、官府邸第盡犇亡。〔後漢書、董卓傳〕放レ火燒二宮殿官府一。❷長官の稱。〔唐書、姜謩傳〕後仁杲平、擢二秦州刺史一、人喜曰、不レ意復見二太平官府一。

〖官府馬〗310 クワンプバ 胸部につむじ毛のある馬。〔爾雅、釋畜、回毛在レ膺宜レ乘、注〕樊光云、俗呼二之官府馬一。

【官符】311 クワンプ 朝廷の命令書。書付け。

【官賦】312 クワンプ 租稅。〔管子、國蓄〕百乘之國、官賦二軌符一、乘二四時之朝夕一、御レ之以二輕重之准一。〔司馬札、鋤草怨詩〕亦念二官賦急一、寧知二荷鋤勞一。〔戴昺、禽言詩〕小姑織レ絹未レ落レ機、縣中火急催二官賦一。

【官武】313 クワンブ 朝廷と諸侯。官は朝廷、武は諸侯。

【官服】314 クワンプク 官吏の制服。又、官給の服。

【官物】315 クワンブツ ❶政府の所有する物品。〔吳志、陳表傳〕時有下盜二官物一者上。〔晉書、陶侃母湛氏傳〕爾爲レ吏、以二官物一遺レ我。❷クワンモツ 田租、又は調庸をいふ。〔政事要略〕以二田租一稱二官物一見二此義解文一也。

〖放二散官物一〗316 クワンブツヲハウサンス 官物を管理する官吏が官物を出用して利を圖り、又は祠祀宴會に供する費用を故らに數を多くして利を占めること。此の場合には贓罪を以て論ずる。〔唐律、廐庫、放二散官物一〕諸放二散官物一者、坐レ贓論、物在還レ官、已散用者勿レ徵。〔注〕謂下出二用官物一、有レ所二市作一、及供二祠祀宴會一、剩多之類上。

【官粉】317 クワンプン kuan¹ fen³ 白粉。

【官文】318 クワンブン ❶官文書の略。❷清、滿洲正白旗の人。姓は王佳氏。字は秀峰。諡は文恭。官は湖廣總督。洪楊の役に戰功があつたので、滿洲正白旗に擡入され、文華殿大學士を授けらる。爵は一等果威伯。書室を敦教堂といふ。著に敦教堂詩鈔がある。〔淸史稿、三百九十四〕・〔淸史列傳、四十五〕。

〖官文書〗319 クワンブンシヨ 公務上の書類。官府公署で作成し、又は公證した文書。公文書。官書。

〖官文書印〗320 クワンブンシヨイン 官文書に押す印章。〔唐律、賊盜〕諸盜二官文書印一者、徒二一年。

【官兵】321 クワンペイ 官軍。〔魏志、夏侯淵傳〕救二長離一、則官兵得二與野戰一、可二必虜一也。〔晉書、陶輿傳〕輿曰、此本官兵數經二戰陣一、可レ赦レ之以爲レ用。

【官幣】322 クワンペイ 古の神祇官、嘗ての宮內省式部職から神社に捧げる御幣。官幣社を見よ。

〖官幣使〗323 クワンペイシ 官幣を神社に捧げるために遣はされる使。

〖官幣社〗324 クワンペイシヤ 社格の一。古は神祇官、後には官府で祭る格式の高い神社。古は大社・小社の別があり、大社は祈年祭・月次祭・新嘗祭等には案上の官幣に預かり、全國に凡そ三百四座、小社は祈年祭に案下の官幣に預かり、四百三十三座有つた。その後大・中・小社及び別格官幣社の四種となる。

【官米】325 クワンベイ 貧民救濟のために官の發賣する米穀。〔事物紀原、利源調度部、官米〕宋朝會要曰、天禧元年三月、以二京十四場糶米一、令三毎場日加至二五百石一、今諸倉糶米、疑起レ自レ此。

【官票】326 クワンペウ kuan¹ p'iao⁴ 官府發行の證票。政府發行の手形。又、清代の鈔幣。

【官邊】327 クワンペン 官廳方面。役所向き。

【官辦】328 クワンベン ❶官事を治め掌ること。〔左氏、哀、三〕富父槐至、曰、無レ備而官辦者、猶レ拾レ瀋也。〔注〕瀋、汁也、言、不レ備而責レ辦、不レ可レ得也。〔會箋〕無レ備而官辦、言不レ爲二救レ火之備一、而各自治二己所レ掌之官事一也、辦、是辦具之辦、官辦・官備語例同、官各治二己職一也、杜添二責字一、不レ了。❷政府へのつとめ。租稅をいふ。〔文同、秋日田家詩〕今年且喜輸二官辦一、豆莢繁多粟穗長。❸kuan¹ pan⁴ ㋑官營。㋺官吏から資金を募集して事業を經營すること。

【官捕】329 クワンポ 官から派遣した追捕人。官司遣捕の略。〔唐律、詐僞〕詐二稱官捕一、及詐二追攝人一者、徒一年。

【官簿】330 クワンボ 官府の帳簿。官吏の閱歷功伐等を記したもの。〔漢書、翟方進傳〕官簿皆在二方進之右一。〔注〕簿、謂二伐閱一也。〔漢書、王莽傳上〕請令下天下吏能誦二公戒一者上、以著二官簿一、比二孝經一。〔注〕官簿、言三用レ之得二選擧一也。〔後漢書、安帝紀〕淸白愛レ利、能敕レ身率レ下、防レ姦理レ煩、有下益二於人一者上、無レ拘二官簿一。〔注〕謂受二超遷之一、不レ拘二常牒一也、劉攽曰、案レ文、受當レ作レ將。〔後漢書、百官志序〕故依二其官簿一、粗注二職分一、以爲二百官志一。

【官俸】331 クワンポウ 政府で支給する俸給。官吏の俸給。〔周繇、送三人尉二黔中一詩〕公庭飛二白鳥一、官俸請二丹砂一。〔白居易、書レ事詠レ懷詩〕官俸將二生計一、雖レ貧豈敢嫌。

【官棚】332 クワンポウ 役所で拵へた小屋の類。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕官棚硃盒筆硯。

【官牧】333 クワンボク 役人が政を治めること。又、其の役人。司牧。〔春秋繁露、五行五事〕陽氣爲レ賊、故王者輔以二官牧之事一、然後萬物成熟。

【官沒】334 クワンボツ ❶人民の所有する物品を官に取り上げること。沒收。❷人民の自由を剝奪して、役所の奴隸とすること。

【官本】335 クワンポン ❶官署で印刻した書籍。官板(296)の❶に同じ。〔書斷〕開元十六年、出二二王眞蹟一、其中古本、亦有二是梁隋官本者一。〔法帖譜系〕予集二錄古文一、不下敢輒以二官本一參中入私集上。❷政府出資の資本金。〔唐書、食貨志五〕御史中丞崔從奏、增錢者不レ得レ踰二官本一、其後兩省捉錢官、給レ牒逐レ利、江淮之民、鬻二茶鹽一以撓レ法。

〖官本雜劇〗336 クワンポンザツゲキ 武林舊事に見える官本の雜劇。段數凡て二百八十本。六么といふもの二十本（爭曲・扯欄・教聲・鞭帽・衣籠・廚子・孤奪且・王子高・崔護・骰子・照道・鶯鶯・雙欄哮・趕厥爽・羹湯・大宴・驢精・女生外向・慕道・三偌慕道）、瀛府といふもの七本あり、皆宋の教坊十八調中の大曲。〔武林舊事、官本雜劇段數〕。

【官盆】337 クワンポン kuan¹ p'en² 上等の風呂屋。浴室を一人ごとに區分してある。

【官民】338 クワンミン 政府と人民、又、官廳と民間。〔史記、申公傳〕其治二官民一、皆有二廉節一。〔後漢書、皇甫規傳〕毎レ有二征戰一、鮮レ不三挫二傷官民一。

【官務】339 クワンム ❶太政官の左太史・右太史の稱。又、世々之をつとめた小槻家をいふ。〔職原抄〕中古以來、小槻宿禰爲二一史一、行二官中事一、謂二之官務一。❷官吏の事務。又、官廳內の事務。

【官名】340 クワンメイ ❶官職の名稱。〔漢書、賈誼傳〕定二官名一、興二禮樂一。〔後漢書、隗囂傳〕政令日變、官名月易。❷kuan¹ ming² ㋑戶籍面の名。本名。字又は號に對していふ。㋺官衙の印章。

【官命】341 クワンメイ 政府の命令。公命。〔左氏、襄、二〕官命未レ改。〔會箋〕官命、猶レ云二公命一、謂二號令一也。

【官迷】342 kuan¹ mi² 官吏になることを熱望する。

【官面】343 kuan¹ mien⁴ 官職上の體面。又、官邊。

【官茂】344 クワンモ 官位が進むこと。〔文子、符言〕老子曰、學敗二於官茂一、孝衰二於妻子一、患生二於憂解一、病甚二於且レ癒、故愼レ終如レ始、則無レ敗レ事也。〔纘義〕以レ道制レ氣、則能損レ己奉レ人、雖二官茂一不レ能レ敗二吾之學一、妻子不レ能レ衰二吾之孝一、曷有二憂

解之患、且レ瘉之病一、能愼二厥終一、罔レ有レ所レ失。

【官樣】345 クワンヤウ ㊀美しい模樣。〔黄庭堅、從二張仲謀一乞二蠟梅一詩〕聞君寺後野梅發、香密染成官樣黄。〔王惲、挽二元遺山一詩〕天機飜レ錦餘二官樣一、月戶量レ工吏苦心。㊁kuan^1 yang^4 官僚的な。形式的な。役所風。役人風。鷹揚。

【官樣花】346 クワンヤウクワ 紫薇花（8－27337・・397）の異名。さるすべり。〔陸游、山園草木四絶句、紫薇詩〕鐘鼓樓前官樣花、誰令三流落到二天涯一。

【官樣文章】347 クワンヤウブンシヤウ ㊀文章の文字が豐腴で、其の氣象の溫潤なのをいふ。蕭散な江湖體に對していふ。〔書言故事、文章類、官樣文章〕稱二美人文字一、官樣文章、宋夏英公、以レ文謁二盛度一、度曰、子文章有二傑氣一、歐公云、文章兩等、有二山林草野之文一、有二朝廷臺閣之文一、山林之文、其氣枯槁、臺閣之文、其氣溫潤、王安國嘗曰、文章須レ要二官樣一。㊁例行の公文で實際的でない文をいふ。轉じて、形式的な型に嵌つたやり方。

【官養】348 クワンヤウ 仕官して支給せられる俸祿。〔岑參、閿鄉送三上官秀才歸二關西別業一詩〕親老無二官養一、家貧在外多。

【官養レ蘆】349 クワンロヲヤシナフ 朝廷に強硬な臣下を制御する力がなくて却つて之を重用し、遂に讐となるのを警める語。晉の童謠で蘆とは權臣盧龍を指し、寵眷を蒙つたが、遂に讐敵となつたことを述ぶ。〔晉書、五行志中〕童謠曰、官家養レ蘆化成レ荻、蘆生不レ止二自成積一、其時官養二盧龍一、寵以二金紫一、奉以二名州一、養之極也、而龍不レ能レ懷二我好音一、擧レ兵內伐、遂成二讐敵一也。

【官役】350 クワンヤク した役人。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕本縣官役俸工、額支若干。

【官渝】351 クワンユ 官職がかはる。〔易、隨〕官有レ渝、貞吉、出レ門交有レ功。

【官用】352 クワンヨウ ㊀官の費用。〔史記、平準書〕量二吏祿一度二官用一、以賦二於民一。㊁官で用ひる。〔清國行政法汎論、工部、虞衡清吏司〕集二收御用官用器物一。

【官吏】353 クワンリ ㊀役人。〔韓非子、有度〕羣臣官吏、皆務三所二以亂一。〔管子、立政〕官吏以レ命、士止二于帶緣一。〔史記、秦始皇紀〕二世陰與二趙高一謀曰、大臣不レ服、官吏尙彊。〔漢書、食貨志下〕然市井子孫、亦不レ得レ爲二官吏一。㊁任命の手續に依り、官制上に定められた事務を取扱ふべき義務を負ふ人。文・武官、又は長官・補助官に分け、任命手續に依つて高等官・判任官に分ける。

【官吏債】354 kuan^1 li^4 chai^4 官吏の任命に旅費其の他必要の金を貸付けること。

【官利】355 クワンリ ㊀官の利。政府の利得。〔張廷珪、諫二白司馬坂營大像一表〕售二私木一、以規二官利一。〔皮日休、趙女傳〕父私盜二官利一衣食。㊁公約配當金。商業上の習慣で、官利・餘利の別がある。官利とは、營業の損益に拘らず、公約の率に從つて出資者に配當する利息をいひ、純益の中、株主に配分する官利の餘を餘利又は紅利といふ。

【官理】356 クワンリ 國家の政治。理は治。唐代には、高宗の諱を避けて、治を理といつた。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕以二子之道一、移二之官理一可乎。

【官裏】357 クワンリ ㊀主上。天子。官家（29）の㊀に同じ。〔元曲、金錢記〕誰不レ知開元官裏好二奢華一。〔西湖志餘〕太上邀二官裏一至二清心堂一、進二泛索一。〔剪燈餘話、青城舞劍錄〕官裏老而昏、奇氏寵而橫。㊁官署。官府。〔侯鯖錄〕眞宗訪二天下隱者一、得二杞人楊朴一、能爲レ詩、召對、自言不レ能、上問臨レ行有レ人、作レ詩送レ卿否、朴言、獨臣妻有二詩一首一云、更休三落魄貪二盃酒一、亦莫三猖狂愛二詠詩一、今日捉二將官裏一去、這回斷送老頭皮、上大笑、放還レ山。

【官欐】358 クワンリ 驛傳をいふ。〔事物異名錄、宮室、驛〕表異錄、驛傳曰二官欐一、出二晉令一。

【官柳】359 クワンリウ ㊀官廳の門前や庭內に植ゑた柳。〔晉書、陶侃傳〕嘗課二諸營一種レ柳、都尉夏施盜二官柳一植二之己門一、侃後見レ之駐レ車曰、此是武昌西門前柳、何因盜二來此種一。㊁大道のほとりの柳をいふ。〔通俗編、草木、官柳〕按、今江北大道上柳、皆稱二官柳一。

【官立】360 クワンリツ 政府で設立し、維持し、又、監督するもの。

【官侶】361 クワンリヨ 官吏。又、官吏仲間。同僚。〔崔融、爲二溫給事一請二致仕歸侍一表〕一霑二官侶一三十餘年。〔駱賓王、晦日楚國寺宴序〕聞二遷鶯之候一レ時、行欣二官侶一、見二游魚之貪一レ餌、坐悟二機心一。

【官綠】362 クワンリヨク 顏料の名。〔輟耕錄、寫像祕訣、采繪法〕官綠卽枝條綠是。

【官林】363 クワンリン 國有林をいふ。官有林の略。

【官廩】364 クワンリン 政府の米倉。〔吳志、陸凱傳〕然坐二食官廩一、歲歲相承、此爲レ無レ益。

【官禮】365 クワンレイ ㊀官府の禮法。〔管子、侈靡〕官禮之司、昭穆之離。〔纂詁〕掌二官禮一之有司也。㊁kuan^1 li^3 ㋑官吏が其の上官などに贈る贈物。㋺上等。商品、主として飲食物の名稱の上に冠する語。

【官料】366 kuan^1 liao^4 給料。

【官僚】367 クワンレウ 官吏。又は、同僚。同役。官寮。〔後漢書、孔融傳〕隱二覈官僚之貪濁者一。〔南眞記〕九宮之官僚。

【官僚主義】368 クワンレウシユギ ㊀官吏が自己の地位・權勢等を誇つて、橫暴な振舞をすること。㊁民意を壓へて官權を擅にせんとする專制主義。

【官僚政治】369 クワンレウセイヂ 狹義では、君主國の官吏が行ふ政治をいひ、廣義では、中央の權力が過大なために官吏が權勢を壟斷し、民意を無視して行ふ專制的政治をいふ。政黨政治に對していふ。

【官寮】370 クワンレウ ㊀官吏。役人。官僚。〔國語、魯語下〕今吾子之教二官寮一。〔注〕唐云、同官曰レ寮。〔吳志、步騭傳〕官寮多闕。〔北史、節義、盧楚傳〕官寮多不レ奉レ法、楚每レ存二糾擧一、無レ所二回避一。㊁役所の事務。〔國語、楚語上〕官寮之暇、於レ是乎臨レ之。

【官曆】371 クワンレキ 政府の頒布する曆。政府が認めて行はせる曆。轉じて、歲月をいふ。〔隋書、天文志上〕霍融上言、官曆率九日增二減一刻一、不二與レ天相應一。〔羅隱、歲除夜詩〕官曆行將レ盡、村醪強自傾。〔竹坡詩話〕哀哉官曆今不レ頒。

【官列】372 クワンレツ 官位の列次。〔宋書、顏延之傳〕延之官列猶卑、引升二上席一。

【官廉】373 クワンレン 明、平度の人。字は汝清。號は後樂居士。進士。官は戶部郎中。性、剛介。景州等の民田萬頃が東宮の莊田に接してゐた爲に內侍の冒占に會つた時、之と爭つて民有に歸せしめた。〔明詩紀事、丙、四〕。

【官練】374 クワンレン 官府所有のねりぎぬ。〔魏志、司馬芝傳〕有下盜二官練一、置二都廁上一者上。

【官聯】375 クワンレン ㊀各官が相助けて職務を行ふこと。〔周禮、天官、大宰〕以二八灋一治二官府一、云云、三曰官聯、以會二官治一。〔注〕官聯、謂下國有二大事一、一官不レ能二獨共一、則六官共擧上レ之、聯、謂二連レ事通レ職、相佐助一也。㊁官職に在る。〔剪燈餘話、洞天花燭記〕官聯二天上之豪華一。

【官路】376 クワンロ 官署へ通ずる大道。官道。〔王褒、九日從駕詩〕黄山獵地廣、青門官路長。〔楊炯、驄馬詩〕帝畿平若レ水、官路直如レ弦。〔六朝事迹〕淨妙舊臨二官路一、今移二置高隴一。

【官漏】377 クワンロウ 官の漏刻。朝廷に在る時計。〔陸倕、新漏刻銘〕且今之官漏、出レ自二會稽一。

【官祿】378 クワンロク 官位と俸祿。〔列女傳、賢明傳〕可三授以二官祿一者。〔漢書、宣帝紀〕官祿田宅財物。〔宋史、李穀傳〕他日官祿當レ如レ我。

【官祿宮】379 クワンロクキユウ 星相家十二宮の一。官祿を掌る。星命家は命宮から逆に推算して第九宮、相術家は上額をいふ。十二宮（2－2695・・352）の㊀を見よ。〔張果星宗、十二宮例〕命宮・財帛・兄弟・田宅・男女・奴僕・妻妾・疾厄・遷移・官祿・福德・相貌、凡定二十二宮一者、逆數輪轉、如二命宮在レ寅、財帛在レ丑、兄弟在レ子、田宅在レ亥、男女在レ戌、奴僕在レ酉、妻妾在レ辛、疾厄在レ未、餘同レ此。〔神相全編、十二宮訣〕十官祿、云云、官祿宮論曰、兩眼神光如二曙星一、龍目鳳睛主レ貴、印堂明潤、兩耳色白過レ面、聲聞二天下一、福祿榮顯、如三陷缺飛走、而無二名譽氣色一、青主二憂疑一、赤主二口舌是非一、白主二孝服一、至二紅黃上下一、有二詔書加官進職之善一。

【官話】380 クワンワ 中國の標準語。官は公で、公衆一般の意。公用の語をいふ。其の北方音を偏重したのは、唐以後、政治の中心が常に北方に在つたからで、元が關に入るや、北音に通じなければ政治的勢力の活動が出來なくなり、清に至つて遂に北音を偏重して官話とした。其の中、北京を中心として北方に行はれる北京官話、江蘇・安徽・江西等に行はれる南京官話、湖北・湖

南・四川に行はれる西方官話の三種がある。現今は北京官話が最も流通して、官話を代表してゐる。北京官話（**2－2574**‥164）を見よ。〔王照、官話合聲字母、凡例〕第一條云、因二吾國文字難一レ通、故欲下卽二北京土語一成レ文、以便中俗用上、不三名爲二土話一而名爲二官話一者、從レ俗也、第二條云、北至二黑龍江一、西逾二太行宛洛一、南距二揚子江一、東傳二於海一、縱橫數千里之土語、皆與二京話一略通、外レ此諸省之語、則各不二相通一、是京話推廣最便、故曰二官話一、余謂、官者、公也、官話者、公用之話、自宜レ擇下其占二幅員人數一多者上。

【守レ官】381 クワンヲマモル 官位につく。又、官にあること。〔左氏、僖、五〕守レ官廢レ命不レ敬。

【攝レ官】382 クワンヲセツス 官を兼ねる。〔左氏、成、二〕敢告二不敏一、攝レ官承レ乏。

【注レ官】383 クワンヲチユウス 官吏を志望する士人で試驗を經た者を注記して或る官職に擬すること。〔文獻通考、選擧考〕唐之選格、始集而試、觀二其書判一、已試而銓二察其身言一、已銓而注二詢其便利一而擬二其官一。

【賣レ官】384 クワンヲウル 金錢を得て官を與へること。〔海錄碎事、政事、賣官〕公革鬻レ爵賣レ官、三代無レ有、起二於秦漢之權利一。

【涖レ官】385 クワンニノゾム 官位につくこと。〔禮記、曲禮上〕班レ朝治レ軍、涖レ官行レ法、非レ禮威嚴不レ行。〔注〕官、仕也、涖、臨也。

【官惟賢】386 クワンヰケン 明の人。官は山海北路副總兵。邊功あり。〔明史、二百七十一〕・〔明史稿、二百三十四〕。

【官一夔】387 クワンイツキ 明、平度の人。字は舜鳴。官は衞輝府同知。書室を環山亭といふ。著に環山亭集がある。〔明詩綜、五十〕。

【官應震】388 クワンオウシン 明、黃岡の人。戶科給事中となる。萬曆の時、劉廷元・亓詩教と貪恣を以て事を用ひ、時に齊楚浙三黨と稱せらる。應震は楚黨の魁となる。太常少卿に擢んでらる。〔萬斯同明史、三百五十四〕・〔明史稿、二百二十五〕。

【官蝦蟇】389 クワンガマ 朝廷に在る蝦蟇。晉の惠帝は性愚騃で、太子の時、蝦蟇の鳴くのを聞き、左右の者に問うて、此は官の蝦蟇か、私の蝦蟇か、朝廷に在る蝦蟇には廩米を與へよといつたといふ故事。〔水經、穀水注〕晉中州記曰、惠帝爲二太子一、出聞二蝦蟇聲一、問三人爲二是官蝦蟇私蝦蟇一、侍臣賈胤對曰、在二官地一爲二官蝦蟇一、在二私地一爲二私蝦蟇一、令曰、若官蝦蟇、可レ給レ廩、先レ是有レ讖云、蝦蟇當レ貴。

【官希稷】390 クワンキシヨク 明、光澤の人。字は師忠。官は嘉興通判。〔光澤縣志〕。

【官鬼爻】391 クワンキカウ 筮法で、六爻の干支と八卦の五行の生尅とで六親の位を定め、我に尅つ者を官鬼爻とする。官殺。父母爻（**7－19721**‥67）・納甲（**8－27264**‥14）を見よ。〔徐陵、答二諸求レ官人一書〕五行有二驛馬之言一、六甲有二官鬼之說一。

【官橋墟】392 クワンケウキヨ 地名。㊀廣東省番禺縣の北。㊁廣東省化縣の西北。

【官座兒】393 kuan^1 tsuo^4 êrh 芝居の高棧敷。

【官勝娘】394 クワンシヨウヂヤウ 元、建寧の人。方寧の妻。夫を虎口から救つた烈婦。〔元史、二百一〕。

【官身子】395 kuan^1 shen^1 tzŭ 官吏。

【官井洋】396 クワンセイヤウ 湖の名。福建省寧德縣の東北。福安・霞浦等の河を集めて海に入る。〔三山志〕官井洋港、源出二龍泉縣一、流出二黃崎鎭一、與二政和・古田・羅源諸溪一同匯二於官井洋一、風濤險惡、號二三港口一、東入レ海。

【官硝局】397 kuan^1 hsiao^1 chü^2 民國鹽務署の管轄に屬する硝石製造工場。

【官大夫】398 クワンタイフ 秦代、爵位の第六級。功勞ある者を賞するに用ひた。漢、之に仍り、又、國大夫といふ。〔漢書、百官公卿表上〕爵一級曰二公士一、云云、六官大夫、七公大夫、云云、皆秦制、以賞二功勞一。

【官太太】399 kuan^1 t'ai^4 t'ai 官吏の夫人。

【官不レ滔】400 クワンタウセズ 官吏がその職務を怠らない。〔左氏、昭、二十六〕士不レ濫、官不レ滔。〔注〕滔、慢也。

【官不來】401 クワンプライ 古樂府の名。〔海錄碎事、文學、樂府〕官不來、古風也、題二皇甫湜廳一。

【官埠市】402 クワンプシ 地名。湖北省咸寧縣の東、官埠港の北岸。

【官撫極】403 クワンブキヨク 明の人。應震の子。字は進之。

【官秉忠】404 クワンヘイチユウ 明、楡林衞の人。官は僉書前府。邊防に功あり。〔明史、二百三十九〕・〔萬斯同明史、三百二十三〕・〔明史稿、二百二十一〕。

【官紋錦】405 クワンモンキン 官で織つた錦。〔南史、梁武帝紀上〕公家織二官紋錦飾一、並斷二仙人鳥獸之形一、以爲二褻衣一、裁翦有レ乖二仁恕一。

【官爐房】406 kuan^1 lu^2 fang^2 政府指定の馬蹄銀鑄造所。爐房。

【帶レ官侍】407 クワンヲオビテジス 官職を帶びたままで、老疾の祖父母・父母に侍養する。唐代官吏の服務規定を說明した語。唐律疏議に見える。卽ち祖父母・父母が老疾に艱み、他に侍養する者のない場合、在官者は職を退いて侍養すべきであるが、ただ特殊の才業顯著な者、又は緊要の地位に在つて公務に從事するものは、特に在官の儘で侍養することを許す。〔唐律、名例、府號官稱〕祖父母父母、老疾無レ侍、委レ親之レ官。〔疏議〕老、謂二八十以上一、疾、謂二篤疾一、並依レ令合レ侍、若不レ侍、委レ親之レ官者、其有二才業灼然一、要藉二驅使一者、令二帶レ官侍一、不レ拘二此律一。

【官豪勢要】408 クワンガウセイエウ 重要の官職についてゐて勢力の強い者。〔淸會典事例、刑部、吏律職制、官員襲廕〕官軍軍丁、有下將二戶內弟姪子孫過レ房與レ人、或被二官豪勢要和買一、改二易姓名一者上、不レ分二年歲遠近一、許二其取贖歸宗聽繼一。

【官久則富】409 クワンヒサシケレバトム 永く官吏をして居れば富む。官吏の役德の少くないことを諷した俚語。〔通俗編、仕進、官久則富〕史記貨殖傳、廉吏久久更富、俚語因レ之。

【官官相爲】410 クワンクワンアヒナス 官民の間の爭議を上官が捌けば、必ず官の方に味方する。〔通俗編、仕進、官官相爲〕見二元喬孟符兩世姻緣曲一。

【官止神行】411 クワントドマリテシンユク 耳目などの作用が停止し、心がよくはたらく。〔莊子、養生主〕方今之時、臣以レ神遇而不二以レ目視一、官知止而神欲行、依二乎天理一、批二大郤一、導二大窾一、因二其固然一。

【官兒娘子】412 kuan^1 êrh niang^2 tzŭ 官吏の妻。正妻。

【官兒老爺】413 kuan^1 êrh lao^3 yeh 官吏。役人「樣。

【官淸氈冷】414 クワンキヨクセンヒヤヤカナリ 官吏が淸廉なこと。〔剪燈餘話、田洙遇二薛濤一聯句記〕官淸氈冷、路費艱難。

【官尊民卑】415 クワンソンミンピ 官吏はたふとく、人民はいやしい。又、世間一般のさういふ考へ方。

【官督商銷】416 クワントクシヤウセウ 民間の製產品を政府で監督して商人に自由に販賣させ、之に對し一定の公課を徵收する法。〔淸國行政法、財務行政、收入、專利收款、官督商銷〕將二製鹽銷鹽各事一、歸二民商營辦一、由レ官嚴加二監督一、徵二其稅課一、是謂二官督商銷一。

【官督商辦】417 クワントクシヤウベン 商人が株式會社を興し、政府は監督官を派して其の事業を監督させる經營法。〔淸國行政法、財務行政、收入、賦稅、釐金、徵收辦法〕其尤著者爲二廣東釐金官督商辦法一、云云、改爲二官督商辦一。

【官不レ易レ方】418 クワンハウヲカヘズ 政府は從來の正しい方針によつて改易しない。〔左氏、襄、九〕擧不レ失レ選、官不レ易レ方。〔注〕方、猶レ宜也。〔會箋〕方、常也。

【官不二必備一】419 クワンカナラズシモソナハラズ 適任者が無ければ缺員があつてもよい。〔書、周官〕官不二必備一、惟其人。

【官鐅私鐅】420 クワンヘツシヘツ 官で鑄造した煮鹽器と私鑄のもの。〔六部成語補、戶部、官鐅私鐅、注解〕鐅者、煑レ鹽之器、定例必由レ官鑄造發賣、竈商應レ用、其非二官鑄一者、謂二之私鐅一、用者有レ禁。

【安レ官樂レ職】421 クワンニヤスンジシヨクヲタノシム 官に安んじ奉ずる職を樂しむ。〔海錄碎事、臣職、刺史〕漢文帝時、吏居レ官者、或長二子孫一、其二千石長吏、亦安レ官樂レ職、莫レ有二苟且之意一。

【爲レ官拓落】422 クワントナリタクラク 役人となつて相和諧しない。拓落は、人と和合しないこと。〔揚雄、解嘲〕何爲官之拓落也。〔注〕善曰、拓落、猶二遼落一、不二諧偶一也。〔海錄碎事、人事、祿止〕爲レ官拓落、言レ不レ諧也、揚雄賦序。

【爲レ官擇レ人】423 クワンノタメニヒトヲエラブ 人の才能に應ずるやうに官をえらぶのでなく、官の爲に才能ある適任の人を選擇する。〔魏志、杜畿傳〕國家以レ人擇レ官、不二爲レ官擇一レ人也。

【加レ官進レ祿】424 クワンヲクハヘロクヲススム 官位が陞進すること。〔金史、章宗元妃李氏傳〕優曰、其飛有レ四、所レ應亦異、云云、嚮レ外飛則四國來朝、嚮レ裏飛則加レ官進レ祿。

【去レ官留レ犢】425 クワンヲサリテトクヲトドム 官吏の清廉潔白な喩。三國、魏の時苗が、在職中に使用した牛の生んだ子を役所に留めて去つた故事。〔魏志、常林傳、注〕時苗字德胄、爲二壽春令一、云云、居レ官歲餘、牛生二一犢一、及二其去一、留二其犢一、謂二主簿一曰、云云、是淮南所二生有一也。

【在レ官言レ官】426 クワンニアツテハクワンヲイフ 自分の職分を重んじて、言動が他の事に及ばぬ。その立場において事を謀ること。官は、板圖文書の處をいふ。〔禮記、曲禮下〕君命、大夫與レ士肄、在レ官言レ官、在レ府言レ府、在レ庫言レ庫、在レ朝言レ朝。〔注〕唯君命所レ在、就展二習之一也、官謂二板圖文書之處一、府謂二寶藏貨賄之處一也、庫謂二車馬兵庫之處一也、朝謂下君臣謀二政事一之處上也。

【守二官四方一】427 クワンヲシハウニマモル 地方に出て仕官すること。〔蘇洵、送二石昌言使レ北引〕昌言及二第第四人一、守二官四方一、不二相聞一。

【官折田園地】428 クワンセツデンヱンチ 清代、民有地の一種。明代から官署や廢寺の所有地であつたものを民田に改め、從來、穀納であつた租稅を錢納としたもの。〔清國行政法〕。

【官怠二於官成一】429 クワンハクワンナルニオコタル 仕官の始めには謹愼するが、官が進むにつれて怠惰心を生じて過失を招くこと。〔文子、符言〕官敗二於官茂一、孝衰二於妻子一、患生二於憂解一、病甚二於且レ瘉。〔鄧析子、轉辭〕患生二於官成一、病始二於少瘳一。〔說苑、敬愼〕曾子曰、官怠二於官成一、病加二於小愈一、禍生二於懈惰一、孝衰二於妻子一、察二此四者一、愼レ終如レ始。

【官滿如花謝】430 kuan^1 man^3 ju^2 hua^1 hsieh^4 官をやめて退隱すれば、花が萎んだやうに顧みる人がなくなる。

【無レ官而爲レ長】431 クワンナクシテチヤウタリ 官職なくして天下の長として仰がれること。〔列子、黃帝〕孔丘墨翟、無レ地而爲レ君、無レ官而爲レ長。

【官不差民不擾】432 kuan^1 pu^4 ch'ai^1 min^2 pu^4 jao^3 官が納稅を催促することなく、人民も平安無事である。太平の意の諺。

【官大者主惡レ之】433 クワンダイナルモノハシユコレヲニクム 官職が高くなると主君からにくまれる。〔列子、說符〕爵高者人妬レ之、官大者主惡レ之。

【爲レ官乎爲レ私乎】434 クワンノタメニスルカシノタメニスルカ 愚問の喩。晉の惠帝が蝦蟆の聲を聞いて、官の爲に鳴くか、私の爲に鳴くかと左右の者に質問した故事。〔晉書、惠帝紀〕帝又嘗在二華林園一、聞二蝦蟆聲一、謂二左右一曰、此鳴者爲レ官乎、私乎、或對曰、在二官地一爲レ官、在二私地一爲レ私。

【居レ官則至二卿相一】435 クワンニヲレバケイシヤウニイタル 官についてゐる場合には、その才能により、卿相の位にまで陞る。往くとして可ならざるなき才能あること。〔史記、越世家〕居レ家則致二千金一、居レ官則至二卿相一。

【官兒不打送禮的】436 kuan^1 êrh pu^4 ta^3 sung^4 li^3 tê 役人は贈物を持つて來る者を憎まない。

【官大有險樹大招風】437 kuan^1 ta^4 yu^2 hsien^3 shu^4 ta^4 chao^1 fêng^1 高位高官は身の危險を伴ふ。

【官不修衙客不修店】438 kuan^1 pu^4 hsiu^1 ya^2 k'ê^4 pu^4 hsiu^1 tien^4 官吏は役所の修繕はせず、旅客は旅店の修理はせぬ。人情の弱點を穿つた諺。

【不レ會レ做レ官看二前樣一】439 クワンタルヲクワイセズゼンヤウヲミル 官吏としての道を理會しないで、ただ前例を見るだけである。〔通俗編、識餘、變古〕韓詩外傳、引語曰、不レ知レ爲レ吏視二已成事一、今變レ之曰三不レ會レ做レ官看二前樣一。

【事レ官千日失在二一朝一】440 クワンニツカフルコトセンニチシツイツテウニアリ 役人となつてゐることが千日でも、一朝の過失で地位を失ふ。〔通俗編、政治、事レ官千日失在二一朝一〕傳燈錄、王延彬問レ朗、上レ座捧二爐神一、爲レ甚翻二却茶一、朗答、云云。

【無レ官一身輕有レ子萬事足】441 クワンナケレバイツシンカルクコアレババンジタル 官に仕へねば身は拘束を受けず、子さへあれば滿足である。〔通俗編、倫常、無レ官一身輕有レ子萬事足〕東坡居士集、賀三子由生二第四孫一詩。

【做レ官三年可三以養二三代子孫一】442 クワントナルコトサンネンモツテサンダイノシソンヲヤシナフベシ 官吏を三年やれば三代の子孫が養へる。官吏となつて、公金を費消し、收賄等をして不當の利を蓄へるからである。官吏の腐敗を諷した諺。〔清國行政法汎論、官吏權利、俸給、清國官吏腐敗〕清國官場、公私區別甚不二分明一、且會計檢查之制未レ設、得三恣意費二消官金一、官吏所得之多寡、亦唯視二其心術良否一而已、諺云、做レ官三年、可三以養二三代子孫一也。

【宙】7108

小篆

チウ ヂユ 〔集韻〕直祐切 ㄓㄡˋ chou^4 [宥]

㊀とき。時間。古から今になり、更に未來に及ぶ無限の時間。〔說文〕宙、舟輿所レ極覆一也、从レ宀由聲。〔段注〕覆者、反也、與レ復同、往來也、舟輿所二極覆一者、謂下舟車自レ此至レ彼而復還レ此、如二循環一然上、故其字从レ由、如二軸字从一レ由也、云云、由レ今溯レ古、復由レ古沿レ今、此正舟車自レ此至レ彼、復自レ彼至レ此、皆如二循環一然。〔莊子、庚桑楚〕有レ長而無二本剽一者宙也。〔注〕宙者、有二古今之長一。〔淮南子、齊俗訓〕往古來今、謂二之宙一、四方上下、謂二之宇一。〔班固、幽通賦〕乃窮レ宙而達レ幽。〔注〕善曰、應劭曰、往古來今曰レ宙。㊁そら。あめ。〔王勃、七夕賦〕霜凝二碧宙一、水瑩二丹霄一。㊂棟梁。むなぎやうつばり。〔淮南子、覽冥訓〕以爲レ不レ能三與レ之爭二於宇宙之間一。〔注〕宙、棟梁也。㊃居る。〔廣雅、釋詁二〕宙、凥也。㊄のびる。〔太玄經、玄攡〕闢レ宇、謂二之宙一。〔注〕宙、猶レ暢也。[邦]ちう。そら。虛空。轉じて、そらで覺えてゐること。暗記。又、夢中の時など、驅足で足の地につかぬこと。例、足をちうにする。

[名乘] オキ。

【宙宇】1 チウウ 時間と空間。往古來今と四方上下。天地の間。宇宙。〔淮南子、齊俗訓〕往古來今、謂二之宙一、四方上下、謂二之宇一。

【宙合】2 チウガフ 管子の篇名。〔管子、宙合、注〕古往今來曰レ宙也、所レ陳之道、既通二往古一、又合二來今一、無レ不二苞羅一也。

【宙斯】3 ゼウス Zeus の音譯。希臘神話の天地主宰の神。衆神と人間との父。羅馬神話の朱匹忒（Jupiter）に相當する神。

【宙乘】4 チウノリ 芝居・見世物などで、人が空中を行くやうに見せる藝。

【宙然】5 チウゼン ひろいさま。〔太玄經、玄攡〕夫天宙然示二人神一矣、夫地他然示二人明一也。

【宙表】6 チウヘウ 天の外。天外。〔宋明帝、聖祖頌〕宇內齊二政軌一、宙表燭二威流一。

【宙返】7 チウガヘリ 空中で身をひらりと上下、又はたてよこに廻轉すること。とんぼがへり。

【窮レ宙】8 チウヲキハム 古今を窮める。思慮が深く、古今に通ずることをいふ。〔班固、幽通賦〕乃窮レ宙而達レ幽。〔注〕善曰、應劭曰、往古來今曰レ宙、云云、極二古今一、通二幽微一也。

【定】7109

小篆

[一] テイ ヂヤウ 〔集韻〕徒徑切 ㄉㄧㄥˋ ting^4 [徑]

[二] テイ チヤウ 〔集韻〕丁定切 [徑]

[一][二] ㊀さだまる。㋑やすらか。安んずる。〔說文〕定、安也、从レ宀正聲。〔易、屯、注〕得レ主則定。〔釋文〕定、本作レ寧。㋺をさまる。〔書、武成〕一戎衣、天下大定。㋩しづか。しづまる。〔增韻〕定、靜也。㋥とどまる。〔玉篇〕定、住也。〔書、洛誥〕公定、予往已。〔詩、小雅、采薇〕我戍未レ定。〔箋〕定、止也。〔詩、小雅、節南山〕亂靡レ有レ定。〔箋〕定、止。㋭こる。〔增韻〕定、凝也。㋬なる。〔呂覽、仲冬〕以待二陰陽之所レ定。〔注〕定、猶レ成也。〔淮南子、天文訓〕秋分蕈定。〔注〕定者、成也。㋣ととの

ふ。〔儀禮、鄕飲酒禮〕羹定。〔注〕定、猶ㇾ孰也。㋠きまる。變動しない。〔大學〕知ㇾ止而后有ㇾ定。〔荀子、王制〕夫是之謂㆓定論㆒。〔注〕定論、謂㆓不易之論㆒。㋷歸着する。〔孟子、梁惠王上〕天下惡乎定、我對曰、定㆓于一㆒。❷**さだめる**。㋑やすめる。をさめる。〔詩、小雅、六月〕以定㆓王國㆒。〔箋〕定、安也。〔呂覽、孝行〕先王之所㆔以定㆓天下㆒也。〔注〕定、安也。㋺ととのへる。〔禮、曲禮上〕昏定而晨省。〔注〕定、安㆓其牀衽㆒也。㋩ただす。修め正す。〔增韻〕定、正也。〔孔安國、古文尙書序〕遂乃定㆓禮樂㆒。〔疏〕修而不ㇾ改、曰ㇾ定。〔書、堯典〕以㆓閏月㆒定㆓四時㆒。㋥きめる。〔增韻〕定、決也。〔詩、大雅、大明〕文定㆓厥祥㆒。〔禮、王制〕論㆓進士之賢者㆒、以告㆓於王㆒、而定㆓其論㆒。㋭たひらげる。〔史記、秦紀〕擊㆓定之㆒。㋬やめる。〔荀子、儒效〕反而定㆓三革㆒。〔注〕定、息也。❸**さだめて**。**かならず**。〔史記、項羽紀〕陳王定死。❹**日の名**。建除家（日次（ヒドリ）のうらなひ）で、吉凶によつて附けた日の名。月建（ヲザス）の前四辰に居る。建除十二神（**4－9574**‥118）を見よ。〔淮南子、天文訓〕午爲ㇾ定。〔漢書、王莽傳〕十一月壬子直ㇾ建、戊辰直ㇾ定。❺**星の名**。營室。〔爾雅、釋天〕營室、謂㆓之定㆒。〔詩、衞風、定之方中〕定之方中。〔傳〕定、營室也。❻**東に澤のある丘**。定丘（55）を見よ。〔集韻〕定、一說、丘左有ㇾ澤曰ㇾ定。❼**州の名**。定州（133）を見よ。〔集韻〕定、亦州名。❽**諡**。〔逸周書、諡法解〕大慮靜ㇾ民曰ㇾ定、安ㇾ民法ㇾ古曰ㇾ定、純行不ㇾ二曰ㇾ定。❾**ひたひ**。頂（**12－43335**）・顁（**12－43533**）に通ず。〔說文通訓定聲〕定、叚借爲ㇾ頂。〔詩、周南、麟之趾〕麟之定。〔傳〕定、題也。〔集傳〕定、額也。〔釋文〕定、題也、字書作ㇾ顁。❿**すき**。錠（**11－40559**）に通ず。〔爾雅、釋器〕斪斸、謂㆓之定㆒。〔釋文〕定、本作ㇾ錠。⓫古は正（**6－16258**）に作る。〔集韻〕定、古作ㇾ正。⓬佛梵語。Samādhi の意譯。又、等とも譯す。坐禪觀法ををさめ、寂靜三昧、卽ち無念無想の域に住すること。又、淸淨心。〔智度論〕入ㇾ定水火不ㇾ能ㇾ害、亦不㆓命終㆒。⓭現㋑あつらへる。注文する。豫約する。㋺婚約する。㋩必ず。是非。邦㋑**さだめ**。おきて。とりきめ。㋺**さだめて**。**さだめし**。

名乘　サダ。ツラ。ヤス。

【定安】1 テイアン　❶國の名。宋代、馬韓の族人が鴨綠江上流の帽兒山附近に建てた國。〔讀史方輿紀要、山東、附考、流鬼〕安定國、本馬韓種、宋太平興國中、女眞入貢、道出㆓定安㆒、卽此。❷縣名。㋑南朝宋、置く。漢の安定縣の地。今の安南の北境。㋺遼、置く。今の河北省蔚縣の東北。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、蔚州〕定安城、州東十七里、遼志云、漢東安陽縣地、屬㆓代郡㆒、遼置㆓定安縣㆒、屬㆓蔚州㆒。㋩元、置く。廣東省瓊山縣の南。海南島の東北境。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府〕定安縣、府南八十里、東南至㆓會同縣㆒二百二十里、本瓊山縣地、元至元三十一年、析㆓置定安縣㆒、屬㆓瓊州㆒、天曆元年、升爲㆓南建州㆒、明初復爲㆓定安縣㆒、今城周三里。〔淸史稿、地理志〕廣東、瓊州府、縣七、定安。

【定案】2 ting⁴ an⁴　❶定まつた事件。❷事件を判定する。

【定菴】3 テイアン　字號。❶宋、衞博（**10－34074**‥97）の號。❷宋、吳升（**2－3365**‥236）の號。❸明、張悅（**4－9812**‥64）の號。❹淸、何嗣焜（**1－511**‥286）の字。❺淸、姜希轍（**3－6205**‥80）の號。❻淸、郎永淸（**11－39431**‥63）の字。❼淸、李之素（**6－14459**‥1300）の字。

【定菴類稿】4 テイアンルイカウ　書名。四卷。宋、衞博撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【定葊】5 テイアン　淸、何嗣焜（**1－511**‥286）の字。

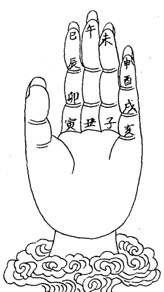
【定盦】6 テイアン　淸、龔自珍（**12－48837**‥75）の號。

【定盦文集】7 テイアンブンシフ　書名。三卷。續集四卷・補文一卷・詩一卷・雜詩一卷・無著詞選一卷・小奢摩室詞選一卷。淸、龔自珍撰。〔四部叢刊、第一八八四－一八八六冊〕。

【定盦文集補編】8 テイアンブンシフホヘン　書名。四卷。淸、「龔自珍撰。

【定位】9 テイヰ　位を定める。〔易、說卦〕天地定ㇾ位、山澤通ㇾ氣。

【定位掌】10 テイヰシヤウ　掌によつて計算する法。〔算法統宗、難題、因乘定位法〕假如有㆓田三百一十二畝㆒、每畝科糧四升、問共該米若干、答曰、一十二石四斗八升、法曰、置㆓田畝㆒爲ㇾ實、以㆓每畝糧四升㆒爲ㇾ法、因畢得ㇾ數莫ㇾ動、先從㆓寅上㆒定㆓百畝㆒、以㆓卯上㆒得㆓十畝㆒、以㆓辰上㆒得㆓一畝㆒、就以㆓畝下巳位上㆒得ㇾ術、變ㇾ升逆回、辰上得ㇾ斗、卯上得ㇾ石、寅上卽十合。



定位掌圖
（算法統宗）

【定員】11 テイヰン　きまつた人數。一定の人員。〔南齊書、崔祖思傳〕正樂定員、唯置㆓三百八十八人㆒。〔唐書、百官志一〕凡充㆓其官㆒者、無㆓定員㆒。

【定宇】12 テイウ　字號。❶元、陳櫟（**11－41698**‥606）の號。❷明、許鼎臣（**10－35298**‥365）の字。❸明、宋賢（**3－7078**‥79）の號。❹明、鄧以讚（**11－39630**‥115）の號。❺明、馬文煒（**12－44572**‥936）の號。❻淸、惠棟（**4－10822**‥105）の字。❼淸、徐時棟（**4－10110**‥467）の字。

【定宇集】13 テイウシフ　書名。十六卷。別集、一卷。元、陳櫟撰。文章は質實であるが、詩は長ずる所でない。〔四庫提要、集、別集類〕。

【定窯】14 テイエウ　宋代、定州で造つた磁器。定州（133）の❶を見よ。〔淸祕藏〕定窯有㆓光素・凸花二種㆒、以㆓白色㆒爲ㇾ正、白骨而加以㆓泑水㆒、有㆘如㆓淚痕㆒者㆖佳、今鑒藏家有㆓南北定之分㆒、南定爲㆓南渡後所㆒ㇾ造、元時彭窯、亦倣㆓定器㆒爲ㇾ之、稱㆓新定㆒、均不ㇾ如㆓北定㆒。

【定閱】15 ting⁴ yüeh⁴　新聞・雜誌などを月極め、又は年極めにして購讀すること。定期購讀。

【定園】16 テイエン　園の名。北京十刹海の一部。名勝の地。〔燕京歲時記、十刹海〕謹按、日下舊聞考、積水灘淨業湖一帶、古名㆓海子㆒、園亭亟多、有㆓蓮花社・蝦菜亭・鏡園・漫園・楊園・定園諸勝㆒、皆析爲㆓民居㆒矣。

【定遠】17 テイエン　❶後漢、班超（**7－20976**‥79）の封號。〔後漢書、班超傳〕其封ㇾ超爲㆓定遠侯㆒。〔藤田東湖、述懷詩〕嫖姚定遠不ㇾ可ㇾ期、丘明馬遷空自企。❷侯國の名。後漢の班超の封地。今の陝西省鎭巴縣。〔後漢書、班超傳〕其封ㇾ超爲㆓定遠侯㆒、邑千戶。〔注〕東觀記曰、其以㆓漢中郡南鄭之西鄕戶千㆒、封ㇾ超爲㆓定遠侯㆒、故城在㆓今洋州西鄕縣南㆒。❸縣名。㋑南朝梁、置く。安徽省鳳陽縣の南、池河の西岸。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府〕定遠縣、府南九十里、東至㆓滁州㆒、西至㆓壽州㆒、南至㆓廬州府㆒、俱百八十里、秦置㆓東城縣㆒、漢因ㇾ之、梁乃改置㆓定遠縣㆒、兼置㆓臨濠郡㆒、後齊改㆓郡曰㆓廣安㆒、至㆓隋初㆒郡廢、縣屬㆓濠州㆒、唐因ㇾ之、五代周顯德二年、遣ㇾ軍侵㆓唐淮南㆒、唐遣㆓皇甫暉等㆒將ㇾ兵屯㆓定遠㆒、卽此、縣有㆓土城㆒、周五里餘、今編戶二十二里。〔淸史稿、地理志〕安徽、鳳陽府、縣五、定遠。㋺金、置く。故治は甘肅省楡中縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、臨洮府、蘭州金縣〕定遠城、在㆓縣西北四十里㆒、唐置、寶應間、陷㆓於吐蕃㆒、宋熙寧中、种誼築ㇾ城以屯㆓戍兵㆒、後廢、元祐七年復築、政和四年、夏人攻拔ㇾ之、遷㆓其民㆒築㆓臧底河城㆒、五年、宋將王厚等攻ㇾ之、大敗而還、六年、渭州將种師道攻克ㇾ之、金大定中、升爲ㇾ縣、屬㆓蘭州㆒、後改屬㆓會州㆒、正大間、屬㆓金州㆒、元廢爲ㇾ鎭、今爲㆓定遠驛㆒。㋩元、置く。四川省武勝縣。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府、合州〕定遠縣、州北百五十里、東北至㆓廣安州岳池縣㆒百三十里、宋石鏡縣地、云云、元至元四年、置㆓武勝軍㆒、行㆓和溪安撫司事㆒、尋改爲㆓忠遠州㆒、二十四年、降爲ㇾ縣、屬㆓合州㆒、明因ㇾ之、今縣城周七里、

編戸十四里。〔清史稿、地理志〕四川、重慶府、縣十一、定遠。㊁元、置く。雲南省牟定縣。〔讀史方輿紀要、雲南、楚雄府〕定遠縣、府西北百二十里、西北至二大理府趙川雲南縣一百十里、地名二日直賧一、雜蠻所レ居、唐爲二姚川地一、一云二本髳州地一、天寶中、沒二於南詔一、使三爨酋築二新城於此一曰二耐籠一、後入二於段氏一、元初置二牟州千戸一、牟與レ髳同音也、至元十二年、改置二定遠州一、後降爲レ縣、屬二威楚路一、今因レ之、主簿李氏、編戸五里。〔清史稿、地理志〕雲南、楚雄府、縣四、定遠。㊃城の名。甘肅省平羅縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏鎭〕定遠城、鎭東北六十里、唐志云、城在二靈州東北二百里一、先天二年、郭元振置、天寶中、屬二朔方節度一、後升爲レ縣、屬二靈州一、貞元八年、吐蕃寇二靈州一、詔二河東振武一救レ之、復遣二神策軍一、戍二定遠及懷遠城一、吐蕃乃退、景福二年、靈武節度韓遵表爲二警州一、宋初置二定州於此一、西夏因レ之、亦曰二定州城一、蒙古初廢、元和志、靈鹽接レ境、相距三百里、定遠城置二於黃河北岸一、蓋鹽州邊戍也。㊄營の名。定遠城ともいふ。寧夏省寧夏縣の西北、賀蘭山の西麓。蒙古人は王爺府といふ。蒙古との貿易が盛である。㊅廳の名。清、置く。今の陝西省鎭巴縣。〔清史稿、地理志〕陝西、漢中府、廳三、定遠廳。㊆字號。㋑宋、何弘中(**1－511**‥269)の字。㋺明、魏雲中(**12－45872**‥162)の字。㋩清、馮班(**12－44579**‥135)の字。

〖定遠侯〗18 テイヱンコウ 後漢、班超(**7－20976**‥79)の封號。定遠の㊀を見よ。

【定翁】19 テイヲウ 宋、胡宗伋(**9－29400**‥530)の號。

【定下】20 ting^4 hsia^4 ㊀跳へる。㊁取り決める。

【定價】21 テイカ さだまつた値。定價。定値段。〔晉書、劉寔傳〕士無二素定之價一、官職有レ缺、主選レ之。〔魏書、常山王暉傳〕遷二吏部尙書一、納レ貨用レ官、皆有二定價一、大郡二千匹、次郡一千匹、下郡五百匹。

〖定價無貳〗22 ting^4 chia^4 wu^2 êrh^4 かけ値「なし。不二價。

【定芽】23 テイガ 樹木の一定の場所に生ずる芽。卽ち頂芽・腋芽の類。

【定海】24 テイカイ 縣名。㊀宋、置く。浙江省鎭海縣治。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府〕定海縣、府東北六十二里、西南至二奉化縣一百二十里、西至二慈谿縣界一七十里、本句章縣地、唐爲二鄮縣之望海鎭一、五代時、錢氏更二名靜海鎭一、尋置二望海縣一、屬二明州一、又改二定海縣一。㊁清、置く。浙江省鄞縣の東北。縣境の定海港は道頭澳ともいふ。鴉片戰爭起因の地。

【定交】25 テイカウ 朋友となる。訂交。〔易、繫辭下〕定二其交一而後求。〔漢後書、呉祐傳〕祐與語大驚、遂共定二交於杵臼之閒一。

【定向】26 ting^4 hsiang^4 目的。

【定考】27 テイカウ ㊀官吏の成績を考へ定めること。〔北史、辛雄傳〕後爲二太尉騎兵參軍一、每爲二府主淸河王懌所一レ賞、至二定考一、懌曰、辛騎兵有レ學有レ才、宜レ爲二上第一。〔唐書、百官志一〕凡定考、皆集二于尙書省一唱第、然後奏二親王及中書門下、京官三品以上、都督刺史・都護節度・觀察使一、則奏二功過狀一、以覈二考之上下一。㊁カウヂヤウ 昔、六位以下の官吏の成績などを考へて官爵を賜はつた公事。定考と文字に書くが、考定カウヂヤウと逆讀するのが例である。〔名目抄〕定考、逆讀之例也。

【定號】28 テイガウ 名號をさだめる。又、定まつた名號。〔詩、周頌、思文、貽二我來牟一、疏〕得二白魚之瑞一、卽變稱レ王、應二天命一定レ號也。〔北史、大沮渠蒙遜傳〕牧犍、尙二大武妹武威公主一、表請二公主及牧犍母妃后定號一。

【定格】29 テイカク 定まつた格式。物ごとのきまり。紀律。〔南史、齊豫章文獻王嶷傳〕嶷上表請、明立二定格一、班二下四方一、永爲二恆制一從レ之。

【定樂】30 テイガク 北齊、高浚(**12－45313**‥461)の字。

【定學】31 ヂヤウガク 佛三學の一。定は禪定、學は習學。心を靜かにして散亂を防ぎ、悟を窮めること。〔三藏法數、九〕定者、禪定也、謂二能攝レ散證レ神、見レ性悟レ道、故名二定學一。

【定額】32 テイガク 一定の數。きまつた金高、又は數量。〔福惠全書、錢穀部、查二實徵一〕至二于定額之外一、或又有二本年開墾之新增一。

【定甲】33 テイカフ 鳥の名。鶡鴠の異名。鶡(**12－46960**)を見よ。やまどり。〔方言、八〕鶡鴠、周魏齊宋楚之閒、謂二之定甲一、或謂二之獨舂一。

【定嫺】34 テイカン 清、錢韞素(**11－40563**‥254)の字。

【定巖】35 テイガン 清、沈昌宇(**6－17189**‥532)の號。

【定規】36 テイキ ㊀一定の規則。規約。〔明、陸容、菽園雜記、二〕㊁圓形をつくる。〔崔駰、扇銘〕晞レ露散レ霾、擬レ日定レ規。㊂ting^4 kuei^1 定める。㊃ヂヤウギ 刃物・筆又は烏口などをあてて物を裁ち或は線を引く具。定木。〔西鶴織留、三〕細工人と見えて、ぢやうき・竹へら・はけ・糊まで持ちて。

【定期】37 テイキ ㊀きまつた期間。きまつた時。〔晉書、王羲之傳〕可下申二下定期一、委二之所司一、勿上中復催下上。〔琵琶記、文場選レ士〕雖レ有二定期一、試官立レ意命レ題、任二從時好一。㊁ting^4 ch‘i^2 期限をきめる。期日を定める。

〖定期金〗38 テイキキン 契約に依つて定期に支拂ふこ「とを約した金錢。

〖定期付〗39 ting^4 ch‘i^2 fu^4 定期支拂。

〖定期風〗40 テイキフウ 時期を定めて風向を異にする風。海陸風・季候風の類。

〖定期還本〗41 ting^4 ch‘i^2 huan^2 pen^3 債券類の定期償還の意。

〖定期存款〗42 ting^4 ch‘i^2 ts‘uen^2 k‘uan^3 定「期預金。

〖定期放款〗43 ting^4 ch‘i^2 fang^4 k‘uan^3 銀行の定期貸付。

〖定期經紀人〗44 ting^4 ch‘i^2 ching^1 chi^4 jen^2 取引市場の定期仲買人。

〖定期支付匯票〗45 ting^4 ch‘i^2 chih^1 fu^4 huei^4 p‘iao^4 支拂期日を定めてある小切手。

〖定期信託存款〗46 ting^4 ch‘i^2 hsin^4 t‘uo^1 ts‘uen^2 k‘uan^3 定期信託預金。

〖定期存款存單〗47 ting^4 ch‘i^2 ts‘uen^2 k‘uan^3 ts‘uen^2 tan^1 定期預金證書。

〖定期抵押放款〗48 ting^4 ch‘i^2 ti^3 ya^1 fang^4 k‘uan^3 擔保付き定期貸出。

【定器】49 テイキ ㊀定まつた形のもの。〔畫譜〕顧愷之曰、畫レ人最難、次山水狗馬、若二臺閣一一定器耳。㊁佛ヂヤウキ 飯などを盛る器具。〔大鏡、上〕供米三十石、ぢやうきごとに置かれて。

【定歸】50 ting^4 kuei^1 必ず歸着する所。必定の「歸着點。

【定義】51 テイギ ある事物に關して其の概念の範圍を確定明晰に敍述說明すること。界說(**7－21775**‥20)に同じ。

【定擬】52 テイギ さだめる。罪をきめる。議定。〔福惠全書、刑名部、人命上、審鞫〕按二律例一定擬、連レ人解審。〔國朝漢學師承記、王昶〕分別定擬、奏聞奉レ旨允行。

【定議】53 テイギ 議論を一定する。凝議して決定する。〔劉向、使三人上二變事一書〕爲二世儒宗一、定議有レ益二天下一。〔晉書、司馬彪傳〕彪上疏定レ議。

【定九】54 テイキウ 字號。㊀清、宗元鼎(**3－7106**‥297)の字。㊁清、陳鼎(**11－41698**‥480)の字。㊂清、梅文鼎(**6－14830**‥278)の字。

【定丘】55 テイキウ 東に水澤のある丘。〔爾雅、釋丘〕左レ澤定丘。〔疏〕謂下丘之東有二水澤一者上、名二定丘一。〔郝懿行義疏〕定丘者、漢志齊郡有二鉅定一、又爲二澤名一、蓋本古縣、依レ澤以爲レ名也、疑此爲レ近レ之、但陵谷變遷、丘形亦不レ可二復識一矣、其地在二今靑州府樂安縣一也。

【定詰】56 ヂヤウヅメ 役所などに始終つめきつてゐること。又、その人。

【定姜】57 テイキヤウ 春秋、衞の定公の夫人。公子が既に娶つて死し、婦に子が無かつたが、三年の喪を終へるや、定姜は其の婦を歸し、之を野に送り、恩愛哀思して燕燕の詩を作る。詩序には衞莊姜に作る。〔列女傳、母儀傳〕。

【定鄕】58 テイキヤウ 縣名。清、置く。西康省義敦縣の南。金沙江の支流、碩楚河の西岸の地。土名は鄕城。〔清史稿、地理志〕四川、巴安府、縣二、定鄕。

【定境】59 テイキヤウ ㊀邊境の地を安定する。〔北史、邢巒傳〕開レ地定レ境。㊁佛ヂヤウキヤウ 安身立命の境地。〔王勃、普惠寺碑文〕長二驅定境一、振二旅魔營一。〔雲笈七籤〕昔小乘以二三一一爲二定境一、義極二于有一、今大乘以二三一一爲二智慧一、義在二於空一。

【定嚮】60 テイキヤウ 家や門の方角に定まつた吉凶があること。〔通俗編、居處、定嚮〕論衡詰術篇、五姓之宅門、各有二宜嚮一、嚮得二其宜一、富貴吉昌、嚮失二其宜一、貧賤衰耗、蓋起レ宅開レ門之必定レ嚮久矣。

【定居】61 テイキヨ 止まつて居る。〔詩、小雅、采薇〕豈敢定居、一月三捷。〔箋〕定、止也。

【定據】62 ting^4 chü^4 證書。證據書類。

【定局】63 ting^4 chü^2 取り決める。成立する。結

末をつける。一きまりをつける。〔桃花扇、阻奸〕目今議立紛紛、尚無定局。

【定極】64（テイキョク） 定止する永住の所。〔書、盤庚下〕罔㆑有㆓定極㆒。〔蔡傳〕無㆑有㆓定止㆒。

【定金】65 ting^{4} chin^{1} 手附金。定銀に同じ。

【定銀】66 ting^{4} yin^{2} 手附金。定首市錢。

【定貨】67 ting^{4} huo^{4} 豫約注文、又は其の注文品。定は注文・約束の意。

〖定貨單〗68 ting^{4} huo^{4} tan^{1} 賣渡約定書。定單(201)に同じ。

〖定貨帳〗69 ting^{4} huo^{4} chang^{4} 商人の注文臺「帳。

〖定貨草賬〗70 ting^{4} huo^{4} ts'ao^{3} chang^{4} 注文控帳。

〖定貨成單〗71 ting^{4} huo^{4} ch'êng^{2} tan^{1} 注文契約書。

【定光】72（テイクヮウ） 宋の僧。同安の鄭氏の子。名は自巖。豫章に遊び、武平南巖に住し、屢〻奇跡を顯はす。淳化中、坐化す。

〖定光佛〗73（ヂヤウクヮウブツ） ［佛］佛の名。からだ中から光明を放つといふ。燃燈佛。定は、錠字の譌。〔四教集註、中〕亦名㆓然燈㆒、亦名㆓錠光㆒、有㆑足名㆑錠、無㆑足名㆑燈、錠字、或作㆓定字㆒、非也。

【定廣】74（テイクヮウ） 縣名。唐、置く。故治は四川省理番縣の境。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、威州〕定廣城、州南四十里、唐置、通典、維州所㆑領有㆓定廣城㆒、廣德初、沒㆓於吐蕃㆒、貞元九年、韋皐分㆑兵出㆓西山㆒破㆓定廣城㆒是也、或曰、大中閒收、復改爲㆓歸化城㆒、新唐書、維州所㆑領有㆓歸化縣㆒、是也、宋廢。

【定活】75 ting^{4} huo^{2} 請負仕事。

【定款】76（テイクヮン） ㊀定まつた箇條。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕意以爲、錢糧原有㆓定款㆒。㊁社團法人又は合名會社の組織及び其の業務執行に關する根本規則。又、其の規則書。

【定軍】77（テイグン） ㊀山名。諸葛亮を葬つた山。陝西省沔縣の東南。〔蜀志、先主劉備傳〕建安二十四年春、自㆓陽平㆒南渡㆓沔水㆒、緣㆑山稍前、於㆓定軍山勢㆒作㆑營、夏侯淵將㆑兵來爭㆓其地㆒、先主命㆓黃忠㆒乘㆑高鼓譟攻㆑之、大破㆓淵軍㆒、遂有㆓漢中㆒。㊁劇の一。定軍山を見よ。

〖定軍山〗77'（テイグンザン） 劇の一。一名、老將得勝、又、取東川。三國志演義第七一回に據る。後漢の獻帝の建安二十三年に劉備の老將、黃忠が夏侯淵を斬つた史實を脚色した武劇。

【定形】78（テイケイ） ㊀定まつた形。一定の形。〔譚子化書〕蠢動無㆓定情㆒、萬物無㆓定形㆒。〔虞集、竹影詩〕憑㆑君縱有㆓鵞溪絹㆒、莫㆘與㆓空花㆒結㆗定形㆖。㊁形を定める。〔潘尼、火賦〕煉㆓質於昆吾之竈㆒、定㆓形於薛燭之鑪㆒。〔傅玄、硯賦〕節㆓方圓㆒以定㆑形、鍛㆓金鐵㆒而爲㆑池。

【定型】79（テイケイ） きまつたかた。

【定計】80（テイケイ） はかりごとをさだめる。〔史記、日者傳〕慮㆑事定㆑計。〔後漢書、公孫述傳〕當㆓早爲㆒定㆑計、可㆓以無㆑憂。

【定傾】81（テイケイ） 危いものを安らかにする。〔史記、越世家〕定㆑傾者與㆑人。〔淮南子、脩務訓〕存㆑危定㆑傾。

【定溪】82（テイケイ） 明、方新(**5－13620**··281)の號。

【定慧】83（テイケイ） ㊀寺の名。江蘇省鎭江縣の焦山にあり、漢には普濟寺、宋には焦山寺といつた。高さ一尺三寸二分の周の鼎がある。㊁唐、宗密(**3－7106**··260)の諡。㊂［佛］（ヂヤウヱ） 禪定と智慧。三學の中の二法。〔法華經、序品〕佛子定慧具足。

【定業】84（テイゲフ） ㊀業を定める。大業を成就する。〔任昉、王文憲集序〕聖武定㆑業、肇㆓基王命㆒。〔獨孤綬、師貞丈人賦〕湯武用㆑之而定㆑業。㊁一定の仕事。きまつた職業。㊂［佛］（ヂヤウゴフ） 苦樂の報を受けるべき前世からの約束ごと。〔法華文句記、十〕若其機感厚、定業亦能轉。

【定見】85（テイケン） ㊀一定の所に見はれる。〔漢書、律歷志下〕以㆓閏分㆒乘㆓定見㆒。㊁ting^{4} chien^{4} 動かぬみこみ。一定の意見。

【定軒】86（テイケン） 字號。㊀明、黃孔昭(**12－47926**··1091)の號。㊁明、陳于廷(**11－41698**··661)の號。㊂清、繼昌(滿洲の人)(**8－27997**··50)の號。㊃清、崔紀の號。

【定賢】87（テイケン） 論衡の篇名。

【定縣】88（テイケン） 縣名。㊀漢の侯國。故城は河北省滄縣の東南。〔漢書、地理志上〕勃海郡、縣二十六、定。〔注〕侯國。㊁唐、置く。甘肅省舊寧夏府の境。㊂民國、置く。漢の盧奴縣の地、河北省安國縣の東。京漢鐵道の沿線。

【定檢】89（テイケン） 一定の法度。〔陸機、演連珠〕動循㆓定檢㆒、天有㆑可㆑察。〔注〕劉曰、檢、謂㆔定檢不㆓瀾漫㆒也、善曰、蒼頡篇曰、檢、法度也。

【定言】90（テイゲン） 言をさだめる。〔左氏、昭、九〕味以行㆑氣、氣以實㆑志、志以定㆑言、言以出㆑令。

【定限】91（テイゲン） ㊀一定の程度・制限。〔晉書、陶侃傳〕侃每㆑飮酒有㆓定限㆒。〔石林詩話〕文字工拙有㆓定限㆒。㊁日限。ひぎり。〔福惠全書、錢穀部、比較〕錢糧輸納、必有㆓定限㆒。㊂ting^{4} hsien^{4} 期限を定める。

【定絃】92（テイゲン） 樂器の調子を調へる。〔魏書、樂志〕張光等猶不㆑能㆑定㆓絃之緩急、聲之清濁㆒、云云、尋㆓準之分數精微㆒、如㆔彼定㆓絃緩急㆒。

【定源】93（テイゲン） 定まつた源。〔陸機、日出東南隅行〕綺態隨㆓顏變㆒、沈姿無㆓定源㆒。

【定讞】94（テイゲン） 罪を定めること。〔國朝漢學師承記、王昶〕鞫㆓高郵州典史陳倚道揭州書吏假印重徵事㆒、定㆑讞回㆑京。

【定胡】95（テイコ） 縣名。北周、置く。故城は山西省離石縣の西。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、永寧州〕定胡城、州西二十里、本漢離石縣地、後周置㆓定胡郡及縣㆒、隋初郡廢、縣屬㆓石州㆒、唐武德三年、置㆓西定州於此㆒、貞觀二年州廢、縣仍屬㆓石州㆒、宋因㆑之、大觀二年、改屬㆓晉寧軍㆒、金仍屬㆓石州㆒、明昌六年、改爲㆓孟門縣㆒、元廢、又孟門城在㆓定胡廢縣西㆒、唐貞觀三年、分㆓定胡縣地㆒置㆓孟門縣㆒、七年省。

【定公】96（テイコウ） 字號。㊀後漢、耿夔(**9－29026**··16)の字。㊁三國吳、呂岱(**2－3386**··114)の字。

【定興】97（テイコウ） 縣名。金、置く。漢の范陽縣の地。今の河北省清苑縣の東北、京漢鐵道の沿線。縣の西南に溫泉河がある。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕定興縣、府北百二十里、西至㆓易州㆒六十里、北至㆓涿州㆒六十五里、東至㆓新城縣㆒四十里、本范陽縣地、金大定六年、始析㆓范陽之黃村㆒置㆓定興縣㆒、屬㆓涿州㆒、元屬㆓易州㆒、明洪武六年、改㆓今屬㆒、編戶二十一里。〔清史稿、地理志〕直隸、保定府、縣十四、定興。

【定購】98 ting^{4} kou^{4} 買取約定。豫約注文する。

【定刻】99（テイコク） さだめた時刻。一定の時刻。

【定國】100（テイコク） ㊀國をさだめる。〔左氏、襄、十〕爲㆑書以定㆑國。〔孔叢子、論書〕勞能定㆑國。㊁字號。㋑宋、王鞏(**7－20823**··249)の字。㋺宋、王欽若(**7－20823**··1329)の字。

【定昆】101（テイコン） 池の名。陝西省長安縣の西南。〔唐書、安樂公主傳〕嘗請㆔昆明池爲㆓私沼㆒、帝曰、先帝未㆑有㆓以與㆑人者㆒、主不㆑悅、自鑿㆓定昆池㆒、延袤數里。

【定昏】102（テイコン） ㊀日が蒙谷に至つた時刻の稱。日暮。〔淮南子、天文訓〕日至㆓於虞淵㆒、是謂㆓黃昏㆒、至㆓於蒙谷㆒、是謂㆓定昏㆒。㊁ting^{4} huen^{1} おやすみの挨拶をすること。昏定。

【定根】103（テイコン） ㊀植物の胚軸の下端から直ちに生じてゐる根。蘿蔔・稻・麥等のやうに或は長大、或は纖細、數多叢生する。㊁［佛］（ヂヤウコン） 信等の五根の四。心を一境に止めて散失せしめないこと。五根(**1－257**··377)の㊁㋑を見よ。

【定婚】104（テイコン） 婚約する。又、その人。許嫁。定親。〔金史、昭德皇后傳〕朕四五歲時、與㆓皇后㆒定婚。

〖定婚店〗105 ting^{4} huen^{1} tien^{4} 媒介する家。月下老人(**5－14330**··24)を見よ。

〖定婚收繼〗106（テイコンシウケイ） 婚約後、夫たるべき男子が死亡した際、其の弟が代つて相手の女を娶ること。收繼は繼いで收め取る意。〔元典章、十八〕至元十年三月二十二日、中書戶部符文、滑州趙用告勻張鑄換親男趙臉兒、定㆓伊女月兒㆒爲㆑妻、未㆑婚、男因㆑病身死、欲㆑令㆓次男趙自當收繼㆒、不㆑肯㆑事、省部相度、終是已定㆓妻室㆒、亦合㆘欽依㆓聖旨㆒、山叔收㆓阿嫂㆒事理、接續施行㆖。

【定魂】107（テイコン） 魂を身に落ちつける。〔還魂記、祕議〕要㆓些定魂湯藥㆒。

【定做】108 ting^{4} tsuo^{4} 注文して作る。あつらへて拵へる。定製。

【定濟】109（テイサイ） 明、傅檝(**1－939**··63)の字。

【定齋】110（テイサイ） 字號。㊀宋、管湛(**8－26162**··124)の號。㊁宋、蔡戡(**9－31818**··30)の號。㊂宋、鄭士懿(**11－39647**··395)の號。㊃元、汪一龍(**6－17154**··166)の號。㊄明、梁格(**6－14825**··37)の

號。❻清、崔蔚林(4−8178‥198)の號。❼清、陳法(11−41698‥511)の字。

【定齋集】111（テイサイシフ） 書名。二十卷。宋、蔡戡撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【定齋居士】112（テイサイコジ） 宋、單煒(2−3993‥7)の號。

【定齋老人】113（テイサイラウジン） 宋、聶子述(9−29179‥28)の號。

【定造】114 ting⁴ tsao⁴ 注文して造る。あつらへる。

【定筰】115（テイサク） 縣名。漢、置き、晉、定笮と改む。故治は四川省鹽源縣の南。〔漢書、地理志上〕越嶲郡、縣十五、定筰。

【定策】116（テイサク） ❶古は天子の立つや、其の事を簡冊に書して宗廟に告げた。故に大臣が天子の尊立を謀ることを定策といふ。策は簡。定策功を見よ。〔漢書、宣帝紀〕建議定策。〔漢書、張安世傳〕與大將軍定策。〔後漢書、謝弼傳〕皇太后定策宮闈、援立聖明。❷はかりごとを決める。畫策する。〔陸機、漢高祖功臣頌〕運籌固陵、定策東襲。

【定策功】117（テイサクノコウ） 天子を輔け位に立てた功。天子を立てる事を策に書いて宗廟に告げるからいふ。策は竹簡。〔漢書、杜延年傳〕宣帝卽位、褒賞大臣、延年以定策安宗廟、益戶二千三百、與始封所食邑凡四千三百戶、詔有司論定策功。〔宋史、韓琦傳〕薨、年六十八、云云、瑑其碑曰、兩朝顧命、定策元勳。

【定策國老】118（テイサクノコクラウ） 唐の敬宗から宣宗に至る間の廢立は皆宦官によつてなされたので、宦官の楊復恭等は自ら定策國老と稱した。天子を廢立する國の元老の意。〔唐書、宦者下、楊復恭傳〕李茂貞上復恭與守亮書、曰、吾披荊榛立天子、既得位乃廢定策國老、奈負心門生何、門生、謂天子也、其不臣類此。

【定策國老門生天子】119（テイサクノコクラウモンセイノテンシ） 唐代に、宦官が天子の廢立を策し、天子は其の門下のやうに扱はれた故事。定策國老を見よ。

【定産】120（テイサン） ある程度の基本財産。一定の財産。恒産。〔宋史、食貨志上一〕民有定産、産有定稅。

【定山】121（テイザン） ❶山名。㋑江蘇省江陰縣の東。一名、女山。玉乳泉、一名、虎跑泉がある。㋺浙江省杭縣の東南。一名、獅子山。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府、錢塘縣〕定山、府東南四十里、突出江干、郡國志云、江濤至此輒抑、過此復雷吼震奮、因名、一名獅子山、劉宋泰始初、會稽大守孔顗等、擧兵應晉安王子勛、臺軍吳喜擊之、遣別將沈思仁等破東軍于定山、唐光啓二年、錢鏐遣將、自定山出海門、討薛朗于潤州、卽此。㋩湖北省房縣の南。〔輿地紀勝〕吳曾漫錄云、房陵定山有朱仲李園三十六所。❷字號。㋑明、莊昺(9−31035‥104)の號。㋺明、沈宗塙(6−17189‥584)の號。㋩清、宮夢仁(3−7156‥260)の字。㋥清、徐開錫(4−10110‥352)の字。❸（チヤウセン） 明の僧。名は滿。〔新續高僧傳、五十〕。

【定山集】122（テイザンシフ） 書名。十卷。明、莊昺撰。詩文雜著を集む。明史、藝文志に著錄せらる。

【定山堂】123（テイザンダウ） 清、龔鼎孶(12−48837‥86)の室名。

【定山堂集】124（テイザンダウシフ） 書名。四十三卷。詩餘四卷。清、龔鼎孶撰。

【定之】125（テイシ） 字號。❶元、顧安(12−43689‥3)の字。❷明、張安(4−9812‥3)の字。❸明、方宏靜(5−13620‥503)の字。❹明、馮庸(12−44579‥147)の字。❺明、邊寧(11−39216‥140)の字。

【定之方中】126（テイシハウチユウ） 詩經、鄘風の篇名。衞の文公が國を興復したことを褒めた詩。〔詩、鄘風、定之方中序〕定之方中、美衞文公也、衞爲狄所滅、東徙渡河、野處漕邑、齊桓公攘戎狄而封之、文公徙居楚丘、始建城市而營宮室、得其時制、百姓說之、國家殷富焉。

【定止】127（テイシ） きまり。とまり。〔李白、猛虎行〕頗似楚漢時、翻覆無定止。

【定志】128（テイシ） 志をさだめる。精神を統一する。〔東方朔、非有先生論〕虛心定志、欲聞流議者、三年於茲矣。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕夫得意一人、是謂永畢、失意一人、是謂永訖、欲人定志專心之言也、舅姑之心、豈當可失哉。〔錢珝、授秘書少監賜紫盧光啓守中書舍人制〕盧光啓勵精不怠、處默有倫、定志而靜專、其謀好古、而敏求其要。

【定思】129（テイシ） 清、方道章(5−13620‥582)の號。

【定視】130（テイシ） 目を据ゑる。みつめる。〔東方朔外傳〕水藻之褥、臣擧手拭之、恐水濕席、定視乃光也。

【定時】131（テイジ） ❶四時の氣候を定め正す。〔書、堯典〕朞三百有六旬有六日、以閏月定四時成歲。〔注〕以定四時之氣節、成一歲之曆象。❷一定の時。

【定爾】132（テイジ） 汝を安定する。天が命を下して天子と定めること。定は保定・安定の意、爾は汝。〔詩、小雅、天保〕天保定爾、亦孔之固。〔箋〕保、安、爾、女也、女王也、天之安定女、亦甚堅固。〔王融、三月三日曲水詩序〕定爾固其洪業。

【定州】133（テイシウ） 州名。❶後魏、置く。戰國の中山の地。清は直隸州とし、曲陽・深澤の二縣を領す。今の河北省定縣。宋代に、州人の造瓷を以て著はれ、世に定窯と稱せられ、殊に宣和・政和の間の窯が尤も佳いものとされてゐる。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府〕定州、春秋時鮮虞國地、戰國初、爲中山國、尋爲魏所倂、後又屬趙、秦爲上谷・鉅鹿二郡地、漢初置中山郡、景帝改爲中山國、後漢及晉皆因之、後燕慕容垂都此、置中山尹、後魏亦爲中山郡、兼置安州、尋改爲定州、高齊改郡曰鮮虞郡、後周置定州總管府、隋廢郡、仍曰定州、煬帝初改爲博陵郡、後又爲高陽郡、唐仍曰定州、天寶初、亦曰博陵郡、乾元初復故、五代因之、宋仍曰定州、政和三年、升爲中山府、金復曰定州、尋亦爲中山府、元因之、後仍爲定州、改屬眞定府、以州治安喜縣省入、領縣三。〔清史稿、地理志〕直隸、定州直隸州、領縣一、曲陽、深澤。❷前涼、置く。故治は甘肅省武威縣の西北。❸唐、置き、明初、廢す。故治は四川省珙縣の西南。❹西夏、置く。故治は甘肅省平羅縣の東南。❺遼、置く。朝鮮平壤の西北。〔讀史方輿紀要、山東、朝鮮〕定州城、在平壤西北三百餘里、高麗置治定東縣、契丹取之、仍曰定州、亦曰保寧軍、後入於高麗、今仍爲定州、西南與義州接界。

【定周】134（テイシウ） 縣名。漢、置く。故治は廣西省宜山縣の西北。〔漢書、地理志下〕鬱林郡、縣十二、定周。

【定式】135（テイシキ） ❶定まつた儀式。一定の法式。定例。〔潘岳、西征賦〕士無常俗、而教有定式。〔宋史、禮志二二〕以爲定式。❷きまつた樣式。書式。〔齊東野語、紹興御府書畫式〕諸畫裝褫、尺寸定式。

【定質】136 ting⁴ chih⁴ 固體をいふ。

【定日】137（テイジツ） ❶きめた日。〔南齊書、王敬則傳〕太祖命敬則、於殿內伺機、未有定日。❷城の名。西藏の後藏の南境に在り、札什倫布から聶拉木に通ずる要道に位置す。

【定日虛稅】138 ting⁴ jih⁴ hsü¹ shuei⁴ 清代に、納稅者が納稅し得ない場合、帳簿面のみを完納の體に記入し、他日補納することをいふ。

【定日付款】139 ting⁴ jih⁴ fu⁴ k'uan³ 爲替手形の滿期定日支拂。

【定章】140（テイシヤウ） 規則。定款。〔清國行政法汎論、文官任命形式、題調、備考〕是唯係蘇州定章、未足以爲典要。

【定情】141（テイジヤウ） 珍飾の品を贈つて結婚の證とする。轉じて、夫婦となる。結婚。〔張衡、定情賦〕夫何妖女之淑麗、光華艷而秀容。〔陳鴻、長恨歌傳〕定情之夕、授金釵鈿合以固之。

【定情詩】142（テイジヤウシ） 樂府、雜曲歌辭の名。漢、繁欽作。婦人が禮を以て人に從ふこと能はず、服玩を以て媚を爲し、遂に見棄てられて傷悔する意を述ぶ。定情は珍飾の品を贈つて結婚の證とすることで、因つて結婚の詩を定情詩といふやうになつた。唐の喬知之の定情篇、施肩吾の定情樂も亦悲觀怨慕の情を敍してゐる。〔樂府詩集、雜曲歌辭、定情詩〕樂府解題曰、定情詩、漢繁欽所作也、言婦人不能以禮從人、而自相悅媚、乃解衣服玩好致之、以結綢繆之志、云云、而期于山隅山陽山西山北、終而不答、乃自傷悔焉。〔繁欽、定情詩〕我出東門遊、邂逅承清塵、思君卽幽房、侍寢執衣巾。〔喬知之、定情篇〕共君結新婚、歲寒必未卜、相與遊春園、各隨情所逐。〔施肩吾、定情樂〕敢嗟君不憐、自是命不諧、著破三條裾、卻還雙股釵。

【定襄】143（テイジヤウ） ❶郡名。㋑漢、置く。秦の雲中郡の東北部の地。山西省右玉縣及び綏遠全省南半の地。治は盛樂。〔讀史方輿紀要、歷代州域形

勢、漢〕定襄郡、秦雲中郡地、高帝析置定襄郡、領盛樂等縣十二、今大同府西北三百餘里有盛樂城、卽漢郡治也。㋺隋、置く。㋩唐、置く。もとの忻州の地、尋いで復、忻州とす。故治は山西省忻縣。❸縣名。㋑後漢、置く。故治は綏遠省歸綏縣の東。㋺後漢、置く。山西省五臺縣の西南。滹沱河の上流と其の支流と牧馬河とに挾まれる閒。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、忻州〕定襄縣、州東五十里、東北至代州五臺縣六十里、漢陽曲縣地、晉置晉昌縣、屬新興郡、後魏太平眞君七年、省入定襄縣、隋爲秀容縣地、唐武德四年、分秀容縣地置定襄縣屬忻州、宋熙寧五年省、元祐初復置。〔清史稿、地理志〕山西、忻州直隸州、縣二、定襄。㋩南朝宋、置く。湖北省江陵縣の西北。〔清一統志〕此唐定襄縣城、或以此爲漢郡城、非。❹諡號。㋑明、呉崇禮（**2**−**3365**··692）の諡。㋺明、陳德（**11**−**41698**··496）の諡。

【定壤】144（テイジヤウ） 土地を定めること。〔管子、事語〕管子曰、非數也、云云、此定壤之數也。〔纂詁〕所謂數者、乃定壤地之數。

【定爵】145（テイシヤク） 司馬法の篇名。

【定壽】146（テイジユ） 清、滿洲正黃旗人。姓は赫舍哩氏。官は雍正の閒、鑲藍旗蒙古都統。噶爾丹の邊を犯すや、之を征伐し、勝に乘じて深く入り、圍に陷つて陣歿す。〔清史稿、三百四〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十七〕。

【定宿】147（ヂヤウヤド） いつも宿るやど。泊りつけのやど。〔鷹筑波集〕蝶鳥の定宿なれや家櫻。

【定肅】148（テイシユク） 諡號。❶宋、顏師魯（**12**−**43591**··159）の諡。❷金、完顏斡帶（**3**−**7079**··48）の諡。❸明、蕭彥（**9**−**32012**··110）の諡。

【定熟】149（テイジユク） 成熟する。〔呂覽、審時〕庭辟米不得恃、定熟、印天而死。

【定術】150（テイジユツ） 一定の方針。〔韓非子、顯學〕海內之士、言無定術、行無常儀。

【定准】151 ting^4 chuen^3 取りきめる。

【定準】152（テイジユン） きまつた標準。一定の標準。〔南史、王儉傳〕衣服制則、未有定準。〔五代史、司天考〕定準加中限。

〔定準時刻〕153 ting^4 chuen^3 shih^2 k'ê^4 定めの時刻。

【定處】154（テイシヨ） 定まり居る。又、一定の處。〔詩、大雅、桑柔〕自西徂東、靡所定處。〔史記、殷紀〕迺五遷無定處。

【定勝】155（テイシヨウ） 鎭の名。湖南省湘鄉縣の西南。今の名は永豐鋪。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府、湘鄉縣〕定勝鎭、縣西八十里、唐末邵州將蔣勛、據州拒劉建鋒、起兵連飛山梅山蠻寇湘潭、又遣兵屯定勝鎭、以扼潭人、建鋒使馬殷擊破之。

【定鐘】156（ヂヤウシヨウ・チンジユ） [佛]寺で、初更の後、暫くして鳴らす十八の鐘。十八鐘ともいひ、坐禪僧が坐禪を止める時で、丁度、亥の刻にあたる。〔禪林象器箋、十八〕。

【定色】157（テイシヨク） 顏色を落ちつける。顏色を和らげる。〔顏氏家訓、序致〕曉夕溫凊、規行矩步、安辭定色。

【定心】158（テイシン） ❶おちついた心。〔管子、內業〕定心在中。〔張協、雜詩〕羇旅無定心。❷心を定める。心をおちつける。〔楚辭、九章、懷沙〕定心廣志、余何畏懼兮。〔集注〕是以君子之處患難、必定其心、而不使爲外物所動搖。〔漢書、谷永傳〕定心爲善、捐忘邪志。❸[佛]（ヂヤウシン） 禪行を修して散亂する心を遠ざけること。〔無量壽經、下〕深心定心。

〔定心湯〕159 ting^4 hsin^1 t'ang^1 產後に產婦に飮ませる砂糖湯。

【定臣】160（テイシン） ❶久しい閒、變らずに仕へた臣。昔からの臣。譜第の臣。〔揚雄、解嘲〕士無常君、國無定臣。〔注〕良曰、言君臣數遷易不常定。❷唐、李戡（**6**−**14459**··159）の字。

【定神】161（テイシン） 心を凝らすこと。精神をおちつける。〔班固、竹扇賦〕來風辟暑致清涼、安體定神達消息。

【定親】162 ting^4 ch'in^1 結婚を取決める。訂婚。

〔定親書〕163 ting^4 ch'in^1 shu^1 結婚約定書。

【定數】164（テイスウ） ❶數量をきめる。〔後漢書、律曆志上〕竹聲不可以度調、故作準以定數。❷定まつた運命。定命。定分。〔劉峻、辨命論〕榮悴有定數、天命有至極。

〔定數比例〕165（テイスウヒレイ） 化學用語。化合して物を生ずる時に要する元素の一定した割合。水が水素二と酸素一の割合で出來る類。　「字。

【定生】166（テイセイ） 清、陳貞慧（**11**−**41698**··1147）の字。

【定西】167（テイセイ） ❶縣名。㋑金、置く。故城は今の甘肅省定西縣の南。宋の定西城の地。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府〕安定縣、府北百八十里、西至蘭州二百四十里、北至靖遠衞三百里、本唐渭州西市貿馬之所、宋元豐中、築定西城、屬通遠軍、金大定中、改爲定西縣、屬鞏州、貞祐中、升爲定西州、元因之、後改爲安定州、明初改爲縣。㋺民國、明・清の安定縣を改めて定西縣と稱す。㋑及び❷を見よ。❷州名。金、貞祐中、定西縣を升せて置く。元初、州を安西縣（今の定西縣治）に徙す。後、安定州と改め、明、降して縣とし、民國、定西縣と改む。❶の㋑を見よ。

〔定西嶺〕168（テイセイレイ） 山名。雲南省鳳儀縣の南。〔雲南通志〕本名昆彌山、明初、西平侯沐英過此、更今名、山有市集、元末、置彌只防守千戶、明置巡司二、一流官、一土官、李姓世襲、清因之。

【定成】169 ting^4 ch'êng^2 取りきめる。

【定制】170（テイセイ） 定まつた制度。きまり。定度。〔後漢書、胡廣傳〕選擧因才、無拘定制。〔魏志、明帝紀〕未有定制。〔成公綏、嘯賦〕曲無定制。

【定星】171（テイセイ） ❶營室星の異名。營室（**7**−**19457**··64）の❷を見よ。室宿。〔詩、鄘風、定之方中、疏〕釋天云、營室、謂之定、云云、言定星昏中、而正四方。❷陰曆十月立冬の節。〔榮花物語、疑〕刻十月定星之期、廻萬代不朽之計。❸恒星をいふ。

【定省】172（テイセイ） 昏定晨省の略。親に事へて晩には其の寢具を安らかにととのへ、朝には其の安否何如を省み問ふこと。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕僕自京都、言歸定省。

〔定省溫清〕173（テイセイヲンセイ） 親に事へては定省し、且、冬は溫かに夏は涼しくすること。清は、すずしい・ひややか。〔禮、曲禮上〕凡爲人子之禮、冬溫而夏清、昏定而晨省。〔注〕安定其牀衽也、省問其安否何如。〔釋文〕清、七性反、字從冫、冰冷也、本或作水旁、非也。

【定睛】174（テイセイ） ひとみをすゑる。目を見張る。〔呉融、春詞〕羞多轉面語、妬極定睛看。

【定稅】175（テイゼイ） 一定の稅金。定產（120）を見よ。

【定燒】176 ting^4 shao^1 陶磁器などを、誂へて燒かせる。

【定石】177（テイセキ） ❶動かぬ石。〔惟鳳、詩〕漱泉流落葉、定石集鳴蛩。❷（ヂヤウセキ） 圍碁で、一隅に於ける白黑最善の折衝の定型化したもの。❸轉じて、事物の處理の一定の仕方。

【定席】178（ヂヤウセキ） 一定の坐席。一定の會合。

【定籍】179（テイセキ） 定まつた記錄。〔福惠全書、保甲部、清查界址〕悉有定籍、可無患意外之釁爭矣。

【定說】180（テイセツ） 確定した說。人々によつて正しいと認められてゐる、或は認められる可能性のある說。動かし得ない說。定論。

【定川】181（テイセン） 川の名。龍川江の下流。源は廣西省興業縣の葵山。鬱林縣の南で南流江に入る。

〔定川溪〕182（テイセンケイ） 川の名。四川省筠連縣の西、八匡河白水江の下流。源は貴州省咸寧縣。慶符縣の東北に至り、江に入る。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、筠連縣〕定川溪、在縣治西北、亂流自山而下、匯積成溪、其下流入石門江、注於大江。

【定泉】183（テイセン） 靜かな泉。〔李紳、寒林寺詩〕地無塵染多靈草、室鑒眞空有定泉。

【定錢】184 ting^4 ch'ien^2 手附金。手金。

【定然】185 ting^4 jan^2 きつと。必ず。

【定素】186（テイソ） 明、趙豫（**10**−**37171**··361）の字。

【定宗】187（テイソウ） ❶元の第三代の王。庫裕克（**4**−**9330**··84）を見よ。❷高麗第三代の王。名は堯。字は義天。諡は文明。太祖の第二子。後晉の開運二年、逆臣王規を誅して卽位す。在位四年にして、病篤く、位を母弟昭に禪り、尋いで歿す、年二十七。王は佛を好み、圖讖を信じ、多く土木の役を起し、民の怨嗟を招いた。〔高麗史、二〕。❸朝鮮李朝の第二代の王。名は曔。初名は芳果。字は光遠。諡は恭靖。太祖の第二子。太祖の七年、禪を受けて卽位し、官制を改定し、學問を獎め、經

濟の振興を計つた。二年、人望が靖安君芳遠に歸するのを見て、策して世子となし、之に位を禪る。在位二年。上王の位に在ること十九年。永樂己亥歿す、年六十三。〔國朝寶鑑、二〕。

【定叟】188（テイソウ）　字號。㊀宋、張杓（4－9812‥439）の字。㊁宋、王霆（7－20823‥830）の字。㊂清、秦雲爽（8－24995‥190）の號。

【定僧】189（ヂヤウソウ）　禪定に入つた僧。〔劉得仁、宿二僧院一詩〕樹搖二幽鳥夢一、螢入二定僧衣一。

【定則】190（テイソク）　㊀規則。〔魏志、傅嘏傳〕士有二恒貢一、官有二定則一。㊁一定不變の法則。〔許瑤、題二懷素上人草書一詩〕志在二新奇一無二定則一。

【定息】191（テイソク）　さだまつた呼吸。〔史記、扁鵲傳〕呼吸定息、脈行六寸、人一日一夜、凡一萬三千五百息。

【定妥】192（テイタイ）　ting^4 t'uo^3　定める。解決する。

【定態】193（テイタイ）　きまつた形。一定の形態。〔齋藤竹堂、耶馬溪紀行〕生動奇變無二定態一。

【定體】194（テイタイ）　㊀體を安定にする。〔漢書、五行志中之上〕目以定レ體、足以從レ之。㊁一定し固定したかたちやきまり。〔中庸、君子之中庸也君子而時中、章句〕蓋中無二定體一、隨レ時而在。

【定桃】195（テイタウ）　瓜の名。〔陸機、瓜賦〕夫其種族類數、則有二括樓・定桃・黃㼎・白傳一。

【定陶】196（テイタウ）　縣名。㊀秦、置く。又、陶邑といふ。山東省荷澤縣の南。南陽湖の支流の劉林河の發源地。春秋、曹の地。漢、秦の縣に因り、彭越が梁王となつて此に都す。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、曹州〕定陶縣、州東南五十里、東至二城武縣一五十里、春秋時曹地、秦置二定陶縣一、漢初封二彭越一爲二梁王一、都二定陶一、後爲二濟陰郡治一、甘露中、爲二定陶國治一、後漢濟陰郡亦治レ此、晉改爲二濟陽郡治一、劉宋爲二北濟陰郡治一、後魏仍置二濟陽郡一、尋爲二西兗州治一、隋屬二曹州一、唐初因レ之、貞觀初、省入二濟陰縣一、曰二定陶鎭一、宋乾德初、置二發運務於此一、開寶九年、改二轉運司一、太平興國二年、建二康濟軍一、四年置二定陶縣一隸焉、熙寧四年軍廢、縣屬二曹州一、元祐初、復置二廣濟軍於此一、金軍廢レ縣仍屬二曹州一、元因レ之、明朝洪武初省、四年復置レ縣屬二濟寧府一、正統十一年、改二今屬一。〔清史稿、地理志〕山東、曹州府、縣十、定陶。㊁漢の安陶縣。一に定陶に作る。今、缺く。山西省の境。㊂南朝宋、置く。今、缺く。江蘇省の境。㊃後魏、置く。安徽省宿縣の北。

〔定陶共王〕197（テイタウキヨウワウ）　漢、劉康（2－2224‥104）の封謚號。

【定當】198（テイタウ）　ting^4 tang^1　必ず。必定。　「字。

【定濤】199（テイタウ）　清、金祖靜（11－40152‥1322）の字。

【定奪】200（テイダツ）　きめる。可否を決定する。その通りに許すか否かをきめる。〔長生殿、埋玉〕待三我奏二過聖上一、自有二定奪一。〔清會典、吏部、京察有二列題一、注〕由二吏部一繕二履歷清單一具題、候レ旨定奪。〔皇朝政治學問答〕定、准二其如一レ此也、奪、不レ准レ如レ此也。〔福惠全書、刑名部、問擬〕定擬上請定奪、俟二批允一發落。

【定單】201（テイタン）　ting^4 tan^1　約定書。注文書。定貨單。

〔定單銀〕202　ting^4 tan^1 yin^2　約束金。手附金。

【定端】203（テイタン）　定まつた時。定時。〔謝瞻、王撫軍庾西陽集別作詩〕來晨無二定端一、別晷有レ成速。

【定斷】204　ting^4 tuan^4　決定する。

【定直】205（テイチ）　定價。〔唐書、魏元忠傳〕專以二重寶一附二權門一、皆有二定直一。

【定忠】206（テイチユウ）　明、韓文（洪洞の人）（12－43159‥206）の謚。

【定住】207（テイヂユウ）　㊀さだまつた住所。〔辛棄疾、詞〕人似二秋鴻一無二定住一、事如二飛彈一須二圓熟一。㊁清、滿洲鑲黃旗人。乾隆中、緬甸・安南等を征するに從つて功あり、官は壽春鎭總兵。嘉慶の間、川楚教匪の起るや、河南・陝西に轉戰し、官、烏魯木齊提督に至る。〔國朝耆獻類徵、三百五〕。

【定著】208（テイチヨ）　㊀校訂して正本をつくる。〔曾鞏、陳書目錄序〕館閣所レ藏、恐不レ足二以定著一。〔朱熹、中庸章句序〕既爲定二著章句一篇一、以竢二後之君子一。㊁（テイチヤク）　㋑さだまりつく。固著。㋺寫眞術で、現像した乾板、又は燒きつけ板から、未だ變化しない感光藥を洗ひ去つて畫像を判然させること。

〔定著液〕209（テイチヤクエキ）　寫眞の定著に用ひる液。濕法では青酸加里、乾法では次亞硫酸曹達の溶液。

【定定】210（テイテイ）　㊀とどまるさま。〔李商隱、憶レ梅詩〕定定住二天涯一、依依向二物華一。㊁明、高昌の人。字は伯安。官は廣東州同知。〔尙友錄、二十〕。

【定鼎】211（テイテイ）　㊀都を定めること。夏の禹王が、九州の金を集め、九つの鼎を鑄て、王位繼承の寶器とし、後、周の成王が之を郟鄏に遷して周の都としたからいふ。奠都。奠鼎。〔左氏、宣、三〕成王定二鼎于郟鄏一。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕高祖以二聖武一定レ鼎。〔徐陵、徐州刺史侯安都德政碑文〕經二綸草昧一、定鼎之業居レ多。㊁五胡十六國の一、後燕の世祖武皇帝、慕容垂の時、翟釗の僭年號。（391－392）

〔定鼎碑〕212（テイテイノヒ）　後魏の碑の名。もと、懷州（今の河南省沁陽縣治）の衙署にあり、題して御射之碑といふ。後魏の宣武帝の武を閱した所に建てたもの。〔廣川書跋〕古圖經稱、定鼎碑、在二懷州衙署一、其題曰二御射之碑一、以三其文有二定鼎遷中之十載一、故自レ昔其名如レ此、魏書、景明三年、車駕幸レ鄴、閱二武於鄴南一、帝親射レ遠、及二一里五十步一、羣臣勒二銘于射所一。

〔定鼎門〕213（テイテイモン）　周の成王の時の、郟鄏の南門の名。〔帝王世紀〕成王定二鼎於郟鄏一、其南名二定鼎門一、蓋九鼎所二從入一也。

【定條】214（テイデウ）　定まつた條項。〔福惠全書、刑名部、問擬〕雖下有二定條一、頗爲中嚴密上云云。

【定的】215　ting^4 ti^2　めあてを定める。

【定點】216（テイテン）　一定の場所。又、一定の點數。又、一定條件の點。

【定都】217（テイト）　縣名。民國、置く。本、遷安縣西北境の地、河北省に屬す。治所の土名は大障子。

【定度】218（テイド）　定まつた制度。きまり。定制。〔管子、君臣上〕朝有二定度衡儀一、以尊二主位一。

【定東】219（テイトウ）　隋、豆盧勣（10－36245‥85）の字。

〔定東陵〕220（テイトウリヨウ）　清の孝貞顯皇后の陵の名。河北省遵化縣西北の昌端山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制一〕昭西陵・孝陵・景陵・裕陵・定陵・普祥峪定東陵・惠陵爲二東陵一、在二遵化州昌端山一。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制二〕孝貞顯皇后陵、爲二普祥峪定東陵一。

【定南】221（テイナン）　㊀地名。貴州省普定縣の治。舊名は鐵王旗。㊁縣名。㋑北周、置く。山西省離石縣の西。㋺明、置く。江西省安遠縣の西南。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府〕定南縣、府南四百六十里、東至二安遠縣一二百五十里、東南至二廣東龍川縣一五百十里、南至二廣東和平縣一九十里、西至二龍南縣一九十里、北至二信豐縣一二百四十里、本龍南・安遠・信豐三縣地、隆慶元年、撫臣吳百朋、勦二撫下歷・高砂二巢一、奏レ置レ縣、二年始設二定南縣一、仍屬二贛州府一、三年築二城於高砂之蓮塘一、周一里有奇。

〔定南針〕222　ting^4 nan^2 chen^1　羅針盤。

〔定南王〕223（テイナンワウ）　清、孔有德（3－6933‥256）の封號。

【定寧】224（テイネイ）　定まつてやすらか。〔論衡、宣漢〕四海混一、天下定寧。

【定買】225　ting^4 mai^3　買入の契約をする。注文して購買する。

【定賣】226　ting^4 mai^4　賣渡契約。

【定保】227（テイハウ・テイホ）　さだめやすんずる。國を定め、家を安んずる。〔書、胤征〕聖有二謨訓一、明徵定保。〔傳〕徵、證、保、安也、聖人所レ謀之教訓、爲二世明證一、所二以定レ國安レ家。

【定法】228（テイハフ）　㊀定まつた法則。〔文心雕龍、通變〕贊曰、文律運周、日新二其業一、變則其久、通則不レ乏、趨レ時必果、乘レ機無レ法、望レ今制レ奇、參レ古定レ法。〔唐書、曆志五〕日蝕有レ差、以二朔日所レ入定レ數、十五而一、以減二百四一、餘爲二定法一。㊁法を定める。〔史記、秦始皇紀〕除レ疑定レ法、咸知レ所レ辟。㊂韓非子の篇名。㊃佛（ヂヤウホフ）　定まつた教。〔傳心法要〕實無レ有二定法如來可一レ說。

【定番】229（テイバン）　㊀州名。明、置く。古の蠻夷の地。元・明初は程番といふ。貴州省貴筑縣の南。盤江の支流の濛江の西北岸。〔讀史方輿紀要、貴州、貴陽軍民府〕定番州、古蠻夷地、元至元十六年、置二程番武勝軍安撫司一、明初改置二程番長官司一、隸二貴州衞一、正統四年、屬二貴州宣慰司一、成化十年、置二程番府於此一、隆慶二年、移二府治於省城一、萬曆十二年、置二定番州於舊府治一。〔清史稿、地理志〕貴州、貴陽府、州三、定番州。㊁縣名。民國、明・清の定番州を改めて縣とす。㊀を見よ。

【定盤】230（テイバン）　㊀秤。定盤星を見よ。㊁ting^4 p'an^2　相場を定める。盤は、相場の意。天秤の平衡を

定めることから轉じていふ。

【定盤星】231 テイバンセイ 天秤の桿の起點にある星の印。俗に一つの事の標準をいひ、又、物の輕重に關係がないので、執着するの意にも、超越するの意にも用ひる。〔朱熹、水調歌頭聯句問二訊羅漢一詩〕記取淵冰語、莫レ錯定盤星。〔碧巖錄、第二則評〕識取鈎頭意、莫レ認定盤星。

【定評】232 テイヒヤウ 評を定める。又、人々が是認した評判。世人が認めてゐる價値。〔王粲、爲二劉荆州一與二袁尙一書〕使三記注之士定二曲直之評一。

【定愍】233 テイビン 宋、胡唐老(**9**—**29400**··546)の諡。

【定夫】234 テイフ 字號。㊀宋、游酢(**7**—**17792**··140)の字。㊁宋、管湛(**8**—**26162**··124)の字。㊂宋、蔡戡(**9**—**31818**··30)の字。㊃宋、饒應子(**12**—**4400**··62)の字。㊄清、徐法績(**4**—**10110**··610)の字。

【定府】235 ヂヤウフ 德川時代、大小名及び其の臣下が江戸に定住したこと。

【定符】236 ting^{4} fu^{2} 必ず符合する。

【定分】237 テイブン ㊀君臣・父子・夫婦等の定まった身分。〔呂覽、處方〕其本也者、定分之謂也。〔注〕言三其爲レ君治理分定不二悖惑一也。㊁自然に定まってゐる運命。定數。〔南史、顧覬之傳〕命有二定分一。〔杜甫、飛仙閣詩〕浮世有二定分一、饑飽豈可レ逃。〔歐陽建、臨終詩〕窮達有二定分一、慷慨復何歎。㊂或る程度の制限。一定の制限。〔蜀志、郤正傳〕忠無二定分一、義無二常經一。㊃地位・身分を定める。〔後漢書、鄧隲傳〕刻レ骨定レ分。㊄商子の篇名。

【定票】238 ting^{4} p'iao^{4} 賣買契約書。

【定標】239 ting^{4} piao^{1} 目標。

【定辟】240 テイヘキ 法則を定める。〔書、酒誥〕宏父定レ辟、矧汝剛制二于酒一。〔蔡傳〕況爾之疇匹、而位二三卿一者、云云、若下宏父之制二其經界一、以定上法者乎。

【定邊】241 テイヘン 縣名。㊀宋、置く。定邊軍の㊁を見よ。㊁元、置く。雲南省蒙化縣の南。〔讀史方輿紀要、雲南、楚雄府〕定邊縣、府西三百十里、西南至二景東府一一百七十里、地名二南澗一、爲二濮落蠻所一レ居、元至元二十二年、置二定邊縣一、隸二鎭南州一、二十四年、省レ縣入レ州、明初復置、今縣改屬レ府。㊂清、置く。陝西省靖邊縣の西。長城の要隘の地。明の定邊營。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭〕定邊營、在二鎭西六百六十里一、又西六十里卽花馬池、爲二西路之衝要一、嘉靖中、總制劉天和言、定邊・寧塞二營之間、套寇所二由入一也、議者請自二定南八墩一至二寧朔墩一十七里、創二築新牆一、以杜二乾溝深入之路一、自二寧朔墩一至二昌平墩一九十里、增二修舊牆一、以衞二舊安邊孤懸之勢一、所レ宜二及レ時修擧一、從レ之、輿程記自二舊安邊營一九十里、至二定邊營一、又西至二花馬池一、爲二外邊一、自二新定邊營一以西以至二三山饒陽等堡一、爲二內邊一、與二固原邊形勢一相接云。〔清史稿、地理志〕陝西、延安府、縣十、定邊。

【定邊軍】242 テイヘングン 行政區劃の名。㊀唐、置く。永平軍(**6**—**17088**··222)を見よ。㊁宋、定邊城を築き、後に軍とし、更に縣とす。甘肅省慶陽縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府、安化縣〕定邊城、府北二百六十里、宋元符二年置、尋建二定邊軍一領二定邊一縣一、金皇統六年、以二其地一賜二夏人一、尋廢爲二定邊寨一、屬二環州一、元因レ之、今有二官軍及巡司戍守一。

【定父】243 テイホ 明、黃一正(**12**—**47926**··989)の字。

【定甫】244 テイホ 清、王拯(**7**—**20823**··609)の字。

【定圃】245 テイホ 字號。㊀清、英和(**9**—**30808**··200)の字。㊁清、戴明說(**5**—**11685**··213)の號。㊂清、德保(**4**—**10243**··256)の號。㊃清、陸以湉(**11**—**41708**··253)の字。

【定封】246 テイホウ 領地を定める。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕八載而天下廼平、始論レ功而定レ封。〔東方朔、非有先生論〕於レ是裂レ地定レ封。

【定峯】247 テイホウ 清、沙張白(**6**—**17212**··274)の號。

【定謀】248 テイボウ 謀を定める。〔素書〕怨在レ不レ赦二小過一、患在レ不二預定一レ謀。〔淮南子、人閒訓〕人之擧レ事、莫レ不下先以二其知一、規慮揣度、而後敢以定上レ謀。〔宋史、岳飛傳〕飛曰、勇不レ足レ恃、用レ兵在二先定一レ謀。

【定本】249 テイホン ㊀誤を訂正した書物。異本の多い古典等の誤謬・誤植等を檢討・校正した、類書中の標準となるべき書冊をいふ。校定本。〔東觀餘論〕定本古器圖、政和五年十一月、於二山陽一以二張丈人家本一校、幷補レ所レ乏。〔李潤、校定杜工部集序〕得二御府定本一校讎、益號二精密一。㊁定武の蘭亭帖。定武蘭亭(311)を見よ。〔書史〕錢塘關景仁收二唐石本蘭亭一、佳二于定本一、不レ及二余家板本一也。〔蘭亭續攷〕蘭亭敍、世閒本極多、惟定本者最佳。

【定滿】250 テイマン 明、定山(121)の㊂の名。

【定名】251 テイメイ ㊀一定不變の名。〔韓愈、原道〕仁與レ義爲二定名一。㊁名をきめる。名をつける。〔管子、九守〕修レ名而督レ實、按レ實而定レ名。㊂必ず合格する。定名筆を見よ。

【定名筆】252 テイメイヒツ 唐代、筆を賣る者が、試驗場の入口で必ず合格することを祝して、擧試に應ずる者に賣りつけた筆の名。〔清異錄、文用、定名筆〕唐世、擧子將レ入レ場、嗜レ利者、爭賣二健毫圓鋒筆一、其價十倍、號二定名筆一、筆工每レ賣二一枚一、則錄二姓名一、候二其榮捷一、則詣レ門求二阿堵一、俗呼二謝筆一。

【定命】253 テイメイ ㊀運命を定め與へる。〔班固、幽通賦〕神先レ心以定レ命兮、命隨レ行以消息。㊁天から定められた運命。定數。天命(**3**—**5833**··1398)の㊀を見よ。㊂變易することの出來ぬ命令。〔詩、大雅、抑〕訏謨定命。〔集傳〕定、審定不二改易一也、命、號令也。㊃天下を安定せよとの天命。〔書、洛誥〕王如レ弗三敢及二天基命定命一。〔傳〕安二定天下一之命。㊄天命を全うすること。〔漢書、律歷志上〕是故有二禮誼・動作・威儀之則一、以定レ命也。㊅佛 ヂヤウミヤウ 持って生れた壽命。

【定命寶】254 テイメイハウ 寶の一種。〔宣和遺事、前集上〕御二大慶殿一、受二定命寶一。

【定命論】255 テイメイロン ㊀文章の名。南朝宋の顧覬之が弟子愿をして作らしめたもの。天から定められた運命を論ず。〔南史、顧覬之傳〕覬之常執、命有二定分一、非二智力所一レ移、唯應下恭レ己守レ道、信レ天任上レ運、云云、乃以二其意一命二弟子愿一作二定命論一。㊁定道論(292)を見よ。

【定免】256 ヂヤウメン ㊀江戸時代に、或る期間を定めて、年貢の幾分かを免ずること。㊁江戸時代に、其の田地の五年乃至十年の收穫を平均して定めた稅高。

【定紋】257 ヂヤウモン 其の家にきめてある紋所。〔朝倉敏景十七箇條〕表著、云云、同名定紋を付けさせらるべく候。

【定問】258 テイモン 便りをする。樣子を確める。〔資治通鑑、晉紀〕〔惠帝、元康元年〕宜二遣レ人參審定問一。〔注〕問、音問也、定問、猶レ言レ實二音問一也。

【定陽】259 テイヤウ 縣名。㊀漢、置く。陝西省宜川縣の西北。〔漢書、地理志下〕上郡、縣二十三、定陽。㊁後漢の末、孫氏、置く。浙江省常山縣定陽鄕。〔讀史方輿紀要、浙江、衢州府、常山縣〕定陽城、縣東南三十里、後漢末、孫氏置二縣於此一、至レ隋始廢、志云、今其地名二三岡一、遺址猶存。㊂南朝梁、置く。湖北省隨縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州、順義城〕安貴廢縣、云云、梁置二定陽縣及北郢州於此一。㊃後魏、置く。山西省吉縣治。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、吉州〕吉鄕廢縣、今州治、漢北屈縣地、後魏延興四年、置二定陽縣一、爲二定陽郡治一。㊄後魏、置く。陝西省雒川縣の境。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、鄜州、洛川縣〕定陽城、在二縣東一、漢爲二定陽縣一、屬二上郡一、應劭曰、在二定水之陽一、因名、後漢仍爲二上郡屬縣一、魏廢、苻秦時、復置二定陽縣一。

【定役】260 ヂヤウヤク ㊀臨時役の對で、常に設けて置く役目。㊁昔、武家で役所の勘定掛などの雜事の下役の稱。㊂一定の稅目。〔庭訓往來〕定役公事、臨時課役。

【定約】261 テイヤク 約束を定める。〔唐書、朱滔傳〕宜下擇レ日定レ約順中人心上、不レ如レ盟者、共伐レ之。〔許有壬、西埜堂詩〕客去客來宜レ定レ約、無レ詩無レ酒不レ開レ門。

【定羅】262 テイラ 土司の名。廣西省那馬縣治。〔清史稿、地理志〕廣西、思恩府、土司七、定羅土司。

【定理】263 テイリ 永久不變の眞理。〔韓非子、解老〕故定理有二存亡一、有二死生一、有二盛衰一。〔朱熹、中庸章句〕中者、天下之正道、庸者、天下之定理。

【定離】264 ヂヤウリ 佛 必ずはなれる。又、わかれ離れるやうに定まった運命。會者定離。〔遺敎經〕是故當レ知世皆無常、會必有レ離。〔涅槃經、二〕夫盛必有レ衰、合會有二別離一。〔愚管抄、三、桓武〕盛者必衰、會者定離と云ふことわりは、これにて侍なり。

【定流】265 テイリウ　方向の一定してゐる海流。

【定力】266 ヂャウリキ　佛禪を堅く守つて俗念に動かされぬ力。五力の一。〔無量壽經、下〕定力禪力。

【定律】267 テイリツ　㊀定められたおきて。一定の規則。〔蘇軾、次下韻王定國得二晉卿酒一相留夜飲上詩〕詩無二定律一君應レ將、醉有二眞鄉一我可レ侯。㊁規則を定める。〔後漢書、魯恭傳〕定レ律著レ令。

【定率】268 テイリツ　一定のわりあひ。

【定量】269 テイリヤウ　定まつた分量。一定の分量。

〖定量分析〗270 テイリヤウブンセキ　化學用語。化合物を分解して分離した各原素の分量をはかること。

【定陵】271 テイリヨウ　㊀陵の名。㋑後魏の孝明帝の陵。〔魏書、肅宗紀〕(武泰元年三月)乙酉、葬二於定陵一。〔文獻通考、王禮考、山陵〕孝明帝崩、葬二定陵一。㋺北周の宣帝の陵。其の地は未詳。〔周書、宣帝紀〕大象二年秋七月丙申、葬二定陵一。㋩唐の中宗の陵。陝西省富平縣の西北の龍泉山。〔唐書、睿宗紀〕景雲元年十一月己酉、葬二孝和皇帝於定陵一。〔文獻通考、王禮考、山陵〕定陵、在二京兆府富平縣界一。〔富平縣志〕定陵、在二龍泉山陵南五里一。㋥明の神宗の陵。河北省昌平縣小峪山の東。〔明史、神宗紀二〕萬曆四十八年七月丙申崩、年五十有八、遺詔罷二一切榷稅一、幷新增二織造諸項一、九月甲申、上二尊謚一、廟號二神宗一、葬二定陵一。〔畿輔通志〕定陵、在二昌平州小峪山一。㋭清の文宗の陵。河北省遵化縣西北の昌端山。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制一〕昭西陵・孝陵・景陵・裕陵・定陵・普祥峪定東陵・惠陵爲二東陵一、在二遵化州昌端山一。〔清會典事例、工部、陵寢、陵寢規制二〕文宗顯皇帝陵爲二定陵一。㊁縣名。㋑漢、置く。河南省舞陽縣の北。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、裕州、舞陽縣〕定陵城、漢縣屬二潁川郡一、更始初、王鳳與二偏將軍秀等一、徇二昆陽定陵堰一、皆下レ之。㋺晉、南渡の後、置く。安徽省青陽縣の東北。

〖定陵侯〗272 テイリヨウコウ　漢、淳于長(**7**—**17690**‥14)の封號。

【定令】273 テイレイ　法令を制定する。〔漢書、兒寬傳贊〕定レ令則趙禹・張湯、文章則司馬遷・相如。

【定例】274 テイレイ　きまり。さだめ。定式。

【定禮】275 テイレイ　㊀禮を定める。〔庾信、周太子太保步陸逞神道碑銘〕春官定レ禮。〔陶氏家傳〕定レ禮決レ疑、問二陶覆之一。㊁ting^{4} li^{3} 結納を送り婚姻を約する儀。〔水滸傳、五回〕一疋紅錦爲二定禮一。

【定連】276 ヂャウレン　いつも來てゐる仲間。きまつて集まる連中。

【定論】277 テイロン　㊀品等の高下を決定する。〔禮、王制〕論二進士之賢者一、以告二於王一、而定二其論一。㊁動かぬ議論。定說。〔荀子、王制〕百姓曉然、皆知下夫爲二善於家一而取二賞於朝一也、爲二不善于幽一而蒙中刑於顯上也、夫是之謂二定論一。〔注〕定論、不易之論、是王者之論也。〔淮南子、原道訓〕士有二一定之論一、女有二不易之行一。

【定王】278 テイワウ　周の第二十一代の王。姬瑜(**3**—**6230**‥89)を見よ。

〖定王臺〗279 テイワウダイ　臺の名。漢の長沙の定王發が封國に就いた時、母を望む爲に築いた。〔朱熹、登二定王臺一詩〕寂寞番君後、光華帝子來、千年餘二故國一、萬事只空臺、日月東西見、湖山表裏開、從知爽鳩樂、莫レ作二雍門哀一。

【定家流】280 テイカリウ　藤原定家を祖とする書道の一派。〔和漢三才圖會、藝財、本朝能書〕定家流、京極黃門定家卿、世世此流。

【定弓田】281 テイキュウデン　弓を以て測量し、其の面積を定めた田地。〔六部成語、戶部、定弓田、注解〕以レ弓丈量、所レ定之田。

【定科郎】282 テイクワラウ　官名。刑部の屬官。〔通俗編、刑部各司古稱、定科郎〕職類、魏有二定科郎一、晉以二裴楷一爲レ之。

【定關節】283 ting^{4} kuan^{1} chieh^{2} 生理學用語。骨の關節で、不動關節・縫合關節ともいふ。頭蓋骨のやうに兩骨が齒の形に入り組んで接合するもの。

【定繫港】284 ting^{4} chi^{4} kang^{3} 船舶を繫ぐ所と定めた港。

【定像液】285 ting^{4} hsiang^{4} i^{4} 現像液。

【定作人】286 ting^{4} tsuo^{4} jen^{2} 注文人。注文主。

【定錯城】287 テイサクジャウ　城の名。漢の劉賈の築いた城。〔越絕書、越絕外傳記吳地傳〕漢高帝封二有功一、劉賈爲二荆王一、幷有レ吳、賈築二吳市西城一、名曰二定錯城一。

【定參草】288 テイサンサウ　麗春(**12**—**47663**‥49)の異名。ひなげし。〔本草、麗春草〕釋名、仙女蒿・定參草。

【定性齋】289 テイセイサイ　淸、劉自潔(**2**—**2224**‥1018)の號。

【定性書】290 テイセイショ　宋、程顥撰。張橫渠に答へたもので、其の師、周茂叔の太極圖說と相表裏する。定性とは先天の理、卽ち性に從つて錯亂せしめることなきをいふ。學問修養の極致である、絕對なる本體の性に復歸し、動靜將迎內外を超越する境を說いたもので、著しく佛教の影響を被つてゐる。我が國の淺見絅齋に定性書考一卷がある。〔程顥、答二橫渠張子厚先生一書〕承二教諭一、以レ定レ性未レ能レ不レ動、猶累二於外物一、此賢者慮レ之熟矣、尙何俟二小子之言一、然嘗思レ之矣、敢貢二其說於左右一、所謂定者、動亦定、靜亦定、無二將迎一無二內外一、苟以二外物一爲レ外、牽レ己而從レ之、是以二己性一爲レ有二內外一也、且以レ性爲レ隨二物於外一、則當二其在レ外時一、何者爲レ在レ內、是有レ意三於絕二外誘一、而不レ知三性之無二內外一也、既以二內外一爲二二本一、則又烏可二遽語一レ定哉、夫天地之常、以二其心一普二萬物一而無レ心、聖人之常、以二其情一順二萬事一而無レ情、故君子之學、莫レ若二廓然而大公、物來而順應一、易曰、貞吉、悔亡、憧憧往來、朋從二爾馬一、苟規二規於外誘之除一、將レ見下滅二於東一而生中於西上也、非二惟日以不レ足、顧其端無レ窮、不レ可二得而除一也、人之心各有レ所レ蔽、故不レ能レ適レ道、大率患在二於自レ私而用レ智、自レ私則不レ能三以二有爲一爲二應迹一、用レ智則不レ能三以二明覺一爲二自然一、今以下惡二外物一之心上、而求レ照二無物之地一、是反レ鑑而索レ照也、易曰、艮二其背一、不レ獲二其身一、行二其庭一、不レ見二其人一、孟氏亦曰、所レ惡二於智一者、爲二其鑿一也、與二其非レ外而是レ內、不レ若二內外之兩忘一也、兩忘則澄然無レ事矣、無レ事則定、定則明、明則尙、何應レ物之爲レ累哉、聖人之喜、以二物之當レ喜、聖人之怒、以二物之當レ怒、是聖人之喜怒、不レ繫二於心一、而繫二於物一也、是則聖人豈不レ應二於物一哉、烏得下以レ從レ外者一爲レ非、而更求二在レ內者一爲上レ是也、今以二自レ私用レ智之喜怒一、而視二聖人喜怒之正一、爲二如何一哉、夫人之情易レ發而難レ制者、惟怒爲レ甚、第能於二怒時一、遽忘二其怒一、而觀二理之是非一、亦可レ見二外誘之不レ足レ惡、而於レ道亦思過レ半矣、心之精微、口不レ能レ宣、加レ之、素拙二於文辭一、又吏事怱怱、未レ能下精二慮當否一佇上報、然擧二大要一、亦當レ近レ之矣、道近求レ遠、古人所レ非、惟聰明裁レ之。

【定足數】291 テイソクスウ　會議等で規定してゐる人員の最少限度。

【定道論】292 テイダウロン　Determinism の譯。定命論。意志必然論。㊀神の意は自然法や道德によつて、定められるといふ說。㊁人の意志・動作・運命は、神や自然によつて定められてゐるといふ說。

【定卓子】293 ting^{4} chuo^{1} tzŭ 芝居の坐席を買ふ。

【定場詩】294 テイヂャウシ　戲劇用語。登場した俳優が、最初に朗唱する四句有韻の辭。

【定場白】295 テイヂャウハク　戲劇用語。俳優が出場して、引子又は上場詩をよみ終つた後で言ふ一段の獨白。

【定中原】296 テイチユウゲン　戲曲の名。淸、周樂淸作。諸葛亮が吳魏二國を滅して天下を蜀に一統する事を演ずる。「補天石八種」の一。補天石傳奇(**10**—**34320**‥131)を見よ。

【定頭貨】297 ting^{4} t'ou^{2} huo^{4} 契約濟みの商品。

【定難軍】298 テイナングン　行政區劃の名。唐代、拓跋思恭の領地。陝西省綏德縣以北、甘肅省舊寧夏道の東部及び綏遠省南部の地。

【定報單】299 ting^{4} pao^{4} tan^{1} 新聞雜誌類の購讀申込書。定は注文、報單は新聞雜誌類。

【定飛脚】300 ヂャウヒキャク　定められた兩地の間を往復する飛脚。〔長曾我部元親百箇條〕定飛脚事。

【定武功】301 テイブコウ　魏の鼓吹曲の名。繆襲撰。〔晉書、樂志下〕改二戰城南一爲二定武功一、言三曹公初破レ鄴、武功之定、始二乎此一也。

【定風草】302 テイフウサウ　天麻(**3**—**5833**‥1385)の異名。〔本草、赤箭天麻〕釋名、赤箭芝・獨搖芝・定風草・離母・合離草・神草。

【定風波】303 テイフウハ　㊀詞牌の名。もと、唐代の教坊曲名。〔古今詞譜〕商調曲也、始二於歐陽炯一爲レ之。

〔蘇軾、月滿茗溪詞序〕余昔與㆓張子野等㆒會㆓於吳興㆒、時子野作㆓六客詞㆒、其卒章、盡道賢人聚㆓吳分㆒、試問、也應㆔傍有㆓老人星㆒、此定風波也、凡十五年、再過㆓吳興㆒、五人皆已亡矣、時張仲謀等爲㆓坐客㆒、仲謀請作㆓後六客詞㆒。㊁曲牌の名。南曲は中呂宮引に入り、北曲は商角隻曲に入る。

【定應大師】304（ヂヤウオウダイシ） 後梁、布袋和尚(4−8778・・170)の賜號。

【定刑之律】305（テイケイノリツ） 刑罰を定めるおきて。〔唐律、名例〕議者原㆑情議㆑罪、稱㆓定刑之律㆒。

【定首市錢】306 ting^4 shou^3 shih^4 ch'ien^2 手付金。定銀。

【定正考試】307 ting^4 chêng^4 k'ao^3 shih^4 定期試驗。

【定性分析】308（テイセイブンセキ） 化學用語。種々の化合物を分析して其の成分を研究すること。

【定占勿藥】309 ting^4 chan^1 wu^4 yao^4 病氣が恢復する。

【定太業樂】310（テイタイゲフノガク） 朝鮮、李王家の雅樂。李朝世宗の時の作。世祖の時、改作す。軒架を以て奏し、八佾之舞を伴ふ。歌がある。

【定武蘭亭】311（テイブノランテイ） 唐の文皇は王羲之の蘭亭の眞蹟を得て學士院に刻せしめたが、朱梁は之を簒竊して輦で汴都に運んだ。耶律德光が石晉を破つた時、此の刻も河を渡つた。其の後、定州に置いたので定本といふ。又、定武軍の所在地であるから定武の蘭亭ともいふ。〔桑世昌蘭亭考〕碧岫野人跋云、自㆘唐文皇得㆓眞蹟㆒刻㆗之學士院㆖、入聞不㆓復見㆒、朱梁簒竊、輦㆓置汴都㆒、耶律德光破㆓石晉㆒、此刻渡㆑河、帝羓既歸、與㆓輜重㆒棄㆓之殺虎林㆒、後置㆓之州治㆒、遂曰㆓定本㆒。

【定楊可汗】312（テイヤウカカン） 唐、劉武周(2−2224・・1285)の稱號。

【不㆑足㆑定也】313（サダムルニタラザルナリ） 此方から平定の計畫を起さなくても、自然とをさまりなびいてくる。極めて定めやすい意。〔後漢書、鄧禹傳〕立㆓高祖之業㆒、救㆓萬民之命㆒、以㆑公而慮、天下不㆑足㆑定也。

【定香亭筆談】314（テイカウテイヒツダン） 書名。一卷。清、阮元撰。〔昭代叢書、第一百十五冊〕。

【宛】

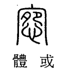
7110

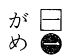
[一] エン ヲン 〔集韻〕委遠切 ㄨㄢˇ 阮 wan^3

[二] エン ヲン 〔集韻〕於袁切 ㄩㄢˉ 元 yüan^1

[三] エン ヲン 〔康熙字典〕於願切 願

[四] ウツ ウチ 〔集韻〕紆勿切 物


小篆


或體

[一]㊀ねころぶ。草をかがめて其の下にころび寢る。〔說文〕宛、屈㆑艸自覆也、从㆑宀夗聲。〔段注〕夗、轉臥也。㊁家がうねりまがる。〔正字通〕宛、宮室繚曲宛轉也。㊂まげる。まがる。〔漢書、揚雄傳下〕是以欲㆑談者、宛㆑舌而固㆑聲。〔注〕師古曰、宛、屈也。〔杜牧、送㆔友人遊㆓湖南㆒詩〕楚國饒㆓風烟㆒、湘岸苦㆓縈宛㆒。㊃かがめる。ひく。〔周禮、考工記、弓人〕宛㆑之無㆑已應。〔注〕宛、謂㆑引㆑之也。〔陶潛、始作㆓鎭軍參軍㆒經㆓曲阿㆒詩〕宛㆑轡憩㆓通衢㆒。〔注〕善曰、宛、屈也。㊄さけるさま。そらすさま。〔詩、魏風、葛屨〕宛然左辟。〔傳〕宛、辟貌。㊅死ぬさま。〔詩、唐風、山有樞〕宛其死矣。〔傳〕宛、死貌。㊆そぞろ。さながら。あたかも。〔詩、秦風、蒹葭〕宛在㆓水中央㆒。〔箋〕宛、坐見貌。〔疏〕若順㆑流遡游而往從㆑之、則宛然在㆓於水之中央㆒。㊇くぼむ。へこむ。〔爾雅、釋丘〕宛中、宛丘。〔注〕宛、謂㆓中央隆高㆒。〔釋文〕宛孫云、謂㆓中央汙㆒也。〔詩、陳風、宛邱〕宛邱之上兮。〔傳〕四方高、中央下、曰㆓宛邱㆒。㊈もちあがる。ふくれる。〔爾雅、釋丘〕丘上有㆑丘、爲㆓宛丘㆒。〔爾雅、釋丘〕宛中、宛丘。〔注〕宛、謂㆓中央隆高㆒。〔釋文〕宛、謂㆓蘊聚隆高㆒也。㊉つむ。たくはへる。蘊(9−32434)に通ず。〔孔子家語、五儀解〕富則天下無㆓宛財㆒。〔注〕宛、積也。(十一)うつくしい。婉(3−6396)に通ず。〔說文通訓定聲〕宛、叚借爲㆑婉、云云、左昭二十七傳、楚郤宛、字子惡、名字相反爲㆑應。(十二)したがふ。〔管子、五行〕然則天爲㆓粵宛㆒。〔注〕宛、順也。(十三)或は惌(4−10772)に作る。〔說文〕宛、惌、宛或从㆑心。(十四)姓。〔萬姓統譜〕宛、國名、與㆑苑同、望出㆓南陽㆒。[二]㊀ねころぶ。[一]の㊀に同じ。〔集韻〕宛、一曰、屈㆑艸自覆。㊁縣名。宛縣(23)を見よ。〔集韻〕宛、縣名、在㆓南陽㆒。㊂漢代の西域の國名。大宛(3−5831・・152)の㊀を見よ。[三]小さいさま。〔詩、小雅、小宛〕宛彼鳴鳩。〔傳〕宛、小貌。[四]むすぼれる。つもる。あつまる。㊀鬱(12−45671)に通ず。〔正字通〕宛、與㆑鬱通。㊁蘊(9−32434)に通ず。〔說文通訓定聲〕宛、叚借爲㆑蘊。〔方言、十三〕宛、蓄也。〔荀子、富國〕使㆘民夏不㆓宛暍㆒、冬不㆗凍寒㆖。〔注〕宛、讀爲㆑蘊。〔史記、倉公傳〕寒濕氣宛。㊂慍(4−11059)に同じ。〔集韻〕慍、心所㆓鬱積㆒也、或作㆑惌、亦省。[邦]㊀あて。あてる。㊁づつ。箇箇。

【宛委】1（エンヰ） 山名。浙江省紹興縣の東南。會稽山の支峯。山上に石匱があるので、又、石匱山ともいふ。一に玉笥山とも、又、天柱山ともいふ。〔十道志〕石匱山、一名宛委、一名玉笥、一名天柱、昔禹得㆓金簡玉字於此㆒。〔瑯琊代醉編、宛委〕薛方山曰、宛委山、有㆓石匱㆒壁立、中有㆓孔穴㆒、號㆓陽明洞㆒。

【宛委居士】2（エンヰコジ） 宋、陳恕可(11−41698・・1011)の號。

【宛委山人】3（エンヰサンジン） 明、郭宗昌(11−39474・・369)の號。

【宛委山房】4（エンヰサンバウ） 清、曹仁虎(5−14297・・266)の室名。

【宛邑】5（エンイフ） 春秋、楚の地名。今、河南省南陽縣治。宛郢を見よ。

【宛郢】6（エンエイ） 楚の二邑の名。宛は今の河南省南陽縣治。郢は今の湖北省江陵縣の東北。〔謝靈運、擬㆓魏太子鄴中集㆒詩〕宛郢皆掃盪。〔注〕善曰、漢書曰、郢、楚別邑、杜預左氏傳注曰、楚國、今南郡江陵縣北紀南城也、向曰、宛・郢、楚二縣名。

【宛暍】7（エンエツ） 暑氣に中たる。〔荀子、富國〕使㆘民夏不㆓宛暍㆒、冬不㆗凍寒㆖。〔注〕宛、讀爲㆑蘊、暑氣也、暍、傷㆑暑也。

【宛延】8（エンエン） めぐりまがるさま。長くて曲るさま。宛蜒。〔揚雄、甘泉賦〕颺㆓翠氣之宛延㆒。〔注〕銑曰、宛延、長曲貌。〔孫逖、宰相及百官定㆓昆明池旬宴㆒序〕喜氣宛㆓延於郊甸㆒。

【宛蜒】9（エンエン） 蛇などが進んだり止つたりするさま。宛延に同じ。〔漢書、司馬相如傳下〕驂㆓赤螭青虬之蚴蟉宛蜒㆒。〔注〕師古曰、蚴蟉・宛蜒、皆其行步進止之貌也。

【宛宛】10（エンエン） ㊀のびかがみして長くつづくさま。〔釋名、釋州國〕燕宛也、北方沙漠平廣、此地在㆓涿鹿山南㆒、宛宛然以爲㆓國都㆒也。〔司馬相如、封禪文〕宛宛黃龍。〔注〕向曰、宛宛、龍貌。〔史記、司馬相如傳〕宛宛黃龍。〔注〕索隱曰、胡廣曰、屈伸也。㊁やはらかいさま。しなやかなさま。〔庾信、遊山詩〕宛宛藤倒垂、亭亭松直竪。〔岑參、龍女祠詩〕祠堂青林下、宛宛如㆓相語㆒。

【宛溫】11（エンヲン） 縣名。漢、置く。雲南省羅平縣の地。晉代、桓溫の諱を避けて宛暖と改む。一說に、貴州省盤縣の西。〔讀史方輿紀要、雲南、曲靖軍民府〕亦佐縣、本漢牂牁郡之宛溫縣地、云云、晉永和中、桓溫改曰㆓宛暖㆒、云云、唐爲㆓盤州地㆒、後沒㆓於蠻㆒、號㆓夜苴部㆒、訛曰㆓亦佐㆒。

【宛氣】12（ウツキ） 憂鬱な氣分。むすぼれた氣持。鬱氣。〔史記、倉公傳〕宛氣愈深。〔評林〕董份曰、宛氣者、卽前所謂寒熱氣宛者也、言㆓邪氣雖㆑去、而宛鬱愈深㆒也。

【宛丘】13（エンキウ） 宛邱。㊀丘の名。㋑四邊が低く、中央の高い丘。〔爾雅、釋丘〕丘上有㆑丘、爲㆓宛丘㆒。〔爾雅、釋丘、宛中宛丘、注〕宛、謂㆓中央隆高㆒。㋺四邊が高く、中央の低い丘。〔爾雅、釋丘、疏〕

案、詩陳風云、宛丘之上兮、毛傳云、四方高、中央下、曰㆓宛丘㆒、李巡孫炎亦皆云㆓中央下㆒。〔釋名、釋丘〕中央下曰㆓宛丘㆒。〔詩、陳風、宛丘、傳〕四方高、中央下、曰㆓宛丘㆒。㊁詩經、陳風の篇名。幽公の荒淫、度無きを刺る詩。〔詩、陳風、宛丘序〕宛丘、刺㆓幽公㆒也、淫荒昏亂、游蕩無㆑度焉。㊂地名。古の陳國に在り。今の河南省淮陽縣の東南。〔爾雅、釋丘〕陳有㆓宛丘㆒。〔詩、陳風、宛丘〕宛丘之上兮。〔詩、陳譜〕都㆓於宛丘之側㆒。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、陳州〕宛邱、在㆓州城南三里㆒、高二丈、爾雅、陳有㆓宛邱㆒、詩所㆑稱宛邱之上、宛邱之下者也、又州城內東北隅有㆑池、卽詩所謂東門之池者。㊃縣名。隋、置く。河南省淮陽縣治。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、陳州〕宛邱廢縣、漢置㆓陳縣㆒、爲㆓淮陽國治㆒、云云、隋改置㆓宛邱縣㆒、爲㆓陳州治㆒、唐宋因㆑之、明初省。

【宛丘集】14（エンキウシフ）　書名。七十六卷。宋、張耒撰。詩は白居易、樂府は張籍を傚ふ。蘇軾は其の文の沖澹を稱す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【宛丘先生】15（エンキウセンセイ）　啇（殷）の人。其の名は傳はらず、宛丘に居つたので宛丘先生といふ。湯王の末年に既に千餘歲、方術を以て弟子に傳へた。彭祖の師。〔洞仙傳〕宛丘先生者、服㆓制命丸㆒得㆑道、至㆓湯之末世㆒、已千餘年、以㆑方傳㆓弟子㆒、姜若春服㆑之三百年、視㆑之如㆓十五童子㆒、彭祖師㆑之。

【宛渠】16（エンキヨ）　神仙の國の名。〔拾遺記、四、秦始皇〕始皇好㆓神仙之事㆒、有㆘宛渠之民、乘㆓螺舟㆒而至㆖、云云、始皇與㆑之語、云云、臣國在㆓咸池日沒之所九萬里㆒、以㆓萬歲㆒爲㆓一日㆒。

【宛鉅】17（エンキヨ）　宛の地から產する剛鐵の矛。〔荀子、議兵〕宛鉅鐵釶、慘如㆓蜂蠆㆒。〔注〕宛、地名、屬㆓南陽㆒、徐廣曰、大剛曰㆑鉅、釶與㆑鍦同、矛也。〔商子、弱民〕宛鉅鐵鉈、利若㆓蜂蠆㆒。

【宛朐】18（エンク）　縣名。漢、置く。又、冤句に作る。今の山東省荷澤縣の西南。〔史記、封禪書〕黃帝得㆓寶鼎宛朐㆒、問㆓於鬼臾區㆒。

【宛君】19（エンクン）　明、沈宜修（**6**—**17189**‥465）の字。

【宛景】20（エンケイ）　矛の名。宛魯（72）に同じ。左延年の秦女休行を引く太平御覽兵部は、宛魯を宛景に作る。〔太平御覽、兵部、刀〕樂府歌曰、秦家有㆓好女㆒、自名曰㆓女休㆒、休年十四五、爲㆓宗行㆒報㆑讎、左執㆓白陽刀㆒、右據㆓宛景矛㆒。

【宛溪】21（エンケイ）　川の名。源は安徽省宣城縣の東南の嶧山。九曲河・宛溪・句溪・水陽江となり、青弋江と合して長江に入る。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府、宣城縣〕宛溪、在㆓城東㆒、源出㆓城東南三十里嶧山南㆒、東北流三十里爲㆓九曲河㆒、復折而西合㆓溪澗諸流㆒、至㆓響山下㆒、匯爲㆓響潭㆒、遶㆓城東㆒爲㆓宛溪㆒。

【宛溪先生】22（エンケイセンセイ）　稱號。㊀明、梅守德（**6**—**14830**‥262）の尊稱。㊁淸、顧祖禹（**12**—**43689**‥309）の尊稱。

【宛縣】23（エンケン）　縣名。秦、置く。春秋、楚の邑。戰國には韓に屬す。今の河南省南陽縣治。〔漢書、地理志〕南陽郡、縣三十六、宛。

【宛乎】24（エンコ）　釋け散るさま。〔莊子、知北遊〕紛乎宛乎、魂魄將㆑往。〔疏〕紛綸宛轉、並適散之貌也。

【宛虹】25（エンコウ）　㊀にじ。曲つてゐるからいふ。〔司馬相如、上林賦〕宛虹拖㆓於楯軒㆒。〔注〕善曰、宛虹、屈曲之虹也。〔何晏、景福殿賦〕絶如㆓宛虹㆒。〔曹植、七啓〕垂㆓宛虹之長緌㆒。㊁龍をいふ。〔事物異名錄、水族、龍〕字彙補、宛虹、龍也。

【宛財】26（エンザイ）　積み貯へた財產。死財。宛は積む意。〔孔子家語、五儀解〕富則天下無㆓宛財㆒。〔注〕宛、積也。

【宛藏】27（エンザウ）　積みかくれる。〔史記、律書〕陽氣冬則宛㆓藏於虛㆒。〔注〕正義曰、宛、音蘊。

【宛斯】28（エンシ）　淸、馬驌（**12**—**44572**‥310）の字。

【宛似】29（エンジ）　よく似てゐる。そつくり其のまま。〔駱賓王、贈㆓李八騎曹㆒序〕宛似㆓楓江之上㆒。〔李白、與㆓謝良輔㆒遊㆓涇川陵巖寺㆒詩〕宛似㆔雲門對㆓若溪㆒。

【宛城】30（エンジヤウ）　地名。魏の荆州の治。故城は湖北省荆門縣の南。

【宛若】31（エンジヤク）　字號。㊀漢代の女。〔史記、封禪書〕神君者、長陵女子、以㆑子死、見㆓神於先後宛若㆒、宛若祠㆓之其室㆒。〔漢書、郊祀志上〕神君者、長陵女子、以㆑乳死、見㆓神於先後宛若㆒、宛若祠㆓之其室㆒。〔注〕孟康曰、產乳而死也、兄弟妻相謂㆓先後㆒、宛若字也。㊁明、楊宛（**6**—**15112**‥31）の字。

【宛珠】32（エンシユ）　宛の地に產するたま。〔戰國、秦策〕則是宛珠之簪、傅璣之珥、阿縞之衣、錦繡之飾、不㆑進㆓於前㆒。〔史記、李斯傳〕則是宛珠之簪、傅璣之珥、阿縞之衣、錦繡之飾、不㆑進㆓於前㆒。〔注〕索隱曰、或云、宛珠、宛地之珠也。

【宛淑】33（エンシユク）　明、楊宛（**6**—**15112**‥31）の字。

【宛春】34（エンシユン）　春秋、楚の大夫。子玉の命によつて晉師に使して執へらる。〔史記、三十九〕。

【宛如】35（エンジヨ）　㊀意のままにするさま。〔姚康、巨魚縱㆓大壑㆒詩〕得㆑志寧相忌、無心任㆓宛如㆒。㊁あたかも…のごとし。〔元稹、青雲驛詩〕延㆑我開㆓華戶㆒、鑿寶宛如㆑圭。

【宛雛】36（エンスウ）　鳥の名。鳳の屬。鵷鶵。〔漢書、司馬相如傳上〕宛雛孔鸞。〔注〕張揖曰、宛雛似㆑鳳。

【宛舌】37（エンゼツ）　舌をまげる。舌をかがめる。〔漢書、揚雄傳下〕欲㆑談者、宛㆑舌而固㆑聲。〔注〕師古曰、宛、屈也。

【宛然】38（エンゼン）　㊀さながら。ちやうど。明瞭なさま。〔詩、秦風、蒹葭〕宛在㆓水中央㆒。〔集傳〕宛然、坐見貌。〔關尹子、五鑑〕譬猶㆓昔游再到㆒、記憶宛然、此不㆑可㆑忘。㊁人に讓り避けるさま。〔詩、魏風、葛屨〕好人提提、宛然左辟。〔集傳〕宛然、讓之貌、讓而辟者必左。

【宛潬】39（エンゼン・エンセン）　めぐりまがる。輾轉。〔司馬相如、上林賦〕宛潬膠盭。〔注〕善曰、司馬彪曰、宛潬、展轉也。〔漢書、司馬相如傳、王先謙補注〕宛潬、猶㆓蜿蜒㆒、狀㆓水勢之縣遠㆒。

【宛輭】40（エンゼン）　やさしくやはらかいさま。柔和なさま。宛は婉に通ずる。〔柳宗元、乞巧文〕文詞宛輭、步武輕便。

【宛村】41（エンソン）　淸、謝應芝（**10**—**35827**‥247）の號。

【宛唐】42（エンタウ）　亭の名。安徽省定遠縣の西南。

【宛中】43（エンチユウ）　宛丘（13）に同じ。〔爾雅、釋丘〕宛中、宛丘。

【宛坻】44（エンテイ）　淸、毛成肅（**6**—**16772**‥300）の號。

【宛轉】45（エンテン）　㊀變化すること。〔莊子、天下〕椎拍輐斷、與㆑物宛轉。〔疏〕宛轉、變化也。㊁蛾眉の美しくまがるさま。〔劉廷芝、代悲白頭翁〕宛轉蛾眉能幾時、須臾鶴髮亂如㆑絲。〔唐詩選箋注〕宛轉、卷曲貌、蛾眉狀、蛾眉、詩曰、螓首蛾眉。㊂ゆるくめぐるさま。〔張若虛、春江花月夜詩〕江流宛轉遶㆓芳甸㆒、月照㆓花林㆒皆似㆑霰。㊃まろぶさま。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕愁㆓脩夜㆒而宛轉兮。〔後漢書、張玄傳〕顯㆓用隱逸忠正之士㆒、則邊章之徒、宛㆓轉股掌之上㆒矣。㊄したがふさま。〔晉書、皇甫謐傳〕宛㆓轉萬情之形表㆒、排㆓託虛寂㆒以寄㆑身。㊅とけ散るさま。宛乎（24）を見よ。㊆弓をまく繩。〔爾雅、釋器、弓有㆑緣者謂㆓之弓㆒、注〕緣者繳㆓纏之㆒、卽今宛轉也。〔郝懿行義疏〕宛轉、繩也。

【宛轉歌】46（エンテンカ）　樂府琴曲歌辭の名。晉、劉妙容作。一名、神女宛轉歌。晉の唐郎大家宋氏・劉方平、陳の江魏にも歌辭があり、唐の張籍に宛轉行がある。〔樂府詩集、琴曲歌辭、宛轉歌〕一曰㆓神女宛轉歌㆒、續齊諧記曰、晉有㆓王敬伯者㆒、會稽餘姚人、少好㆑學、善鼓㆑琴、年十八仕㆓於東宮㆒爲㆓衞佐㆒、休假還㆑鄉、過㆑吳、維㆓舟中渚㆒、登㆑亭望㆑月、悵然有㆑懷、乃倚㆑琴歌㆓泫露之詩㆒、俄聞㆔戶外有㆓嗟賞聲㆒、見㆔一女子雅有㆓容色㆒、謂㆓敬伯㆒曰、女郎悅㆓君之琴㆒、願共撫㆑之、敬伯許焉、旣而女郎至、姿質婉麗、綽有㆓餘態㆒、從以㆓二少女㆒、一則向先至者、女郎乃撫㆑琴揮㆑弦、調韻哀雅、類㆓今之登歌㆒、曰、古所謂楚明君也、唯嵇叔夜能爲㆓此聲㆒、自㆑茲已來、傳㆓習數人㆒而已、復鼓㆓琴歌遲風之詞㆒、因歎息久㆑之、乃命㆓大婢㆒酌㆑酒、小婢彈㆓箜篌㆒、作㆓宛轉歌㆒、女郎脫㆓頭上金釵㆒、扣㆓琴弦㆒而和㆑之、意韻繁諧、歌凡八曲、敬伯唯憶㆓二曲㆒、將㆑去、留㆓錦臥具・繡香囊、幷佩一雙㆒、以遺㆓敬伯㆒、敬伯報以㆓耳火籠玉琴軫㆒、女郎悵然不㆑忍㆑別、且曰、深閨獨處十有六年矣、邂㆓逅旅館㆒、盡㆓平生之志㆒、蓋冥契非㆓人事㆒也、言竟便去、敬伯船至㆓虎牢戍㆒、吳令劉惠明者有㆓愛女㆒、早世、舟中亡㆓臥具㆒、於㆓敬伯船㆒獲焉、敬伯具以告、果於㆓帳中㆒得㆓火籠琴軫㆒、女郎名妙容、字雅華、大婢名春條、年二十許、小婢名桃枝、年十五、皆善彈㆓箜篌、及宛轉歌㆒、相繼俱卒、唐李端又有㆓王敬伯歌㆒、亦出㆓於此㆒。〔劉妙容、宛轉歌〕月既明㆓西軒㆒、琴復淸㆓寸心㆒、斗酒爭㆓芳夜㆒、千秋萬歲同、一情歌㆓宛轉㆒、宛轉凄以哀、願爲㆓星與㆑漢、光影共徘徊。

【宛轉弓】47（エンテンキユウ） 美しくまがつた弓。〔鄴中記〕皇后出、從二女騎千人一爲二鹵簿一、腳著二五文織成一鞾、手握二雌黃宛轉弓一。

【宛轉繩】48（エンテンジヨウ） 五月五日に人の形に結び、藥玉のやうに帶びるもの。〔酉陽雜俎、禮異〕是日又進二長命縷・宛轉繩一、皆結爲二人像一帶レ之。

【宛轉蛾眉】49（エンテンガビ） 形のよい眉。美しい眉。美人をいふ。宛轉の❷を見よ。〔白居易、長恨歌〕六軍不レ發無二奈何一、宛轉蛾眉馬前死。

【宛童】50（エンドウ） つた。寄生木。〔爾雅、釋木〕寓木、宛童。〔注〕寄生樹、一名蔦。〔疏〕寓木、一名宛童。〔郝懿行義疏〕寄二寓木上一、其狀宛宛童童、故曰二宛童一。〔廣雅、釋木〕宛童、鳩也。〔本草、桑上寄生〕釋名、寄屑・寓木・宛童・蔦。〔詩疏廣要〕爾雅云、寓木・宛童、郭云、寄生樹、一名蔦、鄭云、樹上寄生木也、有二二種一、一種圓葉名レ蔦、一種似二麻黃一名二女蘿一。

【宛篤】51（ウツトク） 積み厚くなる。鬱結する。〔史記、倉公傳〕病レ蟯得二之於寒濕一、寒濕氣宛篤不レ發、化爲レ蟲。

【宛腦】52（エンノウ） 飢ゑるさま。宛は、くぼむ。〔沈佽「之、詩〕腹作二宛腦餓一。

【宛馬】53（エンバ） ❶大宛に產する馬。〔後漢書、杜篤傳〕驅二騾驢一馭二宛馬一。❷轉じて、北地產のすぐれた馬。〔桃花扇、賺將〕宛馬嘶レ風緩レ轡來、黃河水上北門開。

【宛脾】54（エンピ） 肉を薄く切つた料理の名。〔禮、內則〕兔爲二宛脾一。〔注〕宛脾、菹類也、聶而切レ之。〔疏〕凡大切若二全物一爲レ菹、細切者爲レ齏、其牲體大者菹レ之、其牲體小者齏レ之、云云、麕爲二辟雞一、兔爲二宛脾一者、是齏也。〔禮、少儀〕兔爲二宛脾一、皆聶而切レ之。

【宛馮】55（エンピヨウ） 古、宛人が馮池で鑄た劍の名。〔駢雅、釋器〕宛馮、韓劍也。〔史記、蘇秦傳〕韓卒之劍戟、皆出二於冥山一、堂谿・墨陽・合膊・鄧師・宛馮。〔注〕索隱曰、宛人於二馮池一鑄レ劍、故號二宛馮一。

【宛平】56（エンペイ） 縣名。❶晉、置く。福建省の境。❷遼、置く。北京市の西、永定河の西岸。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕宛平縣、附郭、在二城內西北隅一、本薊縣地、唐建中二年、析二置幽都縣一、遼開泰二年、改曰二宛平一。〔淸史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、宛平。

【宛濮】57（エンボク） 春秋、衞の地名。河北省長垣縣の西南。〔左氏、僖、二十八〕寗武子與二衞人一盟二于宛濮一。〔注〕陳留長垣縣西南有二宛亭一、近二濮水一也。

【宛曼】58（エンマン） 廣遠ではかり知れぬさま。〔韓非子、外儲說左上〕請許二學者一、而行二宛曼於先王一。

【宛名】59（アテナ） 手紙などをやる先方の人の姓名。

【宛妙】60（エンメウ） ❶曲折の妙、愛すべきさま。〔鄧袞、望雪樓記〕臺島花竹列植、布置罔レ不二宛妙一。❷聲の細かく美しいさま。〔雲笈七籤〕其旨隱奧、其音宛妙。

【宛陽】61（エンヤウ） 地名。河南臨漳縣の西。趙王の閱馬「臺がある。

【宛來】62（エンライ） 淸、夏駰(3－5720・・12)の號。

【宛洛】63（エンラク） 宛邑と洛陽との二都。〔袁淑、傚二曹子建樂府白馬篇一詩〕宛洛富二少年一。〔謝脁、和三徐都曹出二新亭渚一詩〕宛洛佳二遨遊一、春色滿二皇州一。

【宛陵】64（エンリヨウ） ❶縣名。㋑漢、置く。今、安徽省宣城縣治。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府〕宣城縣、漢宛陵縣、晉太康二年、始爲二宣城郡治一、云云、隋初廢レ郡改レ縣曰二宣城一。㋺民國、置く。河南省許昌縣の北、雙泊河の南。❷宋、謝景初(10－35827・・270)の號。

【宛陵集】65（エンリヨウシフ） 書名。六十卷。附錄一卷。宋、梅堯臣撰。謝景初・歐陽脩其の他の人の補輯したもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【宛陵女子】66（エンリヨウノヂヨシ） 梁の人。虎に襲はれた母を救つた孝女。〔梁書、四十七〕・〔南史、七十四〕。

【宛陵羣英集】67（エンリヨウグンエイシフ） 書名。十二卷。元、汪澤民・張師恩共編。宋初から元代までの宣城の詩を錄したもの。詩七百四十六首、作者一百二十九人。〔四庫提要、集、總集類〕。

【宛林】68（エンリン） 淸、李堯文(6－14459・・1126)の字。

【宛鄰】69（エンリン） 淸、張琦(陽湖の人)(4－9812・・170)の號。

【宛孌】70（エンレン） 親愛する。〔蔣防、霍小玉傳〕自レ爾宛孌相得、若二翡翠之在二雲路一也、如レ此二歲。

【宛路】71（エンロ） 地名。弋射に用ひる竹箭を產する。〔呂覽、眞諫〕荆文王得二茹黃之狗、宛路之矰一、以畋二於雲夢一、三月不レ反。

【宛魯】72（エンロ） 矛の名。太平御覽に宛景に作る。〔左延年、秦女休行〕秦家有二好女一、自名曰二女休一、休年十四五、爲二宗行一報レ仇、左執二白楊刀一、右據二宛魯矛一。

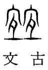
【宛嘉祥】73（エンカシヤウ） 明、廬江の人。字は白湖。嘉靖の擧人。官は思南府知。〔萬姓統譜〕。

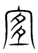
【宛射犬】74（エンシヤケン） 春秋、鄭の公孫。楚子が、鄭を伐つや、晉侯は、張骼・輔躒をして楚師に挑戰せしめ、御を鄭に求めたが、鄭人はトして宛射犬を吉とした。〔左氏、襄、二十四〕「名。

【宛芳閣】75（エンパウカク） 淸、丁履恆(1－2・・308)の室

【宜】7111

ギ 〔集韻〕魚羈切 一 i² 支


小篆


古文

古文

❶**よい。よろしい**。㋑あたる。ふさはしい。〔詩、周南、桃夭〕宜二其室家一。〔箋〕宜者、謂二男女年時俱當一。〔呂覽、當賞〕主之賞罰爵祿之所レ加者宜。〔注〕宜、猶レ當也。㋺かなふ。道理にかなふ。〔增韻〕宜、適レ理也。〔禮、王制〕衣服異レ宜、云云、不レ易二其宜一。㋩むつむ。むつまじい。〔詩、周南、桃夭〕宜二其室家一。〔集傳〕宜者、和順之意。〔禮、內則〕子甚宜二其妻一。〔注〕宜、猶レ善也。〔朱熹、大學章句〕詩云、宜二其家人一。〔集注〕宜、猶レ善也。〔淮南子、本經訓〕旁二薄衆宜一。〔注〕宜、適也。㋥うつくしい。〔太玄經、竏〕好二是宜德一。〔注〕宜、美也。㋭たよりがよい。都合がよい。〔後漢書、西羌傳〕計二日用之權宜一、忘二經國之遠略一。❷**うべ。むべ**。うべなり。〔詩、周南、螽斯〕宜爾子孫、振振兮。〔傳疏〕宜者、承レ上轉レ下之詞。❸**よろしく云云すべし**。決定する語。儀(1－1172)に通ず。〔易、蹇〕宜レ待也。〔詩、大雅、文王〕宜レ鑒二于殷一。〔大學〕詩云、儀レ監二于殷一。❹**やすんずる。おちつく**。又、おちつくところ。儀(1－1172)に同じ。〔說文〕宐、所レ安也、从二宀之下一之上一、多省聲。〔段注〕漢石經作レ宜。〔漢書、地理志下〕伯益能儀二百物一。〔注〕師古曰、儀、與レ宜同、宜、安也。〔束晳、補亡詩〕各得二其儀一也。〔注〕善曰、毛萇詩傳曰、儀、宜也、蒼頡篇曰、宜、得レ所也。❺**ただしい**。至當適正のところ。誼(10－35605)に通ず。〔說文通訓定聲〕宜、叚借爲レ誼。〔國語、晉語四〕將レ施二於宜一。〔注〕宜、義也。❻**こと**。ことを適當にとり行ふ。〔爾雅、釋詁〕宜、事也。〔詩、大雅、鳧鷖〕公尸來燕來宜。〔傳〕宜、宜二其事一也。❼**まつりの名**。出陣に當り社をまつる祭祀。〔爾雅、釋天〕起二大事一、動二大衆一、必先有レ事二乎社一而後出、謂二之宜一。〔書、泰誓上〕宜二于冢土一。〔傳〕祭レ社曰レ宜。〔禮記、王制〕天子將レ出、類二乎上帝一、宜二乎社一。〔注〕類・宜、皆祭名。〔左氏、成、十三〕成子受二脤于社一、〔注〕脤、宜レ社之肉也、云云、宜、出レ兵祭レ社之名。❽**さかな**。〔爾雅、釋言〕宜、肴也。〔李注〕飲酒之肴也。〔詩、鄭風、女曰雞鳴〕與レ子宜レ之。〔傳〕宜、肴也。❾**ほとんど**。殆(6－16430)に通ず。〔經傳釋詞、五〕家大人曰、宜、猶レ殆也、成二年左傳曰、宜將レ竊二妻以逃一者也、六年傳曰、不レ安二其位一、宜不レ能レ久、孟子公孫丑篇曰、宜與二夫禮一若レ不二相似一然、滕文公篇曰、不レ見二諸侯一、宜若レ小然、云云、宜字、並與レ殆同義。❿**語勢を助ける助辭**。〔經傳釋詞、五〕宜、助レ語詞也、詩螽斯曰、螽斯羽、詵詵兮、宜爾子孫、振振兮、宜爾子孫、爾子孫也、言二螽斯

羽則詵詵然矣、爾子孫則振振然矣一、故序曰、言レ若二螽斯一、不二妒忌一、則子孫衆多也、小宛曰、哀我塡寡、宜岸宜獄、宜岸、岸也、宜獄、獄也、言三我窮盡寡財之人、乃有二此訟獄之事一也。⓫鉹(11－40348)に通ず。〔說文通訓定聲〕宜、叚借爲レ鉹、猶レ鬵也。⓬もと宐(3－7089)に作り、古、𡧪(3－7297)・𡨊(3－7173)に作る。〔集韻〕宐、隸作レ宜、古作二𡧪・𡨊一。⓭**州の名**。宜州(22)を見よ。〔集韻〕宜、又州名。⓮**姓**。〔通志、氏族略、外國大姓〕宜氏、隋西南裔有二宜繒・宜林一、左傳陳大夫宜咎。

名乘 キ。タカ。ナリ。ノリ。ヨシ。

解字 會意形聲。宀と一と多の省畫との合字。宐に同じ。宀は家、一は地、地上に家をたて、其の下に多くの物を安置する。故に本義はやすんずる。おちつく。夕は音符。一說に、會意・指事・形聲、地の上、宀の下に多厚なる意、故に其の安んずる所をいふ。夕は又音符。〔說文通訓定聲〕宐、所レ安也、从二宀之下一之上一、會意指事、多省聲、古文不レ省、籀文作二𡧪・宐一、俗字作レ宜。▽ （金文）象形。俎上に調理した肉片を積み重ねた形に象り、特に出陣の際、その祭が儀に叶ふ意。

參考 宣(3－7132)は別字。

【宜安】1 ギアン 地名。❶戰國、趙の邑。隋、縣を置く。河北省槀城縣の西南。〔史記、秦始皇紀〕十四年、攻二趙軍於平陽一、取二宜安一。〔水經、濁漳水注〕白渠水又東逕二耿鄉南一、世祖封二前將軍耿純一爲二侯國一、世謂二之宜安城一。❷晉の冥安縣の訛。

【宜翁】2 ギヲウ 字號。❶宋、可觀(2－3245‥36)の字。❷宋、劉誼(2－2224‥165)の字。

【宜可】3 ギカ よろしい。適可。〔韓愈、送二齊暤下第一序〕古之所謂公無レ私者、其取捨進退無レ擇二於親疏遠邇一、惟其宜可焉。

【宜家】4 ギカ 一家の者とむつみやはらぐ。家中むつまじいこと。〔詩、周南、桃夭〕之子于歸、宜二其室家一。〔集傳〕宜者、和順之意、室、謂二夫婦所レ居、家、謂二一門之內一。〔左氏、襄、三十一〕(北宮文子曰)臣有二臣之威儀一、其下畏而愛レ之、故能守二其官職一、保レ族宜レ家。〔剪燈新話、金鳳釵記〕小子有二宜家之樂一。

【宜學】5 ギガク 明、王思(7－20823‥460)の字。

【宜臼】6 ギキウ 周、平王(4－9167‥713)の名。

【宜禾】7 ギクワ 縣名。❶三國魏、置く。甘肅省安西縣の地。〔讀史方輿紀要、陝西、沙州衞〕宜禾城、在二廢瓜州東北一百二十里一、漢廣至縣有二昆侖障一、爲二宜水都尉治一、後漢因レ之、三國魏析二置宜禾縣一、屬二敦煌郡一、晉因レ之。❷清、置く。新疆省鎭西縣の地。

【宜黃】8 ギクワウ ❶川の名。上流は宜・黃の二水に分れ、宜水の源は宜黃縣の東南、黃水の源は縣の南で、二水共に北流して縣の東で合し、之を宜黃水と名づける。水は又、北流し、臨水に合して汝水に入る。〔讀史方輿紀要、江西、撫州府、宜黃縣〕宜黃水、在二縣治東北一、宜黃二水名也、宜水發二源軍山一、北流四十里、與二漳水一合、又經二三十二灘磯一、至二縣南一繞レ東趨レ北、至二於家洲一、凡百里、而與二黃水一合、黃水源出二黃土嶺一、經二四十四灘磯一、凡百餘里、至二城西一遶レ北趨レ東、至二教場前一、與二宜水一合、又東北流、與二曹水一合、曹水源出二崇仁縣境雙坑一、流四十里、合二宜黃水一、又東北入二臨川縣界一、至二府城西南十餘里之龔家渡一、合二臨水一、而注二於汝水一。❷縣名。三國吳、置く。江西省南城縣の西、宜・黃二水の合流するところ。〔讀史方輿紀要、江西、撫州府〕宜黃縣、漢臨汝縣地、三國吳析二置宜黃縣一、屬二臨川郡一、晉宋以後因レ之、隋幷入二崇仁縣一、唐武德五年、復置二宜黃縣一、八年省、宋初南唐置二宜黃場一、開寶三年、升爲レ縣屬二撫州一。〔淸史稿、地理志〕江西、撫州府、縣六、宜黃。

【宜君】9 ギクン ❶君主となるにふさはしい。〔詩、大雅、假樂〕干レ祿百福、子孫千億、穆穆皇皇、宜レ君宜レ王。〔傳〕宜二君王天下一也。〔疏〕宜レ爲二諸侯之君一、宜レ爲二天下之王一、言、其相勉以レ德、上天福レ之、常作二人主一、保二其邦國一也。❷縣名。後魏、置く。陝西省同官縣の北、沮水の支流の東岸。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、鄜州〕宜君縣、本漢左馮翊、祋祤縣地、有二宜君川一、苻秦時、因置二宜君護軍一、後魏太平眞君、改置二宜君縣一、屬二北地郡一云云、宋亦曰二宜君縣一。〔淸史稿、地理志〕陝西、鄜州直隸州、縣三、宜君。

【宜軒】10 ギケン 字號。❶清、劉峨(2－2224‥80)の號。❷清、勒保(2－2386‥57)の字。

【宜謙】11 ギケン 明、沈碩(6－17189‥253)の字。

【宜鉉】12 ギゲン 明、孫鼎(3－6987‥227)の字。

【宜興】13 ギコウ 縣名。❶隋、義興縣を置き、宋、太宗の諱を避け宜興と改む。江蘇省武進縣の南で、東は太湖に臨む。紫泥の器を產す。〔讀史方輿紀要、江南、常州府〕宜興縣、秦置二陽羨縣一云云、三國吳屬二吳興郡一、晉初因レ之、永嘉中、析二置義興郡一、宋齊因レ之、隋郡廢改レ縣曰二義興一云云、宋太平興國初、避レ諱改曰二宜興一。〔淸史稿、地理志〕江蘇、常州府、縣八、宜興。❷金、置く。滿洲熱河省灤平縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、開平故衞〕宜興城、金志、本興化縣之白檀鎭、泰和三年、置二宜興縣一屬二興州一、元因レ之。

【宜興壺】14 ギコウコ 江蘇省宜興縣から出る紫泥の燒物。金沙寺の僧某が缸甕を造る者と居り、其の細土を搏ち澂練を加へ、坏をこねて造つたものといふ。〔吳騫陽羨名陶錄〕。

【宜穀】15 ギコク ❶穀物を作るに適してゐること。〔史記、周紀〕相下地之宜二五穀一者上稼穡焉。❷春秋、楚の公子。〔左氏、襄、十四〕獲二楚公子宜穀一。

【宜齋】16 ギサイ 字號。❶宋、吳枋(2－3365‥347)の號。❷明、南昱(2－2750‥19)の號。❸清、勞大輿(2－2410‥142)の字。❹伊藤道基の號。伊藤龍洲(1－432‥221)を見よ。❺草場韡の號。草場佩川(9－30945‥365)を見よ。

【宜山】17 ギザン ❶山名。㋑廣西省宜山縣の北。附近の羣山は高大なものが多く、此の山だけが低小で登眺によいので名づけらる。㋺河北省昌平縣の緜山の一名。❷縣名。唐、置く。廣西省忻城縣の北、龍江の南岸。〔讀史方輿紀要、慶遠府〕附郭、唐置二龍水縣一、爲二宜州治一、宋宜和初、改レ縣曰二宜山一。〔淸史稿、地理志〕廣西、慶遠府、縣三、宜山。❸清、盛遠(8－23005‥18)の號。

【宜山堂】18 ギザンダウ 明、許相卿(10－35298‥310)の室名。

【宜子】19 ギシ 姙娠しやすいこと。〔戰國、楚策〕楚考烈王無レ子、春申君患レ之、求二婦人宜レ子者一進レ之。

【宜之】20 ギシ 字號。❶宋、沈詵(6－17189‥227)の字。❷宋、楊由義(6－15112‥418)の字。❸金、趙元(10－37171‥150)の字。❹金、趙鼎(10－37171‥292)の字。❺元、卞思義(2－2778‥34)の字。❻元、王義(7－20823‥214)の字。❼明、郝志義(11－39430‥45)の字。❽明、蹇義(10－37741‥6)の字。❾明、趙時中(10－37171‥649)の字。❿清、高其位(12－45313‥1080)の字。

【宜事】21 ギジ 陳、傅縡(1－939‥53)の字。

【宜州】22 ギシウ 州の名。❶南朝梁、置く。湖北省宜昌縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府〕彝陵州、春秋戰國時楚地、云云、梁末、兼置二宜州一。❷唐、置く。今の廣西省宜山縣。宜山(17)の❷を見よ。〔唐書、地理志七上〕宜州龍水郡。❸遼、置く。滿洲遼寧省義縣治。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、義州衞〕宏政廢縣、漢置二絫縣一、屬二遼西郡一、後廢、遼置二宏政縣一、爲二宜州治一。

【宜州樣子】23 ギシウヤウシ 植物の名。白豆蔻をいふ。〔事物異名錄、藥材、白豆蔻〕淸異錄、侯寧極藥譜、宜州樣子、白豆蔻也。

【宜秋】24 ギシウ ❶地名。㋑河南省沘源縣の東南。〔後漢書、齊武王縯傳〕縯會二下江兵五千餘人一至二宜秋一。〔注〕宜秋、聚名。㋺陝西省涇陽縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、涇陽縣〕宜秋城、在二縣西北一、水經注、鄭渠自二中山西瓠口一東流、逕二宜秋城北一、又東逕二中山南一、晉永和八年、故趙將張居據二宜秋一稱二秦王一、苻健擊斬レ之。❷清、汪玉軫(6－17154‥202)の字。

【宜社】25 ギシャ 社前で出陣の祭を行ふこと。宜は、福宜を求める意。〔爾雅、釋天〕起二大事一、動二大衆一、必先有レ事二乎社一而後出、謂二之宜一。〔疏〕言、國家起二發軍旅之大事一、以興二動其大衆一、必先有三祭二事於此社一而後出、以二兵凶戰危一、慮レ有二負敗一、祭レ之以求二其福宜一、故謂二之宜一。〔周禮、春官、大祝〕大師宜二于社一。〔疏〕軍將レ出、宜二祭於社一。〔禮、王制〕天子將レ出、類二乎上帝一、宜二乎社一。〔左

氏、定、四、祓レ社釁レ鼓、注〕師出、先有レ事、祓二禱於社一、謂二之宜レ社。

【宜榭】26 ギシヤ 善い夢の神。〔字彙〕榭、宜榭、善夢神、見二仙經一。

【宜昌】27 ギシヤウ ㊀府の名。明、置く。春秋戰國の楚の地。漢の南郡の地。清、湖北省に屬し、歸州及び東湖・長陽・興山・巴東・長樂の五縣を領す。〔清史稿、地理志〕湖北、宜昌府、領二州一、縣五一、東湖、歸州、長陽、興山、巴東、長樂。㊁縣名。㋑晉、置く。故城は湖北省宜都縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、彝陵州、宜都縣、夷道城〕宜昌廢縣、在二縣東一、晉末置、屬二宜都郡一、宋齊因レ之。㋺南朝宋、置く。四川省成都縣の地。㋩陳、置く。湖北省宜都縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、彝陵州〕宜都縣、漢夷道縣屬二南郡一、後漢因レ之、云云、建安十五年、先主置二宜都郡治此一、云云、晉仍レ舊、太和中、桓溫以二父嫌名一改曰二西道一、尋復レ舊、宋齊因レ之、梁末置二宜州一、陳州廢、改レ縣曰二宜昌一。㊁民國、置く。湖北省江陵縣の西北、清の宜昌府治東湖縣の治。長江の東北岸。通商港で蜀に入る咽喉。歷代重鎭の地。

〔宜昌關〕28 ギシヤウクワン 清代、二十二海關の一。江海關(**6**－**17140**・・44)を見よ。

【宜章】29 ギシヤウ 縣名。宋、置く。湖南省桂陽縣の東南。〔讀史方輿紀要、湖廣、郴州〕宜章縣、漢郴縣地、隋末蕭銑置二義章縣一、唐武德七年、省入二郴縣一、明年、復置、仍屬二郴州一、五代周廣順初、南漢攻二郴州一、敗二南唐兵於義章一、是也、宋太平興國初、改曰二宜章縣一。〔清史稿、地理志〕湖南、郴州直隸州、縣五、宜章。

【宜城】30 ギジヤウ ㊀城の名。㋑安徽省懷寧縣治。〔宋史、地理志四〕安慶府、端平三年、移二治羅刹洲一、又移二楊槎洲一、景定元年、改築二宜城一。〔景定建康志〕宜城者、雁汊對岸一要害處、吳魏相拒時、嘗設二疑城於此一、其後訛レ疑爲レ宜、故襲二稱宜城一。㋺四川省雙流縣の東南、宜縣山下。漢の任安が築くと傳ふ。武陽城ともいふ。㊁縣名。漢、置く。もと楚の鄢の地。湖北省襄陽縣の南。漢時、酒を產し、宜成醪の名がある。曹植の酒賦には宜成醴醪とある。〔傳玄、酒賦〕課三長興與二中山一、北三蒼梧與二宜城二。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府〕宜城縣、戰國時楚鄢縣、秦因レ之、漢惠帝三年、改爲二宜城縣一、屬二南郡一、云云、後漢仍屬二南郡一、初平二年、劉表刺二荊州一時、寇賊梗塞、表單馬入二宜城縣一、建安三年、曹操表二先主一爲二鎭東將軍一、封二宜城亭侯一、是也。〔清史稿、地理志〕湖北、襄陽府、縣六、宜城。

〔宜城公主〕31 ギジヤウコウシユ 唐、中宗の女。初封は郡主。裴巽に降嫁す。巽、嬖姝あり、主、怒つて耳鼻を切り、且つ巽の髮を斷つ。帝、怒り、斥けて縣主と爲し、巽を左遷す。後、故封に復す。〔唐書、八十三〕。

【宜主】32 ギシユ 漢、趙飛燕(**10**－**37171**・・850)の幼名。〔飛燕外傳〕趙主有レ娠、一產二二女一、長曰二宜主一、次曰二合德一、宜主幼聰悟、長而纖便輕細、擧止翩然、人謂二之飛燕一。

【宜充】33 ギジユウ 明、劉文敏(**2**－**2224**・・1301)の字。

【宜叔】34 ギシユク 字號。㊀宋、雷宜中(**12**－**42245**・・178)の字。㊁明、徐誼(**4**－**10110**・・79)の字。

【宜述】35 ギジユツ 明、鄭作(**11**－**39647**・・150)の字。

【宜春】36 ギシユン ㊀立春の日に燕形の色紙又は幟などに書いた文字。宜春帖を見よ。〔荊楚歲時記〕立春之日、悉翦レ綵爲レ鷰戴レ之、帖二宜春二字一。〔注〕按、宜春二字、傅咸鷰賦有二其言一矣、云云、御二青書一以贊レ時、著二宜春之嘉祉一。〔遼史、禮志六〕立春、婦人進二春書一、刻二青繒一爲レ幟、像レ龍御レ之、或爲二蟾蜍一、書レ幟曰二宜春一。〔直隸志書、平谷縣〕迎春日、帖二宜春字一、茹二春餠一、取レ迎新也。㊁秦漢の宮殿の名。長安城の東南、杜縣の東に在つた。〔史記、司馬相如傳〕還過二宜春宮一、相如奏レ賦。〔三輔黃圖、三、甘泉宮〕宜春宮、本秦之離宮、在二長安城東南杜縣東一。㊂苑の名。㋑陝西省長安縣の南にあつた苑。秦の二世皇帝の陵地。漢には宜春下苑といふ。武帝の造つた曲江池のあるところ。〔漢書、元帝紀〕宜春下苑。〔注〕師古曰、宜春下苑、卽今京城東南曲江池、是。〔唐太宗、登三三臺二言レ志詩〕鏡池波二太液一、莊苑麗二宜春一。㋺宋代、河南省開封縣城の東門外にあつた苑。〔宋史、太祖紀一〕建隆元年、幸二宜春苑一。㊃臺の名。江西省宜春縣治の東南隅。仙女臺・鳳凰臺・湖岡臺・化成臺と共に宜春五臺と謂ふ。〔讀史方輿紀要、江西、袁州府、宜春縣〕宜春臺、在二府城內東南隅一、高五十丈、周二覽川原一、實壯觀、又仙女臺亦在二城東南隅一、與二宜春臺一相望、城西南隅曰二鳳凰一、枕レ城爲レ臺、樓觀突兀、志云、宜春有二五臺一、城南十五里、湖岡山有二湖岡臺一、西北化成巖曰二化成臺一、與二城內三臺一爲レ五也。㊄郡名。隋、置く。故治は江西省宜春縣。〔讀史方輿紀要、江西〕袁州府、禹貢揚州地、春秋屬レ吳、戰國屬レ楚、秦屬二九江郡一、兩漢屬二豫章郡一、三國吳屬二安成郡一、晉宋以後因レ之、隋平レ陳置二袁州一、大業初、改曰二宜春郡一、唐武德五年、復曰二袁州一、天寶初、曰二宜春郡一。㊅縣名。㋑漢、置く。江西省吉安縣の西北。縣城は袁江の南岸。〔讀史方輿紀要、江西、袁州府〕宜春縣、附郭、漢縣、屬二豫章郡一、武帝封二長沙定王子成一爲二侯邑一、後漢仍屬二豫章郡一、三國吳寶鼎二年、改屬二安成城郡一、晉因レ之、寧康中、改レ縣曰二宜陽一、宋齊以後因レ之、隋爲二袁州治一、開皇十八年、復曰二宜春一、唐以後因レ之。〔清史稿、地理志〕江西、袁州府、縣四、宜春。㋺漢、置く。今の河南省汝南縣の西南。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、汝陽縣〕宜春城、在二府西南一、漢縣屬二汝南郡一、東漢改曰二北宜春一、安帝封二后父閻暢一爲二侯邑一、晉亦曰二北宜春縣一、屬二汝南郡一、後省。㋩金、置く。滿洲遼寧省開原縣の東北。

〔宜春庵〕37 ギシユンアン 名古屋玄醫の號。名古屋丹水(**2**－**3297**・・393)を見よ。

〔宜春院〕38 ギシユンヰン 伎人が召されて入る宮殿の名。〔教坊記〕妓女入二宜春院一、謂二之內人一、亦曰二前頭人一、常在二上前頭一也。

〔宜春花〕39 ギシユンクワ 立春の日に、色絲で燕などの形をつくり、頭にさして遊ぶもの。〔方岳、立春日裝二成宜春花一詩〕卻笑尙爲二兒女態一、寶刀剪レ綵強爲レ春。

〔宜春侯〕40 ギシユンコウ 漢、王訢(**7**－**20823**・・260)の封號。

〔宜春酒〕41 ギシユンシユ 立春の日の酒をいふ。〔書言故事、二月〕謝二人二月送レ酒、云三辱賜二宜春之酒一。

〔宜春帖〕42 ギシユンテフ 立春の日、宜春と書いて春を喜ぶ爲に門庭の楣柱に貼る紙。〔千金月令〕立春日、貼二宜春字於門一。〔遵生八牋〕立春日、門庭楣上、寫二宜春二字一貼レ之、王詩云、寶字貼二宜春一。

〔宜春里〕43 ギシユンリ 地名。晉の左思が退去した地。〔晉書、左思傳〕祕書監賈謐、請講二漢書一、謐誅、退二居宜春里一、專二意典籍一。〔盧照鄰、釋疾文〕三都已成、歸二入宜春之里一。

【宜稱】44 ギシヨウ ㊀善い名。〔韓偓、新上頭詩〕爲二要レ好多心轉惑一、徧將二宜稱一問二傍人一。㊁よろしきにかなふ。適當。〔漢書、景帝紀〕夫吏者、民之師也、車駕衣服宜稱。〔新書、容經〕顏色聲氣、各有二宜稱一。

【宜乘】45 ギジヨウ 胸につむじ毛のある馬の名。官府馬。〔爾雅、釋畜〕回毛在レ膺、宜乘。〔疏〕回、旋也、膺、胷也、毛在レ膺者、名二宜乘一、樊光云、俗呼二之官府馬一、伯樂相馬法、旋毛在二腹下一如レ乳者、千里馬也。

【宜眞】46 ギシン 明、趙元陽(**10**－**37171**・・524)の字。

【宜人】47 ギジン ㊀文武官の夫人の封號。宋代に始まる。室人(**3**－**7136**・・23)の㊄を見よ。〔續通典、職官典、內官〕洪武二十六年定、五品封二贈宜人一。〔鐵圍山叢談〕改二郡縣君號一爲二七等一、郡君爲二淑人・碩人・令人・恭人一、縣君爲二室人・安人・孺人一、俄又避二太室人之目一、改曰二宜人一。㊁人によろし。人の心に適合する。〔杜甫、賓至詩〕喧卑方避レ俗、疎快頗宜レ人。〔韓琦、重九詩〕隨分笙歌行樂處、菊花萸子更宜レ人。

〔宜人坊〕48 ギジンバウ 洛陽の里の名。〔兩京記〕東京宜人坊、其半、本隋齊王暕宅、暕、煬帝愛子、初欲二出レ坊爲レ宅、帝問二宇文凱一曰、里名何謂、凱曰、名二宜人一、帝曰、既名二宜人一、奈何無レ人、可三以レ半爲二王宅一。

【宜水】49 ギスイ 川の名。㊀源は軍山。漳水を合し、家洲に至つて黃水と合する。宜黃(8)の㊀を見よ。㊁源は湖南省常寧縣の南の西江山。北流して湘に注ぐ。宜溪水。〔水經、湘水注〕湘水又北與二宜溪水一合、水出二湘東郡之新寧縣西南、新平故縣東一、新寧、故新平也、衆川瀉浪、共成二一津一、西北流、東岸山下有二龍穴一、宜水逕二其下一、天旱則擁レ水注レ之、便有二雨降一、宜水、又西北注二于湘一。

【宜成】50ギセイ　縣名。漢、置く。今、山東省濟陽縣の西北。〔漢書、地理志上〕濟南郡、縣十四、宜成。

〖宜成醪〗51ギセイラウ　にごり酒の名。宜成は宜城で、此の地で漢代に酒を產したからいふ。〔周禮、天官、酒正、辨二五齊之名一、一曰泛齊、注〕泛者、成而滓浮泛泛然、如二今宜成醪一矣。〔曹植、酒賦〕宜成醴醪、蒼梧縹清。

【宜笑】52ギセウ　美しく笑ふ。〔楚辭、九歌、山鬼〕既含レ睇兮又宜笑、子慕レ予兮善窈窕。〔司馬相如、上林賦〕皓齒粲爛、宜笑的皪。〔曹植、七啓〕紅顏宜笑、睇眄流光。

【宜赤】53ギセキ　清、陳兆成（上虞の人）(**11－41698**‥1149)の字。

【宜川】54ギセン　縣名。西魏、義川縣を置き、宋、宜川と改む。陝西省膚施縣の東南。縣城は仕望川の北岸。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕宜川縣、古孟門河西之地、苻秦時、爲二三堡鎭一、西魏、置二義川縣一、云云、宋、太平興國初、改レ縣曰二宜川一。〔清史稿、地理志〕陝西、延安府、縣十、宜川。

【宜泉】55ギセン　清、翁樹培(**9－28635**‥76)の字。

【宜遷】56ギセン　明、楊時喬(**6－15112**‥588)の字。

【宜蘇】57ギソ　山名。〔山海經、中山經〕宜蘇之山、其上多二金玉一。

【宜叟】58ギソウ　宋、章誼(**8－25761**‥31)の字。

【宜孫】59ギソン　明、沈繼祖(**6－17189**‥493)の字。

【宜當】60ギタウ　適當。〔黃庭堅、宿二舊彭澤一懷二陶令一詩〕欲レ招二千載魂一、斯文或宜當。

【宜稻】61ギタウ　稻を植ゑるによい。〔周禮、夏官、職方氏〕東南曰二揚州一、云云、其畜宜二鳥獸一、其穀宜レ稻。〔淮南子、墬形訓〕江水肥仁而宜レ稻。〔齊民要術、水稻〕孝經援神契曰、汙泉宜稻。

【宜男】63ギダン　❶男子を多く生むこと。宜男草を見よ。〔北史、崔㥄傳〕文宣帝擧レ酒祝曰、新婦宜レ男、孝順富貴。❷清、張兆熊(**4－9812**‥1395)の字。

〖宜男草〗64ギダンサウ　萱草(**9－31345**‥4)の異名。忘憂草。萱堂(**9－31345**‥10)を見よ。〔傅玄、宜男花賦〕花曰二宜男一、號應二禎祥一。〔梁簡文帝、七勵〕植二宜男於粉閣一、樹二君子於椒房一。〔風土記〕鹿葱、宜男草也、姙婦佩レ之必生レ男。〔草本記〕萱草、一名宜男、婦人懷妊佩二其花一、生レ男。

【宜治】65ギチ　善く治まる。〔新書、胎教〕無二常安之國一、無二宜治之民一、得レ賢者顯昌、失レ賢者危亡。

【宜沖】66ギチユウ　明、蕭子鵬(**9－32012**‥385)の字。

【宜弟】67ギテイ　蠻國で、長子が生れるとすぐに之を食ひ、其の家を弟に嗣がせるやうにすること。弟のために宜しといふ意。〔列子、湯問〕越之東有二輒木之國一、其長子生則解而食レ之、謂二之宜弟一。〔墨子、節葬下〕昔者越之東、有二輆沐之國者一、其長子生則解而食レ之、謂二之宜弟一。〔後漢書、南蠻傳〕其西有二噉人國一、生二首子一、輙解而食レ之、謂二之宜弟一。

【宜亭】68ギテイ　清、格爾古德(**6－14749**‥108)の字。

【宜適】69ギテキ　よろしきにかなふ。適當。適宜。〔呂覽、離俗〕餌有二宜適一。〔新書、道德說〕理立則有二宜適一、之謂レ義。

【宜田】70ギデン　清、方觀承(**5－13620**‥504)の號。

【宜都】71ギト　❶郡名。三國蜀、置く。湖北省宜都縣の西北。❷縣名。唐、置く。三國蜀の宜都郡。陳の宜昌縣。湖北省宜昌縣の南。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、彝陵州〕宜都縣、漢夷道縣、屬二南郡一、云云、建安十五年、先主置二宜都郡治此一、云云、梁末置二宜州一、陳州廢改レ縣曰二宜昌一、云云、唐武德二年、置二江州於此一、改レ縣曰二宜都一。〔清史稿、地理志〕湖北、荊州府、縣七、宜都。

【宜賓】72ギヒン　縣名。宋、置く。四川省犍爲縣の東南。古、西南夷の僰侯國。岷江と金沙江とが匯流するところ。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府〕宜賓縣、漢置二僰道縣一、爲二犍爲郡治一、云云、宋熙寧四年、省二有賓縣一入二僰道一、政和四年、改二僰道一爲二宜賓縣一、爲二敍州治一。〔清史稿、地理志〕四川、敍州府、縣十一、宜賓。

【宜服】73ギフク　よろしきに適つた服裝。〔禮、王制〕中國・夷・蠻・戎・狄、皆有二安居・和味・宜服・利用・備器一。〔疏〕和味・宜服・利用・備器者、言、中國與二四夷一、皆有二所レ和之味、所レ宜之服、所レ利之用、所レ備之器一、其事雖レ異、各自充足。

【宜保】74ジイフ　琉球國の地名。

【宜甫】75ギホ　宋、馬鈺(**12－44572**‥128)の字。

【宜豐】76ギホウ　縣名。❶三國吳、置く。江西省萬載縣の東北。〔讀史方輿紀要、江西、瑞州府〕新昌縣、漢建成縣地、三國吳析二置宜豐縣一、仍屬二豫章郡一、晉因レ之、宋初、廢、唐武德五年、復置二宜豐縣一、屬二靖州一、云云、宋太平興國六年、以二地廣勢險一、於二宜豐故城一置二今縣一、屬二筠州一、元、元貞初、升爲二新昌州一、明初、仍爲レ縣。❷遼、置く。滿洲遼寧省遼陽縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、定遼中衞、鶴野城〕宜豐城、遼置二宜豐縣一、兼置二衍州治此一、亦曰二廣安軍一、金皇統三年、州廢、以レ縣屬二遼陽府一、元初、縣廢。

【宜北】77ギホク　縣名。民國、置く。廣西省思恩縣の東北。宜山縣の北にあるので名づけらる。

【宜民】78ギミン　字號。❶明、丁義(**1－2**‥38)の字。❷明、林希蔭(**6－14551**‥286)の字。

【宜明】79ギメイ　南朝宋、謝晦（**10－35827**‥55）の「字。

【宜綿】80ギメン　清、滿洲正白旗人。姓は鄂濟氏。原名は尙安。乾隆中、陝甘總督となる。湖北教匪を禦いで功あり、太子太保を加へられ、一切の軍務を總統す。〔清史稿、三百五十一〕・〔清史列傳、三十〕・〔國朝耆獻類徵、九十七〕。

【宜陽】81ギヤウ　縣名。❶漢、置く。戰國韓の邑。河南省宜陽縣の西部の地。〔戰國、東周策〕君曰、宜陽城方八里、材士十萬。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、宜陽縣〕宜陽縣、在二縣東北十四里一、韓城也、蘇秦說レ趙曰、韓弱則效二宜陽一、宜陽效則上郡絕、說レ韓曰、韓西有二宜陽商阪之塞一、張儀曰、秦攻二新城宜陽一、以臨二二周之郊一、又說レ韓曰、秦下甲據二宜陽一、斷二韓之上地一、蘇代曰、秦起二乎宜陽一、而觸二平陽一、皆謂レ此也、又周王曰、宜陽城方八里、材士十萬、故甘茂亦去、宜陽韓之大縣、實郡也、秦惠文王三年、拔二韓宜陽一、既而韓復取レ之、又武王四年、使三甘茂伐二宜陽一、五月而不レ拔、大起レ兵拔レ之、蓋澠池二崤、實皆在二宜陽境內一、爲二控扼之要地一、漢置レ縣屬二宏農郡一、後漢光武降二劉盆子一、積二甲宜陽城一、晉大安二年、河閒王顒擧二兵關中一、遣二其將張方一趣二洛陽一、長沙王乂使三皇甫商將レ兵拒二之于宜陽一、爲二方所レ敗、永嘉三年、劉淵遣三其子聰等寇二洛陽一、長驅至二宜陽一、屢破二周軍一、築二統關・豐化二城一而還、六年、周宇文統復取二宜陽一、寇二洛陽一、後魏孝昌初、置二宜陽郡一、東魏天平初、置二陽州一、周齊時、爲二東西必爭之所一、後周天和四年、遣二宇文憲等一、將レ兵趣二宜陽一、築二崇德等五城一、五年、齊斛律光救二宜陽一、屢破二周軍一、築二統關・豐化二城一而還、六年、周宇文統復取二宜陽等九城一、斛律光引レ兵爭レ之、與二周師一戰二于宜陽城下一、取二周建安四戍一、四戍亦在二宜陽城側一、隋義熙二年、唐公淵遣二世民等一救二東都一、東都不レ應、引還、東都將段達來追二世民一、敗レ之、逐レ北至二城下一、置二新安宜陽二郡一、留レ兵戍レ之而還。〔清史稿、地理志〕河南、河南府、縣十三、宜陽。❷晉、置く。江西省廬陵道宜春縣。〔讀史方輿紀要、江西、袁州府〕宜春縣、漢縣屬二豫章郡一、云云、晉寧康中、改レ縣曰二宜陽一、宋齊以後因レ之、云云、隋開皇十八年、復曰二宜春一、唐以後皆因レ之。❸金、置く。河南省洛陽縣の西南。縣城は洛水の東岸。

【宜約】82ギヤク　明、方守(**5－13620**‥250)の字。

【宜老】83ギラウ　宋、彭汝方(**4－10003**‥168)の字。

【宜良】84ギリヤウ　縣名。元、置く。今、雲南省昆明縣の東南。滇越鐵道の沿線。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府〕宜良縣、陳隋時、爨酋羅氏築レ城號二囉裒籠一、夷謂レ城爲レ籠也、唐爲二昆州地一、元初、立二宜良匡城、及大池千戶所一、至元中、改置二宜良州一、領二大池・赤水二縣一、後改レ州爲レ縣、幷二二縣一入焉。〔清史稿、地理志〕雲南、雲南府、縣七、宜良。

【宜梁】85ギリヤウ　縣名。漢、置く。今、綏遠省烏喇特旗の地。〔漢書、地理志下〕五原郡、縣十六、宜梁。〔水經、河水注〕河水又東逕二宜梁縣之故城南一、闞駰曰、五原西南六十里、今世謂二之石崖城一。

【宜陵】86ギリヨウ　鎭の名。江蘇省江都縣の東北。一に儀陵に作る。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、江都縣〕宜陵鎭、地勢高阜、民居稠密、自二灣頭一達二泰州一之道。

〖宜陵侯〗87ギリヨウコウ　漢、息夫躬(**4－10601**‥91)の封號。

【宜僚】88ギレウ　後漢、班勇(**7－20976**‥105)の字。

【宜祿】89ギロク　❶宰相をいふ。〔天祿識餘〕丁晉公喜占二驗禨祥一、多レ所二忌諱一、有三無賴欲二往依一レ之、改二姓名一爲二丁宜祿一、晉公果大喜、收二之門下一、

不ニ旬月一而入相、此人遂被ニ優寵一、檢ニ沈休文宋書一、宰相蒼頭呼爲ニ宜祿一、乃知ニ晉公喜レ之有レ故也。❷縣名。㋑漢、置く。河南省沈丘縣の北。〔漢書、地理志〕汝南郡、縣三十七、宜祿。㋺西魏、置く。陝西省長武縣の地。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、邠州〕長武縣、漢北地郡鶉觚縣地、後漢屬ニ安定郡一、魏晉因レ之、後魏熙平二年、分置ニ東陰盤縣一、廢帝初、改爲ニ宜祿縣一、以三南臨ニ宜祿川一而名、後周廢、唐復置ニ宜祿縣一、屬ニ邠州一、宋・金因レ之、元廢、明萬曆十一年、於ニ舊宜祿城一置レ縣、曰ニ長武縣一。❸金、趙元(**10**−**37171**‥150)の名。

【宜雨亭】90 ギウテイ　宋、張鎡(**4**−**9812**‥361)の室名。

【宜永貴】91 ギエイキ　清、遼陽の人。漢軍正白旗に隸屬す。順治の初、兵部理事官となる。河南・江南を征するに從つて功あり、南贛巡撫から福建巡撫にうつる。鄭成功に城下に迫られて拒守すること一箇月、圍みを解く。爵は三等男。〔國朝耆獻類徵、一百五十〕。

【宜夏軒】92 ギカケン　清、劉蔭樞(**2**−**2224**‥694)の室名。

【宜稼堂】93 ギカダウ　清、郁松年(**11**−**39371**‥41)の室名。

【宜稼堂叢書】94 ギカダウソウショ　叢書の名。清、郁松年撰。松年所藏の元明の舊槧本、凡そ十二種を校刊し、札記を附したもの。

【宜雅堂】95 ギガダウ　清、嚴允肇(**2**−**4589**‥266)の室名。

【宜桂可】96 ギケイカ　元、湘潭の人。號は可山。經史に通じ、弟子百を以て數ふ。〔尚友錄、二〕。

【宜思恭】97 ギシキョウ　清、襄平の人。字は允肅。號は省菴。官は廣西巡撫。〔國朝耆獻類徵、一百六十九〕・〔碑傳集、六十八〕。

【宜尚安】98 ギシャウアン　清の人。宜綿(80)を見よ。

【宜梳裹】99 ギショクワ　化粧映えがする。〔漢宮秋、一折〕把ニ一箇宜梳裹臉兒一採。

【宜母子】100 ギボシ　果實の名。レモン。檸檬。〔粤語〕宜母子、似レ橙而小、二三月熟、黃色、味極酸、孕婦嗜レ之、故曰ニ宜母一、元時於ニ廣州荔支灣一栽ニ種里木樹大小八百株一、以作ニ渴水一、里木、卽宜母子也、一名黎濛子。

【宜里布】101 ギリフ　清の人。尼堪の子。一に伊理布(**1**−**432**‥191)に作る。滿洲正白旗人。姓は他塔喇氏。諡は武壯。康熙の間、議政大臣となる。呉三桂を攻めて湖南に陣歿す。〔清史稿、二百六十五〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十三〕。

【宜休居士】102 ギキウコジ　明、應志和(**4**−**11330**‥259)の號。

【宜休老人】103 ギキウラウジン　宋、沈樞(**6**−**17189**‥239)の號。

【宜松老人】104 ギショウラウジン　中井敬義の號。中井董堂(**1**−**73**‥912)を見よ。

【宜靜書屋】105 ギセイショヲク　明、許宗魯(**10**−**35298**‥345)の室名。

【宜林老人】106 ギリンラウジン　宋、歐陽椿(**6**−**16185**‥86)の號。

【宐】7112　ギ　宜(**3**−**7111**)に同じ。〔廣韻〕宜、說文、本作レ宐。

【宑】7113　キョ　居(**4**−**7663**)の古字。〔字彙補〕宑、古文居字。

【宒】7114　カ　家(**3**−**7169**)の古字。〔集韻〕家、古作レ宒。

【𡧍】7115　テイ　義未詳。〔五音篇海〕𡧍、音定。

【𡧃】7116　コツ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕𡧃、音忽。

【㝑】7117　セキ　寂(**3**−**7200**)に同じ。〔字彙補〕㝑、與レ寂同。

【㝪】7118　チュツ　義未詳。〔篇海類編〕㝪、竹律切、音朮。

【宊】7119　カウ　義未詳。〔龍龕手鑑〕宊、音衡。

【宕】7120　カイ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕宕、古海切。

【宍】7121　ニク　肉(**9**−**29236**)に同じ。〔集韻〕肉、或作レ宍。

【宝】7122　ハウ　寶(**3**−**7376**)の俗字。〔中華大字典〕宝、俗寶字。

【实】7123　ジツ　實(**3**−**7294**)の俗字。

【実】7124　ジツ　實(**3**−**7294**)の略字。

六畫

【𡧩】7125　クワイ　ケ　〔玉篇〕吉娃切　佳。

たかどの。〔玉篇〕𡧩、𡧩樓也。

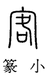
【㝓】7126　カフ　コフ　〔集韻〕渴合切　ㄎㄜˊ　k'o^2　合。

あふ。𥦗(**8**−**25492**)に同じ。〔集韻〕𥦗、合也、或从レ宀。

【㝓口】^{1} k'o^2　k'ou^3　銀塊の、少し切口を付けた所。

【𡧮】7127　タク　❶宅(**3**−**7064**)の古字。〔說文〕宅、𡧮、古文宅。❷度(**4**−**9313**)の古字。〔五音集韻〕𡧮、古文度字。

【客】7128　一 カク キャク　〔集韻〕乞格切　ㄎㄜˋ　k'ê^4　陌。　二 カ ケ　〔集韻〕丘駕切　禡。


小篆

一 ❶**よせる。よる。**身を寄せる。〔說文〕客、寄也、从レ宀各聲。〔段注〕字从レ各、各、異詞也、故自レ此託レ彼曰レ客。〔素問、玉機眞藏論〕今風寒客ニ於人一。〔注〕客、謂三客ニ止於人形一也。❷**まらうど。**主(**1**−**100**)の對。〔周禮、秋官、司儀〕司儀掌ニ九儀之賓客、擯相之禮一。〔禮、曲禮下〕主人敬レ客、則先拜レ客、〔禮、少儀〕客爵居レ左。〔注〕客爵、謂ニ主人所レ酬レ賓之爵一也。❸**上客。**一座の尊敬する人。〔左氏、襄、二十七〕趙孟爲レ客。〔注〕客、一坐所レ尊。〔疏〕正義曰、享宴之禮、賓旅雖レ多、特以ニ一人一爲レ客。❹**かかり人。**〔漢書、鄒陽傳〕桀之犬可レ使レ吠レ堯、跖之客可レ使レ刺レ由。〔晉書、刁彝傳〕刁氏素殷富、奴客縱橫。❺**外來者。**〔易、繫辭下〕重門擊柝、以待ニ暴客一。〔通解〕重門以守レ之、擊柝以警レ之、則暴客知レ懼。〔左氏、僖、二十四〕宋先代之後也、於レ周爲レ客。❻**あひて。**〔魏書、李諧傳〕坐有ニ清談之客一。❼**たびびと。**〔南史、倭國傳〕賤ニ行客ニ不レ齎レ糧。〔李白、春夜宴ニ桃李園一序〕夫天地者萬物之逆旅、光陰者百代之過客。〔沈佺期、宿ニ七盤嶺一詩〕浮客空留レ賦。❽**たび。**〔晁補之、吳松道中詩〕天寒鴉聲急、歲晚客程遙。❾**居處の定まらない者。**〔史記、范雎蔡澤傳〕一ニ楚國之俗一、禁ニ游客之民一。❿**人。士。**〔漢書、陳遵傳〕爲ニ酒客一難ニ法度士一。〔後漢書、馬廖傳〕吳王好ニ劍客一、百姓多ニ劍瘢一。〔杜甫、贈ニ蜀僧閭丘師兄一詩〕多士盡儒冠、墨客藹雲屯。⓫**とくい。**得意。

顧客。〔南史、扶南國傳〕估客不レ至。〔南宋市肆記〕酒樓設二官妓數十人一、各有二金銀酒器一以供二飲客之用一。⑫**來しかた**。過去。〔劉世教、合刻李杜全集序〕客歲南邁。⑬**姓**。〔萬姓統譜〕客、見二姓苑一。🈔**おびえ**。痾(**7—22088**)に同じ。〔集韻〕痾、小兒驚病、或作レ客。

名乘 ヒト。マサ。

【客衣】1カクイ たびごろも。旅衣。客裳。客袖。〔孟遲、閨情詩〕蘼蕪亦是王孫草、莫下送二春香一入中客衣上。〔高適、使二青夷軍一入二居庸一詩〕不レ知二邊地別一、祇訝客衣單。〔祖詠、泊二楊子津一詩〕客衣今日薄、寒氣近來饒。

【客意】2カクイ たびごころ。旅にある身の物思ひ。客思。客懷。〔杜甫、送三舍弟頻赴二齊州一詩〕客意長二東北一、齊州安在哉。〔溫庭筠、西遊書懷詩〕客意自如レ此、非レ關二行路難一。

【客位】3カクヰ ㊀客の坐する位置。客席。〔禮、坊記〕大二斂於阼階一、殯二於客位一、祖二於庭一、葬二於墓一、所三以示二民遠一也。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文序〕降二輿客位一。〔沈約、冬節後至二丞相第一詣二世子車中一作詩〕客位紫苔生。㊁主となるものに對して、それを補ひ助ける地位。賓位。㊂いけ花の花型で、天地の枝の出てゐる方向をいふ。

【客郵】4カクイウ ㊀しゆくば。つぎば。〔沈遘、詩〕十年人事都如レ夢、猶識河邊舊客郵。㊁k'ê^4 yu^2 中國內地に設けた外國郵便局。

【客游】5カクイウ 客遊に同じ。〔戰國、韓策〕聶政謝曰、臣有二老母一、家貧、客游以爲二狗屠一。〔吳志、劉惇傳〕客二游廬陵一。〔謝靈運、入二彭蠡湖口一作詩〕客游倦二水宿一。

【客遊】6カクイウ 他鄉にあそぶ。流浪する。客游。〔魏文帝、善哉行〕隨レ波轉薄、有レ似二客遊一。〔孟浩然、送二席大一詩〕惜爾懷二其寶一、迷レ邦倦二客遊一。

【客員】7カクヰン 賓客として特別に扱ふ會員。

【客鹽】9カクエン 他の地方の商人の販賣する鹽。〔六部成語、戶部、客鹽、注解〕販鹽、客人市賣之鹽。

【客夏】10カクカ・キヤクカ 去年の夏。去夏。

【客家】11カクカ ㊀主に廣東・廣西地方に在住する漢族の一派。更に福建西南部、江西南部等から香港・海南島・臺灣・シンガポール・南洋諸島に分布し、其の人口は二千萬を超える。もと山西・河南の北支那人で、西晉末の北方異族の侵入以後、黃巢の亂等を避けて漸次南遷し、兩廣地方の猺・獞等と混血したものの子孫であらうといふ。洪秀全・鄒魯・陳炯明・彭湃等はこの族の人である。海峽植民地ではケツク Keks 或はケー Kehs 人と呼ばれる。〔新方言、附、嶺外三州語〕廣東惠・嘉應二州、東得二潮之大阜一豐順、其民自二晉末一踰レ嶺、宅二於海濱一、言語敦古、廣州人謂二之客家一。㊁k'ê^4 chia^1 顧客。得意。

【客家語】12カクカゴ 客家族の用ひる言語。系統上では大體廣東語に屬するが、發音等は官話に近似してゐる。

【客階】13カクカイ 客の上り下りする階段。西階。〔禮、坊記〕升レ自二客階一、受二弔於賓位一、敎二民追孝一也。

【客行】14カクカウ 旅行。〔謝惠連、猛虎行〕客行苦二心傷一。〔溫庭筠、商山早行詩〕晨起動二征鐸一、客行悲二故鄉一。

【客行士】15カクカウシ 旅人。旅行者。〔曹植、情詩〕眇眇客行士、徭役不レ得レ歸。

【客行樂】16カクカウラク 旅行の樂しみ。〔古詩十九首〕客行雖レ云レ樂、不レ如早旋歸。

【客感】17カクカン 心氣が浮動して外に馳せること。

【客鴈】18カクガン 雁をいふ。寒暖を以て去來するから客といふ。〔李賀、梁臺古愁詩〕蘆洲客雁報レ春來、寥落野篁秋漫白。

【客氣】19カクキ ㊀一時のから元氣。血氣の勇。假勇。〔左氏、定、八〕陽虎僞下不レ見二冉猛一者上曰、猛在レ此者必敗、猛逐レ之、顧而無レ繼、僞顚、虎曰、盡客氣也。〔注〕言、皆客氣、非レ勇也。〔會箋〕虛驕之氣、自レ外入、非レ生レ中、故云二客氣一。〔尉繚子、守權〕令二客氣十百倍、而主之氣不レ半焉。〔南史、顏延之傳〕客氣虛張、曾無二愧畏一。㊁其の歲の運を動かす外部から來る運氣。主氣に對していふ。〔夢溪筆談、象數一〕歲運有二主氣一、有二客氣一、常者爲レ主、外至者爲レ客、說者多端、大率臆計、率皆此類、凡所謂客者、歲半以前、天政主レ之、歲半以後、地政主レ之、四時常氣爲二之主一、天地之政爲二之客一。㊂擧動の謙謹なこと。四角ばつた氣分。又、遠慮。〔通俗編、儀節、客氣〕按、今以三燕居里處、多二其文貌一、爲二客氣一。

【客寄】20カクキ 旅。〔易、旅、小亨、疏〕旅者、客寄之名、羇旅之稱、失二其本居一而寄二他方一。

【客鄉】21カクキヤウ 旅行先の土地。〔尹廷高、詩〕兒童生二長他山一久、卻把二家鄉一作二客鄉一。

【客居】22カクキヨ たびずまひ。〔史記、淮陰侯傳〕漢兵二千里客居、齊城皆反レ之、其勢無レ所レ得レ食。〔杜甫、客居詩〕客居所レ居堂、前レ江後二山根一。

【客衾】23カクキン 旅のねまき。客衣。客氈。〔曾鞏、答二石秀才月下一詩〕客衾初寒睡未レ能、忽得二子詩一哦以喜。

【客菌】24カクキン 敵が身をかくすもの。障蔽物。菌は、おほひかくす義。〔墨子、迎敵祠〕壞二其牆一、無三以爲二客菌一。〔閒詁〕菌、猶レ言レ翳也、周書王會篇、有二菌鶴一、孔注云、菌、鶴可三用爲二旌翳一、是菌有二翳蔽之義一、蘇云、菌、疑與レ梱義通、意、言下城外有レ牆、是令中敵人得二障蔽一以避上レ矢、宜二急壞一レ之。

【客屨】25カク 旅中のはきもの。〔溫庭筠、題二中南佛塔一詩〕潤苔侵二客屨一、山雪入二禪衣一。

【客寓】26カクグウ かりずまひ。寄留。寓居。

【客遇】27カクグウ 賓客として待遇する。客あつかひ。〔漢書、李陵傳〕緒降、而單于客二遇緒一、常坐二陵上一。〔韻府注〕按、客遇謂下以二客禮一待上レ之也。

【客貨】28カククワ ㊀他地方から來た貨物。〔福惠全書、庶政部、嚴二飭關津一〕有下馱二脚客貨一者上、量二給酒資一。㊁乘客と貨物。

【客貨帳】29 k'ê^4 huo^4 chang^4 客貨の仕入元帳。

【客貨草張】30 k'ê^4 huo^4 ts'ao^3 chang^4 商品買入帳。貨源ともいふ。

【客懷】31カククワイ たびごころ。客意(2)に同じ。〔張詠、雨夜詩〕簾幕蕭蕭竹院深、客懷孤寂伴レ燈吟。〔陳與義、縱步至二董氏園亭一詩〕槐樹層層新綠生、客懷依レ舊不レ能レ平。

【客官】32カククワン ㊀他國に入つて官吏となる。又、其の人。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕諸大夫客二官於吳一、委レ國歸レ民。㊁k'ê^4 kuan^1 旅人。

【客館】33カククワン 賓客を招待するところ。客をおく家。又、宿屋。〔左氏、僖、三十三〕鄭穆公使レ視二客館一。〔漢書、公孫弘傳〕於レ是起二客館一、開二東閤一以延二賢人一。〔西京雜記、四〕平津侯自以二布衣一爲二宰相一、乃開二東閤一營二客館一、以招二天下之士一。

【客觀】34カククワン・キヤククワン ㊀外觀。容貌。〔華陽國志、李雄志〕特長子蕩、字仲平、好レ學有二客觀一。㊁主觀(**1—100・・44**)に對していふ。自己以外の總べてのもの。自己の意識の目的物。自己の對象となる一切の外物は、それが物的・心的・實在的・觀念的たるを問はず客觀である。Object の譯。

【客觀的】35カククワンテキ・キヤククワンテキ 客體を土臺として觀察認識などすること。

【客軍】36 k'ê^4 chün^1 他處から來た兵。

【客卿】37カクケイ ㊀他國から來て卿相となつた者。〔戰國、韓策〕客卿爲レ韓。〔史記、范雎傳〕拜二范雎一爲二客卿一、謀二兵事一。〔揚雄、長楊賦〕子墨爲二客卿一。㊁唐代、鴻臚の官の別稱。〔容齋四筆、官稱別名〕鴻臚爲二客卿・睡卿一。㊂字號。㋑漢、栗融(**6—14695・・63**)の字。㋺明、吳應賓(**2—3365・・456**)の字。

【客慧】38カクケイ 外からつけた智慧。入れぢゑ。〔畫繼、九〕至二東坡一又曲盡二其理一、如三始知二眞放本細微一、不レ比三狂華生二客慧一。

【客月】39カクゲツ・キヤクゲツ あとげつ。先月。去月。

【客元】40カクゲン 清、洪都(**6—17402・・152**)の字。

【客唁】41カクゲン 他人のあはれみ。唁は、他人を弔慰訪問すること。死者に弔、生者に唁といふ。〔陸游、排レ悶詩〕苦貧雖レ至レ骨、未三肯受二客唁一。

【客戶】42カクコ ㊀新に他の地方から入籍した民戶。〔晉書、王恂傳〕魏氏給二公卿以下一、租牛客戶數有レ差。〔唐書、食貨志二〕此州若增二客戶一、彼郡必減二居人一。〔宋史、眞宗紀二〕振レ乏食二客戶一。㊁寄留。寓居。〔方岳、燕來巢詩〕吾貧自無レ家、客戶寄二村睡一。㊂とくい。顧客。

【客誇】43カクコ 客の自慢。〔陸游、梅僊塢花涇觀二桃李一詩〕欲レ題直恐無二才稱一、不レ見何由信二客誇一。

【客語】44カクゴ・キヤクゴ ㊀通譯をいふ。〔稱謂錄、通事、

客語〕嵩谿織志、能通二苗・漢語一者、謂二之客語一。㊁論理の命題の中で、一般概念を表はす語。例へば「人は動物なり」の動物といふ語の類。賓辭。㊂文法上、他動詞の目的となる語。

【客恨】45カクコン 旅行中の物思ひ。旅中のさびしい氣持。客愁。旅愁。〔李端、送二劉侍郎一詩〕唯有三夜猨知二客恨一、嶧陽溪路第三聲。〔周存授、衣賦〕感二蟲鳴之促織一、念二客恨之衣裘一。

【客座】46 k'ê^4 tsuo^4 客人の座席。

〖客座兒〗47 k'ê^4 tsuo^4 êrh 客座。

【客妻】48 k'ê^4 ch'i^1 淫賣婦。

【客歲】49カクサイ こぞ。去年。客年。〔類書纂要〕客歲、去年。〔劉世教、合刻李杜全集序〕客歲南邁、從子鑑進而請曰、先生必將二箋而後行一乎。

【客曹】50カクサウ 官名。漢の成帝、置く。外國夷狄のことを司る。四曹の一。後、南北二曹に分かる。〔後漢書、百官志三〕成帝初、置二尙書四人一、分爲二四曹一、常侍曹尙書主二公卿事一、二千石曹尙書主二郡國二千石事一、民曹尙書主二凡吏上書事一、客曹尙書主二外國夷狄事一、世祖承遵、後分二二千石曹一、又分二客曹一爲二南主客曹・北主客曹一、凡六曹。

【客窓】51カクサウ 旅宿の窓。旅館。〔胡安、客窓雜興詩〕酒渴呼レ童汲二井華一、睡來苔徑日初斜。

【客裝】52カクサウ たび支度。客衣。

【客艘】53カクサウ 客舟(68)に同じ。きやくぶね。〔張翥、詩〕風起西津斷二客艘一。

【客艙】54 k'ê^4 ts'ang^1 船の客室。船室。

【客作】55カクサク ㊀雇はれて仕事をする。〔蒙求、上、匡衡鑿壁〕邑大姓文不識、名二家富多一レ書、衡乃與レ其客作、而不レ求レ償、願二得レ書遍讀一レ之。〔注〕傭工曰二客作一。㊁雇人。〔高士傳〕夏馥爲二中常侍所一レ誣、乃自翦レ鬚變レ服、易レ形入二山中一、爲二治工客作一。〔李商隱雜纂、必不來〕客作偸レ物去。〔輟耕錄、客作〕今人之指二傭工者一曰二客作一、三國時已有二此語一、焦光飢則出爲二人客作一、飽食而已。〔稱謂錄、長工、客作兒〕天祿識餘、江西俚俗罵レ人曰二客作兒一、凡言二客作兒一者、傭夫也。

〖客作兒〗56カクサクジ 人を賤しみ罵る語。客作の㊁を見よ。〔能改齋漫錄〕江西俚俗、罵レ人曰二客作兒一。〔陳從易、茘枝詩〕橄欖爲二下輩一、枇杷客作兒。〔通俗編、藝術、客作〕野客叢書、江西俚俗罵レ人曰二客作兒一。

【客棧】57カクサン やどや。旅館。客店。〔新方言、釋宮〕行旅所レ止之屋謂二客棧一、棧借爲レ傳、廣雅、傳、舍也。

【客山】58カクザン 清、李果(**6－14459**··231)の號。

【客子】59カクシ ㊀旅人。游子。〔史記、范雎傳〕得レ無下與二諸侯客子一俱來上乎。〔江淹、雜體、王侍中粲懷德詩〕鶤鷄在二幽草一、客子淚已零。㊁清、沈季友(**6－17189**··456)の字。

【客止】60キヤクドメ 興行物などの大入りで、客を謝絶すること。

【客氏】61カクシ 明、定興の人。侯二の妻。熹宗の乳母となる。封は奉聖夫人。魏忠賢に通じて共に惡をなし、裕妃・成妃を譖害して誅せらる。〔明史、熹宗紀〕封二乳保客氏一爲二奉聖夫人一。

【客司】62カクシ ㊀とりつぎ。〔玉泉子〕客司漏レ名。㊁佛キヤクス 禪林にて來賓を接待する處をいふ。接待所。〔敕修百丈清規、知客〕官員尊宿相過者、引上相見、仍照二管安下去處一、如以次人客、只就二客司一相款。㊂k'o^4 ssŭ^1 職人の仲間。

【客死】63カクシ 他鄉で死ぬ。旅先で死ぬ。〔戰國、楚策〕夫先王爲二秦所一レ欺、而客二死於外一、怨莫レ大レ焉。〔史記、屈原傳〕兵挫地削、亡二其六郡一、身客二死於秦一、爲二天下笑一。〔新序、節士〕果見二囚拘一、客二死於秦一。〔後漢書、安帝紀〕客死無二家屬一。

【客使】64カクシ 外國から來た使者。〔左氏、襄、三十一〕是以令下吏人完二客所一レ館、高二其閈閎一、厚二其牆垣一、以無上レ憂二客使一。〔會箋〕客使、謂二客之使令者一、亦不三敢斥二諸侯之爲一レ賓者一也。

【客思】65カクシ たびごころ。客意(2)に同じ。〔陳子昂、白帝城懷古詩〕川途去無レ限、客思坐何窮。

【客次】66カクジ ㊀來客に應接する所。〔五代史、盧文紀傳〕進奏官至二客次一通レ名。〔宋史、馬默傳〕杖二之客次一。㊁旅行先の宿所。旅宿。〔宣和遺事、後集〕其地類二客次一。

【客兒】67カクジ ㊀預かつて育てた子。〔鍾嶸詩品〕初錢唐杜明師、夜夢、東南有レ人、來入二其館一、是夕卽靈運生二於會稽一、旬日而謝元亡、其家以二子孫難一レ得、送二靈運於杜治一養レ之、十五方還レ都、故名二客兒一。㊁南朝宋、謝靈運(**10－35827**··373)の小名。

【客舟】68カクシウ 旅路の舟。客船。〔方澤、武昌阻レ風詩〕江上春風留二客舟一、無レ窮歸思滿二東流一。

【客秋】69カクシウ キヤクシウ 昨年の秋。

【客袖】70カクシウ 旅の衣。客衣。〔杜牧、初冬夜飲詩〕淮陽多病偶求レ歡、客袖侵レ霜擧二燭盤一。

【客愁】71カクシウ たびぢのうれへ。客恨(45)に同じ。〔李涉、再宿二武關一詩〕關門不レ鎖寒溪水、一夜潺湲送二客愁一。〔孟浩然、赴レ京途中遇レ雪詩〕客愁空佇立、不レ見レ有二人煙一。〔李商隱、滯雨詩〕滯雨長安夜、殘燈獨客愁。

【客室】72キヤクシツ 客間。客堂。客座敷。又、旅館や列車・船等で客の入る室。

【客車】74カクシヤ ㊀賓客の乘る車。〔禮、曲禮上〕客車不レ入二大門一。〔疏〕客車不レ入二大門一、案、公食大夫禮云、賓之乘車、在二大門外一。㊁旅人の乘る車。〔司馬扎、道中早發詩〕野店雞一聲、蕭蕭客車動。㊂キヤクシヤ 旅客用の列車。

【客舍】75カクシヤ 宿屋。客館。〔管子、輕重乙〕請以レ令爲二諸侯之商賈一立二客舍一。〔史記、商君傳〕商君亡至二關下一、欲レ舍二客舍一。〔漢書、郭解傳〕客舍養レ之。〔王維、送三元二使二安西一詩〕渭城朝雨浥二輕塵一、客舍青青柳色新。〔賈島、度二桑乾一詩〕客舍幷州已十霜、歸心日夜憶二咸陽一。

【客省】76カクシヤウ 官署の名。宋代、古の典客の制に依つて置く。客省使を見よ。〔事物異名錄、宮室、會館〕山堂肆考、唐代宗時、四夷使者、及四方奏計者、置二客省一以處レ之。

〖客省使〗77カクシヤウシ 官名。唐末に始まる。宋、客省を設け、使・副使各〻二人を置く。國信使の朝見及び宴賜・四方の進奉・四夷の朝貢を掌る。他に引進使・四方館使・東・西上閤門使等がある。其の任は概ね相似てゐたから、客省使に闕があれば引進・四方館・閤門の三使が互に之を兼ねた。南宋には引進司・四方館と共に閤門に隸屬し、知閤門事が之を統べた。遼は北面客省局に客省局使・副使を置き、又、南面客省に都客省・客省使・左右客省使・客省副使を置く。其の所屬に四方館・引進司・點籤司・禮信司・禮賓使司がある。金も亦客省使・副使を置き、引進使と共に宣徽院に屬す。元の客省使・副使は直省舍人・宣使等の選擧及び差遣の事を掌り、中書省に屬す。又、樞密院及び宣政院に屬する客省大使・副使がある。明、清は置かない。〔唐會要、鴻臚寺〕大歷四年七月詔、罷下給二客省一之廩上、每歲一萬三千斛、永泰已後益以三多二事四方奏計一、或連歲不レ遣、仍於二右銀臺門一置二客省一、以居レ之、上書言レ事者、常百餘人、蕃戎將吏又數十百人、其費甚矣、至レ是皆罷。〔宋史、職官志六〕客省使・副使各二人、掌二國信使見辭宴賜、及四方進奉、四夷朝覲貢獻之儀一、受二其幣一而賓二禮之一。〔續文獻通考、職官考、客省〕宋客省引進使官有二客省使・副使各二人一、掌二國信使見辭宴賜、及四方進奉、四夷朝覲貢獻之儀一、受二其幣一而賓二禮之一、掌二其饔餼飮食一、還則頒二詔書一授以二賜予一、宰臣以下節物、則視二其品秩一以爲レ等、若二文臣中散大夫・武臣橫行刺史以上一、還闕朝覲掌レ賜二酒饌一、使闕則引進・四方館・閤門使副互權、云云、遼客省局官有二使・副使・都林牙一、南面客省官有二都客省・客省使・左右客省使・客省副使一、云云、金客省使掌二接伴・人使・見辭之事一、官有二使・副使一、云云、元客省使掌二直省舍人宣使等員選擧差遣之事一、官有二使四人、副使二人一、至元九年、置二使二人一、一兼二通事一、一不レ兼、大德元年、增二置四人一、副二人、直省舍人二人、至元七年、始置、後增至二三十三人一、掌二奏事・給使・差遣之役一、屬二中書省一、又有下屬二樞密院一者上、大使・副使各二人、有下屬二宣政院一者上、大使二人、副使一人、皆至元時置、同謂二之客省使一。

【客倡】78カクシヤウ 宿所の一定してない倡妓。〔柳宗元、太府李卿外婦馬淑誌〕生二廣陵一、母曰レ劉、客倡也。

【客商】79カクシヤウ 他鄉の商人。物品を舟車馬匹等に積んで、商業地と生產地等との間を往來する商人。旅商人。之に對して、一定の地に店舖を有するものを坐賈といふ。〔福惠全書、雜課部、雜徵餘論〕其客商凡有二貿易一、須下眼二同該牙一、將二買賣某物稅銀若干一、登中塡印簿上。

【客將】80カクシヤウ 他國から來て客分となつてゐる

將軍。〔五代史、後蜀世家〕目客將王彥銖、執嚴下斬之。

【客裳】81（カクシヤウ） 旅衣。〔劉長卿、移使鄂州、次峴陽館、懷舊居詩〕草露深山裏、朝朝滿客裳。

【客情】82（カクジヤウ） 旅中の心情。旅中のさびしい氣持。〔鮑照、東門行〕離聲斷客情、賓御皆涕零。〔杜甫、悲秋詩〕秋來爲客情、愁窺高鳥過。〔姚揆、潁川客舍詩〕鄉夢有時生枕上、客情終日在眉頭。

【客主】83（カクシユ） 客と主人。敵と味方。主客。〔李陵、答蘇武書〕客主之形、既不相如。〔後漢書、光武帝紀上〕客主不相知。〔魏志、陳登傳〕無客主之意。

〖客主人〗84（カクシユジン） 人體の經穴の名。目尻と耳との中央。〔黃帝靈樞經、經脈、膽足少陽之脈、注〕分寸歌、足少陽兮四十三、頭上廿穴分三折、起自瞳子至風池、積數陳之次序說、瞳子髎近皆五分、耳前陷中聽會穴、客主人名上關同、耳前起骨開口空。

【客戍】85（カクジユ） 邊塞に出向いて寇賊を防ぐ爲に駐屯すること。〔何承天、安邊論〕散金行賞、損費必大、換土客戍、怨曠必繁。

【客授】87（カクジユ） 客地で教授する。他國で教授する。客受。〔後漢書、桓榮傳〕雖常飢困、而講論不輟、後復客授江淮閒。〔後漢書、伏湛傳〕高祖父孺、武帝時、客授東武、因家焉。〔後漢書、鮑昱傳〕少傳父學、客授於東平。

【客宿】88（カクシユク） 旅のやど。旅宿。〔易林〕客宿臥寒席蓐不安。

【客春】89（カクシユン・キヤクシユン） 昨年の春。

【客處】90（カクシヨ） 旅ずまひ。〔司空圖、早春詩〕傷懷仍客處、病眼卻花朝。

【客蹤】91（カクシヨウ） 旅客となつて四方に流寓した行跡。〔高啓、逢吳秀才復送歸江上詩〕江上停舟問客蹤、亂前相別亂餘逢。

【客食】92（カクシヨク） 常食以外の食事。〔通俗編、飲食、客食〕齊書五行志、永明中宮內坐起御食之外、皆爲客食、世祖以客非家人名、改呼爲別食。

【客心】93（カクシン） 旅人の心。たびの心細い感情。〔張說、蜀道後期詩〕客心爭日月、來往預期程。〔祖詠、望薊門詩〕燕臺一去客心驚、簫鼓喧喧漢將營。〔杜甫、登樓詩〕花近高樓傷客心、萬方多難此登臨。

【客身】94（カクシン） 旅行中の身。〔杜甫、春日江邨詩〕客身逢故舊、發興自林泉。〔中井櫻洲、西紅海舟詩〕客身遙在青天外、九萬鵬程一葉舟。

【客寢】95（カクシン） たびね。〔史記、齊世家〕時難得而易失、客寢甚安、殆非就國者也。

【客人】96（カクジン・キヤクジン） ❶他鄉に在る人。寄留の民。客民(160)を見よ。❷客。まらうど。〔宇治拾遺物語、一〕客人殿の御德。❸香合せの時、判らぬ香に入れる札をいふ。〔柳樽、四十六〕客人でざんすと香の札を入れ。❹神社の別殿に祀る神。末社の類。〔白峯寺緣起〕天王の社、云云、正面門客人には、爲義・爲朝父子の影像を作りたり。

【客水】97（カクスイ） 不意の增水。〔宋史、河渠志一〕黃河隨時漲落、水信有常、率以爲準、非時暴漲、謂之客水。〔齊家寶要〕客水易入。

【客隊】98（カクスイ） 敵の隧道。隊は隧に通ず。〔墨子、備城門〕穴隊、若衝隊、必審如攻隊之廣狹、而令邪穿其穴、令其廣必夷客隊。〔閒詁〕隊・隧、字通、左傳襄二十二年、齊伐晉爲二隊、又哀十三、越子伐吳爲二隧、杜注云、隧、道也。

【客睡】99（カクスイ） 旅宿にねむる。〔杜甫、客夜詩〕客睡何曾著、秋天不肯明。

【客星】100（カクセイ） 常には現れず、臨時に出る星。〔史記、天官書〕客星出天廷、有奇令。〔後漢書、章帝紀〕客星入紫宮。〔琅琊代醉編、客星〕抑倅桑悅客星亭記、乃謂、客星有五、曰周伯、曰老子、曰王蓬絮、曰國皇、曰溫星、凡有所犯、無不菑凶、云云、考中興天文志、客星有三、老子・國皇・溫星。

〖客星山人〗101（カクセイサンジン） 清、陳梓（**11－41698**・・295）の號。

〖客星散人〗102（カクセイサンジン） 明、張斐（**4－9812**・・625）の號。

〖客星犯帝座〗103（カクセイテイザヲヲカス） 後漢の光武帝の故人、嚴子陵が、帝に聘せられて共に偃臥した時、光武帝の腹に足を乘せた故事。〔後漢書、嚴光傳〕復引光入、論道舊故、相對累日、云云、因共偃臥、光以足加帝腹上、明日、太史奏、客星犯御座甚急、帝笑曰、朕故人嚴子陵共臥耳。

【客清】104 k‘ê^{4} ch‘ing^{1} 客幇、卽ち他鄉出身の商人で組織せられた組合に對する賣上元帳。客清簿。

〖客清簿〗105 k‘ê^{4} ch‘ing^{1} pu^{4} 客清に同じ。

【客席】106（キヤクセキ） 客の座席。客位。〔韓愈、行難〕愈嘗往閒客席。

【客籍】107（カクセキ） ❶賓客の名を記した札。〔戰國、楚策〕春申君曰、善、召門吏、爲汗先生著客籍、五日一見。❷流寓の人。又、寄留する。〔六部成語補遺、戶部、客籍、注解〕他處旅寓寄籍之民人也。

【客串】108 k‘ê^{4} ch‘uan^{4} 役者でない素人が舞臺に上ること。

【客船】109（カクセン） 客を乘せた船。客舟。〔張繼、楓橋夜泊詩〕姑蘇城外寒山寺、夜半鐘聲到客船。〔栖蟾、宿巴江詩〕山影似相伴、濃遮到客船。

【客戰】110（カクセン） 他鄉で戰ふ。客地の戰鬭。〔資治通鑑、後梁紀〕均王、貞明三年、吾儕捐父母妻子、爲人客戰。〔注〕千里行役、戰於異鄉、是爲客戰。

【客氈】111（カクセン） 旅寢のふすま。客衾。〔實存、別李寄閑詩〕客氈未暖各西東、望斷吳山杳靄中。

【客饌】112（カクセン） 客に供する御馳走。〔王融、皇太子哀策文〕鶴關晝掩、梟燈夜沈、仍襲未改、客饌如臨。

【客僧】113（カクソウ） 旅僧。〔舊唐書、郎餘令傳〕時有客僧、聚衆欲自焚。

【客待】114（カクタイ） ❶客扱ひ。賓客として待遇する。〔史記、孫子傳〕齊將田忌善而客待之。❷（キヤクマチ）車夫などが客を待つこと。又、其の小舍。

【客體】115（カクタイ・キヤクタイ） 意志や行爲の目的物。

【客套】116 k‘ê^{4} t‘ao^{4} 遠慮。拘泥。

〖客套禮〗117 k‘ê^{4} t‘ao^{4} li^{3} 改まつた禮。よそゆきの挨拶。

〖客套話〗118 k‘ê^{4} t‘ao^{4} hua^{4} 儀式張つた常套語。遠慮がましい言語。

【客堂】119（カクダウ） ❶客室。〔後漢書、延篤傳〕吾嘗昧爽櫛梳坐於客堂。❷ k‘ê^{4} t‘ang^{2} 上海の錢莊の招待、卽ち接客係。

〖客堂閒〗120 k‘ê^{4} t‘ang^{2} chien^{1} 客閒。座敷。

【客單】121 k‘ê^{4} tan^{1} ❶客の名簿。〔桃花扇、媚座〕長班挐客單來看。❷客を旅館・酒樓・茶店等に招待する時に用ひるカード形の書狀。

【客地】122（カクチ） よその土地。他鄉。異境。〔張祜、題僧壁詩〕客地多逢酒、僧坊卻厭花。

【客帳】123（カクチヤウ） 旅行中の宿舍。〔李賀、崇義里滯雨詩〕憂眠枕劍匣、客帳夢封侯。

【客廳】124 k‘ê^{4} t‘ing^{1} 客室。表座敷。

【客中】125（カクチユウ） 旅行中。客裏(168)を見よ。〔蘇軾、寄高令詩〕別後與誰同把酒、客中無日不思家。

【客駐】126（カクチユウ） 客が留まること。又、客となつて留まること。〔陸游、出遊詩〕客駐觀農饁、兒歸遺母羹。

【客蟲】127（カクチユウ） 蟋蟀（**10－33550**・・2）の俗稱。〔事物異名錄、昆蟲、蟋蟀〕樊榭集注、遠客泊舟來鬭、蟋蟀俗稱客蟲。

【客枕】128（カクチン） たびまくら。旅宿の枕。〔陸游、宿楓橋詩〕七年不到楓橋寺、客枕依然半夜鐘。〔元好問、詩〕雪屋燈青客枕孤、眼中了了見歸途。〔高啓、夜聞雨聲憶故園花詩〕帝城春雨送春殘、雨夜愁聽客枕寒。

【客塵】129（カクヂン） ❶旅に出て受ける風塵。〔范成大、題如夢堂壁詩〕片雲不載歸夢、兩鬢全供客塵。❷［佛］（キヤクヂン） 煩惱をいふ。煩惱は塵のごとく微細にして數多く、一所に定住しないからいふ。〔楞嚴經〕因悟客塵二字成果、譬如行客、投寄旅亭、不遑居處、若實主客、自無攸往。〔維摩經、問疾品〕菩薩斷除客塵煩惱。〔注〕心本清淨、無有塵垢、塵垢事會而生、於心爲客塵也。〔梁武帝、淨業賦〕既除客塵、又還自性。

【客邸】130（カクテイ） 客を置く家。〔宋史、黃榦傳〕因留客邸、臥起一榻。〔袁士元、寒食客中詩〕客邸又寒食、故鄉天一隅。

【客帝】130′ k‘ê^{4} ti^{4} 外國から來た帝王。

【客亭】131（カクテイ） ❶使者を送迎する所。驛亭。〔資治通鑑、唐紀〕憲宗、元和十四年、弘正將數道兵、已至城西二里、與悟相見於客亭。〔注〕客亭、

卽驛亭、送二迎使客一之所。㊁宿屋。〔水經、濟水注〕池上有二客亭一、左右楸桐負レ日、俯仰目對二魚鳥一、水木明瑟、可レ謂二濠梁之性一、物我無レ違矣。〔杜甫、客亭詩〕秋窓猶曙色、木落更天風。

〖客亭類稿〗132 カクテイルイカウ　書名。十五卷。宋、楊冠卿撰。四六流麗の文。〔四庫提要、集、別集類〕。

【客程】133 カクテイ　旅の日程。旅程。〔晁補之、吳松道中詩〕天寒雁聲急、歲晚客程遙。

【客艇】134 カクテイ　客船。客舟(68)に同じ。

【客鳥】135 カクテウ　渡り鳥。〔王讚、雜詩〕客鳥思二故林一。〔海錄碎事、人事、干謁〕賈氏譚錄、顧況謝二李鄴侯一詩云、萬里飛來爲二客鳥一、曾蒙三丹鳳借二枝柯一。

【客店】136 kʻê^{4} tien^{4}　やどや。旅店。

【客田】137 カクデン　㊀他鄕で耕作する。〔晉書、潘岳傳〕譙人公孫宏、少孤貧、客二田於河陽一。㊁客民、卽ち他鄕人が購入して所有する田地。〔六部成語、戶部、客田、注解〕客民所レ買之田也。

【客途】138 キャクト　客塗に同じ。〔劉基、詩〕霖雨蕭蕭泥二客途一。

【客塗】139 カクト　たびぢ。客途。客路。〔陸游、感昔詩〕最是客塗愁絕處、巫山廟下聽二猿聲一。

【客土】140 カクド　㊀旅の土地。他鄕。〔閻寬、秋懷詩〕秋風已振レ衣、客土何時歸。㊁置き土。盛り土。〔漢書、成帝紀〕客土疏惡、終不レ可レ成。〔注〕服虔曰、取二他處土一以增レ高爲二客土一也。〔李白、樹中草詩〕客土植二危根一、逢レ春猶不レ死。

【客冬】141 カクトウ キャクトウ　昨年の冬。

【客頭】142 kʻê^{4} tʻou^{2}　移民周旋業者。

【客難】143 カクナン　客が言ふ非難。又、客が非難する。〔漢書、東方朔傳〕辭數萬言、終不レ見レ用、朔因著レ論、設二客難一、已用二位卑一以自慰諭。〔東方朔、答二客難一〕客難二東方朔一曰、蘇秦・張儀、壹當二萬乘之主一、而身都二卿相之位一。〔張耒、次二韻秦觀一詩〕十年少二游兄一、閉レ口受二客難一。

【客年】144 カクネン キャクネン　去年。客歲(49)に同じ。

【客農】145 kʻê^{4} nung^{2}　湖南省南部地方で農繁期に農家を巡廻して手傳ふ勞働者。遊工。行農。

【客袍】146 カクハウ　旅衣。〔蔣捷、一剪梅詩〕何日歸レ家洗二客袍一、銀字笙調心字香。

【客幫】147 kʻê^{4} pang^{1}　客商が同鄕、又は同業の關係で組織する組合團體。

【客坊】148 カクバウ　宿屋。旅館。〔玉海、宮室、院、景祐朝集院〕或寓二止于客坊一。

【客舫】149 カクバウ　客舟(68)に同じ。

【客帆】150 カクハン　旅人を乘せた船。客舟(68)に同じ。〔孟浩然、夜泊二宣城界一詩〕潮平津濟闊、風止客帆收。〔錢起、送二陸贄一詩〕思レ親盧橘熟、帶レ雨客帆輕。

【客販】151 カクハン　貨物仕入れに從事する客商。〔宋史、食貨志下四〕蔡京議二更鹽法一、乃言、東南鹽本或闕、滯二于客販一、請增二給度牒一。

【客飯】152 カクハン　お客に出した食事。客膳。

【客分】153 キャクブン　客として扱はれる者。〔吉野忠信、二〕うはばかりを客分にて。

【客兵】154 カクヘイ　㊀他國に駐屯する兵。〔韓愈、論二淮西事宜一狀〕所在將帥、以二其客兵難レ處、使二先不レ存二優恤一。〔王問、團兵行〕客兵貪悍不レ可レ制、糾二集鄕勇一團結營。㊁客。〔桃花扇、爭位〕我們都是客兵。

【客病】155 カクヘイ　旅先で病氣にかかること。〔陸游、春雨詩〕春陰易レ成レ雨、客病不レ禁レ寒。

【客幣】156 カクヘイ　使者持參の禮物。〔周禮、秋官、象胥〕凡軍旅會同、受二國客幣一而賓二禮之一。〔注〕謂、諸侯以三王有二軍旅之事一、使二臣奉レ幣來問一。

【客票】157 kʻê^{4} pʻiao^{4}　㊀乘車券。乘船券。㊁他店の手形類。

【客窆】158 カクヘン　他鄕に葬る。窆は棺を墓穴に葬ること。又、墓穴。〔唐書、褚遂良傳〕高駢表二遂良一、客二窆愛州一、二男一孫祔。

【客奉】159 カクホウ　客の待遇。〔史記、孟嘗君傳〕貸レ錢者多不レ能レ與二其息一、客奉將レ不レ給、孟嘗君憂レ之。

【客民】160 カクミン　寄留の民。〔後漢書、馬援傳〕詔二武威太守一、令三悉還二金城客民一、歸者三千餘口。〔注〕(客民)金城客人在二武威一者。

【客夢】161 カクム　旅先宿で見る夢。〔岑參、宿二關西客舍一寄二東山嚴許二山人一詩〕孤燈然二客夢一、寒杵搗二鄕愁一。〔楊榮、江西旅懷詩〕客夢家千里、鄕心柳萬條。〔蘇軾、病中遊二祖塔院一詩〕閉レ門野寺松陰轉、欹レ枕風軒客夢長。

【客夜】162 カクヤ　旅中の夜。旅宿の夜。〔杜甫、客夜詩〕客睡何曾著、秋天不二肯明一。

【客爺】163 kʻê^{4} yeh^{2}　旅客を呼ぶ語。客人。

【客容】164 カクヨウ　客の樣子。〔白居易、初除二戶曹一喜而言レ志詩〕置酒延二賀客一、客容亦歡欣。

【客傭】165 カクヨウ　他鄕でやとはれる。〔後漢書、吳祐傳〕時公沙穆來遊二太學一、無二資糧一、乃變レ服客傭、爲二祐賃舂一。

【客來】166 キャクライ　客が來る。又、客となつて來る。〔知度論〕十方諸菩薩客來。

【客臘】167 カクラフ キャクラフ　去年の十二月。舊冬。昨冬。

【客裏】168 カクリ　旅に在る間。旅行中。〔蔣捷、滿江紅詩〕秋本無レ愁、奈二客裏秋一。〔范成大、浙江小磯春日詩〕客裏無三人共二一杯一。

【客量】169 カクリャウ　隋代、幷州の謠言に、一張紙・兩張紙・客量小兒、天子となるの語があつた。幷州總管の隋庶人諒は、幼字を阿客といひ、且、量と諒とが同音なるを以て、上の謠言が己に當るを喜び反を謀つた故事。〔北史、隋宗室諸王、庶人諒傳〕先レ是幷州謠言、一張紙、兩張紙、客量小兒作二天子一、諒聞レ謠喜曰、我幼字阿客、量、與レ諒同音、吾於二皇家一最小、以爲レ應レ之。

【客旅】170 カクリョ　旅人。旅客。〔顏氏家訓、治家〕遇有二客旅一、便無二以兼一。〔白居易、分司初到二洛中一偶題二六韻一兼戲呈二馮尹一詩〕招呼新客旅、掃掠舊池臺。〔李商隱、街西池館詩〕國租容二客旅一、香熟玉山禾。

【客慮】171 カクリョ　心が散ること。精神が統一できない爲に湧き出る雜念。〔近思錄、存養〕蓋用レ心未レ熟、客慮多、而常心少也。

【客淚】172 カクルイ　旅の淚。旅の悲しみ。〔司空曙、酬二張芬有レ赦後見レ贈詩〕建水風煙收二客淚一、杜陵花竹夢二郊居一。

【客禮】173 カクレイ　客として禮遇する。〔禮、坊記〕天子四海之內無二客禮一。〔荀子、君子〕四海之內無二客禮一。〔史記、樂毅傳〕燕王以二客禮一待レ之。〔漢書、郊祀志上〕以二客禮一待レ之。

【客路】174 カクロ　旅路。客途。〔顧況、洛陽早春詩〕客路偏逢レ雨、鄕山不レ入レ樓。〔皇甫冉、曾山送別詩〕南望二千山一如二黛色一、愁君客路在二其中一。〔王灣、次二北固山下一詩〕客路青山外、行舟綠水前。

〖客路簿〗175 kʻê^{4} lu^{4} pu^{4}　上海錢業者が外埠取引先との貸借關係を記載する帳簿。

【客廬】176 カクロ　宿屋。〔後漢書、范冉傳〕或寓二息客廬一、或依二宿樹蔭一、如レ此十餘年、乃結二草室一而居焉。

【客話】177 カクワ　㊀客家族の語。客家語(12)を見よ。〔新方言、附、嶺外三州語〕楊恭桓者亦嘉應人、作二客話一。㊁kʻê^{4} hua^{4}　よそゆきの話。打ち融けない話。

【屬レ客】178 カクニショクス　客に勸める。〔蘇軾、前赤壁賦〕擧レ酒屬レ客、誦二明月之詩一、歌二窈窕之章一。

【待レ客】179 カクヲマツ　客をもてなす。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君待レ客坐語、云云、孟嘗君曾待レ客夜食。

【客載船】180 kʻê^{4} tsai^{4} chʻuan^{2}　客船。商船。

【客批館】181 kʻê^{4} pʻi^{1} kuan^{3}　汕頭地方で南洋出稼者からの送金を取扱ふ機關。送金の外、移民の代書、信書の送達等をも取扱ふ。

【客拉子】181′ kʻê^{4} la^{1} tzŭ^{1}　客引。

【客無レ腸】182 カクチャウナシ　旅に出ても家を思ふ情のおこらぬこと。無レ腸とは心腸の無いこと。心緒なしといふ意。〔海錄碎事、人事、逆旅〕廣記、鬼作二思レ家詩一、佳人應レ有レ夢、遠客已無レ腸。

〖客吟老人〗183 カクギンラウジン　淸、汪舸(**6－17154‥15**)の號。

【客隨主便】184 kʻê^{4} suei^{2} chu^{3} pien^{4}　客は主人の便宜に從つて勝手なことを言はない。

【客到客到】185 カクタウカクタウ　鳥の名。客到客到と鳴くから名づく。〔黃山領要錄〕有二鳥狀如二鴝鵒一、毛色淺黃、其聲若二人語一、曰二客到客到一。

【客囊羞澁】186 カクナウシウジフ　旅中、金に不自由する。〔桃花扇、訪翠〕客囊羞澁、恐難レ備レ禮。

【借レ客報レ仇】187 カクヲタスケテアダヲハウズ　他人に雇はれ、代つて仇を報ずること。借は助。聶政・荊軻の類。又、借レ交報レ仇ともいふ。〔漢書、朱雲傳〕少時通二輕俠一、借レ客報レ仇。〔注〕師古曰、借、助也。

【⿱宄心】7129

キ

宄(**3－7058**)の古字。〔說文〕宄、⿱宄心、亦古文宄。

【宂】7130

[一]クワウ 〔集韻〕虎晃切 [養]
[二]クワウ 〔集韻〕呼浪切 [漾]
[三]クワウ 〔集韻〕呼光切 [陽]

[一]❶むなしい。〔玉篇〕宂、宂宦也。❷ひろい。〔集韻〕宂、廣也。[二]ひろい。[一]の❷に同じ。〔集韻〕完、廣也。[三]❶をる。又、すまひ。〔集韻〕宂、博雅、居也。❷通じて完に作る。〔集韻〕宂、通作ㇾ完。

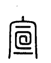
[參考] 字形、或は完に作る。

【㝂】7131

[一]キ 〔集韻〕古委切 [紙]
[二]キ 〔集韻〕居僞切 [寘]

[一][二]❶とほる。〔集韻〕㝂、通也。❷やぶれる。くづれる。或は庪(4-9315)に作り、通じて垝(3-5050)に作る。〔集韻〕庪、毀也、或作ㇾ㝂、通作ㇾ垝。

【宣】7132


小篆

[一]セン 〔集韻〕荀緣切 [先] ㄒㄩㄢ hsüan¹
[二]ケン 〔集韻〕許元切 [元]

[一]❶天子の大室。〔說文〕宣、天子宣室也、从ㇾ宀亘聲。〔段注〕蓋謂㆓大室㆒、如㆔璧大謂㆓之瑄㆒也。〔漢書、賈誼傳〕孝文方受ㇾ釐坐㆓宣室㆒。〔注〕蘇林曰、宣室、未央前正室也。❷のべる。のびる。亘(2-2521)に通ず。〔說文通訓定聲〕宣、叚借爲ㇾ亘。㋑あまねし。ゆきわたる。ゆき亙らせる。〔爾雅、釋言〕宣、徧也。〔周禮、秋官、小司寇〕乃宣㆓布于四方㆒。〔注〕宣、徧也。〔詩、大雅、公劉〕既順廼宣。〔傳〕宣、徧也。〔戰國、秦策〕宣㆓言之於朝廷㆒。〔注〕宣、徧也。〔管子、小筐〕公宣㆓問其鄉里㆒而有㆓考驗㆒。〔注〕宣、遍也。㋺しく。〔書、皐陶謨〕日宣㆓三德㆒。〔傳〕宣、布也。㋩おこす。〔張衡、東京賦〕武節是宣。〔注〕綜曰、宣、發也。㋥あげる。あがる。〔集韻〕宣、一曰、揚也。〔禮、禮運〕瘞繒宣㆓祝嘏辭說㆒。〔注〕宣、猶ㇾ揚也。㋭あらはす。〔國語、周語下〕匏以宣ㇾ之。〔注〕宣、發揚也。〔荀子、正論〕上宣明、則下治辨矣。〔注〕宣、露。㋬しめす。〔小爾雅、廣言〕宣、示也。〔左氏、宣、九〕公卿宣ㇾ淫。〔注〕宣、示也。㋣明かにする。〔左氏、僖、二十七〕未ㇾ宣㆓其用㆒。〔注〕宣、明也。〔國語、晉語七〕武子宣ㇾ法、以定㆓晉國㆒。〔注〕宣、明也。㋠あきらか。〔詩、衞風、淇奧、赫兮咺兮、注、威儀容止宣著也、釋文〕宣、顯也。❸のたまふ。みことのる。みことのり。又、其の文書。敕宣・院宣の類。〔後漢書、明帝紀〕有司其申㆘明科禁宜㆓於今㆒者㆖宣㆓下郡國㆒。❹めす。みことのりを傳へて召す。〔增韻〕宣、召也。〔周必大、賜ㇾ茶詩〕綠槐夾ㇾ道集㆓昏鴉㆒、敕使傳宣坐賜ㇾ茶。❺詔書のひかへ。〔詔書別錄〕小字本留ㇾ內曰ㇾ宣、唐故事、中書舍人掌㆓詔誥㆒、皆寫㆓兩本㆒、一爲ㇾ底、一爲ㇾ宣、在㆓中書㆒可㆓檢覆㆒、謂㆓之正宣㆒。❻はなす。〔國語、周語上〕爲ㇾ民者宣ㇾ之使ㇾ言。〔注〕宣、放也。❼とほす。とほる。〔爾雅、釋訓〕宣、通也。〔集韻〕宣、一曰、通也。〔左氏、昭、元〕宣㆓汾洮㆒。〔注〕宣、猶ㇾ通也。〔管子、心術〕去ㇾ欲則宣、宣則靜矣。〔注〕宣、通也。❽つくす。〔楊脩、答㆓臨淄侯㆒牋〕反答造次、不ㇾ能㆓宣備㆒。脩、死罪、死罪。〔浩然齋視聽鈔〕今人答尾云ㇾ不㆓宣備㆒、本㆘文選楊修答㆓臨淄侯㆒牋末、云㆗造次不㆖ㇾ能㆓宣備㆒。〔香祖筆記〕宋人書簡、尊與ㇾ卑曰㆓不具㆒、以ㇾ卑上ㇾ尊曰㆓不備㆒、朋友交馳曰㆓不宣㆒。❾もちひる。〔左氏、昭、二十七〕有㆓列國之權㆒、而弗㆓敢宣㆒也。〔注〕宣、用也。❿ゆるい。㼽(9-28766)に通ず。〔說文通訓定聲〕宣、叚借爲ㇾ㼽。〔爾雅、釋言〕宣、緩也。⓫ちらす。奞(3-5910)・散(5-13265)に通ず。〔說文通訓定聲〕宣、叚借爲ㇾ奞、或爲ㇾ散。〔左氏、昭、元〕於ㇾ是乎節㆓宣其氣㆒。〔注〕宣、散也。⓬まこと。まごころ。恂(4-10520)に通ず。〔說文通訓定聲〕宣、叚借爲ㇾ恂。⓭年をとつて頭髮が黑白雜ること。黦(12-48170)に通ず。〔說文通訓定聲〕宣、叚借爲ㇾ黦。〔易、說卦〕巽爲㆓寡髮㆒。〔釋文〕寡髮、本又作ㇾ宣、黑白雜爲㆓宣髮㆒。⓮車をはかる長さ、一尺三寸三分寸の一。又、人頭の大きさ。元(1-1340)に通ず。〔說文通訓定聲〕宣、叚借爲ㇾ元。〔周禮、考工記、車人〕半矩謂㆓之宣㆒。〔注〕頭髮皓落曰ㇾ宣、半矩、尺三寸三分寸之一、人頭之長也。〔章炳麟、小學答問〕宣字、當ㇾ爲ㇾ蒦、說文、蒦、度也、其字從ㇾ萑、當㆓兼取ㇾ聲、萑、說文讀若ㇾ眛、天官大宰、始眛㆓布治於邦國都鄙㆒、月令、布ㇾ德眛ㇾ令、王引之謂、眛布卽宣布、證以㆓眛夷卽桓夷、眛表卽桓表㆒、則桓・宣・眛・萑・蒦、聲皆通轉、說文蒦卽訓ㇾ度、字又作ㇾ彠、引㆔楚辭求㆓榘彠之所㆒ㇾ同、然則半榘爲ㇾ蒦無ㇾ疑也。⓯季節にしたがつて耕す。〔詩、大雅、緜〕迺宣迺畝。〔箋〕時耕曰ㇾ宣。⓰玉の名。珣(7-20962)に通ず。〔說文通訓定聲〕宣、叚借爲ㇾ珣。〔爾雅、釋器〕璧大六寸、謂㆓之宣㆒。⓱諡。〔逸周書、諡法解〕聖善周聞、曰ㇾ宣。⓲古は亶(3-7267)に作る。〔集韻〕宣、古作ㇾ亶。⓳姓。〔通志、氏族略、以ㇾ諡爲ㇾ氏〕宣氏、姬姓・魯大夫叔孫僑如之後也、僑如諡㆓宣伯㆒、以ㇾ諡爲ㇾ氏、又風俗通云、宋宣公之後也、子姓、今望出㆓汝南㆒。⓴[現]祕密を漏らす。發表する。[二][一]の❶に同じ。

[名乘] スミ。ツラ。ノブ。フサ。ムラ。ヨシ。

【宣押】1 セン アフ 上の旨をのべて名を署すること。〔宋史、楊存中傳〕存中亦固辭、且謂、神武諸帥如㆓韓世忠・張俊㆒云云、不ㇾ許、遣㆓中使㆒宣押、乃視ㇾ事。

【宣懿】2 セン イ 諡號。❶後魏、封隆之(4-7426‥197)の諡。❷宋、魏仁浦(12-45872‥236)の諡。❸宋、楊察(6-15112‥164)の諡。❹遼、道宗の后、蕭后(9-32012‥117)の⓫の諡。

【宣懿后】3 セン イ コウ 諡號。❶唐、穆宗の后、韋后(12-43108‥53)の諡。❷五代後周、符后(8-25935‥26)の諡。

【宣懿淑聖皇后】4 センイシユクセイクワウゴウ 元、顯宗の后、弘吉剌后(4-9709‥24´)の諡。

【宣威】5 セン ヰ ❶威光を輝かす。威力を盛にする。〔任昉、王文憲集序〕宣ㇾ威授ㇾ指。❷州の名。清、置く。雲南省に屬す。民國、縣に改む。❸縣名。㋑漢、置く。〔漢書、地理志下〕武威郡、縣十、宣威。㋺民國、置く。雲南省霑益縣の東北。盤龍江の西北岸。

【宣威腿】6 hsüan¹ wei¹ t'ui³ 雲南省宣威府產のハム。中國產ハムの上等品。

【宣慰】7 セン ヰ 官名。元に宣慰使司あり、地方官衙で、地方廳と中央政府との中繼ぎを掌り、行中書省から政令が出れば之を郡縣に傳へ、又郡縣の請願を行省に通達する。邊陲の地に在るものは、軍政をも掌り、都元帥府・元帥府等を兼管する。明清は邊地にのみ置く。民國は蒙古に置いたが、今は無い。〔唐書、孔巢父傳〕兼㆓御史大夫㆒、爲㆓魏博宣慰使㆒。〔元史、百官志七〕宣慰司掌㆓軍民之務㆒、分ㇾ道以總㆓郡縣㆒、行省有㆓政令㆒則布㆓于下㆒、郡縣有ㇾ請則爲達㆓于省㆒、有㆓邊陲軍旅之事㆒則兼㆓都元帥府㆒。〔明史、職官志五〕土官宣慰司宣慰使一人、同知一人、副使一人、僉事一人。〔歷

代職官表、土司各官、國朝官制〕四川土通判二人、云云、宣慰使五人、副使一人。

【宣攸】8（センイウ） 南齊、蕭銶(9－32012··72)の字。

【宣猶】9（センイウ） あまねく衆に謀る。猶は、謀ること。宣猷。〔詩、大雅、桑柔〕維此惠君、民之所レ瞻、秉レ心宣猶。〔箋〕宣、徧、猶、謀、云云、乃執二正心一、擧レ事徧謀二於衆一。

【宣猷】10（センイウ） ❶あまねくはかる。宣猶。〔晉書、武帝紀〕伯考景王、履レ道宣猷、緝二熙諸夏一。❷北齊、崔猷(4－8178··3)の字。

【宣遊】11（センイウ） あまねく遊ぶ。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作詩〕宣遊弘二下濟一、窮レ遠凝二聖情一。〔注〕向曰、宣、徧、言二徧游窮二遠大一。

【宣胤】12（センイン） 南齊、蕭鉉(9－32012··113)の字。

【宣淫】13（センイン） 淫亂の行を揚げて明示する。公然と淫亂をして隱さない。〔左氏、宣、九〕公卿宣レ淫、民無レ效焉。〔注〕宣、示也。〔會箋〕宣、明也、揚也、言、公卿教化之主、乃至二於示レ淫、民無レ所二師效一。

【宣飲】14（センイン） 皆で飲む。〔遼史、禮志六〕皇帝進二皇太后酒一如レ初、各就レ座行レ酒、宣飲盡。

【宣于】15（センウ） 複姓。〔通志、氏族略、複姓〕宣于氏、前趙錄、有二劉淵太史令宣于修之一。

〔宣于修之〕16（センウシウシ） 五胡十六國、前趙の人。官は劉淵の太史令。淵に勸めて平陽に遷都せしめた。〔晉書、一百一〕。

【宣鬱】17（センウツ） 心のわだかまりをのべ散らすこと。鬱氣を散ずる。〔蔡邕、瞽師賦〕詠二新詩之悲歌一兮、舒二滯積一而宣レ鬱。

【宣映】18（センエイ） 南朝宋、謝絢(10－35827··66)の字。

【宣洩】19（センセツ） ❶河水の塞がれたのを通ずること。〔六部成語、工部、宣洩、注解〕河水壅流洩而通レ之。❷もらす。宣泄。〔吳志、周魴傳〕事之宣洩、受レ罪不レ測。❸hsüan¹ hsieh⁴ 事が洩れる。

【宣英】20（センエイ） 前燕、慕容儁(4－11088··62)の字。

【宣穎】21（センエイ） 南齊、蕭鋒(9－32012··251)の字。

【宣窯】22（センエウ） 明の宣德中、官窯で製した磁器。〔遵生八牋、論二饒器新窯古窯一〕宣德年、造二紅魚靶杯一、以二西紅寶石一爲レ末、圖二畫魚形一、自骨肉燒出凸起、寶紅鮮紅奪レ目、若二紫黑色一者、火候失手似二稍次一矣、云云、底有二大明宣德年製一云云、宣窯五彩深厚堆垜。

【宣曜】23（センエウ） ❶光をかがやかす。宣耀。〔後漢書、郎顗傳〕月不レ舒レ光、日不レ宣レ曜。❷南齊、蕭暠(9－32012··42)の字。

【宣耀】24（センエウ） 光をかがやかす。宣曜。宣耀門を「見よ。

【宣耀殿】25（センエウデン） 舊皇居の御殿。麗景殿の左にあつて西面する。〔拾芥抄、中、末〕宣耀殿。〔注〕麗景殿北、七間四面。

〔宣耀門〕26（センエウモン） 唐の宮城の門の名。〔冊府元龜〕九月改二東明門一爲二賓躍門一西明門爲二宣耀門一。

【宣演】27（センエン） のべひろめる。〔何承天、答二顏光祿一書〕宣二演道心一、褒賞施レ士。

【宣遠】28（センエン） 字號。❶南朝宋、謝瞻(10－35827··155)の字。❷南齊、蕭賾(9－32012··133)の字。❸明、吳令(2－3365··408)の號。

【宣恩】29（センオン） 縣名。清、置く。もと蠻地。元代、沿邊溪洞招討司を置き、更に施南道宣慰司とし、尋いで明玉珍の據る所となり、施州衞宣撫司とす。明代、施南宣撫司とし、施州衞に隸す。清代、湖北省施南府に屬す。今、湖北省恩施縣の南。〔清史稿、地理志〕湖北、施南府、縣六、宣恩。

【宣溫】30（センヲン） ❶漢の宮殿の名。宣室殿と溫室殿。一說に宣は宣明殿。〔班固、西都賦〕清涼宣溫。〔注〕善曰、三輔黃圖曰、宣室殿中溫室殿、金華殿、向曰、宣者宣明殿、溫者溫室。❷明、會稽の人。字は彥學。官は四川參政。〔尙友錄、六〕。

【宣下】31（センカ） ❶詔を下す。〔後漢書、明帝紀〕有司其中下明科禁宜二於今一者上、宣二下郡國一。❷（センゲ）定時の除目の外に臨時に任命の命令が下ること。〔賴言卿記〕延享三年正月二十一日、茶地宮御繼體御治定候、近近可レ有二親王宣下一之由、被二申渡一。

〔宣下官〕32（センゲクヮン） 臨時の宣下によつて任ぜられる官。檢非違使など。〔名目抄〕。

【宣雅】33（センガ） 後魏、元端(1－1340··415)の字。

【宣蓋】34（センガイ） 中國古代の天文說。宣は宣夜說、蓋は周髀說。宣夜說は不明であるが、周髀說は天を覆盆の蓋の如しとする說。周髀(2－3441··429)を見よ。〔宋書、天文志一〕渾天廢絕、故有二宣蓋之論一、其術竝疎、故後人莫レ述。

【宣考】35（センカウ） あまねく考へる。〔漢書、律歷志上〕唯陛下發二聖德一、宣二考天地四時之極一、則順二陰陽一、以定二大明之制一、爲二萬世則一。

【宣孝】36（センカウ） 金、完顏允恭(3－7079··51)の諡。

〔宣孝陳皇后〕37（センカウチンクヮウゴウ） 南齊の陳后(11－41698··243)をいふ。

【宣昂】38 hsüan¹ ang² 上品。氣高い。

【宣高】39（センカウ） 三國魏、臧霸(9－30083··53)の字。

【宣講】40（センカウ） 公衆の前で講演する。〔福惠全書、教養部、總論〕少年則宣講有レ力、讀レ書則字眼不レ錯。

【宣毫】41（センガウ） 宣城郡に產する良筆。紫毫。宣州筆(100)を見よ。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕徐入二生室一取二宣毫一寫二絕句一首於生練裙上一投レ筆而去。

【宣洽】42（センカフ） あまねく行きわたる。〔後漢書、張衡傳〕皇澤宣洽。「字。

【宣漢】43（センカン） ❶論衡の篇名。❷縣名。後漢、置く。晉・宋・齊・梁・唐・宋、皆之に因る。四川省達縣の東北。渠江の支流、前江・中江・後江の合流點の北岸。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、達州、東鄉縣〕宣漢廢縣、縣東北八十里、巴漢記、後漢桓帝分二宕渠東界一置二宣漢縣一、仍屬二巴郡一、晉初省、惠帝復置、屬二宕渠郡一、劉宋屬二巴渠郡一、齊梁因レ之、西魏置二幷州及永昌郡一、隋開皇三年、郡廢、五年、州廢、縣屬二通州一、唐武德初置二南幷州一、貞觀初、州廢、仍屬二通州一、劉昫曰、縣舊治和昌城、貞觀元年徙二治新安城一、諸城皆蕭梁時所レ置也、宋仍曰二宣漢縣一、乾德五年廢。

【宣簡】44（センカン） 諡號。❶南朝宋、劉宏(2－2224··208)の諡。❷後魏、劉懋(2－2224··608)の諡。❸後魏、王肅(7－20823··563)の諡。❹宋、趙不悳(10－37171··863)の諡。「2··117)の❻の諡。

〔宣簡后〕45（センカンコウ） 遼、德祖の后、蕭后(9－32012··8)の諡。

【宣巖】46（センガン） 宋の宣明が隱居した巖洞の名。福建省長汀縣に在る。〔潛確類書〕宣巖在二汀州府長汀縣一、巖洞幽窈、泉淸木茂、宋崇觀閒、邑人宣明嘗貢二辟雍一、不レ樂二仕進一、歸隱二於此一、郡守謝調重二其人一、榜曰二宣巖一。

【宣季】47（センキ） 晉、周札(2－3441··216)の字。

【宣氣】48（センキ） 陰陽の氣を盛にする。〔漢書、律歷志上〕宣レ氣而牙レ物、云云、宣二四方之氣一而出二種物一也、云云、宣レ氣齊レ物。

【宣毅】49（センキ） 南齊、蕭銳(9－32012··17)の字。

【宣義】50（センギ） ❶義理に叶つてゐるやうに吹聽する。〔史記、秦始皇紀〕飾レ省宣レ義。❷五代吳越、錢元璙(11－40563··302)の諡。❸宋、夢英(3－5802··8)の號。

〔宣義郎〕51（センギラウ） 文散官の名。唐代、隋の游騎を改め置く。從七品下。梁の宣義將軍に名を取る。明は文職正七品。清代、改めて宣議郎とす。〔通典、職官典、文散官〕游騎尉隋置、散官、大唐改爲二宣義郎一、蓋取二梁宣義將軍之名一。

【宣究】52（センキウ） ひろめきはめる。〔漢書、宣帝紀〕通二文學一、明二於先王之術一、宣二究其意一者各二人。

【宣姜】53（センキヤウ） 春秋衞の宣公の夫人。齊侯の女。〔列女傳、七〕。

【宣鏡】54（センキヤウ） 南朝宋、謝瞬(10－35827··110)の字。

【宣恭】55（センキヨウ） 後魏、張普惠(4－9812··1468)の諡。

【宣曲】56（センキヨク） ❶漢代、關内の地名。〔史記、貨殖傳〕宣曲任氏之先、爲二督道倉吏一。〔注〕正義曰、按其地合レ在二關内一、云云、徐廣曰、高祖功臣、有二宣曲侯一、索隱曰、上林賦云、西馳二宣曲一、當レ在二京輔一、今闕北地也。❷漢の宮殿の名。陝西省長安縣の昆明池の西。〔漢書、東方朔傳〕上大驩二樂之一、後乃私置二更衣一、從二宣曲一以南十二所、中休二更衣一、投二宿諸宮一、長楊・五柞・倍陽・宣曲尤幸。

【宣化】57（センクワ） ❶善政を下に布く。德化を宣布する。〔漢書、宣帝紀〕或以二酷惡一爲レ賢、皆失二其中一、奉レ詔宣レ化如レ此。〔漢書、董仲舒傳〕今之郡守縣令、民之師帥、所レ使二承レ流而宣化一也。〔抱朴子、嘉遯〕宣化以濟レ俗。❷府の名。清、置く。直隸、宣化府、領二廳一、州三、縣七一、宣化、赤城、萬全、龍門、懷來、蔚州、西寧、懷安、延慶州、保安州、圍場廳。❸縣名。㋑南齊、置く。湖北省舊德安府の境。明、全・龍門・懷來・西寧・懷安の七縣を領す。治は河北省宣化縣。〔清史稿、地理志〕直隸、宣化府、領二圍場廳及び蔚・延慶・保安の三州、宣化・赤城・萬

省いて鎭とす。㋺宋、置く。四川省宜賓縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、宜賓縣、郁鄢廢縣〕宣化廢縣、在二府西百八十里一、唐義賓縣地、宋太平興國初、改置二宣化縣一屬二戎州一、熙甯四年、省爲レ鎭、宣和初、復升爲レ縣、元屬二敍州路一、元貞二年、置二萬戶府一、領レ軍屯田、明初省、今爲二宣化驛一。㋩隋、置く。故城は廣西省邕寧縣の南。〔讀史方輿紀要、廣西、南寧府〕宣化縣、附郭、漢領方縣地、屬二鬱林郡一、晉置二晉興縣一爲二晉興郡治一、宋齊因レ之、隋屬二簡州一、開皇十八年、改レ縣曰二宣化一屬二緣州一、大業初、屬二鬱林郡一、唐宋以後皆爲二州郡治一、今編戶四十一里。〔淸史稿、地理志〕廣西、南寧府、縣三、宣化。㋥遼、置く。滿洲熱河省巴林の境。㋭明、置く。四川省の境。㋬淸、置く。察哈爾省萬全縣の東南。縣城は洋河の北岸。京津と蒙古との交通の要衝。京綏鐵道の沿線。〔淸史稿、地理志〕直隸、宣化府、縣七、宣化。❹第二十八代の帝諡。❺明、劉儼(**2**－**2224**・・269)の字。

【宣光】59 センクワウ ❶明初太祖の時、北元の昭宗(愛猷識理達臘)の年號。(1369－1377) ❷字號。㋑後漢、周擧(**2**－**3441**・・105)の字。㋺南齊、蕭映(**9**－**32012**・・15)の字。

【宣皇】60 センクワウ 晉の司馬懿を追尊した號。宣帝。〔劉琨、勸進表〕且宣皇之胤、唯有二陛下一。

〖宣皇后〗61 センクワウゴウ 陳、章后(**8**－**25761**・・69)の諡。

【宣喚】62 センクワン 君命を奉じてよぶ。〔費氏、宮詞〕小毬場近曲池頭、宣二喚勳臣一試二打毬一。

【宣卿】63 センケイ 字號。❶梁、臧盾(**9**－**30083**・・52)の字。❷梁、劉昭(**2**－**2224**・・438)の字。❸宋、袁去華(**10**－**34152**・・176)の字。❹宋、向子忞(**2**－**3301**・・104)の字。❺宋、蔣璨(**9**－**31820**・・51)の字。❻宋、楊申(**6**－**15112**・・223)の字。

【宣惠】64 センケイ ❶偏くしたがふ。〔國語、晉語七〕博聞而宣二惠於敎一也。〔注〕宣、徧也、惠、順也。❷諡號。㋑五代吳越、錢元懿(**11**－**40563**・・293)の諡。㋺宋、錢惟濟(**11**－**40563**・・246)の諡。

【宣繫】65 センケイ 皇女の車を教坊の樂部の者が引くこと。〔南渡宮禁典儀〕理宗朝用二漢國公主出降一、駙馬謝レ恩訖、乘レ塗金、御二仙花鞍轡狨座馬一、執二絲鞭一、張二三簷傘一、教坊樂部五十人、前引還レ第、謂二之宣繫一。

【宣教】66 センケウ をしへをのべ弘める。〔柳宗元、塗山銘〕省方宣レ教、化制殊レ類。

〖宣教師〗67 センケウシ 布教をする人。主として耶蘇教にいふ。

〖宣教大師〗68 センケウタイシ 宋、普勝(**5**－**13982**・・40)の號。

【宣驕】69 センケウ 奢りを示す。〔詩、小雅、鴻鴈〕維此哲人、謂二我劬勞一、維彼愚人、謂二我宣驕一。〔傳〕宣、示也。

【宣協】70 センケフ 心を合はせてのべあらはす。〔後漢書、左雄傳〕出則宰レ民、宣二協風教一。

【宣獻】71 センケン 諡號。❶唐、杜黃裳(**6**－**14477**・・299)の諡。❷宋、宋綬(**3**－**7078**・・130)の諡。❸宋、任希夷(**1**－**416**・・205)の諡。❹宋、樓鑰(**6**－**15430**・・76)の諡。❺遼、蕭后(**9**－**32012**・・117)の❸の諡。

【宣顯】72 センケン あらはれる。〔魏文帝、以二張登一爲二大官令一詔〕名位雖レ卑、直亮宣顯、饔膳近在。

【宣言】73 センゲン 自分の意見を衆にのべる。〔左氏、僖、三十三〕陽子宣言曰、楚師遁矣。〔戰國、東周策〕西周甚憎二東周一、嘗欲二東周與レ楚惡一、西周必令二賊賊レ公、因宣二言東周一也、以惡二之於王一也。〔史記、田單傳〕田單因宣言曰、神來下教レ我。〔後漢書、度尙傳〕乃宣言、卜陽潘鴻作レ賊十年。

〖宣言書〗74 センゲンショ 意見を天下に發表する文書。

【宣嚴】75 センゲン 南齊、蕭鏗(**9**－**32012**・・44)の字。

【宣儼】76 センゲン 南齊、蕭嶷(**9**－**32012**・・79)の字。

【宣語】77 センゴ ひろく告げる。宣告。〔魏志、陳留王奐紀〕以二輔言一宣二語諸軍一、遂使三將士益懷二奮勵一。

【宣公】78 センコウ ❶春秋、魯の王。魯宣公(**12**－**46013**・・177)を見よ。❷唐、陸贄(**11**－**41708**・・130)の諡。

【宣弘】79 センコウ 宣べひろめる。〔易、觀、觀二我生一、君子无レ咎、王注〕宣二弘大化一、光二于四表一。

【宣厚】80 センコウ 三國魏、袁寓(**10**－**34152**・・36′)の字。

【宣告】81 センコク ❶あまねくつげ知らせる。宣語。〔左氏、襄、二十八〕宣二告後人一、無レ怠二於德一。〔韓非子、外儲說左上〕墨子之說、傳二先王之道一、論二聖人之言一、以宣二告人一。〔李衛公問對、下〕臣宣二告諸將一。〔後漢書、于窴國傳〕敬持二建頭一、上レ樓宣告。❷裁判官が法廷で言渡しの形式で爲す告知。〔刑事訴訟法、第五十條〕。

〖宣告文〗82 センコクブン 宣告の趣旨を書いた文書。

【宣差】83 センサ 官命で召出す。〔長生殿、神訴〕他那天上宣差。

【宣索】84 センサク 王命によつて有司の財物を取ること。〔唐書、李石傳〕它貢悉禁、又罷二宣索營造一。〔資治通鑑、唐紀〕(德宗、貞元三年) 願陛下不レ受二諸道貢獻一、及罷二宣索一。〔注〕遣下中使以二聖旨一就二有司一宣中取財物上、謂二之宣索一。〔洪天錫、疏〕不レ曰三以備二中朝宣索一、則曰レ當下取二教旨一豁除上。

【宣散】85 センサン 散る。又、のべちらす。〔國語、周語下、大呂助宣物也、注〕大呂助レ陽宣二散物一也。〔鬼谷子、權篇〕喜者宣散而無レ要也。

【宣贊】86 センサン ❶みちびきたすける。〔後漢書、鄧騭傳〕不レ能下宣二贊風美一、補中助淸化上。〔宋書、江夏文獻王義恭傳〕毗二燮九官一、宣二贊百揆一。❷官名。宋、置く。閤門宣贊舍人の略稱。宣旨を傳へ謁を助ける事を掌る。初、閤門通事舍人といはれたが、天禧中、閤門の二字を去り、政和六年、宣贊舍人と改めた。武臣の淸選で、朝儀に熟した者のみが充てられたが、乾道六年、除かる。〔宋史、職官志六〕東上閤門西上閤門使各三人、副使各二人、宣贊舍人十人、云云、傳レ宣贊レ謁。

【宣子】87 センシ ❶諡號。㋑春秋晉、韓起(**12**－**43159**・・49)の諡。㋺春秋晉、士匄(**3**－**5638**・・22)の諡。㋩春秋晉、趙盾(**10**－**37171**・・302)の諡。❷字號。㋑晉、阮修(**11**－**41569**・・18)の字。㋺晉、范宣(**9**－**30834**・・72)の字。㋩宋、劉達夫(**2**－**2224**・・172)の字。㋥宋、王佐(**7**－**20823**・・414)の字。㋭明、尹民興(**4**－**7631**・・144)の字。㋬明、謝于宣(**10**－**35827**・・245)の字。㋣明、荀廷詔(**9**－**30929**・・60)の字。㋠淸、胡夏客(**9**－**29400**・・411)の字。

【宣之】88 センシ 字號。❶南朝宋、孔鮮(**3**－**6933**・・167)の字。❷明、洪鍾(錢塘の人)(**6**－**17402**・・110)の字。❸明、徐蕃(**4**－**10110**・・260)の字。❹洪鍾(**6**－**17402**・・110)の❷を見よ。

【宣旨】89 センシ ❶天子の命令。みことのり。宣頭(173)を見よ。〔宋書、柳元景傳〕上遣二丹陽尹顏竣一、宣旨慰勞。〔春明退朝錄〕有二梁朝宣底二卷一、其閒有下云二宣頭口命宣旨一者上。❷センジ ㋑昔、任官の勅を直ちに頭辨に下されるのを口宣、頭辨から上卿に傳へるのを口宣案、上卿から外記に下知するのを宣旨、外記が其の旨を書き出すのを綸旨といふ。〔官職備考、一〕。㋺女官の名。仙洞の女房で上﨟の第一位にあるもの。〔源氏物語、朝顏〕せんじを迎へつつ語らひ給ふ。

〖宣旨紙〗90 センジガミ 宣旨を書いた紙。かんやがみ。

【宣紙】91 センシ 畫宣紙。安徽省宣城縣から產する。〔歷代名畫記〕好事家宜下置二宣紙百幅一、用レ法蠟レ之以備中摹寫上。

【宣視】92 センシ 宣示(96)に同じ。〔漢書、王莽傳下〕宣下崇二其制度一、宣中視海內上。〔注〕師古曰、視、讀曰レ示。

【宣嗣】93 センシ 三國吳、芮祉(**9**－**30731**・・8)の字。

【宣賜】94 センシ 上の方から賜はる。〔韓偓、湖南絕少二含桃一云云詩〕金鑾歲歲長宣賜、忍レ淚看レ天憶二帝都一。

【宣摯】95 センシ 隋、劉臻(**2**－**2224**・・405)の字。

【宣示】96 センジ あまねくのべ明かにする。宣視。〔左氏、昭、九〕自レ文以來、世有二衰德一、暴二滅宗周一、以宣二示其侈一。〔後漢書、陽球傳〕未レ足三宣二示天下一。〔魏書、高祖紀下〕引二見羣臣於光極堂一、宣二示品令一。

【宣慈】97 センジ あまねくいつくしむ。惠みがゆきわたる。〔左氏、文、十八〕忠肅共懿、宣慈惠和、天下之民、謂二之八元一。

【宣州】99 センシウ ❶安徽省宣城縣の舊名。紙と筆との名產地。宣城(106)の❸の㋺を見よ。❷遼、置く。朝鮮平安南道平壤府の東北。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮、保州城〕宣州城在二平壤東北二百餘里一、唐置、屬二安東都護府一、遼仍曰二宣州一、亦曰二定遠軍一、遼志云、開泰三年置、隸二保州一、蓋渤海廢、遼復置也、元亦曰二宣州一、屬二東甯路一、領二甯朔羣島二鎭一、卽今之宣川郡。

〖宣州筆〗100 センシウヒツ 宣城郡から產する筆。宣毫(41)に同じ。〔耿湋、詠二宣州筆一詩〕心勁嬾レ藏レ鋒、落レ紙驚風起。〔白居易、紫毫筆詩〕紫毫筆尖

如レ錐兮利如レ刀、江南石上有二老兔一、喫レ竹飲レ泉生二紫毫一、宣城之人采爲レ筆。

【宣室】 101 センシツ ❶殷の宮殿の名。一說に、獄をいふ。〔淮南子、本經訓〕武王甲卒三人、破二紂牧野一、殺二之于宣室一。〔注〕宣室、殷宮名、一曰、宣室、獄也。❷漢の未央前殿の正室。〔說文〕宣、天子宣室也。〔段注〕蓋謂二大室一、如二璧大謂二之瑄一也。〔史記、賈誼傳〕孝文帝方受レ釐坐二宣室一。〔注〕集解曰、宣室、未央前正室、索隱曰、宣室、在二未央殿北一。〔漢書、賈誼傳、上方受レ釐坐二宣室一、注〕蘇林曰、宣室未央前正室也。〔王先謙補注〕索隱引二三輔故事一云、宣室在二未央殿北一。〔漢書、翼奉傳〕獨有二前殿・曲臺・漸臺・宣室・温室・承明一耳。〔漢書、東方朔傳〕夫宣室者、先帝之正處也。〔三輔黃圖〕未央宮有二宣室・麒麟・金華・承明・武臺・鉤弋等殿一。〔後漢書、陳忠傳〕武帝納二東方朔宣室之正一。〔張衡、西京賦〕宣室玉堂。〔注〕善曰、未央宮有二宣室殿・太玉堂殿一。

【宣室志】 102 センシツシ 書名。十卷。補遺、一卷。唐、張讀撰。漢の文帝の故事により、鬼神靈異の事を記す。〔四庫提要、子、小說類〕。

【宣赦】 103 センシャ 宣旨によって大赦する。〔王建、宮詞詩〕樓前立レ仗看二宣赦一、萬歲聲長再拜齊。

【宣榭】 104 センシャ 室の名。武を講ずる所。一說に、宣王の廟。〔春秋、宣、十六〕夏、成周宣榭火。〔杜注〕宣榭、講レ武屋。〔疏〕榭、是講レ武屋也、名レ之曰レ宣、則其義未レ聞、服虔云、宣二揚威武一之處、義或當レ然也。〔公羊、宣、十六〕宣榭者何、宣宮之榭也。〔注〕宣宮、周宣王之廟也。

【宣章】 105 センシャウ のべあきらかにする。宣昭。〔漢書、張安世傳〕宜下宣二章盛德一、以示二天下一、顯二明功臣一以塡中藩國上。

【宣城】 106 センジャウ ❶南齊の謝朓をいふ。宣城の郡守であったからいふ。〔沈約、和二謝宣城一詩〕王喬飛二鳧舃一、東方金馬門。〔李白、秋登二宣城謝朓北樓一詩〕誰念北樓上、臨レ風懷二謝公一。❷郡名。晉、置く。安徽省宣城縣の地。後、宣州とす。〔袁淑、登二宣城郡一詩〕悵焉訊二舊老一、茲前乃楚居、十代闕二州記一、百祀絕二方書一。〔讀史方輿紀要、江南〕甯國府、禹貢揚州之域、云云、晉武帝改置二宣城郡一、劉宋仍爲二宣城郡一。❸縣名。㋑漢、置く。安徽省南陵縣の東。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府、南陵縣〕宣城故城、在二縣東四十里青弋江上一、漢縣、屬二丹陽郡一、後漢省、建安三年、孫策定二宣城以東一、卽故城也、晉太康二年、置二宣城郡一治二宛陵一、別置二宣城縣一屬焉、宋齊因レ之、隋初、改二宛陵一爲二宣城一、而故城遂廢。㋺隋、置く。安徽省蕪湖縣の東南。縣城は水陽江の西岸。宣紙の產地。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府、宣城縣〕附郭、漢宛陵縣、初屬二鄣郡一、元封二年、爲二丹陽郡治一、晉太康二年、始爲二宣城郡治一、宋齊因レ之、隋初、廢レ郡改レ縣曰二宣城一、爲二宣州治一、唐宋因レ之、今編戶二百七十里。〔清史稿、地理志〕安徽、寧國府、縣六、宣城。

【宣情】 107 センジャウ 心をのべる。〔嵇康、聲無二哀樂一論〕歌以敘レ志、儛以宣レ情。

【宣授】 108 センジュ 旨を言ひ授けること。〔晉書、楊軻傳〕須三旁無二雜人一、授二入室弟子一、令二遞相宣授一。

【宣叔】 109 センシュク ❶春秋魯、臧孫許(**9**−**30083**‥42)の字。❷金、路鐸(**10**−**37524**‥73)の諡。

【宣出】 110 センシュツ 放出すること。〔禮、月令〕命二百官貴賤一、無レ不二務內一、以會二天地之藏一、無レ有二宣出一。〔疏〕以二物皆收斂時又閉藏一、無レ得レ有下宣二露出三散其物一以逆中時氣上。

【宣述】 111 センジュツ のべあらはす。〔謝靈運、佛影銘序〕未レ有二道宗崇大若レ此之比一、豈淺思膚學所二能宣述一。

【宣初】 112 センショ 清、朱英(**6**−**14424**‥42)の字。

【宣序】 113 センジョ あらはし順序だてる。〔國語、魯語下〕旅牧相宣二序民事一、少采夕レ月、與二太史司載一糾二虔天刑一。

【宣稱】 114 センショウ のべる。語る。

【宣臣】 115 センシン 清、祝維誥(**8**−**24672**‥122)の字。

【宣振】 116 センシン あげさかんにする。〔後漢書、章帝紀〕今自二三公一並宜下明二糾非法一、宣中振威風上。

【宣臻】 117 センシン あまねくいたる。〔揚雄、劇秦美新〕煥炳照耀、靡レ不二宣臻一。

【宣人】 118 センジン 清、劉芳喆(**2**−**2224**‥1258)の字。

【宣仁】 119 センジン 後魏、元懌(**1**−**1340**‥50)の字。

【宣仁聖烈后】 120 センジンセイレツコウ 宣仁后(273)の諡。

【宣制】 121 センセイ 宣命の文を讀みあげる。〔清國行政法汎論、皇室、立皇后〕正副兩使詣二太和殿一、宣制官宣制。

【宣政】 122 センセイ ❶唐の宮殿の名。朔望・任官・試制・外國使臣の拜謁などの朝儀を行ふ所。後、貞觀殿と改む。〔唐六典、尙書工部、郞中員外郞〕宣政門外、東廊曰二齊德門一、西廊曰二興禮門一、內曰二宣政殿一。〔韓愈、論二佛骨一表〕奉二其國命一、來二朝京師一、陛下容而接レ之、不レ過三宣政一見、禮賓一設、賜二衣一襲一。〔兩京記〕含元殿後有二宣政殿一、卽正衙殿也。〔册府元龜〕二年五月、元元、宣政殿改二貞觀殿一。〔玉海、宮室、殿、太平興國文德殿〕今之文德殿卽唐之宣政、在レ周爲二中朝一、在レ漢爲二前殿一、在レ唐爲二正衙一、凡朔望、起居、大册、拜二對四夷君長一、試二制擧人一、皆在レ此。❷北周、武帝、宇文邕の年號。(578)

【宣政院】 123 センセイヰン 官署の名。元、置く。釋教僧徒及び吐蕃の事を掌る。又、吐蕃に事があれば、分院を設けて之を鎭め、大征伐の事があれば樞密院と共に之を議した。至元の初、總制院を立て、至元二十五年、宣政院と改名し、院使二員を置き、數多の附屬官署を統べしめた。元統二年、行宣政院を杭州に置き、至正二年、之に崇教所を附設して、僧俗のことを治めしめた。〔元史、百官志三〕宣政院、秩從一品、掌二釋教僧徒及吐蕃之境一、而隷二治之一。

【宣政使】 124 センセイシ 宋代、內侍の官。〔文獻通考、職官考、內侍省〕凡內侍、其官稱則有二內客省使・延福宮使・宣政使・宣慶使・昭宣使一。

【宣省】 125 センセイ あまねく視察する。〔史記、秦始皇紀〕親巡二天下一、周二覽遠方一、遂登二會稽一、宣二省習俗一。

【宣聖】 126 センセイ 孔子をいふ。宣父。宣尼。〔月令廣義〕五月四日宣聖誕、宣聖生二魯襄公二十二年庚子一。〔剪燈餘話、月夜彈琴記〕驚二駭宣聖一。

【宣靖】 127 センセイ 諡號。❶南唐、游簡言(**7**−**17792**‥339)の諡。❷宋、錢若水(**11**−**40563**‥341)の諡。

【宣誓】 128 センセイ おほやけに誓ふ。

【宣誓式】 129 センセイシキ 宣誓の儀式。入學の際などに「行ふ。

【宣聲】 130 センセイ 三國魏、薛夏(**9**−**32123**‥13)の字。

【宣召】 131 センセウ 天子が臣下を召見する。宣招。〔夢溪筆談、故事一〕蓋學士院在二禁中一、非二內臣宣召一、無二因得レ入。〔宋會要〕遞二宿學士院一、朝夕宣召、商二榷古今一。

【宣招】 132 センセウ 宣召に同じ。〔漢書、公孫弘傳〕朕嘉二先聖之道一、開二廣門路一、宣二招四方之士一。

【宣昭】 133 センセウ 廣く世に表はす。あまねく明かにする。宣章。〔詩、大雅、文王〕宣二昭義問一、有虞二殷自レ天。〔箋〕宣、徧、云云、徧明以二禮儀一問二老成人一。〔左氏、昭、三十二〕宣二昭令名一。〔漢書、董仲舒傳〕百姓和樂、政事宣昭。

【宣昭帝】 134 センセウテイ 五胡十六國、前秦第三代の王、世祖の追諡。苻堅(**9**−**30825**‥3)を見よ。

【宣詔】 135 センセウ 詔を傳へる。〔後漢書、种劭傳〕何進將レ誅二宦官一、召二幷州牧董卓一至二澠池一、而進意更孤疑、遣レ劭宣詔止レ之。

【宣韶】 135′ センセウ 南齊、蕭鏘(**9**−**32012**‥167)の字。

【宣照】 136 センセウ 南齊、蕭曅(**9**−**32012**‥22)の字。

【宣績】 137 センセキ 力をつくす。成績をあげる。〔晉書、郤詵傳論〕振レ景觀レ光、俟二明主一而宣レ績。〔宋書、武帝紀中〕翼レ聖宣レ績、輔レ德弘レ猷。

【宣泄】 138 センセツ ❶通ずる。とほる。〔韓愈、汴州東西水門記〕襟抱虧疏、風氣宣泄。❷もれる。もらす。祕密を漏洩する。〔漢書、劉向傳〕竊推二春秋災異一、以效二今事一二、條二其所以一不レ宜二宣泄一。❸hsüan^1 hsieh^4 排水する。

【宣說】 139 センセツ のべとくこと。十分に語る。〔江總、羣臣請レ贖二武帝懺文捨身一〕坐レ道放レ光、顯揚宣說。〔范成大、淳熙四年六月二十七日登二大峨之巓一云云詩〕向來無三法可二宣說一、爲問有レ耳如何聽。

【宣戰】 140 センセン 相手國と戰爭狀態に入ることを一方的に意思表示すること。〔清國行政法汎論、兵部、武選清吏司〕專掌下武官選除封廕、兼頒二布宣戰詔勅一、其他關二於兵事一之命令上。

【宣戰詔敕】 141 センセンノセウチョク 戰爭する理由を天下に發表する詔勅。

【宣戰布告】 142 センセンフコク 相手國に對して戰爭開始の宣言を公布すること。

【宣蘚】 143 センセン こけ。〔述異記、一〕苔草、謂二之澤

葵一、又名二重錢一、亦呼爲二宣蘚一。

【宣祖】144 センソ ㊀朝鮮、李朝第十四代の王。名は昖。人材を登用し、學問の進歩を促したが、內に黨爭あり、外に豐臣秀吉の侵入、女眞族の掠奪を受け、國力大いに疲弊した。在位四十一年。㊁後魏、崔勉(4－8178‥159)の字。

【宣疏】145 hsüan^{1} su^{1} 祭文をよむ。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕跪宣疏了燒紙。

【宣宗】146 センソウ 廟號。㊀唐、第十六代の王。李忱(6－14459‥467)を見よ。㊁金、第八代の王。完顏珣(3－7079‥31)を見よ。㊂明、第五代の王。朱瞻基(6－14424‥888)を見よ。㊃清、第八代の王。清、宣宗(7－17695‥888)を見よ。㊄高麗、第十三代の王。諱は烝・祈。後、運と改む。字は天。在位十一年。

【宣繒】147 センソウ 宋、慶元府の人。謚は忠靖。官は參知政事。〔宋史、四百十九〕・〔宋史新編、一百五十三〕。

【宣則】148 センソク 晉、繆播(8－27855‥43)の字。

【宣道】149 センダウ 後魏、元恂(1－1340‥314)の字。

【宣導】150 センダウ 通じみちびく。疏通する。〔呂覽、古樂〕昔陶唐氏之始、民氣鬱閼而滯著、筋骨瑟縮不レ達、故作二爲舞一以宣二導之一。〔晉書、食貨志〕今者宜下大壞二兗豫州東界諸陂一、隨二其所レ歸、而宣中導之上。

【宣託】151 センタク 神佛のお告げ。託宣(10－35243‥35)に同じ。

【宣達】152 センタツ ㊀ふれ達す。〔史記、秦始皇紀〕訓經宣達。〔吳志、胡綜傳〕宣二達密計一。㊁梁、蕭宏(9－32012‥87)の字。

【宣答】153 センタフ 文體の名。禮官が群臣の慶賀に答へるもの。〔文體明辯、宣答〕按、宣答者羣臣奉表慶賀、而禮官宣制以答レ之也、先レ期、詞臣撰レ詞以授二禮官一、禮官習レ之、至レ日宣示、以見二君臣同慶之意一、蓋雖二繁文一而義則美矣、今制亦用レ之、而詞皆兩句、尤爲二古雅一、又著二之儀注一、無二臨レ時改レ撰、肄習之勞、豈不三度二越前代一哉、今姑錄二宋人之作一、以備二一體一。

【宣尼】154 センヂ 孔子をいふ。漢の平帝、孔子に追謚して褒成宣尼公とし、北魏の頃、孔子の廟を宣尼廟といつた。孔子封號(3－6933‥99)・宣尼公を見よ。〔左思、詠史詩〕言論準二宣尼一、辭賦擬二相如一。〔劉琨、重贈二盧諶一詩〕宣尼悲二獲麟一。〔溫庭筠、上二令狐相公一啓〕邱明作レ傳、必受二宣尼一。

〖宣尼公〗155 センヂコウ 漢の平帝が孔子を追謚した號。〔漢書、平帝紀〕孔子後孔均爲二褒成侯一、奉二其祀一、追二謚孔子一曰二褒成宣尼公一。〔王先謙補注〕錢大昭曰、宣尼之號、始見二於此一。〔宋仁宗、至和二年改二封文宣公一爲二衍聖公一制〕孔子之後、以二爵號一褒顯、世世不レ絕、其來遠矣、自下漢元帝封爲二褒成君一、以奉中其祀上、至二平帝時一、改爲二褒成侯一、始追二謚孔子一爲二褒成宣尼公一、褒成、其國也、宣尼、其謚也、公侯、其爵也。

〖宣尼廟〗156 センヂベウ 孔子廟。北魏の時の稱。〔大學衍義補、秩二祭祀一、釋二奠先師一之禮〕有司薦享、始二於此一、前レ此但云二釋奠一、而未二嘗言レ廟、至レ是始有二宣尼廟之文一。

【宣昶】157 センチャウ 明、嘉定の人。字は汝昭。經を里中に授く。官は惠州府同知、後、陝西西安同知。〔嘉定縣志〕。

【宣暢】158 センチャウ ㊀盛にする。〔後漢書、順帝紀〕不レ惟三竭レ忠宣二暢本朝一。㊁あまねく明かにする。〔詩、大雅、崧高、四方于宣、箋〕四方恩澤不レ至、則往宣二暢之一。〔魏志、劉劭傳〕宣二暢聖旨一。

【宣仲】159 センチュウ 宋、廉布(4－9436‥101)の字。

【宣著】160 センチョ あきらかにあらはれる。〔詩、衞風、淇奧、赫兮咺兮、傳〕咺、威儀容止宣著也。

【宣敕】161 センチョク 勅を下す。〔後漢書、耿弇傳〕宣二敕諸部一、後三日當三悉レ力攻二巨里城一。

【宣通】162 センツウ ゆきわたる。〔呂覽、圜道〕宣通下究。〔管子、四稱〕今若二君之美好而宣通一也。

【宣底】163 センテイ 中書省で宣旨を記しておく底本。宣頭(173)を見よ。〔詔書別錄〕唐故事、中書舍人掌二詔誥一、皆寫二兩本一、一爲レ底、一爲レ宣。

【宣帝】164 センテイ 謚號。㊀漢、第六代の王。劉詢(2－2224‥376)を見よ。㊁西晉の祖、高祖皇帝をいふ。司馬懿(2－3257‥204)を見よ。㊂陳、第四代の王、高宗をいふ。陳頊(11－41698‥156)を見よ。㊃北周、第四代の王。宇文贇(3－7067‥37)を見よ。㊄五代吳、第三代の王、高祖をいふ。楊隆演(6－15112‥806)を見よ。

【宣哲】165 センテツ 其の智が極めて明かなこと。〔詩、周頌、雝〕宣哲維人、文武惟后。〔集傳〕宣、通、哲、知。〔傳疏〕宣哲、明哲也。〔潘岳、司空密陵侯鄭袤碑〕允恭克讓、宣哲清朗。

【宣徹】166 センテツ 南齊、蕭鑑(9－32012‥58)の字。

【宣展】167 センテン のべひろげる。〔應璩、與二滿公琰一書〕驪駒就レ駕、意不二宣展一。

【宣傳】168 センデン ㊀上から下に命令をつたへる。〔蜀志、彭羕傳〕先主亦以爲レ奇、數令下羕宣二傳軍事一、指中授諸將上、奉レ使稱レ意。〔北齊書、元文遙傳〕宣二傳文武號令一。㊁言ひふらす。〔白居易、贈二草堂宗密上人一詩〕口藏宣二傳十二部一。

【宣吐】169 セント 發言する。〔晉書、裴楷傳〕楷善宣吐、左右屬目。

【宣筒】170 hsüan^{1} tʻung^{3} 文箱。

【宣統】171 セントウ 清の末帝の年號。(1909－1911)

〖宣統帝〗172 セントウテイ 清、第十二代の帝。後、滿洲國第一代の帝となる。溥儀(7－17957‥4)を見よ。

【宣頭】173 セントウ 天子のみことのり。中書を經ないで直ちに下される勅を宣といひ、中書を經て驛馬等の小事に下される勅を頭子といふ。〔夢溪筆談、故事一〕予及二史館檢討時一、議二密院劄子一、問二宣頭所レ起、予按二唐故事一、中書舍人職二堂語一、詔皆寫二四本一、一本爲レ底、一本爲レ宣、此宣謂二行出一耳、未二以レ名レ書也、晚唐樞密使自二禁中一受レ旨、出付二中書一、卽謂二之宣一、中書承受、錄二之于籍一、謂二之宣底一、今史館中尙有二故宣底二卷一、如二今之聖語簿一也、梁朝初置二崇政院一、專行二密命一、至二後唐莊宗一復二樞密使一、使二郭崇韜・安重誨爲レ之、始分二領政事一、不三關二由中書一直行下者、謂二之宣一、如二中書之勅一、小事則發二頭子一、擬二堂帖一也、至レ今樞密院用二宣及頭子一、本朝樞密院亦用二劄子一、但中書劄子、宰相押字在レ上、次相及參政以レ次向下、樞密院劄子、樞長押字在レ下、副貳以レ次向上、以レ此爲レ別、頭子、唯給二驛馬一之類用レ之。

【宣騰】174 セントウ ㊀上意をのべ傳へる。宣揚。〔晉書、齊王冏傳〕卽日翊軍校尉李含乘レ驛密至、宣二騰詔旨一。㊁hsüan^{1} tʻêng^{2} 土地を軟かにする。

【宣德】175 セントク ㊀德をのべひろげる。〔漢書、張安世傳〕宣レ德明レ恩、勤二勞國家一。〔晉書、左貴嬪傳〕姜姒歸レ周、宣二德中闈一。㊁漢の長樂宮內にあつた宮殿の名。〔三輔故事〕長樂有二宣德・通光・高明・長秋一。㊂銅器の名。宣德鑪(178)を見よ。㊃明の宣宗、朱瞻基の年號。(1426－1435)㊄縣名。㋑隋、置く。青海の西。㋺遼、置く。山西省石玉縣の東北。㋩金、置く。河北省宣化縣治。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司〕宣府左衞、附郭、漢潘縣地、唐置二文德縣一、契丹因レ之、金大定二十九年、改曰二宣德一、元爲二宣德府治一、明初、府縣俱廢、洪武二十六年、改置二今衞一、二十七年、築レ城、正統五年、甃以二磚石一、隆慶二年、增修、今有二門四一、城周二十四里。㊅後魏、元愉(1－1340‥574)の字。

〖宣德帝〗176 セントクテイ 明の宣宗、朱瞻基(6－14424‥888)をいふ。

〖宣德郎〗177 セントクラウ 文散官の名。隋、置き、唐以後、之に仍る。清代では從六品正七品の文官で、吏員から出身した者を宣德郎とす。〔通典、職官典、文散官〕宣德郎・朝散郎並隋置、散官、大唐因レ之。〔文獻通考、職官考、文散官〕隋置二宣德郎一爲二散官一、唐因レ之、品與二朝散郎一同。

〖宣德鑪〗178 セントクロ 明の宣德の時に鑄た銅器。宣爐(252)を見よ。〔博物要覽〕。

〖宣德王〗179 セントクワウ 新羅、第三十七代の王。金良相(11－40152‥1407)を見よ。

〖宣德先生〗180 セントクセンセイ 隋、劉炫(2－2224‥266)の謚。

〖宣德通寶〗181 セントクツウハウ 明、宣宗の朝に鑄た貨幣。〔明會典〕宣德八年、鑄二宣德通寶錢一。

〖宣德鼎彝譜〗182 セントクテイイフ 書名。八卷。附、釋名、二卷。明、宣德中、呂震等奉敕撰。當時の鑄器・圖式・工料及び供用を記す。〔四庫提要、子、譜錄類〕。

【宣讀】183 セントク 讀みあげて知らせる。〔北史、杜弼傳〕直付二空紙一、卽令二宣讀一。〔歐陽脩、內制集序〕制誥取二便於宣讀一。

【宣播】184 センパ　あらはれひろまる。評判になる。〔後漢書、呂布傳〕將軍威名宣播、遠近所レ畏、何求不レ得。

【宣佩】185 センパイ　晉、周玘(**2－3441**‥80)の字。

【宣報】186 センパウ　のべ知らせる。〔白居易、奏レ所レ聞狀〕特令レ送二出外庫一、宣二報所司一、遠近傳呼。

【宣防】187 センバウ　宮の名。宣房に同じ。〔史記、太史公自序〕九州攸レ寧、爰及二宣防一。〔漢書、溝洫志〕宣防塞兮萬福來。〔王先謙補注〕防、乃房之誤、河渠書作二宣房一。〔漢武帝、瓠子歌〕宣防塞兮萬福來。

【宣房】188 センバウ　漢の武帝の元封年間に黃河が決潰した時、瓠子口を塞いで其の上に築いた宮殿。房と防と通じ、宣洩防禦の意。河北省濮陽縣の西南。宣防。〔史記、河渠書〕卒塞二瓠子一、築二宮其上一、名曰二宣房宮一。

【宣伯】189 センパク　晉、李胤(**6－14459**‥38)の字。

【宣髮】190 センパツ　黑白相雜る髮。ごましほ頭。〔易、說卦〕其於レ人也爲二寡髮一、〔釋文〕寡本又作レ宣、黑白雜爲二宣髮一。〔李鼎祚集解〕虞翻注曰、爲レ白故宣髮、馬君以レ宣爲二寡髮一、非也。〔張惠言周易虞氏義〕如レ注則宣白也、宣鮮同音、或卽蕃鮮與。〔周禮、考工記、車人〕車人之事、半矩謂二之宣一。〔釋文〕頭髮皓落曰レ宣、易巽爲二宣髮一。〔易林、節之レ井〕宣髮龍叔、爲レ王主レ國。〔注〕宣髮、黑白雜也。〔容齋隨筆、宣髮〕考工記車人之事、半矩謂二之宣一、注、頭髮顥落曰レ宣、易巽爲二宣髮一、宣字、本或作レ寡、周易巽爲二寡髮一、釋文云、本又作レ宣、黑白雜爲二宣髮一、宣髮二字甚奇。〔東齋記事〕今人年壯而髮白者、目レ之曰二蒜髮一、猶レ言二宣髮一也。

【宣法】191 センパフ　法律をあきらかに示す。〔國語、晉語七〕武子宣レ法、以定二晉國一。

【宣判】191′ hsüan^1 p'an^4　判決を宣す。

【宣藩】192 センパン　州の長官をいふ。〔稱謂錄、布政使、宣藩〕蔡襄內制、自升二禁近之列一、屢委二宣藩之重一。

【宣美】193 センビ　立派にする。〔後漢書、劉愷傳〕今刺史、云云、職在下辯二章百姓一、宣中美風俗上。

【宣備】194 センビ　十分にのべつくす。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕反答造次、不レ能二宣備一。

〖不宣備〗195 センビセズ　十分のべ盡さない。不宣。〔通俗編、儀節、不宣備〕浩然齋視聽鈔、今人札云、不二宣備一、本下文選楊修答二臨淄侯一牋末曰中造次不上レ能二宣備一。

【宣敏】196 センビン　元、張懋(**4－9812**‥677)の諡。

【宣付】197 センプ　君命で下げわたす。〔元史、阿合馬傳〕丞相安童言、阿合馬所レ用部官、左丞許衡以爲三多非二其人一、然已得レ旨咨請宣付、如不レ與、恐異日有レ辭。

【宣布】198 センプ　あまねく知らせる。行きわたらせる。宣佈。〔周禮、秋官、小司寇〕乃宣二布于四方一、憲二刑禁一。〔史記、孝文紀〕請著二之竹帛一、宣二布天下一。〔漢書、谷永傳〕宣二布聖德一。〔後漢書、光武紀下〕宣二布圖讖于天下一。〔後漢書、董卓傳〕宣二布恩澤一。

【宣佈】199 hsüan^1 pu^4　あまねく知らせる。發表する。宣布に同じ。

【宣府】200 センプ　鎭の名。明の九邊の一。河北の邊外延慶縣から山西省大同縣境に至る長城の地。宣德(175)の❺の㊇を見よ。

【宣武】201 センプ　❶城の名。江蘇省江寧縣の西北。又、宣武堂・武帳岡といふ。〔輿地志〕宋沈慶之所レ築、帝閱二武於其地一、亦謂爲二武帳岡一、陳亡廢。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣、白馬城〕宣武城在二府治西北九里一、勝覽、宋沈慶之所レ築、孝武欲二北伐一、問、須レ兵幾何、慶之曰、二十萬、孝武疑二其多一、乃令三慶之守二此城一、而自率二六軍一攻レ之、不レ能レ下、乃罷二北討一。❷門の名。北京內城の城門の一。正陽門の西にある。一名、順成門。俗稱、順治門。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕南之左曰二文明門一、今曰二崇文門一、右曰二順成門一、今曰二宣武門一。❸縣名。漢、置く。山西省の境。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、宣武。❹諡號。㋑梁、蕭懿(**9－32012**‥3)の諡。㋺明、郭興(**11－39474**‥93)の諡。

〖宣武軍〗202 センブグン　唐代、行政區劃の名。河南省商丘縣の附近。汴・宋・曹・亳・陳・穎の六州を管轄す。梁、唐から簒つて開封府を置く。〔讀史方輿紀要、河南、歸德府〕禹貢豫州地、古曰二商邱一、云云、唐初仍爲二宋州一、天寶初曰二睢陽郡一、乾元初、復曰二宋州一、五代梁爲二宣武軍治一、唐建中二年、置二宣武軍治宋州一、興元初、宣武軍移二治汴州一、梁改二汴州一爲二東京一、因移二宣武軍於此一。

〖宣武帝〗203 センブテイ　後魏、第七代の世宗をいふ。元恪(**1－1340**‥90)を見よ。

〖宣武都尉〗204 センブトヰ　官名。淸、置く。武職官で、階級は從四品封階。金・元・明の宣武將軍にあたる。〔淸會典、兵部〕凡武職官之階十有八、云云、八曰、宣武都尉。

〖宣武靈皇后〗205 センブレイクワウゴウ　後魏、胡后(**9－29400**‥137)の諡號。

【宣撫】206 センブ　上の意を宣べて下を恤むこと。宣撫使を見よ。

〖宣撫使〗207 センブシ　官名。唐の憲宗の元和十四年、楊於陵が淄・青等の州の宣撫使に任ぜられたのに始まる。上意をのべて下民を撫述する義から取つて名づけ、主として軍事を掌る。宋も亦置き、威令の宣布、邊境の綏撫、將帥の統護、軍事の督視等を掌る。但、常置の官でなく、軍旅大事ある每に執政の大臣を以て之に任じた。仁宗の時、狄青が宣撫使に任ぜられたのが武臣でこの官に任ぜられた始めである。其の位は都督に次ぎ、權力頗る大であつた。元代には各地に宣撫司を置いたが、明・淸には廢して唯邊地にのみ置き、土人世襲の武職とした。〔文獻通考、職官考〕唐元和十四年、淄青兗鄆等十二州平、詔二戶部侍郎楊於陵一、以二本官一充二淄青等州宣撫使一、宋不二常置一、祖宗時、有二軍旅大事一、則命二執政大臣一爲レ之、云云、仁宗征二儂智高一、以二狄青一爲二宣撫使一、武臣爲二宣撫一自レ此始。〔事物紀原、節鉞師漕部、宣撫〕宋朝會要曰、咸平三年六月、詔遣二參政向敏中一、充二河北東緣邊宣撫大使一、馮拯陳堯叟充二副大使一、存二問官吏一、自後隨レ事卽置、事已乃省、蓋自レ此始也、宣撫、唐官、新書、德宗詔二蕭復一充二山南江湖等道宣撫安慰使一、是也、見二復傳一。〔元史、百官志七〕又有二招討・安撫・宣撫等使一、品秩員數、各有二等差一。〔歷代職官表、土司各官、元〕謹案、明時土官曰二宣慰司一、曰二宣撫司一、云云、皆沿二元時之制一也、然元時宣慰使、內地邊地皆設レ之、其設二于邊陲一者、則曰二宣慰司都元帥府一。〔歷代職官表、土司各官、國朝官制〕四川土通判二人、云云、宣撫使五人、副使三人。

【宣文】208 センブン　後漢、袁逢(**10－34152**‥142)の諡。

【宣平】209 センペイ　❶縣名。㋑金、置く。河北省懷安縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、萬全左衞〕宣平廢縣、衞西十里、本文德縣之大新鎭、金承安二年、置二宣平縣一、屬二宣德府一、大安三年、蒙古敗二金于狐嶺一、進薄二宣平一、克二縉山縣一、遊騎遂入二居庸一、明年、復克二宣平一、陷二德興府一、元仍曰二宣平縣一、屬二宣德府一、移二治于辛南莊一、明初、廢、尋改置二今衞一、築二衞城一、正統九年、增二築城一、周九里有奇、議者以二城大難一レ守、嘉靖四十二年、截二三分之一一、今城方六里有奇。㋺明、置く。浙江省麗水縣の西北。大溪の支流の北岸。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府〕宣平縣、府北百二十里、東至二縉雲縣一百四十里、西南至二松陽縣一六十里、西北至二遂昌縣一百四十里、北至二金華府武義縣一百里、本麗水縣之宣慈鄉、明初、置二鮑村巡司於此一、正統十二年、鄉人葉宗留作レ亂、景泰三年、事平、因析二置今縣一、改二巡司一爲二縣治一、以三剿二平宣寇一爲レ名、縣無レ城、編戶六十里。〔淸史稿、地理志〕浙江、處州府、縣十、宣平。❷漢の長安城の東門の名。〔漢書、王莽傳下〕兵從二宣平城門一入、民間所謂都門也。〔太平御覽、居處部、門下〕漢宮殿名、曰二長安一、有二宣平門一。❸五胡十六國の一、成(蜀)の太祖武帝、李雄の年號、晏平の一稱。(306－310)

〖宣平侯〗210 センペイコウ　封號。❶漢、張敖(**4－9812**‥122)の封號。❷後漢、宋弘(**3－7078**‥94)の封號。

〖宣平桃〗211 センペイタウ　仙人の食ふ桃。〔續仙傳〕咸通七年、許明奴家有レ嫗、於二南山中一見二一人方食一レ桃、自稱二明奴之祖宣平一、與二汝一桃一、食レ之、不レ可二將出一レ山、山神惜二此桃一、宣平遣レ嫗隨二樵人一歸レ家、其後嫗卻レ食、日漸童顏經健、中和以後兵荒、明奴徙レ家避レ難、嫗入レ山不レ歸。

〖宣平王〗212 センペイワウ　明、朱永(**6－14424**‥40)の封號。

【宣秉】213 センペイ　後漢、雲陽の人。字は巨公。官は大司徒。光武帝が其の舍に行幸して、其の寡欲清

貧を嘆賞した。〔後漢書、五十七〕。

【宣廟】214センベウ　明の宣宗(146)をいふ。〔日知錄、政事、宦官〕以二宣廟之納レ諫求レ言、而廷臣未レ有下論二及此一者上。〔留青日札〕宣廟幸二文淵閣一。

【宣璧】215センペキ　大きさ六寸の璧をいふ。〔爾雅、釋器〕璧大六寸、謂二之宣一。

【宣父】217センポ　センプ　孔子の封號。宣尼。孔子封號(3−6933··99)を見よ。〔唐書、禮樂志五〕貞觀十一年、詔尊二孔子一爲二宣父一。〔孔穎達、毛詩正義序〕先君宣父釐二正遺文一。〔宋史、樂志十二〕大哉宣父、將レ聖多能。

【宣甫】218センポ　宋、蘇緘(9−32427··31)の字。

【宣募】219センボ　ひろく募集する。〔後漢書、劉陶傳〕陶到レ官、宣下募吏民有二氣力一勇猛上。

【宣穆】220センボク　諡號。㊀晉、桓沖(6−14774··54)の諡。㊁後魏、寇讃(3−7209··15)の諡。

〖宣穆張皇后〗221センボクチヤウクワウゴウ　晉、張春華(4−9812··1192)の追諡。

【宣麻】222センマ　黃白の麻紙に詔を草する。任官の詔書を下すこと。唐代、中書省では黃白二種の麻紙を用ひたが、其の後、翰林には白麻、中書には黃麻を用ひた。〔翰林志〕唐中書用二黃白二麻一爲二綸命一、其後翰林專下掌二白麻一、中書獨得レ用二黃麻一。〔朱子全書、歷代、宋〕凡宰相宣麻、非三是宣二與宰相一、乃是揚二告王庭一、令二百官皆聽一、問二以其人可レ用與レ否、首則稱道之文、後乃警戒之詞、如今云二於戲以下數語一是也、末乃云二主者施行一、所謂施行者、行二冊拜之禮一也、此禮、唐以來皆用レ之、至二本朝宰相一云云、只命書二麻詞於誥一以賜レ之、便當二冊文一、不三復宣二麻於庭一、便是書以賜二宰相一、乃是獨宣二誥命於宰相一、而他人不レ得二與聞一、失二古意一矣。〔歸田錄〕至和初、並二用文富二公一、正衙宣麻之際、上遣二小黃門密于百官班中一、聽二其論議一。〔事物紀原、公式姓諱部、宣麻〕唐書百官志曰、開元二十六年、改二翰林供奉一爲二學士一、專掌二內命一、凡拜二免將相一、號二令征伐一、皆用二白麻一、則宣麻之始、自二明皇世一也。

【宣孟】223センマウ　春秋晉、趙盾(10−37171··302)の諡。

【宣務】224センム　山名。河北省唐山縣の北。又、巏務山・權務山・喧嵍山・虛無山ともいふ。〔唐邕、彭樂廟碑〕惟茲巏務、陶唐采封。〔魏收、趙州莊嚴寺碑銘〕權務之精。〔隋書、地理志中〕柏鄉縣有二⿰山宣嵍山一。〔讀史方輿紀要、直隷、順德府、唐山縣〕堯山、縣西北八里、相傳堯始封レ此、因名、其東麓一名宣務山、又名二虛無山一、山經、宣務山、高一千八百五十丈、出二文石五色錦章一。

【宣命】225センメイ　㊀みことのり。〔杜甫、送三楊六判官使二西蕃一詩〕宣命前程急、惟良待レ士寬。㊁教命を傳達する。〔晉書、何曾傳〕宣レ命遣レ使、則設二介副一。〔應璩、與二滿公琰一書〕是以奔二騁御僕一、宣レ命周求。〔注〕言奔二馳車馬一、宣二我教命一、周求二饌食一、以給二公琰一。㊂センミヤウ　㋑神事・改元・贈位などの勅を國文で記したもの。祝詞のやうに、てにをは等を眞假名で漢字の間に加へる。せみやう。〔內記式〕凡賀茂祭日、宣命、前一日書、付二內侍一奏レ之。㋺後世、漢文で書いた詔敕を詔書・敕書といひ、國文のものを宣命といふ。

〖宣命司〗226センメイシ　運命を司る神。〔桃花扇、餘韻〕宣命司檢祿籍、何故差池。

〖宣命使〗227センミヤウシ　禁中で儀式の時、宣命を讀みあげる人。〔玉海〕承安二年二月十日、有二冊命皇后事一、云云、宣命使、別當成親卿。

〖宣命書〗228センミヤウガキ　宣命・祝詞文の書き方。漢字を用ひ、語尾と「てにをは」は漢字の音を借りて、本字の右下に小さく書く。

〖宣命文〗229センミヤウブン　宣命の文體。古語を用ひて書く特種の文。

【宣明】230センメイ　㊀明かにあらはれる。のべあきらかにする。〔荀子、正論〕上宣明則下治辨矣。〔漢書、鄭吉傳〕宣二明威信一。〔後漢書、袁術傳〕宣二明朝恩一。㊁漢の宮殿の名。未央殿の東に在る。〔漢宮闕記〕未央宮有二宣明・長年・溫室・昆德四殿一。㊂宋、長汀の人。字は南仲。崇寧中、辟雍に貢せられたが歸志を懷き、城南の巖洞が幽窅なのを愛して室を築いて其の中に隱れ、題して宣巖といふ。〔尙友錄、六〕。㊃字號。㋑南朝宋、謝晦(10−35827··55)の字。㋺後魏、元鸞(1−1340··593)の字。㋩南齊、蕭晃(9−92012··88)の字。㋥明、羅明祖(9−28397··412)の字。

〖宣明君〗231センメイクン　漢、夏恭(3−5720··62)の諡。

〖宣明王〗232センメイワウ　火神をいふ。〔宋史、禮志六〕乾道五年、太常少卿林栗等言、本寺已擇二九月十四日一、依レ旨設レ位、望二祭應天府大火一、以二商丘宣明王一配、二十一日、內火祀二大辰一、以二閼伯一配、大辰卽大火、閼伯卽商丘宣明王也。

〖宣明方論〗233センメイハウロン　書名。十五卷。金、劉完素撰。大旨は、素問及び金匱要略に本づく。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【宣茂】234センモ　晉、高光(12−45313··221)の字。

【宣問】235センモン　ひろく問ふ。〔管子、小匡〕公宣二問其鄉里一。

【宣夜】236センヤ　㊀古の算術の一。周髀(2−3441··429)を見よ。〔書、舜典、在二璿璣玉衡一以齊二七政一疏〕蔡邕天文志云、言二天體一者有二三家一、一曰周髀、二曰宣夜、三曰渾天、宣夜絕無二師說一、云云、虞喜云、宣、明也、夜、幽也、幽明之數、其術兼レ之、故曰二宣夜一、但絕無二師說一、不レ知二其狀如何一。㊁漢代、天體を觀測する官名。〔王融、三月三日曲水詩序〕挈壺宣夜、辨二氣朔於靈臺一。〔注〕善曰、蔡邕天文志曰、言二天體一者有二三家一、其一曰二宣夜一。

【宣揚】237センヤウ　さかんにする。廣く世にあらはす。宣騰。〔漢書、匡衡傳〕宣二揚德音一。〔後漢書、朱儁傳〕宣二揚威德一。〔魏志、陳留王奐傳〕宣二揚國命一、告二喩吳人一。

【宣養】238センヤウ　ひろくやしなふ。〔國語、周語下〕名レ之曰二黃鐘一、所三以宣二養六氣九德一也。

【宣約】239センヤク　南齊、王逡之(7−20823··1676)の字。

【宣譯】240センヤク　わけをのべ釋く。〔隋書、經籍志四〕得二華嚴經三萬六千偈一、至二金陵一宣譯。

【宣用】241センヨウ　のべ用ひる。十分に用ひる。〔管子、四稱〕固二其武臣一、宣二用其力一。

【宣翼】242センヨク　力をのべたすける。〔國語、楚語上〕明レ行以宣二翼之一。〔新書、傳職〕制二義行一以宣二翼之一。〔晉書、汝南王亮傳〕宣翼之績、顯二於本朝一。

【宣朗】243センラウ　㊀明らかによくわかる。〔國語、楚語下〕其知能上下比レ義、其聖能光遠宣朗。㊁南齊、蕭鑠(9−32012··169)の字。

【宣勞】244センラウ　㊀宣旨を賜うて勞を慰める。慰勞する。〔北史、蠕蠕傳〕明帝臨二西堂一引見、阿那瓌及其叔伯兄弟五人升レ階賜レ坐、遣二中書舍人穆弼一宣勞。㊁力を出して勞をなす。〔楊萬里、詩〕主二管園林一鶯稱レ意、巡二行荷芰一鷺宣レ勞。

【宣流】245センリウ　あまねく流布し及ぼす。〔後漢書、安帝紀〕朕以二幼沖一奉二承鴻業一、不レ能三宣二流風化一。

【宣陵】246センリヨウ　陵の名。㊀後漢、桓帝の陵。河南省洛陽縣の東南。〔後漢書、靈帝紀〕建寧元年二月辛酉、葬二孝桓皇帝於宣陵一。〔注〕在二洛陽東南三十里一。〔河南通志〕宣陵、在二河南府城東三十里一。㊁五代梁の太祖の陵。河南省洛陽縣。〔五代史、梁太祖紀下〕(乾化二年六月)戊寅、帝崩。〔注〕十一月、友珪葬二之河南伊闕縣一、號二宣陵一。〔洛陽縣志〕宣陵、在二洛陽伊闕東南一、今俗稱曰二朱家陵一。〔嵩縣志〕宣陵、在二伊闕廢縣一、後唐莊宗獵二伊闕一、令三百官拜二梁太祖墓一。

【宣力】247センリヨク　力をのべつくす。盡力する。〔書、益稷〕予欲レ宣二力四方一、汝爲。〔傳〕布レ力立二治之功一、汝羣臣當レ爲レ之。〔魏志、高貴鄉公紀〕宣力之佐。〔陸機、謝二平原內史一表〕世無二先臣宣レ力之效一。

〖宣力軍〗248センリヨクグン　遼が宋の降參した兵卒で組織した軍隊の名。〔遼史、聖宗紀四〕統和九年、選二宋降卒五百一、置爲二宣力軍一。

【宣綸】249センリン　清、汪鳴珂(6−17154··345)の字。

【宣禮】250センレイ　南齊、蕭鈞(9−32012··82)の字。

【宣燎】251センレウ　もえ上るかがり火。〔范仲淹、明堂賦〕穆穆乎舜門之闢、晰晰乎宣燎之發。

【宣爐】252センロ　明の宣德年中に製した爐。宣德爐(178)に同じ。〔行廚集〕宣爐、明宣德年製者、曰二宣爐一。〔帝京景物略〕後人辨二宣爐色一五等、栗色・茄皮色・棠梨色・褐色、而藏經紙色爲レ最、其款陰印陽文、眞二書大明宣德年製一。

【宣露】253センロ　あらはす。〔後漢書、馮異傳〕宣二露軼書一。〔魏志、楊阜傳〕禁密不レ得二宣露一。

【宣漏】254センロウ　もらすこと。〔宋書、何承天傳〕承天宣二漏之一、坐レ免レ官。

【宣和】255センワ　センナ　㊀のべやはらげる。〔嵇康、琴賦〕宣二和情志一。㊁宋代の宮殿の名。〔玉海、宮室、

殿、宣和殿〕徽宗書日不レ居二寢殿一、以二睿思一爲二講禮進膳之所一、就二宣和一宴息。〔大學衍義補、備二規制一、圖籍之儲〕徽宗設レ官提擧、募レ工繕寫、一置二宣和殿一、一置二太清樓一、一置二祕閣一、其寓レ意深矣。❸宋の徽宗、趙佶の年號。(1119－1125)

〔宣和體〕256（センナタイ）　南畫の一體。宋の李誕の創めたもの。〔圖繪寶鑑〕李誕、河間人、多畫二叢竹一、筍籜鞭節、色色畢具、此宣和體也。

〔宣和遺事〕257（センナヰジ）　小說の名。前後二集。撰者未詳。宋の徽宗・欽宗の驕奢淫逸をのべ、二帝が金に囚はれて五國城に幽せられ、恨みを呑んで客死する顚末を敍す。殊に宋江等三十六人の始末を記す。水滸傳の粉本となつた。〔說庫提要〕宣和遺事、宋人撰、失名、前後共兩集、所レ誌靖康陷レ虜事爲レ多、詞氣已近二演義一、宋江等事、耐庵水滸本レ此、此從二逸雲閣所レ藏宋本一過鈔、尙無二魯魚亥豕之病一。

〔宣和印史〕258（センナインシ）　書名。八卷。明、來行學撰。

〔宣和畫譜〕259（センナグワフ）　書名。二十卷。撰者未詳。宋の徽宗の朝に內府に藏してゐた畫、六千三百九十六軸、二百三十一人を收む。大抵米芾の鑒別したもので、博古圖(**2**－**2761**··57)より善いといふ。〔四庫提要、子、藝術類〕。

〔宣和主人〕260（センナシュジン）　宋の徽宗、趙佶(**10**－**37171**··102)をいふ。

〔宣和書譜〕261（センナショフ）　書名。二十卷。撰者未詳。畫譜に同じく、御府所藏の墨跡を載せたもの。〔四庫提要、子、藝術類〕。

〔宣和通寶〕262（センナツウハウ）　宋の徽宗の鑄た貨幣。〔宋史、宗室四、子湎傳〕徽宗大說、御二書宣和通寶四字一爲二錢文一。

〔宣和博古圖〕263（センナハクコツ）　書名。三十卷。宋、王黼等奉敕撰。載せてある古器は眞贋雜糅し、辨證に疎漏が多いが、銘字や器形には參考の價値がある。博古圖(**2**－**2761**··57)を見よ。〔四庫提要、子、譜錄類〕。

〔宣和北苑貢茶錄〕264（センナホクヱンコウチャロク）　書名。一卷。附、別錄一卷。宋、熊蕃撰。別錄は趙汝礪撰。建安で貢茶を焙造する法式を論じたもの。〔四庫提要、子、譜錄類〕。

〔宣和奉使高麗圖經〕265（センナホウシカウライヅキヤウ）　書名。四十卷。宋、徐兢撰。宣和六年高麗に使した時の見聞記。〔四庫提要、史、地理類〕。

【宣王】266（センワウ）　❶周、第十一代の王。姬靜(**3**－**6230**··61)を見よ。❷戰國楚、第三十四代の王、良夫をいふ。楚宣王(**6**－**15141**··173)を見よ。❸戰國齊、第四代の王、辟疆をいふ。齊宣王(**12**－**48560**··306)を見よ。❹渤海國、第十一代の王、大仁秀をいふ。〔唐書、二百十九〕・〔舊唐書、一百九十九〕。

【宣耕軒】267（センカウケン）　明、許繼(**10**－**35298**··69)の室「名。

【宣徽院】268（センキヰン）　官署の名。唐の時、宣徽南北院使を置き、宦官を之に任じ、官吏の籍、郊祀・朝會・宴饗・供帳の事などを總領した。南院使の資格や名望は北院使に比して優れ、文書には共に南院の印を用ひた。唐代、宦官の跋扈に伴ひ、其の威權日に尊く、五代から宋に及び、皆大臣を以て任じ、明に至つて光祿寺に併合した。〔文獻通考、職官考〕按、樞密宣徽院、皆始二於唐一、然唐之職官志及會要、略不レ言二建置本末一、蓋因下肅代以後特設二此官一、以處二宦者一、其初亦無中甚司存職業上、故史所レ不レ載、及二其後宦者之勢日盛一、則此二官日尊、及二五代以來一、至二於宋朝一、則皆以二大臣一爲レ之。〔稱謂錄、內務府、宣徽院〕冊府元龜、後唐以二李紹宏一爲二宣徽南院使一、兼三掌二內句天下財穀一、皆委二裁遣一、又孟漢瓊明宣時爲二宣徽北院使一。〔剪燈餘話、秋千會記〕拜二宣徽院一。

【宣議郎】269（センギラウ）　官名。宣義郎(51)を見よ。

【宣國柱】270（センコクチユウ）　明、懷寧の人。字は若木。崇禎の進士。官は兵科給事中。母が年老いたので鄉里に歸り、太平山中に隱棲す。〔懷寧縣志〕。

【宣嗣宗】271（センシソウ）　明、嘉定の人。字は彥初。永樂中、中書舍人・驗封郎中となる。成祖實祿の編輯に與かる。〔國朝獻徵錄、二十二〕。

【宣受命】272（センジユメイ）　晉の鼓吹曲の名。晉、傅玄作。思悲翁を改めて作る。靈之祥(**12**－**42532**··349)を見よ。〔晉書、樂志下〕改二思悲翁一爲二宣受命一、言下宣皇帝禦二諸葛亮一、養二威重一、運二神兵一、亮震怖而死上也。

【宣仁后】273（センジンコウ）　宋、英宗の后。姓は高氏。亳州の人。哲宗立つや、尊んで太皇太后と稱せる。帝が幼かつたから太后が政を攝す。王安石の黨を退け、司馬光等を用ひて元祐の治を成す。時に女人の堯舜と稱せらる。〔宋史、二百四十二〕。

【宣夫人】274（センフジン）　齊侯の女。相見ぬ前に死んだ夫に貞節をつくした人。〔列女傳、四〕。

【宣文君】275（センブンクン）　晉の太常、韋逞の母、宋氏の號。善く家學の周官音義を傳へた。苻堅が絕學を嘆じた時、博士の盧壺に推薦せられ、其の家に講堂を建て、學生百二十人を置いて周官學を傳へ、宣文君と號した。〔晉書、九十六〕。

【宣輔政】276（センポセイ）　晉の鼓吹曲の名。晉、傅玄作。上之回(**1**－**13**··330)を改めて作る。靈之祥(**12**－**42532**··349)を見よ。〔晉書、樂志下〕改二上之回一爲二宣輔政一、言下宣皇帝聖道深遠、撥亂反正、網二羅文武之才一、以定中二儀之序上也。

【宣陽門】277（センヤウモン）　大內裏十二門の一。內裏の東面、延政門と嘉陽門との間、建春門の裏にある。

【宣諭使】278（センユシ）　官名。宋、置く。天子の德音を地方に宣諭することを掌り、使命終れば罷めるのを例とした。南宋の高宗の紹興元年、傅崧年を淮南東路の宣諭使としたるに始まる。其の後、軍政に預かるやうになり、其の權は殆ど宣撫に次ぐやうになつた。〔文獻通考、職官考、宣諭使〕掌三宣二諭德音一、不レ預二他事一、歸卽結罷、紹興元年、詔二祕書少監傅崧年一、充二淮南東路宣諭使一、此其始也、云云、二十二年、虞允文・王之望等、相繼充二川陝宣諭使一、皆預二軍政一、其權任殆亞二於宣撫一。

【宣烈舞】279（センレツブ）　宋の雅舞の名。凱容舞(**2**－**1790**··28)を見よ。

【宣烈王】280（センレツワウ）　五胡十六國西秦の祖、烈祖の謚。乞伏國仁(**1**－**170**··64)を見よ。

【宣樓船】280′ hsüan^1 lou^2 ch'uan^2　裝飾を施した客船。

【宣華夫人】281（センクワフジン）　隋の人。陳の宣帝の女。姿貌無雙。隋の文帝の宮嬪となつて寵有り、宣華夫人に拜せられた。帝が崩ずるや、太子廣に挑まれ、歲餘にして卒す、年二十九。煬帝深く之を悼み、神傷賦を作る。〔隋書、三十六〕・〔北史、十四〕。

【宣憲魏后】282（センケンギコウ）　五代後唐、魏后(**12**－**45872**··57)の謚。

【宣仁太后】283（センジンタイコウ）　宣仁后に同じ。

【宧】7133

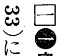
エウ　宎(**3**－**7134**)の本字。〔康熙字典〕宧、說文、宎本字。

参考　宧(**3**－**7174**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕宧、宎本字。宧、古嚮字。

【宎】7134

㊀エウ　〔集韻〕伊鳥切　篠

㊁エウ　〔集韻〕一叫切　嘯


小篆

㊀❶**奧**。室の東南の隅。宧(**3**－**7133**)に同じ。〔正字通〕宎、同レ宧。〔說文〕宧、戶樞聲也、室之東南隅、从レ宀皀聲。〔段注〕二句一義、古者戶東、牖西、故以二戶樞聲一名二東南隅一也。〔爾雅、釋宮〕室東南隅、謂二之宎一。❷**とぼその音**。〔玉篇〕宎、戶樞聲也。❸或は窔(**8**－**25445**)・突(**8**－**25435**)に作る。〔集韻〕宧、或作二安・窔・突一。㊁❶**くらい**。窅(**8**－**25488**)に通ず。〔說文、宧、段注〕按、釋名曰、宎、幽也、非二許意一、許宧窅義殊、爾雅釋文、引二說文窅深皃一、誤以レ窅爲レ宧也。❷**奧**。隱れて暗い處。〔廣韻〕宎、隱暗處。❸窔(**8**－**25495**)に同じ。〔集韻〕窔、或作レ宎。

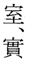
【宎遼】1（エウレウ）　深遠なさま。〔封禪儀記〕仰二視天門宎遼一、如下從二穴中一視上レ天。

【宋】7135

セキ　寂(**3**－**7200**)に同じ。〔正字通〕宋、同レ寂。

【室】 7136

［一］シツ シチ 〔集韻〕式質切 質。 ㄕˋ shih^{4}
［二］シ 〔集韻〕式吏切 寘。


小篆

［一］❶**へや**。ゐま。奥のま。〔說文〕室、實也、从㆑宀至聲、室屋皆从㆑至、所㆑止也。〔釋名、釋宮室〕室、實也、人物實㆓滿其中㆒也。〔論語、先進〕由也上㆓於堂㆒矣、未㆑入㆓於室㆒也。〔皇疏〕窻戶之內曰㆑室。〔鄉黨圖考〕後楣之下以南爲㆑堂、以北爲㆓室與㆒㆑房、室與㆑房、東西相連爲㆑之、案、少牢饋食禮、主人室中獻㆑祝、祝拜㆓於席上㆒坐受、注曰、室中迫狹、賈氏曰、棟南兩架、北亦兩架、棟北楣下爲㆑室、南壁而開㆑戶、以㆓一架之閒㆒爲㆑室、故云㆓迫狹㆒也。❷**いへ**。家。〔詩、衞風、定之方中〕作㆓于楚室㆒。〔傳〕室、猶㆑宮也。〔孟子、萬章下〕帝館㆓甥于貳室㆒。〔集注〕貳室、副宮也。❸**すまひ**。居處。〔詩、唐風、葛生〕歸㆓于其室㆒。〔傳〕室、居也。〔周禮、地官、大司徒〕以㆓其室數㆒制㆑之。〔注〕城郭之宅曰㆑室。❹**一家**。〔儀禮、喪服〕公卿大夫室老・士。〔注〕室老、家相也。〔孟子、離婁上〕不㆑得㆓罪於巨室㆒。〔注〕巨室、大家也。❺**穴**。〔大戴禮、夏小正〕來降燕乃睇、注〕室、穴。❻**巢**。〔詩、豳風、鴟鴞〕無㆑毀㆓我室㆒。〔箋〕室、巢也。❼**つか**。〔詩、唐風、葛生〕歸㆓于其室㆒。〔箋〕室、猶㆓塚壙㆒。❽**刀劍のさや**。〔小爾雅、廣器〕刀之削、謂㆓之室㆒。〔方言、九〕劍削、自㆑河而北、燕趙之閒、謂㆓之室㆒。〔史記、刺客傳〕劍長操㆓其室㆒。〔注〕索隱曰、室、謂㆑鞘也。❾**妻**。〔禮、曲禮上〕三十曰㆑壯、有㆑室。〔注〕有㆑室、有㆑妻也、妻稱㆑室。❿**家財**。〔國語、楚語上〕施㆓二師㆒而分㆓其室㆒。〔注〕室、家資也。⓫**身**。〔淮南子、俶眞訓〕虛室生㆑白。〔注〕室、身也。⓬**星の名**。**はつゐ**。二十八宿の一。室宿(18)を見よ。⓭**姓**。〔萬姓統譜〕室、出㆓何氏姓苑㆒。［二］**すまひ**。〔集韻〕室、居也。

名乘 イヘ。ヤ。

解字 會意形聲。宀と至との合字。宀は人至り止まる所。故に室・屋、皆至に從ふ。至は又、音符。故に本義をへやの意とする。〔說文、室、室屋皆从㆑至、所㆑止也、段注〕室屋者、人所㆓至而止㆒也、說㆓从㆑至之意㆒、室兼㆓形聲㆒。

【室韋】1 シツヰ ❶種族の名。契丹中の北方に居住する部族。蒙古の東境、滿洲黑龍江省北境一帶の地に居住す。魏書には失韋に作り、北魏の孝靜帝の武定二年、初めて朝貢した。隋以後、室韋と書き、南室韋・北室韋・鉢室韋・深末怛室韋・大室韋の五大部に分れた。後、契丹に併合せらる。〔北史、室韋傳〕室韋國在㆓勿吉北千里㆒、去㆓洛陽㆒六千里、室或爲㆑失、蓋契丹之類、其南者爲㆓契丹㆒、在㆑北者號爲㆓失韋㆒、此部在㆓後魏時㆒始通㆓中國㆒、有㆓南室韋・北室韋・鉢室韋・深末怛室韋・大室韋之五部㆒、後爲㆓契丹所㆒㆑幷。❷縣名。民國、置く。清の室韋直隸廳の地。滿洲黑龍江省奇乾縣の西南。土名は吉拉林。唐代、室韋の地。〔清史稿、地理志〕黑龍江、附志、室韋直隸廳。

【室隩】2 シツイク 室の奥ふかいところ。隩は、へやのすみ。〔傅幹、王命敍〕靈光鑒㆓于室隩㆒、嘉禾滋㆓于邑壤㆒。

【室引】3 シツイン 複姓。〔唐書、宰相世系表一下〕河南房氏、晉初有㆓房乾㆒、本出㆓清河㆒、使㆓北虜㆒、留而不㆑遣、虜俗謂㆑房爲㆓屋引㆒、因改爲㆓室引氏㆒。

【室宇】4 シツウ 家。又、家の中。へや。室屋。室廬。〔晉書、石崇傳〕財產豐積、室宇宏麗。〔宋書、謝弘微傳〕室宇修整、倉廩充盈。〔韓愈、潮州祭神文〕置㆓立室宇㆒、備㆓具服器㆒。

【室筵】5 シツエン 室內に敷いたむしろ。疊。〔阪谷朗廬、記㆓標工㆒文〕每日出入、輒揭㆓室筵㆒。

【室屋】6 シツヲク いへ。へや。室宇に同じ。〔禮、月令〕愼毋㆑發㆑蓋、毋㆘發㆓室屋㆒及起㆗大衆㆖。〔荀子、禮論〕壙壠其貌象㆓室屋㆒也。〔管子、八觀〕宮營大、而室屋寡者、其室不㆑足㆔以實㆓其宮㆒。〔史記、天官書〕城郭室屋門戶之潤澤。〔漢書、鼂錯傳〕先爲㆓室屋㆒、具㆓田器㆒。

【室家】7 シツカ ❶室は夫婦の居る所、家は一門の內。轉じて、夫婦・家庭をいふ。〔書、仲虺之誥〕室家相慶。〔詩、周南、桃夭〕之子于歸、宜㆓其室家㆒。〔疏〕桓十八年左傳曰、女有㆑家、男有㆑室、室家謂㆓夫婦㆒也。〔集傳〕室、謂㆓夫婦所㆑居、家、謂㆓一門之內㆒。〔孔叢子、論書〕莫㆔克圖㆓室家之端㆒焉。❷家屋。へや。〔詩、豳風、鴟鴞〕曰㆓予未㆑有㆓室家㆒。〔集傳〕室家、巢也。〔論語、子張〕譬㆓之宮牆㆒、賜之牆也及㆑肩、窺㆓見室家之好㆒。〔墨子、尙賢中〕室家喪滅。〔荀子、榮辱〕室家立殘。

【室賀】8 ムロガ 姓氏。

【室鮫】9 サヤザメ 刀の鞘の外部に用ひる鮫皮。〔雍州府志〕是稱㆓室鮫㆒、則粧㆓刀室外㆒、漆㆓其上㆒。

【室學】10 シツガク 家學。〔論衡、實知〕雖㆑未㆘就㆓師家㆒問㆗室學㆖、人見㆓其幼成早就㆒。

【室匣】11 シツカフ はこ。いれもの。〔漢書、王莽傳下〕廢藏在㆓室匣中㆒者、出自樹㆓立外堂上㆒。

【室閒】12 シツカン 部屋。〔宋書、周朗傳〕室閒軒左、幸有㆓陳書十篋㆒。

【室居】13 シツキヨ 家にこもつて居る。又、その人。〔淮南子、時則訓〕命㆓有司㆒曰、土事無㆑作、無㆘發㆓室居㆒、及起㆗大衆㆖。

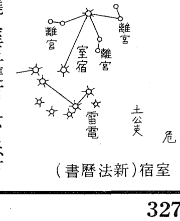
【室隅】14 シツグウ へやのすみ。〔書、禹貢、四隩既宅、疏〕室隅爲㆑隩。

【室外】15 シツグワイ 部屋の外。〔禮、曲禮上、飮食之客、疏〕賓位在㆓室外牖前㆒。〔水經、灅水注〕室外柱內、綺井之下。

【室戶】16 シツコ へやの戶。入口。〔詩、小雅、斯干、西㆓南其戶㆒、箋〕西㆓其戶㆒者、異㆓於一房者之室戶㆒也。

【室事】17 シツジ 正祭の事をいふ。尸が室に在るからいふ。〔禮、禮器〕他日祭、子路與、室事交㆓乎戶㆒、堂事交㆓乎階㆒。〔疏〕室事、謂㆓正祭之時事㆒、尸在㆑室、故云㆓室事㆒。

【室宿】18 シツシユク 二十八宿の一。北方玄武七宿の一。はつゐ。陰曆十月頃の夕に眞南に見える。ペガスス座の$\alpha\beta$星附近に當る。古は營室・定といつた。〔爾雅、釋天〕營室、謂㆓之定㆒。〔詩、鄘風、定之方中、集傳〕定、北方之宿、營室星也、此星昏而正中、夏正十月也、於㆓是時㆒可㆔以營㆓制宮室㆒、故謂㆓之營室㆒。〔禮、月令〕孟春之月、日在㆓營室㆒。〔丹元子步天歌〕室兩星上有㆓離宮出㆒、繞㆑室三雙有㆓六星㆒、下頭六箇雷電形、壘壁陣次十二星、十二兩頭大似㆑升、陣下分布羽林軍、四十五卒三爲㆑羣、軍西四星多難㆑論、仔細歷看㆓區分㆒、三粒黃金名㆓鈇鉞㆒、一顆眞珠北落門、門東入魁九箇子、門西一宿天綱是、雷傍兩星土公吏、室上騰蛇三十二。〔觀象玩占〕室星曰㆓營室㆒、一曰定星。



室宿（新法曆書）

【室舍】19 シツシヤ 家屋。〔漢書、藝文志〕形法者大擧㆓九州之勢㆒、以立㆓城郭室舍形㆒。

【室壽】20 ムロホギ 新室を開く祝宴。〔日本書紀、顯宗紀〕自整㆓衣帶㆒、爲㆓室壽㆒。

【室處】21 シツシヨ へや。家。〔唐書、崔郾傳〕室處痺漏、無㆓步廡㆒。

【室津】22 ムロツ 周防國の地名。

【室人】23 シツジン ❶夫の姊妹と娣姒。〔禮、昏義〕和㆓於室人㆒。〔注〕室人、謂㆓女妐・女叔・諸婦㆒也。〔疏〕是在㆑室之人、非㆓男子㆒也、女妐、謂㆓壻之姊㆒也、女叔、謂㆓壻之妹㆒、諸婦、謂㆓娣姒之屬㆒。❷主人。〔詩、小雅、賓之初筵〕賓載手㆑仇、室人入㆑又。〔傳〕室人、主人也。❸家人。〔詩、邶風、北門〕我入㆑自㆑外、室人交徧讁㆑我。〔列子、周穆王〕既歸、告㆓其室人㆒。〔墨子、尙同中〕其室人未㆓偏知㆒。❹妻妾の通稱。〔孔叢子、記義〕公父文伯死、室人有㆓從死者㆒、其母怒而不㆑哭、相室諫㆑之、其母曰、孔子天下之賢人也、不㆑用㆓於魯㆒、退而去、是子素宗㆑之而不㆑能㆑隨、今死而內人從死者二人焉、若㆑此、於㆓長者㆒薄、於㆓婦人㆒厚也。〔後漢書、曹世叔妻傳〕室人和則謗掩、外內離則惡揚。〔江淹、悼㆓室人㆒詩〕佳人永暮矣、隱憂遂歷㆑茲、寶燭夜無㆑華、金鏡晝恆微。❺婦人封贈の號。宋の政和中、郡縣君を改めて七等とし、縣君を室人・安人・孺人とした。後、宜人と改む。宜人(3-7111・・47)の❶を見よ。

【室妾】24 シツセフ 妻と妾。妻妾。〔申鑒、雜言上〕陶朱既富、室妾悲號。

【室族】25 シツゾク 一族。家庭。室屬。〔後漢書、李膺傳論〕幽二深牢一、破二室族一而不レ顧、至下于子伏二其死一而母歡中其義上。

【室屬】26 シツゾク 室族に同じ。〔宋書、謝晦傳〕擒二其二晦之室屬一、縲二仆獄戶一。

【室孫】27 シツソン 複姓。〔通志、氏族略、以二國系一爲レ氏〕室孫氏、王室之孫也、古有二室孫氏一著レ書、姓纂云、今棣州有二室孫氏一。

【室第】28 シツダイ シツテイ 家屋。住宅。〔後漢書、董卓傳〕是時洛中貴戚、室第相望。

【室堂】29 シツダウ 住宅。堂は前に、室は後に在る。〔禮、內則〕斂二枕簟一、灑二掃室堂及庭一。〔史記、秦始皇紀〕爲二室堂一未レ就、會上崩。

【室宅】30 シツタク すまひ。家。〔漢書、王莽傳中〕是時、長安民聞三莽都二雒陽一、不レ肯三繕二治室宅一。〔淮南子、齊俗訓〕趍舍禮俗、猶二室宅之居一也。

【室中】31 シツチユウ ㊀へやの中。〔周禮、考工記、匠人〕室中度以レ几。〔禮、曲禮上〕室中不レ翔。〔後漢書、光武帝紀論〕有二赤光一、照二室中一。㊁複姓。〔通志、氏族略、附複姓〕室中氏、漢書藝文志有二室中周一、著書十篇、王莽時、室中公避二地漢中一、漢功臣表、清簡侯室中同。

【室女】32 シツヂヨ ㊀處女。〔鹽鐵論、刑德〕室女童婦、咸知レ所レ避、是以法令不レ犯、而獄犴不レ用也。〔柳宗元、饒娥碑〕娥爲二室女一、淵懿靖專。㊁星座の名。乙女(**1－161‥36**)の㊂を見よ。

【室內】33 シツナイ へやの中。〔列子、楊朱〕室內之有亡。〔史記、楚世家〕埋二璧於室內一。〔庾信、溫湯碑〕室內江流、彌彰二純孝一。

【室昉】34 シツハウ 遼、南京の人。字は夢奇。會同の進士。官は工部尚書。封は鄭國公。〔遼史、七十九〕。

【室傍】35 シツバウ 室の側。〔後漢書、蔡邕傳〕母卒、廬二于冢側一、動靜以レ禮、有レ菟馴二擾其室傍一。

【室婦】36 シツプ 息婦をいふ。息婦(**4－10601‥92**)を見よ。

【室廡】37 シツブ 家屋をいふ。廡は大きな家。〔管子、國畜〕夫以二室廡一籍、謂二之毀成一。

【室廟】38 シツベウ 家とおたまや。〔墨子、大取〕若二山丘室廟一者、皆是也。

【室奉】39 シツホウ 居室を作る材料。〔管子、山國軌〕握以下者爲二柴楂一、把以上者爲二室奉一。

【室禮】40 シツライ 中古、請客饗宴・移轉・女御入內・聟知露顯、其の外、晴れの儀式に、寢殿の母屋や廂に調度を立てて室內を裝飾したこと。〔禁中方名目抄校注〕。

【室老】41 シツラウ 家臣の長。家老。國老。〔儀禮、喪服〕公卿大夫室老士貴臣、其余皆衆臣也。〔注〕室老、家相也。〔左氏、襄、二十一〕室老聞レ之曰、樂王鮒言二於君一、無レ不レ行、求レ赦二吾子一、吾子不レ許。〔會箋〕室老、家宰之長。

【室律】42 シツリツ 旅館の規則。〔荀子、王制〕平二室律一。〔注〕室、逆旅之室、平二其室之法一。

【室廬】43 シツリヨ すまひ。家。室屋。室宇。〔管子、山國軌〕小家爲二室廬一者服二小租一。〔史記、平準書〕室廬輿服、僭二于上一。〔漢書、東方朔傳〕壞二人冢墓一、發二人室廬一。

【室露】44 シツアラハル 室が壞れて野ざらしになる。〔莊子、漁父〕田荒室露、衣食不レ足、徵賦不レ屬。〔集釋〕慶藩案、荒・露、謂二荒蕪・敗露一。

【異レ室】45 シツヲコトニス 居室を異にして住む。夫婦の禮。〔詩、王風、大車〕穀則異レ室、死則同レ穴。〔傳〕生在二於室一、則外內異。

【受レ室】46 シツヲウク 妻を貰ふ。〔左氏、桓、六〕今以二君命一奔二齊之急一、而受レ室以歸、是以レ師昏也、民其謂二我何一。〔會箋〕室卽妻也。

【盡レ室】47 シツヲツクス 家財を盡く取りまとめ携へる。〔左氏、文、十四〕三年而盡レ室以復適レ莒。〔左氏、成、二〕巫臣盡レ室以行。〔箋〕盡レ室、謂三盡齎二其財一也。

【正レ室】48 シツヲタダス 家庭を修める。〔易、小畜〕夫妻反目、不レ能レ正レ室也。

【入レ室】49 シツニイル 學問技藝の蘊奥を極める喩。室は奥の間、轉じて、深奥の處。〔論語、先進〕子曰、由也升レ堂矣、未レ入二於室一也。〔集注〕升レ堂入レ室、喩二入レ道之次第一、言、子路之學、已造二乎正大高明之域一、特未三深入二精微之奥一耳。

【入レ室操レ戈】50 シツニイリテホコヲトル 他人の武器を利用して其の人を攻擊する喩。後漢の何休が、鄭玄の駮論を歎稱した故事。〔後漢書、鄭玄傳〕任城何休、好二公羊學一、遂著二公羊墨守・左氏膏肓・穀梁癈疾一、玄乃發二墨守一、鍼二膏肓一、起二癈疾一、休見而歎曰、康成入二吾室一、操二吾矛一以伐レ我乎。〔書言故事大全、事物譬類〕入レ室操レ戈、以二夫子之道一、反害二夫子一、入レ室之道。

【室鳩巢】51 ムロキウサウ 江戶の人。名は直清。幼名は孫太郎。字は師禮・汝玉。小字は順祥。通稱は新助。號は鳩巢・滄浪・駿臺。木下順庵を師とす。經學は程朱を固守し、專ら名教の維持を以て己が任とした。官は幕府儒官。享保十九年八月十二日、歿す、年七十七。從四位を贈らる。著に赤穗義人錄・歸嬰俗解・鳩巢逸話・鳩巢集外纂・鳩巢書簡・鳩巢先生祕錄・鳩巢小說（一名、可觀小說）・鳩巢百韻詩・鳩巢先生文集（前編・後編・補遺）・楠正成諸士教・獻可錄・兼山麗澤祕策（一名、鳩巢手簡）・五常五倫名義・國喪正議・周易講義・周易新疏・四書講義・士說・神儒問答・駿臺雜話・駿臺翁遺訓・西銘解義・西銘詳義・大學章句新疏・太極圖述・太平推固記・中庸章句新疏・中庸名義・朝鮮客館詩文稿・不亡抄・文公家禮通考・名君家訓・六諭衍義大意がある。〔先哲叢談、正、五〕・〔近代名家著述目錄〕・〔國書解題〕。

【室點密】52 シツテンミツ 突厥の可汗。一に瑟帝米に作る。西突厥の始祖といふ。〔舊唐書、一百九十四〕・〔唐書、二百十五〕。

【榮二於室一】53 シツニサカユ 妻が夫の權勢につれて榮耀を得ること。〔北史、魏廣平王洛侯傳〕夫貴二於朝一、妻榮二於室一、婦女無二定升一、從二其夫一。

【室邇人遠】54 シツチカクヒトトホシ 思を寄せてゐる男の家は近いが、迎へには仲々來てくれぬ。慕つてゐて會はれぬ喩。〔詩、鄭風、東門之墠〕其室則邇、其人甚遠。〔箋〕其室則近、謂三所レ欲レ奔男之家一、望二其來迎一レ己、而不レ來則爲レ遠。〔集傳〕室邇人遠者、思レ之而未レ得レ見之詞也。〔梁書、阮孝緒傳〕望而歎曰、其室雖レ邇、其人甚遠。

【室如二縣罄一】55 シツケンケイノゴトシ 赤貧の喩。縣は懸。罄は磬と同じで、樂器の名。磬を懸けた形は中高で兩旁が下り、其の間は空洞で一物もない。家が屋根や壁ばかりで、室中一物もないこと。〔左氏、僖、二十六〕室如二縣罄一、野無二青草一。〔會箋〕說文、罄、器中空也、罄、國語作レ磬、文王世子磬二于甸人一、疏、援二此傳文一、正作レ磬、而下著二皇氏說一、亦云レ如レ縣二樂器之磬一、又大戴禮有二本云、縣二一罄一而尙搏拊、是罄磬古字通借、樂記石聲磬、注讀爲レ罄、卽其例也、磬有二中空之象一、凡器中空、皆謂二之罄一、如三詩云二瓶之罄矣一、是也、空則有二盡義一、故又謂レ盡爲レ罄、詩云二罄無レ不レ宜、是也、如、如レ字讀、室如二縣罄一者、罄之懸者、中高而兩旁下、其閒空洞無レ物、今人民貧乏、家無二儲蓄一、止餘二屋舍一、屋脊高起、而兩簷下垂、望レ之適如二罄形一也。〔六部成語、戶部、室如二懸罄一、注解〕室中空無レ所レ有。

【室不レ崇レ壇】56 シツダンヲタカクセズ 室を作つても、家の基を高くしない。奢らない喩。〔左氏、哀、元〕居不レ重レ席、室不レ崇レ壇。〔箋〕不レ崇レ壇、言レ不三崇二高其壇一、非レ不レ起レ壇、壇者、堂之基砌也。

【室名索引】57 シツメイサクイン 書名。一冊。民國、陳乃乾・陶毓英共撰。文人雅士の書齋亭館の名を列擧す。

【築二室東坡一】58 シツヲトウバニキヅク 宋の蘇軾が室を東坡に築いた故事。〔宋史、蘇軾傳〕以二黃州團練副使一安置、軾與二田父野老一相二從溪山閒一、築二室於東坡一、自號二東坡居士一。

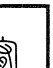
【在レ室則忘レ坐】59 シツニアレバザスルコトヲワスル 室に居る時には現に坐して居ることを忘れる。善く忘れる喩。〔列子、周穆王〕在レ塗則忘レ行、在レ室則忘レ坐。

【怒レ室者色レ市】60 シツニイカルモノハイチニイロス 室於怒市於色に同じ。〔戰國、韓策〕語曰、怒二於室一者色二於市一。今公叔怨レ齊、無二奈何一也。

【室於怒市於色】61 シツニイカリテイチニイロス 怒二於室一色二於市一の倒裝。家の內の怒りを人の聚まる市で漏らす。やつあたりする。怒りを遷す。〔左氏、昭、十九〕諺所謂室於怒市於色者、楚之謂矣。〔疏〕室內於二自家一相瞋怒、市於二他人一作二色忿一。

【宥】

7137 イウ ウ 〔集韻〕尤救切 宥 ㄧㄡˋ yu⁴



小篆 ❶**ゆるす。ゆるめる。**〔說文〕宥、寬也、从レ宀有聲。〔廣雅、釋言〕宥、赦也。〔書、舜典〕流宥二五刑一。〔傳〕宥、寬也。〔周禮、秋官、司刺〕掌二三刺・三宥・三赦之灋一。〔注〕宥、寬也。〔左氏、成、三〕以相宥也。〔注〕宥、赦也。❷**寬仁。又、ひろく深い。**〔詩、周頌、昊天有成命〕夙夜基レ命宥密。〔箋〕行二其寬仁安靜之政一、以定二天下一、寬仁所三以止二苛刻一也。〔集傳〕宥、宏深也。❸**廣大な建造物。**〔說文通訓定聲〕按、廣廈容レ人、曰レ宥。❹ひきでもの。客をもてなす酒宴の喜びを助けるもの。侑(1－594)に通ず。〔說文通訓定聲〕宥、叚借爲レ侑。〔左氏、莊、十八〕晉侯朝レ王、王饗醴、命二之宥一。〔注〕宥、助也、所三以助二歡敬之意一、言二備設一。❺**利とする。**〔呂覽、去宥〕此有レ所レ宥也。〔注〕宥、利也。❻**たすける。**〔漢書、禮樂志〕神若レ宥レ之。〔注〕師古曰、宥、祐也。❼**みぎ。**右(2－3250)に通ず。〔荀子、宥坐〕宥坐之器。〔注〕宥、與レ右同、言下人君可中置二於坐右一以爲上レ戒也。❽又(2－3115)に通ず。〔禮、王制〕王三又然後制レ刑。〔注〕又、當レ作レ宥。❾**姓。**〔正字通〕宥、姓。❿**一百六韻の一。**去聲第二十六。邦**なだめる。**やはらげる。あつかふ。機嫌をとる。

名乘 スケ。ヒロ。

【宥函】1 イウカン 清、孔繼鑅(3－6933‥286)の字。

【宥涵】2 イウカン 清、吳啓昆(2－3365‥518)の字。

【宥過】3 イウクワ 過ちをゆるす。〔書、大禹謨〕宥レ過無レ大、刑レ故無レ小。〔孔融、與二王朗一書〕貴レ德宥レ過。

【宥原】4 yu⁴ yüan² 罪をゆるす。原もゆるす意。

【宥減】5 yu⁴ chien³ 寬宥して、刑を輕減する。

【宥坐】6 イウザ 宥座。❶座のほとり。座右。宥坐之器を見よ。❷荀子の篇名。

〔宥坐之器〕7 イウザノキ 座右に置いて訓戒とする道具。宥は右。一說に、宥は侑、すすめる。欹器。宥巵。〔荀子、宥坐〕孔子觀二於魯桓公之廟一、有二欹器一焉、孔子問二於守レ廟者一曰、此爲二何器一、守廟者曰、此蓋爲二宥坐之器一。〔注〕宥、與レ右同、言下人君可中置二於坐右一以爲上レ戒也、說苑作二坐右一、或曰、宥、與レ侑同、勸也、文子曰、三皇五帝有二勸戒之器一、名二侑巵一、注云、欹器也。〔孔子家語、三恕〕對曰、此蓋爲二宥坐之器一。

【宥座】8 イウザ 宥坐に同じ。〔韓詩外傳、三〕對曰、此蓋爲二宥座之器一。

【宥罪】9 イウザイ 罪を赦す。宥赦。〔易、解〕君子以赦レ過宥レ罪。〔左氏、昭、十三〕宥レ罪擧レ職。

【宥巵】10 イウシ 宥坐之器に同じ。〔淮南子、道應訓〕孔子觀二桓公之廟一、有レ器焉、謂二之宥巵一。

【宥州】11 イウシウ 州名。唐、置く。內蒙古の鄂爾多斯右翼の地。新舊二州ある。〔元和志〕廢宥州在二鹽州東北三百里一、開元二十六年置、後廢、新宥州在二廢宥州東北三百里一、元和九年置。

【宥赦】12 イウシヤ 罪をゆるす。宥罪。宥免。赦宥。赦免。〔周禮、秋官、司刺〕掌二三刺・三宥・三赦之法一。〔國語、吳語〕以心孤二句踐一、而又宥二赦之一。

【宥恕】13 イウジヨ 大目に見る。見のがす。寬宥。宥免。〔王珪、仁宗皇帝上二徽號一文〕宥二恕刑獄一、懷二保鰥寡一。

【宥全】14 イウゼン たすけて安全にする。〔後漢書、楚王英傳〕欲丁宥二全王身一、令丙保乙卒天年甲。

【宥善】15 イウゼン 善い行ひを勸める。〔吳志、陸抗傳〕蓋周禮有二赦賢之辟一、春秋有二宥善之義一。

【宥貸】16 イウタイ 罪をゆるす。〔魏武帝、與二太尉楊彪一書〕謂二其能改、遂轉寬舒、復卽宥貸一。

【宥圖】17 イウト 罪を赦し助ける工夫をする。〔呂覽、行論〕大國若宥二圖之一、唯命是聽。

【宥弼】18 イウヒツ たすける。又、輔佐の人。〔王珪、田況可二樞密副使一誥〕倚二爾忠力之良一、置二諸宥弼之地一。

【宥謐】19 イウヒツ 宥密に同じ。〔新書、禮容語下〕成王不二敢康一、夙夜基レ命宥謐。

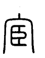
【宥府】20 イウフ 樞密府をいふ。〔書言故事、樞密類〕樞密府謂二宥府一。

【宥密】21 イウミツ ゆるくしづかなこと。寬仁と安靜。一說に、宥は宏深、密は靜密。宥謐。〔詩、周頌、昊天有成命〕夙夜基レ命宥密。〔傳〕宥、寬、密、寧也。〔集傳〕宥、宏深也、密、靜密也。

【宥免】22 イウメン 罪を許す。宥恕。〔北史、郭祚傳〕赦二前之罪一、不レ問二輕重一、皆蒙二宥免一。

【宥連】23 イウレン 複姓。〔魏書、官氏志〕宥連氏、後改爲二雲氏一。

【宦】7138



小篆 クヮン ゲン 〔集韻〕胡慣切 諫 ㄏㄨㄢˋ huan⁴

❶**つかへる。**宮づかへする。〔說文〕宦、仕也、从二宀臣一。〔國語、越語上〕令二孤子・寡婦・疾疹・貧病者、納二宦其子一。〔注〕宦、仕也。〔國語、越語下〕入宦二於吳一。〔注〕宦、爲二臣隸一也。❷**まなぶ。宦を見ならふ。**官吏となる心得を學ぶ。〔說文通訓定聲〕宦、猶二今之試用學習之宦一也。〔禮、曲禮上〕宦・學事レ師。〔注〕宦、仕也。〔疏〕熊氏云、宦、謂レ學二仕官之事一。〔左氏、宣、二〕宦三年矣、未レ知二母之存否一。〔注〕宦、學也。〔疏〕正義曰、曲禮云、宦・學事レ師、則二者俱是學也、但宦者學レ仕。❸**つかさ。**みやづかへ。〔南史、陶潛傳〕弱年薄宦。❹**つかさびと。**官吏。〔唐書、王博傳〕羣宦不レ平。❺**やしなふ。**豢(10－36380)に通ず。〔說文通訓定聲〕宦、叚借爲レ豢。〔范曄、宦者傳論、注〕善曰、宦者、養也、養二閹人一使三其看二宮人一、此是小臣。❻**養はれるもの。**小臣。宦者。〔集韻〕宦、一曰、閹人。〔左氏、僖、十七〕妾爲二宦女一焉。〔後漢書、黃瓊傳〕豎宦充レ朝。❼或は倌(1－909)・㑥(1－546)に作る。〔集韻〕宦、或作レ㑥、亦省。❽**姓。**〔萬姓統譜〕宦、東陽商音。〔江陰縣志〕明宦續、字宗熙、永樂二年進士。

名乘 ノブ。

解字 會意。宀と臣との合字。本義を仕、卽ち學ぶとする。故に宀(官廳)と臣とを合す。君に仕へることを學ぶ者、卽ち見習官吏の義。轉じて、一般の役人をいふ。〔說文、宦、段注〕人部曰、仕者、學也。〔說文通訓定聲〕宦、仕也、从レ宀从レ臣、會意、猶二今試用學習之官一也。

參考 宧(3－7139)は別字。

【宦遊】1 クヮンイウ 他國に出て役人となる。仕官する爲に鄕里を出る。宦游。官遊。〔史記、司馬相如傳〕吉曰、長卿久宦遊、不レ遂而來過レ我。〔杜審言、和二晉陵陸丞早春遊望一詩〕獨有二宦遊人一、偏驚二物候新一。〔陸游、醉中作詩〕宦遊三十載。

【宦裔】2 huan⁴ i⁴ 官吏の後裔。

【宦要】3 クヮンエウ 官職に在るものの費用。〔唐書、王播傳〕帝嘉二其功一、超二拜禮部尙書一、稍以二貲財一給二宦要一。

【宦家】4 huan⁴ chia¹ 官吏の家柄。

〔宦家子弟〕5 huan⁴ chia¹ tzŭ³ ti⁴ 官吏の子弟。

【宦海】6 クヮンカイ 官吏の社會。官海。官界。〔仙傳拾遺〕顏眞卿、年十八九時、擧二進士甲科一、有二道士一過二其家一、自稱二北山君一、謂レ之曰、子有二清簡之名一、已誌二金臺一、可下以度二世上一補中仙官上、不レ宜三自沉二于名宦之海一。

【宦學】7 クヮンガク 官吏となる心得をまなぶ。又、仕官の心得を學び、六藝を學ぶ意。或は仕官してから學ぶことと、仕官しない前に學ぶ意ともいふ。〔禮、曲禮上〕宦學事レ師、非レ師不レ親。〔注〕宦、仕也。〔疏〕熊氏云、宦、謂レ學二仕官之事一、學、謂三習二學六藝一。〔孫希旦集解〕宦謂二已仕而學者一、學謂二未レ仕而學者一。〔漢書、樓護傳〕以二君卿之才一、何必宦學乎。〔後漢書、應劭傳〕諸子宦學、並有二才名一。〔新書、禮〕宦學事レ師、非レ禮不レ親。〔顏氏家訓、後娶〕宦學婚嫁、莫レ不レ爲レ防焉。

【宦牛】8 クヮンギウ きんきりうし。去勢した牛。閹牛。〔肘後經〕騸馬・宦牛・羯羊・閹豬。

【宦況】9 クヮンキヤウ 仕宦の情況。官界に於ける境遇。

〔方夔、詩〕一點眉黃無二宦況一、五分頭白總詩愁。〔豐坊、詩〕宦況從來薄、幽居頗自厭。

【宦境】10 クワンキヤウ 宦況に同じ。

【宦官】11 クワングワン ㊀宮中の官。去勢せられた男子で宮廷に使役せられた者。中國・朝鮮・安南・印度・波斯・希臘・羅馬等に行はれ、特に中國に於ては周代に既に存し、寺人・閹人等と稱して、宮中に使役せられ、女官の監督、宮中の雜役に使用せられ、諸侯以下の權勢家にも使用せられた。戰國時代、既に政治上の勢力を占め、後漢・唐・明の三代に於ては特に甚しく、常に禍亂の基となつた。歷代、宦官に充てられるものに凡そ四種ある。一、邊裔の俘虜(唐の高力士・明の王安卽不花都・孟驥卽添兒など)。二、外國からの貢進者及び輸入奴隸(元の朴不花・明の陳蕪など)。三、特別の事情に因つて宮刑に處せられた罪人。(隋唐以後は宮刑を廢したが、遼・明・清は復活して、罪人の子孫の幼少な者に宮刑を加へて使役した)。四、自ら宮した者。(志願者、及び親の命令で閹割せられた準自宮者。この種のものが最も多い)。閹官。奄官。奄人。中官。宦者。宦夫。宦者傳(18)を見よ。〔漢書、惠帝紀〕宦官尙食比二郎中一。〔後漢書、宦者傳序〕中興之初、宦官悉用二閹人一、不三復雜二調它士一。〔日知錄、政事、宦官〕漢和熹鄧后詔、中官近臣於二東觀一受レ讀二經傳一、以敎二授宮人一、秦苻堅選下奄人及女隸有二聰識一者上、置二博士一授レ經、若下夫巷伯能レ詩、列二於小雅一、史游急就著中在藝文上、古固有レ之、而不レ限二其人一也、我太祖深懲二前代宦寺之弊一、命二內宮一不レ許レ識レ字、永樂以後此令不レ行、宣德中乃有二內書堂之設一、昔隋蔡允恭爲二起居舍人一、帝遣レ敎二宮人一、允恭恥レ之、數稱レ疾、宋賈昌朝爲二侍講一、以三編二修資善堂書籍一爲レ名、而寔敎二授內侍一、諫官吳育奏罷レ之、以二宣廟之納一レ諫求レ言、而廷臣未レ有三論及レ此者一、馴三致秉筆之奄、其尊侔二於內閣一、而大權旁落不レ可二復收一、得レ非二內書堂階之厲一乎、周禮寺人、王之正內五人、內豎倍二寺人之數一、當時贅御之臣、皆是士人、而婦寺之權衰矣、唐太宗詔、內侍省不レ立二三品官一、以二內侍一爲二之長一、階二第四一、不三任以二レ事、惟門閤守禦、庭內掃除、稟食而已、武后時、稍增二其人一、至二中宗一黃衣乃二千員、玄宗時、宮嬪大率至二四萬一、宦官黃衣以上三千員、是知、宦官之盛由二於宮嬪之多一、而人主欲レ不レ近二刑人一、則當三以レ遠レ色爲レ本。〔清國行政法汎論、宦官〕虞舜五刑、有二宮刑之目一、而奄官之名、則始二于周代一、皆用二刑餘罪人一、奉二仕宮廷一、周官掌戮云、宮者使レ守レ內、是也、但周之世、奄官之數太少、僅有二四十人一、又其帶レ爵者、獨內小臣一人耳、且不レ得レ逾二上士一也、其他皆服二賤役一、與二輿隸一無レ擇焉、故無三民人自宮以進者一、明矣、春秋之世、齊桓公臣豎刁、自宮以治レ內、自進爲二奄人一者、蓋始二于此一、當二是之時一、諸侯奢侈、女寵闐溢、男子虞二其外遇一而爲二之防一、乃馴下致設二奄官一之制上、至三刑餘罪人不レ足二以充一レ之、則無恥之細民、竊見三奄官權勢漸加漸大一、亦欲レ遂二利慾之情一、自殘二其肢體一、企三圖出二入宮廷一、漢文帝始除二肉刑一、然至二宮刑一無レ幾復設、歷朝相沿施行、隋文帝盡廢レ之、自レ時厥後、刑餘之爲二奄官一者、殆絕矣、故宦官者、皆出三於其所二自欲一也、夫欲三自進爲二奄官一、實可レ怪之甚者也、然彼固無二廉恥一、不レ辭二賤役一、只謀下藉二權勢一貪中安逸上也、故其一入二宮廷一也、漸得二其勢一、欺二罔君主一、排二擠賢良一、結レ類成レ惡、黨同伐レ異、無レ所二底止一、不二亦宜一哉、遠則漢唐、近則朱明、國之亡滅、未三嘗不レ因二於彼輩跋扈跳梁一也。㊁官吏。〔古詩、爲二焦仲卿妻一詩〕說有二蘭家女一、承レ籍有二宦官一。

【宦孽】12 クワンゲツ 惡い宦官。〔後漢書、靈帝紀贊〕靈帝負乘、委二體宦孽一、徵亡備レ兆、小雅盡缺。

【宦貲】13 huan^4 tzu^1 官吏の收入。

【宦寺】14 クワンジ 宦官。宦官に宦人と寺人とがあり、合して宦寺といふ。〔唐書、李石傳〕方二是時一、宦寺氣盛、陵二暴朝廷一。

【宦事】15 クワンジ 官吏として事へる。〔史記、留侯世家〕秦滅レ韓、良年少、未三宦二事韓一、韓破。

【宦侍】16 クワンジ 宮中の小役人。宦官。〔唐書、呂溫傳〕時吉甫爲二宦侍所一レ抑、溫乘二其閒一、謀レ逐レ之。

【宦者】17 クワンジヤ ㊀宦官(11)の㊀に同じ。〔史記、太倉公傳〕臣意卽告二宦者平一。〔史記、廉頗藺相如傳〕藺相如者、趙人也、爲二趙宦者令繆賢舍人一。〔漢書、樊噲傳〕上獨枕二一宦者一臥。〔稱謂錄、太監古稱、宦者〕唐書劉蕡傳、蕡對策詆二宦者一、考官不二敢取一、李郃曰、劉蕡下第、我輩登科、能無二厚顏一。㊁帝座の傍にある星の名。〔後漢書、宦者傳序〕宦者四星、在二皇位之側一。〔星經〕天市垣、帝座旁宦者四星、微芒、去レ極七十六度半、入二尾宿一九度半。

【宦者傳】18 クワンジヤデン 宦者の列傳。後漢書・舊唐書・唐書・五代史・宋史・金史・元史・遼史・明史に此の目がある。

〔宦者令〕19 クワンジヤレイ 宦者の長官。〔稱謂錄、太監古稱、宦者令〕杜氏通典、戰國時有二宦者令一、趙有二宦者令繆賢一是。

【宦情】20 クワンジヤウ 仕官したい志。〔晉書、阮裕傳〕吾少無二宦情一。〔北史、序傳〕仲擧曰、吾性本疏惰、少無二宦情一。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩、徐幹〕少無二宦情一、有二箕潁之心一。〔韓愈、合江亭詩〕初如レ遺二宦情一、終乃最二郡課一。

【宦守】21 クワンシユ 官吏としての職責。官吏のつとめ。〔藤森弘庵、春雨樓記〕其不レ知二夜雨之奇一、非レ以二歌吹一、而宦守累二之心一也。

【宦豎】22 クワンジユ 宦官を賤しめていふ語。〔漢書、蕭望之傳贊〕卒爲二便嬖宦豎所一レ圖、哀哉。〔後漢書、鄭太傳〕討二滅宦豎一。

【宦人】23 クワンジン 宦者をいふ。〔史記、李斯傳〕夫高故宦人也、云云、以レ忠得レ進。〔後漢書、宦者傳序〕然宦人之在二王朝一者、其來舊矣、將以下其體非二全氣一、情志專良、通二關中人一、易中以役養上乎。

【宦成】24 クワンセイ 仕官して立身出世すること。官吏となつて年久しいもの。官成(**3**-**7107**・・192)の㊁に同じ。〔說苑、敬愼〕官怠二於宦成一、病加二於少愈一。

【宦籍】25 クワンセキ 官吏の名籍。官吏の地位。〔史記、蒙恬傳〕毅不二敢阿一レ法、當二高罪死一、除二其宦籍一。

【宦族】26 クワンゾク 官吏。〔剪燈新話、金鳳釵記〕與二宦族崔君一爲レ鄰。

【宦達】27 クワンタツ 官吏として立身する。〔李密、陳情表〕本圖二宦達一、不レ矜二名節一。〔范梈、寒食後百丈山夜坐詩〕以レ閒酬二宦達一、將レ病抵二心慵一。

【宦場】28 クワンチヤウ 官場(**3**-**7107**・・243)の㊀に同じ。

〔宦場習氣〕29 huan^4 ch'ang^3 hsi^2 ch'i^4 官界の習慣。

【宦女】30 クワンヂヨ ㊀宮中に仕へてゐる女。〔左氏、僖、十七〕惠公之在レ梁也、梁伯妻レ之、梁嬴孕過レ期、卜招父與二其子一卜レ之、其子曰、將レ生二一男一女一、招曰、然、男爲二人臣一、女爲二人妾一、故名レ男曰レ圉、女曰レ妾、及二子圉西質一レ秦、妾爲二宦女一焉。㊁官婢をいふ。罪に捕はれて官の奴隸となつた女。〔周禮、天官、序官、酒人、奚三百人、注〕古者從坐男女沒二入縣官一爲レ奴、其少二才知一以爲レ奚、今之侍史・官婢、或曰二奚・宦女一也。〔疏〕或曰二宦女一者、漢時有二此別號一。〔孫許讓正義〕謂、此奚卽宦女、對三前奄爲二宦男一、司刑注云、宮者、丈夫則割二其勢一、女子閉二於宮中一、若二今宦男女一也、然則漢時官婢、猶三男之有二官奴一、宦女、猶三男之有二宦人一、二名小異、宦女非二卽官婢之別號一也。㊂宦官と女子。〔五代史、宦者傳序〕自レ古宦女之禍深矣。

【宦程】31 クワンテイ 任に赴く期限。〔晁補之、初望二廬山一詩〕宦程正迫西風息、未二是廬山竚足人一。

【宦牒】32 クワンテフ 官位の記錄。牒は、官位を記すふだ。〔海錄碎事、人事、祿仕〕粗霑二文科一、遂汙二宦牒一。

【宦途】33 クワント 官吏の席次や升降をいふ。又、仕官のみち。官途。官場。〔南齊書、王晏傳〕晏閭閻凡伍、少無二特操一、階二緣人乏一、班二齒宦途一。〔白居易、贈二吳丹一詩〕宦途似二風水一。〔陸游、游山詩〕果向二此中一能得レ趣、宦途捷徑不レ須レ會。

【宦囊】34 クワンナウ 官吏在職中の貯蓄。〔還魂記、訓女〕宦囊清苦。

【宦夫】35 クワンプ 宦者。〔後漢書、宦者傳論〕成敗之來、先史商レ之久矣、至三於釁起二宦夫一、其略猶或レ可レ言。

【宦味】36 クワンミ 官界の氣持。〔范梈、立春日和二王翰林一詩〕歲華今若レ此、宦味故依然。〔高叔嗣、詩〕宦味同二雞肋一、官程任二馬蹄一。

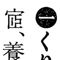
【宦門】37 クワンモン 官吏の家族。

〔宦門子弟錯立身〕38 クワンモンシテイサクリツシン 明の戲曲の名。永樂大典本戲文三種の一。河南府同知延氏の子壽馬と女優王金榜との情事を記す。

【宦吏】39 クヮン リ　奄人で吏となつたもの。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕宦吏忮佷必欲二自勝一。〔注〕師古曰、宦吏、奄人爲二皇后吏一也。

【宦侶】40 クヮン リヨ　官吏。〔沈約、和二謝宣城一詩〕從ㇾ宦非二宦侶一、避ㇾ世非ㇾ避ㇾ喧。

【宧】7139　イ　〔集韻〕盈之切　一ˊ i²　支



小篆

❶くりや。室の東北隅。〔説文〕宧、養也、室之東北隅、食所ㇾ居、从ㇾ宀匝聲。〔説文通訓定聲〕宧、或曰、古人庖廚食閣、皆在二室之東北隅一。〔爾雅、釋宮〕室東北隅、謂二之宧一。〔李注〕東北陽氣始起、育二養萬物一、故曰ㇾ宧、宧者、養也。❷西日のあかり。〔爾雅、釋宮、注〕宧、日側之明也。❸やしなふ。頤(12－43455)に通ず。〔説文〕宧、養也。〔王注〕易序卦、頤者、養也、宧、卽古頤字。〔説文通訓定聲〕宧、按、以ㇾ頤爲ㇾ訓也。

參考　宦(3－7138)は別字。

【宨】7140　テウ　〔集韻〕土了切　篠

ほしいまま。〔爾雅、釋言〕宨、肆也。〔注〕輕宨者好放肆。

【⿱宀缶】7141　ハウ　宲(3－7099)に同じ。〔正字通〕⿱宀缶、同ㇾ宲。

【宩】7142　ネイ　寧(3－7296)に同じ。〔正字通〕宩、與ㇾ寧同。

【⿱宀吉】7143　ガイ　害(3－7165)に同じ。〔字彙補〕⿱宀吉、害字省文。

【⿱宀多】7144　ギ　宜(3－7111)の古字。〔廣韻〕宜、匇匇・⿱宀多、並古文。

【⿱宀谷】7145　ヒン　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱宀谷、音賓。

【⿱宀右】7146　ジャク　若(9－30796)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱宀右、同ㇾ若。

【⿱宀来】7147　シ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱宀来、音屎。

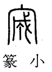
【宪】7148　キョウ・バウ・コン　義未詳。〔搜眞玉鏡〕宪、香重切、又莫報切、又呼困切。

【⿱宀⿱由一】7149　タイ　義未詳。〔五音篇海〕⿱宀⿱由一、音怠。

【⿱宀𠂤】7150　クヮン　官(3－7107)の本字。〔正字通〕官、説文作ㇾ⿱宀𠂤。

七畫

【宬】7151　セイ ジャウ　〔集韻〕時征切　ㄔㄥˊ ch'êng²　庚



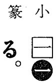
小篆

❶物おき。くら。〔説文〕宬、屋所二容受一也、从ㇾ宀成聲。〔段注〕宬之言、盛也。〔廣雅、釋器〕宬、⿰巾多也。❷藏書室。或は⿱山成(4－8130)に作る。〔字彙補〕宬、藏書之室也、云云、亦或作ㇾ⿱山成。

【⿱宀奈】7152　㊀タ ダ　〔集韻〕直加切　麻　㊁タ　〔玉篇〕恥價切　禡

㊀㊁なまめくさま。又、正しくない。⿱宀亞⿱宀奈。〔玉篇〕⿱宀奈、⿱宀亞⿱宀奈、嬌態皃。〔集韻〕⿱宀奈、⿱宀亞⿱宀奈、不ㇾ正。

【⿱宀良】7153　㊀ラウ　〔集韻〕盧當切　陽　㊁ラウ　〔集韻〕里黨切　養　㊂ラウ　〔集韻〕郎宕切　漾

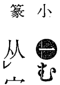


小篆

㊀❶屋がひろくがらんとしてゐる。〔説文〕⿱宀良、康⿱宀良也、从ㇾ宀良聲、音良久。❷或は⿱穴良(8－25511)に作る。〔集韻〕⿱宀良、或从ㇾ穴。㊁㊀の❶に同じ。〔集韻〕⿱宀良、康⿱宀良、屋虛。㊂むなしい。〔玉篇〕⿱宀良、空虛也。

【⿱宀赤】7154　セキ　寂(3－7200)の譌字。〔正字通〕⿱宀赤、寂字之譌。

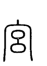
【宭】7155　クン グン　〔集韻〕衢云切　ㄑㄩㄣˊ ch'ün²　文



小篆

❶むれゐる。〔説文〕宭、羣尻也、从ㇾ宀君聲。❷羣(9－28497)に通ず。〔正字通〕宭、與ㇾ羣通。

【宮】7156　キュウ ク　〔集韻〕居雄切　ㄍㄨㄥ kung¹　東　慣グウ



小篆

❶いへ。すまひ。〔説文〕宮、室也、从ㇾ宀躳省聲。〔段注〕宮、謂二其外之圍繞一、室、謂二其內一、析言則殊、統言不ㇾ分也。〔釋名、釋宮室〕宮、穹也、屋見二於垣上一、穹隆然也。〔禮、曲禮上、三十曰ㇾ壯有ㇾ室、疏〕若通而言ㇾ之、則宮室通名、故爾雅云、宮、謂二之室一、室、謂二之宮一、別而言ㇾ之、論二其四面穹隆一則曰ㇾ宮、因二其貯ㇾ物充實一則曰ㇾ室、室之言、實也。〔禮、儒行〕儒有二一畝之宮一。❷かき。かきね。〔儀禮、覲禮〕爲ㇾ宮方三百步。〔注〕宮、謂三壝ㇾ土爲ㇾ埒、以象二牆壁一也。〔禮、儒行〕儒有二一畝之宮一。〔注〕宮、謂二牆垣一也。❸とりかこむ。めぐる。〔周禮、春官、小胥〕王宮縣。〔注〕宮縣、四面縣。〔禮、喪大記〕君爲ㇾ廬宮ㇾ之。〔注〕宮、謂三圍二障之一也。❹へや。〔爾雅、釋言〕宮、謂二之室一。〔楚辭、宋玉、招魂〕盛鬋不ㇾ同、實滿ㇾ宮些。〔注〕宮、猶ㇾ室也。❺奥のへや。後宮。〔周禮、天官、內宰〕以二陰禮一教二六宮一。〔注〕六宮、謂ㇾ后也、婦人稱ㇾ寢曰ㇾ宮、宮、隱蔽之言、后象ㇾ王、立二六宮一而居ㇾ之、亦正寢一、燕寢五。❻みや。㋑天子の住居。〔爾雅、釋宮、釋文〕古者貴賤同稱ㇾ宮、秦漢以來、唯王者所ㇾ居稱ㇾ宮焉。〔漢書、武帝紀〕起二明光宮一。㋺たまや。廟。〔詩、召南、采蘩〕公侯之宮。〔傳〕宮、廟也。〔詩、大雅、雲漢〕自ㇾ郊徂ㇾ宮。〔箋〕宮、宗廟也。〔公羊、文、十三〕羣公稱ㇾ宮。㋩神祠。〔唐太宗、重幸二武后一詩〕白水尋二前跡一、丹陵幸二舊宮一。㋥神仙の住居。〔皮日休、送二日本僧一詩〕波神宮裏受ㇾ齋歸。❼君。〔廣雅、釋詁一〕宮、君也。〔禮、樂記〕宮爲ㇾ君。〔説文通訓定聲〕宮君雙聲。❽妻子をいふ。宮室(107)の

❹を見よ。❾**佛寺**。〔梁簡文帝、遊㆓光宅寺㆒詩〕慈波流㆓淨宮㆒。❿**學校**。〔詩、大雅、思齊〕雝雝在㆑宮、肅肅在㆑廟。〔箋〕宮、謂㆓辟廱宮㆒也。⓫**星のやどり**。星宿。〔史記、天官書〕中宮、天極星。⓬**ひつぎ**。〔後漢書、明帝紀〕奉㆓安梓宮㆒。〔注〕梓宮、以㆓梓木㆒爲㆑棺、風俗通曰、宮者、存時所㆑居、緣㆑生事㆑死、因以爲㆑名。⓭**こころ**。〔管子、心術上〕宮者謂㆑心也。〔管子、心術上〕潔㆓其宮㆒。〔注〕宮、心之宅、猶㆓靈臺㆒也。⓮**五音の一**。中央土の聲。律は黃鐘にあたる。〔集韻〕宮、一曰、五聲之始。〔禮、月令〕中央土、其音宮。〔淮南子、天文訓〕黃鐘爲㆑宮。〔白虎通、禮樂〕土謂㆑宮。〔春秋繁露、循天之道〕宮者、中央之音也。⓯**五刑の一**。死に次ぐ重罰。生殖機能を去る刑。腐刑。〔白虎通、五刑〕宮者、女子淫、執㆓置宮中㆒、不㆑得㆑出也、丈夫淫、割㆓去其陰㆒也。〔漢書、刑法志〕宮罪五百。〔注〕宮、淫刑也、男子割腐、婦人幽閉。⓰**からだ**。躳(10―38089)に通ず。〔說文通訓定聲〕宮、叚借爲㆑躳、楚語、右執㆓殤宮㆒、按、躬、亦身也、注、殤之居、失㆑之。⓱**布の名**。布の絲數の名。稯(8―25177)・總(8―27844)に通ず。〔說文通訓定聲〕宮、叚借爲㆑稯、實爲㆑總、周禮大師、疏、八十一絲爲㆑宮。⓲**曆法で圓周の十二分の一、卽ち三十度をいふ**。〔夢溪筆談、象數一〕又一時之間、天行三十餘度、總謂㆓之一宮㆒。⓳**姓**。〔通志、氏族略、平聲〕宮氏、虞大夫宮之奇後。〔尙友錄〕宮、太原羽音、望出㆓河東㆒。邦 **みや**。㋑皇族。天子の一門。㋺神社。

名乘 イヘ。ミヤ。

【宮娃】1（キュウアイ） 御殿女中。宮女。娃は美女。〔釋氏要覽〕今人誇㆓宮娃㆒如㆓菩薩㆒也。〔劉得仁、悲㆓老宮人㆒詩〕白髮宮娃不㆑解㆑悲、滿頭猶自插㆓花枝㆒。〔盧綸、天長久詞〕天子方清暑、宮娃起夜妝。〔孟郊、和㆓薔薇花㆒歌〕忽驚錦浪洗㆓新色㆒、又似宮娃逞㆓妝飾㆒。

【宮幄】2（キュウアク） 宮殿のとばり。〔後漢書、梁皇后紀〕宮幄彫麗、服御珍華。〔後漢書、西南夷傳論〕莫㆑不㆘呈㆓表怪麗㆒、雕㆗被宮幄㆖焉。

【宮安】3（キュウアン） 明、山陽の人。官は廣東按察僉事。〔本朝分省人物攷、三十二〕。

【宮衣】4（キュウイ） 宮臣の著る衣服。〔杜甫、端午日賜㆑衣詩〕宮衣亦有㆑名、端午被㆓恩榮㆒。〔李賀、追㆓賦畫江潭苑㆒詩〕吳苑曉蒼蒼、宮衣水濺黃。〔曹唐、三年冬大禮詩〕禁火曙然煙焰褭、宮衣寒拂雪花輕。

【宮帷】5（キュウヰ） 宮殿の幕。宮中。〔庾信、周太子太保步陸逞神道碑銘〕宮帷定㆑策、殿柱書㆑名。〔宋史、樂志十四〕宮帷既敞、協氣感通、皇儀親展、壽祉無㆑窮。

【宮幃】6（キュウヰ） 宮殿のとばり。宮中の意。〔長生殿、傍訝〕宮幃事費㆓安排㆒。

【宮闈】7（キュウヰ） 宮中の奧殿。皇后の宮殿。宮閤。〔後漢書、皇后紀序〕后正㆓位宮闈㆒。〔後漢書、宦者傳序〕若㆓夫高冠長劍、紆㆑朱懷㆑金者、布㆓滿宮闈㆒。〔潘岳、景獻皇后哀策文〕邈兩絕㆓于宮闈㆒、長無㆑覿㆓于彷彿㆒。〔庾信、周大將軍琅琊莊公司馬裔墓誌銘〕宮闈近密、實俟㆓忠貞㆒。

【宮闈局】8（キュウヰキョク） ❶官署の名。隋、置く。內侍省に屬し、宮內門閤の禁を掌る。唐、之に因る。〔通典、職官典、諸卿下、內侍省〕宮闈局、令㆓一人、隋置㆑令、掌㆘宮內門閤之禁、及出㆓納神主㆒、幷內給使・名帳・糧廩事㆖、大唐因㆑之。❷大舍人寮の唐名。〔職原抄〕大舍人寮、唐名、宮闈局。

【宮闈令】9（キュウヰレイ） ❶官名。隋、置く。宮闈局の長官。宮闈に出入する者の監督を掌る。〔資治通鑑、唐紀〕中宗、景龍元年、宮闈令、石城楊思勗在㆓上側㆒。〔注〕唐制、宮闈局令、從七品下、屬㆓內侍省㆒、掌㆓侍奉宮闈出入管籥㆒。❷大舍人頭の唐名。〔職原抄〕大舍人寮、頭一人、唐名、宮闈令。

【宮闈主事】10（キュウヰシュジ） 大舍人允の唐名。〔職原抄〕大舍人寮、允、唐名、宮闈主事。

【宮闈少令】11（キュウヰセウレイ） 大舍人助の唐名。〔職原抄〕大舍人寮、助、唐名、宮闈少令。

【宮闈令史】12（キュウヰレイシ） 大舍人屬の唐名。〔職原抄〕大舍人寮、屬、唐名、宮闈令史。

【宮尹】13（キュウイン） ❶官名。後周、置く。太子の屬官。秦漢の詹事の職。東宮內外の衆務を統べることを掌る。隋、置かず。唐の武后の光宅元年（唐六典の注に依れば、天授年間）、詹事を改めて宮尹と稱す。〔周書、武帝紀上〕太子宮尹鄭譯使㆓於齊㆒。〔唐書、百官志四上〕武后光宅元年、改曰㆓宮尹府㆒、詹事曰㆓宮尹㆒、少詹事曰㆓少尹㆒。〔唐六典、太子詹事府、詹事一人正三品、注〕後周置㆓太子宮正・宮尹㆒云云、天授中改爲㆓宮尹㆒。〔歷代職官表、詹事府〕謹案、唐六典以㆓宮正・宮尹㆒爲㆓後周宮官㆒、而通典載㆓後周官品㆒、獨不㆑及㆓此二職㆒、考㆓之周書列傳㆒、則宮正有㆓左右二人㆒、而宮尹之下、又有㆓小宮尹㆒、蓋宮正當㆑如㆓左右衞率之職㆒、宮尹當㆑如㆓詹事之職㆒、小宮尹則如㆓少詹事之職㆒也、觀㆘宇文孝伯以㆓司會中大夫㆒、轉爲㆗宮正㆖、則其秩次又當㆑在㆓宮尹上㆒矣。❷王子の屬官の敬稱。〔宋書、袁淑傳〕敢寓㆓書於上國之宮尹㆒。

【宮音】14（キュウイン） 清、沈關闢(6―17189‥482)の字。

【宮院】15（キュウヰン） 御所。宮殿。〔李紳、贈㆓毛仙翁㆒詩〕春風玉女開㆓宮院㆒、紫筆親教書㆓姓名㆒。

【宮宇】16（キュウウ） 皇居。御殿。〔後漢書、明帝紀〕輕用㆓人力㆒、繕㆓修宮宇㆒、出入無㆑節。〔晉書、石勒載記下〕勒下㆑令曰、去年、水出㆓巨材㆒、所在山積、將㆕皇天欲㆔孤繕㆓修宮宇㆒也。

【宮羽】17（キュウウ） 五音の中、宮聲と羽聲。〔禮、玉藻〕右㆓徵角㆒、左㆓宮羽㆒。〔南齊書、陸厥傳〕大旨鈞使㆓宮羽相變低昂舛㆑節。

【宮營】18（キュウエイ） 垣中の地域。殿屋の敷地。〔管子、八觀〕宮營大而室屋寡者、其室不㆑足㆔以實㆓其宮㆒。〔纂詁〕周垣曰㆑宮、營、宮中兆域也。

【宮衞】19（キュウヱイ） ❶宮殿の守衞。〔史記、楚世家〕商臣以㆓宮衞兵㆒圍㆓成王㆒。〔漢書、元帝紀〕罷㆓甘泉建章宮衞㆒、令㆑就㆑農。〔新書、等齊〕諸侯王所㆑在之宮衞。❷宮中。〔後漢書、靈帝紀贊〕徵亡備㆑兆、小雅盡缺、麋鹿霜露、遂棲㆓宮衞㆒。

【宮腰】20（キュウエウ） 細腰をいふ。細腰(8―27344‥16)の❶を見よ。〔書言故事、身體譬類、宮腰〕漢、馬廖傳、楚王好㆓細腰㆒、宮中多㆓餓死㆒。

【宮掖】21（キュウエキ） おくごてん。御所の內。禁掖。宸掖。掖は掖庭、妃嬪の居る旁舍。〔後漢書、竇憲傳〕恃㆓宮掖聲勢㆒。〔後漢書、孔融傳〕融爲㆓九列㆒、不㆑遵㆓朝議㆒、禿巾微行、唐㆓突宮掖㆒。〔後漢書、五行志一〕虜㆓掠宮掖㆒、發㆓掘園陵㆒。〔劉潛、爲㆓武陵王㆒謝㆑賜㆑第啓〕臣幼自長㆓宮掖㆒。〔李頎、鄭櫻桃歌〕櫻桃美顏香且澤、娥娥侍㆑寢專㆓宮掖㆒。

【宮垣】22（キュウエン） 宮殿の築地。〔管子、八觀〕宮垣關閉、不㆑可㆓以不㆑修。〔史記、韓長孺傳〕臨江王、適長太子也、以㆓一言過㆒、廢王㆓臨江㆒、用㆓宮垣事㆒、卒自㆓殺中尉府㆒。〔白居易、渭村退居寄㆓禮部崔侍郎翰林錢舍人㆒詩〕禁闥青交瑣、宮垣紫界牆。

【宮苑】23（キュウエン） 王宮中の庭園。又、宮と苑。〔周禮、秋官、士師、王燕出入前驅而辟、疏〕王燕出入、謂㆓宮苑皆是㆒。〔唐書、盧藏用傳〕施㆑德布㆑化、而又廣㆓宮苑㆒。〔儲光羲、秦中初霽獻㆓給事㆒詩〕宮苑傍㆓山明㆒、雲林帶㆓天碧㆒。〔元史、百官志六〕直長一員、掌㆓宮苑栽植㆒。

【宮媛】24（キュウエン） こしもと。宮中に仕へる女官。〔韓非子、八經〕郎中約㆓其左右㆒、后姬約㆓其宮媛㆒。

【宮園】25（キュウエン） 宮殿の庭園。〔漢書、廣陵厲王胥傳〕胥宮園中棗樹、生㆓十餘莖㆒、莖正赤、葉白如㆑素。

【宮應】26（キュウオウ） 宮の音が響き應ずること。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕叩㆑宮而宮應兮、彈㆑角而角動。

【宮屋】27（キュウヲク） 建物。宮殿。〔後漢書、章帝紀〕過㆓于宮屋㆒、翶翔升降。〔南齊書、河南匈奴傳〕逐㆓水草㆒、無㆓城郭㆒、後稍爲㆓宮屋㆒。

【宮架】28（キュウカ） 四方に葺き下しに建てた家。宮駕。〔宋史、禮志十一〕殿中監進㆓大圭㆒、帝執以入㆓宮架㆒。〔宋史、劉昺傳〕令㆔太學諸生習㆓肄雅樂㆒、閱試日、昺與㆓大司成劉嗣明㆒奏、有㆔鶴翔㆓宮架之上㆒。

【宮家】29（キュウカ） ❶宮家壖を見よ。❷（ミヤケ） 親王・法親王・諸王・門跡などの稱。後に皇族で特に宮號を賜はつた御家をいふ。

【宮家壖】30（キュウカハ） 壖の名。壖は水をせきとめる

もの。山東省利津縣の西南にあり、黃河の水を防ぐために築いた。

【宮娥】31 キュウガ　宮中に仕へる美人。宮女。〔隋遺錄〕帝嘗幸二昭明文選樓一、車駕未レ至、先命二宮娥數千人一、昇レ樓迎侍、微風東來、宮娥衣被レ風綽、直泊二肩項一、帝覩レ之色荒愈熾、因レ此乃建二迷樓一。〔姚合、詠レ雪詩〕飛隨二郢客一歌聲遠、散逐二宮娥一舞袖迴。〔鮑溶、章華宮行〕煙渚南鴻呼二曉羣一、章華宮娥怨二行雲一。〔羅鄴、上陽宮詩〕翠華卻自登仙去、腸斷宮娥望不レ休。〔皮日休、惜二義鳥一詩〕惜哉仁義禽、委戲二於宮娥一。〔花蕊夫人、宮詞〕月頭支給買花錢、滿殿宮娥近二數千一。

【宮駕】32 キュウガ　駕は架。四方に葺き下ろしの建て方。宮架。〔淮南子、本經訓〕夏屋宮駕、縣聯房植。〔集解〕孫詒讓云　駕、當レ爲二架之誤一。

【宮角】33 キュウカク　宮聲と角聲。五音中、中央にあてた聲と東方にあてた聲。〔南齊書、樂志〕時奏二宮角一、雜レ之以二徵羽一。

【宮閣】34 キュウカク　宮居の建てもの。宮殿。〔水經、穀水注〕起二層樓于東北隅一、晉宮閣名曰二金墉一、有二崇天堂一、卽此地。〔儲光羲、羣鴉詠〕河低宮閣深、燈影鼓鐘曙。

【宮樂】35 キュウガク　音樂の事を司る役名。〔穆天子傳、五〕東遊二于黃澤一、宿二于曲洛一、使二宮樂謠一。〔注〕宮樂、典レ樂者。

【宮學】36 キュウガク　王宮內に設けた王子就學の所。宋の高宗の紹興十四年、諸王宮に大小學を置き、寧宗の嘉定九年に宗學と改む。宗學(**3－7106**・・35)の㊀を見よ。〔宋史、選擧志三〕(寧宗嘉定)九年、以二宮學一併歸二宗庠一。〔文獻通考、學校考、太學、宗學〕紹興十四年、云云、置二諸王宮大小學一、教授一員、在レ學者皆南宮北宅子孫、云云、寧宗嘉定九年詔、諸王宮學改作二宗學一。

【宮額】37 キュウガク　御殿風に粧つた額。〔陳櫟、春先亭賦〕偶點二宮額一、豈屑二街髻一。〔剪燈餘話、田洙遇二薛濤一聯句記〕治態宜二宮額一。

【宮割】38 キュウカツ　五刑の一。生殖機能を去る刑。宮刑(69)の㊀に同じ。〔書、呂刑〕宮辟疑赦。〔傳〕宮、淫刑也、男子割レ勢、婦人幽閉、次レ死之刑。〔孝經、五刑章、釋文〕男女不二與禮交一者宮割。〔列女傳、貞順、楚平伯嬴傳〕士庶人外、淫者宮割。〔魏志、鍾繇傳〕太祖下レ令、使下平中議死刑可二宮割一者上、繇以爲、古之肉刑、更歷二聖人一、宜三復施行以代二死刑一、議者以爲、非二悅レ民之道一、遂寢。〔太平御覽、刑法部、宮割〕尙書刑德放曰、宮者、女子淫亂、執置二宮中一、不レ得レ出、割者、丈夫淫、割二其勢一已也。

【宮甲】39 キュウカフ　宮を守る兵卒。宮中の衞士。〔左氏、文、元〕冬十月、以二宮甲一圍二成王一。〔唐書、隱太子建成傳〕建成等私募二四方驍勇及長安惡少年二千人一爲二宮甲一、屯二左右長林門一、號二長林兵一。

【宮閤】40 キュウカフ　㊀門側の小門。宮殿。〔南齊書、張敬兒傳〕被レ甲入レ殿、內外宮閤管籥、悉關二家人一。㊁宮中の奧。宮闈。〔張說、唐昭容上宮氏文集序〕古者有二女尙書一、決二事宮閤一。

【宮監】41 キュウカン　㊀宮中の事を取り扱ふ官吏。宮內官。〔唐書、高祖紀〕領二晉陽宮監一。㊁宮中。役所。〔漢武帝內傳〕宮監香果爲二天宮之饌一。〔唐書、劉文靜傳〕發二宮監庫物一佐二軍興一。

【宮檻】42 キュウカン　宮殿の欄檻。〔劉詵、詠歸亭賦〕連昌之宮檻半攲、北苑之沈香速壞。

【宮銜】43 キュウガン　清代、虛銜の一。銜は官吏の位階。實務を掌らない太子師傅等を設けて、專ら大臣及び有功者の加銜とした。太子を東宮と稱する故、宮銜の名がある。太子太傅を宮太傅、太子太保を宮太保、太子少師を宮師、太子少傅を宮傅、太子少保を宮保と稱する類。〔淸會典、吏部〕有二加銜一以顯二其秩一。〔注〕太子太師・太子太傅・太子太保・太子少師・太子少傅・太子少保、爲二大臣加銜及贈官一。〔歷代職官表、師傅保加銜、淸〕國朝官制、太師・太傅・太保・少師・少傅・少保・太子太師・太子太傅・太子太保・太子少師・太子少傅・太子少保、以上皆虛銜、無二職掌一、亦無二員額一、凡大臣宣二力中外一、勞績懋著者、則奉二特旨一加レ銜、或爲二贈典一、以示二優寵一焉。

【宮奇】44 キュウキ　晉、賈混(**10－36755**・・57)の字。

【宮姬】45 キュウキ　女官。〔後漢書、皇甫規傳〕前世尙遺二匈奴一以二宮姬一、鎭二烏孫一以二公主一。

【宮棋】46 キュウキ　棋石を弄ぶ遊戲の一種。宮棊。〔通俗編、俳優、宮棋〕今人先以二棋子黑白一、雜二布局中一、各認二一子一爲レ標、左右巡拾、拾竟、以二所レ得多寡一較二勝負一、有二挨三・頂四・擦七・馱八罰例一、謂二之逼棋一、蓋卽此耳。〔白居易、代書詩一百韻寄二微之一詩〕八面對二宮棋一。〔王建、夜看二美人宮棋一詩〕宮棋布局不レ依レ經、黑白分明子數停。

【宮妓】47 キュウギ　宮中のうたひめ。女樂。〔南齊書、張敬兒傳〕卿大收二宮妓一、劫二奪天藏一。〔述異記、上〕吳王夫差、築二姑蘇之臺一、崇二飾土木一、殫二耗人力一、宮妓數千人。〔稱謂錄、倡、宮妓〕開元天寶遺事、明皇每冬月、令二宮妓密圍一而坐、謂二之妓圍一。

【宮戲】48 kung^1 hsi^4　人形芝居。托吼。

【宮居】49 キュウキョ　㊀家の中に居る。安樂な生活。〔韓愈、送二浮屠文暢師一序〕宮居而粒食。㊁ミヤヰ　㋑神社の在る處。〔千載和歌集、神祇〕神代より津もりの浦に宮居して。㋺皇居。

【宮籞】50 キュウギョ　宮中。禁苑。奧御殿。〔晉書、食貨志〕魏明帝不恭、淫二於宮籞一。

【宮局】51 キュウキョク　宮中のつぼね。〔王建、宮詞〕宮局總來爲二喜樂一、院中新拜內尙書。

【宮極】52 キュウキョク　宮殿。〔魏書、高道悅傳〕兼二御史中尉一、留二守洛京一時、宮極初基、廟庫未レ構。

【宮欽】53 キュウキン　元、東萊の人。字は子敬。官は東阿令。〔東阿縣志〕。

【宮禁】54 キュウキン　㊀王宮の禁令。〔周禮、秋官、士師〕掌二國之五禁之灋一、以二左右一刑罰、一曰宮禁、二曰官禁。〔注〕宮、王宮也。㊁帝后の居所。人の入るを禁ずるからいふ。御殿。御所。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕宮禁至重、而使三外舍久在二內省一、上令三陛下有二幸私之譏一、下使三賤妾獲二不レ知レ足之謗一、上下交損、誠不レ願也。〔後漢書、郎顗傳〕尙書職在二機衡一、宮禁嚴密、私曲之意、差不レ得レ通。〔唐書、玄宗貴妃楊氏傳〕第舍聯亙、擬二憲宮禁一。〔杜甫、秋日夔府詠懷奉レ寄二鄭監李賓客一一百韻詩〕宮禁經綸密、台階翊戴全。

【宮錦】55 キュウキン　宮中に貯へる御料の錦。〔唐書、封敖傳〕武宗使下作二詔書一慰中邊將傷夷者上曰、傷居二爾體一、痛在二朕躬一、帝善二其如レ意、出賜以二宮錦一。〔李商隱、隋宮詩〕春風擧國裁二宮錦一、半作二障泥一半作レ帆。〔陳樵、蔗菴賦〕屬二荷屋於雕闌一、襲二宮錦於龍具一。

【宮錦紅】56 キュウキンコウ　深紅色の芍藥をいふ。〔芍藥譜〕深紅者名二宮錦紅一。〔留青日札〕宣廟幸二文淵閣一、命於二閣右一築二石臺一、植二淡紅芍藥一本一、景泰初、增置二二本一、左純白、右深紅、後學士李賢命以二美名一、曰二醉仙顏一、淡紅也、曰二玉帶一、純白也、曰二宮錦紅一、深紅也、與レ衆賦レ詩、曰二玉堂賞花集一。

【宮錦袍】57 キュウキンパウ　宮中で著る錦の上衣。〔唐書、李白傳〕嘗乘レ舟、與二崔宗之一自二采石一至二金陵一、著二宮錦袍一坐二舟中一、旁若レ無レ人。

【宮隅】58 キュウグウ　宮殿のかど。宮殿のすみ。〔周禮、考工記、匠人〕王宮門阿之制、五雉、宮隅之制、七雉、門阿之制、以爲二都城之制一、宮隅之制、以爲二諸侯之城制一。〔注〕宮隅、城隅、謂二角浮思一也。〔李華、含元殿賦〕白日麗二宮隅一。

【宮花】59 キュウクワ　㊀進士の試驗に及第した者に天子が宴を賜ふ時、狀元・榜眼・探花の三人の帽に戴かせる金花。〔薩都刺、勅賜二恩榮宴一詩〕宮花壓レ帽金牌重。〔琵琶記、春宴二杏園一〕宮花斜插二帽簷一低。㊁宮中に咲く花。御苑に咲いてゐる花。〔李白、宮中行樂詞〕宮花爭笑レ日、池草暗生レ春。〔王建、故行宮詩〕寥落古行宮、宮花寂寞紅。〔李益、隋宮燕詩〕燕語如レ傷舊國春、宮花一落已成レ塵。〔元稹、酬二孝甫見レ贈詩〕綻蕊宮花拂二面枝一。

【宮瓦】60 キュウグワ　宮殿の瓦。〔後漢書、五行志一〕宮瓦自墮、諸侯強二陵王一、此皆小人顯位、亂レ法之咎也。

【宮槐】61 キュウクワイ　㊀宮庭のゑんじゅ。〔白居易、早入二皇城一贈二王留守僕射一詩〕城柳宮槐謾搖落、悲愁不レ到貴人心。㊁淸、趙植庭(**10－37171**・・702)の字。

【宮外】62 キュウグワイ　宮殿の外。〔史記、齊世家〕侍二宮外一、令二茀先入一、茀先入、卽匿二襄公戶閒一。

【宮官】63 キュウクワン　東宮の官。太子の官。〔稱謂錄、詹事府職官、宮官〕天中記、白居易初授二左贊善大夫一、賊害二宰相武元衡一、居易上疏、請三急捕レ賊以雪二國恥一、宰相以、宮官非二諫職一、不下當以二宰相一言上レ事。

【宮館】64 キュウクワン ❶皇城内の建物。宮中の別館。〔漢書、貢禹傳〕罷㆘上林宮館、希㆓幸御㆒者㆖。〔漢書、王吉傳〕宮館囿池、弋獵之樂。〔漢書、江都易王非傳〕非好㆓氣力㆒治㆓宮館㆒、招㆓四方之豪傑㆒。〔曹植、七啓〕此宮館之妙也、子能從㆑我而居㆑之乎。❷道家の寺觀。宮觀の❷に同じ。〔漢書、郊祀志〕於㆑是郡國各除㆑道繕㆓治宮館名山神祠㆒。

【宮鬟】65 キュウクワン 宮女をいふ。〔陳孚、詩〕上帝册府紅玉田、宮鬟對捧芙蓉煙。

【宮觀】66 キュウクワン ❶ごてん。宮殿。離宮別館、帝王游憩の所の總稱。〔列子、周穆王〕居㆓人民之上㆒、總㆓一國之事㆒、遊燕宮觀、恣㆓意所㆒㆑欲。〔史記、始皇紀〕咸陽之旁二百里内、宮觀二百七十。〔史記、漢興以來諸年表〕連城數十、置㆓百官宮觀㆒。〔後漢書、馮衍傳下〕西顧㆓酆鄗周秦之丘、宮觀之墟㆒。〔王維、瓜園詩〕藹藹帝王州、宮觀一何繁。❷道家の寺觀。道宮。〔史記、封禪書〕宮觀名山神祠。〔宋史、禮志五〕大中祥符元年、天書降、及㆓封禪㆒、告㆓天地宗廟社稷及諸祠廟宮觀㆒。〔水滸傳、一回〕一面降㆓赦天下罪囚㆒、應㆑有民間稅賦、悉皆赦免、一面命㆓在㆑京宮觀寺院㆒、修㆓設好事㆒禳㆑災。❸道士。〔宣和遺事、後集〕自㆓庶官及宮觀㆒而起、爲㆓侍從㆒。

【宮薰】67 キュウクン 香爐のふた。熏籠（イブシカゴ）。銅で作り、鏤文が精細で、寺院のやうな模樣があるから俗に宮薰といふ。

【宮軍】68 キュウグン 女官の行列。〔李頎、鄭櫻桃歌〕宮軍女騎一千匹、繁花照耀漳河春。

【宮刑】69 キュウケイ ❶五刑の一。男女の不義を罰する刑。男子は去勢し、女子は監房に幽閉するもの。一說に、女子は其の筋を剔去するといふ。宮辟。宮罰。腐刑。淫刑。〔書、呂刑、宮辟疑赦、傳〕宮淫刑也男子割㆑勢婦人幽閉、疏〕伏生書傳云、男女不㆓以㆑義交㆒者、其刑宮、是宮刑爲㆓淫刑㆒也、男子之陰、名爲㆑勢、割㆓去其勢㆒、云云、婦人幽㆓閉於宮㆒、使㆑不㆑得㆑出也。〔禮、文王世子〕公族無㆓宮刑㆒、不㆑翦㆓其類㆒也。〔注〕宮、割㆑淫刑。〔漢書、景帝紀〕除㆓宮刑㆒、出㆓美人㆒。〔司馬遷、報㆓任少卿㆒書〕行莫㆑醜㆓於辱㆑先、詬莫㆑大㆓於宮刑㆒。〔識小錄〕傳謂、男子割㆑勢、婦人幽閉、皆不㆑知㆓幽閉之義㆒、今得㆑之、乃是於㆑牝剔㆓去其筋㆒、如㆘制㆓馬豕㆒之類㆖、使㆓慾心消滅㆒、國初帝用㆑此、而女往往多死、故不㆑可㆑行也。〔名義考〕幽閉、若㆘去㆓牝豕子腸㆒、使㆖不㆓復生㆒。❷宮殿の中に居る者の刑罰。〔周禮、天官、小宰〕建㆓邦之宮刑㆒、以治㆓王宮之政令㆒。〔注〕杜子春云、宮、皆當㆑爲㆑官、玄謂、宮刑、在㆓王宮中㆒者之刑。

【宮卿】70 キュウケイ ❶官名。漢代、皇后宮に附屬し、宮中の宣命を掌る。大長秋(**3－5831**‥1600)に同じ。〔後漢書、宦者傳序〕鄭衆專謀㆓禁中㆒、終除㆓大憝㆒、遂享㆓分土之封㆒、超登㆓宮卿之位㆒。〔注〕宮卿、謂㆓大長秋㆒。❷太子庶子の官をいふ。〔稱謂錄、詹事府職官、宮卿〕海錄碎事、唐令則身任㆓宮卿㆒、時爲㆓左庶子㆒也。

【宮闈】71 キュウケイ 奧御殿。宮房。六朝の時、宮闈帥・宮闈史・宮闈給使等の官があつた。〔宋書、后妃序〕宮闈帥置㆓一人㆒、宮闈史置㆓二人㆒。〔魏書、于忠傳〕寵窮㆓出內㆒、榮遍㆓宮闈㆒。

【宮髻】72 キュウケイ 宮姬の髮の毛。〔洪邁、跋㆓吳激小詞㆒〕詞曰、恍然相遇、仙姿勝㆑雪、宮髻堆㆑鴉、江州司馬青衫濕、淚㆓同是天涯㆒。

【宮教】73 キュウケウ 宮中の規則。〔後漢書、皇后紀序〕明帝聿遵㆓先旨㆒、宮教頗修。

〖宮教集〗74 キュウケウシフ 書名。十六卷。宋、雀敦禮撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【宮闕】75 キュウケツ 闕は王宮の正門の兩傍に設けた物見臺。轉じて、宮城をいふ。〔史記、天官書〕廣野之氣成㆓宮闕㆒。〔史記、高祖紀〕天子以㆓四海㆒爲㆑家、非㆓宮闕㆒無㆓以重㆑威。〔漢書、外戚下、孝成班倢伃傳〕登㆓薄軀於宮闕㆒兮。〔晉書、石勒載記下〕威行㆓天下㆒、況宮闕乎。〔杜甫、秋興詩〕蓬萊宮闕對㆓南山㆒、承露金莖霄漢閒。

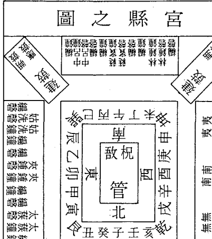
【宮月】76 キュウゲツ 宮殿の上にかかる月。〔白居易、答㆓馬侍御見㆑贈詩〕苑花似㆑雪同隨㆑輦、宮月如㆑眉伴㆓直廬㆒。〔孟郊、感懷詩〕長安嘉麗地、宮月生㆓蛾眉㆒。

【宮協】77 キュウケフ 音律がよく調和すること。〔晉書、樂志〕韓濊進㆑樂、宮徵清鈞。

【宮業】78 キュウゲフ 後宮のしきたり。〔南齊書、皇后傳論〕高宗仗㆑數矯㆑情、外行㆓儉陋㆒、內奉㆓宮業㆒、曾莫㆑云㆑改。

【宮縣】79 キュウケン 縣を四面に設置して、それに樂器を懸けたもの。天子、太廟の樂器。縣は鐘磬を掛ける架。〔周禮、春官、小胥〕正㆓樂縣之位㆒、王宮縣、諸侯軒縣、卿大夫判縣、士特縣、辨㆓其聲㆒。

宮縣之圖



南
北
東
西
柷
敔
管
建鼓
申 坤 未 丁 午 丙 巳 巽 辰 乙 卯 甲 寅 艮 丑 癸 子 壬 亥 乾 戌 辛 酉 庚

(文獻通考・樂考)

〔注〕鄭司農云、宮縣、四面縣、軒縣去㆓其一面㆒、判縣又去㆓其一面㆒、特縣又去㆓其一面㆒、四面象㆓宮室四面有㆑牆、故謂㆓之宮縣㆒。〔禮、郊特牲〕諸侯之宮縣、而祭以㆓白牡㆒、擊㆓玉磬㆒。〔宋書、樂志一〕大明中、卽以㆓宮縣㆒合㆓和鞞拂㆒、節數雖㆑會、慮㆑乖㆓雅體㆒。〔南齊書、樂志〕庭列㆓宮縣㆒、陛羅㆓瑟琴㆒。〔江淹、爲㆓齊王㆒謝㆓冕旒諸法物㆒表〕宮縣玉戚、乃配㆓天之禮㆒。

【宮戶】80 キュウコ 宮殿の戶。〔王建、行宮詞〕官家乏㆑人作㆓宮戶㆒、不㆑泥㆓宮牆㆒斫㆓宮樹㆒。〔李商隱、舊頓詩〕猶鎖平時舊行殿、盡無㆓宮戶㆒有㆓宮鴉㆒。

【宮庫】81 キュウコ 宮中の倉庫。宮藏。〔唐書、劉文靜傳〕晉陽兵精馬強、宮庫饒豐、大事可㆑擧也。

【宮壺】82 キュウコ 宮中で賜ふ酒壺をいふ。〔蘇軾、臥㆑病逾㆑月請㆑郡不㆑許復直㆓玉堂㆒十一月一日鎖㆑院是日苦㆑寒詔賜㆓宮燭法酒㆒書呈㆓同院㆒詩〕分光御燭星辰爛、拜賜宮壺雨露香。

【宮功】83 キュウコウ 家屋を造營、又は修繕すること。一說に、公室官府の仕事。〔詩、豳風、七月〕我稼既同、上入執㆓宮功㆒。〔集傳〕宮、邑居之宅也、功、葺治之事也、或曰、公室官府之役也。

【宮后】84 キュウコウ 皇后。后妃。〔薛能、孔雀詩〕天仙黼黻毛應㆑是、宮后屛幃尾忽開。

【宮谷】85 キュウコク 深谷中に造つた宮殿。又、宮殿と谷。〔博物志、異聞〕夏桀之時、爲㆓長夜宮於深谷之中㆒、男女雜處、十旬不㆓出聽㆑政、天乃大風揚㆑沙、一夕塡㆓此宮谷㆒。

【宮壼】86 キュウコン 宮中を往來する道。轉じて、宮中の奧向き。壼は宮中の道。〔爾雅、釋宮〕宮中衖謂㆓之壼㆒。〔唐書、德宗賢妃韋氏傳〕宮壼事無㆑不㆑聽。

【宮閫】87 キュウコン 宮中。奧御殿。奧向き。〔宋書、明帝紀〕事均㆓宮閫㆒、聲遍㆓國都㆒。〔梁元帝、答㆔晉安王敍㆓南康簡王薨㆒書〕綢㆓繆宮閫㆒、不㆑過㆓紈綺之事㆒、離㆑羣作㆑鎭、動㆓迴星紀之曆㆒。

【宮宰】88 キュウサイ 古、宮中を守る官。內宰。〔禮、祭統〕先㆑期旬有一日、宮宰宿㆓夫人㆒。〔注〕宮宰、守㆑宮官也。〔孫希旦集解〕宮宰、內宰也。

【宮寀】89 キュウサイ 宮中に奉仕する役人。宮內官。寀は官吏で、特に其の采邑ある者の稱。〔劉洎、論㆓太子初立㆒請㆑尊㆓賢學㆒表〕宮寀無㆓因以進㆑言。

【宮釵】90 キュウサイ 宮女の插すかんざし。〔項斯、舊宮人詩〕宮釵折盡垂㆓空鬢㆒、內扇穿多減㆓半風㆒。

【宮罪】91 キュウザイ 五刑の一。男子は勢を割いて去勢し、女子は監房に監禁する罪。宮刑(69)の❶に同じ。〔周禮、秋官、司刑〕掌㆓五刑之灋㆒、以麗㆓萬民之罪㆒、墨罪五百、劓罪五百、宮罪五百、刖罪五百、殺罪五百。〔注〕宮者、丈夫則割㆓其勢㆒、女子閉㆓於宮中㆒、若㆓今宦男女㆒也。

【宮窗】92 キュウサウ 宮殿の窓。〔鄭谷、南宮寓直詩〕來誤宮窗燕、啼疑苑樹鶯。

【宮藏】93 キュウザウ 宮殿のくら。宮庫。〔史記、孟嘗君傳〕乃夜爲㆑狗、以入㆓秦宮藏中㆒、取㆓所㆑獻狐白裘㆒至、以獻㆓秦王幸姬㆒。

【宮作】94 ミヤヅクリ 宮殿を作ること。〔太平記、二十五、自㆓伊勢㆒進㆓寶劍㆒事〕尊、出雲國に宮作し給て。

【宮參】95 ミヤマヰリ 生兒が初めて產土神の社に參る儀式。男兒は三十一日、女兒は三十三日目に行ふ。產神詣。〔後水尾院宸記、御うぶや以下の次第〕御宮まゐり、御誕生の日より百二十日目なり。

【宮山】96 キュウザン ❶淸、高宇泰(**12－45313**‥1050)の號。❷ミヤマ 姓氏。〔和爾雅〕。

【宮之】97 キュウシ 複姓。〔左氏、僖、二〕晉荀息請㆘以㆔屈產之乘與㆓垂棘之璧㆒、假㆓道于虞㆒以伐㆖虢、云、公許㆑之、宮之奇諫、不㆑聽。

〔宮之奇〕98 キユウシキ　春秋、虞の大夫。晉の荀息が垂棘の璧と屈產の馬を賂として道を虞に借り、虢を伐たんとした時、虞君を諫めて用ひられず、族を率ゐて去る。宮之を見よ。〔左氏、僖、二・五〕。

【宮仕】99 ミヤヅカヒ ミヤヅカヘ　㊀宮中に仕へること。〔伊呂波字類抄〕宮（ミヤヅカヘ）・宮仕、同。㊁貴人の家に仕へること。㊂貴人の世話をすること。〔平家物語、三、有王島下〕時時參りて御宮づかへ仕候なり。

【宮司】100 キユウシ　㊀後宮の事を掌るつかさ。〔唐書、太宗皇后長孫氏傳〕宮司以聞、帝爲レ之慟。㊁グウジ　㋑神職の一。主として神社の造營・收稅等の事を掌つた者。後には廣く祭祀・祈禱等に從事する者の稱。大宮司・權大宮司・少宮司等の別がある。〔延喜式、三、臨時祭式〕凡諸神宮司及神主等、未レ滿二六年一、遭レ喪解任、不レ得二補替一。㋺伊勢神宮の祭主に次ぐ大宮司・少宮司の稱。㋩官・國幣社の最高の神官で、其の社の長たる者。社格廢止後も名稱は存續してゐる。

【宮市】101 キユウシ　宮苑內に設ける市肆。後漢の靈帝が始めて設けた。〔金樓子、箴戒〕漢靈帝時、作二列肆於後宮一、使二采女販賣一、更相盜竊、鬭爭之聲聞二於人閒一、帝著二商賈服一、飮二宴於其閒一。〔唐書、中宗紀〕景龍三年、及二皇后一幸二玄武門一、觀二宮女拔河一、爲二宮市一以嬉。〔唐書、韓愈傳〕極二論宮市一、德宗怒貶二陽山令一。

〔宮市使〕102 キユウシシ　唐の官名。宮市の事を掌る。唐の德宗の時、宮中に市場を開き、宦官を宮市使に任じて物品を抑買させた。〔大學衍義補、制二國用一、市糴之令〕唐德宗以二宦者一爲二宮市使一、置二白望數百人一、抑二買人物一、以二紅紫染故衣敗繒一、尺寸裂而給レ之。

【宮脂】103 キユウシ　鹿の脂。〔太平御覽、獸部〕博物志曰、以二水銀宮脂一塗レ陰、男子卽痿、宮脂、鹿脂也。

【宮詞】104 キユウシ　詩の一體。宮廷の瑣事を述べて諷詠に資するもの。遠く漢魏六朝の樂府に始まり、徐陵・庾信に至つて宮體の目を生じたが、宮庭閒に限らなかつた。唐代に至り、李白の清平調・行樂詞は宮詞の先聲である。王昌齡に至つて其の體初めて成り、爾來、王建・花蕊夫人等の宮詞、皆宮廷の祕聞を綴つて一時の掌故に備へるに至つた。〔王建、宮詞〕金殿當頭紫閣重、仙人掌上玉芙蓉、太平天子朝二元日一、五色雲車駕二六龍一。〔增注〕古今詩話云、王建宮詞百首、皆言二宮中事一、史傳小說多所レ不レ載、苕溪詩話、建宮詞凡百絕、天下傳二播此體一者、雖レ有二數家一、而建爲二之祖一耳。

【宮寺】105 キユウジ　㊀役所。〔晉書、荀晞傳〕留軍何倫抄二掠宮寺一、劫二剝公主一、殺二害賢士一。㊁ミヤデラ　神佛混合の社。〔古事談、六〕件永眞、宮寺所司也。

【宮事】106 キユウジ　婦人のつとめとして最も大事な蠶桑の事。轉じて、婦人の行ふ家事。〔儀禮、士昏禮〕母施レ衿結レ帨曰、勉レ之敬レ之、夙夜無レ違二宮事一。〔大戴禮、夏小正〕三月妾子始蠶、執二養宮事一。〔補注〕宮、蠶宮也、祭義曰、古者天子諸侯、必有二公桑蠶室一、近レ川而爲レ之、築レ宮、仞有二三尺一、婦事莫レ重二於蠶一、故昏禮戒女詞云、夙夜無レ違二宮事一。〔列女傳、貞順、齊孝孟姬傳〕必敬必戒、無レ違二宮事一。

【宮室】107 キユウシツ　㊀家。すまひ。家屋。〔爾雅、釋宮〕宮謂二之室一、室謂二之宮一。〔注〕皆所下以通二古今之異語一、明中同實而兩名上。〔說文、宮、段注〕宮言二其外之圍繞一、室言二其內一、析言則殊、統言不レ別也。〔易、繫辭下〕上古穴居而野處、後世聖人易レ之以二宮室一。〔書、泰誓上〕宮室臺榭、陂池侈服。〔禮、曲禮上〕三十曰レ壯有レ室、〔疏〕若通而言レ之、則宮室通レ名、云云、別而言レ之、論二其四面穹隆一則曰レ宮、因二其貯レ物充實一則曰レ室。㊁宮殿。御殿。〔禮、曲禮下〕君子將レ營二宮室一、宗廟爲レ先。〔周禮、春官、小宗伯〕車旗宮室之禁。〔左氏、昭、二十〕宮室日更、淫樂不レ違。〔晏子、雜、下〕吾君好レ治二宮室一、民之力弊矣。㊂廟と寢室。寢は正室。〔呂覽、重己〕其爲二宮室臺榭一也。〔注〕宮、廟也、室、寢也。㊃妻子をいふ。〔荀子、大略〕賜二予其宮室一。〔注〕宮室、妻子也。

〔宮室考〕108 キユウシツカウ　書名。十三卷。清、任啓運撰。十三目に分ち、專ら儀禮の宮室制度を考へ、頗る條理がある。〔四庫提要、經、禮類〕。

〔宮室不レ觀〕109 キユウシツクワンセズ　宮殿は美しく飾りたてない。〔左氏、哀、元〕宮室不レ觀、舟車不レ飾。

【宮車】110 キユウシヤ　㊀宮殿と車。〔唐書、禮樂志一〕國家制度、宮車服器、一切用レ秦。㊁天子の御車。宮車晏駕を見よ。〔杜牧、阿房宮賦〕雷霆乍驚、宮車過也。〔薩天錫、秋詞〕清夜宮車出二建章一、紫衣小隊兩三行。

〔宮車晏駕〕111 キユウシヤアンガ　天子の崩御をいふ。晏駕（5—13914‥13）を見よ。宮車晩駕。〔史記、范雎傳〕宮車一日晏駕。〔注〕集解曰、應劭曰、天子當二晏起早作一、如二方崩殞一、故稱二晏駕一、韋昭曰、凡初崩爲二晏駕一者、臣子之心、猶レ謂三宮車當二駕而晩出一。〔史記、灌夫傳〕卽宮車晏駕、非二大王立一當レ誰哉。〔史記、韓長孺傳〕有レ如二太后宮車卽晏駕一、大王尙誰攀乎。〔漢書、樊噲傳〕卽上一日宮車晏駕、則噲欲三以レ兵盡誅二戚氏趙王如意之屬一。

〔宮車晩駕〕112 キユウシヤバンガ　天子の崩御をいふ。宮車晏駕に同じ。〔海錄碎事、帝王、升遐〕祖挺謂二和士開一曰、宮車一日晩駕、君欲二何以克一レ終。

【宮舍】113 キユウシヤ　宮中の宿舍。〔宋史、曾鞏傳〕求下軍民不レ能二自養一者上、來食二息宮舍一、資二其食飮衣衾之具一。

【宮樹】114 キユウシヤ　宮庭中のたてもの。宮殿。樹は、高殿。〔謝莊、爲二八座江夏王一請二封禪一表〕雕氣降二雰於宮樹一、珍露呈二味於禁林一。

【宮妝】115 キユウシヤウ　宮女のよそほひ。宮粧（120）に同じ。〔劉禹錫、贈二李司空妓一詩〕高髻雲鬟宮樣妝。〔鄭嵎、津陽門詩〕鳴鞭後騎何躞蹀、宮妝襟袖皆仙姿。

【宮相】116 キユウシヤウ　㊀唐代、太子の僚屬。太子庶子の官をいふ。太子を東宮といふので、太子を輔佐する官を宮相といふ。〔白居易、九日思二杭州舊遊一詩〕風景不下隨二宮相一去上、歡娛應下逐二使君一新上。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二他名一、標二榜官稱一、云云、太子庶子爲二宮相一。㊁もと宮內大臣をいふ。

【宮省】117 キユウシヤウ　㊀御所の中の役所。尙書・中書省などをいふ。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕乃御レ輦幸二宣德殿一、見二宮省官屬及諸梁兄弟一。㊁宮中。禁中。〔後漢書、何進傳〕不レ宜三輕出二入宮省一。〔魏志、齊王芳紀〕明帝無レ子、養二王及秦王詢一、宮省事祕、莫レ有下知三其所二由來一者上。〔魏志、曹爽傳〕晏、何進孫也、母尹氏爲二太祖夫人一、晏長二於宮省一、又尙二公主一。

【宮商】118 キユウシヤウ　五音中の基本となる宮商二音の義。轉じて、音樂の調子。音樂。音律。〔詩、大序〕聲成レ文、〔箋〕聲成レ文者、宮商上下相應。〔晉書、孫綽傳〕恐此金石、非レ中二宮商一。〔陸雲、寒蟬賦〕容麗二蜩螗一、聲美二宮商一。〔宋書、律曆志上〕聲有二清濁一、故協以二宮商一。〔南史、褚彥回傳〕彥回援レ琴、奏二別鵠之曲一、宮商既調、風神諧暢。〔韓愈、送二權秀才一序〕宮商相宣、金石諧和。

〔宮商角徵羽〕119 キユウシヤウカクチウ　音樂の五基音の名。音樂上の旋律による音の排列。音階。宮を主音とし、宮の上五度の音を徵とし、徵の上五度の音を商、商の上五度の音を羽、羽の上五度の音を角といふ。〔禮、樂記〕宮爲レ君、商爲レ臣、角爲レ民、徵爲レ事、羽爲レ物。〔類聚名物考、樂律部、音調〕宮、土聲、最濁、主二一越調呂一、云云、商、金聲、次濁、主二平調律一、云云、角、木聲、半清半濁、主二雙調呂一、云云、徵、火聲、微清、主二黃鐘調律一、羽、水聲、最清、主二盤涉調律一。

【宮粧】120 キユウシヤウ　宮女のよそほひ。宮妝。〔剪燈餘話、秋夕訪二琵琶亭一記〕宮粧艷飾、貌類二天仙一。

【宮墻】121 キユウシヤウ　家のまはりの垣。宮牆の㊀に同じ。

【宮牆】122 キユウシヤウ　㊀家のまはりの垣。宮雉。宮墻。〔管子、八觀〕宮牆毀壞、門戶不レ閉。〔說苑、反質〕酒池肉林、宮牆文畫。〔皮日休、館娃宮詩〕髑骨已成二蘭麝土一、宮牆依レ舊壓二層崖一。〔劉禹錫、楊柳枝詞〕晩來風起花如レ雪、飛入二宮牆一不レ見レ人。㊁子貢が孔子を宮牆に譬へて述べた語から、轉じて、師門の義。〔論語、子張〕子貢曰、譬二之宮牆一、賜之牆也及レ肩、窺二見室家之好一、夫子之牆數仞、不下得二其門一而入上、不レ見二宗廟之美、百官之富一。〔劉寶楠正義〕宮牆者、室四周有レ牆、凡寢廟皆居二其中一、牆南面有レ門、以通二出入一、此制上下同。〔蔡邕、郭泰碑文〕宮牆重仞、允得二其門一。〔劉銑、詠歸亭賦〕屹宮牆之數仞、接二道義之通衢一。

〔宮牆外望〕123 キユウシヤウヲソトヨリノゾム　他人の內狀を窺ひ得ないこと。宮牆の㊁を見よ。

【宮城】124 キユウジヤウ　㊀天子のいます所　みやゐ。皇

居。御所。宮禁。宮庭。宮殿。王宮。〔漢書、燕剌王旦傳〕天火燒二城門一、大風壞二宮城樓一。〔晉書、荀奕傳〕時將レ繕二宮城一。〔唐書、地理志一〕大明宮、云云、西接二宮城之東北隅一。〔王涯、宮詞〕雕墻不レ斷接二宮城一、金榜皆書殿院名。㊁皇城の名。江蘇省江寧縣城內。皇城ともいふ。五代の時、徐知誥が國號を建て、子城を宮城と稱す。明の太祖、初め此處に皇宮を營み、後、他に移る。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕臺城在二今上元縣治東北五里一、云云、宮城卽苑城之別名、南城・西城、卽苑城南、苑城西也。

〔宮城野〕125 ミヤギノ 仙臺市の東、原町以南海濱に至る數里の閒の稱。古來萩花を以て著名の地。

【宮掌】126 クジヤウ 伊勢神宮・熱田神宮に置かれ、祭事・雜務に從事する神職。

【宮主】127 キユウシユ ㊀高麗で、臣民が后妃をいふ。宮中の主の意。〔宋史、高麗傳〕臣民云云、后妃曰二宮主一。㊁星命家が七曜と地支十二宮とを相配したものをいふ。〔張果星宗、入門看法、宮〕宮主者謂二子丑宮土・寅亥宮木・卯戌宮火・辰酉宮金・巳申宮水・午宮日・未宮月一。㊂ミヤジ 神祇官の職員で、宮中の神事を掌るもの。天皇の御卜に奉仕するものを、特に大宮主、又は內宮主といふ。〔續日本紀、八〕養老三年六月丙子、令二神祇官宮主、云云、始把レ笏焉。〔臨時祭式〕凡宮主、取二卜部堪レ事者一任レ之。

【宮守】128 ミヤモリ お宮の番をする人。〔謠曲、蟻通〕宮守一人も無き事よ。

【宮姝】129 キユウシユ 後宮の美人。〔飛燕外傳〕他日宮姝幸者、或襞レ裙爲レ縐。

【宮豎】130 キユウジユ kung^1 shu^4 宮中の小使。召使の類。

【宮樹】131 キユウジユ 宮庭に在る樹。〔韋應物、送二汾城王主簿一詩〕禁鐘春雨細、宮樹野煙和。〔元稹、生春詩〕宮樹棲鴉亂、城樓帶雪融。〔白居易、馬上晚吟詩〕上陽落葉飄二宮樹一、中渡流澌擁二渭橋一。〔鄭谷、黃鶯詩〕春雲薄薄日輝輝、宮樹煙深隔レ水飛。

【宮衆】132 キユウシユウ 王宮の士庶子。〔周禮、天官、宮伯〕若邦有二大事一、作二宮衆一、則令レ之。〔注〕謂二王宮士庶子一。

【宮聚】133 キユウシユウ 明の人。成祖の時、都督同知となる。永樂中、平蠻將軍の印を佩び、王驥の副となり、三たび麓川を征して大いに之を破り、孟養を踰えたので、諸部皆震怖して、古より漢人、金沙江を渡るもの無し、今、王師此に至る、眞に天威なりと言つたといふ。〔本朝分省人物攷、一〕

【宮宿】134 キユウシユク 宮殿にやどる。遊宴の生活をいふ。〔司馬相如、上林賦〕娛游往來、宮宿館舍。〔注〕向曰、天子往來、皆於二宮館一止宿。

【宮出】135 ミヤデ 宮門を出入する。宮に出仕すること。〔萬葉集、二〕宮出もするかさひの隈みを。

【宮俊】136 キユウシユン 朝廷內のすぐれた人。〔後漢書、臧宮傳〕宮俊休休、是亦鷹揚。

【宮巡】137 ミヤメグリ 諸處の神社を巡拜すること。〔夫木和歌抄、三十二〕常陸帶の解けよと祈る宮めぐり。

【宮所】138 キユウシヨ みや。宮殿。〔宋史、樂志十四〕寶章奕奕、祾宮俁俁、帝用將レ之、于二彼宮所一。

【宮處】139 ミヤドコロ ㊀皇居のある所。みやゐ。㊁姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十七〕

【宮署】140 キユウシヨ 宮殿官署。役所。〔晉書、石勒載記下〕大興二年、勒僞稱二趙王一、始建二社稷一、立二宗廟一、營二東西宮署一。〔白居易、酬二令狐尙書見レ贈十韻詩一〕嵩少當二宮署一、伊瀍入二禁渠一。

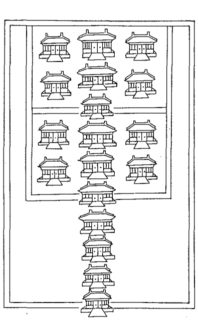
【宮燭】141 キユウシヨク 宮殿內のともしび。〔杜甫、將レ曉詩〕軍吏回二宮燭一、舟人自楚歌。

【宮職】142 キユウシヨク 宮中の官職。〔南齊書、張緒傳〕臣觀二張緒一、有二正始遺風一、宜レ爲二宮職一。

【宮觸】143 キユウシヨク 五刑の一。生殖機能を去る刑。宮割(38)に同じ。〔尙書大傳、周傳、甫刑〕男女不二以レ義交一者、其刑宮觸。

【宮臣】144 キユウシン ㊀臣下。〔南齊書、禮志上〕宮臣亦詣レ門稱レ賀。〔魏書、崔光傳〕於レ是宮臣畢拜、光北面立、不二敢答拜一。〔杜甫、秦州見下敕目二薛璩一授二司議郎一畢曜除中監察上詩〕宮臣仍點染、柱史正零丁。㊁東宮の官をいふ。〔稱謂錄、詹事府職官、宮臣〕書敍指南、選十六、東宮官曰二宮臣一。

【宮寢】145 キユウシン 宮殿。〔魏書、崔光傳〕鴡鶓巢二於廟殿一、梟鵩鳴二於宮寢一。〔劉攽、鴻慶宮三聖殿賦〕閎偉奇麗、宮寢之勿レ踰也。


宮寢制（三禮圖）

【宮人】146 キユウジン ㊀後宮に仕へる婦女。女官。〔易、剝〕貫レ魚以二宮人一寵、无レ不レ利。〔通解〕宮人者、世婦嬪御之屬。〔管子、戒〕中婦諸子謂二宮人一。〔淮南子、人閒訓〕宮人得レ戟、則以刈レ葵。〔史記、外戚世家〕太后出二宮人一。㊁周官の名。天官の屬。王寢を掌り、兼ねて服御の事を掌る。禮記の司官。〔周禮、天官、宮人〕掌二王之六寢之脩一。

〔宮人草〕147 キユウジンサウ 草花の名。楚の靈王の宮人が宮中に囚死した時、その墓上に生えたものと傳ふ。〔述異記〕楚中有二宮人草一、狀如二金萱一而甚氛氳、花色紅翠、俗說、楚靈王時、宮人數千、皆多二愁曠一、有下囚二死於宮中一者上、葬之後、墓上悉生二此花一。

〔宮人斜〕148 キユウジンシヤ 唐代、宮人を葬る墓地をいふ。斜は塚。〔春明退朝錄〕唐內人墓、謂二之宮人斜一。〔劉威、宮人斜詩〕雲慘煙愁苑路斜、路傍丘塚盡宮娃。

【宮崇】149 キユウスウ 後漢、琅邪の人。一に宮嵩に作る。順帝の時、神書一百七十卷を上る。〔後漢書、六十下〕・〔神仙傳、十〕

【宮嵩】150 キユウスウ 後漢、琅邪の人。宮崇を見よ。

【宮正】151 キユウセイ 官名。㊀周官の名。天官の屬。王宮の官史の長で、王宮の戒令糾禁を掌る。唐・金・明も之を置く。〔周禮、天官、序官、宮正、注〕正、長也、宮正、主二宮中一官之長。〔周禮、天官、宮正〕宮正、掌二王宮之戒令糾禁一。㊁三國魏、御史中丞をいふ。〔魏志、鮑勛傳〕擧レ勛爲二宮正一、宮正卽御史中丞也。㊂後周、置く。太子の屬官。左右二人あり、左右衞率の職に當る。宮尹(13)の㊀を見よ。〔唐六典、太子詹事府〕詹事一人正三品。〔注〕後周置二太子宮正・宮尹一。

【宮制】152 キユウセイ 宮殿建築の制度。〔詩、魯頌、泮水、思二樂泮水一、薄采二其芹一、疏〕天子之宮形既如レ璧、則諸侯宮制當レ異矣。

【宮星】153 キユウセイ 北斗の第一から第四に至る四つの星をいふ。〔開元占經、六十七〕禮緯斗威儀曰、宮星、北斗魁星。

【宮聲】154 キユウセイ ㊀五音中の宮の音。音の基礎であるから、轉じて音樂をいふ。〔禮、月令、中央土、云云、其音宮、注〕聲始二于宮一、云云、季夏之氣和則宮聲調。〔管子、幼官〕聽二宮聲一、治二和氣一。〔宋書、律曆志上〕宮聲正而不レ倍、故曰二正聲一。㊁清、錢中諧(**11－40563**‥388)の字。

【宮沼】155 キユウセウ 宮苑內の沼。〔禮、禮運〕龜龍在二宮沼一。〔白居易、西掖早秋直夜書レ意詩〕涼風起二禁掖一、新月生二宮沼一。

【宮妾】156 キユウセフ 宮中の婢。〔史記、衞康叔世家〕公令二師曹一、敎二宮妾鼓レ琴、妾不レ善、曹笞レ之。〔蔡邕、和熹鄧后謚議〕罷二出宮妾一免遣、宗室沒入者六百餘人。〔韓愈、諱辯〕惟宦官宮妾、乃不三敢言二諭及機一。

【宮扇】157 キユウセン 宮中で用ひる扇子・團扇。〔杜甫、秋興詩〕雲移二雉尾一開二宮扇一、日繞二龍鱗一識二聖顏一。〔桃花扇、眠香〕帶二有宮扇一柄一。

【宮襜】158 キユウセン 宮人をいふ。貴妃。襜は衣服の整つた樣子。〔長生殿、聞樂〕將二天上樂一授二宮襜一。

【宮奏】159 キユウソウ 宮音による奏樂。宮は五聲の一。〔宋史、樂志七〕肅肅禮度、鋗鋗宮奏。

【宮屬】160 キユウゾク 宮殿に奉仕する者。宮人。官屬。〔劉孝緒、侍二宴集賢堂一詩〕宮屬引二鴻鷺一、朝行命二金碧一。

【宮孫】161 キユウソン 複姓。〔漢書、藝文志〕宮孫子二篇。〔注〕師古曰、宮孫、姓也、不レ知レ名。

【宮體】162 キユウタイ ㊀梁の徐摛が始めた文體の名。摛は好んで新奇の文章を作り、毫も舊體に拘らず。太子家令となるや、春坊盡く之を學び、遂に一體を成すに至る。〔南史、徐摛傳〕轉二家令一、兼二管記一、尋帶二領直一、摛文體既別、春坊盡學レ之、宮體之號、自レ斯而始。㊁艷體の詩。梁の簡文帝が太子の時好んで艷詩を作つたのが、遂に俗を成して宮體といふ。〔皮日休、孫發百篇將レ遊二天台一請レ詩贈レ行詩〕百篇宮體喧二金屋一。〔滄浪詩

話、詩體〕宮體、梁簡文傷於輕靡、時號宮體。

【宮臺】163（キュウダイ） 宮中のうてな。宮中。宮省。役所。〔後漢書、黃香傳〕賜以督責小職、任之宮臺煩事。〔李賀、春歸昌谷詩〕花風滿秦道、宮臺光錯落。〔資治通鑑、齊紀〕明帝、建武元年、宮臺之內、皆屬意於鏘。〔注〕宮臺、猶言宮省也。

【宮桃】164（キュウタウ） 西王母の宮庭の桃。〔杜甫、千秋節有感詩〕仙人張內樂、王母獻宮桃。

【宮道】165（ミヤヂ） 姓氏。〔日用重寶記〕。

【宮闥】166（キュウタツ） 王宮の門。轉じて、宮中。〔後漢書、謝弼傳〕伏惟、皇太后定策宮闥。〔江淹、爲何詹事拜吏部尚書詔〕自升宮闥、美譽咸聞。〔唐書、陸贄傳〕變生京師、盜據宮闥。

【宮端】167（キュウタン） 官名。唐代、太子參事をいふ。〔事文類聚〕太子參事、號曰儲端、亦曰宮端。〔李寬、除參事利〕總務宮端、允贊忠諒。

【宮地】168（キュウチ） 宮殿の敷地。みやどころ。〔宋史、謝德權傳〕徙民舍、以廣宮地。

【宮池】169（キュウチ） 宮中に在る池。宮沼。〔淮南子、說林訓〕宮池涔則溢、旱則涸。〔錢惟、演家王故事〕泛舟於宮池。〔盧綸、和常舍人晚秋集賢院卽事云云詩〕御竹潛通筍、宮池暗瀉泉。

【宮雉】170（キュウチ） 宮殿のかき。宮牆。〔謝朓、暫使下都夜發新林至京邑贈西府同僚詩〕引領見京室、宮雉正相望。〔梁簡文帝、菩提樹頌序〕徘徊於宮雉。

【宮徵】171（キュウチ） 五音の中の宮と徵との二音。轉じて、音律・音樂。〔說苑、善說〕徐動宮徵、微揮羽角。〔南史、陸厥傳〕愚謂、前英已早識宮徵。〔杜甫、聽楊氏歌詩〕玉杯久寂莫、金管迷宮徵。

【宮仗】172（キュウヂヤウ） 天子の護衞兵。儀仗。〔白居易、德宗皇帝挽歌詞四首詩〕宮仗辭天闕、朝儀出國門。

【宮中】173（キュウチュウ） ❶家のうち。宅舍のうち。〔孟子、滕文公上〕舍皆取諸其宮中而用之。〔注〕不肯皆自取之其宮宅中而用之。❷ごしよ。禁中。宮掖。大內。〔周禮、天官、宮正〕以時比宮中之官府、次舍之衆寡。〔管子、霸形〕宮中虛無人。〔墨子、親士〕王者淳澤、不出宮中、則不能流國矣。❸宦者・女官等の役所。〔史記、趙世家〕召而匿之宮中。

〖宮中喪〗174（キュウチュウモ） 天皇が大喪の外、皇親竝びに外國君主等の喪に服し給ふことをいふ。

〖宮中杖〗175（キュウチュウヅヱ） 老臣優遇を以て、急いで宮中に出仕の時、特に使用をさし許される鳩杖。

〖宮中三殿〗176（キュウチュウサンデン） 宮城內の賢所・皇靈殿・神殿の三所の稱。

〖宮中之樂〗177（キュウチュウノガク） 宮中の音樂。〔孔子家語、相魯〕齊奏宮中之樂、俳優侏儒戲於前。

〖宮中府中〗178（キュウチュウフチュウ） 宮中は禁中、府中は大將軍の幕府。一說に、宮は宦官女子の居る所、府中は大臣宰相の居る所。〔諸葛亮、出師表〕宮中府中、俱爲一體。〔注〕翰曰、宮中、禁中也、府中、大將軍幕府也。〔古文眞寶、出師表、注〕宮中、宦官女子所出、府中、大臣宰相所居。

〖宮中顧問官〗179（キュウチュウコモンクヮン） もと宮內大臣の諮詢に應ずる敕任名譽官。

【宮柱】180（キュウチュウ） みやばしら。宮殿の柱。〔大戴禮、明堂〕周時德澤洽和、蒿茂大、以爲宮柱、名爲蒿宮也。

【宮廚】181（キュウチュウ） 御殿の臺所。轉じて、宮中の食事。〔李商隱、夢澤詩〕未知歌舞能多少、虛減宮廚爲細腰。

【宮幮】182（キュウチュウ） 家のとばり。〔陸游、荼蘼詩〕繁香滿衣沁心肺、十斛瑤屑薰宮幮。

【宮儲】183（キュウチヨ） 皇太子。〔梁簡文帝、唱導文〕閨守奉仁、宮儲欽德。

【宮女】184（キュウヂヨ） 後宮に仕へる婦人。みやづかへの女。ごてん女中。官女。宮人。宮娃。宮娥。宮鬟。〔管子、君臣下〕命婦宮女、盡有法制。〔漢書、貢禹傳〕古者宮室有制、宮女不過九人。〔李白、越中懷古詩〕宮女如花滿春殿、只今惟有鷓鴣飛。

〖宮女添線〗185（キュウヂヨテンセン） 晉・魏及び唐代、宮中に於て、絲で日の長短を量つたことをいふ。〔歲時記〕晉魏宮中、以紅線量日影、冬至後、日添長一線。〔唐雜錄〕唐宮中、以女功揆日之長短、冬至後日晷漸長、比常日增一線之功。

【宮廷】186（キュウテイ） 帝王の居所。朝廷。役所。宮庭。〔荀子、禮論〕是君子之壇宇宮廷也。〔史記、秦始皇紀〕咸陽人多、先王之宮廷小。〔唐山夫人、安世房中歌〕高張四縣、樂充宮廷。〔張衡、週天大象賦〕何宮廷之宏廠。〔溫岐、再生檜賦〕殘陽未落宮廷之林藪。

【宮邸】187（キュウテイ） 宮中。〔宋史、職官志四〕宗正寺若宮邸官、因事出入、日書於籍、季終類奏。〔宋史、姚坦傳〕上謂近臣曰、坦在宮邸、不能以正理誨諭、事有微失、卽從而揚之、此賣直取名耳。

【宮亭】188（キュウテイ） ❶ちん。小さい建物。〔成都古今記〕楊雄宅、後置寶園寺、今爲宮亭。❷湖の名。江西省の鄱陽湖の嬰子口以南をいふ。別に邦亭ともいふ。〔水經、廬江水注〕峯山下又有神廟、號曰宮亭廟、故彭湖亦有宮亭之稱焉。〔太平寰宇記〕鄱陽湖南當南昌界者、曰宮亭湖。〔淸一統志〕宮亭、亦作邦亭。

【宮庭】189（キュウテイ） 朝廷。宮廷に同じ。〔荀子、儒效〕是君子之所以騁志意於壇宇宮庭也。〔楚辭、招魂〕宮庭震驚、發激楚些。〔史記、商君傳〕築冀闕宮庭於咸陽。〔宋史、邢昺傳〕詔其妻至宮庭、賜以冠帔。

【宮朝】190（キュウテウ） 宮殿に參內する。〔韓詩外傳、三〕教士千人、宮朝者萬人。

【宮調】191（キュウテウ） 雅樂の調の中、最も基本的なもの。五音又は七音の第一音たる宮に始まり宮に終る音階。宮は黃鐘大呂の類、調は大石般涉の類。宋、張炎の五聲宮調配屬の圖、淸會典の圖、張炎の詞源、沈璟南の九宮譜等に詳かである。〔九宮大成〕惟樂曲所用、止有六宮十一調、卽黃鐘宮・正宮・仙呂宮・南呂宮・中呂宮・道宮・大石調・小石調・般涉調・商角調・高平調・揭指調・宮調・商調・角調・越調・雙調、是也、今揭指、宮調・角調、亦已失傳。〔隋書、音樂志〕太常詳令删定議修一百四曲、其五曲在宮調、黃鐘也。

宮	黃鐘
	大呂
商	太簇
	夾鐘
角	姑洗
	仲呂
變徵	蕤賓
徵	林鐘
	夷則
羽	南呂
	無射
變宮	應鐘

【宮涅】192（キュウデツ） 周幽王（2－3441··538）の名。

【宮殿】193（キュウデン） ❶帝王の御殿。御所。宮闈。宮極。宮寢。〔漢書、百官公卿表上〕郎中令、秦官、掌宮殿掖門戶。〔後漢書、百官志二〕光祿勳卿、一人、掌宿衞宮殿門戶。〔江淹、遂古篇〕宮殿樓觀竝七珍兮。〔杜甫、奉和賈至舍人早朝大明宮詩〕宮殿風微燕雀高。❷神を祀る社殿。〔神道名目類聚抄〕。

〖宮殿屋〗194（クウデンヤ） 宮殿を造る大工。また小宮殿を造り置いて賣る人。宮殿師。宮師（ミヤシ）。宮作り。〔人倫訓蒙圖彙、六〕。

【宮斗】196（キュウト） 北斗の第一から第四に至る四つの星をいふ。〔古微書、禮斗威儀〕宮斗端明。〔注〕宮斗、北斗魁星也。

【宮奴】197（キュウド） 宮中に仕へる僕隸。〔古琴疏〕趙飛燕與宮奴赤鳳暱、後赤鳳懼事泄亡去、后思之不已、製赤鳳來曲、恆援琴而歌之、未嘗不涙下、名其琴曰鳳皇。

【宮燈】198 kung^1 têng^1 紅色の絹で張つた燈籠。元宵又は慶事に用ひる。

【宮童】199（キュウドウ） 宮中の召使の童子。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕齊房產草、九莖連葉、宮童效異、披圖案謀。〔注〕臣瓚曰、宮之童豎、致此異端也。

【宮內】200（キュウナイ） ❶宮中。〔左氏、襄、九〕令司宮巷伯儆宮。〔注〕司宮、奄臣、巷伯、寺人、皆掌宮內之事。〔魏志、毋丘儉傳、注〕儉等表曰、徵兵募士、毀壞宮內。〔南齊書、武穆裴皇后傳〕宮內深隱、不聞端門鼓漏聲。〔徐陵、玉臺新詠序〕楚王宮內、無不推其細腰。❷家のなか。室內。家內。〔北史、齊後主紀〕一夜燃油萬盆、光照宮內。

〖宮內卿〗201（クナイキヤウ） 令制。宮內省の長官。唐名は工部尙書・殿中監・光祿少卿・司農卿。〔職原抄〕宮內省、卿一人、唐名、工部尙書・殿中監・光祿少卿・司農卿。

〖宮內官〗202（クナイクワン） 舊宮內省（宮內省本廳・皇后宮職・東宮職・各皇族家・帝室會計審查局・帝室林野管理局・御歌所・帝室博物館・學習院・女子學習院）及び內大臣府の官吏の稱。今、宮內廳の官吏。

【宮內省】203 クナイシヤウ ㊀令制、八省の一。帝室の御用度・御料地及び宮中大小の用をつとめ、すべての土木・工匠を支配し、又、國々よりの調貢などを掌る。唐名は司農、又、工部。〔職員令〕宮內省、卿一人、掌下出納・諸國調・雜物・舂米・官田及奏ニ宣御食產一、諸方口味事上。〔職原抄〕宮內省、當ニ唐工部一、又云ニ司農一。㊁もと、皇室の一切の事務を取扱つた官廳。宮內大臣及び其の輔助官府から成り、大臣官房のほか侍從職・式部職・內藏寮・宗秩寮・大膳寮・圖書寮・內匠寮・主殿寮・內苑寮・主馬寮・諸陵寮・侍醫寮・主獵寮・調度寮から成る。今の宮內廳。

【宮內丞】204 クナイノジヨウ 令制、宮內省の判官。大丞・少丞がある。唐名は工部郎中。〔職原抄〕宮內省、少丞、唐名、工部郎中。

【宮內廳】204′ クナイチヤウ 內閣總理大臣の管理に屬し、總理府の外局としておかれ、皇室關係の國家事務及び天皇の國事行爲に係る一定の事務を掌り、御璽・國璽を保管する行政機關。長官官房の外、侍從職・東宮職・式部職・書陵部・管理部の各局がある。もとの宮內省。

【宮內錄】205 クナイノサクワン 令制、宮內省の主典。大錄・少錄がある。唐名は工部主事。〔職原抄〕宮內省、錄、唐名、工部主事。

【宮內少輔】206 クナイセフ 令制、宮內省の次官。唐名は工部員外郎。〔職原抄〕宮內省、少輔一人、唐名、工部員外郎歟。

【宮內大臣】207 クナイダイジン 宮內省の長官。皇室一切の事務に就いて輔弼の責に任じ、所部各官を統督し、兼ねて華族・朝鮮貴族を監督し、主管の事務に就いて省令其の他必要な規定を定めた親任官。

【宮內大輔】208 クナイタイフ 令制、宮內省の次官。唐名は工部侍郎。〔職原抄〕宮內省、大輔一人、唐名、工部侍郎。

【宮內省圖書寮】209 クナイシヤウトシヨレウ 宮城內にあり、我が帝室の圖書を藏し、其の數大約二十五萬。帝室和漢圖書目錄、及び增加圖書目錄に著錄せられ、希覯の珍籍が多い。今、宮內廳の書陵部に屬す。

【宮梅】210 キユウバイ 宮廷に在る梅。〔圖繪寶鑑〕丁野堂善レ畫ニ梅竹一、理宗省召見、問曰、卿所レ畫者、恐非ニ宮梅一、對曰、臣所レ見者、江路野梅耳、遂號ニ野堂一。〔畫梅譜〕其法有ニ枯梅・新梅・繁梅・山梅・疎梅・野梅・宮梅・江梅・園梅・盤梅一、其木不レ同、不レ可レ無レ別也。〔沈遼、春日行〕宮梅撲レ地白氈斑、細柳結レ煙金縷繁。

【宮袍】211 キユウハウ 朝服。〔殷堯藩、登ニ鳳皇臺一詩〕鳳皇臺上望ニ長安一、五色宮袍照レ水寒。〔桃花扇、歸山〕便解ニ宮袍一。

【宮坊】212 キユウバウ ㊀太子の屬官。又、其の宮殿。宮殿。青宮。春坊。〔南史、徐勉傳〕累ニ遷洗馬中舍人一、猶管ニ書記一、出ニ入宮坊一者歷レ稔。㊁宮中。御殿。〔迺賢、詩〕織レ錦秦川窈窕娘、新翻ニ花樣一學ニ宮坊一。

【宮房】213 キユウバウ 宮中のへや。女官の室。宮閨。女官。〔後漢書、循吏傳序〕宮房無ニ私愛一、左右無ニ偏恩一。〔應瑒、文質論〕遊ニ玩于左右一、振ニ飾于宮房一。

【宮帽】214 キユウバウ 宮中でかぶる帽子。〔周必大、香花詩〕禁庭侍史今同宿、宮帽花枝故自欒。

【宮伯】215 キユウハク 周官の名。天官の屬。王宮宿衞の士を掌る。一說に、王宮中の卿大夫の適子・庶子及び士の適子を掌る。漢の衞尉、淸の內大臣之に當る。〔周禮、天官、宮伯〕掌ニ王宮之士庶子、凡在レ版者一。〔注〕鄭司農云、庶子、宿衞之官、版、名籍也、云云、玄謂、王宮之士、謂ニ王宮中諸吏之適子一也、庶子、其支庶也。

【宮罰】216 キユウバツ 五刑の一。生殖機能を除去する刑。宮刑(69)に同じ。〔書、呂刑〕宮罰之屬ニ三百、大辟之罰、其屬二百、五刑之屬ニ三千。

【宮法】217 キユウハフ 宮中の法律。〔新書、等齊〕所在之宮衞、織履蹲夷、以ニ皇帝在所宮法一論レ之。

【宮判】218 キユウハン 天子と卿大夫との音樂。宮は天子の懸樂、判は卿大夫の懸樂。〔任昉、天監三年策ニ秀才一文〕因ニ六代之樂一、宮判始辨。〔注〕向曰、宮、天子之懸樂、判、卿大夫也。

【宮妃】219 キユウヒ 宮中に仕へる女。女官。〔妝臺記〕理宗朝、宮妃梳ニ高髻於頂一。

【宮婢】220 キユウヒ 宮仕への賤女。〔漢書、丙吉傳〕是時、掖庭宮婢、則令四民夫上書自陳三嘗有ニ阿保之功一。〔唐書、韓偓傳〕宮婢負レ恩。

【宮扉】221 キユウヒ 宮殿の戶。〔杜甫、花萼樓賦〕掩ニ宮扉一則聞ニ簫聲之下レ漢、卷ニ珠箔一則覩ニ天人之在レ樓。

【宮嬪】222 キユウヒン 宮仕への女。女官。〔李羣玉、王內人琵琶引〕三千宮嬪推ニ第一一、斂レ黛傾レ鬟艷ニ蘭室一。

【宮府】223 キユウフ ㊀役所。宮は宮中、府は官署。〔後漢書、光武紀上〕更始將ニ北都ニ洛陽一、以ニ光武一行ニ司隸校尉事一、使三前整ニ修宮府一。〔諸葛亮、出師表〕宮中府中、俱爲ニ一體一。㊁官名。太子の屬官。太子家令。〔通典、職官典、東宮官、太子家令〕龍朔二年、改ニ家令寺一爲ニ宮府寺一、家令爲ニ宮府大夫一、咸亨初復レ舊。

【宮婦】224 キユウフ 宮仕への女。〔戰國、齊策上〕宮婦左右、莫レ不レ私レ王。〔韓非子、外儲說右上〕宮婦不レ御者出嫁レ之。

【宮譜】225 キユウフ 淸、樂鈞(6－15399··65)の初名。

【宮腹】226 ミヤバラ 皇女を實母とする御方。〔源氏物語、帚木〕宮ばらの中將。

【宮粉】227 kung^1 fen^3 白粉。貢粉。

【宮陛】228 キユウヘイ 宮殿のきざはし。〔後漢書、董溫傳〕馳齎ニ赦書一、以令ニ宮陛一、內外士卒、皆稱ニ萬歲一。〔顏延之、北使レ洛詩〕宮陛多ニ巢穴一、城闕生ニ雲煙一。

【宮閉】229 キユウヘイ 古の刑罰。不義をなした女子を奥深くおしこめて、外に出させぬやうにすることをいふ。〔左氏、僖、十五、登レ臺而履レ薪焉、注〕古之宮閉者、皆居ニ之臺一、以抗ニ絕之一。

【宮嬖】230 キユウヘイ 下賤の身で、宮中の寵を受けてゐる者。〔左氏、昭、十二〕殺ニ瑕辛于市一、及ニ宮嬖綽・王孫沒・劉州鳩・陰忌・老陽子一。

【宮廟】231 キユウベウ おたまや。〔公羊、閔、二〕其言ニ于莊公一何、未レ可三以稱ニ宮廟一也。〔史記、天官書〕宮廟邸第、人民所レ次。〔漢書、郊祀志下〕刻ニ銘其先功一、臧ニ之於宮廟一也。

【宮辟】232 キユウヘキ 五刑の一。男女の不義を罰する刑。男子は其の勢を去り、婦人は幽閉する。大辟に次ぐ刑。宮刑(69)の㊀に同じ。〔書、呂刑〕宮辟疑赦。〔傳〕宮、淫刑、男子割レ勢、婦人幽閉。〔白虎通、五刑〕宮辟之屬三百。

【宮保】233 キユウホ 官名。淸代、太子少保の稱。宮銜(43)を見よ。〔稱謂錄、師傅保、宮保〕吳震方讀書質疑、官名之屬、務稱ニ古號一、如下稱ニ給事一爲ニ給諫一、狀元爲中殿撰上、三孤・三公、保其一也、而通曰ニ宮保一、牽強支離、竟不レ成レ語。

【宮墨】234 キユウボク 宮刑と墨刑。男は去勢し、女は宮中にとぢこめるのを宮刑といひ、墨は入れずみの刑。〔舊唐書、刑法志〕懼ニ爭心之將レ作也、故有ニ輕重三典之異、宮墨五刑之差一。

【宮門】235 キユウモン ㊀禁門。宮城の門。〔史記、陳涉世家〕扣ニ宮門一曰、吾欲レ見レ涉。〔杜甫、虢國夫人詩〕虢國夫人承ニ主恩一、平明上レ馬入ニ宮門一。〔張祜、華淸宮詩〕宮門深鎖無ニ人覺一、半夜雲中羯鼓聲。㊁內裏の外郭門。中の重の門。なかみかど。〔宮衞令、義解〕衞門所レ守、謂ニ之宮門一。

【宮門抄】236 kung^1 men^2 ch'ao^1 宮廷の錄事。官報。邸抄。邸報(11－39347··18)に同じ。

【宮樣】237 キユウヤウ ㊀御殿風。宮中に行はれる樣式。〔畫論〕開元間、別賜ニ供奉官及內臣圓頭宮樣巾子一。㊁ミヤサマ ミヤサン 宮の敬稱。

【宮樣粧】238 キユウヤウシヤウ 宮中風の粧ひ。〔剪燈餘話、月夜彈琴記〕高髻雲鬟宮樣粧。

【宮鑰】239 キユウヤク 宮殿の鍵。宮門のしまり。〔白居易、司徒令公分ニ守東都一云云詩〕寵重移ニ宮鑰一、恩新換ニ閫旄一。〔宋史、錢惟演傳〕先壟在ニ洛陽一、願守ニ宮鑰一、卽以判ニ河南府一。

【宮廊】240 キユウラウ 殿中の廊下。〔羅虬、比紅兒詩〕若見ニ紅兒此中住一、不レ勞ニ鹽篠灑ニ宮廊一。〔王建、宮詞〕衩衣騎馬繞ニ宮廊一。

【宮裏】241 キユウリ 宮殿の中。宮中。宮裡。〔庾信、謝ニ滕王集序一啓〕甘泉宮裏、玉樹一叢。〔李白、蘇臺覽古詩〕唯今惟有ニ西江月一、曾照ニ吳王宮裏人一。〔白居易、王昭君詩〕君王若問ニ妾顏色一、莫レ道不レ如ニ宮裏時一。

【宮鄰】242 キユウリン 天子に親近する臣。鄰は親近。〔王融、三月三日曲水詩序〕宮鄰昭泰、荒憬清夷。

【宮鄰金虎】243 キユウリンキンコ 在朝の小人の君側にあるものが、姦惡で黨をなすこと。金は、貪欲の心の堅いこと。虎は、讒言のたけだけしいこと。

（張衡、東京賦）周姬之末、不レ能二厥政一、政用二多僻一、始二於宮鄰一、卒二於金虎一。（注）綜曰、鄰、近也、謂、幽王近二於宮室一、惑二於褒姒一、卒有二禍敗一也、金虎、西方白虎、善曰、應劭漢宮儀曰、不制之臣、相與比周、比周者宮鄰金虎、宮鄰金虎、言二小人在レ位、比周相進、與レ君爲レ鄰、貪求之德堅若レ金、讒謗之言惡如レ虎也。

【宮僚】244 キユウレウ ㊀太子の屬官。（王儉、皇太子妃服議）漢魏以來、宮僚充備、臣隸之節、具體在レ三。（宋史、燕懿王德昭傳）時宮僚有レ缺、不二即請一、而以二他官一攝。㊁官吏。（舊唐書、職官志三）司直、掌下彈二劾宮僚一、紀中擧職事上。

【宮簾】245 キユウレン 宮殿のすだれ。みす。（杜甫、秋日荊南送二石首薛明府辭レ滿告別一詩）殿瓦鴛鴦坼、宮簾翡翠虛。（李賀、南園詩）宮北田塍曉氣酣、黃桑飲露窣二宮簾一。（鄭谷、蠟燭詩）仙漏遲遲出二建章一、宮簾不レ動透二清光一。

【宮路】246 キユウロ みやぢ。宮殿へ通ずる道。（李益、從軍有苦樂行）東過二秦宮路一、宮路入二咸陽一。

【宮漏】247 キユウロウ 宮中にある水時計。一時刻毎に鼓を打つて時を報ず。（戴叔倫、春日早朝應制詩）月沈宮漏靜、雨濕禁花寒。（白居易、和二思黯居守獨吟偶醉一云云詩）宮漏滴漸闌、城烏啼復歇。（宋史、樂志十六）宮漏聲遲。（元史、順帝紀六）自製二宮漏一、約高六七尺、廣半レ之、造レ木爲レ匱、陰二藏諸壺其中一、運二水上下一、匱上設二西方三聖殿一、匱腰立二玉女一、捧二時刻籌一、時至輒浮レ水而上。

【宮樓】248 キユウロウ 宮殿。（張祜、玉環琵琶詩）宮樓一曲琵琶聲、滿眼雲山是去程。（薛能、折楊柳詩）嫩綠輕懸似二綴旒一、路人遙見隔二宮樓一。（羅鄴、鶯詩）曉逢二溪雨一投二紅樹一、晚囀二宮樓一泣二舊妝一。

【宮椀】249 キユウワン 小さい椀。普通の椀の半分ほどのもの。（王士禎、居易錄）碧玉露漿方、於二中秋前後一、用二五棓新青布一、於二百草頭上一、展二取草露一、用二男乳・蜂蜜・人參湯一、總二入一宮椀內一、將二露水一、攙入二宮椀一、和勻溫服。

【宮彎】250 キユウワン 婦人の靴。そりまがるからいふ。宮鞋。（剪燈餘話、連理樹記）宮彎著レ上無二行處一、獨立二花陰一看二鴈行一。

【宮偉鏐】251 キユウヰリウ 清、泰州の人。字は紫陽。號は桃都漫士。明、崇禎の進士。官は翰林。著に庭聞州世說がある。（四庫揭要、一百三十四）。

【宮廐尹】252 キユウキウイン 春秋、楚の官。宮殿のうまやの長官。令尹に次ぐ。（左氏、襄、十五）養由基爲二宮廐尹一。

【宮繼蘭】253 キユウケイラン 明の人。永建の孫。字は貞吉。崇禎の進士。官は兗州知府。（泰州志）。

【宮鴻歷】254 キユウコウレキ 清、泰州の人。字は友鹿。別の字は恕堂。詩に巧。晚年、進士となりて詞館に入る。著に恕堂詩鈔がある。（碑傳集補、八）。

【宮爾勸】255 キユウジクワン 清、高密の人。字は九敍。號は怡雲。康熙の擧人。官は雲南布政使。著に南溟集がある。（國朝耆獻類徵、一百八十一）・（碑傳集、八十四）。

【宮守禮】256 キユウシユレイ 明、寧遠の人。諸生。父の喪に事へて旌表せらる。（明史、二百九十六）。

【宮水流】257 ミヤツル 日向國の地名。

【宮天授】258 キユウテンジユ 元、開州の人。字は大用。官は釣臺書院山長。樂府に巧。著に雜劇范張雞黍等がある。

【宮毗羅】259 クビラ 蛟の異名。（正字通）蛟、梵言宮毗羅、此云レ蛟。

【宮毗羅大將】259′ クビラタイシヤウ 佛宮毗羅は梵語 kubera の新譯で、藥師如來十二神將の一。舊譯では金毘羅といふ。印度の王舍城の守護神とする。（藥師經鈔、下）宮毘羅大將、宋譯本云、名二金毘羅一。

【宮夢仁】260 キユウボウジン 清、泰州の人。字は定山。康熙の進士。官は福建巡撫。著に讀書紀數略がある。（四庫提要、一百三十六）。

【宮崎筠圃】261 ミヤザキキンポ 尾張の人。名は奇。初名は淳。字は子常（士常）。常之進と稱す。幼より博聞強記。長じて伊藤東涯・蘭嵎に學ぶ。經史に力め、兼て詩・書畫を良くす。人となり至孝。又溫厚謙讓。少長賢愚となく皆よくこれを禮す。安永三年歿、年五十八。著に經說・讀畫談・筠圃備忘錄・筠圃詩文集・行恭先生集がある。（近世叢語、續一）。

【宮崎文庫】262 ミヤザキブンコ 伊勢外宮神域外側の豐宮崎の地にあつた文庫。慶安元年、神宮祠官修學の目的で創建せられ、碩學鴻儒が來つて講堂で學を講じた。明治十一年、講堂燒失し、書庫は移して神宮文庫に收める。一名、豐宮崎文庫。

【宮原龍山】263 ミヤバラリヨウザン 伊豫國の人。名は斌。字は樂大。通稱は文太・泰助。號は龍山。服部栗齋に師事し、程朱を奉ず。又、文章に巧。官は松山藩儒。文化八年六月十七日歿す、年五十二。著に龍山詩文集がある。（慶長以來諸家著述目錄）。

【宮澤雲山】264 ミヤザハウンザン 武藏國の人。名は雉・達。字は神遊・上侯。通稱は新吾。號は雲山・細庵・小無絃・再生翁・破硯翁・小青軒・酒肉頭陀。市河寬齋に師事す。詩に巧。嘉永五年二月五日歿す、年七十二。著に雲山堂遺稿集・雲山堂百絕・錦繡叢・金詩佳絕・細庵先生百絕・三雲絕句（宮澤雲山・遠山雲如・竹內雲濤）・清詩佳絕・醉珊瑚・焦尾琴・宋詩佳絕・唐詩佳絕・探勝遊記・破硯詩話・破硯隨筆・墨林寄標・臨池新表がある。（近代著述目錄後篇）・（埼玉名家著述目錄）。

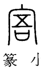
【宮澤欽齋】265 ミヤザハキンサイ 尾張國の人。名は安重。通稱は懶夫。號は欽齋・南溟。蟹養齋に師事す。官は伊勢長島藩儒。安政四年五月十一日歿す、年六十三。著に諸經傳講義がある。（慶長以來諸家著述目錄）。

【宮田五溪】266 ミヤタゴケイ 江戸の人。名は華龍。字は子雲。通稱は清藏。號は五溪。歿年は未詳。著に葦田劄記・花間百詠・花帝堂梅花一百首集・古文孝經解詁・古文孝經解詁翼注・古本大學解詁・黃葉百詠・三禮古制考・三禮雛象解・尙書古文總辨・剪雪百詠・梅花詩餘・梅花百絕・梅窩詩話・放適幽閒集・毛詩鉤沈・孟子條辨・論語鄉黨圖解・綠陰百詠がある。（近代著述目錄後篇）・（慶長以來諸家著述目錄）。

【宮瀨龍門】267 ミヤセリヨウモン 紀伊國の人。名は維翰。字は文翼。通稱は三右衞門。號は龍門山人。劉龍門といふ。服部南郭に師事す。世々紀州侯の醫であつたが、龍門に至つて籍を除かれ、江戸湯島に教授す。古文辭學を修め、文章を以て著はる。明和八年一月四日歿す、年五十三。著に金蘭集・壎篪集・古文孝經國字解・鴻臚傾蓋集・東槎餘談・李王七律解・劉氏無盡藏・龍門文集初稿・龍門文集二稿・龍門文集三稿がある。（先哲叢談、後六）・（近代名家著述目錄）。

【宮者使レ守レ內】268 キユウシヤハウチヲマモラシム 宮刑を施した者は奧御殿の番人とする。（周禮、秋官、掌戮）劓者使レ守レ關、宮者使レ守レ內。

【⿱宀吾】7157


小篆

ゴ 〔集韻〕五故切 遇

さめる。寤（**3－7291**）に同じ。（說文）⿱宀吾、寤也、从レ宀吾聲。（段注）寐覺而言曰レ寤、⿱宀吾之音義、皆同也。

【⿱宀孝】7158

カウ ケウ 〔集韻〕虛交切 肴

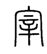
氣が上り蒸す。或は窙（**8－25520**）に作る。〔集韻〕⿱宀孝、氣上蒸、或从レ穴。

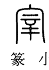
【⿱宀言】7159

ゴウ グ 〔等韻〕五東切 東

やはらぐ。〔等韻〕⿱宀言、和也。

【宰】7160


小篆（說文）


小篆（段注本）

サイ 〔集韻〕子亥切 ㄗㄞˇ 賄 tsai³

㊀**室內で仕事をする罪人。一說に、室內で罪人を取りしまる官**。（說文）宰、辠人在二屋下一執レ事者、从レ宀从レ辛、辛、辠也。（說文通訓定聲）宰、屋下制二治辠人一、謂二之宰一、與レ辟同意。㊁**つかさ**。（集韻）宰、一曰、官稱。㋑百官の長として、天子をたすける官。冢宰。（禮、表記）宰、正二百官一。（注）宰、冢宰也。（穀梁、僖、九）天子之宰。

〔注〕宰、天官冢宰、兼爲㆓三公㆒者。㋺諸官の長。〔禮、月令〕乃命㆓宰祝㆒。〔注〕宰祝、大祝也。㋩官吏。〔禮、祭統〕宮宰、宿㆓夫人㆒。〔注〕宮宰、守㆑宮官也。㋥家臣の長。〔儀禮、特牲饋食禮〕宰自㆓主人之左㆒贊㆑命。〔注〕宰、羣吏之長。㋭家臣。〔禮、內則〕宰辯㆓告諸男名㆒。〔注〕宰、謂㆓屬吏㆒也。〔左氏、襄、十〕王叔之宰。〔注〕宰、家臣。㋬卿大夫の采邑の長。〔禮、禮器〕子路爲㆓季氏宰㆒。〔注〕宰、治㆑邑吏也。〔左氏、莊、十二、蕭叔大心、注、叔蕭大夫名、疏〕正義曰、卿大夫采邑之長、則謂㆓之宰㆒、小公邑之長、則曰㆓大夫㆒。〔論語、雍也〕子游爲㆓武城宰㆒。㋣官につかへる料理番。又、其の長。〔儀禮、公食大夫禮〕宰東夾北、西面南上。〔注〕宰、宰夫之屬也。〔國語、齊語〕使㆓鮑叔爲㆑宰。〔注〕宰、太宰也。〔呂覽、不苟〕與㆓良宰㆒遺㆑之。〔注〕宰、膳宰也。❸をさ。かしら。〔呂覽、精通〕萬民之宰也。〔注〕宰、主也。❹つかさどる。〔增韻〕宰、主也。❺をさめる。〔玉篇〕宰、治也。〔公羊、僖、九〕宰周公者何、天子之爲㆑政者也。〔注〕宰、猶㆑治也。❻きりもりする。〔廣雅、釋言〕宰、制也。❼ととのへる。〔周禮、天官、序官〕宰夫。〔釋文〕宰、濟㆓其清濁㆒、和㆓其剛柔㆒、而納㆓之中和㆒曰㆑宰。〔疏〕宰者、調和之名。❽ます。ふやす。〔左氏、襄、二十八〕在㆑外不㆑得㆑宰㆓吾一邑㆒。〔疏〕宰、猶㆑益也。❾ほふる。屠殺。〔漢書、宣帝紀〕損㆑膳省㆑宰。〔注〕師古曰、宰、爲㆓屠殺㆒也。❿つか。冢(2－1585)に通ず。〔說文通訓定聲〕宰、叚借爲㆑冢、宰冢雙聲。〔公羊、僖、三十三〕宰上之木拱矣。〔注〕宰、冢也。〔列子、天瑞〕宰如也。〔釋文〕宰如、言㆑如㆑冢也。⓫ちぎやう。食邑。采(11－40116)に通ず。〔說文通訓定聲〕宰、叚借爲㆑采、禮記曲禮、問㆓大夫之富㆒、曰、有㆑宰食㆑力、注、邑土也、按、作㆓邑士㆒誤。⓬古は𡪏(3－7329)・𡨦(3－7212)・伞(1－710)に作る。〔玉篇〕𡪏、古文宰。〔集韻〕宰、古作㆓𡨦・伞㆒。⓭姓。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕宰氏、姬姓、周卿士宰周公之後、又有㆓宰孔者㆒、皆周太宰、以㆑官爲㆑氏、今望出㆓西河㆒。

邦 うしはく。主宰となつて土地を領有する。

名乘 カミ。タダ。

解字 會意。宀と辛との合字。辛は大罪を犯したもの、辠の省畫、罪人と宀とを合して、罪人の屋內で仕事をする者。又、一說に、屋內で罪人をとりしまる者を本義とする。轉じて、制治するもの、つかさの意に用ひられる。〔說文〕宰、辠人在㆓屋下㆒執㆑事者、从㆑宀从㆑辛、辛、辠也、〔段注〕此宰之本義也、引伸爲㆓宰制㆒、辛卽辠之省。

【宰尹】1 サイイン ❶料理人の長。〔韓非子、八說〕廚人輕㆑君而重㆓於宰尹㆒矣。❷縣邑の長をいふ。〔海錄碎事、臣職、縣令〕縣邑之長、曰㆑尹、曰㆑宰、曰㆑公、曰㆓大夫㆒、齊謂㆓之大夫㆒、阿大夫・卽墨大夫是也、魯衞謂㆓之宰㆒、孔子爲㆓中都宰㆒、是也。

【宰我】2 サイガ 春秋魯、宰予(56)をいふ。

【宰衡】3 サイカウ 宰相。新の王莽の加號に始まる。もと周公は太宰、伊尹は阿衡となつて天子を助けたことに本づく。〔漢書、平帝紀〕加㆓安漢公號㆒曰㆓宰衡㆒。〔注〕應劭曰、周公爲㆓大宰㆒、伊尹爲㆓阿衡㆒、采㆓伊周之尊㆒以加㆑莽。〔漢書、禮樂志〕及㆔王莽爲㆓宰衡㆒、欲㆑燿㆓衆庶㆒。〔漢書、王莽傳上〕民上書者八千餘人、咸曰、伊尹爲㆓阿衡㆒、周公爲㆓太宰㆒、云云、有司請㆘云云採㆓伊尹周公稱號㆒、加㆑公爲㆓宰衡㆒、位㆗上公㆖。〔蕭大圜、閒放之言〕游㆓帝王之門㆒、趨㆓宰衡之勢㆒。

【宰割】4 サイカツ 全權を握つて處分する。主となつてきりもりする。又、分割する。料理する。宰制。〔史記、秦始皇紀〕因㆑利乘㆑便、宰㆓割天下㆒。〔史記、陳涉世家〕宰㆓割天下㆒、分㆓裂山河㆒。〔漢書、敍傳下〕宰㆓割諸夏㆒、命㆓立侯王㆒。〔鹽鐵論、除狹〕受㆑命專制、宰㆓割千里㆒。〔魏志、皇后傳評〕宰㆓割朝政㆒。〔孟郊、題㆓項羽廟㆒詩〕當時獨宰割、猛志誰能降。

【宰牛】5 サイギウ 牛を殺して料理する。〔孫綽、喩道論〕夫東鄰宰㆑牛、西鄰禴祀、殷美㆓黍稷㆒、周尙㆓明德㆒、興喪之期、于㆑茲著矣。〔李白、將進酒詩〕烹㆑羊宰㆑牛且爲㆑樂、會須㆓一飮三百盃㆒。

【宰御】6 サイギヨ 縣の長官。〔漢書、王莽傳中〕縣令長曰㆓宰御㆒。

【宰會】7 サイクワイ 料理をととのへ酒を設けて人を集めること。〔世說新語、方正〕齊王冏爲㆓大司馬㆒輔㆑政、嵇紹爲㆓侍中㆒、詣㆑冏咨㆑事、冏設㆓宰會㆒、召㆓葛旟董艾等㆒共論㆓時宜㆒。

【宰官】8 サイクワン ❶役人。官吏。〔通俗編、仕進、宰官〕郭象南華經注、大鵬之與㆓斥鴳㆒、宰官之與㆓御風㆒、同爲㆓累物㆒耳、王應麟云、二字始見㆑此。❷**佛** 觀世音菩薩の現はす三十三身の一。政治を掌る。〔法華經、普門品〕應以㆓宰官身㆒得度者、卽現㆓宰官身㆒而爲㆓說法㆒。〔蘇軾、縱筆詩〕父老爭看烏角巾、應㆑緣曾現㆓宰官身㆒。

【宰君】9 サイクン 縣の長官をいふ。知縣。〔稱謂錄、知縣、宰君〕駭聞錄、開寶中、神泉令張某貪黷、一日榜㆓縣門㆒曰、某月某日、知縣生日、不㆑得㆓獻送㆒、曹吏議曰、宰君明言㆓生日㆒、意令㆓我輩知㆒也。

【宰郡】10 サイグン 郡の政治を切りもりする。郡治を掌る。〔晉書、范甯傳〕詔曰、漢宣云、可㆔與共治㆓天下㆒者、良二千石也、若范甯果如㆓凝之所㆑表者、豈可㆓復宰㆑郡乎。

【宰卿】11 サイケイ 宰相。卿相。〔朱熹、挽㆓陳檢正㆒詩〕憶昔都門道、光華辱㆓宰卿㆒。

【宰雞】12 tsai^{3} chi^{1} 雞を料理する。

【宰揭】13 サイケツ 山名。〔呂覽、本味〕大夏之鹽、宰揭之露。〔注〕宰揭、山名、處則未㆑聞。

【宰業】14 tsai^{3} yeh^{4} 屠殺業、及び牛豚羊などの獸肉販賣業。

【宰祭】15 サイサイ 宰相が王の祭を助けること。〔周禮、夏官、量人〕凡宰祭與㆓鬱人㆒受㆑斝、歷而皆飮㆑之。〔注〕言㆓宰祭㆒者、冢宰助㆓王祭㆒。

【宰桑】16 サイサウ 準噶爾(7－17934・・75)の官名。漢語の宰相の訛。準噶爾人の事を管する者の稱となす。齋桑。〔淸高宗準噶爾全部紀略〕準噶爾共六十二宰桑。

【宰藏】17 サイザウ 家宰が主人の財を私に貯藏する。〔晏子、雜下〕進取㆓于君㆒、退得㆓罪于士㆒、身死而財遷㆓於它人㆒、是爲㆓宰藏㆒也。

【宰殺】18 サイサツ 屠殺する。〔梁武帝、敕責㆓賀琛㆒敕〕昔之牲牢、久不㆓宰殺㆒、朝中會同、菜蔬而已。〔元史、順帝紀三〕熒惑犯㆓壘壁陣㆒、禁㆓宰殺㆒。

【宰士】19 サイシ 宰相の屬官で士たる者。〔漢書、翟方傳〕今丞相宣請㆘遣㆓掾史㆒、以㆓宰士㆒督㆓察天子㆒、奉㆑使命㆗大夫㆖、甚誖㆓逆順之理㆒。〔注〕師古曰、宰士者、言㆓其宰相之屬官而位爲㆑士也。〔後漢書、周榮傳〕今復得㆑備㆓宰士㆒。〔注〕榮辟㆓司徒府㆒、故稱㆓宰士㆒。〔王先謙集解〕惠棟引㆓王應麟㆒云、周官太宰之屬有㆓上士下士㆒、公羊所㆑云宰士、鹽鐵論、文學謂㆓丞相史㆒曰、處㆓宰士之列㆒、無㆓忠正之心㆒、是也。〔鹽鐵論、刺議〕春秋士不㆑載㆑文、而書㆑咺者以爲㆓宰士㆒也。

【宰氏】20 サイシ 複姓。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕宰氏氏、范蠡傳云、蠡師計然、姓宰氏、字文子、葵丘濮上人。

【宰司】21 サイシ ❶役人をいふ。〔魏志、蔣濟傳〕臣備㆓宰司㆒、民所㆓具瞻㆒、誠恐㆓冒賞之漸、自㆑此而興、推讓之風、由㆑此而廢㆒。❷すべつかさどる。〔梁武帝、卽位告㆑天文〕遂因㆓時來㆒、宰㆓司邦國㆒。

【宰執】22 サイシツ 宰相で一國の政柄をとるもの。〔舊唐書、張九齡傳〕宰執每㆔薦㆓引公卿㆒、上必問、風度得㆑如㆓九齡㆒否。〔宋史、高宗紀八〕紹興二十三年、以㆓經筵終帙㆒、賜㆓宰執講讀等官㆒、宴㆓於祕書省㆒、爲㆓故事㆒。〔胡銓、上㆓高宗㆒封事〕朝廷宰執、盡爲㆓陪臣㆒。

【宰社】23 サイシヤ 社日(8－24631・・62)に社肉を分配することを掌る義。轉じて、世話人、幹事をいふ。漢の陳平の故事。〔史記、陳丞相世家〕里中社、平爲㆑宰、分㆓肉食㆒甚均、父老曰、善、陳孺子之爲㆑宰、平曰、嗟乎、使㆔平宰㆓天下㆒、亦如㆓是肉㆒矣。〔周曇、曲逆侯詩〕一朝如得㆑宰㆓天下㆒、必使㆔還如㆓宰社時㆒。

【宰匠】24 サイシヤウ ㊀宗匠の意で、器物をつくる人。轉じて、天下を治める人。丞相。〔徐陵、爲二貞陽侯一與二荀昂兄弟一書〕若使三江東宰匠具二領齊恩一、時命二封疆一遠相迎接。㊁すべつかさどる。〔淮南子、要略〕其於下逍二遙一世之閒一、宰中匠萬物之形上、亦優游矣。

【宰相】25 サイシヤウ ㊀天子を輔佐し百僚を統攝して政事を行ふ人。周公が冢宰となり成王を相けた事からの稱。秦漢以來の丞相・相國及び三公、隋の內史・納言、唐宋の中書・門下・尙書の三省の長官及び同平章事、明淸の內閣大學がこれである。丞相。宰輔。〔漢書、王尊傳〕塗二汙宰相一、摧二辱公卿一。〔新書、立後〕故人皆爭爲二宰相一。〔事物紀原、師保輔相部、宰相〕昔周公位二冢宰一、正二百工一、以相二成王一、故有二宰相之稱一、其事自二秦漢一始、陳平言二宰相上佐二天子一、是也、通典曰、春秋之義尊二上公一、謂二之宰一、言二海內無レ不レ統也、故亦謂二上相一、陸賈謂二陳平一曰、足下位爲二上相一、是也。㊁唐代、御史をいふ。〔封氏聞見記、風憲〕唐興、宰輔多自二憲司一登二鈞軸一、故謂二御史一爲二宰相一。㊂㋑參議の唐名。〔和漢三才圖會、官位部〕參議、平章事・八座・諫議大夫・吏部尙書・宰相・相公。〔續日本紀〕神龜五年三月丁未、選敍之日、宣命以前、諸宰相等、出立二廳前一。〔源氏物語、紅葉賀〕源氏之君、宰相になり給ひぬ。㋺總理大臣の異稱。

【宰相器】26 サイシヤウノキ 宰相になる器量。〔漢書、何武傳〕知三武有二宰相器一。〔後漢書、陳寵傳論〕可レ謂レ有二宰相之器一矣。

【宰相門】27 サイシヤウノモン 宰相となる人物のなかま。相門。〔海錄碎事、人事、品題〕袁粲見二王儉一歎曰、宰相之門也、栝柏豫章雖レ小、已有二棟梁之器一。

【宰相合肥天下瘦】28 tsai^3 hsiang^4 hê^2 fei^2 tʻien^1 hsia^4 shou^4 宰相が肥えて天下が瘦せる。時人が李鴻章を罵つた語。

【宰相須レ用二讀書人一】29 サイシヤウスベカラクドクシヨノヒトヲモチフベシ 宰相には學者を用ふべきだ。宋の太祖が乾德と改元した後、以前既に同年號があるのを知つて歎じた語。〔通鑑長編〕宋太祖乾德改元、命擇二前代所レ未レ有者一、三年、蜀平、宮人入レ內、帝見二其鏡背乾德四年鑄字一、驚曰、安得三已有二四年所レ鑄乎、以問二學士竇儀一、儀曰、此必蜀物、蜀王衍嘗有二此年號一、上乃歎曰、宰相須レ用二讀書人一。

【宰相肚裡好二撐船一】30 サイシヤウトリタウセンニヨシ 宰相の腹は船でも通される。大人物たるものは度量が大きい意。撐船は棹船。〔通俗編、仕進、宰相肚裡好二撐船一〕水東日記、南京大理少卿楊公復能レ詩有レ名、其家童往往于二玄武湖壖一採二萍藻一爲二豚食一、吳思菴以三其密二邇廳事一拒レ之、楊戲答詩云、數點浮萍容不レ得、如何肚裡好二撐船一、蓋諺有レ之、宰相肚裡好二撐船一、故云。

【不レ爲二宰相一則爲二良醫一】31 サイシヤウトナラズンバスナハチリヤウイトナレ 宋の崔世明が何度も試驗に落第して、遂に醫に志した時の語。〔宋史、崔興之傳〕興之父世明、試二有司一連黜、每曰、不レ爲二宰相一則爲二良醫一、遂究二心岐黃之書一。

【宰爵】32 サイシヤク 官名。料理を掌る官。膳夫の類。一說、諸侯を掌る官で秦の主爵の如きもの。〔荀子、王制〕宰爵知二賓客・祭祀・饗食・犧牲之牢數一。〔注〕宰、膳宰、爵、主掌也、饗食、饗宴也、周禮膳夫之屬、有二庖人獸人一、皆掌二犧牲一、一曰、爵、官爵也、言二膳宰之官爵一、掌二犧牲之事一者也。〔集解〕兪樾曰、宰爵者、主爵也、漢書百官公卿表、主爵中尉、秦官、掌二列侯一、秦官之有二主爵一、殆本二於古之宰爵一乎。

【宰守】33 サイシユ 役人。官吏。〔後漢書、酷吏傳序〕且宰守曠遠、戶口殷大。

【宰樹】34 サイジユ 墓上の木。墓木。〔王僧孺、從子永寧令誄〕宿草行沒二宰樹一。〔盧思道、春夕經二行留侯墓一詩〕夕風吟二宰樹一。

【宰祝】35 サイシユク 太宰と大祝。何れも祭祀をつかさどる官名。〔禮、月令〕乃命二宰祝一、循二行犧牲一。〔注〕宰祝、太宰大祝、主二祭祀一之官也。

【宰如】36 サイジヨ 墳墓の高いさま。〔列子、天瑞〕望二其壙一、睾如也、宰如也、墳如也、鬲如也。〔鬳齋口義〕睾・宰・墳・鬲、皆形二容其突起之貌一。

【宰職】37 サイシヨク ㊀大臣の職。宰相の職。〔董仲舒、詣二丞相公孫弘記室一書〕竊見三宰職任二天下之重一。㊁邑の長。〔鮑照、謝二秣陵令一表〕用謝二刀筆一、猥承二宰職一。

【宰臣】38 サイシン 權力のある役人。重臣。〔支那通史、三〕宗元與二順宗宰臣王叔文一友善。

【宰人】39 サイジン ㊀料理人。〔莊子、說劍〕王乃牽而上レ殿、宰人上レ食。〔韓非子、內儲說下〕宰人上レ食、而羹中有二生肝一焉。〔史記、趙世家〕靈公立十四年、及レ食二熊蹯一、胹不レ熟、殺二宰人一。〔列女傳、節義傳〕陰令下宰人各以二一斗一、擊中殺代王及從者上。㊁官名。冢宰の屬官。〔左氏、哀、三〕命二宰人一出二禮書一。〔注〕宰人、冢宰之屬也。㊂官吏。役人。〔國語、魯語下〕子服景伯戒二宰人一。〔注〕宰人、吏人也。〔國語、晉語九〕及二臣之長一也、端委韠帶、以隨二宰人一。〔注〕宰人、宰官也。

【宰世】40 サイセイ 天下を治める。〔晉書、刁協傳〕大道宰世、殊塗一致。〔徐陵、武帝卽位詔〕三正相因、夏殷所二以宰世一。

【宰制】41 サイセイ きりもりする。全權を握つて處分する。宰割。〔史記、禮書〕宰二制萬物一、役二使羣衆一。〔新書、過秦〕宰二制天下一、分二裂山河一。

【宰治】42 サイチ 君をたすけて國を治めること。〔漢書、王莽傳上〕公又有二宰治之效一。

【宰廷】43 サイテイ 朝廷をいふ。宰庭に同じ。〔海錄碎事、臣職、宰相〕宜下進二蹤於賢序一、以延中登於宰廷上。

【宰庭】44 サイテイ 朝廷をいふ。宰廷。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕爰應二旌招一、撫二翼宰庭一。〔注〕翰曰、宰庭、天子之庭也。

【宰肉】45 サイニク 肉を切り割く。公平に事を處理する。宰社(23)を見よ。〔史記、陳丞相世家〕里中社、平爲レ宰、分二肉食一甚均、父老曰、善、陳孺子之爲レ宰、平曰、嗟乎、使三平得レ宰二天下一、亦如二是肉一矣。〔唐書、鄧處訥傳〕宰肉不レ平而鬪。〔書言故事大全、社日〕言二人分レ物均平一、曰二宰肉手段一。

【宰賣】46 サイバイ 賃銀をとる。〔福惠全書、郵政部、查倒斃〕有二乘跑馱レ客宰賣情弊一。

【宰夫】47 サイフ ㊀周官の官名。天官の屬。朝廷の儀式を掌り、王及び公卿群吏の位を正し、群吏の職事を敍す。〔周禮、天官、宰夫〕掌二治朝之法一、以正二王及三公六卿大夫羣吏之位一、掌二其禁令一。〔儀禮、聘禮〕命二宰夫一官具。〔鄭伯謙、內外論〕御史之中丞、少府之尙書、猶二宰夫一也。㊁酒食を掌る職。膳夫の別稱。料理人。〔禮、檀弓下〕蕢也、宰夫也、非二刀匕是共一、又敢與レ知レ防、是以自飮レ之也。〔左氏、宣、二〕宰夫胹二熊蹯一不レ熟、殺レ之。

【宰府】48 サイフ ㊀宰相の役所。相府。〔後漢書、馬嚴傳〕丙吉、以二年老一優游不レ案二吏罪一、於レ是宰府習爲二常俗一。〔蔡邕、上二封事一陳二政要七事一疏〕臣自レ在二宰府一。㊁太宰府の略稱。

【宰物】49 サイブツ 事物をきりもりする。〔陸雲、吳故丞相陸公誄〕和羹未レ飪、宰物下レ邑。〔謝京、改二定刑獄一表〕五聽之慈、弗レ宣二于宰物一。〔權德輿、和二于司空郊居一詩〕宰レ物歸二心匠一。

【宰柄】50 サイヘイ 宰相の權力。〔宋史、李綱傳上〕陛下首加レ識、擢付以二宰柄一。

【宰父】51 サイホ 複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕宰父氏、仲尼弟子有二宰父黑一。

【宰輔】52 サイホ 天子を輔けて大政を總宰するもの。宰相。元輔。〔魏志、高貴鄉公紀〕延二納宰輔之謀一。〔鍾會、移レ蜀檄〕宰輔忠肅明允。〔范曄、後漢書二十八將傳論〕宰輔五世、莫レ非二公侯一。〔羊祜、讓二開府一表〕且臣忝竊雖レ久、未レ若下今日兼二文武之極寵一、等中宰輔之高位上也。

【宰輔量】53 サイホノリヤウ 宰輔たる器量。〔南史、徐勉傳〕年十八、召爲二國子生一、便下レ帷專學、精力無レ怠、同時儕輩肅而敬レ之、祭酒王儉每レ見常目二送之一曰、此子非二常器一也、每稱レ有二宰輔之量一。

【宰木】54 サイボク 墓に植ゑたしるしの木。墓木。宰樹。冢木。〔公羊、僖、三十三〕若レ爾之年者、宰上之木拱矣。〔注〕宰、冢也。〔陳立義疏〕穀梁傳、子之冢木已拱矣、錢詹事曰、二字聲相近、故可二轉訓一。

【宰牧】55 サイボク 一國の宰相と一地方の長官。〔孫綽、喩道論〕此王者之常制、宰牧之所レ司也。

【宰予】56 サイヨ 春秋、魯の人。字は子我。よつて宰我ともいふ。孔門の高弟。言語に巧であつた。齊に仕へて臨菑の大夫となる。〔史記、六十七〕。

【宰老】57 サイラウ 家老職。國家老。國老。

【宰吏】58 サイリ 國司の唐名。〔職原抄〕諸國、唐名、守、宰吏。

【宰領】59（サイリヤウ）㊀**かしらとなつて事を處理する**。**とりしまる**。**とりしまり**。〔陳造、詩〕孤忠當二宁知一、宏圖時宰領。㊁**貨物を運送する時、人夫を監督しながら附添つてゆくこと、又、その人**。〔壒囊抄、一〕荷などの宰領。

【宰旅】60（サイリヨ）冢宰の下士。〔左氏、襄、二十六〕晉士起將レ歸二時事於宰旅一。〔疏〕是知三宰旅爲二冢宰之下士一也。

【宰虜】61（サイリヨ）料理人と奴隷。手段の意にいふ。〔韓非子、説難〕今以二吾言一爲二宰虜一、而可三以聽用而振レ世、此非二能仕之所一レ恥也。

【宰路】62（サイロ）淵の名。〔莊子、外物〕宋元君夜半而夢、人被髮闚二阿門一曰、予自二宰路之淵一、予爲二清江一使二河伯之所一、漁者余且得レ予、元君覺、使二人占一レ之、曰、此神龜也。

【宰錄】63（サイロク）宰相の職。〔晉書、慕容暐載記〕猥以二輕才一、竊位二宰錄一。

【宰牲口】64 tsai³ shêng¹ k'ou 獸畜を屠殺する。

【宰牲廠】65 tsai³ shêng¹ ch'ang³ 屠殺場。

【宰牲所】66 tsai³ shêng¹ suo³ 屠殺場。

【宰牲房】67（サイセイバウ）犧牲を料理する部屋。〔明會典、王府制度〕宰牲房五閒。

【宰折雎】68（サイセツスイ）春秋、魯の人。哀公の傳。〔淮南子、人閒訓〕乃以問二其傳宰折雎一。

【宷】7161

キウ グ 〔集韻〕渠尤切 ［尤］

㊀**もとめる**。求(6－17105)に同じ。〔玉篇〕宷、索也、與レ求同。㊁**室內をさがす**。〔集韻〕宷、搜レ室也。

【宱】7162

サ ジヤ 〔集韻〕助駕切 ［禡］

ひろい。〔集韻〕宱、寬也。

【寊】7163

カ ケ 〔集韻〕虛訝切 ［禡］

㊀**ひま**。**すきま**。〔玉篇〕寊、隙也。㊁墟(3－5415)に同じ。〔集韻〕墟、説文、坼也、亦作レ寊。

【宲】7164

［一］ジツ ［二］ハウ

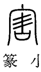
［一］實(3－7294)の古字。〔集韻〕實、古作レ宲。［二］宗(3－7099)の譌字。〔正字通〕宗、宗譌作レ宲。

【害】7165

［一］カイ ガイ 〔集韻〕下蓋切 厂ㄞ hai⁴ ［泰］

［二］カツ ガチ 〔集韻〕何葛切 ［曷］

［慣］ガイ


小篆

［一］㊀**わざはひ**。〔説文〕害、傷也、从二宀口一、言从レ家起也、丯聲。〔墨子、經、上〕害、所二得而惡一也。〔增韻〕害、禍也。㊁**うれへ**。〔淮南子、脩務訓〕時多二疾病毒傷之害一。〔注〕害、患也。㊂**なんぎ**。〔戰國、秦策〕無二伐レ楚之害一。〔注〕害、危也。㊃**損**。〔韓非子、六反〕害者利之反也。㊄**そこなふ**。**いためる**。〔廣雅、釋言〕害、割也。〔增韻〕害、殘也。〔漢書、蕭何傳〕以二文毋一レ害。〔注〕師古曰、害、傷也。㊅**さまたげる**。**じやま**。〔左氏、桓、六〕謂二其三時不一レ害、而民和年豐一也。〔漢書、董仲舒傳〕賢材雖レ未レ久、不レ害レ爲二輔佐一。〔注〕師古曰、害、妨也。㊆**いむ**。**ねたむ**。〔正字通〕害、忌也。〔史記、屈原賈生傳〕心害二其能一。㊇**たぐふ**。**又**、**まさる**。〔漢書、蕭何傳〕以二文毋一レ害、爲二沛主吏掾一。〔注〕蘇林曰、毋レ害、若レ言レ無レ比也、一曰、害、勝也、無下能勝二害之一者上。㊈**險阻の地**。〔張衡、東京賦〕守レ位以レ仁、不レ恃二隘害一。［二］曷(5－14290)に同じ。〔集韻〕曷、説文、何也、或作レ害。㊀**なに**。**いづれ**。**いつ**。疑問の助辭。何(1－511)に通ず。〔經傳釋詞、四〕曷、何也、常語也、字亦作レ害、詩葛覃曰、害澣害否、是也。〔孟子、梁惠王上〕時日害喪。〔集注〕害、何也。㊁**なんぞ云云せざる**。盍(8－22980)に通ず。〔經傳釋詞、四〕爾雅曰、曷、盍也、郭注曰、盍、何不也、書湯誓曰、時日曷レ喪、詩有杕之杜曰、中心好レ之、曷三飲二食之一、曷皆謂二何不一也。〔孟子、梁惠王上〕時日害レ喪。〔焦循正義〕音義云、害如レ字、張音曷、如レ字、則讀二傷害之害一、云云、蓋・曷與レ盍通、云云、趙氏讀レ害爲レ曷。

【害惡】1（ガイアク）他をそこなふ惡事。よからぬこと。ためにならぬこと。害となる惡事。惡虐。

【害意】2（ガイイ）他をそこなはんとする惡い心。惡意。害心。

【害覺】3（ガイカク）［佛］他人に害を加へんとする心。惱覺。害想。〔無量壽經、上〕不レ生二欲覺・瞋覺・害覺一。

【害己】4 hai⁴ chi³ 自殺する。

【害氣】5（ガイキ）物をそこなふ氣。〔漢書、食貨志上〕害氣將レ究矣、歲爲二此言一、以至二於亡一。

【害義】6（ガイギ）正義をやぶりそこなふこと。〔孔子家語、好生〕小辯害レ義、小言破レ道。

【害咎】7（ガイキウ）わざはひ。災害と咎殃。〔潘岳、離合詩〕害咎蠲消、吉德流普。

【害虐】8（ガイギヤク）そこなひしひたげる。殘害。〔書、武成〕暴二殄天物一、害二虐烝民一。

【害課】9 hai⁴ k'ê⁴ 納税を妨げる。

【害羣】10（ガイグン）多くの人を害する。〔岑參、餞三王岑判官赴二襄陽道一詩〕害レ羣應二自懾一、持レ法固須レ平。

【害口】11 hai⁴ k'ou³ つはり。姙娠した當初に起る一種の生理的現象。多くは胸もと惡しく、吐氣を催し、酸味を好む。惡阻。

【害菑】12（ガイサイ）わざはひ。災害。〔東方朔、答二客難一文〕天下無二害菑一、雖レ有二聖人一、無レ所レ施レ才。

【害想】13（ガイサウ）［佛］人に害を加へんとする心。殺害想、又は惱想といふ。害覺(3)に同じ。〔增一阿含經、十三〕若觀二害想一、亦命終者生二餓鬼中一、形體燒然、苦痛難レ陳。

【害想思病】14 hai⁴ hsiang³ ssŭ¹ ping⁴ 戀の病に罹る想思病は戀患ひ。

【害臊】15 hai⁴ sao⁴ はにかむ。怯羞。〔兒女英雄傳、三十七回〕便啐了一口道、呸、不害臊。

【害殺】16 hai⁴ sha¹ 苦しめる。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕害殺小生也。

【害死】17 hai⁴ ssŭ³ ㊀殺害する。㊁非常に苦しめる。

【害羞】18 hai⁴ hsiu¹ はづかしがる。內氣。〔琵琶記、宦邸憂思〕害羞的喬相識。

【害獸】19（ガイジウ）人畜に害あるけもの。〔魏書、高祐傳〕昔宋均樹レ德、害獸不レ過二其鄉一。

【害者】20（ガイシヤ）そこなふ者。〔周禮、地官、司市〕害者使レ亡、靡者使レ微。

【害傷】21（ガイシヤウ）そこなふ。傷害。〔管子、形勢解〕反害二傷之一。〔荀子、臣道〕不二害傷一、則無二接而不一レ然、是仁人之質也。

【害手】22 hai⁴ shou³ 失敗する。失策する。

【害衆】23（ガイシユウ）衆人を害する。〔文子、精誠〕老子曰、言有レ宗、事有レ本、失二其宗本一、伎能雖レ多、不レ如二寡言一、害レ衆者倕、而使レ斷二其指一、以明二大巧之不一レ可レ爲也。

【害處】24 hai⁴ ch'u⁴ 損害。損處。

【害心】25（ガイシン）人をそこなふ惡い料簡。惡心。害意。〔法苑珠林〕猶如三獵師見二彼麈起一、極有二害心一。

【害身】26（ガイシン）身をそこなひやぶる。〔左氏、襄、九〕作而害レ身、不レ可レ謂レ利。

【害性】27（ガイセイ）心をいため身をそこなふ。性は本來そなへてゐるものの義。〔晏子、諫、下〕修レ哀以害レ性、君之失矣。

【害政】28（ガイセイ）まつりごとをそこなふ。〔梁書、武帝紀下〕傷レ時害レ政、爲レ蠹已甚。

【害焦】29（ガイセウ）蟲の名。螳蜋(10－33503‥3)の異名。〔太平御覽、蟲豸部、螳蜋〕吳氏本草經曰、桑蛸條、蝕肬、一名害焦、一名致神農鹹。

【害漸】30 ガイゼン 害の兆候。〔蔡邕、釋誨〕利端始萠、害漸以芽。

【害蟲】31 ガイチュウ 農作物・樹木等をそこなひ、人類の生活に害を與へる蟲類。蝗蟲・浮塵子・白蟻など。

【害釱】32 ガイテイ 刑を加へ足かせをはめる。〔管子、幼官〕兵尙レ矛、刑則交レ寒害釱。〔纂詁〕害、殘也、謂レ加レ刑、釱音第、以レ鎖加レ足也。

【害鳥】33 ガイテウ 農作物・養魚などを害して人類の生活に害をなす鳥類。

【害毒】34 ガイドク ものごとをそこなひ毒すること。又、そのもの。

【害熱】35 hai⁴ jê⁴ 暑氣中り。

【害馬】36 ガイバ 馬の天性を害する。轉じて、害となる物。〔莊子、徐無鬼〕小童曰、夫爲二天下一者、亦奚以異二乎牧レ馬者一哉、亦去二其害レ馬者一而已矣。〔注〕馬以レ過レ分爲レ害。〔疏〕害レ馬者、謂二分外之事一也。〔孫綽、遊二天台山一賦〕害馬已去、世事都捐。〔高適、餞下宋八充二彭中丞判官一之中嶺南上詩〕若將レ除二害馬一、愼勿レ信二蒼蠅一。

【害怕】37 hai⁴ p'a⁴ こはがる。

【害病】38 hai⁴ ping⁴ 病氣にかかる。

【害民】39 ガイミン 人民をそこなふ。〔司馬法、仁本〕賊レ賢害レ民則伐レ之。〔孔子家語、致思〕孔子曰、不レ傷レ財、不レ害レ民。

【害命】40 hai⁴ ming⁴ 殺人。

【害目】41 ガイモク 目を傷ける。〔嵇康、養生論〕薰辛害レ目、豚魚不レ養。

【害冷】42 hai⁴ lêng³ 寒さ中り。

【買レ害】43 ガイヲカフ 自ら禍を求める。〔左氏、桓、十〕匹夫無レ罪、懷レ璧其罪、吾焉用レ此、其以買レ害也。〔書言故事、怨讎類〕自買レ禍曰レ買レ害。

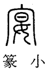
【害肚曆】44 ガイトレキ 館閣の宿直簿。事故があつて宿直せぬものは、名籍の下に腸肚安からずと書くのでこの名がある。〔耆舊續聞〕館閣每夜輪二校官一人一直宿、有二故不一レ宿、則於二名下一書二腸肚不レ安、故館閣宿曆、相傳爲二害肚曆一。

【害母草】45 ガイボサウ 草の名。鬼臼(**12－45758**・・24)をいふ。〔本草、鬼臼〕釋名、九臼・天臼・鬼藥・解毒・爵犀・馬目毒公・害母草。

【害淋的】46 hai⁴ lin² tê りんびやうやみ。〔還魂記、的閨塾〕貼上、害淋的。

【害盈之數】47 ガイエイノスウ 惡くなつたり善くなつたりする運命。害は虧ける、盈は滿つる。〔魏志、管輅傳〕害盈之數、盛衰之期。

【宴】
7166


小篆

一 エン 〔集韻〕伊甸切 霰

二 エン 〔集韻〕於殄切 銑 ㄧㄢˋ yen⁴

一二 ㊀**やすらか。いこふ。**〔說文〕宴、安也、从レ宀晏聲。〔華嚴經音義、上〕宴、安居也。〔漢書、賈誼傳〕是與二太子一宴者也。〔注〕師古曰、宴、謂二安居一。㊁**たのしむ。**〔左氏、成、二〕衡父不レ忍二數年之不一レ宴。〔注〕宴、樂也。㊂**うたげ。さかもり。**又、さかもりをする。〔說文、宴、段注〕引伸爲二宴饗一。〔說文通訓定聲〕宴、此當レ爲二宴饗正字一。〔易、需〕飮食宴樂。〔左氏、宣、十六〕王享有二體薦一、宴有二折俎一。〔孟子、滕文公下〕不二敢以宴一。㊃通じて燕(**7－19429**)に作る。〔集韻〕宴、通作レ燕。〔論語、述而、子之燕居、釋文〕燕、鄭作レ宴。㊄醼(**11－40087**)・讌(**10－36121**)・宴に通ず。〔說文通訓定聲〕字亦作レ醼、作レ讌、字林作レ宴。

名乘 ヤス。ヨシ。

解字 會意形聲。宀と晏との合字。晏は安、やすんずる義、故に宀と合し、本義を屋下にやすんずるとする。晏はまた音符。更に轉じて、宴醼の意とし、安に假借する。〔說文、宴、段注〕引伸爲二宴饗一、經典多叚レ燕爲レ之、晏見二女部一、安也。

參考 熟語は燕(**7－19429**)を併せ見よ。

【宴安】1 エンアン 遊びたのしむ。安氣に遊びくらす。氣樂にくつろぐ。燕安。宴安酖毒を見よ。〔後漢書、申屠剛傳〕剛以二隴蜀未レ平、不レ宜二宴安逸豫一。〔後漢書、鄧彪等傳論〕古人以二宴安一爲レ戒。〔陶潛、勸農詩〕宴安自逸。歲暮奚冀。〔任昉、爲二齊明皇帝一作レ相讓二宣城郡公一第一表〕宴二安於國危一。

【宴安酖毒】2 エンアンチンドク 徒らに遊び樂しむは鴆毒のやうに人を害ふ。酖は鴆に同じ。〔左氏、閔、元〕管敬仲言二於齊侯一曰、戎狄豺狼、不レ可レ厭也、諸夏親暱、不レ可レ棄也、宴安酖毒、不レ可レ懷也。〔注〕以二宴安一比二之酖毒一也。〔漢書、景十三王傳贊〕是故古人以二宴安一爲二鴆毒一。〔注〕師古曰、左氏傳、管敬仲云、宴安鴆毒、不レ可レ懷也。

【宴位】3 エンヰ 宴會の席。〔孟郊、與二王二十一員外涯一遊二口柳溪一詩〕宴位席二蘭草一、濫觴驚二鳧鷺一。

【宴慰】4 エンヰ やすむ。くつろぎやすんずる。〔鮑照、翫二月城西門廨中一詩〕休澣自レ公日、宴慰及レ私辰。

【宴游】5 エンイウ 酒宴のたのしみ。又、たのしみ遊ぶ。宴遊。燕遊。〔漢書、賈山傳〕大臣不レ得レ與二宴游一。〔蘇軾、決二壅蔽一論〕百官莫レ不三震悚盡二力於王事一、而不二敢宴游一。

【宴逸】6 エンイツ 遊び樂しむ。酒宴を張つて遊樂する。又、そのこと。宴佚。〔南史、范雲傳〕願殿下知二稼穡之艱難一、無レ徇二一朝之宴逸一也。

【宴飮】7 エンイン さかもり。又、さかもりをする。宴會。燕飮。讌飮。〔漢書、文三王、梁孝王劉武傳〕是時上未レ置二太子一、與二孝王一宴飮。〔漢書、敍傳上〕出爲二微行一、行則同レ輿執レ轡、入侍二禁中一、設二宴飮之會一。〔風俗通、十反〕家人宴飮。〔傅毅、舞賦序〕將レ置二酒宴飮一。

【宴宴】9 エンエン 安んじ息ふさま。燕燕。〔爾雅、釋訓〕宴宴粲粲、尼二居息一也。〔注〕盛飾宴安、近二處優閑一。

【宴筵】10 エンエン さかもりの席。宴席。〔舊唐書、褚亮傳〕每レ有二征伐一、亮常侍從、軍中宴筵、必預二歡賞一。

【宴婉】11 エンエン やさしく美しい人。燕婉。〔曹植、七啓〕佩二蘭蕙一兮爲レ誰修、宴婉絕兮我心愁。

【宴歌】12 エンカ 酒もりしてうたふ。又、酒宴の時にうたふうた。〔北齊書、宋遊道傳〕時將レ還レ鄴、會霜雨、行旅擁二於河橋一、遊二道于幕下一、朝夕宴歌。

【宴好】13 エンカウ さかもりしてひきでものを贈る。情を通じよしみを結ぶ。燕好。〔左氏、襄、三十一〕厚二其宴好一而歸レ之。〔會箋〕好、好貨也。〔國語、周語下〕宴好享賜、不レ踰二其上一、讓也。〔注〕宴好、所二以通レ情結一レ好也。

【宴犒】14 エンカウ 酒食を設けて人を慰勞する。〔五代史、雜、張全義傳〕遣二人扶掖而登一、宴犒盡レ歡。

【宴洽】15 エンカフ 酒宴を張つて和合すること。〔北里志〕宜之每二宴洽之際一、常慘然悲鬱。

【宴衎】16 エンカン さかもりして樂しむ。燕衎。〔揚雄、長楊賦〕抑二止絲竹宴衎之樂一、憎レ聞二鄭衞幼眇之聲一。〔杜甫、陪二諸公一上二白帝城頭一宴二越公堂一詩〕英靈如レ過レ隙、宴衎願レ投レ膠。

【宴酣】17 エンカン 酒宴の半。宴たけなはなる時。〔宋之問、奉三和幸二神皐亭一應制詩〕宴酣詩布レ澤。〔大唐嘉話〕宴酣各賦二一事一。

【宴娭】18 エンキ 歡び戲れる。燕喜。〔漢書、禮樂志〕神來宴娭、庶幾是聽。〔王先謙補注〕宴娭、與二詩燕喜一同耳。

【宴喜】19 エンキ 酒もりして樂しむ。燕喜。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕宴喜之樂、蓋亦無量。〔潘岳、西征賦〕陸賈之優游宴喜。

【宴邱】20 エンキウ 正月十九日をいふ。清代に於ては、この日、帝が西廠子少金殿に幸して蒙古王公の暇乞ひを受ける。燕九。筵九(**8－26080**・・3)に同じ。〔燕京歲時記、筵九〕十九日謂二之筵九一、每レ至二筵九一、皇上幸二西廠子少金殿一、筵宴看二玩藝貫跤一、蒙古王公請安告歸、臣工之得レ著二貂喪一者、盡於二是日一脫去、改穿二白鋒毛一矣、民間無二事可レ紀、遊二賞白雲觀一者、謂二之會神仙一焉、按、帝京景物略曰、燕九、又曰二宴邱一、今則曰二筵九一。

【宴享】21 エンキャウ 酒食を設けて賓客に御馳走すること。宴饗に同じ。〔漢書、禮樂志〕嘉籩列陳、庶幾宴享。

【宴饗】22 エンキャウ ㊀酒もりして羣臣又は賓客をもてなす。燕饗。宴享。燕享。饗宴。〔後漢書、禮儀志中〕百官受レ賜、宴饗大作レ樂。〔晉書、禮志下〕宴饗之有レ樂、所二以敬一レ賓也。㊁神が饗をうけること。〔班固、兩都賦、明堂詩〕上帝宴饗、五位時序。

【宴居】23 エンキョ 暇で家に安息する。閑暇無事の時。

燕居。宴坐。宴息。〔國語、楚語上〕宴居有二師工之誦一。〔後漢書、循吏、仇覽傳〕雖レ在二宴居一、必以レ禮自整。〔注〕宴、安也。〔左思、吳都賦〕競二其區宇一、則幷レ疆兼レ巷、矜二其宴居一、則珠服玉饌。

【宴曲】24 エンキヨク　鎌倉時代、宴席などで謠つた謠物。催馬樂・朗詠などから出て謠曲の始となる。延曲。又、早歌・現爾也娑婆・理里有樂ともいふ。

【宴貨】25 エンクワ　宴席で客に贈る禮物。ひきでもの。纏頭。〔左氏、昭、五〕宴有二好貨一。〔注〕宴飮以レ貨爲レ好、衣服車馬在レ客所レ無也。〔國語、周語中〕有二折俎加豆酬幣宴貨一。〔注〕聘有二酬レ賓束帛之禮一、其宴束帛爲レ好、謂二之宴貨一。

【宴會】26 エンクワイ　❶集つてさかもりをする。さかもり。酒宴の會。讌會。〔古詩十九首〕今日良宴會、歡樂難二具陳一。〔後漢書、周景傳〕入上二後堂一、與共宴會。〔後漢書、董卓傳〕數與二百官一置酒宴會、淫樂縱恣。〔曹植、王仲宣誄〕感二昔宴會一、志各高厲。❷トヨノアカリ　古、朝廷の宴會の總稱。〔日本書紀〕。

【宴見】27 エンケン　君主の閑居の時まみえる。讌見。燕見。〔漢書、淮南王安傳〕每二宴見一、談二說得失及方技賦頌一。〔漢書、京房傳〕房嘗宴見。〔注〕師古曰、以二閒宴時一入見二天子一。〔漢書、汲黯傳〕丞相弘宴見、上或時不レ冠、至レ如レ見レ黯、不レ冠不レ見也。〔後漢書、爰延傳〕帝以二延儒生一、常特宴見。

【宴娛】28 エンゴ　酒盛してたのしむ。宴樂。燕娛。讌娛。〔李尤、讀書枕銘〕寤レ心起レ意、由愈二宴娛一。〔唐書、李適之傳〕適之喜二賓客一、飮酒至二斗餘一不レ亂、夜宴娛、晝決レ事、案無二留辭一。〔高適、眞定卽事奉二贈韋使君二十八韻詩〕起レ草徵二調墨一、焚レ香卽燕娛。

【宴語】29 エンゴ　酒もりして樂しみ語る。燕語。讌語。〔左氏、昭、十二〕宴語之不レ懷、寵光之不レ宣。〔國語、周語中〕飮酒宴語相說也。〔漢書、趙充國傳〕時與二中郎將印一宴語。〔沈約、郊居賦〕或列席而賦レ詩、或班レ觴而宴語。

【宴坐】30 エンザ　❶暇で家に休息する。安らかに休息してゐること。宴居。宴私。〔白居易、病中宴坐詩〕宴二坐小池畔一、淸風時動レ襟。❷佛身心を寂靜にして坐禪すること。燕坐ともいふ。〔維摩詰經、弟子品〕我昔常宴二坐他樹下一。〔義記、一二本〕宴、猶レ嘿也、嘿二坐樹下一、名爲二坐宴一。

【宴座】31 エンノザ　中古、朝廷の節會、臣下の大饗の時の酒宴の稱で、單に獻酬のみに止まるもの。〔太政官式〕大臣已下史已上、謝座著二宴座一、三獻訖、參議已上出著二東廊一、頃之入レ自二北戶一、更著二穩座一。

【宴私】32 エンシ　家に安居する。くつろぎやすむ。宴坐。燕私。〔漢書、匡衡傳〕宴私之意、不レ形二乎動靜一。〔顏延之、陶徵士誄〕念昔宴私、擧レ觴相誨。

【宴爾】33 エンジ　新たに娶る。新婚。詩經、邶風の谷風の詩に、爾ナンヂの新昏に宴すとあるに本づくが、初婚の意に用ひるは誤用である。〔詩、邶風、谷風〕宴二爾新昏一、如レ兄如レ弟。〔疏〕言安二愛汝之新昏一、其恩如二兄弟一也。〔容齋五筆、承習用二經語一誤〕邶谷風之詩、爲下淫二新婚一棄中舊室上而作、其詞曰、宴二爾新婚一、以レ我御レ窮、宴、安也、言安二愛爾之新婚一、但以レ我御二窮苦之時一、至二於富貴一則棄レ我、今人乃以二初娶一爲二宴爾一、非下惟於二詩意一不上レ合、且又再娶事、豈堪レ用也。

【宴室】34 エンシツ　宴安の室。休息する部屋。正室の側の小さい室。郟室。側室。燕室。〔大戴禮、保傅〕古者胎敎、王后腹レ之七月、而就二宴室一。〔注〕宴室、郟室、次二宴寢一、亦曰二側室一。

【宴集】35 エンシフ　さかもりに集まる。集まつて酒宴をする。宴會。〔晉書、杜預傳〕因二宴集一、醉臥二齋中一。

【宴射】36 エンシヤ　古の射禮の一。宴にあつまつて射を習ふ。燕射。〔北齊書、河南康舒王孝瑜傳〕數集二諸弟一、宴射爲レ樂。

【宴寂】37 エンジヤク　佛安らかに入寂すること。卽ち聖者の死をいふ。〔大部補注、八〕宴寂、宴、安也、息也、上文云二寂然宴默一、是也。〔法華經、化城喩品〕於二佛宴寂後一、宣二陽助法化一。

【宴聚】38 エンシユウ　集まつて酒宴をする。宴集。〔舊唐書、穆宗紀〕丁公著對レ帝曰、前代名士、良辰宴聚。

【宴處】39 エンシヨ　安んじ居る。燕處。宴息。〔王粲、贈二士孫文始一詩〕在二漳之湄一、亦克宴處。

【宴醑】40 エンシヨ　宴を張つてたのしむ。醑は美酒。宴飮。宴胥。〔梁昭明太子、春日宴二晉熙王一詩〕幸茲同二宴醑一、引レ滿愛二樽空一。

【宴如】41 エンジヨ　安居のさま。〔吳志、朱然傳〕將士皆失レ色、然宴如而無レ恐。

【宴如居士】42 エンジヨコジ　淸、姜紹書（3－6205・・105）の號。

【宴笑】43 エンセウ　たのしみわらふ。燕笑。〔曹植、酒賦〕獻酬交錯、宴笑無レ方。〔傅咸、感別賦〕想二宴笑之餘暉一。

【宴席】44 エンセキ　さかもりの席。酒宴の座席。燕席。宴筵。〔開元天寶遺事、氷山避レ暑〕楊國氏子弟、每レ至二伏中一、取二大氷一、使下匠琢爲レ山、周中圍於宴席閒上、座客雖二酒酣一、而若レ有二寒色一。

【宴媟】45 エンセツ　輕んじ狎れる。〔左氏、昭、二十七、請レ使二重見一、注〕今行二飮酒禮一、而欲レ使二重見一、從二宴媟一也。

【宴餞】46 エンセン　さかもりして旅だちを送る。はなむけ。餞別。送別。讌餞。〔唐書、玄宗貴妃楊氏傳〕來朝必宴餞結レ歡。

【宴然】47 エンゼン　日の現はれ來ること。曣晛（5－14250・・3）に同じ。〔荀子、非相〕詩曰、雨雪瀌瀌、宴然聿消。〔集解〕郝懿行曰、毛詩本出二荀卿一、荀所レ引詩、多與レ毛合、毛詩、見レ晛曰消、韓詩、曣晛聿消、毛云、晛、日氣也、韓云、曣晛、日出也、二說義相成、段氏玉裁說文注云、荀卿引レ詩作二宴然一、卽曣晛也、宴・晏・曣、古通用、玉篇曰、睍同レ晛。

【宴息】48 エンソク　安んじいこふ。宴居。宴處。燕息。〔易、隨〕君子以嚮レ晦、入宴息。〔張衡、東京賦〕乃宴斯息。〔謝靈運、山居賦〕奉二微軀一以宴息。

【宴惰】49 エンダ　たのしみおこたる。身のしまりないこと。燕婧。〔漢紀、孝武帝紀五〕妾聞、婦人貌不二修飾一、不レ見二君父一、妾不二敢宴墮見一。

【宴庭】50 エンテイ　さかもりの席。〔安倍廣庭、秋日於二長王宅一宴二新羅客一賦二得流字一詩〕宴庭招二遠使一、離席開二文遊一。

【宴適】51 エンテキ　くつろいでやすむ。適は心にまかせること。〔王守仁、龍岡新搆詩〕宴適豈專予、來者得二同憩一。

【宴殿】52 エンデン　宴居する殿舍。〔宋史、地理志一〕紫宸殿西二垂拱殿一、常日視レ朝之所也、次西有二皇儀殿一、又次西有二集英殿一、宴殿也。

【宴豆】53 エントウ　宴會に食物を盛る器。〔國語、楚語上〕先君莊王爲二匏居之臺一、高不レ過レ望二國氛一、大不レ過レ容二宴豆一。〔注〕言三宴有二折俎籩豆之陳一。〔權德輿、岐公遺愛碑〕轅門言言、夏屋耽耽、可三以張二射侯一、可三以容二宴豆一。

【宴服】54 エンプク　宴居の時に着る衣服。平常著。燕服。褻服。〔後漢書、禮儀志下〕其餘及宴服、皆封以二篋笥一。

【宴夜】55 エンヤ　酒もりの夜。〔傅毅、舞賦〕觀者稱レ麗、莫レ不二怡悅一、於レ是歡洽宴夜、命遣二諸客一。

【宴煬】56 エンヤウ　安んじ養ふ。煬はあたため養ふ。〔淮南子、要略〕處レ神養レ氣、宴二煬至和一。

【宴飫】57 エンヨ　さかもり。宴會。飫は饜。飫宴。〔白居易、初授二拾遺一獻書〕每二宴飫一無レ不二先及一、每二慶賜一無レ不二洗霑一。

【宴賚】58 エンライ　宴會の賜物。引出物。〔宋史、禮志二十二〕迓餞宴賚之式、登降揖遜之儀。

【宴樂】59 エンラク　燕樂（7－19429・・33）に同じ。❶安んじ樂しむ。〔易、需〕君子以飮食宴樂。〔易林、需之第五、大過〕宴樂有レ緒、長安嘉言。❷酒宴し樂しむ。〔左氏、文、四〕昔諸侯朝二正於王一、王宴二樂之一。〔左氏、昭、十五〕宴樂以早、亦非レ禮也。〔應璩、與二滿公琰一書〕徒恨宴樂始酣。❸遊に耽り小人に狎れる。〔論語、季氏〕樂二佚遊一、樂二宴樂一損矣。〔集注〕宴樂、則淫溺而狎二小人一。❹エンガク　酒宴と音樂。〔左氏、昭、九〕君徹二宴樂一、學人舍レ業、爲レ疾故也。〔會箋〕去二宴享與一レ樂。

【宴龍】60 エンリヨウ　古、良琴を持つて居たといふ人。〔古琴疏〕宴龍者、帝俊之子、有二良琴六一、一曰菌首、二曰義輔、三曰蓬明、四曰白民、五曰簡開、六曰垂漆。

【宴頤軒】61 エンイケン　宋、張鎡（4－9812・・361）の室名。

【宴穩座】62 エンヲンノザ　宴座と穩座。古、禁中で、大饗の時、公卿に賜はつた席。〔日本紀略、十三〕寬仁二年二月十一日、列見、停二止音樂・插頭花等一、依二三條院崩一、但有二宴穩座等一、依二花山院例一也。

【宴金臺】63 エンキンダイ　戲曲の名。淸、周樂淸作。補天石傳奇八種の一。燕の太子丹が秦を亡ぼさうとした事を敍す。

【宴松原】64 エンノマツバラ　昔、內裏にあつた園の名。

【宴桃源】 65 エンタウゲン 詞牌の名。如夢令（3－6060‥141）を見よ。又、阮郎歸を一に宴桃源と名づく。

【宴昵殿】 66 エンヂツデン 親戚が宴飲會同する殿。〔漢書、敍傳上〕伯少受二詩於師丹一、大將軍王鳳薦二伯宜一勸レ學、召見二宴昵殿一。〔注〕張晏曰、親戚宴飲會同之殿。

【㝈】7167

キョク ゴク 〔集韻〕衢六切 沃

伸びない。 局（4－7653）・跼（10－37548）に通ず。〔集韻〕㝈、不二敢伸一也。〔正字通〕㝈、局・跼、竝通。

【宵】7168

セウ 〔集韻〕思邀切 蕭 ㄒㄧㄠ hsiao¹

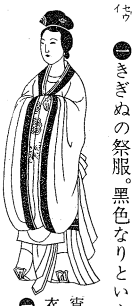
小篆

㊀**よる。** 〔說文〕宵、夜也、从レ宀、宀下冥也、肖聲。〔爾雅、釋言〕宵、夜也。〔釋文〕宵、陽氣消也。〔書、堯典〕宵中星虛。〔傳〕宵、夜也。〔儀禮、士喪禮〕宵爲二燎于中庭一。〔注〕宵、夜也。㊁**よひ。** 夜半前。〔周禮、秋官、司寤氏〕禁二宵行者・夜遊者一。〔注〕宵、定昏也。〔孫詒讓正義〕淮南子天文訓云、至二於虞淵一、是爲二黃昏一、至二蒙谷一、是爲二定昏一、案、鄭即本二淮南書說一、云云、宵已爲レ夜、則夜謂二夜半時一。㊂**くらい。おろか。** 〔莊子、列禦寇〕宵人之離二外刑一者。〔注〕不レ由二明坦之塗一者、謂二之宵人一。㊃**小さい。** 小（4－7473）に通ず。〔說文通訓定聲〕宵、叚借爲レ小。〔禮、樂記〕宵雅肄レ三。〔注〕宵之言、小也。〔江淹、雜體、鮑參軍詩〕宵人重思光。〔注〕善曰、宋均曰、宵、猶レ小也。㊄**にる。** 肖（9－29263）に通ず。〔說文通訓定聲〕宵、叚借爲レ肖。〔漢書、刑法志〕夫人宵二天地之顡一。〔注〕應劭曰、宵、類也、師古曰、宵、義與レ肖同。㊅**つかふ。** けしかける。嗾（2－4155）に通ず。〔說文通訓定聲〕宵、叚借爲レ嗾、宵・嗾、一聲二轉。〔方言、十三〕宵、使也。㊆**きぎぬ。** 綃（8－27485）に通ず。〔說文通訓定聲〕宵、叚借爲レ綃。〔儀禮、特牲饋食禮〕主婦、纚笄宵衣。〔注〕宵、綺屬也。㊇古は⿰日肖（5－13955）に作る。〔集韻〕宵、古作レ⿰日肖。邦**よひ。** 夜に入つて程經ぬとき。初夜。

【宵靄】 1 セウアイ 夜のもや。物のあやめのわからぬ喩。〔趙蕃、螢光照レ字賦〕炫二微質於幽邃一、閔二羣言於宵靄一。

【宵闇】 2 ヨヒヤミ 陰暦十六日以後二十日頃迄の夜の稱。月の上ることが遲く、宵の間の暗いこと。ゆふやみ。〔武家義理物語、六〕十九日の夜こそ宵闇なれ。

【宵衣】 3 セウイ ㊀きぎぬの祭服。黑色なりといふ。古、婦人の祭を助ける服。


宵衣㊀（三禮圖）

〔儀禮、士昏禮〕姆纚笄宵衣、在二其右一。〔注〕宵、讀爲二詩素衣朱綃之綃一、魯詩以レ綃爲二綺屬一也、姆亦玄衣、以レ綃爲レ領、因以爲レ名。〔儀禮、特牲饋食禮〕主婦、纚笄宵衣、立二于房中一、南面。〔注〕宵、綺屬也、此衣染レ之以レ黑、其繒本名曰レ宵、詩有二素衣朱宵一、記有二玄宵衣一。㊁未だ夜のあけきらぬ中に起きて衣服を著ける。政事に勵むをいふ。宵衣旰食を見よ。〔唐書、李德裕傳〕德裕上二丹扆六箴一、其一曰、宵衣、諷二視レ朝希晚一也。〔李德裕、宵衣箴〕先王聽レ政、昧爽以俟。〔許渾、秋日早朝詩〕宵衣應レ待絕更籌、環佩鏘鏘月下樓。

【宵衣旰食】 4 セウイカンショク 夜の明けぬうちに起きて衣裳を著、日が沒して後に夕食する。天子が政事に勤勞せられることをいふ。宵旰。〔徐陵、陳文帝哀策文〕勤レ民聽レ政、旰食宵衣。〔唐書、劉蕡傳〕任レ賢惕厲、宵衣旰食、詎追二三五之遐軌一、庶紹二祖宗之鴻緒一。

【宵幃】 5 セウヰ 夜のとばり。夜の御殿。〔唐太宗、初秋夜坐詩〕斜廊連二綺閣一、初月照二宵幃一。

【宵熠】 6 セウイウ 螢（10－33434）の異名。〔范成大、嘲レ蚊詩〕濕生同二蜚蝎一、腐化類二宵熠一。

【宵雨】 7 セウウ 夜の雨。夜雨。〔張蠙、和三友人許裳題二宣平里古藤一詩〕晝風圓影亂、宵雨細聲重。〔楊載、次下韻詔鄉壬寅元日又三日聞二遊人頗盛一之作上詩〕堂堂宵雨過、栗栗曉寒仍。

【宵永】 9 セウエイ 夜が長い。よなが。〔杜甫、奉二漢中王手札一詩〕已覺良宵永、何看駭浪翻。〔虞集、退直同二柯敬仲博士一賦詩〕戀レ闕感二時康一、懷レ歸覺二宵永一。

【宵越】 10 ヨゴシ 昨日のもちこし。一夜を經ること。〔一茶句集〕宵越しの豆腐明りに藪蚊かな。

【宵宴】 11 セウエン 夜のさかもり。宵醼。〔謝莊、月賦〕君王乃厭二晨歡一、樂二宵宴一。

【宵煙】 12 セウエン 夕霞。夜の霧。〔唐太宗、三層閣上置二音聲一詩〕綺筵移二暮景一、紫閣引二宵煙一。

【宵醼】 13 セウエン 夜のさかもり。宵宴に同じ。

【宵雅】 14 セウガ 詩經の小雅をいふ。宵は小に通ず。〔禮、學記〕宵雅肄レ三、官二其始一也。〔注〕宵之言、小也、肄、習也、習二小雅之三一、謂二鹿鳴・四牡・皇皇者華一也。

【宵行】 15 セウカウ ㊀よみち。よあるき。夜行。〔周禮、秋官、司寤氏〕禦二晨行者一、禁二宵行者・夜遊者一。㊁螢の幼蟲。蠶に似て喉の下が光るといふ。轉じて、螢火の異稱。ほたるび。〔詩、豳風、東山〕町畽鹿場、熠燿宵行。〔疏〕天陰沈數雨、在二于秋日一、螢火夜飛之時也、故曰二宵行一。

【宵旰】 16 セウカン 宵衣旰食（4）の略。〔唐書、劉蕡傳〕可下以虔二奉典謨一、克承二丕構一、終二任賢之效一、無中宵旰之憂上矣。〔杜甫、秋日夔府詠懷奉三寄鄭監李賓客一一百韻詩〕宵旰憂虞軫、黎元疾苦駢。〔宣和書譜〕宵旰之暇、留二心翰墨一。

【宵暉】 17 セウキ 月光。月。暉はひかり、又、かがやく。〔梁元帝、漏刻銘〕宮槐晚合、月桂宵暉。〔元稹、春詩〕晝漏頻如レ箭、宵暉欲二半弓一。

【宵魚】 18 セウギョ 魚。魚は夜も目を閉ぢないからいふ。〔何承天、達性論〕行葦作レ歌、宵魚垂レ化。〔芝田錄〕門鎖必以レ魚、取下其不二瞑目一守レ夜之義上。

【宵錦】 19 セウキン 錦繡を衣て夜行くこと。衣レ繡夜行（8－27913‥149）を見よ。〔徐陵、武皇帝作レ相時與二嶺南酋豪一書〕故人不レ見、還同二宵錦一。

【宵晦】 20 セウクワイ 夜のやうにくらい。〔楚辭、劉向、九歎、怨思〕順二風波一以南北兮、霧宵晦以紛闇。〔注〕宵、夜也、霧氣晦冥、而白晝若レ夜也。

【宵會】 21 セウクワイ 夜、會する。又、夜のあつまり。〔柳宗元、祭二段弘古一文〕宵會二北堂一、晝宴二南軒一。〔李端、雜詩〕主第辭二高飮一、石家赴二宵會一。

【宵喚】 22 セウクワン 夜、聞える物の音。夕方に吹く風の音。夜籟。〔上官儀、秋夜詩〕千秋流二夕景一、萬籟含二宵喚一。

【宵形】 23 セウケイ 形に似る。あやかる。宵は肖に通ず。〔高適、留二上李右相一詩〕恩榮初就レ列、含育忝二宵形一。

【宵檠】 24 セウケイ 夜のかがり火。〔袁袠、秋雪聯句〕漢盤結二夜瀣一、韓堂滅二宵檠一。

【宵月】 25 セウゲツ 夜の月。よひづき。初夜の月。〔顧野王、拂崖篠賦〕入二扇壁之宵月一、映二沅澧之驚湍一。〔高允、鹿苑賦〕宵月何精誠之至。〔鮑照、和二王義興七夕一詩〕宵月向二掩扉一、夜霧方當レ白。

【宵見】 26 セウケン 夜、見える。〔漢書、景十三王、中山靖王勝傳〕白日曬レ光、幽隱皆照、明月曜レ夜、蟁蝱宵見。

【宵扈】 27 セウコ 鳥の名。一に、農の官といふ。九扈（1－167‥228）の一。宵鳸。〔爾雅、釋鳥〕宵扈嘖嘖。〔獨斷〕宵扈氏、農正、夜爲レ民驅レ獸。

【宵載】 28 セウサイ 夜、輀車にのせる。輀車は、ひつぎ車。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕皇帝親臨二祖饋一、躬瞻二宵載一。〔注〕翰曰、宵、夜也、載、謂三始載二於庭一也。

【宵牀】 29 セウシヤウ よどこ。夜のねどこ。〔梁簡文帝、秋閨夜思詩〕夕門掩二魚鑰一、宵牀悲二畫屛一。

【宵鐘】 30 セウショウ 夜の鐘。〔杜審言、秋夜宴二臨津鄭明府宅一詩〕露白宵鐘徹、風淸曉漏聞。〔沈佺期、和二韋舍人早朝一詩〕長樂宵鐘盡、明光曉奏催。

【宵燭】 31 セウショク ㊀螢（10－33434）の一名。〔古今

注、魚蟲〕螢火、一名燿夜、一名景天、一名熠燿、一名丹良、一名燐、一名丹鳥、一名夜光、一名宵燭、腐草爲レ之、食二蚊蚋一。〔劉峻、廣絶交論〕冀二宵燭之末光一、邀二潤屋之微澤一。㊁帝舜の二女。宵明と燭光。〔張說、鄭國夫人碑〕克岐克嶷、預見二元凱之才一、實覃實詳、早聞二宵燭之豔一。〔注〕虞帝二女、一曰宵明、一曰燭光。〔謝莊、豫章長公主墓誌銘〕宵燭載照、娥英是從。〔溫子昇、常山公主碑〕令叔之至、比二光明于宵燭一。

【宵晨】32 セウシン 夜と朝。〔陶潛、自祭文〕翳翳柴門、事二我宵晨一。

【宵祲】33 セウシン 夜氣。夜の雲。祲は雲氣。〔韓愈・孟郊、同宿聯句〕曦光霽二曙物一、景曜鑠二宵祲一。

【宵寢】34 セウシン 夜更けて寢る。〔蔡邕、讓二高陽鄉侯一表〕臣是以宵寢晨興、叩レ膺增レ歎。

【宵人】35 セウジン くらい人。小人。愚人。〔莊子、列禦寇〕宵人之離二外刑一者、金木訊レ之、離二內刑一者、陰陽食レ之、夫免二乎外內之刑一者、唯眞人能レ之。〔注〕不レ由二明坦之塗一者、謂二之宵人一。〔兪樾、諸子平議〕宵人、猶二小人一也。〔漢書、廣陵王胥傳〕毋レ邇二宵人一。

【宵征】36 セウセイ 夜、あるく。夜あるき。夜行。〔詩、召南、小星〕肅肅宵征、夙夜在レ公。〔風俗通、十反〕莫レ知二其極一、而著驪以承レ命、駕言宵征。〔陶潛、勸農詩〕桑婦宵征、農夫夜宿。〔李白、王主簿詩〕幽人停二宵征一、賈客忘二早發一。

【宵濟】37 セウセイ 夜中、河を渡る。〔左氏、閔、二〕宋桓公逆二諸河一、宵濟。〔注〕夜渡、畏レ狄。

【宵小】38 セウセウ わるもの。盜賊。〔福惠全書、保甲部、城廂防守〕恐宵小從レ此出入。

【宵夕】39 セウセキ 夕方。〔宋書、自序、林子傳〕高祖每二征討一、林子輒摧レ鋒居レ前、雖レ有二營部一、至二于宵夕一、輒敕還二內侍一。

【宵柝】40 セウタク 夜まはりの拍子木。〔李商隱、馬嵬詩〕空聞虎旅傳二宵柝一、無三復雞人報二曉籌一。〔宋史、樂志十六〕聽二宵柝晨鐘一。

【宵短】41 セウタン 夜が短い。〔書、堯典、宵中、疏〕因レ此而推レ之、足レ知二日永則宵短、日短則宵長一。

【宵張】42 ヨヒッパリ 夜更けるまで起きて居ること。又、其の人。〔浮世風呂、二上〕宵つぱりの朝寢坊。

【宵中】43 セウチユウ ㊀夜が晝となかばする義。晝夜同じく五十刻、長さが相半ばすること。秋分をいふ。〔書、堯典〕日中、星鳥、以殷二仲春一。云云、宵中、星虛、以殷二仲秋一。〔傳〕宵、夜也、春言レ日、秋言レ夜、互相備。〔蔡傳〕晝夜亦各五十刻。㊁夜半。〔夏侯湛、周詩〕宵中告レ退、鷄鳴在レ門。

【宵直】44 セウチヨク 夜の番。宿直。〔白居易、夜深行〕百牢關外夜行客、三殿角頭宵直人。

【宵程】45 セウテイ 夜の行程。〔高啓、宿二張氏江館一詩〕極浦荒雲一棹行、遠投二江館一駐二宵程一。

【宵滴】46 セウテキ よつゆ。〔李鐸、秋露賦〕思蟬飮而曉潤、旅鶴驚二其宵滴一。

【宵田】47 セウデン 夜の獵。田は、かりのこと。〔爾雅、釋天〕宵田爲レ獠。〔注〕江東亦呼レ獵爲レ獠、或曰、卽今夜獵。

【宵遁】48 セウトン 夜にのがれること。〔晉書、宣帝紀〕諸葛亮屯二鹵城一、帝攻拔二其圍一、亮宵遁。〔傅亮、策二宋公九錫一文〕狡寇窮衂、喪レ旗宵遁、此又公之功也。

【宵魄】49 セウハク 月をいふ。〔韓愈・張籍・孟郊・張徹、會合聯句〕夏陰偶高庇、宵魄接二虛擁一。〔注〕宵魄、謂レ月也。

【宵半】50 セウハン よは。夜のなかば。夜半。宵分。〔謝惠連、秋懷詩〕耿介繁慮積、展轉長宵半。

【宵盤】51 セウバン 夜のたのしみ。盤は樂。〔顏延之、陶徵士誄〕接閻鄰舍、宵盤晝憩。〔注〕良曰、盤、樂也。

【宵寐】52 セウビ 夜のねむり。〔班固、幽通賦〕魂煢煢與レ神交兮、精誠發二於宵寐一。〔陸雲、失題二首詩〕發二夢宵寐一、以慰二延佇一。

【宵分】53 セウブン 夜のなかば。夜半。〔魏書、崔楷傳〕日昃忘レ餐、宵分廢レ寢。〔宋書、武帝紀中〕每永懷二民瘼一、宵分忘レ寢。〔江淹、爲二蕭太尉一上二便宜一表〕日晏宵分、實忘二饑寢一。〔宋史、种放傳〕値二月夕一、或至二宵分一。

【宵烽】54 セウホウ 夜のかがり火。〔徐陵、在二北齊一與二楊僕射一書〕鐺鐺曉漏、的的宵烽。

【宵昧】55 セウマイ 夕暮。〔傅咸、螢火賦〕當二朝陽一而戢レ景兮、必宵昧而是征。

【宵民】56 セウミン いやしい民。〔南齊書、樂志〕永毓二宵民一。〔唐書、吳湊傳〕宵民徒紛紛流議。

【宵霧】57 セウム 夜來の霧。夜霧。〔成公綏、隷書體〕仰而望レ之、鬱若二宵霧朝升、遊烟連レ雲。

【宵明】58 セウメイ ㊀夜の明るいこと。〔南齊書、樂志〕四靈晨炳、五緯宵明。㊁草の名。夜、光を發するといふ。〔拾遺記〕宣帝地節元年、背明之國來、貢二其方物一、有二宵明草一、夜視如二列燭一、晝則無レ光、自消滅也。㊂帝舜の女の名。宵燭(31)の㊁・燭光(**7**—**19480**‥14)の㊁を見よ。

【宵明星】59 ヨヒノミヤウジヤウ 夕方、西方にあらはれる金星。ゆふづつ。明明星アケノミヤウジヤウ(**5**—**13805**‥552′)の對。長庚。大白星。〔倭名類聚抄、天地部、景宿類、長庚、箋注〕日既入之後有二明星一、云云、今俗呼二宵明星一。

【宵明燭光】60 セウメイシヨククワウ 帝舜の二女の名。宵燭。〔山海經、海內北經〕舜妻登比氏、生二宵明・燭光一、處二河大澤一、二女之靈、能照二此所方百里一。〔淮南子、墬形訓〕宵明・燭光在二河洲一、所レ照方千里。〔郭璞、山海經圖贊、宵明燭光〕水有二佳人一、宵明燭光。

【宵夜】61 セウヤ 夜。〔淮南子、兵略訓〕乘レ之以二選卒一、擊レ之以二宵夜一、此善因レ時應レ變者也。

【宵餘】62 セウヨ 夜の暇な時。夜分の餘暇。〔王勃、九成宮東臺山池賦〕酌二丹墀之曉暇一、候二青禁之宵餘一。

【宵朗】63 セウラウ 宵空のよく晴れること。〔呂溫、祭二座主故兵部尙書顧公一文〕句曲宵朗、湘沅夕陰。

【宵類】64 セウルイ 相似た多くの物。宵は肖に通ず。なかま。ともがら。〔淮南子、要略〕乃始攬レ物引レ類、覽取撟掇、浸二想宵類一。〔注〕宵、物似也、類、衆也。

【宵練】65 セウレン 殷帝の寶劍の名。含光(**2**—**3350**‥33)の㊁を見よ。〔列子、湯問〕殷帝之寶劍、三曰二宵練一、方レ晝則見レ影而不レ見レ光、方レ夜見レ光而不レ見レ形、其觸レ物也騞然而過、隨過隨合、覺二疾而不レ血レ刃焉。〔駱賓王、上二兗州長史一啓〕騁二宵練于霜鐔一。

【宵露】66 セウロ よつゆ。〔左思、吳都賦〕宵露霮䨴、旭日晻㫲。

【宵漏】67 セウロウ 夜の時間。夜。漏は、水時計。轉じて、時間。〔梁書、武帝紀下〕宵漏未レ分、躬勞二政事一、白日西浮、不レ遑二飱飯一。〔誠齋雜記〕早暮不レ知二宵漏向レ人長一。

【宵話】68 セウワ 宵のはなし。夜話。〔元稹、郵亭月詩序〕每於二宵話之中一、常曰、人生晝務夜安。

【宵惑】69 ヨヒマドヒ 宵に早く寢る。〔蜻蛉日記、上、下〕よひまどひし給ふやうにきこゆるも。

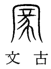
【宵遊宮】70 セウイウキユウ 漢の成帝が太液池の傍に建てた宮殿。〔拾遺記、前漢下〕漢成帝好二微行一、於二太液池傍一、起二宵遊宮一、以レ漆爲レ柱、鋪二黑綈之幕一、器服乘輿、皆上二黑色一。

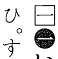
【宵光劍】71 セウクワウケン 明代の戲曲の篇名。徐復祚作。一に王奕清作といふ。漢の衞青が、異母弟鄭跖の爲に、其の父から貰つた宵光劍を橫領せられて冤罪を受け、其の他種々迫害を受けたが、後、天子から邸宅と侍女傾成を賜はつて富貴の身となつた事を演じたもの。〔曲考〕。

【宵不レ下レ堂】72 ヨルダウヲクダラズ 夜は家の外へ出ない。女のつつしみの一。〔穀梁、襄、三十〕伯姬曰、婦人之義、傅母不レ在、宵不レ下レ堂。

【猶三宵之蟲之赴二明燭一】73 ヨヒノムシノメイシヨクニオモムクガゴトシ 夜の蟲が明るい燭に跳びこむやうなものである。惡事に入つて身を滅ぼす喩。〔抱朴子、疾謬〕慕レ之者、猶三宵之蟲之赴二明燭一。

【家】
7169


小篆


古文

一 カ ケ 〔集韻〕居牙切 ㄐㄧㄚ chia¹ 麻

二 カ ケ 〔集韻〕居迓切 禡

三 コ ㄍㄨ ku¹

一 ㊀いへ。うち。すまひ。すみか。〔說文〕家、尻也、从レ宀、豭省聲。〔玉篇〕家人所レ居、通曰レ家。〔史記、平原君傳〕平原君家樓、臨二民家一。㊁やうち。へや。〔爾雅、釋宮〕牖戶之閒、謂二之扆一、其內謂二之家一。〔左氏、昭、三十一〕土正曰二后土一、注〕在レ家則祀二中霤一。〔疏〕家、謂二宮室之中一。㊂門內。〔爾雅、釋宮、李注〕家、謂二門以內一也。

❹**夫**。〔孟子、滕文公下〕女子生而願㆓爲㆑之有㆑家。〔集注〕女以㆑男爲㆑家。〔國語、齊語〕罷女無㆑家。〔注〕夫稱㆑家。❺**妻**。〔楚辭、離騷〕浞又貪㆓夫厥家㆒。〔注〕婦謂㆓之家㆒。❻**家庭**。**家族**。夫婦を單位とする團體。〔周禮、地官、小司徒〕上地家七人。〔注〕有㆑夫有㆑婦、然後爲㆑家。❼**家すぢ**。〔詩、周頌、桓〕克定㆓厥家㆒。〔疏〕家者、承㆑世之辭。〔史記、外戚世家〕良家子。❽**やから**。一族。〔詩、召南、桃夭〕宜㆓其室家㆒。〔集傳〕家、謂㆓一門之內㆒。❾**いへす**。住居する。〔漢書、陸賈傳〕往家焉。❿**朝廷**。〔呂覽、貴卒〕爭㆑先入㆓公家㆒。〔注〕公家、公之朝也。⓫**都城**。〔周禮、天官、典命〕國家宮室。〔注〕國家、國之所㆑居、謂㆓城方㆒也。⓬**天子**。〔獨斷〕天家、百官小吏之所㆑稱、天子無㆑外、以㆓天下㆒爲㆑家、故稱㆓天家㆒。〔後漢書、馬融傳〕軼㆓越三家㆒、馳㆓騁五帝㆒。〔注〕三家、三皇也。⓭**太子**。**皇族**。〔漢書、百官公卿表〕屬官有㆓太子率更・家令・丞僕㆒。〔注〕張晏曰、太子稱㆑家、故曰㆓家令㆒。〔後漢書、百官志〕太子家令一人。⓮**卿**。**大夫**。〔書、盤庚中〕永建㆓乃家㆒。〔傳〕卿大夫稱㆑家。〔左氏、桓、二〕諸侯立㆑家。〔注〕卿大夫稱㆑家。〔左氏、襄、二十六〕大夫將㆑富、政將㆑在㆑家。⓯**ちぎやう**。采地。食邑。〔周禮、夏官、序官〕家司馬。〔注〕家、卿大夫采地。〔大戴禮、文王官人〕使㆘是治㆓國家㆒而長㆗百姓㆖。〔注〕家、采邑。⓰**自家**。他と對立する稱。〔荀子、大略〕此家言邪學之所㆔以惡㆓儒者㆒也。〔注〕家言、謂㆘偏見自成㆓一家之言㆒、若㆓宋墨㆒者㆖。⓱**學派**。**又**、**學者**。〔漢書、武帝紀〕表㆓章六經㆒、罷㆓黜百家㆒。〔宋史、趙蕃傳〕當時言曰、文獻之家、典型之彥、巋然獨存。⓲**技藝を以てたつ者**。〔漢書、東方朔傳〕上嘗使㆓諸數家射覆㆒。⓳**資產**。**あたひ**。賈(**10－36755**)に通ず。〔說文通訓定聲〕家、叚借爲㆑賈。〔莊子、列禦寇〕千金之家。〔釋文〕家、如㆑字、本亦作㆑賈、又作㆑價。⓴**助辭**。的(**8－22692**)に近し。〔元曲、殺狗勸夫〕俺哥哥十分家沈醉。㉑古は宊(**3－7114**)・家(**2－1594**)・⿱宀希(**3－7245**)に作る。〔集韻〕家、古作㆓宊・家㆒。〔字彙補〕⿱宀希、古文家字。㉒**姓**。〔通志、氏族略、以㆑字爲㆑氏〕家氏、姬姓、周大夫家父之後、以㆑字爲㆑氏、又、魯有㆓子家氏㆒、亦爲㆓家氏㆒、望出㆓南安京兆㆒。🈔稼(**8－25217**)に同じ。〔集韻〕稼、或省。🈪姑(**3－6174**)に通ず。〔正字通〕家、與㆑姑同、大家、女之尊稱。［邦］戶主權の行はれる範圍。

［名乘］イヘ。ヤ。ヤカ。

［解字］會意。宀と豕との合字。本義は豕小屋。豢豕が子を多く產むことから、轉じて、人の聚り居る所、卽ちいへをいふ。又、一說に、形聲。宀と猳の省畫との合字、猳は又、音符。猳も豕の義。又、一說に、會意。古代に於ては、犬豕の肉を常食とし、豕と襍居する。故に宀と豕とを合して人の居る所の意とする。〔說文〕家、从㆑宀猳省聲。〔段注〕按、此字爲㆓一大疑案㆒、猳省聲、讀㆑家、學者但見㆑从㆑豕而已、从㆑豕之字多矣、安見㆔其爲㆓猳省㆒耶、何以不㆑云㆓叚聲㆒而紆回至㆑此耶、竊謂、此篆本義乃豕之尻也、引伸叚借以爲㆓人之尻㆒、字義之轉移多如㆑此、牢牛之尻也、引伸爲㆘所㆓以拘㆑罪之陛牢㆖、庸有㆑異乎、豢豕之生㆑子取多、故人尻聚處、借㆓用其字㆒、久而忘㆓其字之本義㆒。

【家鴨】1 カアフ あひる。〔埤雅、釋鳥、鶩〕尸子曰、野鴨爲㆑鳧、家鴨爲㆑鶩、不㆑能㆓飛翔㆒、如㆔庶人守㆓耕稼㆒而已。

【家頤】2 カイ 宋、眉山の人。字は養正。著に子家子がある。〔四庫提要、九十五〕。

【家郵】3 chia^1 yu^2 家鄉からの音信。

【家邑】4 カイフ 周代、大夫の領地。〔周禮、地官、載師〕掌㆓任土之法㆒、云云、以㆓公邑之田㆒任㆓甸地㆒、以㆓家邑之田㆒任㆓梢地㆒。〔注〕家邑、大夫之采地。

【家擯】5 カイン 宋、蜀の人。字は本仲。黃榦の弟子。學行を稱せらる。〔南宋館閣續錄、八・九〕・〔宋元學案、六十三〕。

【家芋】6 カウ 里芋(**11－40131**・・4)の異名。いへついも。〔韻府引、博物志〕野芋、狀小㆓於家芋㆒、食㆑之殺㆑人、蓋薟也。

【家醞】7 カウン 自家で作った酒。手づくりの酒。〔杜甫、王十七侍御掄許㆔攜㆑酒至㆓草堂㆒云云詩〕繡衣屢許攜㆓家醞㆒、皁蓋能忘折㆓野梅㆒。〔白居易、效㆓陶潛體㆒詩序〕會家醞新熟、雨中獨飲。

【家榮】8 カエイ 家のほまれ。〔韻府引、韓愈、文〕祿仕而還、以爲㆓家榮㆒。

【家徭】9 カエウ 其の家の服すべき徭役。〔後漢書、列女、程文矩妻傳〕郡守表㆓異其母㆒、蠲㆓除家徭㆒。

【家宴】10 カエン 家人が聚まってする酒宴。〔馬臻、西湖春日壯遊卽事詩〕金縷緩歌家宴靜。

【家棪】11 カエン 清、孫家穀(**3－6987**・・343)の原名。

【家緣】12 カエン 其の家の緣つづき。きづな。塵緣、俗緣。〔明一統志〕一根兩根柴、便是家緣了。

【家冤】13 カエン 一家の冤罪。〔徐陵、勸㆓進梁元帝㆒表〕家冤將㆑報、天賜㆓黃鳥之旗㆒。〔舊唐書、王旭傳〕希虬銜㆑泣見㆑憲、敍以㆓家冤㆒。

【家園】14 カエン 我が家の庭。又、故鄉。鄉里。〔後漢書、桓榮傳〕常客傭以㆓自給㆒、精力不㆑倦、十五年不㆑窺㆓家園㆒。〔潘岳、閑居賦〕遠覽㆓王畿㆒、近周㆓家園㆒。

【家翁】15 カヲウ 戶主。家長。家の主人。〔隋書、長孫平傳〕有㆘告㆔都督邴紹非㆓毀朝廷㆒者㆖、帝將㆑斬㆑之、平諫曰、鄙諺曰、不㆑癡不㆑聾、未㆑堪㆑作㆓大家翁㆒、此言雖㆑小、可㆓以喩㆑大。〔山堂肆考〕郭子儀子曖、尙㆓昇平公主㆒、嘗與爭㆑言、子儀囚㆑曖待㆑罪、上曰、不㆑癡不㆑聾、難㆑做㆓家翁㆒。〔輟耕錄、家翁〕世言㆓家之尊者㆒、曰㆓家主翁㆒、亦曰㆓家公㆒、唐代宗謂㆓郭子儀㆒曰、鄙諺有㆑云、不㆑癡不㆑聾、不㆑作㆓家翁㆒。

【家屋】16 カヲク 人家。住居の建物。〔魏志、董卓傳〕唯皇后貴人、從至㆓大陽㆒、止㆓人家屋中㆒。

〖家屋稅〗17 カヲクゼイ 家屋に對して賦課する租稅。

【家下】18 chia^1 hsia^4 妻。家族。

〖家下人〗19 chia^1 hsia^4 jen^2 召使。

【家家】20 カカ ❶家每に。〔揚雄、解嘲〕家家自以爲㆓稷契㆒、人人自以㆓皐陶㆒。〔曹植、與㆓楊德祖㆒書〕人人自謂㆑握㆓靈蛇之珠㆒、家家自謂㆑抱㆓荊山之玉㆒。〔張著、雨後詩〕家家空翠滿㆓柴門㆒。❷ココ 天子・太子・諸王が嫡母を呼ぶ稱。〔正字通〕家、天子太子諸王稱㆑母曰㆓家家㆒。〔北齊書、南陽王綽傳〕綽兄弟皆呼㆑父爲㆓兄兄㆒、嫡母爲㆓家家㆒。〔北史、齊南陽王綽傳〕綽兄弟皆呼㆑父爲㆓兄兄㆒、嫡母爲㆓家家㆒。〔資治通鑑、陳紀〕(宣帝、太建三年)剃㆓家家髮㆒爲㆑尼。〔注〕齊諸王呼㆓嫡母㆒爲㆓家家㆒。

〖家家兒〗21 chia^1 chia^1 êrh ❶家每に。❷chia^1 chia êrh 家庭。

〖家家戶戶〗22 カカココ 戶每。家每。各家各戶。〔東京夢華錄、七、駕回儀衞〕綺羅珠翠、戶戶神仙、畫閣紅樓、家家洞府。

【家戒】23 カカイ 家の掟。家誡。家訓。家規。〔魏志、邴原傳、永寧太僕東郡張閣、以㆓簡質㆒聞、注〕杜恕著㆓家戒㆒稱㆑閣。

【家誡】24 カカイ 家戒に同じ。〔唐書、房玄齡傳〕乃集㆓古今家誡㆒、書爲㆓屛風㆒、令㆔諸子各取㆓一具㆒。

【家行】25 カカウ 家庭內の行爲。〔史記、萬石君傳〕舉㆓齊國㆒皆慕㆓其家行㆒。〔唐書、李景讓傳〕家行修治、閨門惟謹。〔白居易、祭㆓中書韋相公㆒文〕世祿官業、家行士風。

【家巷】26 カカウ ❶閭巷に家居する。〔楚辭、離騷〕不㆑顧㆑難以圖㆑後兮、五子用㆓失乎家巷㆒。〔注〕兄弟五人、皆居㆓於閭巷㆒、失㆓尊位㆒也。❷家のあるちまた。町のちまた。閭巷。〔後漢書、延篤傳〕篤以㆑病免歸、教㆓授家巷㆒。〔吳志、嚴畯傳〕穎精㆓學家巷㆒。〔晉書、禮志中〕中辭㆓王事㆒、留㆓志家巷㆒。

【家衖】27 カカウ 一に家巷に作る。❶家のあるちまた。町のちまた。〔漢魯峻碑〕休㆓神家衖㆒。❷宮中の道。永巷。〔楚辭、離騷〕五子用失㆓乎家衖㆒。〔集注〕衖、一作㆑巷、家衖、宮中之道、所謂永巷也。

【家號】28 カガウ 家の名號。屋號。〔周禮、夏官、大司馬〕家以㆓號名㆒、鄉以㆓州名㆒。〔注〕號名者、徽識

所以相別也、鄉遂之屬謂之名、家之屬謂之號。

【家格】29カカク 家柄。家筋。

【家學】30カガク 其の家に代代傳はつてゐる學問。家傳の學業。〔後漢書、孔昱傳〕昱少習家學。〔北史、江式傳〕式少專家學。〔蘇軾、劉壯輿長官是是堂詩〕劉君有家學、三世道益孤。

【家學士】31カガクシ 東宮學士の意。家は太子をいふ。淸の邵長蘅の兄なる遠平（戒菴）は、侍讀學士を授けられ、少詹事の官となつたからいふ。〔邵長蘅、夜遊孤山記〕輞川者、家學士兄戒菴別業也。

【家鴿】32カカフ 家鳩(45)に同じ。〔宋史、夏國傳上〕懸哨家鴿百餘。

【家函】33 chia¹ han² 故鄉から來る書翰。鄉信。

【家監】34カカン ㊀身分ある人の家の監督者。家臣。〔史記、田仁傳〕與田仁會、俱爲舍人、云云、此二人家貧、無錢用以事將軍家監、家監使養惡齧馬。㊁武家の職名。年寄の唐名。

【家雁】35カガン 鳥の名。鵞(12－46956)の異名。〔本草、鵞〕釋名、家雁、舒雁。

【家記】36カキ ㊀一家の記錄。家語。家錄。㊁家人の日記。〔沙汰未練書〕。

【家規】37カキ 家の掟。家戒。家憲。〔韓愈、寄崔二十六立之詩〕諸男皆秀朗、幾能守家規。

【家器】38カキ 家庭の日常用具。家具。〔左氏、襄、五〕宰庀家器爲葬備。

【家諱】39カキ 自分の家の祖父や父の諱。又、それを忌むこと。〔禮、曲禮上〕君所無私諱、〔注〕謂臣言於君前、不避家諱。

【家妓】40カギ 私家に蓄へ置く歌妓。〔十六國春秋〕石虎鄭后名櫻桃、晉僕射鄭世達家妓也。〔稱謂錄、倡、家妓〕西湖志餘、蘇子瞻貶惠州、家妓都散去、獨朝雲依依嶺外。

【家宜】41カギ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【家儀】42カギ 家の規則。〔隋書、經籍志二〕徐爰、家儀一卷。

【家丘】43カキウ 孔子を輕んじていふ。東家丘(6－14499··61)を見よ。〔陳琳、爲曹洪與魏文帝書〕怪乃輕其家丘、謂爲倩人。〔注〕銑曰、魯人不識孔丘聖人、乃云、我東家丘者、吾知之矣、言輕孔丘也。〔高適、別從甥萬盈詩〕宅相予偏重、家丘人莫輕。

【家舅】44カキウ 人に對して己の舅をいふ。〔世說新語、儉嗇〕家舅刻薄、乃復驅使草木。〔晉書、習鑿齒傳〕每定省家舅、從北門入。

【家鳩】45イヘバト 鳩の一種。家鴿。家に飼ふからいふ。傳書鳩等、その變種は數百種に達する。

【家菊】46カキク 菊の一種。甘菊(7－21643··21)の異名。食用となる。〔事物異名錄、花卉、菊〕菊譜、甘菊、一名家菊、人家種以供蔬茹。

【家給】47カキフ 戶ごとに足る。どの家も生活が豐かである。〔漢書、昭帝紀〕耕桑者益衆、而百姓未能家給。〔王褒、四子講德論〕家給年豐、咸則三壤。

【家給人足】48イヘイヘキフシヒトヒトタル イヘゴトニキフシヒトゴトニタル どの家も人も皆富裕で生活にこまらない。〔漢書、貢禹傳〕天下家給人足、頌聲並作。〔淮南子、人閒訓〕后稷乃教之辟地墾草、糞土種穀、令百姓家給人足。

【家鄉】49カキヤウ ふるさと。故鄉。家山。〔賀知章、回鄉偶書詩〕離別家鄉歲月多、近來人事半銷磨。〔杜甫、無家別詩〕家鄉既盪盡、遠近理亦齊。〔白居易、江上對酒詩〕家鄉何處是、那獨在神京。〔李中、海上和柴軍使清明書事詩〕夜來魂夢到家鄉。

【家鄉棉】50 chia¹ hsiang¹ mien² 湖北省揚子江の北岸黃州附近に產する良質の棉花。

【家境】51 chia¹ ching⁴ 暮し向き。生活狀態。

【家居】52カキヨ ㊀仕官しないで家に居る。又、嫁がないで生家に居る。〔韓非子、十過〕仲父家居有病、卽不幸而不起此病、政安遷之。〔史記、吳王濞傳〕盎時家居、詔召入見。〔漢書、司馬相如傳下〕相如既病免、家居茂陵。㊁住居をいふ。〔蘇洵、送石昌言使北引〕家居相近、又以親戚故甚狎。

【家居道士】53カキヨダウシ 淸、魏允札(12－45872··155)の號。

【家禽】54カキン 家に飼ふ鳥類。〔梁書、何胤傳〕有異鳥、如鶴紅色、集講堂、馴狎如家禽焉。

【家駒】55カク 一族中の逸材をいふ。〔魏志、曹休傳〕曹休年十餘歲、喪父、以太祖擧義兵、易姓名、轉至荊州、閒行北歸、見太祖、太祖謂左右曰、此吾家千里駒也。

【家具】56カグ 家庭の日常用具。家器。〔晉書、王述傳〕宛陵令頗受贈遺、而修家具。〔方岳、通方提刑啓〕必借家具、寧免郊寒。

【家伙】57 chia¹ huo³ 家庭の日常用具。傢伙。

【家貨】58カクワ 家の財產。家財。〔韓愈、合江亭詩〕翦林遷神祠、買地費家貨。

【家禍】59カクワ 家庭內のわざはひ。〔左氏、昭、十二〕叔孫氏有家禍、殺適立庶。

【家裹】60 chia¹ kuo³ みやげ。土產。

【家君】61カクン 他人に對して己の父の稱。家祖(195)を見よ。〔易、家人〕家人有嚴君焉。〔墨子、尙同下〕試用家君發憲布令其家。〔陔餘叢考、家君〕列女傳、馬融女嫁袁隗、隗譏融有貪名、妻曰、孔子不免武叔之毀、家君獲此、故其宜爾。〔類書纂要〕自稱父曰家君。

【家訓】62カクン カキン 祖先が子孫に遺した一家の教誡。家戒。家誡。庭訓。北齊の顏之推に顏氏家訓(12－43591··204)の著があり、宋の司馬光にも家訓がある。〔後漢書、邊讓傳〕髫齔夙孤、不盡家訓。〔北齊書、顏之推傳〕有文三十卷、撰家訓二十篇、並行於世。〔張璧、刻顏氏家訓序〕今代人文風化之助、則不獨顏氏一家之訓乎、爾茲太平刻書之意也。

【家兄】63カケイ ㊀他人に對して己の兄をいふ。あに。いろね。家祖(195)を見よ。〔晉書、謝玄傳〕家兄不改其樂。㊁金錢(11－40152··733)の異稱。〔成公綏、錢神論〕愛我家兄。〔魯褒、錢神論〕雖有中人而無家兄。

【家系】64カケイ 家の系統。家の系圖。

【家計】65カケイ ㊀一家のくらしむき。一家の生計。家生。家塗。〔曹植、諫取諸國士息表〕於朝萬無損益、于臣家計、甚有廢損。〔晉書、甘卓傳〕吾家計急、不得不爾。〔沈約、奏彈王源文〕寵奮胤胄、家計溫足、見託。㊁砦の名。甘肅省武都縣の北。一名、揚家砦。〔方輿勝覽〕階州有揚家崖、卽家計砦、建炎・紹興閒、吳玠兄弟圖保蜀口時、四川皆未有城、命各州皆擇地爲砦、而家計砦最爲險阻。

【家計簿】66カケイボ 一家の收入支出を記入する帳簿。

【家慶】67カケイ ㊀家の喜び事。〔庾信、周大將軍隴東郡公侯莫陳君夫人竇氏墓誌銘〕朝章家慶、兼而有之。〔徐陵、陳文帝哀策文〕我皇誕聖、膺此家慶。㊁父母の健在なこと。遠行して歸宅し、親に會つた時、家慶を拜すといふ。〔韻語陽秋〕唐人與親久別復歸、云拜家慶、盧象詩、上堂拜家慶、顧與親恩邇、孟浩然詩、明朝拜家慶、須著老萊衣。

【家雞】68カケイ 家に飼つてゐる雞。轉じて、自家にある善い物。妻・筆蹟などの意に用ひる。野雉・野鶩の對。家雞野鶩を見よ。〔柳宗元、殷賢戲批書後寄劉連州幷示孟崙二童詩〕聞道近來諸子弟、臨池尋已厭家雞。〔蘇軾、柳氏二外甥求筆迹詩〕君家自有元和脚、莫厭家雞更問人。

【家雞野鶩】69カケイヤボク 家に畜つて居る雞と野に居る鴨。家に在るよいものと外に在る惡いもの。厭家雞愛野雉を見よ。〔蘇軾、書劉景文所藏王子敬帖詩〕家雞野鶩同登俎、春蚓秋蛇總入奩。〔注〕庾翼不伏王右軍書曰、兒輩憎家雞愛野鶩。

【厭家雞愛野雉】70カケイヲイトヒテヤチヲアイス 家に在るよいものを棄てて外に在る惡いものを愛する。よい筆蹟を棄てて惡い筆蹟を愛し、正妻を棄てて妾婦などを愛すること等の喩。又、舊を厭ひ新を喜ぶをいふ。輕家雞愛野雉。厭家雞愛野鶩。家雞野鶩を見よ。〔晉中興書〕庾翼書、少時與右軍齊名、右軍後進、庾猶不分、在荊州與都下人書云、小兒輩厭家雞愛野雉、皆學勉少書、須吾還當比之。〔書言故事大全、禽獸比喩類〕厭常喜新、輕家雞愛野雉。

【家雞打得團圓轉野雞打得繞天飛】71 chia¹ chi¹ ta³ tê t'uan² yüan² chüan³ yeh³ chi¹ ta³ tê jao⁴ t'ien¹ fei¹ 鷄を打てば轉々逃れ、雉を打てば天上をかけまはる。繼母が繼子を心服させることの困難なことに譬へた諺。

【家揭】72カケイ 家のしるし。標札。〔陸機、晉平西將軍孝侯周處碑銘〕書方易折、家揭難留。

【家教】73カケウ ㊀家に居て弟子に教へる。〔史記、儒林傳〕申公歸魯、退居家教、終身不出門。㊁

chia^1 chiao^4 家庭教育。

【家業】74 カゲフ ❶家の職業。先祖から傳へられた職業。〔列子、天瑞〕有レ人去二鄉土一、離二六親一、廢二家業一。〔後漢書、郭躬傳〕鎭字桓鍾、少脩二家業一。❷家の財產と門閥。〔漢書、楊王孫傳〕楊王孫者、孝武時人也、學二黃老之術一、家業千金、厚自奉養、生亡レ所レ不レ致。〔南齊書、王融傳〕融以二父官不一レ通、弱年便欲三紹二興家業一。〔顏氏家訓、書證〕顯子臻不レ墜二家業一。

【家眷】75 カケン 家族。一家眷族。〔北夢瑣言〕家眷聚泣。

【家絹】76 カケン 自家用のきぬ。〔北史、節義、石祖興傳〕祖興自出二家絹二百餘匹一、營二護喪事一。

【家檢】77 カケン 家のおきて。家規。家範。〔法言、修身〕衆人用二家檢一、賢人用二國檢一。

【家元】78 イヘモト ❶婦人の里方。❷遊藝などの流儀の本家。〔後者昔物語〕家元の弟子となり。

【家言】79 カゲン 一家言。一個人の意見。偏見。家言邪學を見よ。

〔家言邪學〕80 カゲンジヤガク 偏見と不正な學。〔荀子、大略〕此家言邪學之所三以惡二儒者一也。〔注〕家言、謂下偏見自成二一家之言一、若二宋墨一者上。

【家原】81 エハラ 姓氏。〔和爾雅〕。

【家愿】82 カゲン 宋の人。勸國の子。字は處厚。紹聖の進士。樂至令と爲り、上書して時政を極論し、謫せられて華州西嶽廟を監し、禁錮せらること十年。後、許されて閬州の長官となる。會張浚大學を謀るや、愿、兵を厲まし轂を足らして機會を俟たうと言つたが、浚に容れられず、尋いで歸を乞ふ。〔宋史、三百九十〕・〔宋史新編、一百三十七〕・〔南宋書、二十三〕・〔宋元學案、九十九〕。

【家嚴】83 カゲン 他人に對して己の父をいふ。又、母をも含めていふ。家公。家慈(126)に對す。家祖(195)を見よ。〔易、家人〕家人有二嚴君一焉、父母之謂也。〔通解〕嚴君、謂レ父也、包レ母在二其中一矣。〔類書纂要、人道部、父母〕自稱レ父曰二家父・家君・家大人・家尊・家嚴・老父一。〔書言故事大全、父母類〕子稱レ父曰二家嚴一。

【家姑】84 カコ 他人に對して己の姑をいふ。家祖(195)を見よ。〔顏氏家訓、風操〕蔡邕書集、呼二其姑女一、爲二家姑・家姊一。

【家故】85 カコ 自家の出來事。自家の事情。〔左氏、昭、二十五〕昭伯問二其家故一、盡對。〔注〕故、事也。

【家語】86 カゴ ケゴ ❶一家の記錄。家記(36)に同じ。〔王肅、孔子家語序〕孔子二十二世孫、有二孔猛者一、家有二其先人之書一。❷書名。孔子家語(3－693 3‥89)を見よ。

【家口】87 カコウ 家族。又、家族の人數。〔列子、黃帝〕損二其家口一、充二狙之欲一。〔南史、張敬兒傳〕乃迎二家口一悉下至レ都。〔劍俠傳、僧俠〕令二家口先行一。

【家公】88 カコウ ❶他人に對して己の父をいふ。家君。家父。家嚴。嚴君。〔晉書、山簡傳〕簡歎曰、吾年幾三十、而不レ爲二家公所一レ知。❷他人に對して己の祖父をいふ。〔顏氏家訓、風操〕昔侯霸子孫、稱二其祖父一曰二家公一云云、河北士人、皆呼二祖父母一爲二家公・家母一。❸他人に對して己の母の父をいふ。外祖父。〔稱謂錄、方言稱二母之父一、家公〕家訓風操篇、河北士人、皆呼二外祖父母一爲二家公家母一、江南田里閒亦言レ之、以レ家代レ外、非二吾所一レ識、案、北人稱レ母爲二家家一、故謂二母之父母一爲二家公・家母一。❹家の主人。〔莊子、寓言〕其家公執レ席、妻執二巾櫛一。〔疏〕家公、主人公也。〔列子、黃帝〕家公執レ席。〔易林、大過之第二十八、坎〕卒成二禍亂一、災及二家公一。

【家谷】89 カコク 地名。澮水の支流なる于家水の源。〔水經、澮水〕有二于家水一。〔注〕出二于家谷一、竹書紀年曰、莊伯以二典沃一叛、伐レ翼、公子萬救レ翼、荀叔軫追レ之、至二于家谷一。

【家刻】90 カコク 私家で書籍を板行すること。又、其の本。清の錢培蓀に家刻書目十卷がある。〔書林清話、宋私宅家塾刻書〕錢唐王叔邊、家刻二前漢書一百二十卷・後漢書一百二十卷一。

【家國】91 カコク ❶家と國。國家。家邦。〔易林、乾之一、離〕家國昌富。〔王士禛、蟂磯靈澤夫人祠〕都將二家國無窮恨一、分付潯陽上下潮。❷故鄉。〔韓愈、燕二河南府秀才一詩〕勉哉戒二徒馭一、家國遲二子孫一。

【家宰】92 カサイ 家臣の長。內管領。家相。家老。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕北條高時失レ政、其家宰長崎高資等恣レ權、將士離レ心、多二背叛者一。

【家祭】93 カサイ 一家內に於ける私の祭。先祖の祭。唐書藝文志に孟詵家祭禮一卷がある。〔陸游、示レ兒詩〕王師北定二中原一日、家祭無レ忘告二乃翁一。〔郤掃編〕韓忠獻公嘗集二唐御史鄭正則七家祭儀一、參酌而用レ之、名曰二韓氏參用古今家祭式一。

【家菜】94 カサイ ❶手料理。❷家の畑に植ゑてある蔬菜。〔蘇軾、元脩菜詩〕彼美君家菜、鋪田綠茸茸。〔通俗編、草木〕家菜不レ甜、野菜甜、賈仲昌、蕭淑蘭曲。

【家財】95 カザイ 家庭の日常用具。又、一家の財產。家產。家貲。家貨。家私。〔史記、留侯世家〕悉以二家財一求レ客。〔漢書、卜式傳〕時漢方事二匈奴一、式上書願下輸二家財半一助上レ邊。

〔家財保險〕96 カザイホケン 動產保險をいふ。

【家嫂】97 カサウ 他人に對して己のあによめをいふ。兄嫁。〔晉書、謝朗傳〕安謂二坐客一曰、家嫂情辭慷慨、恨レ不レ使二朝士見一レ之。

【家造】98 イヘヅクリ 家のつくりかた。〔源氏物語、蓬生〕面白き家づくり好む。

【家藏】99 カザウ 家に藏しておくこと。又、家の祕藏物。〔唐書、于休烈傳〕韋述以二其家藏國史百三十篇一上獻。

〔家藏集〕100 カザウシフ 書名。七十七卷。明、吳寬撰。其の詩文は典雅和平である。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔家藏二孝經一本一〕101 イヘゴトニカウキヤウイツポンヲザウセシム 孝謙天皇の天平寶字元年に、天下に詔して家每に孝經一本を藏せしめて精勤誦習させた。〔國史略、孝謙天皇〕天平寶字改元之載、詔令三天下家藏二孝經一本一。

【家作】102 カサク ❶自分の家で作る。〔漢書、食貨志下〕非三編戶齊民所二能家作一。❷家屋。又、貸家。

【家簀】103 カサク 自分の家のねどこ。簀は、すのこ。床板、轉じて、ねどこ。〔唐書、祝欽明傳贊〕獨保二腰領一死二家簀一、寧不幸耶。

【家產】104 カサン ❶家の財產。身代。家資。〔史記、李廣傳〕廣爲二二千石一四十餘年、家無二餘財一、終不レ言二家產事一。〔漢書、楚元王傳〕家產過二百萬一、則以振二昆弟一。〔顏氏家訓、治家〕籍二其家產一。〔晉書、和嶠傳〕和嶠家產豐富、擬二于王者一。❷家を維持するに必要な基礎的財產。

【家山】105 カザン 故鄉。故山。家鄉。〔錢起、送二李棲桐一詩〕蓮舟同二宿浦一、柳岸向二家山一。〔蘇軾、伯父送二先人下第歸レ蜀詩云、人稀野店休レ安レ枕、路入二靈關一穩跨レ驢、安節將レ去爲誦二此句一、因以爲レ韻作二小詩十四首一送レ之詩〕汝幸無二人知一、莫レ厭二家山穩一。

〔家山藥〕106 カサンヤク 植物の名。やまいも科に屬する栽培植物。塊根を食用とす。花期は夏。ながいも。

〔家山圖書〕107 カザンヅシヨ 書名。一卷。舊本に朱子の撰と題するも明かでない。蓋し諸儒の增損したもの。入學より、成人に至るまでの冠昏喪祭禮樂射御書數等を詳細に圖示して說明したもので、朱子の小學が義理に詳かなのに對して、この書は名物度數に詳かである。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【家士】108 カシ ❶周官の名。秋官の屬。大夫の采地の獄訟を治め、方士に告ぐるを掌る。〔周禮、秋官、序官〕都士、中士二人、下士四人、府二人、史四人、胥四人、徒四十人、家士亦如レ之。〔注〕都家之士、主下治二都家吏民之獄訟一、以告中方士上者也。❷家の子。家來。家人。

【家子】109 カシ ❶家の子供。〔史記、李廣傳〕廣以二良家子一從レ軍。〔盧思道、從軍行〕犀渠玉劍良家子。❷chia^1 tzŭ 家。家族。❸イヘノコ ㋑良家に生れた人。又、一つ家門の子。〔宇津保物語、忠乞〕いとかしこき人かな、家の子なるべし。㋺庶子及び其の族類。〔東鑑、三〕元曆元年九月十四日、重賴家子二人郎從三十類輩從レ之。㋩私家の奴。家僮。〔當流小栗判官、三〕譜第の家の子。

【家史】110 カシ 一家の歷史。一家の記錄。家乘。〔隋書、許善心傳〕家史舊書在、後焚蕩、今止有二六十八卷在一、又並又缺落失レ次。

【家司】111 ケイシ イヘツカサ 親王・攝關・公卿・職事の三位以上の家政を掌る者の總稱。今の家令の如し。〔類聚三代格、十六〕太政官府、云云、望請、親王及公卿職事三位已上、以二家司一爲二保長一。〔源氏物語、若菜上〕大納言の朝臣の家づかさ。

【家私】112 カシ ❶一身上の事。家庭の私事。家事。

私事。〔王粲、從軍詩〕外參二時明政一、內不レ廢二家私一。㊁家の財產。家財。家貲。又、家具。〔續漢書〕靈帝造二萬金堂一、以爲二私藏一、後寄二小黃門常侍家私一、錢至二數千萬一。〔俗呼小錄〕器用曰二家生一、云云、又曰二家私一。〔通俗編、貨財、家私〕楊瑀山居新語、江西呂師夔、至元閒、分二折家私一、作二十四分一。

【家姉】113 カシ 他人に對して己の姉をいふ。家祖(195)を見よ。〔通俗編、稱謂、家姉〕列女傳、袁次陽取二馬季長女一、問曰、賢姉未レ嫁、而卿先行、有二何汲汲一乎、答曰、家姉有二宋伯姬之風一、家君庶二堯之配レ舜、世乏二此賢一、故其躊躇。

【家祀】114 カシ 先祖の祭。〔世說新語、品藻〕弟承二家祀一、有二何不可一。

【家芝】115 カシ 植物の名。蔬蓰の、白花を開くもの。守宅。〔西陽雜俎、玉格〕蔬蓰白華、一名守宅、一名家芝。

【家施】116 カシ 家のほどこし。大夫が下民に施すこと。〔左氏、昭、二十六〕在レ禮家施不レ及レ國。〔會箋〕大夫稱レ家、國人是國君之所レ有、大夫不レ得二妄施以樹二己私惠一。〔晏子、重而異者〕家施不レ及レ國。

【家笥】117 カシ 自分の家で用ひてゐる容器。笥は竹製の容器。〔唐書、盧綸傳〕索二家笥一得二詩五百篇一以聞。〔李東陽、忠愛祠賦〕俟發二公粟一、若レ啓二家笥一。

【家貲】118 カシ 家の資產。私の貨財。家財。家資。〔後漢書、第五倫傳〕蜀地肥饒、人吏富實、掾史家貲、多至二千萬一。〔晉書、劉超傳〕常年賦稅主者、常自四出、詰二評百姓家貲一。〔唐書、員半千傳〕臣家貲不レ滿二千錢一。

【家嗣】119 カシ よつぎ。家の後繼者。〔史記、宋世家、索隱述贊〕卒傳二家嗣一、或敍二彝倫一。

【家資】120 カシ 一家の財產。家產。家貲。〔後漢書、朱暉傳〕建初中、南陽大飢、米石千餘、暉盡散二其家資一、以分二宗里故舊之貧羸者一。〔白居易、渭邨退居寄二禮部崔侍郎・翰林錢舍人一詩〕生計雖二勤苦一、家資甚渺茫。

〔家資分散〕121 カシブンサン 借財の償還が出來ないで、裁判の上で、有る限りの家資を貸主に差出すこと。破產の一。

【家次】122 カジ 家の爵秩の順序。家がら。〔史記、商君傳〕名田宅・臣妾・衣服、以二家次一。

【家事】123 カジ ㊀家庭の用事。一家の私事。うちわの事。家私。〔詩、小雅、斯干、無レ非無レ儀、箋〕婦人無レ所レ專二於家事一。〔禮、喪大記〕大夫士、言二公事一、不レ言二家事一。〔左氏、襄、二十七〕夫子之家事治、言二於晉國一無レ隱レ情、其祝史陳二信於鬼神一無レ愧レ辭。〔管子、形執解〕教二護家事一、父母之則也。〔韓非子、外儲說右上〕疑家巫有二蔡嫗者一、疑母甚愛二信之一、屬二之家事一焉。〔史記、廉頗藺相如傳〕受レ命之日、不レ問二家事一。㊁家具。〔東京夢華錄、三、防火〕望レ下官屋數閒一、及有二救レ火家事一、謂如二大小桶・洒子麻搭・斧鋸・梯子・火叉・大索・鐵猫兒之類一。㊂玩具。〔夢粱錄、湖船〕糖小兒家事兒等船。㊃家を治めるに必要な一切の事。家政。

【家兒】124 カジ 其の家に生れた子供。父祖の血統を引いた子供。わが子。子息。〔後漢書、馬援傳〕長者家兒。〔韓愈、殿中少監馬君墓誌銘〕瑤環瑜珥、蘭茁二其芽一、稱二其家兒一也。

〔家兒輩〕125 カジハイ 自分の家の子供達。〔國史略、後一條天皇〕家兒輩欲レ履二伊人影一、猶且可レ得乎。

【家慈】126 カジ 他人に對して己の母をいふ。家嚴(83)の對。家祖(195)を見よ。〔類書纂要〕自稱レ母、曰二家母、老母、家慈一。

【家獸】127 カジウ ㊀家に飼はれてゐる獸。〔法苑珠林〕晉沙門釋法相、河東人也、常獨山居、精苦爲レ業、鳥獸集二其左右一、馴若二家獸一。㊁狗(7―20345)の異名。〔事物異名錄、獸畜、犬〕事物紺珠、狗、一名義畜、一名家獸。

【家室】128 カシツ ㊀夫婦をいふ。又、家族をいふ。室家。〔詩、周南、桃夭〕之子于歸、宜二其家室一。〔疏〕左氏桓十八年、女有レ家、男有レ室、室家、謂二夫婦一也。〔儀禮、少牢饋食禮〕胡壽保二建家室一。〔韓非子、內儲說下〕季曰、是何人也、家室皆曰、無レ有。〔史記、高祖紀〕行使三人求二家室一、家室亦匃不二相得一。〔魏武帝、存二恤從軍吏士家室一令〕家室怨曠、百姓流離。㊁住む家。すまひ。〔淮南子、脩務訓〕舜作レ室築レ牆、茨レ屋、辟レ地樹レ穀、令二民皆知レ去二巖穴一、各有二家室一。〔歐陽脩、寄レ內詩〕無二巢以家室一。㊂夫婦として家庭を營ませる。〔管子、入國〕取二鰥寡一而合二和之一、予二田宅一而家二室之一。〔纂詁〕使二之有レ家有レ室也。

【家集】129 カシフ ㊀其の家人の文や詩を集めたもの。〔蘇轍、奉二使契丹一神水館寄二兒子瞻一詩〕誰將二家集一過二幽都一、逢二見故人一問二大蘇一。㊁個人の歌のみを集めたもの。別集。家の集。〔紀淑望、古今集序〕爰詔二大內記紀友則・御書所預紀貫之・前甲斐少目凡河內躬恆・右衞門府生壬生忠岑等一、各獻二家集竝古來舊歌一。

【家什】130 カジフ 家庭の日用器具。什物(1―348‥24)の㊀に同じ。

【家姐】131 chia¹ chieh³ 己の姉。家姉。

【家舍】132 カシヤ いへ。屋舍。〔白居易、井底引二銀瓶一詩〕到二君家舍一五六年、君家大人頻有レ言。

【家相】133 カシヤウ ㊀家臣の長。家宰(92)に同じ。〔禮、曲禮下〕士不レ名二家相長妾一。〔疏〕家相、謂下助二知家事一者上也。㊁家老(301)の唐名。㊂カサウ 家の構造・方向・場所など。之に吉凶があるといふ。〔隨意錄、一〕近世有二家相工者一、相二人之屋室戶牖一、以言二吉凶妖祥一、世俗或惑二乎其言一、而改二造牖戶一。

【家將】134 カシヤウ 一家をすべ率ゐる人。家長。〔鶡冠子、環流〕有二人將一、得二一人氣一吉、有二家將一、得二一家氣一吉、有二國將一、得二一國氣一吉、其將凶者反レ此。

【家狀】135 カジヤウ 宋代、官吏登用試驗を受けるときに提出した書類の一。年齡や容貌を記述したもの。〔宋史、選擧志一〕景德中、嘗限二擧人於試一、紙前親書二家狀一。〔南部新書、乙〕吏部常式、擧選人家狀、須レ云二中形黃白色少有レ髭、或云二長形紫黑多有レ髭。

【家城】136 ギヤ 姓氏。〔和爾雅〕。

【家常】137 カジヤウ 家庭日常の。ありふれたもの。又、よくなれたこと。家常飯を見よ。〔齊己、寄二山中叟一詩〕應レ笑晨持一盂苦、腥羶市裏叫二家常一。

〔家常菜〕138 chia¹ ch‘ang² ts‘ai⁴ 家常飯に同じ。

〔家常飯〕139 カジヤウハン 家庭の常食。轉じて、普通の事。なんでもない事。家常茶飯事。家常菜。〔陸游、詩〕茅簷喚レ客家常飯、竹院隨レ僧自在茶。〔五車韻瑞〕家常、范文正公云、常調官好做、家常飯好做。〔通俗編、飮食、家常飯〕獨醒雜誌、范文正云、家常飯好喫。

〔家常話〕140 chia¹ ch‘ang² hua⁴ 有り觸れた話。世間話。

〔家常茶飯〕141 カジヤウサハン 家庭に於ける平素の食事。轉じて、あたりまへの事。造作もない事。ありふれた事。家常飯に同じ。〔五燈會元〕道楷云、佛祖文句如二家常茶飯一。

〔家常使令〕143 カジヤウシレイ 召使ひ。〔通俗編、行事、家常使令〕史記外戚傳、平陽主曰、大將軍出二吾家常使令一、騎二從我出入一耳、野客叢書曰、俗言二家常使令一、見レ此。

〔家常便飯〕145 chia¹ ch‘ang² pien⁴ fan⁴ 家庭日常の料理。捴菜料理。

〔家常用的東西〕146 chia¹ ch‘ang² yung⁴ tê tung¹ hsi 日用品。

【家主】147 カシユ ㊀一家の長。戶主。〔墨子、兼愛〕家主獨知レ愛二其家一、而不レ知レ愛二人之家一。㊁ヤヌシ 其の所有する家屋を人に貸して家賃をとる者。〔曠野、戀〕妻なしと家主やられし女郞花。

〔家主翁〕148 カシユヲウ 一家中の尊者。〔輟耕錄、家翁〕世言二家中之尊者一曰二家主翁一。

〔家主公〕149 chia¹ chu³ kung¹ 妻が夫をいふ語。主人公。

〔家主婆〕150 カシユバ 妻をいふ。〔恒言錄〕今鄕村小民、呼二其妻一曰二家主婆一、人皆嗤二其俚俗一、按、南史張彪傳、章昭達迎二彪妻一便拜、稱二陳文帝敎一、迎爲二家主一、家主婆之稱、本レ此。

【家衆】151 カシユウ 家臣たち。〔左氏、襄、四〕羿猶不レ悛、將レ歸レ自レ田、家衆殺而亨レ之、以食二其子一。〔左氏、昭、五〕昭子卽レ位、朝二其家衆一。

【家從】152 カジユウ 皇族、又は華族の家臣の稱。家「扶の次位。

【家叔】153 カシユク 他人に對して己の叔父をいふ。家祖(195)を見よ。〔吳志、諸葛恪傳〕近見三家叔父表陳二與レ賊爭競之計一、未三嘗不二喟然歎息一也。〔陶潛、歸去來辭序〕家叔以二余貧苦一、遂見レ用二于小邑一。

【家塾】154 カジユク ㊀周代、二十五家を閭といひ、共に一巷に居り、其の一巷の門、卽ち閭門の兩側

の堂を塾といひ、又、家塾といふ。閭中の道德ある者を選んで之に居らしめ、人民の師とした。〔禮、學記〕古之教者、家有レ塾、黨有レ庠、術有レ序、國有レ學。〔注〕古者仕焉而已者、歸教二於閭里一、朝夕坐二於門一、門側之堂、謂二之塾一。〔疏〕周禮、百里之內、二十五家爲レ閭、同共二一巷一、巷首有レ門、門邊有レ塾。〔書言故事、齋舍類〕就二家學一者、曰二家塾一。㊁私人の開いた學校。私學所。學舍。私塾。〔湘山野錄〕江州陳氏別墅、建二家塾一聚レ書。

【家塾本】155 カジュクボン 學校や塾の所有者が、其處から出版した書籍をいふ。〔書林清話、宋私宅家塾刻書〕宋時家塾刻本、其名姓亦甚繁。

【家出】156 イヘデ ㊀我が家を出て他へ行くこと。外出。他行。〔詞花和歌集、雜上〕淋しさに家出しぬべき山里。㊁一生涯再び歸らぬつもりで我が家を出ること。出奔。〔狂言、石神〕わごりよに厭きはてて家出をして。

【家術】157 カジュツ 其の家に代々傳へられた術。〔後漢書、李南傳〕南女亦曉二家術一、爲二由拳縣人妻一。

【家書】158 カショ ㊀其の家に傳はる書籍。家本。〔孔安國、尙書序〕我先人用藏二其家書于屋壁一。㊁自分の家へ送る音信。〔張籍、秋思詩〕洛陽城裏見二秋風一、欲レ作二家書一意萬重。㊂鄕家からの音信。家信。家問。家書抵二萬金一を見よ。〔宋書、武帝紀中〕手與二家書一、多レ所二求告一。〔袁凱、京師得二家書一詩〕江水三千里、家書十五行。

【家書抵二萬金一】159 カショバンキンニアタル 旅に居ると家人からの信書が千萬金よりも貴くうれしいことをいふ。〔杜甫、春望詩〕烽火連二三月一、家書抵二萬金一。〔事文類聚、別集、二十六〕王筠久在二沙場一、一日偶得二家書一曰、抵二得萬金一耳。

【家處】160 カショ 家に居る。家居(52)の㊀を見よ。〔新書、時變〕家處者、犯レ法爲レ利爲二材士一。

【家墅】161 カショ 別莊。〔唐書、裴休傳〕兒童時、兄弟偕隱二家墅一、講レ經著レ書。

【家緖】162 カショ 家傳の事業。家業。〔宋史、趙安仁傳〕元輿蚤卒、家緖寖替、安仁屢以二金帛一濟レ之。

【家丞】163 カジョウ 官名。太子の家令。歷代、太子家丞があつた。又、漢代、列侯で食邑千戶以上の者は家丞を置く。〔史記、灌夫傳〕詔書獨藏二魏其家一、家丞封。〔漢書、百官公卿表上〕詹事、秦官、掌二皇后太子家一、有レ丞。〔魏志、邢顒傳〕(邢顒)爲二平原侯植家丞一、云云、庶子劉楨書諫レ植曰、家丞邢顒、北土之彥、少秉二高節一、云云、眞雅士也。

【家乘】164 カジョウ 家の記錄。一家の歷史。家史。〔老學庵筆記、三〕黃魯直有二日記一、謂二之家乘一、至二宜州一猶不レ輟レ書、云云、高宗得二此書眞本一、大愛レ之、日置二御案一。〔鶴林玉露、地、家來〕山谷、晚年作二日錄一、題曰二家乘一、取二孟子晉之乘之義一也。

【家食】165 カショク 仕へないで遊んで食ふ。〔易、大畜〕不二家食一吉。〔疏〕已有二大畜之資一、當下須三養二賢人一、不上レ使二賢人在レ家自食一。

【家臣】166 カシン ㊀卿大夫に仕へる家來。公臣に對して、一家に私屬する臣下。〔左氏、襄、二十九〕公臣不レ足、取二於家臣一、家臣展瑕・展王父爲二一耦一、公臣公巫召伯・仲顏莊叔爲二一耦一。〔左氏、昭、十二〕家臣而君圖、有レ人矣哉。〔荀子、大略〕大夫之臣、拜不二稽首一、非レ尊二家臣一也、所二以辟一レ君也。〔韓非子、內儲說下〕叔孫氏之御者曰、我家臣也、安知二公家一、凡有二季孫一與レ無二季孫一、於レ我孰利。〔史記、孔子世家〕孔子適レ齊、爲二高昭子家臣一、欲三以通二乎景公一。〔漢書、張山拊傳〕未レ得レ登二司徒一、有二家臣一。㊁我が國で家に屬する臣。家の子。家人。〔豆相記〕北條家臣中條出羽守、自二武江戶城一出二銳卒一、追二及景虎于府中一。㊂唐、來子珣(1－581・・285)の字。

【家信】167 カシン 自分の家からの音信。家書。〔北史、劉璠傳〕一日擧身楚痛、尋而家信至、云、其母病、璠卽號泣戒レ道、絕而又蘇。〔獨異志〕晉陸雲在レ吳、久不レ得二家信一。

【家人】168 カジン ㊀易六十四卦の一。䷤（離下巽上）。一家の內外中正を得た象。〔易、家人〕家人利二女貞一、象曰、家人有二嚴君一焉、父母之謂也、父父、子子、兄兄、弟弟、夫夫、婦婦、而家道正、正レ家而天下定矣。〔注〕家人之義、各自修二一家之道一、不レ能レ知二家外他人之事一也。〔疏〕家人者、卦名也、明二家內之道一、正二一家之人一、故謂二之家人一。㊁家族內の人。家內。家族。〔詩、周南、桃夭〕之子于歸、宜二其家人一。〔集傳〕家人、一家之人也。〔莊子、則陽〕聖人其窮也、使三家人忘二其貧一。〔史記、高祖紀〕不レ事二家人生產作業一。〔漢書、高五王、齊王肥傳〕如二家人禮一。〔注〕師古曰、以二兄弟齒列一、不レ從二君臣之禮一、故曰二家人一也。㊂一般の人民。庶人。民人。〔史記、欒布傳〕梁王彭越爲二家人一時。〔注〕索隱曰、謂三居家之人無二官職一也。〔漢書、郊祀志下〕家人尙不レ欲レ絕二種祠一。〔注〕師古曰、家人謂二庶人之家一也。〔漢書、董賢傳〕此豈家人子所二能堪一邪。〔注〕師古曰、家人、猶レ言二庶人一也。〔漢書、欒布傳〕彭越爲二家人一時。〔注〕師古曰、家人猶レ言二編戶之人一也。㊃しもべ。奴僕。家人言を見よ。〔稱謂錄、僕、家人〕漢書、衞靑少爲二平陽侯家人一。〔李商隱雜纂、必不來〕逐二王侯家人一。㊄chia¹ jen² 妻。㊅ニケン 譜代の家來。家の子。郎等。〔百錬抄、十二〕正治元年正月二十五日、故賴朝卿家人、隨二右近中將賴家一、可三奉二仕諸國守護一之由宣下。

【家人言】169 カジンノゲン 奴僕の言論。取るに足らぬ言論をいふ。〔漢書、儒林、轅固傳〕竇太后、好二老子書一、召問レ固、固曰、此家人言耳。〔注〕師古曰、家人、言二僮隸之屬一。

【家人子】170 カジンノコ ㊀庶人の子。〔史記、馮唐傳〕夫士卒盡家人子、起二田中一從レ軍。㊁漢代、良家の子女で後宮に入り、まだ職の定まらないもの。〔漢書、外戚傳序〕上家人子、中家人子、視二有秩斗食一。〔注〕師古曰、家人子者、言下采二擇良家子一以入上レ宮、未レ有二職號一、但稱二家人子一也。〔漢書、元后傳〕(政君)入二掖庭一爲二家人子一。㊂皇孫の妻をいふ。〔稱謂錄、皇諸孫之妻古稱、家人子〕漢書、皇孫妻妾、無二號位一、皆稱二家人子一。

【家人傳】171 カジンデン 新五代史の列傳の目。家族の傳記の意。梁家人傳・唐家人傳・晉家人傳・漢家人傳・周家人傳がある。

【家人嗃嗃】172 カジンカクカク 家內の者が家長の嚴酷に苦しむ。嗃嗃は、困苦のさま。一說、嚴酷のさま。〔易、家人〕家人嗃嗃、悔レ厲吉。〔疏〕嗃嗃、嚴酷之意也。〔伊藤東涯、周易經翼通解〕嗃嗃、未レ詳、蓋困而出二怨言一之義。

【家人尙不レ欲レ絕二種祠一】173 カジンスラナホシュシヲタツヲホッセズ 庶人の家でさへ祖先の祭を絕たぬやうにする。家人は庶人。家人の㊂を見よ。〔漢書、郊祀志下〕家人尙不レ欲レ絕二種祠一、況於二國之神寶舊時一。

【家人離必起二於婦人一】174 カジンノハナルルハカナラズフジンヨリオコル 一家の者が離れそむくのは必ず婦人のことから起る。〔近思錄、治體〕家人離必起二於婦人一、故睽次二家人一、以三二女同居而志不二同行一也。

【家數】175 カスウ 一家をなしてゐる技術。得意のわざ。一派。〔墨子、尙同下〕國之爲二家數一也甚多。〔癸巳存稿〕古人學行、皆稱二家數一、漢志編二古書籍一、以レ家分レ流、在二六藝外一、時六經有二師承一、各守二家法一、短在レ務レ攻レ異レ己、其長在下精二思古訓一、不上レ作二無稽之言一、至二王肅皇甫謐之書出一、以レ僞爲レ工、依レ似亂レ眞、好人好レ怪、開レ門揖レ盜、儒者反無レ家矣。

【家世】176 カセイ ㊀家すぢ。家がら。〔唐書、賈循傳〕循從子隱林、率レ衆扈二行在一、德宗見二隱林一、偉二其貌一、問二家世一、答曰、故范陽節度副使循、臣從父也。㊁家の者代々。〔漢書、張良傳〕家世相レ韓。〔漢書、匡衡傳〕家世多下爲二博士一者上。〔後漢書、朱暉傳〕家世衣冠。〔後漢書、蓋勳傳〕家世二千石。

【家世集】177 カセイシフ 一家で累世著述して集を成した書。家門集。〔梁書、王筠傳〕與二諸兒一書、論二家世集一云、史傳稱二安平崔氏及汝南應氏一、竝累世有二文才一、所四以范蔚宗云三崔氏世擅二雕龍一、然不レ過二父子兩三世一耳、非レ有下七葉之中、名德重光、爵位相繼、人人有レ集、如二吾門世一者上也。

【家生】178 カセイ ㊀一家の生計。家計(65)の㊀に同じ。〔史記、倉公傳〕不レ修二家生一、出行二遊國中一、問下善爲二方數一者上事レ之久矣。㊁家用の什器。日用の器具。〔夢粱錄、諸色雜貨〕家生動事、如二桌凳涼牀交椅兀子一。〔水滸傳、五回〕知深道、兩件家生、要二幾兩銀子一、待詔道不レ討レ價。㊂代々家に仕へてゐるもの。〔水滸傳、二回〕史進又不二肯務レ農、只要四尋レ人使三家生較二量鎗棒一。

【家生子】179 カセイシ 奴婢が主人の家で生んだ子。〔陔餘叢考、家生子〕奴僕在二主家一所レ生子、俗謂二之家生子一、按、法苑珠林記、庸嶺有二大蛇一爲レ患、都尉令長、求二人家生婢子及有レ罪家女一祭レ之、家生之名見レ此、然漢書陳勝傳、秦令三少府章邯免二驪山徒人奴產子一、師古注曰、奴產子、猶三人云二家生奴一也、

輟耕錄引レ之、以爲二家生子之據一、更爲二明切一。

〔家生兒〕180 カセイジ 家生子に同じ。家生孩兒を見よ。

〔家生奴〕181 カセイド 奴婢が主家に屬してゐる中に産んだ子。生れ乍らの家つきの奴隷。家生子に同じ。〔漢書、陳勝傳、奴産子、注〕師古曰、奴産子、猶二今人云二家生奴一也。

〔家生婢〕182 カセイヒ 奴婢が主人の家で産んだ女の子。生れ乍らの家つきの婢。〔異苑、六〕廬陵人郭慶之、有二家生婢一、名二採薇一、年少有二美色一。

〔家生孩兒〕183 カセイガイジ 主人の家で生れた奴僕の子。家生子。〔輟耕錄、奴婢〕奴婢所レ生子、亦曰二家生孩兒一。

〔家生子兒〕184 chia^{1} shêng^{1} tzŭ^{3} êrh 家生子。

【家政】185 カセイ 家の取締り。一家を治めること。家計。家生。〔庾信、周大將軍隴東郡公侯莫陳君夫人竇氏墓誌銘〕君子朝端、賢才家政。〔無可、送二沅江宋明府一詩〕唯有レ傳二家政一、家風重發揮。

〔家政婦〕186 カセイフ 派出婦の一。一家の家政の取扱ひの爲に雇はれるもの。

【家聲】187 カセイ 一家の名譽。家のほまれ。〔司馬遷、報二任少卿一書〕李陵既生降、頽二其家聲一。

【家稅】188 カゼイ 家にかける稅。〔周禮、地官、載師〕凡民無二職事一者、出二夫家之征一。〔注〕玄謂、民雖下有レ閒無二職事一者上、猶出二夫稅・家稅一也、夫稅者、百畝之稅、家稅者、出二士徒車輦一給二繇役一。

【家小】189 カセウ ㊀家族。妻子、又、妻をいふ。〔還魂記、寇閒〕殺二了杜安撫家小一。〔宣和遺事、後集〕家小盡南下矣。㊁妻子の犯した罪に連坐すること。〔福惠全書、刑名部、問擬〕連二坐妻子一者、稱二家小一。

〔家小兒〕190 chia^{1} hsiao^{3} êrh 妻子。

【家削】191 カセウ 國都から二百里の外、三百里以內の地。元來は削といふ。其の地內に大夫の采地があり、大夫の采地を家といふ。故に、削を一に家削といふ。削の地域中、大夫の采地でない所は公邑である。〔周禮、天官、大宰〕以二九賦一斂二財賄一、云云、四曰、家削之賦。〔釋文〕削、本亦作レ稍、又作レ䣙。〔疏〕謂二三百里之內地一名レ削、其中有二大夫采地一、謂二之家一、故名二家削一、大夫采地中賦稅、入二大夫家一、但大夫家采地外、其地爲二公邑一、公邑之內、其民出レ泉入二王家一、故擧二家稍一以表二公邑之民一也。

【家稍】192 カセウ 家削を見よ。

【家節】193 カセツ 家のきまり。一家の節度。〔易、家人〕婦子嘻嘻、失二家節一也。

【家膳】194 カゼン 自家の手料理。〔梅堯臣、江鄰幾饌レ鱠詩〕江侯昔南官、家膳無二此珍一。

【家祖】195 ソカ 他人に對して己の祖・父・母等には家の字を加へる。〔顏氏家訓、風操〕潘尼稱二其祖一曰二家祖一。〔書言故事、祖父母類〕自稱レ祖曰二家祖一。〔陔餘叢考、家祖家父家君家兄舍弟家姑家姊〕賓退錄云、今南北風俗、稱二其祖及父母一、莫レ不三加以二家字一、按、後漢書王丹傳、大司徒侯霸、欲レ與レ丹交、遣二子昱一候二於道一、曰、家公欲二與結一レ交、列女傳、馬融女嫁二袁隗一、隗譏二融有二貪名一、妻曰、孔子不レ免二武叔之毀一、家君獲レ此、故其宜レ爾、顏之推家訓云、昔侯霸之子孫、稱二其祖一曰二家公一、陳思王稱二其父一曰二家父一、母曰二家母一、潘尼稱二其祖一曰二家祖一、則家祖家父家母之稱、由來久矣、魏略、文帝嘗言、家兄孝廉、自其分也、晉載記、苻堅時、慕容泓起レ兵、與二堅書一曰、資二備大駕一、奉二送家兄皇帝一、北史楊津傳、津事二兄椿一極敬、人有二就レ津求レ官者一、津曰、此事須二家兄一裁レ之、陽俊之自言、有二文集十卷一、家兄亦不レ知二吾才士一也、梁元帝攻二蕭詧一、詧曰、家兄無レ辜屢被二攻圍一、七父若顧二親恩一、豈應レ若レ是、此家兄之稱之見二於史傳一者也、又魏文帝謝三鍾繇見與二玉玦一書曰、是以令下舍弟子建、因二荀仲茂一、從容喩中鄙旨上、又世說、戴安道高隱、而其兄欲レ立二功業一、謝太傅曰、卿兄弟志業何其大殊、戴曰、下官不レ堪二其憂一、家弟不レ改二其樂一、南史、齊東昏賜二蕭懿死一、懿臨レ歿謂二使者一曰、家弟在レ雍、深爲二朝廷一憂レ之、唐書、柳公權爲二侍書學士一、其兄公綽、與二宰相李宗閔一書曰、家弟本志二儒學一、以二侍書一見レ用、頗類二工祝一、願徙二散秩一、此舍弟家弟之見二於史傳一者也、顏之推又云、姑姊妹已嫁則以二夫氏一稱レ之、在レ室則以二次第一稱レ之、言下禮成二他族一不上レ得レ稱レ家也、子孫不レ得レ稱レ家者、輕二略之一也、然蔡邕書文、稱二姑姊一曰二家姑家姊一、北史、高道穆爲二京邑一、出遇二魏帝姊壽陽公主一不レ避レ道、道穆令三卒棒二破其車一、公主泣訴レ帝、帝他日見二道穆一曰、家姊行レ路相犯、深以爲レ愧、則家姑家姊之稱、亦有二自來一矣、今俗惟子孫不レ稱レ家、其猶二顏氏之遺訓一歟、褚河南帖、稱二其姪一曰二家姪一。

【家祚】196 カソ 家のさいはひ。家運。〔後漢書、馬援傳贊〕明德既升、家祚以興。

【家蔬】197 カソ 手づくりの野菜。自家で作った蔬菜。〔劉長卿、過二鸚鵡洲王處士別業一詩〕問レ人尋二野筍一、留レ客饋二家蔬一。

【家俗】198 カゾク 家のならはし。家風。〔晏子、雜上〕晏子曰、嬰之家俗有レ三、而子無レ一焉。

【家族】199 カゾク ㊀身內の者。やから。一門。家眷。家衆。家屬。家徒。〔管子、小匡〕公修二公族一、家修二家族一。〔鮑照、數詩〕一身仕二關西一、家族滿二山東一。〔唐書、李泌傳〕朕意不レ顧二家族一耶。㊁舊制度で、戶主以外の一家の構成員。戶主の親族又は其の配偶者をいふ。

〔家族制度〕200 カゾクセイド 家族を國家社會の單位とする制度。家の存續を主旨とし、家其のものを權利義務の主體とし、家長を其の法人の代表とする制度。

【家粟】201 カゾク 自家に蓄藏の穀物。〔北史、循吏、路邕傳〕莅レ政清勤、經レ年儉、日出二家粟一、賑二賜貧窘一。

【家賊】202 カゾク 家族でありながら其の家をそこなひ破るもの。〔宋史、呂嘉問傳〕初嘉問竊從二祖公弼一、論二新法奏槀一、以示二王安石一、公弼以レ是斥二于外一、呂氏號爲二家賊一。

【家屬】203 カゾク 家內の人々。家族。〔管子、立政〕凡過黨其在二家屬一。〔史記、五宗世家〕以二家屬一處二房陵一。〔漢書、盧綰傳〕詐論二他人一、以脫二勝家屬一。〔後漢書、隗囂傳〕遵乃與二家屬一東詣二京師一。〔後漢書、逢萌傳〕萌解レ冠掛二東都城門一、歸將二家屬一、浮レ海客二於遼東一。

【家孫】204 カソン 自分の家のまご。家祖(195)を見よ。〔顏氏家訓、風操〕蔡邕書集、呼二其姑女一爲二家姑家姊一、班固書集、亦云二家孫一、今竝不レ行也。

【家尊】205 カソン 他人の父を尊びていふ。〔晉書、王獻之傳〕安又問曰、君書何二如君家尊一。〔韓愈、送二進士劉師服東歸一詩〕攜二持令名一歸、自足レ貽二家尊一。

【家當】206 カタウ 財產。家財。家の身代。〔新方言、釋器〕說文、帑、金幣所レ藏也、地官、英蕩、杜子春云、蕩、當爲レ帑、周成雜字云、帑、音蕩、今北音、蕩、如二的當之當一、故所在謂二家財一爲二家帑一、亦作二當音一。〔水滸傳、四十四回〕這李雲不三曾娶二老小一、亦無二家當一。

【家道】208 カダウ ㊀家庭の人として行ふべき道德。又、家庭內の道德。又、家を治める道。〔易、家人〕父父、子子、兄兄、弟弟、夫夫、婦婦、而家道正。〔程傳〕父子兄弟夫婦、各得二其道一、則家道正矣。〔張華、女史箴〕家道以正、而王猷有レ倫。〔潘岳、哀二永逝一文〕既顧二瞻兮家道一、長寄二心兮爾躬一。〔注〕良曰、家道、謂二岳居レ家之道一也。㊁くらしむき。家政。所帶。〔南史、徐孝克傳〕陳亡、隨レ例入二長安一、家道壁立。〔皮日休、魯望以二花翁之什一見レ招因次韻訓レ之詩〕不レ知家道能多少、只在句芒一夜風。〔通俗編、貨財、家道〕猶レ云二家私一也。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕須レ驗二其人之相貌奸良、家道厚薄一。㊂家に代々傳わつてゐる藝道。

〔家道從容〕209 カダウシヨウヨウ 生計が豐かである。〔剪燈餘話、秋千會記〕所レ攜豐厚、兼拜住、又教二蒙古生數人一、復有二月俸一、家道從容。

〔家宅侵入罪〕211 カタクシンニフザイ 故なくして人の住居又は看守する家宅に侵入し、又は要求を受けても其の場所から退去しないことに因つて成立する罪。

【家闥】212 カタツ 門內。我が家。〔王安石、送三孫叔康赴二御史府一詩〕長材晦二朝倫一、高行隱二家闥一。

【家宅】210 カタク いへやしき。すまひ。〔易林、中孚之第六十一、无妄〕加以二善祥一、爲二吾家宅一。

【家地】213 イヘヂ 鎧の下地につける布。巾は一尺二寸餘、地は主に藍で染め、金箔で紋又は模樣をおしたもの。

【家持】214 イヘモチ ㊀一家を立ててゐる人。家長。戶主。㊁家計のやりかた。㊂家作(102の㊁)を有つてゐる人。家主。㊃江戶時代、自分の土地に住居の町人をいふ。〔守貞漫稿、三〕。

【家畜】215 カチク ㊀人家に飼ふ鳥獸。牛・馬・雞・豚の類をいふ。畜は正しくはキウ又はキクと讀む。〔大學〕伐冰之家、不レ畜二牛羊一。〔管子、立政〕六畜育二於家一。〔爾雅、釋畜、義疏〕爾雅、在レ野曰レ獸、在レ家曰レ畜。〔正字通〕羊、家畜。㊁やしなふ。家に飼養する。〔朝野僉載〕楚客家畜二一犬一、一日忽戴二楚客冠一人立、楚客怒曰、畜類敢作レ妖、僭越犯レ分、殺レ之、犬作二人言一曰、公亦作レ妖、僭越犯レ分、亦卽見レ殺、未レ幾、韋氏敗レ楚、楚客被レ斬。㊂家に貯へる。〔謝靈運、曇隆法師誄〕孰是歡慰、程鄭趙李、家畜二金繒一、才練二藝技一。

【家秩】216 カチツ 君主、又は政府から代々賜はる其の家の俸祿。

【家長】217 カチヤウ ㊀家の主人。戸主。〔墨子、天志〕若處レ家得二罪於家長一、猶有四鄰家所三避二逃之一。〔商子、墾令〕大夫家長不二建繕一。〔李商隱、雜纂、失本體〕失二家長體一。〔通俗編、倫常、家長〕朱子家禮、事無二大小一、必咨二稟于家長一。〔戸令、義解〕凡戸主、皆以二家長一。㊁親方をいふ。〔水滸傳、三十七回〕卻是要レ喫二板刀麪一、卻是要レ喫二餛飩一、宋江道、家長休レ要レ取レ笑。㊂滿蒙各旗の制度。十家毎に十家長一人、五十家に五十家長一人を設け、各〻所屬の家戸を管轄す。㊃chia¹ chang² 組合組織に於て、資本を預かり其の經營に任ずる業務擔當者。領東・東家ともいふ。

【家長權】218 カチヤウケン 家長が其の家族に對して有する權利。戸主權。

【家長里短兒】219 chia¹ chang² li² tuan³ êrh 日常の雜事。噂話。

【家釀】220 カヂヤウ 自家製の酒。てづくりの酒。傾レ家釀(324)をも見よ。〔書言故事、酒類〕蒙二賜家釀一。

【家嫡】221 カチヤク 正妻の總領息子。相續者。〔平治物語、一〕一の人の家嫡などこそ、かやうの昇進はし給ふに。

【家中】222 カチユウ ㊀一家の中。〔新書、容經〕妻子家中、得レ無レ病乎。〔世說新語、品藻〕我家中軍、那得レ及レ此也。〔白居易、邯鄲至二除夜一思レ家詩〕想得家中夜深坐、還應三說二著遠行人一。㊁昔、大・小名の家臣一同をいふ。〔丹波與作、上〕此の御家中にて番頭伊達の與作。

【家廚】223 カチユウ 家の料理人。〔通俗編、居處、家廚〕五代史、蘇逢吉傳、逢吉已貴、益爲二豪侈一、謂、中書堂食、爲レ不レ可レ食、乃命二家廚一進羞、日極精善。

【家女】224 カヂヨ ㊀家に居る女。〔太平廣記〕與二家女一無レ異。㊁家附きの娘。養子から見て、養親の家に在る女子をいふ。〔民法、第八百十三條〕。

【家珍】225 カチン ㊀家に藏してゐる珍寶。家寶。〔韓詩外傳、一〕仲尼去レ魯、送レ之不レ出二魯郊一、贈レ之不レ與二家珍一。㊁禪寺の用語。眞の佛弟子の意。〔五燈會元、七、雪峯存章〕儞不レ聞レ道、從レ門入者、不二是家珍一。

【家賃】226 カチン ヤチン 家の貸賃。家の借賃。たなちん。房錢。家稅。〔好色一代男、一〕米・味噌・薪・家賃。

【家丁】227 カテイ しもべ。下男。〔蘆城平話〕近因二大工肇興一、採二取黃山木一植、養二春膽一敢遣二家丁文節一、到レ京打點、停二寢採木一旨意。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕有下送二家丁一伺候者上。

【家弟】228 カテイ 他人に對して己の弟をいふ。舍弟。家祖(195)を見よ。〔世說新語、棲逸〕戴安道既厲二操東山一、而其兄欲レ建二式遏之功一、謝太傅曰、卿兄弟志業何其太殊、戴曰、下官不レ堪二其憂一、家弟不レ改二其樂一。〔舊唐書、溫大雅傳〕大雅曰、若家弟永康、我將二含レ笑入一レ地。

【家底】229 カテイ 渤泥國の量の單位。二十兩を一家底といふ。〔宋史、渤泥國傳〕太平興國二年、其王向打、遣レ使貢二大片龍腦一家底、第二等八家底、第三等十一家底、米龍腦二十家底、蒼龍腦二十家底一、凡一家底並二十兩。

【家庭】230 カテイ ㊀一家の內。家族の居る所。家門。又、家族。〔後漢書、鄭均傳〕常稱二疾家庭一、不レ應二州郡辟召一。〔王僧孺、詹事徐府君集序〕事顯二家庭一、聲著二同族一。〔高允、徵士頌〕怡怡昆弟、穆穆家庭。㊁堂階の前。いへのには。〔宋史、章得象傳〕及レ生、父奐復夢二家庭積レ笏如一レ山。

【家第】231 カテイ カダイ わがや。私邸。邸宅。〔唐書、孫偓傳〕家第堂柱、生二槐枝一、茸而茂。

【家鳥】232 イヘツドリ 鷄の異名。〔萬葉集、十三〕家つ鳥かけと鳴き。

【家姪】233 カテツ 他人に對して己の姪をいふ。家祖(195)を見よ。

【家牒】234 カテフ 家の系圖。家の傳系を、次第を立てて記した書籍。〔宇文逌、庾信集序〕國史家牒、世莫レ詳焉。〔劉禹錫、令狐楚家廟碑〕燦二于家牒一、播二于人間一。〔白居易、海州刺史裴君夫人李氏墓誌銘序〕得二於國史家牒一云。

【家傳】235 カデン ㊀其の家の傳記。一家の事迹をしるした記錄。〔謝靈運、山居賦〕國史以載二前紀一、家傳以申二世模一。〔北史、賀若弼傳〕平レ陳後六年、弼撰二其書策一上レ之、謂レ爲二御授平陳七策一、上弗レ省、曰、公欲レ發二揚我名一、我不レ求レ名、公宜三自載二家傳一。〔歐陽脩、王彥章畫像記〕得二公之孫睿所レ錄家傳一。㊁其の家に傳來すること。其の家に傳はる器物など。傳家。〔陳書、江總傳〕家傳二賜書數千卷一、總晝夜尋讀、未二嘗輟一レ手。〔隋書、孝義傳論〕家傳二纓冕一、或身誓二山河一。

【家傳學】236 カデンガク 其の家で世々相授受して來た學業。〔王十朋、送二朱丞一詩〕好將二平昔家傳學一、勉力登レ高立二世勳一。

【家兔】237 カト イヘウサギ 人家に飼ふ兔。

【家徒】238 カト うから。家族。〔白居易、自喜詩〕自喜天敎二我少一レ緣、家徒行計兩翩翩。

【家徒壁立】239 イヘハタダヘキリフスルノミ 極めて貧しく、家の中に何もない。極貧の喩。家徒四壁立(240)を見よ。〔沈復、浮生六記、一〕四齡失怙、母金氏、弟克昌、家徒壁立。

【家徒四壁立】240 イヘタダシヘキタツノミ 家にはただ四壁があるのみ。一の家財もなく、極めて貧しい喩。〔史記、司馬相如傳〕文君夜亡奔、相如乃與馳歸二成都一、家居徒四壁立。〔注〕索隱曰、徒、空也、家空無二資儲一、但有二四壁一而已。

【家塗】241 カト 家のくらしむき。家道。家生。〔顏氏家訓、終制〕屬世荒饉、家塗空迫。

【家奴】242 カド しもべ。下男。奴隸。〔漢書、地理志下〕男沒入爲二其家奴一、女子爲レ婢。

【家奴兒】243 chia¹ nu² êrh 明、朱鷺(**6―14424**··618)の初名。

【家棟】244 カトウ 家奴に同じ。

【家童】245 カドウ 私家に使はれてゐるしもべ。家僮。〔漢書、張安世傳〕夫人自紡績、家童七百人、皆有二手技一。〔顏氏家訓、治家〕家童八百、誓滿二千人一。

【家僮】246 カドウ 私家の召使。婢女をいひ、又、男僕の年少のものをいふ。家童に同じ。〔漢書、季布傳〕與二其家僮數十人一、之二魯朱家所一賣レ之。〔漢書、衞青傳〕季與二主家僮衞媼一通。〔注〕師古曰、僮者、婢妾之總稱也。

【家督】247 カトク ㊀長男。嗣子。一家を監督する義。〔史記、越世家〕家有二長子一、曰二家督一。㊁家長の身分。戸主。〔東鑑、一〕治承四年八月二十六日、於二秩父家一、雖レ爲二次男流一、相二繼家督一。㊂家のあとめ。家を相續すべき人。嗣子。〔東鑑、十三〕建久四年五月十六日、將軍家督若君、始令レ射レ鹿給。〔世鏡抄、二十五段〕所領之事、嫡子には半分、家督には又半分可レ讓也。㊃戸主としての身分に伴ふすべての權利義務。

【家督相續】248 カトクサウゾク 一家をつぎ、前戸主に伴ふ權利義務を包括的に繼承すること。

【家內】249 カナイ ㊀一家の內。又、一家の中に居る者。家族。家人。〔宋書、殷琰傳〕休祐步入レ朝、家內猶分停二壽陽一。〔徐氏、寄レ子詩〕家內平安報レ爾知、田園歲入有二餘資一。㊁妻。家妻。㊂ケノウチ 姓氏。〔和爾雅〕。㊃ヤヌチ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十六〕。

【家內工業】250 カナイコウゲウ 生產者が、通常、家庭にあって、複雜な機械を用ひる事なくして生產をする工業形態。

【家難】251 カナン 家の不幸。家の災難。一家內に起った擾亂の苦難。〔史記、樂書〕成王作レ頌、推二己懲艾一、悲二彼家難一。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕未レ有下內遭二家難一、外遇中災害上。〔傅咸、贈二何劭王濟一詩序〕歷試無レ效、且有二家難一。〔宋書、桂陽王休範傳〕于レ時建安王、以二家難頻遘一、宜レ立二長主一。

【家馬】252 カバ 家に飼ふ馬。〔漢書、百官公卿表上〕武帝太初元年、更名二家馬一爲二挏馬一。

【家陪】253 カバイ しもべ。召使。〔張衡、東京賦〕命二膳夫一以大饗、饔餼浹二乎家陪一。

【家邦】254 カハウ 家と國。天下國家。家國。〔詩、大雅、思齊〕刑二于寡妻一、至二于兄弟一、以御二于家邦一。〔後漢書、禮儀志贊〕元序斯立、家邦廼隆。

【家苞】255 イヘヅト みやげ。我が家に持ち歸るみやげ。〔萬葉集、十五〕たまきの玉をいへづとに

妹にやらむと。

【家寶】256カハウ　家のたから。家珍。〔南史、王弘傳〕言二於帝一曰、曇首既爲二家寶一、又爲二國器一。〔白居易、爲二假相一謝二手詔及金刀一狀〕實可三藏爲二家寶一。

【家鉢】257カハツ　家傳のはち。傳統をつぐをいふ。〔方回、次二韻劉元煇初寒夜坐一詩〕舊日聲名劉夜坐、能傳二家鉢一似レ君稀。

【家閥】258カバツ　先代の功績。〔唐書、李琢傳〕孫琢、以二家閥一、擢二累義昌・平盧・鎭海三節度使一、無二顯功一、不レ爲二士大夫稱道一。

【家法】259カハフ　㊀師弟が相傳へる一家の學問。〔孔叢子、獨治〕操二名諸侯一、世有二家法一。〔後漢書、質帝紀〕四姓小侯、先能通レ經者、各令レ隨二家法一、其高第者、上二名牒一、當二以レ次賞進一。〔後漢書、儒林傳序〕立二五經博士一、各以二家法一教授。〔後漢書、徐防傳〕太學試二博士弟子一、皆以レ意說、不レ修二家法一、以レ遵レ師爲レ非レ義、意說爲レ得レ理、誠非二詔書實選本意一。㊁家を治める法。〔唐書、穆寧傳〕寧居レ家嚴、事二寡姉一恭、嘗撰二家令一訓二諸子一、人一通、云云、先レ是、韓休家訓二子姪一至嚴、貞元間言二家法一者、尙二韓穆二門一云。㊂家の掟。家憲。〔淸波雜志〕祖宗家法。㊃家傳の祕法。

【家範】260カハン　㊀其の家の者の遵奉すべき教。家憲。〔葉適、題二王少卿家範後一〕訓レ兒赴レ官、一紙細碎周悉、子孫遵二行之一。㊁一家の書體。〔宣和書譜〕楷體可レ喜、想二見其家範一云。㊂書名。十卷。宋、司馬光撰。易の家人の卦及び諸經の語を節錄して綱領とし、史上の事實の中の、法則とすべき者を雜採したもの。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【家肥】261カヒ　㊀家が榮える。〔禮、禮運〕父子篤、兄弟睦、夫婦和、家之肥也。㊁家庭內の善行。〔白居易、得甲告二其子行レ盜云云判〕道既虧二於庭訓一、禮遂闕二於家肥一。

【家婢】262カヒ　下女。下婢。〔舊唐書、舒王元名傳〕此我二哥家婢也、何用拜爲。

【家備】263カビ　一家の兵備。〔左氏、哀、十四〕乃益二鞌七邑一、而請レ享レ公焉、以二日中一爲レ期、家備盡往。〔會箋〕私家兵甲之備。

【家貧】264カヒン　家が貧しい。〔史記、公孫弘傳〕家貧、牧二豕海上一。〔漢書、司馬遷傳〕家貧、貨賂不レ足二以自贖一。〔後漢書、徐穉傳〕家貧、常自耕稼。

【家貧孝子出】265イヘマヅシクシテカウシイヅ　家が貧乏すると孝子が出る。情勢が逆境に陷つた時、はじめて誠實な人間が表面にあらはれる意。〔寶鑑〕家貧顯二孝子一、世亂識二忠臣一。

【家貧則思二良妻一】266イヘマヅシクシテリヤウサイヲオモフ　貧しくなると、はじめてよく家を治める妻を思ふ。〔史記、魏世家〕魏文侯謂二李克一曰、先生嘗敎二寡人一曰、家貧則思二良妻一、國亂則思二良相一。

【家貧莫言曾祖貴】267 chia^{1} p'in^{2} mo^{4} yen^{2} ts'êng^{2} tsu^{3} kuei^{4}　家が貧しくなつたならば、先祖の富貴であつたことを誇る勿れ。

【家貧親愛散身病交遊罷】268イヘマヅシクシテシンアイサンジミヤミテカウイウヤム　家が貧しくなれば、從來親愛してゐた者も自然と疎遠になり、我が身が病氣となれば朋友も寄りつかないやうになる。人情の輕薄なこと。〔白居易、冬夜詩〕家貧親愛散、身病交遊罷、眼前無二一人一、獨掩二府齋一臥、冷落燈火暗、離披簾幕破、策二策窓戶前一、又聞二新雪下一、長年漸省レ睡、夜半起端坐、不レ學二坐忘心一、寂寞安可レ過、兀然身寄レ世、浩然心委レ化、如レ此來四年、一千三百夜。

【家貧親老者不レ擇レ官而仕】269イヘヒンニシテオヤオイタルモノハクワンヲエラバズシテツカフ　家が貧しく且、年老いた親をもつ者は、俸祿の多寡を問題にせず如何に低い官職にでもつく。〔韓詩外傳、一〕任重道遠者、不レ擇レ地而息、家貧親老者、不レ擇レ官而仕。〔孔子家語、致思〕家貧親老、不レ擇レ祿而仕。〔新序、雜事五〕齊有二閭丘卬一、年十八、道遮二宣王一曰、家貧親老、願得二小仕一。

【家父】270カフ　㊀他人に對して己の父をいふ。家祖(195)を見よ。〔顏氏家訓、風操〕陳思王、稱二其父一爲二家父一、母爲二家母一、潘尼稱二其祖一曰二家祖一。㊁カホ　周の幽王の大夫の名。節南山の詩を作つて王を刺る。〔詩、小雅、節南山序〕節南山、家父刺二幽王一也。〔詩、小雅、節南山〕家父作レ誦、以究二王訩一。〔集傳〕家氏、父字、周大夫也。

【家扶】271カフ　㊀親王家、又は諸王家で、家務・會計を取扱ふ屬官。家令の次位。〔皇族附職員官制〕。㊁華族の家事を取扱ふ者。

【家府】272カフ　㊀家のくら。〔漢書、外戚下、皇成許皇后傳〕言妾家府亦不レ當レ得、妾竊惑焉。㊁他人に對して己の父をいふ。〔朱子語類〕無レ爵曰二府君・夫人一、漢人碑已有、只是尊レ神之辭、府君如二官府之君一、或謂二之明府一、今人又謂レ父爲二家府一。

【家附】273イヘツキ　初めから其の家に居ること。他から轉入して來ることに對していふ。〔春花五大力〕家つきの後家御。

【家婦】274カフ　妻。主婦。家內。〔史記、循吏、公儀休傳〕見二其家織布好一、而疾出二其家婦一。

【家鳧】275カフ　あひる。舒鳧。〔本草、鶩〕釋名、鴨・舒鳧・家鳧・䳑𪁪。

【家譜】276カフ　家の系圖。〔宋史、藝文志三〕司馬光、臣寮家譜一卷。

【家風】277カフウ　㊀家のならはし。いへのしきたり。其の家で世々相傳へてゐる風尙。家俗。〔庾信、哀江南賦序〕潘岳之文彩、始述二家風一。〔世說新語、文學〕夏侯湛、作二周詩一成、示二潘安仁一、安仁曰、此非二徒溫雅一、乃別見二孝悌之性一、潘因レ此遂作二家風詩一。㊁宋代、南都の物賣りの一。〔武林舊事、酒樓〕有下賣二玉面貍・鹿肉糟・決明糟・蝌糟・羊蹄酒・蛤蜊・柔魚・鰕茸・鱐乾一者上、謂二之家風一。

【家福】278カフク　家の幸福。〔史記、蔡澤傳〕父慈、子孝、夫信、妻貞・家之福也。〔晉書、沮渠蒙遜載記〕上望三掃二清氛穢一、下冀三保二寧家福一。

【家物】279カブツ　自分の家の物。〔北史、孫騰傳〕餚藏銀器、盜爲二家物一、親二狎小人一、專爲二聚斂一。

【家兵】280カヘイ　自家に養ふ兵卒。〔後漢書、袁紹傳〕臣獨將二家兵百餘人一。〔後漢書、朱儁傳〕簡二募家兵一。〔注〕家兵、童僕之屬。〔日知錄、論兵、家兵〕古之爲レ將者、必有二素豫之卒一、春秋傳、冉求以二武城人三百一爲二己徒卒一、後漢書朱儁傳、交阯賊反、拜二儁刺史一令下過二本郡一簡中募家兵上、張燕寇二河內一逼二近京師一、出レ儁爲二河內太守一、將二家兵一擊二卻之一、三國志呂虔傳、領二泰山太守一、將二家兵一到レ郡、郭祖公孫犢等皆降、晉書王渾傳、爲二司徒一、楚王瑋、將レ害二汝南王亮一、渾辭レ疾歸レ第、以二家兵千餘人一、閉レ門距レ瑋、瑋不二敢遇一。

【家柄】281イヘガラ　㊀家の地位。家格。㊁貴い家がら。名門。門閥。〔靈驗曾我籬、六幕〕身不肖の拙者、家柄の息女を申しうけるは。

【家廟】282カベウ　㊀先祖のみたまや。祖廟。〔淸通禮〕品官家廟、立二於居室之東一、三品以上、廟五間、中三間爲レ堂、左右各一間、隔以レ壁、北爲二夾室一、南爲レ房、庭東西廡、各三間、四品至二七品一、廟三間、中爲レ堂、左右爲二夾室一、爲レ房、東西廡、各一間、八品以下、廟三間、左右有レ房、無二夾室一、又無二東西兩廡一。㊁だんな寺。〔紅樓夢、二十四回〕有二四十五和尙道士一、往二家廟一去了。

【家別】283カベツ　一軒每に。軒別。戶別。〔賴山陽、上二樂翁公一書〕斷レ自二源平氏一、至二於今代一、間以下中興諸將及割據羣雄、關二係治亂一者上、家別紀レ之、或錯而合レ之。

【家母】284カボ　他人に對して己の母をいふ。自分の母。家祖(195)を見よ。〔顏氏家訓、風操〕陳思王、稱二其父一爲二家父一、母爲二家母一。

【家蜂】285カホウ　人家で飼ふ蜜蜂。〔本草、蜜蜂〕集解、時珍曰、其蜂有二三種一、一種、在二林木或土穴中一作レ房、爲二野蜂一、一種、人家以レ器收養者、爲二家蜂一、並小而微、黃蜜皆濃美。

【家僕】286カボク　㊀しもべ。下男。私有の奴婢。〔禮、禮運〕仕二於公一曰レ臣、仕二於家一曰レ僕。〔孔子家語、禮運〕與二家僕一雜居齊レ齒、非レ禮也。㊁複姓。〔潘岳、馬汧督誄〕狄隸可レ頒、況曰二家僕一。〔萬姓統譜〕家僕徒、晉大夫。

【家鶩】287カボク　あひる。鴨の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鴨〕格物總論、鴨、家鶩也。

【家本】288カホン　家に藏してゐる書物。家書。〔朱熹、昌黎集注季路書〕大氏家所レ藏本與二方本一、所レ記多同、云云、嘗以二所レ見樊本及家本一校。

【家務】289カム　㊀一家の事務。家事。〔南史、張率傳〕嗜レ酒不レ事二於家務一。㊁武家の役名。一家の執事として其の家の事務を攝行するもの。〔鎌倉大草紙〕文明五年十一月二十四日、扇ケ谷の家務は太田左衞門入道道灌。

【家名】290カメイ　㊀家の名聲。一家の名譽。〔東鑑、二十二〕建保四年九月二十日、飽帶二官職一、欲レ擧二家名一。㊁家の名稱。家の跡目。家の名跡。〔明

良洪範、十八〕家名相續の爲め。

〔家名預〕291（カメイヨ）　江戸時代、家督相續人のない場合、一時、親族が家名を預ること。明治初年にも華士族にも行はれた。

【家門】292（カモン）　㊀家の門。〔史記、夏紀〕居レ外十三年、過二家門一不二敢入一。㊁いへ。家庭。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕執レ手分レ道去、各各還二家門一。㊂大夫の一家。重臣の閥族。〔左氏、昭、三〕政在二家門一、民無レ所レ依。〔注〕大夫專レ政。〔後漢書、袁術傳〕歸二帝號於紹一曰、祿去二漢室一久矣、天下提契、政在二家門一。㊃家族。一族。家閭。〔後漢書、虞詡傳〕自レ此二十餘年、家門不レ增二一口一。〔法苑珠林〕家門奉レ佛。㊄家筋。家柄。〔南史、蕭引傳〕吾家再世爲二始興郡一、遺愛在レ人、政可三南行、以存二家門一耳。㊅鄕里をいふ。〔後漢書、皇甫規傳〕劉祐・馮緄・趙典・尹勳、正直多レ怨、流二放家門一。㊆南曲に於ける第一齣をいふ。一名、開場。

〔家門集〕293（カモンシフ）　一家一門の著述を集めたもの。家集。家世集。〔南史、王筠傳〕與二諸兒書一、論二家門集一云、史傳稱、安平崔氏及汝南應氏、並累葉有二文才一、然不レ過二父子兩三世一耳、非レ有下七葉之中、名德重光、爵位相繼、人人有レ集、如二吾門一者上也。

【家紋】294（カモン）　其の家の紋所。〔三內口訣〕。

【家問】295（カモン）　我が家からのたより。故鄕からの書面。家書。〔晉書、陸機傳〕機有二駿犬一、名曰二黃耳一、甚愛レ之、既而羈二寓京師一、久無二家問一、笑語レ犬曰、我家絶無二書信一、汝能齎レ書取二消息一不、犬搖レ尾作レ聲、機乃爲レ書、以二竹筩一盛レ之、而繫二其頸一、犬尋レ路南走、遂至二其家一。

【家約】296（カヤク）　其の家の者の守るべききまり。家內の約束。家法。家憲。〔史記、貨殖傳〕然任公家約、非二田畜所一レ出、弗二衣食一、公事不レ畢、則身不レ得二飲レ酒食一レ肉、以レ此爲二閭里率一。

【家用】297（カヨウ）　一家の用事。一家の必要な物事。〔管子、權修〕市不レ成レ肆、家用足也。

【家傭】298（カヨウ）　私家のやとひ人。召使ひ。〔史記、田敬仲完世家〕其子法章、變二名姓一、爲二莒太史敫家傭一。

【家囉】299（カラ）　宋代、闍婆(**11**－**41434**・・3)の㊀で牙をいふ。〔宋史、闍婆國傳〕方言、謂二眞珠一爲二沒參蝦羅一、謂レ牙爲二家囉一。

【家來】300（ケライ）　家禮(316)の㊂に同じ。〔庭訓往來、五月〕家人若黨、並家來之仁等。

【家老】301（カラウ）　㊀大夫などの家臣の長。家宰。〔國語、晉語八〕叔向曰、盍レ訪二之訾祏一、訾祏實直而博、且吾子之家老也。〔注〕家臣室老。㊁一族中の長老。〔淮南子、覽冥訓〕家老羸弱、悽二愴於內一。〔孔子家語、正論解〕屬二家老一、使下命二二子一、必事二於孔子一而學レ禮、以定中其位上。㊂大名小名の重臣で家臣を總理するもの。其の家に於ける老臣の意。年寄・國老・老臣・家宰・大夫ともいふ。〔鎌倉大雙紙〕結城代代の家老となる。

【家醪】302（カラウ）　家で釀した濁酒。〔醉鄕日月〕人以二家醪糯觴醉レ人者一爲二君子一、以二家醪黍觴醉レ人者一爲二中人一、以二巷醪灰觴醉レ人者一爲二小人一。

【家吏】303（カリ）　㊀太子に仕へてゐる役人。〔漢書、武五子、戾太子據傳〕皇后及家吏。〔注〕臣瓚曰、太子稱レ家、吏、太子吏也。㊁皇后の所に仕へてゐる役人。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳〕家吏不レ曉。〔注〕師古曰、家吏、皇后之官屬。㊂其の家に仕へてゐる臣。〔吳錄〕將曰、天下之人、非二家吏一則門生也。

【家里】304（カリ）　妻をいふ。〔西溪叢話〕會稽人呼レ妻曰二家里一。〔稱謂錄、妻、家里〕姚寬曰、猶三會稽人言二家里一。

【家裏】305（カリ）　㊀家の中。家族をいふ。〔黃庭堅、新喩道中寄二元明一用二觴字韻一詩〕但知家裏俱無レ恙、不レ用二書來細作一レ行。㊁妻。家內。〔明史、江彬傳〕彬從レ帝、數夜入二人家一、索二婦女一、帝大樂レ之忘レ歸、稱レ之曰二家裏一。

〔家裏打車外頭合轍〕306　chia^{1} li^{2} ta^{3} ch'ê^{1} wai^{4} t'ou hê^{2} chê^{2}　自分の家で車を造るのに他家の車轍に合ふ樣にする。人と調子を合せる諺。

【家貍】307（カリ）　猫の異名。〔本草、貓〕釋名、家貍、時珍曰、格古論云、一名烏圓、或謂、蒙貴卽貓、非矣。

【家量】308（カリヤウ）　私家が勝手に定めてゐる枡目。〔左氏、昭、三〕以二家量一貸、而以二公量一收レ之。〔晏子、重而異者〕以二家量一貸、以二公量一收。

【家閭】309（カリヨ）　一族。家門(292)の㊃に同じ。〔干寶、晉紀總論〕廉恥篤二於家閭一、邪僻銷二於胸懷一。

【家林】310（カリン）　㊀自分の家の林。〔顏延之、陶徵士誄〕汲二流舊巘一、葺二守家林一。㊁易林(**5**－**13814**・・174)をいふ。〔後漢書、儒林上、孔僖傳〕僖拜二臨晉令一、崔駰以二家林一筮レ之、謂レ爲二不吉一。〔注〕崔篆所レ作易林也。

【家累】311（カルイ）　一家の係累。足手まとひとなる家族。うから。やから。妻子。奴婢。〔晉書、戴洋傳〕初混欲レ迎二其家累一、洋曰、此地當レ敗、混便止。〔梁昭明太子、陶靖節傳〕爲二彭澤令一、不下以二家累一自隨上。〔韓愈、與二李翺一書〕家累僅三十口、攜レ此將三安所二歸託一乎。

〔家累二千金一坐不レ垂レ堂〕312（イヘニセンキンヲカサヌレバザスルニダウニスイセズ）　家に千金をも藏する富人は、堂のはしの危險な所には坐らない。金持が身を愛むのをいふ。〔史記、司馬相如傳〕鄙諺曰、家累二千金一、坐不レ垂レ堂、此言雖レ小、可二以喩一レ大。〔注〕索隱曰、張揖云、畏二簷瓦墮中一レ人、樂彥云、垂、邊也、近二堂邊一、恐二其墮墜一也、非レ謂レ畏二簷瓦一。〔史記、袁盎傳〕盎曰、臣聞、千金之子坐不レ垂レ堂、百金之子不レ騎レ衡。

【家令】313（カレイ）　㊀一家の者の守るべき掟。家憲。〔唐書、穆寧傳〕寧居レ家嚴、事二寡姊一恭甚、嘗譔二家令一訓二諸子一。㊁一家の取り締りをする者。〔史記、高祖紀〕高祖五日一朝二太公一、如二家人父子禮一、太公家令說二太公一曰、天無二二日一、土無二二王一、尊二太公一爲二太上皇一、心善二家令言一、賜二金五百斤一。㊂官名。太子の所に仕へてゐる屬官。詹事に屬し、太子の家務を掌る。太子に家と稱したので家令の名がある。㋑秦、置く。太子の倉穀飲食を主る。漢・魏、之に因る。〔漢書、百官公卿表上〕詹事、秦官、掌二皇后太子家一、有レ丞、屬官有二太子率更・家令丞・僕・中盾・衞率・廚廐長丞一。〔注〕張晏曰、太子稱レ家、故曰二家令一。㋺晉、置く。以上の外に、刑獄をも主る。宋・齊・梁・陳・隋、皆之に因る。〔晉書、職官志〕家令主二刑獄・貨穀・飲食一。〔隋書、百官志下〕家令・率更令・僕、各一人、三寺各置レ丞、家令領二食官・典倉・司藏三署令一。〔注〕掌二刑法・食膳・倉庫・什物・奴婢等事一。㋩唐、置く。刑法を主らず、他は隋に同じ。宋・遼、之に因る。〔舊唐書、職官志三〕太子家令寺、令一人、丞二人、主簿一人、掌二太子飲膳・倉儲・庫藏之政令一、總二食官・典倉・司藏三署之官屬一。㋥金、置く。營膳・栽植・鋪設・燈燭等のことを掌る。〔金史、百官志三〕家令・家丞、掌二營繕・栽植・鋪設及燈燭之事一。㋭元、置く。太子の飲膳・供張・倉庫を掌る。〔元史、百官志五〕家令司、家令・家丞、各二員、典簿二員、照磨一員、掌二太子飲膳・供張・倉庫一。㊃㋑（ケリヤウ）昔、四品以上の親王、三位以上の公卿に、朝廷から賜はつて、其の家事を治めるために附けおかれた役人。〔家令職員令〕家令一人、掌三總二知家事一。㋺（カレイ）皇族、又、華族の家務を司る者。

【家例】314（カレイ）　其の家のしきたり。一家傳來の習慣。〔桯史〕吳音曰、朱家例、子不レ可レ用也。

【家隸】315（カレイ）　しもべ。家來。家子。〔左氏、定、十〕敢以二家隸一勤二君之執事一。〔吳志、陸凱傳〕昔從二家隸一超二步紫闥一。

【家禮】316（カレイ）　㊀一家の禮儀作法。〔周禮、春官、家宗人〕掌三家禮與二其衣服宮室車旗之禁令一。㊁書名。五卷、附錄一卷。宋の朱熹撰とあるが、實は朱子の名に依託したものといふ。〔四庫提要、經、禮類〕。㊂（ケライ）家來(300)に同じ。㋑子が親を敬するやうに他人に禮を致すこと。又、其の人。〔源氏物語、藤裏葉〕文籍にも家禮といふ事あるべくや。㋺攝家などに參つて、朝廷の公事・故事などを習ふために仕へてゐる人。〔太平記、四十、中殿御會事〕公家家禮の人人。㋩武家で其の家に祇候してゐる人。〔東鑑、一〕治承四年十月十九日、於二源氏人人一者、家禮猶可レ被二怖畏一、矧亦如三抑二留下國一事、頗似三服二仕家人一。㋥其の家に仕へるもの。從者。家人。

【家烈】317（カレツ）　其の家の手柄。先祖の功業。〔韓愈、河南府同官記〕我公嗣二紹家烈一、不レ違二其先一。

【家路】318（イヘヂ）　我が家へかへる路。かへりみち。〔萬葉集、五〕立たせる子等がいへぢ知らずも。

【家鹿】319（カロク）　鼠の異名。〔倦游雜錄〕嶺南人、草䖵曰二茅蝦一、鼠曰二家鹿一。

【家祿】320（カロク）　代々貰つてゐるふち。世襲の祿高。〔後漢書、劉般傳贊〕居巢好レ讀、遂承二家祿一。

【家錄】321 カロク　家の記錄。家記。〔梅堯臣、詩〕竟無二梁肉饌一、甚愧二蕭家錄一。

【家王】322 カワウ　先祖の中で王となつた者。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩〕天地中横潰、家王拯二生民一。〔注〕善曰、家王、謂二魏太祖一也。

【傾レ家】323 イヘヲカタムク　家財を悉く出す。財產を使ひ果す。〔後漢書、童恢傳〕父仲玉、遭二世凶荒一、傾レ家賑二卹九族一。〔陶潛、雜詩〕傾レ家時作レ樂、竟此歲月駛。

〔傾レ家釀〕324 イヘヲカタムケテヂヤウス　家產を全部使つて酒を釀す。〔晉書、何充傳〕充、字次道、能飮レ酒雅、爲二劉惔所一レ貴、惔每云、見二次道飮一、令三人欲二傾レ家釀一。〔世說新語、賞譽〕次道飮レ酒、使三人欲二傾レ家釀一。〔老學庵筆記、十〕晉人所レ謂見二何次道飮一、令三人欲二傾レ家釀一、猶レ云レ欲下傾二家貲一以釀レ酒飮上レ之也、故魯直云、欲レ傾レ家以繼レ酌、至二朱行中舍人一有レ句、云、相逢盡欲二傾レ家釀一、久客誰能散二橐金一、用二家釀一對二橐金一、非也。

〔傾レ家蕩レ產〕325 イヘヲカタムケサンヲタウス　資產を蕩盡する。財產を使ひ果す。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕甦レ排落レ甲」嗟嗟役未レ及レ終、而傾レ家蕩レ產、賣レ子鬻レ妻、其慘不レ可レ勝レ道矣。

【攜レ家】326 イヘヲタヅサフ　家族全部を伴つて行く。〔北史、盧光傳〕大統六年、攜レ家西入、除二丞相府記室參軍一。

【克レ家】327 イヘヲヨクス　よく家事を治める。〔易、蒙〕九二、包蒙吉、納レ婦吉、子克レ家、象曰、子克レ家、剛柔節也。〔疏〕子孫能克二荷家事一、故云、子克レ家也。

【承レ家】328 イヘヲウク　家を承けつぐ。卿大夫となることをいふ。〔易、師〕大君有レ命、開レ國承レ家。〔疏〕承レ家、爲二卿大夫一。

【杖レ家】329 イヘニツエツク　家に於て杖を用ひる。五十歲をいふ。〔禮記、王制〕五十杖二於家一、六十杖二於鄕一、七十杖二於國一、八十杖二於朝一。

【忘レ家】330 イヘヲワスル　自家の事を顧みない。〔曹植、求二自試一表〕夫憂レ國忘レ家、捐レ軀濟レ難、忠臣之志也。

【家安國】331 カアンコク　宋、眉山の人。字は復禮。官は教授。蘇軾と交あり。〔宋史、三百九十〕・〔宋元學案、九十九〕。

【家勤國】332 カキンコク　宋、眉山の人。定國の從弟。蘇軾兄弟と同門の友。著に春秋新義がある。〔宋史、三百九十〕・〔宋史新編、一百三十七〕・〔宋元學案、九十九〕。

【家外父】333 chia¹ wai⁴ fu⁴　舅。

【家鉉翁】334 カゲンヲウ　宋、眉山の人。字は則堂。官は端明殿學士・簽書樞密院事。元に仕へずして終る。著に春秋詳說・則堂集がある。〔宋史、四百二十一〕・〔宋史新編、一百五十九〕・〔南宋書、六十二〕・〔宋季忠義錄、十〕。

【家裝舖】335 chia¹ chuang¹ p‘u⁴　家具類を賣る店。

【家之肥】336 イヘノヒ　肉親のものが互に睦じくて、家の內のうるはしいこと。家肥。〔禮、禮運〕父子篤、兄弟睦、夫婦和、家之肥也。

【家牲口】337 chia¹ shêng¹ k‘ou　家畜。牲口は家畜の俗稱。野獸を野牲口といふに對す。

【家大酉】338 カタイイウ　宋の人。愿の曾孫。諡は文節。進士。官は工部侍郞。〔宋史、四百七十五〕・〔宋史翼、十七〕。

【家大人】339 カタイジン　父の敬稱。〔類書纂要〕自稱レ父曰二家君・家大人・尊家・家嚴・老父一。

【家刀自】340 イヘトジ イヘトウジ　刀自は婦人の尊稱。家の刀自、卽ち妻の尊稱。いへとうじ。內儀。主婦。〔日本靈異記、中、十六〕家室（家刀自）告二家長一曰。〔伊勢物語〕いへとうじに盃ささせて。

【家丈人】341 カヂヤウジン　家の主人翁。〔史記、刺客、荆軻傳〕家丈人召使二前擊レ筑、一坐稱レ善。

【家定國】342 カテイコク　宋の人。安國の弟。官は永康司法參軍。〔宋史、三百九十〕・〔宋元學案、九十九〕・〔宋史翼、十九〕。

【家夫人】343 カフジン　他人に對して己の母をいふ。〔稱謂錄、對レ人自稱二其母一、家夫人〕翟灝通俗編、後漢書應奉傳注、引二汝南記一、元義謂レ人曰、此我故婦、非レ有二他過一、家夫人遇レ之實酷。

【家弦人誦】344 イヘゴトニゲンシヒトゴトニシヨウス　絃歌吟誦の聲が四方に聞えること。教育の普及した喩。〔星野豐城、大行天皇奉悼文〕庠校如レ林、家弦人誦。

【家至戶曉】345 イヘゴトニイタリコゴトニサトス　あまねく知らせる。家至戶告に同じ。〔宣和書譜〕不レ出二九重深邃之地一、使二四方萬里、朝今夕行一、豈家至而戶曉也哉。

【家至戶告】346 イヘゴトニイタリコゴトニツグ　家每に敎へ人每にさとす。あまねく知らせる。家至戶曉。家喩戶曉。〔列女後傳〕汝爲二主魚吏一、而獲レ鮓以歸、豈可二家至戶告一耶。

【家不レ藏レ甲】347 イヘニカフヲザウセズ　家に甲冑を藏しない。太平文治のさま。〔孔子家語、相魯〕家不レ藏レ甲、邑無二百雉之城一、古之制也。

【家不レ中レ訾】348 イヘシニアタラズ　家財が三百萬に滿たない。訾は貲三百萬の財產。〔史記、遊俠、郭解傳〕及レ徙二豪富茂陵一也、解家貧、不レ中レ訾、吏恐、不二敢不一レ徙、衞將軍爲言、郭解家貧不レ中レ徙、上曰、布衣權至レ使二將軍爲一レ言、此其家不レ貧、解家遂徙。〔注〕索隱曰、案、訾不レ滿二三百萬以上一、爲レ不レ中。

【家無二綺縞一】349 イヘニキカウナシ　貧しく質素なこと。綺縞は、絹の類。〔海錄碎事、人事、貧素〕梁伯鸞家無二綺縞一、張仲蔚門有二蓬蒿一、四六集。

【家無二二主一】350 イヘニニシユナシ　一家に二人の主人は無い。上下君臣の別あるをいふ。〔禮、坊記〕天無二二日一、土無二二王一、家無二二主一、尊無二二上一。

【家喩戶曉】351 イヘゴトニサトシコゴトニサトス　家至戶告(346)に同じ。

【毀レ家紓レ難】352 イヘヲヤブリナンヲユルクス　家を顧みないで國難を救ふ。〔左氏、莊、三十〕鬭穀於菟爲二令尹一、自毀二其家一、以紓二楚國之難一。〔注〕毀、減、紓、緩也。〔六部成語補遺、吏部、毀レ家紓レ難、注解〕自毀二其家一、出二貲財一以紓二濟國家之難一也、此春秋時楚令尹子文事、後人於二捐レ財以助レ國者一、輒引以爲レ言。

【遭二家不一レ造】353 イヘノナラザルニアフ　幼時に父を失つて、家道が未だ立たない破目に遭遇する。〔詩、周頌、閔予小子〕閔予小子、遭二家不一レ造、嬛嬛在レ疚。〔箋〕造、猶レ成也、云云、遭二武王崩一、家道未レ成。

【徙レ家忘レ妻】354 イヘヲウツシテツマヲワスル　移轉して妻を忘れる。よく忘れる喩。健忘症。〔孔子家語、賢君〕哀公問二於孔子一曰、寡人聞二忘之甚者一、徙レ家而忘二其妻一、有レ諸、孔子對曰、此猶未レ甚者也、甚者、乃忘二其身一。

【家狗向レ裏吠】355 カクウチニムカヒテホユ　飼犬に手をかまれる。〔通俗編、獸畜、家狗向レ裏吠〕武漢臣生金閣劇、養二著家生狗一、倒向レ裏吠。

【家醜不二外揚一】356 カシウグワイヤウセズ　家の恥を外に出さない。〔通俗編、婦女、家醜不二外揚一〕五燈會元、僧問化城鑒、如何是和尙家風、曰、不レ欲レ說、曰、爲二甚如一レ此、曰、家醜不二外揚一、元曲選、爭報恩傷梅香二劇、皆以レ此爲二中冓語一。

【家富疎族聚】357 イヘトメバソゾクアツマル　家が豐だと疎遠の親類も聚まり來る。人情の弱點をいつた語。〔愼子、內篇〕兩貴不二相事一、兩賤不二相使一、家富則疏族聚、家貧則兄弟離。

【還レ家卽是鄕】358 イヘニカヘレバスナハチコレキヤウ　人生は皆行旅であるが、家に還れば故鄕に歸つたと同じである。〔嚴維、送二鄭有入一レ蜀詩〕在レ世誰非レ客、還レ家卽是鄕。

【在レ家貧亦好】359 イヘニアレバヒンモマタヨシ　家に居れば貧乏も亦よい。自分の家こそ安住の地なるをいふ。〔戎昱、長安秋夕詩〕遠客歸去來、在レ家貧亦好。

【家至而日見レ之】360 イヘゴトニイタリテヒゴトニコレヲミル　一戶一戶尋ねて、每日每日世話をする。〔禮、鄕飮酒義〕君子之所レ謂孝者、非二家至而日見一レ之也、合二諸鄕射一、敎二之鄕飮酒之禮一、而孝弟之行立矣。

【居レ家則致二千金一】361 イヘニヲリテハスナハチセンキンヲイタス　家に居て產を治めれば、千金の財を積む。〔史記、越世家〕范蠡喟然嘆曰、居レ家則致二千金一、居レ官則至二卿相一。

【家無二儋石一輸二百萬一】362 イヘニタンセキナクシテヒヤクマンヲユス　家にはわづかの儲もないのに一度に百萬金も致しまうけようとする。志の大なること。儋は二石、石は一石。儋石は、米粟を指していふ。〔杜甫、今夕行〕英雄有レ時亦如レ此、邂逅豈卽非二良圖一、君莫レ笑劉毅從來布衣願、家無二儋石一輸二百萬一。

【家有二敝帚一享二之千金一】363 イヘニヘイシウアレバコレヲセンキンニウク　やぶれた箒でも自分の物ならば高く買ふ。自分の惡いことには氣がつかない喩。〔魏文帝、典論、論文〕里語曰、家有二敝帚一、享二之千金一、斯不二自見一之患也。

【家憑二長子一國憑二大臣一】364 イヘハチヤウシニヨリクニハダイジンニヨル　家は長男にたより、國は大臣にたよる。〔通俗編、倫常、家憑二長子一國憑二大臣一〕見二元王仲文救孝

子劇一。

【離レ家一里不レ如二屋裏一】365（イヘヲハナルルコトイチリナラバヲクリノゴトクナラズ）僅かでも家を離れると、家の中に居る様なわけにはいかない。〔通俗編、居處、離レ家一里不レ如二屋裏一〕見二元曲選硃砂擔劇一。

【家足二其所一者不レ從二聖人一】366（イヘソノトコロニタルモノハセイジンニシタガハズ）一家の經濟が其の分に足りて十分なときは、聖人にも從はない。〔管子、輕重乙〕樹木之勝二霜露一者、不レ受二令於天一、家足二其所一者、不レ從二聖人一。

【家有二賢妻一丈夫不レ遭二横事一】367（イヘニケンサイアレバヂヤウフワウジニアハズ）家に賢い妻があれば、男は不正な事をしない。〔通俗編、倫常、家有二賢妻一丈夫不レ遭二横事一〕見二元曲選盆兒鬼劇一。

【家有二千貫一不レ如三日進二分文一】368（イヘニセングワンアルハヒニブンブンヲススムルニシカズ）家に千貫もの大金を積んでゐるよりは、毎日一分一文を得る方がましである。〔通俗編、貨財、家有二千貫一不レ如三日進二分文一〕見二元曲選秦簡夫東堂老劇一。

【家無千日貨不是長財的人】369 chia¹ wu² chʻien¹ jih⁴ huo⁴ pu² shih chang³ tsʻai² tê jen² 家に良い貨物のない商人は金儲けの出來る人でない。

【治レ家者不三敢失二於臣妾之心一】370（イヘヲヲサムルモノハアヘテシンセフノココロヲウシナハズ）孝道を以て其の家を治める者は、其の家臣賤妾者の心をも失はない。まして其の妻子親近者に於ては言ふまでもない。この故に其の家の人々の歡心を得て永く其の親に事へ、其の孝養を盡すことが出來る。家を治める者とは、卿大夫を謂ふ。〔孝經、孝治章〕治レ家者不三敢失二於臣妾之心一、而況於二妻子一乎、故得二人之歡心一、以事二其親一。

【守レ家一犬迎レ人吠放レ野羣牛引レ犢休】371（イヘヲマモルイツケンハヒトヲムカヘテホエヤニハナテルグンギウハトクヲヒイテヤスム）家を大事と守る犬は、見慣れぬ人を見ては怪しみ吠え、又、野に放たれた多くの牛は、仔牛を引き連れて思ふがままに休む。田舍の様を詠んだ句。〔和漢朗詠集、田家、都良香、田家早秋〕晴後青山臨レ牖近、雨初白水入レ門流、守レ家一犬迎レ人吠、放レ野羣牛引レ犢休。

【家有二主母一而豪奴悍婢不下敢與二弱子一抗上】372（イヘニシユボアレバガウドカンピモアヘテジヤクシトカウセズ）一家の主人が亡くなつても、其の主婦がしつかりしてをれば、つよいわがままな召使も、あへて其の幼少の嗣子と抗爭することをしない。〔蘇洵、高祖論〕獨計以爲、家有二主母一、而豪奴悍婢、不下敢與二弱子一抗上、呂氏佐レ帝定二天下一、爲三大臣素所二畏服一、獨此可下以鎭二壓其邪心一、以待中嗣子之壯上、故不レ去二呂后一者、爲二惠帝一計也。

【離レ家三四月落レ涙百千行萬事皆如レ夢時時仰二彼蒼一】373（イヘヲハナレテサンシゲツナミダヲオトスコトヒヤクセンカウバンジミナユメノゴトシトキドキカノサウヲアフグ）菅公が太宰府に左遷された後の詠。都の家を離れてから、はや三四箇月を經た。心は憂に滿ちて限りなく涙が流れる。すべては夢の如く思はれ、時々あの青空を仰いでは自ら訴へるばかりだ。彼蒼は、天をいふ。〔菅原道眞、自詠〕離レ家三四月、落レ涙百千行、萬事皆如レ夢、時時仰二彼蒼一。

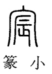
【宷】7170

シン 審（3―7316）に同じ。〔正字通〕宷、審本字。

参考 寀（3―7198）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕宷、古審字、釋悉等字从レ此。寀、僚寀、彩寀等字从レ此。

【宸】7171

シン ジン 〔集韻〕丞眞切 ㄔㄣˊ chʻen² 眞


小篆

㊀**のき**。〔說文〕宸、屋宇也、从レ宀、辰聲。〔段注〕屋以二宮室上覆一言レ之、宸謂二屋邊一。〔徐灝箋〕屋宇覆下、通謂二之宸一、指二其中棟一而言、則曰二宸極一。〔國語、越語上〕爲二敝邑宸宇一。〔注〕宸、屋霤。㊁**奧ざしき**。〔玉篇〕宸、室之奧者。㊂**帝王の居處**。轉じて、天子の事に冠して用ひる。〔品字箋〕帝居曰レ宸、取二北辰之義一、加レ宀、象二宮室一也、又宸聽・宸衷・宸翰・宸遊等、不三敢直指二至尊一、稱二其居一也。〔杜甫、冬至詩〕鳴玉朝來散二紫宸一。〔溫子昇、閶闔門上梁祝文〕居レ宸納レ祐、就レ日垂レ衣。〔宋史、宗室傳〕求二得上皇宸翰一。㊃**そら**。天地の交はる處。〔張衡、西京賦〕消二雰埃於中宸一。〔注〕綜曰、宸、天地之交宇也。㊄辰（**10―38682**）に通ず。〔說文通訓定聲〕宸、叚借爲レ辰。〔王融、曲水詩序〕是以得レ一奉レ宸。〔注〕善曰、宸、與レ辰同、翰曰、宸、天也。

名乘 ソラ。ノキ。

【宸幄】1（シンアク）御坐所のとばり。天子の幄舍。〔韋元旦、興慶池侍レ宴應制詩〕雲峯四起迎二宸幄一、水樹千重入二御筵一。

【宸扆】2（シンイ）天子の御座所に立てる衝立。轉じて、君位、宮廷、御所。〔晉書、王渾王濬傳論〕乃喧二黷宸扆一、斁二亂彝倫一、既爲二戒於功臣一、亦致二譏於清論一。〔唐書、馬燧傳〕帝賜二宸扆臺衡二銘一、以言二君臣相成之美一。

【宸威】3（シンヰ）天子の御威光。みいつ。〔宋之問、松山嶺詩〕芳聲耀二今古一、四海警二宸威一。

【宸遊】4（シンイウ）天子の御遊び。〔蘇頲、侍二宴安樂公主山莊一應制詩〕簫鼓宸遊陪レ宴日、和鳴雙鳳喜二來儀一。〔宋之問、奉三和幸二薦福寺一詩〕香刹中天超、宸遊滿路輝。〔徐夤、華清宮詩〕地靈蒸水暖、天氣待二宸遊一。

【宸憂】5（シンイウ）天子の心憂。帝王の憂慮。

【宸宇】6（シンウ）のき。やね。〔國語、越語上〕君若不レ忘二周室一、而爲二弊邑宸宇一、亦寡人之願也。〔注〕宸、屋霤、宇、邊也。

【宸影】7（シンエイ）天子の御像。天皇の御寫眞。

【宸曜】8（シンエウ）天のひかり。轉じて、天子の威光。〔王襃、太傅燕文公于謹碑銘〕仰叶二宸曜一、上屬二台階一。

【宸掖】9（シンエキ）皇居。宮城。仙掖。禁掖。宸闕。〔宋書、沈婕妤傳〕風光二宸掖一、訓流二國闈一。〔馬懷素、奉下和送三金城公主適二西蕃一詩上〕離情愴二宸掖一、別路遶二關梁一。

【宸宴】10（シンエン）天子の御宴。〔平家物語、五、五節沙汰〕宸宴有り。

【宸歌】11（シンカ）天子の吟じたまふ歌。〔李嶠、奉三和天樞成二宴夷夏羣寮一應制詩〕帝澤傾二堯酒一、宸歌掩二舜弦一。

【宸駕】12（シンガ）天子の御車。〔顏延之、車駕幸二京口一云云詩〕春方動二宸駕一、望レ幸傾二五州一。

【宸階】13（シンカイ）宮殿の階段。〔李商隱、爲二鹽州刺史一奏二擧李孚判官一狀〕是敢輒黷二宸階一、乞二榮賓席一。

【宸濠】14（シンガウ）明の人。太祖の子。寧王權の子孫。武帝に世繼無く、遊幸時ならざるにより、遂に異志を懷いて南昌に反し、九江から東下して安慶を攻め、南京に據らんとして王守仁に捕へられ、通州にて誅せらる。〔明史、十六〕。

【宸翰】15（シンカン）㊀帝王の書いた文書。宸筆。宸章。宸宮（18）を見よ。〔宋史、宗室四、子砥傳〕求二得上皇之宸翰一、懷レ之以歸。〔鶴林玉露、天、手寫九經〕親灑二宸翰一。㊁清、劉楨（**2―2224**‥511）の字。

【宸鑒】16（シンカン）天子の御覽。〔王僧辯、勸二進梁簡文帝一表〕百司岳牧、祈二仰宸鑒一。

【宸儀】17（シンギ）天子のおきて。天子の行。又、天子の御身。天子のお姿。〔北史、魏一、道武皇帝紀〕陛下躬履二謙虛一、退レ身後レ己、宸儀未レ彰、衮服未レ御。〔唐會要、受朝歌〕然後放レ仗散レ臣、以爲二宸儀一。

【宸宮】18（シンキユウ）宮城。宮廷。〔品字箋〕帝居曰レ宸、取二北辰之義一、加レ宀、象二宮室一也、又宸聽・宸衷・宸翰・宸遊等、不三敢直指二至尊一、稱二其居一也。

【宸居】19（シンキヨ）天子の御所。天子の位。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕皇上以二叡文一承レ歷、景屬二宸居一。〔注〕銑曰、宸居、帝位也。〔任昉、王文憲集序〕是以宸居膺二列宿之表一。〔沈佺期、紅樓院應制詩〕紅樓疑見二白毫光一、寺逼二宸居一福二盛唐一。

【宸極】20（シンキヨク）㊀天子の位。君位。皇居。皇位。〔劉琨、勸進表〕宸極失レ御、登二遐醜裔一。〔薛道衡、隋高祖文皇帝頌序〕地馮二宸極一、大縱二神武一。㊁天帝の居所。〔晉書、律歷志中〕聖人擬二宸極一、以運二璿璣一。〔朱熹、拜二張魏公墓下一詩〕精忠貫二宸極一、孤憤摩二穹蒼一。〔剪燈新話、水宮慶會錄〕衆星

絢爛環二宸極一、遙瞻何處是中原。

【宸襟】21シンキン 天子の御心。叡慮。宸衷。〔何遜、九日侍二宴樂游苑一詩〕宸襟動二時豫一、歲序屬二涼氛一。〔薛元超、諫二蕃官仗內射生一疏〕時惟令月、景淑風和、宸襟有レ豫、百靈胥悅。

【宸京】22シンケイ 御所。御殿。〔宣和遺事、前集下〕三千仙子捧二宸京一。

【宸景】23シンケイ 皇居の日影。天子の喩。〔謝朓、始出二尚書省一詩〕宸景厭二昭臨一、昏風淪二繼體一。〔注〕善曰、宸、北宸、以喩二帝位一也、向曰、宸、帝居也、景、日也、天子比二於日一、以三照二臨天下一也。

【宸闕】24シンケツ 宮城の門の兩側にある門闕。轉じて、宮城。宸掖。〔蔡襄、賀二文樞使一啓〕拜二恩宸闕一、正二位樞廷一。

【宸軒】25シンケン 皇居。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕毓二德素里一、棲二景宸軒一。〔注〕銑曰、宸軒、天子所レ居之宮也。

【宸眷】26シンケン 帝王の御恩寵。〔北史、劉炫傳〕以二此庸虛一、屢動二宸眷一。〔李嶠、奉三和幸二韋嗣立山莊一應制詩〕幽情遺二紱冕一、宸眷屬二樵漁一。

【宸嚴】27シンゲン 天子の威嚴。威嚴ある天子の御姿。〔江淹、爲二建平王一之二南徐州刺史一辭レ闕表〕託二慕宸嚴一、載惟感戀。〔白居易、爲二崔相一陳情表〕披二陳誠懇一、煩二瀆宸嚴一。

【宸藻】28シンサウ 天子の作られた文章や詩賦。御製。〔沈佺期、奉二和洛陽翫雪一應制詩〕宸藻光二盈尺一、賡歌樂二歲豐一。

【宸札】29シンサツ 天子の御親筆。御札。聖札。〔李乂、奉三和幸二長安故城未央宮一應制詩〕肆レ覽飛二宸札一、稱レ觴引二御杯一。

【宸算】30シンサン 天子のはかりごと。宸謨。宸謀。〔唐書、田弘正傳〕臣若假二天之齡一、奉二陛下宸算一、冀道二揚太和一、洗二濯僞風一。〔十國春秋〕後蜀上二表宋闕一曰、染二習偸安一、因循積レ歲、所三以上煩二宸算一。

【宸旨】31シンシ 天子のおぼしめし。聖旨。〔李適、奉下和幸二望春宮一送中朔方軍大總管張仁亶上詩〕豹略恭二宸旨一、雄文動二睿情一。

【宸慈】32シンジ 天子の御慈悲。睿慈。〔沈佺期、赦到不レ得レ歸題二江上石一詩〕天鑒誅二元惡一、宸慈恤二遠黎一。

【宸章】33シンシヤウ ㊀御製の文章。宸文。天子の書翰。宸翰。〔王維、奉三和聖製暮春送二朝集使歸レ郡應制詩〕宸章類二河漢一、垂象滿二中州一。㊁清、朱杰（6－14424・・262）の字。

〖宸章集〗34シンシヤウシフ 書名。宋、眞宗御纂。歷代の御製を集めたもの。〔玉海、聖文、御集、祥符宸章集〕祥符三年、詔纂二歷代帝王集一、上作レ序、賜二名宸章集一。

【宸矚】35シンシヨク 天子のお目にとまること。〔許敬宗、奉三和過二慈恩寺一應制詩〕梵境留二宸矚一、掞發麗二天才一。〔徐彥伯、遊二禁苑一幸二臨渭亭一遇レ雪應制詩〕瓊樹留二宸矚一、璇花入二睿詞一。

【宸樞】36シンスウ 帝王の威權。天位。又、禁中。〔謝朓、侍レ宴二華光殿曲水一奉レ敕爲二皇太子一作詩〕諭二思帝則一、獻二納宸樞一。

【宸聰】37シンソウ 天子のお耳。天子がお聞きになること。〔品字箋〕宸聰・宸衷・宸翰・宸遊等、不三敢直指二至尊一、稱二其居一也。

【宸贈】38シンソウ 天子よりのおくりもの。〔許景先、送二張尚書巡レ邊詩〕賞延領賜重、宸贈出車榮。

【宸題】39シンダイ 天子の御筆。宸筆。〔桃花扇、鬨丁〕宸題金扁。

【宸悼】40シンタウ 天子が御悼みになること。〔本城問亭、佐久間大尉事略〕天子宸悼。

【宸斷】41シンダン 天子の御さばき。聖斷。天裁。〔金史、完顏匡傳〕書曰、有レ備無レ患、在二陛下宸斷一耳。

【宸衷】42シンチユウ 帝王の御心。宸襟。宸慮。聖衷。〔韋安石、梁王宅侍宴應制詩〕梁園開二勝景一、軒駕動二宸衷一。〔白居易、賀雨詩〕庶政靡レ不レ擧、皆出レ自二宸衷一。〔歐陽脩、諫院謝レ賜二章服一表〕出レ自二宸衷一。

〖宸衷嘉尚〗43シンチユウカシヤウ 天子が御心深くよみして御ほめになること。〔川田甕江、報德記序〕宸衷嘉尚、至レ今弗レ諼。

【宸傳】44シンデン 御代の傳承すること。〔宣和遺事、後集〕帝乃繼レ韻曰、宸傳四百舊京華。

【宸殿】45シンデン 紫宸殿をいふ。

【宸怒】46シンド 天子の御怒り。逆鱗。

【宸念】47シンネン 天子の御心。軫念。〔劉禕之、太子納レ妃太平公主出降詩〕德優宸念遠、禮備國姻崇。

【宸妃】48シンピ 宮人の封號。〔唐書、武后紀〕復召入レ宮、久之、立爲二昭儀一、進二號宸妃一、永徽六年、高宗廢二皇后王氏一、立二宸妃一爲二皇后一。〔宋史、仁宗紀一〕母、李宸妃也。

【宸扉】49シンピ 御殿の戶。〔王勃、九成宮頌〕宸扉既闢二一宇宙一、而來王聖籙潛蹟、貳二乾坤一而作レ帝。

【宸筆】50シンピツ 天子の御ぢきひつ。〔畫繼〕徽宗出二祖宗御書、及宸筆所レ摸名畫一。

【宸文】51シンブン 天子の文章。天子の詞。宸章。〔盧亙、賀二正旦一表〕煥二宸文於懿範一、洽二聖孝於英猷一。

【宸謨】52シンボ 天子のはかりごと。宸謀。宸算。〔邵說、代二侯中莊一謝レ封表〕宸謨獨斷、睿略潛行、曾未二三年一、克平二二豎一。

【宸謀】53シンボウ 天子のはかりごと。宸謨に同じ。〔宋史、呂誨傳〕誨上疏云、宸謀已定、當レ使二天下共知一。

【宸網】54シンマウ 天子の車上の飾りの珠網。〔江淹、雜體、袁太尉從レ駕詩〕雲旆象二漢徙一、宸網擬二星懸一。〔注〕良曰、宸網、謂三天子車上珠網、如二天星之懸一。

【宸輿】55シンヨ 天子の輿。仙輿。〔王維、故太子太師徐公挽歌〕謀猷爲二相國一、翊贊奉二宸輿一。

【宸旒】56シンリウ 天子の冠のたれ。轉じて、天子の御姿。〔江采蘋、樓東賦〕笙歌賞燕、陪二從宸旒一。〔琵琶記、春宴杏園〕便催レ歸玉簡侍二宸旒一。

【宸慮】57シンリヨ 天子の御かんがへ。叡慮。〔段文昌、平二淮西一碑〕泉默以思、電馳以斷、獨發二宸慮一、不レ詢二衆謀一。〔宋史、林旦傳〕願留二宸慮一、以折二邪謀一。

【宸歷】58シンレキ 御代。本朝。〔沈約、奏二彈王源一文〕宸歷御レ寓、弘革二典憲一。〔注〕銑曰、宸歷、天子歷數也。

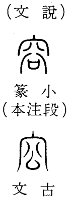
【宸奎牓】59シンケイバウ 天子の御筆になる額。敕額。宸奎は宸翰、牓は榜。〔揮麈後錄〕吳傳明說知二信州一、朝辭上レ殿、高宗云、卿書九里松牌甚佳、向來朕自書、易レ之、終不レ逮レ卿、當レ令レ仍レ舊、說皇恐謝、是日降レ旨根二尋舊牌一、即復令二張掛一、取二宸奎牓一入二禁中一。

【宸垣識略】60シンエンシキリヤク 書名。十六卷。清、吳長元撰。天文・形勢・水利・建置・大內・皇城・內城・外城・苑囿・郊坰識餘の十一類に分けて京師の事を記す。皆、依據するところあり。

【容】
7172

［一］ヨウ ユ 〔集韻〕餘封切 ㄖㄨㄥˊ jung^2 冬

［二］ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 ㄩㄥˊ yung^2 腫


小篆（說文）
小篆（段注本）
古文

［一］㊀**いる。いれる。**㋑盛る。〔說文〕容、盛也、从レ宀谷聲。〔段注〕今字段借爲二頌皃之頌一、鉉本作レ从二宀谷一、云、屋與レ谷、皆所二以盛受一也、亦通。㋺つつむ。〔增韻〕容、包函也。㋩うける。〔荀子、解蔽〕故曰二心容一。〔注〕容、受也。㋥ふくむ。〔史記、樂書〕廣則容レ姦。〔注〕正義曰、容、含也。㋭よろこぶ。氣にいる。〔呂覽、似順〕夫順レ令以取レ容者。〔注〕容、悅也。㋬うべなふ。〔班固、答賓戲〕遇二時之會一。〔注〕會、善作レ容、善曰、項岱曰、容、宜也。㋣ゆるす。寬容。〔易、師〕君子以容レ民畜レ衆。〔虞注〕容、寬也。〔後漢書、馬武傳〕每能回容、宥二其小失一。〔注〕曲レ法以容也。㋠もちひる。〔史記、孔子世家〕顏回曰、夫子之道大、故天下莫二能容一。㋷聞きいれる。〔後漢書、李固傳〕容二其請託一。㊁**いり。**容量。〔漢書、律歷志〕用二度數一以審二其容一。㊂**ひろい。**〔廣雅、釋詁三〕容、寬也。㊃**かたち。すがた。やうす。**頌（**12－43365**）に通ず。〔說文通訓定聲〕容、段借爲レ頌。〔集韻〕頌、說文、皃也、籒作レ頌、通作レ容。〔禮、雜記下〕戚容稱二其服一。〔注〕容、威儀也。〔老子、二十一〕孔德之容。〔釋文〕容、狀也。〔楚辭、宋玉、招魂〕華容備些。〔注〕容、貌也。

〔漢書、王莽傳、赤煒頌平、注〕師古曰、頌、讀曰㆑容。❺**たちゐ。ふるまひ。身のこなし。**〔儀禮、士相見禮〕不㆑爲㆑容。〔注〕容、謂㆓趨翔㆒。❻**あや。**禮にかなつた動作。禮貌。〔韓詩外傳、四〕禮文、謂㆓之容㆒。❼**かた。**〔周禮、考工記、函人〕凡爲㆑甲、必先爲㆑容。〔注〕容、謂㆓象式㆒。❽**のり。**〔廣雅、釋詁一〕容、灋也。❾**かたちづくる。**〔史記、魯仲連傳〕女爲㆓說㆑己者㆒容。❿**かざる。かざり。**〔廣雅、釋詁二〕容、飾也。〔荀子、正論〕居則設㆓張容㆒。〔注〕容、謂㆓羽衞㆒也。〔鄒陽、於㆓獄中㆒上自明書〕蟠木根柢、輪囷離奇、而爲㆓萬乘器㆒者、以㆔左右先爲㆓之容㆒也。〔注〕善曰、容、謂㆓彫飾㆒。⓫**をさめる。しあげる。**〔周禮、考工記、輪人〕容㆑轂必直。〔注〕容者、治㆑轂爲㆓之形容㆒也。⓬**たれぬの。おほひ。**容蓋(13)を見よ。⓭**かざり刀。**〔詩、衞風、芄蘭〕容兮遂兮。〔箋〕容、容刀也。⓮**ゆとりあるさま。又、あそぶさま。**容與(136)を見よ。⓯**やはらぐ。ほどよい。**庸(**4**―**9378**)に通ず。〔說文通訓定聲〕容、叚借爲㆑庸、周禮鄉大夫、一曰、和、二曰、容、注、和、載㆓六德㆒、容、包㆓六行㆒、按、和德載㆓知仁聖義中㆒也、庸行包㆓孝友睦婣任卹㆒也、莊子胠篋、容成氏、六韜作㆑庸。⓰**うごく。**動(**2**―**2390**)に通ず。〔說文通訓定聲〕容、叚借爲㆑動、禮記月令、有㆘不㆑戒㆓其容止㆒者㆖、注、容止、猶㆓動靜㆒也。⓱**おほひ。**矢を防ぐついたて。〔爾雅、釋宮〕容、謂㆓之防㆒。〔注〕容、形如㆓今牀頭小曲屛風㆒、唱㆑射者所㆓以自防隱㆒也。〔周禮、夏官、射人〕三侯三獲三容。〔注〕容者、乏也、待㆑獲者所㆑蔽也。〔儀禮、鄉射禮、乏參㆓侯道㆒、注〕容、謂㆓之乏㆒。〔疏〕容者、以㆑革爲㆑之、可㆓以容㆑身、故云㆑容也。⓲**まさに云云すべし。**推量の辭。〔後漢書、李固傳〕宮省之內、容㆑有㆓陰謀㆒。〔董仲舒、雨雹對〕然則建巳之月爲㆓純陽㆒、不㆑容㆔獨無㆓復陰㆒也。⓳**あるひは。或。**〔後漢書、楊厚傳〕諸王子多在㆓京師㆒、容有㆓非常㆒、宜㆔亟發遣、各還㆓本國㆒。⓴**あに。豈。**〔魏志、辛毗傳〕苟時未㆑可、容得㆑已乎。㉑**ともに。**公(**2**―**1452**)に通ず。〔淮南子、主術訓〕萬民之所㆓容見㆒也。〔集證〕王氏曰、容、與㆑公古字通、劉本改作㆓公字㆒、非㆑是。㉒**州名。**〔集韻〕容、亦州名。㉓古は㝐(**2**―**1572**)に作る。〔集韻〕容、古作㆑㝐。㉔**姓。**〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕容氏、帝王紀、黃帝臣曰㆓容成㆒、造㆑歷、舜八愷有㆓仲容㆒、何承天姓苑云、禮記容居、吳人也、望出㆓燉煌㆒。〔萬姓統譜〕容、燉煌宮音、春秋南容氏之後、以㆓王父之氏㆒爲㆑姓。㉕［現］㋑要る。㋺申込む。［二］❶**あがるさま。**容容(137)の❷を見よ。〔字彙〕容、飛揚貌。❷**すすめる。**慂(**4**―**11039**)に同じ。〔集韻〕慂、勸也、或作㆑容。

［名乘］カタ。ヒロ。マサ。ヤス。ヨシ。ヲサ。

［解字］會意。宀と谷との合字。宀・谷ともに物をいれる。故に宀と谷を合して、物を盛りいれる意とする。〔說文、容、段注〕鉉本作㆑从㆓宀谷㆒、云、屋與㆑谷、皆所㆓以盛受㆒也。〔說文通訓定聲〕容、盛也、从㆑宀从㆑谷、會意。

【容安】1 ヨウアン　宋、王顯世(**7**―**20823**‥1418)の號。

〖容安齋〗2 ヨウアンサイ　清、汪應銓(**6**―**17154**‥178)の號。

【容庵】3 ヨウアン　容菴を見よ。

【容菴】4 ヨウアン　字號。❶明、潘賜(**7**―**18236**‥39)の號。❷明、謝宇(**10**―**35827**‥12)の號。❸清、孫爽(**3**―**6987**‥124)の號。❹清、張瓚(**4**―**9812**‥337)の號。

【容葊】5 ヨウアン　清、盧浙(**8**―**23050**‥107)の號。

【容易】6 ヨウイ　たやすい。〔東方朔、非有先生論〕先生曰、於戲可乎哉、可乎哉、談何容易。〔後漢書、何進傳〕國家之事、亦何容易。〔杜甫、雨詩〕前雨傷㆓卒暴㆒、今雨喜㆓容易㆒。

【容隱】7 ヨウイン　かくし立てをした罪を許す。かくし立てをすることは、それ自身罪ではあるが、父は子の爲にかくし、子は父の爲にかくすことは人の道であるから、骨肉の罪をかくしたものは特別に許す。唐律にも我が國の大寶律令にも容隱の一項はあつた。〔論語、子路〕葉公語㆓孔子㆒曰、吾黨有㆓直躬者㆒、其父攘㆑羊而子證㆑之、孔子曰、吾黨之直者異㆓於是㆒、父爲㆑子隱、子爲㆑父隱、直在㆓其中㆒矣。〔書、康誥、曰乃其速由㆓文王作罰㆒刑㆑茲無㆑赦、疏〕康誥所㆑云、以㆓骨肉之親㆒得㆓相容隱㆒、故左傳云、父子兄弟、罪不㆓相及㆒。〔後漢書、賈彪傳〕反可㆔容㆓隱之㆒乎。

【容裔】8 ヨウエイ　❶**高低のさま。**〔張衡、東京賦〕建㆓辰旒之太常㆒、紛焱悠以容裔。〔注〕綜曰、容裔、高低之貌、向曰、炎悠・容裔、從㆑風轉薄貌。❷**行くさま。**〔張衡、南都賦〕汰瀺濞兮船容裔。〔注〕向曰、容裔、船行貌。〔曹植、洛神賦〕六龍儼其齊㆑首、載㆓雲車之容裔㆒。〔注〕良曰、容裔、行貌。❸**水波のさま。**〔魏文帝、濟川賦〕臨㆓濟川之魯淮㆒、覽㆓洪波之容裔㆒。❹**ゆつたりするさま。**〔蜀志、郤正傳〕躡㆓叔肸之優游㆒、美㆓疎氏之遐逝㆒、收止足㆓以言歸㆒、汎皓然以容裔。❺**しづかでうるはしいさま。**〔左思、吳都賦〕荊豔楚舞、吳愉越吟、翕習容裔、靡靡愔愔。〔注〕良曰、容裔・靡靡・愔愔、閑麗也。❻**すみやかなさま。**〔楚辭、王襃、九懷、尊嘉〕雲旗兮電騖、倏忽兮容裔。〔注〕往來亟疾若㆓鬼神㆒也。

【容悅】9 ヨウエツ　こびへつらふ。おもねりへつらふ。〔孟子、盡心上〕有㆓事㆑君人者㆒、事㆓是君㆒則爲㆓容悅㆒者也。〔集注〕阿循以爲㆑容、逢迎以爲㆑悅。〔焦循正義〕呂氏春秋似順篇云、夫順㆑令而取㆑容者、眾能㆑之、高誘注云、容、悅也、容悅二字同義、相疊爲㆓雙聲㆒。〔後漢書、陳蕃傳〕有㆑事㆓社稷㆒者、社稷是爲、有㆑事㆓人君㆒者、容悅是爲。〔吳志、陸凱傳〕捷口容悅。

【容可】10 ヨウカ　清、莊有恭(**9**―**31035**‥151)の字。

【容假】11 ヨウカ　人をいれる。人をゆるす。寬假。〔唐書、吉頊傳〕嚴語侵㆑之、無㆑所㆓容假㆒。

【容喙】12 ヨウカイ　くちばしをいれる。開喙(**11**―**41233**‥28)に同じ。

【容蓋】13 ヨウガイ　車の垂れぬのとおほひ。〔周禮、春官、巾車〕皆有㆓容蓋㆒。〔注〕容、謂㆓幨車㆒、山東謂㆓之裳幃㆒、或曰㆓幢容㆒。

【容好】14 ヨウカウ　美しいすがた。美容。〔阮籍、詠懷詩〕傾城迷㆓下蔡㆒、容好結㆓中腸㆒。

【容姦】15 ヨウカン　姦人をゆるす。〔史記、樂書〕廣則容㆑姦、狹則思㆑欲。

【容含】16 ヨウガン　ふくむ。つつみ入れる。〔南史、顏延之傳〕山海容含、每存㆓遵養㆒。

【容顏】17 ヨウガン　かほかたち。かんばせ。容色。〔宋玉、神女賦〕整㆓衣服㆒、斂㆓容顏㆒。〔韓愈、雪後寄㆓崔二十六丞公㆒詩〕秩卑俸薄食口衆、豈有㆔酒食開㆓容顏㆒。〔李白、古風詩〕容顏若㆓飛電㆒、時景如㆓飄風㆒。

【容奇】18 ヨウキ　雪の國音を借りたもの。〔新井白石、容奇詩〕曾下㆓瓊鉾㆒初試㆑雪、紛紛五節舞容閑。

【容輝】19 ヨウキ　❶**美はしいかたち。**〔古詩十九首〕獨宿累㆓晝夜㆒、夢想見㆓容輝㆒。〔白居易、曲江夜歸聞㆓元八見㆑訪詩〕班中遙得㆑揖㆓容輝㆒。〔王維、黃雀癡詩〕鳳凰九雛亦如㆑此、愼莫㆔愁思顦顇損㆓容輝㆒。❷清、蔣文照(**9**―**31820**‥214)の字。

【容器】20 ヨウキ　物を入れる器。いれもの。

【容璣】21 ヨウキ　舞曲の名。康樂。〔孔子家語、子路初見〕孔子相㆑魯、齊人患㆓其將㆑霸、欲㆑敗㆓其政㆒、乃選㆓好女子八十人㆒、衣以㆓文飾㆒而舞㆓容璣㆒、及文馬四十、以遺㆓魯君㆒。〔注〕容璣、史作㆓康樂㆒、舞曲名也。

【容疑】22 ヨウギ　うたがひをいれる。疑問をさしはさむ。〔弘道館記述義、上〕天地以來相傳之說、決不㆑容㆑疑。

〖容疑者〗23 ヨウギシヤ　犯罪の嫌疑を受けて檢事または司法警察官より取調べを受け、未だ公訴を提起せられぬもの。被疑者。

【容儀】24 ヨウギ　たちゐふるまひ。みめかたち。式作法に適ふ身のこなし。禮容。〔漢書、成帝紀贊〕成帝善修㆓容儀㆒、升㆑車正立。〔新書、輔佐〕典方

典二容儀一。〔說苑、辨物〕幽閒則循循如也、動則有二容儀一。〔南史、陳宣帝紀〕帝美二容儀一、身長八尺三寸、垂レ手過レ膝。

【容丘】25 ヨウキウ　縣名。漢、置く。故治は江蘇省邳縣の北。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、容丘。

【容裘】26 ヨウキウ　川の名。一名、養家河。陝西省沔縣の東南を流れ、漢水に入る。〔水經、沔水注〕東逕二西樂城北一、城在二山上一、周三十里、甚險固、城側有レ谷、謂二之容裘谷一、云云、城東容裘溪水注レ之、俗謂二之洛水一也。

【容畜】27 ヨウキク　入れやしなふ。〔國語、越語下〕生二萬物一、容二畜禽獸一。

【容許】28 ヨウキヨ　推測の語。云云かもしれない。或可。〔李商隱、贈二送前劉五經映一詩〕莫二踰レ力履レ念、容二許後昇レ堂。

【容共】29 ヨウキヨウ　共產主義を容認すること。

【容華】30 ヨウクワ　㊀顏かたちの美しさ。容色の華麗。〔曹植、美女篇〕容華耀二朝日一、誰不レ希二令顏一。〔陸機、君子有所思行〕人生誠行邁、容華隨レ年落。〔鮑照、行樂至二城東橋一詩〕容華坐銷歇、端爲レ誰苦辛。〔崔湜、婕妤怨〕容華尙春日、嬌愛已秋風。㊁漢代、女官の一階級。武帝、置く。俗華。〔史記、外戚世家〕容華、秩比二二千石一。〔後漢書、皇后紀序〕至二乃掖庭三千增レ級十四一〔注〕婕妤一、娙娥二、容華三、充衣四、已上武帝置。

【容華夫人】31 ヨウクワフジン　隋、丹陽の人。姓は蔡氏。文帝が即位するや、選ばれて王宮に入つて世婦となる。容儀婉嫕、甚だ帝の寵を得、拜せられて貴人となる。宣華夫人陳氏に相亞ぎ、容華夫人の號を加へらる。帝、崩ずるに及んで、煬帝、之に烝す。〔隋書、三十六〕・〔北史、十四〕。「字。

【容回】32 ヨウクワイ　後漢、高詡(12－45313・・203)の字。

【容光】33 ヨウクワウ　㊀光の射し込む小さいすきま。〔孟子、盡心上〕日月有レ明、容光必照焉。〔注〕容光、小郤也。〔疏〕言、日月之有レ明、凡於二幾隙一、但有下容二其光一者上、則必照レ之。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕清暉在レ天、容光必照。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕明無レ不レ察、容光之微必照。㊁おもかげ。みめかたち。立派な容貌。風采。風丰。〔徐幹、室思詩〕端坐而無爲、髣髴君容光。〔鮑照、秋夜詩〕華心愛二零落一、非三直惜二容光一。〔劉廷芝、公子行〕古來容光人所レ羨、況復今日遙相見。

【容閎】34 ヨウクワウ　清、澳門の人。字は純甫。米國エール大學に學ぶ。官は江蘇巡撫署譯員。曾國藩に說いて海外留學の要を主張し、支那留學生派遣の始をなす。著に西學東漸記がある。

【容觀】35 ヨウクワン　容貌態度。儀容。〔禮、玉藻〕既服、習二容觀玉聲一、乃出。〔疏〕既服、著二朝服一已竟也、服竟而私習二儀容一、又觀レ容、聽二己珮鳴一、使下玉聲與二行步一相中適上。〔集說〕容觀、謂二容貌及儀觀一也。〔孫希旦集解〕容觀、謂下容儀可三以觀二示於人一者上。〔吳志、呂範傳〕有二容觀姿貌一。〔蜀志、劉封傳〕姿方容觀。

【容卿】36 ヨウケイ　㊀禮部(8－24844・・192)の異稱。禮容を掌るからいふ。〔事物異名錄、爵位、禮部〕漢書百官公卿表注、禮樂官知二禮容一、故禮部稱二容臺一、柳宗元文、以二容卿之位一贊レ是、方岳注、謂二容臺一、又山堂肆考、太常寺亦名二容臺一。㊁唐、裴倩(10－34362・・67)の字。

【容經】37 ヨウケイ　新書の篇名。

【容月】38 ヨウゲツ　宋、趙時踐(10－37171・・648)の字。

【容軒】39 ヨウケン　佐久間義和の號。佐久間洞巖(1－506・・76)を見よ。

【容賢】40 ヨウケン　よく賢者を用ひる。〔孔子家語、賢君〕衞國有二大事一、則必起而治レ之、國無レ事、則退而容レ賢。

【容縣】41 ヨウケン　縣名。明、置く。唐の容州の地。廣西省北流縣の東北。縣城は、西江の支流なる容江の西北岸。〔讀史方輿紀要、廣西、梧州府〕容縣、府西二百四十里、云云、唐初屬二銅州一、尋屬二容州一、元和中、州移二治普寧縣一、云云、明朝洪武十年、以二州治普寧縣一省入、又改レ州爲レ縣、屬二梧州府一。〔淸史稿、地理志〕廣西、梧州府、縣五、容。

【容護】42 ヨウゴ　ゆるしまもる。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕其明加二檢敕一、勿二相容護一。

【容困】43 ヨウコン　己を苦しめる者をゆるす。〔孔子家語、致思〕愛而恕、可二以容レ困。

【容齋】45 ヨウサイ　字號。㊀宋、洪邁(6－17402・・193)の號。㊁宋、唐廷瑞(2－3709・・489)の號。㊂元、徐琬(4－10110・・27)の號。㊃淸、岳鍾琪(4－8001・・66)の號。㊄淸、吳銓(2－3365・・270)の字。㊅淸、葉榮梓(9－31387・・162)の號。㊆淸、李天馥(6－14459・・1802)の號。㊇木村溫の號。木村容齋(6－14415・・583)を見よ。

【容齋隨筆】46 ヨウサイズイヒツ　書名。十六卷。宋、洪邁撰。續筆十六卷・三筆十六卷・四筆十六卷・五筆十五卷。經史諸子百家から醫卜星算の類まで、隨時の見聞を箚記したもの。〔四庫提要、子、雜家類〕。

〘參考書〙【容齋五筆引得】一冊　燕京大學刊。

【容莊】47 ヨウサウ　淸、史致儼(2－3249・・247)の字。

【容山】48 ヨウサン　明、王道隆(7－20823・・1896)の字。

【容止】49 ヨウシ　㊀身のこなし。ふるまひ。進退擧動。〔禮、月令〕有下不レ戒二其容止一者上。〔注〕容止、猶二動靜一。〔左氏、襄、三十一〕容止可レ觀、作事可レ法。〔孝經、孝優劣章〕容止可レ觀、進退可レ度。〔注〕容止、威儀也。〔漢書、匡衡傳〕德義可レ尊、容止可レ觀。〔風俗通、過譽〕容止嚴恪、鬚眉甚偉。〔張衡、南都賦〕容止可レ則、出レ言有レ章。〔禰衡、鸚鵡賦〕容止閑暇、守レ植安停。㊁世說新語の篇名。

【容志】50 ヨウシ　容儀を正し整へようとする志。〔新書、容經〕詩曰、威儀棣棣、不レ可レ選也、棣棣、富也、不レ可レ選、衆也、言下接二君臣上下父子兄弟一、內外大小品事之各有中容志上也。

【容思】51 ヨウシ　明、段堅(6－16619・・19)の號。

【容姿】52 ヨウシ　みめかたち。すがた。姿容。〔後漢書、虞延傳〕容姿趨步、有レ出二於衆一。〔陸機、擬青青河畔草詩〕粲粲妖二容姿一、灼灼美二顏色一。

【容洲】53 ヨウシウ　淸、李麟光(6－14459・・2005)の號。

【容臭】54 ヨウシウ　にほひぶくろ。香袋。香嚢。裝飾に佩びるもの。〔禮、內則〕衿纓、皆佩二容臭一。〔注〕容臭、香物也、以レ纓佩レ之。〔疏〕臭、謂二芬芳臭物一、謂二之容臭一者、以二臭物一可三以修二飾形容一、故謂二之容臭一。〔孫希旦集解〕容臭、謂下爲二小嚢一以容中受香物上也。

【容膝】55 ヨウシツ　膝をいれるだけの小室。〔韓詩外傳、九〕北郭先生妻曰、今結レ駟列レ騎、所レ安不レ過レ容レ膝、食方二丈於前一、所レ甘不レ過二一肉一。〔陶潛、歸去來辭〕倚二南窗一以寄レ傲、審二容レ膝之易レ安。〔北史、隋愍皇后蕭氏傳〕履二謙光一而守レ志、且願レ安二乎容膝一。

【容膝居】56 ヨウシツキヨ　淸、葛芝(9－31420・・48)の室名。

【容膝齋】57 ヨウシツサイ　明、朱正色(6－14424・・875)の號。

【容膝之安一肉之味】58 ヨウシツノアンイチニクノミ　膝を容れるに足る狹い場所と、腹を滿すに足る僅かな肉の味ひ。人の生活は僅かなもので事足る喩。〔列女傳、賢明、楚於陵妻傳〕今以二容膝之安、一肉之味一、而懷二楚國之憂一、其可乎。

【容質】59 ヨウシツ　容貌と體質。〔晉書、列女、王廣女傳〕王廣女者、不レ知二何許人一也、容質甚美。〔南史、袁昂傳〕容質脩偉。〔白居易、曲江感秋詩〕銷沈昔意氣、改換舊容質。

【容日】60 jung^{1} jih^{4}　他日。いづれ。〔水滸傳、八十回〕容日各備鞍馬、俱送回營。

【容車】61 ヨウシヤ　㊀帷を垂れて外から見えないやうにした婦人の乘る小車。〔釋名、釋車〕容車、婦人所レ載小車也、其蓋施レ帷、所三以隱二蔽其形容一也。㊁死者を乘せる、飾りを施した車。淸の沈欽韓の說によれば、死者の衣冠を載せる車、魂車をいふといふ。〔後漢書、祭遵傳〕朱輪容車、介士軍陣送レ葬。〔注〕容車、容飾之車、象二生時一也。

【容捨】62 ヨウシヤ　ゆるす。大目に見る。寬容。容赦。〔隋書、酷吏、趙仲卿傳〕法令嚴猛、纖微之失、無レ所二容捨一。

【容赦】63 ヨウシヤ　㊀容捨に同じ。㊁控目にする。加減する。遠慮する。〔凱陣八島、四〕容赦も無くしがみつき。

【容像】64 jung^{2} hsiang^{4}　容貌。

【容狀】65 ヨウジヤウ　やうす。すがた。容貌。〔宋史、陳與義傳〕義容狀儼恪、不二妄言笑一。

【容城】66 ヨウジヤウ　㊀地名。湖北省監利縣の西北。春秋の許の地。漢、華容縣を置く。〔漢書、地理志上、南郡華容、注〕應劭曰、春秋、許遷二於容城一、是。㊁縣名。㋑漢、置く。河北省淸苑縣の東北。〔漢書、地理志上〕涿郡、縣、二十九、容城。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府〕容城縣、府東北九十里、云云、漢置二容城縣一、屬二涿郡一、云云、天寶初、復爲二

容城縣一、五代晉、入二於契丹一、宋初、復置二縣於巨馬河南一、屬二雄州一、云云、洪武十四年、復置、屬二保定府一。〔清史稿、地理志〕直隷、保定府、縣十四、容城。㋺唐、華容縣を容城と改む。湖南省武陵道。〔讀史方輿紀要、湖廣、丘州府、華容縣〕開皇十八年、改曰二華容縣一、唐初因レ之、垂拱二年改曰二容城縣一。

【容情】67 ヨウジヤウ 情を通ずる。〔搜神記、二〕弟父殺二我生孫一、食二我兄弟一、累有レ狀、主者容情、不レ爲二區斷一。〔宋史、選擧志二〕攷官容情任意者、許二臺諫風聞彈奏一。

【容讓】68 jung^2 jang^4 許容する。讓歩する。

【容受】69 ヨウジユ うけいれる。ききいれる。容納。〔漢書、成帝紀贊〕博二覽古今一、容二受直辭一。〔後漢書、皇甫規傳〕暫留二聖明一、容二受謇直一。〔魏志、王肅傳〕殺二一匹夫一、無レ異二螻蟻一、寬而有レ之、可丁以示丙容二受切言一、廣乙德宇於天下甲。

【容衆】70 ヨウシユウ 人民をなつける。〔韓詩外傳、二〕容レ衆好散、則刼レ之以二師友一。

【容恕】71 ヨウジヨ ゆるす。〔後漢書、張敏傳〕夫死生之決、宜二從レ上下一、猶二天之四時、有レ生有レ殺、若開二相容恕一、著爲二定法一、則是故設二姦萌一、生二長罪隙一。

【容色】72 ヨウシヨク 容貌と顏色。みめかたち。容顏。容姿。〔論語、鄕黨〕享禮有二容色一、私覿愉愉如也。〔集注〕有二容色一、和也。〔史記、淮陰侯傳〕貴賤在二於骨法一、憂喜在二於容色一。〔郭璞、遊仙詩〕翡翠戲二蘭苕一、容色更相鮮。〔顏氏家訓、風操〕各以二其尊卑輕重一、爲二容色之節一。

【容飾】73 ヨウシヨク 形づくりかざる。作法形式を美にすること。〔史記、孔子世家〕今孔子盛二容飾一、繁二登降之禮一。〔曹植、七啓〕西施爲レ之巧笑、此容飾之妙也。〔白居易、太行路詩〕爲レ君盛二容飾一、君看二珠翠一無二顏色一。

【容臣】74 ヨウシン 清、施而寬(**5**－13629··154)の字。

【容身】75 ヨウシン ❶かたちづくる。〔越絕書、越絕請糴內傳〕不レ聽二輔弼之臣一、而信二讒諛容身之徒一。❷身にたやすいやうにする。體に無理しないこと。〔淮南子、精神訓〕若夫至人、量レ腹而食、度レ形而衣、容レ身而遊、適レ情而行。❸身を置く。〔元稹、蜘蛛詩〕因依方托レ緒、挂罥遂容レ身。❹安んずる。〔張籍、移二居靜安坊一答二元八郎中一詩〕作レ活每常嫌レ費レ力、移レ居秖是貴二容身一。

【容刃】76 ヨウジン 兵刃を加へる。きりつける。〔老子、五十〕兵無レ所レ容二其刃一、夫何故、以二其無二死地一。

【容仁】77 ヨウジン 後魏、李先(**6**－14459··522)の字。

【容子】78 ヨウス 有樣。樣子。

【容遂】79 ヨウスイ ゆつたりするさま。〔詩、衞風、芄蘭〕容兮遂兮、垂レ帶悸兮。〔集傳〕容遂、舒緩放肆之貌。

【容正】80 ヨウセイ 世說新語の篇名。

【容成】81 ヨウセイ ❶黃帝の史官。始めて律曆を作る。長生の術を得た人で、道家の採陰補陽の術は容成公に本づくといふ。漢書藝文志に容成陰道二十六卷が見えてゐる。〔淮南子、脩務訓〕蒼頡作レ書、容成作レ曆。〔後漢書、華佗傳〕壽光年可二百五六十歲一、行下容成公御二婦人一法上。〔郭璞、遊仙詩〕陵陽挹二丹溜一、容成揮二玉杯一。〔注〕善曰、列仙傳曰、容成公者、自稱二黃帝師一、見二於周穆王一、能善二補導之事一、髮白復黑、齒落復生、事二老子一、亦云二老子師一。❷複姓。〔通志、氏族略、複姓〕容成氏、古容成子造レ曆、神仙傳、有二容成公一。

〖容成侯〗82 ヨウセイコウ 鏡(**11**－40812)の異名。〔司空圖、容成侯傳〕容成侯金炯者、本蜀郡嚴道人、附レ山而居、同族中多見二搜採一。〔事物異名錄、器用、鏡〕物名要覽、司空圖謂レ鏡爲二容成侯一、又曰二壽光先生一、名二金炯一。

〖容成子〗83 ヨウセイシ 仙人の名。容成の❶を見よ。〔列子、湯問〕黃帝與二容成子一、居二空峒之上一。

【容制】84 ヨウセイ かたち。形式。〔成公綏、琵琶賦〕簫韶九奏、物有二容制一。〔唐書、禮樂志十二〕太常奏二六合還淳之舞一、其容制不レ傳。

【容盛】85 ヨウセイ 包みいれること。〔急就篇〕漢地廣大無レ不二容盛一。〔注〕容盛、猶レ言二覆載一也。

【容聲】86 ヨウセイ ❶かたちと音聲。〔禮、祭義〕肅然必有レ聞二乎其容聲一。❷言葉であらはす。〔莊子、田子方〕目擊而道存矣、亦不レ可二以容レ聲矣。

【容積】87 ヨウセキ 物體の空間をふさぐ量。

【容接】88 ヨウセツ ちかづきになる。交際を結ぶ。接待。〔後漢書、李膺傳〕膺獨持二風裁一、以二聲名自高一、士有レ被二其容接一者、名爲二登龍門一。

【容厝】89 ヨウソ ゆるし置くこと。〔晉書、劉毅傳〕州黨有二德義一、朝廷有二公正一、浮華邪佞、無レ所二容厝一。

【容足】90 ヨウソク 足を容れる。僅少の土地。〔莊子、外物〕地非レ不二廣且大一也、人之所レ用容レ足耳。〔唐書、食貨志二〕今富者萬畝、貧者無二容足之居一。

〖容足地〗91 ヨウソクチ 僅に足を容れるだけの狹い土地。容足(90)に同じ。〔王羲之、萬石帖〕朝有二君子一、曉然復謂、有二容足地一、常如二前者一。

【容貸】92 ヨウタイ 罪などをゆるやかにすること。〔後漢書、史弼傳〕弼爲レ政、特挫二抑彊豪一、其小民有レ罪、多レ所二容貸一。

【容態】93 ヨウタイ ❶姿。樣子。〔楚辭、宋玉、招魂〕容態好比。〔注〕態、姿也。〔後漢書、禰衡傳〕容態有レ異、聲節悲壯、聽者莫レ不二慷慨一。〔蘇軾、慶姬詞〕天眞雅麗、容態溫柔。❷ヨウダイ 容體の❷に同じ。

【容體】94 ヨウタイ ❶すがた。かたち。容姿。〔禮、射義〕其容體比二於禮一。〔禮、冠義〕禮義之始、在下於正二容體一、齊二顏色一、順中辭令上。〔孔叢子、嘉言〕成湯之容體。〔孔子家語、致思〕其容體不レ足レ觀也。❷ヨウダイ ㋑病氣の樣子。㋺もつたいらしいさまをする。もつたいぶる。

〖容體書〗95 ヨウダイガキ 病狀の經過などを記入したかきつけ。

【容大】96 ヨウダイ 字號。❶清、吳涵(**2**－3365··78)の字。❷清、王德溥(**7**－20823··1996)の字。

【容臺】97 ヨウダイ ❶禮を行ふ所。〔淮南子、覽冥訓〕容臺振而掩覆。〔注〕容臺、行二禮容一之臺。❷禮部の稱。禮官は禮容のことを掌るからいふ。〔事文類聚〕禮部稱二南省一、又曰二禮闈一、又曰二容臺一、又曰二春臺一。〔燕子箋、授畫〕早官二翰苑一、忝レ陟二容臺一。〔稱謂錄、禮部、容臺〕史記索隱引二鄭康成一云、商容者、商家樂官、知二禮容一、所三以禮署稱二容臺一。❸太常寺(**3**－5834··263)の異名。〔事物異名錄、爵位、禮部〕山堂肆考、太常寺、亦名二容臺一。

【容刀】98 ヨウタウ 儀式に用ひる飾つた刀。かざりたち。〔釋名、釋兵〕佩刀、在二佩旁一之刀也、或曰二容刀一、有二刀形一而無レ刃、備二儀容一而已。〔詩、大雅、公劉〕維玉及瑤、鞞琫容刀。〔集傳〕容刀、容飾之刀也。

【容堂】99 ヨウダウ 字號。❶清、顧王霖(**12**－43689··375)の號。❷清、瑞元(**7**－21131··53)の號。

【容直】100 ヨウチヨク 宋、袁轂(**10**－34152··60)の字。

【容翟】101 ヨウテキ 生時と同じに飾つて喪事に用ひる車。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文序〕龍輴纚レ綍、容翟結レ驂。〔注〕善曰、鄭司農云、容、謂二幨車一也、銑曰、容翟、吉制、雖レ爲二喪事一、而同二生儀一也。

【容典】102 ヨウテン 禮儀作法の規則。〔後漢書、曹褒傳〕然先王之容典、蓋多レ闕矣。〔注〕容、禮容也、典、法則也。〔金史、禮志八〕容典焜燿、精明感通。

【容諂】103 ヨウテン うはべを飾つてへつらふ。〔後漢書、呂強傳〕阿媚之臣好獻二其私一、容諂姑息、自レ此而進。〔任昉、王文憲集序〕無二是レ己之心一、事隔二於容諂一。

【容頭】104 ヨウトウ 頭を入れる。手出しをする。〔後漢書、西羌傳〕公卿選懦、容レ頭過レ身。

【容匿】105 ヨウト かくす。かくまふ。〔北史、李業興傳〕人有二急難一、委レ命歸レ之、便能容匿。

【容德】106 ヨウトク すがたと行爲。〔白居易、續古詩〕窈窕雙鬟女、容德俱如レ玉。

【容納】107 ヨウナフ ❶人をいれる。寬弘で能く物を容れる。容受。〔干寶、晉紀總論〕昔高祖宣皇帝、性深阻、有レ若二城府一、而能寬綽以容納。❷jung^2 na^4 收容する。忍ぶ。

【容忍】108 ヨウニン ゆるす。おほ目に見る。我慢する。〔後漢書、公孫瓚傳〕瓚文武才力足レ恃、固宜二容忍一。〔吳志、呂蒙傳〕天下未レ定、鬪將如レ寧難レ得、宜三容二忍之一。〔北齊書、陳元康傳〕王方以二天下一付二大將軍一、有二一崔暹不レ能二容忍一耶。〔白居易、答二劉濟一詔〕贊二謨猷一、念二屈レ己以爲レ心、或難二容忍一。

【容認】109 ヨウニン ゆるしみとめる。認容。

【容放】110 ヨウハウ ゆるす。〔福惠全書、涖任部、發各告示〕不レ許下容二放一人一、後堂站立窺聽上。

【容彭】111 ヨウハウ 黃帝の史官容成公と堯の臣籛鏗。籛鏗は彭城に封ぜられ、莊子に彭祖といふ。共に古の長壽者。〔劉峻、辨命論〕容彭之與二殤子一。

〔注〕善曰、列仙傳曰、容成公者、自稱二黃帝師一、見二於周穆王一、能善二補導之事一、髮白復黑、齒落復生、事與二老子一同、亦云、老子師又曰二彭祖一、殷賢大夫、歷レ夏至二商末一、號二年七百一。

【容貌】112ヨウバウ　すがた。かほかたち。容狀。〔禮、樂記〕望二其容貌一、而民不レ生二易慢一焉。〔左氏、宣、十四〕於レ是有二容貌采章嘉淑一。〔論語、泰伯〕曾子曰、君子所レ貴二乎道一者三、動二容貌一、斯遠二暴慢一矣、正二顏色一、斯近レ信矣、出二辭氣一、斯遠二鄙倍一矣。〔劉寶楠正義〕說文段注、凡容、言二其內一、貌言二其外一、析言則容貌各有レ當、絫言則曰二容貌一。〔荀子、脩身〕容貌態度、進退趨行、由レ禮則雅、不レ由レ禮則夷固辟違、庸衆而野。〔戰國、中山策〕容貌顏色、殊無二佳麗好美者一。〔史記、扁鵲傳〕悲不レ能二自止一、容貌變更。〔漢書、外戚上、孝昭上官皇后傳〕長主內女安子、容貌端正。〔潘岳、寡婦賦〕容貌儡以頓悴兮、左右悽其相繁。

〔容貌魁偉〕113ヨウバウクワイヰ　容姿の壯大なさま。たくましい。〔後漢書、郭太傳〕性明レ知レ人、好獎二訓士類一、身長八尺、容貌魁偉、褒衣博帶、周二遊郡國一。

〔容貌若レ愚〕114ヨウバウグナルガゴトシ　顏かたちが愚者のやうだ。君子の外貌を飾らぬことをいふ。〔史記、老子傳〕君子盛德、容貌若レ愚。

〔容貌充滿〕115ヨウバウジユウマン　かほかたちが元氣でみちみちてゐる。〔呂覽、過理〕容貌充滿、顏色發揚。

【容伯】116ヨウハク　淸、程恭壽(**8—25081**··176)の字。

【容範】117ヨウハン　容貌態度。容表。〔沈約、懷舊、傷二庾杲之一詩〕楸檟今已含、容範尙昭昭。

【容庇】118ヨウヒ　ゆるしかばふ。〔長生殿、復召〕荷二皇恩如レ天容庇一。

【容美】119ヨウビ　すがたかたちの美。外形の美。〔六韜、文韜、上賢〕虛論高義、以爲二容美一。〔魏志、杜恕傳〕夫先レ意承レ旨、以求二容美一。

【容媚】120ヨウビ　こびへつらつて用ひられる。〔漢書、諸侯王表序〕或廼稱レ美頌レ德、以求二容媚一、豈不レ哀哉。〔孔叢子、抗志〕希旨容媚、則君親レ之、中正弼非、則君疏レ之。〔後漢書、丁鴻傳〕依二託權門一、傾覆諂諛、以求二容媚一者、宜レ行二一切之誅一。

【容稟】121　jung^2 ping^3　請願を容れる。

【容覆】122ヨウフ　人をいれゆるす。〔韓愈、爲二裴相公一讓レ官表〕威怒如二雷霆一、容覆如二天地一。

【容服】123ヨウフク　作法に適つた服裝。容儀服裝。〔韓非子、五蠹〕其學者則稱二先王之道一、以藉二仁義一、盛二容服一而飾二辯說一、以疑二當世之法一、而貳二人主之心一。〔新書、道術〕容服有レ義、謂二之儀一。〔後漢書、蔡茂傳〕百姓見二其容服一。

【容物】124ヨウブツ　㊀外物を受けいれる。〔莊子、田子方〕虛緣而葆レ眞、淸而容レ物。㊁陵廟のかたちと供物。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕皇心憑二容物一、民思被二歌聲一。〔注〕翰曰、憑二視陵廟之容、見レ御之物一。㊂喪禮の容儀衣物をいふ。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕慟二皇情於容物一、崩二列辟於上旻一。〔注〕翰曰、言下天子視二喪禮容儀衣物一、而哀慟上也。

【容表】125ヨウヘウ　樣子。風采。容範。〔南史、江斅傳〕紀僧眞幸二於武帝一、稍歷二軍校一、容表有二士風一。

【容父】126ヨウホ　宋、葛洪(**9—31420**··33)の字。

【容甫】127ヨウホ　淸、汪中(**6—17154**··105)の字。

〔容甫先生遺詩〕128ヨウホセンセイヰシ　書名。五卷。淸、汪中撰。〔四部叢刊、第一千八百五十七冊〕。

【容保】129ヨウホ　保ち安んずる。容受。保安。〔易、臨〕容二保民一无レ疆。

【容圃】130ヨウホ　淸、曹錫寶(**5—14297**··275)の號。

【容璊】131ヨウボン　明、新會の人。至孝を以て旌表せらる。〔明史、二百九十六〕。

【容民】132ヨウミン　民をなつけおほ目に見る。〔易、師〕君子以容レ民畜レ衆。

【容冶】133ヨウヤ　みめかたちがうるはしい。〔宋玉、諷賦序〕玉爲レ人、身體容冶。〔司馬相如、美人賦〕服色容冶。〔顏氏家訓、文章〕宋玉體貌容冶、見レ遇二俳優一。

【容養】134ヨウヤウ　容れそだてる。〔周書、藝術、黎景熙傳〕(黎景熙)上書曰、天地稱二其高厚一者、萬物得二其容養一焉。

【容裕】135ヨウユウ　心がひろくゆるやかなこと。〔北史、魏淸河王懌傳〕有二文才一、善談レ理、寬仁容裕、喜怒不レ形二於色一。

【容與】136ヨウヨ　㊀ゆつたりするさま。閑舒。徐緩。閑適。〔漢書、禮樂志〕澹容與、獻二嘉觴一。㊁とらはれるところのないさま。放任。〔莊子、人閒世〕案二人之所レ感、以求三容二與其心一。〔注〕以求三從容自放、而遂二其侈心一也。〔左思、吳都賦〕理レ翮整レ翰、容與自玩。㊂遊びたはむれるさま。〔楚辭、離騷〕遵二赤水一而容與。〔注〕容與、游戲之貌也。〔史記、司馬相如傳〕彌節容與兮。〔注〕索隱曰、容與、游戲貌也。〔楚辭、九歌、湘君〕時不レ可二再得一、聊逍遙兮容與。〔集注〕逍遙・容與、皆遊戲閒暇之意也。㊃自得のさま。〔司馬相如、子虛賦〕翶翔容與。〔注〕銑曰、容與、言二自得一也。㊄舟車などの靜かに行くさま。〔漢書、揚雄傳上〕於レ是靈輿安步、周流容與。〔江淹、蓮華賦〕秋風駛兮舟容與。㊅心の厚いさま。〔王褒、洞簫賦〕若二飄風紛披、容與而施一レ惠。〔注〕善曰、容與、寬裕之貌也。

【容容】137ヨウヨウ　㊀雲の出るさま。〔楚辭、九歌、山鬼〕雲容容兮而在レ下。〔注〕雲出二其下一。㊁飛揚するさま。〔漢書、禮樂志〕神之行、旌容容。〔注〕師古曰、容容、飛揚之貌。㊂變動のさま。一說、紛亂のさま。〔楚辭、九章、悲回風〕紛容容之無レ經兮。〔補注〕容容、變動之貌。〔集注〕容容、紛亂之貌。㊃衆に隨つて上下する。世と合流する。〔史記、韋玄成傳〕其治容容、隨二世俗一浮沈。〔漢書、翟方進傳〕何持二容容之計一、無二忠固意一。〔注〕師古曰、容容、隨レ衆上下也。〔後漢書、陳球傳〕豈得二雷同容容無レ違而已。㊄かりそめに世に容れられんことを求めるさま。〔後漢書、左雄傳〕以レ樹レ恩爲レ賢、盡レ節爲レ愚、至四相戒曰三白璧不レ可レ爲、容容多二後福一。〔注〕容容、猶二和同一也。㊅前後に並ぶさま。〔楚辭、宋玉、九辯〕扈二屯騎之容容一。㊆仰望するさま。喁喁。〔史記、淮陰侯傳〕百姓罷極、怨望容容、無レ所レ倚。

【容留】138ヨウリウ　㊀收容する。㊁とどまる。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕倘寺觀旅店容留。「量。

【容量】139ヨウリヤウ　物をうけ入れるかさ。內容の分

【容諒】140　jung^2 liang^4　ゆるす。納得。諒承。〔紅樓夢、三回〕望舅母容諒。

【容陵】141ヨウリヨウ　縣名。漢、置く。故治は湖南省攸縣の北。〔漢書、地理志下〕長沙國、縣十三、容陵。

【容禮】142ヨウレイ　身のとりまはし。なりふり。容儀。〔後漢書、劉昆傳〕劉昆梁孝王之胤也、少習二容禮一。

【失レ容】143ヨウヲウシナフ　かたちをとり亂す。〔班固、東都賦〕西都賓矍然失レ容、逡巡降レ階、惵然意下。

【斂レ容】144ヨウヲヲサム　容貌をととのへ謹む。〔漢書、霍光傳〕光每二朝見一、上虛レ己斂レ容、禮二下之一已甚。

【容師偃】145ヨウシエン　明、香山の人。悌與の孫。孝子。父の身代りになつて亂賊に燒き殺さる。〔明史、二百九十七〕・〔萬斯同明史、三百九十二〕。

【容若玉】146ヨウジヤクギヨク　明の人。恭の子。字は崑石。萬曆の進士。官は江西嶺北道。〔安慶府志〕。

【容善空】147ヨウゼンクウ　曾谷之唯の號。曾谷學川(**5—14299**··250)を見よ。

【容悌與】148ヨウテイヨ　明、香山の人。字は行白。官は本縣教諭。母に事へて至孝。鄉人、孝行先生といふ。著に雲嵐集がある。〔尙友錄、二〕。

【容肇祖】149ヨウテウソ　民國、廣東省東莞縣の人。字は元胎。國立北京大學文學士。學生時代、戴震說的理及求理之方法を著す。厦門大學文學院講師、國立中山大學文學院講師、嶺南大學文理院副教授を經て北平輔仁大學副教授兼北京大學講師となる。著に魏晉的自然主義・迷信與傳說がある。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【容電器】150ヨウデンキ　「ふ。蓄電器(**9—31642**··44)をいふ。

【容熱量】151ヨウネツリヤウ　物體の溫度を一度だけ昇す爲に要する熱量。標準は水を以て單位とする。

【容不下】152　jung^2 pu hsia^4　收容しきれない。

【容江巴黃】153ヨウカウハクワウ　土司の名。宋、置き、明、曹滴洞に倂入す。貴州省黎平縣の南。〔讀史方輿紀要、貴州、黎平府、曹滴洞蠻夷長官司〕容江巴黃廢長官司、在二司東南一。一統志、宋置、元析二置曹滴洞司一、明初、以二容江巴黃司一幷二入曹滴洞一。

【容緩施刑】154　jung^2 huan^3 shih^1 hsing^2　刑の施行猶豫。

【容春精舍】155ヨウシユンシヤウジヤ　明、邵寶(**11—39343**··58)の室名。

【容圖面謝】156　jung^2 t'u^2 mien^4 hsieh^4　いづれ拜眉の上御禮申しあげます。

【容訪再誌】157　jung^2 fang^3 tsai^4 chih^4　後聞は更に又記載すべし。新聞用語。

【變レ容改レ俗】158ヨウヲヘンジゾクヲアラタム　かたちを變じ、風俗

をあらためる。〔呂覽、上德〕變レ容改レ俗、而莫レ得二其所一レ受レ之。【容春堂全集】159（ヨウシュンダウゼンシフ） 書名。二十卷。明、邵寶撰。後集十四卷・續集十八卷・別集九卷。〔四庫提要、集、別集類〕。【不レ容然後見二君子一】160（イレラレズシテシカルノチニクンシヲミル） 亂世に容れられないでこそ、始めて君子の君子たる所以がわかる。〔史記、孔子世家〕顏回曰、云云、不レ容何病、不レ容然後見二君子一。

【𡧪】7173 ギ 宜（3－7111）の古字。〔說文〕宐、𡧪、亦古文宜。

【宧】7174 キヤウ 響（12－43325）の古字。〔字彙〕宧、古響字。

参考 宦（3－7133）は別字。〔康熙字典、辨似〕二字辨似〕宦、宎本字。宧、古響字。

【宣】7175 セン 宣（3－7132）の古字。〔正字通〕宣、本作レ宣。

【宅】7176 ガウ 毫（6－16831）の古字。〔字彙補〕宅、古文毫字。

【寅】7177 イン 寅（3－7204）の古字。〔集韻〕寅、古作レ寅。

【寁】7178 ケン 虔（9－32686）に同じ。〔龍龕手鑑〕寁、同レ虔。

【寑】7179 シン 寢（3－7289）の籀文。〔龍龕手鑑〕寑、籀文寢。

【宂】7180 クヮウ 〔川篇〕火廣切 養 ひろい。〔川篇〕宂、廣也。

参考 宂（3－7130）・宂の異體であらう。

【害】7181 ゴ 〔龍龕手鑑〕五故切 遇 さめる。〔龍龕手鑑〕害、寐覺有レ言。

【𡨄】7182 ヲン 〔篇海類編〕烏本切 阮 すわる。〔篇海類編〕𡨄、坐也。

【𡨋】7183 ホウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕𡨋、音峯。

【宂】7184 リツ 栗（6－14695）に同じ。〔龍龕手鑑〕宂、同レ栗。

【𡦹】7185 ソウ 𡦹（2－3167）の籀文。〔說文〕𡦹、寽、籀文从レ寸。

【𡧢】7186 ホン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𡧢、芳本切。

【𡧱】7187 サウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𡧱、音造。

【𡧭】7188 サイ 宰（3－7160）に同じ。〔餘文〕𡧭、同レ宰。

【𡧨】7189 エン 義未詳。〔龍龕手鑑〕𡧨、音延。

【宻】7190 ミツ 密（3－7205）の俗字。〔正字通〕密、俗作レ宻。

【宼】7191 コウ 寇（3－7209）の俗字。〔正字通〕宼、俗寇字。

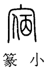
【宩】7192 セキ 寂（3－7200）の俗字。〔宋元以來俗字譜〕寂、通俗小說・太平樂府作レ宩。

八畫

【㝒】7193 キヨ コ 〔集韻〕斤於切 魚 ㊀いへ。〔玉篇〕㝒、舍也。㊁うる。又、たくはへる。腒（10－36821）に同じ。〔集韻〕腒、博雅、腒賺、賣也、一曰、貯也、或作レ㝒。㊂居（4－7663）に同じ。〔正字通〕㝒、與レ居同。

【𡨕】7194 ウ 〔等韻〕衣遇切 遇 うたたね。〔等韻〕𡨕、假寐也。

【宿】7195


小篆

□一 シユク スク 〔集韻〕息六切 屋 ㄙㄨˋ su⁴
□二 シウ シユ 〔集韻〕息救切 宥 ㄒㄧㄡˇ hsiu³ ㄒㄧㄡˋ hsiu⁴
□三 セキ シヤク 〔集韻〕倉歷切 錫

□一 ㊀やどる。一夜とまる。本、宿（3－7196）に作る。〔正字通〕宿、宿本字。〔說文〕宿、止也、从レ宀佰聲、佰、古文夙。〔廣雅、釋詁四〕宿、舍也。〔詩、周頌、有客〕有レ客宿宿。〔傳〕一宿曰レ宿。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕塊鞠兮當レ道宿。〔注〕夜止曰レ宿。㊁やどり。㋑やど。〔周禮、地官、遺人〕三十里有レ宿、宿有二路室一。〔注〕宿、可二止宿一、若二今亭有一レ室矣。㋺星宿。恒星の位置によつて天を分割したもの。〔周禮、春官、馮相氏〕二十有八星之位、疏〕若指二星體一而言、謂二之星一、日月會二於其星一、卽名レ宿、亦名レ辰、亦名レ次、亦名レ房。〔說苑、辨物〕所謂宿者、日月五星之所レ宿也。㊂とのゐ。とのゐする。〔劉孝威、謝二南康王一啓〕直二宿九重一。㊃まもり。まもる。〔周禮、秋官、脩閭氏〕掌レ比二國中宿互欜者一。〔注〕宿、謂二宿衞一也。㊄すむ。〔玉篇〕宿、住也。〔禮、內則〕居二宿於外一學二書計一。㊅とどまる。とまる。〔荀子、非十二子〕則個然無レ所二歸宿一。〔注〕宿、止也。〔漢書、郊祀志上〕宿二留海上一。〔注〕師古曰、宿留、有レ所二須待一也。㊆とどめる。とめる。〔管子、君臣〕不レ宿二其罰一。〔注〕宿、猶レ停也。〔漢書、韓安國傳〕孝文寤二於兵之不一レ可レ宿。〔注〕師古曰、宿、久留也。㊇ためらふ。〔論語、顏淵〕子路無レ宿レ諾。〔集解〕何晏曰、宿、猶豫也。㊈おちつく。〔左氏、昭、二十九〕官宿二其業一。〔注〕宿、猶レ安也。㊉ふるい。ひさしい。〔小爾雅、廣詁〕宿、久也。〔禮、檀弓上〕有二宿草一而不レ哭焉。〔注〕宿草、謂二陳根一也。〔漢書、翟方進傳〕是時宿儒有二清河胡常一。〔注〕師古曰、宿、久舊也。⑪老練者。熟達者。〔後漢書、樊儵傳〕耆宿大賢、多見二廢棄一。⑫かさねる。ふたたびする。〔儀禮、公食大夫禮〕

不二宿戒一。〔注〕申レ戒爲レ宿。〔儀禮、鄉飲酒禮〕不二宿戒一。〔注〕再戒爲二宿戒一。⓭**はやい。あらかじめ。さきに。**夙(**3―5755**)に通ず。〔說文通訓定聲〕宿、叚借爲レ夙。〔論語、顏淵〕子路無二宿諾一。〔皇疏〕宿、猶レ逆也。〔逸周書、寤儆解〕戒維宿。〔注〕宿、古文夙。〔管子、地圖〕宿定下所二征伐一之國上。〔注〕宿、猶レ先也。⓮**つつしむ。はらふ。きよめる。**肅(**9―29225**)に通ず。〔說文通訓定聲〕宿、叚借爲レ肅。〔禮、禮器〕三日宿。〔注〕宿、致齊也。〔疏〕宿之言肅、肅、敬之義也。〔史記、封禪書〕上宿郊見。〔注〕集解曰、宿、猶二齋戒一也。⓯**いましめる。**〔禮、祭統〕宮宰宿二夫人一。〔注〕宿、讀爲レ肅、戒也。⓰**まねく。めす。すすめる。**速(**11―38897**)に通ず。〔儀禮、士冠禮〕乃宿レ賓。〔注〕宿、進也。〔儀禮、特牲饋食禮〕乃宿レ尸。〔注〕宿、或作レ速。⓱蹜(**10―37811**)に通ず。〔禮、玉藻〕宿宿如也。〔釋文〕宿、本或作レ蹜。⓲**古の國名。**今、山東省東平縣の東、無鹽故城の地。〔春秋、隱、元〕及二宋人一盟二于宿一。⓳**姓。**〔魏書、宿石傳〕石父宿沓干、世祖時、虎賁幢將、從レ征平レ涼有レ功。〔通志、氏族略〕宿氏、伏羲之後、後漢有二宿仲談一、宋有二宿千之一。［二］❶**星のやどり。**〔集韻〕宿、列星也。〔史記、律書〕七正二十八舍。〔注〕索隱曰、二十八舍、卽二十八宿之所レ舍也、舍、止也、宿、次也、正義曰、宿、音息袖反。❷**やど。**〔集韻〕宿、舍也。〔左思、吳都賦〕窮二飛走之棲宿一。❸**とどまる。**まつ。〔後漢書、韋彪傳〕子其宿留乎。〔注〕宿留、待也。［三］**邑の名。**通じて戚(**5―1594**)に作る。春秋、衞の邑。今の河北省開縣治の北。〔史記、衞世家〕公怒如レ宿。〔注〕索隱曰、左傳作レ戚、此亦音戚。［邦］**しゆく。**うまつぎ場。たてば。

［名乘］スミ。ヤド。ヲル。

【宿痾】1（シュクア）　久しいやまひ。宿疴。宿疾。宿患。久病。〔王安石、賀レ生二皇子一表六道〕嘗汙二近司一、備叨二殊獎一、以二宿痾一而自困。

『宿痾頓愈』2（シュクアトミニイユ）　かねての持病が俄かになほる。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一序〕而宿痾頓愈、體氣頗佳。

【宿惡】3（シュクアク）　❶前々からの惡事。ふるくからの惡者。〔蜀志、張嶷傳〕數二其宿惡一而誅レ之。❷大惡人。元凶。〔後漢書、黃昌傳〕宿惡大姦、皆奔二走它境一。〔蜀志、張嶷傳〕數二其宿惡一而誅。

【宿衣】4（シュクイ　シュクエ）　衣冠の稱。とのゐのしやうぞく。〔禁祕抄、上〕御膳事、御膳時、宿衣人不レ候二殿上一。

【宿意】5（シュクイ）　かねてからの志。宿志。〔晉書、王渾傳〕懼非三陛下追二述先帝文明太后待レ攸之宿意一也。

【宿憂】6（シュクイウ）　前からの憂。古くから去らぬ憂。〔戰國、齊策〕銳兵來則拒レ之、患至則趨レ之、使二諸侯無レ成レ謀、則其國無二宿憂一矣。〔史記、主父偃傳〕天下無二宿憂一。〔漢書、徐樂傳〕天下無二宿憂一。

【宿引】7（ヤドヒキ）　旅舍の番頭などが客を誘ふこと。又、其の人。〔一茶句集〕宿引に女も出たり春の風。

【宿因】8（シュクイン）　さきの世からの因緣。前世の約束。宿緣。〔華嚴經、七十五〕宿因無二失壞一。〔求法高僧傳、下〕宿因感會、今果現前。〔張喬、雨中宿二僧院一詩〕千燈有二宿因一、長老許二相親一。

【宿雨】9（シュクウ）　連日降り續く雨。前夜からの雨。〔李涉、題二開聖寺一詩〕宿雨初收草木濃、羣鴉飛散下堂鐘。〔李嶠、和二杜學士江南初霽羈懷一詩〕大江開二宿雨一、征櫂下二春流一。〔韓翃、同題二仙遊觀一詩〕仙臺初見五城樓、風物凄凄宿雨收。

【宿雲】10（シュクウン）　夜來の雲。〔宋之問、早發二始興江口一至二虛氏村一作詩〕宿雲鵬際落、殘月蚌中開。

【宿運】11（シュクウン）　前世からの運命。〔東鏡〕文治元年五月二十四日、宿運之極處歟、將又感二先世之業因一歟。

【宿營】12（シュクエイ）　軍兵のやどる所。陣所。〔韓非子、內儲說下〕於レ是乃起二宿營之甲一、而攻二成王一。〔水經、沔水注〕是亮宿營處。

【宿衞】13（シュクエイ）　夜中、宿直して守護する。〔史記、齊悼惠王世家〕哀王三年、其弟章、入宿二衞於漢一、呂太后封爲二朱虛侯一、以二呂祿女一妻レ之。〔漢書、楚元王傳〕宿衞者二十餘人。〔新書、藩傷〕臣民之衆、土地之博、足四以奉二養宿三衞其身一。〔司馬相如、子虛賦〕幸得二宿衞一、十有餘年。〔後漢書、竇武傳〕禁兵當三宿二衞宮省一。〔六部成語、兵部、宿衞、注解〕値宿護衞之兵。

【宿曜】14（シュクエウ）　［佛］印度の天文法。二十八宿・十二宮・七曜の總稱で、日月の運行の位置と諸星との關係により、曆日を定め、人生の禍福を占ふことに用ひられた。人界・天界一切の事實は恆に相反影して吉凶の相は宿曜に現れ、且つ星宿の運行によつて個人の運命が豫定せらるるものと信じた。これを星占の法と云つて、陰陽家・兵家、乃び密教の占卜者の間に傳播した。宿命智陀羅尼經・宿命陀羅尼・文殊師利菩薩及諸仙所說吉凶時日善惡宿曜經・宿曜儀軌・七曜攘災決・七星如意輪秘要經・七曜星辰別行法等の諸經がある。

【宿驛】15（シュクエキ）　族客をやどし、又荷物の運搬に要する人馬をつなぐ所。宿次。宿場。〔新編相模國風土記稿、二十七、箱根宿〕此地、宿驛を置れしは、元和以後の事なり。

【宿緣】16（シュクエン）　前世からの因緣。宿會。宿因(8)に同じ。〔華嚴經、二十五〕同行宿緣、諸清淨衆。〔何承天、答二宗居士一書〕豈獨愛欲未レ除、宿緣是畏。

【宿怨】17（シュクエン）　❶前からのうらみ。積年の怨恨。〔管子、輕重乙〕邊竟有レ兵、則懷二宿怨一而不レ戰。〔後漢書、周紆傳〕睚眦宿怨、無レ不二僵仆一。❷うらみをとどめる。〔孟子、萬章上〕仁人之於レ弟也、不レ藏レ怒焉、不レ宿レ怨焉、親二愛之一而已矣。〔集注〕宿レ怨、謂三留二蓄其怨一。〔漢書、鄒陽傳〕夫仁人之於二兄弟一、無レ藏レ怒、無レ宿レ怨、厚親愛而已。

【宿屋】18（シュクヲク）　❶古い家。舊屋。〔魏明帝、長歌行〕壞宇何寥廓、宿屋邪草生。❷（ヤド　ヤ）　旅人を宿泊させる家。旅籠屋。旅舍。旅館。

『宿屋飯盛』19（ヤドヤノメシモリ）　石川雅望の號。雅望は宿屋を家業としてゐた。

【宿恩】20（シュクオン）　前々からの御恩。宿眷。〔後漢書、左雄傳〕顧二念阿母舊德宿恩一、欲三特加二顯賞一。

【宿下】21（ヤドオリ　ヤドサガリ）　奉公人が、暫く暇をもらつて親もとに歸ること。〔好色一代女、四〕藪入、云云、宿おりして。〔浮世風呂、二下〕姉の宿さがり。

【宿戒】22（シュクカイ）　儀式などの期日にさきだつて物いみすること。宿齋。〔周禮、春官、世婦〕掌二女宮之宿戒一。〔注〕宿戒、當二給事一豫告レ之齊戒也。〔疏〕祭前十日、戒レ之使レ齊。〔儀禮、鄉飲酒禮〕皆使レ能不二宿戒一。

【宿好】23（シュクカウ）　❶かねてのこのみ。〔陶潛、辛丑歲七月赴レ假還二江陵夜行塗口一作詩〕詩書敦二宿好一、林園無二世情一。❷昔からのよしみ。〔吳志、劉繇傳〕常願三渝平更成、復踐二宿好一。〔蘇軾、和三猶子遲贈二孫志擧一詩〕願言敦二宿好一、永與二竹林一均。

【宿客】24（シュクカク）　泊り客。宿り客。〔賈島、宿二村家亭子一詩〕宿客未レ眠過二夜半一、獨聞山雨到來時。

【宿蕚】25（シュクガク）　花の蕚が永く落ちないで、變形して蒂や冠毛になるもの。蒲公英の類。

【宿學】26（シュクガク）　深く學問を研究し、道に通じた人。積學の士。老學。宿儒。〔史記、莊子傳〕雖二當世宿學一、不レ能二自解免一也。〔漢書、公孫劉田云云傳贊〕鉅儒宿學、不レ能二自解一也。〔鹽鐵論、雜論〕巨儒宿學、惡然大能自解。

【宿乾】27（シュクカン）　日に干し乾かす。〔天工開物〕宿乾、空中泥團。

【宿憾】28（シュクカン）　久しいうらみ。舊恨。〔宋史、劉攽傳〕歐陽脩・趙槩、薦二試館職一、御史中丞王陶有二宿憾一、率二侍御史蘇宷一共排レ之。〔捫蝨新話、文才類〕蘇明允辨奸論、王司空贈官制、皆蘇氏宿憾之言也。

【宿雁】29（シュクガン）　塒にねむる雁。〔高蟾、旅夕詩〕風散二古陂一驚二宿雁一、月臨二荒戍一起二啼鴉一。

【宿忌】30（シュクキ）　［佛］忌日前夜の佛事。逮夜。

【宿耆】31（シュクキ）　德望ある老人。耆宿(**9―28849**‥

21）に同じ。

【宿貴】32（シュクキ） ふるくから高い地位にあるもの。〔唐書、裴垍傳〕雖二宿貴前望一、造詣不二敢干以一レ私。

【宿許】33（ヤドモト） ❶宿所。❷住所。〔狂言記、賽目〕宿元に大切の物を忘れて參つた。❸下婢などの宿とする所。〔好色一代男、二〕香具賣、云云、宿元を聞けば。

【宿芩】34（シュクキン） 藥草の名。こがねやなぎ。〔本草、黃芩〕釋名、弘景曰、圓者名二子芩一、破者名二宿芩一、時珍曰、宿芩乃舊根、多中空外黃內黑、卽今所謂片芩。

【宿勤】35（シュクキン） 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕宿勤氏、後魏賊帥宿勤明達。

【宿禽】36（シュクキン） とぐらに入つてゐる鳥。〔國史略、安德天皇〕平軍聞二宿禽驚散一、皆以爲二源軍已至一、棄レ甲宵遁、遂還二福原一。

【宿寓】37（シュクグウ） 旅館。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕復留二宿寓一。

【宿遇】38（シュクグウ） 平素の交際。〔魏志、公孫度傳〕宿遇無レ恩、皆以レ法誅、所二夷滅一百餘家、郡中震慄。

【宿火】39（シュククワ） ❶うづみび。埋火。〔全唐詩話〕宿火陷二爐灰一。❷宵越しの貯。火は火食。〔琵琶記、寺中遺像〕家中無二宿火一。

【宿臥】40（シュクグワ） 泊り寢る。〔史記、朱建傳〕酈生留宿臥、夜半時斬二陳留令首一。

【宿嵬】41（シュククワイ） 山名。今の察哈爾省張北縣。

【宿會】42（シュククワイ） 前世からの因緣。宿緣。〔搜神記、二〕某因二宿會一、得レ事二先生一。

【宿懷】43（シュククワイ） 永のおもひ。昔からの念願。〔吳志、張溫傳〕遂發二宿懷於今日一、納二愚言於聖聽一。

【宿猾】44（シュククワツ） もとからわるがしこい者。〔後漢書、皇甫規傳〕凡諸宿猾・酒徒・戲客、皆耳納二邪聲一、口出二諂言一。

【宿官】45（ヤドリノツカサ） 昔、卑官から顯職に榮轉の際、暫時任ぜられたある官。〔枕草子、八〕やどりのつかさの權の守。

【宿患】46（シュククワン） ❶宿痾。❷以前より附きまとつてゐる難儀。

【宿願】47（シュクグワン） ❶以前からのねがひ。宿望。素志。〔陸機、思歸賦序〕宿願有レ違、懷歸之思、憤而成レ篇。〔隋書、張衡傳〕帝上二太行一、謂レ衡曰、往從拜二泰山一、塗經二洛陽一、瞻二望於此一、深恨不レ得二相過一、不レ謂、今日得レ諧二宿願一。❷［佛］宿昔の本願。〔觀無量壽經〕照二彼如來宿願力一、故有二憶想者一、必得二成就一。

【宿契】48（シュクケイ） 前世からのちぎり。〔搜神記、十六〕俄女卽自言曰、君是生人、我鬼也、共レ君宿契。

【宿慧】49 su^4 huei^4 うまれつきの智慧。〔紅樓夢、一回〕士隱本是有宿慧的、一聞此言、心中早已徹悟。

【宿繼】50（シュクツギ） 宿驛から宿驛と、順次に荷物などを送ること。遞送。〔東鑑、十九〕承元三年十月十七日、宿繼兵士。

【宿藝】51（シュクゲイ） 宋、薛奎（**9－32123**‥45）の字。

【宿業】52（シュクゲフ） ❶業をやすんじ行ふ。宿は安。〔左氏、昭、二十九〕官宿二其業一、其物乃至。〔注〕宿、猶レ安也。❷［佛］（シュクゴフ） 前世に爲した善惡のむくい。〔順正理論、二十五〕行緣レ識者、顯二示宿業一。〔蘇軾、入レ寺詩〕多生宿業盡、一氣中夜存。

【宿犬】53（シュクケン） ねて居る犬。〔白居易、早發二楚城驛一詩〕宿犬聞レ鈴起、栖禽見レ火驚。

【宿眷】54（シュクケン） 久しく受けた恩。積年の恩顧。宿恩。〔魏書、恩倖、王叡傳〕仰恃二皇造宿眷之隆一、敢陳二愚昧管窺之見一。

【宿嫌】55（シュクケン） 長い間の忌みきらひ。積年のにくしみ。〔魏志、高柔傳〕帝以二宿嫌一、欲三枉レ法誅二治書執法鮑勛一。

【宿縣】56（シュクケン） ❶祭の前夜にあらかじめ樂器をかける。縣は、懸、かける意。〔周禮、春官、大司樂〕凡樂事大祭祀宿縣、遂以レ聲展レ之。〔疏〕於二前宿一豫縣レ之。❷縣名。民國、置く。唐の宿州の地。安徽省蚌埠の北。

【宿垢】57（シュクコウ） ふるいあか。〔晉書、禮志下〕漢儀、季春上巳、官及百姓、皆禊二于東流水上一、洗濯祓二除去宿垢一、而自レ魏以後、但用二三日一、不レ以二上巳一也。

【宿構】58（シュクコウ） 前もつて詩文の下ごしらへをする。腹構。〔魏志、王粲傳〕善屬レ文、擧レ筆便成、無レ所二改定一、時人常以爲二宿構一。〔北史、杜銓傳〕杜正藏爲レ文迅速、有レ如二宿構一。〔北齊書、魏收傳〕中使催促、收筆下有レ同二宿構一。〔唐書、楊師道傳〕賦レ詩如二宿構一。〔書言故事大全、文章類〕預先擬二下文一曰二宿構一。

【宿恨】59（シュクコン） 前からのうらみ。年來の遺恨。宿憾。宿憤。〔吳志、孫輔傳、注〕除二棄宿恨一、惟取レ能用、與二天下一通耳。

【宿根】60（シュクコン） ❶冬、枝葉が枯れても、根は越年して再び芽を生ずるもの。宿根草。〔宋史、陳堯叟傳〕麻苧所レ種與二桑柘一不レ殊、既成二宿根一、旋擢二新幹一、俟二枝葉栽茂一則刈二穫之一。〔蘇軾、甘菊詩〕宿根寒不レ槁。❷［佛］人の修行の根柢にあるもの。前世から定まつた素質。〔李邕、東林寺碑序〕宿根果二於福庭一、大事萠二於淨土一。

【宿沙】61（シュクサ） ❶伏羲・神農の間に、天下に霸となつてゐた者。〔淮南子、道應訓〕宿沙之民、皆自攻二其君一。〔注〕伏羲神農之間、有二共工宿沙一、霸二天下一者也。❷古の、善く魚を捕へた者。〔後漢書、馬融傳〕茲飛・宿沙・田開・古蠱。〔注〕魯連子曰、古善漁者、宿沙渠子、使レ漁二山側一、雖二十宿沙子一不レ得レ魚焉、宿沙非レ暗二於漁道一也、彼山者非二魚之所一レ生也。❸古の鹽を作つた人。〔世本、作〕宿沙作二煮鹽一。〔宋衷注〕宿沙、齊靈公臣、齊濱レ海、故得レ爲二鹽魚之利一。

【宿砂】62（シュクサ） 消化を助けるために食後に食ふもの。樟腦のやうな香があり、四川省に產する。

【宿菜】63（シュクサイ） 草の名。葸菜。葸（**9－31571**）を見よ。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、采葑采菲〕菲似レ葍、莖麤葉厚而長、有レ毛、三月中蒸鬻爲レ茹、滑美可レ作レ羹、幽州人謂二之芴一、爾雅又謂二之葸菜一、今河內人謂二之宿菜一。

【宿債】64（シュクサイ） ❶以前からの借金。宿負。舊債。〔南齊書、武帝紀〕三調衆逋宿債、並一原除。〔黃公度、謝二傳參議惠一レ筝詩〕千畝償二宿債一。❷［佛］前世の負債。〔楞嚴經、六〕是人此始宿債、一時酬畢。

【宿歲】65（シュクサイ） 暮れてゆく年。〔荊楚歲時記〕歲暮家家具二肴蔌一、詣二宿歲之位一、以迎二新年一、相聚飮。

『宿歲飯』66（シュクサイハン） 除夕に數日間の食事を準備したもの。又、隔年陳といふ。〔中華全國風俗志、湖北、監利歲時記候記〕飯兼二數日之炊一、曰二宿歲飯一、又曰二隔年陳一。

【宿齋】67（シュクサイ） 期に先だつて物いみする。宿戒（22）に同じ。〔說苑、君道〕宿齋沐浴。〔新序、雜事二〕宿齋三日。

【宿罪】68（シュクザイ） 前世からの罪障。過去の罪過。〔吳志、吳主孫權傳、注〕先王恩仁、不レ忍二遐棄一、既釋二其宿罪一。

【宿草】69（シュクサウ） 一年經つた草。古い根から生えた草。〔禮、檀弓上〕朋友之墓、有二宿草一而不レ哭焉。〔注〕宿草、陳根也。〔疏〕草經二一年一則根陳也、朋友相爲哭一期、草根陳乃不レ哭也。〔江淹、雜體詩、陸平原機羈宦〕徂役多二拱木一、宿草淩二寒煙一。〔劉峻、重答二劉秣陵沼一書〕青簡尙新、而宿草將レ列。

【宿藏】70（シュクザウ） とどめ藏する。宿藏物を見よ。

『宿藏物』71（シュクザウブツ） とどめかくされたもの。地中に埋れたもの。埋藏物。〔雜令義解〕凡於二官地一得二宿藏物一者。

【宿札】72（ヤドフダ） 宿のありかを知らすためにかける札。

【宿止】73（シュクシ） やどる。とまる。止宿。〔後漢書、清河孝王慶傳〕永元四年、帝移二幸北宮章德殿一、講二於白虎觀一、慶得二入レ省宿止一。

【宿志】74（シュクシ） 以前からの志。かねての希望。宿意。宿心。夙志。〔後漢書、列女、王霸妻傳〕奈何忘二宿志一、而慙二兒女子一乎。〔魏書、李諧傳〕探二宿志一以內求。〔魏書、陽尼傳〕尼每自傷曰、吾昔未レ仕、不三會羨二人、今日失レ官、與レ本何異、然非二吾宿志一、命也如何。

【宿紙】75（シュクシ） すきがへしの紙。かうやがみ。すくし。〔吉部祕訓抄〕宣旨必可レ用二宿紙一。

【宿齒】76（シュクシ） 名望高い老人。宿老（197）の❶に同じ。〔晉書、武陔傳〕以二宿齒舊臣一、名位隆重。

【宿積】77（シュクシ） 前もつて貯へておく財物。〔北史、韓麒麟傳〕官有二宿積一、則人無二荒年一。

【宿次】78（シュクジ） ❶やどる。とまる。一夜どまりを宿、二夜どまりを信、三夜以上を次といふ。〔詩、周頌、有客、傳〕一宿曰レ宿、再宿曰レ信。〔左氏、莊、三〕凡師出、一宿爲レ舍、再宿爲レ信、過レ信爲レ次。❷宿驛（15）に同じ。

〖宿次過書奉行〗79 シュクジクワショブギャウ 鎌倉室町時代に路次往還・過書(過所)等の事務を掌つた奉行。〔武家名目抄、職名、十四、宿次過書奉行〕。

【宿囚】80 シュクシウ 犯人を虐待拷問して、晝夜眠らせぬこと。唐代、酷吏が行つた法。〔舊唐書、索元禮傳〕或累レ日節レ食、連宵緩問、晝夜搖撼、使レ不レ得レ眠、號曰二宿囚一。〔唐書、刑法志〕比姦憸告訐、習以爲レ常、推劾之吏、皆以二深刻一爲レ功、閉二絕飲食一、使レ不レ得レ眠、號曰二宿囚一。

【宿州】81 シュクシウ 州名。唐、置く。安徽省宿縣の治。〔清史稿、地理志〕安徽、鳳陽府、州二、宿州。

【宿植】82 シュクジキ 佛前世に善根を植ゑる。〔法華經、普門品〕宿二植德本一。

【宿疾】83 シュクシツ 前からの病氣。ながわづらひ。持病。宿病。宿痾。〔水經、若水注〕溫水冬夏常熱、其源可レ燖、雞豚下レ湯、沐浴能治二宿疾一。〔陸機、五等諸侯論〕養二喪家之宿疾一。〔北史、裴寬傳〕弟漢、少有二宿疾一、恆帶二虛羸一。

【宿執】84 シュクシフ ㊀前世からの因緣。〔十訓抄、中〕前世の宿執にや、この事さりがたく心にかかりければ。㊁昔からの執着。㊂昔からの友人。㊃昔からの怨。

【宿習】85 シュクシフ ㊀前もつて習ふ。かねてから學習する。〔論衡、逢遇〕學不二宿習一、無二以明レ名。〔宋史、李穀傳〕所レ覽如二宿習一。㊁佛 シュクジフ 前世から薰習した煩惱。前世からの習ひくせ。〔俱舍論、十二〕由二彼宿習一。〔天台別傳〕宿習開發、煥若二華敷一矣。

【宿舍】86 シュクシャ やど。旅館。宿栖。〔史記、張儀傳〕使下人微隨二張儀一與同中宿舍上、稍稍近二就之一。

【宿者】87 シュクシャ 祭を助ける賓客。祭前に宿齋するからいふ。〔禮、祭義〕宿者皆出。〔集解〕宿者、謂二助レ祭之賓一也、助レ祭之賓、於二祭前一必宿レ之。

【宿妝】88 シュクシャウ よひ越しのけしやう。〔岑參、醉戲二竇子美人一詩〕朱脣一點桃花殷、宿妝嬌羞偏二髻鬟一。

【宿倡】89 su^4 ch'ang^1 老娼妓。

【宿娼】90 su^4 ch'ang^1 ㊀妓樓に宿泊する。㊁老娼。宿倡に同じ。

【宿將】91 シュクシャウ 戰に多年の經驗ある大將。老將軍。〔戰國、魏策〕太子年少不レ習二於兵一、田盼宿將也。〔史記、王翦傳贊〕當二是時一、翦爲二宿將一。〔漢書、霍去病傳〕諸宿將常留落不レ耦。〔蜀志、馬良傳〕宿將魏延呉壹等。〔曹植、求二自試一表〕雖二賢不レ乏レ世、宿將舊卒、由レ習レ戰也。

【宿情】92 シュクジャウ もとからの心。〔禮、王制、五刑之訟、疏〕故聽レ訟者、本二其宿情一、立二其恩義一、爲二平量之恕一而免放。

【宿主】93 ヤドヌシ ㊀旅舍の主人。〔醒醉笑、四〕宿を借りぬ、云云、宿主返事するやう。㊁シュクシュ 寄生動物が寄生する動物の稱。

【宿守】94 ヤドモリ 宿の番人。〔源氏物語、夕顏〕やどもりなるをのこ。

【宿酒】95 シュクシュ 二日醉。宿醉。〔白居易、早春卽事詩〕眼重朝眠足、頭輕宿酒醒。

【宿儒】96 シュクジュ 年たけ名望ある學者。宿學。老儒。〔漢書、翟方進傳〕是時宿儒有二清河胡常一、與二方進一同レ經。〔後漢書、李固傳〕皆年少、無下一宿儒大人可二顧問一者上。

【宿宿】97 シュクシュク ㊀二夜とまる。二泊。〔詩、周頌、有客〕有レ客宿宿、有レ客信信。〔傳〕一宿曰レ宿、再宿曰レ信。〔疏〕正義曰、釋訓云、有レ客宿宿、再宿也、有レ客信信、四宿也。㊁小またに歩くさま。蹜蹜(10－37811・・1)に同じ。〔禮、玉藻〕執二龜玉一、擧レ前曳レ踵、足宿宿如也。〔釋文〕宿、本或作レ蹜。

【宿所】98 シュクショ 宿處に同じ。

【宿胥】99 シュクショ 川の名。今は堙沒した。故瀆は河南省濬縣の西南。淇水と衞河とが合する處。周の定王の時、黃河が此で決壞した。〔戰國、燕策〕決二宿胥之口一。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、濬縣、淇水〕宿胥瀆、亦在二縣西南一、水經注、淇水右合二宿胥故瀆一、瀆受二河於遮害亭東、黎山西北一、會二淇水一處、立レ石堰二遏水一、令二更東北注一、魏武開二白溝一、因二宿胥故瀆一而加レ功焉、戰國策、蘇代曰、決二宿胥之口一、魏無虛頓邱、卽是續也、魏志、武帝因二宿胥故瀆一、開二白溝一、導二清淇水一入焉。

【宿處】100 シュクショ やど。とまるところ。宿所。〔杜甫、夜宿二西閣一曉呈二元二十一曹長一詩〕門鵲晨光起、墻烏宿處飛。

【宿松】101 シュクショウ 縣名。隋、置く。安徽省潛山縣の西南。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府〕宿松縣、漢皖縣地、云云、梁置二高塘郡一、云云、隋開皇初、郡廢、改レ縣曰二高塘一、十八年、又改爲二宿松縣一、屬二熙州一。〔清史稿、地理志〕安徽、安慶府、縣六、宿松。

【宿舂】102 シュクショウ 前の晩から米を舂いて用意する。〔莊子、逍遙遊〕適二百里一者宿舂レ糧。〔福惠全書、刑名部、問擬〕寡之家無二宿舂一、借二麥于忠一。

【宿訟】103 シュクショウ 久しく決しない訴訟。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕疑獄得レ情而弗レ喜、宿訟兩讓而同歸。

【宿食】104 シュクショク 前日炊いた飯。〔周書、姚僧垣傳〕此有二宿食一、非レ用二大黃一、必レ無二差理一。

【宿心】105 シュクシン かねてのおもひ。宿志。素志。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕下不三違レ人負二宿心一。〔嵆康、幽憤詩〕內負二宿心一、外恧二良朋一。〔注〕向曰、宿心、謂二宿昔本心一也。〔謝靈運、九日從二宋公戲馬臺集一送二孔令一詩〕豈伊川途念、宿心愧レ將レ別。

【宿進】106 シュクシン 明、夾江の人。官は刑部員外郎。劉瑾の黨を非難する封事を上つて、武宗に籍を削らる。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十九〕・〔明史稿、一百七十三〕。

【宿水】107 シュクスイ 前日から酌みおく水。ねみづ。〔福惠全書、郵政部、喂養〕苦井水及他宿水忌レ用。

【宿醉】108 シュクスイ 二日ゑひ。宿酲。宿酒(95)に同じ。〔沈佺期、奉三和春日幸二望春宮一應制詩〕定是風光牽二宿醉一、來晨復得レ幸二昆明一。〔韓偓、早歸詩〕扠衣吟二宿醉一、風露動相思。

【宿雛】109 シュクスウ 巢にあるひな。〔元稹、酬二樂天一早夏見レ懷詩〕庭柚有二垂實一、鷰巢無二宿雛一。

【宿世】110 スクセ 佛過去の世。前世。〔法華經、授記品〕宿世因緣、吾今當レ説。

〖宿世結〗111 スクセムスビ 緣結(8－27656・・21)に同じ。〔異制庭訓往來〕正月、文字書、書占、何立・宿世結、云云、腕推・指抓等、是尤雖二不レ難之振舞一、尚費レ力摧レ肝之體也。

〖宿世冤家〗112 シュクセノエンカ 過去の世からのあだ。夙世冤家。〔道山清話〕彭汝礪久在二侍從一、云云、晚娶二宋氏一歸、有二姿色器資一、承順惟恐レ不レ及、後出守二九江一、病中忽索二紙筆一、大書云、宿世冤家、五年夫婦、從レ今以往、不レ打二這鼓一、投レ筆而逝。

【宿生】113 シュクセイ 老學者。〔魏志、高堂隆傳〕方今宿生巨儒並各年高、教訓之道、孰爲二其繼一。

【宿栖】114 シュクセイ やど。宿舍。〔魏武帝、苦寒行〕薄暮無二宿栖一、行行日已遠。

【宿夕】115 シュクセキ ひとばん。轉じて、僅かの閒。つかのま。宿昔。〔戰國、楚策〕不レ出二宿夕一、人必危レ之矣。〔戰國、趙策〕淖齒用レ齊、擢二閔王之筋一、懸二於其廟梁一、宿夕而死。

〖宿夕之憂〗116 シュクセキノイウ 夜を以て日に繼ぐ憂。深く甚しい憂。又、以前からの憂。平生の心配事。宿昔の憂。〔史記、呉王濞傳〕呉王不肖、有二宿夕之憂一。〔評林〕宿夕兩字便深切、謂二以レ夜繼一レ之也。〔會注考證〕夕、昔通、宿昔、舊來之意。

【宿石】117 シュクセキ 後魏、朔方の人。謚は康。封は太原王。官は明元帝の時、吏部尚書。〔後魏書、三十〕・〔北史、二十五〕。

【宿昔】118 シュクセキ ㊀ひとよ。一夜。僅かの閒。宿夕。〔戰國、秦策〕淖齒管二齊之權一、縮二閔王之筋一、懸二之廟梁一、宿昔而死。〔魏志、陳思王植傳、注〕魏略曰、植上書曰、管仲唱レ之、少年走而和レ之、日行數百里、宿昔而至、則相レ齊。〔晉書、裴楷傳〕每レ逢二榮貴一、輒取二其珍玩一、雖二車馬器服一、宿昔之閒、便以施二諸貧乏一。〔宋書、謝靈運傳〕每レ有三一詩至二都邑一、貴賤莫レ不二競寫一、宿昔之閒、士庶皆偏。㊁むかしから。以前から。從來。平生。夙昔。舊時。〔史記、公孫弘傳〕朕宿昔庶幾、獲レ承二尊位一、懼レ不レ能レ寧。〔漢書、蘇武傳〕宿昔之所レ不レ忘也。〔後漢書、陽球傳〕況君臣分定、而可レ懷二宿昔一哉。〔古樂府、飲馬長城窟行〕遠道不レ可レ思、宿昔夢見レ之。〔駱賓王、帝京篇〕紅顏宿昔白頭新、脱粟布衣輕二故人一。㊂一朝一夕でない意。〔論衡、感虛〕師曠能鼓二清角一、其初受レ學之時、宿昔習弄、非二直一再奏一也。

〖宿昔青雲志〗119 シュクセキセイウンノココロザシ 若い時からの壯志。〔張九齡、照レ鏡見二白髮一詩〕宿昔青雲志、蹉跎白髮年、誰知明鏡裏、形影自相憐。

【宿碩】120 シュクセキ 名望ある大家。老功の大家。

【宿設】121 シュクセツ あらかじめ設ける。〔左思、魏都賦〕置二酒文昌一、高張宿設、其夜未レ遽、庭燎晣晣。

【宿雪】122 シュクセツ 消え殘りの雪。殘雪。〔後漢書、

明帝紀〕京師冬無二宿雪一、春不二燠沐一。〔後漢書、和帝紀〕京師去冬無二宿雪一。

【宿遷】123 シュクセン 縣名。東晉の時の宿豫縣。唐の時、代宗の諱を避けて東遷縣と改む。江蘇省銅山縣の東南。西北は駱馬湖に臨む。秦の下相縣の地で、項羽の生れたところ。〔讀史方輿紀要、江安、淮安府、邳州〕宿遷縣、春秋時、鍾吾子國也、云云、漢爲二厹猶縣一、屬二臨淮郡一、云云、東晉義熙中置二宿豫縣一、屬二淮陽郡一、云云、唐初、復置二泗州一、治二宿豫一、開元二十三年、州移二治臨淮一、以二宿豫一屬レ之、寶應初、以二代宗諱一改曰二宿遷一。〔清史稿、地理志〕江蘇、徐州府、縣七、宿遷。

【宿錢】124 ヤドセン 旅館に泊つて支拂ふ料金。〔伊賀越道中雙六、沼津〕今夜の宿錢。

【宿善】125 シュクゼン ㊀善事を直ぐに行はないで引きのばすこと。〔說苑、政理〕文王問二於呂望一曰、爲二天下一若何、對曰、王國富レ民、霸國富レ士、僅存之國富二大夫一、亡道之國富二倉府一、是謂二上溢而下漏一、文王曰、善、對曰、宿善不祥、是日也、發二其倉府一、以振二鰥寡孤獨一。㊁佛 前世に行つた善根功德。〔往生要集、下末〕宿善內熟、今開發耳。

【宿膳】126 シュクゼン 夜食の膳。〔沈佺期、酬下蘇員外味道夏晚寓二直省中一見上レ贈詩〕大官供二宿膳一、侍史護二朝衣一。

【宿素】127 シュクソ ㊀平素からの志願。夙素。〔後漢書、鄭玄傳〕入二此歲一來、已七十矣、宿素衰落、仍有二失誤一、案二之禮典一、便合レ傳レ家。㊁かねてから威望あること。耆老で重望あるもの。〔宋史、張秉傳〕雖三久踐二中外一、然無二儀檢一、好二諧戲一、人不下以二宿素一稱上レ之。

【宿楚】128 シュクソ 叢生してゐる木。〔江淹、雜體詩、張黃門苦雨〕青苔日夜黃、芳蕤成二宿楚一。〔注〕良曰、宿楚、叢木也。

【宿息】129 シュクソク とどまりいこふ。〔後漢書、范冉傳〕行路倉卒、非下陳二契闊一之所上、可三共前亭宿息一以敍二分隔一。

【宿賊】130 シュクゾク 久しく惡事をしてゐる賊。夙賊。〔後漢書、劉表傳〕其姦猾宿賊、更爲二效用一。〔資治通鑑、漢紀〕（桓帝、延熹七年）桂陽宿賊卜陽・潘鴻等、逃入二深山一。〔注〕宿賊、言二積久爲レ賊者一。

【宿題】131 シュクダイ あらかじめ出しておく題。㊀詩文の題で、會日の數日前に出しておいて作らせるもの。兼題。席上題（4－8926‥29´）の對。㊁學校などで數日前から提出しておいて、作らせ又は答へさせる問題。

【宿盜】132 シュクタウ おほぬすびと。大盜。〔北史、崔寬傳〕誘二接豪右宿盜魁師一、與相交結。〔唐書、顏杲卿傳〕政化清明、誅二宿盜一、人情翕然。

【宿澤】133 シュクタク 冬の積雪。來年の豐作の因をなすといふのでいふ。宿はあらかじめ、澤は恩澤。〔詩、小雅、信南山、雨雪雰雰、疏〕明年將レ豐、今冬積雪爲二宿澤一也。

【宿諾】134 シュクダク 一旦請合つた事を躊躇して、すぐには實行せぬ。〔論語、顏淵〕子曰、片言可二以折レ獄者、其由也與、子路無レ宿レ諾。〔集解〕何晏曰、宿猶レ豫也。〔集注〕宿、留也、猶二宿怨之宿一、急二於踐レ言、不レ留二其諾一也。

【宿站】135 su^4 chan^4 旅人の宿泊する驛。

【宿恥】136 シュクチ 以前に受けたはぢ。積年の恥辱。〔漢書、陳湯傳〕雪二邊吏之宿恥一。〔舊唐書、房玄齡傳〕雪二往代之宿恥一。

【宿置】137 シュクチ 前夜から置く。〔王融、三月三日曲水詩序〕緹帷宿置、帟幕宵懸。

【宿場】138 シュクヂヤウ 宿驛。しゆくば。〔唐書、食貨志三〕裴迴以二八遞傷レ牛、乃爲二交場兩遞濱水處一爲二宿場一、分レ官總レ之。

【宿著】139 シュクチヨ あらかじめあらはれる。平生から有名なこと。〔應璩、百一詩〕名高不二宿著一、易三用受二侵誣一。

【宿儲】140 シュクチヨ 平生のたくはへ。〔後漢書、明帝紀〕稼穡不レ成、人無二宿儲一。〔注〕儲、積也。

【宿直】141 シュクチヨク ㊀役所などで、交代にとまり守ること。とのゐ。當直。〔南齊書、周顒傳〕宋明帝頗好レ言レ理、以三顒有二辭義一引入二殿內一、親近宿直。〔遼史、百官志一〕百官番宿爲二宿直一。㊁トノヰ ㋑傍に居て守る。㋺天子御寢所の奉仕。〔源氏物語、桐壺〕御方方の御とのゐ。

〖宿直奏〗142 トノヰマウシ 昔、宮中宿直の者が、夜中に自分の氏名を奏上すること。〔源氏物語、桐壺〕右近のつかさのとのゐ申しの聲。

〖宿直物〗143 トノヰモノ 宿直の時の必用品。衣服・夜具等の類。〔宇津保物語、藏開、中〕御とのゐ物召しに遣して。

【宿陣】144 シュクヂン 陣を取つて宿ること。宿營。〔謙信家記、輝虎越中發向事〕一兩日は此處に御宿陣。

【宿亭】145 シュクテイ 宿場バシュク。宿驛。〔陣。

【宿醒】146 シュクテイ 二日ゑひ。宿醉。〔白居易、和丁楊周州寒食乾坑會後聞二楊工部欲レ到知丙予與二工部一有乙宿醒甲詩〕宿醒無二興味一。〔雲仙雜記〕陳永陽王、宿醒未レ解、爲三蜜浸二烏梅一、每啖不レ下二二十枚一、清レ醒乃已。

【宿鳥】147 シュクテウ 塒に眠る鳥。寐鳥。〔吳融、西陵夜居詩〕林風移二宿鳥一、池雨定二流螢一。

【宿敵】148 シュクテキ 年來のかたき。

【宿哲】149 シュクテツ 經驗ある賢人。往哲。前哲。〔梅堯臣、資政王侍郎南京留守詩〕尹以二名臣一擇、朝仍二宿哲一僉。

【宿店】150 シュクテン はたごや。旅宿。〔福惠全書、筮仕部、起程〕每レ至二宿店一、亦按レ號查點、庶無二遺失一。

【宿蠹】151 シュクト 長く職に居る不良の官吏。財物を殘害する惡吏にたとへる。蠹は、きくひむし。〔柳宗元、零陵三亭記〕宿蠹藏奸、披露首服。

【宿度】152 シュクド 星の運行の度合。〔後漢書、律曆志中〕日月宿度、相二覺浸多一。〔事物紀原、天地生植部、宿度〕王子年拾遺記曰、庖犧視二五星之文、分野之度一、史記曆書曰、黃帝名二察度驗一、臣瓚謂、題二名宿度一、候二察進三退二辰之度、吉凶之驗一也、又曰、漢武招二致方術士唐都一、分二天部一、漢書音義云、謂下分二部二十八宿一爲中距度上、而晉書天文志亦曰、庖犧氏立二周天曆度一也。

【宿頭】153 su^4 t'ou やどのほとり。〔水滸傳、二回〕子母兩箇歡喜、在路上不覺錯過了宿頭。

【宿德】154 シュクトク ㊀有德の老人。〔後漢書、劉矩傳〕所二辟召一皆名儒宿德。〔後漢書、袁紹傳〕清英宿德。㊁シユウトク 身に德を積んだ人。落ついて威望のあること。〔三代實錄、廿五〕延二諸宗宿德僧百人一。〔宇津保物語、國讓〕見しよりも、いとしうとくに、清げにもなりたるかな。

【宿讀】155 シュクドク 前もつて讀むこと。後魏の闞駰は聰敏で、諸書を一目見れば、直ちに暗誦し、恰も前もつて讀んでおいたやうであつたから、時人が之を宿讀と稱した。〔北史、闞駰傳〕駰性聰敏過レ人、三史羣言、經レ目則誦、時人謂二之宿讀一。

【宿頓】156 シュクトン 泊る。たむろする。〔宋史、禮志七〕大中祥符元年、有レ事二於泰山一、詔以二行宮側官舍佛寺一、爲二百官宿頓之所一。〔剪燈餘話、至正妓人行〕沿道宿頓。

【宿肉】157 シュクニク 前夜から肉を用意して備へて置くこと。又、宵越しの肉。〔禮、王制〕六十宿レ肉。〔疏〕轉老故宿レ肉恆在二帳下一、不レ使二求而不一レ得。〔論語、鄕黨〕祭二於公一不レ宿レ肉。〔蔡邕、太尉楊秉碑〕廚無二宿肉一、器不二鏤雕一。

【宿禰】158 スクネ ㊀古、執政の職名。後、姓となる。八姓の一つ。〔日本書紀、天武紀下〕更改二諸氏之族姓一、作二八色之姓一、以混二天下萬姓一、云云、三、宿禰。㊁親しみよぶ語。連の姓の人に賜はるもの。〔日本書紀、崇神紀〕穗積臣遠祖、大水口宿禰。

【宿敗】159 シュクハイ 始めから負けるに定まつてゐる戰。〔唐書、突厥傳序〕天下雜然盜發、則疾驅以戰、是謂二宿敗之師一。

【宿抱】160 シュクハウ ふるくから抱いてゐる考。〔梁武帝、敕二何胤一〕所レ望惠然申二其宿抱一耳。

【宿飽】161 シュクハウ 夕食を十分に取り、翌朝に至つても、腹がはつてゐること。くひもたれ。〔三略、上略〕師不二宿飽一。〔史記、淮陰侯傳〕師不二宿飽一。

【宿坊】162 シュクバウ 寺院で、參詣人の休泊する室。〔東鑑、一、治承四年八月二十四日〕行實之宿坊者、參詣緇素羣集之閒。

【宿房】163 シュクバウ 旅館。〔竹添井井、萬里游記〕飯店宿房、俱極二雜沓一。

【宿望】164 シュクバウ ㊀以前からの人氣。老成して名望のある人。〔晉書、山濤傳〕時帝以二濤鄕閭宿望一、命二太子一拜レ之。〔唐書、崔元亮傳〕朝廷推爲二宿望一。〔權德輿、丞相李揆謚議〕建中中、西戎乞レ盟、以二舊齒宿望一、將二命殊俗一。㊁前からの願。年來ののぞみ。宿願。

【宿泊】165 シュクハク とまる。やどる。

【宿麥】166 シュクバク 麥。麥は秋蒔いて次の年に熟するから宿といふ。〔漢書、武帝紀〕元狩三年、遣二謁者一、勸下有二水災一郡上、種二宿麥一、擧下吏民能假二貸

貧民一者上以聞。〔注〕師古曰、秋冬種レ之、經レ歲乃熟、故云二宿麥一。〔淮南子、時則訓〕畜レ菜多積聚、勸レ種二宿麥一。〔後漢書、安帝紀〕冬十月、四州大水雨雹、詔以二宿麥不レ下、賑二賜貧人一。〔韓愈、奉下和兵部張侍郎酬二鄆州馬尚書云云一開緘之日馬已再領二鄆州一之作上詩〕暖風抽二宿麥一、淸雨卷二歸旗一。

【宿病】167 シュクビャウ　ながわづらひ。宿疾。

【宿負】168 シュクフ　ふるい借金。前からの負債。宿債。〔漢書、張敞傳〕敞皆召見責問、因貰二其罪一、把二其宿負一。〔晉書、武帝紀〕免二逋債宿負一。

【宿賦】169 シュクフ　とどこほつてゐる稅。未納稅。〔唐書、高祖紀〕免二民逋租宿賦一。

【宿福】170 シュクフク　佛 前世からの福德善根。〔法華經、化城喩品〕我等宿福慶、今得レ値二世尊一。

【宿物】171 シュクブツ　とどまつて去らぬ物。凝滯物。無二宿物一を見よ。

〔無二宿物一〕172 シュクブツナシ　凝滯物が無い。さつぱりしてゐること。〔世說新語、賞譽〕謝仁祖云、庾赤玉胷中無二宿物一。〔注〕赤玉庾統小字也。

【宿氛】173 シュクフン　永く續いて來た禍。久しい以前からの惡氣。〔星野豐城、大行天皇奉悼文〕宿氛蕩滌、道協二天人一。

【宿憤】174 シュクフン　年來の恨。かねての鬱憤。宿恨。〔班固、封二燕然山一銘序〕攄二高文之宿憤一、光二祖宗之玄靈一。

【宿分】175 シュクブン　前世から定まつてゐる運命。宿命。〔才鬼記〕皆是宿分、何必匆遽。〔劇談錄〕汝得レ至レ此、當レ有二宿分一。

【宿兵】176 シュクヘイ　❶ふるつはもの。長年つかへてゐる兵。〔曹植、求二自試一表〕先帝武臣宿兵、年耆卽レ世者有レ聞矣。❷兵を宿泊せしめる。〔越絕書、越絕外傳記吳地傳〕吳宿レ兵候二外越一也。

【宿秉】177 シュクヘイ　ふるい稻たば。秉は稻束。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕富商野次、宿秉停レ菑。〔注〕銑曰、秉、禾束也。

【宿弊】178 シュクヘイ　以前からのよくない習慣。一朝一夕でない弊害。〔唐書、溫璋傳〕鉏二宿弊一。〔國老談苑〕釐二宿弊一、大興二利益一。

【宿便】179 シュクベン　便祕の爲に長い間大腸に溜つてゐる糞便。

【宿逋】180 シュクホ　納稅者が逃亡した爲に生じたふるい租稅のとどこほり。〔唐書、李珏傳〕珏遷二河陽節度使一、罷二橫賦宿逋百餘萬一。

【宿謀】181 シュクボウ　かねてのたくみ。以前からのはかりごと。〔魏志、陳羣傳〕卒聞二已至一、謂レ有二奇變宿謀一、上下震懼。

【宿墨】182 シュクボク　硯に磨つた墨汁の、一夜を經過したもの。墨色に潤なく、且粘りを生ずるので、使用を戒められてゐる。

【宿木】183 ヤドリギ　植物學用語。❶他の樹木に寄生する木。寄生木。❷槲寄生科に屬する植物の名。

【宿毛】184 スクモ　土佐國の地名。

【宿莽】185 シュクマウ　草の名。一名、卷施草。冬、枯れない草。〔爾雅、釋草〕卷施草、拔レ心不レ死。〔注〕宿莽也。〔郝懿行義疏〕凡草通名レ莽、惟宿莽是卷施草之名也。〔郭璞、爾雅圖讚、釋草卷施〕卷施之草、拔レ心不レ死、屈平嘉、之、諷詠以レ此。〔楚辭、離騷〕夕攬二洲之宿莽一。〔注〕草冬生不レ死者、楚人名レ之曰二宿莽一。〔洪興祖補注〕爾雅云、卷施草、拔レ心不レ死、卽宿莽也。〔左思、吳都賦〕職貢納二其包匭一、離騷詠二其宿莽一。

【宿霧】186 シュクム　前の晚から罩めた霧。〔陶潛、詠二貧士一詩〕朝霞開二宿霧一、衆鳥相與飛。〔于良史、冬日野望詩〕地際朝陽滿、天邊宿霧收。

【宿名】187 シュクメイ　以前から聞えた名。又、宿は縮と同じで、名を取る意。〔莊子、徐无鬼〕枯槁之士宿名。〔釋文〕宿、積久也。〔俞樾、羣經平議〕宿、讀爲レ縮、縮、取也、枯槁之士縮レ名、猶レ言レ取レ名也、釋文曰、宿、積久也、於レ義未レ安。〔宋史、王旦傳〕初祐以二宿名一、久掌二書命一。

【宿命】188 シュクメイ シュクミヤウ　佛 過去の因緣による運命。先天的に定まつた運命。宿分。〔大藏法數、三十四〕六道衆生、各各宿命。〔白居易、香山寺白氏洛中集記〕宿命通省二今日事一。

〔宿命說〕189 シュクメイセツ　Fatalism 人生の行爲・境遇は悉く因果關係に束縛限定せられて、豫定の運命が有ると云ふ說。

〔宿命通〕190 シュクミヤウツウ　佛 六神通の一つ。よく衆生の宿命を知る神通智力。〔俱舍論〕宿住隨念智證通、自在知二宿世生命行事一之通力也。〔大藏法數、三十四〕亦能知二六道衆生各各宿命及所作之事一、是名二宿命通一。

〔宿命的人生觀〕191 シュクメイテキジンセイクワン　人間の行爲・境遇は運命に支配せられるといふ人生の見かた。

【宿問】192 シュクモン　問をとどめる。疑はしいことを胸中に留めて人に問はぬこと。〔大戴禮、五帝德〕宰我曰、昔者、予也聞二諸夫子一、曰、小子無レ有レ宿レ問。〔荀子、大略〕君子之學、云云、無レ留レ善、無レ宿レ問。

【宿夜】193 シュクヤ　終夜（**8**—**27372**・・98）に同じ。〔管子、禁藏〕宿夜不レ出者、利在レ水也。〔漢書、哀帝紀〕宿夜憂勞。

【宿預】194 シュクヨ　縣名。又、宿豫に作る。晉、置く。浙江省宿遷縣の東南。〔讀史方輿紀要、淮安府、邳州、宿遷縣〕宿豫故城、志云、春秋時宋遷二宿國之人於此一、因名、歐陽忞曰、晉元帝督二運軍儲於此一、以爲二邸閣一、後因有二宿預之名一。

【宿豫】195 シュクヨ　縣名。宿預に同じ。

【宿來】196 シュクライ　淸、周茂源（**2**—**3441**・・870）の字。

【宿老】197 シュクラウ　❶物事に經驗多く、事理によく通じた老人。耆宿。宿齒。耆老。〔北史、陸俟傳〕州中有德宿老、名望素重者、以二友禮一待レ之。〔唐書、李嶠傳〕與二王勃・楊盈川・接中興・崔融・蘇味道一齊レ名、晚、諸人歿、而爲二文章宿老一、時學者取レ法焉。❷㋑評定衆。㋺老中。家老。〔藩翰譜、五〕宿老の職になされ。㋩町內の年寄役。〔心中萬年草、中〕宿老殿へ往て。

【宿浪】198 シュクラウ　大きな浪。〔權德輿、渡二揚子江一詩〕樹晚疊二秋嵐一、江空翻二宿浪一。

【宿離】199 シュクリ　日月星辰の宿り止まることと離れ去ること。〔呂覽、孟春〕廼命二太史一、守レ典奉レ法、司二天日月星辰之行一、宿離不レ忒、無レ失二經紀一、以レ初爲レ常。

【宿留】200 シュクリウ シウリウ　❶滯在する。停滯する。まつ。〔廣韻〕宿、宿留。〔史記、孝武紀〕宿二留海上一、云云、遂至二東萊一、宿二留之一。〔注〕索隱曰、音秀溜、宿留、遲待之意、若依レ字讀、則言二宿而留一、亦是有レ所レ待、並通也。〔漢書、常山憲王舜傳〕及二憲王疾甚一、太子勃不二自嘗レ藥、又不二宿留侍レ疾。〔風俗通、過譽〕何敢宿留。〔後漢書、韋彪傳〕司徒劉愷復辟レ之、謂曰、卿以三輕好二去就一、爵位不レ躋、今歲垂レ盡、當レ選二御史一、意在二相薦一、子其宿留乎。〔注〕宿留、待也。❷心にとどめて忘れぬ。〔漢書、李尋傳〕宿二留瞽言一。〔王先謙補注〕此宿留、亦謂下存二其言於心一、以待中後時之參驗上也。❸とめてかくす。容庇。〔吳志、陸遜傳〕遜書與レ琮曰、卿不レ師二日磾一、而宿二留阿寄一、終爲二足下門戶一致レ禍矣。

【宿瘤】201 シュクリウ　春秋、齊の閔王の皇后。うなじにこぶがあつたからいふ。宿瘤採桑を見よ。〔魏志、徐邈傳〕宿瘤以レ醜見レ傳、而臣以レ醉見レ識。

〔宿瘤採桑〕202 シュクリウサイサウ　蒙求の標題。春秋、齊の閔王の后は頸に大瘤があつたので宿瘤と呼ばれた。初、王が出遊した時、農婦の中で、唯一人桑を摘みながら王の方を見向きもしない女がゐたので、怪しんで之と問答し、其の奇言を嘉して之を召上げ、立てて后とした故事。〔列女傳、辯通、齊宿瘤女傳〕宿瘤女者、齊東郭採桑之女、閔王之后也、項有二大瘤一、故號曰二宿瘤一、初閔王出遊至二東郭一、百姓盡觀、宿瘤採レ桑如レ故、王怪レ之、召問曰、云云、王大悅レ之曰、此賢女也、命二後乘一載レ之。

【宿慮】203 シュクリヨ　平素からの考。〔蜀志、彭羕傳〕公亦宿慮明定、卽相然贊。

【宿料】204 シュクレウ　やどちん。宿泊料。

【宿鷺】205 シュクロ　塒に眠る鷺。〔鄭谷、江際詩〕萬頃白波迷二宿鷺一、一林黃葉送二殘蟬一。

【宿六】206 ヤドロク　甚しい愚者。轉じて、亭主を賤しめていふ稱。

〔宿六斤〕207 シュクロクキン　複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕宿六斤氏、改爲二宿氏一。

【宿壹齋】208 シュクイッサイ　淸、柳興恩（**6**—**14662**・・256）の號。

【宿柔鋌】209 シュクジウテイ　刀の名。燒き方で得た名。宿鐵刀を見よ。

【宿粧殷】210 シュクシヤウイン　芍藥の一種。〔揚州芍藥譜〕宿粧殷、紫高多レ葉也、條葉花並類緋、多葉而枝葉絕高、平頭。

【宿星菜】211 ヌマトラノヲ　草の名。さくらさう科に屬する宿根草で、水邊の濕地に生じ、夏、白色總狀の

小花をつける。

【宿値門】212 su^4 chih^2 men^2 長屋門。

【宿鐵刀】213（シュクテツタウ） 刀の名。其の燒き方で得た名。〔北齊書、綦母懷文傳〕（懷文）造二宿鐵刀一、其法燒二生鐵精一、以重二柔鋌一、數宿則成レ剛、以二柔鐵一爲二刀脊一、浴以二五牲之溺一、淬以二五牲之脂一、斬レ甲過二三十札一、今襄國冶家所レ鑄宿柔鋌、乃其遺法、作刀猶甚快利、不レ能レ截二三十札一也。

【宿田翁】214（シュクデンヲウ） ㊀實のない禾の穗。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、浸彼苞稂〕稂童粱、禾秀爲レ穗而不レ成、崱嶷然、謂二之童粱一、今人謂二之宿田翁一。㊁草の名。狼尾草の異名。ちからぐさ。ちからしば。狼尾(**7**―**20432**‥85)を見よ。〔本草、狼尾草〕釋名、稂・蕫蓈・狼茅・孟・宿田翁・守田。

【宿工老師】215（シュクコウラウシ） 老功な工師。年とつた伶人。樂師。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕宿工老師不レ得二伏匿一。

【宿作外道】216（シュクサゲダウ） 佛 流派の名。外道十一宗の一つ。この世の苦樂は悉く前世の所作に因る。若し現世にて苦を受けても持戒精進すれば、前世の本業、壞れて衆苦滅し、涅槃（さとり）を得るといふ說。〔毘婆沙論、百九十八〕一切士夫補特伽羅、所レ有所レ受無レ不下皆以二宿作一爲上レ因、此非因計因戒禁取、見苦所レ斷、云云、問、此正法中、亦說二所レ受苦樂過去業爲一レ因、而非二惡見一、彼外道亦作二是說一、何故名二惡見一耶、答、此正法中說、現所レ受有下以二過去業一爲上レ因、有二是現在士用果者一、彼說下一切皆以二過去業一爲上レ因、不レ說二現在有二士用果一、故名二惡見一。

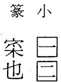
【宿柳睡花】217 su^4 liu^3 shuei^4 hua^1 遊女狂ひ。

【㝛】7196 シュク 宿(**3**―**7195**)の本字。〔正字通〕㝛、宿本字。

【㝜】7197 セキ シャク 〔集韻〕思積切 陌

夜。⿱宀借(**3**―**7261**)に同じ。又、昔(**5**―**13816**)に作る。〔集韻〕⿱宀借、夜也、或省、通作レ昔。

【宷】7198


小篆

［一］サイ 〔集韻〕此宰切 ㄘㄞˇ ts'ai^3 賄
［二］サイ 〔集韻〕倉代切 隊

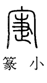
［一］［二］㊀**知行所**。〔爾雅、釋詁〕尸、宷也。〔注〕謂二宷地一。㊁**つかさ**。〔爾雅、釋詁〕宷、官也。〔注〕官地爲レ宷。〔疏〕宷、謂二宷地一、主レ事者必有二宷地一、宷、采也、采二取賦稅一以供二己有一。〔司馬相如、封禪文〕展レ宷錯レ事。㊂采(**11**―**40115**)に通ず。〔正字通〕宷、古作レ采。邦**うつぼ**。**やなぐひ**。片假名のウツホを合したるもので、楠正成が作つたといふ。

參考 宷(**3**―**7170**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕宷、古審字、釋悉等字从レ此。宷、僚宷、彩菜等字从レ此。

【宷臣】1（サイシン） 字號。㊀淸、徐宷(**4**―**10110**‥137)の字。㊁淸、盧必陞(**8**―**23050**‥285)の字。

【宷地】2（サイチ） 知行所。〔爾雅、釋詁〕尸、宷也。〔疏〕宷、謂二宷地一。

【寁】7199

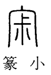

小篆

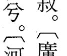
［一］サン 〔集韻〕子感切 ㄗㄢˇ tsan^3 感
［二］セフ ゼフ 〔集韻〕疾葉切 葉

［一］［二］㊀**すみやかに居る**。〔說文〕寁、居之速也、从レ宀疌聲。〔段注〕止部、疌、疾也、疌爲二凡速之詞一、从レ宀則爲二居之速一也。㊁**すみやか**。〔廣韻〕寁、速也、亟也。〔詩、鄭風、遵大路〕不レ寁レ故也。〔傳〕寁、速也。

參考 疐(**7**―**22006**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕寁、音昝、速也。疐、音致、躓也。

【寂】7200


小篆


或體

セキ ジャク 〔集韻〕前歷切 ㄐㄧˊ chi^2 錫

㊀**しづか**。**さびしい**。⿱宀尗(**3**―**7135**)に同じ。〔說文〕⿱宀尗、無二人聲一也、从レ宀尗聲。〔段注〕今字作レ寂。〔廣韻〕寂、靜也。〔老子、二十五〕寂兮寥兮。〔河上公注〕寂、無二音聲一也。㊁**やすらか**。〔廣韻〕寂、安也。㊂或は⿰言尗(**10**―**35442**)・諔(**10**―**35655**)・家(**3**―**7101**)・漃(**7**―**18104**)に作る。〔集韻〕⿱宀尗、或作二寂・⿰言尗・諔・家・漃一。㊃佛 滅。涅槃の異名。妄想が滅し、障礙が盡きて、本有常住の眞理が現れること。〔維摩問疾品〕導レ人入レ寂。

名乘 シヅ。チカ。ヤス。

【寂友】1（ジャクイウ） 唐の高僧。都貨羅國の人。武后の時、渡來して、大乘入楞伽經・無垢淨光陀羅尼經を譯した。〔宋高僧傳〕。

【寂淹】2（セキエン） しづか。音がない。〔鮑照、擬行路難〕執袂分別已三載、邇來寂淹無二分音一。

【寂閒】3（セキカン） さびしくしづかなこと。閒寂。

【寂光】4（ジャククワウ） 佛 ㊀寂は眞理の寂靜。光は眞智の光照。衆生を解脫させる理智の二德の力。〔大日經疏、一〕爲二此寂光所一レ照。㊁寂光淨土の略。

【寂光土】5（ジャククワウド） 佛 常寂光土の略。四種佛土の一つ。衆生が解脫して究竟覺に達した境界。〔淨名經疏、一〕寂光土者、妙覺極智所レ照、如如法界之理、名レ之爲レ國。

〔寂光淨土〕6（ジャククワウジャウド） 寂光土に同じ。

【寂乎】7（セキコ） しづかなさま。寂爾。寂寂。〔莊子、天下〕芴乎若レ亡、寂乎若レ清。

【寂爾】8（セキジ） しづかなさま。寂乎。〔嵆康、琴賦〕安廻徐邁、寂爾長浮。〔陸龜蒙・皮日休、寒夜聯句〕寂爾萬籟淸、皎然諸靄滅。

【寂常】9（ジャクジャウ） 佛 涅槃のこと。煩惱なきを寂といひ、生滅なきを常といふ。〔楞嚴經、一〕良由レ不レ知二寂常心性一。

【寂種】10（ジャクシュ） 佛 涅槃の寂滅を欣樂する聲聞、緣覺乘の種性。〔二教論〕寂種之人、膏肓之病、醫王拱レ手。

【寂心】11（ジャクシン サビゴコロ） 俗事を脫して幽寂の境を愛する心。

【寂靜】12（セキセイ） ㊀世間を離れてしづかなこと。〔唐書、南蠻下、驃傳〕七日禪定、驃云二掣覽詩一、謂二離レ俗寂靜一也。㊁佛（ジャクジャウ） 煩惱を離れることを寂といひ、苦患を絕つことを靜といふ。卽ち涅槃の理をいふ。〔華嚴經、一〕觀二寂靜法一、滅二諸痴闇一。

〔寂靜門〕13（ジャクジャウモン） 佛 一切諸法は本來寂靜であるからいふ。〔寶篋經〕一切諸法、皆是寂靜門。

【寂照】14（ジャクセウ） 佛 眞の理體を寂といひ、眞の智用を照といふ。〔楞嚴經、六〕淨極光二通達一、寂照含二虛空一。

【寂寂】16（セキセキ ジャクジャク） さびしく靜かなさま。寂乎。寂爾。さびれるさま。落寞のさま。〔左思、詠史詩〕寂寂楊子宅、門無二卿相輿一。〔南史、王融傳〕融自恃二人地一、三十內望爲二公輔一、及レ爲二中書郞一、嘗撫レ案歎曰、爲二爾寂寂一、鄧禹笑レ人。〔杜甫、涪城縣香積寺官閣詩〕小院回廊春寂寂。〔王維、寒食汜上作詩〕落花寂寂啼レ山鳥、楊柳青青渡レ水人。〔樂府雜錄〕廣場寂寂、若レ無二一人一。〔張祜、胡渭州詩〕亭亭孤月照二行舟一、寂寂長江萬里流。

【寂然】17（セキゼン ジャクネン） さびしいさま。又、しづかなさま。寂焉。〔易、繫辭上〕易无レ思也、无レ爲也、寂然不動、感而遂通二天下之故一。〔淮南子、俶眞訓〕汪然平靜、寂然淸澄。〔列女傳、賢明傳〕寂然淸靜。〔維摩經、弟子品〕法常寂然。

〔寂然界〕18（ジャクネンカイ） 佛 涅槃の境地。〔大日經、一〕蘊處界、能執所執、皆離二法性一、如レ是證二寂然界一。

〔寂然居士〕18'（セキゼンコジ） 金、郭用中(**11**―**39474**‥419)の號。

【寂堂】19（セキダウ） 淸、唐訪(**2**―**3709**‥297)の號。

【寂聽】20（セキチャウ） しづかにきく。〔鮑照、蕪城賦〕凝レ思寂聽、心傷已摧。

【寂定】21（ジャクヂャウ） 佛 妄心妄想を離れること。〔無量壽經、上〕廣普寂定、深入二菩薩法藏一。〔淨影疏、上〕一切法中不レ起二妄想一、名二廣寂定一。

【寂場】22（ジャクヂャウ） 寂しく靜かな所。寂滅道場。〔法

華玄義、一上〕雖二高山頓說一、不レ動二寂場一。

〔寂場樹〕23（ジャクヂャウジュ）　木の名。菩提樹（9－3120 5・・23）に同じ。

【寂動】24（セキドウ）　しづかなのとうごくこと。靜動。動靜。〔江淹、雜體詩、孫廷尉綽雜述〕寂動苟有レ源、因謂二殤子夭一。

【寂念】25（セキネン）　❶さびしくしづかな思。寂慮。〔劉孝孫、遊二靈山寺一詩〕永懷筌二了義一、寂念啓二玄門一。❷［佛］（ジャクネン）寂靜の念慮。禪定。〔圓覺經〕於二陀羅尼一不レ失二寂念及諸靜慧一。

【寂泊】26（セキハク）　寂寞に同じ。〔晉書、束皙傳〕守二寂泊一以鎭レ俗。〔謝靈運、山居賦〕乘二恬知一以寂泊、含二和理之窈窕一。

【寂魄】27（セキハク）　さびしいたましひ。〔韻府引、莊子注〕枯木同二其不華一、死灰均二其寂魄一。

【寂寞】28（セキバク・ジャクマク）　ひつそりとして淋しいさま。又、形も聲も無いさま。又ひろびろとしたさま。寂泊。寂魄。寂漠。寂寥。寂漻。寂歷。〔文子、微明〕寂寞之中、獨有レ照焉。〔呂覽、審分〕意氣得レ游二乎寂寞之宇一矣。〔漢書、揚雄傳下〕胥靡爲レ宰、寂寞爲レ尸。〔新語、道基〕虛無寂寞、通動無量。〔淮南子、齊俗訓〕蕭條者形之君、而寂寞者音之主也。〔論衡、論死〕今夫妻死者、寂寞無レ聲。〔江淹、別賦〕咸寂寞而傷レ神。〔鮑照、詠史詩〕君平獨寂寞、身世兩相棄。〔王維、山居卽事詩〕寂寞掩二柴扉一、蒼茫對二落暉一。

〔寂寞無爲〕29（セキバクムヰ）　靜かにじつとしてゐる。〔莊子、天道〕虛靜恬淡、寂寞無爲。

【寂漠】30（セキバク）　寂寞に同じ。〔莊子、刻意〕恬惔寂漠、虛無無爲。〔楚辭、遠遊〕野寂漠其無レ人。〔注〕林澤空虛、罕レ有レ人也。〔集注〕寂、一作レ家、漠、一作レ寞。〔漢書、敍傳下〕長沙寂漠、廣川亡レ聲。〔淮南子、本經訓〕太淸之始也、和順以寂漠。〔論衡、感類〕見二類驗於寂漠一。〔陸機、赴レ洛詩〕寂漠聲必沈。

【寂謐】31（セキヒツ）　しづか。ひつそりしてゐること。靜寂。寂莫。〔司馬相如、美人賦〕閑房寂謐、不レ聞二人聲一。

【寂蔑】32（セキベツ）　さびしい。寂薎。〔晉書、張駿傳〕江吳寂蔑、餘波莫レ及。〔謝靈運、鄰里相二送方山一詩〕各勉二日新志一、音塵慰二寂蔑一。〔注〕翰曰、蔑、無也。

【寂薎】33（セキベツ）　寂蔑に同じ。〔陸厥、奉二答內兄希叔一詩〕殂落固云是、寂薎終如レ斯。

【寂昧】34（セキマイ）　靜かで奧深い。〔陶弘景、發眞隱訣序〕況玄妙之秘途、絕領之奇篇、而可レ不下探二括沖隱一、窮中思寂昧上者乎。

【寂滅】35（セキメツ）　❶消えうせる。〔隋書、牛弘傳〕憲章禮樂、寂滅無レ聞。❷［佛］（ジャクメツ）煩惱を脫し、生死の累を絕つた境界。涅槃の譯。〔法華經、序品〕或有二菩薩一、見二寂滅法一。〔維摩經、佛國品〕一切法皆悉寂滅。

〔寂滅爲樂〕36（ジャクメツヰラク）　［佛］生死の苦に對して涅槃を樂とする意。四句偈の一句。〔涅槃經、下〕諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅爲樂。

〔寂滅道場〕37（ジャクメツダウヂャウ）　［佛］釋尊が悟を開いた尼連禪河畔の道場。釋尊が正覺を成就し、佛身を現じて、華嚴經を說いた菩提樹の下をいふ。寂場。〔晉華嚴經、一〕一時佛在二摩竭陀國寂滅道場一、始成二正覺一。

〔寂滅無二〕38（ジャクメツムニ）　［佛］涅槃は一切差別の相を離れてゐるからいふ。〔圓覺經〕圓覺普照、寂滅無二。

【寂默】39（セキモク）　靜かなこと。〔孫綽、遊二天台山一賦〕恣二語樂於終日一、等二寂默於不言一。〔韓愈・孟郊、遣興聯句〕獨居久寂默、相顧聊慨慷。

〔寂默居士〕40（セキモクコジ）　宋、晁端稟（5－13889・・26）の號。

【寂慮】41（セキリョ）　しづかなおもひ。寂念。〔韓偓、山院避暑詩〕靜陰生二晚綠一、寂慮延二淸風一。

【寂寥】42（セキレウ）　しづかに淋しいさま。又、ひろびろとしたさま。寂寞(28)に同じ。〔老子、二十五〕寂兮寥兮、獨立而不レ改。〔注〕寂者無二音聲一、寥者空無レ形。〔文子、道原〕楚寥淡漠、不レ聞二其聲一。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕聲噭噭以寂寥兮。〔注〕寂寥、空無二人民一之貌。〔論衡、自紀〕矜莊寂寥、有二巨人之志一。〔謝惠連、七月七日夜詠二牛女一詩〕沃若靈駕旋、寂寥雲幄空。〔任昉、上二蕭太傅一固二辭奪禮一啓〕晨暮寂寥、闃若レ無レ主。

【寂漻】43（セキレウ）　寂寥に同じ。〔漢書、禮樂志〕寂漻上天知二厥時一。〔注〕應劭曰、言天雖二寂漻高遠一、而知二我饗薦之時一也。〔司馬相如、上林賦〕寂漻無レ聲、肆乎永歸。〔注〕向曰、寂漻、淸深也。

【寂歷】44（セキレキ）　寂寞(28)に同じ。〔江淹、雜體詩、王徵君養疾〕寂歷百草晦、欻吸鶤鷄悲。〔注〕善曰、寂歷、彫踈貌。向曰、閑曠貌。〔張說、滬湖山寺詩〕空山寂歷道心生、虛谷迢遙野鳥聲。〔殷遙、山行詩〕寂歷靑山曉、山行趣不レ稀。

【寂居穴】45（セキキョケツ）　墓。唐の姚勖が自ら墓場を作つてつけた名。〔唐書、姚勖傳〕自作二壽藏於萬安山一、署レ兆曰二寂居穴一、墳曰二復眞堂一、中列レ土爲レ牀曰二化臺一、因刻レ石告二後世一。

〔寂兮寥兮〕46（セキタリレウタリ）　形もなく聲もない。無爲を主張する老子の中心思想。〔老子、二十五〕寂兮寥兮、獨立而不レ改。

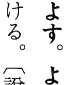
〔寂若レ無レ人〕47（セキトシテヒトナキガゴトシ）　ひつそりとして人が居らぬやうである。〔世說新語補、德行下〕傅茂遠泊然靜處、不二妄交遊一、袁司徒每レ經二其戶一、輒歎曰、經二其戶一寂若レ無レ人、披二其帷一其人斯在、豈得レ非二名賢一。

【寂天寞地】48（セキテンバクチ）　天地のひつそりとして聲のない義。物事が密かに藏して毫も活動のない狀態の喩。〔傳習錄、下〕先生曰、未レ扣時、原是驚天動地、既扣時也、只是寂天寞地。

【⿱宀叕】7201　タツ　窡（8－25558）の譌字。〔正字通〕⿱宀叕、窡字之譌。

【寃】7202　エン　冤（2－1587）の俗字。〔正字通〕寃、俗冤字。

【寄】7203　キ　〔集韻〕居義切　ㄐㄧˋ　寘　chi⁴


小篆

❶よす。よせる。㋑まかす。あづける。〔說文〕寄、託也、从レ宀、奇聲。〔國語、齊語〕令可二以寄一レ政。〔注〕寄、託也。㋺つける。〔廣韻〕寄、附。㋩やる。あたへる。おくる。〔南史、江淹傳〕前以二一匹錦一相寄。㋥たのむ。〔史記、酷吏、郅都傳〕請寄無レ所レ聽。㋭傳へる。〔增韻〕寄、傳也。㋬思をやる。心を傾ける。〔沈約、與二約法師一書〕風趣高寄、志託二夷遠一。〔黃庭堅、白山茶賦序〕興寄高遠。❷よる。たよる。〔廣雅、釋詁四〕寄、依也。〔後漢書、鄧禹傳〕方有レ事二山東一、未レ知レ所レ寄。〔宋史、食貨志〕使者守令所レ與、朕共寄而共憂也。❸たより。たのみ。ちから。依り所。〔魏書、朱瑞傳〕故居二之門下一、爲二腹心之寄一。❹たのまれ。委任。〔漢書、丙吉傳〕任二天下之寄一。〔江淹、謝二開府辟召一表〕既乖二覆業一、彌感二深寄一。❺せめ。つとめ。任務。〔宋史、黃洽傳〕使下主二兵官一兼中郡寄上、是合二兵民權一爲レ一。❻かりずまひ。かりに住む。羇（9－28412）に通ず。〔增韻〕寄、寓也。〔周禮、地官、遺人〕以待二羇旅一。〔注〕故書、羇作レ寄、杜子春云、云云、寄、當レ爲レ羇。〔國語、周語中〕國無二寄寓一。〔注〕不レ爲四廬舍可三以寄二寓羇旅之客一也。〔白居易、呈二韋侍御一詩〕夫君亦淪落、此地同飄寄。❼旅客。〔一切經音義、十五〕寄、客也。❽東方の言語を傳譯する官。〔禮、王制〕五方之民、言語不レ通、嗜欲不レ同、達二其志一、通二其欲一、東方曰レ寄、南方曰レ象、西方曰二狄鞮一、北方曰レ譯。❾［現］送る。［邦］❶よる。㋑近よる。㋺集まる。重なる。㋩傾く。㋥よりかかる。㋭靡き從ふ。服從する。㋬立ち寄る。㋣思ひつく。㋠のりうつる。つく。❷より。㋑集まること。㋺立ちよること。よりみち。㋩腫物などの餘毒が一處にかたまること。又、其の物。㋥取引所の語。寄附（ヨリツキ）の略。❸よす。㋑ゆだねる。㋺返す。㋩ちなむ。㋥寄せ集める。㋭寄せ算をな

す。㋬寄進する。㊃よせ。㋑うしろみ。後見。㋺わけ。いはれ。㋩種々の藝人等が錢を取つて多くの人を集め、己の技藝を示して快樂を與へる場所。よせせき。㋥よせしき。㋭圍碁の語。終局に近づいて、端々の殘つた目に、はねかけ出すべき所。㋬賭博の一種。㊄やどりき。相模國の地名。

名乘 ヨリ。

【寄菴】1キアン 字號。㊀清、祁墳(**8**―**24634**‥12)の字。㊁清、張應昌(**4**―**9812**‥835)の號。㊂清、劉大紳(**2**―**2224**‥1160)の字。

〔寄菴老人〕2キアンラウジン 金、李遹(**6**―**14459**‥35)の號。

【寄意】3キイ 心を寄せる。心を傾ける。〔江淹、雜體詩、許徵君詢自敍〕苕苕寄意勝、不レ覺淩虛上。〔李商隱、哭二遂州蕭侍郎一二十四韻詩〕青雲寧寄レ意、白骨始霑レ恩。

【寄委】4キヰ 明、陳體文(**11**―**41698**‥1111)の號。

【寄雲】5キウン 清、毛鴻賓(**6**―**16772**‥273)の字。

〔寄雲樓〕6キウンロウ 明、陶汝鼐(**11**―**41705**‥199)の室名。

【寄怨】7キエン 公を借りて私忿を洩す。他にかこつけて怨をもらす。〔宋史、綦崇禮傳〕入二翰林一凡五年、所レ撰詔命數百篇、文簡意明、不二私美一、不二寄怨一、深得二代言之體一。

【寄翁】8キヲウ 字號。㊀宋、黎立武(**12**―**47994**‥127)の號。㊁明、朱應辰(**6**―**14424**‥682)の號。

【寄下】9 chi^4 hsia^4 あづけておく。〔水滸傳、九回〕果是這人症候有身、權且寄下、待病痊可卻打。

【寄價】10 chi^4 chia^4 送料。運賃。

【寄猳】11キカ 人の妻を姦すること。猳は牡猪。姦夫を牡猪に譬へていふ。有夫姦。〔史記、秦始皇紀〕夫爲二寄猳一、殺レ之無レ罪。〔注〕索隱曰、猳、牡豬也、言下夫淫二他室一、若中寄猳之豬上也。

【寄交】12 chi^4 chiao^1 ㊀交付する。㊁委託する。

【寄航】13キカウ 航海中に船が港に立寄ること。寄港。

【寄港】14キカウ 寄航に同じ。

〔寄港場〕15 chi^4 kang^2 ch'ang^3 通商地として外國に開放した場所以外で、條約に依つて外國汽船の寄港竝びに貨客の積卸しを爲し得る場所。例へば揚子江沿岸の通州・江陰・大通・安慶など。

【寄稿】16キカウ 新聞雜誌等に原稿を送ること。寄書。

【寄傲】17キガウ 心に適したやうに暮して、少しも憚る所がない。傲はきままの意。一說に、傲は樂。〔陶潛、歸去來辭〕倚二南牕一以寄レ傲。〔古文眞寶箋解〕句解注云、徙二倚南窓下一、以寄二傲レ世之情一、傲、字彙、慢也、倨也、又樂也。

〔寄傲軒〕18キガウケン 室名。㊀明、守仁(**3**―**7071**‥132)の室名。㊁清、沈赤然(**6**―**17189**‥576)の室名。

【寄客】19キカク ゐさふらふ。食客。〔抱朴子外篇、自敍〕且榮位勢利、譬如二寄客一。

【寄褐】20キカツ ㊀幼兒の無事成長を祈つて、僧衣を著せること。〔釋氏要覽〕今世人護二惜孩兒一、遂服以二僧衣一、謂二之寄褐一。㊁妻帶してゐる道士。〔正字通〕道、今黃冠有二妻孥一者名二寄褐一、燕翼貽謀曰、宋禁宮觀寄褐、今稱二火居道士一、是也。

【寄合】21ヨリアヒ ㊀集會。〔東鑑、三十八〕寶治元年六月二十六日、內內有二御寄合事一。㊁德川時代、萬石以下三千石以上の旗本で、役儀のない者。〔延寶三年江戶鑑〕御寄合。

【寄監】22キカン 假牢に入れる。〔福惠全書、刑名部、反叛、拿審〕將二首人一寄監。

【寄顏】23キガン 顏をよせる。顏を合せる。會ふ。〔晉書、蔡謨傳〕謨遷二侍中司徒一、上疏讓曰、尸素累積、而光寵更崇、謗讟彌興、而榮進復加、上虧二聖朝棟隆之擧一、下增二微臣覆餗之釁一、惶懼戰灼、寄レ顏無レ所。

【寄龕】24キガン 清、孫德祖(**3**―**6987**‥516)の號。

【寄汲】25キキフ 人の井に寄つて汲む。貰ひ水をする。〔淮南子、覽冥訓〕乞レ火不レ若レ取レ燧、寄汲不レ若レ鑿レ井。

【寄宮】26キキユウ 術數家が十二支を十二宮とし、十干を十二支中に分配すること。甲は寅に、乙は辰に、丙戊は巳に、丁己は未に、庚は申に、辛は戌に、任は亥に、癸は丑にあるやうにする。子・卯・午・酉は用ひない。十二宮(**2**―**2695**‥352)の㊁を見よ。

【寄去】27キキヨ ㊀外から來り寄る富貴などの去ること。〔莊子、繕性〕今寄去則不レ樂。㊁chi^4 ch'ü^4 送つてみる。送附する。

【寄居】28キキヨ ㊀かりずまひ。又、かりにすむ。寄寓。寓居。〔漢書、息夫躬傳〕躬歸レ國未レ有二第宅一、寄二居丘亭一。〔曹植、仙人篇〕俯觀二五嶽閒一、人生如二寄居一。㊁やどかり。かみな。寄居蟹・寄居蟲を見よ。

〔寄居蝦〕29キキヨカ 寄居蟹に同じ。

〔寄居蟹〕30キキヨカイ やどかり。一寸ばかりの節足動物で、頭は蝦、螯は蟹に似、他の貝殼中に住む。蠣奴。寄居蝦。寄生蟲。寄居蟲を見よ。〔本草、蟹〕集解、時珍曰、居二蚌腹一者蠣奴也、又名二寄居蟹一。

〔寄居官〕31キキヨクワン 朝廷出仕の官吏。〔朝野類要、上〕名二私居官一、不レ以二客居一、及本貫土著、皆謂二之私居一、寄居、其義蓋有レ官者、本朝廷仕官也。

〔寄居子〕32カミナ やどかり。寄居蟹。〔倭名類聚抄、龜貝部、龜貝類、寄居子〕加美奈、俗假用二蟹蜷二字一、貌似二蜘蛛一者也。

〔寄居蟲〕33キキヨチユウ やどかり。寄居蟹に同じ。〔本草、寄居蟲〕集解、藏器曰、寄居在二螺殼閒一、非レ螺也、候二螺蛤開一、卽自出食、螺蛤欲レ合、已還二殼中一、海族多被二其寄一。〔南州異物志〕寄居之蟲、如レ螺而有レ腳、形如二蜘蛛一、本無レ殼、入二空螺殼中一、戴以行、觸レ之縮レ足、如二螺閉レ戶也、火炙レ之乃出走、始知二其寄居一也。

【寄寓】34キグウ ㊀かかりゐる。かかりゐる者。寄留者。寄坐。寄迹。〔韓非子、亡徵〕公家虛而大臣實、正戶貧而寄寓富、耕戰之士困、末作之民利者、可レ亡也。〔吳志、吳主孫權傳〕天下英豪、布在二州郡一、賓旅寄寓之士、以二安危去就一爲レ意、未レ有二君臣之固一。㊁かりずまひ。やどり。旅舍。〔國語、周語中〕司里不レ授レ館、國無二寄寓一。〔注〕寓、亦寄也、無二寄寓一者、不レ爲四廬舍可三以寄二羈旅之客一。〔劉歆、遂初賦〕憐二後君之寄寓一兮、唁二靖公之銅鞮一。〔梁昭明太子、陶淵明集序〕寄寓謂二之逆旅一。

【寄貨】35 chi^4 huo^4 ㊀貨物を托送する。㊁委託貨物。

【寄回】36 chi^4 huei^2 送りかへす。

【寄懷】37キクワイ 思ふことを物によせていふ。〔魏氏春秋〕阮籍作二蘇門先生論一、以寄二所懷一。〔陶潛、九日閑居詩序〕寄二懷於言一。〔許渾、晨起詩〕清鏡曉看レ髮、素琴秋寄レ懷。

【寄篁】38キクワウ 清、施昭庭(**5**―**13629**‥165)の字。

【寄款】39キクワン ㊀まごころを寄せる。〔陸機、思親賦〕指二南雲一以寄レ款、望二歸風一而效レ誠。㊁金を送る。

【寄徑】40キケイ 路を借りる。通してもらふ。〔戰國、東周策〕顏率至レ齊、謂二齊王一曰、云云、願獻二九鼎一、不レ識大國何涂之從而致二之齊一、齊王曰、寡人將三寄二徑於梁一。〔正解〕徑、步道也、猶レ言レ假レ涂。

【寄軒】41キケン 清、宋有元(**3**―**7078**‥221)の號。

【寄言】42キゲン いひやる。ことづてをする。寄語。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕寄レ言全盛紅顏子、應レ憐半死白頭翁。〔孟浩然、秦中苦雨思歸贈二袁左丞賀侍郎一詩〕寄レ言當路者、去矣北山岑。

【寄戶】43キコ かかりゐるもの。寄留者。寄寓。正戶(**6**―**16255**‥153)の對。客戶(**3**―**7128**‥42)の㊁に同じ。

【寄庫】44キコ ㊀遼の風俗で、十月に紙の衣服や器具などを作り、國主と押番臣とで、密かに木葉山を祭り、酒を供へ、番字の書狀と共に燒いて山神にすすめること。今の人が寓錢を生前に焚き、冥土の吏に依託して死後の用とするといふ風俗も、亦この遼俗から出たものであらう。〔葉隆禮、遼志〕遼俗、十月內、五京進二紙衣甲器械一、十五日、國主與二押番臣一、密望二木葉山一、奠レ酒、用二番字書狀一、同燒化以奏二山神一曰二寄庫一。㊁chi^4 k'u^4 銀行などで、自ら所有權を有しない在庫物品をいふ。卽ち預品。寄存。

【寄語】45キゴ ことづてする。傳言。寄聲。寄言に同じ。〔梁武帝、襄陽蹋銅蹄歌〕寄語故人情、知我心相憶。〔孟浩然、同二張明府清鏡嘆一詩〕寄語邊塞人、如何久離別。

【寄公】46キコウ 國を失つて他國に身をよせてゐる君主。寓公。〔儀禮、喪服〕傳曰、寄公者何也、失レ地之君也。〔禮、喪大記〕君之喪未二小斂一、爲二寄

公國賓一出。〔注〕寄公、諸侯失レ國、而寄二託鄰國一者也。

【寄恨】47キコン　恨の心を物に寄せること。〔劉禹錫、傷二愚溪一詩引〕有レ僧遊二零陵一、告レ余曰、愚溪無レ復二曩時一矣、一聞二僧言一、悲不レ能二自勝一、遂以レ所レ聞爲二七言一以寄レ恨。

【寄坐】48キザ　かかり人。寄寓。〔資治通鑑、晉紀〕（懷帝、永嘉四年）陛下便爲二寄坐一耳。〔注〕言、大權非二己出一、託二位於臣民之上一、勢同二寄寓一也。

【寄載】49キサイ　載せてもらふこと。〔蜀志、麋竺傳、注〕路傍見二一婦人一、從レ竺求二寄載一、行可二數里一、婦謝去。

【寄齋】50キサイ　字號。❶清、巢可託（4－8696‥48）の字。❷三宅島の號。三宅寄齋（1－12‥1235）を見よ。

【寄藏】51キザウ　他人の爲に保管すること。

【寄子】52ヨリコ　配下のもの。又、奉公人。寄親（ヨリオヤ）の對。〔新式目追加〕所下當二公事一對捍上輩事、右支二配寄子等一之處。

【寄氏】53キシ　縣名。❶後魏、置く。山西省屯留縣の西南。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府、屯留縣〕猗氏城在二縣西南七十里一、漢縣屬二上黨郡一云云、後魏置二寄氏縣一、仍屬二上黨郡一。❷隋、置く。山西省長子縣の西。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府〕長子縣、府西南五十里、云云、隋開皇九年、置二寄氏縣一。

【寄死】54キシ　他人の厄介になつてゐて死ぬこと。〔漢書、佞幸、鄧通傳〕竟不レ得レ名二一錢一、寄二死人家一。

【寄質】55キシ　始めて君に相見える時、にへをおくること。始めて仕官する。質は贄と同じく、進物の意。委質（3－6181‥66）に同じ。〔史記、蘇秦傳〕蘇代乃遺二燕昭王書一曰、夫列在二萬乘一、而寄二質於齊一、名卑而權輕。

【寄似】56キジ　おくる。〔歐陽脩、紫石屛歌〕呼レ工畫レ石持寄似、幸子留レ意其無レ謙。

【寄售】57 chi⁴ shou⁴　委託販賣。取次販賣。寄賣。

【寄謝】58キシヤ　ことづてする。禮を傳へて下さいといふ意。〔孟浩然、同二獨孤使君東齋作一詩〕寄謝東陽守、何如八詠樓。〔蘇軾、司馬溫公神道碑〕寄二謝司馬丞相一、愼毋レ去二朝廷一。

【寄莊】59 chi⁴ chuang¹　人民が他の州縣で土地を所有すること。寄莊寄糧を見よ。

【寄莊錢】60 chi⁴ chuang¹ ch'ien²　湖北省で小作保證金をいふ。

【寄莊田】61 chi⁴ chuang¹ t'ien²　他人に作らせて、其の地代を收める田地。小作田。

【寄莊寄糧】62キシヤウキリヤウ　土地を自分の住所以外に有し、納稅を他人に依託しておくこと。〔皇朝文獻通考、田賦考、改二正各直省寄莊寄糧之弊一〕雍正七年諭、直省有二寄莊寄糧之弊一、悉令二改正一、先レ是、直隸地方、往往地寄二此處一、糧寄二他處一、但於宣化一、萬全者、更有下在二懷安一納レ糧、而寄二地於順天府之寶坻・豐潤・三河一、相隔五百餘里者上、至レ是令二直隸總督詳察一、並他省有二類レ此者一、俱令下該二督撫一議中更正改隸之法上。

【寄情】63キジヤウ　思を物にこと寄せる。物にふれて感興が起る。又、心を傾注する。〔孟浩然、九日詩〕茱萸正可レ佩、折取寄二情親一。〔許渾、長安旅夜詩〕掩レ瑟獨凝思、緩歌空寄レ情。

【寄手】64ヨセテ　攻めよせる敵の軍隊。〔保元物語、白河殿義朝夜討事〕寄手の兵。

【寄主】65 chi⁴ chu³　寄生物が附着してゐる主體の生物をいふ。

【寄宿】66キシユク　❶人の家にかりずまひする。寄寓。〔戰國、趙策〕今日臣之來也、暮後郭門、藉レ席無レ所レ得、寄二宿人田中一。〔史記、建元以來侯者年表〕寄二宿霍氏第舍一。〔後漢書、郭躬傳〕寄二宿鄉亭一。〔列仙傳〕寄二宿道觀一。〔顏氏家訓、雜藝〕歸忌二寄宿一、不レ免二凶終一。❷宿る。〔高適、寄二宿田家一詩〕。❸學校・家塾などで、生徒が宿ること。寄宿舍を見よ。

【寄宿舍】67キシユクシヤ　寄宿すべき家。學校・家塾などで、生徒の寄宿する爲に、設けた建物。

【寄書】68キシヨ　❶手紙をやること。〔庾信、竹杖賦〕玉關寄レ書、章臺留レ釧。〔賈島、送二李餘及第歸レ蜀詩〕肯寄レ書來否、原居出甚稀。❷新聞・雜誌等に揭載する爲に寄贈する文章。寄稿。

【寄書桃】69キシヨタウ　桃の一種。其の實に手紙などを入れて友に贈る。〔倦陽雜錄〕蕪湖寄書桃、三四尺許、花色淡、與二山桃一無レ異、每熟時、其核自開而仁落、以レ物實レ之、則經レ宿而合、人往往作二小詩一或書、納レ之以餉レ友、曰二寄書桃一也、種自二西蜀一。

【寄食】70キシヨク　人にたよつて口をすごす。ゐさふらふをする。又、其の人。食客。〔戰國、齊策〕齊人有二馮煖者一、貧乏不レ能二自存一、使三人屬二孟嘗君一、願三寄二食門下一。〔史記、淮陰侯傳〕常數從二其下鄉南昌亭長一寄食。〔漢書、韓信傳〕常從レ人寄食。〔孔叢子、執節〕寄二食於趙一、祿二仕於魏一。〔張謂、贈二喬琳一詩〕去年上策不レ見レ收、今年寄食仍淹留。

【寄臣】71キシン　他國に身をよせてゐる臣。〔孔叢子、抗志〕吾既無レ列二於魯一而祭任レ衞、吾何服哉、是寄臣而服二所レ寄之君一、則舊君無レ服、明下不二二君一之義上。

【寄身】72キシン　他に身を寄せる。自分の身をまかす。〔李華、弔二古戰場一文〕寄二身鋒刃一、腷臆誰愬。

【寄信】73キシン　手紙を送る。〔賈島、題二朱慶餘所レ居詩〕寄レ信船一隻、隔レ鄉山萬重。

【寄信上諭】74キシンジヤウユ　清代、機密事件に關し、特別の官廳に發する上諭。明發上諭に對する。

【寄進】75キシン　❶神社佛寺などに金品を寄附する。奉納。喜捨。〔東鑑、一〕治承四年十月十六日、件於二御庄一者、前兵衞佐爲二源賴朝沙汰一、所二寄進一。❷巡禮などに施し與へる。

【寄人】76キジン　❶人に身を寄せる。人にたよる義。〔張融、問律自序〕丈夫當下刪二詩書一、制中禮樂上、何至三因循寄二人籬下一。❷ヨリウド　㋑古、和歌所・記錄所などで事を執つた職。〔百練抄、五〕延久元年閏二月十一日、記錄所、云云、寄人等。㋺宮內省御歌所の職員、和歌を選定する職。〔明月記、建仁元年八月五日〕和歌所、云云、書二寄人名於其端一。

【寄生】77キセイ　❶他のものにたよつて生活する。〔管子、八觀〕有レ地君レ國、而不レ務二耕耘一、寄生之君也。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕便娟之脩竹兮、寄二生乎江潭一。〔司馬彪、贈二山濤一詩〕苕苕椅桐樹、寄二生於南岳一。❷樹に寄生する菌。さるのこしかけの類。〔漢書、東方朔傳〕廼覆二樹上寄生一、令二朔射一レ之。〔注〕師古曰、寄生、芝菌之類、形有下周圜象二寠數一者上。❸草の名。つた。蔦。〔爾雅、釋木、寓木宛童、疏〕陸機疏云、蔦、一名寄生。〔詩、小雅、頍弁、蔦與二女羅一、傳〕蔦、寄生也。

【寄生香】78キセイカウ　香の一種。〔博物要覽〕奇南香、亦生二於千年榕樹之上一、故名二寄生香一。

【寄生花】79キセイクワ　草花の名。のうぜんかづら。

【寄生草】80キセイサウ　❶草の名。つた。寄生樹。桑上寄生。〔本草、桑上寄生〕釋名、寄屑・寓木・宛童・蔦、時珍曰、此物寄二寓他木一而生、如三鳥立二于上一、故曰二寄生・寓木・蔦木一、俗呼爲二寄生草一、東方朔傳云、在レ樹爲二寄生一、在レ地爲二寠藪一。❷曲調の名。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕寄生草、蘭麝香仍在、佩環聲漸遠。

【寄生樹】81キセイジユ　つた。寄生草。〔爾雅、釋木、寓木宛童、注〕寄生樹、一名蔦。〔疏〕寓木、一名宛童、郭云、寄生樹、一名蔦。

【寄生所】82キセイシヨ　清代、救卹事業の一つ。殘疾者や困苦の旅人を救濟する所。〔清國行政法汎論、內務行政、賑恤、特行賑恤〕寄生所・清修所・存育所、俱係二紳耆捐設一、收二養殘疾之人一、拯二濟困苦之行旅一。

【寄生蟲】83キセイチユウ　❶やどかり。寄居蟲（33）に同じ。〔本草、寄居蟲〕釋名、寄生蟲。❷他の生物にやどつて生を保つ動物。蛔蟲・絛蟲の類。❸他人の財力勞力にたよつて生活する人。

【寄生囊】84キセイナウ　命をやどすふくろ。卽ち人の身。醜皮袋。〔清異錄、釋族、寄生囊〕梓潼雙燈寺僧書二一頌一曰、撞來好箇寄生囊、云云、趺坐而化。

【寄生蜂】85キセイバチ　他の生物にやどつて成長する蜂。種類は甚だ多い。雌の尾端に長い產卵管があり、螟蛉・蛅蟖等の體に插入して產卵し、其れが孵化し、成長し、蛹となり、蜂となつて出る。其の時、螟蛉等は斃れる。

【寄生木】86キセイボク　❶蔦。ひかげのかづら。女蘿。〔詩疏廣要〕爾雅云、寓木・童宛、郭云、寄生樹、一名蔦、鄭云、樹上寄生木也、有二二種一、一種葉圓名蔦、一種似二麻黃一名二女蘿一。❷ヤドリギ　㋑他の植物にやどつて生を保つ植物。水晶蘭の類。㋺槲寄

生科に屬する一種の寄生植物。ほや。

【寄生蠅】87（キセイバヘ）　益蟲の一つ。成蟲は蠅に似て、全體に硬毛がある。好んで蛅蟖・烏蠋等の體に産卵し、孵化させる。

【寄生植物】88（キセイショクブツ）　植物學用語。他の植物體について生存する植物。きくらげ・しひたけ・かび等。

【寄生動物】89（キセイドウブツ）　動物學用語。他の動物體に寄生して生活する動物。絛蟲・蛔蟲等。

【寄聲】90（キセイ）　ことづて。朋友からの音信。傳言。寄語。〔漢書、趙廣漢傳〕界上亭長寄レ聲謝レ我。〔書言故事、問別類〕朋友以二音問見レ及、曰レ蒙二寄聲一。

【寄席】91（ヨセ）　講談・落語・演藝などを興行する所。卽ち種々の藝人等が錢を取つて、多くの人を集め、己の技藝を示して快樂を與へる場所。

【寄迹】92（キセキ）　身をおく。身を寄せる。寄寓。寄跡。寄足。〔陶潛、命レ子詩〕寄二迹風雲一、寘二茲慍喜一。〔賈島、寄迹詩〕別腸多二鬱紆一、豈能肥二肌膚一。

【寄跡】93（キセキ）　寄迹に同じ。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕於二招賢館一寄レ跡。

【寄籍】94（キセキ）　寄留。〔陔餘叢考、寄籍〕蘇叔黨本東坡子、蜀人也、而在二杭州一發解、然則唐宋時、解送擧子、不三必皆本籍人一也、或解送雖レ不二必本籍一、而其人之籍貫亦不三必改從二取レ解之地一耳、云云、今江南人多有三寄二籍順天一、屢禁不レ止。

【寄屑】95（キセツ）　草の名。やどりぎ。ほや。くはのきのほや。〔廣雅、釋草〕寄屑、寄生也。〔本草、桑上寄生〕釋名、寄屑。

【寄接】96（ヨセツギ）　接木法の一つ。或木を他の木の幹に寄せて接ぎ、後で斷ちきる法。

【寄船】97（ヨリフネ）　古、遭難船舶をいふ。〔東鑑、二十八〕寛喜三年六月六日、海路往反船、或湮レ淵、或遭二難風一、自然被二吹寄一之處、所所地頭等號二寄船一、無二左右一押取之由、依レ有二其聞一、雖レ爲二先例一、諸人之難也。

【寄送】98　chi^{4} sung^{4}　送る。

【寄贈】99（キゾウ キソウ）　おくりとどける。おくり與へる。

【寄足】100　chi^{4} tsu^{2}　身をおく。寄迹（92）に同じ。〔紅樓夢、一回〕投謁個仕宦之家、爲寄足之地。

【寄息】101（キソク）　立ち寄りいこふ。〔北史、權會傳〕乃逢二寒雪一、寄二息他舍一、會方處二學堂講說一。

【寄村】102（キソン）　清、方秋白（**5－13620**‥536）の字。

【寄存】103　chi^{4} ts'uen^{2}　預ける。寄庫（44）の㊂に同じ。

【寄題】104（キダイ）　其の地に至らないで、思ひを寄せて詩を作ること。〔白居易、送二王十八歸レ山寄二題仙遊寺一詩〕。

【寄到】105　chi^{4} tao^{4}　送附。

【寄濤】106（キタウ）　清、年汝鄰（**4－9168**‥292）の字。

【寄託】107（キタク）　㊀身をよせる。たよる。〔荀子、勸學〕蟹六跪而二螯、非二蛇蟺之穴一無レ所二寄託一者、用レ心躁也。〔楚辭、東方朔、七諫、繆諫〕列子隱レ身而窮處兮、世莫レ可二以寄託一。〔注〕列子隱佚不レ仕而窮處者、以三世多二詐僞一無レ可二以寄レ命託レ身也。〔漢書、趙充國傳〕今虜亡二其美地薦草一、愁二於寄託遠遯一、骨肉離レ心、人有二畔志一。〔論衡、解除〕如不レ欲レ殺レ人、寄二託人家一。〔宋讓陽樂曲〕女蘿自微薄、寄二託長松表一。㊁たのみ。委託。付託。論語、泰伯篇の可三以託二六尺之孤一、可三以寄二百里之命一に本づく。〔蜀志、李嚴傳〕吾與二孔明一俱受二寄託一。㊂言外に意をもたせる。諷する。〔王羲之、蘭亭集序〕夫人之相與俯二仰一世一、或取二諸懷抱一、悟二言一室之內一、或因二寄所レ託、放二浪形骸之外一。㊃當事者の一方が相手方のために保管を爲すことを約し、或る物を受取ることによつて成立する契約。

【寄託物】107'（キタクブツ）　委託された物品。

【寄地】108（キチ）　たよる地。〔國語、鄭語〕十邑皆有二寄地一。〔戰國、韓策〕公何不三以レ秦爲レ韓、求二潁川於楚一、此乃韓之寄地也。

【寄暢】109（キチヤウ）　㊀氣ばらし。氣のばし。〔虞說、詩〕寄暢須臾歎、尙想二味古人一。㊁園の名。一名、秦園。江蘇省無錫縣の慧山寺の東。明の秦金が作つた。鳳谷行窩ともいふ。園石の布置は張漣の手による。

【寄暢園】110（キチヤウエン）　清、秦松齡（**8－24995**‥235）の室名。

【寄娘】111　chi^{4} niang^{2}　義母。繼母。

【寄場】112（ヨリバ）　人の寄り集まる場所。

【寄住】113（キヂユウ）　かりの住居。〔北史、強練傳〕恆寄二住諸佛寺一、好行二人家一、兼歷二造王公邸第一。

【寄呈】114　chi^{4} ch'êng^{2}　贈呈する。

【寄亭】115（キテイ）　字號。㊀清、張端（**4－9812**‥541）の號。㊁清、方朝（**5－13620**‥368）の號。

【寄糴】116（キテキ）　宋代、米穀買上の一法。元豐二年、王子淵が綱舟に寄託して便宜に取扱つたもの。〔文獻通考、市糴考、常平義倉租稅〕熙豐而後、始有二結糴・寄糴・俵糴・均糴・博糴・兌糴・括糴等名一。

【寄田】117（キデン）　他國の田を借りて作ること。寄田仰穀を見よ。

【寄田仰穀】118（キデンギヤウコク）　他國の田を借りて苗を種ゑ、又、旁國の穀を買入れる。〔漢書、西域傳上〕鄯善國、云云、地沙鹵少レ田、寄田仰二穀旁國一。〔注〕師古曰、寄二於他國一種レ田、又糴二旁國之穀一也。

【寄奴】119（キド）　南朝宋の高祖、劉裕（**2－2224**‥624）の小字。〔宋書、武帝紀上〕高祖武皇帝、諱裕、字德輿、小名寄奴。〔陸游、書二陶靖節桃源詩後一詩〕寄奴談笑取二秦燕一。

【寄帑】120（キド）　妻子をあづける。〔國語、鄭語〕（史伯曰）君若以二周難之故一、寄二帑與レ賄焉、不二敢不レ許。〔沈約、郊居賦〕乍容二身于白社一、亦寄二帑于伯通一。

【寄匿】121（キトク）　身を寄せ隱す。〔新五代史、范延光傳〕藏二竄山谷一、或寄二匿於軍營一。

【寄頓】122（キトン）　㊀物が多く集まる。積み貯へる。頓は貯、又、止の意。〔文天祥、正氣歌序〕倉腐寄頓、陳陳逼レ人。㊁預ける。寄せとどめる。〔水滸傳、三回〕收二拾了行頭藥囊一、寄二頓了鎗棒一。〔福惠全書、刑名部、賊盜下〕若寄二頓人家一。㊂隱匿する。〔淸律、戶律、課程鹽法〕窩藏寄頓者、杖九十、徒二年半。㊃chi^{4} tuen^{4}　住まはせる。貯へる。

【寄任】123（キニン）　役をまかせる。〔江總、爲二沈尙書君理一讓二右僕射一領二吏部一表〕總二其寄任一、亦巨川之舟楫。

【寄賣】124　chi^{4} mai^{4}　取次販賣。依託販賣。寄售。

【寄包】125（キハウ）　とどまる。おちついてゐる。〔陸游、詩〕身如二林下僧一、處處長寄包。

【寄放】126　chi^{4} fang^{4}　預ける。

【寄放錢】127　chi^{4} fang^{4} ch'ien^{2}　掛金。存款（**3－6943**‥29）に同じ。

【寄番】128　chi^{4} fan^{1}　手紙を外國へ出す。

【寄付】129（キフ）　㊀人に物を授け與へる。〔迦葉經〕寄二付汝手一。㊁たのむ。たよる。〔曹冏、六代論〕至二于身死之日一、無レ所二寄付一。㊂（ヨリツキ）　取引所の語。取引所で立會の初に決定した相場。より。

【寄附】130（キフ）　㊀たよる。寄泊する。寄附舖を見よ。㊁人に物を授け與へる。〔白居易、元九以二綠絲布白輕褣一見レ寄製成二衣服一以レ詩報知詩〕貧友遠勞君寄附、病妻親爲レ我裁縫。㊂公共事業などに、無償で金圓物品を贈ること。

【寄附舖】131（キフホ）　宿屋。〔能改齋漫錄〕今世所在市井、有二寄附舖一、唐世已然、霍小玉傳有二其語一。

【寄附行爲】132（キフカウヰ）　公益上の目的で、財團法人を設立するため、自己の財産を無償で處分し義捐する單獨行爲。

【寄物】133（キブツ）　㊀物をあづける。〔方言、二〕餬託庇寓艬寄也、齊衞宋魯陳晉汝潁荆州江淮之閒、曰レ庇、或曰レ寓、寄食爲レ餬、凡寄爲レ託、寄レ物爲レ艬。㊁あづけもの。〔福惠全書、刑名部、逃人、拿獲〕稱三其某處有二某寄物一以實レ之。㊂外物にかこつける。〔宋史、朱昂傳〕昂讀二陶潛閑情賦一而慕レ之、因廣二其辭一曰、姑藏レ器以有レ待、因寄レ物而長レ謠。

【寄屛】134（キヘイ）　草の名。つた。寄生。〔駢雅、釋木〕寄屛、寄生也。

【寄幣】135（キヘイ）　寄附せられた錢幣。〔管子、山國軌〕山田以二君寄幣一振二其不レ贍、未二淫失一也。〔纂詁〕山田以二君所レ寄之幣一、糴二米於高田一。

【寄圃】136（キホ）　清、孫玉庭（**3－6987**‥369）の字。

【寄奉】137　chi^{4} fêng^{4}　拜呈する。

【寄峯】138（キホウ）　清、徐鎬（**4－10110**‥48）の字。

【寄木】139（ヨセキ）　種々の木片を組合せはぎあはせる。又、其のもの。

【寄木細工】140（ヨセギザイク）　材色、木理などの異なつた木片を組合せ、器物などの表面に貼つた細工。

【寄名】141　chi^{4} ming^{2}　小兒が健康に育つやうに、道士などから附けてもらふ名。寄僧名。寄名

鎖を見よ。

〔寄名鎖〕142 chi^{4} ming^{2} suo^{3} 寄名を刻した金屬札をいふ。〔紅樓夢、三回〕項圈寶玉、寄名鎖、護身符等。

【寄命】143 キメイ ㊀政治を委任する。命は政令。〔論語、泰伯〕可三以寄二百里之命一。〔集解〕孔安國曰、攝二君之政令一。㊁生命をまかす。身を寄せる。〔杜篤、首陽山賦〕冀レ寄二命乎餘壽一。〔孔叢子、抗志〕伋寄命以來、度レ身以服二衞之衣一。〔劉峻、廣絶交論〕流二離大海之南一、寄二命瘴癘之地一。㊂現世に假に寄せた命。〔晉書、皇甫謐傳〕謐著論爲二葬送之制一曰、人之死也、精歇形散、魂無レ不レ之、故氣屬二於天一、寄命終盡、窮體反レ眞、故尸藏二於地一。

【寄與】144 キヨ おくりあたへる。力を致す。〔賈島、送二韓湘一詩〕欲下憑二將一札一、寄中與沃州人上。

【寄孕】145 キヨウ やどる。〔文同、月嵓齊詩〕月常寄二孕于石中一、事理如レ此何足レ異。

【寄來】146 chi^{4} lai^{2} 送り來る。

【寄留】147 キリウ 一時他の所に住居すること。かりずまひ。寓居。僑居。寄寓。寄宿。寄籍。

〔寄留地〕148 キリウチ 寄留してゐる土地。原籍地(2−2973・・137)の對。

【寄糧】149 キリヤウ 甲の州縣の人民が乙の州縣に土地を所有する場合、乙の州縣の者に託して地租を納めること。〔皇朝文獻通考、田賦考、改二正各直省寄莊寄糧之幣一〕雍正七年諭、直省有二寄莊寄糧之弊一、悉令二改正一。

【寄旅】150 chi^{4} lü^{3} 居留する。

【寄林】151 キリン 清、周京(2−3441・・138)の號。

【寄禮】152 キレイ 婚禮の式を男の家で行はず、男子が女の家に出向いて行ふこと。臺灣の慣習。〔臺灣私法、人事、變則婚姻〕。

【寄靈】153 chi^{4} ling^{2} 柩を置く所。おきば。〔紅樓夢、十四回〕往鐵檻寺來、踏看寄靈所在。

【寄路】154 ヨリミチ 迂回して行くみち。まはりみち。

【寄廬】155 キロ 清、沈寓(6−17189・・115)の字。「名。

【寄鶴軒】156 キカクケン 清、胡遠(9−29400・・34)の室

【寄漁翁】157 キギヨヲウ 宋、葛慶龍(9−31420・・120)の號。

【寄件人】158 chi^{4} chien^{4} jen^{2} 郵便物の發送人。

【寄山堂】159 キサンダウ 清、高元美(12−45313・・1162)の室名。「號。

【寄思齋】160 キシサイ 清、辛從益(10−38630・・108)の

【寄所寄】161 キシヨキ 寄する所に寄する意。身をおく所をいふ。〔蘇軾、清風閣記〕所謂身者汝之所レ寄也、而所謂閣者、汝之所二以寄一レ所レ寄也。

【寄僧名】162 キソウメイ 小兒が健康に育つやうに道士などからつけてもらふ名。寄名。河北天津地方の風習。〔中華全國風俗志、直隸、天津小兒跳牆之風俗〕或是多病、或是夭殤、因レ是、爲二父母一者往往帶二領小兒一、到二廟中一焚レ香禱告、求下和尚給二小兒一起中一名上、俗稱二寄僧名一、其意蓋謂三自レ此以後、此孩算二出家一。

【寄棟造】163 ヨセムネヅクリ 入母屋造りの上方の切妻の道をなくして、四隅を二つづつ棟に一致させた形の屋根。

【寄武堂】164 キブダウ 明、杜文煥(6−14477・・384)の室名。

【寄祿格】165 キロクカク 宋代、文散官の階級。元豐の制では、開府儀同三司から將仕郎に至る二十四階、政和の制では、儀同三司から迪功郎に至る三十七階に分つ。〔宋史、職官志九〕元豐寄祿格、以レ階易レ官、雜二取唐及國朝舊制一、自二開府儀同三司一至二將仕郎一、定爲二二十四階一、崇寧初、又換二選人七階一、大觀初又增二宣奉・正奉・中奉・奉直等階一、政和末又改二從政修職迪功一、而寄祿之格始備、自二開府一至二迪功一、凡三十七階。

【寄祿官】166 キロククワン 宋代、職事なく、功によつて優待せられる官。職事官(9−29183・・34)の對。寄祿格を見よ。〔宋史、選擧志六〕職事官、自二尙書一至二給舍諫議一、寄祿官、自二開府儀同三司一至二大中大夫一。〔宋史、職官志十一〕嘉祐始著二祿令一、元豐一二新官制一、職事官職錢、以二寄祿官高下一、分二行守試三等一。

【寄和卷】167 キワクワン 唱和した詩集。〔白居易、與二劉蘇州一書〕僕與二閣下一在二長安一時、合二所レ著詩數百首一、題爲二劉白唱和集一、卷上下、今復編而次焉、以附二前集一、合成二三卷一、題二此卷一爲レ下、遷二前下一爲レ中、命曰二劉白吳洛寄和卷一。

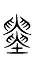
【寄迂草堂】168 キウサウダウ 清、何邦彥(1−511・・354)の室名。

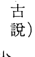
【寄雇闕事】170 キコケツジ 官物及び囚徒等を護送すべき官吏が、他人に其の任務をたのみ、又は雇人に代辦させて、自己の責任を果さないこと。〔唐律、職制〕闕レ事依二寄雇闕事法一。

【寄園寄所寄】171 キヱンキシヨキ 書名、十二卷。清、趙吉士撰。諸家の說部を採錄し、囊底寄・鏡中寄・倚杖寄・撚鬚寄・滅燭寄・焚塵寄・獺祭寄・豕渡寄・裂眥寄・驅睡寄・泛葉寄・插菊寄の十二門に分ち、古事は十中の二三で、明末の事が十中の七八である。

【寅】 7204

小篆


古文（說文）

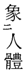

古文（段注本）

［一］イン 〔集韻〕夷眞切 ㄧㄣˊ yin^{2} 眞

［二］イ 〔集韻〕延知切 支

［一］［二］㊀とら。十二支の第三位。夏代の正月。方位では東北の間、時刻では午前三時から五時まで、五行では木に配する。もと寅(3−7252)に作る。〔正字通〕寅、本作レ寅。〔說文〕寅、髕也、正月昜气動、去二黃泉一欲二上出一、会尙強也、象三宀不レ達、髕二寅於下一也。〔段注〕髕、字之誤也、當レ作レ濥、史記・淮南書作レ螾。〔釋名、釋天〕寅、演也、演二生物一也。〔史記、律書〕寅、言二萬物始生螾然一也。〔論衡、物勢〕寅、木也、其禽虎也。〔韓愈、上二張僕射一書〕寅而入、盡レ辰而退。㊁すすむ。演(7−18130)に通ず。〔說文通訓定聲〕寅、叚借爲レ演。〔爾雅、釋詁〕寅、進也。㊂ひく。〔禮、月令、注、觀二斗所一レ建、疏〕寅、引也。㊃夤(3−5805)に同じ。㋑つつしむ。〔說文通訓定聲〕寅、居敬也、从二宀人一、象二人體一、从レ臼、手自約束之形、云云、按、卽夤字之古文。〔爾雅、釋詁〕寅、敬也。〔書、堯典〕寅賓二出日一。〔傳〕寅、敬也。㋺おほきい。寅丘(8)の㊁を見よ。㊄**地下水**。濥(7−18509)に通ず。〔說文通訓定聲〕寅、叚借爲レ濥。〔淮南子、說林訓〕寅丘無レ壑。〔注〕言二汙潦小水一名レ寅。㊅古は〓(3−5616)・〓(3−7177)・〓(3−7272)・〓(4−8770)・〓(9−30242)に作る。〔集韻〕寅、古作二〓・〓・〓・〓一。〔集韻〕寅、古作二〓・濥一。㊆**姓**。〔萬姓統譜〕寅、見二姓苑一、寅午辰、延祐初、嘉興敎授。

名乘 ツラ。トモ。トラ。フサ。

解字 會意。宀と人と臼との合字。宀は人の居處、人は人にかたどり、臼は兩手を合せ確く約束(むすぶ)する意。人が宀下にあつて、其の身を確く約束すること、故に本義をつつしむとする。今、寅(とら)に用ひるのは轉義。〔說文通訓定聲〕寅、居敬也、从二宀人一、象二人體一、从レ臼、手自約束之形、與レ申同意。▽（甲骨文） 象形。矢を兩手で引き張る形に象り、ひき張る・のばす意を表はす。

【寅菴】1 インアン 字號。㊀宋、黃大臨(12−47926・・1223)の號。㊁明、羅汝敬(9−28397・・359)の號。㊂清、毛鴻賓(6−16772・・273)の號。

【寅畏】2 インヰ つつしみおそれる。かしこまる。〔書、無逸〕嚴恭寅畏、天命自度。〔蔡傳〕嚴則莊重、恭則謙抑、寅則欽肅、畏則戒懼。〔金履祥注〕嚴・恭、敬之齊二於外一也、寅・畏、敬之存二於中一也。〔蘇軾、錢氏表忠觀碑〕寅畏小心、厥篚相望。

【寅緣】3 インエン 靜かに動くこと。〔白居易、汎レ渭賦〕波澹灧兮棹寅緣、日暮兮舟泊。

【寅階】4 インカイ 賓客の昇降する階段。〔韻府引、唐六典〕春升二寅階一。〔注〕賓階也。

【寅客】5 インカク 虎の異名。寅獸(21)を見よ。

【寅揆】6 インキ 清、張端亮(4−9812・・1343)の字。

【寅誼】7 インギ 同僚のよしみ。同官を同寅といふに本づく。寅はつつしむ。同寅(2−3294・・23)を見よ。〔福惠全書、涖任部、交接寅僚〕至二于鄰封一、

均屬㆓寅誼㆒。

【寅丘】8（インキウ） ❶地下水の有る丘。寅は濥に通ず。〔淮南子、說林訓〕寅丘無㆑壑、泉源不㆑溥。〔注〕言㆓汙潦小水㆒名㆑寅。❷大きな丘。寅は夤に通ず。〔淮南子、說林訓、寅丘無㆑壑、集解〕兪樾曰、寅丘、謂㆓大丘㆒也、方言、夤、大也、廣雅釋詁同、寅、卽夤之叚字。

【寅馭】9（インギヨ） 清、沈炳震（6－17189‥639）の字。

【寅恭】10（インキヨウ） つつしみうやまふ。〔福惠全書、筮仕部、四六小啓式〕無㆑任㆓寅恭㆒、仰祈㆓丙鑒㆒。

【寅旭】11（インキヨク） 清、王錫闡（7－20823‥1816）の字。

【寅兄】12 yin² hsiung¹ 官吏が年長の同僚に對して用ひる敬稱。

【寅卿】13（インケイ） 清、鄭恭和（11－39647‥339）の字。

【寅月】14（インゲツ） 陰暦正月の異名。字解一三の❶を見よ。

【寅虔】15（インケン） つつしみ敬ふ。〔文心雕龍、祝盟〕所㆘以寅㆓虔於神祇㆒、嚴㆗恭於宗廟㆖也。

【寅古】16（インコ） 遼、蕭思溫（9－32012‥396）の小字。

【寅湖】17（インコ） 湖の名。福建省長汀縣の東。〔讀史方輿紀要、福建、汀州府、長汀縣〕寅湖、府東二里、以㆓方位㆒名、周一百步、中有㆓小山㆒、水溢不㆑沒。

【寅刻】18（トラノコク） 今の午前四時頃。

【寅齋】19（インサイ） 清、明亮（5－13805‥582）の號。

【寅士】20（インシ） 清、何煊（1－511‥66）の號。

【寅獸】21（インジウ） 虎の異名。寅客。〔事物異名錄、獸畜、虎〕眞誥、寅獸白齒、亦能見㆑機、一云㆓寅客㆒。

【寅車】22（インシヤ） 殷の兵車の名。寅は進む義。〔詩、小雅、六月、傳〕夏后氏曰㆓鉤車㆒、先㆑正也、殷曰㆓寅車㆒、先㆑疾也、周曰㆓元戎㆒、先㆑良也。

【寅序】23（インジヨ） つつしみのべる。〔庾信、周大將軍豳國公趙廣墓誌銘〕景命寅序、徽猷淵塞。

【寅承】24（インシヨウ） つつしみうける。夤承（3－5805‥4）に同じ。

【寅清】25（インセイ） 行をつつしみ、身をきよくする。〔書、舜典〕帝曰、兪、咨伯、汝作㆓秩宗㆒、夙夜惟寅、直哉惟清。〔蔡傳〕寅、敬畏也、直者、心無㆓私曲㆒之謂、人能敬以直㆑內、不㆑使㆔少有㆓私曲㆒、則其心潔清、而無㆓物欲之汚㆒、可㆔以交㆓於神明㆒矣。〔楊萬里、櫻桃詩〕天上薦㆑新舊分賜、兒童猶解憶㆓寅清㆒。〔自注〕予舊在㆓奉常㆒、孟夏太廟薦㆓櫻桃㆒、禮官各賜㆓四籃㆒、奉常有㆓寅清堂㆒。

〔寅清居士〕26（インセイコジ） 明、習經（9－28672‥28）の號。

【寅餞】27（インセン） つつしんで見送る。餞は禮物を供へて見送ること。〔書、堯典〕分命㆓和仲㆒、宅㆑西、曰㆓昧谷㆒、寅餞㆓納日㆒。〔傳〕餞、送也。

【寅中】28（インチユウ） 清、沈翼（6－17189‥383）の字。

【寅仲】29（インチユウ） 明、顧亮（12－43689‥199）の字。

【寅弟】30 yin² ti⁴ 官吏が年少の同僚に對して用ひる敬稱。寅兄（12）を見よ。

【寅念】31（インネン） つつしみ思ふ。〔書、多方〕洪惟圖㆓天之命㆒、弗㆔永寅㆓念于祀㆒、惟帝降㆓格于夏㆒。

【寅伯】32（インパク） 清、李暾（6－14459‥644）の字。

【寅半】33（インパン） 陰陽學で時刻を示す言葉。中の寅の日をいふ。〔漢書、律歷志上〕人統受㆓之於寅初日㆒、孳成而黑、至㆓寅半㆒生成而青。

【寅賓】34（インピン） つつしんでみちびく。賓は導。〔書、堯典〕分命㆓羲仲㆒、宅㆓嵎夷㆒、曰㆓暘谷㆒、寅賓㆓出日㆒、平㆓秩東作㆒。〔傳〕寅、敬、賓、導。〔疏〕東方之官、當㆔恭敬導㆓引日出㆒。

〔寅賓館〕35 yin² pin¹ kuan³ 役所內の應接所。

【寅夫】36（インプ） 元、吳克恭（2－3365‥563）の字。

【寅奉】37（インポウ） 謹みつかへること。つつしんでうける。〔程浩、鳳翔府扶風縣文宣王新廟記〕寅㆓奉聖旨㆒、廓㆓新祠宇㆒。

【寅夜】38（インヤ） 夜の寅の刻。今の午前四時頃。夜更をいふ。

【寅亮】39（インリヤウ） つつしんで明かにする。〔書、周官〕貳㆑公弘㆑化、寅㆓亮天地㆒、弼㆓予一人㆒。〔傳〕敬㆓信天地之敎㆒、以輔㆓我一人之治㆒。〔蔡傳〕寅亮者、敬而明㆑之也。

【寅僚】40（インレウ） 同役。同僚。〔福惠全書、蒞任部、査交代〕至㆓于饔飧不㆑給、歸㆑里無㆑資、則寅僚推贈。

【寅底哂】41（インテイシン） 遼、耶律羽之（9－29008‥44）の字。

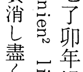
【寅的晒】42（インテキサイ） 遼、蕭海瓈（9－32012‥310）の字。

【寅吃卯糧】43 yin² ch'ih¹ mao³ liang² 支出が收入より多いこと。

【寅日令長】44（インジツレイチヤウ） 貍（10－36561）の異名。〔抱朴子、登涉〕山中寅日、云云稱㆓令長㆒者老狸也。

【寅年吃了卯年糧】45 yin² nien² ch'ih¹ la mao³ nien² liang² 明年度の糧米を今年の中に費消し盡くすといふ諺。寅吃卯糧。

【密】7205



小篆

ビツ〔集韻〕莫筆切 質。
ミチ ㄇㄧˋ mi⁴
慣ミツ

❶しづか。謐（10－35803）に通ず。〔說文通訓定聲〕密、叚借爲㆑謐。〔爾雅、釋詁〕密、靜也。〔玉篇〕密、默也。〔張衡、東京賦〕京室密清。〔注〕綜曰、密、靜也。❷おくふかい。〔玉篇〕密、深也。〔易、繫辭上〕退㆓藏于密㆒。❸かくす。もらさぬ。〔集韻〕密、一曰、祕也。〔易、繫辭上〕幾事不㆑密、則害㆑成。❹かくしごと。私事。私陰。〔禮、少儀〕不㆑窺㆑密。〔注〕密、隱曲處也。❺とぢる。閟（11－41283）に通ず。〔說文通訓定聲〕密、叚借爲㆑閟。〔禮、樂記〕陰而不㆑密。〔注〕密之言、閉也。❻やすらか。宓（3－7098）に通ず。〔說文通訓定聲〕密、叚借爲㆑宓。〔詩、大雅、公劉〕止旅乃密。〔傳〕密、安也。〔詩、周頌、昊天有成命〕夙夜基㆑命宥密。〔傳〕密、寧也。❼ひそか。ひそかに。〔列子、天瑞〕天地密移。❽こまか。細かにならぶ。比（6－16743）に通ず。〔說文通訓定聲〕密、叚借爲㆑比。〔增韻〕密、疏之對也。〔史記、高祖功臣年表〕罔亦少密焉。❾ちかい。近づく。したしむ。〔集韻〕密、一曰、近也。〔正字通〕密、暱近也。〔左氏、文、十七〕以㆔陳蔡之密㆓邇於楚㆒。〔注〕密邇、比近也。〔國語、吳語〕孤以下密㆓邇於天子㆒。〔注〕密、比也。❿つまびらか。ただしい。〔周禮、考工記、廬人〕傳㆑人則密。〔注〕密、審也、正也。⓫つつしむ。毖（6－16750）に通ず。〔說文通訓定聲〕密、叚借爲㆑毖。〔易、繫辭上〕是以君子愼密而不㆑出也。〔莊子、人閒世〕趣㆑取㆓無用㆒、則爲㆑社何、曰、密、若無㆑言。〔疏〕汝但愼密、莫㆓輕出㆑言。⓬稠密。〔釋名、釋言語〕密、蜜也、如㆓蜜所㆑塗、無㆑不㆑滿也。〔增韻〕密、稠也。⓭つとめる。密勿（179）の❶を見よ。⓮はすの根。蔤（9－31823）に通ず。〔說文通訓定聲〕密、叚借爲㆑蔤。〔淮南子、說山訓〕譬若㆑樹㆓荷山上㆒。〔注〕荷、其本曰㆑密。⓯堂の形に似た山。或は⿱必山（4－7966）に作る。〔說文〕密、山如㆑堂者、从㆑山宓聲。〔段注〕按、密、主謂㆑山、假爲㆓精密字㆒。〔集韻〕密、或省。⓰古の國名。姞姓。文王に滅ぼさる。今、甘肅省靈臺縣の西。密須（9）の❶を見よ。〔詩、大雅、皇矣〕密人不㆑恭、敢拒㆓大邦㆒。⓱俗に⿱宀⿱必山（3－7190）に作る。〔集韻〕密、俗作㆑⿱宀⿱必山、非㆑是。⓲姓。〔通志、氏族略、以㆑國爲㆑氏〕密須氏、或去㆑須爲㆓密氏㆒。〔萬姓統譜〕密、姬姓、姓書作㆑虙、音伏、非㆑是。

【密愛】1（ミツアイ） こまやかな愛。〔梁簡文帝、孌童詩〕密愛似㆓前車㆒。

【密庵】2（ミツアン） 密菴を見よ。

【密菴】3（ミツアン） 字號。❶明、謝肅（10－35827‥113）の號。❷明、陶汝鼐（11－41705‥199）の號。❸清、陸求可（11－41708‥290）の號。

〔密菴集〕4（ミツアンシフ） 書名。八卷。明、謝肅撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【密移】5（ミツイ） ひそかにうつる。〔列子、天瑞〕天地密移、疇覺㆑之哉。

【密意】6（ミツイ） ❶祕密のこころ。奥深い心。〔徐陵、洛陽道詩〕相看不㆑得㆑語、密意眼中來。〔李白、相逢行〕持㆑此道㆓密意㆒、毋㆑令㆑曠㆓佳期㆒。❷佛佛の奥深い意味。〔觀經玄義分〕佛密意弘深、教門難㆑曉、三賢十聖、弗㆓測所㆑闚、況我信外輕毛、敢知㆓旨趣㆒。〔唯識論、九〕密意言顯㆑非㆓了義㆒。

【密友】7 ミツイウ 至つて仲のよい友。親友。〔陸機、歎逝賦序〕曜交密友、亦不半在。〔宣武盛事〕戴弘正毎得密友一人、則書于編簡、焚香告于祖考、號金蘭簿。

【密佑】8 ミツイウ 宋、廬州の人。官は江西都統。賊を防いで死す。〔宋史、四百五十二〕・〔宋史新編、一百七十四〕・〔南宋書、六十〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、四〕。

【密印】9 ミツイン ㊀死後の贈官に賜はる蠟印。蠟に刻して印とし、綬をかけて賜はる。蜜印(10—33143··1)に同じ。〔劉禹錫、彭陽侯令狐氏先廟碑〕密印纍纍、邦族聳慕。㊁［佛］㋑諸佛菩薩、各〻の本誓を表はすために兩手の十指で種々の相を形づくる、これを印といひ、其の理が祕密深奧であるから密といふ。〔大日經、密印品〕身分擧動住止、應知皆是密印、舌相所轉衆多言語、應知皆是眞言。㋺禪徒が眞言に模倣して、直指の心印を西來の密印といふ。〔本朝高僧傳、慈覺〕西來密印。㊂寺の名。湖南省寧鄕縣の西方、大潙山にある。

【密雨】10 ミツウ こまやかな雨。〔張協、雜詩〕騰雲似涌煙、密雨如散絲。〔柳宗元、登柳州城樓寄漳汀封連四州詩〕驚風亂颭芙蓉水、密雨斜侵薜荔墻。

【密雲】11 ミツウン ㊀厚く重なった雲。又、恩澤に喩へる。密雲不雨(13)を見よ。〔後漢書、桓帝紀〕頃雨澤不沾、密雲復散。〔曹攄、思友人詩〕密雲翳陽景、霖潦淹庭除。㊁そら涙。そら泣き。〔顏氏家訓、風操〕有王子侯、梁武帝弟、出爲東郡、與武帝別、帝曰、我年已老、與汝分張、甚心惻愴、數行淚下、侯遂密雲、赧然而出。〔語林〕有人詣謝公別、謝公流涕、此人了不悲、既去、左右曰、向客殊自密雲、謝公曰、非徒密雲、乃自早雷耳。㊂山名。河北省密雲縣の南。横山ともいふ。〔名勝志〕山藏雲霧、縣名取焉。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州、密雲縣〕一名横山、晉咸康四年、石虎攻段遼於令支、遼棄令支奔密雲山、虎遣將追獲其母妻、唐置横山城爲守禦處、蓋置于山下。〔昌平山水記〕石虎攻段遼、遼棄令支奔密雲山、卽此。㊃縣名。㋑後魏、置く。河北省順義縣の東北。北は長城に近く、蒙古との交通の要地。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、昌平州〕密雲縣、漢白檀縣地、屬漁陽郡、後漢省、後魏置密雲縣及密雲郡、云云、明初又改州爲密雲縣、屬順天府。〔清史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、密雲。㋺遼、置く。滿洲遼寧省開原縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、鐵嶺衞〕慶雲城、本渤海蒙州地、契丹阿保機、俘檀州民、置檀州、併置密雲縣於此。㊄明 圓悟(3—4819··64)の號。

【密雲龍】12 ミツウンリユウ 茶の名。宋の蘇東坡が愛用したといふ茶。〔丹鉛總錄〕密雲龍、茶名、極爲甘馨、黃秦晁張、號蘇門四學士、子瞻待之厚、每來、必令侍妾朝雲取密雲龍、山谷有矞雲龍、亦茶名也。

【密雲不雨】13 ミツウンアメフラズ 雲が凝り聚まつても雨が降らない。兆候ばかりあつて事情の到來しない喩。又、恩澤の、下に行き渡らぬ喩。〔易、小畜〕密雲不雨、自我西郊。〔疏〕所聚密雲、由在我之西郊、去我既遠、潤澤不能行也、但聚在西郊而已。

【密榮】14 ミツエイ 崟山に產する玉。崟榮(4—8054··1)に同じ。〔任昉、同謝朏花雪詩〕山徑陋密榮、騷人貶瓊樹。

【密葉】15 ミツエフ 密生した木の葉。〔陸機、招隱詩〕輕條象雲構、密葉成翠幄。〔張協、雜詩〕密葉日夜疎。

【密焰】16 ミツエン すきまのない濃いほのほ。〔劉孝威、禊飲嘉樂殿詠曲水中燭影詩〕火浣花心猶未長、金枝密焰已流芳。

【密筵】17 ミツエン ひそかな寄り會ひの席。〔南齊書、江謐傳〕連席同乘、皆詖黷舊侶、密筵閑讌。

【密苑】18 ミツエン 木の密生したその。〔謝瞻、九日從宋公戲馬臺集送孔令詩〕繁林收陽彩、密苑解華叢。

【密恩】19 ミツオン 深い恩。〔後漢書、趙壹傳〕鳥也雖頑、猶識密恩。

【密行】20 ミツカウ ㊀ひそかに歩きまはること。しのびあるきすること。㊁ひそかに其の地に赴くこと。㊂怪しい者などの後をひそかにつけ行くこと。㊃［佛］ミツギヤウ 戒を微細に護持するをいふ。佛弟子中、羅睺羅は密行第一をもつて知られてゐる。〔法華經、人記品〕羅睺羅密行、唯我能知之。

【密幸】21 ミツカウ ひそかに寵幸する。〔國史略、宇多天皇〕皇太后密幸東光寺僧善祐。

【密航】22 ミツカウ ㊀竊かに船をやること。そつと渡り行くこと。㊁禁を破つて海外に出ること。

【密號】23 ミツガウ ［佛］㊀密教で唱へる金剛名。大日如來を遍照金剛、阿彌陀如來を清淨金剛といふ類。又、金剛名、灌頂號ともいふ。㊁眞言をいふ。〔大日經疏、一〕眞言、梵云漫荼羅、卽是眞語、如語、不妄、不異之言、龍樹釋論謂之祕密號、舊譯云呪非正飜也。

【密革】24 ミツカク 複姓。〔姓苑〕密革、琅邪人有此姓。

【密函】25 ミツカン 祕密の文書を入れたはこ。祕密の手紙。〔南史、殷景仁傳〕景仁臥疾者五年、雖不見上、而密函去來、日中以十數。

【密竿】26 ミツカン 密生した竹。〔謝靈運、道路憶山中詩〕濯流激浮湍、息陰倚密竿。

【密銜】27 ミツカン 心中、ひそかに恨をいだくこと。〔南史、沈浚傳〕浚乃正色責景、云云、景歎曰、是眞司直也、然密銜之。

【密諫】28 ミツカン ひそかにいさめる。〔魏志、桓階傳〕公規密諫、前後懇至。〔北史、王褒傳〕後因清閑密諫、言辭甚切。

【密肌】29 ミツキ ㊀蟲の名。はさみむし。蠼螋(10—33928··3)の㊀に同じ。〔爾雅、釋蟲〕密肌、繼英。〔義疏〕卽肌求、又名蠼螋、俗稱草鞋底・蓑衣蟲。㊁鳥の名。英鷄(9—30808··48)に同じ。玉篇に鷄肌に作る。〔爾雅、釋鳥〕密肌繫英。〔通志、昆蟲草木略、禽類〕密肌、爾雅曰、繫英、英鷄也、喙吷石英、故得名焉。

【密虮】30 ミツキ 密肌(29)の㊀に同じ。〔廣韻〕虮、密虮、蟲名。

【密寄】31 mi^4 chi^4 祕密の書信。

【密飢】32 ミツキ 密肌(29)の㊀に同じ。〔集韻〕虮、爾雅、密虮繼英、通作飢。

【密貴】33 ミツキ 複姓。〔西秦錄〕西羌有密貴氏。

【密機】34 ミツキ ［佛］眞言の祕密教を聞くべき機根をいふ。

【密義】35 ミツギ ［佛］深奧祕密の義理。〔楞嚴經、一〕欽奉慈嚴、將來密義。

【密議】36 ミツギ 祕密に相談する。又、そのこと。〔吳志、魯肅傳〕乃獨引肅還、合榻對飲、因密議。〔唐書、劉師立傳〕參奉密議。

【密詰】37 ミツキツ ひそかになじる。〔五代史、裴迪傳〕乃屛人密詰之、具得其事。

【密笈】38 ミツキフ 手ばこ。〔福惠全書、筮仕部、立號簿〕另置密笈、以免遺忘。

【密鄕】39 ミツキヤウ 縣名。漢、置く。侯國。春秋、莒の密邑。故城は山東省昌邑縣の東南。〔漢書、地理志上〕北海郡、縣二十六、密鄕。〔注〕侯國。

【密經】40 ミツキヤウ ［佛］密教の經典。兩部と三部の二種がある。兩部のものは、大日經を胎藏部の本經とし、金剛頂經を金剛部の本經とする。三部のものは、前の兩部に雜部、釋迦所說の密經を加へていふ。

【密宮】41 ミツキユウ 星の名。婁宿・胃宿をいふ。

【密擧】42 ミツキヨ ひそかに擧げ用ひる。〔後漢書、百官志三〕舊別監御史在殿中、密擧非法。

【密近】43 ミツキン ㊀ひそかに近づく。〔晏子、重而異者〕夫何密近、不爲大利變。㊁近親をいふ。密親(109)に同じ。〔魏志、武帝紀、注〕夫廢立之事、天下之至不祥也、及至霍光受託國之任、藉宗臣之位、未有貴寵、昌邑卽位日淺、朝乏讜臣、議出密近、故計行如轉圜、事成如摧朽。

【密會】44 ミツクワイ ㊀心中深く會ひ通じる。〔崔融、報三原李少府書〕心靈密會、許予以烟霄鸞鳳之交。㊁ひそかに會合すること。又、男女のあひびき。野合。

【密懷】45 ミツクワイ 人知れずなづけて手に入れること。〔御成敗式目〕密懷他人妻罪科事。

【密款】46 ミツクワン 深いまごころ。心からのまこと。款は、まごころ。〔白居易、與王承宗詔〕上陳密款、遠達深誠。

【密丸】47 mi^4 wan^2 無記名投票。

【密契】48 ミツケイ 人に知らさず、ひそかに契ること。祕密の契約。〔書言字考節用集、九、言辭門〕密

契。〔庭訓往來、十二月〕不レ預二音信一候條、密契無二其甲斐一、隔心之至。

【密計】49 ミツケイ 內々のはかりごと。祕密の計略。密策。密謀。〔吳志、胡綜傳〕託レ叛南詣、宣二達密計一。〔唐書、張說傳〕帝在二東宮一、所レ與二祕謀密計一甚衆。

【密啓】50 ミツケイ ひそかに奉る書翰、又は上奏。〔晉書、賈充傳〕先レ是、羊祜密啓留レ充。〔文心雕龍、奏啓〕或謹二密啓一。〔宋史、李沆傳〕帝以三沆無二密奏一、謂レ之曰、人皆有二密啓一、卿獨無、何也。

【密教】51 ミツケウ ［佛］㊀密經の教法。卽ち大日如來所說の金胎兩部をいふ。〔空海、顯密二教論、上〕自性受用佛、自受法樂、故與二自眷屬一、各說二三密門一、謂二之密教一。㊁眞言祕密のをしへ。また眞言宗。華嚴・天台等の顯教の對。我が國では弘法大師が此の教をひらいた。

【密縣】52 ミツケン 縣名。漢、置く。河南省滎陽縣の南。賈魯河の支流。洧水の上流。春秋、鄭の新密邑の地。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、密。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、禹州〕密縣、古密國、亦鄶國地、漢置二密縣一屬二河南郡一。〔清史稿、地理志〕河南、開封府、縣十一、密。

【密言】53 mi^4 yen^2 祕密の話。

【密戶】54 ミツコ 腎をいふ。〔黃庭經〕上有二魂靈一下關元、左爲二少陽一右太陰、後密戶、前生門、出レ日入レ月呼吸存。〔注〕密戶、腎也。

【密固】55 ミツコ こまかでかたい。〔後漢書、左雄等傳論〕雖二頗有レ不二密固一、亦因識二時宜一。

【密語】56 ミツゴ ㊀ひそひそばなし。內證話。密話。〔漢書、淮陽憲王劉欽傳〕卽具記二房諸所レ說災異、及召見密語一。㊁［佛］㋑密意で說く語。〔涅槃經、九〕如來密語甚深難レ解、譬如三大王告二諸羣臣先陀婆來一。㋺密教の陀羅尼。〔祕藏記、本〕密語者、凡夫二乘不レ能レ知、故曰二密語一、眞言者、如來言眞實無二虛妄一、故曰二眞言一。

【密厚】57 mi^4 hou^4 情緒纏綿たること。

【密彀】58 ミツコウ ひそかに弓を張る。彀は、弓を引きしぼる意。〔潘岳、射雉賦〕捧二黃間一以密彀、屬二剛挂一以潛擬。〔注〕善曰、說文曰、彀、張二弓弩一也。

【密告】59 ミツコク そつとつげ知らせる。〔後漢書、皇甫規傳〕到二下亭一迎レ之、因令三客密告二幷州刺史胡芳一。

【密坐】60 ミツザ 近く侍坐する。すぐそばに坐る。〔曹植、與二吳季重一書〕前日雖レ因二常調一、得レ爲二密坐一。〔傅毅、舞賦序〕鄭衞之樂、所下以娛二密坐一接中歡欣上也。〔注〕翰曰、密坐、相從而坐也。

【密齋】61 ミツサイ 字號。㊀清、湯其仁(7－17874‥157)の字。㊁清、程同文(8－25081‥268)の號。

〘密齋筆記〙62 ミツサイヒツキ 書名。五卷。續記、一卷。宋、謝采伯撰。經史文藝を雜論す。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【密葬】63 ミツサウ ひそかに葬る。內々で葬式を營むこと。假葬・本葬などの對。〔言成卿記、天保十四年八月十四日〕於二本葬一者、云云、急に難二遂行一、依レ之今晚密葬。

【密裝】64 ミツサウ ひそかに旅裝する。〔漢書、鼂錯傳〕廼拜レ盎爲二太常一、密裝治レ行。

【密藻】65 ミツサウ すきまもなく生ひ茂つた藻。〔陸龜蒙、叉魚詩〕傷レ鱗跳二密藻一、碎レ首沈二遙崕一。

【密造】66 ミツザウ ひそかに造る。祕密に製造する。密製。

【密藏】67 ミツザウ ㊀ひめたくはへる。他に見せず大切にをさめおく。祕藏。〔晉書、盛彥傳〕然疑二是異物一、密藏以示レ彥、彥見レ之、抱レ母慟哭。〔南史、褚彥回傳〕可三密二藏之一。㊁［佛］密教の經典。密經。〔僧史略、上〕密藏者、陀羅尼法也、是法祕密非二二乘境界一、諸佛菩薩所二能游履一也。「令。

【密札】68 mi^4 cha^2 祕密の文書。密書。祕密命

【密察】69 ミツサツ 綿密に見きはめる。詳細明辨。〔中庸〕文理密察。〔章句〕密、詳細也、察、明辨也。〔獨孤申叔、審樂知政賦〕深聽密察。

【密山】70 ミツザン ㊀府の名。清、置く。今縣に改む。〔清史稿、地理志〕吉林、密山府、清初瓦爾喀部人所レ居、隸二甯古塔副都統一、光緒三十四年置、蜂密山南十餘里、脈與二西南黃窩集一接、互三百里、隸二東北路道一。㊁縣名。清、置く。今の滿洲吉林省穆稜縣の東北。穆稜河の南岸。密はもと蜜に作り、東南に蜂蜜山があつて名づけらる。㊂清、陳德榮(11－41698‥1167)の號。

【密之】71 ミツシ 清、方以智(5－13620‥472)の字。

【密矢】72 ミツシ 祕密に誓ふ。矢は誓。密誓。〔長生殿、密誓〕只見二他誓盟密矢拜禱一。

【密旨】73 ミツシ 內々の思召し。祕密に下す敕旨。密指。〔南史、梁元帝紀〕宣猛將軍朱買臣奉二帝密旨一、害二豫章王棟及其二弟橋樛一。〔王建、贈二王樞密一詩〕承二密旨一歸レ家少。

【密使】74 ミツシ 內々の使。祕密の使者。〔盧思道、爲レ隋檄レ陳文〕或陳二誠疑一、密使相尋。

【密指】75 ミツシ 密旨に同じ。〔蜀志、楊儀傳〕亮平生密指、以二儀性狷狹一、意在二蔣琬一。

【密肆】76 ミツシ ［佛］密教の道場。

【密寺】77 ミツジ ［佛］密教の寺院。〔元亨釋書、二十三〕弘仁十四年、賜二東寺于海一、爲二密寺一。

【密事】78 ミツジ 祕密の事がら。〔後漢書、鄭弘傳〕憲奏三弘大臣漏二泄密事一。〔吳志、胡綜傳〕軍國密事。

【密時】79 ミツジ ミツヂ 神を祭る場所。青帝を祭る庭。靈時。五時(1－257‥463)を見よ。〔史記、封禪書〕秦宣公作二密時於渭南一。

【密爾】80 ミツジ 靜かに。爾は助字。〔班固、答賓戲〕走亦不レ任レ廁二技於彼列一、故密爾娛二斯文一。〔注〕善曰、爾雅曰、密、靜也。

〘密爾岱山〙81 ミツジタイ 山名。新疆省莎車縣の西南。玉石を產する。〔西域水道記〕山三成、下成者麓、上成者顚、皆石也、中一成則瓊瑤函レ之、彌望無レ際、其玉色黝而質堅、聲清越以長、清時屢來入貢。

【密邇】82 ミツジ まぢかく接する。よりそふ。接近する。〔書、太甲上〕密二邇先王一。〔左氏、文、十七〕以三陳蔡之密二邇於楚一而不二敢貳一焉、則敝邑之故也。〔國語、吳語〕孤以下密二邇於天子一。〔吳志、魯肅傳〕密二邇百姓一。〔潘岳、西征賦〕密二邇獫狁一。

【密州】83 ミツシウ 州の名。隋、置く。山東省諸城縣。〔讀史方輿紀要、山東、青州府〕諸城縣、府東南二百八十里、云云、隋開皇五年、改二膠州一爲二密州一。

【密周】84 ミツシウ こまかにめぐる。〔新書、道術〕剛柔得レ道、謂二之和一、反レ和爲レ乖、合得密周、謂二之調一。

【密室】85 ミツシツ ㊀［佛］四方を閉ぢ籠めた室。〔止觀、五、上〕若能修レ定、如二密室中燈一、能破二巨闇一。㊁㋑密閉して、妄りに出入を許さぬ室。㋺祕して他に知れぬやうにした室。祕密室。

【密櫛】86 ミツシツ 櫛の齒のやうに繁密なこと。〔馬融、長笛賦〕繁手累發、密櫛疊重。〔注〕善曰、密櫛、密如レ櫛也。

【密實】87 mi^4 shih^2 綿密に。こまかく。

【密集】88 ミツシフ ひとところにすきまなく集まる。〔抱朴子外篇、刺驕〕或曲宴密集、管絃嘈囋。

〘密集部隊〙89 ミツシフブタイ 軍隊用語。散開せず密集して隊伍を作つてゐる部隊。散兵(5－13265‥206)の㊀の對。

【密商】90 ミツシヤウ 密賣の商人。

【密章】91 ミツシヤウ ㊀死者に贈る印章。蜜章(10－33143‥24)に同じ。㊁祕密の奏章。〔唐書、鄭虔傳〕潛以二密章一達二靈武一。

【密詳】92 mi^4 hsiang^2 詳かに。

【密迹】93 ミツシヤク ［佛］密迹力士・密迹金剛・金剛密迹などをいふ。祕密主ともいふ。手に金剛の武器を持ち、佛を警固する夜叉神の總名。これらの力士が常に佛に親しく近づいて、佛の祕密の事迹を聞かうとの本誓を有つからいふ。〔寶積經密迹金剛力士會〕普聞二一切諸佛祕要密迹之事一、信樂受喜不レ懷二疑結一。

〘密迹士〙94 ミツシヤクシ ［佛］密迹に同じ。〔智度論〕五百執金剛隨一、是密迹士、金剛手所現。

〘密迹金剛〙95 ミツシヤクコンガウ ［佛］密迹・密迹士に同じ。

【密殊】96 ミツシユ 宋、仲殊(1－403‥220)の號。

【密須】97 ミツシユ ㊀國の名。商(殷)の時の姞姓の國。周の文王に滅ぼさる。又、單に密ともいふ。今の甘肅省靈臺縣の西。〔詩、大雅、皇矣〕密人不恭、傳〕國有二密須氏一、入侵レ阮、遂往侵レ共。〔左氏、定、四〕分二唐叔一以二大路密須之鼓・闕鞏・沽洗・懷姓九宗・職官五正一。〔注〕密須、國名也。〔史記、周紀〕伐二密須一。㊁複姓。〔萬姓統譜〕密須、商時姞姓之國、子孫以レ國爲レ氏。

【密呪】98 ミツジユ ［佛］祕密の呪文。つまり陀羅尼。〔佛說文殊菩薩最勝眞實名義經〕明王大神呪、密呪大義利。

【密樹】99 ミツジユ しげつてゐる木。しげき。茂樹。〔梁簡文帝、祠二伍員廟一詩〕密樹臨二寒水一。〔唐太宗、冬狩詩〕獸忙投二密樹一、鴻驚起二礫洲一。

【密宗】100ミツシュウ 佛眞言宗の異稱。

【密聚】101ミツシュウ 密集(88)に同じ。

【密率】102ミツシュツ ㊀靜かで安らか。安靜。〔王褒、洞簫賦〕林慄密率、掩以絕滅。〔注〕善曰、密率、安靜也。㊁mi^4 lü^4 密度。

【密書】103ミツショ 祕密のかきつけ。內證の手紙。祕密文書。祕書。密札。〔吳志、朱異傳〕十三年、文欽詐降密書與レ異、欲レ令二自迎一。

【密如】104ミツジョ ㊀ひつそりとして靜かなさま。如は助字。靜謐。〔揚雄、長楊賦〕七年之閒、而天下密如也。〔注〕善曰、爾雅曰、密、靜也、濟曰、如、助句。〔崔寔、政論〕孝宣皇帝明二于人君之道一、審二于爲政之理一、海內清肅、天下密如。㊁複姓。〔路史〕秦後有二密如姓一。

〔密如レ蠶〕105ミツサンノゴトシ 繭のやうに嚴重にとざす。密閉。〔李賀、酒罷張大徹索レ贈レ詩詩〕太行青草上二白衫一、匣中章奏密如レ蠶。

【密信】106ミツシン mi^4 hsin^4 祕密信書。祕密の手紙。

【密深】107ミツシン 深くて微妙なこと。〔王褒、四子講德論〕夫樂者、感レ人密深、而風移俗易。

【密諗】108ミツシン ひそかに告げる。諗は告げる。〔唐書、吉溫傳〕安祿山方尊寵、兄二事祿山一、嘗密諗曰、李右相雖二厚待レ公、然不二肯引共レ政、我見レ遇久、亦不二顯以レ官、公若薦レ我爲二宰相一、我處二公要任一、則右相可レ擠矣、祿山大悅。

【密親】109ミツシン 最も近い親戚。密近。密戚。〔陸機、赴レ洛道中作詩〕摠轡登二長路一、嗚咽辭二密親一。〔江淹、雜體詩、陸平原機羇官〕永歎懷二密親一。〔舊五代史、唐李襲吉傳〕徵二其密親一、啗以二其美利一。

【密水】110ミツスイ 川の名。㊀山東省諸城縣から高密縣の西を經て膠萊河に入る。今は五龍河といふ。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、高密縣〕密水、在二縣西南一、自二諸城縣一流入レ境、一名二百尺溝一、亦曰二高密水一、經二故縣南十里一、蓄爲レ塘、方二二十餘里、古所謂高澤之南都也、東北會二濰水堰一、散入二夷安澤一、志云、澤在二縣北二十里一、高密水與二濰水一散流注レ之、蓄レ堰以漑レ田、凡萬餘頃。㊁山東省蓬萊縣の南にあつて、源を密神山に發し、黑水と會して海に入る。〔讀史方輿紀要、山東、登州府、蓬萊縣〕密水、出二府南密神山一、北流入二城東小水門一、與二黑水一會、黑水出二府西南十里黑石山一、東北流入二府城南上水門一、合二於密水一、出二城西下水門一、北流入レ海。

【密生】111ミツセイ すきまなく生える。

【密清】112ミツセイ しづかできよらかなさま。清和。穆清。〔張衡、東京賦〕京室密清、罔レ有レ不レ韙。〔注〕綜曰、密、靜也、清、潔也。〔樊毅、修二西嶽廟一記〕受二茲介福一、京夏密清。〔章注〕密、與レ謐同。

【密靖】113ミツセイ 安らかにしづめ治める。〔史記、魯周公世家〕不二敢荒寧一、密二靖殷國一。〔注〕集解曰、馬融曰、密、安也。

【密製】114ミツセイ 祕密に製作する。密造。〔唐書、楊志誠傳〕密二製天子袞冕一、其被服皆擬二乘輿一。

【密誓】115ミツセイ ひそかにちかふ。又、其のちかひ。密矢(72)を見よ。

【密靚】116ミツセイ しづか。密靜。〔漢書、外戚、班倢伃傳〕神渺渺兮密靚處、君不レ御兮誰爲レ榮。〔注〕師古曰、靚字、與レ靜同。

【密靜】117ミツセイ しづか。密靚。〔漢書、薛宣傳〕性密靜有レ思。〔後漢書、周擧傳〕在二禁闈一、有二密靜之風一。〔魏志、王昶傳〕清修密靜。

【密詔】118ミツセウ 內密のみことのり。密敕。〔後漢書、獻帝紀〕受二密詔一誅二曹操一。〔蜀志、先主劉備傳〕時獻帝舅車騎將軍董承辭受二帝衣帶中密詔一、當レ誅二曹公一、先主未レ發。

【密篠】119ミツセウ 生ひ茂つたしの。〔劉孝綽、陪二徐僕射晚宴一詩〕方塘交二密篠一、對霤接二繁柯一。〔李德裕、懷崧樓記〕除二密篠一、而近對二嘉樹一。

【密石】120ミツセキ きめの細かい石。まと。砥石。〔穀梁、莊、二十四〕斲レ之礱レ之、加二密石一焉。〔國語、晉語八〕天子之室、斲二其椽一而礱レ之、加二密石一焉。〔注〕密、密理、石謂レ砥也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕駢三密石與二琅玕一、齊三玉瑫與二璧英一。

【密戚】121ミツセキ きはめて親しい身うち。密親。近親。〔沈炯、始興昭烈王碑〕昔之密戚近親、宗英會德、若二河閒之不羣、云云、陳思之藻麗一、實聞レ之也。

【密接】122ミツセツ ㊀ぴつたりとつく。すきまなく觸れる。密著。㊁關係がつながつて居て、離すことが出來ぬ。關係が深い。

【密雪】123ミツセツ こまかな雪。〔謝惠連、雪賦〕俄而微霰零、密雪下。〔權德輿、貢院對レ雪以二絕句一代二八行一奉二寄崔閣老一詩〕寓二宿春闈一歲欲レ除、嚴風密雪絕二雙魚一。

【密撰】124ミツセン 祕密に撰述すること。〔北齊書、孝昭帝紀〕時文宣溺二于游宴一、帝又密二撰事條一將レ諫、其友王晞以爲二不可一、帝不レ從。

【密疏】125ミツソ 內々に意見をたてまつる。內密の上書。〔宋史、王旦傳〕先密二疏三四人姓名一。〔蘇軾、論二魯隱公里克李斯鄭小同王允之一文〕師有二密疏一、未レ屛也。〔日知錄、藝文、密疏〕近見二實錄一、多載二密疏一。

【密訴】126ミツソ ひそかに訴へる。〔唐書、李揆傳〕至二譖所一構二抉過失一譖密二訴諸朝一。

【密奏】127ミツソウ 內々で君に申しあげる。人知れず奏上する。又內々の奏上。〔文心雕龍、奏啓〕自レ漢置二八儀一密奏。〔沈約、梁武帝集序〕雖二密奏忠規一、遺稾必削。〔宋史、李沆傳〕沆無二密奏一。

【密僧】128ミツソウ 佛密法を行ふ僧侶。

【密叢】129ミツソウ しげつて生えてゐること。

【密捉】130ミツソク 內密に賊をとらへること。〔六部成語、兵部、密捉、注解〕密密拿二了賊一、拷二問情形一。

【密陀】131ミツダ 鑛物の名。密陀僧の略。

〔密陀油〕132ミツダノアブラ 密陀僧を荏の油に溶かしたもの。油繪などの繪の具。

〔密陀僧〕133ミツダソウ 鑛物の名。黃褐色の粉末。色相の濃度により金密陀・銀密陀等の稱がある。鉛硝子・陶器釉藥・蓄電池、其の他、諸藥品の原料となる。酸化鉛。鉛丹。〔本草、密陀僧〕釋名、沒多僧・爐底、集解、恭曰、出二波斯國一、形似二黃龍齒一而堅重、亦有二白色者一、作二理石文一。

【密拿】134ミツダ ひそかにとらへる。〔福惠全書、刑名部、欽犯〕宜下差二妥役一、立レ限密拿上。

【密對】135ミツタイ ひそかに天子にこたへる。〔後漢書、延篤傳〕帝數問二政事一、篤詭辭密對。

【密禱】136ミツタウ ひそかに祈る。〔唐書、張守珪傳〕守珪密二禱于神一、一時水暴至。

【密道】137ミツダウ 男色(**7－21730・・44**)の異稱。〔若氣勸進帳〕三國有二密道一、厥用雖レ同、厥名各別、支那謂二之押甎一、身毒(印度)謂二之非道一、扶桑謂二之若道一、通二用于三國一。

【密拆】138ミツタク 內密にひらく。〔福惠全書、保甲部、調集符信〕硃二書某鄉保長某人密拆一。

【密達】139メートル メートル法に於ける長さの基本單位。米突。Metre の音譯。

【密談】140ミツダン 祕密のはなし。又、內密に話す。

【密地】141ミツチ 人知らぬところ。祕密の場所。〔福惠全書、刑名部、逃人、拿獲〕先於二密地一、拷二供旗色主名並所レ逃月日一、便問二窩家一。

【密致】142ミツチ ごくこまかい。致は緻。密緻。緻密。〔論衡、齊世〕孔子知二世浸弊文薄難レ治、故加二密致之罔一、設二纖微之禁一、檢狎守持、備具悉極、此言妄也。

【密緻】143ミツチ ㊀こまやか。念入りで拔けめがない。緻密。〔詩、小雅、都人士、綢直如レ髮、箋〕情性密緻、操行正直。〔潘岳、射雉賦〕表厭躡以密緻。〔顏氏家訓、文章〕未レ爲二密緻一耳。㊁きめがこまかく質が堅い。〔新語、資質〕精捍直理、密緻博通。

【密籌】144ミツチウ 祕密のはかりごと。密謀。

【密竹】145ミツチク 密生した竹。〔謝靈運、登二石門最高頂一詩〕連巖覺二路塞一、密竹使二徑迷一。

【密場】146ミツチヤウ 佛密教の修行をする所。〔元亨釋書、二十三〕以二東寺一爲二密場一。

【密著】147ミツチヤク ㊀密接(122)の㊀に同じ。㊁しつかりついて離れぬ。ぴつたりとくつつく。

【密敕】148ミツチヨク ひそかにいましめる。密飭。又、內々の詔。密詔。〔魏志、鮑勛傳〕密二敕中尉一。

【密直】149ミツチヨク こまやかでなほい。緻密で正直。〔詩、小雅、都人士、綢直如レ髮、傳〕密直如レ髮也。

【密飭】150ミツチヨク 密敕に同じ。

【密陳】151ミツチン ひそかにのべる。〔白居易、論二于頔所レ進歌舞人一事宜狀〕輒敢密陳、庶裨二萬一一。

【密通】152ミツツウ 男女がひそかに情を通ずる。不義をする。〔看聞日記〕應永二十八年九月二十日、女官密通懷姙畢。

【密呈】153ミツテイ mi^4 ch'êng^2 密かに申し上げる。

【密定】154ミツテイ 明、金筑安撫司の人。洪武の初、士を率ゐて歸附し、安撫使を授けらる。〔皇明開國功臣錄、三十二〕。

【密釘】155（ミツテイ） こまかく釘を打つ。〔福惠全書、錢穀部、解給〕鐵箍密釘。

【密偵】156（ミツテイ） ひそかに敵國などの動靜をさぐること。又、其の者。祕密探偵。

【密牒】157（ミツテフ） 祕密の文書。密書。牒は、かきつけ。〔唐書、蘇珦傳〕武后殺韓魯諸王、付珦密牒按訊。

【密覘】158（ミツテン） ひそかに探りうかがふ。〔隋書、滎毗傳〕時晉王在揚州、每令人密覘京師消息。

【密電】159 mi^4 tien^4 暗號電報。祕密電報。

【密都】160（ミツト） 天帝の邑。〔山海經、中山經〕青要之山、實惟帝之密都。〔注〕天帝曲密之邑。

【密塗】161（ミツト） ちかみち。近道。〔鮑照、代東武吟詩〕密塗亙萬里、寧歲猶七奔。

【密度】162（ミツド） ❶精密な尺度。〔漢書、律歷志上〕願募治曆者、更造密度、各自增減、以造漢太初曆。❷單位容積中に含まれる物體の質量の度あひ。物質疏密の度。

【密櫝】163（ミツトク） 人に知られぬやうに函中に藏すること。〔獨孤郁、上權侍郎書〕有照乘之珍、而密櫝之。

【密碼】164 mi^4 ma^3 祕密暗號。電報の暗號。

【密賣】165（ミツバイ） 人に祕して賣る。規約・禁制を犯して賣る。

【密訪】166 mi^4 fang^3 密偵する。ひそかに探訪する。

【密報】167（ミツパウ） ひそかに知らせる。〔北史、薛辯傳〕辯將歸魏、密報謹。

【密房】168（ミツバウ） 奥深い室。奥座敷。〔梁簡文帝、和徐錄事見內人作臥具詩〕密房寒日晚、落照度窓邊。

【密茅】169（ミツバウ） 複姓。〔萬姓統譜〕密茅、見姓苑。

【密白】170（ミツパク） 內々に申上げる。〔南史、張敬兒傳〕沈攸之得其事迹、密白高帝、終無二心。

【密發】171（ミツパツ） 人の知らぬ間に發生する。〔趙至、與嵇茂齊書〕風波潛駭、危機密發。

【密微】172（ミツビ） こまかい。〔新語、道基〕寬博浩大、恢廓密微。〔劉峻、辨命論〕其道密微、寂寥忽慌。

〔密微微〕173（ミツビビ） 枝葉が茂つて幽邃なさま。〔嵇康、琴賦〕竦肅肅以靜謐、密微微其清閑。〔注〕善曰、微微、幽靜也、翰曰、密、枝葉密、微微、幽邃也。

【密夫】174（ミツプ） みそかを。まをとこ。姦夫。〔和漢三才圖會、人倫之用、密夫〕五雜組云、男子之淫於室者、名之曰猳、又曰豭、蓋艾猳者、牽牡豕以行淫者也、今人以妻之外淫者、目其夫爲烏龜、蓋龜不能交而縱牝者與蛇交也、一云、烏龜、乃汙閨之訛耳、又謂之忘八、以孝弟忠信禮義廉恥八者俱忘也、粲於官者爲樂戶、又爲水戶、大明國初之制、綠其巾以示辱、蓋古赭衣之意、而今亡矣、然里閈尚以綠頭巾相戲也、按、密夫、淫他妻者、卽邪淫也。

【密付】175（ミツプ） ［佛］師が弟子に密々に付法すること。禪家の以心傳心をいふ。〔寶鏡三昧〕如是之法、佛祖密付、汝今得之、宜善保護。

【密婦】176（ミツプ） いろをんな。かくし女。みそかめ。

【密封】177（ミツプウ） 固く封じる。又、嚴重な封じかた。〔王建、贈郭將軍詩〕密封計策非時奏、別賜衣裳到處薰。

【密伏】178（ミツプク） しのぶ。かくれる。

【密勿】179（ミツブツ） ❶つとめはげむ。黽勉。〔漢書、劉向傳〕密勿從事、不敢告勞。〔注〕師古曰、密勿、猶黽勉從事也。〔王先謙補注〕錢大昕曰、密勿、卽黽勉、聲之轉也、古讀勿如沒、爾雅、蠠沒、勉也、亦密勿之異文、沈欽韓曰、邶谷風、黽勉同心、文選注引韓詩作密勿同心、傳云、密勿、僶勉也、蠠沒與密勿聲同、劉向治魯詩、是魯韓詩並以黽勉爲密勿。〔後漢書、傅毅傳〕密勿朝夕、聿同始卒。〔後漢書、謝夷吾傳〕雖密勿在公、而身出心隱。〔抱朴子、崇教〕人間之務、密勿罔極。〔宋書、劉穆之傳〕密勿軍國、心力俱盡。❷君主に近づき機密の政に與かる者。又、公務を愼密に處理すること。〔魏志、杜恕傳〕與聞政事、密勿大臣、寧有懇懇憂此者乎。〔六部成語訂正、吏部、密勿、注解〕密、愼也、言辨理公務愼密也。

【密閉】180（ミツペイ） 堅くすきまなくとぢる。

【密辦】181（ミツベン） ひそかに取り行ふ。〔魏志、牽招傳〕若欲潛襲、則山溪艱險、資糧轉運、難以密辦。

【密保】182 mi^4 pao^3 大官が部下の官吏の才能功績ある者を密かに保證推擧すること。

【密謨】183（ミツボ） 內密にはかりごとをめぐらす。又、祕密なはかりごと。密籌。〔傅亮、爲宋公求加贈劉前軍表〕忠規密謨、潛慮帷幕。

【密謀】184（ミツボウ） 密謨に同じ。〔史記、衡山王傳〕日夜從容王、密謀反事。

【密法】185（ミツポフ） ［佛］密教にて行ふ眞言祕密の法をいふ。

【密網】186（ミツマウ） 目のこまかいあみ。嚴しい法の喩。〔史記、酷吏傳〕天下之網嘗密矣。〔晉書、劉頌傳〕謹密網以羅微罪。〔王融、永明九年策秀才文〕傷秋荼之密網、惻夏日之嚴威。

【密密】187（ミツミツ） ❶こまかいさま。〔孟郊、遊子吟〕臨行密密縫、意恐遲遲歸。❷しげつてゐるさま。〔陸游、西園詩〕密密疎疎自在花。❸つとめはげむ。密勿。〔韓非子、說林下〕曰、我笑句踐也、爲人之如是其易也、己獨何爲密密十年難乎。

【密霧】188（ミツム） こまかなきり。〔後漢書、齊武王縯傳〕時天密霧、漢軍大敗。

【密命】189（ミツメイ） 祕密の命令。密令。〔晉書、譙閔王承傳〕仰豫密命、作鎭南夏。〔五代史、南唐李昪世家〕直宣政殿、專掌密命。

【密楊】190（ミツヤウ） 地名。孔子が嘗て病にかかつた時、夏は密楊に居たといふ。一本、楊を陽に作る。〔太平御覽、方術部、醫〕公孫尼子曰、孔子有疾、哀公使醫視之、醫曰、居處飲食如何、子曰、丘春之居葛籠、夏居密楊、秋不風、冬不煬、飲食不饋、飲酒不醉、醫曰、是良藥也。

【密約】191（ミツヤク） 內々に約束する。又、祕密の約束。〔唐書、權皐傳〕敏中議娶王承衍女弟、密約以疾召之。〔宋史、向敏中傳〕密約已定。

〔密約偸期〕192（ミツヤクトウキ） 私通する。〔還魂記、驚夢〕此佳人才子、前以密約偸期。

【密諭】193（ミツユ） 祕密の敕諭。密旨(73)に同じ。〔清會典、辦理軍機處〕或速諭、或密諭、不由內閣明降者爲廷寄。

【密輸】194（ミツユ） 禁を破つてひそかに輸出入する。又、其のこと。

【密庸】195（ミツヨウ） ひそかに用ひる。〔列子、周穆王〕其道密庸、其功同人。

【密蠟】196（ミツラフ） 蜂蜜。〔博物志〕諸遠方山郡幽僻處出密蠟、人往往以桶聚蜂、每年一取。〔徐渭、雪詩〕蜂蛺誤猜堪密蠟、清明纔斷正餳餅。

【密攔】197（ミツラン） すきまなくさへぎる。〔福惠全書、庶政部、河隄歲修〕大樁厚笆深釘密攔。

【密理】198（ミツリ） 肌のきめがこまかい。〔漢書、鼂錯傳〕其人密理、鳥獸毳毛。

【密慮】199（ミツリヨ） ひそかに思ひはかる。又、周密なはかりごと。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕深圖密慮、衆莫能窺。

【密林】200（ミツリン） ❶茂つた林。〔謝靈運、游南亭詩〕密林含餘清、遠峯隱半規。❷宋、車景山(**10－38172**‥268)の號。

【密稟】201（ミツリン） 內密の書きつけ。〔福惠全書、蒞任部、文移諸式〕當卽密稟回覆。

【密令】202 mi^4 ling^4 機密に關する軍令。

【密獵】203（ミツレフ） 禁を犯してひそかに獵をする。

【密話】204（ミツワ） ひそひそばなし。密語。

【密王】205（ミツワウ） ❶後梁、朱友倫(**6－14424**‥645)の追封。❷［佛］大日法身如來をいふ。

【密龕燈】206（ミツガントウ） しづかな寺の燈火。〔酉陽雜俎續集、寺塔記上〕遠聞疎牖磬、曉辨密龕燈。

【密嚴經】207（ミツゴンキヤウ） ［佛］大乘密嚴經をいふ。前後兩譯があり、前譯は唐の地婆訶羅譯、三卷。後譯は唐の不空譯、三卷。〔大藏經、閏帙、十五〕。

【密嚴國】208（ミツゴンコク） ［佛］大日如來の淨土。密嚴淨土。〔菩提心論〕若歸本則是密嚴國土、不起于座、能成一切佛事。〔密嚴經〕佛已超過彼、而依密嚴住、極樂莊嚴國、世尊无量壽。

【密娛齋】209（ミツゴサイ） 清、鄧汝功(**11－39630**‥164)の號。

【密拶拶】210（ミツサツサツ） ぴつたりとつくさま。〔通俗編、狀貌、密拶拶〕朱子語錄、天地間只是陰陽兩字、只就身上體看、不是陰便是陽、密拶拶在這裏。

【密匝匝】211 mi^4 tsa^1 tsa^1 こまかにつらねるさま。〔長生殿、偵報〕密匝匝鐵騎連營列。

【密執安】212（ミシガン） ❶湖の名。アメリカ合衆國五大湖の一。❷地名。アメリカ合衆國北部の一州。Mishigan の音譯。

【密薔薇】213（ミツシヤウビ） 結婚・葬送などに、集まつて來

た人に挨拶もせず茶菓も出さないこと。〔兩般秋雨菴隨筆〕嫁レ女送レ親、所在皆然、廣東順德縣爲二尤甚一、凡來者環二立門外一、主不二迎送一、亦不レ供二茶酒一、名レ之曰二密薔薇一、其名色甚新。

【密蘇里】214（ミツーリ） ❶河の名。アメリカ合衆國中央の大河。源をロツキー山脈に發する。❷地名。アメリカ東部の一州。Missouriの音譯。

【密蒙花】215（ミツモウクワ） 常綠の灌木。蜀に產する。幹の高さ一丈餘で、葉は柊に似て青く厚く、裏には白い細毛がある。花はうす紫色で、密かく多く咲いてゐるさまは簇錦のやうである。水錦花ともいふ。〔本草、密蒙花〕釋名、水錦花、時珍曰、其花繁密蒙茸如二簇錦一、故名。

【密嚴淨土】216（ミツゴンジヤウド） ［佛］大日如來の淨土。密嚴國(208)に同じ。

【密繖花序】217（ミツサンクワジヨ） 植物學用語。多數の小繖花が一箇所に密生した、所謂密繖花を有する花序。聚繖花序の變態。にはとこの類。

【密士失必】218（ミシシツピ） ❶河の名。アメリカ合衆國を流れる大河。源をミネソタ州に發し、支流を合して世界第一の大河といはれる。❷地名。アメリカ合衆國南部の一州。Mississippiの音譯。

【密占窩集】219（ミツセンワシフ） 地名。滿洲吉林省寧安縣の西北。密占河の源。

【密束花序】220（ミツソククワジヨ） 植物學用語。複總花序の花梗が極めて短縮してゐるもの。葡萄の類。

【密帳溫屛】221（ミツチヤウヲンペイ） すきまのないとばりと溫い屛風。〔李商隱、效二徐陵體一贈二更衣一詩〕密帳眞珠絡、溫幃翡翠裝。

【密利迦羅】222（ミツリカラ） 鹿(12−47586)の異名。〔本草、鹿〕釋名、斑龍、時珍曰、梵書謂二之密利迦羅一。

【退二藏於密一】223（ミツニタイザウス） 何人も知らない處に退きかくれること。才能をあらはさず、內に存養を積むこと。〔朱熹、中庸章句〕放レ之彌二六合一、卷レ之則退二藏於密一、其味無レ窮。

【密特瓦里伯克】224（ミトワリバク） 回部の伯克の一つで、田園家屋の登記を掌るもの。〔淸國行政法汎論、回部、伯克及札薩克〕掌三登二記田園家屋一者、有二密特瓦里伯克一。

【㝝】7206

リン 〔集韻〕黎針切 ［侵］

室が深い。〔集韻〕㝝、室深也。

【㝞】7207

［一］ア 〔集韻〕於加切 ［麻］
［二］ア 〔玉篇〕於價切 ［禡］

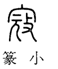
［一］❶しなをつくるさま。㝞奈。〔廣韻〕㝞、㝞奈、作二姿態一皃。❷ゆがむ。正しくない。㝞奈。〔集韻〕㝞、㝞奈、不レ正。［二］かかつてゐるさま。〔玉篇〕㝞、懸皃。

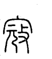
【宼】7208

コウ

寇(3−7209)の俗字。〔正字通〕宼、俗寇字。

【寇】7209


小篆（說文）


小篆（段注本）

コウ ク 〔集韻〕丘候切 ［宥］ ㄎㄡˋ k'ou⁴

❶あだする。㋑あらす。〔說文〕寇、暴也、从二攴完一。〔段注〕當二其完聚一而欲レ寇レ之。〔易、睽〕匪レ寇婚媾。㋺そこなふ。いためる。〔呂覽、貴公〕大兵不レ寇。〔注〕寇、害也。㋩うばふ。〔書、舜典〕寇賊姦宄。〔鄭注〕強取爲レ寇。〔書、費誓〕無二敢寇攘一。〔鄭注〕寇、劫取也。㊁かすめる。〔廣雅、釋言〕寇、鈔也。❷あだ。㋑敵。かたき。〔增韻〕寇、仇也。㋺外亂。〔周禮、春官、大宗伯〕以二恤禮一哀二寇亂一。〔注〕兵作二於外一爲レ寇、作二於內一爲レ亂。㋩兵。〔呂覽、壅塞〕左右有下言二秦寇之至一者上。〔注〕寇、兵也。〔淮南子、主術訓〕寇莫レ大二於陰陽一。〔注〕寇、亦兵也。㊁盜賊。羣をなして人民を劫掠するもの。〔一切經音義、七〕寇、謂二羣行攻剽者一也。〔書、舜典〕寇賊姦宄。〔傳〕羣行攻劫曰レ寇。❸物が盛で多い。〔方言、一〕凡物盛多、謂二之寇一。〔注〕今江東有二小鳧一、其多無レ數、俗謂二之寇一也。❹姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕寇氏、周有二蘇忿生一、爲二司寇一、子孫以レ官氏焉、一云、衞康叔爲二周司寇一、支孫以レ官爲レ氏、秦滅二衞君角家于土谷一、寇恂、其八世孫也、又後魏改二口引氏一、爲二寇氏一。❺［現］吝嗇をいふ。滿洲の方言。

［解字］會意。完と攴との合字。完きをまつて之を攴つ（うつ意）義。故に敗・賊と同義。暴と訓じ、あだするを本義とする。〔說文通訓定聲〕寇、按、暴也、从二攴完一、會意、與二敗・賊一同義。▽ （金文）會意。宀と元と攴との合字。他家に侵入して人（元）をたたき害する意。

［參考］冠（2−1580）は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕冠、音官、冠冕。寇、音扣、司寇。

【寇榮】1（コウエイ） 後漢の人。恂の曾孫。官は侍中に至つたが、罪に陷つて誅せらる。〔後漢書、四十六〕。

【寇賈】2（コウカ） 後漢の寇恂と賈復。寇恂が賈復の部將を戮するや、復は之を恥ぢて仇を報ぜんとしたが、光武帝之を聞いて、今天下未だ定まらず、兩虎安んぞ私闘を爲すを得んや、今日朕之を和睦せしめんと言ひ、遂に幷び坐せしめて歡を極め、車を共にして出でしめてから二人は遂に親友の交を結んだといふ。〔後漢書、寇恂傳〕賈復在二汝南一、部將殺二人於潁川一、恂捕得繫レ獄、時尙草創、軍營犯レ法、率多二相容一、恂乃戮二之於市一、復以爲レ恥歎、還過二潁川一、謂二左右一曰、吾與二寇恂一並列二將帥一、而今爲二其所一レ陷、大丈夫豈有下懷二侵怨一而不レ決レ之者上乎、今見レ恂必手二劍之一、恂知二其謀一、不レ欲二與相見一、谷崇曰、崇將也、得二帶レ劍侍一レ側、卒有レ變、足二以相當一、恂曰、不レ然、昔藺相如不レ畏二秦王一、而屈二於廉頗一者、爲レ國也、區區之趙、尙有二此義一、吾安可二以忘一レ之乎、乃勅二屬縣一、盛二供具一、儲二酒醪一、執金吾軍入レ界、一人皆兼二二人之饌一、恂乃出迎二於道一、稱レ疾而還、賈復勒レ兵欲レ追レ之、而吏士皆醉、遂過去、恂遣二谷崇一以レ狀聞、帝乃徵レ恂、恂至、引見時、復先在レ坐、欲二起相避一、帝曰、天下未レ定、兩虎安得二私鬬一、今日朕分レ之、於レ是並坐極レ歡、遂共レ車同出、結レ友而去。〔魏武帝、與二少府孔融一書〕昔廉藺小國之臣、猶能相下、寇賈倉卒武夫、屈レ節崇好。

【寇害】3（コウガイ） あだしそこなふ。又、其のこと。〔後漢書、質帝紀〕九江・廣陵二郡、數離二寇害一、殘夷最甚。〔後漢書、五行志六〕武谿蠻夷爲二寇害一。〔魏志、何夔傳〕三千餘家爲二寇害一。

【寇羯】4（コウカツ） あだなすえびす。羯は古、山西省遼州一帶に居住したえびす。〔晉書、戴邈傳〕寇羯飮二馬於長江一、兇狡鴟二張於萬里一。

【寇姦】5（コウカン） あだするわるもの。〔宋史、樂志十一〕民商永賴、坐消二寇姦一。

【寇境】6（コウキヤウ） 敵國との境。〔任昉、奏二彈曹景宗一文〕司部懸隔、斜臨二寇境一。

【寇虐】7（コウギヤク） あだしそこなふ。そこなふ。〔詩、大雅、民勞〕式遏二寇虐一、憯不レ畏レ明。〔左氏、昭、二十〕式遏二寇虐一、慘不レ畏レ明、糾レ之以レ猛也。〔晉書、景帝紀〕內摧二寇虐一、外靜二姦宄一。

【寇逆】8（コウギヤク） あだし、むほんする。又、其の者。〔後漢書、臧洪傳〕志同二大事一、埽二清寇逆一、共尊二王室一。

【寇患】9（コウクワン） あだの難儀。敵からうける損害。〔後漢書、西羌、滇良傳〕羌遂陸梁、覆二沒營塢一、寇患轉盛。

【寇警】10（コウケイ） あだが來たといふ警報。敵來襲のしらせ。〔後漢書、祭肜傳〕自レ是匈奴衰弱、邊無二寇警一。

【寇劇】11（コウゲキ） 甚しい惡者。〔後漢書、宦者傳序〕志士窮棲、寇劇緣レ閒。

【寇劫】12（コウケフ） あだしおびやかす。〔晉書、賀循傳〕循答曰、寇劫強多、不レ能二獨制一者、可下指二其踪跡一、言中所在上、都督尋當レ致レ討。

【寇公】13（コウコウ） 宋の寇準(24)をいふ。〔宋史、寇準傳〕初張詠在二成都一、聞二準入相一、謂二其僚屬一曰、寇公奇材、惜學術不レ足爾。

【寇昏】14（コウコン） あだ。亂暴者。〔柳宗元、獻下平二淮夷一雅上表〕寇昏以狂、敢蹈二朔疆一。

【寇讃】15（コウサン） 後魏、昌平の人。字は奉國。封は河南公。謚は宣穆。官は魏の南雍州刺史。〔魏

書、四十二〕・〔北史、二十七〕。

【寇殘】16（コウザン） 賊に殘害せられること。〔六部成語、兵部、寇殘、注解〕地方爲二賊寇所一殘破一。

【寇讎】17（コウシウ） あだ。かたき。寇讐。〔左氏、僖、五〕寇讎之保、又何愼焉。〔孟子、離婁下〕君之視レ臣如二土芥一、則臣視レ君如二寇讎一。〔晏子、問、下〕民聞二公命一、如レ逃二寇讐一。〔魏志、鍾繇傳〕所在之民、誰非二寇讐一。

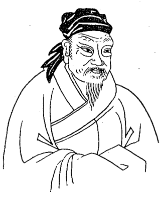
【寇攘】18（コウジヤウ） あだし盗む。他國に攻め入つて盗賊を行ふ。寇掠。〔書、康誥〕寇攘姦宄、殺二越人于貨一。〔詩、大雅、蕩〕流言以對、寇攘式レ內。〔箋〕寇盗攘竊、爲二姦宄一者。〔史記、魯周公世家〕無三敢寇攘踰二牆垣一。〔後漢書、張宗等傳論〕寇攘滯橫。

【寇手】19（コウシュ） あだの部隊。賊の軍勢。賊軍。〔資治通鑑、唐紀〕〔肅宗、至德二載〕臣光曰、委二棄孤城一、齏二粉寇手一。

【寇戎】20（コウジユウ） あだなすえびす。又、攻めて來たえびす。〔周禮、春官、小祝〕有二寇戎之事一、則保二郊祀于社一。〔禮記、月令〕寇戎來征。〔韓非子、大體〕車馬不三疲二弊於遠路一、旌旗不レ亂二於大澤一、萬民不レ失二命於寇戎一。〔呂覽、仲春〕寇戎來征、行二冬令一則陽氣不レ勝。〔列女傳、仁智、許穆夫人傳〕如使三邊境有二寇戎之事一、維是四方之故。

【寇儁】21（コウシュン） 北周の人。臻の子。字は祖儁。謚は元。經籍四部を抄集す。官は驃騎大將軍・開府儀同三司。〔周書、三十七〕・〔北史、二十七〕。

【寇恂】22（コウジュン） 後漢、昌平の人。字は子翼。謚は威。光武に仕へて河內を定め、河內太守に拜せられ、大將軍の事を行ふ。屢〻羣寇を平げ、雍奴侯に封ぜられ、後、汝南太守となり、入つて執金吾となる。〔後漢書、四十六〕。


寇恂（三才圖會）

【寇恂借一】23（コウジュンシヤクイツ） 蒙求の標題。後漢の寇恂が光武帝に從つて潁川の賊を平げ、郡吏を留めて歸らうとした時、百姓が武帝を道に遮つて、寇君を一年間だけ此の地に拜借したいと願ひ出た故事。〔後漢書、寇恂傳〕車駕南征、恂從至二潁川一、盗賊悉降、而竟不レ拜レ郡、百姓遮レ道曰、願從二陛下一復借二寇君一一年、乃留二恂長社一、鎭二撫吏人一、受二納餘降一。

【寇準】24（コウジュン） 宋、下邽の人。字は平仲。謚は忠愍。少くして英邁、春秋三傳に通ず。太宗の朝の進士。太宗之を愛して魏徵に比した。眞宗の時、官は同中書門下平章事。契丹の入寇に衆議を排して眞宗の親征を請ひ、盟を成して還る。封は萊國公。著に巴東集がある。〔宋史、二百八十一〕・〔宋史新編、八十一〕・〔東都事略、四十一〕・〔隆平集、四〕・〔名臣碑傳琬琰集、上、二〕。

【寇深】25（コウシン） 明、唐縣の人。字は文淵。謚は莊肅。官は正統の間、僉都御史、景泰の間、左都御史。曹欽の難に死す。〔國朝獻徵錄、五十四〕・〔本朝分省人物攷、四〕。

【寇愼】26（コウシン） 明、同官の人。字は永修。號は禮亭・殺翮逸叟。萬曆の進士。官は蘇州府知。著に四書酌言がある。〔四庫提要、三十七〕。

【寇瑊】27（コウシン） 宋、臨汝の人。字は次公。進士。官は樞密直學士。治績があつた。〔宋史、三百一〕・〔宋史新編、九十四〕。

【寇臻】28（コウシン） 後魏の人。讚の子。字は仙勝。官は中川弘農太守。孝子。〔魏書、四十二〕。

【寇抄】29（コウセウ） あだしかすめとる。寇鈔。寇掠。〔後漢書、任延傳〕民畏二寇抄一、多廢二田業一。

【寇鈔】30（コウセウ） 攻奪する。寇抄に同じ。〔漢書、高句驪傳〕鮮卑濊貊、連年寇鈔、驅二略小民一、動以レ千數。〔後漢書、桓帝紀〕寇二鈔百姓一。

【寇擾】31（コウゼウ） あだしみだす。〔後漢書、梁皇后紀〕立二質帝一猶秉二朝政一、時楊徐劇賊寇二擾州郡一。

【寇竊】32（コウセツ） あだし盗む。又、其の者。〔魏志、臧洪傳〕寇二竊大州一。〔魏志、崔林傳〕寇竊寢息。〔牛弘、上表請レ開二獻書之路一〕永嘉之後、寇竊競興。

【寇先】33（コウセン） 春秋、宋の人。魚を釣るを業とし、睢水の傍に居ること百餘年、常に冠帶を著く。好んで茘枝を種ゑ、日に葩實を食ふ。宋の景公に道を問はれて對へなかつたため殺されたが、其の後、十年、宋の城門に踞し、琴を鼓すること數十日にして去るといふ。〔水經、睢水注〕城西門、卽寇先鼓レ琴處也、先好レ釣居二睢水旁一、宋景公問レ道不レ告、殺レ之、後十年止二此門一、鼓レ琴而去、宋人家家奉二事之一。

【寇戰】34（コウセン） 敵と戰ふこと。〔商子、戰法〕使下民怯二於邑鬭一、而勇中於寇戰上。

【寇阻】35（コウソ） あだしはばむ。〔後漢書、張宗傳贊〕江淮海岱、處劉寇阻。

【寇賊】36（コウゾク） 人民を攻め刧かして害をなす。又、其の者。〔書、呂刑〕蚩尤惟始作レ亂、延及二于平民一、罔レ不二寇賊一、鴟義姦宄、奪攘矯虔。〔傳〕平民化レ之、無レ不二相寇賊一。〔蔡傳〕延及二平民一、無レ不二爲レ寇爲レ賊。

【寇賊姦宄】37（コウゾクカンキ） あだ。賊。寇は群行してあだを爲すもの、賊は人を殺すもの、姦は外から、宄は內から起るわる者。〔書、舜典〕帝曰、皐陶蠻夷猾レ夏、寇賊姦宄。〔傳〕羣行攻劫曰レ寇、殺レ人曰レ賊、在レ外曰レ姦、在レ內曰レ宄。

【寇盗】38（コウタウ） あだやぬすびと。又、あだしぬすむ。〔左氏、襄、三十一〕不レ畏二寇盗一、而亦不レ患二燥濕一。〔莊子、盗跖〕外則畏二寇盗之害一。〔史記、大宛傳〕昆明之屬無二君長一、善寇盗。〔漢書、李廣利傳〕赦二囚徒一扞二寇盗一。

【寇脫】39（コウダツ） 草の名。〔山海經、中山經〕升山、其草多二寇脫一。〔注〕寇脫草、生二南方一、高丈許、似二荷葉一、葉中有レ瓤、正白、零桂人植而日灌レ之、以爲レ樹。

【寇治】40（コウチ） 後魏の人。臻の子。字は祖禮。兄の祖訓、弟の儁と倶に孝友敦睦、白首に至るまで同居した。官は金紫光祿大夫。賊を討つて戰沒した。〔魏書、四十二〕。

【寇雉】41（コウチ） 鳥の名。北方沙漠に產する、鳩に似た鳥。えびすすずめ。鵽鳩。〔爾雅、釋鳥〕鵽鳩、寇雉。〔疏〕寇雉、一名鵽鳩、郭云、鵽、大如レ鴿、似二雌雉一、鼠腳、無二後指一、岐尾、爲レ鳥憨急、羣飛、出二北方沙漠地一、又謂二之泆泆一、下云二寇雉泆泆一、是也。

【寇場】42（コウヂヤウ） 敵の攻めよせる場所。〔唐書、辛讜傳〕泗州陷在二旦夕一、失レ泗則淮南爲二寇場一、君尚能獨存乎。

【寇敵】43（コウテキ） あだ。かたき。〔墨子、七患〕故國離二寇敵一則傷、民見二凶饑一則亡、此皆備不レ具之罪也。〔後漢書、西羌傳論〕惜哉、寇敵略定矣。

【寇偸】44（コウトウ） あだし盗む者。〔韓愈、汴州東西水門記〕固二風氣一以閇二寇偸一。

【寇難】45（コウナン） あだのうれへ。寇賊の難。〔荀子、王霸〕卒有二寇難之事一。〔漢書、五行志中之上〕旱傷二百穀一、則有二寇難一。〔顏氏家訓、雜藝〕防二禦寇難一。

【寇入】46（コウニフ） あだし攻めいる。〔史記、匈奴傳〕遂遣二奇兵一攻二受降城一、不レ能レ下、乃寇二入邊一而去。

【寇暴】47（コウバウ） 攻め入りあらす。〔魏志、烏丸傳〕擅二漢南之地一、寇二暴城邑一、殺二略人民一。

【寇叛】48（コウハン） あだしそむく。又、其の者。〔吳志、陸抗傳〕抗敕二江陵督張咸一作二大堰一、遏レ水漸二漬平中一、以絕二寇叛一。

【寇湄】49（コウビ） 明末、南院教坊中の女。寇白門(63)を見よ。

【寇鳧】50（コウフ） 小鴨。群棲するから名づける。寇は盛多の意。〔方言、一、凡物盛多謂二之寇一、注〕今江東有二小鳧一、其多無レ數、俗謂二之寇鳧一。

【寇兵】51（コウヘイ） ❶遠く攻め入つてあだしそこなふ。一說に、敵兵をあだしそこなふ。〔六韜、犬韜、練士〕有二踰レ高絕レ遠、輕足善走者一、聚爲二一卒一、名曰二寇兵之士一。❷寇賊と兵器。藉二寇兵一而齎二盗糧一を見よ。

【藉二寇兵一而齎二盗糧一】52（アダニヘイヲカシタウニカテヲモタラス） 敵兵に刃物を貸し、盗賊に糧食を與へること。敵を助けて益〻自己を害ふ喩。〔戰國、秦策〕范雎說二秦王一曰、此所謂藉二賊兵一而齎二盗糧一也。〔李斯、上書諫二逐客一〕今乃棄二黔首一以資二敵國一、卻二賓客一以業二諸侯一、使下天下之士退而不二敢西向一、裹レ足不上レ入レ秦、此所謂藉二寇兵一而齎二盗糧一者也。

【寇洛】53（コウラク） 北周の人。謚は武。封は京兆郡公。文帝に從つて功があつた。〔周書、十五〕・〔北史、五十九〕。

【寇亂】54（コウラン） 外寇と內亂。あだ。賊。〔周禮、春官、大宗伯〕以二恤禮一哀二寇亂一。〔注〕兵作二於外一爲レ寇、作二於內一爲レ亂。〔左氏、文、七〕兵作二于內一爲レ亂、於レ外爲レ寇。〔墨子、天志下〕凡從二事此一者寇亂也。〔後漢書、安帝紀〕比遭二寇亂一。〔後漢書、西羌傳〕德教失、則寇亂。

【寇糧】55（コウリヤウ） かたきの用ひる食糧。敵の食糧。

〔潘岳、馬汧督誄〕分ニ我汧庾一、化爲ニ寇糧一。

【寇掠】56（コウリヤク）　他國に攻め入つて財物などを奪ひ取る。寇偸。寇攘。寇鈔。寇略。〔後漢書、光武紀上〕所在寇掠。〔後漢書、皇甫嵩傳〕遂復寇ニ掠京邑一。〔風俗通、正失〕寇掠賊害。〔韓愈、唐故檢校尚書云云劉公墓誌銘〕蜀人苦ニ楊琳寇掠一。

【寇略】57（コウリヤク）　寇掠に同じ。〔後漢書、安帝紀〕海賊張伯路等、寇ニ略緣海九郡一。

【寇虜】58（コウリヨ）　あだなすえびす。〔墨子、號令〕諸取レ當者、必取ニ寇虜一、乃聽レ之。

【寇令】59（コウレイ）　あだを防ぐ時の號令。〔國語、吳語〕辱ニ軍士一使ニ寇令一焉。〔注〕若ニ禦レ寇之號令一。

【寇謙之】60（コウケンシ）　後魏の人。讚の弟。道術を以て敬重せられた。〔魏書、四十二〕。

【寇彥卿】61（コウゲンケイ）　後梁、開封の人。字は俊臣。太祖に仕へて神將と稱せられた。官は河陽節度使。〔五代史、二十一〕・〔舊五代史、二十〕。

【寇天敍】62（コウテンジヨ）　明、楡次の人。字は子惇。正德の進士。官は刑部右侍郞。寇を禦いで功があつた。〔明史、二百三〕・〔萬斯同明史、二百八十四〕・〔明史稿、一百八十七〕。

【寇白門】63（コウハクモン）　明末、南院敎坊中の女。名は湄。字は白門。音曲・吟詩を能くし、善く蘭を畫く。十八九歲、保國公朱國弼に嫁し、後、揚州の某孝廉に嫁し、志を得ずしてまた金陵に還り、樂籍中に流落して歿した。〔板橋雜記、珠市名妓附見〕。

【寇萊公】64（コウライコウ）　宋の寇準(24)をいふ。萊國公に封ぜられたからいふ。〔席啓圖、益見ニ其忠直一〕王太尉、薦ニ寇萊公一爲レ相。

【寇萊公罷宴】65（コウライコウヒエン）　戲曲の名。淸、楊潮觀作。吟風閣雜劇本の一。宋の寇準が相州の節度使であつた時、盛宴を張らうとし、家中一老嫗の忠諫によつて之を罷めたことを演ずる。

【匪レ寇婚媾】66（アダスルニアラズコンコウセン）　惡意ではなく、婚姻しようとの好意である。〔易、睽〕上九、睽孤、見ニ豕負レ塗、載ニ鬼一車一、先張ニ之弧一、後說ニ之弧一、匪レ寇婚媾、往遇レ雨則吉。〔易、賁〕六四、賁如皤如、白馬翰如、匪レ寇婚媾。

【寇忠愍詩集】67（コウチユウビンシシフ）　書名。三卷。宋、寇準撰。詩情淸婉、一世を動かす風がある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【寇莫レ大ニ於陰陽一】68（アダハインヤウヨリモダイナルハナシ）　人にあだするものは、陰陽の氣が身を侵す病より大きいものはない。〔莊子、庚桑楚〕寇莫レ大ニ於陰陽一、無レ所レ逃ニ於天地之閒一。

【⿱宀帚】7210　シン　寑(**3-7289**)の古字。〔集韻〕寑、古作レ⿱宀帚

【⿱宀⿱丰冂】7211　セイ　青(**12-42564**)の古字。〔集韻〕青、古作レ⿱宀⿱丰冂。

【⿱宀卒】7212　サイ　宰(**3-7160**)の古字。〔集韻〕宰、古作レ⿱宀卒。

【⿱宀⿱一多】7213　ソウ　叟(**2-3176**)に同じ。〔集韻〕叟、或作レ⿱宀⿱一多。

【⿱宀昏】7214　コン　〔字彙補〕曉昆切　元

⿱宀昏方は國名。〔字彙補〕⿱宀昏、⿱宀昏方、國名、見ニ元子一。

【⿱宀乳】7215　ドウ　ヌ　〔篇海類編〕乃后切　有

小さい乳のさま。〔篇海類編〕⿱宀乳、小乳貌。

【⿱宀⿱火人】7216　ソウ　叟(**2-3176**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱宀⿱火人、同レ叟。

【寛】7217　ホウ　冕(**10-34803**)の譌字。〔康熙字典〕寛、卽冕字之譌。

【⿱宀兇】7218　キョウ・コン　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱宀兇、香重切、又火困切。

【⿱宀旲】7219　メイ　冥(**2-1588**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱宀旲、同レ冥。

【⿱宀具】7220　メイ　冥(**2-1588**)の俗字。〔辭海〕⿱宀具、冥俗字。

【⿱宀表】7221　ケツ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱宀表、音竭。

【⿱宀⿱大旦】7222　ダイ　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱宀⿱大旦、音奈。

【⿱宀⿱亞丁】7223　ネイ　寧(**3-7296**)の俗字。〔辭海〕⿱宀⿱亞丁、寧俗字。

名乘　イト。イヤ。ヨシ。

九畫

【⿱宀貞】7224　テイ　チヤウ　〔集韻〕知盈切　庚

人名。〔集韻〕⿱宀貞、闕、人名、後周齊王子⿱宀貞。

【⿱宀眚】7225　セイ　シヤウ　〔集韻〕所景切　梗

やくしよ。或は⿵門眚(**11-41410**)に作り、通じて省(**8-23179**)に作る。〔集韻〕⿱宀眚、柴署、或从レ門、通作レ省。

【寋】7226　［一］ケン　〔集韻〕紀偃切　阮　［二］ケン　〔集韻〕九件切　銑

［一］❶**磬だけをうつ。**〔集韻〕寋、爾雅、徒鼓レ磬、謂ニ之寋一。❷**女のあざな。**〔集韻〕寋、一曰、女字。❸**姓。**〔廣韻〕寋、姓也、今蜀人有レ之。〔萬姓統譜〕寋見ニ姓苑一、唐寋道會從ニ僖宗西幸一、僖宗謂曰、蹇不レ利ニ東北一、因更レ氏曰レ寋。［二］**磬だけをうつ。**［一］の❶に同じ。〔爾雅、釋樂〕徒鼓レ磬、謂ニ之寋一。

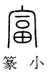
【⿱宀垔】7227　エン　煙(**7-19203**)の古字。〔說文〕煙、⿱宀垔、古文。

【⿱宀⿱八火】7228　ウツ　ウチ　〔字彙〕紆勿切　物

火だね。うづみび。〔字彙〕⿱宀⿱八火、火種也。

【⿱宀彖】7229　テン　篆(**8-26256**)に同じ。〔玉篇〕⿱宀彖、同レ篆。

【富】7230　フウ　フ　〔集韻〕方副切　宥　ㄈㄨˋ　fu^4



小篆

❶**とむ。**㋑そなはる。〔說文〕富、備也、从レ宀畐聲。〔禮、曲禮下〕不ニ饒富一。〔注〕富之言、備也。㋺おほい。〔莊子、天地〕有ニ萬不同一、之謂レ富。㋩さかん。〔論語、顏淵〕富哉言乎。〔集解〕孔安國曰、富、盛也。㋥あつい。ゆたか。〔說文〕富、一曰、厚也。〔孟子、告子上〕富歲。〔注〕富歲、豐年也。㋭財物を多く持つ。〔書、洪範〕二曰富。〔疏〕家豐ニ財貨一也。〔論語、學而〕富而無レ驕。〔皇疏〕積ニ蓄財一曰レ富。❷

とみ。㋑財源。〔周禮、天官、大宰〕九曰、藪、以レ富得レ民。〔注〕富、謂二藪中財物一。㋺財產。〔大學〕富潤レ屋。㋩秩祿。〔禮、祭義〕殷人貴レ富而尙レ齒。〔注〕臣能世レ祿曰レ富。㊁金錢。器具。〔書、呂刑〕非レ訖二于威一、惟訖二于富一。〔傳〕世治、貨賂不レ行。㊂**さち**。**さいはひ**。福(8－24768)に通ず。〔說文通訓定聲〕富、叚借爲レ福。〔詩、大雅、召旻〕維昔之富、不レ如レ時。〔傳〕富、福也。㊃**姓**。〔元和姓纂〕富、魯大夫富父終甥之後。〔尙友錄〕周大夫富辰之後。**邦** **とみ**。とみくじ。

名乘 アツ。トミ。ヒサ。フク。ヨシ。

【富媼】1（フアウ） 地の神。地は寶を蓄へてゐるからいふ。媼は老母の稱で、坤を母となすから、地に媼を稱したもの。〔漢書、禮樂志〕后土富媼、昭二明三光一。〔注〕張晏曰、媼、老母稱也、坤爲レ母、故稱レ媼、海內安定、富媼功耳。〔王先謙補注〕吳仁傑云、媼、當レ爲二煴字之誤一、案、字書、烟煴、天地合氣也、富媼以二烟溫一爲レ義、后土富媼、昭明三光、卽新書、天淸澈、地富煴、物時孰之意、晏說謬矣。

【富安】2（フアン） 豐かで不安のないこと。〔漢書、刑法志〕齊桓公任二用管仲一、而國富民安。〔漢書、食貨志〕可四以爲三富二安天下一、而直爲二此廩廩一也。

【富有】3（フイウ） 財貨を多く有つ。おほく持つ。とむ。〔易、繫辭上〕富有之謂二大業一。〔注〕廣大悉備、故曰二富有一。〔論語、子路〕富有、曰、苟美矣。〔史記、平準書〕先二富有一而後二推讓一。

【富祐】4（フイウ） 財產のゆたかなこと。富裕。富有。〔太平記、一、關所停止事〕富祐の輩が、利倍の爲に畜へ積める米穀。

【富逸】5（フイツ） ㊀蓄財があつて安樂なこと。〔後漢書、李通傳〕居家富逸、爲二閭里雄一。㊁文詞の豐富なこと。〔北史、魏收傳〕收辭藻富逸。〔北史、高閭傳〕高允以二閭文章富逸一、擧以自代。

【富溢】6（フイツ） 金が有りあまる。ものもち。富衍。〔史記、穰侯傳贊〕貴極富溢。〔史記、龜策傳〕富溢貴寵、傾二於朝廷一。〔晉書、閻纘傳〕生而富溢、無レ念レ修レ己。〔蘇軾、代二張方平一諫レ用レ兵書〕漢武帝承二文景富溢之餘一。

【富邑】7（フイフ） 豐かな村里。〔後漢書、孔奮傳〕時天下擾亂、唯河西獨安、而姑臧稱爲二富邑一。

【富榮】8（フエイ） 製鹽場の名。四川省、富順・榮の兩縣に在つて、井鹽を產す。

【富益】9（フエキ） とましふやす。〔魏書、高謙之傳〕別鑄二小錢一、可二以富益一。

【富衍】10（フエン） 富溢(6)に同じ。〔後漢書、文苑、杜篤傳〕國富人衍。〔宋史、地理志〕營丘東道之雄、號稱二富衍一。

【富豔】11（フエン） 詞などがゆたかで美しい。〔范甯、春秋穀梁傳序〕左氏豔而富。〔疏〕左丘明身爲二國史一、躬覽二載籍一、屬辭比事、有レ可二依據一、揚子以爲二品藻一、范氏以爲二富豔一、豔者、文辭可レ美之稱也。〔詩品〕謝靈運、才高詞盛、富豔難レ蹤。

【富翁】12（フヲウ） 金持ちの老人。金持ち。〔論衡、初稟〕富家之翁、貲累二千金一、生有二富骨一、治レ生積レ貨、至二於年老一、成二爲富翁一矣。

【富家】13（フカ） ㊀ゆたかな家。富戶。富豪。富室。資產家。〔管子、立政〕雖レ有二富家多資一、毋二其祿一不三敢用二其財一。〔墨子、貴義〕猶三貧家之處二於富家之閒一也。〔漢書、貨殖、宛孔氏傳〕富家相矜以二久賈一。㊁家を富ませる。〔易、家人〕富レ家大吉。〔史記、貨殖傳〕上則富レ國、不則富レ家。㊂（フケ）姓氏。〔姓名錄抄〕。

【富家翁】14（フカノオキナ） 富翁(12)に同じ。〔史記、留侯世家、意欲二留居レ之、注〕集解曰、徐廣曰、一本、噲諫曰、沛公欲レ有二天下一耶、將欲レ爲二富家翁一耶、沛公曰、吾欲レ有二天下一。

【富家殿】15（フケドノ） 山城國宇治平等院の西にあつた藤原忠實の別邸。

【富家郎】16 fu⁴ chia¹ lang² 富豪の子弟。

【富涯】17（フガイ） 森山定志の號。森山富涯(6－14974‥47)を見よ。

【富高】18（フカウ） 家が富み位が高い。〔墨子、經說下〕或以レ實視レ人、擧二友富高一也、是以レ名視レ人也。

【富康】19（フカウ） 富んで安らかなこと。〔歐陽脩、賜二中書門下一戒二僭奢一詔〕期下與二羣庶一臻中于富康上。

【富豪】20（フガウ） 富家の㊀に同じ。〔史記、田單傳〕令三卽墨富豪遺二燕將一。〔漢書、卜式傳〕是時、富豪皆爭匿レ財。

【富岳】21（フガク） 富嶽に同じ。

【富嶽】22（フガク） 富士山をいふ。〔室鳩巢、富嶽詩〕上帝高居白玉臺、千秋積雪擁二蓬萊一、金雞咿喔人寰夜、海底紅輪飛レ影來。

【富姦】23（フカン） 金持ちの惡者。〔後漢書、章帝紀〕富姦行二賂於下一、貪吏枉二法於上一。

【富韓】24（フカン） 富弼と韓琦。共に宋の賢相。〔宋史、韓琦傳〕韓琦與二富弼一齊レ名、號稱二賢相一、人謂二之富韓一云。

【富貴】25（フウキ） 家が富み身分が貴いこと。又、富み且つ貴くさせる。〔易、繫辭上〕縣象著明、莫レ大二乎日月一、嵩高莫レ大二乎富貴一。〔禮、儒行〕不三隕二穫於貧賤一、不三充二詘於富貴一。〔論語、里仁〕子曰、富與レ貴、是人之所レ欲也。〔論語、顏淵〕富貴在レ天。〔中庸〕素二富貴一、行二乎富貴一。〔老子、九〕富貴而驕。〔莊子、則陽〕顚二冥乎富貴之地一。〔荀子、脩身〕志意脩則驕二富貴一。〔管子、牧民〕我富二貴之一。

【富貴衣】26 fu⁴ kuei⁴ i¹ 劇で、貧乏人や乞食などの著る破れ着物。黑く汚れた色で、小切れをつぎ合せてある。これを著る者は多く後に立身出世するといふ。海青。道袍。

【富貴花】27（フウキクワ） ㊀牡丹(7－19933‥16)の異名。〔周敦頤、愛蓮說〕牡丹、華之富貴者也。〔徐渭、牡丹賦〕吾聞牡丹花稱二富貴一。㊁海棠(6－17503‥397)の異名。〔陸游、留二攀亭一三日王覺民云云詩〕何妨海內功名士、共賞二人閒富貴花一。

【富貴紅】28（フウキコウ） 牡丹の一種。〔陸游、天彭花品、釋名〕富貴紅者、其花葉圓正、而厚色若二新染未レ乾者一、他花皆落、獨此抱レ枝而槁、亦花之異者。

【富貴城】29（フウキジヤウ） 匈奴單于の王城。外蒙古賽音諾顏部色楞格河の北岸。

【坐二富貴一】30（フウキニザス） 結婚式に、酒宴が終つてから夫婦が隣室で行ふ式。〔夢粱錄、嫁娶〕向者迎二新郞一禮、其壻服二綠裳花幞頭一、於二中堂一升二一高座一、先以二媒氏或親戚一互斟レ酒、請下二高座一歸レ房、至二外姑致レ請、方下レ坐回レ房坐二富貴一、今此禮久不レ用、云云、壻登レ牀右首座、新婦坐二於左首一、正坐二富貴一禮也。

【富貴榮華】31（フウキエイグワ） 位高く家富んで榮えること。〔潛夫論、論榮〕所謂賢人君子者、非二必高位厚祿、富貴榮華之謂一也。〔李嶠、汾陰行〕山川滿目淚沾レ衣、富貴榮華能幾時。

【富貴在レ天】32（フウキテンニアリ） 富貴は天の與へるもので、人力の及ぶ所ではない。〔論語、顏淵〕司馬牛憂曰、人皆有二兄弟一、我獨亡、子夏曰、商聞レ之矣、死生有レ命、富貴在レ天。〔疏〕言、人死生短長、各有二所レ稟之命一、財富位貴、則在二天之所一レ予。

【富貴逼レ人】33（フウキヒトニセマル） 富貴が人に迫り來る。人が自ら勉める時には、求めずとも富貴が自ら來る喩。〔北史、楊素傳〕素字處道、周武帝常令レ爲レ詔、下レ筆立成、詩義兼美、帝嘉レ之、謂曰、善相自勉、勿レ憂レ不二富貴一、素應レ聲曰、臣但恐富貴來逼レ臣、臣無三心圖二富貴一。

【富貴不斷】34（フウキフダン） 富貴が長く續いて絶えないこと。〔通俗編、祝誦、富貴不斷〕博古圖、漢千秋萬歲鐵鑑銘曰、千秋萬歲、富貴不レ斷。

【富貴福澤】35（フウキフクタク） 富貴と幸福。〔通俗編、祝誦、富貴福澤〕張子西銘、富貴福澤、將レ厚二吾之生一也。

【富貴利達】36（フウキリタツ） 富と位とを得て立身出世すること。〔名臣言行錄、外集〕僥二倖富貴利達一、學者不レ用也。

【行二乎富貴一】37（フウキニオコナフ） 富貴の身に適應した行をする。境遇に適應することといふ。〔禮、中庸〕君子素二其位一而行、不レ願二乎其外一、素二富貴一、行二乎富貴一、素二貧賤一、行二乎貧賤一。〔疏〕素、鄉也、鄉二其所レ居之位一、而行二其所レ行之事一、不レ願レ行二在位外之事一、論語云、君子思不レ出二其位一也、鄉二富貴之中一、行二道於富貴一、謂二不レ驕不一レ淫也、鄉二貧賤之中一、則行二道於貧賤一、謂二不レ諂不一レ懾也。

【富貴草頭露】38（フウキハサウトウノツユ） 富貴は草におく露のやうにはかない。〔杜甫、送三孔巢父謝レ病歸二遊江東一兼呈二李白一詩〕富貴何如草頭露。〔蘇軾、陌上花詩〕生前富貴草頭露、身後風流陌上花。

【富貴如二浮雲一】39（フウキハフウンノゴトシ） 不義にして得た富貴は、聖人の輕視すること浮雲の賴るべからざるが如くである。〔論語、述而〕不義而富且貴、

於レ我如二浮雲一。〔集注〕程子曰、云云、不義之富貴、視レ之輕如二浮雲一然。

〔富貴生二驕奢一〕40（フウキハケウシヤヲウム） 富貴になれば、自然に驕奢の心を生ずる。〔寶鑑〕富貴生二驕奢一、驕奢生二淫亂一、淫亂生二貧賤一、貧賤生二勤儉一、勤儉生二富貴一。

〔富貴不レ傲レ物〕41（フウキニシテモノニオゴラズ） 富貴であつても物事におごらない。謹しみ深いこと。〔晏子、問、下〕富貴不レ傲レ物、貧窮不レ易レ行。

〔富貴不レ能レ淫〕42（フウキモインスルアタハズ） 富貴を以てしても其の心を動かし亂すことは出來ない。〔孟子、滕文公下〕富貴不レ能レ淫、貧賤不レ能レ移、威武不レ能レ屈、此之謂二大丈夫一。

〔富貴長樂之舫〕43（フウキチヤウラクノバウ） 淸、瞿中溶（**8－23747‥43**）の室名。

〔不三充二詘於富貴一〕44（フウキニジユウクツセズ） 富貴を得ても、喜びのあまり節を失ふやうなことがない。〔禮、儒行〕儒有下不三隕二穫於貧賤一、不三充二詘於富貴一、不レ慁二君王一、不レ累二長上一、不レ閔二有司一、故曰レ儒。〔疏〕不三充二詘於富貴一者、充詘、是歡喜失レ節之貌、言下雖レ得二富貴一、不中歡喜失上レ節。

〔富貴者送レ人以レ財〕45（フウキナルモノハヒトニオクルニザイヲモツテス） 富貴の人は財をおくりものとする。〔史記、孔子世家〕富貴者送レ人以レ財、仁人者送レ人以レ言。

〔富貴他人合貧賤親戚離〕46（フウキナレバタニンモガツシヒンセンナレバシンセキモハナル） 富貴なれば他人までも集まつて來るが、貧賤なれば親戚までも離れる。人情、富貴を好んで貧賤を厭ふ喩。〔愼子、內篇〕兩貴不二相事一、兩賤不二相使一、家富則疏族聚、家貧則兄弟離。〔曹攄、感舊詩〕富貴他人合、貧賤親戚離、廉藺門易レ軌、田竇相奪移。〔續晉陽秋〕殷浩雖二廢黜一、夷レ神委レ命、雅詠不レ輟、外甥韓生、始隨至二徙所一、周年還レ都、浩送至二水側一、乃詠二曹顏遠一詩曰、富貴他人合、貧賤親戚離、因泣下、其悲見二于外一者、唯此一事而已。

〔富貴不レ歸二故鄕一如二衣レ繡夜行一〕47（フウキニシテコキヤウニカヘラザルハシウヲキテヨルユクガゴトシ） 富貴の身となつて故鄕にかへらないのは、例へば繡衣を著て夜行くやうに、其の榮譽を知るものがない。〔史記、項羽紀〕富貴不レ歸二故鄕一、如二衣レ繡夜行一、誰知レ之者。〔漢書、朱買臣傳〕上拜二買臣會稽太守一、上謂二買臣一曰、富貴不レ歸二故鄕一、如二衣レ繡夜行一、今子何如。

〔富貴而無レ禮不レ如二貧賤之孝悌一〕48（フウキニシテレイナケレバヒンセンノカウテイナルニシカズ） 富貴で禮を知らないのは、貧賤で孝悌を行ふ人に及ばない。〔鹽鐵論、孝養〕故富貴而無レ禮、不レ如二貧賤之孝悌一、閨門之內盡レ孝焉、閨門之外盡レ悌焉、朋友之道盡レ信焉、三者、孝之至也。

〔富貴之畏レ人兮不レ若二貧賤之肆一レ志〕49（フウキノヒトヲオソルルヨリハヒンセンノココロザシヲホシイママニスルニシカズ） 富貴ではあるが絶えず人をおそれて氣をつかふよりは、貧賤であつても氣儘に出來る身の方がよい。又、之は而に同じと見、「富貴ニシテ云云」「貧賤ニシテ云云」と讀むも可。〔高士傳、商山四皓、紫芝歌〕莫莫高山、深谷逶迤、曄曄紫芝、可二以療一レ飢、唐虞世遠、吾將何歸、駟馬高蓋、其憂甚大、富貴之畏レ人兮、不レ若二貧賤之肆一レ志。

【富宜】50（フギ） 複姓。〔路史〕堯取二富宜氏一。

【富義】51（フギ） ㊀義に富む。〔呂覽、期賢〕魏文侯曰、段干木富二乎義一、寡人富二于財一。㊁鹽井の名。四川省富順縣。〔華陽國志四〕江陽縣有二富義鹽井一。〔元和志〕富義鹽井、在二縣西南五十步一、月出レ鹽三千六百六十石。〔舊唐書、地理志〕俗呼爲二玉女泉一。

【富丘】52（フキウ） 富士山。

【富鬮】53（トミクジ） 番號を記入したくじを賣り、其の番號中の或るものに金錢を賭け、之に當つた者に與へる無盡講。富籤。彩票。

【富給】54（フキフ） 富みゆたかなこと。富厚。〔史記、貨殖傳〕然是富給之資也。〔漢書、西域傳上〕賦二稅諸國一、取二富給一焉。〔後漢書、祭遵傳〕家富給、而遵恭儉、惡二衣服一。

【富強】55（フキヤウ） 財多く兵のつよいこと。富彊。〔管子、形勢解〕主之所二以爲一レ功者、富強也。〔史記、河渠書〕秦以二富強一、卒幷二諸侯一。〔史記、李斯傳〕國以富強。

【富彊】56（フキヤウ） 富強に同じ。〔後漢書、袁紹傳〕皆所謂逆取順守、而徼二富彊於一世一也。〔左思、吳都賦〕雖二累レ葉百疊一、而富彊相繼。〔蘇洵、管仲論〕終二其身一、齊國富彊、諸侯不レ叛。

【富錦】57（フキン） 縣名。淸、置く。滿洲吉林省樺川縣の東。松下江下流の東南岸、土名は富克錦。〔淸史稿、地理志〕吉林、富錦縣。

【富窟】58（フクツ） 唐の富豪王元寶の家屋を時人が稱した語。金銀珍寶を以て屋を作つたからいふ。〔開元天寶遺事、富窟〕王元寶、都中巨豪也、常以二金銀一疊爲レ屋、壁上以レ紅泥レ之、又於二宅中一置二一禮賢堂一、以二沈檀一爲二軒檻一、以二碔砆一甃二地面一、以二錦文石一爲二柱礎一、云云、時人呼爲二王家富窟一。

【富完】59（フクワン） 富んで物に不足がない。〔歐陽脩、有美堂記〕今其民幸、富完安樂。

【富樫】60（トガシ） 姓氏。〔和爾雅〕。

【富驕】61（フケフ） 財多くして人におごる。〔論語、學而〕子貢問曰、貧而無レ諂、富而無レ驕、何如。〔韓愈、唐故中散大夫少府監胡良公墓神道碑〕巽時主二鹽鐵事一、富驕恃レ勢。

【富顯】62（フケン） 顯れ目立つ。〔漢書、禮樂志〕是時鄭聲尤甚、黃門名倡、丙彊景武之屬、富二顯於世一。

【富源】63（フゲン） 財を生ずる本。利源。

【富戸】64 fu^4 hu^4 財產家。富家(13)に同じ。

【富賈】65（フコ） 富める商人。富商。〔漢書、食貨志下〕豪民富賈、卽要二貧弱一、先聖知二其然一也。

【富侯】66（フコウ） 唐、蕭廩（**9－32012‥276**）の字。

【富厚】67（フコウ） 財多くゆたかなこと。富給。〔韓詩外傳、二〕家富厚者、不二以振レ窮救一レ不レ足。〔戰國、秦策〕人生二世上一、勢位富厚、蓋可二以忽一乎哉。〔荀子、富國〕且有二富厚丘山之積一矣。〔管子、九變〕田宅富厚、足レ居也。〔史記、大宛傳〕厚具以饒二給之一、以覽二示漢富厚一焉。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕富厚如レ之。

【富國】68（フコク） ㊀國をとます。又、富んでゐる國。〔史記、貨殖傳序〕上則富レ國、下則富レ家。〔顏氏家訓、勉學〕匡レ時富レ國。〔唐書、王鉷傳〕有二富國術一、寵遇益厚。㊁荀子の篇名。㊂製鹽場の名。㋑河北省天津縣の東。海鹽を產す。㋺山東省霑化縣の東。〔張醇、晴雲樓記〕國初因二仍舊政一、盡二海濱之野一、爲二十一場一、各置二司令司丞一、典二其鹽政一、大德初、又立二富國場一、總十有二一。

〔富國安民〕69（フコクアンミン） 國を富まし民を安んずる。〔後漢書、方術上、許楊傳〕明府今興二立廢業一、富レ國安レ民、童謠之言、將レ有レ徵二於此一、誠願以レ死効レ力。

〔富國強兵〕70（フコクキヤウヘイ） 國を富まし兵を強くする。〔戰國、秦策〕欲レ富レ國者、務廣二其地一、欲レ強レ兵者、務富二其民一。

【富骨】71（フコツ） 金持ちになる骨相。〔論衡、初稟〕富家之翁、貲累二千金一、生有二富骨一、治レ生積レ貨、至二於年老一、成二爲富翁一矣。

【富才】72（フサイ） 才能を豐かにする。又、豐かな才能。〔文心雕龍、神思〕疏二瀹五藏一、澡二雪精神一、積レ學以儲レ寶、酌レ理以富レ才、研閱以窮レ照、馴致以繹レ辭。

【富歲】73（フサイ） 穀物のよくみのる年。豐年。〔孟子、告子上〕富歲子弟多レ賴。〔集注〕豐年衣食饒足、故有レ所二賴藉一而爲レ善。

【富草】74（トミグサ） 稻の異名。〔枕草紙、四〕あら田に生ふるとみ草の花。

【富札】75（トミフダ） 富くじに用ひる札。〔東海道中膝栗毛、九上〕あたる富札。

【富產】76 fu^4 ch'an^3 ゆたかな產出。

【富士】77（フシ） ㊀士を富ませる。〔荀子、王制〕王者富レ民、霸者富レ士、僅存之國富二大夫一、亡國富二筐篋一。㊁（フジ）富士山の略。〔都良香、富士山記〕富士者在二駿河國一、峯如二削成一、直聳屬レ天、其高不レ可レ測。〔義楚六帖〕日東王城東北千餘里、有レ山名二富士一、或云、是蓬萊也、高峻無レ際、三面臨レ海、山頂常有レ烟突起焉。

〔富士巖〕78（フジガン） 富士山をいふ。〔宋濂、富士巖詩〕絶入二層霄一富士巖、蟠根直壓二三州閒一、六月雪花翻二素毳一、何處深林覓二白鷴一、紅雲起處是蓬瀛、十二樓臺白玉京、不レ知秦世童男女、遇有二兒孫跨一レ鶴行。

〔富士山〕78′（フジサン） 日本一の名山。富士の㊁を見よ。

〔富士松〕79（フジマツ） 落葉松をいふ。

〔富士見窓〕80（フジミマド） 茶室などで、特に富士山の方向へあけた窓をいふ。〔廣原海、十五〕駿河路は召す御駕籠にも富士見窓。

〔富士見亭文庫〕81（フジミテイブンコ） 德川家康が慶長七年六月、江戸に建てた文庫。主として金澤文庫

の藏書を此所に移して保管したが、寛永十六年、更に之を紅葉山文庫內に移した。

【富子】82 フウシ 富強な者。〔左氏、莊、二十三〕去㆓富子㆒則羣公子可㆑謀也已。〔注〕富子、二族之富強者。

【富兒】83 フジ かねもち。かねもちの子ども。〔杜甫、奉㆓贈韋左丞丈㆒詩〕朝扣㆓富兒門㆒、暮隨㆓肥馬塵㆒。〔韓愈、醉贈㆓張祕書㆒詩〕長安衆富兒、盤饌羅㆓羶葷㆒。

【富州】84 フウシウ ㊀州名。㋑渤海、置く。秦漢の時の遼東の地。今、遼寧省鐵嶺縣。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司〕鐵嶺衞、秦漢時遼東地、渤海置㆓富州㆒。㋺唐、置く。今、廣西省昭平縣。〔唐書、地理志七上〕富州開江郡。㋩元、置く。今、雲南省蒙自道。民國、縣に改む。〔讀史方輿紀要、雲南、廣南府〕富州、本蠻夷地、元至元中、置㆓富州㆒、今因㆑之。〔清史稿、地理志〕雲南、廣南府、州一、土富州。㊁縣名。民國、置く。元明の富州の地。雲南省西疇縣の東。縣城は、西洋江の支流の南岸。

【富室】85 フシツ かねもち。富豪。富家。〔漢書、諸侯王表序〕埶與㆓富室㆒亡㆑異。〔後漢書、李固傳〕富室財賂。〔剪燈新話、聯芳樓記〕呉郡富室、有㆓姓薛者㆒。

【富實】86 フジツ 財物が十分にみち足ること。〔漢書、龔遂傳〕吏民皆富實。〔鹽鐵論、輕重〕縣官富實。〔後漢書、第五倫傳〕蜀地肥饒、人吏富實。

【富者】87 フシャ 金持ち。〔韓愈、赴㆓江陵㆒途中寄㆓翰林三學士㆒詩〕富者既云急、貧者國已流。〔國史略、村上天皇〕富者傾㆓產業㆒、貧者失㆓家資㆒。

〖富者人之所㆑欲也〗88 トミハヒトノホツスルトコロナリ 富は萬人の望むことである。〔晏子、雜、下〕子尾曰、富者、人之所㆑欲也、何獨弗㆑欲。〔孟子、萬章上〕富、人之所㆑欲、富有㆓天下㆒、而不㆑足㆓以解㆑憂。

〖富者不㆑仁仁者不㆑富〗89 フシャハジンナラズジンシャハトマズ 金持には仁心がなく、仁者には財が無い。富と仁とは兩立しない。〔鶴林玉露、天、蘇黃遺文〕富者不㆑仁、理難㆓共語㆒、仁者不㆑富、勢難㆓獨成㆒。

【富昌】90 フシヤウ ㊀富んで盛なこと。〔白虎通、聖人〕天下富昌。〔曹植、大魏篇〕賞賜累㆓千億㆒、百官並富昌。㊁縣名。漢、置く。故城は、綏遠境內蒙古鄂爾多斯左翼前旗。〔漢書、地理志下〕西河郡、縣三十六、富昌。

【富商】91 フシヤウ 資力豐な商人。豪商。富賈。〔管子、輕重甲〕富商蓄賈。〔史記、貨殖、宣曲任氏傳〕富商大賈、周㆓流天下㆒。〔漢書、貨殖傳〕富商大賈、大氐盡㆓諸田㆒。〔宋史、洪邁傳〕募㆓瀕海富商㆒、入㆑船予㆑爵。

【富城】92 フジヤウ 縣名。㊀漢、置く。山東省東平縣の地。〔漢書、地理志下〕東平國、縣七、富城。㊁三國呉、置く。江西省豐城縣の南。〔讀史方輿紀要、江西、南昌府、豐城縣〕富城舊縣、在㆓縣南六十里、富水西㆒、後漢建安中、孫氏置㆓縣於此㆒、云云、晉初、移㆓縣於今縣西南㆒。㊂晉代、郡の當城縣の訛。㊃南齊、置く。湖北省の境。㊄後魏、置く。江蘇省宿遷縣の地。

【富壽】93 フウジユ 富み且つ長壽を保つ。〔孔子家語、賢君〕莫㆑大㆔乎使㆓民富且壽㆒也。〔宋史、樂志十三〕富壽無㆑疆。

【富衆】94 フシユウ 家が富み人がおほいこと。〔呉子、料敵〕土地廣大、人民富衆。

【富俊】95 フシユン 清、蒙古正黃旗人。姓は卓特氏。謚は文誠。繙譯進士。官は吉林將軍、及び東閣大學士。〔清史稿、三百四十八〕・〔清史列傳、三十四〕・〔續碑傳集、二〕。

【富春】96 フシユン ㊀山名。浙江省桐廬縣の西。一名、嚴陵山。漢の嚴光、字は子陵の耕した山。嚴光の釣處と傳へらる。〔後漢書、嚴光傳〕耕㆓於富春山㆒、後人名㆓其釣處㆒爲㆓嚴陵瀨㆒焉。〔輿地志〕七里瀨在㆓東陽江下㆒、與㆓嚴陵瀨㆒相接、有㆓嚴山㆒、在㆓東陽縣南㆒、有㆓嚴子陵釣魚處㆒、今山邊有㆑石、上平可㆑坐㆓十人㆒、臨㆑水、名爲㆓嚴陵釣臺㆒。㊁江の名。浙江省富陽縣の南。〔謝靈運、富春渚詩〕旦及㆓富春郭㆒。㊂縣名。漢、置く。浙江省富陽縣の地。〔漢書、地理志上〕會稽郡、縣二十六、富春。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府〕富陽縣、云云、本、漢富春縣、屬㆓會稽郡㆒。

〖富春子〗97 フシユンシ 宋、孫守榮（**3－6987**・・435）の號。

〖富春叟〗98 フシユンソウ 田中桐江（**7－21723**・・229）を見よ。

〖富春堂〗99 フシユンダウ 明、楊溥（**6－15112**・・336）の室名。

〖富春大嶺長〗100 フシユンタイレイチヤウ 清、胡震（**9－29400**・・197）の號。

【富順】101 フジユン 縣名。宋、置く。四川省內江縣の南。沱江の西岸。四川省中第一の鹽產地。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府〕富順縣、云云、宋乾德四年、升爲㆓富義監㆒、太平興國元年、諱㆑義、改曰㆓富順監㆒、治平初、置㆓富順縣㆒、屬㆑焉。〔清史稿、地理志〕四川、敍州府、縣十一、富順。

【富所】102 トミトコロ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【富庶】103 フシヨ ㊀人民が多く且つ富む。〔論語、子路〕子適㆑衞、冉有僕、子曰、庶矣哉、冉有曰、既庶矣、又何加焉、曰、富㆑之。〔韓愈、酬㆘裴十六功曹巡㆓府西驛㆒途中見㆖㆑寄詩〕四海日富庶、道途隘㆓蹄輪㆒。〔呂溫、進㆓農書㆒表〕九扈孔修、賀㆓生靈於富庶㆒。〔韓偓、過㆓漢口㆒詩〕居雜㆓商徒㆒偏富庶、地多㆓詞客㆒自風流。㊁縣名。㋑遼、置く。滿洲熱河省平泉縣所屬の喀喇沁右翼旗の東南の境。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、大寧衞〕遼置㆓富庶縣㆒屬㆓大定府㆒、金元因㆑之、明初廢。㋺金、置く。山西省大寧縣の東。

【富處】104 トドコロ 姓氏。

【富恕】105 フジヨ 元、呉江の人。字は子微。號は林屋山人。元末、世の亂れるや、家を棄てて昭靈觀道士となり、室を雪灘に築いて挂簑亭と名づく。〔蘇州府志〕。

【富殖】107 フシヨク 富んで財貨が多い。〔後漢書、夏馥傳〕同縣高氏蔡氏、竝皆富殖、郡人畏而事㆑之。〔後漢書、竇融傳〕上下相親、晏然富殖。

【富紳】108 fu^{4} shen^{1} 資力ある紳士。

【富人】109 フジン かねもち。財產家。〔詩、小雅、正月〕哿矣富人。〔莊子、天運〕其里之富人見㆑之、堅閉㆑門而不㆑出。〔墨子、非儒下〕富人有㆑喪、乃大悅喜曰、此衣食之端也。〔韓非子、說難〕宋有㆓富人㆒、天雨牆壞。〔漢書、嚴助傳〕家貧、爲㆓友壻富人所㆑辱。〔新書、孽產子〕富人大賈、召㆑客得㆓以被㆑牆。

〖富人家〗110 fu^{4} jen^{2} chia^{1} 財產家。富豪。

〖富人塘〗111 フジンタウ 堤の名。唐の李吉甫の築いたもの。江蘇省高郵縣境。〔海錄碎事、地、陂澤〕李吉甫、節㆓度淮南㆒、築㆓富人固本二塘㆒。

〖富人之稼〗112 フジンノカ かねもちの田畑に出來た五穀。〔蘇軾、稼說送㆓張琥㆒〕曷㆔嘗觀㆓於富人之稼㆒乎、其田美而多、其食足而有㆑餘。

【富仁】113 フジン 隋、達奚長孺（**11－39011**・・29）の字。

【富水】114 フウスイ ㊀川の名。㋑一名、長河。源は湖北省通山縣。陽新縣に入り、富池口を經て江に入る。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、興國州〕長河、州西十里、亦曰㆓富水㆒、源出㆓通山縣白羊山㆒、流入㆓州界㆒、經㆓州西七十里之三教山、四十里之白閶山㆒、諸山溪之水、皆流入焉、經㆓州治㆒而東會㆓於富池湖㆒、東入㆓大江㆒。㋺一名、富河。二川あり、大富水は湖北省隨縣から出て京山縣に入り、小富水は縣北から出て應城縣に入り、金盆湖・三臺湖に注ぐ。㊁郡名。唐、郢州を改め置く。今、湖北省鍾祥縣治。〔唐書、地理志四〕郢州富水郡。㊂縣名。㋑西魏、置く。隋唐、之を承け、宋、省く。今、湖北省京山縣の北。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府、京山縣〕南新市城、縣東北百里、云云、西魏改㆓新市㆒曰㆓富水㆒、又置㆓富人郡治㆒焉、隋初、廢㆑郡、縣屬㆓溫州㆒、大業初、屬㆓安陸郡㆒、唐初、仍屬㆓溫州㆒、貞觀中、屬㆓郢州㆒、宋省入㆓京山㆒。㋺唐、置く。漢の富川縣。今、廣西省富川縣の西南。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府〕富川縣、府東北二百六十里、云云、唐天寶初、改爲㆓富水縣㆒、尋復㆑故、宋仍㆑之。

【富世】115 フセイ 縣名。北周、置く。四川省永寧道。鹽を產し、爲に人民は利を受けることが多いからいふ。〔舊唐書、地理志四〕瀘州富世縣、貞觀二十三年、改爲㆓富義㆒、縣界有㆓富世鹽井㆒、以㆓其井出㆑鹽最多㆒、人獲㆓厚利㆒、故云㆓富世㆒。

【富盛】116 フセイ 富んで盛なこと。〔晉書、習鑿齒傳〕宗族富盛、世爲㆓鄉豪㆒。

【富勢】117 フセイ 富んで勢力がある。〔拾遺記、六、後漢〕小心畏愼、雖㆑居㆓富勢㆒、閉㆑門優游。

【富饒】118 フゼウ 富んでゆたかなこと。富裕。〔史記、呉王濞傳〕國用富饒。〔易林〕富饒豐衍、快樂無㆑已。〔論衡、治期〕案、富饒者命厚所㆑致、非㆓賢愚

所レ獲也。

【富積】119 フセキ 蓄積が多いこと。〔白虎通、禮樂〕王者食所二以有一レ樂何、樂レ食二天下之太平、富積之饒一也、明二天子至尊、非レ功不レ食、非レ德不一レ飽。

【富說】120 フセツ くだくだしい話。〔孔叢子、嘉言〕君子以レ理爲レ尙、繁辭富說、非レ所レ聽也。

【富川】121 フセン 縣名。❶漢、置く。歷代之を承け、唐、天寶の初、富水と改め、尋いで故に復す。宋、之に仍る。今、廣西省平樂縣の東北。萌諸嶺の西。〔漢書、地理志下〕蒼梧郡、縣十、富川。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府〕富川縣、府東北二百八十里、云云、漢置二富川縣一、屬二蒼梧郡一、後漢因レ之、三國吳屬二臨賀郡一、晉以後因レ之、隋初、屬二賀州一、大業初、州廢、改屬二始安郡一、唐武德四年、仍屬二賀州一、天寶初、改爲二富水縣一、尋復レ故、宋因レ之。〔淸史稿、地理志〕廣西、平樂府、縣七、富川。❷唐、置く。今、廣西省忻城土縣の地。

【富羨】122 フセン 富み且つ餘りがある。〔史記、平準書〕欲下擅二管山海之貨一、以致二富羨一、役中利細民上。

【富贍】124 フセン ❶資財が十分に足りる。又、財が富み足りてゆたかなこと。富裕。〔淮南子、原道訓〕富贍二天下一而不レ既。〔注〕贍、足也。〔漢書、武五子、戾太子劉據傳〕聞二其富贍一、使二人呼一レ之。❷文才・學識などに富む。〔晉書、葛洪傳〕凡所二著撰一、皆精二覈是非一、而才章富贍。〔魏書、文苑、裴伯茂傳〕少有二風望一、學涉二羣書一、文藻富贍。

【富籤】125 トミクジ とみくじ。富鬮(53)を見よ。

【富善】126 フウゼン 淸、滿洲正黃旗人。愛星阿の子。諡は恭懿。康熙の閒、一等公を襲爵し、領侍衞內大臣を拜命す。噶爾丹を征して功あり、太子太保を加へらる。〔淸史稿、二百四十二〕・〔淸史列傳、四〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕。

【富僧】127 フソウ 富んだ僧侶。〔王禹偁、應レ詔言レ事疏〕富僧鉅髡、窮二極口腹一、一齋之食、一襲之衣、貧民百家、未レ能二供給一。

【富足】128 フソク 富み足りる。富愈。〔管子、樞言〕家室富足。〔後漢書、鄧晨傳〕家自富足、何故隨二婦家人一、入二湯鑊中一。

【富村】129 フソン 驛の名。❶四川省南部縣の西。人民が繁庶で要衝の地。❷四川省鹽亭縣の東北。

【富態】130 fu^4 t'ai^4 體が肥えふとつてゐる。

【富大】131 フダイ 富んで財が多い。〔新書、時變〕非二富大家一、不二與出入一。

【富島】132 トシマ 姓氏。〔古抄本下學集〕。

【富中】133 フチユウ 肥沃な田圃の中をいふ。〔左思、吳都賦〕富中之甿。〔注〕銑曰、富中之甿、謂二肥沃田中所一レ居人一也。

【富寵】134 フチヨウ 富んで幸福なこと。榮華。〔逸周書、大戒解〕富寵極足、是大極、內心其離。

【富田】135 フデン ❶鎭の名。江西省吉安縣の東南。❷㋑トダ 姓氏。〔和爾雅〕。㋺トミタ 姓氏。〔古抄本下學集〕。

〔富田育齋〕136 トミタイクサイ 仙臺の人。名は安實。字は慶壽。通稱は魁朔・三郞。號は育齋・南丘・西村・明觀・酣叟。官は仙臺藩儒。博學にして文に巧。寬政六年十二月二十九日歿す、年八十九。著に論語解評がある。〔仙臺風藻〕。

【富都】137 フト 容貌などの美しく上品なこと。〔國語、楚語上〕使二富都那豎贊一焉。〔注〕富、富二於容貌一、都、閑也。

【富屯】138 フトン 川の名。閩江の西源で西溪の上流。一名、大溪・杭川。福建省光澤縣から出て、順昌縣の富屯を經て西溪となる。

【富年】139 フネン 春秋に富む時。少壯の時をいふ。〔周弘讓、答二王襃一書〕昔吾壯日、及弟富年、俱値二雝熙一、並歡二衡泌一。

【富波】140 フウハ 縣名。漢、置く。安徽省阜陽縣。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、富波。

【富賣】141 fu^4 mai^4 急ぐことなく、よい客を待つて賣る。

【富萢】142 トミヤチ 陸奧國の地名。

【富博】143 フハク 文才のひろいこと。〔南史、王僧孺傳〕僧孺文麗逸、多用二新事人所レ未レ見者一、時重二其富博一。

【富備】144 フビ 富み足りてととのふ。〔詩、邶風、柏舟、威儀棣棣、疏〕又有二儼然之威、俯仰之儀、棣棣然富備一。

【富弼】145 フヒツ 宋、河南の人。字は彥國。諡は文忠。篤學で大度があり、慶曆の初、知制誥となる。再び契丹に使し、樞密副使を拜命す。至和中、同中書門下平章事となり、文彥博と並んで相となる。世人、富文といふ。英宗の時、樞密使となり、鄭國公に封ぜられ、熙寧中、相となり、司空に加拜され、韓國公に封ぜらる。〔宋史、三百十三〕・〔宋史新編、九十八〕・〔東都事略、六十八〕・〔名臣碑傳琬琰集、上、五〕・〔三朝名臣言行錄、二〕。

【富敏】146 フビン 淸、福敏(**8－24768**‥121)の一名。

【富部】147 トミベ 姓氏。〔和訓栞〕。

【富平】148 フヘイ ❶縣名。㋑漢、置く。もと侯國。山東省陽信縣の東南。〔漢書、地理志上〕平原郡、縣十九、富平。〔注〕侯國。㋺漢、置く。甘肅省慶陽縣の西南。〔漢書、地理志下〕北地郡、縣十九、富平。〔讀史方輿紀要、陝西、靈州守禦千戶所〕富平城在二所西南一、漢置レ縣屬二北地郡一、後漢因レ之。㋩三國魏、置く。陝西省三原縣の東北。沮水の東北岸。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、富平縣〕懷德城在二縣西南十五里一、漢縣也、志云、縣舊治在二今朝邑縣界一、此城乃後漢建安中、因二舊名一、移二置於此一、晉爲二富平縣治一。〔淸史稿、地理志〕陝西、西安府、縣十五、富平。❷堰の名。北周の賀蘭祥が涇渭の二水を灌漑したところ。〔北史、賀蘭祥傳〕祥除二都督荊州刺史一、周文以二涇渭灌溉之處、渠堰廢毀一、乃令三祥修二造富平堰一、開レ渠引レ水、東注二於洛一、功用既畢、人獲二其利一。

〔富平侯〕149 フヘイコウ 漢の張安世は富平侯に封ぜられ、子の延壽、孫の放、皆爵をつぐ。延壽は成帝の姉敬武公主と婚し、成帝も安世の家に微行し、自ら富平侯の家人といつた。〔漢書、張安世傳〕其封二安世一、爲二富平侯一。〔李商隱、富平少侯詩〕七國三邊未レ到レ憂、十三身襲二富平侯一。

〔富平津〕150 フヘイシン 孟津(**3－6960**‥155)に同じ。〔水經、河水注〕故曰二孟津一、亦曰二盟津一、尙書所謂、東至二于孟津一者也、又曰二富平津一。

【富米】151 トメ 姓氏。〔和訓栞〕。

【富父】152 フホ 複姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕富父氏、魯富父終生之後、魯又有二大夫富父槐一。

【富峯】153 フホウ ❶富士山をいふ。〔得閒瑣錄、畫島鎌倉〕富峯特聳二雲表一。❷淸、周玉立(**2－3441**‥612)の號。

【富民】154 フミン ❶富裕な人民。〔漢書、楚元王傳〕富民之怨也。❷民を富ます。富民侯を見よ。〔荀子、王制〕王者富レ民、霸者富レ士。❸縣名。㋑元、置く。漢の秦臧縣の地。明、雲南省雲南府に屬し、淸、之に因る。今、雲南省昆明縣の西。縣城は普渡河に跨がる。もと蠻地にして黎濮甸といふ。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府〕富民縣、府西北九十里、云云、唐初爲二昆州地一、及二天寶以後一沒二於蠻一。〔淸史稿、地理志〕雲南、雲南府、縣七、富民。㋺遼、置く。山西省石玉縣の北境。㋩元、置く。雲南省楚雄縣の東。〔讀史方輿紀要、雲南、楚雄府、楚雄縣〕富民廢縣、在二府東一、元至元中置、尋省二入威楚縣一、今爲二富民鄉一。

〔富民渠〕155 フミンキヨ 隋の郭衍、渭水を引き、大興城を經て、潼關に至らしめて、漕運に利し、富民渠と名づけた。〔海錄碎事、地部、隄渠〕富民渠、郭衍鑿レ渠引二渭水一、名曰二富民渠一。

〔富民侯〕156 フミンコウ ❶封爵の名。漢の武帝の末年、百姓の富まんことを願ひ、丞相を富民侯に封じた。〔漢書、食貨志上〕武帝末年、悔二征伐之事一、迺封二丞相一爲二富民侯一。〔漢書、韋玄成傳〕迺封二丞相一爲二富民侯一、以大安二天下一富二實百姓一。❷漢、車千秋(**10－38172**‥281)の封號。

〔富民大王〕157 フミンタイワウ 遼の耶律撻烈をいふ。〔遼史、耶律撻烈傳〕耶律屋質居二北院一、撻烈居二南院一、俱有二政迹一、朝儀以爲二富民大王一云。

【富野】158 トノ 姓氏。〔和爾雅〕。

【富陽】159 フヤウ 縣名。❶漢、置く。山東省肥城縣の南。〔漢書、地理志上〕泰山郡、縣二十四、富陽。❷晉、置く。浙江省杭縣の南。秦の富春縣の地。縣城は錢塘江の西北岸。〔晉書、地理志下〕吳郡統二富陽縣一。〔淸史稿、地理志〕浙江、杭州府、縣八、富陽。

〔富陽樓〕160 フヤウロウ 富陽縣の城樓をいふ。魏の王粲が賦を作つたところ。〔海錄碎事、地、樓臺〕盛弘之荊州記、富陽縣城樓、王仲宣登レ之而作レ賦。

【富愈】161 フユ 富み足りる。富足。〔論衡、率性〕財貨富愈、起レ屋築レ牆、以自蔽鄣。

【富裕】162 フユウ 財が富み足りてゆたかなこと。富贍。富饒。

【富餘】164 fu^4 yü^2 ❶殘餘。❷ゆたかなる。十分

なる。

【富羅】165 フラ 縣名。唐、置く。廣東省臨高縣の北。〔唐書、地理志七上〕儋州昌化郡富羅縣。

【富老】166 フラウ 富みて老い先の短いこと。〔高啓、悲歌詩〕貧少不レ如二富老一、美遊不レ如二惡歸一。

【富浪】167 フラウ 葡萄牙人・西班牙人をいふ。佛郎機とも呼ぶ。〔元史、郭侃傳〕旭烈兀命レ侃西渡レ海收二富浪一。

【富樂】168 フラク ❶富んで樂しむ。〔史記、張儀傳〕大臣父兄、殷衆富樂。❷山名。四川省緜陽縣の東。〔方輿勝覽〕昔先主入レ蜀、劉璋迎二於此山一、先主望二見蜀之全盛一、飲レ酒樂甚、故名。

【富利】169 フウリ 富む。〔荀子、儒效〕無二正義一以二富利一爲レ隆、是俗人者也。〔晏子、問、下〕作二窮于富利之門一。〔李斯、上書諫二逐客一〕向使二四君卻レ客而不レ內、疏レ士而不レ用、是使下國無二富利之實一、而秦無中彊大之名上也。

【富良】170 フリヤウ 江の名。元江をいふ。一名、河底江。

【富陵】171 フリヨウ 縣名。漢、置く。安徽省盱眙縣の東北。〔漢書、地理志上〕臨淮郡、縣二十九、富陵。

【富力】172 フリヨク とみのちから。財力。〔歐陽脩、壽樓詩〕主人起レ樓何太高、欲下誇二富力一壓中群豪上。

【富麗】173 フレイ ゆたかでうつくしい。〔論語、衞靈公、辭達而已矣、集注〕辭取レ達レ意而止、不下以二富麗一爲上工。

【富祿】174 フロク 多くの扶持を與へる。〔管子、版法〕富二祿有功一以勸レ之、爵二貴有名一以休レ之、兼愛無レ遺。

【富賀岡】175 フカヲカ 東京深川と深川八幡との古名。

【富賀見】176 フカミ 姓氏。〔和爾雅〕。

【富嘉謨】177 フカボ 唐、武功の人。號は志古居士。進士。官は左臺監察御史。其の文は雅厚で、吳少微と共に吳富體と稱し、又、魏谷・倚同と共に北京三傑と稱せられる。〔唐書、二百二〕・〔舊唐書、一百九十〕。

【富嘉謀】178 フカボウ 宋、常熟の人。弼の後裔。字は君美。官は和州の知。

【富衡齋】179 フカウサイ 清、方履籛（**5**－**13620**‥624）の號。

【富喀禪】180 フウコーチヤン 清、滿洲鑲黃旗人。姓は那木都魯氏。天聰の閒、護軍校を以て大淩河・大同を征して之を平定す。順治の閒、李自成を擊破し、陝西・甘肅に轉戰し、西安將軍に累官す。封は三等子。〔清史稿、二百三十三〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十八〕。

【富元衡】181 フゲンカウ 宋の人。嚴の曾孫。字は公權。號は汾陽愚叟。官は紹興中、工部郎中。室名を知止堂といふ。〔宋史翼、二十〕。

【富吳體】182 フゴタイ 唐の富嘉謨と吳少微との文體。徐庾等の氣調が漸く衰へた後を承けて、經典を本とした作風。〔舊唐書、富嘉謨傳〕先レ是文士撰二碑頌一、皆以二徐庾一爲レ宗、氣調漸劣、嘉謨與二少微一屬レ詞皆以二經典一爲レ本、時人欽二慕之一、文體一變、稱爲二富吳體一。

【富春秋】183 fu^4 chʻuen^1 chʻiu^1 年若し。

【富潤レ屋】184 トミハヲクヲウルホス 富があれば自然と家が立派になる。〔大學〕富潤レ屋、德潤レ身。

【富紹庭】185 フセウテイ 宋の人。弼の子。字は德先。宗正丞・通判絳州に歷任し、徽宗の時、祠部員外郎に擢んでらる。〔宋史、三百十三〕・〔宋史新編、九十八〕・〔東都事略、六十八〕。

【富僧德】186 フソウトク 清、滿洲鑲黃旗人。姓は瓜爾佳氏。諡は武壯。乾隆の末、黔楚苗を征し、嘉慶の閒、川楚の教匪を征して功があつた。官は西安將軍に至る。〔國朝耆獻類徵、三百二十五〕。

【富大用】187 フダイヨウ 元の人。字は時可。宋の祝穆の事文類聚に次ぎ、新集外を作る。〔四庫提要、一百三十五〕。

【富直柔】188 フチヨクジウ 宋の人。弼の孫。字は季申。靖康の同進士出身。高宗の朝、端明殿學士・同知樞密院事に累遷したが、秦檜に忌まれ、山澤に吟詠して終る。〔宋史、三百七十五〕・〔宋史新編、一百二十八〕・〔南宋書、二十三〕。

【富寧安】189 フネイアン 清、滿洲鑲黃旗人。阿蘭泰の子。諡は文恭。副都統より倉場侍郎に轉任す。康熙の閒、準噶爾を擊破し、雍正の初、武英殿大學士を拜命す。尋いで西安駐防將軍に陞遷す。封は一等侯。〔清史稿、二百五十六〕・〔清史列傳、十二〕・〔國朝先正事略、七〕。

【富文閣】190 フブンカク 宋、方漸（**5**－**13620**‥322）の室名。

【富本節】191 トミモトブシ 富本豐前掾の創始した淨瑠璃の一種。

【富明安】192 フメイアン 清、滿洲鑲紅旗人。姓は富察氏。諡は恭恪。雍正の閒、筆帖式より戶部主事に轉任し、乾隆の閒、山東巡撫に累擢せられ、湖廣總督に至る。〔清史稿、三百三十〕・〔國朝耆獻類徵、一百七十三〕。

【富蘭那】193 フランナ 佛書の名。十八卷。印度の中古に於ける新教典。多く古代の傳記雜事を記す。史家は此の時代を富蘭時代といひ、西紀四世紀から八世紀に至る閒、卽ち東晉末から唐の中葉に至る閒をいふ。

〔富蘭那迦葉〕194 フランナカセフ Pūraṇa Kāsyapa 六師外道の一。迦葉は母の姓。富蘭那は字。一切の法は虛空だと主張した人。〔注維摩經、三〕迦葉、母姓也、富蘭那、字也、其人起二邪見一、謂、一切法無二所有一、如三虛空不二生滅一也。

〔富樓那〕195 フルナ Pūrṇa 釋迦十大弟子の一人。正しくは富樓那彌多羅尼子に作り、滿願子・滿祝子・滿慈子と譯す。說法に優れ、世に富樓那の辯といふ。〔法華光疏、一〕富樓那、姓也、彌多羅尼子者、此翻爲二願子一、是故無量壽尊者滿願子、卽其人也。

【不レ繼レ富】196 トメルニツガズ 富んでゐる人に更に財貨を與へて、その富を增すやうなことはしない。〔論語、雍也〕君子周レ急、不レ繼レ富。〔集注〕繼者、續レ有レ餘。

【富永滄浪】197 トミナガサウラウ 近江の人。名は瀾。字は子源。號は滄浪居士。通稱は左仲。鄉邑の近江國淺井郡國友村に塾を開く。其の學は漢唐の傳疏・宋明の集釋を折衷して孔孟の遺經を闡發す。明和二年八月十九日歿す、年三十三。著に經說稿・古學辨疑・雞肋集がある。〔先哲叢談、續、八〕。

【富在レ知レ足】198 トミハタルヲシルニアリ ある程度に滿足することを知れば心は富む。〔說苑、談叢〕富在レ知レ足、貴在レ求レ退。

【富山遺稿】199 フザンヰカウ 書名。十卷。宋、方一夔撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【富山先生】200 フザンセンセイ 宋、方一夔（**5**－**13620**‥480）の尊稱。

【富而好レ禮】201 トミテレイヲコノム 富んでしかも禮を好む。〔禮、坊記〕子云、貧而好レ樂、富而好レ禮。〔論語、學而〕子曰、可也、未レ若二貧而樂、富而好レ禮者一也。

【富而不レ驕】202 トミテオゴラズ 富んでも心はおごらない。〔左氏、定、十三〕富而不レ驕者鮮。〔論語、學而〕子貢問曰、貧而無レ諂、富而無レ驕、何如。

【富則多レ事】203 トメバスナハチコトオホシ 富めば面倒なことが多くなる。〔莊子、天地〕堯曰、多二男子一則多レ懼、富則多レ事、壽則多レ辱、是三者非三所二以養一レ德也。

【富不レ如レ貧】204 トミハヒンニシカズ 富裕の身よりも却つて貧乏の方がよい。〔後漢書、向長傳〕向長字子平、河內朝歌人、隱居不レ仕、性尙二中和一、好二通老易一、貧無二資食一、好事者更饋焉、受レ之取レ足、而反二其餘一、云云、讀レ易至二損益卦一、喟然歎曰、吾已知二富不レ如レ貧、貴不レ如レ賤、但未レ知三死何二如生一耳。

【富埒二陶白一】205 トミタウハクニヒトシ 富が陶白に等しい。陶は陶朱公、白は白圭。共に古の富豪。〔劉峻、廣絕交論〕富埒二陶白一、貲巨二程羅一、山擅二銅陵一、家藏二金穴一。〔注〕善曰、史記曰、范蠡之レ陶爲二朱公一、以爲、陶天下之中、諸侯四通、貨物所二交易一也、乃治レ產積、十九年之閒、三致二千金一、云云、漢書曰、白圭、周人也、樂觀二時變一、天下言レ治レ生者、祖二白圭一。

【富喇克塔】206 フウラコータ 清、滿洲鑲白旗人。姓は郭絡羅氏。順治の閒、本旗蒙古都統を拜命す。李自成を擊ち、河南・江南・浙江・福建を平定す。〔清史稿、二百三十三〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕。

【富勒爾濟】207 フロールチ 地名。又、富拉爾基に作る。滿洲黑龍江省龍江縣の西南、嫩江の右岸。嫩江は此處から下流汽船を通ずる。

【爲レ富不レ仁】208 トミヲナセバジンナラズ 財產を畜へようとすれば仁愛は施されない。〔孟子、滕文公上〕陽虎曰、爲レ富不レ仁矣、爲レ仁不レ富矣。〔集注〕恐三爲レ富之害二於仁一也。

【視レ富如レ貧】209 トミヲミルコトヒンノゴトシ 貧富の別を忘れること。〔列子、仲尼〕視レ生如レ死、視レ富如レ貧。

【放レ富差レ貧】210 トミヲハナチヒンヲツカフ 富家よりの賄賂を受

けて、之を官役に使はず、專ら貧家の者を使役すること。〔六部成語、戶部、放㆑富差㆑貧、注解〕官役受㆑賄、賣㆓放富家㆒、專役㆓貧家㆒。

【富視㆓其所㆑與】211（トメバソノアタフルトコロヲミル） 富人の人物のいかんは、如何なる方面に其の金を施與するかを視て察する。〔史記、魏世家〕居視㆓其所㆑親、富視㆓其所㆑與。

【寀】 7231

シン 親(10－34918)の古字。〔集韻〕親、古作㆑寀。

【寍】 7232

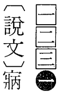
ネイ 寧(3－7296)の古字。〔玉篇〕寍、古文寧。

【寎】 7233

〘一〙ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕陂病切 敬

〘二〙ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕補永切 梗

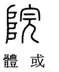
〘三〙ケイ キヤウ 〔集韻〕況病切 敬

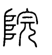

小篆

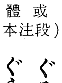
〘一〙〘二〙〘三〙㊀おびえる。おそはれる。〔說文〕寎、臥驚病也、从㆓㝱省㆒丙聲。㊁ねいる。よくねる。〔正字通〕寎、多寐也。㊂三月の別名。寎月。〔爾雅、釋天〕三月爲㆑寎。〔郝懿行義疏〕寎、或作㆑窉、窉者丙也、三月陽氣盛、物皆炳然也。㊃或は窉(8－25464)に作る。〔集韻〕寎、或作㆑窉。

【寏】 7234

クワン グワン 〔集韻〕胡官切 寒


小篆


或體（說文）


或體（段注本）

ぐるりとめぐらした垣。或は院(11－41665)に作る。〔說文〕寏、周垣也、从㆑宀奐聲、院、寏或从㆑𨸏完聲。

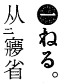
【寏】 7235

クワン グワン 〔玉篇〕戶官切 寒

周代の地名。〔玉篇〕寏、周地名。

【寐】 7236

ビ ミ 〔集韻〕蜜二切 寘 ㄇㄟˋ mei^4


小篆

㊀ねる。ねむる。〔說文〕寐、臥也、从㆓㝱省㆒未聲。〔段注〕俗所謂睡着也、周南毛傳曰、寐、寢也。〔說文通訓定聲〕按、合目曰㆑眠、眠而無㆑知曰㆑寐。〔釋名、釋姿容〕寐、謐也、靜謐無㆑聲也。〔增韻〕寐、昧也、目閉神藏。〔左氏、昭、十二〕王揖而入、饋不㆑食、寢不㆑寐數日。〔國語、晉語一〕歸寢不㆑寐。〔注〕寐、瞑也。㊁死ぬ。〔陸機、歎逝賦〕寤㆓大暮之同寐㆒。〔注〕善曰、寐、猶㆑死也。㊂魚の名。鯠(12－46059)に通ず。〔山海經、東山經〕諸鉤之山、多㆓寐魚㆒。〔注〕卽鯠魚。

參考 眠は單に眼を閉ぢた狀態を言ひ、寐は熟睡した狀態を言ふ。

【寐覺】1（ネザメ） ㊀眠りがさめること。〔後撰和歌集、戀三〕夢路にも宿貸す人のあらませば、ねざめに露は拂はざらまし。㊁香の名。〔香名祕錄〕。㊂地名。

【寐覺月】2（ネザメヅキ） 陰曆九月の異名。〔藏玉集、雜〕幾床か同じ枕のねざめ月。

【寐覺草】3（ネザメグサ） ㊀松(6－14516)の異名。〔藏玉集、寐覺草、松〕。㊁荻(9－31005)の異名。〔藏玉集、寐覺草、荻〕。

【寐覺床】3′（ネザメノトコ） 地名。長野縣西筑摩郡にある景勝地。木曾川の上流にあたり、奇岩・怪石が起伏してゐてながめがよい。

【寐覺鳥】4（ネザメドリ） 鷄(12－47209)の異名。

【寐魚】5（ビギョ） 魚の名。鯠魚(12－46059··1)に同じ。〔山海經、東山經〕又南水行五百里、曰㆓諸鉤之山㆒、無㆓草木㆒、多㆓沙石㆒、是山也、廣員百里、多㆓寐魚㆒。〔注〕卽鯠魚。

【寐棺】6（ネグワン） 死體を横臥したまま納れ得る棺。

【寐語】7（ビゴ） ねごと。たはごと。囈語。〔梅堯臣、和㆓元之述㆑夢見㆑寄詩〕始知端正心、寐語尙不㆑誑。〔馬臻、春歸曲〕百勞留春不㆑許、愁鶯喃喃如㆓寐語㆒。〔續雜纂、難㆓理會㆒〕醉漢寐語。

【寐惚】8（ネボケ） 寐てゐるやうであり、覺めてゐるやうである。ぼんやりしてゐる。〔古今著聞集、十六〕女もねぼけて。

【寐耳】9（ネミミ） 睡眠中の耳。睡眠中、夢うつつとなく聞くこと。〔宇津保物語藏開上〕うちやすみ給へるねみみに聞きて。

【寐首】10（ネクビ） ねてゐる人の首。〔新永代藏、二〕親の寐首まで掻かんとせし惡人。

【寐酒】11（ネザケ） ねぎはに飮む酒。〔浮世風呂、二上〕寢酒の一盃づつも飮んで。

【寐水】12（ネミヅ） 汲んで一夜置いた水。宿水。

【寐聲】13（ネゴヱ） ㊀眠つてゐる人、又は寐起きの人の聲。ねむたさうな聲。〔本朝若風俗、六〕番の者寐聲にて。㊁久しく唄はないでわるくなつた聲。

【寐蓆】14（ネゴザ） ねる時に敷くござ。ねどこ。

【寐息】15（ビソク） ねいき。睡眠中の呼吸。〔蔡邕、薦㆔太尉董卓可㆓相國㆒並自乞㆓閒冗㆒表〕夙夜寤歎、寐息屛營。

【寐待】16（ネマチ） ねて時刻を待つこと。

【寐待月】17（ネマチノツキ） ねて待つ月。陰曆十九日の月。陰曆二十日以後の月にもいふ。〔風雅和歌集、戀二〕ねまちの月のつらさより、二十日のかげも、又や隔てん。寢覺床。

【寐待宵】18（ネマチノヨヒ） 寐待の月の夜。

【寐住】19（ネズマヒ） 寐姿。寐相。

【寐鳥】20（ネドリ） 塒に眠つてゐる鳥。宿鳥。〔吉野都女楠、一〕寐鳥を指すよりいと易し。

【寐腐】21（ネクタレ） 寐た姿のしどけないこと。〔枕草子、十〕ねくたれの朝顏。

【寐腐起】22（ネクタレオキ） しどけない姿のまま起きること。〔夫木和歌抄、二十二〕をみなへし、ねくたれおきの露のけしき。

【寐腐髮】23（ネクタレガミ） 寐て亂れた毛髮。〔拾遺和歌集、哀傷〕わぎもこがねくたれ髮。

【寐返】24（ネガヘリ） ㊀寐た人が體を向け直すこと。〔百合若大臣野守鏡、一〕寐返り遊ばす時。㊁敵に附くこと。㊂約束を破ること。

【寐冷】25（ネビエ） 睡眠中、冷氣に侵されること。〔東海道名所記〕ねびえして時しも起るかんばらに。

【寐惑】26（ネマドフ） ねぼけまどふ。〔枕草子、三〕似げなきもの、老いたる男のねまどひたる。

【寐込】27（ネゴミ） 寐て居る最中。〔文武五人男、一〕寐ごみを斬つて討ち取るべし。

【寐入端】29（ネイリバナ） ねて間もない頃。〔源氏烏帽子折、道行〕今ぞ妹背のね入りばな。

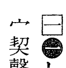
【寐亂髮】30（ネミダレガミ） 寐て亂れた髮。〔萬代集、春上〕佐保姫のねみだれ髮の青柳。

【㝞】 7237

〘一〙エイ 〔集韻〕壹計切 霽

〘二〙ケツ ケチ 〔集韻〕詰結切 屑

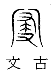
〘三〙エツ エチ 〔集韻〕一結切 屑

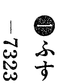

小篆

〘一〙㊀しづか。〔說文〕㝞、竫也、从㆑宀契聲。㊁やすらか。〔集韻〕㝞、一曰、安也。〘二〙しづか。〘一〙の㊀に同じ。〔集韻〕㝞、靜也。〘三〙㊀しづか。〘一〙の㊀に同じ。〔集韻〕㝞、靜也。㊁或は窫(8－25581)に作る。〔集韻〕㝞、或从㆑穴。

【寑】 7238

シン 〔集韻〕七稔切 寑 ㄑㄧㄣˇ ch'in^3


小篆


古文

㊀ふす。ねる。もと寢(3－7323)に作る。〔正字通〕寑、本作㆑寢。〔說文〕寑、臥也、从㆑宀𠬶

聲。〔說文通訓定聲〕寐、云云、按、在レ牀曰レ寢、病寢曰レ寑。㊁**おくざしき**。**たまやの奧ざしき**。〔漢書、外戚下、孝元傅昭儀傳、序二昭穆于前殿一、注〕如淳曰、廟之前曰レ殿、牛以後曰レ寑。㊂**ゐま**。〔廣韻〕寑、室也。〔漢書、賈誼傳〕矧二寑戸之簾一。〔注〕師古曰、室有二東西廂一曰レ廟、無二東西廂一曰レ寑。㊃**をさめる**。〔廣雅、釋詁四〕寑、藏也。㊄**やめる**。**とどめる**。〔後漢書、种暠傳〕大將軍梁冀及諸宦官、互爲請レ救事、皆被二寑遏一。㊅籒文は𡪢(**3－7254**)に作り、古は帚(**3－7210**)・寢(**3－7289**)に作る。〔集韻〕寑、籒作レ𡪢、古作二帚・寢・寑一。

參考 寑はねる意。轉じて、寑室の意。寢は病臥。しかるに、多く寑を用ひず寢の字を用ひる。字解並びに熟語は寢(**3－7289**)を併せ見よ。

【寒】

7239

小篆

カン ガン 〔集韻〕河干切 ㄏㄢˊ han^{2} 寒

㊀**さむい**。㋑つめたい。ひややか。もと𡫳(**3－7384**)に作る。〔正字通〕寒、篆作レ𡫳。〔說文〕𡫳、凍也、从三人在二宀下一、从二茻上下爲レ覆、下有レ仌也。〔段注〕凍、當レ作レ冷。〔素問、至眞要大論〕平以率レ涼、注〕積涼爲レ寒。〔呂覽、君守〕夏熱之下、化而爲レ寒。〔注〕寒暑更也。㋺をののく。〔宋玉、高唐賦〕孤子寡婦、寒心酸鼻。〔注〕善曰、寒心、戰慄也。㊁**ひえる**。**こごえる**。〔戰國、秦策〕有二老人一、涉レ淄而寒。㊂**ひやす**。〔孟子、告子上〕一日暴レ之、十日寒レ之。〔疏〕一日溫煖以暴レ之、十日寒凍以殺レ之。㊃**くるしい**。〔張衡、東京賦〕齊二急舒於寒燠一。〔注〕綜曰、寒燠、猶二苦樂一。㊄**まづしい**。**さびしい**。**いやしい**。〔史記、范睢傳〕范叔一寒如レ此哉、乃取二其一綈袍一以賜レ之。㊅**うすい**。**薄情**。〔左氏、閔、二〕雖レ知二其寒一、惡不レ可レ取。〔注〕寒、薄也。㊆**だまる**。〔後漢書、杜密傳〕自同二寒蟬一。〔注〕寒蟬、謂二寂默一也。㊇**水**。**水氣**。〔書、洪範〕曰、寒。〔鄭注〕寒、水氣也。〔素問、五常政大論〕風寒並興。〔注〕寒、水也。〔禮、禮器、饗二帝於郊一、注〕水爲レ寒。㊈**陰氣**。〔素問、瘧論〕寒者、陰氣也。㊉**冬の氣**。〔素問、熱論〕傷寒之類。〔注〕寒者、冬氣也。(十一)**二十四氣の名**。大寒(**3－5831··349**)の㊀・小寒(**4－7473··193**)を見よ。(十二)**とめる**。〔左氏、哀、十二〕亦可レ寒也。〔注〕寒、歇也。(十三)**みちる**。〔廣雅、釋詁一〕寒、滿也。(十四)**あぶる**。**にる**。脠(**9－29517**)に通ず。〔說文通訓定聲〕寒、叚借爲レ脠。〔曹植、七啓〕寒二芳苓之巢龜一。〔注〕善曰、寒、今脠レ肉也。(十五)**國の名**。夏の時の諸侯に寒浞あり、名は浞にして、寒に封ぜられる。今、山東省濰縣の縣境。〔左氏、襄、四〕寒浞、伯明氏之讒子弟也、伯明后レ寒。〔注〕寒、國、北海平壽縣東有二寒亭一、伯明、其君名。〔疏〕正義曰、寒、是國名、伯明、寒君之名也。(十六)古は𡫳(**3－7369**)に作る。〔集韻〕寒、古作二𡫳・寒一。(十七)韓(**12－43159**)に通ず。〔左氏、襄、八〕寒浞。〔漢書、古今人表〕韓浞。(十八)**百六韻の一**。上平第十四。(十九)**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕寒氏、夏時諸侯寒浞之後、或言、周武王子寒侯之後、且寒浞爲二夏諸侯一矣、周無二寒國一、今濰州東二十三里寒亭、是也、其後以レ國爲レ氏、望出二尋陽一。

名乘 サム。フユ。

解字 會意。宀と茻と仌との合字。仌は氷のはつた貌。屮を上下にかさねて上を覆ひ、下にしくことをあらはし、更に宀(屋)を加へる。寒氣至り地の凍つく時、人が宀下にあつて草をしき、又草を以て覆ひ、生活する狀を字義とする。故に本義をさむし・つめたしの意とする。〔說文通訓定聲〕寒、凍也、从三人在二宀下一、以二茻薦一覆レ之、下有レ仌、會意。

【寒鴉】1 カンア ㊀冬のからす。飢ゑたからす。寒烏。〔張均、岳陽晩景詩〕晩景寒鴉集、秋風旅雁歸。〔嚴維、丹陽送二韋參軍一詩〕日暮江南望二江北一、寒鴉飛盡水悠悠。〔王昌齡、長信秋詞〕玉顏不レ及二寒鴉色一、猶帶二朝陽日影一來。〔顧況、小孤山詩〕古廟楓林江水邊、寒鴉接レ飯雁横レ天。〔歐陽脩、奉二使契丹一初至二雄州一詩〕古關衰柳聚二寒鴉一、駐二馬城頭一日欲レ斜。㊁烏の一種。慈烏(**4－11048··10**)の異名。冬月特に反哺が甚しいからいふ。〔本草、慈烏〕釋名、慈鴉・孝烏・寒鴉、時珍曰、北人謂二之寒鴉一、冬月尤甚也。

【寒鴉枯木】2 カンアコボク 寒鴉と枯木。畫題に用ひる。〔圖繪寶鑑〕闞生作二古木雪景梅花寒鴉凍雀一、深得二其意一。〔謝譯、古木寒鴉圖詩〕懸崖老樹如レ懸レ藤、虬枝屈レ鐵相崚嶒、陰風晝號不レ作レ雨、衆鳥辟易爭奔崩、寒鴉何來色悲壯、兩兩枝頭屹相向。

【寒哀】3 カンアイ 上古の人。始めて御者となる。一本、寒衰に作り、又、韓非子、內儲說下・文選、聖主得二賢臣一頌等には、韓哀に作る。〔呂覽、勿躬〕乘雅作レ駕、寒哀作レ御、王氷作二服牛一。

【寒靄】4 カンアイ 冬のもや。〔何遜、贈二王左丞一詩〕長墟上二寒靄一、曉樹沒二歸霞一。

【寒櫻】5 カンアウ ㊀冬咲く櫻。早咲きの櫻。寒ざくら。〔白居易、早冬詩〕老柘葉黃如二嫩樹一、寒櫻枝白是狂花。㊁カンザクラ 草の名。かんざくらさう。ちゆうくわさくらさう。さくらさう科に屬する宿根草で、早春、花を開き、白色・淡紅色・赤色の種類がある。

【寒鴨】6 カンアフ 冬の鴨。〔宣和畫譜〕除崇嗣畫、御府所レ藏有二寒鴨圖二一。

【寒衣】7 カンイ ㊀薄い衣。寒い時のうす着。〔素問、藏氣法時論〕病在レ肺、愈在レ冬、冬不レ愈、甚二於夏一、夏不レ死、持二於長夏一、起二於秋一、禁二寒飲食寒衣一。㊁寒さを防ぐ衣。冬衣。〔梁洽、金翦刀賦〕春服既裁、寒衣欲レ替。〔庾信、詠二畫屛風一詩〕寒衣須レ及レ早、將レ寄二霍嫖姚一。〔王維、送二崔九興宗遊一レ蜀詩〕出レ門當二旅食一、中路授二寒衣一。〔崔顥、遼西作詩〕寒衣著已盡、春服與レ誰成。〔岑參、河西春暮憶二秦中一詩〕涼州三月半、猶未レ脫二寒衣一。〔李白、秋夕旅懷詩〕芳草歇二柔豔一、白露催二寒衣一。〔杜甫、秋興詩〕寒衣處處催二刀尺一、白帝城高急二暮砧一。〔元稹、景申秋詩〕啼兒冷二秋簟一、思婦問二寒衣一。〔賈島、客喜詩〕鬢邊雖レ有レ絲、不レ堪レ織二寒衣一。㊂十月一日、北京の俗に、先祖を祭り、墓に詣でて焚く紙製の衣服。〔燕京歲時記、十月一〕十月初一日、乃都人祭掃之候、俗謂二之送寒衣一、按、北京歲華記、十月朔、上レ塚如二中元祭一、云云、又帝京景物略、十月朔、紙坊剪レ紙、五色作二男女衣一、長尺有咫、曰二寒衣一、有二疏印一、識二其姓字行輩一、如二寄レ家書一、然、家家脩レ具、夜奠而焚二之其門一、曰二送寒衣一、今則以二包袱一代レ之、有二寒衣之名一、無二寒衣之實一矣、包袱者以二冥鏹一封二於紙函中一、題二其姓名行輩一、如二前所一レ云。

【寒意】8 カンイ 寒さうなおもむき。〔張鼎、江南遇レ雨詩〕江天寒意少、冬月雨仍飛。

【寒威】9 カンヰ 烈しい寒さ。寒さの勢ひ。〔方干、歲晩言レ事寄二鄉中親友一詩〕寒威半入龍蛇窟、暖氣全歸草樹根。〔蘇軾、病中大雪數日未二嘗起觀一號令趙薦以レ詩相屬戲用二其韻一答レ之詩〕西鄰歌吹發、促席寒威挫。

【寒緯】10 カンヰ こほろぎ。蟋蟀。〔鮑照、臨川王服竟還二田里一詩〕愴愴秋風生、戚戚寒緯作。

【寒奧】11 カンイク 寒さと暑さ。寒燠の㊀に同じ。〔漢書、五行志下之上〕雨旱寒奧、以レ風爲レ本、四氣皆亂、故其罰常風也。

【寒燠】12 カンイク ㊀寒さと暑さ。寒暑。寒奧。〔淮南子、俶眞訓〕人之所レ受二於天一者、耳目之於二聲色一也、口鼻之於二芳臭一也、肌膚之於二寒燠一也、其情一也。〔漢書、天文志〕日進爲レ暑、退爲レ寒、若日之南北失レ節、晷過而長爲二常寒一、退而短爲二常燠一、此寒燠之表也。〔後漢書、黃瓊傳〕錯二謬寒燠一。〔袁淑、傚レ古詩〕寒燠豈如レ節。〔李紳、逾二嶺

嶠一止二荒阪一抵二高要一詩〕天將二南北一分二寒燠一、北被二羔裘一南卉服。㊁苦樂。〔張衡、東京賦〕同二衡律一而一二軌量一、齊二急舒於寒燠一。〔注〕綜曰、寒燠、猶二苦樂一。

【寒邑】13 カンイフ さびしい邑。寒村。〔穀梁、僖、二一〕夏陽者、虞虢之寒邑也。

【寒蚓】14 カンイン みみず。〔爾雅、釋蟲、螼蚓蜸蚕、注〕卽蛩蟺也、江東呼爲二寒蚓一。〔本草、蚯蚓〕釋名、螼螾・朐䏰・堅蠶・蛩蟺・曲蟺・土蟺・土龍・地龍子・寒蟪・寒蚓・附蚓・歌女。〔蘇軾、舟中夜起詩〕暗潮生レ渚弔二寒蚓一。

【寒韻】15 カンヰン 寒空にひびく餘韻。〔賈島、送二貞空二上人一詩〕石磬疎二寒韻一、銅鉼結二夜澌一。〔方干、滁上懷二周賀一詩〕暝雪細聲積、晨鐘寒韻疎。

【寒雨】16 カンウ 寒空に降る雨。冷たい雨。又、さびしく降る雨。〔素問、六元正紀大論〕初之氣地氣遷、陰始凝、氣始肅、水廼冰、寒雨化。〔阮籍、東平賦〕玄雲興而四周兮、寒雨淪而下降。〔魏書、南安王楨傳〕其日大風寒雨、凍死者二十餘人。〔許渾、洛陽城詩〕鴉噪二暮雲一歸二故堞一、雁迷二寒雨一下二空壕一。〔王昌齡、芙蓉樓送二辛漸一詩〕寒雨連レ江夜入レ吳、平明送レ客楚山孤。〔韋應物、登レ樓寄二王卿一詩〕數家砧杵秋山下、一郡荊榛寒雨中。〔張南史、陸勝宅秋雨中探韻同レ前詩〕已被二秋風教レ憶レ膾、更聞三寒雨勸二飛觴一。

【寒竽】17 カンウ つまらない笛。〔蘇軾、將レ往二終南一和二子由見レ寄詩〕我今廢レ學如二寒竽一、久不レ吹レ之澁欲レ無。

【寒烏】18 カンウ 寒鴉(1)の㊀に同じ。〔沈約、愍二衰草一賦〕秋鴻兮疏引、寒烏兮聚飛。〔王僧孺、從子永寧令謙誄〕水鳴二秋鶴一、岸集二寒烏一。

【寒雲】19 カンウン 冬の雲。寒げな雲。〔陶潛、歲暮和二張常侍一詩〕向レ夕長風起、寒雲沒二西山一。〔顏延之、還至二梁城一作詩〕故國多二喬木一、空城凝二寒雲一。〔郎士元、別二鄭蟻一詩〕荒城背二流水一、遠雁入二寒雲一。〔皇甫冉、送三李錄事赴二饒州一詩〕積水長天隨二遠客一、荒城極浦足二寒雲一。

【寒英】20 カンエイ ㊀梅花をいふ。〔柳宗元、早梅詩〕寒英坐銷落、何用慰二遠客一。㊁菊花をいふ。〔李山甫、劉員外寄二移菊一詩〕煙含二細葉一交加レ碧、露折二寒英一次第黃。

【寒榮】21 カンエイ 冬の日の南簷。榮は屋の南簷。〔王僧達、答二顏延年一詩〕寒榮共偃曝、春醞時獻斟。〔注〕善曰、郭璞上林賦注曰、榮、屋南簷也、良曰、榮、屋翼也。

【寒影】22 カンエイ 寒さうな影。冬の影。〔蘇味道、詠レ霜詩〕帶レ日浮二寒影一、乘レ風進二晚威一。〔常建、送二楚十少府一詩〕微風吹二霜氣一、寒影明二前除一。〔薛奇童、擬古詩〕寒影波上雲、秋聲月前樹。

【寒營】23 カンエイ 冬の陣營。冬の陣。〔蔣吉、出塞詩〕北風吹起寒營角、直至二榆關一人盡聞。

【寒液】24 カンエキ 冷い涙。〔柳宗元、晉問〕觀者膽掉月出二寒液一。〔蘇軾、江上値レ雪云云詩〕野僧斫レ路出レ門去、寒液滿レ鼻清淋漓。

【寒驛】25 カンエキ 冬の宿場。〔岑參、武威送三劉單判官赴二安西行營一云云詩〕寒驛遠如レ點、邊烽互相望。

【寒葉】26 カンエフ 枯葉。〔鮑照、過二銅山一掘二黃精一詩〕蹀蹀寒葉離、灇灇秋水積。〔李百藥、王師渡二漢水一經二襄陽一詩〕喬木下二寒葉一、亭林落二曉霜一。〔張喬、山中冬夜詩〕寒葉風搖盡、空林鳥宿稀。

【寒煙】27 カンエン 空にたなびく煙。さびしい霞。寒烟。寒霏。〔顏延之、應レ詔觀二北湖田收一詩〕陽陸團二精氣一、陰谷曳二寒煙一。〔吳融、秋色詩〕曾從二建業城邊一路、蔓草寒煙鎖二六朝一。〔駱賓王、秋日山行詩〕攢峰銜二宿霧一、疊巘架二寒煙一。

【寒蜒】28 カンエン 寒蟬(257)に同じ。〔風俗通、十反〕俯伏甚二於鼈蜎一、冷澁比如二寒蜒一。

【寒艷】29 カンエン 淡いあでやかさ。〔侯夫人、看梅詩〕香清寒艷好、誰惜是天眞。

【寒猨】30 カンヱン 冬の猿。〔張協、雜詩〕澤雉登レ壟雊、寒猨擁レ條吟。〔竇冀、懷素歌〕枯藤勁鐵媿二三舍一、驟雨寒猨驚二一時一。〔鮑溶、山中冬思詩〕喚レ人空谷應、開レ火寒猨至。〔李咸用、修睦上人山居詩〕寒猨斷后雲橫レ檻、宿鳥驚時月滿レ庭。

【寒園】31 カンヱン さびしい花園。〔皎然、勞勞山居寄二呈吳處士一詩〕寒園埽二綻栗一、秋浪拾二乾薪一。

【寒淤】32 カンオ 冷いどろ。淤は、どろ。〔杜甫、贈二李八祕書別一詩〕杜陵斜二晚照一、潏水帶二寒淤一。

【寒屋】33 カンヲク 貧乏の家。破れた家屋。〔姚合、洛下夜會寄二賈島一詩〕夜觴歡稍靜、寒屋坐多深。〔梅堯臣、宿二邵埭一聞レ雨云云詩〕寒屋猛添レ響。

【寒音】34 カンオン 寂しい聲。〔潘岳、河陽縣作詩〕鳴蟬厲二寒音一、時菊耀二秋華一。

【寒溫】35 カンヲン ㊀寒さと暖かさ。寒暄。寒暖。〔列子、力命〕寒溫不レ節。〔韓非子、難二〕擧レ事愼二陰陽之和一、種レ樹節二四時之適一、無二早晚之失、寒溫之災一、則入多。〔漢書、京房傳〕以二風雨寒溫一爲レ候。〔後漢書、仲長統傳〕體能辨二寒溫一。㊁さむさあつさの挨拶。時候の挨拶。〔晉書、王獻之傳〕二兄多言二俗事一、獻之寒溫而已。〔蘇軾、岐亭詩〕相逢未二寒溫一、相勸此最急。㊂論衡の篇名。

〔敍二寒溫一〕36 カンヲンヲジヨス 時候の挨拶をのべる。〔通俗編、時序、敍二寒溫一〕世說、謝混與二王齊王睹一敍二寒溫一數語畢、還與二羊孚一談賞。

【寒河】37 サムカハ 姓氏。〔日用重寶記〕。

〔寒河江〕38 サガエ 姓氏。〔姓氏家系大辭典〕。

【寒柯】39 カンカ ㊀冬の木の枝。又、ふゆこだち。冬の木。〔陶潛、飮酒詩〕提レ壺挂二寒柯一、遠望時復爲。〔梁元帝纂要〕冬木曰二寒柯一。㊁清、沈景修(6-17189・・489)の號。

【寒家】40 カンカ ㊀貧しい家柄。貧家。〔魏志、呂布傳、注〕英雄記曰、原字建陽、本出レ自二寒家一、爲レ人麤略、有二武勇一、善二騎射一。〔南史、到溉傳〕溉所レ生母魏、本寒家。〔剪燈新話、翠翠傳〕寒家有レ子。㊁ han² chia¹ 自宅の謙稱。拙宅。

【寒假】41 han² chia⁴ 寒中の休暇。冬休み。

【寒荷】42 カンカ 冬咲く蓮花。〔洞冥記〕鈎影山有二紫河萬里、深十丈一、中有二寒荷一、霜下方香盛。

【寒歌】43 カンカ 風蕭蕭兮易水寒(12-43756・・596)の歌をいふ。〔李白、發白馬〕武安有二振瓦一、易水無二寒歌一。

【寒芽】44 カンガ 冬の芽。〔雍陶、和二劉補闕秋園寓興一詩〕疎篁抽二晚筍一、幽藥吐二寒芽一。

【寒餓】45 カンガ 寒さと飢餓。〔宋史、巢谷傳〕妻子不レ免二寒餓一。〔蘇軾、病中大雪數日未二嘗起觀一號令趙薦以レ詩相屬戲用二其韻一答レ之詩〕詩人例二窮蹇一、秀句出二寒餓一。〔陸游、書二逆旅壁一詩〕窮冬迫二寒餓一、凜有レ在二陳厄一。

【寒蟹】46 カンカイ 小さく瘦せたかに。〔賈島、酹二慈恩文郁上人一詩〕籬落罅間寒蟹過、莓苔石上晚蛩行。〔馬臻、野宿詩〕鄰雞喧二暮柵一、寒蟹上二燈窓一。

【寒厓】47 カンガイ 清、駱國挺(12-44734・・21)の號。

〔寒厓草堂〕48 カンガイサウダウ 清、駱國挺(12-44734・・21)の室名。

【寒崖】49 カンガイ 冬のがけ。〔盧象、竹里館詩〕臘月聞二山鳥一、寒崖見二蟄熊一。

【寒江】50 カンカウ 冬の川。〔杜甫、送三鮮于萬州遷二巴州一詩〕祖帳維レ舟數、寒江觸レ石喧。〔孟郊、寒江吟詩〕寒江波浪凍、千里無二平冰一。

〔寒江獨釣〕51 カンカウドクテウ 冬の川に獨り魚をつる姿。〔柳宗元、江雪詩〕千山鳥飛絕、萬徑人蹤滅、孤舟簑笠翁、獨釣二寒江雪一。

【寒更】52 カンカウ 寒い夜更け。夜更けて寒い。〔駱賓王、別二李嶠一得二勝字一詩〕寒更承二夜永一、涼景向二秋澄一。〔嚴維、荊溪館呈二丘義興一詩〕野燒明二山郭一、寒更出二縣樓一。〔羅隱、長安秋夜詩〕燈欹二短焰一燒二離鬢一、漏轉二寒更一滴二旅腸一。

【寒郊】53 カンカウ 冬の寂しい野原。〔江淹、望二荊山一詩〕寒郊無二留影一、秋日懸二清光一。

【寒香】54 カンカウ 梅のにほひ。〔羅隱、梅華詩〕愁憐粉艷飄二歌席一、靜愛寒香撲二酒罇一。〔杜牧、早春寄二岳州李使君一詩〕返照三聲角、寒香一樹梅。

〔寒香閣〕55 カンカウカク 清、鄧鍾岳(11-39630・・166)の室名。

〔寒香館〕56 カンカウクワン 室名。㊀清、賀熙齡(10-36725・・125)の室名。㊁清、朱之錫(6-14424・・807)の室名。

〔寒香齋〕57 カンカウサイ 清、楊士林(6-15112・・558)の號。

〔寒香草堂〕58 カンカウサウダウ 清、劉元燮(2-2224・・889)の室名。

【寒皐】59 カンカウ 鳥の名。鸜鵒(12-47502・・1)の異名。降雪の前に必ず騷ぎ告げるからいふ。〔本草、鸜鵒〕釋名、鴝鵒・哵哵鳥・八哥・寒皐、時珍曰、天寒欲レ雪、則羣飛如レ告、故曰二寒皐一、皐者告也。

【寒耕】60 カンカウ 寒い冬にたがやす。〔書、無逸、先知二稼穡之艱難一疏〕民之性命、在二於穀食一、田作雖レ苦、不レ得レ不レ爲二寒耕熱耘一。〔管子、臣乘馬〕

農夫寒耕暑耘、力歸二於上一。〔劉禹錫、賈客詞〕農夫何爲者、辛苦事二寒耕一。

〖寒耕熱耘〗61（カンカウネツウン） 寒冬にたがやし暑夏に草ぎる。農事につとめる。寒耕を見よ。〔新書、審微〕民乎二寒耕熱耘一曾不レ得レ食也。〔孔子家語、屈節解〕民寒耕熱耘、曾不レ得レ食。

【寒釭】62（カンカウ） 寒夜のともしび。寒燈。〔劉長卿、雜詠、寒釭詩〕戀レ君秋夜永、無レ使二蘭膏薄一。

【寒角】63（カンカク） 寒さうな角笛の音。〔韋應物、廣陵行〕嚴城動二寒角一、晩騎踏二霜橋一。〔方干、上二杭州杜中丞一詩〕寒角細吹孤嶠月、秋濤横卷半江雲。

【寒客】64（カンカク） ㊀臘梅(9−30009··23)の異名。〔西溪叢語〕臘梅爲二寒客一、瓊花爲二仙客一。㊁貧民。〔梅堯臣、觀二博陽山火一詩〕小農候レ春鋤、寒客失二冬樵一。㊂寂しい人。こごえた人。〔魏了翁、泛レ雪詩〕爐中榾柮熱二寒客一、縱欲レ燒レ愁能得レ然。

【寒埆】65（カンカク） やせた土地。埆は、あれ地。〔吳志、薛綜傳〕方土寒埆、穀嫁不レ殖。

【寒澗】66（カンカン） ひえびえとした谷川。〔鮑照、擬古詩〕束レ薪幽篁裏、刈レ黍寒澗陰。

【寒雁】67（カンガン） 寒空に飛ぶかりがね。〔唐無名氏、朝元閣賦〕寒雁正來、下二泰山之八水一、暮煙初起、繞二漢家之五陵一。〔楊師道、隴頭水詩〕霧中寒雁至、沙上轉蓬輕。〔王昌齡、春怨詩〕寒雁春深歸去盡、出レ門腸斷草萋萋。〔劉禹錫、更衣曲〕夜如何其夜漫漫、鄰鷄未レ鳴寒雁度。

【寒巖】68（カンガン） ㊀冷いいは。〔方干、題二龍泉寺絶頂一詩〕古樹含レ風長帶レ雨、寒巖四月始知レ春。㊁大巖の名。浙江省天台縣の西南。洞穴甚だ多く、頂に一石が突起し、宴坐峯といひ、平らで廣く、數百人を容る。寒山子の宴坐した處なるを以て名づくと傳ふ。今、寒巖寺がある。〔高僧傳〕閭丘復往二寒巖一謁問、便縮入二岩穴縫中一、乃令三僧道翹尋二其遺物一。〔寒山、詩〕寒巖人不レ到、白雲常靉靆。〔寒山、詩〕棲二遲寒巖下一、偏訝最幽奇。

【寒卉】69（カンキ） 寒中の草。〔左思、蜀都賦〕百藥灌叢、寒卉冬馥。〔注〕銑曰、寒卉、冬生草也。

【寒氣】70（カンキ） さむさ。寒氣。〔禮、月令〕以送二寒氣一。〔新書、諭誠〕猶憯然有二寒氣一。〔史記、倉公傳〕陰氣入張、則寒氣上而熱氣下。〔論衡、感虛〕寒氣應至。〔劉長卿、感懷詩〕水近偏逢二寒氣早一、山深常見二日光遲一。

【寒暉】71（カンキ） 弱い日光。〔盧象、送二祖詠一詩〕東原多二煙火一、北澗隱二寒暉一。

【寒機】72（カンキ） 寒空に光る機星。〔鮑照、和二王義興七夕一詩〕寒機思二孀婦一、秋堂泣二征客一。

【寒饑】73（カンキ） こごえうゑる。寒餒。〔唐書、陳子昂傳〕同城本無二儲峙一、而降附蕃落、不レ免二寒饑一、更相劫掠。〔白居易、寄二唐生一詩〕唐生者何人、五十寒且饑。

【寒菊】74（カンギク） 冬の菊。〔梁簡文帝、丞相長沙宣武王碑〕春藤絡レ戶、寒菊臨レ池。〔韋應物、奉二和聖製重陽日賜宴一詩〕寒菊生二池苑一、高樹出二宮城一。〔杜甫、長沙送二李十一銜一詩〕李杜齊レ名眞忝レ竊、朔雲寒菊倍離レ憂。〔朱灣、秋夜宴二王郎中宅一賦二得露中菊一詩〕衆芳春競發、寒菊露偏滋。

【寒乞】75（カンキツ） 見すぼらしい乞食。〔宋書、明恭王皇后傳〕外舍家寒乞、今共爲二笑樂一、何獨不レ視。〔楊萬里、小二泊英州一詩〕只有三春風不二寒乞一、隔レ溪吹度柚花香。

【寒鄕】76（カンキヤウ） ㊀寒い土地。寒境。〔宋書、張暢傳〕以二北土寒鄕一、皮袴褶脫。〔元好問、送二樊順之一詩〕寒鄕況味眞鷄肋。㊁貧しい境遇。賤しい家柄。寒境。〔唐書、宋若昭傳〕家亦不レ欲下與二寒鄕凡裔一爲中姻對上。㊂まづしくさびしい地。窮境。〔鮑照、東武吟〕僕本寒鄕士、出身蒙二漢恩一。

【寒行】77（カンギヤウ） 寒中にする苦行。

【寒居】78（カンキヨ） 寒氣の中に居る。又、わびしい住居。〔韓愈、燕喜亭記〕洞曰二寒居之洞一、志二其入時一也。〔竇洵直、鳥散餘花落詩〕微臣一何幸、吟賞對二寒居一。

【寒渠】79（カンキヨ） 水の涸れた溝。〔庾信、望野詩〕涸渚通二沙路一、寒渠塞二水門一。

【寒魚】80（カンギヨ） 冬の魚。〔儲光羲、藍上茅茨期二王維補闕一詩〕淺瀨寒魚少、叢蘭秋蝶多。〔杜甫、草堂卽事詩〕寒魚依二密藻一、宿鷺起二圓沙一。〔六一詩話〕晏元獻公獨愛二其兩聯一云、寒魚猶著レ底、白鷺已飛レ前。

【寒兇】81（カンキヨウ） 甚しい寒さ。兇は程度の甚しいこと。酷寒。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕歲弊寒兇、雪虐風饕。

【寒蛩】82（カンキヨウ） 晩秋に鳴くこほろぎ。〔韋應物、擬古詩〕寒蛩悲二洞房一、好鳥無二遺音一。〔李郢、宿二杭州虛白堂一詩〕秋月斜明虛白堂、寒蛩唧唧樹蒼蒼。〔戴叔倫、客夜與二故人一偶集詩〕風枝驚二暗鵲一、露草覆二寒蛩一。

【寒極】83（カンキヨク） ㊀寒さがきはまる。〔鄭谷、訪二題表兄王藻渭上別業一詩〕幽檻靜來漁唱遠、暝天寒極雁行低。〔宋史、司馬光傳論〕凡新法之爲二民害一者、次第取而更張レ之、不二數月之閒一、剗革略盡、海內之民、如二寒極而春、旱極而雨一、如レ解二倒懸一、如レ脫二桎梏一、如レ出二之水火之中一也。㊁han² chi² 北極。南極。

【寒玉】84（カンギヨク） ㊀美しい玉。〔韋應物、五絃行〕古刀幽磬初相觸、千珠貫斷落二寒玉一。〔白居易、苦熱中寄二舒員外一詩〕藤牀鋪二晩雪一、角枕截二寒玉一。〔雍陶、韋處士郊居詩〕門外晩晴秋色老、萬條寒玉一溪煙。㊁竹(8−25841)の異名。綠玉。〔王禹偁、竹鼺詩〕春筍齧二生犀一、秋筠折二寒玉一。㊂淸らかな水。しみづ。〔李羣玉、引水行詩〕一條寒玉走二秋泉一、引出深蘿洞口煙。〔李玖、白衣叟噴玉泉感二舊遊一詩〕傷心谷口東流水、猶噴當時寒玉聲。㊃淸らかな貌。〔桐江詩話〕寒玉超然、自有二姑射姿一。〔貫休、題二淮南惠照寺律師院一詩〕儀冠凝二寒玉一、端居似二沃州一。㊄月影。月。〔李賀、江南弄〕吳歈越吟未レ終レ曲、江上團團帖二寒玉一。㊅琴瑟の名。〔茅亭客話〕隋文帝子蜀王秀、造二千面琴一、散在二人閒一、有下號二寒玉韻磬響泉一者上。〔杜陽雜編〕唐盧萬有二寶瑟數十一、內有二寒玉響泉之號一。

〖寒玉屛〗85（カンギヨクヘイ） 淸、閔南仲(11−41251··62)の室名。

【寒衾】86（カンキン） 寒いよぎ。冬のよぎ。〔唐彥謙、夜蟬詩〕羇人此夕如二三歲一、不レ整二寒衾一待二曙雞一。

【寒窘】87（カンキン） 寒さのくるしみ。〔蘇軾、李公擇過二高郵一云云詩〕詩成天一笑、萬象解二寒窘一。

【寒禽】88（カンキン） 冬の鳥。〔謝靈運、苦寒行〕浮陽減二淸暉一、寒禽叫二悲壑一。〔梁元帝纂要〕冬鳥曰二寒鳥一、又曰二寒禽一。〔元稹、酬二樂天雪中見レ寄詩〕敲二扶密竹一枝猶亞、煦二暖寒禽一氣漸蘇。

【寒噤】89（カンキン） 寒さに口をつぐみ身ぶるひする。ぞつとする。〔李洞、寄二太白隱者一詩〕高遮辭レ磧雁、寒噤入レ川人。

【寒吟】90（カンギン） ㊀さびしい聲でなく。〔潘岳、秋興賦〕蟬嘒嘒以寒吟兮。㊁冬の寒い日に歌ふ。〔方干、題二桐廬謝逸人江居一詩〕湖邊倚レ杖寒吟苦、石上橫レ琴夜醉多。〔歐陽脩、酬二聖兪朔風見レ寄詩〕因二君朔風句一、令三我苦二寒吟一。

【寒苦】91（カンク） ㊀寒さがきびしい。きびしい寒さ。〔史記、匈奴傳〕亡下匿於幕北寒苦、無二水草一之地上。〔漢書、趙充國傳〕土地寒苦、漢馬不レ能レ冬。〔後漢書、西羌傳〕堪二耐寒苦一、同二之禽獸一、雖二婦人產レ子、亦不レ避二風雪一。〔李白、潁陽別三元丹丘之二淮陽一詩〕松柏雖二寒苦一、羞逐桃李春。㊁貧の苦しみ。甚しい貧乏。貧苦。〔列女傳、賢明、晉趙衰妻傳〕與レ人同二寒苦一、雖レ有二小過一、猶與レ之同レ死而不レ去。〔魏志、王脩傳、注〕邴春者根矩之後也、少立二志操一、寒苦自居、負レ笈遊學、身不レ停レ家。〔魏文帝、豔歌何嘗行〕少小相觸抵、寒苦常相隨。〔晉書、甘卓傳〕儉少有二志行一、寒苦自立。〔唐書、劉審禮傳〕與二弟延琮一爲二聞友一、得レ祿多資レ之、而妻子執二寒苦一晏如也。

〖寒苦鳥〗92（カンクテウ） 鳥の名。天竺の雪山に棲み、終夜寒氣に惱み、雌は殺レ我寒故と說き、雄は夜明造レ巢と鳴くが、夜が明ければ、朝日の暖に浴して巢を作ることを忘れ、何故造二作栖一、安二穩無常身一、今日不レ知レ死、明日不レ知レ死と鳴くといふ。又、雪山鳥といふ。〔錄內拾遺、五〕。

〖寒苦磨鍊之餘〗93（カンクマレンノヨ） 貧の苦しみに鍛鍊せられた結果。〔周鴻覃、記二峨眉松一〕多出二於寒苦磨鍊之餘一。

【寒窶】94（カンク） 貧しくやつれる。〔唐書、鄧景山傳〕景山與二劉晏一善、家寒窶、晏屢經二紀之一、嫁二其孤女一。〔范成大、萬州詩〕窮鄕固瘠薄、陋俗亦寒窶。

【寒懼】95（カンク） おそれてぞつとする。〔唐書、席豫傳〕乃上疏請レ立二皇太子一、語深切、人爲二寒懼一。

【寒具】96（カング） ㊀防寒用の衣服。冬じたく。〔宋史、文苑六、劉恕傳〕自レ洛南歸、時方冬無二寒具一。㊁寒食の時に食ふ菓子。糯の粉に麵粉をまぜて繩のやうにし、油で煎つて砂糖をかけたもの。饊子。〔周禮、天官、籩人、朝事之籩、其實麷蕡、注〕朝

事、謂㆓清朝未㆑食、先進㆒寒具口實之籩㆒。〔本草、寒具〕釋名、捻頭・環餅・饊、時珍曰、寒具、冬春可㆑留㆓數月㆒、及㆓寒食禁烟㆒用㆑之、故名㆓寒具㆒、捻頭、捻㆓其頭㆒也、環餅、象㆓環釧形㆒也、饊、易㆓消散㆒也、服虔通俗名謂㆓之餲㆒、張揖廣雅謂㆓之粰梳㆒、楚辭謂㆓之粔籹㆒、雜字解詁謂㆓之膏環㆒。〔續晉陽秋〕桓靈寶好㆑蓄㆓法書名畫㆒、客至、嘗出而觀、客食㆓寒具㆒、油汙㆓其畫㆒、後遂不㆑設㆓寒具㆒。〔蘇軾、次㆓韻米黻二王書跋尾㆒詩〕怪君何處得㆓此本㆒、上有㆓桓玄寒具油㆒。

【寒空】97 カンクウ　冬のそら。さむぞら。寒天。〔杜甫、韋風錄事宅觀㆓曹將軍畫馬圖㆒引〕其餘七匹亦殊絕、迥若㆔寒空動㆓煙雪㆒。〔李頎、宿㆓瑩公禪房㆒聞㆑梵詩〕蕭條已入㆓寒空㆒靜、颯沓仍隨㆓秋雨㆒飛。〔張說、奉㆔和聖製途經㆓華嶽㆒詩〕霽日懸㆓高掌㆒、寒空映㆓削成㆒。

【寒火】98 カンクワ　㊀光があつて熱のないこと。〔本草、陽火陰火〕集解、時珍曰、此外又有㆓蕭丘之寒火、澤中之陽焰、野外之鬼燐、金銀之精氣㆒、此皆似㆑火而不㆑能㆑焚㆑物者也。〔白虎通、五行〕五行之性、火熱水寒、有㆓溫水㆒無㆓寒火㆒何、明臣可㆓以爲㆑君、君不㆑可㆓更爲㆑臣。〔陸機、策㆓問秀才紀瞻等㆒文〕今有㆓溫泉㆒、而無㆓寒火㆒、其故何也。㊁冬の燈火。〔張喬、甘露寺僧房詩〕遠岫明㆓寒火㆒、危樓響㆓夜濤㆒。

【寒瓜】99 カンクワ　㊀西瓜(10—34763‥157)の異名。冬まで藏せられるから名づく。〔本草、西瓜〕釋名、寒瓜、集解、陶弘景、注㆓瓜蔕㆒言、永嘉有㆓寒瓜㆒、甚大、可㆓藏至㆑春者、卽此也。〔南史、滕曇恭傳〕五歲母楊氏患㆑熱、思㆑食㆓寒瓜㆒、土俗所㆑不㆑產、曇恭歷訪不㆑能㆑得、銜㆑悲哀切、俄遇㆓一桑門㆒曰、我有㆓兩瓜㆒、分㆑一相遺、還以與㆑母、擧㆑家驚異。〔李白、尋㆓魯城北范居士㆒失㆑道落㆓蒼耳中㆒見㆔范置酒摘㆓蒼耳㆒詩〕酸棗垂㆓北郭㆒、寒瓜蔓㆓東籬㆒。㊁冬瓜(2—1610‥30)の異名。〔事物異名錄、蔬、寒瓜〕神異經、寒瓜、冬瓜也、又西瓜、亦名㆓寒瓜㆒。

【寒花】100 カンクワ　冬の花。〔張協、雜詩〕寒花發㆓黃采㆒、秋草含㆓綠滋㆒。〔李頎、送㆓李回㆒詩〕千巖曙雪旌門上、十月寒花輦路中。〔杜甫、薄遊詩〕病葉多先墜、寒花只暫香。〔韋應物、郡中西齋詩〕寒花獨經㆑雨、山禽時到㆑州。

〖寒花晩節〗101 カンクワバンセツ　冬の花が晩くまで香つてゐることから、人が晩節を全うすることをいふ。〔宋名臣言行錄、韓琦〕在㆓北門㆒、重陽有㆑詩云、不㆑羞㆓老圃秋容淡㆒、且看㆓寒花晩節香㆒、公居常謂、保㆓初節㆒易、保㆓晩節㆒難、故晩節事事尤著㆑力、所㆑立特全。

【寒灰】102 カンクワイ　㊀火のない灰。死灰。冷灰。〔魏志、劉廙傳〕起㆓煙於寒灰之上㆒、生㆓華於已枯之木㆒。㊁心の働きのなくなつた形容。〔韋應物、秋夜詩〕歲晏仰㆓空宇㆒、心事若㆓寒灰㆒。〔杜甫、喜㆑達㆓行在所㆒詩〕眼穿當㆓落日㆒、心死逐㆓寒灰㆒。〔司空曙、酬㆓張芬有㆑赦後見㆑贈詩〕已將㆔心變㆓寒灰㆒後、豈料光生㆓腐草餘㆒。

【寒光】103 カンクワウ　㊀寒々とした景色。冬の景色。〔唐中宗、立春遊㆑苑迎㆑春詩〕寒光猶戀甘泉樹、淑景偏臨建始花。〔駱賓王、疇昔篇〕寒光千里暮、露氣三江秋。〔劉長卿、重過㆓宣峯寺山房㆒寄㆓靈一上人㆒詩〕寒光生㆓極浦㆒、暮雪映㆓滄洲㆒。〔祖詠、望㆓薊門㆒詩〕萬里寒光生㆓積雪㆒、三邊曙色動㆓危旌㆒。㊁冬日の光。〔劉禹錫、和㆔令狐相公入㆓潼關㆒詩〕寒光照㆓旌節㆒、關路曉無㆑塵。〔滄浪詩話〕木蘭歌最古、然朔氣傳㆓金柝㆒、寒光照㆓鐵衣㆒之類、已似㆓太白㆒、必非㆓漢魏人詩㆒也。㊂月の光。月光。〔秦韜玉、八月十五日夜同㆓衞諫議㆒看㆑月詩〕寒光入㆑水蛟龍起、靜色當㆑天鬼魅驚。〔杜荀鶴、湘江秋夕詩〕三湘月色三湘水、浸㆑骨寒光似㆓練鋪㆒。〔陳樵、月庭賦〕美㆓清夜之虛明㆒、泛㆓寒光於遐眺㆒。㊃刀劍の光。劍光。〔盧綸、難綰刀子歌〕輕冰薄玉狀不㆑分、一尺寒光堪㆑決㆑雲。㊄明鏡の光。〔元稹、清都夜鏡詩〕纖埃悄不㆑起、玉砌寒光清。㊅瀧の光。〔柳宗元、再至㆓界圍巖水簾㆒云云詩〕蔽㆑空素彩列、激浪寒光聚。㊆寒燈の光。〔方干、除夜詩〕曉韻侵㆓春角㆒、寒光隔㆓歲燈㆒。

【寒荒】104 カンクワウ　冬の荒れた土地。〔新論、激通〕決命必在㆓呑氣之士㆒、何者寒荒之地、風雪之所㆑積、慷慨之懷、忠義之所㆑聚。

【寒篁】105 カンクワウ　冬吹く笛。篁は竹笛。〔歐陽脩、書㆓懷感事㆒寄㆓梅聖兪㆒詩〕寒篁暖㆓鳳觜㆒、銀甲調㆓鴈紘㆒。

【寒官】106 カンクワン　卑しい官。下級官吏。寒宦。〔南齊書、紀僧眞傳〕自㆓寒官㆒歷㆓至太祖冠軍府參軍主簿㆒。

【寒宦】107 カンクワン　寒官に同じ。〔晉書、陶侃傳〕孫秀以㆓亡國支庶㆒、府望不㆑顯、中華人士、恥㆑爲㆓掾屬㆒、以㆓侃寒宦㆒、召爲㆓舍人㆒。

【寒關】108 カンクワン　さびしい關所。〔庾信、周車騎大將軍賀婁公神道碑〕寒關樹直、秋塞雲平。〔庾信、竹杖賦〕寒關悽愴、羇旅悲涼。〔李嘉祐、送㆔王諫議充㆓東都留守判官㆒詩〕衰柳寒關道、高車左掖臣。

【寒勁】109 カンケイ　きびしい寒さ。寒さがきびしい。〔梁簡文帝、與㆓廣信侯㆒書〕闊絕㆓音旨㆒、每用㆓延結㆒、風嚴寒勁、願比㆓怡和㆒。〔裴憲伯、漢鐃歌〕秋來懼㆓寒勁㆒、歲去畏㆓冰堅㆒。

【寒徑】110 カンケイ　さむざむとした小みち。〔李百藥、謁㆓漢高廟㆒詩〕竹皮聚㆓寒徑㆒、枌社落㆓霜叢㆒。〔徐仲稚、贈㆓江處士㆒詩〕薄霧籠㆓寒徑㆒、殘風戀㆓綠蘿㆒。

【寒荊】111 カンケイ　他人に對して自分の妻の謙稱。寒は貧の意。荊を切つて釵とするは貧婦の飾り。荊妻(9—30940‥39)を見よ。

【寒溪】112 カンケイ　㊀寒い谷川。冬の谷川。〔盧綸、送㆓萬巨㆒詩〕人愁㆓荒村路細㆒、馬怯㆓寒溪水深㆒。〔孟郊、寒溪詩〕霜洗水色盡、寒溪見㆓纖鱗㆒。〔杜牧、訪㆓許顏㆒詩〕門近㆓寒溪㆒窗近㆑山、枕山流水日潺潺。〔鄭剛、中山齋賦〕或無㆑餌而釣㆓寒溪㆒、或帶㆑經而鋤㆓晩日㆒。㊁字號。㋑清、盛敬(8—23005‥63)の號。㋺清、超揆(10—37096‥18)の號。

〖寒溪子〗113 カンケイシ　字號。㊀明、方太古(5—13620‥573)の號。㊁清、王維寧(7—20823‥1136)の號。

【寒閨】114 カンケイ　さびしいねや。〔梁武帝、秋夜詩〕寒閨動㆓黻帳㆒。〔馮子振、十八公賦〕寒閨嬾而凋殘脯盞。

【寒磬】115 カンケイ　寒空にひびく磬の音。磬は玉或は石で折れ曲つた形に造り、懸けて擊ち鳴らす樂器の名。〔劉長卿、秋日登㆓吳公臺上寺㆒云云詩〕夕陽依㆓舊壘㆒、寒磬滿㆓空林㆒。〔楊巨源、題㆓清涼寺㆒詩〕一聲寒磬空心曉、花雨知㆑從㆓第幾天㆒。〔許渾、送㆓無夢上人㆒詩〕夜燈江北見、寒磬浦西聞。

【寒檠】116 カンケイ　さびしいともしび。寒燈。〔庾信、對燭賦〕蓮帳寒檠窓拂㆑曙、筠籠薰火香盈㆑絮。

【寒雞】117 カンケイ　寒中の鷄。〔鮑照、舞鶴賦〕感㆓寒雞之早晨㆒、憐㆓霜雁之違漠㆒。〔劉伶、北芒客舍詩〕寒雞思㆓天曙㆒、擁㆑羽吹㆓長音㆒。〔李咸用、別㆑友詩〕寒雞不㆑待㆓東方曙㆒、喚㆓起征人㆒蹋㆑月行。〔葉適、戴肖望挽詞〕無㆑因㆓再商略㆒、短日送㆓寒雞㆒。

【寒曉】118 カンゲウ　寒いあかつき。冬のあかつき。〔趙抃、過㆓鐵山鋪㆒寄㆓交代吳龍圖㆒詩〕境上憑㆑詩馳㆓遠意㆒、青泥寒曉入㆓雲燈㆒。

【寒穴】119 カンケツ　西の果にある野で、穴の如く日月の光が及ばない處。〔唐書、太平公主傳〕有㆑所㆓論薦㆒、或自㆓寒穴㆓蹻、進至㆓侍從㆒、旋㆓踵將相㆒。

【寒厥】120 カンケツ　寒氣の病。〔素問、厥論〕陽氣衰㆓於下㆒、則爲㆓寒厥㆒。〔注〕陽氣衰則陰氣勝、爲㆓寒厥㆒。

【寒月】121 カンゲツ　冬の月。寒蟾。寒魄。〔李白、望㆑月有㆑懷詩〕寒月搖㆓清波㆒、流光入㆓牕戶㆒。〔韋應物、擬古詩〕寒月野無㆑綠、寥寥天宇空。〔柳宗元、中夜起望㆓西園㆒值㆓月上㆒詩〕寒月上㆔東嶺㆒、泠泠疎竹根。〔賈島、翫月詩〕寒月破㆓東北㆒、賈生立㆓西南㆒。

【寒犬】122 カンケン　寒夜に吠える犬。〔鮑溶、秋晩銅山道中宿㆓隱者㆒詩〕秋窗照㆓疎螢㆒、寒犬吠㆓落木㆒。

【寒硯】123 カンケン　こほつた硯。〔鄭谷、寄㆓膳部李郎中昌符㆒詩〕靜燈微落㆑燼、寒硯旋生㆑澌。

【寒暄】124 カンケン　㊀寒さと暖かさ。寒溫。〔申鑒、俗嫌〕故喜怒・哀樂・思慮、必得㆓其中㆒、所㆓以養㆑神也、寒暄・盈虛・消息、必得㆓其中㆒、所㆓以養㆑體也。〔顏氏家訓、養生〕均㆓適寒暄㆒、禁㆓忌食飲㆒。〔孫魴、甘露寺詩〕寒暄皆有㆑景、孤絕畫難㆑形。㊁氣候。時候。〔白居易、桐花詩〕地氣反㆓寒暄㆒、天時倒㆓生殺㆒。㊂あつささむさの挨拶。時候見舞。〔李商隱、留㆓贈畏之㆒詩〕待得郎來月已低、寒暄不㆑道醉如㆑泥。〔五代史、孫晟傳〕晟爲㆑人口吃、遇㆑人不㆑能㆑道㆓寒暄㆒、已而坐定、談辯鋒生。㊃春秋。歲月の意。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽㆑琴雜劇〕寒暄屢隔。

〖寒暄書〗125 han^{2} hsüan^{1} shu^{1}　見舞狀の類。

〖寒暄問〗126 カンケンノモン　時候見舞。〔杜甫、暮秋枉㆓裴道州手札㆒卒爾遣㆑興寄遞呈㆓蘇渙侍御㆒詩〕久客多枉㆓朋友書㆒、素書一月凡一束、虛名但蒙寒暄問、泛愛不㆑救溝壑辱。

〔寒暄的話〕127 han^2 hsüan^1 tê hua^4 時候の挨拶。

【寒慳】128（カンケン） 貧乏で物吝みする。〔蘇軾、再過㆓超然臺㆒贈㆓太守霍翔㆒詩〕躬持㆓牛酒㆒勞㆓行役㆒、無㆔復杞菊嘲㆓寒慳㆒。

【寒蹇】129（カンケン） 貧しく困しむ。〔蘇軾、謝㆑賜㆓對衣金帶馬㆒表〕臣受㆑材迂疎、賦命寒蹇、幼師㆓季路㆒、止服㆓溫袍㆒、長慕㆓少游㆒、欲㆑乘㆓下澤㆒。

【寒⿰虫憲】130（カンケン） 蚯蚓(**10**－32916‥1)の異名。寒蚓(14)を見よ。〔事物異名錄、昆蟲、蚯蚓〕山堂肆考、蚯蚓、一名寒⿰虫憲。

【寒故】131（カンコ） さびしい昔なじみ。〔楓窗小牘〕宋五嫂、余家蒼頭嫂也、每過㆓湖上㆒時、進肆慰談、亦他鄕寒故也。

【寒涸】132（カンコ） こほつて水のない澤。〔南齊書、顧憲之傳〕親屬里伍、流㆓離道路㆒、時轉㆓寒涸㆒、事方未㆑已。

【寒沍】133（カンゴ） きびしい寒さ。寒が極つて水が凝る。沍は、こほる。沍寒。〔陳岵、履㆓春冰㆒詩〕由㆓寒沍㆒以生㆑姿。〔周紫芝、詩〕重陰積㆓寒沍㆒。

【寒谷】134（カンコク） ❶寒い谷。冬の谷。〔劉向別錄〕燕有㆓寒谷㆒、鄒衍吹㆑律、溫氣乃至。〔論衡、定賢〕寒谷更溫。〔顏延之、秋胡詩〕寒谷待㆓鳴律㆒。〔劉峻、廣絕交論〕敍㆓溫郁㆒則寒谷成㆑暄、論㆓嚴苦㆒則春叢零㆑葉。〔宋之問、遊㆓法華寺㆒詩〕寒谷梅猶淺、溫庭橘未㆑華。❷谷の名。河北省密雲縣の南。一名、黍谷。〔吳越春秋、越王無余外傳〕北過㆓寒谷㆒。

〔寒谷先生〕134′（カンコクセンセイ） 明、丘集(**1**－33‥46)の尊稱。

【寒國】135（カンコク） 寒い國。〔洞冥記〕寒國地有㆓發日樹㆒。

【寒酷】136（カンコク） 寒さがきびしい。酷寒。〔南齊書、崔懷愼傳〕懷愼絕而後蘇、載㆑喪還㆓靑州㆒、徒㆓跣冰雪㆒、土氣寒酷、而手足不㆑傷、時人以爲㆓孝感㆒。

【寒骨】137（カンコツ） ❶貧しいもの。自己の謙稱。〔李洞、感㆑恩書㆑事云云詩〕積雪峯西遇㆓獎稱㆒、半家寒骨起㆓溝塍㆒。❷つめたい骨。〔皮日休、奉㆓和魯望謝㆑惠㆓巨魚之半㆒詩〕冷鱗中㆓斷楡錢㆒破、寒骨平㆓分玉筋㆒光。❸骨にしみる寒さ。〔杜荀鶴、雪詩〕風攪㆓長空㆒寒骨生、光於㆓曉色㆒報㆑窗明。

【寒沙】138（カンサ） 寒い砂はま。冬の海岸。〔庾信、上㆓益州上柱國趙王㆒詩〕寒沙兩岸白、獵火一燈紅。〔唐太宗、飮馬長城窟行〕寒沙連騎跡、朔吹斷㆓邊聲㆒。

【寒梭】139（カンサ） 寒中の機織り。梭は機織りの道具。〔梅堯臣、和㆓民樂㆒詩〕林閒落㆓熟果㆒、屋裏鳴㆓寒梭㆒。

【寒蓑】140（カンサ） 寒さうに見えるみの。又、寒中のみの。〔梅堯臣、張仲通追㆓賦洛中雜題㆒云云伊川詩〕誰見捕魚郎、寒蓑雨中濕。〔寺門靜軒、雪中見㆑梅詩〕寒蓑立盡水之涯、雪益加時興益加。

【寒晒】141（カンザラシ） 食物などを寒中に晒して製すること。寒曝。寒製。〔聖德太子繪傳記、三〕寒晒しの痰切り生薑。

【寒細】142（カンサイ） まづしくいやしい。寒門細士の略。〔宋書、薛安都傳〕卿從弟服章言論、與㆓寒細㆒不㆑異。

【寒菜】143（カンサイ） ❶冬の野菜。ふゆな。〔庾信、小園賦〕燋麥兩甕、寒菜一畦。〔岑參、宿㆓東谿王屋李隱者㆒詩〕霜畦吐㆓寒菜㆒、沙雁噪㆓河田㆒。❷粗末な副食物。〔蘇軾、寒食雨詩〕空庖煮㆓寒菜㆒、破竈燒㆓濕葦㆒。❸白菜(**8**－22678‥457)の異名。〔本草、蕓薹〕釋名、寒菜・胡菜・薹菜・薹芥・油菜、時珍曰、淮人謂㆓之薹芥㆒、卽今油菜、云云、種自㆑胡來、故服虔通俗文、謂㆓之胡菜㆒、而胡洽居士百病方、謂㆓之寒菜㆒。

【寒塞】144（カンサイ） 冬のとりで。〔皎然、塞下曲〕寒塞無㆑因㆑見㆓落梅㆒、胡人吹㆓入笛聲㆒來。

【寒歲】145（カンサイ） 寒い年。〔漢書、五行志中之下〕寒歲豕多死、及㆑爲㆑怪。〔宋書、五行志四〕周衰無㆓寒歲㆒、秦滅㆓無燠年㆒。〔白居易、村居臥㆑病詩〕葺㆑廬備㆓陰雨㆒、補㆑褐防㆓寒歲㆒。

【寒齋】146（カンサイ） ❶さびしい書齋。〔杜牧、醉眠詩〕秋醪雨中熟、寒齋落葉中。〔梅堯臣、尹陽尉耿傳惠㆓新栗㆒詩〕野人寒齋會 山爐夜火炮。❷明、錢百川(**11**－40563‥424)の號。

【寒劑】147（カンザイ） 溫度を下降させる爲に用ひる藥劑。普通は鹽と碎氷との混合劑。

【寒草】148（カンサウ） 枯れてさびしい草。〔王維、送㆓孫二㆒詩〕祖席依㆓寒草㆒、行車起㆓暮塵㆒。〔李頎、贈㆓張旭㆒詩〕下舍風蕭條、寒草滿㆓戶庭㆒。

【寒窓】149（カンサウ） ❶冬の窓。寒窗。〔元稹、聞㆔白樂天左㆓降江州司馬㆒詩〕垂死病中驚起坐、暗風吹㆑雨入㆓寒窓㆒。〔杜牧、題㆓劉秀才新竹㆒詩〕聲破寒窓夢、根穿綠蘚紋。❷貧しいくらし。〔福惠全書、蒞任部、查交代、淸查之法〕有㆔白首寒窗、而始沾㆓升斗㆒。

【寒霜】150（カンサウ） 冬の霜。寒い霜。〔魏志、管輅傳、注〕谷風更爲㆓寒霜之風㆒、寒霜之風非㆓東風之名㆒。〔王褒、和㆓張侍中看㆑獵詩〕嚴冬桑柘慘、寒霜馬騎肥。〔劉長卿、寄㆔靈一上人初還㆓雲門㆒詩〕寒霜白雲裏、法侶自相攜。〔楊烱、靑苔賦〕歲崢嶸兮日云暮、迫㆓寒霜㆒兮犯㆓危露㆒。〔姚合、懷㆓上都故人㆒詩〕林疎曉日明㆓紅葉㆒、塵靜寒霜覆㆓綠苔㆒。〔皮日休、石榴歌〕蟬噪秋枝槐葉黃、石榴香老愁㆓寒霜㆒。

【寒浞】151（カンサク） ❶川の名。源は山東省濰縣の東北。北流して寒亭を經、容安窪となる。❷夏の人。初、寒后伯明に事へ、後、羿が帝位を簒ひ夏に代つて有窮氏と號するや、其の相となる。尋いで羿を桃梧に弑し、代つて帝となり、有鬲氏の號を襲ぐ。夏の遺臣靡、有鬲氏に奔り、有鬲氏に因つて浞を滅して少康を立つ。〔左氏、襄、四〕。

【寒參】152（カンマヰリ） 寒三十日の閒、神社・佛閣などへ參詣すること。

【寒酸】153（カンサン） 貧乏。まづしくて生活が苦しい。酸寒。〔燕子箋、雙逅〕招㆓贅朱門㆒、忘㆓卻寒酸㆒。

【寒山】154（カンザン） ❶寂しい山。〔韓翃、送㆔齊山人歸㆓長白山㆒詩〕柴門流水依然在、一路寒山萬木中。〔劉長卿、宿㆓北山禪寺蘭若㆒詩〕靑松臨㆓古路㆒、白日滿㆓寒山㆒。〔杜牧、山行詩〕遠上㆓寒山㆒石徑斜、白雲生處有㆓人家㆒。❷山名。㋑江蘇省吳縣の西。明の處士趙宧光が隱れて小宛堂を築いた處。㋺江蘇省銅山縣の東南。晉の劉遐は周撫と寒山に戰ひ、梁の武帝は泗水を寒山に堰して、彭城に灌いだ。〔晉書、劉遐傳〕初、沛人周堅、一名撫、云云、共討㆑撫、以㆓彭城㆒叛、戰㆓於寒山㆒、撫敗走。〔讀史方輿紀要、江南、徐州〕寒山、州東南十八里、晉大興二年、彭城內史周撫叛、降㆓石勒下邳㆒、內史劉遐討㆑之破、斬㆓之於寒山㆒。㋩廣西省鬱林縣の西北。〔九域志〕南越王尉陀、遣㆑人入㆑山採㆑橘、經㆓七日㆒方回、問㆓其故㆒、云㆓山中大寒不㆑得㆑歸、因名。❸寺の名。江蘇省吳縣の西。楓橋に近い。唐の寒山・拾得がゐた處と傳ふ。〔張繼、楓橋夜泊詩〕月落烏啼霜滿㆑天、江楓漁火對㆓秋眠㆒、姑蘇城外寒山寺、夜半鐘聲到㆓客船㆒。〔張繼、再泊㆓楓橋㆒詩〕白髮重來一夢中、靑山不㆑改舊時容、烏啼月落寒山寺、欹㆑枕尙聽半夜鐘。❹唐の高僧。天台始豐縣の寒嵒に住す。國淸寺に往還して拾得と交はり、樺皮を冠り、布襦木屐、風狂に類す。後、寒嵒の穴中に去り、其の穴自ら合したといふ。詩二百餘首。寒山子詩集がある。寒山拾得・寒山子詩集を見よ。〔四庫提要、一百四十九〕。

〔寒山子〕155（カンザンシ） 唐の高僧。寒山の❹を見よ。

〔寒山堂〕156（カンザンダウ） 明、趙宧光(**10**－37171‥489)の室名。

〔寒山桐〕157（カンザンドウ） 寒山から產する桐。琴を作るに用ひる。〔張協、七命〕寒山之桐、出㆑自㆓太冥㆒、含㆓黃鐘㆒以吐㆑幹、據㆓蒼岑㆒而孤生。

〔寒山帚談〕158（カンザンサウダン） 書名。二卷。拾遺一卷。附錄一卷。明、趙宧光撰。作篆の法を論ず。〔四庫提要、子、藝術類〕。

〔寒山拾得〕159（カンザンジツトク） 唐の高僧、寒山と拾得。天台山國淸寺の豐干の弟子で、唐の憲宗時代の人。文殊・普賢兩菩薩の化身であるといふ。寒山の❹を見よ。〔宋高僧傳、十九〕先㆑是、國淸寺僧厨中有㆔二苦行㆒、曰㆓寒山子㆒、曰㆓拾得㆒、多㆓於僧厨㆒執爨、爨訖二人晤語、潛聽者多不㆓體解㆒、亦甚顚狂紕合相親、蓋同類相求耳、云云、(閭丘)問曰、云云、寒山拾得復是何人、時僧道翹對曰、云云、寒拾二人、見在㆓僧厨㆒執役。

〔寒山子詩集〕160（カンザンシシフ） 書名。二卷。寒山の詩集で、豐干・拾得詩一卷を附す。三人俱に國淸寺に住す。台州の刺史閭丘胤が、寺僧道翹をして蒐輯せしめたもの。宋代、之を三隱集といふ。寒山子の詩最も多く、拾得、之に次ぎ、豐干は二首を存するのみ。詩は偈頌に類し、時俗を譏諷し、流俗を警醒す。宋の邵雍の擊壤集の一派は、此の流をうけたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔寒山蘭閨畫史〕161（カンザンランケイグワシ） 明、文淑(**5**－13450‥520)の號。

〔寒山梁鴻墓下凡夫〕162（カンザンリヤウコウボカノボンプ） 明、趙宧

光(10－37171‥489)の號。

【寒士】163 カンシ 賤微な士。貧しい人。〔晉書、范弘之傳〕下官輕微寒士、謬得三廁在二俎豆一。〔晉書、高密文獻王泰傳〕泰性廉靜、不レ近二聲色一、雖下爲二宰輔一、食中大國之租上、服飾肴膳、如二布衣寒士一。〔潘岳、馬汧督誄〕寒士挾レ纊。〔南史、劉祥傳〕彥回曰、寒士不遜、祥曰、不レ能レ殺二袁劉一、安得レ免二寒士一。

【寒至】164 カンシ ㊀季節の名。〔管子、幼官〕十二寒至、靜。㊁寒さが來る。〔無名氏、落葉賦〕覺二絕漠之寒至一、聆二洞庭之波起一。

【寒刺】165 カンシ 冬のとげ。〔杜甫、陪二鄭公秋晚北池臨眺一詩〕采二菱寒刺上一、蹋二藕野泥中一。

【寒枝】166 カンシ 葉の落ちた枝。さびしい枝。かれ枝。寒條。〔李白、遊二秋浦白笴陂一詩〕山光搖二積雪一、猿影挂二寒枝一。〔施肩吾、上二禮部侍郎陳レ情詩〕卻向三從來受二恩地一、再求三青律變二寒枝一。〔方干、謝二王大夫奏表一詩〕如下剖二夜光一歸中暗室上、似下驅二春氣一入中寒枝上。

【寒姿】167 カンシ いやしい身。〔長生殿、定情〕恐二寒姿消不レ得二天家雨露團一。

【寒澌】168 カンシ つめたい氷。冬の川に流れる斷氷。〔王融、沈冥地獄篇頌〕炎山翻二烈火一、冰澗匝二寒澌一。〔鄭巢、題二崔行先石室別墅一詩〕桂陰生二野菌一、石縫結二寒澌一。

【寒鴟】169 カンシ 冬のとび。〔李頎、題二盧五舊居一詩〕悵望秋天鳴二墜葉一、巑岏枯柳宿二寒鴟一。

【寒颸】170 カンシ 寒い風。〔曾鞏、送二劉醫博一詩〕深冬山城萬木落、陰氣蕩射生二寒颸一。

【寒寺】171 カンジ 冬の寺。又、人氣のない寺。〔鄭谷、題二無本寺上人小齋一詩〕寒寺唯應二我訪一レ師、人稀境靜雪消遲。

【寒事】172 カンジ ㊀寒さを防ぐそなへ。〔唐無名氏、朝元閣賦〕每歲農務隙寒事興。㊁寒さ。寒い景色。〔杜甫、村雨詩〕雨聲傳二兩夜一、寒事颯二高秋一。

【寒羞】173 カンシウ 朝の食。冷食。〔張協、七命〕繁肴既闋、亦有二寒羞一、商山之果、漢皐之榛。〔注〕向曰、寒羞、謂二朝之食一也、謂下繁多之膳食既終、亦有二清朝所レ進滋味一者上。

【寒獸】174 カンジウ 冬のけもの。〔王昌齡、途中作詩〕驚禽棲不レ定、寒獸相因依。

【寒室】175 カンシツ 寒いへや。〔宋書、孔靈符傳〕富戶溫房、無レ假二遷業一、窮身寒室、必應レ徙レ居。

【寒疾】176 カンシツ さむさに中つた病。風邪。感冒。〔左氏、昭、元〕陰淫寒疾、陽淫熱疾、風淫末疾、雨淫腹疾。〔孟子、公孫丑下〕有二寒疾一、不レ可二以風一。

【寒日】177 カンジツ ㊀冬の日。〔三輔黃圖、五、觀〕元帝被レ疾、遠求二方士一、漢中送二道士王仲都一、詔問レ所レ能、對曰、能忍レ寒、乃以二隆冬盛寒日一、令三祖載二駟馬於上林昆明池上一、環以レ冰而御レ駟者、厚二衣孤裘一寒戰、而仲都無二變色一、臥二於池上一、曛然自若、卽此也。〔陸龜蒙、書帶草賦〕幾臨二寒日一、幸到二青春一。㊁冬の太陽。〔沈佺期、被レ試二出塞一詩〕寒日生二戈劍一、陰雲拂二旆旌一。〔杜甫、寄二杜位一詩〕寒日經レ檐短、窮猿失レ木悲。〔歐陽脩、答二梅聖俞一詩〕寒日照二窮巷一、荊扉晨未レ開。

【寒溼】178 カンシフ 寒くてしめつてゐる。〔史記、倉公傳〕病レ蟯得二之於寒溼一、寒溼氣宛篤不レ發、化爲レ蟲。

【寒澀】179 カンジフ 寒くてつらい。〔孔平中、大風發二長蘆一詩〕雲氣作二冥晦一、氣候變二寒澀一。

【寒舍】180 hán^2 shê^4 私の家。拙宅。〔燕子箋、偕征〕就在寒舍將就一住。

【寒者】181 カンシャ こごえた者。〔左氏、昭、十三〕寒者衣レ之、飢者食レ之。

〖寒者利二短褐一〗182 カンシャハタンカツヲリトス 寒えた人は、短褐でも喜んで身に著ける。〔史記、秦始皇紀〕寒者利二裋褐一、而饑者甘二糟糠一。

【寒邪】183 カンジャ 寒さと邪氣。〔素問、五常政大論〕五之氣、陽廼云、寒廼來、雨廼降、氣門廼閉、剛木早彫、民避二寒邪一、君子周密。

【寒牀】184 カンシャウ 寒いねどこ。〔雍陶、同二賈島一宿二無可上人院一詩〕靜境唯聞レ鐸、寒牀但枕レ肱。

【寒商】185 カンシャウ 秋風。五音に於て商は秋に配するからいふ。〔謝惠連、秋懷詩〕寒商動二清閨一。〔注〕善曰、寒商、秋風也、楚辭曰、商風肅而害レ之、百草育而不レ長。

【寒將】186 カンシャウ ㊀水鳥をいふ。一說に寒螿（ヒグラシ）といふ。〔淮南子、說林訓〕寒將翔レ水。〔注〕寒將、水鳥。〔集解〕陶方琦云、文選謝惠連擣衣詩注、引二許愼淮南子注一、寒螿、蟬屬也、文子上德作二寒螿得レ木、許本當レ同、與下高本作二水鳥一解者上正異、文選劉鑠擬古詩注、亦引二淮南一作二寒螿一、玉篇、螿、寒蟬屬、與二許注一同。㊁清、馬翼贊(12－44572‥954)の號。

【寒漿】187 カンシャウ ㊀草の名。ほほづき。〔爾雅、釋草〕葴、寒漿。〔注〕今酸漿草。㊁冷水。〔古樂府、淮南王篇〕後園鑿レ井銀作レ牀、金瓶素綆汲二寒漿一。

【寒螿】188 カンシャウ ㊀蟬の屬。ひぐらし。寒蟬。〔爾雅、釋蟲〕蜺寒蜩、注〕寒螿也、似レ蟬而小、青色。㊁秋から冬に鳴く蟲。こほろぎの類。〔謝惠連、擣衣詩〕烈烈寒螿啼。〔張仲素、秋閨思詩〕碧窗斜月靄二深暉一、愁二聽寒螿一淚溼レ衣。㊂寒將の㊀に同じ。〔劉鑠、擬二行行重行行一詩〕寒螿翔二水曲一、秋兔依二山基一。

【寒城】189 カンジャウ 冬の城。寒中の城。〔謝朓、郡內登望詩〕寒城一以眺、平楚正蒼然。〔注〕濟曰、秋氣寒而登二城上一、故云二寒城一。〔高適、宋中詩〕落日鴻雁度、寒城砧杵愁。〔杜甫、遣レ懷詩〕愁眼看二霜露一、寒城菊自花。

【寒若】190 カンジャク 寒さが順應する。若は、したがふ。〔書、洪範〕曰、謀、時寒若、曰、聖、時風若。〔傳〕君能謀、則時寒順レ之。〔唐書、曆志三下〕急極而寒若。

【寒雀】191 カンジャク 寒（カン）すずめ。冬の雀。〔沈約、郊居賦〕秋蜩吟レ葉、寒雀噪レ枝。〔李百藥、秋晚登二古城一詩〕頹墉寒雀集、荒堞晚烏驚。〔韋應物、寓二居灃上精舍一云云詩〕高齋獨宿遠山曙、微霰下レ庭寒雀喧。〔白居易、病中友人相訪詩〕蕭條草簷下、寒雀朝夕聞。

【寒種】192 カンシュ 貧しい家の出身。〔文同、寃婦行〕其姑本寒種、貪壑常谽谺。

【寒儒】193 カンジュ 貧しい學者。〔蘇轍、謝レ除二中書舍人一表〕臣生本西蜀、家世寒儒。〔歐陽脩、讀書詩〕吾生本寒儒、老尙把二書卷一。〔青瑣詩話〕李清臣詩曰、公子乘レ閒臥二絳廚一、白衣老吏慢二寒儒一、不レ知夢見二周公一否、曾說當時吐哺無。

【寒樹】194 カンジュ ふゆこだち。冬のこだち。葉の落ちたこだち。〔韋應物、送二崔叔清遊レ越詩〕遠水帶二寒樹一、閶門望二去舟一。〔李端、留二別柳中庸一詩〕離人出二古亭一、嘶馬入二寒樹一。〔劉禹錫、途中早發詩〕寒樹鳥初動、霜橋人未レ行。

【寒粥】195 カンシュク 飯の入つた冷い飲物。〔周禮、天官、漿人、六飲水漿醴涼醫酏、鄭注〕涼、今寒粥、若二糗飯雜水一也。〔許渾、陪三少師李相國崔賓客宴二居守狄僕射池亭一詩〕暖醅松葉嫩、寒粥杏花香。

【寒縮】196 カンシュク ㊀こごえちぢまる。〔白虎通、五行〕其帝顓頊、顓頊者寒縮也。〔元好問、南湖先生雪景乘レ騾圖詩〕雄吞已覺雲夢小、寒縮寧作二書生窮一。㊁hán^2 suo^4 內氣。引込思案。

【寒熟】197 カンジュク 寒い時節に熟すること。〔劉潛、謝二始興王賜レ柰啓〕太沖嗟二其夏成一、子建暢二其寒熟一。

【寒俊】198 カンシュン 貧賤で才能のすぐれたもの。寒雋。〔唐書、鄭薰傳〕薰端勁、再知二禮部一、擧二引寒俊一、士類多レ之。〔歐陽脩、答二胡秀才一啓〕矧朝廷之選レ士、惟寒俊之是先。〔長編〕寇準在二中書一、喜用二寒俊一。

【寒畯】199 カンシュン 貧窮の士。卑賤で農耕をしてゐた者。畯は、かつて農耕に從事したもの。〔正字通〕畯、鄙野人曰二寒畯一、唐鄭光祿熏擧二引寒畯一、士類多レ之、俗讀二寒酸一、誤。〔資治通鑑、唐紀〕天寶六載、李林甫奏言、文臣爲レ將、怯レ當二矢石一、不レ若レ用二寒畯胡人一、胡人則勇決習レ戰、寒族則孤立無レ黨。〔注〕寒、謂二卑賤一、畯、嘗有レ事二農耕一者也。

【寒筍】200 カンジュン 冬のたけのこ。〔司空曙、送二李嘉祐勤レ省詩〕歸來喜二調膳一、寒筍出二林中一。

【寒杵】201 カンショ 淋しいきぬたの音。寒砧。〔岑參、宿二關西客舍一詩〕孤燈然二客夢一、寒杵搗二鄉愁一。〔杜甫、與二李十二白一同尋二范十隱居一詩〕落景聞二寒杵一、屯雲對二古城一。〔皇甫曾、尋二劉處士一詩〕隔レ城寒杵急、帶レ月早鴻還。

【寒庶】202 カンショ 貧しい庶民。〔宋書、孔琳之傳〕至二於寒庶一、則人思自竭、雖レ復レ室如二懸磬一、莫レ不二傾レ產殫レ財。

【寒渚】203 カンショ つめたい水のほとり。〔鮑照、野鵝賦〕立二菰蒲之寒渚一、託二隻影一而危雙。〔謝朓、暫使二下都一夜發二新林一至二京邑一贈二西府同僚一詩〕秋河曙耿耿、寒渚夜蒼蒼。〔杜牧、陵陽送レ客詩〕鳧鵠下二寒渚一、牛羊歸二遠村一。

【寒暑】204 カンショ ❶さむさとあつさ。寒暄。〔禮、樂記〕寒暑不レ時則疾。〔荀子、榮辱〕骨體膚理、辨二寒暑疾養一。〔六韜、龍韜、立將〕寒暑必同。〔淮南子、俶眞訓〕形傷二于寒暑燥濕之虐一者、形死而神壯。〔漢書、張湯傳〕其造レ請二諸公一、不レ避二寒暑一。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕寒暑周廻。〔韋應物、相逢行〕邂逅兩相逢、別來問二寒暑一。❷冬と夏。〔易、繫辭下〕寒往則暑來、暑往則寒來、寒暑相推、而歲成焉。〔詩、小雅、小明〕二月初吉、載離二寒暑一。〔箋〕至レ今則更二夏暑冬寒一矣。〔呂覽、貴信〕寒暑四時當矣。❸寒暑を通して。いつも。終始。〔漢書、禮樂志〕寒暑不レ忒、況皇章。❹歲月。〔杜牧、分二司東都一寓二居履道一云云詩〕寒暑逾二流電一、光陰甚

〖寒暑表〗205 han² shu² piao³ 寒暖計。〔建瓴。

〖寒暑易レ節〗206 カンショセツヲカフ 寒さと暑さとが交替する。一周年をいふ。〔列子、湯問〕寒暑易レ節、始一反焉。

【寒署】207 カンショ 冬の役所。〔許棠、寄二盩厔薛能少府一詩〕曉庭禽集慣、寒署吏衙稀。

【寒松】208 カンショウ ❶冬の松。寒さに堪へる松。〔吳志、陸績傳、注〕姚信集有レ表稱レ之曰、云云、王蠋建二寒松之節一、而齊王表二其里一、義姑立二殊絕之操一、而魯侯高二其門一。〔晉書、庾闡傳〕蘭生而芳、玉產而絜、陽葩熙レ冰、寒松負レ雪。〔李華、雲母泉詩〕晨登二玄石嶺一、嶺上寒松聲。❷松平康純の號。松平寒松(**6－14516**‥381)を見よ。

〖寒松閣〗209 カンショウカク 清、張鳴珂(**4－9812**‥1543)の室名。

〖寒松操〗210 カンショウサウ 古の琴曲の名。〔琴曲譜錄〕寒松操、上古琴弄名。

〖寒松堂〗211 カンショウダウ 清、費誓(**10－36717**‥54)の室名。

〖寒松閣集〗212 カンショウカクシフ 書名。宋、詹初撰といふ。翼學十篇、序經二篇、目錄二篇、詩四十七首。明の嘉靖戊午に至り、十六世の孫景鳳が始めて刊行した。一說に、依託の書ともいふ。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖寒松老人〗213 カンショウラウジン 清、魏象樞(**12－45872**‥223)の號。

【寒鐘】214 カンショウ 寒さうな鐘の音。〔杜牧、瞑投二雲智寺一渡レ溪不レ得卻取二沿江路一往詩〕古廟陰風地、寒鐘暮雨天。〔劉得仁、秋晚與二友人一遊二青龍寺一詩〕暮鳥投二嬴木一、寒鐘送二夕陽一。〔方干、登二龍瑞觀北巖一詩〕促韻寒鐘催二落照一、斜行白鳥入二遙空一。

【寒宂】215 カンジョウ 賤しくひまな官。〔白帖〕太平公主有レ所二論薦一、或自二寒宂一躐進至二侍從一。

【寒色】216 カンショク ❶冬の寒さうな景色。さびしい景色。〔杜甫、初冬詩〕垂老戎衣窄、歸休寒色深。〔孟郊、遊二石龍渦一詩〕泉芳春氣碧、松月寒色青。〔李頎、望二秦川一詩〕秋聲萬戶竹、寒色五陵松。〔溫公詩話〕韓魏公時爲二首相一、卒章云、輕雲閣而迎二天仗一、寒色留レ春入二壽杯一。❷ぞつとしておそれる氣色。〔新書、諭誠〕楚昭王、當レ房而立、愀然有二寒色一。❸冷色。物理學上、太陽の光線を分析して溫度計に檢すると、綠色から紫色に至る色は寒感がある。之をいふ。又、眼に冷感を想起させる青色等をもいふ。

【寒食】217 カンショク 節の名。冬至後、百五日に當る日。或は百三日といひ、或は百六日といふ。此の日は疾風甚雨のある節として、前後三日間、火を焚くを禁じ、豫め調へ置いた食物を食し、大麥粥を作り、鬬雞・鞦韆等の遊戲を行ふ。寒食の語は三代前已にあり、卽ち劉向別錄に、寒食蹋蹴の語がある。又、火を禁じたことは、周禮秋官の司烜氏に、仲春木鐸を以て火禁を國中に修むと見えてゐる。傳へ言ふ、晉の文公、林を焚いて介子推を求め、子推が木を抱いて死するを見て、之を哀しむ餘り、國人の火を擧げるのを禁じたので、後世之に因つて寒食の俗を生ずと。〔後漢書、周擧傳〕遷二并州刺史一、太原一郡舊俗、以三介子推焚レ骸、有二龍忌之禁一、至二其亡月一、咸言、神靈不レ樂レ擧レ火、由レ是士民、每冬中輒一月寒食、莫二敢烟爨一。〔荊楚歲時記〕去二冬節一一百五日、卽有二疾風甚雨一、謂二之寒食一、禁レ火三日、造二餳大麥粥一、鬬雞鏤二雞子一、鬬二雞子一、打毬、鞦韆、施鉤之戲。〔事物紀原、歲時風俗部、寒食〕陸翽鄴中記曰、并州之俗、以二冬至後一百三日一、爲二介子推一斷レ火冷食三日、作二乾粥一食レ之、中國以爲二寒食一、歲時記曰、去二冬至一一百五日、卽有二疾風甚雨一、謂二之寒食一。〔太平御覽、時序部、寒食〕劉向別錄曰、寒食蹋蹴、黃帝所レ造本兵勢也、或云、起二於戰國一、案、鞠與レ毬同、古人蹋蹴以爲レ戲。〔容齋四筆、一百五日〕今人謂二寒食一爲二一百五一者、以下其自二冬至之後一、至二清明一、歷二節氣一五、凡爲二一百七日一、而先兩日爲中寒食上、故云、他節皆不レ然也、杜老有二鄜州一百五日夜對レ月一篇、江西宗派詩云、一百五日足二風雨一、三十六峯勞二夢魂一、一百五日寒食雨、二十四番花信風之類、是也、吾州城北芝山寺、爲二禁烟遊賞之地一、寺僧欲レ建二華嚴閣一、請レ予作二勸緣疏一、其末一聯云、大善知識五十三、永壯人天之仰、寒食清明一百六、鼎來道俗之觀、或問二一百六所レ出、應レ之曰、元微之連昌宮詞、初過二寒食一一百六、店舍無レ烟宮樹綠、是以用レ之。〔古今圖書集成、歲功典、清明部〕據レ曆合レ在二清明前二日一、亦有下去二冬至一一百六日上者、琴操曰、晉文公與二介子綏一俱亡、子綏割レ股以啖二文公一、文公復レ國、子綏獨無レ所レ得、子綏作二龍蛇之歌一而隱、文公求レ之、不二肯出一、乃燔二左右木一、子綏抱レ木而死、文公哀レ之、令二人五月五日不レ得レ擧レ火、又周擧移書、及二魏武一明二罰令一、陸翽鄴中記、並云、寒食斷レ火、起二于子推一、琴操所レ云、子綏卽推也、又云、五月五日與レ今有レ異、皆因二流俗所一レ傳、據二左傳及史記一、並無二介子推被レ焚之事一、按、周書、司烜氏、仲春以二木鐸一循二火禁于國中一、注云、爲二季春將レ出火也、今寒食、準二節氣一是仲春之末、清明、是三月之初、然則禁レ火、蓋周之舊制、陸翽鄴中記曰、寒食三日、作二醴酪一、又煑二粳米及麥一爲レ酪、擣二杏仁一煑作レ粥、玉燭寶典曰、今人爲二大麥粥一、研二杏仁一爲レ酪、引レ餳沃レ之、孫楚祭二子推一文云、乾飯一盤、醴酪二盂、是其事也。

【寒食散】218 カンショクサン 藥の名。道家で煉つた五石散をいふ。〔世說新語、言語〕何平叔云、服二五石散一、非二惟治レ病、亦覺二神明開朗一。〔注〕寒食散之方、雖レ出二漢代一、而用レ之者寡、魏尚書何晏、首獲二神效一、由レ是大行二於世一。〔蘇軾、商鞅論〕得レ死二於寒食散一、豈不幸哉。〔癸巳存稿〕通鑑注言、寒食散、蓋始二於何晏一、又云、煉二鍾乳硃砂等藥一爲レ之、言、可レ避二火食一、故曰二寒食一、按、寒食言レ服者、食宜レ涼、衣宜レ薄、惟酒微溫飲、非レ不二火食一、其法漢張機製、在二金匱要略中一、發解制度、備見二隋巢元方諸病源候一。

〖寒食節〗218′ カンショクセツ 寒食(217)を見よ。

〖寒食上レ墓〗219 カンショクハカニノボル 寒食の日に墓に參る。此の風俗は隋唐の頃に始まる。〔三餘偶筆〕唐開元詔、寒食上レ墓、禮經無レ聞、近代相承、浸以成レ俗、士庶有下不レ合二廟祭一者上、何以用レ展二孝思一、宜レ許レ上レ墓、據二詔文一言二近代相承一、如レ此則不二自レ唐以後一也。

【寒燭】220 カンショク 寒さうなともしび。寒燈。〔劉長卿、秋夜雨中諸公過二靈光寺所居一詩〕向レ人寒燭靜、帶レ雨夜鐘沈。〔韋應物、簡二陟巡建三甥一詩〕忽羨後生連榻話、獨依二寒燭一一齋空。

【寒心】221 カンシン ❶おそれてぞつとする。をののく。ぞつとする。心をののくことを寒さに譬へていふ。〔逸周書、史記解〕刑始二於親一、遠者寒心、殷周以亡。〔戰國、秦策〕王以二十萬一戍レ鄭、梁氏寒心。〔史記、刺客、荊軻傳〕足レ爲二寒心一。〔注〕索隱曰、凡人寒甚則心戰、恐懼亦戰、今以レ懼譬レ寒、言レ可レ爲二心戰一。〔宋玉、高唐賦〕孤子寡婦、寒心酸鼻。〔注〕善曰、寒心、謂二戰慄一也。〔漢書、鄒陽傳〕始孝文皇帝、據レ關入立、寒心銷レ志、不レ明求レ衣。〔溫庭筠、病中書レ懷呈二友人一詩〕賦分知二前定一、寒心畏二厚誣一。❷han² hsin¹ がつかりする。

【寒岑】222 カンシン 寒いみね。さむざむとした山のみね。〔張均、秋夜遊二滬湖一詩〕灣潭幽意深、杳靄涌二寒岑一。

【寒眞】223 カンシン 遼、蕭翰(**9－32012**‥57)の字。

【寒晨】224 カンシン 寒い冬のあさ。〔李賀、自二昌谷一到二洛後門一詩〕石澗凍二波聲一、雞叫清二寒晨一。

【寒人】225 カンジン 貧しい人。寒微の人。寒民。〔宋書、朱百年傳〕時山陰有二寒人姚吟一、亦有二高趣一、爲二衣冠所一レ重。〔南齊書、明帝紀〕驅二使寒人一、不レ得レ用二四幅繖一。

【寒盡】226 カンジン 冬至の翌日から八十一日目をいふ。寒氣が此の日に盡きる意。〔荊楚歲時記〕俗由二冬至次日一數及二九九八十一日一、爲二寒盡一。〔張叔卿、空靈岸詩〕寒盡鴻先去、江迴客未レ歸。

【寒潯】227 カンジン 寒冷な水ぎは。〔朱德潤、詩〕拍拍

枕二寒濤一。

【寒燼】228（カンジン） ひえ切つた燃えがら。燼は、もえさし。冷灰。〔劉禹錫、成都府新脩二福成寺一記〕高門修廊、委爲二寒燼一。

【寒水】229（カンスイ） ❶つめたい水。冷水。寒々とした川の水。〔史記、倉公傳〕以二寒水一拊二其頭一。〔後漢書、范冉傳〕干飯寒水。〔杜牧、秦淮詩〕烟籠二寒水一月籠レ沙、夜泊二秦淮一近二酒家一。〔賈島、暮過二山村一詩〕數里聞二寒水一、山家少二四隣一。❷氷をいふ。〔荀子、勸學〕青取二之於藍一、而青二於藍一、冰水爲レ之、而寒二於水一。❸（カナミヅ） 美濃國の地名。

【寒水石】230（カンスイセキ） ❶石膏（**8**－**24024**・・88）の異名。寒水のやうに冷いからいふ。〔本草、石膏〕釋名、細理石・寒水石、時珍曰、其文理細密、故名二細理石一、其性大寒如レ水、故名二寒水石一、與二凝水石一同名異物。❷凝水石（**2**－**1720**・・62）の異名。〔本草、凝水石〕釋名、白水石・寒水石・凌水石・鹽精石・泥精・鹽枕・鹽根、時珍曰、拆片投二水中一、與レ水同レ色、其水凝動、又可下夏月研末、煑レ湯入レ瓶、倒懸二井底一、卽成中凌水上、故有二凝水・白水・寒水・凌水諸名一、生二于積鹽之下一、故有二鹽精以下諸名一、石膏亦有二寒水之名一、與レ此不レ同。

〔寒水川〕231（サウツカハ） ❶肥前國綾部川の別稱。❷（スンカア） 琉球首里の地名。

【寒吹】232（カンスイ） 寒い風。寒風。〔水經、灅水注〕火井東五六尺、又東有二湯井一、井北百餘步有二東西谷一、廣十許、步二南崖一、下有二風穴一、厥大容レ人、其深不レ測、而穴中肅肅常有二微風一、雖二三伏盛暑一、猶須二襲裘一、寒吹陵レ人、不レ可二暫停一。

【寒悴】233（カンスイ） 貧しくやつれ疲れる。〔晉書、張華傳〕卞以二寒悴一、自二須昌小吏一、受二公成拔一、以至二今日一。

【寒翠】234（カンスイ） 寒中のみどり。樹木の冬のみどり。〔范雲、園橘詩〕芳條結二寒翠一、圓實變二霜朱一。〔張仲素、宮中樂〕奇樹留二寒翠一、神池結二夕波一。〔皎然、南池雜詠、寒山詩〕衆山搖落盡、寒翠更重重。〔林逋、山村冬暮詩〕雪竹低二寒翠一、風梅落二晚香一。

【寒蘂】235（カンズイ） 寒中の花。冬の花。〔劉禹錫、訓二令狐相公庭前白菊花謝云云一詩〕寒蘂差池落、清香斷續來。

【寒井】236（カンセイ） 寒中の井戸。冬の井戸。〔梁簡文帝、謝三敕賚二貂坐褥席一啓〕陰炭既重、寒井猶冰。〔盧綸、送三吉中孚校書歸二楚州舊山一詩〕露色凝二古壇一、泉聲落二寒井一。〔白居易、晚秋夜詩〕花開殘菊傍二疎籬一、葉下衰桐落二寒井一。

【寒生】237（カンセイ） ❶寒さが生ずる。〔素問、瘧論〕三陽俱虛則陰氣勝、陰氣勝則骨寒、而痛寒生二於內一、故中外皆寒。〔韋應物、觀二早朝一詩〕寒生千門裏、日照雙闕間。〔白居易、題二噴玉泉一詩〕溜滴二三秋雨一、寒生六月風。❷寒中に生ずる。冬に成長する。〔庾信、周太子太保步陸逞神道碑銘〕忠泉暗漏、孝笋寒生。❸まづしい書生。貧乏書生。〔湘山野錄〕江南一寒生。

【寒星】238（カンセイ） ❶太乙星。〔陸龜蒙、華陽巾詩〕須下是古壇秋霽後、靜焚二香炷一禮中寒星上。❷寒中の星。冬の星。〔孟郊、石淙詩〕百尺明鏡流、千曲寒星飛。

【寒砌】239（カンセイ） さびしい庭。砌は、きざはしの下の石だたみ。〔溫庭筠、經二舊遊一詩〕屛倚二故窗一山六扇、柳垂二寒砌一露千條。〔福惠全書、筮仕部、四六啓式〕若三蟲吟二寒砌一。

【寒清】240（カンセイ） つめたくてすむ。〔山海經、中山經〕其上有レ水焉、甚寒而清。〔皮日休、奉二和魯望看レ壓二新醅一詩〕一簣松花細有レ聲、旋將渠椀撇二寒清一。

【寒製】241（カンセイ） 寒中の製造。寒晒し。

【寒聲】242（カンセイ） ❶冬の風の音。〔朱鄴、扶桑賦〕巨影倒レ空而漠漠、寒聲吹レ夜以颸颸。❷つめたい水の音。〔皎然、隴頭水詩〕碎影搖二槍壘一、寒聲咽二幔軍一。❸寒さを感ずる聲。さむざむとした聲。〔袁枚、赤壁詩〕我來不レ共二吹レ簫客一、烏鵲寒聲靜夜聞。〔劉長卿、同二諸公一登レ樓詩〕千家同霽色、一雁報二寒聲一。❹（カンゴヱ） 寒中、謠をうたひ、經を讀みなどして、聲を鍛へること。〔諸艷大鑑、五〕松囃しのためにとて寒聲を使ふ。

【寒小】243（カンセウ） 貧しくいやしい人。〔神仙傳、成仙公〕成仙公者、諱武丁、云云、爲二縣小吏一、云云、府君周昕、有二知レ人之鑒一、云云、府君異レ之、乃留在二左右一、久レ之署爲二文學主簿一、時郡中寮吏豪族、皆怪不レ應、引二寒小之人一、以亂二職位一。

【寒宵】244（カンセウ） 寒夜。〔于武陵、客中詩〕異國久爲レ客、寒宵頻夢レ歸。〔杜甫、閣夜詩〕歲暮陰陽催二短景一、天涯霜雪霽二寒宵一。〔戴叔倫、酬二盩厔耿少府湋見レ寄詩〕遙聞相訪頻逢レ雪、一醉寒宵誰與同。〔張蠙、宿二山驛一詩〕驛在二千峯裏一、寒宵獨此身。

【寒石】245（カンセキ） 鹵鹹（**12**－**47528**・・3）の❶の異名。〔本草、鹵鹹〕釋名、鹵鹽・寒石・石鹹。

【寒磧】246（カンセキ） 寒いすなはら。冬の砂漠。〔于鵠、出塞詩〕空山朱戟影、寒磧鐵衣聲。

【寒泄】247（カンセツ） 下痢。〔漢書、趙充國傳〕苦二腳脛寒泄一。〔注〕師古曰、寒泄、下利也。

【寒雪】248（カンセツ） 冷い冬の雪。〔晉書、陶侃傳〕夔妻有レ疾、將レ迎二醫於數百里一、時正寒雪、諸綱紀皆難レ之、侃獨曰、資二於事レ父以事レ君、小君猶レ母也、安有二父母之疾一而不レ盡レ心乎、乃請レ行、衆咸服二其義一。〔南齊書、張沖傳〕永征二彭城一遇二寒雪一、軍人足脛凍斷者十七八、沖足指皆墮。

【寒節】249（カンセツ） 寒冷の氣節。〔傅玄、雜詩〕常恐寒節至、凝氣結爲レ霜。

【寒川】250（カンセン） ❶寒い冬の川。〔皇甫曾、晚至二華陰一詩〕野渡冰生レ岸、寒川燒隔レ林。〔柳宗元、遊二石角一過二小嶺一至二長烏村一詩〕磴廻茂樹斷、景晏寒川明。❷（サムカハ） 相模國の地名。

【寒泉】251（カンセン） ❶冬の泉。つめたい泉。〔易、井〕寒泉之食、中正也。〔漢書、五行志中之下〕故沸湯之在二閉器一、而湛二於寒泉一、則爲レ冰。〔左思、招隱詩〕前有二寒泉井一、聊可レ瑩二心神一。〔賈島、山中道士詩〕白石通宵煑、寒泉盡日春。❷泉の名。㋑河北省濮陽縣の南。〔詩、邶風、凱風〕爰有二寒泉一、在二浚之下一。〔水經、瓠子河注〕浚城側有二寒泉岡一、卽詩所謂、爰有二寒泉一、在二浚之下一、世謂二之高平渠一、非也。〔通典、州郡典、古兗州〕濮陽。〔注〕寒泉在二濮陽縣東南一。㋺河南省開封縣の北。〔太平寰宇記〕寒泉陂、其水冬夏常冷、故曰二寒泉一。㋩山西省左雲縣の石窟寺の東。泉は石竇より噴出し、題して石窟寒泉といふ。左雲四景の一。㊁湖南省祁陽縣の西。〔元結、寒泉銘序〕湘江西峯直二平陽江口一、有レ泉、出二於石穴一、爲二其當レ暑大寒一、故命曰二寒泉一。❸字號。㋑清、童能靈（**8**－**25775**・・128）の號。㋺岡田恕の號。岡田寒泉（**4**－**7962**・・52）を見よ。㋩並河朋來の號。

〔寒泉子〕252（カンセンシ） ❶戰國、秦の人。處士。惠王が蘇秦の欺策を怒り、武安子を遣はして說かしめんとするや、寒泉子は、不可なり、武事には請ふ武安子を使へ、文治には請ふ張儀を使へと言ひ、惠王は之に從つた。〔戰國、秦策〕❷清、本畫（**6**－**14421**・・237）の號。

〔寒泉之思〕253（カンセンノオモヒ） 親を思ふ心。孝子の心。孝子をほめた詩經の凱風篇から出た語。〔詩、邶風、凱風〕爰有二寒泉一、在二浚之下一、有二子七人一、母氏勞苦。〔集傳〕諸子自責言、寒泉在二浚之下一、猶能有レ所三滋二益於浚一、而子有二七人一、反不レ能レ事レ母、而使三母至二於勞苦一乎、於レ是乃若三微指二其事一、而痛自刻責、以感二動其母心一也、母以二淫風流行一、不レ能二自守一、而諸子自責、但以三不レ能レ事レ母、使二母勞苦一爲レ詞、婉詞幾諫、不レ顯二其親之惡一、可レ謂レ孝矣。〔蜀志、先主甘皇后傳〕宜下有二尊號一、以慰中寒泉之思上。〔陶潛、孟府君傳〕淵明先親、君之第四女也、凱風寒泉之思、寔鍾二厥心一。

【寒扇】254（カンセン） 寒中の扇。冬の扇。〔富嘉謨、明冰篇〕安知採斲備二嘉薦一、陰房涸沍掩二寒扇一。

【寒賤】255（カンセン） 貧しくいやしい。又、其の身分。寒微。〔晉書、熊遠傳〕今朝廷法吏、多出二於寒賤一。〔南史、庾華傳〕州人范興話以二寒賤一仕。

【寒戰】256（カンセン） 寒さにふるへる。身ぶるひする。〔水經、渭水注〕桓譚新論、稱二元帝被レ病、廣求二方士一、漢中送二道士王仲都一、詔問レ所レ能、對曰、能忍二寒暑一、乃以二隆冬盛寒日一、令下袒載二駟馬于上林昆明池上一、環レ冰而馳上、御者厚衣狐裘寒戰、而仲都獨無レ變レ色、臥二于池臺上一、曛然自若、夏大暑日、使三曝坐環以二十爐火一、不レ言レ熱、又身不レ汗。〔吳志、韋曜傳〕被レ問寒戰、形氣吶吃。

【寒蟬】257（カンセン） ❶ひぐらしの異名。茅蜩。寒蜩。寒螿。〔禮、月令〕孟秋之月、涼風至、白露降、寒蟬鳴、鷹乃祭レ鳥、用始二刑戮一。〔注〕寒蟬、寒蜩、謂レ蜺也。❷鳴かないせみ。おしぜみ。〔張載、七哀詩〕寒蟬無二余音一。〔後漢書、杜密傳〕劉勝位爲二大夫一、見レ禮二上賓一、而知レ善不レ薦、聞レ惡無レ言、隱レ情惜レ己、自同二寒蟬一、此罪人也。〔注〕寒蟬、謂二寂默一也。

【寒蟾】258（カンセン） 寒中の月。冬の月。蟾は蟾蜍、月中に棲むといふ。寒月。〔李賀、夢レ天詩〕老兔寒蟾泣二天色一、雲樓半開壁斜白。〔鄭谷、夕陽詩〕莫レ恨

清光盡、寒蟾只照レ空。

【寒霰】259（カンセン） つめたい冬のあられ。〔江淹、知己賦〕余結ニ袂于山石一、君憑ニ神于寒霰一。〔沈約、奉ニ和竟陵王郡縣名一詩〕陽泉濯ニ春藻一、陰丘聚ニ寒霰一。〔高啓、聞レ霰詩〕寒霰夜聞時、窗空人寂寞。

【寒蘚】260（カンセン） つめたい冬のこけ。〔劉孝威、賦ニ得曲澗一詩〕石岸生ニ寒蘚一、沈根漬ニ水苔一。

【寒饌】261（カンセン） 粗末な食饌。〔王粲、大暑賦〕堅冰常奠、寒饌代敍。

【寒素】262（カンソ） ❶儉約で質素なこと。〔南齊書、王僧虔傳〕布衣寒素、卿相屈レ體。❷司馬晉の制で、士を取る科の名。〔晉書、武帝紀〕令下內外羣官、擧ニ清能一、拔中寒素上。〔晉書、李重傳〕劉沈擧ニ霍原一爲ニ寒素一、云云、荀組以爲、寒素者當レ謂ニ門寒身素一、無ニ世祚之資一、云云、原爲ニ人間流通之事一、云云、不レ應ニ寒素之目一。〔晉書、范喬傳〕喬凡一擧ニ孝廉一、八薦ニ公府一、再擧ニ清白異行一、又擧ニ寒素一、一無レ所レ就。

【寒楚】263（カンソ） 冬の楚國。〔高適、見ニ人臂蒼鷹一作詩〕寒楚十二月、蒼鷹八九毛。

【寒葅】264（カンソ） 寒食(217)の朝に食べる酢菜。葅はつけもの。食ニ寒葅一得レ蛭を見よ。

〔食ニ寒葅一得レ蛭〕265（カンソヲクラヒテヒルヲウ） 楚の惠王が食膳の寒葅中に蛭を見つけたが、料理役人の罪に當らんことを恐れて、之を呑んだ故事。〔新書、春秋〕楚惠王食ニ寒葅一而得レ蛭、因遂呑レ之、腹有レ疾而不レ能レ食、令尹入問曰、王安得ニ此疾一、王曰、我食ニ寒葅一而得レ蛭、念譴レ之而不レ行ニ其罪一乎、是法廢而威不レ立也、譴而行レ誅、則庖宰監食者、法皆當レ死、心又弗レ忍也、故吾恐ニ蛭之見一也、遂呑レ之。

【寒蔬】266（カンソ） ❶粗末な副食物。蔬は蔬菜。あをもの。〔賈島、送ニ天台僧一詩〕寒蔬脩ニ淨食一、夜浪動ニ禪牀一。❷つまらない草。〔齊己、過ニ陳陶處士舊居一詩〕遠燒來ニ籬下一、寒蔬簇ニ石根一。〔蘇軾、泗州南山監倉蕭淵東軒詩〕溪中亂石墻垣古、山下寒蔬匕箸香。

【寒送】267（カンソウ） 寒さを送る。〔高道素、上元賦〕解ニ嚴凝一而寒送、沛ニ膏沐一而春逢。

【寒嗽】268（カンソウ） 風邪で咳が烈しく出ること。〔宋史、岳飛傳〕彼必奔命、可ニ坐而斃一、時飛方苦ニ寒嗽一、力疾而行。

【寒漱】269（カンソウ） 冷たい水で口をすすぐ。〔賈島、送レ僧歸ニ太白山一詩〕夜禪臨ニ虎穴一、寒漱撇ニ龍泉一。

【寒瘦】270（カンソウ／カンシウ） やせ衰へる。〔朱元薦、憶ニ庾嶺梅花一賦〕或豪邁如ニ李杜一、或寒瘦如ニ郊島一。

【寒族】271（カンゾク） 賤しく貧しい家がら。寒門。〔晉書、華譚傳〕又擧ニ寒族周訪一爲ニ孝廉一、訪果立ニ功名一。〔杜荀鶴、入レ關因別ニ舍弟一詩〕莫レ愁寒族無ニ人薦一、但願春官把レ卷看。〔小學、卷六、善行〕實敬身溫公曰、吾家本寒族、世以ニ清白一相承。

【寒粟】272（カンゾク） 寒氣だつ。とりはだだつ。〔蘇軾、雪後書ニ北臺壁一詩〕凍合ニ玉樓一寒起レ粟、光搖ニ銀海一眩生レ花。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕遍身寒粟、口有ニ涎沫一、其涎不レ粘。

〔寒粟子〕273 han² su⁴ tsŭ 恐ろしさや寒さで肌に出來る粟。鳥肌。〔水滸傳、一回〕看身上時、寒粟子比餶飿兒大小。

【寒村】274（カンソン） ❶寂しい村里。寒邑。〔盧綸、送ニ李緗一詩〕波翻遠水蒹葭動、路入ニ寒村一機杼鳴。〔唐彥謙、韋曲詩〕窮郊二月初離別、獨傍ニ寒村一嗅ニ野梅一。❷字號。㋑明、蘇志皐(9－32427‥243)の號。㋺清、鄭梁(11－39647‥279)の號。㋩清、李延昰(6－14459‥891)の字。

【寒邨】275（カンソン） 寒村の❶を見よ。邨は村に同じ。

【寒樽】276（カンソン） 貧弱な酒だる。〔蘇轍、次ニ韻子瞻杜介供奉送レ魚詩〕寒樽獨酌偶逢レ客、佳句相酬不レ用レ書。

【寒苔】277（カンタイ） 冬の苔。〔溫庭筠、清涼寺詩〕松飄晚吹摐ニ金鐸一、竹蔭寒苔上ニ石梯一。

【寒帶】278（カンタイ） 地球の南北兩極から緯線各二十三度半の線內、卽ち赤道から緯線南北各六十六度半から兩極に至るまでの間の稱。

〔寒帶植物〕279（カンタイショクブツ） 寒帶地方に生ずる植物。樺木・楊柳等の喬木、及び苔蘚類・地衣類など。

【寒態】280（カンタイ） さむざむとした樣子。〔屠門高、琴引〕借ニ連娟之寒態一兮。

【寒餒】281（カンタイ） こごえうゑる。寒饑。〔後漢書、虞延傳〕家至清貧、子孫不レ免ニ寒餒一。〔陶潛、雜詩〕躬親未ニ曾替一、寒餒常糟糠。〔北齊書、祖鴻勳傳〕位至ニ高陽太守一、在レ官清素、妻子不レ免ニ寒餒一、時議高レ之。

【寒桃】282（カンタウ） ❶南康の玉山の巓に生じた桃の木。後、化して石となつたといふ。〔鄧德明、南康記〕南康玉山有ニ石桃一、故老云、古有ニ寒桃一、生ニ於嶺巓一、隱淪之士、將三大取ニ其實一、因變成レ石。❷冬の桃。〔晉書、食貨志〕寒桃在レ御、雙雞以給。

【寒塘】283（カンタウ） ❶さむざむとしたつつみ。冬のつつみ。〔王維、寄ニ韋太守步一詩〕寒塘映ニ衰草一、高館落ニ疎桐一。〔丘爲、尋ニ盧山崔徵君一詩〕日高鷄犬靜、門掩向ニ寒塘一。〔杜甫、和下裴迪登ニ新津寺一寄中王侍郎上詩〕蟬聲集ニ古寺一、鳥影度ニ寒塘一。〔韋應物、三臺詩〕冰泮寒塘始綠、雨餘百草皆生。❷清、吳雷發(2－3365‥889)の號。

【寒璫】284（カンタウ） 冷たく光る耳だま。轉じて、月の喩。〔袁桷、紅梅賦〕棄ニ明月之寒璫一、綴ニ飛瓊一以爲レ琲。

【寒柝】285（カンタク） 冬の夜に打ち鳴らす拍子木。又、さむざむと響く拍子木の音。〔顧雲、投ニ西邊節度使一啓〕邊烽息レ焰、寒柝沈レ聲。〔歐陽詹、除夜長安客舍詩〕虛牖傳ニ寒柝一、孤燈照ニ絕編一。〔永尾秋水、松前城下作詩〕海城寒柝月生レ潮、波際連檣影動搖。

【寒橐】286（カンタク） から袋。空囊。橐は、底のないふくろ、又、小さいふくろ。〔秦觀、惠レ茶詩〕寒橐遽收諸品玉、午甌初試一團花。

【寒澤】287（カンタク） 北方の地をいふ。寒氷が多いからいふ。〔淮南子、墬形訓〕北方曰ニ大冥一、曰ニ寒澤一。〔注〕北方多寒也、故曰ニ寒澤一也。

【寒衲】288（カンダフ） 貧しい僧衣。〔寒山、詩〕不レ學白雲巖下客、一條寒衲是生涯。

【寒丹】289（カンタン） 道家で用ひる仙藥。〔抱朴子、金丹〕第九之丹名ニ寒丹一、服ニ一刀圭一、百日仙也。

【寒潭】290（カンタン） 水のつめたい淵。〔謝靈運、九日從ニ宋公戲馬臺集一送ニ孔令一詩〕皎皎寒潭絜。〔王勃、滕王閣序〕潦水盡而寒潭清、煙光凝而暮山紫。〔劉廷芝、洛中晴月云云詩〕晴看ニ石瀨一光無レ數、曉入ニ寒潭一浸不レ流。〔李咸用、送別詩〕棹入ニ寒潭一急、帆當ニ落照一遲。

【寒暖】291（カンダン） 寒さとあたたかさ。寒煖に同じ。

〔寒暖計〕292（カンダンケイ） 溫度を度る器。

【寒煖】293（カンダン） 寒いことと暖いこと。寒さとあたたかさ。寒溫。寒暖。〔禮、文王世子〕食上必在ニ視寒煖之節一。〔宋書、律曆志上〕陰陽寒煖風雨之占。

【寒地】294（カンチ） 寒い土地。寒土。〔魏書、李彪傳〕猶以ニ寒地一處レ之。〔白居易、晚桃花詩〕寒地生レ材遺較易、貧家養女嫁常遲。

【寒竹】295（カンチク） ❶寒中の竹。冬の竹。〔盧仝、贈ニ徐希仁石硯一別詩〕青松火鍊翠煙凝、寒竹風搖遠天碧。〔鄭谷、張谷田舍詩〕一徑入ニ寒竹一、小橋穿ニ野花一。❷竹の一種。高さ五六尺。節がこまかで、杖などに用ひる。

【寒廳】296（カンチヤウ） さびしい座敷。貧しい家。〔蘇軾、次三韻錢穆父王仲至同賞ニ田曹梅花一詩〕寒廳不レ知レ春、獨立耿ニ玉雪一。

【寒中】297（カンチユウ） ❶病名。ひえ込み。寒さあたり。〔史記、倉公傳〕陽虛侯相趙章病、召ニ臣意一、衆醫皆以爲ニ寒中一。❷寒の中。小寒と大寒の總稱。❸清、馬思贊(12－44572‥797)の字。

【寒蟲】298（カンチユウ） 蟋蟀(10－33550‥2)の異名。〔毛詩陸疏廣要、蟋蟀在レ堂〕獨保織曰ニ莎雞一、曰ニ絡緯一、曰レ蛬、曰ニ蟋蟀一、曰ニ寒蟲一、之不レ一ニ其名一、或在レ壁、或在レ戶、或在レ宇、或在ニ牀下一、因レ時而有レ感、夫一物之微而能察乎、陰陽動靜之宜備乎、戰鬪攻取之義、是能超ニ乎物一者甚矣、促織之可レ取也、遠矣。〔王僧孺、與ニ何炯一書〕寒蟲夕叫、合ニ輕重一而同悲、秋葉晚傷、雜ニ黃紫一而俱墜。〔吳少微、長門怨〕空堦白露色、百草寒蟲鳴。〔常建、聽レ琴云云詩〕寒蟲臨レ砌急、清吹裹レ燈頻。

【寒女】299（カンヂヨ） 貧家の女。貧女。〔中論、貴驗〕伊尹放ニ太甲一、展季覆ニ寒女一、商魯之民、不レ稱ニ淫篡一焉、何則積ニ之於素一也。〔郭泰機、答ニ傅咸一詩〕皎皎白素絲、織爲ニ寒女衣一。〔杜甫、自レ京赴ニ奉先縣一詠懷五百字詩〕彤庭所レ分帛、本自ニ寒女一出。

【寒瘃】300（カンチヨク） しもやけ。〔漢書、趙充國傳、霜露疾疫瘃墯之患、注〕師古曰、墯、謂下因ニ寒瘃一而墯レ指者上也。

【寒砧】301（カンチン） さびしいきぬた。又、寒中のきぬた。寒杵。〔沈佺期、古意呈ニ補闕喬知之一詩〕九月寒砧催ニ木葉一、十年征戍憶ニ遼陽一。〔李頎、宴ニ

陳十六樓一詩〕四鄰見二疎木一、萬井度二寒砧一。〔杜甫、客舊館詩〕風幔何時卷、寒砧昨夜聲。〔皇甫曾、秋興詩〕返照城中盡、寒砧雨外聞。〔戴叔倫、寄二萬德躬故居一詩〕呂仙祠下寒砧急、帝子閣前秋水多。〔李商隱、獨居有レ懷詩〕只聞涼葉院、露井近二寒砧一。

【寒汀】302（カンテイ） 寒い冬のなぎさ。〔杜牧、題二齊安城樓一詩〕鳴軋江寒角一聲、微陽瀲瀲落二寒汀一。

【寒鳥】303（カンテウ） 寒中の鳥。冬の鳥。〔阮籍、詠懷詩〕迴風吹二四壁一、寒鳥相因依。〔陸機、苦寒行〕不レ覩白日景、但聞二寒鳥喧一。〔梁元帝纂要〕冬鳥曰二寒鳥一、又曰二寒禽一。〔魏徵、述懷詩〕古木鳴二寒鳥一、空山啼二夜猿一。〔韋應物、同越二琅邪山一詩〕餘食施レ庭寒鳥下、破衣挂レ樹老僧亡。

【寒蜩】304（カンテウ） ❶ひぐらし。寒蟬。寒螿。〔爾雅、釋蟲〕蜺、寒蜩。〔注〕寒螿也、似レ蟬而小、青赤。〔禮、月令〕孟秋之月、涼風至、白露降、寒蟬鳴。〔注〕寒蟬、寒蜩、謂レ蜺也。〔歐陽脩、自二岐江一山行至二平陸驛一云云詩〕山鳥囀成レ歌、寒蜩嘒如レ哽。❷鳴かない蟬。寒蟬。おしぜみ。〔方言、十一〕寒蜩、瘖蜩也。

【寒潮】305（カンテウ） 冬のうしほ。冬の海。〔宋之問、夜渡二吳松江一懷レ古詩〕寒潮頓覺レ滿、暗浦稍將レ分。〔皇甫冉、酬二張繼一詩〕落日臨レ川問二音信一、寒潮惟帶二夕陽一還。

【寒條】306（カンデウ） 冬の枝。葉の落ちたさびしい枝。寒枝。〔陶潛、歸鳥詩〕翼翼歸鳥、戢二羽寒條一。〔戴叔倫、登レ樓望レ月寄二鳳翔李少尹一詩〕陌上涼風槐葉凋、夕陽清露濕二寒條一。〔章孝標、淮南李相公席上賦二春雪一詩〕六出花飛處處飄、粘レ窗著レ砌上二寒條一。

【寒笛】307（カンテキ） さびしい笛の音。〔方干、過二朱協律故山一詩〕難レ收故交意、寒笛一聲聲。〔杜荀鶴、登二石壁禪師冰閣一有レ作詩〕漁父晚船分レ浦釣、牧童寒笛倚レ牛吹。

【寒蝶】308（カンテフ） 冬の蝶。〔賈島、延壽里精舍寓居詩〕霜蹊猶舒レ英、寒蝶斷二來踪一。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕林幽不レ逢レ人、寒蝶飛翾翾。

【寒天】309（カンテン） ❶さむぞら。寒空。〔岑參、題二三會寺蒼頡造字臺一詩〕野寺荒臺晚、寒天古木悲。〔沈佺期、隴頭水詩〕隴山飛二落葉一、隴雁度二寒天一。〔白居易、華城西北雉堞云云詩〕況是寒天客、樓空無二主人一。❷五花菜（トコロテングサ）の煮汁を寒夜に晒して製した半透明の食品。

〖寒天版〗310（カンテンバン） 寒天或は膠を原料として造つた一種の印刷版。普通に紫色インキで刷る。こんにやくばん。

【寒點】311（カンテン） 冬夜、時間を知らせる鐘。〔溫庭筠、走馬樓三更曲〕簾間清唱報二寒點一、丙舍無レ人遺二燼香一。

【寒殿】312（カンデン） さびしい荒れはてた寺。〔司空曙、過二慶寶寺一詩〕黃葉前朝寺、無レ僧寒殿開。〔許渾、題二峽山寺一詩〕山風寒殿磬、溪雨夜船燈。

【寒兔】313（カント） 冬のうさぎ。〔沈約、宿二東園一詩〕平岡走二寒兔一。〔孟浩然、南歸阻レ雪詩〕積雪覆二平皐一、飢鷹捉二寒兔一。〔李賀、李憑箜篌引〕吳質不レ眠倚二桂樹一、露腳斜飛濕二寒兔一。〔杜牧、洛陽詩〕侯門草滿冝二寒兔一、洛浦沙深下二塞鴻一。

【寒渡】314（カント） ❶寒いわたし場。冬のわたし場。〔賈島、送二周判官元範赴レ越詩〕城上秋山生レ菊早、驛西寒渡落潮遲。〔栖白、邊思詩〕亂雁鳴二寒渡一、飛沙入二廢樓一。❷川の名。河北省豐潤縣の東北。〔水經、鮑丘水注〕巨梁水、又南逕二土垠縣故城西一、左會二寒渡水一、水出二縣東北一、西南流至二縣右一、注二梁河一。

【寒土】315（カンド） ❶寒い土地。寒地。❷貧しい土地。❸寂しい土地。

【寒冬】316（カントウ） 寒い冬。〔夏侯湛、薺賦〕寒冬之日、余登二乎城一、跬二步乎北園一。

【寒豆】317（カントウ） 豌豆（**10－36273**‥1）の異名。〔事物異名錄、蔬穀、豌豆〕食物本草、豌豆卽寒豆也。

【寒凍】318（カントウ） 寒さに凍える。又、さむくてこほる。〔淮南子、人間訓〕冬日則寒凍、夏日則暑傷。〔史記、秦始皇紀〕九年四月寒凍。〔唐書、錢徽傳〕時天大雨レ雪、士寒凍。

【寒燈】319（カントウ） さびしいともしび。冬夜のともしび。寒檠。寒燭。寒釭。〔謝朓、冬緒羇懷云云詩〕寒燈耿二宵夢一、清鏡悲二曉髮一。〔江總、姬人怨詩〕寒燈作レ花羞二夜短一、霜鴈多情恆結伴。〔高適、除夜作詩〕旅館寒燈獨不レ眠、客心何事轉悽然。〔戴叔倫、除夜宿二石頭驛一詩〕旅館誰相問、寒燈獨可レ親。〔高蟾、旅夕詩〕不レ堪二斷吟一無二人見一、時復寒燈落二一華一。

【寒突】320（カントツ） ひえた煙突。煙の上らぬ貧家の煙突。〔文同、西岡僦居詩〕猶勝二比鄰者一、寒突無二晨煙一。

【寒熱】321（カンネツ） ❶寒さとあつさ。〔禮、月令〕寒熱不レ節、民多二瘧疾一。〔韓非子、有度〕清暖寒熱、不レ得レ不レ救。〔後漢書、荀淑傳〕夫寒熱晦明、所二以爲レ歲。❷一方には手薄くし、一方には手厚くすること。冷熱。〔宋書、元凶劭傳〕不レ應下翻二覆言語一、自生中寒熱上也。❸さむ氣と熱を伴ふ病氣。〔史記、倉公傳〕濟北王侍者韓女病、要背痛寒熱。〔枚乘、七發〕洞房清宮、命曰二寒熱之媒一。〔注〕善曰、呂氏春秋曰、室大多レ陰、臺高多レ陽、多レ陰則蹷、多レ陽則痿、此陰陽不レ適之患也、高誘曰、蹷逆寒疾也、痿蹷不レ能レ行也。

〖寒熱往來〗322 han^{2} jê^{4} wang^{3} lai^{2} ❶一箇年をいふ。❷發作的の熱病。

【寒年】323（カンネン） 寒い年。〔南史、劉訏傳〕族祖孝標與レ書稱レ之曰、訏超超越レ俗、如二半天朱霞一、歊矯出レ塵、如二雲中白鶴一、皆儉歲之粱稷、寒年之纖纊。

【寒醅】324（カンバイ） 冬季に釀した濁酒。醅はにごりざけ。〔歐陽脩、秋晚凝翠亭詩〕嘉客日可レ攜、寒醅美二新醡一。

【寒憊】325（カンパイ） 貧しくつかれる。〔唐書、劉仁軌傳〕所レ募皆傭劣寒憊無二鬬志一。

【寒莓】326（カンバイ） 蓬虆（**9－31720**‥118）の異名。冬に實のなるいちご。〔本草、蓬虆〕釋名、覆盆・陵虆・陰虆・寒莓・割田藨。

【寒梅】327（カンバイ） 寒中の梅。冬の梅。〔張謂、早梅詩〕一樹寒梅白玉條、迥臨村路傍二谿橋一。〔劉禹錫、和三令狐相公詠二梔子花一詩〕佳人如擬レ詠、何必待二寒梅一。〔白居易、和下薛秀才尋二梅花一同飮見上贈詩〕忽驚林下發二寒梅一、便試花前飮二冷盃一。

【寒煤】328（カンバイ） 冬の墨。〔蘇轍、子瞻見二許驪山澄泥硯一詩〕寒煤舒卷開二雲葉一、清露霑流發二涕濟一。

【寒庖】329（カンパウ） 物の乏しい臺所。貧家のくりや。〔史子玉、枸杞賦〕憫二寒庖之屢空一、笑二盛饌之莫レ知。〔蘇軾、狄韶州煮二蔓菁蘆菔羹一詩〕寒庖有二珍烹一。

【寒苞】330（カンパウ） 粗末な贈物。〔皮日休、早春以二橘子一寄二魯望一詩〕知君多病仍中聖、盡送二寒苞一向二枕邊一。

【寒芒】331（カンバウ） さむげな星のひかり。〔蘇軾、王仲至侍郎見レ惠二稏秳一種二之禮曹北垣下一云云蔚然有二生意一喜而作詩〕誰知積雨後、寒芒曉森森。

【寒房】332（カンバウ） さびしいへや。寒々とした部屋。〔杜甫、夜詩〕絕岸風威動、寒房燭影微。〔無可、題二青龍寺縱公房一詩〕夕磬城霜下、寒房竹月圓。

【寒茅】233（カンバウ） 枯れた茅。〔沈約、郊居賦〕傍二窮野一抵二荒郊一、編二霜茨一葺二寒茅一。

【寒鋩】334（カンバウ） 寒さを感ずるやうな、鋭利なほこさき。鋭鋒。〔曹唐、望二九華一寄二池陽杜員外一詩〕差差玉劍寒鋩利、裊裊青蓮翠葉重。

【寒魄】335（カンパク） 冬の月。寒月。〔劉得仁、對レ月寄二雍陶一詩〕圓明寒魄上、天地一光中。〔方干、中秋月詩〕泉澄寒魄瑩、露滴冷光浮。

【寒薄】336（カンパク） ❶冷淡な。薄はうすい。〔左氏、閔、二、雖レ知二其寒一、林注〕雖レ知二君心寒薄一、然而不孝不忠之惡名不レ可レ取。❷寒さが身にせまる。薄はせまる。〔馬融、長笛賦〕寒薄湊會而凌レ節兮。〔李公昂、蘭陵王詞〕單衣試龍沫旋熏、又怕東風曉寒薄。❸貧しいこと。薄はすくない。〔福惠全書、筮仕部、延幕友〕家道寒薄、不レ能レ延二請上賓一。

【寒麥】337（カンバク） 寒中の麥。冬の麥。〔劉得仁、書レ事寄二萬年厲員外一詩〕土膏寒麥覆、人海晝塵蒙。〔喻坦之、長安雪後詩〕野渡滋二寒麥一、高泉漲二禁池一。

【寒曝】338（カンザラシ） 寒晒（141）に同じ。

【寒晚】339（カンバン） 貧しく年をとる。〔鄭谷、卷末偶題詩〕如今寒晚無二功業一、何以勝レ任國士知。

【寒肥】340（カンゴエ） 寒中に施す肥料。

【寒鄙】341（カンピ） 微賤。〔唐書、劉棲楚傳〕其出寒鄙、爲二鎭州小史一。〔劉詵、遊二沙山一詩〕風流益自媿二寒鄙一、謔調未レ覺須二娉婷一。

【寒霏】342（カンピ） さびしいもや。寒烟。〔菊池溪琴、河內路上詩〕南朝古木鎖二寒霏一、六百春秋一夢非。

【寒微】343（カンビ） 貧しくいやしい。寒賤。寒陋。〔晉

書、吾彥傳〕出レ自二寒微一、有二文武才幹一。〔晉書、鄭沖傳〕起レ自二寒微一、卓爾立レ操。〔駱賓王、討二武曌一檄〕非二溫潤一、地實寒微。

【寒冰】344 カンピョウ 冷いこほり。冬の氷。氷。〔詩、大雅、生民〕誕寘二之寒冰一、鳥覆二翼之一。〔列女傳、母儀、棄母姜嫄傳〕乃取置二寒冰之上一、飛鳥傴二翼之一。〔後漢書、張衡傳〕寒冰沍而黿鼉蟄。

〖寒冰地獄〗345 カンピョウヂゴク 佛寒くてふるへる地獄。阿羅羅。阿婆婆。〔大論〕寒冰地獄、一名阿羅羅、一名阿婆婆、皆像二其寒顫聲一也。

【寒品】346 カンピン 家柄の貧しく賤しい人。〔梁書、武帝紀中〕詔曰、有下能通二一經一、始末無レ倦者上、雖二復牛監羊肆、寒品後門一、並隨レ才試レ吏、勿レ有二遺隔一。〔唐書、陸餘慶傳〕餘慶於二寒品晚進一、必悉レ力薦藉、人有レ過輒面折、退無二一言一。

【寒貧】347 カンピン ❶まづしい。〔蜀志、楊洪傳、注〕少寒貧、爲レ人寬厚。❷三國魏、安定の人。本姓は石。字は德林。極めて貧しかつたからいふ。〔魏志、張臶傳、注〕寒貧者、本姓石、字德林、安定人也、云云、南入二漢中一、初不レ治二產業一、不レ畜二妻孥一、常讀二老子五千文及諸內書一、云云、漢中破、隨レ衆還二長安一、遂癡愚不二復識一レ人、云云、目如レ無レ所レ見、云云、郡縣以二其鰥窮一、給レ廩日五升、食不レ足、頗行乞、乞不レ取レ多、人問二其姓字一、又不二肯言一、故因號レ之曰二寒貧一也。

【寒鬢】348 カンビン 毛の少い鬢。〔李賀、洛姝眞珠詩〕寒鬢斜釵玉燕光、高樓唱レ月敲二懸璫一。

【寒婦】349 カンプ 貧しい婦人。貧女。寒女。〔鮑照、擬古詩〕秋螢扶二戶吟一、寒婦成二夜織一。

【寒膚】350 カンプ ひえこごえたはだ。〔元稹、病減逢レ春詩〕寒膚漸舒展、陽脈乍虛盈。

【寒蕪】351 カンブ 枯れた雜草。冬の荒地。〔戴叔倫、和四河南羅主簿送三校書兄歸二江南一詩〕古戍陰傳レ火、寒蕪曉帶レ霜。〔羅隱、倚レ棹詩〕直應齊始了、傾レ酌向二寒蕪一。〔方干、中路寄二喻鳧先輩一詩〕寒蕪隨レ楚盡、落葉渡レ淮稀。

【寒風】352 カンプウ ❶冬の風。北風。寒吹。〔呂覽、有始〕北方曰二寒風一。〔注〕坎氣所レ生、一曰二廣莫風一。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕寒風摧二樹木一。〔阮籍、詠懷詩〕寒風振二山岡一、玄雲起二重陰一。〔陸機、燕歌行〕四時代序逝不レ追、寒風習習落葉飛。〔謝惠連、雪賦〕寒風積、愁雲繁。〔任蕃、秋晚郊居詩〕野徑無二來客一、寒風自動レ門。❷上古の人の名。よく馬を相す。〔呂覽、觀表〕古之善相レ馬者、寒風是相二口齒一。

〖寒風澤溫泉〗353 サブサハヲンセン 陸前國に在る溫泉。

【寒服】354 カンプク 寒中にきる衣服。ふゆぎ。〔後漢書、耿恭傳〕恭遣下軍吏范羌、至二敦煌一迎中兵士寒服上。〔謝瞻、九日從二宋公戲馬臺集一送二孔令一詩〕風至授二寒服一、霜降休二百工一。〔劉長卿、宿二嚴維宅一送二包佶一詩〕歲儲無二別墅一、寒服羨二鄰機一。

【寒馥】355 カンプク 梅花の香しいこと。〔楊萬里、臘梅詩〕夕吹撩二寒馥一、晨曦透二暖光一。

【寒氛】356 カンプン 寒い氣。〔岑參、天山雪歌〕晻靄寒氛萬里凝、闌干陰崖千丈冰。〔孟郊、報二翰林張舍人一詩〕自然蹈二終南一、滌暑凌二寒氛一。

【寒雰】357 カンプン 寒いきり。冬の霧。寒霧。〔素問、六元正紀大論〕水鬱之發、陽氣廼辟、陰氣暴擧、大寒廼至、川澤嚴凝、寒雰結爲二霜雪一。

【寒文】358 カンブン ❶寒々とした模樣。〔杜甫、太平寺泉眼詩〕北風起二寒文一、弱藻舒二翠縷一。❷han^2 weu^2 氷(6-17087)の異名。

【寒坪】359 カンペイ 淸、張宗松(4-9812・・1294)の號。

【寒餠】360 カンモチ 寒中に搗く餠。

【寒颷】361 カンペウ 冬の大風。寒颷。〔袁山松、菊詩〕靈菊植二幽崖一、擢穎凌二寒颷一。〔陸厥、中山王孺子妾歌〕歲暮寒颷及。

【寒璧】362 カンペキ 冷く光る璧。月の喩。〔陸游、大二醉梅花下一走レ筆賦レ此詩〕酒闌江月上、珠樹挂二寒璧一。〔陸游、秋夜獨過二小橋一觀レ月詩〕乍圓素月升二寒璧一、欲下散二微雲一蹙中細鱗上。

【寒步】363 カンポ 冬の散步。〔鄭谷、折二得梅一詩〕寒步江村折二得梅一、孤香不三肯待二春催一。

【寒蓬】364 カンポウ 冬のよもぎ。枯れたよもぎ。老人の衰へ亂れた髮に喩へる。〔劉峻、相經序〕手無二春荑之柔一、髮有二寒蓬之悴一。

【寒木】365 カンボク 冬凋まない木。松柏の類。又、君子の堅固な節操に喩へる。寒木春華を見よ。〔陸機、演連珠〕勁陰殺節、不レ凋二寒木之心一。〔注〕劉曰、夫冒二霜雪一、而松柏不レ凋、此由二是堅實之性一也。〔杜牧、華淸宮詩〕鳥啄摧二寒木一、蝸延蠹二畫梁一。〔無可、松詩〕青青寒木外、自與二九霄一鄰。

〖寒木春華〗366 カンボクシュンクワ 冬に凋まず、春に花を開く。內容も外見もよい喩。〔顏氏家訓、文章〕齊世有二辛毗者一、淸幹之士、官至二行臺尙書一、嗤二鄙文學一、嘲二劉逖一云、君輩辭藻、譬若二榮華一、須臾之翫、非二宏才一也、豈比下吾徒十丈松樹、常有二風霜一、不上レ可二凋悴一矣、劉應レ之曰、既有二寒木一、又發二春華一、何如也、辛笑曰、可矣。

〖寒木春華館〗367 カンボクシュンクワクワン 淸、徐渭仁(4-10110・・326)の室名。

【寒毛】368 カンマウ ❶人体に生ずる毛。寒さに遇へば落ちて復生ずるからいふ。〔通俗編、身體、寒毛〕儂雅、人身三萬六千毛孔、遇レ寒落而復生、故曰二寒毛一。❷身の毛がよだつ。おぢ恐れることをいふ。〔晉書、夏統傳〕統雅善二談論一、宗族勸二之仕一、謂レ之曰、卿淸亮質直、可下作二郡綱紀一、與二府朝一接上、自當二顯至一、如何甘二辛苦於山林一、畢二性命於海濱一也、統悖然作レ色曰、諸君待レ我乃至レ此乎、云云、聞二君之談一、不レ覺寒毛盡戴、白汗四匝、顏如二渥丹一、心熱如レ炭、舌縮口張、兩耳壁塞、言者大慙。〔唐書、鄭從讜傳〕捕二反賊一、誅二其首惡一、士皆寒毛惕伏。〔劉言史、觀二繩技一詩〕閃然欲レ落卻收得、萬人肉上寒毛生。

【寒孟】369 カンマウ 陰曆十月をいふ。孟冬と同じ。〔梁簡文帝、與二湘東王一令悼二王規一〕去歲冬中、已傷二劉子一、今茲寒孟、復悼二王生一。

【寒民】370 カンミン 貧民。寒人。〔漢書、王莽傳下〕火燒二霸橋一、大司空行視考問、或云、寒民舍二居橋下一、疑以レ火自燎、爲二此災一也。〔申鑒、政體〕下有二寒民一、則上不二具服一。

【寒夢】371 カンム 寒夜の夢。〔杜牧、夜雨詩〕點滴侵二寒夢一、蕭騷著二淡愁一。

【寒霧】372 カンム 寒い霧。冬の霧。寒雰。〔王勃、秋日別二王長史一詩〕野色籠二寒霧一、山光斂二暮煙一。〔盧綸、送二樂平苗明府一詩〕亭史趨二寒霧一、山城斂二曙光一。〔李益、水亭夜坐賦二得曉霧一詩〕月落寒霧起。

【寒盟】373 カンメイ 約を守る心を緩める。盟約に背く。尋盟(4-7447・・70)を見よ。寒はひやす、歇の義。〔左氏、哀、十二〕寡君以爲、苟有レ盟焉、弗レ可レ改也已、若猶可レ改也、日盟何益、今吾子曰二必尋レ盟、若可レ尋也、亦可レ寒也。〔注〕寒、歇也。〔疏〕傳意、言下若可二重溫使レ熱、亦可中歇レ之使上レ寒。〔書言故事、評論類〕背レ約曰二寒盟一。

【寒鳴】374 カンメイ 悲鳴する。〔水經、濕餘水注〕曉禽暮獸、寒鳴相和。〔江淹、別賦〕櫂容與而詎前、馬寒鳴而不レ息。

【寒門】375 カンモン ❶北極の地。〔楚辭、遠遊〕逴二絕垠乎寒門一。〔注〕寒門、北極之門也。〔淮南子、墜形訓〕北方曰二北極之山一、曰二寒門一。〔注〕積寒所レ在、故曰二寒門一。〔漢書、司馬相如傳下〕軼三先驅二於寒門一。〔注〕應劭曰、寒門、北極之門也。〔後漢書、張衡傳〕望二寒門之絕垠一兮。❷貧しくいやしい家がら。寒族。〔吳志、周泰傳、注〕勿下以二寒門一自退上也。〔晉書、劉毅傳〕上品無二寒門一、下品無二勢族一。〔南史、恩倖傳序〕周赳竝出二寒門一。〔鄭谷、投二時相一詩〕故舊寒門少、文章外族衰。❸han^2 men^2 自分の家を謙遜していふ。拙宅。

【寒夜】376 カンヤ 寒い夜。冬の夜。寒宵。〔宋孝武帝、夜聽レ妓詩〕寒夜起二聲管一、促レ席引二靈寄一。〔梁武帝、織婦詩〕調レ梭輟二寒夜一、鳴レ機罷二秋日一。〔劉禹錫、酬二樂天小亭寒夜有レ懷詩〕寒夜陰雲起、疎林暗鳥驚。〔皮日休、夜會問答詩〕寒夜淸簾外、迢迢星斗明。

〖寒夜怨〗377 カンヤエン 樂府、雜曲歌辭の一。相思の意を叙べたもの。陶弘景に寒夜怨があり、梁、簡文帝に獨處愁がある。〔樂府詩集、雜曲歌辭、寒夜怨〕樂府解題曰、晉陸機獨寒吟云、雪夜遠思レ君、寒牕獨不レ寐、但敍二相思之意一爾、陶弘景有二寒夜怨一、梁簡文帝有二獨處愁一、亦皆類レ此。〔陶弘景、寒夜怨〕夜雲生夜鴻驚、悽切嘹唳傷レ夜情、空山霜滿高煙平、鉛華沈照帳孤明、寒月微寒風緊、愁心絕愁淚盡、情人不レ勝レ怨、思來誰能忍。

【寒瘍】378 カンヤウ しもやけ。凍傷。〔儒門事親〕戴人女僮足有二寒瘍一、俗云二凍瘡一。

【寒膺】379 カンヨウ 胸中を冷やかならしめる。驚き怖れる。ぞつとする。又、憂慮する。〔唐書、盧杞傳〕忠臣寒膺、良士痛骨。

【寒蠅】380 カンヨウ 冬の弱つた蠅。無力癡鈍の喩。〔韓愈、送三侯參謀赴二河中幕一詩〕默座念二語笑一、癡

如レ遇二寒蠅一。〔歐陽脩、病告中懷二子華原父一詩〕自レ是少年豪橫過、而今癡鈍若二寒蠅一。

【寒來】381（カンライ） 寒さが來る。冬が來る。〔易、繫辭下〕寒往則暑來、暑往則寒來、寒暑相推、而歲成焉。〔千字文〕寒來暑往、秋收冬藏。〔白居易、晏起詩〕老去慵轉極、寒來起尤遲。

【寒瀨】382（カンライ） 寒々としたはやせ。冬のはやせ。〔段成式、猨詩〕影沈巴峽夜巖色、蹤絕石塘寒瀨聲。〔歐陽脩、水谷夜行寄二子美聖兪一詩〕梅翁事清切、石齒漱二寒瀨一。

【寒浪】383（カンラウ） 寒々としたなみ。冬の海。〔劉長卿、奉二使新安一自二桐廬縣一經二嚴陵釣臺一宿二七里灘下一寄二使院諸公一詩〕夕陽留二古木一、水鳥拂二寒浪一。〔盧綸、送三惟良上人歸二江南一詩〕注レ瓶寒浪靜、讀レ律夜船香。

【寒朗】384（カンラウ） 後漢、薛の人。字は伯奇。官は清河太守。書傳に博通し、孝廉に擧げらる。永初中、博士となる。〔後漢書、七十一〕。

【寒落】385 han^2 lao^4 おちぶれる。〔還魂記、悵眺〕難道便應這等寒落。

【寒柳】386（カンリウ） さむざむとした柳。冬の柳。〔賈島、送二人適レ越詩〕晴湖勝レ鏡碧、寒柳似レ金黃。

【寒流】387（カンリウ） ❶つめたい水流。冬の川。〔謝朓、始出二尚書省一詩〕寒流自清泚。〔王維、答下裴迪輞口遇レ雨憶二終南山一因獻中絕句上詩〕淼淼寒流廣。〔韋應物、休暇日訪二王侍御一不レ遇詩〕怪來詩思清二人骨一、門對二寒流一雪滿レ山。❷貧しい家柄。又、その出身者。〔梁書、武帝紀中〕革選二尚書五都令史一、用二寒流一。❸白い光。〔秦觀、夢中得レ此詩〕寒流炯二暮堂一。❹南北兩極地方から赤道の方向に流れる海流。

【寒溜】388（カンリウ） ❶冷いたまり水。〔郝經、登二太平頂一詩〕泓澄寒溜浸二太古一。❷冷いしづく。〔權德輿、與二沈十九拾遺一同遊二棲霞寺上方一於二亮上人院一會宿詩〕岩花點二寒溜一、石磴掃二春雲一。

【寒律】389（カンリツ） 寒い調子。〔翁洮、冬詩〕寂寂棲心向二杳冥一、苦吟寒律句偏清。〔歐陽脩、寄二聖兪一詩〕窮陰變二寒律一、急節慘驚飈。

【寒慄】390（カンリツ） ❶をののく。ぞつとする。〔吳志、賀邵傳〕臣嘗覽二書傳一、驗二諸行事災祥之應一、所レ爲寒慄。❷冷えて肌に粟を生ずる。鳥肌が立つ。又、其の鳥肌。〔素問、瘧論〕瘧之始發也、先起二於毫毛一、伸欠乃作二寒慄鼓頷一。〔韋應物、淩霧行〕霏微誤二噓吸一、膚腠生二寒慄一。

【寒涼】391（カンリヤウ） さむい。又、さむさ。寒氣。〔後漢書、黃瓊傳〕寒涼尙結。〔宋書、禮志五〕徐廣車服注稱二其意一曰、北土寒涼、本以二貂皮一暖レ額、附二施于冠一、因遂變成二首飾一乎。〔棗據、雜詩〕元林結二陰氣一、不レ風自寒涼。

【寒綠】392（カンリヨク） ❶寒さに會つて綠を失はないこと。又、寒さうな綠色。冬の山水等の色。〔歐陽脩、送二王公慥判官一詩〕山色經二寒綠一、雲陰入レ暮重。〔李賀、河南府試十二月樂詞、正月〕薄薄淡靄弄二野姿一、寒綠幽風生二短絲一。〔湘山野錄〕其詩曰、湖外風物奇、長沙信難レ續、衡峯排二古青一、湖水湛二寒綠一。❷茅根泰の號。茅根寒綠（9—30836··123）を見よ。

［寒綠堂］393（カンリヨクダウ） 室名。❶清、田雯（7—21723··277）の室名。❷明、彭年（4—10003··95）の室名。

【寒林】394（カンリン） ❶寒々とした林。葉の落ちた林。冬の林。〔庾信、周柱國大將軍長孫儉神道碑〕凍浦魚驚、寒林筝出。〔王維、過二李揖宅一詩〕客來深巷中、犬吠寒林下。〔劉長卿、長沙過二賈誼宅一詩〕秋草獨尋人去後、寒林空見日斜時。〔韋應物、山耕叟詩〕獨放二寒林一燒、多尋二虎跡一行。〔朱慶餘、送三僧往二太原一詩〕中時過二野店一、後夜宿二寒林一。〔宣和畫譜〕燕肅、胸次瀟灑、每寄二心於繪事一、尤喜畫二山水寒林一、與二王維一相上下、今御府所レ藏有二大寒林小寒林圖一。❷佛 屍を棄てる處。〔釋氏要覽、下、送終、葬法〕寒林、卽西域棄レ尸處、僧祇律云、謂多二死尸一、凡入者可二畏毛寒一、故名二寒林一。〔玄應音義、七〕屍陀林、正言二尸多婆那一、此名二寒林一、其林幽邃而寒、因以名也、在二王舍城側一、死人多送二其中一、今統指二棄屍之處一爲二屍陀林一者、取二彼名一之也。❸清、凌大寒（2—1669··142）の字。

【寒冷】395（カンレイ） 寒くひややかなこと。〔唐太宗、初秋夜坐詩〕寒冷鴻飛疾、園秋蟬噪遲。

【寒癘】396（カンレイ） 寒冷な土地に起る病。〔唐書、吐蕃傳上〕山谷常冰地有二寒癘一、中レ人輒痞促而不レ害。

【寒燎】397（カンレウ） 寒さうなほのかなかがり火。冬のかがり火。又、螢の光の形容。〔李子卿、水螢賦〕近而察レ之、若二海底之陰火一、遠而望レ之、辟二山邊之寒燎一。

【寒劣】398（カンレツ） 貧しく賤しい人。〔晉書、庾翼傳〕時有二行法一、輒施二之寒劣一。〔資治通鑑、晉紀〕〔康帝、建元元年〕時有二行法一、輒施二之寒劣一。〔注〕寒者、衰冷無二氣燄一也、劣者、卑弱在二人下一也。

【寒烈】399（カンレツ） はげしい寒氣。〔後漢書、馮異傳〕時天寒烈、衆皆飢疲、異上二豆粥一。

【寒爐】400（カンロ） 冬のゐろり。又、火のないゐろり。〔李益、雜曲〕愛如二寒爐火一、棄若二秋風扇一。〔劉禹錫、秋扇詞〕當時初入二君懷袖一、豈念三寒爐有二死灰一。〔羅鄴、冬夕江上言レ事詩〕僻居多與レ懶相宜、吟擁寒爐過レ臘時。

［撥二盡寒爐一］401（カンロヲハツジンス） 寒い日に爐の火をかきまはすこと。〔呂蒙正、詩〕十謁二朱門一九不レ開、滿身霜雪卻回來、歸レ家羞レ見二妻兒面一、撥盡寒爐一夜灰。

【寒蘆】402（カンロ） 枯れたあし。〔沈約、詠レ雪應令詩〕思鳥聚二寒蘆一。〔陸游、對酒詩〕密篠持二苦屋一、寒蘆用二織葭一。

【寒露】403（カンロ） ❶二十四氣の一。陰曆九月の節。陽曆の十月九日頃にあたる。〔禮、月令、東風解レ凍、疏〕九月節寒露、霜降中、謂二之寒露一者、言二露氣寒、將レ欲二凝結一。〔國語、周語中、辰角見而雨畢、注〕見者、朝見、東方建戌之初、寒露節也。〔後漢書、律曆志下、大雪、斗六度、百一十三、丈二尺五寸六分、注〕寒露、晷長八尺二寸、當レ至不レ至、來年穀不レ成、六畜鳥獸被レ殃、多病二疝瘕・胥痛一。❷つめたい露。〔郭璞、遊仙詩〕寒露拂二陵苕一、女蘿辭二松柏一。〔顏氏家訓、止足〕人生衣取三以覆二寒露一。〔白居易、池上詩〕嫋嫋涼風動、凄凄寒露零。

【寒鷺】404（カンロ） 冬のさぎ。〔唐彥謙、東韋曲野思詩〕野蓮隨レ水無二人見一、寒鷺窺レ魚共影知。〔李洞、送三盧少府之任二鞏洛一詩〕印レ牀寒鷺宿、壁記醉僧書。

【寒陋】405（カンロウ） 貧しくいやしい。寒微。〔北齊書、樊遜傳〕左僕射楊寒、辟レ遜爲二其府左一、遜辭曰、門族寒陋、訪第必不レ成、乞レ補二員外司馬督一。〔蘇軾、岐亭詩〕盧公信二寒陋一、衰髮得二滿幘一。

【寒漏】406（カンロウ） 水時計。〔王維、同二崔員外一秋宵寓直詩〕九門寒漏徹、萬井曙鐘多。〔皇甫曾、和二謝舍人一詩〕建章寒漏起、更助掖垣深。〔錢起、效二古秋夜長一詩〕含レ情紡織孤燈盡、拭レ淚相思寒漏長。

【寒往】407（カンワウ） 寒氣が去る。〔易、繫辭下〕寒往則暑來、暑往則寒來、寒暑相推、而歲成焉。〔陸倕、石闕銘〕暑來寒往、地久天長。〔謝靈運、善哉行〕涼來溫謝、寒往暑卻。

【寒泓】408（カンワウ） 硯（8—24233）の異名。泓は水の清いこと。〔文同、謝三楊侍讀惠二端溪紫石硯一詩〕風前試二寒泓一。

【寒筵冰】409（カンエンヒヨウ） 暑中、筵席に置く冷い冰。〔海錄碎事、飲食、酒〕飲飾者、如下暑中置二寒筵冰一之類上、醉鄉日月。

【寒霞溪】410（カンカケイ） 讃岐國小豆島の勝地。紅葉を以て有名。

【寒號蟲】411（カンガウチユウ） 蝙蝠の一種。黑色で、頭及び腹部のみ赤色を帶び、長さ尺餘。尾は小さく、肉翅を展べれば二尺餘に及ぶが、飛ぶことは出來ぬ。嚴冬、毛羽脫落して寒さに悲鳴するからいふ。熱帶地に產し、糞は五靈脂と名づけて藥品とする。〔本草、寒號蟲〕釋名、鶡鴠・獨舂、屎名二五靈脂一、時珍曰、楊氏丹鉛錄謂、寒號蟲卽鶡鴠、今從レ之、鶡鴠詩作二盍旦一、禮作二曷旦一、說文作二鶡鴠一、廣志作二侃旦一、唐詩作二渴旦一、皆隨レ義借レ名耳、揚雄方言云、自レ關而東、謂二之城旦一、亦曰二倒懸一、周魏宋楚謂二之獨舂一、郭璞云、鶡鴠夜鳴求レ旦之鳥、夏月毛盛、冬月裸體、晝夜鳴叫、故曰二寒號一、曰二鶡旦一、古刑有二城旦舂一、謂晝夜舂レ米也、故又有二城旦獨舂之名一、月令云、仲冬曷旦不レ鳴、蓋冬至陽生、漸暖故也、其屎名二五靈脂一者、謂下狀如二凝脂一、而受中五行之靈氣上也。〔輟耕錄、寒號蟲〕五台山有レ鳥、名二寒號蟲一、四足、有二肉翅一、不レ能レ飛、其糞卽五靈脂、當二盛暑時一、文采絢爛、乃自鳴曰、鳳凰不レ如レ我、比レ至二深冬嚴寒之際一、毛羽脫落、索然如レ㲉、遂自鳴

曰、得過且過。

【寒鑑樓】412（カンカンロウ）清、姚世鈺（3－6202‥173）の室名。

【寒九雨】413（カンクノアメ）寒に入つて後、九日目の雨。耕作によいといふ。

【寒稽古】414（カンゲイコ）寒中に、寒氣を冒して、早朝又は夜間、撃劍・柔道・音曲などを稽古すること。

【寒垢離】415（カンゴリ）寒中に垢離をとること。神佛を念ずるため、水を浴びて身體の汚を去ること。垢離は垢の離れる意。〔洛陽集〕寒垢離があびける水に月も無し。

【寒紅梅】416（カンコウバイ）梅の一種。寒に咲く紅梅。〔假名手本忠臣藏、八〕雪の肌も、寒空は寒紅梅の色添ひて。

【寒骨白】417（カンコツハク）鎗の名。唐の單雄信が持つてゐたもの。〔酉陽雜俎、語資〕單雄信、幼時、學堂前植二一棗樹一、至二年十八一、伐爲レ鎗、長丈七尺、云云、刃重七十觔、號爲二寒骨白一、常與二秦王卒一相遇、秦王以二大白羽一射中レ刃、火出、因爲二尉遲敬德拉折一。

【寒念佛】418（カンネンブツ）僧俗を問はず、寒三十日間、曉天、又は夜中、修行に佛名を稱へること。

【寒蒲蕈】419（カンボジン）蕈の名。玉蕈（7－20821‥463）の異名。〔菌譜、玉蕈〕生二山中一、初寒時、色潔晳可レ愛、故謚爲レ玉、然作レ羹微韌、俗名二寒蒲蕈一。

【寒牡丹】420（カンボタン）牡丹の變種で、晩秋、白・紫の花を開くが、牡丹より稍〻小さい。

【曳二寒繭一】421（カンケンヲヒク）釣をいふ。繭は釣絲。〔陸龜蒙、散人歌〕手捉二孤篁一曳二寒繭一、口誦二太古滄浪詞一。〔海錄碎事、鳥獸、魚釣〕陸龜蒙、手捉二孤篁一曳二寒繭一、言レ釣也。

【寒紅繻子】422（カンコウジュス）瓦斯絲と綿絲とを交へて織り、光澤をつけて唐繻子をまねた一種の織物。

【寒拾里人】423（カンシフリジン）元、行端（10－34029‥351）の號。

【寒青居士】424（カンセイコジ）清、許行健（10－35298‥247）の號。

【寒碧居士】425（カンペキコジ）明、唐敏（2－3709‥305）の號。

【號レ寒啼レ飢】426（カンニサケビキニナク）寒さにさけび、饑餓に啼く。極貧の喩。〔韓愈、進學解〕冬暖而兒號レ寒、年豐而妻啼レ飢。

【篩レ寒洒レ白】427（カンヲフルヒハクヲススグ）寒氣をふるひ出し、白さをすすぎだす。雪をいふ。〔海錄碎事、天、雪〕李嘉祐、雪詩、篩レ寒洒レ白亂冥濛。

【不レ寒而栗】428（サムカラズシテリツス）寒くないのに膚がをののく。恐懼して身體がぞつとする。栗、一に慄に作る。〔史記、義縱傳〕其後郡中不レ寒而栗、猾民佐レ吏爲レ治。〔漢書、楊惲傳〕衆毀所レ歸、不レ寒而栗。

【救レ寒莫レ如レ重レ裘】429（カンヲスクフハキウヲカサヌルニシクハナシ）寒さをふせぐには、皮ごろもを重ね著るのが第一だ。適切な手段を忘れない喩。〔中論、虛道〕語稱、救レ寒莫レ如レ重レ裘、止レ謗莫レ如レ修レ身、療レ暑莫レ如レ親レ冰、信矣哉。

【寒不レ信其地不レ剛】430（カンシンナラザレバソノチガウナラズ）冬に冬らしくない地は、地味が剛でない。〔呂覽、貴信〕冬之德寒、寒不レ信其地不レ剛。

【⿱宀亙】7240 コウ 〔集韻〕孤等切 迥

⿱宀瞢⿱宀亙はおろか。〔集韻〕⿱宀亙、⿱宀瞢⿱宀亙、癡也。

【⿱宀勉】7241 バン マン 〔字彙〕亡返切 阮

ひく。〔字彙〕⿱宀勉、引也。

【㝢】7242 ウ

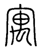
宇（3－7067）の籒文。〔說文〕宇、㝢、籒文宇从レ禹。

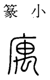
【寓】7243

一 グ 〔集韻〕元具切 遇 ㄩˋ yü4

二 ギョ ゴ 〔正韻〕牛居切 魚

慣 グウ


小篆


或體

一二 ❶よる。かりにすむ。假ずまひ。庽（4－9395）に同じ。〔說文〕寓、寄也、从レ宀禺聲、庽、寓或从レ广作。〔禮、郊特牲〕諸侯不レ臣二寓公一。〔注〕寓、寄也、寓、或爲レ託。❷やど。やどや。〔韋應物、酬二張協律一詩〕感二茲棲寓詞一。❸やどる。とまる。〔孟子、離婁下〕無下寓二人於我室一、毀中傷其薪木上。〔注〕寓、寄也。〔潘岳、秋興賦〕寓二直於散騎之省一。〔注〕向曰、寓、寄也。❹すみか。〔張衡、思玄賦〕怨二高陽之相レ寓兮。〔注〕衡曰、寓、居也。❺よせる。㋑あたへる。〔左氏、襄、二十四〕子產寓二書於子西一。〔注〕寓、寄也。㋺かす。〔禮、曲禮下〕大夫寓二祭器於大夫一。〔注〕寓、寄也。㋩つける。〔左氏、僖、二十八〕得臣與寓レ目焉。〔注〕寓、寄也。㋥かこつける。〔史記、莊周傳〕大抵率寓言也。〔注〕索隱曰、寓、寄也。❻木に棲み、又、穴居するもの。獼猴の類。寓屬（44）を見よ。❼おろか。愚（4－10946）に通ず。〔說文通訓定聲〕寓、叚借爲レ愚。〔山海經、北山經〕馬成之山、云云、有レ鳥焉、是名曰二鶌鶋一、可二以已レ寓。〔注〕或曰、寓、猶レ誤也。❽通じて偶（1－899）に作る。〔集韻〕寓、通作レ偶。

【寓安】1（グウアン）明、馮靖（12－44579‥109）の字。

【寓菴】2（グウアン）明、屈昉（4－7669‥123）の號。

【寓意】3（グウイ）他の事物にかこつけて思ふことをほのめかす。假託。〔文心雕龍、頌讚〕三閭橘頌、情采芬芳、比レ類寓レ意、又覃及二細物一矣。〔老學庵筆記、四〕淵明之詩、皆適然寓意、而不レ留二於物一、如二悠然一。

【寓意齋】4（グウイサイ）元、郭景星（11－39474‥280）の號。

【寓意編】5（グウイヘン）書名。一卷。明、都穆撰。書畫の鑑定及び當時收藏の氏名等を記す。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【寓寅】6（グウイン）清、張昀（4－9812‥36）の字。

【寓客】7（グウカク）他鄉にある人。〔周弘讓、山蘭賦〕感二羈旅之招魂一、狎二寓客之流連一。

【寓簡】8（グウカン）書名。十卷。宋、沈作喆撰。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【寓寄】9（グウキ）たよる。寄寓する。寓公（19）の❶を見よ。

【寓居】10（グウキョ）かりのやどり。假ずまひ。僑居。寓處。〔張衡、西京賦〕鳥畢駭、獸咸作、草伏木棲、寓居穴託。〔注〕銑曰、寓、寄也。

【寓興】11（グウキョウ）興味を寄せる。〔白居易、蘇州南禪院白氏文集記〕寓興放言、緣情綺語者、亦往往有レ之。

【寓懷】12（グウクワイ）おもひを寄せる。又、心をものに託する。〔伊洛淵源錄〕蒲宗孟曰、茂叔孤風遠操、寓二懷塵埃之外一。〔藤田東湖、弘道館記述義〕疾篤寓二懷於雄刀一、發二情於歌詞一。

【寓形】13（グウケイ）形をやどす。身を置く。〔陶潛、歸去來辭〕已矣乎、寓二形宇內一復幾時、曷不三委レ心任二去留一。

【寓憩】14（グウケイ）とまりいこふ。〔陶弘景、左仙公葛公碑〕蘭風寓憩、已勒二豐碑一。

【寓獻】15（グウケン）よせ奉る。〔符載、寄二徐泗張大夫一書〕屬事相交關、謹偕二寓獻一、貴賤不レ侔レ禮。

【寓言】16（グウゲン）❶他の事物にかこつけていふ。又、其の說話。たとへばなし。〔莊子、寓言〕寓言十九、重言十七。〔釋文〕寓、寄也、以二人不一レ信己、故託二之他人一、十言而九見レ信也。〔史記、莊周傳〕其著書十餘萬言、大抵率寓言也。〔漢書、敍傳下〕寓言淫麗。❷莊子の篇名。

【寓言爲レ廣】17（グウゲンクワウヲナス）他の事物にかこつけて述べて其の說の廣いことを示す。〔莊子、天下〕以二重言一爲レ眞、以二寓言一爲レ廣。

【寓五】18（グウゴ）清、閔齊伋（11－41251‥55）の字。

【寓公】19（グウコウ）❶國を失つて、他國に寄寓する君主、又は諸侯。〔禮、郊特牲〕諸公不レ臣二寓公一。〔集說〕諸侯失レ國而寄二寓他國一者、謂二之寓公一。❷清、高承埏（12－45313‥1226）の字。

【寓鵠】20（グウコク）人造の鵠。〔唐書、高駢傳〕爲二寓鵠廷中一、設二機關一、觸レ人則飛動、駢衣羽服、乘レ之

作㆓仙去狀㆒。

【寓祭】21（グウサイ） 物に託して祭る。〔范成大、天柱峯詩〕衡山紫蓋連延處、一峯巉巉擘㆓玉宇㆒、漢家憚㆑遠不㆑能㆑到、寓㆓祭灊山㆒作㆓天柱㆒。

【寓齋】22（グウサイ） 明、陳後(**11－41698**・・244)の號。

【寓山】23（グウザン） 字號。㊀宋、沈作喆(**6－17189**・・509)の號。㊁清、程允基(**8－25081**・・157)の字。

【寓士】24（グウシ） 寄寓の士。ゐさふらふ。浪人。〔後漢書、許劭傳〕其後陶謙果捕㆓諸寓士㆒。〔注〕寓、寄也。

【寓止】25（グウシ） 止宿する。〔張翶、自狀〕寓㆓止淮陰㆒。

【寓氏】26（グウシ） 蠶神の名。〔晉書、禮志上〕漢儀皇后親桑㆓東郊苑中㆒、蠶室祭㆓蠶神㆒、曰㆓苑窳婦人寓氏公主㆒、祠用㆓少牢㆒。

【寓視】27（グウシ） 注目する。寓目。〔潘岳、射雉賦〕甘㆑疲㆓心於企想㆒、分㆓倦㆑目以寓㆑視。〔注〕濟曰、由㆑此甘㆘分疲㆓倦心目㆒、企㆑想寄㆑視以待ㇳ之。

【寓試】28（グウシ） 他鄉から來て試驗に應じる。又、そのこと。〔元史、選擧志、附錄〕宋自㆓景祐㆒以來百五十年、雖㆑無㆓兵禍㆒、常設㆓寓試名額㆒、以待㆓四方游士㆒。

【寓辭】29（グウジ） 他事に託したことば。かこつけごと。〔顏延之、五君詠、阮步兵詩〕沈醉似㆑埋㆑照、寓辭類㆓託諷㆒。

【寓舍】30（グウシャ） かりのやど。〔楊萬里、詩〕寓舍中庭劣㆓半弓㆒、燕泥爲㆑圃石爲㆑墉。

【寓錫】31（グウシャク） 僧侶の假居。錫杖を寄せる義。〔方輿勝覽〕梁天監中有㆓胡僧曇隱㆒、寓㆓錫於蔣山㆒。

【寓宗】32（グウシュウ） 〖佛〗教學としては一派をなすも、宗派としては獨立せず、ある宗派に附屬する宗派。法相宗に附屬する倶舍宗の類。〔元亨釋書、二十七諸宗志〕又有㆓淨土㆒焉、有㆓成實㆒焉、有㆓倶舍㆒焉、斯三爲㆓寓宗㆒、譬㆓國之附庸㆒焉。

【寓宿】33（グウシュク） ㊀かりのやど。かりずまひ。㊁やどる。宿泊する。〔後漢書、茅容傳〕遂與共言、因請㆓寓宿㆒。〔白居易、傷㆓遠行㆒賦〕投㆓山館㆒以寓宿、夜緜緜而未㆑央。

【寓所】34（グウショ） かりずまひ。かりのやど。〔福惠全書、蒞任部、待游客〕婉言答覆、請回㆓寓所㆒。

【寓書】35（グウショ） 手紙を寄せる。寄書。〔左氏、襄、二十四〕子產寓㆓書於子西㆒、以告㆓宣子㆒。

【寓處】36 yü^4 ch'u^4 寓居。下宿所。

【寓乘】37（グウジョウ） 他人が乘つてゐる車に共にのる。あひのり。〔左氏、成、二〕綦母張喪㆑車、從㆓韓厥㆒曰、請寓乘。〔注〕寓、寄也。

【寓食】38（グウショク） 他家の厄介になつてくらすこと。ゐさふらふ。寄食。〔南史、王鎭惡傳〕年十三而苻氏敗、寓㆓食黽池人李方家㆒。〔元稹、竹部詩〕我來荆門椽、寓食公堂肉。

【寓職】39（グウショク） 臨時に職を奉ずること。〔劉克莊、回荆湖趙制置啓〕西清寓職、幸聯㆓中禁之班㆒。

【寓人】40（グウジン） 葬禮に用ひる冥器で、人に象つて作つた木偶。偶人。〔史記、酷吏、郅都傳、注〕索隱曰、漢書作㆓寓人象㆒、按、寓、卽偶也、謂㆘刻㆓木偶㆒類㆗人形㆖也。〔陸游家訓〕近時出㆑葬、或作㆓香亭魂寓人寓馬之類㆒、當㆓一切屛去㆒。

【寓生】41（グウセイ） 他に賴つて生きる。寄生木(**3－7203**・・86)・寓木(50)を見よ。

【寓錢】42（グウセン） 土や紙で造つた錢。漢代には、陵墓に眞錢を埋めたが、後世、土を以て錢に象つて代用し、後、紙を用ひるに至つた。〔冥報錄〕鑱㆑紙爲㆑錢、以供㆓鬼神㆒、自㆑唐以來始有㆑之、謂㆓之寓錢㆒、言㆔其寄㆓形象於紙㆒。〔就日錄〕唐王璵禱㆑神用㆓寓錢㆒、按、寓錢、蓋以㆑紙寓㆑錢也、邵康節謂㆓之楮錢㆒。〔愛日齋叢抄〕唐書王璵傳曰、漢以來葬者皆有㆓瘞錢㆒、後世里俗稍以㆑紙寓㆑錢爲㆓鬼事㆒、至㆑是璵乃用㆑之、則是喪祭之焚紙錢、起㆓於漢世之瘞錢㆒也、其禱㆑神而用㆓寓錢㆒、則自㆓王璵㆒始耳。

【寓息】43（グウソク） 立寄つてやすむ。〔後漢書、獨行、范冉傳〕或寓㆓息客廬㆒、或依㆓宿樹蔭㆒。

【寓屬】44（グウゾク） ㊀木の上に棲むもの。獼猴の類。〔爾雅、釋獸〕寓屬。〔疏〕言、此上獸屬、多寄㆓寓木上㆒、故題云㆓寓屬㆒。㊁穴居するもの。〔後漢書、馬融傳上〕木產盡、寓屬單。〔注〕寓屬、謂㆓穴居之屬㆒也。

【寓中】45（グウチュウ） 清、韓超(**12－43159**・・176)の字。

【寓直】46（グウチョク） とまり番。順番の宿直。〔潘岳、秋興賦〕寓㆓直于散騎之省㆒。〔宋之問、和㆓姚給事寓直之作㆒詩〕寓直光輝重、乘㆑秋藻翰揚。

【寓馬】47（グウバ） 葬禮に用ひる冥器で、馬に象つて作つた木偶。寓人(40)を見よ。〔漢書、郊祀志上〕詔㆓有司㆒、增㆓雍五時路車各一乘・駕被具、西時畦時寓車各一乘・寓馬四匹・駕被具㆒。

【寓望】48（グウバウ） あづまや。物見臺。邊塞に築いて敵襲をうかがふ亭障。〔國語、周語中〕畺有㆓寓望㆒。〔注〕境界之上有㆓寄寓之舍、候望之人㆒。

【寓物】49（グウブツ） ㊀物によせる。物にかこつける。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕門階戶席、寓㆑物垂㆑訓。㊁yü^4 wu^4 あづけもの。あづかりもの。

【寓木】50（グウボク） ㊀木にやどる。木上に寄寓する。〔爾雅、釋獸、齸屬、疏〕寓木之獸及鼠皆曰㆑嗛。㊁樹の名。やどりぎ。蔦。寄生(**3－7203**・・77)の㊂を見よ。〔爾雅、釋木〕寓木、宛童。〔注〕寄生樹、一名蔦。〔山海經、中山經〕龍山上多㆓寓木㆒。〔注〕寄生也、一名宛童。

【寓命】51（グウメイ） めぐりあはせ。運命。〔晉書、恭帝紀贊〕恭乃寓命、他人是綱。

【寓目】52（グウモク） 注意して觀る。注目。寓視。〔左氏、僖、二十八〕君馮㆑軾而觀㆑之、得臣與寓目焉。〔注〕寓、寄也。〔蜀志、郤正傳〕略皆寓目。〔繁欽、與㆓魏文帝㆒牋〕寓㆓目階庭㆒。〔左思、吳都賦〕寓㆓目幽蔚㆒。

【寓話】53（グウワ） 他の事にかこつけて教訓の意をほのめかした物語。たとへばなし。

【寓繪堂】54（グウクワイダウ） 渡邊定靜の號。渡邊崋山(**7－17765**・・49)を見よ。

【寓鴻亭】55（グウコウテイ） 清、楊兆鳳(**6－15112**・・716)の室名。

【寓村硯民】56（グウソンケンミン） 清、褚廷琯(**10－34457**・・50)の號。

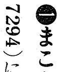
【寓兵于農】57 yü^4 ping^1 yü^2 nung^2 事あれば兵となり、事なければ農となり、兵と農とを一途にすること。

【寓庸居士】58（グウヨウコジ） 明、黃汝亨(**12－47926**・・1159)の號。

【寓林居士】59（グウリンコジ） 明、黃汝亨(**12－47926**・・1159)の號。

【寔】7244

シヨク　ジキ　〔集韻〕丞職切　〖職〗　ㄕ shih^2


小篆

㊀**まことに**。まさしく。實(**3－7294**)に通ず。〔增韻〕寔、與㆑實通。〔說文〕寔、正也、从㆑宀是聲。〔段注〕正、各本作㆑止、今正。〔禮、坊記〕寔受㆓其福㆒。〔爾雅、釋詁〕〔疏〕寔、實也。㊁**これ**。**この**。〔爾雅、釋詁〕寔、是也。〔詩、召南、小星〕寔命不㆑同。〔傳〕寔、是也。㊂**とまる**。〔玉篇〕寔、止也。㊃**おく**。寘(**3－7257**)に通ず。〔易、坎、寘㆓于叢棘㆒、釋文〕寘、姚作㆑寔、寔、置也。㊄**姓**。〔萬姓統譜〕寔、見㆓姓苑㆒。

〖名乘〗コレ。サネ。タダ。

【〓】7245

カ　家(**3－7169**)の古字。〔字彙補〕〓、古文家字。

【〓】7246

タ　ダ　〔集韻〕唐何切　〖歌〗

㊀**ふくろ**。〔集韻〕〓、囊也、一曰、馬上連囊。㊁**負ふ**。〔廣韻〕〓、負。

【〓】7247

ケウ　〔集韻〕牽幺切　〖蕭〗

むなしい。〓寥。〔集韻〕〓、〓寥、空也。

【〓】7248

ベウ　苗(**9－30781**)の古字。〔玉篇〕〓、古文苗。

【〓】7249

キヤウ　嚮(**2－4565**)の古字。〔集韻〕嚮、古作㆑〓。

【家】 7250

カ　家(3－7169)に同じ。〔説文〕家、古文家。〔五音集韻〕家、同㆑家。

【⿰安百】 7251

ヘクタールの略記。フランスの地積を量る單位。アールの百倍。hectare

十畫

【⿱宀貝】 7252

イン　寅(3－7204)の本字。〔正字通〕⿱宀貝、寅本字。

【寖】 7253

㈠シン　〔集韻〕咨林切　侵　ㄐㄧㄣˋ chin^{4}

㈡シン　〔五音集韻〕子鴆切　沁

㈠㈡㊀**ひたす**。浸(6－17505)・濅(7－18445)に同じ。〔正字通〕寖、濅同。〔廣雅、釋詁二〕濅、漬也。〔周禮、秋官、職方氏〕其浸㆓五湖㆒、〔釋文〕浸、本又作㆑寖。㊁**そそぐ**。〔集韻〕寖、漑也。㊂**つむ**。**つもる**。〔廣雅、釋詁一〕寖、積也。㊃**やうやく**。**次第に**。〔漢書、高五王、濟北王興居傳〕事寖淫、聞㆓於上㆒。〔注〕師古曰、寖淫、猶㆑言㆓漸染㆒也。㊄**ちかい**。〔漢書、薛宣傳〕上寖之源。〔注〕師古曰、寖、近也。㊅**川の名**。濅(7－18445)に同じ。〔説文〕濅、濅水。出㆓魏郡武安東北㆒、入㆓呼沱水㆒、从㆑水寑聲。〔段注〕今河南彰德府武安縣西南五十里、有㆓武安城㆒。

【寖淫】1（シンイン）次第に染まる。漸次擴大すること。〔漢書、高五王、濟北王興居傳〕事寖淫、聞㆓於上㆒。〔注〕師古曰、寖、古浸字也、寖淫、猶㆑言㆓漸染㆒也。〔漢書、外戚、孝武李夫人傳〕濅淫敝荒、寂兮無㆑音。〔後漢書、馮衍傳下〕滅㆓先王之法則㆒兮、禍濅淫而弘大。

【寖廣】2（シンクヮウ）次第にひろまる。濅廣。〔漢書、刑法志〕姦有㆑所㆑隱、則狃而寖廣。〔注〕師古曰、寖、漸也。

【寖弱】3（シンジャク）次第に弱る。濅弱。〔漢書、元后傳〕外家宗族彊、上一身寖弱日久。〔注〕師古曰、寖、漸也。

【寖潤】4（シンジュン）次第にうるほふ。浸潤。〔漢書、谷永傳〕無㆑用㆓比周之虚譽㆒、毋㆑聽㆓濅潤之譖愬㆒。〔注〕師古曰、濅潤、積漸之深也。〔漢書、劉向傳〕上内重堪、又患㆓衆口之濅潤㆒、無㆑所㆑取㆑信。

【寖深】5（シンシン）次第に深くなる。濅深。〔漢書、刑法志〕間者吏用㆑法巧、文寖深。

【寖譖】6（シンシン）水のしみわたる如く、いつとなく讒言すること。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕景時益怒、寖譖㆓之於頼朝㆒。

【寖尋】7（シンジン）次第に近づく。侵尋。〔漢書、郊祀志上〕始巡㆓幸郡縣㆒、寖㆓尋於泰山㆒矣。〔注〕師古曰、寖、漸也、尋、就也。

【寖盛】8（シンセイ）次第に盛になる。浸盛。〔漢書、外戚、孝成班倢伃傳〕踰㆓越禮制㆒、寖盛㆓於前㆒。

【寖薄】9（シンバク）次第に薄くなる。〔漢書、王吉傳〕詐僞萌生、刑罰亡㆑極、質樸日銷、恩愛寖薄。

【⿱宀壹】 7254

シン　寑(3－7238)の籀文。〔説文〕寑、⿱宀壹、籀文寑省。

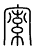
【寗】 7255

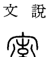
ネイ　甯(7－21717)の俗字。〔正字通〕寗、俗甯字。

【⿱宀索】 7256

㈠サク　シャク　〔集韻〕色窄切　陌

㈡サク　〔集韻〕昔各切　藥

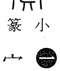

小篆（説文）


小篆（段注本）

㈠㊀**さがす**。〔説文〕⿱宀索、入㆑家搜也、从㆑宀索聲。㊁**とる**。〔方言、六〕掩・索、取也、自㆑關而東曰㆑掩、自㆑關而西曰㆑索。㊂**もとめる**。索(8－27306)に通ず。〔廣雅、釋詁三〕⿱宀索、求也。〔説文、段注〕⿱宀索、經典多假㆑索爲㆑之。㈡**さびしい**。〔集韻〕⿱宀索、寂寞也。

【寘】 7257

シ　〔集韻〕支義切　寘　ㄓˋ chih^{4}


小篆

㊀**おく**。〔説文新附〕寘、置也、从㆑宀眞聲。〔易、坎〕寘㆓于叢棘㆒。〔虞注〕寘、置也。〔詩、周南、卷耳〕寘㆓彼周行㆒。〔傳〕寘、置也。㊁**いれる**。〔正韻〕寘、納㆑之也、猶㆑言㆓安著㆒也。㊂**とめる**。〔集韻〕寘、止也。㊃**すてる**。〔集韻〕寘、廢也。㊄**みちる**。**みたす**。〔太玄經、法〕鉼寘㆑腹。〔注〕寘、滿也。㊅**いたす**。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕寘㆓諸掌握㆒。〔注〕良曰、寘、致也。㊆**しめす**。示(8－24623)に通ず。〔易、坎〕寘㆓于叢棘㆒。〔釋文〕寘、劉作㆑示。〔禮、中庸〕其如㆑示㆓諸掌㆒乎、〔注〕示、讀如㆘寘㆓諸河干㆒之寘㆖。㊇窴(8－25598)に同じ。〔説文新附考〕説文、泄、讀若㆑寘、則不㆑應㆑遺㆑寘、疑寘、爲㆓窴之省文㆒、蓋寘窴竝从㆓眞聲㆒、宀穴二部、義亦相近。㊈**百六韻の一**。去聲第四。

名乘　テキ。

參考　一説に窴(8－25598)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕寘、與㆑置同。窴、音田、塞也。

【寘懷】1（シクヮイ）懷におく。親しみ忘れぬのをいふ。〔詩、小雅、谷風〕將㆑恐將㆑懼、寘㆓予于懷㆒。〔箋〕寘、置也、置㆓我於懷㆒、言㆔至㆓親己㆒也。〔劉峻、廣絶交論〕恐懼寘㆑懷。

【寘耳】2（シジ）人の言を聽きおく。〔國語、楚語上〕不穀雖㆑不㆑能㆑用、吾憖寘㆓之於耳㆒。

【寘酒】3（シシュ）酒宴を開く。置酒(9－28298‥22)に同じ。

【寘阨】4（シヤク）古の塞の名。又、冥阨に作る。澠阨(7－18378‥8)に同じ。

【⿱宀條】 7258

テウ　窱(8－25597)に同じ。〔正字通〕⿱宀條、同窱、俗省。〔康熙字典〕按、玉篇・類篇、窱、載㆓穴部㆒、廣韻・集韻、亦从㆑穴、字彙、義與㆑窱近、當㆓是窱字之譌㆒。

【⿱宀桀】 7259

ケツ　ゲチ　〔集韻〕巨列切　屑

おほふ。〔集韻〕⿱宀桀、覆也。

【寙】 7260

ユ　〔集韻〕勇主切　麌

㊀**ものうい**。**うむ**。**なまける**。**おこたる**。〔集韻〕寙、嬾也。〔史記、貨殖傳〕呰寙偷生。〔注〕索隱曰、嬾人不㆑能㆓自起㆒、如㆓瓜瓠在㆑地、不㆑能㆓自立㆒、故从㆑瓜、又常在㆓室中㆒、故从㆑宀。㊁窳(8－25601)の訛字。〔正字通〕寙、窳字之訛。

【⿱宀昔】 7261

セキ　⿳宀龶日(3－7197)の俗字。〔正字通〕⿱宀昔、俗⿳宀龶日字。

【⿱宀冓】 7262

コウ　ク　〔集韻〕居候切　宥

㊀**夜**。〔集韻〕⿱宀冓、博雅、夜也、詩、中⿱宀冓之言。㊁**室のおく深い處**。〔正字通〕⿱宀冓、室深密處。

【⿱宀翁】 7263

ヲウ　ヲ　〔集韻〕鄔孔切　董

へやの中がくらい。〔集韻〕⿱宀翁、室中闇。

【寐】7264 ㊀ベイ メイ 〔集韻〕母禮切 ㄇㄧˇ mi^{3} 薺 ㊁ビ ミ 〔集韻〕母被切 紙

小篆（說文）

小篆（段注本）

㊀㊁**十分に寐る**。或は寐(3-7396)に作り、又、寐(3-7311)に作る。〔集韻〕寐、熟寐也、或作ㇾ寐。〔說文〕寐、寐而厭也、从ㇾ㝱米聲。〔正字通〕寐、本作ㇾ寐。

參考 徐鉉本說文では、寐、寐而未ㇾ厭とし、ねむり足りない意とするが、段玉裁はこれを誤りとし、十分に寐る義とする。〔說文、寐、寐而厭也、段注〕鉉本作ㇾ未ㇾ厭、誤甚、云云、不ㇾ若㆓小徐本爲ㇾ長。

【寚】7265 ハウ 寶(3-7376)の古字。〔說文〕寶、寚、古文寶、省ㇾ貝。〔玉篇〕寚、古文寶。

【寚】7266 ハウ 寶(3-7376)に同じ。〔篇海類編〕寚、同ㇾ寶。

【〓】7267 セン 宣(3-7132)の古字。〔玉篇〕〓、古文宣。

【宷】7268 シン 審(3-7316)に同じ。〔韻寶〕宷、與ㇾ審同。

【寯】7269 シュン 寯(3-7343)に同じ。〔篇海類編〕寯、與ㇾ寯同。

【〓】7270 ヲン 穩(8-25344)に同じ。〔字彙補〕〓、與ㇾ穩同。

【〓】7271 バウ マウ 〔集韻〕謨郎切 陽 ❶**ねごと**。〔廣韻〕〓、寐語。❷**ねむる**。〔集韻〕〓、寐也。

【〓】7272 イン 寅(3-7204)の古字。〔集韻〕寅、古作ㇾ〓。

【〓】7273 コツ 寣(3-7290)の譌字。〔字彙補〕〓、寣字之譌。

【〓】7274 ゲウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕〓、魚嬌切。

【〓】7275 ガウ 義未詳。〔字彙補〕〓、宜央切、音印、出㆓釋典神呪㆒。

【寛】7276 クワン 寬(3-7322)の俗字。〔正字通〕寬、俗作ㇾ寛。

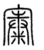
【寕】7277 ネイ 寧(3-7296)の俗字。〔辭海〕寕、寧俗字。

【寍】7278 ネイ 寧(3-7296)の闕畫。

【寝】7278′ シン 寢(3-7289)の略字。

十一畫

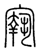
【〓】7279 ㊀カウ 〔集韻〕丘岡切 陽 ㊁カウ 〔集韻〕口朗切 養


小篆

㊀❶**しづか。又、むなしい**。宮室のうつろなさま。〔說文〕〓、屋〓㝗也、从ㇾ宀康聲。〔段注〕方言、〓、空也、郭注、漮㝗、空皃。〔集韻〕〓、說文、屋〓㝗也、謂㆓屋閑㆒。❷或は〓(8-25639)に作る。〔集韻〕〓、或从ㇾ穴。❸康(4-9376)・漮(7-18168)・歉(6-16181)に通ず。〔方言、十三、〓空也、戴震疏證〕〓・康古通用、別作ㇾ漮、亦作ㇾ歉。㊁**室のむなしいさま**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕〓、〓㝗、室虛。

【〓㝗】1 カウラウ ❶宮室のうつろなさま。司馬相如の長門賦には槺梁に作る。〔說文〕〓、屋〓㝗也。〔說文繫傳〕長門賦曰、委參以〓㝗、〓、屋虛大也、㝗、與ㇾ梁義同。〔玉篇〕㝗、空虛也、屋〓㝗也。〔廣韻〕㝗、〓㝗、宮室空皃。❷魚の名。澂江に產す。乾空であるからいふ。

【〓】7280 ㊀テン 〔集韻〕都念切 豔 ㊁テフ 〔集韻〕的協切 葉


小篆

㊀❶**かたむく。さがる**。もと〓(3-7281)に作る。〔正字通〕〓、本作ㇾ〓。〔說文〕〓、屋傾下也、从ㇾ宀執聲。〔玉篇〕〓、下也。❷**きはまる**。〔廣韻〕〓、窮也。❸**おす**。〔集韻〕〓、一曰、厭也。❹或は〓(3-7353)に作る。〔集韻〕〓、或从ㇾ土。㊁❶**おす**。㊀の❸に同じ。〔集韻〕〓、博雅、厭也。❷**かたむく**。㊀の❶に同じ。〔集韻〕〓、一曰、屋傾。

【〓】7281 テン 〓(3-7280)の本字。〔正字通〕〓、本作ㇾ〓。

【寞】7282 バク マク 〔集韻〕末各切 ㄇㄛˋ mo^{4} 藥

❶**しづか。さびしい**。嗼(2-4152)に同じ。〔廣韻〕寞、寂寞、無ㇾ聲也。〔潘岳、西征賦〕諒㆓惠聲之寂寞㆒。〔注〕善曰、寞、靜也。❷漠(7-18149)に通ず。〔楚辭、遠遊〕野家漠其無ㇾ人、集注〕家、與ㇾ寂同、一作ㇾ寂、漠、一作ㇾ寞。

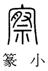
【寞然】1 バクゼン 物靜かなさま。さびしいさま。寞寞。〔淮南子、詮言〕寞然不ㇾ見ㇾ所ㇾ觀焉。

【寞寞】2 バクバク 寞然に同じ。〔楊烱、群官尋陽隱居詩序〕古樹千年、藤羅寞寞。

【寞落】3 mo^{4} luo^{4} 衰微。落寞。

【寞天寂地】4 バクテンセキチ 極めてさびしいこと。御史が任地を去るのを稱する語。寂天寞地。〔七脩類稿〕御史初至、則曰㆓驚天動地㆒、過㆓幾月㆒、則曰㆓昏天黑地㆒、去時、則曰㆓寞天寂地㆒。

【察】7283 サツ セチ 〔集韻〕初戛切 ㄔㄚˊ ch'a^{2} 黠


小篆

❶**つまびらかにする**。明かにする。〔說文〕察、覆審也、从ㇾ宀祭聲。〔廣韻〕察、諦也。〔新書、道術〕識微皆審、謂㆓之察㆒。❷**つまびらか**。あきらか。〔爾雅、釋詁〕察、審也。〔禮、禮器〕五獻察。〔注〕察、明也。❸**かんがみる**。〔廣韻〕察、監察也。❹**かんがへる**。〔增韻〕察、考也。❺**かへりみる**。〔呂覽、本味〕察㆔其所㆓以然㆒。〔注〕察、省也。❻**みる**。〔楚辭、離騷〕覽㆓察草木㆒、其猶未ㇾ得兮。〔注〕察、視。〔淮南子、俶眞訓〕不ㇾ能ㇾ察㆓方圓㆒。〔注〕察、見。❼**しる**。〔禮、喪服四制〕皆可㆓得而察㆒焉。〔注〕察、猶ㇾ知也。〔孟子、離婁下〕察㆓於人倫㆒。〔注〕察、識也。❽**をさめる**。〔國語、吳語〕今君王不ㇾ

察。〔注〕察、理也。❾わける。〔淮南子、説林訓〕視レ之可レ察。〔注〕察、別也。❿わきまへる。〔禮、禮器〕觀レ物弗二之察一。〔注〕察、猶二分辨一也。⓫えらぶ。〔史記、刺客、聶政傳〕嚴仲子乃察、擧二吾弟困汚之中一。〔注〕索隱曰、察、猶レ選レ之也。⓬あげる。〔後漢書、班彪傳上〕後察二司徒廉一。〔注〕察、擧也、司徒擧爲レ廉。⓭あらはれる。いちじるしい。〔禮、中庸〕言二其上下察一也。〔注〕察、猶レ著也。⓮きよい。〔廣雅、釋言〕察、清也。⓯ふかい。〔大戴禮、少閒〕汙池土察。〔注〕察、深也。⓰いたる。〔廣雅、釋詁一〕察、至也。⓱こまかい。わづらはしい。〔呂覽、貴公〕處二大官一者、不レ欲二小察一。〔注〕察、苛也。〔漢書、食貨志下〕吏益慘急、而法令察。〔注〕師古曰、察、微視也。⓲おごそか。きびしい。殺(**6－16638**)に通ず。〔説文通訓定聲〕察、叚借爲レ殺。〔禮、鄕飲酒義〕愁レ之以レ時察、守レ義者也。〔注〕察、猶二察察一、嚴殺之貌也、察、或爲レ殺。⓳詧(**10－35425**)に通ず。〔顏氏家訓、書證〕詧、古察字也。⓴姓。〔姓氏尋源〕察氏、不レ知二得レ姓之由一、或爲二審察之職一者以爲レ氏。〔萬姓統譜〕察、見二姓苑一、察戰吳將軍。邦❶さつする。推量する。❷さつし。推量。又、おもひやり。

名乘　アキ。アキラ。ミ。ミル。

【察按】1 サツアン　よくかんがへしらべる。〔唐書、李嶠傳〕今所二察按一、準二漢六條一而推二廣之一。

【察院】2 サツヰン　官署の名。都察院(**11－39509・・22○**)の略稱。〔唐書、百官志三〕御史臺、大夫一人、云云、中丞爲二之貳一、其屬有二三院一、一曰臺院、御史隸焉、二曰殿院、殿中侍御史隸焉、三曰察院、監察御史隸焉。

【察雅】3 サツガ　縣名。民國、置く。もと乍丫呼圖克圖の地。乍丫の音通。西康省昌都縣の東南。瀾滄江の東。

【察解】4 サツカイ　考察して解く。〔何晏、景福殿賦〕察解言歸、譬二諸政刑一。〔注〕濟曰、如二戎兵之事一、考二察勝否一、相解而歸也。

【察考】5 サツカウ　察し考へる。考察する。

【察校】6 サツカウ　しらべ考へる。〔魏志、衞臻傳〕臣每察二校事類一、皆如レ此、懼羣司將三遂越レ職以至二陵遲一矣。

【察革】7 サツカク　つくりかはの善惡をしらべること。〔周禮、考工記、函人〕凡察革之道、眡二其鑽空一、欲二其窓一也。

【察核】8 ch'a^2 hê^2　詳細に調査する。

【察覈】9 サツカク　よくかんがへしらべる。〔淸會典事例、大理寺、讞獄、會覈〕用二印文一、聲二明緣由一、送二回刑部一、察二覈定義一。

【察合】10 ch'a^2 hê^2　調べ合せる。

【察罕】11 チヤハン　❶川の名。㋑老哈河の上流。老哈(**9－28842・・55**)を見よ。㋺新疆省布爾根縣の東北。察漢河とも書く。東北の山中に發し、靑格里河に入る。沿岸は荒蕪の地である。❷池の名。外蒙古三音諾右翼中右旗の東北。卽ち元史の揭揭察察哈澤。❸人名。㋑元の人。諡は、武宣。太祖に仕へ、西域を伐つて功あり。官は都元師。〔元史、一百二十〕。㋺元、西域拔勒紇城の人。號は白雲(白雲翁)。官は參知政事。諸國の文字に通じ、貞觀政要・帝範・聖武開天紀・紀年纂要・太宗平金始末等の書を蒙譯した。〔元史、一百三十七〕。

【察罕泊】12 チヤハンポ　湖の名。❶外蒙古、札薩克圖汗左翼右旗の西。科布多の界。其の南に齊齊克泊がある。❷外蒙古、札薩克圖汗中右翼末旗の南。濟爾哈河の注ぐ所。❸外蒙古、三音諾顏右翼中末旗の西南。拜塔里克河の注ぐ所。察罕淖爾とも書く。❹靑海省焉耆縣の東南、博斯騰淖爾の東。察罕淖爾とも書く。

【察罕諾爾】13 チヤハンノール　察罕腦兒の❶に同じ。蒙古語で白湖の意。

【察罕腦兒】14 チヤハンナオール　❶湖の名。又、察罕諾爾に作る。蒙古語で、白湖の意。察哈爾省多倫縣の境。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見、開平故衞〕察罕腦兒、在二衞西一、元至元二十年復議、征二日本一、糴二糧于察罕腦兒一、以給二軍匠一、又至治初亢主如二上都一、以二察罕腦兒行宮制度卑隘一、欲二更廣レ之、以二解任諫一而止、明洪武四年、李文忠出二野孤嶺一、至二察罕腦兒一、是也。❷城の名。陝西省横山縣の北。元の世祖は、嘗て行宮を此に築いた。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭、木城〕察罕腦兒城、在二臨戎廢縣東一、永樂中、寧夏總兵柳升請レ修レ之、景泰中、石亨請レ移二寧營於此一、皆不レ果。

【察罕帖木兒】15 チヤハンチムール　元の人。字は廷瑞。諡は獻武。官は中書平章政事。賊を討つて功あり。〔元史、一百四十一〕。

【察看】16 サツカン　しらべみる。觀察調査。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、婦人犯罪〕限滿、由レ有三獄管獄官察二看情形一、實知二改悔一、據レ實結レ報、卽予二釋放一。

【察勘】17 サツカン　實地に調べる。檢査する。よくしらべる。〔福惠全書、郵政部、總理〕一則草料喂養、勤行二察勘一。

【察機】18 サツキ　物事のきざしを知ること。〔蔡邕、太尉橋公廟碑〕是非明作、速二於察機一。

【察議】19 サツギ　事情を察して處分を議すること。官吏に對する懲戒處分の一つで、罪情の輕い者に適用する。〔淸會典、吏部〕有二參奏一、有二陳請一、輕曰二察議一、重曰二議處一。

【察究】20 サツキウ　あきらめきはめる。觀察研究する。〔魏書、李惠傳〕凡所二察究一、多二如レ此類一。

【察咎】21 サツキウ　あやまちの原因をたづねる。〔梁武帝、出二古育王塔下佛舍利一詔〕原レ情察レ咎、或有レ可レ矜。

【察擧】22 サツキヨ　見ぬいて任用する。よくしらべて擧用する。〔漢書、文翁傳〕少好レ學、通二春秋一、以二郡縣吏一察擧、景帝末、爲二蜀郡守一。〔後漢書、安帝紀〕皆得二察擧一。

【察隅】23 サツグウ　縣名。民國、置く。西康省科麥縣の南。羅楚河の東岸。土名は雜貐。

【察惠】24 サツケイ　明かで美しい。察は明、惠は美しい。〔潘岳、笙賦〕壹何察惠。〔注〕向曰、察、明、惠、美也。

【察慧】25 サツケイ　かしこくさとい。〔淮南子、泰族訓〕雖二察慧捷巧、劬祿疾力一、不レ免二於亂一也。〔後漢書、明帝紀〕常以二察慧一爲レ言。

【察警】26 サツケイ　非違をしらべ非常をいましめる。警察。〔宋史、蔡挺傳〕使二之察警一、盜每レ發輒得。

【察見】27 サツケン　あきらかに知る。よくしる。察二見淵魚一者不祥を見よ。〔鬼谷子、本經陰符、捐兌者幾危之決、注〕兆動之微、非二心眼一、莫二能察見一。〔後漢書、延篤傳〕耳有二聽受之用一、目有二察見之明一。

【察見二淵魚一者不祥】28 アキラカニエンギヨヲミルモノハフシヤウナリ　人君が臣下のかくしごとを餘りに明かに知り盡すのは、憂患を生ぜしめて變事の本となり、不祥である。〔列子、説符〕趙文子曰、周諺有レ言、察見二淵魚一者不祥、智料二隱匿一者有レ殃。〔史記、吳王濞傳〕且夫察見二淵中魚一不祥。〔注〕集解曰、張晏曰、喩二人君不レ當三見二盡下之私一、索隱曰、案、此語見二韓子及文子一、韋昭曰、知二臣下陰私一、使二憂患生レ變爲二不祥一、故當三赦宥使二自新一也。

【察賢】29 サツケン　呂覽、開春論の篇名。

【察驗】30 サツケン　しらべ考へる。〔亢倉子、全道〕淸心省念、察二驗近習一。

【察言】31 サツゲン　よく人の言葉を察知する。〔論語、顏淵〕夫達也者、質直而好レ義、察レ言而觀レ色、慮以下レ人、在レ邦必達、在レ家必達。

【察言司】32 サツゲンシ　官名。明、置く。四方の章奏を受けることを掌る。〔稱謂錄、通政司、察言司〕明史、職官志、初洪武三年、置二察言司一、設二司令二人一、掌レ受二四方章奏一、尋罷、十年、置二通政使司一。

【察今】33 サツコン　❶今の世を考へ知る。〔呂覽、察今〕察レ今則可二以知一レ古。❷呂覽、愼大覽の篇名。

【察找】34 ch'a^2 chao^3　取調べる。たづねる。

【察察】35 サツサツ　あきらか。❷吟味の細かなさま。細事まで明かにして假借しないさま。〔老子、二十〕俗人察察、我獨悶悶。〔河上公注〕察察、急且疾也。〔老子、五十八〕其政察察、其民缺缺。〔注〕立二刑名一、明二賞罰一、以檢二姦僞一、故曰二察察一也。〔荀子、榮辱〕察察而殘者忮也。〔注〕至明察而見二傷殘一者。〔漢書、夏侯勝傳〕惡二察察言一。〔注〕師古曰、察、謂二計謀一、不二敢明顯言一レ之也。〔後漢

書、章帝紀〕明帝察察、章帝長者。㊁いさぎよく清いさま。〔楚辭、漁父〕安能以二身之察察一受二物之汶汶者一乎。〔注〕向曰、察察、絜白也。〔張蘊古、大寶箴〕勿二汶汶而闇一、勿二察察而明一。

【察士】36 サッシ　明察の士。微細な事理につまびらかな人。〔韓非子、八說〕察士然後能知レ之、不レ可二以爲一レ令。〔呂覽、不屈〕察士以爲レ得レ道則未也。

〔察士無二淩誶之事一則不レ樂〕37 サッシハリヨウスイノコトナケレバタノシマズ　苛察の士は相攻め相發くことが無ければ喜ばぬ。淩誶は人をしのぎ、詰問訊求すること。〔莊子、徐無鬼〕知士無二思慮之變一則不レ樂、辯士無二談說之序一則不レ樂、察士無二淩誶之事一則不レ樂、皆囿二於物一者也。〔釋文〕淩、李云、謂二相淩轢一、誶音信、廣雅云、問也、又音祟。

【察子】38 サッシ　唐宋の時、役人の手先となつて探偵に從事した者。唐の高駢が淮南に在るや、呂用之を巡察として、閭巷の事を探らしめた。探子。〔廣陵妖亂志〕呂用之事二渤海一、召二募府縣一、先負レ罪停廢胥吏、陰狡兇狠者、得二百餘人一、厚二其官傭一、以備二指使一、各有二十餘丁一、縱二橫閭巷間一、謂二之察子一。

【察伺】39 サッシ　うかがふ。さがす。〔鬼谷子、中經〕卻レ語者察二伺短一也。〔注〕言三卻レ語之道、必察二伺彼短一也。

【察視】40 サッシ　しらべる。よくみる。〔後漢書、周紆傳〕若下與二死人一共語狀上、陰察二視口眼一有二稻芒一。

【察收】41 chʻa^{2} shou^{1}　調べて受取る。查收。

【察相】42 サッシヤウ　明察な宰相。〔管子、小匡〕則唯有二明君在一レ上、察相在レ下也。

【察孰】43 サッジユク　十分につまびらかにする。孰は甚。〔荀子、解蔽〕察二孰非一以分レ是。〔注〕孰、甚也、察二甚其非一。

【察出】44 サッシユツ　㊀出る人を調べる。〔蔡邕、月令章句〕察レ出禦レ入。㊁chʻa^{2} chʻu^{1}　しらべ出す。

【察書】45 サッシヨ　他人の字を模寫する。〔謝朓、三日侍二華光殿曲水宴一代レ人應詔詩〕長壽察レ書、龍樓迴レ轡。〔吹景集〕漢西嶽華山碑書佐新豐郭香察書、隸釋、察書者、察二涖他人之書一耳、按、晉道安、摩訶鉢羅若波羅蜜經鈔序云、阿難出レ經去レ佛未レ久、尊者大伽葉、令二五百六通、迭察迭書一。〔金石文字記〕察書乃對二上市石之文一、則香者其名、而特勘二定此書者一爾、歐陽叔弼以二香察一爲レ名、殆非也。

【察色】46 サツシヨク　顏色で相手の氣持を讀み取る。〔韓非子、八姦〕先レ意承レ旨、觀レ貌察レ色、以先二主心一者也。

【察甚】47 サツジン　十分につまびらかにする。察孰。

【察照】48 サツセウ　考へて明かにする。審かにする。又、其のこと。查照。〔晉書、庾翼傳〕値二天高聽邈一、未レ垂二察照一。

【察隻】49 サツセキ　賢くて雙ぶ者がないこと。察隻子を見よ。

〔察隻子〕50 サツセキシ　唐の李質の賢才が、當世に並ぶものの無かつたのを稱した語。〔墨莊漫錄〕班行李質、人材魁岸磊落、甚偉、徽廟朝、欲下求二一人相稱者一爲上對、邈無レ可レ儷、當時同列、目爲二察隻子一、京師俚語、謂レ無レ對曰二察隻一。

【察戰】51 サツセン　呉の官職の名。〔呉志、孫休傳〕使下察戰到二交阯一、調中孔雀大豬上。〔注〕按、察戰、呉官號、今楊都有二察戰巷一。

【察選】52 サツセン　人をえらび推薦する。〔後漢書、左雄傳〕迄二于永憙一、察選清平、多得二其人一。

【察存】53 chʻa^{2} tsʻuen^{2}　調べて保存して置く。

【察打】54 サツダ　大食國で骰子の第四の面をいふ。〔事物異名錄、玩戲、骰子〕譜雙、大食以レ木爲二骰子一、六面、么曰レ亦、二曰二塗打一、三曰二栖打一、四曰二察打一、五曰二班打一、六曰二失打一。

【察度】55 サツタク　詳かに考へはかる。〔大戴禮、文王官人〕太師、內觀二民務一、察二度情僞一。〔史記、趙世家〕察二度功德一。

【察奪】56 chʻa^{2} tuo^{2}　調査決定する。裁斷する。

【察斷】57 サツダン　明かにし判斷する。〔荀子、致士〕然後中和察斷、以輔レ之、政之隆也。

【察知】58 サツチ　推しはかつて事情を知る。〔墨子、明鬼下〕是與下天下之所三以察二知有與レ無之道上者、必以二衆之耳目之實知一有與レ無、爲レ儀也。〔鬼谷子、中經、注〕既察二知其類一、必記二識之一。

【察致】59 サツチ　思ひ至る。〔莊子、秋水〕言之所レ不レ能レ論、意之所レ不レ能二察致一者、不レ期二精粗一焉。

【察聽】60 サツチヤウ　取上げてきく。つまびらかにきく。〔漢書、鄒陽傳〕願大王之無レ忽、察二聽其志一。

【察傳】61 サツデン　呂覽、愼行論の篇名。

【察納】62 サツナフ　あきらかにして聽き入れる。〔諸葛亮、出師表〕陛下亦宜下自謀以諮二諏善道一、察二納雅言一、深追中先帝遺詔上。〔柳宗元、禮部爲二百官一上二尊號一第二表〕俯二垂天聽一、察二納微誠一。

【察南】63 サツナン　察哈爾省の南部。

【察訪】64 サツハウ　しらべまはる。しらべとふ。〔宋史、徽宗紀四〕(宣和元年、十一月)戊辰、以二淮甸旱、飢民失レ業、遣二監察御史一察訪。〔紅樓夢、十九回〕察二訪打三聽各處一。

【察判】65 サツパン　詳かにことわけする。〔南史、齊武帝紀〕四二諸遠獄一、委二刺史一以レ時察判。

【察眉】66 サツビ　眉の皺で人の憂樂を知る。〔杜甫、夔府書懷四十韻詩〕卽事須レ嘗レ膽、蒼生可レ察レ眉。〔注〕東方朔傳、方朔言、蒼生憂樂、見レ眉事可レ察。

【察微】67 サツビ　㊀微細な事までおしはかる。〔史記、五帝紀〕聰以知レ遠、明以察レ微。㊁呂覽、先識覽の篇名。

【察敏】68 サツビン　賢くさとい。〔潛夫論、潛學〕君子敦貞之質、察敏之才。

【察辯】69 サツベン　さかしくて辯舌が巧なこと。明察能辯。〔荀子、勸學〕不レ隆レ禮、雖二察辯一散儒也。

【察明】70 サツメイ　調べて明かにする。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、斷罪引律令〕至二於擬罪稍輕、引律稍有レ未レ協、遺錯過失等一、將二本案一察明、果非レ徇レ私者、免二其參究一、卽行二改正一。

【察問】71 サツモン　くはしくしらべたづねる。〔管子、小匡〕退而察二問其鄉里一、以觀二其所一レ能。〔漢書、武帝紀〕受レ策察問。〔金史、世宗紀中〕察二問細微一、非二人君之體一。

〔察問辨覈〕72 サツモンベンカク　詳しく問ひ明かに調べる。詳細明瞭に問ひ調べる。又、其のこと。覈は、しらべる。〔皇朝史略、時賴巡察〕察問辨覈、隨二其善惡一、以行二賞罰一。

【察夜】73 chʻa^{2} yeh^{4}　夜廻り。

【察覽】74 サツラン　明かに見ぬく。〔雲笈七籤、司命眞君傳〕深識玄遠、察二覽興亡一。

【察吏】75 サツリ　明察な役人。細事まで氣のつく官吏。〔晏子、諫、下〕妾恐下其傷二察吏之法一、而害中明君之義上也。

【察理】76 サツリ　理のある所を取りしらべる。〔舊唐書、刑法志〕陛下乃以二末節之法一、察レ理平レ人、愚臣以爲レ非二適レ變隨レ時之義一也。

【察涖】77 サツリ　他人の字を模寫する。涖は莅に同じく、のぞむ意。察書(45)を見よ。

【察諒】78 サツリヤウ　おしはかつて事情を知る。又、其のこと。〔庾亮、讓二中書令一表〕微誠淺薄未レ垂二察諒一。

【察論】79 サツロン　明かな議論。〔荀子、解蔽〕以二正志一行二察論一、則萬物官矣。

【察合台】80 チヤガタイ　元の太祖。成吉思汗の第二子。父に從つて金及び西域を征し、戰功多く、父が闊台大汗となるや、西遼の故地を領有して察合台汗國を建て、蒙古大汗の藩屛となつた。察合台汗國を見よ。〔元史、一〕・〔新元史、一百七〕。

〔察合台汗國〕81 チヤガタイカンコク　蒙古四汗國の一。太祖、成吉思汗の次子、察合台の封地。今の新疆省から中央亞細亞のシル河に及ぶ地を領有し、阿力麻里（アルマルク）に都す。也先不花汗の時に至り、窩闊台汗國を併合し、其の勢頗る強盛であつたが、後、元の仁宗に破られて東境の地を失ひ、國勢頓に衰へ、遂に帖木兒に滅ぼされた。(元史、宗室世系表)

察合台太子位				
察合台				
也速蒙哥王	合刺旭烈大王			
	阿魯忽大王	八刺大王	威遠王阿只台	帖木而不花王
		兗王買住韓	威遠王 忽都鐵木兒 赤因鐵木兒	南答失里王
			越王禿刺	
			豫王阿刺忒納失里	答兒麻

【察哈顏】82 チヤハーエン　山名。滿洲黑龍江省呼瑪河の北岸に在る火山。〔黑龍江外記〕峯上一穴、晝見レ焰、夜見レ火、蓋在二乾嘉時代一、猶爲二活火山一。

【察哈爾】83（チヤハール）　省名。民國、置く。東は滿洲の熱河省に、南は河北省・山西省に、北は外蒙古に界す。古の葷粥、漢の上谷・雁門諸郡の地で、後漢及び晉には烏桓・鮮卑が居た。隋は涿郡・馬邑郡の地とし、唐は武新・嬀雲諸州の外境とし、奚の別種が之に居た。遼は歸化及び大同の北境とし、金・元は大同・宣德の地とし、明は宣府鎭及び開平・大同の二衞、興和守禦千戸所とし、後、廢して韃靼諸部落の駐牧の地とした。清初、壩內を農田とし、壩外を察哈爾游牧地とし、ついで直隸口北道・山西歸綏道の管轄の地とした。民國三年、察哈爾特別區域を置き、都統を置き、十七年、直隸省の口北道を併せて始めて察哈爾省を置く。治は萬全縣で、萬全・張北・沽源・多倫・商都・康保・寶昌・宣化・赤城・龍關・懷來・陽原・懷安・蔚・延慶・涿鹿の十六縣を治める。陰山山脈が中央を走り、牧畜に適す。張庫鐵道は張家口から庫倫に達し、平綏鐵道が其の南部を貫く。物產は牛・羊・驢・騾を主とし、牛皮・羊毛は皆張家口から輸出する。

【察哈爾八旗】84（チヤハールハツキ）　察哈爾族の部落の名。察哈爾省の南境。明代は插漢といふ。もと元の裔、小王子の後。嘉靖の閒、族酋布希が察哈爾の地に駐牧したから部に名づけた。後、遼東の邊外に徙り、四傳して林丹汗に至り、附近の諸部を侵略す。清の太宗に討平せられ、林丹汗は逃れて死し、其の子、孔果爾額哲は清に降つた。康熙中、布爾呢兄弟は、大同・宣化の邊外に徙り、後、噶爾丹を征して功を建て、來降の喀爾喀・額魯特を編して佐領とし、八旗を置いた。八旗は、左翼四旗の正藍・鑲白・正白・鑲黃と、右翼四旗の正黃・正紅・鑲紅・鑲藍とをいふ。其の中、鑲黃・正黃・正紅・鑲紅の四旗は張家口外に駐し、正白・鑲白・正藍の三旗は獨石口外に駐し、鑲藍一旗は殺虎口外に駐し、八旗蒙古都統に隸屬する。〔皇朝文獻通考、兵考、兵制〕康熙十四年、設㆓游牧察哈爾八旗㆒、時以㆑遷㆓察哈爾部衆于宣化大同府邊外㆒、編爲㆓八旗㆒、設㆓參領・佐領・護軍校・驍騎校・護軍驍騎等㆒、如㆓內八旗之制㆒、隸㆓八旗蒙古都統㆒。〔清史稿、地理志〕察哈爾、察哈爾八旗。〔注〕東南距㆓京師㆒四百三十里、當㆓直隸宣化・山西大同邊外㆒、明插漢、本元裔小王子、嘉靖閒、布希駐㆓牧察哈爾之地㆒、因以名㆑部。

【察哈泰】85（チヤハタイ）　清、滿洲鑲紅旗人。姓は薩克達氏。屢〻征戰に從つて功あり。康熙の初、鎭東將軍となる。吳三桂を討ち、軍中に卒す。〔清史稿、二百六十〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十〕。

【察哈喇】86（チヤハラ）　清、滿洲鑲白旗人。姓は郭絡羅氏。明軍と南海島及び大淩河の西に戰ひ、皆之を敗る。官は都統。〔清史稿、二百三十三〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十三〕。

【察事卒】87（サツジソツ）　かくしめつけ。〔宋史、秦檜傳〕察事之卒布㆓滿京城㆒、小涉㆓譏議㆒卽捕。

【察失利】88（サツシツリ）　複姓。〔太平寰宇記〕褥陀洹國、在㆓火羅西北㆒、其王姓察失利。

【察素齊】89（サツソセイ）　地名。綏遠省歸綏縣の西。附近の珠兒溝・大西溝・萬溝等と共に石炭を產す。

【察天筒】90（サツテントウ）　オランダから傳はつた頃の晴雨計の和名。〔海島逸誌、察天筒〕以㆓玻璃筒二式㆒、如㆓筆管㆒、長一尺餘、內實㆓水銀㆒、置㆓之匣中㆒、旁書㆓和蘭字㆒。

【察木多】91（サツボクタ）　地名。もと西藏の喀木の首邑。今の西康省昌都縣。瀾滄江の源、薩楚河・鄂宜楚河の閒の地。

【察哈里克】92（チヤグリク）　地名。新疆省婼羌縣公署の所在地。清の同治中、回疆が大いに亂れたとき、縣丞を派駐して避難民を管轄せしめたが、後、升して婼羌縣を置き、新疆焉耆府に屬せしめた。アルチンタハ山脈の北麓チヤリク河に沿ふ。住民の多くはトルコ族である。

【寖】7284　シン　濅（7－18445）の譌字。〔正字通〕寖、濅字之譌。

【寠】7285

一　ク　〔玉篇〕瞿庾切　麌
二　ル　〔集韻〕龍遇切　遇
三　ロウ　ル　〔集韻〕郎侯切　尤

小篆

一❶まづしい。〔說文〕寠、無㆑禮尻也、从㆑宀婁聲。〔段注〕宮室不㆑中㆑禮。〔說文通訓定聲〕寠、貧居無㆑禮也。〔一切經音義、一〕無㆑財曰㆑貧、無㆓財備㆒㆑禮曰㆑寠。〔玉篇〕寠、貧陋也。❷やつれる。衰へる。〔蔡邕、短人賦〕其餘尫幺、劣厥僂寠。❸ちひさい。〔釋名、釋姿容〕寠數、猶㆓局縮㆒、皆小意也。❹窶（8－25628）に同じ。〔正字通〕寠、同㆑窶。二まづしい。一の❶に同じ。〔集韻〕寠、貧也。三甌寠はつか、をか。高地のせまくほそい處。一說に、かたよりそばだつた處。〔集韻〕寠、甌寠、猶㆓抔摟㆒也。

【寠藪】1（クソウ）　行商人などが頭に物をのせる時用ひる敷きもの。窶藪（8－25628・・5）を見よ。〔漢書、東方朔傳〕酒覆㆓樹上寄生㆒、令㆓朔射㆒㆑之、朔曰、是寠藪也。〔注〕師古曰、寠藪、戴器也、以㆑盆盛㆑物、戴㆓於頭㆒者、則以㆓寠藪㆒薦㆑之、今賣㆓白團餅㆒人所㆑用者是也。

【寡】7286　クワ　ケ　〔集韻〕古瓦切　ㄍㄨㄚˇ　馬　kua^3

小篆

❶すくない。〔說文〕寡、少也、从㆓宀頒㆒、頒、分也、宀分、故爲㆑少也。〔論語、爲政〕愼言㆓其餘㆒、則寡㆑尤。〔皇疏〕寡、少也。〔淮南子、主術訓〕職寡者易㆑守。〔注〕寡、少也。❷まれ。ない。〔爾雅、釋詁〕寡、罕也。❸王侯自稱の謙辭。〔孟子、梁惠王上〕寡人之於㆑國也。〔注〕王侯自稱㆓孤寡㆒。〔後漢書、仲長統傳〕寡者爲㆓人上㆒者也。❹自國の君を他國に稱する謙辭。德が少いことをいふ謙辭。〔儀禮、燕禮〕寡君有㆓不腆之酒㆒。〔禮、坊記〕自稱㆓其君㆒曰㆓寡君㆒。〔注〕寡君、猶㆑言㆓少德之君㆒、言之謙。〔論語、季氏〕邦君之妻、云云、稱㆓諸異邦㆒曰㆓寡小君㆒。❺よわい。〔左氏、成、十三〕寡我襄公。〔注〕寡、弱也。❻ひとり。〔廣雅、釋詁三〕寡、獨也。❼ごけ。やもめ。やもを。〔釋名、釋親屬〕無㆑夫曰㆑寡、寡、踝也、踝踝單獨之言也。〔小爾雅、廣義〕凡無㆑妻無㆑夫、通謂㆓之寡㆒。〔禮、王制〕老而無㆑夫者、謂㆓之寡㆒。〔疏〕無㆑妻亦謂㆓之寡㆒。〔孝經、孝治章〕不㆔敢侮㆓於鰥寡㆒。〔鄭注〕婦人五十無㆑夫曰㆑寡。〔潘岳、寡婦賦、注〕善曰、少無㆑夫曰㆑寡。❽家族五人以下をいふ。〔周禮、地官、族師〕校㆓登其族之夫家之衆寡㆒。〔疏〕有㆑夫有㆑婦乃成㆑家、自㆓一人㆒以至㆓十人㆒爲㆓九等㆒、七六五者爲㆓其中㆒、若然則六口爲㆑中、七口以上爲㆑衆、五口以下爲㆑寡。❾かへりみる。顧（12－43689）に通ず。〔說文通訓定聲〕寡、叚借爲㆑顧。〔禮、緇衣〕故君子寡㆓其言㆒而行、以成㆓其信㆒。〔注〕寡、當㆑爲㆑顧、聲之誤也。

解字　會意。宀と頒との合字。宀は屋下の貯藏物を表はし、頒は分與の義。貯藏物を分與すれば減少を來す。故に本義を減少とする。轉じて、單獨なるをいふ。夫の妻を失ひしもの、妻の夫を失ひしものに通じて寡といふのは單獨の義、又、君が寡人と稱するのは德のすくない者の義。一說に、宀下にあつて夫婦の一方を失ふ。故に頒を宀下に加へ、寡夫寡婦、卽ちやもめの意をあらはす。轉じて、少ないの意とするといふ。▽ （金文）會意。宀と頁（憂の省）との合字。屋內で獨りうれへる人の意を表はす。

【寡爲】1（クワキ）　なすことが少い。殆ど施策を講じない。〔說苑、君道〕大道容㆑衆、大德容㆑下、聖人寡㆑爲而天下理。

【寡怨】2（クワエン）　うらむ心がすくない。〔荀子、君道〕其於㆑人也、寡怨寬裕而無㆑阿。

【寡恩】3 クヮオン めぐみが少い。恩情がすくない。〔戰國、秦策〕刻深寡恩。〔孔叢子、記問〕身死則法息、嚴而寡恩也。

【寡交】4 kua^{3} chiao^{1} 交際が少い。

【寡鶴】5 クヮカク 一羽の鶴。配偶を失つた者の喩。〔王褒、洞簫賦〕孤雌寡鶴、娛二優乎其下一兮。〔陸厥、李夫人及貴人歌〕寡鶴霸雌飛且止、彫梁翠壁網二蜘蛛一。

【寡合】6 クヮガフ 人と心の融合することがすくない。他人と心の合ふことがすくない。人と調子を合はせぬこと。〔歸田錄〕楊億以二文章一擅二天下一、然性剛勁寡合、有二惡レ之者一。〔省心錄〕禮義廉恥、可二以律一レ己、不レ可レ繩レ人、律レ己則寡レ過、繩レ人則寡レ合。

【寡居】7 クヮキョ やもめぐらし。寡處。やもめ。〔漢書、王吉傳〕是時、成帝舅安成恭侯夫人放寡居、共二養長信宮一。

【寡虞】8 クヮグ 心配が少い。〔陸機、辨亡論下〕賢人之謀、豈欺レ我哉、自レ是烽燧罕レ警、封域寡レ虞。

【寡過】9 クヮクヮ 過失がすくない。過失をすくなくする。〔論語、憲問〕夫子欲レ寡二其過一而未レ能也。

【寡悔】10 クヮクヮイ 唐、伊愼（**1－432**・・75）の字。

【寡光】11 クヮクヮウ 南朝宋、王錫（**7－20823**・・684）の字。

【寡鰥】12 クヮクヮン やもめとやもを。鰥はやもを。鰥寡（**12－46382**・・3）に同じ。

【寡君】13 クヮクン 臣下が他國人に對して自分の主君を稱する謙辭。寡德なる君の意。〔儀禮、燕禮〕寡君有二不腆之酒一。〔左氏、桓、十八〕寡君畏二君之威一。〔管子、小匡〕弊邑寡君、願下生二得之一以徇二於國一、爲中羣臣僇上。

【寡君之適】14 クヮクンノテキ 世子が他國に使した時、其の擯介が世子をいふ謙稱。寡德なる我が國君の太子の意。〔禮、玉藻〕世子自名、擯者曰二寡君之適一。〔疏〕擯者曰二寡君之適一、謂下對二他國一之辭上。

【寡君之老】15 クヮクンノラウ 上大夫が他國に使した時、其の擯介が上大夫をいふ謙稱。寡德なる我が國君輔佐の老人の意。〔禮、玉藻〕上大夫曰二下臣一、擯者曰二寡君之老一。〔疏〕此擯者稱二大夫一爲二寡君之老一。〔左氏、昭、元〕又使三圍蒙二其先君一、將レ不レ得レ爲二寡君老一。

【寡兄】16 クヮケイ 寡德の兄。他人に對して自分の兄を稱する謙辭。〔書、康誥〕乃寡兄勗、肆汝小子封、在二茲東土一。

【寡狹】17 クヮケフ 少い。小さい。〔唐書、常袞傳〕百官俸寡狹、議三增二給之一。

【寡見】18 クヮケン ㊀見聞がすくないこと。〔法言、吾子〕寡聞則無レ約也、寡見則無レ卓也。〔王褒、四子講德論〕俚人不レ識、寡見尠聞。㊁揚子法言の篇名。

【寡嗛】19 クヮケン 少い。不足。嗛は歉に同じく、足らぬ、不十分の意。〔顏延之、庭誥文〕厭二滋旨一而識二寡嗛之急、仁恕之功一。

【寡言】20 クヮゲン 言葉が少い。〔禮、內則〕必求二其寬裕慈惠溫良敬恭、愼而寡レ言者一、使レ爲二子師一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕絳侯質木、多レ略寡レ言。

【寡孤】21 クヮコ つれあひを失つてよるべがない。鰥寡孤獨。孤寡。〔潘岳、寡婦賦、注〕善曰、寡婦者、任子咸之妻也、子咸死、安仁序二其寡孤之意一、故有レ賦焉。

【寡刻】22 クヮコク あいそがない。そつけがない。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕忍而寡刻相待。

【寡鵠】23 クヮコク 連れのない一羽の鵠の鳥。配偶を失つた者の喩。鵠は雁よりも稍〻大きい白鳥。〔黃鵠歌〕黃鵠早寡兮、十年不レ雙。〔李商隱、聖女祠詩〕寡鵠迷二蒼壑一、羈凰怨二翠梧一。〔馮浩箋注〕英華作レ鶴、鶴鵠古通、列女傳、陶嬰夫死守レ義、作レ歌曰、黃鵠之早寡兮、七年不レ雙。

【寡恨】24 クヮコン 恨が少い。〔後漢書、鄭玄傳〕家今差多二於昔一、勤力務レ時、無レ恤二飢寒一、菲二飲食一薄二衣服一、節二夫二者一、尙令二吾寡一レ恨。

【寡妻】25 クヮサイ ㊀妾に對して正夫人をいふ。嫡妻。適妻はただ一人で其の數がすくないから寡妻といふといひ、又、寡は獨の義ともいふ。一說に、稀に見る賢妻。あることすくなき妻の意。又、謙稱で、寡小君（84）に同じ。〔詩、大雅、思齊〕刑二于寡妻一、至二于兄弟一、以御二于家邦一。〔傳〕寡妻、適妻也。〔箋〕寡妻、寡レ有之妻、言レ賢也。〔疏〕適妻唯一、故言レ寡也。〔集傳〕寡妻、猶レ言二寡小君一也。〔左氏、僖、十九〕詩曰、刑二于寡妻一、至二于兄弟一、以御二于家邦一。〔注〕寡妻、嫡妻。〔會箋〕孔疏、嫡妻惟一、故言レ寡也、蓋寡・獨同義、故獨立、荀子作二寡立一、可レ證。〔孟子、梁惠王上〕刑二于寡妻一、至二于兄弟一、以御二于家邦一。㊁やもめになつた人妻。〔後漢書、田廣明傳〕受降郡尉前死、喪柩在レ堂、廣明召二其寡妻一與姦、既出不レ至レ質。

【寡草】26 クヮサウ ひともとぐさ。つれのない草。一本の草。〔述異記、下〕寡草特生而不レ叢。

【寡嫂】27 クヮサウ やもめのあによめ。〔漢書、王莽傳上〕事二母及寡嫂一。〔後漢書、馬援傳〕敬二事寡嫂一。〔宋書、蔡興宗傳〕奉二宗姑一事二寡嫂一。〔歐陽脩、太尉文正王公神道碑銘〕公事二寡嫂一謹。

【寡孀】28 クヮサウ やもめ。ごけ。寡も孀も共にやもめをいふ。寡婦（62）の㊀に同じ。

【寡識】29 クヮシキ 見識が狹い。見聞が少い。〔張衡、東京賦〕鄙夫寡識、而今而後、乃知三大漢之德馨咸在二於此一。

【寡情】30 クヮジヤウ まごころがすくない。情愛に乏しい。薄情。〔陸機、文賦〕言寡レ情而鮮レ愛、辭浮漂而不レ歸。

【寡弱】31 クヮジヤク よわい。〔潘岳、關中詩〕惴惴寡弱、如レ熙二春陽一。

【寡酒】32 kua^{2} chiu^{3} 肴のない酒盛り。酒ばかり飲むこと。〔長生殿、疑讖〕也有吃寡酒的、吃案酒的、買酒去的。

【寡處】33 クヮショ やもめぐらし。寡居。〔易林〕寡處無レ夫。

【寡臣】34 クヮシン 德のすくない臣。他國人に對する臣下自稱の謙辭。〔史記、扁鵲傳〕幸而擧レ之、偏國寡臣幸甚。〔注〕索隱曰、寡小之臣也。

【寡信】35 クヮシン 信義がすくない。〔老子、六十三〕夫輕諾必寡レ信、多レ易必多レ難。

【寡人】36 クヮジン 德の少い人の意。㊀古、王侯自稱の謙辭。〔禮、曲禮下〕諸侯見二天子一曰二臣某侯某一、其與レ民言、自稱曰二寡人一。〔疏〕寡人者、言二己是寡德之人一。〔禮、玉藻〕其於二敵以下一曰二寡人一。〔左氏、隱、三〕先君舍二與夷一立二寡人一。〔公羊、定、四〕寡人請爲二之前列一。〔孟子、梁惠王下〕王曰、寡人有レ疾、寡人好レ貨。〔荀子、哀公〕寡人生二於深宮之中一。〔墨子、非儒下〕以二孔某一語二寡人一者衆矣。〔陔餘叢考、寡人〕春秋戰國時、諸侯王皆稱二寡人一、至レ漢猶然、如下漢王爲二義帝一發レ喪、遣レ使告二諸侯一曰、寡人親爲發レ喪、及諸侯王上二皇帝號一、漢王曰、寡人聞二帝者賢者有一レ之、文帝爲二代王一時、諸大臣迎立レ之、卜有二天王之詞一、帝曰、寡人固已爲レ王、又何王乎、韓信爲二齊王一時、謂二蒯通一曰、先生相二寡人一何如、淮南王黥布對二隨何一曰、寡人北面而臣レ楚、吳王濞反亦稱二寡人一、以約中諸侯王上、東漢北海王睦遣レ使朝賀、謂二所レ遣使一曰、朝廷若問二寡人一、大夫將二何辭以對一、是東漢猶有二此稱一也、至二東漢之末一、則袁紹・劉表・曹操・孫權・劉備之徒、無レ不レ稱レ孤、惟孫盛魏晉春秋記、曹操謂二諸將一曰、劉備人傑也、將レ生二憂寡人一、裴松之以爲、盛著レ書、多用二左氏一以易二舊文一、則此稱或卽盛所レ演文、而非二當時實語一也、北史、魏東陽王元榮、辟二令狐整一爲二主簿一曰、寡人當下委以二庶務一畫上諾而已、宇文泰爲二丞相一時、謂二權榮一曰、寡人與レ權從レ事、未二嘗見一レ失レ信、宇文護當レ國將レ廢二孝閔帝一、告二公卿一曰、先王勤二勞天下一三十餘年、寡人地則猶レ子、親受二顧命一、奉二略陽公一立レ之、革レ魏興レ周爲二四海主一、乃荒淫無レ度、社稷必致二傾覆一、寡人若死、將三何以見二先王於地下一、隋書庾季才傳、宇文護謂二季才一曰、公既是王官無三煩別詣二寡人一也、又隋時徐則絕レ粒養レ生、既死而支體柔弱如レ生、數旬不レ變、晉王廣下レ書曰、寡人欽二承道風一、久餐二德素一、宜下送二還天台一定上レ葬、云云、史策之稱二寡人一者惟此、按、是時爾朱榮高歡之徒、皆稱二孤獨一、此數公稱二寡人一、意當時諸侯王原有二兩稱一耶、唐書、德宗時、宮市之弊最甚、順宗時爲二太子一曰、寡人見レ上、當三極二言之一、五代史、郭威遣二馮道一迎二漢高祖從子贇于徐州一將レ立レ之、既而中變、又遣二郭崇一以レ兵來迎、贇謂レ道曰、寡人此來、所レ恃者以二公三十年舊相一、是以不レ疑耳、此又唐以後稱二寡人一之故事也。㊁古、諸侯の夫人の自稱。〔詩、邶風、燕燕〕先君之思、以勗二寡人一。〔箋〕寡人、莊姜自謂也。〔集傳〕寡人、寡德之人、莊姜自稱也。

【寡世】37 クヮセイ せまい世間。少數の世人。〔墨子、大取〕愛二衆世一與レ愛二寡世一相若。

【寡性】38クヮセイ　固陋な性質。〔新方言、嶺外三州語〕古音寡如レ古、今音古如レ寡、三州謂二人性執一レ古曰二寡性一、古音變如レ寡也。

【寡誠】39クヮセイ　誠がすくない。誠實がすくない。〔魏文帝、煌煌京洛行〕多言寡誠、祇令事敗。

【寡少】40クヮセウ　すくない。寡單。〔晉書、虞悝傳〕糧器空竭、舟艦寡少。

【寡淺】41クヮセン　少くあさい。〔莊子、天下〕以二禁レ攻寢一レ兵爲レ外、以二情欲寡淺一爲レ內。

【寡賊】42クヮゾク　小人數の賊。〔漢書、吾丘壽王傳〕短兵接則衆者勝、以二衆吏一捕二寡賊一。

【寡多】43クヮタ　多いと少い。多寡。〔六部成語、戶部、寡多錯註、注解〕多寡之數、注寫顚倒也。

【寡單】44クヮタン　寡少(40)に同じ。

【寡斷】45クヮダン　決斷力が足りない。〔列子、湯問〕扁鵲謂二公扈一曰、汝志彊而氣弱、故足二於謀一而寡二於斷一。

【寡知】46クヮチ　知慧がすくない。〔國語、晉語二〕寡知不敏。〔劉向、諫三營二起昌陵一疏〕無徳寡知。

【寡儔】47クヮチウ　仲間が少い。孤獨。儔はともがら。〔魏志、董昭傳〕曹公慜下其守レ志清恪、離レ羣寡上レ儔。

【寡女】48クヮヂヨ　やもめ。夫を失つた女。寡女絲を見よ。

〔寡女絲〕49クヮヂヨシ　やもめの作つた絲。これで絃を作れば憂愁哀怨の響があるといふ。〔賈氏說林〕有二寡女一獨宿不レ寐、傍壁孔中視二鄰家蠶一離レ箔、明日繭都類レ之、隱然如二愁女一、蔡邕見レ之、厚價市歸、繅レ絲製二琴弦一、彈レ之有二憂愁哀慟之音一、問二其女琰一、琰曰、此寡女絲也。

【寡頭】50クヮトウ　すくない人數。

〔寡頭政治〕51クヮトウセイヂ　少數の人員が協同して行ふ共和政治。

【寡特】52クヮトク　ひとりもの。孤特。〔詩、唐風、有杕之杜、序〕武公寡特、兼二其宗族一、而不三求レ賢以自輔一焉。

【寡徳】53クヮトク　徳がすくない。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕朕以二寡徳一、不レ能三式遏二寇虐一。〔晉書、元帝紀〕詔曰、惟朕寡徳、纘二我弘緒一。

【寡獨】54クヮドク　あはれな獨り者。寡は老いて夫がない者、獨は老いて子のない者。〔後漢書、安帝紀〕其務崇二仁恕一、賑二護寡獨一、稱二朕意一焉。

【寡訥】55クヮトツ　言葉數が少くてどもること。寡言。訥辯。〔茅亭客話〕程君友質樸寡訥、少二與レ人交言一。

【寡能】56クヮノウ　才能が少い。〔荀子、王制〕使二農夫樸力而寡能一、治田之事也。〔韓非子、六反〕力作而食、生利之民也、而世少レ之、曰二寡能之民一也。

【寡貌】57クヮバウ　表面を飾ることが少い。貌は容貌、顏色をいふ。〔大戴禮、主言〕多レ信而寡レ貌、其禮可レ守、其信可レ復、其跡可レ履。

【寡薄】58クヮハク　すくない。とぼしい。〔唐書、吐蕃傳上〕吐蕃居二寒露之野一、物產寡薄。

【寡髮】59クヮハツ　少い髮。又、黑白の雜つた髮。宣髮(**3－7132**‥190)を見よ。〔易、說卦〕其於レ人也爲二寡髮一、爲二廣顙一。〔通解〕寡髮、少髮也。〔釋文〕寡、本作レ宣、黑白雜爲二宣髮一。

【寡乏】60クヮバフ　すくない。とぼしい。〔漢書、文帝紀〕無用之事或多與、何其民食之寡乏也。

【寡夫】61クヮフ　やもを。妻を失つた男。寡佬。〔墨子、辭過〕內無二拘女一、外無二寡夫一、故天下之民衆。

【寡婦】62クヮフ　❶やもめ。夫を失つた女。〔禮、曲禮上〕寡婦之子非レ有レ見焉、弗三與爲二レ友。〔管子、問〕問獨夫寡婦、孤寡疾病者、幾何人也。〔後漢書、孟嘗傳〕上虞有二寡婦一。❷城の名。河北省唐縣の北。〔水經、滱水注〕其城東側、因レ阿仍レ牖築二一城一、世謂二之寡婦城一、賈復從二光武一、追二銅馬五幡于北平一所レ作也、世俗音轉、故有二是名一。❸山名。甘肅省慶陽縣の北。〔舊五代史、周太祖紀四〕(慶)州北十五里寡婦山、有二蕃部一、曰二野雞族一、好爲二不法一云云、詔命二邠州節度使折從阮、寧州刺史張建武一、進レ兵攻レ之。

〔寡婦果〕63クヮフクヮ　福建省邵武縣の李氏に產した果實の名。この樹が祟つて、李氏には代々寡婦が有つたから名づけた。〔閩雜記〕寡婦果、出二邵武一、惟郡城李氏一家有レ之、似二林檎一而大、色純青、味微濇、或言、卽柰也、樹祇十三株、相傳、其先世有下宦二於北一者上、攜歸種レ之而活、惟不レ結レ實、有レ僧教、以二立春前一、二時避二去男子一、令下婦人以二雄黃一磨中澆其根上、懸二竹燈於南向枝上一、三晝夜不レ熄、卽得レ實、如二其言一果實、後僧復來視レ之、歎曰、樹本雌種、又令二寡婦澆一レ之、恐於二男子一不レ利也、自レ是李氏遂代有二寡婦人一、因以二寡婦果一稱レ之。

〔寡婦笱〕64クヮフコウ　竹を編んで作つたうへ。笱はうへ、やな。漁具。〔詩、小雅、魚麗、魚麗二于罶一、傳〕罶、曲梁也、寡婦之笱也。〔疏〕以レ薄爲二魚笱一、其功易、故號二之寡婦笱一耳、非二寡婦所一レ作也。

〔寡婦莎〕65クヮフサ　相思草(**8－23151**‥125)の異名。すぎな。〔海錄碎事、草木、草〕述異記、秦趙間有二相思草一、節節相續、又名二斷腸草・孀婦草・寡婦莎一。

〔寡婦船〕66クヮフセン　寡婦の乘つた船。宋の范仲淹が部下孫居中の死んだ時、其の送歸に當り、子が幼く、家が貧であるのを憐み、一絕を作つて行旅を便ならしめた故事。〔淵涵類鑑、人部、寡婦〕寡婦船、范文正公鎭レ越、民曹孫居中卒、子幼家貧、公助二俸錢百緡一、治二巨舟一、差二老衙校一送歸、作二詩一絕一、戒二其吏一曰、過二關津一、但以二吾詩一示レ之、詩云、十口相持泛二巨川一、來時煥熱去凄然、關津若要レ知二名姓一、便是孤兒寡婦船。

【寡聞】67クヮブン　見聞がせまい。又、其のこと。〔禮、學記〕獨學而無レ友、則孤陋而寡聞。〔莊子、達生〕今休款啓寡聞之民也。〔晏子、問、上〕奄然寡レ聞。〔史記、五帝紀贊〕淺見寡聞。〔漢書、匡衡傳〕寡聞小見。

【寡母】68 kua^{2} mu^{3}　寡婦。

【寡民】69クヮミン　僅かの民。〔老子、八十〕小國寡民、使下有二什伯人一之器上而不レ用。

【寡命】70クヮメイ　得難い天命。まれにしか得られない基命。〔書、康王之誥〕無レ壞二我高祖寡命一。〔傳〕無レ壞二我高徳之祖、寡有之教命一。〔蔡傳〕無三廢二壞我文武艱難寡得之基命一也。

【寡默】71クヮモク　寡言沈默の意。言葉數のすくないこと。〔江淹、與二交友一論レ隱詩〕心頑質堅、偏好二寡默一。

【寡欲】72クヮヨク　慾望が少い。又、其のこと。廉潔。〔孟子、盡心下〕其爲レ人也寡欲、雖レ有二不レ存焉者一、寡矣。〔老子、十九〕故令レ有レ所レ屬、見レ素抱レ樸、少レ私寡レ欲。〔莊子、山木〕少レ私而寡レ欲。〔漢書、景帝紀〕其唯廉士、寡欲易レ足。〔後漢書、法眞傳〕恬靜寡欲。

【寡立】73クヮリツ　孤立する。〔荀子、不苟〕寡立而不レ勝。

【寡慮】74クヮリヨ　思慮が足りない。〔房千里、竹室記〕人之內好レ欲寡レ慮、恬默以爲レ泰。〔蘇轍、爲二兄軾下一レ獄上書〕軾狂狷寡レ慮、竊恃二天地包含之恩一、不二自抑畏一。

【寡力】75クヮリヨク　力がよわい。〔戰國、韓策〕今王兩二用之一、其多力者內樹二其黨一、其寡力者藉二外權一。

【寡佬】76クヮレウ　やもを。寡夫(61)に同じ。

【寡劣】77クヮレツ　すくなくおとる。徳行才能などのすくないこと。庸劣。〔傅亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕臣以二寡劣一、負二荷國重一。

【寡廉】78クヮレン　廉潔心がすくない。廉潔の行がない。寡廉鮮恥を見よ。

〔寡廉鮮恥〕79クヮレンセンチ　廉恥心が少い。厚顏無恥。風俗の浮薄をいふ。寡も鮮も共にすくない意。〔史記、司馬相如傳〕寡廉鮮恥、而俗不二長厚一也。

【寡陋】80クヮロウ　見聞が少くてかたくななこと。孤陋寡聞。〔陶潛、命レ子詩〕嗟予寡陋、瞻望弗レ及。〔呂氏童蒙訓〕陳瑩中嘗云、予爲二禮部貢院點檢官一、與二范公淳夫一同舍、公嘗論二顏子之不遷不貳一、唯伯醇能レ之、予問、伯醇誰也、公默然久レ之曰、不レ知レ有二伯醇一耶、予謝曰、生二長東南一、實未レ知也、時年二十九矣、自レ是嘗爲二寡陋一自愧。

【寡和】81クヮワ　唱和するものがすくない。〔張說、酬二崔光祿冬日述懷一贈答詩〕曲高彌寡レ和、主善代爲レ師。〔白居易、裴常侍云云詩〕寡レ和陽春曲、多情騎省郎。

【居レ寡】82クヮニヲル　寡欲に甘んずる。〔傅亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕履レ謙居レ寡、守レ之彌固。

【就レ寡】83クヮニツク　少い方につく。〔漢書、劉歆傳〕往者綴學之士、不レ思二廢絕之闕一、苟因レ陋就レ寡、分レ文析レ字、煩レ言碎レ辭、學者罷老、且不レ能レ究二其一藝一。

【寡小君】84クヮセウクン　臣下が君の夫人を、他國の者に對していふ謙稱。一說に、夫人が諸侯に對し

ていふ自稱。〔儀禮、聘禮〕君以二社稷故一、在二寡小君一。〔禮、曲禮下〕夫人自稱二於天子一曰二老婦一、自稱二於諸侯一曰二寡小君一、自稱二於其君一曰二小童一。〔注〕謂下饗二來朝諸侯一之時上。〔禮、雜記上〕夫人曰二寡小君不祿一。〔論語、季氏〕邦君之妻、君稱レ之曰二夫人一、夫人自稱曰二小童一、邦人稱レ之曰二君夫人一、稱二諸異邦一曰二寡小君一。〔集解〕孔安國曰、小君、君夫人之稱、對二異邦一謙、故曰二寡小君一。〔疏〕寡君、謙言二寡德之君一、夫人對レ君爲レ小、故曰二寡小君一也。〔劉寶楠正義〕小君者、比二於君一爲レ小也、春秋書レ葬二我小君一、是小君卽君夫人之稱、於二本國一稱二小君一、於二異邦一稱二寡小君一、猶下稱二其君於本國一曰レ君、於二異邦一曰中寡君上也、白虎通云、論語曰、國君之妻、國人稱レ之曰二君夫人一、稱二諸異邦一曰二寡小君一、謂聘二問兄弟之國一、及臣二於他國一稱レ之、謙之辭也、白虎諸儒、以レ稱二諸異邦一、爲二國人所一レ稱、當二是論語家舊義一、故僞孔此注、亦以二寡小君一爲二邦人謙稱一也、曲禮、夫人自稱二於諸侯一曰二寡小君一、注云、謂下饗二來朝諸侯一之時上、彼文以二寡小君一爲三婦人自二稱於異邦諸侯一、與下論語言二寡小君一爲中邦人所上レ稱異、孫氏奇逢近指、引二郝敬說一、稱二諸異邦一、如下大夫士出使二他邦一致レ辭之類上、非二夫人自稱一也、夫人無レ越レ國、亦無レ有二自稱爲レ君者一、曲禮謂下夫人自二稱於諸侯一曰中寡小君上、誤也、此說足レ正二從來傳注之誤一。

【寡大夫】85 クヮタイフ 大夫が他國に使した時、其の擯介が大夫をいふ謙稱。德のすくない大夫の意。〔儀禮、士相見禮〕非下以二君命一使上、則不レ稱二寡大夫一。〔禮、玉藻〕下大夫自名、擯者曰二寡大夫一。

【寡二少雙】86 クヮジセウサウ ならびない。ならぶものがない。無敵。〔漢書、吾丘壽王傳〕以爲天下少レ雙、海內寡レ二。

【寡不レ敵レ衆】87 クヮシユウニテキセズ 少人數では多人數には敵しがたい。〔孟子、梁惠王上〕寡固不レ可二以敵一レ衆、弱固不レ可二以敵一レ強。

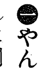
【患レ寡患レ貧】88 クヮヲウレヘヒンヲウレフ 民の少きをうれへ、又財の少きをうれへる。〔論語、季氏〕有レ國有レ家者、不レ患レ寡而患レ不レ均、不レ患レ貧而患レ不レ安。

【⿱宀果】7287 クヮ 寡(3－7286)の譌字。〔正字通〕⿱宀果、寡字之譌。

【⿱宀⿰爿尨】7288 バウ マウ 〔等韻〕莫江切 江

ねる。〔等韻〕⿱宀⿰爿尨、寐也。

【寢】7289 シン 〔集韻〕七稔切 ㄑㄧㄣˇ ch'in³ 寑


小篆

❶**やんでねる**。**病臥**。㝲(3－7401)に同じ。〔正字通〕㝲、同レ寢。〔說文〕㝲、病臥也、从二㝱省一寑省聲。〔段注〕寢者、臥也、㝲者、病臥也、此二字之別、今字槩作レ寢矣。〔五經文字〕字林以レ寢爲レ病。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕身寢レ疾而自愁兮。❷**ねる**。**ふす**。横になる。寑(3－7238)に通ず。〔說文通訓定聲〕寢、段借爲レ寑。〔釋名、釋姿容〕寢、權假臥之名也、寢、侵也、侵二損事功一也。〔廣雅、釋言〕寢、偃也。〔禮、閒傳〕寢レ苫枕レ塊。〔釋文〕寢、本亦作レ寑。〔論語、公冶長〕宰予晝寢。〔鄭注〕寢、臥息也。❸**ねむる**。〔論語、公冶長、皇疏〕寢、眠也。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫、注〕寢、寐也。❹**やむ**。**やめる**。〔漢書、禮樂志〕漢典寢而不レ著。〔注〕師古曰、寢、息也。❺**とめる**。**とまる**。〔大戴禮、曾子制言〕無レ席則寢二其趾一。〔注〕寢、猶レ止也。❻**おたまやのうしろ御殿**。衣冠を藏するところ。〔禮、月令〕寢廟畢備。〔注〕凡廟、前曰レ廟、後曰レ寢。〔疏〕寢、衣冠所レ藏之處、對レ廟爲レ卑、故在レ後。❼**おたまや**。〔五經文字〕寢、廟也。〔呂覽、孟春〕執二爵于太寢一。〔注〕太寢、祖廟也。❽**天子の陵上の正殿**。〔後漢書、章帝紀〕藏二主於光烈皇后更衣別室一、〔注〕園中有レ寢、有二便殿一、寢者、陵上正殿、便殿、寢側之別殿、卽更衣也。❾**おくざしき**。**へや**。〔釋名、釋宮室〕寢、寢也、所二寢息一也。〔周禮、天官、宮人〕掌二王之六寢之脩一。〔注〕六寢者、路寢一、小寢五。〔禮、喪大記〕君夫人卒二于路寢一。〔注〕寢・室通耳。〔逸周書、皇門解〕予獨服在レ寢。〔注〕寢、室也。❿**おもてざしき**。正室の類。〔詩、商頌、殷武〕寢成孔安。〔傳〕寢、路寢也。〔禮、王制〕庶人祭二於寢一。〔注〕寢、適室也。⓫**をかす**。侵(1－646)に通ず。〔說文通訓定聲〕寢、段借爲レ侵。〔易、謙、利二用侵伐一、釋文〕王廙作レ寢。⓬**風采があがらない**。たけが短い。みにくい。〔史記、武安侯傳〕武安者貌寢。〔注〕集解曰、寢、短小也、醜惡也。〔吳越春秋、句踐陰謀外傳〕鄙陋寢容。〔唐書、鄭注傳〕貌寢陋。⓭**姓**。〔萬姓統譜〕寢尹庶官。⓮**一百六韻の一**。上聲第二十六。

【寢衣】1 シンイ ねまき。〔論語、鄕黨〕必有二寢衣一、長一身有半。〔集解〕孔安國曰、今之被也。〔劉寶楠正義〕鄭注云、今小臥被、是也、案、說文、被、寢衣也、長一身有半、衾、大被也、此處寢衣之制、解者多端、惟許鄭義得レ之、古人衣不レ連レ裳、夫子製二此寢衣一、較二平時所レ服之衣一稍長、寢時著レ之以臥、小臥被者、對三衾爲二大被一言レ之、凡衣可レ曰レ被、鄭以二衣被通一レ稱、恐二人不一レ曉、故言二臥被一以明レ之。

【寢右】2 シンイウ 魚を俎に載せて進上する式。魚の頭を己の方に向け、其の背を客に向はしめてひれをすすめる。〔儀禮、公食大夫禮〕魚七、縮レ俎寢レ右。〔注〕右、首也、寢レ右、進レ鬐也、乾魚近レ腴、多二骨鯁一。

【寢讌】3 シンエン やすみくつろぐ。やすむ。寢宴。寢燕。〔拾遺記、四、燕昭王〕設二枕席一以寢讌。

【寢園】4 シンエン 陵墓の側に作ったおたまや。寢廟(59)を參照せよ。〔漢書、韋玄成傳〕各有二寢園一、與二諸帝一合凡三十所。〔王維、敕賜二百官櫻桃一詩〕總是寢園春薦後、非レ關二御苑鳥銜殘一。〔許渾、凌歊臺詩〕行殿有レ基荒薺合、寢園無レ主野棠開。〔歐陽脩、論二議濮安懿王典禮一劄子〕奉二邑寢園一。

【寢餓】5 シンガ 倒れ臥すまで甚しく餓ゑる。〔韓非子、外儲說左下〕晉文公出亡、箕鄭挈二壺餐一而從、迷而失レ道、與レ公相失、飢而道泣、寢餓而不二敢食一。

【寢格】6 シンカク やめとどめる。停止。

【寢汗】7 ネアセ 眠つてゐてかく汗。盜汗。

【寢饋】8 ch'in³ k'uei⁴ 寢食。

【寢丘】9 シンキウ 地名。春秋、楚の封邑。漢の寖縣。今の河南省沈丘縣の東南。寢丘之志を見よ。

【寢丘之志】10 シンキウノココロザシ 子孫の長久を願ふ心。春秋、楚の寢丘の地は、人々のきらう地名であつた。ところが、楚の孫叔敖は、却てこの地の長く保つべきを知り、子孫に教へて長く保有せしめた故事。〔列子、說符〕孫叔敖死、王果以二美地一封二其子一、子辭而不レ受、請二寢丘一、與レ之、至レ今不レ失。〔呂覽、異寶〕孫叔敖疾、將レ死、戒二其子一曰、楚越之閒有二寢之丘者一、此其地不レ利、而名甚惡、荊人畏レ鬼、而越人信レ機、可二長有一者、其唯此也。〔史記、滑稽、優孟傳〕於レ是莊王謝二優孟一、乃召二孫叔敖子一、封二之寢丘四百戶一、以奉二其祀一。〔王儉、褚淵碑文〕既秉二辭レ梁之分一、又懷二寢丘之志一。

【寢宮】11 シンキユウ 正殿。寢室(28)の❶に同じ。〔呂覽、用民〕句踐試二其民於寢宮一、民爭入二水火一。〔論衡、率性〕句踐亦試二其士於寢宮之庭一、赴レ火死者不レ可二勝數一。

【寢虛】12 シンキヨ 虛空に寢る。神仙の生活。〔列子、黃帝〕乘レ空如レ履レ實、寢レ虛若レ處レ牀。

【寢御】13 シンギヨ 貴人がおやすみになることの敬語。

【寢衾】14 シンキン 夜具。〔福惠全書、刑命部、人命上、疑獄〕婦人寢衾中物。

【寢具】15 シング ねる道具。夜著など。〔司馬相如、美人賦〕寢具既設、服玩珍奇。

【寢戈】16 シンクワ ❶身近かの武器。寢室に備へた武

器。〔左氏、襄、二十八〕使下執二寢戈一而先中後之上。〔注〕寢戈、親近兵杖。〔會箋〕寢室所レ護、故稱二寢戈一、我邦所謂枕旁刀之意。㊁戈の上に寢る。仇を報ずるに艱苦する喩。〔獨孤授、碎琥珀枕賦〕況無下用二於寢戈一之日上、固非下全二於枕轡一之時上。

【寢臥】17 シングワ ねる。ふす。〔莊子、天運〕遊二居寢三臥其下一。〔陸厥、中山王孺子妾歌〕如姫寢二臥內一。

【寢幌】18 シンクワウ ねやの垂れぎぬ。ねやのとばり。〔楊衡、他鄕七夕詩〕寢幌凝二宵態一、妝奩閉二曉愁一。

【寢棺】19 ネグワン 横臥したままの屍體を收めるやうに造つた棺。

【寢縣】20 シンケン 縣名。漢、置く。河南省固始縣。〔讀史方輿紀要、河南、歸德府、光州〕固始縣、州東一百四十里、春秋時蓼國地、後滅二于楚一、謂二之寢縣一、漢亦置二寢縣一、屬二汝南郡一。

【寢戶】21 シンコ 廟の正殿。〔新書、俗激〕盜者慮二探柱之金一、剟二寢戶之簾一、搴二兩廟之器一。

【寢興】22 シンコウ ねることと起きること。ねおき。又、ねおきする。臥起。〔詩、小雅、斯干〕乃寢乃興。〔潘岳、悼亡詩〕寢興目存レ形。〔顏延之、秋胡詩〕寢興日已寒。

【寢坐】23 シンザ 休息する席。〔神仙傳〕常陳二此器于寢坐一。

【寢齋】24 シンサイ ねま。寢室(28)の㊀をいふ。〔南史、梁武帝紀下〕乃見三六龍倶在二帝所レ寢齋一。

【寢想】25 シンサウ ねながら考へる。夢の中で想ふ。〔淮南子、道應訓〕尹需學レ御、三年而無レ得焉、私自苦痛、常寢二想之一。

【寢藏】26 シンザウ ねかせておく。横たへしまふ。〔論衡、佚文〕當下傳二於漢一、寢中藏牆壁之中上、恭王闓レ之、聖王感動。

【寢兕】27 シンジ 甲冑をきてねおきする武士をいふ。鎧甲に身を固めた兵士。一說に、寢た野牛の意で、車輪に畫く裝飾といふ。〔荀子、禮論〕寢兕・特虎・蛟韅・絲末・彌龍、所二以養レ威也。〔注〕寢兕、謂下武士寢二處於甲冑一者上也。〔集解〕盧文弨曰、寢兕特虎、謂二畫レ輪爲レ飾也、劉昭注輿服志引古今注、武帝天漢四年、令二諸侯王朱レ輪特虎居レ前、左レ兕右レ麋、小國朱レ輪畫二特熊一居レ前、寢麋居二左右一、白虎通亦曰、朱レ輪特熊居レ前、寢麋居二左右一、此謂下朱レ輪毎輪畫二一虎一居レ前、兕麋在二兩旁一、卻後而相並上、故虎稱レ特、左右謂二毎輪兩旁一也、寢、伏也、大國畫二特虎一、兕麋不レ寢、小國則畫二特熊一、寢麋無レ兕、天子乘輿、蓋畫二二寢兕一、居二輪左右一、畫二特虎一居レ前歟。

【寢室】28 シンシツ ㊀ねま。ねるへや。〔後漢書、蘇不韋傳〕遂得下傍二達暠之寢室一、出中其牀下上。〔魏書、崔浩傳〕初浩構二害李順一、基萌已成、夜夢秉レ火爇レ順、寢室火作而順死。㊁宮室に同じ。寢は正殿の意。〔禮、表記〕諸侯非二其國一不レ以レ筮、卜二宅寢室一。〔注〕唯宮室欲二改易一者、得レ卜レ之耳。㊂おたまやの後にある、衣冠を藏する御殿。寢廟(59)の㊀に同じ。〔宋書、禮志三〕遷主宜レ在二宣皇帝廟中一、然今無二寢室一、宜二變通而改築一。

【寢疾】29 シンシツ やまひのとこに伏す。病氣になる。〔禮、檀弓上〕蓋寢レ疾、七日而沒。〔穀梁、莊、三十二〕公薨二于路寢一、路寢、正寢也、寢レ疾居二正寢一、正也。〔韓詩外傳、三〕六月、文王寢レ疾五日。

【寢舍】30 シンシヤ いねやどる。又、其の家屋。〔晉書、天文志上〕宮門左星、內二星曰二大理一、主二平レ刑斷レ獄也、門外六星曰二天牀一、主二寢舍解息燕休一也。

【寢牀】31 シンシヤウ ねどこに臥す。又、ねどこにねかす。〔詩、小雅、斯干〕乃生二男子一、載寢二之牀一。〔晁補之、朝奉郎致仕陳君墓誌銘〕刻二意於學一、夜不レ寢レ牀。

【寢首】32 ネクビ 人のねてゐる所を不意うちをして取つた首。〔新永代藏、一〕親の寢首まで掻かんとせし惡人。

【寢宿】33 シンシユク ねとまりする。〔後漢書、陳蕃傳〕乃寢二宿冢藏一、而孕二育其中一、誑レ時惑レ衆。

【寢所】34 シンジヨ ねどこ。ふしど。〔甘澤謠〕遂及二寢所一。〔東鑑、一〕毎夜可レ候二于御寢所之近邊一。

【寢處】35 シンシヨ ねおきする。起臥する。〔左氏、襄、二十一〕然二子者、譬二於禽獸一、臣食二其肉一、而寢二處其皮一矣。〔孔子家語、五儀解〕寢處不レ時。

【寢繩】36 シンジヨウ ㊀身を眞直にして寢る。繩は、すみなは。〔淮南子、覽冥訓〕往古之時、云云、於レ是女媧鍊二五色石一、云云、枕レ方寢レ繩。〔注〕寢レ繩、直レ身而臥也。㊁太古無爲の世をいふ。〔小野篁、令義解序〕昔寢繩以往、不嚴之教易レ從。

【寢食】37 シンシヨク 寢ることと食ふこと。寢饋。寢膳。〔列子、天瑞〕杞國有下人憂二天地崩墜、身亡レ所レ寄、廢二寢食一者上。〔文中子、魏相〕北山黃公善レ醫、先二寢食一而後二針藥一。

〖忘二寢食一〗38 シンシヨクヲワスル 寢ることも食ふことも忘れる。物事に熱中する喩。〔蜀志、蔣琬傳〕然吳期二二三一、連不二克果一、俯仰惟艱、實忘二寢食一。〔蜀志、譙周傳〕耽レ古篤學、家貧未三嘗問二產業一、誦二讀典籍一、欣然獨笑、以忘二寢食一。

〖不レ知二寢食一〗39 シンシヨクヲシラズ 忘二寢食一に同じ。〔唐書、韋述傳〕觀レ書不レ知二寢食一。

【寢蓐】40 シンジヨク ねどこ。しとね。寢褥。〔後漢書、趙岐傳〕有二重疾一、臥レ蓐七年。〔注〕蓐、寢蓐也。

【寢褥】41 シンジヨク ねどこ。褥はふとん。〔重野成齋、早起之益〕六時以前出二寢褥一。

【寢睡】42 シンスイ ねむる。ねる。〔魏書、祖瑩傳〕父母寢睡之後、燃レ火讀レ書。

【寢石】43 シンセキ 横たはつてゐる石。〔荀子、解蔽〕冥冥而行者、見二寢石一以爲二伏虎一也。

【寢席】44 シンセキ ねや。〔韓非子、外儲說左上〕仲父諫曰、夫以二寢席之戲一、不レ足三以伐二人之國一、功業不レ可レ冀也、請無二以レ此爲レ規也。

【寢苫】45 シンセン とまの上に寢る。不安困苦の生活をいふ。㊀喪に居ること。〔儀禮、喪服傳〕居二倚廬一、寢レ苫。〔疏〕寢レ苫者、哀二親之在レ草故也。〔禮、閒傳〕父母之喪、居二倚廬一、寢レ苫枕レ塊。〔墨子、節葬下〕處二倚廬一、寢レ苫枕レ凷。㊁父母の仇を報ずる者の辛苦する喩。〔禮、檀弓上〕子夏問二於孔子一曰、居二父母之仇一、如レ之何、夫子曰、寢レ苫枕レ干不レ仕、弗三與二共天下一也。〔孔子家語、曲禮子夏問〕寢レ苫枕レ干不レ仕、弗三與二共天下一也。

【寢薦】46 シンセン 士庶人の家の祭祀。牲のあるを祭、牲なきを薦といひ、士庶人には家廟なく、禮を居室で行ふから寢薦といふ。寢は適室、おもてざしき。〔禮、王制〕庶人祭二於寢一。〔疏〕庶人祭レ寢、謂是庶人在二官府史一之屬、及尋常庶人、此祭謂レ薦レ物、以二其無レ廟故惟薦而已。〔莊有可集說〕庶人之力、本多不レ能二殺レ牲以祭一、記言レ祭レ寢、亦止古所謂薦。

【寢膳】47 シンゼン 寢ることと食ふこと。寢食。〔李商隱、爲二崔從事一寄二尙書彭城公一啓〕伏惟、鎭二安寢膳一、勉二護興居一。

【寢息】48 シンソク ㊀やすむ。いねいこふ。〔潘岳、悼亡詩〕寢息何時忘、沈憂日盈積。㊁やむ。無くなる。〔魏志、崔林傳〕在レ官一期、寇竊寢息。

【寢臺】49 シンダイ ねだい。

〖寢臺車〗49′ シンダイシヤ 寢臺の設備ある鐵道車輛。

【寢帳】50 シンチヤウ 寢室のとばり。〔李賀、賦二畫江潭苑一詩〕涙痕霑二寢帳一、勻粉照二金鞍一。

【寢庭】51 シンテイ 正殿の庭。〔左氏、成、六〕韓獻子將二新中軍一、云云、公揖而入、獻子從、公立二於寢庭一。

【寢殿】52 シンデン ㊀正殿。〔元稹、連昌宮詞〕寢殿相連端正樓、太眞梳洗樓上頭。㊁ねる部屋。寢室。〔唐書、吳兢傳〕有下上書益二於政一者上、皆黏二寢殿之壁一、坐望臥觀。㊂おたまやの後にある、衣冠を藏する御殿。寢廟。〔後漢書、祭祀志下〕古不二墓祭一、漢諸陵皆有二園寢一、承二秦所レ爲也、說者以、古宗廟、前制レ廟後制レ寢、以象二人之居一、前有レ朝後有レ寢也、月令有三先薦二寢廟一、詩稱二寢廟奕奕一、言二相通一也、廟以藏レ主、以二四時一祭、寢有二衣冠几杖一、象二生之具一、以薦二新物一、秦始出レ寢起二于墓側一、漢因而復改、故陵上稱二寢殿一、起居衣服、象二生人之具一、古寢之意也。㊃天子の陵上の正殿。〔後漢書、章帝紀、藏二主於光烈皇后更衣別室一、注〕園中有レ寢、有二便殿一、寢者陵上正殿、便殿寢側之別殿、卽更衣也。〔魏志、文帝紀〕壽陵因レ山爲レ體、無レ爲二封樹一、無下立二寢殿一、造二園邑一、通中神道上。〔宋書、禮志二〕壽陵因レ山爲レ禮、無レ封無レ樹、無下立二寢殿一、造二園邑一、通中神道上。

〖寢殿造〗53 シンデンヅクリ ㊀中古時代、貴族の住宅の作り方。中央に南面の七間四面の正殿があつて、主人常住の所とし、東西又は北に家があり、家族の居る所とする。寢殿と家とは渡殿を以て通じ、寢殿の前に池を作り、泉殿・釣殿等を設けるもの。尙、此の建築様式は、應仁以後大いに變改せられた。㊁屋根が四阿造（アヅマヤヅクリ）になつている建物。

【寢頓】54 シントン やみとどまる。やみすたれる。頓はとどまる、又、やぶれる。〔北史、魏孝文帝紀〕詔

曰、云云、祠典寢頓、禮章殄滅。〔皇甫謐、三都賦序〕風雅寢頓、於レ是賢人失レ志、詞賦作焉。

【寢番】55（ネバン） 宿直の番。とまりばん。〔教令類纂、初編、四十〕元和九年五月十日、寢番之輩、酉刻已前に可二罷出一。

【寢寐】56（シンビ） ねる。ねむる。寢は床に就く意、寐はねむる意。〔司馬相如、長門賦〕忽寢寐而夢想兮、魂若二君之在一レ傍。〔李華、弔二古戰場一文〕悁二悁心目一、寢寐見レ之。

【寢病】57（シンビャウ） やまひのとこにふす。〔後漢書、宋均傳〕均常寢レ病、百姓耆老爲二禱請一。〔孔子家語、終記解〕遂寢レ病、七日而終。

【寢兵】58（シンペイ） 戰爭をやめる。〔管子、立政〕寢兵之說勝、則險阻不レ守。

【寢廟】59（シンベウ） ㊀おたまや。古、宗廟の制に於て、前の建物を廟といひ、後の建物を寢といふ。生人の居に象どつたもので、廟を以て主とする。廟は祖先の尊像木主等を安置し、四時の祭をするところ。寢は衣冠几杖等を藏するところ。寢殿(52)の㊁を見よ。〔詩、小雅、巧言〕奕奕寢廟、君子作レ之。〔禮、月令〕寢廟畢備。〔注〕凡廟、前曰レ廟、後曰レ寢。〔疏〕廟、是接レ神之處、其處尊、故在レ前、寢、衣冠所レ藏之處、對レ廟爲レ卑、故在レ後、但廟制有二東西廂一、有二序牆一、寢制唯室而已。〔左氏、襄、四〕民有二寢廟一、獸有二茂草一。〔莊子、庚桑楚〕觀レ室者周二於寢廟一。〔呂覽、季春紀〕天子薦二鮪于寢廟一。〔注〕前曰レ廟、後曰レ寢。〔史記、叔孫通傳〕先帝園陵寢廟、羣臣莫二能習一。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕大風自レ西搖二祖宗寢廟一。㊁寢と廟。寢は人の居る表座敷、廟は神のやどるおたまや。〔詩、大雅、崧高〕寢廟既成。〔疏〕寢、人所レ處、廟、神所レ處、神亦有レ寢、但此宜三總據二人神一、不レ應三獨言二廟事一、故以爲二人寢一也。

【寢謀】60（シンボウ） はかりごとをやめる。〔唐書、裴度傳〕臣聞、汲黯在レ朝、淮南寢レ謀。

【寢嘿】61（シンモク） だまる。沈默。嘿は默に同じ。〔後漢書、袁安傳〕寢嘿抑レ心、更非二朝廷之福一。

【寢門】62（シンモン） 寢殿の門。奧御殿の門。寢門。〔儀禮、士昏禮〕主人揖レ婦以入、及二寢門一。〔禮、曲禮上〕客至二於寢門一。〔疏〕寢門、最內門也。〔禮、檀弓上〕吾哭二諸寢門之外一。〔禮、文王世子〕雞初鳴而衣レ服、至二於寢門外一、問二內豎之御者一。〔左氏、宣、二〕使二鉏麑賊一レ之、晨往、寢門闢矣。〔會箋〕既踰二大門一而入、及二寢門一則既闢矣。〔說苑、辨物〕今夢三黃熊入二於寢門一。

【寢容】63（シンヨウ） 風采があがらぬやぼな容貌。寢陋。〔吳越春秋、句踐陰謀外傳〕不レ以二鄙陋寢容一、願納以供二箕箒之用一。〔注〕貌不レ揚曰レ寢。

【寢耒】64（シンライ） 用ひぬすき。〔呂覽、上農〕奪二民時一、大饑乃來、野有二寢耒一、或談或歌。

【寢陋】65（シンロウ） 風采があがらぬ。野暮。みにくい。寢容。侵陋。〔唐書、鄭注傳〕貌寢陋、不レ能二遠視一。

【寢不レ言】66（イヌルニモノイハズ） とこに入つては物を言はぬ。孔子が日常の起居を苟しくもしなかつたこと。〔論語、鄕黨〕食不レ語、寢不レ言。〔集說〕皇侃云、寢是眠臥、須レ靜、若言則驚二鬧於人一、故不レ言也。

【寢不レ尸】67（イヌルニシセズ） 寢ても死人の樣な恰好をせぬ。孔子が日常の起居を苟しくもしなかつたこと。尸は死屍。〔論語、鄕黨〕寢不レ尸、居不レ容。〔集注〕尸、謂三偃臥似二死人一也。

【寢不レ夢】68（イネテユメミズ） 寢て夢をみぬ。精神の安らかな喩。〔莊子、大宗師〕古之眞人、其寢不レ夢、其覺無レ憂。

【寢呆氣】69（ネボケ） ねぼけること。ぼんやりすること。

【寢閤召命】70（シンカフニセウメイス） 寢室に召して命ずる。閤もねやをいふ。〔林鶴梁、東湖遺稿序〕高宗於二武穆一、寢閤召命。

【寢不レ安レ席】71（イネテセキニヤスンゼズ） 寢ても落ついて眠れない。心の安んぜぬ喩。〔漢書、郊祀志下〕食不レ甘レ味、寢不レ安レ席。〔曹植、求二自試一表〕寢不レ安レ席、食不レ遑レ味者。

【廢レ寢忘レ餐】72（シンヲハイシサンヲワスル） 心を奪はれて寢食を忘れる。物事に熱中する喩。〔元喬吉、兩世姻緣雜劇〕若將二這脈一來憑、多二管是廢レ寢忘レ餐的病症一。

【忘二寢與一レ食】73（シントシヨクトヲワスル） 寢食を忘れる。物事に熱中する喩。〔蜀志、許靖傳〕憂瘁慘慘、忘二寢與一レ食。

【寣】7290 〔集韻〕呼骨切 コツ コチ 月。

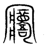
小篆

㊀**おびえる。**〔說文〕寣、臥驚也、从二㝱省一从レ言。㊁**めざめる。**〔廣韻〕寣、睡覺也。〔說文通訓定聲〕寣、廣雅釋詁、寣、覺也、蘇俗語、略略睡曰二困一寣一。㊂**小兒の啼く聲。**〔說文〕寣、一曰、小兒號寣寣也。〔玉篇〕寣、小兒啼寣寣也。㊃**よぶ。**〔說文〕寣、一曰、河內相評也。

解字 會意。㝱の省畫宀と言との合字。㝱は夢に同じく、夢見ることで、之に言を加へて、夢見て驚いて聲を發すること、卽ちおびえる意を示す。又、小兒の泣き號ぶ聲、又、相呼ぶ意とし、發語の辭等とする。

【寤】7291 〔集韻〕五故切 ゴ ㄨˋ wu^4 遇。

小篆


古文

㊀**さめる。めざめる。**〔說文〕寤、寐覺而有レ言曰レ寤、从二㝱省一吾聲。〔詩、周南、關雎〕寤寐求レ之。〔傳〕寤、覺也。〔史記、趙世家〕七日而寤。㊁**ゆめ。**晝に見聞したことを夢にみる。〔說文〕寤、一曰、晝見而夜㝱也。〔列子、周穆王〕四曰、寤夢。〔注〕寤夢、覺時道レ之而夢。㊂**さとる。**悟(4－10680)に通ず。〔說文通訓定聲〕寤、叚借爲レ悟。〔淮南子、要略〕欲二一言而寤一。〔後漢書、班固傳〕仰寤二東井之精一。〔注〕寤、猶レ曉也。〔張衡、東京賦〕盍下亦覽二東京之事一以自寤上乎。〔注〕綜曰、自寤、自覺寤也。㊃**さかさ。**牾(7－20028)に通ず。〔說文通訓定聲〕寤、叚借爲レ牾。〔左氏、隱、元〕莊公寤生、驚二姜氏一。〔會箋〕寤、卽牾之假借。㊄籒文は𥧀(3－7398)に作る。〔集韻〕寤、籒作レ𥧀。㊅或は害(3－7157)に作る。〔集韻〕寤、或省。㊆晤(5－13956)に通ず。〔詩、陳風、東門之池〕彼美淑姬、可二與晤言一。〔列女傳、賢明、魯黔婁妻傳〕詩曰、彼淑美姬、可二與寤言一。

【寤伊】1（ゴイ） 淸、沈齊賢(6－17189··570)の字。

【寤歌】2（ゴカ） さめて歌ふ。心に忘れ難い喩。〔詩、衞風、考槃〕獨寐寤歌、永矢弗レ過。

【寤懷】3（ゴクワイ） 目ざめておもふ。ねてもさめても思ふ。寤寐に思ふ。〔楚辭、九歌、河伯〕日將レ暮兮悵忘レ歸、惟二極浦一兮寤懷。

【寤言】4（ゴゲン） ㊀さめてもの言ふ。目ざめて獨言をいふ。心に忘れがたい喩。〔詩、衞風、考槃〕獨寐寤言、永矢弗レ諼。〔箋〕在レ澗獨寐、覺而獨言。〔陸機、於二承明一作與二士龍一詩〕寤言涕交レ纓。㊁共に話す。向ひ合つて話す。晤言(5－13956··5)に同じ。〔列女傳、賢明、魯黔婁妻傳〕詩曰、彼美淑姬、可二與寤言一。

【寤宿】5（ゴシュク） 目がさめて、なほ起きずにねたまゝでゐること。〔詩、衞風、考槃〕獨寐寤宿、永矢弗レ告。〔集傳〕寤宿、已覺而猶臥也。

【寤生】6（ゴセイ） ㊀胎兒の異常出產で、三說がある。㋑母の睡眠中に生れること。〔左氏、隱、元〕初鄭武公娶二于申一曰二武姜一、生二莊公及共叔段一、莊公寤生、驚二姜氏一、故名曰二寤生一、遂惡レ之。〔注〕寐寤而莊公已生、故驚而惡レ之。〔疏〕謂下武姜寐時生二莊公一、至レ寤始覺中其生上。㋺眼を開いて生れ出ること。〔太平御覽、人事部、產〕風俗通曰、不レ擧二寤生子一、俗說、兒墮レ地未二能開一レ目視一者、謂二之寤生一、擧二寤生子一妨二父母一、謹按、春秋左氏傳、鄭武公娶二於申一曰二武姜一、生二莊公及共叔段一、莊公寤生、驚二姜氏一、因名二寤生一、武公老終二天年一、姜氏亦然、安有レ妨二其父母一乎。㋩足を先にして生れること。さか子。逆生子。寤は牾。〔說文通訓定聲〕寤、叚借爲レ牾、左氏隱元年、莊公寤生、按、足先見、逆生也。〔左氏、隱、元、輯釋〕衡案、史記鄭世家記二此事一云、生二太子一寤生、產レ之難、蓋寤卽牾

之假借、管子七臣七主篇、不レ牾則國失レ勢、劉績云、牾、或作レ悟、覺悟之悟也、今案、寤・悟・牾、皆以レ吾爲レ聲、聲同則義通、寤、當ニ讀爲レ牾、牾、逆也、子生先出レ足、今猶レ謂ニ之逆生一、其產最難、卽史遷所レ云產レ之難也、莊公逆生、故莊姜驚而惡レ之、寐寤而已生、世恐無ニ此事一、卽有レ之、當ニ喜而愛レ之、而驚而惡レ之、非ニ人情一也。㊁春秋、魯の莊公の名。寤生であつたからいふ。㊀を見よ。〔左氏、隱、元〕莊公寤生、驚ニ姜氏一、故名曰ニ寤生一、遂惡レ之。〔史記、鄭世家〕生ニ太子寤生一、生レ之難。

【寤然】7（ゴゼン） さとるさま。さめるさま。〔新序、雜事一〕靈公蹴然易レ容、寤然失レ位。

【寤歎】8（ゴタン） さめて嘆く。目覺めて嘆息する。忘れてゐるのはねむつた間だけの意。又、寤嘆に作る。〔詩、曹風、下泉〕愾我寤嘆、念ニ彼周京一。〔詩、小雅、大東〕契契寤歎、哀ニ我憚人一。

【寤寐】9（ゴビ） 目ざめることとねること。ねてもさめても。〔詩、周南、關雎〕窈窕淑女、寤寐求レ之。〔傳〕寤、覺、寐、寢也。〔詩、陳風、澤陂〕寤寐無レ爲、涕泗滂沱。〔漢書、外戚、班倢伃傳〕每寤寐而絫息兮、申佩離以自思。〔後漢書、和帝紀〕寤寐歎息、想ニ望舊京一。〔吳志、周魴傳〕每獨矯レ首西顧、未ニ嘗不ニ寤寐勞歎、展轉反側一也。〔陸機、贈ニ從兄車騎一詩〕寤寐靡ニ安豫一。

〔寤寐思服〕10（ゴビニモシフクス） 寐ても寤めても忘れぬ。〔詩、周南、關雎〕窈窕淑女、寤寐求レ之、求レ之不レ得、寤寐思服。

【寤摽】11（ゴヘウ） 寤めて胸を打つ。心に憂のあるさま。摽は、心をうつ。〔詩、邶風、柏舟〕靜言思レ之、寤辟有レ摽。〔集傳〕摽、拊レ心貌。

【寤夢】12（ゴム） ㊀晝間見聞したことを夜夢みる。〔周禮、春官、占夢〕四曰、寤夢。〔注〕覺時道レ之而夢。〔疏〕以ニ其字爲ニ覺寤之字一、故知ニ覺寤時道レ之、睡而夢一也。〔孔子家語、五儀解〕寤夢徵怪、所ニ以儆ニ人臣一者也。㊁ねることとさめること。寤寐。〔漢書、外戚上、李夫人傳〕宵寤夢之芒芒。

【寤匡子】13（ゴガイシ） 淸、劉熙載（**2**－**2224**··784）の號。

【寤敬解】14（ゴケイカイ） 逸周書の篇名。

【寥】

7292

🈩レウ　〔集韻〕憐蕭切　ㄌㄧㄠˊ　liao²　蕭

🈔レキ（リヤク）　〔集韻〕狼狄切　錫

🈪ラウ（レウ）　〔集韻〕力交切　肴

🈩㊀**むなしい**。廖（**4**－**9525**）に同じ。〔說文〕廖、空虛也、从レ广膠聲。〔段注〕此今寥字。〔集韻〕廖、或作レ寥。〔老子、二十五〕寂兮寥兮。〔注〕寥者、空無レ形。㊁**しづか**。**さびしい**。〔玉篇〕寥、寂也。㊂**ふかい**。〔廣雅、釋詁三〕寥、深也。㊃**大きい**。〔玉篇〕寥、廓也。㊄**そら**。〔范成大、望海亭賦〕騰ニ駕碧寥一。㊅**姓**。〔萬姓統譜〕寥貴、鄖西人、天順閒永春縣丞。🈔㊀**をさまる**。〔廣雅、釋詁四〕寥、藏也。㊁**しづか**。人のゐないさま。寂寥。或は⿸广歷（**3**－**7370**）に作る。〔集韻〕寥、寂寥、無レ人也、或从レ歷。㊂**ふかい**。〔廣韻〕寥、又深也。🈪**深く遠いさま**。窐寥。〔集韻〕寥、窐寥、深遠皃。

【寥焉】1（レウエン） さびしいさま。寥乎（7）に同じ。

【寥廓】2（レウクワク） ㊀むなしい。からりとして廣い。空しくひろいさま。又、廣々とした上空。寥豁。寥闊。〔素問、五常政大論〕太虛寥廓、五運迴薄。〔楚辭、遠遊〕下崢嶸而無レ地兮、上寥廓而無レ天。〔注〕空無レ形也、寥、一作レ嵺。〔補注〕師古云、寥廓、廣遠也。〔史記、賈誼傳〕寥廓忽荒兮、與レ道翺翔。〔漢書、賈誼傳〕寥廓忽荒、與レ道翺翔。〔漢書、司馬相如傳下〕猶ニ焦朋已翔ニ乎寥廓一。〔注〕師古曰、寥廓、天上寬廣之處。〔司馬相如、難ニ蜀父老一文〕猶ニ鷦鵬已翔ニ乎寥廓之宇一。〔注〕善曰、爾雅曰、寥、深也、空廓寥寥也。〔晉書、文苑傳論〕懷ニ天地之寥廓一。〔晉書、潘尼傳〕翔ニ乎寥廓之宇一。〔陸機、歎逝賦〕或冥邈而既盡、或寥廓而僅半。〔注〕善曰、廣雅曰、寥、深也、廓、空也。〔左思、詠史詩〕長卿還ニ成都一、壁立何寥廓。〔注〕翰曰、寥、虛、廓、空也。㊁分れぬさま。天地の氣の未だ分れぬさま。〔潘岳、西征賦〕古往今來、邈矣悠哉、寥廓忽恍、化ニ一氣一而甄ニ三才一。〔注〕善曰、寥廓忽恍、未レ分之貌也、翰曰、寥廓忽恍、謂下天地未レ開、爲ニ一氣一、其後化ニ此一氣一、分成中三才上也。㊂度量のひろいこと。〔史記、鄒陽傳〕天下寥廓之士。〔漢書、鄒陽傳〕今欲レ使下天下寥廓之士、籠ニ於威重之權一、脅ニ於位勢之貴一、回レ面汙レ行、以事ニ諂諛之人一、而求中親近於左右上。〔注〕師古曰、寥廓、遠大之度也。〔後漢紀、光武紀四〕今得レ見ニ陛下一、寥廓大度、同ニ符高祖一、乃知ニ帝王自有レ眞也。㊃遠く久しい。久遠。〔漢書、揚雄傳上〕歷ニ五帝之寥廓一、涉ニ三皇之登閎一。〔注〕師古曰、寥廓、空曠也。

【寥豁】3（レウクワツ） むなしくひろいさま。がらんとして物淋しいさま。豁は空。寥廓の㊀に同じ。〔後漢書、馬融傳〕寥豁鬱泱。〔注〕並廣大貌。〔張望、貧士詩〕毀屋正寥豁。

【寥闊】4（レウクワツ） むなしくひろいさま。寥廓の㊀に同じ。〔杜甫、秦州見ニ敕目一云云兼述ニ索居一詩〕大雅何寥闊、斯人尚典刑。

【寥闃】5（レウゲキ） 靜かでさびしい。ひつそりして物淋しい。闃は、ひつそり靜かなさま。〔盧鴻、終南十志、枕煙庭詩序〕登レ焉則寥闃戃恍。〔師拓、冬夜詩〕此抱誰與知、乾坤夜寥闃。

【寥泬】6（レウケツ） 深い。泬も深い意。〔江淹、雜體、謝臨川遊山詩〕丹井復寥泬。〔注〕向曰、寥泬、深也。

【寥乎】7（レウコ） 靜かなさま。さびしいさま。寥焉。寥然。〔遼史、樂志〕咸韶、夏武之樂、聲亡、書逸、河閒作レ記、史遷因以爲レ書、寥乎希哉、遼之樂觀ニ乎此一而足矣。

【寥窲】8（レウサウ レウレウ） 奧深いさま。窲も奧深いさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕霐寥窲以崢嶸。〔注〕善曰、霐寥窲崢嶸、皆幽深之貌。向曰、霐寥窲崢嶸、深邃貌。

【寥邃】9（レウスイ） 奧深い。〔吳均、天柱山天柱觀記〕雖ニ極寥邃莫レ測、蓋與ニ林屋華陽一密通ニ上帝之陰宮一。

【寥然】10（レウゼン） さびしいさま。寥乎（7）に同じ。

【寥天】11（レウテン） 太虛をいふ。太虛（**3**－**5834**··90）の㊀を見よ。〔宋之問、使至ニ嵩山一尋ニ杜四一不レ遇慨然復傷ニ田洗馬韓觀主一因以題レ壁贈ニ杜侯杜四一詩〕笙歌入ニ玄地一、詩酒生ニ寥天一。〔李白、大庭庫詩〕我來尋ニ梓愼一、觀レ化入ニ寥天一。

【寥天一】12（レウテンノイツ） 太虛の境。寥廓たる天の太一。〔莊子、大宗師〕安排而去レ化、乃入ニ於寥天一一。〔注〕安ニ於推移一而與レ化俱去、故乃入ニ於寂寥一、而與レ天爲レ一也。〔疏〕所在皆適、故安ニ任推移一、未ニ始非レ吾、而與レ化俱去、如レ此之人、乃能入ニ於寥廓之妙門、自然之一道一也。

〔寥天一閣〕13（レウテンイツカク） 淸、譚嗣同（**10**－**35978**··6）の室名。

【寥賴】14（レウライ） たよる。聊賴。〔易林、困之ニ小過一〕身無ニ寥賴一、困窮絕糧。〔陳琳、更ニ公孫瓚一與ニ子書〕日窮月蹙、無レ所ニ聊賴一。

【寥狼】15（ラウラウ） かき亂す。あとかたもなく亂す。〔後漢書、文苑、杜篤傳〕捶ニ驅氏僰一、寥ニ狼邛莋一。〔注〕寥狼、猶ニ擊擾一也。

【寥朗】16（ラウラウ） むなしくあきらか。〔孫綽、遊ニ天台山一賦〕恣ニ心目之寥朗一。〔注〕善曰、寥朗、謂ニ心虛目明一也。

【寥落】17（レウラク） ㊀星などの少いさま。まばら。〔謝朓、京路夜發詩〕曉星正寥落。〔注〕善曰、寥落、星稀之貌也。㊁おちぶれたさま。〔戴叔倫、除夜宿ニ石頭驛一詩〕寥落悲ニ前事一、支離笑ニ此身一。㊂あはてて凄じい。さびしい。〔王建、故行宮詩〕寥落故行宮、宮花寂寞紅。〔白居易、池上詩〕若爲ニ寥落境一、仍値ニ酒初醒一。

〔寥若晨星〕18 liao² juo⁴ ch'en² hsing¹ 極めて稀なこと。又、人物が少い。寥落の㊀に本づく。

【寥亮】19（レウリヤウ） 聲高くほがらかにひびく。嘹亮。〔向秀、思舊賦序〕鄰人有ニ吹レ笛者一、發レ聲寥亮。〔陶潛、閑情賦〕終寥亮而藏摧。〔王儉、褚淵碑文〕金聲玉振、寥ニ亮於區宇一。〔李百藥、笙賦〕則散朗寥亮。

【寥戾】20（レウレイ） ㊀聲が清くすむさま。寥唳。〔謝朓、從戎曲〕寥戾清笳轉、蕭條邊馬煩。㊁風のすさまじい音。〔王褒、四子講德論〕虎嘯而風寥戾。〔注〕銑曰、寥戾、風聲。

【寥唳】21（レウレイ） 雁などの聲の清くすむさま。寥戾。〔謝惠連、秋懷詩〕蕭瑟含レ風蟬、寥唳度レ雲鴈。〔注〕濟曰、蕭瑟・寥唳、皆聲也。

【寥寥】22 レウレウ ❶さびしく靜かなさま。寂寞。寂寥。〔祖詠、蘇氏別業詩〕寥寥人境外、閑坐聽二春禽一。〔劉長卿、過二鄭山人所居一詩〕寂寂孤鶯啼二杏園一、寥寥一犬吠二桃源一。〔盧照鄰、長安古意〕寂寂寥寥揚子居、年年歲歲一牀書。❷空虛なさま。〔呂覽、情欲〕九竅寥寥。〔注〕極二三關之欲一、以病二其身一、故九竅皆寥寥然虛。〔潘岳、寡婦賦〕仰二神宇之寥寥一。〔左思、詠史詩〕寥寥空宇內、所レ講在二玄虛一。❸少いさま。稀少。〔權德輿、舟行見レ月詩〕月入二孤舟一夜半晴、寥寥霜雁兩三聲。

【㝢】7293 オウ ウ 〔集韻〕烏侯切 [尤]

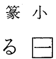
闇㝢は夷人の家。〔集韻〕㝢、闇㝢、夷人屋。

【實】7294

[一]シツ ジチ 〔集韻〕食質切 ㄕ shih² [質]

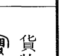
[二]シ 〔正字通〕脂利切 [寘]

[慣]ジツ


小篆

[一]❶みつ。みちる。㋑一杯になる。〔禮、玉藻〕盛氣顚實。〔疏〕實、滿也。㋺ふさがる。〔廣雅、釋詁三〕實、塞也。㋩さかえる。〔墨子、經、上〕實、榮也。㋥さかん。〔素問、調經論〕陰之生實奈何。〔注〕實、謂二邪氣盛一也。㋭そなはる。足りる。〔後漢書、第五倫傳〕蜀地肥饒、人吏富實。㋬手がたい。〔孫子、虛實〕避レ實而擊レ虛。㋣のびる。そだつ。生ひたつ。〔淮南子、時則訓〕四月草木不レ實。〔注〕實、長。❷みたす。㋑一杯にする。〔楚辭、宋玉、招魂〕實二羽觴一些。〔注〕實、滿也。㋺盛る。〔孟子、滕文公下〕實二玄黃于匪一。㋩あてる。〔書、呂刑〕閱二實其罪一。〔傳〕使下與二罰名一相當上。㋥せめをふさぐ。〔左氏、襄、二十二〕而以爲二口實一。〔注〕但有二其言一而已。㋭まことにする。實行する。〔左氏、宣、十二〕實二其言一。〔注〕實、猶レ充也。❸みのる。〔禮、月令〕乃爲レ麥祈レ實。〔注〕謂下於二含秀一求中其成上也。〔論語、子罕〕秀而不レ實者有矣夫。❹み。〔禮、祭統〕草木之實。〔注〕蔆芡榛栗之屬。〔國語、晉語二〕已賴二其地一、而又受二其實一。〔注〕實、穀也。〔呂覽、貴信〕果實不レ生。〔注〕在レ木曰レ實。❺たね。〔詩、周頌、載芟〕實函二斯活一。〔箋〕實、種子也。〔穀梁、僖、三十三〕實之爲レ言、猶レ實也。〔注〕實、子。❻たち。素質。本質。〔淮南子、泰族訓〕知二械機一而實衰。〔注〕實、質也。❼なかみ。內容。〔易、歸妹〕女承レ筐无レ實。〔國語、晉語八〕吾有二卿之名一、而無二其實一。❽あと。行跡。事跡。〔國語、周語上〕而咨二於故實一。〔注〕故實、故事之是者。〔呂覽、審應〕取二其實一以責二其名一。〔注〕實、德行之實也。❾てがら。功實。〔孟子、告子下〕先二名實一者爲レ人也。〔注〕實、治國惠民之功實也。❿たしかめる。しらべる。〔淮南子、精神訓〕吾將二擧レ類而實一レ之。〔注〕實、明。〔後漢書、順帝紀〕使乙各實下二千石以下至二黃綬一、年老劣弱、不レ任二軍事一者上上甲名。〔注〕實、謂三驗二實之一也。⓫いつはりなく申出る。〔史記、秦始皇紀〕使二黔首自實一レ田。⓬とみ。たから。〔說文〕實、富也、从二宀貫一、貫爲二貨物一。〔段注〕貨物充二於屋下一、是爲レ實。〔左氏、文、十八〕聚斂積レ實。〔注〕實、財也。⓭地。大地。〔淮南子、原道訓〕獸蹠レ實而走。〔注〕實、地也。⓮爵祿。〔呂覽、下賢〕既受二其實一。〔注〕實、猶二爵祿一也。⓯えもの。ぶんどりもの。〔左思、吳都賦〕數二軍實於桂林之苑一。〔注〕劉曰、鄭氏曰、軍實、所レ獲也。⓰みつぎもの。供へもの。〔周禮、夏官、量人〕喪祭奠竁之俎實。〔後漢書、班彪傳〕於レ是庭實百品。〔注〕庭實、貢獻之物。⓱まこと。㋑完全無缺。〔禮、禮運〕此順之實也。〔注〕實、猶二誠也、盡也一。㋺まごころ。〔廣雅、釋詁一〕實、誠也。〔楚辭、劉向、九歎、逢紛〕后聽レ虛而黜レ實兮。〔注〕實、誠也。㋩眞なるもの。實在。〔素問、調經論〕有者爲レ實。〔淮南子、原道訓〕實出二於虛一。⓲まことに。㋑まさしく。〔詩、大雅、生民〕實覃實訏。〔箋〕實之言、適也。㋺つひに。〔呂覽、務大〕其實無二不レ安者一。〔注〕實、猶レ終也。㋩發語の助辭。〔爾雅、釋詁〕實、是也。〔詩、小雅、頍弁〕實維伊何。〔箋〕實、猶レ是也。⓳**數學で乘法に於ける被乘數、又、除法に於ける被除數をいふ。**實數(132)の❶をみよ。⓴古は寀(**4−8592**)・宗(**3−7164**)に作る。〔集韻〕實、古作二寀・宗一。㉑寔(**3−7244**)に通ず。〔詩、大雅、韓奕〕實墉實壑。〔箋〕實、當レ作レ寔、趙魏之東、實・寔同聲。㉒姓。〔萬姓統譜〕實沈之後、以レ名爲レ氏。[二]いたる。至(**9−30142**)に通ず。〔禮、雜記〕使二某實一。〔注〕實、當レ爲レ至、此讀、周秦之人聲之誤也。[邦]じつ。㋑芝居の語。惡人にいでたつて演ずること。實惡。㋺親切な心。愛情。

[名乘] コレ。サネ。チカ。ツネ。マ。ミ。ミツ。ミノル。ミル。

[解字] 會意。宀と貫との合字。貫は貨物、宀は屋、貨物が屋下にみちる。故に本義を富む義とし、轉じて、草木のみのる意、又、凡そみちふさがるの意に用ひる。〔說文〕實、富也、从二宀貫一、貫爲二貨物一。〔段注〕以二貨物一充二於屋下一、是爲レ實。▽  (金文) 會意。宀と貝と周との合字。屋下に財貨がゆきわたる、みちる意。

【實惡】1 ジツアク 芝居で殘忍な惡人に扮する役。公家惡などの對。〔古今役者大全、一、立役・敵役・實惡・惡人形〕。

【實菴】2 ジツアン 字號。❶清、李芳華(**6−14459**··185 3)の字。❷清、易宗涒(**5−13814**··211)の號。❸清、柯煜(**6−14658**··1)の號。❹清、黃秀(**12−47926**··440)の號。❺清、曹貞吉(**5−14297**··292)の號。❻清、陳元鼎(**11−41698**··832)の字。

【實意】3 ジツイ ❶本心。まごころ。深切。〔蘇軾、吾謫二海南一子由雷州被レ命卽行了不二相知一至レ梧乃聞二其尚在レ藤也旦夕當二追及一作レ詩示レ之詩〕平生學レ道眞實意、豈與二窮達一俱存亡。❷心をまことにする。〔鬼谷子、本經陰符〕實レ意法二螣蛇一。

【實印】4 ジツイン 官に屆けておもてむきの證明に用ひる個人の印章。〔德川禁令考、六十、戶籍〕人別送、云云、本文名主共、實印可レ仕儀に御座候處。

【實有】5 ジツウ 常住不變の實體。假有(**1−835**··7)の對。〔徒然草〕物皆虛妄なれど、誰れか實有の「相に著せざる。

【實益】6 ジツエキ 實際の利益。

【實演】7 ジツエン 實際に演ずる。實際にしてみせる。

【實家】8 ジツカ 自分の生れた家。生家。養家・婚家の對。

【實價】9 ジツカ かけねの無いねだん。正價。〔福惠全書、蒞任部、定買辦〕開二明實價一、當レ堂具レ領給發。

【實行】10 ジツカウ ❶まことにおこなふ。實際に行ふ。履行する。〔韓非子、說疑〕去二此五者一、則譟詐之人、不二敢北面談立一、文言多、實行寡而不レ當レ法者、不二敢誣レ情以談說一。〔風俗通、過譽〕其俗士大夫本矜、好二大言一而少二實行一。❷犯罪成立の要素たる實際の行爲。❸ジツギヤウ 清の僧。山陰林氏の子。字は奕菴。雁山能仁寺に居る。著に雁山圖志がある。〔四庫提要、七十六〕。

【實行力】11 ジツカウリヨク 實行する能力。

【實行委員】12 ジツカウヰヰン 實行の衝に當る爲に擧げられた委員。

【實行中止犯】13 ジツカウチユウシハン 或る罪を犯して後、

犯人自ら其の犯罪の結果の生ずるのを妨げること。例へば、人に毒藥を呑ませて後、解毒藥を服用させる等の類。

〔實行未遂犯〕14 或る罪を犯して後、他からの障害舛錯のために其の目的を遂げ得ないこと。

【實效】15 實際の効果。〔漢書、王吉傳〕會二御史大夫缺一、谷永奏言、聖王不下以二名譽一加中於實效上。

【實核】16 果實のたね。しん。〔論衡、初稟〕草木生二於實核一云云、爲二長短巨細一、皆由二實核一。

【實确】17 確かめ取りしらべる。确は、しらべる意。〔釋名、釋宮室〕獄、确也、實二确人之情僞一也。

【實覈】18 事實をしらべる。〔後漢書、章帝紀〕實二覈尤貧者一、計レ所レ貸幷與レ之。

【實學】19 實踐躬行の學。又、實用の學問。〔朱熹、中庸章句〕其味無レ窮、皆實學也。〔經學歷史、經學復盛時代〕推二崇實學一、以矯二空疏一。

【實感】20 實在の物體に接して生ずる實際の「感情。

【實鑒】21 實際のかがみ。實際の手本。〔郭璞、山海經圖贊、乘黃〕實鑒有德、乃集二厥阜一。

【實紀】22 事實を記載したもの。實記。〔漢書、律歷志下〕傳曰、大火閼伯之星也、實紀、商人後爲二成湯一。

【實氣】23 ㊀氣をみたす。〔國語、周語中〕五味實レ氣、五色精レ心。〔夏侯湛、石榴賦〕雪レ醒解レ餌、怡レ神實レ氣。㊁まごころ。赤心。

【實記】24 實紀に同じ。〔文藝類纂、三〕右に引るは、實記の物語にして。

【實技】25 實際の技術。理論の對。

【實義】26 佛眞實の義理。〔華嚴經、二十九〕分二別實義一得二究竟一。〔法苑珠林〕離二實義一故。

【實僞】27 まことといつはり。〔列子、楊朱〕實僞之辨、如レ此其省也。

【實況】28 實際のありさま。實情。

【實經】29 佛三乘（聲聞、緣覺、菩薩の三乘の得道を別立するもの）の權論に對して、一乘（一切皆成を明すもの）の諸經をいふ。〔法華文句記〕若將レ求レ滅二權論一、用レ釋開二會實經一。

【實虛】30 まこととうそ。虛實。〔管子、幼官〕定二實虛一勝、定二盛衰一勝。

【實據】31 確實な證據。確證。〔福惠全書、刑名部、人命中、威逼〕有二實據一、然後可レ擬也。

【實供】32 白狀する。〔紅樓夢、四回〕令四他們實三供藏二在何處一。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕賊料レ不レ能レ脫也、只得二實供一。

【實空】33 佛諸法は因緣によつて生起し、自性（我々が本來具有してゐる眞性）のないこと。〔智度論、十九〕一切諸法因緣生、故無レ有二自性一、是爲二實空一。

【實科】34 農業・工業など、實地のわざを教へる學科。

【實禍】35 實際のわざはひ。〔韓非子、十過〕聽二楚之虛言一、而輕二誣強秦之實禍一、則危レ國之本也。

【實官】36 名目だけでない實際の官職。〔魏書、考莊帝紀〕諸有二私馬仗一從レ戎者、職人優二兩大階一、亦授二實官一。

【實願】37 佛願に相應する行があつて願のとほりに果を得ること。〔勝鬘經〕以二此實願一安二慰無量無邊衆生一。

【實君】38 字號。㊀清、施源（**5**－**13629**‥31）の字。㊁清、唐孫華（**2**－**3709**‥471）の字。㊂清、李重華（**6**－**14459**‥1751）の字。

【實兄】39 父母を同じうする兄。まことの兄。

【實形】40 まことのかたち。

【實卿】41 字號。㊀晉、廖棠（**4**－**9464**‥24）の字。㊁明、龔輝（**12**－**48837**‥8）の字。㊂明、楊名（**6**－**15112**‥363）の字。

【實惠】42 shih^2 huei^4 ㊀金錢物品などを惠與する。㊁信實の意。浙江餘杭地方の方言。

【實景】43 實際の景色。

【實教】44 ㊀實際の事に役立つをしへ。〔姚燧、襄陽廟學碑文〕實教所レ基。㊁佛眞實教の義。眞實の理をきはめる教法。實大乘教（天台・華嚴・眞言・禪等の如き權方便を帶びない教）をいふ。權教（**6**－**15926**‥37）の對。〔太平記、十七、山門牒送二南都一事〕天台法相、互究二權教實教之奧旨一。

【實缺】45 空位に充てる。闕員を補ふ。補闕。又、其の者。〔清會典事例、吏部、封贈、封典〕光緒十一年議准、云云、其餘補授實缺、及題咨升署、試署各官、既在二各現任一、應レ照二各現任給封一。〔清國行政法汎論、文官任命形式、題調、備考〕唯此時、大抵皆當二局差一、成爲二署缺一、其任二用實缺一者、幾希、署缺者、猶二我邦之所謂某官心得一。

【實夾】46 碁の手法の名。兩子が敵の一子を夾むこと。はさむ。〔圍棋義例、詮釋〕夾、甲也、兩子夾二一子一曰二實夾一、兩子自夾曰二虛夾一。

【實業】47 ㊀農・工・商など、すべて實地實用を主とする經濟的事業。㊁佛善惡の業が眞實に苦業の果を得ること。

〔實業家〕48 經濟的事業に從ふ人。

〔實業界〕49 實業家の社會。

〔實業股〕50 shih^2 yeh^4 ku^3 實業課。

〔實業廳〕51 民國、地方官廳の一。實業事務を掌る。各省に一廳を置く。

〔實業部〕52 官署の名。民國、置く。全國の實業事務を管理する中央官廳の一。

〔實業學校〕53 農・商・工など、實業に從事する者に必要な教育を施すを目的とする學校。

〔實業教育〕54 實業に志す者のために必要な教育。

〔實業補習學校〕55 現に實業に從事し、又は將來從事しようとする兒童に、小學教育の補習を兼ねて簡易な實業教育を施す學校。

【實見】56 實際をみる。實地に見る。

【實圈】57 くろぼし。黑圈點。

【實檢】58 實地に物事を檢査する。〔平家物語、十一、勝浦事〕頸共の實檢。

〔實檢使〕59 平安朝・鎌倉時代の臨時の職名。紛議の生じた場合、出張して實地視察することを掌つた。〔百練抄、四〕後一條、仍遣二實檢使一之處、皆無實之故也。

【實權】60 名義だけでない實際の權力。

【實驗】61 ㊀實際の事實に當つてためす。事實について見聞する。〔顏氏家訓、歸心〕來二河北一、不レ信レ有二二萬斛船一、皆實驗也。㊁自然の現象に人爲を加へ、變化を生じさせて行ふ觀察。

〔實驗室〕62 理化學などの實驗を行ふ室。

【實驗論】63 佛蘭西人コントの唱へた哲學。實證哲學。吾人は唯觀察と實驗とによつて相互間の關係を知るだけで、現象の本體を認識することは出來ないといふ論。實證論。英語 Positivism の譯。

【實現】64 實際にあらはれる。實際にあらはし出す。

【實眼】65 佛五眼中の一。實のごとくに物を見る眼。佛眼をいふ。〔勝鬘經〕佛爲二實眼實智一。

【實減】66 其の數をしらべて減らす。〔後漢書、樊準傳〕上林池籞諸官、實二減無事之物一。

【實股】67 shih^2 ku^3 出資して得る持分の株。實株。錢股。東股。

【實語】68 ㊀まことのことば。〔白居易、與二濟法師一書〕眞語實語。㊁佛實とは、不妄不異のこと。顯教では、語が實にかなつて、行が能く語に相應することをいひ、密教では、眞如を說く語をいふ。〔金剛經〕如來是眞語者、實語者、如語者、不誑語、不異語者。〔探玄記、六〕如レ言起レ行、故云二實語一。

〔實語教〕69 書名。一卷。古より弘法大師の作と傳へられる。山高故不レ貴、以レ有レ樹爲レ貴、人肥故不レ貴、以レ有レ智爲レ貴の句を以て始まり、全篇皆兒童の教訓を述べたもので、數百年に亙つて童子教と共に初步教科書として用ひられ、刊行も頻りに行はれ、異板も四十四種の多きに及んでゐる。

【實口】70 口一ぱいに詰込む。口にみたす。〔穀梁、隱、元〕貝玉曰レ含、〔疏〕含者、實レ口之名。

【實功】71 實際のてがら。〔後漢書、馬融傳〕察二淫侈之華譽一、顧二介特之實功一。

【實厚】72 實が厚い。情が深い。又、懇切なこと。〔韓非子、解老〕實厚者貌薄、父子之禮、是也。

【實貢】73 潛夫論の篇名。

【實國】74 資力の多い國。持てる國。〔管子、八觀〕課二凶饑一、計二師役一、視二臺榭一、量二國費一、而實虛之國、可レ知也。

【實穀】75 實の出來る穀物。〔列女傳、仁智、晉

伯宗妻傳〕實穀不レ華、至言不レ飾。

【實査】76ジッサ 實際上のしらべ。實地調査。

【實才】77ジッサイ 實際の役にたつ才能。實材。〔魏志、傅嘏傳〕其選才之職、專任二吏部一、案二品狀一、則實才未二必當一レ任。〔唐書、選擧志上〕皆亡二實才一。

【實柴】78ジッサイ 古、吉禮の一。日月星辰を祀る祭。牛を柴の上にそなへる。〔周禮、春官、大宗伯〕以二禋祀一祀二昊天上帝一、以二實柴一祀二日月星辰一。〔注〕實柴、實二牛柴上一也。

【實際】79ジッサイ ❶佛眞如の實理を究めて其の窮極に至ること。眞如法性は諸の際極であるからいふ。〔智度論、三十二〕實際者、以二法性一爲二實證一、故爲レ際、云云、善入二法性一、是爲二實際一。〔大乘義章、一〕實際者理體不レ虛、目レ之爲レ實、實之畔齊、故稱爲レ際。〔梁肅三、釋迦牟尼如來像贊文〕超二詣實際一。❷清、湯之昱(7－17874‥171)の號。❸まこと。實地。

【實際海】80ジッサイカイ 佛實際の廣大なのを海に喩へていふ。〔觀佛三昧經、十〕行二是定一者、往二過去佛實際海中一。

【實際化】81ジッサイクワ 實際の用に立つやうにすること。

【實際理地】82ジッサイリチ 佛眞如無相の境界。〔護法錄、六〕實際理地、不レ染二一塵一。

【實齋】83ジッサイ 字號。❶宋、張道洽(4－9812‥1331)の號。❷明、苗淳然(9－30781‥65)の字。❸清、章學誠(8－25761‥184)の字。❹清、陳詵(11－41698‥379)の號。❺清、王聘珍(7－20823‥2092)の號。

【實在】84ジッザイ ❶實際に在る。〔管子、輕重己〕牛馬之實二在野一者王。〔墨子、非儒下〕以爲二實在一。❷主觀を離れた客觀的世界の存在。卽ち、吾人の認識以外に、實際に獨立して存在する事物。英語 reality の譯。❸現在高。〔六部成語、戶部、實在、注解〕現在實存之項也。❹shih² tsai 實際に。本當に。

【實在論】85ジツザイロン 事物の客觀的存在を信じ、吾人の認識は其の眞相を正確に摸寫したものであるといふ認識論。實念論。英語 Realism の譯。

【實相】86ジッサウ ❶佛此の自然界、卽ち生滅界を離れた萬有の眞相。眞如の本體、つまり平等の實在、不變の眞理をいふ。〔唯摩經、上〕法順レ空隨二無相一。〔法華經、方便品〕唯佛與レ佛、乃能究二盡諸法實相一。〔梁武帝、答下晉安王謝レ開二講般若一啓上〕實相之中、本無二去來一。❷梁、蕭方等(9－32012‥498)の字。

【實相印】87ジッサウイン 佛實相の理をいふ。〔法華經、序品〕我以レ相嚴レ身、光明照二世閒一、無量衆所レ尊、爲說二實相印一。

【實相義】88ジッサウギ 佛諸法實相の深義。〔法華經、序品〕佛今放二光明一、助二發實相義一。

【實相觀】89ジッサウクワン 佛因緣所生の事相を實相のままに觀るを唯識觀といひ、萬有の實體實性を實相のままに觀ずるを實相觀、又、理觀といふ。占察經にこれを二觀といふ。密教では、月輪觀が金剛界の實相觀で、五大觀が胎藏界の實相觀である。〔祕藏記、本〕淨菩提心觀、念誦分限了、卽結二實印一觀二五字一、是月輪觀、又實相觀、謂二阿毘羅吽欠一也。

【實相經典】90ジッサウキャウテン 佛實相の妙理を說く經典。〔維摩經、法供養品〕世尊我雖下從二佛及文殊師利一聞中百千經上、未三曾聞二此不可思議自在神通決定實相經典一。

【實子】91ジッシ うみの子。〔謠曲、切兼曾我〕實子の如く育てつつ。

【實之】92ジッシ 宋、龔茂良(12－48837‥97)の字。

【實支】93ジッシ shih² chih¹ 實際に支出する。實際の支出。

【實姊】94ジッシ 父母を同じうするあね。

【實思】95ジッシ 清、陳用光(11－41698‥1284)の字。

【實施】96ジッシ 實際に布き行ふ。

【實字】97ジッジ ❶實在の事物を表はす文字。天地・山川・草木・鳥獸等を表はす字。卽ち名詞・代名詞をいふ。〔曾國藩、與レ人書・皆川淇園、實字解・伊藤東涯、助字考序〕。❷廣義に解して、意義ある文字、卽ち名詞・代名詞・動詞・形容詞・副詞等に屬する文字をいふ。〔王濟師、虛字啓蒙・袁仁林、虛字說・張文炳、虛字注釋〕。馬氏文通は實字を名字・代字・動字・靜字(形容詞)・狀字(副詞)に分けてゐる。〔紅樓夢、三十七回〕一個虛字、一個實字、實字就用二菊花一。〔馬氏文通、正名、界說〕凡字有二事理可一レ解者、曰二實字一、無レ解而惟以助二實字之情態一者、曰二虛字一。

【實字解】98ジッジカイ 書名。六卷。皆川淇園撰。漢字の實字卽ち名詞を、時令・宮室等に分類して注解したもので、字義研究の機運を促進し、國語學の研究にも刺戟を與へた。

【實字對】99ジッジツイ 漢詩用語。詩對十三法の一。實字を以て對をなすもの。九天閶闔開二宮扇一、萬國衣冠拜二冕旒一の類。〔詩法詳論、律詩、對句法〕實字對、又謂二之分裝體一、九天閶闔開二宮扇一、萬國衣冠拜二冕旒一。

【實事】100ジッジ ❶實際のことがら。〔韓非子、外儲說左上〕士窮二乎范且虞慶一者、爲二虛辭其無用而勝、實事其無易而窮一也。〔論衡、對作〕好二談論一者、增二益實事一、爲二美盛之語一。❷ジツゴト ㋑まじめな事。㋺演劇で、誠忠の人物に扮する役がら。〔諸藝太平記、二〕やつし・ふり出で・ぬれ・實事。

【實事師】101ジツゴトシ 演劇で實事をする役者。〔浮世風呂、四編下〕敵役も實事師も。

【實事求是】102ジツジキウゼ 事實に本づいて事物の眞相・眞理を求め尋ねること。清朝の經學復興に際しては、空疎を矯め、實學を崇び、實事求是の學が提唱された。清、朱大韶に實事求是齋經義がある。〔漢書、河閒獻王德傳〕修レ學好レ古、實レ事求レ是。〔注〕師古曰、務レ得二事實一、每求二眞是一也。〔國朝先正事略、經學、邵二雲先生〕少多病、左目微眚、清羸如レ不レ勝レ衣、而獨善二讀書一、數行俱下、寒暑舟車、未二嘗頃刻輟一レ業、於二四庫七略一、無レ不二研究一、而尤能推二極本原一、實レ事求レ是。〔國朝漢學師承記、邵晉涵〕撰述又有二孟子述義・穀梁正義・韓詩內傳攷・皇朝大臣謚迹錄・輶軒日記・南江文集一、皆實事求是、爲レ學者有レ益之書。

【實事求是齋】103ジツジキウゼサイ 字號。❶清、朱大韶(6－14424‥909)の號。❷清、汪廷珍(6－17154‥310)の號。

【實收】104ジッシウ ❶清代、金錢受取りの證として、六部、又は各省布政使から發給する領收證。〔清會典、戶部〕糧、三百六十二萬四千五百三十二石有奇、草、以二束計一者五百二十六萬二千八百有奇、以二斤計一者一千四百九十六萬二千有奇、無二定額一者、則實收、而實解焉。〔清會典事例、戶部、海運、收買捐辦〕道光六年奏准、收二買餘米一、卽由二江南委員一、按二船將收買餘米數目一、單二報坐糧廳一、兌二竣正米一之後、卽レ斛收二此項餘米一、仍將二實收若干一、知二會江南委員一、照二數發價一、以歸二簡速一。〔六部成語、戶部、實收、注解〕官庫收納銀兩給發之憑票也。❷實際の收入。實進。手取り。純益。

【實修】105ジッシウ 實際に就いて修める。

【實售】106ジッシウ shih² shou⁴ 正價。

【實悉】107ジッシツ 詳しい事實。〔後漢書、殤帝紀〕諸官府郡國、王侯家奴婢姓劉及疲癃羸老者、皆上二其名一、務レ令二實悉一。

【實質】108ジッシツ 事物の內容、又は性質。なかみ。形式(4－9969‥45)の對。

【實實】109ジツジツ ❶廣大なさま。〔詩、魯頌、閟宮〕閟宮有レ侐、實實枚枚。〔傳〕實實、廣大也。❷親切なさま。たしかなさま。實實落落を見よ。

【實實落落】110ジツジツラクラク たしかなさま。確實。實落。〔傳習錄、語錄三〕毀謗自レ外來的、雖二聖人一如何免得、人只貴二於自修一、若自己實實落落、是箇聖賢、縱然人都毀レ他、也說二他不著一、卻若二浮雲揜一レ日、如何損二得日的光明一。

【實習】111ジッシフ 實地に就いて學習する。

【實者】112ジッシャ 佛權者(權化した者)に對し、神佛の實體をいふ。〔源平盛衰記、九、宰相申二預丹波少將一事〕權者も實者も渇仰の前に顯現し給ふ事なれば。

【實正】113ジッシャウ まこと。たしか。眞實。確實。〔源平盛衰記、三十七、源平侍合戰事〕實正に任せて、十六歲とぞ名乘りける。

【實生】114ジッセイ ❶清、伍長華(1－435‥50)の字。❷ミシャウ 種子から發生すること。又、種子から發生した草木。みばえ。取木・挿木等の對。

【實性】115ジッシャウ ❶佛眞如の異名。〔般若仁王經、中〕諸法實性、清淨平等、非レ有非レ無。❷實際のうまれつき。

【實唱】116ジッシャウ 佛如來眞實の法を說くこと。〔法華文句記、二下〕演二一乘之實唱一、飽二妙行之機緣一。

【實象】117 ジツシャウ　まことのかたち。〔國朝漢學師承記、惠周惕〕六十四卦皆實象、安得レ虛哉。

【實狀】118 ジツジャウ　まことの樣子。實際の有樣。〔論衡、驗符〕卽復因卻上下得二黃金一實狀上如二前章一。

【實情】119 ジツジャウ　㊀まごころ。㊁實際の事情。實況。

【實授】120 ジツジュ　實務ある任を授ける。本官に任ずる。候補等に對していふ。〔淸會典事例、吏部、除授、捐納候選〕嘉慶十一年奏准、現任實授之員、捐升離任、讀經注銷、仍歸二原職一補用者、悉令下其以二原缺一坐補上。

【實勝】121 ジツショウ　滿洲遼寧省審陽に在る寺の名。淸の太宗の勅を以て建つ。

【實證】122 ジツショウ　たしかな證據。〔水經、廬江水注〕斯耳傳之談、非二實證一也。

【實證論】123 ジツショウロン　實驗論(63)をいふ。

【實證哲學】124 ジツショウテツガク　實證論の創唱者である佛蘭西の哲學者コントが、其の哲學體系に名づけた名。實驗論(63)を見よ。

【實丞】125 ジツジョウ　淸、王廷植(**7－20823**‥1942)の字。

【實心】126 ジツシン　㊀まごころ。〔韓非子、解老〕實心愛而不レ知、故好言繁辭以信レ之。〔六部成語、吏部、實心任レ事、注解〕用二誠實之心一辦二理一切事務一。㊁心に滿たす。〔國語、周語上〕以レ惡實レ心、棄二其精一也。

【實心彈】127 shih² hsin¹ tan⁴　火藥の入れてない大砲の彈丸。

【實心竹】128 ジツシンチク　幹の充實してゐる竹。實竹(174)に同じ。

【實身】129 ジツシン　實際のからだ。〔論衡、亂龍〕武帝圖二其母於甘泉殿上一云云、夫圖畫非二母之實身一也。

【實進】130 shih² chin⁴　實收。實際の收入。

【實穗】131 ジツスイ　よくみのつた穗。〔易林〕枝葉茂盛、實穗泥泥。

【實數】132 ジツスウ　㊀數學で、乘法に於ける被乘數、又は、除法に於ける被除數をいふ。〔周髀算經、上〕兩矩共長二十有五、是謂二積矩一。〔注〕兩矩者、句股各自乘之實、共長者、幷レ實之數。〔算法統宗、算義總、九歸歌〕九歸歸除法者、單位者曰二歸位一、數多者曰二歸除一、通而言レ之曰二歸除一、置所レ出レ率爲レ實、以レ所レ求レ率爲レ法、皆從二實首位一而起、以二法之首位一用歸、以二次之位一皆用除レ之、故曰二歸除一。㊁實際のかず。㊂虛數(**9－32709**‥200)の㊁の對。有理數・無理數の稱。

【實誠】133 ジツセイ　まごころ。まこと。〔論衡、對作〕匡二濟薄俗一、驅レ民使三之歸二實誠一也。

【實稅】134 ジツゼイ　實際の年貢。〔禮、王制、公田藉而不レ稅、疏〕若計二夫實稅一、猶十外稅レ一。

【實招】135 ジツセウ　白狀。自白。〔福惠全書、刑名部、問擬〕某等取二問實招一。

【實跡】136 ジツセキ　實際の事柄。確かな形跡。實迹。實蹟。〔李衞公問對、下〕不レ能レ紀二其實跡一焉。〔福惠全書、筮仕部、訪風俗〕果有二實跡一、須下待二其更犯一、小則懲處、大則申詳上。

【實積】137 ジツセキ　㊀實がつもる。〔詩、周頌、載芟〕有レ實其積、萬億及秭。〔集傳〕實、積之實也、積、露積也。㊁實際の坪數。正味の面積。

【實績】138 ジツセキ　實際の成績。

【實蹟】139 ジツセキ　實跡に同じ。

【實說】140 ジツセツ　まことのはなし。〔法苑珠林〕若依二大乘教中實說一。

【實線】141 ジツセン　㊀解析幾何學に於て、圖示し得る方程式で表はされる曲線をいふ。虛線の對。㊁製圖用語。點線・鎖線等に對して、普通の線をいふ。

【實踐】142 ジツセン　實地に履行する。みづから行ふ。實踐躬行。〔宋史、理宗紀二〕周惇頤・張載・程顥・程頤、眞見實踐、深探二聖域一。

【實踐躬行】143 ジツセンキユウカウ　實際に自分で行ふ。

【實踐教育】144 ジツセンケウイク　實踐を主とする教育。

【實踐主義】145 ジツセンシユギ　何事も實際に行ふことをたてまへとする主義。

【實踐道德】146 ジツセンダウトク　實踐倫理に同じ。

【實踐哲學】147 ジツセンテツガク　實踐的なものを對象とする哲學。狹義では道德論・倫理學。廣義では法律・藝術等の哲學的考察も含む。理論哲學の對。

【實踐倫理】148 ジツセンリンリ　實踐道德ともいふ。倫理學に於て、道德の根本原理に關する純理論的研究に對して、之を實際生活に卽して具體化した德論・義務論の外、道德的修養、實際問題等の解決を論ずる部分をいふ。

【實踐的理性】149 ジツセンテキリセイ　理性が善と認めたことを動作に表現せんとする道德的意志。

【實戰】150 ジツセン　まことの戰爭。實際の戰。

【實僧】151 ジツソウ　佛戒を保つて得道した僧。〔大智度論〕釋初品是僧四種、有羞僧・無羞僧・啞羊僧・實僧、云云、若有學人、若無學人、住二四果中一、行二四向道一、是名二實僧一。

【實息】152 ジツソク　充實し生成すること。虛耗(**9－32709**‥28)の對。〔漢書、天文志〕次至二車服畜產一、精華實息者、吉。

【實測】153 ジツソク　實地の測量。

【實存】154 ジツゾン　㊀元、僧英(**1－1117**‥8)の字。㊁shih² ts'uen²　現在高。

【實諦】155 ジツタイ　佛眞實の深き道理。眞諦ともいふ。〔涅槃經、十三〕言二實諦一者名曰二眞法一、若法非レ眞、不レ名二實諦一。

【實體】156 ジツタイ　㊀正體。本體。主體。實質。〔陸機、浮雲賦〕無二實體之眞形一。〔朱熹、中庸章句〕首明下道之本原出二於天一、而不レ可レ易、其實體備二於己一、而不上レ可レ離。㊁哲學用語。恒久不變の本質的存在。種々の屬性と變化とを自己に有しつつ、それ自身は常住不變な實在。世界乃至事物の實體は何かとは、古來、哲學の重要問題とせられてきた。㊂ジツテイ　まめやかで正しいこと。りちぎ。實直。〔曾我扇八景、中〕じってい物靜かな生れつき。

【實體詞】157 ジツタイシ　代名詞をいふ。

【實體說】158 ジツタイセツ　實體は現象と離れて存在するものであるといふ說。

【實體法】159 ジツタイハフ　主體間の關係を規定した法律。民法・商法の類。手續法(**5－11768**‥172)の對。

【實體論】160 ジツタイロン　實體そのもの。又、其の最も根本的普遍法な諸規定に關する學說。又、哲學問題の根底は實體の問題であるとし、之に關して各般の研究をする立場。本體論。存在論。英語 Ontology の音譯。

【實題】161 ジツダイ　詩題で、史書中に求める題。風月題を虛題(**9－32709**‥230)といふの對。〔桂林遺芳抄〕。

【實堂】162 ジツダウ　淸、袁穀芳(**10－34152**‥198)の字。

【實道】163 ジツダウ　佛眞實の正道。〔法華經、譬喩品〕世尊說二實道一、波旬無二此事一。

【實彈】164 ジツダン　藥莢の先端に實際の彈丸を嵌め込んだもの。實包。

【實彈演習】165 ジツダンエンシフ　實彈を用ひる演習。

【實彈射擊】166 ジツダンシヤゲキ　㊀實彈で射擊する。㊁目的を達するために現金を散ずること。

【實地】167 ジツチ　㊀本當の場所。實際の土地。㊁轉じて、まこと。本當。實際。

【實地紗】168 shih² ti⁴ sha¹　堅牢質實なる紗。

【實地演習】169 ジツチエンシフ　實地についてならふこと。

【實地檢證】170 ジツチケンショウ　判事が、實地に臨んで證據物件を實見し、取調べること。

【實地試驗】171 ジツチシケン　㊀實際其の物に就いて行ふ試驗。㊁實際上の技術の試驗。學術試驗の對。

【實地調查】172 ジツチテウサ　實地に臨んでしらべただすこと。

【實知】173 ジツチ　論衡の篇名。

【實竹】174 ジツチク　幹が充實してゐる竹。實心竹。〔事物異名錄、樹木、竹〕正字通、椶竹、一名實竹。

【實徵】175 ジツチョウ　ほんたうの徵集だか。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕本年實徵、亦遵二照會計核定一。

【實徵銀】176 ジツチョウギン　不足額を除いた徵收高をいふ。〔六部成語、戶部、實徵銀、注解〕地丁關稅每年除二不足額一之外、實在所得之款若干、謂二之實徵銀一。

【實直】177 ジツチ　㊀實際のねうち。實際のねだん。〔宋史、食貨志上五〕淮東路估二定物產一、如二其實直一。㊁ジツチョク　まめやかで正直。

【實沈】178 ジツチン　㊀參宿を主る神の名。もと高辛の子。大夏、卽ち晉に封ぜられた人。〔左氏、昭、元〕卜人曰、實沈・臺駘爲レ祟、史莫二之知一、敢問、此何神也、子產曰、昔高辛氏有二二子一、伯曰二閼伯一、季曰二實沈一、居二于曠林一、不二相能一也、日尋二干戈一以相征討、后帝不レ臧、遷二閼伯于商丘一主レ辰、商人是因、故辰爲二商星一、遷二實沈于大夏一主レ參、云云、實沈、參神也、云云、臺駘、汾神也。㊁星宿の名。參宿。晉の分野。〔周禮、春官、保章氏、注〕實沈、晉也。〔禮、月令、孟夏之月日在レ畢、注〕日

月會二於實沈一。〔國語、晉語四〕實沈之星也。〔注〕自二畢十二度一、至二東井十五度一、曰二實沈一。〔漢書、王莽傳中〕歲在二實沈一。〔晉書、天文志上〕自二畢十二度一至二東井十五度一爲二實沈一、於レ辰在レ申、魏之分野、屬二益州一。

【實沈臺駘】179（ジッチンダイタイ） 二神の名。臺駘は汾水の神。實沈の❶を見よ。

【實弟】180（ジッテイ） 父母を同じくする弟。まことの弟。

【實亭】181（ジッテイ） 清、丘嘉穗(1－33··132)の字。

【實庭】182（ジッテイ） 清、錢枚(11－40563··168)の字。

【實貼】183（ジッテフ） たしかにはりつける。〔福惠全書、刑名部、人命上、禁抄搶〕判交二莊地一、實二貼屍所一。

【實塡】184（ジッテン） 金額を書きいれる。〔福惠全書、錢穀部、解給〕已實塡不レ得レ不二曲從起解一。

【實傳】185（ジッデン） まことの傳記。

【實德】186（ジットク） 實際上效果ある恩德。〔書、盤庚上〕汝克黜二乃心一、施二實德于民一、至二于婚友一。

【實入】187（ミイリ） ❶穀物・果實などの熟すること。〔俳諧新選、冬〕大根のこんとなつたる實入哉。❷收入をいふ。

【實任】188 shih² jen⁴ 實際の官職。

【實年】189（ジッネン） 實際の年齡。〔白居易、照鏡詩〕豈復更藏レ年、實年君不レ信。〔容齋四筆、實年官年〕士大夫敍二官閥一、有二所謂實年官年兩說一、前レ此、未三嘗見二於官文書一、大抵布衣應レ擧、必減二歲數一、蓋少壯者、欲三藉レ此爲レ求二昏地一、不幸潦二倒場屋一、勉從二特恩一、則年未二六十一、始許二入仕一、不レ得レ不三豫爲二之圖一、至二公卿任子一、欲三其早列二仕籍一、或正在二童孺一、故率增二擡庚甲一、有下至二數歲一者上、然守義之士猶曰、兒曹甫策レ名委レ質、而父祖先二導之一、以挾レ詐欺レ君、不可也、比者以下朝臣屢言中年及二七十一者、不上許レ任二監司郡守一、搢紳多不二自安一、爭引レ年以決二去就一、江東提刑李信甫、雖三春秋過二七十一、而官年損二其五一、堅乞二致仕一、有レ旨、官年未レ及、與二之外祠一、知二房州一、章騆六十八歲、而官年增二其二一、亦求罷去、諸司以二其精力未一レ衰、援レ實爲レ請、有レ旨聽、終任知二嚴州一、秦熺乞レ祠之疏曰、實年六十五、而官年已踰二七十一、遂得レ去レ齊、慶冑寧國乞レ歸、亦曰二實年七十一、而官年六十七一、於レ是實年官年之字、形二於制書一、播二告中外一、是君臣上下、公相爲レ欺也、掌故之野甚矣、此豈可レ紀二於史錄一哉。

【實包】190（ジッパウ） 實彈(164)に同じ。

【實否】191（ジッピ） まことかうそか。

【實費】192（ジッピ） 實際に要した費用。

【實費診療所】193（ジッピシンレウジョ） 實費を以て診察し治療する所。

【實敏】194（ジッビン） 三論宗の高僧。尾張國の人。物部氏。玄睿及び永忠に從ふ。承和中、大極殿に最勝王經を講じ、大僧都を贈らる。齊衡三年寂す。年六十九。

【實夫】195（ジップ） 字號。❶宋、李成大(6－14459··1559)の字。❷元、瞿信(8－23747··17)の字。❸明、洪英(6－17402··12)の字。❹明、孟充(3－6960··136)の字。❺明、楊果(6－15112··97)の字。❻清、劉青芝(2－2224··1116)の號。❼清、厲秀芳(2－3041··74)の字。

【實父】196（ジップ） ❶生みの父。養父・繼父に對していふ。❷（ジッホ） 字號。㋑明、仇英(1－355··5)の字。㋺清、尤蔭(4－7543··6)の字。

【實福】197（ジップク） まことの幸福。〔資治通鑑、漢紀〕(高祖、三年)荀悅論曰、行二虛惠一而獲二實福一也。

【實物】198（ジッブツ） ❶物品。〔史記、酷吏、減宣傳〕宣爲二左內史一、其治二米鹽一、事大小皆關二其手一、自部二署縣名曹實物一。❷ほんもの。現品。現物。

【實物交換】199（ジッブツカウクワン） 金錢を用ひず、品物と品物とを互にとりかへること。物物交換。

【實物教授】200（ジッブツケウジユ） 生徒に實物を示し、感官を通じて其の觀念を得させる教授。

【實物取引】201（ジッブツトリヒキ） 取引所の用語。實物の受渡しを目的とする賣買取引。清算取引の對。

【實物經濟時代】202（ジッブツケイザイジダイ） 古代、實物交換によつて交易の行はれた時代。

【實邊】203（ジッペン） 潛夫論の篇名。

【實甫】204（ジッポ） 字號。❶宋、朱煥文(6－14424··729)の字。❷宋、孫桌(3－6987··294)の字。❸金、完顏宗秀(3－7079··110)の字。❹明、阮之鈿(11－41569··57)の字。❺明、顧紹芳(12－43689··303)の字。❻明、劉世揚(2 2224··1109)の字。❼明、林釬(6－14551··50)の字。❽清、祁寯藻(8－24634··33)の字。❾清、張澤瑊(4－9812··1338)の號。

【實母】205（ジッボ） 生みの母。

【實封】206（ジッポウ） ❶諸侯の領する田地。〔周禮疑義擧要、二〕諸侯之地、土田爲二實封一。❷實際に食む封祿の高。〔資治通鑑、唐紀〕(玄宗、開元十年)初令二宰相共食一、實封三百戶。〔注〕唐會要曰、舊制、凡有功之臣賜二實封一者、皆以二課戶一充二準戶數一、州縣與二國官邑官一執レ帳、供二其租調一、各準二配租調一、遠近州縣官司收二其腳直一、然後附二國邑官一、司二其丁準一、此入二國邑一者收二其庸一。〔歐陽脩、晏公神道碑銘〕實封三千七百戶。〔事物紀原、官爵封建部、實封〕唐封二公侯一無二國土一、其加二實封一者、則食二其所レ封之戶一、分二食諸郡一、以二租庸調一給、沿革曰、魏黃初閒、爵自二關內侯一不レ食レ邑、但虛封而已、故唐因レ之加二實封一、宋朝會要曰、唐制食二實封一者、戶給二縑帛一、每レ賜レ爵、遞二加一級一、唐末及二五代一、始有三特加二邑戶一、而罷二實封之給一、今位爲二虛名一也。❸（ジップウ） 固く封じる。〔宣和遺事、後集〕竝許二直言極諫一、實封投進。

【實封公文】207（ジップウコウブン） 堅固に封入した公文書。天子の御前で開封するもの。〔明律、兵律、郵驛〕邀二取實封公文一。

【實封奏聞】208（ジップウソウブン） 皇室の緣故者や有功の臣など、八階級の者の犯罪の事情を書き列ね、召喚訊問すべきや否やの上裁を仰ぐため、奏上以聞すること。〔明律、名例、應議者犯罪〕凡八議者犯レ罪、實封奏聞取レ旨、不レ許二擅自勾問一。

【實妹】209（ジッマイ） まことのいもうと。父母を同じくする妹。

【實務】210（ジッム） 實際の任務。實地に扱ふ事務。

【實務家】211（ジッムカ） 實務にあたる人。實務に熟達した人。

【實夢】212（ジッム） まさゆめ。夢が現實となつて現れるもの。

【實名】213（ジッメイ） ❶事實に相應した名。まことの名。〔荀子、正名〕名無二固實一、約レ之以命レ實、約定俗成、謂二之實名一。❷俳名・雅號、又は藝名等に對して本名をいふ。

【實銘】214（ジッメイ） 正直。まごころ。實體。

【實洋】215（ジッヤウ） 目方が十分あつて、割引きしない銀。入洋。

【實用】216（ジッヨウ） 實際に用ひる。實際に役に立つ。實地の應用。〔管子、任法〕聖君之實用也。〔商子、農戰〕煩言飾辭、而無二實用一。〔朱熹、學校貢擧私議〕三代教藝爲二最下一、然皆猶有二實用而不一レ可レ闕。「と。

【實用化】217（ジツヨウクワ） 實際に役立つやうにすること。

【實用主義】218（ジツヨウシユギ） 實際の效果を以て眞理の標準とする主義。實際主義。

【實用新案】219（ジツヨウシンアン） ❶物品に就いて、形狀構造又は其の組合せに關する新規の型の工業的實用考案をいふ。而して此の登錄を受ければ、其の日より十ケ年內專用し得る。❷實用についての新工夫。

【實牢】220 shih² lao² 確實。

【實落】221（ジッラク） 確實。實實落落(110)を見よ。〔福惠全書、刑名部、人命上、檢驗〕上司實二落意思一、不レ在二駁詞之寬嚴一、而在二措レ意之輕重一。

【實利】222（ジッリ） 實際の利益。實際の效用。

【實利主義】223（ジッリシユギ） 實利を標準として說を立てたり、事を行つたりする主義。現實主義。

【實理】224（ジッリ） 眞實の理。眞理。〔鬼谷子、反應〕同聲相呼、實理同歸。

【實閭】225（ジッリョ） 瑞草の名。萐莆(9－31271··4)の異稱。〔太平御覽、休徵部〕孫氏瑞應圖曰、萐莆、一名倚扇、一名實閭、一名倚萐。

【實力】226（ジッリョク） ❶ほんたうの力。實際の權力。〔宋書、武帝紀中〕加二太尉司馬丹陽尹劉穆之建威將軍一、配以二實力一。❷ shih² li⁴ 誠實に。專心に。

【實稟】227（ジッリン） 十分に官から米を與へる。〔後漢書、和帝紀〕詔、流民所レ過、郡國皆實二稟之一。

【實例】228（ジッレイ） 實際に有つたためし。現在の證據。實物のてほん。

【實歷】229（ジッレキ） 實際に經歷した事。實地に見聞した事。

【實廉】230（ジッレン） 本當に清廉なこと。〔漢書、貢禹傳〕貴二孝弟一、賤二賈人一、進二眞賢一、擧二實廉一、而天下治矣。

【實錄】231（ジッロク） ❶事實を有りのままに記した歷史。

〔漢書、司馬遷傳贊〕皆稱、遷有二良史之材一、服下其善序二事理一、辨而不レ華、質而不上レ俚、其文直、其事核、不二虛美一、不二隱惡一、故謂二之實錄一。〔王先謙集解〕自レ唐後、每帝修二實錄一、義取二於此一。〔魏志、王肅傳〕司馬遷記レ事、不二虛美一、不二隱惡一、劉向揚雄、服三其善敍レ事有二良史之才一、謂二之實錄一。〔曹植、與二楊德祖一書〕采二庶官之實錄一。❷歷史の一體。帝王一人のことを記した歷史。起居注（10－37048‥34）を見よ。〔事物紀原、經籍藝文部、實錄〕三代之主、有二左右史一、記二其言動一、漢武有二禁中起居一、明帝有二起居注一、而無下名二實錄一者上、唐藝文志所レ載實錄、自二周興嗣梁皇帝實錄一爲レ始、則其事自レ茲以爲レ始也。❸私人が先祖の事蹟を記したもの。唐の李習の皇祖實錄、及び作者未詳の孔氏實錄の類。〔四庫提要、史、傳記類存目〕孔氏實錄、一卷、不レ著二撰人名氏一、末一條云、大蒙古國領中書省耶律楚材、奏二准皇帝聖旨一、於二南京一特取二襲封孔元措一、令下赴二闕里一奉上レ祀、此書或卽元措等所レ撰歟。

【實話】232（ジツワ）　實際にあつた話。

【首レ實】233（ジツヲシユス）　ありのままをのべる。事實を白狀する。〔尊攘記事補遺、吉田松陰〕貞吉曰、盍レ首レ實。

【如レ實】234（ジツノゴトシ）　ほんたうのやうである。又、本物其のままである。

【得レ實】235（ジツヲウ）　訊問して實情を得る。〔史記、五帝、虞舜紀〕皐陶爲二大理一平レ民、各伏得二其實一。〔北史、周世宗紀〕雖レ經二赦宥一、事迹可レ知者、有司宜下卽推窮、得レ實之日免二其罪一、徵備如上レ法。

【務レ實】236（ジツヲツトム）　實を得ることをつとめる。求レ名の對。實とは、實質・實力をいふ。〔近思錄、爲學〕學者須二是務一レ實、不レ要レ近レ名。

【實聖王】237（ジツセイワウ）　新羅第十八代の王。一に實主王に作り、又實金王に作る。奈勿王が歿したとき、其の子幼少なるを以て、國人實聖を立てて位を繼がしむ。元年、日本と好みを通じ、奈勿王の子未斯欣を質と爲す。在位十六年、訥祇王に弑せらる。〔三國史記、三〕

【實大關長官司】238（ジツダイクワンチヤウクワンシ）　土司の名。四川省茂縣の北。〔淸史稿、地理志〕四川、茂州直隸州、土司六、實大關長官司。

【實念論】239（ジツネンロン）　獨語 Begriffsrealismus の譯語なる旣念實在論の略。普遍概念を單に主觀的な言葉・名稱と見る唯名論（2－3761‥31）に對し、それは客觀的實在性を有するとする學說。

【實賓錄】240（ジツピンロク）　書名。十四卷。宋、馬永易撰。古人の殊名別號を採錄す。〔四庫提要、子、類書類〕

【實辟辟】241（ジツヘキヘキ）　充實してしつかりしてゐるさま。〔通俗編、狀貌、實辟辟〕素問、脈搏而實、如二指彈一レ石辟辟然。

【實嬾齋】242（ジツランサイ）　淸、張時泰（4－9812‥1147）の「號。

【實魯剌】243（ジツロラ）　金、完顏永中（3－7079‥59）の名。

【實叉難陀】244（ジツシヤナンダ）　唐の高僧。于闐の人。則天武后に徵され、梵本華嚴經を中國に將來し、菩提流支・義淨とともに譯し、又、文殊授記等を譯した。〔宋高僧傳、二〕

【實指虛掌】245（ジツシキヨシヤウ）　書道で筆を執る法。指をしつかり筆管につけ、掌を廣く虛しくすること。〔唐太宗筆法訣〕大抵腕豎則鋒正、鋒正則四面勢全、次實レ指、指實則節力均平、次虛レ掌、掌虛則運用便易。〔藝舟雙楫〕古之所謂實指虛掌者、謂下五指皆貼管爲レ實、其小指實二貼名指一、空レ中用レ力、令上レ到二指端一、非二緊握之謂一也。

【實端出來】246 shih^2 tuan^1 ch'u lai　眞實の事を話し出す。

【實癡實昏】247（ジツチジツコン）　まことにおろか。〔魏書、王嶷傳〕王嶷、性儒緩、委隨不斷、終日在レ坐昏睡而已、李訢、鄧宗慶等、號爲三明察勤二理時務一、而二人終見二誅戮一、餘十數人、或黜或免、唯嶷卒得二自保一、時人爲二之語一曰、實癡實昏、終得二保存一。

【實報實銷】248 shih^2 pao^4 shih^2 hsiao^1　實費を支給する。

【實繁有レ徒】249（ジツニシゲクトアリ）　實際に多くの仲間がある。〔書、仲虺之誥〕簡レ賢附レ勢、實繁有レ徒。

【實蕃有レ徒】250（ジツニシゲクトアリ）　實繁有レ徒に同じ。〔張衡、西京賦〕實蕃有レ徒、其從如レ雲。

【實逼二處此一】251（ジツニココニセマリヲル）　實際に迫り來る。避くべからざること。〔左氏、隱、十一〕無下滋二他族一、實逼二處此一、以與二我鄭國一爭中此土上也。

【避レ實擊レ虛】252（ジツヲサケテキヨヲウツ）　釋レ實而攻レ虛（257）に同じ。〔孫子、虛實〕水之形、避レ高而趨レ下、兵之形、避レ實而擊レ虛。〔握奇經〕遊軍之形、乍動乍靜、避レ實擊レ虛、視レ羸撓レ盛。

【求レ實無レ已】253（ジツヲモトメテヤムコトナシ）　實利を貪りもとめて止まぬこと。〔莊子、人閒世〕其用レ兵不レ止、其求レ實無レ已。

【實基答里斯】254（ジギタリス）　草名。きつねのてぶくろ。ごまのはぐさ科に屬する宿根草。夏、紅紫色又は白色の花を開く。

【實聖尼師今】255（ジツセイニシキン）　新羅の王。金閼智の裔孫、大西知の子。奈勿尼師今に送られて高勾麗の廣開土王に質となつたが、後、國に還つて卽位す。奈勿の子訥祇に弑さる。在位十五年。

【實布的利亞】256（ジフテリヤ）　咽喉に白色點狀の膜が出來て、急に呼吸が困難になる傳染病。小兒に多い。馬脾風。

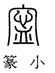
【釋レ實而攻レ虛】257（ジツヲステテキヨヲセム）　備へのある敵を避けて、備へのない者をせめる。〔管子、霸言〕善攻者、釋レ實而攻レ虛、釋レ堅而攻レ膬、釋レ難而攻レ易。

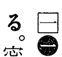
【察レ實者不レ留レ聲】258（ジツヲサツスルモノハコエヲトドメズ）　事實を察せんとするものは人の言葉を心に留めない（問題にしない）。〔呂覽、觀世〕察レ實者不レ留レ聲。

【窸】
7295

ソク　塞（3－5349）に同じ。〔字彙〕窸、同レ塞。

【寧】
7296


小篆


小篆

㊀ネイ ニヤウ　〔集韻〕囊丁切　ㄋㄧㄥˊ　ning^2　靑

㊁ネイ ニヤウ　〔集韻〕乃定切　徑

㊀❶やすらか。やすんずる。寍（3－7232）に同じ。〔玉篇〕寍、古文寧。〔說文〕寍、安也、从レ宀、心在二皿上一、皿、人之食飮器、所二以安一レ人也。〔段注〕此安寧正字、今則寧行而寍廢矣。〔說文通訓定聲〕寧、叚借爲レ寍。㋑おちつく。安心する。又、安心させる。〔儀禮、士虞禮記〕夙興夜處不レ寧。〔注〕不レ寧、悲思不レ安。〔逸周書、武稱解〕各寧二其親一。〔注〕寧、安也。㋺かはりがない。さはりがない。〔禮、月令〕身欲レ寧。〔注〕寧、安也。㋩をさまる。〔易、乾〕萬國咸寧。〔書、大禹謨〕萬邦咸寧。〔傳〕寧、安也。㋥さだまる。〔左氏、定、五〕及レ寧。〔注〕寧、安定也。❷しづか。〔爾雅、釋詁〕寧、靜也。〔國語、晉語八〕聞子與レ龢未レ寧。〔注〕寧、息也。❸安逸。〔書、無逸〕治レ民祇懼、不二敢荒寧一。〔蔡傳〕祇敬恐懼、而不二敢怠荒安寧一。❹おとなふ。さとがへり。他に嫁した婦人が家に歸つて父母を見まふ。〔詩、周南、葛覃〕歸二寧父母一。〔傳〕寧、安也。〔左氏、莊、二十七〕杞伯姬來、歸寧也。〔注〕寧、問二父母安否一。❺父母の喪祭のために休暇をとる。〔漢書、高帝紀上、高祖嘗告歸之レ田、注〕李斐曰、休謁之名、吉曰レ告、凶曰レ寧。❻喪にこもる。〔漢書、哀帝紀〕博士弟子父母死、予レ寧三年。〔注〕師古曰、寧、謂三處レ家持二喪服一。❼ねんごろ。丁寧。〔漢書、谷永傳〕丁二寧陛下一。❽むしろ。㋑いつそ。願望の助辭。〔說文〕寧、願詞也、从レ丂寍聲。〔段注〕其意爲レ願、則其言爲レ寧、是曰二意內言外一、寍部曰、寍、安也、今字多假レ寧爲レ寍、寧行而寍廢矣。〔書、大禹謨〕與三其殺二不辜一、寧失二不經一。〔論語、八佾〕禮與二其奢一也寧儉。〔論語、子罕〕無寧死二於二三子之手一乎。〔集解〕馬融曰、無寧、寧也。㋺はた。また。それとも。選擇の助辭。〔經傳釋詞、六〕寧、猶レ將也、莊子秋水篇曰、寧其死爲二留レ骨而貴一乎、寧其生而曳二尾於塗中一乎、呂氏春秋貴信

篇曰、君寧死而又死乎、其寧生而又生乎、趙策曰、人之情、寧朝レ人乎、寧朝二於人一也、寧字並與レ將同義、楚辭卜居曰、吾寧悃悃款款朴以忠乎、將送レ往勞レ來斯無レ窮乎、寧亦將也、互文耳。❾いづくんぞ。いかんぞ。なんぞ。㋑あに。どうして。反意を表はす助辭。〔經傳釋詞、六〕寧、猶レ豈也、成二年左傳曰、寧不下亦淫二從其欲一、以怒中叔父上、是也。〔國語、越語上〕寧其得二此國一也。〔注〕寧、安也。〔史記、酈生陸賈傳〕居二馬上一得レ之、寧可下以二馬上一治上之乎。㋺疑問の助辭。〔經傳釋詞、六〕寧、猶レ何也、易繫辭傳曰、寧用二終日一、是也。〔國語、周語下〕寧爲二荼毒一。〔注〕寧、安也。❿かつて。〔詩、小雅、四月〕胡寧忍レ予。〔傳〕寧、猶レ曾也。⓫すなはち。しかるに。〔經傳釋詞、六〕寧、猶レ乃也、毛鄭詩考正曰、四月首章、胡寧忍レ予、箋云、寧、猶レ曾也、案、寧猶レ乃也、語之轉、下、寧莫二我有一同、雲漢首章、寧莫二我聽一、寧亦乃也。⓬**語勢を調へる助辭**。〔經傳釋詞、六〕寧、語助也、昭元年左傳曰、是委二君貺於草莽一也、是寡大夫不レ得レ列二於諸卿一也、不二寧唯是一、又使三圍蒙二其先君一、不二寧唯是一、不二唯是一也、寧、語助耳。⓭甯(**3－7255**)に通ず。〔後漢書、烏桓鮮卑傳〕復置二校尉於上谷甯城一。〔注〕寧・甯、兩字通也。⓮**姓**。〔姓氏急就篇〕寍氏、與レ秦同姓、秦襄公曾孫、謚寧公、支庶因以爲レ氏、史記、寧越、趙人、呂氏春秋、楚有二寧國一、一曰、寧・甯、本一姓、衞甯俞之後、史記、甯成作二寧成一。⓯［現］南京の略稱。卽ち江寧の略稱。［二］**地名**。泥(**6－17311**)に同じ。〔集韻〕泥、泥母、地名、或作レ寧。

［名乘］サダ。ヤス

［解字］形聲。寍と丁との合字。寍は音符。丁は丂、气ののびてどまる意。故に願ふところありて言にあらはれるをいふ。然るに、經典、寧を寍の意に用ひ、寍廢す。寍は會意。宀と心と皿との合字。皿は飲食を盛る器。宀は屋。人、屋下にあり、皿に飲食をもつて心やすらかに生活すること。故に本義をやすらか、又、やすんずる意とする。寧を寍の意に用ひるは假借。〔說文、寧、段注〕其意爲レ願、則其言爲レ寧、是曰二意內言外一、寧部曰、寧、安也、今字多假レ寧爲レ寍、寧行而寍廢矣。▽ （甲骨文）會意。宀と皿と示との合字。屋內に水盤を置き神に祈つて、心のやすらぐ意。

【寧安】1 ネイアン ❶おだやか。やすらか。〔後漢書、和帝紀〕探二觀舊典一、復收二鹽鐵一、欲下以防二備不虞一、寧中安邊境上。❷府名。清、置く。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕吉林、寧安府。❸縣名。民國、置く。滿洲吉林省穆陵縣の西南。土名は寧古塔。古の肅愼氏の地。清の太祖崛起の地。縣城は瑚爾哈河に臨み、牡圖鐵路の沿線にして、水陸交通の要衝。

【寧晏】2 ネイアン やすらか。〔陸雲、祖考頌〕區域寧晏。〔南史、宋武帝紀〕罪人斯得、荊衡寧晏。

【寧菴】3 ネイアン 明、沈璟(**6－17189**‥36)の號。

【寧夷】4 ネイイ 縣名。❶晉、置く。安南の境。❷後魏、置く。陝西省醴泉縣の東北。❸隋、置く。貴州省石阡縣。

【寧一】5 ネイイツ 安定して亂れぬ。寧壹。〔史記、曹相國世家〕載二其清淨一、民以寧一。〔隋書、高祖紀上〕區宇寧一、陰陽順序。

【寧壹】6 ネイイツ 寧一に同じ。〔漢書、曹參傳〕載二其清靖一、民以寧壹。〔白居易、策林五十六、論二刑法之弊一〕何乃用二於昔一、而俗以寧壹。

【寧殷】7 ネイイン やすらかで盛なこと。〔晉書、樂志上〕修レ己濟治、民用寧殷。

【寧宇】8 ネイウ ❶家に安んじて居る。又、安らかな住居。〔國語、周語中〕其餘以均分、公侯伯子男、使三各有二寧宇一。❷明、李定國(**6－14459**‥1775)の字。

【寧盈】9 ネイエイ やすらかなこと。〔福惠全書、教養部、學規〕婦子享二寧盈之慶一。

【寧役】10 ネイエキ 骨の折れない徭役。〔謝靈運、撰征賦〕穆二京甸一以清晏、撤二多壘一而寧役。

【寧越】11 ネイエツ ❶戰國趙の人。甯越(**7－21717**‥1)に同じ。〔史記、秦始皇紀贊〕於レ是六國之士、有二寧越・徐尙・蘇秦・杜赫之屬一、爲二之謀一。〔注〕集解曰、徐廣曰、越、一作レ經、或自別有二此人一、不二必寧越一也、索隱曰、寧越、趙人、賈誼作二甯越一。❷甯戚(**7－21717**‥17)に同じ。〔淮南子、道應訓〕寧越欲レ干二齊桓公一、困窮無二以自達一。

【寧遠】12 ネイエン ❶川の名。源は察哈爾省涼城縣。古の參合徑で、綏遠省和林格爾縣の八十家子から紅河に入る。水經注に沃水といふ。❷府名。清、置く。古の邛都國。漢の越嶲郡の地。四川省に屬し、鹽邊・越嶲の二廳、會理州、西昌・冕寧・鹽源・昭覺の四縣、及び沙庣・瓜別・木裏・威龍・普濟・昌州・河東・阿都・阿都副・馬喇・邛部の十一土司を領す。治は西昌縣。〔清史稿、地理志〕四川、寧遠府、領二廳二、州一、縣四、土司十一一、西昌・冕寧・鹽源・昭覺・會理州・鹽邊廳・越嶲廳・沙庣宣撫司・瓜別安撫司・木裏安撫司・威龍州長官司・普濟州長官司・昌州長官司・河東長官司・阿都長官司・阿都副長官司・馬喇長官司・邛部長官司。❸州名。㋑明、置く。雲南省建水縣の西南。㋺清、置く。滿洲遼寧省興城縣。〔清史稿、地理志〕奉天、錦州府、州二、寧遠州。❹縣名。㋑隋、置く。廣東省崖縣の南。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府、崖州〕寧遠廢縣、隋置レ縣屬二崖州一。㋺唐、置く。四川省茂縣の西。㋩唐、置く。四川省の境。㋥宋、置く。湖南省零陵縣の南。瀟水の支流の北岸。〔讀史方輿紀要、湖廣、永州府、道州〕寧遠縣、漢營道縣地、屬二零陵郡一、云云、宋仍レ舊屬二道州一、乾德三年、改爲二寧遠縣一。〔清史稿、地理志〕湖南、永州府、縣七、寧遠。㋭宋、置く。甘肅省武山縣。〔讀史方輿紀要、鞏昌府〕寧遠縣、唐隴西縣地、宋元祐中、置二寧遠寨一、崇寧三年、升爲レ縣、金仍廢爲レ寨、元至元中、復置二寧遠縣一。〔清史稿、地理志〕甘肅、鞏昌府、縣七、寧遠。㋬遼、置く。山西省五寨縣。㋣清、置く。新疆省伊犂縣。㋠民國、置き、後、涼城縣と改めた。綏遠省に屬す。❺城名。㋑金、置く。甘肅省舊蘭州府の境。㋺清、置く。新疆省伊寧縣。❻屯衞の名。明、置く。滿洲遼寧省興城縣。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司〕寧遠衞、秦漢時遼西郡地、唐爲二營州地一、遼爲二錦州及來州地一、金元亦爲二錦瑞二州地一、明初、爲二廣寧前屯、及中屯二衞地一、宣德三年、始置二今衞一。❼清、張鵬(**4－9812**‥676)の號。

【寧遠軍】13 ネイエングン 行政區劃の名。唐、置く。廣西省容縣。〔讀史方輿紀要、廣西、梧州府、容縣〕普寧廢縣、今縣治、云云、乾寧四年、改二經略使一爲二寧遠軍節度一。

【寧遠堂】14 ネイエンダウ 清、朱成點(**6－14424**‥876)の室名。

【寧可】15 ネイカ むしろ云云の方がよい。又、どうして云云できようか。〔通俗編、語辭、甯可〕說文、甯、所レ願也、徐氏注、甯猶レ寧也、俗言二寧可レ如レ此、爲二甯可レ如レ此、按、云云、寧可、見二世說新語一、劉尹曰、寧可二鬪戰求レ勝。

【寧可下以二馬上一治上之乎】16 ナンゾバジヤウヲモツテコレヲヲサムベケンヤ 兵力で天下を治めることは出來ぬ。〔史記、陸賈傳〕陸生時時前說二稱詩書一、高帝罵レ之曰、迺公居二馬上一而得レ之、安事二詩書一、陸生曰、居二馬上一得レ之、寧可下以二馬上一治上之乎。

【寧可二玉碎一何能瓦全】17 ムシロギヨクサイスベキモナンゾヨクグワゼンセンヤ つまらぬ者となつて存するよりも、玉となつて碎ける方がましである。男子の死處を得る喩。〔北齊書、元景安傳〕豈得下棄二本宗一逐中他姓上、大丈夫寧可二玉碎一、不レ能二瓦全一。

【寧河】18 ネイカ 縣名。❶宋、置く。甘肅省導河縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、臨洮府、河州〕寧河城、吐蕃所レ置香子城也、宋熙寧六年、王厚攻二拔香子城一、遂平二河州一、因置二寧河砦一、崇寧四年、改置二寧河縣一、金仍屬二河州一、元因レ之、後廢爲レ鎭、明初、復置レ縣、尋廢。❷清、置く。河北省天津縣の東北。薊運河の左岸。〔清史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、寧河。

【寧哥】19 ネイカ 哥は兄。唐の玄宗が寧王を親しみ呼んだ語。〔酉陽雜俎、語資〕報二寧王一云、寧哥大能處二置此僧一也。〔張祜、寧哥來詩〕黃翻綽指

向レ西樹、不レ信寧哥回レ馬來。

【寧夏】20 ネイカ ㊀省の名。民國十七年に甘肅省の寧夏道を廢し、其の八縣と阿拉善額魯特・額濟納土爾扈特の二旗の地とを以て寧夏省を置く。治は夏寧縣。寧夏・寧朔・靈武・鹽池・平羅・中衞・金積・豫旺・永靖・磴口の十縣、及び設治局三、西套・蒙古二旗、阿拉善・額濟納二部を管轄する。㊁道の名。民國、置く。甘肅省に屬し、寧夏・夏朔・靈武・鹽池・平羅・中衞・金積・鎭戎の八縣を管轄した。㊂府の名。明、置く。もと西夏の都にて興慶府又は中興府と稱した地。清代は甘肅省に屬し、寧靈廳・靈州及び寧夏・寧朔・平羅・中衞の四縣を領す。〔清史稿、地理志〕甘肅、寧夏府、領二廳一、州一、縣四二寧夏・寧朔・平羅・靈州・中衞・寧靈廳一。㊃縣名。清、置く。寧夏省に屬す。漢の北地郡富平縣の地。宋代、西夏の主、元昊が帝と稱して此處に都し、興慶府といふ。蒙古の南に接し、漢唐以來重鎭の地で、黃河が平流となる所。農產に富み、貿易盛で、羊皮の產が多い。〔清史稿、地理志〕甘肅、寧夏府、縣四、寧夏。㊄衞の名。明、置く。前衞及び左屯衞は寧夏省寧朔縣の治。右屯衞は寧夏省寧夏縣の治。後衞は寧夏省靈武縣の東北。中衞は甘肅省中衞縣。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏鎭〕寧夏前衞、寧夏左屯衞、寧夏右屯衞、寧夏後衞、寧夏中衞。㊅鎭の名。明、置く。九邊の一。寧夏省の東北、長城の邊。〔讀史方輿紀要、陝西〕寧夏鎭、春秋時羌戎地、秦屬二北地郡一、二漢因レ之、晉仍屬二北地郡一、尋沒二於諸國一、最後屬二赫連夏一、後魏爲二薄骨律鎭地一、尋屬二靈州一、後周爲二普樂郡一、隋初、郡廢、仍屬二靈州一、大業初、屬二靈武郡一、唐仍屬二靈州一、天寶初、亦屬二靈武郡一、乾元初、復レ故、宋仍屬二靈州一、天禧中、爲二夏人所一レ陷、乾興二年、趙德明初城二靈州之懷遠鎭一、爲二興州一、後又升爲二興慶府一、復曰二中興府一、都二於此一、至二蒙古滅一レ之、改爲二寧夏路一、明初曰二寧夏府一、洪武五年、廢、九年、改置二寧夏衞一、隸二陝西都司一、今爲二寧夏鎭一。㊆後魏、李華(6－14459・・233)の字。

【寧家】21 ネイカ ㊀家をととのへ安んずる。〔晉書、孔坦傳〕疾篤、庾冰省レ之、乃流涕、坦慨然曰、大丈夫將レ終、不レ問二安國寧家之術一、乃作二兒女子相問一耶。㊁ning² chia¹ 小說の中で、家に歸る意に用ひる。

【寧瑕】22 ネイカ 明、支如玉(5－13061・・204)の字。

【寧嘉】23 ネイカ やすらかでよい。〔韓愈、河中府連理木頌〕擧政宣和、人則寧嘉。

【寧海】24 ネイカイ ㊀縣名。㋑晉、置く。江蘇省泰縣の東南。〔晉書、地理志上〕明帝咸康四年、分二廣陵郡之建陵・臨江・如皐・寧海・蒲桃五縣一、置二山陽郡一、屬二南兗州一。㋺晉、置く。浙江省黃巖縣の西。東方は三門灣に近い。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府〕寧海縣、漢回浦・鄞二縣地、晉太康初、析二置寧海縣一、屬二臨海郡一、宋以後因レ之、隋省入二臨海縣一、唐武德四年、復置、屬二台州一、七年、省、永昌元年、復置。〔清史稿、地理志〕浙江、台州府、縣六、寧海。㋩唐、置く。廣東省欽縣の西南。〔讀史方輿紀要、廣東、廉州府、欽州、烏雷廢縣〕海安廢縣、在二烏雷縣西一、隋縣也、唐曰二安海一、爲二玉州治一、貞觀中、屬二欽州一、上元後、屬二陸州一、至德二載、改曰二寧海縣一、宋初、廢。㋥清、置く。滿洲遼寧省金縣。㋭民國、置く。山東省に屬す。唐代の弁平縣の地。金の劉豫、寧海州を置く。㊁州名、金の劉豫、置き、民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕山東、登州府、州一、寧海州。㊂明、任漢(1－416・・31)の字。

【寧海將軍固山貝子功蹟錄】25 ネイカイシヤウグンコザンバイシコウセキロク 書名。一卷。撰者未詳。清の寧海將軍固山貝子富喇塔が耿精忠を討つて台州を平定した事を記す。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【寧江】26 ネイカウ ㊀州名。遼、置く。滿洲吉林省扶餘縣の東南。㊁設治局の名。雲南省に屬す。

【寧考】27 ネイカウ ㊀天下を安んじ定めた祖考の意。周の文王・武王をいふ。一說に、武王をいふ。〔書、大誥〕不レ可レ不レ成二乃寧考圖功一。〔傳〕不レ可レ不レ成二汝寧祖聖考、文武所レ謀之功一。〔蔡傳〕誠不レ可レ不レ成二武王所レ圖之功一。㊁明、焦馨(7－19119・・29)の字。

【寧岡】28 ネイカウ 縣名。民國、置く。唐宋の永新縣の地。江西省遂川縣の西北。

【寧康】29 ネイカウ ㊀おだやか。やすらか。〔漢書、敍傳下〕民用寧康。〔易林〕入數二五教一、王室寧康。㊁東晉、孝武帝、司馬曜の年號。(373－375)

【寧晷】30 ネイキ ひま。閑暇。晷は日かげ。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕送レ往迎レ來、日無二寧晷一。

【寧求】31 ネイキウ 清、陶梁(11－41705・・159)の字。

【寧吉】32 ネイキツ おだやかでよい。〔晉書、禿髮傉檀載記〕將三親率レ衆伐二蒙遜一、趙晁及太史令景保諫曰、唯修レ德責レ躬、可二寧吉一。

【寧羌】33 ネイキヤウ ㊀州名。明、置き、民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕陝西、漢中府、州一、寧羌州。㊁縣名。民國、置く。漢の葭萌縣の地。陝西省沔縣の西南。

【寧鄕】34 ネイキヤウ 縣名。㊀南齊、置く。廣東省羅定縣。㊁北周、置く。山西省中陽縣の東。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、永寧州、寧鄕縣〕寧鄕城、在二縣東一、後周置二寧鄕縣一、屬二離石郡一。㊂金、置く。山西省中陽縣。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、永寧州〕寧鄕縣、後周析二置平夷縣一、屬二離石郡一、隋唐屬二石州一、宋仍レ舊、金改曰二寧鄕一、元屬二太原路一、至元初、改屬二石州一。〔清史稿、地理志〕山西、汾州府、縣七、寧鄕。㊃宋、置く。湖南省長沙縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府〕寧鄕縣、漢長沙郡益陽縣地、宋太平興國二年、改置二寧鄕縣一、屬二潭州一。〔清史稿、地理志〕湖南、長沙府、縣十一、寧鄕。

【寧居】35 ネイキヨ 心をやすんじて居る。〔左氏、桓、十八〕寡君畏二君之威一、不二敢寧居一。〔戰國、趙策〕敝邑寡君、亦竊嘉レ之、不二敢寧居一、使三下臣奉二其幣物一。〔史記、五帝紀〕披レ山通レ道、未二嘗寧居一。〔管子、大匡〕寡君畏二君之威一、不二敢寧居一。

【寧渠】36 ネイキヨ いづくんぞ。渠は詎、反語の副詞。〔史記、張儀傳〕且蘇君在、儀寧渠能乎。〔注〕集解曰、渠、音詎、索隱曰、古字少、假借耳。

【寧極】37 ネイキヨク ㊀至極の道を守つて安んじ居る。〔莊子、繕性〕不レ當二時命一、而大窮二乎天下一、則深根寧レ極而待、此存レ身之道也。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕寧二極和鈞一。㊁唐、盧鴻(8－23050・・66)の書齋の名。〔唐書、盧鴻傳〕鴻、范陽人、徙二洛陽一、博學善二書籒一、廬二嵩山一、所レ居室、自號二寧極一。㊂宋、孔旼(3－6933・・203)の字。

【寧極居】38 ネイキヨクキヨ 唐、盧鴻(8－23050・・66)の室名。

【寧極齋】39 ネイキヨクサイ 元、陳深(11－41698・・376)の室名。

【寧極齋稾】40 ネイキヨクサイカウ 書名。一卷。附、愼獨叟遺稿、一卷。宋、陳深撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【寧近】41 ネイキン 身近の者を安らかにする。〔新語、道基〕附レ遠寧レ近、懷二來萬邦一。

【寧化】42 ネイクワ ㊀縣名。㋑南朝宋、置く。廣東省電白縣の地。㋺唐、置く。福建省清流縣の西北。縣城は東南、清溪に臨み、北は翠華山を負ふ。〔唐書、地理志五〕汀州臨汀郡、縣寧化。〔清史稿、地理志〕福建、汀州府、縣八、寧化。㋩宋、置く。山西省寧武縣の西南。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、靜樂縣〕寧化城、北漢劉崇置二寧化軍一、宋太平興國四年、置二寧化縣一、爲二軍治一、熙寧三年、軍廢、元祐初、復置、崇寧三年、又廢爲レ鎭、金大定二十二年、升爲レ州、仍置レ縣爲二州治一、元州縣俱廢、明洪武二年、改置二守禦千戶所一。㊁鎭の名。㋑宋、置く。山西省寧武縣の西南。㋺金、置く。綏遠省歸綏縣の境。㋩金、置く。河北省南宮縣の東。

【寧和】43 ネイクワ ネイワ 安くおだやかに治まる。〔南齊書、武帝紀贊〕市朝晏逸、中外寧和。

【寧慶】44 ネイケイ 金、徒單思忠(4－10121・・81)の本名。

【寧馨】45 ネイケイ このやうな。あのやうな。晉宋時代の人が用ひた語助の辭。恁地。寧底。〔劉禹錫、贈二日本僧智藏一詩〕爲問中華學レ道者、幾人雄猛得二寧馨一。〔容齋隨筆、寧馨阿堵〕寧馨・阿堵、晉宋間人語助耳、後人但見下王衍指レ錢云下擧二阿堵物一卻上、又山濤見レ衍曰丙何物老嫗生乙寧馨兒甲、今遂以二阿堵一爲レ錢、寧馨兒爲二佳兒一、殊不レ然也、前輩詩、語言少レ味無二阿堵一、冰雪相看有二此君一、又家無二阿堵物一、門有二寧馨兒一、其意亦如レ此、宋廢帝之母王太后疾篤、帝不二往視一、后怒謂二侍者一、取レ刀來剖二我腹一、那得レ生二寧馨兒一、觀レ此豈得レ爲レ佳、顧長康畫二人物一、不レ點二目精一曰、傳神寫照、正在二阿堵中一、猶レ言二此處一也、劉眞長譏二殷淵源一曰、田舍兒強學人作二爾馨語一、又謂二桓溫一曰、使君如二馨地一、寧可二鬬戰求一レ勝、王導與二何充一語曰、正自二爾馨一、王恬撥二王胡之手一曰、冷

如二鬼手一、馨彊來捉二人臂一、至レ今吳中人語言、尙多用二寧馨字一爲レ問、猶レ言二若何一也、劉夢得詩、爲問中華學レ道者、幾人雄猛得二寧馨一、蓋得二其義一、以二寧字一作二平聲讀一。〔王若虛、謬語雜辨〕容齋引二吳語一爲レ證、是矣、而云二若何一則義未レ允、惟城陽居士桑楡雜錄曰、寧、猶レ如レ此、馨、語助也、此得二其當一。

【寧馨兒】46 ネイケイジ　斯の如き子。このやうな子供。こんな子。元來は善惡共に用ひたが、後世は專ら善い方に用ひ、幼よりして俊秀なる者をいふ。麒麟兒。〔晉書、王衍傳〕衍、字夷甫、神情明秀、風姿詳雅、總角嘗造二山濤一、濤嗟歎良久、旣去、目而送レ之曰、何物老嫗生二寧馨兒一、然誤二天下蒼生一者、未三必非二此人一也。〔宋書、前廢帝紀〕那得レ生二如レ此寧馨兒一。

【寧業】47 ネイゲフ　安心して家業に從事する。〔晉書、馮跋載記〕跋又下レ書曰、今彊宇無レ虞、百姓寧レ業。

【寧儉】48 ネイケン　やすらかでつづまやか。〔後漢書、明帝紀〕喪貴レ致レ哀、禮存二寧儉一。

【寧縣】49 ネイケン　縣名。㊀漢、置く。察哈爾省涿鹿縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隷、保安州〕寧縣城、在二州西北一、漢縣、屬二上谷郡一、爲二西部都尉治一、後漢曰二寧縣一、云云、晉時縣廢。㊁民國、置く。春秋戰國の義渠の國。甘肅省慶陽縣の東南。馬連河の東岸。㊂民國、雲南省の寧州を改めて寧縣を置き、又、黎縣と改む。

【寧固】50 ネイコ　やすんじ堅くする。〔後漢書、王充等傳論〕百家之言レ政者尙矣、大略歸下乎寧二固根柢一、革中易時蔽上也。

【寧侯】51 ネイコウ　立派なまと。侯（マト）を祭る時、侯を呼ぶ語。〔周禮、考工記、梓人〕祭レ侯之禮、以二酒脯醢一、其辭曰、惟若寧侯、毋レ或レ若二女不寧侯一、不レ屬二于王所一、故抗而射レ女。〔注〕寧、安也、謂下先有二功德一、其鬼有上レ神。〔疏〕祭レ侯者、祭下先有二功德一之侯上、若射レ侯、則射二不寧侯有レ罪者一也。

【寧國】52 ネイコク　㊀國家を安んずること。〔晉書、景帝紀〕詔曰、公有下濟レ世寧レ國之勳、剋二定禍亂一之功上。㊁宋の仁宗の時、西夏の毅宗、李諒祚の年號、延嗣寧國の一稱。（1049）㊂府の名。宋、置く。安徽省宣城縣。清は宣城・寧國・涇・太平・旌德・南陵の六縣を領す。〔讀史方輿紀要、江南〕寧國府、禹貢揚州之域、春秋屬レ吳、後屬レ越、戰國屬レ楚、秦屬二鄣郡一、漢爲二丹陽郡一、後漢因レ之、晉武帝改置二宣城郡一、劉宋仍爲二宣城郡一、梁兼置二南豫州一、陳因レ之、隋廢レ郡、改置二宣州一、大業初、復曰二宣城郡一、唐仍置二宣州一、天寶初、曰二宣城郡一、乾元初、復レ故、大順初、升二寧國軍節度一、五代時、楊吳亦置二寧國軍一、南唐因レ之、宋仍曰二宣州一、乾道二年、升二寧國府一、元爲二寧國路一、明初改爲二寧國府一、直二隷京師一、領二縣六一、今仍曰二寧國府一。〔淸史稿、地理志〕安徽、寧國府、領二縣六一、宣城・寧國・涇・太平・旌德・南陵。㊃縣名。三國吳、置く。安徽省宣城縣の東南。〔讀史方輿紀要、江南、寧國府〕寧國縣、漢宛陵縣地、後漢建安十三年、孫吳分置二寧國縣一、晉屬二宣城郡一、宋以後因レ之。〔淸史稿、地理志〕安徽、寧國府、縣六、寧國。

【寧國軍】53 ネイコクグン　行政區劃の名。唐、置く。安徽省宣城縣。寧國の㊂を見よ。

【寧國公主】54 ネイコクコウシュ　唐の肅宗の幼女。回紇の葛勒可汗に降嫁したが、可汗が死んで還るを得た。〔唐書、二百十七上〕・〔舊唐書、一百九十五〕。

【寧歲】55 ネイサイ　平和な年。おだやかな年月。寧日。〔國語、晉語四〕晉無二寧歲一。〔漢書、西域傳下〕漢用憂勞、且無二寧歲一。〔後漢書、南匈奴傳〕北邊無二復寧歲一。〔傅亮、爲二宋公一求三加二贈劉前軍一表〕靡レ有二寧歲一。

【寧濟】56 ネイサイ　やすんじすくふ。〔後漢書、順帝紀〕未レ能二寧濟一。〔曹植、上レ責レ躬應レ詔詩一表〕受二命于天一、寧二濟四方一。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕聖德光隆、寧二濟六合一。

【寧齋】57 ネイサイ　字號。㊀淸、盧言（**8－23050**‥60）の號。㊁野口弌の號。野口寧齋（**11－40133**‥394）を見よ。

【寧齋詩話】58 ネイサイシワ　書名。野口寧齋撰。少年詩話・史詩談・開春詩紀の三種を收め、少年詩話は作詩の法を說き、史詩談は我が國名家の詠史諸作を評釋し、開春詩紀は我が國近世諸名家の新年詩を錄し、其の出典本事を注してゐる。

【寧朔】59 ネイサク　縣名。㊀隋、置く。陝西省楡林縣の南。〔讀史方輿紀要、陝西、楡林鎭〕寧朔城、本朔方縣地、後周析二置寧朔縣一、隋因レ之、仍屬二夏州一。㊁淸、置く。漢の靈武縣の地。寧夏省寧夏縣の西北。西は長城に倚り、東は唐徠渠に臨む。〔淸史稿、地理志〕甘肅、寧夏府、縣四、甯朔。

【寧子】60 ネイシ　甯戚（**7－21717**‥17）を見よ。

【寧之】61 ネイシ　元、李康（**6－14459**‥123）の字。

【寧止】62 ネイシ　おちつく。安んじ居る。〔詩、周頌、良耜〕百室盈止、婦子寧止。〔集傳〕寧、安也。

【寧洱】63 ネイジ　縣名。淸、置く。雲南省思茅縣北。蒙樂山脈の西北麓。古の產里の地。〔淸史稿、地理志〕雲南、普洱府、縣一、寧洱。

【寧州】64 ネイシウ　州名。㊀晉、置く。今の雲南全省の地。故治は雲南省曲靖縣の西。〔讀史方輿紀要、雲南〕禹貢梁州、南徼地、殷周時、皆爲二蠻夷所一レ居、或曰、卽百濮之國也、其在二天文一、亦井鬼之分野、漢武帝元封二年間、西南夷滇王降、以二其國一置二益州郡一、屬二益州部一、後漢增二置永昌郡一、亦屬二益州部一、三國時、爲二蜀漢地一、又分二益州一置二交州一、晉泰始七年、改置二寧州一、太康三年、復省入二益州一、立二南夷校尉一以護レ之、大安二年、復置二寧州一、咸康四年、分二置安州一、八年、仍幷入二寧州一。㊁前秦、置く。四川省合川縣。㊂西魏、置く。甘肅省寧縣の地。〔讀史方輿紀要、陝西、慶陽府〕寧州、古公劉邑、春秋爲二義渠戎國一、秦屬二北地郡一、漢爲二北地郡及上郡地一、後漢兼屬二安定郡一、晉亦爲二北地郡一、後魏初、亦屬二北地郡一、皇興二年、置二華州一、太和十一年、改二班州一、十四年、改二邠州一、二十年、又改二豳州一、兼置二趙興等郡一、西魏始曰二寧州一、後周亦置二趙興郡一、隋開皇初、郡廢、大業初、改二寧州一爲二豳州一、旋又改二北地郡一、唐復曰二寧州一、天寶初、亦曰二彭原郡一、乾元初、復レ故、宋仍曰二寧州一、金因レ之、元仍曰二寧州一、以二州治安定縣一省入、明初、改屬二慶陽府一、亦曰二寧州一、領二縣一一、今仍曰二寧州一。〔淸史稿、地理志〕甘肅、慶陽府、州一、寧州。㊃宋、置く。四川省の境。㊄遼、置く。滿洲遼寧省阜新附近。〔遼史、地理志一〕寧州、本大賀氏勒得山橫帳管寧王放牧地、在二豫州東八十里一、西南至二上京一三百五十里、戶三百。㊅元、置く。故城は雲南省黎縣の西。〔讀史方輿紀要、雲南、臨安州〕寧州、漢益州郡地、蜀漢爲二興古郡地一、梁爲二南寧州地一、唐初、析二置西寧州一、貞觀八年、改二黎州一、天寶末、沒二於蠻地一、名二浪曠步雄部一、些二麼徒蠻據一レ之、尋屬二爨部一、又屬二寧部一、元初、置二寧部萬戶一、後改二寧海府一、至元十三年、改二寧州一、明朝亦曰二寧州一、屬二臨安府一。〔淸史稿、地理志〕雲南、臨安府、州三、寧州。㊆元、置く。江西省武寧縣。〔讀史方輿紀要、江西、南昌府、武寧縣〕寧州、春秋時楚地、漢屬二豫章郡一、晉以後因レ之、隋屬二洪州一、大業初、屬二豫章郡一、唐仍屬二洪州一、宋屬二龍興府一、元至元二十三年、置二寧州一、明初、州廢、宏治七年、復建爲レ州、仍屬二南昌府一。

【寧日】65 ネイジツ　安らかな月日。〔梁武帝、與二蕭寶夤一書〕或掠二一村一里一、若二小相訓答一、終無二寧日一。

【寧集】66 ネイシフ　やすんじあつまる。〔論衡、宣漢〕百姓寧集、風氣調和、是亦瑞也。

【寧輯】67 ネイシフ　やはらげる。安らかにする。〔後漢書、孔融傳〕寧二輯東夏一。〔宋史、陳韡傳〕韡忠勤體レ國、計慮精審、身任二討捕之責一、江閩東廣、訖二底寧輯一。

【寧昌】68 ネイシヤウ　安らかで榮える。〔史記、天官書〕百姓寧昌、春風秋雨、冬寒夏暑、動搖常以レ此。

【寧商】69 ning^2 shang^1　寧波の商人。所謂浙江財閥を形成する浙江省出身の商人。

【寧城】70 ネイジヤウ　縣名。滿洲熱河省に屬す。民國二十年平泉縣を析いて置く。土名は小城子。

【寧叔】71 ネイシユク　五代南唐、戴安（**5－11685**‥1）の字。

【寧肅】72 ネイシユク　安らかで靜か。〔魏志、田豫傳〕外胡聞二其威名一、相來率獻、州界寧肅、百姓懷レ之。

【寧順】73 ネイジユン　したがひ服する。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕天戈所レ麾、莫レ不二寧順一。

【寧所】74 ネイシヨ　安らかなところ。〔舊唐書、刑法志〕天下喁喁、莫レ知二寧所一。

【寧處】75 ネイシヨ　㊀おちついてゐる。安堵する。〔詩、召南、殷其靁序〕遠行從レ政、不レ遑二寧處一。〔國語、魯語下〕我先君襄公、不二敢寧處一。〔淮南子、泰族訓〕民不レ得二寧處一。〔後漢書、徐穉傳〕不レ遑二寧處一。㊁岡田豹の號。岡田寧處（**4－7962**‥57）を見よ。

【寧津】76（ネイシン）　縣名。金、置く。河北省南安縣の南。〔讀史方輿紀要、直隸、河間府〕寧津衞、宋爲二保安鎭地一、金始置二寧津縣一屬二景州一。〔清史稿、地理志〕直隸、河間府、縣十、寧津。

【寧晉】77（ネイシン）　❶縣名。唐、置く。漢の癭陶縣の地。河北省趙縣の東南。寧晉泊の西北。〔唐書、地理志三〕趙州趙郡、縣、寧晉。〔清史稿、地理志〕直隸、趙州直隸州、縣八、寧晉。❷渠の名。河北省寧晉縣の境。俗に北泊と稱し、今は湮沒して窪地となり、僅かに胡盧河が其の遺蹟となる。大陸(3－5831··2301)の❷を見よ。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、趙州、寧晉縣〕寧晉渠、在二縣西南一、唐志自二胡盧河一以北縣地、常虞二旱鹵一、西南有二新渠一、上元中、邑令程知默所レ開、引二洨水一入レ城、以漑レ田逕二十餘里一、地用豐潤、民食乃甘。

【寧神】78（ネイシン）　安心する。寧親の❶を見よ。

【寧深】79（ネイシン）　元、衞培(10－34074··94)の字。

【寧親】80（ネイシン）　❶親を安心させる。〔逸周書、武稱解〕各寧二其親一。〔法言、孝至序〕孝莫レ大二於寧一レ親、寧レ親莫レ大二於寧一レ神、寧レ神莫レ大二於四表之歡心一。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕孝達二寧親一。❷ning² ch'in¹　歸省。

【寧人】81（ネイジン）　❶天下を安んずる人。周の文王又は武王を寧王といひ、其の臣下の大臣を寧人といふ。〔書、大誥〕予曷敢不下于二前寧人攸レ受休一畢上。〔蔡傳〕寧人、武王之大臣、當時謂二武王一爲二寧王一、因謂二武王之大臣一爲二寧人一也。❷人を安んずる。〔後漢書、左雄傳〕柔レ遠和レ邇、莫レ大レ寧レ人。❸字號。㋑清、顧炎武(12－43689··223)の字。㋺清、李治運(6－14459··1701)の字。

【寧成】82（ネイセイ）　漢の人。甯成(7－21717··15)を見よ。

【寧靖】84（ネイセイ）　安らかに治める。おだやか。寧靜。〔蜀志、先主劉備傳〕應レ權通レ變、以寧二靖聖朝一。〔晉書、吾彥傳〕南州寧靖。

【寧靜】85（ネイセイ）　❶安らかでしづか。寧靖。〔淮南子、主術訓〕非二寧靜一無二以致一レ遠。〔後漢書、左雄傳〕寧靜無爲。〔諸葛亮、戒レ子書〕非二澹泊一無二以明一レ志、非二寧靜一無二以致一レ遠。❷山名。西康省寧靜縣の東北。青海省の唐古剌山より起り、東南に走り金沙江と瀾滄江との間にわたり、西康省を經、雲南に延びて雲嶺山脈となる。❸縣名。民國、置く。西康省鹽井縣の北。舊名は江卡。

〔寧靜子〕86（ネイセイシ）　大槻清崇の號。大槻磐溪(3－5831··2568)を見よ。〔近古史談、織篇、了伯聽二平語一〕寧靜子曰、古人云、以二活眼一讀二活書一。

【寧戚】87（ネイセキ）　春秋衞の大夫。甯戚(7－21717··17)を見よ。

【寧陝】88（ネイセン）　縣名。民國、置く。清國の寧陝廳の地。陝西省石泉縣の北。〔清史稿、地理志〕陝西、西安府、廳二、寧陝廳。

【寧祖】89（ネイソ）　後魏、盧道裕(8－23050··273)の「字。

【寧宗】90（ネイソウ）　❶廟號。㋑南宋、第四代の主。趙擴(10－37171··126)を見よ。㋺元、第十代の主、懿璘質班。元、寧宗(1－1340··718)を見よ。❷後魏、薛胤(9－32123··1)の字。

【寧叟】91（ネイソウ）　宋、諸葛說(10－35743··21)の字。

【寧息】92（ネイソク）　安らかにやすむ。安息。〔史記、秦始皇紀〕求二其寧息一、豈不レ難哉。〔漢書、王莽傳下〕夙夜永念、非二敢寧息一。〔後漢書、馬融傳〕時時寧息、又無二以自娛樂一。〔蜀志、張裔傳〕晝夜接レ賓、不レ得二寧息一。

【寧遬】93（ネイソク）　甯戚(7－21717··17)に同じ。〔呂覽、勿躬〕管仲復二於桓公一曰、墾レ田大レ邑、辟レ土藝レ粟、盡二地力之利一、臣不レ若二寧遬一、請置以爲二大田一。〔注〕古戚・遬同音、遬卽速字。

【寧俗】94（ネイゾク）　世の中を安らかにする。又、おだやかな風俗。〔晉書、華譚傳〕五帝殊レ禮、三王異レ教、至下於興二禮樂一以和レ人、流二清風一以寧上レ俗、其歸一也。

【寧耐】95（ネイタイ）　❶安らか。〔還魂記、冥判〕夢兒裏能寧耐。❷たへしのぶ。忍耐。〔朱子全書、易〕問二需卦大指一、曰、需者、寧耐之意、以レ剛遇レ險、時節如レ此、只當二寧耐以待一レ之、且如下涉レ川者多以レ不レ能二寧耐一致中覆溺之禍上。

【寧泰】96（ネイタイ）　安らかに治まる。〔荀子、賦〕百姓待レ之而後寧泰。〔梁昭明太子、七契〕六合寧泰、四宇咸康。

【寧體】97（ネイタイ）　體を安らかにする。〔宋王、風賦〕清清冷冷、愈レ病析レ酲、發二明耳目一、寧レ體便レ人、此所謂大王之雄風也。

【寧臺】98（ネイダイ）　臺の名。河北省宛平縣の西。〔史記、樂毅傳〕齊器設二於寧臺一、大呂陳二於元英一、故鼎反二於磨室一。〔括地志〕元英・磨室二宮、皆燕宮、在二幽州薊縣西四十里寧臺之下一。

【寧綢】99　ning² ch'ou²　江蘇省の江寧・鎭江、浙江省の杭縣等に產する絲織物の一種。

【寧仲】100（ネイチユウ）　宋、薛高(9－32123··19)の字。

【寧定】101（ネイテイ）　❶安んじ治まる。〔淮南子、本經訓〕天下寧定、百姓和集。❷縣名。民國、置く。甘肅省臨夏縣の東南。もとの導河縣の地。土名は太子寺。宋代、寧羌城となす。

【寧底】102（ネイテイ）　かくの如き。寧馨。〔陸暢、雪詩〕天公寧底巧、剪レ水作二冰花一。

【寧柢】103（ネイテイ）　根柢が安らかで固い。〔元載、故相國杜鴻漸神道碑〕公有二濟世戡難之才、遺物離人之政一、自深レ根以寧レ柢、每乘レ流而汨レ波。

【寧帖】104（ネイテフ）　安らかにおちつく。安定。〔王安石、寄二蔡天啓一詩〕扶レ痾歸未レ久、吾見喜二寧帖一。

【寧貼】105（ネイテフ）　おだやかなさま。やすいこと。妥貼。〔朱子全書、易〕不則卻須二改レ仁爲レ義、以去レ陰而就レ陽、方得二寧貼一、然又恐無二此理一。

【寧都】106（ネイト）　❶河の名。一名、梅江。寧都縣東北の梅嶺から出て、南流し貢水に入る。梅江(6－14830··20)を見よ。❷州名。元、置き、清、江西省に屬し、直隸州とし、瑞金・石城の二縣を領す。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕江西、寧都直隸州、領二縣二一、瑞金・石城。❸縣名。㋑晉、置く。江西省石城縣の西。三國吳の陽都縣の地。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府〕寧都縣、漢雩縣地、三國吳嘉禾中、析二置陽都縣一、屬二廬陵南部都尉一、晉太康元年、改曰二寧都一、屬二南康郡一、宋齊以後因レ之、云云、宋紹興二十三年、復改レ縣曰二寧都一、元元貞初、升爲レ州、明朝洪武二年、復爲レ縣。㋺晉、置く。陝西省漢陰縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、興安州、漢陰縣〕寧都廢縣、晉元帝以二蜀漢流民一置二寧都縣一、屬二晉昌郡一、宋末、改屬二安康郡一、齊因レ之、後魏亦曰二寧都一、屬二魏明郡一、西魏廢、尋改二安康一曰二寧都一、武德初、復分二安康一置二寧都・廣德二縣一、屬二西安州一、尋屬二直州一、貞觀中、省。

〔寧都三魏文集〕107（ネイトサンギブンシフ）　書名。八十二卷。清、林時益編。寧都の魏際瑞・魏禧・魏禮三兄弟の詩文集。其の目は、魏伯子文集十卷・魏叔子詩集八卷・魏叔子文集二十二卷・魏叔子日錄二卷・魏李子文集十六卷・附、魏敬士文集八卷・魏興士文集六卷・魏昭士文集十卷。

【寧德】108（ネイトク）　縣名。五代閩、置く。福建省羅源縣の北。龍漈溪の南岸。東方は三都澳に臨む。〔清史稿、地理志〕福建、福寧府、縣五、寧德。

【寧內】109（ネイナイ）　國內を安らかにする。〔宋書、武帝紀下〕寧レ內拓レ外、迄二用有一レ成。

【寧南】110（ネイナン）　縣名。民國、置く。四川省昭覺縣の西南。

【寧波】111（ネイハ　ニンポー）　府の名。明、置く。漢より隋に至るまでの會稽郡の地。宋は慶元府となす。治は浙江省鄞縣。清は鄞・慈谿・奉化・鎭海・象山・南田の六縣を領す。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府〕禹貢揚州之域、春秋時越地、秦屬二會稽郡一、漢以後因レ之、云云、洪武十四年、改爲二甯波府一、領二縣五一。〔清史稿、地理志〕浙江、寧波府、領二縣六一、鄞・慈谿・奉化・鎭海・象山・南田。

【寧方】112（ネイハウ）　四方を安んずる。〔北史、高閭傳〕闢レ國寧レ方、征二伐四剋一。

【寧伯】113（ネイハク）　北周、鄭頂(11－39647··217)の字。

【寧媚】114（ネイビ）　衞の大夫、王孫賈が、其の奧に媚びんよりは寧ろ竈に媚びよといふ諺を孔子に問うた故事から、權臣に媚びへつらふこと。竈は五祀の一、竈神のまつり、權臣に喩へる。奧は室の西南隅、竈陘の祀を畢へて後、尸を祭る所、君主に喩へる。〔論語、八佾〕王孫賈問曰、與三其媚二於奧一、寧媚二於竈一、何謂也。〔集注〕故時俗之語、因以下奧有二常尊一、而非二祭之主一、竈雖二卑賤一而當レ時用上レ事、喩下自結二於君一、不上レ如三阿二附權臣一也。〔唐無名氏、象樽賦〕憤二季氏之將旅一、恥二王孫之寧媚一。

【寧彌】115（ネイビ）　漢代の西域の國名。扜彌國。新疆省于闐縣の地。〔漢書、西域傳上〕扜彌國、今名二寧彌一。〔後漢書、西域傳〕拘彌國、居二寧彌城一。

【寧謐】116（ネイヒツ）　安らかで靜。〔周書、文帝紀下〕魏帝

報曰、朕所二以垂拱九載一、實資二元輔之力一、俾二九服寧謐一、誠賴二翊贊之功一。〔唐書、褚遂良傳〕內外寧謐。

【寧夫】117ネイフ　明、白永盛(8－22678‥1246')の字。

【寧武】118ネイブ　❶安んじ繼ぐ。武は、繼ぐ。〔書、大誥〕予翼以于、敉寧武二圖功一。〔蔡傳〕于、往、敉、撫、武、繼也〔今古文注疏〕予翼以于、敉寧武二圖功一、翼漢書作四予敬以終、於レ此謀三繼二嗣圖功一、翼爲レ敬、武爲レ繼、圖爲レ謀、皆釋詁文、此今文說也、經作レ于者、詩箋云、往也、敉者、釋詁云、撫也、言、予敬以レ之往、撫二寧民心一、以繼二所レ謀功績一也。❷春秋齊の大夫、甯戚(7－21717‥17)をいふ。〔韓非子、外儲說左下〕桓公問二置レ吏於管仲一曰、墾レ草仞レ邑、辟レ地生レ粟、臣不レ如二寧武一、請以爲二大田一。❸關の名。明、置く。山西省寧武縣。三關の一。三關は雁門・偏頭・寧武。〔天下郡國利病書〕寧武、古樓煩地、舊爲二寧武屯一、自二正統己巳一以來、都中數被二敵侵一、御史李佩、奏レ宜三置レ關屯戍一、於レ是因二舊名一立レ關、以二寧北所一隸焉、堡凡十二、東爲二太河一、爲二陽方一、爲二朔寧一、北爲二神池一、爲二大水口一、爲二利民一、西北爲二黃花嶺一、爲二土棚一、爲二義井一、西爲二寧文一、爲二二馬營一、西南爲二西鎭一、而寧文、實與二寧武一相二爲犄角一、以扼二山西之險一。❹府の名。清、置く。春秋の樓煩の地。戰國の趙の地。山西省に屬し、寧武・偏關・神池・五寨の四縣を領す。治は寧武縣。〔清史稿、地理志〕山西、寧武府、領縣四、寧武・偏關・神池・五寨。❺縣名。清、置く。山西省太原縣の北。管涔山の東。明代、寧武關を置く、北境の要隘にして、雁門・偏頭と倶に外三關といふ。崇禎の時、李自成が此の關を拔いて京師を陷る。〔清史稿、地理志〕山西、寧武府、領縣四、寧武。

【寧封】119ネイフウ　上古の人。甯封(7－21717‥20)を見よ。

【寧風】120ネイフウ　❶地名。春秋齊の地。〔左氏、昭、五〕投二其首於寧風之棘上一。〔注〕寧風、齊地也。❷縣名。唐、置く。廣西省藤縣の西。〔唐書、地理志七上〕藤州感義郡、縣四、寧風。

【寧平】121ネイヘイ　❶やすらかにをさまる。〔後漢書、方術傳論〕文律足三以致二寧平一。❷縣名。漢、置く。河南省鹿邑縣の西南。〔漢書、地理志下〕淮陽國、縣九、寧平。

【寧平舞】122ネイヘイブ　清朝欽定の樂章。各州縣で釋奠に用ひる。初獻に寧平舞、亞獻に安平舞、終獻に景平舞を舞はせた。〔春秋釋奠儀制錄〕寧平舞樂章、覺二我生民一、陶二鑄前聖一、巍巍泰山、實予景行、禮備樂和、豆籩惟靜、既述二六經一、爰斟二三正一、安平舞樂章、至哉聖師、天授二明德一、木二鐸萬世一、式是二羣辟一、清酒維醑、言觀二秉翟一、太和常流、英材斯植、景平舞樂章、猗歟素王、示二予物軌一、瞻レ之在レ前、神其寧止、酌二彼金罍一、惟清且旨、登獻既終、弗二遐有レ喜。

【寧邊】123ネイヘン　❶國境を安らかにする。〔北齊書、魏蘭根傳〕靜レ境寧レ邊、事之大者。❷州名。金、置く。山西省偏關縣の東。〔金史、地理志上〕寧邊州、下縣一、寧邊。

【寧便】124ネイベン　安らかで都合がよい。〔韓愈、唐故相權公墓碑〕治以二和簡一人以寧便。

【寧浦】125ネイホ　郡名。晉、置く。廣西省橫縣の西南。〔南齊書、州郡志上〕廣州、寧浦郡。〔唐書、地理志七上〕橫州、寧浦郡。

【寧母】126ネイボ　古の地名。今の山東省魚臺縣の東、穀城鎭。〔春秋、僖、七〕公會二齊侯・宋公・陳世子款・鄭世子華一、盟二于寧母一。

【寧北】127ネイホク　城の名。唐代、蒙氏、築く。雲南省鄧川縣の北。〔滇記〕唐貞元十五年、異牟尋謀レ擊二吐蕃一、以三鄧川州寧北等城當二寇路一、乃峭レ山深レ塹修二戰備一、爲二北面之固一、段氏時城廢。

【寧民】128ネイミン　民を安んずる。安民。〔周禮、天官、小宰〕二曰教職、以安二邦國一、以寧二萬民一、以懷二賓客一。〔淮南子、泰族訓〕務在レ寧レ民。〔後漢書、百官志贊〕寧レ民康レ國。

【寧明】129ネイメイ　❶州名。清、置き、民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕廣西、太平府、州四、寧明州。❷縣名。民國、置く。唐宋の羈縻思明州の地。廣西省龍州縣の東南。明江の西岸。

【寧野】130ネイヤ　❶古い車の精靈の名。〔法苑珠林〕故車之精名二寧野一、狀如二輕車一、見レ之傷二人目一、以二其名一呼レ之、不レ能レ傷レ人。〔事物異名錄、神鬼、車精〕白澤圖、故車之精、名曰二寧野一。❷明、何彬然(1－511‥359)の字。

【寧野堂】131ネイヤダウ　清、黃千人(12－47926‥1200)の室名。

【寧洋】132ネイヤウ　縣名。明、置く。福建省龍巖縣の北。縣城は鷺江に臨む。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府〕寧洋縣、志云、龍巖縣東北境有二東西洋一、界二於漳平・永安・大田・連城四縣之閒一、溪洞深邃、鳥道險峻、經二二百餘年一、鞠爲二寇穴一、至二正統閒一亂無二寧歲一、乃置二巡司一控二制之一、其地四山環列、中寬平、嘉靖四十一年、饒寇掠レ境、山賊廖選等、聚レ衆爲レ亂、官兵不レ能レ制、四十四年、賊平、隆慶元年、置レ縣、以二巡司一爲二縣治一、割二龍巖及大田・永安地一益レ之、名曰二寧洋一、幷築レ城、甃以二磚石一、萬歷以後、屢經二修葺一、城周不レ及二二里一。〔清史稿、地理志〕福建、龍巖直隸州、縣二、寧洋。

【寧陽】133ネイヤウ　縣名。漢、置く。春秋魯の闡邑。山東省曲阜縣の西北。汶河其の北を貫流し、東北に南驛鎭あり。津浦鐵道の沿線。〔漢書、地理志上〕泰山郡、郡二十四、寧陽。〔清史稿、地理志〕山東、兗州府、縣十、寧陽。

【寧樂】134ネイラク　❶安んじ樂しむ。安樂。〔易、比、不レ寧方來、疏〕此是寧樂之時、若能與レ人親比、則不レ寧之方、皆悉歸來。〔墨子、尙賢中〕寧樂在レ君、憂慼在レ臣。❷ラナ奈良。〔萬葉集、三〕あをによし寧樂の都は咲く花の薰ふが如く今盛りなり。

【寧亂】135ネイラン　戰亂を平げ安んずる。〔國語、周語下〕自二后稷一以來寧レ亂、及二文武成康一、而僅克安レ民。〔吳志、陸遜傳〕克レ敵寧レ亂、非レ衆不レ濟。〔蘇頲、奉三和聖製過二晉陽宮一應制詩〕聖期在二寧亂一、士馬興二太原一。

【寧陵】136ネイリヨウ　縣名。❶漢、置く。古の葛國。戰國魏の寧邑。河南省葵丘縣の地。〔春秋、桓、十五〕邾人・牟人・葛人來朝。〔杜注〕葛國、在二梁國寧陵縣東北一。〔史記、陳涉世家〕周市軍散、還至二魏地一、欲下立二魏後故寧陵君咎一爲中魏王上。〔漢書、地理志上〕陳留郡、縣十七、寧陵。〔清史稿、地理志〕河南、歸德府、縣八、寧陵。❷南朝宋、置く。安徽省舊鳳陽府。

【寧令】137ネイレイ　❶西夏の語。歡び嘉みする意。元昊の長子、諒祚の小字を寧令哥といつた。〔宋史、夏國傳上〕諒祚、景宗長子也、小字寧令哥、國語、謂二歡嘉一爲二寧令一。❷西夏の官名。〔宋史、龐籍傳〕遣レ籍報レ書、使下呼二旺榮一爲中太尉上、籍曰、太尉三公、非二陪臣所レ得レ稱、使二旺榮當レ之、則元昊不レ得レ臣矣、今其書自稱二寧令、或謨寧令一、皆其官名也、於レ義無レ嫌、朝廷從レ之。

【寧靈】138ネイレイ　廳の名。清、置く。甘肅省金積縣。〔清史稿、地理志〕甘肅、寧夏府、廳一、寧靈廳。

【寧王】139ネイワウ　❶受命の君。天下を安んずる王の義。周の文王。一說に、武王をいふ。〔書、大誥〕寧王遺二我大寶龜一。〔傳〕安二天下一之王、謂二文王一也。〔蔡傳〕寧王、武王也、云云、蘇氏曰、當時謂二武王一爲二寧王一、以三其克レ殷而安二天下一也。〔王先謙孔傳參正〕據二洛誥鄭注一、不三專指二文王一、詳二經意一、總謂下受レ命安二天下一之前王上耳。〔今古文注疏〕鄭康成曰、受命曰二寧王一、承平曰二平王一、鄭注見二書疏一、云三受命曰二寧王一者、君奭云、惟寧王德、鄭注云、寧王者文王也、又注二洛誥一云、周公謂二文王一爲二寧王一、成王亦謂二武王一爲二寧王一、此一名二人兼レ之。〔書、洛誥〕伻來毖レ殷乃命レ寧。〔孔傳參正〕詩何彼穠矣疏引レ鄭云、周公謂二文王一爲二寧王一、成王亦謂二武王一爲二寧王一、此一名、二人兼レ之、孫星衍云、謂二武王一爲二寧王一、尙書無二其文一、先謙案、大誥云、不レ可レ不レ成二乃寧考圖功一、寧考實謂二武王一、武之稱レ寧、尙書未二嘗無レ文、此寧王亦自二周公一稱レ之、疑、鄭說成王二字衍。❷唐の睿宗の長子、玄宗の兄。本名は成器。成皇后の諱を避けて憲と改む。謚は讓皇帝。初め皇太子となつたが、後、寧に徙されて寧王といふ。〔唐書、八十一〕。❸明の太祖の第十七子。名は權。大寧に封ぜられ、寧王といふ。後、反を企て、廢せられて庶人となり、寧庶人といふ。〔明史、二十七〕。❹明、朱宸濠(6－14424‥863)の封號。

【予レ寧】140ネイヲアタフ　父母の喪に官吏が休暇を賜はること。〔漢書、哀帝紀〕博士弟子父母死、予レ寧三年。〔注〕師古曰、寧、謂三處レ家持二喪服一。

【寧貺節】142ネイキヤウセツ　宋代、五月十二日の方邱を祭る日をいふ。〔事物異名錄、歲時、五月〕玉海、

徽宗政和三年、以㆓五月十二日㆒祭㆓方邱㆒、爲㆓寧睨節㆒。

【寧獻王】143（ネイケンワウ） 明の太祖の第十六子。姓は朱。名は權。號は臞仙・涵虛子・丹丘先生。諡は獻。封は寧王、後、南昌王。著に荊釵記・太和正音譜がある。〔明史、一百十七〕・〔萬斯同明史、一百五十三〕・〔明史稿、一百九〕。

【寧古塔】144（ネイコタフ） 地名。滿洲吉林省寧安縣。一に寧古特・寧姑特・寧古台に作る。清朝發祥の地。中東鐵道の沿線で、氣候の善い古い都會である。寧姑は滿洲語で六の意、特は坐の意で、清朝始祖の兄弟六人が此の阜に坐したから名づけたといふ。寧古塔紀略に詳らかである。

【寧古塔志】145（ネイコタフシ） 書名。一卷。清、方拱乾撰。〔昭代叢書、第三十冊〕。

【寧古塔紀略】146（ネイコタフキリヤク） 書名。一卷。清、吳振臣撰。父、漢槎の詩を附載す。

【寧庶人】147（ネイシヨジン） 明の太祖の第十七子、權をいふ。寧王の❸を見よ。

【寧眞子】148（ネイシンシ） 金、訔亘(**10**－**35344**‥9)の號。

【寧任氏】149（ネイジンシ） 浣花夫人(**6**－**17470**‥48)を見よ。

【寧條梁】150（ネイデウリヤウ） 鎭の名。陝西省靖邊縣の西北。長城外の要地。

【寧鳩山人】151（ネイキウサンジン） 清、甯浤(**7**－**21717**‥8)の號。

【寧缺毋濫】152 ning^{2} ch'üeh^{1} wu^{2} lan^{4} むしろ貧乏するとも、貪つてはならぬ。

【寧湘鐵路】153（ネイシヤウテツロ） 鐵道の名。江蘇省江寧縣から江西省萍鄕縣に至り、株萍鐵路に接し、湖南省株州に至る。

【寧折不㆑彎】154（ムシロヲルトモマガラズ） たとへ折れても曲らない。〔通俗編、品目、寧折不㆑彎〕齊民要術、白楊爲㆓屋材㆒、折則寧折、終不㆓屈撓㆒。

【寧丁㆓我網㆒】155（ムシロワガアミニアタレ） いつそ私の網にかかれ。殷の湯王が唯一面にのみ網を張つて、左せんと欲するものは左せよ、右せんと欲するものは右せよ、命を用ひざるものは吾が網に入れと言つた故事。〔新書、禮〕湯曰、昔蛛蝥作㆑罟、不㆓高順㆒、不㆑用㆑命者、寧丁㆓我網㆒、其憚㆑害㆑物也如㆑是。〔史記、殷本紀〕湯出、見㆜野張㆓網四面㆒、祝曰㆛自㆓天下四方㆒皆入㆚吾網㆙、湯曰、嘻盡㆑之矣、乃去㆓其三面㆒、祝曰、欲㆑左左、欲㆑右右、不㆑用㆑命、乃入㆓吾網㆒、諸侯聞㆑之曰、湯德至矣、及㆓禽獸㆒。

【寧爲㆓雞口㆒勿㆑爲㆓牛後㆒】156（ムシロケイコウトナルモギウゴトナルコトナカレ） 鷄の口は小さいが食を入れるもので潔く、牛の尻は大きいが、糞を出すもので汚い。大きい者の後に附くよりは、小さい者の頭となれといふ喩。〔史記、蘇秦傳〕鄙諺曰、寧爲㆓雞口㆒勿㆑爲㆓牛後㆒、今西面交㆑臂而臣㆓事秦㆒、何異㆓於牛後㆒乎。

【寧爲㆓百夫長㆒勝㆑作㆓一書生㆒】157（ムシロヒヤクフノチヤウトナルモイツシヨセイトナルニマサル） 讀書人になつて學問するより、たとへ小部隊の長であるにしても、軍人になる方がよい。戰功によつて出世する機會があるから。表面は武人を羨み、實は戰爭反對の意を寓す。〔楊炯、從軍行〕寧爲㆓百夫長㆒勝㆑作㆓一書生㆒。

【寧失㆓千金㆒毋㆑失㆓一人之心㆒】158（ムシロセンキンヲウシナフトモイチニンノココロヲウシナフコトナカレ） むしろ千金の財を失ふとも、一人の信を失ふな。財産よりも信用を重んずる喩。〔越絕書、越絕外傳記范伯〕重譖㆓子胥於吳㆒、吳虛重㆑之無㆑罪而誅、傳曰、寧失㆓千金㆒毋㆑失㆓一人之心㆒、是之謂也。

【寗】7296′ ネイ 寧(**3**－**7296**)に同じ。

【𡨊】7297 ギ 宜(**3**－**7111**)の古字。〔說文〕宜、𡨊、古文宜。

【寨】7298 [一]サイ ザイ 〔集韻〕士邁切 ㄓㄞˋ chai^{4} 卦 [二]ソク 〔廣韻〕蘇則切 職

[一]❶**羊の棲宿する處**。〔玉篇〕寨、羊棲宿處也。❷**まがき**。柴(**6**－**14664**)に同じ。〔集韻〕柴、籬落也、或作㆑寨。❸**とりで**。砦(**8**－**24098**)に同じ。〔字彙〕寨、與㆑砦同。〔遼史、兵衛志〕於㆓本國州縣㆒、起㆓漢人鄕兵萬人㆒、隨㆑軍專伐㆓園林㆒、塡㆓道路㆒、御㆓寨及諸營壘㆒、唯用㆓桑柘梨栗㆒。[二]**やすらか**。〔廣韻〕寨、安也。

【寨外】1（サイグワイ） とりでのそと。〔杜甫、初月詩〕微升古寨外、已隱暮雲端。

【寨柵】2 chai^{4} cha^{4} とりで。

【寨子】3 chai^{4} tzŭ 柵。とりで。

【寨主】4（サイシユ） とりでの頭。〔皇朝類苑〕豐州河外寨主李慶以㆑城降。

【寨內】5（サイナイ） とりでのうち。

【寨門】6 chai^{4} men^{2} とりでの門。

【寨西店】7（サイセイテン） 地名。河北省定縣の南。本名を明月店といふのは、古詩の、明月清風定州を過ぐの意を取つたもの。境內に沙漠多く、今、京漢鐵道が通過す。

【⿱宀⿰爿音】7299 ガン ゴン 〔集韻〕吾含切 覃

❶**ねごと**。〔玉篇〕⿱宀⿰爿音、寐語。❷**ねいびき**。嗿(**2**－**3889**)に同じ。〔集韻〕嗿、寐聲、或作㆑⿱宀⿰爿音。

【⿱宀釐】7300 リ 釐(**11**－**40146**)に同じ。〔正字通〕⿱宀釐、同㆑釐。

【⿱宀⿱米廾】7301 アウ 奧(**3**－**5985**)に同じ。〔正字通〕⿱宀⿱米廾、同㆑奧。

【⿰宁者】7302 チヨ 〔集韻〕展呂切 語

つむ。**たくはへる**。貯(**10**－**36698**)に同じ。〔集韻〕貯、積也、或作㆑⿰宁者。〔周禮、地官、賈師〕凡天患禁㆓貴㆑價者㆒、〔注〕謂㆑若㆘⿰宁者㆓米穀棺木㆒、而睹㆓久雨疫病者㆒、貴賣㆖之。

【⿱宀耶】7303 ロウ ル 〔玉篇〕郎豆切 宥

地名。〔玉篇〕⿱宀耶、地也。

【⿱宓皿】7304 ミツ 密(**3**－**7205**)に同じ。〔篇海類編〕⿱宓皿、同㆑密。

【⿱宀⿱曲田】7305 シ 義未詳。〔五音篇海〕⿱宀⿱曲田、音子。

【⿱宀麦】7306 ボウ 寱(**3**－**7383**)に同じ。〔字彙補〕⿱宀麦、同㆑寱。

【⿱宀前】7307 アン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱宀前、音案。

【⿱宀⿱土貝】7308 ハウ 寶(**3**－**7376**)に同じ。〔字彙補〕⿱宀⿱土貝、同㆑寶。

【⿱宀咢】7309 ガク 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱宀咢、五各切。

【⿱宀⿰尗攵】7310 セキ 義未詳。〔五音篇海〕⿱宀⿰尗攵、音寂。

【⿱宀⿰爿未】7311 ベイ 寐(**3**－**7264**)の本字。〔正字通〕寐、本作㆑⿱宀⿰爿未。

参考 說文繫傳本の字形である。

【⿱宣旦】7312 セン 宣(3－7132)の古字。〔字彙〕⿱宣旦、古文宣字。

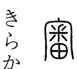
十二畫

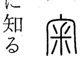
【⿱宀⿰亻音】7313 セイ 惺(4－10868)に同じ。〔字彙〕⿱宀⿰亻音、同レ惺。

【⿱宀⿰忄星】7314 セイ シヤウ 〔字彙〕息井切 梗 **さとる。**〔字彙〕⿱宀⿰忄星、悟也。

【⿱宀曾】7315 サウ ジヤウ 〔集韻〕鋤耕切 庚 **屋が大きい。**⿱宀曾宏。〔集韻〕⿱宀曾、⿱宀曾宏、屋大。

【審】7316 🈩シン 〔集韻〕式荏切 ㄕㄣˇ shen^{3} 寑 🈔ハン 〔韻會〕音盤


小篆


古文

🈩❶**つまびらかにする。**㋑知りつくす。あきらかに知る。宷(3－7170)に同じ。〔集韻〕宷、或作レ審。〔說文〕宷、悉也、知宷諦也、从二宀釆一、審、篆文宷从レ番。〔增韻〕審、熟究也。〔類篇〕審、知也。〔書、說命上〕乃審二厥象一、俾三以レ形旁二求于天下一。〔論語、堯曰〕謹二權量一、審二法度一。〔皇疏〕審、猶レ諦也。〔淮南子、說山訓〕所二先後上下一、不レ可レ不レ審。〔注〕審、知也。㋺つつしむ。〔呂覽、孟冬〕審二棺槨之厚薄一。〔注〕審、愼也。㋩ただす。〔國語、齊語〕審二吾疆場一。〔注〕審、正也。㊁さだめる。〔呂覽、順民〕必先審二民心一。〔注〕審、定也。㋭はかる。〔張衡、東京賦〕審二曲面勢一。〔注〕綜曰、審、度也。㋬もとめる。〔廣雅、釋言〕審、索也。㋣よくききとる。〔周禮、秋官、遂師〕審二其誓戒一。〔注〕審、亦聽也。㋠よく觀察する。〔禮、月令〕審二卦吉凶一。〔注〕審省錄レ之。〔荀子、非相〕欲レ知二億萬一、則審二一二一。〔注〕審、謂三詳觀二其道一也。㋷ならぶ。ならべる。〔廣雅、釋言〕審、竝也。❷**つまびらか。**㋑くわしい。〔呂覽、察微〕公怒不レ審。〔注〕審、詳也。㋺あきらか。〔淮南子、本經訓〕審二於符一者。〔注〕審、明也。㋩ただしい。〔廣雅、釋詁三〕審、諟也。〔呂覽、處方〕本不レ審。〔注〕審、正也。㊁安定する。〔莊子、徐无鬼〕水之守レ土也審、影之守レ人也審、物之守レ物也審。〔循本〕如二水之守一レ土、影之守レ人、物之守レ物、審定而不レ移也。❸**つまびらかに。**〔中庸〕博學レ之、審問レ之。❹**まこと。まことにする。**〔玉篇〕審、信也。〔呂覽、先己〕審二此言一也。〔注〕審、實也。❺**まことに。**〔管子、小稱〕審行二之身一無レ怠、雖二夷貉之民一、可三化而使二之愛一。〔史記、張耳傳〕吾王審出乎。❻**もし。**假設の助辭。〔漢書、王商傳〕審有二內亂殺レ人、怨懟之端一、宜二窮竟考問一。〔論衡、雷虛〕審如レ說二雷之家一、則圖レ雷之家非、審如レ圖二雷之家一、則說レ雷之家誤。❼**羽十枚のたば。**〔周禮、地官、羽人〕十羽爲レ審。❽**姓。**〔通志、氏族略、上聲〕審氏、漢辟陽侯審食其、爲二左丞相一、沛人、後漢末、袁紹將審配、望出二魏郡一。〔姓氏急就篇〕審氏之先、爲二周司空屬官一、主三審二曲面勢一者也、後因賜レ族。🈔**水が集まりまはるところ。**瀊(7－18597)に同じ。〔韻會〕瀊、水回也、通作レ盤、列子作レ潘、音盤、莊子作レ審。〔莊子、應帝王〕鯢桓之審爲レ淵、止水之審爲レ淵、流水之審爲レ淵。〔釋文〕審、郭如レ字、簡文云、處也、司馬云、當レ爲レ蟠、蟠、聚也、崔本作レ潘云、回流所レ鍾之域也。

名乘 アキ。アキラ。

解字 會意。古文は宷、宀と釆との合字。宀は覆ふ、釆は分別。故に上から覆つてよく分別し詳らかにすること。本義は悉、卽ち知つて宷諦すること。篆文では審とかき、番に從ふ。番は獸の足跡、田は獸足の象形。釆を加へ、鳥獸の足跡をみて分理の相別つべきを知ること。〔說文、宷从二宀釆一、段注〕鍇曰、宀、覆也、釆、別也、能包覆而深二別之一也。

【審案】1 shen^{3} an^{4} しらべただす。とりしらべる。審按。吟味。

【審爲】2 シンヰ 呂氏春秋、開春論の篇名。

【審雨】3 シンウ 蟻をいふ。蟻は降雨を豫知して穴を移すからいふ。〔妖異記〕盧汾、夜闌昏味、見下大屋額號中審雨堂上、與二婦人一歡宴、醒乃見二一蟻穴一。

【審應】4 シンオウ 呂氏春秋、審應覽の篇名。

【審應覽】5 シンオウラン 呂氏春秋の篇名。審應・重言・精諭・離謂・淫辭・不屈・應言・具備の八篇がある。

【審音】6 シンオン 音をくはしく知る。音はメロデイ。〔禮、樂記〕審レ聲以知レ音、審レ音以知レ樂。

【審音鑑古錄】7 シンオンカンコロク 書名。十二卷。清、琴隱翁撰。戲曲に樂譜を附したもの。

【審解】8 シンカイ しらべて官におくる。〔福惠全書、刑名部、逃人、總論〕謹述二其查拿審解之要于左一。

【審交】9 シンカウ 交はる人を選ぶ。人の善惡を審かにして然る後に交際する。〔孟郊、審交詩〕種レ樹須レ擇レ地、惡土變二木根一、結レ交若失レ人、中道生二謗言一、君子芳桂性、春榮冬更繁、小人槿花心、朝在夕不レ存、莫レ躡二冬冰堅一、中有二潛浪翻一、唯當二金石交一、可下以二賢達一論上。

【審考】10 シンカウ しらべる。審查。〔漢書、文三王傳〕詔二廷尉一、選二上德通レ理之吏一、更審考清問。

【審行】11 シンカウ ❶行爲を詳らかに調べる。〔左氏、昭、二十五〕審レ行信レ令。〔會箋〕審二行者一、詳三其所二履行一也。❷如何に行爲すべきかをよく考へる。〔淮南子、人閒訓〕不レ如二擇レ趨而審一レ行也。

【審核】12 シンカク つまびらかにしらべる。眞實をしらべる。核も明らかにしらべる。審查。審覈。〔漢書、刑法志〕書不レ云乎、刑之恤哉、其審二核之一、務準二古法一。〔注〕師古曰、審核、究二其實一也。

【審覈】13 シンカク くはしく取りしらべる。つまびらかにただす。審核に同じ。〔後漢書、賈逵傳〕朝夕恪勤、游二情六藝一、研レ機綜レ微、靡レ不二審覈一。

【審樂】14 シンガク 音樂をくはしく知る。〔禮、樂記〕審レ音以知レ樂、審レ樂以知レ政。

【審合】15 シンガフ つまびらかに考へ合せる。〔韓非子、二柄〕人主將レ欲レ禁レ姦、則審二合刑名一者、言不レ異レ事也。〔翼毳〕言、人主將レ欲三禁二禦姦邪一、則審二詳參三合形與レ名者、使下人臣所レ陳言、與二所レ爲事一不上レ異也。

【審勘】16 シンカン くはしく考へしらべる。吟味する。〔宋史、刑法志三〕甚者有二十餘年不レ決之獄一、仰二提刑司守臣審勘一。

【審己】17 シンキ ❶自分の行を間違ひなくする。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕法二五始一之要、在二乎審レ己正レ統而已。❷呂氏春秋、季秋紀の篇名。

【審期】18 シンキ ❶定まつた期日。定期。〔論衡、氣壽〕未三必有二審期一也。❷しらべる日限。〔福惠全書、編審部、立局親審〕須下十日前大張二告示一、預示中審期上。

【審擬】19 シンギ 吟味の上、罪をあてる。〔福惠全書、刑名部、總論〕告理・差拘・審擬諸件。

【審議】20 シンギ 十分に評議する。〔北史、魏宣武帝紀〕坐可二審議一。〔宋史、職官志四〕大常寺博士、掌三講二定五禮儀式一、有二改革一、則據レ經審議。

【審議機關】22 シンギキクワン 審議にあづかる機關。

【審求】23 シンキウ つまびらかに求める。〔蔡邕、月令問答〕審求二曆象一、其要者、莫レ大二于月令一。

【審究】24 shen^{3} chiu^{4} くはしくしらべる。つまびらかに研究する。審窮。

【審糺】25 shen^{3} chiu^{1} 詳かにしらべただす。つまびらかに問ひただす。審鞫。

【審鞠】26 shen³ chü² 罪狀をつまびらかに問ひただす。審糺に同じ。

【審鞫】27（シンキク） 吟味する。細かに問ひただす。審鞫。〔福惠全書、刑名部、籍沒家產〕審鞫反叛有レ據。

【審級】28 shen³ chi² 裁判の階級。一審・二審・上告審をいふ。

【審窮】29 shen³ ch'iung² つまびらかに研究する。審究に同じ。

【審供】30（シンキヨウ） 犯罪人を取調べて供述書を取ること。〔六部成語、刑部、審供、注解〕審二訊罪犯一、錄二取供詞一。

【審曲】31（シンキヨク） 用材地形等の曲直をしらべて治める。〔周禮、考工記、總目〕審二曲面勢一、以飭二五材一、以辨二民器一。〔注〕鄭司農云、審二察五材曲直方面形勢之宜一以治レ之。〔孫詒讓正義〕鄭鍔云、材有二曲直一、直者不レ待レ審而可レ知、審二其曲者一、然後見二其理之所一レ在、勢有二向背一、背者不レ可二向以爲一レ用、面二其勢一、然後順二其體之所一レ向。〔張衡、東京賦〕審二曲面勢一。〔注〕綜曰、審、度也、謂下審二察地形曲直之勢一、而建中王都上。

【審曲官】32（シンキヨククワン） 曲直を觀察し正す官。百工を掌る官をいふ。審曲を見よ。〔陸倕、石闕銘〕命二審曲之官一、選二明中之士一。〔注〕濟曰、審、察也、謂下察二曲直一之官上也。

【審局】33（シンキヨク） 調べる役所。〔福惠全書、編審部、立局親審〕審局、或城隍廟、或公館。

【審謹】34（シンキン） 叮寧で謹み深い。〔史記、萬石傳〕以レ書讓レ慶、慶甚慙、遂復視レ事、慶文深審謹。

【審過】35（シンクワ） しらべ終る。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕審過、仍歸二各處一。

【審卦】36（シンクワイ） 易卦を觀察する。〔禮、月令〕審二卦吉凶一。〔注〕審省錄レ之。〔疏〕審二卦吉凶一者、卦吉凶、謂レ易也、易有二六十四卦一、或吉、或凶、故云二卦吉凶一。

【審畫】37（シンクワク） 計畫をつまびらかにする。〔漢書、鄒陽傳〕然而計議不レ得、雖二諸賁一不レ能レ安二其位一、亦明矣。願大王審レ畫而已。

【審完】38（シンクワン） しらべがすむ。〔福惠全書、編審部、嚴飭里胥〕審完按レ律、追レ贓治レ罪。

【審官】39（シンクワン） 官職に就ける。其の人に適した官に置く。〔詩、周南、卷耳序〕又當下輔二佐君子一求レ賢審レ官、知中臣下之勤勞上。〔疏〕其志欲レ令下君子、求二賢德之人一、審中置於官位上。

【審官院】40（シンクワンヰン） 宋代の官署の名。東西兩院あり、東院は文官、西院は武官の選授・勳封考課の政令を掌る。元豐以後、其の職、吏部に歸す。〔宋史、選擧志四〕典選之職、分爲二四文選一、曰審官東院、曰流內銓武選、曰審官西院、曰三班院、元豐定レ制而後、銓注之法、悉歸二選部一、以二審官東院一爲二尙書左選一、流內銓爲二侍郞左選一、審官西院爲二尙書右選一、三班院爲二侍郞右選一、於レ是吏部有二四選之法一。〔稱謂錄、文選司、審官東院〕涑水紀聞、太宗患二中書權大重一、向敏中時爲二諫官一、請下分二中書吏房一置中審官院上、熙寧閒、置二審官西院一、以主二武選一、於レ是改二審官院一爲二審官東院一焉。

【審形】41（シンケイ） 形迹をたしかめる。事實をつまびらかにする。〔風俗通、正失〕世之毀譽、莫二能得レ實、審レ形者少、隨レ聲者多。

【審計】42 shen³ chi⁴ 會計檢查。

【審計院】43（シンケイヰン） 會計檢查院。〔淸國行政法汎論、中央官廳〕審計院、亦係二新設一、檢二查經費一、以明二會計一也、猶二我會計檢查院一也。

【審計司】44（シンケイシ） 宋の官廳。會計事務を司る。〔宋史、職官志五〕太府寺、審計司、掌レ審二其給受之數一。

【審計法】45 shen³ chi⁴ fa³ 會計法。審計部の權限、及び其の審定を行ふべき事項を規定したもの。民國十七年四月に發布せられた。

【審計部】46（シンケイブ） もと審計院といふ。民國の會計檢查院で、監察院に屬し、部長・副部長・審計・協審の官があり、三廳に分る。

【審邽】47（シンケイ） 唐の人。字は次都。官は泉州刺史。儒術を好み、春秋に通ず。〔唐書、百九十〕。

【審稽】48（シンケイ） つまびらかに考へる。〔墨子、尙同下〕胡不三審二稽古之治爲レ政之說一乎。

【審決】49（シンケツ） しらべて決定する。〔朱子全書、學〕此天理人欲之閒、正當二審決一。

【審結】50（シンケツ） しらべてきめる。〔福惠全書、刑名部、監禁〕有二已審結未審結一。

【審檢】51 shen² chien³ つまびらかに取調べる。吟味。審查。

【審檢所】52（シンケンジヨ） 民國で、新制の審判廳未設の地方に置いて民事・刑事訴訟の初審事務を處理した役所。後、廢す。

【審驗】53（シンケン） 精密にしらべる。〔韓非子、主道〕同二合刑名一、審二驗法式一、擅爲者誅、國乃無レ賊。

【審元】54（シンゲン） 宋、唐愼微（2－3709‥453）の字。

【審言】55（シンゲン） 字號。㊀宋、葉義問（9－31387‥17）の字。㊁宋、李復圭（6－14459‥1890）の字。㊂元、呂機（2－3386‥32）の字。

【審固】56（シンコ） たしかでしつかりしてゐること。〔禮、射儀〕故心平體正、持二弓矢一審固、持二弓矢一審固、則射中矣。〔論衡、超奇〕執二弓矢一審固。

【審語】57（シンゴ） しらべあげた言葉。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕候レ出二審語一、發レ房存レ案。

【審克】58（シンコク） つまびらかにしらべて、其の能を盡す。十分しらべる。〔書、呂刑〕其罪惟均、其審二克之一。〔蔡傳〕審克者、察レ之詳而盡二其能一也。

【審查】59（シンサ） しらべる。詳細に調查する。審覈。審檢。〔淸國行政法汎論、宗人府、職權〕凡宗室覺羅、有二孝友貞節之人一、本府審查奏聞。

【審查會】60（シンサクワイ） 委員などが集まつて事物を審查決定する會。

【審查官】61（シンサクワン） 或る事物の審查を掌る役。

【審齋】62（シンサイ） 宋、王千秋（7－20823‥1819）の號。

【審齋詞】63（シンサイシ） 書名。一卷。宋、王千秋撰。其の詞は概ね秦觀・蘇軾の閒に出入す。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【審冊】64（シンサツ） しらべ帳。〔福惠全書、編審部、攢造審冊〕攢二造審冊一。

【審察】65（シンサツ） ㊀詳しく見る。よく考へる。〔戰國、楚策〕孫子爲レ書、謝曰、癘人憐レ王、此不恭之語也、雖レ然、不レ可レ不二審察一也。〔韓非子、說林上〕故曰、同レ事之人、不レ可レ不二審察一也。㊁周密で明か。〔管子、版法解〕能審察則無二遺善一。〔說苑、臣術〕耳目聰明、思慮審察。

【審思】66（シンシ） つまびらかに考へる。〔弘道館記述義、下〕不レ可レ不二審思而明辨一焉。

【審詞】67（シンシ） 口にする言葉をよく考へ選ぶ。〔論衡、逢遇〕定レ說審レ詞、際會能進、有三補二瞻主一、何不遇之有。

【審事】68（シンジ） ㊀民の事を審かにする。〔國語、周語上〕是則少多死生出入往來者、皆可レ知也、於レ是乎、又審レ之以レ事。〔注〕事、謂下因三藉田與二蒐狩一、以簡中知其數上也。㊁事物に明かになる。事件に通曉する。〔忠經、觀風章〕聽則審二於事一、明則辯二於理一。

【審時】69（シンジ） 呂氏春秋、士容論の篇名。

【審識】70（シンシキ） よく見わける。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕若能審二識安危一、自求二多福一。

【審悉】71（シンシツ） くはしくしらべる。〔雜事祕辛〕周二視動止一、審二悉幽隱一。

【審實】72（シンジツ） まこと。眞實。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕臣前頗謂二道路之言一、疑不二審實一。

【審詳】73（シンシヤウ） つまびらか。くはしく明か。〔禮、經解〕君子審レ禮不レ可三誣以二姦詐一。〔疏〕言、君子之人、若能審二詳於禮一、則奸詐自露、不レ可二誣罔一也。〔後漢書、郎顗傳〕陛下宜三審二詳明堂布政之務一。

【審處】74（シンシヨ） 十分に用意して對處する。〔史記、魯仲連傳〕以爲下亡二南陽一之害小、不上レ如下得二濟北一之利大上、故定レ計審二處之一。

【審飾】75（シンシヨク） よくよくととのへ修める。〔管子、法禁〕審二飾小節一以示レ民。〔纂詁〕飾、修也。

【審信】76（シンシン） たしか。まこと。〔墨子、尙同中〕故古者聖王爲二刑政賞譽一也、甚明察以審信。

【審愼】77（シンシン） 十分つつしむ。愼重。用意周到。〔漢書、于定國傳〕罪疑從レ輕、加二審愼之心一。

【審訊】78（シンジン） つまびらかに問ひただす。裁判する。〔宋史、劉敞傳〕營卒桑達等、醉鬬指二斥乘輿一、皇城使捕送二開封一、棄二達市一、敞移レ府問二何以不レ經二審訊一。

【審正】79（シンセイ） 几帳面でただしい。〔北史、長孫儉傳〕容貌魁偉、風度審正。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕公臨レ危審正、載貽二話言一。

【審勢】80（シンセイ） 形勢・事情をよく知る。〔蘇洵、審勢〕聖人審二其勢一、而應レ之以レ權。

【審聲】81（シンセイ） 樂聲をくはしく知る。〔禮、樂記〕

審レ聲以知レ音。〔國語、呉語〕大夫皐如進對曰、審レ聲則可二以戰一乎、王曰、可矣。

【審說】82（シンセツ） つまびらかに說く。〔論衡、謝短〕五經所レ當二共知一、儒生所レ當二審說一也。

【審賊】83 shen^3 tsei^2 賊を取調べる。

【審度】84（シンタク） つまびらかにはかる。審料。審量。〔錢珝、爲二集賢崔相公一讓二大學士一表〕承レ命以來、通宵審度。〔福惠全書、蒞任部、承事上司〕至三于奉二到上行一審二度輕重一。

【審單】85（シンタン） しらべた書きつけ。〔福惠全書、刑名部、問擬〕看語卽審單也。

【審端】86（シンタン） ❶十分に正す。〔禮、月令〕（孟春之月）皆脩二封疆一、審二端徑術一。❷詳かで正しい。〔南齊書、明帝紀〕布令審端、咸必由レ之。

【審斷】87（シンダン） 判定する。裁決する。〔清國行政法汎論、內務府、職權〕徒以上、由レ府報二刑部一審斷。

【審聽】88（シンチヤウ） 殘す所なくきく。〔王融、永明九年策二秀才一文〕審聽高居、載懷二祇懼一。

【審忠】89（シンチユウ） 後漢、梁の人。字は公誠。靈帝の時、郞中となる。〔後漢書、百八〕。

【審廷】90（シンテイ） 法律用語。裁判する所。白州（シラス）。法廷。

【審定】91（シンテイ） くはしくしらべ定める。〔鬼谷子、反應〕己先審定以牧レ人。〔史記、張儀傳〕審二定計議一。〔論衡、超奇〕審二定文讀一、而以教授、爲二文師一者、通人也。

【審諟】92（シンシ・シンテイ） つまびらか。審諦。〔白虎通、封禪〕五帝禪二於亭亭一者、制度審諟、德著明也。

【審諦】93（シンテイ） ❶あきらか。つまびらか。審諟に同じ。〔禮、王制、二月東巡守、疏〕亭亭者、制度審諦、道德著明也。〔尙書大傳、略說〕言下其能行二天道一、擧錯審諦上也。〔風俗通、皇霸〕擧錯審諦。❷明かにする。〔唐書、禮樂志三〕禘以審二諦其尊卑一。

【審敵】94（シンテキ） 敵情をつまびらかにする。〔蘇洵、審敵〕中國、內也、四夷、外也、憂在レ內者本也、憂在レ外者末也。

【審配】95（シンパイ） 後漢、魏郡の人。字は正南。袁紹に仕へ、曹操のために斬らる。〔三國志、六〕。

【審報】96（シンパウ） 上役に出す調べのとどけ。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕有無審報、具題完結。

【審發】97（シンパツ） よくねらつて發する。〔蜀志、譙周傳〕射幸數跌、不レ如二審發一。

【審罰】98（シンバツ） 法を明かにする。〔國語、呉語〕大夫苦成進對曰、審レ罰則可二以戰一乎、王曰、猛。

【審判】99（シンパン・シンバン） ❶或る事件を審理して判斷すること。又、其の判決。❷競技の勝負を斷定すること。又、其の人。

【審判官】100（シンパンクワン） ❶審判をなす官吏。❷競技の審判をする人。

【審判長】101（シンパンチヤウ） ❶審判事件に關する事務を掌理する人。❷運動競技の首位の審判者で、その審判に關する最後の責任を負ふべき人。

【審判廳】102（シンパンチヤウ） 裁判所。清朝の末、京師に大理院を置いて最高級の裁判所とし、京師及び各省に高等審判廳・地方審判廳・初級審判廳を置いた。

【審美】103（シンビ） 物の美醜をきはめ、美の本質をあきらかにする。

【審美學】104（シンビガク） 美醜の性質・法則等を研究する學問。

【審美眼】105（シンビガン） 美醜を識別する眼識。美的鑑識力。

【審備】106（シンビ） 十分に備へる。十分な備。〔國語、呉語〕大夫蠡進對曰、審備則可二以戰一乎、王曰、巧。

【審微】107（シンビ） 新書の篇名。

【審覆】108（シンプク） 二度のしらべ。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、起贓〕在二鄰封一、致レ貽二審覆一。

【審分】109（シンブン） ❶本分・職務をあきらかにする。〔呂覽、審分〕凡人主必審レ分、然後治可二以至一。❷身分をよく考へる。〔白居易、吟二四雖一詩〕省レ躬審レ分何僥倖、値レ酒逢レ歌且歡喜。❸呂氏春秋、審分覽の篇名。

【審分覽】110（シンブンラン） 呂氏春秋の篇名。審分・君守・任數・勿躬・知度・愼勢・不二・執一の八篇がある。

【審別】111（シンベツ） はつきり區別する。審辨。〔管子、宙合〕審二別良苦一。〔後漢書、黃瓊傳〕審二別眞僞一。

【審辨】112（シンベン） 明かに知りわける。審別に同じ。審辨。〔蔡邕、貞定直父碑〕其接レ友也、審二辨眞僞一、明二于知レ人。

【審密】113（シンミツ） つまびらか。くはしい。〔管子、幼官〕六紀審密、賢人之守也。

【審名】114（シンメイ） 新論の篇名。

【審明】115 shen^3 ming^2 はつきりと取り調べる。

【審問】116（シンモン） くはしくしらべ問ふ。つまびらかに問ふ。〔中庸〕博學レ之、審問レ之。

【審喩】117（シンユ） つまびらかにさとす。〔禮、文王世子〕少傅奉二世子一、以觀二太傅之德行一、而審二喩之一。

【審覽】118（シンラン） つまびらかにしらべみる。〔唐書、憲宗懿安皇后郭氏傳〕諫臣章疏、宜下審覽度レ可レ用用レ之、有二不可一以詢中宰臣上。

【審理】119（シンリ） つまびらかに取調べる。〔金史、章宗紀三〕以レ旱下レ詔、責レ躬求二直言一、避二正殿一、減レ膳、審二理冤獄一。

【審律】120（シンリツ） 宋、呉儀(**2**－3365‥99)の號。

【審量】121（シンリヤウ） くはしくはかる。審料。審度。〔蜀志、許靖傳〕弃二忘舊惡一、寬二和群司一、審二量五材一。

【審慮】122（シンリヨ） よく考へる。〔管子、宙合〕靜默以審慮、依二賢可レ用也。

【審禮】123（シンレイ） ❶禮を嚴重にする。〔禮記、經解〕君子審レ禮、不レ可三誣以二姦詐一。〔史記、禮書〕君子審レ禮。❷字號。㋑宋、向經(**2**－3301‥19)の字。㋺宋、李用和(**6**－14459‥1972)の字。

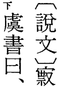
【審料】124（シンレウ） よく考へはかる。審度。〔後漢書、耿弇傳論〕淮陰廷二論項王一、審二料成執一、則知二高祖之廟勝一矣。

【審食其】125（シンイキ） 漢、沛の人。高祖が彭城に敗れた時、西楚は太上皇・呂后を取つて質とした。その時食其は呂后に侍してゐた。後、項籍を破つて辟陽侯に封せられ、陳平と與に相となり、呂后に幸せられた。〔史記、五十六〕・〔前漢書、四十〕。

【審大臣】126（シンタイシン） 中論の篇名。

【審讀一過】127（シンドクイツクワ） 丁寧に一通り讀み下すこと。〔言志後錄〕寫訖、審讀一過而封完。

【寂】7317


小篆

サイ
セ
〔集韻〕取外切 泰

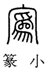
さかひ。〔說文〕寂、塞也、从レ宀叔聲、讀若下虞書曰、竄二三苗一之竄上。〔陸贄、關中事狀〕儻有二賊臣蹈レ寂。〔注〕塞外道。

【㝯】7318

ケウ
ゲウ
〔集韻〕渠嬌切 蕭

❶**身をよせる。又、たびゐ。**寄寓する。〔玉篇〕㝯、寄也。〔集韻〕㝯、博雅、客也。❷通じて僑(**1**－1088)に作る。〔集韻〕㝯、通作レ僑。

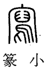
【寪】7319


小篆

🈩キ 〔集韻〕羽委切 ㄨㄟˇ wei^3 紙
🈔ギ 〔集韻〕虞爲切 支

🈩❶**家屋のさま。**屋宇開張のさま。〔說文〕寪、屋皃、从レ宀爲聲。〔段注〕王逸注二招隱士一曰、崎嶇閜寪。〔徐灝注箋〕屋皃、亦謂二屋宇開張之貌一耳。❷**姓。**〔集韻〕寪、亦姓。〔左氏、隱、十一〕公館二于寪氏一。🈔**おちつかないさま。**陧寪。〔集韻〕寪、陧寪、不レ安皃。

【寫】7320


小篆

🈩シヤ 〔集韻〕洗野切 ㄒㄧㄝˇ hsieh^3 馬
🈔シヤ 〔集韻〕四夜切 禡
🈪ソ 〔集韻〕傷故切 遇

🈩❶**うつす。**㋑おきかへる。〔說文〕寫、置レ物也、从レ宀舄聲。〔段注〕謂二去レ此注レ彼也、凡傾吐曰レ寫、俗作レ瀉者、寫之俗字。〔徐灝注箋〕古謂レ置二物於屋下一曰レ寫、蓋從二他處一傳二置於此室一也。〔禮、曲禮上〕器之漑者不レ寫、其餘皆寫。〔注〕寫者、傳二己器中一乃食レ之也。

〔疏〕寫、謂三倒二傳之一也。㋺のぞく。〔廣雅、釋詁三〕寫、除也。〔詩、邶風、泉水〕以寫二我憂一。〔傳〕寫、除也。㋩はらふ。〔詩、小雅、蓼蕭〕我心寫兮。〔集傳〕寫、輸寫也、我心輸寫而無レ留レ恨也。㊁やる。はこぶ。そそぐ。〔周禮、地官、稻人〕以レ澮寫レ水。〔疏〕以レ澮是寫二去水一。㋭ならふ。まなぶ。〔淮南子、本經訓〕可下以二鍾鼓一寫上。〔注〕寫、猶二於斅一也。㋬かたどる。〔周髀算經、上〕笠以寫レ天。〔注〕寫、猶レ象也。㋣かきうつす。謄鈔する。〔釋名、釋書契〕書稱レ刺、又曰レ寫。〔晉書、文苑、左思傳〕豪貴之家、競相傳寫、洛陽爲レ之紙貴。〔陔餘叢考、寫〕曲禮、器之漑者、不レ寫、其餘皆寫、注、謂レ傳二之器中一也、並無二以爲レ作レ字者一、漢書藝文志、武帝置二寫書官一、寫字、始作二鈔・錄解一、蓋因下此器注二於彼器一有中傳遞之義上、故借爲二傳鈔書寫之字一。㋠ゑがく。摹畫。〔史記、秦始皇紀〕秦每レ破二諸侯一、寫二放其宮室一、作二之咸陽北阪上一。〔陳書、顧野王傳〕好二丹青一、善二圖寫一。❷**はく**。〔漢書、司馬相如傳上〕肸蠁布寫。〔注〕師古曰、寫、吐也。❸**つくす**。〔廣雅、釋詁一〕寫、盡也。❹**うれへる**。〔爾雅、釋詁〕寫、憂也。〔注〕有レ憂者思散寫也。❺**おもふ**。〔玉篇〕寫、思也。❻［現］㋑書く。㋺舟車を雇ふ。㋩番頭。㊁記入する。㋭洩らす。［二］**とく。おろす。はなす**。卸(**2**－**2861**)に同じ。〔集韻〕卸、說文、舍レ車解レ馬也、或作レ寫。［三］**水をそそぐ**。〔集韻〕寫、行レ水也。

【寫鞍】1 シャアン 馬の鞍を卸して憩ふ。〔晉書、潘岳傳〕發レ槅寫レ鞍、皆有レ所レ憩。

【寫意】2 シャイ ❶意をそそぐ。誠意をつくす。〔戰國、趙策〕人有二言レ子者一曰、父之孝子、君之忠臣也、故寡人以二子之智慮一、爲下辨足二以道レ人、危足二以持レ難、忠可二以寫レ意、信可中以遠上レ期。〔注〕寫、猶レ宣。❷畫家の一派。形を求めないで、其の大意精神を寫すこと。❸氣まま。行動の拘束せられぬこと。蘇滬地方の方言。

【寫憂】3 シャイウ うれへを除く。〔詩、邶風、泉水〕駕言出遊、以寫二我憂一。〔傳〕寫、除也。〔陳奐傳疏〕蓼蕭傳、寫、輸二寫其心一也、寫除、與二輸寫一同。〔傳亮、登二龍岡一賦〕靜潛處以永レ念、聊駕言以寫レ憂。〔陳子昂、春臺引〕懷二宇宙一以湯湯、遂登二高臺一而寫レ憂。

【寫韻】4 シャヰン 韻書を寫す。寫韻亭を見よ。〔龍興職方乘〕一書生文簫、遇二仙女吳彩鸞一、歸二鍾陵一、貧不二自贍一、彩鸞曰、我爲寫二孫愐唐韻一、運レ筆如レ飛、一部售二五千文一、盡、又爲レ之。

〖寫韻軒〗5 シャヰンケン ❶寫韻亭に同じ。〔張雨、題二東坡眞蹟一詩〕寫韻軒中塵不レ驚、與レ誰同躡二凰皇翎一。❷淸、曹貞秀(**5**－**14297**・・293)の室名。

〖寫韻亭〗6 シャヰンテイ 亭の名。仙女、吳彩鸞が文簫に嫁し、日日、孫愐の唐韻一部を寫し、賣つて家資に給した。後人、之を記念して亭を建つ。〔紫薇詩話〕洪龜父寫韻亭詩云、紫極宮下春江橫、紫極宮中百尺亭、水入方州界玉局、雲映連水羅翠屛、小楷四聲餘翰墨、主人一粒盡僊靈、文簫彩鸞不二復返一、至レ今神界花冥冥。〔佩文韻府引寫韻亭〕按、仙女吳彩鸞、嫁二士人文簫一、簫家貪、彩鸞日寫二孫愐唐韻一部一、鬻レ之以給二朝夕一、後人于二其地一建二寫韻亭一。

〖寫韻樓〗7 シャヰンロウ 淸、吳瓊仙(**2**－**3365**・・530)の室名。

【寫映】8 シャエイ うつる。うつす。映寫。〔張衡、週天大象賦〕建星含二曜於黃道一、天弁寫二映於淸流一。

【寫影】9 シャエイ 人または物の姿を寫すこと。〔謝莊、赤鸚鵡賦應レ詔〕雲寫二影於靑林一。

【寫捐】10 hsieh³ chüan¹ 義捐金を募る。

【寫會】11 hsieh³ huei⁴ 日本の無盡の類。無利息を特色とする。錢會。

【寫懷】12 シャクワイ 心の中を書きうつす。心中をのべる。〔人物志、材理〕寫二人之所レ懷、扶二人之所レ能。

【寫形】13 シャケイ ❶醫者が病人の形態を診察すること。〔史記、扁鵲傳〕越人之爲レ方也、不レ待二切レ脈、望レ色、聽レ聲、寫レ形。❷圖形をうつすこと。〔梅堯臣、傳神悅躬上人詩〕鑑レ貌不レ鑑レ道、寫レ形寧寫レ心。

【寫景】14 シャケイ 詩又は畫にて、山水花鳥及び自然界の一切の景物を描寫すること。

【寫經】15 シャケイ ❶經書を寫す。〔晉書、王羲之傳〕羲之性愛レ鵝、山陰有二一道士一、養二好鵝一、羲之往觀焉、意甚悅、因求レ市レ之、道士云、爲寫二道德經一、當二擧レ羣相贈一耳、羲之欣然寫畢、籠レ鵝而歸、甚以爲レ樂、其任率如レ此。〔晉書、趙至傳〕年十四、詣二洛陽一、游二太學一、遇二嵇康於學一、寫二石經一、徘徊視レ之不レ能レ去。〔國史補〕張參爲二國子司業一、年老、嘗手寫二九經一、以謂、讀レ書不レ如レ寫レ書。〔法書要錄、一、南齊王僧虔論書〕謝靜謝敷、並善二寫經一。❷［佛］シャキャウ 供養のために經文を筆寫すること。又、其の筆寫した經文をいふ。死者の冥福祈願のために寫したものを願經といひ、大部の經文を一日中に寫したものを頓寫經といふ。〔佛國記〕法顯住レ此二年、寫二經及畫像一。

〖寫經寮〗16 シャケイレウ 宋、張鎡(**4**－**9812**・・361)の室名。

【寫載】17 シャサイ うつし記すこと。うつし描くこと。〔王延壽、魯靈光殿賦〕寫二載其狀一、託二之丹青一。

【寫字】18 シャジ 文字を書きうつす。〔文同、可笑口號詩〕讀書寫字到二三更一。〔梁溪漫志〕世人寫字、能レ大不レ能レ小。〔捫蝨新話〕蘇子美嘗云、吾不幸寫レ字、大以比二周越一。

〖寫字桌〗19 hsieh³ tzŭ⁴ chuo¹ 字を書く机。事務用のテーブル。

〖寫字著棋〗20 シャジチャクキ 文字を書き、棋を圍む。〔通俗編、藝術、寫字著棋〕春渚紀聞、古人作レ字謂二之字畫一、弈棋謂二之行棋一、不レ知三何時改作二寫字著棋一、此天下至俗無レ理之語、而幷二賢愚一、皆承二其說一何也。

〖寫字此是學〗20′ シャジハコレコレガクナリ 敬んで字を寫すと、その寫字の業それ自身が既に修養の學となるものである。〔近思錄、存養〕明道先生曰、某寫レ字時甚敬、非三是要二字好一、只此是學。〔注〕篤二於持レ敬、無二往非一レ學。

【寫似】21 シャジ うつしかたどる。〔于邵、楊侍御寫眞讚〕仙狀秀出、丹靑寫似。

【寫實】22 シャジツ 實際の狀態のままをうつす。〔文心雕龍、誄碑〕贊曰、寫レ實追レ虛、碑誄以立、銘レ德慕レ行、文采允集。

〖寫實派〗23 シャジツハ 寫實主義の一派。

〖寫實主義〗24 シャジツシュギ 英語 Realism の譯。空想や理想を斥け、實際の狀態をありのままに描寫するを第一とする藝術上の主義。

【寫車】25 hsieh³ ch'ê¹ 車を雇ふ。

【寫象】26 シャシャウ 獨逸語 Vorstellung の譯。心理學で、客觀が主觀に知覺せられて心裡に映じたもの。表象。

【寫狀】27 シャジャウ 形狀をうつす。容貌を寫す。〔國語、越語下〕王命レ工、以二良金一寫二范蠡之狀一、而朝二禮之一。

【寫情】28 シャジャウ 實情を寫し出すこと。〔韻府引、歐陽脩、詩〕散レ帙復歸臥、詠レ言聊寫レ情。

【寫潤】29 シャジュン 水をそそぎうるほす。さかんになること。瀉潤。〔江總、爲二陳六宮一謝章〕日月騰影、風雲寫潤。

【寫書】30 シャショ 書物をうつす。書籍をかきうつす。又、其の筆寫した書籍。〔漢書、藝文志序〕建二藏書之策一、置二寫書之官一、下及二諸子傳說一、皆充二秘府一。

【寫誦】31 シャショウ 書取つてよむ。〔周書、申徽傳〕爲二襄州刺史一、賦レ詩題二於淸水亭一、長幼聞レ之、競來就讀、遞相謂曰、此是申使君手迹、竝寫二誦之一。

【寫心】32 シャシン 心をうつしとる。心をかきあらはす。〔向秀、思舊賦〕授レ翰而寫レ心。〔梅堯臣、傳神悅躬上人詩〕鑑レ貌不レ鑑レ道、寫レ形寧寫レ心。

【寫信】33 hsieh³ hsin⁴ 手紙を書く。

〖寫信先生〗34 hsieh³ hsin⁴ hsien¹ shêng 會社商店などで信書の往復を掌る者。文案・淨書・發送等を掌る人。

【寫眞】35 シャシン ❶實相をうつす。〔顏氏家訓、雜藝〕畫レ繪之工、亦爲レ妙、自レ古多士多或能レ之、吾家常有二梁元帝手畫蟬雀白團扇及馬圖一、亦難レ及也、武烈太子、偏能寫レ眞、坐上賓客、隨レ宜點染卽成。〔杜甫、丹靑引贈二曹將軍霸一〕將軍善畫蓋有レ神、必逢二佳士一亦寫レ眞。❷人の繪姿。肖像畫。似顏。〔白居易、自題二寫眞一詩〕我貌不二自識一、

李放寫二我眞一。㊂物の實像を光の化學作用を利用して、紙其の他のものに再現させたもの。寫眞器で形像を乾板に撮影し、現像・定着の諸操作を經て得た陰畫原板から、種々の方法で燒付けた陽畫。

〖寫眞機〗36（シャシンキ） 寫眞を撮る器械。カメラ。

〖寫眞版〗37（シャシンバン） 寫眞を印刷した版。銅版・亞鉛版・コロタイプ・アートタイプ等の種類がある。中國では影印版といふ。

【寫神】38（シャシン） 形態だけに止まらず、其の神髓を寫すこと。人の容貌をよく寫し、眞に其の人に接するやうに感じさせる。〔馬融、長笛賦〕是故可三以通レ靈感レ物、寫レ神喩レ意、致レ誠效レ志、率作二興事一。〔注〕善曰、言、可下以通二於神靈一、感二致萬物一、舒二寫精神一、曉中喩志意上。〔輟耕錄、人中〕錢塘陳鑑如、以二寫神一見レ推二一時一。

【寫水】39（シャスイ） 水をそそぐ。瀉水。〔周禮、地官、稻人〕以レ澮寫レ水。〔世說新語、文學〕殷中軍問、自然無レ心二於稟受一、何以正善人少、惡人多、劉尹答曰、譬如二寫レ水著レ地、正自縱橫流漫、略無二正方圓者一、一時絶嘆以爲二名通一。

【寫生】40（シャセイ） 實物其のままをうつし畫く。物の狀態景色を自然のまま寫すこと。〔蘇軾、書二鄢陵王主簿所レ畫折枝一詩〕邊鸞雀寫生、趙昌花傳神。〔書言故事大全、畫者類、寫生〕謝三人惠二花軸一曰、蒙レ惠二寫生一、敬當二珍襲一、黃筌父子畫レ花、妙在二賦色一、用レ筆極細、殆不レ見二墨跡一、但以二輕色染成一、謂二之寫生一。〔徐氏筆精〕惟元倪瓚輩、始喜二寫生一、脫二畫家蹊徑一。

〖寫生畫〗41（シャセイグワ） 寫生した繪畫。

〖寫生文〗42（シャセイブン） 事物を見た通りに寫す一種の文體。明治年間、正岡子規を中心として起つた文體で、洋畫の手法を文章に取りいれたもの。一時は各方面に影響したが、大正中期から衰微した。

【寫照】43（シャセウ） まことのかたちをうつす。肖像をうつす。畫像。〔晉書、顧愷之傳〕傳神寫照、正在二阿堵中一。〔席豫、奉三和敕賜二公主鏡一詩〕含レ靈萬象入、寫レ照百花開。〔陳郁話腴〕寫照非二畫レ物比一、蓋寫レ形不レ難、寫レ心惟難也。〔書言故事大全、傳神類〕傳神寫照。

【寫染】44（シャセン） 詩や畫をかく。書畫。染筆。〔彭汝偶、途中早起寄二兄弟一詩〕新詩如レ有レ得、寫染寄二歸翰一。〔剪燈餘話、芙蓉屏記〕讀書識字寫染俱通。

【寫船】45 hsieh³ ch'uan² 船を雇ふ。

〖寫船票〗46 hsieh³ ch'uan² p'iao⁴ 乘船切符を買ふ。

【寫搨】47（シャタフ） 書畫を書き寫すこと。搨寫。〔竇臮、述書賦〕季初則隱二姓名一、展二纖勁一寫搨。

【寫賬】48 hsieh³ chang⁴ ㊀帳簿に記入する。㊁掛けで品物を取る。

【寫定】49（シャテイ） うつし定める。〔後漢書、鄭玄傳〕所レ好羣書、率皆腐敝、不レ得下於二禮堂一寫定傳中與其人上。

【寫氎】50（シャデフ） 佛白い毛織物に描いた佛像。〔祖庭事苑、六〕摩騰、竺法蘭、以二白氎畫釋迦像並四十二章經一、載以二白馬一。

【寫禿】51 hsieh³ t'u¹ 筆先が書き切れる。筆がちびる。

【寫放】52（シャハウ） ㊀まねする。寫倣。〔史記、秦始皇紀〕秦每レ破二諸侯一、寫二放其宮室一、作二之咸陽北阪上一。㊁hsieh³ fang⁴ 習字をする。

【寫倣】53（シャハウ） うつしならふこと。模寫すること。寫放。〔周伯琦、天馬行應制作〕畫師寫倣妙奪レ神、拜二進御牀一深稱レ旨。

【寫白】54（シャハク） ㊀冤罪などを雪いで明かにする。〔後漢書、張奐傳〕足下仁篤、照二其辛苦一、使人未レ反、復獲二郵書一、恩詔分明、前以寫白、而刎期切促、郡縣惶惶。㊁美しく寫し直す。淸書し寫す。〔朱子續集〕中庸章句、比略修定、云云、煩二二哥一帶二寫白人一來。

【寫法】55 hsieh² fa³ 書法。書き方。

【寫甁】56（シャビヤウ） 佛甁に水を瀉ぎ移すこと。㊀辯舌の達者な喩。〔續高僧傳〕識乖二龍樹一、謬忝二傳燈之榮一、才異二馬鳴一、深愧二寫甁之敏一。〔陶弘景、許長史舊館壇碑頌〕勝殿密響、寫甁揚芬。㊁師が弟子に法を遺漏なく傳へる喩。〔涅槃經〕如下寫二甁水一、置中之一甁上。

【寫副】57（シャフク） 本書をうつしとる。又、其の文。副寫。〔晉書、武帝紀〕詔曰、自二泰始一以來、大事皆撰錄、祕書寫副。

【寫物】58（シャブツ） ㊀物の形をかきうつす。〔王譪祖、二疏圖記〕吳郡顧生能寫レ物。㊁（モノウツシ）文書などを寫す。又、其のもの。

【寫票】59 hsieh³ p'iao⁴ 賣買の約定をする。手打ちをする。

【寫本】60（シャホン） 本を書きうつすこと。又、書きうつした書物。印本・板本の對。書寫本。筆寫本。鈔本。〔李淸照、金石錄敍〕渡江散爲二雲煙一、獨餘二輕少卷軸一、寫本李杜韓柳集世說鹽鐵論。〔冷齋夜話、二、古樂府前輩多用二其句一〕破篋中有二詩編寫本一、字多漫滅。〔大學衍義補、備二規制一、圖籍之儲〕唐以前書籍皆寫本、人以二藏書一爲レ貴、精二於讐對一。

【寫霧】61（シャム） 山あひから洩れ出る霧。〔孔稚珪、北山移文〕至二還飇入レ幕、寫霧出レ楹、云云。

【寫明】62（シャメイ） 明かに書きしるす。はつきりと書く。

【寫錄】63（シャロク） 書きうつす。書きとめる。〔文同、將レ赴二洋州一書二東谷舊隱一詩〕壁閒細書字、多是親寫錄。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕詳二聽口供一、挨次寫錄。

【寫籙】64（シャロク） 書をうつしかくこと。〔項斯、題二太白山隱者一詩〕寫籙扃二虛白一、尋レ僧到二翠微一。

【寫詩式】65（シャシシキ） 我が國で、昔、詩を寫す法式が一定し、孝經樓詩話・南留別志・梧園詩話等に絶句や律詩の書式に就いて行數字數が記され、又、朝野群載に題を寫す式、署名の式、闕字の法等が載せられてゐる。次に詩の唱酬、贈答の際、詩稿の前後に記す文面の例を擧げる。『上二長上一』蕪詩一首敬稟二（姓）（官名）閣下一伏冀二高教一某頓首。『呈二師長一』巴調一篇敬呈二奉（姓）先生函丈一伏乞二郢正一（鈞誨）某拜。『示二平交一』野詩一闋呈二（姓）詞兄一（仁兄）一粲（正句又は粲正）某初艸（未定稿、稿）。『答詩』右敬答二（姓）詞兄（盟臺）見レ寄（見レ眎）併政（希政）某拜。『贈詩』右敬贈二（姓）賢兄一（賢臺）某拜（再拜）。『平交和韻』漫攀二（次、汙、塵）某詩兄芳韻一（瑤礎、芳裔）以供二一笑一（博二一粲一）。『同右』右汙二瑤礎一酬二某仁兄大人見レ寄。『疊韻』疊韻酬二某仁兄見レ寄（見レ眎）軒渠幸甚。

【寫秋軒】66（シャシウケン） 清、如山（**3**－**6060**‥62）の室名。

【寫韶齋】67（シャセウサイ） 清、丁履恆（**1**－**2**‥308）の室名。

【寫呈狀】68 hsieh³ ch'êng² chuang⁴ 告訴狀を認める。

【寫不得】69 hsieh³ pu tê² 書くことが出來ない。

【寫春精舍】70（シャシュンシャウジャ） 清、奕繪（**3**－**5922**‥12）の室名。

【寫留路司】71 hsieh³ liu² lu⁴ ssŭ¹ 纖維素。（cellulose）

【寫留路以特】72 hsieh³ liu² lu⁴ i³ t'ê⁴ セルロイド。

【寫十三經堂】73（シャジフサンキヤウダウ） 清、李堯棟（**6**－**14459**‥1125）の室名。

【寫十三經老人】74（シャジフサンキヤウラウジン） 清、劉庠（**2**－**2224**‥336）の號。

【窾】7321

クワン

窾（**8**－**25655**）に同じ。〔字彙〕窾、同レ窾。

【寬】7322

小篆

クワン 〔集韻〕枯官切 ㄎㄨㄢ 寒 k'uan¹

㊀**家がひろい**。〔說文〕寬、屋寬大也、从レ宀萈聲。㊁**ひろい**。〔字彙〕寬、廣也。〔宋之問、奉和九日云云得二歡字一詩〕乘レ高宇宙寬。㊂**心がひろい。ゆたか**。度量が大きい。〔爾雅、釋言〕寬、綽也。〔疏〕寬、性之裕者。〔廣韻〕寬、裕也。〔易、乾〕寬以居レ之。〔書、皐陶謨〕寬而栗。〔鄭注〕寬、謂二度量寬大一。〔詩、衞風、淇奧〕寬兮綽兮。〔傳〕寬、能容レ衆。〔禮、樂記〕寬而靜。〔疏〕寬、謂二德量寬大一。㊃**のびやか**。〔字彙〕寬、舒也。〔史記、韓非傳〕寬則寵二名譽之人一、急則用二介冑之士一。㊄**おだやか**。〔正字通〕寬、不レ猛也。〔左氏、昭、二十八〕太叔爲レ政、不レ忍レ猛而寬。㊅**ゆるやか。ゆるめ**

る。〔廣韻〕寛、緩也。〔國語、吳語〕將下必寛然有中伯二諸侯一之心上焉。〔注〕寛、緩也。〔史記、廉頗藺相如傳〕鄙賤之人、不レ知二將軍寛之至一レ此也。❼さがる。はなれる。〔國語、周語中〕以レ恭給レ事、則寛二於死一。〔注〕寛、猶レ遠也。❽いつくしみ。〔廣韻〕寛、愛也。〔書、舜典〕恭敷二五教一在レ寛。〔書、伊訓〕代レ虐以レ寛。❾古は完(3－7079)に作る。〔集韻〕寛、古作レ完。❿姓。〔奇姓通〕寛徹、漢陽人、洪武進士、使二西域一。⓫［現］はば。幅。

［名乘］ムネ。モト。ヨシ。トモ。トラ。ノブ。ノリ。ヒロ。ヲ。ヲキ。

【寛隘】1 クワンアイ ゆるやかときびしい。寛大と狹隘。〔新論、均任〕器有二寛隘一、量有二巨細一、材有二大小一。

【寛衣】2 クワンイ ❶ひろい衣。ゆつくりした衣服。〔神仙感遇記〕唐明皇與二羅公遠一同登二月宮一、見二仙女數百一、皆素練寛衣、舞二於廣庭一。❷衣をぬぐ。客に上衣を脱ぐをすすめる挨拶の語。

〖寛衣服〗2′ k'uan^1 i^1 fu^2 着物をくつろげる。

【寛易】3 クワンイ 心がゆつたりとしておだやか。〔唐書、袁滋傳〕性寛易、與レ之接者、皆自謂、可レ見二肺肝一、至二家人一不レ得レ見二喜慍一。〔歐陽脩、少府監分司西京裴公墓誌銘〕君爲レ人質重寛易。

【寛慰】4 クワンヰ なぐさめる。ゆるしいたはる。〔蜀志、李嚴傳、注〕諸葛亮又與二平子豐一教曰、昔楚卿屢絀、亦乃克復、思レ道則福應、自然之數也、願寛二慰都護一、勤二追前闕一。〔白居易、答二蘇六一詩〕更無二別計相寛慰一、故遣三陽關勸二一盃一。〔紅樓夢、三回〕衆人忙都寛慰解釋。

【寛宥】5 クワンイウ おほめに見てゆるすこと。寛赦。〔後漢書、龐參傳〕宜下遠覽二二君一、使中參慬得上レ在二寛宥之科一。〔孔子家語、入官〕明君必寛有以容二其民一、慈愛優二柔之一。

〖寛宥假借〗6 クワンイウカシヤク 寛大な心で人をゆるすこと。

【寛韻】7 クワンキン 作詩に通韻を用ひること。〔增續韻府〕退之作レ詩、寛韻則泛入二旁韻一、窄韻則因レ難見レ巧、愈險愈奇。

【寛永】8 クワンエイ 第百八代後水尾天皇・第百九代明正天皇の年號。(1624－1644)〔菅原長維勘文〕毛詩朱子注曰、寛廣永長。

【寛叡】9 クワンエイ 心が廣くさとい。〔南史、王華傳〕畏三盧陵嚴斷、將來必不二自容一、殿下寛叡慈仁。

【寛延】10 クワンエン 第百十六代桃園天皇の年號。(1748－1751)〔菅原爲範勘文〕文選云、開二寛裕之路一、以延二天下之英俊一也。

【寛衍】11 クワンエン ゆるやかでひろい。〔易、需、象曰〕需二于沙一、衍在レ中也、疏〕衍、謂二寛衍一、去レ難雖レ近、猶未レ逼二于難一、而寛衍在二其中一也。

【寛恩】12 クワンオン ゆたかな恩惠。〔呂誨、蘄州謝上表〕一麾出守、誠是寛恩。

〖寛思饒恕〗13 k'uan^1 ên^1 ên^1 jao^2 shu^4 なさけを以て勘辨する。

【寛假】14 クワンカ ゆるい。ゆるやかにする。くつろぐ。寛暇。〔釋名、釋天〕夏、假也、寛二假萬物一、使二生長一也。〔史記、封禪書〕其道非二少寛假一神不レ來。〔後漢書、鍾離意傳〕升平之世、難二以急化一、宜二少寛假一。

【寛暇】15 クワンカ ❶餘裕がある。又、富裕。〔潛夫論、愛日〕盜竊起二於貧窮一、富貴生二於寛暇一。〔後漢書、王符傳〕富足生二於寛暇一。❷くつろいでひまなこと。寛假に同じ。〔漢書、郊祀志上〕遷者非レ有レ求二人主一、人主者求レ之、其道非二少寛暇一神不レ來。

【寛河】16 クワンガ ❶川の名。㋑滿州黑龍江省璦琿縣の西北。東流して黑龍江に入る。金を産す。㋺滿洲熱河省淩源縣の南。蒙古の喀喇心左翼の南境。源は寛山。東流して遼寧省興城縣に入る。❷城の名。滿洲熱河省平泉縣の南。俗に寛城といふ。

【寛雅】17 クワンガ おちついて上品。ゆるやかでみやびやか。〔後漢書、袁紹傳〕紹外寛雅有二局度一、憂喜不レ形二於色一。〔南史、沈文季傳〕文季、字仲達、文叔弟也、以二寛雅正直一見レ知、云云、在レ宋封二山陽縣五等伯一、位二中書郎一。

【寛解】18 k'uan^1 chieh^3 くつろぐ。

【寛閑】19 クワンカン ひろびろとしてのどかなこと。寛閒。〔韓愈、答二崔立之一書〕耕二於寛閑之野一、釣二於寂寞之濱一、求二國家之遺事一、考二賢人哲士之終始一。

【寛閒】20 クワンカン 寛閑に同じ。

〖寛閒堂〗21 クワンカンダウ 清、歐陽泳(6－16185··50)の室名。

〖寛閒耕叟〗22 クワンカンカウソウ 宋、李夢符(6－14459··1940)の號。

〖寛閒之野〗23 クワンカンノヤ 廣く靜かな野原。〔藤森弘庵、春雨樓記〕雖レ在二塵囂之間一、不レ異二寛閒之野一。

【寛簡】24 クワンカン 應揚で氣輕い。心が寛大で大まかなこと。〔晉書、嵇康傳〕天質自然、恬靜寡欲、含レ垢匿レ瑕、寛簡有二大量一。

【寛軌】25 k'uan^1 kuei^3 廣い軌道。廣軌(4－9493··78)に同じ。

【寛氣】26 クワンキ 氣をゆるやかにする。ゆつたりした氣持。〔管子、內業〕大心而敢、寛氣而廣、其形安而不レ移。〔注〕當下寛二舒其氣一、而廣有上レ所レ容。

【寛喜】27 クワンキ 第八十六代、後堀河天皇の年號。(1229－1232)〔菅原爲長勘文〕後魏書曰、仁興二溫良一、寛興二喜樂一。

【寛期】28 k'uan^1 ch'i^2 期限を延ばす。延期する。

【寛鄕】29 クワンキヤウ 唐代、均田の法で民に田を授くるに、田が多くて人口の少い所を寛鄕、田が少くて人口の多い所を狹鄕といふ。〔唐書、食貨志二〕永業之田、樹以二楡棗桑及所レ宜之木一、皆有レ數、多可三以足二其人一者、爲二寛鄕一、少者爲二狹鄕一、狹鄕授田、減二寛鄕之半一、其地有二薄厚一、歲一易者倍授レ之、寛鄕三易者不二倍授一、工商者、寛鄕減レ半、狹鄕不レ給。

【寛科】30 クワンクワ ゆるやかな法。寛法。〔後漢書、朱景王杜馬劉傅堅馬傳論〕其餘竝優以二寛科一、完二其封祿一。〔注〕翰曰、寛科謂二寛法一也。

【寛懷】31 k'uan^1 huai^2 くつろぐ。心に餘裕がある。

【寛宏】32 クワンクワウ 心がゆるやかでひろい。寛大。〔儀禮、喪服、傳曰、何以小功也以レ慈、已加也、注、必求二其寛裕慈惠溫良恭敬愼而寡言者一、疏〕寛、謂二寛宏一。〔荀子、堯問、其爲レ人寛、注〕寛、寛宏也。

【寛廣】33 クワンクワウ ひろい。

【寛郭】34 クワンクワク ひろく大きい。〔新論、愼隟〕韓信削二少年之辱一、安國釋二田甲之慢一、此皆遇二英達之主、寛郭之矜一、得下以二深怨一而不上レ爲レ讐也。

【寛闊】35 クワンクワツ ❶廣廣として限りないこと。〔岳陽風土記〕岳陽樓下瞰二洞庭一、景物寛闊。❷心が廣くて迫らない。寛大闊達。〔合類節用集、八〕寛仁大度、寛宥・寛闊。

【寛寛】36 クワンクワン 心がゆるやかなさま。〔釋迦如來誕生會、二〕。

【寛緩】37 クワンクワン ゆるやか。寛舒。〔周禮、考工記、弓人〕寛緩以荼。〔韓非子、五蠹〕如レ欲下以二寛緩之政一、治中急世之民上、猶下無二轡策一而御中駻馬上。〔史記、李廣傳〕寛緩不レ苛。〔漢書、五行志中之下〕大將軍霍光秉レ政、始行二寛緩一、欲二以說レ下。

【寛刑】38 クワンケイ 刑罰をゆるやかにする。寛大な刑罰。〔管子、戒〕上寛刑焉、則人不レ患レ死矣。〔國語、吳語〕修レ令寛レ刑、施二民所一レ欲、去二民所一レ惡。

【寛惠】39 クワンケイ 心がひろくてなさけぶかい。大きい恩澤。〔管子、小匡〕寛惠愛レ民。〔國語、齊語〕寛惠柔レ民。〔荀子、君道〕寛惠而有レ禮。〔韓非子、難二〕今緩二刑罰一、行二寛惠一。〔戰國、趙策〕身行二寛惠一達二於禮一。〔漢書、高帝紀下〕寛惠脩絜。

【寛元】40 クワンゲン 第八十八代後嵯峨天皇の年號。(1243－1246)〔菅原爲長勘文〕宋書曰、禹之際、五教在レ寛、元元以平。

【寛言】41 クワンゲン 寛大な言葉。やさしい言葉。〔左氏、襄、二十六〕無二憂色一、亦無二寛言一。

【寛限】42 クワンゲン 延期する。期限を緩める。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕須三具レ摺稟明、以便申二請寛限一。

【寛嚴】43 クワンゲン ゆるやかときびしさ。寛大と嚴格。〔宋史、汪大猷傳〕但取レ財惟再犯者死、可レ謂二寛嚴適中一。

【寛弘】44 クワンコウ ❶心がゆるやかでひろい。度量が大きい。寛大。寛裕。〔書、舜典、寛而栗、注〕寛弘而能莊栗。〔漢書、元帝紀贊〕寛弘盡レ下、出二於恭儉一、號令溫雅、有二古之風烈一。〔後漢書、劉虞傳〕以二朝恩寛弘一開二許善路一。〔晉書、何遵傳〕寛弘愛レ士。〔隋書、庾季才傳〕季才局量寛弘、術業優博。〔南史、梁簡文帝紀〕器宇寛弘、未三嘗見二喜慍

色。❷第六十六代一條天皇の年號。(1004－1011)

【寛厚】45（クワンコウ） なさけ深く手あつい。〔管子、形埶解〕溫良寛厚、則民愛レ之。〔韓非子、外儲說右下〕田成恆設二慈愛一、明二寛厚一。〔漢書、楚元王傳〕德寛厚好二施生一。

〖寛厚宏博〗46（クワンコウクワウハク） ゆつたりとしてあつくひろく大きなこと。局面度量の廣いこと。〔蘇轍、上二樞密韓太尉一書〕今觀二其文章一、寛厚宏博。

【寛坐】47 kʻuan^{1} tsuo^{4} ゆつたり坐る。くつろいで坐る。

【寛齋】48（クワンサイ） 字號。❶服部保庸の號。服部寛齋(**5**－**14345**・・111)を見よ。❷若林進居の號。若林寛齋(**9**－**30796**・・154)を見よ。❸山本格安の號。山本寛齋(**4**－**7869**・・983)を見よ。❹市川世寧の號。市河寛齋(**4**－**8775**・・193)を見よ。

〖寛齋漫錄〗49（クワンサイマンロク） 書名。六卷。山本格安撰。和漢の書籍を引いて字義・事物起原等を考證したもので、和書では三代實錄・宇治拾遺・和名抄・谷響集・和事始・扶桑故事要略・塵劫記等を引き、皆漢文で記してある。

【寛想】50 kʻuan^{1} hsiang^{3} 諦める。

【寛窄】51（クワンサク） ❶廣いと狹い。廣狹。くつろぎと窮屈。〔李商隱、燕台詩〕衣帶無レ情有二寛窄一。〔孟郊、乙酉歲舍弟扶持歸二興義莊一居後獨止レ舍待二替人一詩〕飮食迷二精粗一、衣裳失二寛窄一。〔羅湖野錄〕甘露寺圓禪詞云、本是瀟湘一釣客、自レ東自レ西自二南北一、只把二孤舟一爲二屋宅一、無二寛窄一、幕レ天席レ地人難レ測。❷せまいこと。〔白居易、題二新居一寄二元八一詩〕階墀寛窄纔容レ足、牆壁高低粗及レ肩。

【寛慘】52（クワンサン） 手やはらかなこととききびしいこと。寛大と慘酷。〔後漢書、王充等傳論〕有下宥二公族一黥二國儲一、寛慘巨隔上、而防レ非必同。

【寛施】53（クワンシ） ゆたかなほどこし。

【寛賜】54（クワンシ） ゆたかなたまもの。

【寛慈】55（クワンジ） ゆるやかでなさけがある。

【寛袖】56（クワンシウ） ゆるやかなそで。ひろそで。〔宋史、輿服志一〕五輅駕レ士、服色平、巾幘云云緋纈絹、對レ花寛袖襖。

【寛柔】57（クワンジウ） 心がゆるやかでやはらいでゐる。〔中庸〕寛柔以敎、不レ報二無道一、南方之強也。〔逸周書、官人解〕心氣寛柔者、其聲溫和。〔漢書、匡衡傳〕寛柔和惠。

【寛疾】58（クワンシツ） 病者をめぐむ。〔周禮、地官、大司徒〕以二保息六一養二萬民一云云、五曰寛疾。

【寛日】59 kʻuan^{1} jih^{4} 日のべ。

【寛舍】60（クワンシヤ） ゆるす。〔戰國、趙策〕君前已寛二舍臣一、天下莫レ不レ稱二君之賢一。

【寛赦】61（クワンシヤ） ゆるす。おほめに見る。寛大で罪をゆるめる。寛宥。〔史記、淮南厲王傳〕驕蹇數不レ奉レ法、上以二親故一、常寛二赦之一。

【寛賖】62（クワンシヤ） ゆるやか。〔後漢書、黨錮傳序〕憲令寛賖、文禮簡闊。

【寛寫】63（クワンシヤ） 少しあけて書く。〔福惠全書、筮仕部、寫稟啓封套式〕右側邊上寫二右字一、下寛二寫呈字一。

【寛章】64 kʻuan^{1} chang^{1} お召物をお取り下さい。客に脫衣をすすめること。寛衣(2)の❷に同じ。

【寛敞】65（クワンシヤウ） ひろくからりとしてゐる。ひろびやかなこと。〔後漢書、劉般傳〕府寺寛敞、輿服光麗。〔剪燈新話、天台訪隱錄〕豁然寛敞。

〖寛敞高亢〗66（クワンシヤウカウカウ） ひろくはつきりしてたかいところ。〔福惠全書、荒政部、積貯〕須レ擇二寛敞高亢之處一。

【寛詳】67（クワンシヤウ） 心が大きく事がゆき屆く。ゆるやかで注意が行きとどく。〔後漢書、陳忠傳〕忠自以、世典二刑法一、用レ心務在二寛詳一。

【寛綽】68（クワンシヤク） ゆるやかでひろい。ゆるやかでせまらぬ。〔新方言、釋言〕今謂二屋及器寛大一爲二寛綽一。〔書、無逸〕不三寛二綽其心一。〔詩、衞風、淇奧〕寛兮綽兮、猗重較兮。〔傳〕寛能容レ衆、綽、緩也。〔晉書、宣帝紀論〕性寛綽以能容。

【寛釋】69（クワンシヤク） ゆるす。〔史記、五宗世家〕景帝少子、驕怠多レ淫、數犯レ禁、上常寛二釋之一。

【寛叔】70（クワンシユク） 明、丘弘(**1**－**33**・・39)の字。

【寛肅】71（クワンシユク） 心のひろいときびしい。〔國語、周語中〕寛肅宣惠君也、敬恪恭儉臣也。

【寛恤】72（クワンジユツ） ゆるめあはれむ。〔宋史、朱壽昌傳〕遣レ使四出、寛二恤民力一。

【寛順】74（クワンジユン） ゆるやかですなほ。〔逸周書、官人解〕微而能發、察而能深、寛順而恭儉。

【寛處】75（クワンシヨ） ひろくゆるやかな處。廣場。〔蘇軾、遊二徑山一詩〕近來愈覺世議隘、每レ到二寛處一差安便。

【寛恕】76（クワンジヨ） ❶心がひろく、思ひやりがある。〔後漢書、魏霸傳〕以二簡朴寛恕一爲レ政。〔鍾會、檄レ蜀文〕宰輔弘二寛恕之德一。❷ゆるす。咎めだてをせずにゆるすこと。寛宥。〔宋史、査道傳〕道性淳厚、有レ犯不レ較、所レ至務二寛恕一。

【寛舒】77（クワンジヨ） ゆるやかでのびのびしてゐる。寛緩。〔管子、內業〕寛舒而仁、獨樂二其身一。〔新語、輔政〕近二溫厚一者行寛舒。

【寛縱】78（クワンジヨウ） 放任してなほざりにすること。〔朴趾源、農說〕煩撓絞急之病、寛縱解弛之弊。

【寛心】79 kʻuan^{1} hsin^{1} 氣分を大きくもつ。安心する。

【寛身】80（クワンシン） 身をゆるやかに保つ。〔禮、表記〕以レ德報レ怨、則寛身之仁也、以レ怨報レ德、則刑戮之民也。

【寛信】81（クワンシン） 心が廣くまことがあること。〔唐書、柳璟傳〕爲レ人寛信、好三接レ士稱二人之長一。

【寛仁】82（クワンジン） ❶心ひろくあはれみ深い。〔書、仲虺之誥〕克寛克仁、彰信二兆民一。〔漢書、張敞傳〕慈愛寛仁。〔後漢書、五行志三〕從容寛仁任二臣下一。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕聖朝寛仁、覆載允信允文。❷（クワンニン）第六十八代、後一條天皇の年號。(1017－1020)

〖寛仁大度〗83（クワンジンタイド） 寛仁で胸中が廣やかなこと。〔漢書、高帝紀上〕寛仁而愛レ人、意豁如也、常有二大度一、不レ事二家人生產作業一。

【寛粹】84（クワンスイ） 度量ひろくただしい。〔崔羣、冊二太子一禮畢赦文〕寛粹莊重、自レ誠而明。

【寛正】85（クワンセイ） ❶心がひろく正しい。〔孔子家語、觀周〕外寛而內正、自極二於隱括之中一。❷（クワンシヤウ）第百二代、後花園天皇・第百三代、後土御門天皇の年號。(1460－1465)

【寛制】86（クワンセイ） ゆるやかなおきて。寛典。〔春秋繁露、仁義法〕內治二返レ理以正レ身、據レ祉以勸レ福、外治二推レ恩以廣レ施、寛レ制以容レ衆。

【寛征】87（クワンセイ） 租稅を免じ或は延期する。征は租稅。〔大學衍義補、制二國用一、貢賦之常〕屢下二寛征之詔一、以甦二農民之困一。

【寛政】88（クワンセイ） ❶ゆるやかでなさけある政治。〔左氏、莊、二十二〕幸若獲レ宥、及二於寛政一。〔後漢書、王暢傳〕崇二寛政一、愼レ刑簡レ罰。〔梁書、武帝紀上〕解二茲虐網一、被以二寛政一。〔盧諶、贈二崔溫一詩〕羈旅及二寛政一。❷第百十九代、光格天皇の年號。(1789－1800)

〖寛政三助〗89（クワンセイノサンスケ） 江戶時代、寛政年間の三儒官、古賀彌助(精里)・尾藤良佐(二洲)・柴野彥輔(栗山)をいう。助・佐・輔は皆すけとよむからいふ。寛政三學士、又は寛政三博士ともいふ。

〖寛政異學禁〗90（クワンセイイガクノキン） 江戶時代、寛政年間、學界の弊風に鑑みて、官儒柴野栗山の建議を用ひ、朱子學以外を異學として嚴禁した令をいふ。

〖寛政三奇人〗91（クワンセイノサンキジン） 江戶時代、寛政年間の高山彥九郎正之・林子平友直・蒲生君平秀實の三人をいふ。

〖寛政三博士〗92（クワンセイノサンハカセ） 寛政三助を見よ。

【寛整】93（クワンセイ） ひろくてととのふ。〔宋史、汪綱傳〕創二營千餘閒一、寛整堅密、增二置甲兵一、威聲赫然。

【寛靜】94（クワンセイ） ゆるやかでしづか。〔禮、樂記〕寛而靜、柔而正、宜レ歌二頌一。〔宋史、呂蒙正傳〕蒙正至レ洛、多引二親舊一歡宴、政尚二寛靜一。

【寛詔】95（クワンセウ） 寛大なみことのり。〔後漢書、侯霸傳〕下二寛大之詔一、奉二四時之令一。

【寛饒】96（クワンゼウ） ゆたか。豐富。〔荀子、富國〕寛饒簡易。〔後漢書、仲長統傳〕老者耄矣、不レ能レ及二寛饒之俗一。〔田況、內帑策〕下民寛饒、大計盈給。

【寛然】97（クワンゼン） 心のひろくゆるやかなさま。〔國語、吳語〕將下必寛然有中伯二諸侯一之心上焉。〔注〕寛、緩也。

【寛繕】98（クワンゼン） ゆたかにをさめる。繕は治める。〔袁淑、防禦索虜議〕或謂下損二緩江右一、寛中繕淮內上。

【寛租】99（クワンソ） 租稅をゆるくする。寛免(144)に

同じ。

【寛疏】100 クヮンソ 法がゆるやかでおほまかなこと。〔元史、禮樂志、樂章〕禁網寛疏、還風太古、躋世華胥。

【寛鬆】101 クヮンソウ ゆるやか。ゆつくり。鬆はゆるい、くつろぐこと。〔水滸傳、四十三回〕且請壯士解㆓下腰間包裹㆒、放㆓下朴刀㆒、寛鬆坐一坐。

【寛息】102 クヮンソク くつろぎいこふ。〔後漢書、循吏傳序〕觀㆓納風謠㆒、故能內外匪㆑懈、百姓寛息。

【寛待】103 k'uan¹ tai⁴ ゆるやかに取扱ふ。寛大に待遇する。

【寛帶】104 クヮンタイ やせ細つてゆるくなつた帶。〔蕭綸、詠㆓袙複㆒詩〕纖腰非㆑學㆑楚、寛帶爲㆑思㆑君。

【寛貸】105 クヮンタイ 刑罰をゆるやかにする。罪をゆるす。おほめに見る。〔後漢書、順帝紀〕務崇㆓寛貸㆒。〔魏志、劉劭傳〕宜㆘加㆓寛貸㆒使㆖㆑有㆓以自新㆒。〔柳宗元、寄㆓許京兆孟容㆒書〕今其黨與幸獲㆓寛貸㆒。〔宋史、郭忠孝傳〕歲起㆓大獄㆒、忠孝止治㆓其首㆒、餘悉寛貸。

【寛大】106 クヮンダイ ゆるやか。度量が大きい。寛宏。寛弘。寛大長者を見よ。〔新書、數寧〕臣觀㆓寛大知通㆒。〔漢書、丙吉傳〕(丙吉)代㆓魏相㆒爲㆓丞相㆒、上㆓寛大㆒好㆓禮讓㆒。

〖寛大長者〗107 クヮンダイチヤウジヤ 度量が廣く德ある人。鷹揚な立派な人物。〔史記、高祖紀〕今項羽僄悍、今不㆑可㆑遣、獨沛公素寛大長者、可㆑遣、卒不㆑許㆓項羽㆒而遣㆓沛公㆒、西略㆑地、收㆓陳王・項梁散卒㆒。

【寛澤】108 クヮンタク 寛大な恩澤。〔後漢書、法雄傳〕至化之世、猛獸不㆑擾、皆由㆔恩信寛澤、仁及㆓飛走㆒。

【寛誕】109 クヮンタン ゆつたりして氣儘。〔北史、常爽傳〕爽少而聰敏嚴正、有㆓志概㆒、雖㆓家人僮隸㆒未㆔嘗見㆓其寛誕之容㆒。

【寛治】111 クヮンヂ ㊀寛大な心を以て治める。〔禮、祭法〕湯以㆑寛治㆑民、而除㆓其虐㆒、文王以㆑文治、武王以㆑武功、去㆓民之菑㆒、此皆有㆓功烈於民㆒者也。㊁第七十三代、堀川天皇の年號。(1087−1093)

【寛長】112 クヮンチヤウ ゆるくながい。〔李商隱雜纂、失本體〕衣服寛長、失㆓僕子體㆒。

【寛中】113 クヮンチユウ 字號。㊀唐、李景儉(**6**−**14459**··1085)の字。㊁唐、梁肅(**6**−**14825**··120)の字。

【寛沖】114 クヮンチユウ ゆるやかでやはらぐ。〔孔子家語、七十二弟子解〕顓孫師、陳人、字子張、少㆓孔子㆒四十八歲、爲㆑人有㆓容貌資質㆒、寛沖博接、從容自務。〔陸機、辨亡論下〕寛沖以誘㆓俊乂之謀㆒、慈和以結㆓士民之愛㆒。

【寛徵】115 k'uan¹ chêng¹ 税金を寛大に徵收する。

【寛挺】116 クヮンテイ ゆるす。ゆるめ放つ。挺は、ぬけ出ること。〔後漢書、傅燮傳〕明㆑賞必㆑罰、賊得㆓寛挺㆒。

【寛條】117 クヮンデウ ゆるやかな規則。〔元史、順帝記二〕誕布㆓寛條㆒。

【寛典】118 クヮンテン ゆるやかなおきて。寛制。〔舊唐書、刑法志〕雖㆑存㆓寛典㆒、而犯者漸少。

【寛甸】119 クヮンデン 縣名。清、置く。滿洲遼寧省鳳城縣の東。明の東寧衞の地。鴨綠江に瀕す。〔清史稿、地理志〕奉天、鳳凰直隸廳、縣一、寛甸。

【寛德】120 クヮントク ㊀寛大な德。〔後漢書、杜林傳〕海內歡欣、人懷㆓寛德㆒。㊁第六十九代、後朱雀天皇の年號。(1044−1045)

【寛忍】121 クヮンニン 心がひろくてゆるしあはれむ。〔漢書、東平思王宇傳〕王既悔㆑過服㆑罪、太后寛忍以貰㆑之、後宜㆑不㆑敢。王太后強餐、止㆓思念㆒。

【寛農】122 クヮンノウ 政をゆるやかにして農時を奪はないこと。〔國語、晉語四〕輕㆑關易㆑道、通㆑商寛㆑農。〔注〕寛㆓其政㆒不㆑奪㆓其時㆒。

【寛盃】123 k'uan¹ pei¹ 大盃。

【寛放】124 クヮンパウ ゆるやかでしまりがない。〔魏志、崔琰傳〕公子寛放、盤游滋侈、義聲不㆑聞。

【寛保】125 クヮンパウ ㊀ゆるやかにし安んずる。〔國語、周語中〕寛所㆓以保㆑本也。〔鹽鐵論、地廣〕據㆓河險㆒、守㆓要害㆒、以寛㆓繇役㆒、保㆓士民㆒。㊁第百十五代、櫻町天皇の年號。(1741−1744)

【寛袍】126 クヮンパウ ゆるやかな上着。〔彥周詩話〕紫領寛袍漉酒巾。

〖寛袍大袖〗127 k'uan¹ p'ao² ta⁴ hsiu⁴ ゆつたりして袖の大きい衣服。

【寛博】128 クヮンパク ㊀ひろい。ゆるやか。心持ちが大きい。度量があつてこせつかぬ。〔漢書、成帝紀〕帝爲㆓太子㆒、壯好㆓經書㆒、寛博謹愼。〔後漢書、李固傳〕務求㆓寛博㆒。〔新語、道基〕寛博浩大。㊁寛大な衣。賤人の服。〔孟子、公孫丑上〕雖㆓褐寛博㆒吾不㆑惴焉。〔集注〕寛博、寛大之衣。

〖寛博之選〗129 クヮンパクノセン 廣くゆるやかに選ぶこと。〔後漢書、第五倫傳〕郡國所㆑擧、類多辨㆑職、俗吏殊未㆑有㆘寛博之選、以應㆓上求㆒者㆖也。

【寛譬】130 クヮンピ たとへ諭して悲哀の情をゆるくする。〔後漢書、馮異傳〕自㆓伯升之敗㆒、光武不㆔敢顯㆓其悲戚㆒、每獨居、輒不㆑御㆓酒肉㆒、枕席有㆓涕泣處㆒、異獨叩頭寛㆓譬哀情㆒。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕世祖日夜憂懷、備盡㆓寛譬㆒。〔注〕向曰、寛喩㆓其意㆒、使㆔節去㆓悲情㆒也。〔資治通鑑、漢紀〕(淮陽王、更始元年)主簿馮異獨叩頭寛譬。〔注〕寛、釋也、譬、曉也、譬曉以寛㆓釋其哀戚之情㆒。〔陸游南唐書〕被㆑蓑荷㆑笠、作㆓漁者㆒以見、寛譬久㆑之、後主歎㆓其忠㆒。〔朱熹、跋㆓劉雜端奏議㆒〕同志之士、憂㆑之過甚、恐㆓其以㆑是而不㆑能㆓鬱鬱以久㆒也、則姑爲㆓是說㆒以寛㆓譬之㆒、是乃忠君愛國之尤者。

【寛夫】131 クヮンプ 字號。㊀宋、蔡居厚(**9**−**31818**··153)の字。㊁宋、章公量(**8**−**25761**··196)の字。㊂宋、祝夢熊(**8**−**24672**··145)の字。㊃宋、張次卨(**4**−**9812**··1136)の字。㊄宋、文彥博(**5**−**13450**··986)の字。㊅清、儲晉觀(**1**−**1284**··85)の字。㊆清、趙御衆(**10**−**37171**··471)の字。㊇清、趙坦(**10**−**37171**··276)の字。

【寛腹】132 クヮンプク 器物の中程のふくれて居ること。〔墨經、媒〕古用㆓立窰㆒、高丈餘、其竈寛腹小口、不㆑出㆓突於竈面㆒。

【寛文】133 クヮンブン 第百十一代、後西天皇・第百十二代、靈元天皇の年號。(1661−1673)〔菅原爲庸勘文〕荀子曰、節奏陵而文、生民寛而安、上文下安、功名之極也。

【寛平】134 クヮンペイ ㊀ゆるやかで公平。寛仁公平。〔後漢書、郭躬傳〕躬家世掌㆑法、務在㆓寛平㆒。〔唐書、刑法志〕治以㆓寛平㆒、民樂㆓其安㆒。㊁ゆるやかでたひらか。〔荀子、賦〕此夫安㆓寛平㆒而危㆓險隘㆒者邪。㊂クヮンピヤウ 第五十九代、宇多天皇の年號。(889−898)

〖寛平遺誡〗135 クヮンピヤウヰカイ クヮンピヤウユイカイ 書名。一卷。宇多天皇撰。讓位の際、新帝卽ち醍醐天皇に與へられた訓誡の書。禁祕抄には寛平誡訓、神皇正統記には寛平御誡、古今著聞集には寛平遺訓、花園院御記及び嵯峨物語には寛平御記と呼ばれてゐる。〔羣書類從、四百七十五〕

【寛勉】136 クヮンベン つとめて寛大にすること。〔王獻之、晴快帖〕此多患反側、願深寛勉。

【寛父】137 クヮンポ 元、焦德裕(**7**−**19119**··137)の字。

【寛甫】138 クヮンポ 字號。㊀金、董守志(**9**−**31433**··217)の字。㊁元、賀仁傑(**10**−**36725**··139)の字。㊂清、祥厚(**8**−**24689**··22)の字。

【寛猛】139 クヮンマウ ゆるやかときびしさ。〔顏氏家訓、治家〕治㆑家之寛猛、亦猶㆑國焉。〔白居易、竇易直給事中制〕寛猛擧措、甚得㆓其中㆒。

〖寛猛相濟〗140 クヮンマウアヒスクフ 寛大と猛急とを並用して兩者宜しきを得るやうにする。〔左氏、昭、二十〕仲尼曰、善哉、政寛則民慢、慢則糾㆑之以㆑猛、猛則民殘、殘則施㆑之以㆑寛、寛以濟㆑猛、猛以濟㆑寛、政是以和。〔孔子家語、正論解〕寛猛相濟、政是以和。

【寛網】141 クヮンマウ 法律をゆるやかにする。又、ゆるやかな法律。〔晉書、華譚傳〕時險則峻㆑法以取㆑平、時泰則寛㆑網以將㆑化。〔陳書、世祖紀〕寛㆑網省㆑刑、義符含育。

【寛民】142 クヮンミン 禁令を緩め租税や庸賦を輕くすること。〔左氏、昭、十三〕平王封㆓陳蔡㆒、復㆓遷邑㆒、致㆓羣賂㆒、施舍寛㆑民、宥㆑罪擧㆑職。

【寛明】143 クヮンメイ 寛大で明か。〔漢書、敍傳上〕四曰、寛明而仁恕。〔後漢書、馮衍傳上〕今衍幸逢㆓寛明之日㆒。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕內樹㆓寛明㆒。

【寛免】144 クヮンメン ゆるす。租税をゆるくする。寛租。〔韓愈、元和聖德詩〕經㆓戰伐㆒地、寛㆓免租簿㆒。〔元史、食貨志四、賑恤〕大德九年、又下㆓寛免之令㆒、以恤㆓大都・上都・隆興・腹裏・江淮之民㆒。

【寛愉】145 クヮンユ くつろぎたのしむ。〔宋書、顏延之傳〕能以㆓恬漠㆒爲㆑體、寛愉爲㆑器者大喜。

【寛裕】146 クヮンユウ ひろくゆるやか。心がひろくこせつかない。寛弘。又、度量大きくよく人を容れる。〔禮、儒行〕溫良者、仁之本也、敬愼者、仁之地也、寛裕者、仁之作也、孫接者、仁之能也。

〔禮、樂記〕寛裕・肉好・順成・和動之音作、而民慈愛。〔中庸〕寛裕溫柔、足二以有一レ容也。〔荀子、君道〕其於レ人也、寡怨寛裕而無レ阿。〔呂覽、音律〕夾鐘之月、寛裕和平、行レ德去レ刑。〔韓詩外傳、三〕吾聞德行寛裕、守レ之以レ恭者榮、土地廣大、守レ之以レ儉者安。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕開二寛裕之路一以延二天下之英俊一也。

【寛裕沈毅】147 クワンユウチンキ 心寛くゆたかに、沈着で意志の堅固なこと。〔青山佩弦齋、赤穗義士〕性寛裕沈毅、不レ爲二齷齪自用一。

【寛餘】148 k'uan^1 yü^2 餘裕がある。富裕。

【寛容】149 クワンヨウ 心ひろくよく衆を入れる。〔莊子、天下〕常寛二容於物一。〔荀子、不苟〕寛容易直、以開二道人一。〔韓詩外傳、八〕夫賢君之治也、溫良而和、寛容而愛。〔漢書、劉向傳〕優游寛容、使レ得二並進一。〔後漢書、寇榮傳〕先二寛容一、後二刑辟一。

【寛樂】150 クワンラク ゆるやかに樂しむ。〔逸周書、謚法解〕恭レ己鮮レ言曰レ靜、寛樂令レ終曰レ靜。

【寛栗】151 クワンリツ 寛大であるが、又、一面嚴格である。寛而栗の略。〔書、舜典〕直而溫、寛而栗、剛而無レ虐、簡而無レ傲。

【寛略】152 クワンリヤク 寛やかで大まか。〔後漢書、東夷傳論〕箕子避二地朝鮮一、施二八條之約一、回二頑薄之俗一、就二寛略之法一、行數百千年。

【寛令】153 クワンレイ ゆるやかな法令。〔晉書、惠賈后傳〕及二河東公主有一レ疾、師巫以爲レ宜レ施二寛令一、乃稱レ詔大赦二天下一。

【寛廉】154 クワンレン 大まかとかどかどしい。〔韓非子、顯學〕今寛廉恕暴、倶在二二子一、人主兼而禮レ之。

【寛和】155 クワンワ ㊀ゆるやかでやはらぐ。〔漢書、韓王信傳〕爲レ人寛和。〔東方朔、非有先生論〕寛和之色。〔後漢書、順帝紀〕務レ崇二寛和一。㊁第六十五代、花山天皇の年號。(985－986)

【寛而正】156 クワンニシテセイ ゆるやかで正しい。〔孔子家語、致思〕寛而正、可二以懷一レ強。

【寛而栗】157 クワンニシテリツ 寛栗(151)に同じ。直而溫、寛而栗。

【寛城子】158 クワンジヤウシ 地名。滿洲吉林省長春縣の治。

【寛定宕】159 クワンテイタウ 能く肥滿した人をいふ。胡衞道の三子、寛、定、宕が皆宀に從つて居た事より來る。〔通俗編、狀貌、寛定宕〕癸辛雜志、胡衞道三子、孟曰レ寛、仲曰レ定、季曰レ宕、蓋悉从レ宀、其後悼二亡妻一、俾二友人作一レ志、書曰、夫人生二三子寛定宕一、讀者爲レ之掩レ鼻、蓋當時已有二此俚言一也。

【寛佃峪】160 クワンテンヨク 關の名。河北省薊縣の東北、長城の邊。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、薊州〕寛佃峪關、志云、黃崖峪東第六關也、自二黃崖峪一以東至二遵化縣之馬蘭關一、凡十口、而寛佃峪爲二要路一。

【寛裏下】161 k'uan^1 li^3 hsia^4 ひろさ。はば。

【寛以濟レ猛】162 クワンモツテマウヲスクフ 寛猛相濟(140)を見よ。

【寛洪大量】163 k'uan^1 hung^2 ta^4 liang^4 度量の洪大なことをいふ。大度量。

【寛而有レ制】164 クワンニシテセイアリ ゆるやかで節制がある。〔書、君陳〕寛而有レ制、從容以和。

【寛徹普化】165 コアンチヨプホア 元の人。脫歡の子。封は威順王。戰功によつて武昌を鎭す。〔元史、一百十七〕

【寛房大屋】166 k'uan^1 fang^2 ta^4 wu^1 廣く大きい家。

【寛備窄用】167 k'uan^1 pei^4 chai^3 yung^4 充分準備して少く用ひる。

【寛予假期】168 k'uan^1 yü^3 chia^4 ch'i^2 休暇の期限をながく與へる。

【以レ寛服レ民】169 クワンヲモツテタミヲフクス 寛大の態度で人民を服する。〔左氏、昭、二十〕唯有德者能以レ寛服レ民、其次莫レ如レ猛。

【寑】7323 シン 寖(**3－7238**)に同じ。〔正字通〕寑、同レ寖。

【寭】7324 ケイ ケ 〔玉篇〕穴桂切 霽

あきらかにする。〔玉篇〕寭、察也。

【寮】7325 レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭 ㄌㄧㄠˊ liao^2

㊀**つかさ**。〔爾雅、釋詁〕寮、官也。㊁**やくにん**。〔書、酒誥〕百寮庶尹。㊂**あひやく**。〔集韻〕寮、同官爲レ寮、通作レ僚。〔書、皐陶謨〕百僚、釋文〕僚、本又作レ寮。〔左氏、文、七〕同官爲レ寮。〔國語、魯語下〕今吾子之教二官寮一、曰二陷而後恭一。〔注〕唐云、同官曰レ寮。㊃**まど**。〔廣雅、釋詁三〕寮、空也。〔一切經音義、一〕寮、小空也。〔張衡、西京賦〕何工巧之瑰瑋、交綺豁以疏レ寮。〔注〕濟曰、寮、小窗也。〔梁簡文帝、伍員廟詩〕窓寮野霧人。〔梁簡文帝、序愁賦〕玩二飛花之入一レ戶、看二斜暉之度一レ寮。㊄**僧房**。〔陸游、貧居詩〕囊空如二客路一、屋窄似二僧寮一。㊅**小舍**。〔溪蠻叢笑〕山猺穴居野處、雖三有レ屋以蔽二風雨一、不レ過二剪毛叉木一而已、名曰二打寮一。㊆**姓**。〔路史〕宋微子後有二寮氏一、周書有二寮允一、附二裴文學傳一。邦**れう**。㋑すきや。茶寮。㋺しもやしき。別莊。㊇寄宿舍。

名乘 トモ。マサ。

【寮位】1 レウヰ 官位。〔潘岳、西征賦〕寮位儡其隆替、名節漼以隳落。〔注〕翰曰、寮、官也。

【寮友】2 レウイウ ㊀同官の者。同僚。僚友。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕戲二萬乘一若二寮友一、視二儔列一如二草芥一。㊁同じ寄宿舍生。

【寮居】3 レウキヨ 下屋敷のすまひ。

【寮官】4 レウクワン 同官の人。又、官吏。

【寮元】5 レウゲン 佛禪林にて諸寮の事を司る役。座元。寮首座。〔禪林象器箋、六〕舊說曰、維那司二僧堂一、寮元司二衆寮一。

【寮佐】6 レウサ たすけ。したやく。屬吏。僚佐。〔晉書、杜預傳〕及二會反一、寮佐竝遇レ害。〔晉書、孟嘉傳〕九月九日、溫燕二龍山一、寮佐畢集。

【寮寀】7 レウサイ ㊀官職。官署。僚寀。〔張華、答二何劭一詩〕自レ昔同二寮寀一。〔注〕向曰、同二寮寀一、同レ官也。〔顏氏家訓、勉學〕精二選寮寀一。〔孟浩然、秋日陪二李侍御一渡二松滋江一詩〕寮寀爭レ攀レ鷁。㊁百官をいふ。〔陸機、晉平西將軍孝侯周處碑〕汪洋延闕之傍、昂藏寮寀之上。

【寮試】8 レウシ 我が國で、古の大學寮の試驗。及第すれば擬文章生に補せられる。〔延喜式、二十、大學〕凡擬文章生、以二廿人一爲レ限、補二其闕一者、待二博士擧一、卽寮博士共試二一史文五條一、以下通二三以上一者上補レ之、其不レ住二寮家一者、不レ得二貢擧一。〔桂林遺芳抄〕寮試作法、寮頭以下各一員、博士以下各一員、參二著試廳一、出二貢擧交名等一。

【寮舍】9 liao^2 shê^4 寄宿舍。學寮。

【寮掌】10 レウシヤウ 諸寮の雜仕。官掌の類。〔延喜式、十八、式部〕凡內外諸司、云云、寮掌、使掌、司掌各二人。

【寮主】11 レウシユ 佛寮元を助けて寮の世話をし、僧の衣服などを預かる者。順番に行ふ。〔禪林象器箋、六〕舊說曰、寮主、輔二佐寮元一者、侍者類也。

【寮生】12 レウセイ 寄宿舍の生徒。

【寮屬】13 レウゾク したやく。屬官。僚屬。〔吳志、孫登傳〕登待二接寮屬一、略用二布衣之禮一。〔潘岳、楊荊州誄〕孤嗣在レ疚、寮屬含レ悴。〔注〕翰曰、寮、官。

【寮長】14 レウチヤウ ㊀佛席頭ともいふ。寮元の左右の手となつて衆僧の世話をする者。〔禪林象器箋、六〕寮長位二于寮元分手一也。㊁寄宿舍生の取締りをする人。

【寮人】15 レウニン ㊀嫁。〔浪花風〕町人の妻、若きをば御寮人と呼ぶなり。㊁令孃。娘。

【寮房】16 liao^2 fang^2 屬吏の休息室。

【寮門】17 レウモン ㊀古、大學寮の門。㊁寄宿舍の門。

【⿱宀毳】7326 セイ 竁(**8－25663**)の譌字。〔正字通〕⿱宀毳、竁字之譌。

【⿱宀亯】7327 キヤウ 響(**12－43325**)の古字。〔韻會小補〕⿱宀亯、古響字。

【隆】7328 リユウ 〔字彙補〕音隆 **まるい。ゆみがた。**〔字彙補〕隆、天形也。

【華】7329 サイ 宰(3-7160)の古字。〔玉篇〕華、古文宰。

【亶】7330 キヤウ 嚮(2-4565)の古字。〔集韻〕嚮、古作亶。

【寒】7331 カン 寒(3-7239)の本字。〔說文長箋〕寒、寒本字。

【康】7332 カウ 康(3-7279)の本字。〔說文長箋〕康、康本字。

【窺】7333 キ 〔篇海類編〕苦規切 支 **のぞく。**〔篇海類編〕窺、小視。

【實】7334 ジツ 義未詳。〔龍龕手鑑〕實、音實。

【𡫒】7335 キヨウ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕𡫒、香重切。

【寘】7336 シユク 宿(3-7195)に同じ。〔搜眞玉鏡〕寘、同レ宿。

【𡫹】7337 セキ 義未詳。〔五音篇海〕𡫹、音寂。

【㝗】7338 キ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕㝗、音岐。

【竟】7339 サク ザク 義未詳。〔五音篇海〕竟、才各切。

【𡫟】7340 センチ アール フランスの地積の單位。一アールの百分の一。〔辭海〕𡫟、法國地積單位、生的阿爾、舊略記爲レ𡫟、卽阿爾之百分之一。

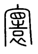
十三畫

【𡫩】7341 グウ 寓(3-7243)の俗字。〔正字通〕𡫩、俗寓字。

【𡫳】7342 アウ 奧(3-5985)に同じ。〔集韻〕奧、或作レ𡫳。

【𡫾】7343 シユン 〔集韻〕祖峻切 ㄐㄩㄣˋ chün^4 震 ❶**あつめる。あつまる。**〔廣雅、釋詁一〕𡫾、聚也。❷**すぐれる。**〔玉篇〕𡫾、才雋也。

【寰】7344 ㈠クワン ゲン 〔集韻〕胡關切 ㄏㄨㄢˊ huan^2 刪 ㈡ケン ゲン 〔集韻〕熒絹切 霰


小篆

㈠❶**封建時代の天子が直轄した領地。**畿內。〔說文新附〕寰、王者畿內縣也、从レ宀睘聲。〔黃滔、寄二崔學士一詩〕畢使二海涯能拔宅一、三秦二十四畿寰。❷**あめのした。**宇內。〔唐書、音樂志〕睿感通レ寰、孝思浹レ宙。〔潘音、訪二蔡上人一詩〕趺坐觀空出二宇寰一。❸**區域。地域。**〔曾鞏、靖安幽谷亭詩〕行盡車馬塵、豁見水石寰。❹**ちまた。うきよ。**塵境。〔鮑照、舞鶴賦〕去二帝鄉之岑寂一、歸二人寰之喧卑一。〔錢起、裴僕射東亭詩〕則知眞隱逸、未三必謝二區寰一。〔白居易、悟眞寺詩〕處所非二人寰一。❺**宮殿をとりまいた垣。**〔正字通〕寰、宮周垣也。㈡❶**畿內。**㈠の❶に同じ。〔集韻〕寰、王者畿內也。❷通じて縣(8-27784)に作る。〔集韻〕寰、通作レ縣。〔穀梁、隱、元〕寰內諸侯。〔釋文〕寰、古縣字。

【寰宇】1 クワンウ 世界。天下。天地。宇內。〔南史、梁簡文帝紀論〕聲振二寰宇一、澤流二遐裔一。〔駱賓王、帝京篇〕聲名冠二寰宇一、文物象二昭回一。〔剪燈新話、大虛司法傳〕雷霆霹靂、聲振二寰宇一、屋瓦皆飛。

【寰宇記】2 クワンウキ 書名。一百九十三卷。宋、樂史撰。太平寰宇記(3-5834・・454)を見よ。

【寰宇交通】3 クワンウカウツウ 世界各國互に相交通すること。〔重野成齋、大日本維新史序〕寰宇交通、舟車比隣。

【寰宇訪碑錄】4 クワンウハウヒロク 書名。十二卷。清、孫星衍撰。全國現存の碑碣を時代分けに紀載し、書體及び所在地を附注す。趙之謙、續寰宇訪碑錄を作る。〔平津館叢書、第十―十三冊〕。

【寰瀛】5 クワンエイ 仙人の住む地。瀛は、海中の島の名。仙人の居るといふ所。〔白居易、江州赴二忠州一至二江陵一以來舟中示二舍弟一詩〕不三必謝二寰瀛一。

【寰瀛圖】6 クワンエイヅ 地圖をいふ。〔異聞錄〕陳季卿擧二進士一、十年不レ歸、於二青龍寺一値二終南山翁一、東閣壁閒有二寰瀛圖一、季卿尋二江南路一、歎曰、安得二自レ此歸一、翁折二竹葉一置二渭水中一曰、注二目於此一、季卿熟視、見二一舟甚大一、登レ舟至レ家。

【寰埏】7 クワンエン 天地のかぎり。地の極まるところ。埏は地のはて。〔王勃、拜二南郊一頌〕思周二宇宙一、樂極二寰埏一。

【寰海】8 クワンカイ 天下。世界。陸と海とを含めていふ。〔韓愈、賀レ冊二皇太后一表〕歡心始自二於內朝一、孝理遂形二於寰海一。〔裴度、鑄二劍戟一爲二農器一賦〕寰海鏡淸、方隅砥平。〔許敬宗、奉三和過二舊宅一應制詩〕自爾家二寰海一、今茲返二帝鄉一。

【寰球】9 huan^2 ch'iu^2 地球。世界。

【寰區】10 クワンク 封建時代に於ける天子直轄の區域。轉じて、廣い境界內。天地。天下。〔後漢書、逸民傳序〕蟬二蛻囂埃之中一、自致二寰區之外一。〔白居易、蘇州刺史謝上表〕重造二寰區一、將レ致二升平一。

【寰觀】11 クワンクワン みまはす。めぐりみる。取り卷いて見物する。〔柳宗元、嶺南節度使饗軍堂記〕寰二觀于遠邇一、禮成樂遍、以敍而賀。

【寰州】12 クワンシウ 州名。五代唐、置く。山西省馬邑縣。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、朔州〕馬邑縣、州東北四十里、云云、天成初、改置二寰州一、領二寰淸二縣一。

【寰隧】13 クワンスイ 畿內と鄉隧。都邑。〔江淹、雜體、顏特進侍宴詩〕鶩レ望分二寰隧一、矖レ目盡二都甸一。〔注〕善曰、寰、猶レ畿也、濟曰、隧、鄉隧也。

【寰中】14 クワンチユウ ❶世界中。〔李百藥、謁二漢高廟一詩〕干戈革二宇內一、聲敎盡二寰中一。❷畿內の中。〔太平記、十三、中前代蜂起事〕今天下一統に歸して、寰中無事と雖。❸唐の高僧。蒲坂の盧氏の子。諡は性空大師。母の喪に服し、出家して、百丈禪師に從ひ、杭州大慈山に居る。〔宋高僧傳、十二〕。

【寰甸】15 クワンデン 天子の封畿。甸は、周代に王城の周圍五百里以內の稱。帝畿。畿內。世界。寰宇。寰內。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕崇二徽章一而出二寰甸一、照二殊策一而去二城闉一。

【寰內】16 クワンナイ 天子の治める土地全體。畿內。轉じて、天下。世界。寰甸に同じ。〔穀梁、隱、元〕寰內諸侯、非レ有二天子之命一、不レ得三出會二諸侯一。〔注〕天子畿內、大夫有二采地一者、謂二之寰內諸侯一。〔後漢書、孔融傳〕宜丁準二古王畿之制一、千里寰內、不丙以封乙建諸侯甲。〔左思、魏都賦〕殷殷寰內。

【竅】7345 ケキ キヤク 〔廣韻〕古歷切 錫 **揚がるさま。**〔廣韻〕竅、揚皃。

【親】7346 ㈠セキ シヤク 〔五音集韻〕倉歷切 錫 ㈡シン 〔字彙〕初僅切 震

［一］［二］したしい。〔字彙〕寭、親寭也。〔字彙〕寭、至也。

【⿱宀絹】 7347　ケン　〔字彙補〕古犬切　銑

あみ。〔字彙補〕⿱宀絹、網也。

【⿱宀冥】 7348　ネイ　ニヤウ　〔集韻〕囊丁切　靑

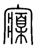
おほぞら。〔集韻〕⿱宀冥、昊天之謂㆑⿱宀冥。

【⿱宄敗】 7349　キウ　究（**8－25409**）の古字。〔玉篇〕⿱宄敗、古文究。

【賔】 7350　ヒン　賓（**10－36788**）の古字。〔集韻〕賓、古作㆑賔。

十四畫

【寱】 7351　ゲイ　〔集韻〕研計切　霽



小篆

❶**ねごと。**〔說文〕寱、瞑言也、从㆓㝱省㆒臬聲。〔繫傳〕今人謂㆓夢中有㆑言爲㆓寱語㆒。〔段注〕瞑言者、寐中有㆑言也。〔集韻〕寱、德也。❷**おどろく。**〔集韻〕寱、驚也。❸また囈（**2－4629**）に作る。〔廣韻〕寱、亦作㆑囈。❹或は⿱宀⿰爿藝（**3－7408**）に作る。〔集韻〕寱、或作㆑⿱宀⿰爿藝。

【寲】 7352　ギ　〔玉篇〕魚基切　支

あきらかにする。〔字彙〕寲、察也。

【⿱宀墊】 7353　テン　⿱宀埶（**3－7280**）に同じ。〔集韻〕⿱宀埶、或从㆑土。

【⿱宀⿰爿侵】 7354　シン　寑（**3－7289**）の古字。〔玉篇〕⿱宀⿰爿侵、古文寑。

【⿱宀檜】 7355　レウ　〔龍龕手鑑〕力昭切　蕭

さびしい。〔龍龕手鑑〕⿱宀檜、空寂也。

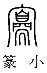
【⿱宀臱】 7356　ベン　⿱宀⿱自丏（**3－7359**）の本字。〔正字通〕⿱宀⿱自丏、本作㆑⿱宀臱。

【⿱宀禋】 7357　イン　禋（**8－24761**）の籀文。〔說文〕禋、籀文从㆑宀。

十五畫

【⿱宀踰】 7358　ユ　踰（**10－37675**）の俗字。〔正字通〕⿱宀踰、通㆑踰、俗加㆑宀、贅。

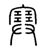
【⿱宀⿱自丏】 7359　ベン　メン　〔集韻〕民堅切　先



小篆

❶**見えぬ。くらい。**もと⿱宀臱（**3－7356**）に作る。〔正字通〕⿱宀⿱自丏、本作㆑⿱宀臱。〔說文〕⿱宀臱、⿱宀臱⿱宀臱、不㆑見也、从㆑宀臱聲。❷**人を省みない。室に人がない。**〔說文〕⿱宀臱、一曰、⿱宀臱⿱宀臱、不㆑省㆑人。〔集韻〕⿱宀⿱自丏、徐鍇曰、室無㆑人也。

【𡨄】 7360　ソク　〔集韻〕悉則切　職



小篆

❶**ふさぐ。ふさがる。**本、⿳宀㠭廾（**3－7375**）に作る。〔正字通〕𡨄、本作㆑⿳宀㠭廾。〔說文〕⿳宀㠭廾、窒也、从㆑㠭从㆑廾、窒㆑宀中、㠭猶㆑齊也。〔段注〕穴部曰、窒、𡨄也、此與㆓土部塞㆒音同義異、與㆓心部㥶㆒音同義近、塞、隔也、隔、塞也、與㆓𡨄窒㆒訓別、㥶、實也、實、富也、與㆓𡨄窒㆒訓近、凡塡塞字、皆當㆑作㆑𡨄、自㆓塞行㆒而𡨄㥶廢矣。❷或は塞（**3－5349**）・⿳宀㠭土（**3－7381**）に作る。〔集韻〕𡨄、或作㆓塞・⿳宀㠭土㆒。

解字　會意。宀と㠭と廾との合字。宀は屋、廾は兩手、㠭は物をいつぱいにみたすさま。故に、屋に物を充たしふさぐこと、本義をふさぐ・ふさがるの意とする。

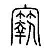
【⿱宀⿱目大】 7361　サイ　塞（**3－5349**）に同じ。〔字彙補〕⿱宀⿱目大、與㆑塞同。

【⿱宀⿰谷各】 7362　カク　義未詳。〔篇海〕⿱宀⿰谷各、音赫。

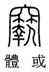
【⿱宀婁】 7363　ル　義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱宀婁、音妻。

十六畫

【⿱宀⿰匊欠】 7364　キク　〔集韻〕居六切　屋



小篆



或體

❶**きはまる。**〔說文〕⿱宀⿰匊欠、窮也、从㆑宀⿰匊欠聲。❷或は⿱穴⿰匊欠（**8－25711**）に作る。〔說文〕⿱宀⿰匊欠、⿱穴⿰匊欠、⿱宀⿰匊欠或从㆑穴。〔集韻〕⿱宀⿰匊欠、或从㆑穴。❸通じて⿱穴⿰匊欠（**8－26386**）に作る。〔集韻〕⿱宀⿰匊欠、通作㆑⿱穴⿰匊欠。

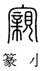
【⿱宀鞫】 7365　キク　鞫（**12－42892**）に同じ。〔字彙〕⿱宀鞫、同㆑鞫。〔正字通〕說文、鞫、窮㆓理罪人㆒也、譌作㆑⿱宀鞫、非。

【寳】 7366　ハウ　寶（**3－7376**）の俗字。〔正字通〕寳、俗寶字。

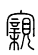
【寴】 7367

［一］シン　〔集韻〕七刃切　震

［二］シン　〔集韻〕雌人切　眞



小篆（說文）



小篆（段注本）

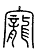
［一］［二］❶**したしい。したしく。**親（**10－34918**）に通ず。〔說文〕寴、至也、从㆑宀親聲。〔段注〕至者、親密無㆑間之意、見部曰、親者至也、然則親與㆑寴、音義皆同。〔正字通〕寴、按、秦石刻、寴㆓軏遠方㆒、徐敦立音親巡、嶧山碑改㆓寴巡㆒爲㆓親軏㆒。❷**家の中のむなしいさま。**〔集韻〕寴、屋空皃。❸或は⿱宀亲（**3－7231**）に作る。〔集韻〕寴、亦省。

【寵】 7368

［一］チヨウ　チユ　〔集韻〕丑勇切　腫　ㄔㄨㄥˇ　chʻung³

［二］ロウ　ル　〔集韻〕盧東切　東

［三］ロウ　ル　〔集韻〕力鐘切　冬



小篆

［一］❶**たつとい住ひ。**〔說文〕寵、尊凥也、从㆑宀龍聲。❷**たつとぶ。あがめる。**〔國語、楚語下〕寵㆓神其祖㆒。〔注〕寵、尊也。❸**たつとい。**〔史記、趙世家〕寵有㆓孝悌・長幼・順明之節㆒。〔注〕正義曰、寵、貴寵也。❹**はえ。**名譽。〔易、師〕象曰、在㆑師中吉、承㆓天寵㆒也。〔釋文〕寵、光耀也。〔詩、商頌、長發〕何㆓天之龍㆒、〔箋〕龍、當㆑作㆑寵、寵、榮名之謂。〔國語、楚語上〕其寵大矣。〔注〕寵、榮也。❺**いつくしむ。いつくしみ。**

〔集韻〕寵、一曰、愛也。❻めぐむ。めぐみ。〔字彙〕寵、恩也。❼おもひもの。氣にいり。〔左氏、僖、十七〕齊侯好レ內、多二內寵一。❽おごる。〔張衡、東京賦〕好レ殫レ物以窮レ寵。〔注〕薛曰、寵、驕也。❾こえる。〔漢書、匡衡傳〕愛幸寵二於皇后太子一。〔注〕師古曰、寵、踰也。❿うる。〔老子、十三〕寵辱若レ驚。〔釋文〕寵、得也。⓫族。〔左氏、襄、三十〕寵名皆弃。〔注〕寵、謂レ族也。⓬龍（12－48818）に通ず。〔易、師、承二天寵一也、釋文〕寵、王肅作レ龍。〔詩、商頌、長發、何二天之龍一、箋〕龍、當レ作レ寵。⓭姓。〔萬姓統譜〕寵、見二姓苑一。

［二］［三］❶都寵は、縣名。〔集韻〕寵、都寵、縣名、在二漢九眞郡一。❷龐（12－48824）に同じ。〔集韻〕龐、或作レ寵。

【寵愛】1 チョウアイ めでいつくしむ。かはいがりひいきする。寵幸。〔漢書、董賢傳〕賢寵愛日甚。〔後漢書、公孫瓚傳〕所二寵愛一類、多二商販庸兒一。〔魏志、陳思王植傳〕特見二寵愛一。〔晉書、馮紞傳〕承レ顏悅レ色、寵愛日隆。

【寵渥】2 チョウアク 特別に愛する。てあつい。君主のいつくしみのあついこと。寵愛。〔朱熹、靜菴雙鶴賦〕受二乘軒之寵渥一、釋二籠檻之羈縻一。

【寵異】3 チョウイ めだつて愛する。特別のあつかひ。〔左氏、昭、二、少姜有レ寵二於晉侯一、晉侯謂二之少齊一、注〕爲立二別號一、所三以寵二異之一。〔漢書、敍傳〕宜三寵二異之一。〔後漢書、楊賜傳〕蒙二寵異之恩一。〔顏延之、陽給事誄〕皇上嘉悼、思存二寵異一。

【寵位】4 チョウヰ 特別なよい位。尊い位。〔潛夫論、論榮〕寵位不レ足二以爲レ尊レ我、而卑賤不レ足二以卑レ己。

【寵育】5 チョウイク いつくしみやしなふ。〔晉書、苻堅載記下〕陛下寵二育鮮卑羌羯一、布二諸畿甸一。

【寵引】6 チョウイン 寵愛する。〔後漢書、明德馬皇后紀〕數所二寵引一、輒增二隆遇一。

【寵榮】7 チョウエイ 寵愛されて榮える。〔史記、禮書〕祿重者寵榮。〔後漢書、光烈陰皇后紀〕有レ靈嘉二其寵榮一。〔蜀志、諸葛亮傳〕魂而有レ靈、嘉二茲寵榮一。

【寵恩】8 チョウオン 寵愛の恩。恩寵。寵惠。

【寵嘉】9 チョウカ いつくしみよみする。〔左氏、昭、三〕其自二唐叔一以下、實寵二嘉之一。

【寵幸】10 チョウカウ かはいがる。又、其のこと。寵愛。寵倖。〔史記、鼂錯傳〕寵幸傾二九卿一。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕后獨得二寵幸一。

【寵倖】11 チョウカウ 寵愛。寵幸に同じ。〔後漢書、周擧傳〕朝多二寵倖一、祿不レ序レ德。

【寵號】12 チョウガウ いつくしんで與へる稱號。尊號。〔魏志、武帝紀、注〕詔曰、自レ今已後、臨レ事所レ甄、當レ加二寵號一者、其使刻二印章一假授、咸使三忠義得二相奬勵一、勿レ有レ疑焉。〔任昉、封二臨川安興建安等五王一詔〕隆二茲寵號一、實允二舊章一。

【寵狎】13 チョウカフ かはいがる。〔北史、魏收傳〕於二東山一與二諸優一爲二獮猴一、與レ狗鬪、帝寵二狎之一。

【寵姬】14 チョウキ 氣にいりの女。おもひもの。寵愛の姬妾。愛妾。〔史記、孫武傳〕以二王之寵姬二人一、各爲二隊長一。〔續列女傳、趙飛燕姊妹傳〕孝成皇帝之寵姬也。

【寵寄】15 チョウキ いつくしみまかす。愛して事をまかせる。〔裴度、代二李大夫一請二朝覲一表〕大恩無レ報、終懼且慙、以至二今日一、又承二寵寄一。

【寵貴】16 チョウキ いつくしみたつとぶ。特別に愛し貴くする。〔阮籍、大人先生傳〕寵貴以相加。〔南史、沈烱傳〕文帝又重二其才一、欲三寵二貴之一。

【寵給】17 チョウキフ 愛して物をたまふ。いつくしみ與へる。〔晉書、傅咸傳〕諸所二寵給一、皆生二于百姓一。

【寵貺】18 チョウキヤウ ありがたい賜物。寵賜。御下賜品。〔日本外史、德川氏前記、織田氏上〕吾聞、天子天下之君、宜二自レ我共一レ職焉、而今反辱二使命一、加以二寵貺一、吾何以堪レ之。

【寵遇】19 チョウグウ 手あついもてなし。寵愛して特別に待遇する。寵待。〔後漢書、黃香傳〕寵遇甚盛、議者譏二其過倖一。〔魏志、陳留王奐紀〕宜下加二寵遇一崇中其爵位上。

【寵光】20 チョウクワウ めぐみのひかり。君上の恩德。光寵。〔左氏、昭、十二〕宴語之不レ懷、寵光之不レ宣、令德之不レ知、同福之不レ受、將何以在。〔韓非子、外儲說左下〕寵光無レ節、則臣下侵偪。〔吳質、答二東阿王一書〕非下敢羨二寵光之休一、慕中猗頓之富上。〔韓愈、爲二裴相公一讓レ官表〕陛下不レ加二罪責一、更極二寵光一。

【寵惠】21 チョウケイ いつくしみめぐむこと。寵恩（8）に同じ。〔燕翼貽謀錄〕四海之內、均沾二寵惠一。

【寵敬】22 チョウケイ 寵愛と尊敬。〔後漢書、明德馬皇后紀〕寵敬日隆、始終無レ衰。

【寵孼】23 チョウゲツ 佞幸の臣。孼は、人を賤しめて言ふ時の言葉。〔王回、愛人賦〕納二寵孼於驕奢一兮、衞莊侯卒覆二其宗一。

【寵眷】24 チョウケン かはいがる。御氣に入る。寵顧。〔國史略、欽明天皇〕寵眷日渥、賞賚甚夥。

【寵顧】25 チョウコ かはいがる。御氣に入る。目上の人の厚いいつくしみ。寵眷。〔宋史、張洎傳〕洎與二錢若水一同在二禁林一、甚被二寵顧一。

【寵厚】26 チョウコウ 特別に愛せられる。待遇のあついこと。〔晉書、陸玩傳〕受レ遇三世、恩隆寵厚。

【寵子】27 チョウシ 親のかはいがる子ども。寵愛せられる子。氣に入りの子。時めく子。好運兒。寵兒。〔戰國、秦策〕子異人、秦之寵子也。〔史記、鄭世家〕寵子五人。〔說苑、復恩〕魏文侯與二田子方一語、有二兩僮子一、衣二青白衣一而侍二於君前一、子方曰、此君之寵子乎。

【寵之】28 チョウシ 金、范承吉（9－30834‥206）の字。

【寵私】29 チョウシ 特別に目をかける。めでいつくしむ。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一表〕豈宜下妄加二寵私一以乏中王事上。

【寵賜】30 チョウシ 寵愛せられて物をたまはること。てあついたまもの。寵貺。寵錫。寵賚。〔魏志、華歆傳、注〕歆淡二于財欲一、前後寵賜、諸公莫レ及、然終不レ殖二產業一。〔吳志、士燮傳〕厚加二寵賜一。〔張九齡、奉四和聖製送三尙書燕國公說赴二朔方軍一詩〕寵賜從二仙禁一、光華出二漢京一。

【寵兒】31 チョウジ ❶寵愛する子供。寵子。愛兒。❷世に時めく人。❸好運の人。風雲兒。

【寵姐】32 チョウシヤ 唐の寧王の寵妓の名。〔開元天寶遺事、隔障歌〕寧王宮有二樂妓寵姐者一、美二姿色一、善二謳唱一、每レ宴二外客一、其諸妓女盡在二目前一、惟寵姐、客莫二能見一。

【寵章】33 チョウシヤウ 寵愛するしるし。いつくしみをあらはしたもの。威儀・官位・封侯など。〔潘勗、冊二魏公九錫一文〕崇二其寵章一、備二其禮物一。〔注〕善曰、禮記曰、以爲二旗章一、以別二貴賤一、鄭玄曰、章、識也。〔任昉、爲二齊明皇帝一作レ相讓二宣城郡公一第一表〕虛二飾寵章一。

【寵奬】34 チョウシヤウ 特別に寵遇せられほめられる。寵拔。寵擢。〔元稹、同州刺史謝上表〕陛下察二臣無罪一、寵奬逾深。

【寵賞】35 チョウシヤウ 格別の賞與。特別に與へられる重賞。〔魏志、田疇傳、注〕疇文武有レ効、節義可レ嘉、誠應三寵賞以旌二其美一。

【寵錫】36 チョウシャク チョウセキ 愛して物を賜ふ。特別のたまもの。寵賜。〔晉書、地理志上〕光武以二東海王彊、去就有レ禮、故優以二大封一、兼食二魯郡一二十九縣一、其餘稱爲二寵錫一者、兼二一郡一而已。〔徐陵、謝下敕賚二燭盤一賞中答二齊國一移文上啓〕方二其寵錫一、獨有二光前一。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕自二嘉祐一以來、逢二國大慶一、必加二寵錫一。

【寵爵】37 チョウシヤク 尊い爵位。〔曹植、王仲宣誄〕寵爵之加、匪レ惠惟恭。

【寵主】38 チョウシユ 公主（2－1452‥336）の異稱。〔稱謂錄、公主古稱、寵主〕山堂肆考、公主曰二天姬一、亦曰二寵主一。

【寵叔】39 チョウシユク 明、項承恩（12－43343‥73）の字。

【寵授】40 チョウジユ 天子のいつくしみを受けて官位を授けられること。〔宋書、檀韶傳〕義弟道濟又有二大功一、故特見二寵授一。

【寵樹】41 チョウジユ 可愛がり引きたてる。いつくしみ助ける。特別のとりたて。〔後漢書、鄧騭傳〕宜下收二還冢次一、寵二樹遺孤一、奉二承血祀一、以謝中亡靈上。〔虞寄、上二陳寶應一書〕凡預二宗枝一、皆蒙二寵樹一。

【寵辱】42 チョウジョク 時めくこととはぢ多いこと。名譽と恥辱。榮辱。寵辱若レ驚を見よ。

【寵辱皆忘】43 チョウジョク ミナワスル 名譽も恥辱も皆忘れる。〔范仲淹、岳陽樓記〕有二心曠神怡、寵辱皆忘、把レ酒臨レ風、其喜洋洋者一矣。

【寵辱若レ驚】44 チョウジョク オドロクガゴトシ 達人は禍福の理に達する故、福は禍の本となることを知つて、之を得て驚きいましめる。一說に、凡人は僅かな寵を得ても、また僅かな辱を得ても、共に驚く

が如くに、それを重視する。〔老子、十三〕寵辱若レ驚、貴二大患一若レ身、何謂二寵辱若レ驚、寵爲レ上、辱爲レ下、得レ之若レ驚、失レ之若レ驚、是謂二寵辱若レ驚。〔注〕得二寵榮一驚者、處二高位一如レ臨二深危一也、貴不二敢驕一、富不二敢奢一、失者、失レ寵處レ辱也、驚者、恐二禍重來一也。〔全解〕小人之得二寵辱一也、喜心飜倒、得二於車上儛一、殆若二發狂一然、故其失二寵榮一也、亦轉倒恐懼、倉皇失レ措、殆若二發狂一然。

【寵辱不レ驚】45 チョウジョクオドロカズ　寵榮も恥辱も少しも意に介せぬこと。得失を己の度外に置くこと。〔唐書、盧承慶傳〕承慶典レ選、校二百官考一、有下坐二漕レ舟溺一者上、承慶以レ失レ所レ載、考二中下一、以示二其人一、無二慍色一、更曰、非二力所一レ及、考二中中一、亦不レ喜、承慶嘉レ之曰、寵辱不レ驚、考二中上一、其能著二人善一類レ此。

【寵臣】46 チョウシン　寵愛する家來。氣に入りの家來。〔戰國、楚策〕是以嬖女不レ敝レ席、寵臣不レ避レ軒。〔史記、司馬穰苴傳〕願得二君之寵臣、國之所一レ尊以監レ軍。〔漢書、賈誼傳〕古者禮不レ及二庶人一、刑不レ至二大夫一、所三以厲二寵臣一之節也。〔漢書、佞幸傳序〕其後寵臣、孝文時、士人則鄧通、云云、孝景昭宣時、皆無二寵臣一。〔後漢書、蓋勳傳〕碩帝之寵臣、而子違レ之。

【寵信】47 チョウシン　いつくしみ信じる。〔金史、宦者、梁珫傳〕珫性便佞、善迎合、特見二寵信一。

【寵神】48 チョウシン　尊んで神とする。〔國語、楚語下〕寵二神其祖一、以取二威於民一。〔注〕寵、尊也、言、休父之後、世尊二神其祖一、以威二耀其民一。

【寵進】49 チョウシン　天子のいつくしみを以て官にすすめること。〔後漢書、樊準傳〕宜下下二明詔一、博求二幽隱一、發二揚巖穴一、寵中進儒雅上。

【寵人】50 チョウジン　寵愛せられる人。お氣に入りの男。倖臣。外嬖。〔左氏、桓、三〕芮伯萬母芮姜、惡三芮伯之多二寵人一也。〔會箋〕寵人、外嬖也。〔六韜、武韜、三疑〕因三其所レ愛與二其寵人一、與二之所一レ欲、示二之所一レ利。〔新書、禮容語下〕夫郄氏、晉之寵人也。

【寵綏】51 チョウスイ　いつくしみ安んずる。〔書、泰誓上〕惟其克相二上帝一、寵二綏四方一。〔傳〕當三能助レ天、寵二安天下一。

【寵數】52 チョウスウ　愛しいつくしむこと。〔錢珝、爲二集賢崔相公一讓二大學士一第三表〕是以繼二獻封章一、面二陳肝血一、宸衷益注、寵數不レ移。

【寵召】53 チョウセウ　手厚いもてなし。

【寵招】54 チョウセウ　人から招かれることの敬稱。おまねき。御招待。

【寵戚】55 チョウセキ　おぼえめでたい君上のみうち。〔晉書、周處傳〕遷二御史中丞一、凡所二糾劾一、不レ避二寵戚一、梁王肜違レ法、處深文案レ之、及二氏人齊萬年反一、朝臣惡二處強直一、皆曰、處、吳之名將子也。

【寵籍】56 チョウセキ　御恩。〔福惠全書、稟啓附、迎二鄭郡守一〕伏冀遄臨、曷勝二寵籍一。

【寵接】57 チョウセツ　うやまひ交はる。〔白虎通、鄉射〕寵接禮交、加二客謙敬一。

【寵妾】58 チョウセフ　氣に入りのめかけ。愛妾。〔史記、齊太公世家〕景公寵妾芮姬、生二子荼一。

【寵贈】59 チョウソウ　寵愛し加贈する。〔潘岳、馬汧督誄〕光光寵贈、乃牙二其門一。〔蘇頲、贈司徒豆盧府君挽詞〕寵贈追二胡廣一、親臨比二賀循一。

【寵存】60 チョウソン　親愛してあはれみ問ふ。〔晉書、傅玄傳〕諸有二疾病一、滿二百日一不レ差、宜下令レ去レ職、優二其禮秩一、而寵二存之一、既差而後更用上。

【寵待】61 チョウタイ　寵愛して待遇する。寵愛厚いもてなし。寵遇。〔魏志、曹爽傳〕及レ卽レ位、爲二散騎侍郎一、累二遷城門校尉一、加二散騎常侍一、轉二武衞將軍一、寵待有レ殊。〔晉書、徐邈傳〕遷二散騎常侍一、猶處二西省一、前後十年、每被二顧問一、輒有二獻替一、多レ所二匡益一、甚見二寵待一。

【寵答】62 チョウタフ　めでいつくしんで勳勞にむくいること。〔漢書、鼂錯傳〕文帝嘉レ之、乃賜二錯璽書一寵答焉。

【寵憚】63 チョウタン　愛して然もはばかり敬ふ。〔隋書、獨孤皇后傳〕百僚聞而畢賀、高祖甚寵二憚之一。

【寵秩】64 チョウチツ　愛して官秩を授ける。〔左氏、昭、八〕吾誨レ之、猶懼二其不一レ濟、吾又寵二秩之一、其若二先人一何。〔魏志、杜恕傳〕陛下復以二冀州一、寵二秩呂昭一。〔鍾會、檄レ蜀文〕寵秩殊異。

【寵暱】65 チョウヂツ　なれ親しむ。暱は、近づき親しむこと。〔謝莊、泰始元年改元大赦詔〕鴟梟小豎、莫レ不二寵暱一。

【寵弟】66 チョウテイ　寵愛する弟。愛弟。又、尊貴な身分の弟。〔左氏、隱、元〕蔓草猶不レ可レ除、況君之寵弟乎。

【寵擢】67 チョウテキ　特別に待遇して擧用する。特別にひき上げて用ひる。寵拔。〔白居易、爲レ人上二宰相一書〕寵擢之榮、託寄之重。〔白居易、與二楊虞卿一書〕白惟賤陋、非次寵擢。

【寵任】68 チョウニン　寵愛して官に任ずる。寵愛して信任する。〔魏志、劉放傳〕明帝卽位、尤見二寵任一。〔晉書、呂光載記〕深見二寵任一。

【寵褒】69 チョウハウ　愛しほめる。いつくしみほめる。〔汪藻、行韓蘄王制〕我何愛二于寵褒一。

【寵拔】70 チョウバツ　いつくしみ引きあげる。特に拔擢する。寵擢。〔風俗通、十反〕無レ所二寵拔一。〔元史、燕鐵木兒傳〕受二武宗寵拔之恩一。

【寵媚】72 チョウビ　媚びて寵を受ける。〔吳志、賀邵傳〕親洽寵媚之臣、日聞二順意之辭一。

【寵嬖】74 チョウヘイ　氣に入り愛する。又、お氣に入りの者。〔拾遺記九、晉時事〕共二宮人寵嬖者一、解二媟服一宴戲、彌二於日夜一。

【寵別】75 チョウベツ　別れに當つてねんごろの情を致すこと。〔蕭昕、送二邢中丞一序〕無三酒沾レ我、緩二仳離之憂一、徵レ文寵別、慰二行邁之思一。

【寵名】76 チョウメイ　寵遇によつて受けた名號。又、卿の位と名。〔左氏、襄、三十〕冬十月、叔孫豹會三晉趙武・齊公孫蠆・宋向戌・衞北宮佗・鄭罕虎、及二小邾之大夫一、會二于澶淵一、既而無レ歸二於宋一、故不レ書二其人一、君子曰、信其不レ可レ不レ愼乎、澶淵之會、卿不レ書、不信也、夫諸侯之上卿、會而不信、寵名皆弃、不信之不可也如レ是。〔注〕寵、謂レ族也。〔會箋〕寵、言二卿位一也、擢居二卿位一、則書二於經一、今經沒而不レ書、寵與レ名皆棄。

【寵命】77 チョウメイ　天子のおぼしめし。天子の恩寵ある命令。寵靈。〔陸機、漢高祖功臣頌〕寵命有レ輝。〔李密、陳情表〕過蒙二拔擢一、寵命優渥。〔韓愈、送二石處士一序〕保二天子之寵命一。

【寵沐】78 チョウモク　寵愛を受ける。お氣に入ること。沐は、めぐみを受ける。〔江總、山水納袍賦〕濫二時來之寵沐一、振二長纓一以祇レ肅。

【寵賚】79 チョウライ　いつくしんで物を賜ふ。寵賜。〔宋史、任澤傳〕授二西頭供奉官一、賜二第一區一、寵賚甚厚。

【寵樂】80 チョウラク　めでたのしむ。〔史記、李斯傳〕群臣莫レ不下被二潤澤一、蒙中厚德上、陛下則高レ枕肆レ志寵樂矣。

【寵利】81 チョウリ　特別の恩遇を受けること。恩寵と利祿。〔書、太甲下〕君罔下以二辯言一亂中舊政上、臣罔下以二寵利一居中成功上、邦其永孚二于休一。

【寵臨】82 ch'ung³ lin²　御來臨を忝くする。

【寵禮】83 チョウレイ　世說新語の篇名。

【寵靈】84 チョウレイ　惠を垂れ、幸を下す。靈は福をあたへること。寵命。〔左氏、昭、七〕今君若親步二玉趾一、辱見二寡君一、寵二靈楚國一。〔會箋〕廣雅曰、靈、福也、此寵靈連用、當レ訓レ福、言寵二楚國一而賜レ之以レ福也、其餘以二君之靈一、雖二則訓レ寵、字義既殊、則其意稍別、蓋蒙二人之恩寵一、猶如レ得二神靈之佑一、故謂二人祐レ己爲レ靈耳。〔後漢書、鄧騭傳〕朝廷以二太后故一、遣二五官中郎將一、迎レ騭爲二大將軍一、既至、大會二羣臣一、賜二束帛乘馬一、寵靈顯赫、光震二都鄙一。〔江淹、雜體、劉太尉傷亂詩〕伊余荷二寵靈一、感激徇二馳騖一。〔注〕濟曰、言三我蒙二天子神靈寵愛一。

【寵賂】85 チョウロ　恩寵を求めるための進物。賄賂。〔左氏、桓、二〕官之失レ德、寵賂章也。〔會箋〕寵賂者、私寵之賄賂也。

【寵祿】86 チョウロク　寵愛して俸祿を多く賜ふこと。愛せられて受ける祿。高祿。〔左氏、隱、三〕驕奢淫泆、所二自邪一也、四者之來、寵祿過也。〔漢書、敍傳〕既成二寵祿一。〔魏志、杜恕傳〕諸蒙二寵祿一受二重任一者、不下徒欲レ擧二明主於唐虞之上一而已上、身亦欲レ廁二稷契之列一。

【寵惑】87 チョウワク　愛情の惑ひ。愛に溺れる。〔後漢書、光武郭皇后紀〕崇替去來之甚者、必唯寵惑乎。

【爭レ寵】88 チョウヲアラソフ　爭つて寵愛を得んとすること。〔史記、吳太伯世家〕齊景公死、而大臣爭レ寵、新君弱。

【得レ寵】89 チョウヲウ　寵愛を受ける。〔左氏、僖、二十四〕得レ寵而忘レ舊、何以使レ人。〔徐陵、雜曲〕二八年時不レ憂度、旁邊得レ寵誰相妒。

【寵壽堂】90 チョウジュダウ　淸、張競光（**4**－**9812**··921）の

室名。

【居レ寵思レ危】91（チヨウニヰテアヤフキヲオモフ） 高位にあつて得意の時にも、衰亡の時を思つて恐れ愼む。〔書、周官〕居レ寵思レ危、罔レ不二惟畏一。〔傳〕言雖レ居二貴寵一、當下思二危懼一無上レ所レ不レ畏。

【懷レ寵尸レ位】92（チヨウヲイダキクラヰヲシニス） 寵をむさぼり、職分を盡さぬこと。〔孝經、諫諍章、孔傳〕見レ可レ諫而不レ諫、見レ可レ退而不レ退、謂二之懷寵一、謂二之尸位一。懷レ寵尸レ位、國之姦人也。

【啓レ寵納レ侮】93（チヨウヲヒラキアナドリヲイル） 寵することが其の當を得なければ、却つて侮られる。〔書、說命中〕無二啓レ寵納レ侮、無二恥レ過作レ非。〔傳〕開レ寵非二其人一、則納レ侮之道。〔左氏、定、元〕啓レ寵納レ侮、其此之謂矣。

【妒レ寵負レ恃】94（チヨウヲネタンデフジス） 他人の寵あるをねたみ、己の美を自負すること。〔韓愈、送三李愿歸二盤谷一序〕列レ屋而閑居、妒レ寵而負恃、爭レ妍而取レ憐。

【負レ寵凌レ人】95（チヨウヲオヒヒトヲシノグ） 寵愛をかさに着て人を侮り見下げること。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕憎二景時負レ寵凌一レ人、去屬二義經一。

【⿱宀⿱茻仌】7369 カン 寒（3－7239）の古字。〔集韻〕寒、古作レ⿱宀⿱茻仌。

【⿱宀歷】7370 レキ リヤク 〔集韻〕狼狄切 [錫]。
❶深い。〔字彙補〕⿱宀歷、深也。❷人が居ない。寥（3－7292）に同じ。〔集韻〕寥、寂寥、無レ人也、或从レ歷。

【⿱宀䳭】7371 セキ 䳭（12－46776）に同じ。〔海篇〕⿱宀䳭、同レ䳭。

【⿱宀磟】7372 レウ 磟（8－24566）に同じ。〔字彙補〕⿱宀磟、與レ磟同。

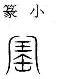
【⿱宀⿰爿戚】7373 音未詳 やまひ。やむ。〔字彙補〕⿱宀⿰爿戚、病也、音未詳。

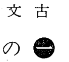
【⿱宀棗】7374 ジツ 義未詳。〔五音篇海〕⿱宀棗、音實。

【⿱宀舁】7375 ソク 寠（3－7360）の本字。〔正字通〕寠、本作レ⿱宀舁。

十七畫

【寶】7376 ハウ ホウ 〔集韻〕補抱切 [皓] ㄅㄠˇ pao³


小篆


古文

❶たから。㋑金銀珠玉のたぐひ。〔說文〕寶、珍也、从二宀玉貝一、缶聲。〔書、顧命〕越玉五重、陳レ寶、赤刀・大訓・弘璧・琬琰、在二西序一。〔傳〕於二東西序坐北一、列二玉五重一、又陳二先王所レ寶之器物一。〔公羊、莊、六〕冬齊人來歸二衞寶一。〔注〕寶者、玉物之凡名也。〔國語、魯語上〕以二其寶一來奔。〔注〕寶、玉也。㋺貨幣。〔蜀志、先主傳〕求二萬兵及資寶一、欲二以東行一。㋩身體。〔老子、六十九〕輕レ敵幾喪二吾寶一。〔河上公注〕寶、身也。㋥子女。こども。〔留青日札〕今人愛二惜其子一、每呼レ之曰レ寶。㋭貴重なもの。〔易、繫辭下〕聖人之大寶曰レ位。〔禮、禮運〕地不レ愛二其寶一。〔疏〕謂二五穀豐、醴泉生、器車出一也。❷たからとする。㋑たつとぶ。〔書、旅獒〕不レ寶二遠物一、則遠人格、所レ寶惟賢、則邇人安。〔淮南子、說山訓〕侯王寶レ之。〔注〕寶、重也。㋺大切にする。〔漢書、梁平王襄傳〕戒二後世善寶一レ之。〔注〕師古曰、寶、謂二愛守一也。❸神。〔書、金縢〕無レ墜二天之降寶令一。〔鄭注〕寶、神也。❹道。〔廣雅、釋詁三〕寶、道也。〔禮、檀弓下〕仁親以爲レ寶。〔注〕寶、謂二善道可レ守者一。❺しるし。印章。㋑天子の御璽。〔唐書、車服志〕至二武后一、改二諸璽一皆爲レ寶、中宗卽位、復爲レ璽、開元六年、復爲レ寶、天寶初、改二璽書一爲二寶書一、十載、改二傳國寶一爲二承天大寶一。㋺諸侯の封璽。〔詩、大雅、崧高〕錫二爾介圭一、以爲二爾寶一。〔穀梁、定、八〕寶玉者、封圭也。❻天子のことに用ひる接頭語。〔令狐楚、賀レ冊二皇后一表〕獻二寶綬于內朝一。〔李程、衆星拱北詩〕守二寶位一而厚二羣生一、在二璇璣一而齊二七政一。❼對者を尊ぶ接頭語。〔李商隱、寄二彭城公一啓〕寶肆廻腸、只期二和氏一、醫門投足、永念二倉公一。❽佛家に用ひる接頭語。〔王勃、武都山淨惠寺碑〕著二寶籍于經山一。❾道家に用ひる接頭語。〔雲笈七籤〕上皇寶經、皆結二自然之章一。❿とりこ。俘（1－697）に通ず。〔說文通訓定聲〕寶、叚借爲レ俘。〔公羊、莊、六〕冬、齊人來歸二衞寶一。〔釋文〕衞寶、左氏經作二衞俘一。⓫古は寚（3－7265）・珤（7－20963）・保（1－979）に作る。〔集韻〕寶、古作二寚・珤・保一。⓬或は窑（3－7266）に作る。⓭葆（9－31381）に通ず。〔史記、樂書、天子之葆龜也、注〕索隱曰、葆、亦書作レ窑。⓮宗（3－7164）に通ず。〔說文通訓定聲〕寶、叚借爲レ宗。〔說文〕宗、藏也、云云、周書曰、陳レ宗赤刀。⓯姓。〔通志、氏族略、上聲〕寶氏、見二姓苑一。〔奇姓通〕寶篆、慶元人、皇祐進士。

[名乘] タカ。トモ。

[解字] 會意形聲。宀と玉と貝とを合し、缶は音符。古文、宀と玉と缶とを合せて寚とし、又玉と缶とを合せて珤とす。屋下に玉貝の如き珍物あり、故に本義をたからとす。〔說文通訓定聲〕寶、珍也、从レ宀从レ玉从レ貝、會意、缶聲、古文省レ貝、按、古又作レ珤、从レ玉缶聲。

【寶愛】1（ハウアイ） 寶として愛する。大切にする。〔後漢書、杜林傳〕得二漆書古文尙書一卷一、常寶二愛之一。〔吳志、劉惇傳〕惇亦寶二愛其術一、不二以告一レ人。〔劉子翬、古墨詩〕汗青得失更誰論、尤物競爲二人寶愛一。

【寶鴨】2（ハウアフ） よい香爐。昔、香爐は鴨形であつたからいふ。〔孫魴、夜坐詩〕坐久煙消寶鴨香。〔潛確類書〕金猊寶鼎鴨金鳧、皆焚レ香器也。

【寶安】3（ハウアン） ❶縣名。晉、置く。廣東省番禺縣の東南、廣東灣の東岸。後、英國に割讓す。〔南齊書、州郡志上〕東官郡、寶安。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、東莞縣〕寶安廢縣、縣南二百五十里、本東官鹽場、三國吳、甘露二年、置二司鹽都尉於此一、晉改置レ縣、並立二東官都一、亦曰二東官城一、隋、郡廢而縣如レ故。❷北齊、邸珍（11－39347・・15）の字。❸（ホウアン）宋の高僧。蘇州夏氏の子。自ら土石を運んで嘉興の精嚴寺に五臺院を建つ。八十餘歲に至るまで、絲纏を纏はず、亂草中に臥し、示寂後、偓身壞れず。〔宋高僧傳、三十〕。

【寶菴】4（ハウアン） ❶明、顧紹芳（12－43689・・303）の號。❷僧に對する住所の敬語。

【寶衣】5（ハウイ） ❶綾紈で作つた衣。きらびやかな衣。〔陸倕、石闕銘〕乃焚二其綺席一、棄二彼寶衣一。〔注〕善曰、六韜曰、紂時、婦人以二文綺一爲レ席、衣以二綾紈一者三千人。❷（ホウエ） 僧衣をいふ。〔觀佛三昧海經〕各脫二寶衣一。

【寶意】6（ホウイ） ❶天子の御心。〔李嶠、爲二何舍人一賀二御書雜文一表〕偃波垂露、會二寶意一而咸新、半魄全曦、象二天形一而得レ妙。❷字號。㋑後魏、元瑱（1－1340・・339）の字。㋺清、商盤（2－3803・・209）の字。

【寶位】7（ハウヰ） 天子の御位。〔易、繫辭下〕聖人之大寶曰レ位、何以守レ位、曰仁。〔晉書、宣帝紀論〕天未レ啓レ時、寶位猶阻。〔魏書、肅宗紀〕朕以二沖眇一、纂二承寶位一。〔李白、書懷示二息秀才一詩〕一朝讓二寶位一、劍璽傳二無窮一。〔書言故事大全、人君類〕

御座曰二寶位一。

【寶祐】8（ハウイウ） 宋の理宗、趙昀の年號。（1253－1258）

〖寶祐四年會天歷〗9（ハウイウヨネンクワイテンレキ） 書名。一卷。宋、荆執禮撰。歷書の一。宋史には宋の南渡以後に作つた歷書として、統元・乾道・淳熙・會元・統天・開禧・會天・成天の八つを數へてゐるが、これは其の一つである。〔四庫未收書提要、二〕。

〖寶祐四年登科錄〗10（ハウイウヨネントウクワロク） 書名。一卷。宋の進士の登科錄の一。宋の登科錄で、後世まで殘つてゐるものに二ある。其の中の一には朱子の名がある。他の一はこれで、狀元が文天祥、二甲第一人が謝枋得、第十七人に陸秀夫がゐる。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【寶引】11（タカラビキ） 福引の一種。端に織物・刀・印籠・巾著等を結んだ五色の長い緒を襖・障子の內から出して引かせ、當つた品物を與へるもの。江戶時代、大名等の行つたもの。

【寶印】12（ホウイン） 佛 ❶三寶（佛・法・僧）中の法寶。又、三法印ともいふ。諸寶中の實寶で、堅固不壞なもの。〔智度論、四十七〕於二諸法中一法寶是實寶、今世後世乃至二涅槃一能爲二利益一、如二經中說一、佛語二比丘一、爲レ汝說レ法、所レ說法者、所レ謂法印、法印卽是寶印、寶印卽是解脫門、復次三法印、名爲二寶印三昧一。❷諸佛菩薩の種々の印契の美稱。❸寶生印、又は菩薩印。財寶を生む寶生印の略稱。〔本朝高僧傳、六、慧安〕左手與願、右手寶印。❹念佛の心印の堅固不壞を國王の寶印に譬へていふ。〔觀佛三昧經、十觀密行品〕。

【寶鋆】13（ハウイン） 清、滿洲鑲白旗の人。姓は索綽絡氏。字は佩蘅。號は自怡悅齋。謚は文靖。道光の進士。官は武英殿大學士。著に佩蘅詩草がある。〔清史稿、二百九十二〕・〔清史列傳、五十二〕・〔續碑傳集、七〕。

【寶宇】14（ハウウ） 寺院をいふ。〔王勃、益州德陽縣善寂寺碑〕晨光轉レ卉、翻二寶宇之龍花一、溽露低レ枝、蕩二眞文於具葉一。

【寶運】15（ハウウン） 天子の運命。王位。聖運。〔沈約、武帝集序〕成二天地之大功一、膺二樂推之寶運一。〔徐陵、爲二陳武帝一與二嶺南酋豪一書〕聖主欽明、還承二寶運一。〔北史、周宣帝紀〕朕以二眇身一、祇承二寶運一、雖三庶二幾聿修之志一、敢忘二燕翼之心一。

【寶永】16（ハウエイ） 第百十三代、東山天皇・第百十四代、中御門天皇の年號。（1704－1711）〔菅原爲範勘文〕唐書志云、寶祚惟永、暉光日新。

【寶英】17（ハウエイ） 明、趙麗華（**10－37171**‥944）の小字。

【寶瑛】18（ハウエイ） 寶石。〔劉詵、芳草賦〕挹二幽谷之寶瑛一兮、橫二芊綿之青鈿一。

【寶曜】19（ハウエウ） 道家で、上皇眞人の背に負つてゐる光明をいふ。光背。又、其の光。〔雲笈七籤〕上皇眞人皆負二寶曜一、體映二圓光一、氣合二三寶一。〔南嶽夫人傳〕今視二子之質一、實霄景高煥、圓精重照、鳳骨龍姿、腦色寶曜、五藏紫絡、心有二羽文一、形棲二晨霞一、神友靈肆、天人之任、良不レ虛矣。

【寶靨】20（ハウエフ） 寶玉のやうな美しいゑくぼ。笑顏。〔杜甫、琴臺詩〕野花留二寶靨一、蔓草見二羅裙一。〔楊炯、浮漚賦〕細而察レ之、若三美人臨レ鏡開二寶靨一、大而望也、若三馮夷剖レ蚌列二明珠一。

【寶應】21（ハウオウ） ❶唐の代宗の時、宮中を守つた軍兵の名。もと射生軍といふ。〔唐書、兵志〕代宗卽位、以二射生軍一入二禁中一清レ難、皆賜二名寶應功臣一、故射生軍又號二寶應軍一。❷年號。㋑唐の肅宗、李亨の年號。（762－763）㋺南宋の時、越の英宗、李天祚の年號、政隆寶應の略。（1163－1173）❸湖の名。江蘇省寶應縣の西、南のかた高郵湖に通ず。❹縣名。唐、置く。江蘇省高郵縣の北、運河の東岸。〔唐書、地理志五〕楚州淮陰郡、縣、寶應。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、高郵州〕寶應縣、漢爲二平安縣一、屬二廣陵國一、云云、唐上元三年、改爲二寶應縣一、宋因レ之。〔清史稿、地理志〕江蘇、揚州府、縣六、寶應。

【寶甕】22（ハウヲウ） 黃帝の時、丹丘國から獻じた瑪瑙の甕。甘露を受けたといふ。寶露（332）の❶を見よ。〔東方朔、寶甕銘、注〕當二黃帝時一瑪瑙甕、至二堯時一猶存、甘露不レ竭、謂二之寶露一、舜遷二寶甕於衡山一、故山有二寶露壇一、又遷二寶甕於零陵之上一、至二秦始皇一、通二汨羅之流一、爲二小溪一、逕從二長沙一至二零陵一、堀レ地得二赤玉甕一、可レ容二八斗一、在二舜廟之堂前一、不レ知二年月一、至二漢東方朔一識レ之、朔乃作二寶甕銘一。

【寶駕】23（ハウガ） 立派な乘物。天子の車駕の喩。〔江總、攝山棲霞寺碑〕金幢合レ蓋、寶駕驅レ輈。〔唐高宗、太子納妃太平公主出降詩〕雕軒回二翠陌一、寶駕歸二丹殿一。

【寶戒】24（ハウカイ） 寶として珍重すべきいましめ。貴い戒め。大切ないましめ。戒律の敬稱。〔宋書、孝武帝紀〕思レ盡二寶戒之規一。〔傳燈錄〕白樂天久參二佛光一、得二心法一、兼稟二大乘金剛寶戒一。

【寶界】25（ホウカイ） 佛 七寶を以て飾られた世界。諸佛の淨土。卽ち極樂世界。〔迦才淨土論、上〕彌陀寶界、凡聖開欣。

【寶海】26（ホウカイ） 佛 功德の寶珠の非常に多いのを海に譬へていふ。〔淨土論、偈〕功德大寶海。

【寶階】27（ホウカイ） 佛 七寶で作つた階段。佛が忉利天から下りた階段。〔大唐西域記、劫比他國〕伽藍大垣內有二三寶階一、南北列東面下、是如來自二三十三天一降還也、昔如來起レ自二勝林一上二升天宮一、居二善法堂一。

【寶厓】28（ハウガイ） 字號。❶清、吳陳琬（**2－3365**‥781）の字。❷清、張崟（**4－9812**‥219）の字。

【寶崖】29（ハウガイ） ❶寶厓を見よ。❷（ホウガイ） 明の高僧。涪陵の人。說教が甚だ巧であつたが、後、自ら火定に入つた。〔明一統志〕寶崖、涪陵人、自レ幼寡言不二嬉戲一、出家爲レ僧、以レ布裹二五指一、燒レ之曰、信レ佛如レ此可也、人以爲下有二風疾一、何不上治レ之、答曰、身皆空耳、四大五肢、復何有邪、爲二四衆一說レ法、詞切義要、後投レ火滅レ身、而心不レ壞。

【寶蓋】30（ハウガイ） ❶山名。㋑江蘇省鎭江縣の西。上に茅山道院がある。㋺福建省晉江縣の東南。大孤山ともいふ。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、晉江縣〕寶蓋山、府東南四十五里、一名、大孤山、絕頂有二石塔一、宏壯突兀、出二於雲表一、商舶以爲二抵レ岸之標一。㋩湖北省鄖縣の西南。西山ともいふ。〔元和志〕西山、今名二寶蓋山一、南臨二漢水一。❷（ホウガイ） 佛 寶玉で飾つた天蓋。佛菩薩と講師讀師の高座の上に懸けるもの。〔維摩經、佛國品〕與二五百長者子一、持二七寶蓋一、來二詣佛所一。〔宋書、符瑞志下〕京邑崇虛館堂前有二黃氣一、狀如二寶蓋一。〔盧照鄰、長安古意〕龍銜二寶蓋一承二朝日一、鳳吐二流蘇一帶二晚霞一。❸pao^3 kai^4 部首の宀冠をいふ。

〖寶蓋頭兒〗31 pao^3 kai^4 t'ou êrh 部首の宀冠をいふ。

【寶江】32（ハウカウ） 明、王尙文（**7－20823**‥1627）の字。

【寶行】33（ハウカウ） ❶善い行爲。善行。〔呂覽、博志〕寶行良道、一而弗レ復。❷pao^3 hang^2 人の店鋪を稱する語。貴店。

【寶鉸】34（ハウカウ） 寶玉をちりばめた裝飾。美しい飾。鉸は裝飾。〔顏延之、赭白馬賦〕寶鉸星纏、鏤章霞布。〔注〕鉸、裝飾也。〔杜甫、魏將軍歌〕星纏寶鉸金盤陀、夜騎天駟超二天河一。

【寶號】35 pao^3 hao^4 ❶人の店鋪の敬稱。寶行。貴店。❷（ホウガウ） 佛 佛の稱號。

【寶閣】36（ハウカク） ❶立派な殿閣。〔徐陵、文帝登祚尊二皇太后一詔〕復二子明辟一、還承二寶閣一。❷寺院の建物。佛殿。佛閣。〔章孝標、題二東林寺一寄二江州李員外一詩〕日映二砌陰一移二寶閣一、風吹二天樂一動二金鈴一。

【寶岳】37（ハウガク） 隋、元景山（**1－1340**‥659）の字。

【寶學】38（ハウガク） 學問を寶とする。

〖寶學之人〗38′（ハウガクノヒト） 學問だけの世界にたてこもる人。象牙の塔にたてこもる人。〔雲笈七籤〕出名寶學之人、譬若二陂中魚一、游到レ池、四塞之下、自謂、窮二盡天下之水一、終日終夜、不レ能レ學二大水之魚一。

【寶匣】39（ハウカフ） 寶玉で飾つた立派な箱。寶函。たからばこ。〔孟浩然、寒夜詩〕理レ琴開二寶匣一、就レ枕臥二重幃一。〔盧思道、從レ駕經二大慈照寺一詩〕大川開二寶匣一、福地下二金繩一。〔李暇、東飛伯勞歌〕秦王龍劍燕后琴、珊瑚寶匣鏤二雙心一。

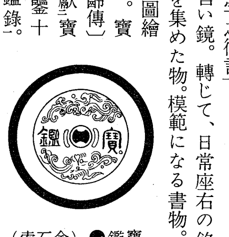
【寶盒】40 pao^3 hê^2 賭博に用ひる壺。底がなく、下に一枚の板があり、其の板の下半分は紅色に塗る。

〖寶盒兒〗41 pao^3 hê^2 êrh 四人以上でする賭博の一種。寶地兒といふ臺の上に一二三四と番號を四方に記し、其の上に寶盒を置く。賭博者は寶地の上に己の思ふ程の錢を置き、寶盒を持つ人は之を廻轉して寶地の上に置く。其の時、紅色の板が一に向へば一の人が勝ち、一に置いてあると同額の金員を他の三人から取る、寶盒を持つ人を開寶的、博徒を押寶的といふ。

【寶函】42（ハウカン） 寶玉で飾つた立派な箱。寶匣（39）

に同じ。〔王筠、國師草堂寺智者約法師碑〕開二寶函之奧典一、闢二金字之微言一。

【寶鑑】43ハウカン ❶善い鏡。轉じて、日常座右の銘。又、其の道の粹を集めた物。模範になる書物。元の夏文彥の撰に圖繪寶鑑五卷がある。寶鏡。〔唐書、張九齡傳〕千秋節、公主並獻二寶鑑一、九齡上二事鑒十章一、號二千秋金鑑錄一。〔夢溪筆談、異事〕嘉祐中、伯兄爲二衞尉丞一、吳僧持二一寶鑑一來云、齋戒照レ之、當レ見二前途吉凶一。〔四庫提要、子、藝術類〕郎瑛七修類稾、嘗謂、圖繪寶鑑、但紀二歷代善レ畫人名、及所レ師某人一而已。❷太陽をいふ。〔張鳳翼、日飾賦〕煌乎若二爽輪之離レ涴、焜乎若二寶鑑之濯レ滓。


寶鑑❶（金石索）

【寶巖】44ハウガン 字號。❶清、盛元珍（**8**－**23005**‥210）の字。❷清、張崟（**4**－**9812**‥219）の字。

【寶巖太師】45ハウガンタイシ 元、洞眞子（**6**－**17386**‥136）の賜號。

【寶規】46ハウキ 五代楚、馬希範（**12**－**44572**‥728）「の字。

【寶貴】47ハウキ たから。寶とし大事にする。〔戰國、齊策〕夫玉生二於山一、制取則破焉、非レ弗二寶貴一矣。

【寶器】48ハウキ たからもの。寶として貴ぶ道具。〔周禮、春官、天府〕上春釁二寶鎭及寶器一。〔左氏、莊、二十〕遂入二成周一、取二其寶器一而還。〔國語、越語上〕越國之寶器畢從。〔呂覽、名類〕割地寶器、卑辭屈服、不レ足二以止レ攻。〔戰國、秦策〕周自知レ不レ救、九鼎寶器必出。〔史記、張儀傳〕九鼎寶器必出。

【寶龜】49ハウキ ❶王侯が卜に用ひる龜甲。廟に藏めて寶とする。〔爾雅、釋魚〕一曰神龜、二曰靈龜、三曰攝龜、四曰寶龜、五曰文龜、六曰筮龜、七曰山龜、八曰澤龜、九曰水龜、十曰火龜。〔郝懿行、義疏〕公羊傳、以二龜青純一爲レ寶、何休注、千歲之龜、青髯、謂二之寶一者、世世寶用之辭。〔書、大誥〕寧王遺二我大寶龜一。〔禮、樂記〕青黑緣者、天子之寶龜也。〔禮、禮器〕諸侯以レ龜爲レ寶、以レ圭爲レ瑞。〔注〕古者貨レ貝寶レ龜。〔疏〕諸侯有二保レ土之重一、宜須三占二詳吉凶一、故得二以レ龜爲レ寶。〔左氏、昭、二十五〕臧會竊二其寶龜僂句一。❷第四十九代光仁天皇の年號。（770－781）

【寶義】50ハウギ 北周、劉璠（**2**－**2224**‥560）の字。

【寶鏡】51ハウキャウ ❶善い鏡。寶鑑。〔徐陵、爲二羊兗州家人一答レ餉レ鏡詩〕信來贈二寶鏡一、亭亭似二團月一。〔杜甫、千秋節有レ感詩〕寶鏡羣臣得、金吾萬國迴。〔龍城錄〕任仲宣畜二一寶鏡一、文皆篆籒。❷日月の喩。〔崔護、日五色賦〕彙二藻繪於金輪一、聚二雲霞於寶鏡一。〔無名氏、慶雲抱日賦〕粲兮若三組繡之縈二寶鏡一。❸佛ホウキャウ 至寶の明鏡。般若軌の二十一種の供物中の第十八。〔千手千眼觀世音菩薩大悲心陀羅尼經〕若爲レ求二大智慧一者、當二於寶鏡手一。

【寶弓】52ハウキュウ 天子の御弓。〔戰國、楚策〕若王之於レ弋、誠好而不レ厭、則出二寶弓一、碆二新繳一、射二噣鳥於東海一。

【寶炬】53ハウキョ 西魏、文帝（**5**－**13450**‥701）の名。

【寶局】54ハウキョク 賭場。〔田錫、楊花賦〕當二弈客以凝レ情、飛二來寶局一、値二嘉賓之擧レ白、吹二過金觴一。

【寶玉】55ハウギョク 寶として貴ぶ玉。貴い玉。寶璧。〔書、旅獒〕分二寶玉于伯叔之國一。〔春秋、定、八〕盜竊二寶玉大弓一。〔注〕寶玉、夏后氏之璜、大弓、封父之繁弱。〔疏〕此寶玉大弓、必是國之重寶、歷世掌レ之、故自二劉歆一以來、說二左氏一者皆以爲、夏后氏之璜、封父之繁弱、成王所三以分二魯公一也。〔戰國、秦策〕君之門下、無レ不レ居二高尊位一、太子門下無二貴者一、君之府藏二珍珠寶玉一、君之駿馬盈二外廏一、美女充二後庭一。〔荀子、富國〕佩二寶玉一。〔韓非子、和氏〕悲二夫寶玉而題レ之以レ石、貞士而名レ之以レ誑。

【寶金】56ハウキン ❶高熱で鑛石を溶かして得た黃金をいふ。〔茅亭客語〕凡有レ金之處、旁熏二樹木一、皆悉黃色、若要レ辨レ之、其石烏潤、以二水銀一指レ之、自然黏著、石上以レ秤、秤有レ金者、重二于常石一數倍、若敲磕及槌擊、終不レ能レ碎、須下以二大火一烹煆、得中眞金上矣、其金號曰二寶金一。❷祕傳。祕訣。〔福惠全書、郵政部、相二良馬一寶金篇〕。❸ホウキン 明の高僧。永壽の石氏の子。號は璧峯（碧峯）。自怡悅齋。洪武帝に佛法を說いて御製の詩を賜はる。宋濂、爲に舍利塔銘を撰す。〔新續高僧傳、十八〕・〔國朝獻徵錄、一百十八〕。

【寶琴】57ハウキン 寶玉で飾った琴。又、立派な琴。珍重する琴。〔西京雜記、五〕趙后有二寶琴一、曰二鳳凰一。〔謝朓、雜詠、燭詩〕曖色輕帷裏、低光照二寶琴一。〔王勃、採蓮賦〕鴛鴦繡彩之文履、玳瑁瓊華之寶琴。

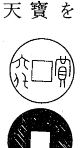
【寶琴館】58ハウキンクワン 清、陳允衡（**11**－**41698**‥653）「の室名。

【寶銀】59 pao^3 yin^2 元寶銀の略。銀塊。馬蹄銀。

【寶衢】60ハウク 佛道。〔王僧孺、懺悔禮佛文〕更闢二寶衢一、愈興二慧業一。

【寶花】61ハウクワ 佛徒が佛蓮華をいふ。〔江總、花贊〕池中寶花、葉覆二金沙一。

【寶貨】62ハウクワ ❶たからもの。珍物。〔漢書、項籍傳〕收二其寶貨婦女一而東。〔後漢書、劉焉傳〕左右欲三悉焚二寶貨倉庫一。〔論衡、狀留〕大器晚成、寶貨難レ售也。〔魏志、陳泰傳〕京邑貴人、多寄二寶貨一。❷ぜにかね。貨幣。㋑周の景王の時、錢の輕いのを患へて、大錢を鑄たもの。其の文に寶貨といふ。〔周禮、天官、外府、疏〕周景王時、患二泉輕一、將三更鑄二大泉一、單穆公曰、不可、王不レ聽鑄二大泉一、文曰二寶貨一。㋺新、王莽の時に鑄たもの。〔漢書、食貨志下〕更作二金銀龜貝錢布之品一、名曰二寶貨一。


周寶貨（金石索）

【寶貨難售】63ハウクワウレガタシ たから物はたやすく賣れない。すぐれた人物は容易に用ひられない喩。〔論衡、狀留〕大器晚成、寶貨難レ售者、不レ崇二一朝一、輒成レ賈者、菜果之物也。

【寶賄】64ハウクワイ たから。財貨。〔左氏、昭、十六〕爾有二利市寶賄一、我勿二與知一。

【寶光】65ハウクワウ ❶道家で天上にある光をいふ。〔雲笈七籤〕三清上境、妙化難レ思、九色寶光、不レ假二日月一、無レ有二晝夜一、亦無二去來一。❷南朝宋、顧寶先（**12**－**43689**‥348）の一名。

【寶光嘉禾章】66 pao^3 kuang^1 chia^1 hê^2 chang^1 民國の勳章、五等に分つ。中央に寶石を嵌め、周圍に稻の圖案をあしらふ。今、廢す。

【寶冠】67ハウクワン ❶寶玉で飾った冠。〔韓琦、芍藥賦〕酒酣誰欲レ張二珠網一、金鈿偏宜レ閒二寶冠一。〔雲笈七籤〕頭建二晨嬰寶冠一。❷古、女帝が儀式に召される御冠。天冠。〔西宮記〕冕冠、天皇即位、朝拜、朝堂儀用レ之、女帝著二寶冠一、童帝著二日形冠一、太子著二九章冕冠一也。

【寶冠章】68ハウクワンシヤウ 日本の勳章。もと功ある婦人に賜はる。八等から一等に至り、中央に寶冠の形を表はす。

【寶玩】69ハウグワン たから。たからもの。〔淮南子、主術訓〕人主好二高臺深池、雕琢刻鏤、黼黻文章、絺綌綺繡、寶玩珠玉一、則賦斂無レ度、而萬民力竭矣。〔唐書、阿閒王孝恭傳〕寶玩不レ貲。〔元史、世祖紀六〕圖籍寶玩、車輅輦乘。

【寶訓】70ハウクン 寶とすべき訓戒。〔蔡襄、和三御製觀二三聖御書一詩〕皇心欽二寶訓一、求レ治益精勤。〔袁桷、裝馬曲〕須臾玉戹黃帕レ覆、寶訓傳宣爭頫レ首。

【寶偈】71ホウゲ 佛佛家の詩詞の敬稱。至寶の偈頌。〔法苑珠林〕朝宣二寶偈一、夕出二苦海一。〔唯識述記、序〕此寶偈南贊。

【寶華】72ホウゲ 佛佛蓮華のこと。諸佛が、その上で結跏趺坐するといふ蓮華。〔法華經、譬喩品〕若欲レ行時、寶華承レ足。

【寶圭】73ハウケイ 寶物の圭。圭は上圓下方の瑞玉。〔漢書、五行志中之上〕以二成周之寶圭一湛二于河一。

【寶珪】74ハウケイ 寶物の珪。寶圭に同じ。〔左氏、昭、二十四〕用二成周之寶珪一沈二于河一。〔陳襄、繅藉賦〕嘉二寶珪之致レ用、資二繅藉一以成レ儀。

【寶慶】75ハウケイ ❶宋の理宗、趙昀の年號。（1225－1227）❷府の名。宋、置く。禹貢荊州の地。元は路と爲し、明は府となす。清は武岡州及び、邵陽・新化・城步・新寧の四縣を領す。治は湖南省邵陽縣。〔讀史方輿紀要、湖廣〕寶慶府、禹貢荊州之域、云云、寶慶初升爲二寶慶府一、元曰二寶慶路一、明初曰二寶慶府一。〔清史稿、地理志〕湖南、寶慶府、領二州一、縣四一、邵陽・新化・城步・武岡州・新寧。❸縣名。民國、置く。湖南省邵陽縣。

【寶慶四明志】76ハウケイシメイシ 書名。二十一卷。宋、羅濬撰。前十一卷は郡志、後十卷は所屬の六縣志。續志十二卷は、宋の梅應發・劉錫の同撰。實は吳潛一人の事迹を錄したもの。〔四庫提要、

史、地理類〕。

【寶磬】77 ハウケイ 立派な磬石。〔荀悅、漢紀序〕凡祥瑞云云寶磬、神光見。〔華陽國志〕犍爲郡、綏和三年、上二寶磬十六一、劉向以爲二美化所一レ降、用立二辟雍一。〔明一統志〕漢水在二犍爲縣東北一百八十里一、漢成帝時、得二古磬十六枚於水濱一、亦名二寶磬川一。

【寶髻】78 ハウケイ 古、貴女の禮裝の結髮。垂れた髮を頂の上にあげて瘤の形につくり、上に釵子を插す。〔王勃、臨二高臺一詩〕爲レ君安二寶髻一、蛾眉罷二花叢一。〔李白、宮中行樂詞〕山花插二寶髻一、石竹繡二羅衣一。〔章孝標、貽二美人一詩〕寶髻巧梳金翡翠、羅裙宜レ著繡鴛鴦。

【寶雞】79 ハウケイ ❶秦の文公が狩で獲て陳倉の坂城に祠つたといふ雉。陳寶(**11－41698**‥506)の❸を見よ。〔潘岳、西征賦〕寶雞前鳴、甘泉後涌。〔注〕善曰、漢書曰、秦文公獲二若石于陳倉坂城一祠レ之、其神光輝若二流星一、從二東方一來、集二于祠城一、則若二雄雉一、其聲殷殷、野雞夜鳴、以二一太牢一祠レ之、名曰二陳寶一。〔劉孝威、正旦春雞贊〕寶雞陳倉、祠光表レ神、雄飛帝レ漢、雌飛霸レ秦。❷縣名。唐、置く。秦の陳倉縣。陳寶雞鳴の瑞による。陝西省鳳翔縣の西南。渭水の北岸。〔唐書、地理志一〕鳳翔府扶風郡寶雞、西南有二大散關一、有二寶雞山一。〔明一統志〕寶雞縣在二鳳翔府城西南九十里一。〔清史稿、地理志〕陝西、鳳翔府、縣七、寶雞。❸市名。陝西省寶雞市。棉花の集散地。寶成鐵路の起點。

【寶雞祠】80 ハウケイシ 秦の文公が珍らしい石を祀つた祠。陳寶祠。〔潘岳、西征賦、寶雞前鳴、注〕良曰、陳倉有二寶雞祀一、故云二前鳴一。

【寶瓊】81 ホウケイ ❶陳の高僧。曲阿の徐氏の子。揚州大彭城寺に住し、文帝の時、大僧正となる。著に玄義文疏等數十卷がある。〔續高僧傳〕。❷陳の高僧。宣帝の時、僧統となり、帝師となつた。〔續高僧傳〕。

【寶轎】82 pao^3 chiao^4 婚禮の日、新婦の乘る輿。

【寶玦】83 ハウケツ 貴い佩玉。玦は、環狀で、一部缺けた所のある玉。〔魏文帝、與二鍾大理一書〕鄴騎既到、寶玦初至。〔梁簡文帝、金錞賦〕豈寶玦之爲レ貴、非二瑚璉之可一レ欽。〔杜甫、哀二王孫一詩〕腰下寶玦青珊瑚、可レ憐王孫泣二路隅一。

【寶訣】84 ハウケツ 道教などの祕訣。〔廣宣、安國寺隨レ駕幸二興唐觀一應制詩〕初傳二寶訣長生術一、已證二金剛不壞身一。

【寶闕】85 ハウケツ 立派な門觀。闕は、物見のついた宮城の門。〔李山甫、蜀中寓懷詩〕春裝寶闕重重樹、日照仙州萬萬樓。

【寶月】86 ハウゲツ ❶月をいふ。〔吳均、碎珠賦〕寶月生焉、越レ浦隨レ川、標二魏之美一、擅二楚之賢一。〔鮑溶、懷二惠明禪師一詩〕雪山世界此涼夜、寶月獨照瑠璃宮。〔裴守眞、奉二和太子納レ妃太平公主出降一詩〕仙珠照乘歸、寶月重輪映。〔李山甫、山中依レ韻答二劉書記見レ贈詩〕寶月當二秋空一、高潔無二纖埃一。〔金丹大要〕何如彼寶月、歲十二度、朔望弦晦、無レ定之中、而有二大定一。❷臺の名。廣東省高要縣の西北。〔明一統志〕寶月臺、在二肇慶府治西北一、土阜高平、望レ之若レ雲。❸宋、希白(**4－8813**‥125)の字。

【寶篋】88 ハウケフ たふといはこ。寶物をいれる箱。〔徐陵、爲二貞陽侯一與二大尉王僧辯一書〕漢委二珠囊一、秦亡二寶篋一。〔王啓、綴レ珠爲レ燭賦〕出二寶篋一以規レ圓。

【寶篋印塔】89 ホウケフインタフ 佛塔の一種。多く中央を立方石とし、臺石・笠石等がある。又、上には數層の飾があり、皆方形である。其の中に、寶篋印陀羅尼を納めてあるので、此の名がある。江戸時代には、墓標として用ゐられた。〔佛祖統紀、四十三〕吳越王錢俶、天性敬レ佛、慕二阿育王造塔之事一、用二金銅精鋼一、造二八萬四千塔一、中藏二寶篋印心咒經一、布二散部內一。

【寶業】90 ハウゲフ ❶天子の位。〔宋書、後廢帝紀〕朕以二沖昧一、嗣二膺寶業一。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕家臻二寶業一、身嗣二昌暉一。〔注〕銑曰、寶業、天子位也。〔沈約、劉領軍封侯詔〕允賴二徽猷一、嗣隆二寶業一。❷pao^3 yeh^4 他人の事業の敬稱。御營業。

【寶券】91 ハウケン 紙幣。〔金史、食貨志三〕向者大鈔滯、則更爲二小鈔一、小鈔弊、則改爲二寶券一、寶券不レ行、則易レ爲二通寶一。

【寶卷】92 ハウケン ❶佛教故事を主題にした講唱文學の一種。講唱文學の祖である唐代の變文は、佛教故事を主題にして廟宇內で唱はれたが、宋代になると民間で唱はれるやうになり、主題の範圍もまた廣くなつた。そのうち變文の正統である佛教故事を扱つたものを寶卷と呼んだ。しかし、寶卷も、後には梁山伯寶卷、孟姜女寶卷等、佛教以外の故事をも扱ふやうになつた。❷南齊、東昏侯(**6－14499**‥292)の名。

【寶堅】93 ハウケン 三國魏、徐宣(**4－10110**‥193)の字。

【寶眷】94 ハウケン ❶惠み。恩惠。〔宋眞宗、翊聖保德眞君傳序〕述二玉晨之寶眷一、序二斗極之仙階一。❷他人の御家族。〔楊愼、升庵外集〕眷、一作レ婘、徐俳尺牘、玉婘尊稱均慶、今稱二人之眷屬一曰二寶眷一、本レ此。

【寶劍】95 ハウケン たつといつるぎ。大切な劍。寶物として祕藏する劍。〔左氏、桓、十〕又求二其寶劍一。〔列子、湯問〕其祖得二殷帝之寶劍一。〔呂覽、知分〕得二寶劍于干遂一。〔史記、吳世家〕季札之初使、北過二徐君一、徐君好二季札劍一、口弗二敢言一、季札心知レ之、爲レ使二上國一未レ獻、還至レ徐、徐君已死、於レ是乃解二其寶劍一、繫二之徐君冢樹一而去。〔漢書、陸賈傳〕所レ死家得二寶劍一。〔吳均、寶劍詩〕我有二一寶劍一、出レ自二昆吾谿一。〔庾信、延陵季子遇二徐君一讚〕長松雖レ合、寶劍猶懸。〔韋應物、廣陵行〕歸來視二寶劍一、功名豈一朝。

【寶劍記】96 ハウケンキ 明代の戲曲。六十種曲の一。李開先作。林沖が高俅父子に陷害せられる事を演じたもの。蓋し、借りて嚴嵩父子を詆つたものであらう。

【寶賢】97 ハウケン ❶寶とすべき賢人。又、賢人を寶として尊ぶ。〔書、旅獒〕所レ寶惟賢、則邇人安。〔楊宗瑞、辟雍賦〕厭二吏治一而樂二士賤一、遠レ物而寶レ賢。❷南朝宋の尼。陳郡の陳氏の女。博く禪律に通じ、都邑僧正となる。〔比丘尼傳〕。

【寶賢堂】98 ハウケンダウ 明、陳繼儒(**11－41698**‥800)の室名。

【寶元】99 ハウゲン 宋、仁宗(趙禎)の年號。(1038－1040)

【寶元全】100 ハウゲンゼン 脾神の名。〔事物異名錄、神鬼、脾神〕雲笈七籤、脾神、名黃庭、字飛黃子、又、脾神、名寶元全、字道騫。

【寶元元寶】101 ハウゲンゲンパウ 宋の仁宗の時に鑄た貨幣。〔宋史、食貨志下二〕改二元寶元一、文當レ曰二寶元元寶一。

【寶庫】102 ハウコ ❶寶物を納める庫。たからぐら。〔三輔黃圖、六、庫〕秦昭襄王時、余行二陌上一、一野人持レ劍授二上皇一、上皇以賜二高祖一、高祖佩レ之斬二白蛇一、是也、及レ定二天下一、藏二於寶庫一。〔曹植、應詔詩〕微火不レ戒、延二我寶庫一。❷物資の多くある地。財貨を多く藏して他の供給に應ずる所。〔陳子昂、諫レ討二生羌一書〕臣竊觀、蜀爲二西南一都會一、國家之寶庫、天下珍貨、聚二出其中一。

【寶公】103 ホウコウ 隋の高僧。開皇中、正定の解慧寺に居る。〔明一統志〕寶公、隋開皇中、居二正定解慧寺一、嘗甃レ石爲レ柱作レ門、三楹上爲レ樓坐二臥其上一、後北狄來寇、縱レ火焚レ寺、寶公從レ樓隕レ身而下、毫髮無レ傷、衆寇刃レ之、刀自斷、寇又擧レ火、火自滅、羣寇驚駭、稽顙而去。

【寶興】104 ハウコウ ❶清、仁宗睿皇帝(顒琰)の時、越の阮光纘の年號。(1801－1802) ❷縣名。民國、置く。四川省蘆山縣の西北。邛崍山の西。❸清、滿洲鑲黃旗人。字は見山。諡は文莊。嘉慶の進士。官は四川總督・文淵閣大學士。〔清史稿、三百七十〕・〔國朝耆獻類徵、四十〕・〔續碑傳集、二〕。

【寶骨】105 ホウコツ 佛舍利の類。〔寺塔記〕故事云、李右座每至二生月一、常轉二請此寺僧一、就レ宅設レ齋、云云、齋畢簾下出二綵篚香羅帕籍一物一、如二朽釘一、長數寸、僧歸失望慚惋、數日且意、大臣不レ容レ欺レ己、遂携至二西市一、示二於商胡一、商胡見レ之驚曰、上人安得二此物一、云云、胡人曰、此直一千萬、遂與レ之、僧訪二其名一、曰、此寶骨也。

【寶砂】106 pao^3 sha^1 鋼玉石。金剛砂。

【寶砂粉】107 pao^3 sha^1 fen^3 金剛砂粉。

【寶座】108 ホウザ ❶天子の御座所。蓮座。寶坐。〔梁簡文帝、大法頌〕峩峩寶座、郁郁名香。〔劉孝綽、答二雲法師一書〕親陪二寶座一。❷佛の座所。〔王勃、淨惠寺碑〕寶座蓮花。

【寶釵】109 ハウサイ 金銀寶玉で作つた貴い釵。美しいかんざし。寶鈿。〔何遜、詠二照鏡一詩〕寶釵若レ可レ間、金鈿畏相逼。〔劉禹錫、同二樂天一和二微之深春

好㆒詩〕歸來看㆓理曲㆒、燈下寶釵斜。〔李賀、少年樂〕陸郎倚醉牽㆓羅袂㆒、奪得寶釵金翡翠。〔王建、鷄鳴曲〕寶釵命婦燈下起、環珮玲瓏曉光裏。

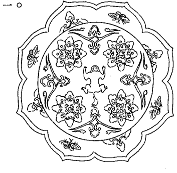
〔寶釵分ㇾ股〕110 ハウサイコヲワカツ 夫婦の分れる喩。〔段成式、劍俠傳、虬髯叟〕寶釵分ㇾ股合ㇾ無ㇾ緣。

【寶齋】111 ハウサイ 字號。㊀明、陳允文(**11**−41698‥656)の號。㊁淸、陳湘(**11**−41698‥320)の號。㊂淸、莫晉(**9**−31078‥42)の號。

【寶財】112 ハウザイ たから。玉帛をいふ。〔國語、魯語上〕鑄㆓名器㆒藏㆓寶財㆒。〔注〕寶財、玉帛也。

【寶相】113 ホウサウ ㊀佛像の莊嚴な姿。〔邢邵、文襄金像銘〕神儀內瑩、寶相外宣。㊁花の名。㋑薔薇の一種。ぼたんいばら。おほいばら。宋の梅堯臣並に范成大に寶相花の詩がある。〔元史、輿服志二〕士卒袍制以㆓絹絁㆒繪㆓寶相花㆒。㋺蕢花の異稱。蘋花(**9**−32435‥4)を見よ。〔趙宧光、說文長箋〕蕢花正黃、大一二寸、亦名㆓鳧葵㆒、葉似㆓草蓮㆒、蒲葵扇取㆓其形㆒、蕊如㆓金縷㆒、簇㆓赤寶簪㆒、絕肖ㇾ之、謂㆓之寶相㆒。㋩pao³ hsiang⁴ 南部中國で佛桑花をいふ。

〔寶相花〕114 ホウサウゲ 佛教美術で空想的に考へられた花卉で、彫刻・繪畫の飾に用ひる一種の唐草模樣。西域地方の植物ともいふ。〔元史、輿服志一〕士卒袍制、以㆓絹絁㆒繪㆓寶相花㆒。



寶相花紋（西淸古鑑・唐寶相花鑑）

〔寶相枝〕115 ホウサウシ 筆の名。〔淸異錄、文用、寶相枝〕開平二年、賜㆓宰相、云云、寶相枝各二十、龍鱗月硯各一㆒、寶相枝、斑竹筆管也、花點勻密、紋如㆓兔毫㆒。

【寶莊】116 pao³ chuang¹ 貴店。御店。

【寶像】117 ホウザウ ㊀佛像。珍寶で造つた佛像。〔法華經、方便品〕寶像及畫像。〔李紳、題㆓法華寺㆒詩〕化娥騰㆓寶像㆒、留影閟㆓金仙㆒。〔蘇舜欽、金山寺詩〕寶像浮ㇾ海來、珠纓冷光滴。㊁塔の名。湖北省武昌縣にあつて一に石鏡亭ともいひ、元の威順王の太子寬澈普化の墓。

【寶藏】118 ハウザウ ㊀寶として藏する。〔禮、曲禮下、在ㇾ府言ㇾ府、注〕府、謂㆘寶㆓藏貨賄㆒之處㆖也。〔史記、龜策傳〕至㆓周室之卜官㆒、常寶㆓藏蓍龜㆒。㊁貴重品をいれるくら。寶庫。〔周禮、地官、鄕大夫、登㆓于天府㆒、注〕天府、掌㆓祖廟之寶藏㆒者。㊂產物の多く出る地。天然の富源。〔中庸〕今夫山、一卷石之多、及㆓其廣大㆒、草木生ㇾ之、禽獸居ㇾ之、寶藏興焉。〔說苑、雜言〕走獸休焉、寶藏殖焉。㊃明、普持(**5**−13982‥57)の字。㊄［佛］ホウザウ 珍寶を累積した庫藏の意にて、妙法が能く衆生の苦厄を濟ふが故に佛の教法を指す。〔無量壽經〕無量寶藏、自然發應。教㆓化安㆔立無數衆生㆒。〔法華經、信解品〕今此寶藏、自然而至。

【寶藏局】119 ハウザウキヨク 造幣廠。淸代、特に西藏に屬するものをいつた。〔淸會典事例、理藩院、賦稅、西藏錢制〕正面鑄㆓乾隆通寶四字㆒、背面鑄㆓寶藏二字㆒。

【寶藏神】120 ホウザウジン ［佛］無盡の財寶を司る大夜叉王。これを敬信する衆生は、能く一切の財寶に安住することが出來ると言はれる。

〔寶藏院流〕121 ホウザウヰンリウ 槍術の一派。奈良興福寺の寶藏院の僧胤榮が創めたもの。常に鎌鎗を用ひたので鎌寶藏院ともいふ。〔寶藏院流槍術免狀〕寶藏院流十文字、多年之執心、稽苦依ㇾ不ㇾ淺、口上極意共、令㆓相傳㆒訖。

〔寶藏如來〕122 ホウザウニヨライ ［佛］寶海梵志の子が出家成道してから稱へた號。阿彌陀佛、釋迦牟尼佛はいづれも此の佛に從つて發心成道した。

【寶冊】123 ハウサク 天子の冊書。〔梁簡文帝、菩提樹頌〕寶冊葳蕤、帝國掩映。〔唐書、禮樂志三〕宜㆘以㆓新謚寶冊㆒、告㆗於陵廟㆖可也。〔宋史、禮志十九〕元符元年四月、得㆓傳國受命寶㆒、是日行㆓受ㇾ寶之禮㆒、依上㆓尊號寶冊㆒。

【寶策】124 ハウサク 天子の謀。〔宋書、傳弘之傳論〕撫㆓歸運㆒而膺㆓寶策㆒、豈不ㇾ知㆘秦川不ㇾ足㆓供養㆒、百二難㆗以傳㆖後哉。

【寶札】125 ハウサツ 書簡の敬稱。〔事物異名錄、書籍、書束〕山堂肆考、芳訊・蘭訊・寶札・瓊音、皆書簡名。

【寶刹】126 ホウサツ 佛土。寺。寺院。〔梁元帝、梁安寺刹下銘〕寶刹千道、高翻四懸。〔沈約、內典序〕靈儀炫ㇾ日、寶刹臨ㇾ雲。〔唐太宗、謁㆓幷州大興國寺㆒詩〕寶刹遙承ㇾ露、天花近足ㇾ春。

〔寶刹浮圖〕127 ホウサツフト 北京人の愛養する菊花の一種。〔燕京歲時記、九花山子〕謹按、日下舊聞考、云云、蓋京師之菊種亟繁、云云、寶刹浮圖。

【寶產】128 ハウサン 貴重な產物。〔唐書、鄭畋傳〕僕射于琮言、南海以㆓寶產㆒富㆓天下㆒、如與ㇾ賊、國藏竭矣。

【寶棧】129 pao³ chan⁴ 問屋業者に對する敬稱。貴店。お店。

【寶盞】130 ハウサン 美しい杯。〔乾淳起居注〕淳熙九年八月十五日、曾覿恭上㆓壺中天慢一首㆒、上皇賜㆓金束帶紫番羅水晶注椀一副㆒、上亦賜㆓寶盞古香㆒、至㆓二更五點㆒還ㇾ內。

【寶算】131 ハウサン 天子の年齡。年齡の敬稱。寶壽。聖壽。〔徐彥伯、奉㆔和幸㆓新豐溫泉宮㆒應制詩〕五龍歸㆓寶算㆒、九雁叶㆓時康㆒。〔趙彥昭、奉㆔和幸㆓白鹿觀㆒應制詩〕玉杯鸞薦壽、寶算鶴知年。

【寶懺】132 pao³ ch'an⁴ 神樣に願ひの趣意。〔水滸傳、七十一回〕道士齊宣寶懺、上瑤臺酌水獻花。

【寶山】133 ハウザン ㊀寶の累積してゐる山。寶の山。〔心地觀經、六〕如㆘人無ㇾ手、雖ㇾ至㆓寶山㆒、終無㆖所ㇾ得。〔法華經〕端正殊妙、猶如㆓寶山㆒。〔梁昭明太子、玄圃講詩〕試欲ㇾ游㆓寶山㆒、庶攸㆓信根立㆒。〔李紳、開元寺詩〕攢立寶山中色界、散周香海小輪圍。㊁山名。㋑河南省安陽縣の西南。白石谷ともいふ。陶土の產地。〔明一統志〕寶山、在㆓歸德府城西南四十里㆒、多產㆓白石㆒、陶人取以爲ㇾ器。㋺江蘇省寶山縣の南。吳淞江口。寶山縣の在る所。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、嘉定縣〕寶山、縣東南八十里、明永樂十年、命㆓海運將士㆒、築ㇾ此以建㆓烽堠㆒、周六百丈、高三十丈、爲㆓海運表識㆒、晝則擧ㇾ烟、夜則明ㇾ火、海洋空闊、一望千里、先ㇾ是居民嘗見㆔其地有㆓山影㆒、至ㇾ是山成、因名㆓寶山㆒、御製詩文、刻㆓石其上㆒、海運廢、山仍爲㆓濱海戍守之所㆒。㋩廣東省興寧縣の東北。〔讀史方輿紀要、廣東、惠州府、興寧縣〕寶山、縣東北六十里、高六十餘丈、周三十里、勢若㆓樹屛㆒。㋥廣東省寶安縣の東北。〔輿地紀勝〕舊以㆓山有ㇾ寶、置ㇾ場烹ㇾ銀、名㆓石甕場㆒、今山中銀滓猶存。㋭廣東省化縣城の西南。橘の產地。㋬四川省瀘縣の西。大忠山ともいふ。〔方輿勝覽〕在㆓城南㆒、初名、堡子山、改㆓今名㆒、下瞰㆓城郭㆒、萬瓦鱗集、爲㆓縣之勝㆒。㊂縣名。淸、置く。江蘇省上海縣の北。〔淸史稿、地理志〕江蘇、太倉直隸州、縣四、寶山。

〔入㆓寶山㆒空ㇾ手歸〕134 ハウザンニイリテテヲムナシクシテカヘル 寶を取得し得べき所に至りながら、何物も得ずして歸るをいふ。よい地位や機會を得ながら何事をもなしえない喩。〔正法念經〕閻羅王爲ㇾ人說ㇾ偈云、汝得㆓人身㆒不ㇾ修ㇾ道、如㆘入㆓寶山㆒空ㇾ手歸㆖。〔摩訶止觀〕徒生徒死、無㆓一可ㇾ獲、如㆘入㆓寶山㆒空ㇾ手而歸㆖。〔三代實錄、六〕貞觀四年十月七日、悲㆓寶山之徒歸㆒、痛㆓刀林之永割㆒。〔四書蒙引〕所ㇾ謂入㆓寶山㆒空ㇾ手歸者也。

【寶子】135 ハウシ 香爐。〔東觀餘論〕錢鎭州回文詩、題者多云㆓寶子㆒、弗ㇾ知㆓何物㆒、以ㇾ予考ㇾ之、寶子乃香爐耳、但圜若㆓重規㆒然、豈漢丁綏被中之製乎。

【寶之】136 ハウシ 字號。㊀宋、姚鉉(**3**−6202‥50)の字。㊁宋、郟元鼎(**11**−39433‥9)の字。㊂宋、李如圭(**6**−14459‥1473)の字。㊃明、戴銑(**5**−11685‥98)の字。㊄淸、王振聲(昭文の人)(**7**−20823‥1718)の字。

【寶芝】137 ハウシ 仙境に生える靈草。靈芝。〔黃庭外景經〕玉童侍ㇾ左、玉女侍ㇾ右、三光寶芝、洞映㆓內外㆒。

【寶思】138 ハウシ ㊀天子の御心。宸襟。〔王勃、乾元殿頌〕紫庭合ㇾ粹、括㆓宇宙於宸襟㆒、丹扆凝ㇾ尊、運㆓陶鈞於寶思㆒。〔盧照鄰、駙馬都尉喬君集序〕雍㆓容車騎㆒、屢動㆓雕章㆒、嘯㆓傲烟霞㆒、仍涵㆓寶思㆒。〔玉海、聖文類、御製詩歌、淳祐講㆓禮記㆒賜詩〕發㆓叢雲之寶思㆒、詢㆓儀鳳之雕章㆒。㊁善い心。〔沈約、高松賦〕擢㆓柔情於蕙圃㆒、涌㆓寶思於珠泉㆒。㊂ホウシ 佛心。〔宋之問、奉㆔和幸㆓薦福寺㆒詩〕水入㆓禪心㆒定、雲從㆓寶思㆒飛。

【寶祠】139 ハウシ たからとしてまつる。〔漢書、張良傳〕果得㆓穀場山下黃石㆒、取而寶㆓祠之㆒。

【寶笥】140 ハウシ ㊀寶玉で飾つたはこ。又、寶を入れるはこ。〔許敬宗、麥秋賦應詔〕却㆓冰紈於寶笥㆒、屛㆓珍簟於披香㆒。〔田錫、楊花賦〕乃命㆓左史㆒記ㇾ

言、而右史錄レ之、藏二之寶笥一。㊁學問藝術の深奥をいふ。〔梁書、劉孝綽傳〕臨淄詞賦、悉與二楊脩一、未レ殫二寶笥一、顧慙二先哲一。

【寶眞】141（ハウシ）　大切に納めて置く。〔程史〕趙忠定得レ之、寶二眞巾篋一。

【寶肆】142（ハウシ）　㊀珍寶を賣る店。たから屋。〔李商隱、寄二彭城公一啓〕寶肆迴腸、只期二和氏一。〔雲笈七籤〕煥若三晨景之暉二寶肆一。㊁pao³ ssŭ⁴　人の店舗を稱する語。貴店。

【寶誌】143（ホウシ）　梁の高僧。保誌とも書く。寶公、又、誌公とも稱せられた。金城の朱氏の子。僧儉に師事して禪業を修め、宋・齊の時、頗る靈跡を著はす。豫言を善くし、その記を誌公符といふ。齊の武帝は衆を惑す者として華林園に禁錮したが、梁の武帝は其の禁を解いて敬事した。天監十三年寂す、壽九十七。廣濟大師と諡す。著に大乘讚・十二時頌・十四科頌がある。〔梁書、何敬容傳〕天監中、有二沙門釋寶誌者一、嘗遇二敬容一謂曰、君後必貴、然終是何敗レ何耳、及三敬容爲二宰相一、謂、何姓當レ爲二其禍一、故抑二沒宗族一、無二仕進者一、至レ是竟爲二河東所一レ敗。〔梁武帝、淨業賦序〕誌公者、是沙門寶誌、形服不レ定、示現無レ方。〔明一統志〕寶誌、俗姓朱、往二來都邑一、已五六十年、宋齊之交、稍顯二靈跡一、飮啗同二於凡俗一、以二銅鏡剪刀鑷一挂二林頭一、預言未レ兆、齊武帝忿二其惑レ衆、收付レ獄、旦日咸見三游二行市里一、既而檢校、猶在二獄中一、武帝乃迎入二華林園一、其他靈異甚衆、梁天監中、無レ疾而終。

【寶字】144（ハウジ）　㊀詔勅などの贊稱。〔宋史、樂志十四〕紹興十三年發皇后冊寶十三首、寶字煌煌、冊書燦燦。㊁貨幣に鑄た寶といふ文字。寶字銀を見よ。

〔寶字銀〕145（ハウジギン）　寶永三年に鑄造した銀貨。寶字丁銀と寶字豆板銀とをいふ。寶永銀。寶銀。二寶銀。〔貨幣通考〕寶永三年六月六日、新銀を鑄る、云云、是れを寶字銀と云ふ。

〔寶字小判〕146（ハウジコバン）　寶永三年に鑄造した小判。

【寶寺】147　pao³ ssŭ⁴　僧侶に對してその寺をいふ敬語。

【寶兒】148（ハウジ）　隋の煬帝の時の美人の名。〔隋遺錄〕長安貢二御車女、袁寶兒一、年十五、云云、帝謂二世南一曰、昔傳、飛燕可二掌上舞一、朕常謂、儒生飾二於文字一、豈人能若レ是乎、及三今得二寶兒一、方昭二前事一、然多二憨態一。〔元好問、杏花雜詩〕看盡春風不レ迴レ首、寶兒元自二太憨一生。

【寶餌】149（ハウジ）　尊い藥。不老不死の藥。〔鮑照、遇三銅山掘二黃精一詩〕寶餌緩二童年一、命藥駐二衰曆一。

【寶璽】150（ハウジ）　天子の御印璽。玉璽。〔宋史、哲宗紀二〕學士院上二寶璽靈光翔鶴樂章一。〔元史、百官志四〕典瑞院、秩正二品、掌二寶璽・金銀符牌一。

【寶帚】151（ハウシウ）　筆の異稱。〔淸異錄、文用、寶帚〕僞唐宜春王從謙喜二書札一、用二宣城諸葛筆一、號爲二翹軒寶帚一、士人往往呼爲二寶帚一。

【寶洲】152（ホウシウ）　㊀［佛］佛果の妙地に譬ふ。〔華嚴經、三十五〕離染寂靜、住二於一切智慧寶洲一。㊁元、覺岸（**10**－**34973**··6）の字。

【寶修】153（ハウシウ）　南齊、蕭寶攸（**9**－**32012**··500）の一名。

【寶瑟】154（ハウシツ）　珠玉で飾つた貴い琴。〔漢書、金日磾傳〕行觸二寶瑟一僵。〔梁簡文帝、七勵〕綠綺麗琴、丹山寶瑟。〔駱賓王、帝京篇〕翠幌珠簾不二獨映一、淸歌寶瑟自相依。

【寶車】155（ホウシヤ）　［佛］衆寶で飾つた大白牛車。一乘の法に喩へたもの。〔法華經、譬喩品〕以二衆寶物一造二諸大車一、云云、有二大白牛一、肥壯多力、形體姝好、以駕二寶車一。

【寶昌】156（ハウシヤウ）　縣名。民國、置く。察哈爾省多倫縣の西南。

【寶唱】157（ホウシヤウ）　梁の高僧。吳郡の岑氏の子。天監中、勅を奉じて新安寺に住し、華林園寶雲經藏を掌る。著に經律異相・飯聖僧法・華林佛殿經目・續法輪論・法集・名僧傳・比丘尼傳がある。〔續高僧傳、一〕。

【寶章】158（ハウシヤウ）　㊀立派な筆蹟。貴い法帖。書家の珍重する筆蹟。〔唐書、王綝傳〕后嘗就求二羲之書一、方慶奏、今所レ存惟一軸、幷上二十一世祖導云云等凡二十八人書、共十篇一、后御二武成殿一、徧示二羣臣一、詔二中書舍人崔融一序二其代閥一、號二寶章集一。㊁文章をほめた言葉。〔雲笈七籤〕天王之遊歌、空元之寶章。㊂宋、曹琮（**5**－**14297**··138）の字。

【寶章閣】159（ハウシヤウカク）　宋の太宗・眞宗の御書を藏した殿閣。〔玉海、聖文類、御書〕至和初、五臺山眞容院修殿、藏二太宗眞宗御書一、二年二月丙申、賜二名寶章閣一。

〔寶章待訪錄〕160（ハウシヤウタイハウロク）　書名。一卷。宋、米芾撰。同時代の士大夫所藏の晉唐人の墨跡を記し、目睹・的聞の二類に分類す。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【寶掌】161（ハウシヤウ）　㊀大切に所有する。〔魏書、王質傳〕高祖頗念二其忠勤宿舊一、云云賜レ質以二璽書手筆一、莫レ不レ委二至同之威貴一、質皆寶掌以爲レ榮。㊁後魏、元麗（**1**－**1340**··614）の字。

【寶粧】162（ハウシヤウ・ハウサウ）　㊀美しい裝ひ。寶裝に同じ。㊁轉じて、婦人をいふ。〔琵琶記、牛氏規奴〕老姥姥不レ似二寶粧行徑一。

【寶裝】163（ハウシヤウ・ハウサウ）　美しい裝ひ。〔南史、江夏王鋒傳〕好二琴書一、蓋亦天性、嘗觀二武帝一、賜以二寶裝琴一、仍於二御前一鼓レ之。〔元稹、春六十韻詩〕挑鬟玉釵髻、刺繡寶裝攏。

【寶箱】164（ハウシヤウ）　尊い箱。〔翁承贊、御命歸レ鄕蒙レ賜二錦衣一詩〕中使擎來三殿曉、寶箱開處五雲飛。

【寶城】165（ハウジヤウ）　㊀淸代、皇室陵墓の寶頂を取りまく垣。〔淸會典、工部〕昭西陵、寶頂高一丈三尺、周環二十七丈七尺、環以二寶城一、高二丈五尺六寸、周環三十二丈六尺五寸。㊁［佛］（ホウジヤウ）　珍寶の充滿した城廓。佛の正法の喩。〔涅槃經、二二〕汝等比丘、云何莊二嚴正法寶城一、具二足種種功德珍寶戒定智慧一、以爲二墻塹埤堄一、汝今遇二是佛法寶城一、不レ應レ取二此虛僞之物一。〔梁昭明太子、謝下敕賚二制旨一大涅寶經講疏上啓〕辨二斯寶城之敎一。

【寶尺】166（ハウジヤク）　立派な物差。〔曹松、天台瀑布詩〕萬仞得レ名云二瀑布一、遠看如レ織掛二天台一、休レ疑寶尺難二量度一、直恐金刀易二剪裁一。

【寶珠】167（ハウシユ）　㊀たからの珠。貴重な珠玉。寶物とすべき珠。〔戰國、燕策〕張丑爲レ質二於燕一、燕王欲レ殺レ之、走且レ出レ境、境吏得レ丑、丑曰、燕王所レ爲レ將レ殺レ我者、人有レ言三我有二寶珠一也、王欲レ得レ之、今我已亡レ之矣、而燕王不二我信一、今子且レ致レ我、我且レ言下子之奪二我珠一呑ム之、燕王必當下殺レ子刳二子腹一、反中子之腸上矣、夫欲レ得之君、不レ可二說以一レ利、吾要且レ死、子腸亦且二寸絕一、境吏恐而赦レ之。〔列子、黃帝〕因復指二河曲之淫隅一曰、彼中有二寶珠一、泳可レ得也。〔荀子、富國〕處女嬰二寶珠一、佩二寶玉一。㊁［佛］（ホウジユ）　摩尼珠。譯して如意珠といふ。種々の求むるものを意の如くに出す龍王、又は摩竭魚の腦中から出たともいひ、佛舍利が變じて出來たともいふ。〔大智度論、五十九〕問曰、摩尼寶珠於二頗梨金銀車渠馬瑙琉璃珊瑚琥珀金剛等中一是何等寶、答曰、有レ人言、此寶珠出二於龍王腦中一。〔雜寶藏經、七〕此珠出二於磨竭大魚腦中一、魚身長二十八萬里也、此珠名曰二金剛堅一也。

〔寶珠惠〕168（ホウジユケイ）　碑文の稱。碑文が幽昏な墓路を照すこと、恰も珠玉の如くであるからいふ。〔山堂肆考〕墳墓之路、幽昏、而得二名賢一爲二碑銘誌一、卽如二寶珠以照一レ之、故云二寶珠惠一。

〔寶珠玉〕169（ホウジユノタマ）　寶珠の㊁に同じ。

〔寶珠茶〕170（ホウジユチヤ）　山茶の一種。寶珠山茶に同じ。

〔寶珠頭〕171（ホウジユトウ・ホウジユガシラ）　［佛］寶珠の形をした頭。擬寶珠をいふ。

〔寶珠山茶〕172（ホウジユサンチヤ）　山茶の一種。花が珠のやうにむらがり咲くから名を得た。〔格物總論〕有二寶珠茶・雲茶・石榴茶等一、其中最佳者寶珠也。

〔寶珠市レ餠〕173（ホウジユモテモチヲカフ）　貪欲の心を棄て、珠と餠とを交易して惜しまないこと。〔原化記〕賀知章謁二賣藥王老一、問二黃白術一、持二一大珠一遺レ之、老人得レ珠、卽令二市レ餠與一レ賀、賀心念二寶珠何以市一レ餠、老叟曰、慳吝未レ除、術何由成。

【寶綬】174（ハウジユ）　印につける綬。高位。〔令狐楚、鄭尙書賀レ冊二皇太后一表〕獻二寶綬於內朝一、宣二玉冊於中禁一。

【寶聚】175（ホウジユ）　［佛］珍寶の積聚。無上道の喩。〔法華經、信解品〕無上寶聚、不レ求自得。

【寶樹】176（ホウジユ）　［佛］珍寶の樹林。淨土の草木に譬ふ。菩提樹などをいふ。〔法華經、壽量品〕寶樹多二華果一、衆生所二遊樂一。〔梁簡文帝、六根懺文〕寶樹鏗鏘之響、於二一念中一、恍然入悟。〔王巾、頭陀寺碑文〕寶樹低レ枝。〔沈約、彌陀佛銘序〕玲瓏寶樹、因レ風韻響。〔王勃、滕王閣序〕非二謝家之寶樹一、接二孟氏之芳鄰一。

〔寶樹堂〕177（ハウジユダウ）　淸、何永紹（**1**－**511**··221）の

室名。

【寶所】178ホウショ 佛珍寶のある所。究竟の涅槃（さとり）の喩。〔法華經、化城喩品〕欲㆘過㆓此道㆒至㆗珍寶所㆖云云、前至㆓寶所㆒。〔止觀、一〕如㆑是道品、直通㆓寶所㆒。

【寶杵】179ホウショ 佛金剛杵ともいふ。古代印度の武器。能く物を破碎するから、密教では煩惱を破碎する菩提心の表徵とし、修法の時之を用ひる。

【寶書】180ハウショ ㊀歷史の書。世々傳へ保つて戒となすべきものであるからいふ。寶は保の意。〔公羊、隱公第一、疏〕昔孔子受㆓端門之命㆒、制㆓春秋之義㆒、使㆔子夏等十四人求㆓周史記㆒、得㆓百二十國寶書㆒云云、周史而言㆓寶書㆒者、寶者保也、以㆔其可㆓世世傳保以爲㆑戒、故云㆓寶書㆒也。㊁天子の璽書。〔唐書、車服志〕天寶初、改㆓璽書㆒爲㆓寶書㆒。〔唐書、李吉甫傳〕軍國大事、以㆓寶書㆒易㆓墨詔㆒。㊂貴重な書籍。〔李白、猛虎行〕寶書玉劍挂㆓高閣㆒、金鞍駿馬散㆓故人㆒。〔曹組、艮嶽賦〕玩㆓牙籤之甲乙㆒、發㆓寶書之祕藏㆒。

〔寶書堂〕181ハウショダウ 淸、褚華（10－34457‥14）の室名。

【寶勝】182ハウショウ ㊀美しい首飾。勝は、婦人の首飾。（5－13844‥431）を見よ。〔崔日用、奉㆔和人日重宴㆓大明宮㆒云云應制詩〕金屋瑤筐開㆓寶勝㆒。〔楊萬里、秀州嘉興館拜㆓賜春幡勝㆒詩〕綵幡耐㆑夏宜春字、寶勝連環曲水紋。㊁寺の名。河北省宛平縣の香山の西。〔明一統志〕寶勝寺、在㆓寧國府涇縣西五里㆒、舊名水西、洪武初、重建。㊂唐代、袁晁の僭號。一に昇國に作る。（761－763）

【寶乘】183ホウジョウ 佛㊀寶車ともいふ。大白牛車。法華經に說くところの一乘の法の譬。〔法華經、譬喩品〕乘㆓此寶乘㆒、直至㆓道場㆒。〔梁簡文帝、吳郡石像碑銘〕乍動㆓慈舟㆒、時延㆓寶乘㆒。㊁佛の敎理をいふ。〔李邕、楚州淮陰縣婆羅樹碑〕政化之理兮、甘棠猶存、寶乘之妙兮、婆羅是敦。

【寶色】184ハウショク ㊀美しい色。七寶色。〔楞嚴經〕十方虛空、成㆓七寶色㆒。〔秦觀、觀㆓金地佛牙㆒詩〕靈牙寶色玉不㆑如、上有㆓無數光明珠㆒。㊁pao^3 sê^4 ㋑光澤。㋺特色。

【寶殖】185ハウショク 貴い物產が繁殖する。〔嵇康、琴賦〕詳觀㆘其區土之所㆓產毓㆒、奧宇之所㆗寶殖㆖。

【寶臣】186ハウシン ㊀國のたからとなる臣。貴く得難い臣。〔漢書、杜業傳〕竊見㆓朱博㆒、忠信勇猛、材略不世出、誠國家雄俊之寶臣也。〔說苑、至公〕是國之寶臣也。㊁字號。㋑宋、柴成務（6－14664‥11）の字。㋺宋、曹瑋（5－14297‥4）の字。㋩宋、石待擧（8－24024‥976）の字。㋥宋、宋瑲（3－7078‥159）の字。㋭宋、張玉（4－9812‥207）の字。㋬宋、楊崇勳（6－15112‥635）の字。㋣宋、李惟賢（6－14459‥840）の字。㋠宋、劉秉濟（2－2224‥871）の字。㋷宋、呂公弼（2－3386‥204）の字。㋦清、魏成憲（12－45872‥239）の字。㋸清、張廷璐（4－9812‥1385）の字。㋾清、麒慶（12－47657‥2）の字。

【寶身】187ハウシン 身を大切にする。〔魏志、王昶傳〕夫人爲㆑子之道、莫㆑大㆔於寶㆑身全㆑行以顯㆓父母㆒。

【寶刃】188ハウジン 貴い刀。〔劉長卿、雜詠、古劍詩〕鐵衣今正澀、寶刃猶可㆑試。

【寶仁】189ハウジン 元、趙璧（10－37171‥334）の字。

【寶賮】190ハウジン たから。賮ははなむけにおくる財貨。〔江淹、傷㆓友人㆒賦〕罄㆓古今之寶賮㆒、殫㆓竹素之琛奇㆒。

【寶水】191ハウスイ 淸、鄭賡唐（11－39647‥324）の號。

【寶瑞】192ハウズイ めでたいしるし。〔南齊書、樂志〕寶瑞昭㆓神圖㆒、靈貺流㆓瑞液㆒。〔梁簡文帝、菩提樹頌序〕嘉祥競發、寶瑞咸委。〔岳渥、爲㆓范雲㆒謝㆑示㆓毛龜㆒啓〕寶瑞開圖、珍祥映諜。

【寶井】193ハウセイ ㊀春秋、越の范蠡が四海の珍寶を藏めた井。〔拾遺記、三〕范蠡相㆑越、日致㆓千金㆒、收㆓四海難㆑得之貨㆒、盈㆓積於越㆒、或藏㆓之井塹㆒、謂㆓之寶井㆒。〔雲仙雜記〕范蠡收㆓四方難㆑得之貨㆒、或藏㆓之井塹㆒、謂㆓之寶井㆒、麗色溢㆓於閨房㆒、謂㆓之游宮㆒。㊁寶石の出る坑。〔明志、土司傳〕孟密地有㆓寶井㆒。㊂山名。甘肅省成縣の東南。〔舊唐書、穆宗紀〕長慶二年五月、山南西道奏、移㆓成州於寶井堡㆒。〔方輿勝覽〕寶井山傍曰㆓紫金山㆒、卽今縣治所㆑據。

【寶正】194ハウセイ 五代の時、吳越の錢鏐の年號。（926－931）

【寶生】195ハウセイ ㊀善い本性。〔晉書、裴頠傳〕識智既授、雖㆓出處異㆑業、默語殊㆑塗、所㆓以寶㆑生存㆑宜、其情一也。㊁清、龐鍾璐（12－48824‥59）の字。㊂ホウシャウ ㋑能樂謠曲の流派の一。觀世の支族世阿彌から始まる。保生。㋺姓氏。〔日用重寶記〕。

〔寶生如來〕195′ホウシャウニョライ 佛金剛界曼陀羅の五智如來の一。南方月輪の中尊で、一切の財寶を司る。寶生佛。〔祕藏記、末〕南方中臺寶生如來、金色、左手拳、右手開㆑外。

【寶成】196ハウセイ 淸、嚴虞惇（2－4589‥277）の字。

【寶星】197ハウセイ 淸の光緖七年に制定した勳章。頭等から五等まであり、頭等から三等までを更に各三級に分つ。雙龍寶星（11－42116‥277）を見よ。

【寶性】198ハウセイ ㊀生れたままの天性。又、天性を完うする。〔嵇康、答㆑難㆓養生論㆒文〕遺㆑世坐忘、以寶㆑性全㆑眞、吾所㆑不㆑能㆑同也。㊁佛ホウシャウ 如來藏の異名。糞穢中でも眞金の性は變らぬやうに、如來藏の性が衆生の煩惱の中に在つて、眞如淸淨の性を失はないこと。寶性論の名の出處。〔寶性論〕塵勞諸境中、皆有㆓如來藏㆒。

【寶淸】199ハウセイ 縣名。民國、置く。滿洲、三江省密山縣の北。奇勒淸河と饒力河の源との間。

【寶誠】200ハウセイ 淸、阮葵生（11－41569‥53）の字。

【寶勢】201ハウセイ すばらしい地勢。〔王延壽、魯靈光殿賦〕據㆓坤靈之寶勢㆒、承㆓蒼昊之純殷㆒。〔注〕銑曰、言授㆓地靈之奇勢㆒、承㆓上天之大中㆒也。〔王仲言、慈寧殿賦〕揆㆓太極之宸模㆒、就㆓坤靈之寶勢㆒。

【寶鈔】202ハウセウ 紙幣の名。宋に始まる、元の世祖の時には、中統寶鈔を造り、十一文より二貫に至るまでの十等とし、諸路に通行して賦稅及び收取に用ひた。明には洪武八年に寶鈔提擧司を設け、桑楮の皮に大明通行寶鈔と印書したものを用ひた。〔稗史類編〕鈔之名、始見㆓宋史㆒、鈔之制、外爲㆑闌、作㆓花紋㆒、具㆓橫書貫例、外書禁條㆒、闌下備㆓書經㆒、由㆓行換之法㆒、及印章花押、明鈔之制、以㆓桑楮皮㆒爲㆑之、豎長一官長、橫八寸、額上橫㆓書大明通行寶鈔㆒、上下鈐㆓戶部印㆒。〔元史、世祖紀十一〕三月甲午、更造㆓至元寶鈔㆒。

【寶燒】203ハウセウ 瓷器の一種。西紅寶石の粉で燒いたもの。〔遵生八牋、論定窯〕元時彭君寶燒、於㆓霍州㆒者、名曰㆓霍窯㆒、又曰㆓彭窯㆒。

【寶石】204ハウセキ ㊀貴重な礦物。得難い美麗な礦石。身邊の裝飾とするに足る貴重な石。堅硬・不變質・美光澤・屈折光大・透明・美色・稀產等の條件を具備する鑛物を琢磨し、或は多數の面を作つて光輝を發せしめたもの。正寶石と貴石卽ち半寶石とに區別せられ、金剛石・鋼玉石は前者、眞珠・赤珊瑚等は後者に屬し、玉・水晶・玉髓等は準寶石と稱せられる。寶璞。〔本草、寶石〕集解、時珍曰、寶石出㆓西番回鶻地方諸坑井內㆒、雲南遼東亦有㆑之、有㆓紅綠碧紫數色㆒、紅者名㆓刺子㆒、碧者名㆓靛子㆒、翠者名㆓馬價珠㆒、黃者名㆓木難珠㆒、紫者名㆓蠟子㆒、又有㆓鴉鶻石・猫精石・石榴子・紅扁豆等名色㆒、皆其類也、山海經言、騩山多㆑玉、淒水出焉、西注㆓於海中㆒、多㆓采石㆒、采石卽寶石也、碧者唐人謂㆓之瑟瑟㆒、紅者宋人謂㆓之靺鞨㆒、今通呼爲㆓寶石㆒、以鑲㆑首飾㆓器物㆒、大者如㆓指頭㆒、小者如㆓豆粒㆒、皆碾成㆓珠狀㆒、張勃吳錄云、越雋雲南河中出㆓碧珠㆒、須㆓祭而取㆑之、有㆓縹碧・綠碧㆒、此卽碧色寶石也。〔魏志、明帝紀、十一月丁酉、行㆓幸許昌宮㆒、〔注〕魏氏春秋曰、是歲張掖郡删丹縣金山玄川溢涌、寶石負㆑圖、狀象㆓靈龜㆒。㊁山名。浙江省杭縣の西湖の北。巨石山・石甑山ともいふ。山に在る保俶塔は吳越の臣吳延爽の建造で、俗に保俶塔に作る。〔咸淳志〕石甑山上、巍石如㆑甑、上有㆓七層古塔㆒、妙絕㆓人工㆒、有㆓落星二石㆒、吳越號爲㆓寶石山㆒、後改爲㆓巨石山㆒。

〔寶石市〕205ハウセキシ 地名。湖北省通山縣の東南。寶石河に臨む。寶石河は縣の南東の平林山から出て、陽新縣の富水に注ぐ。

【寶惜】206ハウセキ 大切にする。祕藏する。〔尙書故實〕太宗酷好㆓法書㆒、寶惜者獨蘭亭爲㆑最。〔梅堯臣、永叔寄㆓澄心堂紙二幅㆒詩〕書言寄去當㆓寶惜㆒、愼勿㆓亂與㆑人翦裁㆒。

【寶蹟】207ハウセキ 隋帝が東京の觀文殿の後に建てた臺の名。古の名畫を藏す。〔歷代名畫記〕隋帝于㆓東京觀文殿後㆒起㆓二臺㆒、東曰㆓妙楷臺㆒、藏㆓自㆑古法書㆒、西曰㆓寶蹟臺㆒、收㆓自㆑古名畫㆒。〔圖畫見聞誌〕淳化中、閣成、云云、後苑有㆓圖書庫㆒、圖典之

盛、無レ替二天祿・石渠・妙楷・寶蹟一矣。

【寶籍】208（ハウセキ） 貴い書籍。〔沈約、爲二竟陵王一發レ講疏〕靈篇寶籍、遠探二龍藏一。〔王勃、武都山淨惠寺碑〕黃龍負レ匣、著二寶籍于經山一、紫鳳銜レ書、蔭二榮光于井絡一。

【寶屧】209（ハウセフ） 寶石で飾つたはきもの。〔南史、臨靖惠川王宏傳〕潘妃寶屧直二千萬一。〔溫庭筠、錦鞵賦〕金蓮東昏之潘妃、寶屧臨川之江姬。

【寶川】210（ハウセン） 後晉、吳巒(2―3365・・399)の字。

【寶扇】211（ハウセン） 寶石で飾つた華美なあふぎ。美しいうちは。〔唐書、竇懷貞傳〕聞卿喪レ妻、今欲レ繼レ室、可乎、懷貞唯唯、俄而禁中寶扇障衞、有下衣二翟衣一出者上。〔何仲宣、七夕詩〕凌レ風寶扇遙臨レ月、映レ水仙車遠渡レ河。〔沈佺期、壽陽王花燭詩〕燭送二香車一入、花臨二寶扇一開。〔王維、洛陽女兒行〕羅帷送上七香車、寶扇迎歸九華帳。

【寶船】212（ホウセン） ㊀佛㋑珊瑚・琥珀・金剛石等を載せた船。〔長阿含經、十八〕其河中、有二衆寶船一。㋺衆生を救ふ佛の道。〔梁簡文帝、千佛願文〕濟二無明於欲界一、度二蒼生於寶船一。〔邢邵、并州寺碑〕望二彼岸一攸レ往、汎二寶船一而利レ涉。㊁（タカラブネ） 正月二日の夜、枕の下に敷いて、吉夢を祈る船の圖。種々の寶と七福神とを乘せた船。〔佐夜中山集〕節分と人には告げよたから舟。

【寶釧】213（ハウセン） 見事な腕輪。釧は、くしろ、うでわ。〔梁簡文帝、擬二落日窓中坐一詩〕開レ函脫二寶釧一、向レ鏡理二紈巾一。〔李百藥、寄二楊公一詩〕高閣浮香出、長廊寶釧鳴。

【寶塹】214（ハウセン） 寺の周圍の堀。塹は、ほり。〔梁元帝、揚州梁安寺碑序〕空臺四柱、隨二仙衣一而俱颺、寶塹三重、映二瑞園一而涵レ影。

【寶前】215（ハウゼン） 神佛の御まへ。〔源平盛衰記、四、賴政歌事〕一萬部の仁王般若を轉讀して、供養を山王の寶前にて遂げけり。

【寶祚】216（ハウソ） 天子の御位。皇位。〔沈約、恩倖傳論〕寶祚夙傾、實由二於此一。〔注〕銑曰、寶祚、謂二國命一也。〔徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑〕一恭二寶祚一、開二定江沔一。〔周書、宣帝紀〕朕以二眇身一、祗承二寶祚一。〔隋書、音樂志中〕廷二寶祚一、眇無レ疆。

【寶撾】217（ハウタ） 鼓をいふ。撾は擊つ、又鼓を擊つ意。〔事物異名錄、音樂、鼓〕謝華啓秀、寶撾、鼓也。

【寶唾】218（ハウダ） つばきの美稱。唾。轉じて、佳句或は名言などにいふ。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕寶唾拾未レ盡、玉啼墮猶レ鎗。〔張綖、香匳詩〕錦鱗青羽書難レ覓、寶唾珠啼迹未レ乾。

【寶帶】219（ハウタイ） ㊀寶玉で飾つた美しい帶。〔庾信、謝三趙王賚二犀帶等一啓〕魏君寶帶、特賜二劉楨一。〔唐書、楊元卿傳〕淮西多二怪珍寶帶一。〔盧照鄰、長安古意〕羅襦寶帶爲レ君解、燕歌趙舞爲レ君開。㊁橋の名。江蘇省吳縣の東南。澹臺湖の口に跨がる。一に長橋ともいひ、長さ一千二百丈。橋洞の舟を通ずべきもの五十二、其の中の三は巨艦をも通す。〔明一統志〕蘇州府寶帶橋在二府城西南一、跨二澹臺湖一、舊有二石橋一、南北百丈、下爲二圜洞一、通二舟檝一者、凡五十三、歲久圮壞、正統間重建。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、長洲縣、寶帶橋〕府南十五里、當二澹臺湖・龐山湖諸湖之口一、凡五十三洞、唐建、宋紹定中、明正統中、重修。

【寶大】220（ハウダイ） 五代、十國の一、吳越の太祖（錢繆）の年號。(984―985)

【寶臺】221（ホウダイ） 珍寶で飾つた寺院の堂塔をいふ。〔觀世音菩薩授記經〕是諸寶臺、縱廣十二由旬。〔岑羲、奉三和九月九日登二慈恩寺浮圖一應制詩〕寶臺聳二天外一、玉輦步二雲端一。

【寶刀】222（ハウタウ） 寶として珍重する刀。〔穀梁、僖、二〕孟勞者、魯之寶刀也。〔曹植、寶刀銘〕造二茲寶刀一、既礱既礪。〔古今注、輿服〕吳大帝有二寶刀三一、一曰百鍊、二曰青犢、三曰漏景。〔李華、弔二古戰場一文〕白刃交兮寶刀折。

【寶纛】223（ハウタウ） 天子の御旗。纛は、天子の車に立てる大旗。〔梁潛、詩〕玉氣浮レ天隨二寶纛一、虹光拂レ地護二龍旌一。

【寶鐸】224（ホウタク） 佛堂塔の檐端に懸けてある大鈴。風鐸。簷鐸。〔元亨釋書、二十一〕當レ平二基址一得二寶鐸一、長五尺五寸。〔劉潛、平等刹下銘〕寶鐸夜響、銀地朝鮮。〔梁昭明太子、講席詩〕寶鐸旦參差、名香晚芬郁。

【寶塔】225（ホウタフ） 佛寺院の塔。もと、佛或は靈者の遺骨を藏し、或は佛の功德を願望して建て、寶物を以て嚴飾した。〔法華經、寶塔品〕爾時多寶佛、於二寶塔中一分二半座一、與二釋迦牟尼佛一。〔佛祖統紀、四十二〕一念淨心是菩提、勝レ造二恆沙七寶塔一、寶塔畢竟化爲レ塵、一念淨心成二正覺一。〔梁簡文帝、大法頌序〕彤彤寶塔、既等二法華之座一。〔徐陵、齊國宋司徒寺碑〕朱樓寶塔、輝レ煥增レ華。

【寶塔詩】226（ハウタフシ） 一字句より七字句に至るまで逐句韻を成し、又增して八字句或は九句字に至るものもある。每句の字を逐次增加することが寶塔のやうであるからいふ。

【寶地】227（ハウチ） ㊀勝れてよい所。〔戰國、燕策〕今燕客之言曰、事苟可レ聽、雖レ盡二寶地一、猶爲レ之也。〔論衡、恢國〕周時戎狄攻レ王、至レ漢內屬、獻二其寶地一。㊁佛寺のある地域。寺の喩。〔王融、淨行頌、出家順善篇頌〕將レ安二寶地一、誰留二化城一。〔王勃、龍懷寺碑〕香城寶地、左右林泉。〔沈佺期、遊二少林寺一詩〕長歌遊二寶地一、徙倚對二珠林一。

【寶池】228（ホウチ） 佛極樂淨土にある池。八功德の水を湛へ、其の水を飲む者は諸善根を養ふといふ。〔觀無量壽經〕極樂世界、寶樹寶地寶池。

【寶坻】229（ハウチ） 縣名。金、置く。五代唐、榷鹽院を置いて新倉といふ。河北省薊縣の南。鮑城河、其の城東を繞る。〔明一統志〕寶坻縣、在二順天府通州城東南一百二十里一。〔清史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、寶坻。

【寶質】230（ハウチ） 寶物を以て充てた質物。質物とした寶物。〔管子、山權數〕召二丁氏一而命レ之曰、吾有二無貲之寶於此一、吾今將レ有二大事一、請以レ寶爲レ質二於子一、以假二子之邑粟一、丁氏北鄉再拜入レ粟、不三敢受二寶質一。

【寶治】231（ハウヂ） 第八十九代後深草天皇の年號。(1247―1249)〔藤原經範勘文〕春秋繁露曰、氣之清者爲レ精、人之清者爲レ賢、治レ身者、以レ積レ德爲レ寶、治レ國者、以レ積レ賢爲レ道。

【寶持】232（ハウヂ） 大切にもつ。寶物として所持する。〔魏文帝、露陌刀銘〕不レ逢二不若一、永世寶持。〔顏氏家訓、慕賢〕吾雅愛二其手迹一、常所二寶持一。

【寶胄】233（ハウチウ） 善い子孫。〔徐陵、陳文皇帝哀冊文〕赫矣高祖、悠哉上旻、蟬聯二寶胄一、暉煥二郊禋一。〔王勃、乾元殿頌〕虹星湛レ色、開二寶胄于金壺一。

【寶畜】234（ハウチク） 大切に保存する。〔金史、世宗昭德皇后傳〕睿宗沒後、世宗寶二畜之一。〔圖繪寶鑑〕古人畫藁、謂二之粉本一、前輩多寶二畜之一。

【寶軸】235（ハウヂク） ㊀美しい裝幀。立派な卷物。〔徐陵、玉臺新詠序〕麗以二金箱一、裝二之寶軸一。〔鄭嵎、津陽門詩〕畫輪寶軸從レ天來、雲中笑語聲融怡。㊁佛書。〔徐陵、諫二仁山深法師罷レ道書〕朝覲二尊儀一、暮披二寶軸一。

【寶帳】236（ハウチヤウ） うつくしい帳。〔唐書、王琚傳〕侍兒數十、寶帳備具。〔觀佛三昧海經〕一一花葉、化爲二無量百千寶帳一。

【寶仗】237（ハウヂヤウ） 天子の儀仗。仗は警固の武器。〔李嶠、上三應天神龍皇帝一冊文〕寶仗似二億千之衞一、天儀成二丈六之容一。〔李存、灤京詩〕露透二地椒一清二寶仗一、風生二天棘一滿二旂旗一。〔金幼孜、元夕賜二午門觀燈一詩〕春散二爐烟一浮レ樹暖、月移二寶仗一映レ花妍。

【寶忠】238（ハウチユウ） 明、溫璜(7―17968・・52)の字。

【寶重】239（ハウチヨウ） ㊀寶として大事にする。〔元史、歐陽玄傳〕片言隻字、流二傳人間一、咸知二寶重一。㊁重んずる寶。大事な寶。〔杜甫、送二趙十七明府之レ縣詩〕連城爲二寶重一、茂宰得二才新一。

【寶珍】240（ハウチン） 貴い玉。又、珍重すること。〔戰國、楚策〕寶二珍隨珠一不レ知レ佩兮、褘衣與レ絲不レ知レ異兮。〔楚辭、王逸、九思、守志〕歷二九宮一兮徧觀、睹二祕藏一兮寶珍。

【寶鎭】241（ハウチン） 寶とする玉瑞。寶器。〔周禮、春官、天府〕上春釁二寶鎭及寶器一。〔周禮、春官、天府、凡國之玉鎭、注〕玉鎭、大寶器、玉瑞、玉器之美者、云云、故書、鎭作レ瑱、鄭司農云、瑱、讀爲レ鎭。

【寶廷】242（ハウテイ） 清の宗室。字は竹坡。同治の進士。光緒中、禮部侍郎となる。黃體芳・張之洞等と清議を主持し、大政有る毎に必ず疏を具して其の是非を論じた。詩に巧で、飲酒を好み、家が極めて貧しかつたので、之洞等が時に資を出して之を濟つた。著に偶齋詩草內外集・尙書持平がある。〔清史稿、四百五十〕。

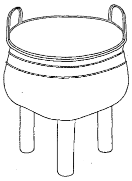
【寶定】243（ハウテイ） 明の神宗の時、越の莫茂洽の年號。(1590―1591)

【寶貞】244（ハウテイ） 五代十國の一、吳越の太祖(錢鏐)

の年號、寶正の一稱。一に保貞にも作る。（926−931）

【寶庭】245（ハウテイ）㊀寶玉を敷いた庭。〔拾遺記、八、蜀〕糜竺用ニ陶朱計術一云云、貨財如レ山、不レ可ニ算計一、內以ニ方諸盆瓶一、設ニ大珠如一レ卵、散ニ滿於庭一、謂ニ之寶庭一、而外人不レ得レ窺。㊁清、錢樹(11−40563‥118)の字。

【寶鼎】246（ハウテイ）㊀貴いかなへ。天子の寶とする鼎。寶鬲。〔史記、五帝紀〕黃帝獲ニ寶鼎一、迎レ日推レ策。〔史記、封禪書〕黃帝作ニ寶鼎三一、象ニ天地人一。〔漢書、眭弘傳〕符瑞並應、寶鼎出。〔說苑、善說〕汾陰得ニ寶鼎一。〔班固、兩都賦、寶鼎詩〕嶽修レ貢兮川效レ珍、吐ニ金景一兮歊ニ浮雲一、寶鼎見兮色紛紜、煥其炳兮被ニ龍文一。㊁漢の郊祀歌の一つ。武帝の元鼎四年六月、寶鼎を后土祠の傍に得てこの歌を作る。禮樂志には景星に作る。〔漢書、武帝紀〕六月、得ニ寶鼎后土祠旁一、秋、馬生ニ渥洼水中一、作ニ寶鼎天馬之歌一。㊂三國吳、孫皓の年號。（266−269）㊃北齊、李鉉(6−14459‥322)の字。



周寶鼎（西清古鑑）

【寶鼎香】247（ハウテイカウ）藥草の名。〔本草、薑黃〕釋名、蒁、寶鼎香。薑黃(9−32110‥7)の異名。

【寶鼎現】248（ハウテイゲン）詞牌の名。〔詞譜〕調見ニ順庵樂府一、李彌遜詞名ニ三段子一、陳合詞名ニ寶鼎兒一。〔中吳紀聞〕范周少負ニ不羈之才一、不レ求ニ聞達一、所レ居號ニ范家園一、安レ貧樂レ道、盛季文作レ守時、頗嫚レ士、嘗於ニ元宵一作ニ寶鼎現詞一投レ之、極蒙ニ嘉獎一、因遺ニ酒五百壺一、其詞播ニ於天下一、每レ遇ニ燈夕一、諸郡皆歌レ之。

【寶鼎章】249（ハウテイシヤウ）民國所定の陸海空軍勳章の一種。九等があり、特殊戰功者等に與ふ。

【寶鼎堂】250（ハウテイダウ）明、郝敬(11−39430‥10)の室名。

【寶典】251（ハウテン）㊀最も珍重すべき書物。〔江淹、爲三蕭拜ニ相國齊公十郡九錫一章〕殊命寶典、鬱降ニ雲天一。㊁［佛］（ホウテン）經典の美稱。〔教行信證、六〕無上甚深之寶典也。

【寶典解】252（ハウテンカイ）逸周書の篇名。

【寶篆】253（ハウテン）香爐をいふ。篆は、香の煙が篆書に似たのをいふ。〔王勃、乾元殿頌〕寶篆潛開ニ六合一、啓ニ同人之會一。〔陳基、寄ニ玉山一詩〕寶篆焚レ香留ニ睡鴨一、彩牋行レ墨寫ニ來禽一。

【寶田】254（ハウデン）宋の杜孟の綽名。嘗て子孫を訓戒して、忠孝は吾が家の寶、經史は吾が家の田と稱した事による。〔山堂肆考〕宋時、杜孟游ニ太學一、因ニ童貫蔡京用レ事、幡然而歸、嘗訓ニ子孫一曰、忠孝吾家之寶、經史吾家之田、號爲ニ寶田杜氏一。

【寶田蘭陵】255（タカラダランリヨウ）越後の人。名は忠行。字は士仲。通稱は百助。號は蘭陵。古屋昔陽に師事す。村上藩主內藤侯の侍讀となる。詩に巧。文化中に歿す、年四十二。著に詩集がある。〔北越名流遺芳〕

【寶傳】256（ハウデン）清、王世琛(7−20823‥1762)の字。

【寶殿】257（ハウデン）㊀金玉をちりばめた殿舍。〔顧紹芳、雝肅殿賦〕瞻ニ寶殿之巍巍一、揭ニ璇題之業業一。〔趙孟頫、宮中口號詩〕日照ニ黃金寶殿一。㊁神殿。神のまします御殿。〔百鍊抄、四〕永延元年、今年改ニ造北野寶殿一。㊂神寶、又は奉納物を納める建物。〔山槐記〕永曆二年四月十八日、神寶、納ニ東寶殿一。㊃佛を安置する建物。本殿。本堂。寺の本堂を大雄寶殿といふ。〔梁簡文帝、大法頌序〕寶殿霞開、無レ假ニ鳳凰之瑞一。〔江淹、雜體、顏特進侍宴詩〕列漢構ニ仙宮一、開天製ニ寶殿一。

【寶鈿】258（ハウデン）寶石・珠玉・金銀・青貝などで飾つたかんざし。鈿は、婦人のかんざし。寶釵。〔唐書、肅宗紀〕禁ニ珠玉寶鈿・平脫・金泥・刺繡一。〔張柬之、東飛伯勞歌〕誰家絕世綺帳前、艷粉紅脂映ニ寶鈿一。〔戎昱、送ニ零陵妓一詩〕寶鈿香娥翡翠裙、妝成掩泣欲ニ行雲一。

【寶鈿玉釵】259（ハウデンギヨクサイ）金銀寶玉でちりばめ飾つたかんざしやかうがい。又、其のやうに麗しいものの形容。〔齋藤拙堂、月瀨紀勝〕寶鈿玉釵、錯落滿レ地。

【寶圖】260（ハウト）天子の謀。天業。〔周書、皇后、宣帝陳皇后傳〕朕祇承ニ寶圖一、載弘ニ徽號一、自レ我改作、超ニ革先古一。〔舒元輿、讀ニ唐曆一詩〕肅宗傳ニ寶圖一、寇難連年擊。

【寶燈】261（ハウトウ）神佛に獻ずる燈をいふ。獻燈。〔江總、燈贊〕寶燈夜開、影徧ニ花臺一。〔崔液、上元夜詩〕鳷鵲樓前新月滿、鳳皇臺上寶燈燃。〔李商隱、無題詩〕紫府仙人號ニ寶燈一、雲漿未レ飲結成レ冰。〔丁復、寶鴨曲〕寶燈夜縣瑠璃光、恍若三澹在ニ滄浪裏一。

【寶幢】262（ホウドウ）［佛］㊀寺の幢幡。寶珠で莊嚴に飾つた幢竿と幢。幢は、はた。〔大日經疏、五〕幢、謂ニ旗幟寶幢一。〔顏氏家訓、歸心〕千里寶幢、百由旬座、化成ニ淨土一。㊁音樂を司る天神の名。〔彌勒上生經、上〕兜率天宮有ニ五大神一、第一大師名曰ニ寶幢一、身雨ニ七寶一、散ニ宮牆內一、一一寶珠化成ニ樂器一、懸ニ處虛空一、不レ鼓自鳴。〔觀無量壽經〕又有ニ樂器一、懸ニ處虛空一、如ニ天寶幢一、不レ鼓自鳴。

【寶幢如來】262′（ホウドウニヨライ）［佛］胎藏界の中臺八葉院の東方の佛。菩提心を以て萬行を統率し、四魔の軍衆を降伏する。〔大日經疏、四〕於ニ四方八葉上一觀ニ四方佛一、東方觀ニ寶幢如來一、如ニ朝日初現一、赤白相輝之色、寶幢是發菩提心義也。

【寶德】263（ハウトク）第百二代後花園天皇の年號。（1449−1452）〔藤原爲賢勘文〕唐書曰、朕寶ニ三德一曰、慈儉謙。

【寶馨】264（ハウドン）宋の僧の名。〔蘇軾、書ニ馨公詩後一引〕過ニ加祿鎭南二十五里大許店一、休ニ馬于逆旅祁宗祥家一、見三壁上有ニ幅紙一、題云、滿院秋光濃欲レ滴、老僧倚レ杖青松側、只怪高聲問不レ譍、嗔三余踏ニ破蒼苔色一、其後題云、滏水僧寶馨、宗祥謂レ余、此光黃閒狂僧也、年百三十、死ニ於熙寧十年一、既死、人有ニ見レ之者一、宗祥言ニ其異事一甚多、作ニ是詩一以識レ之、馨公、本名清戒、俗謂ニ之戒和尚一云。

【寶寧】265（ハウネイ）縣名。㊀南齊、置く。廣東省羅走縣の境。㊁清、置く。雲南省廣南縣。

【寶馬】266（ハウバ）すぐれた名馬。良馬。〔史記、大宛傳〕貳師馬、宛寶馬也。〔鹽鐵論、毀學〕晉獻以ニ寶馬一釣ニ虞虢一。〔江總、羣臣請レ贖ニ武帝一懺文捨身〕石壁山河、珍車寶馬。

【寶馬香車】267（ハウバカウシヤ）立派な馬と車。〔沈佺期、上巳日祓ニ褉渭濱一應制詩〕寶馬香車清渭濱、紅桃碧柳褉堂春。

【寶佩】268（ハウハイ）立派な佩玉。〔王僧孺、詹事徐府君集序〕寶佩鳴レ風、豐貂映レ日。〔宋史、樂志十六〕袞衣煇煥、寶佩琳琅。

【寶排】269（ハウハイ）pao^3 pʻai^2 兵に給する銀片。

【寶貝】270（ハウバイ）㊀珍らしい貝。〔木華、海賦〕豈徒積三太顚之寶貝一、與ニ隨侯之明珠一。㊁たから。寶物。〔長生殿、褉游〕聽得皇帝、把ニ娘娘一愛的、似ニ寶貝一一般。㊂子供。子寶。㊃（タカラガヒ）古、貨幣として使用した子安貝の稱。〔和漢三才圖會、介貝部〕貝子、俗云、子安貝、又云ニ寶貝一。

【寶煤】271（ハウバイ）よい墨。珍奇な墨。〔劉仲尹、謝ニ孔遵席後堂山水圖一詩〕玉腕雪迴犀管細、寶煤香散鳳綃空。

【寶寶】272（ハウハウ）俗に人が其の子を愛惜して呼ぶ稱呼。〔通俗編、稱謂、寶寶〕留青日札、今人愛ニ惜其子一、每呼曰ニ寶寶一、蓋言レ如ニ珍寶一也、亦作ニ保保一。

【寶坊】273（ホウバウ）［佛］寺院の美稱。〔大集經、一〕爾時如來示ニ現無量神通力一、漸漸至ニ彼七寶坊中一。〔六祖壇經〕重建ニ梵宇一、延レ師居レ之、俄成ニ寶坊一。〔雞跖集〕給孤長者以ニ黃金一布レ地爲ニ伽藍一、故號ニ寶坊一。〔梁簡文帝、答ニ湘東王一書〕皇上慈被ニ率土一、甘露聿宣、鳴ニ銀鼓於寶坊一、轉ニ金輪於香地一。〔綦毋潛、祇園寺詩〕寶坊求ニ往跡一、神理駐ニ沿洄一。〔書言故事、釋教類〕寺曰ニ寶坊一。

【寶房】274（ハウバウ）寶玉で飾つた奧殿。〔劉庭琦、奉ニ和聖製瑞雪篇一詩〕先過ニ翡翠寶房中一、轉入ニ鴛鴦金殿裏一。

【寶帛】275（ハウハク）寶玉と絹布。貴重なものをいふ。〔桓溫、與ニ撫軍一牋〕鹽鐵寶帛之饒、角竿羽毛之用。

【寶舶】276（ハウハク）珍奇な寶物を載せた船舶。たからぶね。〔劉禹錫、南海馬大夫遠示ニ著述一云云詩〕連レ天浪靜長鯨息、映レ日帆多寶舶來。

【寶璞】277（ハウハク）寶石。〔晉書、赫連勃勃載記〕瑩以ニ寶璞一、飾以ニ珍奇一。〔拾遺記、十、瀛州〕金沙寶璞、粲然而可レ用。

【寶鎛】278（ハウハク）鄭國の寶とする小鐘。〔國語、晉語七〕鄭伯嘉、來納ニ女工妾三十人一、云云、及寶鎛輅車十五乘一。〔注〕鎛、小鐘也、寶、鄭所レ寶。

【寶袜】279（ハウバツ）美しい帶。〔駢雅、釋服食〕寶袜、腰

綵也。〔徐賢妃、賦得三北方有二佳人一詩〕纖腰宜二寶袜一、紅衫艷二織成一。〔謝偃、踏歌詞〕細風吹二寶袜一、輕露濕二紅紗一。〔瑯嬛記〕製二錦囊一盛レ之、佩二于寶袜一。

【寶筏】280 ハウバツ　佛法に歸依する喩。寶で造つた筏に乘るやうであるからいふ。〔李白、春日歸レ山寄二孟浩然一詩〕金繩開二覺路一、寶筏渡二迷川一。

【寶法】281 ハウハフ　貴い教。〔管子、戒〕先王有三游夕之業二於人一、無三荒亡之行二於身一、桓公退、再二拜命一曰、寶法也。

【寶飯】282 ハウハン　㊀佛に供養する飯。供飯。〔梁簡文帝、六根懺文〕振レ裳躧レ歩、跨二旃檀之迴林一、提レ囊拭レ鉢、捧二香積之寶飯一。㊁イホ　三河國の郡名。

【寶幡】283 ハウハン　佛壇に飾り立てる旗。寶旛。〔綦毋潛、題二鶴林寺一詩〕珊珊寶幡挂、焰焰明燈燒。〔皮日休、開元寺客省早景卽時詩〕鴿馴多在二寶幡中一。

【寶旛】284 ハウハン　寶幡に同じ。

【寶盤】285 ハウバン　美しいたらひ。〔宋史、樂志十七〕冠二夷冠一執二寶盤一。

【寶批】286 pao³ p'i¹　爐房（馬蹄銀の鑄造所）で純良な馬蹄銀に付する證明。

【寶祕】287 ハウヒ　㊀祕藏する。〔唐書、高駢傳〕蕭勝獻二銅匕首一、呂用之曰、此北帝所レ佩也、得レ之兵不二敢犯一、駢寶二祕之一。㊁祕藏の寶。貴い物。〔李嶠、爲二百寮一賀二日抱戴慶雲見一表〕遷二寶祕於東序一、覗二衣纓於北闕一。〔蘇軾、答二范純夫一札〕先公論二往古事一、著述多矣、想一一寶祕、此豈復待二鄙言一耶。

【寶府】288 ハウフ　財寶の倉。物產の多く出る地。寶庫。〔唐書、陳子昂傳〕上書曰、蜀爲二西南一都會、國之寶府一、又人富粟多、浮レ江而下、可レ濟二中國一。

【寶符】289 ハウフ　㊀貴い神祕な書きもの。おふだ。神符。〔史記、趙世家〕簡子乃告二諸子一曰、吾藏二寶符於常山上一、先得者賞、諸子馳之二常山上一、求無レ所レ得、毋卹還曰、已得レ符矣、簡子曰、奏レ之、毋卹曰、從二常山上一臨レ代、代可レ取也、簡子於レ是知二毋卹果賢一、乃廢二太子伯魯一、而以二毋卹一爲二太子一。〔李德裕、贈故蕃維州城副使悉怛謀制〕常山臨レ代、爲二全趙之寶符一、河西絕レ羌、斷二西戎之右臂一。㊁南宋の末、安南の聖宗、陳冕の年號。（1273－1278）

【寶婺】290 ハウブ　㊀星の名。婺女星。〔王勃、兜率寺浮圖碑〕寶婺辭レ星、攀二圓瑞一而未レ返。〔李商隱、七夕偶題詩〕寶婺搖二珠珮一、嫦娥照二玉輪一。㊁美婦人に喩へる。〔薛稷、奉四和送三金城公主適二西蕃一應制詩〕月下瓊娥去、星分寶婺行。

【寶汾】291 ハウフン　淸、錢芳標（**11－40563**‥416）の號。

【寶文】292 ハウブン　㊀天から與へられるよい命令。〔宋史、樂志十五〕寶文瑞命、符皇運縣。㊁宋の宮殿の名。英宗卽位の後、仁宗の御書を集藏した。〔宋史、神宗紀一〕寶文閣成、置二學士直學士侍制官一。㊂蓬萊山に生ずる木の名。〔謝氏詩源〕又有二寶文之蕊一、服レ之不レ饑、謝幼貞詩曰、摘二寶文之初蕊一、拾二穆陀之墜葉一。

【寶文堂】293 ハウブンダウ　明、晁瑮（**5－13889**‥10）の室名。

【寶瓶】294 ハウヘイ　㊀天文で十二宮の一つ。玄枵。一月二十日大寒の時、太陽がこの宮に至る。十二宮（**2－2695**‥352）の㊂・玄枵（**7－20814**‥113）・虛宿（**9－32709**‥183）を見よ。㊁［佛］ホウビヤウ　㋑貴い甕。佛の持つてゐる甕で、其の靈水を注げば、萬物に精靈の氣を與へるといふ。〔觀佛三昧海經〕持二寶瓶一走。〔洛陽伽藍記、一〕永寧寺、云云、中有二九層浮圖一、云云、刹上有二金寶瓶一。〔王勃、廣州寶莊嚴寺舍利塔碑〕寶瓶胥注、則雨露隨レ軒。㋺佛具の瓶器の尊稱。密敎では灌頂の誓水を容れる器をいふ。〔觀無量壽經〕有二一寶瓶一、盛二諸光明一。

【寶幣】295 ハウヘイ　貴いぬさ。牲・玉などをいふ。〔管子、形勢解〕鄰敵畏二其威一、雖レ不下用二寶幣一事中諸侯上、諸侯不二敢犯一。

【寶璧】296 ハウヘキ　貴いたま。寶玉（55）に同じ。〔戰國、齊策〕弊邑有二寶璧二雙、文馬二駟一、請致二之先生一。

【寶母】298 ハウボ　多くの寶が集まり來るといふ母石。〔祥異記〕魏生嘗得二一美石一、有二胡人一、見レ之云、此寶母、每月望設二壇海邊一、可レ集二珠寶一。

【寶姥】299 ハウボ　仙女。〔崔公度、感山賦〕禮二衆精于寶姥一、糝二靈氣于天丹一。

【寶峯】300 ハウホウ　明、智瑄（**5－14010**‥106）の字。

【寶峯先生】301 ハウホウセンセイ　宋、趙偕（**10－37171**‥57）の尊稱。

【寶鳳】302 ハウホウ　鳳凰。又、鳳凰形の飾。〔舊唐書、禮儀志二〕證聖元年、佛堂災、延二燒明堂一、則レ天尋レ令、依二舊規制一、重造二明堂一、上施二寶鳳一、俄以二火珠一代レ之。〔王翰、古蛾眉怨詩〕忽聞天子憶二蛾眉一、寶鳳銜レ花揲二兩螭一。

【寶豐】303 ハウホウ　縣名。㊀宋、置く。江西省弋陽縣の南。〔讀史方輿紀要、江西、廣信府、弋陽縣〕寶豐廢縣、在二縣南一、宋淳化五年、升二寶豐場一爲レ縣、景德五年、廢爲レ鎭、康定中、復置、慶曆三年、又廢、志云、縣西有二玉亭縣故址一、唐初所レ置、今見二饒州府餘干縣一。㊁宋、置く。春秋鄭の地。唐、龍興縣を置き、宋、寶豐と改め、遼金、之に因る。河南省輔城縣。〔明一統志〕寶豐縣、在二汝州東南八十里一、春秋鄭地、後入レ蔡、戰國屬レ韓、秦漢屬二汝州一、唐置二龍興縣一、宋更二名寶豐縣一、遼金因レ之。〔淸史稿、地理志〕河南、汝州直隸州、縣四、寶豐。㊂淸、置く。寧夏省平羅縣の東北。後、廢して、鎭を置く。

【寶墨】304 ハウボク　㊀立派な筆跡。貴い法帖。他人の筆蹟の敬稱。〔孫覿、御書扇銘〕扇出二上方一、寶墨未レ乾。〔歐陽脩、明堂慶成詩〕寶墨飛雲動、金文耀日晶。㊁亭の名。㋑河南省睢縣、舊城の西北、乾明寺にある。宋の蘇軾が、紹聖元年、嶺表へ行く途中、此に宿り、洞庭春色・中山松醪の二賦を書したのを後人が石に刻み、亭を建てて之を覆うたもの。㋺江蘇省鎭江縣の焦山にある。王奐之の集めた右軍書の陀羅尼經幢、及び華陽眞逸瘞鶴銘を貯ふ。〔六一題跋〕唐陀羅尼經幢、在二今潤州寶墨亭中一、唐雲陽野夫王奐之書、字畫頗爲二世俗所レ重。〔明一統志〕寶墨亭、在二鎭江府治西偏一、以覆二陀羅尼經幢一。

【寶墨樓】305 ハウボクロウ　淸、張貞（**4－9812**‥568）の室名。

【寶摩】306 ハウマ　明、徐石麒（**4－10110**‥527）の字。

【寶名】307 ハウメイ　淸、徐林鴻（**4－10110**‥654）の字。

【寶命】308 ハウメイ　天の命令。上帝の命令。天子の命令。大命。〔書、金縢〕無レ墜二天之降寶命一。〔蔡傳〕寶命、卽帝庭之命也、謂二之寶一者、重二其事一也。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕用集二寶命一、仰陟二天機一。〔注〕翰曰、寶命、卽大命。〔沈約、賀二齊明帝登祚一啓〕敷二舜烈一以膺二寶命一。〔王維、奉下和聖製慶二玄元皇帝玉像一之作上應制詩〕明君夢二帝先一、寶命上齊レ天。〔孔穎達、春秋正義序〕三才協則寶命昌二於下一。

【寶物】309 ハウモツ　寶として祕藏する貴重な物。たからもの。〔漢書、酷吏、咸宣傳〕自部二署縣名曹寶物一。〔後漢書、彭寵傳〕於レ是兩奴將レ妻入取二寶物一、留二一奴一守レ寵。〔魏志、文昭甄皇后傳〕百姓皆賣二金銀珠玉寶物一。

【寶物殿】310 ハウモツデン　寶物を納めておく社殿。

【寶紋】311 pao³ wen²　最も良質の銀塊。紋銀（**8－27262**‥2）に同じ。

【寶融】312 ハウユウ　南齊、和帝（**2－3490**‥291）の名。

【寶輿】313 ハウヨ　天子の乘物。貴人の乘る車。〔盧綸、送二靜居法師一詩〕五色香幢重復重、寶輿升レ座發二神鐘一。〔宋史、禮志四〕帝入二太室一、門下省奉二寶輿一先入。〔元史、輿服志二〕寶輿方案。

【寶用】314 ハウヨウ　大切に用ひる。貴び用ひる。〔史記、平準書〕白金稍賤、民不二寶用一。

【寶螺】315 ホウラ　［佛］螺貝。螺貝は法具なれば、貴んでいふ。〔大悲經〕呼三召一切諸天善神一、求二寶螺手一。〔千手經〕若欲三召二乎一切諸天善神一者、當レ手二寶螺一。

【寶藍】316 pao³ lan²　花色。紺色。

【寶欄】317 ハウラン　寶をちりばめた美しい手すり。〔陳旅、院中聞二大駕先還一詩〕甘泉宴罷雁聲寒、桂樹吹レ香出二寶欄一。〔宋无、觀二瓊花一詩〕八仙聊免レ俗、消得寶欄遮。

【寶林】318 ハウリン　㊀隋代、女官の名。〔隋書、后妃傳序〕寶林二十四員、品正第五。㊁淸、翁叔元（**9－28635**‥78）の字。㊂［佛］ホウリン　㋑極樂淨土の七寶の樹林。〔無量壽經、上〕七寶諸樹周二滿世界一。㋺寺の名。湖北省應山縣の北。明の太祖が幼時、牛を牧した所と傳ふ。正覺寺の名を賜つてゐる。㋩寺の名。廣東省曲江縣の南の南華山。禪宗の六祖、慧能大師の住した寺。曹溪の南華寺で、梁の天監三年創建せられた。〔六祖大師法寶壇、行由〕時大師至二寶林一、韶州韋刺史、名璩、與二官僚一入レ山、請レ師、出二城中大梵寺講堂一、爲レ衆開緣說法。

【寶琳】319 ハウリン　㊀淸、滿洲鑲黃旗人。姓は伊爾根覺羅氏。諡は勤恪。乾隆中、金川を滅して功あ

り。官は杭州將軍。〔國朝耆獻類徵、二百九十三〕。❷清、滿洲鑲黃旗人。姓は馬佳氏。字は夢蓮。號は知足知不足齋。官は保定知府。著に知足知不足齋詩草がある。

【寶鈴】320 ハウレイ 佛前に供へる鈴。〔觀佛三昧海經〕宛轉下垂、化二成寶鈴一。〔大方便佛報恩經〕百千寶鈴、不レ鼓自鳴。〔梁簡文帝、大愛敬寺刹下銘〕珠幡轉レ曜、寶鈴韻レ響。〔梁元帝、曠野寺碑〕金盤曜レ色、寶鈴成レ響。

【寶齡】321 ハウレイ 年齡の敬稱。寶算(131)に同じ。

【寶鬲】322 ハウレキ 貴いかなへ。寶鼎。〔元好問、學二東坡移居一詩〕渾渾商寶鬲、纍纍漢銅章。

【寶曆】323 ハウレキ ❶天子が國民に頒つ曆。曆の尊稱。〔梁簡文帝、謝レ賜二新曆一表〕琯叶璧輪、慶休寶曆。❷天子の御齡。寶算。轉じて、寶運。國祚。皇位。〔後魏文帝、祭レ河文〕朕承二寶曆一、克纂二乾文一。〔隋書、煬帝紀上〕朕肅膺二寶曆一、纂二臨萬邦一。〔白居易、賀雨詩〕皇帝嗣二寶曆一、元和三年冬。❸年號。㋑唐、敬宗、李湛の時。(825－827) ㋺ ハウリヤク 第百十六代桃園天皇・第百十七代後櫻町天皇の御世。(1751－1764)

【寶蓮】324 ハウレン 蓮の花。蓮花。〔沈約、爲二齊竟陵王一發レ講疏〕標聲妙住、騰華寶蓮。〔袁不約、長安夜游詩〕千乘寶蓮珠箔捲、萬條銀燭碧紗籠。

【寶蓮山人】325 ハウレンサンジン 宋、虞似良(9－32723‥168)の號。

【寶蓮亭主】326 ハウレンテイシユ 清、張問陶(4－9812‥1550)の號。

【寶輦】327 ハウレン ❶天子の御車。鳳輦。〔廣宣、駕幸二聖容院一應制詩〕深殿虔心隨二寶輦一、廣庭徐步引二金輪一。❷立派な車。〔李商隱、正月十五夜聞二京有レ燈恨レ不レ得レ觀詩〕月色燈光滿二帝都一、香車寶輦隘二通衢一。

【寶簾】328 ハウレン 御簾。みす。〔馬祖常、奏二對興聖殿一詩〕萬花簇錦寶簾垂、化日舒舒漏下遲。

【寶賂】329 ハウロ 貴重な賄賂。〔漢書、淮南王安傳〕淮南王大喜、厚遺二武安侯寶賂一。〔宋書、順帝紀〕寶賂之費、徵賦靡レ計。

【寶璐】330 ハウロ 美しい玉。璐は、美玉。〔楚辭、九章、涉江〕被二明月一兮珮二寶璐一。〔注〕寶璐、美玉也。〔歸有光、冰崖草堂賦〕佩二明月之寶璐一兮、然猶思二乎褐裳一。

【寶爐】331 pao^3 lu^2 銀倆、卽ち元寶の鑄造を取扱ふ銀爐。河南省に鄧州津官寶爐がある。

【寶露】332 ハウロ ❶太古の美しい瓶。寶甕(22)を見よ。〔拾遺記、一、高辛〕有二丹丘之國一、獻二瑪瑙瓮一、以盛二甘露一、云云、至二堯時一猶存、云云、舜遷二寶甕於衡山之上一、故衡山之岳有二寶露壇一。❷美しい露。甘露。〔江淹、齊太祖高皇帝誄〕山吐二石青一、野降二寶露一。〔楊炯、晦日藥園詩序〕九莖仙草、搖二八卦之祥風一、四照靈葩、泫二三危之寶露一。

【寶樓】333 ハウロウ 宮殿。佛寺。〔羅隱、代二文宣王一答詩〕釋氏寶樓侵二碧漢一、道家宮殿拂二青雲一。

【寶鏤】334 ハウロウ 金銀寶石をちりばめる。美麗な裝飾。〔宋書、陸徽傳〕歷二宰金山一、家無二寶鏤之飾一、連二組珠海一、室靡二瑫珥之珍一。

【寶籠】335 ハウロウ 寶石で飾った籠。美しいかご。〔文同、朱櫻歌〕上幸二離宮一促二薦新一、藤籃寶籠貂璫發。

【寶籙】336 ハウロク ❶道家の符籙。未來を豫言した書。籙は未來記。〔丹經〕說玉皇寶籙、三洞祕文。❷天子の未來記。〔杜審言、和三李大夫嗣眞奉レ使存二撫河東一詩〕禎符龍馬出、寶籙鳳皇傳。

【寶王】337 ホウワウ 佛 ❶佛陀の尊稱。佛はもろもろの功德で莊嚴にするから寶といふ。〔楞嚴經、三〕願今得レ果成二寶王一、度二知是恆沙衆一。❷寶をふらす佛の名。〔華嚴經〕摩尼寶王、變現自在、雨二無盡寶及衆妙華一、分二散於地一。

【寶泓】338 ハウワウ 硯(8－24233)の異名。泓はみづうみ。〔黃庭堅、詩〕撫二摩寶泓一置二道書一。

【寶盌】339 ハウワン 立派な椀。寶椀。〔徐陵、在二北齊一與二楊僕射一書〕泉流二寶盌一、遙憶二湓城一、峯號二香爐一、依然廬嶽。〔庾信、傷心賦〕對二寶盌一而痛レ心、撫二玄經一而流慟。

【寶韋齋】340 ハウヰサイ 清、李桓(6－14459‥263)の號。

【寶一對】341 pao^3 i^3 tuei^4 拳を打つとき、兩人共に拳頭を出すこと。

【寶芸齋】342 ハウウンサイ 清、葉名澧(9－31387‥274)の號。

【寶雲堂】343 ハウウンダウ 宋、趙偕(10－37171‥57)の室名。

〔寶雲堂集〕344 ハウウンダウシフ 書名。二卷。宋、趙偕撰。一名、文華集。靜虛を說き、靜坐を修爲の工夫とする。

【寶穎堂】345 ハウヱイダウ 清、馬翼贊(12－44572‥954)の室名。

【寶翰堂】346 ハウカンダウ 清、王熙(7－20823‥197)の室名。

【寶菌堂】347 ハウキンダウ 清、趙執端(10－37171‥653)の室名。

【寶繪堂】348 ハウクワイダウ 室名。❶宋、王詵(7－20823‥632)の室名。❷清、莊炘(9－31035‥39)の室名。

【寶繪樓】349 ハウクワイロウ 明、張泰階(4－9812‥1312)の室名。

【寶觥齋】350 ハウクワウサイ 明、王惟儉(7－20823‥1130)の號。

【寶管兒】351 pao^2 kuan^3 êrh 寶盒を持つ人をいふ。開寶的。寶盒兒(41)を見よ。

【寶奎堂】352 ハウケイダウ 清、陸錫熊(11－41708‥358)の室名。

【寶峴樓】353 ハウケンロウ 室名。❶明、豐坊(10－36304‥176)の室名。❷宋、王兼濟(7－20823‥1410)の室名。

【寶硯堂】354 ハウケンダウ 清、舒化民(9－30300‥101)の室名。

【寶儉堂】355 ハウケンダウ 明、馬元調(12－44572‥768)の室名。

【寶源局】356 ハウゲンキヨク 明清時代、錢を鑄造した官署。清代には、工部に隸屬し、宣統三年、造幣廠に合併した。〔淸會典、工部〕寶源局監督、滿洲一人、漢一人。〔淸國行政法汎論、工部、寶源局〕專掌下鑄二造緡錢一之事上、猶二戶部寶泉局一也。

【寶嚴齋】357 ハウゲンサイ 清、孫永清(3－6987‥330)の號。

【寶思惟】358 ホウシユイ 唐の高僧。北印度迦溼密羅國の人。本名は阿你眞那。律品・呪術にすぐれた人。洛陽の龍門山に天竺寺を建てた。著に有不空・胃索・陀羅尼經等がある。〔宋高僧傳、三〕。

【寶日軒】359 ハウジツケン 清、王德溥(7－20823‥1996)の室名。

【寶積經】360 ホウシヤクキヤウ 佛 大寶積經の略。唐の菩提流支が、舊來、諸師の譯を合同して四十九會一百二十卷となす。寶積とは法寶の集積の義で、大乘深妙の法なれば寶といひ、無量の法門が此中に攝在すれば積といふ。〔寶積經論、一〕大乘法寶中、一切諸法、差別義攝取故、所有大乘法中、諸法差別者、彼盡攝二取義一、故名曰二寶積一。

【寶穡堂】361 ハウシヨクダウ 室名。❶明、張所望(4－9812‥1198)の室名。❷明、李濂(6－14459‥811)の室名。

【寶宸堂】362 ハウシンダウ 清、張希良(4－9812‥895)の室名。

【寶晉齋】363 ハウシンサイ 宋の米芾の建てた書齋名。晉人の法帖が刻してある。〔明一統志〕寶晉齋、在二廬州府無爲州治一、宋守米芾建、有三晉人法書碑刻二幽辟蕳一、因名。

【寶眞齋】364 ハウシンサイ 宋、岳珂(4－8001‥5)の號。

〔寶眞齋法書贊〕365 ハウシンサイハフシヨサン 法帖の名。二十八卷。宋、岳珂撰。自家所藏の墨跡を集め、跋を附し贊を加ふ。帝王、晉代、唐代、次に宋代とし、岳飛で終つてゐる。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【寶制堂】366 ハウセイダウ 明、劉節(大庾の人)(2－2224‥445)の室名。

【寶泉局】367 ハウセンキヨク 清代、錢を鑄造した官署。戶部に隸屬す。宣統三年、造幣廠に合併した。〔淸會典、戶部〕寶泉局監督、滿洲一人、漢一人。〔淸國行政法汎論、戶部、寶泉局〕隸二屬於戶部一、專掌下鑄二造緡錢一之事上。

【寶扇樓】368 ハウセンロウ 清、朱孝純(6－14424‥691)の室名。

【寶素室】369 ハウソシツ 清、達受(11－39011‥65)の室名。

【寶蘇局】370 ハウソキヨク 清代、江蘇省の鑄錢所。〔淸會典事例、戶部、錢法〕又覆准、官商辦二運直隸等省洋銅一、繳二存寶蘇局一、應下將二直隸額銅一儘先繳收、次將二江西・湖北・陝西三省一報繳、依レ次行二知各省一領運上。

【寶蘇室】371 ハウソシツ 清、翁方綱(9－28635‥91)の室名。

【寶陀巖】372 ホウダガン 佛 印度の南海岸にあるといふ觀音菩薩の住所。補陀落迦山。〔祖英集〕寶陀巖山客、應レ笑未レ歸レ人。

【寶陶齋】373 ハウタウサイ 清、周春(2－3441‥268)の號。

【寶餹䭔】374 ハウタウタイ 味のよい蒸し餅。〔范成大、上元紀二吳中節物一俳諧體三十二韻詩〕寶餹珍粔籹。〔自注〕䭔拍也、吳中謂二之寶餹䭔一、特爲二脆

美一。

【寶直局】375ハウチョクキョク　清代、河北省の鑄錢所。〔清會典事例、戸部、錢法〕直隸省寶直局、係二按銅六鉛四配鑄一、除二官商額辦洋銅二十五萬斤一外、每年不レ敷二洋銅五萬斤一。

【寶董室】376ハウトウシツ　清、沈樹鏞(6－17189‥546)の室名。「號。

【寶米齋】377ハウベイサイ　清、方濬頤(5－13620‥548)の

【寶甓齋】378ハウヘキサイ　清、趙坦(10－37171‥276)の號。

【寶綸堂】379ハウリンダウ　❶清の齊召南の廳事の名。召南に寶綸堂集がある。〔秦瀛、禮部侍郎天台齊公墓表〕寶綸堂文集若干卷、詩若干卷、藏二於家一。❷室名。㋑清、許纘曾(10－35298‥290)の室名。㋺清、陳洪綬(11－41698‥862)の室名。

【寶綸樓】380ハウリンロウ　明、傅冠(1－939‥41)の室名。

【寶香山人】381ハウカウサンジン　清、卓爾堪(2－2741‥81)の號。

【寶疆道人】382ハウキヤウダウジン　清、程瑤田(8－25081‥159)の號。

【寶刻叢編】383ハウコクソウヘン　書名。二十卷。宋、陳思撰。歷代古碑の碑目を地方別に編輯す。〔四庫提要、史、目錄類〕。

【寶刻類編】384ハウコクルイヘン　書名。八卷。撰者未詳。宋の理宗以後の編といふ。上は周秦に始まり、五代迄の書碑を作者別に編す。もと、佚書を永樂大典から鈔出したもので、唐の玄宗から代宗までの三朝の碑目は無い。〔四庫提要、史、目錄類〕。

【寶牕自選】385ハウサウジセン　結婚をいふ。唐の李林甫が六女を立派に飾つた牕の下に置き、子弟入謁每に女に自ら選ばしめた故事。〔書言故事、婚姻類〕結婚寶牕中自選、唐李林甫有二六女一、廳事壁開二一横牕一、飾以二雜寶一、蒙以二絳紗一、使三六女戲二於牕下一、每二子弟入謁一、使下女於二牕下一自選上。

【寶幢居士】386ハウタウコジ　明、顧源(12－43689‥73)の號。

【寶澤先生】387ハウタクセンセイ　宋、魯仕能(12－46013‥166)の尊稱。

【寶中先生】388ハウチユウセンセイ　後蜀、劉璵(2－2224‥629)の尊稱。

【懷レ寶迷レ邦】389タカラヲイダイテクニヲマヨハス　濟世の才能を持ちながら、官にも仕へず世の混亂を救はうとしない。〔論語、陽貨〕陽貨欲レ見二孔子一云云、謂二孔子一曰、來、予與レ爾言、曰、懷二其寶一而迷二其邦一、可レ謂レ仁乎、曰不可。〔集注〕懷レ寶迷レ邦、謂下懷二藏道德一不上レ救二國之迷亂一。

【懷レ寶夜行】390タカラヲイダイテヨルユク　寶を懷中にして夜道を行く。危險を冒す喩。〔戰國、秦策〕臣聞懷二重寶一者、不二以夜行一、任二大功一者、不二以輕レ敵。

【所レ寶惟賢】391タカラトスルトコロハタダケン　金銀玉帛を寶とせず、賢人のみを寶とする。〔書、旅獒〕所レ寶惟賢、則邇人安。

【寶顏堂祕笈】392ハウガンダウヒキフ　叢書の名。明、陳繼儒輯。寶顏堂は其の書齋の號。別に陳眉公訂正祕笈がある。此等の書は、皆其の所藏の古書を自ら鈔校したもので、頗る刪削せられた處があつて、後人の病となる。然れども名篇祕冊、皆有り。【正集】玉照新志六卷(宋、王明清)、雲烟過眼錄四卷(宋、周密)、學古編一卷(元、吾衍)、筆疇二卷(明、王達)、書品一卷(梁、庾肩吾)、樂郊私語一卷(元、姚桐壽)、清暑筆談一卷(明、陸樹聲)、貧士傳二卷(明、黃姬水)、焚椒錄一卷(遼、王鼎)、歸有園麈談一卷(明、徐學謨)、娑羅館清言二卷(明、屠隆)、娑羅館逸稿二卷(明、屠隆)、娑羅館續清言一卷(明、屠隆)、冥寥子游二卷(明、屠隆)、甲乙賸言一卷(明、胡應麟)、廣莊一卷(明、袁宏道)、瓶史一卷(明、袁宏道)、偶談一卷(明、李鼎)、野客叢書十二卷(宋、王楙)、考槃餘事四卷(明、屠隆)。【續集】尚書故實一卷(唐、李綽)、南唐近事一卷(宋、鄭文寶)、文公政訓一卷(宋、朱子)、西山政訓一卷(宋、眞德秀)、談苑四卷(宋、孔仲平)、林下偶談四卷(宋、吳氏)、桂苑叢談一卷(宋、馮翊)、陰符經解一卷(古注)、枕中書一卷(晉、葛洪)、後山叢談四卷(宋、陳師道)、天上祕要一卷(道藏本)、省心錄一卷(宋、林逋)、觚不觚錄一卷(明、王世貞)、讀書雜鈔二卷(宋、魏了翁)、脈望八卷(明、趙台鼎)、賢弈編四卷(明、劉元卿)、煮泉小品一卷(明、田藝蘅)、伏戎紀事一卷(明、高拱)、丹青志一卷(明、王穉登)、畫說一卷(明、莫是龍)、次柳氏舊聞一卷(唐、李德裕)、谿山餘話一卷(明、陸深)、耄餘雜識一卷(明、陸樹聲)、西堂日記一卷(明、楊豫孫)、知命錄一卷(明、陸深)、樂府指迷二卷(上卷、宋、張炎、下卷、元、陸輔之)、疑仙傳一卷(王簡)、可談一卷(宋、朱彧)、玉堂漫筆一卷(明、陸深)、蜀都雜鈔一卷(明、陸深)、四夷考八卷(禁書、在二葉氏全集內一名二蒼霞草一、明、葉向高)、集異志四卷(唐、陸勳)、愼言二卷(明、敖英)、鼎錄一卷(梁、虞荔)、古奇器錄一卷(明、陸深)、井觀瑣言三卷(宋、鄭瑗)、蜩笑偶言一卷(宋、鄭瑗)、長松茹退二卷(明、憨頭陀)、虎薈六卷(明、陳繼儒)、羅湖野錄四卷(宋、釋曉瑩)、觴政一卷(明、袁宏道)、吳社編一卷(明、王穉登)、願豐堂漫書一卷(明、陸深)、金臺紀聞一卷(明、陸深)、長水日鈔一卷(明、陸樹聲)、寤言一卷(明、陸樹聲)、夷俗記一卷(明、蕭大亨)、三事遡眞一卷(明、李豫亨)、銷夏部四卷(明、陳繼儒)、辟寒部四卷(明、陳繼儒)。【廣集】兩同書二卷(唐、羅隱)、羯鼓錄一卷(唐、南卓)、荊楚歲時記一卷(梁、宗懍)、丙丁龜鑑六卷(宋、柴望)、滄浪詩話一卷(宋、嚴羽)、游城南記一卷(唐、張禮)、入蜀記四卷(宋、陸游)、吳船錄二卷(又名二出蜀記一宋、范成大)、楓窗小牘二卷(宋、袁褧)、經外雜鈔一卷(宋、魏了翁)、物類相感志一卷(宋、蘇軾)、還冤志一卷(北齊、顏之推)、正朔考一卷・附古今考(宋、魏了翁)、風月堂詩話二卷(宋、朱弁)、文則二卷(宋、陳騤)、前武林舊事六卷(宋、周密)、後武林舊事五卷(宋、周密)、老子解四卷(宋、蘇轍)、貴耳錄二卷(宋、張端義)、王氏談錄一卷(宋、王洙)、海內十洲記一卷(漢、東方朔)、農田餘話二卷(長谷眞逸)、牋紙譜・蜀錦譜・歲華紀麗譜一卷(宋、費著)、庚申外史二卷(明、葛祿衡)、腳氣集二卷(宋、車若水)、化書六卷(明、譚峭)、傳疑錄一卷(明、陸深)、眷風堂隨筆一卷(明、陸深)、燕閒錄一卷(明、陸深)、讀書筆記一卷(明、祝允明)、意見一卷(明、陳于陛)、從政錄一卷(明、薛瑄)、海槎餘錄一卷(明、顧岎)、東谷贅言二卷(明、敖英)、丹鉛續錄八卷(明、楊愼)、食色紳言二卷(明、皆春居士)、學圃雜疏一卷(明、王世懋)、閩部疏一卷(明、世王懋)、瓶花譜一卷(明、張德謙)、汲古叢話一卷(明、陸樹聲)、馬記一卷(明、郭子章)、劍記一卷(明、郭子章)、雨航雜錄二卷(明、馮時可)、邵康節外紀四卷(明、陳繼儒)、鼂采清課一卷(明、費元祿)、戊申立春考證一卷(明、邢雲路)、金丹四百字解一卷(明、張伯端)、友論一卷(明、西洋、利瑪竇)、木几冗談一卷(明、彭汝讓)、席上腐談二卷(元、俞琰)。【普集】朝野僉載六卷(唐、張鷟)、毛詩草木鳥獸蟲魚疏二卷(晉、陸璣)、別國洞冥記一卷(晉、郭憲)、三輔黃圖二卷(晉、潘岳)、卓異記二卷(唐、李翱)、臥游錄一卷(宋、呂祖謙)、孔氏雜說四卷(宋、孔平仲)、春渚紀聞六卷(宋、何薳)、東坡問答錄一卷(宋、蘇軾)、漁樵閒話錄一卷(宋、蘇軾)、洛陽名園記一卷(宋、李廌)、捫蝨新話四卷(宋、陳善)、驂鸞錄一卷(宋、范成大)、攬轡錄一卷(宋、范成大)、麟書一卷(宋、汪若海)、曲洧舊聞四卷(宋、朱弁)、震澤長語二卷(明、王鏊)、農說一卷(明、馬一龍)、游名山記(明、都穆)、召對錄一卷(明、申時行)、藝圃擷餘一卷(明、王世懋)、茶寮記一卷(明、陸樹聲)、然明茶疏一卷(明、許次紓)、眞珠船八卷(明、胡侍)、古今印史一卷(明、徐官)、同異錄二卷(明、陸深)、駢語雕龍四卷(明、游日章)、會仙女誌一卷(明、酈琥)、孝經一卷・孝經集靈節略一卷(明、虞淳熙)、孝經引證一卷(明、楊起元)、孝經宗旨一卷・祈嗣眞詮一卷(明、袁黃)、備倭圖記一卷(明、卜大同)、方山紀述一卷(明、薛應旂)、祐山雜記一卷(明、馮汝弼)、聖學範圍圖說一卷(明、岳元聲)、山行雜記一卷(明、宋彥)、冬官記事一卷(明、項夢原)、研北雜志二卷(元、陸友)、聽心齋客問一卷(明、萬尚文)、畫禪一卷(明、蓮儒)、金華游錄二卷(宋、謝翱)、渾然子一卷(明、張翀)、方洲雙言一卷(明、張寧)、玉笑零音一卷(明、田藝蘅)、酒史二卷(明、馮時化)、幽閒鼓吹一卷(明、張固)、遼陽圖記一卷(明、失名氏)。【彙集】清異錄四卷(宋、陶穀)、蟾仙解老一卷(宋、白玉蟾)、兼明書五卷(五代、丘光庭)、靖康緗素雜記十卷(宋、黃朝英)、世範三卷(宋、袁采)、鍾呂二仙傳一卷(明、黃魯曾)、金丹詩訣二卷(唐、呂

巖)、韓仙傳一卷(唐、韓若雲)、衍極一卷(元、鄭杓)、抱朴子內篇四卷・外篇四卷(晉、葛洪)、周易尚占三卷(明、李清菴)、書品一卷(宋、李薦)、誠意伯連珠一卷(明、劉基)、春雨雜述一卷(明、解縉)、海語三卷(明、黃衷)、異魚圖贊四卷(明、楊愼)、江鄰幾雜誌一卷(宋、江休復)、讕言長語二卷(明、曹安)、陰符經解一卷(明、焦竑)、支談三卷(明、焦竑)、問奇集一卷(明、張位)、祝子小言一卷(明、祝世祿)、先進遺風二卷(明、耿定向)、補筆談二卷(宋、沈括)、見聞紀訓一卷(明、陳良謨)、奉使錄一卷(明、張寧)、黃帝祠額解一卷(明、李維禎)、天目游記一卷(明、黃汝亨)、游喚一卷(明、王思任)、黃白鏡一卷・續一卷(明、李文燭)、田居乙記一卷(明、方大鎭)、一菴雜問錄四卷(明、唐樞)、碧里雜存一卷(明、董穀)、奇門遁甲二卷(明、劉基)、瀛涯勝覽一卷(明、馬歡)、女眞考一卷(明、失名氏)、燕市考一卷(明、失名氏)、物異考一卷(宋、方鳳)、夷俗考一卷(宋、方鳳)、竹派一卷(明、蓮儒)、泉南雜志二卷(明、陳懋仁)。**【眉公雜著】**見聞錄八卷・珍珠船四卷・妮古錄四卷・羣碎錄一卷・偃曝餘談二卷・巖棲幽事一卷・枕談一卷・太平清話四卷・書蕉二卷・筆記二卷・書畫史一卷・長者言一卷・狂夫之言三卷・續三卷・香案牘一卷・讀書鏡十卷。〔增訂叢書擧要、前代、二〕。

【寶晉英光集】393 ハウシンエイクワウシフ　書名。八卷。宋、米芾撰。米芾の寶晉齋と英光堂とを合して名づけたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

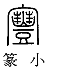
【⿳宀尔金】7377　ハウ　寶(**3－7376**)に同じ。〔篇海〕寶、又作㆑⿳宀尔金。

【⿰寍咸】7378　カン　義未詳。〔五音篇海〕⿰寍咸、音咸。

【⿰寧吉】7379　チツ　義未詳。〔字彙補〕⿰寧吉、寧吉切、音昵、出㆓釋典㆒。

十八畫

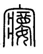
【⿱宀豐】7380　フウ　フ　〔集韻〕敷馮切　東　慣ホウ


小篆

大きい家。〔說文〕⿱宀豐、大屋也、从㆑宀豐聲、易曰、豐㆓其屋㆒。

【⿳宀𡗗至】7381　ソク　⿳宀𡗗足(**3－7360**)に同じ。〔集韻〕⿳宀𡗗足、或作㆑⿳宀𡗗至。

【㝲】7382　[一]ヨ　オ　〔集韻〕依據切　御　[二]ジョ　ニョ　〔集韻〕人余切　魚　[三]ジョ　ニョ　〔集韻〕忍與切　語


小篆

[一]❶**ねる**。〔說文〕㝲、楚人謂㆑寐曰㆑㝲、从㆓㝱省㆒女聲。❷**うたたね**。〔廣韻〕㝲、假寐也。❸或は⿱宀⿰爿⿱𦭝夬(**3－7392**)に作る。〔集韻〕㝲、或作㆑⿱宀⿰爿⿱𦭝夬。[二]**うたたね**。〔集韻〕㝲、假寐。[三]**ねる**。[一]の❶に同じ。〔廣韻〕㝲、楚人呼㆑寐。

【㝱】7383　ム　夢(**3－5802**)に同じ。〔正字通〕㝱、同㆑夢。

【⿱宀⿲艸人艸】7384　カン　寒(**3－7239**)の古字。〔集韻〕寒、古作㆑⿱宀⿲艸人艸。

【⿱宀⿱老⿰老老】7385　キユウ・コン　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱宀⿱老⿰老老、香仲切、又呼困切。

【⿱宀⿱兂⿰兂兂】7386　キユウ　⿱宀⿱老⿰老老(**3－7385**)に同じ。〔龍龕手鑑〕⿱宀⿱兂⿰兂兂、與㆑⿱宀⿱老⿰老老同。

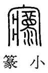
【⿱宀⿰貴刂】7387　キ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱宀⿰貴刂、音貴。

十九畫

【⿱宀顛】7388　テン　〔五音集韻〕都年切　先

❶**高く遠い**。〔五音集韻〕⿱宀顛、高遠也。❷顚(**12－43628**)の俗字。〔正字通〕⿱宀顛、俗顚字。

【㝳】7389　キ　ギ　〔集韻〕其季切　寘


小篆

よくねむる。熟睡。〔說文〕㝳、孰寐也、从㆓㝱省㆒水聲、讀若㆑悸。

【⿱宀⿰亻瞢】7390　ボウ　⿱宀⿰爿瞢(**3－7395**)に同じ。〔正字通〕⿱宀⿰亻瞢、本作㆑⿱宀⿰爿瞢。

【⿱宀⿰爿票】7391　ヒウ　ヒユ　〔集韻〕披尤切　尤

いびき。〔集韻〕⿱宀⿰爿票、寐聲。

【⿱宀⿰爿⿱𦭝夬】7392　ヨ　㝲(**3－7382**)に同じ。〔集韻〕㝲、或作㆑⿱宀⿰爿⿱𦭝夬。

【⿱宀⿰爿⿱𦭝告】7393　カウ　義未詳。〔五音篇海〕⿱宀⿰爿⿱𦭝告、革孝切。

【⿰目⿱宀坴】7394　サイ　義未詳。〔字彙補〕⿰目⿱宀坴、先代切、音賽。

二十畫

【⿱宀⿰爿瞢】7395　[一]ボウ　モウ　〔集韻〕忙肯切　迥　[二]バン　マン　〔類篇〕母桓切　寒

[一]❶**おろか**。⿱宀⿰爿瞢瘂。〔集韻〕⿱宀⿰爿瞢、⿱宀⿰爿瞢瘂、癡也。❷夢(**3－5802**)に同じ。〔字彙〕⿱宀⿰爿瞢、同㆑夢。[二]**さめる**。寱⿱宀⿰爿瞢。〔類篇〕⿱宀⿰爿瞢、寱⿱宀⿰爿瞢、眠寤。

二十一畫

【⿱宀⿰爿⿱𦭝米】7396　[一]ベイ　マイ　〔集韻〕母禮切　薺　[二]ビ　ミ　〔集韻〕母被切　紙

[一][二]寐(**3－7264**)に同じ。〔集韻〕寐、或作㆑⿱宀⿰爿⿱𦭝米。

【⿱宀⿱宜⿰宜宜】7397　ギ　義未詳。〔篇韻〕⿱宀⿱宜⿰宜宜、魚其切、音宜。

二十二畫

【⿱宀⿰爿⿱𦭝吾】7398　ゴ　寤(**3－7291**)の籀文。〔說文〕寤、⿱宀⿰爿⿱𦭝吾、籀文寤。

【⿱宀⿰爿⿱𦭝又】7399　シン　⿱宀⿰爿⿱𦭝侵(**3－7401**)に同じ。〔字彙補〕⿱宀⿰爿⿱𦭝又、與㆑⿱宀⿰爿⿱𦭝侵同。

【⿱宀⿱老⿰老老】7400　リヨウ　義未詳。〔龍龕手鑑〕⿱宀⿱老⿰老老、呂春切

二十三畫

【⿱宀⿰爿需】7401　シン　寢(3－7289)に同じ。〔正字通〕⿱宀⿰爿需、同㆑寢。

【⿱宀⿰爿褱】7402　カン　コン　〔集韻〕呼含切　覃　❶ふす。〔玉篇〕⿱宀⿰爿褱、偃也。❷かりねする。或は⿱宀⿰爿炎に作る。〔集韻〕⿱宀⿰爿褱、寢不㆑褫㆑衣、或省。

【⿱宀⿰翏覓】7403　ラウ　ロウ　〔集韻〕郎到切　號　ひろい。〔集韻〕⿱宀⿰翏覓、寬也。

【⿰寧壹】7404　チツ　義未詳。〔字彙補〕⿰寧壹、寧壹切、音昵、出㆓釋典神呪㆒。

二十四畫

【⿱宀⿰爿賣】7405　ソウ　〔集韻〕思鄧切　徑　さめる。⿱宀⿰爿賣⿱宀⿰爿曹。〔玉篇〕⿱宀⿰爿賣、新覺。〔集韻〕⿱宀⿰爿曹、⿱宀⿰爿賣⿱宀⿰爿曹、眠寤。

【⿱客⿰客客】7406　セイ　擠(5－12848)の俗字。〔字彙補〕⿱客⿰客客、俗擠字。

【⿱宀⿱羌⿰羌羌】7407　キヤウ　義未詳。〔捜眞玉鏡〕⿱宀⿱羌⿰羌羌、丘良切。

二十五畫

【⿱宀⿰爿稟】7408　ゲイ　寱(3－7351)に同じ。〔玉篇〕⿱宀⿰爿稟、同㆑寱。

二十六畫

【⿱⿱宀心蟲】7409　ネイ　寧(3－7296)に同じ。〔字彙補〕⿱⿱宀心蟲、同㆑寧、出㆓華嚴字母㆒。

三十三畫

【⿱寒⿰寒寒】7410　リン・ロク　義未詳。〔海篇〕⿱寒⿰寒寒、音稟、又音祿。

大漢和辭典　巻三　終り

大漢和辞典　巻三

昭和三十一年十月二十五日　初版発行
平成十一年十月二十日　修訂第二版第五刷発行

著者　諸橋轍次
発行者　鈴木荘夫
発行所　株式会社　大修館書店
東京都千代田区神田錦町三ノ二四
電話〇三-三二九五-六二三一（販売部）　〇三-三二九四-二三五三（編集部）
振替〇〇一九〇-七-四〇五〇四

© Tatsuto Morohashi 1989 Printed in Japan

ISBN4-469-03138-0（セット）
ISBN4-469-03141-0

原字・文字盤製作	石井茂吉
本文写真植字印字	株式会社 写研
本文写真植字印字	五常写植印刷株式会社
挿図版下	星野写真工芸株式会社
本文写真製版	近藤写真製版所
本文・扉印刷	横山印刷株式会社
見返印刷	錦明印刷株式会社
本文用紙抄造	王子製紙株式会社
用紙類調達	日本紙パルプ商事株式会社
表紙クロス	ダイニック株式会社
金版彫刻	坪井金版彫刻所
製函	中田製函所
製本	関山製本社